授　業　計　画

令和７年度

東京家政学院大学

共 通 教 育 科 目

講義コード	G50101031
講義名	日本の文学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	三村 友希	指定なし

ナンバリング

X13000C21

授業概要(教育目的)

古典文学を中心とした文学作品の読解、日本文学史の理解を通じて、それぞれの作品性や特徴、時代性、テーマなどの知識を深めることを目標とする。そして、古典文学を知ることによって、人間社会の多様性や普遍性、固有性について考える。なお、適宜、漫画や小説などの翻案作品を紹介しながら、古典文学の作品性とともに現代性を考察する。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	文学作品を読む上で求められる作品の持つ時代性や社会のコードを理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	文学作品を読むことを通して、自分の感性・考えを探ることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間と社会との関係に注意しながら、意欲的に読書することができる。
技術・表現の観点 (A)	読解の結果得られた自分の意見・考えを、他者に向けて論理的に表現することができる。

学習計画

日本の文学

	授業テーマ	平安の和歌と現代短歌
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	『百人一首』の春の和歌を中心に、現代短歌も踏まえながら、三十一文字の表現性を考える。

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習としてシラバスを読み、教科書の「はしがき」を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。
	教室外学習の時間（分）	200
第2回	授業テーマ	ことばの力（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	『万葉集』『古今集』から恋の和歌を読み、また、『万葉集』の代表的な女性歌人を中心に和歌のもつ力を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書の第3講P15を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。
	教室外学習の時間（分）	200
第3回	授業テーマ	ことばの力（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	『古今集』仮名序から『土佐日記』冒頭、『土佐日記』のさまざまな和歌に触れながら、仮名文字で書かれた日記文学の特性やことばの力を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書の第2講P10を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。
	教室外学習の時間（分）	200
第4回	授業テーマ	ことばの力（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	『百人一首』の和歌とその配列について
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として『百人一首』の和歌を振り返って確認しておく。復習として授業で提起された課題を解く。
	教室外学習の時間（分）	200
第5回	授業テーマ	平安女性の教養
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	『枕草子』『紫式部日記』から、清少納言や紫式部がつちかっていた教養のありようとその表現について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書の第9講P47を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。
	教室外学習の時間（分）	200
第6回	授業テーマ	平安女性の恋
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	『和泉式部日記』『和泉式部集』から、その表現性から和泉式部という1人の女性の多面性を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書の第10講P51を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。
	教室外学習の時間（分）	200
第7回	授業テーマ	かぐや姫の主張
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	『竹取物語』の話型を知り、かぐや姫の結婚拒否について、物語というジャンルの祖としての意味を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書の第5講P25を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。

	教室外学習の時間（分）	200
第8回	**授業テーマ**	子どもの造型
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	『枕草子』『源氏物語』などから、古典文学における子どもの描かれ方について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として事前に配布するプリントを読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。
	教室外学習の時間（分）	200
第9回	**授業テーマ**	「風変わり」な姫君
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	『堤中納言物語』の「虫めづる姫君」を中心に、古典文学におけるちょっと変わった姫君を見出し考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書の第14講P71を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。
	教室外学習の時間（分）	200
第10回	**授業テーマ**	恋の逃避行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	『伊勢物語』から「芥川」の章段などを読み、その恋の展開について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として事前に配布するプリントを読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。
	教室外学習の時間（分）	200
第11回	**授業テーマ**	継子物語の話型
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	『落窪物語』から継子物語の話型を知り、その物語構造について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として継子物語の話型について調べる。復習として授業で提起された課題を解く。
	教室外学習の時間（分）	200
第12回	**授業テーマ**	「ひかり」の転生
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	『源氏物語』の主人公・光源氏について、かぐや姫から継承したような、その美貌から考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書の第5講P25を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。
	教室外学習の時間（分）	200
第13回	**授業テーマ**	物語を読む女たち
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	『源氏物語』における、女君が物語を読む場面、光源氏が物語を批評する場面について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として事前に配布するプリントを読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。
	教室外学習の時間（分）	200

第14回	授業テーマ	浮舟にあこがれて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	『更級日記』の作者の『源氏物語』に対する憧憬のありようを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書の第12講P60を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。
	教室外学習の時間(分)	200
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間(分)	

学習計画注記

授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

レスポンスシートに記入された質問や意見について、毎週受講者と問題を共有する。

評価方法

初回の授業でルーブリックについて説明します。レスポンスシートにおいて関心・意欲・態度とともに基本的な授業内容の把握に関して問いたいと思います。学期末のレポートは、本授業の内容について問題意識をもって作成しているかという観点や客観的に事実を把捉したうえで他者へ向けて発信しているかという観点から評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
レスポンスシート	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○

評価割合

平常点30%(授業内課題含む)、期末レポート70%

使用教科書名(ISBN番号)

井上・鈴木・深沢編『平安文学十五講』（翰林書房 定価980円＋税）

参考図書

適宜、授業時に示します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会的・文化的背景を持つ人間存在について、文学を通して深く理解することができる。
【思考・判断】文学を通して得られた課題について、自身の思考を深めることができる。
【関心・意欲・態度】多様な他者理解の方法と自分の感性や思考の錬磨に関心をもつ。
【技能・表現】読書行為によって得られた知見や感得した思考を、他者に向けて自分の言葉で表現できる。

学生へのメッセージ

授業で扱う作品や紹介する参考文献に関心をもち、手にとってみてください。高等学校までの古文の授業とは少しちがいます。古典文学、読書の楽しさを感じてもらいたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	受講者の学修にグループ討議場面等を導入し、意欲的な参加を促す。
情報リテラシー教育	○	図書館の利活用法等について習熟するとともに、レポート作成時の著作権使用に関する注意を喚起。
ICT活用		

講義コード	G50102001
講義名	日本の言語と文化
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13010M21

授業概要(教育目的)

言語には、それを使って生活する人々の文化や思考の枠組みが反映していると捉えられる面がある一方で、反対に、使用する言語が人の認識やものの見方に影響を与えるという側面も認められる。この授業では、そのように密接に結びついている言語と文化との関係の問題について、日本語を対象として考察を行っていく。日本語の構造やしくみ、歴史、表現などについて分析を行い、そこから見出される日本の文化の特質を読み解くことを通じて、日本語や日本文化に対する理解および興味・関心を深めさせることをめざす。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日本の言語文化に関する基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内活動（ワークシート作業とその報告・分析、資料講読、質疑応答など）に積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	日本語の音声・音韻1 発音のしくみ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	音声を発するしくみについて理解する。
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	大学入学以前の経験も含め、これまでの日本語に関する学習を振り返り、必要に応じて復習および知識の再確認をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第2回	**授業テーマ**	日本語の音声・音韻2 母音と子音
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	母音と子音の特徴の違いや、それらの分類基準について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第3回	**授業テーマ**	日本語の音声・音韻3 音素と異音
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	音韻論の基本、ならびに、音韻論上の最小単位である音素の概念について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第4回	**授業テーマ**	日本語の音声・音韻4 音素設定の原則
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	音素を設定するための作業原則について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	日本語の文字・表記 日本語表記の特色
	学習内容(ｱ	

第5回	ｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本語の文字・表記の特色について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第6回	授業テーマ	日本語の語彙1 語彙とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	語彙という概念ならびに日本語の語種について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第7回	授業テーマ	日本語の語彙2 語種から見た日本語語彙の特色
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本語の語彙を、語種という観点から分析した場合の種々の特色について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第8回	授業テーマ	日本語の文法1 文法とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文法の概念ならびに文法論の分野について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いる

	容	などして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第9回	**授業テーマ**	日本語の文法2 日本語のテンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	時間を表す文法カテゴリーのひとつであるテンスについて、その概念ならびに日本語におけるテンスの枠組みを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第10回	**授業テーマ**	日本語と文化1 ことばと文化の関係性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	語構成論の基本を理解する。言語と文化の関わりについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第11回	**授業テーマ**	日本語と文化2 サピア・ウォーフの仮説
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サピア・ウォーフの仮説について理解する。日本語の語彙と文化との関係について、ワークシートを用いた作業を通じて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	日本語と文化3 日本の文化と方言
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗ	

第12回	ｼｰ教育・ICT活用を含む)	方言、標準語、共通語の各概念について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第13回	授業テーマ	日本語と文化4 方言周圏論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	柳田国男の提唱した方言周圏論について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第14回	授業テーマ	日本語と文化5 方言分布のさまざま
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	方言分布の種々のパターンと、それらの分布パターンから読み解ける事象について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業において意見・感想等を記入して提出してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。

評価方法

・定期試験は100点満点で出題する。記述式問題を中心に選択肢式・穴埋め式等を適宜併用する。授業で扱った内容を十分に理解し、知識として定着しているかを確認することを目的とする。
・平常点は、授業内活動（ワークシート作業、資料講読、質疑応答など）への取り組み、意

見・感想等の提出状況などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○			
平常点			○	

評価割合

定期試験70%、平常点30%

使用教科書名(ISBN番号)

なし。必要に応じて資料を配付する。

参考図書

なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】日本の言語文化に関する豊かな知識を有している。
【関心・意欲・態度】高い徳性をもって主体的に学ぶ姿勢を身につけている。

オフィスアワー

【千代田三番町キャンパス】
火曜4限 1703ゼミ室
【町田キャンパス】
相談がある場合は事前にメールでアポイントを取ること（町田キャンパスへの出校日は水曜日） 0405研究室

学生へのメッセージ

・出欠は、毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。
・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。
・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンス資料を配付して説明する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	一部の授業回において、ワークシートを用いた作業と、その作業結果にもとづく報告・分析を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50102031
講義名	日本の言語と文化
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13010M21

授業概要(教育目的)

言語には、それを使って生活する人々の文化や思考の枠組みが反映していると捉えられる面がある一方で、反対に、使用する言語が人の認識やものの見方に影響を与えるという側面も認められる。この授業では、そのように密接に結びついている言語と文化との関係の問題について、日本語を対象として考察を行っていく。日本語の構造やしくみ、歴史、表現などについて分析を行い、そこから見出される日本の文化の特質を読み解くことを通じて、日本語や日本文化に対する理解および興味・関心を深めさせることをめざす。

履修条件

なし
本科目は千代田区コンソーシアムの単位互換科目となっており、他大学の学生（男子学生を含む）が同時に履修する可能性があります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日本の言語文化に関する基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内活動（ワークシート作業とその報告・分析、資料講読、質疑応答など）に積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	日本語の音声・音韻1 発音のしくみ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	音声を発するしくみについて理解する。

第1回	用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	大学入学以前の経験も含め、これまでの日本語に関する学習を振り返り、必要に応じて復習および知識の再確認をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第2回	授業テーマ	日本語の音声・音韻2 母音と子音
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	母音と子音の特徴の違いや、それらの分類基準について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第3回	授業テーマ	日本語の音声・音韻3 音素と異音
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	音韻論の基本、ならびに、音韻論上の最小単位である音素の概念について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第4回	授業テーマ	日本語の音声・音韻4 音素設定の原則
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	音素を設定するための作業原則について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190

第5回	授業テーマ	日本語の文字・表記 日本語表記の特色
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本語の文字・表記の特色について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第6回	授業テーマ	日本語の語彙1 語彙とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	語彙という概念ならびに日本語の語種について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第7回	授業テーマ	日本語の語彙2 語種から見た日本語語彙の特色
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本語の語彙を、語種という観点から分析した場合の種々の特色について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第8回	授業テーマ	日本語の文法1 文法とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文法の概念ならびに文法論の分野について理解する。
	教室外学	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ

	習(予習・復習)の内容	読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第9回	**授業テーマ**	日本語の文法2 日本語のテンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	時間を表す文法カテゴリーのひとつであるテンスについて、その概念ならびに日本語におけるテンスの枠組みを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第10回	**授業テーマ**	日本語と文化1 ことばと文化の関係性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	語構成論の基本を理解する。言語と文化の関わりについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第11回	**授業テーマ**	日本語と文化2 サピア・ウォーフの仮説
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サピア・ウォーフの仮説について理解する。日本語の語彙と文化との関係について、ワークシートを用いた作業を通じて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	日本語と文化3 日本の文化と方言

第12回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	方言、標準語、共通語の各概念について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第13回	授業テーマ	日本語と文化4 方言周圏論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	柳田国男の提唱した方言周圏論について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第14回	授業テーマ	日本語と文化5 方言分布のさまざま
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	方言分布の種々のパターンと、それらの分布パターンから読み解ける事象について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業において意見・感想等を記入して提出してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。

評価方法

・定期試験は100点満点で出題する。記述式問題を中心に選択肢式・穴埋め式等を適宜併用する。授業で扱った内容を十分に理解し、知識として定着しているかを確認することを目的とす

る。
・平常点は、授業内活動（ワークシート作業、資料講読、質疑応答など）への取り組み、意見・感想等の提出状況などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○			
平常点			○	

評価割合

定期試験70%、平常点30%

使用教科書名(ISBN番号)

なし。必要に応じて資料を配付する。

参考図書

なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】日本の言語文化に関する豊かな知識を有している。
【関心・意欲・態度】高い徳性をもって主体的に学ぶ姿勢を身につけている。

オフィスアワー

【千代田三番町キャンパス】
火曜4限 1703ゼミ室
【町田キャンパス】
相談がある場合は事前にメールでアポイントを取ること（町田キャンパスへの出校日は水曜日） 0405研究室

学生へのメッセージ

・出欠は、毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。
・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。
・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンス資料を配付して説明する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	一部の授業回において、ワークシートを用いた作業と、その作業結果にもとづく報告・分析を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50103001
講義名	文章表現法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13020M21

授業概要(教育目的)

ことばを用いて自分の考えや感情を表現し、相手に伝えるという技術は、人間が社会の中で他者と関わりながら生活していく中で欠くことのできない必須のものである。この授業では、文章表現に関する理論的な面からの考察と、実際に文章を書く課題への取り組みとをあわせ行うことを通じて、日本語による表現力を向上させることをめざす。表現活動のさまざまな具体的な場に応じた、効果的な文章表現のありようを理解するとともに、その知識を自らの文章表現の上に応用し、実践できる力を養う。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自分の考えや感情をことばで相手に正確に分かりやすく伝える技術について理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	場面に応じた適切な日本語表現の使い分けを判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内課題やペアワーク、グループワークなどに積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	表現活動のさまざまな具体的な場に応じた、効果的な文章表現を実践することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	授業運営に関するガイダンス、文章表現技術の必要性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	相手や場面を意識して、必要な情報をわかりやすく伝えることの重要性を理解する。
	教室外学習(予習・復	「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。

	習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	190
第2回	**授業テーマ**	上手な意見交換の方法を学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	感情的な対立を引き起こさずに、上手に意見交換を行う技術・ポイントについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第5章「上手な意見交換の方法を学ぶ」（pp.17-19）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第3回	**授業テーマ**	文章を読解する（アカデミックリーディング）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文章の読み方の種類とその特徴について理解する。精読の方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第6章「文章を読解する」（pp.20-22）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第4回	**授業テーマ**	文章を要約する（パラグラフの分析）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文章を要約する方法・手順を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第7章「文章を要約する」（pp.23-25）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第5回	**授業テーマ**	データを集めて解釈する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データの収集や解釈にあたって、注意すべき点を理解する。
	教室外学	教科書第8章「データを集めて解釈する」（pp.26-28）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノ

	習(予習・復習)の内容	ートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第6回	授業テーマ	プレゼンテーションを行う1 発表資料の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションの準備に必要な情報収集の大切さを理解する。レジュメの作成方法や、プレゼンテーションの構成の基本について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第13章「プレゼンテーションを行う」（pp.41-43）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第7回	授業テーマ	プレゼンテーションを行う2 発表の実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションの実践と、その後のグループ内での討議を通じて、自身のプレゼンテーションの優れている点ならびに改善すべきポイントについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第13章「プレゼンテーションを行う」（pp.41-43）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第8回	授業テーマ	口頭表現の基礎を押さえる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	相手にとって聞き取りやすく、好印象を与える話し方がどのようなものであるかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第17章「口頭表現の基礎を押さえる」（pp.53-55）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	エントリーシートを作成する1 エントリーシートの基本
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	エントリーシートの書き方の基本について理解する。

	を含む)	
第9回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	教科書第27章「エントリーシートを作成する」（pp.83-85）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第10回	**授業テーマ**	エントリーシートを作成する2 自己分析の基本
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エントリーシートにおいて要点をわかりやすくまとめる技術について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第27章「エントリーシートを作成する」（pp.83-85）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第11回	**授業テーマ**	面接のコツを学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	面接の目的を踏まえた上で、具体的なエピソードを交えながら話すことの大切さを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第28章「面接のコツを学ぶ」（pp.86-88）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第12回	**授業テーマ**	手紙を書く1 書式の基本
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	手紙の書式の基本的な枠組みについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第24章「手紙を書く1」（pp.74-76）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	手紙を書く2 依頼の手紙の基本
	学習内容(ｱｸ	

第13回	ﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	目上の面識のない相手に対する依頼という、重みのある内容の手紙を書く作業を通じて、依頼の趣旨・熱意を伝えるための技術を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第25章「手紙を書く2」（pp.77-79）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第14回	授業テーマ	手紙を書く3 手紙文作成の実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	目上の面識のない相手に対する依頼という、重みのある内容の手紙を書く作業を通じて、書式・内容・表現のいずれにおいても礼儀にかなった手紙の書き方を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第25章「手紙を書く2」（pp.77-79）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

・毎回の授業において意見・感想等を記入して提出してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。
・毎回の授業内で行う課題については、添削を施した上で返却し、解説を行う。

評価方法

・授業内課題は、以下のような観点から評価を行う。
①課題の意図を適切に理解できている。
②解答の内容に、十分な妥当性が認められる。
③自分の意見や感情をわかりやすく正確に表現することができている。
④設定された場面に応じた適切な日本語表現の使い分けができている。
・平常点は、授業内に行う練習問題等への取り組み、ペアワークおよびグループワーク作業への参加状況、意見・感想等の提出状況などによって評価する。
・成績評価はルーブリックにもとづいて行う。ルーブリックは授業内で配付して提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業内課題	○	○		○
平常点			○	

評価割合

授業内課題（トレーニングシート）70%、平常点30%

使用教科書名(ISBN番号)

福嶋健伸・橋本修・安部朋世編著（2009）『大学生のための日本語表現トレーニング 実践編』三省堂 978-4-385-36326-4

参考図書

なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】日本語の文章表現に関する豊かな知識を有している。
【思考・判断】場面に応じた日本語表現を的確に判断することができる。
【関心・意欲・態度】高い徳性をもって主体的に学ぶ姿勢を身につけている。
【技術・表現】学修で得た技術をもって、自分の考えや感情をわかりやすく表現し、他者に伝えることができる。

オフィスアワー

【千代田三番町キャンパス】
金曜3限 1703ゼミ室
【町田キャンパス】
相談がある場合は事前にメールでアポイントを取ること（町田キャンパスへの出校日は水曜日） 0405研究室

学生へのメッセージ

・受講生自身が作業を行って実践的に学ぶ形式を取るため、教育効果を考慮して1クラスの受講定員を40名とする。受講者の抽選を行う可能性があるため、受講希望者は必ず初回授業に出席すること。
・受講希望者が定員を超えた場合は、初回の出席者を対象に抽選を行う。2回目からの新規受講者の受け入れは行わない。
・受講希望者が定員を超えて抽選を行う場合は、町田キャンパスの受講者を優先し、他キャンパス履修者・科目等履修生の優先順位を下げる。なお、学年による優先順位の差はつけない。
・出欠は、毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。
・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。
・毎回の授業で作業の課題を課すので、その点を了解した上で受講すること。
・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンス資料を配付して説明する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ペアワーク、グループワーク、スピーチ発表等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	文章表現技法、プレゼンテーション技法等の教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G50103031
講義名	文章表現法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	内田 宗一	指定なし

ナンバリング

X13020M21

授業概要(教育目的)

ことばを用いて自分の考えや感情を表現し、相手に伝えるという技術は、人間が社会の中で他者と関わりながら生活していく中で欠くことのできない必須のものである。この授業では、文章表現に関する理論的な面からの考察と、実際に文章を書く課題への取り組みとをあわせ行うことを通じて、日本語による表現力を向上させることをめざす。表現活動のさまざまな具体的な場に応じた、効果的な文章表現のありようを理解するとともに、その知識を自らの文章表現の上に応用し、実践できる力を養う。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自分の考えや感情をことばで相手に正確に分かりやすく伝える技術について理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	場面に応じた適切な日本語表現の使い分けを判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内課題やペアワーク、グループワークなどに積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	表現活動のさまざまな具体的な場に応じた、効果的な文章表現を実践することができる。

学習計画

	授業テーマ	授業運営に関するガイダンス、文章表現技術の必要性
	学習内容(ｱｸ	

第1回	ﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	相手や場面を意識して、必要な情報をわかりやすく伝えることの重要性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第2回	授業テーマ	上手な意見交換の方法を学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	感情的な対立を引き起こさずに、上手に意見交換を行う技術・ポイントについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第5章「上手な意見交換の方法を学ぶ」（pp.17-19）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第3回	授業テーマ	文章を読解する（アカデミックリーディング）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文章の読み方の種類とその特徴について理解する。精読の方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第6章「文章を読解する」（pp.20-22）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第4回	授業テーマ	文章を要約する（パラグラフの分析）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文章を要約する方法・手順を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第7章「文章を要約する」（pp.23-25）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	データを集めて解釈する
	学習内容(ｱｸ	

第5回	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データの収集や解釈にあたって、注意すべき点を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第8章「データを集めて解釈する」（pp.26-28）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第6回	授業テーマ	プレゼンテーションを行う1 発表資料の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションの準備に必要な情報収集の大切さを理解する。レジュメの作成方法や、プレゼンテーションの構成の基本について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第13章「プレゼンテーションを行う」（pp.41-43）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第7回	授業テーマ	プレゼンテーションを行う2 発表の実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションの実践と、その後のグループ内での討議を通じて、自身のプレゼンテーションの優れている点ならびに改善すべきポイントについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第13章「プレゼンテーションを行う」（pp.41-43）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第8回	授業テーマ	口頭表現の基礎を押さえる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	相手にとって聞き取りやすく、好印象を与える話し方がどのようなものであるかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第17章「口頭表現の基礎を押さえる」（pp.53-55）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間	190

	（分）	
第9回	**授業テーマ**	エントリーシートを作成する1 エントリーシートの基本
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エントリーシートの書き方の基本について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第27章「エントリーシートを作成する」（pp.83-85）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第10回	**授業テーマ**	エントリーシートを作成する2 自己分析の基本
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エントリーシートにおいて要点をわかりやすくまとめる技術について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第27章「エントリーシートを作成する」（pp.83-85）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第11回	**授業テーマ**	面接のコツを学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	面接の目的を踏まえた上で、具体的なエピソードを交えながら話すことの大切さを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第28章「面接のコツを学ぶ」（pp.86-88）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第12回	**授業テーマ**	手紙を書く1 書式の基本
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	手紙の書式の基本的な枠組みについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第24章「手紙を書く1」（pp.74-76）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこ

		と。
	教室外学習の時間（分）	190
第13回	**授業テーマ**	手紙を書く2 依頼の手紙の基本
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	目上の面識のない相手に対する依頼という、重みのある内容の手紙を書く作業を通じて、依頼の趣旨・熱意を伝えるための技術を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第25章「手紙を書く2」（pp.77-79）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第14回	**授業テーマ**	手紙を書く3 手紙文作成の実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	目上の面識のない相手に対する依頼という、重みのある内容の手紙を書く作業を通じて、書式・内容・表現のいずれにおいても礼儀にかなった手紙の書き方を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第25章「手紙を書く2」（pp.77-79）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

・毎回の授業において意見・感想等を記入して提出してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。
・毎回の授業内で行う課題については、添削を施した上で返却し、解説を行う。

評価方法

・授業内課題は、以下のような観点から評価を行う。
①課題の意図を適切に理解できている。
②解答の内容に、十分な妥当性が認められる。
③自分の意見や感情をわかりやすく正確に表現することができている。
④設定された場面に応じた適切な日本語表現の使い分けができている。
・平常点は、授業内に行う練習問題等への取り組み、ペアワークおよびグループワーク作業への参加状況、意見・感想等の提出状況などによって評価する。
・成績評価はルーブリックにもとづいて行う。ルーブリックは授業内で配付して提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業内課題	○	○		○

平常点			○	

評価割合

授業内課題（トレーニングシート）70%、平常点30%

使用教科書名(ISBN番号)

福嶋健伸・橋本修・安部朋世編著（2009）『大学生のための日本語表現トレーニング 実践編』三省堂 978-4-385-36326-4

参考図書

なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】日本語の文章表現に関する豊かな知識を有している。
【思考・判断】場面に応じた日本語表現を的確に判断することができる。
【関心・意欲・態度】高い徳性をもって主体的に学ぶ姿勢を身につけている。
【技術・表現】学修で得た技術をもって、自分の考えや感情をわかりやすく表現し、他者に伝えることができる。

オフィスアワー

【千代田三番町キャンパス】
金曜3限 1703ゼミ室

学生へのメッセージ

・受講生自身が作業を行って実践的に学ぶ形式を取るため、教育効果を考慮して1クラスの受講定員を40名とする。受講者の抽選を行う可能性があるため、受講希望者は必ず初回授業に出席すること。
・受講希望者が定員を超えた場合は、初回の出席者を対象に抽選を行う。2回目からの新規受講者の受け入れは行わない。
・受講希望者が定員を超えて抽選を行う場合は、千代田三番町キャンパスの受講者を優先し、他キャンパス履修者・科目等履修生の優先順位を下げる。なお、学年による優先順位の差はつけない。
・出欠は、毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。
・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。
・毎回の授業で作業の課題を課すので、その点を了解した上で受講すること。
・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンス資料を配付して説明する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ペアワーク、グループワーク、スピーチ発表等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	文章表現技法、プレゼンテーション技法等の教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G50104001
講義名	外国の言語と文化b
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13030M21

授業概要(教育目的)

「外国の言語と文化」という科目名を持つ本講義ですが、今学期はフランスの歴史や文化、社会に関するさまざまなテーマを取り上げていきます。メディアでよく見聞きする言葉や、教科書で読んだことのある事柄について、「女性」や「宗教」、「地方／地域」などの切り口からフランスの歴史と文化を多角的に学び、一般的に定着しているフランスのイメージの背景に、どのような歴史的な経緯があるのかを理解していきます。

その上で上記３つのキーワードは、現在のフランスを理解する上で重要な視点を提供してくれるでしょう。例えば、フランスはジェンダー平等の観点から先進的な国として知られていますが、いつからどのようにしてそうなったのでしょうか。フランスには各地にある大聖堂をはじめとする有名な宗教的な建造物が数多くありますが、宗教とはどのような関係を築いてきた国でしょうか。また、フランスといえばヨーロッパにある国をすぐに思い浮かべるかもしれませんが、実は世界各地に海外県を有しています。それはかつてフランスがイギリスと肩を並べるほどの植民地帝国であったことによりますが、そうした過去は現在のフランスにどのような影響を残しているでしょうか。

本講義は「なぜ」「どのようにして」という問いを手がかりに、過去から現在のフランスに接近していきます。単にプラスαの知識を学習するだけではなく、他者の文化や歴史を学ぶことを通して、自身が身を置いてきた社会のあり方、日々触れている文化や慣習などとも比較する視点を身につけてもらうことを目的としています。授業を進めていくにつれて、現代の日本についても考えるきっかけも見つけてもらえればと思います。

履修条件

本講義はフランスについて中心的に学びますが、フランス語の学習歴は問いません。また、参考書はすべてが必読ではありません。身近に思われるものから手にとってみてください。教員の提示したもののほかに、学生が関心のあるテーマに関する書籍にあたることも歓迎します。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	メディアでよく見聞きする情報からだけでは見えてこない、フランスやヨーロッパに関する知識を獲得し、他者の文化を多角的に見る意義を理解する。
思考・判断の観点 (K)	授業や書籍などから得るさまざまな知識をもとに、自分の力で思考を深めることができる。
関心・意欲・態度の観点	意見や疑問などを積極的に述べ、他の受講者の考えにも耳を傾けることができ

(V)	る。
技術・表現の観点 (A)	与えられた課題にたいして適切な言葉で説明し、考えを述べることができる。

学習計画

フランスの文化と歴史を多角的に見る

第1回	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業内容を紹介し、予定を確認します。フランスといえば、華やかな文化を持つ国という印象が強いかもしれませんが、本講義ではそうしたイメージから一歩引き、三つのキーワードを軸にこの国の歴史と文化にアプローチをしていきます。今後の講義につながる基礎知識もこの回で扱います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	初回前：シラバスをよく読んでおくこと。受講者の関心について授業中に簡単なアンケートを行うので、人物や出来事、社会的なテーマなど、フランスに関する事柄で知りたいことや、それに興味を持った理由など考えてくること。また、メディアで紹介されるフランス（人）やヨーロッパに関するニュースにアンテナを張っておいてもらいたい。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	授業テーマ	フランスとキリスト教、ユダヤ教との関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フランスは、歴史的にキリスト教（とりわけカトリック教会）との関係が強い国ですが、ユダヤ教とも長く共存してきました。今回は以降の授業を理解していく上で欠かせない、キリスト教とユダヤ教の基礎知識を学習していきます。両者の違いを簡潔に説明できるようになることがこの回の主たる目標になります。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予備知識は不要ですが、キリスト教、ユダヤ教といえばどんな言葉が浮かぶか、授業の冒頭で尋ねる予定なので、簡単に考えてくること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	「異端」と「魔女」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今回のテーマは「魔女狩り」です。「魔女」というと、どのようなイメージを思い浮かべるでしょうか。「魔女狩り」とは現代でも用いる言葉ですが、これは中世から近世にかけてヨーロッパで起こった大規模な迫害現象です。この現象を学ぶにあたり、まずはキリスト教のカトリック教会から見た「異端」や「魔女」がどのような存在だったのか概観していきます。二つの存在の違いを区別し、「魔女狩り」がどのような背景で起こった出来事だったのかを説明できることを目指します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の冒頭に、キリスト教とユダヤ教それぞれの特徴を質問するので、口頭で簡単に述べられるよう第２回の復習をしておくこと。
	教室外学習の時間	180分

	（分）	
第4回	授業テーマ	ジャンヌ・ダルクという少女
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本人にも名前に馴染みがあるジャンヌ・ダルクを取り上げます。田舎町の少女だったジャンヌがいかにして世界史に名を残すようになったか、彼女の生涯をたどりながら見ていきます。第３回に引き続き、ここでもカトリック教会から見た「異端」と「魔女」がキーワードになっていきます。 また、ジャンヌダルクは世界史的英雄とみなされている一方で、カトリック教会からは「聖人」の地位も与えられている存在です。こうしたイメージが形成される背景にはどのような歴史があったのかも理解していく回になります。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「異端」と「魔女」がどのような存在だったのかを授業の冒頭で確認するので、簡単に説明できるように第３回の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	フランス革命①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今回から2回に分けて「フランス革命」について学びます。第5回は革命前夜の歴史から見ていきます。 革命までのフランスは政治体制とカトリック教会が一体となっていた国ですが、ここで重要になるのが「絶対王政」と「王権神授説」という概念です。これらの用語を説明でき、革命を通してフランスの政治体制がどのように変化するのかを理解することを目標とします。 また授業の後半では、フランス王国最後の王妃として知られるマリー・アントワネットの人物像を見ていきます。豪華絢爛な宮殿生活を送っていたことで有名な王妃ですが、ここでは一人の人間としての姿にも焦点を当てていきます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	情報量の多い回であるため、世界史の教科書や参考書で挙げた文献のなかから「フランス革命」に関する箇所を読んでおくことを推奨します。また、マリー・アントワネットがどのような人物であるか、事前に調べてみること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	フランス革命②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第５回に続き、フランス革命を取り上げます。今回は「革命によって人々は自由と平等を獲得したか」という問いを立て、いわゆる「フランス人権宣言」に対して、オランプ・ド・グージュという一人の女性が提示した「女性の権利宣言」に触れながら、フランス革命に対する理解を深めていきます。 革命によって絶対王政に終止符が打たれますが、その後数年の政治は極めて不安定なものとなり、革命の理念に異を唱える者は徹底的に排除される「恐怖政治」が展開されます。市民は自由と平等を求めて大きな変革を起こしていきますが、女性の政治的立場やそれまで特権階級だった聖職者の立場はどのように変化するのか（あるいはしないのか）、具体的事例を通して見ていきます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	引き続きフランス革命について学ぶため、第5回の授業を復習しておくこと。

	教室外学習の時間（分）	210分
第7回	授業テーマ	フランスの植民地主義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今回から3回にわたり、「地方／地域」という観点を取り入れていきます。 第７回は、フランスの植民地の歴史を概観することを通して、植民地帝国としての顔を持つもう一つのフランスの姿を学んでいきます。フランス本土以外に、現在どこに海外領土があるのかを地図上でイメージできるようになり、過去の「植民地主義」がどのような考え方に基づいていたのかを説明できるようになるのがこの授業の目標です。 現在の先進国／途上国という分類や中東問題、日本の近現代史とのつながりも提示するため、比較を通して考えたことをコメントシートに記述してもらいます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	フランスの海外県がどこに位置しているか、なぜ、いつからフランス領土なのか簡単に調べてみること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	第一次世界大戦の記憶
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今回はフランスが経験した第一次世界大戦がどのような戦争だったのかを学んでいきます。19世紀を通して形成された「国民国家」の概念と「ナショナリズム」という新しいイデオロギーが、第一次世界大戦を特徴づける「総力戦」とどのように関係しているのかを説明できるようになることを目標とします。 また、今回と第9回はフランスの北東部、ドイツとの国境地帯に位置する「アルザス=ロレーヌ」の歴史を織り交ぜながら、フランスにとっての二つの世界大戦を「地方」という観点からも理解を深めていきます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第一次世界大戦のキーワードである「総力戦」がどのような戦争を指しているか、授業の冒頭で尋ねるので自分なりに調べてくること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	第二次世界大戦の記憶
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今回はフランスにとっての第二次世界大戦がどのような戦争だったのかを学習します。第二次世界大戦は多様な切り口から学ぶことができますが、ここでは概要を確認した後、ナチス・ドイツに対するフランスの国家規模の協力（対独協力）、特に反ユダヤ政策を中心に見ていきます。本講義は、この対独協力、ユダヤ人のホロコースト、収容所の分類などを適切に説明できるようになることを目指します。 また、第8回で見た「アルザス=ロレーヌ」を再び取り上げるので、フランスという一国史からだけでは見えてこない地方の歴史があるということに対しても、理解を深める回にしていきます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第2回のキリスト教とユダヤ教の違いを復習しておくこと。

	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	映画鑑賞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第９回までの授業内容を踏まえ、講義で触れたいずれかのテーマの理解を深める映画を観ます。字幕付きのフランス語音声となるため、フランス語がどのような響きをもって話されているのかを知る機会にもなります。 授業終わりに、映画に関する所感のアンケートを配布するので、前回までの授業の内容も踏まえて、映画を見て考えたことを記述してもらいます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特になし。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	レポートの書き方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本講義の評価方法はレポートですが、今回は一コマを利用して、期末レポートの概要と書き方を扱います。 具体例を用いたアクティビティ（※受講人数にもよる）を通して、読みやすい文章とはどのようなものか、客観的な記述と個人的考察は何が違うのか、他人の言葉（考え）と自分の言葉（考え）をどのように分けて書くのかなど、良い質のレポートを書くために必要なポイントを押さえます。 期末レポートの作成に限らず、どのような文章を書く時にでも役に立つ内容です。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に具体例をクラスルームにアップロードするため、よく読んでくること。確定でなくて構わないので、期末レポートで扱ってみたいテーマをこの回までに考えておいてください。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	授業テーマ	第二次大戦を経た女性参政権の獲得と「粛清」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	この回から発展編になります。主に戦後から現代までの歴史を通して、フランスの女性を取り巻く社会の変化を見ていきます。 第11回は第二次世界大戦が終わり、フランスの女性に起こった参政権の付与と「粛清」という二つの出来事について学びます。 参政権が付与される前の女性の地位の歴史を概観し、なぜヨーロッパの中でもフランスの女性参政権は獲得が遅かったのか、文化的・社会的背景を見ながら理解していきます。 この女性参政権の付与は第二次世界大戦終結直後の出来事ですが、この頃、フランスの一部の女性は対独協力の罪で「粛清」の対象となっていきます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ヨーロッパの国々で、女性の参政権が認められたのが何年なのか調べておくこと。また、日本でいうところの戦後の「粛清」とは何だったか確認することも勧めます。（フランスにおける女性の「粛清」に関しては少々ショッキングな画像や映像が出てくるため、心の準備をして見てもらいたいと思います。）
	教室外学習の時間	210分

	（分）	
第13回	授業テーマ	女性解放運動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	60年代後半から70年代にかけて、フランスの女性たちが担い手となった「女性解放運動」を取り上げ、彼女たちが何を求めたのかを学んでいく回です。 この時期の運動の最も象徴的な出来事は「人工妊娠中絶」の合法化ですが、この制度的変革に至るまで、女性と性をめぐる制度がどのようなものであったか、それを変化させるために女性たちがとった行動に焦点を当てていきます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	女性の社会的地位に関わる内容になるため、第12回の講義資料を復習しておくこと。 現代社会の女性の身体をめぐる議論とも密接に関わってくる内容なので、最近の日本や他国の状況で気になったことを調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	授業テーマ	移民とイスラーム
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	最終回では、現代フランス社会とイスラーム教の関係を見ていきます。フランスの人口は、移民やその二世が一定の割合を占めていますが、それは過去の植民地の歴史に多くを負っています。 今回は、植民地主義の過去が現在にどのように影響しているかを理解する手がかりとして、アラブ系の移民とイスラーム教について取り上げていきます。イスラーム教については、あまり馴染みがない人もいると思うので基礎的な知識を確認した上で、日本でも時折見聞きする、ムスリム女性が頭を覆うために被っているスカーフがフランスでどのように捉えられているのか見ていきます。 移民の定義を説明できるようになり、日本の移民や外国人政策についても考えてもらうことを目標にしています。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第2回のキリスト教、ユダヤ教に関する内容と、第7回の植民地主義の講義を復習しておくこと。フランスでは正式な宗教分布の調査は行われていないが、おおよそどのくらいムスリムがいるのか、ほかにどのような宗教を実践する人びとがいるのかなど調べてみること。また、イスラームの教義において女性がヴェールを被ることがどのような意味を持つのか調べることも推奨します。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

受講者数や学生の関心、授業の進み具合などによって内容は多少変更します。

学生へのフィードバック方法

授業後に毎回提出してもらうリアクションペーパーに質問や疑問などを記入してもらい、次の授業の際に解答します。受講者の関心を把握し、適宜授業内容に反映させていきます。

評価方法

・平常点（出席とリアクションペーパー：40%)

　各回が終わる前に時間を設けるので、授業を通して考えたこと、疑問に思ったこと、わからなかったことなどを記してください。

・期末レポート60%（2000字～2500字）

　授業で取り上げたテーマ、あるいはフランスに関して自身で興味を持った事柄についてリサーチし、自分なりに考えたことをまとめること。

※受講生の人数によっては試験形式をとります。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点（リアクションペーパー）	○	○	○	
期末レポート	○	○	○	○

評価割合

平常点（毎回のリアクションペーパーの提出）40%、期末のレポート60%によって評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

教科書は指定しません。配布資料をもとに授業を進め、必要に応じて参考文献も紹介します。

参考図書

上田耕造『図説ジャンヌ・ダルクーーフランスに生涯をささげた少女ーー』河出書房新社
剣持久木『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房
柴田三千雄『フランス史10講』岩波新書
伊達聖伸『ライシテから読む現代フランスーー政治と宗教のいま』岩波新書
中野隆生、加藤玄編著『フランスの歴史を知るための50章』明石書店
長谷川まゆ帆『女と男と子どもの近代』山川出版社
平野千果子『新しく学ぶフランス史』ミネルヴァ書房
三浦信孝、西山教行編著『現代フランス社会を知るための62章』明石書店
イレーヌ・テリー（石田久仁子、井上たか子訳）『フランスの同性婚と親子関係－ジェンダー平等と結婚・家族の変容』明石書店
クリスティーヌ・ル・ボゼック（藤原翔太訳）『女性たちのフランス革命』慶応義塾大学出版会

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】外国の文化や歴史を多角的に学び、豊かな知識を得ることを通じて「人間社会の多様性」に対する理解を深めることができる。
【思考・判断】数多ある情報から自らの問題関心に合わせて的確なものを取捨選択し、自分の力で思考を深めることができる。

学生へのメッセージ

受講にあたり、フランス語の学習歴の有無は問いません。フランスという国について、何かより深く知りたいという意欲がある学生を歓迎します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50105001
講義名	異文化コミュニケーション
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	瀬端　睦	指定なし

ナンバリング

X13040M21

授業概要(教育目的)

　この授業の目標は、異文化コミュニケーションを理解ための基礎的な理論や概念を習得し、それらを用いて現代社会の諸現象と日常の異文化コミュニケーションを分析できるようになることである。授業では、異文化コミュニケーションに関する主要な理論や概念について学び、これらを応用して文化とコミュニケーションが関わる社会問題や日常の異文化コミュニケーションについてグループで議論する。そのうえで、異文化コミュニケーションのあり方や異文化コミュニケーションの諸課題を考察していく。

　本授業では講義だけでなく、学生間のグループディスカッションを実施するので、積極的な参加が求められる。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	異文化コミュニケーションに関する基本的な概念や理論を理解し、自分の経験や身の回りの現象と関連づけて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	異質性を認知するプロセスや、それが異文化の捉え方や態度とどう関連しているのかを理解し、自分自身や異文化に対する気づきを深める。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に異文化について理解しようとし、学んだ枠組みを用いて日常のコミュニケーションを考察することができる。
技術・表現の観点 (A)	自文化における文化的価値観や行動規範、コミュニケーション・スタイルを説明できる。コミュニケーションの場に応じて自身の考えを適切に述べることができる。

学習計画

異文化コミュニケーション

第1回	授業テーマ	オリエンテーション：コミュニケーション学の射程と重要性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	(1) シラバスを配布し、授業の目的・内容・評価方法等を確認する。 (2) 異文化コミュニケーション研究と教育が扱うトピックを示し、その重要性について議論をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習（30分）】 シラバスの内容をよく確認する。 【復習（30分）】 授業で学習した理論や概念について復習し、具体的な事例を自分なりに考えること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	異文化コミュニケーションを学ぶということ（『青い目茶色い目』）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	(1) コミュニケーションの定義、モデル、基本前提について学ぶ。 (2) 「青い目茶色い目」を視聴する (3) 文化的コンテクストとコミュニケーションの関わりについて議論する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習（60分）】 テキストのはじめにを読んでくる 【復習（30分）】 授業で学習した理論や概念について復習し、具体的な事例を自分なりに考えること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	授業テーマ	基礎概念①：文化・コミュニケーション・コミュニケーションの要素
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文化とは何か、コミュニケーションとは何か、について考え、学ぶことで、異文化コミュニケーションの基礎概念を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習（60分）】 テキスト第1章の１，２を読む 【復習（30分）】 授業で学習した理論や概念について復習し、具体的な事例を自分なりに考えること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	授業テーマ	基礎概念②：自文化中心主義・文化相対主義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	異文化コミュニケーションの考え方の基礎にある「文化相対主義」、その対極にある「自文化中心主義」を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習（60分）】 テキスト第1章の３を読む 【復習（30分）】 授業で学習した理論や概念について復習し、具体的な事例を自分なりに考えること。

	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	基礎概念③：自己とアイデンティティ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文化によって、自己やアイデンティティの捉え方も違うことを学び、自分のアイデンティティについて考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習（60分）】 テキスト第2章を読む 【復習（30分）】 授業で学習した理論や概念について復習し、具体的な事例を自分なりに考えること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	授業テーマ	基礎概念④：ステレオタイプ・偏見・差別
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	差別や偏見が起きる仕組みについて学び、その乗り越え方を知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習（60分）】 テキスト第3章を読む 【復習（30分）】 授業で学習した理論や概念について復習し、具体的な事例を自分なりに考えること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	授業テーマ	基礎概念⑤：価値観・思考パターン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文化によって、価値観や思考パターンが違うことを学び、異文化コミュニケーションにおいて起きる問題を知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習（60分）】 テキスト第4章を読む 【復習（30分）】 授業で学習した理論や概念について復習し、具体的な事例を自分なりに考えること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	映像で見る異文化コミュニケーションの事例①－１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映画『最強のふたり』を視聴しながら、異文化コミュニケーションで実際に起きる問題やすれ違いの事例について考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習（60分）】 これまでに学んだことを復習する 【復習（30分）】 映画で出てきたエピソードについて復習し、具体的な事例を自分なりに考えること。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	映像で見る異文化コミュニケーションの事例①－２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	映画『最強のふたり』を視聴しながら、異文化コミュニケー

第9回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ションで実際に起きる問題やすれ違いの事例を考え、自分の体験に照らし合わせる
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習（60分）】 これまでに学んだことを復習する 【復習（30分）】 映画で出てきたエピソードについて復習し、具体的な事例を自分なりに考えること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	映像で見る異文化コミュニケーションの事例②－１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映画『グレイテストショーマン』を視聴しながら、異文化コミュニケーションで実際に起きる問題やすれ違いの事例について考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習（60分）】 これまでに学んだことを復習する 【復習（30分）】 映画で出てきたエピソードについて復習し、具体的な事例を自分なりに考えること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	授業テーマ	映像で見る異文化コミュニケーションの事例②－２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映画『グレイテストショーマン』を視聴しながら、異文化コミュニケーションで実際に起きる問題やすれ違いの事例を考え、自分の体験に照らし合わせる
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習（60分）】 これまでに学んだことを復習する 【復習（30分）】 映画で出てきたエピソードについて復習し、具体的な事例を自分なりに考えること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	言語コミュニケーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	言語コミュニケーションの様々な要素について学び、文化による違いを知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習（60分）】 テキスト第5章を読む 【復習（30分）】 授業で学習した理論や概念について復習し、具体的な事例を自分なりに考えること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	非言語コミュニケーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	非言語コミュニケーションの様々な要素について学び、文化による違いを知る
	(	【予習（60分）】 テキスト第6章を読む

	教室外学習 予習・復習)の内容	【復習（30分）】 授業で学習した理論や概念について復習し、具体的な事例を自分なりに考えること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	カルチャーショック・異文化適応
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	カルチャーショックに際して起きる症状やそのパターンついて学び、乗り越え方や成長曲線を知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習（60分）】 テキスト第7章を読む 【復習（60分）】 これまでに学んだことをまとめる
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

履修者数、授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

授業中にフィードバックする。

評価方法

各授業の平常点20%、リアクションペーパー40%、期末レポート40%により判定する。

【リアクションペーパー】
各回の授業後にリアクションペーパーを記入する。
①グループディスカッションの内容のまとめ
　授業内で実施するグループディスカッションの内容を整理してまとめる。授業の振り返りとして、その授業でどのような議論をしたのか振り返り、記録する。
②授業で学んだこと・考えたこと、質問など
　授業での経験、その日に自分が学んだこと・考えたこと、授業に関する質問・意見を書く。特に、教室に入る前と授業後では自分の考え・気持ちがどう変わったかという点が重要となる。
③授業で学習した概念、説明モデルを用いた具体例を自分なりに考え、考察する
　授業では、日常のコミュニケーションに関連する概念や説明モデルを学習する。学習したそれらの理論や概念を用いて、自身の身の回りのコミュニケーションを分析し、考察する。

なお、優れた内容の「リアクションペーパー」は、授業の冒頭で紹介する場合がある。

【期末レポート】
・いくつかのテーマに関してレポートを書いてもらいます。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
リアクションペーパー	○	○	○	○
期末レポート	○	○		○
	○	○		○

評価割合

平常点20%、リアクションペーパー40%、期末レポート40%

使用教科書名(ISBN番号)

『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣、2013年、石井敏ほか著

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】
人間社会の多様性を異文化コミュニケーションの理論やモデルをもとに、社会の諸問題を発見・分析し、問題解決を目指して考察することができる。
【関心・意欲・態度】
日常のコミュニケーションに介在する諸問題について関心を持ち続けることができる。
【技能・表現】
学修で得た異文化コミュニケーションに関する知識をもって、人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析し表現することで他者との共感を創り出すことができる。

学生へのメッセージ

授業には積極的に参加し、他人の意見に耳を傾けるとともに自分の意見を自信を持って述べて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50105031
講義名	異文化コミュニケーション
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	瀬端　睦	指定なし

ナンバリング

X13040M21

授業概要(教育目的)

　この授業の目標は、異文化コミュニケーションを理解ための基礎的な理論や概念を習得し、それらを用いて現代社会の諸現象と日常の異文化コミュニケーションを分析できるようになることである。授業では、異文化コミュニケーションに関する主要な理論や概念について学び、これらを応用して文化とコミュニケーションが関わる社会問題や日常の異文化コミュニケーションについてグループで議論する。そのうえで、異文化コミュニケーションのあり方や異文化コミュニケーションの諸課題を考察していく。

　本授業では講義だけでなく、学生間のグループディスカッションを実施するので、積極的な参加が求められる。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	異文化コミュニケーションに関する基本的な概念や理論を理解し、自分の経験や身の回りの現象と関連づけて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	異質性を認知するプロセスや、それが異文化の捉え方や態度とどう関連しているのかを理解し、自分自身や異文化に対する気づきを深める。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に異文化について理解しようとし、学んだ枠組みを用いて日常のコミュニケーションを考察することができる。
技術・表現の観点 (A)	自文化における文化的価値観や行動規範、コミュニケーション・スタイルを説明できる。コミュニケーションの場に応じて自身の考えを適切に述べることができる。

学習計画

異文化コミュニケーション

第1回	授業テーマ	オリエンテーション：コミュニケーション学の射程と重要性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	(1) シラバスを配布し、授業の目的・内容・評価方法等を確認する。 (2) 異文化コミュニケーション研究と教育が扱うトピックを示し、その重要性について議論をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習（30分）】 シラバスの内容をよく確認する。 【復習（30分）】 授業で学習した理論や概念について復習し、具体的な事例を自分なりに考えること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	異文化コミュニケーションを学ぶということ（『青い目茶色い目』）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	(1) コミュニケーションの定義、モデル、基本前提について学ぶ。 (2) 「青い目茶色い目」を視聴する (3) 文化的コンテクストとコミュニケーションの関わりについて議論する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習（60分）】 テキストのはじめにを読んでくる 【復習（30分）】 授業で学習した理論や概念について復習し、具体的な事例を自分なりに考えること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	授業テーマ	基礎概念①：文化・コミュニケーション・コミュニケーションの要素
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文化とは何か、コミュニケーションとは何か、について考え、学ぶことで、異文化コミュニケーションの基礎概念を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習（60分）】 テキスト第1章の１，２を読む 【復習（30分）】 授業で学習した理論や概念について復習し、具体的な事例を自分なりに考えること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	授業テーマ	基礎概念②：自文化中心主義・文化相対主義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	異文化コミュニケーションの考え方の基礎にある「文化相対主義」、その対極にある「自文化中心主義」を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習（60分）】 テキスト第1章の３を読む 【復習（30分）】 授業で学習した理論や概念について復習し、具体的な事例を自分なりに考えること。

	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	基礎概念③：自己とアイデンティティ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文化によって、自己やアイデンティティの捉え方も違うことを学び、自分のアイデンティティについて考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習（60分）】 テキスト第2章を読む 【復習（30分）】 授業で学習した理論や概念について復習し、具体的な事例を自分なりに考えること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	授業テーマ	基礎概念④：ステレオタイプ・偏見・差別
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	差別や偏見が起きる仕組みについて学び、その乗り越え方を知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習（60分）】 テキスト第3章を読む 【復習（30分）】 授業で学習した理論や概念について復習し、具体的な事例を自分なりに考えること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	授業テーマ	基礎概念⑤：価値観・思考パターン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文化によって、価値観や思考パターンが違うことを学び、異文化コミュニケーションにおいて起きる問題を知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習（60分）】 テキスト第4章を読む 【復習（30分）】 授業で学習した理論や概念について復習し、具体的な事例を自分なりに考えること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	映像で見る異文化コミュニケーションの事例①－１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映画『最強のふたり』を視聴しながら、異文化コミュニケーションで実際に起きる問題やすれ違いの事例について考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習（60分）】 これまでに学んだことを復習する 【復習（30分）】 映画で出てきたエピソードについて復習し、具体的な事例を自分なりに考えること。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	映像で見る異文化コミュニケーションの事例①－２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	映画『最強のふたり』を視聴しながら、異文化コミュニケー

第9回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ションで実際に起きる問題やすれ違いの事例を考え、自分の体験に照らし合わせる
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習（60分）】 これまでに学んだことを復習する 【復習（30分）】 映画で出てきたエピソードについて復習し、具体的な事例を自分なりに考えること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	映像で見る異文化コミュニケーションの事例②－１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映画『グレイテストショーマン』を視聴しながら、異文化コミュニケーションで実際に起きる問題やすれ違いの事例について考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習（60分）】 これまでに学んだことを復習する 【復習（30分）】 映画で出てきたエピソードについて復習し、具体的な事例を自分なりに考えること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	授業テーマ	映像で見る異文化コミュニケーションの事例②－２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映画『グレイテストショーマン』を視聴しながら、異文化コミュニケーションで実際に起きる問題やすれ違いの事例を考え、自分の体験に照らし合わせる
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習（60分）】 これまでに学んだことを復習する 【復習（30分）】 映画で出てきたエピソードについて復習し、具体的な事例を自分なりに考えること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	言語コミュニケーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	言語コミュニケーションの様々な要素について学び、文化による違いを知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習（60分）】 テキスト第5章を読む 【復習（30分）】 授業で学習した理論や概念について復習し、具体的な事例を自分なりに考えること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	非言語コミュニケーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	非言語コミュニケーションの様々な要素について学び、文化による違いを知る
	(	【予習（60分）】 テキスト第6章を読む

	教室外学習 予習・復習)の内容	【復習（30分）】 授業で学習した理論や概念について復習し、具体的な事例を自分なりに考えること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	カルチャーショック・異文化適応
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	カルチャーショックに際して起きる症状やそのパターンついて学び、乗り越え方や成長曲線を知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習（60分）】 テキスト第7章を読む 【復習（60分）】 これまでに学んだことをまとめる
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

履修者数、授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

授業中にフィードバックする。

評価方法

各授業の平常点20%、リアクションペーパー40%、期末レポート40%により判定する。

【リアクションペーパー】
各回の授業後にリアクションペーパーを記入する。
①グループディスカッションの内容のまとめ
　授業内で実施するグループディスカッションの内容を整理してまとめる。授業の振り返りとして、その授業でどのような議論をしたのか振り返り、記録する。
②授業で学んだこと・考えたこと、質問など
　授業での経験、その日に自分が学んだこと・考えたこと、授業に関する質問・意見を書く。特に、教室に入る前と授業後では自分の考え・気持ちがどう変わったかという点が重要となる。
③授業で学習した概念、説明モデルを用いた具体例を自分なりに考え、考察する
　授業では、日常のコミュニケーションに関連する概念や説明モデルを学習する。学習したそれらの理論や概念を用いて、自身の身の回りのコミュニケーションを分析し、考察する。

なお、優れた内容の「リアクションペーパー」は、授業の冒頭で紹介する場合がある。

【期末レポート】
・いくつかのテーマに関してレポートを書いてもらいます。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
リアクションペーパー	○	○	○	○
期末レポート	○	○		○
	○	○		○

評価割合

平常点20%、リアクションペーパー40%、期末レポート40%

使用教科書名(ISBN番号)

『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣、2013年、石井敏ほか著

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】
人間社会の多様性を異文化コミュニケーションの理論やモデルをもとに、社会の諸問題を発見・分析し、問題解決を目指して考察することができる。
【関心・意欲・態度】
日常のコミュニケーションに介在する諸問題について関心を持ち続けることができる。
【技能・表現】
学修で得た異文化コミュニケーションに関する知識をもって、人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析し表現することで他者との共感を創り出すことができる。

学生へのメッセージ

授業には積極的に参加し、他人の意見に耳を傾けるとともに自分の意見を自信を持って述べて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50107001
講義名	音楽
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	吉永 早苗	指定なし
教授	新開 よしみ	指定なし

ナンバリング

X13070M21

授業概要(教育目的)

音や音楽の多様な表現に触れることにより、柔軟なものの見方や鋭い感性を養います。まず、音楽鑑賞の基本である「よく聴くこと」のために、サウンド・エデュケーションを行います。その一環として、サウンドウォークを体験したり、音日記の実践に取り組んだりします。
講義では、人と音楽の関係、西洋音楽の歴史、民族と音楽、ジャズ、ポピュラー音楽、日本の音楽など、多様な音楽を鑑賞します。鑑賞がより充実したものとなるよう、解説だけでなく、学生同士のディスカッションも行います。
なお、講義時に次回のテーマをお話ししますので、関連文献や音楽作品の視聴を積極的に行ってください。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	音楽の歴史と音楽様式の変遷をたどりながら、さまざまな表現力をもつ音楽を鑑賞し、人を癒し励ましてきた音楽の魅力を探る。
思考・判断の観点 (K)	様々な表現をもつ音楽を鑑賞し、その発信するものを感受し、伝えようとするものを探究する。 より豊かな音楽表現の工夫を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	音楽を愛好する心情を養う。 異なる時代や社会における音楽を通して、多様な文化への理解や共感を深める。
技術・表現の観	サウンド・エデュケーションの体験を通して、「音」・「音楽」への聴き方をとらえ直す。

点 (A)	他者と協力し、豊かな音楽表現を追求することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	オリエンテーション：聴くことの再考①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サウンドエデュケーション：「聴く」ことを問い直す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	サウンドウォークを実施する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	聴くことの再考②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体の諸感覚で感受する音・音楽：『タッチ・ザ・サウンド』の視聴
	教室外学習(予習・復習)の内容	感想レポート「体の諸感覚で音楽を感受するということについて」
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	人間と音楽
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	音楽の起源・音楽の機能についての基礎知識
	教室外学習(予習・復習)の内容	音日記の作成
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	西洋音楽の鑑賞①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ルネサンスからバロックの音楽鑑賞と基礎知識
	教室外学習(予習・復習)の内容	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートにまとめる。 音日記の作成
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	西洋音楽の鑑賞②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	古典派の音楽鑑賞と基礎知識
	教室外学習(予習・復習)の内容	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	西洋音楽の鑑賞③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロマン派の音楽鑑賞と基礎知識
	教室外学習(予習・復習)の内容	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	西洋音楽の鑑賞④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	印象派の音楽から現代音楽の鑑賞と基礎知識
	教室外学習(予習・復習)の内容	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	音楽と人間と社会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	『魂の教育 エル・システマ』の鑑賞とディスカッション

	教室外学習(予習・復習)の内容	音楽が人の心に及ぼす影響、音楽の教育力について考えておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	民族と音楽①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	世界の諸民族の音楽を鑑賞する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	民族と音楽②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	世界の諸民族の音楽の特徴について、ICTを活用して発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループごとに担当地域を決めて、楽器や歌唱の特徴を調べておく。
	教室外学習の時間（分）	240分
第11回	**授業テーマ**	ジャズ～ポピュラー音楽
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	20世紀に生まれたジャズ～ポピュラー音楽の流れを、作品を聴きながら理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートにまとめる。 12回の講義に向け、表現したい音楽について考えておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	ミュージッキング①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ミュージッキングの概念を理解する。 自分の身体や身の回りのもので音楽する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミュージッキングに関する論文を読み、自分なりの解釈をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	**授業テーマ**	ミュージッキング②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	仲間と協働して表現することを楽しむとともに、音楽を深めることを考え、実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループで練習し、表現発表に向けての準備しておく。
	教室外学習の時間（分）	240分
第14回	**授業テーマ**	ミュージッキング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発表会を企画し、共に音楽することの喜び・意義について実践を通して考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「なぜ、私たちは音楽とともにあるのか」について考察し、まとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

履修者数や授業形態によって、スケジュールを変更する場合があります。

学生へのフィードバック方法

リフレクションシートには、講義テーマに関する予習内容、講義の中での気づき、講義内容についてさらに調べたこと（復習）を記載し、翌週の講義で提出していただきます。提出されたリフレクションシートやレポートは、コメントして返却します。質問等がある場合は、その中に付記していただくと、講義の中でお答えします。

評価方法

課題評価の観点は次の通りです。
・音や音楽を体の諸感覚で感受し、分析的に聴こうとしているか。
・様々な表現力をもつ音楽が発信するものを感受し、自分なりの解釈を探究しようとしているか。
・それぞれの時代の音楽の社会・文化との繋がりに関する理解を深めようとしているか。
・他者の感受した内容、解釈に共感することを通し、自身の音楽鑑賞を深めているか。
・音楽の時代様式や演奏形態、作曲家や演奏家、あるいは民族による音楽の違いに関する理解を深めようとしているか。
以上を踏まえ、ルーブリックを用いた評価を行います。ルーブリックは授業内に配付し、提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
音日記 or サウンドマップ		○	○	○
リフレクションシート	○	○	○	
グループ討議・発表とそのまとめ	○	○	○	○

評価割合

音日記（20%）、リフレクションシート：講義内容の感想および予習・復習を含む（60%）、期末レポート（20%）で評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

なし（プリント配布）

参考図書

片桐 功他著「はじめての音楽史」（音楽之友社）
岡田 暁生著「音楽の聴き方」（中公新書）
伊福部 昭著「音楽入門」（角川ソフィア文庫）
青島 広志著「これだけ！西洋音楽史」（KING RECORDS）CD

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】
音楽の時代様式や演奏形態、作曲家や演奏家、あるいは民族による音楽の違いに関する知識を広げ、文化的に豊かな社会に向けての提案をすることができる。
【関心・意欲・態度】
様々な表現力を持つ音楽が発信するものを体の諸感覚で感受し、豊かな感性を育む。
【技術・表現】
音楽を分析に聴いたり、他者の感じたことに共感して自己の鑑賞を深めたりすることを通し、論理性や共感性を育む。

学生へのメッセージ

ぜひ様々な音楽に興味をもち、積極的な態度で授業に臨んでください。質問等は随時受け付けています。
イヤフォンを外し、身のまわりの音・人の声に耳を澄ませてみましょう。また、普段聴いたことのないジャンルの音楽にも積極的にアクセスしましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経		

験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ペアトークやグループ・ディスカッションを適宜導入する。単に受動的に音楽を聞くのではなく、課題意識をもち、感じたことの裏付けとなる音楽的特徴を考えるなどして、能動的な音楽鑑賞を行う。協働して発表会を企画し、実行する。
情報リテラシー教育	○	レポート作成や発表のプレゼンテーションに際し、情報モラルに関する教育、情報を得るための方法、情報のアウトプットに関する内容を取り扱う。
ICT活用	○	レポート作成及びグループ発表でのプレゼンテーションにおいてICTを活用する。

講義コード	G50109001
講義名	色彩論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	滝沢　真美	指定なし

ナンバリング

X13090M21

授業概要(教育目的)

オンデマンドによる（後期・水曜・2限）実施

色彩学は物理学、光学、工学、生理学、心理学など広範囲な複合領域である。この授業では、幅広い色彩の分野を総合的に知り、基礎知識を習得することを目標にしている。その中で、感覚的に捉えられがちな色彩をマンセル体系に基づいたHUE&TONEシステムを通して、論理的に捉えられるようにする。配色実習を通して、日常生活の中で色彩を使いこなせるよう、配色の基本ルールとカラーイメージ表現の基礎を習得する。グローバル社会の中で文化としての日本の色について学び、高齢者や色弱者に対応するカラーユニバーサルデザインについて学ぶことで、色彩を通して社会を見つめる目を養う。

履修条件

1．基本的な日本語能力があること。（講義内容の日本語が理解できる、日本語の質問に日本語で答えられる、日本語で書かれた試験問題を正しく理解し回答できる）

2．指定の教科書（書籍）と教材（色紙）の両方を準備できること。両方ないと授業に参加できない。教材（色紙）は大学のHPの教科書販売サイトからでないと購入できないので注意すること。期間中に指定教科書と教材を購入しなかった場合は、授業登録をしていても授業参加は認めない。

3．オンデマンド授業となるため、パソコンでの受講を必須とする。資料はデータの状態でアップするので、プリントアウトをすることが望ましい。特に提出物作成のために必要な資料は必ずプリントアウトをしておくいこと。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	1.業際的に広がる色彩の果たす役割を知り、リベラルアーツとしての色彩の基礎知識を身につける。

思考・判断の観点(K)	1.好き、嫌いではなく、よい色の使い方、悪い色の使い方を、理論的に説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1.グローバルな視点で「日本の色とは何か」を説明できる。 2.「カラーユニバーサルデザイン」を学ぶことで、万人に伝わる色彩情報の伝え方を理解する。 3.1と2の2つの観点から、色彩を通して現代社会を考える。
技術・表現の観点(A)	1.学問としての座学の色彩学に加え、自分の生活で応用できる実践的な配色テクニックやセンスアップの方法を学び、自己表現できるようになるとともに、配色によって美しい環境をつくる方法を理解する。

学習計画

第1回	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	色とは何かを知り、色彩の果たす役割を理解する。色彩検定、カラーコーディネーター検定、色彩業界の今について紹介する。14回の授業の全体像を理解する。また、初回の授業でルーブリックについて説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	使用教科書、教材の確認を行う。 レポート課題「この授業で学びたいこと」を作成し、提出する。
	教室外学習の時間(分)	70分
第2回	授業テーマ	色とは何か、照明と色
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	色を見るための光について理解する。自然光と人工光を含めた照明について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習シートの解答を確認し、レポート課題を作成する。
	教室外学習の時間(分)	180分
第3回	授業テーマ	色が見える仕組み、色覚説
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	目の構造を学び、網膜の中の錐体細胞、桿体細胞の役割を理解する。色弱がなぜ起きるか、その仕組みを理解する。代表的な色覚説についてを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内	学習シートの解答を確認し、レポート課題を作成する。

	容	
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	色の混色　HUE&TONE表の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	加法混色、減法混色の原理、三原色、応用分野を理解する。加法混色の一種である中間混色について理解する。特に、加法混色と減法混色に関しては、色紙を貼付しながらビジュアルで理解を深める。色紙の使い方、HUE&TONE表の作成方法について説明する。5回目以降の授業で使うHUE&TONEシステムの一覧表に、色紙を貼付しておく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習シートの解答を確認し、レポート課題を作成する。 HUE&TONEシステムの一覧表の色紙貼付が授業中に終了しない場合は、次回までに必ず終了させ、データを期日までにアップすること。
	教室外学習の時間（分）	210分
第5回	授業テーマ	色の伝達方法　1色名　2様々なカラーシステムの紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	色を伝える方法として、まず色名について理解する。そのために、自分の知っている色名を各自が書き出す。その結果を基に、色名の分類方法について学ぶ。特に慣用色名の中で知っておきたい色名を紹介する。次に、色を伝える方法として代表的なカラーシステムを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の冒頭で知ってる色名を書き出し、授業を聞いた上で、それを使ってレポート課題を作成する。教科書1章1節表色系の分類（P9）を読み、カラーシステムの大分類を復習する。代表的なカラーシステムのうち、この授業で触れないカラーシステムについては、参考文献を使って確認をしておく。色彩検定またはカラーコーディネーター検定受験希望者は、復習時間を長めにとること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	マンセル表色系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	マンセル表色系の色の三属性について理解する。特に、色相について、色紙を使いながら理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前には、教科書1章2節のマンセル表色系（P10～13）の部分を予習しておく。学習シートの解答を確認し、レポート課題を作成する。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	HUE&TONEシステム　トーンの仕組み

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	マンセル表色系を基にしたHUE&TONEシステムについて理解する。特に、教科書1章3節HUE&TONEシステム（P14～23）を使って、明度と彩度を一緒にしたトーンの概念を理解する。トーンに関しても色紙を使って、ビジュアルで確認しながら理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	4回目の授業で作成したHUE&TONE表を準備しておくこと。 授業前には、教科書1章3節HUE&TONEシステム（P14～23）を読み予習しておく。学習シートの解答を確認し、レポート課題を作成する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	マンセル表色系とHUE&TONEシステムのまとめ　生活の基本色
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2つのシステムの表記方法の違いと、メリット、デメリットを理解し、使い分けができるようになる。色相の果たす役割、トーンの果たす役割を理解する。HUE&TONEシステムを使った応用として、色紙を使って嗜好色診断を行い、自分のカラーボキャブラリーを確認する。カラーデータの収集方法や分析方法、ファッションとインテリアの基本色についても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書1章全体を熟読し、マンセル表色系とHUE&TONEシステムについて復習する。嗜好色診断の結果を基に、自分のクローゼットの中の洋服の色や身の回りにある色について観察する。自分の好きな色、嫌いな色について、具体的にカラーシステムの中で理解しておく。嗜好色調査結果をレポート課題として提出する。
	教室外学習の時間（分）	210分
第9回	授業テーマ	補色残像、対比、同化、色の心理的効果
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	色紙を使って補色残像の実験を行い、人間の色の見え方の中で生理的現象について確認する。色は単独では存在せず、置かれる場所や組み合わせによって違って見えることを、対比と同化の2つの観点から、色紙を使って自分の目で確認しながら理解する。色の心理的効果を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習シートの解答を確認し、レポート課題を作成する。特に対比、同化に関しては、授業で紹介した事例を自分の生活の中で確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	基本配色テクニック実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教科書3章1節（P41～43）を読み、まとまり（同系色、トーンのコントラスト弱）ときわだち（反対色、トーンのコントラスト強）、トーン配色（同系色で濃淡をつけた配色）と色相配色（多色相を使ったカラフルな配色）、グラデーション（漸変）とセパレーション（分離）の６つの基本配色テクニックを、練習用配色シートに貼りながら理解し、シートを完成させる。
	教室外学	教科書3章1節（P41～47）を通読しておく。 6つのテクニックがよく理解できなかった場合は、教科書を読みきちんと

	習(予習・復習)の内容	復習しておく。 次回の授業までに、自分のオリジナルで配色シートを完成させ、実物を提出する。
	教室外学習の時間(分)	300分
第11回	授業テーマ	配色センスアップの方法、カラーユニバーサルデザイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教科書3章2節（P48～58）と学習シートを併用しながら、配色センスアップの具体的な方法を理解する。カラーユニバーサルデザインに関しては、教科書3章2節（P58～59）とCUDO（カラーユニバーサルデザイン機構）のサイトや書籍を紹介するので、その考え方や対策について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書3章2節（P48～59）を熟読し、学習シートの解答を確認し、レポート課題を作成する。 視認性の高い配色について、第3回の網膜の中の細胞の役割から説明できるかどうかを確認し、できない場合は、第3回の教室外学習を再度行うこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
第12回	授業テーマ	色彩心理、カラーイメージ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教科書4章（P62～87）を使って、主要な色のカラーイメージを確認する。その色が生活の中で具体的にどのように使われているかを確認し、カラーイメージを正しく伝える方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書4章（P62～87）を熟読し、主要なカラーイメージとその応用方法について理解する。授業の中で紹介するイメージスケールについても、教科書6章1節（P117～121）を通読しておくこと。指定されたレポート課題を提出する。
	教室外学習の時間(分)	180分
第13回	授業テーマ	イメージスケールとイメージ配色実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教科書第6章1節（p116～121）を使って、イメージスケールを紹介する。いくつかのテーマに対して、イメージで配色をする実習を行う。色彩心理学に基づいて開発されたイメージスケールの使い方を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第6章1節（p116～121）を通読する。 作成したイメージ配色をデータで提出する。
	教室外学習の時間(分)	240分
	授業テー	

第14回	マ	色と文化、日本の色
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第13回で課題として出した「日本のイメージの配色」を使って、日本らしい色やイメージを掘り下げて考える。学習シートを使って、日本の色彩文化として知っておきたいキーワードの五行思想、冠位十二階、襲色目、四十八茶百鼠についても理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第13回で実施した「日本のイメージ」のデータベースイメージ調査の結果をデータで提出すること。 日本の色の特徴や、色名を伝えられるようにしておく。 レポート試験に向けて全体の振り返りをしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	230分

学習計画注記

第1回目は授業内容の紹介、第2～4回目は色が見える仕組み、色を作る仕組み、第5～8回目までは色を伝える方法、第9～11回目までは配色の方法、第12＆13回目は色をイメージで捉える方法、第14回目は文化的視点で日本の色を考えるというように、一連の流れで授業を行う。途中欠席すると、次の授業が理解できなくなるため、レポート提出が出来なかった週のオンデマンドビデオも必ず視聴しておくこと。

学生へのフィードバック方法

毎週出すレポート課題に関しては、各自にフィードバックは行わないが、次週の授業の冒頭に、模範解答をオンデマンドで解説するので、必ず確認しておくこと。最終試験はこのレポート課題の中でポイントとして触れている部分から出題するので、不明な点があれば、きちんと復習しておくこと。

検定対策の授業ではないが、授業の中で検定で出題される部分に関しては、その旨アナウンスする。

評価方法

ルーブリックによる成績評価

レポート試験（持ち込み可）、配色実習シート、平常点（出席＝レポート課題の提出状況）の3つにより総合的に判断する。14回のうち、3分の2以上の出席がない場合は、受験資格がないため不合格となる。

レポート試験は、毎回出題するレポート課題の中から主に出題するので、模範解答を確認しておくこと。配色実習シートの現物の提出をもって、配色の採点を行うので、必ず期限までに提出すること。レポート試験60点、配色実習シート25点、平常点15点の100点満点とし、総合で60点以上を合格とする。

オンデマンド授業のため、出席はその回のレポート課題の提出を持って出席とする。そのため、オンデマンドで授業を聴講していても指定までの期日までにレポート課題の提出をしていない場合は、出席とは認めないので注意すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート試験	○	○	○	
配色実習シート	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

レポート試験60%（試験期間中に実施）
配色実習シート25%（第10回の授業で作成したものを提出）
平常点（出席状況やレポート提出状況）15%
60点以上で合格

使用教科書名(ISBN番号)

「住宅インテリアのための実践カラーテクニック改訂版」　ISBN　978－4－904403－26－6
滝沢真美（トーソー出版）3300円

「新デザイントーン130　色紙（B8）」（日本カラーデザイン研究所）1430円

参考図書

「カラーコーディネーター検定試験®スタンダードクラス公式テキスト」
（東京商工会議所）
「生活の色彩学 —快適な暮らしを求めて—」橋本令子・石原久代 編著（朝倉書店）
「カラーユニバーサルデザイン」　カラーユニバーサルデザイン機構（ハート出版）

参考URL

http://www2.cudo.jp/wp/

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】日常生活に欠かせない色彩を幅広い角度から総合的に理解する。
【関心・意欲・態度】カラーユニバーサルデザイン、日本の色を通して、現代社会の一員として、自らのあり方を考える。
【技術・表現】配色テクニックを身につけることで、美しい環境作りの方向性を理解する。

学生へのメッセージ

1.日頃から生活の中に広がる色を観察して欲しい。また、美術館に行くなど、美的なもの触れる機会を意識して増やしてほしい。
2.授業では、ワークシートの貼付や配色実習で色紙を使用する。紛失には十分注意すること。
3.教科書、教材、のり、はさみは毎回用意すること。（のりは口紅タイプかテープ状）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	第6回～第14回は、日本カラーデザイン研究所の色彩基礎セミナーで企業向けに行っている内容を、学生向けに噛み砕いて講義を行う。結果として、生活の中で実践的に使えるカラーテクニックが学べるようになっている。
アクティブ・ラーニング	○	実際の色紙を切る、貼るという作業や、具体的な配色を作成するなど、演習的な要素を盛り込んだ授業となっている。また、色名、カラーイメージ、日本の色などを考えさえ、発表させることで、参加型の授業となっている。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50109031
講義名	色彩論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	滝沢　真美	指定なし

ナンバリング

X13090M21

授業概要(教育目的)

オンデマンドによる（後期・水曜・2限）実施

色彩学は物理学、光学、工学、生理学、心理学など広範囲な複合領域である。この授業では、幅広い色彩の分野を総合的に知り、基礎知識を習得することを目標にしている。その中で、感覚的に捉えられがちな色彩をマンセル体系に基づいたHUE&TONEシステムを通して、論理的に捉えられるようにする。配色実習を通して、日常生活の中で色彩を使いこなせるよう、配色の基本ルールとカラーイメージ表現の基礎を習得する。グローバル社会の中で文化としての日本の色について学び、高齢者や色弱者に対応するカラーユニバーサルデザインについて学ぶことで、色彩を通して社会を見つめる目を養う。

履修条件

1．基本的な日本語能力があること。（講義内容の日本語が理解できる、日本語の質問に日本語で答えられる、日本語で書かれた試験問題を正しく理解し回答できる）

2．指定の教科書（書籍）と教材（色紙）の両方を準備できること。両方ないと授業に参加できない。教材（色紙）は大学のHPの教科書販売サイトからでないと購入できないので注意すること。期間中に指定教科書と教材を購入しなかった場合は、授業登録をしていても授業参加は認めない。

3．オンデマンド授業となるため、パソコンでの受講を必須とする。資料はデータの状態でアップするので、プリントアウトをすることが望ましい。特に提出物作成のために必要な資料は必ずプリントアウトをしておくいこと。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	1.業際的に広がる色彩の果たす役割を知り、リベラルアーツとしての色彩の基礎知識を身につける。

思考・判断の観点(K)	1.好き、嫌いではなく、よい色の使い方、悪い色の使い方を、理論的に説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1.グローバルな視点で「日本の色とは何か」を説明できる。 2.「カラーユニバーサルデザイン」を学ぶことで、万人に伝わる色彩情報の伝え方を理解する。 3.1と2の2つの観点から、色彩を通して現代社会を考える。
技術・表現の観点(A)	1.学問としての座学の色彩学に加え、自分の生活で応用できる実践的な配色テクニックやセンスアップの方法を学び、自己表現できるようになるとともに、配色によって美しい環境をつくる方法を理解する。

学習計画

第1回	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	色とは何かを知り、色彩の果たす役割を理解する。色彩検定、カラーコーディネーター検定、色彩業界の今について紹介する。14回の授業の全体像を理解する。また、初回の授業でルーブリックについて説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	使用教科書、教材の確認を行う。 レポート課題「この授業で学びたいこと」を作成し、提出する。
	教室外学習の時間(分)	70分
第2回	授業テーマ	色とは何か、照明と色
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	色を見るための光について理解する。自然光と人工光を含めた照明について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習シートの解答を確認し、レポート課題を作成する。
	教室外学習の時間(分)	180分
第3回	授業テーマ	色が見える仕組み、色覚説
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	目の構造を学び、網膜の中の錐体細胞、桿体細胞の役割を理解する。色弱がなぜ起きるか、その仕組みを理解する。代表的な色覚説についてを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内	学習シートの解答を確認し、レポート課題を作成する。

	容	
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	色の混色　HUE&TONE表の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	加法混色、減法混色の原理、三原色、応用分野を理解する。加法混色の一種である中間混色について理解する。特に、加法混色と減法混色に関しては、色紙を貼付しながらビジュアルで理解を深める。色紙の使い方、HUE&TONE表の作成方法について説明する。5回目以降の授業で使うHUE&TONEシステムの一覧表に、色紙を貼付しておく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習シートの解答を確認し、レポート課題を作成する。 HUE&TONEシステムの一覧表の色紙貼付が授業中に終了しない場合は、次回までに必ず終了させ、データを期日までにアップすること。
	教室外学習の時間（分）	210分
第5回	授業テーマ	色の伝達方法　1色名　2様々なカラーシステムの紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	色を伝える方法として、まず色名について理解する。そのために、自分の知っている色名を各自が書き出す。その結果を基に、色名の分類方法について学ぶ。特に慣用色名の中で知っておきたい色名を紹介する。次に、色を伝える方法として代表的なカラーシステムを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の冒頭で知ってる色名を書き出し、授業を聞いた上で、それを使ってレポート課題を作成する。教科書1章1節表色系の分類（P9）を読み、カラーシステムの大分類を復習する。代表的なカラーシステムのうち、この授業で触れないカラーシステムについては、参考文献を使って確認をしておく。色彩検定またはカラーコーディネーター検定受験希望者は、復習時間を長めにとること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	マンセル表色系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	マンセル表色系の色の三属性について理解する。特に、色相について、色紙を使いながら理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前には、教科書1章2節のマンセル表色系（P10～13）の部分を予習しておく。学習シートの解答を確認し、レポート課題を作成する。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	HUE&TONEシステム　トーンの仕組み

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	マンセル表色系を基にしたHUE&TONEシステムについて理解する。特に、教科書1章3節HUE&TONEシステム（P14～23）を使って、明度と彩度を一緒にしたトーンの概念を理解する。トーンに関しても色紙を使って、ビジュアルで確認しながら理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	4回目の授業で作成したHUE&TONE表を準備しておくこと。 授業前には、教科書1章3節HUE&TONEシステム（P14～23）を読み予習しておく。学習シートの解答を確認し、レポート課題を作成する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	マンセル表色系とHUE&TONEシステムのまとめ　生活の基本色
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2つのシステムの表記方法の違いと、メリット、デメリットを理解し、使い分けができるようになる。色相の果たす役割、トーンの果たす役割を理解する。HUE&TONEシステムを使った応用として、色紙を使って嗜好色診断を行い、自分のカラーボキャブラリーを確認する。カラーデータの収集方法や分析方法、ファッションとインテリアの基本色についても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書1章全体を熟読し、マンセル表色系とHUE&TONEシステムについて復習する。嗜好色診断の結果を基に、自分のクローゼットの中の洋服の色や身の回りにある色について観察する。自分の好きな色、嫌いな色について、具体的にカラーシステムの中で理解しておく。嗜好色調査結果をレポート課題として提出する。
	教室外学習の時間（分）	210分
第9回	授業テーマ	補色残像、対比、同化、色の心理的効果
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	色紙を使って補色残像の実験を行い、人間の色の見え方の中で生理的現象について確認する。色は単独では存在せず、置かれる場所や組み合わせによって違って見えることを、対比と同化の2つの観点から、色紙を使って自分の目で確認しながら理解する。色の心理的効果を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習シートの解答を確認し、レポート課題を作成する。特に対比、同化に関しては、授業で紹介した事例を自分の生活の中で確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	基本配色テクニック実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教科書3章1節（P41～43）を読み、まとまり（同系色、トーンのコントラスト弱）ときわだち（反対色、トーンのコントラスト強）、トーン配色（同系色で濃淡をつけた配色）と色相配色（多色相を使ったカラフルな配色）、グラデーション（漸変）とセパレーション（分離）の６つの基本配色テクニックを、練習用配色シートに貼りながら理解し、シートを完成させる。
	教室外学	教科書3章1節（P41～47）を通読しておく。 6つのテクニックがよく理解できなかった場合は、教科書を読みきちんと

	習(予習・復習)の内容	復習しておく。 次回の授業までに、自分のオリジナルで配色シートを完成させ、実物を提出する。
	教室外学習の時間(分)	300分
第11回	授業テーマ	配色センスアップの方法、カラーユニバーサルデザイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教科書3章2節（P48～58）と学習シートを併用しながら、配色センスアップの具体的な方法を理解する。カラーユニバーサルデザインに関しては、教科書3章2節（P58～59）とCUDO（カラーユニバーサルデザイン機構）のサイトや書籍を紹介するので、その考え方や対策について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書3章2節（P48～59）を熟読し、学習シートの解答を確認し、レポート課題を作成する。 視認性の高い配色について、第3回の網膜の中の細胞の役割から説明できるかどうかを確認し、できない場合は、第3回の教室外学習を再度行うこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
第12回	授業テーマ	色彩心理、カラーイメージ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教科書4章（P62～87）を使って、主要な色のカラーイメージを確認する。その色が生活の中で具体的にどのように使われているかを確認し、カラーイメージを正しく伝える方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書4章（P62～87）を熟読し、主要なカラーイメージとその応用方法について理解する。授業の中で紹介するイメージスケールについても、教科書5章1節（P117～121）を通読しておくこと。指定されたレポート課題を提出する。
	教室外学習の時間(分)	180分
第13回	授業テーマ	イメージスケールとイメージ配色実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教科書第5章1節（p116～121）を使って、イメージスケールを紹介する。 いくつかのテーマに対して、イメージで配色をする実習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第6章1節（p116～121）を通読する。 作成したイメージ配色をデータで提出する。
	教室外学習の時間(分)	240分
	授業テー	

第14回	マ	色と文化、日本の色
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第13回で課題として出した「日本のイメージの配色」を使って、日本らしい色やイメージを掘り下げて考える。学習シートを使って、日本の色彩文化として知っておきたいキーワードの五行思想、冠位十二階、襲色目、四十八茶百鼠についても理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第13回で実施した「日本のイメージ」のデータベースイメージ調査の結果をデータで提出すること。 日本の色の特徴や、色名を伝えられるようにしておく。 レポート試験に向けて全体の振り返りをしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	230分

学習計画注記

第1回目は授業内容の紹介、第2～4回目は色が見える仕組み、色を作る仕組み、第5～8回目までは色を伝える方法、第9～11回目までは配色の方法、第12＆13回目は色をイメージで捉える方法、第14回目は文化的視点で日本の色を考えるというように、一連の流れで授業を行う。途中欠席すると、次の授業が理解できなくなるため、レポート提出が出来なかった週のオンデマンドビデオも必ず視聴しておくこと。

学生へのフィードバック方法

毎週出すレポート課題に関しては、各自にフィードバックは行わないが、次週の授業の冒頭に、模範解答をオンデマンドで解説するので、必ず確認しておくこと。最終試験はこのレポート課題の中でポイントとして触れている部分から出題するので、不明な点があれば、きちんと復習しておくこと。

検定対策の授業ではないが、授業の中で検定で出題される部分に関しては、その旨アナウンスする。

評価方法

ルーブリックによる成績評価

レポート試験（持ち込み可）、配色実習シート、平常点（出席＝レポート課題の提出状況）の3つにより総合的に判断する。14回のうち、3分の2以上の出席がない場合は、受験資格がないため不合格となる。

レポート試験は、毎回出題するレポート課題の中から主に出題するので、模範解答を確認しておくこと。配色実習シートの現物の提出をもって、配色の採点を行うので、必ず期日までに提出すること。レポート試験60点、配色実習シート25点、平常点15点の100点満点とし、総合で60点以上を合格とする。

オンデマンド授業のため、出席はその回のレポート課題の提出を持って出席とする。そのため、オンデマンドで授業を聴講していても指定までの期日までにレポート課題の提出をしていない場合は、出席とは認めないので注意すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート試験	○	○	○	
配色実習シート	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

レポート試験60%（試験期間中に実施）
配色実習シート25%（第10回の授業で作成したものを提出）
平常点（出席状況やレポート提出状況）15%
60点以上で合格

使用教科書名(ISBN番号)

「住宅インテリアのための実践カラーテクニック改訂版」　ISBN　978－4－904403－26－6
滝沢真美（トーソー出版）3300円

「新デザイントーン130　色紙（B8）」（日本カラーデザイン研究所）1430円

参考図書

「カラーコーディネーター検定試験®スタンダードクラス公式テキスト」
（東京商工会議所）
「生活の色彩学 —快適な暮らしを求めて—」橋本令子・石原久代 編著（朝倉書店）
「カラーユニバーサルデザイン」　カラーユニバーサルデザイン機構（ハート出版）

参考URL

http://www2.cudo.jp/wp/

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】日常生活に欠かせない色彩を幅広い角度から総合的に理解する。
【関心・意欲・態度】カラーユニバーサルデザイン、日本の色を通して、現代社会の一員として、自らのあり方を考える。
【技術・表現】配色テクニックを身につけることで、美しい環境作りの方向性を理解する。

学生へのメッセージ

1.日頃から生活の中に広がる色を観察して欲しい。また、美術館に行くなど、美的なもの触れる機会を意識して増やしてほしい。
2.授業では、ワークシートの貼付や配色実習で色紙を使用する。紛失には十分注意すること。
3.教科書、教材、のり、はさみは毎回用意すること。（のりは口紅タイプかテープ状）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	第6回～第14回は、日本カラーデザイン研究所の色彩基礎セミナーで企業向けに行っている内容を、学生向けに噛み砕いて講義を行う。結果として、生活の中で実践的に使えるカラーテクニックが学べるようになっている。
アクティブ・ラーニング	○	実際の色紙を切る、貼るという作業や、具体的な配色を作成するなど、演習的な要素を盛り込んだ授業となっている。また、色名、カラーイメージ、日本の色などを考えさえ、発表させることで、参加型の授業となっている。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50111001
講義名	民俗学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	加藤 晴美	指定なし

ナンバリング

X13050M21

授業概要(教育目的)

民俗学は「普通の人びと」の暮らしや文化を明らかにしようとする学問である。この科目では、毎日の仕事にいそしみ、時には楽しみ、時にはつらいことにも直面した、普通の人びとの「暮らし」について、民俗学の視点からアプローチしていく。具体的には、日本各地における都市や村落での生活文化の多様性やその移り変わりについて、地域の社会構造や衣食住、儀礼、信仰、言い伝えといった観点から学ぶ。それにより、われわれの生活文化や習慣の根底には、暮らしに関わるどのような知恵、技術、考え方が存在してきたのかを明らかにする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	民俗学の成り立ちや民俗学の考え方を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	具体的な事例をあげて、民俗の多様性を説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	民俗学の方法・視座や成果について、自らの経験と関連づけながら捉えてみることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

民俗学

	授業テーマ	民俗とは何か

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンスを行う。民俗とはなにか、民俗学とはなにか、「普通の人びと」の暮らしを探る方法について考える。毎回、コメントシートの作成および資料配布のためPCを使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「民俗」や「民俗学」について、調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	食からみる民俗①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	なぜ正月には餅を入れた雑煮を食べるのか、日本人はモチモチした食感を好むのか。餅を食べることや贈り物としての餅を通して、非日常の食としての「餅」がもつ社会的な意義やその背景にある稲作との関連などについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自、自宅で食べる「雑煮」について、どのようなものか調べておいて下さい。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	食からみる民俗②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「餅」は正月に欠かせないものと思われているが、日本には餅を禁忌とする「餅なし正月」の慣行をもつ地域もある。ここでは「餅なし正月」をめぐるいくつかの解釈を示しつつ、商品作物の普及や儀礼食の多様化について考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指示された文献に目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	食からみる民俗③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日常の食について、雑穀やイモ、木の実などを食べる慣習を中心に考えていく。とくに北上山地や飛騨地域、山梨県の事例を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指示された文献に目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	村の民俗①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人びとの暮らしの舞台であった「村」について、その構造や境界、村のなかの組織などの観点から考えていく。まず稲作を中心とした村落について、生業や儀礼などを取り上げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指示された文献に目を通しておくこと。

	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	村の民俗②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	山村と呼ばれる村落について、特徴的な生業や儀礼、伝承などを取り上げる。また、平地から山がどのようにみられていたのか、「愚か村」話とよばれる口承文芸や、平家落人伝説から考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指示された文献に目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	中間レポートの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学生同士で自分たちの暮らしについてのディスカッションを行い、それをもとに中間レポートを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指示された文献に目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	婚姻・出産・子育て①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	さまざまな婚姻習俗と婚姻後の家族関係について、その多様性に着目しながら考えていく。とくに日本の伝統的な家族のバリエーションについて検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指示された文献に目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	婚姻・出産・子育て②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近代医療が普及する前の出産について、出産や月経時に使われた「産屋」の習俗や、エナ（胎盤）をめぐる習俗などを中心に考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指示された文献に目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	婚姻・出産・子育て③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子育てに関するさまざまな習俗や儀礼、伝承などを取り上げる。また、伝統的な村のなかで子どもを育てるとはどういうものであったか、その目的などについて考える。

	教室外学習(予習・復習)の内容	指示された文献に目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	民俗と現代①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	民俗学的な視点から「現代」を考える。ここではインターネット上で流布される都市伝説（ネットロア）を取り上げ、その伝達過程や変容について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分がどのようなネットロアを知っているか、まとめておく。「きさらぎ駅」「八尺様」などのオカルト話もネットロアです。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	民俗と現代②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「民俗」は現代社会においてどのように生きているか。私たちの暮らしのなかにある俗信から考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指示された文献に目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	民俗と現代③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	江戸時代や昭和レトロを売り物にした観光施設はなぜ作られ、消費されるのか。「日本のふるさと」や「昔なつかしい」という観点から、民俗の商品化について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	行ったことのある「なつかしさ」を売り物にした観光地、施設などについてまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	民俗とは何か、それを知ることにどのような意味があるのか。これからの「暮らし」を考えるうえで民俗学をどのように活用するか、考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指示された文献に目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

授業の進行状況によって内容が変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

コメントシートでは、感想・意見・質問を受け付けます。質問等については、次回授業の冒頭で回答・補足説明を行う。

評価方法

・毎回、授業終盤で授業内容のまとめ・感想・質問などについてコメントシートにまとめる。このコメントシートの提出をもって出席と認める。その記入内容により、関心・意欲・態度とともに授業内容の理解に関して評価を行う。期末試験では、授業内容を踏まえて適切な考察をしているか、わかりやすく他者に伝える表現がなされているか、評価する。
・評価はルーブリックに基づいて行う。ルーブリックは授業時に配付、もしくはclassroomで提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末試験	○	○	○	
グループワーク		○	○	
コメントシート	○		○	

評価割合

平常点（コメントシート）30%、中間レポート20%、期末試験50%で評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない。

参考図書

講義の際、必要に応じて資料を配布します。

島村恭則『民俗学を生きる―ヴァナキュラー研究への道―』晃洋書房、2020年。
菊地暁『民俗学入門』岩波書店、2022年。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】民俗学が社会の中でもつ役割を理解できる
【思考・判断】民俗学の視座・方法と成果の何が日常生活を考えるうえで有益であるか判断できる
【関心・意欲・態度】民俗学の視座・方法と成果を自らの興味関心と関連づけて捉えることができる

オフィスアワー

前期：月曜4限
後期：月曜3限

学生へのメッセージ

民俗学は古いことを知るだけではなく、我われが暮らす現代社会も研究の対象とします。ネットの都市伝説もラーメンやタピオカもアマビエも研究対象になり得ます。民俗学の視点で身の回りのものを眺めてみて下さい。

受講にあたっては、配布された資料、指示された文献などには必ず目を通すようにして下さい。
自分の身近な事例について、積極的に探ってみて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング	○	グループでの議論や、民俗学的な調査を実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50111031
講義名	民俗学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	加藤　晴美	指定なし

ナンバリング

X13050M21

授業概要(教育目的)

民俗学は「普通の人びと」の暮らしや文化を明らかにしようとする学問である。この科目では、毎日の仕事にいそしみ、時には楽しみ、時にはつらいことにも直面した、普通の人びとの「暮らし」について、民俗学の視点からアプローチしていく。具体的には、日本各地における都市や村落での生活文化の多様性やその移り変わりについて、地域の社会構造や衣食住、儀礼、信仰、言い伝えといった観点から学ぶ。それにより、われわれの生活文化や習慣の根底には、暮らしに関わるどのような知恵、技術、考え方が存在してきたのかを明らかにする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	民俗学の成り立ちや民俗学の考え方を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	具体的な事例をあげて、民俗の多様性を説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	民俗学の方法・視座や成果について、自らの経験と関連づけながら捉えてみることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

民俗学

	授業テーマ	民俗とは何か

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンスを行う。民俗とはなにか、民俗学とはなにか、「普通の人びと」の暮らしを探る方法について考える。ガイダンスを行う。民俗とはなにか、民俗学とはなにか、「普通の人びと」の暮らしを探る方法について考える。毎回、コメントシートの作成および資料配布のためPCを使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「民俗」や「民俗学」について、調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	食からみる民俗①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	なぜ正月には餅を入れた雑煮を食べるのか、日本人はモチモチした食感を好むのか。餅を食べることや贈り物としての餅を通して、非日常の食としての「餅」がもつ社会的な意義やその背景にある稲作との関連などについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自、自宅で食べる「雑煮」について、どのようなものか調べておいて下さい。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	食からみる民俗②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「餅」は正月に欠かせないものと思われているが、日本には餅を禁忌とする「餅なし正月」の慣行をもつ地域もある。ここでは「餅なし正月」をめぐるいくつかの解釈を示しつつ、商品作物の普及や儀礼食の多様化について考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指示された文献に目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	食からみる民俗③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日常の食について、雑穀やイモ、木の実などを食べる慣習を中心に考えていく。とくに北上山地や飛騨地域、山梨県の事例を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指示された文献に目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	村の民俗①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人びとの暮らしの舞台であった「村」について、その構造や境界、村のなかの組織などの観点から考えていく。まず稲作を中心とした村落について、生業や儀礼などを取り上げる。

第5回	教室外学習(予習・復習)の内容	指示された文献に目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	村の民俗②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	山村と呼ばれる村落について、特徴的な生業や儀礼、伝承などを取り上げる。また、平地から山がどのようにみられていたのか、「愚か村」話とよばれる口承文芸や、平家落人伝説から考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指示された文献に目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	中間レポートの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学生同士で自分たちの暮らしについてのディスカッションを行い、それをもとに中間レポートを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指示された文献に目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	婚姻・出産・子育て①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	さまざまな婚姻習俗と婚姻後の家族関係について、その多様性に着目しながら考えていく。とくに日本の伝統的な家族のバリエーションについて検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指示された文献に目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	婚姻・出産・子育て②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近代医療が普及する前の出産について、出産や月経時に使われた「産屋」の習俗や、エナ（胎盤）をめぐる習俗などを中心に考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指示された文献に目を通しておくこと。
	教室外学習	

	の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	婚姻・出産・子育て③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子育てに関するさまざまな習俗や儀礼、伝承などを取り上げる。また、伝統的な村のなかで子どもを育てるとはどういうものであったか、その目的などについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指示された文献に目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	民俗と現代①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	民俗学的な視点から「現代」を考える。ここではインターネット上で流布される都市伝説（ネットロア）を取り上げ、その伝達過程や変容について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分がどのようなネットロアを知っているか、まとめておく。「きさらぎ駅」「八尺様」などのオカルト話もネットロアです。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	民俗と現代②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「民俗」は現代社会においてどのように生きているか。私たちの暮らしのなかにある俗信から考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指示された文献に目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	民俗と現代③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	江戸時代や昭和レトロを売り物にした観光施設はなぜ作られ、消費されるのか。「日本のふるさと」や「昔なつかしい」という観点から、民俗の商品化について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	行ったことのある「なつかしさ」を売り物にした観光地、施設などについてまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃ	

第14回	ｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	民俗とは何か、それを知ることにどのような意味があるのか。これからの「暮らし」を考えるうえで民俗学をどのように活用するか、考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指示された文献に目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

授業の進行状況によって内容が変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

コメントシートでは、感想・意見・質問を受け付けます。質問等については、次回授業の冒頭で回答・補足説明を行う。

評価方法

・毎回、授業終盤で授業内容のまとめ・感想・質問などについてコメントシートにまとめる。このコメントシートの提出をもって出席と認める。その記入内容により、関心・意欲・態度とともに授業内容の理解に関して評価を行う。期末試験では、授業内容を踏まえて適切な考察をしているか、わかりやすく他者に伝える表現がなされているか、評価する。
・評価はルーブリックに基づいて行う。ルーブリックは授業時に配付、もしくはclassroomで提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
期末試験	○	○	○	
グループワーク		○	○	
コメントシート	○		○	

評価割合

平常点（コメントシート）30%、中間レポート20%、期末試験50%で評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない。

参考図書

講義の際、必要に応じて資料を配布します。

島村恭則『民俗学を生きる―ヴァナキュラー研究への道―』晃洋書房、2020年。
菊地暁『民俗学入門』岩波書店、2022年。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】民俗学が社会の中でもつ役割を理解できる
【思考・判断】民俗学の視座・方法と成果の何が日常生活を考えるうえで有益であるか判断できる
【関心・意欲・態度】民俗学の視座・方法と成果を自らの興味関心と関連づけて捉えることができる

オフィスアワー

金曜２限

学生へのメッセージ

民俗学は古いことを知るだけではなく、我われが暮らす現代社会も研究の対象とします。ネットの都市伝説もラーメンやタピオカもアマビエも研究対象になり得ます。民俗学の視点で身の回りのものを眺めてみて下さい。

受講にあたっては、配布された資料、指示された文献などには必ず目を通すようにして下さい。
自分の身近な事例について、積極的に探ってみて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループでの議論や、民俗学的な調査を実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50112031
講義名	考古学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13060C21

授業概要(教育目的)

考古学は、人類が社会生活を営むにあたって残してきた痕跡、すなわち遺跡や遺構そして遺物といった物資料から人類の文化を再構築していく学問である。本講義では、考古学の学問的位置付けから考古学研究の意義と理論を学び、また研究法や調査法など実践の基礎も併せて学修していく。さらに講義では、諸分野と併せた多角的な歴史考察の可能性を実際の調査事例を基に探っていく他、文化財に対する知見も深めていく。本講義が目指すのは、考古学に関する基礎知識を学修し、多角的視点を養い、人類の歴史への理解を深めていくことである。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	考古学に関する基礎知識を身につけ、その特徴を説明できる。 考古学の視点から歴史を考察することができる。 文化財に関する基礎知識を身につけ、その特徴を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	考古学と諸分野との関係性から歴史を再構成する可能性を指摘できる。 文化財の現状を多角的視点から説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人類が営んできた社会文化を俯瞰的に考察することができる。 身近に存在する文化財への意識を高める。 博物館の展示資料から人類の文化・地域の文化に対する関心を高める。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

考古学

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本講義の概要の他、講義全体の構成と内容について紹介する。 また、評価方法についても説明する。

第1回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	予習：シラバスを読んでおくこと。 復習：講義スケジュールや評価方法について確認しておくこと。また、次週の講義内容に関する課題を提示するので、それについて考察しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：90分
第2回	**授業テーマ**	考古学とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考古学の目的および成り立ちを学ぶことを通して、学問としての考古学の位置付けや意義について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：前回講義で提示された課題を考察しておくこと。 復習：講義の最後に実施するリアクションペーパーの課題を復習しておくこと。また、次週の講義内容に関する課題を提示するので、それについて考察しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：90分
第3回	**授業テーマ**	考古学の資料
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考古学の資料とは何か。考古学資料の特性について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：前回講義で提示された課題を考察しておくこと。 復習：講義の最後に実施するリアクションペーパーの課題を復習しておくこと。また、次週の講義内容に関する課題を提示するので、それについて考察しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：90分
第4回	**授業テーマ**	考古学の調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考古学の調査の種類や調査方法のほか、成果の報告までの一連の調査行程に関する基礎知識を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：前回講義で提示された課題を考察しておくこと。 復習：講義の最後に実施するリアクションペーパーの課題を復習しておくこと。また、次週の講義内容に関する課題を提示するので、それについて考察しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：90分
第5回	**授業テーマ**	考古学資料の研究方法（１）：整理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発掘調査によって得られた資料の整理方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：前回講義で提示された課題を考察しておくこと。 復習：講義の最後に実施するリアクションペーパーの課題を復習しておくこと。また、次週の講義内容に関する課題を提示するので、それについて考察しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：90分
第6回	**授業テーマ**	考古学資料の研究方法（２）：型式
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考古学資料の観察方法を学ぶことで、資料がどのような特性をもち人類の社会生活の中に存在していたのか理解する。
	教室外学習(予習・復	予習：前回講義で提示された課題を考察しておくこと。 復習：講義の最後に実施するリアクションペーパーの課題を復

	習)の内容	習しておくこと。また、次週の講義内容に関する課題を提示するので、それについて考察しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：90分
第7回	**授業テーマ**	考古学資料の研究方法（３）：機能と分布
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考古学資料がどのように使用されていたのか、そしてそれがどれほどの広がりをもっているのか、人々が築き上げてきた文化圏について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：前回講義で提示された課題を考察しておくこと。 復習：講義の最後に実施するリアクションペーパーの課題を復習しておくこと。また、次週の講義内容に関する課題を提示するので、それについて考察しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：90分
第8回	**授業テーマ**	考古学資料の研究方法（４）：年代
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考古学における年代の考え方を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：前回講義で提示された課題を考察しておくこと。 復習：講義の最後に実施するリアクションペーパーの課題を復習しておくこと。また、次週の講義内容に関する課題を提示するので、それについて考察しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：90分
第9回	**授業テーマ**	考古学資料の研究方法（５）：年代
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考古学資料の年代を決めるにはどのような方法があるのか。自然科学に基づく年代測定法の原理を学ぶことを通して精度の高い編年体系を確立していく方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：前回講義で提示された課題を考察しておくこと。 復習：講義の最後に実施するリアクションペーパーの課題を復習しておくこと。また、次週の講義内容に関する課題を提示するので、それについて考察しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：90分
第10回	**授業テーマ**	考古学と関連分野
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な考古学に関する知見を広めるとともに、考古学と関連する諸分野との学際的研究の可能性について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：前回講義で提示された課題を考察しておくこと。 復習：講義の最後に実施するリアクションペーパーの課題を復習しておくこと。また、次週の講義内容に関する課題を提示するので、それについて考察しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：90分
第11回	**授業テーマ**	歴史時代の考古学を考える（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文字史料がある時代の考古学の意義について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：前回講義で提示された課題を考察しておくこと。 復習：講義の最後に実施するリアクションペーパーの課題を復習しておくこと。また、次週の講義内容に関する課題を提示するので、それについて考察しておくこと。

	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：90分
第12回	**授業テーマ**	歴史時代の考古学を考える（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在のカンボジアに所在するアンコール遺跡を事例に考古学と文字史料の関係から歴史を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：前回講義で提示された課題を考察しておくこと。 復習：講義の最後に実施するリアクションペーパーの課題を復習しておくこと。また、次週の講義内容に関する課題を提示するので、それについて考察しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：90分
第13回	**授業テーマ**	歴史時代の考古学を考える（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在のカンボジアに所在するアンコール遺跡を事例に考古学と文字史料の関係から歴史を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：前回講義で提示された課題を考察しておくこと。 復習：講義の最後に実施するリアクションペーパーの課題を復習しておくこと。また、次週の講義内容に関する課題を提示するので、それについて考察しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：90分
第14回	**授業テーマ**	考古学と現代社会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考古学が現代社会にどのように関与しているのか、文化財の観点から理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：前回講義で提示された課題を考察しておくこと。 復習：講義の最後に実施するリアクションペーパーの課題を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：90分
第15回	**授業テーマ**	授業のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの講義の内容を整理し、理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの講義内容およびリアクションペーパーの課題を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：90分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合などによってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

本講義では、下記の通り、課題の考察、リアクションペーパー、期末試験を通して学習目標到達を目指す。

① 課題の考察：次回講義内容に関する課題を予習として考察することを促すことで学生の理解度を高める。
② リアクションペーパー：学生の理解度及び質問や疑問点を把握する。これを踏まえ、次回の講義冒頭でその解説や説明を行うことで学生の興味関心を高めると共に知識の定着をはかる。
③ 期末試験：試験前に本講義内容全体の復習を行うことで、改めてポイントを整理し、学生の

疑問点を解消する。

評価方法

本講義では、下記の通り、「リアクションペーパー」と「期末試験」を通して評価を行う。

① リアクションペーパー（基本的に毎講義）：講義内容のポイントがおさえられているか評価する。リアクションペーパーに取り組む時間は、講義終了前に一定の時間を設ける。また、この課題の提出をもって出欠の判断も行う。だがその際、特別な事情を除き、講義に参加せずして提出されたリアクションペーパーは評価の対象外とする。
② 期末試験（１回）：講義内容の理解度を評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
リアクションペーパー	○	○	○	
期末試験	○			

評価割合

リアクションペーパー（40%）、期末試験（60%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

教科書は使用しない。
毎回、配布資料を教材として用意する。

参考図書

1.『考古学：理論・方法・実践』コリン・レンフルー，ポール・バーン著、池田裕他監訳、東洋書林、2007年
2.『考古学入門』鈴木公雄著、東京大学出版会、1988年
3.『はじめて学ぶ考古学』佐々木憲一他著、有斐閣アルマ、2011年

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる。
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働くことができる。

学生へのメッセージ

考古学は人類の歴史を遺跡や遺構そして遺物から読み解き再構築していく学問です。その分野は多岐に渡り、また諸分野との学際研究も多く行われ、人類史研究において重要な学問の一つでありますが、また同時に私たちの生活に身近な学問でもあります。周囲の地勢環境に目を向け、また博物館などに足を運ぶなどして物資料へ関心を寄せてみましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	発掘調査、遺物の整理、復元、また考古学資料と文字史料の学際研究成果など、実務経験に基づいた講義を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50113031
講義名	外国の言語と文化ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X16000C21

授業概要(教育目的)

本講義では、ユーラシア大陸の中央に位置するウズベキスタンという国について取り上げます。ウズベキスタンは、古代から様々な民族が入り乱れ、近年ではソビエト連邦の一部を構成していた地域です。それに伴って、人々が信仰する主な宗教の変遷（ゾロアスター教・仏教からイスラームへ、近年はロシア正教）を経験し、その地域で話されている言語であるウズベク語も、アラビア語、ペルシャ語、ロシア語からの要素を取り入れてきました。このような多様性は、食や楽器という文化のみならず、そこに暮らす人々のジェンダー意識や家族観といった人々の価値観にも影響を与えています。本講義では、受講生にとって馴染みの薄いウズベキスタンついて、文化と言語を往復しながらその多様性を味わい、時には日本・日本語との比較対照を交えることで、受講者自身の思考を促していきます。そうすることで、受講者が、ウズベキスタンという国が持つ多層的な文化を理解することができるようになり、さらにその理解を起点として、自分自身の身の回りの環境も客観的に顧みられるようになることを目的としています。

履修条件

本講義は、主にウズベキスタンの文化とウズベク語を取り上げますが、それらについての学習歴は全く問いません。「今まで自分が知らなかった言語・文化を少し覗いてみたい」「他の学生とは違う経験をしてみたい」という気持ちがある学生の受講を歓迎します。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	中央アジア・ウズベキスタンの言語文化について知識を得て、他者の文化を多角的かつ客観的に観察する意義を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	講義および参考文献による知識を手掛かりに、自分の身の回りの言語文化についても客観的に見直すことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	意識的に他者の文化について理解する姿勢を育み、自分とは異なる意見にも真摯に耳を傾けることができる。
技術・表現の観点 (A)	授業後のコメントシートや試験にて、受講者自身の考えを論理立てて整理した形で他人へ伝えることができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在、ウズベキスタンと呼ばれている地域は、ユーラシア大陸の中央、中央アジアに位置する。古くは東西を結ぶシルクロードの要衝として栄え、青の都サマルカンドをはじめとした古都の遺構、スザニやアドラス等の美しい伝統工芸が現代まで受け継がれている。その一方で、古代にはイスラームの進出を受け、近代にはソビエト連邦の共和国の一つを形成したという歴史ももつ。この授業では、受講生にとって馴染みが薄いと思われるウズベキスタンについて、映像や写真などの資料を用いてイメージを膨らませ、新たな視点でウズベキスタンの言語文化を学ぶ土壌を育む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ウズベキスタン・中央アジア・イスラームについて、世界史・地理の教科書やインターネットで調べて、授業前にイメージを膨らませてみましょう。
	教室外学習の時間(分)	200分
第2回	授業テーマ	歴史①：征服の歴史とウズベキスタンの言語
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第2回から第5回まで、歴史の中で、言語と宗教が人々の中でどのように位置づけられてきたのかを学ぶ。 ウズベキスタンと呼ばれている地域は、古代から様々な民族が入り乱れ、征服・侵略が繰り返されてきた。そのため、この地に住む人々に用いられてきた言語は、アラビア語、ペルシャ語、ロシア語と様々に移り変わってきた。そのようなウズベキスタンとその周辺の地域の歴史を概観しつつ、現在、ウズベキスタンの国家語として用いられているウズベク語が、様々な言語の要素から多層的に成り立っていることを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	世界史の教科書ならびに参考文献で、中央アジア・中央ユーラシア地域に関わる記述、イスラームに関わる記述をできるだけ探し出し、目を通してみましょう。また日本では、どのような言語が使われているか、使われてきたか調べてみましょう。
	教室外学習の時間(分)	200分
第3回	授業テーマ	歴史②：近現代ウズベキスタンの文字政策 言語：ウズベク語の音と文字
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在のウズベク語は、公的にはラテン文字で表記されているが、街中ではキリル文字でも表記されている。これは、ソ連体制成立以後の文字政策の変遷によって、4度の文字変更が行われたことに深く関連している。本授業では、ロシア革命以後のウズベキスタンの歴史を踏まえつつ、短期間に数度の文字変更を経験したウズベク語の現在の状況を学ぶ。さらに、受講者にも意味が類推できる語彙を発音してみることでウズベク語の世界に親しむ体験をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ラテン文字、キリル文字、アラビア文字について、 ・どんな文字か（文字の数、特徴など） ・どの言語で使われているか を参考文献から探して調べてみましょう。
	教室外学習の時間(分)	200分
	授業テーマ	歴史③：宗教の変遷と祝祭
		第二回の授業で、征服者が変遷してきたことを学習したが、それは、言語だけでなく、宗教も、ゾロアスター教・仏教、イスラーム、ロシア正教の

第4回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ように変遷してきたことも意味する。今回の授業では、宗教という軸からウズベキスタンの歴史を概観し、現在のウズベキスタンの祝祭が宗教の歴史と深く結びついていることを学習する。それにより、ウズベキスタンが、単一の「イスラーム」文化を持つのではなく、様々な宗教の文化・慣習（例えば、ゾロアスター教起源の新年「ナウルーズ」を祝う、年末にクリスマスツリーを飾る）を取り入れている多層的な国家であることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	宗教（ゾロアスター教、仏教、イスラーム、ロシア正教）について、参考文献および世界史の教科書の中から探して目を通してみましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	歴史④：ソビエト連邦下から現代におけるイスラームの変遷
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在のウズベキスタンでは、イスラームの戒律が緩いように感じられる光景が町中でよく見られる。例えば、女性がスカーフをしていなかったり、酒屋があったり、バザールで豚肉が売られていたりする。しかし、現在の若い世代にはイスラームへの回帰が目立つという。つまり、親世代とイスラームに対する姿勢が異なっていても、お互いが共存しているのである。本授業では、現代のウズベキスタン社会が、多様な宗教意識を持つ人々を内包していることについて理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ソ連期の中央アジアのイスラームについて、参考図書の該当部分を読んでみましょう。日本の明治期における宗教の変遷についても調べてみましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	言語：ウズベク語の言語類型論的特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2回目と3回目の授業で、ウズベキスタンの持つ非常に多層的な歴史がウズベク語にも反映されていることを学んだ。今回の授業では、現代のウズベク語の文法的な特徴（単語の作りや、文における単語の並べ方）を世界の言語と比較することで、ウズベク語が言語学的に見てどのような言語なのかについて学ぶ。また、あいさつなどの基本的な会話表現を学び、会話に見られる宗教観や家族観に意識を向け、第7回以降のジェンダー・家族観についての授業への導入とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実際にウズベク語を聞いてみましょう（詳しくは授業中に指示します）。日本語や英語が言語学的に見てどのような言語であるかについて調べておくことも歓迎します。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	ジェンダー①：伝統的家族観と嫁入り
	学習内	ウズベキスタンでは、就労人口における女性の割合は45%以上（2016年）で、議員の選出にもクオーター制が導入され、日本以上に女性の社会進出が進んできているように見える。ただし、これらは簡単に成し遂げられてきたものではなく、伝統的な価値観と新たな価値観の競合の上に成り立っている。そこで、価値観の競合が観察されやすいジェンダーにまつわる問

第7回	容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	題を、第 回から第　回までの授業で取り上げる。 第5回の授業では、ウズベキスタンの人々がイスラームの慣習を保持していることについて学んだ。それは、結婚というライフイベントでも同様である。現代でも、結婚する際の一連の儀式に、イスラームの慣習（例えば、ニカーフ（ニコフ）という結婚の誓約）が組み込まれている。また、伝統的な家父長制とジェンダーの役割（女性が男性に従うこと）に関しても同様で、それらが完全に変革されることはなった。今回の授業では、現代のウズベキスタンにおける結婚にまつわる慣習を紹介し、結婚と家族に関する価値観の競合について考える。また、嫁入り前に準備する布製品について紹介することで次回授業への導入をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ジェンダーや女性に関する問題について、参考文献の該当箇所に目を通してみましょう。自分自身、親世代、祖父母世代の女性の就職・結婚への意識についてもふりかえって考えてみましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	ジェンダー②：伝統刺繍カシュタと刺繍布スザニ―家庭の手仕事をビジネスへ―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ウズベキスタンでは、伝統的に婚前の少女と母親が嫁入り道具としてスザニ（壁掛け）などの布製品に色糸の刺繍であるカシュタを施す慣習があった。ソ連崩壊後は、外国人観光客の土産物としての需要や海外の愛好家からの注目により、カシュタで事業を運営する村落部の女性たちも現れるようになった。家庭内の手仕事であったカシュタ等の手工芸品が再評価され、女性の社会進出を支えるビジネスとして成立するようになったのである。今回の授業では、カシュタの歴史を顧みつつ、女性の手仕事の再評価とともにウズベキスタンに新たな輸出産業が創出された過程を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	中央・北アジア物質文化資料データベース(https://ifm.minpaku.ac.jp/cnasia/) にアクセスし、中央アジアの工芸品を眺めてみよう。日本の工芸品とは、どのような点が違うか・同じかなどに注目しましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	ジェンダー③：女性の社会進出―伝統的な価値観を変革する―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代のウズベキスタンにおける女性の社会進出の問題点として、女性は家事や育児に専念するものという価値観があることや、女性の職業が教育や医療分野などに集中していることが挙げられる。これらの問題にアプローチする画期的な試みとして、二つの事業を取り上げる。今回の授業の前半では、アトラス、アドラスといった絣（かすり）の絹織物について紹介し、それらの絹織物を現代のファッションに取り入れることで国内外の注目を集めているビビハヌムというブランドを取り上げる。後半では、アジザ・ウマロワ氏の事業を主に取り上げる。彼女は、起業を考える女性向けの交流イベントを定期的に主宰し、起業者間の出会いやアイディアが生まれる貴重な場を提供している。本授業では、ビビハヌムとアジザ・ウマロワ氏の事例から、ウズベキスタンの女性たちが伝統的な価値観に変化をもたらそうとする姿勢を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Bibi Hanum (https://bibihanum.com/) のウェブページを眺めてみましょう。 Bibi Hanumの服飾品と、前回参照した中央・北アジア物質文化資料データベース(https://ifm.minpaku.ac.jp/cnasia/) にある服飾品を比較してみましょう。
	教室外学	

	習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	ジェンダー④：現代ウズベキスタンの家庭と女性 言語：ウズベク語の育児語とオノマトペ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第7回目では、結婚について、第8回目と第9回目では、ウズベキスタンの女性が社会の持つ固定的観念に立ち向かい、社会に変化をもたらそうとしていることを学んだ。ジェンダーについて取り扱う授業の最終回に当たる本授業では、彼女らが社会に変化をもたらそうとしつつも、実際にどのように仕事と子育てや家事などの家庭生活とを両立させているのかについて紹介することで、常に価値観の競合にさらされながらもたくましく生きる女性たちの姿勢について学ぶ。また、子育て中に用いる（日本語で「車」を「ブーブー」と言い換えるような）ウズベク語の育児語とオノマトペについても紹介し、日本語と対照する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ウズベキスタンに暮らす人々の結婚・育児・家事への意識について、参考文献の該当箇所に目を通してみましょう。また、自分自身、親世代、祖父母世代の結婚・育児・家事への意識についてもふりかえって考えてみましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	世界の中のウズベキスタン①：食文化の十字路―「食」の伝播と多様性―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ウズベキスタンの料理は、シルクロードの東西からの影響と、さらに遊牧民と定住民の接触という南北方向の相互影響を設けて形成されてきたという。東から「ラグマン」（語源は「拉麺」（ラーメン）からと言われる）、西からは、「プロフ」（ピラフ）が伝播したと言われ、さらに、タシケントでは、遊牧民の由来の食品である馬肉の腸詰め「カズー」や乾燥チーズ「クルト」もよく食される。今回の授業では、現代のウズベキスタンで見られる料理を知ることで、料理にも多様な歴史的な背景が反映されていることを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	中央アジアで食される料理について、参考文献の該当箇所や中央アジア料理を紹介しているウェブページに目を通してみましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	世界の中のウズベキスタン②：弦楽器と口琴 ―シルクロードの楽器―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今回の授業では、弦楽器と口琴を取り上げ、地理的分布や楽器の構造などを概観する。例えば、日本の正倉院には、螺鈿紫檀五絃琵琶（らでんしたんのごげんびわ）が所蔵されている。これは古代シルクロードを通じて奈良時代の日本にもたらされたと言われている。現代のウズベキスタンにも、琵琶とよく似た形を持つ弦楽器（ドンブラ、ドゥタール）が存在する。また、ユーラシア大陸には、広く口琴（口で弁を咥えて、指で弁をはじくことで口腔内で音を共鳴させる楽器）が見られる。ウズベキスタンのカラカルパク自治共和国にも、シュンコブズと呼ばれる口琴が存在し、日本ではアイヌが用いるムックリという口琴が存在する。以上のような概観の後に、実際の演奏を聴くことで、遠く離れた二つの地にも共通する文化があることを実感する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本の弦楽器と口琴について、参考文献やウェブページから情報収集し、できればその音色を聞いてみましょう。

	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	世界の中のウズベキスタン③：日本の中のウズベキスタン、ウズベキスタンの中の日本
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで見てきたように、ウズベキスタンと日本の間には、古くからシルクロードを通じた文化の伝播によるつながりが存在した。そして、現在においては、日本在住のウズベク人の増加に伴い、ウズベキスタンは私たちにとってより身近な隣人となりつつある。この授業では、現代のウズベキスタンの人々から見た日本・日本人という存在と、日本に住む私たちがウズベキスタンからの文化をどのように受容しているのかを見ていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	近年日本とウズベキスタンの間にどのような交流があったかについて、ウェブページや参考文献を調べて情報を収集してみましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	言語：日本語とウズベク語の対照
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今回の授業では、受講者の大半が日本語と英語を学んできたと想定される中で、日本語とより多くの類似点を持つウズベク語を日本語（場合によっては英語）と対照・分析することで、日本語（あるいは英語）という言語について新たな視点から観察できるようになることを目的とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6回の授業を復習しておいてください。また、日本語の特徴について、参考文献の該当箇所を読んでみましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

授業内容は、受講者数・学生の関心、授業の進み具合によって、多少の変動があるかもしれません。

学生へのフィードバック方法

授業後に、確認テストとしてその日の授業で取り上げた事項のうち一つを説明してもらい、それに加えて授業に関するコメントもGoogleFormを通じて記入してもらいます。回答すべきだと判断したコメントに関しては、その次の授業冒頭で取り上げます。

評価方法

平常点は、出席と確認テスト＋コメントシートで評価します。
リアクションペーパーには、授業内で関心が生まれた事項に関して自分の思考を深く掘り下げて書きましょう。例えば、単に「～が面白いと思った」のみではなく、なぜそれが面白いと思ったのか自身の経験と結びつけてコメントを書いてみましょう。

期末試験では、受講生自身の興味のある内容を数トピック選んでもらい、受講生自身に関わりのある文化・言語との比較対照も行ってもらう予定ですが、若干の変更があるかもしれません。

ルーブリックは、授業内での配布を予定しています。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
確認テスト＋コメント	○	○	○	○
期末試験	○	○	○	

評価割合

・出席＋授業毎の確認テスト＋コメントシート：55%
・期末試験：45%

使用教科書名(ISBN番号)

なし
配布資料をもとに授業を進め、授業内で参考文献を紹介します。

参考図書

詳しくは授業内で指示します。
授業のトピックに応じて、事前に辞典の該当ページを参照したり、中学高校の世界史・地理の教科書を参照することをおすすめします。

・辞典：
小松久男・梅村坦・宇山智彦・帯谷知可・堀川徹（共編）『中央ユーラシアを知る事典』平凡社
帯谷知可・北川誠一・相馬秀廣（編）『中央アジア』 朝倉書店
河野六郎・千野栄一・西田龍雄（編）『世界文字辞典』三省堂
亀井孝・河野六郎・千野栄一（編）『言語学大辞典』三省堂

・概説書：
帯谷地可（編）『ウズベキスタンを知るための60章』明石書店
宇山智彦（編）『中央アジアを知るための60章』明石書店
小松久男（編）『テュルクを知るための60章』明石書店

・トピック別：
淺村卓生『国家建設と文字の選択　ウズベキスタンの言語政策』風響社
下社学『中央アジア経済図説』東洋書店
須田将『スターリン期ウズベキスタンのジェンダー　女性の覆いと差異化の政治』風響社
先崎将弘『美味しい中央アジア　職と歴史の旅』東洋書店

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】
自分自身の身の回りとは異なる言語・文化を理解することで、人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を養う。
【関心・意欲・態度】
自分自身の身の回りとは異なる言語・文化を理解することで、社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を養う。

学生へのメッセージ

本講義では、ウズベキスタンの文化とウズベク語についての学習歴は全く問いませんので、興味があれば受講してみてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
		授業内で、今までの勉強（特に世界史や地理）や自分の身の回りの状況

アクティブ・ラーニング	○	について、受講生に尋ねることがあります。 詳しくは、上記の「教室外学習(予習・復習)の内容）」をご確認ください（毎回の授業でも指示します）。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50201001
講義名	基礎数学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	新海 公昭	指定なし

ナンバリング

X13100M21

授業概要(教育目的)

高校までの数学は, どの分野も生きる上で役に立つ重要なものばかりである。授業では, まず, 高校までに学習した数学I・数学A・数学II・数学B・数学III・数学Cの中から特に重要な項目を選び出して復習し発展させることで, 知識・技術・思考が確実なものになるように解説する。次に, それらを自然科学や社会科学のみならず日常の様々な事象に応用することでみえる数学の大切さについて, 事例を通して紹介する。基礎数学を履修することで, 公務員試験やSPI試験で出題されるテーマの一部をフォローする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	公務員試験やSPI試験で出題されるレベルの問題を解くことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	学習で得た知識・技術・思考力を日常生活等の中でみえる課題に活かすことができる。

学習計画

	授業テーマ	料金の割引と損益算
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	タイムセール, まとめて商品を購入するとき, 団体でサービスを利用するときなど, 何らかの割引があることが一般的である。割引の条件を

第1回	育・ICT活用を含む)	読み取り, 料金を考える問題を扱う。また, 「原価」「定価」「売価」「利益」の用語の関係を理解し, 損益算に関する問題を扱う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書I部１．料金の割引のPOINTおよび例題に目を通しておくこと ・教科書I部４．損益算のPOINTおよび例題に目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・教科書I部１．料金の割引の演習問題に取り組むこと ・教科書I部４．損益算の演習問題に取り組むこと ・第1回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第2回	授業テーマ	代金の精算
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	支払総額を, 全員が「割り勘」している状態にもっていく様々な問題を扱う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書I部２．代金の精算のPOINTおよび例題に目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・教科書I部２．代金の精算の演習問題に取り組むこと ・第2回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第3回	授業テーマ	速度, 通過算, 流水算
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人, 自動車, 電車そして船の移動する速度を扱う通過算, 流水算を扱う。移動した道のり, 所要時間, 速度の関係を理解することが大事である。単位の変換も必須となる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書I部５．速さのPOINTおよび例題に目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・教科書I部５．速さの演習問題に取り組むこと ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第3回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第4回	授業テーマ	平均の速度と瞬間の速度
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平均の速度と瞬間の速度を学び, プログラミングにより２つの速度の違いを理解する教材を作成する。瞬間の速度を理解するために微分を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・課題として, プログラミング教材を作成すること

	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第5回	**授業テーマ**	ブラックボックス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	数値を一定のルールで変換する装置を複数つないで回路をつくり, 入出力される数値の関係を明らかにする所謂ブラックボックスの問題を扱う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書I部１２．ブラックボックスのPOINTおよび例題に目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・教科書I部１２．ブラックボックスの演習問題に取り組むこと ・第5回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第6回	**授業テーマ**	１次関数と２次関数
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１次関数と２次関数のグラフ描画および平面幾何への融合問題を扱う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書II部５．１次関数・２次関数のPOINTおよび例題に目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・教科書II部５．１次関数・２次関数の演習問題に取り組むこと ・第6回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第7回	**授業テーマ**	２次関数の応用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	２次関数の応用として, 経済学への応用問題等を扱う。 中間試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・配布プリントに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第7回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
	授業テーマ	不等式の表す領域
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	不等式の表す領域を考える問題を扱う。
		予習

第8回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	・教科書I部１１．グラフと領域のPOINTおよび例題に目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第8回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第9回	**授業テーマ**	線形計画問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	線形な等式および不等式の制約条件のもとで, 線形な目的関数の最大値あるいは最小値を考える, 所謂線形計画問題を扱う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・配布プリントに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習：教科書I部１１ ・教科書I部１１．グラフと領域の演習問題に取り組むこと ・第9回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第10回	**授業テーマ**	指数関数と対数関数
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対数の定義, 指数法則と対数法則を確認し, 自然現象（例えば半減期, マグニチュード）や社会現象に焦点をあてながら指数関数や対数関数を扱う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書III部２．関数のはなしに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第10回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第11回	**授業テーマ**	確率・条件付き確率
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	確率および条件付確率の問題（ベイズの定理を含む）を扱う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書I部８．確率のPOINTおよび例題に目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・教科書I部８．確率の演習問題に取り組むこと ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第11回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
	授業テーマ	数列（等差数列）
	学習内容(ｱｸﾃｨ	

第12回	ﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	等差数列の問題を扱う。様々な分野への応用として, 群数列や単利などを扱う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第12回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第13回	授業テーマ	数列（等比数列）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	等比数列を扱う。様々な分野への応用として, フラクタル図形, 微生物の培養, 複利などを扱う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第13回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第14回	授業テーマ	命題と推論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な命題と推論の問題を扱う。特に逆・裏・対偶命題および三段論法の活用を中心に扱う。 期末試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分

学生へのフィードバック方法

復習で扱う演習問題(課題)および小テストについて, 毎回回収してチェックをする。また, ルーブリックを用いた学生自身の自己評価により, 学修成果を可視化し学びの深化を支援したい。質問は町田キャンパスの1625研究室（emailも可：k-shinkai@kasei-gakuin.ac.jp）あるいはZoom等で対応する。遠慮せず声をかけてほしい。

評価方法

１．中間テストおよび定期テスト（期末テスト）60点
中間テストや定期テスト（期末テスト）は, 各回で学習した内容の類題を出題する。中間テストで出題した内容は定期テストには出題しない。テスト中の教科書や参考書の持ち込みは不可とする。

２．課題 30点
毎回の復習で取り組む演習問題（課題）への取り組みおよび小テストを評価する。

３. ルーブリックを用いた自己評価 10点
ルーブリックを用いた自己評価を評価する。

＊中間テスト, 定期テスト, 課題, ルーブリックを用いた自己評価は, 下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間テスト	○			
定期テスト（期末テスト）	○			
課題	○	○		○
ルーブリックを用いた自己評価	○			○

評価割合

中間テスト(30%), 期末テスト(30%), 課題(30%), ルーブリックを用いた自己評価(10%)

使用教科書名(ISBN番号)

文系女子大学生の数学演習（ISBN:978-4-416-91632-2）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を, 数学的な知識をもって理解し, あるべき姿を的確に思考・判断することができる。

【技術・表現】学修で得た数学的知識・技術をもって人間社会や自然の中にみえる課題を発見し, その課題を論理的に分析・統合・表現することで, 他者との共感を創り出すことができる。

オフィスアワー

前期：水曜日 12：30～14：00
後期：水曜日 12: 30～14：00

学生へのメッセージ

数学は, 授業のみでは理解した気になるだけで身につかない。予習と復習を通して, 自らの頭と手を動かして思考することが大事である。授業は丁寧に説明したいと思うが, 理解できない部分は, 遠慮せず質問し, 主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		教員主導ではなく, 学生同士で積極的に討議を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		・電子ノートを活用する ・授業板書や授業動画をクラウド上にアップして, 授業の復習をしやすい環境を整える

講義コード	G50201031
講義名	基礎数学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	新海 公昭	指定なし

ナンバリング

X13100M21

授業概要(教育目的)

高校までの数学は, どの分野も生きる上で役に立つ重要なものばかりである。授業では, まず, 高校までに学習した数学I・数学A・数学II・数学B・数学III・数学Cの中から特に重要な項目を選び出して復習し発展させることで, 知識・技術・思考が確実なものになるように解説する。次に, それらを自然科学や社会科学のみならず日常の様々な事象に応用することでみえる数学の大切さについて, 事例を通して紹介する。基礎数学を履修することで, 公務員試験やSPI試験で出題されるテーマの一部をフォローする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	公務員試験やSPI試験で出題されるレベルの問題を解くことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	学習で得た知識・技術・思考力を日常生活等の中でみえる課題に活かすことができる。

学習計画

	授業テーマ	料金の割引と損益算
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	タイムセール, まとめて商品を購入するとき, 団体でサービスを利用するときなど, 何らかの割引があることが一般的である。割引の条件を

第1回	育・ICT活用を含む)	読み取り, 料金を考える問題を扱う。また, 「原価」「定価」「売価」「利益」の用語の関係を理解し, 損益算に関する問題を扱う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書I部１．料金の割引のPOINTおよび例題に目を通しておくこと ・教科書I部４．損益算のPOINTおよび例題に目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・教科書I部１．料金の割引の演習問題に取り組むこと ・教科書I部４．損益算の演習問題に取り組むこと ・第1回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第2回	授業テーマ	代金の精算
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	支払総額を, 全員が「割り勘」している状態にもっていく様々な問題を扱う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書I部２．代金の精算のPOINTおよび例題に目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・教科書I部２．代金の精算の演習問題に取り組むこと ・第2回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第3回	授業テーマ	速度, 通過算, 流水算
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人, 自動車, 電車そして船の移動する速度を扱う通過算, 流水算を扱う。移動した道のり, 所要時間, 速度の関係を理解することが大事である。単位の変換も必須となる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書I部５．速さのPOINTおよび例題に目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・教科書I部５．速さの演習問題に取り組むこと ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第3回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第4回	授業テーマ	平均の速度と瞬間の速度
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平均の速度と瞬間の速度を学び, プログラミングにより２つの速度の違いを理解する教材を作成する。瞬間の速度を理解するために微分を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・課題として, プログラミング教材を作成すること

	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第5回	**授業テーマ**	ブラックボックス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	数値を一定のルールで変換する装置を複数つないで回路をつくり, 入出力される数値の関係を明らかにする所謂ブラックボックスの問題を扱う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書I部１２．ブラックボックスのPOINTおよび例題に目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・教科書I部１２．ブラックボックスの演習問題に取り組むこと ・第5回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第6回	**授業テーマ**	１次関数と２次関数
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１次関数と２次関数のグラフ描画および平面幾何への融合問題を扱う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書II部５．１次関数・２次関数のPOINTおよび例題に目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・教科書II部５．１次関数・２次関数の演習問題に取り組むこと ・第6回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第7回	**授業テーマ**	２次関数の応用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	２次関数の応用として, 経済学への応用問題等を扱う。 中間試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・配布プリントに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第7回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
	授業テーマ	不等式の表す領域
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	不等式の表す領域を考える問題を扱う。
		予習

第8回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	・教科書I部１１．グラフと領域のPOINTおよび例題に目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第8回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第9回	**授業テーマ**	線形計画問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	線形な等式および不等式の制約条件のもとで, 線形な目的関数の最大値あるいは最小値を考える, 所謂線形計画問題を扱う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・配布プリントに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習：教科書I部１１ ・教科書I部１１．グラフと領域の演習問題に取り組むこと ・第9回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第10回	**授業テーマ**	指数関数と対数関数
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対数の定義, 指数法則と対数法則を確認し, 自然現象（例えば半減期, マグニチュード）や社会現象に焦点をあてながら指数関数や対数関数を扱う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書III部２．関数のはなしに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第10回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第11回	**授業テーマ**	確率・条件付き確率
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	確率および条件付確率の問題（ベイズの定理を含む）を扱う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書I部８．確率のPOINTおよび例題に目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・教科書I部８．確率の演習問題に取り組むこと ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第11回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
	授業テーマ	数列（等差数列）
	学習内容(ｱｸﾃｨ	

第12回	ﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	等差数列の問題を扱う。様々な分野への応用として, 群数列や単利などを扱う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第12回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第13回	授業テーマ	数列（等比数列）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	等比数列を扱う。様々な分野への応用として, フラクタル図形, 微生物の培養, 複利などを扱う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第13回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第14回	授業テーマ	命題と推論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な命題と推論の問題を扱う。特に逆・裏・対偶命題および三段論法の活用を中心に扱う。 期末試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分

学生へのフィードバック方法

復習で扱う演習問題(課題)および小テストについて, 毎回回収してチェックをする。また, ルーブリックを用いた学生自身の自己評価により, 学修成果を可視化し学びの深化を支援したい。質問は町田キャンパスの1625研究室（emailも可：k-shinkai@kasei-gakuin.ac.jp）あるいはZoom等で対応する。遠慮せず声をかけてほしい。

評価方法

１．中間テストおよび定期テスト（期末テスト）60点
中間テストや定期テスト（期末テスト）は, 各回で学習した内容の類題を出題する。中間テストで出題した内容は定期テストには出題しない。テスト中の教科書や参考書の持ち込みは不可とする。

２．課題 30点
毎回の復習で取り組む演習問題（課題）への取り組みおよび小テストを評価する。

３. ルーブリックを用いた自己評価 10点
ルーブリックを用いた自己評価を評価する。

＊中間テスト, 定期テスト, 課題, ルーブリックを用いた自己評価は, 下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間テスト	○			
定期テスト（期末テスト）	○			
課題	○	○		○
ルーブリックを用いた自己評価	○			○

評価割合

中間テスト(30%), 期末テスト(30%), 課題(30%), ルーブリックを用いた自己評価(10%)

使用教科書名(ISBN番号)

文系女子大学生の数学演習（ISBN:978-4-416-91632-2）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を, 数学的な知識をもって理解し, あるべき姿を的確に思考・判断することができる。

【技術・表現】学修で得た数学的知識・技術をもって人間社会や自然の中にみえる課題を発見し, その課題を論理的に分析・統合・表現することで, 他者との共感を創り出すことができる。

オフィスアワー

前期：水曜日 12：30～14：00
後期：水曜日 12: 30～14：00

学生へのメッセージ

数学は, 授業のみでは理解した気になるだけで身につかない。予習と復習を通して, 自らの頭と手を動かして思考することが大事である。授業は丁寧に説明したいと思うが, 理解できない部分は, 遠慮せず質問し, 主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		教員主導ではなく, 学生同士で積極的に討議を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		・電子ノートを活用する ・授業板書や授業動画をクラウド上にアップして, 授業の復習をしやすい環境を整える

講義コード	G50202001
講義名	基礎数学ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13110M21

授業概要(教育目的)

高校までの数学は, どの分野も生きる上で役に立つ重要なものばかりである。授業では, まず, 基礎数学aで扱ったテーマ以外で, 高校までに学習した数学I・数学A・数学II・数学B・数学III・数学Cの中から特に重要な項目を選び出して復習し発展させることで, 知識・技術・思考が確実なものになるように解説する。次に, それらを自然科学や社会科学のみならず日常の様々な事象に応用することでみえる数学の大切さについて, 事例を通して紹介する。基礎数学aと基礎数学bを履修することで, 公務員試験やSPI試験で出題されるテーマを大まかにフォローする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	公務員試験やSPI試験で出題されるレベルの問題を解くことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	学習で得た知識・技術・思考力を日常生活等の中でみえる課題に活かすことができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	平面図形
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図形の平行移動・回転移動・対称移動, 図形の内角と外角, 平行線と線分の比, 四角形の概念集合, 平行線と面積を扱う。日常の様々な「模様」を数学的に捉える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書II部７．平面図形の割引のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書II部７．平面図形の演習問題に取り組むこと

	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第2回	**授業テーマ**	作図
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	垂直二等分線, 角の二等分線, 三角形の五心を扱う。実際に図形を作成しその設計図を考える。（ハンズオンマス）。第１回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書II部８．作図のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書II部８．作図の演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第3回	**授業テーマ**	合同と相似
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	三角形の合同条件, 三角形の相似条件, 相似な図形の面積比や体積比を扱う。地図等から実際の面積を求めてみる。第２回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書II部９．合同と相似のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書II部９．合同と相似の演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第4回	**授業テーマ**	円の性質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	円の面積, 扇形の弧と面積, 円周角および中心角の定理, 円に内接する四角形の性質, 接弦定理, 円の外から２接線を引いたときの接点までの長さに関する性質, 曲率などを扱う。円弧かそうでないか当てクイズを扱う。第３回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書II部１０．円の性質のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書II部１０．円の性質の演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第5回	**授業テーマ**	空間図形
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	柱体や錐体の体積, 球の体積と表面積を扱う。不定形の求積を扱う。積分の考え方を学ぶ。第４回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書II部１１．空間図形のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書II部１１．空間図形の演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第6回	**授業テーマ**	三平方の定理と余弦定理・正弦定理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	三平方の定理およびその拡張ととらえられる余弦定理, さらに正弦定理を扱う。直接測定不可能な2点間距離を三角測量で測定する。第５回の理解度を確かめるための小テストを行う。

	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書II部１２．三平方の定理のPOINTおよび例題, さらに配布プリントに目を通しておくこと 復習：教科書II部１２．三平方の定理の演習問題, さらに配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第7回	**授業テーマ**	流れと比率
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人やモノの流れを式で表す問題を扱う。第６回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書I部１３．流れと比率のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書I部１３．流れと比率の演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第8回	**授業テーマ**	集合, 中間テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	条件を満たす集合の要素の個数を求める問題を扱う。第７回の理解度を確かめるための小テストを行う。中間テストも行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書I部６．集合のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書I部６．集合の演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第9回	**授業テーマ**	順列・組合せ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	場合の数のテーマのうち, 並べる問題「順列」と選ぶ問題「組合せ」を扱う。第８回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書I部７．順列・組合せのPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書I部７．順列・組合せの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第10回	**授業テーマ**	確率
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	確率および条件付確率の問題（ベイズの定理を含む）を扱う。第９回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書I部８．確率のPOINTおよび例題, さらに配布プリントに目を通しておくこと 復習：教科書I部８．確率の演習問題, さらに配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
	授業テーマ	数列

第11回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	等差数列, 等比数列, 階差数列, フィボナッチ数列, 群数列の問題を扱う。第１０回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第12回	授業テーマ	資料の読み取り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図や表や文章から必要な情報を読み取る問題を扱う。第１１回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書I部１０．資料の読み取りのPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書I部１０．資料の読み取りの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第13回	授業テーマ	推論１（論理式, ベン図）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論理式やベン図を用いた推論の問題を扱う。第１２回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第14回	授業テーマ	推論２（発言の正誤を推論する問題, 対応関係）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	所謂うそつき問題と, 対応関係の推論の問題を扱う。第１３回の理解度を確かめるための小テストを行う。第１５回目に期末テストおよびその振り返りを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分

学生へのフィードバック方法

復習で扱う演習問題(課題)について, 毎回回収してチェックをする。また, 第２回以降毎回行う小テストとルーブリックを用いた学生自身の自己評価により, 学修成果を可視化し学びの深化を支援したい。質問は町田キャンパスの1625研究室（emailも可:k-shinkai@kasei-gakuin.ac.jp）あるいはZoom等で対応する。遠慮せず声をかけてほしい。

評価方法

１．中間テストおよび定期テスト（期末テスト）60点
中間テストや定期テスト（期末テスト）は, 各回で学習した内容の類題を出題する。中間テスト

で出題した内容は定期テストには出題しない。テスト中の教科書や参考書の持ち込みは不可とする。

２．課題 30点
毎回の復習で取り組む演習問題（課題）への取り組みおよび小テストを評価する。

３.ルーブリックを用いた自己評価 10点
ルーブリックを用いた自己評価を評価する。

＊中間テスト, 定期テスト, 課題, ルーブリックを用いた自己評価 は, 下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間テスト	○			
定期テスト（期末テスト）	○			
課題	○	○		○
ルーブリックを用いた自己評価	○			○

評価割合

中間テスト(30%), 期末テスト(30%), 課題(30%), ルーブリックを用いた自己評価(10%)

使用教科書名(ISBN番号)

文系女子大学生の数学演習（ISBN:978-4-416-91632-2）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を, 数学的な知識をもって理解し, あるべき姿を的確に思考・判断することができる。

【技能・表現】学修で得た数学的知識・技術をもって人間社会や自然の中にみえる課題を発見し, その課題を論理的に分析・統合・表現することで, 他者との共感を創り出すことができる。

オフィスアワー

前期：水曜日 12：30～14：00
後期：水曜日 12: 30～14：00

学生へのメッセージ

数学は, 授業のみでは理解した気になるだけで身につかない。予習と復習を通して, 自らの頭と手を動かして思考することが大事である。授業は丁寧に説明したいと思うが, 理解できない部分は, 遠慮せず質問し, 主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50202031
講義名	基礎数学ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13110C21

授業概要(教育目的)

高校までの数学は, どの分野も生きる上で役に立つ重要なものばかりである。授業では, まず, 基礎数学aで扱ったテーマ以外で, 高校までに学習した数学I・数学A・数学II・数学B・数学III・数学Cの中から特に重要な項目を選び出して復習し発展させることで, 知識・技術・思考が確実なものになるように解説する。次に, それらを自然科学や社会科学のみならず日常の様々な事象に応用することでみえる数学の大切さについて, 事例を通して紹介する。基礎数学aと基礎数学bを履修することで, 公務員試験やSPI試験で出題されるテーマを大まかにフォローする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	公務員試験やSPI試験で出題されるレベルの問題を解くことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	学習で得た知識・技術・思考力を日常生活等の中でみえる課題に活かすことができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	平面図形
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図形の平行移動・回転移動・対称移動, 図形の内角と外角, 平行線と線分の比, 四角形の概念集合, 平行線と面積を扱う。日常の様々な「模様」を数学的に捉える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書II部７．平面図形の割引のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書II部７．平面図形の演習問題に取り組むこと

	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第2回	**授業テーマ**	作図
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	垂直二等分線, 角の二等分線, 三角形の五心を扱う。実際に図形を作成しその設計図を考える。（ハンズオンマス）。第１回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書II部８．作図のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書II部８．作図の演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第3回	**授業テーマ**	合同と相似
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	三角形の合同条件, 三角形の相似条件, 相似な図形の面積比や体積比を扱う。地図等から実際の面積を求めてみる。第２回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書II部９．合同と相似のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書II部９．合同と相似の演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第4回	**授業テーマ**	円の性質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	円の面積, 扇形の弧と面積, 円周角および中心角の定理, 円に内接する四角形の性質, 接弦定理, 円の外から２接線を引いたときの接点までの長さに関する性質,曲率などを扱う。円弧かそうでないか当てクイズを扱う。第３回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書II部１０．円の性質のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書II部１０．円の性質の演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第5回	**授業テーマ**	空間図形
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	柱体や錐体の体積, 球の体積と表面積を扱う。不定形の求積を扱う。積分の考え方を学ぶ。第４回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書II部１１．空間図形のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書II部１１．空間図形の演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第6回	**授業テーマ**	三平方の定理と余弦定理・正弦定理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	三平方の定理およびその拡張ととらえられる余弦定理, さらに正弦定理を扱う。直接測定不可能な2点間距離を三角測量で測定する。第５回の理解度を確かめるための小テストを行う。

	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書II部１２．三平方の定理のPOINTおよび例題, さらに配布プリントに目を通しておくこと 復習：教科書II部１２．三平方の定理の演習問題, さらに配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第7回	**授業テーマ**	流れと比率
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人やモノの流れを式で表す問題を扱う。第６回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書I部１３．流れと比率のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書I部１３．流れと比率の演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第8回	**授業テーマ**	集合, 中間テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	条件を満たす集合の要素の個数を求める問題を扱う。第７回の理解度を確かめるための小テストを行う。中間テストも行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書I部６．集合のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書I部６．集合の演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第9回	**授業テーマ**	順列・組合せ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	場合の数のテーマのうち, 並べる問題「順列」と選ぶ問題「組合せ」を扱う。第８回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書I部７．順列・組合せのPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書I部７．順列・組合せの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第10回	**授業テーマ**	確率
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	確率および条件付確率の問題（ベイズの定理を含む）を扱う。第９回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書I部８．確率のPOINTおよび例題, さらに配布プリントに目を通しておくこと 復習：教科書I部８．確率の演習問題, さらに配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
	授業テーマ	数列

第11回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	等差数列, 等比数列, 階差数列, フィボナッチ数列, 群数列の問題を扱う。第１０回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第12回	授業テーマ	資料の読み取り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図や表や文章から必要な情報を読み取る問題を扱う。第１１回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書I部１０．資料の読み取りのPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書I部１０．資料の読み取りの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第13回	授業テーマ	推論１（論理式, ベン図）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論理式やベン図を用いた推論の問題を扱う。第１２回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第14回	授業テーマ	推論２（発言の正誤を推論する問題, 対応関係）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	所謂うそつき問題と, 対応関係の推論の問題を扱う。第１３回の理解度を確かめるための小テストを行う。第１５回目に期末テストおよびその振り返りを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分

学生へのフィードバック方法

復習で扱う演習問題(課題)について, 毎回回収してチェックをする。また, 第２回以降毎回行う小テストとルーブリックを用いた学生自身の自己評価により, 学修成果を可視化し学びの深化を支援したい。質問は町田キャンパスの1625研究室（emailも可:k-shinkai@kasei-gakuin.ac.jp）あるいはZoom等で対応する。遠慮せず声をかけてほしい。

評価方法

１．中間テストおよび定期テスト（期末テスト）60点
中間テストや定期テスト（期末テスト）は, 各回で学習した内容の類題を出題する。中間テスト

で出題した内容は定期テストには出題しない。テスト中の教科書や参考書の持ち込みは不可とする。

２．課題 30点
毎回の復習で取り組む演習問題（課題）への取り組みおよび小テストを評価する。

３.ルーブリックを用いた自己評価 10点
ルーブリックを用いた自己評価を評価する。

＊中間テスト, 定期テスト, 課題, ルーブリックを用いた自己評価は, 下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間テスト	○			
定期テスト（期末テスト）	○			
課題	○	○		○
ルーブリックを用いた自己評価	○			○

評価割合

中間テスト(30%), 期末テスト(30%), 課題(30%), ルーブリックを用いた自己評価(10%)

使用教科書名(ISBN番号)

文系女子大学生の数学演習（ISBN:978-4-416-91632-2）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を, 数学的な知識をもって理解し, あるべき姿を的確に思考・判断することができる。

【技能・表現】学修で得た数学的知識・技術をもって人間社会や自然の中にみえる課題を発見し, その課題を論理的に分析・統合・表現することで, 他者との共感を創り出すことができる。

オフィスアワー

前期：水曜日 12：30～14：00
後期：水曜日 12: 30～14：00

学生へのメッセージ

数学は, 授業のみでは理解した気になるだけで身につかない。予習と復習を通して, 自らの頭と手を動かして思考することが大事である。授業は丁寧に説明したいと思うが, 理解できない部分は, 遠慮せず質問し, 主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50203001
講義名	数学トピックス
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	新海 公昭	指定なし

ナンバリング

X13120M21

授業概要(教育目的)

身の回りにはたくさんの「不思議」がある。A4サイズの紙の縦と横の長さの関係は？ゲームの背景に数学が存在するものがあるって本当？複利の借金ってなぜ恐い？GPSはなぜ現在の位置情報を把握できるのか？いくつかの神社に数学の問題と解答が奉納されているけどあれって何？ドレミファソラシドって数学が背景にあるって本当？ ガスや火もないのにカレーをつくったり魚を焼いたりすることができるって本当？などである。高校までで学んだ数学を, 有機的に結合させることで「身の回りの不思議」のいくつかを解決することができる。トピック的に取り上げて「先人たちのアイディアや知恵」について知る。
＊毎回の授業で, はさみ, のり, 定規, コンパスを持参すること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	身の回りにあるたくさんの「不思議」に関して, 数学的な視点で解決しようと試みることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	鳩の巣原理, カプレカ数, 黄金比, 白銀比（数のおもしろさ）
	学習内容(ア	

第1回	ｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鳩の巣原理を応用した事例を紹介する。おもしろい性質をもつカプレカ数を紹介する。 黄金比, 白銀比を紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：鳩の巣原理を利用した問題を作成する。黄金比, 白銀比が見られるものを2例ずつ調べる（図も描く）。次回の授業でレポートを提出する（提出の前に調べたものを受講者同士で報告しあう）。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	六角将棋（論理のおもしろさ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	六角将棋の盤とコマを作成し, どうしたら勝てるか論理的に考えながら対戦する。 ＊段ボール（A3サイズ程度）, はさみ, コンパス, 定規, のり, 色ペンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：六角将棋を完成させ, ルールを確認し, 受講生同士や知人と対戦する。次回の授業で六角将棋の盤とコマを提出する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	空間図形の展開図１（図形のおもしろさ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ニンジンやジャガイモから定型図形に限らない立体図形（凸多面体に限る）を最低１個以上切り出し, その展開図を作成する。切り出した立体図形の頂点の数・辺の数・面の数の関係からオイラーの多面体の定理を味わう。 ＊包丁を使うのでオンデマンドで授業を行う予定とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：切り出した立体図形から展開図を完成させる。次回の授業で立体図形（現物は腐ってしまうので写真撮影したもの）と展開図を提出する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	空間図形の展開図２（図形のおもしろさ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	完成した展開図（のりしろも用意する）を基に, ペーパークラフトを完成させる。展開図のコピーをとり, 切り出した辺と辺がしっかり合わさるかなどをチェックし調整する。 ＊はさみ, コンパス, 定規, のりを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: ペーパークラフトを完成させる。次回の授業でペーパークラフトを提出する。
	教室外学習の時間	200分

	（分）	
第5回	**授業テーマ**	一弦ギター１（算数と音楽）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	音楽と数学の歴史について学ぶ。純正音階律や平均音階律について学ぶ。一弦ギターの作成を始める。 ＊はさみ, コンパス, 定規, ボンド, 色ペンを持参すること。 ＊他にもギター作成に必要なもの（角材, 割りばし, つまようじ, てぐす, 吊具等）は別途購入してもらうものは授業内で説明する
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：純正音階を理解する。ギター作成において, 角材の上部と下部にナットとブリッジを割り箸で作り, 角材の下部にドリル等で穴をあけ, 糸を, あけた穴に通し, 角材上部にあるペグに巻くところまで完成させる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	一弦ギター２（算数と音楽）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ギター作成の続きを行う。弦を押さえながら, ドの音を探す。その弦の長さを基準に, レミファソラシ（一オクターブ高い）ドの弦の長さを求めて, 印をつける。実際に印をつけた個所を押さえて弦をはじいたとき, 対応する音が出るか確かめる。大丈夫であれば, 印の個所にフレットを作る。最後にボディ（２次元と３次元）をつくりギターを完成させる。 ＊はさみ, コンパス, 定規, ボンド, 色ペンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：一弦ギターを完成させる。次回の授業で演奏会を行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	プログラミング（フラクタル図形の作成）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プログラミング活動を通して、プログラミング的思考について学ぶ。具体的にはフラクタル図形の作図を行う中で、順序、条件分岐、反復の基本的な理論を学ぶ。 ＊PCを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：フラクタル図形を完成させ提出する。次回の授業で作品を受講者らに報告してもらう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	n進数を利用したゲーム１（情報理論）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	n進数を理解する。n進数を使ったゲームの構想を練る。
	教室外学習(予習・復習)の内	復習：n進数の理解を深める課題に取り組み, 次回の授業でレポートとして提出する。

	容	
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	n進数を利用したゲーム２（情報理論）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	n進数を利用したゲームを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：n進数を利用したゲームを完成させる。次回の授業で受講者同士でゲームを楽しみ, その後提出する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	和算（数学の歴史）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	和算の問題のいくつかに取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：授業では扱わなかった和算の問題のいくつかに課題として取り組み, 次回の授業でレポートとして提出する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	囚人のジレンマ（ゲーム理論）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	囚人のジレンマを理解する。グループディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習： 囚人のジレンマと思われる事例を調べ, 次回の授業で受講者同士報告し合い, その後レポートとして提出する。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	複利計算（社会生活と数学）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	複利計算について学ぶ。借金の場合の複利の怖さ, 投資の場合の複利のメリットについて知る。第１０回目のリフレクションを行う。

第12回	**用を含む)**	
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：複利計算に関する理解を深める課題に取り組み, レポートとして報告する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	GPSのしくみ（図形の科学）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	GPSのしくみを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：GPSのしくみに関する理解を深める課題に取り組み, 次回の授業でレポートとして提出する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	２次曲線の焦点（図形のおもしろさ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	２次曲線（放物線、だ円、双曲線）の焦点の図形的性質を理解し,日常への応用例を知る。 定期試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：焦点の性質は日常に広く応用されている。数学的な性質を復習するとともに授業で紹介したもの以外にも応用事例を調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分

学生へのフィードバック方法

復習として取り組んだものについては, 毎回回収してチェックをする。また,学生自身の自己評価により, 学修成果を可視化し学びの深化を支援したい。質問は町田キャンパスの1625研究室（emailも可：k-shinkai@kasei-gakuin.ac.jp）あるいはZoom等で対応する。遠慮せず声をかけてほしい。

評価方法

１．平常課題 60点
毎回の授業内外で取り組む作業や課題を平常課題とする。
取り組みを評価する。

２．定期試験 30点
定期試験では, 授業で取り組んだ内容の中で, 特に印象に残っているものについて, 概要や新たに得られた視点等について記述することで, 授業への関心・意欲等を評価する。

３. ルーブリックを用いた自己評価 10点
ルーブリックを用いた自己評価を評価する。

＊平常課題, 定期試験, ルーブリックを用いた自己評価は下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常課題			○	
定期試験			○	
ルーブリックを用いた自己評価			○	

評価割合

平常課題（60%）, 定期試験（30%）, ルーブリックを用いた自己評価(10%)

使用教科書名(ISBN番号)

なし。プリントを配布して説明する。

参考図書

なし。

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】身の回りにあるたくさんの「不思議」に関して, 数学的な視点で解決しようと試みることができ, 社会を構成するひとりとして, 高い徳性をもって人々に貢献することができる。

オフィスアワー

前期：水曜日 12：30～14：00
後期：水曜日 12: 30～14：00

学生へのメッセージ

授業では各回に行うことを丁寧に説明したいと思うが, 理解できない部分は遠慮せず質問してほしい。好奇心に裏打ちされた自発的な学びを期待する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		教員主導ではなく, 学生同士で積極的に討議を行ったり作品を相互評価しあったりする。
情報リテラシー教育		
ICT活用		教材や学習支援において, 積極的にICTの活用（プログラミングを含む）をする。

講義コード	G50204001
講義名	基礎統計学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	新海 公昭	指定なし

ナンバリング

X13140M21

授業概要(教育目的)

統計の基礎を学び, データを適切に処理でき, かつ得られた結果を正しく理解・解釈するために必要な知識・技術について説明する。
まずは、記述統計学としての1変量の標本データの要約ができるように平均値, 分散, 標準偏差に代表される基本統計量を扱う。次に, 2変量のデータ解析の基本として相関分析, 回帰分析を扱う。最後に, 離散型確率分布や連続型確率分布などにおける確率計算および中心極限定理を扱い, 推定および検定を通して推測統計学の基本的考え方を解説する。毎回の講義では, 事例を複数提示し, 様々な事象への応用に触れる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	統計検定3級レベルの問題を解くことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	学習で得た知識・技術・思考力を日常生活等の中でみえる課題に活かすことができる。

学習計画

	授業テーマ	基本統計量（平均値, 中央値, 最頻値, 分散, 標準偏差）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	データ全体を代表させる数値である平均値, 中央値, 最頻値, 分散, 標準偏差を学ぶ。 Excelでデータ分析する。

	用を含む)	
第1回	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書22ページから43ページに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第1回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間(分)	予習70分, 復習130分
第2回	授業テーマ	ヒストグラム, 箱ひげ図, 散布図,相関係数
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全データの分布状況を把握するためのヒストグラム, 散らばりを持つデータの大まかな比較をするのに便利な箱ひげ図, ２変量の相関関係を知るための散布図を学ぶ。また相関関係の正負および相関の強弱を示す相関係数を学ぶ。Excelでデータ分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書28ページから29ページに目を通しておくこと ・教科書40ページから41ページに目を通しておくこと ・教科書46ページから48ページに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第2回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間(分)	予習70分, 復習130分
第3回	授業テーマ	回帰分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１変量を, 他の変量で表現する単回帰分析や重回帰分析における回帰方程式を学ぶ。また, 回帰方程式の制度を表す決定係数も学ぶ。Excelでデータ分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書110ページから113ページに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第3回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間(分)	予習70分, 復習130分
第4回	授業テーマ	離散型確率変数と確率分布、離散型確率変数の期待値と分散
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	記述統計学と推測統計学の橋渡しとして, 離散型確率変数と確率分布, 離散型確率変数の期待値と分散を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書50ページから61ページに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第4回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと

	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第5回	**授業テーマ**	連続型確率変数と確率密度関数, 連続型確率変数の期待値と分散, 正規分布, t分布,χ2乗分布
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	連続型確率変数と確率密度関数, 連続型確率変数の場合の確率計算について学ぶ。連続型確率変数の期待値と分散についても学ぶ。そして連続型確率変数の中で最も有名な確率分布である正規分布を学ぶ。正規分布のグラフの性質や確率計算について学ぶ。t分布やχ2乗分布についても学ぶ。Excelでデータ分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書62ページから63ページに目を通しておくこと ・教科書66ページから67ページに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第5回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第6回	**授業テーマ**	正規分布表を用いた確率計算, パーセント点
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	正規分布に従う確率変数の様々な事例を扱い, 正規分布の確率計算やパーセント点の理解を深める。Excelでデータ分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書66ページから67ページに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第6回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第7回	**授業テーマ**	母集団と標本, 大数の法則と中心極限定理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	母集団からとりだしたサンプルサイズnの標本において, 標本平均の確率分布は, 母平均を期待値, 母分散/nを分散とする正規分布に従うという推測統計学の最重要定理とも言える「中心極限定理」を学ぶ。こExcelでのシミュレーションを通して理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書70ページから73ページに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第7回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
	授業テーマ	統計的推定（母平均の点推定）
	学習内容(ｱｸ	

第8回	**ﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	統計的推定（母平均の点推定）の考え方を学ぶ。 中間試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書74ページから75ページに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第8回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第9回	**授業テーマ**	統計的推定（母平均の区間推定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計的推定（母平均の区間推定）の考え方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書74ページから75ページに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第9回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第10回	**授業テーマ**	母比率の区間推定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	母比率の区間推定を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書96ページから97ページに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第10回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第11回	**授業テーマ**	統計的仮説検定の考え方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計的仮説検定の考え方を学ぶ。帰無仮説, 対立仮説, 有意水準, 検定統計量, p値, 棄却域の用語と使い方を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書76ページから85ページに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと

		・第11回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第12回	**授業テーマ**	統計的仮説検定：t検定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2標本の平均の差の検定（t検定）について学ぶ。Excelでデータ分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第12回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第13回	**授業テーマ**	統計的仮説検定：χ2乗検定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	χ2乗検定について学ぶ。尺度についても学ぶ。Excelでデータ分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書108ページから109ページに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第13回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第14回	**授業テーマ**	ブートストラップ法による仮説検定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	確率分布を仮定しない検定としてブートストラップ法を利用した仮説検定の考え方を学ぶ。 期末試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分

学生へのフィードバック方法

復習で扱う演習問題(課題)および小テストについて, 毎回回収してチェックをする。また, ルーブリックを用いた学生自身の自己評価により, 学修成果を可視化し学びの深化を支援したい。質問は町田キャンパスの1625研究室（emailも可：k-shinkai@kasei-gakuin.ac.jp）あるいはZoom等で対応する。遠慮せず声をかけてほしい。

評価方法

１．中間テストおよび定期テスト（期末テスト）60点
中間テストや定期テスト（期末テスト）は, 各回で学習した内容の類題を出題する。中間テストで出題した内容は定期テストには出題しない。テスト中の教科書や参考書の持ち込みは不可とする。

２．課題 30点
毎回の復習で取り組む演習問題（課題）への取り組みおよび小テストを評価する。

３. ルーブリックにおよる自己評価 10点
ルーブリックを用いた自己評価を評価する。

＊中間テスト, 定期テスト, 課題, ルーブリックを用いた自己評価は, 下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間テスト	○			
定期テスト（期末テスト）	○			
課題	○	○		○
ルーブリックを用いた自己評価	○			○

評価割合

中間テスト(30%), 期末テスト(30%), 課題(30%), ルーブリックを用いた自己評価(10%)

使用教科書名(ISBN番号)

統計学の図鑑（ISBN:978-4-7741-7331-3）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を, 統計学的な知識をもって理解し, あるべき姿を的確に思考・判断することができる。

【技術・表現】学修で得た統計学的知識・技術をもって人間社会や自然の中にみえる課題を発見し, その課題を論理的に分析・統合・表現することで, 他者との共感を創り出すことができる。

オフィスアワー

前期：水曜日１２：３０～１４：００
後期：水曜日１２：３０～１４：００

学生へのメッセージ

統計学は, 授業のみでは理解した気になるだけで身につかない。予習と復習を通して, 自らの頭と手を動かして計算し学んだことを活用することが大事である。授業は丁寧に説明したいと思うが, 理解できない部分は, 遠慮せず質問し, 主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		教員主導ではなく, 学生同士で積極的に討議を行う。
情報リテラシー教育	○	統計を学修するということは, 情報リテラシーを向上させることにつながる。
ICT活用		・電子ノートを活用する ・授業板書や授業動画をクラウド上にアップして, 授業の復習をしやすい環境を整える

講義コード	G50204031
講義名	基礎統計学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	新海 公昭	指定なし

ナンバリング

X13140M21

授業概要(教育目的)

統計の基礎を学び, データを適切に処理でき, かつ得られた結果を正しく理解・解釈するために必要な知識・技術について説明する。
まずは、記述統計学としての1変量の標本データの要約ができるように平均値, 分散, 標準偏差に代表される基本統計量を扱う。次に, 2変量のデータ解析の基本として相関分析, 回帰分析を扱う。最後に, 離散型確率分布や連続型確率分布などにおける確率計算および中心極限定理を扱い, 推定および検定を通して推測統計学の基本的考え方を解説する。毎回の講義では, 事例を複数提示し, 様々な事象への応用に触れる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	統計検定3級レベルの問題を解くことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	学習で得た知識・技術・思考力を日常生活等の中でみえる課題に活かすことができる。

学習計画

	授業テーマ	基本統計量（平均値, 中央値, 最頻値, 分散, 標準偏差）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	データ全体を代表させる数値である平均値, 中央値, 最頻値, 分散, 標準偏差を学ぶ。 Excelでデータ分析する。

	用を含む)	
第1回	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書22ページから43ページに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第1回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間(分)	予習70分, 復習130分
第2回	授業テーマ	ヒストグラム, 箱ひげ図, 散布図,相関係数
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全データの分布状況を把握するためのヒストグラム, 散らばりを持つデータの大まかな比較をするのに便利な箱ひげ図, ２変量の相関関係を知るための散布図を学ぶ。また相関関係の正負および相関の強弱を示す相関係数を学ぶ。Excelでデータ分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書28ページから29ページに目を通しておくこと ・教科書40ページから41ページに目を通しておくこと ・教科書46ページから48ページに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第2回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間(分)	予習70分, 復習130分
第3回	授業テーマ	回帰分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１変量を, 他の変量で表現する単回帰分析や重回帰分析における回帰方程式を学ぶ。また, 回帰方程式の制度を表す決定係数も学ぶ。Excelでデータ分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書110ページから113ページに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第3回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間(分)	予習70分, 復習130分
第4回	授業テーマ	離散型確率変数と確率分布、離散型確率変数の期待値と分散
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	記述統計学と推測統計学の橋渡しとして, 離散型確率変数と確率分布, 離散型確率変数の期待値と分散を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書50ページから61ページに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第4回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと

	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第5回	**授業テーマ**	連続型確率変数と確率密度関数, 連続型確率変数の期待値と分散, 正規分布, t分布,χ2乗分布
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	連続型確率変数と確率密度関数, 連続型確率変数の場合の確率計算について学ぶ。連続型確率変数の期待値と分散についても学ぶ。そして連続型確率変数の中で最も有名な確率分布である正規分布を学ぶ。正規分布のグラフの性質や確率計算について学ぶ。t分布やχ2乗分布についても学ぶ。Excelでデータ分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書62ページから63ページに目を通しておくこと ・教科書66ページから67ページに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第5回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第6回	**授業テーマ**	正規分布表を用いた確率計算, パーセント点
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	正規分布に従う確率変数の様々な事例を扱い, 正規分布の確率計算やパーセント点の理解を深める。Excelでデータ分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書66ページから67ページに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第6回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第7回	**授業テーマ**	母集団と標本, 大数の法則と中心極限定理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	母集団からとりだしたサンプルサイズnの標本において, 標本平均の確率分布は, 母平均を期待値, 母分散/nを分散とする正規分布に従うという推測統計学の最重要定理とも言える「中心極限定理」を学ぶ。こExcelでのシミュレーションを通して理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書70ページから73ページに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第7回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
	授業テーマ	統計的推定（母平均の点推定）
	学習内容(ｱｸ	

第8回	**ﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	統計的推定（母平均の点推定）の考え方を学ぶ。 中間試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書74ページから75ページに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第8回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第9回	**授業テーマ**	統計的推定（母平均の区間推定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計的推定（母平均の区間推定）の考え方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書74ページから75ページに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第9回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第10回	**授業テーマ**	母比率の区間推定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	母比率の区間推定を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書96ページから97ページに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第10回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第11回	**授業テーマ**	統計的仮説検定の考え方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計的仮説検定の考え方を学ぶ。帰無仮説, 対立仮説, 有意水準, 検定統計量, p値, 棄却域の用語と使い方を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書76ページから85ページに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと

		・第11回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第12回	**授業テーマ**	統計的仮説検定：t検定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2標本の平均の差の検定（t検定）について学ぶ。Excelでデータ分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第12回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第13回	**授業テーマ**	統計的仮説検定：χ2乗検定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	χ2乗検定について学ぶ。尺度についても学ぶ。Excelでデータ分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・教科書108ページから109ページに目を通しておくこと ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと ・第13回の理解度を確かめるための小テストに取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第14回	**授業テーマ**	ブートストラップ法による仮説検定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	確率分布を仮定しない検定としてブートストラップ法を利用した仮説検定の考え方を学ぶ。 期末試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習 ・授業前日に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ・配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分

学生へのフィードバック方法

復習で扱う演習問題(課題)および小テストについて, 毎回回収してチェックをする。また, ルーブリックを用いた学生自身の自己評価により, 学修成果を可視化し学びの深化を支援したい。質問は町田キャンパスの1625研究室（emailも可：k-shinkai@kasei-gakuin.ac.jp）あるいはZoom等で対応する。遠慮せず声をかけてほしい。

評価方法

１．中間テストおよび定期テスト（期末テスト）60点
中間テストや定期テスト（期末テスト）は, 各回で学習した内容の類題を出題する。中間テストで出題した内容は定期テストには出題しない。テスト中の教科書や参考書の持ち込みは不可とする。

２．課題 30点
毎回の復習で取り組む演習問題（課題）への取り組みおよび小テストを評価する。

３. ルーブリックにおよる自己評価 10点
ルーブリックを用いた自己評価を評価する。

＊中間テスト, 定期テスト, 課題, ルーブリックを用いた自己評価は, 下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間テスト	○			
定期テスト（期末テスト）	○			
課題	○	○		○
ルーブリックを用いた自己評価	○			○

評価割合

中間テスト(30%), 期末テスト(30%), 課題(30%), ルーブリックを用いた自己評価(10%)

使用教科書名(ISBN番号)

統計学の図鑑（ISBN:978-4-7741-7331-3）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を, 統計学的な知識をもって理解し, あるべき姿を的確に思考・判断することができる。

【技術・表現】学修で得た統計学的知識・技術をもって人間社会や自然の中にみえる課題を発見し, その課題を論理的に分析・統合・表現することで, 他者との共感を創り出すことができる。

オフィスアワー

前期：水曜日１２：３０～１４：００
後期：水曜日１２：３０～１４：００

学生へのメッセージ

統計学は, 授業のみでは理解した気になるだけで身につかない。予習と復習を通して, 自らの頭と手を動かして計算し学んだことを活用することが大事である。授業は丁寧に説明したいと思うが, 理解できない部分は, 遠慮せず質問し, 主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		教員主導ではなく, 学生同士で積極的に討議を行う。
情報リテラシー教育	○	統計を学修するということは, 情報リテラシーを向上させることにつながる。
ICT活用		・電子ノートを活用する ・授業板書や授業動画をクラウド上にアップして, 授業の復習をしやすい環境を整える

講義コード	G50205001
講義名	基礎統計学ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13150M21

授業概要(教育目的)

最初に基礎統計学aで学習した項目のうち, 確率分布と確率計算, 標本分布, 中心極限定理を中心に概説する。その後, 推測統計学の中で実際のデータ処理・分析で必要となる可能性が高い「統計的推定」および「統計的仮説検定」の基本的考え方について説明する。具体的には, 点推定, 区間推定, 母平均の差の検定, 母分散の検定, 適合度の検定などである。関連して, 統計ソフトを用いたデータ処理（調査の企画設計、調査の実施、統計を用いた評価）も積極的に扱う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	統計検定2級レベルの問題を解くことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	学習で得た知識・技術・思考力を日常生活等の中でみえる課題に活かすことができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	母集団の平均値と標本の平均値, 大数の法則と中心極限定理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	母集団の平均値と標本の平均値を確認した後, 大数の法則と中心極限定理をExcel用いたシミュレーションを通して確認する。
	教室外学習(予習・復	予習：教科書70ページから73ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと

	習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第2回	授業テーマ	統計的推定１（大きな標本における母平均の推定の考え方）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	標本から母集団の性質を類推する統計的推定において, 大きな標本における母平均の区間推定を学ぶ。Excelでデータ分析する。第１回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書74ページから75ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第3回	授業テーマ	母集団分布と母数（母平均, 母分数など）, 標本分布と統計量（標本平均, 不偏分散など）, 自由度
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	母数（母平均, 母分散）, 統計量（標本平均, 標本の分散）, 推定量, 検定統計量を確認し, さらに不偏分散と自由度を学ぶ。 第２回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書88ページから93ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第4回	授業テーマ	統計的推定２（小さな標本における母平均の推定の考え方）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	標本から母集団の性質を類推する統計的推定において, 小さな標本における母平均の区間推定を学ぶ。Excelでデータ分析する。第３回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書94ページから95ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第5回	授業テーマ	統計的仮説検定１（ 帰無仮説と対立仮説, 有意水準）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計的仮説検定の考え方を, 有意水準, 帰無仮説, 対立仮説等の用語の説明の後, 具体的な事例を通して学ぶ。第４回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書76ページから77ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分

第6回	授業テーマ	統計的仮説検定２（両側検定と片側検定, p値, 第一種の過誤と第二種の過誤）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	具体的な事例を通して, 両側検定および片側検定を学ぶ。その際, 検定統計量が棄却域に入ることとp値が有意水準より小さいことが同値であることを, p値の定義から説明する。 第一種の過誤と第二種の過誤についても説明する。Excelでデータ分析する。第５回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書78ページから85ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第7回	授業テーマ	統計的仮説検定３（大きな標本および小さな標本における母平均の検定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について, まずは母平均の検定を学ぶ。 Excelでデータ分析する。第６回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書98ページから99ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第8回	授業テーマ	統計的仮説検定４（大きな標本および小さな標本における母比率の検定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について, 次は母比率の検定を学ぶ。 Excelでデータ分析する。第７回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書100ページから101ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第9回	授業テーマ	統計的仮説検定５（母分散の検定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について, 最後に母分散の検定（母平均既知, 未知の場合）を学ぶ。 Excelでデータ分析する。第８回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
	授業テーマ	統計的推定と統計的仮説検定を使ったデータ分析, 中間テスト

第10回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今ままで行ってきた１つの母集団の母数に関する統計的推定および統計的仮説検定を活用した種々のデータ分析をExcelやRを用いて行い, 結果を記述する。第９回の理解度を確かめるための小テストを行う。中間テストも行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：第1回から第8回までに扱った事項および問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第11回	授業テーマ	統計的仮説検定６（母平均の差の検定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	２つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について, まずは母平均の差の検定（分散既知, 分散未知であるが等分散, 分散未知で分散が等しいとは限らない場合）を学ぶ。Excelでデータ分析する。第１０回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第12回	授業テーマ	統計的仮説検定８（母比率の差の検定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	２つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について, 最後に母比率の差の検定を学ぶ。Excelでデータ分析する。第１１回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第13回	授業テーマ	統計的仮説検定９（一元配置分散分析）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	３つ以上の母集団の母数に関する仮説検定の方法について, 母平均の差の検定である一元配置分散分析を学ぶ。Excelでデータ分析する。第１２回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書102ページから103ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
	授業テーマ	統計的仮説検定１０（適合度検定, 独立性の検定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	適合度検定と独立性の検定を学ぶ。第１３回目の理解を確かめるための

第14回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小テストを行う。Excelでデータ分析する。第１５回目に期末テストおよびその振り返りを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分

学生へのフィードバック方法

復習で扱う演習問題(課題)について, 毎回回収してチェックをする。また, 第２回以降毎回行う小テストとルーブリックを用いた学生自身の自己評価により, 学修成果を可視化し学びの深化を支援したい。質問は町田キャンパスの1625研究室（emailも可：k-shinkai@kasei-gakuin.ac.jp）あるいはZoom等で対応する。遠慮せず声をかけてほしい。

評価方法

１．中間テストおよび定期テスト（期末テスト）60点
中間テストや定期テスト（期末テスト）は, 各回で学習した内容の類題を出題する。中間テストで出題した内容は定期テストには出題しない。テスト中の教科書や参考書の持ち込みは不可とする。

２．課題 30点
毎回の復習で取り組む演習問題（課題）への取り組みおよび小テストを評価する。

３. ルーブリックを用いた自己評価 10点
ルーブリックを用いた自己評価を評価する。

＊中間テスト, 定期テスト, 課題, ルーブリックを用いた自己評価は, 下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間テスト	○			
定期テスト（期末テスト）	○			
課題	○	○		○
ルーブリックを用いた自己評価	○			○

評価割合

中間テスト(30%), 期末テスト(30%), 課題(30%), ルーブリックを用いた自己評価(10%)

使用教科書名(ISBN番号)

統計学の図鑑（ISBN:978-4-7741-7331-3）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を, 統計学的な知識をもって理解し, あるべき姿を的確に思考・判断することができる。

【技能・表現】学修で得た統計学的知識・技術をもって人間社会や自然の中にみえる課題を発見し, その課題を論理的に分析・統合・表現することで, 他者との共感を創り出すことができる。

オフィスアワー

前期：水曜日 12：30～14：00
後期：水曜日 12: 30～14：00

学生へのメッセージ

統計学は, 授業のみでは理解した気になるだけで身につかない。予習と復習を通して, 自らの頭と手を動かして計算し学んだことを活用することが大事である。授業は丁寧に説明したいと思うが, 理解できない部分は, 遠慮せず質問し, 主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	統計を学修するということは, 情報リテラシーを向上させることにつながる。
ICT活用		

講義コード	G50205031
講義名	基礎統計学ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13150C21

授業概要(教育目的)

最初に基礎統計学aで学習した項目のうち, 確率分布と確率計算, 標本分布, 中心極限定理を中心に概説する。その後, 推測統計学の中で実際のデータ処理・分析で必要となる可能性が高い「統計的推定」および「統計的仮説検定」の基本的考え方について説明する。具体的には, 点推定, 区間推定, 母平均の差の検定, 母分散の検定, 適合度の検定などである。関連して, 統計ソフトを用いたデータ処理（調査の企画設計、調査の実施、統計を用いた評価）も積極的に扱う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	統計検定2級レベルの問題を解くことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	学習で得た知識・技術・思考力を日常生活等の中でみえる課題に活かすことができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	母集団の平均値と標本の平均値, 大数の法則と中心極限定理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	母集団の平均値と標本の平均値を確認した後, 大数の法則と中心極限定理をExcelを用いたシミュレーションを通して確認する。
	教室外学習(予習・復	予習：教科書70ページから73ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと

	習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第2回	授業テーマ	統計的推定１（大きな標本における母平均の推定の考え方）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	標本から母集団の性質を類推する統計的推定において, 大きな標本における母平均の区間推定を学ぶ。Excelでデータ分析する。第１回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書74ページから75ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第3回	授業テーマ	母集団分布と母数（母平均, 母分数など）, 標本分布と統計量（標本平均, 不偏分散など）, 自由度
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	母数（母平均, 母分散）, 統計量（標本平均, 標本の分散）, 推定量, 検定統計量を確認し, さらに不偏分散と自由度を学ぶ。 第２回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書88ページから93ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第4回	授業テーマ	統計的推定２（小さな標本における母平均の推定の考え方）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	標本から母集団の性質を類推する統計的推定において, 小さな標本における母平均の区間推定を学ぶ。Excelでデータ分析する。第３回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書94ページから95ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第5回	授業テーマ	統計的仮説検定１（ 帰無仮説と対立仮説, 有意水準）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計的仮説検定の考え方を, 有意水準, 帰無仮説, 対立仮説等の用語の説明の後, 具体的な事例を通して学ぶ。第４回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書76ページから77ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分

第6回	授業テーマ	統計的仮説検定２（両側検定と片側検定, p値, 第一種の過誤と第二種の過誤）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	具体的な事例を通して, 両側検定および片側検定を学ぶ。その際, 検定統計量が棄却域に入ることとp値が有意水準より小さいことが同値であることを, p値の定義から説明する。 第一種の過誤と第二種の過誤についても説明する。Excelでデータ分析する。第５回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書78ページから85ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第7回	授業テーマ	統計的仮説検定３（大きな標本および小さな標本における母平均の検定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について, まずは母平均の検定を学ぶ。 Excelでデータ分析する。第６回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書98ページから99ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第8回	授業テーマ	統計的仮説検定４（大きな標本および小さな標本における母比率の検定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について, 次は母比率の検定を学ぶ。 Excelでデータ分析する。第７回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書100ページから101ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第9回	授業テーマ	統計的仮説検定５（母分散の検定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について, 最後に母分散の検定（母平均既知, 未知の場合）を学ぶ。 Excelでデータ分析する。第８回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
	授業テーマ	統計的推定と統計的仮説検定を使ったデータ分析, 中間テスト

第10回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今ままで行ってきた１つの母集団の母数に関する統計的推定および統計的仮説検定を活用した種々のデータ分析をExcelやRを用いて行い, 結果を記述する。第９回の理解度を確かめるための小テストを行う。中間テストも行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：第1回から第8回までに扱った事項および問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第11回	授業テーマ	統計的仮説検定６（母平均の差の検定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	２つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について, まずは母平均の差の検定（分散既知, 分散未知であるが等分散, 分散未知で分散が等しいとは限らない場合）を学ぶ。Excelでデータ分析する。第１０回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第12回	授業テーマ	統計的仮説検定８（母比率の差の検定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	２つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について, 最後に母比率の差の検定を学ぶ。Excelでデータ分析する。第１１回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
第13回	授業テーマ	統計的仮説検定９（一元配置分散分析）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	３つ以上の母集団の母数に関する仮説検定の方法について, 母平均の差の検定である一元配置分散分析を学ぶ。Excelでデータ分析する。第１２回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書102ページから103ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分
	授業テーマ	統計的仮説検定１０（適合度検定, 独立性の検定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	適合度検定と独立性の検定を学ぶ。第１３回目の理解を確かめるための

第14回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小テストを行う。Excelでデータ分析する。第１５回目に期末テストおよびその振り返りを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	予習70分, 復習130分

学生へのフィードバック方法

復習で扱う演習問題(課題)について, 毎回回収してチェックをする。また, 第２回以降毎回行う小テストとルーブリックを用いた学生自身の自己評価により, 学修成果を可視化し学びの深化を支援したい。質問は町田キャンパスの1625研究室（emailも可：k-shinkai@kasei-gakuin.ac.jp）あるいはZoom等で対応する。遠慮せず声をかけてほしい。

評価方法

１．中間テストおよび定期テスト（期末テスト）60点
中間テストや定期テスト（期末テスト）は, 各回で学習した内容の類題を出題する。中間テストで出題した内容は定期テストには出題しない。テスト中の教科書や参考書の持ち込みは不可とする。

２．課題 30点
毎回の復習で取り組む演習問題（課題）への取り組みおよび小テストを評価する。

３. ルーブリックを用いた自己評価 10点
ルーブリックを用いた自己評価を評価する。

＊中間テスト, 定期テスト, 課題, ルーブリックを用いた自己評価は, 下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間テスト	○			
定期テスト（期末テスト）	○			
課題	○	○		○
ルーブリックを用いた自己評価	○			○

評価割合

中間テスト(30%), 期末テスト(30%), 課題(30%), ルーブリックを用いた自己評価(10%)

使用教科書名(ISBN番号)

統計学の図鑑（ISBN:978-4-7741-7331-3）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を, 統計学的な知識をもって理解し, あるべき姿を的確に思考・判断することができる。

【技能・表現】学修で得た統計学的知識・技術をもって人間社会や自然の中にみえる課題を発見し, その課題を論理的に分析・統合・表現することで, 他者との共感を創り出すことができる。

オフィスアワー

前期：水曜日 12：30～14：00
後期：水曜日 12: 30～14：00

学生へのメッセージ

統計学は, 授業のみでは理解した気になるだけで身につかない。予習と復習を通して, 自らの頭と手を動かして計算し学んだことを活用することが大事である。授業は丁寧に説明したいと思うが, 理解できない部分は, 遠慮せず質問し, 主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	統計を学修するということは, 情報リテラシーを向上させることにつながる。
ICT活用		

講義コード	G50206031
講義名	情報論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	田中 康裕	指定なし

ナンバリング

X13160C21

授業概要(教育目的)

情報を処理する機械としてのコンピュータを対象にして、情報に関する基礎的なことを学ぶ。そして、情報の表現方法や問題を解決するためのモデル化について考える。また、コンピュータで情報を処理する上での考え方を学び、情報を処理する方法の基礎を理解する。それは明確な手続きであるアルゴリズムを理解することにつながり、アルゴリズムを評価することによって情報を処理する効率について考えることができる。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	コンピュータの観点から情報の基本的特性を十分説明することができるようになること
思考・判断の観点 (K)	数理的な観点から論理的に問題を解決する方法を考えることができるようになること
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

情報論

	授業テーマ	情報とは（ガイダンスを含む）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第1回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報科学の概念から『情報とは何か？』を学ぶ。また、講義ガイダンスとして、Google Classroomを利用した講義資料の配付方法等を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Google classroomの利用方法等を説明するので、スマートフォンなどを学内WIFIに接続可能なように設定しておくことが望ましい。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第2回	授業テーマ	情報の定義と文字と画像の表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンピュータでは、文字や画像、動画、音声など様々な情報を扱うことができる。この情報の定義と、コンピュータ上で様々な情報を取り扱うために必要となる2進数について学ぶ。また、文字や色をコンピュータで取り扱うための文字コードや色コードを例にして、コンピュータで情報を扱うためのコード化（デジタル化）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心に10進数と2進数の変換などの解き方を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第3回	授業テーマ	グラフによるモデル化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	数学的に現実世界の様々な問題を解決するための第一歩は、問題を単純化するモデル化である。モデル化の理論の1つであるグラフ理論について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心にグラフ理論によるモデル化の方法を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第4回	授業テーマ	数学的解決①：線形計画法と待ち行列
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現実世界の問題を数学的に解決するために、様々な論理・技法が考え出されている。現実世界の問題を数式を使って解決する線形計画法と待ち行列について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。講義内で行った課題を中心に線形計画法の連立方程式や待ち行列の計算式の解き方を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分

第5回	授業テーマ	数学的解決②：ゲーム理論と日程計画問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現実世界の問題を数学的に解決するために、様々な論理・技法が考え出されている。現実世界の問題をグラフや図を使って解決するゲーム理論と日程計画問題について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心にゲーム理論の考え方や日程計画法の図の作り方を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第6回	授業テーマ	データの処理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データに処理を行うことにより、様々な意味づけや解釈を行うことができるようになる。このようなデータの処理や意味解釈の方法論を代表値や簡単な統計解析の事例を基に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料で分からない用語を確認し予習をすること。また、講義内で行った課題を代表値の意味や相関分析の解釈の仕方などを復習すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第7回	授業テーマ	オブジェクト指向によるシステムのモデル化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現実世界にある業務や遊び全体など、システムをモデリングするための手法を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料で分からない用語を確認し予習をすること。また、講義内で行った課題を中心に講義内で取り扱ったモデリング技法の特徴を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第8回	授業テーマ	アルゴリズム
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンピュータが問題を解決するための手順やプロセスをまとめた者がアルゴリズムである。アルゴリズムとは何かを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、アルゴリズムとは何かを予習しておくこと。また、講義内で行った課題を中心にアルゴリズムとは何か復習すること。

	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第9回	**授業テーマ**	アルゴリズムの評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現実世界の問題を解くためのアルゴリズムは、1つだけではなく、考え方や解き方によって複数存在する。このようなアルゴリズムの評価の方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心にアルゴリズムの評価方法を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第10回	**授業テーマ**	アルゴリズムの基礎
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	問題を解決するためのアルゴリズムを作成するためには、基礎となるいくつかの技法・理論がある。この基礎となる理論・技法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心にアルゴリズムの基礎理論とその理論に基づくアルゴリズムの特徴を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第11回	**授業テーマ**	基本ソフトウェアと応用ソフトウェア
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンピュータを動作させる基礎となる基本ソフトウェア（OS）や様々な役割を果たす応用ソフトウェア（アプリケーションソフト）について、学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心に基本ソフト・応用ソフトの特徴や役割を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第12回	**授業テーマ**	情報伝達の仕組み
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代社会では、ネットワークを通じて、様々な情報のやり取りを行う。このネットワークを通じて情報をやり取りするための仕組みを、OSI基本参照モデルを通じて学ぶ。
	教室外学	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内

	習(予習・復習)の内容	で行った課題を中心にOIS基本参照モデルの各階層の特徴や役割を復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習：90分 復習：100分
第13回	**授業テーマ**	情報処理の歴史
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報処理の歴史について、コンピュータの開発から発展にかけて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、コンピュータ開発の歴史から発展の経緯について復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習：90分 復習：120分
第14回	**授業テーマ**	言語の定義と解釈、学習到達度の確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンピュータが人間の言語を理解するために必要な、言語を定義する方法と言語を解釈するコンピュータの仕組を学ぶ。またこの言語の定義と言語解釈の仕組みを基にして作られた様々なプログラミング言語についても講義する。 また、学習到達度の確認テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料で分からない用語を確認し予習をすること。また、講義で行った課題を中心にコンピュータが言語を解釈する仕組みやプログラミング言語の特徴を復習すること。授業全体の内容について復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習：120分 復習：90分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。講義資料をGoogle classroomを使って配布する。Google classroom及び学内WiFiを利用できるように環境を整えておくこと。

学生へのフィードバック方法

授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・各回講義において、講義内容の理解度や知識の定着をはかるための課題を実施する。
・定期試験は 30点満点で出題し、講義で説明した知識の理解度、また、理論・手法に基づいて問題を解く思考力を測る。
・定期試験は成績評価への割合は30%であるが、定期試験の成績が著しく不良の場合には、不可とする場合がある。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。
初回の授業でルーブリックについて説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
受講状況・学習態度			○	
課題	○	○		
定期試験	○	○		

評価割合

受講状況・学習態度（10%）、課題（60%）、定期試験（30%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

教科書は指定しない。Google classroomを使って、事前に講義資料を配付する。

参考図書

矢沢 久雄: 情報はなぜビットなのか---知っておきたいコンピュータと情報処理の基礎知識，日経BP 社 (2006)

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】情報科学に関する基礎的な概念や専門的知識を身につけている
【思考・判断】情報科学の基本的な概念や論理に基づいて論理的判断・思考力を身につけている。
【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。

オフィスアワー

非常勤のため、出校は水曜日1～3限のみ。これ以外の時間はメール（y.tanaka@kasei-gakuin.ac.jp）で質問等を受け付ける。

学生へのメッセージ

情報学の基本は論理性と手順にあります.。一見難しく思えるかもしれませんが、じっくりと取り組んで下さい。
また、「コンピュータ概論」の履修を希望する場合には、本講義を履修することが望まれる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	情報科学の観点から情報の基本的特性を十分説明することができ、かつ数理的な観点から論理的に問題を解決する方法を考えることができる能力を養う
情報リテラシー教育	○	情報学の基礎的な知識を基に、単にICT機器を使いこなすだけではなく、様々なメディアを利活用するための能力を養う
ICT活用	○	情報科学に関する専門的な知識を基にICT機器を活用する能力を養う

講義コード	G50207001
講義名	コンピュータ概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13180M21

授業概要(教育目的)

コンピュータについてハードウェアの構成を学び、コンピュータの特徴を理解する。そして、その構成と特徴に基づいてコンピュータが計算する仕組みを考えていく。また、コンピュータを動かす基本的なソフトウェアであるオペレーティングシステムについても学ぶ。オペレーティングシステムが、ハードウェアを有効に使って複数の処理を行い、情報をファイルとして管理していることを理解する。

履修条件

情報論を履修済みであることが望ましい。
パソコン室のコンピュータを利用できること。また，@kasei-gakuin.ac.jp Gmail など、大学が用意しているネットワークサービスを利用できること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	コンピュータや情報システムに関する基礎的な概念を十分に理解すること コンピュータの計算に関する基礎的な知識と考え方を理解すること
思考・判断の観点 (K)	数理的な思考に基づいて論理的に判断する能力を養うこと
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

コンピュータ概論

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	講義内容・講義の進め方等について説明を行う。また、Google classroomを利用した講義資料の配付方法等について説明を行う。

	教室外学習(予習・復習)の内容	Google classroomの利用方法等を説明するので、スマートフォンなどを学内WIFIに接続可能なように設定しておくことが望ましい。
	教室外学習の時間（分）	予習：60分 復習：100分
第2回	授業テーマ	情報システムのイメージ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	講義全体を通してテーマとなる『情報システム』とは何か？、また、情報システムが取り扱う『情報』とはどのような概念なのか、その概念や定義、目的などについて学習する
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料で情報の概念を予習をすること。また、講義内で行った課題を中心に情報や情報システムの概念を復習し理解すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第3回	授業テーマ	情報を処理する仕組みとその改善
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報システムが実際にどのように情報を処理していくのか、システムの成り立ちから、情報処理の仕組み、システムの改善について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認しアーキテクチャやアルゴリズムなど専門用語を予習すること。また、講義内で行った課題を中心に情報処理の仕組みを復習し理解すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第4回	授業テーマ	コンピュータシステムの機能と性能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報システムを構成するコンピュータについて、コンピュータを構成する主要部品について、機能や役割を理解し、その性能指標を学ぶ。また、この知識に基づいて目的に適したコンピュータなどを選定できる知識を習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、わからない専門用語を予習すること。また、講義内で行った課題を中心にコンピュータを構成する主要部品の役割を復習し理解すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第5回	授業テーマ	コンピュータの導入とアーキテクチャ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報システムを構成するために必要な機器を選定するために必要な知識や選定の手順を学ぶ。また、選定の基準となる機能や性能と密接に関わるアーキテクチャについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、アーキテクチャについて予習すること。また、講義内で行った課題を中心にコンピュータの機能とアーキテクチャの関係を復習し理解すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
	授業テーマ	コンピュータの構成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報	人間が行う命令や指示をコンピュータが理解するためには、『機械

第6回	ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	語』と呼ばれる 進数で表現されるコンピュータ言語が必要になる。この機械語とは何か、また機械語の命令をコンピュータにどのように処理するのかをKUE-CHIP2を例に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、機械語の前提となる2進数について予習をすること。また、講義内で行った課題を中心に機械語によるコンピュータへの命令文の内容を復習し理解すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第7回	授業テーマ	プログラムの内蔵方式
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンピュータは、データを記録する装置である「メモリ」にあらかじめプログラムを記録しておき、その記録されたプログラムを実行することで命令を処理することができる。このコンピュータにあらかじめ内蔵されれたプログラムの実行手順を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した第6回の講義資料を確認し、機械語の命令文の原則や処理手順を復習すること。また、講義内で行った課題を中心にジャンプ命令の内容を復習し理解すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第8回	授業テーマ	実行順序を変える命令
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンピュータがより複雑な機械語の命令文を処理する手順を、実行順を変える命令文（ジャンプ命令）を例に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した第6・7回の講義資料を確認し、機械語の命令文の原則や処理手順を復習すること。また、講義内で行った課題を中心にジャンプ命令の内容を復習し理解すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第9回	授業テーマ	ループ処理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンピュータがより複雑な機械語の命令文を処理する手順を、命令を繰り返す処理（ループ命令）を例に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した第8回の講義資料を確認し、ループ命令について復習し理解しておくこと。また、講義内で行った課題を中心にループ命令の処理手順を復習し理解すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第10回	授業テーマ	条件によって分岐先を変えるプログラム
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ループ命令は延々と命令を繰り返し、終了することがない。そこで、ループ命令を終了させるために、条件を設定して、その条件によって命令を繰り返すか、終了するか分岐する方法が考案された。この条件によって分岐先を変えるプログラムについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した第8回の講義資料を確認し、ループ命令について復習し理解しておくこと。また、講義内で行った課題を中心にZero Flagを組み込んだジャンプ命令の処理手順を復習し理解すること。

	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第11回	授業テーマ	オペレーティングシステムとプログラム
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンピュータを機能させるためには、オペレーティングシステム（OS）が必要となる。このOSの役割を理解し、現在のコンピュータがより複雑で膨大なプログラムをどのように処理しているのかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、OSとは何かについて予習し、分からない専門用語などを調べておくこと。また、講義内で行った課題を中心にOSの役割を整理し理解すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第12回	授業テーマ	メモリ管理とファイル管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オペレーティングシステムの重要な役割であるメモリ管理とファイル管理について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、OSの役割について予習し、分からない専門用語などを調べておくこと。また、講義内で行った課題を中心にメモリの断片化の発生メカニズムやファイル管理システムを復習し理解すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第13回	授業テーマ	情報ネットワークの環境
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代社会では、ネットワークを通じて、様々な情報のやり取りを行う。このネットワークを通じて情報をやり取りするための仕組みを、OSI基本参照モデルを通じて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心にOIS基本参照モデルの各階層の特徴や役割を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第14回	授業テーマ	情報セキュリティ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報システムを運用する上で情報セキュリティが大きな課題となっている。近年多発する情報の漏えいや情報システムのトラブル事例などを通して情報セキュリティの役割や重要性を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、情報漏えいやシステムトラブルの事例を調べておくこと。また、講義内で行った課題を中心に情報システムのトラブルと対応策について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：120分
	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	

第15回	を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。講義資料をGoogle classroomを使って配布する。Google classroom及び学内WiFiを利用できるように環境を整えておくこと。

学生へのフィードバック方法

授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・各回講義において、講義内容の理解度や知識の定着をはかるための課題を実施する。
・定期試験は 30点満点で出題し、講義で説明した知識の理解度、また、理論・手法に基づいて問題を解く思考力を測る。
・定期試験は成績評価への割合は30%であるが、定期試験の成績が著しく不良の場合には、不可とする場合がある。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。
初回の授業でルーブリックについて説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
課題	○	○		
定期試験	○	○		

評価割合

受講状況・学習態度 (10 %) ， 課題 (60 %) ， 試験 (30 %) などを総合的に評価する.

使用教科書名(ISBN番号)

教科書は指定しない。Google classroomを使って、事前に講義資料を配付する。

参考図書

神沼 靖子，和田 勉，冨澤 眞樹 著，神沼 靖子 監修: 情報システムのためのコンピュータと基本システム，共立出版 (2005)

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】コンピュータや情報システムに関する基礎的な概念や専門的知識を身につけている。
【思考・判断】数理的思考に基づいて論理的判断・思考力を身につけている。
【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。

オフィスアワー

非常勤のため、出講は月曜日1限のみ。これ以外の時間はメール (y.tanaka@kasei-gakuin.ac.jp) で質問等を受け付ける。

学生へのメッセージ

コンピュータの基礎は計算にある。
なお、この講義では復習しないと理解が定着しない。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	コンピュータの観点から情報の基本的特性を十分説明することができ、かつ数理的な観点から論理的に問題を解決する方法を考えることができるようにする
情報リテラシー教育	○	利用者の視点からだけではなく、開発者や運用者の視点から情報セキュリティについて理解し、自らメディアを利活用するだけではなく、他者に啓蒙できる能力を養う
ICT活用	○	コンピュータのを構成する要素に関する基礎的な概念や役割を理解することで、より専門的にICTを利活用できる能力を養う

講義コード	G50207031
講義名	コンピュータ概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	田中　康裕	指定なし

ナンバリング

X13180M21

授業概要(教育目的)

コンピュータについてハードウェアの構成を学び、コンピュータの特徴を理解する。そして、その構成と特徴に基づいてコンピュータが計算する仕組みを考えていく。また、コンピュータを動かす基本的なソフトウェアであるオペレーティングシステムについても学ぶ。オペレーティングシステムが、ハードウェアを有効に使って複数の処理を行い、情報をファイルとして管理していることを理解する。

履修条件

情報論を履修済みであることが望ましい。
パソコン室のコンピュータを利用できること。また，@kasei-gakuin.ac.jp Gmail など、大学が用意しているネットワークサービスを利用できること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	コンピュータや情報システムに関する基礎的な概念を十分に理解すること コンピュータの計算に関する基礎的な知識と考え方を理解すること
思考・判断の観点 (K)	数理的な思考に基づいて論理的に判断する能力を養うこと
関心・意欲・態度の観点 (V)	学習した知識を基に積極的にICTの活用や情報セキュリティ対策を行う能力を養うこと
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

コンピュータ概論

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	講義内容・講義の進め方等について説明を行う。また、Google classroomを利用した講義資料の配付方法等について説明を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Google classroomの利用方法等を説明するので、スマートフォンなどを学内WIFIに接続可能なように設定しておくことが望ましい。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第2回	授業テーマ	情報システムのイメージ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	講義全体を通してテーマとなる『情報システム』とは何か？、また、情報システムが取り扱う『情報』とはどのような概念なのか、その概念や定義、目的などについて学習する
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料で情報の概念を予習をすること。また、講義内で行った課題を中心に情報や情報システムの概念を復習し理解すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第3回	授業テーマ	情報を処理する仕組みとその改善
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報システムが実際にどのように情報を処理していくのか、システムの成り立ちから、情報処理の仕組み、システムの改善について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認しアーキテクチャやアルゴリズムなど専門用語を予習すること。また、講義内で行った課題を中心に情報処理の仕組みを復習し理解すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第4回	授業テーマ	コンピュータシステムの機能と性能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報システムを構成するコンピュータについて、コンピュータを構成する主要部品について、機能や役割を理解し、その性能指標を学ぶ。また、この知識に基づいて目的に適したコンピュータなどを選定できる知識を習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、わからない専門用語を予習すること。また、講義内で行った課題を中心にコンピュータを構成する主要部品の役割を復習し理解すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第5回	授業テーマ	コンピュータの導入とアーキテクチャ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報システムを構成するために必要な機器を選定するために必要な知識や選定の手順を学ぶ。また、選定の基準となる機能や性能と密接に関わるアーキテクチャについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、アーキテクチャについて予習すること。また、講義内で行った課題を中心にコンピュー

	容	タの機能とアーキテクチャの関係を復習し理解すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第6回	授業テーマ	コンピュータの構成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人間が行う命令や指示をコンピュータが理解するためには、『機械語』と呼ばれる2進数で表現されるコンピュータ言語が必要になる。この機械語とは何か、また機械語の命令をコンピュータにどのように処理するのかをKUE-CHIP2を例に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、機械語の前提となる2進数について予習をすること。また、講義内で行った課題を中心に機械語によるコンピュータへの命令文の内容を復習し理解すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第7回	授業テーマ	プログラムの内蔵方式
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンピュータは、データを記録する装置である「メモリ」にあらかじめプログラムを記録しておき、その記録されたプログラムを実行することで命令を処理することができる。このコンピュータにあらかじめ内蔵されれたプログラムの実行手順を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した第6回の講義資料を確認し、機械語の命令文の原則や処理手順を復習すること。また、講義内で行った課題を中心にジャンプ命令の内容を復習し理解すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第8回	授業テーマ	実行順序を変える命令
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンピュータがより複雑な機械語の命令文を処理する手順を、実行順を変える命令文（ジャンプ命令）を例に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した第6・7回の講義資料を確認し、機械語の命令文の原則や処理手順を復習すること。また、講義内で行った課題を中心にジャンプ命令の内容を復習し理解すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第9回	授業テーマ	ループ処理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンピュータがより複雑な機械語の命令文を処理する手順を、命令を繰り返す処理（ループ命令）を例に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した第8回の講義資料を確認し、ループ命令について復習し理解しておくこと。また、講義内で行った課題を中心にループ命令の処理手順を復習し理解すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
	授業テーマ	条件によって分岐先を変えるプログラム
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	ループ命令は延々と命令を繰り返し、終了することがない。そこで、ループ命令を終了させるために、条件を設定して、その条件によって

第10回	育・ICT活用を含む)	命令を繰り返すか、終了するか分岐する方法が考案された。この条件によって分岐先を変えるプログラムについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した第8回の講義資料を確認し、ループ命令について復習し理解しておくこと。また、講義内で行った課題を中心にZero Flagを組み込んだジャンプ命令の処理手順を復習し理解すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第11回	授業テーマ	オペレーティングシステムとプログラム
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンピュータを機能させるためには、オペレーティングシステム（OS）が必要となる。このOSの役割を理解し、現在のコンピュータがより複雑で膨大なプログラムをどのように処理しているのかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、OSとは何かについて予習し、分からない専門用語などを調べておくこと。また、講義内で行った課題を中心にOSの役割を整理し理解すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第12回	授業テーマ	メモリ管理とファイル管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オペレーティングシステムの重要な役割であるメモリ管理とファイル管理について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、OSの役割について予習し、分からない専門用語などを調べておくこと。また、講義内で行った課題を中心にメモリの断片化の発生メカニズムやファイル管理システムを復習し理解すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第13回	授業テーマ	情報ネットワークの環境
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代社会では、ネットワークを通じて、様々な情報のやり取りを行う。このネットワークを通じて情報をやり取りするための仕組みを、OSI基本参照モデルを通じて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心にOIS基本参照モデルの各階層の特徴や役割を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：120分
第14回	授業テーマ	情報セキュリティと学習到達度の確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報システムを運用する上で情報セキュリティが大きな課題となっている。近年多発する情報の漏えいや情報システムのトラブル事例などを通して情報セキュリティの役割や重要性を学ぶ。 また、学習到達度の確認テストを実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、情報漏えいやシステムトラブルの事例を調べておくこと。また、講義内で行った課題を中心に情報システムのトラブルと対応策について復習すること。
	教室外学習の	予習：120分

	時間（分）	復習：90分
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。講義資料をGoogle classroomを使って配布する。Google classroom及び学内WiFiを利用できるように環境を整えておくこと。

学生へのフィードバック方法

授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・各回講義において、講義内容の理解度や知識の定着をはかるための課題を実施する。
・定期試験は 30点満点で出題し、講義で説明した知識の理解度、また、理論・手法に基づいて問題を解く思考力を測る。
・定期試験は成績評価への割合は30%であるが、定期試験の成績が著しく不良の場合には、不可とする場合がある。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。
初回の授業でルーブリックについて説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
課題	○	○		
定期試験	○	○		

評価割合

受講状況・学習態度 (10 %) ， 課題 (60 %) ， 試験 (30 %) などを総合的に評価する.

使用教科書名(ISBN番号)

教科書は指定しない。Google classroomを使って、事前に講義資料を配付する。

参考図書

神沼 靖子，和田 勉，冨澤 眞樹 著，神沼 靖子 監修: 情報システムのためのコンピュータと基本システム，共立出版 (2005)

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】コンピュータや情報システムに関する基礎的な概念や専門的知識を身につけている。

【思考・判断】数理的思考に基づいて論理的判断・思考力を身につけている。
【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。

オフィスアワー

非常勤のため、出講は水曜日1～3限のみ。これ以外の時間はメール（y.tanaka@kasei-gakuin.ac.jp）で質問等を受け付ける。

学生へのメッセージ

コンピュータの基礎は計算にある。
なお、この講義では復習しないと理解が定着しない。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	コンピュータの観点から情報の基本的特性を十分説明することができ、かつ数理的な観点から論理的に問題を解決する方法を考えることができるようにする
情報リテラシー教育	○	利用者の視点からだけではなく、開発者や運用者の視点から情報セキュリティについて理解し、自らメディアを利活用するだけではなく、他者に啓蒙できる能力を養う
ICT活用	○	コンピュータを構成する要素に関する基礎的な概念や役割を理解することで、より専門的にICTを利活用できる能力を養う

講義コード	G50208001
講義名	コンピュータ演習ａ（P：月2）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	千葉 一博	指定なし

ナンバリング

X11050M12

授業概要(教育目的)

学内の情報ネットワークに接続したパソコンで、文書やプレゼンテーションを作成する演習に取り組む。演習により、コンピュータを自ら利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できるようになることを目指す。タイピングやメールの送受信を練習することから始め、文書作成ソフトウェアで文章を入力して適切に編集することに取り組む。また、図表を処理する技術も演習を通して身に付ける。さらに、プレゼンテーション作成ソフトウェアでスライドを作成し、プレゼンテーション全体を適切に編集することにも取り組む。

履修条件

大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントを持っていること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できる。

学習計画

コンピュータ演習ａ

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	毎回、パソコン室の PC を使用して文書やプレゼンテーションの作成に関して演習する。

第1回	**報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	まずは授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 学習目標・計画や評価方法を確認すること 準備: USB メモリを用意すること
	教室外学習の時間（分）	10
第2回	**授業テーマ**	タイピング入門
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にタイピングを練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: タイピングを練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	**授業テーマ**	メールの送受信・文章入力練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にメールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: メールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	**授業テーマ**	簡単な文書の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に簡単な文書を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文書の作成について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	**授業テーマ**	ページと編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者がページに関することを理解し、能動的に文書の編集技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: ページや文書の編集について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	**授業テーマ**	文書の作成練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に文書の作成練習をする。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文書の作成について練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	**授業テーマ**	文字飾り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に文字飾りに関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文字飾りについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	オブジェクトの挿入
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	学修者が能動的にオブジェクの挿入に関する技術を身に

第8回	**報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	つける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: オブジェクトについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	**授業テーマ**	図形入力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に図形入力に関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 図形について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	**授業テーマ**	表の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に表を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表について練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	**授業テーマ**	高度な表の作成・罫線処理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に高度な表の作成技術や罫線処理の技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表や罫線について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	**授業テーマ**	プレゼンテーション作成入門
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にプレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: プレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	プレゼンテーションの編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にプレゼンテーションを編集する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: プレゼンテーションの編集について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	**授業テーマ**	プレゼンテーションの作成練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指定する事柄に関するプレゼンテーションの作成練習を学修者が能動的に行って完成させる。演習結果を提出する。 実技の定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 指定する事柄に関するプレゼンテーションの構成を考えて作成しておくこと 授業全体の内容について復習すること
	教室外学習の時間（分）	125

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、文書の作成を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力

オフィスアワー

木曜 12:30-14:00 1411研究室
早朝・深夜を除き、メールでも相談に応じる。
必要であれば、日時を調整してオンラインで対応する。

学生へのメッセージ

文書やプレゼンテーションの作成に関する基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、文書やプレゼンテーションの作成能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報のアウトプットに関する利活用能力を養成する。

ICT活用		

講義コード	G50208002
講義名	コンピュータ演習ａ（M生・住：月3）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	千葉 一博	指定なし

ナンバリング

X11050M12

授業概要(教育目的)

学内の情報ネットワークに接続したパソコンで、文書やプレゼンテーションを作成する演習に取り組む。演習により、コンピュータを自ら利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できるようになることを目指す。タイピングやメールの送受信を練習することから始め、文書作成ソフトウェアで文章を入力して適切に編集することに取り組む。また、図表を処理する技術も演習を通して身に付ける。さらに、プレゼンテーション作成ソフトウェアでスライドを作成し、プレゼンテーション全体を適切に編集することにも取り組む。

履修条件

大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントを持っていること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できる。

学習計画

コンピュータ演習ａ

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	毎回、パソコン室の PC を使用して文書やプレゼンテーションの作成に関して演習する。

第1回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	まずは授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 学習目標・計画や評価方法を確認すること 準備: USB メモリを用意すること
	教室外学習の時間（分）	10
第2回	授業テーマ	タイピング入門
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にタイピングを練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: タイピングを練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	授業テーマ	メールの送受信・文章入力練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にメールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: メールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	授業テーマ	簡単な文書の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に簡単な文書を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文書の作成について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	授業テーマ	ページと編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者がページに関することを理解し、能動的に文書の編集技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: ページや文書の編集について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	授業テーマ	文書の作成練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に文書の作成練習をする。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文書の作成について練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	授業テーマ	文字飾り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に文字飾りに関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文字飾りについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	オブジェクトの挿入
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	学修者が能動的にオブジェクの挿入に関する技術を身に

第8回	**報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	つける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: オブジェクトについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	**授業テーマ**	図形入力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に図形入力に関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 図形について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	**授業テーマ**	表の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に表を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表について練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	**授業テーマ**	高度な表の作成・罫線処理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に高度な表の作成技術や罫線処理の技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表や罫線について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	**授業テーマ**	プレゼンテーション作成入門
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にプレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: プレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	プレゼンテーションの編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にプレゼンテーションを編集する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: プレゼンテーションの編集について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	**授業テーマ**	プレゼンテーションの作成練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指定する事柄に関するプレゼンテーションの作成練習を学修者が能動的に行って完成させる。演習結果を提出する。 実技の定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 指定する事柄に関するプレゼンテーションの構成を考えて作成しておくこと 授業全体の内容について復習すること
	教室外学習の時間（分）	125

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、文書の作成を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力

オフィスアワー

木曜 12:30-14:00 1411研究室
早朝・深夜を除き、メールでも相談に応じる。
必要であれば、日時を調整してオンラインで対応する。

学生へのメッセージ

文書やプレゼンテーションの作成に関する基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、文書やプレゼンテーションの作成能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報のアウトプットに関する利活用能力を養成する。

ICT活用		

講義コード	G50208003
講義名	コンピュータ演習ａ（P：水2）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	千葉 一博	指定なし

ナンバリング

X11050M12

授業概要(教育目的)

学内の情報ネットワークに接続したパソコンで、文書やプレゼンテーションを作成する演習に取り組む。演習により、コンピュータを自ら利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できるようになることを目指す。タイピングやメールの送受信を練習することから始め、文書作成ソフトウェアで文章を入力して適切に編集することに取り組む。また、図表を処理する技術も演習を通して身に付ける。さらに、プレゼンテーション作成ソフトウェアでスライドを作成し、プレゼンテーション全体を適切に編集することにも取り組む。

履修条件

大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントを持っていること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できる。

学習計画

コンピュータ演習ａ

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	毎回、パソコン室の PC を使用して文書やプレゼンテーションの作成に関して演習する。

第1回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	まずは授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 学習目標・計画や評価方法を確認すること 準備: USB メモリを用意すること
	教室外学習の時間（分）	10
第2回	授業テーマ	タイピング入門
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にタイピングを練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: タイピングを練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	授業テーマ	メールの送受信・文章入力練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にメールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: メールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	授業テーマ	簡単な文書の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に簡単な文書を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文書の作成について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	授業テーマ	ページと編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者がページに関することを理解し、能動的に文書の編集技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: ページや文書の編集について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	授業テーマ	文書の作成練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に文書の作成練習をする。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文書の作成について練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	授業テーマ	文字飾り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に文字飾りに関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文字飾りについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	オブジェクトの挿入
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	学修者が能動的にオブジェクの挿入に関する技術を身に

第8回	**報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	つける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: オブジェクトについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	**授業テーマ**	図形入力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に図形入力に関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 図形について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	**授業テーマ**	表の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に表を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表について練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	**授業テーマ**	高度な表の作成・罫線処理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に高度な表の作成技術や罫線処理の技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表や罫線について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	**授業テーマ**	プレゼンテーション作成入門
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にプレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: プレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	プレゼンテーションの編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にプレゼンテーションを編集する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: プレゼンテーションの編集について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	**授業テーマ**	プレゼンテーションの作成練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指定する事柄に関するプレゼンテーションの作成練習を学修者が能動的に行って完成させる。演習結果を提出する。 実技の定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 指定する事柄に関するプレゼンテーションの構成を考えて作成しておくこと 授業全体の内容について復習すること
	教室外学習の時間（分）	125

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、文書の作成を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力

オフィスアワー

木曜 12:30-14:00 1411研究室
早朝・深夜を除き、メールでも相談に応じる。
必要であれば、日時を調整してオンラインで対応する。

学生へのメッセージ

文書やプレゼンテーションの作成に関する基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、文書やプレゼンテーションの作成能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報のアウトプットに関する利活用能力を養成する。

ICT活用		

講義コード	G50208004
講義名	コンピュータ演習ａ（M生・住：水3）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	千葉 一博	指定なし

ナンバリング

X11050M12

授業概要(教育目的)

学内の情報ネットワークに接続したパソコンで、文書やプレゼンテーションを作成する演習に取り組む。演習により、コンピュータを自ら利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できるようになることを目指す。タイピングやメールの送受信を練習することから始め、文書作成ソフトウェアで文章を入力して適切に編集することに取り組む。また、図表を処理する技術も演習を通して身に付ける。さらに、プレゼンテーション作成ソフトウェアでスライドを作成し、プレゼンテーション全体を適切に編集することにも取り組む。

履修条件

大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントを持っていること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できる。

学習計画

コンピュータ演習ａ

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	毎回、パソコン室の PC を使用して文書やプレゼンテーションの作成に関して演習する。

第1回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	まずは授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 学習目標・計画や評価方法を確認すること 準備: USB メモリを用意すること
	教室外学習の時間（分）	10
第2回	授業テーマ	タイピング入門
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にタイピングを練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: タイピングを練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	授業テーマ	メールの送受信・文章入力練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にメールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: メールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	授業テーマ	簡単な文書の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に簡単な文書を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文書の作成について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	授業テーマ	ページと編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者がページに関することを理解し、能動的に文書の編集技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: ページや文書の編集について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	授業テーマ	文書の作成練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に文書の作成練習をする。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文書の作成について練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	授業テーマ	文字飾り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に文字飾りに関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文字飾りについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	オブジェクトの挿入
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	学修者が能動的にオブジェクの挿入に関する技術を身に

第8回	**報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	つける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: オブジェクトについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	**授業テーマ**	図形入力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に図形入力に関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 図形について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	**授業テーマ**	表の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に表を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表について練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	**授業テーマ**	高度な表の作成・罫線処理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に高度な表の作成技術や罫線処理の技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表や罫線について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	**授業テーマ**	プレゼンテーション作成入門
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にプレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: プレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	プレゼンテーションの編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にプレゼンテーションを編集する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: プレゼンテーションの編集について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	**授業テーマ**	プレゼンテーションの作成練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指定する事柄に関するプレゼンテーションの作成練習を学修者が能動的に行って完成させる。演習結果を提出する。 実技の定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 指定する事柄に関するプレゼンテーションの構成を考えて作成しておくこと 授業全体の内容について復習すること
	教室外学習の時間（分）	125

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、文書の作成を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力

オフィスアワー

木曜 12:30-14:00 1411研究室
早朝・深夜を除き、メールでも相談に応じる。
必要であれば、日時を調整してオンラインで対応する。

学生へのメッセージ

文書やプレゼンテーションの作成に関する基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、文書やプレゼンテーションの作成能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報のアウトプットに関する利活用能力を養成する。

ICT活用		

講義コード	G50208005
講義名	コンピュータ演習ａ（M食：水4）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	千葉 一博	指定なし

ナンバリング

X11050M12

授業概要(教育目的)

学内の情報ネットワークに接続したパソコンで、文書やプレゼンテーションを作成する演習に取り組む。演習により、コンピュータを自ら利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できるようになることを目指す。タイピングやメールの送受信を練習することから始め、文書作成ソフトウェアで文章を入力して適切に編集することに取り組む。また、図表を処理する技術も演習を通して身に付ける。さらに、プレゼンテーション作成ソフトウェアでスライドを作成し、プレゼンテーション全体を適切に編集することにも取り組む。

履修条件

大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントを持っていること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できる。

学習計画

コンピュータ演習ａ

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	毎回、パソコン室の PC を使用して文書やプレゼンテーションの作成に関して演習する。

第1回	**報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	まずは授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 学習目標・計画や評価方法を確認すること 準備: USB メモリを用意すること
	教室外学習の時間（分）	10
第2回	**授業テーマ**	タイピング入門
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にタイピングを練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: タイピングを練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	**授業テーマ**	メールの送受信・文章入力練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にメールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: メールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	**授業テーマ**	簡単な文書の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に簡単な文書を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文書の作成について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	**授業テーマ**	ページと編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者がページに関することを理解し、能動的に文書の編集技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: ページや文書の編集について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	**授業テーマ**	文書の作成練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に文書の作成練習をする。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文書の作成について練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	**授業テーマ**	文字飾り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に文字飾りに関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文字飾りについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	オブジェクトの挿入
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	学修者が能動的にオブジェクの挿入に関する技術を身に

第8回	**報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	つける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: オブジェクトについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	**授業テーマ**	図形入力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に図形入力に関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 図形について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	**授業テーマ**	表の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に表を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表について練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	**授業テーマ**	高度な表の作成・罫線処理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に高度な表の作成技術や罫線処理の技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表や罫線について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	**授業テーマ**	プレゼンテーション作成入門
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にプレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: プレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	プレゼンテーションの編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にプレゼンテーションを編集する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: プレゼンテーションの編集について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	**授業テーマ**	プレゼンテーションの作成練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指定する事柄に関するプレゼンテーションの作成練習を学修者が能動的に行って完成させる。演習結果を提出する。 実技の定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 指定する事柄に関するプレゼンテーションの構成を考えて作成しておくこと 授業全体の内容について復習すること
	教室外学習の時間（分）	125

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、文書の作成を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力

オフィスアワー

木曜 12:30-14:00 1411研究室
早朝・深夜を除き、メールでも相談に応じる。
必要であれば、日時を調整してオンラインで対応する。

学生へのメッセージ

文書やプレゼンテーションの作成に関する基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、文書やプレゼンテーションの作成能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報のアウトプットに関する利活用能力を養成する。

ICT活用		

講義コード	G50208006
講義名	コンピュータ演習ａ（M食：水5）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	千葉 一博	指定なし

ナンバリング

X11050M12

授業概要(教育目的)

学内の情報ネットワークに接続したパソコンで、文書やプレゼンテーションを作成する演習に取り組む。演習により、コンピュータを自ら利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できるようになることを目指す。タイピングやメールの送受信を練習することから始め、文書作成ソフトウェアで文章を入力して適切に編集することに取り組む。また、図表を処理する技術も演習を通して身に付ける。さらに、プレゼンテーション作成ソフトウェアでスライドを作成し、プレゼンテーション全体を適切に編集することにも取り組む。

履修条件

大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントを持っていること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できる。

学習計画

コンピュータ演習ａ

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	毎回、パソコン室の PC を使用して文書やプレゼンテーションの作成に関して演習する。

第1回	**報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	まずは授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 学習目標・計画や評価方法を確認すること 準備: USB メモリを用意すること
	教室外学習の時間（分）	10
第2回	**授業テーマ**	タイピング入門
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にタイピングを練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: タイピングを練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	**授業テーマ**	メールの送受信・文章入力練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にメールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: メールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	**授業テーマ**	簡単な文書の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に簡単な文書を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文書の作成について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	**授業テーマ**	ページと編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者がページに関することを理解し、能動的に文書の編集技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: ページや文書の編集について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	**授業テーマ**	文書の作成練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に文書の作成練習をする。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文書の作成について練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	**授業テーマ**	文字飾り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に文字飾りに関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文字飾りについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	オブジェクトの挿入
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	学修者が能動的にオブジェクの挿入に関する技術を身に

第8回	**報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	つける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: オブジェクトについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	**授業テーマ**	図形入力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に図形入力に関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 図形について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	**授業テーマ**	表の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に表を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表について練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	**授業テーマ**	高度な表の作成・罫線処理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に高度な表の作成技術や罫線処理の技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表や罫線について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	**授業テーマ**	プレゼンテーション作成入門
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にプレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: プレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	プレゼンテーションの編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にプレゼンテーションを編集する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: プレゼンテーションの編集について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	**授業テーマ**	プレゼンテーションの作成練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指定する事柄に関するプレゼンテーションの作成練習を学修者が能動的に行って完成させる。演習結果を提出する。 実技の定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 指定する事柄に関するプレゼンテーションの構成を考えて作成しておくこと 授業全体の内容について復習すること
	教室外学習の時間（分）	125

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、文書の作成を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力

オフィスアワー

木曜 12:30-14:00 1411研究室
早朝・深夜を除き、メールでも相談に応じる。
必要であれば、日時を調整してオンラインで対応する。

学生へのメッセージ

文書やプレゼンテーションの作成に関する基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、文書やプレゼンテーションの作成能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報のアウトプットに関する利活用能力を養成する。

ICT活用		

講義コード	G50208031
講義名	コンピュータ演習ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	田中 康裕	指定なし

ナンバリング

X10051C12

授業概要(教育目的)

学内の情報ネットワークに接続したパソコンで、文書やプレゼンテーションを作成する演習に取り組む。演習により、コンピュータを自ら利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できるようになることを目指す。タイピングやメールの送受信を練習することから始め、文書作成ソフトウェアで文章を入力して適切に編集することに取り組む。また、図表を処理する技術も演習を通して身につける。さらに、プレゼンテーション作成ソフトウェアでスライドを作成し、プレゼンテーション全体を適切に編集することにも取り組む。

履修条件

大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントを持っていること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	社会で求められるICT技術の利活用について理解する。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できる。

学習計画

コンピュータ演習a

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	毎回、PC を使用して文書やプレゼンテーションの作成に関して演習する。

第1回	**報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	まずは授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 学習目標・計画や評価方法を確認すること 準備: USB メモリを用意すること
	教室外学習の時間（分）	10
第2回	**授業テーマ**	タイピング入門
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にタイピングを練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: タイピングを練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	**授業テーマ**	メールの送受信・文章入力練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にメールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: メールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	**授業テーマ**	簡単な文書の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に簡単な文書を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文書の作成について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	**授業テーマ**	ページと編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者がページに関することを理解し、能動的に文書の編集技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ページや文書の編集について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	**授業テーマ**	文書の作成練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に文書の作成練習をする。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文書の作成について練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	**授業テーマ**	文字飾り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に文字飾りに関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文字飾りについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	オブジェクトの挿入
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	学修者が能動的にオブジェクの挿入に関する技術を身に

第8回	**報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	つける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	オブジェクトについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	**授業テーマ**	図形入力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に図形入力に関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図形について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	**授業テーマ**	表の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に表を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	表について練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	**授業テーマ**	高度な表の作成・罫線処理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に高度な表の作成技術や罫線処理の技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	表や罫線について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	**授業テーマ**	プレゼンテーション作成入門
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にプレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	プレゼンテーションの編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にプレゼンテーションを編集する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンテーションの編集について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	**授業テーマ**	プレゼンテーションの作成練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指定する事柄に関するプレゼンテーションの作成練習を学修者が能動的に行って完成させる。演習結果を提出する。 実技の定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 指定する事柄に関するプレゼンテーションの構成を考えて作成しておくこと 授業全体の内容について復習すること
	教室外学習の時間（分）	125

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや内容が変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、文書の作成を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。
初回の授業でルーブリックについて説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
受講状況・学習態度			○	
提出物	○			○
定期試験	○			○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特に教科書は使用しない。講義内で適宜プリントを配布。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会で求められるICT技術を学習を通じて人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、活用する能力
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力

オフィスアワー

非常勤のため、出講は水曜日1～3限のみ。これ以外の時間はメール（y.tanaka@kasei-gakuin.ac.jp）で質問等を受け付ける。

学生へのメッセージ

文書やプレゼンテーションの作成に関する基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、文書やプレゼンテーションの作成能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報のアウトプットに関する利活用能力を養成する。
		BYOD　Bring

ICT活用	○	大学では、学生自身が所有するパソコンの利用を前提（　　：Your Own Device)として講義が行われる。 コンピュータ演習a/bでは、レポートの作成など学生生活を送る上で、必須となるICTを活用するための能力・技能を養成する。

講義コード	G50208032
講義名	コンピュータ演習ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小野 由美子	指定なし

ナンバリング

X10050C12

授業概要(教育目的)

学内の情報ネットワークに接続したパソコンで、文書やプレゼンテーションを作成する演習に取り組む。演習により、コンピュータを自ら利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できるようになることを目指す。タイピングやメールの送受信を練習することから始め、文書作成ソフトウェアで文章を入力して適切に編集することに取り組む。また、図表を処理する技術も演習を通して身につける。さらに、プレゼンテーション作成ソフトウェアでスライドを作成し、プレゼンテーション全体を適切に編集することにも取り組む。

履修条件

ノートパソコンを必携とする授業である。
入学時に案内した必要なスペック（OSはWindows11など）を満たしていることが求められる。
情報処理センターではMacのサポートができないことから、授業でも対応しないので注意すること。
大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントも必要である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できる。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	毎回、パソコン室の PC を使用して文書やプレゼンテーションの作成に関して演習する。 まずは授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 学習目標・計画や評価方法を確認すること。 準備: USB メモリを用意すること。
	教室外学習の時間（分）	10
第2回	授業テーマ	タイピング入門
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にタイピングを練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: タイピングを練習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	授業テーマ	メールの送受信・文章入力練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にメールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: メールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	授業テーマ	簡単な文書の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に簡単な文書を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文書の作成について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	授業テーマ	ページと編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者がページに関することを理解し、能動的に文書の編集技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: ページや文書の編集について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	授業テーマ	文書の作成練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に文書の作成練習をする。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文書の作成について練習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	授業テーマ	文字飾り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に文字飾りに関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文字飾りについて復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45

第8回	授業テーマ	オブジェクトの挿入
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にオブジェクトの挿入に関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: オブジェクトについて復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	授業テーマ	図形入力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に図形入力に関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 図形について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	授業テーマ	表の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に表を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表について練習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	授業テーマ	高度な表の作成・罫線処理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に高度な表の作成技術や罫線処理の技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表や罫線について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	授業テーマ	プレゼンテーション作成入門
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にプレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: プレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	授業テーマ	プレゼンテーションの編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にプレゼンテーションを編集する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: プレゼンテーションの編集について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	授業テーマ	プレゼンテーションの作成練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指定する事柄に関するプレゼンテーションの作成練習を学修者が能動的に行って完成させる。演習結果を提出する。 実技の定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 指定する事柄に関するプレゼンテーションの構成を考えて作成しておくこと。 授業全体の内容について復習すること。

	教室外学習の時間（分）	125

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや内容が変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、文書の作成を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力

オフィスアワー

【前期】水曜日 1701ゼミ室 12：40～14：40

学生へのメッセージ

文書やプレゼンテーションの作成に関する基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、文書やプレゼンテーションの作成能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報のアウトプットに関する利活用能力を養成する。

ICT活用		

講義コード	G50208033
講義名	コンピュータ演習ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小野 由美子	指定なし

ナンバリング

X10050C12

授業概要(教育目的)

学内の情報ネットワークに接続したパソコンで、文書やプレゼンテーションを作成する演習に取り組む。演習により、コンピュータを自ら利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できるようになることを目指す。タイピングやメールの送受信を練習することから始め、文書作成ソフトウェアで文章を入力して適切に編集することに取り組む。また、図表を処理する技術も演習を通して身につける。さらに、プレゼンテーション作成ソフトウェアでスライドを作成し、プレゼンテーション全体を適切に編集することにも取り組む。

履修条件

ノートパソコンを必携とする授業である。
入学時に案内した必要なスペック（OSはWindows11など）を満たしていることが求められる。
情報処理センターではMacのサポートができないことから、授業でも対応しないので注意すること。
大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントも必要である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できる。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	毎回、パソコン室の PC を使用して文書やプレゼンテーションの作成に関して演習する。 まずは授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 学習目標・計画や評価方法を確認すること。 準備: USB メモリを用意すること。
	教室外学習の時間（分）	10
第2回	授業テーマ	タイピング入門
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にタイピングを練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: タイピングを練習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	授業テーマ	メールの送受信・文章入力練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にメールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: メールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	授業テーマ	簡単な文書の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に簡単な文書を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文書の作成について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	授業テーマ	ページと編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者がページに関することを理解し、能動的に文書の編集技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: ページや文書の編集について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	授業テーマ	文書の作成練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に文書の作成練習をする。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文書の作成について練習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	授業テーマ	文字飾り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に文字飾りに関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文字飾りについて復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45

第8回	授業テーマ	オブジェクトの挿入
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にオブジェクトの挿入に関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: オブジェクトについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	授業テーマ	図形入力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に図形入力に関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 図形について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	授業テーマ	表の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に表を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表について練習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	授業テーマ	高度な表の作成・罫線処理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に高度な表の作成技術や罫線処理の技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表や罫線について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	授業テーマ	プレゼンテーション作成入門
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にプレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: プレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	授業テーマ	プレゼンテーションの編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にプレゼンテーションを編集する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: プレゼンテーションの編集について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	授業テーマ	プレゼンテーションの作成練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指定する事柄に関するプレゼンテーションの作成練習を学修者が能動的に行って完成させる。演習結果を提出する。 実技の定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 指定する事柄に関するプレゼンテーションの構成を考えて作成しておくこと。 授業全体の内容について復習すること。

	教室外学習の時間（分）	125

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや内容が変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、文書の作成を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力

オフィスアワー

【前期】水曜日 1701ゼミ室 12：40～14：40

学生へのメッセージ

文書やプレゼンテーションの作成に関する基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、文書やプレゼンテーションの作成能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報のアウトプットに関する利活用能力を養成する。

ICT活用		

講義コード	G50208034
講義名	コンピュータ演習ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	原田 一義	指定なし

ナンバリング

X10052C12

授業概要(教育目的)

学内の情報ネットワークに接続したパソコンで、文書やプレゼンテーションを作成する演習に取り組む。演習により、コンピュータを自ら利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できるようになることを目指す。タイピングやメールの送受信を練習することから始め、文書作成ソフトウェアで文章を入力して適切に編集することに取り組む。また、図表を処理する技術も演習を通して身につける。さらに、プレゼンテーション作成ソフトウェアでスライドを作成し、プレゼンテーション全体を適切に編集することにも取り組む。

履修条件

大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントを持っていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	毎回、BYODのノートパソコンを使用して文書やプレゼンテーションの作成に関して演習する。 まずは授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評

第1回	**を含む)**	価方法を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 学習目標・計画や評価方法を確認すること
	教室外学習の時間（分）	10
第2回	**授業テーマ**	タイピング入門
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にタイピングを練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: タイピングを練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	**授業テーマ**	メールの送受信・文章入力練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にメールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: メールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	**授業テーマ**	簡単な文書の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に簡単な文書を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: ノートパソコンに商品版のMicrosoft Office（Word・Excel・PowerPointがセットになったもの）をインストールしておくこと 復習: 文書の作成について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	**授業テーマ**	ページと編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者がページに関することを理解し、能動的に文書の編集技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: ページや文書の編集について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	**授業テーマ**	文書の作成練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に文書の作成練習をする。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文書の作成について練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	**授業テーマ**	文字飾り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に文字飾りに関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文字飾りについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	オブジェクトの挿入

第8回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	学修者が能動的にオブジェクトの挿入に関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文字飾りについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	**授業テーマ**	図形入力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に図形入力に関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 図形について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	**授業テーマ**	表の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に表を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表について練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	**授業テーマ**	高度な表の作成・罫線処理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に高度な表の作成技術や罫線処理の技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表や罫線について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	**授業テーマ**	プレゼンテーション作成入門
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にプレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: プレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	プレゼンテーションの編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にプレゼンテーションを編集する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: プレゼンテーションの編集について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	**授業テーマ**	プレゼンテーションの作成練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指定する事柄に関するプレゼンテーションの作成練習を学修者が能動的に行って完成させる。演習結果を提出する。実技の定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 指定する事柄に関するプレゼンテーションの構成を考えて作成しておくこと 復習: 授業全体の内容について復習すること
	教室外学習の時間（分）	125

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや内容が変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は15点満点で出題し、実技に基づく。また、文書の作成を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。初回の授業でルーブリックについて説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力

オフィスアワー

担当教員（原田）は非常勤講師で、大学にいるのは授業のとき（前期：金曜3～5限、後期：金曜2～5限）だけなので、授業時間外の質問等にはメールで対応する。

学生へのメッセージ

文書やプレゼンテーションの作成に関する基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。

ノートパソコンには商品版のMicrosoft Office（Word・Excel・PowerPointがセットになったもの）を、遅くとも第4回の授業の前までにインストールして使用可能な状態にしておくこと（無料版のOfficeおよび類似ソフトでは不可）。Microsoft Officeは、本学の学生はMicrosoft社のウェブサイトから無料でダウンロードして使用できるので、購入しなくてよい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・	○	学修者がBYODのノートパソコンを使用して能動的に演習することによっ

ラーニング		て、文書やプレゼンテーションの作成能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報のアウトプットに関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

講義コード	G50208035
講義名	コンピュータ演習ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	原田 一義	指定なし

ナンバリング

X10052C12

授業概要(教育目的)

学内の情報ネットワークに接続したパソコンで、文書やプレゼンテーションを作成する演習に取り組む。演習により、コンピュータを自ら利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できるようになることを目指す。タイピングやメールの送受信を練習することから始め、文書作成ソフトウェアで文章を入力して適切に編集することに取り組む。また、図表を処理する技術も演習を通して身につける。さらに、プレゼンテーション作成ソフトウェアでスライドを作成し、プレゼンテーション全体を適切に編集することにも取り組む。

履修条件

大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントを持っていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	毎回、BYODのノートパソコンを使用して文書やプレゼンテーションの作成に関して演習する。 まずは授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評

第1回	**を含む)**	価方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 学習目標・計画や評価方法を確認すること
	教室外学習の時間（分）	10
第2回	**授業テーマ**	タイピング入門
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にタイピングを練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: タイピングを練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	**授業テーマ**	メールの送受信・文章入力練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にメールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: メールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	**授業テーマ**	簡単な文書の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に簡単な文書を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: ノートパソコンに商品版のMicrosoft Office（Word・Excel・PowerPointがセットになったもの）をインストールしておくこと 復習: 文書の作成について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	**授業テーマ**	ページと編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者がページに関することを理解し、能動的に文書の編集技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: ページや文書の編集について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	**授業テーマ**	文書の作成練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に文書の作成練習をする。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文書の作成について練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	**授業テーマ**	文字飾り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に文字飾りに関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文字飾りについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	オブジェクトの挿入

第8回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	学修者が能動的にオブジェクトの挿入に関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文字飾りについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	**授業テーマ**	図形入力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に図形入力に関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 図形について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	**授業テーマ**	表の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に表を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表について練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	**授業テーマ**	高度な表の作成・罫線処理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に高度な表の作成技術や罫線処理の技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表や罫線について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	**授業テーマ**	プレゼンテーション作成入門
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にプレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: プレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	プレゼンテーションの編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にプレゼンテーションを編集する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: プレゼンテーションの編集について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	**授業テーマ**	プレゼンテーションの作成練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指定する事柄に関するプレゼンテーションの作成練習を学修者が能動的に行って完成させる。演習結果を提出する。実技の定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 指定する事柄に関するプレゼンテーションの構成を考えて作成しておくこと 復習: 授業全体の内容について復習すること
	教室外学習の時間（分）	125

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや内容が変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は15点満点で出題し、実技に基づく。また、文書の作成を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。初回の授業でルーブリックについて説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力

オフィスアワー

担当教員（原田）は非常勤講師で、大学にいるのは授業のとき（前期：金曜3～5限、後期：金曜2～5限）だけなので、授業時間外の質問等にはメールで対応する。

学生へのメッセージ

文書やプレゼンテーションの作成に関する基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。

ノートパソコンには商品版のMicrosoft Office（Word・Excel・PowerPointがセットになったもの）を、遅くとも第4回の授業の前までにインストールして使用可能な状態にしておくこと（無料版のOfficeおよび類似ソフトでは不可）。Microsoft Officeは、本学の学生はMicrosoft社のウェブサイトから無料でダウンロードして使用できるので、購入しなくてよい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・	○	学修者がBYODのノートパソコンを使用して能動的に演習することによっ

ラーニング		て、文書やプレゼンテーションの作成能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報のアウトプットに関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

講義コード	G50208036
講義名	コンピュータ演習ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	原田 一義	指定なし

ナンバリング

X10052C12

授業概要(教育目的)

学内の情報ネットワークに接続したパソコンで、文書やプレゼンテーションを作成する演習に取り組む。演習により、コンピュータを自ら利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できるようになることを目指す。タイピングやメールの送受信を練習することから始め、文書作成ソフトウェアで文章を入力して適切に編集することに取り組む。また、図表を処理する技術も演習を通して身につける。さらに、プレゼンテーション作成ソフトウェアでスライドを作成し、プレゼンテーション全体を適切に編集することにも取り組む。

履修条件

大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントを持っていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	毎回、BYODのノートパソコンを使用して文書やプレゼンテーションの作成に関して演習する。 まずは授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評

第1回	**を含む)**	価方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 学習目標・計画や評価方法を確認すること
	教室外学習の時間（分）	10
第2回	**授業テーマ**	タイピング入門
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にタイピングを練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: タイピングを練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	**授業テーマ**	メールの送受信・文章入力練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にメールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: メールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	**授業テーマ**	簡単な文書の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に簡単な文書を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: ノートパソコンに商品版のMicrosoft Office（Word・Excel・PowerPointがセットになったもの）をインストールしておくこと 復習: 文書の作成について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	**授業テーマ**	ページと編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者がページに関することを理解し、能動的に文書の編集技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: ページや文書の編集について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	**授業テーマ**	文書の作成練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に文書の作成練習をする。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文書の作成について練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	**授業テーマ**	文字飾り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に文字飾りに関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文字飾りについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	オブジェクトの挿入

第8回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	学修者が能動的にオブジェクトの挿入に関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文字飾りについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	**授業テーマ**	図形入力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に図形入力に関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 図形について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	**授業テーマ**	表の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に表を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表について練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	**授業テーマ**	高度な表の作成・罫線処理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に高度な表の作成技術や罫線処理の技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表や罫線について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	**授業テーマ**	プレゼンテーション作成入門
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にプレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: プレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	プレゼンテーションの編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にプレゼンテーションを編集する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: プレゼンテーションの編集について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	**授業テーマ**	プレゼンテーションの作成練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指定する事柄に関するプレゼンテーションの作成練習を学修者が能動的に行って完成させる。演習結果を提出する。実技の定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 指定する事柄に関するプレゼンテーションの構成を考えて作成しておくこと 復習: 授業全体の内容について復習すること
	教室外学習の時間（分）	125

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや内容が変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は15点満点で出題し、実技に基づく。また、文書の作成を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。初回の授業でルーブリックについて説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力

オフィスアワー

担当教員（原田）は非常勤講師で、大学にいるのは授業のとき（前期：金曜3～5限、後期：金曜2～5限）だけなので、授業時間外の質問等にはメールで対応する。

学生へのメッセージ

文書やプレゼンテーションの作成に関する基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。

ノートパソコンには商品版のMicrosoft Office（Word・Excel・PowerPointがセットになったもの）を、遅くとも第4回の授業の前までにインストールして使用可能な状態にしておくこと（無料版のOfficeおよび類似ソフトでは不可）。Microsoft Officeは、本学の学生はMicrosoft社のウェブサイトから無料でダウンロードして使用できるので、購入しなくてよい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・	○	学修者がBYODのノートパソコンを使用して能動的に演習することによっ

ラーニング		て、文書やプレゼンテーションの作成能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報のアウトプットに関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

講義コード	G50208037
講義名	コンピュータ演習ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	田中 康裕	指定なし

ナンバリング

X10051C12

授業概要(教育目的)

学内の情報ネットワークに接続したパソコンで、文書やプレゼンテーションを作成する演習に取り組む。演習により、コンピュータを自ら利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できるようになることを目指す。タイピングやメールの送受信を練習することから始め、文書作成ソフトウェアで文章を入力して適切に編集することに取り組む。また、図表を処理する技術も演習を通して身につける。さらに、プレゼンテーション作成ソフトウェアでスライドを作成し、プレゼンテーション全体を適切に編集することにも取り組む。

履修条件

大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントを持っていること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	社会で求められるICT技術の利活用について理解する。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できる。

学習計画

コンピュータ演習a

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	毎回、PC を使用して文書やプレゼンテーションの作成に関して演習する。

第1回	**報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	まずは授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 学習目標・計画や評価方法を確認すること 準備: USB メモリを用意すること
	教室外学習の時間（分）	10
第2回	**授業テーマ**	タイピング入門
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にタイピングを練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: タイピングを練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	**授業テーマ**	メールの送受信・文章入力練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にメールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: メールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	**授業テーマ**	簡単な文書の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に簡単な文書を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文書の作成について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	**授業テーマ**	ページと編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者がページに関することを理解し、能動的に文書の編集技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ページや文書の編集について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	**授業テーマ**	文書の作成練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に文書の作成練習をする。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文書の作成について練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	**授業テーマ**	文字飾り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に文字飾りに関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文字飾りについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	オブジェクトの挿入
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	学修者が能動的にオブジェクの挿入に関する技術を身に

第8回	**報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	つける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	オブジェクトについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	**授業テーマ**	図形入力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に図形入力に関する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図形について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	**授業テーマ**	表の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に表を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	表について練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	**授業テーマ**	高度な表の作成・罫線処理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に高度な表の作成技術や罫線処理の技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	表や罫線について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	**授業テーマ**	プレゼンテーション作成入門
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にプレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	プレゼンテーションの編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にプレゼンテーションを編集する技術を身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンテーションの編集について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	**授業テーマ**	プレゼンテーションの作成練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指定する事柄に関するプレゼンテーションの作成練習を学修者が能動的に行って完成させる。演習結果を提出する。 実技の定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 指定する事柄に関するプレゼンテーションの構成を考えて作成しておくこと 授業全体の内容について復習すること
	教室外学習の時間（分）	125

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや内容が変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、文書の作成を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。
初回の授業でルーブリックについて説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
受講状況・学習態度			○	
提出物	○			○
定期試験	○			○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特に教科書は使用しない。講義内で適宜プリントを配布。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会で求められるICT技術を学習を通じて人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、活用する能力
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力

オフィスアワー

非常勤のため、出講は水曜日1～3限のみ。これ以外の時間はメール（y.tanaka@kasei-gakuin.ac.jp）で質問等を受け付ける。

学生へのメッセージ

文書やプレゼンテーションの作成に関する基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、文書やプレゼンテーションの作成能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報のアウトプットに関する利活用能力を養成する。
		BYOD　Bring

ICT活用	○	大学では、学生自身が所有するパソコンの利用を前提（　　：Your Own Device)として講義が行われる。 コンピュータ演習a/bでは、レポートの作成など学生生活を送る上で、必須となるICTを活用するための能力・技能を養成する。

講義コード	G50209001
講義名	コンピュータ演習ｂ（M食:月1）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	千葉 一博	指定なし

ナンバリング

X11060M12

授業概要(教育目的)

学内の情報ネットワークに接続したパソコンで、表計算の演習に取り組む。演習により、コンピュータを自ら利用して、表計算による情報処理が正確にできるようになることを目指す。データや関数を入力して数式の基本を理解することから始め、データや数式による計算結果を元にグラフを作成することに取り組む。また、データの整列や抽出、条件判断や検索に基づく処理も演習を通して身につける。さらに、簡単なプログラミングも確認する。

履修条件

大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

コンピュータ演習ｂ

	授業テーマ	データ・数式・関数の入力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	毎回、パソコン室の PC を使用して表計算に関して演習する。 まずは授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。学修者が能動的に表計算ソフトウェアでのデータ・

第1回	**む)**	数式・関数の入力について練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表計算ソフトウェアでのデータ入力や数式について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第2回	**授業テーマ**	数学関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が数学関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 数学関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第3回	**授業テーマ**	論理関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が論理関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 論理関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第4回	**授業テーマ**	統計関数の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計関数を理解する。学習者が能動的に演習した結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 統計関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第5回	**授業テーマ**	統計関数の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計関数を計算に用いる技術を学習者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 統計関数について練習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第6回	**授業テーマ**	条件判断
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が条件判断について理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 条件判断について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
	授業テーマ	グラフ作成の説明

第7回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	グラフの作成方法を理解する。学修者が能動的に演習した結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: グラフについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第8回	**授業テーマ**	グラフ作成の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グラフを作成する技術を学修者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: グラフについて練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	**授業テーマ**	データ操作（整列）の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にデータを整列する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 整列について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	**授業テーマ**	データ操作（抽出）の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にデータを抽出する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 抽出について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	**授業テーマ**	検索関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が検索関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 検索関数について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	**授業テーマ**	文字列関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が文字列関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文字列関数について復習すること

	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	簡単なプログラミングの確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が、簡単なプログラミングの技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 簡単なプログラミングについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	**授業テーマ**	簡単なプログラミングの練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に簡単なプログラミングの練習をする。演習結果を提出する。 実技の定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 授業全体の内容について復習すること
	教室外学習の時間（分）	125

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力

オフィスアワー

月曜 4 限・水曜 3 限 1411研究室
早朝・深夜を除き、メールでも相談に応じる。
必要であれば、日時を調整してオンラインで対応する。

学生へのメッセージ

表計算の基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

講義コード	G50209002
講義名	コンピュータ演習ｂ（M食：月2）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	千葉 一博	指定なし

ナンバリング

X11060M12

授業概要(教育目的)

学内の情報ネットワークに接続したパソコンで、表計算の演習に取り組む。演習により、コンピュータを自ら利用して、表計算による情報処理が正確にできるようになることを目指す。データや関数を入力して数式の基本を理解することから始め、データや数式による計算結果を元にグラフを作成することに取り組む。また、データの整列や抽出、条件判断や検索に基づく処理も演習を通して身につける。さらに、簡単なプログラミングも確認する。

履修条件

大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

コンピュータ演習ｂ

	授業テーマ	データ・数式・関数の入力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	毎回、パソコン室の PC を使用して表計算に関して演習する。 まずは授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。学修者が能動的に表計算ソフトウェアでのデータ・

第1回	**む)**	数式・関数の入力について練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表計算ソフトウェアでのデータ入力や数式について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第2回	**授業テーマ**	数学関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が数学関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 数学関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第3回	**授業テーマ**	論理関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が論理関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 論理関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第4回	**授業テーマ**	統計関数の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計関数を理解する。学習者が能動的に演習した結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 統計関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第5回	**授業テーマ**	統計関数の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計関数を計算に用いる技術を学習者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 統計関数について練習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第6回	**授業テーマ**	条件判断
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が条件判断について理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 条件判断について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
	授業テーマ	グラフ作成の説明

第7回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	グラフの作成方法を理解する。学修者が能動的に演習した結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: グラフについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第8回	**授業テーマ**	グラフ作成の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グラフを作成する技術を学修者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: グラフについて練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	**授業テーマ**	データ操作（整列）の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にデータを整列する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 整列について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	**授業テーマ**	データ操作（抽出）の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にデータを抽出する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 抽出について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	**授業テーマ**	検索関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が検索関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 検索関数について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	**授業テーマ**	文字列関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が文字列関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文字列関数について復習すること

	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	簡単なプログラミングの確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が、簡単なプログラミングの技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 簡単なプログラミングについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	**授業テーマ**	簡単なプログラミングの練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に簡単なプログラミングの練習をする。演習結果を提出する。 実技の定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 授業全体の内容について復習すること
	教室外学習の時間（分）	125

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力

オフィスアワー

月曜 4 限・水曜 3 限 1411研究室
早朝・深夜を除き、メールでも相談に応じる。
必要であれば、日時を調整してオンラインで対応する。

学生へのメッセージ

表計算の基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

講義コード	G50209003
講義名	コンピュータ演習ｂ（M生・住：月3）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	千葉 一博	指定なし

ナンバリング

X11060M12

授業概要(教育目的)

学内の情報ネットワークに接続したパソコンで、表計算の演習に取り組む。演習により、コンピュータを自ら利用して、表計算による情報処理が正確にできるようになることを目指す。データや関数を入力して数式の基本を理解することから始め、データや数式による計算結果を元にグラフを作成することに取り組む。また、データの整列や抽出、条件判断や検索に基づく処理も演習を通して身につける。さらに、簡単なプログラミングも確認する。

履修条件

大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

コンピュータ演習ｂ

	授業テーマ	データ・数式・関数の入力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	毎回、パソコン室の PC を使用して表計算に関して演習する。 まずは授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。学修者が能動的に表計算ソフトウェアでのデータ・

第1回	**む)**	数式・関数の入力について練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表計算ソフトウェアでのデータ入力や数式について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第2回	**授業テーマ**	数学関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が数学関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 数学関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第3回	**授業テーマ**	論理関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が論理関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 論理関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第4回	**授業テーマ**	統計関数の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計関数を理解する。学習者が能動的に演習した結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 統計関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第5回	**授業テーマ**	統計関数の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計関数を計算に用いる技術を学習者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 統計関数について練習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第6回	**授業テーマ**	条件判断
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が条件判断について理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 条件判断について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
	授業テーマ	グラフ作成の説明

第7回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	グラフの作成方法を理解する。学修者が能動的に演習した結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: グラフについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第8回	**授業テーマ**	グラフ作成の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グラフを作成する技術を学修者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: グラフについて練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	**授業テーマ**	データ操作（整列）の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にデータを整列する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 整列について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	**授業テーマ**	データ操作（抽出）の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にデータを抽出する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 抽出について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	**授業テーマ**	検索関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が検索関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 検索関数について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	**授業テーマ**	文字列関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が文字列関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文字列関数について復習すること

	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	簡単なプログラミングの確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が、簡単なプログラミングの技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 簡単なプログラミングについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	**授業テーマ**	簡単なプログラミングの練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に簡単なプログラミングの練習をする。演習結果を提出する。 実技の定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 授業全体の内容について復習すること
	教室外学習の時間（分）	125

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力

オフィスアワー

月曜 4 限・水曜 3 限 1411研究室
早朝・深夜を除き、メールでも相談に応じる。
必要であれば、日時を調整してオンラインで対応する。

学生へのメッセージ

表計算の基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

講義コード	G50209004
講義名	コンピュータ演習ｂ（M生・住：月5）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	千葉 一博	指定なし

ナンバリング

X11060M12

授業概要(教育目的)

学内の情報ネットワークに接続したパソコンで、表計算の演習に取り組む。演習により、コンピュータを自ら利用して、表計算による情報処理が正確にできるようになることを目指す。データや関数を入力して数式の基本を理解することから始め、データや数式による計算結果を元にグラフを作成することに取り組む。また、データの整列や抽出、条件判断や検索に基づく処理も演習を通して身につける。さらに、簡単なプログラミングも確認する。

履修条件

大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

コンピュータ演習ｂ

	授業テーマ	データ・数式・関数の入力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	毎回、パソコン室の PC を使用して表計算に関して演習する。 まずは授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。学修者が能動的に表計算ソフトウェアでのデータ・

第1回	**む)**	数式・関数の入力について練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表計算ソフトウェアでのデータ入力や数式について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第2回	**授業テーマ**	数学関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が数学関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 数学関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第3回	**授業テーマ**	論理関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が論理関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 論理関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第4回	**授業テーマ**	統計関数の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計関数を理解する。学習者が能動的に演習した結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 統計関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第5回	**授業テーマ**	統計関数の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計関数を計算に用いる技術を学習者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 統計関数について練習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第6回	**授業テーマ**	条件判断
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が条件判断について理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 条件判断について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
	授業テーマ	グラフ作成の説明

第7回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	グラフの作成方法を理解する。学修者が能動的に演習した結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: グラフについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第8回	**授業テーマ**	グラフ作成の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グラフを作成する技術を学修者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: グラフについて練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	**授業テーマ**	データ操作（整列）の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にデータを整列する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 整列について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	**授業テーマ**	データ操作（抽出）の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にデータを抽出する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 抽出について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	**授業テーマ**	検索関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が検索関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 検索関数について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	**授業テーマ**	文字列関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が文字列関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文字列関数について復習すること

	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	簡単なプログラミングの確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が、簡単なプログラミングの技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 簡単なプログラミングについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	**授業テーマ**	簡単なプログラミングの練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に簡単なプログラミングの練習をする。演習結果を提出する。 実技の定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 授業全体の内容について復習すること
	教室外学習の時間（分）	125

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力

オフィスアワー

月曜 4 限・水曜 3 限 1411研究室
早朝・深夜を除き、メールでも相談に応じる。
必要であれば、日時を調整してオンラインで対応する。

学生へのメッセージ

表計算の基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

講義コード	G50209005
講義名	コンピュータ演習ｂ（P：水1）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	千葉 一博	指定なし

ナンバリング

X11060M12

授業概要(教育目的)

学内の情報ネットワークに接続したパソコンで、表計算の演習に取り組む。演習により、コンピュータを自ら利用して、表計算による情報処理が正確にできるようになることを目指す。データや関数を入力して数式の基本を理解することから始め、データや数式による計算結果を元にグラフを作成することに取り組む。また、データの整列や抽出、条件判断や検索に基づく処理も演習を通して身につける。さらに、簡単なプログラミングも確認する。

履修条件

大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

コンピュータ演習ｂ

	授業テーマ	データ・数式・関数の入力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	毎回、パソコン室の PC を使用して表計算に関して演習する。 まずは授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。学修者が能動的に表計算ソフトウェアでのデータ・

第1回	**む)**	数式・関数の入力について練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表計算ソフトウェアでのデータ入力や数式について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第2回	**授業テーマ**	数学関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が数学関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 数学関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第3回	**授業テーマ**	論理関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が論理関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 論理関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第4回	**授業テーマ**	統計関数の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計関数を理解する。学習者が能動的に演習した結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 統計関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第5回	**授業テーマ**	統計関数の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計関数を計算に用いる技術を学習者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 統計関数について練習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第6回	**授業テーマ**	条件判断
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が条件判断について理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 条件判断について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
	授業テーマ	グラフ作成の説明

第7回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	グラフの作成方法を理解する。学修者が能動的に演習した結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: グラフについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第8回	**授業テーマ**	グラフ作成の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グラフを作成する技術を学修者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: グラフについて練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	**授業テーマ**	データ操作（整列）の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にデータを整列する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 整列について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	**授業テーマ**	データ操作（抽出）の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にデータを抽出する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 抽出について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	**授業テーマ**	検索関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が検索関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 検索関数について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	**授業テーマ**	文字列関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が文字列関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文字列関数について復習すること

	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	簡単なプログラミングの確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が、簡単なプログラミングの技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 簡単なプログラミングについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	**授業テーマ**	簡単なプログラミングの練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に簡単なプログラミングの練習をする。演習結果を提出する。 実技の定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 授業全体の内容について復習すること
	教室外学習の時間（分）	125

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力

オフィスアワー

月曜 4 限・水曜 3 限 1411研究室
早朝・深夜を除き、メールでも相談に応じる。
必要であれば、日時を調整してオンラインで対応する。

学生へのメッセージ

表計算の基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

講義コード	G50209006
講義名	コンピュータ演習ｂ（P：水2）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	千葉 一博	指定なし

ナンバリング

X11060M12

授業概要(教育目的)

学内の情報ネットワークに接続したパソコンで、表計算の演習に取り組む。演習により、コンピュータを自ら利用して、表計算による情報処理が正確にできるようになることを目指す。データや関数を入力して数式の基本を理解することから始め、データや数式による計算結果を元にグラフを作成することに取り組む。また、データの整列や抽出、条件判断や検索に基づく処理も演習を通して身につける。さらに、簡単なプログラミングも確認する。

履修条件

大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

コンピュータ演習ｂ

	授業テーマ	データ・数式・関数の入力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	毎回、パソコン室の PC を使用して表計算に関して演習する。 まずは授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。学修者が能動的に表計算ソフトウェアでのデータ・

第1回	**む)**	数式・関数の入力について練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表計算ソフトウェアでのデータ入力や数式について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第2回	**授業テーマ**	数学関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が数学関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 数学関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第3回	**授業テーマ**	論理関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が論理関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 論理関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第4回	**授業テーマ**	統計関数の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計関数を理解する。学習者が能動的に演習した結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 統計関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第5回	**授業テーマ**	統計関数の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計関数を計算に用いる技術を学習者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 統計関数について練習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第6回	**授業テーマ**	条件判断
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が条件判断について理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 条件判断について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
	授業テーマ	グラフ作成の説明

第7回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	グラフの作成方法を理解する。学修者が能動的に演習した結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: グラフについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第8回	**授業テーマ**	グラフ作成の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グラフを作成する技術を学修者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: グラフについて練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	**授業テーマ**	データ操作（整列）の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にデータを整列する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 整列について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	**授業テーマ**	データ操作（抽出）の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にデータを抽出する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 抽出について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	**授業テーマ**	検索関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が検索関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 検索関数について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	**授業テーマ**	文字列関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が文字列関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文字列関数について復習すること

	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	簡単なプログラミングの確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が、簡単なプログラミングの技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 簡単なプログラミングについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	**授業テーマ**	簡単なプログラミングの練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に簡単なプログラミングの練習をする。演習結果を提出する。 実技の定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 授業全体の内容について復習すること
	教室外学習の時間（分）	125

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力

オフィスアワー

月曜 4 限・水曜 3 限 1411研究室
早朝・深夜を除き、メールでも相談に応じる。
必要であれば、日時を調整してオンラインで対応する。

学生へのメッセージ

表計算の基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

講義コード	G50209031
講義名	コンピュータ演習ｂ（G）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	田中 康裕	指定なし

ナンバリング

X10060C12

授業概要(教育目的)

学内の情報ネットワークに接続したパソコンで、表計算の演習に取り組む。演習により、コンピュータを自ら利用して、表計算による情報処理が正確にできるようになることを目指す。データや関数を入力して数式の基本を理解することから始め、データや数式による計算結果を元にグラフを作成することに取り組む。また、データの整列や抽出、条件判断や検索に基づく処理も演習を通して身につける。さらに、簡単なプログラミングも確認する。

履修条件

大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

コンピュータ演習b

	授業テーマ	データ・数式・関数の入力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	毎回、 学生自身のパソコンを使用して表計算に関して演習する。必ずパソコンを持参すること。 まずは授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法

第1回	**育・ICT活用を含む)**	を理解する。学修者が能動的に表計算ソフトウェアでのデータ・数式・関数の入力について練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表計算ソフトウェアでのデータ入力や数式について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第2回	**授業テーマ**	数学関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が数学関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 数学関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第3回	**授業テーマ**	論理関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が論理関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 論理関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第4回	**授業テーマ**	統計関数の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計関数を計算に用いる技術を学習者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 統計関数について練習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第5回	**授業テーマ**	統計関数の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計関数を計算に用いる技術を学習者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 統計関数について練習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第6回	**授業テーマ**	条件判断
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が条件判断について理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 条件判断について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45

第7回	授業テーマ	グラフ作成の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グラフの作成方法を理解する。学修者が能動的に演習した結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: グラフについて復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第8回	授業テーマ	グラフ作成の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グラフを作成する技術を学修者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: グラフについて練習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第9回	授業テーマ	データ操作（整列）の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にデータを整列する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 整列について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第10回	授業テーマ	データ操作（抽出）の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にデータを抽出する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 抽出について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第11回	授業テーマ	検索関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が検索関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 検索関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第12回	授業テーマ	文字列関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が文字列関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・	復習: 文字列関数について復習すること

	復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	簡単なプログラミングの確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が、簡単なプログラミングの技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 簡単なプログラミングについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	**授業テーマ**	簡単なプログラミングの練習と科目まとめ課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に簡単なプログラミングの練習をする。演習結果を提出する。 実技の定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 授業全体の内容について復習すること
	教室外学習の時間（分）	125

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。
初回の授業でルーブリックについて説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない．適宜講義内でプリントを配布する．

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。

【技術・表現】表計算による情報処理が正確にできる技術力を身につけている。

オフィスアワー

非常勤のため、出講は水曜日1～3限のみ。これ以外の時間はメール（y.tanaka@kasei-gakuin.ac.jp）で質問等を受け付ける。

学生へのメッセージ

表計算の基礎を習得する．この授業では，講義を聴くのみならず，手を動かす必要がある．講義内容の理解を深めるために演習を行う．パソコン室は，授業で使われていない時間に学習のために利用することができるので自学することが望まれる．

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用	○	大学では、学生自身が所有するパソコンの利用を前提（BYOD：Bring Your Own Device)として講義が行われる。 コンピュータ演習a/bでは、レポートの作成など学生生活を送る上で、必須となるICTを活用するための能力・技能を養成する。

講義コード	G50209032
講義名	コンピュータ演習ｂ（G）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小野 由美子	指定なし

ナンバリング

X10060C12

授業概要(教育目的)

学内の情報ネットワークに接続したパソコンで、表計算の演習に取り組む。演習により、コンピュータを自ら利用して、表計算による情報処理が正確にできるようになることを目指す。データや関数を入力して数式の基本を理解することから始め、データや数式による計算結果を元にグラフを作成することに取り組む。また、データの整列や抽出、条件判断や検索に基づく処理も演習を通して身につける。さらに、簡単なプログラミングも確認する。

履修条件

ノートパソコンを必携とする授業である。
入学時に案内した必要なスペック（OSはWindows11など）を満たしていることが求められる。
情報処理センターではMacのサポートができないことから、授業でも対応しないので注意すること。
大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントも必要である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

	授業テーマ	データ・数式・関数の入力

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ノートパソコンを必携とする授業である。 まずは授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。学修者が能動的に表計算ソフトウェアでのデータ・数式・関数の入力について練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表計算ソフトウェアでのデータ入力や数式について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第2回	授業テーマ	数学関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が数学関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 数学関数について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	授業テーマ	論理関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が論理関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 論理関数について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	授業テーマ	統計関数の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計関数を理解する。学習者が能動的に演習した結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 統計関数について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	授業テーマ	統計関数の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計関数を計算に用いる技術を学習者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 統計関数について練習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	授業テーマ	条件判断
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が条件判断について理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 条件判断について復習すること。

	教室外学習の時間（分）	45
第7回	**授業テーマ**	グラフ作成の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グラフの作成方法を理解する。学修者が能動的に演習した結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: グラフについて復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第8回	**授業テーマ**	グラフ作成の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グラフを作成する技術を学修者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: グラフについて練習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	**授業テーマ**	データ操作（整列）の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にデータを整列する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 整列について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	**授業テーマ**	データ操作（抽出）の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にデータを抽出する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 抽出について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	**授業テーマ**	検索関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が検索関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 検索関数について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	文字列関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	学修者が文字列関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。

第12回	む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文字列関数について復習すること。
	教室外学習の時間(分)	45
第13回	授業テーマ	簡単なプログラミングの確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が、簡単なプログラミングの技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 簡単なプログラミングについて復習すること。
	教室外学習の時間(分)	45
第14回	授業テーマ	簡単なプログラミングの練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に簡単なプログラミングの練習をする。演習結果を提出する。 実技の定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 授業全体の内容について復習すること。
	教室外学習の時間(分)	125

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや内容が変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力

オフィスアワー

【後期】水曜日 1701ゼミ室 11：00～13：00

学生へのメッセージ

表計算の基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

講義コード	G50209033
講義名	コンピュータ演習ｂ（G）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小野 由美子	指定なし

ナンバリング

X10060C12

授業概要(教育目的)

学内の情報ネットワークに接続したパソコンで、表計算の演習に取り組む。演習により、コンピュータを自ら利用して、表計算による情報処理が正確にできるようになることを目指す。データや関数を入力して数式の基本を理解することから始め、データや数式による計算結果を元にグラフを作成することに取り組む。また、データの整列や抽出、条件判断や検索に基づく処理も演習を通して身につける。さらに、簡単なプログラミングも確認する。

履修条件

ノートパソコンを必携とする授業である。
入学時に案内した必要なスペック（OSはWindows11など）を満たしていることが求められる。
情報処理センターではMacのサポートができないことから、授業でも対応しないので注意すること。
大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントも必要である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

	授業テーマ	データ・数式・関数の入力

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ノートパソコンを必携とする授業である。 まずは授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。学修者が能動的に表計算ソフトウェアでのデータ・数式・関数の入力について練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表計算ソフトウェアでのデータ入力を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第2回	授業テーマ	数学関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が数学関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 数学関数について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	授業テーマ	論理関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が論理関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 論理関数について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	授業テーマ	統計関数の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計関数を理解する。学習者が能動的に演習した結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 統計関数について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	授業テーマ	統計関数の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計関数を計算に用いる技術を学習者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 統計関数について練習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	授業テーマ	条件判断
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が条件判断について理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 条件判断について復習すること。

	教室外学習の時間（分）	45
第7回	**授業テーマ**	グラフ作成の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グラフの作成方法を理解する。学修者が能動的に演習した結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: グラフについて復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第8回	**授業テーマ**	グラフ作成の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グラフを作成する技術を学修者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: グラフについて練習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	**授業テーマ**	データ操作（整列）の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にデータを整列する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 整列について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	**授業テーマ**	データ操作（抽出）の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にデータを抽出する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 抽出について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	**授業テーマ**	検索関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が検索関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 検索関数について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	文字列関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	学修者が文字列関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。

第12回	む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文字列関数について復習すること。
	教室外学習の時間(分)	45
第13回	授業テーマ	簡単なプログラミングの確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が、簡単なプログラミングの技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 簡単なプログラミングについて復習すること。
	教室外学習の時間(分)	45
第14回	授業テーマ	簡単なプログラミングの練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に簡単なプログラミングの練習をする。演習結果を提出する。 実技の定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 授業全体の内容について復習すること。
	教室外学習の時間(分)	125

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや内容が変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力

オフィスアワー

【後期】水曜日 1701ゼミ室 11：00～13：00

学生へのメッセージ

表計算の基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

講義コード	G50209034
講義名	コンピュータ演習ｂ（HA）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	原田 一義	指定なし

ナンバリング

X10062C12

授業概要(教育目的)

学内の情報ネットワークに接続したパソコンで、表計算の演習に取り組む。演習により、コンピュータを自ら利用して、表計算による情報処理が正確にできるようになることを目指す。データや関数を入力して数式の基本を理解することから始め、データや数式による計算結果を元にグラフを作成することに取り組む。また、データの整列や抽出、条件判断や検索に基づく処理も演習を通して身につける。さらに、簡単なプログラミングも確認する。

履修条件

大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

コンピュータ演習b

	授業テーマ	データ・数式・関数の入力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	毎回、BYODのノートパソコンを使用して表計算に関して演習する。 まずは授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法

第1回	**育・ICT活用を含む)**	を理解する。学修者が能動的に表計算ソフトウェアでのデータ・数式・関数の入力について練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: ノートパソコンに商品版のMicrosoft Office（Word・Excel・PowerPointがセットになったもの）をインストールしておくこと 復習: 表計算ソフトウェアでのデータ入力や数式について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第2回	**授業テーマ**	数学関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が数学関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 数学関数について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	**授業テーマ**	論理関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が論理関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 論理関数について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	**授業テーマ**	統計関数の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計関数を理解する。学習者が能動的に演習した結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 統計関数について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	**授業テーマ**	統計関数の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計関数を計算に用いる技術を学習者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 統計関数について練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	**授業テーマ**	条件判断
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が条件判断について理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・	:

	復習)の内容	復習 条件判断について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	**授業テーマ**	グラフ作成の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グラフの作成方法を理解する。学修者が能動的に演習した結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: グラフについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第8回	**授業テーマ**	グラフ作成の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グラフを作成する技術を学修者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: グラフについて練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	**授業テーマ**	データ操作（整列）の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にデータを整列する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 整列について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	**授業テーマ**	データ操作（抽出）の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にデータを抽出する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 抽出について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	**授業テーマ**	検索関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が検索関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 検索関数について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	文字列関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰ	

第12回	ﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が文字列関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文字列関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第13回	授業テーマ	簡単なプログラミングの確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が簡単なプログラミングの技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 簡単なプログラミングについて復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第14回	授業テーマ	簡単なプログラミングの練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に簡単なプログラミングの練習をする。演習結果を提出する。 実技の定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 授業全体の内容について復習すること
	教室外学習の時間(分)	125

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや内容が変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は15点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。初回の授業でルーブリックについて説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力

オフィスアワー

担当教員（原田）は非常勤講師で、大学にいるのは授業のとき（前期：金曜3～5限、後期：金曜2～5限）だけなので、授業時間外の質問等にはメールで対応する。

学生へのメッセージ

表計算の基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。

ノートパソコンには商品版のMicrosoft Office（Word・Excel・PowerPointがセットになったもの）を、初回の授業の前までにインストールして使用可能な状態にしておくこと（無料版のOfficeおよび類似ソフトでは不可）。Microsoft Officeは、本学の学生はMicrosoft社のウェブサイトから無料でダウンロードして使用できるので、購入しなくてよい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者がBYODのノートパソコンを使用して能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

講義コード	G50209035
講義名	コンピュータ演習ｂ（HB）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	原田 一義	指定なし

ナンバリング

X10062C12

授業概要(教育目的)

学内の情報ネットワークに接続したパソコンで、表計算の演習に取り組む。演習により、コンピュータを自ら利用して、表計算による情報処理が正確にできるようになることを目指す。データや関数を入力して数式の基本を理解することから始め、データや数式による計算結果を元にグラフを作成することに取り組む。また、データの整列や抽出、条件判断や検索に基づく処理も演習を通して身につける。さらに、簡単なプログラミングも確認する。

履修条件

大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

コンピュータ演習b

	授業テーマ	データ・数式・関数の入力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	毎回、BYODのノートパソコンを使用して表計算に関して演習する。 まずは授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法

第1回	**育・ICT活用を含む)**	を理解する。学修者が能動的に表計算ソフトウェアでのデータ・数式・関数の入力について練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: ノートパソコンに商品版のMicrosoft Office（Word・Excel・PowerPointがセットになったもの）をインストールしておくこと 復習: 表計算ソフトウェアでのデータ入力や数式について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第2回	**授業テーマ**	数学関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が数学関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 数学関数について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	**授業テーマ**	論理関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が論理関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 論理関数について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	**授業テーマ**	統計関数の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計関数を理解する。学習者が能動的に演習した結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 統計関数について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	**授業テーマ**	統計関数の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計関数を計算に用いる技術を学習者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 統計関数について練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	**授業テーマ**	条件判断
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が条件判断について理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・	:

	復習)の内容	復習 条件判断について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	**授業テーマ**	グラフ作成の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グラフの作成方法を理解する。学修者が能動的に演習した結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: グラフについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第8回	**授業テーマ**	グラフ作成の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グラフを作成する技術を学修者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: グラフについて練習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	**授業テーマ**	データ操作（整列）の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にデータを整列する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 整列について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	**授業テーマ**	データ操作（抽出）の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にデータを抽出する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 抽出について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	**授業テーマ**	検索関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が検索関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 検索関数について復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	文字列関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰ	

第12回	ﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が文字列関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 文字列関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第13回	授業テーマ	簡単なプログラミングの確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が簡単なプログラミングの技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 簡単なプログラミングについて復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第14回	授業テーマ	簡単なプログラミングの練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に簡単なプログラミングの練習をする。演習結果を提出する。 実技の定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 授業全体の内容について復習すること
	教室外学習の時間(分)	125

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや内容が変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は15点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。初回の授業でルーブリックについて説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力

オフィスアワー

担当教員（原田）は非常勤講師で、大学にいるのは授業のとき（前期：金曜3～5限、後期：金曜2～5限）だけなので、授業時間外の質問等にはメールで対応する。

学生へのメッセージ

表計算の基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。

ノートパソコンには商品版のMicrosoft Office（Word・Excel・PowerPointがセットになったもの）を、初回の授業の前までにインストールして使用可能な状態にしておくこと（無料版のOfficeおよび類似ソフトでは不可）。Microsoft Officeは、本学の学生はMicrosoft社のウェブサイトから無料でダウンロードして使用できるので、購入しなくてよい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者がBYODのノートパソコンを使用して能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

講義コード	G50209036
講義名	コンピュータ演習ｂ（HC）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	原田 一義	指定なし

ナンバリング

X10060C12

授業概要(教育目的)

学内の情報ネットワークに接続したパソコンで、表計算の演習に取り組む。演習により、コンピュータを自ら利用して、表計算による情報処理が正確にできるようになることを目指す。データや関数を入力して数式の基本を理解することから始め、データや数式による計算結果を元にグラフを作成することに取り組む。また、データの整列や抽出、条件判断や検索に基づく処理も演習を通して身につける。さらに、簡単なプログラミングも確認する。

履修条件

大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

コンピュータ演習b

	授業テーマ	データ・数式・関数の入力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	毎回、 学生自身のパソコンを使用して表計算に関して演習する。必ずパソコンを持参すること。 まずは授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法

第1回	**育・ICT活用を含む)**	を理解する。学修者が能動的に表計算ソフトウェアでのデータ・数式・関数の入力について練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表計算ソフトウェアでのデータ入力や数式について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第2回	**授業テーマ**	数学関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が数学関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 数学関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第3回	**授業テーマ**	論理関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が論理関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 論理関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第4回	**授業テーマ**	統計関数の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計関数を計算に用いる技術を学習者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 統計関数について練習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第5回	**授業テーマ**	統計関数の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計関数を計算に用いる技術を学習者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 統計関数について練習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第6回	**授業テーマ**	条件判断
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が条件判断について理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 条件判断について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45

第7回	授業テーマ	グラフ作成の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グラフの作成方法を理解する。学修者が能動的に演習した結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: グラフについて復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第8回	授業テーマ	グラフ作成の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グラフを作成する技術を学修者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: グラフについて練習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第9回	授業テーマ	データ操作（整列）の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にデータを整列する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 整列について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第10回	授業テーマ	データ操作（抽出）の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にデータを抽出する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 抽出について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第11回	授業テーマ	検索関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が検索関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 検索関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第12回	授業テーマ	文字列関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が文字列関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・	復習: 文字列関数について復習すること

	復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	簡単なプログラミングの確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が、簡単なプログラミングの技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 簡単なプログラミングについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	**授業テーマ**	簡単なプログラミングの練習と科目まとめ課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に簡単なプログラミングの練習をする。演習結果を提出する。 実技の定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 授業全体の内容について復習すること
	教室外学習の時間（分）	125

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。
初回の授業でルーブリックについて説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない．適宜講義内でプリントを配布する．

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。

【技術・表現】表計算による情報処理が正確にできる技術力を身につけている。

オフィスアワー

非常勤のため、出講は水曜日1～3限のみ。これ以外の時間はメール（y.tanaka@kasei-gakuin.ac.jp）で質問等を受け付ける。

学生へのメッセージ

表計算の基礎を習得する．この授業では，講義を聴くのみならず，手を動かす必要がある．講義内容の理解を深めるために演習を行う．パソコン室は，授業で使われていない時間に学習のために利用することができるので自学することが望まれる．

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用	○	大学では、学生自身が所有するパソコンの利用を前提（BYOD：Bring Your Own Device)として講義が行われる。 コンピュータ演習a/bでは、レポートの作成など学生生活を送る上で、必須となるICT活用を活用するための能力・技能を養成する。

講義コード	G50209037
講義名	コンピュータ演習ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	田中 康裕	指定なし

ナンバリング

X10060C12

授業概要(教育目的)

学内の情報ネットワークに接続したパソコンで、表計算の演習に取り組む。演習により、コンピュータを自ら利用して、表計算による情報処理が正確にできるようになることを目指す。データや関数を入力して数式の基本を理解することから始め、データや数式による計算結果を元にグラフを作成することに取り組む。また、データの整列や抽出、条件判断や検索に基づく処理も演習を通して身につける。さらに、簡単なプログラミングも確認する。

履修条件

大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

コンピュータ演習b

	授業テーマ	データ・数式・関数の入力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	毎回、 学生自身のパソコンを使用して表計算に関して演習する。必ずパソコンを持参すること。 まずは授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法

第1回	**育・ICT活用を含む)**	を理解する。学修者が能動的に表計算ソフトウェアでのデータ・数式・関数の入力について練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 表計算ソフトウェアでのデータ入力や数式について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第2回	**授業テーマ**	数学関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が数学関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 数学関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第3回	**授業テーマ**	論理関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が論理関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 論理関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第4回	**授業テーマ**	統計関数の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計関数を計算に用いる技術を学習者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 統計関数について練習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第5回	**授業テーマ**	統計関数の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計関数を計算に用いる技術を学習者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 統計関数について練習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第6回	**授業テーマ**	条件判断
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が条件判断について理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 条件判断について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45

第7回	授業テーマ	グラフ作成の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グラフの作成方法を理解する。学修者が能動的に演習した結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: グラフについて復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第8回	授業テーマ	グラフ作成の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グラフを作成する技術を学修者が能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: グラフについて練習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第9回	授業テーマ	データ操作（整列）の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にデータを整列する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 整列について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第10回	授業テーマ	データ操作（抽出）の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的にデータを抽出する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 抽出について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第11回	授業テーマ	検索関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が検索関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 検索関数について復習すること
	教室外学習の時間(分)	45
第12回	授業テーマ	文字列関数の説明・練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が文字列関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・	復習: 文字列関数について復習すること

	復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	簡単なプログラミングの確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が、簡単なプログラミングの技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 簡単なプログラミングについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	**授業テーマ**	簡単なプログラミングの練習と科目まとめ課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修者が能動的に簡単なプログラミングの練習をする。演習結果を提出する。 実技の定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 授業全体の内容について復習すること
	教室外学習の時間（分）	125

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。
初回の授業でルーブリックについて説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない．適宜講義内でプリントを配布する．

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。

【技術・表現】表計算による情報処理が正確にできる技術力を身につけている。

オフィスアワー

非常勤のため、出講は水曜日1～3限のみ。これ以外の時間はメール（y.tanaka@kasei-gakuin.ac.jp）で質問等を受け付ける。

学生へのメッセージ

表計算の基礎を習得する．この授業では，講義を聴くのみならず，手を動かす必要がある．講義内容の理解を深めるために演習を行う．パソコン室は，授業で使われていない時間に学習のために利用することができるので自学することが望まれる．

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用	○	大学では、学生自身が所有するパソコンの利用を前提（BYOD：Bring Your Own Device)として講義が行われる。 コンピュータ演習a/bでは、レポートの作成など学生生活を送る上で、必須となるICTを活用するための能力・技能を養成する。

講義コード	G50210001
講義名	データサイエンス入門
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	土山 玄	指定なし

ナンバリング

X11020M21

授業概要(教育目的)

本授業の主題はデータサイエンスの手法を学ぶことに加え、データ分析の有効性と重要性を学ぶことです。それゆえ、データサイエンスの手法を理解するだけではなく、多種多様なデータに対してデータサイエンスの分析手法をどのように応用するのか実践的に理解することが重要になります。また、本授業では生活に必要なデータサイエンスの基礎を、直感的に理解できる内容をめざしながら、卒業研究の際に必要になりえるデータ分析の基礎も演習を通じて身につけてもらうことを目標とします。演習ではExcelとプログラミング言語であるRを使用します。

履修条件

コンピュータの操作にある程度習熟している。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	データサイエンスの手法について理解する。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	データサイエンスに関心を持ち、主体的に学修する。
技術・表現の観点 (A)	データ分析を実践できるようになる。

学習計画

	授業テーマ	データサイエンスとは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データサイエンスを取り巻く環境を理解する。データの4つの尺度（名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比例尺度）とデータの種類（構造化データと非構造化データ）について学ぶ。

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	データの4つの尺度について復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第2回	**授業テーマ**	1変数の要約
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データの中心傾向（平均値・中央値・最頻値）とデータの散らばり（分散・標準偏差）を学ぶ。Rを使用して統計量を算出できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	データの中心傾向と散らばりについて復習する。ExcelとRの基礎的な関数を復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第3回	**授業テーマ**	1変数の可視化①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	質的変数の集計（単純集計・クロス集計）と量的変数の集計（度数分布表）を学ぶ。質的変数の可視化（棒グラフ・円グラフ）と量的変数の可視化（折れ線グラフ）について実践的に学ぶ。Rを使用して頻度の集計とグラフの作成をできるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ExcelとＲを使用して、データの集計と可視化ができるように復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第4回	**授業テーマ**	1変数の可視化②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	量的変数の可視化（ヒストグラム・箱ひげ図）と層別の処理を学ぶ。シンプソンのパラドックスについて理解する。Rを使用してヒストグラムと箱ひげ図を作成できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ExcelとRを使用してヒストグラムと箱ひげ図を作成できるように復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第5回	**授業テーマ**	2変数の要約と可視化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2変数の関係を表す統計量（共分散・相関係数）と散布図について学ぶ。また、その他の統計量（幾何平均・加重平均・調整平均・移動平均・順位相関係数）について理解する。Rを使用して相関係数の計算と散布図の作成をできるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	相関係数について復習する。ExcelとRで散布図を作成できるように復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
	授業テーマ	標本抽出
	学習内容(ｱｸﾃｨ	

第6回	ﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	母集団と標本について理解し、母集団の統計量（母平均・母分散）と標本の統計量（標本平均・不偏分散・標本の大きさ・標本数）について学ぶ。標本抽出の方法（有意選出・無作為抽出）についても学ぶ。Rを用いて標本抽出を実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	母集団の統計量と標本の統計量について復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第7回	授業テーマ	確率分布
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	確率変数、離散変数の確率分布（一様分布・二項分布）および連続変数の確率分布（正規分布・標準正規分布）を学ぶ。標本分布について理解する。Rを使用して二項分布と正規分布を作成できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	二項分布と正規分布について復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第8回	授業テーマ	推定①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大数の法則と中心極限定理について理解する。点推定と区間推定を学ぶ。特に母分散が既知のときの母平均の区間推定について学び、Rを使用して実践できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	正規分布の性質と区間推定について復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第9回	授業テーマ	推定②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	t分布を理解し、母分散が未知のときの母平均の区間推定について学ぶ。演習として、実際の考古学のデータを使用し、寺院の建立年代の推定を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	t分布を仮定した区間推定について復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第10回	授業テーマ	検定①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	帰無仮説と対立仮説、有意水準、棄却域を理解し、1標本のt検定について学ぶ。Rを使用して、1標本のt検定を実践できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	1標本のt検定について復習する。
	教室外学習の	

	時間（分）	復習：180分
第11回	**授業テーマ**	検定②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対応のない2標本のt検定および対応のある2標本のt検定について学び、Rを使用して実践できるようになる。演習として、t検定を用いた夏目漱石の文体の変化についての分析を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	2標本のt検定について復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第12回	**授業テーマ**	検定③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	独立性の検定（カイ二乗検定・フィッシャーの正確確率検定）について学び、Rを使用して実践できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	独立性の検定について復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第13回	**授業テーマ**	2変数の関連性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	カイ二乗値、クラメールの連関係数、ファイ係数について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	クロス集計表を用いた関連性の計算方法について復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第14回	**授業テーマ**	回帰分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	説明変数と目的変数について理解する。最小二乗法と決定係数について学び、Rを使用して回帰分析を実践できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	単回帰分析について復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分

評価方法

中間レポートおよび期末レポートでは分析手法に対する理解の程度とデータ分析の実践力を確認する。
受講状況では質問の提出頻度などによって学修意欲を評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間レポート	○			○
期末レポート	○			○
受講状況			○	

評価割合

中間レポート（40%）、期末レポート（50%）、受講状況（10%）

使用教科書名(ISBN番号)

授業でアナウンスをする。

参考図書

授業でアナウンスをする。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】データサイエンスの知識に基づき、課題を発見し、その解決策を立案できる。
【関心・意欲・態度】積極的にデータサイエンスについての関心を持ち、実社会における様々な課題を解決するためにはどのようにデータサイエンスを活用すると良いのか思考する。
【技能・表現】種々の課題解決のために、データ分析を実践できる。

オフィスアワー

原則として、メールで対応する。必要に応じて、オンラインでの対応も行う。

学生へのメッセージ

数学が苦手でもデータサイエンスには体験することで理解が深まることがたくさんあります。
授業で採り上げた内容に不明なことがあれば積極的に質問してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	コンピュータを使用した演習

講義コード	G50210031
講義名	データサイエンス入門
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	土山 玄	指定なし

授業概要(教育目的)

本授業の主題はデータサイエンスの手法を学ぶことに加え、データ分析の有効性と重要性を学ぶことです。それゆえ、データサイエンスの手法を理解するだけではなく、多種多様なデータに対してデータサイエンスの分析手法をどのように応用するのか実践的に理解することが重要になります。また、本授業では生活に必要なデータサイエンスの基礎を、直感的に理解できる内容をめざしながら、卒業研究の際に必要になりえるデータ分析の基礎も演習を通じて身につけてもらうことを目標とします。演習ではExcelとプログラミング言語であるRを使用します。

履修条件

コンピュータの操作にある程度習熟している。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	データサイエンスの手法について理解する。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	データサイエンスに関心を持ち、主体的に学修する。
技術・表現の観点 (A)	データ分析を実践できるようになる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	データサイエンスとは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データサイエンスを取り巻く環境を理解する。データの4つの尺度（名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比例尺度）とデータの種類（構造化データと非構造化データ）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内	データの4つの尺度について復習する。

	容	
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第2回	授業テーマ	1変数の要約
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データの中心傾向（平均値・中央値・最頻値）とデータの散らばり（分散・標準偏差）を学ぶ。Rを使用して統計量を算出できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	データの中心傾向と散らばりについて復習する。ExcelとRの基礎的な関数を復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第3回	授業テーマ	1変数の可視化①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	質的変数の集計（単純集計・クロス集計）と量的変数の集計（度数分布表）を学ぶ。質的変数の可視化（棒グラフ・円グラフ）と量的変数の可視化（折れ線グラフ）について実践的に学ぶ。Rを使用して頻度の集計とグラフの作成をできるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ExcelとRを使用して、データの集計と可視化ができるように復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第4回	授業テーマ	1変数の可視化②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	量的変数の可視化（ヒストグラム・箱ひげ図）と層別の処理を学ぶ。シンプソンのパラドックスについて理解する。Rを使用してヒストグラムと箱ひげ図を作成できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ExcelとRを使用してヒストグラムと箱ひげ図を作成できるように復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第5回	授業テーマ	2変数の要約と可視化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2変数の関係を表す統計量（共分散・相関係数）と散布図について学ぶ。また、その他の統計量（幾何平均・加重平均・調整平均・移動平均・順位相関係数）について理解する。Rを使用して相関係数の計算と散布図の作成をできるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	相関係数について復習する。ExcelとRで散布図を作成できるように復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
	授業テーマ	標本抽出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	母集団と標本について理解し、母集団の統計量（母平均・母分散）と標本の統計量（標本平均・不偏分散・標本の大きさ・標本数）について学ぶ。標本抽出の方法（有意選出・無作為抽出）についても学ぶ。Rを用いて標本抽出を実践する。

第6回	**含む)**	
	教室外学習(予習・復習)の内容	母集団の統計量と標本の統計量について復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第7回	**授業テーマ**	確率分布
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	確率変数、離散変数の確率分布（一様分布・二項分布）および連続変数の確率分布（正規分布・標準正規分布）を学ぶ。標本分布について理解する。Rを使用して二項分布と正規分布を作成できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	二項分布と正規分布について復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第8回	**授業テーマ**	推定①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大数の法則と中心極限定理について理解する。点推定と区間推定を学ぶ。特に母分散が既知のときの母平均の区間推定について学び、Rを使用して実践できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	正規分布の性質と区間推定について復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第9回	**授業テーマ**	推定②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	t分布を理解し、母分散が未知のときの母平均の区間推定について学ぶ。演習として、実際の考古学のデータを使用し、寺院の建立年代の推定を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	t分布を仮定した区間推定について復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第10回	**授業テーマ**	検定①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	帰無仮説と対立仮説、有意水準、棄却域を理解し、1標本のt検定について学ぶ。Rを使用して、1標本のt検定を実践できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	1標本のt検定について復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
	授業テーマ	検定②
	学習内容(ｱｸﾃｨ	

第11回	**ﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	対応のない2標本のt検定および対応のある2標本のt検定について学び、Rを使用して実践できるようになる。演習として、t検定を用いた夏目漱石の文体の変化についての分析を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	2標本のt検定について復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第12回	**授業テーマ**	検定③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	独立性の検定（カイ二乗検定・フィッシャーの正確確率検定）について学び、Rを使用して実践できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	独立性の検定について復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第13回	**授業テーマ**	2変数の関連性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	カイ二乗値、クラメールの連関係数、ファイ係数について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	クロス集計表を用いた関連性の計算方法について復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第14回	**授業テーマ**	回帰分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	説明変数と目的変数について理解する。最小二乗法と決定係数について学び、Rを使用して回帰分析を実践できるようになる
	教室外学習(予習・復習)の内容	単回帰分析について復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分

評価方法

中間レポートおよび期末レポートでは分析手法に対する理解の程度とデータ分析の実践力を確認する。
受講状況では質問の提出頻度などによって学修意欲を評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間レポート	○			○

期末レポート	○			○
受講状況			○	

評価割合

中間レポート（40%）、期末レポート（50%）、受講状況（10%）

使用教科書名(ISBN番号)

授業でアナウンスをする。

参考図書

授業でアナウンスをする。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】データサイエンスの知識に基づき、課題を発見し、その解決策を立案できる。
【関心・意欲・態度】積極的にデータサイエンスについての関心を持ち、実社会における様々な課題を解決するためにはどのようにデータサイエンスを活用すると良いのか思考する。
【技能・表現】種々の課題解決のために、データ分析を実践できる。

オフィスアワー

原則として、メールで対応する。必要に応じて、対面やオンラインでの対応も行う。

学生へのメッセージ

数学が苦手でもデータサイエンスには体験することで理解が深まることがたくさんあります。
授業で採り上げた内容に不明なことがあれば積極的に質問してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	コンピュータを使用した演習

講義コード	G50211001
講義名	データサイエンス2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	土山 玄	指定なし

ナンバリング

X23190M21

授業概要(教育目的)

本科目の主題はデータサイエンスの手法を学ぶことに加え、データ分析の有効性と重要性を学ぶことです。それゆえ、データサイエンスの手法を理解するだけではなく、多種多様なデータに対してデータサイエンスの分析手法をどのように応用するのか実践的に理解することが重要になります。特に、多変量解析の手法を中心に採り上ます。本授業では生活に必要なデータサイエンスの基礎を、可能な限り数式を使用せず、直感的に理解できる内容をめざしながら、卒業研究の際に必要になりえるデータ分析の基礎も演習を通じて身につけてもらうことを目標とします。演習ではプログラミング言語であるRを使用します。また、本科目は集中講義形式で行います。

履修条件

コンピュータの操作にある程度習熟している。
後期開講科目のデータサイエンス1を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	データサイエンスの手法について理解する。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	データサイエンスに関心を持ち、主体的に学修する。
技術・表現の観点 (A)	データ分析を実践できるようになる。

学習計画

	授業テーマ	データサイエンスとは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	データサイエンスとはどのようなものであるのか学ぶ。また、データサイエンスの活用事例を概観する。データサイエン

第1回	育・ICT活用を含む)	ス1で採り上げた分析手法の復習をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	データサイエンスの概要を復習する。
	教室外学習の時間(分)	復習：180分
第2回	授業テーマ	判別分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	線形判別分析および交差検証について学ぶ。また、Rを使用して判別分析を実践できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で解説したRの操作を復習する。
	教室外学習の時間(分)	復習：180分
第3回	授業テーマ	ロジスティック回帰分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロジスティック回帰分析について学び、モデル選択について理解する。また、Rを使用してロジスティック回帰分析を実践できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で解説したRの操作を復習する。
	教室外学習の時間(分)	復習：180分
第4回	授業テーマ	主成分分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主成分分析について学ぶ。Rを使用して主成分分析を実践できるようになる。固有値および固有ベクトルについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で解説したRの操作を復習する。
	教室外学習の時間(分)	復習：180分
第5回	授業テーマ	クロス集計表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クロス集計について理解し、クラメールの連関係数やファイ係数について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で解説したRの操作を復習する。
	教室外学習の時間(分)	復習：180分
第6回	授業テーマ	対応分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対応分析および多重対応分析について学ぶ。Rを使用して対応分析を実践できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で解説したRの操作を復習する。
	教室外学習の時間(分)	復習：180分
第7回	授業テーマ	次元縮約について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主成分分析、対応分析について復習する。対応分析と主成分分析の違いを理解する。
	教室外学習(予習・復	授業で解説したRの操作を復習する。

	習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第8回	授業テーマ	クラスター分析①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	階層的クラスター分析について学ぶ。また、Rを使用して階層的クラスター分析を実践できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で解説したRの操作を復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第9回	授業テーマ	クラスター分析②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	k-means法とk-medoids法について学ぶ。Rを使用して非階層的クラスター分析を実践できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で解説したRの操作を復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第10回	授業テーマ	アソシエーション分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	トランザクションデータおよび相関ルールについて学ぶ。Rを使用してアソシエーション分析を実践できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で解説したRの操作を復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第11回	授業テーマ	ネットワーク分析①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	有向グラフおよび無向グラフについて理解し、ページランクなどの中心性について学ぶ。Rを使用してネットワーク分析を実践できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で解説したRの操作を復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第12回	授業テーマ	ネットワーク分析②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ネットワークにおけるコミュニティの検出について学ぶ。Rを使用してネットワーク分析を実践できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で解説したRの操作を復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第13回	授業テーマ	機械学習とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	機械学習とはどのようなものか学ぶ。教師あり学習と教師なし学習について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	機械学習の概要を復習する。
	教室外学習の時間	復習：180分

	（分）	
第14回	授業テーマ	決定木
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	機械学習の基礎的な手法である決定木について学ぶ。Rを使用して決定木を実践できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で解説したRの操作を復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分

評価方法

中間レポートおよび期末レポートでは分析手法に対する理解の程度とデータ分析の実践力を確認する。
受講状況では質問の提出頻度などによって学修意欲を評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間レポート	○			○
期末レポート	○			○
受講状況			○	

評価割合

中間レポート（40%）、期末レポート（50%）、受講状況（10%）

使用教科書名(ISBN番号)

授業でアナウンスをする。

参考図書

授業でアナウンスをする。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】データサイエンスの知識に基づき、課題を発見し、その解決策を立案できる。
【関心・意欲・態度】積極的にデータサイエンスについての関心を持ち、実社会における様々な課題を解決するためにはどのようにデータサイエンスを活用すると良いのか思考する。
【技能・表現】種々の課題解決のために、データ分析を実践できる。

オフィスアワー

原則として、メールで対応する。必要に応じて、オンラインでの対応も行う。

学生へのメッセージ

数学が苦手でもデータサイエンスには体験することで理解が深まることがたくさんあります。
授業で採り上げた内容に不明なことがあれば積極的に質問してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	コンピュータを使用した演習

講義コード	G50211031
講義名	データサイエンス2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	土山 玄	指定なし

ナンバリング

X23190C21

授業概要(教育目的)

本科目の主題はデータサイエンスの手法を学ぶことに加え、データ分析の有効性と重要性を学ぶことです。それゆえ、データサイエンスの手法を理解するだけではなく、多種多様なデータに対してデータサイエンスの分析手法をどのように応用するのか実践的に理解することが重要になります。特に、多変量解析の手法を中心に採り上ます。本授業では生活に必要なデータサイエンスの基礎を、可能な限り数式を使用せず、直感的に理解できる内容をめざしながら、卒業研究の際に必要になりえるデータ分析の基礎も演習を通じて身につけてもらうことを目標とします。演習ではプログラミング言語であるRを使用します。

履修条件

コンピュータの操作にある程度習熟している。
後期開講科目のデータサイエンス1を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	データサイエンスの手法について理解する。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	データサイエンスに関心を持ち、主体的に学修する。
技術・表現の観点 (A)	データ分析を実践できるようになる。

学習計画

	授業テーマ	データサイエンスとは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データサイエンスとはどのようなものであるのか学ぶ。また、データサイエンスの活用事例を概観する。データサイエンス1で採り上げた分析手法の復習をする。

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	データサイエンスの概要を復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第2回	授業テーマ	判別分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	線形判別分析および交差検証について学ぶ。また、Rを使用して判別分析を実践できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で解説したRの操作を復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第3回	授業テーマ	ロジスティック回帰分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロジスティック回帰分析について学び、モデル選択について理解する。また、Rを使用してロジスティック回帰分析を実践できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で解説したRの操作を復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第4回	授業テーマ	主成分分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主成分分析について学ぶ。Rを使用して主成分分析を実践できるようになる。固有値および固有ベクトルについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で解説したRの操作を復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第5回	授業テーマ	クロス集計表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クロス集計について理解し、クラメールの連関係数やファイ係数について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で解説したRの操作を復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第6回	授業テーマ	対応分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対応分析および多重対応分析について学ぶ。Rを使用して対応分析を実践できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で解説したRの操作を復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第7回	授業テーマ	次元縮約について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主成分分析、対応分析について復習する。対応分析と主成分分析の違いを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で解説したRの操作を復習する。

	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第8回	**授業テーマ**	クラスター分析①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	階層的クラスター分析について学ぶ。また、Rを使用して階層的クラスター分析を実践できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で解説したRの操作を復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第9回	**授業テーマ**	クラスター分析②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	k-means法とk-medoids法について学ぶ。Rを使用して非階層的クラスター分析を実践できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で解説したRの操作を復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第10回	**授業テーマ**	アソシエーション分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	トランザクションデータおよび相関ルールについて学ぶ。Rを使用してアソシエーション分析を実践できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で解説したRの操作を復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第11回	**授業テーマ**	ネットワーク分析①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	有向グラフおよび無向グラフについて理解し、ページランクなどの中心性について学ぶ。Rを使用してネットワーク分析を実践できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で解説したRの操作を復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第12回	**授業テーマ**	ネットワーク分析②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ネットワークにおけるコミュニティの検出について学ぶ。Rを使用してネットワーク分析を実践できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で解説したRの操作を復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分
第13回	**授業テーマ**	機械学習とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	機械学習とはどのようなものか学ぶ。教師あり学習と教師なし学習について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	機械学習の概要を復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分

第14回	授業テーマ	決定木
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	機械学習の基礎的な手法である決定木について学ぶ。Rを使用して決定木を実践できるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で解説したRの操作を復習する。
	教室外学習の時間（分）	復習：180分

評価方法

中間レポートおよび期末レポートでは分析手法に対する理解の程度とデータ分析の実践力を確認する。
受講状況では質問の提出頻度などによって学修意欲を評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間レポート	○			○
期末レポート	○			○
受講状況			○	

評価割合

中間レポート（40%）、期末レポート（50%）、受講状況（10%）

使用教科書名(ISBN番号)

授業でアナウンスをする。

参考図書

授業でアナウンスをする。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】データサイエンスの知識に基づき、課題を発見し、その解決策を立案できる。
【関心・意欲・態度】積極的にデータサイエンスについての関心を持ち、実社会における様々な課題を解決するためにはどのようにデータサイエンスを活用すると良いのか思考する。
【技能・表現】種々の課題解決のために、データ分析を実践できる。

オフィスアワー

原則として、メールで対応する。必要に応じて、対面やオンラインでの対応も行う。

学生へのメッセージ

数学が苦手でもデータサイエンスには体験することで理解が深まることがたくさんあります。
授業で採り上げた内容に不明なことがあれば積極的に質問してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	コンピュータを使用した演習

講義コード	G50212001
講義名	デジタル＆AI基礎
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	持井　美紅	指定なし

ナンバリング

X11030M22

授業概要(教育目的)

学内の情報ネットワークに接続したパソコンで、基礎的なプログラミングの演習に取り組む。演習により、デジタルリテラシーを向上させ、デジタル技術を有効に活用することができるようになることを目指す。アルゴリズムとデータ構造を理解することから始め、自らコーディングすることに取り組む。また、AIを応用する演習にも取り組む。演習により、自らの学修や創作活動のスキルを向上させることができるようになることを目指す。AIの機能を理解することから始め、その利用方法を学ぶ演習に取り組む。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	プログラミングの基礎を理解すること AI の基礎を理解すること
思考・判断の観点 (K)	プログラミングやAIなどデジタル技術を今後自らの生活にどのように活かせるかについて考えること
関心・意欲・態度の観点 (V)	プログラミングやAIなどデジタル技術への興味・関心を持つこと
技術・表現の観点 (A)	プログラミングの基礎について学び、簡単な実装ができるようになること

学習計画

学生へのフィードバック方法

Google Classroom を通じて行う

評価方法

成果物または講義後のレポートの提出およびチェックテストの合計点により評価する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
成果物または講義後のレポートの	○	○	○	○
チェックテスト	○		○	

評価割合

成果物または講義後のレポート：50点
チェックテスト：50点

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

ディプロマポリシーにある「学修で得た専門的技能(技術)をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力」を、デジタル技術という専門的技術を通じて養うことを目指す。

オフィスアワー

なし

学生へのメッセージ

プログラミング、AIなどと聞くと難しい、よくわからないといったイメージを持つ方も多いかもしれません。しかし、本講義は、まったくプログラミングを行ったことがない初学者を対象としていますので、安心してご参加ください。生成AIの登場により、AIなどデジタル技術はますます身近なものになってきています。本講義が、さまざまなデジタル技術を知り、人生を豊かにするきっかけとなってくれることを願っています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教員はデジタルマーケティング業界での実務経験があります。実務経験を活かしたデジタルマーケティング体験講義を1回分予定しています。
アクティブ・ラーニング	○	AI技術に関するグループワークを1～2回分予定しています。
情報リテラシー教育	○	PC を活用したプログラミング演習を予定しています。
ICT活用	○	レポートのやり取りや質問受けなどはGoogle Classroom の使用を予定しています。

講義コード	G50212031
講義名	デジタル＆AI基礎
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学部1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	持井　美紅	指定なし

授業概要(教育目的)

学内の情報ネットワークに接続したパソコンで、基礎的なプログラミングの演習に取り組む。演習により、デジタルリテラシーを向上させ、デジタル技術を有効に活用することができるようになることを目指す。アルゴリズムとデータ構造を理解することから始め、自らコーディングすることに取り組む。また、AIを応用する演習にも取り組む。演習により、自らの学修や創作活動のスキルを向上させることができるようになることを目指す。AIの機能を理解することから始め、その利用方法を学ぶ演習に取り組む。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	プログラミングの基礎を理解すること AI の基礎を理解すること
思考・判断の観点 (K)	プログラミングやAIなどデジタル技術を今後自らの生活にどのように活かせるかについて考えること
関心・意欲・態度の観点 (V)	プログラミングやAIなどデジタル技術への興味・関心を持つこと
技術・表現の観点 (A)	プログラミングの基礎について学び、簡単な実装ができるようになること

学習計画

学生へのフィードバック方法

Google Classroom を通じて行う

評価方法

成果物または講義後のレポートの提出およびチェックテストの合計点により評価する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
成果物または講義後のレポートの	○	○	○	○
チェックテスト	○		○	

評価割合

成果物または講義後のレポート：50点
チェックテスト：50点

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

ディプロマポリシーにある「学修で得た専門的技能(技術)をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力」を、デジタル技術という専門的技術を通じて養うことを目指す。

オフィスアワー

なし

学生へのメッセージ

プログラミング、AIなどと聞くと難しい、よくわからないといったイメージを持つ方も多いかもしれません。しかし、本講義は、まったくプログラミングを行ったことがない初学者を対象としていますので、安心してご参加ください。生成AIの登場により、AIなどデジタル技術はますます身近なものになってきています。本講義が、さまざまなデジタル技術を知り、人生を豊かにするきっかけとなってくれることを願っています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教員はデジタルマーケティング業界での実務経験があります。実務経験を活かしたデジタルマーケティング体験講義を1回分予定しています。
アクティブ・ラーニング	○	AI技術に関するグループワークを1～2回分予定しています。
情報リテラシー教育	○	PC を活用したプログラミング演習を予定しています。
ICT活用	○	レポートのやり取りや質問受けなどはGoogle Classroom の使用を予定しています。

講義コード	G50213001
講義名	情報リテラシー基礎
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	吉田 孝志	指定なし

ナンバリング

X11040M22

授業概要(教育目的)

デジタル技術を有効かつ安全に使いこなすための基礎的な知識として、コンピューター、情報セキュリティ、ネットワーク、プログラミングといった分野における技術の概要と、情報を取り扱う際のルールや取り扱い方法に関して解説する。高等学校情報科「情報I」の範囲を基本とし、近年の産業動向をふまえた実践的な内容も交えて解説する。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	業務等において情報技術を活用していく場合に必要となる基礎的な知識を理解している。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内容の理解・習得に向けた高い意欲を有している。
技術・表現の観点 (A)	コンピューターとインターネットの基本的な使用方法を習得している。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	情報発信のルール
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	情報分野での業務や学習ではインターネットに接することが多い。インターネットでは情報発信が容易であるが、悪意なく行った情報発信が法に触れる可能性がある。自分が不本意に加害者とならないために

	を含む)	はどうすればいいかを説明する。
第2回	**授業テーマ**	個人の情報セキュリティ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンピューターやインターネットを安心して使い続けるためには、大切な情報が外部に漏れるといったことがないように、情報セキュリティ対策が必要である。個人の利用者の観点から、情報セキュリティの脅威となる要因と、それに対する対策について説明する。
第3回	**授業テーマ**	PCの基本操作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	PCを構成する各種ハードウェアの機能と、PCの基本的な操作方法について説明する。
第4回	**授業テーマ**	PCの活用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	PCで使用される各種ソフトウェアの使用上の注意事項について説明する。
第5回	**授業テーマ**	コンピューターのしくみ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンピューターの基本的な動作原理について説明する。
第6回	**授業テーマ**	情報理論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報分野の理論の概要と各種アルゴリズムについて説明する。
第7回	**授業テーマ**	情報システム(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会を支える各種の情報システムについて説明する。
第8回	**授業テーマ**	情報システム(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報システムの開発・運用に関する諸問題について説明する。
第9回	**授業テーマ**	情報通信ネットワーク
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターネットをはじめとする情報通信ネットワークの概要について説明する。
10	**授業テーマ**	インターネットの活用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報	

第　回	リテラシー教育・ICT活用を含む)	インターネット上の各種サービスとそれらの使用上の注意事項について説明する。
第11回	授業テーマ	プログラミング
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	プログラミングの基礎について説明する。
第12回	授業テーマ	データの収集と管理
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	データの収集・整理の方法とデータベースについて説明する。
第13回	授業テーマ	データ分析
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	基礎的なデータ分析の方法について説明する。
第14回	授業テーマ	AI
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	AIの基本概念と近年の動向について説明する。

学習計画注記

一部の回では、PC、ソフトウェア、インターネット等の使用方法の概要について解説する。該当する回にはPCの持参を推奨する。

学生へのフィードバック方法

課題は予定していない。

評価方法

平常点は、授業への参加状況等に基づいて総合的に評価する。
遅刻は30分までは遅刻扱いとし、30分以上経過した場合は入室は認めても欠席扱いとする。また、3回遅刻で1回欠席扱いとする。
定期試験では、授業の範囲から、多岐選択問題を出題する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
定期試験	○			○

評価割合

平常点（50%）、定期試験（50%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

森本尚之, 奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー』

ディプロマポリシーとの関連

本授業の内容は、ディプロマポリシーのうち全大学共通の「知識・理解」と「技能・表現」に関連するものである。情報技術の観点から社会を理解するうえでの基礎知識と、情報技術を活用して課題を発見・分析する技能を習得する。

学生へのメッセージ

ICTの活用は業務や学習を進めていくうえで大きな力となりますが、思わぬトラブルに巻き込まれる可能性もあります。ICTを有効に、かつ安心して利用するための知識を学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	業務等において情報技術を活用していく場合に必要となる基礎的な知識に該当する。
ICT活用	○	PC、ソフトウェア、インターネット等の使用方法の概要について解説する。

講義コード	G50213031
講義名	情報リテラシー基礎
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	吉田 孝志	指定なし

授業概要(教育目的)

デジタル技術を有効かつ安全に使いこなすための基礎的な知識として、コンピューター、情報セキュリティ、ネットワーク、プログラミングといった分野における技術の概要と、情報を取り扱う際のルールや取り扱い方法に関して解説する。高等学校情報科「情報I」の範囲を基本とし、近年の産業動向をふまえた実践的な内容も交えて解説する。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	業務等において情報技術を活用していく場合に必要となる基礎的な知識を理解している。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内容の理解・習得に向けた高い意欲を有している。
技術・表現の観点 (A)	コンピューターとインターネットの基本的な使用方法を習得している。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	情報発信のルール
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報分野での業務や学習ではインターネットに接することが多い。インターネットでは情報発信が容易であるが、悪意なく行った情報発信が法に触れる可能性がある。自分が不本意に加害者とならないためにはどうすればいいかを説明する。
	授業テーマ	個人の情報セキュリティ

第2回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	コンピューターやインターネットを安心して使い続けるためには、大切な情報が外部に漏れるといったことがないように、情報セキュリティ対策が必要である。個人の利用者の観点から、情報セキュリティの脅威となる要因と、それに対する対策について説明する。
第3回	**授業テーマ**	PCの基本操作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	PCを構成する各種ハードウェアの機能と、PCの基本的な操作方法について説明する。
第4回	**授業テーマ**	PCの活用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	PCで使用される各種ソフトウェアの使用上の注意事項について説明する。
第5回	**授業テーマ**	コンピューターのしくみ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンピューターの基本的な動作原理について説明する。
第6回	**授業テーマ**	情報理論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報分野の理論の概要と各種アルゴリズムについて説明する。
第7回	**授業テーマ**	情報システム(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会を支える各種の情報システムについて説明する。
第8回	**授業テーマ**	情報システム(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報システムの開発・運用に関する諸問題について説明する。
第9回	**授業テーマ**	情報通信ネットワーク
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターネットをはじめとする情報通信ネットワークの概要について説明する。
第10回	**授業テーマ**	インターネットの活用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターネット上の各種サービスとそれらの使用上の注意事項について説明する。

第11回	授業テーマ	プログラミング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プログラミングの基礎について説明する。
第12回	授業テーマ	データの収集と管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データの収集・整理の方法とデータベースについて説明する。
第13回	授業テーマ	データ分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基礎的なデータ分析の方法について説明する。
第14回	授業テーマ	AI
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	AIの基本概念と近年の動向について説明する。

学習計画注記

一部の回では、PC、ソフトウェア、インターネット等の使用方法の概要について解説する。該当する回にはPCの持参を推奨する。

学生へのフィードバック方法

課題は予定していない。

評価方法

平常点は、授業への参加状況等に基づいて総合的に評価する。
遅刻は30分までは遅刻扱いとし、30分以上経過した場合は入室は認めても欠席扱いとする。また、3回遅刻で1回欠席扱いとする。
定期試験では、授業の範囲から、多岐選択問題を出題する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
定期試験	○			○

評価割合

平常点（50%）、定期試験（50%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

森本尚之, 奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー』

ディプロマポリシーとの関連

本授業の内容は、ディプロマポリシーのうち全大学共通の「知識・理解」と「技能・表現」に

関連するものである。情報技術の観点から社会を理解するうえでの基礎知識と、情報技術を活用して課題を発見・分析する技能を習得する。

学生へのメッセージ

ICTの活用は業務や学習を進めていくうえで大きな力となりますが、思わぬトラブルに巻き込まれる可能性もあります。ICTを有効に、かつ安心して利用するための知識を学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	業務等において情報技術を活用していく場合に必要となる基礎的な知識に該当する。
ICT活用	○	PC、ソフトウェア、インターネット等の使用方法の概要について解説する。

講義コード	G50301001
講義名	心と身体の健康
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	柳瀬　洋美	指定なし

ナンバリング

X13200M21

授業概要(教育目的)

私たちの心と身体は深くかかわりあっています。そのどちらが不調であっても私たちは健康であるとは言えません。

本授業では、主に心理学的な視点から「心と身体の健康」についての理解を深め、ストレスや不安などに適切に対処する力を養うことを目的とします。

また、「心と身体の健康」の維持・向上に役立つ実践的なスキルを身につけることで、より充実した大学生活を送るための基盤を築きます。

履修条件

特にありません。

「心身の健康とは何か」や「幸福とは何か」というテーマに興味関心のある人はぜひ受講してください。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	・様々な視点から「心と身体」の関係性や「健康」について理解を深める
思考・判断の観点(K)	・主に心理学的な視点から「心と身体の健康」についての理解を深め、ストレスや不安などに適切に対処する力を養う
関心・意欲・態度の観点 (V)	・自分自身の心と身体との対話を通し、より豊かな生活を送るために必要なことについて考える力を養う。
技術・表現の観点(A)	・「心と身体の健康」の維持・向上に役立つ実践的なスキルを身につける。

学習計画

第1回	授業テーマ	オリエンテーション－「心と身体の健康」とは？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・授業の目的・進め方の説明 ・心と身体の健康とは？（WHOの健康定義など） ・自己評価ワーク
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分自身の心と身体の状態について関心を持ち、健康とは何かという問いに自分なりに考えてみる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	心と身体のメッセージ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・心身一元論や心身二元論など、心と身体に関する基本的な理論について知り、様々な事例から、心と身体の深い関連性について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学んだことをもとに、自分自身の心身の状態について理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	メンタルヘルスと大学生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	•大学生が直面するメンタルヘルスの課題（孤独・プレッシャー・適応） •うつ・不安・燃え尽き症候群の基礎知識 •自己チェックリストを活用したメンタルヘルスの評価
	教室外学習(予習・復習)の内容	メンタルヘルスという視点から大学生活を捉えてみる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	ストレスの理解と対処法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	•ストレスのメカニズム（脳・ホルモン・自律神経） •良いストレスと悪いストレス •自分のストレス要因を特定するワーク •ストレス対処法の紹介（リラクゼーション・コーピング）
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分自身のストレス対処法についてまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	感情のコントロールと自己理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	•感情の仕組み（ポジティブ・ネガティブ感情の役割） •アンガーマネジメント •自己理解を深めるためのワーク
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	心と身体の病理の理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含)	・心の病理について基本的な知識を学び、おもな精神疾患の症状と周囲の理解や対応について学ぶ。 ・依存症のメカニズムについて理解し、飲酒・喫煙や薬物の危険

第6回	む	性について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	今回の授業で学んだことをもとに、心の病理に関するテーマでのミニレポートを作成する。 自己分析によって気づいたことをまとめる。
	教室外学習の時間(分)	180分
第7回	授業テーマ	リラクゼーションとセルフケア
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・リラクゼーション法の紹介（呼吸法、ヨガ、瞑想） ・自律訓練法や呼吸法、リラクゼーションなどの体験 ・マインドフルネスの理解と実践
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学んだ自律訓練法や呼吸法、リラクゼーションなど体験したことについてまとめる
	教室外学習の時間(分)	180分
第8回	授業テーマ	私たちの生活と健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・食生活が健康に与える影響について ・睡眠の役割と重要性 ・より良い睡眠のために
	教室外学習(予習・復習)の内容	・自分の食生活や睡眠について記録をもとに考察する。
	教室外学習の時間(分)	180分
第9回	授業テーマ	SNS・デジタル機器と心と身体の健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	•デジタル機器の使用時間と健康影響 •SNSがメンタルに与える影響（比較・承認欲求・依存） •デジタルデトックスについて考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分自身のSNSやスマホとの関係について記録をもとに考える。
	教室外学習の時間(分)	180分
第10回	授業テーマ	人間関係とメンタルヘルス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	•人間関係の重要性（友人・家族・恋人・コミュニティ） •コミュニケーションの基本（アサーション、傾聴） •人間関係のストレスとその対処法 ・「私の応援団」マップの作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の身近な人々との関係について整理してみる。
	教室外学習の時間(分)	180分
第11回	授業テーマ	自己を表現するということ～セルフアサーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「さわやかな自己表現」と言われるセルフアサーションを学び、ロールプレイ等による体験を通して「相手も自分も尊重する」コミュニケーションのあり方について実践的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で体験したセルフアサーションから得た気づきをミニレポートにまとめる。
	教室外学習の時間(分)	180分

第12回	授業テーマ	私たちのライフサイクルと心と身体の関係性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人の生涯にわたる心と身体の変化とその関係性について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学んだことをもとに、ライフサイクルという視点から今の自分とこれからの自分について考える
	教室外学習の時間(分)	180分
第13回	授業テーマ	「幸福」と何か―かけがえのない私
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・「幸福」の定義 ・レジリエンス（心の回復力）の定義と重要性 ・自己肯定感と自己受容 ・セルフカウンセリングとコーチング
	教室外学習(予習・復習)の内容	・自分の考える「幸福」について考える。 ・授業で学んだことをもとに自分の強みについてまとめる。
	教室外学習の時間(分)	180分
第14回	授業テーマ	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業を振り返り、健康な状態とは何かについて考える。また、「ウェルビーイング」について学び、生涯を通じて心身ともに良好な状態であり続けるための取り組みについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分自身にとっての「健康な状態」は何かについて、考えを深めておくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分

学習計画注記

授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

出席確認および授業後に提出されたコメントに対し、適宜授業内で回答を行います。

評価方法

・毎回、授業の終了時に小レポートを実施します。また最終レポート課題の提出を求めます。
・ルーブリックを用いた評価を行います。ルーブリックについてはクラスルームにより提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小レポート	○	○	○	○
最終レポート課題	○	○	○	○

評価割合

毎回のミニレポート（70%）、最終レポート課題（30%）による総合評価とする。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

適宜、授業の中で紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間の心と身体の健康について、理解している。
【思考・判断】健康の維持増進のために必要な対策を判断して提案できる。
【関心・意欲・態度】社会を構成するかけがえのない存在として、自身を大切に、周囲の人の健康のために働くことができる。
【技術・表現】心と身体の健康の維持・向上に役立つ実践的なスキルを身につける。

オフィスアワー

水曜５限　1619室

学生へのメッセージ

本授業では、主に心理学的な視点から「心と身体の健康」についての理解を深め、ストレスや不安などに適切に対処する力を養うことを目的とします。
私たちが心豊かで幸せな生活を送るためには心身ともに健康であることが重要な鍵となります。
本授業が自分自身の心と身体を見つめる機会になればと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者は長年、心理臨床の現場で「心と身体の健康」の問題に携わっている。多くの事例を元に実践的な学びの要素を授業に生かしていく。
アクティブ・ラーニング	○	授業で学ぶ知識に対し、受講者自らが自分自身の課題として考え、取り組めるよう導いていく。
情報リテラシー教育	○	多くの情報があふれる中で、それらに振り回されることなく、必要な情報を見極める力を育てる。
ICT活用		

講義コード	G50301031
講義名	心と身体の健康
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	北見　由奈	指定なし

ナンバリング

X13200C21

授業概要(教育目的)

古くから、健康とは何らかの「病気」に罹患していないことであると考えられていた。しかし、近年では健康を身体だけでなく、心や社会、環境なども含めた広い概念として取り扱うようになってきた。本授業では、心と身体の相互作用に注目し、疾病の予防、健康の維持・増進のための基礎的知識を身につけることを目的とする。

具体的には、自身の生活や取り巻く環境を振り返り、健康とはどのような状態を指すのかを理解する。さらに、生涯に渡って心身ともに健康であり続けるためには、どのような知識と行動が必要かを理解し、実践していくことを目指す。

履修条件

本授業では、他の受講生と意見を交換し、自分の考えを他者に伝えることが求められる。そのため、そのような活動に参加する意思のある学生に履修してほしい。

また、本授業は選択科目であるため、履修者は授業内容について興味・関心を高く持っていることが前提となる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	健康とはどのような状態を指すのかを理解する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	自身の健康状態の変化を正しい知識をもとに把握することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自身の健康状態を良好に保とうとする。
技術・表現の観点 (A)	他者の健康状態の変化を説明することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の概要を説明する。 各回ともPC、タブレット、スマホなどのデバイスを使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日常生活で感じる心身の変化についてまとめておくこと。 シラバスを参考に授業の流れを確認すること。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	健康とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	健康の定義を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	健康の定義に関する情報を収集すること。 授業内容について資料を参考にしながら復習すること。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	日本における3大死因について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本における3大死因は何か。その背景と原因および予防方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本における3大死因について情報を収集すること。 授業内容について資料を参考にしながら復習すること。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	ライフスタイルと健康（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「運動習慣および食習慣」が健康に及ぼす影響について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の生活を振り返り、運動や食事による心身の変化についてまとめておくこと。 授業内容について資料を参考にしながら復習すること。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	ライフスタイルと健康（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「飲酒および喫煙」が健康に及ぼす影響について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の生活を振り返り、飲酒や喫煙による心身の変化についてまとめておくこと。 授業内容について資料を参考にしながら復習すること。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	健康行動の概念
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	健康行動とは何かを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておくこと。 授業内容について資料を参考にしながら復習すること。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	健康行動を形成するモデル（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	健康行動モデルにおける「信念を基盤としたアプローチ」について理解する。
	(	事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わか

	教室外学習 予習・復習)の内容	らない点を明らかにしておくこと。 授業内容について資料を参考にしながら復習すること。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	健康行動を形成するモデル（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	健康行動モデルにおける「社会的認知アプローチ」について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておくこと。 授業内容について資料を参考にしながら復習すること。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	健康行動を形成するモデル（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	健康行動モデルにおける「態度を基盤としたアプローチ」について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておくこと。 授業内容について資料を参考にしながら復習すること。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	健康行動を形成するモデル（4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	健康行動モデルにおける「環境・社会を基盤としたアプローチ」について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておくこと。 授業内容について資料を参考にしながら復習すること。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	ストレスと健康（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ストレスとは何かについて理解する。 生理的・疫学的ストレスについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の生活を振り返り、ストレスにより身体の状態がどのように変化したのかをまとめておくこと。 授業内容について資料を参考にしながら復習すること。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	ストレスと健康（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	心理社会的ストレスについて理解する。 ストレスに関連した疾患について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の生活を振り返り、ストレスにより心の状態がどのように変化したのかをまとめておくこと。 授業内容について資料を参考にしながら復習すること。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	パーソナリティと健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	疾病を誘発しやすいパーソナリティ特性について理解する。 健康を形づくるパーソナリティ特性ついて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パーソナリティと健康にはどのような関連性があるか、情報を収集すること。 授業内容について資料を参考にしながら復習すること。

	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	セルフコントロールとストレスマネジメントおよび学期末試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の前半50分では、疾病の予防、健康の維持・増進を促進するためには、どのような方法が効果的なのかについて理解する。 授業の後半50分では、学期末試験を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておくこと。 授業全体の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。
その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。

学生へのフィードバック方法

授業時に口頭あるいは書面でフィードバックする。
「自己チェック」の内容は直後に確認し、「ふりかえり」の内容は次の回で扱う。

評価方法

授業への姿勢（50%）、および学期末テストの結果（50%）をもとに総合的に判断する。

1）授業への姿勢・・・「自己チェック」と「ふりかえり」に対する取り組みから総合的に判断。
・自己チェック（25%）：
　前の回の内容に関する小テストを意味する。毎回の授業の冒頭で実施。Googleフォームを使用。出席確認を兼ねる。正答率ではなく、時間内にきちんと提出できているかを評価する。

・ふりかえり（25%）：
　授業の感想・質問を記すリアクションペーパーを意味する。毎回の授業の最後で実施。Googleフォームを使用。時間内にきちんと提出できているかを評価する。

2）学期末テスト・・・期末テストの点数から判断。「自己チェック」の正答率は含まれない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
課題レポート		○	○	
学期末試験	○			

評価割合

授業への姿勢（50%）および学期末テストの結果（50%）をもとに総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

教科書は指定せず、原則として配布資料を用いる。
配布方法はgoogle classroomを使用。デジタルファイルでの共有とする。

参考図書

参考図書は、配布資料内に適宜記す。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】健康とはどのような状態かを正しく理解している。

【思考・判断】自身の健康状態の変化を正しい知識をもとに把握することができる。
【関心・意欲・態度】自身の健康状態を良好に保とうとする。

オフィスアワー

後期：水曜日３限 (13：20～15：00)　千代田三番町キャンパス1805室

学生へのメッセージ

毎回の授業で実施する「自己チェック」と「ふりかえり」は、いずれもgoogle classroom上で実施する。配布資料もgoogle classroomにて共有するため、授業時にはPCやタブレット等の端末を使用できるよう、準備しておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	個人ワークやグループワークなどを積極的に取り入れる。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	「自己チェック」と「ふりかえり」の実施、配布資料の共有等google classroomを使用する。

講義コード	G50302001
講義名	ダイエットとフィットネス
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	松山　直輝	指定なし

ナンバリング

X13210M21

授業概要(教育目的)

現代社会において、ダイエットやフィットネスは多くの女性たちが関心を抱くテーマの一つとなっています。しかしながら、その正しい知識・実施方法を科学的且つ体系的に学ぶ場は限られているのが現状です。本講義においては科学的視点に基づき、ダイエットの正しい知識と実施方法を学びます。そしてその学びより、ダイエットとフィットネスをセルフコントロールできる実践力を身につける事を目指します。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	ダイエットとフィットネスについて科学的に説明できる。
思考・判断の観点 (K)	ダイエットとフィットネスの計画を立案・実行できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	身体を自己管理し、健康に向けた行動をとる事ができる。
技術・表現の観点 (A)	正しいフォームでフィットネスを行う事ができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の概要説明, ダイエットの経験調査, ダイエットクイズ, 計画表作成, 体組成計
	教室外学習(予習・復習)の内容	ダイエットに関する現代的トレンドを調べておく事。
	教室外学習の時間（分）	200分

第2回	授業テーマ	ダイエットとは？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ダイエットという言葉の意味 ・ダイエットされた身体による社会的・個人的影響 ・ダイエット目標を考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	ダイエットされた身体による社会的・個人的影響について調べておく事。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	ダイエットと歴史
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ダイエットの基本（食事とフィットネス） ・自身の生活記録&報告 ・どうしてこんなに太りやすい？
	教室外学習(予習・復習)の内容	人間は何故太るのか、その歴史的背景を調べておく事。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	How to do diet 1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ダイエットの実行力 ・How to diet 概要 ・フィットネスの紹介①：持久系フィットネス ・持久型フィットネスの実践 ・エクササイズの実践
	教室外学習(予習・復習)の内容	フィットネスの種類について調べ、持久系フィットネスがどのようなものか調べておく事。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	How to do diet 2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・フィットネスの紹介②：筋力系フィットネス ・筋力型フィットネスの実践/ 持久系フィットネスの実践 ・エクササイズの実践
	教室外学習(予習・復習)の内容	筋力トレーニングとダイエットの関係について調べておく事。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	How to do diet 3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事によるエネルギー摂取と、運動によるエネルギー消費の関係を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	カロリーについて調べておくこと。 運動によるエネルギー消費について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	How to do diet 4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・食欲とモチベーション ・睡眠, 入浴, 歩行, 飲酒, 喫煙 ・計画表作成 ・体組成計
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の睡眠や日常生活を振り返り、改善点を思案しておく事。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	how to do diet 5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・姿勢とフィットネス（ゲストスピーカー）
	教室外学習(予習・復習)の内容	姿勢を正す事と健康への影響について調べておく事。

	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	セルフダイエットの実施1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身で計画したダイエット&フィットネスの実践
	教室外学習(予習・復習)の内容	実践するダイエットを計画しておく事。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	セルフダイエットの実施2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身で計画したダイエット&フィットネスの実践
	教室外学習(予習・復習)の内容	実践するダイエットを計画しておく事。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	セルフダイエットの実施3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身で計画したダイエット&フィットネスの実践
	教室外学習(予習・復習)の内容	実践するダイエットを計画しておく事。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	セルフダイエットの実施4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身で計画したダイエット&フィットネスの実践
	教室外学習(予習・復習)の内容	実践するダイエットを計画しておく事。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	セルフダイエットの実施5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身で計画したダイエット&フィットネスの実践
	教室外学習(予習・復習)の内容	実践するダイエットを計画しておく事。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・体組成計 ・振り返り ・学習到達度の確認
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業全体の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

クラスルーム上のリアクションペーパーに書き込まれた質問事項に対して授業毎に回答する。

評価方法

1. 平常点:30%
・出席点：
・クラスルーム上「問」への回答
・クラスルーム上「リアクションペーパー」の記述

2. セルフダイエットの実施30%
・計画内容と実施具合
・成果

3. 期末試験：40%
・試験或いはレポート

※レポートの場合はルーブリックに基づく評価を行う。
※ルーブリックによる評価基準はクラスルーム或いは授業内で配布を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
セルフダイエットの実践	○	○	○	○
期末試験	○	○		

評価割合

平常点：30%
セルフダイエットの実施：30%
期末試験：40%

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】ダイエットについて正しい知識を理解している。
【思考・判断】自身に必要なダイエットの方法を科学的に説明できる。
【関心・意欲・態度】正しい知識をもとに、自身の身体を健康に保とうとする。

オフィスアワー

木曜日2限1605室
火曜日2限1605室

学生へのメッセージ

正しい知識・実施方法を科学的且つ体系的に学び、将来に活きる実践知を身につけていきましょう。
尚、運動を実践する授業となります。ジョギングや筋トレ、バスケットボールなどのスポーツを取り入れる可能性がありますので留意してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	プロバスケットボールチームでフィジカルコーチを担当していた経験を活かし、フィットネス指導をします。
アクティブ・ラーニング	○	小型ホワイトボードを活用し、広く意見を求めながら講義を行います。
情報リテラシー教育	○	サイバーカスケードの危険性について触れながら、ダイエットの正しい情報の取得、活用について解説します。
ICT活用	○	Google Classroom等をICT機器で活用した講義を実施します。 心拍数が測定可能なIoT機器を活用します。

講義コード	G50305031
講義名	レクリエーション概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13220C21

授業概要(教育目的)

日本のレクリエーション活動小史を把握し日本人の「レクリエーション」観を振り返る. また, 現行のレクリエーション活動援助や組織, その他の関連領域を把握すること.

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日本のレクリエーションについてその歴史を振り返り現状を把握すること。
思考・判断の観点 (K)	レクリエーションの実践について振り返り自分の活動の価値を認識すること。
関心・意欲・態度の観点 (V)	在住最寄りのレクリエーション協会を調査することによって自身の生活圏を確認すること。
技術・表現の観点 (A)	レクリエーションの実践で培われたものを自覚し発表すること。

学習計画

第1回	授業テーマ	遊びとレクリエーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グリム童話第１集「豚の屠殺ごっこ」遊びについて紹介し、遊びとレクリエーションの違いを学ぶこと。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ごっこ遊びについて調査すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第2回	授業テーマ	厚生の思想（保養と厚生の理念）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レクリエーションはわが国においてははじめは「保養」や「厚生」と翻訳されたこと。わが国のレクリエーションの規定を振り返ること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レクリエーションについてネット検索しまとめること。

	教室外学習の時間（分）	45
第3回	授業テーマ	色々な場面のレクリエーション１（2004年屈斜路湖カヌー転覆事故について）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2004年屈斜路湖カヌー転覆事故についてその原因や「低体温症」の怖さを学ぶこと。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レクリエーションの事故例を調査すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	授業テーマ	いろいろな場面のレクリエーション2（福岡大学ワンダーフォーゲル部罷襲撃事件）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	福岡大学ワンダーフォーゲル部罷襲撃事件について動画を見て感想を述べること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	福岡大学ワンダーフォーゲル部罷襲撃事件を調査すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	授業テーマ	これからのレクリエーション運動（三世代のレクリエーション）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1. レジャーのこと 2. チクセントミハイのフロー理論 3. ライフスタイルマネッジメント（クリストファー・R・エジントン）
	教室外学習(予習・復習)の内容	レジャーとは何かを調査すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	授業テーマ	レクリエーション支援の理論１（福祉施設の現状・静岡・八王子・相模原3都市の比較）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2005年の3都市の調査について、レクリエーションの動向を把握すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	福祉施設でどのようなレクリエーションが行われているか調査すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	授業テーマ	レクリエーション支援の理論２（地域の現状）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本レクリエーション協会について解説し、各個人在住の最寄りのレクリエーション協会をレポートすること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	最寄りのレクリエーション協会を調査しレポートすること。
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	レクリエーション支援の目標と理念（生きがいとレクリエーション）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	神谷恵美子の生きがい論からレクリエーションにおける生きがいをとらえ直すこと。

第8回	用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	神谷恵美子について調査すること。
	教室外学習の時間(分)	45
第9回	授業テーマ	レクリエーション支援者の役割
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自立支援の基本を学び、さまざまなレクリエーション支援の現場を紹介すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レクリエーション支援の現場をひとつあげ調査すること。
	教室外学習の時間(分)	45
第10回	授業テーマ	レクリエーションクラブを育て運営する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レクリエーションクラブの組織と運営についてその実際を紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レクリエーションクラブについてひとつあげ調査すること。
	教室外学習の時間(分)	45
第11回	授業テーマ	市町村レクリエーション協会の役割と運営（横浜市レクリエーションの事例）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	横浜市レクリエーションの事例を紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	在住の最寄りのレクリエーション協会のレポートを確認すること。
	教室外学習の時間(分)	45
第12回	授業テーマ	レクリエーションを支える理念と人権宣言
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ジュネーブ子ども宣言や世界人権宣言を紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ジュネーブ子ども宣言について調査すること。
	教室外学習の時間(分)	45
第13回	授業テーマ	趣味としてのレクリエーション（貝原益軒の楽の思想）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	貝原益軒「養生訓」における「楽」の思想を確認し、現代のわれわれの考え方を問い直すこと。
	教室外学習(予習・復習)の内容	貝原益軒について調査すること。
	教室外学習の時間(分)	45
第14回	授業テーマ	レクリエーション事業を評価する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	評価はなぜ必要か。その評価方法について解説する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	表方法について調査すること。
	教室外学習の時間(分)	45
第15回	授業テーマ	レクリエーション事業と安全・保険について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レクリエーションの事故判例をもとに責任体制を確認すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レクリエーションの事故判例をひとつあげ調査すること。
	教室外学習の時間(分)	45
第16回	授業テーマ	テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1～15回の授業の要点を整理し獲得した知識を確認すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を振り返りまとめること。
	教室外学習の時間(分)	180

学習計画注記

これまでに経験のあるレクリエーション活動を振り返りメモしておくこと。

学生へのフィードバック方法

授業中の質疑応答。

評価方法

平常点50%, テスト50%で判定する.
（平常点はプログラムの課題達成状況・レポート提出・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で判断する.）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合

平常点50%, テスト50%で判定する.
（平常点はプログラムの課題達成状況・レポート提出・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で判断する.）

使用教科書名(ISBN番号)

授業中に配布するプリントを参照すること.

参考図書

授業中に配布するプリントを参照すること.

ディプロマポリシーとの関連

生活のなかのレクリエーションを見直すこと。

オフィスアワー

金曜4限

学生へのメッセージ

これまでに経験した遊びやレクリエーション活動, またはその援助活動, 指導経験、習い事などについてまとめておくこと.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		これまでのレクリエーション活動の実践。
アクティブ・ラーニング	○	自分のレクリエーションの体験を発表すること。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50306001
講義名	健康スポーツ演習ａ（宍戸・水1）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	宍戸　渉	指定なし

ナンバリング

X13231M12

授業概要(教育目的)

様々なスポーツ種目について、事前学習やグループに対するレクチャー、そして実際の運動を通じ、その知識技術を学ぶ。同時に、スポーツの楽しさを実感すること、生涯にわたって運動やスポーツに親しみながら自己を成長させる力を身につけること、そして、他の学生との相互作用を通じた社会性を醸成することを目的とする。

履修条件

・運動に適した服装、体育館シューズで参加してください。
・体育実技を実施する上で健康上の配慮が必要な人は、申し出てください。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	スポーツ種目のルールや練習法について説明できる。 スポーツを行うことの意義を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	心身の安全や個々のニーズに対して、状況に応じて必要な配慮を行うことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分から進んでリーダーシップやフォロアーシップをとりながら、マナー・ルールを守ってスポーツができる。
技術・表現の観点 (A)	グループの班員に対して、ルールや練習法について適切に説明ができる。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション/アイスブレイキングゲーム
	(	授業で扱う内容や進め方、スケジュール等について確認する。

第1回	学習内容 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	緊張感をほぐし、コミュニケーションを促進するアイスブレイキングゲームを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アイスブレイキングゲームの効果についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	授業テーマ	バドミントン①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バドミントンの歴史やルールについて バドミントンの基本技術（ストローク）
	教室外学習(予習・復習)の内容	バドミントンの歴史やルールについて調べて理解すること
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	バドミントン②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バドミントンの基本技術（ストローク） 応用技術（サーブ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	ストロークやサーブの基本について理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	バドミントン③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バドミントンの基本技術（ストローク） 応用技術（サーブ、スマッシュ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	ストローク、サーブ、スマッシュなどの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	テニス①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テニスの歴史やルールについて テニスの基本技術（ストローク）
	教室外学習(予習・復習)の内容	テニスの歴史やルールについて調べて理解すること
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	テニス②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テニスの基本技術（ストローク） 応用技術（ボレー）
	教室外学習(予習・復習)の内容	ストロークやボレーの基本について理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	テニス③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テニスの基本技術（ストローク） 応用技術（ボレー、サーブ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	ストローク、ボレー、サーブの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	授業テーマ	卓球①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卓球の歴史やルールについて 卓球の基本技術（ストローク）
	教室外学習(予習・復習)の内容	卓球の歴史やルールについて調べて理解すること
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	卓球②

第9回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卓球の基本技術（ストローク） 応用技術（スマッシュ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	ストロークやスマッシュの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	授業テーマ	卓球③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卓球の基本技術（ストローク） 応用技術（スマッシュ、サービス）
	教室外学習(予習・復習)の内容	ストローク、スマッシュ、サービスの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	フライングディスク
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フライングディスクの投げ方や種目、ルールについて理解し、ゲームを実践する
	教室外学習(予習・復習)の内容	フライングディスクのルール、練習方法について調べておくこと
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	ソフトバレーボール
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ソフトバレーボールの基本技術や種目、ルールについて理解し、ゲームを実践する
	教室外学習(予習・復習)の内容	ソフトバレーボールのルール、練習方法について調べておくこと
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	フロアボール
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フロアボールの基本技術や種目、ルールについて理解し、ゲームを実践する
	教室外学習(予習・復習)の内容	フロアボールのルール、練習方法について調べておくこと
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	ボッチャ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ボッチャのルールと工夫や基本的な投球方法・戦術を学び、個人戦、団体戦のゲームを通じて理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ボッチャの試合の様子の映像を確認し、戦術の種類についてまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

授業の進み具合や履修人数によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業の終わりに提出頂くふりかえりコメントに対しては、必要に応じて次回授業時に回答します。

評価方法

・平常点（授業後の振り返り）　60%
・スポーツ技術の修得と理解　20%
・協働的な参加　20%
の総合評価とする。

・ルーブリックを用いた評価を行います。ルーブリックについてはクラスルームにより提示し

ます。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
スポーツ技術の習得と理解	○	○	○	○
協働的な参加		○	○	○

評価割合

・平常点（授業後の振り返り）　60%
・スポーツ技術の修得と理解　20%
・協働的な参加　20%
の総合評価とする。

ディプロマポリシーとの関連

知識・理解・思考・判断】運動とスポーツに関する知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって健康的に働く
【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって課題を発見し表現することで他者との共感を創り出す

学生へのメッセージ

大学体育は、長い学生生活において授業として運動する最後の機会です。
運動の得意・不得意に関わらず、誰もが人間が身体を使うことや、身体を使いながら思考したり、認識したりすることは、心身の健康や人としての成長にとても大きな意味があるもののように思います。
この授業が、身体を動かす楽しさや、人と関わり自分や他者を認識する機会になればと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループに対するレクチャーを行う。また、実際に身体を動かしながら学ぶ。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50306002
講義名	健康スポーツ演習ａ（宍戸・水2）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	宍戸　渉	指定なし

ナンバリング

X13231M12

授業概要(教育目的)

様々なスポーツ種目について、事前学習やグループに対するレクチャー、そして実際の運動を通じ、その知識技術を学ぶ。同時に、スポーツの楽しさを実感すること、生涯にわたって運動やスポーツに親しみながら自己を成長させる力を身につけること、そして、他の学生との相互作用を通じた社会性を醸成することを目的とする。

履修条件

・運動に適した服装、体育館シューズで参加してください。
・体育実技を実施する上で健康上の配慮が必要な人は、申し出てください。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	スポーツ種目のルールや練習法について説明できる。 スポーツを行うことの意義を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	心身の安全や個々のニーズに対して、状況に応じて必要な配慮を行うことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分から進んでリーダーシップやフォロアーシップをとりながら、マナー・ルールを守ってスポーツができる。
技術・表現の観点 (A)	グループの班員に対して、ルールや練習法について適切に説明ができる。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション/アイスブレイキングゲーム
	(	授業で扱う内容や進め方、スケジュール等について確認する。

第1回	学習内容 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	緊張感をほぐし、コミュニケーションを促進するアイスブレイキングゲームを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アイスブレイキングゲームの効果についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	授業テーマ	バドミントン①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バドミントンの歴史やルールについて バドミントンの基本技術（ストローク）
	教室外学習(予習・復習)の内容	バドミントンの歴史やルールについて調べて理解すること
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	バドミントン②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バドミントンの基本技術（ストローク） 応用技術（サーブ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	ストロークやサーブの基本について理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	バドミントン③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バドミントンの基本技術（ストローク） 応用技術（サーブ、スマッシュ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	ストローク、サーブ、スマッシュなどの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	テニス①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テニスの歴史やルールについて テニスの基本技術（ストローク）
	教室外学習(予習・復習)の内容	テニスの歴史やルールについて調べて理解すること
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	テニス②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テニスの基本技術（ストローク） 応用技術（ボレー）
	教室外学習(予習・復習)の内容	ストロークやボレーの基本について理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	テニス③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テニスの基本技術（ストローク） 応用技術（ボレー、サーブ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	ストローク、ボレー、サーブの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	授業テーマ	卓球①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卓球の歴史やルールについて 卓球の基本技術（ストローク）
	教室外学習(予習・復習)の内容	卓球の歴史やルールについて調べて理解すること
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	卓球②

第9回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卓球の基本技術（ストローク） 応用技術（スマッシュ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	ストロークやスマッシュの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	授業テーマ	卓球③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卓球の基本技術（ストローク） 応用技術（スマッシュ、サービス）
	教室外学習(予習・復習)の内容	ストローク、スマッシュ、サービスの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	フライングディスク
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フライングディスクの投げ方や種目、ルールについて理解し、ゲームを実践する
	教室外学習(予習・復習)の内容	フライングディスクのルール、練習方法について調べておくこと
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	ソフトバレーボール
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ソフトバレーボールの基本技術や種目、ルールについて理解し、ゲームを実践する
	教室外学習(予習・復習)の内容	ソフトバレーボールのルール、練習方法について調べておくこと
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	フロアボール
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フロアボールの基本技術や種目、ルールについて理解し、ゲームを実践する
	教室外学習(予習・復習)の内容	フロアボールのルール、練習方法について調べておくこと
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	ボッチャ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ボッチャのルールと工夫や基本的な投球方法・戦術を学び、個人戦、団体戦のゲームを通じて理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ボッチャの試合の様子の映像を確認し、戦術の種類についてまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

授業の進み具合や履修人数によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業の終わりに提出頂くふりかえりコメントに対しては、必要に応じて次回授業時に回答します。

評価方法

・平常点（授業後の振り返り）　60%
・スポーツ技術の修得と理解　20%
・協働的な参加　20%
の総合評価とする。

・ルーブリックを用いた評価を行います。ルーブリックについてはクラスルームにより提示し

ます。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
スポーツ技術の習得と理解	○	○	○	○
協働的な参加		○	○	○

評価割合

・平常点（授業後の振り返り）　60%
・スポーツ技術の修得と理解　20%
・協働的な参加　20%
の総合評価とする。

ディプロマポリシーとの関連

知識・理解・思考・判断】運動とスポーツに関する知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって健康的に働く
【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって課題を発見し表現することで他者との共感を創り出す

学生へのメッセージ

大学体育は、長い学生生活において授業として運動する最後の機会です。
運動の得意・不得意に関わらず、誰もが人間が身体を使うことや、身体を使いながら思考したり、認識したりすることは、心身の健康や人としての成長にとても大きな意味があるもののように思います。
この授業が、身体を動かす楽しさや、人と関わり自分や他者を認識する機会になればと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループに対するレクチャーを行う。また、実際に身体を動かしながら学ぶ。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50306003
講義名	健康スポーツ演習ａ（宍戸・水3）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	宍戸　渉	指定なし

ナンバリング

X13231M12

授業概要(教育目的)

様々なスポーツ種目について、事前学習やグループに対するレクチャー、そして実際の運動を通じ、その知識技術を学ぶ。同時に、スポーツの楽しさを実感すること、生涯にわたって運動やスポーツに親しみながら自己を成長させる力を身につけること、そして、他の学生との相互作用を通じた社会性を醸成することを目的とする。

履修条件

・運動に適した服装、体育館シューズで参加してください。
・体育実技を実施する上で健康上の配慮が必要な人は、申し出てください。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	スポーツ種目のルールや練習法について説明できる。 スポーツを行うことの意義を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	心身の安全や個々のニーズに対して、状況に応じて必要な配慮を行うことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分から進んでリーダーシップやフォロアーシップをとりながら、マナー・ルールを守ってスポーツができる。
技術・表現の観点 (A)	グループの班員に対して、ルールや練習法について適切に説明ができる。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション/アイスブレイキングゲーム
	(	授業で扱う内容や進め方、スケジュール等について確認する。

第1回	学習内容 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	緊張感をほぐし、コミュニケーションを促進するアイスブレイキングゲームを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アイスブレイキングゲームの効果についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	授業テーマ	バドミントン①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バドミントンの歴史やルールについて バドミントンの基本技術（ストローク）
	教室外学習(予習・復習)の内容	バドミントンの歴史やルールについて調べて理解すること
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	バドミントン②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バドミントンの基本技術（ストローク） 応用技術（サーブ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	ストロークやサーブの基本について理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	バドミントン③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バドミントンの基本技術（ストローク） 応用技術（サーブ、スマッシュ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	ストローク、サーブ、スマッシュなどの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	テニス①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テニスの歴史やルールについて テニスの基本技術（ストローク）
	教室外学習(予習・復習)の内容	テニスの歴史やルールについて調べて理解すること
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	テニス②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テニスの基本技術（ストローク） 応用技術（ボレー）
	教室外学習(予習・復習)の内容	ストロークやボレーの基本について理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	テニス③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テニスの基本技術（ストローク） 応用技術（ボレー、サーブ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	ストローク、ボレー、サーブの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	授業テーマ	卓球①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卓球の歴史やルールについて 卓球の基本技術（ストローク）
	教室外学習(予習・復習)の内容	卓球の歴史やルールについて調べて理解すること
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	卓球②

第9回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卓球の基本技術（ストローク） 応用技術（スマッシュ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	ストロークやスマッシュの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	授業テーマ	卓球③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卓球の基本技術（ストローク） 応用技術（スマッシュ、サービス）
	教室外学習(予習・復習)の内容	ストローク、スマッシュ、サービスの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	フライングディスク
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フライングディスクの投げ方や種目、ルールについて理解し、ゲームを実践する
	教室外学習(予習・復習)の内容	フライングディスクのルール、練習方法について調べておくこと
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	ソフトバレーボール
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ソフトバレーボールの基本技術や種目、ルールについて理解し、ゲームを実践する
	教室外学習(予習・復習)の内容	ソフトバレーボールのルール、練習方法について調べておくこと
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	フロアボール
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フロアボールの基本技術や種目、ルールについて理解し、ゲームを実践する
	教室外学習(予習・復習)の内容	フロアボールのルール、練習方法について調べておくこと
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	ボッチャ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ボッチャのルールと工夫や基本的な投球方法・戦術を学び、個人戦、団体戦のゲームを通じて理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ボッチャの試合の様子の映像を確認し、戦術の種類についてまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

授業の進み具合や履修人数によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業の終わりに提出頂くふりかえりコメントに対しては、必要に応じて次回授業時に回答します。

評価方法

・平常点（授業後の振り返り）　60%
・スポーツ技術の修得と理解　20%
・協働的な参加　20%
の総合評価とする。

・ルーブリックを用いた評価を行います。ルーブリックについてはクラスルームにより提示し

ます。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
スポーツ技術の習得と理解	○	○	○	○
協働的な参加		○	○	○

評価割合

・平常点（授業後の振り返り）　60%
・スポーツ技術の修得と理解　20%
・協働的な参加　20%
の総合評価とする。

ディプロマポリシーとの関連

知識・理解・思考・判断】運動とスポーツに関する知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって健康的に働く
【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって課題を発見し表現することで他者との共感を創り出す

学生へのメッセージ

大学体育は、長い学生生活において授業として運動する最後の機会です。
運動の得意・不得意に関わらず、誰もが人間が身体を使うことや、身体を使いながら思考したり、認識したりすることは、心身の健康や人としての成長にとても大きな意味があるもののように思います。
この授業が、身体を動かす楽しさや、人と関わり自分や他者を認識する機会になればと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループに対するレクチャーを行う。また、実際に身体を動かしながら学ぶ。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50306004
講義名	健康スポーツ演習ａ（宮崎：月3）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	宮崎 晃子	指定なし

ナンバリング

X13232M12

授業概要(教育目的)

①身体の調和
呼吸、ポーズ（アーサナ）を通して、
自己の身体の特性を理解し、
筋力、バランス力、体力、柔軟性を高める。

②心身の調和
身体と精神を呼吸でつなぎ、
いま、ここにいる自分を実感する。

③社会との調和
ヨガの哲学に触れ、自己を見つめ、
どう生きるべきかを問う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自己の身体の特性、ヨガの概要、ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）を理解している。
思考・判断の観点 (K)	ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）に基づき、自己を見つめ、他者と関わることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	継続的で地道な練習を積み、ねばり強さを身につけている。
技術・表現の観点	基本的なポーズの連続による「太陽礼拝」を、呼吸にのせて、自分らし

(A)	く行えるようになる。

学習計画

健康スポーツ演習ａ（ヨガ）

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の概要、学習目標（到達目標）、評価方法などの説明。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスを精読 ヨガの情報を収集
	教室外学習の時間（分）	20分
第2回	**授業テーマ**	身体を知る
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	呼吸を深める
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	身体部位の意識を高める
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	逆転のポーズ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	ねじりのポーズ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	バランスのポーズ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	ヨガについて①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	講義：ヨガの種類、ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）、 課題（提出物）の提示。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の実践、記録
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	ヨガについて②

第9回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	講義：課題の振り返り、自律神経（交感神経と副交感神経）。 実技：座位、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	授業テーマ	さまざまなポーズ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	太陽礼拝の練習① （背骨の意識を高める）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：太陽礼拝、立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	太陽礼拝の練習② （呼吸とのつながりを深める）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：太陽礼拝、立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	太陽礼拝の練習③ （流れるように、のびのびと）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：太陽礼拝、立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	総まとめ （快適で安定した自分へ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：太陽礼拝（テスト）、座位、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分

学生へのフィードバック方法

毎回の授業で回収したコメント票は、次週、返却。質問があれば、個別または授業で解説する。

評価方法

ルーブリックを用いた成績評価を行う。
なお、ルーブリックについては、初回授業ならびにGoogle Classroomで説明をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
課題（提出物）	○	○		

実技テスト				○

評価割合

平常点（50%）、課題（提出物）（20%）、実技テスト（30%）。
（平常点：授業に臨む姿勢（服装、髪型を含む）、コメント票の内容など）

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない

参考図書

「ヨーガバイブル ～決定版 ヨーガのポーズ集～」クリスティーナ・ブラウン 産調出版 2004

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】身体やヨガの基礎知識をとおして、人間の生き方についての理解を深めている。
【思考・判断】社会を構成する一員として、他者と協働する思考をもって、行動することができる。
【関心・意欲・態度】自己の心身と向き合い、慈しみ、鍛え、何事にも積極的に取り組む姿勢をもつ。
【技術・表現】しなやかさと強さを兼ね備えた身体を、有している。

学生へのメッセージ

体つきや身体能力、柔軟性、筋力は､人それぞれです。
ヨガをとおして、現在の自己を知り、
心身が変化していく過程を体感しましょう。

段階を追って進めますので、
初心者、運動が苦手な方も、安心して履修できます。

安全確保、および衛生上の観点から、運動に適したウェアを用意すること。
裸足で行うため、運動靴は不要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、ヨガ専門スタジオのインストラクターとしても活動しており、実務経験を生かした学習内容を提供する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにて、連絡や個別対応を行う。

講義コード	G50306005
講義名	健康スポーツ演習ａ（宮崎：月4）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	宮崎 晃子	指定なし

ナンバリング

X13232M12

授業概要(教育目的)

①身体の調和
呼吸、ポーズ（アーサナ）を通して、
自己の身体の特性を理解し、
筋力、バランス力、体力、柔軟性を高める。

②心身の調和
身体と精神を呼吸でつなぎ、
いま、ここにいる自分を実感する。

③社会との調和
ヨガの哲学に触れ、自己を見つめ、
どう生きるべきかを問う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自己の身体の特性、ヨガの概要、ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）を理解している。
思考・判断の観点 (K)	ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）に基づき、自己を見つめ、他者と関わることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	継続的で地道な練習を積み、ねばり強さを身につけている。
技術・表現の観点	基本的なポーズの連続による「太陽礼拝」を、呼吸にのせて、自分らし

(A)	く行えるようになる。

学習計画

健康スポーツ演習ａ（ヨガ）

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の概要、学習目標（到達目標）、評価方法などの説明。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスを精読 ヨガの情報を収集
	教室外学習の時間（分）	20分
第2回	**授業テーマ**	身体を知る
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	呼吸を深める
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	身体部位の意識を高める
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	逆転のポーズ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	ねじりのポーズ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	バランスのポーズ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	ヨガについて①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	講義：ヨガの種類、ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）、 課題（提出物）の提示。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の実践、記録
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	ヨガについて②

第9回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	講義：課題の振り返り、自律神経（交感神経と副交感神経）。 実技：座位、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	授業テーマ	さまざまなポーズ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	太陽礼拝の練習① （背骨の意識を高める）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：太陽礼拝、立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	太陽礼拝の練習② （呼吸とのつながりを深める）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：太陽礼拝、立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	太陽礼拝の練習③ （流れるように、のびのびと）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：太陽礼拝、立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	総まとめ （快適で安定した自分へ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：太陽礼拝（テスト）、座位、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分

学生へのフィードバック方法

毎回の授業で回収したコメント票は、次週、返却。質問があれば、個別または授業で解説する。

評価方法

ルーブリックを用いた成績評価を行う。
なお、ルーブリックについては、初回授業ならびにGoogle Classroomで説明をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
課題（提出物）	○	○		

実技テスト				○

評価割合

平常点（50%）、課題（提出物）（20%）、実技テスト（30%）。
（平常点：授業に臨む姿勢（服装、髪型を含む）、コメント票の内容など）

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない

参考図書

「ヨーガバイブル ～決定版 ヨーガのポーズ集～」クリスティーナ・ブラウン 産調出版 2004

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】身体やヨガの基礎知識をとおして、人間の生き方についての理解を深めている。
【思考・判断】社会を構成する一員として、他者と協働する思考をもって、行動することができる。
【関心・意欲・態度】自己の心身と向き合い、慈しみ、鍛え、何事にも積極的に取り組む姿勢をもつ。
【技術・表現】しなやかさと強さを兼ね備えた身体を、有している。

学生へのメッセージ

体つきや身体能力、柔軟性、筋力は､人それぞれです。
ヨガをとおして、現在の自己を知り、
心身が変化していく過程を体感しましょう。

段階を追って進めますので、
初心者、運動が苦手な方も、安心して履修できます。

安全確保、および衛生上の観点から、運動に適したウェアを用意すること。
裸足で行うため、運動靴は不要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、ヨガ専門スタジオのインストラクターとしても活動しており、実務経験を生かした学習内容を提供する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにて、連絡や個別対応を行う。

講義コード	G50306031
講義名	健康スポーツ演習ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	江川 賢一	指定なし

ナンバリング

X14230C12

授業概要(教育目的)

生涯を通じてスポーツが実施できるために、スポーツによる健康づくりの方法を説明します。スポーツの実施に必要な基礎体力の獲得と運動スキルの向上を図ります。

履修条件

教場が限られているため、確実に履修できる学生を優先します。定員を超えた場合は抽選となります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	スポーツによる健康づくりの意義を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	スポーツによる健康づくりの方法を説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らの運動習慣を見直し、演習を通じて健康管理に意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	スポーツによる健康づくりの基礎的技能を習得する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	演習の進め方や運動の注意事項を理解する。 運動施設、用具に慣れる。 新体力テストを実施し、自己の体力を把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	新体力テストの実施要領を調べる。
	教室外学習の時間（分）	45分

第2回	授業テーマ	屋内スポーツ（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バドミントンのラケットの感覚に慣れる。サービスの方法を理解する。 フォアハンドストローク、バックハンドストロークを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	屋内スポーツ（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バドミントンのハイクリアー、ネットリプライの方法を理解する。 スマッシュを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	屋内スポーツ（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バドミントンシングルスのゲームを体験する。 ダブルスのゲームを体験する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	屋内スポーツ（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バスケットボールのボール、リング、コートの感覚に慣れる。 ドリブルの方法、パスとシュートの方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	屋内スポーツ（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バスケットボールのオフェンス、ディフェンスの方法を理解する。 3対3のミニゲームを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	屋内スポーツ（６）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バスケットボールの3対3のミニゲームを楽しむ。 5対5のミニゲームを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	授業テーマ	屋内スポーツ（７）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バレーボールのボール、ネット、コートの感覚に慣れる。 オーバーハンドパスを行う。アンダーハンドパスを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。

	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	屋内スポーツ（８）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バレーボールのサーブ、スパイクを行う。 ミニゲームによりルールを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	屋内スポーツ（９）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バレーボールのミニゲームを楽しむ。 6人制のゲームを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	屋内スポーツ（１０）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卓球のラケットの感覚に慣れる。 サービスの方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	屋内スポーツ（１１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卓球のフォアハンド、バックハンドストロークを行う。 ラリーを楽しむ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	屋内スポーツ（１２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卓球（シングルス）のゲームを体験する。 卓球（ダブルス）のゲームを体験する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	**授業テーマ**	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ウォーミングアップ、クールダウンを習得する。 新体力テストを実施し、体力の変化を把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テスト結果を受講前と比較し、基礎的なプログラムを評価する。 演習の成果をレポートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

※履修者数や演習の進度によりスケジュール、授業方法が変更になる場合もあります。
PCを使用して出欠、教材配布、課題提出、フィードバックをします。

学生へのフィードバック方法

授業中およびオフィスアワーで対応します。

評価方法

ルーブリックに基づいて成績評価します。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内

での配布等により提示をします。スポーツを通じた健康づくりについての理解とともに、安全で効果的な運営への貢献度や健康づくりの達成度を評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
スポーツによる健康づくり実践			○	○
レポート	○	○		

評価割合

健康づくりの達成度50%、レポート50%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

新体力テスト実施要領（URL参照）

参考URL

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/sports/detail/__icsFiles/afieldfile/2010/07/30/1295079_03.pdf

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解・思考・判断】運動とスポーツに関する知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって健康的に働く能力を身につけている
【技術・表現】学修で得た専門的技能をもって自己表現することで共感を創り出す能力を身につけている

オフィスアワー

木曜日昼休み

学生へのメッセージ

演習前日は十分な睡眠をとり、当日はバランスのよい食事をとることを心がけて下さい。運動不足の人は自宅でストレッチするなどして受講して下さい。生涯にわたり健康を維持増進するための体力基盤を作るとともに、学部や学年を超えて他者とのかかわりを楽しむことを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は民間企業の研究機関における健康運動指導に従事した経験を踏まえて、個人及び集団特性に応じた運動実践の専門的知識と技能を教授します。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（レポート）を提出します。

講義コード	G50306032
講義名	健康スポーツ演習ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	江川 賢一	指定なし

ナンバリング

X14230C12

授業概要(教育目的)

生涯を通じてスポーツが実施できるために、スポーツによる健康づくりの方法を説明します。スポーツの実施に必要な基礎体力の獲得と運動スキルの向上を図ります。

履修条件

教場が限られているため、確実に履修できる学生を優先します。定員を超えた場合は抽選となります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	スポーツによる健康づくりの意義を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	スポーツによる健康づくりの方法を説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らの運動習慣を見直し、演習を通じて健康管理に意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	スポーツによる健康づくりの基礎的技能を習得する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	演習の進め方や運動の注意事項を理解する。 運動施設、用具に慣れる。 新体力テストを実施し、自己の体力を把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	新体力テストの実施要領を調べる。
	教室外学習の時間（分）	45分

第2回	授業テーマ	屋内スポーツ（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バドミントンのラケットの感覚に慣れる。サービスの方法を理解する。 フォアハンドストローク、バックハンドストロークを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	屋内スポーツ（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バドミントンのハイクリアー、ネットリプライの方法を理解する。 スマッシュを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	屋内スポーツ（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バドミントンシングルスのゲームを体験する。 ダブルスのゲームを体験する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	屋内スポーツ（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バスケットボールのボール、リング、コートの感覚に慣れる。 ドリブルの方法、パスとシュートの方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	屋内スポーツ（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バスケットボールのオフェンス、ディフェンスの方法を理解する。 3対3のミニゲームを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	屋内スポーツ（６）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バスケットボールの3対3のミニゲームを楽しむ。 5対5のミニゲームを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	授業テーマ	屋内スポーツ（７）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バレーボールのボール、ネット、コートの感覚に慣れる。 オーバーハンドパスを行う。アンダーハンドパスを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。

	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	屋内スポーツ（８）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バレーボールのサーブ、スパイクを行う。 ミニゲームによりルールを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	屋内スポーツ（９）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バレーボールのミニゲームを楽しむ。 6人制のゲームを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	屋内スポーツ（１０）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卓球のラケットの感覚に慣れる。 サービスの方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	屋内スポーツ（１１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卓球のフォアハンド、バックハンドストロークを行う。 ラリーを楽しむ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	屋内スポーツ（１２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卓球（シングルス）のゲームを体験する。 卓球（ダブルス）のゲームを体験する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	**授業テーマ**	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ウォーミングアップ、クールダウンを習得する。 新体力テストを実施し、体力の変化を把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テスト結果を受講前と比較し、基礎的なプログラムを評価する。 演習の成果をレポートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

※履修者数や演習の進度によりスケジュール、授業方法が変更になる場合もあります。
PCを使用して出欠、教材配布、課題提出、フィードバックをします。

学生へのフィードバック方法

授業中およびオフィスアワーで対応します。

評価方法

ルーブリックに基づいて成績評価します。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内

での配布等により提示をします。スポーツを通じた健康づくりについての理解とともに、安全で効果的な運営への貢献度や健康づくりの達成度を評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
スポーツによる健康づくり実践			○	○
レポート	○	○		

評価割合

健康づくりの達成度50%、レポート50%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

新体力テスト実施要領（URL参照）

参考URL

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/sports/detail/__icsFiles/afieldfile/2010/07/30/1295079_03.pdf

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解・思考・判断】運動とスポーツに関する知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって健康的に働く能力を身につけている
【技術・表現】学修で得た専門的技能をもって自己表現することで共感を創り出す能力を身につけている

オフィスアワー

木曜日昼休み

学生へのメッセージ

演習前日は十分な睡眠をとり、当日はバランスのよい食事をとることを心がけて下さい。運動不足の人は自宅でストレッチするなどして受講して下さい。生涯にわたり健康を維持増進するための体力基盤を作るとともに、学部や学年を超えて他者とのかかわりを楽しむことを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は民間企業の研究機関における健康運動指導に従事した経験を踏まえて、個人及び集団特性に応じた運動実践の専門的知識と技能を教授します。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（レポート）を提出します。

講義コード	G50306033
講義名	健康スポーツ演習ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	廣木　眞子	指定なし

ナンバリング

X13231C12

授業概要(教育目的)

チームで行う球技を中心に活動を実践する。試合を中心として必要なルールや技術・戦術を学び、スポーツを楽しむことができるようにする。また活動の最後にフィジカルトレーニングを実施し、生涯にわたって筋力を維持する方法を指導する。

履修条件

スポーツのルール・マナーをしっかり守っておこなう。そのために服装や体育館シューズなどはき、きちんとした挨拶や相手を尊重するなどの学習態度でおこなうことができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	ルール, 技術, 戦術を理解して説明する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	試合の中でルールを守り、戦術を思考して場面場面の状況判断を行う事ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	新しい技能の習得や戦術の学習活動に積極的に参加し、試合で活用しようと務める。 チーム内でコミュニケーションを円滑に取り合う事ができる。
技術・表現の観点 (A)	新しく習得した技能を試合の場で発揮する事ができる。 新しく学んだ戦術を試合の場で発揮する事ができる。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション&レクリエーション
	(	オリエンテーション レクリエーション

第1回	学習内容 ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	体力テスト ストレッチ
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	45
第2回	授業テーマ	バスケットボール1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	ボールをキープする方法を理解する （ドリブル・パス&ラン・連続ドリブル） ミニゲーム
	教室外学習(予習・復習)の内容	基本的なストレッチの復習 バスケットボールのルールや技術について調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	授業テーマ	バスケットボール2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	スペースを利用した戦術と技能 （スペースにパス・動く・シュートに繋げる） 試合
	教室外学習(予習・復習)の内容	バウンズパス・チェストパス・オーバーヘッドパスについて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	授業テーマ	バスケットボール3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	チームでの戦術を立て、ゲームの分析 （シュート・チームでの戦術） 試合
	教室外学習(予習・復習)の内容	戦術について調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	授業テーマ	バスケットボール4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	パス・ドリブル・シュート チーム戦術 試合
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの戦術・技能について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	授業テーマ	バレーボール1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	トス・レシーブ グループ練習 ミニゲーム
	教室外学習(予習・復習)の内容	バレーボールのルールについて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	授業テーマ	バレーボール2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	サーブ・アタック グループ練習 ミニゲーム

	教室外学習(予習・復習)の内容	バレーボールのルールについて調べておくこと。 前回の授業の復習をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第8回	授業テーマ	バレーボール3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サーブ・レシーブ・トス・アタック グループ練習 ミニゲーム
	教室外学習(予習・復習)の内容	バレーボールのルールについて調べておくこと。 サーブ・レシーブ・トス・アッタクの種類について調べておくこと。 動画を見て、イメージを持っておくと良い。
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	授業テーマ	バレーボール4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	チーム戦術 試合
	教室外学習(予習・復習)の内容	現在のバレーボールではどのような戦術を取り入れているのか調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	授業テーマ	フットサル1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ルールについて パス・シュート・ドリブル （キックの種類） ミニゲーム
	教室外学習(予習・復習)の内容	フットサルのルールについて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	授業テーマ	フットサル2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	正確なパスを送る練習 ドリブル・パス・シュート練習 ミニゲーム
	教室外学習(予習・復習)の内容	正確なパスを出すためのポイントについて調べておく事。
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	授業テーマ	フットサル3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ボールキープ・ディフェンス グループ練習 ミニゲーム
	教室外学習(予習・復習)の内容	ボールキープ・ディフェンス突破にはどのような方法があるのか調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45

第13回	授業テーマ	フットサル4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ドリブル・パス・シュート パスを繋ぐ練習 チーム対決
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業の復習をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	授業テーマ	基本的なストレッチ/体力テスト/得意種目を選択、評価テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の得意な運動種目でテストを受けること。 ・バスケットボール ・バレーボール ・フットサル
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分が受ける技能テストの選択をして、練習を行なっておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45

学習計画注記

履修者数や演習の進度によりスケジュール、授業方法が変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業時間内での学生とのコミュニケーションによる。
また、評価テストによる。

評価方法

・平常点（出席や活動への参加状況）50%
・参加後の内省（リアクションペーパー記述）30%
・実技テスト20%

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	
参加後の内省	○	○	○	○
実技テスト				○

評価割合

平常点50%, 実技テスト50%で総合判定する.
（平常点は授業への参加状況・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で総合的に判断する.）

参考図書

授業の中で随時紹介

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】チームワークやルールを守る観点から、社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を高めることができる。

オフィスアワー

金曜4限

学生へのメッセージ

生涯において、自身の健康を維持するためにスポーツを通じた身体活動は欠かす事ができません。楽しく身体を動かす方法を学ぶとともに、将来の生涯スポーツに向けて必要な実践知を身

につけましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	指導者は、メルボルンでスプリント教室を開校し、指導した実績を有する。 競技者としては、陸上競技の全国大会で優勝した実績を有する。
アクティブ・ラーニング	○	チーム内での話し合い等を通じてアクティブ・ラーニングを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50306034
講義名	健康スポーツ演習ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	金指 みの利	指定なし

ナンバリング

X13242C12

授業概要(教育目的)

種目：フィットネス
この授業では、ストレッチ、筋力トレーニング、ヨガを三大柱として扱う。
これまでの学校体育で経験してきた球技や集団スポーツとは違い、自分に合った方法、ペースで自分の体に向き合う時間にしていく。
ストレッチ、筋力トレーニングでは日常生活を快適に過ごすために自分の身体のどこが硬いのか、筋力が足りないのかを知る。その為に自分の身体の癖を知り、姿勢や体のバランスを意識して動く事を学ぶ。
ヨガでは、呼吸に合わせて動くことによって体力増進を図り、心身のリラックスやストレス発散も目的とする。

これらの運動の実践によって、知的・身体的能力を育成することはもちろん、運動の楽しさや重要性を体感し、健康の保持・増進を図る。また、生涯に渡り、スポーツをライフサイクルの中に取り入れる基盤を築く事を主なねらいとする。併せて、クラスメイトと相互交流していく中で、社会性や協調性、コミュニケーション能力を身につける事も目的とする。

履修条件

教場に限りが有るため、希望者多数の場合は抽選をする事があります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・自分の身体と運動に興味を持ち、定期的に運動をすることの意義を考えることが出来る。 ・ストレッチ、筋力トレーニングをする意義と重要性を知ることが出来

	る。
思考・判断の観点 (K)	・自分の身体と向かい合い、体の状態（不調なのか、好調なのかなど）を知ることが出来るようになる。 ・自分の身体の状況に合った、運動量や強度の調整が出来るようになる。 ・協力的･協調的な態度で臨み、マナー・エチケット等の社会的行動様式をクラスメイトと共に構築することが出来る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・遅刻や欠席がなく、授業にいきいきと参加することが出来る。 ・与えられた運動（課題）に積極的に取り組み、最善を尽くすことが出来る。
技術・表現の観点 (A)	・自分の身体の状況を言葉で表すことが出来る。 ・柔軟性があがり、筋力トレーニングでは負荷が増やせるようになる。 ・ヨガのポーズを理解できるようになる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業（フィットネス）の内容、進め方、注意事項などを中心に紹介をする。 【授業の流れ】 ストレッチ→ヨガ又は身体作りの運動→筋力トレーニング 以上の流れを毎時間、基本とします。 実技とは他に課題がでる事がある。
	教室外学習(予習・復習)の内容	現在の運動状況を考えて、まとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	**授業テーマ**	自分の身体の状況を考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の体と向き合い、現在の体の状況を探る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	体のどこが硬いと感じるか、柔らかいと感じるかを考えておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	**授業テーマ**	ストレッチ①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ストレッチの有効性を探る。 呼吸の方法を学ぶ。呼吸を使ってのストレッチを実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回のストレッチの復習ができるとよい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	**授業テーマ**	ストレッチ②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主に上半身のストレッチを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回のストレッチの復習ができるとよい。
	教室外学習の時間（分）	50分

第5回	授業テーマ	ストレッチ③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主に股関節のストレッチを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回のストレッチの復習ができるとよい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	ストレッチ④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主にハムストリング（腿裏）のストレッチを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回のストレッチの復習ができるとよい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	ストレッチ⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主に捻るストレッチと動作を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回のストレッチの復習ができるとよい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	体幹トレーニング①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体幹を考える。体幹とは何かを知識として確認し、トレーニングを実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回のストレッチの復習ができるとよい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	体幹トレーニング②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々なトレーニング法を体験、実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	出来そうな体幹トレーニングを自宅でも実践する事。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	授業テーマ	セルフマッサージ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	一人で行うマッサージを学び、セルフケアの方法を知る。特に下肢の緊張の取り方、むくみの仕組み除去の仕方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、ヨガ、その他運動の実施。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	ヨガ①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主に「太陽礼拝」という連続した12個のポーズを行っていく。各ポーズの動きの確認をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、ヨガ、その他運動の実施。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	ヨガ②

第12回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	太陽礼拝について知識と実践を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、ヨガ、その他運動の実施。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	ヨガ③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	太陽礼拝を自分のペースでスムーズに行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、ヨガ、その他運動の実施。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	ヨガ④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヨガの難しいポーズへの挑戦をする。 授業のまとめとして、自分の身体の変化を考えてみる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業初回と現在の身体の変化を考えてくること。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

体育館の地下のスタジオにて実技を行う。実技のほかにレポート提出がある。
更衣必須。ジーンズなどの私服での参加は認めない。
ストッキングおよびタイツは不可。裸足になれるようにすること。

学生へのフィードバック方法

基本的には授業前後のやり取りを基本とする。
Eメールでのやり取りも受け付ける。

評価方法

特に試験は課さないので、以下事項で評価を行う。
・平常点
・授業態度・取り組み：授業への取り組みの積極性や努力過程を教員の観察によって評価する。
・課題の提出物：レポート形式の課題をWEB又は対面時に提出。
なお、下記表に振り分けられた目的も含め評価を行う。

また、初回の授業でルーブリックについて説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
授業態度・取り組み		○	○	○
授業時の提出物	○	○		○

評価割合

平常点50%、授業態度・取り組み30%、授業時の提出物20%の総合評価。

使用教科書名(ISBN番号)

なし
資料は授業内で配布する。

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解/思考・判断】身体の基礎知識や運動の実践を通して、健康に自分らしく生きる事についての理解を深め、それに対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。

オフィスアワー

Eメールにて。

学生へのメッセージ

日頃の運動習慣や柔軟性、持久力などの現在の運動能力、運動によっての体調変化、運動を行わない時の体調など、少しでもいいので、自分の体について考える時間を作ってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	ダンススタジオ、スポーツクラブ、ヨガスタジオ、学校教育現場で教授の経験がある。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（レポート）を提出する。

講義コード	G50306035
講義名	健康スポーツ演習ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	金指 みの利	指定なし

ナンバリング

X13242C12

授業概要(教育目的)

種目：フィットネス
この授業では、ストレッチ、筋力トレーニング、ヨガを三大柱として扱う。
これまでの学校体育で経験してきた球技や集団スポーツとは違い、自分に合った方法、ペースで自分の体に向き合う時間にしていく。
ストレッチ、筋力トレーニングでは日常生活を快適に過ごすために自分の身体のどこが硬いのか、筋力が足りないのかを知る。その為に自分の身体の癖を知り、姿勢や体のバランスを意識して動く事を学ぶ。
ヨガでは、呼吸に合わせて動くことによって体力増進を図り、心身のリラックスやストレス発散も目的とする。

これらの運動の実践によって、知的・身体的能力を育成することはもちろん、運動の楽しさや重要性を体感し、健康の保持・増進を図る。また、生涯に渡り、スポーツをライフサイクルの中に取り入れる基盤を築く事を主なねらいとする。併せて、クラスメイトと相互交流していく中で、社会性や協調性、コミュニケーション能力を身につける事も目的とする。

履修条件

教場に限りが有るため、希望者多数の場合は抽選をする事があります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・自分の身体と運動に興味を持ち、定期的に運動をすることの意義を考えることが出来る。 ・ストレッチ、筋力トレーニングをする意義と重要性を知ることが出来

	る。
思考・判断の観点 (K)	・自分の身体と向かい合い、体の状態（不調なのか、好調なのかなど）を知ることが出来るようになる。 ・自分の身体の状況に合った、運動量や強度の調整が出来るようになる。 ・協力的･協調的な態度で臨み、マナー・エチケット等の社会的行動様式をクラスメイトと共に構築することが出来る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・遅刻や欠席がなく、授業にいきいきと参加することが出来る。 ・与えられた運動（課題）に積極的に取り組み、最善を尽くすことが出来る。
技術・表現の観点 (A)	・自分の身体の状況を言葉で表すことが出来る。 ・柔軟性があがり、筋力トレーニングでは負荷が増やせるようになる。 ・ヨガのポーズを理解できるようになる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業（フィットネス）の内容、進め方、注意事項などを中心に紹介をする。 【授業の流れ】 ストレッチ→ヨガ又は身体作りの運動→筋力トレーニング 以上の流れを毎時間、基本とします。 実技とは他に課題がでる事がある。
	教室外学習(予習・復習)の内容	現在の運動状況を考えて、まとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	**授業テーマ**	自分の身体の状況を考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の体と向き合い、現在の体の状況を探る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	体のどこが硬いと感じるか、柔らかいと感じるかを考えておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	**授業テーマ**	ストレッチ①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ストレッチの有効性を探る。 呼吸の方法を学ぶ。呼吸を使ってのストレッチを実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回のストレッチの復習ができるとよい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	**授業テーマ**	ストレッチ②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主に上半身のストレッチを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回のストレッチの復習ができるとよい。
	教室外学習の時間（分）	50分

第5回	授業テーマ	ストレッチ③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主に股関節のストレッチを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回のストレッチの復習ができるとよい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	ストレッチ④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主にハムストリング（腿裏）のストレッチを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回のストレッチの復習ができるとよい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	ストレッチ⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主に捻るストレッチと動作を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回のストレッチの復習ができるとよい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	体幹トレーニング①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体幹を考える。体幹とは何かを知識として確認し、トレーニングを実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回のストレッチの復習ができるとよい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	体幹トレーニング②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々なトレーニング法を体験、実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	出来そうな体幹トレーニングを自宅でも実践する事。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	授業テーマ	セルフマッサージ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	一人で行うマッサージを学び、セルフケアの方法を知る。特に下肢の緊張の取り方、むくみの仕組み除去の仕方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、ヨガ、その他運動の実施。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	ヨガ①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主に「太陽礼拝」という連続した12個のポーズを行っていく。各ポーズの動きの確認をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、ヨガ、その他運動の実施。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	ヨガ②

第12回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	太陽礼拝について知識と実践を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、ヨガ、その他運動の実施。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	ヨガ③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	太陽礼拝を自分のペースでスムーズに行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、ヨガ、その他運動の実施。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	ヨガ④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヨガの難しいポーズへの挑戦をする。 授業のまとめとして、自分の身体の変化を考えてみる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業初回と現在の身体の変化を考えてくること。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

体育館の地下のスタジオにて実技を行う。実技のほかにレポート提出がある。
更衣必須。ジーンズなどの私服での参加は認めない。
ストッキングおよびタイツは不可。裸足になれるようにすること。

学生へのフィードバック方法

基本的には授業前後のやり取りを基本とする。
Eメールでのやり取りも受け付ける。

評価方法

特に試験は課さないので、以下事項で評価を行う。
・平常点
・授業態度・取り組み：授業への取り組みの積極性や努力過程を教員の観察によって評価する。
・課題の提出物：レポート形式の課題をWEB又は対面時に提出。
なお、下記表に振り分けられた目的も含め評価を行う。

また、初回の授業でルーブリックについて説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
授業態度・取り組み		○	○	○
授業時の提出物	○	○		○

評価割合

平常点50%、授業態度・取り組み30%、授業時の提出物20%の総合評価。

使用教科書名(ISBN番号)

なし
資料は授業内で配布する。

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解/思考・判断】身体の基礎知識や運動の実践を通して、健康に自分らしく生きる事についての理解を深め、それに対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。

オフィスアワー

Eメールにて。

学生へのメッセージ

日頃の運動習慣や柔軟性、持久力などの現在の運動能力、運動によっての体調変化、運動を行わない時の体調など、少しでもいいので、自分の体について考える時間を作ってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	ダンススタジオ、スポーツクラブ、ヨガスタジオ、学校教育現場で教授の経験がある。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（レポート）を提出する。

講義コード	G50306036
講義名	健康スポーツ演習ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	廣木　眞子	指定なし

ナンバリング

X13231C12

授業概要(教育目的)

チームで行う球技を中心に活動を実践する。試合を中心として必要なルールや技術・戦術を学び、スポーツを楽しむことができるようにする。また活動の最後にフィジカルトレーニングを実施し、生涯にわたって筋力を維持する方法を指導する。

履修条件

スポーツのルール・マナーをしっかり守っておこなう。そのために服装や体育館シューズなどはき、きちんとした挨拶や相手を尊重するなどの学習態度でおこなうことができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	ルール, 技術, 戦術を理解して説明する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	試合の中でルールを守り、戦術を思考して場面場面の状況判断を行う事ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	新しい技能の習得や戦術の学習活動に積極的に参加し、試合で活用しようと務める。 チーム内でコミュニケーションを円滑に取り合う事ができる。
技術・表現の観点 (A)	新しく習得した技能を試合の場で発揮する事ができる。 新しく学んだ戦術を試合の場で発揮する事ができる。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション&レクリエーション
	(	オリエンテーション レクリエーション

第1回	学習内容 ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	体力テスト ストレッチ
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	45
第2回	授業テーマ	バスケットボール1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	ボールをキープする方法を理解する （ドリブル・パス&ラン・連続ドリブル） ミニゲーム
	教室外学習(予習・復習)の内容	基本的なストレッチの復習 バスケットボールのルールや技術について調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	授業テーマ	バスケットボール2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	スペースを利用した戦術と技能 （スペースにパス・動く・シュートに繋げる） 試合
	教室外学習(予習・復習)の内容	バウンズパス・チェストパス・オーバーヘッドパスについて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	授業テーマ	バスケットボール3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	チームでの戦術を立て、ゲームの分析 （シュート・チームでの戦術） 試合
	教室外学習(予習・復習)の内容	戦術について調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	授業テーマ	バスケットボール4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	パス・ドリブル・シュート チーム戦術 試合
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの戦術・技能について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	授業テーマ	バレーボール1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	トス・レシーブ グループ練習 ミニゲーム
	教室外学習(予習・復習)の内容	バレーボールのルールについて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	授業テーマ	バレーボール2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	サーブ・アタック グループ練習 ミニゲーム

	教室外学習(予習・復習)の内容	バレーボールのルールについて調べておくこと。 前回の授業の復習をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第8回	授業テーマ	バレーボール3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サーブ・レシーブ・トス・アタック グループ練習 ミニゲーム
	教室外学習(予習・復習)の内容	バレーボールのルールについて調べておくこと。 サーブ・レシーブ・トス・アッタクの種類について調べておくこと。 動画を見て、イメージを持っておくと良い。
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	授業テーマ	バレーボール4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	チーム戦術 試合
	教室外学習(予習・復習)の内容	現在のバレーボールではどのような戦術を取り入れているのか調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	授業テーマ	フットサル1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ルールについて パス・シュート・ドリブル （キックの種類） ミニゲーム
	教室外学習(予習・復習)の内容	フットサルのルールについて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	授業テーマ	フットサル2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	正確なパスを送る練習 ドリブル・パス・シュート練習 ミニゲーム
	教室外学習(予習・復習)の内容	正確なパスを出すためのポイントについて調べておく事。
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	授業テーマ	フットサル3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ボールキープ・ディフェンス グループ練習 ミニゲーム
	教室外学習(予習・復習)の内容	ボールキープ・ディフェンス突破にはどのような方法があるのか調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45

第13回	授業テーマ	フットサル4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ドリブル・パス・シュート パスを繋ぐ練習 チーム対決
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業の復習をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	授業テーマ	基本的なストレッチ/体力テスト/得意種目を選択、評価テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の得意な運動種目でテストを受けること。 ・バスケットボール ・バレーボール ・フットサル
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分が受ける技能テストの選択をして、練習を行なっておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45

学習計画注記

履修者数や演習の進度によりスケジュール、授業方法が変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業時間内での学生とのコミュニケーションによる。
また、評価テストによる。

評価方法

・平常点（出席や活動への参加状況）50%
・参加後の内省（リアクションペーパー記述）30%
・実技テスト20%

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	
参加後の内省	○	○	○	○
実技テスト				○

評価割合

平常点50%, 実技テスト50%で総合判定する.
（平常点は授業への参加状況・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で総合的に判断する.）

参考図書

授業の中で随時紹介

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】チームワークやルールを守る観点から、社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を高めることができる。

オフィスアワー

金曜4限

学生へのメッセージ

生涯において、自身の健康を維持するためにスポーツを通じた身体活動は欠かす事ができません。楽しく身体を動かす方法を学ぶとともに、将来の生涯スポーツに向けて必要な実践知を身

につけましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	指導者は、メルボルンでスプリント教室を開校し、指導した実績を有する。 競技者としては、陸上競技の全国大会で優勝した実績を有する。
アクティブ・ラーニング	○	チーム内での話し合い等を通じてアクティブ・ラーニングを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50306037
講義名	健康スポーツ演習ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	廣木　眞子	指定なし

ナンバリング

X13231C12

授業概要(教育目的)

チームで行う球技を中心に活動を実践する。試合を中心として必要なルールや技術・戦術を学び、スポーツを楽しむことができるようにする。また活動の最後にフィジカルトレーニングを実施し、生涯にわたって筋力を維持する方法を指導する。

履修条件

スポーツのルール・マナーをしっかり守っておこなう。そのために服装や体育館シューズなどはき、きちんとした挨拶や相手を尊重するなどの学習態度でおこなうことができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	ルール, 技術, 戦術を理解して説明する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	試合の中でルールを守り、戦術を思考して場面場面の状況判断を行う事ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	新しい技能の習得や戦術の学習活動に積極的に参加し、試合で活用しようと務める。 チーム内でコミュニケーションを円滑に取り合う事ができる。
技術・表現の観点 (A)	新しく習得した技能を試合の場で発揮する事ができる。 新しく学んだ戦術を試合の場で発揮する事ができる。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション&レクリエーション
	(	オリエンテーション レクリエーション

第1回	学習内容 ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	体力テスト ストレッチ
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	45
第2回	授業テーマ	バスケットボール1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	ボールをキープする方法を理解する （ドリブル・パス&ラン・連続ドリブル） ミニゲーム
	教室外学習(予習・復習)の内容	基本的なストレッチの復習 バスケットボールのルールや技術について調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	授業テーマ	バスケットボール2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	スペースを利用した戦術と技能 （スペースにパス・動く・シュートに繋げる） 試合
	教室外学習(予習・復習)の内容	バウンズパス・チェストパス・オーバーヘッドパスについて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	授業テーマ	バスケットボール3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	チームでの戦術を立て、ゲームの分析 （シュート・チームでの戦術） 試合
	教室外学習(予習・復習)の内容	戦術について調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	授業テーマ	バスケットボール4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	パス・ドリブル・シュート チーム戦術 試合
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの戦術・技能について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	授業テーマ	バレーボール1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	トス・レシーブ グループ練習 ミニゲーム
	教室外学習(予習・復習)の内容	バレーボールのルールについて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	授業テーマ	バレーボール2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	サーブ・アタック グループ練習 ミニゲーム

	教室外学習(予習・復習)の内容	バレーボールのルールについて調べておくこと。 前回の授業の復習をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第8回	授業テーマ	バレーボール3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サーブ・レシーブ・トス・アタック グループ練習 ミニゲーム
	教室外学習(予習・復習)の内容	バレーボールのルールについて調べておくこと。 サーブ・レシーブ・トス・アッタクの種類について調べておくこと。 動画を見て、イメージを持っておくと良い。
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	授業テーマ	バレーボール4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	チーム戦術 試合
	教室外学習(予習・復習)の内容	現在のバレーボールではどのような戦術を取り入れているのか調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	授業テーマ	フットサル1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ルールについて パス・シュート・ドリブル （キックの種類） ミニゲーム
	教室外学習(予習・復習)の内容	フットサルのルールについて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	授業テーマ	フットサル2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	正確なパスを送る練習 ドリブル・パス・シュート練習 ミニゲーム
	教室外学習(予習・復習)の内容	正確なパスを出すためのポイントについて調べておく事。
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	授業テーマ	フットサル3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ボールキープ・ディフェンス グループ練習 ミニゲーム
	教室外学習(予習・復習)の内容	ボールキープ・ディフェンス突破にはどのような方法があるのか調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45

第13回	授業テーマ	フットサル4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ドリブル・パス・シュート パスを繋ぐ練習 チーム対決
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業の復習をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	授業テーマ	基本的なストレッチ/体力テスト/得意種目を選択、評価テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の得意な運動種目でテストを受けること。 ・バスケットボール ・バレーボール ・フットサル
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分が受ける技能テストの選択をして、練習を行なっておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45

学習計画注記

履修者数や演習の進度によりスケジュール、授業方法が変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業時間内での学生とのコミュニケーションによる。
また、評価テストによる。

評価方法

・平常点（出席や活動への参加状況）50%
・参加後の内省（リアクションペーパー記述）30%
・実技テスト20%

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	
参加後の内省	○	○	○	○
実技テスト				○

評価割合

平常点50%, 実技テスト50%で総合判定する.
（平常点は授業への参加状況・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で総合的に判断する.）

参考図書

授業の中で随時紹介

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】チームワークやルールを守る観点から、社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を高めることができる。

オフィスアワー

金曜4限

学生へのメッセージ

生涯において、自身の健康を維持するためにスポーツを通じた身体活動は欠かす事ができません。楽しく身体を動かす方法を学ぶとともに、将来の生涯スポーツに向けて必要な実践知を身

につけましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	指導者は、メルボルンでスプリント教室を開校し、指導した実績を有する。 競技者としては、陸上競技の全国大会で優勝した実績を有する。
アクティブ・ラーニング	○	チーム内での話し合い等を通じてアクティブ・ラーニングを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50307002
講義名	健康スポーツ演習ｂ（宍戸・水1）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	宍戸　渉	指定なし

ナンバリング

X13242M12

授業概要(教育目的)

球技（特にチームスポーツ）を中心に活動を実践する。試合を中心として必要なルールや技術・戦術を学び、スポーツを楽しむことができるようにする。

履修条件

スポーツのルール・マナーをしっかり守っておこなう。そのために服装や体育館シューズなどはき、きちんとした挨拶や相手を尊重するなどの学習態度でおこなうことができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	ルール, 技術, 戦術を理解して説明する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	試合の中でルールを守り、戦術を思考して場面場面の状況判断を行う事ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	新しい技能の習得や戦術の学習活動に積極的に参加し、試合で活用しようと務める。 チーム内でコミュニケーションを円滑に取り合う事ができる。
技術・表現の観点 (A)	新しく習得した技能を試合の場で発揮する事ができる。 新しく学んだ戦術を試合の場で発揮する事ができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・オリエンテーション
	教室外学習(予習・復習)の内容	健康やスポーツに対する知識を習得する。

	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	授業テーマ	バレーボール①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バレーボールの歴史とルールについて 基本技術（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス）
	教室外学習(予習・復習)の内容	バレーボールの歴史やルールについて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	バレーボールの基本技術（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス） 応用技術（アタック）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ボールの扱い方 ・基本技術、応用技術を活用したゲームの進め方
	教室外学習(予習・復習)の内容	パスやアタックの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	バレーボールの基本技術（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス） 応用技術（アタック、ブロック）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ボールの扱い方 ・基本技術、応用技術を活用したゲームの進め方
	教室外学習(予習・復習)の内容	パス、アタック、ブロックの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	バレーボールの基本技術（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス） 応用技術（アタック、ブロック、サーブ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ボールの扱い方 ・基本技術、応用技術を活用したゲームの進め方
	教室外学習(予習・復習)の内容	パス、アタック、ブロック、サーブの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	ソフトボール①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ソフトボールの歴史とルールについて 基本技術（キャッチボール）
	教室外学習(予習・復習)の内容	ソフトボールの歴史やルールについて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	ソフトボールの基本技術（キャッチボール） 応用技術（守備）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ボールの扱い方 ・基本技術、応用技術を活用したゲームの進め方
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャッチボールや守備の基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	授業テーマ	ソフトボールの基本技術（キャッチボール） 応用技術（守備、打撃）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教ICT)	・ボールの扱い方 ・基本技術、応用技術を活用したゲームの進め

	育・　活用を含む	方
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャッチボール、守備、打撃の基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	授業テーマ	ソフトボールの基本技術（キャッチボール） 応用技術（守備、打撃、走塁）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ボールの扱い方 ・基本技術、応用技術を活用したゲームの進め方
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャッチボール、守備、打撃、走塁の基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	授業テーマ	バスケットボール①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バスケットボールの歴史とルールについて 基本技術（ボールハンドリング）
	教室外学習(予習・復習)の内容	バスケットボールの歴史やルールについて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	バスケットボールの基本技術（ボールハンドリング） 応用技術（パス）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ボールの扱い方 ・基本技術、応用技術を活用したゲームの進め方
	教室外学習(予習・復習)の内容	ボールハンドリングやパスの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	バスケットボールの基本技術（ボールハンドリング） 応用技術（パス、シュート）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ボールの扱い方 ・基本技術、応用技術を活用したゲームの進め方
	教室外学習(予習・復習)の内容	ボールハンドリングやパス、シュートの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	バスケットボールの基本技術（ボールハンドリング） 応用技術（パス、シュート、ドリブル）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ボールの扱い方 ・基本技術、応用技術を活用したゲームの進め方
	教室外学習(予習・復習)の内容	ボールハンドリングやパス、シュート、ドリブルの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ここまでの授業の内容を今後の日常生活でどのように活かすか考察する
	教室外学習(予習・復習)の内容	最新の健康、スポーツに関する情報を収集する
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	

第15回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

ルールを理解した上でスポーツに取り組むことを重要視する。上達に必要な基本的な技術をより効果的に練習する。
※授業の進み具合や履修人数によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

授業の終わりに提出頂くふりかえりコメントに対しては、必要に応じて次回授業時に回答します。

評価方法

・平常点（授業後の振り返り）　60%（課題レポート含む）
・スポーツ技術の修得と理解　20%
・協働的な参加　20%
の総合評価とする。

・ルーブリックを用いた評価を行います。ルーブリックについてはクラスルームにより提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
スポーツ技術の習得と理解	○	○	○	○
協働的な参加		○	○	○

評価割合

・平常点（授業後の振り返り）　60%
・スポーツ技術の修得と理解　20%
・協働的な参加　20%
の総合評価とする。

参考図書

授業の中で随時紹介

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】チームワークやルールを守る観点から、社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を高めることができる。

学生へのメッセージ

知識・理解・思考・判断】運動とスポーツに関する知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって健康的に働く
【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって課題を発見し表現することで他者との共感を創り出す

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした		

授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループに対するレクチャーを行う。また、実際に身体を動かしながら学ぶ。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50307003
講義名	健康スポーツ演習ｂ（宍戸・水2）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	宍戸　渉	指定なし

ナンバリング

X13242M12

授業概要(教育目的)

球技（特にチームスポーツ）を中心に活動を実践する。試合を中心として必要なルールや技術・戦術を学び、スポーツを楽しむことができるようにする。

履修条件

スポーツのルール・マナーをしっかり守っておこなう。そのために服装や体育館シューズなどはき、きちんとした挨拶や相手を尊重するなどの学習態度でおこなうことができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	ルール, 技術, 戦術を理解して説明する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	試合の中でルールを守り、戦術を思考して場面場面の状況判断を行う事ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	新しい技能の習得や戦術の学習活動に積極的に参加し、試合で活用しようと務める。 チーム内でコミュニケーションを円滑に取り合う事ができる。
技術・表現の観点 (A)	新しく習得した技能を試合の場で発揮する事ができる。 新しく学んだ戦術を試合の場で発揮する事ができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・オリエンテーション
	教室外学習(予習・復習)の内容	健康やスポーツに対する知識を習得する。

	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	授業テーマ	バレーボール①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バレーボールの歴史とルールについて 基本技術（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス）
	教室外学習(予習・復習)の内容	バレーボールの歴史やルールについて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	バレーボールの基本技術（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス） 応用技術（アタック）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ボールの扱い方 ・基本技術、応用技術を活用したゲームの進め方
	教室外学習(予習・復習)の内容	パスやアタックの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	バレーボールの基本技術（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス） 応用技術（アタック、ブロック）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ボールの扱い方 ・基本技術、応用技術を活用したゲームの進め方
	教室外学習(予習・復習)の内容	パス、アタック、ブロックの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	バレーボールの基本技術（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス） 応用技術（アタック、ブロック、サーブ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ボールの扱い方 ・基本技術、応用技術を活用したゲームの進め方
	教室外学習(予習・復習)の内容	パス、アタック、ブロック、サーブの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	ソフトボール①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ソフトボールの歴史とルールについて 基本技術（キャッチボール）
	教室外学習(予習・復習)の内容	ソフトボールの歴史やルールについて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	ソフトボールの基本技術（キャッチボール） 応用技術（守備）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ボールの扱い方 ・基本技術、応用技術を活用したゲームの進め方
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャッチボールや守備の基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	授業テーマ	ソフトボールの基本技術（キャッチボール） 応用技術（守備、打撃）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教ICT)	・ボールの扱い方 ・基本技術、応用技術を活用したゲームの進め

	育・　活用を含む	方
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャッチボール、守備、打撃の基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	授業テーマ	ソフトボールの基本技術（キャッチボール） 応用技術（守備、打撃、走塁）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ボールの扱い方 ・基本技術、応用技術を活用したゲームの進め方
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャッチボール、守備、打撃、走塁の基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	授業テーマ	バスケットボール①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バスケットボールの歴史とルールについて 基本技術（ボールハンドリング）
	教室外学習(予習・復習)の内容	バスケットボールの歴史やルールについて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	バスケットボールの基本技術（ボールハンドリング） 応用技術（パス）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ボールの扱い方 ・基本技術、応用技術を活用したゲームの進め方
	教室外学習(予習・復習)の内容	ボールハンドリングやパスの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	バスケットボールの基本技術（ボールハンドリング） 応用技術（パス、シュート）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ボールの扱い方 ・基本技術、応用技術を活用したゲームの進め方
	教室外学習(予習・復習)の内容	ボールハンドリングやパス、シュートの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	バスケットボールの基本技術（ボールハンドリング） 応用技術（パス、シュート、ドリブル）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ボールの扱い方 ・基本技術、応用技術を活用したゲームの進め方
	教室外学習(予習・復習)の内容	ボールハンドリングやパス、シュート、ドリブルの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ここまでの授業の内容を今後の日常生活でどのように活かすか考察する
	教室外学習(予習・復習)の内容	最新の健康、スポーツに関する情報を収集する
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	

第15回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

ルールを理解した上でスポーツに取り組むことを重要視する。上達に必要な基本的な技術をより効果的に練習する。
※授業の進み具合や履修人数によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

授業の終わりに提出頂くふりかえりコメントに対しては、必要に応じて次回授業時に回答します。

評価方法

・平常点（授業後の振り返り）　60%（課題レポート含む）
・スポーツ技術の修得と理解　20%
・協働的な参加　20%
の総合評価とする。

・ルーブリックを用いた評価を行います。ルーブリックについてはクラスルームにより提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
スポーツ技術の習得と理解	○	○	○	○
協働的な参加		○	○	○

評価割合

・平常点（授業後の振り返り）　60%
・スポーツ技術の修得と理解　20%
・協働的な参加　20%
の総合評価とする。

参考図書

授業の中で随時紹介

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】チームワークやルールを守る観点から、社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を高めることができる。

学生へのメッセージ

知識・理解・思考・判断】運動とスポーツに関する知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって健康的に働く
【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって課題を発見し表現することで他者との共感を創り出す

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした		

授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループに対するレクチャーを行う。また、実際に身体を動かしながら学ぶ。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50307005
講義名	健康スポーツ演習ｂ（宍戸・水3）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	宍戸　渉	指定なし

ナンバリング

X13242M12

授業概要(教育目的)

球技（特にチームスポーツ）を中心に活動を実践する。試合を中心として必要なルールや技術・戦術を学び、スポーツを楽しむことができるようにする。

履修条件

スポーツのルール・マナーをしっかり守っておこなう。そのために服装や体育館シューズなどはき、きちんとした挨拶や相手を尊重するなどの学習態度でおこなうことができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	ルール, 技術, 戦術を理解して説明する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	試合の中でルールを守り、戦術を思考して場面場面の状況判断を行う事ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	新しい技能の習得や戦術の学習活動に積極的に参加し、試合で活用しようと務める。 チーム内でコミュニケーションを円滑に取り合う事ができる。
技術・表現の観点 (A)	新しく習得した技能を試合の場で発揮する事ができる。 新しく学んだ戦術を試合の場で発揮する事ができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・オリエンテーション
	教室外学習(予習・復習)の内容	健康やスポーツに対する知識を習得する。

	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	授業テーマ	バレーボール①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バレーボールの歴史とルールについて 基本技術（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス）
	教室外学習(予習・復習)の内容	バレーボールの歴史やルールについて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	バレーボールの基本技術（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス） 応用技術（アタック）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ボールの扱い方 ・基本技術、応用技術を活用したゲームの進め方
	教室外学習(予習・復習)の内容	パスやアタックの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	バレーボールの基本技術（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス） 応用技術（アタック、ブロック）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ボールの扱い方 ・基本技術、応用技術を活用したゲームの進め方
	教室外学習(予習・復習)の内容	パス、アタック、ブロックの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	バレーボールの基本技術（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス） 応用技術（アタック、ブロック、サーブ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ボールの扱い方 ・基本技術、応用技術を活用したゲームの進め方
	教室外学習(予習・復習)の内容	パス、アタック、ブロック、サーブの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	ソフトボール①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ソフトボールの歴史とルールについて 基本技術（キャッチボール）
	教室外学習(予習・復習)の内容	ソフトボールの歴史やルールについて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	ソフトボールの基本技術（キャッチボール） 応用技術（守備）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ボールの扱い方 ・基本技術、応用技術を活用したゲームの進め方
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャッチボールや守備の基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	授業テーマ	ソフトボールの基本技術（キャッチボール） 応用技術（守備、打撃）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教ICT)	・ボールの扱い方 ・基本技術、応用技術を活用したゲームの進め

	育・　活用を含む	方
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャッチボール、守備、打撃の基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	授業テーマ	ソフトボールの基本技術（キャッチボール） 応用技術（守備、打撃、走塁）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ボールの扱い方 ・基本技術、応用技術を活用したゲームの進め方
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャッチボール、守備、打撃、走塁の基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	授業テーマ	バスケットボール①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バスケットボールの歴史とルールについて 基本技術（ボールハンドリング）
	教室外学習(予習・復習)の内容	バスケットボールの歴史やルールについて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	バスケットボールの基本技術（ボールハンドリング） 応用技術（パス）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ボールの扱い方 ・基本技術、応用技術を活用したゲームの進め方
	教室外学習(予習・復習)の内容	ボールハンドリングやパスの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	バスケットボールの基本技術（ボールハンドリング） 応用技術（パス、シュート）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ボールの扱い方 ・基本技術、応用技術を活用したゲームの進め方
	教室外学習(予習・復習)の内容	ボールハンドリングやパス、シュートの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	バスケットボールの基本技術（ボールハンドリング） 応用技術（パス、シュート、ドリブル）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ボールの扱い方 ・基本技術、応用技術を活用したゲームの進め方
	教室外学習(予習・復習)の内容	ボールハンドリングやパス、シュート、ドリブルの基本を理解する
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ここまでの授業の内容を今後の日常生活でどのように活かすか考察する
	教室外学習(予習・復習)の内容	最新の健康、スポーツに関する情報を収集する
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	

第15回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

ルールを理解した上でスポーツに取り組むことを重要視する。上達に必要な基本的な技術をより効果的に練習する。
※授業の進み具合や履修人数によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

授業の終わりに提出頂くふりかえりコメントに対しては、必要に応じて次回授業時に回答します。

評価方法

・平常点（授業後の振り返り）　60%（課題レポート含む）
・スポーツ技術の修得と理解　20%
・協働的な参加　20%
の総合評価とする。

・ルーブリックを用いた評価を行います。ルーブリックについてはクラスルームにより提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
スポーツ技術の習得と理解	○	○	○	○
協働的な参加		○	○	○

評価割合

・平常点（授業後の振り返り）　60%
・スポーツ技術の修得と理解　20%
・協働的な参加　20%
の総合評価とする。

参考図書

授業の中で随時紹介

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】チームワークやルールを守る観点から、社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を高めることができる。

学生へのメッセージ

知識・理解・思考・判断】運動とスポーツに関する知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって健康的に働く
【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって課題を発見し表現することで他者との共感を創り出す

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした		

授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループに対するレクチャーを行う。また、実際に身体を動かしながら学ぶ。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50307007
講義名	健康スポーツ演習ｂ（宮崎：月3）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	宮崎 晃子	指定なし

ナンバリング

X13243M12

授業概要(教育目的)

①身体の調和
呼吸、ポーズ（アーサナ）を通して、
自己の身体の特性を理解し、
筋力、バランス力、体力、柔軟性を高める。

②心身の調和
身体と精神を呼吸でつなぎ、
いま、ここにいる自分を実感する。

③社会との調和
ヨガの哲学に触れ、自己を見つめ、
どう生きるべきかを問う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自己の身体の特性、ヨガの概要、ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）を理解している。
思考・判断の観点 (K)	ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）に基づき、自己を見つめ、他者と関わることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	継続的で地道な練習を積み、ねばり強さを身につけている。
技術・表現の観点	基本的なポーズの連続による「太陽礼拝」を、呼吸にのせて、自分らし

(A)	く行うことができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の概要、学習目標（到達目標）、評価方法などの説明。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスを精読 ヨガの情報を収集
	教室外学習の時間（分）	20分
第2回	授業テーマ	身体を知る
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	呼吸を深める
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	身体部位の意識を高める
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	逆転のポーズ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	ねじりのポーズ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	バランスのポーズ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	授業テーマ	ヨガについて①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	講義：ヨガの種類、ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）、 課題（提出物）の提示。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の実践、記録
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	ヨガについて②
		講義：課題の振り返り、自律神経（交感神経

第9回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	と副交感神経）。 実技：座位、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	授業テーマ	さまざまなポーズ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	太陽礼拝の練習① （背骨の意識を高める）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：太陽礼拝、立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	太陽礼拝の練習② （呼吸とのつながりを深める）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：太陽礼拝、立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	太陽礼拝の練習③ （流れるように、のびのびと）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：太陽礼拝、立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	総まとめ （快適で安定した自分へ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：太陽礼拝（テスト）、座位、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分

学生へのフィードバック方法

毎回の授業で回収したコメント票は、次週、返却。質問があれば、個別または授業で解説する。

評価方法

ルーブリックを用いた成績評価を行う。
なお、ルーブリックについては、初回授業ならびにGoogle Classroomで説明をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
課題（提出物）	○	○		
実技テスト				○

評価割合

平常点（50%）、課題（提出物）（20%）、実技テスト（30%）。
（平常点：授業に臨む姿勢（服装、髪型を含む）、コメント票の内容など）

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない

参考図書

「ヨーガバイブル ～決定版 ヨーガのポーズ集～」クリスティーナ・ブラウン 産調出版 2004

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】身体やヨガの基礎知識をとおして、人間の生き方についての理解を深めている。
【思考・判断】社会を構成する一員として、他者と協働する思考をもって、行動することができる。
【関心・意欲・態度】自己の心身と向き合い、慈しみ、鍛え、何事にも積極的に取り組む姿勢をもつ。
【技術・表現】しなやかさと強さを兼ね備えた身体を、有している。

学生へのメッセージ

体つきや身体能力、柔軟性、筋力は､人それぞれです。
ヨガをとおして、現在の自己を知り、
心身が変化していく過程を体感しましょう。

段階を追って進めますので、
初心者、運動が苦手な方も、安心して履修できます。

安全確保、および衛生上の観点から、運動に適したウェアを用意すること。
裸足で行うため、運動靴は不要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、ヨガ専門スタジオのインストラクターとしても活動しており、実務経験を生かした学習内容を提供する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにて、連絡や個別対応を行う。

講義コード	G50307008
講義名	健康スポーツ演習ｂ（宮崎：月4）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	宮崎 晃子	指定なし

ナンバリング

X13243M12

授業概要(教育目的)

①身体の調和
呼吸、ポーズ（アーサナ）を通して、
自己の身体の特性を理解し、
筋力、バランス力、体力、柔軟性を高める。

②心身の調和
身体と精神を呼吸でつなぎ、
いま、ここにいる自分を実感する。

③社会との調和
ヨガの哲学に触れ、自己を見つめ、
どう生きるべきかを問う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自己の身体の特性、ヨガの概要、ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）を理解している。
思考・判断の観点 (K)	ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）に基づき、自己を見つめ、他者と関わることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	継続的で地道な練習を積み、ねばり強さを身につけている。
技術・表現の観点	基本的なポーズの連続による「太陽礼拝」を、呼吸にのせて、自分らし

(A)	く行うことができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の概要、学習目標（到達目標）、評価方法などの説明。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスを精読 ヨガの情報を収集
	教室外学習の時間（分）	20分
第2回	授業テーマ	身体を知る
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	呼吸を深める
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	身体部位の意識を高める
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	逆転のポーズ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	ねじりのポーズ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	バランスのポーズ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	授業テーマ	ヨガについて①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	講義：ヨガの種類、ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）、 課題（提出物）の提示。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の実践、記録
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	ヨガについて②
		講義：課題の振り返り、自律神経（交感神経

第9回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	と副交感神経）。 実技：座位、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	授業テーマ	さまざまなポーズ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	太陽礼拝の練習① （背骨の意識を高める）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：太陽礼拝、立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	太陽礼拝の練習② （呼吸とのつながりを深める）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：太陽礼拝、立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	太陽礼拝の練習③ （流れるように、のびのびと）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：太陽礼拝、立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	総まとめ （快適で安定した自分へ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実技：太陽礼拝（テスト）、座位、あおむけのポーズ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸法、各ポーズの復習
	教室外学習の時間（分）	45分

学生へのフィードバック方法

毎回の授業で回収したコメント票は、次週、返却。質問があれば、個別または授業で解説する。

評価方法

ルーブリックを用いた成績評価を行う。
なお、ルーブリックについては、初回授業ならびにGoogle Classroomで説明をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
課題（提出物）	○	○		
実技テスト				○

評価割合

平常点（50%）、課題（提出物）（20%）、実技テスト（30%）。
（平常点：授業に臨む姿勢（服装、髪型を含む）、コメント票の内容など）

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない

参考図書

「ヨーガバイブル ～決定版 ヨーガのポーズ集～」クリスティーナ・ブラウン 産調出版 2004

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】身体やヨガの基礎知識をとおして、人間の生き方についての理解を深めている。
【思考・判断】社会を構成する一員として、他者と協働する思考をもって、行動することができる。
【関心・意欲・態度】自己の心身と向き合い、慈しみ、鍛え、何事にも積極的に取り組む姿勢をもつ。
【技術・表現】しなやかさと強さを兼ね備えた身体を、有している。

学生へのメッセージ

体つきや身体能力、柔軟性、筋力は､人それぞれです。
ヨガをとおして、現在の自己の身体特性を知り、
心身が変化していく過程を体感しましょう。

段階を追って進めますので、
初心者、運動が苦手な方も、安心して履修できます。

安全確保、および衛生上の観点から、運動に適したウェアを用意すること。
裸足で行うため、運動靴は不要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、ヨガ専門スタジオのインストラクターとしても活動しており、実務経験を生かした学習内容を提供する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにて、連絡や個別対応を行う。

講義コード	G50307031
講義名	健康スポーツ演習ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	江川 賢一	指定なし

ナンバリング

X14230C12

授業概要(教育目的)

生涯を通じてスポーツが実施できるために、スポーツによる健康づくりの方法を説明します。スポーツの実施に必要な基礎体力の獲得と運動スキルの向上を図ります。

履修条件

教場が限られているため、確実に履修できる学生を優先します。定員を超えた場合は抽選となります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	スポーツによる健康づくりの意義を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	スポーツによる健康づくりの方法を説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らの運動習慣を見直し、演習を通じて健康管理に意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	スポーツによる健康づくりの基礎的技能を習得する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	演習の進め方や運動の注意事項を理解する。 運動施設、用具に慣れる。 新体力テストを実施し、自己の体力を把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	新体力テストの実施要領を調べる。
	教室外学習の時間（分）	45分

第2回	授業テーマ	屋内スポーツ（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バドミントンのラケットの感覚に慣れる。サービスの方法を理解する。 フォアハンドストローク、バックハンドストロークを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	屋内スポーツ（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バドミントンのハイクリアー、ネットリプライの方法を理解する。 スマッシュを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	屋内スポーツ（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バドミントンシングルスのゲームを体験する。 ダブルスのゲームを体験する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	屋内スポーツ（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バスケットボールのボール、リング、コートの感覚に慣れる。 ドリブルの方法、パスとシュートの方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	屋内スポーツ（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バスケットボールのオフェンス、ディフェンスの方法を理解する。 3対3のミニゲームを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	屋内スポーツ（６）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バスケットボールの3対3のミニゲームを楽しむ。 5対5のミニゲームを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	授業テーマ	屋内スポーツ（７）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バレーボールのボール、ネット、コートの感覚に慣れる。 オーバーハンドパスを行う。アンダーハンドパスを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。

	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	屋内スポーツ（８）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バレーボールのサーブ、スパイクを行う。 ミニゲームによりルールを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	屋内スポーツ（９）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バレーボールのミニゲームを楽しむ。 6人制のゲームを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	屋内スポーツ（１０）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卓球のラケットの感覚に慣れる。 サービスの方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	屋内スポーツ（１１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卓球のフォアハンド、バックハンドストロークを行う。 ラリーを楽しむ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	屋内スポーツ（１２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卓球（シングルス）のゲームを体験する。 卓球（ダブルス）のゲームを体験する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	**授業テーマ**	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ウォーミングアップ、クールダウンを習得する。 新体力テストを実施し、体力の変化を把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テスト結果を受講前と比較し、基礎的なプログラムを評価する。 演習の成果をレポートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

※履修者数や演習の進度によりスケジュール、授業方法が変更になる場合もあります。
PCを使用して出欠、教材配布、課題提出、フィードバックをします。

学生へのフィードバック方法

授業中およびオフィスアワーで対応します。

評価方法

ルーブリックに基づいて成績評価します。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内

での配布等により提示をします。スポーツを通じた健康づくりについての理解とともに、安全で効果的な運営への貢献度や健康づくりの達成度を評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
スポーツによる健康づくり実践			○	○
レポート	○	○		

評価割合

健康づくりの達成度50%、レポート50%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

新体力テスト実施要領（URL参照）

参考URL

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/sports/detail/__icsFiles/afieldfile/2010/07/30/1295079_03.pdf

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解・思考・判断】運動とスポーツに関する知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって健康的に働く能力を身につけている
【技術・表現】学修で得た専門的技能をもって自己表現することで共感を創り出す能力を身につけている

オフィスアワー

木曜日昼休み

学生へのメッセージ

演習前日は十分な睡眠をとり、当日はバランスのよい食事をとることを心がけて下さい。運動不足の人は自宅でストレッチするなどして受講して下さい。生涯にわたり健康を維持増進するための体力基盤を作るとともに、学部や学年を超えて他者とのかかわりを楽しむことを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は民間企業の研究機関における健康運動指導に従事した経験を踏まえて、個人及び集団特性に応じた運動実践の専門的知識と技能を教授します。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（レポート）を提出します。

講義コード	G50307032
講義名	健康スポーツ演習ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	江川 賢一	指定なし

ナンバリング

X14230C12

授業概要(教育目的)

生涯を通じてスポーツが実施できるために、スポーツによる健康づくりの方法を説明します。スポーツの実施に必要な基礎体力の獲得と運動スキルの向上を図ります。

履修条件

教場が限られているため、確実に履修できる学生を優先します。定員を超えた場合は抽選となります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	スポーツによる健康づくりの意義を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	スポーツによる健康づくりの方法を説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らの運動習慣を見直し、演習を通じて健康管理に意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	スポーツによる健康づくりの基礎的技能を習得する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	演習の進め方や運動の注意事項を理解する。 運動施設、用具に慣れる。 新体力テストを実施し、自己の体力を把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	新体力テストの実施要領を調べる。
	教室外学習の時間（分）	45分

第2回	授業テーマ	屋内スポーツ（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バドミントンのラケットの感覚に慣れる。サービスの方法を理解する。 フォアハンドストローク、バックハンドストロークを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	屋内スポーツ（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バドミントンのハイクリアー、ネットリプライの方法を理解する。 スマッシュを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	屋内スポーツ（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バドミントンシングルスのゲームを体験する。 ダブルスのゲームを体験する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	屋内スポーツ（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バスケットボールのボール、リング、コートの感覚に慣れる。 ドリブルの方法、パスとシュートの方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	屋内スポーツ（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バスケットボールのオフェンス、ディフェンスの方法を理解する。 3対3のミニゲームを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	屋内スポーツ（６）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バスケットボールの3対3のミニゲームを楽しむ。 5対5のミニゲームを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	授業テーマ	屋内スポーツ（７）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バレーボールのボール、ネット、コートの感覚に慣れる。 オーバーハンドパスを行う。アンダーハンドパスを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。

	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	屋内スポーツ（８）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バレーボールのサーブ、スパイクを行う。 ミニゲームによりルールを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	屋内スポーツ（９）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バレーボールのミニゲームを楽しむ。 6人制のゲームを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	屋内スポーツ（１０）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卓球のラケットの感覚に慣れる。 サービスの方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	屋内スポーツ（１１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卓球のフォアハンド、バックハンドストロークを行う。 ラリーを楽しむ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	屋内スポーツ（１２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卓球（シングルス）のゲームを体験する。 卓球（ダブルス）のゲームを体験する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	**授業テーマ**	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ウォーミングアップ、クールダウンを習得する。 新体力テストを実施し、体力の変化を把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テスト結果を受講前と比較し、基礎的なプログラムを評価する。 演習の成果をレポートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

※履修者数や演習の進度によりスケジュール、授業方法が変更になる場合もあります。
PCを使用して出欠、教材配布、課題提出、フィードバックをします。

学生へのフィードバック方法

授業中およびオフィスアワーで対応します。

評価方法

ルーブリックに基づいて成績評価します。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内

での配布等により提示をします。スポーツを通じた健康づくりについての理解とともに、安全で効果的な運営への貢献度や健康づくりの達成度を評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
スポーツによる健康づくり実践			○	○
レポート	○	○		

評価割合

健康づくりの達成度50%、レポート50%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

新体力テスト実施要領（URL参照）

参考URL

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/sports/detail/__icsFiles/afieldfile/2010/07/30/1295079_03.pdf

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解・思考・判断】運動とスポーツに関する知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって健康的に働く能力を身につけている
【技術・表現】学修で得た専門的技能をもって自己表現することで共感を創り出す能力を身につけている

オフィスアワー

木曜日昼休み

学生へのメッセージ

演習前日は十分な睡眠をとり、当日はバランスのよい食事をとることを心がけて下さい。運動不足の人は自宅でストレッチするなどして受講して下さい。生涯にわたり健康を維持増進するための体力基盤を作るとともに、学部や学年を超えて他者とのかかわりを楽しむことを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は民間企業の研究機関における健康運動指導に従事した経験を踏まえて、個人及び集団特性に応じた運動実践の専門的知識と技能を教授します。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（レポート）を提出します。

講義コード	G50307033
講義名	健康スポーツ演習ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	江川 賢一	指定なし

ナンバリング

X14230C12

授業概要(教育目的)

生涯を通じてスポーツが実施できるために、スポーツによる健康づくりの方法を説明します。スポーツの実施に必要な基礎体力の獲得と運動スキルの向上を図ります。

履修条件

教場が限られているため、確実に履修できる学生を優先します。定員を超えた場合は抽選となります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	スポーツによる健康づくりの意義を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	スポーツによる健康づくりの方法を説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らの運動習慣を見直し、演習を通じて健康管理に意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	スポーツによる健康づくりの基礎的技能を習得する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	演習の進め方や運動の注意事項を理解する。 運動施設、用具に慣れる。 新体力テストを実施し、自己の体力を把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	新体力テストの実施要領を調べる。
	教室外学習の時間（分）	45分

第2回	授業テーマ	屋内スポーツ（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バドミントンのラケットの感覚に慣れる。サービスの方法を理解する。 フォアハンドストローク、バックハンドストロークを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	屋内スポーツ（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バドミントンのハイクリアー、ネットリプライの方法を理解する。 スマッシュを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	屋内スポーツ（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バドミントンシングルスのゲームを体験する。 ダブルスのゲームを体験する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	屋内スポーツ（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バスケットボールのボール、リング、コートの感覚に慣れる。 ドリブルの方法、パスとシュートの方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	屋内スポーツ（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バスケットボールのオフェンス、ディフェンスの方法を理解する。 3対3のミニゲームを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	屋内スポーツ（６）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バスケットボールの3対3のミニゲームを楽しむ。 5対5のミニゲームを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	授業テーマ	屋内スポーツ（７）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バレーボールのボール、ネット、コートの感覚に慣れる。 オーバーハンドパスを行う。アンダーハンドパスを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。

	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	屋内スポーツ（８）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バレーボールのサーブ、スパイクを行う。 ミニゲームによりルールを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	屋内スポーツ（９）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バレーボールのミニゲームを楽しむ。 6人制のゲームを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	屋内スポーツ（１０）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卓球のラケットの感覚に慣れる。 サービスの方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	屋内スポーツ（１１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卓球のフォアハンド、バックハンドストロークを行う。 ラリーを楽しむ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	屋内スポーツ（１２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卓球（シングルス）のゲームを体験する。 卓球（ダブルス）のゲームを体験する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	**授業テーマ**	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ウォーミングアップ、クールダウンを習得する。 新体力テストを実施し、体力の変化を把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テスト結果を受講前と比較し、基礎的なプログラムを評価する。 演習の成果をレポートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

※履修者数や演習の進度によりスケジュール、授業方法が変更になる場合もあります。
PCを使用して出欠、教材配布、課題提出、フィードバックをします。

学生へのフィードバック方法

授業中およびオフィスアワーで対応します。

評価方法

ルーブリックに基づいて成績評価します。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内

での配布等により提示をします。スポーツを通じた健康づくりについての理解とともに、安全で効果的な運営への貢献度や健康づくりの達成度を評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
スポーツによる健康づくり実践			○	○
レポート	○	○		

評価割合

健康づくりの達成度50%、レポート50%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

新体力テスト実施要領（URL参照）

参考URL

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/sports/detail/__icsFiles/afieldfile/2010/07/30/1295079_03.pdf

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解・思考・判断】運動とスポーツに関する知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって健康的に働く能力を身につけている
【技術・表現】学修で得た専門的技能をもって自己表現することで共感を創り出す能力を身につけている

オフィスアワー

木曜日昼休み

学生へのメッセージ

演習前日は十分な睡眠をとり、当日はバランスのよい食事をとることを心がけて下さい。運動不足の人は自宅でストレッチするなどして受講して下さい。生涯にわたり健康を維持増進するための体力基盤を作るとともに、学部や学年を超えて他者とのかかわりを楽しむことを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は民間企業の研究機関における健康運動指導に従事した経験を踏まえて、個人及び集団特性に応じた運動実践の専門的知識と技能を教授します。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（レポート）を提出します。

講義コード	G50307034
講義名	健康スポーツ演習ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	金指 みの利	指定なし

ナンバリング

X13242C12

授業概要(教育目的)

種目：フィットネス
この授業では、ストレッチ、筋力トレーニング、ヨガを三大柱として扱う。
これまでの学校体育で経験してきた球技や集団スポーツとは違い、自分に合った方法、ペースで自分の体に向き合う時間にしていく。
ストレッチ、筋力トレーニングでは日常生活を快適に過ごすために自分の身体のどこが硬いのか、筋力が足りないのかを知る。その為に自分の身体の癖を知り、姿勢や体のバランスを意識して動く事を学ぶ。
ヨガでは、呼吸に合わせて動くことによって体力増進を図り、心身のリラックスやストレス発散も目的とする。

これらの運動の実践によって、知的・身体的能力を育成することはもちろん、運動の楽しさや重要性を体感し、健康の保持・増進を図る。また、生涯に渡り、スポーツをライフサイクルの中に取り入れる基盤を築く事を主なねらいとする。併せて、クラスメイトと相互交流していく中で、社会性や協調性、コミュニケーション能力を身につける事も目的とする。

履修条件

教場に限りが有るため、希望者多数の場合は抽選をする事があります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・自分の身体と運動に興味を持ち、定期的に運動をすることの意義を考えることが出来る。 ・ストレッチ、筋力トレーニングをする意義と重要性を知ることが出来

	る。
思考・判断の観点 (K)	・自分の身体と向かい合い、体の状態（不調なのか、好調なのかなど）を知ることが出来るようになる。 ・自分の身体の状況に合った、運動量や強度の調整が出来るようになる。 ・協力的･協調的な態度で臨み、マナー・エチケット等の社会的行動様式をクラスメイトと共に構築することが出来る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・遅刻や欠席がなく、授業にいきいきと参加することが出来る。 ・与えられた運動（課題）に積極的に取り組み、最善を尽くすことが出来る。
技術・表現の観点 (A)	・自分の身体の状況を言葉で表すことが出来る。 ・柔軟性があがり、筋力トレーニングでは負荷が増やせるようになる。 ・ヨガのポーズを理解できるようになる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業（フィットネス）の内容、進め方、注意事項などを中心に紹介をする。 【授業の流れ】 ストレッチ→ヨガ又は身体作りの運動→筋力トレーニング 以上の流れを毎時間、基本とします。 実技とは他に課題がでる事がある。
	教室外学習(予習・復習)の内容	現在の運動状況を考えて、まとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	**授業テーマ**	自分の身体の状況を考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の体と向き合い、現在の体の状況を探る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	体のどこが硬いと感じるか、柔らかいと感じるかを考えておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	**授業テーマ**	ストレッチ①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ストレッチの有効性を探る。 呼吸の方法を学ぶ。呼吸を使ってのストレッチを実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回のストレッチの復習ができるとよい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	**授業テーマ**	ストレッチ②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主に上半身のストレッチを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回のストレッチの復習ができるとよい。
	教室外学習の時間（分）	50分

第5回	授業テーマ	ストレッチ③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主に股関節のストレッチを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回のストレッチの復習ができるとよい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	ストレッチ④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主にハムストリング（腿裏）のストレッチを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回のストレッチの復習ができるとよい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	ストレッチ⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主に捻るストレッチと動作を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回のストレッチの復習ができるとよい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	体幹トレーニング①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体幹を考える。体幹とは何かを知識として確認し、トレーニングを実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回のストレッチの復習ができるとよい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	体幹トレーニング②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々なトレーニング法を体験、実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	出来そうな体幹トレーニングを自宅でも実践する事。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	授業テーマ	セルフマッサージ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	一人で行うマッサージを学び、セルフケアの方法を知る。特に下肢の緊張の取り方、むくみの仕組み除去の仕方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、ヨガ、その他運動の実施。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	ヨガ①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主に「太陽礼拝」という連続した12個のポーズを行っていく。各ポーズの動きの確認をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、ヨガ、その他運動の実施。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	ヨガ②

第12回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	太陽礼拝について知識と実践を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、ヨガ、その他運動の実施。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	ヨガ③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	太陽礼拝を自分のペースでスムーズに行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、ヨガ、その他運動の実施。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	ヨガ④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヨガの難しいポーズへの挑戦をする。 授業のまとめとして、自分の身体の変化を考えてみる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業初回と現在の身体の変化を考えてくること。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

体育館の地下のスタジオにて実技を行う。実技のほかにレポート提出がある。
更衣必須。ジーンズなどの私服での参加は認めない。
ストッキングおよびタイツは不可。裸足になれるようにすること。

学生へのフィードバック方法

基本的には授業前後のやり取りを基本とする。
Eメールでのやり取りも受け付ける。

評価方法

特に試験は課さないので、以下事項で評価を行う。
・平常点
・授業態度・取り組み：授業への取り組みの積極性や努力過程を教員の観察によって評価する。
・課題の提出物：レポート形式の課題をWEB又は対面時に提出。
なお、下記表に振り分けられた目的も含め評価を行う。

また、初回の授業でルーブリックについて説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
授業態度・取り組み		○	○	○
授業時の提出物	○	○		○

評価割合

平常点50%、授業態度・取り組み30%、授業時の提出物20%の総合評価。

使用教科書名(ISBN番号)

なし
資料は授業内で配布する。

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解/思考・判断】身体の基礎知識や運動の実践を通して、健康に自分らしく生きる事についての理解を深め、それに対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。

オフィスアワー

Eメールにて。

学生へのメッセージ

日頃の運動習慣や柔軟性、持久力などの現在の運動能力、運動によっての体調変化、運動を行わない時の体調など、少しでもいいので、自分の体について考える時間を作ってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	ダンススタジオ、スポーツクラブ、ヨガスタジオ、学校教育現場で教授の経験がある。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（レポート）を提出する。

講義コード	G50307035
講義名	健康スポーツ演習ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	金指 みの利	指定なし

ナンバリング

X13242C12

授業概要(教育目的)

種目：フィットネス
この授業では、ストレッチ、筋力トレーニング、ヨガを三大柱として扱う。
これまでの学校体育で経験してきた球技や集団スポーツとは違い、自分に合った方法、ペースで自分の体に向き合う時間にしていく。
ストレッチ、筋力トレーニングでは日常生活を快適に過ごすために自分の身体のどこが硬いのか、筋力が足りないのかを知る。その為に自分の身体の癖を知り、姿勢や体のバランスを意識して動く事を学ぶ。
ヨガでは、呼吸に合わせて動くことによって体力増進を図り、心身のリラックスやストレス発散も目的とする。

これらの運動の実践によって、知的・身体的能力を育成することはもちろん、運動の楽しさや重要性を体感し、健康の保持・増進を図る。また、生涯に渡り、スポーツをライフサイクルの中に取り入れる基盤を築く事を主なねらいとする。併せて、クラスメイトと相互交流していく中で、社会性や協調性、コミュニケーション能力を身につける事も目的とする。

履修条件

教場に限りが有るため、希望者多数の場合は抽選をする事があります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・自分の身体と運動に興味を持ち、定期的に運動をすることの意義を考えることが出来る。 ・ストレッチ、筋力トレーニングをする意義と重要性を知ることが出来

	る。
思考・判断の観点 (K)	・自分の身体と向かい合い、体の状態（不調なのか、好調なのかなど）を知ることが出来るようになる。 ・自分の身体の状況に合った、運動量や強度の調整が出来るようになる。 ・協力的･協調的な態度で臨み、マナー・エチケット等の社会的行動様式をクラスメイトと共に構築することが出来る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・遅刻や欠席がなく、授業にいきいきと参加することが出来る。 ・与えられた運動（課題）に積極的に取り組み、最善を尽くすことが出来る。
技術・表現の観点 (A)	・自分の身体の状況を言葉で表すことが出来る。 ・柔軟性があがり、筋力トレーニングでは負荷が増やせるようになる。 ・ヨガのポーズを理解できるようになる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業（フィットネス）の内容、進め方、注意事項などを中心に紹介をする。 【授業の流れ】 ストレッチ→ヨガ又は身体作りの運動→筋力トレーニング 以上の流れを毎時間、基本とします。 実技とは他に課題がでる事がある。
	教室外学習(予習・復習)の内容	現在の運動状況を考えて、まとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	**授業テーマ**	自分の身体の状況を考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の体と向き合い、現在の体の状況を探る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	体のどこが硬いと感じるか、柔らかいと感じるかを考えておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	**授業テーマ**	ストレッチ①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ストレッチの有効性を探る。 呼吸の方法を学ぶ。呼吸を使ってのストレッチを実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回のストレッチの復習ができるとよい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	**授業テーマ**	ストレッチ②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主に上半身のストレッチを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回のストレッチの復習ができるとよい。
	教室外学習の時間（分）	50分

第5回	授業テーマ	ストレッチ③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主に股関節のストレッチを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回のストレッチの復習ができるとよい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	ストレッチ④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主にハムストリング（腿裏）のストレッチを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回のストレッチの復習ができるとよい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	ストレッチ⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主に捻るストレッチと動作を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回のストレッチの復習ができるとよい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	体幹トレーニング①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体幹を考える。体幹とは何かを知識として確認し、トレーニングを実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回のストレッチの復習ができるとよい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	体幹トレーニング②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々なトレーニング法を体験、実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	出来そうな体幹トレーニングを自宅でも実践する事。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	授業テーマ	セルフマッサージ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	一人で行うマッサージを学び、セルフケアの方法を知る。特に下肢の緊張の取り方、むくみの仕組み除去の仕方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、ヨガ、その他運動の実施。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	ヨガ①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主に「太陽礼拝」という連続した12個のポーズを行っていく。各ポーズの動きの確認をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、ヨガ、その他運動の実施。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	ヨガ②

第12回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	太陽礼拝について知識と実践を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、ヨガ、その他運動の実施。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	ヨガ③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	太陽礼拝を自分のペースでスムーズに行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、ヨガ、その他運動の実施。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	ヨガ④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヨガの難しいポーズへの挑戦をする。 授業のまとめとして、自分の身体の変化を考えてみる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業初回と現在の身体の変化を考えてくること。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

体育館の地下のスタジオにて実技を行う。実技のほかにレポート提出がある。
更衣必須。ジーンズなどの私服での参加は認めない。
ストッキングおよびタイツは不可。裸足になれるようにすること。

学生へのフィードバック方法

基本的には授業前後のやり取りを基本とする。
Eメールでのやり取りも受け付ける。

評価方法

特に試験は課さないので、以下事項で評価を行う。
・平常点
・授業態度・取り組み：授業への取り組みの積極性や努力過程を教員の観察によって評価する。
・課題の提出物：レポート形式の課題をWEB又は対面時に提出。
なお、下記表に振り分けられた目的も含め評価を行う。

また、初回の授業でルーブリックについて説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
授業態度・取り組み		○	○	○
授業時の提出物	○	○		○

評価割合

平常点50%、授業態度・取り組み30%、授業時の提出物20%の総合評価。

使用教科書名(ISBN番号)

なし
資料は授業内で配布する。

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解/思考・判断】身体の基礎知識や運動の実践を通して、健康に自分らしく生きる事についての理解を深め、それに対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。

オフィスアワー

Eメールにて。

学生へのメッセージ

日頃の運動習慣や柔軟性、持久力などの現在の運動能力、運動によっての体調変化、運動を行わない時の体調など、少しでもいいので、自分の体について考える時間を作ってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	ダンススタジオ、スポーツクラブ、ヨガスタジオ、学校教育現場で教授の経験がある。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（レポート）を提出する。

講義コード	G50307036
講義名	健康スポーツ演習ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	廣木　眞子	指定なし

ナンバリング

X13231C12

授業概要(教育目的)

チームで行う球技を中心に活動を実践する。試合を中心として必要なルールや技術・戦術を学び、スポーツを楽しむことができるようにする。また活動の最後にフィジカルトレーニングを実施し、生涯にわたって筋力を維持する方法を指導する。

履修条件

スポーツのルール・マナーをしっかり守っておこなう。そのために服装や体育館シューズなどはき、きちんとした挨拶や相手を尊重するなどの学習態度でおこなうことができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	ルール, 技術, 戦術を理解して説明する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	試合の中でルールを守り、戦術を思考して場面場面の状況判断を行う事ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	新しい技能の習得や戦術の学習活動に積極的に参加し、試合で活用しようと務める。 チーム内でコミュニケーションを円滑に取り合う事ができる。
技術・表現の観点 (A)	新しく習得した技能を試合の場で発揮する事ができる。 新しく学んだ戦術を試合の場で発揮する事ができる。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション&レクリエーション
	(	オリエンテーション レクリエーション

第1回	学習内容 ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体力テスト ストレッチ
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	45
第2回	授業テーマ	バスケットボール1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ボールをキープする方法を理解する （ドリブル・パス&ラン・連続ドリブル） ミニゲーム
	教室外学習(予習・復習)の内容	基本的なストレッチの復習 バスケットボールのルールや技術について調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	授業テーマ	バスケットボール2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	スペースを利用した戦術と技能 （スペースにパス・動く・シュートに繋げる） 試合
	教室外学習(予習・復習)の内容	バウンズパス・チェストパス・オーバーヘッドパスについて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	授業テーマ	バスケットボール3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	チームでの戦術を立て、ゲームの分析 （シュート・チームでの戦術） 試合
	教室外学習(予習・復習)の内容	戦術について調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	授業テーマ	バスケットボール4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・パス・ドリブル・シュート ・チーム戦術 ・試合
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの戦術・技能について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	授業テーマ	バレーボール1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	トス・レシーブ グループ練習 ミニゲーム
	教室外学習(予習・復習)の内容	バレーボールのルールについて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	授業テーマ	バレーボール2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サーブ・アタック グループ練習 ミニゲーム

	教室外学習(予習・復習)の内容	バレーボールのルールについて調べておくこと。 前回の授業の復習をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第8回	授業テーマ	バレーボール3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サーブ・レシーブ・トス・アタック グループ練習 ミニゲーム
	教室外学習(予習・復習)の内容	バレーボールのルールについて調べておくこと。 サーブ・レシーブ・トス・アッタクの種類について調べておくこと。 動画を見て、イメージを持っておくと良い。
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	授業テーマ	バレーボール4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	チーム戦術 試合
	教室外学習(予習・復習)の内容	現在のバレーボールではどのような戦術を取り入れているのか調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	授業テーマ	フットサル1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ルールについて パス・シュート・ドリブル （キックの種類） ミニゲーム
	教室外学習(予習・復習)の内容	フットサルのルールについて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	授業テーマ	フットサル2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	正確なパスを送る練習 ドリブル・パス・シュート練習 ミニゲーム
	教室外学習(予習・復習)の内容	正確なパスを出すためのポイントについて調べておく事。
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	授業テーマ	フットサル3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ボールキープ・ディフェンス グループ練習 ミニゲーム
	教室外学習(予習・復習)の内容	ボールキープ・ディフェンス突破にはどのような方法があるのか調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45

第13回	授業テーマ	フットサル4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ドリブル・パス・シュート パスを繋ぐ練習 チーム対決
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業の復習をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	授業テーマ	基本的なストレッチ/体力テスト/得意種目を選択、評価テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の得意な運動種目でテストを受けること。 ・バスケットボール ・バレーボール ・フットサル
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分が受ける技能テストの選択をして、練習を行なっておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45

学習計画注記

履修者数や演習の進度によりスケジュール、授業方法が変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業時間内での学生とのコミュニケーションによる。
また、評価テストによる。

評価方法

・平常点（出席や活動への参加状況）50%
・参加後の内省（リアクションペーパー記述）30%
・実技テスト20%

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	
参加後の内省	○	○	○	○
実技テスト				○

評価割合

平常点50%, 実技テスト50%で総合判定する.
（平常点は授業への参加状況・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で総合的に判断する.）

参考図書

授業の中で随時紹介

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】チームワークやルールを守る観点から、社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を高めることができる。

オフィスアワー

金曜4限

学生へのメッセージ

生涯において、自身の健康を維持するためにスポーツを通じた身体活動は欠かす事ができません。楽しく身体を動かす方法を学ぶとともに、将来の生涯スポーツに向けて必要な実践知を身

につけましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	指導者は、メルボルンでスプリント教室を開校し、指導した実績を有する。 競技者としては、陸上競技の全国大会で優勝した実績を有する。
アクティブ・ラーニング	○	チーム内での話し合い等を通じてアクティブ・ラーニングを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50308001
講義名	健康スポーツ演習ｃ（1年生専用）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次専用
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	江川 賢一	指定なし

ナンバリング

X13261C22

授業概要(教育目的)

生涯を通じてスポーツが実施できるために、スポーツによる健康づくりの方法を説明します。スポーツの実施に必要な基礎体力の獲得と運動スキルの向上を図ります。

履修条件

※公共交通機関が運休の場合は開講しません。宿泊を伴う夏季集中で開講するため、確実に履修できる学生を優先します。定員を超えた場合は抽選となります。履修希望者はオリエンテーションに必ず参加して下さい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	テニスの特性、ルールを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	テニスのゲーム特性を説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らの運動習慣を見直し、演習を通じて健康管理に意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	テニスの基礎的技能を習得する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション（千代田三番町、町田）・新体力テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本授業の目的と概要を理解する。演習に必要な服装・用具を準備する。 ウォーミングアップの方法を理解する。新体力テストを実施し、自己の体力を把握する。クールダウンの方法を理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	新体力テストの実施要領を調べる。
	教室外学習の時間(分)	45分
第2回	**授業テーマ**	グランドストローク（フォアハンド）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ラケットの感覚に慣れる。 グリップの握り方を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第3回	**授業テーマ**	グランドストローク（フォアハンド）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フォアハンドについてポジションの取り方を説明する。右利きの場合、体の正面から見て、右側に来るボールをフォアファンドで対応する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第4回	**授業テーマ**	グランドストローク（バックハンド）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ラケットの感覚に慣れる。 グリップの握り方を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第5回	**授業テーマ**	グランドストローク（バックハンド）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バックハンドについてポジションの取り方を説明する。右利きの場合、体の正面から見て、左側に来るボールをバックファンドで対応する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第6回	**授業テーマ**	グランドストロークの練習１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フォアハンドからバックハンドハンドを組み合わせて練習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第7回	**授業テーマ**	グランドストロークの練習２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バックハンドからフォアハンドを組み合わせて練習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。

	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	グランドストローク（クロス）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テニスコートを2等分して、それぞれのコースに打ち分ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	グランドストローク（ストレート）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テニスコートを2等分して、それぞれのコースに打ち分ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	グランドストローク（逆クロス）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テニスコートを2等分して、それぞれのコースに打ち分ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習6045分
第11回	**授業テーマ**	ボレー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ボレーの方法を理解する。 ネット付近での、ラケットワークを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	スマッシュの練習１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	スマッシュの方法を理解する。 ボールの落下点を予測し、正確に打ち返す方法を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	スマッシュの練習２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	スマッシュの方法を理解する。 ボールの落下点を予測し、ポイントにつながる方法を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分

第14回	授業テーマ	サービスの練習１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サービスの種類と方法を説明する。 ファーストサービスの技術を習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第15回	授業テーマ	サービスの練習２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サービスの種類と方法を説明する。 セカンドサービスの技術を習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第16回	授業テーマ	サービス・レシーブの練習１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サービスされたボールを確実に打ち返す方法を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第17回	授業テーマ	サービス・レシーブの練習２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サービスされたボールを打ち返し、得点する方法を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第18回	授業テーマ	試合の進め方・審判の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ルールを理解し判定をできるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第19回	授業テーマ	試合の進め方・審判の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	正しく、コールできるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	ミニゲームでの試合・審判の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	ミニゲームの方法を説明する。

第20回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本来より短い試合の進め方を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第21回	授業テーマ	ミニゲームでの試合・審判の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本来より短い試合でのセルフジャッジに慣れる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第22回	授業テーマ	ミニゲームでの試合・審判の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シングルスの試合の進め方を習熟する。誤審がない審判法を身に着ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第23回	授業テーマ	ミニゲームでの試合・審判の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ダブルスの試合の進め方を習熟する。誤審がない審判法を身に着ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第24回	授業テーマ	ゲーム形式での練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ミニゲームを発展させた試合を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第25回	授業テーマ	ゲーム形式での練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シングルスのミニゲームを楽しむ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第26回	授業テーマ	ゲーム形式での練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ダブルスのミニゲームを楽しむ。

	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第27回	**授業テーマ**	５ゲームでの試合
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	5ゲームのダブルスの試合を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第28回	**授業テーマ**	５ゲームでの試合（まとめ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テニスの基礎技術、プレーマナー、チームワーク、スポーツをする、観る、支える知識、態度、行動について説明する。 新体力テストを実施し、体力の変化を把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テスト結果を受講前と比較し、基礎的なプログラムを評価する。 演習の成果をレポートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

※天候、履修者の技能レベル、人数によりスケジュールや内容が変更になる場合もあります。
PCを使用して出欠、教材配布、課題提出、フィードバックをします。

学生へのフィードバック方法

授業中およびオフィスアワーで対応します。

評価方法

ルーブリックに基づいて成績評価します。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示をします。スポーツを通じた健康づくりについての理解とともに、安全で効果的な運営への貢献度や健康づくりの達成度を評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
スポーツによる健康づくり実践			○	○
レポート	○	○		

評価割合

健康づくりの達成度50%、レポート50%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

全米テニス協会評価プログラム(NTRP)ガイドライン（URL参照）

参考URL

https://assets.usta.com/assets/639/15/National%20tennis%20Rating%20Program.pdf

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解・思考・判断】運動とスポーツに関する知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって健康的に働く能力を身につけている
【技術・表現】学修で得た専門的技能をもって自己表現することで共感を創り出す能力を身につけている

オフィスアワー

木曜日昼休み

学生へのメッセージ

NTRP3.0～4.5を主な対象とします。演習期間は十分な睡眠をとり、当日はバランスのよい食事をとることを心がけて下さい。運動不足の人は自宅でストレッチするなどして受講して下さい。生涯にわたり健康を維持増進するための体力基盤を作るとともに、学部や学年を超えて他者とのかかわりを楽しむことを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は民間企業の研究機関における健康運動指導に従事した経験を踏まえて、個人及び集団特性に応じた運動実践の専門的知識と技能を教授します。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（レポート）を提出する。

講義コード	G50308002
講義名	健康スポーツ演習 c
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	佐藤 冬果	指定なし

ナンバリング

X15041M22

授業概要(教育目的)

本授業は、豊かな自然環境下に身を置き、原始的な生活を営むキャンプ生活や様々な野外活動を通じ、キャンプを安全に楽しむ知識・技術を修得するとともに、キャンプに関わる様々な環境（自然、地域、人、文化など）について理解を深めること、そして多様な他者との交流を通じて自己理解を深め、豊かな特性を養うことを目的としている。

履修条件

・宿泊型集中授業であるため、すべての日程に参加できる学生の履修を受け入れます。
・定員を超えた場合は抽選となります。履修希望者はクラスルームに登録し、事前説明会に必ず参加して下さい。
・キャンプや野外活動を実施する上で健康上の配慮が必要な人は、申し出てください。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	キャンプ生活に必要な様々な野外活動技術について、正しく説明することができる。 自然環境と私たちの生活の関係について説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	自身や他者の安全のために、周囲の環境に潜むリスクを指摘することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	キャンプ生活をよりよいものにするための取り組みに献身的に参加し、豊かな環境づくりに寄与することができる。
技術・表現の観点 (A)	キャンプ生活をよりよいものにするため、限られた資源を有効に活用し、工夫して生活することができる。 自身や他者の安全のために、周囲の環境に潜むリスクをマネジメントすることができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	（オンライン事前指導）オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業内容や進め方、スケジュール等について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先であるNatureFactory東京町田や境川、高尾山について調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	（オンライン事前指導）キャンプ生活の基礎
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャンプ中の衣食住の環境を整えるための基礎的な知識を習得する。 特に、個人装備（衣類等）について、レイヤードシステムなど、野外活動特有の考え方を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャンプ生活に必要な道具や、適した装備、服装について情報収集すること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	（実習1日目①）グループ分け、係分担
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	活動班ごとに役割分担を行い、班別活動である夕食コンテストの計画の立案に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食事計画や装備計画、グループ活動計画の作成を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	（実習1日目②）アイスブレイキングゲーム
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アイスブレイキングゲームは、個々人の緊張をほぐし、安心感の共有と一体感の醸成に繋がる活動である。 様々なゲームを体験する中で、コミュニケーションの幅の広がり（身近な人から知らない人と）、コミュニケーションの質の変化（クローズとオープンの違い）を体験的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アイスブレイキングゲームの種類やその指導法について調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	（実習1日目③）キャンプ生活の住環境の整備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャンプ生活をより快適に過ごすための工夫や環境を考え、テントの設営などその実現に向けて行動する。 タープ設営を通じ、ロープワークの技術を学ぶとともに、快適な生活環境を創り出すための工夫について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テントの設営方法を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	（実習1日目④）野外炊事I：夕食づくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	薪集めから薪割り、火起こしまでのプロセスを通じ、火付け技術を修得するとともに、自然環境に与えるインパクトについて

第6回	む)	理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食事計画を確認し、手順を確認しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45分
第7回	授業テーマ	(実習1日目⑤)野外炊事I：夕食づくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	薪集めから薪割り、火起こしまでのプロセスを通じ、火付け技術を修得するとともに、自然環境に与えるインパクトについて理解する。 また、片付けの過程で、正しい火の始末方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食事計画を確認し、手順を確認しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45分
第8回	授業テーマ	(実習1日目⑥)ナイトプログラムI(ナイトハイク)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ナイトハイク等の暗闇の環境を活用したプログラムを体験し、自然環境について考えるとともに、暗闇の意味を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	現代社会における暗闇が持つ意味について考えを深めておくこと。 星座について調べておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45分
第9回	授業テーマ	(実習2日目①)野外炊事II：朝食づくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	薪集めから薪割り、火起こしまでのプロセスを通じ、火付け技術を修得するとともに、自然環境に与えるインパクトについて理解する。 より効率的な野外炊事方法について考え、実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	焚火の方法について調べておくこと。 過去の経験を踏まえ、役割分担や手順について改善を加えること。
	教室外学習の時間(分)	45分
第10回	授業テーマ	(実習2日目②)境川源流探検I
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	豊かな自然環境が保存される境川源流を探検し、その場の植物や虫の生態について理解する。 遠征の際の必要装備に関する知識や、グループ登山の基本知識を修得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自然環境下で活動する上で注意が必要な危険植物について調べ、その特徴をまとめること。
	教室外学習の時間(分)	45分
第11回	授業テーマ	(実習2日目③)境川源流探検II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	豊かな自然環境が保存される境川源流を探検し、地図とコンパスの読み方について理解を深める。 遠征の際の必要装備に関する知識や、グループ登山の基本知識を修得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	境川をとりまく歴史や文化について調べておくこと。
	教室外学習の時間	

	（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	（実習2日目④）境川源流探検III
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	豊かな自然環境が保存される境川源流を探検し、町田市の最高峰である草戸山の散策を体験する。 遠征の際の必要装備に関する知識や、グループ登山の基本知識を修得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループごとに、散策活動の計画や準備を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	（実習2日目⑤）野外炊事III：夕食づくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	薪集めから薪割り、火起こしまでのプロセスを通じ、火付け技術を修得するとともに、自然環境に与えるインパクトについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	より効率的な野外炊事の方法について考えておくこと。 過去の経験を踏まえ、役割分担や手順について改善を加えること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	**授業テーマ**	（実習2日目⑥）野外炊事III：夕食づくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	薪集めから薪割り、火起こしまでのプロセスを通じ、火付け技術を修得するとともに、自然環境に与えるインパクトについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	より効率的な野外炊事の方法について考えておくこと。 過去の経験を踏まえ、役割分担や手順について改善を加えること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第15回	**授業テーマ**	（実習3日目①）野外炊事IV：朝食づくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	薪集めから薪割り、火起こしまでのプロセスを通じ、火付け技術を修得するとともに、自然環境に与えるインパクトについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	より効率的な野外炊事の方法について考えておくこと。 過去の経験を踏まえ、役割分担や手順について改善を加えること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第16回	**授業テーマ**	（実習3日目②）高尾山登山・高尾ビジターセンター見学I
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域の歴史・文化に触れながら、自然環境下の散策路を歩き、人と自然の関係について考えを深める。 高尾ビジターセンターにおいて、自然環境を利用した自然教育についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	高尾山のコースマップを確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	（実習3日目③）高尾山登山・高尾ビジターセンター見学II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆ	地域の歴史・文化に触れながら、自然環境下の散策路を歩き、

第17回	ﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人と自然の関係について考えを深める。 高尾ビジターセンターにおいて、自然環境を利用した自然教育についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第18回	授業テーマ	（実習3日目④）高尾山登山・高尾ビジターセンター見学III
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域の歴史・文化に触れながら、自然環境下の散策路を歩き、人と自然の関係について考えを深める。 高尾ビジターセンターにおいて、自然環境を利用した自然教育についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第19回	授業テーマ	（実習3日目⑤）高尾山登山・高尾ビジターセンター見学IV
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域の歴史・文化に触れながら、自然環境下の散策路を歩き、人と自然の関係について考えを深める。 高尾ビジターセンターにおいて、自然環境を利用した自然教育についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第20回	授業テーマ	（実習3日目⑥）野外炊事V：夕食づくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	薪集めから薪割り、火起こしまでのプロセスを通じ、火付け技術を修得するとともに、自然環境に与えるインパクトについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	より効率的な野外炊事の方法について考えておくこと。 過去の経験を踏まえ、役割分担や手順について改善を加えること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第21回	授業テーマ	（実習4日目①）野外炊事VI：朝食づくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	薪集めから薪割り、火起こしまでのプロセスを通じ、火付け技術を修得するとともに、自然環境に与えるインパクトについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	より効率的な野外炊事の方法について考えておくこと。 過去の経験を踏まえ、役割分担や手順について改善を加えること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第22回	授業テーマ	（実習4日目②）ネイチャークラフトI
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然物を活用した工芸品の製作を体験し、自然の審美的価値、実利的価値などについて体験的に学ぶ。
	教室外学習(予習・	キャンプでの体験を振り返り、創作モチーフについて考えてお

	復習)の内容	くこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第23回	**授業テーマ**	（実習4日目③）野外炊事VII：昼食づくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	施設の設備（ピザ窯）を利用した昼食作りを体験し、その手法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第24回	**授業テーマ**	（実習4日目④）ネイチャークラフトII
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然物を活用した工芸品の製作を体験し、自然の審美的価値、実利的価値などについて体験的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャンプでの体験を振り返り、創作モチーフについて考えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第25回	**授業テーマ**	（実習4日目⑤）ナイトプログラムII（キャンプファイヤー）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャンプファイヤーを通じ、キャンプをふりかえるとともに、自己を表現する方法について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループごとに、キャンプファイヤーでの発表内容を考えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第26回	**授業テーマ**	（実習5日目①）キャンプの撤収と道具のメンテナンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャンプの撤収・片付けの過程を通じ、キャンプ道具の適切な管理方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	個人装備についても適切に手入れをしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第27回	**授業テーマ**	（実習5日目②）キャンプのふりかえり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業全体をふりかえり、学びを整理する。 日常生活への汎化について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャンプ体験を想起し、学びや気づきを整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	（事後指導）キャンプのふりかえり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	キャンプ活動をふりかえり、報告書の作成を通じて課題や成

第28回	育・ICT活用を含む)	果、個人の学びや気づき等を整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャンプ体験を想起し、学びや気づきを整理しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45分

学習計画注記

・オンラインでの事前指導（説明会）、および4泊5日のキャンプ実習を実施します。
・キャンプ実習はNatureFactory東京町田（旧大地沢青少年センター）で実施します。
（https://naturefactory-machida.com/）
・JR横浜線相原駅と施設間はシャトルバスの運行があります。
・キャンプ中の食費、キャンプ場利用料等として実習費（2万円：実習後、清算して余剰金は返金）を徴収します。

・希望者は、本授業の単位取得により、公益社団法人日本キャンプ協会が発行する「キャンプインストラクター」の資格を取得することができます。詳細は初回授業で説明をします。
（資格を申請する場合は、別途登録費用（13300円+テキスト代2200円）が必要となります。）

学生へのフィードバック方法

・キャンプ期間中にはふりかえりをする機会を設け、ともにふりかえりを実施し、フィードバックを伝えます。
・実習日誌にコメントを記入して返却します。

評価方法

・事前指導への取り組み（小レポート15点×2回） 30%
・キャンプ実習への取り組み（参加状況・ふりかえりシート） 50%
・事後レポート 20%

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
事前事後指導（小レポート）	○	○	○	○
参加状況	○	○	○	○
ふりかえりシート・事後レポート	○	○	○	○

評価割合

・事前指導への取り組み（小レポート15点×2回） 30%
・キャンプ実習への取り組み（参加状況・ふりかえりシート） 50%
・事後レポート 20%

使用教科書名(ISBN番号)

特に定めない

参考図書

キャンプ指導者入門 第5版
ISBN:978-4-904008-15-7
定価：2,200円(本体2,000円+税10%)

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解・思考・判断】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって健康的に働くこ

とができる
【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって課題を発見し表現することで他者との共感を創り出すことができる

オフィスアワー

月曜4限 1618室

学生へのメッセージ

現代社会は、知識情報社会と言われます。
デジタル化が進み、いつでも、どこでも、知りたい情報を得ることが出来るようになりました。
実際に顔を合わせずとも、文字や、画面越しや、仮想空間内など、様々な形で世界中の人と交流することが出来るようになりました。
実際に行かなければ見れなかった景色を、画面越しに見ることが出来るようになりました。
とても便利な社会を享受する中で、私たちが忘れてしまいがちなのが、自分自身の身体や目の前の他者、目の前に広がる環境との関わりから受ける心の動きではないでしょうか。
人の力ではどうすることもできないもの（＝自然）の存在と力を感じる機会も減りました。
キャンプや野外活動は、それらを直接的に体験し、身体を通じて感じることができます。
普段は台所のスイッチ一つでつく火も、キャンプでは薪を集めて、割って、組んで、火をつけて、それを維持して…と、とても手間がかかります。
キャンプでは、そんな面倒くささを楽しみながら、自分の頭、身体、こころをたくさん動かして、目の前の状況に直接働きかける時間を一緒に過ごしたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	キャンプ活動では実際に身体を動かしながら学びます。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50309001
講義名	健康スポーツ演習ｄ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13261C22

授業概要(教育目的)

（※本科目は「健康スポーツ演習c」と同時開講です）
本授業は、豊かな自然環境下に身を置き、原始的な生活を営むキャンプ生活や様々な野外活動を通じ、キャンプを安全に楽しむ知識・技術を修得するとともに、キャンプに関わる様々な環境（自然、地域、人、文化など）について理解を深めること、そして多様な他者との交流を通じて自己理解を深め、豊かな特性を養うことを目的としている。

履修条件

・宿泊型集中授業であるため、すべての日程に参加できる学生の履修を受け入れます。
・定員を超えた場合は抽選となります。履修希望者はクラスルームに登録し、事前説明会に必ず参加して下さい。
・キャンプや野外活動を実施する上で健康上の配慮が必要な人は、申し出てください。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	キャンプ生活に必要な様々な野外活動技術について、正しく説明することができる。 自然環境と私たちの生活の関係について説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	自身や他者の安全のために、周囲の環境に潜むリスクを指摘することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	キャンプ生活をよりよいものにするための取り組みに献身的に参加し、豊かな環境づくりに寄与するすることができる。
技術・表現の観点 (A)	キャンプ生活をよりよいものにするため、限られた資源を有効に活用し、工夫して生活することができる。 自身や他者の安全のために、周囲の環境に潜むリスクをマネジメントすることができる。

学習計画

	授業テーマ	（オンライン事前指導）オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	授業内容や進め方、スケジュール等について確認する。

第1回	**育・ICT活用を含む)**	
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先であるNatureFactory東京町田や境川、高尾山について調べておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45分
第2回	**授業テーマ**	（オンライン事前指導）キャンプ生活の基礎
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャンプ中の衣食住の環境を整えるための基礎的な知識を習得する。 特に、個人装備（衣類等）について、レイヤードシステムなど、野外活動特有の考え方を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャンプ生活に必要な道具や、適した装備、服装について情報収集すること。
	教室外学習の時間(分)	45分
第3回	**授業テーマ**	（実習1日目①）グループ分け、係分担
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	活動班ごとに役割分担を行い、班別活動である夕食コンテストの計画の立案に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食事計画や装備計画、グループ活動計画の作成を進めておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45分
第4回	**授業テーマ**	（実習1日目②）アイスブレイキングゲーム
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アイスブレイキングゲームは、個々人の緊張をほぐし、安心感の共有と一体感の醸成に繋がる活動である。 様々なゲームを体験する中で、コミュニケーションの幅の広がり（身近な人から知らない人と）、コミュニケーションの質の変化（クローズとオープンの違い）を体験的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アイスブレイキングゲームの種類やその指導法について調べておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45分
第5回	**授業テーマ**	（実習1日目③）キャンプ生活の住環境の整備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャンプ生活をより快適に過ごすための工夫や環境を考え、テントの設営などその実現に向けて行動する。 タープ設営を通じ、ロープワークの技術を学ぶとともに、快適な生活環境を創り出すための工夫について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テントの設営方法を確認しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45分
第6回	**授業テーマ**	（実習1日目④）野外炊事I：夕食づくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	薪集めから薪割り、火起こしまでのプロセスを通じ、火付け技術を修得するとともに、自然環境に与えるインパクトについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食事計画を確認し、手順を確認しておくこと。
	教室外学習の時間	45分

	（分）	
第7回	**授業テーマ**	（実習1日目⑤）野外炊事I：夕食づくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	薪集めから薪割り、火起こしまでのプロセスを通じ、火付け技術を修得するとともに、自然環境に与えるインパクトについて理解する。 また、片付けの過程で、正しい火の始末方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食事計画を確認し、手順を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	（実習1日目⑥）ナイトプログラムI（ナイトハイク）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ナイトハイク等の暗闇の環境を活用したプログラムを体験し、自然環境について考えるとともに、暗闇の意味を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	現代社会における暗闇が持つ意味について考えを深めておくこと。 星座について調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	（実習2日目①）野外炊事II：朝食づくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	薪集めから薪割り、火起こしまでのプロセスを通じ、火付け技術を修得するとともに、自然環境に与えるインパクトについて理解する。 より効率的な野外炊事方法について考え、実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	焚火の方法について調べておくこと。 過去の経験を踏まえ、役割分担や手順について改善を加えること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	（実習2日目②）境川源流探検I
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	豊かな自然環境が保存される境川源流を探検し、その場の植物や虫の生態について理解する。 遠征の際の必要装備に関する知識や、グループ登山の基本知識を修得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自然環境下で活動する上で注意が必要な危険植物について調べ、その特徴をまとめること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	（実習2日目③）境川源流探検II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	豊かな自然環境が保存される境川源流を探検し、地図とコンパスの読み方について理解を深める。 遠征の際の必要装備に関する知識や、グループ登山の基本知識を修得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	境川をとりまく歴史や文化について調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	（実習2日目④）境川源流探検III
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	豊かな自然環境が保存される境川源流を探検し、町田市の最高峰である草戸山の散策を体験する。

第12回	育・ICT活用を含む)	遠征の際の必要装備に関する知識や、グループ登山の基本知識を修得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループごとに、散策活動の計画や準備を進めておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45分
第13回	授業テーマ	（実習2日目⑤）野外炊事III：夕食づくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	薪集めから薪割り、火起こしまでのプロセスを通じ、火付け技術を修得するとともに、自然環境に与えるインパクトについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	より効率的な野外炊事の方法について考えておくこと。 過去の経験を踏まえ、役割分担や手順について改善を加えること。
	教室外学習の時間(分)	45分
第14回	授業テーマ	（実習2日目⑥）野外炊事III：夕食づくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	薪集めから薪割り、火起こしまでのプロセスを通じ、火付け技術を修得するとともに、自然環境に与えるインパクトについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	より効率的な野外炊事の方法について考えておくこと。 過去の経験を踏まえ、役割分担や手順について改善を加えること。
	教室外学習の時間(分)	45分
第15回	授業テーマ	（実習3日目①）野外炊事IV：朝食づくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	薪集めから薪割り、火起こしまでのプロセスを通じ、火付け技術を修得するとともに、自然環境に与えるインパクトについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	より効率的な野外炊事の方法について考えておくこと。 過去の経験を踏まえ、役割分担や手順について改善を加えること。
	教室外学習の時間(分)	45分
第16回	授業テーマ	（実習3日目②）高尾山登山・高尾ビジターセンター見学I
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域の歴史・文化に触れながら、自然環境下の散策路を歩き、人と自然の関係について考えを深める。 高尾ビジターセンターにおいて、自然環境を利用した自然教育についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	高尾山のコースマップを確認しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45分
第17回	授業テーマ	（実習3日目③）高尾山登山・高尾ビジターセンター見学II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域の歴史・文化に触れながら、自然環境下の散策路を歩き、人と自然の関係について考えを深める。 高尾ビジターセンターにおいて、自然環境を利用した自然教育についての理解を深める。
	教室外学習(予習・)	

	復習 の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第18回	**授業テーマ**	（実習3日目④）高尾山登山・高尾ビジターセンター見学III
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域の歴史・文化に触れながら、自然環境下の散策路を歩き、人と自然の関係について考えを深める。 高尾ビジターセンターにおいて、自然環境を利用した自然教育についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第19回	**授業テーマ**	（実習3日目⑤）高尾山登山・高尾ビジターセンター見学IV
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域の歴史・文化に触れながら、自然環境下の散策路を歩き、人と自然の関係について考えを深める。 高尾ビジターセンターにおいて、自然環境を利用した自然教育についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第20回	**授業テーマ**	（実習3日目⑥）野外炊事V：夕食づくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	薪集めから薪割り、火起こしまでのプロセスを通じ、火付け技術を修得するとともに、自然環境に与えるインパクトについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	より効率的な野外炊事の方法について考えておくこと。 過去の経験を踏まえ、役割分担や手順について改善を加えること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第21回	**授業テーマ**	（実習4日目①）野外炊事VI：朝食づくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	薪集めから薪割り、火起こしまでのプロセスを通じ、火付け技術を修得するとともに、自然環境に与えるインパクトについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	より効率的な野外炊事の方法について考えておくこと。 過去の経験を踏まえ、役割分担や手順について改善を加えること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第22回	**授業テーマ**	（実習4日目②）ネイチャークラフトI
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然物を活用した工芸品の製作を体験し、自然の審美的価値、実利的価値などについて体験的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャンプでの体験を振り返り、創作モチーフについて考えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	（実習4日目③）野外炊事VII：昼食づくり

第23回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	施設の設備（ピザ窯）を利用した昼食作りを体験し、その手法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第24回	授業テーマ	（実習4日目④）ネイチャークラフトII
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然物を活用した工芸品の製作を体験し、自然の審美的価値、実利的価値などについて体験的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャンプでの体験を振り返り、創作モチーフについて考えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第25回	授業テーマ	（実習4日目⑤）ナイトプログラムII（キャンプファイヤー）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャンプファイヤーを通じ、キャンプをふりかえるとともに、自己を表現する方法について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループごとに、キャンプファイヤーでの発表内容を考えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第26回	授業テーマ	（実習5日目①）キャンプの撤収と道具のメンテナンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャンプの撤収・片付けの過程を通じ、キャンプ道具の適切な管理方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	個人装備についても適切に手入れをしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第27回	授業テーマ	（実習5日目②）キャンプのふりかえり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業全体をふりかえり、学びを整理する。 日常生活への汎化について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャンプ体験を想起し、学びや気づきを整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第28回	授業テーマ	（事後指導）キャンプのふりかえり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャンプ活動をふりかえり、報告書の作成を通じて課題や成果、個人の学びや気づき等を整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャンプ体験を想起し、学びや気づきを整理しておくこと。

	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

・オンラインでの事前指導（説明会）、および4泊5日のキャンプ実習を実施します。
・キャンプ実習はNatureFactory東京町田（旧大地沢青少年センター）で実施します。（https://naturefactory-machida.com/）
・JR横浜線相原駅と施設間はシャトルバスの運行があります。
・キャンプ中の食費、キャンプ場利用料等として実習費（2万円：実習後、清算して余剰金は返金）を徴収します。

学生へのフィードバック方法

・キャンプ期間中にはふりかえりをする機会を設け、ともにふりかえりを実施し、フィードバックを伝えます。
・実習日誌にコメントを記入して返却します。

評価方法

・事前指導への取り組み（小レポート15点×2回） 30%
・学生キャンプへの取り組み（参加状況・ふりかえりシート） 50%
・事後レポート 20%

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
事前事後指導（小レポート）	○	○	○	○
参加状況	○	○	○	○
ふりかえりシート・事後レポート	○	○	○	○

評価割合

・事前指導への取り組み（小レポート15点×2回） 30%
・学生キャンプへの取り組み（参加状況・ふりかえりシート） 50%
・事後レポート 20%

使用教科書名(ISBN番号)

特に定めない

参考図書

キャンプ指導者入門 第5版
ISBN:978-4-904008-15-7
定価：2,200円(本体2,000円+税10%)

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解・思考・判断】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって健康的に働くことができる
【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって課題を発見し表現することで他者との共感を創り出すことができる

オフィスアワー

月曜4限 1618室

学生へのメッセージ

現代社会は、知識情報社会と言われます。

デジタル化が進み、いつでも、どこでも、知りたい情報を得ることが出来るようになりました。
実際に顔を合わせずとも、文字や、画面越しや、仮想空間内など、様々な形で世界中の人と交流することが出来るようになりました。
実際に行かなければ見れなかった景色を、画面越しに見ることが出来るようになりました。
とても便利な社会を享受する中で、私たちが忘れてしまいがちなのが、自分自身の身体や目の前の他者、目の前に広がる環境との関わりから受ける心の動きではないでしょうか。
人の力ではどうすることもできないもの（＝自然）の存在と力を感じる機会も減りました。
キャンプや野外活動は、それらを直接的に体験し、身体を通じて感じることができます。
普段は台所のスイッチ一つでつく火も、キャンプでは薪を集めて、割って、組んで、火をつけて、それを維持して…と、とても手間がかかります。
キャンプでは、そんな面倒くささを楽しみながら、自分の頭、身体、こころをたくさん動かして、目の前の状況に直接働きかける時間を一緒に過ごしたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	キャンプ活動では実際に身体を動かしながら学びます。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50309002
講義名	健康スポーツ演習ｄ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	江川 賢一	指定なし

ナンバリング

X13261C22

授業概要(教育目的)

生涯を通じてスポーツが実施できるために、スポーツによる健康づくりの方法を説明します。スポーツの実施に必要な基礎体力の獲得と運動スキルの向上を図ります。

履修条件

※公共交通機関が運休の場合は開講しません。宿泊を伴う夏季集中で開講するため、確実に履修できる学生を優先します。定員を超えた場合は抽選となります。履修希望者はオリエンテーションに必ず参加して下さい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	テニスの特性、ルールを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	テニスのゲーム特性を説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らの運動習慣を見直し、演習を通じて健康管理に意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	テニスの基礎的技能を習得する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション（千代田三番町、町田）・新体力テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本授業の目的と概要を理解する。演習に必要な服装・用具を準備する。 ウォーミングアップの方法を理解する。新体力テストを実施し、自己の体力を把握する。クールダウンの方法を理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	新体力テストの実施要領を調べる。
	教室外学習の時間(分)	45分
第2回	**授業テーマ**	グランドストローク（フォアハンド）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ラケットの感覚に慣れる。 グリップの握り方を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第3回	**授業テーマ**	グランドストローク（フォアハンド）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フォアハンドについてポジションの取り方を説明する。右利きの場合、体の正面から見て、右側に来るボールをフォアファンドで対応する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第4回	**授業テーマ**	グランドストローク（バックハンド）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ラケットの感覚に慣れる。 グリップの握り方を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第5回	**授業テーマ**	グランドストローク（バックハンド）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バックハンドについてポジションの取り方を説明する。右利きの場合、体の正面から見て、左側に来るボールをバックファンドで対応する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第6回	**授業テーマ**	グランドストロークの練習１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フォアハンドからバックハンドハンドを組み合わせて練習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第7回	**授業テーマ**	グランドストロークの練習２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バックハンドからフォアハンドを組み合わせて練習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。

	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	グランドストローク（クロス）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テニスコートを2等分して、それぞれのコースに打ち分ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	グランドストローク（ストレート）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テニスコートを2等分して、それぞれのコースに打ち分ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	グランドストローク（逆クロス）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テニスコートを2等分して、それぞれのコースに打ち分ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習6045分
第11回	**授業テーマ**	ボレー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ボレーの方法を理解する。 ネット付近での、ラケットワークを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	スマッシュの練習１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	スマッシュの方法を理解する。 ボールの落下点を予測し、正確に打ち返す方法を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	スマッシュの練習２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	スマッシュの方法を理解する。 ボールの落下点を予測し、ポイントにつながる方法を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分

第14回	授業テーマ	サービスの練習１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サービスの種類と方法を説明する。 ファーストサービスの技術を習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第15回	授業テーマ	サービスの練習２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サービスの種類と方法を説明する。 セカンドサービスの技術を習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第16回	授業テーマ	サービス・レシーブの練習１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サービスされたボールを確実に打ち返す方法を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第17回	授業テーマ	サービス・レシーブの練習２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サービスされたボールを打ち返し、得点する方法を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第18回	授業テーマ	試合の進め方・審判の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ルールを理解し判定をできるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第19回	授業テーマ	試合の進め方・審判の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	正しく、コールできるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	ミニゲームでの試合・審判の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	ミニゲームの方法を説明する。

第20回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本来より短い試合の進め方を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第21回	授業テーマ	ミニゲームでの試合・審判の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本来より短い試合でのセルフジャッジに慣れる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第22回	授業テーマ	ミニゲームでの試合・審判の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シングルスの試合の進め方を習熟する。誤審がない審判法を身に着ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第23回	授業テーマ	ミニゲームでの試合・審判の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ダブルスの試合の進め方を習熟する。誤審がない審判法を身に着ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第24回	授業テーマ	ゲーム形式での練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ミニゲームを発展させた試合を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第25回	授業テーマ	ゲーム形式での練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シングルスのミニゲームを楽しむ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第26回	授業テーマ	ゲーム形式での練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ダブルスのミニゲームを楽しむ。

	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第27回	**授業テーマ**	５ゲームでの試合
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	5ゲームのダブルスの試合を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第28回	**授業テーマ**	５ゲームでの試合（まとめ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テニスの基礎技術、プレーマナー、チームワーク、スポーツをする、観る、支える知識、態度、行動について説明する。 新体力テストを実施し、体力の変化を把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テスト結果を受講前と比較し、基礎的なプログラムを評価する。 演習の成果をレポートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

※天候、履修者の技能レベル、人数によりスケジュールや内容が変更になる場合もあります。
PCを使用して出欠、教材配布、課題提出、フィードバックをします。

学生へのフィードバック方法

授業中およびオフィスアワーで対応します。

評価方法

ルーブリックに基づいて成績評価します。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示をします。スポーツを通じた健康づくりについての理解とともに、安全で効果的な運営への貢献度や健康づくりの達成度を評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
スポーツによる健康づくり実践			○	○
レポート	○	○		

評価割合

健康づくりの達成度50%、レポート50%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

全米テニス協会評価プログラム(NTRP)ガイドライン（URL参照）

参考URL

https://assets.usta.com/assets/639/15/National%20tennis%20Rating%20Program.pdf

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解・思考・判断】運動とスポーツに関する知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって健康的に働く能力を身につけている
【技術・表現】学修で得た専門的技能をもって自己表現することで共感を創り出す能力を身につけている

オフィスアワー

木曜日昼休み

学生へのメッセージ

NTRP3.0～4.5を主な対象とします。演習期間は十分な睡眠をとり、当日はバランスのよい食事をとることを心がけて下さい。運動不足の人は自宅でストレッチするなどして受講して下さい。生涯にわたり健康を維持増進するための体力基盤を作るとともに、学部や学年を超えて他者とのかかわりを楽しむことを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は民間企業の研究機関における健康運動指導に従事した経験を踏まえて、個人及び集団特性に応じた運動実践の専門的知識と技能を教授します。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（レポート）を提出する。

講義コード	G50310001
講義名	体育講義
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	中村 絢子	指定なし

ナンバリング

X13280M11

授業概要(教育目的)

健康を取り巻く社会状況の中で、国民一人一人が生涯にわたる心身の健康の保持増進を図るためには、疾病の発症そのものを予防するのみならず、ストレス解消やストレスへの抵抗力を増す観点からも、運動や栄養及び休養を柱とする調和のとれた生活習慣の確立が不可欠である。従って、生涯にわたって豊かな生活を送るためには、運動やスポーツについての幅広い知識を身につける必要があることから、本授業ではスポーツの意味や素晴らしさに加え、運動技能や体力を合理的に向上させるための科学的知識や方法を学び、スポーツの歴史や文化的意義などを総合的に捉え、体育の必要性を考えることを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	からだの発達と加齢のプロセスを理解できるようになる。 生涯にわたり有意義な人生を送るために、健康なライフスタイル（生活様式）を確立することは重要であり、そのための健康・スポーツについての基礎知識を身につける。 幼児期の怪我の特徴や病気の予防について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解し、必要な動きを分類できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	

技術・表現の観点 (A)	授業で修得した知識や態度が、個人の日常生活で活用され、より健康で豊かな生活が営めるようになる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション、スポーツと健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	スポーツそれぞれの持つ特性や健康とは何かを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の好きなスポーツ、知らないスポーツについて事前に調べておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	心身の健康（心身の相関）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	こころと身体は密接に関係していることから、パーソナリティやストレスについて学び、健康に過ごすための知識を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日常的にどのようなストレスを感じ、どのようにして対処しているのかを考える。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	生活習慣病について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活習慣病と運動習慣について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	生活習慣病について理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	肥満とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肥満とはどのような状態を指すことか、さまざまな測定法から体脂肪率や肥満指数について違いを知り、正しい知識のもと客観的に体重について考えることができるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の身長体重の数値を事前に把握する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	運動のしくみ①（骨・筋肉・内臓・神経のしくみ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動を行う上で、必要な基本知識を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一般的な骨や筋肉の名前を調べて、どの部位をさしているのかを理解しておくようにする。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	運動のしくみ②（身体を動かすためのエネルギー）

第6回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	身体の中ではどのようなエネルギーを使って筋肉や内臓を動かしているのかを知る。また、エネルギー源から必要な栄養や食事についても考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運動の種類（無酸素、乳酸、有酸素）において、それぞれどのような種目があるのかを考える。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	健康づくりのための運動と食事
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動に必要な栄養を知り、健康的な生活を営むための知識を養う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	バランスの良い食事はどのようなものかを調べる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	スキャモンの発育発達曲線について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	年代別に応じた適切な運動指導をするために、発育発達曲線から必要な運動を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	幼児期における、身につけたい36の動きについて調べる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	女性の健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	女性特有の身体のことや病気について正しい知識を身につける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	女性の病気や症状について調べ、自分の状態と合わせて考える。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	感染症とアレルギー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもがかかりやすい感染症について正しい知識を学ぶと共に、運動時にアレルギー反応を起こした時の対処法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アレルギー症状とはどのようなものか調べる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	遊具と安全管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	遊具の特性と遊ぶ上での点検項目や安全管理について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	小さい頃に公園や園庭で遊んだ遊具と今の遊具にどのような変化があるかを事前に調べておく。

	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	睡眠と健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	睡眠時は体内ではどのようにして疲労回復や成長を促すしくみが活動しているかを学び、健やかに過ごすための知識を養う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分自身の適切な睡眠時間はどのくらいかを理解しておくようにする。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	ライフスタイルと健康、高齢期の心身の特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会で健やかに活動するための習慣づくりや、高齢期に訪れる身体の変化について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	継続的に取り組む事ができる運動について考え、計画を立てる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	授業全体のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本講義で行った内容について復習および確認をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で配布した資料およびノートを確認し、今後の生活に取り入れる事ができる事をまとめておくようにする。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

授業の進行状況により、スケジュールを変更する場合もあります。

学生へのフィードバック方法

実施した小テストは、翌講義時に模範解答や解説を行う。
小テストは授業の最後にクラスルーム上に表示し実施する。提出された内容は評価に使用する。

評価方法

平常点の他、小テストの回答内容、期末試験から評価する。小テストは講義の内容に沿ったものとする。
ルーブリックを用いた評価を行います。ルーブリックについては授業内にて案内します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
小テスト	○	○	○	
期末試験	○	○		

評価割合

平常点（20%）小テスト（30%）期末試験（50%）を総合して評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない。

参考図書

『健康・スポーツ科学講義』出村慎一監修、杏林書院(2005)

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】運動やスポーツを、発育・発達に応じてとらえる知識をもつ。生涯を通してどのようなスポーツと関わって行くことが望ましいのかという知識をもつ。スポーツは健常者のみのものでなく、全ての人が楽しむものであるという知識をもつ。
【思考・判断】今後、自分がスポーツや運動とどのように関わっていくのか、判断ができる力を身につけている。

学生へのメッセージ

授業で得た知識を自分自身の体験と照らし合わせて、運動や体育の必要性を考えてください。
今後の自分自身のライフスタイルをどのようにしていくかを考える機会にしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	幼児～小学生年代を対象に活動していた運動教室での実務経験を元に、健康や生活習慣、運動との関連性について教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50311001
講義名	体育実技
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実技
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	中村 絢子	指定なし

ナンバリング

X13290M13

授業概要(教育目的)

本来、学校体育とは生涯にわたり、運動に親しむ素質や能力を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる目的があります。
さらに、運動を楽しみながら継続することで体力の向上、疾病等の軽減ができ、健やかな生活を送ることができます。
本授業では、このような体育教育の目的や運動における身体活動の楽しさを授業を通して学生自身が体験し、他者との共存・協力する姿勢を身につけることを目的として実施します。

保育者として、自身の体力の維持増進を図り、様々な運動の特性を知り、運動技能の向上させるとともに、各種スポーツやレクリエーションスポーツを実践していく中で「からだ」を動かすことの楽しさを知り、生涯にわたって自ら健康や体力に配慮し、それらを保持増進していくために必要な習慣を実践を通して伝えます。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	様々な運動を通して、保育現場でも子ども達に運動の楽しさを教えることのできる素地を養う。
思考・判断の観点 (K)	そのスポーツや運動の特徴やポイントを理解し、修得する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	生涯に渡ってスポーツに親しむ生涯スポーツの理念と実践力を身につけるようにする。
技術・表現の観点 (A)	基礎的な運動やスポーツ種目を体験することで、身体づくりのための体力を養う。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション (レクリエーション)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業について流れと内容を説明する。活動では仲間と協力しながらレクリエーション要素を取り入れた運動遊びを実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	スポーツの意義について調べる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	有酸素運動の実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ウォーキングや近年取り入れられているトレーニング法など、様々な有酸素運動を実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	有酸素運動とは何かを調べどのようか効果があるのかを知る。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	体力テスト①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在の自己の基礎体力を体力テストを用いて測定する。 自身の現状を把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	体力とは何かを知り、測定に際し事前に用意するものを準備する。記録用紙に記入する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	基礎体力を高める運動(なわとび・大なわとび)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	リズムよくジャンプができるようになるためには、どのようなポイントが必要か知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	なわとびの種目について調べる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	スポーツ実践(マット運動)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	マット運動に取り組み、正しい技能や補助の方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	器械体操の種目や技について、ポイントや注意点を調べる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	**授業テーマ**	スポーツ実践 (バトンパスを考慮したリレー走)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	正しい走り方や、走力や年齢にかかわらず楽しめるリレー種目のバリエーションを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	バトンパスの方法や園庭で取り組む際の安全上注意することを調べる。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	コーディネーショントレーニング

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発達に合わせた運動技能を高める運動について、実践を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゴールデンエイジおよびコーディネーショントレーニングとはどのような内容か調べる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	ボールを使った運動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	道具を使った運動としてボールを使用する。投げる、蹴る、ころがすなどの動作から楽しむことができる運動あそびを学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	サッカーやバスケットボールなどの競技スポーツから、幼児でも手軽に取り組む事ができる運動は何かを考える。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	スポーツ実践（鬼ごっこ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鬼ごっこのバリエーションについて実践を通して学ぶ。広さやルールによって異なる危険から、安全に取り組める方法を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一般的な鬼ごっこの他に、どのような追いかける遊びあるのか考える。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	実技試験に向けた指導案作成および打合せ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとに模擬保育（運動遊び）に向けて計画を立てる。仲間と協力して説明内容や安全が確保した状態での実践ができるように準備をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	どのような運動遊びがあるか、事前に調べておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	実技試験①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとに模擬保育（運動遊び）を実践する。また、子どもの気持ちになって活動をすることで指導者がどのように見えているかを知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に運動遊びを調べる。相手にわかりやすい説明とは何かを考え、練習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	実技試験②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとに模擬保育（運動遊び）を実践する。また、子どもの気持ちになって活動をすることで指導者がどのように見えているかを知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に運動遊びを調べる。相手にわかりやすい説明とは何かを考え、練習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	実技試験③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	グループごとに模擬保育（運動遊び）を実践する。また、子

第13回	ｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	どもの気持ちになって活動をすることで指導者がどのように見えているかを知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に運動遊びを調べ、相手にわかりやすい説明とは何かを考え、練習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	体力テスト②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本授業を通して習得した技能や基礎体力の向上を体力テストを用いて再測定する。 自身の成長を実感する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の記録を確認する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

授業の進行状況により、スケジュールが変更となる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回の実技授業を通して、自身の得意な領域を見つけさらに興味を深めていくようにする。苦手な運動に対しては段階を追って練習をするようにアドバイスをします。

評価方法

後半の授業回に実施する実技試験（模擬保育）、実技参加の積極性および協調性、授業に対する関心・意欲・態度、指導案作成・模擬実践内容を総合的に評価します。
ルーブリックを用いた評価を行います。ルーブリックについては授業内にて案内します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実技試験（各運動の基本的技能）	○	○	○	○
実技参加の積極性および協調性	○	○	○	○
授業に対する関心・意欲・態度	○	○	○	○
指導案作成・模擬実践内容	○	○	○	○

評価割合

実技試験（各運動の基本的技能）（20%）＋実技参加の積極性および協調性（30%）＋授業に対する関心・意欲・態度（30%）＋指導案作成・模擬実践内容（20%）＝合計（100%）

使用教科書名(ISBN番号)

特になし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】様々なスポーツのルールを理解する。スポーツの戦術やトレーニングの方法を理解している。
【思考・判断】ゲームを通して相手の動きの予測や判断ができる。
【関心・意欲・態度】様々なスポーツゲームに積極的に取り組み、チームのために努力を惜しまない。
【技術・表現】新しい運動遊びを考え、他者にわかりやすく見せるための工夫や表現をしている。

学生へのメッセージ

授業の前には、自身が幼少期に行っていた運動遊びを思い出し、幼児期の運動について考えてみてください。
また、授業がない日でも、普段から身体を積極的に動かしましょう。
スポーツの得意・不得意に関わらず、全力で楽しむ姿が子どもたちを惹きつけます。授業中も同様に、他の受講者と協調性をもって授業に参加をしてください。

安全面を考慮して、爪の長さを短くすること、および髪の毛が長い場合はまとめてください。
服装はジャージや体操着などの運動ができる服装で参加してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	幼児～小学生年代を対象に活動していた運動教室での指導経験を元に、実際に行っていた運動を授業に取り入れて紹介する。様々な運動能力の子ども達全員が楽しむことができ、運動が好きになる内容や声かけのテクニック等を実践を通して説明します。
アクティブ・ラーニング	○	運動時の体験をフィードバックしながら、新しい技術に取り組んでる。
情報リテラシー教育	○	新しいゲームや運動を考え実践していくために、年齢に応じた運動遊びへの興味や関心について調べる。
ICT活用		

講義コード	G50312001
講義名	森の体験活動
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	佐藤 冬果	指定なし

ナンバリング

X15070M23

授業概要(教育目的)

都市化やデジタル化が進む現在、豊かな自然環境下での体験活動の機会が減少している。森林などの自然環境での滞在・活動は、人間の心理的、身体的な健康の維持増進に肯定的な影響を与えるとされ、ウェルビーイングを高める方法として近年益々注目が高まっている。
本科目では、多様な自然体験活動を実際に体験し、自然体験活動の実施方法に関する知識技術を修得すると同時に、自然を五感で感じ取ること、他者と協働すること、自己と対峙することなどの体験を通じ、そのなかで生じる感情(こころ)・身体(からだ)・認知(あたま)の動きに焦点をあてて省察することで、生涯にわたる心身の健康と自己成長に寄与する力を修得することを目指す。

履修条件

・屋外での野外運動に適した服装、シューズで参加してください。
・野外活動を実施する上で健康上の配慮が必要な人は、申し出てください。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	森林環境下で実施される様々な体験活動の技術とその指導法について説明することができる。 森林環境下で過ごすことによる心身への影響を説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	森林環境下に潜むリスクを適切に考慮し、指摘することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	森林環境下で実施される様々な体験活動において、グループの班員と協調し、課題解決のために取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	森林環境下で実施される様々な体験活動を通じて得た学びを適切に表現することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション グループ分け アイスブレイキングゲーム（知り合うためのアクティビティ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・授業内容や進め方、スケジュール等について確認する。 ・グループ分けを行い、互いを知ることを目的としたアイスブレイキングゲームを通じて相互理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森林環境下での活動に適した服装を調べ、準備しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	アイスブレイキングゲーム（精神的抑制をとるアクティビティ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	心の緊張をほぐすアイスブレイキングゲームを通じて、相互理解を深め、自己表現の方法を模索する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アイスブレイキングゲームの効果について、自身の体験を振り返り、感じたことを記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	ネイチャービンゴI
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	町田キャンパス校内の森林、あるいはその周辺の森林をグループごとに散策し、ネイチャービンゴに取り組みながらその場の自然環境に目を向ける。 その際の認知・こころ・からだの動きについての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	体験を振り返り、考えたこと、感じたことを整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	ネイチャービンゴII
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	町田キャンパス校内の森林、あるいはその周辺の森林をグループごとに散策し、ネイチャービンゴに取り組みながらその場の自然環境に目を向ける。 その際の認知・こころ・からだの動きについての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	体験を振り返り、考えたこと、感じたことを整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	原始的火起こし体験I
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	紐錐（ひもぎり）式火起こしの装置の製作と、それを用いた火起こしにグループ毎に取り組む。 原始的火起こし体験を通じ、人類と火の関係について、理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	紐錐（ひもぎり）式火起こしについて調べ、その方法やコツを整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	原始的火起こし体験II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	紐錐（ひもぎり）式火起こしの装置の製作と、それを用いた火起こしにグループ毎に取り組む。

第6回	教育・ICT活用を含む)	原始的火起こし体験を通じ、人類と火の関係について、理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	体験を振り返り、考えたこと、感じたことを整理しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45分
第7回	授業テーマ	野外炊事I
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループ毎に、薪集め、薪割り、火起こし体験を行い、刃物や火の扱い方を学ぶ。 また、効率的かつ環境に配慮した野外炊事の方法を学ぶことで、環境への影響や災害時の炊事についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ティピー型、井桁型など、焚火の方法について調べておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45分
第8回	授業テーマ	野外炊事II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループ毎に、薪集め、薪割り、火起こし体験を行い、刃物や火の扱い方を学ぶ。 また、効率的かつ環境に配慮した野外炊事の方法を学ぶことで、環境への影響や災害時の炊事についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	体験を振り返り、考えたこと、感じたことを整理しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45分
第9回	授業テーマ	森林散策（オリエンテーリング）I
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地図とコンパスの使い方を学び、その技術を活用しながら町田キャンパス校内の森林、あるいはその周辺の森林をグループごとに散策し、その場の自然環境に目を向ける。 活動を通じて、森林の生態系や安全管理についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身近な草花やその生態について調べておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45分
第10回	授業テーマ	森林散策（オリエンテーリング）II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地図とコンパスの使い方を学び、その技術を活用しながら町田キャンパス校内の森林、あるいはその周辺の森林をグループごとに散策し、その場の自然環境に目を向ける。 活動を通じて、森林の生態系や安全管理についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	体験を振り返り、考えたこと、感じたことを整理しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45分
第11回	授業テーマ	ネイチャーゲームI
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験プログラムの一つであるネイチャーゲームを体験し、その意義について理解する。 また、その歴史や理論を学び、人と自然の関係を深める教育について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ネイチャーゲームについて調べておくこと。

	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	ネイチャーゲームII
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験プログラムの一つであるネイチャーゲームを体験し、その意義について理解する。 また、その歴史や理論を学び、人と自然の関係を深める教育について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	体験を振り返り、考えたこと、感じたことを整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	ロープワークI
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	野外活動技術の一つであるロープワークの技術を学ぶ。 修得したロープワークの技術を活用し、シェルター（秘密基地）づくりを行い、森林環境下での住環境整備について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ロープワークについて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	**授業テーマ**	ロープワークII
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	野外活動技術の一つであるロープワークの技術を学ぶ。 修得したロープワークの技術を活用し、シェルター（秘密基地）づくりを行い、森林環境下での住環境整備について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	体験を振り返り、考えたこと、感じたことを整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第15回	**授業テーマ**	ネイチャークラフト（焼き板）I
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然物を用いた芸術的創作活動（ネイチャークラフト）を体験することで、自然の審美的価値、実利的価値などについて体験的に学ぶ。 ノコギリ等の道具の使用方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	様々なネイチャークラフトについて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第16回	**授業テーマ**	ネイチャークラフト（焼き板）II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然物を用いた芸術的創作活動（ネイチャークラフト）を体験することで、自然の審美的価値、実利的価値などについて体験的に学ぶ。 ノコギリ等の道具の使用方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	体験を振り返り、考えたこと、感じたことを整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	ネイチャークラフト（草木染め）I
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	自然物を用いた芸術的創作活動（ネイチャークラフト）を体験することで、自然の審美的価値、実利的価値などについて体験的に学ぶ。

第17回	含む)	自然物の科学的側面について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	草木染めに使用される草花について調べておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45分
第18回	授業テーマ	ネイチャークラフト（草木染め）II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然物を用いた芸術的創作活動（ネイチャークラフト）を体験することで、自然の審美的価値、実利的価値などについて体験的に学ぶ。 自然物の科学的側面について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	体験を振り返り、考えたこと、感じたことを整理しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45分
第19回	授業テーマ	森の生き物マップ作りI
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	町田キャンパス校内の森林、あるいはその周辺の森林をグループごとに散策し、発見した植物（木本・草本）、きのこ、藻類、虫、小動物その他生き物について記録を行い、森の生き物マップを作成する。 その過程を通して、森林環境下に生息する生物についての理解を深め、危険生物などについても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでに発見した生き物を想起しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45分
第20回	授業テーマ	森の生き物マップ作りII
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	町田キャンパス校内の森林、あるいはその周辺の森林をグループごとに散策し、発見した植物（木本・草本）、きのこ、藻類、虫、小動物その他生き物について記録を行い、森の生き物マップを作成する。 その過程を通して、森林環境下に生息する生物についての理解を深め、危険生物などについても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	体験を振り返り、考えたこと、感じたことを整理しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45分
第21回	授業テーマ	自然体験活動のプログラムマネジメント グループ活動の立案I
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験活動のプログラムを計画する際に考慮すべき理論について学ぶ。 グループごとに、自然体験活動の計画を立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森林環境を活用した体験活動について調べ、計画の立案を進めること。
	教室外学習の時間(分)	45分
第22回	授業テーマ	グループ活動の立案II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとに、自然体験活動の計画を立案する。 特にプログラムの実現可能性や安全性に着目し、実地踏査を行う。
	(	

	教室外学習 予習・復習)の内容	森林環境を活用した体験活動について調べ、計画の立案を進めること。
	教室外学習の時間(分)	45分
第23回	**授業テーマ**	グループ活動の立案III
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとに、自然体験活動の計画を立案する。 実地踏査の結果を踏まえ、プログラムの計画、装備計画を立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森林環境を活用した体験活動について調べ、計画の立案を進めること。
	教室外学習の時間(分)	45分
第24回	**授業テーマ**	グループ活動の立案IV
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとに、自然体験活動の計画を立案する。 実際の運営に向けて、役割分担などの計画を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森林環境を活用した体験活動について調べ、計画の立案を進めること。
	教室外学習の時間(分)	45分
第25回	**授業テーマ**	森林環境下での体験活動の運営I
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとに計画した体験活動の指導・運営を行う。 担当者以外の学生は、参加者として活動に参加する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導体験を振り返り、考えたこと、感じたことを記録しておくこと。 参加者としての体験から、自然体験活動の運営や指導についての気づきをフィードバックすること。
	教室外学習の時間(分)	45分
第26回	**授業テーマ**	森林環境下での体験活動の運営II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとに計画した体験活動の指導・運営を行う。 担当者以外の学生は、参加者として活動に参加する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導体験を振り返り、考えたこと、感じたことを記録しておくこと。 参加者としての体験から、自然体験活動の運営や指導についての気づきをフィードバックすること。
	教室外学習の時間(分)	45分
第27回	**授業テーマ**	森林環境下での体験活動の運営III
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとに計画した体験活動の指導・運営を行う。 担当者以外の学生は、参加者として活動に参加する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導体験を振り返り、考えたこと、感じたことを記録しておくこと。 参加者としての体験から、自然体験活動の運営や指導についての

		気づきをフィードバックすること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第28回	**授業テーマ**	森林環境下での体験活動の運営IV 授業のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとに計画した体験活動の指導・運営を行う。 担当者以外の学生は、参加者として活動に参加する。 授業全体をふりかえり、森林環境下での体験活動の意義についてまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導体験を振り返り、考えたこと、感じたことを記録しておくこと。 参加者としての体験から、自然体験活動の運営や指導についての気づきをフィードバックすること。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

・天候や進捗状況等によりスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

プログラム実施後にともにふりかえりを実施し、フィードバックをお伝えします。

評価方法

・毎授業後の小レポート
・平常点（授業への積極的な参加）
・最終レポート
を総合的に評価します。

ルーブリック評価を行います。ルーブリックはクラスルームに提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
毎授業後の小レポート	○	○	○	○
平常点（授業への積極的な参加）		○	○	○
最終レポート	○	○	○	○

評価割合

・毎授業後の小レポート 70点（5点×14回）
・平常点（授業への積極的な参加） 15点
・最終レポート 15点

使用教科書名(ISBN番号)

特に定めない

参考図書

キャンプ指導者入門 第5版
ISBN:978-4-904008-15-7
定価：2,200円(本体2,000円+税10%)

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解（K）】
自然環境や青少年の心身の健康に関する現代的課題を理解する

【思考・判断（K）】
森林環境下で安全に、かつ適切に過ごすことができる知識・技能を修得し、それらを活用して安全に活動する

【関心・意欲・態度（V）】
・グループ活動を通じて他者・自己理解を深めることで、多様性への認識を深め、共感力や協働力を修得する
・グループでの課題解決活動を通じて、自分自身ならではの役割や責任を認識し、達成に向けて取り組むことで、協働力、達成力を修得する

【技術・表現（A）】
学修で得た専門的技能(技術)をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す

オフィスアワー

月曜4限 1618室

学生へのメッセージ

現代社会は、知識情報社会と言われます。
デジタル化が進み、いつでも、どこでも、知りたい情報を得ることが出来るようになりました。
実際に顔を合わせずとも、文字や、画面越しや、仮想空間内など、様々な形で世界中の人と交流することが出来るようになりました。
実際に行かなければ見れなかった景色を、画面越しに見ることが出来るようになりました。
とても便利な社会を享受する中で、私たちが忘れてしまいがちなのが、自分自身の身体や目の前の他者、目の前に広がる環境との関わりから受ける心の動きではないでしょうか。
人の力ではどうすることもできないもの（＝自然）の存在と力を感じる機会も減りました。
キャンプや野外活動は、それらを直接的に体験し、身体を通じて感じることができる時間だと思います。

本授業では、町田キャンパスの豊かな自然環境のなかで、多様な自然体験をして頂きます。
自分の頭、身体、こころをたくさん動かして、目の前の環境や仲間に直接働きかける時間を一緒に過ごしたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	実際に身体を動かしながら五感を通じて学びます。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50402001
講義名	教養の化学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13310M21

授業概要(教育目的)

暮らしの中の彩りを華やかで豊かにする化学の知識について概説する。本講義は、以下の２部構成により講義を展開する。前半の講義では、基礎化学（基礎理論・基礎計算・基本的な化学変化・有機化学基礎）に関する内容について講義・演習を行う。これらは、入学以前に化学を学習した経験のある学生や化学入門（前期開講科目）を履修した学生に対して学習内容に対する確認の学習機会となる。また、本講義で初めて化学を学ぶ学生に対しては学習内容の基礎を習得する学習機会となる。後半の講義では、日々の生活や研究活動における適用を鑑み、実際のアプリケーション（実験・実習）を行う際の有効な適用の支援となり得る知識を教授する。具体的なアプリケーションとして、食と栄養・食の安全・水と環境・香りと二オイ・光と色彩・油脂と石けんなどに関する基本的な内容について講義・演習を行う。専門科目における座学ならびに実験・実習の有効な支援となる学習機会となることを期待する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 基礎化学（原子構造・化学結合・状態変化・反応熱・酸と塩基・酸化と還元）を正しく理解できる。 2 有機化学基礎（官能基による分類・国際命名法・結合と構造・立体化学基礎）を正しく理解できる。 3 食と栄養・食の安全・水と環境・香りと二オイ・光と色彩・油脂と石けんなどの概要について理解できる。
思考・判断の観点 (K)	1 化学の基礎内容が理解できる。 2 有機化学の基礎内容が理解できる。 3 化学に関するアプリケーションの基礎が理解できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 関連するトピックスを盛り込み、講義を展開する。講義で学んだPointは、講義内の小テストで確認する。 2 講義内容の進捗に合わせて、演習を行い、学習内容のPointである小テストの内容を確認する。 3 小テスト、演習で学習内容の要点を確認し、定期テスト受験の準備を支援する。
技術・表現の観点	

(A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス：暮らしの中の化学へ－身近なアプリケーション（日々の生活や研究活動における取組に有効な適用事案）への誘い－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	講義概要についてガイダンスを行う。 暮らしの中の彩りを華やかで豊かにする化学の知識について目を向ける（教養の化学を履修する意義を確認する）。身体と食品・栄養、化粧品・トイレタリー（石けん・シャンプー・リンス・柔軟剤・入浴剤・芳香剤など）、衣料品・装飾品、日用雑貨などの素材・原材料は何か、化学的な見地から調査し、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[事前学習]食品・トイレタリー・衣料品の成分表記について、それぞれ２種類ずつ程度を調査する（メモを取る、または画像を撮影する）。 [講義内学習] <小テスト❶：代替小レポート> 事前学習で集めた情報をそれぞれまとめ、素材・原材料の種類から推測される特性（使用上の注意など）についてコメントする（第２回に提出）。 [事後学習]継続して、身の回りの物の素材・原材料に興味を持って接するよう心がける。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	基礎化学I（基礎的な化学に関する理論の確認）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	物質の成り立ち（素粒子・粒子・化学結合）ならびに汎用性の高い基礎的な用語の確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[事前学習]入学以前に化学を学習した経験のある学生・化学入門を履修した学生は、関連項目の再確認を事前に行っておく。 [講義内学習] <小テスト❷> 本講義内で学習した下記Pointを確認する。 Point：①粒子と素粒子、②原子の構造、③元素記号と原子番号、④電子殻と電子軌道、⑤電子配置式と箱表示、⑥閉殻（貴ガス（希ガス））構造とイオン、⑦元素の周期表、⑧化学結合 [事後学習]小テスト❷で取り上げたPointを中心に学習内容をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	基礎化学II（基礎的な化学に関する計算の確認）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	化学物質の取扱に必須となる物質の量的な概念ならびに基礎計算の確認を行う（四則演算が可能な電卓を持参すること）。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[事前学習]入学以前に化学を学習した経験のある学生・化学入門を履修した学生は、関連項目の再確認を事前に行っておく。 [講義内学習] <小テスト❸> 本講義内で学習した下記Pointを確認する。 Point：①原子量・分子量・式量、②化学式・化学反応式・熱化学方程式、③化学反応式と量的な関係、④気体の計算、⑤溶液の計算、⑥物理変化・化学変化に伴う熱量の計算

	教室外学習の時間（分）	180
第4回	**授業テーマ**	基礎化学III（基礎的な化学変化（酸・塩基ならびに酸化・還元）の確認）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基礎的な化学変化のうち、特に重要である酸・塩基ならびに酸化・還元の確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[事前学習]入学以前に化学を学習した経験のある学生・化学入門を履修した学生は、関連項目の再確認を事前に行っておく。 [講義内学習] ＜小テスト❹＞ 本講義内で学習した下記Pointを確認する。 Point：①酸・塩基の定義、②電離度と強酸・強塩基、③中和と塩、④酸化・還元の定義、⑤酸化数 [事後学習]小テスト❹で取り上げたPointを中心に学習内容をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	基礎化学IV（有機化学基礎の確認）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	有機化合物の基礎知識、特に性質・分類・構造・命名法などの確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[事前学習]入学以前に化学を学習した経験のある学生・化学入門を履修した学生は、関連項目の再確認を事前に行っておく。 [講義内学習] ＜小テスト❺＞ 本講義内で学習した下記Pointを確認する。 Point：①性質の概要、②官能基と分類、③分子軌道と構造、④国際命名法の基礎と慣用名 [事後学習]小テスト❺で取り上げたPointを中心に学習内容をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	基礎化学V（基礎化学の総括：総括①）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第２回から第６回までの化学基礎の学習内容を再度確認し、演習❶を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[事前学習]第２回から第６回までの自身の事後学習のまとめならびに修正済みの小テスト❷～❻の答案を活用し、学習内容の再確認を事前に行っておく。 [講義内学習] ＜演習❶＞ 第２回から第６回までの講義内で学習した要点を小テスト❷～❻と自身の事後学習のまとめを活用して確認する。 [事後学習]演習❶で取り上げたPointを中心に学習内容をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	240分

第7回	授業テーマ	身近なアプリケーションへの誘いI（食と栄養）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食と栄養に関する化学を学び、アプリケーションを行う際に有効な活用の実現を図る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[事前学習]入学以前に化学または栄養学などを学習した経験のある学生・化学入門を履修した学生は、関連項目の再確認を事前に行っておく。 [講義内学習] ＜小テスト❼＞ 本講義内で学習した下記Pointを確認する。 Point：①五大栄養素、②タンパク質、③油脂化学、④タンパク質、⑤ビタミン類 [事後学習]小テスト❼で取り上げたPointを中心に学習内容をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	身近なアプリケーションへの誘いII（食の安全）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食の安全に関する化学を学び、アプリケーションを行う際に有効な活用の実現を図る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[事前学習]入学以前に化学を学習した経験のある学生・化学入門を履修した学生は、関連項目の再確認を事前に行っておく。 [講義内学習] ＜小テスト❽＞ 本講義内で学習した下記Pointを確認する。 Point：①食品の劣化（発酵・熟成・変質・腐敗・酸敗・変敗）と保存・鮮度保持、②食中毒と対策（滅菌・殺菌・消毒・除菌・抗菌）、③食品添加物、④消費期限・賞味期限とSDGs [事後学習]小テスト❽で取り上げたPointを中心に学習内容をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	身近なアプリケーションへの誘いIII（水と環境）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水と環境に関する化学を学び、アプリケーションを行う際に有効な活用の実現を図る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[事前学習]入学以前に化学を学習した経験のある学生・化学入門を履修した学生は、関連項目の再確認を事前に行っておく。 [講義内学習] ＜小テスト❾＞ 本講義内で学習した下記Pointを確認する。 Point：①水の構造、②水の性質、③水の試験項目と許容範囲、④水と環境問題 [事後学習]小テスト❾で取り上げたPointを中心に学習内容をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	身近なアプリケーションへの誘いIV（香りとニオイ）

第10回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	香りとニオイに関する化学を学び、アプリケーションを行う際に有効な活用の実現を図る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[事前学習]入学以前に化学を学習した経験のある学生・化学入門を履修した学生は、関連項目の再確認を事前に行っておく。 [講義内学習] <小テスト❿> 本講義内で学習した下記Pointを確認する。 Point：①香料の分類、②香料の特性、③香気成分の性質、④香料の使用方法 [事後学習]小テスト❿で取り上げたPointを中心に学習内容をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	身近なアプリケーションへの誘いV（光と色彩）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	光と色彩に関する化学を学び、アプリケーションを行う際に有効な活用の実現を図る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[事前学習]入学以前に化学を学習した経験のある学生・化学入門を履修した学生は、関連項目の再確認を事前に行っておく。 [講義内学習] <小テスト⓫> 本講義内で学習した下記Pointを確認する。 Point：①光と電磁波、②光の吸収と補色・色相環、③染料・顔料、④繊維と染色 [事後学習]小テスト⓫で取り上げたPointを中心に学習内容をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	身近なアプリケーションへの誘いVI（油脂と石けん・キャンドル）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	油脂と石けん・キャンドルに関する化学を学び、アプリケーションを行う際に有効な活用の実現を図る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[事前学習]入学以前に化学を学習した経験のある学生・化学入門を履修した学生は、関連項目の再確認を事前に行っておく。 [講義内学習] <小テスト⓬> 本講義内で学習した下記Pointを確認する。 Point：①油脂の基礎、②油脂の評価（けん化価・酸価・カルボニル価・その他）、③石けん・洗剤、④界面活性剤と洗濯、⑤ロウソクの材料 [事後学習]小テスト⓬で取り上げたPointを中心に学習内容をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	身近なアプリケーションへの誘いVII（アプリケーションの総括：総括②）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	

	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第７回から第１２回までの化学基礎の学習内容を再度確認し、演習❷を行う。
第13回	教室外学習(予習・復習)の内容	[事前学習]第７回から第１２回までの自身の事後学習のまとめならびに修正済みの小テスト❼～⓬の答案を活用し、学習内容の再確認を事前に行っておく。 [講義内学習] ＜演習❷＞ 第７回から第１２回までの講義内で学習した要点を小テスト❼～⓬と自身の事後学習のまとめを活用して確認する。 [事後学習]演習❷で取り上げたPointを中心に学習内容をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	240分
第14回	授業テーマ	教養の化学の総括：総括③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本講義を通した学習内容について総括を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[事前学習] 第２回から第１３回までの自身の事後学習のまとめならびに修正済みの小テスト❷～⓬の答案ならびに修正済みの演習❶～❷の答案を活用し、学習内容の再確認を事前に行っておく。 [講義内学習] ＜総括＞ 第２回から第１３回までの講義内で学習した要点について、小テスト❷～⓬・演習❶～❷を中心に自身の事後学習のまとめを併せて活用して確認する。 [事後学習]演習❶～❷取り上げたPointを中心に学習内容をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	240分
第15回	授業テーマ	期末テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第16回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習	

	の時間（分）	

学生へのフィードバック方法

小テストおよび演習は、採点して返却し、完全解答を目途に修正提出と確認採点を継続する。
小テストおよび演習を活用して期末テスト受験の準備を行わせる。
不明な点については、小テスト・演習を通して、あるいは計３回の総括①～③実施時などを活用して質問を積極的に行うこと。

評価方法

小テスト❶～⓬を実施する（30%）。
演習❶～❷を実施する（30%）。
課題レポートを実施する（10%）。
小テストならびに演習を基盤とした期末テストを行う（30%）。
評価はルーブリック評価を用い、授業内等で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト提出	○	○	○	
演習提出	○	○	○	
課題レポート提出	○	○	○	○
期末テスト	○	○		

評価割合

小テスト（30%）、演習（30%）、課題レポート（10%）、期末テスト（30%）により評価する。

参考図書

栄養科学イラストレイテッド基礎化学（ISBN 978-4-7581-1353-3）

栄養科学イラストレイテッド有機化学（ISBN 978-4-7581-1357-1）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】化学および有機化学に関する基礎知識を正しく習得している。
【思考・判断】教養の化学における学習を通して、アプリケーションの基本に対する知識に基づいた日常生活や関連専門科目の学習、実験・実習にも適用可能な判断材料を身につけている。

学生へのメッセージ

毎回、講義で解説した学習内容について小テストを行いPointを確認します。
講義内容の区切りに合わせて演習を行い小テストで確認したPointを再確認します。
小テストならびに演習を活用して各自学習内容を確認するとともに、理解を深めて下さい。
講義→小テスト（Pointの確認）→演習（小テストの再確認）→期末テストの受験準備で確認と理解度の向上を行って下さい。
課題レポートについては学習内容を反映したテーマを設定しますので、調査して報告して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		医薬品合成研究の従事経験を活かした有機化学や環境負荷低減などを基盤とし、トピックスを取り入れた講義を展開する。
アクティブ・		

ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		必要に応じて、Google Classroomを用いて、小テスト、演習、講義内容の解説などの配布を行う。

講義コード	G50402031
講義名	教養の化学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

授業概要(教育目的)

生活の中で出会う現象をとりあげ、現象の背景にある化学の基本的な原理を学ぶとともに、現代生活を支える様々な材料について理解を深める。また、地球環境と人間活動の関わり、直面している地球環境問題について学ぶ。授業終了時、本講義が、科学、科学技術に目を向け、地球環境問題を身近に捉えるきっかけとなることを願う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1、生活の中で出会う化学的な現象の基本的な原理を理解することができる。 2、現代生活を支える様々な化学について理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	1、暮らしに密着した化学の内容を健康や暮らしと結び付けながら学習する。 2、身近な現象の化学を学ぶことにより、身の回りの現象や物質、食物などについて、化学的な視点から捉えられるようになることを目的とする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1、特に関心を持った分野について、より知識を深めるための課題に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	化学の基本と測定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	暮らしに密着した化学の基本を簡単に紹介する。化学の測定も暮らしに深く関係する。測定と単位、数値の扱い方などを勉強する。健康、環境問題を読み解くにも測定の理解が欠かせない。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	原子と元素
	学習内容(ｱｸﾃｨ	

第2回	**ﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	万物は元素からできている。元素や元素記号、周期表、電子配置などを学び、身の回りにある元素を身近なものに感じてもらう。また、molの考え方を学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	分子、化合物、化学反応
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然界では、ほとんどの原子が別の原子と結合している。二種類以上の元素の原子が一定の割合で結合し合った純物質を化合物という。また、化学反応式の書き方、反応式の係数の合わせ方、化学反応の分類について学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	化学結合１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	原子や分子の結びつきのことを化学結合という。化学結合には、共有結合、イオン結合、金属結合などがあり、その仕組みや特徴について学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	化学結合２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水は折れ線型の分子構造をもつ。雪の結晶の構造は、この折れ線型の構造が深く関わっている。雪の結晶の特徴や形成について学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	有機化学１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身の回りの有機化学について、その仕組みや特徴について学ぶ（脂肪族化合物、芳香族化合物など）。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	有機化学２、小テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身の回りの有機化学について、その仕組みや特徴について学ぶ（アミノ酸、タンパク質など）。 前半の授業内容について、確認テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	核化学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身の回りの核化学について学ぶ。放射線の種類や特徴、その応用法（年代測定など）について学ぶ。

	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	私たちを取巻く空気
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大気は窒素や酸素など多くの分子で構成されている。物質の循環、大気の構造、大気汚染について学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	身の回りの液体と固体
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	分子の引き合いについて学び、固体、液体、気体の状態変化がなぜ起こるのかを考える。また、地球上に豊富に存在する水(液体)や氷（固体）について学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	氷河の化学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	氷河とは、その名の通り氷の河であり、地球上の淡水の大部分が含まれている。地球温暖化とも深く関わりをもち、氷河の氷を調べることで、過去の環境を復元することも可能となる。氷河や積雪上に生息する微生物についても学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	酸と塩基
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代の暮らしに深く関わる酸、塩基の性質と中和反応などについて学ぶ。料理や環境問題においても、酸と塩基は深く関わっている。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	酸化と還元
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身の回りの酸化還元反応について学ぶ。鉄釘のさび、金属の腐食、電池なども酸化還元反応が関わっている。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	まとめと学習到達度の確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業のまとめと理解度の確認テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	190分

学生へのフィードバック方法

質問等がある場合はコメントシートに記載する。必要があれば、翌週の授業で解説を行う。

評価方法

平常点（コメントシート）および確認テスト（試験）で評価する。
授業で課題を出した際には、評価に含める。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
小テスト	○	○	○	

評価割合

平常点（40%）と小テスト（60%）により評価する。
平常点はコメントシートの提出状況により判断する。

参考図書

トロウ 化学入門、N・TRO著（狩野直和、佐藤守俊 訳）、東京化学同人、2015年

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解・思考・判断】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力

学生へのメッセージ

教科書の購入は任意とする。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50403001
講義名	基礎化学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	田村 健治	指定なし

ナンバリング

X13320M21

授業概要(教育目的)

私たちの身体だけでなく、身の回りの様々な食品・化粧品・トイレタリー（石けん・シャンプー・リンス・柔軟剤・芳香剤など）・衣料品・装飾品などの素材・原材料は全て化学物質（原子・分子・イオン）で構成されている。化学に関する基礎知識は、豊かで安全な日々の暮らしを獲得するための大きな支援となる。今後の専門科目の履修のためだけでなく、暮らしにも役立つ講義を展開する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 化学基礎（原子構造・化学結合・状態変化・反応熱・酸と塩基・酸化と還元）を正しく理解できる。 2 有機化学基礎（官能基による分類・国際命名法・結合と構造・立体化学基礎）を正しく理解できる。 3 食品化学基礎と水環境問題の概要について理解できる。
思考・判断の観点 (K)	1 化学の基礎内容が理解できる。 2 有機化学の基礎内容が理解できる。 3 水に関する学習内容が理解できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 関連するトピックスを盛り込み、講義を展開する。講義で学んだPointは、講義内の小テストで確認する。 2 講義内容の進捗に合わせて、演習を行い、学習内容のPointである小テストの内容を確認する。

	3 小テスト、演習で学習内容の要点を確認し、定期テスト受験の準備を支援する。
技術・表現の観点(A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス：暮らしの中の化学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	講義概要についてガイダンスを行う。 日々の生活で身の回りの物や自身の身体が何からできているかについて考える（化学入門を履修する意義を確認する）。 身体と食品・栄養、化粧品・トイレタリー（石けん・シャンプー・リンス・柔軟剤・入浴剤・芳香剤など）、衣料品・装飾品、日用雑貨などの素材・原材料は何か、化学的な見地から調査し、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[事前学習]食品・トイレタリー・衣料品の成分表記をそれぞれ２種類ずつ程度を調査する（メモする、または画像を撮影する）。 [講義内学習] <小テスト❶：代替小レポート> 事前学習で集めた情報をそれぞれまとめ、素材・原材料の種類から推測される特性（使用上の注意など）についてコメントする（第２回に提出）。 [事後学習]継続して、身の回りの物の素材・原材料に興味を持って接するよう心がける。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	原子の構造とイオンの生成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	物質を構成する粒子（原子・分子・イオン）ならびにそれを構成する素粒子（陽子・電子・中性子）と電子殻・電子軌道について学ぶ。 地球上には現在、公認されている118種類の元素が存在する。これらの元素の性質が異なる根拠となる電子配置について詳細を解説するとともに元素の周期表など関連する知識を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[事前学習]入学以前に化学を学習した経験のある学生は、関連項目の再確認を事前に行っておく。 [講義内学習] <小テスト❷> 本講義内で学習した下記Pointを確認する。 Point：①粒子と素粒子、②原子の構造、③元素記号と原子番号、④電子殻と電子軌道、⑤電子配置式と箱表示、⑥閉殻（貴ガス（希ガス））構造とイオン、⑦元素の周期表 [事後学習]小テスト❷で取り上げたPointを中心に学習内容をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	240分
第3回	**授業テーマ**	化学結合
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	化学結合の種類と成り立ちを通して、物質の硬さや融点・沸点などの物性がなぜ異なるのかについて学ぶ。 物質を形成する力（一次結合）が発現される根拠を学び、併せて粒子間に作用する力（二次結合）についても言及する。
	教室外学	[事前学習]入学以前に化学を学習した経験のある学生は、関連項目の再確認を事前に行っておく。 [講義内学習] <小テスト❸>

	習(予習・復習)の内容	本講義内で学習した下記Pointを確認する。 Point：①共有結合・配位結合、②イオン結合、③金属結合、④水素結合とvan der Waals力、⑤結合と結晶 [事後学習]小テスト❸で取り上げたPointを中心に学習内容をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	240分
第4回	**授業テーマ**	状態の変化（物理変化）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	加熱・冷却あるいは加圧・減圧することで物質の状態が変化することを学ぶ。 多くの物質は、温度・圧力の変化に伴い、三態変化を起こす。一定圧力のもと、多くの純物質は、温度上昇に伴い、固体・液体・気体と状態変化（物理変化）する。状態変化が起こる温度は物質によって異なり、大気圧のもとでは融点（凝固点）、沸点と呼ばれる。物質の状態変化について、図表またはグラフを用いて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[事前学習]入学以前に化学を学習した経験のある学生は、関連項目の再確認を事前に行っておく。 [講義内学習] ＜小テスト❹＞ 本講義内で学習した下記Pointを確認する。 Point：①三態変化、②純物質の加熱（冷却）曲線、③状態図（相律図）、④状態変化とエネルギー（潜熱・顕熱） [事後学習]小テスト❹で取り上げたPointを中心に学習内容をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	240分
第5回	**授業テーマ**	化学反応と熱（化学変化I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	化学変化に伴って、熱（エネルギー）が出入りすることを学ぶ。 第４回で学習した状態変化（物理変化）だけでなく、化学変化の際にもエネルギーは出入りする。化学変化を生じる際の反応物（原料：変化前）の生成物（変化後）への変化経路とエネルギーの関係を解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[事前学習]入学以前に化学を学習した経験のある学生は、関連項目の再確認を事前に行っておく。 [講義内学習] ＜小テスト❺＞ 本講義内で学習した下記Pointを確認する。 Point：①化学反応式と熱化学方程式、②反応熱の種類、③反応経路vsエネルギー線図、④化学平衡と触媒 [事後学習]小テスト❺で取り上げたPointを中心に学習内容をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	240分
第6回	**授業テーマ**	酸と塩基（化学変化II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	酸と塩基（アルカリ）の取扱、更に水素イオン指数pHについて学ぶ。 酸は酸味を呈し、金属を侵す。塩基（アルカリ）は苦味を呈し、タンパク質を変性させ、ガラスを侵す。酸と塩基の中和反応により生成する塩は、日常生活に多用されている。酸・塩基・塩の性質ならびに水溶液の液性と水素イオン指数pHについて解説する。
		[事前学習]入学以前に化学を学習した経験のある学生は、関連項目の再確認を事前に行っておく。

	教室外学習(予習・復習)の内容	[講義内学習] <小テスト❻> 本講義内で学習した下記Pointを確認する。 Point：①酸と塩基の定義、②強酸と強塩基、③中和と塩、④塩の水溶液の液性、⑤液性と水素イオン指数pH [事後学習]小テスト❻で取り上げたPointを中心に学習内容をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	240分
第7回	**授業テーマ**	酸化と還元（化学変化III）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	電子のやり取りによる酸化と還元は常に同時に起こっていることを学ぶ。 酸化と還元の定義を学び、酸化数を習得する。電池や電気分解は、酸化・還元を応用した技術である。日用雑貨や装飾品などに応用される酸化・還元について広く学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[事前学習]入学以前に化学を学習した経験のある学生は、関連項目の再確認を事前に行っておく。 [講義内学習] <小テスト❼> 本講義内で学習した下記Pointを確認する。 Point：①酸化・還元の定義、②酸化数と物質名、③元素の周期表と酸化数、④電池と電気分解（メッキ・電着塗装・電解精錬） [事後学習]小テスト❼で取り上げたPointを中心に学習内容をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	240分
第8回	**授業テーマ**	化学基礎のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第２回から第７回までの化学基礎の学習内容を再度確認し、演習❶を行う（濃度計算など基本的な化学計算についても言及する）。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[事前学習]第２回から第７回までの自身の事後学習のまとめを活用し、学習内容の再確認を事前に行っておく。 [講義内学習] <演習❶> 第２回から第７回までの講義内で学習した要点を小テスト❷～❼と自身の事後学習のまとめを活用して確認する。 [事後学習]演習❶で取り上げたPointを中心に学習内容をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	360分
第9回	**授業テーマ**	有機化合物の分類と命名法（有機化学基礎I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	有機化合物とは何か、それらの分類と命名法について学ぶ（国際命名法の基礎についても言及する）。 多くの食品（栄養素）や衣料品などを構成する有機化合物について概説する。官能基によって、大別される化合物群について国際命名法の基礎と併せて学ぶ。
	教室外学	[事前学習]入学以前に化学を学習した経験のある学生は、関連項目の再確認を事前に行っておく。 [講義内学習] <小テスト❽> 本講義内で学習した下記Pointを確認する。

	習(予習・復習)の内容	Point：①無機化合物と有機化合物、②官能基による有機化合物の分類、③国際命名法の基礎 [事後学習]小テスト❽で取り上げたPointを中心に学習内容をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	240分
第10回	**授業テーマ**	有機化合物の構造（有機化学基礎II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	有機化合物の立体構造の基礎について学ぶ（混成軌道の成り立ちについても言及する）。 有機化合物を構成する炭素−炭素単結合、二重結合、三重結合の構造における差異の根拠となる混成軌道について解説する。これに併せて、構造異性体・幾何異性体・立体異性体についても言及する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[事前学習]入学以前に化学を学習した経験のある学生は、関連項目の再確認を事前に行っておく。 [講義内学習] ＜小テスト❾＞ 本講義内で学習した下記Pointを確認する。 Point：①炭素の電子配置式と箱表示、②sp3・sp2・sp混成軌道、③異性体、④有機化合物の立体配座と立体配置、⑤キラル炭素の立体配置 [事後学習]小テスト❾で取り上げたPointを中心に学習内容をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	240分
第11回	**授業テーマ**	有機化学基礎のまとめ（有機化学基礎III）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第９回から第１０回までの有機化学基礎の学習内容を再度確認し、演習❷を行う（芳香族化合物の基礎・共鳴・共役系についても言及する）。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[事前学習]第９回から第１０回までの自身の事後学習のまとめを活用し、学習内容の再確認を事前に行っておく。 [講義内学習] ＜演習❷＞ 第２回から第７回までの講義内で学習した要点を小テスト❽～❾と自身の事後学習のまとめを活用して確認する。 [事後学習]演習❷で取り上げたPointを中心に学習内容をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	240分
第12回	**授業テーマ**	食品と栄養素（食品化学基礎）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品化学に繋がる五大栄養素などについて学ぶ（油脂と石けん、石けんと洗剤についても言及する）。 五大栄養素（糖質（炭水化物）・タンパク質・脂質・ビタミン・無機質（ミネラル））、ヌクレオチド・核酸について概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[事前学習]入学以前に化学または栄養学などを学習した経験のある学生は、関連項目の再確認を事前に行っておく。 [講義内学習] ＜小テスト❿＞ 本講義内で学習した下記Pointを確認する。 Point：①五大栄養素、②タンパク質、③油脂化学、④タンパク質、⑤ビタミン類

		[事後学習]小テスト⓾で取り上げたPointを中心に学習内容をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	**授業テーマ**	水の化学（環境化学基礎）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水の特性などについて学ぶ（水環境・食糧問題など環境化学基礎についても言及する）。 身体を構成する水について、構造・性質・品質試験項目・美味しさの指標などについて学ぶ。関連する環境問題についても併せて言及する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[事前学習]入学以前に化学を学習した経験のある学生は、関連項目の再確認を事前に行っておく。 [講義内学習] ＜小テスト⓫＞ 本講義内で学習した下記Pointを確認する。 Point：①水の構造、②水の性質、③水の試験項目と許容範囲、④水と環境問題 [事後学習]小テスト⓫で取り上げたPointを中心に学習内容をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	**授業テーマ**	化学入門の総括
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本講義を通して学んだことを総括し、演習❸を行う（香りの化学についても言及する）。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[事前学習]第２回から第１３回までの自身の事後学習のまとめを活用し、学習内容の再確認を事前に行っておく。 [講義内学習] ＜演習❸＞ 第２回から第１３回までの講義内で学習した要点を小テスト❷～⓫と自身の事後学習のまとめを活用して確認する。 [事後学習]演習❶～❸で取り上げたPointを中心に学習内容をまとめて期末テストの準備をしておく。
	教室外学習の時間（分）	360分
第15回	**授業テーマ**	期末テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

第16回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第17回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学生へのフィードバック方法

小テストおよび演習は、採点して返却する。
小テストおよび演習を活用して期末テスト受験の準備を行わせる。
不明な点については、小テスト実施時などを活用して質問を積極的に行うこと。

評価方法

小テスト❶から⓫を実施する（30%）。
演習❶から❸を実施する（30%）。
総括レポートを実施する（10%）。
小テストならびに演習を活用して期末テストを行う（30%）。
評価はルーブリック評価を用い、授業内等で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト提出	○	○	○	
演習提出	○	○	○	
総括レポート	○	○	○	
期末テスト	○	○		

評価割合

小テスト（30%）、演習（30%）、総括レポート（10%）、期末テスト（30%）により評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

参考図書

① 栄養科学イラストレイテッド 基礎化学（羊土社）
② 栄養科学イラストレイテッド 有機化学（羊土社）
③ 大学１年生のための化学 有機化学につながる14講（羊土社）
④ 栄養科学シリーズNEXT 基礎化学（講談社サイエンティフィック）
⑤ 管理栄養士の基礎化学（アイ・ケイコーポレーション）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】化学および有機化学に関する基礎知識を正しく習得している。
【思考・判断】基礎化学における学習を通して、日常生活や関連専門科目の学習、実験・実習にも活かせる判断材料を身につけている。

学生へのメッセージ

毎回、講義で解説した学習内容について小テストを行いPointを確認します。
講義内容の区切りに合わせて演習を行い小テストで確認したPointを再確認します。
小テストならびに演習を活用して各自学習内容を確認するとともに、理解を深めて下さい。
講義→小テスト（Pointの確認）→演習（小テストの再確認）→期末テストの受験準備で確認と理解度の向上を行って下さい。
総括レポートについては学習内容を反映したテーマを設定しますので、調査して報告して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	医薬品合成研究の従事経験を活かした有機化学や環境負荷低減などを基盤とし、トピックスを取り入れた講義を展開する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	必要に応じて、Google Classroomを用いて、小テスト、演習、講義内容の解説などの配布を行う。

講義コード	G50403031
講義名	基礎化学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	倉持 宏実	指定なし

ナンバリング

X13320C21

授業概要(教育目的)

化学は「物質」を対象とする学問であり、人間の活動に最も深く関わる自然科学である。原子・分子の視点から物質の成り立ちと化学の基礎を理解し、論理的思考力を身につける。日常生活に溢れる「物質」を、化学的視点から捉える力を養う。物質をつくる原子の構造および結合、結合と物質の関係を学び物質の性質について理解を深める。また、物質量、濃度、酸、塩基とpHなどの計算を理解する。初めて化学を学ぶ学生でも必要最低限の知識を得ることができるカリキュラムにしてある。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１、化学の基本である「原子の構造」、「粒子間の結合」、「分子の形と分子間の相互作用」の３項目を十分に理解している。 ２、物質量とその他の物理量との関係を十分に理解し、濃度計算などに結び付けることができる。 ２、「酸、塩基とpHの計算」、「緩衝液」「酸化、還元」など専門課程の化学を学ぶ上で必要な基礎的な知識を身に付ける。
思考・判断の観点 (K)	１、分子の形と分子間の相互作用を理解できる。 ２、物質量について理解し、物質量を用いた計算ができる。 ３、酸、塩基のpHの計算ができる。 ４、緩衝液の性質を理解できる。 ５、酸化、還元反応を理解できる。

関心・意欲・態度の観点 (V)	1、高校で化学を学んだ学生は、積極的に予習を行い、理解できていない範囲、苦手な範囲を自身で確認し、授業中に克服する。化学の基本をしっかり学び、基礎力を定着させる。 2、初めて化学を学ぶ学生は、苦手意識を持たず、暗記ではなく論理的に考えて理解するよう努めれば、十分に差を埋められる。
技術・表現の観点 (A)	1、専門課程で用いられる言葉を理解できるように、あるいは、分からない言葉が出てきても自分で調べられるようにする。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	物質とは：生活の中の化学物質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	我々は、特に意識しなくても、日常生活の中で多くの化学物質を利用し、それらを大気・水・土壌を通じて排出している。現在、原材料や製品などに数万種類の化学物質が使われており、その中には環境や人の健康に影響を及ぼすおそれがあるものもある。 化学物質にはゼロリスクはない。そのため、身の回りの化学物質が持つリスクを正しく理解することが大切である。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業内容を振り返り、理解の度合いを確認する。理解できていないところがあれば、配布資料や高校の教科書等を用いて復習し、理解を進める。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	物の大きさと単位
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人間活動に関わる物の大きさ（太陽、地球、人間、細胞、原子・分子）、単位（長さ、体積、質量）など、全授業のベースとなる知識を再確認する。望遠鏡で見る宇宙から顕微鏡で見る世界へ、雪の結晶画像などを紹介しながらどんどんサイズダウンしていき、原子・分子の世界へと導く。また、今後の学習において必要な単位と指数表記について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業内容を振り返り、理解の度合いを確認する。理解できていないところがあれば、配布資料や高校の教科書等を用いて復習し、理解を進める。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	**授業テーマ**	物質のなりたち：原子と分子
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	化学現象を考えるのに、原子と分子、化学反応の概念は最低限必要である。簡単な原子の構造、荷電子と化学反応など、基礎的だが抽象化された形で提示される概念について具体的なイメージを作る。目に見えない原子・分子の世界、化学反応、イオンを頭の中で想像する基礎を作る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業内容を振り返り、理解の度合いを確認する。理解できていないところがあれば、配布資料や高校の教科書等を用いて復習し、理解を進める。
	教室外学習の時間	120分

	（分）	
第4回	**授業テーマ**	元素の周期表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	周期表の成り立ちと、周期表が指し示す物質の性質を理解する。電子配置について更に理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業内容を振り返り、理解の度合いを確認する。理解できていないところがあれば、配布資料や高校の教科書等を用いて復習し、理解を進める。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	**授業テーマ**	化学結合とは(1）イオン結合と共有結合
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	物（分子）の成り立ちに欠かせない原子間の化学結合における電子の働き（放出、受取、共有）について知る。各種結合の仕方と、そこから生じる特性について、身の回りの現象を例に取りながら理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業内容を振り返り、理解の度合いを確認する。理解できていないところがあれば、配布資料や高校の教科書等を用いて復習し、理解を進める。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	**授業テーマ**	化学結合とは(2）分子間結合と金属結合
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	物（分子）の成り立ちに欠かせない原子間の化学結合における電子の働き（放出、受取、共有）について知る。各種結合の仕方と、そこから生じる特性について、沸点の違いなどの身の回りの現象を例に取りながら理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業内容を振り返り、理解の度合いを確認する。理解できていないところがあれば、配布資料や高校の教科書等を用いて復習し、理解を進める。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	化学反応式の作り方、濃度計算
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	モルの復習を含め、原子量の定義を確認し、化学式の作り方から化学変化を化学反応式で表す方法を学ぶ。係数の求め方を学びながら、質量保存の法則について理解する。化学においてなぜ濃度（計算）が重要なのか明らかにしてから、複数の定義がある濃度計算について整理し、実際に溶液調整することをイメージしながら計算方法を確認する。

第7回	用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業内容を振り返り、理解の度合いを確認する。理解できていないところがあれば、配布資料や高校の教科書等を用いて復習し、理解を進める。特に濃度計算は練習問題をこなして習得しておく必要がある。
	教室外学習の時間(分)	240分
第8回	授業テーマ	酸と塩基
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アレニウスの酸・塩基、ブレンステッドの酸・塩基の定義を整理し、身近な物質からそれぞれの性質について考える。電離による強弱・価数を理解する。pHの定義を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業内容を振り返り、理解の度合いを確認する。理解できていないところがあれば、配布資料や高校の教科書等を用いて復習し、理解を進める。
	教室外学習の時間(分)	120分
第9回	授業テーマ	中和と塩
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中和反応の基礎を学ぶ。中和反応における量的関係から、中和点と中性(pH7)の違いを考える。緩衝液の性質について知る。また、ここまでの内容を復習する時間を取る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業内容を振り返り、理解の度合いを確認する。理解できていないところがあれば、配布資料や高校の教科書等を用いて復習し、理解を進める。
	教室外学習の時間(分)	240分
第10回	授業テーマ	酸化と還元
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身の回りで最も多い酸化と還元反応の定義について整理し、酸化剤と還元剤の例、酸化数のルールについて学ぶ。例えばトタンとブリキの錆びやすさの違いから金属のイオン化傾向について考える。様々な電池の仕組みと、電気分解の原理について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業内容を振り返り、理解の度合いを確認する。理解できていないところがあれば、配布資料や高校の教科書等を用いて復習し、理解を進める。
	教室外学習の時間(分)	240分

第11回	授業テーマ	物質の状態：物理変化と化学変化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	物理変化と化学変化の違いを明らかにし、例えば雨と雪など、熱の関わる身近な状態変化を通して、物質の状態が変わるときどのようなことが起こっているのか具体的に考え、物の三態（気体、液体、固体）について理解を図る。気体、液体、固体、それぞれの性質を理解し、圧力鍋の原理などの具体例から物理化学的公式を現象として理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業内容を振り返り、理解の度合いを確認する。理解できていないところがあれば、配布資料や高校の教科書等を用いて復習し、理解を進める。
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	授業テーマ	有機化合物と物質の命名法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	僅かな種類の元素しか含まないのに膨大な種類の物質として存在する「有機化合物」の特徴を整理し、表記法（分子式・示性式・構造式など）を学ぶ。代表的な官能基と性質についてまとめる。分類法からIUPAC命名法の端緒を開く。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業内容を振り返り、理解の度合いを確認する。理解できていないところがあれば、配布資料や高校の教科書等を用いて復習し、理解を進める。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	授業テーマ	リサイクルの化学と地球環境問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プラスチックや発泡スチロールなどのリサイクルに関する化学を紹介し、リサイクルの仕組みと比較考察する。自分が住む自治体のリサイクル状況を調べ、公害や人口増加の社会問題なども加えて地球環境問題に繋げ、様々な角度から、自分が住んでいる世界「地球」をマクロな視点で捉える。一般のプラスチックと同様に使用できるが、使用後には微生物の働きによって分解し、最終的には二酸化炭素と水にまで分解される、生分解性プラスチックについて紹介する。また、化学物質安全性データシートMSDSなど、化学物質の毒性を調べる方法を紹介し、問題としてきちんと認識する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業内容を振り返り、理解の度合いを確認する。理解できていないところがあれば、配布資料や高校の教科書等を用いて復習し、理解を進める。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	科学リテラシーと問題演習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	ノーベル賞を取るのに発明から何十年も掛かるように、科学的評価が定まるのには時間がかかるため、技術や学説が正しいかどうかはっきりとは分からない場合も多い。自分の持っている物理や化学、生物の知識から、「疑似科学」をどう判断するのか。先端技術の歴史を振り返りながら、科

第14回	育・ICT活用を含む)	学的根拠の無いものをどこまで信用するか？科学的根拠は万能か？を考える。また、これまでの演習問題を復習する時間を取る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業内容を振り返り、理解の度合いを確認する。理解できていないところがあれば、配布資料や高校の教科書等を用いて復習し、理解を進める。
	教室外学習の時間（分）	120分
第15回	授業テーマ	期末試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	420分
第16回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学生へのフィードバック方法

質問等がある場合には、授業時間内や授業終了後だけでなく、Google Classroomから質問しても良い。同類の質問が多い場合には、授業内で回答する。

評価方法

・復習および授業の理解度の確認の為に、授業内で課題を出した場合には、解答レポートを作成し、Google Classroomを用いて提出する。
・第1回から第12回の内容で期末テストを行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題提出	○	○	○	
期末テスト	○	○	○	

評価割合

平常点（30%）と提出課題（10%）期末テスト（60%）により評価する。
平常点は授業への参加状況で判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

参考図書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】化学に関する基礎学力を十分に身に付け、「人間の栄養」に関する専門分野の理解に繋がる力を有する。
【思考・判断】化学の基礎理論から、実習、演習の課題解決に向けて正確な情報を収集し、客観的に考察する力を身につけている。

学生へのメッセージ

教科書は指定しませんが、毎回、資料を配布します。
授業前に前週の復習をしておくこと。
授業中にも演習を行います。
高校化学の教科書を持っている方は、授業内容に相当する章を読み返して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		Google Classroomを用いて、授業プリント等の配布を行う。

講義コード	G50403032
講義名	基礎化学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	倉持 宏実	指定なし

ナンバリング

X13320C21

授業概要(教育目的)

化学は「物質」を対象とする学問であり、人間の活動に最も深く関わる自然科学である。原子・分子の視点から物質の成り立ちと化学の基礎を理解し、論理的思考力を身につける。日常生活に溢れる「物質」を、化学的視点から捉える力を養う。物質をつくる原子の構造および結合、結合と物質の関係を学び物質の性質について理解を深める。また、物質量、濃度、酸、塩基とpHなどの計算を理解する。初めて化学を学ぶ学生でも必要最低限の知識を得ることができるカリキュラムにしてある。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１、化学の基本である「原子の構造」、「粒子間の結合」、「分子の形と分子間の相互作用」の３項目を十分に理解している。 ２、物質量とその他の物理量との関係を十分に理解し、濃度計算などに結び付けることができる。 ２、「酸、塩基とpHの計算」、「緩衝液」「酸化、還元」など専門課程の化学を学ぶ上で必要な基礎的な知識を身に付ける。
思考・判断の観点 (K)	１、分子の形と分子間の相互作用を理解できる。 ２、物質量について理解し、物質量を用いた計算ができる。 ３、酸、塩基のpHの計算ができる。 ４、緩衝液の性質を理解できる。 ５、酸化、還元反応を理解できる。

関心・意欲・態度の観点 (V)	1、高校で化学を学んだ学生は、積極的に予習を行い、理解できていない範囲、苦手な範囲を自身で確認し、授業中に克服する。化学の基本をしっかり学び、基礎力を定着させる。 2、初めて化学を学ぶ学生は、苦手意識を持たず、暗記ではなく論理的に考えて理解するよう努めれば、十分に差を埋められる。
技術・表現の観点 (A)	1、専門課程で用いられる言葉を理解できるように、あるいは、分からない言葉が出てきても自分で調べられるようにする。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	物質とは：生活の中の化学物質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	我々は、特に意識しなくても、日常生活の中で多くの化学物質を利用し、それらを大気・水・土壌を通じて排出している。現在、原材料や製品などに数万種類の化学物質が使われており、その中には環境や人の健康に影響を及ぼすおそれがあるものもある。 化学物質にはゼロリスクはない。そのため、身の回りの化学物質が持つリスクを正しく理解することが大切である。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業内容を振り返り、理解の度合いを確認する。理解できていないところがあれば、配布資料や高校の教科書等を用いて復習し、理解を進める。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	物の大きさと単位
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人間活動に関わる物の大きさ（太陽、地球、人間、細胞、原子・分子）、単位（長さ、体積、質量）など、全授業のベースとなる知識を再確認する。望遠鏡で見る宇宙から顕微鏡で見る世界へ、雪の結晶画像などを紹介しながらどんどんサイズダウンしていき、原子・分子の世界へと導く。また、今後の学習において必要な単位と指数表記について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業内容を振り返り、理解の度合いを確認する。理解できていないところがあれば、配布資料や高校の教科書等を用いて復習し、理解を進める。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	**授業テーマ**	物質のなりたち：原子と分子
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	化学現象を考えるのに、原子と分子、化学反応の概念は最低限必要である。簡単な原子の構造、荷電子と化学反応など、基礎的だが抽象化された形で提示される概念について具体的なイメージを作る。目に見えない原子・分子の世界、化学反応、イオンを頭の中で想像する基礎を作る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業内容を振り返り、理解の度合いを確認する。理解できていないところがあれば、配布資料や高校の教科書等を用いて復習し、理解を進める。
	教室外学習の時間	120分

	（分）	
第4回	**授業テーマ**	元素の周期表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	周期表の成り立ちと、周期表が指し示す物質の性質を理解する。電子配置について更に理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業内容を振り返り、理解の度合いを確認する。理解できていないところがあれば、配布資料や高校の教科書等を用いて復習し、理解を進める。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	**授業テーマ**	化学結合とは(1）イオン結合と共有結合
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	物（分子）の成り立ちに欠かせない原子間の化学結合における電子の働き（放出、受取、共有）について知る。各種結合の仕方と、そこから生じる特性について、身の回りの現象を例に取りながら理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業内容を振り返り、理解の度合いを確認する。理解できていないところがあれば、配布資料や高校の教科書等を用いて復習し、理解を進める。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	**授業テーマ**	化学結合とは(2）分子間結合と金属結合
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	物（分子）の成り立ちに欠かせない原子間の化学結合における電子の働き（放出、受取、共有）について知る。各種結合の仕方と、そこから生じる特性について、沸点の違いなどの身の回りの現象を例に取りながら理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業内容を振り返り、理解の度合いを確認する。理解できていないところがあれば、配布資料や高校の教科書等を用いて復習し、理解を進める。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	化学反応式の作り方、濃度計算
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	モルの復習を含め、原子量の定義を確認し、化学式の作り方から化学変化を化学反応式で表す方法を学ぶ。係数の求め方を学びながら、質量保存の法則について理解する。化学においてなぜ濃度（計算）が重要なのか明らかにしてから、複数の定義がある濃度計算について整理し、実際に溶液調整することをイメージしながら計算方法を確認する。

第7回	用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業内容を振り返り、理解の度合いを確認する。理解できていないところがあれば、配布資料や高校の教科書等を用いて復習し、理解を進める。特に濃度計算は練習問題をこなして習得しておく必要がある。
	教室外学習の時間(分)	240分
第8回	授業テーマ	酸と塩基
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アレニウスの酸・塩基、ブレンステッドの酸・塩基の定義を整理し、身近な物質からそれぞれの性質について考える。電離による強弱・価数を理解する。pHの定義を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業内容を振り返り、理解の度合いを確認する。理解できていないところがあれば、配布資料や高校の教科書等を用いて復習し、理解を進める。
	教室外学習の時間(分)	120分
第9回	授業テーマ	中和と塩
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中和反応の基礎を学ぶ。中和反応における量的関係から、中和点と中性(pH7)の違いを考える。緩衝液の性質について知る。また、ここまでの内容を復習する時間を取る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業内容を振り返り、理解の度合いを確認する。理解できていないところがあれば、配布資料や高校の教科書等を用いて復習し、理解を進める。
	教室外学習の時間(分)	240分
第10回	授業テーマ	酸化と還元
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身の回りで最も多い酸化と還元反応の定義について整理し、酸化剤と還元剤の例、酸化数のルールについて学ぶ。例えばトタンとブリキの錆びやすさの違いから金属のイオン化傾向について考える。様々な電池の仕組みと、電気分解の原理について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業内容を振り返り、理解の度合いを確認する。理解できていないところがあれば、配布資料や高校の教科書等を用いて復習し、理解を進める。
	教室外学習の時間(分)	240分

第11回	授業テーマ	物質の状態：物理変化と化学変化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	物理変化と化学変化の違いを明らかにし、例えば雨と雪など、熱の関わる身近な状態変化を通して、物質の状態が変わるときどのようなことが起こっているのか具体的に考え、物の三態（気体、液体、固体）について理解を図る。気体、液体、固体、それぞれの性質を理解し、圧力鍋の原理などの具体例から物理化学的公式を現象として理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業内容を振り返り、理解の度合いを確認する。理解できていないところがあれば、配布資料や高校の教科書等を用いて復習し、理解を進める。
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	授業テーマ	有機化合物と物質の命名法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	僅かな種類の元素しか含まないのに膨大な種類の物質として存在する「有機化合物」の特徴を整理し、表記法（分子式・示性式・構造式など）を学ぶ。代表的な官能基と性質についてまとめる。分類法からIUPAC命名法の端緒を開く。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業内容を振り返り、理解の度合いを確認する。理解できていないところがあれば、配布資料や高校の教科書等を用いて復習し、理解を進める。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	授業テーマ	リサイクルの化学と地球環境問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プラスチックや発泡スチロールなどのリサイクルに関する化学を紹介し、リサイクルの仕組みと比較考察する。自分が住む自治体のリサイクル状況を調べ、公害や人口増加の社会問題なども加えて地球環境問題に繋げ、様々な角度から、自分が住んでいる世界「地球」をマクロな視点で捉える。一般のプラスチックと同様に使用できるが、使用後には微生物の働きによって分解し、最終的には二酸化炭素と水にまで分解される、生分解性プラスチックについて紹介する。また、化学物質安全性データシートMSDSなど、化学物質の毒性を調べる方法を紹介し、問題としてきちんと認識する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業内容を振り返り、理解の度合いを確認する。理解できていないところがあれば、配布資料や高校の教科書等を用いて復習し、理解を進める。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	科学リテラシーと問題演習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	ノーベル賞を取るのに発明から何十年も掛かるように、科学的評価が定まるのには時間がかかるため、技術や学説が正しいかどうかはっきりとは分からない場合も多い。自分の持っている物理や化学、生物の知識から、「疑似科学」をどう判断するのか。先端技術の歴史を振り返りながら、科

第14回	育・ICT活用を含む)	学的根拠の無いものをどこまで信用するか？科学的根拠は万能か？を考える。また、これまでの演習問題を復習する時間を取る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業内容を振り返り、理解の度合いを確認する。理解できていないところがあれば、配布資料や高校の教科書等を用いて復習し、理解を進める。
	教室外学習の時間（分）	120分
第15回	授業テーマ	期末試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	420分
第16回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学生へのフィードバック方法

質問等がある場合には、授業終了後に質問に来ること。あるいはGoogle Classroomから質問しても良い。同類の質問が多い場合には、授業内で回答する。

評価方法

・復習および授業の理解度の確認の為に、授業内で課題を出した場合には、解答レポートを作成し、Google Classroomを用いて提出する。
・第1回から第12回の内容で期末テストを行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題提出	○	○	○	
期末テスト	○	○	○	

評価割合

平常点（30%）と提出課題（10%）期末テスト（60%）により評価する。
平常点は授業への参加状況で判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

参考図書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】化学に関する基礎学力を十分に身に付け、「人間の栄養」に関する専門分野の理解に繋がる力を有する.
【思考・判断】化学の基礎理論から、実習、演習の課題解決に向けて正確な情報を収集し、客観的に考察する力を身につけている.

学生へのメッセージ

教科書は指定しませんが、毎回、資料を配布します。
授業前に前週の復習をしておくこと。
授業中にも演習を行います。
高校化学の教科書を持っている方は、授業内容に相当する章を読み返して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		Google Classroomを用いて、授業プリント等の配布を行う。

講義コード	G50404001
講義名	教養の生物学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	沼波 秀樹	指定なし

ナンバリング

X13340C21

授業概要(教育目的)

太古の海は生命誕生の場であり，今日においても地球上で最も多様な生物群を育む環境である。また，我々人類とって海洋に生息する生物は水産資源として重要である。本講義では，多様な海洋環境とその環境における生物の「生きざま」を紹介。生物の行動・生態と環境，人類と海洋の関わりについて理解を深める。また，食料資源としての海洋生物の特徴や海洋プラスチック汚染についても解説し，世界中で取り組まれているSDGs（持続可能な開発目標）を理解する上での基礎知識を習得する。
海洋環境・環境問題・生物多様性について理解を深めるために，海洋環境を再現している施設である水族館の見学を予定している。

履修条件

この授業はオンデマンドで行うので，自宅など学外で聴講する場合には，十分な通信環境があることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	海洋生物の生き様を通して，基礎的な生物現象（生命現象や生態系など）が理解できる。 海洋生物の生態や海洋環境とSDGs（持続可能な開発目標）の関連性について理解できる。
思考・判断の観点 (K)	海洋環境の特徴と海洋生物の生き様を通して，生活と生物・環境が密接に関わっていることを考えられる思考を持てる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	海洋生物の生き様を通して，生物の生態に興味を持ち，環境問題に関心を持てるようになる。海洋におけるSDGs（持続可能な開発目標）を実践する態度を身につける。
技術・表現	

の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	イントロダクション －海洋と私たちの暮らし－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業概要について説明後，「くらし」と「海洋環境」や「海洋生物」がどのように関係しているかについて紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	**授業テーマ**	生物界の構成と海洋生物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生物界の階層性を生物の分類を通して説明する。海洋生物を題材にして生物の名称についても説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物教科書の「生物の系統」に関連する部分について復習する。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	海洋環境概説１ -なぜ海は青いか？－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	海洋生物の生息場所である海洋環境の基礎的知識を得る。海洋環境概説の1回目として，光環境について生物への作用も含めて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：テキスト・プリントを読む。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	海洋環境概説２ －広大な海は一つではない－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	海洋生物の生息場所である海洋環境の基礎的知識を得る。海洋環境概説の2回目として，水温・塩分濃度とこれらの組み合わせで発生する水塊について生物への作用も含めてVTR映像も用いて解説する。これらを通して，海洋が一つの大きな水の塊で無いことを認識し，多様な環境に多様な生物が適応していること知る足がかりとする。

	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：テキスト・プリントを読む。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	海洋環境概説３　－エルニーニョが起こると豆腐が高くなる？－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	海洋生物の生息場所である海洋環境の基礎的知識を得る。海洋環境概説の3回目として，地球の風系，海流についてVTR映像も用いて解説する。さらに海洋での食物連鎖の原点である栄養塩類について説明する。そして，海洋環境と人の暮らしとの関わりをエルニーニョ現象を例にして紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「栄養塩類」「海洋深層水」「エルニーニョ現象」についてインターネットを用いて調べる。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	海洋生物の生活様式１　－海洋生物のライフスタイル－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで解説した海洋環境概説を念頭に置いて，水柱環境を主な生息場所とするプランクトン（浮遊生物）とネクトン（遊泳動物）について適応，生態などについてVTR映像を用いて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：海洋環境概説（第3回～第5回）の授業内容の確認。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	海洋生物の生活様式２　－海洋生物のライフスタイル－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	海洋中で最も多様な生息環境である基質（海底）に生息するベントス（底生生物）の適応，生態などについて解説する。また，一つの生物種でも，生活史において生活様式（ライフスタイル）を変化させて，適応していることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：海洋環境概説（第3回～第6回）の授業内容の確認。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	海洋生物とくらし
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗ	これまで（第7回・第8回）に学んだプランクトン・ネクトン・ベントスの内，食料資源として重要なネクトンについて，魚類の鮮度，イカ類の体の構造などを実物を用いて説明し，食と海洋生物との関係を実感を伴

第8回	**ｼｰ教育・ICT活用を含む)**	って理解する。また，食料資源としての海洋生物の特徴について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：海洋生物の生活様式（第6回・第7回）の授業内容の復習。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	海洋の食物連鎖 －イワシが安くて，マグロが高い理由－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	なぜ，「イワシは安くて，マグロが高いか？」その理由を海洋での食物連鎖から解説する。また，魚介類の増養殖についても触れる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎教科書の「生態系の成り立ち」に関連する部分を復習する。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	浅海の生物群集 －生物が豊富な海域－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生物量が豊富な沿岸域，特に潮間帯に生きる生物の適応について解説する。また，漁業対象種の稚魚を含む多くの生物の生息場所となっているが，近年減少している藻場について取り上げ，環境破壊と海洋生物の関連を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：第7回海洋生物の生活様式２について復習する。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	深海の生物群集 －なぜ深海には生物が少ないか？－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	海洋中の90%以上を占める深海域の特徴について解説し，そこに生息する深海生物の適応について説明する。さらに，1970年代後半に深海で発見され，20世紀最大の発見の一つである「化学合成生物生態系」について解説し，我々人類を含む多くの生物が依存している「光合成生態系」との関係を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：第9回海洋の食物連鎖について復習する。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	海洋生物・海洋環境を理解する －水族館見学－

第12回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	海洋環境を再現している施設である東京都葛西臨海水族園を見学して，海洋環境・環境問題・生物多様性について実感を伴って理解する。 第12回と第13回の授業を見学にあてる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：東京都葛西臨海水族園のHPを閲覧し，レポート課題を作成する為に必要な展示を確認する。これまでの海洋環境・海洋生物の授業内容を確認し，見学に備える。復習：見学した内容から見学レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	海洋生物・海洋環境を理解する －水族館見学－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	海洋環境を再現している施設である東京都葛西臨海水族園を見学して，海洋環境・環境問題・生物多様性について実感を伴って理解する。 第12回と第13回の授業を見学にあてる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：東京都葛西臨海水族園のHPを閲覧し，レポート課題を作成する為に必要な展示を確認する。これまでの海洋環境・海洋生物の授業内容を確認し，見学に備える。復習：見学した内容から見学レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	海洋生物と人類の関係 －海洋汚染と乱獲－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	一連の授業の最後として，海洋生物と人類との関係を海洋汚染と乱獲と言う視点で，解説する。乱獲による海洋生物の減少について説明し，持続可能な生物資源の活用について考える。また，近年問題かしている「マイクロプラスチック汚染」についても触れる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「マイクロプラスチック汚染」についてインターネットを用いて調べる。復習：定期試験に向けての授業内容の総復習。
	教室外学習の時間（分）	270分

学習計画注記

・オンデマンド授業なので，授業動画を視聴して，課題を提出する方法をとります。
・オンデマンドで授業をするので，授業動画の視聴期間，出席条件や提出物の提出期限などについて注意して下さい。
・オンデマンド授業ですが，1回の見学を実施するので，履修する場合は注意して下さい。
・定期試験は対面形式で実施する予定です。
・環境問題は時々刻々と変化しているので，授業の順番や内容が変更になる可能性があります。
・東京都葛西臨海水族園の見学を予定しています。葛西臨海公園駅（JR京葉線）までの交通費と入園料（740円）が必要です。見学は土・日・祝日で行い，通常の授業を見学に置き換えます。

学生へのフィードバック方法

課題・提出物については解説を行う予定。

評価方法

【授業動画の配信，出欠等について】
・授業動画は所定の配信日・時刻で配信するので，所定の期間内に授業動画を視聴して，期限内の課題提出をもって出席とします。
・見学には2回分の授業を振り替えるので，見学に参加しないと出席日数が減るので注意して下さい。
【評価】
・定期試験，平常点，レポートの総合評価。見学に参加しないとレポートを書けません。平常点は授業中の課題等で評価します。
・全授業時間数の1/3以上欠席（授業回数14回の内，欠席5 回以上）すると定期試験の受験資格を失います（学生便覧記載の通り）。
・評価の基準の詳細については，クラスルームに掲載するルーブリック表を参照すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○	○	
平常点	○		○	
レポート	○	○	○	○

評価割合

定期試験(70%)および，課題・レポート・平常点(30%)による総合評価。

使用教科書名(ISBN番号)

・授業動画配信時に資料のPDFを配信して，授業を進めます。
・配付された資料は印刷するか，授業を視聴しながら見られる状態にする。印刷することを推奨します。

参考図書

必要に応じて紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解できる。
【思考・判断】人間社会と自然の多様性のあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を持つことができる。

オフィスアワー

水曜日1時間目 1702室

学生へのメッセージ

海洋に関する書籍などを読んだり，映像資料（テレビ番組やDVDなど）を見たりしておくと理解しやすい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	南極地域観測隊員として南極昭和基地で海洋生物・環境について越冬観測した実績や深海生物研究のフィールドワークの実績を生かした授業。
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50404031
講義名	教養の生物学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	沼波 秀樹	指定なし

ナンバリング

X13340C21

授業概要(教育目的)

太古の海は生命誕生の場であり，今日においても地球上で最も多様な生物群を育む環境である。また，我々人類とって海洋に生息する生物は水産資源として重要である。本講義では，多様な海洋環境とその環境における生物の「生きざま」を紹介。生物の行動・生態と環境，人類と海洋の関わりについて理解を深める。また，食料資源としての海洋生物の特徴や海洋プラスチック汚染についても解説し，世界中で取り組まれているSDGs（持続可能な開発目標）を理解する上での基礎知識を習得する。
海洋環境・環境問題・生物多様性について理解を深めるために，海洋環境を再現している施設である水族館の見学を予定している。

履修条件

この授業はオンデマンドで行うので，自宅など学外で聴講する場合には，十分な通信環境があることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	海洋生物の生き様を通して，基礎的な生物現象（生命現象や生態系など）が理解できる。 海洋生物の生態や海洋環境とSDGs（持続可能な開発目標）の関連性について理解できる。
思考・判断の観点 (K)	海洋環境の特徴と海洋生物の生き様を通して，生活と生物・環境が密接に関わっていることを考えられる思考を持てる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	海洋生物の生き様を通して，生物の生態に興味を持ち，環境問題に関心を持てるようになる。海洋におけるSDGs（持続可能な開発目標）を実践する態度を身につける。
技術・表現	

の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	イントロダクション －海洋と私たちの暮らし－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業概要について説明後，「くらし」と「海洋環境」や「海洋生物」がどのように関係しているかについて紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	**授業テーマ**	生物界の構成と海洋生物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生物界の階層性を生物の分類を通して説明する。海洋生物を題材にして生物の名称についても説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物教科書の「生物の系統」に関連する部分について復習する。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	海洋環境概説１ -なぜ海は青いか？－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	海洋生物の生息場所である海洋環境の基礎的知識を得る。海洋環境概説の1回目として，光環境について生物への作用も含めて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：テキスト・プリントを読む。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	海洋環境概説２ －広大な海は一つではない－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	海洋生物の生息場所である海洋環境の基礎的知識を得る。海洋環境概説の2回目として，水温・塩分濃度とこれらの組み合わせで発生する水塊について生物への作用も含めてVTR映像も用いて解説する。これらを通して，海洋が一つの大きな水の塊で無いことを認識し，多様な環境に多様な生物が適応していること知る足がかりとする。

	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：テキスト・プリントを読む。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	海洋環境概説３　－エルニーニョが起こると豆腐が高くなる？－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	海洋生物の生息場所である海洋環境の基礎的知識を得る。海洋環境概説の3回目として，地球の風系，海流についてVTR映像も用いて解説する。さらに海洋での食物連鎖の原点である栄養塩類について説明する。そして，海洋環境と人の暮らしとの関わりをエルニーニョ現象を例にして紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「栄養塩類」「海洋深層水」「エルニーニョ現象」についてインターネットを用いて調べる。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	海洋生物の生活様式１　－海洋生物のライフスタイル－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで解説した海洋環境概説を念頭に置いて，水柱環境を主な生息場所とするプランクトン（浮遊生物）とネクトン（遊泳動物）について適応，生態などについてVTR映像を用いて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：海洋環境概説（第3回～第5回）の授業内容の確認。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	海洋生物の生活様式２　－海洋生物のライフスタイル－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	海洋中で最も多様な生息環境である基質（海底）に生息するベントス（底生生物）の適応，生態などについて解説する。また，一つの生物種でも，生活史において生活様式（ライフスタイル）を変化させて，適応していることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：海洋環境概説（第3回～第6回）の授業内容の確認。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	海洋生物とくらし
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗ	これまで（第7回・第8回）に学んだプランクトン・ネクトン・ベントスの内，食料資源として重要なネクトンについて，魚類の鮮度，イカ類の体の構造などを実物を用いて説明し，食と海洋生物との関係を実感を伴

第8回	**ｼｰ教育・ICT活用を含む)**	って理解する。また，食料資源としての海洋生物の特徴について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：海洋生物の生活様式（第6回・第7回）の授業内容の復習。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	海洋の食物連鎖 －イワシが安くて，マグロが高い理由－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	なぜ，「イワシは安くて，マグロが高いか？」その理由を海洋での食物連鎖から解説する。また，魚介類の増養殖についても触れる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎教科書の「生態系の成り立ち」に関連する部分を復習する。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	浅海の生物群集 －生物が豊富な海域－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生物量が豊富な沿岸域，特に潮間帯に生きる生物の適応について解説する。また，漁業対象種の稚魚を含む多くの生物の生息場所となっているが，近年減少している藻場について取り上げ，環境破壊と海洋生物の関連を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：第7回海洋生物の生活様式２について復習する。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	深海の生物群集 －なぜ深海には生物が少ないか？－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	海洋中の90%以上を占める深海域の特徴について解説し，そこに生息する深海生物の適応について説明する。さらに，1970年代後半に深海で発見され，20世紀最大の発見の一つである「化学合成生物生態系」について解説し，我々人類を含む多くの生物が依存している「光合成生態系」との関係を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：第9回海洋の食物連鎖について復習する。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	海洋生物・海洋環境を理解する －水族館見学－

第12回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	海洋環境を再現している施設である東京都葛西臨海水族園を見学して，海洋環境・環境問題・生物多様性について実感を伴って理解する。 第12回と第13回の授業を見学にあてる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：東京都葛西臨海水族園のHPを閲覧し，レポート課題を作成する為に必要な展示を確認する。これまでの海洋環境・海洋生物の授業内容を確認し，見学に備える。復習：見学した内容から見学レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	海洋生物・海洋環境を理解する －水族館見学－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	海洋環境を再現している施設である東京都葛西臨海水族園を見学して，海洋環境・環境問題・生物多様性について実感を伴って理解する。 第12回と第13回の授業を見学にあてる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：東京都葛西臨海水族園のHPを閲覧し，レポート課題を作成する為に必要な展示を確認する。これまでの海洋環境・海洋生物の授業内容を確認し，見学に備える。復習：見学した内容から見学レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	海洋生物と人類の関係 －海洋汚染と乱獲－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	一連の授業の最後として，海洋生物と人類との関係を海洋汚染と乱獲と言う視点で，解説する。乱獲による海洋生物の減少について説明し，持続可能な生物資源の活用について考える。また，近年問題かしている「マイクロプラスチック汚染」についても触れる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「マイクロプラスチック汚染」についてインターネットを用いて調べる。復習：定期試験に向けての授業内容の総復習。
	教室外学習の時間（分）	270分

学習計画注記

・オンデマンド授業なので，授業動画を視聴して，課題を提出する方法をとります。
・オンデマンドで授業をするので，授業動画の視聴期間，出席条件や提出物の提出期限などについて注意して下さい。
・オンデマンド授業ですが，1回の見学を実施するので，履修する場合は注意して下さい。
・定期試験は対面形式で実施する予定です。
・環境問題は時々刻々と変化しているので，授業の順番や内容が変更になる可能性があります。
・東京都葛西臨海水族園の見学を予定しています。葛西臨海公園駅（JR京葉線）までの交通費と入園料（740円）が必要です。見学は土・日・祝日で行い，通常の授業を見学に置き換えます。

学生へのフィードバック方法

課題・提出物については解説を行う予定。

評価方法

【授業動画の配信，出欠等について】
・授業動画は所定の配信日・時刻で配信するので，所定の期間内に授業動画を視聴して，期限内の課題提出をもって出席とします。
・見学には2回分の授業を振り替えるので，見学に参加しないと出席日数が減るので注意して下さい。
【評価】
・定期試験，平常点，レポートの総合評価。見学に参加しないとレポートを書けません。平常点は授業中の課題等で評価します。
・全授業時間数の1/3以上欠席（授業回数14回の内，欠席5 回以上）すると定期試験の受験資格を失います（学生便覧記載の通り）。
・評価の基準の詳細については，クラスルームに掲載するルーブリック表を参照すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○	○	
平常点	○		○	
レポート	○	○	○	○

評価割合

定期試験(70%)および，課題・レポート・平常点(30%)による総合評価。

使用教科書名(ISBN番号)

・授業動画配信時に資料のPDFを配信して，授業を進めます。
・配付された資料は印刷するか，授業を視聴しながら見られる状態にする。印刷することを推奨します。

参考図書

必要に応じて紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解できる。
【思考・判断】人間社会と自然の多様性のあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を持つことができる。

オフィスアワー

水曜日1時間目 1702室

学生へのメッセージ

海洋に関する書籍などを読んだり，映像資料（テレビ番組やDVDなど）を見たりしておくと理解しやすい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	南極地域観測隊員として南極昭和基地で海洋生物・環境について越冬観測した実績や深海生物研究のフィールドワークの実績を生かした授業。
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50405001
講義名	基礎生物学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	沼波 秀樹	指定なし

ナンバリング

X13350C21

授業概要(教育目的)

生物の基本単位である細胞の構造から最も身近な生物であるヒトの体の構造と機能から個体維持のしくみまでマクロ・ミクロ的視点で生物学の基礎について学びます。特に栄養士を志す学生や食科学を学ぶ学生に必要な基礎的な生物現象の理解に力点を置いて講義を進め，生化学や栄養学など専門科目を学ぶ上での基礎力を養います。

履修条件

この授業はオンデマンドで行うので，自宅など学外で聴講する場合には，十分な通信環境があることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	基礎的な生物現象，特にヒトに関わる生物現象の理解。
思考・判断の観点 (K)	細胞の構造・機能、組織と器官・器官系、遺伝子の構造・機能、環境問題などの基礎知識を修得し、一部をこれから学ぶ生化学や栄養学等の学修に役立てることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	生命とは何か？について考える。

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「生命」の持つ特徴を説明し，生命とは何かを考える。また，なぜ食べなくてはならないかについても考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校「生物基礎」を履修した学生は、「生命活動とエネルギー」・「遺伝子」・「生態系」を復習。高校「生物」を履修した学生は、「細胞と分子」・「代謝」・「遺伝現象の発現」・「生態系」を復習。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	細胞の構造とはたらき１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	原核細胞・真核細胞の特徴，細胞の基本構造と各細胞内の器官の機能を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第3章1～2を読んでおく。高校教科書「細胞の多様性」「細胞の共通性」を復習する。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	細胞の構造とはたらき２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生物の基本単位である細胞の機能について説明する。特に細胞膜の機能と細胞同士の連結等についてに理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第3章3を読んでおく。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	生物を構成する細胞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	多様な細胞の種類と特徴，ウイルスの構造と特徴について説明する。またトピックとして食と密接に関係する伝染性のタンパク質についても解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第3章4，第7章p.157コラムを読んでおく。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	生物体の構造１ 組織の種類と特徴１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	上皮組織と結合組織について，その構造と機能について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第1章1を読んでおく。復習：授業内容の確認。特に組織の分類について確認する。

	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	生物体の構造２ 組織の種類と特徴２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	筋組織と神経組織について，その構造と機能について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第1章1を読んでおく。復習：授業内容の確認。特に組織の分類について確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	生物としてのヒトを知る
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「ヒトはなぜ食べなくてはならないか？」を生物学的に解説し，食物から体をつくり・維持する仕組みについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第1章2を読んでおく。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	生物体の構造３ 主な器官・器官系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヒトを例として，個体を構成する主要器官・器官系について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第1章3を読んでおく。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	代謝のしくみ１ 酵素・代謝
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	代謝と代謝に深く関係する酵素の特徴について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第4章1～4を読んでおく。高校教科書「細胞とエネルギー」を復習する。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	代謝のしくみ２ 消化・吸収
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消化・吸収に関連する器官・器官系の特徴について説明する。特に胃・小腸のはたらきをVTR映像も利用して解説する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第4章1～4を読んでおく。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	第11回 代謝のしくみ３ 呼吸
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生命維持の為に重要な現象である呼吸について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第4章5を読んでおく。高校教科書「呼吸」を復習する。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	遺伝のしくみ１ 遺伝とは何か？DNAの構造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生命の根源である遺伝子について説明する。DNAと遺伝の関係，DNAの構造について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第5章1～3を読んでおく。高校教科書「遺伝現象と遺伝子」「遺伝情報の複製と分配」「遺伝情報とタンパク質合成」を復習する。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	遺伝のしくみ2 DNAの機能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	DNAの機能（遺伝情報の複製・タンパク質合成）について説明する。DNAと形質の変異とその利用，特に遺伝子解析が人類にもたらす影響について，医療における応用を例としてVTR映像を用いて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第5章1～3を読んでおく。高校教科書「遺伝現象と遺伝子」「遺伝情報の複製と分配」「遺伝情報とタンパク質合成」を復習する。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	環境と人間
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食を通して身近な環境問題について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第7章3～5を読んでおく。高校教科書「生態系と保全」を復習する。第1回から第15回までの授業内容を教科書，ノート，配布プリントを用いて復習し，定期試験に備える。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

・オンデマンド授業なので，授業動画を視聴して，課題を提出する方法をとります。

・オンデマンドで授業をするので，授業動画の視聴期間，出席条件や提出物の提出期限などについて注意して下さい。
・定期試験は対面形式で実施する予定です。

学生へのフィードバック方法

提出物については，授業中に解説する予定。

評価方法

【授業動画の配信，出欠等について】
・授業動画は所定の配信日・時刻で配信するので，所定の期間内に授業動画を視聴して，期限内の課題提出をもって出席とします。

【評価】
・定期試験，平常点，レポートの総合評価。平常点は授業中の課題等で評価します。
・全授業時間数の1/3以上欠席（授業回数14 回の内，欠席5 回以上）すると定期試験の受験資格を失います（学生便覧記載の通り）。
・評価の基準の詳細については，クラスルームに掲載するルーブリック表を参照すること。
・定期試験では，14回の授業で学んだ基本的な生物学的現象について問う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	
定期試験	○	○	○	

評価割合

平常点30%，定期試験70%の総合評価。（平常点は授業への参加状況や課題等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

・教科書を使用します（教科書名：川崎・古庄編著(2009)，生物学－ヒトと環境の生命科学－，建帛社.）
・授業動画配信時に資料のPDFを配信して，授業を進めます。
・配付された資料は印刷するか，授業を視聴しながら見られる状態にする。印刷することを推奨します。

参考図書

適宜，授業中に紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解できる。
【思考・判断】人間社会と自然の多様性のあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を持つことができる。

オフィスアワー

月曜2限 1702室

学生へのメッセージ

高校「生物基礎」を履修した学生は，「生物基礎」の「生命活動とエネルギー」・「遺伝子」・「生態系」を復習すると理解しやすい。
高校「生物」を履修した学生は，「細胞と分子」・「代謝」・「遺伝現象の発現」・「生態系」を復習すると理解しやすい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

ICT活用		

講義コード	G50405031
講義名	基礎生物学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	沼波 秀樹	指定なし

ナンバリング

X13350C21

授業概要(教育目的)

生物の基本単位である細胞の構造から最も身近な生物であるヒトの体の構造と機能から個体維持のしくみまでマクロ・ミクロ的視点で生物学の基礎について学びます。特に栄養士を志す学生や食科学を学ぶ学生に必要な基礎的な生物現象の理解に力点を置いて講義を進め，生化学や栄養学など専門科目を学ぶ上での基礎力を養います。

履修条件

この授業はオンデマンドで行うので，自宅など学外で聴講する場合には，十分な通信環境があることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	基礎的な生物現象，特にヒトに関わる生物現象の理解。
思考・判断の観点 (K)	細胞の構造・機能、組織と器官・器官系、遺伝子の構造・機能、環境問題などの基礎知識を修得し、一部をこれから学ぶ生化学や栄養学等の学修に役立てることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	生命とは何か？について考える。

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「生命」の持つ特徴を説明し，生命とは何かを考える。また，なぜ食べなくてはならないかについても考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校「生物基礎」を履修した学生は、「生命活動とエネルギー」・「遺伝子」・「生態系」を復習。高校「生物」を履修した学生は、「細胞と分子」・「代謝」・「遺伝現象の発現」・「生態系」を復習。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	細胞の構造とはたらき１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	原核細胞・真核細胞の特徴，細胞の基本構造と各細胞内の器官の機能を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第3章1～2を読んでおく。高校教科書「細胞の多様性」「細胞の共通性」を復習する。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	細胞の構造とはたらき２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生物の基本単位である細胞の機能について説明する。特に細胞膜の機能と細胞同士の連結等についてに理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第3章3を読んでおく。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	生物を構成する細胞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	多様な細胞の種類と特徴，ウイルスの構造と特徴について説明する。またトピックとして食と密接に関係する伝染性のタンパク質についても解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第3章4，第7章p.157コラムを読んでおく。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	生物体の構造１ 組織の種類と特徴１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	上皮組織と結合組織について，その構造と機能について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第1章1を読んでおく。復習：授業内容の確認。特に組織の分類について確認する。

	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	生物体の構造２ 組織の種類と特徴２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	筋組織と神経組織について，その構造と機能について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第1章1を読んでおく。復習：授業内容の確認。特に組織の分類について確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	生物としてのヒトを知る
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「ヒトはなぜ食べなくてはならないか？」を生物学的に解説し，食物から体をつくり・維持する仕組みについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第1章2を読んでおく。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	生物体の構造３ 主な器官・器官系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヒトを例として，個体を構成する主要器官・器官系について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第1章3を読んでおく。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	代謝のしくみ１ 酵素・代謝
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	代謝と代謝に深く関係する酵素の特徴について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第4章1～4を読んでおく。高校教科書「細胞とエネルギー」を復習する。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	代謝のしくみ２ 消化・吸収
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消化・吸収に関連する器官・器官系の特徴について説明する。特に胃・小腸のはたらきをVTR映像も利用して解説する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第4章1～4を読んでおく。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	第11回 代謝のしくみ３ 呼吸
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生命維持の為に重要な現象である呼吸について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第4章5を読んでおく。高校教科書「呼吸」を復習する。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	遺伝のしくみ１ 遺伝とは何か？DNAの構造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生命の根源である遺伝子について説明する。DNAと遺伝の関係，DNAの構造について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第5章1～3を読んでおく。高校教科書「遺伝現象と遺伝子」「遺伝情報の複製と分配」「遺伝情報とタンパク質合成」を復習する。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	遺伝のしくみ2 DNAの機能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	DNAの機能（遺伝情報の複製・タンパク質合成）について説明する。DNAと形質の変異とその利用，特に遺伝子解析が人類にもたらす影響について，医療における応用を例としてVTR映像を用いて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第5章1～3を読んでおく。高校教科書「遺伝現象と遺伝子」「遺伝情報の複製と分配」「遺伝情報とタンパク質合成」を復習する。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	環境と人間
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食を通して身近な環境問題について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第7章3～5を読んでおく。高校教科書「生態系と保全」を復習する。第1回から第15回までの授業内容を教科書，ノート，配布プリントを用いて復習し，定期試験に備える。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

・オンデマンド授業なので，授業動画を視聴して，課題を提出する方法をとります。

・オンデマンドで授業をするので，授業動画の視聴期間，出席条件や提出物の提出期限などについて注意して下さい。
・定期試験は対面形式で実施する予定です。

学生へのフィードバック方法

提出物については，授業中に解説する予定。

評価方法

【授業動画の配信，出欠等について】
・授業動画は所定の配信日・時刻で配信するので，所定の期間内に授業動画を視聴して，期限内の課題提出をもって出席とします。

【評価】
・定期試験，平常点，レポートの総合評価。平常点は授業中の課題等で評価します。
・全授業時間数の1/3以上欠席（授業回数14 回の内，欠席5 回以上）すると定期試験の受験資格を失います（学生便覧記載の通り）。
・評価の基準の詳細については，クラスルームに掲載するルーブリック表を参照すること。
・定期試験では，14回の授業で学んだ基本的な生物学的現象について問う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	
定期試験	○	○	○	

評価割合

平常点30%，定期試験70%の総合評価。（平常点は授業への参加状況や課題等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

・教科書を使用します（教科書名：川崎・古庄編著(2009)，生物学－ヒトと環境の生命科学－，建帛社.）
・授業動画配信時に資料のPDFを配信して，授業を進めます。
・配付された資料は印刷するか，授業を視聴しながら見られる状態にする。印刷することを推奨します。

参考図書

適宜，授業中に紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解できる。
【思考・判断】人間社会と自然の多様性のあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を持つことができる。

オフィスアワー

月曜2限 1702室

学生へのメッセージ

高校「生物基礎」を履修した学生は，「生物基礎」の「生命活動とエネルギー」・「遺伝子」・「生態系」を復習すると理解しやすい。
高校「生物」を履修した学生は，「細胞と分子」・「代謝」・「遺伝現象の発現」・「生態系」を復習すると理解しやすい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

ICT活用		

講義コード	G50406001
講義名	環境と資源
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	沼波 秀樹	指定なし

ナンバリング

X13380C21

授業概要(教育目的)

毎日のように，新聞やニュースで環境や生態系に関する話題が取り上げられています。近年，地球温暖化や人工化学物質による汚染など環境問題がクローズアップされていますが，環境に関する現象を理解するには生態学の基礎的な知識が必要です。この授業では，生態学の基礎的な知識を踏まえ，地球環境とそこに生活する生物の関係，人類を含む生物が環境に与える影響などについて解説し，環境・資源の利用・保全の実態と問題点について理解を深めます。また，現在世界中で取り組まれているSDGs（持続可能な開発目標）を理解する上での基礎知識を修得します。

履修条件

この授業はオンデマンドで行うので，自宅など学外で聴講する場合には，十分な通信環境があることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	生態学の基礎的な現象を学び，環境に関する現象を理解する力を持つ。 環境問題とくらしの関わり合いについて理解している。 SDGs（持続可能な開発目標）に関連する生態系の現象を理解している。
思考・判断の観点 (K)	環境問題とくらしの関わり合いについて理解した上で，人類も生態系の一部であるという思考を持つことが出来る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	持続可能な社会と環境の関係について関心を持てるようになる。 環境について理解し，SDGs（持続可能な開発目標）を実践できる態度を持てるようになる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画		
第1回	授業テーマ	イントロダクション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の学習目標・内容について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	授業テーマ	「環境」とは何か？（生態系の構成要素）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地球の成り立ちを含めて，環境を構成する大気・水・温度などの無機的環境と生物群集（有機的環境）について解説する。これらの環境要因が影響し合って，生態系が形成されていることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎の教科書中の「生態系の成り立ち」に関係する部分を読む。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	生物と生物との関わり1（種・個体・個体群・群集・個体群の成長）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生物の基本単位である「種」とは何か？個体から個体群，群集そして生態系までのまとまりの系列について解説し，生物多様性について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「生物多様性」について，どのような多様性があるのかをインターネットを使って調べる。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	生物と生物との関わり2（競争・競争の回避・ニッチ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個体群の成長時に生じる相互作用について説明する。また，競争回避や個体群の成長戦略についても解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎教科書中の「バイオームの形成」に関連する部分を読む。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間	190分

	（分）	
第5回	**授業テーマ**	生活資材（資源）と人口問題－ヒトも生物－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回，解説した個体群の成長をヒトに当てはめて，人口問題などについて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：国立社会保障・人口問題研究所のHP（http://www.ipss.go.jp/）で，日本の人口ピラミッドの推移を確認し，各年代の特徴をまとめる。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	生態系の構成と食物連鎖（なぜマグロは高いのか？）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	最も基本的な種間関係である「食物連鎖」について海洋の食物連鎖を例にあげて解説する。特に生態系内の物質収支について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎教科書中の「食物連鎖」に関連する部分を読む。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	生態系内のエネルギーの流れと物質の循環1－エネルギーの流れと炭素循環－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生態系内でのエネルギーの流れと物質循環の特徴について理解する。物質循環に関しては炭素の循環と地球温暖化現象についても解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎教科書中の「生態系内の物質とエネルギーの流れ」に関連している部分を読む。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	生態系内の物質の循環2－炭素循環と地球温暖化－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	炭素循環と地球温暖化現象の関連性について解説する。地球温暖化がもたらす環境変化と人類への影響を映像資料を用いて説明することにより理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎教科書中の「人間活動による生態系への影響」に関連する部分を読む。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間	190分

	（分）	
第9回	**授業テーマ**	環境保全への取り組み－地球温暖化防止－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地球温暖化防止（抑制）の取り組みについて，国際条約の変遷も含めて映像資料を用いながら解説する。特に人間活動と環境保全の関係について理解し，今後求められていくQOL（生活の質の向上）とはどのようなものか，について考える機会とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：全国地球温暖化防止活動推進センター（JCCCA）のHP（http://www.jccca.org/）で地球温暖化と生活（家庭）での対策について，予備知識を得る。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	人間活動の環境への影響―地球温暖化とホッキョクグマ（レポート課題）－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人間活動の環境への負荷について，地球温暖化が人類以外の生物にあたえる影響を題材として考える。この時間はNHKが製作した「北極大変動」を視聴した後に課題（レポート）を提出する（図書館等非営利上映用DVDを視聴）。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：第9回～第11回の授業内容の確認。復習：レポートの作成。
	教室外学習の時間（分）	220分
第11回	**授業テーマ**	生態系内の物質の循環3－窒素循環とリン循環－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	窒素とリンの循環を説明し，その特徴について理解する。また，窒素やリンの循環が及ぼす環境への影響についても説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎教科書中の窒素循環とリン循環に関連する部分を読む。窒素とリンの循環が環境に及ぼす影響についても知識を得る。復習：授業内容の確認。第10回のレポートの作成。
	教室外学習の時間（分）	220分
第12回	**授業テーマ**	環境問題の歴史 －人工化学物質と生物濃縮－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	過去から現在に起こったDDTやPCBなどの人工化学物質や有機水銀による環境汚染とヒトを含む生物への影響について映像資料を用いて解説する。特に「生物濃縮」による影響について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：過去に日本で起こった「公害」について，原因を調べる。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間	190分

	（分）	
第13回	**授業テーマ**	資源としての生物 ー生物多様性と資源としての生物ー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生物多様性とくらしとの関わり，資源としての生物の特徴について解説する。食料資源としての海洋生物の特徴を例として，乱獲や海洋汚染，地球温暖化など人類の影響について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：食料資源としての海洋生物が置かれている問題（乱獲や環境変化など）について調べる。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	生態系サービスと持続可能な社会 ー「環境と資源」まとめー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国連が実施したミレニアム生態系評価が示した「生態系サービス」について解説し，生態系と私たちの生活の関係を理解する。その上で授業内容を振り返り，私たちの「くらし」と「環境」が密接に関わっていることを再認識する。SDGs（持続可能な開発目標）と生活の質の向上（QOL）と地球環境の関連性について認識する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎教科書中の「生態系の保全」に関連する部分を読む。これまでの授業ノート，配布プリントなどから，これまでの授業を振り返る。復習：定期試験への準備。
	教室外学習の時間（分）	240分

学習計画注記

・オンデマンド授業なので，授業動画を視聴して，課題を提出する方法をとります。
・オンデマンドで授業をするので，授業動画の視聴期間，出席条件や提出物の提出期限などについて注意して下さい。
・定期試験は対面形式で実施する予定です。
・環境問題は時々刻々と変化しているので，授業の順番や内容が変更になる可能性があります。

学生へのフィードバック方法

提出物などについては，内容の解説を行う予定。

評価方法

【授業動画の配信，出欠等について】
・授業動画は所定の配信日・時刻で配信するので，所定の期間内に授業動画を視聴して，期限内の課題提出をもって出席とします。

【評価】
・定期試験，平常点，レポートの総合評価。平常点は授業中の課題等で評価します。
・全授業時間数の1/3以上欠席（授業回数14 回の内，欠席5 回以上）すると定期試験の受験資格を失います（学生便覧記載の通り）。
・評価の基準の詳細については，クラスルームに掲載するルーブリック表を参照すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○	○	
平常点	○		○	

レポート	○	○	○	○

評価割合

定期試験(70%)および平常点・レポート・課題(30%)による総合評価。

使用教科書名(ISBN番号)

・授業動画配信時に資料のPDFを配信して，授業を進めます。
・配付された資料は印刷するか，授業を視聴しながら見られる状態にする。印刷することを推奨します。

参考図書

適宜，紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解できる。
【思考・判断】人間社会と自然の多様性のあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を持つことができる。

オフィスアワー

水曜日1時間目 1702室

学生へのメッセージ

高校生物基礎教科書中の「生態系とその保全」「生物の多様性と共通性」を復習しておくと，理解しやすい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	南極地域観測隊員として南極昭和基地で生物・環境について越冬観測した実績を生かした授業。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50406031
講義名	環境と資源
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	沼波 秀樹	指定なし

ナンバリング

X13380C21

授業概要(教育目的)

毎日のように，新聞やニュースで環境や生態系に関する話題が取り上げられています。近年，地球温暖化や人工化学物質による汚染など環境問題がクローズアップされていますが，環境に関する現象を理解するには生態学の基礎的な知識が必要です。この授業では，生態学の基礎的な知識を踏まえ，地球環境とそこに生活する生物の関係，人類を含む生物が環境に与える影響などについて解説し，環境・資源の利用・保全の実態と問題点について理解を深めます。また，現在世界中で取り組まれているSDGs（持続可能な開発目標）を理解する上での基礎知識を修得します。

履修条件

この授業はオンデマンドで行うので，自宅など学外で聴講する場合には，十分な通信環境があることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	生態学の基礎的な現象を学び，環境に関する現象を理解する力を持つ。 環境問題とくらしの関わり合いについて理解している。 SDGs（持続可能な開発目標）に関連する生態系の現象を理解している。
思考・判断の観点 (K)	環境問題とくらしの関わり合いについて理解した上で，人類も生態系の一部であるという思考を持つことが出来る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	持続可能な社会と環境の関係について関心を持てるようになる。 環境について理解し，SDGs（持続可能な開発目標）を実践できる態度を持てるようになる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画		
第1回	授業テーマ	イントロダクション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の学習目標・内容について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	授業テーマ	「環境」とは何か？（生態系の構成要素）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地球の成り立ちを含めて，環境を構成する大気・水・温度などの無機的環境と生物群集（有機的環境）について解説する。これらの環境要因が影響し合って，生態系が形成されていることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎の教科書中の「生態系の成り立ち」に関係する部分を読む。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	生物と生物との関わり1（種・個体・個体群・群集・個体群の成長）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生物の基本単位である「種」とは何か？個体から個体群，群集そして生態系までのまとまりの系列について解説し，生物多様性について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「生物多様性」について，どのような多様性があるのかをインターネットを使って調べる。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	生物と生物との関わり2（競争・競争の回避・ニッチ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個体群の成長時に生じる相互作用について説明する。また，競争回避や個体群の成長戦略についても解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎教科書中の「バイオームの形成」に関連する部分を読む。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間	190分

	（分）	
第5回	**授業テーマ**	生活資材（資源）と人口問題－ヒトも生物－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回，解説した個体群の成長をヒトに当てはめて，人口問題などについて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：国立社会保障・人口問題研究所のHP（http://www.ipss.go.jp/）で，日本の人口ピラミッドの推移を確認し，各年代の特徴をまとめる。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	生態系の構成と食物連鎖（なぜマグロは高いのか？）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	最も基本的な種間関係である「食物連鎖」について海洋の食物連鎖を例にあげて解説する。特に生態系内の物質収支について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎教科書中の「食物連鎖」に関連する部分を読む。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	生態系内のエネルギーの流れと物質の循環1－エネルギーの流れと炭素循環－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生態系内でのエネルギーの流れと物質循環の特徴について理解する。物質循環に関しては炭素の循環と地球温暖化現象についても解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎教科書中の「生態系内の物質とエネルギーの流れ」に関連している部分を読む。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	生態系内の物質の循環2－炭素循環と地球温暖化－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	炭素循環と地球温暖化現象の関連性について解説する。地球温暖化がもたらす環境変化と人類への影響を映像資料を用いて説明することにより理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎教科書中の「人間活動による生態系への影響」に関連する部分を読む。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間	190分

	（分）	
第9回	**授業テーマ**	環境保全への取り組み－地球温暖化防止－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地球温暖化防止（抑制）の取り組みについて，国際条約の変遷も含めて映像資料を用いながら解説する。特に人間活動と環境保全の関係について理解し，今後求められていくQOL（生活の質の向上）とはどのようなものか，について考える機会とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：全国地球温暖化防止活動推進センター（JCCCA）のHP（http://www.jccca.org/）で地球温暖化と生活（家庭）での対策について，予備知識を得る。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	人間活動の環境への影響―地球温暖化とホッキョクグマ（レポート課題）－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人間活動の環境への負荷について，地球温暖化が人類以外の生物にあたえる影響を題材として考える。この時間はNHKが製作した「北極大変動」を視聴した後に課題（レポート）を提出する（図書館等非営利上映用DVDを視聴）。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：第9回～第11回の授業内容の確認。復習：レポートの作成。
	教室外学習の時間（分）	220分
第11回	**授業テーマ**	生態系内の物質の循環3－窒素循環とリン循環－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	窒素とリンの循環を説明し，その特徴について理解する。また，窒素やリンの循環が及ぼす環境への影響についても説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎教科書中の窒素循環とリン循環に関連する部分を読む。窒素とリンの循環が環境に及ぼす影響についても知識を得る。復習：授業内容の確認。第10回のレポートの作成。
	教室外学習の時間（分）	220分
第12回	**授業テーマ**	環境問題の歴史 －人工化学物質と生物濃縮－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	過去から現在に起こったDDTやPCBなどの人工化学物質や有機水銀による環境汚染とヒトを含む生物への影響について映像資料を用いて解説する。特に「生物濃縮」による影響について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：過去に日本で起こった「公害」について，原因を調べる。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間	190分

	（分）	
第13回	**授業テーマ**	資源としての生物 ー生物多様性と資源としての生物ー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生物多様性とくらしとの関わり，資源としての生物の特徴について解説する。食料資源としての海洋生物の特徴を例として，乱獲や海洋汚染，地球温暖化など人類の影響について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：食料資源としての海洋生物が置かれている問題（乱獲や環境変化など）について調べる。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	生態系サービスと持続可能な社会 ー「環境と資源」まとめー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国連が実施したミレニアム生態系評価が示した「生態系サービス」について解説し，生態系と私たちの生活の関係を理解する。その上で授業内容を振り返り，私たちの「くらし」と「環境」が密接に関わっていることを再認識する。SDGs（持続可能な開発目標）と生活の質の向上（QOL）と地球環境の関連性について認識する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎教科書中の「生態系の保全」に関連する部分を読む。これまでの授業ノート，配布プリントなどから，これまでの授業を振り返る。復習：定期試験への準備。
	教室外学習の時間（分）	240分

学習計画注記

・オンデマンド授業なので，授業動画を視聴して，課題を提出する方法をとります。
・オンデマンドで授業をするので，授業動画の視聴期間，出席条件や提出物の提出期限などについて注意して下さい。
・定期試験は対面形式で実施する予定です。
・環境問題は時々刻々と変化しているので，授業の順番や内容が変更になる可能性があります。

学生へのフィードバック方法

提出物などについては，内容の解説を行う予定。

評価方法

【授業動画の配信，出欠等について】
・授業動画は所定の配信日・時刻で配信するので，所定の期間内に授業動画を視聴して，期限内の課題提出をもって出席とします。

【評価】
・定期試験，平常点，レポートの総合評価。平常点は授業中の課題等で評価します。
・全授業時間数の1/3以上欠席（授業回数14 回の内，欠席5 回以上）すると定期試験の受験資格を失います（学生便覧記載の通り）。
・評価の基準の詳細については，クラスルームに掲載するルーブリック表を参照すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○	○	
平常点	○		○	

レポート	○	○	○	○

評価割合

定期試験(70%)および平常点・レポート・課題(30%)による総合評価。

使用教科書名(ISBN番号)

・授業動画配信時に資料のPDFを配信して，授業を進めます。
・配付された資料は印刷するか，授業を視聴しながら見られる状態にする。印刷することを推奨します。

参考図書

適宜，紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解できる。
【思考・判断】人間社会と自然の多様性のあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を持つことができる。

オフィスアワー

水曜日1時間目 1702室

学生へのメッセージ

高校生物基礎教科書中の「生態系とその保全」「生物の多様性と共通性」を復習しておくと，理解しやすい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	南極地域観測隊員として南極昭和基地で生物・環境について越冬観測した実績を生かした授業。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50407001
講義名	地球の科学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13390M21

授業概要(教育目的)

地球科学は，地球の内部構造や地震，火山活動から，大気・水循環，物質循環，地形や化石，資源形成等の地球表層，そして地球をとりまく宇宙にいたるまでの幅広い自然現象を，包括的に扱う学問である。この授業では，地球科学と私たちの暮らしとの関わりを取り上げながら地球のシステムの基礎を学び，地球規模の現象を考えるための広い視野と，科学的な態度を育成することを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	授業で扱った基礎的な地球科学の現象のメカニズムを理解し，説明できる。
思考・判断の観点 (K)	特に災害・資源・地球環境に関わる事象に対して、適切な判断をできる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	身近な自然や地球科学の話題に関心を持ち，生活との関わりを考えることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

地球の科学

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス 地球科学とは何か？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の流れについて説明する。 地球科学がどのような学問なのかを知り，学ぶ意義を理解する。地球の姿と特徴について学ぶ。 ※授業内でルーブリックについての説明を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：身近に存在する地球科学にはどんなものがあるか，図書やインターネット等で調べる。 復習：身近に存在する地球科学が私たちの生活にどのように関

		わっているのかを考える。
	教室外学習の時間（分）	予習：30分 復習：60分
第2回	**授業テーマ**	地球の活動 I 地球の内部構造・地震と火山
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地球の内部構造とプレート運動の仕組みを学び，地震，火山活動との繋がりについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：地球の内部構造や地震，火山活動に関する自分の知識や経験をまとめる。 復習：授業を通して新たに学んだことや，疑問に思ったことについて確認する。
	教室外学習の時間（分）	予習：30分 復習：60分
第3回	**授業テーマ**	地球の活動 II 地形の形成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地球を美しく彩る地形はどのようにして生まれたのか。その形成過程について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：これまで自分が見たことがある，あるいは興味を持っている地形について知識をまとめる。 復習：授業を通して新たに学んだことや，疑問に思ったことについて確認する。
	教室外学習の時間（分）	予習：30分 復習：60分
第4回	**授業テーマ**	岩石と鉱物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	岩石や鉱物はどのような条件のもとで作られるのか。その種類と生成要因について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：岩石や鉱物についての自分の知識や経験をまとめる。 復習：授業を通して新たに学んだことや，疑問に思ったことについて確認する。
	教室外学習の時間（分）	予習：30分 復習：60分
第5回	**授業テーマ**	地球の歴史 I
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	46億年にわたる地球の歴史を学び，地球の気候・環境変動を通じた生命の誕生や変遷について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：地球の歴史に関する自分の知識や経験をまとめる。 復習：授業を通して新たに学んだことや，疑問に思ったことについて確認する。
	教室外学習の時間（分）	予習：30分 復習：60分
第6回	**授業テーマ**	地球の歴史 II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	46億年にわたる地球の歴史を学び，過去の地球の気候・環境の復元がどのように行われているか理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：地球の歴史に関する自分の知識や経験をまとめる。 復習：授業を通して新たに学んだことや，疑問に思ったことについて確認する。
	教室外学習の時間	予習：30分

	（分）	復習：60分
第7回	**授業テーマ**	地球の大気
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地球に存在する大気の構造や地球に及ぼす影響について学ぶ。さらに，大気がどのようにして地球を循環しているのか理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：大気に関する自分の知識や経験をまとめる。 復習：授業を通して新たに学んだことや，疑問に思ったことについて確認する。
	教室外学習の時間（分）	予習：30分 復習：60分
第8回	**授業テーマ**	地球の大気 II 気象
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	雨はどうして降るのか，台風はなぜ発生するのか，日本に四季がある理由など気象に関する事象について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：天気を含めた気象全般に関する自分の知識や経験をまとめる。 復習：授業を通して新たに学んだことや，疑問に思ったことについて確認する。
	教室外学習の時間（分）	予習：30分 復習：60分
第9回	**授業テーマ**	地球の海洋
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水はどのようにして地球を循環するのか。潮の満ち引きや海水準変動といった海洋に関する現象について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：海洋に関する自分の知識や経験をまとめる。 復習：授業を通して新たに学んだことや，疑問に思ったことについて確認する。
	教室外学習の時間（分）	予習：30分 復習：60分
第10回	**授業テーマ**	宇宙の中の地球 I
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	宇宙の歴史と、その構造について学ぶ。また，太陽の構造とその活動について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：宇宙に関する自分の知識や経験をまとめる。 復習：授業を通して新たに学んだことや，疑問に思ったことについて確認する。
	教室外学習の時間（分）	予習：30分 復習：60分
第11回	**授業テーマ**	宇宙の中の地球 II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地球が存在する太陽系の構造とその成り立ちについて学ぶ。惑星の運動とその一生，さらに地球とそれ以外の惑星との違いについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：惑星に関する自分の知識や経験をまとめる。 復習：授業を通して新たに学んだことや，疑問に思ったことについて確認する。
	教室外学習の時間（分）	予習：30分 復習：60分
	授業テーマ	地球環境問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	地球温暖化，大気汚染，酸性雨など，私たちの身の回りで起こっている地球環境の変化について学び，その要因や背景を理解

	育・ICT活用を含む)	する。
第12回	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：身の回りで起こっている地球環境問題についての自分の知識や経験をまとめる。 復習：授業を通して新たに学んだことや，疑問に思ったことについて確認する。
	教室外学習の時間（分）	予習：30分 復習：60分
第13回	授業テーマ	雪氷・極域科学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地球温暖化によって氷河や氷床などの雪氷圏で近年起きている変化について学ぶ。雪氷と生活のつながりを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：雪や氷についての自分の知識や経験をまとめる。 復習：授業を通して新たに学んだことや，疑問に思ったことについてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習：30分 復習：60分
第14回	授業テーマ	まとめと解説
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1-13回までの講義で扱った内容のまとめを行い，幅広い地球科学の知識の定着をはかる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：授業を通して新たに学んだことや，疑問に思ったことについてまとめる。とくに興味を持った事象について図書やインターネット等で調べ，地球科学への理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	予習：30分 復習：60分

学習計画注記

履修者数や講義の進み具合によってスケジュール，授業内容が変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

講義を通して質問等がある場合，授業の前後の時間や，メールにて質問を受けつける。

評価方法

毎回の授業内でコメントシートを書いてもらい，その理解度や授業態度・意欲を平常点として評価する。
定期試験では，授業で取り扱った内容から選択式・記述式の問題を出題する。また意見を問う記述問題によって応用的な思考力や判断力を確認する。
これらの実施は，以下に示す力を養うことを目的としている。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
コメントシート（平常点）	○	○	○	
試験	○	○	○	

評価割合

コメントシート（平常点）40%，試験60%で総点を決め評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

教科書は使用しない。

参考図書

地球科学に関するあらゆる書籍

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】，【思考・判断】：自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し，そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力

学生へのメッセージ

地球科学は身近な自然を扱う学問であり，私たちの生活に密接に関わっています。授業では地球科学に関する様々な事象についてわかりやすく理解することを目指し、動画や写真を多く使って解説を行います。
また、テレビや新聞などで地球科学に関連するニュースが取り上げられることも多いので，それらの情報も積極的に紹介していきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50407031
講義名	地球の科学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13390C21

授業概要(教育目的)

地球科学（地学）は、地球の表層や内部で起こる様々な現象を対象とした分野横断型で身近な科学である。本授業では、大気―陸上―海洋―地球内部の様々な場所で現在起きている現象、過去―現在に地球で起きた様々な現象について概説し、それらがどのような原因で起こるのか、地球環境にどのような影響を与えるのかを体系的に理解できる力を養う。本授業では、我々の生活に密接に関連する現象や課題を積極的に取り上げ、地球科学のリテラシーの向上を図る。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	授業で扱った基礎的な地球科学の現象のメカニズムを理解し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	特に災害・資源・地球環境に関わる事象に対して、適切な判断をできる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	身近な自然や地球科学の話題に関心を持ち、生活との関わりを考えることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

地球の科学

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス 地球科学とは何か、地球科学の歴史
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方を説明する。地球科学がどのような学問なのか、どのように発展してきたのかを知り、学ぶ意義を理解する。
	教室外学習(予習・	予習：日常的に接している地球科学的な情報にどのようなものがあるのか、事前に自分の意見を整理する。

	復習)の内容	復習：授業での学習を参考に、日常生活の中の地球科学現象、地球科学情報をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習：50分 復習：50分
第2回	**授業テーマ**	地球の形成、地球の構造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	天体としての地球がどのようにできたのか、どのような特徴を持っているのかを学習する。また、現在の地球の内部構造が地球の形成過程をどのように反映しているのかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：参考図書や事前に配布する授業資料に基づき、専門用語や図表、自分の知識を整理する。 復習：授業での学習を参考に、特に時間や現象の規模を中心に、地球の成り立ちをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習：80分 復習：120分
第3回	**授業テーマ**	地球を作る物質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地球を構成する鉱物や岩石の分類と特徴を、その成因から学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：参考図書や事前に配布する授業資料に基づき、専門用語や図表、自分の知識を整理する。 復習：授業での学習を参考に、自分の身近な環境で見られる岩石とその地球科学的な背景をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習：80分 復習：120分
第4回	**授業テーマ**	プレートテクトニクスと地震・火山活動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレートテクトニクスの仕組みを、その証拠や原理から学習する。また、地震や火山活動との関連について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：参考図書や事前に配布する授業資料に基づき、専門用語や図表、自分の知識を整理する。 復習：授業での学習を参考に、これまでに経験した地震や火山活動の地球科学的な背景をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習：80分 復習：120分
第5回	**授業テーマ**	地表の変化と地形の形成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地球のどのような作用によって、地表に広がる地形ができたのかを学習する。また、現在起きている地形の変化についても理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：参考図書や事前に配布する授業資料に基づき、専門用語や図表、自分の知識を整理する。 復習：授業での学習を参考に、様々な場所で見られる特徴的な地形の成り立ちと変化の様子をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習：80分 復習：120分
	授業テーマ	地層の形成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	地層はどのようにできるのか、地層の観察によってどのような情報を得ることができるのかを学習する。また、地質図の作り方や味方に付いても理解を深める。

	む)	
第6回	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：参考図書や事前に配布する授業資料に基づき、専門用語や図表、自分の知識を整理する。 復習：授業での学習を参考に、自分が生まれた土地、住んでいる土地の地質概要をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習：80分 復習：120分
第7回	授業テーマ	地球史I
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主に先カンブリア時代から古生代にかけて、地球上で何をきっかけにどのような環境の変化が起きたのかを学習する。特に、それぞれの現象の因果関係や連動性について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：参考図書や事前に配布する授業資料に基づき、専門用語や図表、自分の知識を整理する。 復習：授業での学習を参考に、現在の地球環境がどのようにしてできたのか、どのように変化していく可能性があるのかをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習：80分 復習：120分
第8回	授業テーマ	地球史II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主に中生代からから新生代にかけて、地球上で何をきっかけにどのような環境の変化が起きたのかを学習する。特に、それぞれの現象の因果関係や連動性について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：参考図書や事前に配布する授業資料に基づき、専門用語や図表、自分の知識を整理する。 復習：授業での学習を参考に、現在の地球環境がどのようにしてできたのか、どのように変化していく可能性があるのかをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習：80分 復習：120分
第9回	授業テーマ	日本列島の形成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ここまで学習してきたことをもとに、日本列島がどのようにしてできたのかを概説する。日本の各地にみられる特徴的な岩石や地形、地質構造と、日本列島の形成過程の関係について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：参考図書や事前に配布する授業資料に基づき、専門用語や図表、自分の知識を整理する。 復習：授業での学習を参考に、日本列島の形や地形、地質現象などをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習：80分 復習：120分
第10回	授業テーマ	気候と環境の変動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学習してきたことをもとに、現在の地球で起きている気候や環境問題について、地球科学的な視点から学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：参考図書や事前に配布する授業資料に基づき、専門用語や図表、自分の知識を整理する。 復習：授業での学習を参考に、報道等で取り上げられている気候や環境問題について、その原因や影響をまとめる。
	教室外学習の時間	予習：80分

	（分）	復習：120分
第11回	**授業テーマ**	地球表層の水
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地球表層に存在する水がどのような特徴を持っているのか、地球環境の形成にどのような役割を果たしているのかを学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：参考図書や事前に配布する授業資料に基づき、専門用語や図表、自分の知識を整理する。 復習：授業での学習を参考に、生活で使用している水が地球上をどのように循環しているのか、その特徴は何を反映しているのかをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習：80分 復習：120分
第12回	**授業テーマ**	海洋の構造と海水の循環
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	海洋（海水）の組成や温度などの特徴とその原因を学習する。また、海洋の存在や変動が地球環境の変化にどのようにかかわってきたのかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：参考図書や事前に配布する授業資料に基づき、専門用語や図表、自分の知識を整理する。 復習：授業での学習を参考に、海洋環境の変化が気候や生態系などに与える影響をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習：80分 復習：120分
第13回	**授業テーマ**	化石燃料の形成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料がどのようにしてできるのかを学習する。これらの資源の分布や特徴とその成因の関係について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：参考図書や事前に配布する授業資料に基づき、専門用語や図表、自分の知識を整理する。 復習：授業での学習を参考に、化石燃料の開発史や現在の地理的に偏った分布についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習：80分 復習：120分
第14回	**授業テーマ**	鉱物資源の形成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	岩石から取り出して利用されている資源（金属など）が、どのような作用を経て形成したのかを学習する。特に海底で形成する資源に関して、地球の活動や歴史との関係を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：参考図書や事前に配布する授業資料に基づき、専門用語や図表、自分の知識を整理する。 復習：授業での学習を参考に、どのような資源がどこから採取されたのかをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習：80分 復習：120分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

授業中の発言（意見、質問など）を歓迎する。授業の前後の時間や、メールでも質問を受けつ

ける。質問の内容は、次回以降の授業で紹介、説明し、疑問点等を共有する（質問者は匿名とするが、希望しない場合は質問そのものを公開しない）。

評価方法

授業の重要な点をまとめるコメントシートを毎回作成し、予習を含む授業の理解度、授業態度等の平常点として評価する。
不定期で、その時点までに学習した内容に関して学習到達度の確認テストを複数回行う（テスト実施日は通知しない予定）。また、授業最終回に授業全範囲を対象とした期末テストを行う。
これらの実施は、以下に示す力を養うことを目的としている。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
コメントシート（平常点）	○		○	
試験	○	○	○	

評価割合

コメントシート（平常点）40%、試験60%を基準に、総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし。

参考図書

高校「地学」の資料集「スクエア最新図説地学・第一学習社」、「フォトサイエンス地学図録・数研出版」、「ニューステージ地学図表・浜島書店」を参考書とする。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】、【思考・判断】：自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力。

学生へのメッセージ

書物、テレビ番組、博物館訪問などを通じて、普段から地球科学全般に対する情報に積極的に触れてほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50408001
講義名	教養の物理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13300C21

授業概要(教育目的)

この宇宙が何からできているか、現代科学の成果に基づいて概観します。
私たちが宇宙のどのような歴史の結果存在しているのか知ることと、身近な物質の構造が理解できることが目標です。

数式はあまり使わず、物理学の思考方法 (論理の展開) を追うことを重視します。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	物理学の基礎を理解する。 物理学は、この世界は何からできているのか、どのような法則にしたがっているのかを明らかにする学問である。物理学の基本と、それが発見されるまでの歴史を知る。
思考・判断の観点 (K)	物理学の思考方法 (論理的な思考) を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	イントロダクション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近代科学の成立について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	近代科学の成立について予習・復習する。
		120

	教室外学習の時間（分）	分
第2回	**授業テーマ**	ニュートン～ 強力なニュートン力学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ニュートン力学について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アイザック・ニュートンについて予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	**授業テーマ**	ケプラー～ 最後の占星術師
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ケプラーの惑星の法則について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ヨハネス・ケプラーについて予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	**授業テーマ**	ドルトン～ 原子論の再発見
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	原子論について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ジョン・ドルトンについて予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	**授業テーマ**	メンデレーエフ～ 元素には周期がある
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	周期表について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ドミトリ・メンデレーエフについて予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	**授業テーマ**	キュリー～ 不滅のはずの原子が壊れた
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	原子核物理について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	マリー・キュリーについて予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	**授業テーマ**	キュリー～ 不滅のはずの原子が壊れた 2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	原子核物理について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	原子核物理について予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	**授業テーマ**	フェルミ～ 最初の原子炉と原子爆弾
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	原子力について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	エンリコ・フェルミについて予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	**授業テーマ**	単位の世界統一 ～国際単位系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国際単位系について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	国際単位系について予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	ヘルツ～ 電磁波 1

第10回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	電磁波について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ハインリヒ・ヘルツについて予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	授業テーマ	電磁波2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	電磁波について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	電磁波について予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	授業テーマ	ニュートリノと超新星
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ニュートリノについて学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	超新星について予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	授業テーマ	素粒子物理学1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	素粒子について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	素粒子について予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	授業テーマ	宇宙の階層構造とダークマター
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	宇宙の階層構造について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ダークマターについて予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

スケジュールが変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

講義を中心とする。

評価方法

成績評価は平常点と定期試験による。
平常点は授業への参加状況・課題の提出等で総合的に判断する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
定期試験	○	○		

評価割合

平常点 (40 %)、定期試験 (60 %)。

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定なし。

参考図書

適宜指示。

ディプロマポリシーとの関連

人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につけます。

社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる力と、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる力を育てます。

オフィスアワー

なし。

学生へのメッセージ

数式はあまり用いません。
これまでの物理学・数学の履修経験は必要ありません。
必ず授業の復習をすること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50408031
講義名	教養の物理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13300C21

授業概要(教育目的)

この宇宙が何からできているか、現代科学の成果に基づいて概観します。
私たちが宇宙のどのような歴史の結果存在しているのか知ることと、身近な物質の構造が理解できることが目標です。

数式はあまり使わず、物理学の思考方法 (論理の展開) を追うことを重視します。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	物理学の基礎を理解する。 物理学は、この世界は何からできているのか、どのような法則にしたがっているのかを明らかにする学問である。物理学の基本と、それが発見されるまでの歴史を知る。
思考・判断の観点 (K)	物理学の思考方法 (論理的な思考) を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	イントロダクション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近代科学の成立について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	近代科学の成立について予習・復習する。
		120

	教室外学習の時間（分）	分
第2回	**授業テーマ**	ニュートン～ 強力なニュートン力学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ニュートン力学について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アイザック・ニュートンについて予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	**授業テーマ**	ケプラー～ 最後の占星術師
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ケプラーの惑星の法則について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ヨハネス・ケプラーについて予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	**授業テーマ**	ドルトン～ 原子論の再発見
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	原子論について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ジョン・ドルトンについて予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	**授業テーマ**	メンデレーエフ～ 元素には周期がある
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	周期表について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ドミトリ・メンデレーエフについて予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	**授業テーマ**	キュリー～ 不滅のはずの原子が壊れた
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	原子核物理について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	マリー・キュリーについて予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	**授業テーマ**	キュリー～ 不滅のはずの原子が壊れた 2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	原子核物理について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	原子核物理について予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	**授業テーマ**	フェルミ～ 最初の原子炉と原子爆弾
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	原子力について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	エンリコ・フェルミについて予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	**授業テーマ**	単位の世界統一 ～国際単位系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国際単位系について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	国際単位系について予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	ヘルツ～ 電磁波 1

第10回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	電磁波について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ハインリヒ・ヘルツについて予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	授業テーマ	電磁波2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	電磁波について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	電磁波について予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	授業テーマ	ニュートリノと超新星
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ニュートリノについて学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	超新星について予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	授業テーマ	素粒子物理学1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	素粒子について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	素粒子について予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	授業テーマ	宇宙の階層構造とダークマター
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	宇宙の階層構造について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ダークマターについて予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

スケジュールが変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

講義を中心とする。

評価方法

成績評価は平常点と定期試験による。
平常点は授業への参加状況・課題の提出等で総合的に判断する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
定期試験	○	○		

評価割合

平常点 (40 %)、定期試験 (60 %)。

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定なし。

参考図書

適宜指示。

ディプロマポリシーとの関連

人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につけます。

社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる力と、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる力を育てます。

オフィスアワー

なし。

学生へのメッセージ

数式はあまり用いません。
これまでの物理学・数学の履修経験は必要ありません。
必ず授業の復習をすること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50411031
講義名	自然史
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13370C21

授業概要(教育目的)

自然史とは、「時々刻々と変わっていく自然現象を、自然の歴史という観点でとらえ、観察し、記録しながら、自然観を養うことを目的とする」分野で、要約すると「自然の姿と生い立ちを探求する」分野と表現できる。生命誕生からヒトが出現し現在に至るまでの生物進化史のみならず、地球誕生からさまざまな岩石鉱物を生み出し大陸を形成した歴史や、宇宙誕生から星の進化に至る歴史まで、すべて自然史に含まれる。この授業では、時間の流れに沿う形で誕生以来の地球環境の変化とその変化に反応した生物の進化を中心に解説し、46億年におよぶ地球史・生命史、そして私たちヒトに連なる生命発展の経緯について理解を深める。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	宇宙138億年の歴史の中で主要な地質学的イベントを列挙できる 生物進化の流れについて概要を述べることができる
思考・判断の観点 (K)	地震や環境変動などがどのような過程によって生ずるのか論理的に述べることができる 生物進化はどのような要因で進み結果として方向付けられるのか、地球表層環境の変化と関連付けて説明できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分が住んでいる地球について長い時間軸に沿って考えることができ、生命や環境に関心をもつ
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	時空の進化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然史という学問が時間という指標で地質学上・進化学上のできごと（イベント）を扱う分野であることを説明し，宇宙誕生から現在での時間軸を概観する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	宇宙誕生から現在までの138億年の流れを時間軸に沿って復習し，「大きな」時間の理解に努める。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	宇宙の創生から太陽系の誕生まで
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今から約138億年前に誕生したとされる宇宙の構造を学び，その宇宙の中に私たちの太陽系が誕生するまでの課程を解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	天の川とは何か，どのような構造をしているのかについて事前に調べておく。 「何もない」宇宙空間で星ができるメカニズムについて再確認し，太陽系8個の惑星の特徴を復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	240分
第3回	**授業テーマ**	地球誕生／地球内部の構造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今から約46億年前に誕生したとされる地球創成の課程を説明し，時間を追って大きな変化をとげた地球内部の構造を解説する。 「生きている」地球の動きと地震・気候等との関係についても述べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	地球内部の構造と身近な問題である地震との関係について調べておく。 46億年の間，地球内部がどのように変化してきたのか，そしてそれが地球の環境にどのような影響を与えてきたのかを理解しておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	**授業テーマ**	地球史を概観する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主に表層環境の変化に着目して，地球46年の歴史を概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	地球内部の変化や宇宙からの影響が地球表層環境にどのように影響したか理解しておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	**授業テーマ**	地球カレンダーを作る
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地球史46億年を1年365日に換算し，地球史上重要なイベントの時期を実感しやすい時間軸で説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	地球カレンダーの考え方，計算方法について復習し理解する。また，地球カレンダー作成の課題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	360分
第6回	**授業テーマ**	生命誕生
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	著しい変化を遂げる地球表層環境の中で生命がどのようにして誕生したのか，いくつかの代表的な説を例に解説する。
	教室外学習(予	生命（生物）とは何であるか，生命体と無機物は何か違うのかを考えておく。

	習・復習)の内容	生命誕生の諸説を比較し，その長所・短所を説明できるよう復習する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第7回	**授業テーマ**	全球凍結と生物多様性の創出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	原生代の一大イベントである全球凍結の原因そして生命進化に及ぼした影響について解説し，その結果発展した生物群の特徴について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め，地球カレンダーで全球凍結を含む前後のイベントの時間的な位置づけについて理解を深めておく。 エディアカラ生物群の特徴・独自性について復習する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第8回	**授業テーマ**	古生代の世界
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	顕生代最初の時代である古生代全体を概観し，主として地球表層環境の推移と生物の応答について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	地球表層環境の変化が生物進化にどのような影響を及ぼすのか，復習すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	**授業テーマ**	古生代における生物発展－脊椎動物の進化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	古生代を通じて生物がどのように進化していったのか，魚類誕生から四肢類の出現までの課程を解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	脊椎動物の進化について，地球表層環境の変化に対応させて理解できるよう復習すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	**授業テーマ**	古生代末の生物大絶滅と恐竜の誕生
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	古生代末期に起こった地球史上最大の生物大量絶滅を解説し，その原因と結果が，以後長期の繁栄を誇ることになる恐竜類の出現に繋がった点を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	恐竜類の出現に関わる地球環境変動について理解できるよう復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	**授業テーマ**	中生代の世界
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大量絶滅からの復活と現代型生物の進化について概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	地球史の中で中生代がどのような位置付けとなるのか，地球カレンダーによる解釈も踏まえ理解できるよう復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	中生代末の生物大絶滅と恐竜の絶滅

第12回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小惑星の落下等の原因によって訪れた中生代の終焉を，地球環境変動と恐竜類や中生代の代表的な生物の絶滅という観点から説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	中生代の生物の多くが絶滅した理由について，環境変動という観点から理解できるよう復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	授業テーマ	新生代の世界
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中生代が終わり新生代に入り，生物がどのように進化・発展していったか，哺乳類の発展に焦点を当てて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	新生代に入り哺乳類が発展した理由について述べられるように復習する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	授業テーマ	人類の進化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今から約700万年前に出現した人類。その発展の過程と現在のように全世界に分布する特異な生物種へと進化した経緯について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	人類とは何か，また人類進化の歴史について説明できるよう復習すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第15回	授業テーマ	未来の地球／今までの振り返り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地球はこれからどうなるのかいくつかの仮説が出されているので，これらの仮説に基づき惑星としての地球のこれからを解説する。また，再度，地球カレンダーに基づき，地球46億年の歴史を通覧する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	地球の未来について，現在の環境や科学技術の発展などの状況から考えられる範囲でまとめて授業に臨むこと。 これまでの授業内容を総復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	420分

学習計画注記

授業で分かりにくかった点をそのままにせず、担当教員のオフィスアワー等を利用して理解しておくこと。

学生へのフィードバック方法

ハンドアウトや映像資料、模型や化石標本等を用いて、講義形式で授業を進める。授業の理解度を確認するため、毎授業理解度アンケートを実施する。そのアンケートで理解度が不十分と判断される内容については、次の授業の冒頭に改めて説明する。また、課題についてはコメントを付けて返却し、授業にて解説する。

評価方法

授業に積極的に参加し、自身の理解度を客観的に捉えようとしているか。地球の歴史と生物の進化を中心とした知識を十分に得ているかを、下記の基準で評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

アンケート	○		○	
課題	○	○	○	
定期試験	○	○		○

評価割合

毎回実施するアンケートへの回答状況10%、課題10%、定期試験80%。

使用教科書名(ISBN番号)

必要に応じて事前にハンドアウト（資料）を配付する。

参考図書

特に専門書は必要としないが、高等学校で使用した「生物基礎」の生物の共通性と多様性、および「生物」の生物の進化と系統の単元が参考となる。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】地球の歴史、生物の進化を学ぶことで、自然の多様性について理解することができます。
【思考・判断】地球環境の成立を知ることから、そのあるべき姿について判断する基礎を身につけることができる。

オフィスアワー

後期 月曜3限（町田キャンパスから移動のため変動があります）。非常勤講師室（1116）。
相談を希望する学生は、事前にGoogleClassroomの連絡機能を用いて予約をしてください。

学生へのメッセージ

今から約46億年前に地球は誕生しました。それからの地球環境の変化は、想像を絶するものが有り、その中で生命が誕生し進化して、今の私たちに繋がっています。その、遠大で変化に富む生命の変遷を理解し、私たち人類という種族の誕生と発展について考えてもらいたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	履修者数と利用教室の状況によりますが、授業の一部では実物の化石を用いてその特徴と進化の過程を考え、議論してもらう時間を作ります。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50412001
講義名	自然科学に親しむ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	佐伯 恵太	指定なし

ナンバリング

X12140M21

授業概要(教育目的)

自然科学の教養は、私たちが日常生活を送る上で必要不可欠な知識である。しかしながら、それらが生活の中で当たり前の存在であるがゆえに、私たちはその不思議に目を留めることが少ない。そこで本講義では、学生の皆さんが、身近な自然科学への理解を深め、科学的な思考・科学的な視点を持つことを目的として展開する。具体的には、科学の基本的な原則や方法論、自然界の理解、科学技術の日常生活への応用や現代社会への影響、科学的な思考などについて、事例を紹介しながら、自然科学の魅力と実用性を伝える。さらに、講師から知識として教わるだけでなく、自ら自然科学の最新の研究成果や社会との関連について調べ、情報を精査し、相手に伝わるよう工夫して発表を行うことで、授業終了後も自然科学を積極的に学ぶ意欲と、科学と社会の問題を自分事化して考える姿勢を育む。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自然科学に関する歴史的発見や最新の研究成果などについて学び、その多様性と共に、普遍的な性質についても知り、「自然科学とは何か」を自分の言葉で説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	科学的なものの見方や考え方を活用し、インターネット上の自然科学に関する記述などに関して、情報の真偽や正確性について判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内で積極的に発言し、グループワークにも主体的に関わること。また、授業外においても自然科学に関する情報の収集に努めること。
技術・表現の観点 (A)	自然科学に関してグループで調べた内容をもとにスライドを作成する技術、作成したスライドをもとに発表する技術の双方を身に付け、効果的な発表ができるこ

	と。

学習計画

自然科学に親しむ

第1回	**授業テーマ**	「科学/自然科学」とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サイエンスコミュニケーターとしての講師の活動紹介を通して、「自然科学」の分野がいかに多様かつ重要で、社会と密接に関わっているのかを伝える。その上で、学生ひとりひとりが持っている「科学」のイメージを確認し合いながら、「科学」や「自然科学」の定義やその実例を伝え、「（自然）科学」そのものを正しく理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「自然科学」の定義とその捉え方の多様さについて授業スライドを復習して理解すること。また、テレビやネットの記事などで自然科学に関するニュースを見て、次回授業で簡単に発表できるようにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	**授業テーマ**	100分でざっくりわかる科学史
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然科学の分野の歴史的な発見をピックアップして紹介する。歴史的な大発見の繰り返しの中で、今日の豊かな暮らしや社会が実現していることを感じてもらう。興味深いエピソードを掻い摘んで解説する。また、初学者が科学史に親しむのに適した書籍や漫画、アニメ、動画などについて授業でも取り上げつつ、授業内で扱いきれないおすすめのコンテンツについても紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で紹介したコンテンツの中から特に興味が持てそうなものを選択し、視聴する。次回の授業時に感想を発表できるようにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	100分でざっくりわかる最新科学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第2回とは対照的に最新の研究成果や科学技術について紹介する。生物・化学・物理などの分野における最新の研究成果と社会との関わりについて紹介する。授業の後半では感想をシェアするだけでなく、最新の科学技術の応用の可能性について、自由な発想で発表してもらい議論する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1回～3回までの内容を振り返り、授業を通して得た気づきや学びについて、レポートにまとめて提出する。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	科学リテラシーとは何か：今身につけるべき科学リテラシー
	学習内(	

第4回	容 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	科学的なものの見方や考え方について、これまでに学んできた内容と絡めながらレクチャーする。具体的な研究の事例を取り上げ、自然科学分野の研究のプロセスを紹介する。また、研究成果や科学に関する情報を読み解く側としての心得、留意すべき事柄についても取り上げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ネット上の科学に関する記事や動画の中から、科学的な問題点（情報の誤りや誇張、論理の飛躍など）を見つけ出し、次回の授業で発表すること。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	統計の基本 ～数字に騙されないために
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	科学リテラシーとも関わる統計の基本について、平均値や中央値、有意差検定などを取り上げる。年収などの身近な話題も取り上げながら、実践を通して科学的なデータの扱い方、解釈の仕方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	巷に溢れる様々な数字（データ）について、その平均値や中央値などを求め、直感的な自身の認識と照らし合わせてみることで理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	科学と社会とつなぐサイエンスコミュニケーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サイエンスコミュニケーションをテーマに、これまで取り上げてきた自然科学の諸分野と社会の関わりについて改めて学ぶ。また、授業後半（第7回以降）の「自ら調べて発表するワーク」に向けて、伝え方などの基本を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業で扱った中で特に興味を持った科学に関する内容ついて、家族や友人などに伝え、その結果をレポートにまとめて提出する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	家政学の中のサイエンス（自然科学）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学生の皆さんにとって関わりの深い（衣食住・保育などの）家政学の分野の中から、自然科学、特に最新の科学技術と関わる内容などを取り上げて紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家政学と関わりのある自然科学（特に科学技術）について調べ、次回の授業時に発表する。この発表は全員が行うものとする。

	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	プレゼン：家政学×自然科学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事前に各々調べてきた「家政学×自然科学」を全体向けに発表する（発表形式などは授業内で共有）。投票を行い、最終発表で扱うテーマを決定する。選ばれたそれぞれのテーマを担当するグループを作成し、今後はグループ単位で役割分担して、リサーチ・資料作り・発表を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループで発表するテーマに関するリサーチを行い、次回のグループワーク時に活用できるよう情報をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	「家政学×自然科学」リサーチ＆資料作り①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	チームで役割分担して、情報を集める。早いグループは発表用の資料作成も並行して進める。講師からは情報収集の方法、得られた情報の精査の仕方を中心にレクチャーを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自担当したパートのリサーチ及び資料作りを行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	「家政学×自然科学」リサーチ＆資料作り②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回に引き続き、リサーチ・発表スライド作成を進める。講師からは、スライド作成にあたり、情報の取捨選択や要点の整理についてアドバイスを行い、重要な観点の抜け漏れ等も適宜指摘する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	担当したパートのスライド作成を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	「家政学×自然科学」スライド作成＆発表準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	スライドの仕上げと発表の準備、練習を行う。発表練習においてはサイエンスコミュニケーションの観点から「伝え方・表現の仕方」の指導も行

第11回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	う。発表練習を行うことで、要点・論点の整理が出来る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で紹介した伝え方、表現の仕方に関する動画や記事などを読むこと。また、可能な限り知識として覚えるのではなく、実際に誰かを相手に「伝える」ことを通してスキルとしての習得に励むこと。
	教室外学習の時間(分)	190分
第12回	授業テーマ	「家政学×自然科学」発表練習＆フィードバック
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	用意した発表用スライドを使って講師に対して発表を行い、フィードバックを得た後、グループ内でスライドの内容、発表の仕方の両面から改善案について議論し、ブラッシュアップを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表当日に備え、各々発表練習を行う。1人での練習ではなく、相手に聞いてもらう形で練習できると尚良い。
	教室外学習の時間(分)	190分
第13回	授業テーマ	「家政学×自然科学」発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各グループで全体向けに発表を行う。発表終了後には講師と学生からフィードバック。また、講師も「家政学×自然科学」に関して発表を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身（自グループ）の発表を振り返り、良かった点と改善できる点を洗い出す。その際、面白さやわかりやすさという観点だけでなく、「科学的に正しく伝わるかどうか」「興味を持ってもらえるかどうか」の観点で振り返ること。
	教室外学習の時間(分)	190分
第14回	授業テーマ	「自然科学に親しむ」振り返り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発表を含めた授業全体の振り返りを行う。各々の気づきや学びを全体向けに発表して共有し、講師からもフィードバックを行う。後半はレポート作成の時間とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポート作成が授業時間内に終わらなかった場合、翌日中に提出すること。授業全体を振り返り、自然科学の諸分野の内容、性質、科学的なものの見方や考え方に関する理解を深めること。
	教室外学	

	習の時間（分）	190分

学習計画注記

履修者数に合わせてグループの人数や各グループの発表時間を調整する。それに伴い、授業のスケジュールが変更になる可能性があります。

学生へのフィードバック方法

授業中に発言の機会を設けてそれに対してコメントすると共に、第3回、6回後のレポートについてはそれぞれ次回の授業の冒頭で紹介し、フィードバックを行う。グループワーク中も各グループを見回り、適宜フィードバックを行う。

評価方法

・平常点については、出席率および、授業内活動（発言やグループワークでの積極性）について評価する
・中間レポートについては、自由記述形式で、授業の内容の理解度や、学んだ知識の応用について評価を行う。
・最終レポートも同様に、授業の内容の理解度や、学んだ知識の応用について評価を行う。
・発表は、スライドの作成および発表の技術を中心に、積極性なども加味して評価を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
中間レポート①	○			
中間レポート②		○		
最終レポート	○	○		
発表				○

評価割合

平常点20%、中間レポート15%×2回、最終レポート30%、発表20%

参考図書

世界でいちばんやさしい 教養の教科書 [自然科学の教養] / 児玉克順(著)・Gakken

参考URL

https://hon.gakken.jp/book/1340689000

ディプロマポリシーとの関連

・人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力

学生へのメッセージ

・出欠は毎回確認する
・授業の運営、詳細については初回授業時に口頭で説明を行う
・自然科学（理系分野）が得意でない学生、高校時代に理系科目を詳しく学んでこなかった学生も歓迎する

「自然科学に親しむ」という講義名の通り、自然科学（理系分野）の深い知識の習得は目指しません。自然科学というものがいかに社会や皆さん自身と密接に関わっていて重要なものであるかを感じていただき、興味をもつきっかけの場になればと考えています。難しい数式なども使用せず、面白いトピックを中心に扱いますので、「科学が苦手」と感じている方こそ、ぜひ受講を検討してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	講師はサイエンスコミュニケーターとして、科学イベントの司会、サイエンスショーの企画・出演、科学を題材にした動画の制作など、多岐にわたる実践を行っており、授業内では自然科学の知識だけでなく、科学と社会の関わりや、科学の伝え方に関しても実践経験をもとにしたレクチャーを行う。
アクティブ・ラーニング	○	授業の後半はグループワークが中心となり、講師はリサーチや発表準備のサポートに回る。また、授業の前半においても、一人一人の発表の機会を重視し、能動的に授業に取り組める環境づくりを行う。
情報リテラシー教育	○	主にインターネットを活用した自然科学に関する情報取得の方法についてレクチャーする。また、調べた内容を効果的にプレゼンする方法についても指導する。
ICT活用	○	授業内外での情報収集、授業での最終発表にはPC（タブレット端末等）を利用し、資料作成等に役立つwebサービスなどについても適宜紹介する。

講義コード	G50412031
講義名	自然科学に親しむ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	佐伯　恵太	指定なし

授業概要(教育目的)

自然科学の教養は、私たちが日常生活を送る上で必要不可欠な知識である。しかしながら、それらが生活の中で当たり前の存在であるがゆえに、私たちはその不思議に目を留めることが少ない。そこで本講義では、学生の皆さんが、身近な自然科学への理解を深め、科学的な思考・科学的な視点を持つことを目的として展開する。具体的には、科学の基本的な原則や方法論、自然界の理解、科学技術の日常生活への応用や現代社会への影響、科学的な思考などについて、事例を紹介しながら、自然科学の魅力と実用性を伝える。さらに、講師から知識として教わるだけでなく、自ら自然科学の最新の研究成果や社会との関連について調べ、情報を精査し、相手に伝わるよう工夫して発表を行うことで、授業終了後も自然科学を積極的に学ぶ意欲と、科学と社会の問題を自分事化して考える姿勢を育む。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自然科学に関する歴史的発見や最新の研究成果などについて学び、その多様性と共に、普遍的な性質についても知り、「自然科学とは何か」を自分の言葉で説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	科学的なものの見方や考え方を活用し、インターネット上の自然科学に関する記述などに関して、情報の真偽や正確性について判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	科学的なものの見方や考え方を活用し、インターネット上の自然科学に関する記述などに関して、情報の真偽や正確性について判断することができる。
技術・表現の観点 (A)	自然科学に関してグループで調べた内容をもとにスライドを作成する技術、作成したスライドをもとに発表する技術の双方を身に付け、効果的な発表ができること。

学習計画

学習計画注記

履修者数に合わせてグループの人数や各グループの発表時間を調整する。それに伴い、授業のスケジュールが変更になる可能性があります。

学生へのフィードバック方法

授業中に発言の機会を設けてそれに対してコメントすると共に、第3回、6回後のレポートについてはそれぞれ次回の授業の冒頭で紹介し、フィードバックを行う。グループワーク中も各グループを見回り、適宜フィードバックを行う。

評価方法

・平常点については、出席率および、授業内活動（発言やグループワークでの積極性）について評価する
・中間レポートについては、自由記述形式で、授業の内容の理解度や、学んだ知識の応用について評価を行う。
・最終レポートも同様に、授業の内容の理解度や、学んだ知識の応用について評価を行う。
・発表は、スライドの作成および発表の技術を中心に、積極性なども加味して評価を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
中間レポート①	○			
中間レポート②		○		
最終レポート	○	○		
発表				○

評価割合

平常点20%、中間レポート15%×2回、最終レポート30%、発表20%

参考図書

世界でいちばんやさしい 教養の教科書 [自然科学の教養] / 児玉克順(著)・Gakken

参考URL

https://hon.gakken.jp/book/1340689000

ディプロマポリシーとの関連

・人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力

学生へのメッセージ

・出欠は毎回確認する
・授業の運営、詳細については初回授業時に口頭で説明を行う
・自然科学（理系分野）が得意でない学生、高校時代に理系科目を詳しく学んでこなかった学生も歓迎する
「自然科学に親しむ」という講義名の通り、自然科学（理系分野）の深い知識の習得は目指しません。自然科学というものがいかに社会や皆さん自身と密接に関わっていて重要なものであるかを感じていただき、興味をもつきっかけの場になればと考えています。難しい数式なども使用せず、面白いトピックを中心に扱いますので、「科学が苦手」と感じている方こそ、ぜひ受講を検討してください。

教育等の取組み状況

	該当

	有無	概要
実務経験を活かした授業	○	講師はサイエンスコミュニケーターとして、科学イベントの司会、サイエンスショーの企画・出演、科学を題材にした動画の制作など、多岐にわたる実践を行っており、授業内では自然科学の知識だけでなく、科学と社会の関わりや、科学の伝え方に関しても実践経験をもとにしたレクチャーを行う。
アクティブ・ラーニング	○	授業の後半はグループワークが中心となり、講師はリサーチや発表準備のサポートに回る。また、授業の前半においても、一人一人の発表の機会を重視し、能動的に授業に取り組める環境づくりを行う。
情報リテラシー教育	○	主にインターネットを活用した自然科学に関する情報取得の方法についてレクチャーする。また、調べた内容を効果的にプレゼンする方法についても指導する。
ICT活用	○	授業内外での情報収集、授業での最終発表にはPC（タブレット端末等）を利用し、資料作成等に役立つwebサービスなどについても適宜紹介する。

講義コード	G50501001
講義名	法学入門（日本国憲法）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	本間 啓誉	指定なし

ナンバリング

X13400M21

授業概要(教育目的)

法律は、日本社会における様々なルールを定めたものです。代表的なものとしては、社会の中で禁止される行為を定めている刑法や、日常生活における契約などを定めている民法などがあります。社会の中で何かトラブルや問題が生じたときは、これらの法律を一つの指針として、問題を解決していくことが必要になりますが、法律に全ての解決策が書かれているわけでありません。そこで、ルールである法律の条文の意味を考えたりしながら、問題を解決していくことが必要となります。本授業では、まず、このような法律的に物事を考える思考方法を習得することを目的とします。
そして、本授業では、法的思考方法の習得の題材として憲法を学習します。憲法は、抽象的でわかりにくいイメージがあるかもしれませんが、私たちの生活に密接に関係しています。憲法の条文や、実際に起きた憲法問題に触れつつ、憲法を使って物事を考え、説得的に自己の考えを他者に伝えることを目的とします。

履修条件

教育職員免許状希望者は必ず履修すること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	憲法の意味や個別の条文の内容について理解し、法的思考方法の基礎を習得する。
思考・判断の観点 (K)	過去において生じた憲法問題に対する考え（判例など）を理解し、自分自身の見解を論理的に説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	現在生じていたり、将来生じる可能性のある社会問題について、憲法的観点や法的観点から、自分自身の見解を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	相手に対して、自己の見解や考えを説得的に説明したり、相手の見解を論理的に理解することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス＋導入
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンスとして、本講義の進行や成績評価等について説明します。本講義の導入として、法解釈などの法律学習の基本について説明し、憲法を学習する意義や学習の上で必要となる基本的事項を説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布するレジュメや資料を読んで、授業内容の復習をし、次回以降の授業に備えてください。 より理解を深めたい場合には、参考図書の該当箇所(Unit0)を読んでみてください。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	人権総論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別の基本的人権の保障について学習する前提として必要となる事項について説明します。主に、基本的人権の意義や基本的人権の保障を受ける人の範囲や保障のあり方などについて学習します。 講義の中では、憲法学説や判例と呼ばれる裁判所の立場を紹介しつつ、法律学習の方法について、具体的に学習します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布するレジュメや資料を読んで、授業内容の復習をし、次回以降の授業に備えてください。 より理解を深めたい場合には、参考図書の該当箇所（Unit1)を読んでみてください。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	基本的人権①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	思想・良心の自由について学習します。思想良心の意義やそれが自由であることの意義を説明した上で、過去の判例を元にした事例を提示しますので、どのような問題があるのか・どのように判断すべきかを考えてもらいます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布するレジュメや資料を読んで、授業内容の復習をし、次回以降の授業に備えてください。 より理解を深めたい場合には、参考図書の該当箇所（Unit14)を読んでみてください。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	基本的人権②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	信教の自由について学習します。信教の自由の意義や政教分離原則について説明した上で、過去の判例を元にした事例を提示しますので、どのような問題があるのか・どのように判断すべきかを考えてもらいます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布するレジュメや資料を読んで、授業内容の復習をし、次回以降の授業に備えてください。 より理解を深めたい場合には、参考図書の該当箇所（Unit15・16)を読んでみてください。

	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	基本的人権③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	表現の自由について学習します。表現の自由の意義や表現の自由を規制する方法などについて説明した上で、表現の自由が保護されることによるメリット・デメリットについて具体的な事例を素材にして、それぞれ考えてもらいます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布するレジュメや資料を読んで、授業内容の復習をし、次回以降の授業に備えてください。 より理解を深めたい場合には、参考図書の該当箇所（Unit17・18・19)を読んでみてください。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	基本的人権④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	経済的自由（職業選択の自由・財産権）について学習します。それぞれの自由の意義やそれが保障されていることの意義を説明した上で、具体的な事案を素材にして、経済的自由のあり方について、それぞれ考えてもらいます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布するレジュメや資料を読んで、授業内容の復習をし、次回以降の授業に備えてください。 より理解を深めたい場合には、参考図書の該当箇所（Unit21・22)を読んでみてください。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	**授業テーマ**	基本的人権⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会権（生存権・教育を受ける権利・労働基本権）について学習します。憲法レベルでの基本的な説明を行った上で、実際に社会権を具体化した法律を参照しつつ、現行法が憲法の要請に応えることができているかについて、それぞれ考えてもらいます。 教育を受ける権利については、教員志望の履修生がいることを前提に、判例や学説・現行法の規定を詳細に検討する予定です。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布するレジュメや資料を読んで、授業内容の復習をし、次回以降の授業に備えてください。 より理解を深めたい場合には、参考図書の該当箇所（Unit24・25・26)を読んでみてください。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	基本的人権⑥
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人身の自由・刑事手続に関する権利について学習します。刑事訴訟法の規定を参照しつつ、捜査や裁判に関する手続を説明します。 そのほか、裁判員裁判に関する説明を行う予定です。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布するレジュメや資料を読んで、授業内容の復習をし、次回以降の授業に備えてください。 より理解を深めたい場合には、参考図書の該当箇所（Unit23)読んでみたり、裁判員裁判に関する情報をインターネット上で検索してみて

		ください。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	基本的人権⑦
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	包括的人権（幸福追求権）について学習します。過去の判例等を読みながら幸福追求権について説明した上で、幸福追求権の現代的意義（主に情報コントロール）について、具体的な事例を素材に検討します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布するレジュメや資料を読んで、授業内容の復習をし、次回以降の授業に備えてください。 より理解を深めたい場合には、参考図書の該当箇所（Unit28・29)を読んでみてください。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	基本的人権⑧
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平等原則・平等権について学習します。平等権について基本的な説明を行った上で、実際の判例や裁判例を素材にして、投票価値・家族・性別に関する平等などの現代的問題について、それぞれ考えてもらいます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布するレジュメや資料を読んで、授業内容の復習をし、次回以降の授業に備えてください。 より理解を深めたい場合には、参考図書の該当箇所（Unit 27)を読んでみてください。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	統治機構①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	三権分立やその歴史的経緯について説明した上で、天皇や国民代表である国会の組織や権限について学習します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布するレジュメや資料を読んで、授業内容の復習をし、次回以降の授業に備えてください。 より理解を深めたい場合には、参考図書の該当箇所（Unit２・３・４・５)を読んでみてください。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	統治機構②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	内閣・裁判所の組織や権限について説明し、国会との相互関係について学習します。
	教室外学習(予習・復習)の内	配布するレジュメや資料を読んで、授業内容の復習をし、次回以降の授業に備えてください。 より理解を深めたい場合には、参考図書の該当箇所（Unit８・９・10)を読んでみてください。

	容	。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	統治機構③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	憲法訴訟・平和主義・地方自治について学習します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布するレジュメや資料を読んで、授業内容の復習をし、次回以降の授業に備えてください。 より理解を深めたい場合には、参考図書の該当箇所 （Unit10・11・12)を読んでみてください。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	授業テーマ	全体の復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本講義で扱った内容について、復習を行いつつ、改めて、現代の憲法問題に関して、それぞれ考えてもらいます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業で配布されたレジュメや資料をよく読んで、自分なりの考えを整理してみてください。
	教室外学習の時間（分）	360分

学生へのフィードバック方法

コメントシートの提出などで、履修者の質問や考えを把握し、次回授業でそれに対する回答やコメントを行います。

評価方法

ルーブリックに基づいて評価し、ルーブリックについては授業内で説明する機会を設けます。成績は方式は、出席を含む授業内での取り組み＋期末試験によって行います。期末試験の形式については、履修者と相談しつつ決定します。詳しい評価基準などについては、第1回の授業内で説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
出席を含む授業内での取り組み		○	○	
定期試験	○	○	○	○
	○	○	○	○

評価割合

①出席を含む授業内での取り組み(30%)、定期試験（70%）

使用教科書名(ISBN番号)

毎回、授業内容を記載したレジュメや関係する資料を配布します。

参考図書

片桐直人＝井上武史＝大林啓吾『一歩先への憲法入門 第２版』（有斐閣、2021年）ISBN：978-4-641-22823-8

ディプロマポリシーとの関連

「人間社会と自然の多様性」を憲法および法的思考に基づいて理解し、その多様性を包摂するあるべきルールの在り方を的確に判断して提案できる能力の基礎を身につける。

学生へのメッセージ

憲法をはじめとする法学の学習は、難しいイメージがあるかもしれません。しかし、憲法などの法律は、日常生活に密接に関連したものですので、本授業を通じて、法律やその考え方に触れつつ、これからの社会について考えていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業のテーマに関わる社会問題などについて、受講生の考えを発表する機会を設定します。
情報リテラシー教育	○	憲法を含む法学学習をしていく上で、法律情報へのアクセス方法を知ることは、重要です。いわゆるリーガル・リサーチの機会を設定します。
ICT活用		

講義コード	G50501002
講義名	法学入門（日本国憲法）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	本間 啓誉	指定なし

ナンバリング

X13400M21

授業概要(教育目的)

法律は、日本社会における様々なルールを定めたものです。代表的なものとしては、社会の中で禁止される行為を定めている刑法や、日常生活における契約などを定めている民法などがあります。社会の中で何かトラブルや問題が生じたときは、これらの法律を一つの指針として、問題を解決していくことが必要になりますが、法律に全ての解決策が書かれているわけでありません。そこで、ルールである法律の条文の意味を考えたりしながら、問題を解決していくことが必要となります。本授業では、まず、このような法律的に物事を考える思考方法を習得することを目的とします。
そして、本授業では、法的思考方法の習得の題材として憲法を学習します。憲法は、抽象的でわかりにくいイメージがあるかもしれませんが、私たちの生活に密接に関係しています。憲法の条文や、実際に起きた憲法問題に触れつつ、憲法を使って物事を考え、説得的に自己の考えを他者に伝えることを目的とします。

履修条件

教育職員免許状希望者は必ず履修すること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	憲法の意味や個別の条文の内容について理解し、法的思考方法の基礎を習得する。
思考・判断の観点 (K)	過去において生じた憲法問題に対する考え（判例など）を理解し、自分自身の見解を論理的に説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	現在生じていたり、将来生じる可能性のある社会問題について、憲法的観点や法的観点から、自分自身の見解を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	相手に対して、自己の見解や考えを説得的に説明したり、相手の見解を論理的に理解することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス＋導入
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンスとして、本講義の進行や成績評価等について説明します。本講義の導入として、法解釈などの法律学習の基本について説明し、憲法を学習する意義や学習の上で必要となる基本的事項を説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布するレジュメや資料を読んで、授業内容の復習をし、次回以降の授業に備えてください。 より理解を深めたい場合には、参考図書の該当箇所(Unit0)を読んでみてください。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	人権総論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別の基本的人権の保障について学習する前提として必要となる事項について説明します。主に、基本的人権の意義や基本的人権の保障を受ける人の範囲や保障のあり方などについて学習します。 講義の中では、憲法学説や判例と呼ばれる裁判所の立場を紹介しつつ、法律学習の方法について、具体的に学習します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布するレジュメや資料を読んで、授業内容の復習をし、次回以降の授業に備えてください。 より理解を深めたい場合には、参考図書の該当箇所（Unit1)を読んでみてください。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	基本的人権①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	思想・良心の自由について学習します。思想良心の意義やそれが自由であることの意義を説明した上で、過去の判例を元にした事例を提示しますので、どのような問題があるのか・どのように判断すべきかを考えてもらいます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布するレジュメや資料を読んで、授業内容の復習をし、次回以降の授業に備えてください。 より理解を深めたい場合には、参考図書の該当箇所（Unit14)を読んでみてください。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	基本的人権②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	信教の自由について学習します。信教の自由の意義や政教分離原則について説明した上で、過去の判例を元にした事例を提示しますので、どのような問題があるのか・どのように判断すべきかを考えてもらいます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布するレジュメや資料を読んで、授業内容の復習をし、次回以降の授業に備えてください。 より理解を深めたい場合には、参考図書の該当箇所（Unit15・16)を読んでみてください。

	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	基本的人権③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	表現の自由について学習します。表現の自由の意義や表現の自由を規制する方法などについて説明した上で、表現の自由が保護されることによるメリット・デメリットについて具体的な事例を素材にして、それぞれ考えてもらいます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布するレジュメや資料を読んで、授業内容の復習をし、次回以降の授業に備えてください。 より理解を深めたい場合には、参考図書の該当箇所（Unit17・18・19)を読んでみてください。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	基本的人権④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	経済的自由（職業選択の自由・財産権）について学習します。それぞれの自由の意義やそれが保障されていることの意義を説明した上で、具体的な事案を素材にして、経済的自由のあり方について、それぞれ考えてもらいます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布するレジュメや資料を読んで、授業内容の復習をし、次回以降の授業に備えてください。 より理解を深めたい場合には、参考図書の該当箇所（Unit21・22)を読んでみてください。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	**授業テーマ**	基本的人権⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会権（生存権・教育を受ける権利・労働基本権）について学習します。憲法レベルでの基本的な説明を行った上で、実際に社会権を具体化した法律を参照しつつ、現行法が憲法の要請に応えることができているかについて、それぞれ考えてもらいます。 教育を受ける権利については、教員志望の履修生がいることを前提に、判例や学説・現行法の規定を詳細に検討する予定です。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布するレジュメや資料を読んで、授業内容の復習をし、次回以降の授業に備えてください。 より理解を深めたい場合には、参考図書の該当箇所（Unit24・25・26)を読んでみてください。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	基本的人権⑥
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人身の自由・刑事手続に関する権利について学習します。刑事訴訟法の規定を参照しつつ、捜査や裁判に関する手続を説明します。 そのほか、裁判員裁判に関する説明を行う予定です。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布するレジュメや資料を読んで、授業内容の復習をし、次回以降の授業に備えてください。 より理解を深めたい場合には、参考図書の該当箇所（Unit23)読んでみたり、裁判員裁判に関する情報をインターネット上で検索してみて

		ください。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	基本的人権⑦
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	包括的人権（幸福追求権）について学習します。過去の判例等を読みながら幸福追求権について説明した上で、幸福追求権の現代的意義（主に情報コントロール）について、具体的な事例を素材に検討します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布するレジュメや資料を読んで、授業内容の復習をし、次回以降の授業に備えてください。 より理解を深めたい場合には、参考図書の該当箇所（Unit28・29)を読んでみてください。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	基本的人権⑧
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平等原則・平等権について学習します。平等権について基本的な説明を行った上で、実際の判例や裁判例を素材にして、投票価値・家族・性別に関する平等などの現代的問題について、それぞれ考えてもらいます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布するレジュメや資料を読んで、授業内容の復習をし、次回以降の授業に備えてください。 より理解を深めたい場合には、参考図書の該当箇所（Unit 27)を読んでみてください。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	統治機構①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	三権分立やその歴史的経緯について説明した上で、天皇や国民代表である国会の組織や権限について学習します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布するレジュメや資料を読んで、授業内容の復習をし、次回以降の授業に備えてください。 より理解を深めたい場合には、参考図書の該当箇所（Unit２・３・４・５)を読んでみてください。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	統治機構②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	内閣・裁判所の組織や権限について説明し、国会との相互関係について学習します。
	教室外学習(予習・復習)の内	配布するレジュメや資料を読んで、授業内容の復習をし、次回以降の授業に備えてください。 より理解を深めたい場合には、参考図書の該当箇所（Unit８・９・10)を読んでみてください。

	容	。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	統治機構③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	憲法訴訟・平和主義・地方自治について学習します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布するレジュメや資料を読んで、授業内容の復習をし、次回以降の授業に備えてください。 より理解を深めたい場合には、参考図書の該当箇所 （Unit10・11・12)を読んでみてください。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	授業テーマ	全体の復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本講義で扱った内容について、復習を行いつつ、改めて、現代の憲法問題に関して、それぞれ考えてもらいます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業で配布されたレジュメや資料をよく読んで、自分なりの考えを整理してみてください。
	教室外学習の時間（分）	360分

学生へのフィードバック方法

コメントシートの提出などで、履修者の質問や考えを把握し、次回授業でそれに対する回答やコメントを行います。

評価方法

ルーブリックに基づいて評価し、ルーブリックについては授業内で説明する機会を設けます。成績は方式は、出席を含む授業内での取り組み＋期末試験によって行います。期末試験の形式については、履修者と相談しつつ決定します。詳しい評価基準などについては、第1回の授業内で説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
出席を含む授業内での取り組み		○	○	
定期試験	○	○	○	○
	○	○	○	○

評価割合

①出席を含む授業内での取り組み(30%)、定期試験（70%）

使用教科書名(ISBN番号)

毎回、授業内容を記載したレジュメや関係する資料を配布します。

参考図書

片桐直人＝井上武史＝大林啓吾『一歩先への憲法入門 第２版』（有斐閣、2021年）ISBN：978-4-641-22823-8

ディプロマポリシーとの関連

「人間社会と自然の多様性」を憲法および法的思考に基づいて理解し、その多様性を包摂するあるべきルールの在り方を的確に判断して提案できる能力の基礎を身につける。

学生へのメッセージ

憲法をはじめとする法学の学習は、難しいイメージがあるかもしれません。しかし、憲法などの法律は、日常生活に密接に関連したものですので、本授業を通じて、法律やその考え方に触れつつ、これからの社会について考えていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業のテーマに関わる社会問題などについて、受講生の考えを発表する機会を設定します。
情報リテラシー教育	○	憲法を含む法学学習をしていく上で、法律情報へのアクセス方法を知ることは、重要です。いわゆるリーガル・リサーチの機会を設定します。
ICT活用		

講義コード	G50501031
講義名	法学入門（日本国憲法）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	江川 剛	指定なし

ナンバリング

X13400C21

授業概要(教育目的)

はじめに、法および法律学の基礎を概観し、私たちの生活の中で、法律や憲法をどのように活用すればよいのか、法律の作用や憲法の役割を考えてみる。次に、日本国憲法が保障する基本的人権について、憲法訴訟におけるリーディング・ケースを考察し、今日の基本的人権をめぐる問題状況を明らかにする。後半は、日本国憲法の理念から現実の憲法政治の問題状況を分析する。とりわけ、国民主権のもとにおける国会の役割と権能、行政の肥大化現象と地方行政改革、裁判所の人権保障機関としての役割、また、憲法改正や平和主義の意味などについて考察する。

履修条件

教育職員免許状希望者は必修。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	憲法を頂点とした国内法の構造を理解し、憲法保障（例えば、裁判所の法令審査権）について説明できるようになる。
思考・判断の観点 (K)	人権に関する判例を考察し、裁判所の判断が憲法の解釈に適合したものかどうかを指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	弱者（子ども、高齢者、女性、障がい者など）の人権に関心をもち、配慮できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

授業テーマ	I憲法総論 (1) 法律学と憲法学

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	権利・義務関係の内容・手続を定めた法令を分類しながら法令の解釈・適用を学ぶのが法律学。憲法は国家権力を制限する国の基本法であって、公権を定めた高次の法（最高法規）を学問対象とするのが憲法学であることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第1章の「憲法の意味」「憲法の分類」「憲法規範の特性」（2～12ページ）を読んでおくこと 復習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	(2) 憲法の歴史と憲法の基本原理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヨーロッパの近代市民革命を経て、権力が一人の人間（君主）や一つの機関に集中しない工夫として権力分立制が生み出され、国家が人びとの権利を侵害してはならないとしたのが、人権保障規定（権利章典）であったことを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章の「人権理念と歴史」「基本権の類型」「基本権の享有主体」（22～31ページ）、教科書第12章の「国民主権と象徴天皇制」（140～151ページ）を読んでおくこと 復習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	195分
第3回	**授業テーマ**	II憲法（人権） (1) 包括的基本権
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	憲法13条（幸福追求権）と同14条（法の下の平等）の規定は、すべての人権規定の基礎となる総則的権利である。プライバシー権は憲法13条を根拠に導かれた新しい人権の一つである。人権の私人間効力についても理解できるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章の「基本権保障の効力」「基本的人権と公共の福祉」（31～37ページ）、教科書第4章の「幸福追求権」「法の下の平等」（38～52ページ）を読んでおくこと 復習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	195分
第4回	**授業テーマ**	(2) 精神的自由①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	憲法19条思想・良心の自由、同20条信教の自由と政教分離原則を中心に、内心の自由を理解する。「君が代ピアノ伴奏」事件、「愛媛玉串料」事件、「エホバの証人剣道授業拒否」事件等を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第5章の「思想・良心の自由」「信教の自由」（53～63ページ）を読んでおくこと 復習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	195分
	授業テーマ	(3) 精神的自由②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	憲法21条表現の自由、同23条学問の自由。とりわけ、表現、言論の自由は、民主政の大前提となる優越的権利であることを統治システム（議会

第5回	**育・ICT活用を含む)**	制民主主義）との関係で理解する。「北方ジャーナル」事件等を取り上げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第6章の「学問の自由」「表現の自由」（64～85ページ）を読んでおくこと 復習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	195分
第6回	**授業テーマ**	(4) 経済的自由
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	憲法22条、同29条は、職業選択の自由、財産権の保障を規定しているが、「公共の福祉」（人権相互の調整原理）の視点から、精神的自由を制約する場合は厳格な基準が必要であるのに対して、憲法22条、29条については、憲法自身が合理的基準による制約を予定している権利であることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第7章の「職業選択の自由」「居住・移転の自由」「財産権の保障」（86～96ページ）を読んでおくこと 復習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	195分
第7回	**授業テーマ**	(5) 人身の自由
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Due process of law (法の適正手続）を中心に、拷問の禁止、令状主義など、人の身体に関する自由は、日本国憲法第三章の条文の中で条文数がもっとも多い特色を理解する。「第三者所有物没収」事件、「高田」事件を取り上げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第8章の「奴隷的拘束からの自由」「適正手続」「被疑者の権利」「被告人の権利」（97～110ページ）を読んでおくこと 復習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	195分
第8回	**授業テーマ**	(6) 社会権（生存権的基本権）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自由権が国家の介入を排除する性質をもっていた（国家からの自由）のに対して、社会権は国家が配慮しなければ、十全に保障されない性質（国家による自由）をもった権利であることを理解する。朝日訴訟、堀木訴訟を取り上げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第9章の「社会権の形成」「生存権」「教育を受ける権利」「勤労の権利」「労働基本権」（111～123ページ）、教科書第11章の「国民の義務」（134～137ページ）を読んでおくこと 復習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	195分
第9回	**授業テーマ**	(7) 参政権・国務請求権
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	参政権には選挙権、被選挙権、国民投票権があり、公務の性質によっては公務就任権も参政権の一部を構成する。また、請願権はその主体に未成年者、外国人、法人等も含まれる。これは議会制民主主義を補完する機能と捉えられることを理解する。
	教室外学	教科書第10章の「参政権」「請願権」「国家賠償請求権」「刑事補償請

	習(予習・復習)の内容	求権」「裁判を受ける権利」（124 ～133ページ）を読んでおくこと 復習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	195分
第10回	**授業テーマ**	III憲法（統治）(1) 国会の役割と権能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国会は、国権の最高機関であり、国の唯一の立法機関（憲法41条）であって、国政について最高の責任を負う地位にある。また、議院の権能として、国政調査権（同62条）は他の権力を侵害しない範囲で独自の調査が認められることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第14章の「国会の地位」「国会の組織と活動」「国会と議院の権能」（163～175ページ）を読んでおくこと 復習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	195分
第11回	**授業テーマ**	(2) 内閣の役割と権能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行政権は、内閣に属する（憲法65条）とは、各行政機関によって行政が行われ、内閣がそれを指揮監督（同72条後段）し、統括している。日本の内閣は、議会の信任に基づき、議会に対して責任を負う議院内閣制を採っていることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第15章の「内閣の地位」「内閣の組織と権能」「議院内閣制」（176～186ページ）を読んでおくこと 復習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	195分
第12回	**授業テーマ**	(3) 裁判所の役割と権能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	司法とは、具体的な争訟について法を解釈し適用することによって、紛争を解決する国家作用であり、この作用を行う権限を司法権という。また、すべての裁判所は、法令等が憲法に適合するか否かを判断する法令審査権を有していることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第16章の「司法権」「司法権の独立」「裁判所の組織と権能」「法令審査権」（187～203ページ）を読んでおくこと 復習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	195分
第13回	**授業テーマ**	(4) 財政・地方自治
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国の財政を処理する権限は、国会の議決に基づいて行使されなければならない（憲法83条）とされ、「財政民主主義」の理念が含まれる。新たに租税を課したり、現行の租税を変更する場合は、法律に基づく租税法律主義を規定していることを理解する。 地方自治における団体自治とは、国家から独立した法人格をもち、自立権をもってその地方の事務を処理することをいい、住民自治とは、住民の意思に基づいて地方の事務が行われることを意味している。議会は、条例制定権をもつことを理解する。
	教室外学習(予習・復	教科書第17章の「財政民主主義」「租税法律主義」「国費の支出」「公金の支出」「財政監督の方式」（204～211ページ）、教科書第18章の「地方自治の本旨」地方公共団体」（212～220ページ）を読んでおくこ

	習)の内容	と 復習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	195分
第14回	**授業テーマ**	(5) 憲法改正・平和主義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	憲法改正とは、成典憲法中の条項の修正・削除および追加をなし、あるいは別に条項を設けて増補することをいう。憲法改正の限界については、成典憲法が拠って立つ基本原理を否定するような改正を行うことは法的に不可能であることを理解する。憲法9条の意義・構造についても理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第19章の「憲法改正の意味」「憲法改正手続」「憲法改正の限界」（221～226ページ）、教科書第13章の「平和主義」（152～162ページ）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

資料の配付、復習問題の出題・回答、レポートの作成・提出にはGoogle Classroomを利用するので、パソコンの使用を推奨する。

学生へのフィードバック方法

実施した復習問題の回答は、次週の授業にて解説する。
また、授業終了後になされた質問や意見にも、可能な範囲で次週以降の授業にて対応していく予定。

評価方法

ルーブリックに基づいた基準で評価し、評価の割合は、40%を復習テストの提出（毎回、授業内容についての復習問題を課題として出題する）による平常点として、残り60%は、課題レポートとする。なお、ルーブリックについては初回の授業やGoogle Classroom上で説明する予定。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
復習テスト	○		○	
課題レポート	○	○	○	

評価割合

復習問題（40%）、課題レポート（60%）で総合評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

尾﨑利生・鈴木晃『憲法入門講義〔第3版〕』（法律文化社、2022年）978-4-589-04226-2

参考図書

高橋和之編『新・判例ハンドブック【憲法】第3版』（日本評論社、2024年）978-4-535-52793-5
君塚正臣編『高校から大学への憲法 [第2版]』（法律文化社、2016年）978-4-589-03741-1
初宿正典他編『目で見る憲法【第6版】』（有斐閣、2024年）978-4-641-22865-8
荒木尚志・森田宏樹他編『ポケット六法 令和7年版』（有斐閣、2024年）978-4-641-00925-7
長谷部由起子編『デイリー六法2025 令和7年版』（三省堂、2024年）978-4-385-15881-5
三省堂編修所編『デイリー法学用語辞典【第2版】』（三省堂、2020年）978-4-385-13727-8

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】国の基本法としての憲法を頂点とした法秩序と統治構造を学び、理解できている。

【思考・判断】基本的人権をめぐる問題について、憲法を踏まえて考え、判断できている。
【関心・意欲・態度】基本的人権、とりわけ弱者（子ども、高齢者、女性、障がい者など）の人権をめぐる問題に関心をもち、配慮することができている。

学生へのメッセージ

教科書にあらかじめ目を通し、何が分かって、何が分からなかったのかを把握したうえで、授業に参加すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	講師の弁護士実務経験を活かし、日本国憲法が裁判実務や実社会においてどのように扱われ、どのような影響を及ぼしているのかについて、理解を深められる授業。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50501032
講義名	法学入門（日本国憲法）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	江川 剛	指定なし

ナンバリング

X13400C21

授業概要(教育目的)

はじめに、法および法律学の基礎を概観し、私たちの生活の中で、法律や憲法をどのように活用すればよいのか、法律の作用や憲法の役割を考えてみる。次に、日本国憲法が保障する基本的人権について、憲法訴訟におけるリーディング・ケースを考察し、今日の基本的人権をめぐる問題状況を明らかにする。後半は、日本国憲法の理念から現実の憲法政治の問題状況を分析する。とりわけ、国民主権のもとにおける国会の役割と権能、行政の肥大化現象と地方行政改革、裁判所の人権保障機関としての役割、また、憲法改正や平和主義の意味などについて考察する。

履修条件

教育職員免許状希望者は必修。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	憲法を頂点とした国内法の構造を理解し、憲法保障（例えば、裁判所の法令審査権）について説明できるようになる。
思考・判断の観点 (K)	人権に関する判例を考察し、裁判所の判断が憲法の解釈に適合したものかどうかを指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	弱者（子ども、高齢者、女性、障がい者など）の人権に関心をもち、配慮できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	I憲法総論 (1) 法律学と憲法学

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	権利・義務関係の内容・手続を定めた法令を分類しながら法令の解釈・適用を学ぶのが法律学。憲法は国家権力を制限する国の基本法であって、公権を定めた高次の法（最高法規）を学問対象とするのが憲法学であることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第1章の「憲法の意味」「憲法の分類」「憲法規範の特性」（2～12ページ）を読んでおくこと 復習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	(2) 憲法の歴史と憲法の基本原理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヨーロッパの近代市民革命を経て、権力が一人の人間（君主）や一つの機関に集中しない工夫として権力分立制が生み出され、国家が人びとの権利を侵害してはならないとしたのが、人権保障規定（権利章典）であったことを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章の「人権理念と歴史」「基本権の類型」「基本権の享有主体」（22～31ページ）、教科書第12章の「国民主権と象徴天皇制」（140～151ページ）を読んでおくこと 復習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	195分
第3回	**授業テーマ**	II憲法（人権） (1) 包括的基本権
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	憲法13条（幸福追求権）と同14条（法の下の平等）の規定は、すべての人権規定の基礎となる総則的権利である。プライバシー権は憲法13条を根拠に導かれた新しい人権の一つである。人権の私人間効力についても理解できるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章の「基本権保障の効力」「基本的人権と公共の福祉」（31～37ページ）、教科書第4章の「幸福追求権」「法の下の平等」（38～52ページ）を読んでおくこと 復習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	195分
第4回	**授業テーマ**	(2) 精神的自由①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	憲法19条思想・良心の自由、同20条信教の自由と政教分離原則を中心に、内心の自由を理解する。「君が代ピアノ伴奏」事件、「愛媛玉串料」事件、「エホバの証人剣道授業拒否」事件等を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第5章の「思想・良心の自由」「信教の自由」（53～63ページ）を読んでおくこと 復習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	195分
	授業テーマ	(3) 精神的自由②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	憲法21条表現の自由、同23条学問の自由。とりわけ、表現、言論の自由は、民主政の大前提となる優越的権利であることを統治システム（議会

第5回	**育・ICT活用を含む)**	制民主主義）との関係で理解する。「北方ジャーナル」事件等を取り上げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第6章の「学問の自由」「表現の自由」（64～85ページ）を読んでおくこと 復習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	195分
第6回	**授業テーマ**	(4) 経済的自由
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	憲法22条、同29条は、職業選択の自由、財産権の保障を規定しているが、「公共の福祉」（人権相互の調整原理）の視点から、精神的自由を制約する場合は厳格な基準が必要であるのに対して、憲法22条、29条については、憲法自身が合理的基準による制約を予定している権利であることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第7章の「職業選択の自由」「居住・移転の自由」「財産権の保障」（86～96ページ）を読んでおくこと 復習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	195分
第7回	**授業テーマ**	(5) 人身の自由
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Due process of law (法の適正手続）を中心に、拷問の禁止、令状主義など、人の身体に関する自由は、日本国憲法第三章の条文の中で条文数がもっとも多い特色を理解する。「第三者所有物没収」事件、「高田」事件を取り上げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第8章の「奴隷的拘束からの自由」「適正手続」「被疑者の権利」「被告人の権利」（97～110ページ）を読んでおくこと 復習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	195分
第8回	**授業テーマ**	(6) 社会権（生存権的基本権）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自由権が国家の介入を排除する性質をもっていた（国家からの自由）のに対して、社会権は国家が配慮しなければ、十全に保障されない性質（国家による自由）をもった権利であることを理解する。朝日訴訟、堀木訴訟を取り上げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第9章の「社会権の形成」「生存権」「教育を受ける権利」「勤労の権利」「労働基本権」（111～123ページ）、教科書第11章の「国民の義務」（134～137ページ）を読んでおくこと 復習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	195分
第9回	**授業テーマ**	(7) 参政権・国務請求権
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	参政権には選挙権、被選挙権、国民投票権があり、公務の性質によっては公務就任権も参政権の一部を構成する。また、請願権はその主体に未成年者、外国人、法人等も含まれる。これは議会制民主主義を補完する機能と捉えられることを理解する。
	教室外学	教科書第10章の「参政権」「請願権」「国家賠償請求権」「刑事補償請

	習(予習・復習)の内容	求権」「裁判を受ける権利」（124 ～133ページ）を読んでおくこと 復習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	195分
第10回	**授業テーマ**	III憲法（統治）(1) 国会の役割と権能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国会は、国権の最高機関であり、国の唯一の立法機関（憲法41条）であって、国政について最高の責任を負う地位にある。また、議院の権能として、国政調査権（同62条）は他の権力を侵害しない範囲で独自の調査が認められることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第14章の「国会の地位」「国会の組織と活動」「国会と議院の権能」（163～175ページ）を読んでおくこと 復習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	195分
第11回	**授業テーマ**	(2) 内閣の役割と権能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行政権は、内閣に属する（憲法65条）とは、各行政機関によって行政が行われ、内閣がそれを指揮監督（同72条後段）し、統括している。日本の内閣は、議会の信任に基づき、議会に対して責任を負う議院内閣制を採っていることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第15章の「内閣の地位」「内閣の組織と権能」「議院内閣制」（176～186ページ）を読んでおくこと 復習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	195分
第12回	**授業テーマ**	(3) 裁判所の役割と権能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	司法とは、具体的な争訟について法を解釈し適用することによって、紛争を解決する国家作用であり、この作用を行う権限を司法権という。また、すべての裁判所は、法令等が憲法に適合するか否かを判断する法令審査権を有していることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第16章の「司法権」「司法権の独立」「裁判所の組織と権能」「法令審査権」（187～203ページ）を読んでおくこと 復習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	195分
第13回	**授業テーマ**	(4) 財政・地方自治
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国の財政を処理する権限は、国会の議決に基づいて行使されなければならない（憲法83条）とされ、「財政民主主義」の理念が含まれる。新たに租税を課したり、現行の租税を変更する場合は、法律に基づく租税法律主義を規定していることを理解する。 地方自治における団体自治とは、国家から独立した法人格をもち、自立権をもってその地方の事務を処理することをいい、住民自治とは、住民の意思に基づいて地方の事務が行われることを意味している。議会は、条例制定権をもつことを理解する。
	教室外学習(予習・復	教科書第17章の「財政民主主義」「租税法律主義」「国費の支出」「公金の支出」「財政監督の方式」（198～205ページ）、教科書第18章の「地方自治の本旨」地方公共団体」（212～220ページ）を読んでおくこ

	習)の内容	と 復習問題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	195分
第14回	**授業テーマ**	(5) 憲法改正・平和主義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	憲法改正とは、成典憲法中の条項の修正・削除および追加をなし、あるいは別に条項を設けて増補することをいう。憲法改正の限界については、成典憲法が拠って立つ基本原理を否定するような改正を行うことは法的に不可能であることを理解する。憲法9条の意義・構造についても理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第19章の「憲法改正の意味」「憲法改正手続」「憲法改正の限界」（221～226ページ）、教科書第13章の「平和主義」（152～162ページ）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

資料の配付、復習問題の出題・回答、レポートの作成・提出にはGoogle Classroomを利用するので、パソコンの使用を推奨する。

学生へのフィードバック方法

実施した復習問題の回答は、次週の授業にて解説する。
また、授業終了時になされた質問や意見にも、可能な範囲で次週以降の授業にて対応していく予定。

評価方法

ルーブリックに基づいた基準で評価し、評価の割合は、40%を復習テストの提出（毎回、授業内容についての復習問題を課題として出題する）による平常点として、残り60%は、課題レポートとする。なお、ルーブリックについては初回の授業やGoogle Classroom上で説明する予定。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
復習テスト	○		○	
課題レポート	○	○	○	

評価割合

復習問題（40%）、課題レポート（60%）で総合評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

尾﨑利生・鈴木晃『憲法入門講義〔第3版〕』（法律文化社、2022年）978-4-589-04226-2

参考図書

高橋和之編『新・判例ハンドブック【憲法】第3版』（日本評論社、2024年）978-4-535-52793-5
君塚正臣編『高校から大学への憲法 [第2版]』（法律文化社、2016年）978-4-589-03741-1
初宿正典他編『目で見る憲法【第6版】』（有斐閣、2024年）978-4-641-22865-8
荒木尚志・森田宏樹他編『ポケット六法 令和7年版』（有斐閣、2024年）978-4-641-00925-7
長谷部由起子編『デイリー六法2025 令和7年版』（三省堂、2024年）978-4-385-15881-5
三省堂編修所編『デイリー法学用語辞典【第2版】』（三省堂、2020年）978-4-385-13727-8

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】国の基本法としての憲法を頂点とした法秩序と統治構造を学び、理解できている。

【思考・判断】基本的人権をめぐる問題について、憲法を踏まえて考え、判断できている。
【関心・意欲・態度】基本的人権、とりわけ弱者（子ども、高齢者、女性、障がい者など）の人権をめぐる問題に関心をもち、配慮することができている。

学生へのメッセージ

教科書にあらかじめ目を通し、何が分かって、何が分からなかったのかを把握したうえで、授業に参加すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	講師の弁護士実務経験を活かし、日本国憲法が裁判実務や実社会においてどのように扱われ、どのような影響を及ぼしているのかについて、理解を深められる授業。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50502001
講義名	人権と平和（市民と法）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	中井　良太	指定なし

ナンバリング

X13420M21

授業概要(教育目的)

はじめに、人権とは何かについて概説する。日本国憲法をはじめとする法学の世界で人権についてどのような議論がなされているのかを、憲法に規定されている基本権（人権規定）の中からいくつかを取り上げて説明する。

次に、平和理論について概説し、平和と関連する日本国憲法の平和主義、移民と移動の自由といったトピックにつき、人権（及び正義・権利・法）との関連を考察する。

以上により、「人権と平和」それぞれの概念や関係を説明できるようになることを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	「人権」や「平和」とはどのようなものか、またそれぞれについてどのような論点があり、どのような議論がなされているのか、関連する法制度（特に日本のそれ）にはどのようなものがあるか、を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	人権という観点から現代社会及び平和に関する問題について考え、論点を指摘し議論できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	「人権と平和」に関する問題群に関心をもち、それらの分析・議論に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	①自分の考えを説得的に主張する、②他者の考えを適切に理解しようとする、の2つをともに実行して議論することができ、その上で説得する・されるという知的な営みができる。

学習計画

人権と平和

第1回	授業テーマ	ガイダンス、人権概説
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本講義の概要や、学習の仕方について説明する。 人権とはどのような権利か、人権という概念が誕生した歴史的背景はどのようなものか、人権が普遍的なものと考えられている理由は何か、を扱う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：シラバスを読んで関心があるトピックを探してみる。シラバスにある法令検索を使って日本国憲法の条文を眺めてみる。「人権」や「平和」という概念を自分がどのように理解しているかを考えてみる。 復習：講義の配布資料を見直して自分なりにまとめる。理解できない用語があれば調べてみる。講義の内容で分からなかった点があれば、次の講義で質問できるように準備する。講義資料で紹介した参考文献で興味のあるものを読んでみる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	人権と憲法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	憲法とは何か、日本国憲法の構成、人権が憲法の中にどのように取り入れられているかを扱う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：憲法第3章の条文を読んでみる。 復習：講義の配布資料を見直して自分なりにまとめる。理解できない用語があれば調べてみる。講義の内容で分からなかった点があれば、次の講義で質問できるように準備する。講義資料で紹介した参考文献で興味のあるものを読んでみる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	人権と日本の裁判制度
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人権が侵害された際の救済手段の一つである日本の裁判制度について説明する。 民事裁判と刑事裁判の差異を説明し、各訴訟の仕組みの一部を取り上げる。また裁判に関わる法律家についても紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：憲法第6章を読んでみる。公民で履修している裁判所や三権分立に関する内容を確認する。 復習：講義の配布資料を見直して自分なりにまとめる。理解できない用語があれば調べてみる。講義の内容で分からなかった点があれば、次の講義で質問できるように準備する。講義資料で紹介した参考文献で興味のあるものを読んでみる。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	権利と労働
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	憲法及び労働法を中心に労働に関する法や権利を説明する。賃金や雇用契約など、アルバイトをする際にも関係する法制度にも言及する。

	含む)	
第4回	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：憲法27条、28条を読んでみる。労働三権を調べておく。 復習：講義の配布資料を見直して自分なりにまとめる。理解できない用語があれば調べてみる。講義の内容で分からなかった点があれば、次の講義で質問できるように準備する。講義資料で紹介した参考文献で興味のあるものを読んでみる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	労働の場面におけるハラスメントと法制度
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	労働の場面を主としたセクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、マタニティ・ハラスメントといった各種ハラスメントと、それに関連する日本の法制度について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、マタニティ・ハラスメントという言葉を調べておく。 復習：講義の配布資料を見直して自分なりにまとめる。理解できない用語があれば調べてみる。講義の内容で分からなかった点があれば、次の講義で質問できるように準備する。講義資料で紹介した参考文献で興味のあるものを読んでみる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	新しい人権：プライヴァシー権と憲法13条
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	財産権や表現の自由などと比べて、「新しい人権」と言われるもののひとつであるプライヴァシー権について説明する。具体的にはプライヴァシー権の歴史や、内容の変化について扱う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：憲法13条を読んでみる。「プライヴァシー」という言葉を調べておく。 復習：講義の配布資料を見直して自分なりにまとめる。理解できない用語があれば調べてみる。講義の内容で分からなかった点があれば、次の講義で質問できるように準備する。講義資料で紹介した参考文献で興味のあるものを読んでみる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	女性と権利：リプロダクティヴ・ライツ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	リプロダクティヴ・ライツ（性と生殖に関する諸権利）を扱う。 具体的なトピックとして、国によっては激しい論争となっている人工妊娠中絶に関する議論を紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：刑法212条から214条、母体保護法14条を読んでみる。「ローVSウェイド判決」をネットで調べてみる。 復習：講義の配布資料を見直して自分なりにまとめる。理解できない用語があれば調べてみる。講義の内容で分からなかった点があれば、次の講義で質問できるように準備する。講義資料で紹介した参考文献で興味のあるものを読んでみる。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	法律婚と平等
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘ	

第8回	ﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	法律婚に関して、婚姻の自由の意味を説明する。また選択的夫婦別姓制度や、同性婚・複数婚を取り上げて平等についても考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：憲法24条、14条を読む。「選択的夫婦別姓」、「同性婚」、「ポリガミー」、をネットで調べておく。 復習：講義の配布資料を見直して自分なりにまとめる。理解できない用語があれば調べてみる。講義の内容で分からなかった点があれば、次の講義で質問できるように準備する。講義資料で紹介した参考文献で興味のあるものを読んでみる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	1-8回までの復習とディスカッション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1回から8回までの講義内容に関して、グループディスカッションや教員との質疑応答を通じて復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：1回から8回までの講義資料を見直し、疑問点がないか改めて考えておく。 復習：ディスカッションを振り返り、1回から8回までの内容を自分なりの言葉で説明できるようにする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	人権と動物の「権利」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人権をより深く理解するために、人以外の動物の「権利」や福祉がどのように議論されているのかを取り上げ、ヒトの権利との違いを考える。また動物が関係する判例についても紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「アニマル・ウェルフェア」、「種差別」、「功利主義」、「ヴェジタリアニズム」を調べておく。 復習：講義の配布資料を見直して自分なりにまとめる。理解できない用語があれば調べてみる。講義の内容で分からなかった点があれば、次の講義で質問できるように準備する。講義資料で紹介した参考文献で興味のあるものを読んでみる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	平和への理論的アプローチ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「平和」は多くの次元をもっているため、どのような意味で「平和」という言葉を使用しているかを整理して議論することが必要である。本講義では、オリバー・リッチモンドの平和理論を紹介し、「平和」を考える上での土台とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：自分なりにどのような要件を満たせば平和と言えるかを考えてみる。 復習：講義の配布資料を見直して自分なりにまとめる。理解できない用語があれば調べてみる。講義の内容で分からなかった点があれば、次の講義で質問できるように準備する。講義資料で紹介した参考文献で興味のあるものを読んでみる。
	教室外学習の時間（分）	200分

第12回	授業テーマ	日本国憲法と平和主義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本で平和を論ずる際によく言及される憲法9条について、これまでどのような議論があったのかを紹介する。そこから憲法9条の掲げる平和主義がどのようなものかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：憲法9条を読んでみる。憲法9条に関連する裁判を調べてみる。 復習：講義の配布資料を見直して自分なりにまとめる。理解できない用語があれば調べてみる。講義の内容で分からなかった点があれば、次の講義で質問できるように準備する。講義資料で紹介した参考文献で興味のあるものを読んでみる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	移民と移動の自由
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グローバル化が進んだとされる世界における移民とその包摂に関する問題を取り上げ、人権・平和と「移動の自由」について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「移民」と「難民」の違いについて調べておく。現在の日本で起きている移民に関する問題を調べてみる。 復習：講義の配布資料を見直して自分なりにまとめる。理解できない用語があれば調べてみる。講義の内容で分からなかった点があれば、次の講義で質問できるように準備する。講義資料で紹介した参考文献で興味のあるものを読んでみる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	10-13回までの復習とディスカッション 試験に向けての答案の書き方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	10回から8回までの講義内容に関して、グループディスカッションや教員との質疑応答を通じて復習する。 終講後試験に関して答案の書き方や勉強の仕方についても触れる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：1回から8回までの講義資料を見直し、疑問点がないか改めて考えておく。 復習：ディスカッションを振り返り、10回から13回までの内容を自分なりの言葉で説明できるようにする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

講義の進行によってはスケジュールが変更になる場合がある。
復習回としてグループワークを予定しているが、出席人数によっては教員と学生諸君との質疑応答に変更になる可能性がある。

学生へのフィードバック方法

各回講義の最後の10分程で確認テストを実施するが、その際に講義に対する質問・コメント記入も行ってもらう。次回の講義の際にそれらに対するコメントを行う。

評価方法

平常点：30%（確認テスト、講義に対するコメント）、終講後試験：70%
確認テストは、その日の講義内容を確認する問題を出す。
ルーブリックでの評価を行い、ルーブリックはクラスルームで公開することを予定している。
終講後試験は、選択問題、語句説明問題、論述問題を出すことを予定している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
終講後試験	○	○		○

評価割合

平常点：30%（確認テスト、講義へのコメント）、終講後試験：70%

使用教科書名(ISBN番号)

教科書は使用せず、講義資料を配布する。

参考図書

碧海純一. (1967). 『法と社会：新しい法学入門』. 中央公論新社（中公新書）.
神野潔, 岡田順太, 横大道聡 (編著). (2022). 『法学概説』. 弘文堂.
長谷部恭男. (2022). 『憲法』 (第8版). 新世社.
水町勇一郎. (2019). 『労働法入門　新版』. 岩波書店（岩波新書）.
リッチモンド, オリバー. (2023). 『平和理論入門』. (佐々木寛, 訳) 法律文化社.
ポケット六法（有斐閣）、デイリー六法（三省堂）などの小型六法か、e-Gov法令検索（https://laws.e-gov.go.jp/）など、法律の条文を確認できるもの
また上記の参考図書の他に各講義の際に関連する論文・資料等を紹介する。

参考URL

https://laws.e-gov.go.jp/

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】人権や平和の概念を理解し、それに基づいて望ましい人間社会像を考え、論じることができる。
【関心・意欲・態度】社会における人権や平和に関する問題に関心を持ち、その問題と向き合って考えられる能力をもつ。
【技能・表現】習得した知識を用いて、人間社会の問題を発見し、それについて自分の考えを説得的に主張し、また他者の考えを適切に分析することで、他者を説得する・他者に説得される能力を身に付けている。

学生へのメッセージ

講義に関係ない私語は慎むようにされたい。また講義の録音・録画・撮影も禁止とする。
講義資料はクラスルームでダウンロードできるようにする予定である。
「人権と平和」について学ぶことが何の役に立つのかと思われるかもしれないが、学問はおもしろいので「智の為に智を愛する」という愛智の精神で講義に臨んで欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	復習を兼ねてグループディスカッションを行う予定である。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50502031
講義名	人権と平和
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	山田 寿則	指定なし

ナンバリング

X13420M21

授業概要(教育目的)

本講義のテーマは「人権」と「平和」です。これらはいずれも、人と人との関係、言い換えれば、わたしたちが生きている社会関係の中で実現されるものです。その国内社会や国際社会は、弱肉強食の「ジャングルの掟」が支配するのではなく、一定の共通ルールを基礎に成り立っており、そこでは「法の支配」が存在すると言えます。本講義では、日本における「人権と平和」に関わる様々な具体的な問題を個別に取り上げ、それを「法の支配」という観点から解説し、それぞれの問題をどのように解決に導けば良いかを考えます。
なお、状況に応じて、グループワークやディスカッションを行います。
※この授業は、同じキャンパスで同じ時間に開講される「市民と法」（講義コード：G50502032）と同じ授業です。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	身近な問題から国際問題に至るまでの「人権と平和」に関わる諸問題を理解し、友人や家族に説明できる。
思考・判断の観点 (K)	それぞれの問題での当事者の主張や事情を理解し、その対立点（争点）を指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	今後も継続的に存在するであろう「平和と人権」に関する諸問題に関心を持ち続け、身近な取り組みに寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	理由と根拠を示しつつ自己の意見を表明できる。

学習計画

人権と平和

第1回	**授業テーマ**	イントロダクション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本講義の基礎概念である、「人権」「平和」「法の支配」について解説し、授業の進め方を説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：シラバスをよく読んできてください。 復習：配布資料を読み、掲載された参考文献・情報源を参照して理解を深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	児童虐待と子どもの権利
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童虐待の現状と対応策の課題を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料をよく読んで、わからない点を調べてきてください。 復習：配布資料掲載の参考文献・情報源を参照して理解を深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	いじめと子どもの権利
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	いじめの現状と対応策の課題を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料をよく読んで、わからない点を調べてきてください。 復習：配布資料掲載の参考文献・情報源を参照して理解を深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	セクハラと女性の権利
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	セクシャルハラスメントの現状と対応策の課題を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料をよく読んで、わからない点を調べてきてください。 復習：配布資料掲載の参考文献・情報源を参照して理解を深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	選択夫婦別姓制度と女性の権利
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	選択夫婦別姓制度をめぐる主張の対立点と議論の現状、対応策の課題を考えます。
	教室外学習(予	予習：事前配布資料をよく読んで、わからない点を調べてきてください。

	習・復習)の内容	復習：配布資料掲載の参考文献・情報源を参照して理解を深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	死刑制度のあり方と犯罪被害者の権利
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	死刑制度の存否をめぐる議論の現状と廃止した場合の課題を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料をよく読んで、わからない点を調べてきてください。 復習：配布資料掲載の参考文献・情報源を参照して理解を深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	日本における移民・難民と外国人の人権
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本における移民と難民の現状と外国人受け入れに関する課題を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料をよく読んで、わからない点を調べてきてください。 復習：配布資料掲載の参考文献・情報源を参照して理解を深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	日本におけるヘイトスピーチと「差別」問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本でのヘイトスピーチの現状から見た、言論・表現の自由の規制と差別撤廃の課題を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料をよく読んで、わからない点を調べてきてください。 復習：配布資料掲載の参考文献・情報源を参照して理解を深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	国際紛争の平和的解決（１） 日韓関係の課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日韓間で問題となっている徴用工・従軍慰安婦問題の現状と解決への課題を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料をよく読んで、わからない点を調べてきてください。 復習：配布資料掲載の参考文献・情報源を参照して理解を深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	国際紛争の平和的解決（２） 日露関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	日露間で問題となっている、北方領土問題の現状と解決への課題を考えます。

	含む)	
第10回	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料をよく読んで、わからない点を調べてきてください。 復習：配布資料掲載の参考文献・情報源を参照して理解を深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	国際紛争の平和的解決（３） 日中関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日中間で問題となっている、尖閣諸島・台湾問題の現状と解決への課題を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料をよく読んで、わからない点を調べてきてください。 復習：配布資料掲載の参考文献・情報源を参照して理解を深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	日本からみた国連の集団安全保障と集団的自衛権
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国連の集団安全保障制度と集団的自衛権の違いと関係を整理し、日本をめぐる北東アジアの平和にとってどのような役割と課題があるのかを考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料をよく読んで、わからない点を調べてきてください。 復習：配布資料掲載の参考文献・情報源を参照して理解を深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	核軍縮の現在（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	核兵器とは何かを解説し、日本が「核兵器のない世界」を目指す上での、周辺国の核兵器開発問題を含めた、さまざまな課題を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料をよく読んで、わからない点を調べてきてください。 復習：配布資料掲載の参考文献・情報源を参照して理解を深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	核軍縮の現在（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	核兵器とは何かを解説し、日本が「核兵器のない世界」を目指す上での、周辺国の核兵器開発問題を含めた、さまざまな課題を考えます。また、講義全体を振り返り、人権と平和の関係を考えます。 ＊なお、第1回～第14回の授業内容は、必要に応じて変更することがあります。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料をよく読んで、わからない点を調べてきてください。 復習：配布資料掲載の参考文献・情報源を参照して理解を深めてください。
	教室外学習の時間	100分

	（分）	

学習計画注記

履修者の理解の度合いや関心のあり方など、諸般の要素を考慮して、上記の進度に変更が生じる場合があります。

学生へのフィードバック方法

毎回の講義終了時にClassromを介して質問を受け付けます（質問の提出は任意）。次回講義の冒頭で、これに回答します。このほか、Classroomを介してコメントすることもあります。

評価方法

期末のレポート（２０００字程度）においては、講義内容について理解できているかを判断するとともに、説得的な根拠を示したうえで、自らの意見を展開できているかどうかを評価します。
講義内容についての質問は、下表の評価基準より評価します。質問回数が多いほど、高い評価が与えられます。
なお、ルーブリックを用いて評価を行います。ルーブリックの公開は、Classroomまたは授業での配布によるものとします。ルーブリックについては初回の授業で説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末レポート	○	○	○	○
講義内容についての質問	○	○		
ディスカッションへの参加			○	○

評価割合

期末レポート（５０％）及び質問の提出とディスカッションを通じた授業への貢献（５０％）で評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

教科書は使用しません。毎回、事前に配布資料をClassroomに掲載します。

参考図書

上谷さくら『新おとめ六法』（KADOKAWA、2024年）
齊藤功高『ディベート国際人権法 改訂版』（文教大学出版事業部、2020年）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】女性を取り巻く社会を理解し、望ましい姿を提案できる能力を身に付けている。
【関心・意欲・態度】ひとりの女性として、社会と積極的に向かい合う姿勢を確立している。
【技能・表現】女性にかかわる諸問題について、他者と相互理解を図り、共に解決するための素地を身に付けている。

学生へのメッセージ

「人権と平和」というと何か、お堅い「社会問題」であるかのように感じるかもしれません。しかしそこには必ず当事者がいて、現実の人間に関わる問題です。日頃からニュース等に触れて、広く関心を持って参加されることを期待しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	講師は、国際NGOの理事として国連における条約作成にも関与してきました。そうした場では多くの女性が生き生きと活躍しています。講義で扱う内容は身近な国内法が中心ですが、国際的視点を交えながら、講義を進めます。
アクティブ・ラーニング	○	質疑応答を通じた双方向の授業を行います。また、感染対策に配慮した上で、状況に応じて、グループワークやグループ・ディスカッションを実施します。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50502032
講義名	市民と法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	山田 寿則	指定なし

ナンバリング

X13420M21

授業概要(教育目的)

本講義のテーマは「人権」と「平和」です。これらはいずれも、人と人との関係、言い換えれば、わたしたちが生きている社会関係の中で実現されるものです。その国内社会や国際社会は、弱肉強食の「ジャングルの掟」が支配するのではなく、一定の共通ルールを基礎に成り立っており、そこでは「法の支配」が存在すると言えます。本講義では、日本における「人権と平和」に関わる様々な具体的な問題を個別に取り上げ、それを「法の支配」という観点から解説し、それぞれの問題をどのように解決に導けば良いかを考えます。
なお、状況に応じて、グループワークやディスカッションを行います。
※この授業は、同じキャンパスで同じ時間に開講される「人権と平和」（講義コード：G50502031）と同じ授業です。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	身近な問題から国際問題に至るまでの「人権と平和」に関わる諸問題を理解し、友人や家族に説明できる。
思考・判断の観点 (K)	それぞれの問題での当事者の主張や事情を理解し、その対立点（争点）を指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	今後も継続的に存在するであろう「平和と人権」に関する諸問題に関心を持ち続け、身近な取り組みに寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	理由と根拠を示しつつ自己の意見を表明できる。

学習計画

市民と法

第1回	**授業テーマ**	イントロダクション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本講義の基礎概念である、「人権」「平和」「法の支配」について解説し、授業の進め方を説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：シラバスをよく読んできてください。 復習：配布資料を読み、掲載された参考文献・情報源を参照して理解を深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	児童虐待と子どもの権利
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童虐待の現状と対応策の課題を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料をよく読んで、わからない点を調べてきてください。 復習：配布資料掲載の参考文献・情報源を参照して理解を深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	いじめと子どもの権利
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	いじめの現状と対応策の課題を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料をよく読んで、わからない点を調べてきてください。 復習：配布資料掲載の参考文献・情報源を参照して理解を深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	セクハラと女性の権利
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	セクシャルハラスメントの現状と対応策の課題を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料をよく読んで、わからない点を調べてきてください。 復習：配布資料掲載の参考文献・情報源を参照して理解を深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	選択夫婦別姓制度と女性の権利
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	選択的夫婦別姓制度をめぐる主張の対立点と議論の現状、対応策の課題を考えます。
	教室外学習(予	予習：事前配布資料をよく読んで、わからない点を調べてきてください。

	習・復習)の内容	復習：配布資料掲載の参考文献・情報源を参照して理解を深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	死刑制度のあり方と犯罪被害者の権利
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	死刑制度の存否をめぐる議論の現状と廃止した場合の課題を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料をよく読んで、わからない点を調べてきてください。 復習：配布資料掲載の参考文献・情報源を参照して理解を深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	日本における移民・難民と外国人の人権
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本における移民と難民の現状と外国人受け入れに関する課題を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料をよく読んで、わからない点を調べてきてください。 復習：配布資料掲載の参考文献・情報源を参照して理解を深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	日本におけるヘイトスピーチと「差別」問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本でのヘイトスピーチの現状から見た、言論・表現の自由の規制と差別撤廃の課題を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料をよく読んで、わからない点を調べてきてください。 復習：配布資料掲載の参考文献・情報源を参照して理解を深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	国際紛争の平和的解決（１） 日韓関係の課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日韓間で問題となっている徴用工・従軍慰安婦問題の現状と解決への課題を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料をよく読んで、わからない点を調べてきてください。 復習：配布資料掲載の参考文献・情報源を参照して理解を深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	国際紛争の平和的解決（２） 日露関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	日露間で問題となっている、北方領土問題の現状と解決への課題を考えます。

	含む)	
第10回	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料をよく読んで、わからない点を調べてきてください。 復習：配布資料掲載の参考文献・情報源を参照して理解を深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	国際紛争の平和的解決（３） 日中関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日中間で問題となっている、尖閣諸島・台湾問題の現状と解決への課題を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料をよく読んで、わからない点を調べてきてください。 復習：配布資料掲載の参考文献・情報源を参照して理解を深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	日本からみた国連の集団安全保障と集団的自衛権
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国連の集団安全保障制度と集団的自衛権の違いと関係を整理し、日本をめぐる北東アジアの平和にとってどのような役割と課題があるのかを考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料をよく読んで、わからない点を調べてきてください。 復習：配布資料掲載の参考文献・情報源を参照して理解を深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	核軍縮の現在（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	核兵器とは何かを解説し、日本が「核兵器のない世界」を目指す上での、周辺国の核兵器開発問題を含めた、さまざまな課題を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料をよく読んで、わからない点を調べてきてください。 復習：配布資料掲載の参考文献・情報源を参照して理解を深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	核軍縮の現在（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	核兵器とは何かを解説し、日本が「核兵器のない世界」を目指す上での、周辺国の核兵器開発問題を含めた、さまざまな課題を考えます。また、講義全体を振り返り、人権と平和の関係を考えます。 ＊なお、第1回～第14回の授業内容は、必要に応じて変更することがあります。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料をよく読んで、わからない点を調べてきてください。 復習：配布資料掲載の参考文献・情報源を参照して理解を深めてください。
	教室外学習の時間	100分

	（分）	

学習計画注記

履修者の理解の度合いや関心のあり方など、諸般の要素を考慮して、上記の進度に変更が生じる場合があります。

学生へのフィードバック方法

毎回の講義終了時にClassromを介して質問を受け付けます（質問の提出は任意）。次回講義の冒頭で、これに回答します。このほか、Classroomを介してコメントすることもあります。

評価方法

期末のレポート（２０００字程度）においては、講義内容について理解できているかを判断するとともに、説得的な根拠を示したうえで、自らの意見を展開できているかどうかを評価します。
講義内容についての質問は、下表の評価基準より評価します。質問回数が多いほど、高い評価が与えられます。
なお、ルーブリックを用いて評価を行います。ルーブリックの公開は、Classroomまたは授業での配布によるものとします。ルーブリックについては初回の授業で説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間・期末レポート	○	○	○	○
講義内容についての質問	○	○		
ディスカッションへの参加			○	○

評価割合

期末レポート（５０％）及び質問の提出とディスカッションを通じた授業への貢献（５０％）で評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

教科書は使用しません。毎回、事前に配布資料をClassroomに掲載します。

参考図書

上谷さくら『新おとめ六法』（KADOKAWA、2024年）
齊藤功高『ディベート国際人権法 改訂版』（文教大学出版事業部、2020年）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】女性を取り巻く社会を理解し、望ましい姿を提案できる能力を身に付けている。
【関心・意欲・態度】ひとりの女性として、社会と積極的に向かい合う姿勢を確立している。
【技能・表現】女性にかかわる諸問題について、他者と相互理解を図り、共に解決するための素地を身に付けている。

学生へのメッセージ

「人権と平和」というと何か、お堅い「社会問題」であるかのように感じるかもしれません。しかしそこには必ず当事者がいて、現実の人間に関わる問題です。日頃からニュース等に触れて、広く関心を持って参加されることを期待しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	講師は、国際NGOの理事として国連における条約作成にも関与してきました。そうした場では多くの女性が生き生きと活躍しています。講義で扱う内容は身近な国内法が中心ですが、国際的視点を交えながら、講義を進めます。
アクティブ・ラーニング	○	質疑応答を通じた双方向の授業を行います。また、感染対策に配慮した上で、状況に応じて、グループワークやグループ・ディスカッションを実施します。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50503001
講義名	社会学入門
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	岡村 逸郎	指定なし

ナンバリング

X13430M21

授業概要(教育目的)

本授業では、社会学の基本的な考え方を学ぶとともに、「歴史」という観点からさまざまな現象を分析する社会学の視点や方法を紹介する。本授業の目的は、社会学の基本的な考え方や理論を、さまざまな身近な現象や具体的な事例に関連づけて理解する視点を身につけることである。
本授業では、私たちの身近な現象や事例として、家族、福祉、犯罪、教育に注目する。そして、それらの事例をもとに、現代社会がどのような仕組みのもとでなり立っており、歴史的にどのように形成されたのかを考察する。
社会学の基本的な考え方を理解するために、社会学がおもな対象にする「社会」が、何を指し示す言葉として用いられているのかを考える。社会学における社会が、個人-関係性-集団という3つの要素から構成されるものとして把握されていることを確認し、その視点のもとで社会学理論の歴史的なり立ちを整理する。また、相互行為という社会学の分析対象に注目して、それを規範、役割、逸脱、秩序、社会変動などの視点から考える。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	・社会学の基本的な考え方を理解し、説明できる。 ・社会で生じているさまざまな現象や社会問題について、その現状を正確な知識のもとで把握し、理解できる。
思考・判断の観点(K)	・社会で生じているさまざまな現象や社会問題について、そのメカニズムを理論と身近な事例を往復しながら説明できる。
関心・意欲・態度の観点(V)	・社会で生じているさまざまな現象や社会問題について、生活者としての自らの経験にもとづき考察するとともに、授業内でのディスカッションを通して多様な視点や価値観にもとづく意見や考察に触れ、自らの視点を相対化できる。

技術・表現の観点(A)	・レスポンス・シートやレポートを通して、資料や先行研究を正しく参照する技術を身につけるとともに、自らの考えや主張を他者にわかるように提示する表現力を獲得する。

学習計画

現代の社会的事象や社会問題に、社会学の研究はどのように切り込んでいるか？

第1回	**授業テーマ**	社会学が扱う14の領域（相互行為論編）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の概要と成績評価の基準を説明し、社会学が扱う14の領域を相互行為に注目して概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：シラバスをよく読み、授業の進み方のイメージをもって授業に臨む。 復習：配布資料をよく読み返す。
	教室外学習の時間（分）	予習１２０分 復習１２０分
第2回	**授業テーマ**	社会学と相互行為――行為、状況、意味づけ、規範
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会学における相互行為という発想を、関連する概念である行為、状況、意味、役割、規範との関係から考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：身近な事例において「社会」という言葉が使われている用語を3つ調べる。 復習：配布資料をよく読み返し、参考図書の該当部分を読む。
	教室外学習の時間（分）	予習１２０分 復習１２０分
第3回	**授業テーマ**	映画『そして父になる』から読み解く血縁／愛情をめぐる家族規範
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映像と本を資料にし、家族社会学的な視点から相互行為を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：作品をみる。 復習：配布資料をよく読み返し、参考図書の該当部分を読む。
	教室外学習の時間（分）	予習１２０分 復習１２０分
第4回	**授業テーマ**	アニメ『あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。』からみる死と自責の念をめぐる〈笑い〉の技法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映像、本、雑誌を資料にし、福祉社会学的な視点から相互行為を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：作品をみる。 復習：配布資料をよく読み返し、参考図書の該当部分を読む。
	教室外学習の時間（分）	予習１２０分 復習１２０分
第5回	**授業テーマ**	新聞報道からみる通り魔の加害者-被害者関係の捉え方の歴史的な変化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新聞を資料にし、犯罪社会学的な視点から相互行為を分析する。
		予習：新聞の記事検索システムを使って記事を読んでみ

	教室外学習(予習・復習)の内容	る。 復習：配布資料をよく読み返し、参考図書の該当部分を読む。
	教室外学習の時間（分）	予習１２０分 復習１２０分
第6回	**授業テーマ**	小説『弱キャラ友崎くん』『夜のクラゲは泳げない』からみる生徒文化としてのスクール・カースト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本と雑誌を資料にし、教育社会学的な視点から相互行為を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：作品をみる。 復習：配布資料をよく読み返し、参考図書の該当部分を読む。
	教室外学習の時間（分）	予習１２０分 復習１２０分
第7回	**授業テーマ**	資料を収集し、分析する――アカデミック・ライティングの方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会学におけるアカデミック・ライティングの方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：これまでに配布した講義資料の参考文献一覧における書誌情報の表記の仕方をみる。 復習：配布資料をよく読み返し、参考図書の該当部分を読む。
	教室外学習の時間（分）	予習１２０分 復習１２０分
第8回	**授業テーマ**	社会学が扱う14の領域（制度論編）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会学が扱う14の領域を制度に注目して概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：第2回の配布資料と実習の内容を読み返す。 復習：配布資料をよく読み返し、参考図書の該当部分を読む。
	教室外学習の時間（分）	予習１２０分 復習１２０分
第9回	**授業テーマ**	中高の社会科・歴史科から考える近代社会における社会変動と制度変容
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会学における制度という発想を、関連する概念である近代化と社会変動との関係から考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：中高の社会科・歴史科の近代に関する箇所を読み返す。身近な事例において「制度」という言葉が使われている用語を3つ調べる。 復習：配布資料をよく読み返し、参考図書の該当部分を読む。
	教室外学習の時間（分）	予習１２０分 復習１２０分
	授業テーマ	映画『チョコレートドーナツ』からみる婚姻制度と同性愛をめぐる家族規範
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映像を資料にし、家族社会学的な視点から制度を分析する。

第10回	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：作品をみる。 復習：配布資料をよく読み返し、参考図書の該当部分を読む。
	教室外学習の時間（分）	予習１２０分 復習１２０分
第11回	授業テーマ	身の回りの税金・保険料からみる社会保障制度の仕組み・理念
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターネットを資料にし、福祉社会学的な視点から制度を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：e-Gov法令検索を使って法律の条文を読んでみる。 復習：配布資料をよく読み返し、参考図書の該当部分を読む。
	教室外学習の時間（分）	予習１２０分 復習１２０分
第12回	授業テーマ	フォーマル／インフォーマルなルールと刑事司法の仕組み・理念
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターネットを資料にし、犯罪社会学的な視点から制度を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：刑事裁判と民事裁判の違いについて調べてくる。 復習：配布資料をよく読み返し、参考図書の該当部分を読む。
	教室外学習の時間（分）	予習１２０分 復習１２０分
第13回	授業テーマ	アニメ『ヴァイオレット・エヴァーガーデン』と新聞報道からみる文化産業、マス・メディア、刑事司法の文化政治
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映像、新聞、インターネットを資料にし、犯罪社会学的な視点から制度を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：作品をみる。 復習：配布資料をよく読み返し、参考図書の該当部分を読む。
	教室外学習の時間（分）	予習１２０分 復習１２０分
第14回	授業テーマ	漫画『健康で文化的な最低限度の生活』と書籍からみる貧困、社会階層、教育格差
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本を資料にし、教育社会学的な視点から制度を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：作品をみる。 復習：配布資料をよく読み返し、参考図書の該当部分を読む。
	教室外学習の時間（分）	予習１２０分 復習１２０分

学習計画注記

実際の授業の進捗状況によって、各回の内容を変更することがありうる。

学生へのフィードバック方法

毎回授業の内容を踏まえて質問と考察をするレスポンス・シートを提出してもらう。その内容

のなかで優れたものの一部については、匿名化したうえで毎回の授業の冒頭で紹介し、回答する。授業の内容に関する質問は授業中でも随時受けるほか、個別の質問は授業前後ないしメールで受けつける。

評価方法

以下を総合的に評価する。
・授業参加への意欲や積極性など平常点
・レスポンス・シートの内容
・レポートの内容

※本授業の成績評価は、ルーブリックに基づく。
※ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配布等により学生に提示をする。
※レスポンス・シートやレポートにおいては、授業で学んだ知識を正確に理解しているか、事実関係を正確に踏まえたうえで自分の考えや主張をわかりやすく表現できているかどうか、レポートを書くうえでの最低限の作法を守れているか（自分の言葉で書く、文献や資料を参照した場合は書誌情報を明記するなど）を重視する。
※毎回ごとの授業の内容を踏まえていないレスポンス・シートは、評価の対象にしない。毎回ごとの授業の内容を十分に踏まえられていないレスポンス・シートは、減点の対象にする。
※授業に2/3以上出席しなかった学生、レポートを提出しなかった学生は、単位取得できない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
レスポンス・シートの内容	○	○	○	○
レポートの内容	○	○	○	○

評価割合

平常点（50%）、レポートの内容（50%）を合わせて評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

使用しない。必要に応じて資料を配布したり参考書を紹介したりする。

参考図書

・長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志，2019，『新版 社会学』有斐閣.
・永田夏来・松木洋人編，2017，『入門 家族社会学』有斐閣.
・岡邊健編，2020，『犯罪・非行の社会学〔補訂版〕――常識をとらえなおす視座』有斐閣.
・武川正吾・森川美絵・井口高志・菊池英明，2020，『よくわかる福祉社会学』ミネルヴァ書房.
・中村高康・松岡亮二編，2021，『現場で使える教育社会学――教職のための「教育格差」入門』ミネルヴァ書房.

ディプロマポリシーとの関連

・（知識・理解）家族、福祉、犯罪、教育にかかわるさまざまなテーマを社会学的な視点から考察することによって、人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につける。
・（思考・判断）既存の社会学の視点や理論を生活者としての自らの経験と結びつけて考察することによって、生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる能力を獲得する。
・（関心・意欲・態度）ディスカッションを通して自らの経験や視点を相対化することによって、生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる姿勢を養う。
・（技能・表現）犯罪被害者という社会的に不利な立場におかれた人々の経験のありようを多様な専門的知識とのかかわりのなかで理解することによって、生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる能力を取得する。

オフィスアワー

個別の質問は授業前後ないしメールで受けつける。

学生へのメッセージ

・本、新聞、雑誌、映像、インターネットなどの日常生活で接する身近な媒体のなかから、社会的な事象（複数の人々のかかわりのなかで生じるできごと）の具体例を探す習慣を身につけてほしい。
・レポートでは、任意の資料（小説には限らない）を1つないし複数選び、授業で学んだ社会学的な視点から考察を行なってもらう。普段の授業を受けながら、レポートの執筆に向けて自分が関心のある事象やテーマを探していってほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	レスポンス・シートやレポートの内容を受講生全体に共有し、グループ・ディスカッションを行なう場合がある。
情報リテラシー教育	○	レスポンス・シートやレポートでは、レポートを書くうえでの最低限の作法を守れているか（自分の言葉で書く、文献や資料を参照した場合は書誌情報を明記するなど）を重視する。
ICT活用		

講義コード	G50503031
講義名	社会学入門
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	岡村 逸郎	指定なし

ナンバリング

X13430C21

授業概要(教育目的)

本授業では、社会学の基本的な考え方を学ぶとともに、「歴史」という観点からさまざまな現象を分析する社会学の視点や方法を紹介する。本授業の目的は、社会学の基本的な考え方や理論を、さまざまな身近な現象や具体的な事例に関連づけて理解する視点を身につけることである。
本授業では、私たちの身近な現象や事例として、家族、福祉、犯罪、、教育に注目する。そして、それらの事例をもとに、現代社会がどのような仕組みのもとでなり立っており、歴史的にどのように形成されたのかを考察する。
社会学の基本的な考え方を理解するために、社会学がおもな対象にする「社会」が、何を指し示す言葉として用いられているのかを考える。社会学における社会が、個人-相互行為-制度という3つの要素から構成されるものとして把握されていることを確認し、その視点のもとで社会学理論の歴史的なり立ちを整理する。また、相互行為という社会学の分析対象に注目して、それを規範、役割、逸脱、秩序、社会変動などの視点から考える。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	・社会学の基本的な考え方を理解し、説明できる。 ・社会で生じているさまざまな現象や社会問題について、その現状を正確な知識のもとで把握し、理解できる。
思考・判断の観点(K)	・社会で生じているさまざまな現象や社会問題について、そのメカニズムを理論と身近な事例を往復しながら説明できる。
関心・意欲・態度の観点(V)	・社会で生じているさまざまな現象や社会問題について、生活者としての自らの経験にもとづき考察するとともに、授業内でのディスカッションを通して多様な視点や価値観にもとづく意見や考察に触れ、自らの視点を相対化できる。

技術・表現の観点(A)	・レスポンス・シートやレポートを通して、資料や先行研究を正しく参照する技術を身につけるとともに、自らの考えや主張を他者にわかるように提示する表現力を獲得する。

学習計画

現代の社会的事象や社会問題に、社会学の研究はどのように切り込んでいるか？

第1回	**授業テーマ**	社会学が扱う14の領域（相互行為論編）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の概要と成績評価の基準を説明し、社会学が扱う14の領域を相互行為に注目して概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：シラバスをよく読み、授業の進み方のイメージをもって授業に臨む。 復習：配布資料をよく読み返す。
	教室外学習の時間（分）	予習１２０分 復習１２０分
第2回	**授業テーマ**	社会学と相互行為――行為、状況、意味づけ、規範
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会学における相互行為という発想を、関連する概念である行為、状況、意味、役割、規範との関係から考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：身近な事例において「社会」という言葉が使われる用語を3つ調べる。 復習：配布資料をよく読み返し、参考図書の該当部分を読む。
	教室外学習の時間（分）	予習１２０分 復習１２０分
第3回	**授業テーマ**	映画『そして父になる』から読み解く血縁／愛情をめぐる家族規範
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映像と本を資料にし、家族社会学的な視点から相互行為を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：作品をみる。 復習：配布資料をよく読み返し、参考図書の該当部分を読む。
	教室外学習の時間（分）	予習１２０分 復習１２０分
第4回	**授業テーマ**	アニメ『あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。』からみる死と自責の念をめぐる〈笑い〉の技法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映像、本、雑誌を資料にし、福祉社会学的な視点から相互行為を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：作品をみる。 復習：配布資料をよく読み返し、参考図書の該当部分を読む。
	教室外学習の時間（分）	予習１２０分 復習１２０分
第5回	**授業テーマ**	新聞報道からみる通り魔の加害者-被害者関係の捉え方の歴史的な変化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新聞を資料にし、犯罪社会学的な視点から相互行為を分析する。
	教室外学習(予習・復	予習：新聞の縮刷版を使って記事を読んでみる。

	習)の内容	復習：配布資料をよく読み返し、参考図書の該当部分を読む。
	教室外学習の時間（分）	予習１２０分 復習１２０分
第6回	**授業テーマ**	小説『弱キャラ友崎くん』『夜のクラゲは泳げない』からみる生徒文化としてのスクール・カースト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本と雑誌を資料にし、教育社会学的な視点から相互行為を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：作品をみる。 復習：配布資料をよく読み返し、参考図書の該当部分を読む。
	教室外学習の時間（分）	予習１２０分 復習１２０分
第7回	**授業テーマ**	資料を収集し、分析する――アカデミック・ライティングの方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会学におけるアカデミック・ライティングの方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：これまでの講義資料の参考文献一覧における書誌情報の表記の仕方をみる。 復習：配布資料をよく読み返し、参考図書の該当部分を読む。
	教室外学習の時間（分）	予習１２０分 復習１２０分
第8回	**授業テーマ**	社会学が扱う14の領域（制度論編）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会学が扱う14の領域を制度に注目して概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：第2回の配布資料を読み返し、実習の内容を復習する。 復習：配布資料をよく読み返し、参考図書の該当部分を読む。
	教室外学習の時間（分）	予習１２０分 復習１２０分
第9回	**授業テーマ**	中高の社会科・歴史科から考える近代社会における社会変動と制度変容
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会学における制度という発想を、関連する概念である近代化と社会変動との関係から考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：中高の社会科・歴史科の教科書の近代に関する箇所を読み返す。身近な事例において「制度」という言葉が使われる用語を3つ調べる。 復習：配布資料をよく読み返し、参考図書の該当部分を読む。
	教室外学習の時間（分）	予習１２０分 復習１２０分
	授業テーマ	映画『チョコレートドーナツ』からみる婚姻制度と同性愛をめぐる家族規範
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映像を資料にし、家族社会学的な視点から制度を分析する。

第10回	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：作品をみる。 復習：配布資料をよく読み返し、参考図書の該当部分を読む。
	教室外学習の時間（分）	予習１２０分 復習１２０分
第11回	授業テーマ	身の回りの税金・保険料からみる社会保障制度の仕組み・理念
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターネットを資料にし、福祉社会学的な視点から制度を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：e-Gov 法令検索を使って法律の条文を読んでみる。 復習：配布資料をよく読み返し、参考図書の該当部分を読む。
	教室外学習の時間（分）	予習１２０分 復習１２０分
第12回	授業テーマ	フォーマル／インフォーマルなルールと刑事司法の仕組み・理念
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターネットを資料にし、犯罪社会学的な視点から制度を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：刑事裁判と民事裁判の違いについて調べる。 復習：配布資料をよく読み返し、参考図書の該当部分を読む。
	教室外学習の時間（分）	予習１２０分 復習１２０分
第13回	授業テーマ	アニメ『ヴァイオレット・エヴァーガーデン』と新聞報道からみる文化産業、マス・メディア、刑事司法の文化政治
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映像と新聞を資料にし、犯罪社会学的な視点から制度を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：新聞の記事検索システムを使って記事を読んでみる。 作品をみる。 復習：配布資料をよく読み返し、参考図書の該当部分を読む。
	教室外学習の時間（分）	予習１２０分 復習１２０分
第14回	授業テーマ	漫画『健康で文化的な最低限度の生活』と書籍からみる貧困、社会階層、教育格差
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本を資料にし、教育社会学的な視点から制度を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：作品をみる。 復習：配布資料をよく読み返し、参考図書の該当部分を読む。
	教室外学習の時間（分）	予習１２０分 復習１２０分

学習計画注記

実際の授業の進捗状況によって、各回の内容を変更することがありうる。

学生へのフィードバック方法

毎回授業の内容を踏まえて質問と考察をするレスポンス・シートを提出してもらう。その内容のなかで優れたものの一部については、匿名化したうえで毎回の授業の冒頭で紹介し、回答する。授業の内容に関する質問は授業中でも随時受けるほか、個別の質問は授業前後ないしメールで受けつける。

評価方法

以下を総合的に評価する。
・授業参加への意欲や積極性など平常点
・レスポンス・シートの内容
・レポートの内容

※本授業の成績評価は、ルーブリックに基づく。
※ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配布等により学生に提示をする。
※レスポンス・シートやレポートにおいては、授業で学んだ知識を正確に理解しているか、事実関係を正確に踏まえたうえで自分の考えや主張をわかりやすく表現できているかどうか、レポートを書くうえでの最低限の作法を守れているか（自分の言葉で書く、文献や資料を参照した場合は書誌情報を明記するなど）を重視する。
※毎回ごとの授業の内容を踏まえていないレスポンス・シートは、評価の対象にしない。毎回ごとの授業の内容を十分に踏まえられていないレスポンス・シートは、減点の対象にする。
※授業に2/3以上出席しなかった学生、レポートを提出しなかった学生は、単位取得できない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
レスポンス・シートの内容	○	○	○	○
レポートの内容	○	○	○	○

評価割合

平常点（50%）、レポートの内容（50%）を合わせて評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

使用しない。必要に応じて資料を配布したり参考書を紹介したりする。

参考図書

・長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志，2019，『新版 社会学』有斐閣.
・永田夏来・松木洋人編，2017，『入門 家族社会学』有斐閣.
・岡邊健編，2020，『犯罪・非行の社会学〔補訂版〕――常識をとらえなおす視座』有斐閣.
・武川正吾・森川美絵・井口高志・菊池英明，2020，『よくわかる福祉社会学』ミネルヴァ書房.
・中村高康・松岡亮二編，2021，『現場で使える教育社会学――教職のための「教育格差」入門』ミネルヴァ書房.

ディプロマポリシーとの関連

・（知識・理解）家族、福祉、犯罪、教育にかかわるさまざまなテーマを社会学的な視点から考察することによって、人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につける。
・（思考・判断）既存の社会学の視点や理論を生活者としての自らの経験と結びつけて考察することによって、生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる能力を獲得する。
・（関心・意欲・態度）ディスカッションを通して自らの経験や視点を相対化することによって、生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる姿勢を養う。
・（技能・表現）犯罪被害者という社会的に不利な立場におかれた人々の経験のありようを多様な専門的知識とのかかわりのなかで理解することによって、生活者の問題に寄り添えるコミ

ュニケーションができる能力を取得する。

オフィスアワー

個別の質問は授業前後ないしメールで受けつける。

学生へのメッセージ

・本、新聞、雑誌、映像、インターネットなどの日常生活で接する身近な媒体のなかから、社会的な事象（複数の人々のかかわりのなかで生じるできごと）の具体例を探す習慣を身につけてほしい。
・レポートでは、任意の資料を1つないし複数選び、授業で学んだ社会学的な視点から考察を行なってもらう。普段の授業を受けながら、レポートの執筆に向けて自分が関心のある事象やテーマを探していってほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	レスポンス・シートやレポートの内容を受講生全体に共有し、グループ・ディスカッションを行なう場合がある。
情報リテラシー教育	○	レスポンス・シートやレポートでは、レポートを書くうえでの最低限の作法を守れているか（自分の言葉で書く、文献や資料を参照した場合は書誌情報を明記するなど）を重視する。
ICT活用		

講義コード	G50506001
講義名	経済学入門
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	髙橋 信勝	指定なし

ナンバリング

X13440M21

授業概要(教育目的)

私たちは，家庭の外で働いて得た収入によって様々な財やサービスを購入し，消費することで日々の生活を送っている．人間の日常生活における経済面での営みは，「自己保存」あるいは「生命力の再生産」とよばれる．マーシャルによれば，経済学とは，日常生活を営んでいる人間についての研究にほかならない．

今日の市場経済社会では，人びとは，自己保存に必要な財をみずからがすべて生産し，すべて消費し尽くすわけではない．私たちの身の回りの消費対象のほとんどは他者の生産の成果である．すなわち，各人の自己保存は，自分と他者とのあいだで「持ちつ持たれつ」の関係をつうじて果たされている．しかも，その主たる関係は貨幣を仲立ちとする取引関係である．

この授業では，私たちが生きている現代の経済社会の実相を理解できるように，経済学の基本を学ぶ．また，この学びのなかで経済学をベースとするものの見方と判断力を養うことを狙いとする．

履修条件

とくになし．

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	市場経済の基本的な仕組みと，政府が市場経済の働きを補完する混合経済の社会について理解できるようになる．
思考・判断の観点 (K)	成長と停滞と縮小をくり返す一国経済の全体の動きに関心を持ち，私たちの生活への影響を判断できるようになる．
関心・意欲・態度の	消費支出，アルバイト，就職活動など，大学生としての日々の経済生活に経済学的視点から関心を抱き，たとえば，機会費用の考え方によって自分の経済行動を

観点 (V)	点検し，修正できるようになる.
技術・表現の観点 (A)	レポート課題の作成や期末試験のためのノートの整理をつうじて，生活に根差した経済の望ましい在り方を模索し，平易な言葉で表現できるようになる.

学習計画

第1回	**授業テーマ**	経済学とは，私たちの生活の物質的な豊かさに関する学問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①経済学の使命，②経済学の3つの分野，③経済学の議論の出発点である自己保存，④経済問題，⑤経済システムについて学ぶ.
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「経済」という言葉の由来について，図書館などで事典等を利用して調べる. 復習：経済学は，ピグーが指摘したように，私たちの「厚生」（≒満足）のうち貨幣によって捉えることができる部分のみを対象とする. 物質的な豊かさイコール人間生活の豊かさであると速断してはならない. このことを確認するため，具体例を考えてみる.
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第2回	**授業テーマ**	経済学に取り組むための足慣らし
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①生産可能性曲線，②トレードオフ，③機会費用，④サンクコスト，⑤分業，⑥迂回生産について学ぶ.
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：私たちが思うがままに欲しいものを獲得できる世界にいるならば，経済学という学問は必要であろうか. この問題を考えてみる. 復習：日常生活のなかでサンクコストに相当する具体例を考えてみる.
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第3回	**授業テーマ**	現代の経済社会は，どのように特徴づけられるのか
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①経済主体，②市場，③自主的・分権的な意思決定，④経済活動の自由，⑤自己責任，⑥価格を参照基準とする経済行動，⑦混合経済社会について学ぶ.
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：経済的不平等を緩和するために，政府はどのようなことをなしうるのかを考える. 復習：企業，家計，政府の経済的な結びつきについて復習する.
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第4回	**授業テーマ**	私たちは，限られた貨幣収入をどのように支出しているのかを見つめ直す
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①水とダイヤモンドをめぐるスミスのパラドックス，②限界革命，③限界効用逓減の法則，④限界効用均等の法則，⑤効用の可測性とその留意点，⑥効用最大化のための消費者行動について学ぶ.
		予習：人びとが財の消費から得る満足は，共通かつまったく同じものとして取り扱うことができるのであろうか. この問題について，人間

	教室外学習(予習・復習)の内容	を平等に扱う社会の存在を前提に考えてみる. 復習：富裕な人びとから経済的に苦しんでいる人びとへ貨幣を移すことは，限界効用逓減の法則によって，どのように説明されるのかを考える. ※第1回レポート課題の提示
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第5回	**授業テーマ**	買いたい側と売りたい側の思惑が一致する点に，価格決定のかなめはある
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①需要曲線，②供給曲線，③均衡価格と市場の価格調整メカニズム，④需要曲線のシフト，⑤供給曲線のシフトについて学ぶ.
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：なぜ需要曲線は一般に右下がりに，供給曲線は一般に右上がりになるのかを考えてみる. 復習：ノートを見直して，価格決定の基本について理解を深め，そのメカニズムの背景には合理的な経済人の想定があること，すなわち，スミスが着目した「利己心」にもとづく私益の追求行動が前提となっていることを復習する.
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第6回	**授業テーマ**	一国経済の規模は，どのようにして捉えるのか
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①ストックとフロー，②国内総生産，③名目値と実質値，④国内純生産，⑤国民総所得，⑥経済成長，⑦三面等価の原則について学ぶ.
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：第二次世界大戦後の日本における高度経済成長の光と闇の両面について，図書館などで事典等を利用して調べる. 復習：ノートを見直して，国民経済の大きさを捉えるための基本スケールである国内総生産について，なぜ二重計算の過ちは許されないのかを復習する. ※第1回レポート課題の提出
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第7回	**授業テーマ**	物価の変動は，私たちの生活にどのような影響をおよぼすのか
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①物価，②物価指数，③インフレとデフレ，④物価変動の要因と安定化，⑤物価の国際比較について学ぶ.
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：図書館などで，物価の急激な上昇が経済生活に混乱をもたらした事例を調べてみる. 復習：ラスパイレス方式による消費者物価指数の算出法を復習する.
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第8回	**授業テーマ**	第1回から第7回授業のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の重要ポイントを振り返る．第1回レポート課題の講評．教室外学習の問題の解説.

	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：第1回から第7回授業までのキーワードを20ほど書きだして，おおまかに説明できるかどうかを確かめる. 復習：レポート課題の講評にもとづいて，レポートの内容を見直す.
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第9回	**授業テーマ**	一国の経済活動はつねに調子がよいとは限らず，不調のときもある
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①景気の1周期，②景気動向指数，③景気循環のタイプについて学ぶ.
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：好景気と不景気の影響は，私たちの生活面に，どのように現れるのかを賃金や消費に注目して考えてみる. 復習：ノートを見直して，景気の1周期について，はじめの「谷」から次の「谷」へいたるプロセスを復習する.
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第10回	**授業テーマ**	政府は，市場経済の機能不全をどのように補完しようとするのか
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①公共財，②所得の再分配，③経済の安定化，④中央銀行の役割について学ぶ.
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：政府の社会的責任とは何かを考えてみる. 復習：累進課税の強化は，労働に対するインセンティブにどのような影響を与えるのかを考えてみる. ※第2回レポート課題の提示
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第11回	**授業テーマ**	企業は利潤の追求を目的とするが，家計の存在理由とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①企業のタイプ，②株式会社の特質，③株式市場の役割，④家計における生命力の再生産について学ぶ.
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：市場経済社会において，なぜ株式会社が企業の代表的形態となったのかを考えてみる. 復習：家計の経済的機能について，家計と企業，家計と政府との結びつきに注意しながら，再確認する.
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第12回	**授業テーマ**	現代日本における働き方を企業と働く者の視点から捉える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①新卒一括採用，②ジョブ型雇用とメンバーシップ型雇用，③長期雇用，④企業別労働組合，⑤年功賃金，⑥みえざる出資理論，⑦正規雇用と非正規雇用について学ぶ.
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：企業にとっての非正規雇用のメリットとデメリットについて考えてみる. 復習：現代日本において，長期雇用や年功賃金が大きく揺らいでいる理由を復習しておく. ※第2回レポート課題の提出
	教室外学習の	予習：90分

	時間（分）	復習：100分
第13回	**授業テーマ**	少子高齢社会と人口問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①人口を捉える視点，②マルサスの時代と現代日本の人口問題，③労働力人口，④合計特殊出生率，⑤社会保障制度の持続可能性について学ぶ.
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：人口論の祖マルサスは人口の増加力を懸念した．しかし，今日，生まれる子どもの数は日本では減少傾向にある．その理由を考えてみる. 復習：政府が人口の増加策を大々的に進めることは，なぜ慎重を要するのであろうか．この問題を，個人の自己決定の視点から考えてみる.
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分
第14回	**授業テーマ**	第9回から第13回授業のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の重要ポイントを振り返る．第2回レポート課題の講評．教室外学習の問題の解説.
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：第9回から第13回授業までのキーワードを20ほど書きだして，おおまかに説明できるかどうかを確かめる. 復習：レポート課題の講評にもとづいて，レポートの内容を見直す.
	教室外学習の時間（分）	予習：90分 復習：100分

学習計画注記

授業では，できるだけ平易な表現を使用し，具体例を交えながら説明する．経済学の歴史的知見の紹介や新聞の経済記事の解説なども行い，経済学のおもしろさを知ってもらう.

なお，コロナ感染症に対する大学の方針に即して，対面授業のリモート授業への切り替えや，授業の進展度を考慮した授業テーマの変更がありうるので注意すること.

学生へのフィードバック方法

提出されたレポートは，後日の授業で取り上げる．興味深い内容や再考を要する内容を紹介しながら全体の講評を行う.

レポート課題の講評とあわせて教室外学習の問題の解説も行い，学生との対話の機会を確保する.

評価方法

2回のレポート（60%）と期末テスト（40%）により，成績を評価する．ルーブリックを含めた成績評価方法の詳細は，初回の授業時に説明する.

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
第1回レポート課題	○	○		○
第2回レポート課題	○	○		○
期末テスト	○	○		○

評価割合

2回のレポート（30%＋30%）と期末テスト（40%）

使用教科書名(ISBN番号)

指定しない.

参考図書

必要に応じて紹介する.

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】経済学の知見をふまえて，今日の市場経済社会の実相を理解することができる.
【思考・判断】国民経済全体の視点のみならず，各個人あるいは各家計の視点から，私たちの経済生活の向上を考えることができる.
【技術・表現】日々の生活における他者とのコミュニケーションのなかで，経済学的な発想を活かし，表現することができる.

学生へのメッセージ

第1に授業への継続的な出席，第2に集中しての受講，第3に課題を後回しにせず，十分な時間的な余裕をもって提出すること.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50506031
講義名	経済学入門
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	野口 尚洋	指定なし

ナンバリング

X13440C21

授業概要(教育目的)

経済学を初めて学ぶ学生に、経済の基本的な仕組みと最近の重要な経済問題を理解させ、私たちへの生活へのかかわりや経済問題の重要性を理解させることを目標にする。そして、それらに対する自分自身の意見を形成し、それを自分のことばで他人に伝えられるだけの知識を習得することも、併せて目標にすえる。

前半は、ミクロ経済学の分野の解説に充てる。その中で、経済学の中のいくつかの考え方の違いも詳述する。後半は、マクロ経済学の解説に充て、新聞やニュースで取り上げられる、昨今の重要な経済問題について解説することを中心に進める。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	経済学の基本的な概念が理解できる。同時に、世の中の経済の仕組みを理解できる。
思考・判断の観点 (K)	市場や政府の役割など、経済の基本的な仕組みとお金の流れなど今後の生活で必要となる金融や保険の仕組みを理解できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	授業テーマ	オリエンテーション、経済学独特の考え方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①この授業の全体像を理解する。②経済学独特の考え方を身に付ける。具体的には、インセンティブ・トレード・オフ・機会費用。最後にインセンティブに関するDVDを視聴する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習としてシラバスを十分に読み込んでおくこと。復習は問題演習や視聴したDVDに関する質問を考えることにより授業内容の理解を深め、ポスト・テストを受験する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	授業テーマ	企業の行動を理解する。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	経済学独特の考え方の１つに限界という概念がある。この限界を理解するために企業の行動について考える。企業の利潤が最大になっているときの状態について解説する。最後に授業内容の一例としてオリエンタルランドについて分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習は一次関数について復習しておく。また、復習として練習問題を解いて理解を深め、ポスト・テストを受験する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	消費者の行動と保険のしくみを理解する。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費者の行動を理解する。また、その応用として保険のしくみと情報の非対称性の問題についても考え、その問題を回避するための方法を解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第2回の「限界」の概念を再度、理解しておく。復習としては、保険についての数値例の問題を解くことにより理解を深める。さらに、情報の非対称による問題を回避するためにどのような仕組みをとっているか実際の保険から調べてみる。最後にポスト・テストを受験する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	市場のしくみと需要と供給
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	市場の形成と種類、そして市場において何が決まるのかを理解する。その際、需要と供給の役割についても理解する。需要と供給の分析では、身近な例を取り上げ、みんなで考えていく。また、余剰の基本的な概念も説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、授業内容に関する練習問題を通じてより深く理解する。その後にポスト・テストを受験する。
	教室外学習の時間（分）	150分
第5回	授業テーマ	課税の効果と自由貿易の利益
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	余剰分析の応用として、課税の効果と自由貿易の利益を説明する。課税の効果では、消費税を10%に上げたときになぜ軽減税率を設けたかまで説明し、貿易の利益では関税を課した効果まで説明する。
	教室外学	一番難しい授業回だと思うので、時間をかけてゆっくり復習してほし

	習(予習・復習)の内容	い。練習問題を解くことで理解を深めることができるが、その際は自分で図を描いて解いてもらいたい。最後にポスト・テストを受験する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	ゲーム理論入門
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	単純なゲーム理論を解説する。相手の行動が自らの行動に影響を及ぼすことを理解する。ゲーム理論で多くの身近な経済現象を説明できるので、なるべく多くの実例を挙げて説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分で考えることが大切。なるべく身近な様々な例を練習問題として挙げるので、自分で考えてみる。ポスト・テストを受験する。
	教室外学習の時間（分）	150分
第7回	**授業テーマ**	GDPと戦後日本の経済成長
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国の経済の大きさを表すGDPについて説明する。その後、このGDPの成立のグラフを用いて、戦後、我が国は高度経済成長を経て豊かになった原因を解説する。また、近年の大きな経済の出来事として、バブルとその崩壊、リーマンショックについても解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	歴史なので流れを重視して授業の復習を行うこと。また、視聴したDVDによりリーマンショックについての質問を考えることで、理解を深める。DVDについては、レポートとして提出。
	教室外学習の時間（分）	300分（含 レポート作成）
第8回	**授業テーマ**	金融(1) 貨幣の仕組みと銀行の仕事
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	貨幣の発展の歴史を学ぶことにより、貨幣とはそもそも何か、その基本的機能を理解する。また、後半では、日本銀行と民間銀行の仕事と機能について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として、日本銀行のホームページから貨幣博物館のサイトへ行き、貨幣の歴史を読んでおく。復習は問題演習を通じて理解を深める。最後にポスト・テストを受験する。
	教室外学習の時間（分）	150分
第9回	**授業テーマ**	金融(2) 債券と株のしくみ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	利子の歴史を紐解き、利子とは何かを説明する。また、複利計算の方法と割引の考え方を理解する。最後に、債券と何か、株式とは何かを理解し、その価格のついて理論的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	複利計算はローンを組む際など、実際の生活の中でも重要な計算なので、数値例を用いた練習問題を自分で電卓を使って計算することで理解していく。最後にポスト・テストを受験する。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	インフレとデフレ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	物価指数を説明し、実際のデータを用いて近年の変化について説明す

第10回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	る。また、インフレ、デフレの意味と発生のメカニズム、過去の歴史を解説する。また、労働市場との関連についても説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	物価指数の作り方とインフレの種類を復習する。また、インフレと労働市場の関係に関するレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	300分
第11回	授業テーマ	労働市場について理解する。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	賃金の決まり方と失業の発生メカニズムを理解する。また、ベバリッジ曲線を用いた失業の変化と労働市場の現状を説明する。さらに、女性の独特のM字カーブについても説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として日本の賃金の決まり方の特徴を調べておく。練習問題を通して理解を深め、その後にポスト・テストを受験する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	授業テーマ	国際経済学（為替レートと貿易）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	円高・円安の意味と決定要因、その実体経済への影響を解説する。また、貿易の理論として比較優位を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として機会費用の概念を整理しておく。為替レートの計算を提出課題とするので、その作成を行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	日本の財政と社会保障
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の財政の現状を説明する。また、社会保険とその一つである公的年金の基本的な仕組みと問題点について解説する。実際のデータを示し、国際比較をすることによって現状を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指定するホームページより、財政の様々な指標を自分で調べる。その後にポスト・テストを受験する。
	教室外学習の時間（分）	150分
第14回	授業テーマ	まとめと学習到達度確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業全体のまとめを行い、その後に学習到達度を確認するための試験を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習到達度を確認するための試験を行うので、各自、準備をしておいてください。授業後は学習到達度確認試験の解き直しを行い理解を確実なものにする。
	教室外学習の時間（分）	300分

学習計画注記

学習計画は実際の進捗による。レポートは出題後１週間程度を期限とする。尚、同一もしくはほとんど同一のものを複数発見した場合、そのすべてを0点とする。

学生へのフィードバック方法

１回のレポートにコメントを付して返却する。また、ポスト・テストを行い理解度を見たうえで、授業の中で解説する。

評価方法

ルーブリックに基づき評価する。ルーブリックに関しては初回の授業のオリエンテーション時に説明する。初回の授業に欠席した学生は必ずクラスルームにアップロードされている資料を確認すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○		
ポスト・テスト	○	○		
定期試験	○	○		

評価割合

レポートが各25%、ポスト・テスト25%、定期試験が50%の割合で評価する。詳細は初回授業で説明する。

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定はしません。

参考図書

[1] 池上彰著『池上彰のマンガでわかる経済学』１巻、日本経済新報社、2018年
[2] 池上彰著『池上彰のマンガでわかる経済学』２巻、日本経済新報社、2018年
[3] 浅子和美著『経済学入門 15講』新世社 2021年

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】経済の重要概念に関する基本的な知識を有している。
【思考・判断】市場メカニズムの基本的な機能を理解し、その優位性と限界を知り、さまざまな現代的な課題に関する思考・判断能力を身に付ける。

学生へのメッセージ

図を使用したり、計算することが多い授業です。自分で図を描き、計算することでより理解が深まりますので、積極的に参加することを望みます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50507031
講義名	経営学入門
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	金森 敏	指定なし

ナンバリング

X13450C21

授業概要(教育目的)

現代社会は、営利組織である企業、非営利組織である官庁・学校・病院など、「組織」を通じてその運営がなされている。経営学は、この組織の構造や行動、組織で働いている人のやる気や管理などの問題を扱うものである。本講義では、主に企業活動における企業の行動や企業の中で働く人の管理に焦点を当て、企業に関する理解を深めてもらう。なお本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講生の人数の上限を設ける。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	多様な企業活動を知るができる。
思考・判断の観点 (K)	企業活動について、「自分の言葉」で記述することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	組織と個人の関係を考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個人の役割が大事だとわかっていても、組織を巨大なものとして思いがちなのはなぜかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	組織と個人の関係、誘因と貢献の関係について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
	授業テーマ	企業イメージと３C分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘ	C

第2回	ﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	企業イメージを知り、３　分析について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	３C分析について復習をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第3回	授業テーマ	会社とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	会社は何のためにあるのか、何のために働くのかについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	何のために働くのかを復習しておくこと。（1回目の課題あり）
	教室外学習の時間（分）	195分
第4回	授業テーマ	株式会社について知る
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	株式発行について知る、株式会社の３会について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	興味のある株式会社を調べておくこと（2回目の課題あり）
	教室外学習の時間（分）	195分
第5回	授業テーマ	会社は誰のものか
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	会社は誰のものか（企業ガバナンス）を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	会社は誰のものか考える。（3回目の課題あり）
	教室外学習の時間（分）	195分
第6回	授業テーマ	CSRについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	CSRについて知る。CSRについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	CSRの点から株式会社を調べる。（4回目の課題あり）
	教室外学習の時間（分）	195分
第7回	授業テーマ	中間振り返り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第1回～第6回までの授業内容を振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポート作成について各自調べてくること（5回目の課題）
	教室外学習の時間（分）	195分
第8回	授業テーマ	レポート作成について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題のレポート作成について解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポート作成について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第9回	授業テーマ	組織構造について①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「組織（構造）は戦略に従う」について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	組織構造について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第10回	授業テーマ	組織構造について②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	組織構造における人の役割について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	社内ベンチャーについて調べおくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分

第11回	授業テーマ	マックとモスの競争戦略について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	競争戦略を知る。競争戦略について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	競争戦略について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第12回	授業テーマ	国際化について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	企業はなぜ国境を越えた活動をするのか？
	教室外学習(予習・復習)の内容	グローバリゼーションとは何か復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第13回	授業テーマ	キャリアについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャリアデザインはいつするのか。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身のキャリアについて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第14回	授業テーマ	総まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで取り上げた授業内容を中心に復習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまで取り上げた授業内容を予習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや授業内容が変更される場合もあります。
イベントなどにおいて、授業の振替えを行うこともあります。

学生へのフィードバック方法

授業にて解説します。

評価方法

・課題は4回～5回出題します。内容はA4で1枚～2枚程度です。
・レポートは4000字程度、A4で3枚～4枚程度です。レポートとして、レポートの形になっているか、引用文献、参考文献、文章表現などができているかが大事です。授業において、レポートの書き方、また、質問などを受け付けます。
・課題、レポートは下表に示す力を養うことを目的に実施します。
・提出期限を過ぎた提出物、提出内容を満たしていない提出物は０点である。
なお、評価はルーブリック評価を用い、クラスルームに公開します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○			
レポート	○	○		

評価割合

レポート(60%)
課題4～5回（40%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし。

参考図書

加護野忠男・吉村典久、『1からの経営学』、碩学舎、2012。

ディプロマポリシーとの関連

知識・理解：人間社会において豊かな知識と深い思考をもって理解する。

オフィスアワー

前期、後期木曜日5限。
ただし、事前にアポをとってくること。

学生へのメッセージ

課題が多いので覚悟をもって受講すること。また、受講者には75mm×75mmのポストイット（1束100円程度）を購入してもらうかもしれない。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	レポートの書き方等の教育内容を含む。
ICT活用	○	グーグルフォームを活用しながら、双方向型授業を実施

講義コード	G50508031
講義名	日本の歴史
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13460C21

授業概要(教育目的)

グローバル化・多様化の求められる現代において、必要なのは、それぞれの立場を尊重しつつ、自分の立場も自覚し、その上で理解し合うことです。そのためにはまず、自分はどのような背景を背負っているのかを認識しなければなりません。この授業では、日本の歴史を学ぶことによりその背景を理解し、さらにそこから自分の頭で考えることの重要性を認識する、いわば人格形成を最終的な目的とします。

履修条件

日本史に興味と学習意欲があり、自宅学習時間の取れることが条件となります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	授業で取り上げた内容を正確に理解した上で、全体の歴史的な流れを把握、日本史の知識のない他者に、簡潔に説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	歴史的事実を踏まえた上で、一般の固定観念や偏見にとらわれることなく、現代日本の抱える諸問題を解決するための自分なりの考えを持つことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	レポートや試験はプレゼンテーションの一形態でもあるので、自分の理解している知識を的確に他者に伝えることができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	日本人の起源
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	旧石器時代から縄文、弥生、古墳、奈良時代までの社会の様相を理解する。
	教室外学習(予	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなか

	習・復習)の内容	った部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。
	教室外学習の時間（分）	予習120分、復習60分
第2回	授業テーマ	天皇と貴族
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	律令制度や摂関政治など、朝廷で行われていた政治体制について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。
	教室外学習の時間（分）	予習120分、復習60分
第3回	授業テーマ	武家政権の誕生
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鎌倉幕府の執権政治、得宗体制、室町幕府の守護の台頭なとについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。
	教室外学習の時間（分）	予習120分、復習60分
第4回	授業テーマ	戦乱から統一へ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	応仁・天文の乱から室町幕府の滅亡、秀吉による「惣無事令」の発布にいたる流れを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。
	教室外学習の時間（分）	予習120分、復習60分
第5回	授業テーマ	江戸幕府の成立
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幕府の行った大名統制、外交政策と、その転換を機に巻き起こる討幕運動について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。
	教室外学習の時間（分）	予習120分、復習60分

第6回	授業テーマ	明治政府の登場
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	天皇中心の中央集権体制のもと、帝国主義国家へと変貌する過程を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。
	教室外学習の時間（分）	予習120分、復習60分
第7回	授業テーマ	日清・日露戦争
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本政府の朝鮮半島進出政策と、朝鮮をめぐって勃発した日清・日露戦争の意味について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。
	教室外学習の時間（分）	予習120分、復習60分
第8回	授業テーマ	社会運動と言論統制
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	憲法制定と国会開設、治安維持法と普通選挙法といった、明治以降の言論統制の実態を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。
	教室外学習の時間（分）	予習120分、復習60分
第9回	授業テーマ	軍部の台頭
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対華二十一か条の要求、満州建国など大陸進出を進める反面、日本が国際社会から孤立していく過程を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。
	教室外学習の時間（分）	予習120分、復習60分
	授業テーマ	日中戦争の勃発
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	盧溝橋事件に端を発する日中戦争の戦況と、ますます深まる国際的な孤立について理解する。

第10回	を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。
	教室外学習の時間（分）	予習120分、復習60分
第11回	授業テーマ	アジア・太平洋戦争へ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日中戦争により米英との対立が深まった結果、勃発したアジア・太平洋戦争の戦況と、この戦争の目的について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。
	教室外学習の時間（分）	予習120分、復習60分
第12回	授業テーマ	原爆と終戦
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	戦争によって苦難を強いられる国民生活や沖縄戦の実態、原爆投下から無条件降伏に至る過程を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。
	教室外学習の時間（分）	予習120分、復習60分
第13回	授業テーマ	新憲法の制定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	GHQにより実施された民主化政策の実態と、新憲法制定までの経緯について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。
	教室外学習の時間（分）	予習120分、復習60分
第14回	授業テーマ	朝鮮戦争と日米安保条約
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	朝鮮戦争を契機に進む再軍備の実態と、日米安保条約の意味について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。

	教室外学習の時間（分）	予習120分、復習60分
第15回	**授業テーマ**	混迷する政局
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	55年体制の成立から崩壊にいたる過程と、その間発生した数々の疑獄事件、現代社会の問題点について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。
	教室外学習の時間（分）	予習120分、復習60分

学習計画注記

授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業終了後、教室でお声がけください。なお、顔の見えないメールでの対応はいたしません。

評価方法

・第１回から第７回分までをレポートにまとめ、提出していただきます。レポートが未提出の場合、評価ができなくなりますので、ご注意ください。
・期末試験は、第８回以降が範囲となりますが、正しく理解できていることはもちろん、文章に矛盾はないか、主語は明確か、読み手に書き手の意図が伝わるか、という点も評価の対象となります。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○		○
期末試験	○	○		○

評価割合

レポートと期末試験の平均点で評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

教科書は使用しません。

参考図書

竹内誠 他編『教養の日本史』（東京大学出版会、ISBN：4-13-022014-4）

大石学 他編『地図・年表・図解でみる 日本の歴史 上・下』（小学館、ISBN:9784096260876/9784096260883）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
日本の歴史や地域について基本的知識を持ち、その流れや因果関係を把握し、その意義を説明できる。
【思考・判断】
正確な情報を収集して、一般的な思い込みや偏見を排除し、現代社会の抱える諸問題への対処法を判断できる力、未来を見据える力を身につけている。
【技術・表現】
正しい文章表現により、自分持つ知識や考えを正確に他者に伝えることができる。

学生へのメッセージ

この授業を履修するにあたり，歴史の専門知識は必要ありません。一回一回の授業に集中して受けてください。そして、歴史から自分は何を学び取れるのだろうか、ということを、常に意識して受講してください。わからないところがあれば放置せず、遠慮なく質問してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50509001
講義名	世界の歴史
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	吉村 貴之	指定なし

ナンバリング

X13470M21

授業概要(教育目的)

今後国際人として訪日外国人と付き合う際に必要となるのは、近現代の世界についての基礎知識である。この講義では、特に近年日本とのつながりが増えながらも、戦争報道ばかりで知られがちな中東、さらに、ロシアやウクライナを始めとするユーラシア世界で起きている現代的な問題（紛争の原因となっている多民族国家とその崩壊、国民国家の成立など）を歴史的背景から理解し、考察できるようになることを目指す。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	人間社会、特にユーラシア世界の多様性に関する豊かな知識を持ち、その多民族共存、多文化接触のありようを深い思考で理解する。
思考・判断の観点 (K)	ユーラシア中央部、つまり中東やロシアの多様性に由来する諸問題をありのままの姿でとらえ、その現代的意義を的確に判断できるようにする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	これからの日本にとって、外国人の日本訪問、労働滞在に伴う多文化共生の問題は不可避の課題で、中東やロシアの歴史的経験は、大きな教訓となる。将来の社会人として、目の前に現れた課題に意欲的に取り組み、社会問題を解決するための能力を高める。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画		
多民族共存の歴史		
第1回	授業テーマ	導入
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	講座の進め方や参考書についての説明。多民族共存の歴史、世界帝国とは何かについて解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習は不要。復習に力を入れて欲しい。
	教室外学習の時間(分)	180
第2回	授業テーマ	イスラーム教の起こりと拡大
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イスラーム教についての解説と、イスラーム帝国が、西アジアから北アフリカ・中央アジアに拡大するまでを説明。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。
	教室外学習の時間(分)	190
第3回	授業テーマ	イスラーム世界の形成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イスラーム世界に北方の遊牧民が侵入し、イスラーム国家が変質する過程を説明。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。
	教室外学習の時間(分)	190
第4回	授業テーマ	オスマン国家の発生と拡大
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	代表的な遊牧国家だったオスマン国家が、西アジア、北アフリカ、ヨーロッパにまたがる世界帝国に成長する過程を説明。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。
	教室外学習の時間(分)	190
第5回	授業テーマ	オスマン帝国と西洋の衝撃
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	19世紀に入り、オスマン帝国が西洋列強の侵略を受け、近代化を試みると同時にどの問題点が露になる過程を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。
	教室外学習の時間(分)	190

第6回	授業テーマ	オスマン帝国の解体
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	19世紀末のキリスト教徒の民族運動と第一次世界大戦でオスマン帝国が解体する過程を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。
	教室外学習の時間(分)	190
第7回	授業テーマ	トルコ共和国の成立と発展
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オスマン帝国が解体し、西欧を模範にしたトルコ人の国民国家が成立する過程とその周辺地域の情勢を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。
	教室外学習の時間(分)	190
第8回	授業テーマ	戦後のイスラーム復興運動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第二次世界大戦から冷戦に移り変わっていく時代のトルコ社会の変化と、現在のトルコ共和国の抱える宗教復興と少数民族の問題を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。
	教室外学習の時間(分)	190
第9回	授業テーマ	ロシア帝国の成立と発展
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	諸民族が行き交うロシアの地にキリスト教国家が成立し国力を増大させ、特に18世紀に西欧諸国を模範とした国政改革を行い、領土を急拡大させながら、世界帝国に飛躍する過程を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。
	教室外学習の時間(分)	190
第10回	授業テーマ	社会主義の流入と革命
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	19世紀のロシア帝国は、西欧から新しい文化が流入する一方で、アジア地域に支配を拡げ、社会矛盾が増大し、20世紀に入って革命を迎えるまでを解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。
	教室外学習の時間(分)	190
	授業テーマ	ソ連邦と民族問題

第11回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会主義を掲げるソヴィエト政府は、全国民の平等を重んじる一方で、少数民族の取り込みを図るうえで、その独自性も重視するという難しいかじ取りを迫られた点を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。
	教室外学習の時間(分)	190
第12回	授業テーマ	社会主義の発展と国家主義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1920年代にソヴィエト政府が重視した少数民族の優遇策は、30年代に入ると内外の情勢の変化で破綻を迎える過程を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。
	教室外学習の時間(分)	190
第13回	授業テーマ	ソ連邦の崩壊と独立国家共同体
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第二次世界大戦を勝ち抜いた社会主義体制が1970年代以降凋落し、新たな改革を目指す一方で、少数民族の問題が再燃し、1991年にはソ連邦そのものが崩壊する過程を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。
	教室外学習の時間(分)	190
第14回	授業テーマ	ロシアの体制転換
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在のロシア連邦が社会主義体制から市場経済に転換する過程で発生した様々な問題や旧ソ連諸国の動向を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。
	教室外学習の時間(分)	190

学習計画注記

出席者の関心や講義の理解度によって、講義の進度が変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

リアクションペーパーなどで重要な疑問点や感想が提出された場合は、次週以降の講義に反映する。

評価方法

平常点と期末課題で総合的に評価する。なお、提出課題のルーブリックなど詳細は初回の講義で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

日常課題	○	○	○	
期末課題	○	○	○	

評価割合

リアクションペーパーなどの平常点（約35%）と期末課題（約65%）で総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特に使用しない。

参考図書

初回講義で推薦図書リストを配布する。

ディプロマポリシーとの関連

この講義は、専門科目に進むために基礎的な人間社会の多様性についての知識を広げ、深く理解することを目指している。特にユーラシアの中央部という東西の諸文明が交流する地域を採り上げ、人間社会の多様性を理解する。さらに、これに由来する諸問題をありのままの姿でとらえ、その解決策を的確に判断できるようにする。それを基に、リアクションペーパーなどを通して、目の前にある課題に意欲的に取り組み、成果を効果的に他人に説明する能力を高める。

学生へのメッセージ

基本事項は出来るだけ丁寧に説明するが、高校世界史の教科書程度の知識を前提としているので、知識に不安を感じる受講希望者は、履修するまでに高校世界史の教科書あるいは『もう一度読む山川世界史』（山川出版社）などの副読本で西・中央アジア史とロシア・東欧史の箇所を復習しておくこと。

なお、講義中にリアクションペーパーの作成などグーグルクラスルームを使った作業を行うことがあるので、パソコンなどの端末を持って来ることが望ましい。（ただし、端末がない受講者が不利にならないように配慮する。）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	リアクションペーパーなどを活用し、学生との対話を重視した講義。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50509031
講義名	世界の歴史
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	吉村 貴之	指定なし

ナンバリング

X13470M21

授業概要(教育目的)

今後国際人として訪日外国人と付き合う際に必要となるのは、近現代の世界についての基礎知識である。この講義では、特に近年日本とのつながりが増えながらも、戦争報道ばかりで知られがちな中東、さらに、ロシアやウクライナを始めとするユーラシア世界で起きている現代的な問題（紛争の原因となっている多民族国家とその崩壊、さらには国民国家の成立など）を歴史的背景から理解し、考察できるようになることを目指す。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	人間社会、特にユーラシア世界の多様性に関する豊かな知識を持ち、その多民族共存、多文化接触のありようを深い思考で理解する。
思考・判断の観点 (K)	ユーラシア中央部、つまり中東やロシアの多様性に由来する諸問題をありのままの姿でとらえ、その現代的意義を的確に判断できるようにする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	これからの日本にとって、外国人の日本訪問、労働滞在に伴う多文化共生の問題は不可避の課題で、中東やロシアの歴史的経験は、大きな教訓となる。将来の社会人として、目の前に現れた課題に意欲的に取り組み、社会問題を解決するための能力を高める。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画		
多民族共存の歴史		
第1回	授業テーマ	導入
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	講座の進め方や参考書についての説明。多民族共存の歴史、世界帝国とは何かについて解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習は不要。復習に力を入れて欲しい。
	教室外学習の時間(分)	180
第2回	授業テーマ	イスラーム教の起こりと拡大
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イスラーム教についての解説と、イスラーム帝国が、西アジアから北アフリカ・中央アジアに拡大するまでを説明。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。
	教室外学習の時間(分)	190
第3回	授業テーマ	イスラーム世界の形成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イスラーム世界に北方の遊牧民が侵入し、イスラーム国家が変質する過程を説明。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。
	教室外学習の時間(分)	190
第4回	授業テーマ	オスマン国家の発生と拡大
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	代表的な遊牧国家だったオスマン国家が、西アジア、北アフリカ、ヨーロッパにまたがる世界帝国に成長する過程を説明。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。
	教室外学習の時間(分)	190
第5回	授業テーマ	オスマン帝国と西洋の衝撃
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	19世紀に入り、オスマン帝国が西洋列強の侵略を受け、近代化を試みると同時にどの問題点が露になる過程を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。
	教室外学習の時間(分)	190

第6回	授業テーマ	オスマン帝国の解体
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	19世紀末のキリスト教徒の民族運動と第一次世界大戦でオスマン帝国が解体する過程を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。
	教室外学習の時間(分)	190
第7回	授業テーマ	トルコ共和国の成立と発展
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オスマン帝国が解体し、西欧を模範にしたトルコ人の国民国家が成立する過程とその周辺地域の情勢を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。
	教室外学習の時間(分)	190
第8回	授業テーマ	戦後のイスラーム復興運動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第二次世界大戦から冷戦に移り変わっていく時代のトルコ社会の変化と、現在のトルコ共和国の抱える宗教復興と少数民族の問題を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。
	教室外学習の時間(分)	190
第9回	授業テーマ	ロシア帝国の成立と発展
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	諸民族が行き交うロシアの地にキリスト教国家が成立し国力を増大させ、特に18世紀に西欧諸国を模範とした国政改革を行い、領土を急拡大させながら、世界帝国に飛躍する過程を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。
	教室外学習の時間(分)	190
第10回	授業テーマ	社会主義の流入と革命
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	19世紀のロシア帝国は、西欧から新しい文化が流入する一方で、アジア地域に支配を拡げ、社会矛盾が増大し、20世紀に入って革命を迎えるまでを解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。
	教室外学習の時間(分)	190
	授業テーマ	ソ連邦と民族問題

第11回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会主義を掲げるソヴィエト政府は、全国民の平等を重んじる一方で、少数民族の取り込みを図るうえで、その独自性も重視するという難しいかじ取りを迫られた点を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。
	教室外学習の時間(分)	190
第12回	授業テーマ	社会主義の発展と国家主義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1920年代にソヴィエト政府が重視した少数民族の優遇策は、30年代に入ると内外の情勢の変化で破綻を迎える過程を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。
	教室外学習の時間(分)	190
第13回	授業テーマ	ソ連邦の崩壊と独立国家共同体
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第二次世界大戦を勝ち抜いた社会主義体制が1970年代以降凋落し、新たな改革を目指す一方で、少数民族の問題が再燃し、1991年にはソ連邦そのものが崩壊する過程を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。
	教室外学習の時間(分)	190
第14回	授業テーマ	ロシアの体制転換
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在のロシア連邦が社会主義体制から市場経済に転換する過程で発生した様々な問題や旧ソ連諸国の動向を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。
	教室外学習の時間(分)	190

学習計画注記

出席者の関心や講義の理解度によって、講義の進度が変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

リアクションペーパーなどで重要な疑問点や感想が提出された場合は、次週以降の講義に反映する。

評価方法

平常点と期末課題で総合的に評価する。なお、提出課題のルーブリックなど詳細は初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

日常課題	○	○	○	
期末課題	○	○	○	

評価割合

リアクションペーパーなどの平常点（約35%）と期末課題（約65%）で総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特に使用しない。

参考図書

初回講義で推薦図書リストを配布する。

ディプロマポリシーとの関連

この講義は、専門科目に進むために基礎的な人間社会の多様性についての知識を広げ、深く理解することを目指している。特にユーラシアの中央部という東西の諸文明が交流する地域を採り上げ、人間社会の多様性を理解する。さらに、これに由来する諸問題をありのままの姿でとらえ、その解決策を的確に判断できるようにする。それを基に、リアクションペーパーなどを通して、目の前にある課題に意欲的に取り組み、成果を効果的に他人に説明する能力を高める。

学生へのメッセージ

基本事項は出来るだけ丁寧に説明するが、高校世界史の教科書程度の知識を前提としているので、知識に不安を感じる受講希望者は、履修するまでに高校世界史の教科書あるいは『もう一度読む山川世界史』（山川書店）などの副読本で西・中央アジア史とロシア・東欧史の箇所を復習しておくこと。

なお、授業中にリアクションペーパーの作成などグーグルクラスルームを使った作業を行うことがあるので、パソコンなどの端末を持って来ることが望ましい。（ただし、端末がない受講者が不利にならないように配慮する。）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	リアクションペーパーなどを活用し、学生との対話を重視した講義。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50510031
講義名	世界の地理
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13480C21

授業概要(教育目的)

地球上では、その位置により、大気の動きと太陽との角度により、様々な気候が生じています。気候の影響は土壌にも影響を与えます。各地域の農業、さらに食文化は、気候と土壌の影響でさまざまな発展をしてきました。

本講義では、地球上の食文化を中心に、それをもたらしてきた農業、気候と土壌、先住民の生活について解説します。また、現代の各地域でもたらされている諸問題についても解説します。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	気候による食文化の違いが理解できる
思考・判断の観点 (K)	気候による違いの要因を考えられる
関心・意欲・態度の観点 (V)	ニュースや新聞などの報道と関連付けて考えられる
技術・表現の観点 (A)	将来自分と異なる文化背景を持つ人々と接したときに、配慮できるようになる

学習計画

世界の地理

第1回	授業テーマ	講義概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今後の講義を理解するための、用語の解説や講義の進め方など、全体的な説明を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	熱帯雨林気候

第2回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	熱帯雨林気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	授業テーマ	サバナ気候
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サバナ気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	授業テーマ	砂漠気候
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	砂漠気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	授業テーマ	ステップ気候
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ステップ気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	授業テーマ	地中海性気候
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地中海性気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	西岸海洋性気候
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	西岸海洋性気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを

	用を含む)	理解する
第7回	教室外学習(予習・復習)の内容	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	授業テーマ	温帯［温暖］湿潤気候
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	温帯［温暖］湿潤気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	授業テーマ	冷帯［亜寒帯］気候
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	冷帯［亜寒帯］気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	授業テーマ	ツンドラ気候・氷雪気候
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ツンドラ気候・氷雪気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	授業テーマ	日本の気候
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	温暖湿潤気候のうち、日本を細かく考える。日本の中で気候が異なることを確認し、その変化の要因を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	日本の気候と植生
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の地域により異なる気候の中で、植生がどのように異なっているのかを理解する

第12回	教室外学習(予習・復習)の内容	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	授業テーマ	日本の気候と作物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の地域によって異なる気候の中で、作られてきた作物の違いについて理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	授業テーマ	日本の気候と生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の地域によって異なる気候の中で、人々がどのような生活を営んできたかを理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える
	教室外学習の時間（分）	120分
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学生へのフィードバック方法

出席表に書かれた内容の中で、疑問・質問があった場合は解説する。

評価方法

ルーブリックに基いた評価を行います。初回の授業でルーブリックについて説明します。ルーブリックについてはクラスルームで提示します。

定期試験の得点（70%）、平常点（30%）。その他、受講時の参加状況や取り組み方を加味します。

※平常点は、講義への参加状況・態度などを参考に判断します。

※毎回、Googleフォームで出席を確認します。これに感想・質問・要望などを自由に書いて提出してください。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
出席票の記述	○	○	○	○
筆記試験	○	○	○	○

評価割合

定期試験の得点（70%）、平常点（30%）

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定はしませんが、中学・高校時に使用した地図帳があれば持参してください。毎回、プリントを配布します。これをもとに講義を進めます。

参考図書

高橋伸夫ほか編『世界地図を読む　図説世界地理』大明堂、1993年。
漆原和子ほか編『世界の地域問題』ナカニシヤ出版、2007年。
※このほかにも、講義中に紹介していきます。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】　気候による自然環境と、そこに合わせた人々の生活を理解する
【思考・判断】　異なる文化背景がある人々を理解する
【関心・意欲・態度】世界情勢への深い理解を示す
【技術・表現】　将来の異なる文化背景を持つ人々との交流に役立つ

質問・欠席の申請書類（公欠など）などは、講義の前後に受け付けます。

学生へのメッセージ

日頃より、ニュースなどの国際情勢について注意してください。講義の中で自分なりに気づく点があり、より深く理解できるはずです。
講義でとりあげる地域・主要な都市・地形を地図帳で確認してみましょう。また、講義の際に「疑問に思ったこと」や「興味をもったこと」について書籍などで積極的に調べてみてください。さらに「興味を持ったこと」（たとえば文化や産業など）について「他の地域」・「他の時代」と比較し、どの点が似ているのか、異なっているのかに関しても考えてみましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	講義で習得した知識をもとに、世界情勢について理解を深めることができる。異なる文化背景を持つ他社に対する理解を得られる。
情報リテラシー教育	○	参考図書を案内する。その際、公共図書館等の使用方法を案内する場合がある。
ICT活用	○	講義で使用したパワーポイントのURLを紹介し、家庭学習に役立てられるようにする。

講義コード	G50511001
講義名	国際関係論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13490M21

授業概要(教育目的)

「国際関係論」は、単に国家間の外交だけを意味するのではなく、人や物を含めた世界規模の交流のあり方を総体的に理解する学問である。我々の生活は国際関係に影響を受けると同時に、我々の生き方が国際関係に影響を及ぼすこともある。講義では、国際関係論の重要なテーマを解説しながら、現代の我々の生活との関係に目を向けていきたい。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	国際関係に関する豊かな知識を持ち、その歩みを深い思考で理解する。
思考・判断の観点 (K)	現代の国際関係に由来する「グローバル化」の問題を複眼的にとらえ、その対応策を的確に判断できるようにする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本も「グローバル化」とは無縁ではない。今後の人生に向けて、目の前にある課題に意欲的に取り組み、国際化社会の中で働く能力を高める。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

国際関係の歩み

第1回	**授業テーマ**	導入
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	講義の進め方や国際関係論とは何かについて説明。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習は不要。復習は、参考書などを使って国際関係論がどういう学問か理解を深めること。

	教室外学習の時間（分）	180
第2回	**授業テーマ**	主権国家とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近代の国際関係の基本単位となった主権国家の成立について解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで西洋近世史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	190
第3回	**授業テーマ**	市民社会と国民国家の起こり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	欧米の国家が、市民革命を通じて王朝から国民国家へ変化する過程を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで西洋近代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	190
第4回	**授業テーマ**	産業革命から帝国主義へ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	市場経済の発展とともに、ヨーロッパの強国が帝国主義となり、アジア・アフリカに植民地を築く過程を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで西洋近代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	190
第5回	**授業テーマ**	第一次世界大戦後の国際関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	勢力均衡外交が破綻し、第一次世界大戦を経験した欧米が、新たな国際関係を模索する様を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで西洋近代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	大恐慌から戦争の時代へ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	1929年にアメリカ合衆国で発生した大恐慌は世界に伝播し、その対応を巡って発生した「持てる国」と「持たざる国」の対立、社会主義によってその影響を食い止めようとしたソ連邦など、その後の国際関係を大きく左右することになった経緯を解説。

第6回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで現代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	190
第7回	授業テーマ	第二次世界大戦
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第一次世界大戦からわずか20年余りで世界の主要国を巻き込んだ第二次世界大戦がなぜ発生したのか、そしてどういう結果をもたらしたのかについて解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで現代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	190
第8回	授業テーマ	冷戦の起こり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第二次世界大戦で超大国に躍り出たアメリカ合衆国とソ連邦の対立が、その後の国際関係を大きく左右していく過程を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで現代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	190
第9回	授業テーマ	国際連合の仕組み
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第二次世界大戦後の新たな国際秩序を支えることになった国際機関の組織と役割について解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで現代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	190
第10回	授業テーマ	冷戦の展開と第三世界
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	冷戦は、自由主義圏と社会主義圏が常に対立していたわけでなく、緊張と弛緩を繰り返した。その経緯と、その両陣営から距離を取ろうとする東欧やアジアの非同盟諸国という新たな勢力が出現する過程を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで現代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	南北問題

第11回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	19世紀末に発生した帝国主義の支配構造は、形を変えながら、第二次世界大戦後に独立したアジア・アフリカ諸国の経済構造にも残存していく問題を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで現代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	190
第12回	**授業テーマ**	ソ連邦の消滅と冷戦後の世界
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会主義圏の消滅とともに経済のグローバル化が世界中に浸透した。その一方で、イスラーム問題など反グローバリズムが高まってきている状況を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで現代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	190
第13回	**授業テーマ**	グローバル化とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	帝国主義や南北問題を踏まえて、欧米の経済システムが世界拡大よって生じた現代的な問題、特に日本の外国人労働者問題について解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	時事的な内容なので、予習よりは復習に力を入れ、日頃からこの内容についてのニュースなどにも注意をし、参考書などを使って理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	190
第14回	**授業テーマ**	環境問題とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代の人類に喫緊の課題とされる環境問題は、まさに国際関係そのものである。この問題の発生と現状を解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	時事的な内容なので、予習よりは復習に力を入れ、日頃からこの内容についてのニュースなどにも注意をし、参考書などを使って理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	190

学習計画注記

出席者の関心や講義の理解度によって、講義の進度が変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

リアクションペーパーなどで講義内容に関して重要な疑問点や感想が提出された場合は、次週以降の講義に反映する。

評価方法

平常点と期末課題で総合的に評価する。なお、ルーブリックなど詳細は初回の授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
日常課題	○	○	○	
期末課題	○	○	○	

評価割合

リアクションペーパーなどの平常点30%と期末課題70%で総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない。

参考図書

講義で推薦図書リストを配布する。

ディプロマポリシーとの関連

この講義は、専門科目を学ぶ上で基礎となる人間社会と自然の多様性を理解する能力を高めることを目指している。国際関係論に関する知識を理解するだけでなく、現代の国際関係に由来する諸問題をありのままの姿でとらえ、その解決策を的確に判断できるようにする。それを基に、将来の社会人として、目の前にある課題に意欲的に取り組み、成果を効果的に人前で発表する能力を高める。

学生へのメッセージ

普段から、新聞、テレビ、インターネットニュースなどを通して、国際ニュースに関心を持っておくこと。また、基本事項は出来るだけ丁寧に説明するが、特に外交史は、高校世界史の教科書程度の知識を前提としているので、不安に感じる受講希望者は、履修するまでに高校世界史の教科書などで西洋の近世・近現代史の箇所を復習しておくこと。

なお、授業中にリアクションペーパーの作成などグーグルクラスルームを使った作業を行うことがあるので、パソコンなどの端末を持って来ることが望ましい。（ただし、端末がない受講者が不利にならないように配慮する。）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	リアクションペーパーなどを活用し、学生との対話を重視した講義。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50511031
講義名	国際関係論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13490C21

授業概要(教育目的)

「国際関係論」は、単に国家間の外交だけを意味するのではなく、人や物を含めた世界規模の交流のあり方を総体的に理解する学問である。我々の生活は国際関係に影響を受けると同時に、我々の生き方が国際関係に影響を及ぼすこともある。講義では、国際関係論の重要なテーマを解説しながら、現代の我々の生活との関係に目を向けていきたい。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	国際関係に関する豊かな知識を持ち、その歩みを深い思考で理解する。
思考・判断の観点 (K)	現代の国際関係に由来する「グローバル化」の問題を複眼的にとらえ、その対応策を的確に判断できるようにする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本も「グローバル化」とは無縁ではない。今後の人生に向けて、目の前にある課題に意欲的に取り組み、国際化社会の中で働く能力を高める。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

国際関係の歩み

第1回	**授業テーマ**	導入
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	講義の進め方や国際関係論とは何かについて説明。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習は不要。復習は、参考書などを使って国際関係論はどういう学問か理解を深めること。

	教室外学習の時間（分）	180
第2回	**授業テーマ**	主権国家とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近代の国際関係の基本単位となった主権国家の成立について解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで西洋近世史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	190
第3回	**授業テーマ**	市民社会と国民国家の起こり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	欧米の国家が、市民革命を通じて王朝から国民国家へ変化する過程を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで西洋近代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	190
第4回	**授業テーマ**	産業革命から帝国主義へ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	市場経済の発展とともに、ヨーロッパの強国が帝国主義となり、アジア・アフリカに植民地を築く過程を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで西洋近代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	190
第5回	**授業テーマ**	第一次世界大戦後の国際関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	勢力均衡外交が破綻し、第一次世界大戦を経験した欧米が、新たな国際関係を模索する様を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで西洋近代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	大恐慌から戦争の時代へ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	1929年にアメリカ合衆国で発生した大恐慌は世界に伝播し、その対応を巡って発生した「持てる国」と「持たざる国」の対立、社会主義によってその影響を食い止めようとしたソ連邦など、その後の国際関係を大きく左右することになった経緯を解説。

第6回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで現代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	190
第7回	授業テーマ	第二次世界大戦
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第一次世界大戦からわずか20年余りで世界の主要国を巻き込んだ第二次世界大戦がなぜ発生したのか、そしてどういう結果をもたらしたのかについて解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで現代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	190
第8回	授業テーマ	冷戦の起こり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第二次世界大戦で超大国に躍り出たアメリカ合衆国とソ連邦の対立が、その後の国際関係を大きく左右していく過程を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで現代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	190
第9回	授業テーマ	国際連合の仕組み
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第二次世界大戦後の新たな国際秩序を支えることになった国際機関の組織と役割について解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで現代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	190
第10回	授業テーマ	冷戦の展開と第三世界
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	冷戦は、自由主義圏と社会主義圏が常に対立していたわけでなく、緊張と弛緩を繰り返した。その経緯と、その両陣営から距離を取ろうとする東欧やアジアの非同盟諸国という新たな勢力が出現する過程を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで現代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	南北問題

第11回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	19世紀末に発生した帝国主義の支配構造は、形を変えながら、第二次世界大戦後に独立したアジア・アフリカ諸国の経済構造にも残存していく問題を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで現代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	190
第12回	**授業テーマ**	ソ連邦の消滅と冷戦後の世界
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会主義圏の消滅とともに経済のグローバル化が世界中に浸透した。その一方で、イスラーム問題など反グローバリズムが高まってきている状況を解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで現代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	190
第13回	**授業テーマ**	グローバル化とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	帝国主義や南北問題を踏まえて、欧米の経済システムが世界拡大よって生じた現代的な問題、特に日本の外国人労働者問題について解説。
	教室外学習(予習・復習)の内容	時事的な内容なので、予習よりは復習に力を入れ、日頃からこの内容についてのニュースなどにも注意をし、参考書などを使って理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	190
第14回	**授業テーマ**	環境問題とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代の人類に喫緊の課題とされる環境問題は、まさに国際関係そのものである。この問題の発生と現状を解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	時事的な内容なので、予習よりは復習に力を入れ、日頃からこの内容についてのニュースなどにも注意をし、参考書などを使って理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	190

学習計画注記

出席者の関心や講義の理解度によって、講義の進度が変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

リアクションペーパーなどで講義内容に関して重要な疑問点や感想が提出された場合は、次週以降の講義に反映する。

評価方法

平常点と期末課題で総合的に評価する。なお、ルーブリックなど詳細は初回の授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
日常課題	○	○	○	
期末課題	○	○	○	

評価割合

リアクションペーパーなどの平常点30%と期末課題70%で総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない。

参考図書

講義で推薦図書リストを配布する。

ディプロマポリシーとの関連

この講義は、専門科目を学ぶ上で基礎となる人間社会と自然の多様性を理解する能力を高めることを目指している。国際関係論に関する知識を理解するだけでなく、現代の国際関係に由来する諸問題をありのままの姿でとらえ、その解決策を的確に判断できるようにする。それを基に、将来の社会人として、目の前にある課題に意欲的に取り組み、成果を効果的に人前で発表する能力を高める。

学生へのメッセージ

普段から、新聞、テレビ、インターネットニュースなどを通して、国際ニュースに関心を持っておくこと。また、基本事項は出来るだけ丁寧に説明するが、特に外交史は、高校世界史の教科書程度の知識を前提としているので、不安に感じる受講希望者は、履修するまでに高校世界史の教科書などで西洋の近世・近現代史の箇所を復習しておくこと。

なお、授業中にリアクションペーパーの作成などグーグルクラスルームを使った作業を行うことがあるので、パソコンなどの端末を持って来ることが望ましい。（ただし、端末がない受講者が不利にならないように配慮する。）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	リアクションペーパーなどを活用し、学生との対話を重視した講義。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50512001
講義名	多文化共生
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X16100M21

授業概要(教育目的)

グローバル化が進む現代社会では，日常生活のさまざまな場面において外国にルーツをもつ人たちと出会い，関わる機会が増えている。こうした状況のなか，日本においても「多文化共生」という言葉や考え方が注目されるようになっている。この授業では，とくに人権という観点から，あらゆる人々の多様性を尊重していく多文化共生社会のあり方やそれを実現するための方法について考える力を身につけることを目的とする。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から現代生活の諸問題を理解することができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	現代生活の諸問題を分析し，問題解決に導く考察をすることができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	グローバル化のなかで生活者の視点に立ち，社会の諸問題に対して関心をもって取り組むことができるようになる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を収集，分析，整理するとともに，他者と議論し，その結果や自分の考えを的確に表現することができるようになる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の目的やねらい，評価方法，進め方などについて説明する。「多文化共生」に対して抱いているイメージを明確にする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「多文化共生」からイメージされること／ものについて考える。
	教室外学習の時間（分）	100
	授業テーマ	ヨーロッパにおける移民との共生（1）フランス

第2回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「共和国モデル」に着目し，移民との共生について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「共和国モデル」について復習し，理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	200
第3回	授業テーマ	ヨーロッパにおける移民との共生（2）ドイツ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「国籍法」の変化に着目し，移民との共生について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本の国籍制度について自分なりの考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200
第4回	授業テーマ	ヨーロッパにおける移民との共生（3）イギリス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「シティズンシップ・テスト」に着目し，移民との共生について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「シティズンシップ・テスト」の有効性と課題について自分の考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200
第5回	授業テーマ	難民問題について考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	難民問題の現状と背景について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	難民問題と自分との関わりについて考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第6回	授業テーマ	中間試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業内容をふまえ，「共生」のあり方にはさまざまなバリエーションがあることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	中間試験に向けて授業の内容を振り返り，自分の考えをまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	200
第7回	授業テーマ	日本における多文化共生（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本における外国人住民について，その歴史的背景・経緯や現状を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の周りにいる外国人について想像し，考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第8回	授業テーマ	日本における多文化共生（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域における多文化共生の取り組みとして川崎市の事例について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	外国人市民代表者会議について調べる。
	教室外学習の時間（分）	200
	授業テーマ	日本における多文化共生（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	

第9回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外国につながる子どもたちについて，とくにアイデンティティや教育に関する問題を中心に考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもたちの課題・問題についての理解を整理する。
	教室外学習の時間（分）	200
第10回	授業テーマ	日本における多文化共生（4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外国人住民の存在を肯定的にとらえ，その能力や資源を活かすことに着目した多文化共生2.0という考え方について考察する。 近年の排外主義の高まりやヘイトスピーチといった問題について考察することで，多文化共生の難しさや課題について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ヘイトスピーチについて調べる。
	教室外学習の時間（分）	200
第11回	授業テーマ	人権とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人権についてその意義や重要性を確認するとともに，それを保障し，実現することの難しさや課題についても考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	人権をめぐる理想と現実について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第12回	授業テーマ	あらためて多文化共生を考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「障害の社会モデル」や「LGBT」などを取りあげ，多文化共生の射程と意義についてあらためて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	移民／外国人以外の多文化共生について，自分の身近な例から考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第13回	授業テーマ	多文化共生の課題について考える（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業を振り返り，多文化共生社会のあり方やそれを実現するための方法について，グループディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業の内容を振り返り，自分の考えを表現できるように整理し，まとめておく。
	教室外学習の時間（分）	200
第14回	授業テーマ	多文化共生の課題について考える（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回のグループディスカッションをふまえて，あらためて自分の考えを整理し，まとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な情報を新たに調べたうえで，自分の考えを整理してまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200

学習計画注記

学生の関心や授業の展開によって若干の変更がありうる。

学生へのフィードバック方法

ディスカッション時のコメント，リアクションペーパーの実施。
中間試験の解答の解説。

評価方法

・中間試験と期末レポート（授業内容についての確認と授業をふまえて自分の考えを述べる論述）
・平常点（リアクションペーパーの提出，ディスカッション時の発言，授業への取り組み姿勢）
◎初回の授業でルーブリックについて説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間試験	○	○	○	○
期末レポート	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

中間試験（25%）
期末レポート（40%）
平常点（35%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】グローバルな視点から現代生活の諸問題を理解する。
【思考・判断】現代生活の諸問題を分析し，問題解決に導く考察をする。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち，社会の諸問題に対して関心をもって取り組む。
【技能・表現】他者と議論し，その結果や自分の考えを的確に表現する。

学生へのメッセージ

「多文化共生」という視点や考え方は，私たち一人ひとりの「生」（生き方や生活）に関わるものです。多様な人々が共生する社会のなかで，他者を尊重するということは，翻せば他者から自分が尊重されるということにつながります。授業では一方的な講義とならないように，ディスカッションやグループワークを行い各自が「考える」ことを重視します。他者との議論を通して，自分の視野を広げ，考えを深めていってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ディスカッション時に自分の考えや意見を述べる。
情報リテラシー教育	○	授業の内容について理解を深めるために必要な情報を収集する。
ICT活用		

講義コード	G50512031
講義名	多文化共生
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

D34109M21

授業概要(教育目的)

グローバル化が進む現代社会では，日常生活のさまざまな場面において外国にルーツをもつ人たちと出会い，関わる機会が増えている。こうした状況のなか，日本においても「多文化共生」という言葉や考え方が注目されるようになっている。この授業では，とくに人権という観点から，あらゆる人々の多様性を尊重していく多文化共生社会のあり方やそれを実現するための方法について考える力を身につけることを目的とする。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から現代生活の諸問題を理解することができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	現代生活の諸問題を分析し，問題解決に導く考察をすることができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	グローバル化のなかで生活者の視点に立ち，社会の諸問題に対して関心をもって取り組むことができるようになる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を収集，分析，整理するとともに，他者と議論し，その結果や自分の考えを的確に表現することができるようになる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の目的やねらい，評価方法，進め方などについて説明する。「多文化共生」に対して抱いているイメージを明確にする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「多文化共生」からイメージされること／ものについて考える。
	教室外学習の時間(分)	100

第2回	授業テーマ	ヨーロッパにおける移民との共生（1）フランス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「共和国モデル」に着目し，移民との共生について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「共和国モデル」について復習し，理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	200
第3回	授業テーマ	ヨーロッパにおける移民との共生（2）ドイツ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「国籍法」の変化に着目し，移民との共生について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本の国籍制度について自分なりの考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200
第4回	授業テーマ	ヨーロッパにおける移民との共生（3）イギリス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「シティズンシップ・テスト」に着目し，移民との共生について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「シティズンシップ・テスト」の有効性と課題について自分の考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200
第5回	授業テーマ	難民問題について考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	難民問題の現状と背景について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	難民問題と自分との関わりについて考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第6回	授業テーマ	中間試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業内容をふまえ，「共生」のあり方にはさまざまなバリエーションがあることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	中間試験に向けて授業の内容を振り返り，自分の考えをまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	200
第7回	授業テーマ	日本における多文化共生（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本における外国人住民について，その歴史的背景・経緯や現状を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の周りにいる外国人について想像し，考える。
	教室外学習の時間（分）	200
	授業テーマ	日本における多文化共生（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆ	地域における多文化共生の取り組みとして川崎市の事例につい

第8回	ﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	て学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	外国人市民代表者会議について調べる。
	教室外学習の時間（分）	200
第9回	授業テーマ	日本における多文化共生（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外国につながる子どもたちについて，とくにアイデンティティや教育に関する問題を中心に考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもたちの課題・問題についての理解を整理する。
	教室外学習の時間（分）	200
第10回	授業テーマ	日本における多文化共生（4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	多文化共生2.0という考え方を知るとともに，近年の排外主義の高まりやヘイトスピーチといった問題について考察することで，多文化共生の課題や難しさについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ヘイトスピーチについて調べる。
	教室外学習の時間（分）	200
第11回	授業テーマ	人権とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人権についてその意義や重要性を確認するとともに，それを保障し，実現することの難しさや課題についても考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	人権をめぐる理想と現実について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第12回	授業テーマ	あらためて多文化共生を考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「障害の社会モデル」や「LGBT」などを取りあげ，多文化共生の射程と意義についてあらためて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	移民／外国人以外の多文化共生について，自分の身近な例から考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第13回	授業テーマ	多文化共生の課題について考える（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業を振り返り，多文化共生社会のあり方やそれを実現するための方法について，グループディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業の内容を振り返り，自分の考えを表現できるように整理し，まとめておく。
	教室外学習の時間（分）	200
第14回	授業テーマ	多文化共生の課題について考える（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回のグループディスカッションをふまえて，あらためて自分の考えを整理し，まとめる。

	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な情報を新たに調べたうえで，自分の考えを整理してまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200

学習計画注記

学生の関心や授業の展開によって若干の変更がありうる。

学生へのフィードバック方法

ディスカッション時のコメント，リアクションペーパーの実施。
中間試験の解答の解説。

評価方法

・中間試験と期末レポート（授業内容についての確認と授業をふまえて自分の考えを述べる論述）
・平常点（リアクションペーパーの提出，ディスカッション時の発言，授業への取り組み姿勢）
◎初回の授業でルーブリックについて説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間試験	○	○	○	○
期末レポート	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

中間試験（25%）
期末レポート（40%）
平常点（35%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】グローバルな視点から現代生活の諸問題を理解する。
【思考・判断】現代生活の諸問題を分析し，問題解決に導く考察をする。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち，社会の諸問題に対して関心をもって取り組む。
【技能・表現】他者と議論し，その結果や自分の考えを的確に表現する。

学生へのメッセージ

「多文化共生」という視点や考え方は，私たち一人ひとりの「生」（生き方や生活）に関わるものです。多様な人々が共生する社会のなかで，他者を尊重するということは，翻せば他者から自分が尊重されるということにつながります。授業では一方的な講義とならないように，ディスカッションやグループワークを行い各自が「考える」ことを重視します。他者との議論を通して，自分の視野を広げ，考えを深めていってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニン	○	ディスカッション時に自分の考えや意見を述べる。

グ		
情報リテラシー教育	○	授業の内容について理解を深めるために必要な情報を収集する。
ICT活用		

講義コード	G50513001
講義名	法とくらし
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	清水 光	指定なし

ナンバリング

X12070M21

授業概要(教育目的)

この授業では、大学生が日常生活の中で出会う法律問題、あるいは社会に出た時に知っておくと良い法律の基礎知識を学び、成人として責任ある社会生活を営むことができるような力を育成することを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日常生活に密接に関係する法律の基礎を理解し、簡単な法律関係や法律上の権利義務について理解し、説明できるようになる。
思考・判断の観点 (K)	日常生活を営む上で、法令に則した行動ができ、また自らを守るための法的思考ができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日常生活に密接に関係する法律について関心をもつとともに、成人として責任ある行動ができるようになる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	憲法 18歳成人
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	憲法とは何か。民主主義、憲法上の権利義務について学ぶ。 18歳で成人となることによって、法律上どういう立場に置かれるのかについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内	

	容	事前課題について考えてくること
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	学生生活と法律(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	契約とは何か。消費者トラブルについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前課題について考えてくること
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	学生生活と法律（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アルバイトを巡る法律問題など第2回で取り上げきれなかった契約を巡る法律問題について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前課題について考えてくること
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	学生生活と法律(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	不法行為とは何か。恋愛を巡るトラブル、SNSを巡るトラブルについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前課題について考えてくること
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	学生生活と法律(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	交通事故など、第4回で取り上げきれなかった不法行為について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前課題について考えてくること
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	就職活動と法律
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	就職活動を巡る法律問題について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前課題について考えてくること 中間レポートを作成して、提出すること
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	就職後の法律問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	労働法令・フリーランス法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前課題について考えてくること
	教室外学習の時間（分）	250分
第8回	授業テーマ	ハラスメントについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	セクシャルハラスメント、アカデミックハラスメント、パワーハラスメントについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内	事前課題について考えてくること

	容	
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	知的財産権
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	知的財産権とは何か。著作権、商標権について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前課題について考えてくること
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	結婚、家庭、子ども
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	結婚とはなにか。配偶者の権利と義務、親の義務、子どもの権利について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前課題について考えてくること
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	税金と社会保障
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	税法とは何か。社会保障にはどのようなものがあるかについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前課題について考えてくること
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	刑事事件
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	刑事事件とは何か。被疑者・被告人の置かれた立場、権利について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前課題について考えてくること
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	まとめ（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第1回から第12回までに学んだ法律問題について、改めて概観する。質問に対する解説をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1回から第12回までの講義を通して疑問に思ったことについて自ら調べた上で、事前に質問を提出すること。
	教室外学習の時間（分）	250分
第14回	授業テーマ	まとめ（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前半50分：私たちにとって法律とはどういう存在なのかを改めて考える。 後半50分：レポート作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

資料の配付、レポートの作成・提出にはGoogle Classroomを利用しますので、パソコンの使用を推奨します。

学生へのフィードバック方法

授業終了後になされた質問や意見には、可能な範囲で次週以降の授業にて対応していく予定。
第13回の講義では総括的に質問に答える予定。

評価方法

ルーブリックに基づいた基準で評価し、評価の割合は、中間レポートの提出を40%、課題レポートを50%、平常点を10%とする。なお、ルーブリックについては初回の授業やGoogle Classroom上で説明する予定。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
復習テスト	○		○	
課題レポート	○	○	○	

評価割合

中間レポート（40%）、課題レポート（50%）、平常点（10%)で総合評価する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】生活に密着した法律の基礎について理解できている。
【思考・判断】法令に則して自律的に行動できる。
【関心・意欲・態度】成人として責任ある行動がとれる。

学生へのメッセージ

私たちはほぼ毎日、なんらかの契約をして生活をしています。そう聞いたら驚きますか？
それくらい私たちの生活は法律と密接に関係しています。
皆さんはすでに成人年齢になっていますが、社会に出たら、組織の一員として、あるいは自営業者として、もしくは家庭人として今よりもっと法律に関わる機会が増えていきます。
法律は私たちを守ってくれるものであると同時に、法令に違反して不適切な行為をしてしまった場合には責任を取らなければなりません。たとえ法律を知らなかったとしてもです。
社会に出る前に法律の基礎知識を学んでおくことは、きっと皆さんの生活を安心で安全なものにするために役立つことと思います。
一緒に楽しく法律を学んでみませんか。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	裁判官及び弁護士としての実務経験を活かした授業を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50513031
講義名	法とくらし
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	清水 光	指定なし

授業概要(教育目的)

この授業では、大学生が日常生活の中で出会う法律問題、あるいは社会に出た時に知っておくと良い法律の基礎知識を学び、成人として責任ある社会生活を営むことができるような力を育成することを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日常生活に密接に関係する法律の基礎を理解し、簡単な法律関係や法律上の権利義務について理解し、説明できるようになる。
思考・判断の観点 (K)	日常生活を営む上で、法令に則した行動ができ、また自らを守るための法的思考ができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日常生活に密接に関係する法律について関心をもつとともに、成人として責任ある行動ができるようになる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	憲法 18歳成人
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	憲法とは何か。民主主義、憲法上の権利義務について学ぶ。 18歳で成人となることによって、法律上どういう立場に置かれるのかについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前課題について考えてくること
	教室外学習の時間（分）	200分

第2回	授業テーマ	学生生活と法律(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	契約とは何か。消費者トラブルについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前課題について考えてくること
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	学生生活と法律（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アルバイトを巡る法律問題など第2回で取り上げきれなかった契約を巡る法律問題について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前課題について考えてくること
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	学生生活と法律(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	不法行為とは何か。恋愛を巡るトラブル、SNSを巡るトラブルについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前課題について考えてくること
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	学生生活と法律(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	交通事故など、第4回で取り上げきれなかった不法行為について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前課題について考えてくること
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	就職活動と法律
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	就職活動を巡る法律問題について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前課題について考えてくること 中間レポートを作成して、提出すること
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	就職後の法律問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	労働法令・フリーランス法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前課題について考えてくること
	教室外学習の時間（分）	250分
第8回	授業テーマ	ハラスメントについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	セクシャルハラスメント、アカデミックハラスメント、パワーハラスメントについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前課題について考えてくること
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	知的財産権

第9回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	知的財産権とは何か。著作権、商標権について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前課題について考えてくること
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	結婚、家庭、子ども
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	結婚とはなにか。配偶者の権利と義務、親の義務、子どもの権利について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前課題について考えてくること
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	税金と社会保障
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	税法とは何か。社会保障にはどのようなものがあるかについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前課題について考えてくること
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	刑事事件
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	刑事事件とは何か。被疑者・被告人の置かれた立場、権利について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前課題について考えてくること
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	まとめ（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第1回から第12回までに学んだ法律問題について、改めて概観する。質問に対する解説をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1回から第12回までの講義を通して疑問に思ったことについて自ら調べた上で、事前に質問を提出すること。
	教室外学習の時間（分）	250分
第14回	**授業テーマ**	まとめ（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前半50分：私たちにとって法律とはどういう存在なのかを改めて考える。 後半50分：レポート作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

資料の配付、レポートの作成・提出にはGoogle Classroomを利用しますので、パソコンの使用を推奨します。

学生へのフィードバック方法

授業終了後になされた質問や意見には、可能な範囲で次週以降の授業にて対応していく予定。
第13回の講義では総括的に質問に答える予定。

評価方法

ルーブリックに基づいた基準で評価し、評価の割合は、中間レポートの提出を40%、課題レポートを50%、平常点を10%とする。なお、ルーブリックについては初回の授業やGoogle Classroom上で説明する予定。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
復習テスト	○		○	
課題レポート	○	○	○	

評価割合

中間レポート（40%）、課題レポート（50%）、平常点（10%)で総合評価する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】生活に密着した法律の基礎について理解できている。
【思考・判断】法令に則して自律的に行動できる。
【関心・意欲・態度】成人として責任ある行動がとれる。

学生へのメッセージ

私たちはほぼ毎日、なんらかの契約をして生活をしています。そう聞いたら驚きますか？
それくらい私たちの生活は法律と密接に関係しています。
皆さんはすでに成人年齢になっていますが、社会に出たら、組織の一員として、あるいは自営業者として、もしくは家庭人として今よりもっと法律に関わる機会が増えていきます。
法律は私たちを守ってくれるものであると同時に、法令に違反して不適切な行為をしてしまった場合には責任を取らなければなりません。たとえ法律を知らなかったとしてもです。
社会に出る前に法律の基礎知識を学んでおくことは、きっと皆さんの生活を安心で安全なものにするために役立つことと思います。
一緒に楽しく法律を学んでみませんか。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	裁判官及び弁護士としての実務経験を活かした授業を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50601001
講義名	哲学入門
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	大久保　歩	指定なし

ナンバリング

X13500M21

授業概要(教育目的)

哲学は、物事を根本から考える学問です。この授業では、わたしたちがふだんの生活のなかで当たり前のこととしている事柄について深く考える力を養います。そのために、哲学上のさまざまな議論について学び、多様な観点から物事を考える訓練をします。また、自分で考え自分で議論を組み立てる力を育成します。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	哲学の歴史において扱われてきたさまざまな問題と、それに関する議論について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	ひとつの問題について多角的に検討できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分とは異なる意見にも耳を傾けることができる。
技術・表現の観点 (A)	自分の考えを論理的かつ説得的に論じることができる。

学習計画

哲学入門 (G50601001)

	授業テーマ	イントロダクション
	(	

第1回	学習内容 ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「哲学」が誕生した古代ギリシアがどのような社会かを知り、「哲学」がどんな学問であるかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習　シラバスをよく読んでおく。哲学や古代ギリシアについて調べる。 復習　哲学がどのような学問か、特徴をノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	何が「美しい」のか？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ひとがあるものを「美しい」と呼ぶとき、そこにはどんな条件があるか考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習　自分にとってどういうものが「美しい」と感じられるか、具体例を挙げ、その共通点を考える。 復習　「美」の定義に関するさまざまな哲学的立場をノートに整理する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	「差別」とは何か？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「区別」と「差別」の違いを手がかりにして、「差別」とはどういうことか、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習　「差別」は「区別」と何が違うのか考える。 復習　「差別」とはどういうものか、ノートに整理する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	どうすれば「公平」になるのか？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	かけっこのあり方などを題材に、「公平」の条件について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習　順位をつけるかけっこと、全員一位とみなすかけっこと、どちらが「公平」か、その理由とともに考える。 復習　「公平」についてどのような哲学的立場があるのか、ノートに整理する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	「幸福」とはどこにあるのか？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	どのような生き方が「幸福」と呼べるのか、さまざまな考え方を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習　自分にとってどのような生き方が「幸福」か、またなぜそう思うのか考える。 復習　「幸福」についてどのような哲学的立場があるのか、ノートに整理する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	多くの人が幸せなのはなぜ「善い」のか？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「功利主義」と呼ばれる議論を学びながら、「善い」生き方とはどういうものか考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習　「多くの人が幸せであること」を目指すのはなぜよいのか、理由を考える。 復習　「功利主義」がどのような考え方か、またどのような問題があるかをノートに整理する。
	教室外学習の時間（分）	200分

第7回	授業テーマ	嘘をつくことはなぜ「悪い」のか？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「義務論」と呼ばれる議論を学びながら、「善い」生き方とはどういうものか考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習　嘘をつくことはなぜ「悪い」行為と呼べるのか、理由を考える。 復習　「義務論」がどのような考え方か、またどのような問題があるかをノートに整理する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	わたしたちは「自由」なのだろうか？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「決定論」と呼ばれる議論とそれに対する批判を学びながら、「自由」とはどのようなことか考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習　自分がどのようなときに「自由」だと思うか、なぜそう思うのか考える。 復習　「自由」に関するさまざまな哲学的立場をノートに整理する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	「愛」とは何か？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「愛」に関するさまざまな考えを比較検討し、「愛」とは何か考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習　自分にとって「愛する」とはどういうことか、考える。 復習　「愛」に関するさまざまな哲学的立場をノートに整理する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	「他人」の心はほんとうにわかるのか？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「他我問題」と呼ばれる議論を学びながら、「他人」の心を知ることはほんとうに可能なのか検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習　「他人」の心や気持ちがわかったと感じるのはどんなときか、またなぜそう感じたかの考える。 復習　「他我問題」がどのような考え方か、またこの問題についてどのような議論があるのか、ノートに整理する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	「私」はほんとうに「私」なのか？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個人のアイデンティティーの問題を中心に、ものの「同一性」について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習　10年前の自分と今の自分はどこが異なるか、またそれだけ異なっても同じ「私」であると言えるのはなぜか、考える。 復習 個人のアイデンティティーに関するさまざまな問題について、ノートに整理する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	「死」とは何か？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「死」とは何か、また「死」は悪いことなのか、考察する。
		予習　脳死がなぜ「死」と見なせるのか考え、そこから

	教室外学習(予習・復習)の内容	「生」と「死」がどう定義できるか考える。 復習　「死」についてのさまざまな哲学的考え方をノートに整理する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業内容を振り返るとともに、期末試験に向けて、議論の組み立て方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習　ノートを用いてこれまでの学習を振り返る。 復習　期末試験に向けて議論の組み立て方を確認する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	期末試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	習熟度を測る期末試験を行う。 ＊　履修学生が多数になった場合には、定期試験期間中に試験を行うように変更する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習　ノートを用いてこれまでの学習を振り返る。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

講義を中心に進めるが、場合によっては学生同士の議論も行う。
毎回の小レポートは原則としてPCを使用して提出。
履修人数が多数になった場合は、期末試験を定期試験期間中に行うように変更する。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業の最後に小レポートを提出してもらい、ルーブリックによる採点をし、コメントを付けて返却する。次回の授業の冒頭で優れた小レポートや質問を取り上げ共有する。

評価方法

毎回の授業の最後に提出してもらう小レポートと、期末試験で評価する。すべてルーブリックを用いて評価する。ルーブリックは初回授業やクラスルームで公開する。

・小レポート: 授業内容をふまえて自分の考えを論じる。授業内容の理解度、論じ方（根拠づけ、具体例の展開）や意見の独自性、表現力の観点から評価する。

・期末試験: 授業で扱った事柄について論じる。小レポートと同じく、授業内容の理解度、論じ方（根拠づけ、具体例の展開）や意見の独自性、表現力の観点から評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小レポート	○	○	○	○
期末期試験	○	○	○	○

評価割合

小レポート60%　期末試験40%

使用教科書名(ISBN番号)

なし。授業で用いるスライドを授業前に配布する。

参考図書

なし。授業内で指示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会における多様な問題を知り、哲学的な観点から考察できる。
【思考・判断】哲学史上の議論をふまえて、ひとつの問題について多角的に検討できる。
【関心・意欲・態度】多様な考えを受け入れ、他者と協調して行動することができる。
【技術・表現】哲学の知識を活用して社会のなかに埋もれた課題を発見し、これについて他者に対して論理的かつ説得的に論じることができる。

学生へのメッセージ

受講にあたって哲学史に関する知識は必要ありません。哲学は自由に考えることを求める学問です。授業で取り上げる問題について積極的に自分の考えを展開してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50601031
講義名	哲学入門
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	大久保　歩	指定なし

ナンバリング

X13500M21

授業概要(教育目的)

哲学は、物事を根本から考える学問です。この授業では、わたしたちがふだんの生活のなかで当たり前のこととしている事柄について深く考える力を養います。そのために、哲学上のさまざまな議論について学び、多様な観点から物事を考える訓練をします。また、自分で考え自分で議論を組み立てる力を育成します。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	哲学の歴史において扱われてきたさまざまな問題と、それに関する議論について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	ひとつの問題について多角的に検討できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分とは異なる意見にも耳を傾けることができる。
技術・表現の観点 (A)	自分の考えを論理的かつ説得的に論じることができる。

学習計画

哲学入門 (G50601001)

	授業テーマ	イントロダクション
	(	

第1回	学習内容 ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「哲学」が誕生した古代ギリシアがどのような社会かを知り、「哲学」がどんな学問であるかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習　シラバスをよく読んでおく。哲学や古代ギリシアについて調べる。 復習　哲学がどのような学問か、特徴をノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	何が「美しい」のか？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ひとがあるものを「美しい」と呼ぶとき、そこにはどんな条件があるか考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習　自分にとってどういうものが「美しい」と感じられるか、具体例を挙げ、その共通点を考える。 復習　「美」の定義に関するさまざまな哲学的立場をノートに整理する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	「差別」とは何か？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「区別」と「差別」の違いを手がかりにして、「差別」とはどういうことか、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習　「差別」は「区別」と何が違うのか考える。 復習　「差別」とはどういうものか、ノートに整理する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	どうすれば「公平」になるのか？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	かけっこのあり方などを題材に、「公平」の条件について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習　順位をつけるかけっこと、全員一位とみなすかけっこと、どちらが「公平」か、その理由とともに考える。 復習　「公平」についてどのような哲学的立場があるのか、ノートに整理する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	「幸福」とはどこにあるのか？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	どのような生き方が「幸福」と呼べるのか、さまざまな考え方を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習　自分にとってどのような生き方が「幸福」か、またなぜそう思うのか考える。 復習　「幸福」についてどのような哲学的立場があるのか、ノートに整理する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	多くの人が幸せなのはなぜ「善い」のか？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「功利主義」と呼ばれる議論を学びながら、「善い」生き方とはどういうものか考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習　「多くの人が幸せであること」を目指すのはなぜよいのか、理由を考える。 復習　「功利主義」がどのような考え方か、またどのような問題があるかをノートに整理する。
	教室外学習の時間（分）	200分

第7回	授業テーマ	嘘をつくことはなぜ「悪い」のか？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「義務論」と呼ばれる議論を学びながら、「善い」生き方とはどういうものか考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習　嘘をつくことはなぜ「悪い」行為と呼べるのか、理由を考える。 復習　「義務論」がどのような考え方か、またどのような問題があるかをノートに整理する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	わたしたちは「自由」なのだろうか？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「決定論」と呼ばれる議論とそれに対する批判を学びながら、「自由」とはどのようなことか考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習　自分がどのようなときに「自由」だと思うか、なぜそう思うのか考える。 復習　「自由」に関するさまざまな哲学的立場をノートに整理する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	「愛」とは何か？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「愛」に関するさまざまな考えを比較検討し、「愛」とは何か考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習　自分にとって「愛する」とはどういうことか、考える。 復習　「愛」に関するさまざまな哲学的立場をノートに整理する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	「他人」の心はほんとうにわかるのか？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「他我問題」と呼ばれる議論を学びながら、「他人」の心を知ることはほんとうに可能なのか検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習　「他人」の心や気持ちがわかったと感じるのはどんなときか、またなぜそう感じたかの考える。 復習　「他我問題」がどのような考え方か、またこの問題についてどのような議論があるのか、ノートに整理する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	「私」はほんとうに「私」なのか？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個人のアイデンティティーの問題を中心に、ものの「同一性」について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習　10年前の自分と今の自分はどこが異なるか、またそれだけ異なっても同じ「私」であると言えるのはなぜか、考える。 復習 個人のアイデンティティーに関するさまざまな問題について、ノートに整理する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	「死」とは何か？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「死」とは何か、また「死」は悪いことなのか、考察する。
		予習　脳死がなぜ「死」と見なせるのか考え、そこから

	教室外学習(予習・復習)の内容	「生」と「死」がどう定義できるか考える。 復習　「死」についてのさまざまな哲学的考え方をノートに整理する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業内容を振り返るとともに、期末試験に向けて、議論の組み立て方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習　ノートを用いてこれまでの学習を振り返る。 復習　期末試験に向けて議論の組み立て方を確認する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	期末試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	習熟度を測る期末試験を行う。 ＊　履修学生が多数になった場合には、定期試験期間中に試験を行うように変更する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習　ノートを用いてこれまでの学習を振り返る。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

講義を中心に進めるが、場合によっては学生同士の議論も行う。
毎回の小レポートは原則としてPCを使用して提出。
履修人数が多数になった場合は、期末試験を定期試験期間中に行うように変更する。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業の最後に小レポートを提出してもらい、ルーブリックによる採点をし、コメントを付けて返却する。次回の授業の冒頭で優れた小レポートや質問を取り上げ共有する。

評価方法

毎回の授業の最後に提出してもらう小レポートと、期末試験で評価する。すべてルーブリックを用いて評価する。ルーブリックは初回授業やクラスルームで公開する。

・小レポート: 授業内容をふまえて自分の考えを論じる。授業内容の理解度、論じ方（根拠づけ、具体例の展開）や意見の独自性、表現力の観点から評価する。

・期末試験: 授業で扱った事柄について論じる。小レポートと同じく、授業内容の理解度、論じ方（根拠づけ、具体例の展開）や意見の独自性、表現力の観点から評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小レポート	○	○	○	○
期末期試験	○	○	○	○

評価割合

小レポート60%　期末試験40%

使用教科書名(ISBN番号)

なし。授業で用いるスライドを授業前に配布する。

参考図書

なし。授業内で指示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会における多様な問題を知り、哲学的な観点から考察できる。
【思考・判断】哲学史上の議論をふまえて、ひとつの問題について多角的に検討できる。
【関心・意欲・態度】多様な考えを受け入れ、他者と協調して行動することができる。
【技術・表現】哲学の知識を活用して社会のなかに埋もれた課題を発見し、これについて他者に対して論理的かつ説得的に論じることができる。

学生へのメッセージ

受講にあたって哲学史に関する知識は必要ありません。哲学は自由に考えることを求める学問です。授業で取り上げる問題について積極的に自分の考えを展開してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50602031
講義名	現代の哲学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

授業概要(教育目的)

現代社会では、経済格差、貧困、戦争、テロリズム、無差別殺人事件など、様々な問題が起きており、私たちは不安を抱きながら生きている。どうしてそのような問題が生じてしまうのか。現代思想家たちは、こうした人間の闇の部分に光をあて、その原因を探りあて、現状を突破していこうとした。私たちが生きる社会とはどのようなものであり、私たちの世界認識はどのように形成され、そしてそもそも人間とは何かを現代思想家たちの思索を通して考えていく。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

学生へのフィードバック方法

講義を聴き、参考資料（文献）を読み、問題点をみずから見出し、自分で考え、それを文章として表現する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

評価割合

最終授業で行う授業内テスト（100%）で評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

伊吹浩一著『武器としての現代思想』サイゾー

学生へのメッセージ

なるべく日頃から社会問題に関心を持ち、新聞などのニュースに目を通しておいてください。

また、可能ならば、授業前には指定した教科書の該当箇所を事前に読んでおくのが望ましく、授業で不明な点や疑問に思った点があれば、そのままにしないで、積極的に直接質問してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50604001
講義名	生命倫理
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	田中 丹史	指定なし

ナンバリング

X13520M21

授業概要(教育目的)

20世紀後半以降の生命科学の飛躍的な発展に伴い、いのちをめぐる倫理としての生命倫理が問われるようになって久しい。本講義は生命倫理の基本的な知識の習得を企図し、生殖や死、再生医療、環境といった当該分野で一般的に問われるテーマを各問題の歴史的な経緯を踏まえながら考察する。その作業の中で、現在の生命倫理の中心的なアプローチの一つとなっている原則主義アプローチの妥当性を合わせて検討していきたい。こうした医療・環境をめぐる倫理問題の検討を通じ、科学技術がいかに社会と密接に関わり、また社会に対して大きな影響力を有しているのかを理解することを目標とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1. 医療倫理及び環境倫理の基本問題について知識を獲得する。
思考・判断の観点 (K)	1. 授業で獲得した知識を使って、主体的に自分で生命倫理に関する思考ができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バイオエシックス・生命倫理がどのような意味なのかを検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスの熟読、ノートの準備
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	アメリカにおける生命倫理の登場（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アメリカにおける人体実験の事件がどのようにしてバイオエシックス（生命倫理）の登場の契機になったのかを考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アメリカでどのような人体実験の事件があったのかを調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	アメリカにおける生命倫理の登場（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アメリカにおいて原則主義という考え方がどのように出てきたのかを検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	原則主義とはどのようなものかを調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	安楽死・尊厳死（アメリカの議論）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アメリカにおける安楽死・尊厳死に関する裁判例を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アメリカでどのような安楽死・尊厳死に関する事件があったのかを調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	安楽死・尊厳死（日本の議論）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本において安楽死・尊厳死に関してどのような事件があったのかを検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本における安楽死・尊厳死に関する事件について調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	臓器移植（臓器移植法の成立）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臓器移植法の成立までの議論の過程について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	旧臓器移植法の特徴について調べる
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	臓器移植（臓器移植法の改正）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臓器移植法の改正までの過程でどのような議論があったのかを検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	改正臓器移植法の特徴について調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	生殖技術（産まないための技術）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	

第8回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	避妊と人工妊娠中絶の倫理問題について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	母体保護法について調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	生殖技術（産むための技術）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在における生殖補助医療に関する議論を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	生殖補助医療にどのような技術があるのかを調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	生殖技術（診断技術）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	出生前診断をめぐる倫理問題を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	出生前診断にどのような技術があるかを調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	再生医療（クローン）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生殖クローニングと治療目的クローニングをめぐる議論について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ヒトに関するクローン技術等の規制に関する法律について調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	再生医療（iPS細胞）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	iPS細胞をめぐる倫理問題を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	iPS細胞がどのようなものかを調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	環境倫理（環境倫理学総論）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	環境倫理学の基礎について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アルド・レオポルドの思想について調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	環境倫理（水俣病）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水俣病の歴史的な過程について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	胎児性水俣病について調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

特になし

学生へのフィードバック方法

授業は板書を中心に行う。質問は教室あるいは講師控室で受け付ける。

評価方法

期末試験によって授業内容の理解度、思考力を見る。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末試験	○	○		

評価割合

期末試験(１００%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

適宜授業中に指示します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】 医療問題や環境問題を通して、社会に多様な見解があることを理解している。
【思考・判断】 授業で獲得した知識に基づき、論理的に思考する力を身に付けている。

学生へのメッセージ

自ら主体的に考えるという姿勢を持つこと。また他の受講生に配慮した受講態度を取ること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50604031
講義名	生命倫理
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	田中 丹史	指定なし

ナンバリング

X13520C21

授業概要(教育目的)

20世紀後半以降の生命科学の飛躍的な発展に伴い、いのちをめぐる倫理としての生命倫理が問われるようになって久しい。本講義は生命倫理の基本的な知識の習得を企図し、生殖や死、再生医療、環境といった当該分野で一般的に問われるテーマを各問題の歴史的な経緯を踏まえながら考察する。その作業の中で、現在の生命倫理の中心的なアプローチの一つとなっている原則主義アプローチの妥当性を合わせて検討していきたい。こうした医療・環境をめぐる倫理問題の検討を通じ、科学技術がいかに社会と密接に関わり、また社会に対して大きな影響力を有しているのかを理解することを目標とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1. 医療倫理及び環境倫理の基本問題について知識を獲得する。
思考・判断の観点 (K)	1. 授業で獲得した知識を使って、主体的に自分で生命倫理に関する思考ができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バイオエシックス・生命倫理がどのような意味なのかを検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスの熟読、ノートの準備
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	アメリカにおける生命倫理の登場（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アメリカにおける人体実験の事件がどのようにしてバイオエシックス（生命倫理）の登場の契機になったのかを考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アメリカでどのような人体実験の事件があったのかを調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	アメリカにおける生命倫理の登場（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アメリカにおいて原則主義という考え方がどのようにして出てきたのかを検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	原則主義とはどのようなものかを調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	安楽死・尊厳死（アメリカの議論）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アメリカにおける安楽死・尊厳死に関する裁判例を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アメリカでどのような安楽死・尊厳死に関する事件があったのかを調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	安楽死・尊厳死（日本の議論）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本において安楽死・尊厳死に関してどのような事件があったのかを検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本における安楽死・尊厳死に関する事件について調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	臓器移植（臓器移植法の成立）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臓器移植法の成立までの議論の過程について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	旧臓器移植法の特徴について調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	臓器移植（臓器移植法の改正）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臓器移植法の改正までの過程でどのような議論があったのかを検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	改正臓器移植法の特徴について調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	生殖技術（産まないための技術）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	

第8回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	避妊と人工妊娠中絶の倫理問題について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	母体保護法について調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	生殖技術（産むための技術）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在における生殖補助医療に関する議論を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	生殖補助医療にどのような技術があるのかを調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	生殖技術（診断技術）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	出生前診断をめぐる倫理問題を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	出生前診断にどのような技術があるかを調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	再生医療（クローン）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生殖クローニングと治療目的クローニングをめぐる議論について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ヒトに関するクローン技術等の規制に関する法律について調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	再生医療（iPS細胞）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	iPS細胞をめぐる倫理問題を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	iPS細胞がどのようなものかを調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	環境倫理（環境倫理学総論）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	環境倫理学の基礎について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アルド・レオポルドの思想について調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	環境倫理（水俣病）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水俣病の歴史的な過程について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	胎児性水俣病について調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

特になし

学生へのフィードバック方法

授業は板書を中心に行う。質問は教室あるいは講師控室で受け付ける。

評価方法

期末試験によって授業内容の理解度、思考力を見る。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末試験	○	○		

評価割合

期末試験（１００%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

適宜授業中に指示します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】 医療問題や環境問題を通して、社会に多様な見解があることを理解している。
【思考・判断】 授業で獲得した知識に基づき、論理的に思考する力を身に付けている。

学生へのメッセージ

自ら主体的に考えるという姿勢を持つこと。また他の受講生に配慮した受講態度を取ること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50605001
講義名	心理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	松田 礼菜	指定なし

ナンバリング

X13540M21

授業概要(教育目的)

心理学は「こころの科学」であり、実に幅広い分野で活用されている学問である。本授業では、心理学の基礎的な領域を幅広く学習する。具体的には、感覚・知覚・認知、学習、記憶、感情・人格、神経・生理、動機付け・行動、社会・集団、心の発達、心理学の応用について理解することを目的とする。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	心理学の基礎知識を説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	心理学的な視点から日常で観察される人間の行動や心理について仮説を立てることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間の心理に興味を持ち、心理に関する課題に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	自分が経験したことや見聞きしたことを心理学的に解釈することができる。

学習計画

	授業テーマ	イントロダクション−心理学とは−
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	ガイダンスとして、授業概要とスケジュール、評価方法等を説明した上で、心理学という学問について概説する。 また、この授業ではGoogle Classroomを使用するため、その使い

	む)	方についても簡単に説明する。
第1回	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：心理学について自分がどんなイメージを持っているか考える。 復習：心理学に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分にとって関心のある分野と心理学のつながりを考える。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。
	教室外学習の時間(分)	191分
第2回	授業テーマ	心理学の歴史⑴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	心理学の歴史について学ぶ。心理学が生まれた背景、関連する学問領域を理解すると共に、心理学で扱うことができる範囲を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間(分)	193分
第3回	授業テーマ	心理学の歴史⑵
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	心理学の歴史について学ぶ。心理学が生まれた背景、関連する学問領域を理解すると共に、心理学で扱うことができる範囲を知る。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間(分)	193分
第4回	授業テーマ	感覚・知覚・認知⑴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	感覚・知覚に関する基礎的内容を学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間(分)	193分
第5回	授業テーマ	感覚・知覚・認知⑵
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	感覚・知覚の機序とその障害について学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間(分)	193分
	授業テーマ	学習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	学習理論（レスポンデント条件づけ、オペラント条件づけ）とその応用について学ぶ。

第6回	育・ICT活用を含む)	授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間(分)	193分
第7回	授業テーマ	記憶
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	記憶の諸過程や分類について学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間(分)	193分
第8回	授業テーマ	感情・人格
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情動・気分やパーソナリティに関する理論を学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間(分)	193分
第9回	授業テーマ	神経・生理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	神経系とこころの関係について学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間(分)	193分
第10回	授業テーマ	動機付け・行動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動機付けの過程や、欲求や葛藤に関する理論について学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間(分)	193分
	授業テーマ	社会・集団
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	印象形成やステレオタイプ、内集団・外集団・集団内における個人の認知・行動等の変化等について学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。

第11回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間(分)	193分
第12回	**授業テーマ**	心の発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	時間の経過に伴う心身や行動の変化について学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間(分)	193分
第13回	**授業テーマ**	心理学の応用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	心理学は、教育をはじめとする幅広い領域で活用されている。本講では各領域における心理学の応用について学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間(分)	193分
第14回	**授業テーマ**	総括＋期末テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前半50分で第2回～第13回までの授業内容を振り返り、それぞれの繋がりを確認する。後半50分で期末テストを実施する。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：第2回～第13回の資料に目を通し、理解できていない部分を明らかにしておく。 復習：第2回～第13回の内容を振り返り、キーワードを説明できるようにする。
	教室外学習の時間(分)	193分

学習計画注記

講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。
その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。

学生へのフィードバック方法

授業時に口頭あるいは書面でフィードバックする。
「自己チェック」の内容は直後に確認し、「ふりかえり」の内容は次の回で扱う。

評価方法

授業への姿勢（50%）、及び期末テストの結果（50%）をもとに総合的に判断する。

◆授業への姿勢・・・「自己チェック」と「ふりかえり」に対する取り組みから総合的に判断。
・自己チェック（25%）：
前の回の内容に関する小テストを意味する。毎回の授業の冒頭で実施。Googleフォームを使用。出席確認を兼ねる。正答率ではなく、時間内にきちんと提出できているかを評価する。

・ふりかえり（25%）：
授業の感想・質問を記すリアクションペーパーを意味する。毎回の授業の最後で実施。Googleフォームを使用。時間内にきちんと提出できているかを評価する。

◆期末テスト・・・期末テストの点数から判断。「自己チェック」の正答率は含まれない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業への姿勢			○	
期末テスト	○	○		○

評価割合

授業への姿勢（50%）、期末テストの結果（50%）

使用教科書名(ISBN番号)

教科書は指定せず、原則として配布資料を用いる。
配布方法はGoogle Classroomを使用。デジタルファイルでの共有とする。

参考図書

講義全体を通しての参考書として以下を使用する（購入は任意）。必要に応じて配布資料内にも適宜参考図書を記載する。
繁桝算男 編（野島一彦・繁桝算男 監修）『公認心理師の基礎と実践② 心理学概論』新曜社，2020年，ISBN 978-4-86616-052-8

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間の行動を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学に関する知識を得る。
【思考・判断】心理学的な視点から日常で観察される人間の行動や心理について仮説を立てることにより、人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。
【関心・意欲・態度】人間の心理に関心を持つことで、社会を構成する大切なひとりとして、人々のために応用する能力を得る。
【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、心理学的な思考や理論を用いて課題を論理的に分析して表現することで、他者との共感を創り出す能力を得る。

学生へのメッセージ

毎回の授業で実施する「自己チェック」と「ふりかえり」はいずれもGoogle Classroom上で実施します。配布資料もGoogle Classroomにて共有しますので、授業時にはPCやタブレット等の端末を使用できるよう、準備しておいてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	「自己チェック」と「ふりかえり」の実施、配布資料の共有等でGoogle Classroomを使用する。

講義コード	G50605031
講義名	心理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	北見 由奈	指定なし

ナンバリング

X13540C21

授業概要(教育目的)

心理学は「こころの科学」であり、実に幅広い分野で活用されている学問である。本授業では、心理学において蓄積されてきた知見を理解しながら、受講者自らがその知見を活用することを目指す。具体的には、自分自身を理解することの重要性や、周囲および社会との関係性が私たちに与える影響を、心理学の観点から理解することを促していく。さらに、それらの知識を総合して、今後の大学生活に活用できるよう、様々な実践的なエクササイズを行う。
なお、本授業はアクティブラーニング形式により進められ、個人ワークやグループワークなどを積極的に取り入れる。また、コメントシートやレポートの提出も、適宜、課せられる。学生が自らのこころについて洞察する力を高め、また対人関係におけるスキル獲得ができるよう進めていく。

履修条件

本授業では、他の受講生と意見を交換し、自分の考えを他者に伝えることが求められる。そのため、そのような活動に参加する意思のある学生に履修してほしい。
また、本授業は選択科目であるため、履修者は授業内容について興味・関心を高く持っていることが前提となる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	心理学の基礎知識を説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	心理学的な視点から日常で観察される人間の行動や心理について仮説を立てることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間の心理に興味を持ち、心理に関する課題に参加できる。
技術・表現の観点	自分が経験したことや見聞きしたことを心理学的に解釈することができ

(A)	る。

学習計画

第1回	授業テーマ	イントロダクション―心理学とは―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンスとして、授業概要とスケジュール、評価方法等を説明した上で、心理学という学問について概説する。 また、この授業ではGoogle Classroomを使用するため、その使い方についても簡単に説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：心理学について自分がどんなイメージを持っているか考える。 復習：心理学に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分にとって関心のある分野と心理学のつながりを考える。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。
	教室外学習の時間(分)	190分
第2回	授業テーマ	心理学の歴史（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	心理学の歴史について学ぶ。心理学が生まれた背景、関連する学問領域を理解すると共に、心理学で扱うことができる範囲を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第3回	授業テーマ	心理学の歴史（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	心理学の歴史について学ぶ。心理学が生まれた背景、関連する学問領域を理解すると共に、心理学で扱うことができる範囲を知る。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第4回	授業テーマ	感覚・知覚・認知（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	感覚・知覚に関する基礎的内容を学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第5回	授業テーマ	感覚・知覚・認知（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	感覚・知覚の機序とその障害について学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。

	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	学習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習理論（レスポンデント条件づけ、オペラント条件づけ）とその応用について学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	記憶
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	記憶の諸過程や分類について学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	感情・人格
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情動・気分やパーソナリティに関する理論を学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	神経・生理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	神経系とこころの関係について学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	動機づけ・行動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動機づけの過程や、欲求や葛藤に関する理論について学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。

	復習)の内容	復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	社会・集団（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	印象形成やステレオタイプ、内集団・外集団等について学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	社会・集団（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集団内における個人の認知・行動等の変化について学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	心の発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	時間の経過にともなう心身や行動の変化について学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	総括と学期末テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業前半の50分では、第2回～第13回までの授業内容を振り返り、それぞれの繋がりを確認する。授業後半の50分では、学期末テストを実施する。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：第2回～第13回の資料に目を通し、理解できていない部分を明らかにしておく。 復習：第2回～第13回の内容を振り返り、キーワードを説明できるようにする。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。
その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。

学生へのフィードバック方法

授業時に口頭あるいは書面でフィードバックする。

「自己チェック」の内容は直後に確認し、「ふりかえり」の内容は次の回で扱う。

評価方法

授業への姿勢（50%）、および学期末テストの結果（50%）をもとに総合的に判断する。

１）授業への姿勢・・・「自己チェック」と「ふりかえり」に対する取り組みから総合的に判断。
・自己チェック（25%）：
前の回の内容に関する小テストを意味する。毎回の授業の冒頭で実施。Googleフォームを使用。出席確認を兼ねる。正答率ではなく、時間内にきちんと提出できているかを評価する。

・ふりかえり（25%）：
授業の感想・質問を記すリアクションペーパーを意味する。毎回の授業の最後で実施。Googleフォームを使用。時間内にきちんと提出できているかを評価する。

２）学期末テスト・・・期末テストの点数から判断。「自己チェック」の正答率は含まれない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業への姿勢			○	
学期末テスト	○	○		○

評価割合

授業への姿勢（50%）、学期末テストの結果（50%）

使用教科書名(ISBN番号)

教科書は指定せず、原則として配布資料を用いる。
配布方法はGoogle Classroomを使用。デジタルファイルでの共有とする。

参考図書

参考図書は、配布資料内に適宜記す。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間の行動を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学に関する知識を得る。
【思考・判断】心理学的な視点から日常で観察される人間の行動や心理について仮説を立てることにより、人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。
【関心・意欲・態度】人間の心理に関心を持つことで、社会を構成する大切なひとりとして、人々のために応用する能力を得る。
【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、心理学的な思考や理論を用いて課題を論理的に分析して表現することで、他者との共感を創り出す能力を得る。

オフィスアワー

前期：金曜日３限（13：20～15：00） 千代田三番町キャンパス1805室

学生へのメッセージ

毎回の授業で実施する「自己チェック」と「ふりかえり」はいずれもGoogle Classroom上で実施します。配布資料もGoogle Classroomにて共有しますので、授業時にはPCやタブレット等の端末を使用できるよう、準備しておいてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活か		

した授業		
アクティブ・ラーニング	○	個人ワークやグループワークなどを積極的に取り入れる。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	「自己チェック」と「ふりかえり」の実施、配布資料の共有等でGoogle Classroomを使用する。

講義コード	G50606001
講義名	心理学ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13550M21

授業概要(教育目的)

心理学は「こころ」について理解し，支援するための学問である。心理学は大きく基礎領域と応用領域に分けることができる。「心理学b」では主に応用領域（社会，臨床など）をとりあげ，心理学の基本的な考え方と知識を身につけ，日常生活とのつながりを理解することを目的とする。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	心理学の基礎知識を説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	心理学的な視点から日常で観察される人間の行動や心理について仮説を立てることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間の心理に興味を持ち，心理に関する課題に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	自分が経験したことや見聞きしたことを心理学的に解釈することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の予定や受講にあたっての注意事項等について説明を受ける。 また、この授業ではGoogle Classroomを使用するため、その使い方についても簡単に説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：シラバス等を確認する。 復習：受講にあたっての注意事項等について確認する。
	教室外学習の時間（分）	191分
	授業テーマ	恋愛・性愛／ジェンダー・セクシュアリティと心理①

第2回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	恋愛・性愛／ジェンダー・セクシュアリティの心理について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：恋愛・性愛／ジェンダー・セクシュアリティに関して関心のある事項について考えてくる。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間（分）	193分
第3回	授業テーマ	恋愛・性愛／ジェンダー・セクシュアリティと心理②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	恋愛・性愛／ジェンダー・セクシュアリティの心理について学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：恋愛・性愛／ジェンダー・セクシュアリティに関して関心のある事項について考えてくる。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間（分）	193分
第4回	授業テーマ	現代社会と心理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代社会に特有の心理的課題（コロナ禍の心理，SNS利用時の心理等）について学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：コロナ禍の自分の心理，SNS利用時の自分の心理について振り返る。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間（分）	193分
第5回	授業テーマ	精神疾患①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	精神疾患（うつ病・双極性障害，不安症・恐怖症，統合失調症等）について学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：うつ病・双極性障害，不安症・恐怖症，統合失調症について，自分が知っていること・知らないことについて考える。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間（分）	193分
第6回	授業テーマ	精神疾患②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	精神疾患（PTSD，身体症状症，解離症，摂食障害，パーソナリティ障害等）について学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：PTSD，身体症状症，解離症，摂食障害，パーソナリティ障害について，自分が知っていること・知らないことについて考える。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間（分）	193分
第7回	授業テーマ	発達障害
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発達障害（自閉スペクトラム症，注意欠如・多動症，限局性学習症等）について学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	(	予習：自閉スペクトラム症，注意欠如・多動症，限局性学

	教室外学習 予習・復習)の内容	習症について，自分が知っていること・知らないことについて考える。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間（分）	193分
第8回	**授業テーマ**	心理療法①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	心理療法（精神分析療法，クライエント中心療法）について学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：精神分析療法，クライエント中心療法について，自分が知っていること・知らないことについて考える。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間（分）	193分
第9回	**授業テーマ**	心理療法②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	心理療法（認知行動療法等）について学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：認知行動療法について，自分が知っていること・知らないことについて考える。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間（分）	193分
第10回	**授業テーマ**	保健医療領域の心理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保健医療領域の心理について，心理的課題と支援の実態について学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：保健医療領域の心理について，関心のある事項について考えてくる。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間（分）	193分
第11回	**授業テーマ**	教育領域の心理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保健医療領域の心理について，心理的課題と支援の実態について学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教育領域の心理について，関心のある事項について考えてくる。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間（分）	193分
第12回	**授業テーマ**	司法・福祉領域の心理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	司法・福祉領域の心理について，心理的課題と支援の実態について学ぶ。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：司法・福祉領域の心理について，関心のある事項について考えてくる。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間（分）	193分
	授業テーマ	産業領域の心理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	産業領域の心理について，心理的課題と支援の実態について学ぶ。

第13回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：産業領域の心理について，関心のある事項について考えてくる。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間（分）	193分
第14回	授業テーマ	総括
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第2回～第13回までの授業内容を振り返り、それぞれの繋がりを確認する。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：第2回～第13回の資料に目を通し，理解できていない部分を明らかにしておく。 復習：第2回～第13回の内容を振り返り，キーワードを説明できるようにする。
	教室外学習の時間（分）	193分

学習計画注記

講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答も大切にしたい。
その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。

学生へのフィードバック方法

授業時に口頭あるいは書面でフィードバックする。
「自己チェック」の内容は直後に確認し、「ふりかえり」の内容は次の回で扱う。

評価方法

授業への姿勢（50%）、及び最終試験の結果（50%）をもとに総合的に判断する。
なお、この科目ではルーブリックに基づく成績評価を行う。ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内の配布によって提示する予定。

◆授業への姿勢
「自己チェック」と「ふりかえり」に対する取り組みから総合的に判断。

自己チェック：前回の内容に関する小テスト
毎回の授業の冒頭で実施。Googleフォームを使用。出席確認を兼ねる。
正答率ではなく、時間内にきちんと提出できているかを評価する。

ふりかえり：授業の感想・質問を記すリアクションペーパー
毎回の授業の最後で実施。Googleフォームを使用。時間内にきちんと提出できているかを評価する。

◆最終試験の結果
最終試験の結果から判断。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業への姿勢			○	
最終試験	○	○		○

評価割合

授業への姿勢（50%）、最終試験の結果（50%）

使用教科書名(ISBN番号)

教科書は指定せず、原則として配布資料を用いる。
配布方法はGoogle Classroomを使用。デジタルファイルでの共有とする。

参考図書

参考図書については授業内で適宜伝える。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間の行動を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学に関する知識を得る。
【思考・判断】心理学的な視点から日常で観察される人間の行動や心理について仮説を立てることにより、人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。
【関心・意欲・態度】人間の心理に関心を持つことで、社会を構成する大切なひとりとして、人々のために応用する能力を得る。
【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、心理学的な思考や理論を用いて課題を論理的に分析して表現することで、他者との共感を創り出す能力を得る。

学生へのメッセージ

毎回の授業で実施する「自己チェック」と「ふりかえり」はいずれもGoogle Classroom上で実施します。配布資料もGoogle Classroomにて共有いたしますので、授業時には、PCやタブレット等の端末を使用できるよう、準備しておいてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomを、「自己チェック」と「ふりかえり」の実施、配布資料の共有等で使用する。

講義コード	G50606031
講義名	心理学ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13550C21

授業概要(教育目的)

心理学とは，心と行動の関係を明らかにする学問であり，科学的な方法を用いて研究されてきた学問である。本授業では，これまで蓄積されてきた心理学の基礎的知見が，どのように現代社会において応用されているのか，心理学の応用的側面を学ぶ。応用場面として、コミュニケーション、家族、受講者自身を含む青年期、教育場面，心の支援方法，発達上の危機を取り上げる。その上で、問題に直面した際に解決方法として「自ら使える心理学」を修得することを目指す。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．社会心理学等の応用心理学では、どのようなことを明らかにできるのかを説明することができる。 2．応用心理学、特に対人関係に関する心の仕組みについて説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1．物事を考え、理解する方法の手段の一つとして、学んだ内容を生かそうとすることができる。 2．自身の疑問を心理学の知識を用いて解決しようとすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日常生活にある「何気ない」事象から、心理学的なテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点 (A)	自身や身近な人の行動に関して、心理学bで学んだ知識に基づいて説明するなど、心理学と生活のつながりを発信することができる。

学習計画

	授業テーマ	イントロダクション―応用心理学とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンスとして、授業の進め方、心理学の中でも授業で取り扱う応用心理学について学び、受講にあたっての基本を理解する。 この授業ではgoogle classroomを使用するため、その使い方についても簡単に説明する。

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。
	教室外学習の時間(分)	190分
第2回	授業テーマ	豊かなくらしと心理学――ストレスとうまく付き合うには？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ストレスとは何か、心理学の理論を知り、ストレスが持つ役割や、うまく付き合う方法について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味のある点、よくわからない点を明確にする。
	教室外学習の時間(分)	190分
第3回	授業テーマ	個人と社会（1）自分ってなに？――自己意識
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己意識について定義や理論を学び、理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第4回	授業テーマ	個人と社会（2）「みんな違う」はパーソナリティ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パーソナリティの理論について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、第3回目の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第5回	授業テーマ	個人と社会（3）「フツー・・・」――ステレオタイプ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ステレオタイプとは何かについて理解し、人間の行動や、そこから派生する対人関係の問題を知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 自身の日常生活上の疑問や問題を解決する方法を考える。
	教室外学習の時間(分)	190分
第6回	授業テーマ	個人と社会（4）攻撃行動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	攻撃行動について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分

第7回	授業テーマ	国際社会の問題と心理学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．UNHCRによる難民に関する映画を視聴し、国際的な問題について理解する。 2．国際社会における問題を理解するのに、心理学はどのように使うことができるのかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として、事前に配布された資料をよく理解し、難民問題について情報を得る。加えて、疑問点を明確にし、事前に与えられた課題を解決するための情報を映画から得られるように準備する。 復習として、映画で明らかになった問題について、これまでの回で得た知識を基に、心理学的な観点から自分の考えや解決策をまとめる。
	教室外学習の時間(分)	190分
第8回	授業テーマ	個人と社会（5）「あの人、ステキ」の心――対人魅力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対人魅力の理論について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第9回	授業テーマ	個人と社会（6）人を助ける心理学――援助行動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	援助行動について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第10回	授業テーマ	心の葛藤－認知的不協和－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コミュニケーションの心理学のうち、認知的不協和理論について学び、理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、認知的不協和理論で説明できる日常生活の事象を考える。
	教室外学習の時間(分)	190分
第11回	授業テーマ	「決める！」心理学－意思決定と説得－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	意思決定の仕組みに関する理論を学び、理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、日頃、自身が行っている意思決定や説得について考える。
	教室外学習の時間(分)	190分
	授業テーマ	集団心理学1－グループダイナミクス－

第12回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	同調やリーダーシップなど、集団の心理学の理論を学ぶ。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第13回	授業テーマ	集団の心理学2――リーダーシップ――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	リーダーシップ理論を学ぶ。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第14回	授業テーマ	コミュニケーションの仕組み
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コミュニケーションの仕組みについて学ぶ。コミュニケーションを心理学でどのように理論化しているか、その背景や関連する学問領域を併せて知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業を受けて、コミュニケーションに関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分のコミュニケーションについて考える。
	教室外学習の時間(分)	190分

学習計画注記

講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。
その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。

学生へのフィードバック方法

１．授業開始時に実施する「出欠確認」については、その都度、教員との間で結果を共有する。
２．「ふりかえり」については、授業終了後に教員が確認し、原則として次の回で全体にフィードバックを行う。

評価方法

授業への姿勢（50%）、及び試験の結果（50%）をもとに総合的に判断します。
試験の結果→試験期間に行われるもの。
★授業への姿勢
自己チェックへの取り組みとふりかえりへの取り組みから総合的に判断
☆自己チェック　25%
　出席確認を兼ねる。前の回の内容に関する課題（google フォーム等）への回答を、毎回の授業の冒頭で求める。
　　正答率ではなく、時間内にきちんと提出できているか。
☆ふりかえり　25%
　　授業の最後に、googleフォーム等で提示される課題に回答を求める。
　　期限内にきちんと提出できているか。
自己チェック、ふりかえりのいずれも、締め切り通りに提出されていることを重視します。

　なお、この科目ではルーブリックに基づく成績評価を行います。また、ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布によってみなさんに提示する予定です。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
自己チェック	○		○	
ふりかえり		○	○	○
最終試験	○	○		

評価割合

授業への姿勢（50%）、試験の結果（50%）

使用教科書名(ISBN番号)

テキストは特に指定せず、適宜、授業の中で紹介する。
原則として配布資料を用います。
配布方法は、google classroomを使用して、デジタルファイルでの配信とします。

参考図書

授業の中で紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会について、特に対人行動に関する知識をもって理解する。
【思考・判断】心理学に関する思考をもって人間を理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を、心理学への知識に基づく関心によって得る。
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、心理学的な思考や心理学の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。

オフィスアワー

会議のない木曜日、金曜日の3、4限（千代田三番町キャンパス1805室）

学生へのメッセージ

資料はgoogle classroomを介してデジタル配信を行います。紙媒体での配布は行いません。学内もしくは自宅のプリンターでのプリントアウト、ノートPCやタブレット端末等でみられるように各自で準備しておいてください。

Google classroom上で何回か分をA4サイズで作成したpdfファイルでまとめて配信
カラー印刷の必要はない
学内パソコン室での印刷が可能（白黒印刷には上限設定はない）
授業開始よりも前に配信予定

毎回の授業時に実施するi）自己チェック、ii）ふりかえりは、いずれもgoogle classroom上で実施します。授業時には、ノートPCやタブレット端末等が使用できるよう、準備しておいてください。スマートフォンでの回答も認めています。

シラバスを熟読すること
講義、それに基づく質疑応答・討論を中心に展開していく。
その展開によって生きた流れを優先するため、内容を変更することもあります。
授業後には、復習を必ず行うようにしてください。
配布物に関しては、整理・保管することも重視します。
自分自身をも含めた「人」への関心を高めてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニ		

ング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	google classroomを、自己チェック、配布資料のアーカイブなどで活用する。

講義コード	G50607001
講義名	ジェンダー論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	阿部　貴美子	指定なし

ナンバリング

X13560M21

授業概要(教育目的)

この授業では、ジェンダーとは何か、また、ジェンダー視点によって社会や制度、これまでの「あたりまえ」の知識について何が見えてくるかを、ジェンダーを見い出したフェミニズムの歴史的展開とともに学びます。また、リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖の健康と権利）とセクシュアリティの様々なあり方と、それらに影響する制度を学びます。授業で学んで事柄について、自分の考えを持ち、行動できるようになることを目指します。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	ジェンダー論の基礎知識を習得し、社会の様々な課題に対しジェンダー視点から理解できるようになる。
思考・判断の観点 (K)	社会のあり方をジェンダー視点から見直し、批判的に思考できるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	身近な出来事やニュースの中にあるジェンダーに関する事柄や影響に関心を持ち、触れるようになる。
技術・表現の観点 (A)	様々な問題についてジェンダーの視点から、自分の考えを言語化できるようになる。

学習計画

ジェンダー論

	授業テーマ	オリエンテーション
	(	

第1回	学習内容 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本講義の目標と各回の概要、参考図書、授業の進め方（各回授業の後にアンケート*実施など）、ルーブリック、評価方法などを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	授業テーマ	ジェンダーとはなにか
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ジェンダー概念を学び、履修生がこれまでに見聞きした、言われたなどの女性と男性に対するジェンダー規範を把握、検討する。ジェンダーギャップ指数とは何か、なぜ日本のランキングが国際的に低いのかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書の該当部分や配布資料を事前に予習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	セクシュアリティとジェンダー・アイデンティティの多様性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	性的指向、性自認を学び、現在の性別の決められ方と異性愛の強制を検討する。LGBTQ当事者の生きずらさを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書の該当箇所や配布資料を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	フェミニズムとジェンダー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フェミニズムの概念と理論、ジェンダーの発見、フェミニズム運動、また、分析概念としてジェンダーを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書の該当箇所や配布資料を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	近代家族とジェンダー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロマンティックラブ・イデオロギーと結婚、近代家族、性役割について学ぶ。「パートナーシップ制度」や「LGBT法」、同性婚にかかわる憲法訴訟を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書の該当箇所や配布資料を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	身体とジェンダー（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	リプロダクティブ・ヘルス／ライツの概念とその成立の歴史的経緯、日本に浸透してきた経緯、健康（健康についてのサービス含む）とジェンダーを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書の該当箇所や配布資料を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。

	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	身体とジェンダー（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「不妊治療」などの生殖補助医療に影響しているジェンダーと、「生殖ビジネス」による選択肢の増加によるリプロダクティブ・ライツの拡充と侵害を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書の該当箇所や配布資料を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	ジェンダーに基づく暴力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ジェンダーに基づく暴力（DVとデートDV、性暴力、二次被害）とは何かと、それにかかわる法制度を学ぶ。被害を公表した被害者に対するバッシングの背景を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	ジェンダー平等を求める国際的動きと日本
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	女性差別撤廃条約などの国連によるジェンダー平等の推進と、それによる日本のジェンダー主流化への影響、SDGs目標５達成に向けての動きを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	労働とジェンダー（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	男女雇用機会均等法の導入と賃金格差、女性の労働に影響する税と社会保障制度を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	労働とジェンダー（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	働く女性の周囲の「ガラスの天井」と「ガラスのエスカレーター」について学ぶ。「女性職」と職場におけるセクシャルハラスメント、無償労働について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	途上国の女性と国内の外国人女性のジェンダー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	途上国の女性にジェンダーによりもたらされている教育格差や暴力、行動制限などの問題を学ぶ。国内の外国人女性が交差性から直面する問題について学ぶ。

第12回	を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	教育とジェンダー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育内容と運営、指導におけるジェンダーを学び、「隠れたカリキュラム」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	講義内容全体のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの講義内容全体を振返り、理解を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業内容全体を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	250分

学習計画注記

学習計画は進度の調整や履修生の関心等により変更する場合があります。

学生へのフィードバック方法

毎回授業の最後にアンケート回答、または、リアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業でフィードバックします。質問はメールでも受け付けます。

評価方法

ルーブリックに基づきます。初回の授業でルーブリックについて説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間レポート	○	○	○	○
期末テスト	○	○	○	○
授業への参加	○	○	○	

評価割合

中間テスト30%、期末テスト50%、授業への参加（アンケートとリアクションペーパー、またはグループワーク）20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

加藤秀一『はじめてのジェンダー論』有斐閣（有斐閣ストゥディア）、2017年、
千田有紀、中西祐子、青山薫『ジェンダー論をつかむ』有斐閣、2013年、荻野美穂『女のからだ　フェミニズム以後』岩波書店（岩波新書（新赤版）1476）、2014年。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】人間社会の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、様々な問題を的確に判断できる能力を身につけている。

【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、マイノリティや困難を抱える人のために高い徳性をもって働く能力

【技能・表現】授業で学んだ知識を用いて社会の課題を発見し、課題を論理的に分析し表現することのできる能力を身につけている。

オフィスアワー

メールにて質問を受け付けます。

学生へのメッセージ

今、起きているジェンダーにかかわる問題を、新聞その他の情報も使いながら、身近に引き寄せて考えます。授業で学んだジェンダーの視点から、身近な様々な出来事やニュースを積極的に見直しみてください。そこから見えたことへの自分の考えを検討してみてください。リアクションペーパーには、授業の内容についての質問や意見なども記入してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	JICAの国際協力に携わった経験から得た、アジアやアフリカの女性のジェンダー問題、特に女性の身体への影響についての知見を活用する。
アクティブ・ラーニング	○	リアクションペーパーの記入やアンケートへの回答とそのフィードバックを行う。履修生に人数によってグループワークを行う。
情報リテラシー教育	○	メディアやSNS上の情報を教材として使用し、そこに含まれるジェンダーの問題やジェンダー影響を学ぶ。
ICT活用	○	マイクロソフトTeamsのリアクション機能や、グーグル・フォームのアンケートやチャット（履修生の人数による）を活用する。

講義コード	G50607031
講義名	ジェンダー論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	鈴木 亜矢子	指定なし

ナンバリング

X13560C21

授業概要(教育目的)

ジェンダー（文化的・社会的に作られた性差）は、女性と男性という二つの性別区分を「当たり前」のこととし、この社会に存在している。このことは私たちの生活や生き方に少なからず影響を与えており、時には私たちに様々な困難をもたらすことがある。
このようなジェンダーが、私たちの社会においてどのように機能しているのかを理解し、単なる性別区分による問題を超えて、人々がその人らしく生きられる社会の仕組みや構造を私たち自身が作っていくため
に必要な現状認識、知識を獲得することが本授業の目的である。
本授業では、ジェンダーに関する理論的な説明のみならず、身近にある様々な事象からグローバルなレベルにわたり、多様かつ具体的なトピックを取り上げ、これらをジェンダーの視点から批判的な視点をもって考察し、解説をする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	ジェンダー論・ジェンダー法学に関する基本的な概念、知識を身につけ、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	様々な社会問題をジェンダー視点から批判的に考察・分析し、その問題が生まれる社会的・構造的背景を理解し、指摘することができる。
関心・意欲・態度の観点	日ごろからジェンダーに関する問題意識を持ち、それらに対する自分の考えを整理し、発言することをもって社会問題解決に寄与することができる。

(V)	
技術・表現の観点 (A)	自らの考えを論理的に口頭及び文章で端的に説明することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今後の授業のスケジュールと内容、ジェンダー論概要、ルーブリックについて解説をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	ジェンダーとは①―性別を捉え直す
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「性別」は男／女に二分できるのか、性別の分類や認識等、性別をめぐる「当たり前」について批判的に検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前配布資料を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	ジェンダーとは②―性役割・セクシュアリティ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ジェンダー・ロール（性役割）、ジェンダー・ノーム（性規範）およびセクシュアリティの基礎概念について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前配布資料を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	ジェンダーとは③―女子教育の歴史と現状
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	女子教育の歴史的背景及び現状、日本の教育におけるジェンダー平等の現状とその課題について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前配布資料を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	フェミニズム運動とその理論、ジェンダーとの関係性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ジェンダーという概念の背景にあるフェミニズム運動の歴史を概観し、その運動の中で発展した理論について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前配布資料を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	恋愛・結婚とジェンダー―日本における恋愛・結婚・パートナシップに対する意識の変遷と現状
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	若者の恋愛・結婚に対する意識や行動を分析し、パートナーシップにおける問題（デートDV等）を理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	事前配布資料を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	結婚とジェンダー―日本と海外のパートナーシップ制度の比較検討とその問題点
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本のパートナシップ制度の現状とその特徴を分析し、その問題点とその解決策について、諸外国との比較から考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前配布資料を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	家族とジェンダー―性別役割分業／選択的夫婦別姓制度／婚外子
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の家族制度の歴史、現状を概観し、性別役割分業や婚外子に関する知識を習得し、これらの問題点について諸外国と比較し分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前配布資料を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	労働とジェンダー①―労働市場における女性の歴史／男女雇用機会均等法制定と改正
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	労働市場における女性の現状を歴史的に概観し、どのような経緯で男女雇用機会均等法が成立したのかその概要と改正内容を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前配布資料を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	労働とジェンダー②―現代女性のキャリア形成とライフプランニング／アンペイドワーク／ケア
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アンペイドワークやケア概念について学び、女性のキャリア形成における問題点を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前配布資料を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	離婚制度と離婚を取り巻く女性の現状ー離婚調停の模擬体験を通して
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ジェンダー法学の基礎を学ぶ一環として、離婚調停を疑似体験することで、離婚（制度）とその問題点について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前配布資料を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	女性に対する暴力－セクハラ、DV
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	

第12回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	女性に対する暴力の概念とその現状について、デートDV、DV、セクシャルハラスメントを中心に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布する予習資料を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	国家とジェンダー①―男女共同参画社会と基本法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本におけるジェンダー主流化、男女共同参画社会、男女共同参画社会基本法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前配布資料を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	国家とジェンダー②―ナショナルマシーナリーとジェンダー主流化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ナショナルマシーナリー、ジェンダー平等に関する条約等、ジェンダー主流化の国際的潮流と現状について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前配布資料を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

※履修者数、授業の進度や学生の理解の程度により、授業内容やスケジュールは適宜変更される場合がある。その場合は、授業時間内又はgoogle classroomで通知する。

学生へのフィードバック方法

各回授業後に回収するコメントペーパーを次回授業内でフィードバックする。質問等はコメントペーパーに記載すること。

評価方法

受講者数や理解度により、レポート課題、または試験もしくは小テストを実施し、表現力、論理的思考力、知識の定着を評価する。詳細については、授業にて告知する。この科目ではルーブリックに基づく成績評価を行う。また、ルーブリックについてはgoogle classroomまたは授業内での配布によって呈示する予定である。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート課題	○	○		○
小テスト	○	○	○	

定期試験	○	○		○
コメントペーパー	○	○	○	○

評価割合

定期試験又はレポート、小テスト（７０%）、コメントペーパー（３０%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

千田有紀・中西祐子・青山薫『ジェンダー論をつかむ』有斐閣

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】ジェンダーの基礎理論、及び人間社会における多様性について理解し、様々な社会現象をこれらの知識を持って考察・分析することができる。

【関心・意欲】社会を構成する大切な一人として、様々な社会問題を高い徳性をもって把握・理解することができる。

【技能・表現】上記から得られた知見を自分なりに整理して、論理的に表現し、問題解決に向け他者と協同し行動することができる。

オフィスアワー

授業内で告知する。

学生へのメッセージ

ジェンダー論の授業で批判的に物事を見る視角を身に着け、これからの皆さんの人生、キャリア形成に役立ててください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	ジェンダーに関する裁判、事件、問題となった事例等を、講師の実務経験に基づいて適宜解説する。
アクティブ・ラーニング	○	レポート課題において、学生自らの興味関心に従い、ジェンダーに関する情報や論文をリサーチし、分析し、考察する機会を設ける。
情報リテラシー教育	○	様々な情報から、ジェンダーに関する問題点と解決策を検索して見つけ出し、それを自らの生活や人生設計に役立てるようなノウハウを提供する。
ICT活用	○	SNSを用いたジェンダー情報の提供、チャット、zoomを用いて質問や面談の時間を設け、授業内容の定着を図る。

講義コード	G50608001
講義名	東京家政学院を学ぶ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	令和5・6年度の現代生活学部入学生 必修、それ以外の学生 選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	富田 弘美	指定なし
教授	井澤 尚子	指定なし
教授	吉武 博通	指定なし
教授	鷹野 景子	指定なし
教授	野村 浩子	指定なし
准教授	澤田 雅彦	指定なし

ナンバリング

X13580M21

授業概要(教育目的)

「東京家政学院を学ぶ」は、受講生が本学の理念を、創設者である大江スミの想いと行動に即してその時代の中で理解することを主眼とする。また、現代における本学理念の再評価を受講生一人ひとりが行い、講義を通して自分の生き方と重ねあわせるために必要な情報と動機とを体得する機会にする。さらに、大江スミがイギリス留学から帰国後、日本で本格的に実践した家政学は何かを知り、家政学を構成する個々の専門領域を受講生が在学中に学ぶ意義を理解する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	本学院の沿革と創立者の生涯について、社会の状況に照らして理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	他者から聴取した内容や学院に関する資料を読み込み、それについて自分の意見・考えを持つことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	本学院の学生としての尊厳と徳性を持って学んでゆくことができる。
技術・表現の観点 (A)	自分の意見・考えを他者に向けて論理的に表現することができる。

学習計画

東京家政学院を学ぶ

第1回	**授業テーマ**	ガイダンスと授業の目的
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方と課題提出の方法と注意点、及びこの授業の目的について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	この大学への入学の動機を、並びにそもそも大学へ進学した動機を思い出してほしい。大学進学者が増加傾向の中で、社会における大学の役割とはなにかを考えて、授業に臨んでほしい。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	女子教育の歴史
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近代日本の女子教育史において家政学教育がどのような意味を持っていたのかを概説し、当時の社会状況と大江スミ先生が家政学を学びに渡英した経緯を紹介します。家政学と女子教育の歴史を紹介することによって、現代において家政学を学ぶ意義を考える機会としたいと考えます。 河田敦子（生活共創学科教授）
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に常見育男「明治期三名の家政学研究の留学者に関連して」（1）（2）」『家庭科学』（1981，1982）を読むこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	家政学から現代生活学へ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家政学は、生命の維持や生活の質（well-being）を重視する生活者の視点で、持続可能な社会を創造する実践的総合科学である。家庭から社会を変える主体として生活者を捉え、女性と財産、ジェンダー研究を軸に、大江スミ・松平友子の家政学が、利谷信義・天野正子の現代生活学へ展開した東京家政学院の歴史を学ぶ。 特別講師 上村協子（本学名誉教授／元現代家政学科教授）
	教室外学習(予習・復習)の内容	「ひとひらの雪として－大江スミ先生の生涯－」の第1章 長崎の人（3頁～）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	大江家政学の「食」とこれまで
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	創立者大江スミ先生の家政学における「食」教育と現在までのあゆみについて、受け継がれてきた考え方や内容を講話する。 特別講師 小口悦子（本学名誉教授／元食物学科教授）
	教室外学習(予習・	「ひとひらの雪として－大江スミ先生の生涯－」の第2章 “とげ”ある身

	復習)の内容	（16頁～）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	大江家政学と「音楽」の世界
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	音楽は、私たちの生活に欠かせない。講義では、1948年に千代田区三番町の家政学院大学に開設された「子どものための音楽教室」の歴史にふれながら、家政学としての子どもと音楽について学ぶ。 吉永早苗（元児童学科教授／元副学長）
	教室外学習(予習・復習)の内容	「ひとひらの雪として－大江スミ先生の生涯－」の第3章 出会いの時（30頁～）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	女性のキャリア
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	働く女性の100年の歴史を振り返り、いま自分たちがどのような時代の分岐点に立っているのかを知る。また広告から性別役割分業意識の変遷を知り、女性が仕事を持つ上での心構えを考察する。 野村浩子（本学特別招聘教授／「日経WOMAN」「日経EW」元編集長）
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）指定の動画を見て、意見をまとめる。 （復習）授業の感想を200字以内でまとめて提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	男女が共に社会で活躍するためには−女性活躍促進の取り組み事例から考える−
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	女性の社会進出は進んできたものの、女性が社会で活躍するためには、多くの課題が残っている。求められるリーダー像や、男女が共に活躍するために必要なことは何か、大学での取組事例を通して一緒に考えたい。組織の一員として、グローバル社会の一員として、女性として、どのような意識で過ごして行くかを考えるヒントを得てほしい。 鷹野景子（本学学長）
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）男女が共に社会で活躍するために解決すべき課題、あるいは必要なことは何だと思いますか。考えてみましょう。 （復習）授業を通して感じたこと、考えたことを200―800字で書いてください。予習で考えた内容を含むこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	大学で学ぶ意味を問い直す
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	世界・日本の現状と課題を注目すべきデータなどを用いて説明した後、激動の時代とも言われる簡単には正解の見つからない社会を「より良く生きる」ために何が必要か、そのためには大学でどう学ぶべきか、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

第8回	育・ICT活用を含む)	吉武博通（本学院理事長／筑波大学名誉教授）
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義を通して感じたことや考えたことを小レポートにして後日提出すること。具体的な指示は授業の中で行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	卒業生の活躍①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	東京家政学院大学を卒業した卒業生が、在学時よりどのような学びを経て現在に至ったか、在学時の学びが卒業後の生活とどのように結びつくのか、講義する。 特別講師 朴卿希（ぱくきょんひ）（仁荷大学校(Inha University) 経営大学国際通商学科招聘教授）
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義後に講義要旨をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	卒業生の活躍②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	あなたは、東京家政学院の学生に何故なったのか、その「何故」を考えましょう。東京家政学院大学の卒業生を講師に迎え、この講義で改めてその機会を持ってください。 特別講師 澤田佳与子（本学卒業生／草月流本部講師／本学非常勤講師）
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義を聞いて考えたこと、感じたことを200字～400字程度でまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	自分らしく生きるために
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大江スミ先生が生きた時代に比べれば、現代の私たちは遥かに多くの自由と権利を手にし ています。それでも周囲の考え方や社会の変化によって、自分らしく生きることの難しさ を感じることがあります。自分にとって居心地の良い毎日を過ごすとは、自分らしく生き るとはどのようなことかを考えます。 佐々木ひとみ（本学特任教授）
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業終了後、下記の１～３の質問に対する答えを含め、400字程度で提出してください。 １）もし自分が大江スミ先生と同じ時代に生まれていたら、どのような生活を送っていたと思いますか。 ２）現代に大江スミ先生が生きておられたら、どんなことを考え、どんな活動をされると思いますか。 ３）東京家政学院の学生として、どのような生き方をしたいと思いますか。

	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	図書館の紹介（大江家政学が伝えること－大江文庫）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「東京家政学院大学附属図書館」を紹介する。本学の家政学は「ほんもの」主義。創立者大江スミ先生が収集した江戸時代の書物（大江文庫）の価値を学び、大江家政学が今日の私たちに伝えることを考える。 伊藤有紀（現代家政学科助教）
	教室外学習(予習・復習)の内容	附属図書館のホームページから大江文庫の概略を調べること。 https://www.kasei-gakuin.ac.jp/facilities/kasei-library/ooe-mokuroku/
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	博物館の紹介（博物館は面白い）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「東京家政学院生活文化博物館」を紹介する。当館は身近な暮らしと結びついた生活文化とその歴史を明らかにすることを目的とする。収蔵資料は衣服類（仕事着、民俗衣装）、装身具類（櫛、簪、玉類）、工芸品類（漆器、ガラス器、木製品）。 加藤晴美（現代家政学科准教授）
	教室外学習(予習・復習)の内容	東京家政学院生活文化博物館のホームページから博物館の概略を調べること。 https://www.kasei-gakuin.ac.jp/action/museum.html
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	全体のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の世話役の教員が、13回の授業を振り返ってコメントを行う。それを参考に学期末課題の、まとめのレポートの作成をする。 担当者：井澤尚子教授（現代家政学科）、澤田雅彦准教授・富田弘美教授（生活共創学科）
	教室外学習(予習・復習)の内容	学期末の課題を作成して提出する。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

第1回から第14回までの授業はオンデマンドで行う。

学生へのフィードバック方法

レポートは全履修者へ公開することもある。

評価方法

平常点（授業への参加状況、提出期日などで総合的に判断する）、学期末まとめのレポートに

ついて、ルーブリックを用いた評価を行う。（ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内で配付等によって指示する。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
学期末まとめのレポート	○	○	○	○

評価割合

平常点50%、学期末まとめのレポート50%

使用教科書名(ISBN番号)

適宜プリントを配付する。

参考図書

「ひとひらの雪として－大江スミ先生の生涯－」（入学時に配布）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】本学院の沿革と創立者の生涯について、社会の状況に照らして理解することができる。
【思考・判断】他者から聴取した内容や学院に関する資料を読み込み、それについて自分の意見・考えを持つことができる。
【関心・意欲・態度】本学院の学生としての尊厳と徳性を持って学んでゆくことができる。
【技能・表現】自分の意見・考えを他者に向けて論理的に表現することができる。

オフィスアワー

金曜日12:30～14:50（富田 町田キャンパス1405研究室）
木曜日10:50～12:30（澤田 町田キャンパス1503研究室）
水曜日10:30～13:00（井澤 千代田三番町キャンパス1704ゼミ室）

学生へのメッセージ

・社会制度や歴史の流れのなかで、大江スミ先生の提唱した家事学・家政学を理解し、自身の学びの方向について考える機会にしてください。
・必ず授業の予習・復習をしてください。
・講義終了後に課題がありますので提出してください。（この課題は、講師の狙いを学生が受け止めているか、更なる学習意欲が喚起されたかなどを簡潔に確認するものです。）
・学期末課題のレポートを最終授業後に出題してください。
・オンデマンドによる特別講師のため、質問等は学内担当教員までお問い合わせください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	学院経営という立場から吉武通博（理事長）・鷹野景子（学長）・野村浩子氏（本学特別招聘教授）・佐々木ひとみ（本学特任教授）による講義を、さらに澤田佳与子氏（卒業生、華道家、本学非常勤講師）、朴卿希氏（仁荷大学校 Inha University 経営大学招聘教授）、小口悦子氏（本学名誉教授）、上村協子氏（本学名誉教授）の各氏を講師としてお招きする。
アクティ		

ブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50608031
講義名	東京家政学院を学ぶ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	令和5・6年度の現代生活学部入学生 必修、それ以外の学生 選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	井澤 尚子	指定なし
教授	富田 弘美	指定なし
教授	吉武 博通	指定なし
教授	鷹野 景子	指定なし
教授	野村 浩子	指定なし
准教授	澤田 雅彦	指定なし

ナンバリング

X13580C21

授業概要(教育目的)

「東京家政学院を学ぶ」は、受講生が本学の理念を、創設者である大江スミの想いと行動に即してその時代の中で理解することを主眼とする。また、現代における本学理念の再評価を受講生一人ひとりが行い、講義を通して自分の生き方と重ねあわせるために必要な情報と動機とを体得する機会にする。さらに、大江スミがイギリス留学から帰国後、日本で本格的に実践した家政学は何かを知り、家政学を構成する個々の専門領域を受講生が在学中に学ぶ意義を理解する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	本学院の沿革と創立者の生涯について、社会の状況に照らして理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	他者から聴取した内容や学院に関する資料を読み込み、それについて自分の意見・考えを持つことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	本学院の学生としての尊厳と徳性を持って学んでゆくことができる。
技術・表現の観点 (A)	自分の意見・考えを他者に向けて論理的に表現することができる。

学習計画		
東京家政学院を学ぶ		
第1回	授業テーマ	ガイダンスと授業の目的
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方と課題提出の方法と注意点、及びこの授業の目的について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	この大学への入学の動機を、並びにそもそも大学へ進学した動機を思い出してほしい。大学進学者が増加傾向の中で、社会における大学の役割とはなにかを考えて、授業に臨んでほしい。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	女子教育の歴史
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近代日本の女子教育史において家政学教育がどのような意味を持っていたのかを概説し、当時の社会状況と大江スミ先生が家政学を学びに渡英した経緯を紹介します。家政学と女子教育の歴史を紹介することによって、現代において家政学を学ぶ意義を考える機会としたいと考えます。 河田敦子（生活共創学科教授）
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に常見育男「明治期三名の家政学研究の留学者に関連して」（1）（2）」『家庭科学』（1981，1982）を読むこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	家政学から現代生活学へ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家政学は、生命の維持や生活の質（well-being）を重視する生活者の視点で、持続可能な社会を創造する実践的総合科学である。家庭から社会を変える主体として生活者を捉え、女性と財産、ジェンダー研究を軸に、大江スミ・松平友子の家政学が、利谷信義・天野正子の現代生活学へ展開した東京家政学院の歴史を学ぶ。 特別講師 上村協子（本学名誉教授／元現代家政学科教授）
	教室外学習(予習・復習)の内容	「ひとひらの雪として－大江スミ先生の生涯－」の第1章 長崎の人（3頁～）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	大江家政学の「食」とこれまで
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	創立者大江スミ先生の家政学における「食」教育と現在までのあゆみについて、受け継がれてきた考え方や内容を講話する。 特別講師 小口悦子（本学名誉教授／元食物学科教授）
	教室外学習(予習・	「ひとひらの雪として－大江スミ先生の生涯－」の第2章 “とげ”ある身

	復習)の内容	（16頁～）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	大江家政学と「音楽」の世界
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	音楽は、私たちの生活に欠かせない。講義では、1948年に千代田区三番町の家政学院大学に開設された「子どものための音楽教室」の歴史にふれながら、家政学としての子どもと音楽について学ぶ。 吉永早苗（元児童学科教授／元本学副学長）
	教室外学習(予習・復習)の内容	「ひとひらの雪として－大江スミ先生の生涯－」の第3章 出会いの時（30頁～）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	女性のキャリア
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	働く女性の100年の歴史を振り返り、いま自分たちがどのような時代の分岐点に立っているのかを知る。また広告から性別役割分業意識の変遷を知り、女性が仕事を持つ上での心構えを考察する。 野村浩子（本学特別招聘教授／「日経WOMAN」「日経EW」元編集長）
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）指定の動画を見て、意見をまとめる。 （復習）授業の感想を200字以内でまとめて提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	男女が共に社会で活躍するためには−女性活躍促進の取り組み事例から考える−
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	女性の社会進出は進んできたものの、女性が社会で活躍するためには、多くの課題が残っている。求められるリーダー像や、男女が共に活躍するために必要なことは何か、大学での取組事例を通して一緒に考えたい。組織の一員として、グローバル社会の一員として、女性として、どのような意識で過ごして行くかを考えるヒントを得てほしい。 鷹野景子（本学学長）
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）男女が共に社会で活躍するために解決すべき課題、あるいは必要なことは何だと思いますか。考えてみましょう。 （復習）授業を通して感じたこと、考えたことを200―800字で書いてください。予習で考えた内容を含むこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	大学で学ぶ意味を問い直す
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	世界・日本の現状と課題を注目すべきデータなどを用いて説明した後、激動の時代とも言われる簡単には正解の見つからない社会を「より良く生きる」ために何が必要か、そのためには大学でどう学ぶべきか、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

第8回	育・ICT活用を含む)	吉武博通（本学院理事長／筑波大学名誉教授）
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義を通して感じたことや考えたことを小レポートにして後日提出すること。具体的な指示は授業の中で行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	卒業生の活躍①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	東京家政学院大学を卒業した卒業生が、在学時よりどのような学びを経て現在に至ったか、在学時の学びが卒業後の生活とどのように結びつくのか、講義する。 特別講師 朴卿希（ぱくきょんひ）（仁荷大学校(Inha University)経営大学国際通商学科招聘教授）
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義後に講義要旨をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	卒業生の活躍②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	あなたは、東京家政学院の学生に何故なったのか、その「何故」を考えましょう。東京家政学院大学の卒業生を講師に迎え、この講義で改めてその機会を持ってください。 特別講師 澤田佳与子（本学卒業生／草月流本部講師／本学非常勤講師）
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義を聞いて考えたこと、感じたことを200字～400字程度でまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	自分らしく生きるために
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大江スミ先生が生きた時代に比べれば、現代の私たちは遥かに多くの自由と権利を手にしています。それでも周囲の考え方や社会の変化によって、自分らしく生きることの難しさを感じることがあります。自分にとって居心地の良い毎日を過ごすとは、自分らしく生きるとはどのようなことかを考えます。 佐々木ひとみ（本学特任教授）
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業終了後、下記の１～３の質問に対する答えを含め、400字程度で提出してください。 １）もし自分が大江スミ先生と同じ時代に生まれていたら、どのような生活を送っていたと思いますか。 ２）現代に大江スミ先生が生きておられたら、どんなことを考え、どんな活動をされると思いますか。 ３）東京家政学院生の学生として、どのような生き方をしたいと思いますか。
	教室外学習	

	の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	図書館の紹介（大江家政学が伝えること－大江文庫）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「東京家政学院大学附属図書館」について紹介する。本学の家政学は「ほんもの」主義。創立者大江スミ先生が収集した江戸時代の書物（大江文庫）の価値を学び、大江家政学が今日の私たちに伝えることを考える。 伊藤有紀（現代家政学科助教）
	教室外学習(予習・復習)の内容	附属図書館のホームページから大江文庫の概略を調べること。 https://www.kasei-gakuin.ac.jp/facilities/kasei-library/ooe-mokuroku/
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	博物館の紹介（博物館は面白い）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「東京家政学院生活文化博物館」について紹介する。当館は身近な暮らしと結びついた生活文化とその歴史を明らかにすることを目的とする。収蔵資料は衣服類（仕事着、民俗衣装）、装身具類（櫛、簪、玉類）、工芸品類（漆器、ガラス器、木製品）。 加藤晴美（現代家政学科准教授）
	教室外学習(予習・復習)の内容	東京家政学院生活文化博物館のホームページから博物館の概略を調べること。 https://www.kasei-gakuin.ac.jp/action/museum.html
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	全体のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の世話役の教員が、13回の授業を振り返ってコメントを行う。それを参考に学期末課題の、まとめのレポートの作成をする。 担当者：井澤尚子教授（現代家政学科）、澤田雅彦准教授・富田弘美教授（生活共創学科）
	教室外学習(予習・復習)の内容	学期末の課題を作成して提出する。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

第1回から第14回までの授業はオンデマンドで行う。

学生へのフィードバック方法

レポートは全履修者へ公開することもある。

評価方法

平常点（授業への参加状況、提出期日などで総合的に判断する）、学期末まとめのレポートについて、ルーブリックを用いた評価を行う。（ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配付等によって指示する。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
学期末まとめのレポート	○	○	○	○

評価割合

平常点50%、学期末まとめのレポート50%

使用教科書名(ISBN番号)

適宜プリント配付する。

参考図書

「ひとひらの雪として－大江スミ先生の生涯－」（入学時に配布）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】本学院の沿革と創立者の生涯について、社会の状況に照らして理解することができる。
【思考・判断】他者から聴取した内容や学院に関する資料を読み込み、それについて自分の意見・考えを持つことができる。
【関心・意欲・態度】本学院の学生としての尊厳と徳性を持って学んでゆくことができる。
【技能・表現】自分の意見・考えを他者に向けて論理的に表現することができる。

オフィスアワー

金曜日12:30～14:50（富田 町田キャンパス1405研究室）
木曜日10:50～12:30（澤田 町田キャンパス1503研究室）
水曜日10:30～13:00（井澤 千代田三番町キャンパス1704ゼミ室）

学生へのメッセージ

・社会制度や歴史の流れのなかで、大江スミ先生の提唱した家事学・家政学を理解し、自身の学びの方向について考える機会にしてください。
・必ず授業の予習・復習をしてください。
・講義終了後に課題がありますので提出してください。（この課題は、講師の狙いを学生が受け止めているか、更なる学習意欲が喚起されたかなどを簡潔に確認するものです。）
・学期末課題のレポートを最終授業後に出題してください。
・オンデマンドによる特別講師のため、質問等は学内担当教員までお問い合わせください。
・講義テーマ・日程が変更する場合がありますがご了承ください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	学院経営という立場から吉武通博（理事長）・鷹野景子（学長）、野村浩子氏（本学特別招聘教授）・佐々木ひとみ（本学特任教授）による講義を、さらに澤田佳与子氏（卒業生、華道家、本学非常勤講師）、朴卿希氏（仁荷大学校 Inha University 経営大学招聘教授）、小口悦子氏（本学名誉教授）、上村協子氏（本学名誉教授）の各氏を講師としてお招きする。

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50701001
講義名	リテラシー演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	千葉 一博	指定なし
非常勤講師	新井 啓予	指定なし

ナンバリング

X11010M12

授業概要(教育目的)

レポート・論文を作成する技術の習得を通して、大学教育に対応できる基礎力を育成することをめざす。演習形式で具体的な作業を経験しながら実践的に学ぶことを通じて、主体的な学びの姿勢を身につけさせるとともに、高校までとは質の異なる大学での教育へとスムーズに移行させる橋渡しの役目を担うこともはかる。レポートの形式や表現／テーマ設定の方法やアウトラインの作り方／文献検索の方法や文献の利用方法／表・図からの読み取りや表・図の使い方を扱う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	レポートの書き方を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	主体的に学ぶ姿勢を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	レポート・論文を作成する技術の習得を通して、大学教育に対応できる基礎力を身につけている。

学習計画

	授業テーマ	A 書くということ

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	「書く」ということについて考え、目上の人へメールを書く際の注意点を学ぶ。 必携 PC より、本学で用いる学習支援システムに接続する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: テキスト配付済みの場合は「A 書くということ」を、未配付の場合はオリエンテーション時の資料を読んでおくこと。 復習: 練習問題の解答例を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	30 15
第2回	**授業テーマ**	B 報告書とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	客観的な報告書の書き方を学ぶ。また、報告書としての形式やルールにそった書式に整えることも練習する。 必携 PC で、文書作成ソフトウェアを用いる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 「B 報告書とは何か」を読んでおくこと。 復習: 練習問題の解答例を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	30 15
第3回	**授業テーマ**	C レポートとは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レポートとは何かということについて考え、その条件をまとめてみる。また、レポート作成のためのステップを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 「C レポートとは何か」を読んでおくこと。 復習: 練習問題の解答例を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	30 15
第4回	**授業テーマ**	D 報告書・レポートの表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	報告書・レポートに使われる表現について見ていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 「D 報告書・レポートの表現」を読んでおくこと。 復習: 練習問題の解答例を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	30 15
第5回	**授業テーマ**	E レポートの構成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レポートにおける文章の構成を考え、どういう情報をどのような順序で並べるのかを見ていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: テキスト配付済みの場合は「E レポートの構成」を、未配付の場合はオリエンテーション時の資料を読んでおくこと。 復習: 練習問題の解答例を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	30 15
第6回	**授業テーマ**	F 本論の書き方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レポートの中心となる「本論」の書き方について詳しく学び、どのように論拠を作り上げていけばいいのか考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 「F 本論の書き方」を読んでおくこと。 復習: 練習問題の解答例を確認すること。
		30

	教室外学習の時間（分）	15
第7回	**授業テーマ**	G テーマの設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レポートのテーマを設定するポイントを確認し、大まかな設計図として「思考マップ」「構想マップ」を作る方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 「G テーマの設定」を読んでおくこと。 復習: 練習問題の解答例を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	30 15
第8回	**授業テーマ**	H アウトラインの作り方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「構想マップ」をもとに、レポートの詳細な組み立てとなるアウトラインを作り上げていく手順について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 「H アウトラインの作り方」を読んでおくこと。 復習: 練習問題の解答例を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	30 15
第9回	**授業テーマ**	I 文献の収集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レポートや卒業論文で使う文献の探し方、収集した文献の整理の仕方について学ぶ。 必携 PC で、文献を探してみる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 「I 文献の収集」を読んでおくこと。 復習: 練習問題の解答例を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	30 15
第10回	**授業テーマ**	J 引用のしかた
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レポートや卒業論文における引用のしかたを理解し、どのように自分の主張を完成させていったらよいか学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 「J 引用のしかた」を読んでおくこと。 復習: 練習問題の解答例を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	30 15
第11回	**授業テーマ**	K 参考文献目録の書き方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的な参考文献目録の書き方のルールを学ぶ。 必携 PC で、文書作成ソフトウェアを用いる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 「K 参考文献目録の書き方」を読んでおくこと。 復習: 練習問題の解答例を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	30 15
第12回	**授業テーマ**	L 表・図の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	表・図の効果的な使い方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 「L 表・図の作成」を読んでおくこと。 復習: 練習問題の解答例を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	30 15
	授業テーマ	M 表・図からの読み取り

第13回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	表・図からの読み取り、説明文の書き方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 「M 表・図からの読み取り」を読んでおくこと。 復習: 練習問題の解答例を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	30 15
第14回	授業テーマ	N 表・図を使った説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	表・図から読み取れる事項を分析し、自分のことばで説明する練習をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 「N 表・図を使った説明」を読んでおくこと。 復習: 練習問題の解答例を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	30 15

学習計画注記

※スケジュールは指定される教室により異なる。初回に大学生として身につけるべきことを確認する。

学生へのフィードバック方法

課題は予定していない。

評価方法

・平常点は、授業への参加、練習問題への取り組み状況等で総合的に評価する。
・遅刻は30分までは「遅刻扱い」とし、30分以上すぎた場合は入室は認めても「欠席扱い」とする。また、3回遅刻で1回欠席扱いとする。
・定期試験は、授業に係る学習範囲から出題し、レポート・論文の作成に関する基礎的なことを確認する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
定期試験	○			○

評価割合

平常点（50%）、定期試験（50%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編（2025）『令和7年度 東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』東京家政学院大学 ※1回目の授業時に、またはそれまでに無料で配付する。

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、

課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力

オフィスアワー

千葉一博（町田キャンパス 1411研究室）木曜 12:30-14:00

学生へのメッセージ

この科目を受講することにより大学における授業の特長を理解し、社会人にとっても必須である文章作成能力を高めてみましょう。
準備学習として、各回の学習内容に対応するテキストの該当範囲を事前に読んだ上で授業に臨みましょう。
PC の使用については、オリエンテーションまたは本学で用いる学習管理システムで示します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、大学教育に対応していくための基礎力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	レポートや論文の作成方法に関する教育を行う。
ICT活用		

講義コード	G50701031
講義名	リテラシー演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	井澤 尚子	指定なし

ナンバリング

X10000C12

授業概要(教育目的)

レポート・論文を作成する技術の習得を通して、大学教育に対応できる基礎力を育成することをめざす。演習形式で具体的な作業を経験しながら実践的に学ぶことを通じて、主体的な学びの姿勢を身につけさせるとともに、高校までとは質の異なる大学での教育へとスムーズに移行させる橋渡しの役目を担うこともはかる。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	レポートの書き方を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	主体的に学ぶ姿勢を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	レポート・論文を作成する技術の習得を通して、大学教育に対応できる基礎力を身につけている。

学習計画

リテラシー演習

	授業テーマ	A 書くということ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	「書く」ということについて考え、目上の人へメールを書く際の注意点を学ぶ。

第1回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	必携PCより、本学で用いる学習支援システムに接続する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習:テキスト配付済みの場合は「A 書くということ」を、未配付の場合はオリエンテーション時の資料を読んでおくこと。 復習:練習問題の解答例を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	30 15
第2回	授業テーマ	B 報告書とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	客観的な報告書の書き方を学ぶ。また、報告書としての形式やルールにそった書式に整えることも練習する。 必携PCで、文書作成ソフトウェアを用いる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習:「B 報告書とは何か」を読んでおくこと。 復習:練習問題の解答例を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	30 15
第3回	授業テーマ	C レポートとは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レポートとは何かということについて考え、その条件をまとめてみる。また、レポート作成のためのステップを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習:「C レポートとは何か」を読んでおくこと。 復習:練習問題の解答例を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	30 15
第4回	授業テーマ	D 報告書・レポートの表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	報告書・レポートに使われる表現について見ていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習:「D 報告書・レポートの表現」を読んでおくこと。 復習:練習問題の解答例を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	30 15
第5回	授業テーマ	E レポートの構成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レポートにおける文章の構成を考え、どういう情報をどのような順序で並べるのかを見ていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習:テキスト配付済みの場合は「E レポートの構成」を、未配付の場合はオリエンテーション時の資料を読んでおくこと。 復習:練習問題の解答例を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	30 15
第6回	授業テーマ	F 本論の書き方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レポートの中心となる「本論」の書き方について詳しく学び、どのように論拠を作り上げていけばいいのか考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習:「F 本論の書き方」を読んでおくこと。 復習:練習問題の解答例を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	30 15

第7回	授業テーマ	G テーマの設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レポートのテーマを設定するポイントを確認し、大まかな設計図として「思考マップ」「構想マップ」を作る方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習:「G テーマの設定」を読んでおくこと。 復習:練習問題の解答例を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	30 15
第8回	授業テーマ	H アウトラインの作り方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「構想マップ」をもとに、レポートの詳細な組み立てとなるアウトラインを作り上げていく手順について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習:「H アウトラインの作り方」を読んでおくこと。 復習:練習問題の解答例を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	30 15
第9回	授業テーマ	I 文献の収集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レポートや卒業論文で使う文献の探し方、収集した文献の整理の仕方について学ぶ。 必携PCで、文献を探してみる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習:「I 文献の収集」を読んでおくこと。 復習:練習問題の解答例を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	30 15
第10回	授業テーマ	J 引用のしかた
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レポートや卒業論文における引用のしかたを理解し、どのように自分の主張を完成させていったらよいか学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習:「J 引用のしかた」を読んでおくこと。 復習:練習問題の解答例を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	30 15
第11回	授業テーマ	K 参考文献目録の書き方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的な参考文献目録の書き方のルールを学ぶ。 必携PCで、文書作成ソフトウェフを用いる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習:「K 参考文献目録の書き方」を読んでおくこと。 復習:練習問題の解答例を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	30 15
第12回	授業テーマ	L 表・図の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	表・図の効果的な使い方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習:「L 表・図の作成」を読んでおくこと。 復習:練習問題の解答例を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	30 15
	授業テーマ	M 表・図からの読み取り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	

第13回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	表・図からの読み取り、説明文の書き方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習:「M 表・図からの読み取り」を読んでおくこと。 復習:練習問題の解答例を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	30 15
第14回	授業テーマ	N 表・図を使った説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	表・図から読み取れる事項を分析し、自分のことばで説明する練習をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習:「N 表・図を使った説明」を読んでおくこと。 復習:練習問題の解答例を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	30 15

学習計画注記

※スケジュールは指定される教室により異なる。初回に大学生として身につけるべきことを確認する。

学生へのフィードバック方法

課題は予定していない。

評価方法

・平常点は、授業への参加、練習問題への取り組み状況等で総合的に評価する。
・遅刻は30分までは「遅刻扱い」とし、30分以上すぎた場合は入室は認めても「欠席扱い」とする。また、3回遅刻で1回欠席扱いとする。
・定期試験は、授業に係る学習範囲から出題し、レポート・論文の作成に関する基礎的なことを確認する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
定期試験	○			○

評価割合

平常点（50%）、定期試験（50%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編（2025）『令和7年度 東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』東京家政学院大学 ※1回目の授業時に、またはそれまでに無料で配付する。

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力

オフィスアワー

井澤尚子（千代田三番町キャンパス1704ゼミ室）金曜日3時限

学生へのメッセージ

この科目を受講することにより大学における授業の特長を理解し、社会人にとっても必須である文章作成能力や情報収集能力を高めてみましょう。
準備学習として、各回の学習内容に対応するテキストの該当範囲を事前に読んだ上で授業に臨みましょう。
PC の使用については、オリエンテーションまたは本学で用いる学習管理システムで示します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、大学教育に対応していくための基礎力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	レポートや論文の作成方法に関する教育を行う。
ICT活用		

講義コード	G50702001
講義名	海外研修（英語研修）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13800M23

授業概要(教育目的)

英語圏の大学またはそれに準ずる英語教育機関で短期英語＆文化コースを受講する。同時に研修地の名所旧跡の視察、生活様式の体験、現地で出会った人々との交流を通して、異文化理解を深め、英語によるコミュニケーション力を高めていく。研修前には事前授業が行われ、サバイバル・イングリッシュや研修地の文化等を学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	英語及び異文化について知識や情報を収集し、英語及び異文化について理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	異文化の生活や異文化の人々の考え方を理解し、自分はどのように行動すべきか的確に判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に英語及び異文化について理解し、文化相対主義の考え方を身につけることができる。
技術・表現の観点 (A)	異文化の習慣や考え方を尊重し、異文化において適切に行動できる。

学習計画

海外研修（英語研修）

第1回	**授業テーマ**	事前授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	英語研修に関する事前授業を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献やインターネット等で現地で必要な日常英会話について学習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	事前ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	英語研修に関する事前ガイダンスを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研修に必要な情報を確認する。

	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	研修1日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修地に到着後、現地でオリエンテーションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な日常英会話について復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	研修2日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	研修3日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	**授業テーマ**	研修4日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	研修5日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	研修6日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	研修7日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	研修8日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	研修9日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	研修10日目

第12回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	研修11日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	研修12日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第15回	授業テーマ	研修13日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第16回	授業テーマ	研修14日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	帰国
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学生へのフィードバック方法

口頭および書面でフィードバックする。

評価方法

事前準備・計画、現地教育機関の評価、口頭発表により評価する。
※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
事前準備・計画	○	○	○	○
現地教育機関の評価	○	○	○	○
口頭発表	○	○	○	○

評価割合

事前準備・計画30%、英語コースの評価40%、口頭発表30%

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】異文化、英語について学び、人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる。
【関心・意欲・態度】異文化理解を通じて社会を構成する一員として、高い徳性をもって人々のために働くことができる。

【技能・表現】異文化の人々と意見を交換するための言語運用技能をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・統合し、表現することで他者との共感を創り出すことができる。

学生へのメッセージ

異文化を理解することで自分の所属する文化の本質がわかることがあります。海外研修というチャンスを、自分自身を客観的に考えるきっかけにしましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	異文化における研修、異文化の人々との交流を通じて日本文化と異文化を体験的に理解する。
情報リテラシー教育	○	情報蒐集、情報整理、情報発信の方法を学ぶ。
ICT活用		

講義コード	G50703001
講義名	海外研修（異文化理解）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13800M23

授業概要(教育目的)

英語圏の大学またはそれに準ずる英語教育機関で短期英語＆文化コースを受講する。同時に研修地の名所旧跡の視察、生活様式の体験、現地で出会った人々との交流を通して、異文化理解を深め、英語によるコミュニケーション力を高めていく。研修前には事前授業が行われ、サバイバル・イングリッシュや研修地の文化等を学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	英語及び異文化について知識や情報を収集し、英語及び異文化について理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	異文化の生活や異文化の人々の考え方を理解し、自分はどのように行動すべきか的確に判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に英語及び異文化について理解し、文化相対主義の考え方を身につけることができる。
技術・表現の観点 (A)	異文化の習慣や考え方を尊重し、異文化において適切に行動できる。

学習計画

海外研修（英語研修）

第1回	**授業テーマ**	事前授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	英語研修に関する事前授業を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献やインターネット等で現地で必要な日常英会話について学習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	事前ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	英語研修に関する事前ガイダンスを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研修に必要な情報を確認する。

	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	研修1日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修地に到着後、現地でオリエンテーションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な日常英会話について復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	研修2日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	研修3日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	**授業テーマ**	研修4日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	研修5日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	研修6日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	研修7日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	研修8日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	研修9日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	研修10日目

第12回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	研修11日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	研修12日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第15回	授業テーマ	研修13日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第16回	授業テーマ	研修14日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	帰国
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学生へのフィードバック方法

口頭および書面でフィードバックする。

評価方法

事前準備・計画、現地教育機関の評価、口頭発表により評価する。
※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
事前準備・計画	○	○	○	○
現地教育機関の評価	○	○	○	○
口頭発表	○	○	○	○

評価割合

事前準備・計画30%、英語コースの評価40%、口頭発表30%

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】異文化、英語について学び、人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる。
【関心・意欲・態度】異文化理解を通じて社会を構成する一員として、高い徳性をもって人々のために働くことができる。

【技能・表現】異文化の人々と意見を交換するための言語運用技能をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・統合し、表現することで他者との共感を創り出すことができる。

学生へのメッセージ

異文化を理解することで自分の所属する文化の本質がわかることがあります。海外研修というチャンスを、自分自身を客観的に考えるきっかけにしましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	異文化における研修、異文化の人々との交流を通じて日本文化と異文化を体験的に理解する。
情報リテラシー教育	○	情報蒐集、情報整理、情報発信の方法を学ぶ。
ICT活用		

講義コード	G50704001
講義名	英会話集中講座
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	マーク ルイス	指定なし

ナンバリング

X13840M12

授業概要(教育目的)

This three day intensive English course allows students to practice conversational English to gain confidence and abilty. The goal of this class is to improve student fluency of English through practical situation role-playing, memorization, language games, and writing activities.

履修条件

Communication English 1 and 2 recommended.

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	Students will gain knowledge of basic English Conversation patterns.
思考・判断の観点 (K)	Students will develop critical thinking skills to desribe their feelings and to understand the perspective of others.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Students will become active learners of English and will desire to learn more.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express their feelings more easily in English, and will become more at ease when speaking with others.

学習計画

第1回	**授業テーマ**	Introduction
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Meet the teacher and make name cards and meet first speaking partner with handout #1.

	教室外学習(予習・復習)の内容	Students should prepare by reading handout #1: introduction, family members, work; Do you like music? Can you play an instrument?
	教室外学習の時間（分）	120
第2回	授業テーマ	Names and greetings; How to do a song presentation
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Nice to meet you games and activities, such as Wink First, and Remember Names Circle. Group 1 song presentation.
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第3回	授業テーマ	Movie
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Watch a movie in English after dinner and bath. Titles to choose from include: Fantastic Beasts and Where to Find them; Remember Me, and other popular movies.
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第4回	授業テーマ	Family
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Handout #2 with new partner. Group 2 song presentation.
	教室外学習(予習・復習)の内容	Students should prepare by reading handout #2: What's your favorite family restaurant? How come? How often do you watch movies?
	教室外学習の時間（分）	120
第5回	授業テーマ	Interesting Questions and class survey
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Students conduct a class survey and find out what is particulaarly interesting about a randomly chosen classmate.
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第6回	授業テーマ	Eye Contact
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	This activity shows students how to give a presentation in a professional way, concentrating on making eye contact with everyone in the audience.
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第7回	授業テーマ	Haiku Competition
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Students create a haiku based on seasons, actiivites, and feelings. Most liked haiku (by votes) gets a prize.
	教室外学習(予習・復習)の内容	

	教室外学習の時間（分）	
第8回	授業テーマ	Talk about your character
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Handout #3 with new partner. Group 3 song presentation.
	教室外学習(予習・復習)の内容	Students should prepare by reading handout #3: Are you quiet or talkative? Shy or outgoing? Messy or neat? Do you like to play sports?
	教室外学習の時間（分）	120
第9回	授業テーマ	Listen up!
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Double dictation and disappearing dialog games.
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第10回	授業テーマ	Food
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Handout #4 with a new partner. Group 4 song presentation.
	教室外学習(予習・復習)の内容	Students should prepare by reading handout #4: What kind of food do you like? What's your favorite restaurant? Do you like to eat out?
	教室外学習の時間（分）	120
第11回	授業テーマ	Money Talks
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	This fun activity helps students practice numbers, big and small in a fun race to finish activity.
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第12回	授業テーマ	Your star sign
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Handout #5 with a new partner. Group 5 song presentation. Dinner then bath, movie.
	教室外学習(予習・復習)の内容	Students should prepare by reading handout #5: What kind of work do you want to do in the future? Where do you want to work?
	教室外学習の時間（分）	120
第13回	授業テーマ	Steven meets a bully. What should he do?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Create a consistant narrative in English based upon a list of scrambled sentences and phrases.
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

第14回	授業テーマ	Final Interview/Conversation
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Students conduct a short interiveiw with their partner to see how comfortable they are using English. Interview topcs may cover the five conversations from the five camp handouts.
	教室外学習(予習・復習)の内容	Review all five camp handouts to compose a natural English conversastion interview with a partner.
	教室外学習の時間（分）	120

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。Study and learning occurs in the classroom during the four days of practice and review of English Patterns. Short out of class assignments may occur for the next day's class.

学生へのフィードバック方法

Students receive feedback from in-class activities such as presentations and gamess, and final speaking interview.

評価方法

Students must participate for all hours that the camp is held in order to receive credit. Students must also take part actively in all speaking activities and games, and all writing activities, and be prepared to share their thoughts and ideas in English with others. An evaluation of speaking using rubrics will be provided. The rubric will be on Google Classroom.

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
Pair Work	○	○	○	○
Writing	○	○	○	○
Final interview	○	○	○	○

評価割合

Pair and Group Work 60%; Writing activities 20%; Final Interview 20%.

使用教科書名(ISBN番号)

none

参考図書

A Japanese -English dictionary

ディプロマポリシーとの関連

Ability to use English in a fluent and confident manner.

オフィスアワー

Chiyoda Campus: Friday, 2nd Period.
Machida Campus: Wednesday 2nd Period.

学生へのメッセージ

Please relax and enjoy English music, movies, games, and other language activities.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other
情報リテラシー教育		

ICT活用		

講義コード	G50705031
講義名	地域貢献活動（介護等体験）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13871C12

授業概要(教育目的)

この授業は、教職免許取得希望の学生が対象である。その学生に限り、単位を認定する。同じ名称の別科目と異なる授業であることに注意をすること。
指定された7日間の介護等体験を終了した者、あるいは、今年度この体験を予定する者に対して単位認定を与える。7日間の介護等体験を行うこと。その体験について、決められた書式に従って、感想を記すこと。体験を済ませた証明書を添えること。
7日間の介護体験についての教育的意味を考えること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	介護体験をしっかりふり返り、体験の思想化を行う。
思考・判断の観点 (K)	介護を必要とする人々の人権の感覚の獲得を重視する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	介護等体験について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	介護等体験マニュアルノート、
	教室外学習(予習・復習)の内容	社会福祉協議が指定する福祉施設の体験、特別支援学校の体験
	教室外学習の時間（分）	100
第2回	**授業テーマ**	介護等体験について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	介護等体験マニュアルノート、
	教室外学習(予習・復習)の内容	社会福祉協議が指定する福祉施設の体験、特別支援学校の体験
	教室外学習の時間（分）	100
	授業テーマ	介護等体験について

第3回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	介護等体験マニュアルノート、
	教室外学習(予習・復習)の内容	社会福祉協議が指定する福祉施設の体験、特別支援学校の体験
	教室外学習の時間（分）	100
第4回	授業テーマ	介護等体験について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	介護等体験マニュアルノート、
	教室外学習(予習・復習)の内容	社会福祉協議が指定する福祉施設の体験、特別支援学校の体験
	教室外学習の時間（分）	100
第5回	授業テーマ	介護等体験について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	介護等体験マニュアルノート、
	教室外学習(予習・復習)の内容	社会福祉協議が指定する福祉施設の体験、特別支援学校の体験
	教室外学習の時間（分）	100
第6回	授業テーマ	介護等体験について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	介護等体験マニュアルノート、
	教室外学習(予習・復習)の内容	社会福祉協議が指定する福祉施設の体験、特別支援学校の体験
	教室外学習の時間（分）	100
第7回	授業テーマ	介護等体験について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	介護等体験マニュアルノート、
	教室外学習(予習・復習)の内容	社会福祉協議が指定する福祉施設の体験、特別支援学校の体験
	教室外学習の時間（分）	100

学生へのフィードバック方法

体験を終えた学生の感想文を読んで、後日、講義のなかで、講話する。

評価方法

体験記録をもとにしたレポートによる評価とする。なお、成績はルーブリックにもとづいて評価する。ルーブリックは受講時に提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○		

評価割合

介護体験7日間についてのレポート提出70%, 実習証明書の提出などの総合評価

使用教科書名(ISBN番号)

特になし。

参考図書

社会福祉協議会編の『介護等体験マニュアルノート』

ディプロマポリシーとの関連

知識・理解、総合的な家政学の見地に立ち、介護に関する諸問題が理解できる
思考・判断、生活の諸問題を自ら発見し、解決に導く考察ができる
関心・意欲・態度、介護等の諸問題について関心を持ち続けることができる
技能・表現、問題解決のための提案と発信を行うことができる。

オフィスアワー

水曜日4限（15:10～16:50）千代田三番町キャンパス1804研究室

学生へのメッセージ

教員免許状の取得のためには、1週間の介護体験等の実習を行う必要がある。本学ではこの介護体験で得た知識と技術は貴重であると判断し、その経験を尊重し、本授業の履修を通じて卒業要件の1単位分の取得を認めるという運用をする。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50706001
講義名	異文化交流ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	森 朋子	指定なし

ナンバリング

X13800M23

授業概要(教育目的)

英語圏の大学またはそれに準ずる教育機関で短期英語＆文化コースを受講する。同時に研修地の名所旧跡の視察、生活様式の体験、現地で出会った人々との交流を通して、異文化理解を深め、英語によるコミュニケーション力を高めていく。研修前には事前授業が行われ、サバイバル・イングリッシュや研修地の文化等を学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	英語及び異文化について知識や情報を収集し、英語及び異文化について理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	異文化の生活や異文化の人々の考え方を理解し、自分はどのように行動すべきか的確に判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に英語及び異文化について理解し、文化相対主義の考え方を身につけることができる。
技術・表現の観点 (A)	異文化の習慣や考え方を尊重し、異文化において適切に行動できる。

学習計画

海外研修（英語研修）

第1回	**授業テーマ**	事前授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	英語研修に関する事前授業を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献やインターネット等で現地で必要な日常英会話について学習しておく。

	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	事前ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	英語研修に関する事前ガイダンスを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研修に必要な情報を確認する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	研修1日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修地に到着後、現地でオリエンテーションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な日常英会話について復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	研修2日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	研修3日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	**授業テーマ**	研修4日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	研修5日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	研修6日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	研修7日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	研修8日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	研修9日目

第11回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	研修10日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	研修11日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	研修12日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第15回	授業テーマ	研修13日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第16回	授業テーマ	研修14日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	帰国
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学生へのフィードバック方法

口頭および書面でフィードバックする。

評価方法

事前準備・計画、現地教育機関の評価、口頭発表により評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
事前準備・計画	○	○	○	○
現地教育機関の評価	○	○	○	○
口頭発表	○	○	○	○

評価割合

事前準備・計画30%、英語コースの評価40%、口頭発表30%
※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】異文化、英語について学び、人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる。
【関心・意欲・態度】異文化理解を通じて社会を構成する一員として、高い徳性をもって人々のために働くことができる。
【技能・表現】異文化の人々と意見を交換するための言語運用技能をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・統合し、表現することで他者との共感を創り出すことができる。

学生へのメッセージ

異文化を理解することで自分の所属する文化の本質がわかることがあります。海外研修というチャンスを、自分自身を客観的に考えるきっかけにしましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	異文化における研修、異文化の人々との交流を通じて日本文化と異文化を体験的に理解する。
情報リテラシー教育	○	情報蒐集、情報整理、情報発信の方法を学ぶ。
ICT活用		

講義コード	G50706031
講義名	異文化交流ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	森 朋子	指定なし

ナンバリング

X13800C23

授業概要(教育目的)

英語圏の大学またはそれに準ずる英語教育機関で短期英語＆文化コースを受講する。同時に研修地の名所旧跡の視察、生活様式の体験、現地で出会った人々との交流を通して、異文化理解を深め、英語によるコミュニケーション力を高めていく。研修前には事前授業が行われ、サバイバル・イングリッシュや研修地の文化等を学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	英語及び異文化について知識や情報を収集し、英語及び異文化について理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	異文化の生活や異文化の人々の考え方を理解し、自分はどのように行動すべきか的確に判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に英語及び異文化について理解し、文化相対主義の考え方を身につけることができる。
技術・表現の観点 (A)	異文化の習慣や考え方を尊重し、異文化において適切に行動できる。

学習計画

海外研修（英語研修）

第1回	**授業テーマ**	事前授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	英語研修に関する事前授業を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献やインターネット等で現地で必要な日常英会話について学習しておく。

	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	事前ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	英語研修に関する事前ガイダンスを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研修に必要な情報を確認する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	研修1日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修地に到着後、現地でオリエンテーションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な日常英会話について復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	研修2日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	研修3日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	**授業テーマ**	研修4日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	研修5日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	研修6日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	研修7日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	研修8日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	研修9日目

第11回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	研修10日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	研修11日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	研修12日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第15回	**授業テーマ**	研修13日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第16回	**授業テーマ**	研修14日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	帰国
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学生へのフィードバック方法

口頭および書面でフィードバックする。

評価方法

事前準備・計画、現地教育機関の評価、口頭発表により評価する。
※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
事前準備・計画	○	○	○	○
現地教育機関の評価	○	○	○	○
口頭発表	○	○	○	○

評価割合

事前準備・計画30%、英語コースの評価40%、口頭発表30%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】異文化、英語について学び、人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる。
【関心・意欲・態度】異文化理解を通じて社会を構成する一員として、高い徳性をもって人々のために働くことができる。
【技能・表現】異文化の人々と意見を交換するための言語運用技能をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・統合し、表現することで他者との共感を創り出すことができる。

学生へのメッセージ

異文化を理解することで自分の所属する文化の本質がわかることがあります。海外研修というチャンスを、自分自身を客観的に考えるきっかけにしましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	異文化における研修、異文化の人々との交流を通じて日本文化と異文化を体験的に理解する。
情報リテラシー教育	○	情報蒐集、情報整理、情報発信の方法を学ぶ。
ICT活用		

講義コード	G50707001
講義名	異文化交流ｂ（旧カリ）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13830M12

授業概要(教育目的)

海外の大学生とオンラインで交流する。家庭、大学、社会における暮らしぶりを互いに紹介し合う中で、人間としての共通点および文化の違いによる相違点についての理解を深めていく。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	異文化交流の意義や難しい点、適切な方法等についての知識がある。
思考・判断の観点 (K)	異文化交流において生じる困難を予測し、円滑なコミュニケーションのための準備をすることができる。また、実際の場面で困難が生じた際に、問題点を的確に判断し、柔軟に対応することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	異文化に対する関心、交流しようとする意欲、相手を尊重しより良い関係を構築していける態度を持つ。
技術・表現の観点 (A)	異文化にいる相手が理解しやすい表現や提示を工夫することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	異文化交流bの全体の流れとタスクについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自己紹介を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	事前準備1

第2回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	交流校Aとの交流内容を確認し、交流のための準備をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	交流校Aのパートナーにメールを出す。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	交流校Aのパートナーとの第1回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	交流校Aのパートナーとの第2回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	交流校Aのパートナーとの第3回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基き、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	事前準備2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	交流校Bとの交流内容を確認し、交流の準備をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	交流校Bのパートナーにメールを出す。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	交流校Bのパートナーとの第1回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	交流校Bのパートナーとの第2回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。

第8回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	授業テーマ	交流校Bのパートナーとの第3回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	授業テーマ	事前準備3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	交流校Cとの交流内容を確認し、交流のための準備をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	交流校Cのパートナーにメールを出す。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	交流校Cのパートナーとの第1回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	交流校Cのパートナーとの第2回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	交流校Cのパートナーとの第3回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。また、発表のためのPPTを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3人のパートナーとの交流を通して学んだこと等について、PPTを使って発表する。相互に質問や意見を交わすことで、異文化交流についての理解を深めていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	他の人の発表から学んだことをまとめる。

	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

説明会あり

学生へのフィードバック方法

口頭および書面によるフィードバック

評価方法

課題、ミニレポート、口頭発表の完成度および取り組みの姿勢により評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○	○	○
ミニレポート	○	○	○	○
口頭発表	○	○	○	○

評価割合

課題20%、ミニレポート50%、口頭発表30%
※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

ディプロマポリシーとの関連

・異文化交流の意義や難しい点、適切な方法等についての知識がある。
・異文化交流において生じる困難を予測し、円滑なコミュニケーションのための準備をすることができ
る。また、実際の場面で困難が生じた際に、問題点を的確に判断し、柔軟に対応することができる。
・異文化に対する関心、交流しようとする意欲、相手を尊重しより良い関係を構築していける態度を持
つ。
・異文化にいる相手が理解しやすい表現や提示を工夫することができる。

学生へのメッセージ

海外の大学生がどのような生活をし、何を考えているのかを直接知ることができる授業です。今まで、別の科目で体験した学生達の共通した感想は「楽しかった！」でした。難しく考えずに、興味があればぜひご参加下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	異文化の大学生と実際に交流し、異文化交流について体験的に学ぶ。
情報リテラシー教育	○	情報蒐集、情報整理、情報発信の方法を学ぶ。
ICT活用		

講義コード	G50707031
講義名	異文化交流ｂ（旧カリ）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

授業概要(教育目的)

海外の大学生とオンラインで交流する。家庭、大学、社会における暮らしぶりを互いに紹介し合う中で、人間としての共通点および文化の違いによる相違点についての理解を深めていく。また、地球規模の問題をともに考えることで、よりよい未来を構築するための認識を共有していく。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	異文化交流の意義や難しい点、適切な方法等についての知識がある。
思考・判断の観点 (K)	異文化交流において生じる困難を予測し、円滑なコミュニケーションのための準備をすることができる。また、実際の場面で困難が生じた際に、問題点を的確に判断し、柔軟に対応することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	異文化に対する関心、交流しようとする意欲、相手を尊重しより良い関係を構築していける態度を持つ。
技術・表現の観点 (A)	異文化にいる相手が理解しやすい表現や提示を工夫することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	異文化交流bの全体の流れとタスクについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自己紹介を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	事前準備1
	(	

第2回	学習内容 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	交流校Aとの交流内容を確認し、交流のための準備をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	交流校Aのパートナーにメールを出す。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	交流校Aのパートナーとの第1回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	交流校Aのパートナーとの第2回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	交流校Aのパートナーとの第3回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基き、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	事前準備2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	交流校Bとの交流内容を確認し、交流の準備をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	交流校Bのパートナーにメールを出す。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	交流校Bのパートナーとの第1回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	交流校Bのパートナーとの第2回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。

第8回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	授業テーマ	交流校Bのパートナーとの第3回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	授業テーマ	事前準備3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	交流校Cとの交流内容を確認し、交流のための準備をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	交流校Cのパートナーにメールを出す。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	交流校Cのパートナーとの第1回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	交流校Cのパートナーとの第2回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	交流校Cのパートナーとの第3回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。また、発表のためのPPTを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3人のパートナーとの交流を通して学んだこと等について、PPTを使って発表する。相互に質問や意見を交わすことで、異文化交流についての理解を深めていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	他の人の発表から学んだことをまとめる。

	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

説明会あり

学生へのフィードバック方法

口頭および書面によるフィードバック

評価方法

課題、ミニレポート、口頭発表の完成度および取り組みの姿勢により評価する。
※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○	○	○
ミニレポート	○	○	○	○
口頭発表	○	○	○	○

評価割合

課題20%、ミニレポート50%、口頭発表30%

ディプロマポリシーとの関連

・異文化交流の意義や難しい点、適切な方法等についての知識がある。
・異文化交流において生じる困難を予測し、円滑なコミュニケーションのための準備をすることができ
る。また、実際の場面で困難が生じた際に、問題点を的確に判断し、柔軟に対応することができる。
・異文化に対する関心、交流しようとする意欲、相手を尊重しより良い関係を構築していける態度を持
つ。
・異文化にいる相手が理解しやすい表現や提示を工夫することができる。

学生へのメッセージ

海外の大学生がどのような生活をし、何を考えているのかを直接知ることができる授業です。今まで、別の科目で体験した学生達の共通した感想は「楽しかった！」でした。難しく考えずに、興味があればぜひご参加下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	異文化の大学生と実際に交流し、異文化交流について体験的に学ぶ。
情報リテラシー教育	○	情報蒐集、情報整理、情報発信の方法を学ぶ。
ICT活用		

講義コード	G50708001
講義名	現代社会と家政学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	令和5・6年度の現代生活学部入学生 必修、それ以外の学生 選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	井上 清美	指定なし

ナンバリング

X11010M21

授業概要(教育目的)

家政学はすべての人が質の高い生活を維持し、生きがいをもって人生を全うするための方法を、生活者の視点に立って考察し、提案することを目的として発展してきた。講義では、自己についての課題を確認した上で、家庭生活や家族関係の変化を学び、生活と社会の関わりについて概説する。最後は、グローバルに生活を捉えるための視点を身につけてもらいたい。家政学の理念や基本的姿勢を学び、現代社会が直面する問題を解決するために自分には何ができるのかを考え、今後の学習の礎となることを目標とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学の理念や基本的姿勢について学び、現代社会が直面する諸問題について理解する。
思考・判断の観点 (K)	学びを生かして社会で活躍するための方策について思考する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	家政学の理念や基本的姿勢を社会で活かしていくために、積極的に情報を収集する。
技術・表現の観点 (A)	家政学の理念や基本的姿勢について、生活者の視点から発信することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の目的・進め方、全体の流れを知り、受講にあたっての基本的姿勢について理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習として、GPS-Aを受検すること。
	教室外学習の時間（分）	210分
第2回	**授業テーマ**	自己への理解を深める
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活の主体である「自己」への理解を深め、生活の諸問題を解決する力を養うために、GPS-Academicの結果を振り返り、「思考力」や「姿勢・態度」「経験」の評価を通じて、自己の課題を明確にする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事後学習として、GPS-Academicの結果をもとに、家政学の学びと関連させてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	家族・家庭と家政学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家族や家庭の変化をふまえ、家政学が「家庭を成り立たせるための家政学」から「人々の生活の質を向上させるための家政学」へと発展してきたことを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容をふまえ、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	余暇生活と家族
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活時間を様々な活動の内容で分類すると、学校でも仕事でもない起きている時間のほとんどは、「余暇」となる。この余暇の使い方と家族の関係を知り、より豊かな生活を送るための家族の機能について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容をふまえ、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	親子関係と自立
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	民法における成年年齢の引き下げにともない、18歳から親などの同意がなくても一人で契約をすることができるようになった。社会で一人の大人として生きていくために、望ましい親子関係と自立について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容をふまえ、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	デジタル化が家庭生活に与える影響
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子育てや介護など、身近な生活分野のデジタル化について最新動向を知り、それらが家庭生活に与える影響について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容をふまえ、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	社会的子育ての実現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ	

第7回	ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子育て不安や虐待など、現代社会の子育てをめぐる問題は複雑で多様化している。子育て家庭の現状と課題を理解し、地域社会による子育て支援のあり方を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容をふまえ、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	食を通じたコミュニティ形成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子ども食堂を通して、社会における「食」提供の場面や仕組みを考え、提供する「食」の内容を検討するという家政学の可能性について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容をふまえ、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	地域社会と福祉サービス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢期の生活を支援するために、地域の福祉サービスは欠かせないものとなっている。福祉サービスの実践や制度の成立過程について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容をふまえ、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	少子高齢化と住まい
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	少子高齢化により、住宅の大量相続時代が到来する。空き家や空き地の利用や転用を通して、未来のまちを創造するための方法を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容をふまえ、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	多文化共生
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本社会における多文化共生の実情について学び、多文化共生の意義を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容をふまえ、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	家政学と国際貢献
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	JICA海外協力隊の「家政・生活改善隊」の活動について知り、国際貢献において家政学の学びがどのように生かされているかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容をふまえ、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時	

	間（分）	190分
第13回	授業テーマ	家政学の国際性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在の家政学は、グローバルなコミュニティのエンパワメントやウェルビーイングに貢献している。国際家政学会(IFHE)の活動を通して、家政学のグローバルな可能性について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容をふまえ、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代社会における家族・家庭生活の変化をふまえて、生活の質を向上させるために家政学が果たす役割と可能性を確認する。またそれを、今後の学びにどう生かすことができるかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回から第13回の講義内容をふまえ、最終レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	210分

学習計画注記

オンデマンド科目を受講する際の注意事項や決まりを守って受講すること。

学生へのフィードバック方法

授業で提出した課題等については、まとめの回で解説する。

評価方法

授業時に指示する課題を毎回提出する。
成績評価はルーブリックに基づいて行う。ルーブリックはクラスルームで提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業時の課題	○	○	○	○

評価割合

授業時の課題100%

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない

参考図書

必要に応じて授業内で紹介する

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な見地で家政学を学び、現代生活の諸問題を理解する。
【思考・判断】生活の諸問題を分析し、問題解決を思考する。
【関心・意欲・態度】生活の諸問題について積極的に関心を持つ。
【技能・表現】生活の諸問題について自分の考えや意見を持ち、発信することができる。

オフィスアワー

火曜３限 千代田三番町キャンパス1701ゼミ室

学生へのメッセージ

家政学の基本的考え方を身につけ、これからの学びの基礎としてもらいたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	外部講師（JICA海外協力隊「家政・生活改善隊」）による講義を実施する
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50708031
講義名	現代社会と家政学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	令和5・6年度の現代生活学部入学生 必修、それ以外の学生 選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	井上 清美	指定なし

ナンバリング

G50708031

授業概要(教育目的)

家政学はすべての人が質の高い生活を維持し、生きがいをもって人生を全うするための方法を、生活者の視点に立って考察し、提案することを目的として発展してきた。講義では、自己についての課題を確認した上で、家庭生活や家族関係の変化を学び、生活と社会の関わりについて概説する。最後は、グローバルに生活を捉えるための視点を身につけてもらいたい。家政学の理念や基本的姿勢を学び、現代社会が直面する問題を解決するために自分には何ができるのかを考え、今後の学習の礎となることを目標とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学の理念や基本的姿勢について学び、現代社会が直面する諸問題について理解する。
思考・判断の観点 (K)	学びを生かして社会で活躍するための方策について思考する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	家政学の理念や基本的姿勢を社会で活かしていくために、積極的に情報を収集する。
技術・表現の観点 (A)	家政学の理念や基本的姿勢について、生活者の視点から発信することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の目的・進め方、全体の流れを知り、受講にあたっての基本的姿勢について理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習として、GPS-Aを受検すること。
	教室外学習の時間（分）	210分
第2回	**授業テーマ**	自己への理解を深める
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活の主体である「自己」への理解を深め、生活の諸問題を解決する力を養うために、GPS-Academicの結果を振り返り、「思考力」や「姿勢・態度」「経験」の評価を通じて、自己の課題を明確にする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事後学習として、GPS-Academicの結果をもとに、家政学の学びと関連させてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	家族・家庭と家政学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家族や家庭の変化をふまえ、家政学が「家庭を成り立たせるための家政学」から「人々の生活の質を向上させるための家政学」へと発展してきたことを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容をふまえ、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	余暇生活と家族
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活時間を様々な活動の内容で分類すると、学校でも仕事でもない起きている時間のほとんどは、「余暇」となる。この余暇の使い方と家族の関係を知り、より豊かな生活を送るための家族の機能について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容をふまえ、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	親子関係と自立
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	民法における成年年齢の引き下げにともない、18歳から親などの同意がなくても一人で契約をすることができるようになった。社会で一人の大人として生きていくために、望ましい親子関係と自立について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容をふまえ、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	デジタル化が家庭生活に与える影響
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子育てや介護など、身近な生活分野のデジタル化について最新動向を知り、それらが家庭生活に与える影響について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容をふまえ、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	社会的子育ての実現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ	

第7回	ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子育て不安や虐待など、現代社会の子育てをめぐる問題は複雑で多様化している。子育て家庭の現状と課題を理解し、地域社会による子育て支援のあり方を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容をふまえ、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	食を通じたコミュニティ形成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子ども食堂を通して、社会における「食」提供の場面や仕組みを考え、提供する「食」の内容を検討するという家政学の可能性について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容をふまえ、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	地域社会と福祉サービス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢期の生活を支援するために、地域の福祉サービスは欠かせないものとなっている。福祉サービスの実践や制度の成立過程について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容をふまえ、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	少子高齢化と住まい
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	少子高齢化により、住宅の大量相続時代が到来する。空き家や空き地の利用や転用を通して、未来のまちを創造するための方法を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容をふまえ、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	多文化共生
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本社会における多文化共生の実情について学び、多文化共生の意義を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容をふまえ、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	家政学と国際貢献
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	JICA海外協力隊の「家政・生活改善隊」の活動について知り、国際貢献において家政学の学びがどのように生かされているかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容をふまえ、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時	

	間（分）	190分
第13回	授業テーマ	家政学の国際性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在の家政学は、グローバルなコミュニティのエンパワメントやウェルビーイングに貢献している。国際家政学会(IFHE)の活動を通して、家政学のグローバルな可能性について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容をふまえ、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代社会における家族・家庭生活の変化をふまえて、生活の質を向上させるために家政学が果たす役割と可能性を確認する。またそれを、今後の学びにどう生かすことができるかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回から第13回の講義内容をふまえ、最終レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	210分

学習計画注記

オンデマンド科目を受講する際の注意事項や決まりを守って受講すること。

学生へのフィードバック方法

授業で提出した課題等については、まとめの回で解説する。

評価方法

授業時に指示する課題を毎回提出する。
成績評価はルーブリックに基づいて行う。ルーブリックはクラスルームで提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業時の課題	○	○	○	○

評価割合

授業時の課題100%

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない

参考図書

必要に応じて授業内で紹介する

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な見地で家政学を学び、現代生活の諸問題を理解する。
【思考・判断】生活の諸問題を分析し、問題解決を思考する。
【関心・意欲・態度】生活の諸問題について積極的に関心を持つ。
【技能・表現】生活の諸問題について自分の考えや意見を持ち、発信することができる。

オフィスアワー

火曜３限 千代田三番町キャンパス1701ゼミ室

学生へのメッセージ

家政学の基本的考え方を身につけ、これからの学びの基礎としてもらいたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	外部講師（JICA海外協力隊「家政・生活改善隊」）による講義を実施する
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50709001
講義名	東京家政学院演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X11020M12

授業概要(教育目的)

自己と自校の分析および理解を踏まえ、それらを適切に表現する力を身につけ、高める。さらに、そのプロセスにおいて、他者との協働を通して、在学中だけでなく、社会に出てからも十分に通用する、チーム力と行動力を醸成することを目的とする。これらの力を身につけることで、本学の建学の精神であるKVAの視点から、現代社会のニーズや生活課題に対して取り組んでいく姿勢の育成や、将来的なエンパワーメントにつなげる。
具体的な題材として、大学生活や大学自体をよりよくするための方法を、グループワークによって具体的に検討し、エビデンスベースでの企画とプレゼンテーションができるようになることを目指す。

履修条件

特に設けていない。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	（１） 自己や周囲の人、および東京家政学院での学びを理解できる。 （２） 適切なコミュニケーションやその方法を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	（１） 物事を考え、理解する方法の手段の一つとして、学んだ内容を生かそうとすることができる。 （２） 身近な環境の良い点と課題を自ら発見し分析し、より良い方向に活かすための考察をすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	（１） 自己を客観的に理解しようとすることができる。 （２） 他者との協働に積極的に取り組むことができる。 （３） 自ら行動を起こすことができる。
技術・表現の観点 (A)	授業での学びに基づき、適切な方法で自己や大学のことを積極的に発信できる。

学習計画

東京家政学院演習

	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	授業の目的・進め方、卒研ゼミ決定までの流れとスケジ

第1回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ュールなど、受講にあたっての基本を理解する。 グループ分けも行うため、1回目から必ず出席すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の目標を立てるため、事前に本科目の履修にあたっての個人の目標を考えておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	授業テーマ	情報収集の方法とマナー１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大学に関する情報収集を行う上での方法とマナーを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	情報収集したいこと、情報収集する上でのマナーについて、あらかじめ考えておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	情報収集の方法とマナー２調査内容の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	講義の他、ロールプレイも交えながら、調査内容の検討を行う。 ●調査内容は、「知っているとワクワクすること」「実現したらワクワクするもの」 ●調査のネーミングを考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として調査内容について、具体的に考える。復習としては、授業時に検討した調査内容を見直す。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	情報収集の方法とマナー３調査内容と方法の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロールプレイも交えながら、調査方法を具体的に確認しつつ、調査内容の最終確認をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、検討した調査方法を実施するにあたり、自身の果たす役割を考える。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	情報収集（学内・学生） 1 実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学内での情報収集の実施。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、情報収集した内容と実施方法についての個人としてのふりかえりを行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	情報収集（学内・学生） 2 ふりかえり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の学内での情報収集をふりかえり、反省点、改善点を整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、授業時に整理した反省点と改善点に関して、自身の出来ることを考える。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	情報収集（学内・学生） 3 実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の学内情報収集のふりかえりを活かし、再度、情報収集を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習、復習として、情報収集した内容をふりかえる。
	教室外学習の時間（分）	45分

第8回	授業テーマ	情報収集（学外） 1 準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学内での情報収集結果を整理し、再度視点を確認する。その上で、学外での情報収集に向けた準備と実施を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、学外での情報収集に備え、自身の役割を確認する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	授業テーマ	情報収集（学外） 2 実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学外での情報収集を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、収集したデータをふりかえる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	授業テーマ	集めた情報の整理１ 整理の仕方についての学び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集めた情報の整理の仕方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、情報の整理の仕方を見直す。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	集めた情報の整理２ 整理の作業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集した情報の整理を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、整理した情報を自分なりにまとめる方法を考える。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	集めた情報の整理３ アウトプットの方法の学び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集した情報のまとめ方（企画書、プレゼンテーション）の作成方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、情報のまとめ方をふりかえる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	集めた情報の整理４ アウトプットの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集した情報を、企画書、プレゼンテーションの形でまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、まとめたものをどのように発表するか、検討し、練習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	成果発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「よりよく伝わる方法」を実践する。学内外に向けて、成果物の発表を行う。 発表会では、単に調査報告だけでなく、より過ごしやすい大学生活に向けた企画を提案する。 発表会は町田キャンパスと合同で行い、学内の関連する教職員を招待し、講評をいただく。
	教室外学習(予習・復習)の	予習として、発表会の連取を行う。

	内容	
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

（１）千代田三番町キャンパスとの同時限開講科目である。
（２）千代田三番町キャンパス所属の学生は、オンラインで出席の予定であるが、必要に応じて町田キャンパスにて受講することもある。
（３）授業内容の入れ替えや土曜日や集中講義期間に授業を実施する可能性もある。

学生へのフィードバック方法

（１） 授業開始時に実施する「出席確認」については、その都度、教員との間で結果を共有する。
（２） 「ふりかえり」については、授業終了後に教員が確認し、原則として全体にフィードバックを行う。

評価方法

授業への姿勢（50%）、及び提出物（50%）をもとに総合的に判断する。なお、この科目ではルーブリックに基づく成績評価を行います。また、ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布によってみなさんに提示する予定です。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
取り組みの姿勢		○	○	
毎回の提出物	○	○	○	
最終的な制作物（動画等）	○	○	○	○

評価割合

授業への姿勢（50%）、及び提出物（50%）

使用教科書名(ISBN番号)

原則として配布資料を用います。

参考図書

原則として配布資料を用います。参考資料があれば、適宜お知らせします。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】自分や身近な仲間、東京家政学院での学びを理解し、適切なコミュニケーションとその方法を知る。
【思考・判断】身近な環境の良い点と課題を自ら発見し分析し、より良い方向に活かすための考察を、学んだ内容を生かして行うことができる。
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって他者と積極的に協働する能力を得る。
【技能・表現】演習を通して得た専門的技能（技術）をもって身近なコミュニティの良さと課題を発見し、授業での学びに基づき、課題を論理的に分析・統合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。

オフィスアワー

水曜日5限、金曜日4限
それ以外については、授業開始時にお伝えします。

学生へのメッセージ

（1）千代田三番町キャンパス所属の学生がオンラインで受講しますが、町田キャンパスの学生は対面で受講します。
（2）作業の関係で、パソコンを持参していただくことがあります。

（3）教室外学習は欠かさず行ってください。演習で取り組んだ内容を振り返り、次の回に備えることで、授業内容の定着を図ります。
（4）演習、それに基づく質疑応答・討論を中心に展開していきます。
（5）生きた流れを優先するため、シラバスに載せた内容を変更することもあります。
（6）一部の内容を、時間割以外の日時（土曜日など）に実施する可能性があります。詳細は、初回の授業時にお伝えします。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教職共同で実施する回を計画しており、大学職員の専門性を活かした学びを行う。
アクティブ・ラーニング	○	受講生をチームに分け、チームごとにプレゼンテーションと企画書を完成させることを目標に授業を進行する。
情報リテラシー教育	○	自己理解や本学の理解を深めるために、アセスメントテストの結果やweb等の広報媒体に掲載されている情報を正確に理解し、そこを基に、より良く伝えるためのコミュニケーション方法（プレゼンテーションを含む）を学ぶことを計画している。
ICT活用	○	千代田三番町キャンパスとオンラインで接続した形での発表会の実施、運営に至るまで、授業のほぼ全てのプロセスにおいてICTの活用を行う予定である。

講義コード	G50709031
講義名	東京家政学院演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

授業概要(教育目的)

自己と自校の分析および理解を踏まえ、それらを適切に表現する力を身につけ、高める。さらに、そのプロセスにおいて、他者との協働を通して、在学中だけでなく、社会に出てからも十分に通用する、チーム力と行動力を醸成することを目的とする。これらの力を身につけることで、本学の建学の精神であるKVAの視点から、現代社会のニーズや生活課題に対して取り組んでいく姿勢の育成や、将来的なエンパワーメントにつなげる。
具体的な題材として、大学生活や大学自体をよりよくするための方法を、グループワークによって具体的に検討し、エビデンスベースでの企画とプレゼンテーションができるようになることを目指す。

履修条件

特に設けていない。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	（１） 自己や周囲の人、および東京家政学院での学びを理解できる。 （２） 適切なコミュニケーションやその方法を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	（１） 物事を考え、理解する方法の手段の一つとして、学んだ内容を生かそうとすることができる。 （２） 身近な環境の良い点と課題を自ら発見し分析し、より良い方向に活かすための考察をすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	（１） 自己を客観的に理解しようとすることができる。 （２） 他者との協働に積極的に取り組むことができる。 （３） 自ら行動を起こすことができる。
技術・表現の観点 (A)	授業での学びに基づき、適切な方法で自己や大学のことを積極的に発信できる。

学習計画

東京家政学院演習

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の目的・進め方、卒研ゼミ決定までの流れとスケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。 グループ分けも行うため、1回目から必ず出席すること。

	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の目標を立てるため、事前に本科目の履修にあたっての個人の目標を考えておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	情報収集の方法とマナー１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大学に関する情報収集を行う上での方法とマナーを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	情報収集したいこと、情報収集する上でのマナーについて、あらかじめ考えておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	情報収集の方法とマナー２調査内容の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	講義の他、ロールプレイも交えながら、調査内容の検討を行う。 ●調査内容は、「知っているとワクワクすること」「実現したらワクワクするもの」 ●調査のネーミングを考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として調査内容について、具体的に考える。復習としては、授業時に検討した調査内容を見直す。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	情報収集の方法とマナー３調査内容と方法の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロールプレイも交えながら、調査方法を具体的に確認しつつ、調査内容の最終確認をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、検討した調査方法を実施するにあたり、自身の果たす役割を考える。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	情報収集（学内・学生）１ 実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学内での情報収集の実施。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、情報収集した内容と実施方法についての個人としてのふりかえりを行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	情報収集（学内・学生）２ ふりかえり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の学内での情報収集をふりかえり、反省点、改善点を整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、授業時に整理した反省点と改善点に関して、自身の出来ることを考える。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	情報収集（学内・学生）３ 実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の学内情報収集のふりかえりを活かし、再度、情報収集を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習、復習として、情報収集した内容をふりかえる。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	情報収集（学外）１ 準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	学内での情報収集結果を整理し、再度視点を確認する。その上で、学外での情報収集に向けた準備と実施を行

第8回	む)	う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、学外での情報収集に備え、自身の役割を確認する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	授業テーマ	情報収集（学外） 2 実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学外での情報収集を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、収集したデータをふりかえる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	授業テーマ	集めた情報の整理１ 整理の仕方についての学び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集めた情報の整理の仕方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、情報の整理の仕方を見直す。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	集めた情報の整理２ 整理の作業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集した情報の整理を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、整理した情報を自分なりにまとめる方法を考える。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	集めた情報の整理３ アウトプットの方法の学び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集した情報のまとめ方（企画書、プレゼンテーション）の作成方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、情報のまとめ方をふりかえる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	集めた情報の整理４ アウトプットの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集した情報を、企画書、プレゼンテーションの形でまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、まとめたものをどのように発表するか、検討し、練習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	成果発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「よりよく伝わる方法」を実践する。学内外に向けて、成果物の発表を行う。 発表会では、単に調査報告だけでなく、より過ごしやすい大学生活に向けた企画を提案する。 発表会は町田キャンパスと合同で行い、学内の関連する教職員を招待し、講評をいただく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として、発表会の連取を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

（１）町田キャンパスとの同時限開講科目である。
（２）千代田三番町キャンパス所属の学生は、オンラインもしくは町田キャンパスにて受講することとする。
（３）授業内容の入れ替えや土曜日や集中講義期間に授業を実施する可能性もある。

学生へのフィードバック方法

（１） 授業開始時に実施する「出席確認」については、その都度、教員との間で結果を共有する。
（２） 「ふりかえり」については、授業終了後に教員が確認し、原則として全体にフィードバックを行う。

評価方法

授業への姿勢（50%）、及び提出物（50%）をもとに総合的に判断する。なお、この科目ではルーブリックに基づく成績評価を行います。また、ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布によってみなさんに提示する予定です。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
取り組みの姿勢		○	○	
毎回の提出物	○	○	○	
最終的な制作物（動画等）	○	○	○	○

評価割合

授業への姿勢（50%）、及び提出物（50%）

使用教科書名(ISBN番号)

原則として配布資料を用います。

参考図書

原則として配布資料を用います。参考資料があれば、適宜お知らせします。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】自分や身近な仲間、東京家政学院での学びを理解し、適切なコミュニケーションとその方法を知る。
【思考・判断】身近な環境の良い点と課題を自ら発見し分析し、より良い方向に活かすための考察を、学んだ内容を生かして行うことができる。
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって他者と積極的に協働する能力を得る。
【技能・表現】演習を通して得た専門的技能（技術）をもって身近なコミュニティの良さと課題を発見し、授業での学びに基づき、課題を論理的に分析・統合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。

オフィスアワー

水曜日5限、金曜日4限
それ以外については、授業開始時にお伝えします。

学生へのメッセージ

（1）千代田三番町キャンパス所属の学生は、オンラインもしくは町田キャンパスにて受講してください。
（2）教室外学習は欠かさず行ってください。演習で取り組んだ内容を振り返り、次の回に備えることで、授業内容の定着を図ります。
（3）演習、それに基づく質疑応答・討論を中心に展開していきます。
（4）生きた流れを優先するため、シラバスに載せた内容を変更することもあります。
（5）一部の内容を、時間割以外の日時（土曜日など）に実施する可能性があります。詳細は、

初回の授業時にお伝えします。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教職共同で実施する回を計画しており、大学職員の専門性を活かした学びを行う。
アクティブ・ラーニング	○	受講生をチームに分け、チームごとにプレゼンテーションと企画書を完成させることを目標に授業を進行する。
情報リテラシー教育	○	自己理解や本学の理解を深めるために、アセスメントテストの結果やweb等の広報媒体に掲載されている情報を正確に理解し、そこを基に、より良く伝えるためのコミュニケーション方法（プレゼンテーションを含む）を学ぶことを計画している。
ICT活用	○	町田キャンパスとオンラインで接続した形での発表会の実施、運営に至るまで、授業のほぼ全てのプロセスにおいてICTの活用を行う予定である。

講義コード	G50710001
講義名	異文化交流ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	森 朋子	指定なし

ナンバリング

X13100M22

授業概要(教育目的)

海外の大学生とオンラインで交流する。家庭、大学、社会における暮らしぶりを互いに紹介し合う中で、人間としての共通点および文化の違いによる相違点についての理解を深めていく。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	異文化交流の意義や難しい点、適切な方法等についての知識がある。
思考・判断の観点 (K)	異文化交流において生じる困難を予測し、円滑なコミュニケーションのための準備をすることができる。また、実際の場面で困難が生じた際に、問題点を的確に判断し、柔軟に対応することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	異文化に対する関心、交流しようとする意欲、相手を尊重しより良い関係を構築していける態度を持つ。
技術・表現の観点 (A)	異文化にいる相手が理解しやすい表現や提示を工夫することができる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	異文化交流bの全体の流れとタスクについて理解する。

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	自己紹介を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	事前準備1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	交流校Aとの交流内容を確認し、交流のための準備をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	交流校Aのパートナーにメールを出す。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	交流校Aのパートナーとの第1回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	交流校Aのパートナーとの第2回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	交流校Aのパートナーとの第3回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基き、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	事前準備2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	交流校Bとの交流内容を確認し、交流の準備をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	交流校Bのパートナーにメールを出す。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	交流校Bのパートナーとの第1回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。

	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	交流校Bのパートナーとの第2回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	交流校Bのパートナーとの第3回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	事前準備3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	交流校Cとの交流内容を確認し、交流のための準備をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	交流校Cのパートナーにメールを出す。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	交流校Cのパートナーとの第1回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	交流校Cのパートナーとの第2回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	交流校Cのパートナーとの第3回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。また、発表のためのPPTを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分

第14回	授業テーマ	報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3人のパートナーとの交流を通して学んだこと等について、PPTを使って発表する。相互に質問や意見を交わすことで、異文化交流についての理解を深めていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	他の人の発表から学んだことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

説明会あり

学生へのフィードバック方法

口頭および書面によるフィードバック

評価方法

課題、ミニレポート、口頭発表の完成度および取り組みの姿勢により評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○	○	○
ミニレポート	○	○	○	○
口頭発表	○	○	○	○

評価割合

課題20%、ミニレポート50%、口頭発表30%
※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

ディプロマポリシーとの関連

・異文化交流の意義や難しい点、適切な方法等についての知識がある。
・異文化交流において生じる困難を予測し、円滑なコミュニケーションのための準備をすることができ
る。また、実際の場面で困難が生じた際に、問題点を的確に判断し、柔軟に対応することができる。
・異文化に対する関心、交流しようとする意欲、相手を尊重しより良い関係を構築していける態度を持
つ。
・異文化にいる相手が理解しやすい表現や提示を工夫することができる。

学生へのメッセージ

海外の大学生がどのような生活をし、何を考えているのかを直接知ることができる授業です。今まで、別の科目で体験した学生達の共通した感想は「楽しかった！」でした。難しく考えずに、興味があればぜひご参加下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	異文化の大学生と実際に交流し、異文化交流について体験的に学ぶ。
情報リテラシー教育	○	情報蒐集、情報整理、情報発信の方法を学ぶ。

ICT活用		

講義コード	G50710031
講義名	異文化交流ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	森 朋子	指定なし

授業概要(教育目的)

海外の大学生とオンラインで交流する。家庭、大学、社会における暮らしぶりを互いに紹介し合う中で、人間としての共通点および文化の違いによる相違点についての理解を深めていく。また、地球規模の問題をともに考えることで、よりよい未来を構築するための認識を共有していく。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	異文化交流の意義や難しい点、適切な方法等についての知識がある。
思考・判断の観点 (K)	異文化交流において生じる困難を予測し、円滑なコミュニケーションのための準備をすることができる。また、実際の場面で困難が生じた際に、問題点を的確に判断し、柔軟に対応することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	異文化に対する関心、交流しようとする意欲、相手を尊重しより良い関係を構築していける態度を持つ。
技術・表現の観点 (A)	異文化にいる相手が理解しやすい表現や提示を工夫することができる。

学習計画

1	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	異文化交流bの全体の流れとタスクについて理解する。

第 回	教室外学習(予習・復習)の内容	自己紹介を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	授業テーマ	事前準備1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	交流校Aとの交流内容を確認し、交流のための準備をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	交流校Aのパートナーにメールを出す。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	交流校Aのパートナーとの第1回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	交流校Aのパートナーとの第2回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	交流校Aのパートナーとの第3回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基き、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	事前準備2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	交流校Bとの交流内容を確認し、交流の準備をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	交流校Bのパートナーにメールを出す。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	交流校Bのパートナーとの第1回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。

	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	交流校Bのパートナーとの第2回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	交流校Bのパートナーとの第3回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	事前準備3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	交流校Cとの交流内容を確認し、交流のための準備をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	交流校Cのパートナーにメールを出す。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	交流校Cのパートナーとの第1回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	交流校Cのパートナーとの第2回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	交流校Cのパートナーとの第3回交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートを作成する。また、発表のためのPPTを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分

第14回	授業テーマ	報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3人のパートナーとの交流を通して学んだこと等について、PPTを使って発表する。相互に質問や意見を交わすことで、異文化交流についての理解を深めていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	他の人の発表から学んだことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

説明会あり

学生へのフィードバック方法

口頭および書面によるフィードバック

評価方法

課題、ミニレポート、口頭発表の完成度および取り組みの姿勢により評価する。
※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○	○	○
ミニレポート	○	○	○	○
口頭発表	○	○	○	○

評価割合

課題20%、ミニレポート50%、口頭発表30%

ディプロマポリシーとの関連

・異文化交流の意義や難しい点、適切な方法等についての知識がある。
・異文化交流において生じる困難を予測し、円滑なコミュニケーションのための準備をすることができ
る。また、実際の場面で困難が生じた際に、問題点を的確に判断し、柔軟に対応することができる。
・異文化に対する関心、交流しようとする意欲、相手を尊重しより良い関係を構築していける態度を持
つ。
・異文化にいる相手が理解しやすい表現や提示を工夫することができる。

学生へのメッセージ

海外の大学生がどのような生活をし、何を考えているのかを直接知ることができる授業です。今まで、別の科目で体験した学生達の共通した感想は「楽しかった！」でした。難しく考えずに、興味があればぜひご参加下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	異文化の大学生と実際に交流し、異文化交流について体験的に学ぶ。
情報リテラシー教育	○	情報蒐集、情報整理、情報発信の方法を学ぶ。

ICT活用		

講義コード	G50801001
講義名	Basic English 1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	高橋 幸子	指定なし

ナンバリング

X13610M12

授業概要(教育目的)

健康についての英文を読みながら、英文法の基礎を復習し、英語基礎力をつけることを目的とする。語彙・発音・短い対話文・リーデングテキストなどを身近なトピックに関連付けて、英語の受容的能力（聞く・読む）と産出的能力（話す・書く）の言語活動を無理なく展開していく。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	健康に関する語彙・表現の知識を得る。テキストを聴いたり読んだりして、理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	身近な話題の英語表現を理解し、自分の問題として考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	身近な話題に関する英語テキストに関心を持つ。 自分が感じたことや考えたことを英語で表現する意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	身近な話題に関する英語テキストを理解し、易しい英語を使って、自分の感じたことや考えたことを表現できる。

学習計画

	授業テーマ	Session 1 Introduction 自己紹介

		Sleep is important（授業の進め方）
第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	Introduce yourself using three sentences. 授業の進め方を説明しながら、ゆっくり、「眠り」について学びます。注目する文法項目は when です。 授業の進め方は、毎時間以下の順番で行います。 1. Vocabulary Gallery 2. Warm-up Dialogue 3. Ready to Read 4. Language Highlights 5. Slash Reading Challenge 6. Let's Talk about it!
	教室外学習(予習・復習)の内容	初回は、テキストの予習は不要です。授業の内容をしっかり復習して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	**授業テーマ**	Session 2 Is salt bad for us?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「塩は、本当に身体に悪いのか？」 文法項目は、動詞の現在形・過去形・現在完了形
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習は、授業で学んだこと全てです。 次の Session の Vocabulary Gallery を予習して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	**授業テーマ**	Session 3 Water is wonderful
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「水って、すごい！」 文法項目は、why の使い方
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習は、授業で学んだこと全てです。 次の Session の Vocabulary Gallery を予習して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	**授業テーマ**	Session 4 Hot springs: A miracle of nature
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「自然の奇跡と呼ばれる温泉」 文法項目は、動名詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習は、授業で学んだこと全てです。 次の Session の Vocabulary Gallery を予習して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	**授業テーマ**	Session 5 Healthy lessons from the blue zones
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「世界の地図の中で、Blue Zones と呼ばれる地域はどこ？」 文法項目は、前置詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習は、授業で学んだこと全てです。 次の Session の Vocabulary Gallery を予習して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	**授業テーマ**	Session 6 Unhealthy Habits
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「不健康な習慣」 文法項目は、不定詞
	教室外学習(予習・復習)の	復習は、授業で学んだこと全てです。

	内容	次の Session の Vocabulary Gallery を予習して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	**授業テーマ**	Session 7 Let's dance Mid-term test
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「ダンスをして健康になろう」 文法項目は、比較級 Mid-term test を実施します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習は、授業で学んだこと全てです。 次の Session の Vocabulary Gallery を予習して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	**授業テーマ**	Session 8 The story of sugar
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「砂糖と私たちの生活」 文法項目は、受動態
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習は、授業で学んだこと全てです。 次の Session の Vocabulary Gallery を予習して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	**授業テーマ**	Session 9 Companion animals
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「コンパニオン・アニマルとは何だろう」 文法項目は、make や let 等の使役動詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習は、授業で学んだこと全てです。 次の Session の Vocabulary Gallery を予習して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	**授業テーマ**	Session 10 Music and medicine
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「音楽と医療」 文法項目は、接続詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習は、授業で学んだこと全てです。 次の Session の Vocabulary Gallery を予習して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	**授業テーマ**	Session 11 Please listen to me!
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「人の話を聴く」 文法項目は、関係代名詞と間接疑問文
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習は、授業で学んだこと全てです。 次の Session の Vocabulary Gallery を予習して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	**授業テーマ**	Session 12 let's eat together!
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「一緒に食べよう」 文法項目は、間接疑問詞
	教室外学習(予習・復習)の	復習は、授業で学んだこと全てです。

	内容	次の Session の Vocabulary Gallery を予習して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50 60分
第13回	**授業テーマ**	Session 13 Being alone vs. being lonely Believe in yourself!
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「お一人様かひとりぼっちか」 「自分を信じて」 文法項目は、it の特別用法と疑問詞＋to 不定詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習は、授業で学んだこと全てです。 次の Session の Vocabulary Gallery を予習して下さい。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	Session 14 The interview Final test
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「著者からのインタビュー」 Final testを実施します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学んだこと全てを復習して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

Class 7 で Mid-term test
Class 14 で Final test

学生へのフィードバック方法

受業や学習に関する質問やコメントを回収し、必要に応じてクラスで共有する。
紙による Mid-term test は、返却する。

評価方法

以下の総合点から評価する。
・平常点（ルーブリックに基づいた評価）
当該授業の Classroom にルーブリックの基準を表示します。
・Mid-term test
・Final test

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
Midterm test	○	○		○
Final test	○	○		○

評価割合

平常点（ルーブリックに基づく評価）50%
Mid-term test 20%
Final test 30%

使用教科書名(ISBN番号)

Healthy habits for a better life

978-4-7919-7229-6

参考図書

各自今まで使用していた辞書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】トピックの背景にあるものの考え方を理解し、課題に対応することができる知識を得る。
【思考・判断】課題に対応することができる判断ができる。
【関心・意欲・態度】自分の世界とは違う考え方に関心を持ち、尊重する。自分の母語とは違う言語を読み・聴き・書き・話そうとする努める。
【技能・表現】英語において、正確に、適切に、一貫性のある理解と表現をする。

オフィスアワー

水曜日の４限

学生へのメッセージ

言語の習得は、積み重ねが必要な根気が要る学びですが、その過程を楽しいものにしましょう。母語でない言語を使って、何かを理解したり、自分の思いを表現することは、楽しいことです。なにか具体的な短期目標を作りましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実生活に密着した授業の展開
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを中心とした学生主体の授業展開
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Web を利用した授業外活動

講義コード	G50801004
講義名	Basic English 1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13610M12

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】
【関心・意欲・態度】
【技能・表現】

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	
アクティブ・ラーニング	○	
情報リテラシー教育	○	

ICT活用		

講義コード	G50801006
講義名	Basic English 1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13610M12

授業概要(教育目的)

①イギリスの観光名所を巡って旅をするという設定のもとに書かれたテキストを使用しながら、基礎的で実用的な英語を習得することを目的とする。
②英語圏の文化に関する視聴覚資料（主としてイギリスの児童文学関連）や原文に触れながら、欧米文化についての知識を深めてほしい。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	英語圏の文化一般に特有の価値観についての理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	英語圏の歴史的・文化的背景や価値観を知ることで複眼的に思考し判断する態度を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	異なる他者を尊重し複眼的に理解する態度を養う。
技術・表現の観点 (A)	異なる他者を受容しつつ発信する英語コミュニケーション能力を涵養する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション テキスト第1課 ロンドン：国会議事堂
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・授業の進め方（ルーブリック評価について説明します） ・議事堂のビッグベンはロンドンのシンボル。
	教室外学習(予習・復習)の内容	初回は授業の進め方について説明しながらその場で問題を解くので、予習の必要はありません。
	教室外学習の時間（分）	0分
	授業テーマ	第1課 ロンドン

第2回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	ビッグベンの歴史、ダウニング街10番地、イギリスの首相たち、他。 ＜文法＞原級比較、他。 ・アニメ「ピーターラビットのお話」 ＊第1課～第11課、各課終了ごとに課題提出あり。詳細は授業時に指示します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストｐ6－7を読解して問題に解答すること。 （以降、毎回同様に準備すること）
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	第2課 ロンドン：騎馬衛兵
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小鳥やリスがいる公園、そして馬もいっぱい！ バッキンガム宮殿の近衛兵、緑いっぱいのハイドパーク、他。 ＜文法＞so～that構文、他。 ・アニメ「ピーターラビットのお話」
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストp8－9
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	第3課 ロンドン：ベーカー街
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	探偵依頼はシャーロックホームズまで。 ロンドン名所のホームズ博物館、作者コナン・ドイル、ハリー・ポッターを乗せたホグワーツ特急はキングズクロス駅から出発する。 ＜文法＞分数の読み方、他。 ・ピーターラビットの生みの親ビアトリクス・ポターの伝記映画「ミス・ポター」
	教室外学習(予習・復習)の内容	p10－11
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	第4課 ロンドン：ビクトリア＆アルバート
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	深い愛情で結ばれたビクトリア女王夫妻。イギリスが繁栄を極めたビクトリア朝、ロイヤルアルバートホール。 ＜文法＞前置詞 as のさまざまな用法 ・映画「ミス・ポター」 ・ピーターラビット原文読解
	教室外学習(予習・復習)の内容	p12－13＋ピーターラビット原文プリント（読解しておくこと）
	教室外学習の時間（分）	80分
第6回	**授業テーマ**	第5課 宮殿
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衛兵交代はバッキンガム宮殿やウインザー城で。 ＜文法＞過去分詞の形容詞用法 ・映画「ミス・ポター」 ・ピーターラビット原文読解
	教室外学習(予習・復習)の内容	p14－15＋プリント
	教室外学習の時間（分）	80分
	授業テーマ	第6課 ブライトン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	海のリゾート地でのんびり休暇を！ ブライトンの歴史、イギリスの郵便局、他。 ＜文法＞同格表現、先行詞と関係詞が離れている場合について。

第7回	**用を含む)**	・映画「ミス・ポター」 ・ピーターラビット原文読解
	教室外学習(予習・復習)の内容	p16－17＋プリント
	教室外学習の時間（分）	80分
第8回	**授業テーマ**	第7課 ストーンヘンジ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ミステリアスな人気スポット。ストーンヘンジはいつ、だれが、何のために作ったのか？ ＜文法＞some～, others…、他。 ・映画「ミス・ポター」 ・ピーターラビット原文読解
	教室外学習(予習・復習)の内容	p18-19＋プリント
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	第7課 ストーンヘンジ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イギリスの新聞の販売方法、他。 ・映画「ミス・ポター」
	教室外学習(予習・復習)の内容	p18－19
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	第8課 オックスブリッジ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2つの大学は長年のライバル。ヨーロッパの大学の歴史、他。 ＜文法＞ A such as B、他。 ・映画「ミス・ポター」
	教室外学習(予習・復習)の内容	p20－21
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	第9課 ストラトフォード・アポン・エイヴォン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シェイクスピアの生まれ故郷、でも他にも見どころはいっぱい。 ＜文法＞ 先行詞を含む関係副詞、不定詞の形容詞用法、must have+過去分詞、他。 ・「作者ポターとビクトリア朝社会」
	教室外学習(予習・復習)の内容	p22－23
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	第10課 ロビン・フッド
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イギリス最古の森シャーウッドに住むロビン・フッドは今でも大人気。 ＜文法＞仮目的語、他。
	教室外学習(予習・復習)の内容	p24－25
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	第10課 ロビン・フッド
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロビンとゆかいな仲間たち。 ＜文法＞「～してもらう」のhave、他。
	教室外学習(予習・復	

	習)の内容	p24－25
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	第11課 リンカーン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大聖堂と城、美しい街の光と闇。夜の古城に出没する幽霊たち？！ ＜文法＞受動態の構文、他。
	教室外学習(予習・復習)の内容	p26－27
	教室外学習の時間（分）	80分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。詳細は教室で指示します。

学生へのフィードバック方法

各課終了ごとに理解度を測る小テストを実施します（GoogleClassroom上から課題として提出すること）。小テストは、翌週の授業冒頭にて答合わせと解説を行います。

評価方法

・小テスト10点満点X約10回を100点換算して評価します。
・小テストは、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○	○		○

評価割合

平常点10%、小テスト90%

使用教科書名(ISBN番号)

Looking Around England <Revised Edition>
「写真で見るイギリス・リスニングの旅＜改訂新版＞」
Terry O'Brien 他 著 南雲堂

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】異なる文化圏の歴史、文化、社会、生活習慣に関する知識をもって、より広い視野から物事を考える基礎を培う。
【技術・表現】学修で得たグローバルな知識や情報にもとづいて発信する英語コミュニケーション能力の基礎を培う。

学生へのメッセージ

世界の中にある日本、世界とともに歩む日本、そのようなことを常に意識しながら共に英語を学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50801031
講義名	Basic English 1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	橋本 文子	指定なし

ナンバリング

X13612C12

授業概要(教育目的)

日常のコミュニケーションに役立つ英語を楽しく学びながら、英文法の基礎知識を確実に身につけることを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	基礎的な英文法を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	基礎的な英語を段階的にわかりやすく学ぶことで、学習意欲を向上させることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	Introduction
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方の説明を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 1の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	Unit 1 be動詞（現在形）

第2回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	学習内容について解説し、基本問題、発展問題の答え合わせを行う。Esxpressionsで学習内容について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 2の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	Unit 2 一般動詞（現在形）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について解説し、基本問題、発展問題の答え合わせを行う。Esxpressionsで学習内容について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 3の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	Unit 3 be動詞（過去形）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について解説し、基本問題、発展問題の答え合わせを行う。Esxpressionsで学習内容について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 4の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	Unit 4 一般動詞（過去形、規則変化）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について解説し、基本問題、発展問題の答え合わせを行う。Esxpressionsで学習内容について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 5の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	**授業テーマ**	Unit 5 一般動詞（過去形、不規則変化）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について解説し、基本問題、発展問題の答え合わせを行う。Esxpressionsで学習内容について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 6の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	Unit 6 命令文、There is [are]～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について解説し、基本問題、発展問題の答え合わせを行う。Esxpressionsで学習内容について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 7の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	Unit 7 itの特別用法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について解説し、基本問題、発展問題の答え合わせを行う。Esxpressionsで学習内容について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 8の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	Unit 8 注意すべき疑問文

第9回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	学習内容について解説し、基本問題、発展問題の答え合わせを行う。Esxpressionsで学習内容について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 9の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	Unit 9 進行形
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について解説し、基本問題、発展問題の答え合わせを行う。Esxpressionsで学習内容について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 10の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	Unit 10 未来形
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について解説し、基本問題、発展問題の答え合わせを行う。Esxpressionsで学習内容について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 11の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	Unit 11 助動詞 (1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について解説し、基本問題、発展問題の答え合わせを行う。Esxpressionsで学習内容について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 12の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	Unit 12 助動詞 (2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について解説し、基本問題、発展問題の答え合わせを行う。Esxpressionsで学習内容について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの学習内容の復習をすること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	復習とまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの学習内容について総復習と確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	定期試験に向けて準備をすること。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

授業の始めに前の週の授業内容の確認と復習を行います。

評価方法

定期試験は各Unitの基本問題、発展問題、Expressionsから出題します。

ルーブリックに基づく成績評価を行います。
ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配布等により指示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題発表	○		○	○
定期試験	○			

評価割合

定期試験 70%、平常点（授業への積極的な参加と課題の発表）30%で総合的に評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

Everyday English Grammar〈Fourth Edition〉/Koji Mizushima 他 / 南雲堂 /2024年

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】基礎的な英語力（基礎的な英文法・語法・語彙）を身につけることで、英語の基礎知識を向上させることができる。
【技術・表現】日常のコミュニケーションに役立つ表現を学ぶ。

オフィスアワー

水曜日 2限 1610研究室

学生へのメッセージ

・授業で学んだことをしっかりと復習し、次回の授業内容についてもあらかじめ予習をしてきて下さい。
・授業に積極的に参加することを期待します。
・授業では英語の辞書を持参し、わからないところはすぐに辞書で確認できるようにして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	各UnitのExpressionsを参考に、自分や身の回りのことを英語で表現する練習を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50802001
講義名	Basic English 2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	高橋 幸子	指定なし

ナンバリング

X13620M12

授業概要(教育目的)

海外生活についての英文を読みながら、英文法の基礎を復習し、英語基礎力をつけることを目的とする。語彙・発音・短い対話文・リーデングテキストなどを身近なトピックに関連付けて、英語の受容的能力（聞く・読む）の言語活動を無理なく展開していく。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	身近な話題に関する英語の語彙や表現の知識を得る。
思考・判断の観点 (K)	自分の知らない身近な話題に関する英語表現を理解し、トピックの内容を、自分の問題として、考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語で書かれた身近な話題に関するトピックに関心を持ち、自分が感じたことや考えたことを英語で表現しようと努める。
技術・表現の観点 (A)	身近な話題に関する英語テキストを理解し、易しい英語を使って、自分の感じたことや考えを表現できる。

学習計画

	授業テーマ	Introduction This is my first trip abroad （授業の進め方）
		Introduce yourself using three sentences.

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	授業の進め方を説明しながら、ゆっくり、「入国審査」について学びます。注目する文法項目は be 動詞 です。 授業の進め方は、毎時間以下の順番で行います。 1. Challenge Yourself 2. Let's Read Aloud & Write 3. Let's Read 4. Grammar 5. Let's check & Read Aloud
	教室外学習(予習・復習)の内容	初回は、テキストの予習は不要です。授業が終わってから、授業の内容をしっかり復習して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	**授業テーマ**	Session 2 Do you have anything to declare?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	税関検査 文法項目：一般動詞 1
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学習した全てを復習して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	**授業テーマ**	Session 3 How was your flight to Los Angels?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	空港での出迎え 文法項目：一般動詞 2
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学習した全てを復習して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	**授業テーマ**	Session 4 Are you still feeling tired?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ホームススティ 1 文法項目：進行形
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学習した全てを復習して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	**授業テーマ**	Session 5 What are we going to do in the afternoon?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	語学研修 文法項目：未来表現
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学習した全てを復習して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	**授業テーマ**	Session 6 It's called Mountain Grove
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ホームステイ 2 文法項目：受動態
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学習した全てを復習して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	How would you like your steak? Mid-term test

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レストラン 文法項目：助動詞 Mid-term test を実施します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学習した全てを復習して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	How long have you felt this way?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	病院 文法項目：現在完了形
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学習した全てを復習して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	Session 9 I think I'm lost
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	道案内 文法項目：形容詞・副詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学習した全てを復習して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	授業テーマ	Do you want me to take your picture?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	観光地 文法項目：不定詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学習した全てを復習して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	授業テーマ	Session 11 I've lost my phone
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	遺失物取扱所 文法項目：分詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学習した全てを復習して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	授業テーマ	Session 13 I love roller coasters!
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アミューズメントパーク 文法項目：比較
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学習した全てを復習して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	授業テーマ	Session 13 Let me introduce my friend
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ホームパーティ 文法項目：関係詞

	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学習した全てを復習して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	**授業テーマ**	Session 14 I'd like to pay by credit card I'm looking forward to seeing you again Final test
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ショッピング 空港での見送り 文法項目：接続詞・前置詞・動名詞 Final Test を実施します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学習した全てを復習して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

Session 7 で、Mid-term test
Session 14 で、Final test

学生へのフィードバック方法

学生から回収したコメントや質問は、必要に応じてクラスで共有する。
紙による Mid-term test は、返却する。

評価方法

以下の総合点から評価する。
・平常点（ルーブリックに基づく評価）
評価のルーブリックは当該授業の Google Classroomに掲載します。
・Mid-term test
・Final test

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
Mid-term test	○	○		○
Final test	○	○		○

評価割合

平常点（ルーブリックに基づく評価）50%
Mid-term test 20%
Final test 30%

使用教科書名(ISBN番号)

Let's read aloud & learn English: Going abroad, 978-4-7919-7226-5

参考図書

各自今まで使用していた辞書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】母語とは違う言語の言語的知識を増やす。トピックの背景にあるものを理解する。自分の考え方と比較する。

【思考・判断】母語とは違う言語で得た新しい情報を、これまで持っている情報と比べて、相違点や一致点を判断する。
【関心・意欲・態度】自分の世界とは違う考え方に関心を持ち、尊重する。自分の母語とは違う言語を使って、相手とコミュニケーションを取る意欲がある。
【技能・表現】母語ではない言語において、正確に、適切に、一貫性のある理解と表現をする。

オフィスアワー

水曜の４限

学生へのメッセージ

言語の習得は、積み重ねが必要な根気が要る学びですが、その過程を楽しいものにしましょう。母語でない言語で、理解できたり、表現できたりすることは、楽しいことです。具体的な目標を作って続けましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実生活に密着した授業の展開
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを中心とした学生主体の授業展開
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Webを利用した授業外活動

講義コード	G50802004
講義名	Basic English 2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13620M12

授業概要(教育目的)

この授業は、食に関連したトピックで、１つのトピックに対し（１）リーディングとライティング、（２）リスニングとスピーキングに分けて英語の四技能を総合的に向上させることを目的とする。授業では平易な英語から始め英語に対する心理的抵抗を取り除いた上で英文内容把握のテクニックと基礎的な英語表現力を身に着けることを目指す。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	外国人を食でおもてなしする際に必要となる知識を身に付け、表現内容を理解出来る。
思考・判断の観点 (K)	日本の食文化の魅力を確認し、適切に案内が出来るようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学んだことを発信することへの関心・意欲を持ち続けられる。
技術・表現の観点 (A)	学習した表現を用いて発信出来るようになる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	自己紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レベルチェックテストを行う。食を題材に自己紹介を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	和菓子（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	和菓子を題材としたリーディング、ライティング演習を行

第2回	を含む)	う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	和菓子（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	和菓子販売店での基本的な接客に関するリスニング、スピーキング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	授業テーマ	茶（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お茶を題材としたリーディング、ライティング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	茶（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お茶を出す際の基本的な表現に関するリスニング、スピーキング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	酒（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お酒を題材としたリーディング、ライティング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	酒（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お酒を出す際の基本的な表現に関するリスニング、スピーキング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	和食（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	和食を題材としたリーディング、ライティング演習を行う。
		授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けて

	教室外学習(予習・復習)の内容	おくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	**授業テーマ**	和食（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	和食店での基本的な接客に関するリスニング、スピーキング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	**授業テーマ**	調理（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々なレシピを題材としたリーディング、ライティング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	**授業テーマ**	調理（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理に関するリスニング、スピーキング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	**授業テーマ**	レシピ作り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レシピを作成し、スピーキング演習を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	**授業テーマ**	レシピ発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループワークで作ったレシピを発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	**授業テーマ**	レシピ発表・総復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回に続きグループワークで作ったレシピを発表する。これまで学んだことの総復習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分

学生へのフィードバック方法

小テストは解答用紙のみ回収し返却はしないが、授業内で解説し自己採点を行う。採点結果の問い合わせは個別に対応する。ルーブリック評価のためのリフレクションシートは回収し、確認後返却する。発表については、授業内でコメントする。

評価方法

小テスト：前回学んだことの定着度を次回の授業で確認する。
ルーブリック：授業で学んだことの理解度を測るため、毎回授業内で紙面又はクラスルーム内で配布するリフレクションシート形式で確認する。
発表：第13・14回の授業でのプレゼンテーションについて、授業内で明示する評価基準に基づいて評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○	○		○
ルーブリック	○	○	○	○
発表	○	○		○

評価割合

小テスト25%、ルーブリック25%、発表50%

使用教科書名(ISBN番号)

なし。

参考図書

なし。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】外国人を食でおもてなしする際に必要となる表現を理解出来るようになる。
【思考・判断】日本の食の魅力を確認し、状況に応じた対応を類別出来るようになる。
【関心・意欲・態度】日本の食の魅力を確認し、適切に案内が出来るようになる。
【技能・表現】学習した表現を用いて発信出来るようになる。

学生へのメッセージ

食を専門にする人もそうでない人も履修可能な内容です。日本の食文化への理解を深めながら英語で表現し伝えることの楽しさを感じてもらえるような授業を目指します。グループワークとして好きなレシピの英語版を作り、発表していただきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ライティング演習、リスニング演習、スピーキング演習、グループ・ワーク、発表。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50802006
講義名	Basic English 2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13620M12

授業概要(教育目的)

①イギリスの観光名所を巡って旅をするという設定のもとに書かれたテキストを使用しながら、基礎的で実用的な英語を習得することを目的とする。
②英語圏の文化に関する視聴覚資料（主としてイギリスの児童文学関連）や原文に触れながら、欧米文化についての知識を深めてほしい。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	英語圏の文化一般に特有の価値観についての理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	英語圏の歴史的・文化的背景や価値観を知ることで複眼的に思考し判断する態度を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	異なる他者を尊重し複眼的に理解する態度を養う。
技術・表現の観点 (A)	異なる他者を受容しつつ発信する英語コミュニケーション能力を涵養する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション テキスト第12課 ヨーク
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・授業の進め方（ルーブリック評価について説明します） ・ステンドグラスが美しいヨーク大聖堂。 <文法> 不定詞の形容詞用法、他。 ・第12課～第25課、各課終了ごとに課題提出あり。詳細は授業時に指示します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	p28を読解して問題に解答すること。（以降、毎回同様に準備すること）

	教室外学習の時間（分）	30分
第2回	**授業テーマ**	第12課 ヨーク
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中世最大の教会ヨーク・ミンスター、典型的な要塞都市であるヨークの教会と城。日本の新幹線も展示されている国立鉄道博物館。 ＜文法＞仮主語と真主語、他。 ・映画「ハリー・ポッターと賢者の石」①
	教室外学習(予習・復習)の内容	ｐ28－29
	教室外学習の時間（分）	40分
第3回	**授業テーマ**	第13課 ヨークシャー：ハワース村
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ブロンテ姉妹のふるさと。『ジェーン・エア』や『嵐が丘』などの名作は風吹きすさぶこの荒野から生まれた。 ＜文法＞倒置表現、他。 ・映画②
	教室外学習(予習・復習)の内容	p30－31
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	第14課 湖水地方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ワーズワースの詩のふるさとでピーターラビットのお里。日本人観光客の多さにビックリ！ ＜文法＞現在完了進行形、他。 ・映画③
	教室外学習(予習・復習)の内容	p32－33
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	第15課 リヴァプール
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ビートルズの活躍で一躍有名になった港湾都市、そこはコスモポリタンで文化の薫り高い街でもある。 ＜文法＞使役動詞、他。 ・ハロウィーンの由来 ・アニメ「スヌーピーたちのハロウィーン」一部視聴。
	教室外学習(予習・復習)の内容	p34－35
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	**授業テーマ**	第16課 ピークディストリクト・パーク
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イギリス独特の荒野が広がる公園内。荒野散策は夏でも厚着で。美しい村々も点在します。 ＜文法＞不定詞の形容詞用法 ・映画④
	教室外学習(予習・復習)の内容	p36－37
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	第17課 結婚式
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教会での結婚式の様子。教会とは一生のお付き合い。 ＜文法＞接続詞 that、他。 ・映画⑤
	教室外学習(予習・復習)の内容	p38－39
	教室外学習の時間（分）	60分

第8回	授業テーマ	第18課 ドーヴァー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	珍しい白亜の崖がシンボル。ウィリアム征服王とヘイスティングズの戦い。 <文法> 述語動詞が複数ある英文、他。 ・映画⑥
	教室外学習(予習・復習)の内容	p40-41
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	第18課 ドーヴァー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ウィリアム征服王とヘイスティングズの戦い。 <文法> 述語動詞が複数ある英文、他。 ・映画⑦
	教室外学習(予習・復習)の内容	p40－41
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	第19課 コッツウォルズ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	はちみつ色のかわいい家が人気の村。クリームティーとスコーン。 <文法> 注意すべき受動態、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」原文読解 ・映画⑧
	教室外学習(予習・復習)の内容	p42－43 ＋「ハリー・ポッターと賢者の石」原文プリント（読解しておくこと）
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	授業テーマ	第21課 ロンドン：ロンドン塔
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今は賑やかな観光名所、しかし昔は処刑場でもあった場所。権力闘争、陰謀渦巻く宮廷の中。 <文法> 関係詞の非制限的用法、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」原文読解 ・映画⑨
	教室外学習(予習・復習)の内容	p46－47 ＋「ハリー・ポッターと賢者の石」原文プリント（読解しておくこと）
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	第22課 ロンドン：ウエストミンスター寺院
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	世界遺産の寺院の内部、床と壁に塗り込められた秘密とは？！ <文法> 主語と述語動詞が離れている場合、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」原文読解 ・クリスマスの由来、イギリスのクリスマス ・映画⑩
	教室外学習(予習・復習)の内容	p48、＋「ハリー・ポッターと賢者の石」原文プリント（読解しておくこと）
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	第23課 ロンドン：グローブ座
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	16世紀から続くシェイクスピアの劇場。ロンドンっ子は今も昔も大の芝居好き！そばにはヨーロッパ一の大観覧車ロンドン・アイも。 <文法> Some...,other...の訳し方、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」原文読解
	教室外学習(予習・復	p50－51 ＋「ハリー・ポッターと賢者の石」原文プリント

	習)の内容	（読解しておくこと）
	教室外学習の時間（分）	80分
第14回	**授業テーマ**	第24課 ロンドン：コヴェントガーデン 第25課 ロンドン：ミレニアム橋
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	昔の青果市場は今や若者が集う場所。しかし大昔は修道院だった？！ ＜文法＞接続詞 as を用いて現在と過去を比較する、他。 斬新なデザインの橋が、テート・モダン美術館とセントポール大聖堂をつなぐ。 ＜文法＞不定詞の副詞用法、関係詞の非制限用法、比較級を同時に用いた英文、他。 ・まとめ：映画「ハリー・ポッターと賢者の石」にみるイギリスの歴史と文化
	教室外学習(予習・復習)の内容	p52, 54-55
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。詳細は教室で指示します。

学生へのフィードバック方法

各課終了ごとに理解度を測る小テストを実施します（GoogleClassroom上から課題として提出すること）。小テストは、翌週の授業冒頭で答合わせと解説を行います。

評価方法

小テスト10点満点×約10回を100点換算して評価します。
小テストは、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○	○		○

評価割合

小テスト９０％、平常点１０％

使用教科書名(ISBN番号)

Looking Around England <Revised Edition>
「写真で見るイギリス・リスニングの旅＜改訂新版＞」
Terry O'Brien 他 著 南雲堂

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】異なる文化圏の歴史、文化、社会、生活習慣に関する知識をもって、より広い視野から物事を考える基礎を培う。
【技術・表現】学修で得たグローバルな知識や情報にもとづいて発信する英語コミュニケーション能力の基礎を培う。

学生へのメッセージ

・充分に予習したうえで授業に臨んでください。

・世界の中にある日本、世界とともに歩む日本、そのようなことを常に意識しながら共に英語を学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50802031
講義名	Basic English 2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	橋本 文子	指定なし

ナンバリング

X13622C12

授業概要(教育目的)

日常のコミュニケーションに役立つ英語を楽しく学びながら、英文法の基礎知識を確実に身につけることを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	基礎的な英文法を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	基礎的な英語を段階的にわかりやすく学ぶことで、学習意欲を向上させることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	前期の学習内容の確認と復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期の授業の学習内容のについて確認と復習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 13を予習してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	Unit 13 名詞・冠詞

第2回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について解説し、基本問題、発展問題の答え合わせを行う。Expressionsで学習内容について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 14の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	Unit 14 代名詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について解説し、基本問題、発展問題の答え合わせを行う。Expressionsで学習内容について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 15の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	Unit 15 前置詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について解説し、基本問題、発展問題の答え合わせを行う。Expressionsで学習内容について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 16の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	Unit 16 形容詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について解説し、基本問題、発展問題の答え合わせを行う。Expressionsで学習内容について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 17の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	Unit 17 副詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について解説し、基本問題、発展問題の答え合わせを行う。Expressionsで学習内容について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 18の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	Unit 18 比較 (1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について解説し、基本問題、発展問題の答え合わせを行う。Expressionsで学習内容について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 19の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	Unit 19 比較 (2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について解説し、基本問題、発展問題の答え合わせを行う。Expressionsで学習内容について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 20の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	Unit 20 接続詞

第9回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について解説し、基本問題、発展問題の答え合わせを行う。Expressionsで学習内容について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 21の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	Unit 21 受け身 (受動態)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について解説し、基本問題、発展問題の答え合わせを行う。Expressionsで学習内容について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 22の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	Unit 22 不定詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について解説し、基本問題、発展問題の答え合わせを行う。Expressionsで学習内容について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 23の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	Unit 23 動名詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について解説し、基本問題、発展問題の答え合わせを行う。Expressionsで学習内容について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 24の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	Unit 24 分詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について解説し、基本問題、発展問題の答え合わせを行う。Expressionsで学習内容について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの学習内容の復習をすること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	復習とまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの学習内容について総復習と確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	定期試験に向けて準備をすること。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

授業の始めに前の週の授業内容の確認と復習を行う。

評価方法

定期試験は各Unitの基本問題、発展問題、Expressionsから出題する。

ルーブリックに基づく成績評価を行う。
ルーブリックにツイテハ、クラスルームまたは授業内での配布等により指示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題発表	○		○	○
定期試験	○			

評価割合

定期試験 70%、平常点（授業への積極的な参加と課題の発表）30%で総合的に評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

Everyday English Grammar 〈Fourth Edition〉 / Koji Mizushima他 / 南雲堂 / 2024年

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】基礎的な英語力（基礎的な英文法・語法・語彙）を身につけることで、英語の基礎知識を向上させることができる。
【技術・表現】日常のコミュニケーションに役立つ表現を学ぶ。

オフィスアワー

水曜日 2限 1610研究室

学生へのメッセージ

・授業で学んだことをしっかりと復習し、次回の授業内容についてもあらかじめ予習をしてきて下さい。
・授業に積極的に参加することを期待します。
・授業では英語の辞書を持参し、わからないところはすぐに辞書で確認できるようにして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	各UnitのExpressionsを参考に、自分や身の回りのことを英語で表現する練習を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50803001
講義名	Listening & Speaking 1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	高橋 幸子	指定なし

ナンバリング

X13632M12

授業概要(教育目的)

大学生が日常的に経験する「大学生活」や「心と体の健康」などについて学びながら、英語のリスニング力やスピーキング力を伸ばすことを目的とする。情報を整理し、多様な角度から見当した上で、論理的・客観的に自分の意見を述べるための批判的思考力をつけていく。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	異なった言語背景・文化背景を持つ話者たちの英語を使ったやりとりや、賛否が分かれる事柄についてのモノローグを聴いて、理解する。
思考・判断の観点 (K)	英語を使った情報を整理し、多様な角度から検討した上で、論理的・客観的に自分の意見を述べるための批判的思考力をつける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分とは違った価値観を持つ他者を尊重し、異なる文化に関心を持つ。積極的に、自分の感じたことや考えたことをことを表現することを務める。
技術・表現の観点 (A)	大学生の日常生活に必要である英語のリスニング力とスピーキング力をつける。

学習計画

	授業テーマ	Session1 Introduction
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己紹介と授業の進め方 授業の進め方は、以下のとおり実施します。 1. Warm-up 2. Words in focus 3. Dialogue 4. Viewpoints

第1回		5. Pronunciation 6. Monologue 7. Speaking outline
	教室外学習(予習・復習)の内容	EnglishCentral を使った教室外学習 オンライン学習システムである EnglishCentralが利用できます。 使い方については、授業中に説明します。 学習ログについても説明します。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	授業テーマ	Session 2 College life
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大学生の意義について考えよう
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学んだ全てを復習して下さい。 EnglishCentralを利用した学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	Session 3 Understanding copyright
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	著作権について考えよう
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学んだ全てを復習 EnglishCentralを利用した学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	授業テーマ	Session 4 Cyber bullying
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ネットいじめについて考えよう
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学んだ全てを復習 EnglishCentralを利用した学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	Tourism
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	快適な旅のコツについて考えよう
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学んだ全てを復習 EnglishCentralを利用した学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	Session 6 Foreign encounters
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	異文化体験について考えよう
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学んだ全てを復習 EnglishCentralを利用した学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	Session 7 Entertainment Mid-term test
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	娯楽について考えよう Mid-term test を実施します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学んだ全てを復習 EnglishCentralを利用した学習

	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	**授業テーマ**	Session 8 International affairs
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国際情勢について考えよう
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学んだ全てを復習 EnglishCentralを利用した学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	**授業テーマ**	Session 9 Technology
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身近にある科学技術について考えよう
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学んだ全てを復習 EnglishCentralを利用した学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	**授業テーマ**	Session 10 My future
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	将来の自分について考えよう
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学んだ全てを復習 EnglishCentralを利用した学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	**授業テーマ**	Session 11 Personal finance
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お金の管理について考えよう
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学んだ全てを復習 EnglishCentralを利用した学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	**授業テーマ**	Session 12 Health
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	心と体の健康について考えよう
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学んだ全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	**授業テーマ**	Session 13 Diversity
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	多様性について考えよう
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学んだ全てを復習 EnglishCentralを利用した学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	**授業テーマ**	Session 14 Wrapping up
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全学習のまとめ Final test
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学んだ全てを復習 EnglishCentral を使った学習

	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

Session 7 で Mid-term test
Session 14 で Final test

学生へのフィードバック方法

回収した学生のコメントや質問は、必要に応じてクラスで共有する。
紙による Mid -term test は、返却する。

評価方法

以下の総合点から評価する。
・平常点（ルーブリックに基づいた評価）
評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。
・Mid-term test
・Final test

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
Mid-term test	○	○		○
Final test	○	○		○

評価割合

平常点（ルーブリックに基づく評価）50%
Mid-term test 20%
Final test 30%

使用教科書名(ISBN番号)

Global perspectives Book 1, 978-4-7919-7261-6

参考図書

各自今まで使用していた辞書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】母語とは違う言語の言語的知識を増やす。トピックの背景にあるものを理解する。自分の考え方と比較する。
【思考・判断】母語とは違う言語で得た新しい情報を、これまでの情報と比べて、相違点や一致点を判断する。
【関心・意欲・態度】自分の世界とは違う考え方に関心を持ち、尊重する。自分の母語とは違う言語のテキストを聴き、自分の感じたことや考えたことを話す意欲がある。
【技術・表現】母語ではない言語において、正確に、適切に、一貫性のある理解と表現をする。

オフィスアワー

水曜の４限

学生へのメッセージ

母語でない言語を使って、何かを理解したり、自分の感じたことや考えたことを表現できることは、楽しいです。なにか具体的な短期目標を作りましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実生活に密着した授業の展開
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを中心とした学生主体の授業展開
情報リテラシー教育		

ICT活用	○	Webを利用した授業外活動

講義コード	G50803002
講義名	Listening & Speaking 1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13632M12

授業概要(教育目的)

英語学習を通して異文化に対する視野を広げよう！この講座の狙いは、基本的な英会話の習得とともに
国際人としての感覚を身に着けることにあります。
①テキストを通して日常英会話を学びます。それぞれの場面で最低限必要な英語表現を学習し、実際に発話できるように訓練します。合わせて英文レターなどの書き方も学び、国際常識を身に着けることをも狙いとします。
②英語圏の文化、特にアメリカ現代文化への知識を深めていきます。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	英語圏の文化一般に特有の価値観についての理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	英語圏の歴史的・文化的背景や価値観を知ることで複眼的に思考し判断する態度を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らとは異なる他者を尊重し複眼的に理解する態度を養う。
技術・表現の観点 (A)	自らとは異なる他者を受容しつつ発信する英語コミュニケーション能力を涵養する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション Unit 1 Family
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・授業の進め方（ルーブリック評価について説明します） ・Unit 1 - Part 1 Warm-up
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要なし
		0

	教室外学習の時間（分）	分
第2回	**授業テーマ**	Unit 1 Family
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Part 2 Listening Patterns Part 3 Usage Patterns Part 4 Conversation Patterns
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要なし
	教室外学習の時間（分）	0分
第3回	**授業テーマ**	Unit 2 Friends
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Part 1 Warm-up Part 2 Listening Patterns Part 3 Usage Patterns Part 4 Conversation Patterns ・1950年代のアメリカー映画 Back To The Future ①
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：ｐ11-14重要事項を確認し、解答できなかった問題に解答する。 予習：p15-18単語の意味を調べ、リスニングし、問題に解答する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	**授業テーマ**	Unit 3 Culture
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Part 1 Warm-up Part 2 Listening Patterns Part 3 Usage Patterns Part 4 Conversation Patterns ・映画②
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：ｐ15-18重要事項を確認し、解答できなかった問題に解答する。 予習：p19-22単語の意味を調べ、リスニングし、問題に解答する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	**授業テーマ**	Unit 4 Education
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Part 1 Warm-up Part 2 Listening Patterns Part 3 Usage Patterns Part 4 Conversation Patterns ・映画③
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：ｐ19-22重要事項を確認し、解答できなかった問題に解答する。 予習：p23-26単語の意味を調べ、リスニングし、問題に解答する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	**授業テーマ**	Unit 5 Sports
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Part 1 Warm-up Part 2 Listening Patterns Part 3 Usage Patterns Part 4 Conversation Patterns ・映画④
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：ｐ23-26重要事項を確認し、解答できなかった問題に解答する。 予習：p27-30単語の意味を調べ、リスニングし、問題に解答する。
	教室外学習の時間（分）	50分

第7回	授業テーマ	Unit 6 Work
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Part 1 Warm-up Part 2 Listening Patterns Part 3 Usage Patterns Part 4 Conversation Patterns ・映画⑤
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：ｐ27-30重要事項を確認し、解答できなかった問題に解答する。 予習：p31-34単語の意味を調べ、リスニングし、問題に解答する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	Unit 7 Food
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Part 1 Warm-up Part 2 Listening Patterns Part 3 Usage Patterns Part 4 Conversation Patterns ・映画⑥
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：ｐ31-34重要事項を確認し、解答できなかった問題に解答する。 予習：p35-38単語の意味を調べ、リスニングし、問題に解答する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	Unit 8 Studying English
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Part 1 Warm-up Part 2 Listening Patterns Part 3 Usage Patterns Part 4 Conversation Patterns ・映画⑦
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：ｐ35-38重要事項を確認し、解答できなかった問題に解答する。 予習：p39-42単語の意味を調べ、リスニングし、問題に解答する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	授業テーマ	Unit 9 Health
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Part 1 Warm-up Part 2 Listening Patterns Part 3 Usage Patterns Part 4 Conversation Patterns ・映画⑧
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：ｐ39-42重要事項を確認し、解答できなかった問題に解答する。 予習：p43-46単語の意味を調べ、リスニングし、問題に解答する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	授業テーマ	Unit 10 Clothes
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Part 1 Warm-up Part 2 Listening Patterns Part 3 Usage Patterns Part 4 Conversation Patterns ・映画⑨
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：ｐ43-52重要事項を確認し、解答できなかった問題に解答する。

		予習：p47-50単語の意味を調べ、リスニングし、問題に解答する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	**授業テーマ**	場面別英会話：ファストフード店で 場面別英会話：レストランで
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ファストフード店での注文の仕方、スタッフとのやり取り ・レストランでの注文の仕方、スタッフとのやり取り ・映画⑩
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：ｐ47-50重要事項を確認し、解答できなかった問題に解答する。 予習：プリントの単語の意味を調べ、問題に解答する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	**授業テーマ**	場面別英会話：レストランのテーブルで
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・レストランのテーブルでのやり取り、マナーなど ・メニューの読み方、外国の食文化 ・現代アメリカ史とロック＆ポップスの歴史①
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：重要事項を確認し、解答できなかった問題に解答する。 予習：プリントの単語の意味を調べ、問題に解答する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	**授業テーマ**	英文レター・e-mailなどの書き方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	英文レター・e-mailなどの書き方の基本を学び、実際に作成します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：重要事項を確認し、解答できなかった問題に解答する。 予習：授業時に作業するので必要なし。
	教室外学習の時間（分）	30分

学習計画注記

授業の実施状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。詳細は教室で指示します。

学生へのフィードバック方法

随時、小テストを実施します。実施した小テストは、翌週の授業の冒頭で答合わせし、講評します。

評価方法

・小テスト、提出物、受講態度などにより総合的に判断します。
・小テストは下表に示す力を養うことを目的とします。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○	○		○
				○

評価割合

平常点１０%、小テスト９０%により評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

English Listening and Speaking Pattern 1
Andrew E. Bennett 著
南雲堂
2000円（税別）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】異なる文化圏の歴史、文化、社会、生活習慣に関する知識をもって、より広い視野から物事を考える力を培う。
【技術・表現】学修で得たグローバルな知識や情報にもとづいて発信する英語コミュニケーション能力の基礎を培う。

学生へのメッセージ

世界の中にある日本、世界と共に歩む日本、そのようなことを常に意識しながら共に英語を学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50803007
講義名	Listening & Speaking 1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13631M12

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】
【関心・意欲・態度】
【技能・表現】

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	
アクティブ・ラーニング	○	
情報リテラシー教育	○	

ICT活用		

講義コード	G50803031
講義名	Listening & Speaking 1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	橋本 文子	指定なし

ナンバリング

X13630C12

授業概要(教育目的)

英語を使ったコミュニケーション活動に必要な英語基礎力を身につけることを目標とする。英語が世界の共通語として使われている現代社会において、様々な場面・状況・話題に適切に対応できるようになることを目指し、基礎的でよく使われる英語の表現方法と英語の聴解力を向上させるためのポイントについて学習していく。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	英語のlisteningとspeakingを向上させるために必要な知識について、理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に関心を持ち、学習意欲を向上させることができる。
技術・表現の観点 (A)	英語で自分のことについて表現できる技術と表現を身につける。

学習計画

	授業テーマ	Introduction
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	授業の進め方の説明を行う。

第1回	**含む)**	
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit1のReading SectionとGrammar Sectionの予習をしてくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	Unit 1 自己紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listening Sectionの音声を聞く。Reading Sectionを読み、Exerciseに答える。Grammar Sectionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 2の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	Unit 2 家族・ペット
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listening Sectionの音声を聞く。Reading Sectionを読み、Exerciseに答える。Grammar Sectionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 3の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	Unit 3 趣味
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listening Sectionの音声を聞く。Reading Sectionを読み、Exerciseに答える。Grammar Sectionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 4の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	Unit 4 大学生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listening Sectionの音声を聞く。Reading Sectionを読み、Exerciseに答える。Grammar Sectionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 5の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	**授業テーマ**	Unit 5 食べ物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listening Sectionの音声を聞く。Reading Sectionを読み、Exerciseに答える。Grammar Sectionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 6の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	Unit 6 コンサート
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listening Sectionの音声を聞く。Reading Sectionを読み、Exerciseに答える。Grammar Sectionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 7の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	Unit 7 道案内
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listening Sectionの音声を聞く。Reading Sectionを読み、Exerciseに答える。Grammar Sectionの答え合わせと解説を行う。

第8回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 8の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	Unit 8 日本文化紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listening Sectionの音声を聞く。Reading Sectionを読み、Exerciseに答える。Grammar Sectionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 9の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	Unit 9 ジェスチャー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listening Sectionの音声を聞く。Reading Sectionを読み、Exerciseに答える。Grammar Sectionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 10の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	Unit 10 観光案内
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listening Sectionの音声を聞く。Reading Sectionを読み、Exerciseに答える。Grammar Sectionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 11の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	Unit 11 航空券をNetでGet
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listening Sectionの音声を聞く。Reading Sectionを読み、Exerciseに答える。Grammar Sectionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 12の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	Unit 12 E-mailを送る
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listening Sectionの音声を聞く。Reading Sectionを読み、Exerciseに答える。Grammar Sectionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの学習内容の復習をすること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	復習とまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listening Sectionの音声を聞く。Reading Sectionを読み、Exerciseに答える。Grammar Sectionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの学習内容の総復習と確認を行い、定期試験に向けて準備をすること。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

＊履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

授業の始めに前の週の授業内容の確認と復習を行います。

評価方法

・定期試験は各UnitのListening Section, Reading Section, Grammar Sectionからから出題します。

・ルーブリックに基づく成績評価を行います。
・ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配布等により指示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題発表	○		○	○
定期試験	○			

評価割合

定期試験70%、平常点（授業への積極的な参加と課題の発表）30%で総合的に評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

Forerunner to Power-Up English / JACET リスニング研究会 / 南雲堂 /2024年

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】英語の読解力を向上させることで、これからの学習に必要な情報や知識を英語の文献からも得ることができる。
【技能・表現】英語で自分のことを表現することができる技術や表現を学ぶ。

オフィスアワー

水曜日 2限 1610研究室

学生へのメッセージ

・授業で学んだことをしっかりと復習し、次回の授業内容についてもあらかじめ予習をしてきて下さい。
・授業に積極的に参加することを期待します。
・授業では英語の辞書を必ず持参し、わからないところはすぐに辞書で確認するようにして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		リスニングの内容をディクテーションする練習を行います。 自分のことを英語で表現する練習を行います。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50803032
講義名	Listening & Speaking 1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13630C12

授業概要(教育目的)

英語を使ったコミュニケーション活動に必要な英語基礎力を身につけることを目標とする。英語が世界の共通語として使われている現代社会において、様々な場面・状況・話題に適切に対応できるようになることを目指し、基礎的でよく使われる英語の表現方法と英語の聴解力を向上させるためのポイントについて学習していく。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	英語のlisteningとspeakingを向上させるために必要な知識について、理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に関心を持ち、学習意欲を向上させることができる。
技術・表現の観点 (A)	英語で自分のことについて表現できるようになる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	Introduction
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方の説明を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit:1の1.Introductory Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	Unit:1 1.Introductory Readingの読解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit:1 Introducing YourselfのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。

第2回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	Unit:1 3.Listeningの音声を聞く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながらdictationを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で行ったListeningの部分のdictationの確認と復習をすること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	Unit:1 3.Listeningの音声を聞く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listeningの音声を聞きながらdictationを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で行ったListeningの部分のdictationの確認と復習をすること。 3.と4.の問題を解いてくること。5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	Unit:1 3.Listeningの内容の確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3.と4.の答え合わせと確認を行う。5.について練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 1で学んだことを基にActivity6で自分のことについて答える。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	自分のことについて表現する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Activity6の練習と発表を行う。 Activity7をまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Activity7について暗記する。 Unit:2 1 Introductory Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	自分のことについて発表する Unit:2 Introductory Readingの読解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Activity7の内容について発表する。 Unit:2 My Best FriendのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	Unit:2 3.Listeningの音声を聞く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながらdictationを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で行ったListeningの部分のdictationの確認と復習をすること。 3.と4.の問題を解いてくること。5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答える。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	Unit:2 3.Listeningの内容の確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3.と4.の答え合わせと確認を行う。5.について練習を行う。

第9回		Activity6の練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Activity7についてまとめ、暗記すること。 Unit:3 1.Introductory Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	自分のことについて発表する Unit:3 Introductory Readingの読解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Activity7の内容について発表する。 Unit:3 My Typical DayのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	Unit:3 3.Listeningの音声を聞く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながらdictationを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で行ったListeningの部分のdictationの確認と復習をすること。 3.と4.の問題を解いてくること。5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答える。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	Unit:3 3.Listeningの内容の確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3.と4.の答え合わせと確認を行う。5.について練習を行う。 Activity6の練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Activity7についてまとめ、暗記すること。 Unit:4 1.Introductory Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	自分のことについて発表する Unit:4 1.Introductory Readingの読解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Activity7の内容について発表する。 Unit:4 Shopping Habitsの1.Introductory Readingの内容について読解と解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	Unit:4 3.Listeningの音声を聞く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながらdictationを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの学習内容の総復習と確認を行い、定期試験に向けて準備をすること。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

＊履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

授業の始めに前の週の授業内容の確認と復習を行います。

評価方法

・各Unitの課題の発表ができているかどうか確認します。

・定期試験はIntrocductory Reading、Grammar Review、Vocabulary and Expressions、Activity6から出題します。
・ルーブリックに基づく成績評価を行います。
・ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配布等により指示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題発表	○		○	○
定期試験	○			

評価割合

定期試験70%、授業への積極的な参加と課題の発表30%で総合的に評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

Have a Nice Day! / Masayuki Aoki / 南雲堂

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】英語の読解力を向上させることで、これからの学習に必要な情報や知識を英語の文献からも得ることができる。
【技能・表現】英語で自分のことを表現することができる。

オフィスアワー

水曜日 2限 1610研究室

学生へのメッセージ

・授業で学んだことをしっかりと復習し、次回の授業内容についてもあらかじめ予習をしてきて下さい。
・授業に積極的に参加することを期待します。
・授業では英語の辞書を必ず持参し、わからないところはすぐに辞書で確認するようにして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		リスニングの内容をディクテーションする練習を行います。 自分のことを英語で表現する練習を行います。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50803033
講義名	Listening & Speaking 1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13630C12

授業概要(教育目的)

英語を使ったコミュニケーション活動に必要な英語基礎力を身につけることを目標とする。英語が世界の共通語として使われている現代社会において、様々な場面・状況・話題に適切に対応できるようになることを目指し、基礎的でよく使われる英語の表現方法と英語の聴解力を向上させるためのポイントについて学習していく。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	英語のlisteningとspeakingを向上させるために必要な知識について、理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に関心を持ち、学習意欲を向上させることができる。
技術・表現の観点 (A)	英語で自分のことについて表現できるようになる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	Introduction
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方の説明を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit:1の1.Introductory Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	Unit:1 1.Introductory Readingの読解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit:1 Introducing YourselfのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。

第2回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	Unit:1 3.Listeningの音声を聞く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながらdictationを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で行ったListeningの部分のdictationの確認と復習をすること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	Unit:1 3.Listeningの音声を聞く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listeningの音声を聞きながらdictationを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で行ったListeningの部分のdictationの確認と復習をすること。 3.と4.の問題を解いてくること。5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	Unit:1 3.Listeningの内容の確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3.と4.の答え合わせと確認を行う。5.について練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 1で学んだことを基にActivity6で自分のことについて答える。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	自分のことについて表現する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Activity6の練習と発表を行う。 Activity7をまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Activity7について暗記する。 Unit:2 1 Introductory Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	自分のことについて発表する Unit:2 Introductory Readingの読解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Activity7の内容について発表する。 Unit:2 My Best FriendのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	Unit:2 3.Listeningの音声を聞く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながらdictationを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で行ったListeningの部分のdictationの確認と復習をすること。 3.と4.の問題を解いてくること。5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答える。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	Unit:2 3.Listeningの内容の確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3.と4.の答え合わせと確認を行う。5.について練習を行う。

第9回		Activity6の練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Activity7についてまとめ、暗記すること。 Unit:3 1.Introductory Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	自分のことについて発表する Unit:3 Introductory Readingの読解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Activity7の内容について発表する。 Unit:3 My Typical DayのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	Unit:3 3.Listeningの音声を聞く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながらdictationを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で行ったListeningの部分のdictationの確認と復習をすること。 3.と4.の問題を解いてくること。5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答える。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	Unit:3 3.Listeningの内容の確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3.と4.の答え合わせと確認を行う。5.について練習を行う。 Activity6の練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Activity7についてまとめ、暗記すること。 Unit:4 1.Introductory Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	自分のことについて発表する Unit:4 1.Introductory Readingの読解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Activity7の内容について発表する。 Unit:4 Shopping Habitsの1.Introductory Readingの内容について読解と解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	Unit:4 3.Listeningの音声を聞く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながらdictationを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの学習内容の総復習と確認を行い、定期試験に向けて準備をすること。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

＊履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

授業の始めに前の週の授業内容の確認と復習を行います。

評価方法

・各Unitの課題の発表ができているかどうか確認します。

・定期試験はIntrocductory Reading、Grammar Review、Vocabulary and Expressions、Activity6から出題します。
・ルーブリックに基づく成績評価を行います。
・ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配布等により指示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題発表	○		○	○
定期試験	○			

評価割合

定期試験70%、授業への積極的な参加と課題の発表30%で総合的に評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

Have a Nice Day! / Masayuki Aoki / 南雲堂

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】英語の読解力を向上させることで、これからの学習に必要な情報や知識を英語の文献からも得ることができる。
【技能・表現】英語で自分のことを表現することができる。

オフィスアワー

水曜日 2限 1610研究室

学生へのメッセージ

・授業で学んだことをしっかりと復習し、次回の授業内容についてもあらかじめ予習をしてきて下さい。
・授業に積極的に参加することを期待します。
・授業では英語の辞書を必ず持参し、わからないところはすぐに辞書で確認するようにして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		リスニングの内容をディクテーションする練習を行います。 自分のことを英語で表現する練習を行います。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50803034
講義名	Listening & Speaking 1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13631C12

授業概要(教育目的)

この授業では、訪日外国人（客）に英語で対応する際に必要となる基本的な表現を学び、繰り返し練習をすることで英語による適切かつスムーズなやり取りを自信を持って行えるようにする。
また、正しい英文法を通してスピーキング・リスニング・ライティング能力の底上げを行い、様々な英語表現をバランスよく身に着けることを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	まとまった量の英文を聞き、主旨や大意をある程度、理解できる。 観光英語を学ぶことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	進行状況により取り入れる洋楽や海外ドラマを通して、英語そのものや異文化への興味を深めることができる。
技術・表現の観点 (A)	身近な話題を平易な英文である程度、表現できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	前期授業ガイダンス & 和製英語 Part 1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	【ルーブリックについて説明します】 ・成績評価、テキスト、授業の進め方 ・予習、復習について ・Classroom English →授業内で使用する表現 ・自己紹介の表現を学ぶ ・和製英語の確認
		第1回授業の予習

	教室外学習(予習・復習)の内容	・特になし 第1回授業の復習 ・Classroom Englishを暗記する
	教室外学習の時間（分）	30分
第2回	**授業テーマ**	Unit 1 Transportation : 交通案内
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・いろいろな交通機関についての基本的な情報や案内の仕方を学ぶ ・Conversationの対話練習
	教室外学習(予習・復習)の内容	第2回授業の予習 ・Unit 1 : PHASE 1 Vocabulary Check ①を解く →授業時に解答確認 第2回授業の復習 ・PHASE 2 : Reading for Informationを解く →次回の授業時に解答確認 ・Key Expressionsの暗記 →次回の授業時に確認
	教室外学習の時間（分）	30分
第3回	**授業テーマ**	Unit 1 Transportation : 交通案内 & Unit 2 At a Check-in Counter (hotel) : ホテルでのチェックイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Unit 1 ICカードの説明に関する会話練習 ・Unit 2ホテルのフロントデスクでの手続き →チェックイン時に必要となる会話表現を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回授業の予習 ・Unit 1 : PHASE 2 : Vocabulary Check ②を解く ・Unit 2 : PHASE 1 : Vocabulary Check ①を解く →授業時に解答確認 第3回授業の復習 ・ホテルの受付とお客様の会話表現の音読復習 ・Key Expressionsの暗記 →次回の授業時に確認
	教室外学習の時間（分）	30分
第4回	**授業テーマ**	Unit 2 At a Check-in Counter (hotel) : ホテルでのチェックイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・チェックイン時によくある質問内容を学ぶ ・Conversationの対話練習
	教室外学習(予習・復習)の内容	第4回授業の予習 ・Unit 2 : PHASE 2 Vocabulary Check ②を解く →授業時に解答確認 第4回授業の復習 ・Making Dialoguesの音読練習 & 和訳 →次回の授業時に確認
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	Unit 3 Facilities and Services (hotel) : ホテル内の施設やサービス案内
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ホテル内のサービス（ルームサービスなど）や施設を案内の仕方を学ぶ ・Conversationの対話練習

第5回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	第5回授業の予習 ・Unit 3 : PHASE 1 Vocabulary Check ①を解く →授業時に解答確認 第5回授業の復習 ・PHASE 2 : Reading for Informationを解く →次回の授業時に解答確認 ・Key Expressionsの暗記 →次回の授業時に確認
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	Unit 3 Facilities and Services (hotel) : ホテル内の施設やサービス案内 & Unit 4 Giving Directions : ホテルでのチェックイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Unit 3 Making Dialoguesの会話練習 ・Unit 4 道案内をする時に必要となる会話表現を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6回授業の予習 ・Unit 3 : PHASE 2 : Vocabulary Check ②を解く ・Unit 4 : PHASE 1 : Vocabulary Check ①を解く →授業時に解答確認 第6回授業の復習 ・道案内に必要となる表現を復習する ・Key Expressionsの暗記 →次回の授業時に確認
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	Unit 4 Giving Directions : 街歩きのための道案内
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・交通手段を使って目的地へ行くための表現を学ぶ ・Conversationの対話練習
	教室外学習(予習・復習)の内容	第7回授業の予習 ・Unit 4 : PHASE 2 Vocabulary Check ②を解く →授業時に解答確認 第7回授業の復習 ・Making Dialoguesの音読練習 & 和訳 →次回の授業時に確認 ・Key Expressionsの暗記 →次回の授業時に確認
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	Unit 5 Recommending a Trip : 観光スポットを薦める
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・日本の観光スポットを薦める表現を学ぶ ・Conversationの対話練習
	教室外学習(予習・復習)の内容	第8回授業の予習 ・Unit 5 : PHASE 1 Vocabulary Check ①を解く →授業時に解答確認 第8回授業の復習 ・PHASE 2 : Reading for Informationを解く →次回の授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	45分

第9回	**授業テーマ**	Unit 5 Recommending a Trip : 観光スポットを薦める & Unit 6 Dining in Japan : 日本食の紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Unit 5 Making Dialoguesの会話練習 ・Unit 6 代表的な日本料理を説明する会話表現を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第9回授業の予習 ・Unit 5 : PHASE 2 : Vocabulary Check ②を解く ・Unit 6 : PHASE 1 : Vocabulary Check ①を解く →授業時に解答確認 第9回授業の復習 ・Key Expressionsの暗記 →次回の授業時に確認
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	Unit 6 Dining in Japan : 日本食の紹介 ①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・食事の制限や好みを尋ねる表現を学ぶ ・Conversationの対話練習 ・箸のマナーについての英語表現を学ぶ（プリント配布）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第10回授業の予習 ・Unit 6 : PHASE 2 Vocabulary Check ②を解く →授業時に解答確認 第10回授業の復習 ・PHASE 2 : Reading for Informationを解く →次回の授業時に解答確認 ・箸のマナーについての英語表現の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	Unit 7 Dining in Japan : 日本食の紹介②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・気軽に楽しめる日本料理の英語表現を学ぶ ・Conversationの対話練習 ・英語で日本そばの食べ方を説明する練習（プリント配布）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第11回授業の予習 ・Unit 7 : PHASE 1 Vocabulary Check ①を解く →授業時に解答確認 第11回授業の復習 ・PHASE 2 : Reading for Informationを解く →次回の授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	Unit 7 Dining in Japan : 日本食の紹介②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・気軽に楽しめる日本料理の英語表現を復習する ・レストランやファストフード店での注文方法を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第12回授業の予習 ・Unit 7 : PHASE 1 Vocabulary Check ①を解く →授業時に解答確認 第12回授業の復習

		・レストランやファストフード店での注文方法を復習する
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	Review : Unit 1 ～ Unit 7までの総復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習到達度の確認テストに向けて、前期の授業内容を復習する ＊復習内容につては、受講者の希望を確認して決定する
	教室外学習(予習・復習)の内容	第13回授業の予習 ・学習到達度の確認テストに向けて、既習事項の復習を行う →疑問点を各自でまとめる 授業時に質疑応答の時間を設ける 第13回授業の復習 ・学習到達度の確認テストに向けて、既習事項の復習を行う →疑問点を各自でまとめる 授業時に質疑応答の時間を設ける
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	**授業テーマ**	まとめと学習到達度の確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業内容のまとめとして、 授業内で学修到達度を確認するためのテストを実施 →テスト後に解説を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	第14回授業の予習 ・学習到達度の確認テストに向けて、既習事項の復習を行う →疑問点を各自でまとめる 授業時に質疑応答の時間を設ける 第14回授業の復習 ・前期授業内容の復習を行うこと
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

履修者数、授業の進み具合もしくはその他の要因により、スケジュールに変更が生じることがある。
小テストについては、対面実施・オンライン実施ともに授業内もしくはGoogle Classroomを通してアナウンスを行う。
＊小テストの回数、実施方法は履修者数によるため「授業計画」では未記載だが、上記の通りに事前にアナウンスを行う

学生へのフィードバック方法

・小テスト（対面時）：基本的にその場で解答確認および解説を行い、回収
→次週の授業時に返却

・小テスト（Google Classroom配信）：テスト提出後にスコアおよび解説を各自で確認をする
→疑問点（質問）は、コメント欄より個別対応
（質問内容によっては次週の授業時にクラス全体に解説を行う）

評価方法

・小テストは授業内容の復習と位置づけて実施する
（小テストに関する追再試験は行わない）
・学習到達度の確認テストは、前期授業内容を中心として出題する

・小テスト及び学習到達度の確認テストは、下表に示す力を養うことを目的に実施する

＊小テストにはGoogle Classroomでの配信を含む

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
学習到達度の確認テスト	○	○		
小テスト	○	○		
平常点	○		○	
その他			○	

評価割合

小テスト・学習到達度の確認テスト 70%
平常点（学習意欲、履修態度など） 20%
その他（任意課題などの提出状況など） 10%

使用教科書名(ISBN番号)

タイトル：HOSPITALITY ON THE SCENE 現場から学ぶ 観光英語の実践レッスン
著者：上杉 恵美、他
出版社：金星堂
定価：2,300＋税
ISBN: 978-4-7647-4067-9

参考図書

必要に応じて、授業時に紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【意欲・態度】自身の考えを発信し、他者と積極的に意思疎通を行う能力がある。
【技能・表現】身近な話題について、平易な英語で意思疎通をする能力がある。

学生へのメッセージ

リスニング力強化の一環として洋楽の歌詞の書き取りなどを行います。
Google Classroom内では、英語を用いたクイズ（ことわざや四字熟語）、「とっさのひとこと」なども配信予定です。

Don't be afraid of making mistakes!

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ランダムにペアもしくはグループを作り、様々なテーマに沿った会話表現のOutputを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50803035
講義名	Listening & Speaking 1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13630C12

授業概要(教育目的)

英語を使ったコミュニケーション活動に必要な英語基礎力を身につけることを目標とする。英語が世界の共通語として使われている現代社会において、様々な場面・状況・話題に適切に対応できるようになることを目指し、基礎的でよく使われる英語の表現方法と英語の聴解力を向上させるためのポイントについて学習していく。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	英語のlisteningとspeakingを向上させるために必要な知識について、理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に関心を持ち、学習意欲を向上させることができる。
技術・表現の観点 (A)	英語で自分のことについて表現できるようになる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	Introduction
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方の説明を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit:1の1.Introductory Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	Unit:1 1.Introductory Readingの読解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit:1 Introducing YourselfのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。

第2回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	Unit:1 3.Listeningの音声を聞く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながらdictationを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で行ったListeningの部分のdictationの確認と復習をすること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	Unit:1 3.Listeningの音声を聞く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listeningの音声を聞きながらdictationを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で行ったListeningの部分のdictationの確認と復習をすること。 3.と4.の問題を解いてくること。5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	Unit:1 3.Listeningの内容の確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3.と4.の答え合わせと確認を行う。5.について練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 1で学んだことを基にActivity6で自分のことについて答える。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	自分のことについて表現する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Activity6の練習と発表を行う。 Activity7をまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Activity7について暗記する。 Unit:2 1 Introductory Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	自分のことについて発表する Unit:2 Introductory Readingの読解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Activity7の内容について発表する。 Unit:2 My Best FriendのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	Unit:2 3.Listeningの音声を聞く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながらdictationを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で行ったListeningの部分のdictationの確認と復習をすること。 3.と4.の問題を解いてくること。5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答える。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	Unit:2 3.Listeningの内容の確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3.と4.の答え合わせと確認を行う。5.について練習を行う。

第9回		Activity6の練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Activity7についてまとめ、暗記すること。 Unit:3 1.Introductory Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	自分のことについて発表する Unit:3 Introductory Readingの読解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Activity7の内容について発表する。 Unit:3 My Typical DayのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	Unit:3 3.Listeningの音声を聞く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながらdictationを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で行ったListeningの部分のdictationの確認と復習をすること。 3.と4.の問題を解いてくること。5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答える。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	Unit:3 3.Listeningの内容の確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3.と4.の答え合わせと確認を行う。5.について練習を行う。 Activity6の練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Activity7についてまとめ、暗記すること。 Unit:4 1.Introductory Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	自分のことについて発表する Unit:4 1.Introductory Readingの読解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Activity7の内容について発表する。 Unit:4 Shopping Habitsの1.Introductory Readingの内容について読解と解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	Unit:4 3.Listeningの音声を聞く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながらdictationを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの学習内容の総復習と確認を行い、定期試験に向けて準備をすること。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

＊履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

授業の始めに前の週の授業内容の確認と復習を行います。

評価方法

・各Unitの課題の発表ができているかどうか確認します。

・定期試験はIntrocductory Reading、Grammar Review、Vocabulary and Expressions、Activity6から出題します。
・ルーブリックに基づく成績評価を行います。
・ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配布等により指示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題発表	○		○	○
定期試験	○			

評価割合

定期試験70%、授業への積極的な参加と課題の発表30%で総合的に評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

Have a Nice Day! / Masayuki Aoki / 南雲堂

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】英語の読解力を向上させることで、これからの学習に必要な情報や知識を英語の文献からも得ることができる。
【技能・表現】英語で自分のことを表現することができる。

オフィスアワー

水曜日 2限 1610研究室

学生へのメッセージ

・授業で学んだことをしっかりと復習し、次回の授業内容についてもあらかじめ予習をしてきて下さい。
・授業に積極的に参加することを期待します。
・授業では英語の辞書を必ず持参し、わからないところはすぐに辞書で確認するようにして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		リスニングの内容をディクテーションする練習を行います。 自分のことを英語で表現する練習を行います。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50804001
講義名	Listening & Speaking 2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	高橋 幸子	指定なし

ナンバリング

X13642M12

授業概要(教育目的)

旅行や観光の場面などで、自信を持って話ができるように、英語のリスニング力やスピーキング力を伸ばすことを目的とする。発音の基礎、正確さ、流暢さに焦点を当てたアクティビティをすることによって、語彙力や表現力も伸ばしていく。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	観光と海外旅行に関する語彙や表現を覚える。 対話文やテキストの内容を理解する。
思考・判断の観点 (K)	身近な問題の英語表現を理解することが出来る。 自分の知らない世界の問題を、自分の問題として考え、違った文化における考え方を尊重する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	違った文化における事象や人々の考え方を理解しようとし、自分の思いや考えを相手に伝えようと努める。
技術・表現の観点 (A)	観光や海外旅行に関するテキストを理解し、易しい表現を使って、自分の感じたことや考えたことを表現できる。

学習計画

	授業テーマ	Session 1 Introduction Where shall we go?

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Introduction Choosing a vacation 授業の進め方 授業の進め方は、以下の順番で実施します。 1. Vocabulary 2. Listening and Speaking 3. Listening 4. Speaking 5. Listening and Speaking 6. Pronunciation 7. Speaking
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習して下さい。 EnglishCentral を使った教室外学習 オンライン学習システム EnglishCentral が利用できます。使い方については、授業中に説明します。 学習ログについても説明します。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	授業テーマ	Session 2 Just click there
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Booking a vacation
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全て EnglishCentral を使った教室外学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	Session 3 Let's get ready
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Packing and preparing
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全て EnglishCentral を使った教室外学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	授業テーマ	Session 4 Which gate?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	At the airport (Departing)
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全て EnglishCentral を使った教室外学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	Session 5 Where are the taxies?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	At the airport (Arriving)
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全て EnglishCentral を使った教室外学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	Session 6 Welcome!
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Checking in
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全て EnglishCentral を使った教室外学習

	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	**授業テーマ**	Session 7 This isn't right
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Resolving problems Mid-term test
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全て EnglishCentral を使った教室外学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	**授業テーマ**	Session 8 Let's work out
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Hotel facilities and services
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全て EnglishCentral を使った教室外学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	**授業テーマ**	Session 9 Where's the station?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	getting around town
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全て EnglishCentral を使った教室外学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	**授業テーマ**	Session 10 Look at that!
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Sights and tourist spots
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全て EnglishCentral を使った教室外学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	**授業テーマ**	Session 11 Why are they doing that?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Local culture
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全て EnglishCentral を使った教室外学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	**授業テーマ**	Session 12 It's delicious!
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Local food
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全て EnglishCentral を使った教室外学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	**授業テーマ**	Session 13 I don't feel good
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Medicine and health
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全て EnglishCentral を使った教室外学習

	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	**授業テーマ**	Session 14 How much is it? Where to next?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Shopping Reminiscing and future plans Final test
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全て EnglishCentral を使った教室外学習
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

Session 7 で Mid-term test
Session 14 で Final test

学生へのフィードバック方法

学生から回収したコメントや質問は、必要に応じてクラスで共有する。
紙による Mid -term test は、返却する。

評価方法

以下の総合点から評価する。
・平常点（ルーブリックに基づいた評価）
評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。
・Mid-term test
・Final test

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
Mid-term test	○	○		○
Final test	○	○		○

評価割合

平常点（個人またはグループ発表）50%
Mid-term test 20%
Final test 30%

使用教科書名(ISBN番号)

Where to next, 978-4-7919-7307-1

参考図書

各自今まで使用していた辞書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】母語とは違う言語の言語的知識を増やす。トピックの背景にあるものを理解する。自分の考え方と比較する。
【思考・判断】母語とは違う言語で得た新しい情報を、これまでの情報と比べて、相違点や一致点を判断する。
【関心・意欲・態度】自分の世界とは違う考え方に関心を持つ。自分の母語とは違う言語のテキストを聴き、自分の感じたことや考えたことを話そうと努める。
【技術・表現】母語ではない言語において、正確に、適切に、一貫性のある理解と表現をする。

オフィスアワー

水曜の４限

学生へのメッセージ

母語でない言語を使って、何かを理解したり、自分の感じたことや考えたことを表現することは、楽しいです。なにか具体的な短期目標を作りましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実生活に密着した授業の展開
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを中心とした学生主体の授業展開
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Webによる授業展開

講義コード	G50804002
講義名	Listening & Speaking 2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13642M12

授業概要(教育目的)

英語学習を通して異文化に対する視野を広げよう！この講座の狙いは、基本的な英会話の習得とともに
国際人としての感覚を身に着けることにあります。
①テキストを通じて日常英会話を学びます。それぞれの場面で最低限必要な英語表現を学習し、実際に発話できるように訓練します。合わせて、英文レター類の書き方なども学び、国際常識を身に着けることをも狙いとします。
②英語圏の文化、特にアメリカ現代文化への知識を深めていきます。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	英語圏の文化一般に特有の価値観についての理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	英語圏の歴史的・文化的背景や価値観を知ることで複眼的に思考し判断する態度を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らとは異なる他者を尊重し複眼的に理解する態度を養う。
技術・表現の観点 (A)	自らとは異なる他者を受容しつつ発信する英語コミュニケーション能力を涵養する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション Unit 11 Traveling
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・授業の進め方（ルーブリック評価について説明します） Part1 Warm-up Part2 Listening Patterns

	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：p51－52（テキストの指示に従って問題に解答しておくこと。以降、毎回同様に準備すること）
	教室外学習の時間（分）	30分
第2回	**授業テーマ**	Unit 1 Traveling
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Part2 Listening Patterns Part3 Usage Patterns Part4 Conversation Patterns ・現代アメリカに生きる女性たち―映画「プラダを着た悪魔」①
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：p51－52（前回の重要事項を確認し、解答できなかった問題に解答する。以降、毎回同様に復習すること。） 予習：p52－54
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	**授業テーマ**	Unit 12 Music
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Part1 Warm-up Part2 Listening Patterns Part3 Usage Patterns Part4 Conversation Patterns 映画②
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：p52－54 予習：ｐ55-58
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	**授業テーマ**	Unit 13 Movies
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Part1 Warm-up Part2 Listening Patterns Part3 Usage Patterns Part4 Conversation Patterns 映画③
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：p55－58 予習：p59-62
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	**授業テーマ**	Unit 14 Shopping
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Part1 Warm-up Part2 Listening Patterns Part3 Usage Patterns Part4 Conversation Patterns 映画④
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：p59－62 予習：p63-66
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	**授業テーマ**	Unit15 Internet ハロウィーンについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Part1 Warm-up Part2 Listening Patterns Part3 Usage Patterns ・ハロウィーンの由来 ・アニメ「スヌーピーたちのハロウィーン」一部視聴
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：p63－66 予習：p67-69
	教室外学習の時間（分）	40分

第7回	授業テーマ	Unit15 Internet Unit16 Weather
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit15 Part3 Usage Patterns Part4 Conversation Patterns Unit16 Part1 Warm-up Part2 Listening Patterns 映画⑤
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：p67－69 予習：p69-72
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	Unit16 Weather Unit17 Feelings
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit16 Part3 Usage Patterns Part4 Conversation Patterns Unit17 Part1 Warm-up Part2 Listening Patterns 映画⑥
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：p69－72 予習：p73-76
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	Unit17 Feelings Unit18 Government
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit16 Part3 Usage Patterns Part4 Conversation Patterns Unit17 Part1 Warm-up Part2 Listening Patterns 「映画の脚本を読んでみよう！」
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：p73－76 予習：p77－81 プリント「映画の脚本を読んでみよう！」を読解しておくこと
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	Unit18 Government
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit18 Part2 Listening Patterns Part3 Usage Patterns Part4 Conversation Patterns 「Devil Wears Pradaと20世紀欧米ファッション史」
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：p77－80 予習：p80－82
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	授業テーマ	Unit19 Art
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Part1 Warm-up Part2 Listening Patterns Part3 Usage Patterns Part4 Conversation Patterns

	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：p80－82 予習：p83－86
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	Unit20 The Future
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Part1 Warm-up Part2 Listening Patterns Part3 Usage Patterns Part4 Conversation Patterns
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：p83－86 予習：p87－90
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	場面別英会話：ショッピング クリスマスカードを書こう！ 現代アメリカ文化総まとめ①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ショッピングの際のスタッフとのやり取り ・クリスマスカードの作成 ・現代アメリカ文化総まとめ①－アメリカ現代史とロック・ポップスの歴史
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：p87－90 予習：「英文クリスマスメッセージ講座」のプリントを熟読し、クリスマスカードに書く内容を下書きしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	30分
第14回	**授業テーマ**	場面別英会話：ホテルライフ アメリカ現代文化総まとめ②－名演説にみるアメリカの社会と文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ホテルにおけるトラブル・シューティング ・リスニング＋リーディング：名演説にみるアメリカの社会と文化―オバマ前大統領とキング牧師の演説
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：前回の重要事項の確認 予習：プリントを熟読しておくこと
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

授業の実施状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。詳細は教室で指示します。

学生へのフィードバック方法

随時、小テストを実施します。実施した小テストは、翌週の授業冒頭で答え合わせし、講評します。

評価方法

・小テスト、受講態度、提出物などで総合的に判断します。
・小テストは、下表に示す力を養うことを目的とします。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○	○		○

評価割合

平常点１０％、小テスト９０％により評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

English Listening and Speaking Patterns 1
Andrew E. Bennett著
南雲堂
2000円（税別）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】異なる文化圏の歴史、文化、社会、生活習慣に関する知識をもって、より広い視野から物事を考える力を培う。
【技術・表現】学修で得たグローバルな知識や情報にもとづいて発信する英語コミュニケーション能力の基礎を培う。

学生へのメッセージ

世界の中にある日本、世界と共に歩む日本、そのようなことを常に意識しながら共に英語を学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50804007
講義名	Listening & Speaking 2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13641M12

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回
第2回
第3回
第4回
第5回
第6回
第7回
第8回
第9回
第10回
第11回
第12回
第13回
第14回

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
【思考・判断】
【関心・意欲・態度】
【技能・表現】

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	
アクティブ・ラーニング	○	
情報リテラシー教育	○	
ICT活用		

講義コード	G50804031
講義名	Listening & Speaking 2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	橋本 文子	指定なし

ナンバリング

X13640C12

授業概要(教育目的)

英語を使ったコミュニケーション活動に必要な英語基礎力を身につけることを目標とする。英語が世界の共通語として使われている現代社会において、様々な場面・状況・話題に適切に対応できるようになることを目指し、基礎的でよく使われる英語の表現方法と英語の聴解力を向上させるためのポイントについて学習していく。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	英語のlisteningとspeakingを向上させるために必要な知識について理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に関心を持ち、学習意欲を向上させることができる。
技術・表現の観点 (A)	英語で自分のことについて表現できる技術と表現を身につける。

学習計画

	授業テーマ	前期の学習内容の確認と復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期の授業の学習内容について確認と復習を行う。

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 13の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	Unit 13 機内で
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listening Sectionの音声を聞く。Reading Sectionを読み、Exerciseに答える。Grammar Sectionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 14の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	Unit 14 空港で
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listening Sectionの音声を聞く。Reading Sectionを読み、Exerciseに答える。Grammar Sectionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 15の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	Unit 15 ホテル
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listening Sectionの音声を聞く。Reading Sectionを読み、Exerciseに答える。Grammar Sectionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 16の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	Unit 16 レストランで
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listening Sectionの音声を聞く。Reading Sectionを読み、Exerciseに答える。Grammar Sectionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 17の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	Unit 17 ショッピング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listening Sectionの音声を聞く。Reading Sectionを読み、Exerciseに答える。Grammar Sectionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 18の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	Unit 18 ベースボール
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listening Sectionの音声を聞く。Reading Sectionを読み、Exerciseに答える。Grammar Sectionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 19の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	Unit 19 ミュージカル鑑賞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listening Sectionの音声を聞く。Reading Sectionを読み、Exerciseに答える。Grammar Sectionの答え合わせと解説を行う。

	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 20の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	Unit 20 旅行案内
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listening Sectionの音声を聞く。Reading Sectionを読み、Exerciseに答える。Grammar Sectionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 21の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	Unit 21 トラブル・シューティング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listening Sectionの音声を聞く。Reading Sectionを読み、Exerciseに答える。Grammar Sectionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 22の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	Unit 22 体調不良
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listening Sectionの音声を聞く。Reading Sectionを読み、Exerciseに答える。Grammar Sectionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 23の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	Unit 23 電話での申し込み
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listening Sectionの音声を聞く。Reading Sectionを読み、Exerciseに答える。Grammar Sectionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 24の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	Unit 24 さよなら、アメリカ！
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listening Sectionの音声を聞く。Reading Sectionを読み、Exerciseに答える。Grammar Sectionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの学習内容の復習をする。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	復習とまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Listening Sectionの音声を聞く。Reading Sectionを読み、Exerciseに答える。Grammar Sectionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの学習内容の総復習と確認を行い、定期試験に向けて準備をすること。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

＊履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

授業の始めに前の週の授業内容の確認と復習を行います。

評価方法

・予習をしっかりと行ってきているかどうか授業の中で確認します。
・予習をしっかりと行ってきているかどうかの平常点と、期末試験を合わせて評価します。

・ルーブリックに基づく成績評価を行います。
・ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配布等により指示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題発表	○	○	○	○
定期試験	○	○		

評価割合

定期試験70%、平常点（授業への積極的な参加と課題の発表）30%で総合的に評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

Forerunner to Power-Up English / JACET リスニング研究会 / 南雲堂 / 2024年

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】英語の読解力を向上させることで、これからの学習に必要な情報や知識を英語の文献からも得ることができる。
【技能・表現】英語で自分のことを表現することができる技術と表現を学ぶ。

オフィスアワー

水曜日 2限

学生へのメッセージ

・授業で学んだことをしっかりと復習し、次回の授業内容についてもあらかじめ予習をしてきて下さい。
・授業に積極的に参加することを期待します。
・授業では英語の辞書を必ず持参し、わからないところはすぐに辞書で確認するようにして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		リスニングの内容をディクテーションする練習を行います。 自分のことを英語で表現する練習を行います。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50804032
講義名	Listening & Speaking 2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13640C12

授業概要(教育目的)

英語を使ったコミュニケーション活動に必要な英語基礎力を身につけることを目標とする。英語が世界の共通語として使われている現代社会において、様々な場面・状況・話題に適切に対応できるようになることを目指し、基礎的でよく使われる英語の表現方法と英語の聴解力を向上させるためのポイントについて学習していく。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	英語のlisteningとspeakingを向上させるために必要な知識について理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に関心を持ち、学習意欲を向上させることができる。
技術・表現の観点 (A)	英語で自分のことについて表現できるようになる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	前期の学習内容の確認と復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期授業の学習内容について確認と復習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit:5 1.Introductory Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	Unit:5 1.Introductory Readingの読解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit:5 My Favorite Country 1.Introductory Readingの内容について読解と解説を行う。

第2回	教室外学習(予習・復習)の内容	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	Unit:5 3.Listeningの音声を聞く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながら、dictationを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	dictationの確認と復習をすること。 3と4の問題を解いてくること。5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答えること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	Unit:5 3.Listeningの内容の確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3と4の答え合わせと確認を行う。5の表現について練習する。Activity6で自分のことについて表現する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Activity7についてまとめ、暗記すること。 Unit:6 1.Introductory Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	自分のことについて発表する Unit:6 1.Introductory Readingの読解 Introductory Reading、Questions
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Activity7の内容について発表する。 Unit:6 On CampusのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。 Introductory Readingの内容について読解と解説を行う。 Questionsの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	Unit:6 3.Listeningの音声を聞く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながらdictationを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	dictationの確認と復習をすること。 3と4の問題を解いてくること。5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答えること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	Unit:6 3.Listeningの内容の確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3と4の答え合わせと説明を行う。5の表現について練習を行う。6で自分のことについて表現する練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Activity7についてまとめ、暗記すること。 Unit:7の1.Introductory Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	自分のことについて発表する Unit:7 Introductory Readingの読解 1.Introductory Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Activity7の内容について発表する。 Unit:7 My Favorite DishのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。

		Questionsの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	Unit:7 3.Listeningの音声を聞く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながら、dictationを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	dictationの確認と復習をすること。 3と4の問題を解いてくること。5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 6で自分のことについて答えること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	Unit:7 3.Listeningの内容の確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3と4の答え合わせと説明を行う。5の表現について練習する。6で自分のことについて表現する練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Activity7についてまとめ、暗記すること。 Unit:8 1.Introductory Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	自分のことについて発表する Unit:8 Introductory Readingの読解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Activity7の内容について発表する。 Unit:8 My First Foreign LanguageのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。 Questionsの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	Unit:8 3.Listeningの音声を聞く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながら、dictationを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	dictationの確認と復習をすること。 3と4の問題を解いてくること。5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答えること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	Unit:8 3.Listeningの内容の確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3と4の答え合わせと確認を行う。5について練習を行う。 Activity6の練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Activity7についてまとめ、暗記すること。 Unit:9 1.Introductory Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	自分のことについて発表する Unit:9 1.Introductory Readingの読解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Activity7の内容について発表する。 Unit:9 In the KitchenのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。

	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業内容の総復習と確認を行い、定期試験に向けて準備をすること。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

＊履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

授業では、次回の学習内容について予習を行ってきた内容について各学生に答えてもらうことで、予習してきた内容がどのくらいできているのかどうか各自に確認してもらう作業となります。

評価方法

・予習をしっかりと行ってきているかどうか授業の中で確認します。
・予習をしっかりと行ってきているかどうかの平常点と、期末試験を合わせて評価します。
・ルーブリックに基づく成績評価を行います。
・ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配布等により指示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
教科書の各課題	○	○	○	○
期末試験	○	○		

評価割合

定期試験70%、授業への積極的な参加と課題の発表30%で総合的に評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

Have a Nice Day! / Masayuki Aoki / 南雲堂

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】英語の読解力を向上させることで、これからの学習に必要な情報や知識を英語の文献からも得ることができる。
【技能・表現】英語で自分のことを表現することができる。

オフィスアワー

水曜日 2限

学生へのメッセージ

・授業で学んだことをしっかりと復習し、次回の授業内容についてもあらかじめ予習をしてきて下さい。
・授業に積極的に参加することを期待します。
・授業では英語の辞書を必ず持参し、わからないところはすぐに辞書で確認するようにして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		リスニングの内容をディクテーションする練習を行います。 自分のことを英語で表現する練習を行います。

情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50804033
講義名	Listening & Speaking 2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13640C12

授業概要(教育目的)

英語を使ったコミュニケーション活動に必要な英語基礎力を身につけることを目標とする。英語が世界の共通語として使われている現代社会において、様々な場面・状況・話題に適切に対応できるようになることを目指し、基礎的でよく使われる英語の表現方法と英語の聴解力を向上させるためのポイントについて学習していく。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	英語のlisteningとspeakingを向上させるために必要な知識について理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に関心を持ち、学習意欲を向上させることができる。
技術・表現の観点 (A)	英語で自分のことについて表現できるようになる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	前期の学習内容の確認と復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期授業の学習内容について確認と復習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit:5 1.Introductory Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	Unit:5 1.Introductory Readingの読解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit:5 My Favorite Country 1.Introductory Readingの内容について読解と解説を行う。

第2回	教室外学習(予習・復習)の内容	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	Unit:5 3.Listeningの音声を聞く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながら、dictationを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	dictationの確認と復習をすること。 3と4の問題を解いてくること。5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答えること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	Unit:5 3.Listeningの内容の確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3と4の答え合わせと確認を行う。5の表現について練習する。Activity6で自分のことについて表現する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Activity7についてまとめ、暗記すること。 Unit:6 1.Introductory Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	自分のことについて発表する Unit:6 1.Introductory Readingの読解 Introductory Reading、Questions
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Activity7の内容について発表する。 Unit:6 On CampusのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。 Introductory Readingの内容について読解と解説を行う。 Questionsの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	Unit:6 3.Listeningの音声を聞く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながらdictationを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	dictationの確認と復習をすること。 3と4の問題を解いてくること。5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答えること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	Unit:6 3.Listeningの内容の確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3と4の答え合わせと説明を行う。5の表現について練習を行う。6で自分のことについて表現する練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Activity7についてまとめ、暗記すること。 Unit:7の1.Introductory Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	自分のことについて発表する Unit:7 Introductory Readingの読解 1.Introductory Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Activity7の内容について発表する。 Unit:7 My Favorite DishのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。

		Questionsの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	Unit:7 3.Listeningの音声を聞く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながら、dictationを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	dictationの確認と復習をすること。 3と4の問題を解いてくること。5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 6で自分のことについて答えること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	Unit:7 3.Listeningの内容の確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3と4の答え合わせと説明を行う。5の表現について練習する。6で自分のことについて表現する練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Activity7についてまとめ、暗記すること。 Unit:8 1.Introductory Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	自分のことについて発表する Unit:8 Introductory Readingの読解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Activity7の内容について発表する。 Unit:8 My First Foreign LanguageのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。 Questionsの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	Unit:8 3.Listeningの音声を聞く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながら、dictationを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	dictationの確認と復習をすること。 3と4の問題を解いてくること。5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答えること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	Unit:8 3.Listeningの内容の確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3と4の答え合わせと確認を行う。5について練習を行う。 Activity6の練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Activity7についてまとめ、暗記すること。 Unit:9 1.Introductory Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	自分のことについて発表する Unit:9 1.Introductory Readingの読解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Activity7の内容について発表する。 Unit:9 In the KitchenのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。

	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業内容の総復習と確認を行い、定期試験に向けて準備をすること。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

＊履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

授業では、次回の学習内容について予習を行ってきた内容について各学生に答えてもらうことで、予習してきた内容がどのくらいできているのかどうか各自に確認してもらう作業となります。

評価方法

・予習をしっかりと行ってきているかどうか授業の中で確認します。
・予習をしっかりと行ってきているかどうかの平常点と、期末試験を合わせて評価します。
・ルーブリックに基づく成績評価を行います。
・ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配布等により指示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
教科書の各課題	○	○	○	○
期末試験	○	○		

評価割合

定期試験70%、授業への積極的な参加と課題の発表30%で総合的に評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

Have a Nice Day! / Masayuki Aoki / 南雲堂

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】英語の読解力を向上させることで、これからの学習に必要な情報や知識を英語の文献からも得ることができる。
【技能・表現】英語で自分のことを表現することができる。

オフィスアワー

水曜日 2限

学生へのメッセージ

・授業で学んだことをしっかりと復習し、次回の授業内容についてもあらかじめ予習をしてきて下さい。
・授業に積極的に参加することを期待します。
・授業では英語の辞書を必ず持参し、わからないところはすぐに辞書で確認するようにして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		リスニングの内容をディクテーションする練習を行います。 自分のことを英語で表現する練習を行います。

情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50804034
講義名	Listening & Speaking 2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13641C12

授業概要(教育目的)

この授業では、訪日外国人（客）に英語で対応する際に必要となる基本的な表現を学び、繰り返し練習をすることで英語による適切かつスムーズなやり取りを自信を持って行えるようにする。
また、正しい英文法を通してスピーキング・リスニング・ライティング能力の底上げを行い、様々な英語表現をバランスよく身に着けることを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	まとまった量の英文を聞き、主旨や大意をある程度、理解できる。 観光英語を学ぶことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	進行状況により取り入れる洋楽や海外ドラマを通して、英語そのものや異文化への興味を深めることができる。
技術・表現の観点 (A)	身近な話題を平易な英文である程度、表現できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	後期授業ガイダンス & 和製英語 Part 2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	【ルーブリックについて説明します】 ・成績評価、テキスト、授業の進め方 ・予習、復習について ・Classroom English →授業内で使用する表現 ・自己紹介の表現を学ぶ ・和製英語の確認
		第1回授業の予習

	教室外学習(予習・復習)の内容	・特になし 第1回授業の復習 ・Classroom Englishを暗記する
	教室外学習の時間（分）	30分
第2回	**授業テーマ**	Unit 8 Arranging a Tour : 国内旅行の手配
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・日帰りバスツアーの手配方法を学ぶ ・Conversationの対話練習
	教室外学習(予習・復習)の内容	第2回授業の予習 ・Unit 8 : PHASE 1 Vocabulary Check ①を解く →授業時に解答確認 第2回授業の復習 ・Unit 8 PHASE 2 : Reading for Informationを解く →次回の授業時に解答確認 ・Key Expressionsの暗記 →次回の授業時に確認
	教室外学習の時間（分）	30分
第3回	**授業テーマ**	Unit 8 Arranging a Tour : 国内旅行の手配について & Unit 9 Staying at a Ryokan : 旅館について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Unit 8 ツアーに関する会話練習 ・Unit 9 旅館の説明と案内の仕方を学ぶ ・旅館内でのマナーについて英語で説明する （プリント配布）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回授業の予習 ・Unit 8 : PHASE 2 : Vocabulary Check ②を解く ・Unit 9 : PHASE 1 : Vocabulary Check ①を解く →授業時に解答確認 第3回授業の復習 ・ホテルの受付とお客様の会話表現の音読復習
	教室外学習の時間（分）	30分
第4回	**授業テーマ**	Unit 9 Staying at a Ryokan : 旅館について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・旅館でのマナーを学ぶ ・Conversationの対話練習
	教室外学習(予習・復習)の内容	第4回授業の予習 ・Unit 9 : PHASE 2 Vocabulary Check ②を解く →授業時に解答確認 第4回授業の復習 ・Making Dialoguesの音読練習 & 和訳 →次回の授業時に確認
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	Unit 10 Culture Experience in Japan : 日本文化体験① ・英語で日本文化体験について説明する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Conversationの対話練習
		第5回授業の予習 ・Unit 10 : PHASE 1 Vocabulary Check ①を解く →授業時に解答確認 第5回授業の復習

	教室外学習(予習・復習)の内容	・Unit 10 PHASE 2 : Reading for Informationを解く →次回の授業時に解答確認 ・Key Expressionsの暗記 →次回の授業時に確認
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	Unit 10 Culture Experience in Japan : 日本文化体験① & Unit 11 Culture Experience in Japan : 日本文化体験②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Unit 10 英語でお花見のマナーを説明する練習（プリント配布） ・Unit 11 英語で日本の年中行事を説明する練習
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6回授業の予習 ・Unit 10 : PHASE 2 : Vocabulary Check ②を解く ・Unit 11 : PHASE 1 : Vocabulary Check ①を解く →授業時に解答確認 第6回授業の復習 ・ホテルの受付とお客様の会話表現の音読復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	Unit 11 Culture Experience in Japan : 日本文化体験②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・英語で手持ち花火のマナーを説明する（プリント配布） ・Conversationの対話練習 ・歌舞伎（役柄）について英語で説明する練習
	教室外学習(予習・復習)の内容	第7回授業の予習 ・Unit 11 : PHASE 2 Vocabulary Check ②を解く →授業時に解答確認 第7回授業の復習 ・Making Dialoguesの音読練習 & 和訳 →次回の授業時に確認
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	Unit 12 Japanese Souvenirs : ショッピング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・英語でお土産の紹介をする練習 ・Conversationの対話練習
	教室外学習(予習・復習)の内容	第8回授業の予習 ・Unit 12 : PHASE 1 & 2 Vocabulary Check ①, ②を解く →授業時に解答確認 第8授業の復習 ・Key Expressionsの暗記 →次回の授業時に確認
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	Unit 13 Dealing with Health Problems and Emergencies : けがや病気の対応
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・病気やけがの表現を学ぶ ・Conversationの対話練習

第9回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	第9回授業の予習 ・Unit 13 : PHASE 1 Vocabulary Check ①を解く →授業時に解答確認 第9回授業の復習 ・けがや病気表現の復習 ・Key Expressionsの暗記 →次回の授業時に確認
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	Unit 13 Dealing with Health Problems and Emergencies : けがや病気の対応
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・病気やけがの表現の復習 ・身体の各部分の英語表現の確認
	教室外学習(予習・復習)の内容	第10回授業の予習 ・Unit 13 : PHASE 2 Vocabulary Check ②を解く →授業時に解答確認 第10回授業の復習 ・身体の各部分の英語表現の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	Unit 14 Dealing with Complaints and Accidents : クレームやアクシデントの対応
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・英語で設備や備品のクレーム対応を学ぶ ・Conversationの対話練習
	教室外学習(予習・復習)の内容	第11回授業の予習 ・Unit 14 : PHASE 1 Vocabulary Check ①を解く →授業時に解答確認 第11回授業の復習 ・Key Expressionsの暗記 →次回の授業時に確認
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	nit 14 Dealing with Complaints and Accidents : クレームやアクシデントの対応 & Unit 15 Upon Departure : 帰国に際して
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Unit 14 英語で遺失物に対応する練習 ・Unit 15 英語でチェックアウトに関する表現を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第12回授業の予習 ・Unit 14 : PHASE 2 : Vocabulary Check ②を解く ・Unit 15 : PHASE 1 : Vocabulary Check ①を解く →授業時に解答確認 第12回授業の復習 ・チェックアウト時の会話表現の音読復習
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	Unit 15 Upon Departure : 帰国に際して
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Unit 2 チェックイン時の会話表現の復習 ・Conversationの対話練習
		第13回授業の予習 ・Unit 15 : PHASE 2 Vocabulary Check ②を解く →授業時に解答確認

第13回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	第13回授業の復習 ・学習到達度の確認テストに向けて、既習事項の復習を行う →疑問点を各自でまとめる 授業時に質疑応答の時間を設ける
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	**授業テーマ**	まとめと学習到達度の確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業内容のまとめとして、 授業内で学修到達度を確認するためのテストを実施 →テスト後に解説を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	第14回授業の予習 ・学習到達度の確認テストに向けて、既習事項の復習を行う →疑問点を各自でまとめる 授業時に質疑応答の時間を設ける 第14回授業の復習 ・後期授業内容の復習を行うこと
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

履修者数、授業の進み具合もしくはその他の要因により、スケジュールに変更が生じることがある。
小テストについては、対面実施・オンライン実施ともに授業内もしくはGoogle Classroomを通してアナウンスを行う。
＊小テストの回数、実施方法は履修者数によるため「授業計画」では未記載だが、上記の通りに事前にアナウンスを行う

学生へのフィードバック方法

・小テスト（対面時）：基本的にその場で解答確認および解説を行い、回収
→次週の授業時に返却

・小テスト（Google Classroom配信）：テスト提出後にスコアおよび解説を各自で確認をする
→疑問点（質問）は、コメント欄より個別対応
（質問内容によっては次週の授業時にクラス全体に解説を行う）

評価方法

・小テストは授業内容の復習と位置づけて実施する
（小テストに関する追再試験は行わない）
・学習到達度の確認テストは、後期授業内容を中心として出題する
・小テスト及び学習到達度の確認テストは、下表に示す力を養うことを目的に実施する

＊小テストにはGoogle Classroomでの配信を含む

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
学習到達度の確認テスト	○	○		
小テスト	○	○		
平常点	○		○	
その他	○		○	

評価割合

小テスト・学習到達度の確認テスト 70%
平常点（学習意欲、履修態度など） 20%
その他（任意課題などの提出状況など） 10%

使用教科書名(ISBN番号)

タイトル：HOSPITALITY ON THE SCENE 現場から学ぶ 観光英語の実践レッスン
著者：上杉 恵美、他
出版社：金星堂
定価：2,300＋税
ISBN: 978-4-7647-4067-9

参考図書

必要に応じて、授業時に紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【意欲・態度】自身の考えを発信し、他者と積極的に意思疎通を行う能力がある。
【技能・表現】身近な話題について、平易な英語で意思疎通をする能力がある。

学生へのメッセージ

リスニング力強化の一環として洋楽の歌詞の書き取りなどを行います。
Google Classroom内では、英語を用いたクイズ（ことわざや四字熟語）、
「とっさのひとこと」なども配信予定です。

Don't be afraid of making mistakes!

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ランダムにペアもしくはグループを作り、様々なテーマに沿った会話表現のOutputを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50804035
講義名	Listening & Speaking 2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13640C12

授業概要(教育目的)

英語を使ったコミュニケーション活動に必要な英語基礎力を身につけることを目標とする。英語が世界の共通語として使われている現代社会において、様々な場面・状況・話題に適切に対応できるようになることを目指し、基礎的でよく使われる英語の表現方法と英語の聴解力を向上させるためのポイントについて学習していく。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	英語のlisteningとspeakingを向上させるために必要な知識について理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に関心を持ち、学習意欲を向上させることができる。
技術・表現の観点 (A)	英語で自分のことについて表現できるようになる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	前期の学習内容の確認と復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期授業の学習内容について確認と復習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit:5 1.Introductory Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	Unit:5 1.Introductory Readingの読解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit:5 My Favorite Country 1.Introductory Readingの内容について読解と解説を行う。

第2回	教室外学習(予習・復習)の内容	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	Unit:5 3.Listeningの音声を聞く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながら、dictationを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	dictationの確認と復習をすること。 3と4の問題を解いてくること。5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答えること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	Unit:5 3.Listeningの内容の確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3と4の答え合わせと確認を行う。5の表現について練習する。Activity6で自分のことについて表現する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Activity7についてまとめ、暗記すること。 Unit:6 1.Introductory Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	自分のことについて発表する Unit:6 1.Introductory Readingの読解 Introductory Reading、Questions
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Activity7の内容について発表する。 Unit:6 On CampusのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。 Introductory Readingの内容について読解と解説を行う。 Questionsの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	Unit:6 3.Listeningの音声を聞く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながらdictationを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	dictationの確認と復習をすること。 3と4の問題を解いてくること。5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答えること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	Unit:6 3.Listeningの内容の確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3と4の答え合わせと説明を行う。5の表現について練習を行う。6で自分のことについて表現する練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Activity7についてまとめ、暗記すること。 Unit:7の1.Introductory Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	自分のことについて発表する Unit:7 Introductory Readingの読解 1.Introductory Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Activity7の内容について発表する。 Unit:7 My Favorite DishのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。

		Questionsの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	Unit:7 3.Listeningの音声を聞く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながら、dictationを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	dictationの確認と復習をすること。 3と4の問題を解いてくること。5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 6で自分のことについて答えること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	Unit:7 3.Listeningの内容の確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3と4の答え合わせと説明を行う。5の表現について練習する。6で自分のことについて表現する練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Activity7についてまとめ、暗記すること。 Unit:8 1.Introductory Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	自分のことについて発表する Unit:8 Introductory Readingの読解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Activity7の内容について発表する。 Unit:8 My First Foreign LanguageのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。 Questionsの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	Unit:8 3.Listeningの音声を聞く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながら、dictationを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	dictationの確認と復習をすること。 3と4の問題を解いてくること。5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答えること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	Unit:8 3.Listeningの内容の確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3と4の答え合わせと確認を行う。5について練習を行う。 Activity6の練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Activity7についてまとめ、暗記すること。 Unit:9 1.Introductory Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	自分のことについて発表する Unit:9 1.Introductory Readingの読解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Activity7の内容について発表する。 Unit:9 In the KitchenのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。

	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業内容の総復習と確認を行い、定期試験に向けて準備をすること。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

＊履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

授業では、次回の学習内容について予習を行ってきた内容について各学生に答えてもらうことで、予習してきた内容がどのくらいできているのかどうか各自に確認してもらう作業となります。

評価方法

・予習をしっかりと行ってきているかどうか授業の中で確認します。
・予習をしっかりと行ってきているかどうかの平常点と、期末試験を合わせて評価します。
・ルーブリックに基づく成績評価を行います。
・ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配布等により指示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
教科書の各課題	○	○	○	○
期末試験	○	○		

評価割合

定期試験70%、授業への積極的な参加と課題の発表30%で総合的に評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

Have a Nice Day! / Masayuki Aoki / 南雲堂

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】英語の読解力を向上させることで、これからの学習に必要な情報や知識を英語の文献からも得ることができる。
【技能・表現】英語で自分のことを表現することができる。

オフィスアワー

水曜日 2限

学生へのメッセージ

・授業で学んだことをしっかりと復習し、次回の授業内容についてもあらかじめ予習をしてきて下さい。
・授業に積極的に参加することを期待します。
・授業では英語の辞書を必ず持参し、わからないところはすぐに辞書で確認するようにして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		リスニングの内容をディクテーションする練習を行います。 自分のことを英語で表現する練習を行います。

情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50805001
講義名	Reading & Writing 1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	高橋 幸子	指定なし

ナンバリング

X13650M12

授業概要(教育目的)

人々が日常的に経験するトピックを通じて、英語のコミュニケーション能力を伸ばすことを目的とする。英語の受容的能力（リスニング力とリーディング力）と産出的能力（スピーキング力とライティング力）を十分に運用していく。トピックは、ホームタウン、家族、ショッピング、計画など、多岐にわたる。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日常生活に関する英語の言語的知識（語彙と文法）を増やす。 異なった言語・文化のテキストを聴いたり読んだりして、背景にあるものを理解する。 英語の談話のつながりに気づく。
思考・判断の観点 (K)	英語を使った情報を整理し、多様な角度から検討した上で、論理的・客観的に自分の意見を述べるための批判的思考力を持つ。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日常生活に関する英語表現に関心を持ち、理解しようとする。 自分が感じたことや考えを、英語で表現する意欲を持つ。
技術・表現の観点 (A)	身近な話題に関する英語表現を理解し、易しい英語を使って、自分の感じたことや考えを表現できるようになる。

学習計画

		Session 1 自己紹介

第1回	授業テーマ	授業の進め方 Nice to meet you
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己紹介 授業の進め方を説明しながら、Unit 1 Nice to see you を進めます。 Talking about ourselves
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習して下さい。 EnglishCentral を利用して、復習をします。 EnglishCentral の使い方は、授業中に説明します。学習ログもつけていきます。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	授業テーマ	Session 2 What do you like to do?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about hobbies and pastimes
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	Session 3 Where are you from?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about hometowns
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	授業テーマ	Session 4 Who's that?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about family
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	Session 5 Where's that?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about places and sights
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentraol を使った学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	Session 6 How do you get there?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about transportation and directions
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	Session 7 Are you hungry?

		Mid-term test
第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about food Mid-term test の実施
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentarlを使った学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	Session 8 Let's eat!
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about restaurants and meals
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	Session 9 What are you watching?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about movies and TV
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	授業テーマ	Session 10 What music do you like?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about music
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	授業テーマ	Session 11 How much is it?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about shopping
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentarl を使った学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	授業テーマ	Session 12 Let's play
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about sports and exercise
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	授業テーマ	Session 13 Where are you going?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about travel and vacations
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	50分

第14回	授業テーマ	Session 14 Do you work? What do you want to do? Final test
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about work and jobs Talking about plans Fainal test の実施
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

Session 7 で Mid-term test
Session 14 で Final test

学生へのフィードバック方法

学生から回収したコメントや質問は、必要に応じてクラスで共有する。
紙による Mid -term test は、返却する。

評価方法

以下の総合点から評価する。
・平常点（学習ログとルーブリックに基づいた評価）
評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。
・Mid-term test
・Final test

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
Mid-term test	○	○		○
Final test	○	○		○

評価割合

平常点（学習ログ＋ルーブリックによる評価）50%
Mid-term test 20%
Final test 30%

使用教科書名(ISBN番号)

Complete Communication Book 1, 978-4-7919-7241-8

参考図書

各自今まで使用していた辞書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
英語の言語的・社会言語的・談話的知識を増やす。
トピックの背景にあるものを理解する。
【思考・判断】
英語で得た新しい情報を、今まで持っている情報と比べて、相違点や一致点について考える。
【関心・意欲・態度】
自分の世界とは違う考え方に関心を持ち、違った文化の考え方を尊重する。
英語を理解し、英語で発信する意欲を持つ。

【技能・表現】
英語において、正確に、適切に、一貫性のある理解と表現をする。

オフィスアワー

水曜の４限

学生へのメッセージ

言語の習得は、積み重ねが必要な根気が要る学びですが、その過程を楽しいものにしましょう。母語でない言語を使って、何かを理解したり、自分の感じたことや考えたことを表現できることは、楽しいものです。具体的な目標を作って、楽しく学習しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実生活に密着した授業の展開
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを中心とした学生主体の授業展開
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Webを利用した授業外活動

講義コード	G50805032
講義名	Reading & Writing 1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	橋本 文子	指定なし

ナンバリング

X13650C12

授業概要(教育目的)

外国語を習得するためには、発音や語彙の学習はもちろん、その言語の文法を十分に学習することが必要です。この授業では、まず高校までに学んだ英語の文法の確認と復習から始めます。そして、文法について理解できているかを確認するため、作文を含めたさまざまな練習問題を解き、その定着を図っていきます。また、平易な英語の文章を読みながら、英語の表現に親しんでいきます。英文法の知識を確実にすることで、英語のreadingとwritingの能力の向上を目指します。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	英語のreadingとwritingに必要な文法知識について理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に関心を持ち、学習意欲を向上させることができる。
技術・表現の観点 (A)	英語で自分のことについて表現できるようになる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	Introduction
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方の説明を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 1の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分

第2回	授業テーマ	Unit 1 be動詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 1 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 2の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	Unit 2 一般動詞（現在）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 2 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 3の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	Unit 3 一般動詞（過去）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 3 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 4の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	Unit 4 進行形
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 4 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 5の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	Unit 5 未来形
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 5 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 6の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	Unit 6 助動詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 6 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 7の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	Unit 7 名詞・冠詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 7 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 8の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	Unit 8 代名詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 8 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 9の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	Unit 9 前置詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 9 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 10の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	Unit 10 形容詞・副詞

第11回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 10 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 11の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	Unit 11 比較
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 11 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 12の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	Unit 12 命令文・感嘆文
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 12 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 13の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	Unit 13 接続詞（I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 13 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの学習内容の総復習と確認を行い、定期試験に向けて準備をすること。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

＊履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

毎時間練習問題の答え合わせと解説を行い、学習内容の定着を図ります。

評価方法

・教科書の各練習問題ができているかどうか確認します。
・定期試験は文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題から出題します。
・ルーブリックに基づく成績評価を行います。
・ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配布等により指示をします。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
教科書の課題	○		○	○
定期試験	○			

評価割合

定期試験70%、課題と授業への積極的な参加30%で総合的に評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

English Primer〈Revised Edition〉 / Tetsuzo Sato, Yukari Aiko / 南雲堂

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】英文法をしっかりと理解することで、英語の読解力と英語を書く力を向上させ、英語の文献からも必要な情報や知識を得ることができる。
【技能・表現】英語で自分のことを表現できる。

オフィスアワー

水曜日 2限 1610研究室

学生へのメッセージ

・授業で学んだことをしっかりと復習し、また次回の授業内容についてもあらかじめ予習してきて下さい。
・授業に積極的に参加することを期待します。
・授業では英語の辞書を必ず持参し、わからないところはすぐに辞書で確認するようにして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		Readingのテーマについて考える。 英作文の練習を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50806001
講義名	Reading & Writing 2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	高橋 幸子	指定なし

ナンバリング

X13650M12

授業概要(教育目的)

人々が日常的に経験するトピックを通じて、英語のコミュニケーション能力を伸ばすことを目的とする。日本に住む英語学習者が海外の若者の生活に触れて、世界の国々の基本知識や文化を学んでいくという設定としている。関連する語彙や文法を無理なく学び、同時に英語の受容的能力（リスニング力とリーディング力）や産出的能力（スピーキング力とライティング力）を伸ばしていく。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	英語の語彙と文法の知識を増やす。 異なった言語背景・文化背景のテキストを聴いたり読んだりして、理解する。
思考・判断の観点 (K)	英語を使った情報を整理し、多様な角度から検討した上で、論理的・客観的に自分の意見を述べるための批判的思考力をつける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	身近な話題に関する英語表現に関心を持ち、理解しようとする。 自分が感じたことや考えを英語で表現しようとする。
技術・表現の観点 (A)	身近な話題に関する英語表現を理解し、易しい英語を使って、自分の感じたことや考えを表現できるようになる。

学習計画

		Session 1 Introduction

第1回	授業テーマ	授業の進め方 Italy
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方 The start of Pizza Margherita 文法項目：Verb
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習は、復習中心です。 授業中に学習した全てを復習してください。 特に、最後に完成させたモノローグを、暗唱できるぐらいに音読しましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	授業テーマ	Session 2 Malaysia
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	The name of Kuala Lumpur 文法項目：人称代名詞・冠詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	Session 3 The UK
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	The Beatles Audition 文法項目：助動詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	授業テーマ	Session 4 Egypt
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Exploring the Great Sphinx 文法項目：受動態
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	Session 5 Germany
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Founders of Addidas and Puma 文法項目：現在完了
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	Session 6 New Zealand
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	The Haka Dance Legacy 文法項目：進行形
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	Session 7 Thailand Mid-term test
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	The Land of smiles

	教育・ICT活用を含む)	Mid-term test を実施します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	Session 8 The USA
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	The gift of the Statue of Liberty 文法項目：最上級
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	Session 9 Finland
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	Saunas Worldwide 文法項目：不定詞・動名詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	授業テーマ	Session 10 Belgium
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	The logo of Godiva 文法項目：使役動詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	授業テーマ	Session 11 Kenia
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	The secret of distance runners 文法項目：仮定法
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	授業テーマ	Session 12 France
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	The house of Coco Chanel 文法項目：関係代名詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	授業テーマ	Session 13 Ireland
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	The Guinness Book and beer 文法項目：接続詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	授業テーマ	Session 14 Peru Final test
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	The lost city of the Incas Final test を実施します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

Session 7 で Mid-term test
Session 14 で Final test

学生へのフィードバック方法

学生から回収したコメントや質問は、必要に応じてクラスで共有する。
紙による Mid -term test は、返却する。

評価方法

以下の総合点から評価する。
・平常点（ルーブリックに基づいた評価）
当該授業のClassroom にルーブリックの評価基準を表示します。
・Mid-term test
・Final test

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
Mid-term test	○	○		○
Final test	○	○		○

評価割合

平常点（ルーブリックによる評価）50%
Mid-term test 20%
Final test 30%

使用教科書名(ISBN番号)

English across the world, 978-4-7919-7301-9

参考図書

各自今まで使用していた辞書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
英語の言語的・社会言語的・談話的知識を増やす。
トピックの背景にあるものを理解する。
【思考・判断】
英語で得た新しい情報を、今まで持っている情報と比べて、相違点や一致点について考える。
【関心・意欲・態度】
自分の世界とは違う考え方に関心を持ち、違った文化の考え方を尊重する。
英語を理解し、英語で発信する意欲を持つ。
【技能・表現】
英語において、正確に、適切に、一貫性のある理解と表現をする。

オフィスアワー

水曜の４限

学生へのメッセージ

語学の習得は、積み重ねが必要な根気が要る学びですが、その過程を楽しいものにしましょう。母語でない言語を使って、何かを理解したり、自分の感じたことや考えたことを表現できることは、楽しいことです。具体的な目標を作って、楽しく学習しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実生活に密着した授業の展開
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを中心とした学生主体の授業展開

情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Webを利用した授業外活動

講義コード	G50806031
講義名	Reading & Writing 2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13650C12

授業概要(教育目的)

外国語を習得するためには、発音や語彙の学習はもちろん、その言語の文法を十分に学習することが必要です。この授業では、まず高校までに学んだ英語の文法の確認と復習から始めます。そして、文法について理解できているかを確認するため、作文を含めたさまざまな練習問題を解き、その定着を図っていきます。また、平易な英語の文章を読みながら、英語の表現に親しんでいきます。英文法の知識を確実にすることで、英語のreadingとwritingの能力の向上を目指します。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	英語のreadingとwritingに必要な文法知識について理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に関心を持ち、学習意欲を向上させることができる。
技術・表現の観点 (A)	英語で自分のことについて表現できるようになる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	前期の学習内容の確認と復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期の学習内容について確認と復習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 14の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	Unit 14 不定詞(I)・動名詞(I)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 14 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 15の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	Unit 15 受動態

第3回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 15 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 16の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	Unit 16 完了形
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 16 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 17の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	Unit 17 接続詞（II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 17 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 18の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	Unit 18 5つの基本文型
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 18 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 19の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	Unit 19 各種疑問文
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 19 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 20の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	Unit 20 不定詞（II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 21 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 21の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	Unit 21 Itの特別用法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 21 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 22の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	Unit 22 分詞・動名詞（II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 22 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 23の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	Unit 23 関係代名詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 23 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 24の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	Unit 24 仮定法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 24 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題

	教室外学習(予習・復習)の内容	プリント（前置詞・接続詞 (I))の文法問題の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	プリント（前置詞・接続詞 (I))の文法問題の解説と答え合わせ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プリント（前置詞・接続詞 (I)) Grammar Check, Exercises, Composition
	教室外学習(予習・復習)の内容	プリント（前置詞・接続詞 (I)) Reading Comprehension I, Reading Comprehension IIの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	プリント（前置詞・接続詞 (I)) Reading Comprehension I, Reading Comprehension II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文章を読み、内容を把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業内容の総復習と確認を行い、定期試験に向けて準備をすること。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

＊履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

毎時間文法事項の解説を行いながら、練習問題の答え合わせを行い、学習内容の定着を図ります。

評価方法

・教科書の各練習問題ができているかどうか確認します。
・定期試験は文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題から出題します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
教科書の課題	○		○	○
定期試験	○			

評価割合

定期試験70%、課題と授業への積極的な参加30%で総合的に評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

English Primer〈Revised Edition〉/ Tetsuzo Sato, Yukari Aiko / 南雲堂

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】英文法をしっかりと理解することで、英語の読解力と英語を書く力を向上させ、英語の文献からも必要な情報や知識を得ることができる。
【技能・表現】英語で自分のことを表現できる。

オフィスアワー

水曜日 2限

学生へのメッセージ

授業で学んだことをしっかりと復習し、また次回の授業内容についてもあらかじめ予習してきて下さい。授業に積極的に参加することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		Readingのテーマについて考える。 英作文の練習を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50806032
講義名	Reading & Writing 2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	橋本 文子	指定なし

ナンバリング

X13650C12

授業概要(教育目的)

外国語を習得するためには、発音や語彙の学習はもちろん、その言語の文法を十分に学習することが必要です。この授業では、まず高校までに学んだ英語の文法の確認と復習から始めます。そして、文法について理解できているかを確認するため、作文を含めたさまざまな練習問題を解き、その定着を図っていきます。また、平易な英語の文章を読みながら、英語の表現に親しんでいきます。英文法の知識を確実にすることで、英語のreadingとwritingの能力の向上を目指します。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	英語のreadingとwritingに必要な文法知識について理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に関心を持ち、学習意欲を向上させることができる。
技術・表現の観点 (A)	英語で自分のことについて表現できるようになる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	前期の学習内容の確認と復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期の学習内容について確認と復習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 14の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分

第2回	授業テーマ	Unit 14 不定詞(I)・動名詞(I)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 14 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 15の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	Unit 15 受動態
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 15 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 16の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	Unit 16 完了形
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 16 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 17の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	Unit 17 接続詞（II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 17 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 18の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	Unit 18 5つの基本文型
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 18 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 19の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	Unit 19 各種疑問文
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 19 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 20の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	Unit 20 不定詞（II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 21 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 21の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	Unit 21 Itの特別用法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 21 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 22の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	Unit 22 分詞・動名詞（II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 22 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 23の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	Unit 23 関係代名詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘ	Unit 23 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文

第11回	ﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 24の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	Unit 24 仮定法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 24 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	プリント（前置詞・接続詞 (I))の文法問題の予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	プリント（前置詞・接続詞 (I))の文法問題の解説と答え合わせ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プリント（前置詞・接続詞 (I)) Grammar Check, Exercises, Composition
	教室外学習(予習・復習)の内容	プリント（前置詞・接続詞 (I)) Reading Comprehension I, Reading Comprehension IIの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	プリント（前置詞・接続詞 (I)) Reading Comprehension I, Reading Comprehension II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文章を読み、内容を把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業内容の総復習と確認を行い、定期試験に向けて準備をすること。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

＊履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

毎時間文法事項の解説を行いながら、練習問題の答え合わせを行い、学習内容の定着を図ります。

評価方法

・教科書の各練習問題ができているかどうか確認します。
・定期試験は文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題から出題します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
教科書の課題	○		○	○
定期試験	○			

評価割合

定期試験70%、課題と授業への積極的な参加30%で総合的に評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

English Primer〈Revised Edition〉/ Tetsuzo Sato, Yukari Aiko / 南雲堂

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】英文法をしっかりと理解することで、英語の読解力と英語を書く力を向上させ、英語の文献からも必要な情報や知識を得ることができる。
【技能・表現】英語で自分のことを表現できる。

オフィスアワー

水曜日 2限

学生へのメッセージ

授業で学んだことをしっかりと復習し、また次回の授業内容についてもあらかじめ予習してきて下さい。授業に積極的に参加することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		Readingのテーマについて考える。 英作文の練習を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50807001
講義名	Communication English 1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	マーク ルイス	指定なし

ナンバリング

X13670M12

授業概要(教育目的)

To help students have confidence and the abiliity to use Engish in daily life

履修条件

If you want to take Communication English 1, you must buy the book, Say What You Like 1.

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	Students will gain knowledge of basic English conversation patterns.
思考・判断の観点 (K)	Students will develop critical thinking skills to describe their feelings and to understand the perspectives of others.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Students will become active learners of English and desire to learn more.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express themselves easily in English and will become more at ease when speaking with others.

学習計画

第1回	**授業テーマ**	Introductions / About you
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Introduce yourself and tell where you are from.
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 2-3; and p.34-35.

	教室外学習の時間（分）	60
第2回	授業テーマ	Coming to school/ lifestyle
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talk about where you live / Are you happy these days?
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p.4-5; 36-37.
	教室外学習の時間（分）	60
第3回	授業テーマ	Family life
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talk about your family / Are you looking forward to Golden Week?
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 6-7; 38-39
	教室外学習の時間（分）	60
第4回	授業テーマ	Work / Club activities
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talk about a part-time job / How was your Golden Week?
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 8-9; 40-41
	教室外学習の時間（分）	60
第5回	授業テーマ	Seasons
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talk about the weather / What kind of music do you like?
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 10-11; 42-43
	教室外学習の時間（分）	60
第6回	授業テーマ	University Life
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Do you like this university? / Did you have breakfast this morning?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 12-13; 44-45
	教室外学習の時間（分）	60
第7回	授業テーマ	Colors
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What are you favorite colors? / What kind of ramen noodles do you like?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 14-15; 46-47
	教室外学習の時間（分）	60
第8回	授業テーマ	Free time
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What do you like to do in your free time? / How many hours per day do you watch TV?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 16-17; 48-49
	教室外学習の時間（分）	60

第9回	授業テーマ	Sports
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What sports do you play? / Have you ever gone sightseeing in Kamakura?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 18-19; 50-51
	教室外学習の時間（分）	60
第10回	授業テーマ	Pets
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Do you have a pet? / Do you like MosBurger? Do you like Starbucks Coffee?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p.20-21; 52-53
	教室外学習の時間（分）	60
第11回	授業テーマ	Traveling
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Where have you traveled? / Do you like the rainy season?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 22-23; 54-55
	教室外学習の時間（分）	60
第12回	授業テーマ	Types of people
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What's your blood type? / Do you like doing the laundry?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 24-25; 56-57
	教室外学習の時間（分）	60
第13回	授業テーマ	Practice Speaking Challenge
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Use class time to prepare topics with a partner for the speaking challenge.
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 2-59
	教室外学習の時間（分）	120
第14回	授業テーマ	Speaking Challenge
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Students communicate with a partner in natural English patterns learned in class along with the appropriate comments and rejoinders.
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 2-59
	教室外学習の時間（分）	120

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

Students receive weekly quiz scores; feedback on weekly in-class writing topics; and aural feedback on class activities.

評価方法

Quizzes are worth 10 points each week. Questions are from the previous week's lesson and the current lesson. If you read the assigned homework pages, you'll do well on the weekly quizzes. The final speaking test lets you know how comfortable you've become speaking English. An evaluation of speaking tests using rubrics will be provided. The rubric will be on Google Classroom.

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
Quizzes	○	○	○	○
Speaking Test	○	○	○	○
Pair Work	○	○	○	○
Writing	○	○	○	○

評価割合

Pair and group work 50%; Quizzes 30%; Writing 10%; Final Speaking test 10%

使用教科書名(ISBN番号)

Say What You Like 1 (ISBN 978-4-990-6347-0-4)

参考図書

A Japanese - English dictionary

参考URL

http://www.hotcocoa.jp/

ディプロマポリシーとの関連

Ability to speak and understand English at a basic level.

オフィスアワー

Wednesday 2nd Period.

学生へのメッセージ

Relax and enjoy speaking English.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other.
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50807002
講義名	Communication English 1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13670M12

授業概要(教育目的)

To help students have confidence and the abiliity to use Engish in daily life

履修条件

If you want to take Communication English 1, you must buy the book, Say What You Like 1.

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	Students will gain knowledge of basic English conversation patterns.
思考・判断の観点 (K)	Students will develop critical thinking skills to describe their feelings and to understand the perspectives of others.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Students will become active learners of English and desire to learn more.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express themselves easily in English and will become more at ease when speaking with others.

学習計画

第1回	**授業テーマ**	Introductions / About you
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Introduce yourself and tell where you are from.
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 2-3; and p.34-35.
	教室外学習の時間（分）	60
第2回	**授業テーマ**	Coming to school/ lifestyle
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talk about where you live / Are you happy these days?
	教室外学習(予習・復習)の	

	内容	Prepare by reading p.4-5; 36-37.
	教室外学習の時間（分）	60
第3回	授業テーマ	Family life
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talk about your family / Are you looking forward to Golden Week?
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 6-7; 38-39
	教室外学習の時間（分）	60
第4回	授業テーマ	Work / Club activities
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talk about a part-time job / How was your Golden Week?
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 8-9; 40-41
	教室外学習の時間（分）	60
第5回	授業テーマ	Seasons
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talk about the weather / What kind of music do you like?
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 10-11; 42-43
	教室外学習の時間（分）	60
第6回	授業テーマ	University Life
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Do you like this university? / Did you have breakfast this morning?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 12-13; 44-45
	教室外学習の時間（分）	60
第7回	授業テーマ	Colors
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What are you favorite colors? / What kind of ramen noodles do you like?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 14-15; 46-47
	教室外学習の時間（分）	60
第8回	授業テーマ	Free time
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What do you like to do in your free time? / How many hours per day do you watch TV?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 16-17; 48-49
	教室外学習の時間（分）	60
第9回	授業テーマ	Sports
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What sports do you play? / Have you ever gone sightseeing in Kamakura?
	教室外学習(予習・復習)の	p. 18-19; 50-51

	内容	
	教室外学習の時間（分）	60
第10回	授業テーマ	Pets
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Do you have a pet? / Do you like MosBurger? Do you like Starbucks Coffee?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p.20-21; 52-53
	教室外学習の時間（分）	60
第11回	授業テーマ	Traveling
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Where have you traveled? / Do you like the rainy season?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 22-23; 54-55
	教室外学習の時間（分）	60
第12回	授業テーマ	Types of people
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What's your blood type? / Do you like doing the laundry?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 24-25; 56-57
	教室外学習の時間（分）	60
第13回	授業テーマ	Practice Speaking Challenge
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Students use class time to prepare speaking topics with a partner for the speaking challenge.
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 2-59
	教室外学習の時間（分）	120
第14回	授業テーマ	Speaking Challenge
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Students speak with a partner using natural English patterns learned in class along with the appropriate comments and rejoinders.
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 2-59
	教室外学習の時間（分）	120

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

Students receive weekly quiz scores; feedback on weekly in-class writing topics; and aural feedback on class participation.

評価方法

Quizzes are worth 10 points each week. Questions are from the previous week's lesson and the current lesson. If you read the assigned homework pages, you'll do well on the weekly quizzes. The final speaking test lets you know how comfortable you've become speaking English. An evaluation of speaking tests using rubrics will be provided. The rubric will be on Google Classroom.

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
Quizzes	○	○	○	○
Speaking Test	○	○	○	○
Participation	○	○	○	○
Writing	○	○	○	○

評価割合

Pair / Group work 50%; Quizzes 30%; Writing 10%; Final Speaking Test 10%

使用教科書名(ISBN番号)

Say What You Like 1 (ISBN 978-4-990-6347-0-4)

参考図書

A Japanese - English dictionary

参考URL

http://www.hotcocoa.jp/

ディプロマポリシーとの関連

Ability to speak and understand English at a basic level.

オフィスアワー

Wednesday, 3rd Period

学生へのメッセージ

Relax and enjoy speaking English.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other.
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50807031
講義名	Communication English 1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	マーク ルイス	指定なし

ナンバリング

X13670C12

授業概要(教育目的)

To help students have confidence and the abiliity to use Engish in daily life

履修条件

If you want to take Communication English 1, you must buy the book, Say What You Like 1.

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	Students will gain knowledge of basic English conversation patterns.
思考・判断の観点 (K)	Students will develop critical thinking skills to describe their feelings and to understand the perspectives of others.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Students will become active learners of English and desire to learn more.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express themselves easily in English and will become more at ease when speaking with others.

学習計画

第1回	**授業テーマ**	Introductions / About you
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Introduce yourself and tell where you are from.
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 2-3; and p.34-35.

	教室外学習の時間（分）	60
第2回	授業テーマ	Coming to school/ lifestyle
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talk about where you live / Are you happy these days?
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p.4-5; 36-37.
	教室外学習の時間（分）	60
第3回	授業テーマ	Family life
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talk about your family / Are you looking forward to Golden Week?
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 6-7; 38-39
	教室外学習の時間（分）	60
第4回	授業テーマ	Work / Club activities
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talk about a part-time job / How was your Golden Week?
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 8-9; 40-41
	教室外学習の時間（分）	60
第5回	授業テーマ	Seasons
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talk about the weather / What kind of music do you like?
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 10-11; 42-43
	教室外学習の時間（分）	60
第6回	授業テーマ	University Life
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Do you like this university? / Did you have breakfast this morning?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 12-13; 44-45
	教室外学習の時間（分）	60
第7回	授業テーマ	Colors
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What are you favorite colors? / What kind of ramen noodles do you like?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 14-15; 46-47
	教室外学習の時間（分）	60
第8回	授業テーマ	Free time
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What do you like to do in your free time? / How many hours per day do you watch TV?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 16-17; 48-49
	教室外学習の時間（分）	60

第9回	授業テーマ	Sports
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What sports do you play? / Have you ever gone sightseeing in Kamakura?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 18-19; 50-51
	教室外学習の時間（分）	60
第10回	授業テーマ	Pets
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Do you have a pet? / Do you like MosBurger? Do you like Starbucks Coffee?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p.20-21; 52-53
	教室外学習の時間（分）	60
第11回	授業テーマ	Traveling
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Where have you traveled? / Do you like the rainy season?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 22-23; 54-55
	教室外学習の時間（分）	60
第12回	授業テーマ	Types of people
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What's your blood type? / Do you like doing the laundry?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 24-25; 56-57
	教室外学習の時間（分）	60
第13回	授業テーマ	Practice Speaking Challenge
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Students use class time to prepare speaking topics with a partner for the speaking challenge.
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 2-59
	教室外学習の時間（分）	120
第14回	授業テーマ	Speaking Challenge
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Students communicate with a partner in natural English patterns learned in class, along with the appropriate comments and rejoinders.
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 2-59
	教室外学習の時間（分）	120

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

Students receive weekly quiz scores; feedback on weekly in-class writing topics; and aural feedback on class activities.

評価方法

Quizzes are worth 10 points each week. Questions are from the previous week's lesson and the current lesson. If you read the assigned homework pages, you'll do well on the weekly quizzes. The final speaking test lets you know how comfortable you've become speaking English. An evaluation of speaking tests using rubrics will be provided. The rubric will be on Google Classroom.

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
Quizzes	○	○	○	○
Speaking Test	○	○	○	○
Pair Work	○	○	○	○
Writing	○	○	○	○

評価割合

Pair and group work 50%; Quizzes 30%; Writing 10%; Final Speaking Test 10%

使用教科書名(ISBN番号)

Say What You Like 1 (ISBN 978-4-990-6347-0-4)

参考図書

A Japanese - English dictionary

参考URL

http://www.hotcocoa.jp/

ディプロマポリシーとの関連

Ability to speak and understand English at a basic level.

オフィスアワー

Friday, 2nd Period.

学生へのメッセージ

Relax and enjoy speaking English.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other.
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50807032
講義名	Communication English 1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13670C12

授業概要(教育目的)

To help students have confidence and the abiliity to use Engish in daily life

履修条件

If you want to take Communication English 1, you must buy the book, Say What You Like 1.

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	Students will gain knowledge of basic English conversation patterns.
思考・判断の観点 (K)	Students will develop critical thinking skills to describe their feelings and to understand the perspectives of others.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Students will become active learners of English and desire to learn more.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express themselves easily in English and will become more at ease when speaking with others.

学習計画

第1回	**授業テーマ**	Introductions / About you
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Introduce yourself and tell where you are from.
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 2-3; and p.34-35.
	教室外学習の時間（分）	60
第2回	**授業テーマ**	Coming to school/ lifestyle
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talk about where you live / Are you happy these days?
	教室外学習(予習・復習)の	

	内容	Prepare by reading p.4-5; 36-37.
	教室外学習の時間（分）	60
第3回	授業テーマ	Family life
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talk about your family / Are you looking forward to Golden Week?
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 6-7; 38-39
	教室外学習の時間（分）	60
第4回	授業テーマ	Work / Club activities
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talk about a part-time job / How was your Golden Week?
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 8-9; 40-41
	教室外学習の時間（分）	60
第5回	授業テーマ	Seasons
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talk about the weather / What kind of music do you like?
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 10-11; 42-43
	教室外学習の時間（分）	60
第6回	授業テーマ	University Life
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Do you like this university? / Did you have breakfast this morning?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 12-13; 44-45
	教室外学習の時間（分）	60
第7回	授業テーマ	Colors
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What are you favorite colors? / What kind of ramen noodles do you like?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 14-15; 46-47
	教室外学習の時間（分）	60
第8回	授業テーマ	Free time
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What do you like to do in your free time? / How many hours per day do you watch TV?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 16-17; 48-49
	教室外学習の時間（分）	60
第9回	授業テーマ	Sports
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What sports do you play? / Have you ever gone sightseeing in Kamakura?
	教室外学習(予習・復習)の	p. 18-19; 50-51

	内容	
	教室外学習の時間（分）	60
第10回	授業テーマ	Pets
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Do you have a pet? / Do you like MosBurger? Do you like Starbucks Coffee?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p.20-21; 52-53
	教室外学習の時間（分）	60
第11回	授業テーマ	Traveling
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Where have you traveled? / Do you like the rainy season?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 22-23; 54-55
	教室外学習の時間（分）	60
第12回	授業テーマ	Types of people
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What's your blood type? / Do you like doing the laundry?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 24-25; 56-57
	教室外学習の時間（分）	60
第13回	授業テーマ	Practice Speaking Challenge
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Students use class time to prepare speaking topics with a partner for the speaking challenge.
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 2-59
	教室外学習の時間（分）	120
第14回	授業テーマ	Speaking Challenge
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Students communicate with a partner in natural English patterns learned in class, along with the appropriate comments and rejoinders.
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 2-59
	教室外学習の時間（分）	120

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

Students receive weekly quiz scores; feedback on weekly in-class writing topics; and aural feedback on class participation.

評価方法

Quizzes are worth 10 points each week. Questions are from the previous week's lesson and the current lesson. If you read the assigned homework pages, you'll do well on the weekly quizzes. The final speaking test lets you know how comfortable you've become speaking English. An evaluation of speaking tests using rubrics will be provided. The rubric will be on Google Classroom.

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
Quizzes	○	○	○	○
Speaking Test	○	○	○	○
Participation	○	○	○	○
Writing	○	○	○	○

評価割合

Participation 50%; Quizzes 30%; Writing 10%; Final Speaking Test 10%

使用教科書名(ISBN番号)

Say What You Like 1 (ISBN 978-4-990-6347-0-4)

参考図書

A Japanese - English dictionary

参考URL

http://www.hotcocoa.jp/

ディプロマポリシーとの関連

Ability to speak and understand English at a basic level.

オフィスアワー

Friday, 2nd Period

学生へのメッセージ

Relax and enjoy speaking English.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other.
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50807033
講義名	Communication English 1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13670C12

授業概要(教育目的)

To help students have confidence and the abiliity to use Engish in daily life

履修条件

If you want to take Communication English 1, you must buy the book, Say What You Like 1.

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	Students will gain knowledge of basic English conversation patterns.
思考・判断の観点 (K)	Students will develop critical thinking skills to describe their feelings and to understand the perspectives of others.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Students will become active learners of English and desire to learn more.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express themselves easily in English and will become more at ease when speaking with others.

学習計画

第1回	**授業テーマ**	Introductions / About you
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Introduce yourself and tell where you are from.
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 2-3; and p.34-35.
	教室外学習の時間（分）	60
第2回	**授業テーマ**	Coming to school/ lifestyle
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talk about where you live / Are you happy these days?
	教室外学習(予習・復習)の	

	内容	Prepare by reading p.4-5; 36-37.
	教室外学習の時間（分）	60
第3回	授業テーマ	Family life
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talk about your family / Are you looking forward to Golden Week?
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 6-7; 38-39
	教室外学習の時間（分）	60
第4回	授業テーマ	Work / Club activities
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talk about a part-time job / How was your Golden Week?
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 8-9; 40-41
	教室外学習の時間（分）	60
第5回	授業テーマ	Seasons
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talk about the weather / What kind of music do you like?
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 10-11; 42-43
	教室外学習の時間（分）	60
第6回	授業テーマ	University Life
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Do you like this university? / Did you have breakfast this morning?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 12-13; 44-45
	教室外学習の時間（分）	60
第7回	授業テーマ	Colors
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What are you favorite colors? / What kind of ramen noodles do you like?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 14-15; 46-47
	教室外学習の時間（分）	60
第8回	授業テーマ	Free time
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What do you like to do in your free time? / How many hours per day do you watch TV?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 16-17; 48-49
	教室外学習の時間（分）	60
第9回	授業テーマ	Sports
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What sports do you play? / Have you ever gone sightseeing in Kamakura?
	教室外学習(予習・復習)の	p. 18-19; 50-51

	内容	
	教室外学習の時間（分）	60
第10回	授業テーマ	Pets
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Do you have a pet? / Do you like MosBurger? Do you like Starbucks Coffee?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p.20-21; 52-53
	教室外学習の時間（分）	60
第11回	授業テーマ	Traveling
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Where have you traveled? / Do you like the rainy season?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 22-23; 54-55
	教室外学習の時間（分）	60
第12回	授業テーマ	Types of people
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What's your blood type? / Do you like doing the laundry?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 24-25; 56-57
	教室外学習の時間（分）	60
第13回	授業テーマ	Practice Speaking Challenge
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Students use class time to prepare speaking topics with a partner for the speaking challenge.
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 2-59
	教室外学習の時間（分）	120
第14回	授業テーマ	Speaking Challenge
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Students communicate with a partner in natural English patterns learned in class, along with the appropriate comments and rejoinders.
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 2-59
	教室外学習の時間（分）	120

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

Students receive weekly quiz scores; feedback on weekly in-class writing topics; and aural feedback on class participation.

評価方法

Quizzes are worth 10 points each week. Questions are from the previous week's lesson and the current lesson. If you read the assigned homework pages, you'll do well on the weekly quizzes. The final speaking test lets you know how comfortable you've become speaking English. An evaluation of speaking tests using rubrics will be provided. The rubric will be on Google Classroom.

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
Quizzes	○	○	○	○
Speaking Test	○	○	○	○
Participation	○	○	○	○
Writing	○	○	○	○

評価割合

Participation 50%; Quizzes 30%; Writing 10%; Final Speaking Test 10%

使用教科書名(ISBN番号)

Say What You Like 1 (ISBN 978-4-990-6347-0-4)

参考図書

A Japanese - English dictionary

参考URL

http://www.hotcocoa.jp/

ディプロマポリシーとの関連

Ability to speak and understand English at a basic level.

オフィスアワー

Friday, 2nd Period

学生へのメッセージ

Relax and enjoy speaking English.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other.
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50808001
講義名	Communication English 2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	マーク ルイス	指定なし

ナンバリング

X13680M12

授業概要(教育目的)

To help students have confidence and the ability to use English in everyday life.

履修条件

If you want to take Communication English 2, you must buy the book, Say What You Like 2.

Communication English 1 recommended.

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	Students will gain knowledge of basic English conversation patterns.
思考・判断の観点 (K)	Students will develop critical thinking skills to describe their feelings and to understand the perspective of others.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Students will become active learners of English and will desire to learn more.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express their feelings more easily in English, and will become more at ease when speaking with others.

学習計画

第1回	**授業テーマ**	Introductions
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	How to talk about where you live / your summer vacation

	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 2-3; and p. 34-35.
	教室外学習の時間（分）	60
第2回	授業テーマ	Work and play
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Your circles and clubs / your shopping habits
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 4-5; 36-37
	教室外学習の時間（分）	60
第3回	授業テーマ	Seasons / Colors
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Favorite seasons and why / Your favorite autumn food
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 6-7; 38-39
	教室外学習の時間（分）	60
第4回	授業テーマ	Yesterday / This evening
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What did you do last weekend? / How do you get the news?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 8-9; 40-41
	教室外学習の時間（分）	60
第5回	授業テーマ	Movies / music
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What kind of (movies /music) do you like? / Are you (happy / healthy?)
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 10-11; 42-43
	教室外学習の時間（分）	60
第6回	授業テーマ	University life
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What will you do after you graduate? / How about eating out with friends?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 12-13; 44-45
	教室外学習の時間（分）	60
第7回	授業テーマ	Free time
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Do you like to play sports? Watch sports? / Are you shy or outgoing?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 14-15; 46-47
	教室外学習の時間（分）	60
第8回	授業テーマ	Meals
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Your recent breakfast and dinner / Famous people you know
	教室外学習(予習・復習)の	

	内容	p. 16-17; 48-49
	教室外学習の時間（分）	60
第9回	授業テーマ	Coffee / ramen
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Which coffee shops and ramen shops do you like? / Let's talk about this class!
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 18-19; 50-51
	教室外学習の時間（分）	60
第10回	授業テーマ	Technology
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Watching TV/ Smartphones / What did you do in November?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 20-21; 52-53
	教室外学習の時間（分）	60
第11回	授業テーマ	Animals
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Visiting the zoo / Do you have any end of the year plans?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p.22-23; 54-55
	教室外学習の時間（分）	60
第12回	授業テーマ	Sightseeing
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Visiting Kyoto and Disneyland / How was this year?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 24-25; 56-57
	教室外学習の時間（分）	60
第13回	授業テーマ	Practice Speaking Challenge
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Students use class time to prepare speaking topics with a partner for the speaking challenge.
	教室外学習(予習・復習)の内容	p, 2- 61
	教室外学習の時間（分）	120
第14回	授業テーマ	Speaking Challenge
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Students communicate with a partner in natural English patterns learned in class, along with the appropriate comments and rejoinders.
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 2 -61
	教室外学習の時間（分）	120

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

Students receive weekly quiz scores; feedback from weekly in-class writing; and aural feeback from the teacher.

評価方法

Quizzes are worth 10 points each week. Questions are from the previous week's lesson and the current lesson. If you read the assigned homework pages, you'll do well on the weekly quizzes. The final speaking test lets you know how comfortable you've become speaking English. An evaluation of speaking tests using rubrics will be provided. The rubric will be on Google Classroom.

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
Quizzes	○	○	○	○
Speaking Test	○	○	○	○
Participation	○	○	○	○
Writing	○	○	○	○

評価割合

Participation 50%; Quizzes 30%; Writing 10%; Final Speaking Test 10%

使用教科書名(ISBN番号)

Say What You Like 2 (ISBN 978-4-9906347-2-8)

参考図書

A Japanese - English dictionary

ディプロマポリシーとの関連

Ability to speak and understand basic English conversation.

オフィスアワー

Wednesday, 3rd Period.

学生へのメッセージ

Relax and enjoy speaking English.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50808002
講義名	Communication English 2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13680M12

授業概要(教育目的)

To help students have confidence and the ability to use English in everyday life.

履修条件

If you want to take Communication English 2, you must buy the book, Say What You Like 2.

Communication English 1 recommended.

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	Students will gain knowledge of basic English conversation patterns.
思考・判断の観点 (K)	Students will develop critical thinking skills to describe their feelings and to understand the perspective of others.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Students will become active learners of English and will desire to learn more.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express their feelings more easily in English, and will become more at ease when speaking with others.

学習計画

第1回	**授業テーマ**	Introductions
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	How to talk about where you live / your summer vacation
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 2-3; and p. 34-35.
	教室外学習の時間（分）	60
	授業テーマ	Work and play
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	Your circles and clubs / your shopping habits

第2回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 4-5; 36-37
	教室外学習の時間（分）	60
第3回	授業テーマ	Seasons / Colors
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Favorite seasons and why / Your favorite autumn food
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 6-7; 38-39
	教室外学習の時間（分）	60
第4回	授業テーマ	Yesterday / This evening
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What did you do last weekend? / How do you get the news?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 8-9; 40-41
	教室外学習の時間（分）	60
第5回	授業テーマ	Movies / music
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What kind of (movies /music) do you like? / Are you (happy / healthy?)
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 10-11; 42-43
	教室外学習の時間（分）	60
第6回	授業テーマ	University life
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What will you do after you graduate? / How about eating out with friends?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 12-13; 44-45
	教室外学習の時間（分）	60
第7回	授業テーマ	Free time
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Do you like to play sports? Watch sports? / Are you shy or outgoing?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 14-15; 46-47
	教室外学習の時間（分）	60
第8回	授業テーマ	Meals
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Your recent breakfast and dinner / Famous people you know
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 16-17; 48-49
	教室外学習の時間（分）	60
	授業テーマ	Coffee / ramen
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Which coffee shops and ramen shops do you like? / Let's talk about this class!

第9回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 18-19; 50-51
	教室外学習の時間（分）	60
第10回	授業テーマ	Technology
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Watching TV/ Smartphones / What did you do in November?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 20-21; 52-53
	教室外学習の時間（分）	60
第11回	授業テーマ	Animals
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Visiting the zoo / Do you have any end of the year plans?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p.22-23; 54-55
	教室外学習の時間（分）	60
第12回	授業テーマ	Sightseeing
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Visiting Kyoto and Disneyland / How was this year?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 24-25; 56-57
	教室外学習の時間（分）	60
第13回	授業テーマ	Practice Speaking Challenge
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Students use class time to prepare speaking topics with a partner for the speaking challenge.
	教室外学習(予習・復習)の内容	p, 2- 61
	教室外学習の時間（分）	120
第14回	授業テーマ	Speaking Challenge
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Students communicate with a partner in natural English patterns learned in class, along with the appropriate comments and rejoinders.
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 2 -61
	教室外学習の時間（分）	120

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

Students receive weekly quiz scores; feedback from weekly in-class writing; and aural feeback from the teacher.

評価方法

Quizzes are worth 10 points each week. Questions are from the previous week's lesson and the current lesson. If you read the assigned homework pages, you'll do well on the weekly quizzes. The final speaking test lets you know how comfortable you've become speaking English. An evaluation of speaking tests

using rubrics will be provided. The rubric will be on Google Classroom.

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
Quizzes	○	○	○	○
Speaking Test	○	○	○	○
Participation	○	○	○	○
Writing	○	○	○	○

評価割合

Participation 50%; Quizzes 30%; Writing 10%; Final Speaking Test 10%

使用教科書名(ISBN番号)

Say What You Like 2 (ISBN 978-4-9906347-2-8)

参考図書

A Japanese - English dictionary

ディプロマポリシーとの関連

Ability to speak and understand basic English conversation.

オフィスアワー

Wednesday, 3rd period.

学生へのメッセージ

Relax and enjoy speaking English.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50808031
講義名	Communication English 2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	マーク ルイス	指定なし

ナンバリング

X13680C12

授業概要(教育目的)

To help students have confidence and the ability to use English in everyday life.

履修条件

If you want to take Communication English 2, you must buy the book, Say What You Like 2.

Communication English 1 recommended.

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	Students will gain knowledge of basic English conversation patterns.
思考・判断の観点 (K)	Students will develop critical thinking skills to describe their feelings and to understand the perspective of others.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Students will become active learners of English and will desire to learn more.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express their feelings more easily in English, and will become more at ease when speaking with others.

学習計画

第1回	**授業テーマ**	Introductions
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	How to talk about where you live / your summer vacation

	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 2-3; and p. 34-35.
	教室外学習の時間（分）	60
第2回	授業テーマ	Work and play
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Your circles and clubs / your shopping habits
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 4-5; 36-37
	教室外学習の時間（分）	60
第3回	授業テーマ	Seasons / Colors
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Favorite seasons and why / Your favorite autumn food
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 6-7; 38-39
	教室外学習の時間（分）	60
第4回	授業テーマ	Yesterday / This evening
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What did you do last weekend? / How do you get the news?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 8-9; 40-41
	教室外学習の時間（分）	60
第5回	授業テーマ	Movies / music
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What kind of (movies /music) do you like? / Are you (happy / healthy?)
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 10-11; 42-43
	教室外学習の時間（分）	60
第6回	授業テーマ	University life
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What will you do after you graduate? / How about eating out with friends?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 12-13; 44-45
	教室外学習の時間（分）	60
第7回	授業テーマ	Free time
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Do you like to play sports? Watch sports? / Are you shy or outgoing?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 14-15; 46-47
	教室外学習の時間（分）	60
第8回	授業テーマ	Meals
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Your recent breakfast and dinner / Famous people you know
	教室外学習(予習・復習)の	

	内容	p. 16-17; 48-49
	教室外学習の時間（分）	60
第9回	授業テーマ	Coffee / ramen
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Which coffee shops and ramen shops do you like? / Let's talk about this class!
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 18-19; 50-51
	教室外学習の時間（分）	60
第10回	授業テーマ	Technology
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Watching TV/ Smartphones / What did you do in November?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 20-21; 52-53
	教室外学習の時間（分）	60
第11回	授業テーマ	Animals
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Visiting the zoo / Do you have any end of the year plans?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p.22-23; 54-55
	教室外学習の時間（分）	60
第12回	授業テーマ	Sightseeing
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Visiting Kyoto and Disneyland / How was this year?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 24-25; 56-57
	教室外学習の時間（分）	60
第13回	授業テーマ	Practice Speaking Challenge
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Students use class time to prepare speaking topics with a partner for the speaking challenge.
	教室外学習(予習・復習)の内容	p, 2- 61
	教室外学習の時間（分）	120
第14回	授業テーマ	Speaking Challenge
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Students communicate with a partner in natural English patterns learned in class, along with the appropriate comments and rejoinders.
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 2 -61
	教室外学習の時間（分）	120

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

Students receive weekly quiz scores; feedback from weekly in-class writing; and aural feeback from the teacher.

評価方法

Quizzes are worth 10 points each week. Questions are from the previous week's lesson and the current lesson. If you read the assigned homework pages, you'll do well on the weekly quizzes. The final speaking test lets you know how comfortable you've become speaking English. An evaluation of speaking tests using rubrics will be provided. The rubric will be on Google Classroom.

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
Quizzes	○	○	○	○
Speaking Test	○	○	○	○
Pair work	○	○	○	○
Writing	○	○	○	○

評価割合

Pair and Group work 50%; Quizzes 30%; Writing 10%; Final Speaking Test 10%

使用教科書名(ISBN番号)

Say What You Like 2 (ISBN 978-4-9906347-2-8)

参考図書

A Japanese - English dictionary

ディプロマポリシーとの関連

Ability to speak and understand basic English conversation.

オフィスアワー

Friday, 2nd period.

学生へのメッセージ

Relax and enjoy speaking English.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50808032
講義名	Communication English 2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13680C12

授業概要(教育目的)

To help students have confidence and the ability to use English in everyday life.

履修条件

If you want to take Communication English 2, you must buy the book, Say What You Like 2.

Communication English 1 recommended.

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	Students will gain knowledge of basic English conversation patterns.
思考・判断の観点 (K)	Students will develop critical thinking skills to describe their feelings and to understand the perspective of others.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Students will become active learners of English and will desire to learn more.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express their feelings more easily in English, and will become more at ease when speaking with others.

学習計画

第1回	**授業テーマ**	Introductions
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	How to talk about where you live / your summer vacation
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 2-3; and p. 34-35.
	教室外学習の時間（分）	60
	授業テーマ	Work and play
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	Your circles and clubs / your shopping habits

第2回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 4-5; 36-37
	教室外学習の時間（分）	60
第3回	授業テーマ	Seasons / Colors
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Favorite seasons and why / Your favorite autumn food
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 6-7; 38-39
	教室外学習の時間（分）	60
第4回	授業テーマ	Yesterday / This evening
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What did you do last weekend? / How do you get the news?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 8-9; 40-41
	教室外学習の時間（分）	60
第5回	授業テーマ	Movies / music
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What kind of (movies /music) do you like? / Are you (happy / healthy?)
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 10-11; 42-43
	教室外学習の時間（分）	60
第6回	授業テーマ	University life
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What will you do after you graduate? / How about eating out with friends?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 12-13; 44-45
	教室外学習の時間（分）	60
第7回	授業テーマ	Free time
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Do you like to play sports? Watch sports? / Are you shy or outgoing?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 14-15; 46-47
	教室外学習の時間（分）	60
第8回	授業テーマ	Meals
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Your recent breakfast and dinner / Famous people you know
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 16-17; 48-49
	教室外学習の時間（分）	60
	授業テーマ	Coffee / ramen
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Which coffee shops and ramen shops do you like? / Let's talk about this class!

第9回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 18-19; 50-51
	教室外学習の時間（分）	60
第10回	授業テーマ	Technology
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Watching TV/ Smartphones / What did you do in November?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 20-21; 52-53
	教室外学習の時間（分）	60
第11回	授業テーマ	Animals
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Visiting the zoo / Do you have any end of the year plans?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p.22-23; 54-55
	教室外学習の時間（分）	60
第12回	授業テーマ	Sightseeing
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Visiting Kyoto and Disneyland / How was this year?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 24-25; 56-57
	教室外学習の時間（分）	60
第13回	授業テーマ	Practice Speaking Challenge
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Students use class time to prepare speaking topics with a partner for the speaking challenge.
	教室外学習(予習・復習)の内容	p, 2- 61
	教室外学習の時間（分）	120
第14回	授業テーマ	Speaking Challenge
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Students communicate with a partner in natural English patterns learned in class, along with the appropriate comments and rejoinders.
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 2 -61
	教室外学習の時間（分）	120

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

Students receive weekly quiz scores; feedback from weekly in-class writing; and aural feeback from the teacher.

評価方法

Quizzes are worth 10 points each week. Questions are from the previous week's lesson and the current lesson. If you read the assigned homework pages, you'll do well on the weekly quizzes. The final speaking test lets you know how comfortable you've become speaking English. An evaluation of speaking tests

using rubrics will be provided. The rubric will be on Google Classroom.

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
Quizzes	○	○	○	○
Speaking Test	○	○	○	○
Participation	○	○	○	○
Writing	○	○	○	○

評価割合

Participation 50%; Quizzes 30%; Writing 10%; Final Speaking Test 10%

使用教科書名(ISBN番号)

Say What You Like 2 (ISBN 978-4-9906347-2-8)

参考図書

A Japanese - English dictionary

ディプロマポリシーとの関連

Ability to speak and understand basic English conversation.

オフィスアワー

Friday, 2nd Period.

学生へのメッセージ

Relax and enjoy speaking English.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50808033
講義名	Communication English 2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13680C12

授業概要(教育目的)

To help students have confidence and the ability to use English in everyday life.

履修条件

If you want to take Communication English 2, you must buy the book, Say What You Like 2.

Communication English 1 recommended.

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	Students will gain knowledge of basic English conversation patterns.
思考・判断の観点 (K)	Students will develop critical thinking skills to describe their feelings and to understand the perspective of others.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Students will become active learners of English and will desire to learn more.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express their feelings more easily in English, and will become more at ease when speaking with others.

学習計画

第1回	**授業テーマ**	Introductions
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	How to talk about where you live / your summer vacation
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 2-3; and p. 34-35.
	教室外学習の時間（分）	60
	授業テーマ	Work and play
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	Your circles and clubs / your shopping habits

第2回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 4-5; 36-37
	教室外学習の時間（分）	60
第3回	授業テーマ	Seasons / Colors
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Favorite seasons and why / Your favorite autumn food
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 6-7; 38-39
	教室外学習の時間（分）	60
第4回	授業テーマ	Yesterday / This evening
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What did you do last weekend? / How do you get the news?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 8-9; 40-41
	教室外学習の時間（分）	60
第5回	授業テーマ	Movies / music
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What kind of (movies /music) do you like? / Are you (happy / healthy?)
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 10-11; 42-43
	教室外学習の時間（分）	60
第6回	授業テーマ	University life
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What will you do after you graduate? / How about eating out with friends?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 12-13; 44-45
	教室外学習の時間（分）	60
第7回	授業テーマ	Free time
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Do you like to play sports? Watch sports? / Are you shy or outgoing?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 14-15; 46-47
	教室外学習の時間（分）	60
第8回	授業テーマ	Meals
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Your recent breakfast and dinner / Famous people you know
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 16-17; 48-49
	教室外学習の時間（分）	60
	授業テーマ	Coffee / ramen
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Which coffee shops and ramen shops do you like? / Let's talk about this class!

第9回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 18-19; 50-51
	教室外学習の時間（分）	60
第10回	授業テーマ	Technology
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Watching TV/ Smartphones / What did you do in November?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 20-21; 52-53
	教室外学習の時間（分）	60
第11回	授業テーマ	Animals
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Visiting the zoo / Do you have any end of the year plans?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p.22-23; 54-55
	教室外学習の時間（分）	60
第12回	授業テーマ	Sightseeing
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Visiting Kyoto and Disneyland / How was this year?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 24-25; 56-57
	教室外学習の時間（分）	60
第13回	授業テーマ	Practice Speaking Challenge
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Students use class time to prepare speaking topics with a partner for the speaking challenge.
	教室外学習(予習・復習)の内容	p, 2- 61
	教室外学習の時間（分）	120
第14回	授業テーマ	Speaking Challenge
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Students communicate with a partner in the natural English patterns learned in class, along with the appropriate comments and rejoinders.
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 2 -61
	教室外学習の時間（分）	120

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

Students receive weekly quiz scores; feedback from weekly in-class writing; and aural feeback from the teacher.

評価方法

Quizzes are worth 10 points each week. Questions are from the previous week's lesson and the current lesson. If you read the assigned homework pages, you'll do well on the weekly quizzes. The final speaking test lets you know how comfortable you've become speaking English. An evaluation of speaking tests

using rubrics will be provided. The rubric will be on Google Classroom.

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
Quizzes	○	○	○	○
Speaking Test	○	○	○	○
Participation	○	○	○	○
Writing	○	○	○	○

評価割合

Participation 50%; Quizzes 30%; Writing 10%; Final Speaking Test 10%

使用教科書名(ISBN番号)

Say What You Like 2 (ISBN 978-4-9906347-2-8)

参考図書

A Japanese - English dictionary

ディプロマポリシーとの関連

Ability to speak and understand basic English conversation.

オフィスアワー

Friday, 2nd Period.

学生へのメッセージ

Relax and enjoy speaking English.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50809031
講義名	英語検定対策講座
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13690C12

授業概要(教育目的)

この授業では、TOEICの問題集を教材として、リスニングとリーディングの実践的な練習問題に取り組み、試験で得点を伸ばすと同時に社会のニーズに応えられるような英語運用能力を養成することを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	培った知識により、（検定試験において）正しい選択肢を選ぶことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	目標スコアを設定し、自信をもって積極的に受験できる。
技術・表現の観点 (A)	長文の速読に慣れ、必要な情報を的確に選択できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	授業ガイダンス & TOEICについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・成績評価、テキスト、授業の進め方 ・予習、復習について ・TOEICとは？ ・PART 1～7：各セクションについて解説
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1回授業の予習 ・特になし 第1回授業の復習 ・授業時に配布する資料を確認する
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	Unit 1 Daily Life

		品詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Warm-Up Questions, Words & Expressionsの解答確認および解説 ・Practice ・Short Listening ・Listening [Part 1 & 2] ・Reading [Part 5 & 6]
第2回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	第2回授業の予習 ・Grammar Focusの確認 ・Unit 2 Warm-Up Questions, Wards & Expressionsを解く →次回の授業時に解答確認および解説 第2回授業の復習 ・単語テスト & ディクテーション問題配布
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	Unit 2 Office 代名詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Warm-Up Questions, Words & Expressionsの解答確認および解説 ・Practice ・Short Listening ・Listening [Part 1 & 3] ・Reading [Part 5 & 7]
第3回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	第3回授業の予習 ・Grammar Focusの確認 ・Warm-Up Questions, Wards & Expressionsを解く →次回の授業時に解答確認および解説 第3回授業の復習 ・単語テスト & ディクテーション問題配布
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	Unit 3 Meeting & Event 前置詞と接続詞 1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Warm-Up Questions, Words & Expressionsの解答確認および解説 ・Practice ・Short Listening ・Listening [Part 2 & 4] ・Reading [Part 5 & 6]
第4回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	第4回授業の予習 ・Grammar Focusの確認 ・Warm-Up Questions, Wards & Expressionsを解く →次回の授業時に解答確認および解説 第4回授業の復習 ・単語テスト & ディクテーション問題配布
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	Unit 4 Shopping 前置詞と接続詞 2
		・Warm-Up Questions, Words & Expressionsの解答確認および解説

第5回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Practice ・Short Listening ・Listening [Part 2 & 3] ・Reading [Part 5 & 7]
	教室外学習(予習・復習)の内容	第5回授業の予習 ・Grammar Focusの確認 ・Warm-Up Questions, Wards & Expressionsを解く →次回の授業時に解答確認および解説 第5回授業の復習 ・単語テスト & ディクテーション問題配布
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	授業テーマ	Unit 5 Advertisement & Notice 助動詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Warm-Up Questions, Words & Expressionsの解答確認および解説 ・Practice ・Short Listening ・Listening Part [Part 2 & 4] ・Reading Part [Part 5 & 6]
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6回授業の予習 ・Grammar Focusの確認 ・Warm-Up Questions, Wards & Expressionsを解く →次回の授業時に解答確認および解説 第6回授業の復習 ・単語テスト & ディクテーション問題配布
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	授業テーマ	Unit 6 Restaurant & Food 進行形と完了形
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Warm-Up Questions, Words & Expressionsの解答確認および解説 ・Practice ・Short Listening ・Listening Part [Part 1 & 3] ・Reading Part [Part 5 & 7]
	教室外学習(予習・復習)の内容	第7回授業の予習 ・Grammar Focusの確認 ・Warm-Up Questions, Wards & Expressionsを解く →次回の授業時に解答確認および解説 第7回授業の復習 ・単語テスト & ディクテーション問題配布
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	Unit 7 Complaint & Inquiry 受動態
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Warm-Up Questions, Words & Expressionsの解答確認および解説 ・Practice ・Short Listening ・Listening Part [Part 1 & 4]

		・Reading Part [Part 5 & 6]
第8回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	第8回授業の予習 ・Grammar Focusの確認 ・Warm-Up Questions, Wards & Expressionsを解く →次回の授業時に解答確認および解説 第8回授業の復習 ・単語テスト & ディクテーション問題配布
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	**授業テーマ**	Review Test 1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 1 ～7までのまとめとしてReview Testを実施 （全40問）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第9回授業の予習 ・Unit 1 ～7までの見直し 第9回授業の復習 ・Part 5の和訳
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	**授業テーマ**	Unit 8 Personnel to不定詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Warm-Up Questions, Words & Expressionsの解答確認および解説 ・Practice ・Short Listening ・Listening Part [Part 2 & 4] ・Reading Part [Part 5 & 7]
	教室外学習(予習・復習)の内容	第10回授業の予習 ・Grammar Focusの確認 ・Warm-Up Questions, Wards & Expressionsを解く →次回の授業時に解答確認および解説 第10回授業の復習 ・単語テスト & ディクテーション問題配布
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	**授業テーマ**	Unit 9 Travel 分詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Warm-Up Questions, Words & Expressionsの解答確認および解説 ・Practice ・Short Listening ・Listening Part [Part 1 & 3] ・Reading Part [Part 5 & 6]
	教室外学習(予習・復習)の内容	第11回授業の予習 ・Grammar Focusの確認 ・Warm-Up Questions, Wards & Expressionsを解く →次回の授業時に解答確認および解説 第11回授業の復習 ・単語テスト & ディクテーション問題配布

	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	**授業テーマ**	Unit 10 Business 動名詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Warm-Up Questions, Words & Expressionsの解答確認および解説 ・Practice ・Short Listening ・Listening Part [Part 2 & 4] ・Reading Part [Part 5 & 7]
	教室外学習(予習・復習)の内容	第12回授業の予習 ・Grammar Focusの確認 ・Warm-Up Questions, Wards & Expressionsを解く →次回の授業時に解答確認および解説 第12回授業の復習 ・単語テスト & ディクテーション問題配布
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	**授業テーマ**	Unit 11 Business 関係詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Warm-Up Questions, Words & Expressionsの解答確認および解説 ・Practice ・Short Listening ・Listening Part [Part 1 & 3] ・Reading Part [Part 5 & 6]
	教室外学習(予習・復習)の内容	第13回授業の予習 ・Grammar Focusの確認 ・Warm-Up Questions, Wards & Expressionsを解く →次回の授業時に解答確認および解説 第13回授業の復習 ・単語テスト & ディクテーション問題配布
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	**授業テーマ**	Unit12 Manufacturing & Logistics 比較
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Warm-Up Questions, Words & Expressionsの解答確認および解説 ・Practice ・Short Listening ・Listening Part [Part 2 & 4] ・Reading Part [Part 5 & 7]
	教室外学習(予習・復習)の内容	第14回授業の予習 ・Grammar Focusの確認 ・Warm-Up Questions, Wards & Expressionsを解く →次回の授業時に解答確認および解説 第14回授業の復習 ・単語テスト & ディクテーション問題配布
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	Unit 13 Finance 仮定法

第15回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Warm-Up Questions, Words & Expressionsの解答確認および解説 ・Practice ・Short Listening ・Listening Part [Part 1 & 3] ・Reading Part [Part 5 & 7]
	教室外学習(予習・復習)の内容	第15回授業の予習 ・Grammar Focusの確認 ・Warm-Up Questions, Wards & Expressionsを解く →次回の授業時に解答確認および解説 第15回授業の復習 ・単語テスト & ディクテーション問題配布 ・試験に向けて、既習事項の復習を行う
	教室外学習の時間（分）	120分
第16回	授業テーマ	定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修到達度を確認する試験を実施
	教室外学習(予習・復習)の内容	・試験に向けて、既習事項の復習を行う
	教室外学習の時間（分）	240分

学習計画注記

履修者数、授業の進み具合もしくはその他の要因により、スケジュールに変更が生じることがある。

学生へのフィードバック方法

実施した小テストは、基本的にその場で答え合わせおよび解説を行い、回収。
次回の授業時に返却。

評価方法

・小テストは授業内容の復習と位置づけ、実施する。
（小テストに関する追再試験は行わず、遅延は減点とする）
・定期試験は、授業内容を中心として出題する。
・小テスト及び定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト・定期試験	○	○	○	○
平常点	○		○	○
その他	○		○	○

評価割合

小テスト・試験 70%
平常点（学習意欲、履修態度など） 20%
その他（任意課題などの提出状況など） 10%

使用教科書名(ISBN番号)

タイトル：BASIC UNDERSTANDING OF THE TOEIC L&R TEST TOEIC L&Rテスト基礎徹底トレーニング
編集者：小倉 雅明

出版社：金星堂
定価：2,300＋税
ISBN: 978-4-7647-4155-3

参考図書

必要に応じて、授業時に紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】ビジネス一般で通用する基本的な能力がある。

学生へのメッセージ

授業を通して、TOEICの様々な問題に慣れていきましょう！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	単なる解法テクニック教授の授業にならないよう、「その解答を導いたプロセス」について、履修者に積極的な発言を求める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50810001
講義名	フランス語入門1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13710M12

授業概要(教育目的)

フランス語を初めて学習する人を対象に、発音、入門的な文法、基礎的な会話文などを学びます。アルファベ、それに発音と綴り字の読み方という、フランス語学習の最初歩から授業を始めます。早い時期に綴り字の読み方の習得に成功すると、その後の学習効果が格段に上がりますので頑張ってください。「本書では、文法のみならず、読み・書き・話す・聞くという言語の４技能をバランスよく学んでいただきたいと思っています。その際、特に心がけていただきたいのは、自分で声を出してフランス語を発音し、耳からフランス語を覚えるということです。（使用教科書のまえがきより）」私も同感です。教科書の各課にはフランスの世界遺産や食文化などさまざまな事柄の紹介記事が載っています。時間を見つけて文化紹介をしますので、皆さんはきっとフランスのさまざまな文化の特徴や楽しさを知ることになるでしょう。

履修条件

特にありません。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．フランス語の音、綴り字に親しみ、そして慣れる。 ２．挨拶表現、簡単な日常的な表現なら、そう困難無く使うことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	１．ことばの学習を通じて、日本とは異なる文化をもつ国や人々に、さらなる興味・関心を向けるようになる。 ２．フランス語圏の文化一般に、さらなる興味・関心を向けるようになる。
技術・表現の観点 (A)	１．他の受講生とともにフランス語を身につける学習過程で、他者に対して、より深い共感を持って接することができるようになる。 ２．フランス語話者と、過度に臆すことなく、簡単なコミュニケーションが取れるようになる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス　授業への導入　Introduction「パリのセーヌ河岸」　第０課「フランス語の発音と綴り字」（１）アルファベ、綴り字の読み方

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	英語のアルファベットの読みとの違いに注意しながら、フランス語のアルファベを学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 p.6 ～ p.7 に出ている単語を発音し、発音と綴り字の関係に留意して、つづりを正確に覚えるようにしましょう。授業後は、授業で扱った内容を確実に身に付けるべく復習してください。毎回の復習時には、音源を用いて、何度も発音の練習をしてください。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています（「学生へのメッセージ」参照のこと）。
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	授業テーマ	第０課「フランス語の発音と綴り字」（２）アルファベ、綴り字の読み方　続き
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フランス語の単母音字と複母音字、音（母音・鼻母音・半母音・子音）を理解し、発音の仕方を学びます。フランス語のつづり字の読みと発音を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アルファベの読みと発音を正確に覚えます。教科書に出てきたフランス語の単語を何度も発音して、フランス語のつづり字と音との関係をつかみましょう。次週の授業の最初に、第０課の小テストを実施しますので、第０課の範囲全体を、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	第０課小テスト　第１課「自己紹介する」（１）文法と対話
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（冒頭で、第０課の小テストを実施）主語人称代名詞、動詞 être の活用、国籍を表す形容詞といった文法事項を学びます。相手と自己紹介をし合うことができるようになります。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Dialogueの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	第１課「自己紹介する」（２）練習問題と読み物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第０課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。第１課で学んだ文法事項の理解度を確認する各種 Exercices を解きます。フランスの文化を紹介する Civilisation の映像を見ます。

	教室外学習(予習・復習)の内容	次週の授業の最初に、第１課の小テストを実施しますので、第１課の範囲全体を、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	第１課小テスト　第２課「物を指し示す」（１）文法と対話
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（冒頭で、第１課の小テストを実施）名詞と不定冠詞、指示代名詞 ce、形容詞の性・数の一致と位置といった文法事項を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Dialogueの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	第２課「物を指し示す」（２）練習問題と読み物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第１課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。第２課で学んだ文法事項の理解度を確認する各種 Exercices を解きます。フランスの文化を紹介する Civilisation の映像を見ます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次週の授業の最初に、第２課の小テストを実施しますので、第２課の範囲全体を、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	第２課小テスト　第３課「尋ねる」（１）文法と対話
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（冒頭で、第２課の小テストを実施）規則動詞（-er動詞）の活用、定冠詞、疑問文といった文法事項を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Dialogueの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テー	第３課「尋ねる」（２）練習問題と読み物

	マ	
第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第２課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。第３課で学んだ文法事項の理解度を確認する各種 Exercices を解きます。フランスの文化を紹介する Civilisation の映像を見ます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次週の授業の最初に、第３課の小テストを実施しますので、第３課の範囲全体を、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。
	教室外学習の時間(分)	45分
第9回	授業テーマ	第３課小テスト　Révisions 仏検５級をめざして１（１）Leçon 1 ～ Leçon 3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（冒頭で、第３課の小テストを実施）これまでの復習。
	教室外学習(予習・復習)の内容	フランス語の文は、できることなら、覚えてしまいましょう。
	教室外学習の時間(分)	45分
第10回	授業テーマ	Révisions 仏検５級をめざして１（２）Leçon 1 ～ Leçon 3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第３課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。その後、実際の仏検５級の問題を解いてみましょう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次週の授業の最初に、第３課までの小テストを実施しますので、第３課までの範囲全体を、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。
	教室外学習の時間(分)	45分
第11回	授業テーマ	第３課までの小テスト　第４課「買い物をする」（１）文法と対話
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（冒頭で、第３課までの小テストを実施）指示形容詞 ce、動詞 avoir の活用、否定文といった文法事項を学びます。
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	Dialogueの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。
	教室外学習の時間(分)	45分
第12回	授業テーマ	第４課「買い物をする」（２）練習問題と読み物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第３課までの小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。第４課で学んだ文法事項の理解度を確認する各種 Exercices を解きます。フランスの文化を紹介する Civilisation の映像を見ます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次週の授業の最初に、第４課の小テストを実施しますので、第４課の範囲全体を、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。
	教室外学習の時間(分)	45分
第13回	授業テーマ	第４課小テスト　最初から第４課までの復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（冒頭で、第４課の小テストを実施。回収後、解答解説をします）補足の問題プリントを用いて演習します。第４課までの範囲全体を復習します。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第４課までの範囲全体を、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。「教室外学習の時間」の欄には、総時間数を14回の授業に均等に振り分けたため45分と書きましたが、各自復習はこれでじゅうぶんだと感じられるまで時間をかけていただきたく思います。
	教室外学習の時間(分)	90分
第14回	授業テーマ	定期試験と授業、あるいは、まとめと学習到達度の確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第４課の小テストを返却します。定期試験を行った後、設問に関しての解説をします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前期授業内容の振り返り、苦手とする文法事項など弱点の強化をしてください。
	教室外学習の時間(分)	45分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によって、スケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

実施した小テストは、採点、必要な場合は添削を施し、翌週に返却します。その際に解答・解説、及び講評をします。

評価方法

第14回授業で行う定期試験（学習到達度の確認テスト）に平常点（即ち、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果）を加味して総合的に評価します。随時行う小テストの結果は概して、普段の授業への参加状況や参加姿勢を反映しているものと私は考え、平常点の範疇に入れています。

私語、携帯電話やスマートフォン弄り、机に突っ伏しての睡眠といった他の受講生の勉学意欲をそぐ迷惑行為を続ける人は高評価は得られません。そこは是是非非、公正に評価します。

初回の授業でルーブリックについて説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点（小テストを含む）	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合

定期試験50パーセント、平常点（即ち、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果）50パーセント

使用教科書名(ISBN番号)

『パリ-ボルドー』　藤田裕二著　朝日出版社刊　定価2,750（本体2,500円＋税10%）
978-4-255-35259-6

参考図書

仏和辞典、参考書などについては、授業の中で紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解／思考・判断】「人間社会の多様性」を、人間社会の営みが拠り所とすることばの視点から考察し、理解できるようになる。

【関心・意欲・態度】「社会を構成する大切なひとりとして」、他者にも関心を向け、そうすることで、人々のために尽くしたいという意欲・態度を身につけるようになる。

【技能・表現】「学習で得た専門的技能（技術）をもって」他者と関わることで、「他者との共感を創り出す能力」を身につけるようになる。

学生へのメッセージ

皆さんと共に楽しい授業にしたいです。教育効果の観点から座席を指定する場合があります。予習・復習等については復習の方を徹底してください。学習した範囲のフランス語の文章は、文法と意味を十分に理解した上で、音源に合わせてすらすら口に出して言えるようになるまで、そして、正しく綴ることができるまで何度も何度も繰り返し練習してください。声を出すことが決定的に大事です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50811001
講義名	フランス語入門2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13720M12

授業概要(教育目的)

前期と同様です。教科書に沿って授業を進めますが、時間を見つけて、種々の映像を見たり、音楽を聴いたりして、フランス文化にも親しんでもらいたいと思います。

履修条件

特にありません。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．フランス語の音、綴り字に親しみ、そして慣れる。 2．挨拶表現、簡単な日常的な表現なら、そう困難無く使うことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	1．ことばの学習を通じて、日本とは異なる文化をもつ国や人々に、さらなる興味・関心を向けるようになる。 2．フランス語圏の文化一般に、さらなる興味・関心を向けるようになる。
技術・表現の観点 (A)	1．他の受講生とともにフランス語を身につける学習過程で、他者に対して、より深い共感を持って接することができるようになる。 2．フランス語話者と、過度に臆すことなく、簡単なコミュニケーションが取れるようになる。

学習計画

	授業テーマ	前期の学習内容の復習 第５課「物や人について尋ねる」（１）文法と対話
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期の学習内容の復習です。練習問題のプリントも配布して、文法の復習をします。動詞 aller と近接未来、疑問代名詞 que qui、不規則動詞 faire partirといった文法事項を学びます。
		教科書、ノート、配布した補足の練習問題のプリントを使って、前期の授

第1回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	業で学んだことを予め復習してきてください。授業後は、授業で扱った内容を確実に身に付けるべく復習してください。毎回の復習時には、音源を用いて、何度も発音の練習をしてください。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています（「学生へのメッセージ」参照のこと）。Dialogueの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。以降の回でも同様です。
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	第５課「物や人について尋ねる」（２）練習問題と読み物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第５課で学んだ文法事項の理解度を確認する各種 Exercices を解きます。フランスの文化を紹介する Civilisation の映像を見ます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次週の授業の最初に、第５課の小テストを実施しますので、第５課の範囲全体を、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	第５課小テスト 第６課「場所を尋ねる」（１）文法と対話
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（冒頭で、第５課の小テストを実施）所有形容詞、疑問形容詞といった文法事項を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Dialogueの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	第６課「場所を尋ねる」（２）練習問題と読み物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第５課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。第６課で学んだ文法事項の理解度を確認する各種 Exercices を解きます。フランスの文化を紹介する Civilisation の映像を見ます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次週の授業の最初に、第６課の小テストを実施しますので、第６課の範囲全体を、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。
	教室外学習の時間	45分

	（分）	
第5回	**授業テーマ**	第６課小テスト、第７課「～したいという」（１）文法と対話
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（冒頭で、第６課の小テストを実施）人称代名詞の強勢形、指示代名詞 celui、il y a ～ と je voudrais ～ の表現といった文法事項を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Dialogueの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	第７課「～したいという」（２）練習問題と読み物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第６課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。第７課で学んだ文法事項の理解度を確認する各種 Exercices を解きます。フランスの文化を紹介する Civilisation の映像を見ます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次週の授業の最初に、第７課の小テストを実施しますので、第７課の範囲全体を、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	第７課小テスト Révisions 仏検５級をめざして２（１）Leçon 4 ～ Leçon 7
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（冒頭で、第７課の小テストを実施）これまでの復習。
	教室外学習(予習・復習)の内容	フランス語の文は、できることなら、覚えてしまいましょう。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	Révisions 仏検５級をめざして２（２）Leçon 4 ～ Leçon 7
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	第７課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。その後、実際の仏検５級の問題を解いてみましょう。

第8回	用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	次週の授業の最初に、第４課から第７課までの小テストを実施しますので、第４課から第７課までの範囲全体を、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	授業テーマ	第４課から第７課までの小テスト 第８課「興味を述べる」（１）文法と対話
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（冒頭で、第４課から第７課までの小テストを実施）定冠詞の縮約、補語人称代名詞といった文法事項を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Dialogueの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	授業テーマ	第８課「興味を述べる」（２）練習問題と読み物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第４課から第７課までの小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。第８課で学んだ文法事項の理解度を確認する各種 Exercices を解きます。フランスの文化を紹介する Civilisation の映像を見ます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次週の授業の最初に、第８課の小テストを実施しますので、第８課の範囲全体を、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	第８課小テスト、第９課「誘う」（１）文法と対話
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（冒頭で、第８課の小テストを実施）代名動詞、中性代名詞 y、動詞 vouloirといった文法事項を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Dialogueの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。
	教室外学習の時間（分）	45分

第12回	授業テーマ	第９課「誘う」（２）練習問題と読み物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第８課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。第９課で学んだ文法事項の理解度を確認する各種 Exercices を解きます。フランスの文化を紹介する Civilisation の映像を見ます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次週の授業の最初に、第９課の小テストを実施しますので、第９課の範囲全体を、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	第９課小テスト 第５課から第９課までの復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（冒頭で、第９課の小テストを実施。回収後、解答解説をします）第５課から第９課までを復習します。補足の問題プリントを用いて演習します。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。
	教室外学習(予習・復習)の内容	後期の授業内容の総復習をしてください。第５課から第９課までの範囲全体を、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。「教室外学習の時間」の欄には、総時間数を14回の授業に均等に振り分けたため45分と書きましたが、各自復習はこれでじゅうぶんだと感じられるまで時間をかけていただきたく思います。 これまでの小テストの見直しも忘れずに。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	定期試験と授業、あるいは、まとめと学習到達度の確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第９課の小テストを返却します。定期試験を行った後、設問に関しての解説をします。第１０課以降に配当されているけれども、ぜひ学んでおきたい表現を幾つか取り上げます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	後期授業内容の振り返り、苦手とする文法事項など弱点の強化をしてください。後期最終授業以降も機会を捉えてフランス語、フランス文化に触れて、学び続けてください。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によって、スケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

実施した小テストは、採点、必要な場合は添削を施し、翌週に返却します。その際に解答・解説、及び講評をします。

評価方法

第14回授業で行う定期試験（学習到達度の確認テスト）に平常点（即ち、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果）を加味して総合的に評価します。随時行う小テストの結果は概して、普段の授業への参加状況や参加姿勢を反映しているものと私は考え、平常点の範疇に入れています。
私語、携帯電話やスマートフォン弄り、机に突っ伏しての睡眠といった他の受講生の勉学意欲をそぐ迷惑行為を続ける人は高評価は得られません。そこは是是非非、公正に評価します。
初回の授業でルーブリックについて説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点（小テストを含む）	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合

定期試験50パーセント、平常点（即ち、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果）50パーセント

使用教科書名(ISBN番号)

前期の入門１で使用した同じ教科書を継続して使用します。
『パリ-ボルドー』 藤田裕二著 朝日出版社刊 定価2,750（本体2,500円＋税10%）
978-4-255-35259-6

参考図書

仏和辞典、参考書などについては、授業の中で紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解／思考・判断】「人間社会の多様性」を、人間社会の営みが拠り所とすることばの視点から考察し、理解できるようになる。
【関心・意欲・態度】「社会を構成する大切なひとりとして」、他者にも関心を向け、そうすることで、人々のために尽くしたいという意欲・態度を身につけるようになる。
【技能・表現】「学習で得た専門的技能（技術）をもって」他者と関わることで、「他者との共感を創り出す能力」を身につけるようになる。

学生へのメッセージ

皆さんと共に楽しい授業にしたいです。教育効果の観点から座席を指定する場合があります。予習・復習等については復習の方を徹底してください。学習した範囲のフランス語の文章は、文法と意味を十分に理解した上で、音源に合わせてすらすら口に出して言えるようになるまで、そして、正しく綴ることができるまで何度も何度も繰り返し練習してください。声を出すことが決定的に大事です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50811031
講義名	フランス語入門2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13720C12

授業概要(教育目的)

授業を通して、フランス人の生活ぶりを覗いたり、フランスを旅行する時やフランス人に出会うときに役立つ会話を学び、フランスに親しみを持てるようになりましょう。
フランス語会話（入門）の授業です。やさしいことばを使った、短い会話を繰り返しながらフランス語を練習します。相手がゆっくり、はっきりとして話してくれれば、簡単なやり取りをすることができるようになります。主題はフランス料理といった食文化から学びます。また、フランスの現代文化に影響を与えたとされる漫画やゲームも学ぶことで、両者の文化の関係性を知ることができるようになります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	異文化(フランス)への理解を高め、知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	異文化(フランス)を通した文化比較判断の視点を持つ。
関心・意欲・態度の観点 (V)	フランス人及びフランス文化に対して意欲的でより豊かな表現で接するようになる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	レッスン1～8の復習 (Patachou) 文化：フランス のマンガの人物の紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教科書Patachou レッスン1～8
	教室外学習(予習・復習)の内容	前期の復習
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	**授業テーマ**	La possession 持ち物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教科書レッスン９（３４−３５ページと書き方の練習３８ページ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する
	教室外学習の時間（分）	50分

第3回	授業テーマ	les vêtements et les couleurs 洋服と色－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教科書レッスン１０（３６−３７ページと書き方の練習３９ページ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	授業テーマ	レッスン９−１０まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	l’âge et la majorité 年齢と成人期
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教科書レッスン１１（４０−４１ページと書き方の練習４４ページ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	La famille: 家族について話す
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教科書レッスン１２（４２−４３ページと書き方の練習４５ページ
	教室外学習(予習・復習)の内容	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	jeu de 7 familles - カードゲーム
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	Exprimer une intention 意思表示
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教科書レッスン１３（４８−４９ページと書き方の練習５２ページ
	教室外学習(予習・復習)の内容	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	Chez le médecin 病院に行く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教科書レッスン１４（５０−５１ページと書き方の練習５３ページ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	授業テーマ	Dire et demander l’heure 時間の言い方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教科書レッスン１５（５４−５５ページと書き方の練習５８ページ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	授業テーマ	Parler de ses projets 予定について話す
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教科書レッスン１６（（５６−５７ページ書き方の練習５９ページ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	Révisions 復習 レッスン９−１６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	"Bilan" 60—67ページ

第12回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	Révisions 復習 レッスン９−１６
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	授業テーマ	Révisions 復習 レッスン９−１６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プリント
	教室外学習(予習・復習)の内容	Révisions 復習 レッスン９−１６
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	授業テーマ	フィナルテスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レッスン９～１６の復習
	教室外学習(予習・復習)の内容	レッスン９～１６の復習
	教室外学習の時間（分）	50分

学生へのフィードバック方法

授業中で口頭による評価

評価方法

授業態度・小テストとファイナルテストを総合的に評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業態度	○	○	○	
小テスト	○			

評価割合

授業態度と小テスト: 50% ファイナルテスト: 50%

使用教科書名(ISBN番号)

“Patachou 1 – Conversation”朝日出版社 ISBN : 978-4-255-35205-3

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】簡単なフランス語で買い物や意思表示することができる。
【思考・判断】フランス文化がどういったものか理解している。
【関心・意欲・態度】フランスに対する関心意欲が向上し、自発的に学習する力を身につけている。
【技術・表現】学んだ知識を活かして、的確な表現でコミュニケーションする力を身につけることができる。

学生へのメッセージ

短い会話を覚える。（小テストがあります）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50813031
講義名	フランス語初級2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X15720C12

授業概要(教育目的)

前期と同じく、フランス語について入門程度の知識はすでに修めている人を対象に、発音、文法、語彙、表現などを学習します。とは言ってもアルファベ、それに発音と綴り字の読み方から復習しながら進めますので、とにかくフランス語やフランス文化に興味を持っているのであれば履修してみてはいかがでしょうか。たとえ全くの初習者であっても、勉学意欲さえあれば大丈夫です。時間を見つけて、種々の映像を見たり、音楽を聴いたりして、フランス文化にも親しんでもらいたいと思います。

履修条件

特にありません。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．入門程度の知識をさらに確実にする。 2．使えるフランス語の表現、読めるフランス語の文章をさらに増やす。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	1．ことばの学習を通じて、日本とは異なる文化をもつ国や人々に、さらなる興味・関心を向けるようになる。 2．フランス語圏の文化一般に、さらなる興味・関心を向けるようになる。
技術・表現の観点 (A)	1．他の受講生とともにフランス語を身につける学習過程で、他者に対して、より深い共感を持って接することができるようになる。 2．フランス語話者と、過度に臆すことなく、簡単なコミュニケーションが取れるようになる。

学習計画

	授業テーマ	授業への導入、方向付け
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	集まった皆さんのフランス語学習歴やフランス語の知識を、まず問います。初学者ばかりのときも、あるいはまた、すでにフランス語の勉強を始めている人が多いときもありました。後期からの人もいるのでしょう

第1回	育・ICT活用を含む)	か。皆さんの様子を見定めてから、授業を始めます。私としては、どのようにも対応できるように準備しておきます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	授業テーマ	前期の復習１　重要な動詞の活用、
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	être、avoir、-er動詞、prendre、vouloir、pouvoir、aller,venir、faireなどといった重要な動詞の直説法現在の活用を確認します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	授業テーマ	前期の復習２　否定文、疑問文、応答文、命令文
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	否定文、疑問文、応答文、命令文について、知識を確かなものにします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	授業テーマ	前期の復習３　形容詞と副詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	形容詞と副詞について、知識を確かなものにします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。
	教室外学習	

	の時間（分）	120分
第5回	授業テーマ	複合過去形１　助動詞être
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日常生活で使う過去時制として重要な直説法複合過去を学びます。今回は、助動詞にêtreを用いる動詞について学びます。「私は昨日、映画を見に行った」「私は何年何月何日に生まれました」などが言えるようになります。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	授業テーマ	複合過去形２　助動詞avoir
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日常生活で使う過去時制として重要な直説法複合過去を学びます。今回は、助動詞にavoirを用いる動詞について学びます。「私は昨日腕時計を買いました」「私は財布を失くした」などが言えるようになります。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	授業テーマ	代名詞の広がり１　直接目的語を人称代名詞に
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	connaitre ～「～を知っている」,voir ～「～に会う、～が見える」,attendre ～「～を待つ」,visiter ～「～を訪れる」といった動詞を使って、練習問題をします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	代名詞の広がり２　間接目的語を人称代名詞に
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	téléphoner à ～「～に電話する」、donner ～ à ～「～を～にあげる」、montrer ～ à ～「～を～に見せる」といった動詞を使って、練習問題をします。

	用を含む)	
第8回	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	授業テーマ	代名詞の広がり３　強勢形代名詞、代名動詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	強勢形代名詞、代名動詞を学びます。「私は日本人です。であなたは？」「これはきみへのプレゼントだよ」などの表現が使えるようになります。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	授業テーマ	代名詞の広がり４　中性代名詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中性代名詞en、ｙ、それにleを学びます。「あなたはパンを食べますか？」「あなたには兄弟がいますか？」などの問いに答えるときに必要となる代名詞です。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	授業テーマ	表現の幅を広げよう１　もうひとつの過去時制
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	直説法複合過去と同じく重要な過去時制に、直説法半過去があります。たとえば、「彼女は若かったころパリに住んでいた」「私がテレビを見ていると彼が家にやってきた」などと言うときに必要となる時制です。この時制を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。
	教室外学習の時間	120分

	（分）	
第12回	授業テーマ	表現の幅を広げよう２　天候や時間を言う（非人称表現）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	非人称主語のilを主語に立てて文を作ります。「どんな天気ですか？」「いい天気です」「雨が降っています」「今何時ですか？」「昼の12時半です」などといったことが言えるようになります。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	授業テーマ	表現の幅を広げよう３　関係代名詞を使う
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	関係代名詞を学びます。重要な関係代名詞には、qui、que、où、dontがあります。それぞれの用法を理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	授業テーマ	表現の幅を広げよう４　意思を伝える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動詞vouloirの直説法現在は、すでに学びましたが、今回は条件法現在に活用した形を学びます。条件法現在に活用すると、「～したいのですが」「～がいただきたいのですが」と語調が緩和されます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	後期の授業の総復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	後期の授業の総復習をします。

第15回	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によって、スケジュールが変更になる場合もあります。
なお、一週間にひとコマずつ進める通常の授業とは異なり、一日に３コマ進める集中授業です。そのため、「教室外学習の時間」の欄に何と書くとよいのか迷いましたが、とりあえずは標準的な時間（120分）を挙げておきました。

学生へのフィードバック方法

実施した小テストは、採点、必要な場合は添削を施し、速やかに返却します。その際に解答・解説、及び講評をします。

評価方法

平常点に期末の定期試験と、大きく２つ評価対象があるとして、総合評価ではありますが、皆さんひとりひとりの力や意欲をより細かく具体的・立体的に把握しやすい少人数のクラスとなるでしょうから、平常点の占める割合が大きいでしょう。ここでいう平常点とは、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果のことです。知識を学び取ろうとする勉学意欲を大きく評価します。詳しくは初回の授業で話します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点（小テストを含む）	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合

評価の基準は、平常点が７０％に、定期試験の結果が３０％です。

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しません。皆さんの意向を聞いたうえで私の方で教材を用意します。

参考図書

仏和辞典、参考書などについては、授業の中で紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解／思考・判断】「人間社会の多様性」を、人間社会の営みが拠り所とすることばの視点から考察し、理解できるようになる。
【関心・意欲・態度】「社会を構成する大切なひとりとして」、他者にも関心を向け、そうすることで、人々のために尽くしたいという意欲・態度を身につけるようになる。
【技能・表現】「学習で得た専門的技能（技術）をもって」他者と関わることで、「他者との共感を創り出す能力」を身につけるようになる。

学生へのメッセージ

皆さんと共に楽しい授業にしたいです。教育効果の観点から座席を指定する場合があります。予習・復習等については復習の方を徹底してください。学習した範囲のフランス語の文章は、文法と意味を十分に理解した上で、音源に合わせてすらすら口に出して言えるようになる

まで、そして、正しく綴ることができるまで何度も何度も繰り返し練習してください。声を出すことが決定的に大事です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50814001
講義名	ドイツ語入門1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13730M12

授業概要(教育目的)

この授業では、ドイツ語の基礎を学び、学んだ文法の知識を基に、聞く・話す・読む練習を重ねて、コミュニケーション能力を身につけることを目的としています。ドイツ語圏の文化や社会についても親しみます。ドイツ語を窓口にヨーロッパの文化についても学びます。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・ドイツ語の単語や文章を正確に書きとることができる ・授業で扱うドイツ語の仕組み・文法を理解する ・授業で扱う語彙を理解する
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	・ドイツ語圏の文化について関心を持ち、知見を得る
技術・表現の観点 (A)	・ドイツ語の標準的な発音を聞き取り、発音することができる ・ドイツ語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける

学習計画

ドイツ語の基本を学ぶ（１）

第1回	**授業テーマ**	ドイツ語の基本
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アルファベート、発音 ドイツ語で挨拶をしよう
	教室外学習(予習・復習)の内容	語学は積み重ねが大切です。学んだ事柄は、毎回復習しましょう。教科書に記載されたURLから音声が確認できますので、聞き取りや発音など、自宅でもさまざな練習ができます。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。 課題は必要に応じて具体的に指示します。指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。

	教室外学習の時間（分）	５０分
第2回	**授業テーマ**	Lektion 1: 動詞の現在人称変化（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人称代名詞、動詞の現在人称変化
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	５０分
第3回	**授業テーマ**	Lektion 1: 動詞の現在人称変化（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	seinとhaben
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	５０分
第4回	**授業テーマ**	Lektion 2: 名詞・冠詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	名詞の性、格変化
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	５０分
第5回	**授業テーマ**	Lektion 2: 所有冠詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	所有冠詞の格変化
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	５０分
第6回	**授業テーマ**	Lektion 3: 動詞の現在人称変化（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	不規則動詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	５０分

第7回	授業テーマ	Lektion 3: 名詞の複数形
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	名詞の複数形の変化
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	５０分
第8回	授業テーマ	Lektion 4: 名詞の3格
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	名詞の3格
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	５０分
第9回	授業テーマ	Lektion 4: 前置詞の格支配
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3格支配、4格支配の前置詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	５０分
第10回	授業テーマ	Lektion 5: 人称代名詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人称代名詞の3格、4格
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	５０分
第11回	授業テーマ	Lektion 5: 分離動詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	分離動詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	５０分
	授業テーマ	Lektion 6: 助動詞

第12回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	話法の助動詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	５０分
第13回	授業テーマ	Lektion 6: 命令形
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	命令形
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	５０分
第14回	授業テーマ	まとめと学習到達度の確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	まとめと学習到達度の確認テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1回からの学習内容を整理しておきましょう。後期にさらに上達するための、大切な土台になります。
	教室外学習の時間（分）	５０分

学習計画注記

履修者数や習熟度、関心などによって、進度や内容は多少前後したり、変更したりすることがあります。

学生へのフィードバック方法

小テストを実施する場合は、その内容により授業内で解説するか、採点して次週の授業で返却します。

評価方法

小テストや課題、平常点、および期末試験などによってルーリブックに基づき、総合的に評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
期末試験	○	○	○	○

評価割合

平常点５０％、期末試験５０％

使用教科書名(ISBN番号)

ドイツ語の時間 〈ときめきミュンヘン〉コミュニカティブ版－マルチメディア－清野智昭他著、朝日出版社 ISBN:978-4-255-25390-9

参考図書

独和辞典も用意してください。初回の授業で説明します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】ドイツ語を学ぶことによりコミュニケーションの可能性を広げ、ドイツ語圏の多様な社会や文化への理解を深めます。社会を構成する大切なひとりとして、社会の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、人々のために働く能力を身に付けます。

学生へのメッセージ

ドイツ語の基本から学びます。ドイツ語を学ぶと、英語の仕組みについてもわかることも多くあります。
日常的な挨拶や聞き取り、自分の意思を伝える力を身に付けることにより、新しい言葉を学ぶことのおもしろさ、その言葉を話す人々の文化を知ることのおもしろさを感じてください。ドイツ語を学ぶことから、ドイツ、オーストリア、スイスなどドイツ語圏の文化にも親しむことができます。語学の勉強は積み重ねが大切です。予習、復習に積極的に取り組みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	この授業は、翻訳家としての実務経験のある教員による授業であり、出版に際しての編集者との遣り取り等の経験を生かして実践的授業を行うものです。
アクティブ・ラーニング	○	教室内でドイツ語での会話をグループで練習します。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50815001
講義名	ドイツ語入門2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13740M12

授業概要(教育目的)

この授業では、入門１に引き続き、ドイツ語の基礎を学び、学んだ文法の知識を基に、聞く・話す・読む練習を重ねて、コミュニケーション能力を身につけることを目的としています。ドイツ語圏の文化や社会についても親しみます。ドイツ語を窓口にヨーロッパの文化についても学びます。

履修条件

入門１を履修済みであることが望ましいですが、履修していない場合は、入門１の範囲を自習してください。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・ドイツ語の単語や文章を正確に書きとることができる ・授業で扱うドイツ語の仕組み・文法を理解する ・授業で扱う語彙を理解する
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	・ドイツ語圏の文化について関心を持ち、知見を得る
技術・表現の観点 (A)	・ドイツ語の標準的な発音を聞き取り、発音することができる ・ドイツ語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける

学習計画

ドイツ語の基本を学ぶ（２）

第1回	**授業テーマ**	教科書前半の文法の復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教科書前半の文法の復習
	教室外学	教科書後半を学習するために教科書、プリントを用いて前期の復習をします。語学は積み重ねが大切です。学んだ事柄は、毎回復習しましょう。教科書に記載されたURLから音声が確認できますので、聞き取りや

	習(予習・復習)の内容	発音など、自宅でもさまざな練習ができます。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。 課題は必要に応じて具体的に指示します。指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。
	教室外学習の時間（分）	５０分
第2回	**授業テーマ**	Lektion 7: 前置詞の格支配
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前置詞の格支配
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	５０分
第3回	**授業テーマ**	Lektion 7: 接続詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	接続詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	５０分
第4回	**授業テーマ**	Lektion 8: 現在完了形
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在完了形
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	５０分
第5回	**授業テーマ**	Lektion 8: 過去形
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	過去形
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習	

	の時間（分）	５０分
第6回	**授業テーマ**	Lektion 9: 定冠詞類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	定冠詞類
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	５０分
第7回	**授業テーマ**	Lektion 9: 副文
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	副文
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	５０分
第8回	**授業テーマ**	Lektion 10: 比較級と最上級
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	比較級と最上級
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	５０分
第9回	**授業テーマ**	Lektion 10: 再帰代名詞、再帰動詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	再帰代名詞、再帰動詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	５０分
	授業テーマ	Lektion 11: 形容詞の格変化
	学習内容(ｱｸ	

第10回	ﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	形容詞の格変化
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	５０分
第11回	授業テーマ	Lektion 12: 接続法2式
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	接続法2式
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	５０分
第12回	授業テーマ	Lektion 12： zu不定詞句
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	zu不定詞句
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	５０分
第13回	授業テーマ	Lektion 13： 長文読解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	長文読解
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	５０分
第14回	授業テーマ	まとめと学習到達度の確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	まとめと学習到達度の確認テスト
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	第1回からの学習内容を整理して確実に身に付けましょう。
	教室外学習の時間（分）	５０分
第15回	**授業テーマ**	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

履修者数や習熟度、関心などによって、進度や内容は多少前後したり、変更したりすることがあります。

学生へのフィードバック方法

小テストを実施する場合は、その内容により授業内で解説するか、採点して次週の授業で返却します。

評価方法

課題、平常点、および期末試験などによってルーリブックに基づき、総合的に評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
期末試験	○	○	○	○

評価割合

平常点５０%、期末試験５０%

使用教科書名(ISBN番号)

ドイツ語の時間 〈ときめきミュンヘン〉コミュニカティブ版－マルチメディア－清野智昭他著、朝日出版社 ISBN:978-4-255-25390-9

参考図書

独和辞典を用意してください。授業の初回に説明します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】ドイツ語を学ぶことによりコミュニケーションの可能性を広げ、ドイツ語圏の多様な社会や文化への理解を深めます。社会を構成する大切なひとりとして、社会の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、人々のために働く能力を身に付けます。

学生へのメッセージ

ドイツ語の基本から学びます。ドイツ語を学ぶと、英語の仕組みについてもわかることも多くあります。
日常的な挨拶や聞き取り、自分の意思を伝える力を身に付けることにより、新しい言葉を学ぶことのおもしろさ、その言葉を話す人々の文化を知ることのおもしろさを感じてください。ドイツ語を学ぶことから、ドイツ、オーストリア、スイスなどドイツ語圏の文化にも親しむこと

ができます。語学の勉強は積み重ねが大切です。予習、復習に積極的に取り組みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	この授業は、翻訳家としての実務経験のある教員による授業であり、出版に際しての編集者との遣り取り等の経験を生かして実践的授業を行うものです。
アクティブ・ラーニング	○	教室内でドイツ語での会話をグループで練習します。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50815031
講義名	ドイツ語入門2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13740C12

授業概要(教育目的)

入門１に引き続き、ドイツ語の基本を学びます。学んだ知識を活かしながら、短いドイツ語のテキストを読みます。広告や料理のレシピなど身近なものから、日記や物語の一節、簡単なインタビューなど、さまざまな種類の文を身構えずに読めるようになります。クラスメートと会話練習にも挑戦します。ドイツ語で何かを読んだり伝えあったりする楽しさを体験してください。

履修条件

前期の入門１を履修ずみであることが望ましいですが、そうでない場合は、前期の範囲を自習しておいてください。後期はその先へ進みます。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・ドイツ語の単語や文章を正確に書きとることができる ・授業で扱うドイツ語の仕組み・文法を理解する ・授業で扱う語彙を理解する
思考・判断の観点 (K)	ドイツ語を学ぶことによりコミュニケーションの可能性を広げ、アクセスできる情報を増やすとともに、ドイツ語圏諸国の言語や文化への理解を深める
関心・意欲・態度の観点 (V)	・ドイツ語圏の文化について関心を持ち、知見を得る
技術・表現の観点 (A)	・ドイツ語の標準的な発音を聞き取り、発音することができる ・ドイツ語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける

学習計画

第1回	授業テーマ	前期のおさらい
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	私の夏休み
		前期に学んだことが、後期の土台になります。ひととおり見直し

	教室外学習(予習・復習)の内容	て、記憶を新たにしておきましょう。ここでしっかり復習しておくと、後期の学習を効果的にすすめることができます。
	教室外学習の時間（分）	９０分
第2回	授業テーマ	助動詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ジョギングしたいです～やりたいことを助動詞を使って表現する
	教室外学習(予習・復習)の内容	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。特に最初は基本中の基本を学びますので、これをしっかり身につけておくことによって、後の学習がずっと楽になります。 教科書に記載されたホームページから音声をダウンロードすることができます。聞き取りや発音など、自宅でもさまざな練習ができます。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。 課題は必要に応じて具体的に指示します。指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。
	教室外学習の時間（分）	６０分
第3回	授業テーマ	未来形
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	『アンネの日記』より / メールのお便り
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	６０分
第4回	授業テーマ	前置詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	誕生日はいつですか？～日付の言い方・主な前置詞の使い方
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	６０分
第5回	授業テーマ	再帰動詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ドイツの祝祭について
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	６０分
	授業テーマ	分かれる分離動詞、分かれない非分離動詞
	(	

第6回	学習内容 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	何時ですか？～時間を言う・分離動詞も使って一日の予定を言う
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間(分)	６０分
第7回	授業テーマ	zu不定詞句、従属の接続詞（副文を作る）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インタヴュー（聖トマス教会合唱団）
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間(分)	６０分
第8回	授業テーマ	動詞の三基本形（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これを読んだことはありますか？～ドイツの文学作品
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間(分)	６０分
第9回	授業テーマ	過去形、現在完了形
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童文学作品『Die kleine Hexe（小さな魔女）』
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間(分)	６０分
第10回	授業テーマ	動詞の三基本形（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	観光名所を紹介する
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間(分)	６０分
	授業テーマ	受動態
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	

第11回	教育・ICT活用を含む)	HARIBOのクマ型グミの歴史
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間(分)	６０分
第12回	授業テーマ	形容詞の変化、比較の表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ドイツ語で比べる
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間(分)	６０分
第13回	授業テーマ	関係代名詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イソップ物語『ウサギとカメ』
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間(分)	６０分
第14回	授業テーマ	後期のまとめと学習到達度の確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	後期に学んだことを確認します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	後期に学んだこと、練習したことを整理しておきましょう。今後、自力で学び続けたり、ドイツ語を使って様々なことにチャレンジするための足掛かりになります。
	教室外学習の時間(分)	１２０分

学習計画注記

履修者数や習熟度、関心などによって、進度や内容は多少前後したり、変更したりすることがあります。

学生へのフィードバック方法

小テストを実施する場合は、授業内で解説します。

評価方法

課題、平常点、および期末試験などによって総合的に評価します。
初回の授業でルーブリックについて説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	○

期末試験	○			

評価割合

平常点５０％、期末試験５０％

使用教科書名(ISBN番号)

『ゲナウ！レーゼン ノイ』　新倉真矢子、亀ヶ谷昌秀他著、郁文堂　ISBN978-4-261-01277-4
（前期と同じです）

参考図書

独和辞書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力

【思考・判断】初めて学ぶ言語や文化、自分とは異なる背景を持つ他者を知ることで、新たな価値基準、新たな視点を獲得し、人間や社会に対する理解を深める

【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって 人々のために働く能力

【技術・表現】学修で得た専門的技能 （技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見 し、課題を論理的に分析・ 総合し表現することで他者との共感を創り出す能力

オフィスアワー

授業時間の前後に、教室にて。

学生へのメッセージ

ドイツ語の基本を身につけます。後期の入門２で基礎をひととおり身につけて、今後も学び続けたり、ドイツ語を使って様々なことにチャレンジするための足掛かりを作ってください。皆さんにとっておそらくは未知の言語であるドイツ語を学ぶことが、ドイツ語圏の国々の文化や歴史、社会などへの関心を深めることにつながればと思います。まずはドイツやドイツ語を楽しんで、面白そうなものをどんどん見つけてください。学んだ表現を使って、クラスメートとの簡単な会話にも挑戦します。ドイツ語は英語の近い親戚にあたるので似ている点も多く、第二外国語としては比較的学びやすい言語です。（もちろん英語が苦手でも全く問題ありません）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教員やクラスメートと、ドイツ語でのやりとりも練習します。また、身につけたドイツ語を使ってドイツ語の情報にアクセスします。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50815032
講義名	ドイツ語入門2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13740C12

授業概要(教育目的)

入門１に引き続き、ドイツ語の基本を学びます。学んだ知識を活かしながら、短いドイツ語のテキストを読みます。広告や料理のレシピなど身近なものから、日記や物語の一節、簡単なインタビューなど、さまざまな種類の文を身構えずに読めるようになります。クラスメートと会話練習にも挑戦します。ドイツ語で何かを読んだり伝えあったりする楽しさを体験してください。

履修条件

前期の入門１を履修ずみであることが望ましいですが、そうでない場合は、前期の範囲を自習しておいてください。後期はその先へ進みます。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・ドイツ語の単語や文章を正確に書きとることができる ・授業で扱うドイツ語の仕組み・文法を理解する ・授業で扱う語彙を理解する
思考・判断の観点 (K)	ドイツ語を学ぶことによりコミュニケーションの可能性を広げ、アクセスできる情報を増やすとともに、ドイツ語圏諸国の言語や文化への理解を深める
関心・意欲・態度の観点 (V)	・ドイツ語圏の文化について関心を持ち、知見を得る
技術・表現の観点 (A)	・ドイツ語の標準的な発音を聞き取り、発音することができる ・ドイツ語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける

学習計画

第1回	授業テーマ	前期のおさらい
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	私の夏休み
		前期に学んだことが、後期の土台になります。ひととおり見直し

	教室外学習(予習・復習)の内容	て、記憶を新たにしておきましょう。ここでしっかり復習しておくと、後期の学習を効果的にすすめることができます。
	教室外学習の時間（分）	９０分
第2回	授業テーマ	助動詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ジョギングしたいです～やりたいことを助動詞を使って表現する
	教室外学習(予習・復習)の内容	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。特に最初は基本中の基本を学びますので、これをしっかり身につけておくことによって、後の学習がずっと楽になります。 教科書に記載されたホームページから音声をダウンロードすることができます。聞き取りや発音など、自宅でもさまざな練習ができます。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。 課題は必要に応じて具体的に指示します。指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。
	教室外学習の時間（分）	６０分
第3回	授業テーマ	未来形
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	『アンネの日記』より / メールのお便り
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	６０分
第4回	授業テーマ	前置詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	誕生日はいつですか？～日付の言い方・主な前置詞の使い方
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	６０分
第5回	授業テーマ	再帰動詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ドイツの祝祭について
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間（分）	６０分
	授業テーマ	分かれる分離動詞、分かれない非分離動詞
	(	

第6回	学習内容 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	何時ですか？～時間を言う・分離動詞も使って一日の予定を言う
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間(分)	６０分
第7回	授業テーマ	zu不定詞句、従属の接続詞（副文を作る）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インタヴュー（聖トマス教会合唱団）
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間(分)	６０分
第8回	授業テーマ	動詞の三基本形（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これを読んだことはありますか？～ドイツの文学作品
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間(分)	６０分
第9回	授業テーマ	過去形、現在完了形
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童文学作品『Die kleine Hexe（小さな魔女）』
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間(分)	６０分
第10回	授業テーマ	動詞の三基本形（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	観光名所を紹介する
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間(分)	６０分
	授業テーマ	受動態
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	

第11回	教育・ICT活用を含む)	HARIBOのクマ型グミの歴史
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間(分)	６０分
第12回	授業テーマ	形容詞の変化、比較の表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ドイツ語で比べる
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間(分)	６０分
第13回	授業テーマ	関係代名詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イソップ物語『ウサギとカメ』
	教室外学習(予習・復習)の内容	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。
	教室外学習の時間(分)	６０分
第14回	授業テーマ	後期のまとめと学習到達度の確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	後期に学んだことを確認します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	後期に学んだこと、練習したことを整理しておきましょう。今後、自力で学び続けたり、ドイツ語を使って様々なことにチャレンジするための足掛かりになります。
	教室外学習の時間(分)	１２０分

学習計画注記

履修者数や習熟度、関心などによって、進度や内容は多少前後したり、変更したりすることがあります。

学生へのフィードバック方法

小テストを実施する場合は、授業内で解説します。

評価方法

課題、平常点、および期末試験などによって総合的に評価します。
初回の授業でルーブリックについて説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	○

期末試験	○			

評価割合

平常点５０％、期末試験５０％

使用教科書名(ISBN番号)

『ゲナウ！レーゼン ノイ』　新倉真矢子、亀ヶ谷昌秀他著、郁文堂　ISBN978-4-261-01277-4
（前期と同じです）

参考図書

独和辞書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力

【思考・判断】初めて学ぶ言語や文化、自分とは異なる背景を持つ他者を知ることで、新たな価値基準、新たな視点を獲得し、人間や社会に対する理解を深める

【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって 人々のために働く能力

【技術・表現】学修で得た専門的技能 （技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見 し、課題を論理的に分析・ 総合し表現することで他者との共感を創り出す能力

オフィスアワー

授業時間の前後に、教室にて。

学生へのメッセージ

ドイツ語の基本を身につけます。後期の入門２で基礎をひととおり身につけて、今後も学び続けたり、ドイツ語を使って様々なことにチャレンジするための足掛かりを作ってください。皆さんにとっておそらくは未知の言語であるドイツ語を学ぶことが、ドイツ語圏の国々の文化や歴史、社会などへの関心を深めることにつながればと思います。まずはドイツやドイツ語を楽しんで、面白そうなものをどんどん見つけてください。学んだ表現を使って、クラスメートとの簡単な会話にも挑戦します。ドイツ語は英語の近い親戚にあたるので似ている点も多く、第二外国語としては比較的学びやすい言語です。（もちろん英語が苦手でも全く問題ありません）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教員やクラスメートと、ドイツ語でのやりとりも練習します。また、身につけたドイツ語を使ってドイツ語の情報にアクセスします。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50818001
講義名	中国語入門1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	尹 青青	指定なし

ナンバリング

X13750M12

授業概要(教育目的)

本授業は、中国語を初めて学習する人を対象とし、現代中国語の標準語（普通話）を入門から学ぶ。入門段階において、特に発音の学習を重点的に行い、最も重要な中国語のリズムと正しい発音を身体で記憶し、正しく発音できるようになることを目標とする。

履修条件

初めて中国語を勉強する人を対象とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	現代中国語を正しく発音する・基礎的な文法を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	現代中国語を運用した簡単な会話ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	授業ガイダンス 発音編 声調、単母音、そり舌母音、複合母音、子音
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の説明を行い、現代中国語の声調、単母音、そり舌母音、複合母音、子音を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の6～7ページを読んでおくこと。

	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	発音編 n/ng付母音、r化、軽声、変調
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代中国語のn/ng付母音、r化、軽声、変調を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の8～9ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	発音編まとめ 数字、日付の言い方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発音編のウォーミングアップを行い、数字と日付の言い方を覚える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の10～11ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	第1課 何を食べるの？――母と二人で喫茶店
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人称代詞、動詞述語文、疑問詞疑問文、省略疑問文を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の13～14ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	第1課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第1課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書15～16ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	第2課 それって中国語の新聞？――図書館での出会い
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指示代名詞、名詞の前の修飾語、動詞「是」の文、YES/NOで答える疑問文を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の17～18ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	第2課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第2課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書19～20ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	第3課 かわいい――散歩中の偶然
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	形容詞述語文、主述述語文、「喜　」、選択疑問文を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の21～22ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	第3課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第3課の総合練習を行う。

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書23～24ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	第4課 何人家族？――いろいろ話してみよう
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	数量の数え方、動詞「有」の文、「几」と「多少」、助動詞「想」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の25～26ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	第4課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第4課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書27～28ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	第5課 家はどこ？――もっと知りたい
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	方位詞、動詞「在」の文、介詞「在」、介詞「离」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の29～30ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	第5課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第5課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書31～32ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	**授業テーマ**	前期総復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期の既習内容を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1課～第5課の文法事項の総復習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

上記のスケジュールは、おおよその目安である。実際の進度状況によって、前後することもある。

学生へのフィードバック方法

授業にて説明する。

評価方法

評価は平常点及び期末定期試験の成績を以て行う。
・平常点は授業への参加状況、授業態度等で総合的に判断する。
・定期試験は授業内容から70点満点で筆記問題を出題する。
ルーブリックについては初回の授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

平常点	○			○
定期試験	○			

評価割合

平常点30%、定期試験70%。

使用教科書名(ISBN番号)

しっかり初級中国語
石田友美・桑野弘美・島田亜実・鈴木ひろみ（ISBN978-4-560-06936-3、白水社）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につけている。
【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を身につけている。

学生へのメッセージ

週１回という限られた時間内では、中国語学習の全領域をカバーすることは不可能である。従って授業を受ける学生には、授業での学習以外にも次のことを必ず行ってもらいたい。
・授業前には、予習として教科書の本文と文法の説明を読む。
・授業後には、復習として教科書にある練習問題の回答等を音読する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50818002
講義名	中国語入門1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	尹 青青	指定なし

ナンバリング

X13750M12

授業概要(教育目的)

本授業は、中国語を初めて学習する人を対象とし、現代中国語の標準語（普通話）を入門から学ぶ。入門段階において、特に発音の学習を重点的に行い、最も重要な中国語のリズムと正しい発音を身体で記憶し、正しく発音できるようになることを目標とする。

履修条件

初めて中国語を勉強する人を対象とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	現代中国語を正しく発音する・基礎的な文法を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	現代中国語を運用した簡単な会話ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	授業ガイダンス 発音編 声調、単母音、そり舌母音、複合母音、子音
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の説明を行い、現代中国語の声調、単母音、そり舌母音、複合母音、子音を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の6～7ページを読んでおくこと。

	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	発音編 n/ng付母音、r化、軽声、変調
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代中国語のn/ng付母音、r化、軽声、変調を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の8～9ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	発音編まとめ 数字、日付の言い方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発音編のウォーミングアップを行い、数字と日付の言い方を覚える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の10～11ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	第1課 何を食べるの？――母と二人で喫茶店
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人称代詞、動詞述語文、疑問詞疑問文、省略疑問文を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の13～14ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	第1課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第1課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書15～16ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	第2課 それって中国語の新聞？――図書館での出会い
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指示代名詞、名詞の前の修飾語、動詞「是」の文、YES/NOで答える疑問文を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の17～18ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	第2課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第2課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書19～20ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	第3課 かわいい――散歩中の偶然
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	形容詞述語文、主述述語文、「喜　」、選択疑問文を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の21～22ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	第3課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第3課の総合練習を行う。

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書23～24ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	第4課 何人家族？――いろいろ話してみよう
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	数量の数え方、動詞「有」の文、「几」と「多少」、助動詞「想」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の25～26ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	第4課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第4課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書27～28ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	第5課 家はどこ？――もっと知りたい
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	方位詞、動詞「在」の文、介詞「在」、介詞「离」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の29～30ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	第5課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第5課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書31～32ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	**授業テーマ**	前期総復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期の既習内容を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1課～第5課の文法事項の総復習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

上記のスケジュールは、おおよその目安である。実際の進度状況によって、前後することもある。

学生へのフィードバック方法

授業にて説明する。

評価方法

評価は平常点及び期末定期試験の成績を以て行う。
・平常点は授業への参加状況、授業態度等で総合的に判断する。
・定期試験は授業内容から70点満点で筆記問題を出題する。
ルーブリックについては初回の授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

平常点	○			○
定期試験	○			

評価割合

平常点30%、定期試験70%。

使用教科書名(ISBN番号)

しっかり初級中国語
石田友美・桑野弘美・島田亜実・鈴木ひろみ（ISBN978-4-560-06936-3、白水社）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につけている。
【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を身につけている。

学生へのメッセージ

週１回という限られた時間内では、中国語学習の全領域をカバーすることは不可能である。従って授業を受ける学生には、授業での学習以外にも次のことを必ず行ってもらいたい。
・授業前には、予習として教科書の本文と文法の説明を読む。
・授業後には、復習として教科書にある練習問題の回答等を音読する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50818003
講義名	中国語入門1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	尹 青青	指定なし

ナンバリング

X13750M12

授業概要(教育目的)

本授業は、中国語を初めて学習する人を対象とし、現代中国語の標準語（普通話）を入門から学ぶ。入門段階において、特に発音の学習を重点的に行い、最も重要な中国語のリズムと正しい発音を身体で記憶し、正しく発音できるようになることを目標とする。

履修条件

初めて中国語を勉強する人を対象とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	現代中国語を正しく発音する・基礎的な文法を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	現代中国語を運用した簡単な会話ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	授業ガイダンス 発音編 声調、単母音、そり舌母音、複合母音、子音
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の説明を行い、現代中国語の声調、単母音、そり舌母音、複合母音、子音を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の6～7ページを読んでおくこと。

	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	発音編 n/ng付母音、r化、軽声、変調
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代中国語のn/ng付母音、r化、軽声、変調を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の8～9ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	発音編まとめ 数字、日付の言い方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発音編のウォーミングアップを行い、数字と日付の言い方を覚える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の10～11ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	第1課 何を食べるの？――母と二人で喫茶店
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人称代詞、動詞述語文、疑問詞疑問文、省略疑問文を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の13～14ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	第1課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第1課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書15～16ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	第2課 それって中国語の新聞？――図書館での出会い
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指示代名詞、名詞の前の修飾語、動詞「是」の文、YES/NOで答える疑問文を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の17～18ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	第2課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第2課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書19～20ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	第3課 かわいい――散歩中の偶然
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	形容詞述語文、主述述語文、「喜　」、選択疑問文を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の21～22ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	第3課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第3課の総合練習を行う。

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書23～24ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	第4課 何人家族？――いろいろ話してみよう
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	数量の数え方、動詞「有」の文、「几」と「多少」、助動詞「想」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の25～26ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	第4課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第4課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書27～28ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	第5課 家はどこ？――もっと知りたい
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	方位詞、動詞「在」の文、介詞「在」、介詞「离」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の29～30ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	第5課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第5課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書31～32ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	**授業テーマ**	前期総復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期の既習内容を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1課～第5課の文法事項の総復習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

上記のスケジュールは、おおよその目安である。実際の進度状況によって、前後することもある。

学生へのフィードバック方法

授業にて説明する。

評価方法

評価は平常点及び期末定期試験の成績を以て行う。
・平常点は授業への参加状況、授業態度等で総合的に判断する。
・定期試験は授業内容から70点満点で筆記問題を出題する。
ルーブリックについては初回の授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

平常点	○			○
定期試験	○			

評価割合

平常点30%、定期試験70%。

使用教科書名(ISBN番号)

しっかり初級中国語
石田友美・桑野弘美・島田亜実・鈴木ひろみ（ISBN978-4-560-06936-3、白水社）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につけている。
【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を身につけている。

学生へのメッセージ

週１回という限られた時間内では、中国語学習の全領域をカバーすることは不可能である。従って授業を受ける学生には、授業での学習以外にも次のことを必ず行ってもらいたい。
・授業前には、予習として教科書の本文と文法の説明を読む。
・授業後には、復習として教科書にある練習問題の回答等を音読する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50818031
講義名	中国語入門1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	澁井 君也	指定なし

ナンバリング

X13750C12

授業概要(教育目的)

「中国語入門１」の履修を希望する皆さんを心から歓迎する。本授業は、中国語母語話者の教員により授業は行われ、中国語の単語や例文、会話などを繰り返し練習していく。教科書に沿って、中国語独特の発音と四声のポイントをマスターできるようにし、中国語の日常会話を学びつつ、文法の基礎も身につけるようにする。また、中国の人気の歌などを通して、中国とそこに住む人たちの生活や文化についても紹介する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	中国語の発音（ピンイン）と基礎的な文法ができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	中国語や中国の事情について関心や興味をもつことになる。
技術・表現の観点 (A)	中国語の簡単な文章が読め、簡単な会話ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション＆発音１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、教科書、中国語の概況や声調について等
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書6ページ「①声調」の音声を聞いて予習しておくこと
	教室外学習の時間	

	(分)	予習２５分
第2回	**授業テーマ**	発音２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	単母音、複母音、鼻母音、子音
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、教科書6～8ページ「②母音」「③子音」の音声を聞いて予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習２５分・予習２５分
第3回	**授業テーマ**	発音３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	有気音、無気音、変調、軽声、アル化音
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、教科書8～10ページ「③有気音、無気音」「④変調」「⑤軽声」「⑥<儿>化」の音声を聞いて予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習２５分・予習２５分
第4回	**授業テーマ**	発音４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ピンイン表記のルール、二音節の声調の組み合わせ、漢詩、練習問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、教科書10～13ページ「⑥ピンイン表記のルール」「⑦二音節の声調の組み合わせ」「⑧漢詩」「練習問題」の音声を聞いて予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習２５分・予習２５分
第5回	**授業テーマ**	第１課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語やポイント（名前の聞き方など５項目）の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第１課の単語と文法を予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習２５分・予習２５分
第6回	**授業テーマ**	第１課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「你好」会話本文の解説
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第１課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習２５分・予習２５分
第7回	**授業テーマ**	第１課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	練習問題と第１課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第１課の練習問題を予習しておくこと
	教室外学習の時間	復習２５分・予習２５分

	（分）	
第8回	**授業テーマ**	第２課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語やポイント（動詞述語文など５項目）の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第２課の単語と文法を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第9回	**授業テーマ**	第２課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「借　」会話本文の解説
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第２課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第10回	**授業テーマ**	第２課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	練習問題と第２課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第２課の練習問題を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第11回	**授業テーマ**	第３課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語やポイント（量詞など５項目）の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第３課の単語と文法を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第12回	**授業テーマ**	第３課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「　衣服」会話本文の解説
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第３課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第13回	**授業テーマ**	第３課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	練習問題と第３課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第３課の練習問題を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
	授業テーマ	総まとめ＆期末試験

第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期の授業内容のまとめ（５０分）と学習到達度の確認テスト（５０分）
	教室外学習(予習・復習)の内容	発音と第１課～第３課まで学習した内容を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習５０分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

実施した小テストは採点して返却する。

評価方法

平常点や試験によって総合的に判断する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
小テスト	○			○
定期試験	○			○

評価割合

平常点４０%、期末試験６０%
（平常点は授業への参加度や小テスト等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

山下輝彦、黄漢清『行ってみよう！中国語への旅 世界遺産へようこそ』朝日出版社

参考図書

特になし。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】中国語の基礎な発音と文法事項を覚えて理解する。
【関心・意欲・態度】中国語や中国事情などについて関心をもつ。
【技術・表現】初級で学んだ知識で簡単な会話や交流ができる。

学生へのメッセージ

授業中に、課題文の朗読や発音練習等を随時行う。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50818032
講義名	中国語入門1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	澁井 君也	指定なし

ナンバリング

X13750C12

授業概要(教育目的)

「中国語入門１」の履修を希望する皆さんを心から歓迎する。本授業は、中国語母語話者の教員により授業は行われ、中国語の単語や例文、会話などを繰り返し練習していく。教科書に沿って、中国語独特の発音と四声のポイントをマスターできるようにし、中国語の日常会話を学びつつ、文法の基礎も身につけるようにする。また、中国の人気の歌などを通して、中国とそこに住む人たちの生活や文化についても紹介する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	中国語の発音（ピンイン）と基礎的な文法ができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	中国語や中国の事情について関心や興味をもつことになる。
技術・表現の観点 (A)	中国語の簡単な文章が読め、簡単な会話ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション＆発音１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、教科書、中国語の概況や声調について等
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書6ページ「①声調」の音声を聞いて予習しておくこと
	教室外学習の時間	

	(分)	予習２５分
第2回	**授業テーマ**	発音２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	単母音、複母音、鼻母音、子音
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、教科書6～8ページ「②母音」「③子音」の音声を聞いて予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習２５分・予習２５分
第3回	**授業テーマ**	発音３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	有気音、無気音、変調、軽声、アル化音
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、教科書8～10ページ「③有気音、無気音」「④変調」「⑤軽声」「⑥<儿>化」の音声を聞いて予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習２５分・予習２５分
第4回	**授業テーマ**	発音４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ピンイン表記のルール、二音節の声調の組み合わせ、漢詩、練習問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、教科書10～13ページ「⑥ピンイン表記のルール」「⑦二音節の声調の組み合わせ」「⑧漢詩」「練習問題」の音声を聞いて予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習２５分・予習２５分
第5回	**授業テーマ**	第１課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語やポイント（名前の聞き方など５項目）の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第１課の単語と文法を予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習２５分・予習２５分
第6回	**授業テーマ**	第１課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「你好」会話本文の解説
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第１課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習２５分・予習２５分
第7回	**授業テーマ**	第１課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	練習問題と第１課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第１課の練習問題を予習しておくこと
	教室外学習の時間	復習２５分・予習２５分

	（分）	
第8回	**授業テーマ**	第２課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語やポイント（動詞述語文など５項目）の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第２課の単語と文法を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第9回	**授業テーマ**	第２課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「借　」会話本文の解説
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第２課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第10回	**授業テーマ**	第２課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	練習問題と第２課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第２課の練習問題を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第11回	**授業テーマ**	第３課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語やポイント（量詞など５項目）の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第３課の単語と文法を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第12回	**授業テーマ**	第３課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「　衣服」会話本文の解説
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第３課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第13回	**授業テーマ**	第３課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	練習問題と第３課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第３課の練習問題を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
	授業テーマ	総まとめ＆期末試験

第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期の授業内容のまとめ（５０分）と学習到達度の確認テスト（５０分）
	教室外学習(予習・復習)の内容	発音と第１課～第３課まで学習した内容を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習５０分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

実施した小テストは採点して返却する。

評価方法

平常点や試験によって総合的に判断する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
小テスト	○			○
定期試験	○			○

評価割合

平常点３０%、期末試験７０%
（平常点は授業への参加度や小テスト等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

山下輝彦、黄漢清『行ってみよう！中国語への旅 世界遺産へようこそ』朝日出版社

参考図書

特になし。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】中国語の基礎な発音と文法事項を覚えて理解する。
【関心・意欲・態度】中国語や中国事情などについて関心をもつ。
【技術・表現】初級で学んだ知識で簡単な会話や交流ができる。

学生へのメッセージ

授業中に、課題文の朗読や発音練習等を随時行う。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50818033
講義名	中国語入門1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	澁井 君也	指定なし

ナンバリング

X13750C12

授業概要(教育目的)

「中国語入門１」の履修を希望する皆さんを心から歓迎する。本授業は、中国語母語話者の教員により授業は行われ、中国語の単語や例文、会話などを繰り返し練習していく。教科書に沿って、中国語独特の発音と四声のポイントをマスターできるようにし、中国語の日常会話を学びつつ、文法の基礎も身につけるようにする。また、中国の人気の歌などを通して、中国とそこに住む人たちの生活や文化についても紹介する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	中国語の発音（ピンイン）と基礎的な文法ができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	中国語や中国の事情について関心や興味をもつことになる。
技術・表現の観点 (A)	中国語の簡単な文章が読め、簡単な会話ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション＆発音１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、教科書、中国語の概況や声調について等
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書6ページ「①声調」の音声を聞いて予習しておくこと
	教室外学習の時間	

	(分)	予習２５分
第2回	**授業テーマ**	発音２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	単母音、複母音、鼻母音、子音
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、教科書6～8ページ「②母音」「③子音」の音声を聞いて予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習２５分・予習２５分
第3回	**授業テーマ**	発音３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	有気音、無気音、変調、軽声、アル化音
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、教科書8～10ページ「③有気音、無気音」「④変調」「⑤軽声」「⑥<儿>化」の音声を聞いて予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習２５分・予習２５分
第4回	**授業テーマ**	発音４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ピンイン表記のルール、二音節の声調の組み合わせ、漢詩、練習問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、教科書10～13ページ「⑥ピンイン表記のルール」「⑦二音節の声調の組み合わせ」「⑧漢詩」「練習問題」の音声を聞いて予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習２５分・予習２５分
第5回	**授業テーマ**	第１課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語やポイント（名前の聞き方など５項目）の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第１課の単語と文法を予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習２５分・予習２５分
第6回	**授業テーマ**	第１課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「你好」会話本文の解説
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第１課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習２５分・予習２５分
第7回	**授業テーマ**	第１課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	練習問題と第１課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第１課の練習問題を予習しておくこと
	教室外学習の時間	復習２５分・予習２５分

	（分）	
第8回	**授業テーマ**	第２課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語やポイント（動詞述語文など５項目）の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第２課の単語と文法を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第9回	**授業テーマ**	第２課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「借　」会話本文の解説
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第２課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第10回	**授業テーマ**	第２課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	練習問題と第２課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第２課の練習問題を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第11回	**授業テーマ**	第３課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語やポイント（量詞など５項目）の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第３課の単語と文法を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第12回	**授業テーマ**	第３課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「　衣服」会話本文の解説
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第３課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第13回	**授業テーマ**	第３課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	練習問題と第３課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第３課の練習問題を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
	授業テーマ	総まとめ＆期末試験

第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期の授業内容のまとめ（５０分）と学習到達度の確認テスト（５０分）
	教室外学習(予習・復習)の内容	発音と第１課～第３課まで学習した内容を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習５０分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

実施した小テストは採点して返却する。

評価方法

平常点や試験によって総合的に判断する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
小テスト	○			○
定期試験	○			○

評価割合

平常点３０%、期末試験７０%
（平常点は授業への参加度や小テスト等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

山下輝彦、黄漢清『行ってみよう！中国語への旅 世界遺産へようこそ』朝日出版社

参考図書

特になし。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】中国語の基礎な発音と文法事項を覚えて理解する。
【関心・意欲・態度】中国語や中国事情などについて関心をもつ。
【技術・表現】初級で学んだ知識で簡単な会話や交流ができる。

学生へのメッセージ

授業中に、課題文の朗読や発音練習等を随時行う。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50819001
講義名	中国語入門2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	尹 青青	指定なし

ナンバリング

X13760M12

授業概要(教育目的)

後期では、前期と同じく中国語の基本的な会話を練習するほか、より複雑な文法内容についても学習する。

履修条件

前期と連動した内容であるため、受講者は前期の授業を必ず受けていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	現代中国語を正しく発音する・基礎的な文法を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	現代中国語を運用した簡単な会話ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	前期のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期の既習内容を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前期の既習内容に目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
		第6課

第2回	授業テーマ	ごはん食べた？――その頃の山本家
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	連動文、介詞「跟」、助動詞「要」、文末の「了」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の33～34ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	第6課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第6課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書35～36ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	第7課 1枚あげるよ――映画の約束
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動詞の後の「了」と文末の「了」、目的語を一度に2つ取れる動詞、「～点…分」、介詞「从」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の37～38ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	第7課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第7課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書39～40ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	第8課 ちょっと見せて――いっしょに買い物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動詞の重ね型と動作量「一下」、介詞「　」、助動詞「可以」、100以上の数を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の41～42ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	第8課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第8課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書43～44ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	授業テーマ	第9課 中国語話せるよ――妹のチャイナドレス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	過去の経験を表す助詞「　」、持続を表す助詞「着」、助動詞「能」、助動詞「会」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の45～46ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	第9課

		トレーニング/総合練習
第9回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第9課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書47～48ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	授業テーマ	第10課 まだ食事中？――母からの電話
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	時間量を表す語句、様態補語、進行の表現、「快～了」、「要～了」、「就要～了」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の49～50ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	第10課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第10課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書51～52ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	第11課 心配しないで――娘の成績
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	回数を表す語句、結果補語、比較表現、副詞「不要・別」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の53～54ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	第11課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第11課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書55～56ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	後期総復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	後期の既習内容を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6課～第11課の文法事項の総復習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

上記のスケジュールは、おおよその目安である。実際の進度状況によって、前後することもある。

学生へのフィードバック方法

授業にて説明する。

評価方法

評価は平常点及び期末定期試験の成績を以て行う。
・平常点は授業への参加状況、授業態度等で総合的に判断する。

・定期試験は授業内容から70点満点で筆記問題を出題する。
ルーブリックについては初回の授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○			○
定期試験	○			

評価割合

平常点30%、定期試験70%。

使用教科書名(ISBN番号)

しっかり初級中国語
石田友美・桑野弘美・島田亜実・鈴木ひろみ（ISBN978-4-560-06936-3、白水社）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につけている。
【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を身につけている。

学生へのメッセージ

週１回という限られた時間内では、中国語学習の全領域をカバーすることは不可能である。従って授業を受ける学生には、授業での学習以外にも次のことを必ず行ってもらいたい。
・授業前には、予習として教科書の本文と文法の説明を読む。
・授業後には、復習として教科書にある練習問題の回答等を音読する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50819002
講義名	中国語入門2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	尹 青青	指定なし

ナンバリング

X13760M12

授業概要(教育目的)

後期では、前期と同じく中国語の基本的な会話を練習するほか、より複雑な文法内容についても学習する。

履修条件

前期と連動した内容であるため、受講者は前期の授業を必ず受けていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	現代中国語を正しく発音する・基礎的な文法を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	現代中国語を運用した簡単な会話ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	前期のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期の既習内容を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前期の既習内容に目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
		第6課

第2回	授業テーマ	ごはん食べた？――その頃の山本家
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	連動文、介詞「跟」、助動詞「要」、文末の「了」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の33～34ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	第6課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第6課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書35～36ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	第7課 1枚あげるよ――映画の約束
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動詞の後の「了」と文末の「了」、目的語を一度に2つ取れる動詞、「～点…分」、介詞「从」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の37～38ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	第7課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第7課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書39～40ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	第8課 ちょっと見せて――いっしょに買い物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動詞の重ね型と動作量「一下」、介詞「　」、助動詞「可以」、100以上の数を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の41～42ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	第8課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第8課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書43～44ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	授業テーマ	第9課 中国語話せるよ――妹のチャイナドレス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	過去の経験を表す助詞「　」、持続を表す助詞「着」、助動詞「能」、助動詞「会」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の45～46ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	第9課

		トレーニング/総合練習
第9回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第9課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書47～48ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	授業テーマ	第10課 まだ食事中？――母からの電話
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	時間量を表す語句、様態補語、進行の表現、「快～了」、「要～了」、「就要～了」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の49～50ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	第10課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第10課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書51～52ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	第11課 心配しないで――娘の成績
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	回数を表す語句、結果補語、比較表現、副詞「不要・別」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の53～54ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	第11課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第11課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書55～56ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	後期総復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	後期の既習内容を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6課～第11課の文法事項の総復習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

上記のスケジュールは、おおよその目安である。実際の進度状況によって、前後することもある。

学生へのフィードバック方法

授業にて説明する。

評価方法

評価は平常点及び期末定期試験の成績を以て行う。
・平常点は授業への参加状況、授業態度等で総合的に判断する。

・定期試験は授業内容から70点満点で筆記問題を出題する。
ルーブリックについては初回の授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○			○
定期試験	○			

評価割合

平常点30%、定期試験70%。

使用教科書名(ISBN番号)

しっかり初級中国語
石田友美・桑野弘美・島田亜実・鈴木ひろみ（ISBN978-4-560-06936-3、白水社）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につけている。
【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を身につけている。

学生へのメッセージ

週１回という限られた時間内では、中国語学習の全領域をカバーすることは不可能である。従って授業を受ける学生には、授業での学習以外にも次のことを必ず行ってもらいたい。
・授業前には、予習として教科書の本文と文法の説明を読む。
・授業後には、復習として教科書にある練習問題の回答等を音読する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50819031
講義名	中国語入門2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	澁井 君也	指定なし

ナンバリング

X13760C12

授業概要(教育目的)

「中国語入門２」の履修を希望する皆さんを心から歓迎する。この授業は、前期の「中国語入門１」の続きで、前期で学んだ基礎文法のおさらいをし、中国語の単語や例文、会話を繰り返し練習していく。教科書に沿って、中国語独特の発音と四声のポイントをマスターできるようにし、中国語の日常会話を学びつつ、文法の基礎も身につけるようにする。また、中国の人気の歌などを通して、中国とそこに住む人たちの生活や文化についても紹介する。

※中国語資格試験のＨＳＫ（漢語水平考試）１級や中国語検定試験準４級相当に到達することを目標とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	中国語の発音（ピンイン）と基礎的な文法ができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	中国語や中国の事情について関心や興味をもつことになる。
技術・表現の観点 (A)	中国語の簡単な文章が読め、簡単な会話ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	前期の授業内容の復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中国語の発音と第１課～第３課までの内容の復習
	教室外学習(予習・復習)の内容	中国語の声調、母音、子音と第１課～第３課までの単語・文法を復習しておくこと

	教室外学習の時間（分）	復習２５分
第2回	**授業テーマ**	第４課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語や動詞「有」など文法項目の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第４課の新出単語とポイントを予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第3回	**授業テーマ**	第４課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「下午　」会話本文の解説と練習問題と第４課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第４課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第4回	**授業テーマ**	第５課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語や過去の経験「　」など文法項目の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第５課の新出単語とポイントを予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第5回	**授業テーマ**	第５課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「女朋友」会話本文の解説と練習問題と第５課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第５課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第6回	**授業テーマ**	第６課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語と「“了”の用法」など文法項目の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第６課の新出単語とポイントを予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第7回	**授業テーマ**	第６課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「你去哪儿了」会話本文の解説と練習問題と第６課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第６課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第8回	**授業テーマ**	第７課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語と「進行形」など文法項目の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第７課の新出単語とポイントを予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第9回	**授業テーマ**	第７課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「画画儿」会話本文の解説と練習問題と第７課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第７課の会話本文を予習しておくこと

	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第10回	**授業テーマ**	第８課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語と「前置詞“离”」など文法項目の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第８課の新出単語とポイントを予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第11回	**授業テーマ**	第８課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「她来了」会話本文の解説と練習問題と第８課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第８課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第12回	**授業テーマ**	第９課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語と「“了”の用法（２）」など文法項目の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第９課の新出単語とポイントを予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第13回	**授業テーマ**	第９課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「別　　了」会話本文の解説と練習問題と第９課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第９課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第14回	**授業テーマ**	総まとめ＆期末試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	後期の授業内容のまとめ（５０分）と学習到達度の確認テスト（５０分）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第４課～第７課までの授業内容を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習５０分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

実施した小テストなどは採点して返却する。

評価方法

平常点や試験によって総合的に判断する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
小テスト	○			○
定期試験	○			○

評価割合

平常点４０%、期末試験６０%

（平常点は授業への参加度や小テスト等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

山下輝彦、黄漢清『行ってみよう！中国語への旅 世界遺産へようこそ』朝日出版社

参考図書

特になし。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】中国語の基礎な発音と文法事項を覚えて理解する。
【関心・意欲・態度】中国語や中国事情などについて関心をもつ。
【技術・表現】初級で学んだ知識で簡単な会話や交流ができる。

学生へのメッセージ

授業中に、課題文の朗読や発音練習等を随時行う。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50819032
講義名	中国語入門2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	澁井 君也	指定なし

ナンバリング

X13760C12

授業概要(教育目的)

「中国語入門２」の履修を希望する皆さんを心から歓迎する。この授業は、前期の「中国語入門１」の続きで、前期で学んだ基礎文法のおさらいをし、中国語の単語や例文、会話を繰り返し練習していく。教科書に沿って、中国語独特の発音と四声のポイントをマスターできるようにし、中国語の日常会話を学びつつ、文法の基礎も身につけるようにする。また、中国の人気の歌などを通して、中国とそこに住む人たちの生活や文化についても紹介する。

※中国語資格試験のＨＳＫ（漢語水平考試）１級や中国語検定試験準４級相当に到達することを目標とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	中国語の発音（ピンイン）と基礎的な文法ができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	中国語や中国の事情について関心や興味をもつことになる。
技術・表現の観点 (A)	中国語の簡単な文章が読め、簡単な会話ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	前期の授業内容の復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中国語の発音と第１課～第３課までの内容の復習
	教室外学習(予習・復習)の内容	中国語の声調、母音、子音と第１課～第３課までの単語・文法を復習しておくこと

	教室外学習の時間（分）	復習２５分
第2回	**授業テーマ**	第４課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語や動詞「有」など文法項目の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第４課の新出単語とポイントを予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第3回	**授業テーマ**	第４課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「下午　」会話本文の解説と練習問題と第４課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第４課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第4回	**授業テーマ**	第５課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語や過去の経験「　」など文法項目の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第５課の新出単語とポイントを予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第5回	**授業テーマ**	第５課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「女朋友」会話本文の解説と練習問題と第５課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第５課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第6回	**授業テーマ**	第６課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語と「“了”の用法」など文法項目の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第６課の新出単語とポイントを予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第7回	**授業テーマ**	第６課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「你去哪儿了」会話本文の解説と練習問題と第６課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第６課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第8回	**授業テーマ**	第７課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語と「進行形」など文法項目の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第７課の新出単語とポイントを予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第9回	**授業テーマ**	第７課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「画画儿」会話本文の解説と練習問題と第７課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第７課の会話本文を予習しておくこと

	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第10回	**授業テーマ**	第８課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語と「前置詞“离”」など文法項目の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第８課の新出単語とポイントを予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第11回	**授業テーマ**	第８課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「她来了」会話本文の解説と練習問題と第８課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第８課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第12回	**授業テーマ**	第９課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語と「“了”の用法（２）」など文法項目の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第９課の新出単語とポイントを予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第13回	**授業テーマ**	第９課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「別　　了」会話本文の解説と練習問題と第９課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第９課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５分・予習２５分
第14回	**授業テーマ**	総まとめ＆期末試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	後期の授業内容のまとめ（５０分）と学習到達度の確認テスト（５０分）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第４課～第７課までの授業内容を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習５０分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

実施した小テストなどは採点して返却する。

評価方法

平常点や試験によって総合的に判断する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
小テスト	○			○
定期試験	○			○

評価割合

平常点４０%、期末試験６０%

（平常点は授業への参加度や小テスト等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

山下輝彦、黄漢清『行ってみよう！中国語への旅 世界遺産へようこそ』朝日出版社

参考図書

特になし。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】中国語の基礎な発音と文法事項を覚えて理解する。
【関心・意欲・態度】中国語や中国事情などについて関心をもつ。
【技術・表現】初級で学んだ知識で簡単な会話や交流ができる。

学生へのメッセージ

授業中に、課題文の朗読や発音練習等を随時行う。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50822001
講義名	韓国語入門1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	鄭 軟ジュ	指定なし

ナンバリング

X13770M12

授業概要(教育目的)

韓国語を初めて学習する人を対象とし、韓国語を習得するための基礎作りをする。具体的には、文字の読み書き、発音規則、挨拶、基本的な語句や文を用いた日常のコミュニケーションについて扱う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．韓国語の音声や語彙、文法、表現、言語の働きなどの理解を深める。 2．上記の１の知識を、読むこと、聞くこと、話すこと、書くことに活用する。
思考・判断の観点 (K)	1. 目的や場面、状況などに応じて、基本的な語句や文を用いたコミュニケーションの内容や要点を理解する。 2. 相手の意図を明確に理解したり、基本的な語句や文を適切に表現したりする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で授業に挑むことが望ましい。とりわけ毎回発音や語句などの練習を行うため、練習の成果を発表できるようにする。
技術・表現の観点 (A)	1. 発音規則を理解し、正しい発音で表現できる。 2. 語彙、語句、文の知識を身につけ、基本的な日常コミュニケーションを図る。

学習計画

		ルーブリックについて

第1回	授業テーマ	イントロダクション、ハングル文字の成り立ち、子音と母音とは、基礎母音10個
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ルーブリックについて説明をする。 ハングル文字の成り立ちについて理解し、子音と母音について学ぶ。 韓国語の基礎母音10個を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ハングル文字の仕組みについて理解する。 復習として10個の基本母音の発音を練習する。 予習として合成母音の仕組みについて予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第2回	授業テーマ	合成母音
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の合成母音について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として合成母音の発音を練習する。 予習として基本子音について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第3回	授業テーマ	19個の基本子音(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の子音について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として子音の発音を練習する。 予習として「基本子音+母音」からなる発音を練習する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第4回	授業テーマ	19個の基本子音(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の子音について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として子音の発音を練習する。 予習として「子音と母音」の組み合わせた発音を練習する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第5回	授業テーマ	母音と子音の復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学んだ母音と子音を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として「子音と母音」の組み合わせた発音を練習する。 予習としてパッチム（終声の音）の仕組みについて調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第6回	授業テーマ	パッチム(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語のパッチム（終声の音）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習としてパッチム発音を練習する。 予習としてパッチム(2)の内容について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第7回	授業テーマ	パッチム(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語のパッチム（終声の音）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習としてパッチム発音を練習する。 予習として韓国語で自己紹介の内容について調べる。

	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第8回	**授業テーマ**	文法編I「〇〇は〇〇です」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	助詞「～は」、「～です」に当たる表現を学ぶ。 自己紹介をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成する。 復習として「これ、それ、あれ」の韓国語表現について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第9回	**授業テーマ**	文法編II「韓国語のコ、ソ、ア」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の「これ、それ、あれ」の表現について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成する。 予習として「～ではありません」の韓国語表現について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第10回	**授業テーマ**	文法編III「〇〇は〇〇ではありません」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「～ではありません」に当たる表現を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作る。 予習として「～です、ます」に当たる表現のハムニダ体について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第11回	**授業テーマ**	文法編IV「用言の基本形とハムニダ体」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ハムニダ体（～です、～ます）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。 予習として存在を表す「ある、いる、ない、いない」の韓国語表現について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第12回	**授業テーマ**	文法編V「～にあります/ありません、います/いません」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「～にあります/ありません、います/いません」の表現を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。 予習として韓国語の数字について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第13回	**授業テーマ**	数字
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	漢字語数字について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作る。 予習として、今までの内容をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
	授業テーマ	全体のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ	これまで学んだ語彙および文法を復習する。

第14回	-教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合等によってスケジュールや内容が変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

前期の主な学習の内容は、ハングル文字と発音の習得であるため、ほぼ毎回の授業で発音の練習と発表を行う。

評価方法

平常点(授業への参加態度、発表など）、課題、定期試験の結果をあわせて総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点(授業への参加度、発表)	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	
課題	○	○	○	○

評価割合

平常点：30%
定期試験：40%
課題（小テスト）：30%
平常点は、授業への参加態度等で総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

チンチャ！チョアヘヨ！！韓国語１ (ISBN番号: 978-4-255-55702-1)

学生へのメッセージ

韓国と日本はお互い最も近い国で、交流も頻繁に行われています。
お互いをよりよく知るためには、まず、お互いの言葉を分かる必要があります。
隣国の言葉を勉強することによって興味を持ち、少しでも韓国について分かるようになってほしいです。
楽しく勉強して下さい！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		(google classroomを用いて)連絡事項や配布資料などをアップする。

講義コード	G50822002
講義名	韓国語入門1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	鄭 軟ジュ	指定なし

ナンバリング

X13770M12

授業概要(教育目的)

韓国語を初めて学習する人を対象とし、韓国語を習得するための基礎作りをする。具体的には、文字の読み書き、発音規則、挨拶、基本的な語句や文を用いた日常のコミュニケーションについて扱う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．韓国語の音声や語彙、文法、表現、言語の働きなどの理解を深める。 2．上記の１の知識を、読むこと、聞くこと、話すこと、書くことに活用する。
思考・判断の観点 (K)	1. 目的や場面、状況などに応じて、基本的な語句や文を用いたコミュニケーションの内容や要点を理解する。 2. 相手の意図を明確に理解したり、基本的な語句や文を適切に表現したりする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で授業に挑むことが望ましい。とりわけ毎回発音や語句などの練習を行うため、練習の成果を発表できるようにする。
技術・表現の観点 (A)	1. 発音規則を理解し、正しい発音で表現できる。 2. 語彙、語句、文の知識を身につけ、基本的な日常コミュニケーションを図る。

学習計画

		ルーブリックについて

第1回	授業テーマ	イントロダクション、ハングル文字の成り立ち、子音と母音とは、基礎母音10個
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ルーブリックについて説明をする。 ハングル文字の成り立ちについて理解し、子音と母音について学ぶ。 韓国語の基礎母音10個を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ハングル文字の仕組みについて理解する。 復習として10個の基本母音の発音を練習する。 予習として合成母音の仕組みについて予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第2回	授業テーマ	合成母音
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の合成母音について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として合成母音の発音を練習する。 予習として基本子音について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第3回	授業テーマ	19個の基本子音(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の子音について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として子音の発音を練習する。 予習として「基本子音+母音」からなる発音を練習する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第4回	授業テーマ	19個の基本子音(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の子音について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として子音の発音を練習する。 予習として「子音と母音」の組み合わせた発音を練習する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第5回	授業テーマ	母音と子音の復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学んだ母音と子音を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として「子音と母音」の組み合わせた発音を練習する。 予習としてパッチム（終声の音）の仕組みについて調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第6回	授業テーマ	パッチム(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語のパッチム（終声の音）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習としてパッチム発音を練習する。 予習としてパッチム(2)の内容について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第7回	授業テーマ	パッチム(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語のパッチム（終声の音）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習としてパッチム発音を練習する。 予習として韓国語で自己紹介の内容について調べる。

	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第8回	**授業テーマ**	文法編I「〇〇は〇〇です」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	助詞「～は」、「～です」に当たる表現を学ぶ。 自己紹介をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成する。 復習として「これ、それ、あれ」の韓国語表現について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第9回	**授業テーマ**	文法編II「韓国語のコ、ソ、ア」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の「これ、それ、あれ」の表現について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成する。 予習として「～ではありません」の韓国語表現について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第10回	**授業テーマ**	文法編III「〇〇は〇〇ではありません」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「～ではありません」に当たる表現を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作る。 予習として「～です、ます」に当たる表現のハムニダ体について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第11回	**授業テーマ**	文法編IV「用言の基本形とハムニダ体」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ハムニダ体（～です、～ます）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。 予習として存在を表す「ある、いる、ない、いない」の韓国語表現について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第12回	**授業テーマ**	文法編V「～にあります/ありません、います/いません」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「～にあります/ありません、います/いません」の表現を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。 予習として韓国語の数字について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第13回	**授業テーマ**	数字
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	漢字語数字について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作る。 予習として、今までの内容をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
	授業テーマ	全体のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ	これまで学んだ語彙および文法を復習する。

第14回	-教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合等によってスケジュールや内容が変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

前期の主な学習の内容は、ハングル文字と発音の習得であるため、ほぼ毎回の授業で発音の練習と発表を行う。

評価方法

平常点(授業への参加態度、発表など）、課題、定期試験の結果をあわせて総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点(授業への参加度、発表)	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	
課題	○	○	○	○

評価割合

平常点：30%
定期試験：40%
課題（小テスト）：30%
平常点は、授業への参加態度等で総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

チンチャ！チョアヘヨ！！韓国語１ (ISBN番号: 978-4-255-55702-1)

学生へのメッセージ

韓国と日本はお互い最も近い国で、交流も頻繁に行われています。
お互いをよりよく知るためには、まず、お互いの言葉を分かる必要があります。
隣国の言葉を勉強することによって興味を持ち、少しでも韓国について分かるようになってほしいです。
楽しく勉強して下さい！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		(google classroomを用いて)連絡事項や配布資料などをアップする。

講義コード	G50822003
講義名	韓国語入門1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	鄭 軟ジュ	指定なし

ナンバリング

X13770M12

授業概要(教育目的)

韓国語を初めて学習する人を対象とし、韓国語を習得するための基礎作りをする。具体的には、文字の読み書き、発音規則、挨拶、基本的な語句や文を用いた日常のコミュニケーションについて扱う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．韓国語の音声や語彙、文法、表現、言語の働きなどの理解を深める。 2．上記の１の知識を、読むこと、聞くこと、話すこと、書くことに活用する。
思考・判断の観点 (K)	1. 目的や場面、状況などに応じて、基本的な語句や文を用いたコミュニケーションの内容や要点を理解する。 2. 相手の意図を明確に理解したり、基本的な語句や文を適切に表現したりする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で授業に挑むことが望ましい。とりわけ毎回発音や語句などの練習を行うため、練習の成果を発表できるようにする。
技術・表現の観点 (A)	1. 発音規則を理解し、正しい発音で表現できる。 2. 語彙、語句、文の知識を身につけ、基本的な日常コミュニケーションを図る。

学習計画

		ルーブリックについて

第1回	授業テーマ	イントロダクション、ハングル文字の成り立ち、子音と母音とは、基礎母音10個
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ルーブリックについて説明をする。 ハングル文字の成り立ちについて理解し、子音と母音について学ぶ。 韓国語の基礎母音10個を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ハングル文字の仕組みについて理解する。 復習として10個の基本母音の発音を練習する。 予習として合成母音の仕組みについて予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第2回	授業テーマ	合成母音
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の合成母音について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として合成母音の発音を練習する。 予習として基本子音について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第3回	授業テーマ	19個の基本子音(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の子音について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として子音の発音を練習する。 予習として「基本子音+母音」からなる発音を練習する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第4回	授業テーマ	19個の基本子音(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の子音について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として子音の発音を練習する。 予習として「子音と母音」の組み合わせた発音を練習する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第5回	授業テーマ	母音と子音の復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学んだ母音と子音を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として「子音と母音」の組み合わせた発音を練習する。 予習としてパッチム（終声の音）の仕組みについて調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第6回	授業テーマ	パッチム(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語のパッチム（終声の音）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習としてパッチム発音を練習する。 予習としてパッチム(2)の内容について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第7回	授業テーマ	パッチム(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語のパッチム（終声の音）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習としてパッチム発音を練習する。 予習として韓国語で自己紹介の内容について調べる。

	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第8回	**授業テーマ**	文法編I「〇〇は〇〇です」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	助詞「～は」、「～です」に当たる表現を学ぶ。 自己紹介をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成する。 復習として「これ、それ、あれ」の韓国語表現について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第9回	**授業テーマ**	文法編II「韓国語のコ、ソ、ア」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の「これ、それ、あれ」の表現について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成する。 予習として「～ではありません」の韓国語表現について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第10回	**授業テーマ**	文法編III「〇〇は〇〇ではありません」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「～ではありません」に当たる表現を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作る。 予習として「～です、ます」に当たる表現のハムニダ体について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第11回	**授業テーマ**	文法編IV「用言の基本形とハムニダ体」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ハムニダ体（～です、～ます）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。 予習として存在を表す「ある、いる、ない、いない」の韓国語表現について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第12回	**授業テーマ**	文法編V「～にあります/ありません、います/いません」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「～にあります/ありません、います/いません」の表現を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。 予習として韓国語の数字について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第13回	**授業テーマ**	数字
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	漢字語数字について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作る。 予習として、今までの内容をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
	授業テーマ	全体のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ	これまで学んだ語彙および文法を復習する。

第14回	-教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合等によってスケジュールや内容が変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

前期の主な学習の内容は、ハングル文字と発音の習得であるため、ほぼ毎回の授業で発音の練習と発表を行う。

評価方法

平常点(授業への参加態度、発表など）、課題、定期試験の結果をあわせて総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点(授業への参加度、発表)	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	
課題	○	○	○	○

評価割合

平常点：30%
定期試験：40%
課題（小テスト）：30%
平常点は、授業への参加態度等で総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

チンチャ！チョアヘヨ！！韓国語１ (ISBN番号: 978-4-255-55702-1)

学生へのメッセージ

韓国と日本はお互い最も近い国で、交流も頻繁に行われています。
お互いをよりよく知るためには、まず、お互いの言葉を分かる必要があります。
隣国の言葉を勉強することによって興味を持ち、少しでも韓国について分かるようになってほしいです。
楽しく勉強して下さい！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		(google classroomを用いて)連絡事項や配布資料などをアップする。

講義コード	G50822031
講義名	韓国語入門1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	丹羽 裕美	指定なし

ナンバリング

X13770C12

授業概要(教育目的)

韓国語を初めて学習する人を対象とし、韓国語の発音、語彙、文法の基礎を獲得する。
韓国語の文字である「ハングル」の読み書きをマスターし、韓国語で簡単な質問をして相手のことを知り、自分を表現できるようペアワークなどアクティブ・ラーニングを積極的に用いる。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．韓国、韓国語に関する知識を獲得し、韓国に関する理解を深める。 2．英語以外の外国語の学習を通し、他文化、他言語に対する知見を広める。
思考・判断の観点 (K)	自ら考え、韓国語で文を組み立て話せるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で授業に挑むことが望ましい。とりわけ会話や発音の練習を多く行うため、練習の成果を発表できるようにしたい。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス 1課（文字と発音)
		授業の進め方やルーブリックについて説明します。

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ハングル文字の成り立ちと仕組みを理解しましょう。 ハングル文字の母音について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	授業テーマ	2課、3課(文字と発音)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の子音（平音）について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	3課、4課（文字と発音)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の子音（激音と濃音）を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回は、1課～4課の発音確認テストを行います。 1課～4課を復習しましょう。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	1課～4課までの読み確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今まで学んできたハングルが読めるかを1人1人確認します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	間違えたところは、声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	5課、6課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	5課ではパッチムを学び、6課では複合母音の一部を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	6課、7課（文字と発音）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	6課では複合母音を学び、7課は終声の初声化を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	8課 挨拶 日本語をハングルで表記する方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回のテストのフィードバックを行います。 ハングルで書かれた挨拶を読んでみましょう。 自分の名前をハングルで書いてみましょう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	韓国語の挨拶を書けるように覚えてみましょう。 自分の名前も書けるようにしてきましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	9課（自己紹介）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語で自己紹介できるようになりましょう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の名前をハングルで書けるか、挨拶は理解しているかなど、

		今までの復習をしてテストの準備をしましょう。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	1課～9課 理解度確認テスト 選択問題フィードバック ハングルで自己紹介して会話しましょう。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今まで学んだ内容が理解できているかを確認するためのテストです。 Googleフォームを用いた選択問題と問題用紙にハングルを書く筆記問題を行います。 選択問題はGoogleフォームでフィードバックします。 筆記問題は後日、個別に指導します。 9課の基本会話を使って、クラスメートと韓国語で自己紹介をします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	9課の基本会話を覚えて音声データをGoogleclassroomに提出しましょう。 10課の予習
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	**授業テーマ**	10課（これは私のカバンではありません）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指定詞を用いて、文を作って話せるように練習しましょう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	肯定文と否定文、疑問文の復習しましょう。 予習として、11課の漢数詞を覚えてきましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	**授業テーマ**	11課（誕生日はいつですか）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	漢数詞を用いて、年月日、建物の階数などを言えるように練習しましょう。 存在詞「～があります・ありません」を用いて、予定など伝えることが出来るようになります。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら11課の基本会話を覚え、音声データをGoogle Classroomに提出してください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	**授業テーマ**	12課（今度の日曜日に何をしますか）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	12課では、曜日や時間などを用いて予定を言えるようにします。 「～を食べます」「～を見ます」といった日常的に多く用いる動詞を用いて文を作り 会話できるようにします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	基本会話文を覚えてGoogleclassroomに提出しましょう。 固有数詞を覚えてきましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	**授業テーマ**	11課と12課の会話 9課～12課の復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の1日のスケジュールを韓国語で言えるように、書けるようにしましょう。 相手のスケジュール、誕生日などを尋ねて会話できるようになりましょう。 今までの復習をいたします。

	教室外学習(予習・復習)の内容	次回は理解度確認テスト（9課～12課）を行います。 試験の準備をしてきましょう。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	9課～12課の理解度確認テスト 試験のフィードバック
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	9課～12課の理解度確認テストを行います。 Googleフォームを用いた選択問題と、問題用紙を用いた筆記問題があります。 試験後にフィードバックをいたします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第15回	**授業テーマ**	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第16回	**授業テーマ**	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

特になし。

学生へのフィードバック方法

前期の主な学習の内容の1つは、ハングル文字と発音の習得であるため、毎回の授業で発音の練習を行う。
発音してもらい修正するフィードバックの過程を繰り返す。また、自己紹介など平易な文を韓国語で自ら作って話せる力を習得するため、理解度確認テストを行い文法事項の理解度を確認し、その解説を行ったり、グループワークを通してより楽しく学びながらフィードバックを行う。

評価方法

定期試験は行わず、途中で行う発音テストと理解度確認テスト（小テスト）の結果と平常点(出席、授業への参加態度、課題提出、ルーブリック評価）で総合的に評価する。
※ルーブリックは最初の授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点(ルーブリック評価など)	○	○	○	
理解度確認テスト	○	○	○	

評価割合

平常点：50%
理解度確認テスト：50%
平常点とは、課題提出・出席率・授業への参加態度・ルーブリック評価で総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

わかる韓国語初級（978-4-411-03159-4)

学生へのメッセージ

韓国と日本はお互い最も近い国で、交流も頻繁に行われています。
お互いをより知るためには、まず、お互いの言葉を分かる必要があります。
隣国の言葉を勉強することによって、韓国の文化や生活にも興味を持てるように
なってもらえたらと思います。
授業中には発音練習を多く行います。耳や口を大いに使って楽しく学習しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークなどアクティブ・ラーニングを積極的に用いて会話力を高め、理解を深める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50822032
講義名	韓国語入門1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	丹羽 裕美	指定なし

ナンバリング

X13770C12

授業概要(教育目的)

韓国語を初めて学習する人を対象とし、韓国語の発音、語彙、文法の基礎を獲得する。
韓国語の文字である「ハングル」の読み書きをマスターし、韓国語で簡単な質問をして相手のことを知り、自分を表現できるようペアワークなどアクティブ・ラーニングを積極的に用いる。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．韓国、韓国語に関する知識を獲得し、韓国に関する理解を深める。 2．英語以外の外国語の学習を通し、他文化、他言語に対する知見を広める。
思考・判断の観点 (K)	自ら考え、韓国語で文を組み立て話せるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で授業に挑むことが望ましい。とりわけ会話や発音の練習を多く行うため、練習の成果を発表できるようにしたい。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス 1課（文字と発音)
		授業の進め方やルーブリックについて説明します。

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ハングル文字の成り立ちと仕組みを理解しましょう。 ハングル文字の母音について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	授業テーマ	2課、3課(文字と発音)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の子音（平音）について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	3課、4課（文字と発音)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の子音（激音と濃音）を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回は、1課～4課の発音確認テストを行います。 1課～4課を復習しましょう。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	1課～4課までの読み確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今まで学んできたハングルが読めるかを1人1人確認します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	間違えたところは、声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	5課、6課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	5課ではパッチムを学び、6課では複合母音の一部を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	6課、7課（文字と発音）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	6課では複合母音を学び、7課は終声の初声化を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	8課 挨拶 日本語をハングルで表記する方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回のテストのフィードバックを行います。 ハングルで書かれた挨拶を読んでみましょう。 自分の名前をハングルで書いてみましょう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	韓国語の挨拶を書けるように覚えてみましょう。 自分の名前も書けるようにしてきましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	9課（自己紹介）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語で自己紹介できるようになりましょう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の名前をハングルで書けるか、挨拶は理解しているかなど、

		今までの復習をしてテストの準備をしましょう。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	1課～9課 理解度確認テスト 選択問題フィードバック ハングルで自己紹介して会話しましょう。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今まで学んだ内容が理解できているかを確認するためのテストです。 Googleフォームを用いた選択問題と問題用紙にハングルを書く筆記問題を行います。 選択問題はGoogleフォームでフィードバックします。 筆記問題は後日、個別に指導します。 9課の基本会話を使って、クラスメートと韓国語で自己紹介をします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	9課の基本会話を覚えて音声データをGoogleclassroomに提出しましょう。 10課の予習
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	**授業テーマ**	10課（これは私のカバンではありません）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指定詞を用いて、文を作って話せるように練習しましょう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	肯定文と否定文、疑問文の復習しましょう。 予習として、11課の漢数詞を覚えてきましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	**授業テーマ**	11課（誕生日はいつですか）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	漢数詞を用いて、年月日、建物の階数などを言えるように練習しましょう。 存在詞「～があります・ありません」を用いて、予定など伝えることが出来るようになります。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら11課の基本会話を覚え、音声データをGoogle Classroomに提出してください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	**授業テーマ**	12課（今度の日曜日に何をしますか）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	12課では、曜日や時間などを用いて予定を言えるようにします。 「～を食べます」「～を見ます」といった日常的に多く用いる動詞を用いて文を作り 会話できるようにします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	基本会話文を覚えてGoogleclassroomに提出しましょう。 固有数詞を覚えてきましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	**授業テーマ**	11課と12課の会話 9課～12課の復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の1日のスケジュールを韓国語で言えるように、書けるようにしましょう。 相手のスケジュール、誕生日などを尋ねて会話できるようになりましょう。 今までの復習をいたします。

	教室外学習(予習・復習)の内容	次回は理解度確認テスト（9課～12課）を行います。 試験の準備をしてきましょう。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	9課～12課の理解度確認テスト 試験のフィードバック
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	9課～12課の理解度確認テストを行います。 Googleフォームを用いた選択問題と、問題用紙を用いた筆記問題があります。 試験後にフィードバックをいたします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第15回	**授業テーマ**	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第16回	**授業テーマ**	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

特になし。

学生へのフィードバック方法

前期の主な学習の内容の1つは、ハングル文字と発音の習得であるため、毎回の授業で発音の練習を行う。
発音してもらい修正するフィードバックの過程を繰り返す。また、自己紹介など平易な文を韓国語で自ら作って話せる力を習得するため、理解度確認テストを行い文法事項の理解度を確認し、その解説を行ったり、グループワークを通してより楽しく学びながらフィードバックを行う。

評価方法

定期試験は行わず、途中で行う発音テストと理解度確認テスト（小テスト）の結果と平常点(出席、授業への参加態度、課題提出、ルーブリック評価）で総合的に評価する。
※ルーブリックは最初の授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点(ルーブリック評価など)	○	○	○	
理解度確認テスト	○	○	○	

評価割合

平常点：50%
理解度確認テスト：50%
平常点とは、課題提出・出席率・授業への参加態度・ルーブリック評価で総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

わかる韓国語初級（978-4-411-03159-4)

学生へのメッセージ

韓国と日本はお互い最も近い国で、交流も頻繁に行われています。
お互いをより知るためには、まず、お互いの言葉を分かる必要があります。
隣国の言葉を勉強することによって、韓国の文化や生活にも興味を持てるように
なってもらえたらと思います。
授業中には発音練習を多く行います。耳や口を大いに使って楽しく学習しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークなどアクティブ・ラーニングを積極的に用いて会話力を高め、理解を深める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50822033
講義名	韓国語入門1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	丹羽 裕美	指定なし

ナンバリング

X13770C12

授業概要(教育目的)

韓国語を初めて学習する人を対象とし、韓国語の発音、語彙、文法の基礎を獲得する。
韓国語の文字である「ハングル」の読み書きをマスターし、韓国語で簡単な質問をして相手のことを知り、自分を表現できるようペアワークなどアクティブ・ラーニングを積極的に用いる。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．韓国、韓国語に関する知識を獲得し、韓国に関する理解を深める。 2．英語以外の外国語の学習を通し、他文化、他言語に対する知見を広める。
思考・判断の観点 (K)	自ら考え、韓国語で文を組み立て話せるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で授業に挑むことが望ましい。とりわけ会話や発音の練習を多く行うため、練習の成果を発表できるようにしたい。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス 1課（文字と発音)
		授業の進め方やルーブリックについて説明します。

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ハングル文字の成り立ちと仕組みを理解しましょう。 ハングル文字の母音について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	授業テーマ	2課、3課(文字と発音)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の子音（平音）について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	3課、4課（文字と発音)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の子音（激音と濃音）を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回は、1課～4課の発音確認テストを行います。 1課～4課を復習しましょう。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	1課～4課までの読み確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今まで学んできたハングルが読めるかを1人1人確認します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	間違えたところは、声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	5課、6課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	5課ではパッチムを学び、6課では複合母音の一部を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	6課、7課（文字と発音）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	6課では複合母音を学び、7課は終声の初声化を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	8課 挨拶 日本語をハングルで表記する方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回のテストのフィードバックを行います。 ハングルで書かれた挨拶を読んでみましょう。 自分の名前をハングルで書いてみましょう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	韓国語の挨拶を書けるように覚えてみましょう。 自分の名前も書けるようにしてきましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	9課（自己紹介）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語で自己紹介できるようになりましょう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の名前をハングルで書けるか、挨拶は理解しているかなど、

		今までの復習をしてテストの準備をしましょう。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	1課～9課 理解度確認テスト 選択問題フィードバック ハングルで自己紹介して会話しましょう。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今まで学んだ内容が理解できているかを確認するためのテストです。 Googleフォームを用いた選択問題と問題用紙にハングルを書く筆記問題を行います。 選択問題はGoogleフォームでフィードバックします。 筆記問題は後日、個別に指導します。 9課の基本会話を使って、クラスメートと韓国語で自己紹介をします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	9課の基本会話を覚えて音声データをGoogleclassroomに提出しましょう。 10課の予習
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	**授業テーマ**	10課（これは私のカバンではありません）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指定詞を用いて、文を作って話せるように練習しましょう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	肯定文と否定文、疑問文の復習しましょう。 予習として、11課の漢数詞を覚えてきましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	**授業テーマ**	11課（誕生日はいつですか）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	漢数詞を用いて、年月日、建物の階数などを言えるように練習しましょう。 存在詞「～があります・ありません」を用いて、予定など伝えることが出来るようになります。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら11課の基本会話を覚え、音声データをGoogle Classroomに提出してください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	**授業テーマ**	12課（今度の日曜日に何をしますか）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	12課では、曜日や時間などを用いて予定を言えるようにします。 「～を食べます」「～を見ます」といった日常的に多く用いる動詞を用いて文を作り 会話できるようにします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	基本会話文を覚えてGoogleclassroomに提出しましょう。 固有数詞を覚えてきましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	**授業テーマ**	11課と12課の会話 9課～12課の復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の1日のスケジュールを韓国語で言えるように、書けるようにしましょう。 相手のスケジュール、誕生日などを尋ねて会話できるようになりましょう。 今までの復習をいたします。

	教室外学習(予習・復習)の内容	次回は理解度確認テスト（9課～12課）を行います。 試験の準備をしてきましょう。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	9課～12課の理解度確認テスト 試験のフィードバック
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	9課～12課の理解度確認テストを行います。 Googleフォームを用いた選択問題と、問題用紙を用いた筆記問題があります。 試験後にフィードバックをいたします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第15回	**授業テーマ**	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第16回	**授業テーマ**	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

特になし。

学生へのフィードバック方法

前期の主な学習の内容の1つは、ハングル文字と発音の習得であるため、毎回の授業で発音の練習を行う。
発音してもらい修正するフィードバックの過程を繰り返す。また、自己紹介など平易な文を韓国語で自ら作って話せる力を習得するため、理解度確認テストを行い文法事項の理解度を確認し、その解説を行ったり、グループワークを通してより楽しく学びながらフィードバックを行う。

評価方法

定期試験は行わず、途中で行う発音テストと理解度確認テスト（小テスト）の結果と平常点(出席、授業への参加態度、課題提出、ルーブリック評価）で総合的に評価する。
※ルーブリックは最初の授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点(ルーブリック評価など)	○	○	○	
理解度確認テスト	○	○	○	

評価割合

平常点：50%
理解度確認テスト：50%
平常点とは、課題提出・出席率・授業への参加態度・ルーブリック評価で総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

わかる韓国語初級（978-4-411-03159-4)

学生へのメッセージ

韓国と日本はお互い最も近い国で、交流も頻繁に行われています。
お互いをより知るためには、まず、お互いの言葉を分かる必要があります。
隣国の言葉を勉強することによって、韓国の文化や生活にも興味を持てるように
なってもらえたらと思います。
授業中には発音練習を多く行います。耳や口を大いに使って楽しく学習しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークなどアクティブ・ラーニングを積極的に用いて会話力を高め、理解を深める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50823001
講義名	韓国語入門2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	鄭 軟ジュ	指定なし

ナンバリング

X13780M12

授業概要(教育目的)

韓国語の基礎的な語彙、文法、表現を勉強し、簡単な韓国語で会話ができるようにすることを目標とする。前期に学習した韓国語の文字、発音、基礎的な文法を復習も行う。

履修条件

韓国語入門１の受講、あるいはハングルを読めることが履修条件である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．韓国語の音声や語彙、文法、表現、言語の働きなどの理解を深める。 2．上記の１の知識を、読むこと、聞くこと、話すこと、書くことに活用する。
思考・判断の観点 (K)	1. 目的や場面、状況を応じて、実際のコミュニケーションの内容や要点を理解する。 2. 相手の意図を明確に理解したり、語句や文を用いて適切に表現したりする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で授業に挑むことが望ましい。
技術・表現の観点 (A)	語彙。語句、文の知識を身につけ、日常のコミュニケーションを図る。

学習計画

韓国語入門II

	授業テーマ	否定形「～ない」

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ルーブリックについて説明する。 「～ない」、「～ません」について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	否定形の文法、語彙および表現を復習する。 数字について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第2回	授業テーマ	数字
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	固有語数詞を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	漢字語数字、固有語数字について復習する。 用言（動詞、形容詞の活用）について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第3回	授業テーマ	用言の活用①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	母音語幹用言の活用を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	母音語幹用言の活用について復習する。 子音語幹用言について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第4回	授業テーマ	用言の活用②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子音語幹用言の活用を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子音語幹用言の活用について復習する。 予習として、母音語幹用言と子音語幹用言についてのまとめを行う。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第5回	授業テーマ	用言の活用③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体言に付く用言の活用について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文法ごとにどの体言を使用するかについて復習する。 予習として用言のタイプや活用などについてまとめを行う。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第6回	授業テーマ	これまでの文法の復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学習した文法を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で習った内容を復習し、必ず自分のものにできるようにする。 語彙および表現について復習する。 「～て」「～れば」の文法について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第7回	授業テーマ	「～て」/「～れば」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	２つの文を繋ぐ「～して」の表現を学習する。 条件・仮定の表現を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「～て」「～れば」の文法や語彙、表現について練習、復習する。 「～ので」「～ている」の表現について予習

		する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第8回	**授業テーマ**	「～ので、て」/「～している」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	原因・理由の表現「～ので、て」を学習する。 進行・継続の表現を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「～ので」「～ている」の表現について練習、復習する。 可能・不可能の表現について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第9回	**授業テーマ**	「～することができる」/「～することができない」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	可能・不可能の表現を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	可能・不可能の文法を練習、復習する。 ﾆ語幹の用言について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第10回	**授業テーマ**	ﾆ語幹の用言
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ﾆ語幹の用言について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ﾆ語幹の用言を用い、応用・練習などの復習する。 尊敬語について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第11回	**授業テーマ**	尊敬形①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	尊敬形の表現「お～になる、られる、～なされる」を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	尊敬語の文法を練習、復習する。 語彙および表現についえ復習する。 尊敬語②の内容について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第12回	**授業テーマ**	尊敬形②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	尊敬形の表現「お～になる、られる、～なされる」を学習する。 召し上がる、いらっしゃるなどの敬語表現を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	敬語の文法および表現について復習する。 過去形について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第13回	**授業テーマ**	過去形
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	過去形の表現を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	過去形の文法を練習、復習する。 語彙および表現について復習する。 予習としてこれまでの内容のまとめを行う。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
	授業テーマ	これまでの文法などの復習

第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学習した文法、語彙、表現を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で習った内容を復習し、必ず自分のものにできるようにする。 予習としてこれまでの内容のまとめを行う。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合等によってスケジュールや内容が変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

学習事項を学習した後、復習として課題を出す。必ず自ら考えて課題をこなすこと。
提出してもらった課題は添削して返し、フィートバックを行う。

評価方法

平常点(授業への参加態度、発表）、課題の提出、定期試験の結果を総合的に判断し評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点(授業への参加態度、発表	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	
課題	○	○	○	○

評価割合

平常点：30%
定期試験：40%
課題（小テスト）：30%
平常点は、授業への参加態度等で総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

チンチャ！チョアヘヨ！！韓国語１ (ISBN番号: 978-4-255-55702-1)
前期の韓国語入門1と同じ教科書を使用

学生へのメッセージ

韓国と日本はお互い最も近い国で、交流も頻繁に行われています。
お互いをよりよく知るためには、まず、お互いの言葉を分かることが大事です。
隣国の言葉を勉強することによって興味を持ち、少しでも韓国について分かるようになってほしいです。
楽しく勉強して下さい！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		(google classroomを用いて)連絡事項や配布資料などをアップする。

講義コード	G50823002
講義名	韓国語入門2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	鄭 軟ジュ	指定なし

ナンバリング

X13780M12

授業概要(教育目的)

韓国語の基礎的な語彙、文法、表現を勉強し、簡単な韓国語で会話ができるようにすることを目標とする。前期に学習した韓国語の文字、発音、基礎的な文法を復習も行う。

履修条件

韓国語入門１の受講、あるいはハングルを読めることが履修条件である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．韓国語の音声や語彙、文法、表現、言語の働きなどの理解を深める。 2．上記の１の知識を、読むこと、聞くこと、話すこと、書くことに活用する。
思考・判断の観点 (K)	1. 目的や場面、状況を応じて、実際のコミュニケーションの内容や要点を理解する。 2. 相手の意図を明確に理解したり、語句や文を用いて適切に表現したりする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で授業に挑むことが望ましい。
技術・表現の観点 (A)	語彙。語句、文の知識を身につけ、日常のコミュニケーションを図る。

学習計画

韓国語入門II

	授業テーマ	否定形「～ない」

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ルーブリックについて説明する。 「～ない」、「～ません」について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	否定形の文法、語彙および表現を復習する。 数字について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第2回	授業テーマ	数字
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	固有語数詞を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	漢字語数字、固有語数字について復習する。 用言（動詞、形容詞の活用）について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第3回	授業テーマ	用言の活用①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	母音語幹用言の活用を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	母音語幹用言の活用について復習する。 子音語幹用言について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第4回	授業テーマ	用言の活用②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子音語幹用言の活用を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子音語幹用言の活用について復習する。 予習として、母音語幹用言と子音語幹用言についてのまとめを行う。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第5回	授業テーマ	用言の活用③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体言に付く用言の活用について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文法ごとにどの体言を使用するかについて復習する。 予習として用言のタイプや活用などについてまとめを行う。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第6回	授業テーマ	これまでの文法の復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学習した文法を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で習った内容を復習し、必ず自分のものにできるようにする。 語彙および表現について復習する。 「～て」「～れば」の文法について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第7回	授業テーマ	「～て」/「～れば」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	２つの文を繋ぐ「～して」の表現を学習する。 条件・仮定の表現を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「～て」「～れば」の文法や語彙、表現について練習、復習する。 「～ので」「～ている」の表現について予習

		する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第8回	**授業テーマ**	「～ので、て」/「～している」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	原因・理由の表現「～ので、て」を学習する。 進行・継続の表現を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「～ので」「～ている」の表現について練習、復習する。 可能・不可能の表現について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第9回	**授業テーマ**	「～することができる」/「～することができない」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	可能・不可能の表現を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	可能・不可能の文法を練習、復習する。 ﾆ語幹の用言について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第10回	**授業テーマ**	ﾆ語幹の用言
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ﾆ語幹の用言について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ﾆ語幹の用言を用い、応用・練習などの復習する。 尊敬語について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第11回	**授業テーマ**	尊敬形①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	尊敬形の表現「お～になる、られる、～なされる」を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	尊敬語の文法を練習、復習する。 語彙および表現についえ復習する。 尊敬語②の内容について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第12回	**授業テーマ**	尊敬形②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	尊敬形の表現「お～になる、られる、～なされる」を学習する。 召し上がる、いらっしゃるなどの敬語表現を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	敬語の文法および表現について復習する。 過去形について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
第13回	**授業テーマ**	過去形
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	過去形の表現を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	過去形の文法を練習、復習する。 語彙および表現について復習する。 予習としてこれまでの内容のまとめを行う。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分
	授業テーマ	これまでの文法などの復習

第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学習した文法、語彙、表現を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で習った内容を復習し、必ず自分のものにできるようにする。 予習としてこれまでの内容のまとめを行う。
	教室外学習の時間（分）	復習30分、予習30分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合等によってスケジュールや内容が変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

学習事項を学習した後、復習として課題を出す。必ず自ら考えて課題をこなすこと。
提出してもらった課題は添削して返し、フィートバックを行う。

評価方法

平常点(授業への参加態度、発表）、課題の提出、定期試験の結果を総合的に判断し評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点(授業への参加態度、発表	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	
課題	○	○	○	○

評価割合

平常点：30%
定期試験：40%
課題（小テスト）：30%
平常点は、授業への参加態度等で総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

チンチャ！チョアヘヨ！！韓国語１ (ISBN番号: 978-4-255-55702-1)
前期の韓国語入門1と同じ教科書を使用

学生へのメッセージ

韓国と日本はお互い最も近い国で、交流も頻繁に行われています。
お互いをよりよく知るためには、まず、お互いの言葉を分かることが大事です。
隣国の言葉を勉強することによって興味を持ち、少しでも韓国について分かるようになってほしいです。
楽しく勉強して下さい！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		(google classroomを用いて)連絡事項や配布資料などをアップする。

講義コード	G50823031
講義名	韓国語入門2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	丹羽 裕美	指定なし

ナンバリング

X13780C12

授業概要(教育目的)

韓国語の基礎的な語彙、文法、表現を駆使して簡単な韓国語で会話ができるようにすることを目標とする。
授業の進め方は「基本」を主に扱い、文法練習と基本会話文を元にペアワークなどアクティビブ・ラーニングを積極的に用いる。
各課ごとに単語テストを行って会話力を高めます。
韓国のことだけでなく、自分の意見を言うための1歩として（希望者は）「好きなものや推しのこと・曲・SNSなど」を紹介することを行います。

履修条件

韓国語入門１の受講、あるいはハングルを読めること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．韓国、韓国語に関する知識を獲得し、韓国に関する理解を深める。 2．英語以外の外国語の学習を通し、他文化、他言語に対する知見を広める。
思考・判断の観点 (K)	日常会話レベルの文を、自ら考え、韓国語で組み立て話せるようになる。 韓国語で自身のことを述べるだけでなく相手の意見も聞き理解を深める力を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で授業に挑むことが望ましい。とりわけ会話の発音や練習を多く行うため、練習の成果を発表できるようにしたい。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

韓国語入門II

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス 13課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方やルーブリックについて説明します。 13課の基本文法と会話文を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	基本会話を覚えてGoogleclassroomに音声を提出すること。 13課の単語を覚えましょう。次回単語テストです。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	14課 用言の活用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	13課の単語テストを行います。 14課用言の活用を理解しましょう。 好きなものや推しを紹介しよう！
	教室外学習(予習・復習)の内容	14課は特に大切な部分です。しっかり復習しましょう。 14課の単語を覚えましょう。次回単語テストです。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	15課 ハムニダ体とヘヨ体
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	14課の単語テスト 15課丁寧形（ハムニダ体とヘヨ体）を学びます。 好きなものや推しを紹介しよう！
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回、14課とハムニダ体とヘヨ体の小テストを行います。 授業で詳しく言いますので、復習して準備してください。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	14課と15課（ハムニダ体とヘヨ体）の小テスト 15課 位置を表す単語を使って会話
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	14課と15課の小テストとフィードバックを行います。 15課 位置を表す単語を使って会話します。 好きなものや推しを紹介しよう！
	教室外学習(予習・復習)の内容	14課と15課の小テストで間違えたところを正解にしてGoogleclassroomに提出 15課の単語を覚えましょう。次回単語テストです。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	15課（○○はどこですか）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	15課の単語テスト 15課の基本会話を使って「食堂はどこにありますか」など 場所を尋ねたり、案内することができるように会話練習します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	15課の基本会話を覚えてGoogleclassに音声データを提出
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	16課 (趣味は何ですか)
		16課 相手に趣味を尋ねたり、自分の好みを伝えるこ

第6回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	とができるように練習します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回は、13課～16課までの理解度確認テストです。 復習をして、試験の準備をしてください。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	13課～16課の理解度確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	13課～16課の理解度確認テストを行います。 Googleフォームを用いた選択問題と問題用紙を用いた筆記問題があります。 終わったらフィードバックします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	間違えたところを書き出して整理してGoogleclassに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	17課（～したいです）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	17課 用言の否定形と希望の表現を学びます。 好きなものや推しを紹介しよう！
	教室外学習(予習・復習)の内容	121ページを参照しながら、希望の表現や希望しない表現を用いて作文してみましょう。 作文はGoogleclassに提出しましょう。 17課単語を覚えましょう。次回単語テストです。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	17課の会話練習と発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	17課単語テスト 17課の基本会話を用いて「何が食べたいですか」 「○○が食べたいです/○○は食べたくないです。」 といった会話を自在に言えるように練習して発表してみましょう。 好きなものを発表しよう！
	教室外学習(予習・復習)の内容	17課の基本会話を覚えてGoogleclassroomに音声データを提出してください。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	18課 過去形 韓国映画の鑑賞（1/3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	18課の単語テスト 18課の文法 過去形など 韓国の映画を鑑賞します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	18課の単語を覚えましょう。次回単語テストです。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	18課（昨日何しましたか） 韓国映画の鑑賞（2/3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	18課基本会話を用いて会話練習を行います。 韓国の映画を鑑賞します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	18課の基本会話を覚えてGoogleclassに音声データを提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	60分

第12回	授業テーマ	19課 尊敬語 韓国映画の鑑賞（3/3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	19課の文法である敬語などを理解する。 発音の変化を学ぶ。 韓国の映画を鑑賞（3/3）しましょう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	19課の文法や発音の変化を復習しましょう。 19課の単語を覚えましょう。次回単語テストです。 韓国の映画を鑑賞します。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	19課（お宅にいらっしゃいますか）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	19課（尊敬語）を用いて会話を行えるようにする。 基本会話を用いて練習と発表。 17課～19課の復習。
	教室外学習(予習・復習)の内容	17課～19課の理解度確認テストを行います。 試験の準備をしましょう。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	17課～19課理解度確認テストとフィードバック
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	17課～19課の理解度確認テストを行います。 Googleフォームを用いた選択問題と問題用紙を用いた筆記問題があります。 試験後はフィードバックを行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第16回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

特になし。

学生へのフィードバック方法

後期の主な学習目標は、韓国語で会話する力を獲得することです。
教室外学習では、各課の会話文を発音練習し音声データをGoogleclassroomに提出してもらいます。
また、韓国語で自ら文を作って話せる力と相手の意見を聞く力を養うために、
グループワークを通してより楽しく学びながらフィードバックを行います。

評価方法

定期試験は行わず、単語テストや理解度確認テストと、平常点(出席、授業への参加態度、課題提出、ルーブリック評価）で総合的に評価。
※ルーブリックは最初の授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
課題提出	○	○	○	
ルーブリック評価	○	○	○	

評価割合

平常点：50%
理解度確認テスト：50%
平常点とは、課題提出・出席率・授業への参加態度・ルーブリック評価で総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

わかる韓国語初級（978-4-411-03159-4)

学生へのメッセージ

韓国と日本はお互い最も近い国で、交流も頻繁に行われています。
お互いをより知るためには、まず、お互いの言葉を分かる必要があります。
隣国の言葉を勉強することによって、韓国の文化や生活にも興味を持てるように
なってもらえたらと思います。
授業中には発音練習を多く行います。耳や口を大いに使って楽しく学習しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークなどアクティブ・ラーニングを積極的に用いて会話力を高め、理解を深める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50823032
講義名	韓国語入門2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	丹羽 裕美	指定なし

ナンバリング

X13780C12

授業概要(教育目的)

韓国語の基礎的な語彙、文法、表現を駆使して簡単な韓国語で会話ができるようにすることを目標とする。
授業の進め方は「基本」を主に扱い、文法練習と基本会話文を元にペアワークなどアクティビブ・ラーニングを積極的に用いる。
各課ごとに単語テストを行って会話力を高めます。
韓国のことだけでなく、自分の意見を言うための1歩として（希望者は）「好きなものや推しのこと・曲・SNSなど」を紹介することを行います。

履修条件

韓国語入門１の受講、あるいはハングルを読めること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．韓国、韓国語に関する知識を獲得し、韓国に関する理解を深める。 2．英語以外の外国語の学習を通し、他文化、他言語に対する知見を広める。
思考・判断の観点 (K)	日常会話レベルの文を、自ら考え、韓国語で組み立て話せるようになる。 韓国語で自身のことを述べるだけでなく相手の意見も聞き理解を深める力を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で授業に挑むことが望ましい。とりわけ会話の発音や練習を多く行うため、練習の成果を発表できるようにしたい。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

韓国語入門II

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス 13課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方やルーブリックについて説明します。 13課の基本文法と会話文を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	基本会話を覚えてGoogleclassroomに音声を提出すること。 13課の単語を覚えましょう。次回単語テストです。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	14課 用言の活用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	13課の単語テストを行います。 14課用言の活用を理解しましょう。 好きなものや推しを紹介しよう！
	教室外学習(予習・復習)の内容	14課は特に大切な部分です。しっかり復習しましょう。 14課の単語を覚えましょう。次回単語テストです。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	15課 ハムニダ体とヘヨ体
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	14課の単語テスト 15課丁寧形（ハムニダ体とヘヨ体）を学びます。 好きなものや推しを紹介しよう！
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回、14課とハムニダ体とヘヨ体の小テストを行います。 授業で詳しく言いますので、復習して準備してください。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	14課と15課（ハムニダ体とヘヨ体）の小テスト 15課の会話練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	14課と15課の小テストとフィードバックを行います。 15課 位置を表す単語を使って会話します。 好きなものや推しを紹介しよう！
	教室外学習(予習・復習)の内容	14課と15課の小テストで間違えたところを正解にしてGoogleclassroomに提出 15課の単語を覚えましょう。次回単語テストです。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	15課（○○はどこですか）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	15課の単語テスト 15課の基本会話を使って「食堂はどこにありますか」など 場所を尋ねたり、案内することができるように会話練習します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	15課の基本会話を覚えてGoogleclassに音声データを提出
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	16課 (趣味は何ですか)
		16課 相手に趣味を尋ねたり、自分の好みを伝えるこ

第6回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	とができるように練習します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回は、13課～16課までの理解度確認テストです。 復習をして、試験の準備をしてください。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	13課～16課の理解度確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	13課～16課の理解度確認テストを行います。 Googleフォームを用いた選択問題と問題用紙を用いた筆記問題があります。 終わったらフィードバックします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	間違えたところを書き出して整理してGoogleclassに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	17課（～したいです）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	17課 用言の否定形と希望の表現を学びます。 好きなものや推しを紹介しよう！
	教室外学習(予習・復習)の内容	121ページを参照しながら、希望の表現や希望しない表現を用いて作文してみましょう。 作文はGoogleclassに提出しましょう。 17課単語を覚えましょう。次回単語テストです。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	17課の会話練習と発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	17課単語テスト 17課の基本会話を用いて「何が食べたいですか」 「○○が食べたいです/○○は食べたくないです。」 といった会話を自在に言えるように練習して発表してみましょう。 好きなものを発表しよう！
	教室外学習(予習・復習)の内容	17課の基本会話を覚えてGoogleclassroomに音声データを提出してください。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	18課 過去形 韓国映画の鑑賞（1/3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	18課の単語テスト 18課の文法 過去形など 韓国の映画を鑑賞します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	18課の単語を覚えましょう。次回単語テストです。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	18課（昨日何しましたか） 韓国映画の鑑賞（2/3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	18課基本会話を用いて会話練習を行います。 韓国の映画を鑑賞します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	18課の基本会話を覚えてGoogleclassに音声データを提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	60分

第12回	授業テーマ	19課 尊敬語 韓国映画の鑑賞（3/3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	19課の文法である敬語などを理解する。 発音の変化を学ぶ。 韓国の映画を鑑賞（3/3）しましょう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	19課の文法や発音の変化を復習しましょう。 19課の単語を覚えましょう。次回単語テストです。 韓国の映画を鑑賞します。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	19課（お宅にいらっしゃいますか）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	19課（尊敬語）を用いて会話を行えるようにする。 基本会話を用いて練習と発表。 17課～19課の復習。
	教室外学習(予習・復習)の内容	17課～19課の理解度確認テストを行います。 試験の準備をしましょう。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	17課～19課理解度確認テストとフィードバック
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	17課～19課の理解度確認テストを行います。 Googleフォームを用いた選択問題と問題用紙を用いた筆記問題があります。 試験後はフィードバックを行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第16回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

特になし。

学生へのフィードバック方法

後期の主な学習目標は、韓国語で会話する力を獲得することです。
教室外学習では、各課の会話文を発音練習し音声データをGoogleclassroomに提出してもらいます。
また、韓国語で自ら文を作って話せる力と相手の意見を聞く力を養うために、
グループワークを通してより楽しく学びながらフィードバックを行います。

評価方法

定期試験は行わず、単語テストや理解度確認テストと、平常点(出席、授業への参加態度、課題提出、ルーブリック評価）で総合的に評価。
※ルーブリックは最初の授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
課題提出	○	○	○	
ルーブリック評価	○	○	○	

評価割合

平常点：50%
理解度確認テスト：50%
平常点とは、課題提出・出席率・授業への参加態度・ルーブリック評価で総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

わかる韓国語初級（978-4-411-03159-4)

学生へのメッセージ

韓国と日本はお互い最も近い国で、交流も頻繁に行われています。
お互いをより知るためには、まず、お互いの言葉を分かる必要があります。
隣国の言葉を勉強することによって、韓国の文化や生活にも興味を持てるように
なってもらえたらと思います。
授業中には発音練習を多く行います。耳や口を大いに使って楽しく学習しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークなどアクティブ・ラーニングを積極的に用いて会話力を高め、理解を深める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50826001
講義名	英語コミュニケーション1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	高橋 幸子	指定なし

ナンバリング

X13650M12

授業概要(教育目的)

人々が日常的に経験するトピックを通じて、英語のコミュニケーション能力を伸ばすことを目的とする。英語の受容的能力（リスニング力とリーディング力）と産出的能力（スピーキング力とライティング力）を十分に運用していく。トピックは、ホームタウン、家族、ショッピング、計画など、多岐にわたる。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日常生活に関する英語の言語的知識（語彙と文法）を増やす。 異なった言語・文化のテキストを聴いたり読んだりして、背景にあるものを理解する。 英語の談話のつながりに気づく。
思考・判断の観点 (K)	英語を使った情報を整理し、多様な角度から検討した上で、論理的・客観的に自分の意見を述べるための批判的思考力を持つ。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日常生活に関する英語表現に関心を持ち、理解しようとする。 自分が感じたことや考えを、英語で表現する意欲を持つ。
技術・表現の観点 (A)	身近な話題に関する英語表現を理解し、易しい英語を使って、自分の感じたことや考えを表現できるようになる。

学習計画

		Session 1 自己紹介

第1回	授業テーマ	授業の進め方 Nice to meet you
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己紹介 授業の進め方を説明しながら、Unit 1 Nice to see you を進めます。 Talking about ourselves
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習して下さい。 EnglishCentral を利用して、復習をします。 EnglishCentral の使い方は、授業中に説明します。学習ログもつけていきます。
	教室外学習の時間（分）	195分
第2回	授業テーマ	Session 2 What do you like to do?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about hobbies and pastimes
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	195分
第3回	授業テーマ	Session 3 Where are you from?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about hometowns
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使っての学習
	教室外学習の時間（分）	195分
第4回	授業テーマ	Session 4 Who's that?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about family
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使っての学習
	教室外学習の時間（分）	195分
第5回	授業テーマ	Session 5 Where's that?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about places and sights
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentraol を使っての学習
	教室外学習の時間（分）	195分
第6回	授業テーマ	Session 6 How do you get there?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about transportation and directions
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	195分
	授業テーマ	Session 7 Are you hungry?

		Mid-term test
第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about food Mid-term test の実施
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentarlを使った学習
	教室外学習の時間（分）	195分
第8回	授業テーマ	Session 8 Let's eat!
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about restaurants and meals
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	195分
第9回	授業テーマ	Session 9 What are you watching?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about movies and TV
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	195分
第10回	授業テーマ	Session 10 What music do you like?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about music
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	195分
第11回	授業テーマ	Session 11 How much is it?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about shopping
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentarl を使った学習
	教室外学習の時間（分）	195分
第12回	授業テーマ	Session 12 Let's play
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about sports and exercise
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	195分
第13回	授業テーマ	Session 13 Where are you going?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about travel and vacations
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	195分
		Session 14

第14回	授業テーマ	Do you work? What do you want to do? Final test
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about work and jobs Talking about plans Fainal test の実施
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	195分

学習計画注記

Session 7 で Mid-term test
Session 14 で Final test

学生へのフィードバック方法

学生から回収したコメントや質問は、必要に応じてクラスで共有する。
紙による Mid -term test は、返却する。

評価方法

以下の総合点から評価する。
・平常点（ルーブリックに基づいた評価）
・Mid-term test
・Final test

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
Mid-term test	○	○		○
Final test	○	○		○

評価割合

平常点（学習ログ＋ルーブリックによる評価）50%
Mid-term test 20%
Final test 30%

使用教科書名(ISBN番号)

Complete Communication Book 1, 978-4-7919-7241-8

参考図書

各自今まで使用していた辞書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
英語の言語的・社会言語的・談話的知識を増やす。トピックの背景にあるものを理解する。
【思考・判断】
英語で得た新しい情報を、今まで持っている情報と比べて、相違点や一致点について考える。
【関心・意欲・態度】
自分の世界とは違う考え方に関心を持ち、違った文化の考え方を尊重する。
英語を理解し、英語で発信する意欲を持つ。
【技能・表現】
英語において、正確に、適切に、一貫性のある理解と表現をする。

オフィスアワー

水曜の４限

学生へのメッセージ

語学の習得は、積み重ねが必要な根気が要る学びですが、その過程を楽しいものにしましょう。母語でない言語を使って、何かを理解したり、自分の感じたことや考えたことを表現できることは、楽しいことです。具体的な目標を作って、楽しく学習しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実生活に密着した授業の展開
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを中心とした学生主体の授業展開
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Webを利用した授業外活動

講義コード	G50826002
講義名	英語コミュニケーション1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	高橋 幸子	指定なし

ナンバリング

X13650M12

授業概要(教育目的)

人々が日常的に経験するトピックを通じて、英語のコミュニケーション能力を伸ばすことを目的とする。英語の受容的能力（リスニング力とリーディング力）と産出的能力（スピーキング力とライティング力）を十分に運用していく。トピックは、ホームタウン、家族、ショッピング、計画など、多岐にわたる。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日常生活に関する英語の言語的知識（語彙と文法）を増やす。 異なった言語・文化のテキストを聴いたり読んだりして、背景にあるものを理解する。 英語の談話のつながりに気づく。
思考・判断の観点 (K)	英語を使った情報を整理し、多様な角度から検討した上で、論理的・客観的に自分の意見を述べるための批判的思考力を持つ。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日常生活に関する英語表現に関心を持ち、理解しようとする。 自分が感じたことや考えを、英語で表現する意欲を持つ。
技術・表現の観点 (A)	身近な話題に関する英語表現を理解し、易しい英語を使って、自分の感じたことや考えを表現できるようになる。

学習計画

第1回	授業テーマ	Session 1 自己紹介 授業の進め方 Nice to meet you
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己紹介 授業の進め方を説明しながら、Unit 1 Nice to see you を進めます。 Talking about ourselves
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習して下さい。 EnglishCentral を利用して、復習をします。 EnglishCentral の使い方は、授業中に説明します。学習ログもつけていきます。
	教室外学習の時間（分）	195分
第2回	授業テーマ	Session 2 What do you like to do?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Session 2 What do you like to do?
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	195分
第3回	授業テーマ	Session 3 Where are you from?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about hometowns
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	195分
第4回	授業テーマ	Session 4 Who's that?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about family
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	195分
第5回	授業テーマ	Session 5 Where's that?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about places and sights
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	195分
第6回	授業テーマ	Session 6 How do you get there?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about transportation and directions
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習

	教室外学習の時間（分）	195分
第7回	**授業テーマ**	Session 7 Are you hungry? Mid-term test
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about food Mid-term test の実施
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentralを使った学習
	教室外学習の時間（分）	195分
第8回	**授業テーマ**	Session 8 Let's eat!
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about restaurants and meals
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	195分
第9回	**授業テーマ**	Session 9 What are you watching?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about movies and TV
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	195分
第10回	**授業テーマ**	Session 10 What music do you like?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about music
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	19分分
第11回	**授業テーマ**	Session 11 How much is it?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about shopping
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	195分
第12回	**授業テーマ**	Session 12 Let's play
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about sports and exercise
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	195分
第13回	**授業テーマ**	Session 13 Where are you going?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習

	教室外学習(予習・復習)の内容	EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	195分
第14回	**授業テーマ**	Do you work? What do you want to do? Final test
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talking about work and jobs Talking about plans Fainal test の実施
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習 EnglishCentral を使った学習
	教室外学習の時間（分）	195分

学習計画注記

Session 7 で Mid-term test
Session 14 で Final test

学生へのフィードバック方法

学生から回収したコメントや質問は、必要に応じてクラスで共有する。
紙による Mid -term test は、返却する。

評価方法

以下の総合点から評価する。
・平常点（学習ログとルーブリックに基づいた評価）
評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。
・Mid-term test
・Final test

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
Mid-term test	○	○		○
Final test	○	○		○

評価割合

平常点（学習ログ＋ルーブリックによる評価）50%
Mid-term test 20%
Final test 30%

使用教科書名(ISBN番号)

Complete Communication Book 1, 978-4-7919-7241-8

参考図書

各自今まで使用していた辞書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
英語の言語的・社会言語的・談話的知識を増やす。トピックの背景にあるものを理解する。
【思考・判断】
英語で得た新しい情報を、今まで持っている情報と比べて、相違点や一致点について考える。
【関心・意欲・態度】
自分の世界とは違う考え方に関心を持ち、違った文化の考え方を尊重する。
英語を理解し、英語で発信する意欲を持つ。

【技能・表現】
英語において、正確に、適切に、一貫性のある理解と表現をする。

オフィスアワー

水曜の４限

学生へのメッセージ

言語の習得は、積み重ねが必要な根気が要る学びですが、その過程を楽しいものにしましょう。母語でない言語を使って、何かを理解したり、自分の感じたことや考えたことを表現できることは、楽しいことです。なにか具体的な短期目標を作って、楽しく学習しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実生活に密着した授業の展開
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを中心とした学生主体の授業展開
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Webを利用した授業外活動

講義コード	G50826003
講義名	英語コミュニケーション1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	佐藤 由実	指定なし

ナンバリング

X13650M12

授業概要(教育目的)

この授業では、ビジネス場面で頻出の基本的な表現を身に付けると共に英語圏の習慣・文化についても学習する。授業では平易な英語から始め英語に対する心理的抵抗を取り除いた上で、基礎的な英語表現力を身に着けることを目指す。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	ビジネスで使用する基本的な表現方法について説明出来るようになる。
思考・判断の観点 (K)	ビジネスの各場面において使用すべき表現を類別出来るようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学んだことを表現することへの関心・意欲を持ち続けられる。
技術・表現の観点 (A)	学習内容をもとに、表現出来るようになる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	自己紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レベルチェックテストを行う。自分のことや周りの人のことを紹介するリーディング及びライティング演習を行う。
	教室外学習(予習・復	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けて

	習)の内容	おくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	ビジネス文書
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ビジネス文書の種類と代表的なビジネスレターの構成、基本的な用語を学び、ライティング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	履歴書（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	カバーレターや履歴書の基本的な構成を学び、リーディングを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	履歴書（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	海外留学や就職で使えるカバーレターや履歴書のライティング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	お祝いの表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お祝いで使う基本表現を学び、それらを使った演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	感謝の表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	感謝を表す基本表現を学び、それらを使った演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	案内状の表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	案内状の基本表現を学び、それらを使った演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。

	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	依頼の表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	依頼をする際の基本表現を学び、それらを使った演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	アポイントメントの表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アポイントメントを取る際の基本表現を学び、それらを使った演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	発注の表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発注をする際の基本表現を学び、それらを使った演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	チケット予約の表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	チケット予約をする際の基本表現を学び、それらを使った演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	質問の表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	不明なことを尋ねる際の基本表現を学び、それらを使った演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	苦情を述べる表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	苦情を述べる際の基本表現を学び、それらを使った演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	総復習と期末試験

第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学んだことの総復習と期末試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分

学生へのフィードバック方法

小テストは解答用紙のみ回収し返却はしないが、授業内で解説し自己採点を行う。採点結果の問い合わせは個別に対応する。課題は点数を付して返却する。ルーブリック評価のためのリフレクションシートは回収し、確認後返却する。

評価方法

ルーブリック：授業で学んだことの理解度を測るため、毎回授業内で紙面又はクラスルーム内で配布するリフレクションシート形式で確認する。
課題：授業で学んだことの定着させるため毎回課題を出し、採点する。
小テスト：前回学んだことの定着度を次回の授業で確認する。
期末試験：第14回の授業で筆記による期末試験を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
ルーブリック	○	○	○	○
課題	○	○	○	○
小テスト	○	○		○
期末試験	○	○		○

評価割合

ルーブリック15%、課題20%、小テスト15%、期末試験50%

使用教科書名(ISBN番号)

なし。

参考図書

なし。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】ビジネスに必要となる知識や表現を理解出来る。
【思考・判断】状況に応じたビジネス表現を類別出来るようになる。
【関心・意欲・態度】学んだ内容がどのような場面で生かすことが出来るかを認識出来るようになる。
【技能・表現】基本的なビジネス文書や会話を理解し表現力を身に付ける。

学生へのメッセージ

海外のビジネス実務に長年関わり、様々な公文書、私文書を扱い、交渉に携わりました。その経験を元に、実践で真に役立つ英語を学んでいただきます。「ビジネス」と聞くと難しいイメージがあるかもしれませんが、基本的な表現を演習を通して段階的に身に付け、分かる楽しさを感じてもらえるような授業を目指します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かし	○	企業や教育機関等で英文ビジネス文書を日常的に読み書きし取引や契約交渉を行ってきた実務経験をもとに、実践的な頻出表現の基本を分かりやすく丁寧に

た授業		指導します。
アクティブ・ラーニング	○	リスニング演習、スピーキング演習、リーディング演習、ライティング演習、グループ・ワーク。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50826004
講義名	英語コミュニケーション1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	佐藤 由実	指定なし

ナンバリング

X13650M12

授業概要(教育目的)

この授業では、ビジネス場面で頻出の基本的な表現を身に付けると共に英語圏の習慣・文化についても学習する。授業では平易な英語から始め英語に対する心理的抵抗を取り除いた上で、基礎的な英語表現力を身に着けることを目指す。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	ビジネスで使用する基本的な表現方法について説明出来るようになる。
思考・判断の観点 (K)	ビジネスの各場面において使用すべき表現を類別出来るようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学んだことを表現することへの関心・意欲を持ち続けられる。
技術・表現の観点 (A)	学習内容をもとに、表現出来るようになる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	自己紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レベルチェックテストを行う。自分のことや周りの人のことを紹介するリーディング及びライティング演習を行う。
	教室外学習(予習・復	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けて

	習)の内容	おくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	ビジネス文書
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ビジネス文書の種類と代表的なビジネスレターの構成、基本的な用語を学び、ライティング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	履歴書（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	カバーレターや履歴書の基本的な構成を学び、リーディングを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	履歴書（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	海外留学や就職で使えるカバーレターや履歴書のライティング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	お祝いの表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お祝いで使う基本表現を学び、それらを使った演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	感謝の表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	感謝を表す基本表現を学び、それらを使った演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	案内状の表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	案内状の基本表現を学び、それらを使った演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。

	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	依頼の表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	依頼をする際の基本表現を学び、それらを使った演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	アポイントメントの表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アポイントメントを取る際の基本表現を学び、それらを使った演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	発注の表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発注をする際の基本表現を学び、それらを使った演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	チケット予約の表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	チケット予約をする際の基本表現を学び、それらを使った演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	質問の表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	不明なことを尋ねる際の基本表現を学び、それらを使った演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	苦情を述べる表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	苦情を述べる際の基本表現を学び、それらを使った演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	総復習と期末試験

第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学んだことの総復習と期末試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分

学生へのフィードバック方法

小テストは解答用紙のみ回収し返却はしないが、授業内で解説し自己採点を行う。採点結果の問い合わせは個別に対応する。課題は点数を付して返却する。ルーブリック評価のためのリフレクションシートは回収し、確認後返却する。

評価方法

ルーブリック：授業で学んだことの理解度を測るため、毎回授業内で紙面又はクラスルーム内で配布するリフレクションシート形式で確認する。
課題：授業で学んだことの定着させるため毎回課題を出し、採点する。
小テスト：前回学んだことの定着度を次回の授業で確認する。
期末試験：第14回の授業で筆記による期末試験を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
ルーブリック	○	○	○	○
課題	○	○	○	○
小テスト	○	○		○
期末試験	○	○		○

評価割合

ルーブリック15%、課題20%、小テスト15%、期末試験50%

使用教科書名(ISBN番号)

なし。

参考図書

なし。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】ビジネスに必要となる知識や表現を理解出来る。
【思考・判断】状況に応じたビジネス表現を類別出来るようになる。
【関心・意欲・態度】学んだ内容がどのような場面で生かすことが出来るかを認識出来るようになる。
【技能・表現】基本的なビジネス文書や会話を理解し表現力を身に付ける。

学生へのメッセージ

海外のビジネス実務に長年関わり、様々な公文書、私文書を扱い、交渉に携わりました。その経験を元に、実践で真に役立つ英語を学んでいただきます。「ビジネス」と聞くと難しいイメージがあるかもしれませんが、基本的な表現を演習を通して段階的に身に付け、分かる楽しさを感じてもらえるような授業を目指します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かし	○	企業や教育機関等で英文ビジネス文書を日常的に読み書きし取引や契約交渉を行ってきた実務経験をもとに、実践的な頻出表現の基本を分かりやすく丁寧に

た授業		指導します。
アクティブ・ラーニング	○	リスニング演習、スピーキング演習、リーディング演習、ライティング演習、グループ・ワーク。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50826031
講義名	英語コミュニケーション1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	田中 愛	指定なし

授業概要(教育目的)

英語を使った教室活動を通して、英語によるコミュニケーション能力を養うことを目的としている。授業では、身近なテーマについて、言語の4技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）を総合的に用い、我々が真のコミュニケーションで通常行っているコミュニケーションに近い形で学ぶ。教室活動のタスクを完了するために必要な音声を訓練し、語・文法・表現を学ぶことで、より正確でなめらかな英語の習得を目指していく。また、英語によるコミュニケーションでの応答表現や英語圏の習慣・文化についても学んでいく。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	ポップスのヒット曲を聞くことを通して、英語特有の音声変化やリズムに慣れ親しみつつ、他国の文化的背景を学ぶことができる。
思考・判断の観点 (K)	異なる歴史・文化的背景や価値観を学ぶことでより広い視野を持つことができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に対する苦手意識を解消し、英語学習に前向きに取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	前期授業ガイダンス＆発音記号の読み方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	【ルーブリックについて説明します】 ・成績評価、テキスト、授業の進め方 ・発音記号の読み方（音声にて確認）

		・和製英語Part 1
第1回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	第1回授業の予習 テキストP. 109～ ・発音記号の読み方① 母音編、発音記号の読み方② 子音編を熟読すること 第1回授業の復習 ・授業時に配布されるプリントを復習する
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	Unit 1 My Heart will go on
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 1 My Heart will go on ・Warm-up Bの和訳 ・Listening Point : 音の連結①について確認 →会話で活用できる表現を繰り返し練習する ・Grammar Point : 現在完了について復習＆練習問題を解く →会話で用いられる現在完了の表現を学び、過去形との違いを確認する
	教室外学習(予習・復習)の内容	第2回授業の予習 ・Warm-up A, Bの問題を辞書を使って解くこと →授業時に解答確認 第2回授業の復習 ・Check 1 & Check 2内の英文を和訳する （辞書を用いてしっかりと単語などの意味を調べること） →授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	Unit 1 My Heart will go on
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 1 My Heart will go on ・My Heart will go on : 楽曲の歌詞の書き取りおよび歌詞の和訳 ・Listening Challenge : TOEIC Part 1～Part 3と同じ形式の問題を解く ・Let's Read! : Comprehension Checkの解答確認および本文和訳 →多文化主義で知られるカナダの状況について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回授業の予習 ・Let's Read! : Comprehension Checkを解く →授業時に解答確認 第3回授業の復習 ・Listening Challengeのスクリプトを配布 →間違えた問題の見直しを行うこと
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	Unit 2 Open arms
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 2 Open arms ・Warm-up Bの和訳 ・Listening Point : 音の脱落①について確認 →会話で活用できる表現を繰り返し練習する ・Grammar Point : 分詞（現在分詞、過去分詞）について復習 & 練習問題を解く →分詞構文の和訳も含む

第4回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	第4回授業の予習 Unit 2 Open arms ・Warm-up A, Bの問題を辞書を使って解くこと →授業時に解答確認 第4回授業の復習 ・Check 1 & Check 2内の英文を和訳する （辞書を用いてしっかりと単語等の意味を調べること） →授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	Unit 2 Open arms
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 2 Open arms ・Open arms : 楽曲の歌詞の書き取りおよび歌詞の和訳 ・Listening Challenge : TOEIC Part 1～Part 3と同じ形式の問題を解く ・Let's Read! : Comprehension Checkの解答確認および本文和訳 →結婚にまつわる習慣について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第5回授業の予習 ・Let's Read! : Comprehension Checkを解く →授業時に解答確認 第5回授業の復習 ・Listening Challengeのスクリプトを配布 →間違えた問題の見直しを行うこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	Unit 3 Life
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 3 Life ・Warm-up Bの和訳 ・Listening Point : 注意すべき母音について確認 →会話で活用できる表現を繰り返し練習する ・Grammar Point : 品詞について復習 & 練習問題を解く →品詞の見分け方も含む
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6回授業の予習 Unit 3 Life ・Warm-up A, Bの問題を辞書を使って解くこと →授業時に解答確認 第6回授業の復習 ・Check 1 & Check 2内の英文を和訳する （辞書を用いてしっかりと単語等の意味を調べること） →授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	**授業テーマ**	Unit 3 Life
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Life : 楽曲の歌詞の書き取りおよび歌詞の和訳 ・Listening Challenge : TOEIC Part 1～Part 3と同じ形式の問題を解く ・Let's Read! : Comprehension Checkの解答確認および本文和訳 →欧米に伝わる迷信にまつわる習慣について学ぶ
		第7回授業の予習

	教室外学習(予習・復習)の内容	・Let's Read! : Comprehension Checkを解く →授業時に解答確認 第7回授業の復習 ・Listening Challengeのスクリプトを配布 →間違えた問題の見直しを行うこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	Unit 4 Don’t look back in anger
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 4 Don’t look back in anger ・Warm-up Bの和訳 ・Listening Point : 音の同化について確認 →会話で活用できる表現を繰り返し練習する ・Grammar Point : 知覚動詞について復習 & 練習問題を解く →語順の確認も含む
	教室外学習(予習・復習)の内容	第8回授業の予習 Unit 4 Don't look back in anger ・Warm-up A, Bの問題を辞書を使って解くこと →授業時に解答確認 第8回授業の復習 ・Check 1 & Check 2内の英文を和訳する（辞書を用いてしっかりと単語等の意味を調べること） →授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	Unit 4 Don’t look back in anger
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 4 Don’t look back in anger ・Don't look back in anger : 楽曲の歌詞の書き取りおよび歌詞の和訳 ・Listening Challenge : TOEIC Part 1～Part 3と同じ形式の問題を解く ・Let's Read! : Comprehension Checkの解答確認および本文和訳 →イギリス王室について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第9回授業の予習 ・Let's Read! : Comprehension Checkを解く →授業時に解答確認 第9回授業の復習 ・Listening Challengeのスクリプトを配布 →間違えた問題の見直しを行うこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	Unit 5 A whole new world
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 5 A whole new world ・Warm-up Bの和訳 ・Listening Point : 音の脱落②について確認 →会話で活用できる表現を繰り返し練習する ・Grammar Point : 関係副詞について復習 & 練習問題を解く →関係代名詞との違いも含む
		第10回授業の予習 Unit 5 A whole new world ・Warm-up A, Bの問題を辞書を使って解くこと

	教室外学習(予習・復習)の内容	→授業時に解答確認 第10回授業の復習 ・Check 1 & Check 2内の英文を和訳する （辞書を用いてしっかりと単語等の意味を調べること） →授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	Unit 5 A whole new world
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 5 A whole new world ・A whole new world : 楽曲の歌詞の書き取りおよび歌詞の和訳 ・Listening Challenge : TOEIC Part 1～Part 3と同じ形式の問題を解く ・Let's Read! : Comprehension Checkの解答確認および本文和訳 →ディズニー映画について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第11回授業の予習 ・Let's Read! : Comprehension Checkを解く →授業時に解答確認 第11回授業の復習 ・Listening Challengeのスクリプトを配布 →間違えた問題の見直しを行うこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	Unit 6 I don’t want to miss a thing
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 6 I don’t want to miss a thing ・Warm-up Bの和訳 ・Listening Point : 音声変化の複合について確認 →会話で活用できる表現を繰り返し練習する ・Grammar Point : 助動詞について復習 & 練習問題を解く →過去の意味を持たない助動詞も含む
	教室外学習(予習・復習)の内容	第12回授業の予習 Unit 6 I don't want to miss a thing ・Warm-up A, Bの問題を辞書を使って解くこと →授業時に解答確認 第12回授業の復習 ・Check 1 & Check 2内の英文を和訳する （辞書を用いてしっかりと単語等の意味を調べること） →授業時に解答確認 ・学修到達度の確認テストに向け、既習事項の復習を行う ・疑問点を各自でまとめる →授業時に質疑応答の時間を設ける
	教室外学習の時間（分）	300分
	授業テーマ	Unit 6 I don’t want to miss a thing
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 6 I don’t want to miss a thing ・I don't want to miss a thing : 楽曲の歌詞の書き取りおよび歌詞の和訳 ・Listening Challenge : TOEIC Part 1～Part 3と同じ形式の問題を解く

		・Let's Read! : Comprehension Checkの解答確認および本文和訳 →『アルマゲドン』という言葉と映画の意味について学ぶ
第13回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	第13回授業の予習 ・Let's Read! : Comprehension Checkを解く →授業時に解答確認 第13回授業の復習 ・Listening Challengeのスクリプトを配布 →間違えた問題の見直しを行うこと ・学修到達度の確認テストに向け、既習事項の復習を行う ・疑問点を各自でまとめる →授業時に質疑応答の時間を設ける
	教室外学習の時間（分）	300分
第14回	**授業テーマ**	まとめと学修到達度の確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの学習内容のまとめとして、 授業内で学修到達度を確認するためのテストを実施する →テスト後に解説を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	第14回授業の予習 ・学修到達度の確認テストに向け、既習事項の復習を行う ・疑問点を各自でまとめる →授業時に質疑応答の時間を設ける 第14回授業の復習 ・前期授業内容の復習を行う
	教室外学習の時間（分）	300分

学習計画注記

履修者数、授業の進み具合もしくはその他の要因により、スケジュールに変更が生じることがあります。
小テストは履修者の履修者の理解度を確認するため、状況に応じて実施します。
小テストについては、対面実施・オンライン実施ともに授業内もしくはGoogle Classroomを通してアナウンスします。

学生へのフィードバック方法

・小テスト（対面時）：基本的にその場で解答確認および解説を行い、回収
→次週の授業時に返却

・小テスト（Google Classroom配信）：テスト提出後にスコアおよび解説を各自で確認をする
→疑問点（質問）は、コメント欄より個別対応
（質問内容によっては次週の授業時にクラス全体に解説を行う）

評価方法

・小テストは授業内容の復習と位置づけて実施する
（小テストに関する追再試験は行わない）
・学習到達度の確認テストは、前期授業内容を中心として出題する
・小テスト及び学習到達度の確認テストは、下表に示す力を養うことを目的に実施する

＊小テストにはGoogle Classroomでの配信を含む

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
学習到達度の確認テスト	○	○		
小テスト	○	○		
平常点			○	
その他	○		○	

評価割合

小テスト・学習到達度の確認テスト 60%
平常点（学習意欲、履修態度など） 20%
その他（任意課題などの提出状況など） 20%

使用教科書名(ISBN番号)

タイトル：English with Hit Songs ポップスで学ぶ総合英語 改訂新版
著者：角山 照彦、他
出版社：成美堂
定価：2,100＋税
ISBN: 978-4-7919-3086-9

参考図書

必要に応じて授業時に紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】英語の基本的な運用能力（読む、話す、書く、聞く）がある。
【技術・表現】平易な英文で、身近な話題を表現する能力がある。

学生へのメッセージ

楽曲を味わい楽しみながら異文化理解、幅広い知識、表現力そして語彙力を習得していきましょう。
Google Classroom内では、英語を用いたクイズ（ことわざや四字熟語）なども配信予定です。
じっくりと学んでいきましょう！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	テキスト以外の資料を用いて、英文解釈のためにグループ・ワークを行う
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50826032
講義名	英語コミュニケーション1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	田中 愛	指定なし

授業概要(教育目的)

英語を使った教室活動を通して、英語によるコミュニケーション能力を養うことを目的としている。授業では、身近なテーマについて、言語の4技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）を総合的に用い、我々が真のコミュニケーションで通常行っているコミュニケーションに近い形で学ぶ。教室活動のタスクを完了するために必要な音声を訓練し、語・文法・表現を学ぶことで、より正確でなめらかな英語の習得を目指していく。また、英語によるコミュニケーションでの応答表現や英語圏の習慣・文化についても学んでいく。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	英語の学習を通して英国に関する知識を身につけることができる。
思考・判断の観点 (K)	異なる歴史・文化的背景や価値観を学ぶことでより広い視野を持つことができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に対する苦手意識を解消し、英語学習に前向きに取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	前期授業ガイダンス＆和製英語 Part 1＆Unit 1 Arriving in London
		【ルーブリックについて説明します】 ・成績評価、テキスト、授業の進め方

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・和製英語Part 1 ・「英国」正式名称を確認する ・Unit 1 Dialogue : ヒースロー空港の旅行案内所での会話の確認 →大切な表現のアウトプット
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1回授業の予習 ・「英国」正式名称を日本語と英語の両方を調べること ・Unit 1 LET'S TRY : 入国カードを完成させること →次回授業時に解答確認 第1回授業の復習 ・Unit 1 : Comprehensionを解く →次回授業時に解答確認および解説
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	授業テーマ	Unit 1 Arriving in London
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Learn by heart!音読練習 ・Passage : ロンドンの地下鉄について学び、Comprehensionを解く ・Expressions : 穴埋め問題を解く →場面を想定して会話表現を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第2回授業の予習 ・VocabularyとCoffee Breakを解く（辞書を用いてしっかりと単語などの意味を調べること） →授業時に解答確認 第2回授業の復習 ・VocabularyとCoffee Breakの単語の復習を行うこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	Unit 2 London's museums and art galleries
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Unit 2 Dialogue : 大英博物館での会話の確認 →大切な表現のアウトプット ・Comprehensionを解く ・Learn by heart!音読練習 ・Passage : 博物館・美術館について学び、Comprehensionを解く
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回授業の予習 ・Unit 2 LET'S TRY : 看板を参考にして表を完成させること →次回授業時に解答確認 ・VocabularyとCoffee Breakを解く（辞書を用いてしっかりと単語などの意味を調べること） →授業時に解答確認 第3回授業の復習 ・Passageに関するComprehensionを解き、答えの根拠となる英文を探す →次回授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	Unit 2 & Unit 3 Royal palaces and castles
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Unit 2 : Expressions : 穴埋め問題を解く →場面を想定して会話表現を学ぶ ・Unit 3 Dialogue :バッキンガム宮殿の外での会話の確認

第4回		→大切な表現のアウトプット ・Comprehensionを解く
	教室外学習(予習・復習)の内容	第4回授業の予習 Unit 3 LET'S TRY : 衛兵の交代式について調べる →次回授業時に解答確認 第4回授業の復習 ・Learn by heart!音読練習
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	Unit 3 Royal palaces and castles
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Passage : 博物館・美術館について学び、Comprehensionを解く ・Expressions : 穴埋め問題を解く →場面を想定して会話表現を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第5回授業の予習 ・Vocabularyを解く（辞書を用いてしっかりと単語などの意味を調べること） →授業時に解答確認 第5回授業の復習 ・Vocabularyの単語の復習を行うこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	Unit 4 Sports venues
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Unit 4 Dialogue : パディントンのホテルのフロントでの会話の確認 →大切な表現のアウトプット ・Comprehensionを解く ・Passage : スポーツについて学び、Comprehensionを解く ・Expressions : 穴埋め問題を解く →場面を想定して会話表現を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6回授業の予習 Unit 4 LET'S TRY : イングランドのプレミアリーグについて調べる →次回授業時に解答確認 第6回授業の復習 ・Learn by heart!音読練習
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	**授業テーマ**	Unit 5 Shopping in London
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Unit 5 Dialogue : ポートベロ通りの骨董品店での会話の確認 →大切な表現のアウトプット ・Comprehensionを解く ・Passage : ロンドンにあるお店について学び、Comprehensionを解く ・Expressions : 穴埋め問題を解く →場面を想定して会話表現を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第7回授業の予習 Unit 5 LET'S TRY :ロンドンの骨董品店について調べる →次回授業時に解答確認 第7回授業の復習

		・Learn by heart!音読練習
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	Unit 6 Canterbury
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Unit 6 Dialogue : カンタベリー・ウェスト駅の切符売り場での会話の確認 →大切な表現のアウトプット ・Comprehensionを解く ・Passage : カンタベリーについて学び、Comprehensionを解く ・Expressions : 穴埋め問題を解く →場面を想定して会話表現を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第8回授業の予習 Unit 6 LET'S TRY :カンタベリー物語について調べる →次回授業時に解答確認 第8回授業の復習 ・Learn by heart!音読練習
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	Unit 7 Cheddar, Wells and Glastonbury
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Unit 7 Dialogue : チェダーのガードナーズ・アームズ・パブでの会話の確認 →大切な表現のアウトプット ・Comprehensionを解く ・Passage : サマセット州について学び、Comprehensionを解く ・Expressions : 穴埋め問題を解く →場面を想定して会話表現を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第9回授業の予習 Unit 7 Coffee Break :チーズについて調べる →次回授業時に解答確認 第9回授業の復習 ・Learn by heart!音読練習
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	Unit 8 Cheltenham and Broadway
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Unit 8 Dialogue : チェルトナムのトラファルガー通りの１軒の家の前での会話の確認 →大切な表現のアウトプット ・Comprehensionを解く ・Passage : チェルトナム・スパについて学び、Comprehensionを解く ・Expressions : 穴埋め問題を解く →場面を想定して会話表現を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第10回授業の予習 Unit 8 LET'S TRY : チェルトナムについて調べる →次回授業時に解答確認 第10回授業の復習 ・Learn by heart!音読練習
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	Unit 9 Chester
		・Unit 9 Dialogue : ディー川のボートでの会話の確認 →大切な表現のアウトプット

第11回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	・Comprehensionを解く ・Passage : チェスターの起源について学び、Comprehensionを解く ・Expressions : 穴埋め問題を解く →場面を想定して会話表現を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第11回授業の予習 Unit 9 LET'S TRY : 地図を読み取る →次回授業時に解答確認 第11回授業の復習 ・Learn by heart!音読練習
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	Unit 10 The Yorkshire Dales
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Unit 10 Dialogue : ペナイン道のタン・ヒル・インでの会話の確認 →大切な表現のアウトプット ・Comprehensionを解く ・Passage : ヨークシャーについて学び、Comprehensionを解く ・Expressions : 穴埋め問題を解く →場面を想定して会話表現を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第12回授業の予習 Unit 10 LET'S TRY : 地図を読み取る →次回授業時に解答確認 第12回授業の復習 ・Learn by heart!音読練習
	教室外学習の時間（分）	300分
第13回	**授業テーマ**	Unit 11 Newcastle-upon-Tyne
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Unit 13 Dialogue : セジェダナム・ローマン・フォートでの会話の確認 →大切な表現のアウトプット ・Comprehensionを解く ・Passage : ニューカースルについて学び、Comprehensionを解く ・Expressions : 穴埋め問題を解く →場面を想定して会話表現を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第13回授業の予習 Unit 11 LET'S TRY : 入場に関する表を完成させること →次回授業時に解答確認 第13回授業の復習 ・Learn by heart!音読練習 ・学習到達度の確認テストに向け、既習事項の復習を行う →疑問点を各自でまとめる 授業時に質疑応答の時間を設ける
	教室外学習の時間（分）	300分
	授業テーマ	まとめと学修到達度の確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの学習内容のまとめとして、 授業内で学修到達度を確認するためのテストを実施する →テスト後に解説を行う

第14回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	第14回授業の予習 ・学修到達度の確認テストに向け、既習事項の復習を行う ・疑問点を各自でまとめる →授業時に質疑応答の時間を設ける 第14回授業の復習 ・前期授業内容の復習を行う
	教室外学習の時間（分）	300分

学習計画注記

履修者数、授業の進み具合もしくはその他の要因により、スケジュールに変更が生じることがあります。
小テストは履修者の履修者の理解度を確認するため、状況に応じて実施します。
小テストについては、対面実施・オンライン実施ともに授業内もしくはGoogle Classroomを通してアナウンスします。

学生へのフィードバック方法

・小テスト（対面時）：基本的にその場で解答確認および解説を行い、回収
→次週の授業時に返却

・小テスト（Google Classroom配信）：テスト提出後にスコアおよび解説を各自で確認をする
→疑問点（質問）は、コメント欄より個別対応
（質問内容によっては次週の授業時にクラス全体に解説を行う）

評価方法

・小テストは授業内容の復習と位置づけて実施する
（小テストに関する追再試験は行わない）
・学習到達度の確認テストは、前期授業内容を中心として出題する
・小テスト及び学習到達度の確認テストは、下表に示す力を養うことを目的に実施する

＊小テストにはGoogle Classroomでの配信を含む

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
学習到達度の確認テスト	○	○		
小テスト	○	○		
平常点			○	
その他	○		○	

評価割合

小テスト・学習到達度の確認テスト 60%
平常点（学習意欲、履修態度など） 20%
その他（任意課題などの提出状況など） 20%

使用教科書名(ISBN番号)

タイトル：Touring Britain -language and travel tips- 英国探訪ーこれで完璧20のガイド
著者：相澤 一美、他
出版社：朝日出版社
定価：1,900＋税
ISBN: 978-4-255-15509-8

参考図書

必要に応じて授業時に紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】英語の基本的な運用能力（読む、話す、書く、聞く）がある。
【技術・表現】平易な英文で、身近な話題を表現する能力がある。

学生へのメッセージ

リスニング力強化の一環として洋楽の歌詞の書き取りなどを行います。
Google Classroom内では、英語を用いたクイズ（ことわざや四字熟語）なども配信予定です。
英国に関する様々なことを興味を持ってじっくりと学んでいきましょう！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	テキスト以外の資料を用いて、英文解釈のためにグループ・ワークを行う
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50826033
講義名	英語コミュニケーション1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	田中 愛	指定なし

授業概要(教育目的)

英語を使った教室活動を通して、英語によるコミュニケーション能力を養うことを目的としている。授業では、身近なテーマについて、言語の4技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）を総合的に用い、我々が真のコミュニケーションで通常行っているコミュニケーションに近い形で学ぶ。教室活動のタスクを完了するために必要な音声を訓練し、語・文法・表現を学ぶことで、より正確でなめらかな英語の習得を目指していく。また、英語によるコミュニケーションでの応答表現や英語圏の習慣・文化についても学んでいく。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	「食」を通して西洋の文明や文化について興味を持って学ぶことで、知識を身につけることができる。
思考・判断の観点 (K)	異なる歴史・文化的背景や価値観を学ぶことでより広い視野を持つことができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に対する苦手意識を解消し、英語学習に前向きに取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	前期授業ガイダンス＆和製英語 Part 1
		【ルーブリックについて説明します】

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・成績評価、テキスト、授業の進め方 ・和製英語Part 1 ・本文読解 : ブタに関する様々な（慣用）表現を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1回授業の予習 Lesson 1 The Pig or the pork ・注釈の単語の意味を確認すること（辞書でしっかりと発音記号も確認すること） 第1回授業の復習 ・本文の慣用表現の意味を調べる →授業時に確認をする
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	授業テーマ	Lesson 1 The Pig or the pork
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事前・事後学修の解答確認を行う（解説も含む） ・本文の確認 : Exercises Iを行う ・Drills : Answer the Questions →様々な問いに対する答え方を学ぶ ・Drills : Make questions : →様々な疑問文の作り方を学ぶ ・Conversation →対話文を聞き、問題を解く （場面をイメージしながらペアで対話練習も行う）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第2回授業の予習 ・本文の確認 : Exercises II（正誤問題）を解き、本文より答えの根拠となる箇所を探す →授業時に解答確認 第2回授業の復習 ・A pork dish —Sweet and Sour Pork →辞書を用いてしっかりと単語などの意味を調べ、レシピを完成させること →授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	Lesson 2 Do you like Garlic?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事前・事後学修の解答確認を行う（解説も含む） ・本文読解 : ニンニクに関する歴史を学ぶ ・Exercises Iを行う ・Drills : Answer the Questions →様々な問いに対する答え方を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回授業の予習 Lesson 2 Do you like Garlic? ・注釈の単語の意味を確認すること（辞書でしっかりと発音記号も確認すること） 第3回授業の復習 ・本文の確認 : Exercises II（正誤問題）を解き、本文より答えの根拠となる箇所を探す →授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分

第4回	授業テーマ	Lesson 2 Do you like Garlic?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事前・事後学修の解答確認を行う（解説も含む） ・Drills : Make questions : →様々な疑問文の作り方を学ぶ ・Conversation →対話文を聞き、問題を解く （場面をイメージしながらペアで対話練習も行う）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第4回授業の予習 ・Drills内のわからない語を辞書でしっかりと調べること 第4回授業の復習 ・Garlicを用いたレシピを英語で完成させること →辞書を用いてしっかりと単語などの意味を調べ、レシピを完成させること →授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	Lesson 3 Sweet as Sugar
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事前・事後学修の解答確認を行う（解説も含む） ・本文読解 : 砂糖に関する歴史を学ぶ ・Exercises Iを行う ・Drills : Answer the Questions →様々な問いに対する答え方を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第5回授業の予習 映画『メアリー・ポピンズ』のあらすじを調べること 第5回授業の復習 ・本文の確認 : Exercises II（正誤問題）を解き、本文より答えの根拠となる箇所を探す →授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	Lesson 3 Sweet as Sugar
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事前・事後学修の解答確認を行う（解説も含む） ・Drills : Make questions : →様々な疑問文の作り方を学ぶ ・Conversation →対話文を聞き、問題を解く （場面をイメージしながらペアで対話練習も行う）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6回授業の予習 ・Drills内のわからない語を辞書でしっかりと調べること 第6回授業の復習 ・A cookie recipe—Easy Brownie →辞書を用いてしっかりと単語などの意味を調べ、レシピを完成させること →授業時に解答確認

	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	**授業テーマ**	Lesson 4 Our Daily Bread
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事前・事後学修の解答確認を行う（解説も含む） ・本文読解 : パンに関する歴史を学ぶ ・Exercises Iを行う ・Drills : Answer the Questions →様々な問いに対する答え方を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第7回授業の予習 Lesson 4 Our Daily Bread ・注釈の単語の意味を確認すること（辞書でしっかりと発音記号も確認すること） 第7回授業の復習 ・本文の確認 : Exercises II（正誤問題）を解き、本文より答えの根拠となる箇所を探す →授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	Lesson 4 Our Daily Bread
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事前・事後学修の解答確認を行う（解説も含む） ・Drills : Make questions : →様々な疑問文の作り方を学ぶ ・Conversation →対話文を聞き、問題を解く （場面をイメージしながらペアで対話練習も行う）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第8回授業の予習 ・Drills内のわからない語を辞書でしっかりと調べること 第8回授業の復習 ・パンのレシピを英語で完成させること →辞書を用いてしっかりと単語などの意味を調べ、レシピを完成させること →授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	Lesson 5 Do you like Caviar?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事前・事後学修の解答確認を行う（解説も含む） ・本文読解 : キャビアに関する歴史を学ぶ ・Exercises Iを行う ・Drills : Answer the Questions →様々な問いに対する答え方を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第9回授業の予習 ・Lesson 5 Do you like Caviar? ・注釈の単語の意味を確認すること（辞書でしっかりと発音記号も確認すること） 第9回授業の復習 ・本文の確認 : Exercises II（正誤問題）を解き、本文より答えの根拠となる箇所を探す →授業時に解答確認

	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	Lesson 5 Do you like Caviar?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事前・事後学修の解答確認を行う（解説も含む） ・Drills : Make questions : →様々な疑問文の作り方を学ぶ ・Conversation →対話文を聞き、問題を解く （場面をイメージしながらペアで対話練習も行う）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第10回授業の予習 ・Drills内のわからない語を辞書でしっかりと調べること 第10回授業の復習 ・キャビアを用いたレシピを英語で完成させること →辞書を用いてしっかりと単語などの意味を調べ、レシピを完成させること →授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	Lesson 6 Apple
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事前・事後学修の解答確認を行う（解説も含む） ・本文読解 : リンゴに関する歴史を学ぶ ・Exercises Iを行う ・Drills : Answer the Questions →様々な問いに対する答え方を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第11回授業の予習 ・Lesson 5 Do you like Caviar? ・注釈の単語の意味を確認すること（辞書でしっかりと発音記号も確認すること） ・「宗教上の伝承」で登場するリンゴについて調べる →授業時に確認 第11回授業の復習 ・本文の確認 : Exercises II（正誤問題）を解き、本文より答えの根拠となる箇所を探す →授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	Lesson 6 Apple
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事前・事後学修の解答確認を行う（解説も含む） ・Drills : Make questions : →様々な疑問文の作り方を学ぶ ・Conversation →対話文を聞き、問題を解く （場面をイメージしながらペアで対話練習も行う）
		第12回授業の予習 ・Drills内のわからない語を辞書でしっかりと調べること

	教室外学習(予習・復習)の内容	第12回授業の復習 ・リンゴを用いたレシピを英語で完成させること →辞書を用いてしっかりと単語などの意味を調べ、レシピを完成させること →授業時に解答確認 ・学修到達度の確認テストに向け、既習事項の復習を行う ・疑問点を各自でまとめる →授業時に質疑応答の時間を設ける
	教室外学習の時間（分）	300分
第13回	**授業テーマ**	Lesson 7 The White Gold: Salt
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事前・事後学修の解答確認を行う（解説も含む） ・本文読解 : 塩に関する歴史を学ぶ ・Exercises Iを行う ・Drills : Answer the Questions →様々な問いに対する答え方を学ぶ ・Drills : Make questions : →様々な疑問文の作り方を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第13回授業の予習 ・Lesson 7 The White Gold: Salt ・注釈の単語の意味を確認すること（辞書でしっかりと発音記号も確認すること） ・Drills内のわからない語を辞書でしっかりと調べること 第13回授業の復習 ・本文の確認 : Exercises II（正誤問題）を解き、本文より答えの根拠となる箇所を探す →授業時に解答確認 ・塩を用いたレシピを英語で完成させること →辞書を用いてしっかりと単語などの意味を調べ、レシピを完成させること →授業時に解答確認 ・学修到達度の確認テストに向け、既習事項の復習を行う ・疑問点を各自でまとめる →授業時に質疑応答の時間を設ける
	教室外学習の時間（分）	300分
第14回	**授業テーマ**	まとめと学修到達度の確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの学習内容のまとめとして、 授業内で学修到達度を確認するためのテストを実施する →テスト後に解説を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	第14回授業の予習 ・学修到達度の確認テストに向け、既習事項の復習を行う ・疑問点を各自でまとめる →授業時に質疑応答の時間を設ける 第14回授業の復習 ・前期授業内容の復習を行う
	教室外学習の時間（分）	300分

学習計画注記

履修者数、授業の進み具合もしくはその他の要因により、スケジュールに変更が生じることがあります。
小テストは履修者の履修者の理解度を確認するため、状況に応じて実施します。
小テストについては、対面実施・オンライン実施ともに授業内もしくはGoogle Classroomを通してアナウンスします。

学生へのフィードバック方法

・小テスト（対面時）：基本的にその場で解答確認および解説を行い、回収
→次週の授業時に返却

・小テスト（Google Classroom配信）：テスト提出後にスコアおよび解説を各自で確認をする
→疑問点（質問）は、コメント欄より個別対応
（質問内容によっては次週の授業時にクラス全体に解説を行う）

評価方法

・小テストは授業内容の復習と位置づけて実施する
（小テストに関する追再試験は行わない）
・学習到達度の確認テストは、前期授業内容を中心として出題する
・小テスト及び学習到達度の確認テストは、下表に示す力を養うことを目的に実施する

＊小テストにはGoogle Classroomでの配信を含む

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
学習到達度の確認テスト	○	○		
小テスト	○	○		
平常点			○	
その他	○		○	

評価割合

小テスト・学習到達度の確認テスト 60%
平常点（学習意欲、履修態度など） 20%
その他（任意課題などの提出状況など） 20%

使用教科書名(ISBN番号)

タイトル：FOOD IN HISTORY 英語で学ぶ食の歴史
著者：Elena Taralunga Tamura、他
出版社：英宝社
定価：1,900＋税
ISBN: 978-4-269-41022-0

参考図書

必要に応じて授業時に紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】英語の基本的な運用能力（読む、話す、書く、聞く）がある。
【技術・表現】平易な英文で、身近な話題を表現する能力がある。

学生へのメッセージ

リスニング力強化の一環として洋楽の歌詞の書き取りなどを行います。
Google Classroom内では、英語を用いたクイズ（ことわざや四字熟語）なども配信予定です。
身近な食を通してじっくりと学んでいきましょう！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	テキスト以外の資料を用いて、英文解釈のためにグループ・ワークを行う
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50826034
講義名	英語コミュニケーション1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	橋本 文子	指定なし

授業概要(教育目的)

日本と世界のいろいろな国の文化的側面を比較しながら、英文の読解力と基礎的な英文法の理解の向上を目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	基礎的な英文法を理解し、平易な英文を読んでその内容を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本といろいろな国の文化的側面を比較し、海外について興味を持つ。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	Introduction
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方の説明を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 1のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	Unit 1: Given Name First is Not the Rule in Many Places ４つ品詞とその働き / 前置詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行

第2回	リテラシー教育・ICT活用を含む)	う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 1のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	授業テーマ	Unit 1 Reading
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 2のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	授業テーマ	Unit 2: New Year's Day 基本文型（１）/ 形容詞
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 2のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	授業テーマ	Unit 2 Reading
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 3のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	授業テーマ	Unit 3: Laundry 基本文型（２）
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 3のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	授業テーマ	Unit 3 Reading
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 4のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	授業テーマ	Unit 4: How Do You Write the Date? 疑問文 / 付加疑問文
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 4のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	授業テーマ	Unit 4 Reading
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 5のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分

第10回	授業テーマ	Unit 5: The Sakura of Washington D.C. 時制（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 5のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	授業テーマ	Unit 5 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 6のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	授業テーマ	Unit 6: A Global Beauty Standard? 時制（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 6のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	授業テーマ	Unit 6 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 7のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	授業テーマ	Unit 7: Crosswalks 助動詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの学習内容の総復習と確認を行い、定期試験に向けて準備をすること。
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

授業の始めに前の週の授業内容の確認と復習を行う。

評価方法

定期試験は各UnitのReadingとGrammarから出題する。

ルーブリックに基づく成績評価を行う。
ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配布等により指示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題発表	○	○	○	○
定期試験	○	○		

評価割合

定期試験 70%、平常点（授業への積極的な参加と課題の発表）30%で総合的に評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

Learn the Differences, Broaden Your World! / Nobumichi Kawada / Asahi Press

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】基礎的な英語力をしっかりと身につけることで、英文の読解力を向上させることができる。
【技術・表現】英語で自分のことを表現することができる技術や表現を学ぶ。

オフィスアワー

水曜日 2限 1610研究室

学生へのメッセージ

・授業で学んだことをしっかりと復習し、次回の授業内容についてもあらかじめ予習をしてきて下さい。
・授業に積極的に参加することを期待します。
・授業では英語の辞書を持参し、わからないところはすぐに調べられるようにして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		各UnitのGrammarの復習をし、Readingの内容を理解して、日本と海外の違いを考える。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50826035
講義名	英語コミュニケーション1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	橋本 文子	指定なし

授業概要(教育目的)

日本と世界のいろいろな国の文化的側面を比較しながら、英文の読解力と基礎的な英文法の理解の向上を目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	基礎的な英文法を理解し、平易な英文を読んでその内容を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本といろいろな国の文化的側面を比較し、海外について興味を持つ。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	Introduction
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方の説明を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 1のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	Unit 1: Given Name First is Not the Rule in Many Places ４つ品詞とその働き / 前置詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行

第2回	リテラシー教育・ICT活用を含む)	う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 1のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	授業テーマ	Unit 1 Reading
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 2のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	授業テーマ	Unit 2: New Year's Day 基本文型（１）/ 形容詞
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 2のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	授業テーマ	Unit 2 Reading
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 3のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	授業テーマ	Unit 3: Laundry 基本文型（２）
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 3のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	授業テーマ	Unit 3 Reading
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 4のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	授業テーマ	Unit 4: How Do You Write the Date? 疑問文 / 付加疑問文
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 4のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	授業テーマ	Unit 4 Reading
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 5のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分

第10回	授業テーマ	Unit 5: The Sakura of Washington D.C. 時制（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 5のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	授業テーマ	Unit 5 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 6のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	授業テーマ	Unit 6: A Global Beauty Standard? 時制（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 6のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	授業テーマ	Unit 6 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 7のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	授業テーマ	Unit 7: Crosswalks 助動詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの学習内容の総復習と確認を行い、定期試験に向けて準備をすること。
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

授業の始めに前の週の授業内容の確認と復習を行う。

評価方法

定期試験は各UnitのReadingとGrammarから出題する。

ルーブリックに基づく成績評価を行う。
ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配布等により指示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題発表	○	○	○	○
定期試験	○	○		

評価割合

定期試験 70%、平常点（授業への積極的な参加と課題の発表）30%で総合的に評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

Learn the Differences, Broaden Your World! / Nobumichi Kawada / Asahi Press

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】基礎的な英語力をしっかりと身につけることで、英文の読解力を向上させることができる。
【技術・表現】英語で自分のことを表現することができる技術や表現を学ぶ。

オフィスアワー

水曜日 2限 1610研究室

学生へのメッセージ

・授業で学んだことをしっかりと復習し、次回の授業内容についてもあらかじめ予習をしてきて下さい。
・授業に積極的に参加することを期待します。
・授業では英語の辞書を持参し、わからないところはすぐに調べられるようにして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		各UnitのGrammarの復習をし、Readingの内容を理解して、日本と海外の違いを考える。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50826036
講義名	英語コミュニケーション1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	橋本 文子	指定なし

授業概要(教育目的)

日本と世界のいろいろな国の文化的側面を比較しながら、英文の読解力と基礎的な英文法の理解の向上を目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	基礎的な英文法を理解し、平易な英文を読んでその内容を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本といろいろな国の文化的側面を比較し、海外について興味を持つ。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	Introduction
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方の説明を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 1のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	Unit 1: Given Name First is Not the Rule in Many Places ４つ品詞とその働き / 前置詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行

第2回	リテラシー教育・ICT活用を含む)	う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 1のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	授業テーマ	Unit 1 Reading
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 2のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	授業テーマ	Unit 2: New Year's Day 基本文型（１）/ 形容詞
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 2のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	授業テーマ	Unit 2 Reading
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 3のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	授業テーマ	Unit 3: Laundry 基本文型（２）
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 3のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	授業テーマ	Unit 3 Reading
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 4のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	授業テーマ	Unit 4: How Do You Write the Date? 疑問文 / 付加疑問文
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 4のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	授業テーマ	Unit 4 Reading
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 5のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分

第10回	授業テーマ	Unit 5: The Sakura of Washington D.C. 時制（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 5のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	授業テーマ	Unit 5 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 6のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	授業テーマ	Unit 6: A Global Beauty Standard? 時制（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 6のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	授業テーマ	Unit 6 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 7のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	授業テーマ	Unit 7: Crosswalks 助動詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの学習内容の総復習と確認を行い、定期試験に向けて準備をすること。
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

授業の始めに前の週の授業内容の確認と復習を行う。

評価方法

定期試験は各UnitのReadingとGrammarから出題する。

ルーブリックに基づく成績評価を行う。
ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配布等により指示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題発表	○	○	○	○
定期試験	○	○		

評価割合

定期試験 70%、平常点（授業への積極的な参加と課題の発表）30%で総合的に評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

Learn the Differences, Broaden Your World! / Nobumichi Kawada / Asahi Press

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】基礎的な英語力をしっかりと身につけることで、英文の読解力を向上させることができる。
【技術・表現】英語で自分のことを表現することができる技術や表現を学ぶ。

オフィスアワー

水曜日 2限 1610研究室

学生へのメッセージ

・授業で学んだことをしっかりと復習し、次回の授業内容についてもあらかじめ予習をしてきて下さい。
・授業に積極的に参加することを期待します。
・授業では英語の辞書を持参し、わからないところはすぐに調べられるようにして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		各UnitのGrammarの復習をし、Readingの内容を理解して、日本と海外の違いを考える。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50826037
講義名	英語コミュニケーション1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	マーク ルイス	指定なし

授業概要(教育目的)

The teacher directs and instructs students to practice a natural progression of speaking models to gain confidence in every day English. Speaking, listening, reading and writing are included in each lesson.

履修条件

If you want to take English Communication 1, you must buy the book, Say What You Like 1.

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	Students will be able to recognize and respond to a variety of topics using English.
思考・判断の観点 (K)	Students will be able to understand the perspective of others and to communicate their own ideas. Students will use critical thinking skills to describe their feelings and ideas.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Through a succession of progressively more difficult topics employing basic English patterns, students will generate the motivation to become active and independent learners of English.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express themselves easily in English and will become more at ease when speaking with others.

学習計画

第1回	**授業テーマ**	Introductions / About you
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Introduce yourself and tell where you are from.
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 2-3; and p.34-35.
	教室外学習の時間（分）	60

第2回	授業テーマ	Coming to school/ lifestyle
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talk about where you live / Are you happy these days?
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p.4-5; 36-37.
	教室外学習の時間（分）	60
第3回	授業テーマ	Family life
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talk about your family / Are you looking forward to Golden Week?
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 6-7; 38-39
	教室外学習の時間（分）	60
第4回	授業テーマ	Work / Club activities
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talk about a part-time job / How was your Golden Week?
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 8-9; 40-41
	教室外学習の時間（分）	60
第5回	授業テーマ	Seasons
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talk about the weather / What kind of music do you like?
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare by reading p. 10-11; 42-43
	教室外学習の時間（分）	60
第6回	授業テーマ	University Life
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Do you like this university? / Did you have breakfast this morning?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 12-13; 44-45
	教室外学習の時間（分）	60
第7回	授業テーマ	Colors
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What are you favorite colors? / What kind of ramen noodles do you like?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 14-15; 46-47
	教室外学習の時間（分）	60
第8回	授業テーマ	Free time
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What do you like to do in your free time? / How many hours per day do you watch TV?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 16-17; 48-49
	教室外学習の時間（分）	60

第9回	授業テーマ	Sports
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What sports do you play? / Have you ever gone sightseeing in Kamakura?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 18-19; 50-51
	教室外学習の時間（分）	60
第10回	授業テーマ	Pets
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Do you have a pet? / Do you like MosBurger? Do you like Starbucks Coffee?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p.20-21; 52-53
	教室外学習の時間（分）	60
第11回	授業テーマ	Traveling
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Where have you traveled? / Do you like the rainy season?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 22-23; 54-55
	教室外学習の時間（分）	60
第12回	授業テーマ	Types of people
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What's your blood type? / Do you like doing the laundry?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 24-25; 56-57
	教室外学習の時間（分）	60
第13回	授業テーマ	Practice Speaking Challenge
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Use class time to prepare topics with a partner for the speaking challenge.
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 2-59
	教室外学習の時間（分）	120
第14回	授業テーマ	Speaking Challenge
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Students communicate with a partner in natural English patterns learned in class along with the appropriate comments and rejoinders.
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 2-59
	教室外学習の時間（分）	120

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

Students receive weekly quiz scores; feedback on weekly in-class writing topics; and spoken feedback during class participation.

評価方法

Quizzes are worth 10 points each week. Questions are from the previous week's lesson and the current lesson. If you read the assigned homework pages, you'll do well on the weekly quizzes. The final speaking test lets you know how comfortable you've become speaking English. An evaluation of speaking tests using rubrics will be provided. The rubric will be on Google Classroom.

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
Quizzes	○	○	○	○
Speaking Test	○	○	○	○
Pair work	○	○	○	○
Writing	○	○	○	○

評価割合

Pair / Group work 50%; Quizzes 30%; Writing 10%; Final Speaking Test 10%

使用教科書名(ISBN番号)

Say What You Like 1 (ISBN 978-4-990-6347-0-4)

参考図書

A Japanese - English dictionary

参考URL

http://www.hotcocoa.jp/

ディプロマポリシーとの関連

Ability to speak and understand English at a basic level.

オフィスアワー

Friday 2nd Period.

学生へのメッセージ

Relax and enjoy speaking English.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other.
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50827001
講義名	英語コミュニケーション2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	高橋 幸子	指定なし

ナンバリング

X13620C12

授業概要(教育目的)

人々が日常的に経験するトピックを通じて、英語のコミュニケーション能力を伸ばすことを目的とする。日本に住む英語学習者が海外の若者の生活に触れて、世界の国々の基本知識や文化を学んでいくという設定としている。関連する語彙や文法を無理なく学び、同時に英語の受容的能力（リスニング力とリーディング力）や産出的能力（スピーキング力とライティング力）を伸ばしていく。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	英語の語彙と文法の知識を増やす。 異なった言語背景・文化背景のテキストを聴いたり読んだりして、理解する。
思考・判断の観点 (K)	英語を使った情報を整理し、多様な角度から検討した上で、論理的・客観的に自分の意見を述べるための批判的思考力をつける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	身近な話題に関する英語表現に関心を持ち、理解しようとする。 自分が感じたことや考えを英語で表現しようとする。
技術・表現の観点 (A)	身近な話題に関する英語表現を理解し、易しい英語を使って、自分の感じたことや考えを表現できるようになる。

学習計画

		Session 1

第1回	授業テーマ	Introduction 授業の進め方 Italy
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	The Start of Pizza Margherita 文法項目：動詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習は、復習中心です。 授業中に学習した全てを復習してください。 特に、最後に完成させたモノローグを暗唱できるぐらいに、音読しましょう。
	教室外学習の時間（分）	195分
第2回	授業テーマ	Session 2 Malaysia
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	The Name of Kuala Lumpur 文法項目：人称代名詞・冠詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	195分
第3回	授業テーマ	Session 3 The UK
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	The Beatles Audition 文法項目：助動詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	195分
第4回	授業テーマ	Session 4 Egypt
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Exploring the Great Sphinx 文法項目：受動態
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	195分
第5回	授業テーマ	Session 5 Germany
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Founders of Addidas and Puma 文法項目：現在完了
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	195分
第6回	授業テーマ	Session 6 New Zealad
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	The Haka Dance Legacy 文法項目：進行形
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	195分
第7回	授業テーマ	Session 7 Thailand Mid-term test
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	The Land of Smiles Mid-term test を実施します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習

	教室外学習の時間（分）	195分
第8回	授業テーマ	Session 8 The USA
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	The Gift of the Statue of Liberty 文法項目：最上級
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	195分
第9回	授業テーマ	Session 9 Finland
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Saunas Worldwide 文法項目：不定詞・動名詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	195分
第10回	授業テーマ	Session 10 Belgium
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	The Logo of Godiva 文法項目：使役動詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	195分
第11回	授業テーマ	Session 11 Kenia
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	The Secret of Distance Runners 文法項目：仮定法
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	195分
第12回	授業テーマ	Session 12 France
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	The House of Coco Chanel 文法項目：関係代名詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	195分
第13回	授業テーマ	Session 13 Ireland
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	The Guinness Book and Beer 文法項目：接続詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	195分
第14回	授業テーマ	Session 14 Peru
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	The lost City of the Incas Final test を実施します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	195分

学習計画注記

Session 7 で Mid-term test
Session 14 で Final test

学生へのフィードバック方法

学生から回収したコメントや質問は、必要に応じてクラスで共有する。
紙による Mid -term test は、返却する。

評価方法

以下の総合点から評価する。
・平常点（ルーブリックに基づいた評価）
当該授業のClassroom にルーブリックの評価基準を表示します。
・Mid-term test
・Final test

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
Mid-term test	○	○		○
Final test	○	○		○

評価割合

平常点（学習ログ＋ルーブリックによる評価）50%
Mid-term test 20%
Final test 30%

使用教科書名(ISBN番号)

English across the world, 978-4-7919-7301-9

参考図書

各自今まで使用していた辞書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
英語の言語的・社会言語的・談話的知識を増やす。
トピックの背景にあるものを理解する。
【思考・判断】
英語で得た新しい情報を、今まで持っている情報と比べて、相違点や一致点について考える。
【関心・意欲・態度】
自分の世界とは違う考え方に関心を持ち、違った文化の考え方を尊重する。
英語を理解し、英語で発信する意欲を持つ。
【技能・表現】
英語において、正確に、適切に、一貫性のある理解と表現をする。

オフィスアワー

水曜の４限

学生へのメッセージ

語学の習得は、積み重ねが必要な根気が要る学びですが、その過程を楽しいものにしましょう。母語でない言語を使って、何かを理解したり、自分の感じたことや考えたことを表現できることは、楽しいことです。具体的な目標を作って、楽しく学習しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実生活に密着した授業の展開
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを中心とした学生主体の授業展開
情報リテラシー教育		

ICT活用	○	Webを利用した授業外活動

講義コード	G50827002
講義名	英語コミュニケーション2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	高橋 幸子	指定なし

ナンバリング

X13620C12

授業概要(教育目的)

人々が日常的に経験するトピックを通じて、英語のコミュニケーション能力を伸ばすことを目的とする。日本に住む英語学習者が海外の若者の生活に触れて、世界の国々の基本知識や文化を学んでいくという設定としている。関連する語彙や文法を無理なく学び、同時に英語の受容的能力（リスニング力とリーディング力）や産出的能力（スピーキング力とライティング力）を伸ばしていく。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	英語の語彙と文法の知識を増やす。 異なった言語背景・文化背景のテキストを聴いたり読んだりして、理解する。
思考・判断の観点 (K)	英語を使った情報を整理し、多様な角度から検討した上で、論理的・客観的に自分の意見を述べるための批判的思考力をつける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	身近な話題に関する英語表現に関心を持ち、理解しようとする。 自分が感じたことや考えを英語で表現しようとする。
技術・表現の観点 (A)	身近な話題に関する英語表現を理解し、易しい英語を使って、自分の感じたことや考えを表現できるようになる。

学習計画

		Session 1 Introduction

第1回	授業テーマ	授業の進め方 Italy
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方 The Start of Pizza Margherita 文法項目：動詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習は、復習中心です。 授業中に学習した全てを復習してください。 特に、最後に完成させたモノローグを暗唱できるぐらいに、音読しましょう。
	教室外学習の時間（分）	195分
第2回	授業テーマ	Session 2 Malaysia
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	The Name of Kuala Lumpur 文法項目：人称代名詞・冠詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	195分
第3回	授業テーマ	Session 3 The UK
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	The Beatles Audition 文法項目：助動詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	復習や課題で3時間半程度
第4回	授業テーマ	Session 4 Egypt
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Exploring the Great Sphinx 文法項目：受動態
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	195分
第5回	授業テーマ	Session 5 Germany
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Founders of Addidas and Puma 文法項目：現在完了
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	195分
第6回	授業テーマ	Session 6 New Zealand
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	The Haka Dance Legacy 文法項目：進行形
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	195分
	授業テーマ	Session 7 Thailand

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	The Land of Smiles Mid-term test を実施します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	195分
第8回	授業テーマ	Session 8 The USA
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	The Gift of the Statue of Liberty 文法項目：最上級
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	195分
第9回	授業テーマ	Session 9 Finland
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Saunas Worldwide 文法項目：不定詞・動名詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	195分
第10回	授業テーマ	Session 10 Belgium
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	The Logo of Godiva 文法項目：使役動詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	195分
第11回	授業テーマ	Session 11 Kenia
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	The Secret of Distance Runners 文法項目：仮定法
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	195分
第12回	授業テーマ	Session 12 France
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	The House of Coco Chanel 文法項目：関係代名詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	195分
第13回	授業テーマ	Session 13 Ireland
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	The Guinness Book and Beer 文法項目：接続詞
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	195分
第14回	授業テーマ	Session 14 Peru
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	The Lost City of the Incas Final test を実施します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に学習した全てを復習
	教室外学習の時間（分）	195分

学習計画注記

Session 7 で Mid-term test
Session 14 で Final test

学生へのフィードバック方法

学生から回収したコメントや質問は、必要に応じてクラスで共有する。
紙による Mid -term test は、返却する。

評価方法

以下の総合点から評価する。
・平常点（ルーブリックに基づいた評価）
当該授業のClassroom にルーブリックの評価基準を表示します。
・Mid-term test
・Final test

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
Mod-term test	○	○		○
Final test	○	○		○

評価割合

平常点（学習ログ＋ルーブリックによる評価）50%
Mid-term test 20%
Final test 30%

使用教科書名(ISBN番号)

English across the world, 978-4-7919-7301-9

参考図書

各自今まで使用していた辞書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
英語の言語的・社会言語的・談話的知識を増やす。
トピックの背景にあるものを理解する。
【思考・判断】
英語で得た新しい情報を、今まで持っている情報と比べて、相違点や一致点について考える。
【関心・意欲・態度】
自分の世界とは違う考え方に関心を持ち、違った文化の考え方を尊重する。
英語を理解し、英語で発信する意欲を持つ。
【技能・表現】
英語において、正確に、適切に、一貫性のある理解と表現をする。

オフィスアワー

水曜の４限

学生へのメッセージ

語学の習得は、積み重ねが必要な根気が要る学びですが、その過程を楽しいものにしましょう。母語でない言語を使って、何かを理解したり、自分の感じたことや考えたことを表現できることは、楽しいことです。具体的な目標を作って、楽しく学習しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実生活に密着した授業の展開
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを中心とした学生主体の授業展開

情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Webを利用した授業外活動

講義コード	G50827003
講義名	英語コミュニケーション2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	佐藤 由実	指定なし

ナンバリング

X13620C12

授業概要(教育目的)

この授業は、食に関連したトピックで、１つのトピックに対し（１）リーディングとライティング、（２）リスニングとスピーキングに分けて英語の四技能を総合的に向上させることを目的とする。授業では平易な英語から始め英語に対する心理的抵抗を取り除いた上で英文内容把握のテクニックと基礎的な英語表現力を身に着けることを目指す。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	外国人を食でおもてなしする際に必要となる知識を身に付け、表現内容を理解出来る。
思考・判断の観点 (K)	日本の食文化の魅力を確認し、適切に案内が出来るようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学んだことを発信することへの関心・意欲を持ち続けられる。
技術・表現の観点 (A)	学習した表現を用いて発信出来るようになる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	自己紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レベルチェックテストを行う。食を題材に自己紹介を行う。
	教室外学習(予習・復	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付け、課

	習)の内容	題に取り組むこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	和菓子（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	和菓子を題材としたリーディング、ライティング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付け、課題に取り組むこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	和菓子（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	和菓子販売店での基本的な接客に関するリスニング、スピーキング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付け、課題に取り組むこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	茶（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お茶を題材としたリーディング、ライティング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付け、課題に取り組むこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	茶（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お茶を出す際の基本的な表現に関するリスニング、スピーキング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付け、課題に取り組むこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	酒（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お酒を題材としたリーディング、ライティング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付け、課題に取り組むこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	酒（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第7回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お酒を出す際の基本的な表現に関するリスニング、スピーキング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付け、課題に取り組むこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	和食（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	和食を題材としたリーディング、ライティング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付け、課題に取り組むこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	和食（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	和食店での基本的な接客に関するリスニング、スピーキング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付け、課題に取り組むこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	調理（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々なレシピを題材としたリーディング、ライティング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付け、課題に取り組むこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	調理（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理に関するリスニング、スピーキング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付け、課題に取り組むこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	レシピ作り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レシピを作成し、スピーキング演習を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付け、課題に取り組むこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間	

	（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	レシピ発表練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レシピの発表と質疑応答の練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付け、課題に取り組むこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	レシピ発表・総復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作ったレシピを発表し、質疑応答する。これまで学んだことの総復習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分

学生へのフィードバック方法

小テストは解答用紙のみ回収し返却はしないが、授業内で解説し自己採点を行う。採点結果の問い合わせは個別に対応する。課題は点数を付して返却する。ルーブリック評価のためのリフレクションシートは回収し、確認後返却する。発表については、授業内でコメントする。

評価方法

小テスト：前回学んだことの定着度を次回の授業で確認する。
ルーブリック：授業で学んだことの理解度を測るため、毎回授業内で紙面又はクラスルーム内で配布するリフレクションシート形式で確認する。
課題：授業で学んだことを定着させるための課題を出し授業で明示する評価基準に基づいて評価する。
発表：第14回の授業でのプレゼンテーションについて、授業内で明示する評価基準に基づいて評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○	○		○
ルーブリック	○	○	○	○
課題	○	○	○	○
発表	○	○	○	○

評価割合

小テスト15%、ルーブリック15%、課題20%、発表50%

使用教科書名(ISBN番号)

なし。

参考図書

なし。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】外国人を食でおもてなしする際に必要となる表現を理解出来るようになる。
【思考・判断】日本の食の魅力を確認し、状況に応じた対応を類別出来るようになる。

【関心・意欲・態度】日本の食の魅力を確認し、適切に案内が出来るようになる。
【技能・表現】学習した表現を用いて発信出来るようになる。

学生へのメッセージ

食を専門にする人もそうでない人も履修可能な内容です。日本の食文化への理解を深めながら英語で表現し伝えることの楽しさを感じてもらえるような授業を目指します。最終的には好きなレシピの英語版を作り、発表できるよう、段階的に表現力を身に付けていきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	英語による調理実習やデモンストレーションの経験を元に、実際の場面を想定し、発表に向けて段階的に表現力を身に付けていきます。
アクティブ・ラーニング	○	ライティング演習、リスニング演習、スピーキング演習、グループ・ワーク、発表。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50827004
講義名	英語コミュニケーション2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	佐藤 由実	指定なし

ナンバリング

X13620C12

授業概要(教育目的)

この授業は、食に関連したトピックで、１つのトピックに対し（１）リーディングとライティング、（２）リスニングとスピーキングに分けて英語の四技能を総合的に向上させることを目的とする。授業では平易な英語から始め英語に対する心理的抵抗を取り除いた上で英文内容把握のテクニックと基礎的な英語表現力を身に着けることを目指す。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	外国人を食でおもてなしする際に必要となる知識を身に付け、表現内容を理解出来る。
思考・判断の観点 (K)	日本の食文化の魅力を確認し、適切に案内が出来るようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学んだことを発信することへの関心・意欲を持ち続けられる。
技術・表現の観点 (A)	学習した表現を用いて発信出来るようになる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	自己紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レベルチェックテストを行う。食を題材に自己紹介を行う。
	教室外学習(予習・復	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付け、課

	習)の内容	題に取り組むこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	和菓子（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	和菓子を題材としたリーディング、ライティング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付け、課題に取り組むこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	和菓子（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	和菓子販売店での基本的な接客に関するリスニング、スピーキング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付け、課題に取り組むこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	茶（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お茶を題材としたリーディング、ライティング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付け、課題に取り組むこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	茶（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お茶を出す際の基本的な表現に関するリスニング、スピーキング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付け、課題に取り組むこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	酒（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お酒を題材としたリーディング、ライティング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付け、課題に取り組むこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	酒（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第7回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お酒を出す際の基本的な表現に関するリスニング、スピーキング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付け、課題に取り組むこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	和食（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	和食を題材としたリーディング、ライティング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付け、課題に取り組むこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	和食（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	和食店での基本的な接客に関するリスニング、スピーキング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付け、課題に取り組むこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	調理（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々なレシピを題材としたリーディング、ライティング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付け、課題に取り組むこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	調理（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理に関するリスニング、スピーキング演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付け、課題に取り組むこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	レシピ作り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レシピを作成し、スピーキング演習を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付け、課題に取り組むこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間	

	（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	レシピ発表練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レシピの発表と質疑応答の練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付け、課題に取り組むこと。次回授業でまとめと学習到達度確認のための小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	レシピ発表・総復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作ったレシピを発表し、質疑応答する。これまで学んだことの総復習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分

学生へのフィードバック方法

小テストは解答用紙のみ回収し返却はしないが、授業内で解説し自己採点を行う。採点結果の問い合わせは個別に対応する。課題は点数を付して返却する。ルーブリック評価のためのリフレクションシートは回収し、確認後返却する。発表については、授業内でコメントする。

評価方法

小テスト：前回学んだことの定着度を次回の授業で確認する。
ルーブリック：授業で学んだことの理解度を測るため、毎回授業内で紙面又はクラスルーム内で配布するリフレクションシート形式で確認する。
課題：授業で学んだことを定着させるための課題を出し授業で明示する評価基準に基づいて評価する。
発表：第14回の授業でのプレゼンテーションについて、授業内で明示する評価基準に基づいて評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○	○		○
ルーブリック	○	○	○	○
課題	○	○	○	○
発表	○	○	○	○

評価割合

小テスト15%、ルーブリック15%、課題20%、発表50%

使用教科書名(ISBN番号)

なし。

参考図書

なし。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】外国人を食でおもてなしする際に必要となる表現を理解出来るようになる。
【思考・判断】日本の食の魅力を確認し、状況に応じた対応を類別出来るようになる。

【関心・意欲・態度】日本の食の魅力を確認し、適切に案内が出来るようになる。
【技能・表現】学習した表現を用いて発信出来るようになる。

学生へのメッセージ

食を専門にする人もそうでない人も履修可能な内容です。日本の食文化への理解を深めながら英語で表現し伝えることの楽しさを感じてもらえるような授業を目指します。最終的には好きなレシピの英語版を作り、発表できるよう、段階的に表現力を身に付けていきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	英語による調理実習やデモンストレーションの経験を元に、実際の場面を想定し、発表に向けて段階的に表現力を身に付けていきます。
アクティブ・ラーニング	○	ライティング演習、リスニング演習、スピーキング演習、グループ・ワーク、発表。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50827031
講義名	英語コミュニケーション2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	田中 愛	指定なし

授業概要(教育目的)

英語を使った教室活動を通して、英語によるコミュニケーション能力を高めることを目的としている。授業では、複数のテーマについて「説明する」「比較する」「自分の考えを述べる」「質問する」「質問に答える」などの機能を学び、最終的に自分の選んだテーマで発表（ミニレポート、ポスター、口頭など）する。その過程で必要な音声を訓練し、語・文法・表現を学ぶことで、より正確でなめらかな英語の習得を目指していく。また、英語でよく使われる応答表現や英語圏の習慣・文化についても学んでいく。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	ポップスのヒット曲を聞くことを通して、英語特有の音声変化やリズムに慣れ親しみつつ、他国の文化的背景を学ぶことができる。
思考・判断の観点 (K)	異なる歴史・文化的背景や価値観を学ぶことでより広い視野を持つことができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に対する苦手意識を解消し、英語学習に前向きに取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	前期授業ガイダンス＆発音記号の読み方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	【ルーブリックについて説明します】 ・成績評価、テキスト、授業の進め方 ・発音記号の読み方（音声にて確認）

		・和製英語Part 2
第1回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	第1回授業の予習 テキストP. 109～ ・発音記号の読み方① 母音編、発音記号の読み方② 子音編を熟読すること 第1回授業の復習 授業時に配布されたプリントを復習する
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	Unit 8 The stranger
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 8 The stranger ・Warm-up Bの和訳 ・Listening Point : 音の弱化について確認 →会話で活用できる表現を繰り返し練習する ・Grammar Point : 関係代名詞について復習 & 練習問題を解く
	教室外学習(予習・復習)の内容	第2回授業の予習 Unit 8 The stranger ・Warm-up A, Bの問題を辞書を使って解くこと →授業時に解答確認 第2回授業の復習 ・Check 1 & Check 2内の英文を和訳する （辞書を用いてしっかりと単語等の意味を調べること） →授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	Unit 8 The stranger
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 8 The stranger ・The stranger : 楽曲の歌詞の書き取りおよび歌詞の和訳 ・Listening Challenge : TOEIC Part 1～Part 3と同じ形式の問題を解く ・Let's Read! : Comprehension Checkの解答確認および本文和訳 →『ハリーポッター』の登場人物の名前の由来と単語について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回授業の予習 ・Let's Read! : Comprehension Checkを解く →授業時に解答確認 第3回授業の復習 ・Listening Challengeのスクリプトを配布 →間違えた問題の見直しを行うこと
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	Unit 9 Hey now
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 9 Hey now ・Warm-up Bの和訳 ・Listening Point : 音の連結②について確認 →会話で活用できる表現を繰り返し練習する ・Grammar Point : 不定詞について復習 & 練習問題を解く →不定詞の慣用表現も含む
		第4回授業の予習

第4回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	Unit 9 Hey now ・Warm-up A, Bの問題を辞書を使って解くこと →授業時に解答確認 第4回授業の復習 ・Check 1 & Check 2内の英文を和訳する （辞書を用いてしっかりと単語等の意味を調べること） →授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	Unit 9 Hey now
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 9 Hey now ・Hey now : 楽曲の歌詞の書き取りおよび歌詞の和訳 ・Listening Challenge : TOEIC Part 1～Part 3と同じ形式の問題を解く ・Let's Read! : Comprehension Checkの解答確認および本文和訳 →“redhead”について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第5回授業の予習 ・Let's Read! : Comprehension Checkを解く →授業時に解答確認 第5回授業の復習 ・Listening Challengeのスクリプトを配布 →間違えた問題の見直しを行うこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	Unit 10 Every time I close my eyes
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 10 Every time I close my eyes ・Warm-up Bの和訳 ・Listening Point : 音の脱落③について確認 →会話で活用できる表現を繰り返し練習する ・Grammar Point : 接続詞について復習 & 練習問題を解く →書きかえ表現も含む
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6回授業の予習 Unit 10 Every time I close my eyes ・Warm-up A, Bの問題を辞書を使って解くこと →授業時に解答確認 第6回授業の復習 ・Check 1 & Check 2内の英文を和訳する （辞書を用いてしっかりと単語等の意味を調べること） →授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	Unit 10 Every time I close my eyes
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 10 Every time I close my eyes ・Every time I close my eyes : 楽曲の歌詞の書き取りおよび歌詞の和訳 ・Listening Challenge : TOEIC Part 1～Part 3と同じ形式の問題を解く ・Let's Read! : Comprehension Checkの解答確認および本文和訳

第7回		→アメリカの歴代大統領の“nickname”について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第7回授業の予習 ・Let's Read! : Comprehension Checkを解く →授業時に解答確認 第7回授業の復習 ・Listening Challengeのスクリプトを配布 →間違えた問題の見直しを行うこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	Unit 11 Kiss of life
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 11 Kiss of life ・Warm-up Bの和訳 ・Listening Point : 短縮形の音①について確認 →会話で活用できる表現を繰り返し練習する ・Grammar Point : 助動詞＋have＋過去分詞について復習 & 練習問題を解く →和訳の確認も含む
	教室外学習(予習・復習)の内容	第8回授業の予習 Unit 11 Kiss of life ・Warm-up A, Bの問題を辞書を使って解くこと →授業時に解答確認 第8回授業の復習 ・Check 1 & Check 2内の英文を和訳する （辞書を用いてしっかりと単語等の意味を調べること） →授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	Unit 11 Kiss of life
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Kiss of life : 楽曲の歌詞の書き取りおよび歌詞の和訳 ・Listening Challenge : TOEIC Part 1～Part 3と同じ形式の問題を解く ・Let's Read! : Comprehension Checkの解答確認および本文和訳 →イギリスへの移民者の歴史を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第9回授業の予習 ・Let's Read! : Comprehension Checkを解く →授業時に解答確認 第9回授業の復習 ・Listening Challengeのスクリプトを配布 →間違えた問題の見直しを行うこと
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	Unit 13 Livin' la vida loca
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 13 Livin' la vida loca ・Warm-up Bの和訳 ・Listening Point : 音の脱落④について確認 →会話で活用できる表現を繰り返し練習する ・Grammar Point : 使役動詞について復習 & 練習問題を解く →5文型の確認も含む
		第10回授業の予習

第10回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	Unit 13 Livin' la vida loca ・Warm-up A, Bの問題を辞書を使って解くこと →授業時に解答確認 第10回授業の復習 ・Check 1 & Check 2内の英文を和訳する （辞書を用いてしっかりと単語等の意味を調べること） →授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	Unit 13 Livin' la vida loca
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Livin' la vida loca : 楽曲の歌詞の書き取りおよび歌詞の和訳 ・Listening Challenge : TOEIC Part 1～Part 3と同じ形式の問題を解く ・Let's Read! : Comprehension Checkの解答確認および本文和訳 →アメリカのおけるヒスパニックの増加について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第11回授業の予習 ・Let's Read! : Comprehension Checkを解く →授業時に解答確認 第11回授業の復習 ・Listening Challengeのスクリプトを配布 →間違えた問題の見直しを行うこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	Unit 12 All I want for Christmas is you
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Unit 12 All I want for Christmas is you ・Warm-up Bの和訳 ・Listening Point : 短縮形の音②について確認 →会話で活用できる表現を繰り返し練習する ・Grammar Point : 5文型について復習 & 練習問題を解く →第3文型、第4文型の書きかえも含む
	教室外学習(予習・復習)の内容	第12回授業の予習 Unit 12 All I want for Christmas is you ・Warm-up A, Bの問題を辞書を使って解くこと →授業時に解答確認 第12回授業の復習 ・Check 1 & Check 2内の英文を和訳する （辞書を用いてしっかりと単語等の意味を調べること） →授業時に解答確認 ・課題（ミニレポート）の提出準備
	教室外学習の時間（分）	300分
	授業テーマ	Unit 12 All I want for Christmas is you
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・All I want for Christmas is you : 楽曲の歌詞の書き取りおよび歌詞の和訳 ・Listening Challenge : TOEIC Part 1～Part 3と同じ形式の問題を解く ・Let's Read! : Comprehension Checkの解答確認および本文和訳

第13回		→クリスマスにまつわる様々な伝統について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第13回授業の予習 ・Let's Read! : Comprehension Checkを解く →授業時に解答確認 第13回授業の復習 ・Listening Challengeのスクリプトを配布 →間違えた問題の見直しを行うこと ・課題（ミニレポート）の提出準備
	教室外学習の時間（分）	300分
第14回	**授業テーマ**	Unit 14 & 課題（ミニレポート）の提出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	＊提出課題については、履修者の人数や理解度を考慮して授業時に発表する Review Unit 2 ・Warm-up A, Bの解答確認 ・Listening Challenge : TOEIC Part 1～Part 3と同じ形式の問題を解く
	教室外学習(予習・復習)の内容	第14回授業の予習 ・Warm-up A, Bの問題を辞書を使って解くこと →授業時に解答確認 ・課題（ミニレポート）の提出準備 第14回授業の復習 ・後期授業内容の復習を行う
	教室外学習の時間（分）	300分

学習計画注記

履修者数、授業の進み具合もしくはその他の要因により、スケジュールに変更が生じることがあります。
小テストは履修者の履修者の理解度を確認するため、状況に応じて実施します。
小テストについては、対面実施・オンライン実施ともに授業内もしくはGoogle Classroomを通してアナウンスします。

学生へのフィードバック方法

・小テスト（対面時）：基本的にその場で解答確認および解説を行い、回収
→次週の授業時に返却

・小テスト（Google Classroom配信）：テスト提出後にスコアおよび解説を各自で確認をする
→疑問点（質問）は、コメント欄より個別対応
（質問内容によっては次週の授業時にクラス全体に解説を行う）

評価方法

・小テストは授業内容の復習と位置づけて実施する
（小テストに関する追再試験は行わない）
・学習到達度の確認テストは、前期授業内容を中心として出題する
・小テスト及び学習到達度の確認テストは、下表に示す力を養うことを目的に実施する

＊小テストにはGoogle Classroomでの配信を含む

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
ミニレポート	○	○		
小テスト	○	○		

平常点			○	
その他	○		○	

評価割合

小テスト・ミニレポート 60%
平常点（学習意欲、履修態度など） 20%
その他（任意課題などの提出状況など） 20%

使用教科書名(ISBN番号)

タイトル：English with Hit Songs ポップスで学ぶ総合英語 改訂新版
著者：角山 照彦、他
出版社：成美堂
定価：2,100＋税
ISBN: 978-4-7919-3086-9

参考図書

必要に応じて授業時に紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】英語の基本的な運用能力（読む、話す、書く、聞く）がある。
【技術・表現】平易な英文で、身近な話題を表現する能力がある。

学生へのメッセージ

楽曲を味わい楽しみながら異文化理解、幅広い知識、表現力そして語彙力を習得していきましょう。
Google Classroom内では、英語を用いたクイズ（ことわざや四字熟語）なども配信予定です。
じっくりと学んでいきましょう！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	テキスト以外の資料を用いて、英文解釈のためにグループ・ワークを行う
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50827032
講義名	英語コミュニケーション2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	田中 愛	指定なし

授業概要(教育目的)

英語を使った教室活動を通して、英語によるコミュニケーション能力を高めることを目的としている。授業では、複数のテーマについて「説明する」「比較する」「自分の考えを述べる」「質問する」「質問に答える」などの機能を学び、最終的に自分の選んだテーマで発表（ミニレポート、ポスター、口頭など）する。その過程で必要な音声を訓練し、語・文法・表現を学ぶことで、より正確でなめらかな英語の習得を目指していく。また、英語でよく使われる応答表現や英語圏の習慣・文化についても学んでいく。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	英語の学習を通して英国に関する知識を身につけることができる。
思考・判断の観点 (K)	異なる歴史・文化的背景や価値観を学ぶことでより広い視野を持つことができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に対する苦手意識を解消し、英語学習に前向きに取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	後期授業ガイダンス＆和製英語 Part 2＆Unit 12 Swansea and Gower
		【ルーブリックについて説明します】 ・成績評価、テキスト、授業の進め方

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・和製英語Part 2 ・「英国」正式名称を確認する ・Unit 12 Dialogue : マンブルズのカールトン・ホテルでの会話の確認 →大切な表現のアウトプット
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1回授業の予習 ・「英国」正式名称を日本語と英語の両方を調べること ・Unit 12 LET'S TRY : 看板の意味を調べること →次回授業時に解答確認 第1回授業の復習 ・Unit 12 : Comprehensionを解く →次回授業時に解答確認および解説
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	授業テーマ	Unit 12 Swansea and Gower
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Learn by heart!音読練習 ・Passage : ウェールズについて学び、Comprehensionを解く ・Expressions : 穴埋め問題を解く →場面を想定して会話表現を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第2回授業の予習 ・Vocabularyを解く（辞書を用いてしっかりと単語などの意味を調べること） →授業時に解答確認 第2回授業の復習 ・Vocabularyの単語の復習を行うこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	Unit 13 Brecon Beacons
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Unit 13 Dialogue : ヘイ・オン・ワイでの会話の確認 →大切な表現のアウトプット ・Comprehensionを解く ・Learn by heart!音読練習 ・Passage : ブレコン・ビーコンズについて学び、Comprehensionを解く
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回授業の予習 ・Unit 13 LET'S TRY : 看板の意味を調べること →次回授業時に解答確認 ・VocabularyとCoffee Breakを解く（辞書を用いてしっかりと単語などの意味を調べること） →授業時に解答確認 第3回授業の復習 ・Passageに関するComprehensionを解き、答えの根拠となる英文を探す →次回授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	Unit 13 & Unit 14 Conwy and Caernarfon
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Unit 13 : Expressions : 穴埋め問題を解く →場面を想定して会話表現を学ぶ ・Unit 14 Dialogue : 礼拝堂での会話の確認 →大切な表現のアウトプット

		・Comprehensionを解く
第4回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	第4回授業の予習 Unit 14 LET'S TRY : 本文で紹介される地名を地図で確認すること →次回授業時に解答確認 第4回授業の復習 ・Learn by heart!音読練習
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	Unit 14 Conwy and Caernarfon
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Passage : カナーフォン城について学び、Comprehensionを解く ・Expressions : 穴埋め問題を解く →場面を想定して会話表現を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第5回授業の予習 ・Vocabularyを解く（辞書を用いてしっかりと単語などの意味を調べること） →授業時に解答確認 第5回授業の復習 ・Vocabularyの単語の復習を行うこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	Unit 15 Edinburgh
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Unit 15 Dialogue : エジンバラ、グラスマーケットでの会話の確認 →大切な表現のアウトプット ・Comprehensionを解く ・Passage : スコットランドについて学び、Comprehensionを解く ・Expressions : 穴埋め問題を解く →場面を想定して会話表現を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6回授業の予習 Unit 15 LET'S TRY : 芸術祭エジンバラ・フェスティバルについて調べる →次回授業時に解答確認 第6回授業の復習 ・Passageに関するComprehensionを見直す →授業時に質疑応答の時間を設ける
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	**授業テーマ**	Unit 15 & Unit 16 Glasgow
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Unit 15 : Expressions : 穴埋め問題を解く →場面を想定して会話表現を学ぶ ・Unit 16 Dialogue : ニュー・ラナーク・ビジターセンターでの会話の確認 →大切な表現のアウトプット ・Comprehensionを解く
	教室外学習(予習・復習)の内容	第7回授業の予習 Unit 16 LET'S TRY :スコットランドの歴史について調べること →次回授業時に解答確認 第7回授業の復習 ・Learn by heart!音読練習

	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	Unit 16 Glasgow
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Passage グラスゴーついて学び、Comprehensionを解く ・Expressions : 穴埋め問題を解く →場面を想定して会話表現を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第8回授業の予習 ・Vocabularyを解く（辞書を用いてしっかりと単語などの意味を調べること） →授業時に解答確認 第8回授業の復習 ・Vocabularyの単語の復習を行うこと ・スコットランド民謡について調べること →授業時に確認
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	Unit 17 The Isle of Skye
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Unit 17 Dialogue : スリート半島沖の鯨発見の旅での会話の確認 →大切な表現のアウトプット ・Comprehensionを解く ・Passage : スカイ島について学び、Comprehensionを解く ・Expressions : 穴埋め問題を解く →場面を想定して会話表現を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第9回授業の予習 Unit 15 LET’S TRY : クジラについて調べる →次回授業時に解答確認 第9回授業の復習 ・Passageに関するComprehensionを見直す →授業時に質疑応答の時間を設ける
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	Unit 17 & Unit 18 Belfast
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Unit 17 : Expressions : 穴埋め問題を解く →場面を想定して会話表現を学ぶ ・Unit 18 Dialogue : トンプソン・グレーヴィング造船所での会話の確認 →大切な表現のアウトプット ・Comprehensionを解く
	教室外学習(予習・復習)の内容	第10回授業の予習 Unit 18 LET’S TRY :タイタニック号について調べること →次回授業時に解答確認 第10回授業の復習 ・Learn by heart!音読練習
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	Unit 18 Belfast
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Passage : ベルファーストについて学び、Comprehensionを解く ・Expressions : 穴埋め問題を解く →場面を想定して会話表現を学ぶ

第11回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	第11回授業の予習 ・Vocabularyを解く（辞書を用いてしっかりと単語などの意味を調べること） →授業時に解答確認 第11回授業の復習 ・Vocabularyの単語の復習を行うこと ・ジャガ芋飢饉について調べること →授業時に確認
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	Unit 19 Causeway Coast
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Unit 19 Dialogue : の駐車場での会話の確認 →大切な表現のアウトプット ・Comprehensionを解く ・Passage : コーズウエイについて学び、Comprehensionを解く ・Expressions : 穴埋め問題を解く →場面を想定して会話表現を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第12回授業の予習 Unit 19 LET’S TRY : 北アイルランドの世界遺産について調べる →次回授業時に解答確認 第12回授業の復習 ・Passageに関するComprehensionを見直す →授業時に質疑応答の時間を設ける ・課題（ミニレポート）の提出準備
	教室外学習の時間（分）	300分
第13回	**授業テーマ**	Unit 19 & Unit 20 The Isle of Man
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Unit 19 : Expressions : 穴埋め問題を解く →場面を想定して会話表現を学ぶ ・Unit 20 Dialogue : ・コーヒーラウンジでの会話の確認 →大切な表現のアウトプット ・Comprehensionを解く
	教室外学習(予習・復習)の内容	第13回授業の予習 Unit 20 LET’S TRY : マン島の議会について調べること →次回授業時に解答確認 第13回授業の復習 ・Learn by heart!音読練習 ・課題（ミニレポート）の提出準備
	教室外学習の時間（分）	300分
第14回	**授業テーマ**	Unit 20 The Isle of Man & 課題（ミニレポート）の提出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	＊提出課題については、履修者の人数や理解度を考慮して 授業時に発表する ・Passage : マン島について学び、Comprehensionを解く ・Expressions : 穴埋め問題を解く

		→場面を想定して会話表現を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第14回授業の予習 ・Vocabularyを解く（辞書を用いてしっかりと単語などの意味を調べること） →授業時に解答確認 ・課題（ミニレポート）の提出準備 第14回授業の復習 ・Vocabularyの単語の復習を行うこと
	教室外学習の時間（分）	300分

学習計画注記

履修者数、授業の進み具合もしくはその他の要因により、スケジュールに変更が生じることがあります。
小テストは履修者の履修者の理解度を確認するため、状況に応じて実施します。
小テストについては、対面実施・オンライン実施ともに授業内もしくはGoogle Classroomを通してアナウンスします。

学生へのフィードバック方法

・小テスト（対面時）：基本的にその場で解答確認および解説を行い、回収
→次週の授業時に返却

・小テスト（Google Classroom配信）：テスト提出後にスコアおよび解説を各自で確認をする
→疑問点（質問）は、コメント欄より個別対応
（質問内容によっては次週の授業時にクラス全体に解説を行う）

評価方法

・小テストは授業内容の復習と位置づけて実施する
（小テストに関する追再試験は行わない）
・学習到達度の確認テストは、前期授業内容を中心として出題する
・小テスト及び学習到達度の確認テストは、下表に示す力を養うことを目的に実施する

＊小テストにはGoogle Classroomでの配信を含む

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
ミニレポート	○	○		
小テスト	○	○		
平常点			○	
その他	○		○	

評価割合

小テスト・ミニレポート 60%
平常点（学習意欲、履修態度など） 20%
その他（任意課題などの提出状況など） 20%

使用教科書名(ISBN番号)

タイトル：Touring Britain -language and travel tips- 英国探訪ーこれで完璧20のガイド
著者：相澤 一美、他
出版社：朝日出版社
定価：1,900＋税
ISBN: 978-4-255-15509-8

参考図書

必要に応じて授業時に紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】英語の基本的な運用能力（読む、話す、書く、聞く）がある。
【技術・表現】平易な英文で、身近な話題を表現する能力がある。

学生へのメッセージ

リスニング力強化の一環として洋楽の歌詞の書き取りなどを行います。
Google Classroom内では、英語を用いたクイズ（ことわざや四字熟語）なども配信予定です。
英国に関する様々なことを興味を持ってじっくりと学んでいきましょう！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	テキスト以外の資料を用いて、英文解釈のためにグループ・ワークを行う
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50827033
講義名	英語コミュニケーション2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	田中 愛	指定なし

授業概要(教育目的)

英語を使った教室活動を通して、英語によるコミュニケーション能力を高めることを目的としている。授業では、複数のテーマについて「説明する」「比較する」「自分の考えを述べる」「質問する」「質問に答える」などの機能を学び、最終的に自分の選んだテーマで発表（ミニレポート、ポスター、口頭など）する。その過程で必要な音声を訓練し、語・文法・表現を学ぶことで、より正確でなめらかな英語の習得を目指していく。また、英語でよく使われる応答表現や英語圏の習慣・文化についても学んでいく。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	「食」を通して西洋の文明や文化について興味を持って学ぶことで、知識を身につけることができる。
思考・判断の観点 (K)	異なる歴史・文化的背景や価値観を学ぶことでより広い視野を持つことができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に対する苦手意識を解消し、英語学習に前向きに取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	前期授業ガイダンス & 和製英語 & Lesson 8

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	【ルーブリックについて説明します】 ・成績評価、テキスト、授業の進め方 ・和製英語Part 2 ・本文読解 : チーズの歴史について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1回授業の予習 Lesson 8 Say Cheese ・注釈の単語の意味を確認すること（辞書でしっかりと発音記号も確認すること） ・P. 36に記載されているチーズに関する童謡を調べる 第1回授業の復習 ・本文の慣用表現の意味を調べる →授業時に確認をする
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	授業テーマ	Lesson 8 Say Cheese
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事前・事後学修の解答確認を行う（解説も含む） ・本文の確認 : Exercises Iを行う ・Drills : Answer the Questions →様々な問いに対する答え方を学ぶ ・Drills : Make questions : →様々な疑問文の作り方を学ぶ ・Conversation →対話文を聞き、問題を解く （場面をイメージしながらペアで対話練習も行う）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第2回授業の予習 ・本文の確認 : Exercises II（正誤問題）を解き、本文より答えの根拠となる箇所を探す →授業時に解答確認 第2回授業の復習 ・チーズの作り方を英語で完成させること →辞書を用いてしっかりと単語などの意味を調べ、レシピを完成させること →授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	Lesson 9 Beans
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事前・事後学修の解答確認を行う（解説も含む） ・本文読解 : ニンニクに関する歴史を学ぶ ・Exercises Iを行う ・Drills : Answer the Questions →様々な問いに対する答え方を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回授業の予習 Lesson 9 Beans ・注釈の単語の意味を確認すること（辞書でしっかりと発音記号も確認すること） 第3回授業の復習 ・本文の確認 : Exercises II（正誤問題）を解き、本文より答えの根拠となる箇所を探す →授業時に解答確認
		180

	教室外学習の時間（分）	分
第4回	**授業テーマ**	Lesson 9 Beans
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事前・事後学修の解答確認を行う（解説も含む） ・Drills : Make questions : →様々な疑問文の作り方を学ぶ ・Conversation →対話文を聞き、問題を解く （場面をイメージしながらペアで対話練習も行う）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第4回授業の予習 ・Drills内のわからない語を辞書でしっかりと調べること 第4回授業の復習 ・beansを用いたレシピを英語で完成させること →辞書を用いてしっかりと単語などの意味を調べ、レシピを完成させること →授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	Lesson 10 Foie Gras
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事前・事後学修の解答確認を行う（解説も含む） ・本文読解 : フォアグラに関する歴史を学ぶ ・Exercises Iを行う ・Drills : Answer the Questions →様々な問いに対する答え方を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第5回授業の予習 Lesson 10 Foie Gras ・注釈の単語の意味を確認すること（辞書でしっかりと発音記号も確認すること） 第5回授業の復習 ・本文の確認 : Exercises II（正誤問題）を解き、本文より答えの根拠となる箇所を探す →授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	Lesson 10 Foie Gras
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事前・事後学修の解答確認を行う（解説も含む） ・Drills : Make questions : →様々な疑問文の作り方を学ぶ ・Conversation →対話文を聞き、問題を解く （場面をイメージしながらペアで対話練習も行う）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6回授業の予習 ・Drills内のわからない語を辞書でしっかりと調べること 第6回授業の復習 ・フォアグラを用いた料理を英語で完成させるこ

		と →辞書を用いてしっかりと単語などの意味を調べ、レシピを完成させること →授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	**授業テーマ**	Lesson 11 Rice: Important Cereal
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事前・事後学修の解答確認を行う（解説も含む） ・本文読解 : 米に関する歴史を学ぶ ・Exercises Iを行う ・Drills : Answer the Questions →様々な問いに対する答え方を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第7回授業の予習 Lesson 11 Rice: Important Cereal ・注釈の単語の意味を確認すること（辞書でしっかりと発音記号も確認すること） 第7回授業の復習 ・本文の確認 : Exercises II（正誤問題）を解き、本文より答えの根拠となる箇所を探す →授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	Lesson 11 Rice: Important Cereal
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事前・事後学修の解答確認を行う（解説も含む） ・Drills : Make questions : →様々な疑問文の作り方を学ぶ ・Conversation →対話文を聞き、問題を解く （場面をイメージしながらペアで対話練習も行う）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第8回授業の予習 ・Drills内のわからない語を辞書でしっかりと調べること 第8回授業の復習 ・米を用いたレシピを英語で完成させること →辞書を用いてしっかりと単語などの意味を調べ、レシピを完成させること →授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	Lesson 12 Pasta
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事前・事後学修の解答確認を行う（解説も含む） ・本文読解 : パスタに関する歴史を学ぶ ・Exercises Iを行う ・Drills : Answer the Questions →様々な問いに対する答え方を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第9回授業の予習 ・Lesson 12 Pasta ・注釈の単語の意味を確認すること（辞書でしっかりと発音記号も確認すること） 第9回授業の復習

		・本文の確認 : Exercises II（正誤問題）を解き、本文より答えの根拠となる箇所を探す →授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	Lesson 12 Pasta
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事前・事後学修の解答確認を行う（解説も含む） ・Drills : Make questions : →様々な疑問文の作り方を学ぶ ・Conversation →対話文を聞き、問題を解く （場面をイメージしながらペアで対話練習も行う）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第10回授業の予習 ・Drills内のわからない語を辞書でしっかりと調べること 第10回授業の復習 ・パスタを用いたレシピを英語で完成させること →辞書を用いてしっかりと単語などの意味を調べ、レシピを完成させること →授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	Lesson 13 Chocolate
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事前・事後学修の解答確認を行う（解説も含む） ・本文読解 : チョコレートに関する歴史を学ぶ ・Exercises Iを行う ・Drills : Answer the Questions →様々な問いに対する答え方を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第11回授業の予習 Lesson 13 Chocolate ・注釈の単語の意味を確認すること（辞書でしっかりと発音記号も確認すること） ・世界のチョコレートについて調べる 第11回授業の復習 ・本文の確認 : Exercises II（正誤問題）を解き、本文より答えの根拠となる箇所を探す →授業時に解答確認
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	Lesson 13 Chocolate
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事前・事後学修の解答確認を行う（解説も含む） ・Drills : Make questions : →様々な疑問文の作り方を学ぶ ・Conversation →対話文を聞き、問題を解く （場面をイメージしながらペアで対話練習も行う）
		第12回授業の予習 ・Drills内のわからない語を辞書でしっかりと調べること

	教室外学習(予習・復習)の内容	第12回授業の復習 ・チョコレートを用いたレシピを英語で完成させること →辞書を用いてしっかりと単語などの意味を調べ、レシピを完成させること →授業時に解答確認 ・課題（ミニレポート）の提出準備
	教室外学習の時間（分）	300分
第13回	**授業テーマ**	Lesson 14 A Taste of Honey
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事前・事後学修の解答確認を行う（解説も含む） ・本文読解 : はちみつの効果について学ぶ ・Exercises Iを行う ・Drills : Answer the Questions →様々な問いに対する答え方を学ぶ ・Drills : Make questions : →様々な疑問文の作り方を学ぶ ・Conversation →対話文を聞き、問題を解く （場面をイメージしながらペアで対話練習も行う）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第13回授業の予習 ・Lesson 14 A Taste of Honey ・注釈の単語の意味を確認すること（辞書でしっかりと発音記号も確認すること） ・Drills内のわからない語を辞書でしっかりと調べること 第13回授業の復習 ・本文の確認 : Exercises II（正誤問題）を解き、本文より答えの根拠となる箇所を探す →授業時に解答確認 ・課題（ミニレポート）の提出準備
	教室外学習の時間（分）	300分
第14回	**授業テーマ**	Lesson 15 Tea Etiquette & 課題（ミニレポート）の提出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事前・事後学修の解答確認を行う（解説も含む） ・本文読解 : お茶の作法について学ぶ ・Exercises Iを行う ・Drills : Answer the Questions →様々な問いに対する答え方を学ぶ ・Drills : Make questions : →様々な疑問文の作り方を学ぶ ・Conversation →対話文を聞き、問題を解く （場面をイメージしながらペアで対話練習も行う）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第14回授業の予習 ・Lesson 15 Tea Etiquette ・注釈の単語の意味を確認すること（辞書でしっかりと発音記号も確認すること） ・Drills内のわからない語を辞書でしっかりと調べること ・課題（ミニレポート）の提出準備

		第14回授業の復習 ・後期授業内容の復習を行う
	教室外学習の時間（分）	300分

学習計画注記

履修者数、授業の進み具合もしくはその他の要因により、スケジュールに変更が生じることがあります。
小テストは履修者の履修者の理解度を確認するため、状況に応じて実施します。
小テストについては、対面実施・オンライン実施ともに授業内もしくはGoogle Classroomを通してアナウンスします。

学生へのフィードバック方法

・小テスト（対面時）：基本的にその場で解答確認および解説を行い、回収
→次週の授業時に返却

・小テスト（Google Classroom配信）：テスト提出後にスコアおよび解説を各自で確認をする
→疑問点（質問）は、コメント欄より個別対応
（質問内容によっては次週の授業時にクラス全体に解説を行う）

評価方法

・小テストは授業内容の復習と位置づけて実施する
（小テストに関する追再試験は行わない）
・学習到達度の確認テストは、前期授業内容を中心として出題する
・小テスト及び学習到達度の確認テストは、下表に示す力を養うことを目的に実施する

＊小テストにはGoogle Classroomでの配信を含む

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
ミニレポート	○	○		
小テスト	○	○		
平常点			○	
その他	○		○	

評価割合

小テスト・ミニレポート 60%
平常点（学習意欲、履修態度など） 20%
その他（任意課題などの提出状況など） 20%

使用教科書名(ISBN番号)

タイトル：FOOD IN HISTORY 英語で学ぶ食の歴史
著者：Elena Taralunga Tamura、他
出版社：英宝社
定価：1,900＋税
ISBN: 978-4-269-41022-0

参考図書

必要に応じて授業時に紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】英語の基本的な運用能力（読む、話す、書く、聞く）がある。
【技術・表現】平易な英文で、身近な話題を表現する能力がある。

学生へのメッセージ

リスニング力強化の一環として洋楽の歌詞の書き取りなどを行います。

Google Classroom内では、英語を用いたクイズ（ことわざや四字熟語）なども配信予定です。
身近な食を通してじっくりと学んでいきましょう！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	テキスト以外の資料を用いて、英文解釈のためにグループ・ワークを行う
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50827034
講義名	英語コミュニケーション2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	橋本 文子	指定なし

授業概要(教育目的)

日本と世界のいろいろな国の文化的側面を比較しながら、英文の読解力と基礎的な英文法の理解の向上を目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	基礎的な英文法を理解し、平易な英文を読んでその内容を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本といろいろな国の文化的側面を比較し、海外について興味を持つ。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	前期の学習内容の確認と復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期の授業の学習内容について確認と復習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 7のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	Unit 7 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。 Vocabularyと英文の内容の理解について確認す

		る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 8のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	授業テーマ	Unit 8: Forks, Chopsticks or Hands? 動名詞 / 副詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 8のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	授業テーマ	Unit 8 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。 Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 9のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	授業テーマ	Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners to 不定詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 9のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	授業テーマ	Unit 9 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。 Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 10のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	授業テーマ	Unit 10: A Life of School Uniforms and School Lunches 受動態
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 10のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	授業テーマ	Unit 10 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。 Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 11のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	授業テーマ	Unit 11: Japanese Animation Heroes Have Fans All Over the World 分詞 / 数・量を表す形容詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 11のReadingの予習を行うこと。

	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	**授業テーマ**	Unit 11 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。 Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 12のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	**授業テーマ**	Unit 12: American Work Hours and Overtime 接続詞 / 分詞構文
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 12のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	**授業テーマ**	Unit 12 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。 Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 13のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	**授業テーマ**	Unit 13: The Globalization of Christmas 原級 / 比較級 / 最上級
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 13のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	**授業テーマ**	Unit 13 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。 Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの学習内容の総復習と確認を行い、定期試験に向けて準備をすること。
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

授業の始めに前の週の授業内容の確認と復習を行う。

評価方法

定期試験は各UnitのReadingとGrammarから出題する。

ルーブリックに基づく成績評価を行う。
ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配布等により指示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題発表	○	○	○	○

定期試験	○	○		

評価割合

定期試験 70%、平常点（授業への積極的な参加と課題の発表）30%で総合的に評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

Learn the Differences, Broaden Your World! / Nobumichi Kawada / Asahi Press

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】基礎的な英語力をしっかりと身につけることで、英文の独海力を向上させることができる。
【技術・表現】英語で自分のことを表現することができる技術や表現を学ぶ。

オフィスアワー

水曜日 2限 1610研究室

学生へのメッセージ

・授業で学んだことをしっかりと復習し、次回の授業内容についてあらかじめ予習をしてきて下さい。
・授業に積極的に参加することを期待します。
・授業では英語の辞書を持参し、わからないところはすぐに調べられるようにして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		各UnitのGrammarの復習をし、Readingの内容を理解して、日本と海外の違いを考える。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50827035
講義名	英語コミュニケーション2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	橋本 文子	指定なし

授業概要(教育目的)

日本と世界のいろいろな国の文化的側面を比較しながら、英文の読解力と基礎的な英文法の理解の向上を目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	基礎的な英文法を理解し、平易な英文を読んでその内容を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本といろいろな国の文化的側面を比較し、海外について興味を持つ。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	前期の学習内容の確認と復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期の授業の学習内容について確認と復習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 7のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	Unit 7 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。 Vocabularyと英文の内容の理解について確認す

		る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 8のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	授業テーマ	Unit 8: Forks, Chopsticks or Hands? 動名詞 / 副詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 8のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	授業テーマ	Unit 8 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。 Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 9のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	授業テーマ	Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners to 不定詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 9のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	授業テーマ	Unit 9 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。 Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 10のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	授業テーマ	Unit 10: A Life of School Uniforms and School Lunches 受動態
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 10のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	授業テーマ	Unit 10 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。 Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 11のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	授業テーマ	Unit 11: Japanese Animation Heroes Have Fans All Over the World 分詞 / 数・量を表す形容詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 11のReadingの予習を行うこと。

	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	**授業テーマ**	Unit 11 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。 Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 12のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	**授業テーマ**	Unit 12: American Work Hours and Overtime 接続詞 / 分詞構文
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 12のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	**授業テーマ**	Unit 12 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。 Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 13のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	**授業テーマ**	Unit 13: The Globalization of Christmas 原級 / 比較級 / 最上級
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 13のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	**授業テーマ**	Unit 13 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。 Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの学習内容の総復習と確認を行い、定期試験に向けて準備をすること。
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

授業の始めに前の週の授業内容の確認と復習を行う。

評価方法

定期試験は各UnitのReadingとGrammarから出題する。

ルーブリックに基づく成績評価を行う。
ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配布等により指示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題発表	○	○	○	○

定期試験	○	○		

評価割合

定期試験 70%、平常点（授業への積極的な参加と課題の発表）30%で総合的に評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

Learn the Differences, Broaden Your World! / Nobumichi Kawada / Asahi Press

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】基礎的な英語力をしっかりと身につけることで、英文の独海力を向上させることができる。
【技術・表現】英語で自分のことを表現することができる技術や表現を学ぶ。

オフィスアワー

水曜日 2限 1610研究室

学生へのメッセージ

・授業で学んだことをしっかりと復習し、次回の授業内容についてあらかじめ予習をしてきて下さい。
・授業に積極的に参加することを期待します。
・授業では英語の辞書を持参し、わからないところはすぐに調べられるようにして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		各UnitのGrammarの復習をし、Readingの内容を理解して、日本と海外の違いを考える。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50827036
講義名	英語コミュニケーション2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	橋本 文子	指定なし

授業概要(教育目的)

日本と世界のいろいろな国の文化的側面を比較しながら、英文の読解力と基礎的な英文法の理解の向上を目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	基礎的な英文法を理解し、平易な英文を読んでその内容を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本といろいろな国の文化的側面を比較し、海外について興味を持つ。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	前期の学習内容の確認と復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期の授業の学習内容について確認と復習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 7のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	Unit 7 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。 Vocabularyと英文の内容の理解について確認す

		る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 8のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	授業テーマ	Unit 8: Forks, Chopsticks or Hands? 動名詞 / 副詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 8のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	授業テーマ	Unit 8 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。 Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 9のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	授業テーマ	Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners to 不定詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 9のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	授業テーマ	Unit 9 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。 Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 10のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	授業テーマ	Unit 10: A Life of School Uniforms and School Lunches 受動態
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 10のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	授業テーマ	Unit 10 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。 Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 11のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	授業テーマ	Unit 11: Japanese Animation Heroes Have Fans All Over the World 分詞 / 数・量を表す形容詞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 11のReadingの予習を行うこと。

	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	**授業テーマ**	Unit 11 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。 Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 12のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	**授業テーマ**	Unit 12: American Work Hours and Overtime 接続詞 / 分詞構文
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 12のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	**授業テーマ**	Unit 12 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。 Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 13のGrammarの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	**授業テーマ**	Unit 13: The Globalization of Christmas 原級 / 比較級 / 最上級
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容について説明し、Exerciseの答え合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Unit 13のReadingの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	**授業テーマ**	Unit 13 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingを読み、日本と海外の文化の違いについて考える。 Vocabularyと英文の内容の理解について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの学習内容の総復習と確認を行い、定期試験に向けて準備をすること。
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

授業の始めに前の週の授業内容の確認と復習を行う。

評価方法

定期試験は各UnitのReadingとGrammarから出題する。

ルーブリックに基づく成績評価を行う。
ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配布等により指示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題発表	○	○	○	○

定期試験	○	○		

評価割合

定期試験 70%、平常点（授業への積極的な参加と課題の発表）30%で総合的に評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

Learn the Differences, Broaden Your World! / Nobumichi Kawada / Asahi Press

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】基礎的な英語力をしっかりと身につけることで、英文の独海力を向上させることができる。
【技術・表現】英語で自分のことを表現することができる技術や表現を学ぶ。

オフィスアワー

水曜日 2限 1610研究室

学生へのメッセージ

・授業で学んだことをしっかりと復習し、次回の授業内容についてあらかじめ予習をしてきて下さい。
・授業に積極的に参加することを期待します。
・授業では英語の辞書を持参し、わからないところはすぐに調べられるようにして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		各UnitのGrammarの復習をし、Readingの内容を理解して、日本と海外の違いを考える。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50827037
講義名	英語コミュニケーション2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	マーク ルイス	指定なし

授業概要(教育目的)

The teacher instructs students practice a natural progression of speaking models to gain confidence in every day English. Speaking, listening, reading and writing are practiced in each lesson.

履修条件

If you want to take English Communication 2, you must buy the book, Say What You Like 2.

English Communication 1 is highly recommended.

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	Students will gain knowledge of basic English conversation patterns, and become able to recognize and respond to a variety of topics in English.
思考・判断の観点 (K)	Students will be able to understand the perspectives of others and to communicate their own ideas. Students will use critical thinking skills to narrate and describe.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Through a succession of progressively more difficult topics employing basic English patterns, students will generate the motivation to become active and independent learners of English.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express themselves more easily in English and will become more at ease when speaking with others.

学習計画

第1回	**授業テーマ**	Introductions
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	How to talk about where you live / your summer vacation
	教室外学習(予習・復習)の	

	内容	Prepare by reading p. 2-3; and p. 34-35.
	教室外学習の時間（分）	60
第2回	授業テーマ	Work and play
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Your circles and clubs / your shopping habits
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 4-5; 36-37
	教室外学習の時間（分）	60
第3回	授業テーマ	Seasons / Colors
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Favorite seasons and why / Your favorite autumn food
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 6-7; 38-39
	教室外学習の時間（分）	60
第4回	授業テーマ	Yesterday / This evening
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What did you do last weekend? / How do you get the news?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 8-9; 40-41
	教室外学習の時間（分）	60
第5回	授業テーマ	Movies / music
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What kind of (movies /music) do you like? / Are you (happy / healthy?)
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 10-11; 42-43
	教室外学習の時間（分）	60
第6回	授業テーマ	University life
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What will you do after you graduate? / How about eating out with friends?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 12-13; 44-45
	教室外学習の時間（分）	60
第7回	授業テーマ	Free time
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Do you like to play sports? Watch sports? / Are you shy or outgoing?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 14-15; 46-47
	教室外学習の時間（分）	60
第8回	授業テーマ	Meals
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Your recent breakfast and dinner / Famous people you know
	教室外学習(予習・復習)の	p. 16-17; 48-49

	内容	
	教室外学習の時間（分）	60
第9回	授業テーマ	Coffee / ramen
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Which coffee shops and ramen shops do you like? / Let's talk about this class!
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 18-19; 50-51
	教室外学習の時間（分）	60
第10回	授業テーマ	Technology
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Watching TV/ Smartphones / What did you do in November?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 20-21; 52-53
	教室外学習の時間（分）	60
第11回	授業テーマ	Animals
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Visiting the zoo / Do you have any end of the year plans?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p.22-23; 54-55
	教室外学習の時間（分）	60
第12回	授業テーマ	Sightseeing
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Visiting Kyoto and Disneyland / How was this year?
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 24-25; 56-57
	教室外学習の時間（分）	60
第13回	授業テーマ	Practice Speaking Challenge
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Students use class time to prepare speaking topics with a partner for the speaking challenge.
	教室外学習(予習・復習)の内容	p, 2- 61
	教室外学習の時間（分）	120
第14回	授業テーマ	Speaking Challenge
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Students communicate with a partner in natural English patterns learned in class, along with the appropriate comments and rejoinders.
	教室外学習(予習・復習)の内容	p. 2 -61
	教室外学習の時間（分）	120

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

Students receive weekly quiz scores; feedback from weekly in-class writing; and aural feeback from the

teacher.

評価方法

Quizzes are worth 10 points each week. Questions are from the previous week's lesson and the current lesson. If you read the assigned homework pages, you'll do well on the weekly quizzes. The final speaking test lets you know how comfortable you've become speaking English. An evaluation of speaking tests using rubrics will be provided. The rubric will be on Google Classroom.

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
Quizzes	○	○	○	○
Speaking Test	○	○	○	○
Pair Work	○	○	○	○
Writing	○	○	○	○

評価割合

Pair and Group Work 50%; Quizzes 30%; Writing 10%; Final Speaking Test 10%

使用教科書名(ISBN番号)

Say What You Like 2 (ISBN 978-4-9906347-2-8)

参考図書

A Japanese - English dictionary

ディプロマポリシーとの関連

Ability to speak and understand basic English conversation.

オフィスアワー

Friday, 2nd period.

学生へのメッセージ

Relax and enjoy speaking English.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50829001
講義名	韓国語コミュニケーション1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	鄭 軟ジュ	指定なし

ナンバリング

X13770M12

授業概要(教育目的)

韓国語を初めて学習する人を対象とし、韓国語を習得するための基礎作りをする。具体的には、文字の読み書き、発音規則、挨拶、基本的な語句や文を用いた日常のコミュニケーションについて扱う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．韓国語の音声や語彙、文法、表現、言語の働きなどの理解を深める。 2．上記の１の知識を、読むこと、聞くこと、話すこと、書くことに活用する。
思考・判断の観点 (K)	1. 目的や場面、状況などに応じて、基本的な語句や文を用いたコミュニケーションの内容や要点を理解する。 2. 相手の意図を明確に理解したり、基本的な語句や文を適切に表現したりする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で授業に挑むことが望ましい。とりわけ毎回発音や語句などの練習を行うため、練習の成果を発表できるようにする。
技術・表現の観点 (A)	1. 発音規則を理解し、正しい発音で表現できる。 2. 語彙、語句、文の知識を身につけ、基本的な日常コミュニケーションを図る。

学習計画

		ルーブリックについて

第1回	授業テーマ	イントロダクション、ハングル文字の成り立ち、子音と母音とは、基礎母音10個
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ルーブリックについて説明をする。 ハングル文字の成り立ちについて理解し、子音と母音について学ぶ。 韓国語の基礎母音10個を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ハングル文字の仕組みについて理解する。 復習として10個の基本母音の発音を練習する。 予習として合成母音の仕組みについて予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第2回	授業テーマ	合成母音
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の合成母音について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として合成母音の発音を練習する。 予習として基本子音について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第3回	授業テーマ	19個の基本子音(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の子音について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として子音の発音を練習する。 予習として「基本子音+母音」からなる発音を練習する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第4回	授業テーマ	19個の基本子音(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の子音について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として子音の発音を練習する。 予習として「子音と母音」の組み合わせた発音を練習する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第5回	授業テーマ	母音と子音の復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学んだ母音と子音を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として「子音と母音」の組み合わせた発音を練習する。 予習としてパッチム（終声の音）の仕組みについて調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第6回	授業テーマ	パッチム(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語のパッチム（終声の音）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習としてパッチム発音を練習する。 予習としてパッチム(2)の内容について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第7回	授業テーマ	パッチム(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語のパッチム（終声の音）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習としてパッチム発音を練習する。 予習として韓国語で自己紹介の内容について調べる。

	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第8回	**授業テーマ**	文法編I「〇〇は〇〇です」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	助詞「～は」、「～です」に当たる表現を学ぶ。 自己紹介をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成する。 復習として「これ、それ、あれ」の韓国語表現について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第9回	**授業テーマ**	文法編II「韓国語のコ、ソ、ア」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の「これ、それ、あれ」の表現について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成する。 予習として「～ではありません」の韓国語表現について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第10回	**授業テーマ**	文法編III「〇〇は〇〇ではありません」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「～ではありません」に当たる表現を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作る。 予習として「～です、ます」に当たる表現のハムニダ体について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第11回	**授業テーマ**	文法編IV「用言の基本形とハムニダ体」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ハムニダ体（～です、～ます）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。 予習として存在を表す「ある、いる、ない、いない」の韓国語表現について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第12回	**授業テーマ**	文法編V「～にあります/ありません、います/いません」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「～にあります/ありません、います/いません」の表現を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。 予習として韓国語の数字について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第13回	**授業テーマ**	数字
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	漢字語数字について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作る。 予習として、今までの内容をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
	授業テーマ	全体のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ	これまで学んだ語彙および文法を復習する。

第14回	-教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合等によってスケジュールや内容が変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

前期の主な学習の内容は、ハングル文字と発音の習得であるため、ほぼ毎回の授業で発音の練習と発表を行う。

評価方法

平常点(授業への参加態度、発表など）、課題、定期試験の結果をあわせて総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点(授業への参加度、発表)	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	
課題	○	○	○	○

評価割合

平常点：30%
定期試験：40%
課題（小テスト）：30%
平常点は、授業への参加態度等で総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

チンチャ！チョアヘヨ！！韓国語１ (ISBN番号: 978-4-255-55702-1)

学生へのメッセージ

韓国と日本はお互い最も近い国で、交流も頻繁に行われています。
お互いをよりよく知るためには、まず、お互いの言葉を分かる必要があります。
隣国の言葉を勉強することによって興味を持ち、少しでも韓国について分かるようになってほしいです。
楽しく勉強して下さい！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		(google classroomを用いて)連絡事項や配布資料などをアップする。

講義コード	G50829002
講義名	韓国語コミュニケーション1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	鄭 軟ジュ	指定なし

ナンバリング

X13770M12

授業概要(教育目的)

韓国語を初めて学習する人を対象とし、韓国語を習得するための基礎作りをする。具体的には、文字の読み書き、発音規則、挨拶、基本的な語句や文を用いた日常のコミュニケーションについて扱う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．韓国語の音声や語彙、文法、表現、言語の働きなどの理解を深める。 2．上記の１の知識を、読むこと、聞くこと、話すこと、書くことに活用する。
思考・判断の観点 (K)	1. 目的や場面、状況などに応じて、基本的な語句や文を用いたコミュニケーションの内容や要点を理解する。 2. 相手の意図を明確に理解したり、基本的な語句や文を適切に表現したりする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で授業に挑むことが望ましい。とりわけ毎回発音や語句などの練習を行うため、練習の成果を発表できるようにする。
技術・表現の観点 (A)	1. 発音規則を理解し、正しい発音で表現できる。 2. 語彙、語句、文の知識を身につけ、基本的な日常コミュニケーションを図る。

学習計画

		ルーブリックについて

第1回	授業テーマ	イントロダクション、ハングル文字の成り立ち、子音と母音とは、基礎母音10個
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ルーブリックについて説明をする。 ハングル文字の成り立ちについて理解し、子音と母音について学ぶ。 韓国語の基礎母音10個を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ハングル文字の仕組みについて理解する。 復習として10個の基本母音の発音を練習する。 予習として合成母音の仕組みについて予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第2回	授業テーマ	合成母音
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の合成母音について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として合成母音の発音を練習する。 予習として基本子音について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第3回	授業テーマ	19個の基本子音(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の子音について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として子音の発音を練習する。 予習として「基本子音+母音」からなる発音を練習する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第4回	授業テーマ	19個の基本子音(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の子音について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として子音の発音を練習する。 予習として「子音と母音」の組み合わせた発音を練習する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第5回	授業テーマ	母音と子音の復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学んだ母音と子音を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として「子音と母音」の組み合わせた発音を練習する。 予習としてパッチム（終声の音）の仕組みについて調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第6回	授業テーマ	パッチム(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語のパッチム（終声の音）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習としてパッチム発音を練習する。 予習としてパッチム(2)の内容について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第7回	授業テーマ	パッチム(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語のパッチム（終声の音）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習としてパッチム発音を練習する。 予習として韓国語で自己紹介の内容について調べる。

	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第8回	**授業テーマ**	文法編I「〇〇は〇〇です」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	助詞「～は」、「～です」に当たる表現を学ぶ。 自己紹介をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成する。 復習として「これ、それ、あれ」の韓国語表現について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第9回	**授業テーマ**	文法編II「韓国語のコ、ソ、ア」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の「これ、それ、あれ」の表現について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成する。 予習として「～ではありません」の韓国語表現について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第10回	**授業テーマ**	文法編III「〇〇は〇〇ではありません」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「～ではありません」に当たる表現を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作る。 予習として「～です、ます」に当たる表現のハムニダ体について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第11回	**授業テーマ**	文法編IV「用言の基本形とハムニダ体」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ハムニダ体（～です、～ます）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。 予習として存在を表す「ある、いる、ない、いない」の韓国語表現について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第12回	**授業テーマ**	文法編V「～にあります/ありません、います/いません」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「～にあります/ありません、います/いません」の表現を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。 予習として韓国語の数字について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第13回	**授業テーマ**	数字
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	漢字語数字について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作る。 予習として、今までの内容をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
	授業テーマ	全体のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ	これまで学んだ語彙および文法を復習する。

第14回	-教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合等によってスケジュールや内容が変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

前期の主な学習の内容は、ハングル文字と発音の習得であるため、ほぼ毎回の授業で発音の練習と発表を行う。

評価方法

平常点(授業への参加態度、発表など）、課題、定期試験の結果をあわせて総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点(授業への参加度、発表)	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	
課題	○	○	○	○

評価割合

平常点：30%
定期試験：40%
課題（小テスト）：30%
平常点は、授業への参加態度等で総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

チンチャ！チョアヘヨ！！韓国語１ (ISBN番号: 978-4-255-55702-1)

学生へのメッセージ

韓国と日本はお互い最も近い国で、交流も頻繁に行われています。
お互いをよりよく知るためには、まず、お互いの言葉を分かる必要があります。
隣国の言葉を勉強することによって興味を持ち、少しでも韓国について分かるようになってほしいです。
楽しく勉強して下さい！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		(google classroomを用いて)連絡事項や配布資料などをアップする。

講義コード	G50829003
講義名	韓国語コミュニケーション1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	鄭 軟ジュ	指定なし

ナンバリング

X13770M12

授業概要(教育目的)

韓国語を初めて学習する人を対象とし、韓国語を習得するための基礎作りをする。具体的には、文字の読み書き、発音規則、挨拶、基本的な語句や文を用いた日常のコミュニケーションについて扱う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．韓国語の音声や語彙、文法、表現、言語の働きなどの理解を深める。 2．上記の１の知識を、読むこと、聞くこと、話すこと、書くことに活用する。
思考・判断の観点 (K)	1. 目的や場面、状況などに応じて、基本的な語句や文を用いたコミュニケーションの内容や要点を理解する。 2. 相手の意図を明確に理解したり、基本的な語句や文を適切に表現したりする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で授業に挑むことが望ましい。とりわけ毎回発音や語句などの練習を行うため、練習の成果を発表できるようにする。
技術・表現の観点 (A)	1. 発音規則を理解し、正しい発音で表現できる。 2. 語彙、語句、文の知識を身につけ、基本的な日常コミュニケーションを図る。

学習計画

		ルーブリックについて

第1回	授業テーマ	イントロダクション、ハングル文字の成り立ち、子音と母音とは、基礎母音10個
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ルーブリックについて説明をする。 ハングル文字の成り立ちについて理解し、子音と母音について学ぶ。 韓国語の基礎母音10個を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ハングル文字の仕組みについて理解する。 復習として10個の基本母音の発音を練習する。 予習として合成母音の仕組みについて予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第2回	授業テーマ	合成母音
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の合成母音について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として合成母音の発音を練習する。 予習として基本子音について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第3回	授業テーマ	19個の基本子音(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の子音について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として子音の発音を練習する。 予習として「基本子音+母音」からなる発音を練習する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第4回	授業テーマ	19個の基本子音(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の子音について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として子音の発音を練習する。 予習として「子音と母音」の組み合わせた発音を練習する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第5回	授業テーマ	母音と子音の復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学んだ母音と子音を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として「子音と母音」の組み合わせた発音を練習する。 予習としてパッチム（終声の音）の仕組みについて調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第6回	授業テーマ	パッチム(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語のパッチム（終声の音）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習としてパッチム発音を練習する。 予習としてパッチム(2)の内容について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第7回	授業テーマ	パッチム(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語のパッチム（終声の音）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習としてパッチム発音を練習する。 予習として韓国語で自己紹介の内容について調べる。

	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第8回	**授業テーマ**	文法編I「〇〇は〇〇です」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	助詞「～は」、「～です」に当たる表現を学ぶ。 自己紹介をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成する。 復習として「これ、それ、あれ」の韓国語表現について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第9回	**授業テーマ**	文法編II「韓国語のコ、ソ、ア」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の「これ、それ、あれ」の表現について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成する。 予習として「～ではありません」の韓国語表現について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第10回	**授業テーマ**	文法編III「〇〇は〇〇ではありません」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「～ではありません」に当たる表現を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作る。 予習として「～です、ます」に当たる表現のハムニダ体について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第11回	**授業テーマ**	文法編IV「用言の基本形とハムニダ体」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ハムニダ体（～です、～ます）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。 予習として存在を表す「ある、いる、ない、いない」の韓国語表現について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第12回	**授業テーマ**	文法編V「～にあります/ありません、います/いません」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「～にあります/ありません、います/いません」の表現を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。 予習として韓国語の数字について調べる。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第13回	**授業テーマ**	数字
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	漢字語数字について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作る。 予習として、今までの内容をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
	授業テーマ	全体のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ	これまで学んだ語彙および文法を復習する。

第14回	-教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合等によってスケジュールや内容が変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

前期の主な学習の内容は、ハングル文字と発音の習得であるため、ほぼ毎回の授業で発音の練習と発表を行う。

評価方法

平常点(授業への参加態度、発表など）、課題、定期試験の結果をあわせて総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点(授業への参加度、発表)	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	
課題	○	○	○	○

評価割合

平常点：30%
定期試験：40%
課題（小テスト）：30%
平常点は、授業への参加態度等で総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

チンチャ！チョアヘヨ！！韓国語１ (ISBN番号: 978-4-255-55702-1)

学生へのメッセージ

韓国と日本はお互い最も近い国で、交流も頻繁に行われています。
お互いをよりよく知るためには、まず、お互いの言葉を分かる必要があります。
隣国の言葉を勉強することによって興味を持ち、少しでも韓国について分かるようになってほしいです。
楽しく勉強して下さい！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		(google classroomを用いて)連絡事項や配布資料などをアップする。

講義コード	G50829031
講義名	韓国語コミュニケーション1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	丹羽 裕美	指定なし

ナンバリング

X13770C12

授業概要(教育目的)

韓国語を初めて学習する人を対象とし、韓国語の発音、語彙、文法の基礎を獲得する。
韓国語の文字である「ハングル」の読み書きをマスターし、韓国語で簡単な質問をして相手のことを知り、自分を表現できるようペアワークなどアクティブ・ラーニングを積極的に用いる。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．韓国、韓国語に関する知識を獲得し、韓国に関する理解を深める。 2．英語以外の外国語の学習を通し、他文化、他言語に対する知見を広める。
思考・判断の観点 (K)	自ら考え、韓国語で文を組み立て話せるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で授業に挑むことが望ましい。とりわけ会話や発音の練習を多く行うため、練習の成果を発表できるようにしたい。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス 1課（文字と発音)
		授業の進め方やルーブリックについて説明します。

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ハングル文字の成り立ちと仕組みを理解しましょう。 ハングル文字の母音について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。 出てきた単語を覚えましょう。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	2課、3課(文字と発音)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の子音（平音）について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。 出てきた単語を覚えましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	3課、4課（文字と発音)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の子音（激音と濃音）を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回は、1課～4課の発音確認テストを行います。 1課～4課を復習しましょう。 出てきた単語を覚えましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	1課～4課までの読み確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今まで学んできたハングルが読めるかを1人1人確認します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	間違えたところは、声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	5課、6課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	5課ではパッチムを学び、6課では複合母音の一部を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。 出てきた単語を覚えましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	6課、7課（文字と発音）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	6課では複合母音を学び、7課は終声の初声化を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。 出てきた単語を覚えましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	8課 挨拶 日本語をハングルで表記する方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回のテストのフィードバックを行います。 ハングルで書かれた挨拶を読んでみましょう。 自分の名前をハングルで書いてみましょう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	韓国語の挨拶を書けるように覚えてみましょう。 自分の名前も書けるようにしてきましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	9課（自己紹介）

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語で自己紹介できるようになりましょう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の名前をハングルで書けるか、挨拶は理解しているかなど、 今までの復習をしてテストの準備をしましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	1課～9課 理解度確認テスト 選択問題フィードバック ハングルで自己紹介して会話しましょう。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今まで学んだ内容が理解できているかを確認するためのテストです。 Googleフォームを用いた選択問題と問題用紙にハングルを書く筆記問題を行います。 選択問題はGoogleフォームでフィードバックします。 筆記問題は後日、個別に指導します。 9課の基本会話を使って、クラスメートと韓国語で自己紹介をします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	9課の基本会話を覚えて音声データ をGoogleclassroomに提出しましょう。 9課の応用問題を行ってGoogleclassに提出しましょう。 10課の予習
	教室外学習の時間（分）	230分
第10回	授業テーマ	10課（これは私のカバンではありません）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指定詞を用いて、文を作って話せるように練習しましょう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	肯定文と否定文、疑問文の復習しましょう。 予習として、11課の漢数詞を覚えてきましょう。 応用問題を行ってGoogleclassに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	230分
第11回	授業テーマ	11課（誕生日はいつですか）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	漢数詞を用いて、年月日、建物の階数などを言えるように練習しましょう。 存在詞「～があります・ありません」を用いて、予定など伝えることが出来るようになります。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら11課の基本会話を覚え、音声データをGoogle Classroomに提出してください。 応用問題を行ないGoogle Classroomに提出してください。
	教室外学習の時間（分）	230分
第12回	授業テーマ	12課（今度の日曜日に何をしますか）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	12課では、曜日や時間などを用いて予定を言えるようにします。 「～を食べます」「～を見ます」といった日常的に多く用いる動詞を用いて文を作り 会話できるようにします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	基本会話文を覚えてGoogleclassroomに提出しましょう。 応用問題を行ってGoogleclassroomに提出しましょ

		う。 固有数詞を覚えてきましょう。
	教室外学習の時間（分）	230分
第13回	**授業テーマ**	11課と12課の会話 9課～12課の復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の1日のスケジュールを韓国語で言えるように、書けるようにしましょう。 相手のスケジュール、誕生日などを尋ねて会話できるようになりましょう。 今までの復習をいたします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回は理解度確認テスト（9課～12課）を行います。 試験の準備をしてきましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	9課～12課の理解度確認テスト 試験のフィードバック
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	9課～12課の理解度確認テストを行います。 Googleフォームを用いた選択問題と、問題用紙を用いた筆記問題があります。 試験後にフィードバックをいたします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

特になし。

学生へのフィードバック方法

前期の主な学習の内容の1つは、ハングル文字と発音の習得であるため、毎回の授業で発音の練習を行う。
発音してもらい修正するフィードバックの過程を繰り返す。また、自己紹介など平易な文を韓国語で自ら作って話せる力を習得するため、理解度確認テストを行い文法事項の理解度を確認し、その解説を行ったり、グループワークを通してより楽しく学びながらフィードバックを行う。

評価方法

定期試験は行わず、途中で行う発音テストと理解度確認テスト（小テスト）の結果と平常点(出席、授業への参加態度、課題提出、ルーブリック評価）で総合的に評価する。
※ルーブリックは最初の授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点(ルーブリック評価など)	○	○	○	
理解度確認テスト	○	○	○	

評価割合

平常点：50%
理解度確認テスト：50%
平常点とは、課題提出・出席率・授業への参加態度・ルーブリック評価で総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

わかる韓国語初級（978-4-411-03159-4)

学生へのメッセージ

韓国と日本はお互い最も近い国で、交流も頻繁に行われています。
お互いをより知るためには、まず、お互いの言葉を分かる必要があります。
隣国の言葉を勉強することによって、韓国の文化や生活にも興味を持てるように
なってもらえたらと思います。
授業中には発音練習を多く行います。耳や口を大いに使って楽しく学習しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークなどアクティブ・ラーニングを積極的に用いて会話力を高め、理解を深める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50829032
講義名	韓国語コミュニケーション1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	丹羽 裕美	指定なし

ナンバリング

X13770C12

授業概要(教育目的)

韓国語を初めて学習する人を対象とし、韓国語の発音、語彙、文法の基礎を獲得する。
韓国語の文字である「ハングル」の読み書きをマスターし、韓国語で簡単な質問をして相手のことを知り、自分を表現できるようペアワークなどアクティブ・ラーニングを積極的に用いる。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．韓国、韓国語に関する知識を獲得し、韓国に関する理解を深める。 2．英語以外の外国語の学習を通し、他文化、他言語に対する知見を広める。
思考・判断の観点 (K)	自ら考え、韓国語で文を組み立て話せるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で授業に挑むことが望ましい。とりわけ会話や発音の練習を多く行うため、練習の成果を発表できるようにしたい。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス 1課（文字と発音)
		授業の進め方やルーブリックについて説明します。

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ハングル文字の成り立ちと仕組みを理解しましょう。 ハングル文字の母音について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。 出てきた単語を覚えましょう。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	2課、3課(文字と発音)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の子音（平音）について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。 出てきた単語を覚えましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	3課、4課（文字と発音)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の子音（激音と濃音）を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回は、1課～4課の発音確認テストを行います。 1課～4課を復習しましょう。 出てきた単語を覚えましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	1課～4課までの読み確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今まで学んできたハングルが読めるかを1人1人確認します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	間違えたところは、声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	5課、6課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	5課ではパッチムを学び、6課では複合母音の一部を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。 出てきた単語を覚えましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	6課、7課（文字と発音）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	6課では複合母音を学び、7課は終声の初声化を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。 出てきた単語を覚えましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	8課 挨拶 日本語をハングルで表記する方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回のテストのフィードバックを行います。 ハングルで書かれた挨拶を読んでみましょう。 自分の名前をハングルで書いてみましょう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	韓国語の挨拶を書けるように覚えてみましょう。 自分の名前も書けるようにしてきましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	9課（自己紹介）

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語で自己紹介できるようになりましょう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の名前をハングルで書けるか、挨拶は理解しているかなど、 今までの復習をしてテストの準備をしましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	1課～9課 理解度確認テスト 選択問題フィードバック ハングルで自己紹介して会話しましょう。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今まで学んだ内容が理解できているかを確認するためのテストです。 Googleフォームを用いた選択問題と問題用紙にハングルを書く筆記問題を行います。 選択問題はGoogleフォームでフィードバックします。 筆記問題は後日、個別に指導します。 9課の基本会話を使って、クラスメートと韓国語で自己紹介をします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	9課の基本会話を覚えて音声データ をGoogleclassroomに提出しましょう。 9課の応用問題を行ってGoogleclassに提出しましょう。 10課の予習
	教室外学習の時間（分）	230分
第10回	授業テーマ	10課（これは私のカバンではありません）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指定詞を用いて、文を作って話せるように練習しましょう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	肯定文と否定文、疑問文の復習しましょう。 予習として、11課の漢数詞を覚えてきましょう。 応用問題を行ってGoogleclassに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	230分
第11回	授業テーマ	11課（誕生日はいつですか）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	漢数詞を用いて、年月日、建物の階数などを言えるように練習しましょう。 存在詞「～があります・ありません」を用いて、予定など伝えることが出来るようになります。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら11課の基本会話を覚え、音声データをGoogle Classroomに提出してください。 応用問題を行ないGoogle Classroomに提出してください。
	教室外学習の時間（分）	230分
第12回	授業テーマ	12課（今度の日曜日に何をしますか）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	12課では、曜日や時間などを用いて予定を言えるようにします。 「～を食べます」「～を見ます」といった日常的に多く用いる動詞を用いて文を作り 会話できるようにします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	基本会話文を覚えてGoogleclassroomに提出しましょう。 応用問題を行ってGoogleclassroomに提出しましょ

		う。 固有数詞を覚えてきましょう。
	教室外学習の時間（分）	230分
第13回	**授業テーマ**	11課と12課の会話 9課～12課の復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の1日のスケジュールを韓国語で言えるように、書けるようにしましょう。 相手のスケジュール、誕生日などを尋ねて会話できるようになりましょう。 今までの復習をいたします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回は理解度確認テスト（9課～12課）を行います。 試験の準備をしてきましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	9課～12課の理解度確認テスト 試験のフィードバック
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	9課～12課の理解度確認テストを行います。 Googleフォームを用いた選択問題と、問題用紙を用いた筆記問題があります。 試験後にフィードバックをいたします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

特になし。

学生へのフィードバック方法

前期の主な学習の内容の1つは、ハングル文字と発音の習得であるため、毎回の授業で発音の練習を行う。
発音してもらい修正するフィードバックの過程を繰り返す。また、自己紹介など平易な文を韓国語で自ら作って話せる力を習得するため、理解度確認テストを行い文法事項の理解度を確認し、その解説を行ったり、グループワークを通してより楽しく学びながらフィードバックを行う。

評価方法

定期試験は行わず、途中で行う発音テストと理解度確認テスト（小テスト）の結果と平常点(出席、授業への参加態度、課題提出、ルーブリック評価）で総合的に評価する。
※ルーブリックは最初の授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点(ルーブリック評価など)	○	○	○	
理解度確認テスト	○	○	○	

評価割合

平常点：50%
理解度確認テスト：50%
平常点とは、課題提出・出席率・授業への参加態度・ルーブリック評価で総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

わかる韓国語初級（978-4-411-03159-4)

学生へのメッセージ

韓国と日本はお互い最も近い国で、交流も頻繁に行われています。
お互いをより知るためには、まず、お互いの言葉を分かる必要があります。
隣国の言葉を勉強することによって、韓国の文化や生活にも興味を持てるように
なってもらえたらと思います。
授業中には発音練習を多く行います。耳や口を大いに使って楽しく学習しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークなどアクティブ・ラーニングを積極的に用いて会話力を高め、理解を深める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50829033
講義名	韓国語コミュニケーション1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	丹羽 裕美	指定なし

ナンバリング

X13770C12

授業概要(教育目的)

韓国語を初めて学習する人を対象とし、韓国語の発音、語彙、文法の基礎を獲得する。
韓国語の文字である「ハングル」の読み書きをマスターし、韓国語で簡単な質問をして相手のことを知り、自分を表現できるようペアワークなどアクティブ・ラーニングを積極的に用いる。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．韓国、韓国語に関する知識を獲得し、韓国に関する理解を深める。 2．英語以外の外国語の学習を通し、他文化、他言語に対する知見を広める。
思考・判断の観点 (K)	自ら考え、韓国語で文を組み立て話せるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で授業に挑むことが望ましい。とりわけ会話や発音の練習を多く行うため、練習の成果を発表できるようにしたい。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス 1課（文字と発音)
		授業の進め方やルーブリックについて説明します。

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ハングル文字の成り立ちと仕組みを理解しましょう。 ハングル文字の母音について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。 出てきた単語を覚えましょう。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	2課、3課(文字と発音)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の子音（平音）について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。 出てきた単語を覚えましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	3課、4課（文字と発音)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語の子音（激音と濃音）を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回は、1課～4課の発音確認テストを行います。 1課～4課を復習しましょう。 出てきた単語を覚えましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	1課～4課までの読み確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今まで学んできたハングルが読めるかを1人1人確認します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	間違えたところは、声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	5課、6課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	5課ではパッチムを学び、6課では複合母音の一部を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。 出てきた単語を覚えましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	6課、7課（文字と発音）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	6課では複合母音を学び、7課は終声の初声化を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら書いて覚えます。Google Classroomに提出しましょう。 出てきた単語を覚えましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	8課 挨拶 日本語をハングルで表記する方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回のテストのフィードバックを行います。 ハングルで書かれた挨拶を読んでみましょう。 自分の名前をハングルで書いてみましょう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	韓国語の挨拶を書けるように覚えてみましょう。 自分の名前も書けるようにしてきましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	9課（自己紹介）

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国語で自己紹介できるようになりましょう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の名前をハングルで書けるか、挨拶は理解しているかなど、 今までの復習をしてテストの準備をしましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	1課～9課 理解度確認テスト 選択問題フィードバック ハングルで自己紹介して会話しましょう。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今まで学んだ内容が理解できているかを確認するためのテストです。 Googleフォームを用いた選択問題と問題用紙にハングルを書く筆記問題を行います。 選択問題はGoogleフォームでフィードバックします。 筆記問題は後日、個別に指導します。 9課の基本会話を使って、クラスメートと韓国語で自己紹介をします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	9課の基本会話を覚えて音声データ をGoogleclassroomに提出しましょう。 9課の応用問題を行ってGoogleclassに提出しましょう。 10課の予習
	教室外学習の時間（分）	230分
第10回	授業テーマ	10課（これは私のカバンではありません）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指定詞を用いて、文を作って話せるように練習しましょう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	肯定文と否定文、疑問文の復習しましょう。 予習として、11課の漢数詞を覚えてきましょう。 応用問題を行ってGoogleclassに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	230分
第11回	授業テーマ	11課（誕生日はいつですか）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	漢数詞を用いて、年月日、建物の階数などを言えるように練習しましょう。 存在詞「～があります・ありません」を用いて、予定など伝えることが出来るようになります。
	教室外学習(予習・復習)の内容	声に出しながら11課の基本会話を覚え、音声データをGoogle Classroomに提出してください。 応用問題を行ないGoogle Classroomに提出してください。
	教室外学習の時間（分）	230分
第12回	授業テーマ	12課（今度の日曜日に何をしますか）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	12課では、曜日や時間などを用いて予定を言えるようにします。 「～を食べます」「～を見ます」といった日常的に多く用いる動詞を用いて文を作り 会話できるようにします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	基本会話文を覚えてGoogleclassroomに提出しましょう。 応用問題を行ってGoogleclassroomに提出しましょ

		う。 固有数詞を覚えてきましょう。
	教室外学習の時間（分）	230分
第13回	**授業テーマ**	11課と12課の会話 9課～12課の復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の1日のスケジュールを韓国語で言えるように、書けるようにしましょう。 相手のスケジュール、誕生日などを尋ねて会話できるようになりましょう。 今までの復習をいたします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回は理解度確認テスト（9課～12課）を行います。 試験の準備をしてきましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	9課～12課の理解度確認テスト 試験のフィードバック
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	9課～12課の理解度確認テストを行います。 Googleフォームを用いた選択問題と、問題用紙を用いた筆記問題があります。 試験後にフィードバックをいたします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

特になし。

学生へのフィードバック方法

前期の主な学習の内容の1つは、ハングル文字と発音の習得であるため、毎回の授業で発音の練習を行う。
発音してもらい修正するフィードバックの過程を繰り返す。また、自己紹介など平易な文を韓国語で自ら作って話せる力を習得するため、理解度確認テストを行い文法事項の理解度を確認し、その解説を行ったり、グループワークを通してより楽しく学びながらフィードバックを行う。

評価方法

定期試験は行わず、途中で行う発音テストと理解度確認テスト（小テスト）の結果と平常点(出席、授業への参加態度、課題提出、ルーブリック評価）で総合的に評価する。
※ルーブリックは最初の授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点(ルーブリック評価など)	○	○	○	
理解度確認テスト	○	○	○	

評価割合

平常点：50%
理解度確認テスト：50%
平常点とは、課題提出・出席率・授業への参加態度・ルーブリック評価で総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

わかる韓国語初級（978-4-411-03159-4)

学生へのメッセージ

韓国と日本はお互い最も近い国で、交流も頻繁に行われています。
お互いをより知るためには、まず、お互いの言葉を分かる必要があります。
隣国の言葉を勉強することによって、韓国の文化や生活にも興味を持てるように
なってもらえたらと思います。
授業中には発音練習を多く行います。耳や口を大いに使って楽しく学習しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークなどアクティブ・ラーニングを積極的に用いて会話力を高め、理解を深める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50830001
講義名	韓国語コミュニケーション2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	鄭 軟ジュ	指定なし

ナンバリング

X13780M12

授業概要(教育目的)

韓国語の基礎的な語彙、文法、表現を勉強し、簡単な韓国語で会話ができるようにすることを目標とする。前期に学習した韓国語の文字、発音、基礎的な文法を復習も行う。

履修条件

韓国語入門１の受講、あるいはハングルを読めることが履修条件である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．韓国語の音声や語彙、文法、表現、言語の働きなどの理解を深める。 2．上記の１の知識を、読むこと、聞くこと、話すこと、書くことに活用する。
思考・判断の観点 (K)	1. 目的や場面、状況を応じて、実際のコミュニケーションの内容や要点を理解する。 2. 相手の意図を明確に理解したり、語句や文を用いて適切に表現したりする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で授業に挑むことが望ましい。
技術・表現の観点 (A)	語彙。語句、文の知識を身につけ、日常のコミュニケーションを図る。

学習計画

韓国語入門II

	授業テーマ	否定形「～ない」

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ルーブリックについて説明する。 「～ない」、「～ません」について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	否定形の文法、語彙および表現を復習する。 数字について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第2回	授業テーマ	数字
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	固有語数詞を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	漢字語数字、固有語数字について復習する。 用言（動詞、形容詞の活用）について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第3回	授業テーマ	用言の活用①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	母音語幹用言の活用を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	母音語幹用言の活用について復習する。 子音語幹用言について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第4回	授業テーマ	用言の活用②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子音語幹用言の活用を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子音語幹用言の活用について復習する。 予習として、母音語幹用言と子音語幹用言についてのまとめを行う。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第5回	授業テーマ	用言の活用③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体言に付く用言の活用について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文法ごとにどの体言を使用するかについて復習する。 予習として用言のタイプや活用などについてまとめを行う。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第6回	授業テーマ	これまでの文法の復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学習した文法を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で習った内容を復習し、必ず自分のものにできるようにする。 語彙および表現について復習する。 「～て」「～れば」の文法について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第7回	授業テーマ	「～て」/「～れば」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	２つの文を繋ぐ「～して」の表現を学習する。 条件・仮定の表現を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「～て」「～れば」の文法や語彙、表現について練習、復習する。 「～ので」「～ている」の表現について予習

		する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第8回	**授業テーマ**	「～ので、て」/「～している」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	原因・理由の表現「～ので、て」を学習する。 進行・継続の表現を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「～ので」「～ている」の表現について練習、復習する。 可能・不可能の表現について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第9回	**授業テーマ**	「～することができる」/「～することができない」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	可能・不可能の表現を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	可能・不可能の文法を練習、復習する。 ﾆ語幹の用言について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第10回	**授業テーマ**	ﾆ語幹の用言
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ﾆ語幹の用言について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ﾆ語幹の用言を用い、応用・練習などの復習する。 尊敬語について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第11回	**授業テーマ**	尊敬形①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	尊敬形の表現「お～になる、られる、～なされる」を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	尊敬語の文法を練習、復習する。 語彙および表現についえ復習する。 尊敬語②の内容について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第12回	**授業テーマ**	尊敬形②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	尊敬形の表現「お～になる、られる、～なされる」を学習する。 召し上がる、いらっしゃるなどの敬語表現を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	敬語の文法および表現について復習する。 過去形について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第13回	**授業テーマ**	過去形
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	過去形の表現を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	過去形の文法を練習、復習する。 語彙および表現について復習する。 予習としてこれまでの内容のまとめを行う。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
	授業テーマ	これまでの文法などの復習

第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学習した文法、語彙、表現を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で習った内容を復習し、必ず自分のものにできるようにする。 予習としてこれまでの内容のまとめを行う。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合等によってスケジュールや内容が変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

学習事項を学習した後、復習として課題を出す。必ず自ら考えて課題をこなすこと。
提出してもらった課題は添削して返し、フィートバックを行う。

評価方法

平常点(授業への参加態度、発表）、課題の提出、定期試験の結果を総合的に判断し評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点(授業への参加態度、発表	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	
課題	○	○	○	○

評価割合

平常点：30%
定期試験：40%
課題（小テスト）：30%
平常点は、授業への参加態度等で総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

チンチャ！チョアヘヨ！！韓国語１ (ISBN番号: 978-4-255-55702-1)
前期の韓国語入門1と同じ教科書を使用

学生へのメッセージ

韓国と日本はお互い最も近い国で、交流も頻繁に行われています。
お互いをよりよく知るためには、まず、お互いの言葉を分かることが大事です。
隣国の言葉を勉強することによって興味を持ち、少しでも韓国について分かるようになってほしいです。
楽しく勉強して下さい！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		(google classroomを用いて)連絡事項や配布資料などをアップする。

講義コード	G50830002
講義名	韓国語コミュニケーション2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	鄭 軟ジュ	指定なし

ナンバリング

X13780M12

授業概要(教育目的)

韓国語の基礎的な語彙、文法、表現を勉強し、簡単な韓国語で会話ができるようにすることを目標とする。前期に学習した韓国語の文字、発音、基礎的な文法を復習も行う。

履修条件

韓国語入門１の受講、あるいはハングルを読めることが履修条件である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．韓国語の音声や語彙、文法、表現、言語の働きなどの理解を深める。 2．上記の１の知識を、読むこと、聞くこと、話すこと、書くことに活用する。
思考・判断の観点 (K)	1. 目的や場面、状況を応じて、実際のコミュニケーションの内容や要点を理解する。 2. 相手の意図を明確に理解したり、語句や文を用いて適切に表現したりする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で授業に挑むことが望ましい。
技術・表現の観点 (A)	語彙。語句、文の知識を身につけ、日常のコミュニケーションを図る。

学習計画

韓国語入門II

	授業テーマ	否定形「～ない」

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ルーブリックについて説明する。 「～ない」、「～ません」について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	否定形の文法、語彙および表現を復習する。 数字について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第2回	授業テーマ	数字
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	固有語数詞を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	漢字語数字、固有語数字について復習する。 用言（動詞、形容詞の活用）について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第3回	授業テーマ	用言の活用①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	母音語幹用言の活用を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	母音語幹用言の活用について復習する。 子音語幹用言について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第4回	授業テーマ	用言の活用②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子音語幹用言の活用を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子音語幹用言の活用について復習する。 予習として、母音語幹用言と子音語幹用言についてのまとめを行う。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第5回	授業テーマ	用言の活用③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体言に付く用言の活用について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文法ごとにどの体言を使用するかについて復習する。 予習として用言のタイプや活用などについてまとめを行う。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第6回	授業テーマ	これまでの文法の復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学習した文法を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で習った内容を復習し、必ず自分のものにできるようにする。 語彙および表現について復習する。 「～て」「～れば」の文法について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第7回	授業テーマ	「～て」/「～れば」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	２つの文を繋ぐ「～して」の表現を学習する。 条件・仮定の表現を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「～て」「～れば」の文法や語彙、表現について練習、復習する。 「～ので」「～ている」の表現について予習

		する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第8回	**授業テーマ**	「～ので、て」/「～している」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	原因・理由の表現「～ので、て」を学習する。 進行・継続の表現を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「～ので」「～ている」の表現について練習、復習する。 可能・不可能の表現について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第9回	**授業テーマ**	「～することができる」/「～することができない」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	可能・不可能の表現を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	可能・不可能の文法を練習、復習する。 ﾆ語幹の用言について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第10回	**授業テーマ**	ﾆ語幹の用言
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ﾆ語幹の用言について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ﾆ語幹の用言を用い、応用・練習などの復習する。 尊敬語について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第11回	**授業テーマ**	尊敬形①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	尊敬形の表現「お～になる、られる、～なされる」を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	尊敬語の文法を練習、復習する。 語彙および表現についえ復習する。 尊敬語②の内容について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第12回	**授業テーマ**	尊敬形②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	尊敬形の表現「お～になる、られる、～なされる」を学習する。 召し上がる、いらっしゃるなどの敬語表現を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	敬語の文法および表現について復習する。 過去形について予習する。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
第13回	**授業テーマ**	過去形
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	過去形の表現を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	過去形の文法を練習、復習する。 語彙および表現について復習する。 予習としてこれまでの内容のまとめを行う。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分
	授業テーマ	これまでの文法などの復習

第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学習した文法、語彙、表現を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で習った内容を復習し、必ず自分のものにできるようにする。 予習としてこれまでの内容のまとめを行う。
	教室外学習の時間（分）	復習100分、予習100分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合等によってスケジュールや内容が変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

学習事項を学習した後、復習として課題を出す。必ず自ら考えて課題をこなすこと。
提出してもらった課題は添削して返し、フィートバックを行う。

評価方法

平常点(授業への参加態度、発表）、課題の提出、定期試験の結果を総合的に判断し評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点(授業への参加態度、発表	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	
課題	○	○	○	○

評価割合

平常点：30%
定期試験：40%
課題（小テスト）：30%
平常点は、授業への参加態度等で総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

チンチャ！チョアヘヨ！！韓国語１ (ISBN番号: 978-4-255-55702-1)
前期の韓国語入門1と同じ教科書を使用

学生へのメッセージ

韓国と日本はお互い最も近い国で、交流も頻繁に行われています。
お互いをよりよく知るためには、まず、お互いの言葉を分かることが大事です。
隣国の言葉を勉強することによって興味を持ち、少しでも韓国について分かるようになってほしいです。
楽しく勉強して下さい！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		(google classroomを用いて)連絡事項や配布資料などをアップする。

講義コード	G50830031
講義名	韓国語コミュニケーション2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	丹羽 裕美	指定なし

ナンバリング

X13780C12

授業概要(教育目的)

韓国語の基礎的な語彙、文法、表現を駆使して簡単な韓国語で会話ができるようにすることを目標とする。
授業の進め方は「基本」を主に扱い、文法練習と基本会話文を元にペアワークなどアクティビブ・ラーニングを積極的に用いる。
各課ごとに単語テストを行って会話力を高めます。
韓国のことだけでなく、自分の意見を言うための1歩として（希望者は）「好きなものや推しのこと・曲・SNSなど」を紹介することを行います。

履修条件

韓国語入門１の受講、あるいはハングルを読めること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．韓国、韓国語に関する知識を獲得し、韓国に関する理解を深める。 2．英語以外の外国語の学習を通し、他文化、他言語に対する知見を広める。
思考・判断の観点 (K)	日常会話レベルの文を、自ら考え、韓国語で組み立て話せるようになる。 韓国語で自身のことを述べるだけでなく相手の意見も聞き理解を深める力を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で授業に挑むことが望ましい。とりわけ会話の発音や練習を多く行うため、練習の成果を発表できるようにしたい。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

韓国語入門II

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス 13課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方やルーブリックについて説明します。 13課の基本文法と会話文を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	基本会話を覚えてGoogleclassroomに音声を提出すること。 応用問題を行ってGoogleclassに提出しましょう。 13課の単語を覚えましょう。次回単語テストです。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	14課 用言の活用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	13課の単語テストを行います。 14課用言の活用を理解しましょう。 好きなものや推しを紹介しよう！
	教室外学習(予習・復習)の内容	14課は特に大切な部分です。しっかり復習しましょう。 用言の活用のプリントをGoogleclassに提出しましょう。 14課の単語を覚えましょう。次回単語テストです。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	15課 ハムニダ体とヘヨ体
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	14課の単語テスト 15課丁寧形（ハムニダ体とヘヨ体）を学びます。 好きなものや推しを紹介しよう！
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回、14課とハムニダ体とヘヨ体の小テストを行います。 授業で詳しく言いますので、復習して準備してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	14課と15課（ハムニダ体とヘヨ体）の小テスト 15課の会話練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	14課と15課の小テストとフィードバックを行います。 15課 位置を表す単語を使って会話します。 好きなものや推しを紹介しよう！
	教室外学習(予習・復習)の内容	14課と15課の小テストで間違えたところを正解にしてGoogleclassroomに提出 15課の単語を覚えましょう。次回単語テストです。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	15課（○○はどこですか）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	15課の単語テスト 15課の基本会話を使って「食堂はどこにありますか」など 場所を尋ねたり、案内することができるように会話練習します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	15課の基本会話を覚えてGoogleclassに音声データを提出 応用問題を行ってGoogleclassに提出しましょう。

	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	16課 (趣味は何ですか)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	16課 相手に趣味を尋ねたり、自分の好みを伝えることができるように練習します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回は、13課～16課までの理解度確認テストです。 16課の応用問題を行ってGoogleclassに提出しましょう。 復習をして、試験の準備をしてください。
	教室外学習の時間（分）	250分
第7回	**授業テーマ**	13課～16課の理解度確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	13課～16課の理解度確認テストを行います。 Googleフォームを用いた選択問題と問題用紙を用いた筆記問題があります。 終わったらフィードバックします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	間違えたところを書き出して整理してGoogleclassに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	17課（～したいです）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	17課 用言の否定形と希望の表現を学びます。 好きなものや推しを紹介しよう！
	教室外学習(予習・復習)の内容	121ページを参照しながら、希望の表現や希望しない表現を用いて作文してみましょう。 作文はGoogleclassに提出しましょう。 17課単語を覚えましょう。次回単語テストです。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	17課の会話練習と発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	17課単語テスト 17課の基本会話を用いて「何が食べたいですか」 「○○が食べたいです/○○は食べたくないです。」 といった会話を自在に言えるように練習して発表してみましょう。 好きなものを発表しよう！
	教室外学習(予習・復習)の内容	17課の基本会話を覚えてGoogleclassroomに音声データを提出してください。 応用問題を行ってGoogleclassに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	18課 過去形 韓国映画の鑑賞（1/3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	18課の単語テスト 18課の文法 過去形など 韓国の映画を鑑賞します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	18課文法を復習しましょう。 18課の単語を覚えましょう。次回単語テストです。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	18課（昨日何しましたか）

		韓国映画の鑑賞（2/3）
第11回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	18課基本会話を用いて会話練習を行います。 韓国の映画を鑑賞します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	18課の基本会話を覚えてGoogleclassに音声データを提出しましょう。 応用問題を行ってGoogleclassに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	19課 尊敬語 韓国映画の鑑賞（3/3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	19課の文法である敬語などを理解する。 発音の変化を学ぶ。 韓国の映画を鑑賞（3/3）しましょう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	19課の文法や発音の変化を復習しましょう。 19課の単語を覚えましょう。次回単語テストです。 韓国の映画を鑑賞します。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	19課（お宅にいらっしゃいますか）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	19課（尊敬語）を用いて会話を行えるようにする。 基本会話を用いて練習と発表。 17課～19課の復習。
	教室外学習(予習・復習)の内容	19課の応用問題を行いGoogleclassに提出しましょう。 17課～19課の理解度確認テストを行います。 試験の準備をしましょう。
	教室外学習の時間（分）	250分
第14回	授業テーマ	17課～19課理解度確認テストとフィードバック
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	17課～19課の理解度確認テストを行います。 Googleフォームを用いた選択問題と問題用紙を用いた筆記問題があります。 試験後はフィードバックを行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

特になし。

学生へのフィードバック方法

後期の主な学習目標は、韓国語で会話する力を獲得することです。
教室外学習では、各課の会話文を発音練習し音声データをGoogleclassroomに提出してもらいます。
また、韓国語で自ら文を作って話せる力と相手の意見を聞く力を養うために、
グループワークを通してより楽しく学びながらフィードバックを行います。

評価方法

定期試験は行わず、単語テストや理解度確認テストと、平常点(出席、授業への参加態度、課題提出、ルーブリック評価）で総合的に評価。
※ルーブリックは最初の授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

平常点	○	○	○	
課題提出	○	○	○	
ルーブリック評価	○	○	○	

評価割合

平常点：50%
理解度確認テスト：50%
平常点とは、課題提出・出席率・授業への参加態度・ルーブリック評価で総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

わかる韓国語初級（978-4-411-03159-4)

学生へのメッセージ

韓国と日本はお互い最も近い国で、交流も頻繁に行われています。
お互いをより知るためには、まず、お互いの言葉を分かる必要があります。
隣国の言葉を勉強することによって、韓国の文化や生活にも興味を持てるように
なってもらえたらと思います。
授業中には発音練習を多く行います。耳や口を大いに使って楽しく学習しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークなどアクティブ・ラーニングを積極的に用いて会話力を高め、理解を深める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50830032
講義名	韓国語コミュニケーション2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	丹羽 裕美	指定なし

ナンバリング

X13780C12

授業概要(教育目的)

韓国語の基礎的な語彙、文法、表現を駆使して簡単な韓国語で会話ができるようにすることを目標とする。
授業の進め方は「基本」を主に扱い、文法練習と基本会話文を元にペアワークなどアクティビブ・ラーニングを積極的に用いる。
各課ごとに単語テストを行って会話力を高めます。
韓国のことだけでなく、自分の意見を言うための1歩として（希望者は）「好きなものや推しのこと・曲・SNSなど」を紹介することを行います。

履修条件

韓国語入門１の受講、あるいはハングルを読めること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．韓国、韓国語に関する知識を獲得し、韓国に関する理解を深める。 2．英語以外の外国語の学習を通し、他文化、他言語に対する知見を広める。
思考・判断の観点 (K)	日常会話レベルの文を、自ら考え、韓国語で組み立て話せるようになる。 韓国語で自身のことを述べるだけでなく相手の意見も聞き理解を深める力を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で授業に挑むことが望ましい。とりわけ会話の発音や練習を多く行うため、練習の成果を発表できるようにしたい。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

韓国語入門II

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス 13課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方やルーブリックについて説明します。 13課の基本文法と会話文を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	基本会話を覚えてGoogleclassroomに音声を提出すること。 応用問題を行ってGoogleclassに提出しましょう。 13課の単語を覚えましょう。次回単語テストです。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	14課 用言の活用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	13課の単語テストを行います。 14課用言の活用を理解しましょう。 好きなものや推しを紹介しよう！
	教室外学習(予習・復習)の内容	14課は特に大切な部分です。しっかり復習しましょう。 用言の活用のプリントをGoogleclassに提出しましょう。 14課の単語を覚えましょう。次回単語テストです。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	15課 ハムニダ体とヘヨ体
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	14課の単語テスト 15課丁寧形（ハムニダ体とヘヨ体）を学びます。 好きなものや推しを紹介しよう！
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回、14課とハムニダ体とヘヨ体の小テストを行います。 授業で詳しく言いますので、復習して準備してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	14課と15課（ハムニダ体とヘヨ体）の小テスト 15課の会話練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	14課と15課の小テストとフィードバックを行います。 15課 位置を表す単語を使って会話します。 好きなものや推しを紹介しよう！
	教室外学習(予習・復習)の内容	14課と15課の小テストで間違えたところを正解にしてGoogleclassroomに提出 15課の単語を覚えましょう。次回単語テストです。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	15課（○○はどこですか）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	15課の単語テスト 15課の基本会話を使って「食堂はどこにありますか」など 場所を尋ねたり、案内することができるように会話練習します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	15課の基本会話を覚えてGoogleclassに音声データを提出 応用問題を行ってGoogleclassに提出しましょう。

	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	16課 (趣味は何ですか)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	16課 相手に趣味を尋ねたり、自分の好みを伝えることができるように練習します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回は、13課～16課までの理解度確認テストです。 16課の応用問題を行ってGoogleclassに提出しましょう。 復習をして、試験の準備をしてください。
	教室外学習の時間（分）	250分
第7回	**授業テーマ**	13課～16課の理解度確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	13課～16課の理解度確認テストを行います。 Googleフォームを用いた選択問題と問題用紙を用いた筆記問題があります。 終わったらフィードバックします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	間違えたところを書き出して整理してGoogleclassに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	17課（～したいです）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	17課 用言の否定形と希望の表現を学びます。 好きなものや推しを紹介しよう！
	教室外学習(予習・復習)の内容	121ページを参照しながら、希望の表現や希望しない表現を用いて作文してみましょう。 作文はGoogleclassに提出しましょう。 17課単語を覚えましょう。次回単語テストです。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	17課の会話練習と発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	17課単語テスト 17課の基本会話を用いて「何が食べたいですか」 「○○が食べたいです/○○は食べたくないです。」 といった会話を自在に言えるように練習して発表してみましょう。 好きなものを発表しよう！
	教室外学習(予習・復習)の内容	17課の基本会話を覚えてGoogleclassroomに音声データを提出してください。 応用問題を行ってGoogleclassに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	18課 過去形 韓国映画の鑑賞（1/3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	18課の単語テスト 18課の文法 過去形など 韓国の映画を鑑賞します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	18課文法を復習しましょう。 18課の単語を覚えましょう。次回単語テストです。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	18課（昨日何しましたか）

		韓国映画の鑑賞（2/3）
第11回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	18課基本会話を用いて会話練習を行います。 韓国の映画を鑑賞します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	18課の基本会話を覚えてGoogleclassに音声データを提出しましょう。 応用問題を行ってGoogleclassに提出しましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	19課 尊敬語 韓国映画の鑑賞（3/3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	19課の文法である敬語などを理解する。 発音の変化を学ぶ。 韓国の映画を鑑賞（3/3）しましょう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	19課の文法や発音の変化を復習しましょう。 19課の単語を覚えましょう。次回単語テストです。 韓国の映画を鑑賞します。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	19課（お宅にいらっしゃいますか）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	19課（尊敬語）を用いて会話を行えるようにする。 基本会話を用いて練習と発表。 17課～19課の復習。
	教室外学習(予習・復習)の内容	19課の応用問題を行いGoogleclassに提出しましょう。 17課～19課の理解度確認テストを行います。 試験の準備をしましょう。
	教室外学習の時間（分）	250分
第14回	授業テーマ	17課～19課理解度確認テストとフィードバック
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	17課～19課の理解度確認テストを行います。 Googleフォームを用いた選択問題と問題用紙を用いた筆記問題があります。 試験後はフィードバックを行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

特になし。

学生へのフィードバック方法

後期の主な学習目標は、韓国語で会話する力を獲得することです。
教室外学習では、各課の会話文を発音練習し音声データをGoogleclassroomに提出してもらいます。
また、韓国語で自ら文を作って話せる力と相手の意見を聞く力を養うために、
グループワークを通してより楽しく学びながらフィードバックを行います。

評価方法

定期試験は行わず、単語テストや理解度確認テストと、平常点(出席、授業への参加態度、課題提出、ルーブリック評価）で総合的に評価。
※ルーブリックは最初の授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

平常点	○	○	○	
課題提出	○	○	○	
ルーブリック評価	○	○	○	

評価割合

平常点：50%
理解度確認テスト：50%
平常点とは、課題提出・出席率・授業への参加態度・ルーブリック評価で総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

わかる韓国語初級（978-4-411-03159-4)

学生へのメッセージ

韓国と日本はお互い最も近い国で、交流も頻繁に行われています。
お互いをより知るためには、まず、お互いの言葉を分かる必要があります。
隣国の言葉を勉強することによって、韓国の文化や生活にも興味を持てるように
なってもらえたらと思います。
授業中には発音練習を多く行います。耳や口を大いに使って楽しく学習しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークなどアクティブ・ラーニングを積極的に用いて会話力を高め、理解を深める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50831001
講義名	中国語コミュニケーション1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	尹 青青	指定なし

ナンバリング

X13750M12

授業概要(教育目的)

本授業は、中国語を初めて学習する人を対象とし、現代中国語の標準語（普通話）を入門から学ぶ。入門段階において、特に発音の学習を重点的に行い、最も重要な中国語のリズムと正しい発音を身体で記憶し、正しく発音できるようになることを目標とする。

履修条件

初めて中国語を勉強する人を対象とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	現代中国語を正しく発音する・基礎的な文法を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	現代中国語を運用した簡単な会話ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	授業ガイダンス 発音編 声調、単母音、そり舌母音、複合母音、子音
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の説明を行い、現代中国語の声調、単母音、そり舌母音、複合母音、子音を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の6～7ページを読んでおくこと。

	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	発音編 n/ng付母音、r化、軽声、変調
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代中国語のn/ng付母音、r化、軽声、変調を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の8～9ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	発音編まとめ 数字、日付の言い方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発音編のウォーミングアップを行い、数字と日付の言い方を覚える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の10～11ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	第1課 何を食べるの？――母と二人で喫茶店
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人称代詞、動詞述語文、疑問詞疑問文、省略疑問文を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の13～14ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	第1課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第1課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書15～16ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	第2課 それって中国語の新聞？――図書館での出会い
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指示代名詞、名詞の前の修飾語、動詞「是」の文、YES/NOで答える疑問文を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の17～18ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	第2課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第2課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書19～20ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	第3課 かわいい――散歩中の偶然
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	形容詞述語文、主述述語文、「喜　」、選択疑問文を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の21～22ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	第3課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第3課の総合練習を行う。

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書23～24ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	第4課 何人家族？――いろいろ話してみよう
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	数量の数え方、動詞「有」の文、「几」と「多少」、助動詞「想」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の25～26ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	第4課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第4課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書27～28ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	第5課 家はどこ？――もっと知りたい
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	方位詞、動詞「在」の文、介詞「在」、介詞「离」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の29～30ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	第5課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第5課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書31～32ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	前期総復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期の既習内容を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1課～第5課の文法事項の総復習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

上記のスケジュールは、おおよその目安である。実際の進度状況によって、前後することもある。

学生へのフィードバック方法

授業にて説明する。

評価方法

評価は平常点及び期末定期試験の成績を以て行う。
・平常点は授業への参加状況、授業態度等で総合的に判断する。
・定期試験は授業内容から70点満点で筆記問題を出題する。
ルーブリックについては初回の授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

平常点	○			○
定期試験	○			

評価割合

平常点30%、定期試験70%。

使用教科書名(ISBN番号)

しっかり初級中国語
石田友美・桑野弘美・島田亜実・鈴木ひろみ（ISBN978-4-560-06936-3、白水社）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につけている。
【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を身につけている。

学生へのメッセージ

週１回という限られた時間内では、中国語学習の全領域をカバーすることは不可能である。従って授業を受ける学生には、授業での学習以外にも次のことを必ず行ってもらいたい。
・授業前には、予習として教科書の本文と文法の説明を読む。
・授業後には、復習として教科書にある練習問題の回答等を音読する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50831002
講義名	中国語コミュニケーション1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	尹 青青	指定なし

ナンバリング

X13750M12

授業概要(教育目的)

本授業は、中国語を初めて学習する人を対象とし、現代中国語の標準語（普通話）を入門から学ぶ。入門段階において、特に発音の学習を重点的に行い、最も重要な中国語のリズムと正しい発音を身体で記憶し、正しく発音できるようになることを目標とする。

履修条件

初めて中国語を勉強する人を対象とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	現代中国語を正しく発音する・基礎的な文法を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	現代中国語を運用した簡単な会話ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	授業ガイダンス 発音編 声調、単母音、そり舌母音、複合母音、子音
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の説明を行い、現代中国語の声調、単母音、そり舌母音、複合母音、子音を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の6～7ページを読んでおくこと。

	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	発音編 n/ng付母音、r化、軽声、変調
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代中国語のn/ng付母音、r化、軽声、変調を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の8～9ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	発音編まとめ 数字、日付の言い方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発音編のウォーミングアップを行い、数字と日付の言い方を覚える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の10～11ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	第1課 何を食べるの？――母と二人で喫茶店
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人称代詞、動詞述語文、疑問詞疑問文、省略疑問文を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の13～14ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	第1課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第1課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書15～16ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	第2課 それって中国語の新聞？――図書館での出会い
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指示代名詞、名詞の前の修飾語、動詞「是」の文、YES/NOで答える疑問文を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の17～18ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	第2課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第2課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書19～20ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	第3課 かわいい――散歩中の偶然
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	形容詞述語文、主述述語文、「喜　」、選択疑問文を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の21～22ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	第3課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第3課の総合練習を行う。

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書23～24ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	第4課 何人家族？――いろいろ話してみよう
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	数量の数え方、動詞「有」の文、「几」と「多少」、助動詞「想」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の25～26ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	第4課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第4課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書27～28ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	第5課 家はどこ？――もっと知りたい
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	方位詞、動詞「在」の文、介詞「在」、介詞「离」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の29～30ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	第5課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第5課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書31～32ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	前期総復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期の既習内容を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1課～第5課の文法事項の総復習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

上記のスケジュールは、おおよその目安である。実際の進度状況によって、前後することもある。

学生へのフィードバック方法

授業にて説明する。

評価方法

評価は平常点及び期末定期試験の成績を以て行う。
・平常点は授業への参加状況、授業態度等で総合的に判断する。
・定期試験は授業内容から70点満点で筆記問題を出題する。
ルーブリックについては初回の授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

平常点	○			○
定期試験	○			

評価割合

平常点30%、定期試験70%。

使用教科書名(ISBN番号)

しっかり初級中国語
石田友美・桑野弘美・島田亜実・鈴木ひろみ（ISBN978-4-560-06936-3、白水社）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につけている。
【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を身につけている。

学生へのメッセージ

週１回という限られた時間内では、中国語学習の全領域をカバーすることは不可能である。従って授業を受ける学生には、授業での学習以外にも次のことを必ず行ってもらいたい。
・授業前には、予習として教科書の本文と文法の説明を読む。
・授業後には、復習として教科書にある練習問題の回答等を音読する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50831003
講義名	中国語コミュニケーション1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	尹 青青	指定なし

ナンバリング

X13750M12

授業概要(教育目的)

本授業は、中国語を初めて学習する人を対象とし、現代中国語の標準語（普通話）を入門から学ぶ。入門段階において、特に発音の学習を重点的に行い、最も重要な中国語のリズムと正しい発音を身体で記憶し、正しく発音できるようになることを目標とする。

履修条件

初めて中国語を勉強する人を対象とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	現代中国語を正しく発音する・基礎的な文法を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	現代中国語を運用した簡単な会話ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	授業ガイダンス 発音編 声調、単母音、そり舌母音、複合母音、子音
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の説明を行い、現代中国語の声調、単母音、そり舌母音、複合母音、子音を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の6～7ページを読んでおくこと。

	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	発音編 n/ng付母音、r化、軽声、変調
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代中国語のn/ng付母音、r化、軽声、変調を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の8～9ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	発音編まとめ 数字、日付の言い方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発音編のウォーミングアップを行い、数字と日付の言い方を覚える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の10～11ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	第1課 何を食べるの？――母と二人で喫茶店
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人称代詞、動詞述語文、疑問詞疑問文、省略疑問文を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の13～14ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	第1課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第1課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書15～16ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	第2課 それって中国語の新聞？――図書館での出会い
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指示代名詞、名詞の前の修飾語、動詞「是」の文、YES/NOで答える疑問文を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の17～18ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	第2課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第2課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書19～20ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	第3課 かわいい――散歩中の偶然
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	形容詞述語文、主述述語文、「喜　」、選択疑問文を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の21～22ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	第3課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第3課の総合練習を行う。

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書23～24ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	第4課 何人家族？――いろいろ話してみよう
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	数量の数え方、動詞「有」の文、「几」と「多少」、助動詞「想」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の25～26ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	第4課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第4課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書27～28ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	第5課 家はどこ？――もっと知りたい
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	方位詞、動詞「在」の文、介詞「在」、介詞「离」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の29～30ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	第5課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第5課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書31～32ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	前期総復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期の既習内容を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1課～第5課の文法事項の総復習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

上記のスケジュールは、おおよその目安である。実際の進度状況によって、前後することもある。

学生へのフィードバック方法

授業にて説明する。

評価方法

評価は平常点及び期末定期試験の成績を以て行う。
・平常点は授業への参加状況、授業態度等で総合的に判断する。
・定期試験は授業内容から70点満点で筆記問題を出題する。
ルーブリックについては初回の授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

平常点	○			○
定期試験	○			

評価割合

平常点30%、定期試験70%。

使用教科書名(ISBN番号)

しっかり初級中国語
石田友美・桑野弘美・島田亜実・鈴木ひろみ（ISBN978-4-560-06936-3、白水社）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につけている。
【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を身につけている。

学生へのメッセージ

週１回という限られた時間内では、中国語学習の全領域をカバーすることは不可能である。従って授業を受ける学生には、授業での学習以外にも次のことを必ず行ってもらいたい。
・授業前には、予習として教科書の本文と文法の説明を読む。
・授業後には、復習として教科書にある練習問題の回答等を音読する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50831031
講義名	中国語コミュニケーション1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	澁井 君也	指定なし

ナンバリング

X13750C12

授業概要(教育目的)

「中国語コミュニケーション1」の履修を希望する皆さんを心から歓迎する。本授業は、中国語母語話者の教員により授業は行われ、中国語の単語や例文、会話などを繰り返し練習していく。教科書に沿って、中国語独特の発音と四声のポイントをマスターできるようにし、中国語の日常会話を学びつつ、文法の基礎も身につけるようにする。また、中国の人気の歌などを通して、中国とそこに住む人たちの生活や文化についても紹介する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	中国語の発音（ピンイン）と基礎的な文法ができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	中国語や中国の事情について関心や興味をもつことになる。
技術・表現の観点 (A)	中国語の簡単な文章が読め、簡単な会話ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション＆発音１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、教科書、中国語の概況や声調について等
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書6ページ「①声調」の音声を聞いて予習しておくこと
	教室外学習の時間	

	(分)	予習５０分
第2回	**授業テーマ**	発音２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	単母音、複母音、鼻母音、子音
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、教科書6～8ページ「②母音」「③子音」の音声を聞いて予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習１５０分・予習５０分
第3回	**授業テーマ**	発音３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	有気音、無気音、変調、軽声、アル化音
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、教科書8～10ページ「③有気音、無気音」「④変調」「⑤軽声」「⑥<儿>化」の音声を聞いて予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習１５０分・予習５０分
第4回	**授業テーマ**	発音４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ピンイン表記のルール、二音節の声調の組み合わせ、漢詩、練習問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、教科書10～13ページ「⑥ピンイン表記のルール」「⑦二音節の声調の組み合わせ」「⑧漢詩」「練習問題」の音声を聞いて予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習１５０分・予習５０分
第5回	**授業テーマ**	第１課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語やポイント（名前の聞き方など５項目）の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第１課の単語と文法を予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習１５０分・予習５０分
第6回	**授業テーマ**	第１課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「你好」会話本文の解説
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第１課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習１５０分・予習５０分
第7回	**授業テーマ**	第１課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	練習問題と第１課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第１課の練習問題を予習しておくこと
	教室外学習の時間	復習１５０分・予習５０分

	（分）	
第8回	**授業テーマ**	第２課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語やポイント（動詞述語文など５項目）の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第２課の単語と文法を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第9回	**授業テーマ**	第２課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「借　」会話本文の解説
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第２課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第10回	**授業テーマ**	第２課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	練習問題と第２課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第２課の練習問題を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第11回	**授業テーマ**	第３課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語やポイント（量詞など５項目）の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第３課の単語と文法を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第12回	**授業テーマ**	第３課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「　衣服」会話本文の解説
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第３課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第13回	**授業テーマ**	第３課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	練習問題と第３課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第３課の練習問題を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
	授業テーマ	総まとめ＆期末試験

第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期の授業内容のまとめ（５０分）と学習到達度の確認テスト（５０分）
	教室外学習(予習・復習)の内容	発音と第１課～第３課まで学習した内容を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５０分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

実施した小テストは採点して返却する。

評価方法

平常点や試験によって総合的に判断する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
小テスト	○			○
定期試験	○			○

評価割合

平常点４０%、期末試験６０%
（平常点は授業への参加度や小テスト等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

山下輝彦、黄漢清『行ってみよう！中国語への旅 世界遺産へようこそ』朝日出版社

参考図書

特になし。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】中国語の基礎な発音と文法事項を覚えて理解する。
【関心・意欲・態度】中国語や中国事情などについて関心をもつ。
【技術・表現】初級で学んだ知識で簡単な会話や交流ができる。

学生へのメッセージ

授業中に、課題文の朗読や発音練習等を随時行う。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50831032
講義名	中国語コミュニケーション1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	澁井 君也	指定なし

ナンバリング

X13750C12

授業概要(教育目的)

「中国語コミュニケーション1」の履修を希望する皆さんを心から歓迎する。本授業は、中国語母語話者の教員により授業は行われ、中国語の単語や例文、会話などを繰り返し練習していく。教科書に沿って、中国語独特の発音と四声のポイントをマスターできるようにし、中国語の日常会話を学びつつ、文法の基礎も身につけるようにする。また、中国の人気の歌などを通して、中国とそこに住む人たちの生活や文化についても紹介する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	中国語の発音（ピンイン）と基礎的な文法ができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	中国語や中国の事情について関心や興味をもつことになる。
技術・表現の観点 (A)	中国語の簡単な文章が読め、簡単な会話ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション＆発音１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、教科書、中国語の概況や声調について等
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書6ページ「①声調」の音声を聞いて予習しておくこと
	教室外学習の時間	

	(分)	予習５０分
第2回	**授業テーマ**	発音２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	単母音、複母音、鼻母音、子音
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、教科書6～8ページ「②母音」「③子音」の音声を聞いて予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習１５０分・予習５０分
第3回	**授業テーマ**	発音３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	有気音、無気音、変調、軽声、アル化音
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、教科書8～10ページ「③有気音、無気音」「④変調」「⑤軽声」「⑥<儿>化」の音声を聞いて予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習１５０分・予習５０分
第4回	**授業テーマ**	発音４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ピンイン表記のルール、二音節の声調の組み合わせ、漢詩、練習問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、教科書10～13ページ「⑥ピンイン表記のルール」「⑦二音節の声調の組み合わせ」「⑧漢詩」「練習問題」の音声を聞いて予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習１５０分・予習５０分
第5回	**授業テーマ**	第１課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語やポイント（名前の聞き方など５項目）の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第１課の単語と文法を予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習１５０分・予習５０分
第6回	**授業テーマ**	第１課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「你好」会話本文の解説
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第１課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習１５０分・予習５０分
第7回	**授業テーマ**	第１課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	練習問題と第１課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第１課の練習問題を予習しておくこと
	教室外学習の時間	復習１５０分・予習５０分

	（分）	
第8回	**授業テーマ**	第２課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語やポイント（動詞述語文など５項目）の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第２課の単語と文法を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第9回	**授業テーマ**	第２課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「借　」会話本文の解説
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第２課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第10回	**授業テーマ**	第２課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	練習問題と第２課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第２課の練習問題を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第11回	**授業テーマ**	第３課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語やポイント（量詞など５項目）の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第３課の単語と文法を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第12回	**授業テーマ**	第３課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「　衣服」会話本文の解説
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第３課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第13回	**授業テーマ**	第３課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	練習問題と第３課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第３課の練習問題を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
	授業テーマ	総まとめ＆期末試験

第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期の授業内容のまとめ（５０分）と学習到達度の確認テスト（５０分）
	教室外学習(予習・復習)の内容	発音と第１課～第３課まで学習した内容を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５０分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

実施した小テストは採点して返却する。

評価方法

平常点や試験によって総合的に判断する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
小テスト	○			○
定期試験	○			○

評価割合

平常点３０%、期末試験７０%
（平常点は授業への参加度や小テスト等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

山下輝彦、黄漢清『行ってみよう！中国語への旅 世界遺産へようこそ』朝日出版社

参考図書

特になし。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】中国語の基礎な発音と文法事項を覚えて理解する。
【関心・意欲・態度】中国語や中国事情などについて関心をもつ。
【技術・表現】初級で学んだ知識で簡単な会話や交流ができる。

学生へのメッセージ

授業中に、課題文の朗読や発音練習等を随時行う。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50831033
講義名	中国語コミュニケーション1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	澁井 君也	指定なし

ナンバリング

X13750C12

授業概要(教育目的)

「中国語コミュニケーション1」の履修を希望する皆さんを心から歓迎する。本授業は、中国語母語話者の教員により授業は行われ、中国語の単語や例文、会話などを繰り返し練習していく。教科書に沿って、中国語独特の発音と四声のポイントをマスターできるようにし、中国語の日常会話を学びつつ、文法の基礎も身につけるようにする。また、中国の人気の歌などを通して、中国とそこに住む人たちの生活や文化についても紹介する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	中国語の発音（ピンイン）と基礎的な文法ができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	中国語や中国の事情について関心や興味をもつことになる。
技術・表現の観点 (A)	中国語の簡単な文章が読め、簡単な会話ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション＆発音１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、教科書、中国語の概況や声調について等
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書6ページ「①声調」の音声を聞いて予習しておくこと
	教室外学習の時間	

	(分)	予習５０分
第2回	**授業テーマ**	発音２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	単母音、複母音、鼻母音、子音
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、教科書6～8ページ「②母音」「③子音」の音声を聞いて予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習１５０分・予習５０分
第3回	**授業テーマ**	発音３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	有気音、無気音、変調、軽声、アル化音
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、教科書8～10ページ「③有気音、無気音」「④変調」「⑤軽声」「⑥<儿>化」の音声を聞いて予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習１５０分・予習５０分
第4回	**授業テーマ**	発音４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ピンイン表記のルール、二音節の声調の組み合わせ、漢詩、練習問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、教科書10～13ページ「⑥ピンイン表記のルール」「⑦二音節の声調の組み合わせ」「⑧漢詩」「練習問題」の音声を聞いて予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習１５０分・予習５０分
第5回	**授業テーマ**	第１課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語やポイント（名前の聞き方など５項目）の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第１課の単語と文法を予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習１５０分・予習５０分
第6回	**授業テーマ**	第１課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「你好」会話本文の解説
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第１課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	復習１５０分・予習５０分
第7回	**授業テーマ**	第１課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	練習問題と第１課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第１課の練習問題を予習しておくこと
	教室外学習の時間	復習１５０分・予習５０分

	（分）	
第8回	**授業テーマ**	第２課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語やポイント（動詞述語文など５項目）の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第２課の単語と文法を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第9回	**授業テーマ**	第２課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「借　」会話本文の解説
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第２課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第10回	**授業テーマ**	第２課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	練習問題と第２課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第２課の練習問題を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第11回	**授業テーマ**	第３課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語やポイント（量詞など５項目）の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第３課の単語と文法を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第12回	**授業テーマ**	第３課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「　衣服」会話本文の解説
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第３課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第13回	**授業テーマ**	第３課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	練習問題と第３課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第３課の練習問題を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
	授業テーマ	総まとめ＆期末試験

第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期の授業内容のまとめ（５０分）と学習到達度の確認テスト（５０分）
	教室外学習(予習・復習)の内容	発音と第１課～第３課まで学習した内容を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５０分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

実施した小テストは採点して返却する。

評価方法

平常点や試験によって総合的に判断する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
小テスト	○			○
定期試験	○			○

評価割合

平常点３０%、期末試験７０%
（平常点は授業への参加度や小テスト等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

山下輝彦、黄漢清『行ってみよう！中国語への旅 世界遺産へようこそ』朝日出版社

参考図書

特になし。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】中国語の基礎な発音と文法事項を覚えて理解する。
【関心・意欲・態度】中国語や中国事情などについて関心をもつ。
【技術・表現】初級で学んだ知識で簡単な会話や交流ができる。

学生へのメッセージ

授業中に、課題文の朗読や発音練習等を随時行う。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50832001
講義名	中国語コミュニケーション2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	尹 青青	指定なし

ナンバリング

X13760M12

授業概要(教育目的)

後期では、前期と同じく中国語の基本的な会話を練習するほか、より複雑な文法内容についても学習する。

履修条件

前期と連動した内容であるため、受講者は前期の授業を必ず受けていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	現代中国語を正しく発音する・基礎的な文法を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	現代中国語を運用した簡単な会話ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	前期のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期の既習内容を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前期の既習内容に目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
		第6課

第2回	授業テーマ	ごはん食べた？――その頃の山本家
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	連動文、介詞「跟」、助動詞「要」、文末の「了」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の33～34ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	第6課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第6課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書35～36ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	第7課 1枚あげるよ――映画の約束
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動詞の後の「了」と文末の「了」、目的語を一度に2つ取れる動詞、「～点…分」、介詞「从」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の37～38ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	第7課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第7課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書39～40ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	第8課 ちょっと見せて――いっしょに買い物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動詞の重ね型と動作量「一下」、介詞「　」、助動詞「可以」、100以上の数を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の41～42ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	第8課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第8課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書43～44ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	第9課 中国語話せるよ――妹のチャイナドレス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	過去の経験を表す助詞「　」、持続を表す助詞「着」、助動詞「能」、助動詞「会」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の45～46ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	第9課

		トレーニング/総合練習
第9回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第9課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書47～48ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	第10課 まだ食事中？――母からの電話
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	時間量を表す語句、様態補語、進行の表現、「快～了」、「要～了」、「就要～了」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の49～50ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	第10課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第10課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書51～52ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	第11課 心配しないで――娘の成績
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	回数を表す語句、結果補語、比較表現、副詞「不要・別」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の53～54ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	第11課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第11課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書55～56ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	後期総復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	後期の既習内容を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6課～第11課の文法事項の総復習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

上記のスケジュールは、おおよその目安である。実際の進度状況によって、前後することもある。

学生へのフィードバック方法

授業にて説明する。

評価方法

評価は平常点及び期末定期試験の成績を以て行う。
・平常点は授業への参加状況、授業態度等で総合的に判断する。

・定期試験は授業内容から70点満点で筆記問題を出題する。
ルーブリックについては初回の授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○			○
定期試験	○			

評価割合

平常点30%、定期試験70%。

使用教科書名(ISBN番号)

しっかり初級中国語
石田友美・桑野弘美・島田亜実・鈴木ひろみ（ISBN978-4-560-06936-3、白水社）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につけている。
【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を身につけている。

学生へのメッセージ

週１回という限られた時間内では、中国語学習の全領域をカバーすることは不可能である。従って授業を受ける学生には、授業での学習以外にも次のことを必ず行ってもらいたい。
・授業前には、予習として教科書の本文と文法の説明を読む。
・授業後には、復習として教科書にある練習問題の回答等を音読する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50832002
講義名	中国語コミュニケーション2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	尹 青青	指定なし

ナンバリング

X13760M12

授業概要(教育目的)

後期では、前期と同じく中国語の基本的な会話を練習するほか、より複雑な文法内容についても学習する。

履修条件

前期と連動した内容であるため、受講者は前期の授業を必ず受けていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	現代中国語を正しく発音する・基礎的な文法を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	現代中国語を運用した簡単な会話ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	前期のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期の既習内容を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前期の既習内容に目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
		第6課

第2回	授業テーマ	ごはん食べた？――その頃の山本家
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	連動文、介詞「跟」、助動詞「要」、文末の「了」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の33～34ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	第6課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第6課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書35～36ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	第7課 1枚あげるよ――映画の約束
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動詞の後の「了」と文末の「了」、目的語を一度に2つ取れる動詞、「～点…分」、介詞「从」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の37～38ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	第7課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第7課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書39～40ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	第8課 ちょっと見せて――いっしょに買い物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動詞の重ね型と動作量「一下」、介詞「　」、助動詞「可以」、100以上の数を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の41～42ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	第8課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第8課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書43～44ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	第9課 中国語話せるよ――妹のチャイナドレス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	過去の経験を表す助詞「　」、持続を表す助詞「着」、助動詞「能」、助動詞「会」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の45～46ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	第9課

		トレーニング/総合練習
第9回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第9課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書47～48ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	第10課 まだ食事中？――母からの電話
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	時間量を表す語句、様態補語、進行の表現、「快～了」、「要～了」、「就要～了」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の49～50ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	第10課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第10課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書51～52ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	第11課 心配しないで――娘の成績
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	回数を表す語句、結果補語、比較表現、副詞「不要・別」を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の53～54ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	第11課 トレーニング/総合練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第11課の総合練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書55～56ページ練習問題の準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	後期総復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	後期の既習内容を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6課～第11課の文法事項の総復習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

上記のスケジュールは、おおよその目安である。実際の進度状況によって、前後することもある。

学生へのフィードバック方法

授業にて説明する。

評価方法

評価は平常点及び期末定期試験の成績を以て行う。
・平常点は授業への参加状況、授業態度等で総合的に判断する。

・定期試験は授業内容から70点満点で筆記問題を出題する。
ルーブリックについては初回の授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○			○
定期試験	○			

評価割合

平常点30%、定期試験70%。

使用教科書名(ISBN番号)

しっかり初級中国語
石田友美・桑野弘美・島田亜実・鈴木ひろみ（ISBN978-4-560-06936-3、白水社）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につけている。
【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を身につけている。

学生へのメッセージ

週１回という限られた時間内では、中国語学習の全領域をカバーすることは不可能である。従って授業を受ける学生には、授業での学習以外にも次のことを必ず行ってもらいたい。
・授業前には、予習として教科書の本文と文法の説明を読む。
・授業後には、復習として教科書にある練習問題の回答等を音読する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50832031
講義名	中国語コミュニケーション2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	澁井 君也	指定なし

ナンバリング

X13760C12

授業概要(教育目的)

「中国語コミュニケーション２」の履修を希望する皆さんを心から歓迎する。この授業は、前期の「中国語コミュニケーション１」の続きで、前期で学んだ基礎文法のおさらいをし、中国語の単語や例文、会話を繰り返し練習していく。教科書に沿って、中国語独特の発音と四声のポイントをマスターできるようにし、中国語の日常会話を学びつつ、文法の基礎も身につけるようにする。また、中国の人気の歌などを通して、中国とそこに住む人たちの生活や文化についても紹介する。

※中国語資格試験のＨＳＫ（漢語水平考試）１級や中国語検定試験準４級相当に到達することを目標とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	中国語の発音（ピンイン）と基礎的な文法ができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	中国語や中国の事情について関心や興味をもつことになる。
技術・表現の観点 (A)	中国語の簡単な文章が読め、簡単な会話ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	前期の授業内容の復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中国語の発音と第１課～第３課までの内容の復習
	教室外学習(予習・復習)の内容	中国語の声調、母音、子音と第１課～第３課までの単語・文法を復習しておくこと

	教室外学習の時間（分）	復習５０分
第2回	**授業テーマ**	第４課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語や動詞「有」など文法項目の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第４課の新出単語とポイントを予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第3回	**授業テーマ**	第４課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「下午　」会話本文の解説と練習問題と第４課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第４課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第4回	**授業テーマ**	第５課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語や過去の経験「　」など文法項目の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第５課の新出単語とポイントを予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第5回	**授業テーマ**	第５課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「女朋友」会話本文の解説と練習問題と第５課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第５課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第6回	**授業テーマ**	第６課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語と「“了”の用法」など文法項目の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第６課の新出単語とポイントを予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第7回	**授業テーマ**	第６課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「你去哪儿了」会話本文の解説と練習問題と第６課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第６課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第8回	**授業テーマ**	第７課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語と「進行形」など文法項目の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第７課の新出単語とポイントを予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第9回	**授業テーマ**	第７課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「画画儿」会話本文の解説と練習問題と第７課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第７課の会話本文を予習しておくこと

	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第10回	**授業テーマ**	第８課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語と「前置詞“离”」など文法項目の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第８課の新出単語とポイントを予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第11回	**授業テーマ**	第８課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「她来了」会話本文の解説と練習問題と第８課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第８課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第12回	**授業テーマ**	第９課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語と「“了”の用法（２）」など文法項目の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第９課の新出単語とポイントを予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第13回	**授業テーマ**	第９課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「別　　了」会話本文の解説と練習問題と第９課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第９課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第14回	**授業テーマ**	総まとめ＆期末試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	後期の授業内容のまとめ（５０分）と学習到達度の確認テスト（５０分）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第４課～第７課までの授業内容を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５０分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

実施した小テストなどは採点して返却する。

評価方法

平常点や試験によって総合的に判断する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
小テスト	○			○
定期試験	○			○

評価割合

平常点４０%、期末試験６０%

（平常点は授業への参加度や小テスト等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

山下輝彦、黄漢清『行ってみよう！中国語への旅 世界遺産へようこそ』朝日出版社

参考図書

特になし。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】中国語の基礎な発音と文法事項を覚えて理解する。
【関心・意欲・態度】中国語や中国事情などについて関心をもつ。
【技術・表現】初級で学んだ知識で簡単な会話や交流ができる。

学生へのメッセージ

授業中に、課題文の朗読や発音練習等を随時行う。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50832032
講義名	中国語コミュニケーション2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	澁井 君也	指定なし

ナンバリング

X13760C12

授業概要(教育目的)

「中国語コミュニケーション２」の履修を希望する皆さんを心から歓迎する。この授業は、前期の「中国語コミュニケーション１」の続きで、前期で学んだ基礎文法のおさらいをし、中国語の単語や例文、会話を繰り返し練習していく。教科書に沿って、中国語独特の発音と四声のポイントをマスターできるようにし、中国語の日常会話を学びつつ、文法の基礎も身につけるようにする。また、中国の人気の歌などを通して、中国とそこに住む人たちの生活や文化についても紹介する。

※中国語資格試験のＨＳＫ（漢語水平考試）１級や中国語検定試験準４級相当に到達することを目標とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	中国語の発音（ピンイン）と基礎的な文法ができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	中国語や中国の事情について関心や興味をもつことになる。
技術・表現の観点 (A)	中国語の簡単な文章が読め、簡単な会話ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	前期の授業内容の復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中国語の発音と第１課～第３課までの内容の復習
	教室外学習(予習・復習)の内容	中国語の声調、母音、子音と第１課～第３課までの単語・文法を復習しておくこと

	教室外学習の時間（分）	復習５０分
第2回	**授業テーマ**	第４課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語や動詞「有」など文法項目の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第４課の新出単語とポイントを予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第3回	**授業テーマ**	第４課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「下午　」会話本文の解説と練習問題と第４課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第４課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第4回	**授業テーマ**	第５課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語や過去の経験「　」など文法項目の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第５課の新出単語とポイントを予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第5回	**授業テーマ**	第５課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「女朋友」会話本文の解説と練習問題と第５課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第５課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第6回	**授業テーマ**	第６課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語と「“了”の用法」など文法項目の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第６課の新出単語とポイントを予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第7回	**授業テーマ**	第６課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「你去哪儿了」会話本文の解説と練習問題と第６課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第６課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第8回	**授業テーマ**	第７課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語と「進行形」など文法項目の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第７課の新出単語とポイントを予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第9回	**授業テーマ**	第７課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「画画儿」会話本文の解説と練習問題と第７課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第７課の会話本文を予習しておくこと

	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第10回	**授業テーマ**	第８課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語と「前置詞“离”」など文法項目の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第８課の新出単語とポイントを予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第11回	**授業テーマ**	第８課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「她来了」会話本文の解説と練習問題と第８課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第８課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第12回	**授業テーマ**	第９課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新出単語と「“了”の用法（２）」など文法項目の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第９課の新出単語とポイントを予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第13回	**授業テーマ**	第９課
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「別　　了」会話本文の解説と練習問題と第９課小テスト
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の内容を復習して、第９課の会話本文を予習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習１５０分・予習５０分
第14回	**授業テーマ**	総まとめ＆期末試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	後期の授業内容のまとめ（５０分）と学習到達度の確認テスト（５０分）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第４課～第７課までの授業内容を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	復習２５０分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

実施した小テストなどは採点して返却する。

評価方法

平常点や試験によって総合的に判断する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
小テスト	○			○
定期試験	○			○

評価割合

平常点４０%、期末試験６０%

（平常点は授業への参加度や小テスト等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

山下輝彦、黄漢清『行ってみよう！中国語への旅 世界遺産へようこそ』朝日出版社

参考図書

特になし。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】中国語の基礎な発音と文法事項を覚えて理解する。
【関心・意欲・態度】中国語や中国事情などについて関心をもつ。
【技術・表現】初級で学んだ知識で簡単な会話や交流ができる。

学生へのメッセージ

授業中に、課題文の朗読や発音練習等を随時行う。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50901001
講義名	アカデミック・ジャパニーズ1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	留学生・1年次
必修・選択の別	1年次留学生必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	森 朋子	指定なし

ナンバリング

X13910M22

授業概要(教育目的)

留学生が大学での勉強を全うするために必要な力を身につけることを目的としている。様々な課題に取り組む中で、「情報を的確に集め理解する」「理解した情報をもとに自分の考えをまとめる」「他者に分かりやすいように伝える」ための訓練をしていく。また、そのプロセスにおいて日本語能力の向上を図る。

履修条件

学則第59条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	課題についての理解を深め、レポート作成、口頭発表のための知識を修得する。
思考・判断の観点 (K)	課題についての情報を自分の考えを深める。
関心・意欲・態度の観点 (V)	課題に関心を持ち、意欲的ならびに積極的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	学んだ知識を活かして、的確な表現および形式でレポート作成および口頭発表ができる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス／プロジェクトA 東京家政学院大学を紹介する1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	最初に授業内容を理解する。その後、東京家政学院大学の好きなところ、魅力的だと思うところを一言で表すテーマを考える。テーマを具体的に表す内容を挙げ、論理性があるかどうかを検証した上でワーク

第1回	**を含む)**	シートをまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論理性に関する課題をやる。授業中に作成したワークシートを検証し、修正する。
	教室外学習の時間（分）	190
第2回	**授業テーマ**	プロジェクトA 東京家政学院大学を紹介する2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アウトラインの作成方法を学び、悪いアウトラインを修正する練習を行う。その上で、東京家政学院大学を紹介するためのアウトラインを各自作成し、効果的な視覚情報の計画を立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アウトラインに関する課題をやる。自分のテーマに必要な視覚情報（写真）を撮影する。
	教室外学習の時間（分）	190
第3回	**授業テーマ**	プロジェクトA 東京家政学院大学を紹介する3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	PPTの作成方法を学び、各自のアウトラインにそってPPTを作成する。さらにPPTの修正についての練習をした上で、各自PPTの修正を行う。最後に口述原稿の作成方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	PPTを修正し、口述原稿を作成する。
	教室外学習の時間（分）	190
第4回	**授業テーマ**	プロジェクトA 東京家政学院大学を紹介する4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	口述原稿の修正に関する練習を行う。その後、自分の口述原稿の修正をする。最後に、発表および質疑応答の仕方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	口述原稿を修正し、発表の練習をする。
	教室外学習の時間（分）	190
第5回	**授業テーマ**	プロジェクトA 東京家政学院大学を紹介する５ プロジェクトB 要約1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プロジェクトAの発表を行う。発表後、相互に質疑応答をすることで学びを深めていく。その後、プロジェクトB「要約」に入り、要約の方法や表現（箇条書き等）を学んだ上で、ノートの取り方を練習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	複数の短い読み物についてノートを取る。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	プロジェクトB 要約2

第6回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の課題となっていたノートについてクラス全体で確認し、読解の内容および構成についての理解を深めていく。その際、構成とノートの関係に注目し、読み方についても学んでいく。複数の読み物からアウトラインを起こす練習をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	複数の短い読み物についてノートを取る。
	教室外学習の時間（分）	190
第7回	授業テーマ	プロジェクトB 要約3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の課題となっていたノートについてクラス全体で確認し、読解の内容および構成についての理解を深めていく。その後、試験の受け方および試験の解答の仕方や表現を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	複数の短い読み物についてノートを取る。
	教室外学習の時間（分）	190
第8回	授業テーマ	プロジェクトB 要約4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の課題のノートを使って、テストに解答する。解答をクラス全体で確認し、各自ノートの取り方、解答の仕方について不足だったを書き出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	複数の短い読み物についてノートを取る。
	教室外学習の時間（分）	190
第9回	授業テーマ	プロジェクトB 要約5／プロジェクトC 健康について考える1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の課題のノートを使って、テストに解答する。解答をクラス全体で確認し、各自ノートの取り方、解答の仕方について不足だったを書き出す。その後、プロジェクトCのテーマ「健康」について、プロジェクトAで学んだ知識を活かし、各自テーマを絞り込む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プロジェクトCのレポートのためのアウトラインを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190
第10回	授業テーマ	プロジェクトC 健康について考える2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アウトライン作成方法を復習し、悪いアウトラインの修正を練習した上で、各自のプロジェクトCのアウトラインを修正する。その後、テーマに関する文献に目を通し、自分のレポートに引用したい箇所を探す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	引用計画を加えたアウトラインを作成する。

	教室外学習の時間（分）	190
第11回	**授業テーマ**	プロジェクトC 健康について考える3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レポートの構成を学び、アウトラインとの関係をクラス全体で確認する。序論の構成を詳しく学び、序論を作成する。その後、引用の方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	引用II関する練習問題をやる。
	教室外学習の時間（分）	190
第12回	**授業テーマ**	プロジェクトC 健康について考える4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本論の構成と引用の使い方について詳しく学び、本論1を作成する。本論に関する練習問題をやり、クラス全体で確認した後、自分の本論の修正すべき点を書き出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本論1を修正し、本論2、本論3を作成する。
	教室外学習の時間（分）	190
第13回	**授業テーマ**	プロジェクトC 健康について考える5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	結論の構成および引用文献一覧について詳しく学ぶ。修正が必要な結論と引用文献一覧を修正する練習を行い、クラス全体で確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の結論と引用文献一覧を作成する。
	教室外学習の時間（分）	190
第14回	**授業テーマ**	プロジェクトC 健康について考える6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の結論と引用文献一覧について自己チェックリストを用いながら確認を行い、修正すべき点を書き出す。レポートに適切な表現に関する練習を行い、クラス全体で確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートの最終修正を行い、期日までに提出する。
	教室外学習の時間（分）	180

学生へのフィードバック方法

口頭および書面でのコメント

評価方法

課題（課題の完成度により評価する）

レポート（内容、構成、表現、形式の観点から評価する）
口頭発表（内容、構成、表現、形式、プレゼンテーションの観点から評価する）
平常点（発言、取り組みの姿勢により評価する）
※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○		
レポート	○	○	○	○
口頭発表	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

課題20% レポート30% 口頭発表30% 平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解の観点】テーマについての理解を深め、レポート作成、口頭発表のための知識を修得する。
【思考・判断の観点】レポートおよび口頭発表のテーマについて考えを深める。
【関心・意欲・態度の観点】テーマに関心を持ち、意欲的ならびに積極的に取り組む。
【技術・表現の観点】学んだ知識を活かして、的確な表現および形式でレポート作成および口頭発表ができる。

オフィスアワー

水曜日昼休み、4限

学生へのメッセージ

アカデミック・ジャパニーズでは、「日本語を勉強する」のではなく、「大学生として必要な技能を日本語で勉強する」ことになる。これまでの日本語習得のための学習とは異なることに注意し、課題を丁寧にこなしていくことを心がけて欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題を達成するために自主的に取り組む。ペアおよびグループでディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集の方法を学び、実践する。
ICT活用		

講義コード	G50901031
講義名	アカデミック・ジャパニーズ1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	留学生・1年次
必修・選択の別	1年次留学生必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	末松 史	指定なし

ナンバリング

X13910M22

授業概要(教育目的)

留学生が大学での勉強を全うするために必要な力を身につけることを目的としている。様々な課題に取り組む中で、「情報を的確に集め理解する」「理解した情報をもとに自分の考えをまとめる」「他者に分かりやすいように伝える」ための訓練をしていく。また、そのプロセスにおいて日本語能力の向上を図る。

履修条件

学則第59条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	課題についての理解を深め、レポート作成、口頭発表のための知識を修得する。
思考・判断の観点 (K)	課題についての情報を自分の考えを深める。
関心・意欲・態度の観点 (V)	課題に関心を持ち、意欲的ならびに積極的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	学んだ知識を活かして、的確な表現および形式でレポート作成および口頭発表ができる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス／プロジェクトA 東京家政学院大学を紹介する1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	最初に授業内容を理解する。その後、東京家政学院大学の好きなところ、魅力的だと思うところを一言で表すテーマを考える。テーマを具体的に表す内容を挙げ、論理性があるかどうかを検証した上でワーク

第1回	**を含む)**	シートをまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論理性に関する課題をやる。授業中に作成したワークシートを検証し、修正する。
	教室外学習の時間（分）	190
第2回	**授業テーマ**	プロジェクトA 東京家政学院大学を紹介する2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アウトラインの作成方法を学び、悪いアウトラインを修正する練習を行う。その上で、東京家政学院大学を紹介するためのアウトラインを各自作成し、効果的な視覚情報の計画を立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アウトラインに関する課題をやる。自分のテーマに必要な視覚情報（写真）を撮影する。
	教室外学習の時間（分）	190
第3回	**授業テーマ**	プロジェクトA 東京家政学院大学を紹介する3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	PPTの作成方法を学び、各自のアウトラインにそってPPTを作成する。さらにPPTの修正についての練習をした上で、各自PPTの修正を行う。最後に口述原稿の作成方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	PPTを修正し、口述原稿を作成する。
	教室外学習の時間（分）	190
第4回	**授業テーマ**	プロジェクトA 東京家政学院大学を紹介する4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	口述原稿の修正に関する練習を行う。その後、自分の口述原稿の修正をする。最後に、発表および質疑応答の仕方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	口述原稿を修正し、発表の練習をする。
	教室外学習の時間（分）	190
第5回	**授業テーマ**	プロジェクトA 東京家政学院大学を紹介する５ プロジェクトB 要約1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プロジェクトAの発表を行う。発表後、相互に質疑応答をすることで学びを深めていく。その後、プロジェクトB「要約」に入り、要約の方法や表現（箇条書き等）を学んだ上で、ノートの取り方を練習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	複数の短い読み物についてノートを取る。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	プロジェクトB 要約2

第6回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の課題となっていたノートについてクラス全体で確認し、読解の内容および構成についての理解を深めていく。その際、構成とノートの関係に注目し、読み方についても学んでいく。複数の読み物からアウトラインを起こす練習をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	複数の短い読み物についてノートを取る。
	教室外学習の時間（分）	190
第7回	授業テーマ	プロジェクトB 要約3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の課題となっていたノートについてクラス全体で確認し、読解の内容および構成についての理解を深めていく。その後、試験の受け方および試験の解答の仕方や表現を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	複数の短い読み物についてノートを取る。
	教室外学習の時間（分）	190
第8回	授業テーマ	プロジェクトB 要約4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の課題のノートを使って、テストに解答する。解答をクラス全体で確認し、各自ノートの取り方、解答の仕方について不足だったを書き出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	複数の短い読み物についてノートを取る。
	教室外学習の時間（分）	190
第9回	授業テーマ	プロジェクトB 要約5／プロジェクトC 健康について考える1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の課題のノートを使って、テストに解答する。解答をクラス全体で確認し、各自ノートの取り方、解答の仕方について不足だったを書き出す。その後、プロジェクトCのテーマ「健康」について、プロジェクトAで学んだ知識を活かし、各自テーマを絞り込む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プロジェクトCのレポートのためのアウトラインを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190
第10回	授業テーマ	プロジェクトC 健康について考える2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アウトライン作成方法を復習し、悪いアウトラインの修正を練習した上で、各自のプロジェクトCのアウトラインを修正する。その後、テーマに関する文献に目を通し、自分のレポートに引用したい箇所を探す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	引用計画を加えたアウトラインを作成する。

	教室外学習の時間（分）	190
第11回	**授業テーマ**	プロジェクトC 健康について考える3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レポートの構成を学び、アウトラインとの関係をクラス全体で確認する。序論の構成を詳しく学び、序論を作成する。その後、引用の方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	引用II関する練習問題をやる。
	教室外学習の時間（分）	190
第12回	**授業テーマ**	プロジェクトC 健康について考える4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本論の構成と引用の使い方について詳しく学び、本論1を作成する。本論に関する練習問題をやり、クラス全体で確認した後、自分の本論の修正すべき点を書き出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本論1を修正し、本論2、本論3を作成する。
	教室外学習の時間（分）	190
第13回	**授業テーマ**	プロジェクトC 健康について考える5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	結論の構成および引用文献一覧について詳しく学ぶ。修正が必要な結論と引用文献一覧を修正する練習を行い、クラス全体で確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の結論と引用文献一覧を作成する。
	教室外学習の時間（分）	190
第14回	**授業テーマ**	プロジェクトC 健康について考える6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の結論と引用文献一覧について自己チェックリストを用いながら確認を行い、修正すべき点を書き出す。レポートに適切な表現に関する練習を行い、クラス全体で確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートの最終修正を行い、期日までに提出する。
	教室外学習の時間（分）	180

学生へのフィードバック方法

口頭および書面でのコメント

評価方法

課題（課題の完成度により評価する）

レポート（内容、構成、表現、形式の観点から評価する）
口頭発表（内容、構成、表現、形式、プレゼンテーションの観点から評価する）
平常点（発言、取り組みの姿勢により評価する）
※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○		
レポート	○	○	○	○
口頭発表	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

課題20% レポート30% 口頭発表30% 平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解の観点】テーマについての理解を深め、レポート作成、口頭発表のための知識を修得する。
【思考・判断の観点】レポートおよび口頭発表のテーマについて考えを深める。
【関心・意欲・態度の観点】テーマに関心を持ち、意欲的ならびに積極的に取り組む。
【技術・表現の観点】学んだ知識を活かして、的確な表現および形式でレポート作成および口頭発表ができる。

オフィスアワー

アポイントによる。

学生へのメッセージ

アカデミック・ジャパニーズでは、「日本語を勉強する」のではなく、「大学生として必要な技能を日本語で勉強する」ことになる。これまでの日本語習得のための学習とは異なることに注意し、課題を丁寧にこなしていくことを心がけて欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題を達成するために自主的に取り組む。ペアおよびグループでディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集の方法を学び、実践する。
ICT活用		

講義コード	G50902001
講義名	アカデミック・ジャパニーズ2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	留学生・1年次
必修・選択の別	1年次留学生必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	森 朋子	指定なし

ナンバリング

X13920M22

授業概要(教育目的)

留学生が大学での勉強を全うするために必要な日本語能力は、日常生活で体験的に身につくものではない。「アカデミック・ジャパニーズ」では、「ノートを取る」「文献を調べる」「文献を読む」「レポートを作成する」「口頭発表をする」等のスキルを総合的に学ぶ過程において、日本語能力および思考力を高めていく。

履修条件

学則第59条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	テーマについての理解を深め、レポート作成、口頭発表のための知識を修得する。
思考・判断の観点 (K)	レポートおよび口頭発表のテーマについて考えを深める。
関心・意欲・態度の観点 (V)	テーマに関心を持ち、意欲的ならびに積極的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	学んだ知識を活かして、的確な表現および形式でレポート作成および口頭発表ができる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス／プロジェクトA 個人研究1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	まずは、授業内容を理解する。その後、テーマの決定の方法を復習し、レポート作成および口頭発表のため自分の専攻に関わるテーマを絞り込む。アウトライン作成の方法をクラス全体で復習する。

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートのアウトラインを作成する。
	教室外学習の時間(分)	190
第2回	**授業テーマ**	プロジェクトA 個人研究2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文献検索の方法を学び、実際に図書館で文献収集を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	引用計画を加えたアウトラインを作成する。
	教室外学習の時間(分)	190
第3回	**授業テーマ**	プロジェクトA 個人研究3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	引用の方法を練習を通して復習し、クラス全体で確認する。各自収集した文献について、引用する部分をノートに取る。その後、他者にノートを見てもらい、内容が分かるかどうかを確認してもらう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	序論と本論1を作成する。
	教室外学習の時間(分)	190
第4回	**授業テーマ**	プロジェクトA 個人研究4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レポートの構成についての練習を行い、クラス全体で確認する。その後、自分のレポートを修正する。引用文献一覧の作成について、クラス全体で復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートを修正し、引用文献一覧まで作成する。
	教室外学習の時間(分)	190
第5回	**授業テーマ**	プロジェクトA 個人研究5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レポートに適する表現についての練習を行い、クラス全体で確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートを修正し、完成する。
	教室外学習の時間(分)	190
第6回	**授業テーマ**	プロジェクトA 個人研究6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	PPTおよび口述原稿の作成についてクラス全体で復習する。その後、自分のPPTおよび口述原稿を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	PPTおよび口述原稿を修正する。
	教室外学習の時間(分)	190
	授業テーマ	プロジェクトA 個人研究7／プロジェクトB SDGsについて考える1

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発表および質疑応答についての練習を行う。その後、プロジェクトB SDGsについて学び、自分のテーマを絞り込む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をする。SDGsについての自分のテーマについて、文献収集をする。
	教室外学習の時間(分)	190
第8回	授業テーマ	プロジェクトA 個人研究8／プロジェクトB SDGsについて考える2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個人研究の発表を行い、質疑応答で発表内容についての学びを深める。その後、SDGsについて、レポートのアウトラインを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アウトラインを修正し、文献収集をする。
	教室外学習の時間(分)	190
第9回	授業テーマ	プロジェクトB SDGsについて考える3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集した文献のノートを取り、引用計画を加えたアウトラインを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートの下書き1を作成する。
	教室外学習の時間(分)	190
第10回	授業テーマ	プロジェクトB SDGsについて考える4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	SDGsに関する映像を視聴する。コメントをまとめ、各自のテーマとどのようにつながっているかをディスカッションすることで、自分のテーマについての理解を深めていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートを修正する。
	教室外学習の時間(分)	190
第11回	授業テーマ	プロジェクトB SDGsについて考える5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映像のテーマと同一のレポートについて、どのように修正することで内容が深められるかを考え、クラス全体で確認する。レポートに適する表現についての練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートを修正し、完成する。
	教室外学習の時間(分)	190
第12回	授業テーマ	プロジェクトB SDGsについて考える6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	PPTおよび口述原稿の作成方法をクラス全体で確認し、質疑応答の練習をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	PPTと口述原稿を作成する。

	教室外学習の時間（分）	190
第13回	**授業テーマ**	プロジェクトB SDGsについて考える7
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	PPTおよび口述原稿修正の練習を行い、クラス全体で確認する。 その後、自分のPPTと口述原稿を修正する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をする。
	教室外学習の時間（分）	190
第14回	**授業テーマ**	プロジェクトB SDGsについて考える8
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個人研究の発表を行い、質疑応答で発表内容についての学びを深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の発表を振り返り、改善点をワークシートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180

学生へのフィードバック方法

口頭および書面でのコメント

評価方法

課題（課題の完成度により評価する）
グループ発表（内容、構成、表現、形式、プレゼンテーション、協働の姿勢により評価する）
個人研究（レポートおよび発表の内容、構成、表現、形式、プレゼンテーションにより評価する）
平常点（発言、取り組みの姿勢により評価する）
※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○		○
グループ発表	○	○		○
個人研究	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

課題20% 発表30% 個人研究30% 平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解の観点】テーマについての理解を深め、レポート作成、口頭発表のための知識を修得する。
【思考・判断の観点】レポートおよび口頭発表のテーマについて考えを深める。

【関心・意欲・態度の観点】テーマに関心を持ち、意欲的ならびに積極的に取り組む。
【技術・表現の観点】学んだ知識を活かして、的確な表現および形式でレポート作成および口頭発表ができる。

オフィスアワー

水曜日昼休み、3限

学生へのメッセージ

課題を達成するために必要な日本語に自分で気づき、調べ、身につけていってほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題を達成するために自主的に取り組む。ペアおよびグループでディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集の方法を学び、実践する。
ICT活用		

講義コード	G50902031
講義名	アカデミック・ジャパニーズ2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	留学生・1年次
必修・選択の別	1年次留学生必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	末松 史	指定なし

ナンバリング

X13920M22

授業概要(教育目的)

留学生が大学での勉強を全うするために必要な日本語能力は、日常生活で体験的に身につくものではない。「アカデミック・ジャパニーズ」では、「ノートを取る」「文献を調べる」「文献を読む」「レポートを作成する」「口頭発表をする」等のスキルを総合的に学ぶ過程において、日本語能力および思考力を高めていく。

履修条件

学則第59条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	テーマについての理解を深め、レポート作成、口頭発表のための知識を修得する。
思考・判断の観点 (K)	レポートおよび口頭発表のテーマについて考えを深める。
関心・意欲・態度の観点 (V)	テーマに関心を持ち、意欲的ならびに積極的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	学んだ知識を活かして、的確な表現および形式でレポート作成および口頭発表ができる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス／プロジェクトA 個人研究1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	まずは、授業内容を理解する。その後、テーマの決定の方法を復習し、レポート作成および口頭発表のため自分の専攻に関わるテーマを絞り込む。アウトライン作成の方法をクラス全体で復習する。

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートのアウトラインを作成する。
	教室外学習の時間(分)	190
第2回	**授業テーマ**	プロジェクトA 個人研究2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文献検索の方法を学び、実際に図書館で文献収集を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	引用計画を加えたアウトラインを作成する。
	教室外学習の時間(分)	190
第3回	**授業テーマ**	プロジェクトA 個人研究3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	引用の方法を練習を通して復習し、クラス全体で確認する。各自収集した文献について、引用する部分をノートに取る。その後、他者にノートを見てもらい、内容が分かるかどうかを確認してもらう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	序論と本論1を作成する。
	教室外学習の時間(分)	190
第4回	**授業テーマ**	プロジェクトA 個人研究4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レポートの構成についての練習を行い、クラス全体で確認する。その後、自分のレポートを修正する。引用文献一覧の作成について、クラス全体で復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートを修正し、引用文献一覧まで作成する。
	教室外学習の時間(分)	190
第5回	**授業テーマ**	プロジェクトA 個人研究5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レポートに適する表現についての練習を行い、クラス全体で確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートを修正し、完成する。
	教室外学習の時間(分)	190
第6回	**授業テーマ**	プロジェクトA 個人研究6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	PPTおよび口述原稿の作成についてクラス全体で復習する。その後、自分のPPTおよび口述原稿を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	PPTおよび口述原稿を修正する。
	教室外学習の時間(分)	190
	授業テーマ	プロジェクトA 個人研究7／プロジェクトB SDGsについて考える1

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発表および質疑応答についての練習を行う。その後、プロジェクトB SDGsについて学び、自分のテーマを絞り込む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をする。SDGsについての自分のテーマについて、文献収集をする。
	教室外学習の時間(分)	190
第8回	授業テーマ	プロジェクトA 個人研究8／プロジェクトB SDGsについて考える2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個人研究の発表を行い、質疑応答で発表内容についての学びを深める。その後、SDGsについて、レポートのアウトラインを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アウトラインを修正し、文献収集をする。
	教室外学習の時間(分)	190
第9回	授業テーマ	プロジェクトB SDGsについて考える3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集した文献のノートを取り、引用計画を加えたアウトラインを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートの下書き1を作成する。
	教室外学習の時間(分)	190
第10回	授業テーマ	プロジェクトB SDGsについて考える4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	SDGsに関する映像を視聴する。コメントをまとめ、各自のテーマとどのようにつながっているかをディスカッションすることで、自分のテーマについての理解を深めていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートを修正する。
	教室外学習の時間(分)	190
第11回	授業テーマ	プロジェクトB SDGsについて考える5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映像のテーマと同一のレポートについて、どのように修正することで内容が深められるかを考え、クラス全体で確認する。レポートに適する表現についての練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートを修正し、完成する。
	教室外学習の時間(分)	190
第12回	授業テーマ	プロジェクトB SDGsについて考える6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	PPTおよび口述原稿の作成方法をクラス全体で確認し、質疑応答の練習をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	PPTと口述原稿を作成する。

	教室外学習の時間（分）	190
第13回	**授業テーマ**	プロジェクトB SDGsについて考える7
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	PPTおよび口述原稿修正の練習を行い、クラス全体で確認する。 その後、自分のPPTと口述原稿を修正する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をする。
	教室外学習の時間（分）	190
第14回	**授業テーマ**	プロジェクトB SDGsについて考える8
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個人研究の発表を行い、質疑応答で発表内容についての学びを深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の発表を振り返り、改善点をワークシートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180

学生へのフィードバック方法

口頭および書面でのコメント

評価方法

課題（課題の完成度により評価する）
グループ発表（内容、構成、表現、形式、プレゼンテーション、協働の姿勢により評価する）
個人研究（レポートおよび発表の内容、構成、表現、形式、プレゼンテーションにより評価する）
平常点（発言、取り組みの姿勢により評価する）
※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○		○
グループ発表	○	○		○
個人研究	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

課題20% 発表30% 個人研究30% 平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解の観点】テーマについての理解を深め、レポート作成、口頭発表のための知識を修得する。
【思考・判断の観点】レポートおよび口頭発表のテーマについて考えを深める。

【関心・意欲・態度の観点】テーマに関心を持ち、意欲的ならびに積極的に取り組む。
【技術・表現の観点】学んだ知識を活かして、的確な表現および形式でレポート作成および口頭発表ができる。

オフィスアワー

アポイントによる。

学生へのメッセージ

課題を達成するために必要な日本語に自分で気づき、調べ、身につけていってほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題を達成するために自主的に取り組む。ペアおよびグループでディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集の方法を学び、実践する。
ICT活用		

講義コード	G50905001
講義名	日本語ラボａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	留学生・1年次
必修・選択の別	選択
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13940M12

授業概要(教育目的)

コミュニケーションに支障なく外国語を使えるレベルに達すると、それ以上の上達が困難になる「化石化」が起こるが、大学入学後の留学生はまさにその時期に当たる。日本語ラボでは、日常的な話題で日本語を使うことによって「化石化」を打破し、より高度でより自然な日本語の習得を目指していく。

履修条件

学則第54条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。
思考・判断の観点 (K)	コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業内容や方法を確認し、自己紹介をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本語で苦手な音、アクセント、言いにくい言葉を書き出す。
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	日本語の音声
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆ	

第2回	ﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本語の音声の体系および母語別の難しい音について知り、実際に声に出して練習をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題文を声に出して読む練習する。
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	授業テーマ	日本語のアクセント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本語のアクセントの体系を知り、実際に声に出して練習をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題文を声に出して読む練習する。
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	授業テーマ	東京家政学院大学探検1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	東京家政学院大学の設立、現在の学部学科構成について学び、クラス全体で町田キャンパスの平面図を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	平面図の中で一番気になったところについて知りたいことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	授業テーマ	東京家政学院大学探検2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自町田キャンパスで気になったところについて発表し、相互に知りたいことについてアイディを深めていく。インタビューのやりかたを学び、インタビュー表を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	インタビューの練習をする。
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	授業テーマ	東京家政学院大学探検3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の前半に関係者へ30分程度のインタビューを行う（写真も撮る）。後半では、パワーポイントの作成の仕方を学び、インタビューの内容をパワーポイントにまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パワーポイントを完成する。
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	授業テーマ	東京家政学院大学探検4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	口述原稿の作り方を学び、インタビューの口述原稿を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をする。
	教室外学習の時間（分）	45
第8回	授業テーマ	東京家政学院大学探検5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自パワーポイントを使って発表する。相互に質問やコメントをすることで話題を発展させていく。

	教室外学習(予習・復習)の内容	東京家政学院大学のキャンプスについて紹介する手紙を書く。
	教室外学習の時間(分)	45
第9回	**授業テーマ**	ふるさとの思い出1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ふるさとの思い出のモデル発表をきく。自分の発表についてアウトラインを立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表のパワーポイントの準備をする。
	教室外学習の時間(分)	45
第10回	**授業テーマ**	ふるさとの思い出2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ふるさとの思い出を紹介するために必要な表現、文法、語彙を学び、口述原稿を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	口述原稿を完成する。
	教室外学習の時間(分)	45
第11回	**授業テーマ**	ふるさとの思い出3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	効果的なプレゼンテーションの方法について学び、質疑応答の練習をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をする。
	教室外学習の時間(分)	45
第12回	**授業テーマ**	ふるさとの思い出4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自パワーポイントを使って発表する。相互に質問やコメントをすることで話題を発展させていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	他の人のふるさとの思い出をきいた感想をまとめる。
	教室外学習の時間(分)	45
第13回	**授業テーマ**	レシピ1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レシピの書き方を学び、クラスで紹介したい自国料理のレシピを作る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	写真を入れたレシピを完成する。
	教室外学習の時間(分)	45
第14回	**授業テーマ**	レシピ2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自パワーポイントを使って発表する。相互に質問やコメントをすることで話題を発展させていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	クラスで紹介されたレシピのうちひとつを選び、実際に作る。

	教室外学習の時間（分）	45

学生へのフィードバック方法

口頭および書面によるコメント

評価方法

発表（内容、構成、表現、形式、プレゼンテーションにより評価）
課題（課題の達成度により評価）
平常点（発言、協働作業時の調整力、取り組みの姿勢により評価）
※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
発表	○	○	○	○
課題	○	○	○	
平常点	○	○	○	○

評価割合

発表（3回）60% 課題20% 平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解の観点】コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。
【思考・判断の観点】コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。
【関心・意欲・態度の観点】日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。
【技術・表現の観点】自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。

オフィスアワー

月曜日昼休み、火曜日3限（前期）

学生へのメッセージ

日本語を真のコミュニケーションで使うための練習を重ねていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自主的な課題設定。ディスカッション。実技をともなう交流。
情報リテラシー教育	○	情報収集や図書館の利用。
ICT活用		

講義コード	G50905031
講義名	日本語ラボａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	留学生・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13940C12

授業概要(教育目的)

コミュニケーションに支障なく外国語を使えるレベルに達すると、それ以上の上達が困難になる「化石化」が起こるが、大学入学後の留学生はまさにその時期に当たる。日本語ラボでは、「真のコミュニケーションで日本語を使う」という体験を重ねることで、「化石化」を打破し、場面にあった適確な表現ができるよう、日本語のバリエーション習得を目指していく。

履修条件

学則第54条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。
思考・判断の観点 (K)	コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。

学習計画

日本語ラボa c

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス バイトをしようI
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業説明 バイトをしたいと思ったとき
	教室外学習(予習・復習)の内容	実際にバイトを探してみよう。
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	バイトをしようII

第2回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	履歴書の準備(履歴書について調べる) 企業調査 何を書くのか考える・調べる
	教室外学習(予習・復習)の内容	希望勤務地、希望理由を書いてくる
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	**授業テーマ**	バイトを探そう！
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	履歴書作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	履歴書を仕上げる
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	**授業テーマ**	バイトを探そう
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	メールで履歴書を送ろう 敬語
	教室外学習(予習・復習)の内容	面接について調べよう
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	**授業テーマ**	バイトをしよう
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	面接の準備 敬語
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で行った自己分析やリフレーミングを使って 面接で自己PRができるように準備してくること
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	**授業テーマ**	バイトをしよう
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	面接ロールプレイ
	教室外学習(予習・復習)の内容	面接の練習
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	**授業テーマ**	電話対応
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	電話で問い合わせる
	教室外学習(予習・復習)の内容	色々なシチュエーションを考えてくる
	教室外学習の時間（分）	45
第8回	**授業テーマ**	電話対応
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	メール対応
	教室外学習(予習・復習)の内容	ビジネスメールの例文等を調べる
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	**授業テーマ**	日本語の音声
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イントネーションとアクセント 自分の音読を録音する
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の録音を聞いてきて気になる発音をメモしておく
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	ディクトクロス①

第10回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	会話を聞いて、(動画を見て)会話を再現する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	動画を視聴して、自分がききとれなかった箇所の復習をする。
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	授業テーマ	ロールプレイ①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	言葉のバリエーション(敬語、タメ語等)を使わなければいけない場面を設定しロールプレイをする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	録画を見て自分がタメ語と敬語の使い分けがきちんとできているか確認
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	授業テーマ	ディクトクロス2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	会話を聞いて、(動画を見て)会話を再現する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	口頭で説明する練習を続ける。
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	授業テーマ	ロールプレイ2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	言葉のバリエーション(敬語、タメ語等)を使わなければいけない場面を設定しロールプレイをする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	面接で出てきた敬語表現等の復習
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	授業テーマ	ロールプレイ③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロールプレイ
	教室外学習(予習・復習)の内容	成果報告の発表の準備をする
	教室外学習の時間（分）	45
第15回	授業テーマ	総括
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	何を学んで実生活でどのような役にたつようになるか
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後アンケート
	教室外学習の時間（分）	45

学習計画注記

ロールプレイをメイン活動としそれに準じた活動をします。

学生へのフィードバック方法

口頭および書面によるコメント

評価方法

課題（課題の達成度により評価）
ポートフォリオ（課題設定、練習の記録、整理・分類により評価）
平常点（発言、協働作業時の調整力、取り組みの姿勢により評価）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

課題	○			
ポートフォリオ			○	○
平常点	○	○	○	

評価割合

発表（２回）５０％ 課題１０％ ポートフォリオ２０％ 平常点２０％

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解の観点】コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。
【思考・判断の観点】コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。
【関心・意欲・態度の観点】日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。
【技術・表現の観点】自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。

オフィスアワー

水曜日５限（後期）

学生へのメッセージ

日本語をコミュニケーションで使う経験を重ねていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自主的な課題設定。ディスカッション。実技をともなう交流。
情報リテラシー教育	○	情報収集や図書館の利用。
ICT活用	○	IT機器を駆使し、情報収集や情報発信を行う。 JAMBORD等

講義コード	G50906001
講義名	日本語ラボｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	留学生・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13950M12

授業概要(教育目的)

コミュニケーションに支障なく外国語を使えるレベルに達すると、それ以上の上達が困難になる「化石化」が起こるが、大学入学後の留学生はまさにその時期に当たる。日本語ラボでは、日常的な話題で日本語を使うことで、「化石化」を打破し、より高度でより自然な日本語の習得を目指していく。

履修条件

学則第54条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。
思考・判断の観点 (K)	コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業内容や方法について確認する。自己紹介をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	相原町の地図を見て、気になるところに○をつけてくる。
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	相原探検１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第2回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	相原の地図で気になった場所について、お互いに情報交換する。インターネットでその場所について調べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	その場所を紹介するパワーポイントを作成する。可能であればその場所を訪れて写真を撮る。
	教室外学習の時間(分)	45
第3回	授業テーマ	相原探検2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	相原探検のモデル発表をきき、口述原稿の作り方について確認する。口述原稿を作る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をする。
	教室外学習の時間(分)	45
第4回	授業テーマ	相原探検3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自パワーポイントを使って発表する。相互に質問やコメントをすることで話題を発展させていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	相原の魅力について作文を書く。
	教室外学習の時間(分)	45
第5回	授業テーマ	日本人にインタビューする1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	話を聞いてみたい日本人の性別、年齢、職業などをリストアップし、質問を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	インタビューの質問をリストにまとめる。
	教室外学習の時間(分)	45
第6回	授業テーマ	日本人にインタビューする2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自考えてきたインタビューの質問を発表する。クラスメートの質問や意見を参考に質問事項を修正・追加する。インタビューの依頼の仕方も学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	インタビューの相手に依頼文を送る。
	教室外学習の時間(分)	45
第7回	授業テーマ	日本人にインタビューする3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パワーポイントの作成方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	インタビューを実施する。
	教室外学習の時間(分)	45
第8回	授業テーマ	日本人にインタビューする4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インタビュー報告のモデル発表をきき、パワーポイント、口述原稿作成上の注意点を学ぶ。

	教室外学習(予習・復習)の内容	インタビューを実施する。
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	**授業テーマ**	日本人にインタビューする5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インタビューの結果について、パワーポイントと口述原稿を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をする。
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	**授業テーマ**	日本人にインタビューする6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自パワーポイントを使い、インタビューの結果を報告する。相互に質問やコメントをすることで考察を深めていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	お正月の思い出を箇条書きでまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	**授業テーマ**	お正月の思い出１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お正月の思い出の発表のアウトラインを立てる。パワーポイントの計画をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パワーポイントに使う写真を集める。
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	**授業テーマ**	お正月の思い出2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お正月の思い出のモデル発表を聞き、質疑応答をする。自分の発表のブックを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ブックを完成する。
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	お正月の思い出3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発表のためのブックを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ブックを完成する。
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	**授業テーマ**	お正月の思い出4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自のお正月の思い出のブックを見ながら、作成者が朗読する。相互に質問やコメントをすることで考察を深めていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	他の人のブックからひとつを選び感想を書く。

	教室外学習の時間（分）	45

学生へのフィードバック方法

口頭および書面によるコメント

評価方法

発表（内容、構成、表現、形式、プレゼンテーションにより評価）
課題（課題の完成度により評価）
平常点（発言、協働作業時の調整力、取り組みの姿勢により評価）
※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
発表	○	○	○	○
課題	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

発表（3回）60%
課題 20%
平常点 20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解の観点】コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。
【思考・判断の観点】コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。
【関心・意欲・態度の観点】日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。
【技術・表現の観点】自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。

オフィスアワー

月曜日 昼休み＆3限（後期）

学生へのメッセージ

真のコミュニケーションで日本語を使う体験を積み重ねていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自主的な課題設定。ディスカッション。
情報リテラシー教育	○	情報収集や図書館の利用。
ICT活用		

講義コード	G50906031
講義名	日本語ラボｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	留学生・1年次
必修・選択の別	選択
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13950C12

授業概要(教育目的)

あるテーマについて専門的な文章(JLPT１級相応)を読み、それについて話し合い、調べ、まとめる力をつける。

履修条件

学則第54条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	コミュニケーションを通し、学びを深めるための知識を修得する。
思考・判断の観点 (K)	コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	専門的な文章(JLPT１級相応)を読み、それについて話し合い、調べ、まとめる力をつける。

学習計画

日本語ラボｂｄ

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス 考えるI
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業内容の説明 テーマについての話す⇒読解⇒内容確認
	教室外学習(予習・復習)の内容	内容確認を仕上げる
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	考えるII
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	内容確認

第2回	育・ICT活用を含む)	発展 話し合い
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の考えをまとめる(作文)
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	授業テーマ	調べるI
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エコについて話し合う 読解
	教室外学習(予習・復習)の内容	内容確認
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	授業テーマ	調べるII
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	SDG'Sについて調べる
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチをまとめる
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	授業テーマ	調べるIII
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調べた内容を発表
	教室外学習(予習・復習)の内容	その内容をふまえてまとめる
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	授業テーマ	発表I
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会問題に関する文章を読む 話し合う
	教室外学習(予習・復習)の内容	内容確認(筆者の主張を理解する)
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	授業テーマ	発表II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考察を深める(話し合う、調べる) 立ち位置を決めて主張を展開する
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の考えをさらに掘り下げる
	教室外学習の時間（分）	45
第8回	授業テーマ	発表I
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考え、調べ、話し合ったことを発表
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の改善点(次回に向けて)
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	授業テーマ	「〇〇と私」自分のことばをつくる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーマ設定と仮タイトル決定
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマについて考えてくる
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	授業テーマ	「〇〇と私」自分のことばをつくるＩＩ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動機メモ作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	動機メモの仕上げ
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	授業テーマ	「〇〇と私」自分のことばをつくるIII
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対話
	教室外学習(予習・復習)の内容	教師以外の人と同じことをしてくる。

	教室外学習の時間（分）	45
第12回	**授業テーマ**	「〇〇と私」自分のことばをつくるIV
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	話合った結果の報告⇒自分の結論を導く
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の結論を考えて書く
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	「〇〇と私」自分のことばをつくるV
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	結論をクラスで検討 レポート作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポート作成の続き
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	**授業テーマ**	「〇〇と私」自分のことばをつくるVI
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レポートの発表 相互評価
	教室外学習(予習・復習)の内容	自己評価
	教室外学習の時間（分）	45
第15回	**授業テーマ**	総括
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	この授業で学んだことを今後どう活かせることができるのか考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アンケート
	教室外学習の時間（分）	45

学習計画注記

あるテーマについて、文章を読み、それについて話し合う、考え、調べ、纏める、大学で必要な勉強の仕方を学び授業です。また大学だけでなく自分のテーマを見つける試みもこの授業の目指すところです。
授業で終わらなかったことが課題になりますが、基本的に授業時間内に課題に取り組む時間を設けます。

学生へのフィードバック方法

口頭および書面によるコメント

評価方法

発表（1回）（内容、構成、表現、形式により評価）
ポートフォリオ
平常点（発言、協働作業時の調整力、取り組みの姿勢により評価）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
報告・発表	〇	〇	〇	〇
課題	〇			
ポートフォリオ			〇	〇
平常点	〇	〇	〇	

評価割合

報告・発表（１回）５０％ 課題１０％ ポートフォリオ２０％ 平常点２０％

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

話す・書くにつながる　日本語読解中上級、小野恵久子他著アルク

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解の観点】コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。
【思考・判断の観点】コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。
【関心・意欲・態度の観点】日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。
【技術・表現の観点】自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。

オフィスアワー

水曜日５限

学生へのメッセージ

受け身ではない学習の仕方を身に着けていきましょう。
自分で調べ、自分で考え、それを他者と話し合うことによりさらに学びを深めていきましょう。
テスト等はありません。良し悪しを評価するわけではなくいかに課題に真剣に取り組むかというところが
評価のカギになってきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自分で調べ、話し合い、考える
情報リテラシー教育	○	情報収集や図書館の利用。
ICT活用	○	IT機器を駆使し、情報収集や情報発信を行う。 JAMBORD等

講義コード	G50908031
講義名	日本語ラボｄ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	留学生・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

X13950C12

授業概要(教育目的)

あるテーマについて専門的な文章(JLPT１級相応)を読み、それについて話し合い、調べ、まとめる力をつける。

履修条件

学則第54条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	コミュニケーションを通し、学びを深めるための知識を修得する。
思考・判断の観点 (K)	コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	専門的な文章(JLPT１級相応)を読み、それについて話し合い、調べ、まとめる力をつける。

学習計画

日本語ラボｂｄ

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス 考えるI
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業内容の説明 テーマについての話す⇒読解⇒内容確認
	教室外学習(予習・復習)の内容	内容確認を仕上げる
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	考えるII
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	内容確認

第2回	育・ICT活用を含む)	発展 話し合い
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の考えをまとめる(作文)
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	授業テーマ	調べるI
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エコについて話し合う 読解
	教室外学習(予習・復習)の内容	内容確認
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	授業テーマ	調べるII
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	SDG'Sについて調べる
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチをまとめる
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	授業テーマ	調べるIII
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調べた内容を発表
	教室外学習(予習・復習)の内容	その内容をふまえてまとめる
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	授業テーマ	発表I
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会問題に関する文章を読む 話し合う
	教室外学習(予習・復習)の内容	内容確認(筆者の主張を理解する)
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	授業テーマ	発表II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考察を深める(話し合う、調べる) 立ち位置を決めて主張を展開する
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の考えをさらに掘り下げる
	教室外学習の時間（分）	45
第8回	授業テーマ	発表I
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考え、調べ、話し合ったことを発表
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の改善点(次回に向けて)
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	授業テーマ	「〇〇と私」自分のことばをつくる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーマ設定と仮タイトル決定
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマについて考えてくる
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	授業テーマ	「〇〇と私」自分のことばをつくるＩＩ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動機メモ作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	動機メモの仕上げ
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	授業テーマ	「〇〇と私」自分のことばをつくるIII
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対話
	教室外学習(予習・復習)の内容	教師以外の人と同じことをしてくる。

	教室外学習の時間（分）	45
第12回	**授業テーマ**	「〇〇と私」自分のことばをつくるIV
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	話合った結果の報告⇒自分の結論を導く
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の結論を考えて書く
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	「〇〇と私」自分のことばをつくるV
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	結論をクラスで検討 レポート作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポート作成の続き
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	**授業テーマ**	「〇〇と私」自分のことばをつくるVI
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レポートの発表 相互評価
	教室外学習(予習・復習)の内容	自己評価
	教室外学習の時間（分）	45
第15回	**授業テーマ**	総括
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	この授業で学んだことを今後どう活かせることができるのか考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アンケート
	教室外学習の時間（分）	45

学習計画注記

あるテーマについて、文章を読み、それについて話し合う、考え、調べ、纏める、大学で必要な勉強の仕方を学び授業です。また大学だけでなく自分のテーマを見つける試みもこの授業の目指すところです。
授業で終わらなかったことが課題になりますが、基本的に授業時間内に課題に取り組む時間を設けます。

学生へのフィードバック方法

口頭および書面によるコメント

評価方法

発表（1回）（内容、構成、表現、形式により評価）
ポートフォリオ
平常点（発言、協働作業時の調整力、取り組みの姿勢により評価）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
報告・発表	〇	〇	〇	〇
課題	〇			
ポートフォリオ			〇	〇
平常点	〇	〇	〇	

評価割合

報告・発表（１回）５０％ 課題１０％ ポートフォリオ２０％ 平常点２０％

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

話す・書くにつながる　日本語読解中上級、小野恵久子他著アルク

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解の観点】コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。
【思考・判断の観点】コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。
【関心・意欲・態度の観点】日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。
【技術・表現の観点】自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。

オフィスアワー

水曜日５限

学生へのメッセージ

受け身ではない学習の仕方を身に着けていきましょう。
自分で調べ、自分で考え、それを他者と話し合うことによりさらに学びを深めていきましょう。
テスト等はありません。良し悪しを評価するわけではなくいかに課題に真剣に取り組むかというところが
評価のカギになってきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自分で調べ、話し合い、考える
情報リテラシー教育	○	情報収集や図書館の利用。
ICT活用	○	IT機器を駆使し、情報収集や情報発信を行う。 JAMBORD等

講義コード	G50909001
講義名	社会人としての日本語
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	留学生・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	内田 宗一	指定なし

ナンバリング

X13980M12

授業概要(教育目的)

留学生の中には、卒業後日本での就職や進学、母国での日本関連企業等への就職を希望する者が多い。本科目は、卒業後、日本と海外との架け橋として活躍する可能性のある学生に対し、社会人として求められる日本語力を養成することを目的としている。授業では、敬語の文型および用法を理解させた上で、実践を意識した練習を多く取り入れていく。また、日本語の言語表現を通して、日本人の思考形式への理解を深めさせ、日本社会における円滑なコミュニケーションの方法を身につけさせることをめざす。

履修条件

学則第59条に定める外国人留学生のみ履修可能。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自分の考えや感情を日本語で適切に表現する技術について理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	場面に応じた適切な日本語表現の使い分けを判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内活動（課題、音読、発表、ロールプレイング、質疑応答など）に積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	表現活動のさまざまな具体的な場に応じて適切な日本語表現を選択し、相手とコミュニケーションを取ることができる。

学習計画

	授業テーマ	敬語のしくみ

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	敬語の概念ならびに日本語の敬語のしくみについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	大学入学以前の経験も含め、これまでの日本語に関する学習を振り返り、必要に応じて復習および知識の再確認をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第2回	授業テーマ	日本語の敬語の分類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	敬語の分類にはさまざまな立場があることを知るとともに、その中でもっとも広く普及している三分法の考え方について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	授業テーマ	日本語の敬語の実践的練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特に間違えやすい敬語表現の具体的な形式について、練習問題を通じて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	電話応対の基本
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	社会人として仕事の場で受ける電話の応対について、注意すべき基本事項を理解する。

	用を含む)	
第4回	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45
第5回	授業テーマ	電話応対のマナー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会人として仕事の場で受ける電話の応対について、望ましい伝言の方法やメモの作り方を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45
第6回	授業テーマ	電話応対の実践的練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会人として仕事の場で受ける電話の応対について、練習問題やロールプレイングを通じて基本的な技術を習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45
第7回	授業テーマ	手紙の形式
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	手紙の書式の基本的な枠組みについて理解する。
	教室外学	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして

	習(予習・復習)の内容	自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45
第8回	**授業テーマ**	手紙に特有の日本語表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	頭語、結語、時候の挨拶などの、手紙に特有の日本語表現について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45
第9回	**授業テーマ**	手紙の書き方の実践的練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会人としての手紙の書き方について、練習問題を通じて基本的な技術を習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45
第10回	**授業テーマ**	履歴書の書き方の基本
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	就職活動の際に作成する履歴書の書き方について、注意すべき基本事項を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこ

		と。
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	**授業テーマ**	効果的な文章表現の工夫
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	履歴書の自己紹介部分について、読み手にアピールする上で効果的な文章表現の技術を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	**授業テーマ**	履歴書の書き方の実践的練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	履歴書の書き方について、練習問題を通じて基本的な技術を習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	面接の受け方の基本
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	就職活動の際の面接の受け方について、注意すべき基本事項を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間	45

	（分）	
第14回	**授業テーマ**	面接の受け方の実践的練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	面接の受け方について、練習問題やロールプレイングを通じて基本的な技術を習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

・毎回の授業において意見・感想等を記入して提出してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。

評価方法

・授業内課題は、以下のような観点から評価を行う。
①課題の意図を適切に理解できている。
②解答の内容に、十分な妥当性が認められる。
③自分の意見や感情をわかりやすく正確に表現することができている。
④設定された場面に応じた適切な日本語表現の使い分けができている。
・定期試験は50点満点で出題する。記述式問題を中心に選択肢式・穴埋め式等を適宜併用する。授業で扱った内容を十分に理解し、知識として定着しているか、また、その知識にもとづいて適切な日本語表現を判断し表現することができているかを確認することを目的とする。
・平常点は、授業内活動（課題、音読、発表、ロールプレイング、質疑応答など）への取り組み、意見・感想等の提出状況などによって評価する。
・成績評価はルーブリックにもとづいて行う。ルーブリックは授業内で配付して提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業内課題	○	○		○
定期試験	○	○		○
平常点			○	

評価割合

授業内課題40%、定期試験40%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし。必要に応じて資料を配付する。

参考図書

なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】日本語表現に関する豊かな知識を有している。
【思考・判断】場面に応じた日本語表現を的確に判断することができる。
【関心・意欲・態度】高い徳性をもって主体的に学ぶ姿勢を身につけている。
【技術・表現】学修で得た技術をもって、自分の考えや感情をわかりやすく日本語で表現し、他者に伝えることができる。

オフィスアワー

【千代田三番町キャンパス】
金曜3限 1703ゼミ室
【町田キャンパス】
相談がある場合は事前にメールでアポイントを取ること（町田キャンパスへの出校日は水曜日） 1609研究室

学生へのメッセージ

・出欠は、毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。
・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。
・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンス資料を配付して説明する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ロールプレイング、課題発表等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	文章表現技法、プレゼンテーション技法等の教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G50909031
講義名	社会人としての日本語
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	留学生・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	内田 宗一	指定なし

ナンバリング

X13980M12

授業概要(教育目的)

留学生の中には、卒業後日本での就職や進学、母国での日本関連企業等への就職を希望する者が多い。本科目は、卒業後、日本と海外との架け橋として活躍する可能性のある学生に対し、社会人として求められる日本語力を養成することを目的としている。授業では、敬語の文型および用法を理解させた上で、実践を意識した練習を多く取り入れていく。また、日本語の言語表現を通して、日本人の思考形式への理解を深めさせ、日本社会における円滑なコミュニケーションの方法を身につけさせることをめざす。

履修条件

学則第59条に定める外国人留学生のみ履修可能。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自分の考えや感情を日本語で適切に表現する技術について理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	場面に応じた適切な日本語表現の使い分けを判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内活動（課題、音読、発表、ロールプレイング、質疑応答など）に積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	表現活動のさまざまな具体的な場に応じて適切な日本語表現を選択し、相手とコミュニケーションを取ることができる。

学習計画

	授業テーマ	敬語のしくみ

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	敬語の概念ならびに日本語の敬語のしくみについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	大学入学以前の経験も含め、これまでの日本語に関する学習を振り返り、必要に応じて復習および知識の再確認をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第2回	授業テーマ	日本語の敬語の分類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	敬語の分類にはさまざまな立場があることを知るとともに、その中でもっとも広く普及している三分法の考え方について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	授業テーマ	日本語の敬語の実践的練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特に間違えやすい敬語表現の具体的な形式について、練習問題を通じて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	電話応対の基本
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	社会人として仕事の場で受ける電話の応対について、注意すべき基本事項を理解する。

	用を含む)	
第4回	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45
第5回	授業テーマ	電話応対のマナー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会人として仕事の場で受ける電話の応対について、望ましい伝言の方法やメモの作り方を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45
第6回	授業テーマ	電話応対の実践的練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会人として仕事の場で受ける電話の応対について、練習問題やロールプレイングを通じて基本的な技術を習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45
第7回	授業テーマ	手紙の形式
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	手紙の書式の基本的な枠組みについて理解する。
	教室外学	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして

	習(予習・復習)の内容	自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45
第8回	**授業テーマ**	手紙に特有の日本語表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	頭語、結語、時候の挨拶などの、手紙に特有の日本語表現について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45
第9回	**授業テーマ**	手紙の書き方の実践的練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会人としての手紙の書き方について、練習問題を通じて基本的な技術を習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45
第10回	**授業テーマ**	履歴書の書き方の基本
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	就職活動の際に作成する履歴書の書き方について、注意すべき基本事項を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこ

		と。
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	**授業テーマ**	効果的な文章表現の工夫
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	履歴書の自己紹介部分について、読み手にアピールする上で効果的な文章表現の技術を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	**授業テーマ**	履歴書の書き方の実践的練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	履歴書の書き方について、練習問題を通じて基本的な技術を習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	面接の受け方の基本
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	就職活動の際の面接の受け方について、注意すべき基本事項を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間	45

	（分）	
第14回	**授業テーマ**	面接の受け方の実践的練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	面接の受け方について、練習問題やロールプレイングを通じて基本的な技術を習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

・毎回の授業において意見・感想等を記入して提出してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。

評価方法

・授業内課題は、以下のような観点から評価を行う。
①課題の意図を適切に理解できている。
②解答の内容に、十分な妥当性が認められる。
③自分の意見や感情をわかりやすく正確に表現することができている。
④設定された場面に応じた適切な日本語表現の使い分けができている。
・定期試験は50点満点で出題する。記述式問題を中心に選択肢式・穴埋め式等を適宜併用する。授業で扱った内容を十分に理解し、知識として定着しているか、また、その知識にもとづいて適切な日本語表現を判断し表現することができているかを確認することを目的とする。
・平常点は、授業内活動（課題、音読、発表、ロールプレイング、質疑応答など）への取り組み、意見・感想等の提出状況などによって評価する。
・成績評価はルーブリックにもとづいて行う。ルーブリックは授業内で配付して提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業内課題	○	○		○
定期試験	○	○		○
平常点			○	

評価割合

授業内課題40%、定期試験40%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし。必要に応じて資料を配付する。

参考図書

なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】日本語表現に関する豊かな知識を有している。
【思考・判断】場面に応じた日本語表現を的確に判断することができる。
【関心・意欲・態度】高い徳性をもって主体的に学ぶ姿勢を身につけている。
【技術・表現】学修で得た技術をもって、自分の考えや感情をわかりやすく日本語で表現し、他者に伝えることができる。

オフィスアワー

【千代田三番町キャンパス】
金曜3限 1703ゼミ室
【町田キャンパス】
相談がある場合は事前にメールでアポイントを取ること（町田キャンパスへの出校日は水曜日） 1609研究室

学生へのメッセージ

・出欠は、毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。
・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。
・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンス資料を配付して説明する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ロールプレイング、課題発表等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	文章表現技法、プレゼンテーション技法等の教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G50910001
講義名	アカデミック・ジャパニーズ1（R7年度以降入学生）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	留学生・1年次
必修・選択の別	1年次留学生必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	森 朋子	指定なし

ナンバリング

X13910M22

授業概要(教育目的)

留学生が大学での勉強を全うするために必要な力を身につけることを目的としている。様々な課題に取り組む中で、「情報を的確に集め理解する」「理解した情報をもとに自分の考えをまとめる」「他者に分かりやすいように伝える」ための訓練をしていく。また、そのプロセスにおいて日本語能力の向上を図る。

履修条件

学則第59条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	課題についての理解を深め、レポート作成、口頭発表のための知識を修得する。
思考・判断の観点 (K)	課題についての情報を自分の考えを深める。
関心・意欲・態度の観点 (V)	課題に関心を持ち、意欲的ならびに積極的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	学んだ知識を活かして、的確な表現および形式でレポート作成および口頭発表ができる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス／プロジェクトA 東京家政学院大学を紹介する1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	最初に授業内容を理解する。その後、東京家政学院大学の好きなところ、魅力的だと思うところを一言で表すテーマを考える。テーマを具体的に表す内容を挙げ、論理性があるかどうかを検証した上でワーク

第1回	**を含む)**	シートをまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論理性に関する課題をやる。授業中に作成したワークシートを検証し、修正する。
	教室外学習の時間（分）	190
第2回	**授業テーマ**	プロジェクトA 東京家政学院大学を紹介する2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アウトラインの作成方法を学び、悪いアウトラインを修正する練習を行う。その上で、東京家政学院大学を紹介するためのアウトラインを各自作成し、効果的な視覚情報の計画を立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アウトラインに関する課題をやる。自分のテーマに必要な視覚情報（写真）を撮影する。
	教室外学習の時間（分）	190
第3回	**授業テーマ**	プロジェクトA 東京家政学院大学を紹介する3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	PPTの作成方法を学び、各自のアウトラインにそってPPTを作成する。さらにPPTの修正についての練習をした上で、各自PPTの修正を行う。最後に口述原稿の作成方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	PPTを修正し、口述原稿を作成する。
	教室外学習の時間（分）	190
第4回	**授業テーマ**	プロジェクトA 東京家政学院大学を紹介する4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	口述原稿の修正に関する練習を行う。その後、自分の口述原稿の修正をする。最後に、発表および質疑応答の仕方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	口述原稿を修正し、発表の練習をする。
	教室外学習の時間（分）	190
第5回	**授業テーマ**	プロジェクトA 東京家政学院大学を紹介する５ プロジェクトB 要約1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プロジェクトAの発表を行う。発表後、相互に質疑応答をすることで学びを深めていく。その後、プロジェクトB「要約」に入り、要約の方法や表現（箇条書き等）を学んだ上で、ノートの取り方を練習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	複数の短い読み物についてノートを取る。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	プロジェクトB 要約2

第6回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の課題となっていたノートについてクラス全体で確認し、読解の内容および構成についての理解を深めていく。その際、構成とノートの関係に注目し、読み方についても学んでいく。複数の読み物からアウトラインを起こす練習をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	複数の短い読み物についてノートを取る。
	教室外学習の時間（分）	190
第7回	授業テーマ	プロジェクトB 要約3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の課題となっていたノートについてクラス全体で確認し、読解の内容および構成についての理解を深めていく。その後、試験の受け方および試験の解答の仕方や表現を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	複数の短い読み物についてノートを取る。
	教室外学習の時間（分）	190
第8回	授業テーマ	プロジェクトB 要約4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の課題のノートを使って、テストに解答する。解答をクラス全体で確認し、各自ノートの取り方、解答の仕方について不足だったを書き出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	複数の短い読み物についてノートを取る。
	教室外学習の時間（分）	190
第9回	授業テーマ	プロジェクトB 要約5／プロジェクトC 健康について考える1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の課題のノートを使って、テストに解答する。解答をクラス全体で確認し、各自ノートの取り方、解答の仕方について不足だったを書き出す。その後、プロジェクトCのテーマ「健康」について、プロジェクトAで学んだ知識を活かし、各自テーマを絞り込む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プロジェクトCのレポートのためのアウトラインを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190
第10回	授業テーマ	プロジェクトC 健康について考える2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アウトライン作成方法を復習し、悪いアウトラインの修正を練習した上で、各自のプロジェクトCのアウトラインを修正する。その後、テーマに関する文献に目を通し、自分のレポートに引用したい箇所を探す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	引用計画を加えたアウトラインを作成する。

	教室外学習の時間（分）	190
第11回	**授業テーマ**	プロジェクトC 健康について考える3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レポートの構成を学び、アウトラインとの関係をクラス全体で確認する。序論の構成を詳しく学び、序論を作成する。その後、引用の方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	引用II関する練習問題をやる。
	教室外学習の時間（分）	190
第12回	**授業テーマ**	プロジェクトC 健康について考える4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本論の構成と引用の使い方について詳しく学び、本論1を作成する。本論に関する練習問題をやり、クラス全体で確認した後、自分の本論の修正すべき点を書き出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本論1を修正し、本論2、本論3を作成する。
	教室外学習の時間（分）	190
第13回	**授業テーマ**	プロジェクトC 健康について考える5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	結論の構成および引用文献一覧について詳しく学ぶ。修正が必要な結論と引用文献一覧を修正する練習を行い、クラス全体で確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の結論と引用文献一覧を作成する。
	教室外学習の時間（分）	190
第14回	**授業テーマ**	プロジェクトC 健康について考える6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の結論と引用文献一覧について自己チェックリストを用いながら確認を行い、修正すべき点を書き出す。レポートに適切な表現に関する練習を行い、クラス全体で確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートの最終修正を行い、期日までに提出する。
	教室外学習の時間（分）	180

学生へのフィードバック方法

口頭および書面でのコメント

評価方法

課題（課題の完成度により評価する）

レポート（内容、構成、表現、形式の観点から評価する）
口頭発表（内容、構成、表現、形式、プレゼンテーションの観点から評価する）
平常点（発言、取り組みの姿勢により評価する）
※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○		
レポート	○	○	○	○
口頭発表	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

課題20% レポート30% 口頭発表30% 平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解の観点】テーマについての理解を深め、レポート作成、口頭発表のための知識を修得する。
【思考・判断の観点】レポートおよび口頭発表のテーマについて考えを深める。
【関心・意欲・態度の観点】テーマに関心を持ち、意欲的ならびに積極的に取り組む。
【技術・表現の観点】学んだ知識を活かして、的確な表現および形式でレポート作成および口頭発表ができる。

オフィスアワー

水曜日昼休み、4限

学生へのメッセージ

アカデミック・ジャパニーズでは、「日本語を勉強する」のではなく、「大学生として必要な技能を日本語で勉強する」ことになる。これまでの日本語習得のための学習とは異なることに注意し、課題を丁寧にこなしていくことを心がけて欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題を達成するために自主的に取り組む。ペアおよびグループでディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集の方法を学び、実践する。
ICT活用		

講義コード	G50911001
講義名	アカデミック・ジャパニーズ2（R7年度以降入学生用）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	留学生・1年次
必修・選択の別	1年次留学生必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	森 朋子	指定なし

ナンバリング

X13920M22

授業概要(教育目的)

留学生が大学での勉強を全うするために必要な日本語能力は、日常生活で体験的に身につくものではない。「アカデミック・ジャパニーズ」では、「ノートを取る」「文献を調べる」「文献を読む」「レポートを作成する」「口頭発表をする」等のスキルを総合的に学ぶ過程において、日本語能力および思考力を高めていく。

履修条件

学則第59条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	テーマについての理解を深め、レポート作成、口頭発表のための知識を修得する。
思考・判断の観点 (K)	レポートおよび口頭発表のテーマについて考えを深める。
関心・意欲・態度の観点 (V)	テーマに関心を持ち、意欲的ならびに積極的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	学んだ知識を活かして、的確な表現および形式でレポート作成および口頭発表ができる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス／プロジェクトA 個人研究1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	まずは、授業内容を理解する。その後、テーマの決定の方法を復習し、レポート作成および口頭発表のため自分の専攻に関わるテーマを絞り込む。アウトライン作成の方法をクラス全体で復習する。

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートのアウトラインを作成する。
	教室外学習の時間(分)	190
第2回	**授業テーマ**	プロジェクトA 個人研究2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文献検索の方法を学び、実際に図書館で文献収集を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	引用計画を加えたアウトラインを作成する。
	教室外学習の時間(分)	190
第3回	**授業テーマ**	プロジェクトA 個人研究3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	引用の方法を練習を通して復習し、クラス全体で確認する。各自収集した文献について、引用する部分をノートに取る。その後、他者にノートを見てもらい、内容が分かるかどうかを確認してもらう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	序論と本論1を作成する。
	教室外学習の時間(分)	190
第4回	**授業テーマ**	プロジェクトA 個人研究4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レポートの構成についての練習を行い、クラス全体で確認する。その後、自分のレポートを修正する。引用文献一覧の作成について、クラス全体で復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートを修正し、引用文献一覧まで作成する。
	教室外学習の時間(分)	190
第5回	**授業テーマ**	プロジェクトA 個人研究5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レポートに適する表現についての練習を行い、クラス全体で確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートを修正し、完成する。
	教室外学習の時間(分)	190
第6回	**授業テーマ**	プロジェクトA 個人研究6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	PPTおよび口述原稿の作成についてクラス全体で復習する。その後、自分のPPTおよび口述原稿を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	PPTおよび口述原稿を修正する。
	教室外学習の時間(分)	190
	授業テーマ	プロジェクトA 個人研究7／プロジェクトB SDGsについて考える1

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発表および質疑応答についての練習を行う。その後、プロジェクトB SDGsについて学び、自分のテーマを絞り込む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をする。SDGsについての自分のテーマについて、文献収集をする。
	教室外学習の時間(分)	190
第8回	授業テーマ	プロジェクトA 個人研究8／プロジェクトB SDGsについて考える2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個人研究の発表を行い、質疑応答で発表内容についての学びを深める。その後、SDGsについて、レポートのアウトラインを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アウトラインを修正し、文献収集をする。
	教室外学習の時間(分)	190
第9回	授業テーマ	プロジェクトB SDGsについて考える3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集した文献のノートを取り、引用計画を加えたアウトラインを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートの下書き1を作成する。
	教室外学習の時間(分)	190
第10回	授業テーマ	プロジェクトB SDGsについて考える4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	SDGsに関する映像を視聴する。コメントをまとめ、各自のテーマとどのようにつながっているかをディスカッションすることで、自分のテーマについての理解を深めていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートを修正する。
	教室外学習の時間(分)	190
第11回	授業テーマ	プロジェクトB SDGsについて考える5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映像のテーマと同一のレポートについて、どのように修正することで内容が深められるかを考え、クラス全体で確認する。レポートに適する表現についての練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートを修正し、完成する。
	教室外学習の時間(分)	190
第12回	授業テーマ	プロジェクトB SDGsについて考える6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	PPTおよび口述原稿の作成方法をクラス全体で確認し、質疑応答の練習をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	PPTと口述原稿を作成する。

	教室外学習の時間（分）	190
第13回	**授業テーマ**	プロジェクトB SDGsについて考える7
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	PPTおよび口述原稿修正の練習を行い、クラス全体で確認する。 その後、自分のPPTと口述原稿を修正する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をする。
	教室外学習の時間（分）	190
第14回	**授業テーマ**	プロジェクトB SDGsについて考える8
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個人研究の発表を行い、質疑応答で発表内容についての学びを深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の発表を振り返り、改善点をワークシートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180

学生へのフィードバック方法

口頭および書面でのコメント

評価方法

課題（課題の完成度により評価する）
グループ発表（内容、構成、表現、形式、プレゼンテーション、協働の姿勢により評価する）
個人研究（レポートおよび発表の内容、構成、表現、形式、プレゼンテーションにより評価する）
平常点（発言、取り組みの姿勢により評価する）
※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○		○
グループ発表	○	○		○
個人研究	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

課題20% 発表30% 個人研究30% 平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解の観点】テーマについての理解を深め、レポート作成、口頭発表のための知識を修得する。
【思考・判断の観点】レポートおよび口頭発表のテーマについて考えを深める。

【関心・意欲・態度の観点】テーマに関心を持ち、意欲的ならびに積極的に取り組む。
【技術・表現の観点】学んだ知識を活かして、的確な表現および形式でレポート作成および口頭発表ができる。

オフィスアワー

水曜日昼休み、3限

学生へのメッセージ

課題を達成するために必要な日本語に自分で気づき、調べ、身につけていってほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題を達成するために自主的に取り組む。ペアおよびグループでディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集の方法を学び、実践する。
ICT活用		

講義コード	G50931001
講義名	日本の歴史と文化
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	留学生・1年次
必修・選択の別	1年次留学生必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	内田 宗一	指定なし

ナンバリング

X13930M21

授業概要(教育目的)

日本の歴史や文化についての知識は、大学における様々な勉強を理解するための背景として必要であり、また留学生自身の日本社会への適応にも重要な要素となる。しかし日本文化に育った者が大学入学時までに身につけているこれらの知識を、留学生は意識的に学ぶことで蓄積していかなければならない。「日本の歴史と文化」では、日本の歴史を学ぶことで、日本の政治的、文化的変遷を学び、更にそこから読み取れる日本文化の特徴および日本人の思考形式について理解を深めさせていく。

履修条件

学則第59条に定める外国人留学生のみ履修可能。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日本の歴史の概略や、日本文化の歴史的な展開について理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内活動（音読、質疑応答など）に積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	日本の姿 日本の地理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	日本の地理に関する基本を理解する。

	育・ICT活用を含む)	
第1回	教室外学習(予習・復習)の内容	大学入学以前の経験も含め、これまでの日本の歴史や文化に関する学習を振り返り、必要に応じて復習および知識の再確認をしておくこと。教科書第1章「いま、どこにすんでいますか」（pp.8-9）～第3章「日本には、どんな島がありますか」（pp.12-13）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第2回	授業テーマ	日本の姿 人口・気候・行政区
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の人口・気候・行政区に関する基本を理解する。日本史の時代区分を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章「日本は、どんな国ですか」（pp.14-15）～第6章「いつの時代ですか」（pp.20-22）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第3回	授業テーマ	日本の歴史 石器から土器へ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	旧石器時代、縄文時代の文化を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第7章「歴史をまなぶ」（pp.24-26）～第8章「ひとがすむ」（pp.27-33）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第4回	授業テーマ	日本の歴史 農耕と金属器の時代
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	弥生時代の政治と文化を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第9章「米をつくる」（pp.34-38）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	日本の歴史 統一政権の誕生
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	古墳時代の政治と文化を理解する。

	育・ICT活用を含む)	
第5回	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第10章「統一政権の誕生」（pp.39-45）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第6回	授業テーマ	日本の歴史 聖徳太子と飛鳥文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	飛鳥時代の文化を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第11章「古代国家の形成」前半部（pp.46-50）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第7回	授業テーマ	日本の歴史 中央集権国家の形成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	飛鳥時代の政治を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第11章「古代国家の形成」前半部（pp.46-50）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第8回	授業テーマ	まとめ・中間試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の地理ならび歴史（旧石器時代～飛鳥時代）についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第1章「いま、どこにすんでいますか」（pp.8-9）～第11章「古代国家の形成」前半部（pp.46-50）を再度読み返しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	日本の歴史 奈良時代の文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	奈良時代の政治と文化を理解する。

	育・ICT活用を含む)	
第9回	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第11章「古代国家の形成」後半部（pp.50-53）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第10回	授業テーマ	日本の歴史 律令国家の変容
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平安時代の政治と文化を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第12章「律令国家の変容」（pp.54-60）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第11回	授業テーマ	日本の歴史 武士政権の登場
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鎌倉時代の政治を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第13章「武士政権の登場」前半部（pp.61-65）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第12回	授業テーマ	日本の歴史 鎌倉時代の文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鎌倉時代の文化を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第13章「武士政権の登場」後半部（pp.66-67）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	日本の歴史 武士社会の展開
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	南北朝時代、室町時代の政治を理解する。

	を含む)	
第13回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	教科書第14章「武士社会の展開」前半部（pp.68-72）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第14回	**授業テーマ**	日本の歴史 中世の産業と文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中世の産業と文化を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第14章「武士社会の展開」後半部（pp.72-77）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

・毎回の授業において意見・感想等を記入して提出してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。

評価方法

・中間試験ならびに期末試験は100点満点で出題する。記述式問題を中心に選択肢式・穴埋め式等を適宜併用する。授業で扱った内容を十分に理解し、知識として定着しているかを確認することを目的とする。
・平常点は、授業内活動（音読、質疑応答など）への取り組み、意見・感想等の提出状況などによって評価する。
・成績評価はルーブリックにもとづいて行う。ルーブリックは授業内で配付して提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間試験	○			
期末試験	○			
平常点			○	

評価割合

中間試験40%、期末試験40%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

東京外国語大学編（1990）『留学生のための日本史』山川出版社 978-4-634-07010-3

参考図書

なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】日本の歴史や文化に関する豊かな知識を有している。

【関心・意欲・態度】高い徳性をもって主体的に学ぶ姿勢を身につけている。

オフィスアワー

【千代田三番町キャンパス】
火曜5限 1703ゼミ室
【町田キャンパス】
相談がある場合は事前にメールでアポイントを取ること（町田キャンパスへの出校日は水曜日） 1609研究室

学生へのメッセージ

・学則第59条に定める外国人留学生は必修（ただし、編入学、学士入学は「選択」）。
・出欠は、毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。
・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。
・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンス資料を配付して説明する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G50931031
講義名	日本の歴史と文化
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	留学生・1年次
必修・選択の別	1年次留学生必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	内田 宗一	指定なし

ナンバリング

X13930M21

授業概要(教育目的)

日本の歴史や文化についての知識は、大学における様々な勉強を理解するための背景として必要であり、また留学生自身の日本社会への適応にも重要な要素となる。しかし日本文化に育った者が大学入学時までに身につけているこれらの知識を、留学生は意識的に学ぶことで蓄積していかなければならない。「日本の歴史と文化」では、日本の歴史を学ぶことで、日本の政治的、文化的変遷を学び、更にそこから読み取れる日本文化の特徴および日本人の思考形式について理解を深めさせていく。

履修条件

学則第59条に定める外国人留学生のみ履修可能。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日本の歴史の概略や、日本文化の歴史的な展開について理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内活動（音読、質疑応答など）に積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	日本の姿 日本の地理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	日本の地理に関する基本を理解する。

	育・ICT活用を含む)	
第1回	教室外学習(予習・復習)の内容	大学入学以前の経験も含め、これまでの日本の歴史や文化に関する学習を振り返り、必要に応じて復習および知識の再確認をしておくこと。教科書第1章「いま、どこにすんでいますか」（pp.8-9）～第3章「日本には、どんな島がありますか」（pp.12-13）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第2回	授業テーマ	日本の姿 人口・気候・行政区
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の人口・気候・行政区に関する基本を理解する。日本史の時代区分を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章「日本は、どんな国ですか」（pp.14-15）～第6章「いつの時代ですか」（pp.20-22）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第3回	授業テーマ	日本の歴史 石器から土器へ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	旧石器時代、縄文時代の文化を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第7章「歴史をまなぶ」（pp.24-26）～第8章「ひとがすむ」（pp.27-33）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第4回	授業テーマ	日本の歴史 農耕と金属器の時代
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	弥生時代の政治と文化を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第9章「米をつくる」（pp.34-38）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	日本の歴史 統一政権の誕生
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	古墳時代の政治と文化を理解する。

	育・ICT活用を含む)	
第5回	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第10章「統一政権の誕生」（pp.39-45）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第6回	授業テーマ	日本の歴史 聖徳太子と飛鳥文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	飛鳥時代の文化を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第11章「古代国家の形成」前半部（pp.46-50）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第7回	授業テーマ	日本の歴史 中央集権国家の形成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	飛鳥時代の政治を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第11章「古代国家の形成」前半部（pp.46-50）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第8回	授業テーマ	まとめ・中間試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の地理ならび歴史（旧石器時代～飛鳥時代）についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第1章「いま、どこにすんでいますか」（pp.8-9）～第11章「古代国家の形成」前半部（pp.46-50）を再度読み返しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	日本の歴史 奈良時代の文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	奈良時代の政治と文化を理解する。

	育・ICT活用を含む)	
第9回	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第11章「古代国家の形成」後半部（pp.50-53）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第10回	授業テーマ	日本の歴史 律令国家の変容
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平安時代の政治と文化を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第12章「律令国家の変容」（pp.54-60）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第11回	授業テーマ	日本の歴史 武士政権の登場
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鎌倉時代の政治を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第13章「武士政権の登場」前半部（pp.61-65）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第12回	授業テーマ	日本の歴史 鎌倉時代の文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鎌倉時代の文化を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第13章「武士政権の登場」後半部（pp.66-67）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	日本の歴史 武士社会の展開
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	南北朝時代、室町時代の政治を理解する。

	を含む)	
第13回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	教科書第14章「武士社会の展開」前半部（pp.68-72）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第14回	**授業テーマ**	日本の歴史 中世の産業と文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中世の産業と文化を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第14章「武士社会の展開」後半部（pp.72-77）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

・毎回の授業において意見・感想等を記入して提出してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。

評価方法

・中間試験ならびに期末試験は100点満点で出題する。記述式問題を中心に選択肢式・穴埋め式等を適宜併用する。授業で扱った内容を十分に理解し、知識として定着しているかを確認することを目的とする。
・平常点は、授業内活動（音読、質疑応答など）への取り組み、意見・感想等の提出状況などによって評価する。
・成績評価はルーブリックにもとづいて行う。ルーブリックは授業内で配付して提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間試験	○			
期末試験	○			
平常点			○	

評価割合

中間試験40%、期末試験40%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

東京外国語大学編（1990）『留学生のための日本史』山川出版社 978-4-634-07010-3

参考図書

なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】日本の歴史や文化に関する豊かな知識を有している。

【関心・意欲・態度】高い徳性をもって主体的に学ぶ姿勢を身につけている。

オフィスアワー

【千代田三番町キャンパス】
火曜5限 1703ゼミ室
【町田キャンパス】
相談がある場合は事前にメールでアポイントを取ること（町田キャンパスへの出校日は水曜日） 1609研究室

学生へのメッセージ

・学則第59条に定める外国人留学生は必修（ただし、編入学、学士入学は「選択」）。
・出欠は、毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。
・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。
・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンス資料を配付して説明する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G51001001
講義名	キャリア形成概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	令和5・6年度の現代生活学部入学生 必修、それ以外の学生 選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	佐々木 ひとみ	指定なし

ナンバリング

X14010M21

授業概要(教育目的)

生涯キャリア発達の視点に立ち、社会変化の激しい現代を生きる学生が、自律的に自己のキャリア形成を構築するための知識と実践力を学ぶ。
本科目は、キャリア形成の基礎として、自己の生涯にわたるキャリア発達プロセスを理解するとともに、社会活動に関する実践的知識を深めることにより、社会における自己の役割と意義を認識し、労働観、職業観を醸成することを目指す。また、本科目学習後に履修する実践演習を行うための基礎的知識も修得する。

履修条件

※キャリア実践演習１または２を履修予定の人は、事前または並行して本科目を履修することが望ましい。
※キャリアデザインの再履修者は、原則後期開講の「キャリア形成概論」を履修すること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	キャリア形成が生涯にわたって継続されるものであり、自らが責任をもって構築していくものであることを理解する。
思考・判断の観点 (K)	現代社会の動きや仕組みに関心をもち、社会的話題に対して自己の意見を持つことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	各業界や職業に関する基礎的知識を持ち、継続的に自ら情報を収集することができる。
技術・表現の観点 (A)	グループで議論し意見をまとめ、発表する技術を理解する。

学習計画

第1回	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の目的、進め方について説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に使用したワークシートを修正して、提出する。
	教室外学習の時間（分）	165分
第2回	授業テーマ	キャリアとは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャリア形成のプロセス（自己分析、目標設定、行動計画、評価・改善）を学ぶ 現代社会におけるキャリアの変化を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に使用したワークシートを修正して、提出する。
	教室外学習の時間（分）	165分
第3回	授業テーマ	自分を知る（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己理解がキャリア形成に与える影響を知る。 自分分析方法の紹介と、実際に試してみる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に使用したワークシートを修正して、提出する。
	教室外学習の時間（分）	165分
第4回	授業テーマ	自分を知る（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己の価値観を知る。 自分のキャリアビジョンや目標を明確にする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に使用したワークシートを修正して、提出する。
	教室外学習の時間（分）	165分
第5回	授業テーマ	新しい社会の流れ（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会（業界・経済）の変化、少子高齢化、AIの急速な発展など、現在の社会の新しい変化を学び、さらに人々の生活や精神面への影響を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に使用したワークシートを修正して、提出する。
	教室外学習の時間（分）	165分
第6回	授業テーマ	新しい社会の流れ（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在の働き方、労働市場の動向や変化、雇用情勢を学ぶ 終身雇用 vs.ジョブ型雇用、ワークライフバランスなど、最近のキーワードの理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に使用したワークシートを修正して、提出する。
	教室外学習の時間（分）	165分
	授業テーマ	社会を知る（１）業界
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	グループ学習・発表【業界を学ぼう】

第7回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な業界や企業について、事業内容や特徴、労働条件などを比較検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に使用したワークシートを修正して、提出する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第8回	授業テーマ	社会を知る（２）職業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループ学習・発表【職業を学ぼう】 具体的な職業について、仕事内容や必要なスキル、キャリアパスなどを比較検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に使用したワークシートを修正して、提出する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第9回	授業テーマ	多様な働き方とキャリア
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	働き方の多様化（フリーランス、副業、起業、グローバルなど）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に使用したワークシートを修正して、提出する。
	教室外学習の時間（分）	165分
第10回	授業テーマ	生涯発達とキャリア
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生涯発達とキャリアの関係を理解する。 また生涯キャリア社会において必要なスキル、リスキリング・アップスキリングの方法、資格・学位の取得などの活かし方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に使用したワークシートを修正して、提出する。
	教室外学習の時間（分）	165分
第11回	授業テーマ	キャリア・プランニング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己分析の結果や業界・企業・職業研究を踏まえて、具体的なキャリアプランを作成する。 次の２回で、履修者全員が自分のキャリアプランを発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に使用したワークシートを修正して、提出する。
	教室外学習の時間（分）	300分
第12回	授業テーマ	マイ・キャリアプラン（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	履修者全員が今回と次回にわかれ、自分のキャリアプランを発表する。 履修者相互に、お互いの夢を応援し合う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に使用したワークシートを修正して、提出する。
	教室外学習の時間（分）	165分
	授業テーマ	マイ・キャリアプラン（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	履修者全員が前回と今回にわかれ、自分のキャリアプランを発表する。

第13回	育・ICT活用を含む)	履修者相互に、お互いの夢を応援し合う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に使用したワークシートを修正して、提出する。
	教室外学習の時間(分)	165分
第14回	授業テーマ	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分のキャリアプランを行動に移すにはどうしたらよいかを考える。 全体の授業のまとめ
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に使用したワークシートを修正して、提出する。
	教室外学習の時間(分)	165分
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間(分)	

学習計画注記

・本科目は毎回授業の中で、簡単な自己ワーク、グループ・ディスカッション、発表を行う。また、グループ学習をした結果を発表することもある。
・最後に、自分のキャリアプランを作成し、発表する。

学生へのフィードバック方法

・質問等は毎回授業中に配付するワークシート用紙に記入し、提出することができる。全員で共有することが有益と思われる質問等には、次の授業で取り上げる。

評価方法

・平常点（授業への出席、授業中使用するワークシートの提出、授業中のディスカッションへの取組態度）
・グループ研究および発表
・キャリアプランの作成と発表
これらをふまえ、総合的に判断する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
平常点	○	○	○	○
グループ研究および発表	○	○	○	○
キャリアプランの作成と発表	○	○	○	○

評価割合

平常点（70%）、グループ発表（加算10%）、キャリアプランの作成と発表（20%）
※キャリアプランを提出しない場合は、不合格となる。

使用教科書名(ISBN番号)

なし。必要資料は授業で配付する。

参考図書

授業中に適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案でき、社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力

オフィスアワー

【町田】水曜日３時限目。不在の場合もあるので、事前にアポをとること。

学生へのメッセージ

「キャリア」とは自分の生涯にわたって”自分自身で”つくりあげていくものです。自分らしい生き方を選び、納得したキャリアを掴むにはどうしたらよいのかをみんなで一緒に考えていきます。
本授業はワークをしたりディスカッションしたりしながら学びを深める「参加型」授業となります。
自分のキャリアを考えると同時に、履修者同士で夢の実現を応援しあいながら、多様な視点を身につけましょう。積極的な参加を期待しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	レポートの書き方、質問の仕方、等の教育内容を含む。
ICT活用	○	グーグルフォームを活用しながら、双方向型授業を実施

講義コード	G51001031
講義名	キャリア形成概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	令和5・6年度の現代生活学部入学生 必修、それ以外の学生 選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	金森 敏	指定なし

ナンバリング

X17000M21

授業概要(教育目的)

キャリアは就職という言葉と結びつきがちであるが、この講義の目的は、広い意味での働き方、幸せな職業人生について考えるものである。したがって、就職活動や資格取得に直接役立つ授業ではない。就職活動や資格取得に興味がある人はその類のセミナーの受講を勧める。なお就職活動に役立つ力を「入社する力」と呼び、生き方や働き方を「働き続ける力」と呼び、両者を区別する。そして本授業では後者の「働き続ける力」に力点がある。具体的には、人生100年時代といわれる中にあって、キャリアや働くことについて深く考える。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自分がどのような時代や社会に生きているのかを認識し説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	他者とのコミュニケーションを通して、自己を見つめなおし自分の考えを他者に説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分の生き方や働き方を自分の言葉で記述することができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	キャリア教育とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャリア教育とは何かを考える。
		復習としてキャリアについて考えてくるこ

	教室外学習(予習・復習)の内容	と。
	教室外学習の時間（分）	195分
第2回	授業テーマ	働くとは（100年時代の働きかた）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	過去と現在の働き方について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として今後100年間における働き方について考えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第3回	授業テーマ	100年ライフについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	100年時代の働き方について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として、序章を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第4回	授業テーマ	長寿という贈り物について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	長寿時代における働き方について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として、１章を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第5回	授業テーマ	過去の資金計画について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの教育・仕事・引退モデルの崩壊について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として、2章を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第6回	授業テーマ	機械化・AI後の働き方について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	雇用の未来として機械化・AI後の働き方について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として、3章を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第7回	授業テーマ	お金に換算できないものについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お金ではなく見えない資産について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として、4章を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第8回	授業テーマ	今後の働き方①（新しいシナリオ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今後の自身の可能性を広げることについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として、5章を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第9回	授業テーマ	今後の働き方②（新しいステージ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今後の自身の選択肢の多様化について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として、6章を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第10回	授業テーマ	今後の働き方③（新しいお金の考え方）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	必要な資金をどう得るかについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として、7章を読んでおくこと。

	教室外学習の時間（分）	195分
第11回	**授業テーマ**	今後の働き方④（新しい時間の使い方）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身のリ・クリエーションについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として、8章を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第12回	**授業テーマ**	未来の人間関係について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今後の私生活の変化について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として、9章を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第13回	**授業テーマ**	変革への課題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人生100年時代において、どのような変革の課題があるのかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として、終章を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第14回	**授業テーマ**	総復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの内容を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや授業内容が変更される場合もあります。
イベントなどにおいて、授業の振替えを行うこともあります。

学生へのフィードバック方法

授業において解説します。

評価方法

・課題は4回～5回出題します。Ａ４で1枚～2枚程度です。
・最終レポートは5000字程度、A4で4枚以上です。最終レポートとして、レポートの形になっているか、引用文献、参考文献、文章表現などができているかが大事です。授業において、レポートの書き方、また、質問などを受け付けます。
・課題、レポートは下表に示す力を養うことを目的に実施します。
・提出期限を過ぎた提出物、提出内容を満たしていない提出物は０点である。
なお、評価はルーブリック評価を用い、クラスルームに公開します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○	○	
レポート	○	○	○	

評価割合

レポート（60%）
課題4～5回（40%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし。

参考図書

リンダグラットン (著)、アンドリュースコット (著)、池村千秋 (翻訳)、『LIFE SHIFT』、東洋経済新報社、2016年。
リンダグラットン (著)、アンドリュースコット (著)、池村千秋 (翻訳)、『LIFE SHIFT2: 100年時代の行動戦略』、東洋経済新報社、2021年。
リンダグラットン (著)、池村千秋 (翻訳)、『リデザイン・ワーク 新しい働き方』、東洋経済新報社、 2022年。

ディプロマポリシーとの関連

人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案でき、社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力

オフィスアワー

前期、後期木曜日5限。
ただし、事前にアポをとってくること。

学生へのメッセージ

受講者には75mm×75mmのポストイット（1束100円程度）を購入してもらうかもしれない。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	レポートの書き方等の教育内容を含む。
ICT活用	○	グーグルフォームを活用しながら、双方向型授業を実施

講義コード	G51001032
講義名	キャリア形成概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	令和5・6年度の現代生活学部入学生 必修、それ以外の学生 選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	佐々木 ひとみ	指定なし

授業概要(教育目的)

生涯キャリア発達の視点に立ち、社会変化の激しい現代を生きる学生が、自律的に自己のキャリア形成を構築するための知識と実践力を学ぶ。
本科目は、キャリア形成の基礎として、自己の生涯にわたるキャリア発達プロセスを理解するとともに、社会活動に関する実践的知識を深めることにより、社会における自己の役割と意義を認識し、労働観、職業観を醸成することを目指す。また、本科目学習後に履修する実践演習を行うための基礎的知識も修得する。

履修条件

※キャリア実践演習１または２を履修予定の人は、事前または並行して本科目を履修することが望ましい。
※キャリアデザインの再履修者は、原則後期開講の「キャリア形成概論」を履修すること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	キャリア形成が生涯にわたって継続されるものであり、自らが責任をもって構築していくものであることを理解する。
思考・判断の観点 (K)	現代社会の動きや仕組みに関心をもち、社会的話題に対して自己の意見を持つことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	各業界や職業に関する基礎的知識を持ち、継続的に自ら情報を収集することができる。
技術・表現の観点 (A)	グループで議論し意見をまとめ、発表する技術を理解する。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第1回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の目的、進め方について説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に使用したワークシートを修正して、提出する。
	教室外学習の時間（分）	165分
第2回	授業テーマ	キャリアとは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャリア形成のプロセス（自己分析、目標設定、行動計画、評価・改善）を学ぶ 現代社会におけるキャリアの変化を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に使用したワークシートを修正して、提出する。
	教室外学習の時間（分）	165分
第3回	授業テーマ	自分を知る（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己理解がキャリア形成に与える影響を知る。 自分分析方法の紹介と、実際に試してみる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に使用したワークシートを修正して、提出する。
	教室外学習の時間（分）	165分
第4回	授業テーマ	自分を知る（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己の価値観を知る。 自分のキャリアビジョンや目標を明確にする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に使用したワークシートを修正して、提出する。
	教室外学習の時間（分）	165分
第5回	授業テーマ	新しい社会の流れ（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会（業界・経済）の変化、少子高齢化、AIの急速な発展など、現在の社会の新しい変化を学び、さらに人々の生活や精神面への影響を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に使用したワークシートを修正して、提出する。
	教室外学習の時間（分）	165分
第6回	授業テーマ	新しい社会の流れ（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在の働き方、労働市場の動向や変化、雇用情勢を学ぶ 終身雇用 vs.ジョブ型雇用、ワークライフバランスなど、最近のキーワードの理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に使用したワークシートを修正して、提出する。
	教室外学習の時間（分）	165分
第7回	授業テーマ	社会を知る（１）業界
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループ学習・発表【業界を学ぼう】 様々な業界や企業について、事業内容や特徴、労働条件などを比較検討する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に使用したワークシートを修正して、提出する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第8回	**授業テーマ**	社会を知る（２）職業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループ学習・発表【職業を学ぼう】 具体的な職業について、仕事内容や必要なスキル、キャリアパスなどを比較検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に使用したワークシートを修正して、提出する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第9回	**授業テーマ**	多様な働き方とキャリア
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	働き方の多様化（フリーランス、副業、起業、グローバルなど）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に使用したワークシートを修正して、提出する。
	教室外学習の時間（分）	165分
第10回	**授業テーマ**	生涯発達とキャリア
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生涯発達とキャリアの関係を理解する。 また生涯キャリア社会において必要なスキル、リスキリング・アップスキリングの方法、資格・学位の取得などの活かし方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に使用したワークシートを修正して、提出する。
	教室外学習の時間（分）	165分
第11回	**授業テーマ**	キャリア・プランニング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己分析の結果や業界・企業・職業研究を踏まえて、具体的なキャリアプランを作成する。 次の２回で、履修者全員が自分のキャリアプランを発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に使用したワークシートを修正して、提出する。
	教室外学習の時間（分）	300分
第12回	**授業テーマ**	マイ・キャリアプラン（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	履修者全員が今回と次回にわかれ、自分のキャリアプランを発表する。 履修者相互に、お互いの夢を応援し合う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に使用したワークシートを修正して、提出する。
	教室外学習の時間（分）	165分
第13回	**授業テーマ**	マイ・キャリアプラン（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	履修者全員が前回と今回にわかれ、自分のキャリアプランを発表する。 履修者相互に、お互いの夢を応援し合う。
	教室外学習(予習・復	

	習)の内容	授業中に使用したワークシートを修正して、提出する。
	教室外学習の時間（分）	165分
第14回	授業テーマ	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分のキャリアプランを行動に移すにはどうしたらよいかを考える。 全体の授業のまとめ
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に使用したワークシートを修正して、提出する。
	教室外学習の時間（分）	165分
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

・本科目は毎回授業の中で、簡単な自己ワーク、グループ・ディスカッション、発表を行う。また、グループ学習をした結果を発表することもある。
・最後に、自分のキャリアプランを作成し、発表する。

学生へのフィードバック方法

・質問等は毎回授業中に配付するワークシート用紙に記入し、提出することができる。全員で共有することが有益と思われる質問等には、次の授業で取り上げる。

評価方法

・平常点（授業への出席、授業中使用するワークシートの提出、授業中のディスカッションへの取組態度）
・グループ研究および発表
・キャリアプランの作成と発表
これらをふまえ、総合的に判断する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
グループ研究および発表	○	○	○	○
キャリアプランの作成と発表	○	○	○	○

評価割合

平常点（70%）、グループ発表（加算10%）、キャリアプランの作成と発表（20%）
※キャリアプランを提出しない場合は、不合格となる。

使用教科書名(ISBN番号)

なし。必要資料は授業で配付する。

参考図書

授業中に適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案でき、社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力

オフィスアワー

【千代田】金曜日４時限目。不在の場合もあるので、事前にアポをとること。

学生へのメッセージ

「キャリア」とは自分の生涯にわたって”自分自身で”つくりあげていくものです。自分らしい生き方を選び、納得したキャリアを掴むにはどうしたらよいのかをみんなで一緒に考えていきます。
本授業はワークをしたりディスカッションしたりしながら学びを深める「参加型」授業となります。
自分のキャリアを考えると同時に、履修者同士で夢の実現を応援しあいながら、多様な視点を身につけましょう。積極的な参加を期待しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	レポートの書き方、質問の仕方、等の教育内容を含む。
ICT活用	○	グーグルフォームを活用しながら、双方向型授業を実施

講義コード	G51004001
講義名	キャリア実践演習1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	佐々木 ひとみ	指定なし
教授	佐野 潤子	指定なし
助教	末松 加奈	指定なし

ナンバリング

X14020M22

授業概要(教育目的)

社会参加、社会改革意識を持つシティズンシップ教育の一環として、社会活動に参画しながら、大学における学習や活動を社会に還元し、自己の所属するコミュニティに貢献する方法を実践的に学ぶ。本科目（実践演習1）は、学生が所属する最も身近なコミュニティである大学内の多様な職場、事業運営に参画し、大学コミュニティに貢献する。
社会経験の少ない１年生にとって、大学内という物理的・心理的負担の少ない環境下で、安心して社会に出る準備を始め、段階的に社会との接点を深め実践力を高めていく。大学の実習先では、職場運営の仕組みや職場での態度等の基礎的知識を学ぶとともに、実際の大学の社会課題への取り組みを理解する。また、業務体験を通して学生個々の主体性や行動力、企画力や協調性、リーダーシップなどの能力を育成する。個々の学生の指導育成は、各受入先の担当者と科目担当教員が連携して行う。

履修条件

※本科目履修前に「キャリア形成概論」を履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自分の所属する社会の機能や役割を理解し、自己理解を深め、両者を統合させて自分らしい将来の生き方を模索し始めることができる。
思考・判断の観点 (K)	社会活動の中で他者の指示や意図を的確に理解し、対応することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	年代や意見の異なる人々と協働して目標を達成することができる。未知の領域の活動に対ししても前向きに取り組むことができる。

技術・表現の観点 (A)	自分の感情や思考を言語化し、口頭および文章にまとめ、表現することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	実習で何を学ぶか。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（オンデマンド）実習の目的を理解し、実習に向けた心構えを持つ。自分の所属するコミュニティの役割と課題を知り、自ら積極的に関わる方法を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先志望理由書を作成し、提出
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	職場で必要とされる行動・態度・マナーとは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（オンデマンド）職場で求められる能力・行動・態度・制度を学ぶ（大学職場編）。
	教室外学習(予習・復習)の内容	classroomで配付されるワークシートを作成し、提出する。
	教室外学習の時間（分）	70分
第3回	**授業テーマ**	・マッチング面接（6月頃） ・事前オリエンテーション 2025年8月1日（金） 午前中：町田キャンパス、午後：千代田キャンパス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（千代田・町田各キャンパスで対面で実施） ・マッチング面接：キャンパスごとに担当教員等が面接を行う（6月頃に学生の都合等を確認した上で決定する）。 ・事前オリエンテーション：実習先部署のあるキャンパスごとに、実習先別のオリエンテーションを行う。 ※また事前オリエンテーション日に授業後開催されるキャリア支援センター主催の「実践マナー講座（学外団体）」は、将来の社会人生活に役立つスキルでもあり、受講を強く推奨する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	誓約書・各種手続き書類等 必要書類を作成し、提出する。 実習開始までに、実習先の業務についてホームページ等で業務情報を確認する。
	教室外学習の時間（分）	300分
第4回	**授業テーマ**	実習先での実習 実習先と調整の上、８月中に５日以上の職場実習を行う。 （１日８時間×５日間＝４０時間）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習先の指示にしたがい、業務体験を行う。 【今年度実習先予定部署】 （千代田キャンパス）学務部、学生・キャリア支援室、情報化推進室 （町田キャンパス）社会連携室、高大連携室、国際連携室、町田業務部 など大学内の各部署
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習日は業務終了時に、実習日誌を記入して、実習先に提出する。

		自ら実習にともなう業務知識の修得、理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	70分
第5回	**授業テーマ**	実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間（分）	70分
第6回	**授業テーマ**	実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間（分）	70分
第7回	**授業テーマ**	実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間（分）	70分
第8回	**授業テーマ**	実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間（分）	70分
第9回	**授業テーマ**	実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間（分）	70分
	授業テーマ	実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	

第10回	**育・ICT活用を含む)**	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間(分)	70分
第11回	**授業テーマ**	実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間(分)	70分
第12回	**授業テーマ**	実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間(分)	70分
第13回	**授業テーマ**	実習の振り返り。 実習で何を学んだか（社会理解・自己理解・活用能力）、今後の大学生活で何をするか、を考える。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（各キャンパス・対面）実習体験を共有（言語化）し、気づきを深める。 ・報告会・報告書の方法や書式について、説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習体験を共有（言語化）し、気づきを深める。 報告会・報告書の準備を行う。
	教室外学習の時間(分)	240分
第14回	**授業テーマ**	報告会 2025年9月16日（火）※時間は後日通知。 ・実習を通して学んだことを、パワーポイントを使ってプレゼンする。 ・発表形式等は、履修者および実習先の決定後に、最終的に決定する。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（オンライン） 履修者全員、実習先の指導員・管理職、担当教員等が同席する前で、発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・報告書（A4 2枚程度）様式にしたがい、最終報告書を作成し、提出する。 ・報告会の他の履修者の発表を聞いて感じたことを400字程度で提出する。
	教室外学習の時間(分)	70分

学習計画注記

・千代田と町田の合同科目となる。
・実習先決定面接・事前オリエンテーションの実施日時は、履修者の都合等を確認の上、別途通知する。
・実習先は、履修者が提出する志望理由書を参考に担当教職員の面談を経て、最終的に決定する。実習先決定後は履修取り消しはできない。
・通学先と異なるキャンパスで実習を行う場合、交通費は自己負担となる。

学生へのフィードバック方法

・質問等はGoogle Classroom、メール、オフィスアワー等で対応する。実習の振り返りでは個別のフィードバックを行う。

評価方法

・事前事後授業および事前オリエンテーションへの出席、取り組み状況
・実習先での勤務状況、担当業務への取組姿勢、実習日誌の提出等
・報告会への参加・報告書の提出
上記をふまえ、総合的に判断する。

※次の場合は、やむを得ぬ事情が担当教員に認められた場合を除き、不合格とする。
５回以上の欠席・報告会の欠席・報告書の未提出・実習の無断欠勤

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
事前事後授業・オリエンテーショ	○	○	○	○
実習	○	○	○	○
報告会・報告書	○	○	○	○

評価割合

事前事後授業および事前オリエンテーション（20%）、実習（50%）、報告会・報告書（30%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし。授業資料等は、授業時に配付する。

参考図書

授業中に適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

ディプロマポリシーにある「人間社会と自然の中に課題を発見」「課題を論理的に分析・統合し表現する」「他者との共感を創り出す能力」を社会活動の中で体得的に修得する。

オフィスアワー

各担当教員のオフィスアワーを確認のこと。

学生へのメッセージ

本科目は、次の３つの力を修得します。
身につく力① 体験的に働く経験を通し、社会人に求められる基礎的な「社会スキルやマナー」を知ることができる。
身につく力② 実際に働く社会人との交流を通し、多様な「働く形や考え方」を知り、将来の自分の進路の参考にすることができる。
身につく力③ 実際の「仕事」を通し、ひとりひとりの主体性や行動力、企画力や協調性、リーダーシップなどの「人間力」が促進される。

※本科目履修後は、「キャリア実践演習２」により学外の企業等で実習し、実践力を向上させることを推奨します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実習先で、実務を体験する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	レポートの書き方等の教育内容を含む。
ICT活用	○	オンデマンド・オンライン授業の履修や課題の提出等にGoogle Classroomを活用し、２つの遠隔キャンパスで同時開講かつ双方向の授業を可能とする。

講義コード	G51004031
講義名	キャリア実践演習1
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・１年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	佐々木 ひとみ	指定なし
教授	佐野 潤子	指定なし
助教	末松 加奈	指定なし

授業概要(教育目的)

社会参加、社会改革意識を持つシティズンシップ教育の一環として、社会活動に参画しながら、大学における学習や活動を社会に還元し、自己の所属するコミュニティに貢献する方法を実践的に学ぶ。本科目（実践演習1）は、学生が所属する最も身近なコミュニティである大学内の多様な職場、事業運営に参画し、大学コミュニティに貢献する。
社会経験の少ない１年生にとって、大学内という物理的・心理的負担の少ない環境下で、安心して社会に出る準備を始め、段階的に社会との接点を深め実践力を高めていく。大学の実習先では、職場運営の仕組みや職場での態度等の基礎的知識を学ぶとともに、実際の大学の社会課題への取り組みを理解する。また、業務体験を通して学生個々の主体性や行動力、企画力や協調性、リーダーシップなどの能力を育成する。個々の学生の指導育成は、各受入先の担当者と科目担当教員が連携して行う。

履修条件

※本科目履修前に「キャリア形成概論」を履修であることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自分の所属する社会の機能や役割を理解し、自己理解を深め、両者を統合させて自分らしい将来の生き方を模索し始めることができる。
思考・判断の観点 (K)	社会活動の中で他者の指示や意図を的確に理解し、対応することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	年代や意見の異なる人々と協働して目標を達成することができる。未知の領域の活動に対ししても前向きに取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	自分の感情や思考を言語化し、口頭および文章にまとめ、表現することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	実習で何を学ぶか
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（オンデマンド）実習の目的を理解し、実習に向けた心構えを持つ。自分の所属するコミュニティの役割と課題を知り、自ら積極的に関わる方法を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先志望理由書を作成し、提出
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	職場で必要とされる行動・態度・マナーとは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（オンデマンド）職場で求められる能力・行動・態度・制度を学ぶ（大学職場編）
	教室外学習(予習・復習)の内容	classroomで配付されるワークシートを作成し、提出する。
	教室外学習の時間（分）	70分
第3回	**授業テーマ**	マッチング面接・事前オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（千代田・町田各キャンパスで対面で実施） キャンパスごとに担当教員によるマッチング面接を行う。実習前に実習先別注意等事前オリエンテーションを行う。 ※別途開催されるキャリア支援センター主催の「実践マナー講座（学外団体）」は、将来の社会人生活に役立つスキルでもあり、受講を強く推奨する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	誓約書・各種手続き書類等 必要書類を作成し、提出する。 実習開始までに、実習先の業務についてホームページ等で業務情報を確認する。
	教室外学習の時間（分）	300分
第4回	**授業テーマ**	実習先での実習 実習先と調整の上、８月中に５日以上の職場実習を行う。 （１日８時間×５日間＝４０時間）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習先の指示にしたがい、業務体験を行う。 【今年度実習先予定部署】 （千代田キャンパス）学務部、学生・キャリア支援室、情報化推進室 （町田キャンパス）社会連携室、高大連携室、国際連携室、町田業務部 など大学内の各部署
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習日は業務終了時に、実習日誌を記入して、実習先に提出する。 自ら実習にともなう業務知識の修得、理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	70分
第5回	**授業テーマ**	実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復	

	習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間（分）	70分
第6回	授業テーマ	実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間（分）	70分
第7回	授業テーマ	実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間（分）	70分
第8回	授業テーマ	実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間（分）	70分
第9回	授業テーマ	実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間（分）	70分
第10回	授業テーマ	実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間（分）	70分
第11回	授業テーマ	実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間	

	（分）	70分
第12回	**授業テーマ**	実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間（分）	70分
第13回	**授業テーマ**	実習の振り返り。 実習で何を学んだか（社会理解・自己理解・活用能力）、今後の大学生活で何をするか、を考える。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（各キャンパス・対面）実習体験を共有（言語化）し、気づきを深める。 ・報告会・報告書の方法や書式について、説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習体験を共有（言語化）し、気づきを深める。 報告会・報告書の準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	240分
第14回	**授業テーマ**	報告会 2025年9月16日（火）※時間は後日通知。 ・実習を通して学んだことを、パワーポイントを使ってプレゼンする。 ・発表形式等は、履修者および実習先の決定後に、最終的に決定する。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（オンライン） 履修者全員、実習先の指導員・管理職、担当教員等が同席する前で、発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・報告書（A4 2枚程度）様式にしたがい、最終報告書を作成し、提出する。 ・報告会の他の履修者の発表を聞いて感じたことを400字程度で提出する。
	教室外学習の時間（分）	70分

学習計画注記

・千代田と町田の合同科目となる。
・実習先決定面接・事前オリエンテーションの実施日時は、履修者の都合等を確認の上、別途通知する。
・実習先は、履修者が提出する志望理由書を参考に担当教職員の面談を経て、最終的に決定する。実習先決定後は履修取り消しはできない。
・通学先と異なるキャンパスで実習を行う場合、交通費は自己負担となる。

学生へのフィードバック方法

・質問等はclassroom、メール、オフィスアワー等で対応する。実習の振り返りでは個別のフィードバックを行う。

評価方法

・事前事後授業および事前オリエンテーションへの出席、取り組み状況
・実習先での勤務状況、担当業務への取組姿勢、実習日誌の提出等
・報告会への参加・報告書の提出
上記をふまえ、総合的に判断する。

※次の場合は、やむを得ぬ事情が担当教員に認められた場合を除き、不合格とする。

５回以上の欠席・報告会の欠席・報告書の未提出・実習の無断欠勤

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
事前事後授業・オリエンテーショ	○	○	○	○
実習	○	○	○	○
報告会・報告書	○	○	○	○

評価割合

事前事後授業および事前オリエンテーション（20%）、実習（50%）、報告会・報告書（30%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし。授業資料等は、授業時に配付する。

参考図書

授業中に適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

ディプロマポリシーにある「人間社会と自然の中に課題を発見」「課題を論理的に分析・統合し表現する」「他者との共感を創り出す能力」を社会活動の中で体得的に修得する。

オフィスアワー

各担当教員のオフィスアワーを確認のこと。

学生へのメッセージ

本科目は、次の３つの力を修得します。
身につく力① 体験的に働く経験を通し、社会人に求められる基礎的な「社会スキルやマナー」を知ることができる。
身につく力② 実際に働く社会人との交流を通し、多様な「働く形や考え方」を知り、将来の自分の進路の参考にすることができる。
身につく力③ 実際の「仕事」を通し、ひとりひとりの主体性や行動力、企画力や協調性、リーダーシップなどの「人間力」が促進される。

※本科目履修後は、「キャリア実践演習２」により学外の企業等で実習し、実践力を向上させることを推奨します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実習先で、実務を体験する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	レポートの書き方等の教育内容を含む。
ICT活用	○	オンデマンド・オンライン授業の履修や課題の提出等にGoogle Classroomを活用し、２つの遠隔キャンパスで同時開講かつ双方向の授業を可能とする。

講義コード	G51005001
講義名	キャリア実践演習2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	佐々木 ひとみ	指定なし
教授	佐野 潤子	指定なし
助教	末松 加奈	指定なし

ナンバリング

X14030M22

授業概要(教育目的)

社会参加、社会改革意識を持つシティズンシップ教育の一環として、社会活動に参画しながら、大学における学習や活動を社会に還元し、自己の所属するコミュニティに貢献する方法を実践的に学ぶ。
本科目（実践演習2）は、学外の多様な職場、事業活動に参画し、社会コミュニティに貢献する。社会の多様な組織の実践活動を通して、社会活動の現状と課題を体験的に学ぶとともに、学生個々の主体性や行動力、企画力や協調性、リーダーシップなどの能力を育成する。個々の学生の指導育成は、各受入先の担当者と科目担当教員が連携して行う。

履修条件

※本科目履修前に「キャリア形成概論」を履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自分の所属する社会の機能や役割を理解し、自己理解を深め、両者を統合させて自分らしい将来の生き方を模索し始めることができる。
思考・判断の観点 (K)	社会活動の中で他者の指示や意図を的確に理解し、対応することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	年代や意見の異なる人々と協働して目標を達成することができる。未知の領域の活動に対ししても前向きに取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	自分の感情や思考を言語化し、口頭および文章にまとめ、表現することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	実習で何を学ぶか
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（オンデマンド）実習の目的を理解し、実習に向けた心構えを持つ。自分の所属するコミュニティの役割と課題を知り、自ら積極的に関わる方法を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先志望理由書を作成し、提出する。 ※志望する実習先は、業界または企業名を記入する。最終的な実習先は、大学と企業が調整の上決定する。学生の志望をみて企業等を開拓したり交渉することもある。志望人数や企業の受入れの事情により、第一志望先とならない場合もある。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	職場で必要とされる行動・態度・マナーとは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（オンデマンド）職場で求められる能力・行動・態度・制度を学ぶ（企業団体編）
	教室外学習(予習・復習)の内容	classroomで配付されるワークシートを作成し、提出する。
	教室外学習の時間（分）	70分
第3回	**授業テーマ**	実習先の決定と準備 ・マッチング面接（11月頃） ・事前オリエンテーション 2026年2月2日（月）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（千代田・町田各キャンパスで対面で実施） ・マッチング面接：キャンパスごとに担当教員等が面接を行う（11月頃に学生の都合等を確認した上で決定する）。 ・事前オリエンテーション 2026年2月2日（月） 10：00-12：00 町田キャンパス、13：30-15：30 千代田キャンパス 実習先別のオリエンテーションおよびマナー実践講座を行う。 ※実習先により受講キャンパスが異なる。詳細は近くなってから通知する。 ※「実践マナー講座（キャリア支援センター主催・学外講師）」は、オリエンテーション授業に続いて行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	誓約書・各種手続き書類等 必要書類を作成し、提出する。 実習開始までに、実習先の業務についてホームページ等で業務情報を確認する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第4回	**授業テーマ**	実習先での実習 実習先と調整の上、２月中に５日以上の職場実習を行う。 （１日８時間×５日間＝４０時間）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習先の指示にしたがい、業務体験を行う。 【企業実習先（実績・予定）】 建築、食関連事業、雑貨・アパレル、ホテル、IT、教育等の業界企業、 町田・相模原・八王子市の行政機関、地域サービス活動支援団体な

		ど、 その他履修者が希望する業界企業を開拓することもある。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習日は業務終了時に、実習日誌を記入して、実習先に提出する。 自ら実習にともなう業務知識の修得、理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	70分
第5回	**授業テーマ**	実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間（分）	70分
第6回	**授業テーマ**	実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間（分）	70分
第7回	**授業テーマ**	実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間（分）	70分
第8回	**授業テーマ**	実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間（分）	70分
	授業テーマ	実習

第9回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間（分）	70分
第10回	**授業テーマ**	実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間（分）	70分
第11回	**授業テーマ**	実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間（分）	70分
第12回	**授業テーマ**	実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間（分）	70分
第13回	**授業テーマ**	実習の振り返り。 実習で何を学んだか（社会理解・自己理解・活用能力）、今後の大学生活で何をするか、を考える。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（各キャンパス・対面）実習体験を共有（言語化）し、気づきを深める。 ・報告会・報告書の方法や書式について、説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内	実習体験を共有（言語化）し、気づきを深める。

	容	報告会・報告書の準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	240分
第14回	授業テーマ	報告会 2026年3月17日（火）※時間は後日通知。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（オンライン） 履修者全員、実習先の指導員・管理職、担当教員等が同席する前で、発表する。 ・実習を通して学んだことを、パワーポイントを使ってプレゼンする。 ・発表形式等は、履修者および実習先の決定後に、最終的に決定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・報告書（A4 2枚程度）様式にしたがい、最終報告書を作成し、提出する。 ・報告会の他の履修者の発表を聞いて感じたことを400字程度で提出する。
	教室外学習の時間（分）	70分

学習計画注記

・千代田と町田の合同科目となる。
・実習先決定面接は、履修者の都合等を確認の上、別途通知する。
・実習先は、履修者が提出する志望理由書を参考に担当教職員の面談を経て、最終的に大学が決定する。企業側の受入れ事情等で必ずしも学生の第一希望を保証するものではない。実習先決定後は履修取り消しはできない。
・実習先までの交通費・昼食代は、自己負担となる。
・実習を欠席した場合、事情に関わらず代替日は原則として設定できない。

学生へのフィードバック方法

・質問等はメールやオフィスアワー等で対応する。実習の振り返りでは個別のフィードバックを行う。

評価方法

・事前事後授業および事前オリエンテーションへの出席、取り組み状況
・実習先での勤務状況、担当業務への取組姿勢、実習日誌の提出等
・報告会への参加・報告書の提出
上記をふまえ、総合的に判断する。

※次の場合は、やむを得ぬ事情が担当教員に認められた場合を除き、不合格とする。
５回以上の欠席・報告会の欠席・報告書の未提出・実習の無断欠勤

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
事前事後授業・オリエンテーショ	○	○	○	○
実習	○	○	○	○
報告会・報告書	○	○	○	○

評価割合

事前事後授業および事前オリエンテーション（30%）、実習（50%）、報告会・報告書（20%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし。授業資料等は、授業時に配付する。

参考図書

授業中に適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

ディプロマポリシーにある「人間社会と自然の中に課題を発見」「課題を論理的に分析・統合し表現する」「他者との共感を創り出す能力」を社会活動の中で体得的に修得する。

オフィスアワー

各担当教員のオフィスアワーを確認のこと。

学生へのメッセージ

本科目は、次の３つの力を修得します。
身につく力① 体験的に働く経験を通し、社会人に求められる基礎的な「社会スキルやマナー」を知ることができる。
身につく力② 実際に働く社会人との交流を通し、多様な「働く形や考え方」を知り、将来の自分の進路の参考にすることができる。
身につく力③ 実際の「仕事」を通し、ひとりひとりの主体性や行動力、企画力や協調性、リーダーシップなどの「人間力」が促進される。

※本科目履修後は、2年生以上履修対象の「キャリアアドバンストゼミ」や企業主査のインターンシップ等に参加してさらに実践力を向上させることを推奨します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実習先で、実務を体験する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	レポートの書き方等の教育内容を含む。
ICT活用	○	オンデマンド・オンライン授業の履修や課題の提出等にGoogle Classroomを活用し、２つの遠隔キャンパスで同時開講かつ双方向の授業を可能とする。

講義コード	G51005031
講義名	キャリア実践演習2
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	共通教育
実務経験の有無	有
開設学科・年次	全学科・１年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	佐々木 ひとみ	指定なし
教授	佐野 潤子	指定なし
助教	末松 加奈	指定なし

授業概要(教育目的)

社会参加、社会改革意識を持つシティズンシップ教育の一環として、社会活動に参画しながら、大学における学習や活動を社会に還元し、自己の所属するコミュニティに貢献する方法を実践的に学ぶ。
本科目（実践演習2）は、学外の多様な職場、事業活動に参画し、社会コミュニティに貢献する。社会の多様な組織の実践活動を通して、社会活動の現状と課題を体験的に学ぶとともに、学生個々の主体性や行動力、企画力や協調性、リーダーシップなどの能力を育成する。個々の学生の指導育成は、各受入先の担当者と科目担当教員が連携して行う。

履修条件

※本科目履修前に「キャリア形成概論」を履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自分の所属する社会の機能や役割を理解し、自己理解を深め、両者を統合させて自分らしい将来の生き方を模索し始めることができる。
思考・判断の観点 (K)	社会活動の中で他者の指示や意図を的確に理解し、対応することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	年代や意見の異なる人々と協働して目標を達成することができる。未知の領域の活動に対ししても前向きに取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	自分の感情や思考を言語化し、口頭および文章にまとめ、表現することができる。

学習計画

	授業テーマ	実習で何を学ぶか

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（オンデマンド）実習の目的を理解し、実習に向けた心構えを持つ。（オンデマンド）実習の目的を理解し、実習に向けた心構えを持つ。自分の所属するコミュニティの役割と課題を知り、自ら積極的に関わる方法を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先志望理由書を作成し、提出する。 ※志望する実習先は、業界または企業名を記入する。最終的な実習先は、大学と企業が調整の上決定する。学生の志望をみて企業等を開拓したり交渉することもある。志望人数や企業の受入れの事情により、第一志望先とならない場合もある。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	職場で必要とされる行動・態度・マナーとは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（オンデマンド）職場で求められる能力・行動・態度・制度を学ぶ（企業団体編）
	教室外学習(予習・復習)の内容	classroomで配付されるワークシートを作成し、提出する。
	教室外学習の時間（分）	70分
第3回	授業テーマ	実習先の決定と準備 ・マッチング面接：11月頃 ・事前オリエンテーション：2026年2月2日（月）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（千代田・町田各キャンパスで対面で実施） ・マッチング面接：キャンパスごとに担当教員等が面接を行う（11月頃に学生の都合等を確認した上で決定する）。 ・事前オリエンテーション 2026年2月2日（月） 10：00-12：00 町田キャンパス、13：30-15：30 千代田キャンパス 実習先別のオリエンテーションおよびマナー実践講座を行う。 ※実習先により受講キャンパスが異なる。詳細は近くなってから通知する。 ※「実践マナー講座（キャリア支援センター主催・学外講師）」は、オリエンテーション授業に続いて行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	誓約書・各種手続き書類等 必要書類を作成し、提出する。 実習開始までに、実習先の業務についてホームページ等で業務情報を確認する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第4回	授業テーマ	実習先での実習 ２月中に実習先と調整の上、５日以上の職場実習を行う。 （１日８時間×５日間＝４０時間）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習先の指示にしたがい、業務体験を行う。 【企業実習先（実績・予定）】 建築、食関連事業、雑貨・アパレル、ホテル、IT、教育等の業界企業 町田・相模原・八王子市の行政機関、地域サービス活動支援団体など その他履修者が希望する業界企業を開拓することもある。
	教室外学習(予	

	習・復習)の内容	実習日は業務終了時に、実習日誌を記入して、実習先に提出する。 自ら実習にともなう業務知識の修得、理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	70分
第5回	授業テーマ	実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間（分）	70分
第6回	授業テーマ	実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間（分）	70分
第7回	授業テーマ	実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間（分）	70分
第8回	授業テーマ	実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間（分）	70分
	授業テーマ	実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘ	4　12

第9回	テラシー教育・ICT活用を含む)	～　回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間（分）	70分
第10回	授業テーマ	実習
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間（分）	70分
第11回	授業テーマ	実習
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間（分）	70分
第12回	授業テーマ	実習
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	4～12回は同じ
	教室外学習(予習・復習)の内容	4～12回は同じ
	教室外学習の時間（分）	70分
第13回	授業テーマ	実習の振り返り。 実習で何を学んだか（社会理解・自己理解・活用能力）、今後の大学生活で何をするか、を考える。
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	（各キャンパス・対面）実習体験を共有（言語化）し、気づきを深める。 ・報告会・報告書の方法や書式について、説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習体験を共有（言語化）し、気づきを深める。 報告会・報告書の準備を行う。

	教室外学習の時間（分）	240分
第14回	**授業テーマ**	報告会 2026年3月17日（火）※時間は後日通知。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（オンライン） 履修者全員、実習先の指導員・管理職、担当教員等が同席する前で、発表する。 ・実習を通して学んだことを、パワーポイントを使ってプレゼンする。 ・発表形式等は、履修者および実習先の決定後に、最終的に決定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・報告会のパワーポイント資料を作成し、報告会終了後担当教員に提出する。
	教室外学習の時間（分）	70分

学習計画注記

・千代田と町田の合同科目となる。
・実習先決定面接は、履修者の都合等を確認の上、別途通知する。
・実習先は、履修者が提出する志望理由書を参考に担当教職員の面談を経て、最終的に大学が決定する。企業側の受入れ事情等で必ずしも学生の第一希望を保証するものではない。実習先決定後は履修取り消しはできない。
・実習先までの交通費・昼食代は、自己負担となる。
・実習を欠席した場合、事情に関わらず代替日は原則として設定できない。

学生へのフィードバック方法

・質問等はメールやオフィスアワー等で対応する。実習の振り返りでは個別のフィードバックを行う。

評価方法

・事前事後授業および事前オリエンテーションへの出席、取り組み状況
・実習先での勤務状況、担当業務への取組姿勢、実習日誌の提出等
・報告会への参加・報告書の提出
上記をふまえ、総合的に判断する。

※次の場合は、やむを得ぬ事情が担当教員に認められた場合を除き、不合格とする。
５回以上の欠席・報告会の欠席・報告書の未提出・実習の無断欠勤

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
事前事後授業・オリエンテーショ	○	○	○	○
実習	○	○	○	○
報告会・報告書	○	○	○	○

評価割合

事前事後授業および事前オリエンテーション（20%）、実習（50%）、報告会・報告書（30%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし。授業資料等は、授業時に配付する。

参考図書

授業中に適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

ディプロマポリシーにある「人間社会と自然の中に課題を発見」「課題を論理的に分析・統合し表現する」「他者との共感を創り出す能力」を社会活動の中で体得的に修得する。

オフィスアワー

各担当教員のオフィスアワーを確認のこと。

学生へのメッセージ

本科目は、次の３つの力を修得します。
身につく力① 体験的に働く経験を通し、社会人に求められる基礎的な「社会スキルやマナー」を知ることができる。
身につく力② 実際に働く社会人との交流を通し、多様な「働く形や考え方」を知り、将来の自分の進路の参考にすることができる。
身につく力③ 実際の「仕事」を通し、ひとりひとりの主体性や行動力、企画力や協調性、リーダーシップなどの「人間力」が促進される。

※本科目履修後は、2年生以上履修対象の「キャリアアドバンストゼミ」や企業主査のインターンシップ等に参加してさらに実践力を向上させることを推奨します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実習先で、実務を体験する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	レポートの書き方等の教育内容を含む。
ICT活用	○	オンデマンド・オンライン授業の履修や課題の提出等にGoogle Classroomを活用し、２つの遠隔キャンパスで同時開講かつ双方向の授業を可能とする。

専 門 教 育 科 目

講義コード	G00003031
講義名	インターンシップ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	金森 敏	指定なし

ナンバリング

G32301C23

授業概要(教育目的)

企業や行政等の現場における実践的な体験を通して、組織で働くことの意味を考えてもらう。仕事を外見だけで判断するのでなく、隠れている部分を含めて総合的に理解し、仕事を担う重さと充実感（働き甲斐）を感じてもらいたい。なお研修先の面接で許可が得られれば、研修生として受け入れてもらえる。従って、受講生の希望に沿う研修先がない場合、あるいは、面接で断られた場合は研修が受けられないケースもでてくる。また、本授業はインターンシップ実習後1～2回ほど振り返りを行う。本講義の受講者は全員参加を義務づける。これら2点を予め理解しておくこと。

履修条件

履修の条件ではありませんが、インターンシップの研修先を決める際には、書類選考と教員による面談を行う。面談後、研修先が決定しても、授業中の態度に問題があれば、研修先を取り消すことがある。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分の適性をチェックすることができる。 積極的かつ主体的に取り組む姿勢を確立できる。 業界・職種・会社についての知識を身に付けることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	インターンシップ概要説明

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	夏季休暇において、インターンシップ研修先で学ぶ際の注意点や履修の注意を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスをきちんとよんでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第2回	授業テーマ	インターンシップ概要説明（1回目と同じ内容。履修の関係で1回目参加できなかった学生のため）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ研修先で学ぶ際の注意点や履修の注意を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスをきちんとよんでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第3回	授業テーマ	インターンシップとは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップに参加して得られるメリットやデメリットについて知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、インターンシップに参加する意義を考えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第4回	授業テーマ	ESの書き方について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	履歴書の書き方について説明を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ESの書き方について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第5回	授業テーマ	成果報告書から知るインターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ成果報告書からインターンシップのイメージを知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、インターンシップのイメージを抱いておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第6回	授業テーマ	先輩から聞くインターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップに参加した先輩の話を聞き、インターンシップのイメージを知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、先輩の話からインターンシップのイメージをより明確にしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第7回	授業テーマ	面談(5月末までの面談者)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ES、面談を踏まえて、インターンシップ研修先を考えること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、ESや面談を踏まえて、インターンシップや研修先について再考すること。
	教室外学習の時間（分）	195分
第8回	授業テーマ	面談（6月上旬から中旬までの面談者）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ES、面談を踏まえて、インターンシップ研修先を考えること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、ESや面談を踏まえて、インターンシップや研修先について再考すること。
	教室外学習の時間（分）	195分
第9回	授業テーマ	面談（6月中旬から下旬までの面談者）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ES、面談を踏まえて、インターンシップ研修先を考えること。

	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、ESや面談を踏まえて、インターンシップや研修先について再考すること。
	教室外学習の時間（分）	195分
第10回	**授業テーマ**	ES復習と成果報告書作成の注意点
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	成果報告書作成における注意点を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	成果報告書の作成を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第11回	**授業テーマ**	面談（７月以降の面談者）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ES、面談を踏まえて、インターンシップ研修先を考えること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、ESや面談を踏まえて、インターンシップや研修先について再考すること。
	教室外学習の時間（分）	195分
第12回	**授業テーマ**	夏季休暇中：インターンシップ実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ実習（8時間×5日＝40時間以上）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ実習での準備や1日の振り返りを行うこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第13回	**授業テーマ**	後期1回目：インターンシップの振り返り（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ研修先の情報を共有し、他者が参加したインターンシップを知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として他社のインターンシップについて整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第14回	**授業テーマ**	後期2回目インターンシップの振り返り（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ研修先を踏まえて、興味のある業界などを報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として興味のある業界について調べてくること。
	教室外学習の時間（分）	195分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや授業内容が変更される場合もあります。
後期の授業は参加者全員が成果報告書を提出した後に、開講する。参加者の提出が遅れれば遅れるだけ、開講時期も遅くなる。
イベントなどにおいて、授業の振替えを行うこともあります。

学生へのフィードバック方法

授業にて解説します。

評価方法

・面談後、インターンシップ先が決まっていたにも関わらず自己都合で「辞退」した場合、不可とします。
・研修後に提出する成果報告書で評価します。報告書は、A4で2枚です。文章表現などが適切であるか、誤字脱字などはないか、また、期限までに提出しているか、教員の赤ペンがどれくらい入ったかで評価します。
・成果報告書は下表に示す力を養うことを目的に実施します。
・後期のインターンシップの成果報告会の2回においてのみ出席をとります。また、後期のインターンシップの成果報告会に参加しない場合は不可となります。
・提出期限を過ぎた提出物、提出内容を満たしていない提出物は0点である。

なお、評価はルーブリック評価を用い、クラスルームに公開します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
成果報告書			○	
平常点			○	

評価割合

成果報告書95%
平常点5%

使用教科書名(ISBN番号)

なし。

参考図書

東京家政学院大学インターンシップ成果報告書

ディプロマポリシーとの関連

社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力

オフィスアワー

前期、後期木曜日5限。
ただし、事前にアポをとってくること。

学生へのメッセージ

インターンシップ研修の前に、各自で実習受け入れ先に対する業界・企業研究を行うこと。
インターンシップ研修中は、毎日、研修終了後に「実習日誌」を記述し、自分の研修成果を振り返り、翌日の課題を把握すること。
インターンシップ終了後は、成果報告書の作成を行うこと。
なお、学生自身が大学のインターンシップ制度に協力してくれる研修先を見つけてくる気概をもって参加すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	グーグルフォームを活用しながら、双方向型授業を実施

講義コード	G01001031
講義名	現代生活論（現代家政学科）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	加藤 晴美	指定なし
教授	現代家政学科 教員	指定なし

ナンバリング

G21003C21

授業概要(教育目的)

近年、人々の生活と地球環境をめぐる変化は著しい。気候変動や海洋資源、貧困と不平等、人種やジェンダーの問題、労働環境、都市及び居住空間、持続可能な生産と消費など、世界で起きている生活の問題や日本社会に起きている問題について、その複雑な回路を学問的につなぐ努力を行い、問題を深め、分析し、展望を語れる素養を身につけることをめざす。

履修条件

特に無し。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	現代の生活に生起する諸問題を、具体的に考え理解できる。
思考・判断の観点 (K)	他の人々との意見の違いなど発見し、問題の複雑さを実感できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	課題について、積極的にかかわり、調べたことを整理し、皆と協力的に意見交換ができる。
技術・表現の観点 (A)	テーマに沿って、相手に伝える工夫ができ、自分自身の意見が述べられる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス 担当：小野由美子・加藤晴美
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	現代生活論では、人間生活の環境の変化の中で、日常生活に起こる様々

第1回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	な問題を考え解決していく力を養う。自己の課題を確認した上で、多様な専門分野にわたる学科の教員が教授する内容からその課題解決のためのヒントをとらえ、個々で解決できる力を身につけることをめざす。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバス等を読んで、内容を把握しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	生活者視点で考えるカラーユニバーサルデザイン 担当：井澤尚子
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	われわれの色の見え方は一様でないことを理解するために、色覚にはいくつかのタイプがあることを解説する。特に、日常生活におけるカラーユニバーサルデザインの具体例をあげ、カラーユニバーサルデザインの考え方や必要性について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	色彩論を履修した学生は、「色の見える仕組み」を教科書で復習しておくこと。履修していない学生は、書籍、インターネットを用いて予習すること。併せて「カラーユニバーサルデザイン」の意味を調べまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	買い物の変化について考える 担当：太田茜
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	私たちの購買行動は時代によって大きく変化しています。現代の買い物の仕方の基礎になった百貨店・通信販売等の歴史を知り、これから消費者としてどのような姿勢で物を選び、手に入れていったらよいかを考えましょう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「カプセルワードローブ」について調べ、次の二つの事を行っておくこと。 （１）自分の持っている服の中で、カプセルワードローブにいれられそうなアイテムの写真を撮る。（２）予算を3万円としてこの春夏に何を買うとその考え方にマッチしたものかを買えそうかのリストをつくる。アイテムの写真（スクリーンショットも可）を保存し、売っている店舗と値段もリストに入れる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	キャリア教育 担当：金森敏
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャリア教育として、①資格のためのキャリア教育、②就職のためのキャリア教育、③就業のためのキャリア教育があります。上記3点について解説をし、実際に受講している学生が上記3点についてどのように考えているのかを事前アンケートをもとに紹介します。
	教室外学習(予習・	事前学習として、「人生100年時代の社会人基礎力」の概念を調べておく

	復習)の内容	こと。また、事前アンケートにはできるだけ答えてもらいたい。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	過去の住宅建築を学び未来の住宅建築を考える 担当：大橋竜太
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築におけるさまざまな工夫は、過去の蓄積のうえに成り立っている。そのため、過去の建築について知ることは重要である。特に、住宅建築は生活の変化とともに発展してきた。本講義では、歴史的な住宅建築と現代の住宅建築を比較しながら、すまいの空間の発展過程を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文化財建造物をひとつ選び、見学する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	Looking Outward to Communicate with Different Cultures 担当：マーク・ルイス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	How customs and manners differ between cultures. How are particular values differ and influence others.
	教室外学習(予習・復習)の内容	Students should read the handout provided by the teacher before the day of class.
	教室外学習の時間（分）	190
第7回	**授業テーマ**	食料生産と環境 担当：沼波秀樹・竹中真紀子
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前半は、食料の確保と食生活における栄養バランスについて、エネルギーの効率と環境負荷の視点から学ぶ。後半は，地球環境（生態系）が「食料＝生物」を供給していることと人類の活動が食料生産に及ぼしている影響について，食物連鎖（食べる食べられる関係）と地球温暖化の視点から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習として高校「生物基礎」教科書の「生態系とその保全」を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	食品の安全 担当：沼波秀樹、竹中真紀子
	学習内容(ｱ	前半は，現在の安全な食生活に至るまでの過程と食生活が及ぼす新たな

第8回	**ｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	環境への影響について，70年前に日本で起こった公害病と現在問題とされている海洋プラスチック汚染（プラごみ）の視点から学ぶ。後半は、食品の調理・加工中に生成する微量有害成分について学ぶ。前半の部を含めた授業内容全体を踏まえて、食の安全確保の仕組みについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習として、農林水産省のホームページの「消費・安全」>「施策情報」>「食品安全」の情報を見て予備知識を得ておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	言語文化と食生活①：「ニク」をめぐる日本語表現 担当：内田宗一
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「ニク（肉）」をめぐる日本語表現に注目し、そこから見えてくる日本の食文化について考察する。ことばと生活文化との関連について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習として、別途配信するGoogleフォームのアンケートに、指示された期限までに回答すること。自身の食生活について、どんな種類のニクをどれくらいの頻度で食しているかを振り返り、考えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第10回	**授業テーマ**	言語文化と食生活②：食生活における「ニク」 担当：伊藤有紀
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前半は日本でニクがどのように食べられてきたかについて、後半はプラントベースミートについて学ぶ。これらの学習を通してニク食の意味と持続可能なニク食について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習として、農林水産省のホームページの「お肉の自給率」を見て予備知識を得ておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	性別役割分業と生活・社会①：女性の資産形成とジェンダー 担当：佐野潤子
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	長寿社会における女性の資産についてジェンダーの視点から考察する。性別役割分業意識は根強く、既婚男女の家事・育児時間のみならず家計の意思決定にも影響を与えている。家計の意思決定と資産形成に関する先行研究などを読み、課題を明らかにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習として、インターネットなどから政府統計を見る、新聞記事などを読むなど情報を集める。

	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	性別役割分業と生活・社会②：家庭の中の衣生活・エプロンについて 担当：山村明子
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭の中の衣生活文化として、戦後以降のエプロンの着用実態の変遷とその背景を検証することで、家庭生活のなかの性別役割分業とその意識の変化を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習として、家事労働における今日のジェンダーに関する話題をインターネットから収集する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	住空間と家族①：民家と森林・民家と家族 担当：青柳由佳
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本は温暖で雨が多いため森林資源に恵まれ、それらを利用して住まいをつくってきた。民家と森林資源との関連から民家の変遷を概観する。次に家族生活の変化と民家との関係を解説する。このような住まいの変遷を理解した上で、これからの住まいについて考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	近年の木材利用の取り組みや促進について考える。また身近な住宅を通して家族の生活との関連を考える。
	教室外学習の時間（分）	190
第14回	**授業テーマ**	住空間と家族②：家族の変化とケア 担当：井上清美
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	女性の社会参加や価値観の変化により、介護や子育てなど、これまで家族によって担われてきたケアの社会化が進行している。例えばヤングケアラーやダブルケアなどの問題を解決するために、ケア労働の外部化やグローバル化、ICT化など、担い手の負担を軽減する方法について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習として、保育所や介護サービスの現状（利用率や利用状況など）についてインターネット等を利用して調べておく。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

オンデマンド授業で実施する。（配信：木曜日5時限）
各回の授業で教員が課題を出題する。課題の提出をもって出席とみなす。なお、課題の提出〆切に間に合わない場合は遅刻扱いとするが、1週間以上の遅れは欠席とみなす。

学生へのフィードバック方法

適宜，各担当教員が質問を受ける。

評価方法

・平常点（授業への参加状況や，課題が提示される場合はその取り組みなど）による評価
・評価はルーブリックに基づいて行う。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○

評価割合

平常点（100%）による評価とする。

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない。

参考図書

複数の担当教員から、必要に応じて、それぞれ参考文献などが提示される。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し、分析する。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー

オフィスアワー 第1回の授業で教員別のオフィスアワーの一覧表を配布する。授業全体に関する質問は、加藤・小野が対応する。

学生へのメッセージ

準備学習は、広く、現代人の生活全般に関心を持つようにしてほしい。現代人とは、子ども、乳幼児、若者、大人、あるいは、高齢者や弱者、病気を抱える人びと、さまざまな困難な抱える人びと、差別を受ける人びと、などである。イメージを豊かに広げられるようにしてほしい。そうした人びとが抱える生活上の基本問題（重要課題）は何か、つねに、関心を示せるようにしてほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01002031
講義名	家政学原論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	佐野 潤子	指定なし

ナンバリング

G32205C21

授業概要(教育目的)

本講義では家政学とは何か、現代社会において家政学を学ぶ意義を考え、家政学を基盤に生活問題、社会問題を捉えることを目的とする。第一に、生活の諸課題を生活者の視点、家政学・現代生活学の研究方法から明らかにする。第二に、女性の生き方と家政学の関係を整理する。家政学がどのように生成発展してきたか、ジェンダーや老年学の視点から理解する。第三は、国際的視点や地球環境との関わりから持続可能な社会形成に向けて現代家政学の可能性を考え、家政学を学んだ学生の生涯設計と社会的役割について考える。かつては女性教育の中心であった家政学であるが、現代では男女共生社会、長寿社会の問題解決に大きく関わっている。生活の諸問題を家政学のアプローチから考える。
その後、授業内で指定した課題図書を輪読、発表と、受講者が家政学に関する文献発表とする。

履修条件

出席を重視する。3分の2以上の出席がなければ期末レポートの提出ができず、受験資格なしとなり、単位は取得できない。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	東京家政学院の家政学を持続可能な社会につなぐことに意欲をもち、生命の維持・生活の質にこだわる生活者視点で地域社会を活性化する意欲をもつ。
技術・表現の	現代の社会問題の課題、解決に向けて家政学の視点で考察できる。

観点 (A)	

学習計画

家政学原論

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション 家政学原論をなぜ今、学ぶのか
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家政学原論の取り扱うテーマが、いかに現代社会問題とかかわっているかを紹介する。家政学原論とはどのような研究分野・授業科目かを理解し、半期の授業予定にそった学びの計画をたてる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容を踏まえて、自ら情報収集し、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	家政学とは 家政学原論とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の「家政学原論」研究の歴史「家政学原論」の誕生の経緯と「家政学原論」に期待された役割について学ぶ。また大江スミが家政学・家庭科教育にどのように貢献したのかも含め理解する。時代とともに家政学の役割の変遷を概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容を踏まえて、自ら情報収集し、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	世界の家政学と女子教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近代家政学の発祥の地といわれる、アメリカの家政学の歴史などを振り返り、現在の家政学について理解する。家政学が女子教育に与えた影響を概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容を踏まえて、自ら情報収集し、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	270分
第4回	**授業テーマ**	日本における家政学の展開過程
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本における家政学の展開過程を理解し、戦後日本における家政学とジェンダーについて考える。学問として家政学が成立するために求められた条件に付いて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容を踏まえて、自ら情報収集し、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	家政学における生活・生活者へのアプローチ

第5回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	生活はどのような要素で構成されているかを考える。家政学の視点からSDGsの目標達成につながる行動を探る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容を踏まえて、自ら情報収集し、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	家政学と家庭科教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科教育や消費者教育が家政学の本質とどのように関連するのか考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授講義の内容を踏まえて、自ら情報収集し、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	270分
第7回	**授業テーマ**	家政学に関する文献発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自家政学に関するテーマを決め、資料を収集し、パワーポイントを使用して発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容を踏まえて、自ら情報収集し、資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	家政学に関する文献発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自家政学に関するテーマを決め、資料を収集し、パワーポイントを使用して発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容を踏まえて、自ら情報収集し、資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	家政学に関する文献発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自家政学に関するテーマを決め、資料を収集し、パワーポイントを使用して発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容を踏まえて、自ら情報収集し、資料を作成する。

	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	家政学に関する文献発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自家政学に関するテーマを決め、資料を収集し、パワーポイントを使用して発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容を踏まえて、自ら情報収集し、資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	家政学に関する文献発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自家政学に関するテーマを決め、資料を収集し、パワーポイントを使用して発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容を踏まえて、自ら情報収集し、資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	家政学に関する文献発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自家政学に関するテーマを決め、資料を収集し、パワーポイントを使用して発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容を踏まえて、自ら情報収集し、資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	**授業テーマ**	家政学に関する文献発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自家政学に関するテーマを決め、資料を収集し、パワーポイントを使用して発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義の内容を踏まえて、自ら情報収集し、資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	**授業テーマ**	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業と発表を振り返る。

	教室外学習(予習・復習)の内容	現代社会の問題点について家政学の視点で考察する。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

講義の前半から自分のテーマを考えておくこと。
授業内容は状況に応じて順番が変わることもある。

学生へのフィードバック方法

調査・考察などに関する発表、提出された課題等に対して、授業内で講評する。

評価方法

・毎回小レポートを提出する。5回以上の未提出、欠席の場合は期末レポートを提出できない。
出席（第1回から14回までのうち3分の2以上の出席が必要）を重視する。
出席、授業への参加態度、授業内の発表 50
期末レポート50

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
出席、授業内参加態度、発表	○	○	○	○
期末レポート	○	○	○	○

評価割合

出席、授業態度、発表（50%）
期末試験（50%）

使用教科書名(ISBN番号)

課題図書がある場合は授業内で伝える。

参考図書

やさしい家政学原論/日本家政学会 家政学原論部会 編/建帛社 (978-4-7679-1449-7)
東京家政学院における家政学原論(わたしの家政学原論<シリーズ4>,2007年家政学原論部会夏期セミナー)
家政学原論部会 若手研究者グループ編「若手研究者が読む『家政学原論』2006」，2006，光生館

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

佐野 1805ゼミ室
後期： 水曜日 2限
事前にアポイントを取り時間調整を行ってください。

学生へのメッセージ

家政学とは何か、なぜ必要であり、家政学を学んだ人は何ができたのか。家政学の社会における意義と貢献内容を考察する。
事前に申し出がない場合、授業開始後、20分以降は入室できない。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	後半は各自、テーマを決め、文献収集の発表を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01004031
講義名	女性史
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	加藤　晴美	指定なし

ナンバリング

G22216C21

授業概要(教育目的)

現代社会においても、「女らしさ」や「男らしさ」といった観念は根強く存在するようにみえる。しかしながら、実際には男女の役割分担や女性性・男性性に対する価値観は時代や地域等によって多様であり、それぞれの社会における価値観や環境のあり方などによって柔軟に選択されてきた。また、「男らしさ」や「女らしさ」はどのようにつくられてきたのか。当科目では、女性も男性もともに生き、互いによりよく暮らすためにはどのようなことが必要なのか、地理学や民俗学、歴史学的な観点から、検討する。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	女性／男性の暮らしや役割は固定的なものではなく、時代や環境によって規定されていることを理解する。
思考・判断の観点 (K)	女性／男性としてどう考え、どう生きるのか、ひとびとの多様なあり方を歴史に学ぶ必要があることを理解する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	女性／男性の暮らしや働き方やその変遷について知的好奇心を抱き、その背景にある事象について関心をもつことができる。
技術・表現の観点 (A)	女性／男性の生き方と社会の関わりについて論理的に記述することができる。

学習計画

女性史

	授業テー	

第1回	マ	ガイダンス―女性/男性の生き方と歴史―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	WEB漫画などを題材に、現代を生きる女性が仕事や結婚生活、育児においてどのようなことに困っているのか、なぜそのような困りごとが生じているのか、考える。結婚、妊娠。出産、育児、SNSのコメントなどから、家事・育児をめぐる男性と女性の論争などをみて、どんなギャップがあるかをみていく。 毎回、資料の配布、コメントシートの作成・提出のため、PCを使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子育てや結婚生活をテーマにした女性（主に主婦層）向けWEB漫画などを読んでおく。授業後、授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間(分)	190分
第2回	授業テーマ	イエと結婚①―江戸の離婚―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	江戸時代の女性というと、地位が低く抑圧されていたイメージをもたれることがある。ここでは、江戸時代における離婚と女性の地位について、離婚に際して夫から妻に渡された離縁状（三行半）から読み解いていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	三行半（みくだりはん）という言葉について、語句の由来や使用される場面などについて調べておく。授業後、授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間(分)	190分
第3回	授業テーマ	イエと結婚②―結婚の地域的多様性―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	伝統的な結婚というと妻が夫の家に嫁ぎ、舅姑に尽くすといったイメージがある。しかし、実際には庶民の婚姻形態は多様であった。ここでは、民俗学的な視点から庶民の「結婚」の地域性とその類型について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	嫁入り、婿入り、足入れ、寝宿などの語句の意味を調べてくること。授業後、授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間(分)	190分
	授業テーマ	イエと結婚③―女性労働と家族―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	伝統的な女性労働の一つに「機織り」がある。ここでは、結城紬の生産地域を事例として、女性の機織りを中心として地域経済が成り立っていた。女性が機織りをするとともに、夫が台所仕事をするなど、家族が性別・年齢を問わず柔軟に家事・育児を分担した。これらを通し、現代におけるペイドワークとアンペイドワークについても考える。

第4回	用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	「結城紬」について、それがどのようなものか、事前にインターネットなどで情報を集めておくこと。また、ペイドワーク、アンペイドワークとは何かも確認すること。授業後、授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間(分)	190分
第5回	授業テーマ	「職業」と性別①―職業のジェンダー化―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	明治時代以降、近代国家となった日本では、性差をめぐる多様な関係性はしだいに一元化され、固定的な性別役割が生まれていく。ここでは、男女別に理想とされる「職業」や生き方のモデルを、絵画資料や少年向け／少女向け雑誌の記述、「出世すごろく」などから考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「男性の／女性の職業」、「男性の／女性の生き方」などについて、それぞれどのようなものをイメージするか、事前に考えておくこと。授業後、授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間(分)	190分
第6回	授業テーマ	「職業」と性別③―「主婦」の誕生―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代社会においても、男性が外で働き、女性が家事育児を担当するという性別役割分業の意識は残っている。それでは、こうした価値観はいかにつくられたのか。明治時代以降、しだいに幸せな家庭のために存在する「主婦」のイメージが固定化され、実際に都市部では新中間層を中心に夫が企業などで働き、妻が家事・育児を担当する家族（近代家族）が増えていく。ここでは、良妻賢母イメージの展開とともに、新中間層の住宅など、暮らしの空間変容についても考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅の間取りと各部屋の使用方法について確認しておくこと。授業後、授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間(分)	190分
第7回	授業テーマ	「職業」と性別③―「男らしさ」の誕生―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近年、「有害な男らしさ」という概念が取り上げられている。これは他の性別を攻撃するとともに、男性自身が生きづらさを抱えてしまう一つの要因であろう。この回では、どのように近代日本において「男らしさ」という価値観が作り上げられていったのか、とくに軍隊を事例として考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	同潤会、職業婦人について、それぞれ事前にインターネットなどで情報を集めておくこと。授業後、授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間	190分

	（分）	
第8回	授業テーマ	「職業」と性別④―暮らしと労働から考えるジェンダー―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大江文庫所蔵の錦絵を紹介する。錦絵をもとに、近代における民衆の労働と暮らしについてジェンダーの視点から考える中間レポートの作成を行う。資料の閲覧、調査、レポート作成のためPCを使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	大学HPの付属図書館のページから、「大江文庫」→「錦絵目録」で錦絵の確認をしておくこと。授業後、各自でレポート作成に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	220分
第9回	授業テーマ	性の売買①―近世・近代の遊廓―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	売春は女性による「最古の職業」などといわれることがあるが、それは本当だろうか。性の売買は時代や地域のジェンダー構造のなかで生み出されたものであり、その形態は状況によって大きく変化していく。ここでは特に近世から近代の遊廓（遊所）の展開についてみていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	遊廓、遊女、娼妓について、それぞれどのようなものか事前にインターネットなどで情報を集めておくこと。授業後、授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	性の売買②―娼妓のライフコースー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ここでは性売買の場で労働・生活した人びとの暮らしにも目を向ける。まず娼妓（遊女）のライフコースを取り上げ、家庭の状況や身売りに至る経緯、労働の実態や「住み替え」の過程を考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に史料（遊女の手紙）を配布しておくのでそれに目を通しておくこと。授業後、授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	性の売買③―遊客の存在形態―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	娼妓（遊女）を「買う」側である男性遊客を取り上げる。日本の社会において「買春」とはどういうものであり、いかに変容したのか。遊客の居住地や職業、支払いの状況を検討し、性規範をめぐる近代の意識について考える。

第11回	用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に大正期の統計資料を配布しておくのでそれに目を通しておくこと。授業後、授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間(分)	190分
第12回	授業テーマ	性の売買④―遊廓と地域社会―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本各地に多数存在した遊廓は、それぞれの地域の社会・経済と深くかかわり、地域の「繁栄」を担う存在でもあった。ここでは、遊廓の開設や移転をめぐる地域社会の動向や、貸座敷（遊女屋）を経営しようとする楼主たちに着目していく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に資料（遊廓の絵葉書）を配布しておくのでそれに目を通しておくこと。授業後、授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間(分)	190分
第13回	授業テーマ	性の売買⑤―赤線と街娼たち―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第二次世界大戦後、日本各地には多くの「赤線」や「青線」などが形成された。赤線や青線では多くの女性たちが売春に従事し、なかには戦争で夫を亡くしたり、子どもを育てるために街娼となった女性も含まれている。こうした街娼たちの暮らしについて、「婦人保護台帳」や常磐とよ子による写真などからみていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	赤線、青線、日本における婦人保護の歴史について、事前にインターネットなどで情報を集めておくこと。授業後、授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間(分)	190分
第14回	授業テーマ	まとめと試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	女性の暮らしや働き方について総括し、後半で試験を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの配布資料などから、試験に向けた学習をする。
	教室外学習の時間(分)	200分

学習計画注記

シラバスの内容は、授業の進行状況によって変更の可能性があります。

学生へのフィードバック方法

コメントシートで提出された質問や感想などにもとづき、次週の授業冒頭で回答または補足説明を行う。中間レポートはコメントをつけて返却する。

評価方法

・毎回、授業終盤で授業内容のまとめ・感想・質問などについてコメントシートにまとめ、このコメントシートの提出をもって出席と認める。その記入内容により、関心・意欲・態度とともに授業内容の理解に関して評価を行う。
・評価はルーブリックに基づいて行う。ルーブリックは授業時に配付、もしくはclassroomで提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			○
中間レポート	○	○	○	○
コメントシート	○		○	

評価割合

平常点（コメントシート）20%、レポート30%、定期試験50%により評価する

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない

参考図書

湯澤規子『在来産業と家族の地域史―ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産―』古今書院、2009年
人間文化研究機構国立歴史民俗博物館編『性差＜ジェンダー＞の日本史』国立歴史民俗博物館振興会、2020年
加藤晴美『遊廓と地域社会―貸座敷・娼妓・遊客の視点から―』清文堂、2021年　など

ディプロマポリシーとの関連

【知識・思考】生活者の視点にたって、過去から現在に至る女性の歴史を理解できる
【関心・表現】女性をめぐる社会や環境の多様性に関心をもつことができる
【関心・意欲・態度】性別やそれに基づき分業など、現代的な問題について関心をもつ。
【技能・表現】女性に関するさまざまな環境や社会について論理的に説明することができる。

オフィスアワー

金曜２限

学生へのメッセージ

・この授業では、男女の役割や規範は生物学的な特性によって決定されるものではなく、さまざまな時代や環境によって異なる、多様なものであるということを論じていきます。性差をめぐる歴史を学び、自分が当たり前にとらえている「女性／男性とはどういうものか」をいまいちど考えていきたいと思います。

・受講にあたっては、配布された資料や指示された文献などには必ず目を通すようにして下さい。
・日本の近現代史について、基本的な流れを確認しておいて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有	概要

	無	
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	近代の錦絵や婦人雑誌、少年・少女雑誌などの資料の読解を行う。
情報リテラシー教育	○	図書館での文献調査法や所蔵資料の活用法について習熟する。
ICT活用		

講義コード	G01005031
講義名	美と健康
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	山村 明子	指定なし

ナンバリング

G35105C21

授業概要(教育目的)

心身が健やかで、疾病等のトラブルがなく日常生活をおくれることが「健康」な状態である。一方、「美しい」という概念は一通りの型にはまったものではない。それは歴史的にみても時代や社会によっても望ましい概念は異なってきた。また、多様性を認める今日の社会においては多種多様な「美」を見出すことが望まれる。本講では「美」と「健康」とのバランスを学び、衣服や装飾行動と身体メカニズムとの関連を理解し、美しく過ごすことの意義を考える。

履修条件

特に定めず

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	美と健康に対する歴史的事象と現代社会の問題点を理解する
思考・判断の観点 (K)	美と健康とはどのような関わりをもつものなのか考え、私たちが求めるべき美と健康について適切な判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	現代社会における美と健康に関する情報と問題点に関心を持ち、積極的に情報を収集することができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	多様な美、唯一の健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	歴史的な事象として、時代により社会が求める美・美意識は異な

第1回	**育・ICT活用を含む)**	っていることを学び、美とは多様であることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスを読み、授業概要について理解する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第2回	**授業テーマ**	美のはじまり 清潔
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近代にいたるまでの日本、西洋の清潔に対する概念を学び、明治以降の近代西洋医学の導入とともに清潔が美的要因となったことを理解し、現代社会における清潔に関する課題を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第3回	**授業テーマ**	においと香り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近代にいたるまでの日本、西洋の香りに対する概念を学び、清潔の指標でもあるにおいの存在及び香りが心身にもたらす効用、現代社会における香りに関する課題を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第4回	**授業テーマ**	皮膚 小麦色の肌と美白
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本人の肌の色に対する志向を江戸時代から今日までの変遷で学ぶ。また、皮膚の組織と紫外線からの影響等を学び、健康な肌とは何かを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第5回	**授業テーマ**	化粧 歴史的な展開
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本人の化粧に対する志向を江戸時代から今日までの変遷で学ぶ。また、現代の化粧でのトラブルの一つとしてアイメイクに関する問題点を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第6回	**授業テーマ**	美肌をつくる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	校内特別授業として美容の専門家である外部講師から、潤いと肌理の整った素肌をつくるための手入れについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として花王株式会社公式HPを閲覧し、見学内容について理解する。見学後には、見学内容をまとめるレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	190分

第7回	授業テーマ	毛髪 黒髪と茶髪
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本人の毛髪に対する志向を平安時代から今日までの変遷で学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第8回	授業テーマ	毛髪 染毛
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今日のヘアスタイルに欠かせない染毛料について学び、そのトラブル等について理解する。また、毛髪と人権の問題について事例を基に考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で指示する課題を自宅で実践する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第9回	授業テーマ	肥満と痩身
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体格は健康の指標であると同時に、体型は美的要因でもある。第二次大戦以降の日本の体型への志向を学び、美と健康を両立させる体型とは何かについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第10回	授業テーマ	足と靴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第二次大戦以降の靴の流行を学び、靴のデザインと正しい歩行や足の健康との関わりについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第11回	授業テーマ	美容医療
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	美容医療が発展してきた背景を学び、現代の美容医療のトラブルの事例を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第12回	授業テーマ	おしゃれと心の健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	QOLを高めるために美容行為が着目されている現状に着目し、美容行為が精神面に働きかける効果について理解する。
	教室外学習(予習・	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企

	復習)の内容	業活動の情報を公式HP等より収集する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第13回	**授業テーマ**	校外授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	化粧文化に関する事業を行っている企業（ポーラ化粧文化研究所を予定）の見学を行い、美容の文化について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第14回	**授業テーマ**	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの講義内容を振り返り、美とはどのような概念か、また美と健康とはどのような関わりを持っているのか考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業全体の振り返りを踏まえ、期末試験に向けて復習をする。
	教室外学習の時間(分)	190

学習計画注記

第8回:美肌をつくるは外部講師の都合により、開催時期を変更する可能性がある。
第6回：企業見学は見学先の状況により、開催時期を変更する可能性がある。

学生へのフィードバック方法

授業時の小課題：次週の授業内で正解を説明し、要点を再確認することで授業内容に対する理解を深める。
校内特別授業のレポート課題は採点、返却時に内容や質問に対する解説、回答を行う。

評価方法

授業時の小課題：授業内では授業の確認の小課題を行う。
課題は美容に関する自宅での実践課題と見学のまとめ課題である。
試験では授業内容全体の理解と自身の意見を論述する課題を問う。知識の記憶だけはなく、授業内容を踏まえた自身の見解を持つことが重要である。
ルーブリックで評価します。ルーブリックはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業時の小課題	○	○		
課題	○	○	○	
期末試験	○	○		

評価割合

授業の小課題：15% 課題（2回）：20% 期末試験：65%

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない（プリント配布等）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】美と健康に関する歴史的背景と現代の課題を学び、美と健康が関与する「質の高い生活」とは何かを理解する。
【思考・判断】美と健康に関する現代の課題を学び、適切な行為を選択することができる。
【関心・意欲・態度】美と健康に関する今日の問題について関心をもち、情報を収集する。

オフィスアワー

月曜日2限 1703ゼミ室

学生へのメッセージ

授業で扱うテーマおよび関連テーマについて、現状把握・分析および考察などを、日常的・自発的に行ってほしい。健康的かつ美しく生きるための、生活者としての自分の姿勢を構築していくことが望まれる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	美容業界に長年携わっている外部講師による実践的な指導を行う。
アクティブ・ラーニング	○	企業（ファンケル株式会社）見学による、体感的な学びを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	課題作成における情報収集とPCの活用

講義コード	G01006031
講義名	情報処理演習I
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小野 由美子	指定なし

ナンバリング

G22308C12

授業概要(教育目的)

多様な統計を読み解く力をつけるとともに、表計算ソフトを使い、集計表の作成、関数を使用した処理、グラフの作成などの応用操作を学習する。家計調査などの政府統計も活用しながら、情報処理の基本的な知識を理解し、演習を通して技術を身に付ける。コンピュータ演習bに引き続く授業である。

履修条件

大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントが必要である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	データ入力の基本操作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。表計算ソフトウェアでのデータ入力の基本操作を練習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復	表計算ソフトウェアでのデータ入力を復習すること。

	習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	45
第2回	授業テーマ	数式入力・関数挿入の基本操作①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データ・計算式・関数入力、罫線、表作成、印刷などの基本操作の復習。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	計算式や関数の入力について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	授業テーマ	数式入力・関数挿入の基本操作②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データ・計算式・関数入力、罫線、表作成、印刷などの基本操作の復習。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	計算式や関数の入力について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	授業テーマ	数式入力・関数挿入の基本操作③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データ・計算式・関数入力、罫線、表作成、印刷などの基本操作の復習。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	計算式や関数の入力について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	授業テーマ	数式入力・関数挿入の応用操作①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データ・計算式・関数入力などの応用操作の練習。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	計算式や関数の応用操作について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	授業テーマ	数式入力・関数挿入の応用操作②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データ・計算式・関数入力などの応用操作の復習。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	計算式や関数の応用操作について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	授業テーマ	数式入力・関数挿入の応用操作③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ータ・計算式・関数入力などの応用操作の復習。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	計算式や関数の応用操作について復習すること。
	教室外学習の時間	45

	（分）	
第8回	**授業テーマ**	統計調査を用いた演習①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	政府統計である国勢調査や家計調査を理解する。家計調査を用いた課題の説明。
	教室外学習(予習・復習)の内容	公表されている家計調査のデータについて調べること。
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	**授業テーマ**	統計調査を用いた演習②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家計調査を用いた課題の作成。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家計調査に関する課題を完成させること。
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	**授業テーマ**	統計調査を用いた演習③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事業者が実施した調査について学ぶ。質問紙調査を用いた課題の説明。
	教室外学習(予習・復習)の内容	既存の質問紙調査について調べること。
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	**授業テーマ**	統計調査を用いた演習④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	質問紙調査の入力と集計の説明・練習。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	質問紙調査の集計に関わる課題を準備すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	**授業テーマ**	統計調査を用いた演習⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	質問紙調査の入力と集計の説明・練習。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	質問紙調査の集計に関わる課題を準備すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	統計処理①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計処理（クロス集計）の説明と練習。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	クロス集計表が作成できるよう復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	統計処理②

第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高度なグラフを作成する。散布図と相関係数を説明・練習。 演習結果を提出する。 実技の定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	散布図を作成し、相関係数を求めることができるよう復習すること。
	教室外学習の時間（分）	125

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は15点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技術・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができている。次世代につながる健やかで
心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

【前期】水曜日 1701ゼミ室 12：40～14：40

学生へのメッセージ

主体的な学習を心がけて、情報処理に必要な知識と技術を身に付けましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を		

活かした授業	○	担当教員は、消費生活の研究に関する実務経験を有しており、社会調査の実査に関わり習得すべき一連の情報処理について教授している。
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

講義コード	G01007131
講義名	情報処理演習II
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小野 由美子	指定なし

ナンバリング

G22309C12

授業概要(教育目的)

世の中の膨大な量の情報から有用な情報を探し出し役立てるためには、情報を収集し、必要なものを効率よく検索して見やすい形式で出力する必要がある。そのためのツールであるデータベースについて、表計算ソフトとデータベース・ソフトの両方を用いながら、基本的な考え方を学ぶとともに、操作に関する能力を高める。情報処理演習Iに引き続く授業である。

履修条件

大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントが必要である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、表計算とデータベースによる情報処理が正確にできる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	データ入力の基本操作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。表計算ソフトウェアでのデータ入力の基本操作を確認する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復	表計算ソフトウェアでのデータ入力などの操作を復習するこ

	習)の内容	と。
	教室外学習の時間（分）	45
第2回	授業テーマ	データベース管理システムの機能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データベースの役割や概要を学ぶ。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	データベースの基本的な知識を整理すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	授業テーマ	表計算ソフトによる基本的なデータベース操作①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特定の条件を満たすレコードを対象にして集計するDSUM関数の技術を習得する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	DSUM関数の操作について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	授業テーマ	表計算ソフトによる基本的なデータベース操作②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平均を求めるDAVERAGE関数、最大値・最小値を求めるDMAX関数、DMIN関数の技術を習得する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	DAVERAGE関数、DMAX関数、DMIN関数の操作について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	授業テーマ	表計算ソフトによる基本的なデータベース操作③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個数・数値データを求めるDCOUNT関数の技術を習得する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	DCOUNT関数の操作について復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	授業テーマ	表計算ソフトによる基本的なデータベース操作④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学習した関数を復習する。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまで学習した関数を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	授業テーマ	表計算ソフトによる高度なデータベース操作①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々なデータベース関数を使用する処理条件の練習。演習問題を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	データベース関数による複雑な処理条件について復習する。
	教室外学習の時間	45

	（分）	
第8回	**授業テーマ**	表計算ソフトによる高度なデータベース操作②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々なデータベース関数を使用する処理条件の練習。演習問題を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	データベース関数による複雑な処理条件について復習する。
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	**授業テーマ**	表計算ソフトによる高度なデータベース操作③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々なデータベース関数を使用する処理条件の練習。演習問題を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	データベース関数による複雑な処理条件について復習する。
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	**授業テーマ**	表計算ソフトによる高度なデータベース操作④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々なデータベース関数を使用する処理条件の練習。演習問題を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	データベース関数による複雑な処理条件について復習する。
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	**授業テーマ**	データベースソフトを使った操作①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーブル・クエリ・レポートの作成。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーブル・クエリ・レポートの一連の操作ができるよう復習する。
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	**授業テーマ**	データベースソフトを使った操作②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーブル・クエリ・レポートの作成。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーブル・クエリ・レポートの一連の操作ができるよう復習する。
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	データベースソフトを使った操作③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーブル・クエリ・レポートの作成。演習結果を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーブル・クエリ・レポートの一連の操作ができるよう復習する。
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	データベースソフトを使った操作④

第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーブル・クエリ・レポートの作成。演習結果を提出する。実技の定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーブル・クエリ・レポートの一連の操作ができるよう復習する。
	教室外学習の時間（分）	125

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は15点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技術・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができている。次世代につながる健やかで
心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

【後期】水曜日 1701ゼミ室 11：00～13：00

学生へのメッセージ

主体的な学習を心がけて、情報処理に必要な知識と技術を身に付けましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かし		

た授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算とデータベース能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

講義コード	G01008031
講義名	卒業研究Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	現代家政学科 教員	指定なし

ナンバリング

G41006C22

授業概要(教育目的)

4年間の学びの集大成として、研究課題の設定・研究方法の決定・資料の収集等を主体的に行うことができるようになること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

評価割合

研究に取り組む課程での参加状況および発表・報告等総合的に判断する。

ディプロマポリシーとの関連

ゼミ受講生との話し合いで決定する。

学生へのメッセージ

自らがやらなければ、研究は先に進みません。卒業研究に費やす時間を十分に確保してください。「早め早め」の気持ちを持ちましょう。卒業研究についての相談には、時間の許す限り応じます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01008032
講義名	卒業研究Ａ（井澤）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	井澤 尚子	指定なし

ナンバリング

G41006C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	1 ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	2 問題の分析と課題の設定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	授業テーマ	3 問題の分析と課題の設定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	授業テーマ	4 先行研究・参考文献の調査(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	5 先行研究・参考文献の調査(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。

第5回	**含む)**	
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	**授業テーマ**	6 研究方法の決定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	**授業テーマ**	7 研究方法の決定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	**授業テーマ**	8 研究方法の決定(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	**授業テーマ**	9 調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	10 調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)

第10回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	**授業テーマ**	11 調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	**授業テーマ**	12 調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	**授業テーマ**	13 調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	**授業テーマ**	14 調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(6)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。

	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合

卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

金曜日3時限

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用	○	資料収集、文献調査等にインターネットの活用も含む。

講義コード	G01008037
講義名	卒業研究Ａ（大橋）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大橋 竜太	指定なし

ナンバリング

G41006C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
本研究室では、建築史の論文を書きます。まずは、個別に相談しながら、研究テーマを設定します。その後、各自が設定したテーマに沿って、文献の収集の方法、調査の方法、分析の方法等、論文を書くために必要な技術を学びます。授業はゼミ形式で実施します。各自が作成したレジメをもとに、1週間の研究成果を発表します。これに対し、教員ならびに研究室の構成員がコメントを述べます。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点(K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的

の観点 (V)	に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	**授業テーマ**	問題の分析と課題の設定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	**授業テーマ**	問題の分析と課題の設定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	**授業テーマ**	先行研究・参考文献の調査(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時	

	間（分）	90分
第5回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	授業テーマ	研究方法の決定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	研究方法の決定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	研究方法の決定(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。

第9回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨ	

第14回	ﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90分

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合

卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

金曜５限 1702室

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。
本研究室では、建築史および建築保存の論文指導を行うので、建築史Aおよび建築史Bの履修が望まれる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G01008039
講義名	卒業研究Ａ（小野（由））
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小野 由美子	指定なし

ナンバリング

G41006C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第2回	授業テーマ	問題の分析と課題の設定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第3回	授業テーマ	問題の分析と課題の設定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第4回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。

第5回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第6回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第7回	授業テーマ	研究方法の決定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第8回	授業テーマ	研究方法の決定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第9回	授業テーマ	研究方法の決定(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190

第10回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第11回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第12回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第13回	授業テーマ	13 調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第14回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。

	容	
	教室外学習の時間（分）	230

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合

卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。

オフィスアワー

【前期】水曜日 1701ゼミ室 12：40～14：40

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G01008041
講義名	卒業研究Ａ（金森）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	金森 敏	指定なし

ナンバリング

G41006C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	問題の分析と課題の設定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	授業テーマ	問題の分析と課題の設定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。

第5回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	授業テーマ	研究方法の決定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	授業テーマ	研究方法の決定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	授業テーマ	研究方法の決定(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分

第10回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。

	容	
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

卒業研究のほかに、学外（社会）活動もあります。

学生へのフィードバック方法

調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。
・最後の課題はレポートで、約5000字程度で提出してもらう。
・提出期限を過ぎた提出物、提出内容を満たしていない提出物は０点である。
なお、評価はルーブリック評価を用い、クラスルームに公開します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		
平常点			○	○

評価割合

卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

前期、後期木曜日5限。
ただし、事前にアポをとってくること。

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。な

お、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用	○	グーグルフォームを活用しながら、双方向型授業を実施

講義コード	G01008043
講義名	卒業研究Ａ（青柳）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	青柳 由佳	指定なし

ナンバリング

G41006C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した住生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行い、制作や研究論文の形にまとめていただく。いずれも自分なりの問題意識に立ち、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論、設計の出し方、発表、プレゼンテーションの方法など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
本研究室は建築構法に基づいた研究テーマに沿って、論文及び制作を行います。具体的なテーマの設定については、個別に相談を行い決定します。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。
建築士指定科目をなるべく多く履修していることが望ましい。
制作を選択する場合は設計製図演習A-F、インテリアCAD演習の単位取得済みであること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	現在の社会的な問題について理解し説明ができる。
思考・判断の観点 (K)	現在の社会的な問題と自身の関心とに向き合い、研究テーマの設定ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら進んで研究テーマに取り組みことができる。
技術・表現の観点 (A)	研究テーマに沿った調査ができその資料をもとに考察ができそれを論文として執筆できる。研究テーマに沿った調査ができその資料をもとに建築設計を行い作品

	して表現できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、テーマの設定について説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマを設定するために、現代の社会的な問題について図書館、インターネット等を用いて調査してください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	**授業テーマ**	問題の分析と課題の設定（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代の社会的な問題について整理する。そこからテーマ案について考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	**授業テーマ**	参考文献、既往研究の収集（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	**授業テーマ**	参考文献、既往研究の収集（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	参考文献、既往研究の収集（３）

第5回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	授業テーマ	研究方法の決定（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査、制作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	授業テーマ	研究方法の決定（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査、制作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	研究方法の決定（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査、制作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	調査、制作（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。

	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	**授業テーマ**	調査、制作（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	**授業テーマ**	調査、制作（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。模型製作は自宅で行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	**授業テーマ**	調査、制作（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	**授業テーマ**	調査、制作（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	**授業テーマ**	調査、制作（６）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。

	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90分

学習計画注記

設計制作の場合は卒業設計展等の見学（校外学習）、個々のテーマに応じてフィールドワークを行う場合がある。

学生へのフィードバック方法

論文、制作共に毎回のゼミで指導、講評を行う。

評価方法

論文及び制作
・社会的背景を理解してテーマを設定できる。
・テーマに適した研究方法を選択できる。
・研究方法に沿って資料を収集できる。
・収集した資料に基づいて考察、結果へと導くことができる。
・研究、制作に独自性がある。
平常点
・授業へ積極的に参加し、自らの研究について、他者の研究について意見を述べることができる。
・自ら進んでテーマと向き合うことができる。

・はじめの授業においてルーブリックで評価方法を示す。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
論文または制作	○	○		○
平常点			○	

評価割合

卒業研究、制作：80% 平常点：20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

渡邉研司著：論文はデザインだ！（彰国社）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活の諸問題を自ら発見し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、社会の問題に関心を持ち、建築、空間を通してそれを解決しようとする意欲を持つことができる。
【技術・表現】次世代に繋がる健やかで心豊かな生活を送る為の問題解決と提案ができる。

オフィスアワー

月曜日５時限目

学生へのメッセージ

常に自身のテーマを頭に留め、情報収集、資料収集に努めてください。また自ら進んでテーマに取り組んでください。興味がある場所、建築には自ら進んで出向き、自らの目で、耳で得た

情報を蓄積してください。論文を選択した人は得た情報に基づき、考察を行い結果を導く努力をしてください。制作を行う人は得た情報に基づき、積極的に手を動かして自らの考えを他者へ伝える努力をしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	建築設計の実務経験に基づき、論文、制作の指導を行う。
アクティブ・ラーニング	○	調査研究（フィールドワーク）及びゼミ時間内でのディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	文献検索の方法、資料収集及び分析方法、論文の執筆方法、プレゼンテーション法について指導を行う。
ICT活用		

講義コード	G01008044
講義名	卒業研究Ａ（竹中）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	竹中 真紀子	指定なし

ナンバリング

G41006C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

卒業研究A

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	問題の分析と課題の設定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	授業テーマ	問題の分析と課題の設定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘ	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究

第5回	ﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	授業テーマ	研究方法の決定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	授業テーマ	研究方法の決定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究方法の決定(2)
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	授業テーマ	研究方法の決定(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。

	教室外学習の時間（分）	100分
第10回	**授業テーマ**	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	**授業テーマ**	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	**授業テーマ**	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	**授業テーマ**	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	**授業テーマ**	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。

	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。
・平常点の評価にはルーブリックを使用する（ルーブリックはGoogle Classroomを参照のこと）。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合

卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

前期月曜日4限目

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G01008048
講義名	卒業研究Ａ（内田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	内田 宗一	指定なし

ナンバリング

G41006C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第2回	授業テーマ	問題の分析と課題の設定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第3回	授業テーマ	問題の分析と課題の設定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第4回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。

第5回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第6回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第7回	授業テーマ	研究方法の決定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第8回	授業テーマ	研究方法の決定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第9回	授業テーマ	研究方法の決定(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90

第10回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第11回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第12回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第13回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第14回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。

	容	
	教室外学習の時間（分）	90

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。
・成績評価はルーブリックにもとづいて行う。ルーブリックは授業内で配付して提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合

卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

火曜5限 1703ゼミ室（千代田三番町キャンパス、前期）

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G01008049
講義名	卒業研究Ａ（太田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	太田 茜	指定なし

ナンバリング

G41006C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、制作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、制作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	問題の分析と課題の設定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	授業テーマ	問題の分析と課題の設定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。

第5回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	授業テーマ	研究方法の決定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・制作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	授業テーマ	研究方法の決定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・制作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	授業テーマ	研究方法の決定(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・制作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分

第10回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、制作、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。

	容	
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

調査・実験・制作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・制作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、制作した作品で十分に表現することができている。
・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。
・評価についてはルーブリックを用いた評価を基準として行う。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合

卒業研究の取組姿勢80%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

1808ゼミ室 月曜昼休み～3限

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・制作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G01008050
講義名	卒業研究Ａ（沼波）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	沼波 秀樹	指定なし

ナンバリング

G41006C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	115
第2回	授業テーマ	問題の分析と課題の設定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	95
第3回	授業テーマ	問題の分析と課題の設定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	95
第4回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	95
	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。

第5回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	95
第6回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	95
第7回	授業テーマ	研究方法の決定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	95
第8回	授業テーマ	研究方法の決定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	95
第9回	授業テーマ	研究方法の決定(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	95

第10回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	95
第11回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	95
第12回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	95
第13回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	95
第14回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。

	容	
	教室外学習の時間（分）	95

学生へのフィードバック方法

調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。
・平常点の評価にについては，クラスルームに掲載するルーブリック表に参照すること

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合

研究の達成状況

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

月曜日2時間目 1702室

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G01008052
講義名	卒業研究Ａ（山村）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	山村 明子	指定なし

ナンバリング

G41006C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	2 問題の分析と課題の設定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	授業テーマ	問題の分析と課題の設定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。

第5回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	授業テーマ	研究方法の決定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	授業テーマ	研究方法の決定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	授業テーマ	研究方法の決定(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分

第10回	授業テーマ	調査（分析・まとめを含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	授業テーマ	調査（分析・まとめを含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	授業テーマ	調査（分析・まとめを含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	授業テーマ	調査（分析・まとめを含む）(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	授業テーマ	調査（分析・まとめを含む）(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、など）を自ら計画的に継続して行うこと。

	容	
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

調査などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。ルーブリックを用いた評価を行います。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合

卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

月曜日2限 1703ゼミ室

学生へのメッセージ

服飾研究の切り口は様々です。自分自身が関心を持つテーマは何かを探るために、ファッション情報なども積極的に収集してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G01008054
講義名	卒業研究Ａ（伊藤）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	伊藤 有紀	指定なし

ナンバリング

G41006C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、食生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	問題の分析と課題の設定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	授業テーマ	問題の分析と課題の設定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。

第5回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	授業テーマ	研究方法の決定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	授業テーマ	研究方法の決定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	授業テーマ	研究方法の決定(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分

第10回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。

	容	
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

先行研究の調査、また自身のテーマについての調査や実験など、ほぼすべての回でパソコンを用いる。

学生へのフィードバック方法

調査・実験などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合

卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

月曜4,5限

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G01008056
講義名	卒業研究Ａ（井上）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	井上 清美	指定なし

ナンバリング

G41006C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第2回	授業テーマ	問題の分析と課題の設定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第3回	授業テーマ	問題の分析と課題の設定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第4回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。

第5回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第6回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第7回	授業テーマ	研究方法の決定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第8回	授業テーマ	研究方法の決定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	
第9回	授業テーマ	研究方法の決定(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90

第10回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第11回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第12回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第13回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第14回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。

	容	
	教室外学習の時間（分）	90

学生へのフィードバック方法

調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合

研究の達成状況

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

火曜日３限 千代田三番町キャンパスゼミ室1701

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G01008058
講義名	卒業研究Ａ（加藤）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	加藤 晴美	指定なし

ナンバリング

G41006C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第2回	授業テーマ	問題の分析と課題の設定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第3回	授業テーマ	問題の分析と課題の設定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第4回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。

第5回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第6回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第7回	授業テーマ	研究方法の決定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第8回	授業テーマ	研究方法の決定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	
第9回	授業テーマ	研究方法の決定(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90

第10回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第11回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第12回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第13回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第14回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。

	容	
	教室外学習の時間（分）	90

学生へのフィードバック方法

調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合

研究の達成状況

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・		

ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G01008059
講義名	卒業研究Ａ（佐野）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	佐野 潤子	指定なし

ナンバリング

G41006C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第2回	授業テーマ	問題の分析と課題の設定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第3回	授業テーマ	問題の分析と課題の設定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第4回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。

第5回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第6回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第7回	授業テーマ	研究方法の決定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第8回	授業テーマ	研究方法の決定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第9回	授業テーマ	研究方法の決定(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90

第10回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第11回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第12回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第13回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第14回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。

	容	
	教室外学習の時間（分）	90

学生へのフィードバック方法

調査・実験に関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等を行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

研究の達成状況

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

佐野 1805ゼミ室
前期： 火曜日昼休み 水曜日 2限
後期： 火曜日４限 必ず事前にアポを取ってください。

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G01008060
講義名	卒業研究Ａ（北見）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	北見 由奈	指定なし

ナンバリング

G41006C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第2回	授業テーマ	問題の分析と課題の設定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第3回	授業テーマ	問題の分析と課題の設定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第4回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。

第5回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第6回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第7回	授業テーマ	研究方法の決定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第8回	授業テーマ	研究方法の決定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第9回	授業テーマ	研究方法の決定(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190

第10回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第11回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第12回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第13回	授業テーマ	13 調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第14回	授業テーマ	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。

	容	
	教室外学習の時間（分）	230

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合

卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。

オフィスアワー

前期：金曜日３限（13：20～15：00） 千代田三番町キャンパス1805室

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G01008061
講義名	卒業研究Ｂ（太田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	太田 茜	指定なし

ナンバリング

G41007C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、制作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、制作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	調査・実験・制作（まとめ・考察を含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	調査・実験・制作（まとめ・考察を含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	授業テーマ	調査・実験・制作（まとめ・考察を含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	授業テーマ	調査・実験・制作（まとめ・考察を含む）(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	授業テーマ	調査・実験・制作（まとめ・考察を含む）(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	授業テーマ	論文作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・制作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
		論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの

	教室外学習(予習・復習)の内容	修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	**授業テーマ**	論文作成(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・制作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	**授業テーマ**	論文作成(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・制作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	**授業テーマ**	論文作成(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・制作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第10回	**授業テーマ**	論文作成(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・制作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	卒業研究要旨の作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を

第11回	教育・ICT活用を含む)	執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間(分)	100分
第12回	授業テーマ	卒業研究要旨の作成(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。
	教室外学習の時間(分)	100分
第13回	授業テーマ	卒業研究発表の準備(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。 作成した資料にもとづき、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成して決められた時間内に収めるよう準備すること。
	教室外学習の時間(分)	100分
第14回	授業テーマ	卒業研究発表の準備(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けたプレゼンテーションの準備を行う。 作成した資料にもとづき、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。
	教室外学習の時間(分)	100分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

調査・実験・制作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・制作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への

取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。
・評価についてはルーブリックを用いた評価を基準として行う。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合

卒業研究への内容80%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

1808ゼミ室 月曜日2限～昼休み

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・制作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G01008062
講義名	卒業研究Ａ（井澤）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	井澤 尚子	指定なし

ナンバリング

G41006C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	1 ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	2 問題の分析と課題の設定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	授業テーマ	3 問題の分析と課題の設定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	授業テーマ	4 先行研究・参考文献の調査(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	5 先行研究・参考文献の調査(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。

第5回	**含む)**	
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	**授業テーマ**	6 研究方法の決定(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	**授業テーマ**	7 研究方法の決定(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	**授業テーマ**	8 研究方法の決定(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	**授業テーマ**	9 調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	10 調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)

第10回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	**授業テーマ**	11 調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	**授業テーマ**	12 調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	**授業テーマ**	13 調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	**授業テーマ**	14 調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(6)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。

	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合

卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

金曜日3時限

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用	○	資料収集、文献調査等にインターネットの活用も含む。

講義コード	G01009031
講義名	卒業研究Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	現代家政学科 教員	指定なし

ナンバリング

G41007C22

授業概要(教育目的)

4年間の学びの集大成として、研究課題の設定・研究方法の決定・資料の収集等を主体的に行うことができるようになること。研究成果の報告では、プレゼンテーション力を身につけ、説明と議論を可能にすること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

評価割合

研究に取り組む課程での参加状況および発表・報告等総合的に判断する。

ディプロマポリシーとの関連

ゼミ受講生との話し合いで決定する。

学生へのメッセージ

自らがやらなければ、研究は先に進みません。卒業研究に費やす時間を十分に確保してください。「早め早め」の気持ちを持ちましょう。卒業研究についての相談には、時間の許す限り応じます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01009032
講義名	卒業研究Ｂ（井澤）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	井澤 尚子	指定なし

ナンバリング

G41007C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	1 調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	2 調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	授業テーマ	3 調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	授業テーマ	4 調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	授業テーマ	5 調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	授業テーマ	6 論文作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
		論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの

	教室外学習(予習・復習)の内容	修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	**授業テーマ**	7 論文作成(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	**授業テーマ**	8 論文作成(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	**授業テーマ**	9 論文作成(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第10回	**授業テーマ**	10 論文作成(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	11 卒業研究要旨の作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を

第11回	教育・ICT活用を含む)	執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間(分)	100分
第12回	授業テーマ	12 卒業研究要旨の作成(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。
	教室外学習の時間(分)	100分
第13回	授業テーマ	13 卒業研究発表の準備(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。 作成した資料にもとづき、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	100分
第14回	授業テーマ	14 卒業研究発表の準備(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。 作成した資料にもとづき、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。
	教室外学習の時間(分)	100分

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合

卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

水曜日2時限

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用	○	資料収集、文献調査等にインターネットの活用も含む。

講義コード	G01009037
講義名	卒業研究Ｂ（大橋）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大橋 竜太	指定なし

ナンバリング

G41007C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
本研究室では、建築史の論文を書きます。まずは、個別に相談しながら、研究テーマを設定します。その後、各自が設定したテーマに沿って、文献の収集の方法、調査の方法、分析の方法等、論文を書くために必要な技術を学びます。授業はゼミ形式で実施します。各自が作成したレジメをもとに、1週間の研究成果を発表します。これに対し、教員ならびに研究室の構成員がコメントを述べます。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点(K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的

の観点 (V)	に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	**授業テーマ**	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	**授業テーマ**	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	**授業テーマ**	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	**授業テーマ**	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90分

第6回	授業テーマ	論文作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	授業テーマ	論文作成(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	論文作成(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	論文作成(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	論文作成(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べてお

		くこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	**授業テーマ**	卒業研究要旨の作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	**授業テーマ**	卒業研究要旨の作成(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	**授業テーマ**	卒業研究発表の準備(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	**授業テーマ**	卒業研究発表の準備(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。

③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合

卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

月曜１・５限 1702室

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。
本研究室では、建築史および建築保存の論文指導を行うので、建築史Aおよび建築史Bの履修が望まれる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G01009039
講義名	卒業研究Ｂ（小野（由））
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小野 由美子	指定なし

ナンバリング

G41007C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第2回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第3回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第4回	授業テーマ	論文作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第5回	授業テーマ	論文作成(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	論文作成(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗ	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。

第6回	ｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間(分)	190
第7回	授業テーマ	論文作成(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間(分)	190
第8回	授業テーマ	論文作成(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間(分)	190
第9回	授業テーマ	論文作成(6)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間(分)	190
第10回	授業テーマ	卒業研究要旨の作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。
	教室外学習の時間(分)	190
	授業テーマ	卒業研究要旨の作成(2)

第11回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第12回	**授業テーマ**	卒業研究要旨の作成(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第13回	**授業テーマ**	卒業研究発表の準備(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。 作成した資料にもとづき、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第14回	**授業テーマ**	卒業研究発表の準備(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。 作成した資料にもとづき、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	230

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります

学生へのフィードバック方法

調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。

・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合

卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができている。次世代につながる健やかで
心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

【後期】水曜日 1701ゼミ室 11：00～13：00

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G01009041
講義名	卒業研究Ｂ（金森）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	金森 敏	指定なし

ナンバリング

G41007C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	授業テーマ	論文作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
		論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの

	教室外学習(予習・復習)の内容	修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	**授業テーマ**	論文作成(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	**授業テーマ**	論文作成(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	**授業テーマ**	論文作成(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第10回	**授業テーマ**	論文作成(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	論文作成(6)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、

第11回	教育・ICT活用を含む)	随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	授業テーマ	卒業研究要旨の作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	授業テーマ	卒業研究要旨の作成(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	授業テーマ	卒業研究発表の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。 作成した資料にもとづき、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

卒業研究のほかに、学外（社会）活動もあります。

学生へのフィードバック方法

調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学

習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。
・提出期限を過ぎた提出物、提出内容を満たしていない提出物は０点である。
なお、評価はルーブリック評価を用い、クラスルームに公開します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		
平常点			○	○

評価割合

卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

前期、後期木曜日5限。
ただし、事前にアポをとってくること。

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用	○	グーグルフォームを活用しながら、双方向型授業を実施

講義コード	G01009043
講義名	卒業研究Ｂ（青柳）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	青柳 由佳	指定なし

ナンバリング

G41007C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した住生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行い、製作や研究論文の形にまとめていただく。いずれも自分なりの問題意識に立ち、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論、設計の出し方、発表、プレゼンテーションの方法など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
本研究室は建築構法に基づいた研究テーマに沿って、論文及び制作を行います。具体的なテーマの設定については、個別に相談を行い決定します。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。
建築士指定科目をなるべく多く履修していることが望ましい。
制作を選択する場合は設計製図演習A-F、インテリアCAD演習の単位取得済みであること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	現在の社会的な問題について理解し説明ができる。
思考・判断の観点 (K)	現在の社会的な問題と自身の関心とに向き合い、研究テーマの設定ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら進んで研究テーマに取り組みことができる。
技術・表現の観点 (A)	研究テーマに沿った調査ができその資料をもとに考察ができそれを論文として執筆できる。研究テーマに沿った調査ができその資料をもとに建築設計を行い作品

	として表現できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	本研究室のテーマに沿ったワークショップ、研究会への参加（校外授業）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本研究室のテーマ「建築構法」（民家と集落、持続可能な建築、木造構法）に基づき、ワークショップ、研究会への参加をし、自らの研究テーマを深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	**授業テーマ**	論文の執筆、作品の制作（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	**授業テーマ**	論文の執筆、作品の制作（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	**授業テーマ**	論文の執筆、作品の制作（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	**授業テーマ**	論文の執筆、作品の制作（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	**授業テーマ**	論文の執筆、作品の制作（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。

	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	**授業テーマ**	論文の執筆、作品の制作（６）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	**授業テーマ**	論文の執筆、作品の制作（７）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	**授業テーマ**	論文、作品要旨の作成（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文、作品要旨の提出をし、確認後に受領する。（データおよびプリントアウトしたもの）
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の授業の指導に基づき、要旨を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	**授業テーマ**	論文、作品要旨の作成（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文、作品要旨の提出をし、確認後に受領する。（データおよびプリントアウトしたもの）
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の授業の指導に基づき、要旨を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	**授業テーマ**	論文、作品要旨の作成（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文、作品要旨の提出をし、確認後に受領する。（データおよびプリントアウトしたもの）
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の授業の指導に基づき、要旨を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	**授業テーマ**	卒業研究発表会の準備（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	口頭発表用のパワーポイントおよび原稿を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外においても口頭発表用のパワーポイントを作成を進める。
	教室外学習の時間（分）	90分

第13回	授業テーマ	卒業研究発表会の準備（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	口頭発表用のパワーポイントおよび原稿の検討を行い、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外においても発表原稿を作成、推考し、発表練習を行う。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	卒業研究発表会の準備（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	口頭発表用のパワーポイントおよび原稿の検討を行い、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外においても発表原稿を作成、推考し、発表練習を行う。
	教室外学習の時間（分）	90分

学習計画注記

それぞれのテーマによってスケジュールが変更になる場合がありますが、本論、要旨、口頭発表の提出期限は統一されており、これを厳守すること。

学生へのフィードバック方法

調査・制作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

論文及び制作
・社会的背景を理解してテーマを設定できる。
・テーマに適した研究方法を選択できる。
・研究方法に沿って資料を収集できる。
・収集した資料に基づいて考察、結果へと導くことができる。
・研究、制作に独自性がある。
平常点
・授業へ積極的に参加し、自らの研究について、他者の研究について意見を述べることができる。
・自ら進んでテーマと向き合うことができる。

・はじめの授業においてルーブリックで評価方法を示す。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
論文・制作	○	○		○
平常点			○	

評価割合

論文、制作：80% 平常点：20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

論文
渡邉研司著：論文はデザインだ！（彰国社）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活の諸問題を自ら発見し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、社会の問題に関心を持ち、建築、空間を通してそれを解決しようとする意欲を持つことができる。
【技術・表現】次世代に繋がる健やかで心豊かな生活を送る為の問題解決と提案ができる。

オフィスアワー

月曜日５時限目

学生へのメッセージ

常に自身のテーマを頭に留め、情報収集、資料収集に努めてください。また自ら進んでテーマに取り組んでください。興味がある場所、建築には自ら進んで出向き、自らの目で、耳で得た情報を蓄積してください。論文を選択した人は得た情報に基づき、考察を行い結果を導く努力をしてください。制作を行う人は得た情報に基づき、積極的に手を動かして自らの考えを他者へ伝える努力をしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	建築設計の実務経験に基づき、論文、制作の指導を行う。
アクティブ・ラーニング	○	調査研究（フィールドワーク）及びゼミ時間内でのディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	文献検索の方法、資料収集及び分析方法、論文の執筆方法、プレゼンテーション法について指導を行う。
ICT活用		

講義コード	G01009044
講義名	卒業研究Ｂ（竹中）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	竹中 真紀子	指定なし

ナンバリング

G41007C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

卒業研究B

第1回	**授業テーマ**	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	**授業テーマ**	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	**授業テーマ**	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	**授業テーマ**	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	**授業テーマ**	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	論文作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。

第6回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間(分)	100分
第7回	**授業テーマ**	論文作成(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間(分)	100分
第8回	**授業テーマ**	論文作成(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間(分)	100分
第9回	**授業テーマ**	論文作成(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間(分)	100分
第10回	**授業テーマ**	論文作成(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間(分)	100分
	授業テーマ	論文作成(6)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗ	

第11回	ｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間(分)	100分
第12回	授業テーマ	卒業研究要旨の作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間(分)	100分
第13回	授業テーマ	卒業研究要旨の作成(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。
	教室外学習の時間(分)	100分
第14回	授業テーマ	卒業研究発表の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。 作成した資料にもとづき、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	100分

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。

・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。
・平常点の評価にはルーブリックを使用する（ルーブリックはGoogle Classroomを参照のこと）。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合

卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

後期：火曜日4時限目

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G01009048
講義名	卒業研究Ｂ（内田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	内田 宗一	指定なし

ナンバリング

G41007C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第2回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第3回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第4回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第5回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第6回	授業テーマ	論文作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
		論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの

	教室外学習(予習・復習)の内容	修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第7回	**授業テーマ**	論文作成(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第8回	**授業テーマ**	論文作成(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第9回	**授業テーマ**	論文作成(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第10回	**授業テーマ**	論文作成(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
	授業テーマ	論文作成(6)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、

第11回	教育・ICT活用を含む)	随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間(分)	90
第12回	授業テーマ	卒業研究要旨の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間(分)	90
第13回	授業テーマ	卒業研究発表の準備(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	90
第14回	授業テーマ	卒業研究発表の準備(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。 作成した資料にもとづき、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。
	教室外学習の時間(分)	90

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。

・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。
・成績評価はルーブリックにもとづいて行う。ルーブリックは授業内で配付して提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合

卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

金曜3限 1703ゼミ室（千代田三番町キャンパス、後期）

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G01009049
講義名	卒業研究Ｂ（太田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	太田 茜	指定なし

ナンバリング

G41007C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、制作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、制作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	調査・実験・制作（まとめ・考察を含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	調査・実験・制作（まとめ・考察を含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	授業テーマ	調査・実験・制作（まとめ・考察を含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	授業テーマ	調査・実験・制作（まとめ・考察を含む）(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	授業テーマ	調査・実験・制作（まとめ・考察を含む）(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	授業テーマ	論文作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・制作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
		論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの

	教室外学習(予習・復習)の内容	修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	**授業テーマ**	論文作成(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・制作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	**授業テーマ**	論文作成(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・制作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	**授業テーマ**	論文作成(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・制作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第10回	**授業テーマ**	論文作成(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・制作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	卒業研究要旨の作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を

第11回	教育・ICT活用を含む)	執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間(分)	100分
第12回	授業テーマ	卒業研究要旨の作成(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。
	教室外学習の時間(分)	100分
第13回	授業テーマ	卒業研究発表の準備(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。 作成した資料にもとづき、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成して決められた時間内に収めるよう準備すること。
	教室外学習の時間(分)	100分
第14回	授業テーマ	卒業研究発表の準備(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けたプレゼンテーションの準備を行う。 作成した資料にもとづき、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。
	教室外学習の時間(分)	100分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

調査・実験・制作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・制作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への

取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。
・評価についてはルーブリックを用いた評価を基準として行う。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合

卒業研究への内容80%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

1808ゼミ室 月曜日2限～昼休み

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・制作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G01009050
講義名	卒業研究Ｂ（沼波）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	沼波 秀樹	指定なし

ナンバリング

G41007C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	95
第2回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	95
第3回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	95
第4回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	95
第5回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	95
第6回	授業テーマ	論文作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
		論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの

	教室外学習(予習・復習)の内容	修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	95
第7回	**授業テーマ**	論文作成(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	95
第8回	**授業テーマ**	論文作成(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	95
第9回	**授業テーマ**	論文作成(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	95
第10回	**授業テーマ**	論文作成(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	95
	授業テーマ	卒業研究要旨の作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を

第11回	教育・ICT活用を含む)	執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間(分)	95
第12回	授業テーマ	卒業研究要旨の作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。
	教室外学習の時間(分)	95
第13回	授業テーマ	卒業研究発表の準備(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。 作成した資料にもとづき、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	95
第14回	授業テーマ	卒業研究発表の準備(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。 作成した資料にもとづき、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。
	教室外学習の時間(分)	115

学生へのフィードバック方法

調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。
・平常点の評価にについては，クラスルームに掲載するルーブリック表に参照すること

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合

卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

水曜日2限目 1702室

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G01009052
講義名	卒業研究Ｂ（山村）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	山村 明子	指定なし

ナンバリング

G41007C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	調査(まとめ・考察を含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマに応じ、必要な文献収集、調査などを計画的に継続して行う。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	調査(まとめ・考察を含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマに応じ、必要な文献収集、調査などを計画的に継続して行う。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	授業テーマ	調査(まとめ・考察を含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマに応じ、必要な文献収集、調査などを計画的に継続して行う。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	授業テーマ	調査(まとめ・考察を含む）(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマに応じ、必要な文献収集、調査などを計画的に継続して行う。
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	授業テーマ	調査(まとめ・考察を含む）(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマに応じ、必要な文献収集、調査などを計画的に継続して行う。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	授業テーマ	論文作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
		論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導に基づく下書きの修

	教室外学習(予習・復習)の内容	正を行っていくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	**授業テーマ**	論文作成(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導に基づく下書きの修正を行っていくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	**授業テーマ**	論文作成(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導に基づく下書きの修正を行っていくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	**授業テーマ**	論文作成(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導に基づく下書きの修正を行っていくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第10回	**授業テーマ**	論文作成(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導に基づく下書きの修正を行っていくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	論文作成(6)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディス

第11回	教育・ICT活用を含む)	カッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導に基づく下書きの修正を行っていくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間(分)	100分
第12回	授業テーマ	卒業研究要旨の作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	執筆要項を読み卒業研究要旨の形式などを確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間(分)	100分
第13回	授業テーマ	卒業研究要旨の作成(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導に基づき、卒業研究要旨の下書きの修正をする。
	教室外学習の時間(分)	100分
第14回	授業テーマ	卒業研究発表の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の内容に基づき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料に基づき、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成する。発表の練習を行っておく。
	教室外学習の時間(分)	100分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

調査などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

ルーブリックで評価します。ルーブリックはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合

卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない。

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

月曜日2限 1703ゼミ室

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。卒業論文は自身の考えを自分の言葉で文章としてまとめるなければいけません。文章力を高めるためには、意識して日常的に多くの文章を読むようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G01009054
講義名	卒業研究Ｂ（伊藤）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	伊藤 有紀	指定なし

ナンバリング

G41007C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、食生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	授業テーマ	論文作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
		論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの

	教室外学習(予習・復習)の内容	修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	**授業テーマ**	論文作成(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	**授業テーマ**	論文作成(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	**授業テーマ**	論文作成(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第10回	**授業テーマ**	論文作成(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	卒業研究要旨の作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を

第11回	教育・ICT活用を含む)	執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間(分)	100分
第12回	授業テーマ	卒業研究要旨の作成(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。
	教室外学習の時間(分)	100分
第13回	授業テーマ	卒業研究発表の準備(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。 作成した資料にもとづき、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	100分
第14回	授業テーマ	卒業研究発表の準備(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。 作成した資料にもとづき、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。
	教室外学習の時間(分)	100分

学習計画注記

調査や実験結果のまとめ、要旨の作成、卒業発表原稿作成など、すべての回でパソコンを用いる。

学生へのフィードバック方法

調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学

習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合

卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

金曜1，2限

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G01009056
講義名	卒業研究Ｂ（井上）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	井上 清美	指定なし

ナンバリング

G41007C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第2回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第3回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第4回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第5回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第6回	授業テーマ	論文作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
		論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの

	教室外学習(予習・復習)の内容	修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第7回	**授業テーマ**	論文作成(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第8回	**授業テーマ**	論文作成(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第9回	**授業テーマ**	論文作成(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第10回	**授業テーマ**	論文作成(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
	授業テーマ	論文作成(6)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、

第11回	教育・ICT活用を含む)	随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第12回	授業テーマ	卒業研究要旨の作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第13回	授業テーマ	卒業研究要旨の作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第14回	授業テーマ	卒業研究発表の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。 作成した資料にもとづき、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。また、発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90

学生へのフィードバック方法

調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合

卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

火曜日３限 千代田三番町キャンパス 1701ゼミ室

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G01009058
講義名	卒業研究Ｂ（加藤）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	加藤 晴美	指定なし

ナンバリング

G41007C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第2回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第3回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第4回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第5回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第6回	授業テーマ	論文作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
		論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの

	教室外学習(予習・復習)の内容	修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第7回	**授業テーマ**	論文作成(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第8回	**授業テーマ**	論文作成(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第9回	**授業テーマ**	論文作成(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第10回	**授業テーマ**	論文作成(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
	授業テーマ	論文作成(6)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、

第11回	教育・ICT活用を含む)	随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第12回	授業テーマ	卒業研究要旨の作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第13回	授業テーマ	卒業研究要旨の作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第14回	授業テーマ	卒業研究発表の準備(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。 作成した資料にもとづき、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90

学生へのフィードバック方法

調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合

卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G01009059
講義名	卒業研究Ｂ（佐野）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	佐野 潤子	指定なし

ナンバリング

G41007C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第2回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第3回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第4回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第5回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第6回	授業テーマ	論文作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
		論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの

	教室外学習(予習・復習)の内容	修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第7回	**授業テーマ**	論文作成(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第8回	**授業テーマ**	論文作成(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第9回	**授業テーマ**	論文作成(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第10回	**授業テーマ**	論文作成(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
	授業テーマ	論文作成(6)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、

第11回	教育・ICT活用を含む)	随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第12回	授業テーマ	卒業研究要旨の作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第13回	授業テーマ	卒業研究要旨の作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第14回	授業テーマ	卒業研究発表の準備(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。 作成した資料にもとづき、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90

学生へのフィードバック方法

調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

佐野 1805ゼミ室
前期： 火曜日 昼休み 水曜日 2限
後期： 水曜日 2限 必ず事前にアポを取ってください。

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G01009060
講義名	卒業研究Ｂ（北見）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	北見 由奈	指定なし

ナンバリング

G41007C22

授業概要(教育目的)

現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。

履修条件

卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第2回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第3回	授業テーマ	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第4回	授業テーマ	論文作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第5回	授業テーマ	論文作成(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	論文作成(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗ	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。

第6回	ｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間(分)	190
第7回	授業テーマ	論文作成(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間(分)	190
第8回	授業テーマ	論文作成(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間(分)	190
第9回	授業テーマ	論文作成(6)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。
	教室外学習の時間(分)	190
第10回	授業テーマ	卒業研究要旨の作成(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。
	教室外学習の時間(分)	190
	授業テーマ	卒業研究要旨の作成(2)

第11回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第12回	**授業テーマ**	卒業研究要旨の作成(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第13回	**授業テーマ**	卒業研究発表の準備(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。 作成した資料にもとづき、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第14回	**授業テーマ**	卒業研究発表の準備(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。 作成した資料にもとづき、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	230

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります

学生へのフィードバック方法

調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
①研究の目的や意義が明確である。
②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。

・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合

卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができている。次世代につながる健やかで
心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

後期：水曜日３限（13：20～15：00） 千代田三番町キャンパス1805室

学生へのメッセージ

授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

講義コード	G01010031
講義名	家族論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	井上 清美	指定なし

ナンバリング

G22208C21

授業概要(教育目的)

現代日本の家族はどこから来て、どこへ向かうのか。標準モデルとされてきた近代家族を軸に、歴史的視点、比較文化的な視点をもとに多様な家族像について解説する。家族社会学の理論や研究成果から、家族の形態や機能の変化についての理解を促し、新しい家族のあり方を提示する。受講者が自らの家族観や家族イメージを相対化し、これから形成していく家族について考察できるようになることが目的である。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家族の形態や機能の変化を理解し、自らの家族観を相対化するための知識を得る。
思考・判断の観点 (K)	家族の多様性を理解することで、それを包摂できる社会制度やシステムについて自分なりの考えが持てるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	多様な家族における問題について、新たな発見や興味・関心を持てる。
技術・表現の観点 (A)	指定された形式でレポートを作成することが出来る。

学習計画

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	授業の進め方やねらいを理解する。自分の抱く家族像や家族

第1回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イメージを確認し、歴史的視点、比較文化的な視点を持つことの意味について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された資料を読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	210分
第2回	授業テーマ	家族をとらえる視点①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	親族と家族、直系家族と夫婦家族、日本の家制度について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された資料を読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第3回	授業テーマ	家族をとらえる視点②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	核家族と近代家族、ネットワーク論やライフコース論、家族の個人化など近代の家族をとらえる視点について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された資料を読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第4回	授業テーマ	家族をとらえる視点③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主観的家族、家族の地域性や家族のグローバル化など現代家族に生じている変化を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	2回～4回の内容をもとに、自分の持つ家族観を整理してレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第5回	授業テーマ	結婚の変化と多様化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	伝統的な婚姻儀礼や夫婦になる手続きを知り、多様化する結婚式や結婚の意義について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された資料を読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第6回	授業テーマ	出産をめぐる変化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本におけるお産の歴史をたどり、諸外国と比較しながら現在出産をめぐって生じている問題について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された資料を読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第7回	授業テーマ	「血縁」という考え方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別養子縁組など血縁をめぐる問題の現状と課題を知り、諸外国と日本を比較することで日本の特徴を理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	5回～7回の内容をもとに、血縁によらない家族について自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	近代家族のライフスタイル
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住居や家族空間、家族行事などをとりあげ、過去から現在をたどり、近代家族を象徴するライフスタイルについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された資料を読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	家族と「家事」の関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家事とは何かという視点から、家事分担の変化や外部化、省力化などについて学び、今後のあり方について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された資料を読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	企業社会と家族
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	都市労働者が生まれ、企業社会と性別役割分業に密接な関係が形成されたプロセスや現状について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	8回～10回の内容をもとに、これからの職業生活と家族生活の両立について必要と思われることについてまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	地域社会と家族のつながり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活を支える連帯と協働のあり方ついて、地方と都市それぞれの事例から現状と課題を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された資料を読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	「死」をめぐる変化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	死を迎える場所の変化を確認し、葬送や墓をめぐる問題を知り、死と家族の関わりについて考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された資料を読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	単身世帯のゆくえ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	単身世帯の増加に着目し、その内実やそれぞれの世帯が抱える問題と解決の方向性について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された資料を読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。

	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ライフステージ上に生じる問題と家族関係の関わりについて確認し、問題解決のために必要な制度や環境をについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業を受ける前に自分が抱いていた家族観が、14回の授業を受けてどのように変化したかをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	210分

学習計画注記

オンデマンド科目を受講する際の決まりや注意事項を守って受講すること。

学生へのフィードバック方法

小レポートに対する解説は授業内で行う。その他、授業内容の理解度をはかるため、各回の最後にアンケートを実施し、結果を次の回で紹介する。

評価方法

・各回で提出される小レポートの内容（自分なりの意見が導き出され、自分の言葉で表明されているか）
・授業半ばで実施する小テストの点数
・期末テストの点数
成績評価はルーブリックに基づいて行います。ルーブリックはクラスルームで提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	**知識・理解（K）**	**思考・判断（K）**	**関心・意欲・態度（V）**	**技術・表現（A）**
レポートの作成	○	○	○	○
小テスト	○	○	○	
期末テスト	○	○	○	

評価割合

レポート：50%
小テスト：20%
期末テスト：30%

使用教科書名(ISBN番号)

使用しない

参考図書

授業の中で提示する

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」「家族」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる
【思考・判断】
生活・家族・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる
【関心・意欲・態度】
生活者の視点に立ち、生活・社会の家族・諸問題について関心を持ち続けることができる
【技術・表現】

生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる。次世代につながる健やかで心豊かな家族・生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる

オフィスアワー

火曜日３限 千代田三番町キャンパス 1701ゼミ室

学生へのメッセージ

家族論の授業では歴史的、文化的な視点を通して、自分の家族観を見直すことを大事にしています。みなさんは一人ひとり異なる家庭で育ち、家族に対する思いも様々でしょう。「多様性」を大切にしながら、これからの家族のあり方について一緒に考えていきたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01011031
講義名	家族の文化
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	井上 清美	指定なし

ナンバリング

G32212C21

授業概要(教育目的)

家族の存在意義や機能について、映画やドラマなどの映像資料、小説を題材に考える。家族関係学や家族社会学における理論や研究成果をもとに、夫婦、親子、きょうだい間の関係における事例研究を行い、それをふまえて様々な問題に直面する現代家族について理解を深める。調査データや歴史資料などからはうかがい知ることが難しい幼い子どもの視点、認知症患者自身の視点、働く母や専業母、シングルファザーなど家族成員それぞれの視点から描かれた家族のあり様を提示する

履修条件

特になし（千代田区近接大学の単位互換科目になるため、他大学の学生や男子学生が受講する場合があります）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	現代家族が映像作品や文学においてどのように描かれているかを知り、問題の所在について理解する。
思考・判断の観点 (K)	映像作品・文学における家族を分析し、家族の意義や機能について自分なりの考えを提示できるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	映像作品・文学における家族に新たな発見や興味・関心を持てる。
技術・表現の観点 (A)	指定された形式でレポートを作成することが出来る。

学習計画

家族の文化

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映像作品・文学における家族を分析する意味や、その方法を学ぶ。またそれらの作品が社会に与えた影響について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでに鑑賞した映像作品や文学をふりかえり、その中で家族がどのように描かれていたかを整理し、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	210分
第2回	授業テーマ	子どもの視点からとらえる家族①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映画「誰も知らない」をもとに、子どもの視点からみた家族の意味について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された課題について、レポートを作成する。次回の授業でとりあげる作品を読む。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	子どもの視点からとらえる家族②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小説をもとに、子どもの視点からみた家族の意味について考察を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された資料を読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	ジェンダーとケアを考える①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育や介護などケアをめぐる変化を確認し、それらが描かれた小説をもとに理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布した資料を読み、内容をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	ジェンダーとケアを考える②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映画「ミッドナイトスワン」をもとに、ケアを必要とする存在とケアラーの関係について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された課題について、レポートを作成する。次回の授業でとりあげる作品を読む。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	家族の記憶～認知症患者の視点
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映画「ファーザー」をもとに、認知症を患った高齢の親と介護する子の視点から家族のあり方について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された課題について、レポートを作成する。次回の授業でとりあげる作品を読む。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	シングルマザー・シングルファザーの家族世界①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映画「クレイマー・クレイマー」をもとに、シングルマザーやシングルファザーの経験する家族について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された課題について、レポートを作成する。次回の授業でとりあげる作品を読む。
	教室外学習の時間（分）	190分

第8回	授業テーマ	シングルマザー・シングルファザーの家族世界②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小説をもとに、シングルマザーやシングルファザーの経験する家族について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回の授業で紹介する作品について、あらすじと紹介する理由をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	経済格差と家族①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映画「パラサイト」をもとに、貧困状態にある家庭生活や家族関係、またそれが子どもに与える影響について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された課題について、レポートを作成する。次回の授業でとりあげる作品を読む。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	経済格差と家族②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小説をもとに、貧困状態にある家庭生活や家族関係、またそれが子どもに与える影響について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された資料を読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	家族のゆくえ①～多様な性のあり方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	多様な性のあり方が映像作品や文学においてどのように扱われているかを知り、それをふまえた新しい家族関係の課題を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された資料を読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	家族のゆくえ②ロマンティック・ラブ・イデオロギーと近代家族
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映画「花束みたいな恋をした」をもとに、ロマンティック・ラブ・イデオロギーと近代家族の関係について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された課題について、レポートを作成する。次回の授業でとりあげる作品を読む。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	家族のゆくえ③血縁によらない家族
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小説をもとに、血縁によらない新しい家族関係について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマの中で最も印象に残ったものを選び、自分の家族と比較した際の共通点と相違点をまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代家族の抱える多様な課題を、映像作品や文学を通して理解することの意義を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマの中で最も印象に残ったものを選び、授業でとりあげた映像や小説とは別の作品をもとにレポートを作成す

		る。
	教室外学習の時間（分）	210分

学習計画注記

履修者の数や興味関心に応じて、授業スケジュールや扱う作品を変更する場合がある。

学生へのフィードバック方法

提出してもらったレポートに対する解説は授業内で行う。その他、授業内容の理解度をはかるため、各回の最後にアンケートを実施し、結果を次の回で紹介する。

評価方法

・各回で提出される小レポートの内容（自分なりの意見が導き出され、自分の言葉で表明されているか）
・授業半ばで実施する中間レポートの点数
・期末レポートの点数
成績評価はルーブリックに基づいて行う。ルーブリックはクラスルームで提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小レポートの作成	○	○	○	○
中間レポート	○	○	○	○
期末レポート	○	○	○	○

評価割合

小レポート：50%
中間レポート：20%
期末レポート：30%

使用教科書名(ISBN番号)

使用しない。

参考図書

授業内で提示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間生活、特に家族をめぐる諸問題に関する知見を身につける。
【思考・判断】社会課題の在処を発見し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】読書による人間理解の方法を体得し、さらに持続して読書行為を行うことができる。
【技能・表現】他者の意見や考えと向き合い、そのうえで自分の意見を論理的に表明することができる。

オフィスアワー

火曜日３限、千代田三番町キャンパス1701ゼミ室

学生へのメッセージ

「家族の文化」の授業では映像作品や文学作品を通して、現代家族の抱える課題を見ていきますが、みなさんからも自分の大切にしている作品やそこに描かれる家族観をぜひ教えてほしいと思います。「多様性」を大切にしながら、これからの家族のあり方について一緒に考えていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01012031
講義名	子どもと遊び
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

G12214C21

授業概要(教育目的)

子どもの成長、発達にとって「遊び」の体験は重要であるが、その歴史的な変遷をたどってみると，そのプレーは必ずしも子どもたちだけのものではなかった。そうした歴史的な背景を認識した上で、子どもの遊びをめぐる現状とその問題点を把握し、そこで大人の果たすべき役割について考える。絵本、童話、童謡、遊戯、玩具、ごっこ遊びと子どもの空想・夢などを取りあげて、遊びの中で、子どもに何が育っていくのかを明らかにしていきたい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	子どもの遊びと発達を理解すること。
思考・判断の観点 (K)	子ども時代を振り返り、遊びの重要性を確認すること。
関心・意欲・態度の観点 (V)	大人になっても創造力豊に生活する方法は遊びを理解し実践することであることを身につける。
技術・表現の観点 (A)	遊びそのものが技術や表現であることを理解すること。

学習計画

第1回	授業テーマ	子どもの遊びの特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもは自分の身体をおもちゃにして遊ぶ。大人のように気晴らしのためのものではない。小宇宙「玩具の小さな世界」をつくり、やがて大宇宙「他の人々と共有する世界である」へ、そして物や人を支配する新しい段階へ前進する。エリクソンによれば子どもの遊びは「現実を支配する幼児的表現形式」である。
	教室外学習(予習・復習)の内容	エリクソンについて調査すること。
	教室外学習の時間	30

	（分）	
第2回	授業テーマ	.マザーグースのなかの遊び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	英語版子守唄マザーグースには不思議な世界がある。数え歌や泥棒の唄、男の子の唄女の子の唄、何を伝えようとしているのか。
	教室外学習(予習・復習)の内容	.マザーグースにつて調査すること。
	教室外学習の時間（分）	30
第3回	授業テーマ	日本の童話のなかの遊び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	浦島太郎のお話しは「日本書紀」（478年）に登場する。そして現代にまで語り継がれている。それだけではない。日光の東照宮の一番奥にある家康・家光のお墓の昇り口には皇嘉門（龍宮の門）がある。日本の国歌「君が代」も浦島伝説に登場する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	浦島太郎のお話と歌を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	30
第4回	授業テーマ	現代の遊びの環境
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今の子どもたちで、積極的に遊べない子がいる。そういう子どもたちの原因の一つとして、親に丸ごと受け入れられてなくて育てられていることがあげられる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	親と子の関係に注目して善悪の判断を子どもにいつ伝えるべきか調査する。
	教室外学習の時間（分）	60
第5回	授業テーマ	ごっこ遊び１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	八木紘一郎の「ごっこ遊び」について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	八木紘一郎について調査すること。
	教室外学習の時間（分）	30
	授業テーマ	ごっこ遊び２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・	久保田浩の「ごっこ遊び」を解説し、八木紘一郎の「ごっこ遊び」と比

第6回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	べてみる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	久保田浩を調査すること。
	教室外学習の時間（分）	30
第7回	授業テーマ	遊びと子どもの発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもから大人へ、大人とは何か。河合隼雄の解説を参考にまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	河合隼雄を調査する。
	教室外学習の時間（分）	30
第8回	授業テーマ	公園レポート発表・提出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近所にある公園，もしくは児童公園や子ども広場などを一つ選び，そこで１時間に何人の子供がどんな遊びをしていたか実態調査し，調査結果をレポートで報告すこと。報告をもとにグループディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	公園内の子ども調査を実施すること。
	教室外学習の時間（分）	
第9回	授業テーマ	いろいろなおもちゃ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	紀元前3000年前後と推定される、メソポタミア文明・ウル第一王朝の遺跡からサイコロと遊戯盤が出土しているが、現時点では、この盤ゲームがおそらく最古のおもちゃと考えられている。
	教室外学習(予習・復習)の内容	おもちゃの起源について調査すること。
	教室外学習の時間（分）	30
第10回	授業テーマ	子どもは玩具で舞台を創る
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	遊戯についての学問は、「劇場」の語を借りてテアトリカと呼ばれていた。劇場には遊戯のために人々が集まるのが習わしであったが、それは劇場のみが遊戯のできる場所だったからではなく、ただ、ほかの場所よりも評判が高かったからである。
	教室外学(	

	習 予習・復習)の内容	遊戯と劇場は深い関連があったが、その事例を調査すること。
	教室外学習の時間（分）	60
第11回	授業テーマ	玩具と舞台でめざめるもの
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自由な発想・夢を追い求め続けることが人間の本性であり権利である。子ども大人も玩具と舞台で夢を追い求めている。
	教室外学習(予習・復習)の内容	舞台の意味を調査すること。
	教室外学習の時間（分）	30
第12回	授業テーマ	イメージの拡大と大きな現実
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	夢と現実を取りちがえることは、通常の人間ならない。しかし遊びの世界では夢と現実は同じステージ（舞台）にあっても許される。むしろ遊びの世界だからこそ自由気ままなのである。
	教室外学習(予習・復習)の内容	人間の自由について調査すること。
	教室外学習の時間（分）	30
第13回	授業テーマ	遊びの原風景
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どものころ遊んだことが絵のように浮かんでくることがある。それを遊びの原風景として、自分の原風景を思い出してみたい。それぞれの原風景についてグループディスカッションしてまとめ、発表してみよう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	遊びの原風景についてまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	30
第14回	授業テーマ	今、ここでの自分にとっての遊びとは何か？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大学の教室の中で、今、そこにいる自分にとって「遊び」とは何かを参考資料をもとにグループディスカッションすること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「今、ここ」という時制の重要性について調査すること。
	教室外学習の時間	30

	（分）	
第15回	授業テーマ	遊び、仕事、成長（ライフステージという考え）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	遊びの楽しみは人それぞれである。遊びは楽しみを追求する活動である。自分の中でも高校生の時に楽しいと思ったことが、大学生になったいまでも楽しいとは限らない。楽しかったことを思い出すことがある。それはいつだったか。
	教室外学習(予習・復習)の内容	楽しかったことをいくつかあげてみよう。
	教室外学習の時間（分）	30
第16回	授業テーマ	自己確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１～15回の授業の要点をまとめ獲得した知識を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	それぞれの授業の要点をまとめること。
	教室外学習の時間（分）	180

学習計画注記

関連事項導入のため、各授業の順番が入れ替わることがある。また、授業を統合・分離したりすることがある。

学生へのフィードバック方法

　授業中の質疑応答，視聴覚教材などで学生の授業への参加意欲を高めたい。

評価方法

課題レポート，授業中の質疑応答，プログラムでの課題達成度で20%，テスト80%の割合で評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合

課題レポート，授業中の質疑応答，プログラムでの課題達成度で20%，テスト80%の割合で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

基本的にプリントを使用。その他必要に応じて指示する。

参考図書

授業の中で必要に応じて指示する。

ディプロマポリシーとの関連

子どもの遊びを知ることは子どもの生活を知ることである。子どもを知ることは、次世代を知ることにつながり、大人の責任についても反省させられる。次世代につながる豊かな生活を創造するためには「子どもと遊び」は見逃すことができないことである。

オフィスアワー

金曜4限

学生へのメッセージ

現在は子どもの遊びは，早期「教育」に飲み込まれてしまった観がある。しかし，歴史を振り返ってみれば，遊びはおとなのものであったり，人々の社会化の過程できわめて重要な役割を果たしてきた。

遊びは文明の重要な要素のひとつであり，人間性の発達には欠かすことのできない重要なキーであり，文化の源であることをこの講義を通して学び，遊びのよき導き手としての力をつけてもらいたい。

したがって「遊び心」を失わない大人であってもらいたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者大嶋は学生時代より幼少年キャンプカウンセラーの経験がある。また、３～６歳まで育児の経験があり、子どもの発達に直接かかわってきたこと。さらに、筑波大学野外運学研究室主催の幼少年キャンプに、我が子を参加させ６年間観察してきたこと。これらの経験をもとに、子どもと遊びの関係を具体的に、かつ理論に照らし合わせながら確認したことをもとに授業を展開している。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッションや発表がある。
情報リテラシー教育	○	遊びの分類をデータ化し蓄積すること。
ICT活用		

講義コード	G01016031
講義名	家族支援論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	井上 清美	指定なし

ナンバリング

G22209C21

授業概要(教育目的)

現代日本の家族は多様化し、それぞれの家族が抱えるニーズも様々なものとなっている。虐待や貧困、仕事と子育ての両立、障害を持つ子どもと家庭、家族介護者の負担などの課題について解説し、それらの課題を解決するために必要な支援について事例をもとに学ぶ。さまざまな種類の援助活動及び関係機関との連携の在り方について解説する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	現代の家族が抱える多様な問題の現状と背景を理解し、支援サービスや制度に関する知識を得る。
思考・判断の観点 (K)	家族支援における基本的な視点を身につけ、どのような支援が有効であるか判断できるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	家族支援における問題の新たな発見や興味・関心を持てる。
技術・表現の観点 (A)	指定された形式でレポートを作成することが出来る。

学習計画

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	授業の進め方やねらいを理解する。現代家族が抱える課題を

第1回	育・ICT活用を含む)	概観し、家族支援の基本的な視点について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された資料を読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	210分
第2回	授業テーマ	子どもの最善の利益を考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童虐待の歴史や現状、またその背景を知り、どのような支援が必要とされているかを学ぶ。家族に関わる機関や支援のしくみについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された事例のプリントを読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第3回	授業テーマ	子育ての困難さと支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	産後うつや育児不安など産前産後に生じる困難さを知り、それに対する支援の方向性や制度、地域の子育て支援について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された事例のプリントを読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第4回	授業テーマ	仕事と子育ての両立支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所を中心とした保育サービスの現状と課題を知り、育児休業制度や父親支援の活動など、仕事と子育てを両立させるための支援について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された事例のプリントを読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第5回	授業テーマ	ひとり親への支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シングルマザー支援の歴史的展開と現状を知り、母子家庭、父子家庭それぞれが必要とする支援を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	2回～5回の内容をふりかえり、子どもが育つ上で必要な家族支援についてレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第6回	授業テーマ	貧困への対策と支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	相対的貧困とそれにともなう問題を理解し、子ども食堂や学習支援ボランティアなど、現在行われている支援の現状と課題について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された事例のプリントを読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第7回	授業テーマ	ひきこもり問題の理解と支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ひきこもり状態が家族や社会に与える影響について理解する。就労支援や家族への相談支援など、支援の現状や今後の方向性を考える。
	教室外学習(予習・復	授業内で提示された事例のプリントを読み、自分の考えをま

	習)の内容	とめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	社会的養護への理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童養護施設や乳児院、里親など、家庭以外の場で行われるケアの現状を学び、現在課題となっていることについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	6回～8回をふりかえり、公的支援とNPOの役割について自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	障害児者と家族ケア①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害を持つ子を産み育てる困難さを知り、障害児を育てる家族に対してどのような支援が必要とされているかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された事例のプリントを読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	障害児者と家族ケア②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害児者の権利とそれを擁護するしくみについて学び、家族との関わりから考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された事例のプリントを読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	高齢期の家族と支援①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	介護サービスやケアマネジメントの現状と課題を学ぶ。介護が家族から社会化された経緯を理解し、家族の役割について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された事例のプリントを読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	高齢期の家族と支援②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ターミナルケアや終活の問題を通じて、高齢者の権利擁護や意思決定における家族の役割について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	9回～12回をふりかえり、ケアを必要とする人々の権利擁護と家族の役割について自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	海外の家族支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の家族支援の特徴を理解するために、福祉レジームについて学ぶ。さらに、フィンランドの保育や子育て支援の事例を紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された事例のプリントを読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。

	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代の家族をめぐって生じている様々な問題と支援ニーズを確認し、支援のために必要な制度や条件について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で提示された事例のプリントを読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	210分

学習計画注記

授業は講義を中心とするが、支援の現場に関する映像や事例をまとめたプリントなどを用いて、実態について理解してもらいたい。

学生へのフィードバック方法

小レポートに対する解説は授業内で行う。その他、授業内容の理解度をはかるため、各回の最後にアンケートを実施し、結果を次の回で紹介する。

評価方法

・各回で提出される小レポートの内容（自分なりの意見が導き出され、自分の言葉で表明されているか）
・授業半ばで実施する小テストの点数
・期末テストの点数
成績評価はルーブリックに基づいて行う。ルーブリックはクラスルームで提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート作成	○	○	○	○
小テスト	○	○	○	
期末テスト	○	○	○	

評価割合

レポート：50%
小テスト：20%
期末テスト：30%

使用教科書名(ISBN番号)

使用しない。

参考図書

授業中に提示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】 社会の基礎・基盤的組織である家族のあり様の理解を通じて現代社会の諸問題を理解することができる。
【思考・判断】 家族の社会的な課題や問題を事実に基づいて発見しそれに対する解決のプロ セスが理解できる
【関心・意欲・態度】 私の中にある「家族」への”こだわり”に関心をもって、それを友人とまた家族と対話しようとする態度を持つ ことができる。

オフィスアワー

火曜３限 千代田三番町キャンパス1701ゼミ室

学生へのメッセージ

家族支援論の授業では家族の抱える様々な問題をとりあげて、どのような支援が可能かを考えます。みなさん自身が問題を抱えている場合もあるでしょう。一つひとつの問題を自分のこととしてとらえ、これから何ができるかを一緒に考えていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01017031
講義名	家族と法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	山里　盛文	指定なし

ナンバリング

G32211C21

授業概要(教育目的)

　この授業では、家族というもっとも身近な存在について、法的視点を通して考えます。夫婦、親子、相続などの現実の家族問題を解決するための法律に関わる知識がいかに手助けとなるかを概説し、法律を切り口に個人と家族、家族と社会の関係について歴史的・社会的な背景を踏まえて考えます。また、近時の様々な家族関係（パートナー関係・生殖補助医療）も扱います。さらに近年、家族法分野の改正がなされ、重要な制度の新設や既存の制度の改正などがなされており、これらの規定は私たちの生活と密接に関係するものとなっていますので、近年の改正も踏まえて講義をします。

　家族法は、私たちの家族関係を規律し方向づける指針であり、当事者の間の自由な意思決定によって市民社会を形成する基盤でもあります。現行家族法についてよく理解し、家庭生活に関する紛争を防ぎ、問題点を掘り起こし変動する社会への法的対応ができるようになることを目的とします。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1.家族について、法的視点を通して説明できる。 2.家族に関する現代的な問題について、法律に関係づけることができる。
思考・判断の観点 (K)	1.家族に関する法的問題について、論理的に指摘することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

家族と法

第1回	授業テーマ	ガイダンス　家族法の基礎
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	この授業の概要を説明し、この授業で扱う家族法の概要について学び、家族法とはどのような法律かについて理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書1～15頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	婚姻の成立
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	どのようにして婚姻が成立するかを学び、どのような要素により婚姻が成立し、どのような要素により婚姻が成立しないのかについて理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書16～21、46～47頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	婚姻の効力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	婚姻（結婚）が成立した場合の効力について学び、婚姻（結婚）が成立した場合の夫婦間財産関係や財産関係以外の効力について理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書21～29頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	婚姻の解消
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	どのようにして婚姻は解消するのかを学び、離婚の成立とその後の効果について理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書30～44、108～122頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	パートナー関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	婚姻関係外の関係について学び、婚姻（結婚）関係以外のバリエーションや同成婚などの現代的問題について理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書47～52頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。

	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	実親子関係 ①（嫡出推定制度）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	法律上の親子関係を決める必要性について学び、法律上の母子関係の決定方法と法律上の父子関係の決定方法のうちの嫡出推定制度についての基本的なルールについて理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書53～68頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	実親子関係 ②（認知制度）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	法律上の父子関係の決定方法のもう一つの方法である認知制度についての基本的ルールについて理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書69～77頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	生殖補助医療
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生殖補助医療について学び、その問題点について理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書88～91頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	養親子関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	民法が用意する養子制度について学び、養子成立・効果などについて理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書78～88頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	親権
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	親と子に関する法律関係について学び、親権の意義・内容などについて理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書93～107頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分

第11回	授業テーマ	相続制度
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人が死んだ場合の財産の移転について学び、相続の概要、だれが相続するのかについて理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書138～176頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	相続分
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人が死んだ場合の財産の移転の割合について学び、相続人がどれだけ相続するのか、どのように相続する割合を決めるのかについて理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書184～204頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	遺言
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人の意思による死後の財産移転の方法について学び、遺言の種類などについて理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書256～283頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	遺産分割　配偶者の居住の権利　遺留分
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	遺産の分割について学び、遺産分割方法やその効力、配偶者の居住の権利や、相続人の権利を守る仕組みである遺留分について理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書205～235頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆ	

第16回	ﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学生へのフィードバック方法

毎回の講義内での課題・作業について、次の回の講義において解説します。
リアクションペーパーにの中で、的確な質問については、授業にて解説します。

評価方法

・レポートは、現代における家族に関する法的問題点について、理解し、論理的に思考できているか確認します。
・定期試験は、70点満点で出題し、授業内容を振り返り、穴埋め問題などで、家族法に関する知識および理解度を図り、論述問題により、応用的な思考力や判断力を確認します。
・レポートおよび定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施しています。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○		
定期試験	○	○		

評価割合

レポート：30%
定期試験：70%

使用教科書名(ISBN番号)

山本敬三監修　金子敬明・幡野弘樹・羽生香織著『有斐閣ストゥディア7　民法7　家族』（有斐閣・2023年）
ISBN：978-4-641-15115-4

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】家族に関する法制度についての知識を習得し理解することにより、現代生活の諸問題を理解する力を身につけます。
【思考・判断】家族に関する法制度を学ぶことを通して、生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察する力を身につけます。

学生へのメッセージ

・私語、その他、他の受講生の迷惑となる行為は禁止します。
・授業資料（レジュメ・パワーポイントのスライドなど）は、教室での配布はいたしません。したがって、ご自身でプリントアウトするか、パソコンなどでダウンロードするかしてください。
・リアクションペーパーの提出は、オンラインで行います。
・家族法は、私たちの生活に密接に関係しています。ニュースなどで取り上げられることも多くありますので、報道などについてもチェックしておいてください。
・教科書については、初回の講義および講義についての資料にて説明します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01018031
講義名	家庭経済学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	佐野 潤子	指定なし

ナンバリング

G32203C21

授業概要(教育目的)

少子高齢化、女性の社会進出、政治の構造改革など、生活を取り巻く環境は大きく変化している。個人の生活と社会とのかかわりについて考えることを通じて、日常生活の背景にある現代社会の課題を客観的に把握し、それらの解決に向けて積極的に働きかけていく態度を養う。
また、自らの生活目標を立て、その実現に向けて、氾濫する情報の中から必要な情報を選別し、意思決定できる生活者としての資質を養うことを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家庭経済学に関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる
思考・判断の観点 (K)	家庭経済に関する自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	研究のための活動（文献収集、調査など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	自身が行った研究の内容を、学術的な文章により、適切に表現することができる。

学習計画

家庭経済学

	授業テーマ	家庭経済学で取り上げる課題 オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨ	

第1回	**ﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	家庭経済の現状について生活者・ジェンダーの視点から課題を概観する。自分なりの課題を設定し、さまざまな統計や調査結果をもちいて分析する基本的な方法を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家庭経済に関わる新聞記事、ネット記事など情報を収集し、自分の意見とともに記録する。配布資料を読んで内容を理解する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	ライフサイクルの変化とライフデザイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会における女性の役割が変化した背景を理解する。 少子高齢化について正しい知識を身につける。 様々な統計データから、社会の変化を読み取る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家庭経済に関わる情報を収集し、意見を記録する。政府統計、白書を読む。
	教室外学習の時間（分）	270分
第3回	**授業テーマ**	職を考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	職に就くことを考える。教育期から職業期への移行の実態を把握する。働き方、労働条件などから雇用環境を知る。 労働力人口の変化を概観する。業種による賃金の比較、労働時間を比較する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家庭経済に関わる情報を収集し、自分の意見とともに記録する。授業内容を理解する。
	教室外学習の時間（分）	270分
第4回	**授業テーマ**	離家について考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	かつては「独身貴族」、「パラサイトシングル」と言われた、いわゆる大学など卒業後もなお親と同居し、基礎的生活条件を親に依存している未婚者について考える。離家のタイミング、離家にともなう困難、離家の遅れの弊害を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家庭経済に関わる情報を収集し、自分の意見とともに記録しておく。授業内に提示した資料などをよく読み理解する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	配偶者選択、婚活を考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	出会いの変化、晩婚化・非婚化を政府統計などから概観する。男女の結婚相手の求めるものから、晩婚化、非婚化の現象と要因を読み解く。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家庭経済に関わる情報を収集し、自分の意見とともに記録しておく。授業で紹介した資料などを読み理解を深める。
	教室外学習の	270分

	時間（分）	
第6回	**授業テーマ**	結婚と離婚
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	結婚の動向、結婚のきっかけ、夫婦の年齢差を概観する。離婚の動向を年次推移、年齢別離婚率、国際比較を紹介する。離婚理由、再婚の動向を把握する。母子・父子世帯の現状を概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家庭経済に関わる情報を収集し、自分の意見とともに記録する。結婚／離婚の動向に関する近年日本の動向を知り、説明できるようになる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	**授業テーマ**	ひとり親家庭の現状
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	多様な家族形態を知る。家庭科教育でどのように関わるか考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家庭経済に関わる情報を収集し、自分の意見とともに記録する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	夫婦の生活時間、役割分業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	男性／女性の家事・育児分担を国際比較する。なぜ日本男性の家事・育児分担が少ないのかをこれまでの先行研究や統計から考察する。現代日本社会における男女の役割分担の状況を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家庭経済に関わる情報を収集し、自分の意見とともに記録する。授業内で紹介した統計や資料から、日本の家事・育児分担がどのようになっているか説明できるようにする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	家族とジェンダー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	性別役割分業観とは何か、現代日本社会の変化から概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家庭経済に関わる情報を収集し、自分の意見とともに記録する。授業内で紹介する資料や統計と、多様な意見に触れ、自分なりの方針を意識する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	子どもの生活、子育てと仕事
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの養育と社会化とは何かを考える。統計データを正しく読み取り、家庭の役割は何かを説明できるようになる。現代日本における乳幼児の生活の状況や、母親の就業状況により、日々の負担感や子育ての様子、配偶者の関わりが異なることを概観する。
	教室外学習(予	家庭経済に関わる情報を収集し、自分の意見とともに記録する。授業

	習・復習)の内容	内で学んだ内容から、子どもの養育と社会化とは何か、家庭の役割は何かを説明できるようになる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	ライフステージと家庭経済
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ライフステージ各段階での家庭経済を考える。予算を立てて、管理するという家計管理の基本を理解する。 ライフステージの段階によって家庭経済が異なること、長期的視野に立った家計管理を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家庭経済に関わる情報を収集し、自分の意見とともに記録する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	授業テーマ	女性のリスク回避傾向
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近年、金融経済教育・消費者教育など、生活と経済の関わりを取り上げる教育の必要性が指摘されている。この背景と具体的内容について考える。家庭科教育で家庭経済学、消費者教育、長寿社会における資産形成・運用についてどう扱うかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家庭経済に関わる情報を収集し、自分の意見とともに記録する。授業で紹介した情報から、自分の資産形成のプランを考えるようになる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	家計・年金に見るジェンダー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活の場である世帯における女性と男性の経済的地位に注目し、家計関連統計からジェンダー分析を行う。年金を含め、生涯を通じて性別格差がどのような経済問題をもたらすのかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家庭経済に関わる情報を収集し、自分の意見とともに記録する。授業で提示した資料やそのほか社会保障に関する情報をまとめ、説明できるようにする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	授業テーマ	まとめと期末テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業を振り返る。期末テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1回から13回までの授業資料と、自ら記録した情報を振り返る。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

授業の進み具合により、変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

授業の内容によってはグループディスカッションを行うこともある。

評価方法

・5回以上の欠席の場合、単位は取得できません（受験資格なし）。
・出欠は、毎回確認します。3回の遅刻は1回の欠席になること、30分以上の遅刻は欠席扱いとしますのでご注意ください。
・期末テストは講義内容から出題します。テキスト、ノートなどの持ち込みなどは一切不可です。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末試験	○	○	○	

評価割合

期末テスト100%
第1回から第14回までの3分の2以上の出席がない場合は、期末テストの受験資格なしとなり、単位取得できない。

使用教科書名(ISBN番号)

特になし

参考図書

授業内で提示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

佐野 1805ゼミ室
後期： 水曜日 2限 必ず事前にアポを取ってください。

学生へのメッセージ

授業では政府統計、論文、文献、新聞記事なども参考資料として紹介します。授業時に自分がどんなことを考えたのか、必ず記録しておきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業内の内容によってはディスカッションすることもある。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01019031
講義名	消費者教育
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	早野 木の美	指定なし

ナンバリング

G01019031

授業概要(教育目的)

消費者教育では、消費者が主体的に消費者市民社会の形成に参画することの重要性について理解及び関心を深めるための教育を目指している。消費者問題の歴史を検証し、個々の消費者の特性や消費生活の多様性を様々な消費者問題の事例を引用しながら解説する。消費生活に関する行動が、将来にわたって内外の社会経済情勢及び地球環境に影響を及ぼしていることを理解させるための消費者教育教材として、ＤＶＤや資料を紹介する。「消費生活相談員資格試験」の合格者には国家資格が付与された。在学中に国家資格を取得できるように、国家資格試験の紹介をする。また、繊維製品品質管理士、環境カウンセラー、世界遺産検定などの情報も提供する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．豊かで安全・安心な暮らしとはどのようなものかについて説明できる。 ２．消費者問題の解決にはどのような消費者教育が必要であるか説明できる。
思考・判断の観点 (K)	１．消費者問題の歴史を検証し、SNSをきっかけに始まる様々な消費者問題を知り、各世代に応じた消費者教育にはどのようなものがあるか説明できる。 ２．消費者問題は契約に関するものが多い。解決方法や紛争解決機関を学び、法的な思考・判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	１．生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 ２．学んだことが身についたことを示すものに消費者問題関連の検定試験や資格試験がある。各種、関連試験にトライアルしてみる。
技術・表現の	１．生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる。

観点 (A)	2．次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

学習計画

消費者教育

第1回	**授業テーマ**	シラバスに基づく科目の概要説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	科目の概要を理解することができる。消費者教育の概要について説明することができる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	消費者教育に関し、知っていることや体験したことをノートに書き出す。消費者教育に関する記事を読み、そしてノートに要約する。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習を合わせて195分
第2回	**授業テーマ**	消費者問題と消費者問題の特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費者問題には様々な種類がある。①財・サービスの質の問題 ②価格の問題 ③計量の問題 ④表示・包装の問題 ⑤広告・宣伝の問題 ⑥販売方法・契約の問題 ⑦廃棄物・地球環境問題 消費者問題の特徴を歴史から振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	消費者問題の歴史にはどのようなものがあるか、ネット等で情報を調べてみる。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習を合わせて195分
第3回	**授業テーマ**	消費者教育と行政の消費者対応・消費者基本法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①消費者教育の基本理念と日本の消費者教育 ②学校における消費者教育 ③地域における消費者教育 ④企業における消費者教育 ⑤消費者行政のあゆみ ⑥現在の消費者行政 ⑦国際機関等による消費者問題への取組 ⑧消費者基本法
	教室外学習(予習・復習)の内容	消費者庁のホームページにアクセスし、消費者教育に関するところを読んでみること。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習を合わせて195分
	授業テーマ	テーマ「大人になる君の消費者力UP」前半
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教 ICT	①契約のキホン ②初めての賃貸住宅 ③引越し直後をねらった訪問販売に注意 ④クレジットカードの使い方ーリボ払いにも注意

第4回	育・　活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	成年年齢の引き下げで18歳からクレジットカードが作れるようになりましたが、それに伴い若者の消費者被害が増加しています。実際にどのような被害が起きているのかを調べてみましょう。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて195分
第5回	授業テーマ	テーマ「大人になる君の消費者力UP」後半
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	⑥SNSがきっかけのトラブル ⑦脱毛エステのトラブル 8借金させて強引に契約を迫る手口に注意 ⑨軽い気持ちでお金を借りたら・・まさかの多重債務に ⑩転売チケットの購入トラブル ⑪若者を狙う哲史（就活商法/タレント・モデル契約）
	教室外学習(予習・復習)の内容	最近の消費者被害の大半がSNSがきっかけとなっています。自身や周りで被害に遭った人のことを考え、どのような点に注意をすれば良かったのか、考えてみましょう。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて195分
第6回	授業テーマ	テーマ「デジタル社会を生きる」前半
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①広がるデジタル手続き ②ネットやSNSの情報を見極める ③投稿による著作権侵害に注意 ④ネット広告のしくみを知る ⑤デジタル時代の支出管理 ⑥デジタル遺品のトラブルに備える
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身で使っている様々なデジタル関連の契約について、仮に解約手続きを取ることになった場合、簡単にできるでしょうか。また、御家族はデジタル遺品についてどの位認識をしているか、確認をしてみましょう。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習を合わせて195分
第7回	授業テーマ	テーマ「デジタル社会を生きる」後半
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	⑦デジタルプラットフォーム利用時の注意点 8そのパスワード、本当に安全？ ⑨偽警告によるサポート詐欺 ⑩巧妙化するフィッシング詐欺 ⑪暗号資産でもうかるはずが ⑫「メタバース」ってどんなもの？
	教室外学習(予習・復習)の内容	昨今のネット上の契約は、Googleや楽天、ヤフーなどのデジタルプラットフォームを足掛かりに様々な商品やサービスの契約をしています。あなたの場合、どのような契約に上記デジタルプラットフォームを利用していますか。過去に消費者トラブルに遭遇したことがなかったか、振り返ってみましょう。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習を合わせて195分
	授業テーマ	テーマ「１からわかる契約」前半

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①契約ってなんだろう ②契約前のチェックリスト ③契約の流れを見てみよう ④未成年者の契約 ⑤判断力の不十分な人の契約 ⑥契約をやめる（１）無効・取消し・解除
	教室外学習(予習・復習)の内容	消費者教育を学ぶにあたり、契約のキホン的なところはおさえておくようにしましょう。過去の契約で、困ったことや分からなかったことはありませんでしたか。契約に関する体験を思い出してみましょう。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習を合わせて195分
第9回	授業テーマ	テーマ「１からわかる契約」後半
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	⑦契約をやめる（２）不当な勧誘の場合 8契約をやめる（３）中途解約 ⑨消滅時効とは ⑩クーリング・オフってどんな制度 ⑪クーリング・オフができる取引 ⑫クーリング・オフの確認ポイント
	教室外学習(予習・復習)の内容	クーリング・オフが電子手続きでもできるようになりました。要件はどうなっているのか、調べてみましょう。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて195分
第10回	授業テーマ	テーマ「消費者トラブル注意報」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①ひと目で分かる！こんな手口（１） ②ひと目で分かる！こんな手口（２） ③公式サイトを装った偽通販サイトに注意④気づかないうちに定期購入に ⑤オンラインゲームや投げ銭での高額課金 ⑥不用品回収サービスで思わぬ高額請求 ⑦サブスクリプションサービスでトラブル 8ロマンス詐欺に注意 ⑨マインド・コントロールを防ぐために
	教室外学習(予習・復習)の内容	消費生活センターには食に係わる様々なトラブルが寄せられます。事例を紹介しながら解説をしていきますので、自身の食生活も考えてみておいてください。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習を合わせて195分
第11回	授業テーマ	テーマ「身近にひそむ危険」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①加熱式たばこ乳幼児の誤飲に注意 ②子どもを家庭内の水の事故から守る ③ 折りたたみ式踏み台の乳幼児事故 ④子どもを抱っこして自転車に乗らないで ⑤ヘッドホンやイヤホンによる難聴 ⑥登山を安全に楽しみために
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身のことや、家族にふりかかった「ヒヤリ・ハット」の出来事を思い出し、どのような対策を講じれば良かったのか、考えてみましょう。
	教室外学習	

	の時間（分）	復習と予習を合わせて195分
第12回	**授業テーマ**	アクテイブラーニング 東京都消費生活総合センターの見学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	東京都消費生活総合センターを見学します。当センターは消費者相談室以外に図書室、消費者相談関連の実験室、試験した商品の展示、資料委室などがあります。センター長の説明を聞き、施設を見学します。希望者は本を借りることができます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図書資料室には行政、企業、各種団体が作成した啓発資料が展示してあります。消費者問題に限らず、衣・食・住・金融・法律等生活全般に関する多種多様な資料を無料で入手することができます。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習を合わせて195分
第13回	**授業テーマ**	テーマ「法テラスと調停」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	紛争に巻き込まれた時の解決方法として消費生活センターの利用だけでなく、民間が設置した各種ADR（裁判外紛争処理）機関や国が設置した法テラス、裁判所の調停制度の利用の仕方を学習します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	消費者教育では消費者が紛争に巻き込まれた時にどのように解決するのが効率的で金銭負担が少なくて済むのかも教えておくことが必要です。あまり知られていない法テラスや民事調停の申立ての方法などを具体的に解説します。自身の生活の中で起きた紛争を思い出し、どのような解決策があったのかを考えてみましょう。
	教室外学習の時間（分）	復習、予習も含めて195分
第14回	**授業テーマ**	テーマ「旅行と環境問題」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ネット通販による海外旅行契約が増加しています。旅行に関係する各種契約紛争や世界の環境問題について、講師が撮影してきた各国の映像をご紹介しながら解説します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	行ってみたい国の情報を収集します。仮に旅行に行くとすれば、どのような用意が必要であるか。訪問先の歴史、文化、環境問題なども調べてみましょう。
	教室外学習の時間（分）	復習、予習も含めて195分
第15回	**授業テーマ**	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

日頃から身近な消費者問題に関心をもちましょう。

学生へのフィードバック方法

小テストは実施しないが、毎回講義の中で提出期限を示した上で課題を出す。期限内に提出された課題を3段階評価で採点する。正解は次の週に伝える。

評価方法

テストは実施しないが、レポート課題を出す。毎回実施する課題の回答は1点～3点。実施回数が１４回なので、全部の授業で満点を取ると3点×14回＝42点になる。レポートは58点満点とする。こちらも3段階評価となる。レポートと課題とも満点を取ると合計で100点となる。授業の最初にルーブリックで評価することを説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題の回答	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○
ルーブリックによる評価	○	○	○	○

評価割合

レポート（58%）、課題（42%）

使用教科書名(ISBN番号)

くらしの豆知識２０２６ 編集・発行 国民生活センター 販売：全国官報販売協同組合

参考図書

特定商取引法のトラブル相談Q＆A・坂東俊矢監修・民事法研究会発行/ 実践的消費者読本第6版・圓山茂夫編著・民事法研究会発行/ 消費者契約法・消費者庁著・2019年・商事法務出版／ 消費者法講義第5版・日本弁護士会著・2018年・日本評論社出版／ こども六法・山崎聡一郎著・2020・弘文堂出版／ 身近でできるSDGｓエシカル消費（全3巻）山本良一監修さえら書房発行

参考URL

http://www/kokusen.go.jp/wko/index.html

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】消費者教育の基礎となる衣食住に関する消費者問題を学ぶ。その上で、社会の基礎としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的に家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判に思考し、法的な考えも備えて、適切に判断を下せる力を身につけている。生活・社会の諸問題を自ら発見し、分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】過去、現在の消費者問題の歴史や諸外国の消費者問題を学ぶことから、生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
【技能・表現】消費生活センターの見学や各種ADR機関について学習することで、生活社の問題に寄り添えるコミュニケーションが必要であることを学習する。消費者教育を通じ、あらゆる世代に対し、健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー

講義終了後、必要であれば講師控室で受けます。控室は他の講師が多数控えているので、学生のプライバシー保護のために提出用紙に書いていただき、翌週適宜対応するなど配慮したいと考えています。

学生へのメッセージ

消費者教育には、金融教育、食育、法教育など、様々な要素が含まれているので、授業では広範囲な知識を得ることになる。消費者教育は生涯教育とも言われ、時代の変遷に伴い、全ての年代が常に学び続けて行かなくてはならない。講義を履修して役に立つと思えるのは、学生時代よりも社会人になり、困難な場面に遭遇した時だろう。消費生活アドバイザーや消費生活相談員試験に関する内容も講義の中で紹介していくので、資格取得を目指す学生も是非履修して欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は行政で消費生活相談を受ける実務家である。国家資格の消費生活相談員、消費生活アドバイザー資格の他に、J-FLEC認定アドバイザー（金融教育の専門家）、東京都消費者啓発員、環境カウンセラー、繊維製品品質管理士等の資格を有している。裁判所の司法委員と民事調停委員であることから、法的観点からの消費者問題を論じながら授業を行っている。
アクティブ・ラーニング	○	東京都消費生活総合センターを見学し、担当者から消費者センターの現状や今後の課題等について説明を聞く。展示室では商品テスト済みの商品や啓発用の映像を視聴し、併設の図書室では希望の本を借りる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01022031
講義名	消費者政策と法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小野 由美子	指定なし

ナンバリング

G32306C21

授業概要(教育目的)

消費者にとって安全で安心できる商品とサービスを選択し、環境に優しい生活スタイルをつくりあげるための政策や法が求められている。消費者問題について考え、その背後にある市場メカニズムや消費者施策の必要性を理解する。消費者の生活に関わる政策と法律の動向を取り上げながら、私たち消費者が自立して考え、行動するための能力を養う。

履修条件

ノートパソコンを必携とする授業である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	消費生活のために必要な知識や態度を習得し、消費者の権利と役割を自覚することができる。
思考・判断の観点 (K)	消費生活を送る上で求められる批判的思考力と意思決定をする力を付けることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	消費者市民社会の構成員として自己実現していく能力を開発することができる。
技術・表現の観点 (A)	安全で安心な生活を送るための問題解決と提案・発信ができる。

学習計画

	授業テーマ	消費者問題とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費者問題の発生や歴史、解決に向けた取り組みについて学ぶ。

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章を読み、関連事項について調べること。
	教室外学習の時間（分）	190
第2回	**授業テーマ**	消費者問題と消費者政策
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費者問題を振り返り、消費者政策の展開や消費者被害の拡大防止と被害救済に関する新しい制度を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章を読み、関連事項について調べること。
	教室外学習の時間（分）	190
第3回	**授業テーマ**	消費者法とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費者と契約について検討し、特定商取引法や消費者契約法などの消費者法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第7章を読み、関連事項について調べること。
	教室外学習の時間（分）	190
第4回	**授業テーマ**	生命・身体や財産にかかわる消費者被害
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費生活製品の安全性を検討し、安全性を確保し、被害を救済するための法制度を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第6章を読み、関連事項について調べること。
	教室外学習の時間（分）	190
第5回	**授業テーマ**	消費者の安全に関わる政策と法律①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の安全が求められる背景と、関連する法律と行政の取組について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章を読み、関連事項について調べること。
	教室外学習の時間（分）	190
第6回	**授業テーマ**	消費者の安全に関わる政策と法律②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	商品の安全性について検討する。安全性を確保し、被害を救済するための法制度を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第6章を読み、関連事項について調べること。
	教室外学習の時間（分）	190
第7回	**授業テーマ**	消費者の安全に関わる政策と法律③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費生活の相談や事故に関する情報を理解する。全国の消費生活相談のデータベースであるPIO-NETや、事故情報データバンクシステムについて学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第5章を読み、関連事項について調べること。

	教室外学習の時間（分）	190
第8回	**授業テーマ**	消費者行政の実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費者行政の展開、現状と課題について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章を読み、関連事項について調べること。
	教室外学習の時間（分）	190
第9回	**授業テーマ**	消費者被害と法律
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	契約と消費者トラブルについて理解する。悪質商法とそれを未然に防ぎ、早期解決に導くための法規制を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第7章を読み、関連事項について調べること。
	教室外学習の時間（分）	190
第10回	**授業テーマ**	消費者団体の役割
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費者団体や消費者運動の歴史を振り返り、適格消費者団体の動向など、消費者を取り巻く現状と消費者団体の役割について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章を読み、関連事項について調べること。
	教室外学習の時間（分）	190
第11回	**授業テーマ**	企業の消費者対応
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	企業の消費者対応についての変遷や、消費者被害の拡大防止と被害救済に関わる諸制度を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章を読み、関連事項について調べること。
	教室外学習の時間（分）	190
第12回	**授業テーマ**	各ライフステージにおける消費者教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児期・小学生期・中学生期・高校生期・成人期の各ライフステージにおける消費者教育のあり方について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第12章から第14章を読み、関連事項について調べること。
	教室外学習の時間（分）	190
第13回	**授業テーマ**	生活設計・消費者信用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活設計に関わり、金銭管理と消費者信用について理解する。金融商品と消費者信用の仕組みを知り、トラブルの未然防止と早期解決へ導く方策を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第8章及び第9章を読み、関連事項について調べること。
	教室外学習の時間（分）	190

第14回	授業テーマ	まとめ：消費者市民社会の構築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費者市民の概念を理解し、消費者の権利と責任について考える。消費者も利害関係者として責任ある生活スタイルを取ることの重要性を検討する。 これまで学習した内容の振り返りを行い、学習到達度を確認するための定期試験を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第11章と15章を読むとともに、これまで学習した内容を整理すること。
	教室外学習の時間（分）	230

学習計画注記

授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容についてふりかえりをする。

評価方法

・定期試験は70点満点で出題し、テキストや授業で配布した資料から出題する。
・定期試験・提出物は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
提出物			○	○
定期試験	○	○		

評価割合

定期試験（70%）及び提出物（30%）などを総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

神山久美他編『新しい消費者教育 第2版:これからの消費生活を考える』慶應義塾大学出版会、2019年(9784766426335)

参考図書

国民生活センター編『くらしの豆知識（2025年版）』2024年

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技術・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができている。次世代につながる健やかで
心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

【前期】水曜日 1701ゼミ室 12：30～14：30

学生へのメッセージ

関連するweb教材や動画などを講義で紹介しますので、各自でも適宜、検索・活用してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、消費生活の研究に関する実務経験を有しており、関連する法律と行政における運用のあり方については消費者と行政の双方の立場から現状と課題について検討する機会を提供している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01025031
講義名	消費者教育演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小野 由美子	指定なし

ナンバリング

G22304C22

授業概要(教育目的)

消費者市民社会における消費者教育をテーマに、学生をめぐる消費生活上の課題を中心にした質問紙調査やインタビュー調査を実施する。関連する研究や啓発資料、手法についての情報を収集・分析しながら消費者教育の素材を作成する。その成果は研究報告書にまとめ、連携先等に公開して地域社会に還元することを目指す。

履修条件

ノートパソコンを必携とする授業である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	消費者教育に関わる専門的知識を持つことができる。
思考・判断の観点 (K)	消費者教育について多面的に考える姿勢を身に付けられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら取り組む学習態度を身に付けられる。
技術・表現の観点 (A)	自らの考えをまとめ、人に伝える技術力を身に付けられる。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を

第1回	育・ICT活用を含む)	理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	消費者教育についてどのようなものがあるか調べる。
	教室外学習の時間(分)	190
第2回	授業テーマ	消費者教育に関わる先行研究や取り組みの情報収集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行政や企業が実施している消費者教育について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	行政が作成している消費者教育の啓発資料について調べる。
	教室外学習の時間(分)	190
第3回	授業テーマ	エシカル消費（倫理的消費）の学習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	専門家からエシカル消費（倫理的消費）についての講義を受けて学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	関連する事項についてあらかじめ調べる。
	教室外学習の時間(分)	190
第4回	授業テーマ	調査の企画と設計、調査仮説を検討。質問紙調査の調査票作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学生を対象にした啓発講座を実施するため、ニーズ調査の計画を立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	関連する先行調査を調べる。
	教室外学習の時間(分)	190
第5回	授業テーマ	質問紙調査とインタビュー調査の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	どのような啓発講座が望まれているかを調べるための質問紙調査とインタビュー調査の項目を準備する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	関連する先行調査を調べる。
	教室外学習の時間(分)	190
第6回	授業テーマ	学生を対象にした調査票の配布・回収・分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	確定した質問項目に沿った調査を実施する。結果をとりまとめ、その内容を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	集めたデータを整理する。
	教室外学習の時間(分)	190
第7回	授業テーマ	調査結果を踏まえた啓発イベントの準備①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでに実施したニーズ調査にもとづき、啓発講座を企画する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの講座の実践例などを調べる。
	教室外学習の時間（分）	190
第8回	**授業テーマ**	調査結果を踏まえた啓発イベントの準備②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	啓発講座の準備を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	効果的な学習内容などを検討する。
	教室外学習の時間（分）	190
第9回	**授業テーマ**	啓発イベントの実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費者教育講座を実施することで、訴求対象を意識した啓発の手法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実施をするにあたり教材などの準備をする。実施後には課題などを共有する。
	教室外学習の時間（分）	190
第10回	**授業テーマ**	啓発イベントの振り返り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	啓発講座の振り返りをする中で見えてきた課題を整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	振り返りの内容に関するデータ整理をはじめる。
	教室外学習の時間（分）	190
第11回	**授業テーマ**	啓発イベントの結果とりまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	啓発講座で実施した量的・質的データをまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	まとめた内容は電子データにして発表できるようにする。
	教室外学習の時間（分）	190
第12回	**授業テーマ**	企業の消費者対応①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費生活用品を取り扱う企業について情報収集をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	出展内容をインターネットであらかじめ調べる。
	教室外学習の時間（分）	190
第13回	**授業テーマ**	企業の消費者対応②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費生活用品を取り扱う企業の品質管理の担当者である外部講師から、消費者への対応の最前線について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	企業のお客様相談室の役割について考える、

	教室外学習の時間（分）	190
第14回	**授業テーマ**	最終報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	定期試験として、エシカル消費や企業の消費者志向経営についての考察や、啓発講座の調査を通して考えた消費者教育のあり方について発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	他の学修者とも情報交換をする。
	教室外学習の時間（分）	230

学習計画注記

土曜日・日曜日などを利用することも計画しているので、第1回の授業に出席をしてスケジュールをあらかじめ了解しておくこと。

学生へのフィードバック方法

必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は30点満点で出題し、課題レポートを課す。
・受講状況・学習態度、啓発講座調査、見本市調査、定期試験は下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
受講状況・学習態度			○	○
啓発講座調査	○	○		
見本市調査	○	○		
定期試験	○	○		

評価割合

受講状況・学習態度（10%）、調査の実施と分析（30%）、調査結果の発表（30%）、定期試験（30%）などを総合的に評価する。
・ルーブリックでの評価であり、学習管理システムを通して提示する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技術・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができている。次世代につながる健やかで
心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

【前期】水曜日 1701ゼミ室 12：40～14：40

学生へのメッセージ

消費者教育について講座を実施したり、事業者等との連携を通して学びましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	啓発講座のニーズ調査やとりまとめなどにあたっては、グループ・ディスカッションをはじめとするアクティブ・ラーニングの手法を複数取り入れた授業進行となる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01026031
講義名	プロシューマー実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

G32307C23

授業概要(教育目的)

我が国は、少子高齢化をはじめ地方では過疎化が進み、都市部においては人口が一極集中しているものの、人間関係は希薄化し、地域コミュニティは衰退の一途をたどっています。
そのような中、本学で学びの１つである食料・農林水産業は、大規模自然災害・地球温暖化、生産者の減少および高齢化等の生産基盤の脆弱化、新型コロナを契機とした生産・消費の変化、物流の2024年問題等といった課題に直面しており、将来にわたって食料の安定供給を図るための取組を検討、推進していく必要があります。
近年、SDGsをはじめ、様々な環境を重視する国内外の動きが加速していくと見込まれる中、我が国の食料・農林水産業においてもこれらに的確に対応し、持続可能な食料システムを構築することが急務となっています。
農林水産省では、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」を策定され、官民一体となり取組を推進する機運が高まっていますが、本授業ではこれら課題をどのように解決し、持続可能な食料システムを構築することができるか。実際にこれら課題に直面している食品関連事業者の取組を聞き、ヒアリングを行うことで、これら課題の解決に資する政策提言を行うことにします。

履修条件

社会調査法を履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点で環境問題や食糧問題を捉え、日本ではどのような問題を抱えているか把握し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	課題を把握したあと、実際に課題に直面している生産および食品関連事業者等を対象に調査を行うことにより、具体的な課題を把握し、想定される解決策を検討することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	環境問題や食糧問題は、すべての生活者に関係することであるため、自分自身が何をすることができるかを考え、行動することができる。
技術・表現の観点 (A)	生産および食品関連事業者等を対象に調査した結果を踏まえ、実際に取組むことができる政策提言を発表することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス（授業予定と調査概要について）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業目的、概要、後期スケジュール、調査先ついて等。国内外における取り巻く環境とその課題について説明し、それらについて、感じたことなどを全員でディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、新たに気付いたことや感想について、指定様式に取りまとめを行う。テーマに関する文献およびインターネット調査の実施。
	教室外学習の時間（分）	200
第2回	**授業テーマ**	国内外の取り巻く環境の把握と課題を把握
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	あらかじめ、主にやインターネット等から、国内外の取り巻く環境を調べ学習を行い、授業では教員がその環境について説明。全体でディスカッションを行い、自らの考えを整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、新たに気付いたことや感想について、指定様式に取りまとめを行う。さらに、テーマに関する文献およびインターネット調査結果を把握する。
	教室外学習の時間（分）	200
第3回	**授業テーマ**	マーケティング手法（ソーシャルマーケティング）を学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	一般的なマーケティング手法のみならず、企業が自社の利益や顧客だけを考えずに、社会全体の利益や福祉向上を意識して活動するという考え方であるソーシャルマーケティングの手法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、ソーシャルマーケティングの視点で取組む企業の事例を調べておく。
	教室外学習の時間（分）	200
第4回	**授業テーマ**	ソーシャルビジネスの取組事例の理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実際に取組まれている事例を聞き、どのような内容が参考になるとともに、疑問を持ったか等、ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、新たに気付いたことや感想について、指定様式に取りまとめを行う。ソーシャルビジネスに関する文献およびインターネット調査の実施。
	教室外学習の時間（分）	200
第5回	**授業テーマ**	食品関連事業者（食品製造業）によるオンライン調査（聞き取り調査）内容の具体化（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品関連事業者の概要を把握した後、各自考えた聞き取り調査内容を検討するとともに、ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、新たに気付いたことや感想について、指定様式に取りまとめを行う。テーマに関する文献およびインターネット調査の実施。
	教室外学習の時間（分）	200

第6回	授業テーマ	食品関連事業者（食品製造業）によるオンライン調査（聞き取り調査）内容の具体化（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品関連事業者の概要を把握した後、各自考えた聞き取り調査内容を検討するとともに、ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、新たに気付いたことや感想について、指定様式に取りまとめを行う。テーマに関する文献およびインターネット調査の実施。
	教室外学習の時間（分）	200
第7回	授業テーマ	食品関連事業者（食品製造業）によるオンライン調査（聞き取り調査）（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品関連事業者の取組を理解する。自ら考えたヒアリング内容を聞き、より理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自ヒアリング内容に加え、収集した資料等を踏まえ、報告書を作成。作成後、発表し、ディスカッションを行う。
	教室外学習の時間（分）	200
第8回	授業テーマ	食品関連事業者（流通）によるオンライン調査（聞き取り調査）内容の具体化（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品関連事業者（流通）の概要を把握した後、各自考えた聞き取り調査内容を検討するとともに、ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、新たに気付いたことや感想について、指定様式に取りまとめを行う。テーマに関する文献およびインターネット調査の実施。
	教室外学習の時間（分）	200
第9回	授業テーマ	食品関連事業者（流通）によるオンライン調査（聞き取り調査）内容の具体化（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品関連事業者（流通）の概要を把握した後、各自考えた聞き取り調査内容を検討するとともに、ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、新たに気付いたことや感想について、指定様式に取りまとめを行う。テーマに関する文献およびインターネット調査の実施。
	教室外学習の時間（分）	200
第10回	授業テーマ	食品関連事業者（流通）によるオンライン調査（聞き取り調査）（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品関連事業者（流通）の取組を理解する。自ら考えたヒアリング内容を聞き、より理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自ヒアリング内容に加え、収集した資料等を踏まえ、報告書を作成。作成後、発表し、ディスカッションを行う。
	教室外学習の時間	300

	（分）	
第11回	**授業テーマ**	中間発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オンラインによる食品関連事業者へのヒアリング結果に基づいた取りまとめ内容を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	報告書の作成。プレゼン資料の作成。
	教室外学習の時間（分）	300
第12回	**授業テーマ**	現地調査実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実際に食品関連事業者を訪問し、現場の状況を把握するとともに、業務に従事している人の業務に対する心構え等をヒアリングする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	対象となる食品関連事業者について、文献およびインターネット等で調べ学習を行う。
	教室外学習の時間（分）	100
第13回	**授業テーマ**	成果発表会に向けた取りまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	成果発表会に向けた政策提言資料作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	現地調査にて行ったヒアリング調査等のとりまとめや補足するための資料収集を行う。
	教室外学習の時間（分）	100
第14回	**授業テーマ**	成果発表会（期末試験内容含む）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査結果をパワーポイントを使用しながら成果発表会を行う。発表後、ディスカッションを行い、担当教員が総括を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	成果発表会で報告する資料の取りまとめ。
	教室外学習の時間（分）	100

学習計画注記

連携先の都合により、日程が変更（授業日以外）となる場合があります。
現地調査を実施するため、交通費等の支出があります。

学生へのフィードバック方法

調査・考察などに関するレポート・発表、提出された課題等に対して、講評や助言、添削等を行い評価する。

評価方法

初回の授業でルーブリックについて説明をする。
・評価の内容は、以下のような観点から行う。
①調査の目的や意義が明確である。
②先行文献を十分に参照し、その内容を理解できている。
③テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。

⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
調査分析能力	○	○	○	○
調査実施能力	○	○	○	○
プレゼンテーション力	○	○	○	○

評価割合

調査レポート報告まで 30点
プロジェクトへの参加 40点
成果発表会での発表内容 30点

使用教科書名(ISBN番号)

必要に応じアナウンスする。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】食品ロス問題にいて総合的な家政学・生活者の視点から諸課題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

個別で質問がある場合は、E-meil（p20088@kasei-gakuin.ac.jp）で受け付けるとともに、必要に応じて非常勤講師室にて対応する。

学生へのメッセージ

国内外で予期せぬことが起こる時代となってきましたが、これからの時代、私達は自分自身だけでなく、他者や地域社会にどのように貢献していけばいいか、しっかりと考え、行動していく必要があります。この授業では座学だけでく、食品関連事業者の取組に対しヒアリングを実施しながら、アクティブラーニング型の授業を行います。みなさんと積極的な議論やアイデア創造を楽しみにしています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、フードシステムの生産と問屋、商社といった３つの機能を持ち合わせている会社を経営していることから、実際のフードシステムが抱えている課題や解決策等、必要な知識や情報を学生に教授する。
アクティブ・ラーニング	○	自分たちができることを、様々な調査から分析するアクティブラーニングです。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01027031
講義名	生活設計論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	佐野 潤子	指定なし

ナンバリング

G32206C21

授業概要(教育目的)

講義を通じて自らの将来を想像する力、日常生活と経済社会との相互関係を想像する力を身に着け、あらゆる生活場面で主体的に意思決定することを目的とする。政府統計などデータを収集し分析して、経済環境・社会政策に対応して経済と金融に関する理論と実践の基本を理解する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	生活設計・金融リテラシーに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる
思考・判断の観点 (K)	生活設計・金融リテラシーに関する自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	研究のための活動（文献収集、調査など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	自身が行った研究の内容を、学術的な文章により、適切に表現することができる。

学習計画

【生活者の金融リテラシー】 貨幣新時代の家計管理・生活設計を考える

	授業テーマ	導入ー 人生100年時代の生活設計
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	人生100年時代の生活設計：経済と金融に関する理論と実践を概観する。

第1回	**含む)**	
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト『生活者の金融リテラシー』第1部1章を予習する。授業後は授業で説明する行動経済学の実例をいくつか挙げることができるように復習する。
	教室外学習の時間（分）	270分
第2回	**授業テーマ**	お金と経済
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	貨幣の機能や金融リテラシーについて学ぶ。デジタル化・キャッシュレス化が進む時代の家計管理・生活設計：経済と金融に関する理論と実践の基本を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト『生活者の金融リテラシー』第2章を予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	270分
第3回	**授業テーマ**	人生とお金
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「人生100年時代」、「老後資金2000万円問題」などが話題になったが、生涯で必要なお金について収入、支出の金額を見積もるとともに、年齢によって収入、支出がどのように変化するかを把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト『生活者の金融リテラシー』第3章を予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	稼ぐ・使う
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収入と支出について考える。給与明細の内容から税金と社会保障について考える。また、多様な働き方とそれによって税金や社会保障がどのように変化するのかもみる。自らの労働で得た収入をどのように家計管理するかも考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト『生活者の金融リテラシー』第4章を予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	生活を設計しよう その１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Well-beingとは何かを考える。経済的な側面のみではなく、時間、人間関係、健康など非経済的資源も考慮しながら、より良い生活を送るにはどうすればよいのかを考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト『生活者の金融リテラシー』第5章を予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	生活を設計しよう その２
	学習内容(ｱｸﾃｨ	

第6回	ﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活設計と家計管理の関係を金融ケイパビリティという概念を用い、家計管理における生活設計の具体的な内容を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト『生活者の金融リテラシー』第6章を予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	貯める・遺す
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本人の貯蓄率は諸外国に比べ高い。他方、資産を持たない世帯も増加しており、近年経済格差の問題が指摘されている。今後の家族と資産、金融とジェンダーについて考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト『生活者の金融リテラシー』第7章を予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	270分
第8回	授業テーマ	お金を借りる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	借入れ、ローンについて、どのような時にお金を借りてよいのか、借りるべきなのか、という問題について考察する。いろいろな決済方法、クレジットカードの利用についても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト『生活者の金融リテラシー』8章を予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	リスクについて考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活の身の回りにはさまざまなリスクがある。リスクについてあらかじめ知識を持ち、損失を最低限に留めるために、生活上のリスクを考える。またリスク回避傾向とジェンダー問題についても概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト『生活者の金融リテラシー』第9章を予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	保険について考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保険も現在のキャッシュを将来のキャッシュに転換する商品であるという意味で、預金や投資信託などの金融商品と変わらない。生活者が保険・共済商品を選択する際に注意すべき基本について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト『生活者の金融リテラシー』第10章を予習しておく。
	教室外学習の時	180分

	間（分）	
第11回	授業テーマ	金融資産の選択と管理その１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家計が「お金を増やす」ための意思決定を行う上で、知っておきたい知識や考え方を紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト『生活者の金融リテラシー』第11章を予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	授業テーマ	金融資産の選択と管理その２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家計が「お金を増やす」という意思決定を行う際に身につけておく知識として、家計が選択する金融資産の概要と、金融資産の選択基準、投資配分などを行動経済学の視点も取り入れて概観する。また、資産の取り崩しについても説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト『生活者の金融リテラシー』第12章を予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	お金について相談する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分のライフプランに合った金融商品を選ぶ際に、専門的な知識やアドバイスが必要である。行動経済学の観点から私たちの金融に関する意思決定の傾向を把握し、専門家のアドバイスへのアクセスを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト『生活者の金融リテラシー』第13章を予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	授業テーマ	持続可能な社会に向けて 期末試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業を振り返り、まとめと期末試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト『生活者の金融リテラシー』のキーワードを確認する。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

提出された小レポートについて授業内でコメントする。場合によってはグループディスカッシ

ョンを行い、意見交換する。

評価方法

・5回以上の欠席の場合、単位は取得できません（受験資格なし）。
・出欠は、毎回確認します。3回の遅刻は1回の欠席になること、30分以上の遅刻は欠席扱いとしますのでご注意ください。
・期末テストは講義内容から出題します。テキスト、ノートなどの持ち込みなどは一切不可です。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業ごとのリアクションペーパー	○		○	
期末試験	○	○	○	○

評価割合

期末試験 100点 持ち込み不可

使用教科書名(ISBN番号)

生活者の金融リテラシー ―ライフプランとマネーマネジメント―
A5／192ページ／2019年11月01日
ISBN978-4-254-50031-8 C3033
吉野直行 監修／上村協子 ・藤野次雄 ・重川純子 編
朝倉書店

参考図書

授業内で紹介する。

参考URL

https://www.shiruporuto.jp/public/data/lecture/daigaku_kogi/

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題をは把握する。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

佐野 1805ゼミ室 前期：火曜昼休み 水曜2限
アポイントを取ってください。

学生へのメッセージ

みなさんは生活設計といえば、就職、結婚、出産、子育てをまず考えるでしょう。しかし、実際はその後の人生の方がはるかに長く、課題も多いのです。この授業では人生100年時代と言われる長い人生においてみなさんが考えるライフデザインの実現のために必要な金融知識・金融リテラシーを学びます。各授業ごとに、事前に学んでおく内容、振り返りの内容を指示します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	金融庁・日本銀行・全国銀行協会・FP協会などの専門家が取り組んでいる金融教育を知り、実社会に必須となる金融リテラシーを身に付ける

アクティブ・ラーニング	○	時々お題を出しますので小グループでディスカッションをして、発表してもらいます。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01029031
講義名	エコロジー
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	沼波 秀樹	指定なし

ナンバリング

G24501C22

授業概要(教育目的)

「エコロジー」とは，狭義には生物学の生態学のことを指しますが，広義には生態学的な知見を反映しようとする文化的・社会的・経済的な思想や活動を指しています。このように「エコロジー」は様々な意味を持っていますが，この授業では，主に「くらし」に関係した様々な環境要因や環境問題について解説し，人類と環境との共存について学びます。くらしと都市における環境問題の関係について理解するために，簡単な汚水の分析や上下水道関連施設の見学する。また，生物に支えられている「くらし」を理解するために台所にある器具を使ってのDNA抽出や「ちりめんじゃこ」に入っている混獲生物を調べ，生物多様性と人類の関わりを知る。さらに，環境保護教育・活動を実践的に学ぶために都市に自然環境を残すビオトープなどを見学する予定で，見学を通して「くらしと環境の共存」について考えます。見学や実験などを通して，くらしと環境問題の関係について実感を伴って理解します。また，世界中で取り組まれているSDGs（持続可能な開発目標）を多面的に考えて実践するための基礎知識を習得します。

履修条件

1年次に開講される共通科目「環境と資源」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	環境問題の歴史的変遷を学び，現在の環境問題と生活（くらし）との関係について理解する。 SDGs（持続可能な開発目標）を理解する上での基礎知識を習得する。
思考・判断の観点 (K)	環境問題とくらしとの関係を理解した上で，日々の生活が環境に及ぼす影響について考え，改善する思考・判断が出来るようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	環境問題に関心を持ち，生活から環境問題を解決する意欲を持つようになる。 また，SDGs（持続可能な開発目標）を実践する態度を身につける。

技術・表現の観点 (A)	簡単な実験による環境測定法の習得。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	イントロダクション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「エコロジー」の持つ意味・意義について解説する。今後の演習内容と見学の意義について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎の教科書中の「生物の多様性と生態系」編中の「生態系のバランスと保全」を読み，環境問題について予備知識を得る。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	**授業テーマ**	地球環境と生態系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「エコロジー」の基本概念である「環境」と「生態系」について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎教科書中の「生物の多様性と生態系」編中の「植生の多様性と分布」「気候とバイオーム」の章を読み，生態系の成立要因について，まとめる。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	生態系とくらし（生態系サービス）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人類が生態系からもたらされる様々な利益（生態系サービス）について解説し，生態系と人類の関係について理解する。また，身近な生態系サービスについて調べ，生活との結びつきを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎教科書中の生態系と生活の関連している部分を読む。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	環境問題の実態１（水質）
	学習内(	

第4回	容 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活に不可欠で身近な飲料でもある「水」が都市においてどのようにして確保されているのか，また生活排水を含む「下水」はどのように処理されているのかを解説する。その後，見学先である東京都虹の下水道館・水の科科学館をHPで見学する展示を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「上水」「下水」の処理方法について調べる。復習：授業内容の確認。見学先である東京都虹の下水道館・水の科科学館をHPで見学する展示を確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	環境問題の実態２（水質検査実験）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	都内数カ所からサンプリングした河川・壕の水と擬似的に作成した生活排水のCOD（化学的酸素要求量）や濁度などを簡易分析キットや濁度計を用いて測定し，生活排水が環境に及ぼす影響について実感を伴って理解する。簡単な実験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎教科書中の「生態系とその保全」を読む。復習：実験レポートの作成。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	環境問題の実態３（虹の下水道館・水の科学館見学）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	東京都虹の下水道館・水の科学館では，生命維持や生態系維持に必要不可欠な「水」の供給・処理の実態について理解することを目的として見学する。上水の水質維持には森林や河川と言った環境の重要性，下水の処理については多くの微生物が係わっていることを理解し，くらしに不可欠の「水」と環境との関連性について考える。特に虹の下水道館では下水設備の見学することによって，下水と環境問題について認識する。第6回と第7回の演習を見学にあてる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：見学内容の確認。復習：虹の下水道館・水の科学館の見学レポートの作成。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	環境問題の実態３（虹の下水道館・水の科学館見学）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第6回と第7回の演習を虹の下水道館・水の科学館の見学にあてる。
	教室外学習(予習・復習)の内	予習：見学内容の確認。復習：虹の下水道館・水の科学館の見学レポートの作成。

	容	
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	生物多様性とくらし１（生物多様性とくらしとの関係）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生物多様性の基本について解説した後，生物多様性と生活の関連性について「自然浄化」「品種」などをキーワードにVTR資料を使って理解を深める。遺伝的多様性から生まれる「品種」に関して，どのような生物が，どのように使われているのかを調べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎教科書中の生物多様性に関連している部分を読む。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	生物多様性とくらし２（種多様性とくらし：DNAを見てみる）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生物多様性の内，遺伝的多様性は生活に多くの利益をもたらしている。遺伝的多様性の基本であるDNAを台所にある器具を使い，取り出し，その実態について理解を深める。簡単な実験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎教科書中の遺伝子に関連している部分を読む。復習：実験レポートの作成。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	生物多様性とくらし３（ちりめんじゃこから環境問題を考える）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品として一般的な「ちりめんじゃこ」に含まれる混獲された生物を探し出すことにより，食料と生物多様性や生態系の関連性について理解する。「ちりめんじゃこ」に関連する漁業，製造方法などを解説した後，無選別の「ちりめんじゃこ」の中から混獲された生物を選別した後に定量化し，食品としての「ちりめんじゃこ」を作り出す為にどのくらいの量の生物が混獲されているのかを知る。この実習を通して食料と生物多様性・生態系との関連性を実感を伴って理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布したテキストを読み，実習内容の確認をする。復習：授業内容の確認。実験レポートの作成。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	環境とくらしの共生を考える（ビオトープを例として）
	学習内	

第11回	容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	都市環境下で自然環境を再現する「ビオトープ」について解説し，自然環境とくらしと共生の共存を考える。ビオトープの特徴を理解した上で，インターネットを用いて自宅周辺のビオトープを探し，特徴をまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：ビオトープに対する予備知識を得る。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間(分)	190分
第12回	授業テーマ	くらしと身近な環境問題（まちづくりと環境；ヒートアイランドを測る）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	都市化に伴う環境問題をヒートアイランド現象を例として解説する。その後，校舎屋上のクーリングタワー周辺，大学周辺の歩道や公園で気温測定を行い，都市の高温化と緑地の意義について実感を伴って理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：測定場所の選定。測定方法の確認。復習：授業内容の確認。レポートの作成。
	教室外学習の時間(分)	190分
第13回	授業テーマ	環境保護教育・活動（見学）１（自然教育園・北の丸公園見学）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国立科学博物館附属自然教育園では，大都市東京の中心地である目黒地区のビオトープを見学し，人口過密地域での環境問題・環境保護等について理解を深め，人と自然との共存について考える。また，気温測定を自然教育園内と近隣の公園で行い，ヒートアイランド現象に対する緑地の意義について理解する。 北の丸公園とその周辺：大学からも近い北の丸公園は，東京都の中心地区にある大規模な緑地であり，市民の憩いの場になっている。このような大規模な公園と国立科学博物館附属自然教育園のようなビオトープとの違いを認識し，環境保護などについてのそれぞれの役割を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：国立科学博物館附属自然教育園についてインターネットを使って調べる。復習：見学レポートの作成。
	教室外学習の時間(分)	190分
第14回	授業テーマ	環境保護教育・活動（見学）２（自然教育園・北の丸公園見学）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第13回と第14回授業を自然教育園と北の丸公園の見学にあてる。
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	予習：北の丸公園など，都心における緑地の特徴についてインターネットを使って調べる。復習：見学レポートの作成。
	教室外学習の時間（分）	270分

学習計画注記

クラス編成などの理由で，授業の順番や内容が変更になる可能性があります。見学があるので，時間帯や曜日が不規則になる場合があります（土・日，補講日を利用）。原則として開講時間以外に見学をする場合は，通常の授業に振り替えて実施します。また，見学ための入園・入館料，交通費がかかります。見学する予定の国立科学博物館附属自然教育園（JR目黒駅，東京メトロ南北線・都営三田線白金台駅）の入園料330円，虹の下水道館・水の科学館（JR埼京線・東京臨海高速鉄道りんかい線国際展示場駅，ゆりかもめお台場海浜公園駅）の入館料は無料。
注意：新型コロナウイルス感染状況によっては，実習内容・見学場所などを変更する場合があります。

学生へのフィードバック方法

講義と見学，簡単な実験。
講義中の提出物などについては，解説する予定。

評価方法

・授業中に課した提出物や授業への取り組みと見学レポートの総合評価。1/3以上欠席すると定期試験の受験資格を失います。特に演習科目なので，欠席については厳格に評価します。見学や実験があるので，注意して下さい。
・レポートや課題の評価基準の詳細については，クラスルームに掲載するルーブリック表を参照すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
提出物・授業への取り組み	○	○	○	○
見学レポート	○	○	○	○

評価割合

授業中に課した提出物や授業への取り組み（60%），見学レポート（40%）の総合評価。

使用教科書名(ISBN番号)

特に定めない。

参考図書

授業中に適宜，紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち，現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し，問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を想像するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー

月曜2限 1702室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	南極観測隊に参加して南極昭和基地で生物・環境についての研究を行い，深海調査に参加して深海生物・環境についての研究している。実際のフィールドワークで得た知識や研究成果から実感を伴った理解を促進する演習を行う。
アクティブ・ラーニング	○	実験結果などについてディスカッションを行い，結果から何が導き出せるか考える。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01030031
講義名	環境保護論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	沼波 秀樹	指定なし

ナンバリング

G24502C21

授業概要(教育目的)

様々な環境問題がとりざたされている現在、人類と自然との共存が模索されている。私たちの社会システムも環境との調和に根ざしたものに変わろうとしている。この授業では、身近なくらしを見直すことから環境に関する研究や政策までミクロ・マクロ的な視点で環境と共存するための方法について学び、自然保護や保全とは何かについて考える。また，世界中で取り組まれているSDGs（持続可能な開発目標）を実践するための基礎知識を習得する。
自然観や環境保全の方策などを実感を伴って理解するために，以下の見学を予定しいる。
①国立科学博物館：生物は環境に影響を受け進化・絶滅を繰り返しながら，生物多様性を作り上げている。国立科学博物館が所蔵している過去から現在の生物標本を見学し，環境と生物の関係について理解を深める。（JR上野駅；入館料630円）
②国立極地研究所：地球上には様々な環境が存在し，人類の生活に影響を及ぼしている。極地は，人類の活動域とは離れているが，地球環境の安定化などに重要な役割を果たしている。また，人類の活動域から離れていることは，すなわち地球上で最も人類の影響が少ない場所の一つであり，地球環境の変化を研究・観測する上で適していて「地球環境の窓」とも言われている。南極・北極を研究している研究所を見学することにより，グローバルな人類と地球環境の関わり合いについて理解を深める。（多摩都市モノレール高松駅；無料）
なお，見学は補講日もしくは土・日を予定している。

履修条件

専門科目「食と環境」（1年次前期）・「エコロジー」（2年次前期）と基礎科目「環境と資源」を履修していることが望ましい。
この授業はオンデマンドで行うので，自宅など学外で聴講する場合には，十分な通信環境があることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	環境問題の過去と現在の状況を把握した上で，身近なくらしを見直すことから環境に関する研究や政策までミクロ・マクロ的な視点で環境と共存するための知識を得て、自然保護や保全とは何かについて理解できる能力を持つ。 世界中で取り組まれているSDGs（持続可能な開発目標）と身近な環境問題の関連性について理解できる。
思考・判断の観点(K)	常にくらしと環境の関連性を考える思考と，持続可能な社会におけるQOL（生活の質の向上）と環境の関係について適切な判断が出来る。
関心・意欲・態度の観点(V)	環境保護について関心を持てるようになる。 SDGs（持続可能な開発目標）を実践する態度を身につける。
技術・表現の観点(A)	レポートにより，多くの人々に環境保護の重要性を訴える表現力が身についている。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	イントロダクション（授業の概要）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の概要と進め方などについて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎の教科書中の「生物の多様性と生態系」編中の「生態系のバランスと保全」を読み，環境問題について予備知識を得る。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	**授業テーマ**	環境とは何か？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	環境の基礎知識について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎教科書中の「生物の多様性と生態系」編中の「生態系内の物質・エネルギーの循環」の章を読み，生態系の成立要因について，まとめる。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	環境問題の過去・現在・未来１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	大気汚染を取り上げ，日本の環境問題（公害）について振り返り，現在の安心安全なくらしの立脚点について考える。

第3回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：日本における大気汚染について過去と現状を調べる。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	環境問題の過去・現在・未来2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水質汚濁を取り上げ，日本の環境問題（公害）について振り返り，現在の安心安全なくらしの立脚点について考える。特に水俣病について解説し，社会と環境問題について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「日本の四大公害事件」「水俣病」についてインターネットで調べる。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	生物と環境の関わり合いについて１（生物多様性）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生物多様性（種多様性・遺伝的多様性・生態系多様性）について解説し，環境保護の基本的な知識を身につける。また，今後に見学する国立科学博物館の生物多様性について展示に関しても説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎教科書中の「生物の多様性と生態系」編中の「植生の多様性と分布」「気候とバイオーム」の章を読み，生態系の成立要因について，まとめる。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	生物と環境の関わり合いについて２（生物多様性と人類）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生物多様性と人類との関係を「品種改良」と「外来種問題」の側面からVTR映像も利用して解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：身近な「品種」と「外来種」について調べる。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間	190分

	（分）	
第7回	**授業テーマ**	生物と環境の関わり合いについて３－１（国立科学博物館見学）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生物は環境に影響を受け進化・絶滅を繰り返しながら，生物多様性を作り上げている。国立科学博物館が所蔵している過去から現在の生物標本を見学し，環境と生物の関係について理解を深める。（第7回・第８回授業を見学にあてる）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：第5回・第6回授業内容（生物多様性）の確認。国立科学博物館のHPで展示について下調べをする。復習：国立科学博物館の見学レポートの作成。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	生物と環境の関わり合いについて３－２（国立科学博物館見学）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第7回・第8回授業を見学にあてる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：国立科学博物館のHPで展示について下調べをする。復習：国立科学博物館の見学レポートの作成。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	環境を保護する方法１（生活と環境問題）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活と環境問題の関連性について，輸入食料について総合的にとらえる目安として考えられた「フードマイレージ」について解説し，日本の食糧事情について考える。幕の内弁当におけるフードマイレージについて調査する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：フードマイレージについてインターネットで調べる。復習：授業内容の確認。国立科学博物館の見学レポート作成。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	環境を保護する方法２（回転寿司から環境を考える）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	仮想で回転寿司のメニューから寿司を注文し，注文した寿司のフードマイレージを計算して，輸入食材と国産食材を利用した場合を比較し，日本の食糧事情と地球温暖化をはじめとする環境問題の関係について実感を伴って理解する。比較データについては，全体で発表する。

第10回	用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：回転寿司チェーンのメニューと原産地を調べる。復習：提出物の作成。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	生物と環境の関わり合いについて３（環境保護と人類の活動）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究と環境保護の関連性について理解する為に，人類の活動から遠く離れた南極・北極で行われている研究について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	極地（北極・南極）について調査・研究している国立極地研究所のパンフレット類を配布するので，極地で行われている地球環境に対する研究について予習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	生物と環境の関わり合いについて４－１（国立極地研究所でのレクチャーと見学）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地球上には様々な環境が存在し，人類の生活に影響を及ぼしている。極地は，人類の活動域とは離れているが，地球環境の安定化などに重要な役割を果たしている。また，人類の活動域から離れていることは，すなわち地球上で最も人類の影響が少ない場所の一つであり，地球環境の変化を研究・観測する上で適していて「地球環境の窓」とも言われている。南極・北極を研究している研究所を見学することにより，グローバルな人類と地球環境の関わり合いについて理解を深める。なお，見学とレクチャーで3時間を予定しているので，第13回と第14回の授業を合わせて実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	国立極地研究所見学レポートの作成。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	生物と環境の関わり合いについて４－２（国立極地研究所でのレクチャーと見学）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第12回と第13回の授業を合わせて，レクチャーと見学を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	国立極地研究所見学レポートの作成。

	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	環境保護論まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	環境保護についてこれまでの授業内容・見学を含めて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1回～第13回までの授業・見学などについて復習し，自分なりに「環境保護」について考えてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	280分

学習計画注記

・オンデマンド授業なので，授業動画を視聴して，課題を提出する方法をとります。
・オンデマンドで授業をするので，授業動画の視聴期間，出席条件や提出物の提出期限などについて注意して下さい。
・オンデマンド授業ですが，2回の見学を実施するので，履修する場合は注意して下さい。
・定期試験は対面形式で実施する予定です。
・環境問題は時々刻々と変化しているので，授業の順番や内容が変更になる可能性があります。
・見学があるので，時間帯や曜日が不規則になる場合があります。原則として開講時間以外に見学をする場合は，通常の授業に振り替えて実施します。また，見学ための入園・入館料，交通費がかかります。見学する予定の国立科学博物館（JR上野駅，東京メトロ上野駅）の入園料660円，国立極地研究所（多摩モノレール高松駅）の南極北極科学館の入館料は無料。新型コロナウイルス感染状況等によって，見学先や見学時期が変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

見学レポート・提出物については解説する予定。

評価方法

【授業動画の配信，出欠等について】
・授業動画は所定の配信日・時刻で配信するので，所定の期間内に授業動画を視聴して，期限内の課題提出をもって出席とします。
・各見学には2回分（合計4回分）の授業を振り替えるので，見学に参加しないと出席日数が減るので注意して下さい。
【評価】
・定期試験，平常点・レポートの総合評価。見学に参加しないとレポートを書けません。平常点は授業中の課題等で評価します。
・全授業時間数の1/3以上欠席（授業回数14 回の内，欠席5 回以上）すると定期試験の受験資格を失います（学生便覧記載の通り）。
・評価の基準の詳細については，クラスルームに掲載するルーブリック表を参照すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
レポート	○	○	○	○

平常点（課題等）	○	○	○	○

評価割合

定期試験（40%），平常点・レポート（60%）の総合評価。

使用教科書名(ISBN番号)

・授業動画配信時に資料のPDFを配信して，授業を進めます。
・配付された資料は印刷するか，授業を視聴しながら見られる状態にする。印刷することを推奨します。

参考図書

講義中に適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち，現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し，問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を想像するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー

水曜日1時間目 1702室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	南極地域観測隊員として南極昭和基地で生物・環境について越冬観測した実績を生かした授業。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01034031
講義名	都市計画
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	杉本 千紘	指定なし

ナンバリング

G24308C21

授業概要(教育目的)

都市計画は、日々暮らすまちを支える制度であり、公平・公正で適切な土地利用や手続きを支える仕組みにもなっている。また、まちづくりは、より柔軟に多様性やゆるやかさ、地域性を包括しながらまちを動かしていくエネルギーとなる。
双方は、独立しているものではなく、担い手と受け手が重なったり入れ替わったりしながら、相互の仕組みを縫うように行き来しながらまちを構築している。
本講義では、都市計画・まちづくりの考え方や事例を通して、都市計画の基本的な仕組みやまちの多様な見方を知り、学生（職業）として或いは住民としてだれもがまちづくりの担い手であることを理解することを目的とする。

履修条件

土木・建築・都市計画などの計画・設計等の仕事に興味がある人。
まちづくりや人のつながり、地域で行われている活動等に興味がある人。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	都市計画及びまちづくりの基本的考え方を説明できる
思考・判断の観点 (K)	都市計画及びまちづくりは建築やデザインといった空間形成だけでなく、そのプロセスにも意味があり、市民の暮らしを支える役割を担っていることを説明できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	都市計画やまちづくりを、自分に関係する事柄として捉え、授業内容と身近な出来事や調べた内容を結びつけて考え、整理することが出来る
技術・表現の観点 (A)	自分の考えをリアクションペーパーや課題演習等で表現する 与えられた課題をレポートして取りまとめ、伝えたいことを表現できる

学習計画

都市計画とまちづくり

第1回	**授業テーマ**	都市計画とまちづくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	都市計画とまちづくりの特性と相互作用及び関係性
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義内容を聞き、補足が必要と思う内容について、まちあるきやホームページ等で情報を収集し、講義と日常生活をリンクする
	教室外学習の時間（分）	100
第2回	**授業テーマ**	都市計画・まちづくりの事例（日本）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本における都市計画及びまちづくりの経緯（地域地区、都市施設、都市計画法、建築基準法）を学び基礎知識を得る
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義内容を聞き、補足が必要と思う内容について、まちあるきやホームページ等で情報を収集し、講義と日常生活をリンクする
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	都市計画・まちづくりの事例（海外）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	海外における都市計画論、海外都市計画の事例で新たな視点を感じる
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義内容を聞き、補足が必要と思う内容について、まちあるきやホームページ等で情報を収集し、講義と日常生活をリンクする
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	都市を形づくるレイヤー ～都市の骨格と地域の特性～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	都市骨格、城下町、長屋、街並み（景観）の成り立ちをつかむ
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義内容を聞き、補足が必要と思う内容について、まちあるきやホームページ等で情報を収集し、講義と日常生活をリンクする
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	集まって住む ～市街地形成・団地～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住宅地計画（田園都市、近隣住区、ニュータウン）、団地計画（団地再生）等の考え方から集住を考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義内容を聞き、補足が必要と思う内容について、まちあるきやホームページ等で情報を収集し、講義と日常生活をリンクする
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	みんなで考える

		～合意形成手法～
第6回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	まちづくりの担い手と合意形成手法 個々の住まい、学校・職場等の集合体としてまちの方向性を考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義内容を聞き、補足が必要と思う内容について、まちあるきやホームページ等で情報を収集し、講義と日常生活をリンクする
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	道路は誰のものか ～車・自転車・歩行者～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	道路、公共交通の基本的考え方、歩行者空間としてのみちの活用
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義内容を聞き、補足が必要と思う内容について、まちあるきやホームページ等で情報を収集し、講義と日常生活をリンクする
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	震災復興と事前復興
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	震災復興における土木・建築・まちづくりの関係性 まちとして震災前に出来ることを考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義内容を聞き、補足が必要と思う内容について、まちあるきやホームページ等で情報を収集し、講義と日常生活をリンクする
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	まちを見る① まちの見方（都市計画、まちの歴史、まちの特性）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地区計画、再開発等の都市計画事業を意識したまち歩きの実施
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の住む市区町村における都市計画についてHP等で調べる
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	まちを見る② まち歩き
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地区計画、再開発等の都市計画事業を意識したまち歩きの実施
	教室外学習(予習・復習)の内容	まち歩きで感じたことや気づいた点をメモし、自分が興味のあるポイントを抽出する。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	まちを見る③ 演習（発表、意見交換）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰ	

第11回	ﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	まち歩き結果をもとにレポートを作成の上、発表、意見交換を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に自分の興味を持った点と、その後の考察等をまとめ、レポートとして整理する。
	教室外学習の時間(分)	200分
第12回	授業テーマ	都市計画・まちづくりの今
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人口減少、少子高齢化時代の都市計画。 様々な切り口（年代、地域、テーマ）と活動の多様性を知り、都市計画・まちづくりの可能性を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義内容を聞き、補足が必要と思う内容について、まちあるきやホームページ等で情報を収集し、講義と日常生活をリンクする
	教室外学習の時間(分)	200分
第13回	授業テーマ	まちづくりに係るということ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	タウンマネージャー、ランドスケープデザイナー等、専門家の職域が広がっている。一方で、専門家だけではなくまちづくりへゆるやかに携わる人がまちを支えていることを感じる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義内容を聞き、補足が必要と思う内容について、まちあるきやホームページ等で情報を収集し、講義と日常生活をリンクする
	教室外学習の時間(分)	200分
第14回	授業テーマ	これからの都市計画・まちづくりについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの講義を踏まえてこれからの都市計画・まちづくりのあり方を考え、日々の暮らしにつなげる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの講義の内容やメモを復習する
	教室外学習の時間(分)	200分
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間(分)	
第16回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間	

	(分)	

学習計画注記

・自分の住んでいる区市町村のホームページで都市計画について調べ新たな発見をしておく
・授業内容を通して感じたことや、疑問に感じた点をHP等で調べ、補足する。

学生へのフィードバック方法

①リアクションペーパー（オンライン回答含む）を配布・回収するので、自分の意見や質問などを記載する。
②次回授業の冒頭等で、感想への総評や質問への回答を行い前回授業の振り返りを行う。

評価方法

平常点(50%)及び課題演習（50%）による評価
※平常点はリアクションペーパーなど
※課題演習は校外授業後に作成するまとめシートなど

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
リアクションペーパー	○	○	○	○
演習	○	○	○	○

評価割合

平常点(５０%)及び課題演習（５０%）による評価

使用教科書名(ISBN番号)

使用しない

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】建物・土地・都市機能・まちに関する知識を深め、「質の高い生活」を意識できるようになる
【思考・判断】【関心・意欲・態度】生活者や社会の視点に立った考え方を身に付け、自分の身の回りや社会の諸問題の解決につなげる思考力を身に付ける
【技術・表現】リアクションペーパーや演習課題を通して自分の考えを整理し伝える技術を身に着けるとともに、他者の意見を聞きながら想像力をもって未来の生活を創造していくことにつなげる。

オフィスアワー

・講義終了後に質問や意見交換が可能

学生へのメッセージ

・講義で聞いたことや感じたことを基に色々考えたり調べたりすることが、日常生活をまちで過ごしていく中での新たな発見やものの見方につながっていけばと考えています。
・みなさんからの質問や意見も踏まえながら講義を重ねていければと思うので、「私はこう思う」をどんどん発信してもらえるとうれしいです。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を		都市計画業務及びまちづくりに継続的に携わってきたのを活かし、制度や仕

活かした授業	○	組みだけでなくその中で感じたことを共有しながら現場感をもった授業を目指す
アクティブ・ラーニング	○	リアクションペーパーによる意見や質問を収集・整理し、授業等でのフィードバックを行う
情報リテラシー教育	○	日常生活の中から、情報を抽出する。 数多ある情報の中から適切な情報を選び、活用する。
ICT活用	○	リアクションペーパーの提出及び演習課題においてICT活用による相互共有等を実施する

講義コード	G01043031
講義名	ツーリズム（地域と文化）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	相澤　美穂子	指定なし

ナンバリング

G22313C21

授業概要(教育目的)

観光はその時代の社会情勢や技術の発展に伴い、変化を遂げてきた。特に過去20年ほどの観光を取り巻く環境の変化は大きく、マスツーリズムから個人旅行への変化に伴い、旅行目的の多様化が進むに応じて新しい観光の概念が多く登場した。一方で、日本の地方の多くは人口減少に歯止めがかからない状況で数少ない成長産業として期待できる観光に着目し、多くの地域が観光まちづくりに取り組む中、地域の文化を観光資源として活用する事例が多く登場している。本講義ではその一連の流れおよび、観光と地域、文化の関係を講義と事例紹介を通じて学び、日本における観光の重要性を理解する。また、自分の出身地や縁のある地域の文化資源を観光に活用する企画検討を通じて、地域文化の保全・継承の大切さについて理解を深めていただきたい。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．日本と世界の観光の現状を説明できる。 ２．地域と文化と観光の関係について説明できる。 ３．観光が日本や地域に果たす役割について理解できる。
思考・判断の観点 (K)	１．地域の文化には様々な種類があることを指摘できる。 ２．地域文化を尊重した観光とそうでない観光を類別できる。 ３．地域文化を尊重した旅行プランを企画できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	１．地域文化に関心を持つことができる。 ２．地域文化を尊重した行動を取ることができる。 ３．旅行に積極的に参加し、地域への理解や視野を広げることができる。

技術・表現の観点 (A)	1．地域文化にまつわる課題に対しての問題解決を論理的かつ具体的に提案できる。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス、観光と地域と文化の関係について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	講義のねらいや各回のガイダンスを行う。 ガイダンスを通じて、なぜ人は旅行・観光をするのか。何を目的として観光をするのか。観光が地域や文化にどのような関わりがあるのかについて仮説を設定し、次回以降の講義に備える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：観光が地域や文化にどのような役割を果たすのかについて、また本講義を通じて学びたいポイントについてレポートにまとめる。 予習：インターネットや旅行ガイドブックなどで、どんな観光形態があるのかを調べておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	授業テーマ	観光の歴史と旅行市場について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	観光の歴史を学びどのように観光が発展してきたかを理解する。また、マスツーリズムから個人旅行へのシフト、旅行者の目的の多様化について学ぶ。また、2000年代に入ってなぜ日本を訪れる外国人旅行者が急増したのか背景を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：これからの観光はどう進化するのかについてレポートにまとめる。 予習：文献やインターネットから、年間の日本人の国内宿泊旅行者数や日本を訪れる外国人旅行者数を調べる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	授業テーマ	観光資源としての地域文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	観光対象である観光資源について学ぶ。観光資源における文化資源について学び、観光と文化の関係について考える。旧来型の観光資源から最新の観光資源への変遷についても理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：自分の出身地や縁の深い地域で、観光資源となりそうなものを挙げ、どう活用できるかをレポートにまとめる。 予習：観光資源の種類について文献やインターネットで事前に調べておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	授業テーマ	新しい観光
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第2回講義で触れた、旅行者のニーズの多様化や価値観の変化に対応して登場した様々な新しい観光について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：自分の出身地もしくは縁のある地域で立ち上げる新しい観光の企画をレポートにまとめる。 予習：文献やインターネットで、「新しい観光」「ニューツーリズム」について調べておく。
	教室外学習の時間（分）	120分

第5回	授業テーマ	観光の産業と経済
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	観光産業の定義と種類について学ぶとともに、日本の地方がおかれている状況や諸課題を理解し、それらの諸課題に観光がどのように対応しうるのかについて理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：自分の出身地または縁のある地域の課題を挙げ、その課題に対する観光を用いた解決案をレポートにまとめる。 予習：観光関連産業について文献やインターネットで情報収集する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	授業テーマ	観光に関する諸課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	観光には地域活性化という役割が期待できる一方で、観光に関する諸課題もあり、負の側面についても理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：観光の課題を一つ取り上げ、それに対しての解決案をレポートにまとめる。 予習：観光の諸課題について文献やインターネットで調べておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	授業テーマ	観光まちづくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域活性化のツールとして観光が活用されていることを理解する。 「観光まちづくり」という概念が発展してきた経緯を学習し、代表的な観光まちづくりの事例などの紹介を通じて、「観光まちづくり」の重要性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：地域文化を活用した観光まちづくりの成功事例を取り上げ、成功の要因をレポートにまとめる。 予習：文献やインターネットで、観光まちづくりの成功事例を調べておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	授業テーマ	サステナブル・ツーリズム
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	SDGsなど環境や多様性への意識の高まりに伴い、観光のあり方も消費するだけではなく持続可能な観光であることが求められている。講義では最新の事例等を通じてサステナブル・ツーリズムを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：サステナブル・ツーリズムで、旅行者が配慮すべきことや貢献できる活動について考える。 予習：サステナブル・ツーリズムの最新動向についてインターネットや文献で調べておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	授業テーマ	温泉文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	温泉は日本人が旅行する目的で常に上位に位置しており、古くから全国各地で温泉街が発展してきた。本講義では温泉文化の歴史を学ぶとともに現在において温泉文化を展開している温泉地の事例を通じて、文化の継承について学ぶ。

	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：自分の出身地や縁のある地域の温泉地を1か所取り上げ、課題と解決策をレポートにまとめる。 予習：インターネットや文献を用いて、温泉文化を感じられる温泉地の事例を調べておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	授業テーマ	食文化（フードツーリズム、酒蔵ツーリズム）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	昨今は観光資源として地域の郷土料理や酒蔵といった食文化に注目が集まっている。講義では国内外のフードツーリズムや酒蔵ツーリズムの事例を紹介し、食文化の観光資源としてのポテンシャルを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：自分の出身地や縁のある地域の食材や酒を取り上げ、観光への活用案をレポートにまとめる。 予習：文献やインターネットにて、興味あるフードツーリズム、酒蔵ツーリズムについて調べておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	授業テーマ	事例：先住民文化をテーマとした観光（ハワイ、ニュージーランドなど）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ハワイやニュージーランドは先住民の文化を尊重した観光を展開している。先住民文化を尊重するとはどういうことかについて事例を通じて学び、観光と地域文化の関係について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：先住民文化や伝統文化を尊重していない事例をひとつ取り上げて、課題点についてレポートにまとめる。 予習：先住民文化をテーマとした観光について文献やインターネットで調べておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	授業テーマ	事例：リビングヘリテージ（白川郷など）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「リビングヘリテージ」とは現在も稼働している文化遺産である。例えば白川郷は世界遺産である集落内に今も住民が生活をしており、それがゆえに特別な価値がある一方で特有の課題も抱えている。事例紹介を通じて、リビングヘリテージについての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：リビングヘリテージの住民と観光客が対立しないように、互いがするべきことをレポートにまとめる。 予習：文献やインターネットにて、リビングヘリテージの事例を調べておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	授業テーマ	事例：ハワイの再生ツーリズム
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	有数の人気リゾートであるハワイであるが、コロナ禍前は様々な観光にまつわる課題が蓄積しており、コロナ禍期間中に再生型観光「Malama Hawaii」政策を打ち出した。「Malama Hawaii」を通じて、地域文化を尊重する新たな観光のあり方について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：自分の出身地や縁のある地域で展開できそうなボランティアプログラムを考案しレポートにまとめる。 予習：文献やインターネットで、コロナ禍前後のハワイについて調べておく。

	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	授業テーマ	これからの観光の課題と展望 授業のまとめと小テストの実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業を振り返り、重要なポイントとキーワードを説明し、これからの観光の課題と展望について論じる。 その後、授業全体の理解度を確認する小テストを実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：これからの地域文化を尊重した日本の観光のあり方について、レポートに纏める。
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によって、授業スケジュールが変更となる場合がある。

学生へのフィードバック方法

1．各授業後の小レポートは次回の講義で解説する。
2．最終レポートは最終講義でフィードバックする。

評価方法

1．各授業後に小レポートを課す。小レポートは各回の講義内容に応じたテーマとする。
2．小レポートは、各回の講義内容がどの程度理解できているか、そしてそのテーマに自分の意見を分かりやすく述べられるかどうかという観点で採点をする。
3．講義後半で最終レポートの課題を出題する。
4．最終レポートは14回の授業内容を踏まえて、地域文化を尊重した観光・旅行のあるべき姿について、自分なりの意見を持ち、それを論理的に整理し、わかりやすく表現できているかという点で評価する。
評価はルーブリックに基づいて行うことを予定している。ルーブリックはGoogleClassroomおよび初回授業のガイダンスで提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
最終レポート	○	○	○	○
授業後の課題	○	○	○	○

評価割合

最終レポート　30%
授業後の課題　50%
平常点　20%

参考図書

竹内 正人、竹内 利江、山田 浩之、入門 観光学、ミネルヴァ書房、2018
株式会社JTB総合研究所、観光学基礎、2021
菊池 俊夫、松村 公明、よくわかる観光学3 文化ツーリズム学、2016
中村 忠司、人はなぜ食を求めて旅に出るのか フードツーリズム入門、2022

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析、問題解決に導く考察をすることができる。

【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

学生へのメッセージ

世界的に旅行者は増加傾向にあり、旅行者のニーズや関心も多様化する中で、従来の物見遊山を見学するだけの旅行から、地域の文化を楽しむツーリズムに人気が集まっています。

また、日本においては地方の人口減少が進む中で、数少ない成長産業として地域活性化の役割を期待して観光に取り組む地域が多く登場しています。

そうした国内外の観光を取り巻く状況を知り、様々な先進事例を通じて地域文化に観光がどのような役割を果たしているのか講義を通じて理解を深めてもらうことを期待しています。

また、旅は人生を豊かにしてくれ、様々な発見や刺激をもたらしてくれる楽しい活動です。ぜひ座学だけではなく、機会を見つけて自分自身で旅行に出かけて旅が持つ力を体感してみてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	観光分野でのコンサルティング経験を活かし、前半の講義で観光がどのように発展してきたのかを習得する。その後、観光と文化や地域との関係を学び、なぜ今観光が注目されているかを理解する。 後半は地域文化を観光対象とした国内外のテーマ別事例紹介を通じて、地域文化を保存・継承していくためのツールとしての観光が果たす役割を理解し、地域文化を尊重した観光まちづくりについて理解や関心を高める。
アクティブ・ラーニング	○	各授業での主要なテーマについて、調べ、考え、その結論についてレポートとして取りまとめる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01048031
講義名	コミュニティ論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	信田 理奈	指定なし

ナンバリング

G12102C21

授業概要(教育目的)

グローバル化や少子高齢化、デジタル化とSNSの普及拡大に伴い、人とのつながりやコミュニティの在り方が問われている。日本では高度経済成長期（1955-73）を通じて前近代的な共同体（村社会）が衰退し、新たなコミュニティ再生の動きが活発になってきた。地域振興、復興支援、居場所づくり、子育て、地域福祉、多文化共生、ジェンダー平等など「生活者」の視点に立ったコミュニティづくりが求められている。人とのつながりが希薄化し、孤独や孤立が大きな社会問題となっている昨今、コミュニティの果たす役割は大きい。この授業では集団・組織に関する基礎理論をはじめ、コミュニティと市民活動との関係やデジタル社会のコミュニケーションを捉えながら、21世紀におけるコミュニティの在り方について幅広く学習する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．コミュニティの基礎理論と重要事項について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	１．生活者の視点からコミュニティが抱える様々な問題を分析し、理解できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	１．コミュニティの未来と自己の将来とを結びつけて、地域の市民活動に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	１．持続可能な社会の実現に向けて、コミュニティの在り方を提案し、発信できる。

学習計画

	授業テーマ	授業の概要とポイント

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	授業の目的と内容、進め方、ルーブリック（評価方法・評価基準）、予・復習等について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスを読み、授業に期待することをノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	**授業テーマ**	人や社会とのつながり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集団・組織、群れ、ネットワークを通して「人や社会とつながる」ことの意味を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	社会とのつながりを感じる場面や体験をノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	近代化とコミュニティ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近代化と生成・拘束する社会、コミュニティの概念、コミュニティ・コミュニケーションについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	集団やコミュニティに関する主な定義について調べる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	近代化と共同性の衰退
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コミュニティを衰退させ、地域の変容をもたらした近代化と、地域が抱える多様な課題について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	高度経済成長期の特徴と地域の変化について調べる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	帰属意識の形成要因
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住みやすいコミュニティのイメージと条件、コミュニティに対する帰属意識の形成要因について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分が住みたい街のイメージと条件をノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	市民組織としてのNPO
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「市民」の意味、市民活動の生成と発展、市民組織としてのNPOと私たちの生活との関わりについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ボランティアや社会貢献活動の経験をノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	地域福祉と市民活動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	介護をめぐる地域のネットワーク、ユニバーサルデザインの社会づくりとNPOの関わりについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ユニバーサルデザインとバリアフリーの特徴について調べる。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	若者の居場所づくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	

第8回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域の交流拠点として注目されている「子ども食堂」と居場所づくりの意義について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	居場所とは何かについて、自身の考えをノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	地域に根ざす子ども会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	異年齢の子どもたちから構成され、地域に根ざした「子ども会」とコミュニティとの関係について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子ども会やガールスカウト等の活動経験をノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	多文化共生とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国籍や民族の異なる人々が互いの文化を認め合い、地域の構成員として共生することの大切さを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本で暮らす外国人が直面する生活上の問題を調べる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	多様性の尊重に向けて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害の有無やセクシュアリティに関係なく、誰もが自分らしく生きられる社会づくりについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	多様性・包摂性が重視されている理由や背景を調べる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	地域の振興と復興支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域の核として地方創生を実現していく「道の駅」と、震災後の復興支援に取り組むNPOについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「道の駅」に関するエピソードや感想をノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	情報コミュニティ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	メディア体験とメディア的社会化の諸相、情報コミュニティの役割と特質について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Society5.0と人とのつながりの変化について調べる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	SNSの可能性と限界
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コミュニティ・メディアの種類と特徴および住民参加、SNSの進化系（メタバース）について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	SNSの種類と特徴を調べ、その功罪をノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

・履修者の数や授業理解度により、スケジュールが若干変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

・課題はGoogleクラスルームから出題し、採点後にコメントを付けて返却する。

評価方法

・平常点は授業への積極的参加であり、課題（リアクションペーパー）やグループ・ワークもしくはペアワークへの取り組みである。
・定期試験は基礎的な知識と理解を問う内容に加え、講義資料についての思考や判断力、授業内容に対する関心と意欲等をみる。なお、出題範囲や出題形式などの詳細は事前に告知する。

※学習成果の公平で客観的な評価を行うため、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリックについては、初回の授業（ガイダンス）で説明するとともに、Googleクラスルームでも公開する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	○

評価割合

平常点（50%）と定期試験（50%）について、ルーブリックに基づく評価を行う。

使用教科書名(ISBN番号)

教科書は使用しない。講義資料（プリント）を配布、またはGoogleクラスルームにアップする。

参考図書

『現代コミュニティとは何か（初版）』船津衛・浅川達人、恒星社厚生閣（2014）978-4-7699-1473-0
『コミュニティを再考する』齊藤純一、吉原直樹ほか、平凡社新書（2013）978-4-582-85689-7
※その他は授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解することができる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見・分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

学生へのメッセージ

【学ぶ姿勢】人はなぜコミュニティをつくるのか、そもそもコミュニティとは何か、これからのコミュニティはどうあるべきかなど、素朴な疑問や問題意識を持って授業に臨んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	履修者の主体的な学びと理解を深めるため、グループ・ワークもしくはペアワークを取り入れる。
情報リテラシー教育		

ICT活用		

講義コード	G01051031
講義名	ファッション造形学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	山村 明子	指定なし

ナンバリング

G15301C21

授業概要(教育目的)

現代の服飾文化でスタンダードとされている洋服の構造を理解し、その設計方法と表現上の特徴について学ぶ。具体的には、先ず人体の形状を把握する。次に平面的な布帛を、人体を包み込む被服として構成するための技法について検討する。あわせて、その時に生じる立体的な造形上の表現の多様さに着目する。さらに、それらの表現が着用者または第三者にはどのような心象を与えるかを検討する。服飾が持つ造形物としての機能性及び表現性の可能性を考える。

履修条件

特に定めず

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	ファッション制作に必要な人体の構造その他の基本的な情報を理解する
思考・判断の観点 (K)	適切な衣服設計とは何かを判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	服飾デザインの多様性について積極的に学ぶ。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	衣服の形態の特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣服の形態上の特徴を3種類に分類し、その形態と表現上の特徴、着装上の特徴のかかわりについて理解する。

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスを読み、授業の概要について理解する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第2回	**授業テーマ**	人体の構造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣服の着衣基体となる人体の構造を学び、体型にどのように関与しているか理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、人体の基本的な骨格、筋について学ぶ。
	教室外学習の時間(分)	190分
第3回	**授業テーマ**	人体の計測
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣服制作に必要となる人体の計測項目および計測方法 について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、人体の計測項目について授業で指示をする自宅課題を行う。
	教室外学習の時間(分)	190分
第4回	**授業テーマ**	体型と体格
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	服飾デザインのイメージ形成にも影響する体型と体格について学び、頭身指数について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で指示をする頭身指数についての課題を行い、レポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第5回	**授業テーマ**	体型変化:成長と性差
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	成長に伴う体形変化と、男女の性差の特徴について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、授業で指示をする自宅課題を行う。
	教室外学習の時間(分)	190分
第6回	**授業テーマ**	衣料品のサイズ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	JIS規格の衣料品のサイズ設定について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、授業で指示する自宅課題を行う。

	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	中間テスト及び動作と体型変化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業時間の前半では、第1回から6回までの内容を振り返る中間テストを行う。授業時間の後半の講義では、人体は姿勢の変化や動作によって、体表面の形状や寸法が変化することを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業で指示する自宅課題を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	中間テストの振り返り および 平面製図と立体構成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業時間の前半では、前回の中間テストの振り返りを行う。授業時間の後半では、衣服の制作方法である平面製図と立体構成の手法の違いを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業で指示をする自宅課題を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	布帛の立体化の技法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平面である布帛を立体的な衣服形状に表現する技法の種類とそのデザイン効果について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業で指示をする自宅課題を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	デザインの理論:点と線
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	形状の構成要素である、点と線について理解し、服飾デザインの中でどのような効果を持つか学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業で指示をする自宅課題を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	デザインの理論:錯視
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	錯視の原理を理解し、服飾デザインの中での活用例について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業で指示をする自宅課題を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	デザインの原理とドレスデザイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	デザインの原理を理解し、服飾デザインの中での活用例について学ぶ。

第12回	む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業で指示をする自宅課題を行う。
	教室外学習の時間(分)	190分
第13回	授業テーマ	ドレスデザインとスタイル画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デザインの原理をスタイル画の書き方と共に学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業で指示をする自宅課題を行う。
	教室外学習の時間(分)	190分
第14回	授業テーマ	服飾デザインに触れる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文化服飾博物館でのドレス展示を見学し、多様な服飾デザインに触れる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として、文化服飾博物館公式HPを閲覧し、概要を理解する。 復習として見学に関するレポート課題を制作する。
	教室外学習の時間(分)	190分

学習計画注記

博物館の見学は受講生の人数によって、日程等を調整する可能性がある。
受講生の人数によっては、制作に関連する基礎的な事項を理解するための簡単な作業を授業内で行う。

学生へのフィードバック方法

授業の理解度を確認するために、毎回の授業内容についての「振り返りテスト」を行う。穴埋め方式で出題し、次週時間内に正解の解説をする。
中間テストについては、次の授業時間に正解を解説をし、復習を促す。
提出された課題（体型）については、添削をして授業期間内に返却をする。
提出された課題（デザイン）については、授業内で解説をする。

評価方法

見学課題においては服飾デザインの多様性について、積極的に視野を広げていることができているかについて、体型に関する課題では、授業内容を理解し、作業を行えているかを評価する。期末試験では授業内容の理解を評価する。

評価については、ルーブリックを用いた評価を行います。「ルーブリックについてはクラスルーム
または授業内での配布等により学生に提示をします。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○	○	
中間試験	○	○		
期末試験	○	○		
授業時の小テスト	○			

評価割合

授業時の小テスト：15% 課題2回：20% 中間・期末試験：65%

使用教科書名(ISBN番号)

なし、プリントを配布

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】適切な衣服設計とは何かを理解する。
【思考・判断】人体にとっての快適な衣生活とは何か判断できる。
【関心・意欲・態度】衣服設計と服飾デザインの問題について関心をもつ。

オフィスアワー

月曜日2限 1703ゼミ室

学生へのメッセージ

教職のための選択科目です。被服構成のための基礎的な知識を習得することを目的としています。日常的に身近な衣服の構造やデザインをよく観察するとよいと思います。1年次後期開講のファッション造形実習Aの内容に関連する科目です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	文化服飾博物館の展覧会を見学することで、実物に触れる体験的な学習を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01052031
講義名	ファッション造形実習Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	太田 茜	指定なし

ナンバリング

G25303C23

授業概要(教育目的)

本講では浴衣製作を課題とし、材料に関する特徴である染色方法から、基礎的な和服の構成と縫製技術の種類を実践的に体験し習得する。さらに着付けの方法について学ぶ。また、和の縫製技術と様々な体型の人々に可能な着装方法とその後の管理等についても合わせて理解する。最終的に日本の伝統文化である和服を継承していくことの大切さを考える。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日本の民族衣装としての和服の役割を正しく理解し、伝えていくことへの認知ができ自分の情報として活用できる。
思考・判断の観点 (K)	全体像の予測ができ、各箇所に適した工程を正しく理解し、考えての作業選択ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	特殊な技術方法などに積極的なアプローチを示し、再現してみる努力を行うことができる。
技術・表現の観点 (A)	あらゆる手法・着装方法について重ねて技術を磨くことや、相手に作品の特徴などについて伝える力が体得できる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス、和服について 材料・用具の説明 反物を選ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ	この授業についての進め方と概略について説明し、和服についてその呼び方・仕立て方の種類と浴衣の位置づけについて解説する。続

第1回	**ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	いて材料と用具の説明を行う。 また、反物を選択するさいのポイントについて学び、実際に材料を選ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をして、材料と用具を用意する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	裁断、袖の印付け 基礎縫い、袖を縫う
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	和服用反物の柄の解説をし、浴衣をつくる場合の裁断について説明する。各自の身頃・衽・袖の裁断を行う。実際の裁断は点検を受けた後に行う。 袖の構造を理解し、袖のしるしつけの解説をし、説明しながら学生もしるしをつけを同時に進めていく。 また、和裁に必要な基礎縫いを学ぶ。デモを加えて説明を行い、各自基礎縫いの課題を行う。基礎縫いについては動画教材を併用し、各自で復習をしながら行う。基礎縫いは授業の終わりに提出する。 縫製手順と手法を説明し、デモを加え説明をおこない、各自縫製を進める。また、三つ折りぐけの手法を復習し、袖口を三つ折りぐけする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	柄合わせの種類を確認する。袖は左右完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	身頃のしるしつけ・背縫い
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身頃のしるしつけをするための布び重ね方と方法を解説する。しるしつけを行い、背縫いをし、きせをかけて折る。身頃のくりこしあげを縫う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	背縫いの手順を確認し、基礎縫いを復習しておく。運針の練習をしておくとよい。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	繰り越し上げ、肩当てをつくる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	背縫いと繰り越しあげの確認を行い、完成させる。 肩当てを縫う。部分見本とデモ動画を活用して説明をし、肩当てをつくっておく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	肩当ての縫製に必要な折り伏せ縫いを確認しておく。背縫いと繰り越しあげを完成させる。 衽と衿の切り分けについて確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	肩当つけ、衽の印つけ、衿下をくける
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肩当てつけの手順を説明し、肩当てをつける。 また、衽と衿を切り分け、衽の裁断を行って印をつける。衽の衿下を三つ折りぐけする。 基礎縫いとして耳ぐけの技法を復習し、習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	脇縫いの場所の確認と三つ折りぐけの復習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	70分

第6回	授業テーマ	衽付け、耳ぐけで縫い代の始末をする
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衽つけの説明をデモで行い、衽をつける。また、きせの分量についての違いを解説に加え、各自実習し、耳ぐけをして縫い代の始末をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	衽の役割を理解し、その構造を確認しておく。衽の耳ぐけをし、衽付けを終わらせる。
	教室外学習の時間（分）	70分
第7回	授業テーマ	脇縫い・脇の始末
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	次に脇縫いの位置を確認し、脇縫いと脇縫いの始末の方法を説明する。各自で左右の脇を縫い、耳ぐけで脇の始末をする
	教室外学習(予習・復習)の内容	両方の脇縫いと脇の始末をする。
	教室外学習の時間（分）	70分
第8回	授業テーマ	裾の始末
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	裾角の始末の方法（縫い代の折り方と針の出し方）を説明し、裾の始末を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自でこれまでの行程で終わっていないところを確認し、仕上げておく。
	教室外学習の時間（分）	70分
第9回	授業テーマ	衿の裁断、共衿の柄合せ・衿のしるしつけ・衿つけ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衿の裁断を行い、本衿と共衿に切り分ける。共衿の寸法と柄合わせについて解説し、本衿の衿のしるしつけの準備としるしつけについて説明し、各自実習する。個々に柄合わせ点検を行う。衿つけの説明を行う。衿をつける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	衿のしるしつけを確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	70分
第10回	授業テーマ	三つ衿芯入れ・衿くけ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本衿のきせのかけ方を確認し、三つ衿芯を入れる意味を解説し、手法を説明する。さらに衿の本ぐけとして、基礎縫いで確認し習得してから本番に入る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	三つ衿芯入れと本衿の本ぐけの確認。
	教室外学習の時間（分）	70分
第11回	授業テーマ	衿先部分縫い、衿の本ぐけ、共衿付け
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衿先の留めの部分縫いを説明し、習得させる。衿をくけて衿を完成させる。 共衿つけの説明を行い、共衿をつける。
	教室外学習(予	衿先の留めの確認をし、本ぐけの仕方を復習しておく。

	習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	70分
第12回	授業テーマ	袖つけ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	袖つけの説明を行い、袖をつける。袖が左右きちんと縫えているか確認をし、袖をつける
	教室外学習(予習・復習)の内容	第2回で縫った袖が出来上がっていない人は完成させておく。また、袖の左右を確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	70分
第13回	授業テーマ	仕上げ。たたみ方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業の総確認をして、進度を整える時間とする。 仕上げの方法と、たたみ方との解説をパワーポイントで行う。 提出にむけて作業工程をまとめたレポートを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	袖のつけ始末の確認をする。また、仕上げと本だたみについて確認しておく。作業工程をまとめてレポートにする。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	提出及びミニテスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作品にレポートを添えて提出する。また、着付けや和裁用語についてのミニテストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	着付けの仕方について動画教材で復習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。進度の確認で遅れが生じる人は、次の授業までに各自で追いつく努力をすること。
また、ガイダンス後半に浴衣地を購入しに日暮里繊維問屋街に行くので次の時限に授業がある場合は個別に選びに行く必要がある。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業での机間指導を行い、正しく理解しての作業ができているかを確認し、その都度指導する。
部分縫い等の提出物と最後の作品提出のレポートに、浴衣の構造や手順を理解できているかをコメントし、再度確認させる。

評価方法

平常点は、授業への参加状況と作品等の取り組みの状況を総合的に評価する。作品課題評価は、全体の出来上がりと、最初の段階よりどれだけ上達し技術を習得できたかを評価する。着装体験では、構造の理解と重要なポイントと作法及び技法を理解し再現できるかについてと相互協力して着装が完成できるかを判断する。最後に和服の利点を感じ取れるかについてレポートの回答を見る。これらを下記の表に示す力を育むことを目的として実施している。
評価についてはルーブリックを用いた評価を基準として行う。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題製作	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○
ミニテスト	○	○	○	○

評価割合

作品課題（50%）課題レポート（20%）、ミニテスト（15%）、平常点（15%）の割合で総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

田中 淑江『はじめての和裁の教科書 動画と図解でよくわかる！ 浴衣の仕立て方』講談社(2024)
978-4065347614

参考図書

小田 美代子『きものの仕立て方 職人に学ぶ、一つ身じんべえ、浴衣から、ひとえ長着まで』文化出版局(2013)
野村辰雄『新訂版 上手に縫える 着物の仕立て方』有紀書房(1996)

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】日本の伝統衣装である和服の浴衣製作を学ぶことで、その構造を理解し洋服との違いを理解する。
【思考・判断】現代の衣生活における伝統衣装の位置づけや衣生活の質について多角的に考えることができる。
【関心・意欲・態度】和服について現在の位置づけやその成り立ちについて関心を持つ。
【技術・表現】和服製作のための基礎的な技法を習得する。

オフィスアワー

1808ゼミ室 月曜昼休み～3限

学生へのメッセージ

・1回目の授業より実習内容に入るため、必ず初回からの出席を希望する
・授業外で行う作業も出てくる事は覚悟して履修して欲しい
・欠席した回の分の作業は自分で追いつくこと

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	実際に反物をみて様々な技法を学び、その中から適切なものを選ぶことができる。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	技法的なことについては動画教材を用意し、基礎縫いなどは繰り返し学習することで確実に身に付けることができる

講義コード	G01053031
講義名	ハンドクラフト演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	太田　茜	指定なし

ナンバリング

G35306C22

授業概要(教育目的)

ものづくりは様々な道具を使用するが、それらを活用していく「手」の重要性を再認識する。
演習内容では複数の手芸技法の基礎を学び、見本製作と作品製作を行う。学んだ手芸技法を組み合わせて自由課題として最終的な作品を自分でデザインして製作し、見本を含めたポートフォリオにまとめてプレゼンテーションを行う。具体的な手法としては編み物、組紐、マクラメ、刺繍などを学ぶ。
一連の流れを通して自己の作品コンセプトを人に伝える技術も含めて、作品作りの組み立て方を学ぶ。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	装飾のさまざまな種類の歴史と技術を理解し、立体的に構造を把握し、実際に技法を再現できる。
思考・判断の観点 (K)	図解を正しく認識し、デザインにあった表現方法を選択できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	テーマについて、情報取集を適切にでき、自ら積極的にかかわることができる。
技術・表現の観点 (A)	デザインに適した手法の選択と材料の選定ができ、完成度の高い創作表現ができる。

学習計画

	授業テー	

第1回	マ	ガイダンス、手芸とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	手芸について様々な技法があることを理解し、またその役割を確認する。手芸の基本的な技法は編む、組む、結ぶ、刺すなどがあるが、この授業では主に編む（指編み、かぎ針編み）、組む（組紐）、結ぶ（マクラメ）、刺す（刺繍）を行うためその概要を解説し、授業の予定等を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。身近な手芸作品について調べ、気になる技法の参考になる資料を探しておく。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	編む・１　ゆび編み
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	編み物の基本を理解し、まず手始めにゆび編みを行う。ゆび編みをしたサンプルを利用してアクリルたわしを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	授業テーマ	編む・２　かぎ針でモチーフを編む
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回行ったゆび編みをふまえて、かぎ針でモチーフをつくる。基本的なかぎ針の技法を学び、レポートにまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。道具は初回の説明を元に各自で用意すること。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	授業テーマ	組む・１　組みひもディスクでZスパイラルを組む
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	組紐の基本的な技法であるZスパイラルを習作として組む。作り方の説明を読み解き、デモを行って解説を行う。組みひもディスクに練習用の糸をセットして実習を行う。
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。また、次回取り組む課題の色合わせなどを考える
	教室外学習の時間(分)	100分
第5回	授業テーマ	組む・２　組みひもディスクを使った製作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の手法を確認し、新しい技法をデモで解説する。各自のイメージにあわせて作品の材料を揃え、製作を行う。作品はミサンガやストラップを想定しているが、教員と相談の上で他のものにしてもよい。作業工程を記録しておき、レポートに役立てるとともに自分の作業スピードを把握できるよう試みる。作業手順をレポートにまとめ、作品と共に提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。必要に応じて材料を用意する。
	教室外学習の時間(分)	100分
第6回	授業テーマ	結ぶ・１　マクラメの基礎
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	紐や糸を使って装飾をつくるは編む、刺す、結ぶ等様々あるが、今回は結んで作るマクラメの技法を習得し、作品に生かせるようにする。まずコードの扱い方と基本的な技法を解説し、実習を行う。基礎的な技法を練習し、サンプルを製作する。 また、次回から作成するボトルハンガーのデザインをし、必要な材料をリストアップしておく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。
	教室外学習の時間(分)	100分
第7回	授業テーマ	結ぶ・２　マクラメのボトルハンガーづくりと提出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回習得したマクラメの基本技法を再確認し、それぞれのデザインにあわせて設計図をかき、製作を行う。また、糸の始末をし、金具等をとりつけて作品に仕上げる。作業手順を課題レポートとしてつけ、提出をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。
	教室外学習の時間(分)	100分
	授業テーマ	刺す・１　刺繍の基礎

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	刺繍の技法は数多くあるが、今回は刺繍糸を使って模様を描くフランス刺繍を習得する。図案の写し方、糸の準備、刺し方などを解説し、基本の図案に従ってサンプルの図案を決め、刺し始める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。必要に応じて図書館等で自由課題のヒントを探す。
	教室外学習の時間(分)	100分
第9回	授業テーマ	刺す・２　サンプラー作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回に引き続きサンプラーの作成を行う。作業工程をレポートにしてまとめ、作品と共に提出する。最終課題として製作する自由課題のデザインを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。
	教室外学習の時間(分)	100分
第10回	授業テーマ	自由課題・１　作品制作の準備（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今までに習得した編む、組む、結ぶ、刺すの技法の少なくとも一つ以上を使い、最終的な作品として制作するものを決定し、デザインを行う。作品は服飾小物とし、大きさや技法はある程度自由にしてよい。何を作るかは相談をし、点検を受けてから材料を揃えるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。必要に応じて課題に使用する用具・材料を用意する。
	教室外学習の時間(分)	100分
第11回	授業テーマ	自由課題・２　作品制作（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回デザインを決定した自由課題の作品制作を行う。必要な技法を確認し、適宜デモなどを行って解説をする。
	教室外学習(予習・復習)の内	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。

	容	
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	授業テーマ	自由課題・３　作品制作（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回に引き続き制作を行う。必要な技法を確認し、適宜デモなどを行って解説をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。作品を完成させ、レポートの作成とプレゼンの準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	授業テーマ	自由課題・４　作品制作（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回に引き続き制作を行い、完成させる。次回の授業で作品コンセプト、技法の解説などのプレゼンテーションを行うため、各自でプレゼンの準備をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。作品を完成させ、レポートの作成とプレゼンの準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	授業テーマ	自由課題のプレゼン、提出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自由課題のプレゼンを各自行い、お互いに講評を行う。作業手順をレポートにし、課題と共に提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

適宜提出作品を返却してそれぞれの作品についての構成・手法・完成度についてコメントし、自由課題への検討課題とする。自由課題はレポートともにコメントをつける他に、学生同士で講評を行う。

評価方法

作品については、デザイン力と色彩力に加えて、技術を総合的に判断するが、技術力については、最初よりどれだけ進歩したかを個々に判断して評価を決定する。プレゼンテーションについては、自分の作品をどれだけ正しく理解し、適切な表現方法で相手に伝えることが出来るかで評価する。最後に作品のレポートにより装飾についての考えを見る。これらを下記の表に示す力を育むことを目的として実施する。平常点は、授業への参加状況と作品等の取り組みの状況を総合的に評価する。

評価についてはルーブリックを用いた評価を基準として行う。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
作品制作	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合

作品制作（60%）、レポート（15%）、プレゼンテーション（15%）、平常点（10%）

使用教科書名(ISBN番号)

教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】服飾の装飾方法を学ぶことで手芸の側面から家庭裁縫や被服教育について理解する機会を有する。

【思考・判断】生活者として現代の衣生活を考え、「質の高い衣生活」とは何であるかを多角的に考える力を養うことができる。

【関心・意欲・態度】ファッションの一部としてハンドクラフトの重要性に関心を持ち、自主的に製作を行うことができる、

【技術・表現】衣服の装飾について自分の考える表現のためのハンドクラフトの基礎技法を習得することができる。

オフィスアワー

1808ゼミ室　月曜昼休み～3限

学生へのメッセージ

日頃から装飾に関心を持って、美術館や映画等々を見て作品のインスピレーションを得るようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

ICT活用	○	技法的なことについては動画教材を制作し、基礎的な技法については繰り返し学習することで確実に身に付けることができる

講義コード	G01054031
講義名	現代衣生活論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	山村 明子	指定なし

ナンバリング

G25102C21

授業概要(教育目的)

現代社会の中で、ファッション領域における特徴のある事象を取り上げる。ファッション産業の構造と現状の課題、生産現場の人権と商品の価値、企業が取り組むべきCSR活動、エネルギー消費の問題や地球環境に配慮をするサスティナビリティなファッション商品とは何か。また少子化、超高齢化が進む中、子ども服やシニアファッション商品の開発についてなど多方面にわたる衣生活の問題について考えていく。

履修条件

特に定めず

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	現代のアパレル産業と消費者の課題について理解する
思考・判断の観点 (K)	豊かな衣生活とは何かについて理解し、適切な消費行動をとれる
関心・意欲・態度の観点 (V)	消費者として現代のアパレル産業の課題に積極的に関心をもてる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	アパレル産業の構造と課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の着物産業の構造とも関連してきた、従来のアパレル産業の構造を学び、そこに生じる問題点を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスを読み、授業概要について理解する。

	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	**授業テーマ**	日本のアパレル産業の現状
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本のアパレル産業の長所と弱点を学び、今後の展開について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	ファストファッション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今日のアパレル産業を大きく動かしているファストファッションの現状を学び、その問題点を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	現代のファッションとグローバリゼーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グローバル社会におけるアパレル産業の動向を学び、ファッションのグローバル化の持つ課題を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	アパレル産業とCSR
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アパレル産業のCSRについて学び、それらに対する消費者としての姿勢について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	ファッション商品の生産現場の問題点
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映画「女工哀史」から、ファッション商品の生産現場が持つ問題点について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	ファッション商品の価値
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の映画の内容を振り返り、フェアトレードやエシカルファッションの動向を学び、ファッション商品の価値とは何かを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。
	教室外学習の時間（分）	190分

第8回	授業テーマ	消費と廃棄
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ファッション商品の消費と廃棄の現状を学び、消費者としての行動を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第9回	授業テーマ	３Rとファッションデザイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今後の活用が期待されるケミカルリサイクルについて理解し、ファッション商品に対する消費者としての行動を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第10回	授業テーマ	ファッション商品の生産と消費の問題点
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映画「トゥルー・コスト」から、ファッション商品の生産現場と消費行動が持つ問題点について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第11回	授業テーマ	持続可能な衣生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の映画の内容を振り返り、持続可能な衣生活を創り出すための消費者としての行動を考える。また、日本の着物産業の現代的な展開にも目を向ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第12回	授業テーマ	シニアファッション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢者の身体的特徴、運動・生理的機能の変化を学び、高齢者の衣生活に生じる課題を理解し、今後のシニアファッションについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第13回	授業テーマ	ユニバーサルファッション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体の機能不全などで生じる衣生活の課題を理解し、それに対応できるファッションの提案を企業の活動から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。
	教室外学習の時間(分)	190分
	授業テーマ	子ども服と安全
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	乳幼児期の身体的特徴、運動・生理機能の特徴を学び、乳幼

第14回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児の衣生活、特に子どもの健康や安全に留意する点を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。 授業全体を振り返り、試験に備えて指示した内容をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

受講生の理解度等により授業の進度を調整することがある。
参考となる企業のHP情報や、投稿動画などの情報を提供するので、各自で時間学習に活かすことを勧める。

学生へのフィードバック方法

授業の理解度を確認するために、授業内容についての「振り返りテスト」を行う。穴埋め方式で出題し、次週時間内に正解の解説をする。

評価方法

授業時の小課題：授業の振り返り小テスト等を行う。
期末課題：試験の内容については事前に指示をする。授業で提示した内容だけではなく、積極的に情報を収集する態度と、これからの衣生活のあり方と消費者としての行動を考え回答することを求める。
ルーブリックで評価します。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業時の小課題	○	○	○	
期末試験	○	○	○	

評価割合

授業時の小課題15%、期末試験85%

使用教科書名(ISBN番号)

なし。授業時にプリントもしくはデジタルデータを配布

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「質の高い生活」の一要素である衣生活に関する課題を理解する。
【思考・判断】現代の衣生活における消費者と企業の課題の解決や適切な行動について志向する。
【関心・意欲・態度】現代の衣生活の問題について関心をもち、積極的に情報を収集する。

オフィスアワー

月曜日2限 1703ゼミ室

学生へのメッセージ

ファッションは個人的な楽しみでもあり、社会における問題を提示することもあります。この授業では衣生活のおける問題意識を持つことを目標にしていますので、新聞記事などにも積極的に目を通す習慣を身につけていただきたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01055031
講義名	世界の服飾
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	山村 明子	指定なし

ナンバリング

G15201C21

授業概要(教育目的)

世界各地には様々な民族服が存在する。それは歴史的背景の中で成立してきたものであるが、グローバル社会の中で服飾文化は西洋化されてしまった。今日ではその着用者は限定的となり、儀式やイベントなどに着用されることで、民族を意識させる象徴的な存在でもある。民族服の構成、色彩、装飾の特徴、現代社会における民族服飾の役割や、変わりゆく服飾文化を踏まえ、服飾文化から国家と民族との関係を見つめなおすことが目標である。

履修条件

特に定めず

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	民族服飾に関する歴史的事象と現代社会との関わりを理解する
思考・判断の観点 (K)	民族服飾は民族にとってどのような意味を持つものなのか考え、判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	民族服飾に関する情報を積極的に収集する。
技術・表現の観点 (A)	制作課題においてイメージマップの効果的な表現ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	民族服飾の定義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	民族と民俗、民族服飾の定義を学び、日本にとっての民族服飾とは何かを考える。

	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスを読み、授業概要について理解する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	**授業テーマ**	自然をまとう オセアニア
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	民族服飾の成立の要因を学び、オセアニアの服飾例から服飾デザインと素材との関わりを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業内容の振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	巻衣 アジア地域（インドなど）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	服飾の基本形態の一つである巻衣の民族服飾における例を学び、その形態の特徴、機能、表現要素等を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業内容の振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	貫頭衣 南米地域（アンデスなど）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	服飾の基本形態の一つである貫頭衣の民族服飾における例を学び、その形態の特徴、機能、表現要素等を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業内容の振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	寛衣 中東地域
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	服飾の基本形態の一つである寛衣の民族服飾における例を学び、その形態の特徴、機能、表現要素等を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業内容の振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	脚衣 中東地域（トルコなど）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	服飾の基本形態の一つである脚衣の民族服飾における例を学び、その形態の特徴、機能、表現要素等を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業内容の振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	ヨーロッパ地域 ギリシャの衛兵
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ギリシャの衛兵の服装に残されているデザインの特徴を学び、ヨーロッパ服飾文化の変遷との関わりを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業内容の振り返りを行う。

	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	ヨーロッパ地域（中欧の女性）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中東欧地域の女性民族服飾の特徴と、ヨーロッパ服飾文化の変遷との関わりを学び、民族服の持つ意味を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業内容の振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	ヨーロッパ地域 スコットランド
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	スコットランドのタータンチェックの概要について学び、民族に固有のデザインが現代に活かされる事例について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業内容の振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	民族服飾がつくりだされる背景 ハワイ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ハワイにおけるアロハシャツの成立の背景を学び、民族服飾とグローバリゼーションとの関わりについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業内容の振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	変わっていく民族服飾 西洋文化の影響
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中国（満州族）におけるチーパオ、ベトナムにおけるオアザイ、シンガポールにおけるサロン・ケバヤの西洋文化からの影響を学び、民族服飾の変容について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業内容の振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	課題作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	多様な民族服飾のデザイン例の中から、現代の衣生活とのコラボレーションを考え、イメージマップを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に沿ったテーマ設定の情報収集を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	変わっていく民族服飾 チマチョゴリ及び全体のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国の服飾文化の変容を概観したうえで、チマチョゴリの表象性について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業内容の振り返りを行う。期末試験に備えて、授業全体の振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	190分

第14回	授業テーマ	文化服飾博物館見学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文化服飾博物館で開催される展覧会を見学し、民族服飾のデザインの意味や特徴について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として博物館公式HPを閲覧し、復習として事前に指示した課題を踏まえて見学内容に関するレポートを制作する。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

博物館の見学は、受講生の人数により日程等を調整する可能性がある。
受講生の人数によっては、学習内容を理解するための簡単な作業を各自で行う場合がある。

学生へのフィードバック方法

授業の理解度を確認するために、授業内容についての「振り返りテスト」を行う。穴埋め方式で出題し、次週時間内に正解の解説をする。

評価方法

授業時の小課題：授業内では授業の確認の小課題を行う。
博物館の見学課題では積極的に服飾デザインを観察し、デザインの持つ意味を理解しているかを問う。
制作課題では民族服飾の情報収集とイメージマップ制作における表現の工夫を問う。試験では授業内容全体の理解を問う。
ルーブリックを用いた評価を行います。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示をします。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業時の小課題	○			
課題	○	○	○	○
期末試験	○	○		

評価割合

授業の小課題：15% 課題（2回）：20% 期末試験：65%

使用教科書名(ISBN番号)

使用しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

参考図書

「世界の愛らしい子ども民族衣装」（エクスナレッジ）など授業時に随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】世界の服飾文化を学び、各地の風土や歴史的背景と服飾文化とのかかわりについて理解する。
【思考・判断】服飾文化の多様性を次世代の衣生活に生かす方策を志向する。
【関心・意欲・態度】服飾文化と民族の問題について関心をもつ。
【技術・表現】服飾文化を生かして生活を豊かにするための提案・発信ができる

オフィスアワー

月曜日2限 1703ゼミ室

学生へのメッセージ

服飾を通してその国の文化や地域の特色を知り、異文化理解に役立ててほしい。受講に際しては、積極的に授業に参加するとともに、授業で取り上げる内容以外にも諸外国の文化、服飾に

ついて関心を持ってほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	文化服飾博物館の展示を見学し、体感的な学びを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01056031
講義名	日本の服飾
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	太田 茜	指定なし

ナンバリング

G25202C21

授業概要(教育目的)

服飾に限らず文化は元々あったものと他国から伝播したものが混ざり合い、伝承するものである。日本の服飾は他国から伝わった服飾を独自に進化させることで現代まで残ってきた。この講義ではどのようにそれらが愛され、伝わっていたのかを学ぶ。また、現在の衣生活がどのような構造で成立しているのかを知る。

履修条件

特に設けない。学芸員課程の選択科目となっている。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	伝統的な服飾文化の受容について、それらが持つ歴史的社会的背景を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	現代日本において伝統的な服飾文化をどのように活用することが出来るか、考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会的な観点から意欲的に自らの課題を発見し、それに対する調査を行うことができる。
技術・表現の観点 (A)	学びの結果得られた自分の意見・考えを他者に向けて論理的に表現することができる。

学習計画

日本の服飾

	授業テーマ	ガイダンス・衣服と衣生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	

第1回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンスとして人と衣服の関わりの概要と日本の服飾の大まかな変遷について学ぶ。衣服の素材と類型について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習としてシラバスを読んでおく。復習として授業で提示された課題をとく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	古代の服飾：縄文～奈良時代
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	古代の服飾については資料が乏しく、明らかにすることができないが出土品や可能性から探ることはできる。特に実物が出土する装身具については時代ごとに特徴がある。また、遺跡に残る壁画や古墳から出土する埴輪から服装について考察を行う。 国として中央集権化がはじまった日本において、どのように服制がつくられていったのかを中国の服制と比較しながら学ぶ、
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題とした資料や書籍を読む。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	古代の服飾：平安時代
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平安時代はそれまで中国を参考にしていた日本が独自の文化を発展させた時期である。ここでは平安装束の成り立ちと、特にそれを特徴づけている襲色目について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題とした資料や書籍を読む。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	中世の服飾
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鎌倉から室町時代にかけては武家が台頭し、服飾も武家中心に発展をしている。武家の人々の服装とその根底に流れる意識について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題とした資料や書籍を読む。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	戦国・安土桃山時代の服飾
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	戦国時代はその名の通り大名同士で争いが起き、服装も戦乱に適した実用的なものへと変化した。また、それまでは下着として着られていた小袖が表に現れるようになり、服装の中心的な存在になる。ここでは小袖がいかに表着として着られるようになったかに焦点をあてる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題とした資料や書籍を読む。
	教室外学習の	

	時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	江戸時代・小袖の変遷
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	江戸時代は長く、その中での変化も激しいため3回にわたってとりあげることとする。ここでは小袖の文様の付け方に着目し、どのような技法が流行し移り変わっていったかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題とした資料や書籍を読む。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	江戸時代・武家と町人の服飾
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	江戸時代の服飾は公家・武家・町人とそれぞれが独自の服飾文化を形成していった。また、町人階級の生活が充実し、彼らの服飾は独自の美を確立していった。その中でも特徴的な「だて」と「いき」に焦点をあてて、どのようなものを美しいととらえていたかを学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題とした資料や書籍を読む。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	明治・大正時代の服飾
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	明治・大正時代は洋装化が進みつつも女性は圧倒的に和装で過ごす人が多く、現在の和装に近い形・着付けが成立していった時期でもある。男性の場合は仕事着として洋服を着、自宅でくつろぐときは和服でといった生活様式が成り立ち和洋混在の状況やそれぞれの状況を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題とした資料や書籍を読む。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	近現代日本の子どもと学生の服装
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	明治～昭和初期の学生と子どもたちの服装はその時々で大きく変化している。ここでは特に学生服として採用された詰襟、セーラー服に焦点を当てて、その日本での普及について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題とした資料や書籍を読む。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	昭和時代
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第二次大戦以降の日本は洋裁ブームが起き、世界の流行の影響も受けることになる。その中で特にディオールやサンローラン等のフランスのクチュールとミニスカートについて知る。また、現在の衣生活の主流となる既製服の普及について学ぶ。
	教室外学	課題とした資料や書籍を読む。

	習(予習・復習)の内容	今までの授業の内容を振り返り、課題のために自分が興味を持った事柄について図書館等で資料を探しておく。。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	現代の衣生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代の衣生活の中心は既製服を買って着る、というものであるがその産業の成り立ちとどのような流れで衣服の生産が行われているかを学ぶ。服を作るには様々な工程があるが、それらの大まかな流れを知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題とした資料や書籍を読む。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	衣服の着装と取り扱い・課題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣服は好きなものを着ればよいのではなく、目的などに応じて適切なものを選び、着装する必要がある。また、繰り返し着るためには適切な方法で管理をしなうてはならない。したがって自分が所持している服を知り、どのような素材でできてるかとそれに応じた扱いを学ぶ。また、課題についての説明を行うのでその準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題とした資料や書籍を読む。 期末の課題のテーマを選定し、準備をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	民族と衣服
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	和服は日本の民族衣装とされているが、世界にはそれぞれの民族を代表する衣服があり、風土などの影響を強く受けている。各地の民族衣装を知り、現在の生活の中でどのように着られているかを学ぶ、
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題とした資料や書籍を読む。 最終課題に向けて資料を整理し、パワーポイントにまとめて動画を作成し、指定した方法で提出する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	東京国立博物館見学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	東京国立博物館の本館の展示の中から指定された展示を見学し、和服の構造の変化や装飾に用いられた技法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習として博物館公式ホームページの資料を閲覧しておく。また、事前に提示した課題をふまえて見学を行いレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

オンデマンド授業で実施する。（配信：水曜4限）
博物館の見学（常設展。有料だが本学の学生はキャンパスメンバーズを利用する）は、受講生

の人数により日程等を調整する可能性がある。
課題の提出をもって出席とするが、原則として次の週の火曜日を課題提出の締め切りとし、過ぎたものについては欠席扱いとする。
提出された課題の形式が指定した場合と異なる場合は減点の対象とすることがある。

学生へのフィードバック方法

「授業課題への回答」で得られたレスポンスは、次週以降に開示する。レポートへのフィードバックも行う。

評価方法

授業では「授業課題への回答」において、レスポンスをする。提出しなかった者の出席は認めない。関心・意欲・態度とともに基本的な授業内容の把握に関して問う。レポートは、本授業を通して得られた知見を元に他者にわかりやすく伝えるという工夫がなされているか、正確な情報に基づいて作成されているかという観点から評価する。また、最終課題として課す動画作成については発表の形式は自由だが制限時間を守ることと自分の音声を使用することを条件とする（顔出しの是非は問わない）
評価についてはルーブリックを用いた評価を基準として行う。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業課題への回答	○	○	○	
見学レポート	○	○	○	○
発表動画	○	○	○	○

評価割合

平常点40%(授業内課題含む)、見学レポート30%、発表動画課題30%

使用教科書名(ISBN番号)

佐々井啓・大塚美智子（編著）『生活科学テキストシリーズ 衣生活学』朝倉書店（978-4-254-60633-1）

参考図書

授業時に随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】日本の服飾を巡る社会課題を発見できる知識を持つことができる。
【思考・判断】社会課題を調査分析し、その結果、自分で考察することができる。
【関心・意欲・態度】持続して課題を追究する意欲を持つことができる。
【技能・表現】次世代に残したい文化を他者に向けて発信できる表現力を持つことができる。

オフィスアワー

1808ゼミ室 月曜昼休み～3限

学生へのメッセージ

世界と通じている日本の服飾文化について知ることは、その地に生きる人びとのくらし方を知ることでもあります。広い視野で物事を見ることができるように務めましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	東京国立博物館の展示を見学し、実物資料から得られる学びを体感する。

情報リテラシー教育	○	図書館の利活用法について習熟し、著作権使用に関する注意を喚起する。
ICT活用	○	デジタル資料等を使用し、適切な方法で情報を収集できる。また、パワーポイントを用いて自分の考えを発表することができる。

講義コード	G01057031
講義名	西洋服飾文化史
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	山村 明子	指定なし

ナンバリング

G35204C21

授業概要(教育目的)

現代の服飾文化のスタンダードである西洋式服飾文化の歴史的な背景を概観し、今日の服飾意識がどのように形成されてきたかを考える。特に、近世以降のヨーロッパでの社会的変動と服飾デザインの変化を関連付けて理解することで、服飾文化と社会的価値観との相互的作用に着目する。服飾は社会における人々の在り方を表象する装置であり、服飾への造詣を深めると同時に、服飾を切り口とした社会や人々へのアプローチについても考えていく。

履修条件

オンデマンド授業で実施する。（配信：木曜日1時限）
ただし校外特別授業（ミュージアムの見学）には現地で参加すること。
期末試験は対面方式で教室で実施する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	西洋の服飾文化の歴史を理解する
思考・判断の観点 (K)	西洋の服飾文化がどのような社会の中でつくりだされてきたのか考える
関心・意欲・態度の観点 (V)	異文化を理解する姿勢を身につける
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	古代から中世までの西洋服飾
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ	当該授業では16世紀以降のヨーロッパの服飾について学ぶが、その導入として古代エジプト以降中世ゴシック期までの服飾の変遷を概

第1回	**-教育・ICT活用を含む)**	観する。また、歴史を見る眼として重要な現代の価値観で判断しないことを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスを読み、授業概要について理解する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	**授業テーマ**	16世紀とスペインモード
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ-教育・ICT活用を含む)	イタリアルネサンス様式における服飾文化の変容を確認する。16世紀の宮廷文化と服飾との関わりについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書pp.44-52を読む。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	エリザベスI世
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ-教育・ICT活用を含む)	イギリスのエリザベスI世の服飾を中心に、当時の戯曲などを資料にしてスペインと敵対したイギリスの位置づけと服飾の特徴について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書pp.53-58を読む。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	17世紀とオランダモード
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ-教育・ICT活用を含む)	スペインから独立を果たし市民の経済活動が活発だったオランダ市民の服飾に注目し、服飾においてもバロック様式の造詣的な特徴への変容がみられることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書pp.59-62を読む。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	17世紀後半のフランスバロック
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ-教育・ICT活用を含む)	ヨーロッパの政治の中心となったフランス宮廷における服飾に注目し、当時の戯曲などを資料にしてその特徴について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書pp.62-76を読む。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	18世紀のフランスロココ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ-教育・ICT活用を含む)	フランス宮廷のロココ様式の特徴を踏まえて、男性のアビ・ア・ラ・フランセーズ、女性のローブ・ア・ラ・フランセーズについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書pp.77-88を読む。
	教室外学習の時間（分）	190分

第7回	授業テーマ	18世紀のマリー・アントワネット
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	マリー・アントワネットの衣裳に注目して、フランス宮廷モードと私的な服装の差異について、また王妃の衣裳費の記録から、宮廷文化について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書pp.88-94を読む。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	フランス革命と19世紀
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フランス革命に伴う社会と服飾の変化との関わりをサン・キュロット及びエンパイアスタイルの事例から理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書pp.94-100を読む。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	19世紀の男性服飾
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今日の男性服飾の基本形となったイギリスの紳士服スタイルについて、ダンディの美意識とともに理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書pp.101-109を読む。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	19世紀の女性服飾
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロマンティックスタイル、クリノリンスタイルといった有閑階級の服飾について、社会と女性の在り方という視点から理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書pp.109-113を読む。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	19世紀のウェディングドレス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	19世紀中ごろのイギリスのヴィクトリア女王のウェディングドレスから広がった白いドレススタイルを取り上げ、19世紀後半の女性の位置づけについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書pp.113-120を読む。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	19世紀の女性とスポーツ服
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	19世紀後半に女性たちに拡大したレジャースポーツとその服飾に着目し、現代的な価値観の誕生について理解する。
	教室外学習(予	予習として教科書pp.124-129を読む。

	習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	19世紀末から20世紀にかけて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アールヌーヴォーから、アールデコへの様式の変化を服飾の特徴から理解する。また、この時期に日本の着物がヨーロッパの服飾デザインとどのような関わりがあったかを理解する。 第一次大戦、第二次大戦を経て、ヨーロッパモードは今日のグローバルスタンダードな服飾となったことを理解し、社会と服飾との関わりについて再考する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書pp136-142（9章 20世紀）を読む。 授業内容を振り返り、試験に向けて復習をする。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	アクセサリーミュージアムの見学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	19世紀末から20世紀までの国内外のコスチュームジュエリーについて、ミュージアムの見学を通して理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習としてアクセサリーミュージアム公式HPを閲覧し、見学内容について理解する。復習として見学レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

オンデマンド授業の配信動画視聴後には毎回確認の課題を提出すること。
見学の日程は受講生の他の授業の履修状況を踏まえて、参加できやすい日程に調整する。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業内容の理解（復習）及び次週の授業内容への理解（予習）をだすので、次週授業の冒頭で課題について解説をする。

評価方法

授業時の小課題：授業内では授業の確認の小課題を行う。
学外の施設を見学する（校外授業）ので、その見学レポートを課す。
試験では服飾について社会との関わりの観点から理解しているかを問う
ルーブリックで評価します。ルーブリックはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業時の小課題	○			
試験	○	○	○	

評価割合

授業時の小課題：40% 見学課題のレポート：10% 試験：50%

使用教科書名(ISBN番号)

ファッションの歴史—西洋服飾史—（朝倉書店）佐々井啓編著
ISBN-10: 4254605986
ISBN-13: 978-4254605983

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】西洋の服飾文化の変容を学び、服飾文化が創り出す生活の質について理解する。
【思考・判断】服飾と社会の動向や人々の志向のかかわりから、服飾文化とは何かを考える。
【関心・意欲・態度】服飾文化の学びから異文化に関心をもつ。

オフィスアワー

月曜2限 1703ゼミ室

学生へのメッセージ

服飾文化は社会のあり方、人々の生き方への志向を表しています。服飾史を通して異文化への視点を広げてほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	これまでアクセサリーメーカーを経営したのちに、自らミュージアムを開館、運営しているアクセサリーミュージアム館長より、見学に際して展示物の説明に加えて、自身の経験等の講話をいただく。
アクティブ・ラーニング	○	ミュージアム見学による体感的な学び。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01058031
講義名	ファッション販売論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	井澤 尚子	指定なし

ナンバリング

G25103C21

授業概要(教育目的)

ファッション商品を販売する現場は、消費者が商品の検討を経て購買を決心する場であると同時に、生産者側には消費者のニーズを商品企画等へつなげるための貴重な実態情報収集の場でもあり、消費者・生産者の両者にとって極めて重要である。本授業では、ファッション販売の基本およびファッション商品知識を身につけ、販売の現場で、消費者個々のニーズをつかみ適切に商品の専門的知識・技術・情報を提供できる人材を育成する事を目指す。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	ファッション販売の基本およびファッション商品知識を理解する。
思考・判断の観点 (K)	ファッション販売現場において消費者個々のニーズを適切に判断できる能力を培う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	ファッション小売店に関する情報を積極的に収集する。希望者は、ファッション販売能力検定試験2・3級を受験することで資格取得を目指す。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス、ファッション販売とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	本授業の概略を説明する。ファッションとは何かを中心に解説

第1回	育・ICT活用を含む)	する。ファッションの意味を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバス内容、授業内容を確認しておく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第2回	授業テーマ	販売知識(1)ファッション商品の流れ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ファッションビジネスとファッション商品、ファッション商品とコーディネート、ファッション商品の流れ、アパレル産業の概観を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として配布資料を読んでおく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第3回	授業テーマ	販売知識(2)消費者は何をもとめているか
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お客様の個性、お客様と顧客についてを学び、お客様＝消費者について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習復習として教科書の8P～15Pを読んでおく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第4回	授業テーマ	ファッション販売技術(1)サービスとは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お客様にとっての店とは、店が提供するサービスについて理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書の15P～17Pを読んでおく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第5回	授業テーマ	ファッション販売技術(2)購買心理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お客様の購買心理について解説する。各自の購買心理も考えることで、理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書の32P～40Pを読んでおく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第6回	授業テーマ	ファッション・マーケティング知識
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	マーケティングの基礎知識を学び、マーケティングの本来の目的を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書の174P～197Pを読んでおく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第7回	授業テーマ	タウンウォッチングについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業内容についての「振り返りテスト」を行う。レポート課題の「タウンウォッチング」についての解説をする。
	教室外学習(予習・	

	復習)の内容	「振り返りテスト」のための復習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	外部講師による特別授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大手アパレル企業に勤務する外部講師を招いて、マーケティングを中心に、実際の企業活動についてお話しをうかがう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	対象企業について、インターネットで調べ、事前学習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	店舗演出(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	店舗の環境づくりについて解説する。購買心理と店舗の陳列などの関連性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書の152P～160Pを読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	店舗演出(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	マーチャンダイズプレゼンテーションについて理解を深める
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書の160P～173Pを読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	ファッション商品知識(1)アイテムの知識
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	販売スタッフに求められる知識としてファッションアイテムについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書の46P～93Pを読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	ファッション商品知識(2)素材の種類と加工
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	販売スタッフに求められる知識として衣服の素材と加工、シルエット、衣服の構成とディテールについて学ぶ。これまでの授業内容についての「振り返りテスト」を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書の94P～123Pを読んでおく。「振り返りテスト」のための復習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	ファッション商品知識(3)商品の品質管理、商品苦情
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	販売スタッフに求められる知識として、衣服のサイズ表示、繊維製品の品質管理について学び、理解を深める。さらに、商品苦情と対応について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書の136P～145Pを読んでおく。 商品苦情について、インターネットなどで調べておく。
	教室外学習の時間	

	（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	販売スタッフの業務、まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お客様が心地よく時間を過ごせる店舗環境づくりのための、販売スタッフの業務について理解を深め、本授業の内容について総括をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書の198P～213Pを読んでおく。定期試験のための振り返りをする。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

※履修者数や授業進度によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業の理解度を確認するために、2回程度「振り返りテスト」を行う。選択方式で出題し、時間内に正解の解説をする。必要に応じて、ファッション販売に関連する「基礎用語」の解説をする。

評価方法

振り返りテストを踏まえた定期試験で授業内容の理解を評価する。レポートでは対象店舗のコンセプト、店舗演出などが適確にレポートされているかを総合的に評価する。
ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○	○	
レポート	○		○	

評価割合

平常点（15%）、定期試験（70%）、課題レポート（15%）

使用教科書名(ISBN番号)

『ファッション販売３』 ファッション販売能力検定試験3級公式テキスト （一財）日本ファッション教育振興協会

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】ファッション販売の基本およびファッション商品知識を理解することで、質の高い衣生活を構築する知識を有することができる。
【思考・判断】ファッション販売における消費者のニーズが理解できることで、衣生活における諸問題を多角的に考えることができる。
【関心・意欲・態度】消費者・生産者両方の立場を理解することで、情報の収集が広範囲になり、社会への関心も深まる。

オフィスアワー

金曜日3時限

学生へのメッセージ

1年次の「衣生活学概論」で学んだ、衣服の材料・管理・サイズ等の知識の定着を目指す。ファッション系授業の関連性も考えながら、学びにつなげてほしい。また、日常生活の中でも、タウンウォッチングなどで観察する目を養ってもらいたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	大手アパレル企業に勤務する外部講師を招いて、実際の企業活動についてお話しをうかがう。
アクティブ・ラーニング	○	タウンウォッチングにおける店頭調査などの調査学習の内容を含む。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01060031
講義名	ファッションカラー演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	井澤　尚子	指定なし

ナンバリング

G25304C12

授業概要(教育目的)

ファッションデザインの基礎、色彩論等をベースに、ファッションコーディネイトにおける色彩表現を学ぶ。カラーオーダーシステムを理解することで、カラーコーディネイトの基礎となる配色技法の修得を目指す。特別授業では、外部講師による「パーソナルカラーの実践」を予定している。日常生活の多様性を考え、実践に即したコーディネイト感覚を磨く。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	色彩体系、色の分類・整理を学ぶことで、色彩と私たちの生活の関連性を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	課題の制作を通して、作業工程を理解し、作業時間と作業の段取りを把握することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	修得した内容や技法を、日常生活のファッションコーディネイトに活用することができる。
技術・表現の観点 (A)	色のしくみ、配色技法を学ぶことで、色を使ったさまざまな作品制作での応用技法を体得できる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンスおよび色の体系とカラーコーディネイト（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗ	本授業の概略を説明する。色とは何か、色の三属性について解説

第1回	ｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	する。カラーコーディネイトに関係する色彩の基礎的内容を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバス内容、授業内容を確認しておく。学習内容に出てくるキーワードについて、書籍、インターネット等で調べまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	70分
第2回	授業テーマ	色の体系とカラーコーディネイト（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	色とは何か、色の三属性、カラーオーダーシステム、トーンの概念について解説する。カラーコーディネイトに関係する色彩の基礎的内容を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習内容に出てくるキーワードについて、書籍、インターネット等で調べまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	70分
第3回	授業テーマ	色の分類と整理：色相環のコラージュ（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	色を体系的に捉え分類・整理するために、マンセルの色相環を題材にコラージュを制作する。この課題では、色紙は使わずに雑誌などから色を探し、切り抜き色相環を作ることで、色の体系と分類を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	マンセル表色系、色相環について、書籍、インターネット等で調べてまとめる。コラージュの素材用の雑誌を数冊準備する。
	教室外学習の時間（分）	70分
第4回	授業テーマ	色の分類と整理：色相環のコラージュ（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	色を体系的に捉え分類・整理するために、マンセルの色相環を題材にコラージュを制作する。この課題では、色紙は使わずに雑誌などから色を探し、切り抜き色相環を作ることで、色の体系と分類を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	マンセル表色系、色相環について、書籍、インターネット等で調べてまとめる。コラージュの素材用の雑誌を数冊準備する。色相環のコラージュを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	70分
第5回	授業テーマ	色のしくみを考える（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	色の要素としての性質（属性）について解説する。色相、明度、彩度、清濁、トーンについて理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	70分
第6回	授業テーマ	色のしくみを考える（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	色の見えるしくみ、色の表し方、色彩調和について解説する。カラーコーディネイトに必要な色のしくみを段階的に理解する。
	教室外学習(予)	配布資料を読んでおく。

	習・復習 の内容	
	教室外学習の時間（分）	70分
第7回	授業テーマ	ファッションイメージとファッションカラー（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	季節のイメージとカラーコーディネイション、ファッションイメージとカラーコーディネイションについて解説する。色彩表現とファッションイメージの関連について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ファッションイメージを表す言葉について、書籍、インターネット等で調べてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	70分
第8回	授業テーマ	ファッションイメージとファッションカラー（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の伝統色名、かさねの色目について解説する。日本の伝統的な配色について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本の伝統色名、かさねの色目について配布資料を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	70分
第9回	授業テーマ	特別授業：パーソナルカラーの実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	カラーコーディネーターの外部講師から、パーソナルカラーについてのレクチャーをしていただく。パーソナルカラー診断の実演。
	教室外学習(予習・復習)の内容	書籍、インターネット等で、パーソナルカラーについて調べておく。事前に配布した資料を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	70分
第10回	授業テーマ	配色技法について（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	色彩調和の観点から、さまざまな配色技法を具体的に解説する。ファッション配色との関連を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	色相環、トーンの概念について、もう一度復習をし、配色技法についての配布資料を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	70分
第11回	授業テーマ	配色技法について（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	色彩調和の観点から、さまざまな配色技法を具体的に解説する。ファッション配色との関連を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	色相環、トーンの概念について、もう一度復習をし、配色技法についての配布資料を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	70分
	授業テーマ	洋服のカラーコーディネイト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	配色技法、パーソナルカラーの講義内容等を参考に、Tシャツのデ

第12回	教育・ICT活用を含む)	ザインを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配色技法、パーソナルカラーの講義内容をもう一度復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	70分
第13回	授業テーマ	和服のカラーコーディネイト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	和服のカラーコーディネイトについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	和服のカラーコーディネイトについての配布資料を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	70分
第14回	授業テーマ	メンズカラーコーディネイトについて。まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	メンズカラーコーディネテトの服装イメージについて考える。これまでの授業の総括をする。レポート課題の作成をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポート課題の作成をして、最終提出日までに提出する。
	教室外学習の時間（分）	70分

学習計画注記

※履修者数や授業進度によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業についての振り返りを行い、必要に応じて解説を行う。作品課題等に対しては、制作の各段階において助言等をそのつど行う。

評価方法

課題評価では、色相環は色相の配分が正しくなされているか、色の選択が正しいか、カラーコーディネイト作品は配色が美しく的確であるか等を総合的に評価する。平常点は、授業参加状況と授業時の作品制作への取り組みを総合的に評価する。最後にレポート課題を課す。

ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題（色相環などの作品）	○	○	○	○
平常の授業参加	○		○	○
レポート課題	○	○	○	

評価割合

作品課題（40%）、平常点（20%）、レポート（40%）

使用教科書名(ISBN番号)

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】生活と社会の関連性の理解を有する。
【思考・判断】生活者として「質の高い衣生活」とは何であるかを多角的に考える力を養うことができる。
【関心・意欲・態度】カラーユニバーサルデザインの考えも理解し、「社会と生活者としてのあり方」を考えることができる。
【技術・表現】日常生活やファッション表現のための配色技法を体得することができる。

オフィスアワー

水曜日2時限

学生へのメッセージ

「色彩に関する学びは楽しい」ということを実感していただきたいと思います。私たちの生活のいたるところに色は存在します。積極的な授業参加を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	カラーコーディネーターの外部講師による実践的な特別授業を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01061031
講義名	ファッションコーディネイト
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	山村　明子	指定なし

ナンバリング

G25305C12

授業概要(教育目的)

服飾デザインのデザインイメージを理解し、ファッションイメージマップの作成を通してファッションスタイリング提案することを目的とする。まず着用者の生活用途とオケージョンの分析、ライフスタイル分析。次にファッションデザインイメージの分類とデザインの要素との関連。ファッション商品のシーズン特性。ファッション雑誌の分析。さらにファッションイメージと個人の資質を学び、総合的にファッション提案を行うことができる能力を身につけることを目的とする。

履修条件

特に定めず

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	ファッションイメージを形成する要素を理解する
思考・判断の観点 (K)	各要素に応じたファッションコーディネイトを選択する判断ができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	ファッションコーディネイトを楽しむ姿勢を身につける
技術・表現の観点 (A)	他者に効果的に伝達できるファッションイメージマップを制作できる

学習計画

	授業テーマ	ファッションイメージマップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰ	

第1回	ﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ファッションビジネスの現場でも活用されるファッションイメージマップについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスを読み、授業概要について理解する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	授業テーマ	生活用途とオケージョンの分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ファッションスタイルを決定する要因となる生活シーンの違いと適切な服装について理解するとともに、日本フォーマルウェア協会が提唱しているフォーマルウェアの基本について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業で指示するフォーマルウェアについての資料を読む。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	ライフスタイルの分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ファッションは着用者のライフスタイルへの志向を反映するものであることを理解し、基本属性（性別、年齢、身分・職業）、消費行動、趣味、衣食住の志向の側面から分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業内容を踏まえ、受講生自身のライフスタイル分析を行う。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	授業テーマ	ファッションイメージマップの制作（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	PCを利用したファッションイメージマップ制作の手法を理解し、20代及び50代女性の生活用途に応じたイメージマップを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業時間内で仕上げられなかった課題を制作する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	ファッションイメージマップの制作（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	受講者自身（または身近な人物を設定）のライフスタイル分析をもとにファッションイメージマップを制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業時間内で仕上げられなかった課題を制作する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	ファッション感性とコーディネイト分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ファッションデザインを構成する要素（色彩、形態、素材、模様、装飾等）を踏まえ、基本的なファッションイメージを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ファッションデザインを構成する要素（色彩、形態、素材、模様、装飾等）を踏まえ、基本的なファッションイメージを理解する。

	教室外学習の時間(分)	50分
第7回	授業テーマ	シーズンサイクル
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本のファッションビジネスにおけるシーズンサイクルについて理解する。シーズンを表す日本の服飾として着物のコーディネイトの特徴を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業で指示をするシーズンサイクルの一覧表を作成する。
	教室外学習の時間(分)	50分
第8回	授業テーマ	毛皮製品の理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本毛皮協会の派遣講師による校内特別授業。各種の毛皮素材を実際に手に取り、それぞれの特性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で配布する毛皮協会作成のパンフレットを読み、個々の毛皮の違いについて理解を深める。
	教室外学習の時間(分)	50分
第9回	授業テーマ	ファッションイメージマップの制作（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	毛皮製品の個々の違いを理解したうえで、ファーアイテムを取り入れた2種類の異なるファッション感性のファッションイメージマップを制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業時間内で仕上げられなかった課題を制作する。
	教室外学習の時間(分)	50分
第10回	授業テーマ	ファッションイメージマップの制作(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	毛皮製品の個々の違いを理解したうえで、ファーアイテムを取り入れた2種類の異なるファッション感性のファッションイメージマップを制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業時間内で仕上げられなかった課題を制作する。
	教室外学習の時間(分)	50分
第11回	授業テーマ	ファッション雑誌の分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ファッション雑誌における、写真レイアウト・文字及び言葉遣い・テーマ設定の違いなどから、各雑誌が提案するファッション感性の違いを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として授業で指示をするファッション雑誌を読む。
	教室外学習の時間(分)	50分
	授業テーマ	ファッションイメージと個人の資質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	ファッションコーディネイトを考える上で、洋服そのものだけではなく、着用者の肌・体型・髪・声といった個人の資質との関わりを理解する。

第12回	む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として各自の個人の資質を項目ごとに書きまとめる。
	教室外学習の時間(分)	50分
第13回	授業テーマ	ファッションイメージマップの制作（5）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の個人の資質を踏まえて、シーズンを設定し、1週間の生活用途別ファッションイメージマップを制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業時間内で仕上げられなかった課題を制作する。
	教室外学習の時間(分)	50分
第14回	授業テーマ	ファッションイメージマップの制作（6）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の個人の資質を踏まえて、シーズンを設定し、1週間の生活用途別ファッションイメージマップを制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業時間内で仕上げられなかった課題を制作する。
	教室外学習の時間(分)	50分

学習計画注記

日本毛皮協会による校内特別授業は担当者の都合により、日程を調整することがある。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業の振り返りテストについては、次の授業時に解説をする。
提出された課題に対する評価、改善点等は授業時間内に個々に口頭で指示をする

評価方法

授業への参加状況：授業内では内容に関して受講生に質問をするので、積極的に発言することが望ましい。また、適宜小課題を課す。
イメージマップ課題：3回の制作課題を通して、授業内容の理解、課題制作への意欲、制作内容に関する表現の工夫等を評価する。特に3回の課題について提出ごとに注意点等を指摘するので、前回までの注意事項等を踏まえて制作内容を工夫しているかを重視する。
ルーブリックを用いた評価を行います。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により学生に提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
イメージマップ課題	○	○	○	○
授業時の小課題	○	○	○	

評価割合

授業時の小課題（15%）イメージマップ課題（85%）

使用教科書名(ISBN番号)

使用しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「質の高い生活」の一要素である、ファッション感性について理解する。
【思考・判断】ファッション感性を豊かにし、適切なファッションの選択ができる。
【関心・意欲・態度】ファッション感性に関する今日の情報に関心をもつ。
【技術・表現】PCのPPTソフトを使用し、効果的なヴィジュアルを作成する力を養う。

オフィスアワー

月曜日2限　1703ゼミ室

学生へのメッセージ

ファッションデザインへの視点を広げる授業です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	校内特別授業の講師は国内で毛皮製品製造に携わるとともに、日本毛皮協会理事を務めている。毛皮製品に実際に触れてその特性を学ぶとともに、今日の毛皮製品の市場動向及び消費者の志向等の現状を理解する。
アクティブ・ラーニング	○	制作した課題を口頭発表し、感性の相互理解を深める。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	課題（ファッションイメージマップ）の制作のための情報を収集や選択し、PPTでイメージマップを表現するために活用する。

講義コード	G01062031
講義名	衣と社会
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	井澤 尚子	指定なし

ナンバリング

G35104C21

授業概要(教育目的)

多くの人々が既製服を着用しそれぞれが好きなコーディネートを楽しんでいる現在、ファッション商品には流行、社会規範、年齢、消費者のライフスタイル、経済状態や社会状況、個々人の嗜好など多くの要素を満足させるような企画がなされている。それらを踏まえこの授業では、消費の二極化や情報の発信・受信、還元型社会など、衣服と社会のつながりから見える衣生活の課題を多角的に捉え、具体的に課題の検討を試みる。さらに、授業後半では、企業連携授業に取り組み、トータルデザインとして、実際店舗または施設のオーナメントの企画・設計・制作を行う。衣生活の多様性を考えるとともに、実践に即した学びから衣生活と社会の繋がりを考究する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	衣生活に必要な知識を理解するとともに、市場調査や店舗・施設調査の方法を体験することで、衣生活と社会の関連性を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	作業工程を理解し、作業時間と作業の段取りを把握することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	ファッションと社会との関連を考えるうえで必要な情報を、広範囲に積極的に収集できる。さらに、修得した内容や技法を、さまざまな材料を用いたデザイン制作に活用することができる。
技術・表現の観点 (A)	ミシンの縫製技術、手縫い技法を学ぶことで、さまざまな作品制作での応用技法を体得できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス、特別授業（企業レクチャー）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の概略を説明する。松崎照明客員教授より企業連携授業の目的、対象企業について、対象商品についてなどのレクチャーをしていただく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスを読み、授業概要について理解する。インターネット等で企業連携とは何かを調べておく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	婦人服原型について（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	婦人服パターンの基本となる婦人服原型の説明をする。パターン作成について説明し、婦人服原型の理解を深める。婦人服原型を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	原型作成のプリントを読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	婦人服原型製図(2)デザインへの応用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ダーツとは何か。ダーツを移動することで、さまざまなデザイン展開ができることを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デザイン展開のプリントを読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	アパレル企業と社会（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在のアパレル企業について、ニュースの記事を題材に考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布した、授業関連資料を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	アパレル企業と社会（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在のアパレル企業について、ニュースの記事を題材に考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布した、授業関連資料を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	社会の変化と衣生活（1）子ども服の洋装化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会の変化に伴う、衣生活への影響を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布した、授業関連資料を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	社会の変化と衣生活（2）高齢化社会

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会の変化に伴う、衣生活への影響を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布した、授業関連資料を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	企画と設計計画（1）企画対象本社および店舗・施設見学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	企業連携授業の対象企業と対象店舗または施設の調査。 ・対象企業の概要を知る ・対象店舗または施設の街の雰囲気、店舗または施設の外観と内装、利用者などの市場調査を実施する ・店舗の概要を知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターネットで対象企業、対象店舗または施設について調べておく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	企画と設計計画（2）デザイン画の作成、中間発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	企画・設計した作品のデザイン画を作成し、中間発表を行う。発表会での意見、アドバイスを参考に企画の見直しをする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	制作に向けて、企画の見直しを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	パターン作成、素材の説明と材料の購入について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	必要に応じて作品のパターン作成について解説をする。材料の素材、用尺、価格などについて説明をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品制作に必要な材料を各自購入する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	制作（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	店舗イメージ、商品イメージ、街の雰囲気などを考慮に入れ、作品をデザインし制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	企画・設計した作品の制作を進める。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	制作（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	店舗イメージ、商品イメージ、街の雰囲気などを考慮に入れ、作品をデザインし制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	企画・設計した作品の制作を進める。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	仕上げ、プレゼンテーション準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第13回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作品を完成し、発表用資料を作成する。発表用資料の提出。
	教室外学習(予習・復習)の内容	企業連携授業の作品を完成し、発表用資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	企業連携授業作品のプレゼンテーションおよび講評
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	企画・設計・制作した作品のデザインコンセプト、配色計画などを中心にプレゼンテーションを行い、企業の方から講評をいただく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品への講評を参考に、レポートを完成させ、作品とともに最終提出日までに提出する。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

※履修者数や授業進度によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業についての振り返りを行い、必要に応じて解説を行う。作品課題等に対しては、企画・制作・完成の各段階において助言等をそのつど行う。

評価方法

企業連携作品は、企業調査や市場調査の結果が作品に反映されているか、素材の特徴が作品に活かされているか等も含めて総合的に評価する。プレゼンテーションでは、プレゼンテーションマナー、作品のアピール等が適確になされているかを総合的にみる。平常点は、授業参加状況と授業時の課題への取り組みを総合的に評価する。授業の最後に作品・レポート課題の提出を求める。
ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
作品課題	○	○	○	○
平常の授業参加	○		○	○
レポート課題	○	○	○	
プレゼンテーション			○	

評価割合

作品課題（40%）、平常点（15%）、レポート（30%）プレゼンテーション（15%）

使用教科書名(ISBN番号)

使用しない。必要に応じてプリント資料を配布する。

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】生活と社会の関連性の理解を有する。
【思考・判断】「質の高い衣生活」とは何であるかを、生活と社会の関連性を理解したうえで、生活者の立場から考えることができる。
【関心・意欲・態度】衣生活と社会の課題について積極的に資料を収集し、企業連携課題への

取り組みでは自主的に作業を進めることができる。
【技術・表現】衣生活における諸問題の解決策を生活者の視点で提案することができる。

オフィスアワー

水曜日2時限

学生へのメッセージ

これまで学んだファッション系授業の内容も関連付けて考えて欲しい。日ごろから生活、ファッションを扱った新聞記事などにも目を配ることが大切です。
企業連携では、担当教員以外に企業の方からも直接アドバイスを伺うことのできる授業です。
積極的な授業参加を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	客員教授、企業の方による講義、講評も含めた企業連携授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	店舗・施設調査などの調査学習の内容を含む。 課題の成果を講評会で発表する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	企業、店舗・施設、街に関する調査にインターネットを活用する。

講義コード	G01066031
講義名	建築設計論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	柳沢 伸也	指定なし

ナンバリング

G24305C21

授業概要(教育目的)

本授業では、住宅設計に関する基本的な考え方や、環境・構造・文化的背景に基づいた設計の手法を学びます。実際の設計図面の読み方から始まり、著名な建築家の設計手法、環境制御、構法の多様性、そして日本の建築文化や保存・再生の視点までを幅広く扱います。最終的には、これからの住宅設計に求められるユニバーサルデザインや高齢者住宅の課題についても考察します。
本授業の特徴は、地域環境や社会的背景に基づいた建築設計理論と、構造の違いによる建築空間について学ぶことです。建築家の実例をもとに設計思想を学ぶと同時に、図面読解を通じて図面の読解力を高めます。また、環境や構法の視点から住宅設計を多角的に捉え、日本の伝統建築や現代の住宅事情との関連性を探ります。
授業を通して、建築設計を多面的に理解し、自らの設計に活かせる視点や手法を身につけることが目標です。建築設計に関心のある学生、設計の基本をより深く学びたい学生にとって、実践的かつ刺激的な講義となるでしょう。

履修条件

なし（校外学習なし）。設計製図演習IVの履修者は必ず履修してください。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	建築設計に関する基本的な考え方や、環境･構造･文化的背景に基づいた設計の手法を学びます。実際の設計図面の読み方から始まり、著名な建築家の設計手法、環境制御、構法の多様性、そしえ日本の建築文化や保存再生の基礎的知識を習得します。
思考・判断の観点(K)	平面図や断面図を見て、実際の空間の大きさや環境（採光・通風など）を理解できるようにします。また、バリアフリーやユニバーサルデザインなどの知識を持ち、高齢者や障害者の立場に立って、快適で安全な空間かどうか判断できるようにします。

関心・意欲・態度の観点 (V)	授業での事例紹介をきっかけとして、自ら積極的に関連文献を調査したり、実際の建物を見学したり知見を増やすことを推奨します。また、手を動かすことによって、インテリアを構成するエレメントの寸法や素材、機能やその成り立ちを習得します。
技術・表現の観点 (A)	著名な建築家の設計手法を学ぶことによって、建物のファサードや外観のデザインの仕方を習得します。また、興味を持ったテーマについて深く調査し、自分の言葉で考察できるようにします。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス：スケッチのすすめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	描くことを通して、モノの仕組みや寸法を理解し、インテリアや建築に興味を持つ
	教室外学習(予習・復習)の内容	スケッチ1枚
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	**授業テーマ**	建築図面の読解その1：ル･コルヴュジエのサヴォア邸
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	名建築事例を通して、配置計画や動線計画等のプランニングを学ぶ。また、近代建築5原則と構造計画を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業テーマに関する学習
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	建築図面の読解その２：吉村順三の軽井沢の山荘
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヒューマンスケールな空間構成や設備計画、開口部の開け方等について学習する。また、周辺環境に即したアプローチや屋根形状等を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業テーマに関する学習
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	環境の計画1. 風のコントロール
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	空気や熱の特性を理解し、住宅設計において通風・換気の計画ができるように学習する。また、結露やコールドドラフトの原因と対応策を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業テーマに関する学習
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	環境の計画2. 光のコントロール
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	太陽光の特性を理解し、日射対策や太陽光利用を学習する。また、ガラスや断熱材などの素材の特性を理解して、自然の力で快適な住まいを作る仕組みを学ぶ。
	教室外学習(予	

	習・復習)の内容	授業テーマに関する学習
	教室外学習の時間(分)	190分
第6回	授業テーマ	構法と建築1. 組積造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	南イタリアのトゥルッリ住宅を事例として、地域に根差した合理的な構法である組積造を学ぶ。また、プーリア州の都市空間から、近代建築に失われた豊かなコミュニティ環境や共用空間について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業テーマに関する学習
	教室外学習の時間(分)	190分
第7回	授業テーマ	構法と建築2. 鉄骨造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉄骨造の歴史や特性を俯瞰し、鉄骨建築の長所と短所を理解する。また、実例を通して鉄骨造建築の建設過程を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業テーマに関する学習
	教室外学習の時間(分)	190分
第8回	授業テーマ	構法と建築4. コンクリートブロック造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シンプルな形態でありながら、豊かな内部空間と彫りの深いファサードを獲得しているルイス・カーンの住宅について、その設計手法を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業テーマに関する学習
	教室外学習の時間(分)	190分
第9回	授業テーマ	構法と建築4. 木造 在来工法とプレハブ工法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木造の在来工法とプレハブ工法について説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業テーマに関する学習
	教室外学習の時間(分)	190分
第10回	授業テーマ	構法と建築5. 紙管やコンテナ利用など 茂の紙の家他
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	構法と建築の総まとめとして、これまで扱わなかった混構造や紙構造など、特殊な構法の事例を紹介し、これからの住宅の可能性を展望する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業テーマに関する学習
	教室外学習の時間(分)	190分
	授業テーマ	日本の建築文化1. 機能と形態、対比・対立概念
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗ	

第11回	ｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	舟屋やうだつ、男坂・女坂、表と裏など、長い年月を通して形成されてきた我が国特有の建築形態や空間概念について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業テーマに関する学習
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	日本の建築文化2. くらしと形態、風土と形
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	くらしと形態の関係や風土と形態の関係について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業テーマに関する学習
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	保存と再生
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地球環境への配慮から社会的ストックの建築を大切に使い続けることの重要性を学ぶ。また、保存再生事例を通して、建築の再生技術や長寿命に使い続けるための手法を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業テーマに関する学習
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	これからの建築 ユニバーサルデザイン、高齢者住宅
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	わが国の高齢者住宅の現状と課題を理解し、欧米の事例を通して、価値観が多様化し、家の選択肢も多様化した今日の高齢者住宅のあり方を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業テーマに関する学習
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

それぞれの項目の学習量に違いがあり、１回で区切らず調整することがある。

学生へのフィードバック方法

個々のレポートに対するフィードバック：授業にて解説する。

評価方法

レポート70%、平常点30%
・ルーブリックを使用して評価方法を示す。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○		
平常点			○	

評価割合

レポート70%、平常点30%

使用教科書名(ISBN番号)

教科書の使用予定無し。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】建築設計を通して「質の高い生活」とは何かを理解し、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】建築を通して生活の諸問題を自ら発見し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、建築空間を構成するエレンメントを理解することができる。
【技術・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を送るための空間づくりができるようになる。

オフィスアワー

なし

学生へのメッセージ

快適で気持ちの良い住宅や商業空間には、その背景に設計者の細やかな心配りやデザイン力と、その空間環境を実現するための設備や構造技術が隠されています。本授業では、そうした空間を計画する際に必要な基礎知識を学習し、将来、皆さんが建築設計に関連した仕事に関わったときに役立つ知識を習得します。積極的に取り組めば取り組むほど広がっていく建築設計の世界について、興味深いその一端を紹介できればと考えています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	豊富な実務経験をいかした授業：日本で約27年、海外（イタリア）で約3年間、住宅から大規模商業施設までさまざまな建築物を数多く設計してきた経験を生かし、質の高い空間デザインについて指導していきます。また、学生の理解度に合わせたきめ細かい指導を心がけます。
アクティブ・ラーニング	○	授業は教員からの一方的な講義に限らず、学生の積極的な参加を促すよう、Q&A形式の宿題や、レポート作成などを交えて授業を行っていきたいと考えています。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01067031
講義名	建築計画
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	青柳 由佳	指定なし

ナンバリング

G24304C21

授業概要(教育目的)

建築計画の基礎について広く学ぶ。人間の生活を支える空間が、どのように成り立っているかを理解し、それを計画するために必要な知識を習得する。具体的には寸法と単位空間、各室の機能と必要空間、空間の繋がり方、住まい計画、施設計画、これからの社会に必要な建築計画の考え方について学習する。

履修条件

なし。ただし、設計製図演習IIIの履修者は必ず履修すること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	建築計画に必要な知識についてその概要を学び、そののちに続く建築設計論、設計製図演習を通して自ら 計画する技術を修得する。
思考・判断の観点 (K)	建築計画を行う上での具体的な手順を理解し、設計に繋げることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	住宅計画、施設計画に必要な基礎知識を習得し、具体的な建物の設計に繋げることができる。
技術・表現の観点 (A)	人間とモノとの関係の中で生じるさまざまな課題、これからの社会に必要な課題を理解し、総合的にまとめ表現する技術が修得できる。

学習計画

	授業テーマ	建築計画とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	

第1回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築計画とその成り立ちについて学ぶ。（課題１）
	教室外学習(予習・復習)の内容	興味がある建築空間についてレポートを作成する
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	寸法を計画する：基本寸法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体の寸法と基準について学び、スケール感覚を養う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自室の実測と身体寸法を測ってみる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	寸法を計画する：単位空間と寸法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住宅の単位空間と必要なスペースを知る。（課題２）
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅のあらゆる寸法を測ってみる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	構法計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な構造とその長所と短所を知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	身の回りの建物の構造を調査する
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	ゾーニングと動線
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゾーニングについて理解し、個室空間とのつながりを考える。（課題3）
	教室外学習(予習・復習)の内容	身の回りの建物のゾーニングについて調査する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	住まいの計画：各室計画（主要居室）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住まいの単位空間（リビング・ダイニング・個室）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅のリビング・ダイニングを調査する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	住まいの計画：各室計画（水廻空間）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住まいの水回り空間（浴室・キッチン・トイレ）について理解する。（課題4，5）
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅の水回り空間を調査する。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	施設の計画： 集合住宅
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	集合住宅の歴史について理解する。集合住宅の事例を通

第8回	含む)	して、その計画について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	集合住宅の事例調査。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	施設の計画：文化・教育施設
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文化・教育施設の事例を通してその計画を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図書館や学校建築の事例調査。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	施設の計画：事務所・コミュニティ施設
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事務所、コミュニティ施設の事例を通してその計画を学ぶ。（課題6：事例調査）
	教室外学習(予習・復習)の内容	事務所やコミュニティ施設の事例調査。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	長寿命な建築と持続可能な建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	長寿命な建築や持続可能な建築とはどのようなものかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	長寿命建築の事例調査。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	風土と建築、景観
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	風土に適した建築とはどのようなものかを理解する。また景観とはどのような概念かを理解する（課題7，8：事例調査）
	教室外学習(予習・復習)の内容	風土に適した建築の事例調査。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	環境と形態
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	環境に適した形態とはどのようなものかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	環境に配慮した建築の事例調査。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	建築計画から設計へ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築計画で学んだ知識を実際の設計へつなげる方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前半は授業を行い後半に試験を行います。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

それぞれの項目の学習量に違いがあり、１回で区切らずに調整することがある。

学生へのフィードバック方法

「授業にて全体講評」を行う

評価方法

試験60%、授業内の課題提出40%
・授業のはじめにルーブリックにて評価方法を示す。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
試験60%	○	○		○
授業内の課題40%	○		○	

評価割合

試験60%、授業内の課題提出40%

使用教科書名(ISBN番号)

特になし

参考図書

コンパクト建築設計資料集成（日本建築学会）丸善出版

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】建築計画を通して「質の高い生活」とは何かを理解し、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】建築を通して生活の諸問題を自ら発見し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、建築を理解することができる。
【技術・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を送るための空間づくりができるようになる。

オフィスアワー

木曜日昼休み（1807室）

学生へのメッセージ

これから住宅設計、建築設計を学ぼうとする者にとって、空間として建物をとらえようとすることはとても大切です。本講座では、建築を構成する要素、組み合わせと事例を通してその計画を学び、建築を計画をする上での基礎的な知識を身につけます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	建築設計の実務経験をもとに、設計製図演習IIIとの関連を考え、カリキュラムを構成する。
アクティブ・ラーニング	○	一番身近な空間である自宅との関連を常に考えながら、指導します。授業内の課題レポートの作成やノートの作成により、各自設計のための資料作りとなるようにする。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01070031
講義名	江戸東京の文化
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	内田 宗一	指定なし

ナンバリング

G32106C21

授業概要(教育目的)

江戸は徳川幕府の首府として栄え、明治時代以降は東京と名を変え、日本の首都として機能してきた都市である。本科目は、江戸および東京について、江戸時代から明治時代までを主たる対象として、その文化をさまざまな角度から分析することを通じて、文化的な特色や都市としての性格を理解することをめざすものである。文化的資料の読解や見学を通じて、江戸および東京の文化を理解し、さらにその上でそれを現代の私たちの暮らしにどのように生かすことができるのかを考える姿勢を養うことをめざす。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	江戸・東京の歴史や文化に関する基本的事項について理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	江戸・東京の歴史や文化から何を学び取って、これからの我々のくらしに生かしていくべきかを考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内活動（作業、資料講読、質疑応答など）に積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	自分の意見を、適切な日本語表現でわかりやすく伝えることができる。

学習計画

	授業テーマ	文学資料から読み解く江戸東京の文化(1)出版の歴史
	学習内容(ア	

第1回	ｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本における印刷・出版の歴史について、その展開の概要を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	大学入学以前の経験も含め、日本史学（近世史、近代史）や日本文学（近世文学、近代文学）などの、江戸・東京に関する学習を振り返り、必要に応じて復習および知識の再確認をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第2回	授業テーマ	文学資料から読み解く江戸東京の文化(2)近世の出版文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	江戸の出版文化の特徴や、印刷技法の種類について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第3回	授業テーマ	文学資料から読み解く江戸東京の文化(3)和本のしくみ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近世の和本の構造、形態、種類について理解する。近世の袋綴じ本について、現物資料に触れることを通じてその特徴を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第4回	授業テーマ	文学資料から読み解く江戸東京の文化(4)本屋
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近世における出版プロセスを題材にした草双紙作品を講読し、江戸の本づくりの工程について理解する。江戸の出版文化の特徴や、印刷技法の種類について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。

	教室外学習の時間（分）	190
第5回	**授業テーマ**	文学資料から読み解く江戸東京の文化(5)食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近世における食文化の東西差を題材にした草双紙作品を講読し、江戸の食文化の特徴について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第6回	**授業テーマ**	文学資料から読み解く江戸東京の文化(6)蕎麦・うどん
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近世における蕎麦ならびにうどんの種類や食され方について、文献資料や視聴覚教材を通じて学び、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第7回	**授業テーマ**	文学資料から読み解く江戸東京の文化(7)水
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近世の江戸における飲料水確保をめぐる諸問題について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	文学資料から読み解く江戸東京の文化(8)水道
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	近世の文芸作品における水道の描かれ方の検討を通じて、当時の人々が抱いていた水道に対する意識・イメージを理解する。

	育・ICT活用を含む)	
第8回	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間(分)	190
第9回	授業テーマ	江戸東京の言語文化(1) 江戸語の形成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近世後期江戸語の形成プロセスについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間(分)	190
第10回	授業テーマ	江戸東京の言語文化(2) 江戸語の特色
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近世後期江戸語の特色について、その概略を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間(分)	190
第11回	授業テーマ	江戸東京の言語文化(3) 江戸語の発音
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近世後期江戸語について、音韻面を中心にその特徴を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習	

	の時間（分）	190
第12回	**授業テーマ**	江戸東京の言語文化(4) 江戸語から東京語へ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	明治時代の日本語の特色について、近世後期江戸語との対比を中心に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第13回	**授業テーマ**	江戸東京の言語文化(5) 標準語の成立
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	明治時代以降における標準語の成立過程を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第14回	**授業テーマ**	校外授業 東京都水道歴史館
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	東京都水道歴史館を見学し、江戸・東京の水道の歴史や生活文化について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業において意見・感想等を記入して提出してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。

評価方法

・定期試験は100点満点で出題する。ノート、参考資料等の持ち込みは不可とする。記述式問題を中心に選択肢式・穴埋め式等を適宜併用する。授業で扱った内容を十分に理解し、知識として定着しているかを確認することを目的とする。
・見学レポートは、以下のような観点から評価を行う。
①課題の意図を適切に理解できている。
②適切な方法で調査を行うことができている。
③結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
④結果や考察の内容を、学術論文に適した文章で表現することができている。
・平常点は、授業内活動（作業、資料講読、質疑応答など）への取り組み等によって評価する。
・成績評価はルーブリックにもとづいて行う。ルーブリックは授業内で配付して提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		○
見学レポート	○	○		○
平常点			○	

評価割合

定期試験60%、見学レポート20%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし。必要に応じて資料を配付する。

参考図書

なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、生活文化および言語文化の側面から、現代生活の諸問題を理解することができる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題のうち、生活文化および言語文化に関わる課題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題のうち、生活文化および言語文化に関わる課題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】生活文化および言語文化の側面から、次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー

金曜3限 1703ゼミ室（後期、千代田三番町キャンパス）

学生へのメッセージ

・出欠は、毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。
・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。
・校外授業の詳細（日時・集合場所など）については、見学先との調整等を行った上で、授業内で連絡を行う。校外授業には土曜日・日曜日などをあてる可能性もあるので、あらかじめ了解しておくこと。校外授業に際しては、見学先施設や一般来館者の方々に迷惑がかからないような態度で臨むこと。
・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンス資料を配付して説明する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	体験学習等の教育内容を含む。

情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01073031
講義名	日本語コミュニケーション
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	内田 宗一	指定なし

ナンバリング

G22108C21

授業概要(教育目的)

コミュニケーションは、人が他者と関わりながら生きてゆく上で必須のものであり、社会や文化を形作ってゆく基盤となるものである。コミュニケーションには様々な形があり、ことばを媒体とする言語コミュニケーションと、しぐさや表情、外見などといった要素による非言語コミュニケーションとに、大きく分けて捉えることができる。この授業では、このうちの言語コミュニケーションを主たる対象として、日本語によるコミュニケーションをめぐる諸問題を考えてゆく。また、それを通じて受講生各自のコミュニケーション能力を向上させることもめざす。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日本語によるコミュニケーションに関する基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	場面に応じた適切なコミュニケーションの取り方を判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内活動（作業、練習問題、資料講読、質疑応答など）に積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	表現活動のさまざまな具体的な場に応じて適切な日本語表現を選択し、相手とコミュニケーションを取ることができる。

学習計画

	授業テーマ	コミュニケーションとは

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コミュニケーションの概念の基本について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	大学入学以前の経験も含め、これまでの日本語に関する学習を振り返り、必要に応じて復習および知識の再確認をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第2回	授業テーマ	言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コミュニケーションの種類と、それぞれの特徴について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第3回	授業テーマ	コミュニケーションと文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コミュニケーションと文化の関係について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第4回	授業テーマ	敬語のしくみ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	敬語の概念ならびに日本語の敬語のしくみについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなど

	容	して自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第5回	**授業テーマ**	敬語の分類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	敬語の分類にはさまざまな立場があることを知るとともに、その中でももっとも広く普及している三分法の考え方について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第6回	**授業テーマ**	誤りやすい敬語
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	間違えやすい敬語表現の具体的な形式について、各種調査の結果を参照しつつ、練習問題を通じて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第7回	**授業テーマ**	敬語使用の実態と意識
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文化庁による「国語に関する世論調査」の分析を通じて、敬語使用の実態と意識のありようを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	敬語の変化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗ	文化庁による「国語に関する世論調査」の結果から読み解ける、敬語使

	ｼｰ教育・ICT活用を含む)	用の経年変化の傾向について理解する。
第8回	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	断り表現のしくみ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本語の断り表現のしくみについて理解する。
第9回	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	断り表現の種類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究を参照しつつ、断り表現の型をどのように分類できるかを考え、理解する。
第10回	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	断り表現の使い分け
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	断り表現の型は一般的にどのように使い分けられているのかを、話し手と聞き手との関係性に着目して考え、理解する。
第11回	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。

	教室外学習の時間（分）	190
第12回	**授業テーマ**	感謝表現のしくみ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本語の感謝表現のしくみや、他言語と比較した場合の特徴について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第13回	**授業テーマ**	感謝表現の使い分け
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本語の感謝表現において、「ありがとう」と「すみません」はどのように使い分けられているのかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第14回	**授業テーマ**	感謝と謝罪の関係性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本語において「すみません」が謝罪表現にも感謝表現にも使用されることの背景の要因について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業において意見・感想等を記入して提出してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対す

るフィードバックのコメントを行う。

評価方法

・定期試験は50点満点で出題する。ノート、参考資料等の持ち込みは不可とする。記述式問題を中心に選択肢式・穴埋め式等を適宜併用する。授業で扱った内容を十分に理解し、知識として定着しているか、また、その知識にもとづいて適切な日本語表現を判断し表現することができているかを確認することを目的とする。
・レポートは、小規模な言語調査の実践を課題として課す。レポートの内容は、以下のような観点から評価を行う。
①課題の意図を適切に理解できている。
②適切な方法で調査を行うことができている。
③結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
④結果や考察の内容を、学術論文に適した文章で表現することができている。
・平常点は、授業内活動（作業、練習問題、資料講読、質疑応答など）への取り組み、意見・感想等の提出状況などによって評価する。
・成績評価はルーブリックにもとづいて行う。ルーブリックは授業内で配付して提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		○
レポート	○	○		○
平常点			○	

評価割合

定期試験50%、レポート30%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし。必要に応じて資料を配付する。

参考図書

なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、言語文化の側面から、現代生活の諸問題を理解することができる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題のうち、言語文化に関わる課題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題のうち、言語文化に関わる課題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】日本語を適切に用いて、生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる。

オフィスアワー

金曜3限 1703ゼミ室（後期、千代田三番町キャンパス）

学生へのメッセージ

・出欠は、毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。
・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。
・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンス資料を配付して説明する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	レポート・論文の書き方に関する教育内容を含む。

ICT活用		

講義コード	G01074031
講義名	ことばと生活
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	内田 宗一	指定なし

ナンバリング

G22107C21

授業概要(教育目的)

言語は、それを使う人々の生活とともにある。言語を使うことなしに生活することは困難であるという点において、言語は生活の基盤のひとつであると言える。その一方で、生活の中のさまざまな要素が言語に影響を与え、個々の表現や言語行動の上に反映されているような事例もさまざま見出される。この授業では、日本語を主たる対象として、ことばと生活の相互のつながりについて考えていく。言語を切り口として生活文化を考える視点を身につけさせるとともに、受講生自身の言語表現力を高めさせることもめざしたい。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	ことばと生活の相互のつながりについて理解し、理論的・体系的に説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	ことばと生活の相互のつながりのありようや歴史的変化について考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	ことばと生活の相互のつながりについて、自ら積極的に情報を収集して関心を深めることができる。
技術・表現の観点 (A)	自分の意見を、適切な日本語表現でわかりやすく伝えることができる。

学習計画

	授業テーマ	若者ことばとは
	学習内容(ｱｸ	

第1回	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	若者ことばの定義、捉え方に関わる諸問題について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	大学入学以前の経験も含め、これまでの日本語に関する学習を振り返り、必要に応じて復習および知識の再確認をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第2回	授業テーマ	若者ことばの特色
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	若者ことばの特色について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の配付資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業の動画やノートを読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第3回	授業テーマ	若者ことばの分析の観点
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	若者ことばを分析する観点について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の配付資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業の動画やノートを読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第4回	授業テーマ	ぼかし表現とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	若者ことばの特色のひとつとされるぼかし表現に注目し、その基本について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の配付資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業の動画やノートを読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。

	教室外学習の時間（分）	190
第5回	**授業テーマ**	ぼかし表現の使い分け
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	若者ことばとして使用されるぼかし表現と、従来から日本語に存在していたぼかし表現との違いについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の配付資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業の動画やノートを読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第6回	**授業テーマ**	ぼかし表現使用の背景
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	若者がぼかし表現を好んで使用する背景の要因について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の配付資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業の動画やノートを読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第7回	**授業テーマ**	日本語と性差
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	性別による日本語表現の特色の違いについて、その一般的な傾向を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の配付資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業の動画やノートを読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	文末表現および自称詞と性差
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	文末表現および自称詞に見られる性別による日本語表現の特色の違いを理解する。

	育・ICT活用を含む)	
第8回	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の配付資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業の動画やノートを読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第9回	授業テーマ	女性語の歴史1（近世以前）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本における女性語の歴史的な展開（近世以前）について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の配付資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業の動画やノートを読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第10回	授業テーマ	女性語の歴史2（明治以後）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本における女性語の歴史的な展開（明治以後）について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の配付資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業の動画やノートを読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第11回	授業テーマ	日本語と生活文化1 ことばと文化の関係性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ことばと文化の間には密接な結びつきが認められるという点について、具体的な事例を通じて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の配付資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業の動画やノートを読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習	

	の時間（分）	190
第12回	**授業テーマ**	日本語と生活文化2 日本語の歴史的変化と生活文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活文化の変化が日本語に影響を与えることがあるという点について、具体的な事例を通じて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の配付資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業の動画やノートを読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第13回	**授業テーマ**	日本語と生活文化3 食物を表す方言
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食物を表す日本各地の方言について分析することを通じて、日本語と生活文化の関連について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の配付資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業の動画やノートを読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第14回	**授業テーマ**	日本語と生活文化4 道具を表す方言
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	道具を表す日本各地の方言について分析することを通じて、日本語と生活文化の関連について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の配付資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業の動画やノートを読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業において、授業の理解度の確認や次回以降の授業に向けた予習を目的とした課題を課す。それらの課題についての解説や寄せられた質問に対する回答を、次回の授業の中で行

う。

評価方法

・授業はオンデマンド型動画教材を配信する形で実施する。
・定期試験は対面方式で教室にて実施する。ノート、参考書、配付資料、電子機器などの持ち込みは不可とする。記述式問題を中心に選択肢式・穴埋め式等を適宜併用する。授業で扱った内容を十分に理解し、知識として定着しているかを確認することを目的とする。
・授業ごとの課題は、毎回定められた期限までにGoogle Classroomへ提出する。以下のような観点から評価を行う。
①課題の意図を適切に理解できている。
②記述内容に、十分な妥当性が認められる。
③自分の意見を正確にわかりやすく表現することができている。
・成績評価はルーブリックにもとづいて行う。ルーブリックは授業内で配信して提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		○
授業ごとの課題	○	○	○	○

評価割合

定期試験60%、授業ごとの課題40%

使用教科書名(ISBN番号)

なし。必要に応じて資料を配信する。

参考図書

なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、生活文化および言語文化の側面から、現代生活の諸問題を理解することができる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題のうち、生活文化および言語文化に関わる課題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題のうち、生活文化および言語文化に関わる課題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】生活文化および言語文化の側面から、次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー

火曜5限 1703ゼミ室（前期、千代田三番町キャンパス）

学生へのメッセージ

・授業ごとの課題が期限までに提出されなかった場合は授業に参加しなかったものと見なし、欠席として処理する。
・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンス資料を配信して説明する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01076031
講義名	生活文化論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	加藤 晴美	指定なし

ナンバリング

G12103C21

授業概要(教育目的)

多様な自然環境を内包する日本では、各地の風土に根ざしたさまざまな生活文化が形成されてきた。同時に、現在を生きるわれわれが「当たり前」としている生活文化は普遍的なものではなく、地域や時代ごとの状況、人びとが抱く価値観の影響を受け、常に変化し続けていることに留意すべきである。
本講義では、地域における生活文化の変容を理解することによって、人間の暮らしと環境の相互作用を考え、現代社会における生活文化を相対的にとらえなおしていく。

なお、この授業は「オンデマンド」と「対面」の混合方式の授業です。詳細なスケジュールは学期初めに配布します。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日本各地にそれぞれの風土によって培われた多様な生活文化が存在し、時代によって変化してくことを理解できる。
思考・判断の観点 (K)	生活文化の多様性とその背景を、人びとの価値観や社会状況の変化、技術の進展といった視点から考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	身近な生活文化について知的好奇心を抱き、その背景にある事象について関心をもつことができる。
技術・表現の観点 (A)	生活文化と地域、社会の関わりについて論理的に記述することができる。

学習計画

生活文化論

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス―生活文化と価値観―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活文化が地域や時代によって大きく変化していることを、地理学や歴史学、民俗学的な視点から学ぶ。また、それが家政学の視点からどのような意味をもつのかについて考える。対面授業の回では、ワークシートの作成および資料の配布のため、PCを使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスを読んでおくこと。授業後、授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間(分)	190分
第2回	**授業テーマ**	環境と生業①―「ポツンと一軒家」からみる山村の生活文化―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	TV 番組「ポツンと一軒家」が人気を集めた背景には、山奥で暮らすことが「珍しい」「不便」なもの、という意識が存在するのではないだろうか。現代人の感覚では一見「不便」と思われる山の暮らしはいかに成立し、かつなぜそれが「不便」と思われるようになったのか、考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にTV 番組「ポツンと一軒家」の番組HPに目を通しておくこと。授業後、授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間(分)	190分
第3回	**授業テーマ**	環境と生業②―里山の生活文化―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近年、里山が地域の原風景として注目を集めている。里山は地域で暮らす人びとの生活の場であり、その環境は人びとの生活の影響によって大きく変化してきた。ここでは里山で行われてきた生業と環境変化を学び、人びとの生活と里山の環境との相互関係を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にスタジオジブリの「となりのトトロ」「平成狸合戦ぽんぽこ」について、インターネットでストーリーを確認しておくこと。授業後、授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間(分)	190分
	授業テーマ	環境と生業③―災害に対する対応と生活文化―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	地震・火山の噴火・水害など、日本では災害が頻発し、人びとはこれらの脅威にさらされながら暮らしてきた。ここでは主に水害が頻発する地域の暮らしを取り上げ、人びとが水害にどのように備え、あるいは水害被害か

第4回	育・ICT活用を含む)	らの復興を試みてきたのか、災害とそれに関わる生活文化を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	新聞などで地震や水害に関する記事に目を通しておくこと。授業後、授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間(分)	190分
第5回	授業テーマ	食文化①―外来野菜と漬け物の生活文化―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	漬け物は日本の食文化に欠かせないものであり、その代表的な材料の一つに白菜が挙げられる。ここでは白菜がどのように日本に導入され、代表的な漬け菜として全国に普及していったのかを白菜の生産・育採種・流通・消費などの視点から学び、外来野菜導入と食文化の画一化について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アブラナ科の「伝統野菜」にはどのようなものがあるか、インターネットや文献で調べておくこと。授業後、授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間(分)	190分
第6回	授業テーマ	食文化②―ミカンの習俗と嗜好変化―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在好まれているミカンは、可食部が多く種のない温州ミカンであるが、明治初期までは種が多く小型の紀州ミカン（小蜜柑）が一般的であった。明治期以降、日本人はなぜ温州ミカンを選択したのか。その背景には、縁起をかつぐ贈答品としてのミカンの習俗や、新暦への移行、外需の増加と減少などがあった。ここではミカンに対する価値観変化と生活文化を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	現在流通しているミカンの品種名を調べておくこと。授業後、授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間(分)	190分
第7回	授業テーマ	食文化③―産業化・都市化と「食べる」ことの近代―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近代都市に生きた庶民の食を知るには家庭料理だけでなく、都市労働問題を背景に現れた工場での共同炊事や一膳めし屋での外食、公営食堂など、共同空間での「食」を理解する必要がある。また、大量生産・大量加工のはじまりなどの問題から、近代における食文化の変容を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に文献を配布するので目を通しておくこと。授業後、授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間	190分

	（分）	
第8回	**授業テーマ**	旅と生活文化①―生活文化へのまなざしとその変化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代では、世界遺産白川郷のように「伝統的」な景観や生活文化を活用する観光地が多い。しかし、白川郷もかつては野蛮な生活文化をもつ村として差別的な視線を向けられた。ここでは昭和初期において白川郷の生活文化が「再発見」されていく過程と、戦後の観光開発における「ふるさと」というイメージの消費や、生活文化の地域資源化について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「日本のふるさと」「日本の原風景」といわれてどのような場所をイメージするか、考えておく。授業後、授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	旅と生活文化②―高度経済成長期における旅の変容―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	旅のありようは高度経済成長期以降に変容し、女性同士、あるいは女性の一人旅が普及して「アンノン族」ブームを生み出し、ディスカバージャパンキャンペーンなどによって旧来の名所以外の場所にも観光資源としての価値が見いだされていった。ここでは、古い町並みが観光資源となった妻籠宿や、避暑地清里の事例から、旅の質的変化による新たな観光地の創出について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に資料（高度経済成長期の観光ガイドブック）を配布するので、目を通しておくこと。授業後、授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	非日常の空間①―祭礼と地域社会―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	祭礼は地域のにぎわいを示し、同時にその文化や歴史を反映した生活文化でもある。ここでは、人びとの「楽しみ」の部分である「付け祭り」とその変化に着目し、地域住民による「まちづくり」、協業の場として祭礼を捉え、新たな地域社会と生活文化の構築を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の地元の「お祭り」の歴史について調べておくこと。授業後、授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	非日常の空間②―海外文化の受容とにぎわいの形成―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	軍港都市として発達した神奈川県横須賀には、オカにあがる船員を対象にした歓楽街が形成された。第二次世界大戦後の横須賀では、駐留した米軍兵士の影響から刺繍をほどこしたスカジャンや米国風の飲食店などが流行し、しだいにアメリカ的な商品を日本人向けに提供するようになる。ここでは、地域における海外文化の受容とそれを活かしたまちづくりを考え

第11回	用を含む)	る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	高校までの日本史の教科書やインターネットで、第二次世界大戦後（特に昭和20年代）の日本の歴史を確認しておくこと。授業後、授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	イエと家族①―近代産婆の登場と出産の変化―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「近代産婆」は20世紀はじめに登場した、西洋医学に基づく教育を受け資格を取得した助産職である。近代産婆による出産の変化と施設分娩への移行を追い、近代医学と衛生観念、そしてそれを学ぶ女性が、地域の出産をどう変えたのかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に資料（近代産婆のライフヒストリー）を配布するので事前に目を通しておくこと。授業後、授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	イエと家族②―織物生産地にみる家族協業―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	結城紬生産地域を事例に、家族が機織りという女性労働を軸として、それ以外の生産労働や家事・育児などの複合的な労働を、年齢・性別を問わず柔軟に分業していく様子を論じる。これにより、家族の協業による生活文化がいかにしてイエとその家業を持続させていたのかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に資料（織物に携わった女性のライフヒストリー）を配布するのでに目を通しておくこと。授業後、授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近代における生活文化の変化について総括する。また、レポート作成の準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業の配布資料に目を通しておくこと。授業後、レポートの作成を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

シラバスの内容は、授業の進行状況によって変更の可能性がある。

学生へのフィードバック方法

ワークシートでは、感想・意見・質問を受け付ける。質問等については、次回授業の冒頭で回答・補足説明を行う。レポートはコメントをつけて返却する。

評価方法

・毎回、授業内容にかかわる課題を提示し、その内容をワークシートにまとめる。このシートの提出をもって出席と認める。その記入内容により、関心・意欲・態度とともに授業内容の理解に関して評価を行う。
・期末レポートの評価はルーブリックに基づいて行う。ルーブリックは授業時に配付、もしくはclassroomで提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
コメントシート	○	○	○	
レポート	○	○	○	○

評価割合

平常点（ワークシートによる）30%、レポート70%で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

講義の際、必要に応じて資料を配布する。

参考図書

小口千明・清水克志編『生活文化の地理学』古今書院、2019年。
ISBN：9784772242110

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】生活文化がいかに変化するのか、社会や環境変化を関連付けて理解できる。
【思考・判断】生活文化の変容のしくみを、現代社会における生活の向上のためにいかに活すか、生活者の視点から考えることができる。
【関心・意欲・態度】身近な生活文化に関心を抱き、その背景にある事象に知的好奇心を抱くことができる。
【技能・表現】生活文化とその変容を示すため、効果的な表現をすることができる。

オフィスアワー

金曜２限

学生へのメッセージ

・生活文化とは、さまざまな環境・時代のなかで、「より良い暮らし」を求める人びとの営みの総体であると考えます。また、より良い暮らしとは経済的な合理性だけではなく、さまざまな尺度をもつものであることが重要です。過去の生活文化とその変容のしくみを知ることによって自らのものとは異なる価値観や暮らしへの理解と共感を深め、「生活の向上」を考える土台にしていきたいと思います。

・受講にあたっては、配布された資料、指示された文献などには必ず目を通すようにして下さい。
・自分の身近な事例について、積極的に探ってみて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング	○	学生同士でのディスカッションを行う
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01080031
講義名	伝統文化の継承と発信
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	加藤 晴美	指定なし

ナンバリング

G32105C21

授業概要(教育目的)

現代社会において「伝統」的な生活文化とされるもののなかには、近代以降にさまざまな意図によって創り上げられたものが多く含まれている。この授業では、日本における「伝統」なるものの形成過程や、それが現代社会においてどのように活用されているかについて学ぶことを目的とする。また、こうした授業の内容を踏まえ、期末にはグループでの発表を実施する。

※東京国立博物館での学外実習を行う。日程は後期の授業開始後に決定して連絡するので注意すること。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	「伝統」とされる文化が歴史的・社会的にどのように創り上げられてきたのか、その過程を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	「伝統」が商業や地域資源という文脈のなかでどのように活用されてきたのか、その意義を見出すことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会的な観点から意欲的に課題を取り押さえ、かつそれを横断的に他分野と結びつけることができる。
技術・表現の観点 (A)	自分の意見や考えを他者に向けて論理的に表現することができる。

学習計画

伝統文化の継承と活用・発信

第1回	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンスを実施する。また、我われが「伝統」と考えているものはどういうものなのかについて検討する
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習としてシラバスを読んでおく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第2回	授業テーマ	習俗の「伝統」１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	七五三の儀礼がどのように全国に普及し、画一化されていったのか、考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として自分や身近な人びとが経験した七五三の行事についてまとめておく。授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間(分)	190分
第3回	授業テーマ	習俗の「伝統」２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	初詣の習慣は、いつ、どのように日本人の年中行事の一つになったのか、考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として自分や身近な人びとが経験した初詣の行事についてまとめておく。授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる
	教室外学習の時間(分)	190分
第4回	授業テーマ	習俗の「伝統」３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の伝統的な正月料理とされるおせち料理の伝統について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として自分や身近な人びとが経験した正月料理についてまとめておく。授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる
	教室外学習の時間(分)	190分
第5回	授業テーマ	伝統を「見せる」こと
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	伝統的な美術品・工芸品、文化財を展示する「博物館」がどのように成立したのかを考える。 東京国立博物館見学のため、その概要を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間(分)	190分
	授業テーマ	伝統を「見せる」こと２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含)	東京国立博物館の見学を行う。そのため、この回は休日に学外で実施する。

第6回	む	
	教室外学習(予習・復習)の内容	博物館における展示内容などについてのレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第7回	授業テーマ	町並みと「伝統」 1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「小江戸」と呼ばれる埼玉県川越を事例に、蔵造りの町並みの形成について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事例地域（川越）について、歴史や文化、蔵の町を売りにした観光地としての現状などの情報を集めておく。授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる
	教室外学習の時間(分)	190分
第8回	授業テーマ	町並みと「伝統」 2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	遊廓や花街の地域資源化について、地域をめぐる語りに注目しながら学ぶ。京都の祇園や金沢の「ひがし茶屋町」を取り上げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事例地域（京都祇園・金沢ひがし茶屋町）について、現地でどのような観光が展開されているか、情報を集めておく。授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間(分)	190分
第9回	授業テーマ	町並みと「伝統」 3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	沖縄県竹富島を事例に、「沖縄の原風景」ともいわれる赤瓦屋根の風景の形成について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事例地域の情報を集めておく。授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間(分)	190分
第10回	授業テーマ	グループワーク1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	最終回での発表を目指し、受講者でグループを結成し、グループワークを行う。各グループで町並みづくりに関する事例について論文を読み、内容を検討する。課題作成の際にPCを使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各グループで課題に取り組む。
	教室外学習の時間(分)	200分
第11回	授業テーマ	郷土と「伝統」 1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各地の風土と結びついた郷土の芸術品として評価される陶器や織物について、民芸運動との関連から考える。ここでは沖縄県のミンサー織について取り上げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事例となる織物の情報を集めておく。授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間	190分

	（分）	
第12回	**授業テーマ**	郷土と「伝統」２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各地の風土と結びついた郷土の芸術品として評価される陶器や織物について、民芸運動との関連から考える。ここでは栃木県の益子焼や大分県の小鹿田焼を取り上げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事例となる焼き物の情報を集めておく。授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	グループワーク２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとに、「伝統」の継承や活用についてのテーマを設定し、発表に向けて調査を行う。調査・スライド作成などのためPCを使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献調査を行い、発表の準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループワーク２の内容を踏まえ、発表を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各グループで発表の準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

授業の進行状況により、変更する場合がある。

学生へのフィードバック方法

提出された質問や感想などは、次週の授業冒頭で回答する。また、各自の発表について講評を行う。

評価方法

・毎回、授業内で内容に関する課題を提示し、学生同士でディスカッションを行い、ワークシートを作成する。ワークシートの記入内容により、関心・意欲・態度とともに授業内容の理解に関して評価を行う。
・評価はルーブリックに基づいて行う。ルーブリックは授業時に配付、もしくはclassroomで提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	**知識・理解（K）**	**思考・判断（K）**	**関心・意欲・態度（V）**	**技術・表現（A）**
コメントシート	○		○	
レポート	○	○	○	○
課題・発表	○	○	○	○

評価割合

平常点（授業内で行う課題やワークシートなど）40%、グループワーク（2回）による課題・発表60%で評価する

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない。

参考図書

授業時に適宜示す。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「質の高い生活」を支える伝統とは何かを理解する。
【思考・判断】伝統文化やその変容とは何か、よりよい生活を目指す人間社会について考察することができる。
【関心・意欲・態度】伝統文化の保全や活用をめぐる現代的な問題について関心をもつ。
【技能・表現】伝統文化やその成立過程について、論理的に説明し、発信することができる。

オフィスアワー

金曜2限

学生へのメッセージ

「伝統」というと何か無条件に「ずっと昔から変わらないもの」、「伝えていくべき良いもの」と考えがちですが、それは事実でしょうか。地域社会や家庭にとっても大切な文化とされる「伝統」について、さまざまな視点から見直し、「伝統」を生活にどのように活かし、伝えていくのか、考えを深めていきたいと思います。
グループワークでは、論文を読む作業をしたり、文献調査を踏まえたスライドの作成などを行います。主体的に課題に取り組んでください。
受講にあたっては、配布された資料、指示された文献などには必ず目を通すようにして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	発表形式の授業において、他者の意見・考えを聞くことにより自身の問題発見となるよう、示唆を行う。
情報リテラシー教育	○	図書館の利活用法について習熟するとともに、発表形式の授業においては著作権使用に関する注意を喚起する。
ICT活用		

講義コード	G01081031
講義名	生活文化演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	加藤 晴美	指定なし

ナンバリング

G22104C12

授業概要(教育目的)

風景はその土地の風土や歴史、生業や信仰などによって培われた生活文化と強く結びついたものである。我われが何気なく風景をみるとき、例えば「ごちゃごちゃしている」、「昔懐かしい風景」、「あの町の風景と似ている」などと感じることがあるが、そういった感覚は何に由来するのだろうか。この授業では、風景から地域の生活文化を読み取る方法を学び、実際に地域を歩いてその観察も行う。また、生活文化を反映した風景や町並みをどのように地域活性化や観光に活用するかについても考える。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	風景や景観とは何か、またそれがどのように地域特有の生活文化に関連するかを理解する。
思考・判断の観点 (K)	文献調査や現地見学を通して生活文化と地域の関係や、それらの地域おこしへの活用方法を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	地域に根差した生活文化とその活用方法について知的好奇心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	地図をはじめとする資料を適切に扱うとともに、自分の考えを図として的確に表現することができる。

学習計画

生活文化演習

	授業テーマ	風景から暮らしを読む１

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	ガイダンスを実施する。また、風景とは何か、人びとの暮らしや自然を反映した風景の読み取り方、風景の観光への活用について、アニメ「アルプスの少女ハイジ」を題材に考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習としてシラバスを読んでおく。ハイジについて、登場人物などを簡単に調べておく。
	教室外学習の時間（分）	45
第2回	**授業テーマ**	風景から暮らしを読む２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本各地のさまざまな風景を提示し、それが地域の風土や生活文化といかに関わるかを考える。主に「ムラ」（農山漁村）の風景と暮らしを理解し、それらの地域活性化・観光への活用方法について議論する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	世界遺産である飛騨白川郷について、地域の特徴を調べておく。授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	**授業テーマ**	風景から暮らしを読む３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本各地のさまざまな風景を提示し、それが地域の風土や生活文化といかに関わるかを考える。主に「マチ」の風景と暮らしを理解し、それらの地域活性化・観光への活用方法について議論する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「蔵の町」として知られる埼玉県川越について地域の特徴を調べておく。授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	**授業テーマ**	風景を読む方法１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	風景を読むための基本的な方法について、地図の読み方を中心に学ぶ。また、さまざまな地域の観光マップを比較し、効果的なマップの作成方法について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	地図記号などについて復習しておく
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	**授業テーマ**	風景を読む方法２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	過去の風景について、江戸時代の浮世絵や、近代の古い写真や絵葉書などから学ぶ。インターネットでの資料閲覧などのためPCを使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターネットで東京都立図書館の「TOKYOアーカイブ」にアクセスし、江戸時代の絵図や近代の絵葉書を閲覧しておく。

	教室外学習の時間（分）	45
第6回	**授業テーマ**	三番町キャンパス周辺地域の歴史と地理①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	三番町キャンパス周辺地域はかつてどのような場所であり、その後どのように変化してきたのか。身近な場所から風景の歴史を考える。学外実習後に作成する「観光マップ」のテーマを決め、三番町キャンパス周辺の地理や歴史について文献等で調査を行う。調査のためPCを使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献やインターネットで市ヶ谷や番町の歴史について調べておく。
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	**授業テーマ**	周辺地域の歴史と地理②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	三番町キャンパス周辺の地理や歴史について発表のためのスライドを作成する。 スライド作成にPCを使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自のテーマに従って文献調査を行い、発表準備を進める
	教室外学習の時間（分）	45
第8回	**授業テーマ**	三番町キャンパス周辺を歩く３（学外授業）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実際に三番町キャンパス周辺地域で現地見学を行い、風景を観察する。また、各自のテーマに沿ってアピールするポイントを探す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	現地見学についての感想、観察結果をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	**授業テーマ**	観光マップの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フィールドワークの成果を活かし、三番町周辺の観光マップを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	観光マップの構想を考えておく。
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	**授業テーマ**	東京築地・佃島・月島を歩く１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	関東大震災後の復興の風景として築地本願寺・場外市場周辺を、江戸時代の面影を残す風景として佃島を、もんじゃ焼きを活用した地域活性化の取り組みとして月島を取り上げる。築地・佃島・月島の地理や歴史について文献等で調査を行う。調査のためPCを使用する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	文献・インターネットで築地・佃島・月島の地理や歴史を調べておく。
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	**授業テーマ**	東京築地・佃島・月島を歩く２（学外授業）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実際に築地・佃島・月島で現地見学（築地本願寺や場外市場、もんじゃストリートなど）を行い、風景を観察する。また、各自のテーマに沿ってポイントを探す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	現地見学についての感想、観察結果をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	**授業テーマ**	東京築地・佃島・月島を歩く３（学外授業）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第11回、第12回を1回の学外授業として実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	現地見学についての感想、観察結果をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	発表準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループで地域を選択し、その場所の風景について歴史・地理・生活文化などの視点から調査を行う。調査、スライド作成のためPCを使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループで文献調査などを行う。
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	**授業テーマ**	発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域の風景と生活文化のかかわりについて発表し、議論を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを完成させておく。
	教室外学習の時間（分）	45

学習計画注記

学外での見学を2回実施する。シラバスの内容は、授業の進行状況によって変更の可能性があり

ます。

学生へのフィードバック方法

提出された質問や感想などにもとづき、次週の授業冒頭で回答または補足説明を行う。課題や発表については詳細な講評を行う。

評価方法

・平常点には、授業内で行う議論などへの参加状況、授業内で実施する読図などの課題を含む。授業内容への理解度のほか、関心・意欲・態度について評価する。課題や発表は、関心・意欲とともに授業内容を踏まえて適切な調査を実施しているか、わかりやすく他者に伝える表現がなされているかについて評価する。
・評価はルーブリックに基づいて行う。ルーブリックは授業時に配付、もしくはclassroomで提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	
発表	○	○	○	○

評価割合

平常点（議論への参加状況・授業内課題など）40%、発表（マップなどの作成を含む）60%で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない。

参考図書

授業時に随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】風景のなかに過去の人びとの生活がいかに反映されているか、理解することができる。
【思考・判断】生活文化と関連した風景をいかに活用するか、地域に提案することができる。
【関心・意欲・態度】ありふれた風景やそれと関連する風景に対する知的好奇心を持つことができる。
【技能・表現】より心豊かな生活を創造するために効果的な表現をすることができる。

オフィスアワー

金曜２限

学生へのメッセージ

普段我われが何気なく見ている身近な風景には、日本の生活文化を考えるためのヒントが詰まっています。日常の「当たり前」をもう一歩踏み込んで観察したとき、何を観ることができるのか、注意深く考える視点や方法を学んでください。

受講にあたっては、配布された資料、指示された文献などには必ず目を通すようにして下さい。
授業で学んだ知識をもとに、積極的に「街歩き」をしてみて下さい。

【学外授業について】
築地での学外授業は土日に実施します。日程は授業初回に提示するので、参加できるよう調整して下さい。参加にあたっては積極的な態度で臨むとともに、地域の人びとや通行者の迷惑にならないよう、十分に注意すること。

教育等の取組み状況

	該当	概要

	有無	
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学外でのフィールドワークを実施する。
情報リテラシー教育	○	図書館での文献調査法について習熟するとともに、効果的なプレゼンテーションができるようになる。
ICT活用		

講義コード	G01082031
講義名	食品学実験
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	竹中 真紀子	指定なし

ナンバリング

G23104C13

授業概要(教育目的)

本科目では食品の性質をより詳しく知るために、食品の加工における成分や物性の変化について実験を通して理解を深めることを目的とする。具体的には、牛乳の加工品であるバターやカッテージチーズ、砂糖の結晶化を利用した砂糖衣（菓子）などを実際に作ることによって、それぞれの製造原理や食品成分の反応についての知識や加工・調理の技術を習得することを目指す。また、それぞれの加工・調理による歩留まりの計算、計測データの扱い方やレポートの書き方についても解説する。

履修条件

「食品学概論」の単位を修得していることが望ましい。定員を超えた場合は、「食品学概論」の単位修得者を優先する。
実験材料費として、2500円を徴収する予定。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	授業で扱う各種食品の加工における製造原理、加工操作、適切な歩留まりを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	グループごとの実験において、当日のテーマを理解した上で他のメンバーと協力して積極的に作業できる。
技術・表現の観点 (A)	実験で実施したことを、当日のポイントを踏まえ科学レポートの書き方に沿って適切にまとめることができる。

学習計画

食品学実験

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業全体の概要を把握し、レポート作成に関する基本事項について学ぶ。また、次週からの実験に備えて実験室の清掃を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、レポート作成の基本事項について復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	果実の加工（いちごジャムの瓶詰）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	いちごジャムの製造および瓶詰作業の実践を通して、ジャムの製造原理（ペクチンのゼリー化）、いちごジャムの加工と瓶詰めの手順、糖度計による糖度の測定方法、いちごジャムの適切な歩留まり、瓶詰めによる殺菌の意義について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	スイートピクルス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	スイートピクルスの製造原理（野菜の原形質分離による食感や風味の変化）、加工手順について理解する。また、計量器具の種類や精度についても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	乳の加工
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バターとカッテージチーズの加工を通して、これらの加工原理を中心に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	小麦粉生地の性質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小麦粉の種類（薄力粉、中力粉、強力粉）ならびに、薄力粉および強力粉から作られる生地の性質について学ぶ。
	教室外学習(予	

	習・復習)の内容	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	うどんの製造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前時の「小麦粉生地の性質」の学びを活かして、うどんを製造する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、本時の内容についてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	甘酒の製造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	甘酒の製造原理（でんぷんの糖化）、甘酒の原料である麹について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	砂糖の調理性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	砂糖の多様な調理性について学ぶ。砂糖溶液の加熱中の色や物性の変化、砂糖を使った食品としてタフィー、ピーナッツの砂糖衣、フォンダンをとりあげ、砂糖の加熱温度による状態の変化について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	マヨネーズの製造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	マヨネーズの製造を通して、その製造原理（エマルションの形成）を中心に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	ヨーグルトの加工
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	ヨーグルトを製造し、その加工原理（乳の発酵）について学ぶ。

第10回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、対面参加の受講生は本時の実験についてレポートを作成し、遠隔参加の受講生は課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	魚肉の加工（かまぼこの製造）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	かまぼこの製造を通して、その製造原理（魚肉たんぱく質のゲル化）を中心に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	豆腐の製造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	豆腐の製造を通して、その製造原理（大豆たんぱく質の凝固）を中心に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	トマトケチャップの製造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	トマトケチャップの製造を通して、野菜の濃縮について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	食肉の加工（ソーセージの製造）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ソーセージの製造を通して、畜肉のたんぱく質の結着性および保水性の向上について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学生へのフィードバック方法

実験時に気付いたことはその場でお伝えします。また毎回レポート・課題を提出していただき、適宜コメント等を書き込んで次の授業で返すとともに、全体に向けて改善を要する点などをお伝えします。

評価方法

平常点、レポート・試験により評価します。レポート内容が基準に達していない場合は再提出となります。
平常点やレポートの評価基準についてはGoogle Classroomのルーブリックを参照のこと。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実験への参加態度			○	
レポート	○			○
試験	○			

評価割合

平常点（30%）、レポート・課題（40%）、試験（30%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
【技術・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー

前期：月曜日4時限目

学生へのメッセージ

「食品学概論」や「食品学」の知識が生きてきます。また、対面で参加する学生は、食品を扱うので必ず指定の衛生的な身支度をして、積極的に実習・実験に参加してください。レポートをまとめる際、自分で疑問点や関連する事項について調べるなど、自主的に学ぶ姿勢を大切にしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品関係の研究所において食品の調理・加工や分析に関わる研究を行ってきた。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01083031
講義名	食品衛生学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	竹中 真紀子	指定なし

ナンバリング

G23105C21

授業概要(教育目的)

本科目では、我が国で施行されている「食品安全基本法」に基づき、健全な食環境整備・食品の表示・食品の衛生管理という3つの視点から、食品の安全管理について概説する。また、昨今食に関する事件が多く報道されるようになったことを受けて、事件の背景にある日本における食の安全システムや行政の問題について検討する。生産者・加工業者・流通業者・消費者とさまざまな食に携わる立場を考慮しつつ、消費者としてそれら食のリスクにどう立ち向かうかについても考えていく。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	食生活におけるリスクとそれを低減するために生産者や消費者がとるべき行動、また食の安全を確保するための法律や制度について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	食の衛生に関心を持ち、微生物的な食品の汚染と環境汚染物質による食品の汚染の両面から食生活について考察することができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

食品衛生学

	授業テーマ	食品の安全性

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	過去20年ほどの間にBSEの発症や食品表示偽装事件の多発などにより食品の安全性についての信頼性が揺らいだ背景を理解し、日本における安全行政の仕組みについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第1章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	授業前100分、授業後100分
第2回	**授業テーマ**	食品の劣化に関わる微生物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の劣化に関わる腐敗性微生物について学ぶ。その基礎知識として、自然界における微生物の種類と分布、微生物の増殖に必要な諸条件や簡易な細菌検査法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第2章-1を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	授業前100分、授業後100分
第3回	**授業テーマ**	食品の腐敗・変敗とその防止
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	微生物による食品の腐敗・変敗の定義とこれらに関わる微生物の種類、腐敗・変敗の判定法、腐敗・変敗の防止方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第2章-2を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	授業前100分、授業後100分
第4回	**授業テーマ**	食中毒
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食中毒の種類とその特徴、原因微生物およびウイルスの性質、それぞれの微生物・ウイルスと原因食品との関係を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第3章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	授業前100分、授業後100分
第5回	**授業テーマ**	食品の安全性の確保
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の種類（食肉製品、生鮮魚介類、水産加工食品、牛乳・乳製品、鶏卵、冷凍食品、惣菜製品）ごとに、原料、製造工程、流通過程での安全性確保のポイントを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第4章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	授業前100分、授業後100分
第6回	**授業テーマ**	家庭における食品の安全保持
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭において食品を衛生的に取り扱うために必要な調理器具の洗浄法、洗剤・漂白剤の効果や使用方法、冷凍庫・冷蔵庫の適切な使い方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第5章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。

	教室外学習の時間(分)	授業前100分、授業後100分
第7回	**授業テーマ**	環境汚染と食品
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人々の生活において健康への影響が問題となっている環境中の有害物質や放射性物質による食品汚染などについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第6章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	授業前100分、授業後100分
第8回	**授業テーマ**	中間まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第1回～第7回までの内容を振り返り、理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、理解があいまいだったところを中心に、よく復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	授業前100分、授業後100分
第9回	**授業テーマ**	器具および容器包装の衛生
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品と直接接触する器具や包装容器について、食品を汚染する可能性のある物質の種類や、これらの規制を中心に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第7章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	授業前100分、授業後100分
第10回	**授業テーマ**	水の衛生
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	飲用、また食品の製造や食品の洗浄に用いられる水の安全性確保のための水の浄化・殺菌方法やその規制について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第8章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	授業前100分、授業後100分
第11回	**授業テーマ**	食品の安全流通と表示（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の安全流通のための、食品の表示に関する法律、食品添加物の種類や使用の実際、輸入食品の安全確保対策について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第9章-1,2,3を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	授業前100分、授業後100分
	授業テーマ	食品の安全流通と表示（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	食品の安全流通のための、遺伝子組換え食品の概要、食物アレルギーへの対策、食品に含まれる発がん物質の概要とその規制について学ぶ。

第12回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第9章-4,5,6を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	授業前100分、授業後100分
第13回	授業テーマ	食品の安全管理（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の安全行政の在り方について、リスクアナリシスを基本とし、リスク管理、リスク評価、リスクコミュニケーションの３つの要素が関わり合っていることを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第10章-1を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	授業前100分、授業後100分
第14回	授業テーマ	食品の安全管理（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の安全管理のために、食品関連事業者の間で普及しつつあるHACCPやそれらを効果的に運用するためのマネジメントシステムと組み合わせた「食品安全マネジメントシステム」について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第10章-2,3を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	授業前100分、授業後100分

学習計画注記

授業の進み具合により、変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

授業の終わりに、設定したテーマについてコメントシート等に記入していただき、次時にフィードバックすることを数回実施する予定です。

評価方法

定期試験：80%、課題：20%で評価します。
評価基準については、Google Classroomに掲載するルーブリックを確認してください。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○			
課題	○		○	

評価割合

定期試験：80%、課題：20%。

使用教科書名(ISBN番号)

食品の安全性（日本フードスペシャリスト協会編、建帛社）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。

オフィスアワー

前期：月曜日昼休み時間～3限目

学生へのメッセージ

微生物や化学物質に関する学びが中心となりますので、生物や化学の基礎知識が必要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01084031
講義名	レシピの比較文化史
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

G23203C21

授業概要(教育目的)

本科目では、料理のレシピに関する事柄を空間軸と時間軸で比較する。前半はコメ、ムギ、大豆などの代表的な食材の調理、加工法を中心に地域の比較をする。地域特有の調理法の背景となる自然環境や、食のタブー、食事作法なども学ぶ。後半は、日本人が摂取してきた食材や、調理法、献立様式などを中心に、食生活史をたどる。これらを通して民族、地域、時代、宗教などにより異なる食文化の多様性を理解し、レシピに違いが生じる要因を考える。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	世界および日本の様々なレシピに関する事柄の比較を通して、食文化の共通性と多様性を知る。
思考・判断の観点 (K)	どのような変遷をたどり現代日本の我々の食事に至っているかを把握し、将来の食生活について考える力を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方の説明，レシピを構成する事柄について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	コメのレシピ比較
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘ	

第2回	ﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	世界におけるコメの食べ方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	ムギのレシピ比較
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	世界におけるムギの食べ方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	麺のレシピ比較
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	世界の様々な麺料理について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	食事作法と食のタブー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	世界における多様な食事作法と食のタブーについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	だしのレシピ比較
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	世界における多様なだしについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	豆のレシピ比較
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主に大豆の利用について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	前半のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	①これまでの配布資料をもとに、重要事項をまとめる。②小テストの結果を受けて、復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	①150分②120分
第9回	授業テーマ	日本の時代変遷によるレシピ比較①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	縄文時代、弥生時代の食生活について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	日本の時代変遷によるレシピ比較②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リ	

第10回	ﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	古墳時代、平安時代の食生活について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	日本の時代変遷によるレシピ比較③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鎌倉時代、室町時代、安土桃山時代の食生活について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	授業テーマ	日本の時代変遷によるレシピ比較④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	江戸時代の食生活について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	日本の時代変遷によるレシピ比較⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	明治時代～平成時代の食生活について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	授業テーマ	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの補足およびまとめを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業内でポイントとした箇所を中心に復習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	270分

学習計画注記

授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

・課題は原則GoogleClassromから提出すること。知識を問う課題に対しては、正解例をGoogleClassromに投稿するか、授業内で解説をする。
・質問がある場合は、1808研究室まで訪問するか、メール（yukito@kasei-gakuin.ac.jp）またはGoogleClassromを通して行うこと。

評価方法

・課題は、授業の要点およびそれに対する考察、自身で調べた事柄とする。評価はルーブリックにもとづいて行う。ルーブリックは授業内かグーグルクラスルームで提示をする。
・課題と期末テストで評価を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○		
期末テスト	○			

評価割合

課題（小テストを含む）50%，期末テスト50%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

授業内で紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人々の食の多様性を食生活の地域性や時代の変遷を通して学び、現代生活の諸問題に対する理解につなげることができる。
【思考・判断】食生活史の理解にもとづき、将来の食生活についての考察や問題解決につながる考察をすることができる。

オフィスアワー

水曜5限 1808研究室

学生へのメッセージ

食に関する日々のニュースをウェブサイトや新聞、雑誌などから意識的に収集して、視野を広げていって下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01085031
講義名	食文化論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	伊藤 有紀	指定なし

ナンバリング

G33201C21

授業概要(教育目的)

食文化は長い時間をかけて形成されたものであり、また、常に変化を続けている。私たちの食が過去からどのような過程を経て現在に至ったのか、またその背景を知ることで、現代の食の把握だけでなく将来を予測することもできる。本科目では、前半は世界の食文化について、中盤以降は食生活史を中心に日本の食文化の概要を学び、学びを通して食の多様性を理解し、現代の食の問題解決につながる思考を養う。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	西洋、アジア、西アジア諸国の食文化の特徴を理解できる。日本の原始・古代・中世・近世・近代・近現代の食生活における主要な特徴を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	上記の知識・理解にもとづき、現在の世界の食を取り巻く課題について考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス、食文化の定義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	授業概要の説明、食文化の定義、食文化を学

第1回	育・ICT活用を含む)	ぶ意義を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	西洋の食文化①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	西洋料理全体の特徴について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	西洋の食文化②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	西洋各国の食文化の概要を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	西洋の食文化③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	西洋の料理様式や食事マナーについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	アジアの食文化①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中国の食文化の概要を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	アジアの食文化②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国・東南アジアの食文化の概要を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	アジアの食文化③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	南アジア・西アジアの食文化の概要を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	和食の文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	和食文化を支える骨格や特徴を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	日本の食生活史①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	縄文時代・弥生時代・古墳～平安時代の食生

第9回	育・ICT活用を含む)	活について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	日本の食生活史②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鎌倉・室町・安土桃山時代の食生活について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	まとめの課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	日本の食生活史③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	江戸時代の食生活について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	日本の食生活史④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	明治・大正～昭和時代初期の食生活について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	日本の食生活史⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	太平洋戦争～高度成長期の食生活について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	食文化のこれから
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの学習を踏まえて食文化のこれからについて考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

毎回授業中または授業の最後に課題を出す。

学生へのフィードバック方法

・GoogleClassrom内で解答例を示すか、授業内で解説する。
・質問がある場合は、1808研究室まで訪問するか、メール（yukito@kasei-gakuin.ac.jp）またはGoogleClassromを通して行うこと。

評価方法

・課題と期末試験で評価する。
・ルーブリックは、授業内あるいはGoogleClassroom上に提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○		○
期末試験	○	○		○

評価割合

課題（40%）期末試験（60%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし。毎回資料を配布する。

参考図書

・江原絢子編著「日本食の文化」（2021），アイ・ケイコーポレーション
・小川聖子・野林厚志編著「現代食文化論」，建帛社
上記以外のものは授業中に紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】食文化的な視点から「質の高い生活」を把握し、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】食生活史の理解にもとづき、食生活、社会の諸問題を発見し、問題解決の行動につながる考察をすることができる。

オフィスアワー

火３，４限、1808ゼミ室

学生へのメッセージ

食に関する日々のニュースをウェブサイトや新聞、雑誌などから意識的に収集し、問題や現象の背景にある人々の生活にも目を向けて欲しいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01088031
講義名	フードコーディネート論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	伊藤　有紀	指定なし

授業概要(教育目的)

栄養や食の安全性、調理の理論などを基礎として、食生活におけるそれらの応用に必要な具体的事項を学ぶ。食に関する文化と歴史、テーブルウェア、テーブルコーディネート、メニュープランニング、食事マナーとサービス、などが中心となる。フードコーディネートの実践については外部講師を招き、現場の仕事についての講義を通して学ぶ。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	食事の文化、食卓のコーディネート、サービスとマナー、メニュープランニング、食空間のコーディネート、フードサービスマネジメントの基本事項を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	フードコーディネートを実践することを想定し、食の企画の立案に必要な確認事項を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	フードコーディネートとは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フードコーディネートの基本理念を学ぶ

第1回	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第1章の「フードコーディネートの基本理念」を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間(分)	180分
第2回	授業テーマ	食に関する文化と歴史
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食のタブーや日本の食事の歴史などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章の「食事の文化」を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間(分)	180分
第3回	授業テーマ	食卓のコーディネート①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーブルコーディネートの要点を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章の「食卓のコーディネート」1を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間(分)	180分
第4回	授業テーマ	食卓のコーディネート②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本料理、中国料理、西洋料理の食卓のコーディネートを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章の「食卓のコーディネート」2～4を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間(分)	180分
第5回	授業テーマ	食卓のサービスとマナー①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サービスとマナーの基本、日本料理のサービスとマナーを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章の「食卓のサービスとマナー」1,2を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間(分)	180分
第6回	授業テーマ	食卓のサービスとマナー②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中国料理、西洋料理のサービスとマナー、パーティ、プロトコルについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章の「食卓のサービスとマナー」2～6を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間(分)	180分
	授業テーマ	メニュープランニング

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	メニュープランニングの要件,料理様式とメニュー開発の基礎を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第5章の「メニュープランニング」を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間(分)	180分
第8回	授業テーマ	食空間のコーディネート
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食空間（食事空間、キッチン）のコーディネートについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第6章の「食空間のコーディネート」を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間(分)	180分
第9回	授業テーマ	フードサービスマネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フードサービスマネジメントの動向と特性、マネジメントの基本を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第7章の「フードサービスマネジメント」1.2を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間(分)	180分
第10回	授業テーマ	フードサービスの起業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フードサービス（レストラン）の起業について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第7章の「フードサービスマネジメント」3を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間(分)	180分
第11回	授業テーマ	投資計画、収支計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	投資計画、収支計画の作成、損益分岐点売上げ高について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第7章の「フードサービスマネジメント」4～6を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間(分)	180分
第12回	授業テーマ	食企画の実践コーディネート
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食企画の流れ、必要なスキルについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第8章の「食企画の実践コーディネート」1,2を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。

	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	食企画の実践現場
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外部講師による特別授業。現場で活躍するフードコーディネーターから実際の仕事や仕事に臨む心構えを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講師の事業内容をホームページを見るなどしてまとめてくる。講師が指定した内容についてレポートを書く。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	授業テーマ	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全体の総括を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業内容を総復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	310分

学習計画注記

「食企画の実践現場」は、外部講師の都合により回目が変更になることがある。授業内で案内する。

学生へのフィードバック方法

課題については授業内あるいはGoogleClassroom上で解説を行う。授業時間外に質問がある場合は、1808研究室まで訪問するか、メール（yukito@kasei-gakuin.ac.jp)やGoogleClassroomのコメントを用いて下さい。

評価方法

課題と定期試験で評価を行う。課題は授業内容の区切りで課す。ルーブリック（評価の観点と評価の基準）はGoogle Classroom上または授業内で示す。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○		
定期試験	○			

評価割合

課題（50%）筆記試験（50%）

使用教科書名(ISBN番号)

（公社）日本フードスペシャリスト協会編 『三訂 フードコーディネート論』，建帛社（978-4-7679-0440-5)

参考図書

授業内で紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】フードコーディネートによる物的、心的な満足が「質の高い生活」をもたらすことを理解できる。
【思考・判断】フードコーディネートの視点に立ち、人々の食生活を豊かにするための工夫点を考察することができる。

オフィスアワー

火曜2限　1808研究室

学生へのメッセージ

・これまでに学んだ食品、栄養、調理などの知識をもとに、それらを実際の食生活に生かす際、食卓を楽しく豊かにするための事柄を学んでいきます。調理学実習を履修した人は、実習で学んだ献立構成、盛り付け、配膳などとも結びつけて理解してください。
・教科書に沿って授業を進めますので、上記の教科書を準備して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01089031
講義名	設計製図演習I
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	小林 直弘	指定なし
准教授	青柳 由佳	指定なし

ナンバリング

G14201C22

授業概要(教育目的)

建築設計やインテリア設計など各種設計を行う基礎を学ぶことを目的としている。建築設計では図面による表現及び読み解きが必須な技術であるが、本授業では、図面を作成する技術を修得するために、線表現、図面間の関連性、基礎図（平面図、立面図、断面図、配置図）の作成を2種類（木造、鉄筋コンクリート造）の構造種別で出題する。また図面表現のみならず鉄筋コンクリート造では模型を作成し、理解を深めさせる。

履修条件

なし。なお、本演習の履修には、指定の製図道具が必要になります（学内で申し込み販売します）。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	建築製図におけるルールを身に着けることができる。製図によって建築物そのものの構造が理解できる。
思考・判断の観点 (K)	建築図面は建築物そのものの縮小ではなく記号の集積であること、他者に合理的に伝える方法であることが理解できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら魅力的な建築や空間について主張することが出来るようになり、図を描いて説明することができるようになる。
技術・表現の観点 (A)	建築設計を進める上で基礎的技術である製図の技法を修得する。構造別の住宅を対象として図面の表現方法を修得する。各種図面、模型などの制作を通して、建築計画のプレゼンテーション手法を修得する。

学習計画

回数・授業テーマ

第1回	**授業テーマ**	ガイダンスと製図基礎
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築製図の概要、授業の進め方の説明、必要な製図道具の説明を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ガイダンスを受けて、履修について検討してください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	**授業テーマ**	課題１：線の練習／レタリング・文字の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基礎的な線の描画方法を身に着けます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	**授業テーマ**	課題２：製図基礎／建築図面の表示記号
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的な建築図面の表示記号について身につけます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	**授業テーマ**	課題３：木造住宅／配置図・平面図の表現方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木造住宅を理解し、配置図・平面図の表現方法を身に着けます。（前半）
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。（課題1，2提出日）
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	**授業テーマ**	課題３：木造住宅／配置図・平面図の表現方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木造住宅を理解し、配置図・平面図の表現方法を身に着けます。（後半）
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	**授業テーマ**	課題４：木造住宅／断面図の表現方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木造住宅を理解し、断面図の表現方法を身に着けます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	**授業テーマ**	課題４：木造住宅／断面図の表現方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木造住宅を理解し、断面図の表現方法を身に着けます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	**授業テーマ**	課題５：木造住宅／立面図の表現方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木造住宅を理解し、立面図の表現方法を身に着けます。

	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	**授業テーマ**	課題６：鉄筋コンクリート造住宅／配置図・平面図の表現方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉄筋コンクリート造住宅を理解し、配置図・平面図の表現方法を身に着けます。（後半）
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。（課題3，4，5提出日）
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	**授業テーマ**	課題６：鉄筋コンクリート造住宅／配置図・平面図の表現方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉄筋コンクリート造住宅を理解し、配置図・平面図の表現方法を身に着けます。（後半）
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	**授業テーマ**	課題７：鉄筋コンクリート造住宅／断面図の表現方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉄筋コンクリート造住宅を理解し、断面図の表現方法を身に着けます。（後半）
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	**授業テーマ**	課題８：鉄筋コンクリート造住宅／立面図の表現方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉄筋コンクリート造住宅を理解し、立面図の表現方法を身に着けます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	**授業テーマ**	鉄筋コンクリート造住宅／模型の作製 課題９
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した図面を基に、立体的に確認するため、スチレンボードを使用し模型を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。（課題6，7，8提出日）
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	**授業テーマ**	鉄筋コンクリート造住宅／模型の作製 課題９
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した図面を基に、立体的に確認するため、スチレンボードを使用し模型を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。（課題9：最終期限は１週間後）
	教室外学習の時間（分）	90分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

演習中に作業の講評を実施する。

評価方法

講義は演習形式のため、講義中に課題を実施します。課題ごとに表記の通り評価します。厳密

には図面の正確性、完成度をみます。
・ルーブリックを用いて評価方法を示す。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
各課題	○		○	○
レポート		○	○	

評価割合

各課題を10点として評価し演習は正確性5点、完成度5点、レポートは思考判断5点、関心意欲態度5点とします。

使用教科書名(ISBN番号)

新しい建築の製図（ISBN978-4-7615-2375-6）学芸出版社

参考図書

住宅雑誌など建築系雑誌 （雑誌の名称は授業内で提示します。）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「質の高い生活」を実現するために、建築製図に必要な基礎的な知識を習得する。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見して、設計製図の中で活かす工夫をする。
【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を想像するために、建築製図として必要な表現方法を習得する。

オフィスアワー

授業終了後３０分程度(小林)
月曜日５時限目（青柳1807室）

学生へのメッセージ

二級建築士受験資格に必要な選択演習であり、製図は必須科目である。また図面を読み解く能力は建築士もしくはインテリアコーディネーターや宅建など建築等に関わるさい必須の能力である。

手描きによる製図は建築設計の基本となる重要な技術です。住宅建築のトレースを通して、建築の基礎をしっかりと勉強してください。図面を読み解くことで様々な建物を見る楽しみを学びましょう。
事前準備として、現在住んでいる家もしくは自分の部屋の間取りを描いてみましょう。また、気になる建物、気になる家具、好きな場所、好きな店を見つけてみて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	指導教員はいずれも建築製図について実務経験が豊富であり、実践的な指導が出来る。
アクティブ・ラーニング	○	演習形式
情報リテラシー教育	○	建築図面は他者との共有情報のため正確性の重要性を認識する。
ICT活用		

講義コード	G01090031
講義名	設計製図演習II
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	小林 直弘	指定なし
准教授	青柳 由佳	指定なし

ナンバリング

G14202C22

授業概要(教育目的)

本授業は、建物を立体的に把握する事を目的とします。立体表現の基礎を学び、部屋ごと寸法や納まりを確認し、パースを作成します。また設計を自由な発想で行うことが重要であるため、間取りや空間の理解、図面による表現、透視図の作成方法、設計に対するプレゼンテーション手法を学ぶ。

履修条件

本演習の履修は設計製図演習Iの単位取得済であることを条件とします。１回の校外学習で交通費、入場料負担が必要になります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	設計製図手法を修得できる。立体表現図法を修得できる。部屋ごとの細部の納まりや寸法を確認し建築を立体的に把握できる。設計手法の進め方を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	部屋ごとの細部の納まりや寸法を確認し建築を立体的に把握できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	与えられた課題を理解し、的確に提出し、遊び心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	・小住宅を設計できる。 ・立体表現図法を修得することができる。 ・建築計画のプレゼンテーションができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス、アクソメとアイソメ 課題１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	設計製図演習Iを振り返り、アイソメとアクソメを理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	**授業テーマ**	アイソメとアクソメ 課題１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アクソメとアイソメを理解します
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	**授業テーマ**	一点透視図法の仕組み 課題2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	一点透視図法を理解して内観パースを作成します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	**授業テーマ**	一点透視図法の作図１ 課題2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	一点透視図法を理解した上で内観パースを作成します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	**授業テーマ**	一点透視図法の作図２ 課題2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	一点透視図法を理解した上で内観パースを作成します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも作業を進めてください。（課題1，2：提出日は1週間後）
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	**授業テーマ**	校外学習 課題3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	江戸東京たてもの園で見学を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	小住宅の設計課題の説明 課題4

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エスキース：ブロックの構成とゾーニング 敷地は大学近郊の住宅地です。実際の敷地の周辺環境を考えて、それぞれの提案を行ってください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。（課題3提出日）
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	小住宅の設計 課題4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築の基礎となる小住宅の設計を演習形式で実施する。エスキース：単位空間の理解 リビング・ダイニング
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	小住宅の設計 （エスキース１）課題4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築の基礎となる小住宅の設計を演習形式で実施する。エスキース：単位空間の理解 水回り、個室
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	小住宅の設計 （エスキース２）課題4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築の基礎となる小住宅の設計を演習形式で実施する。エスキース：全体計画
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：類例となる建築作品を建築系雑誌から任意に選定し、その設計意図を読み解く。 必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	授業テーマ	小住宅の設計 （平面図の作成） 課題4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築の細部の知識と小住宅の設計：基本図面の作成：平面図
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	小住宅の設計（断面図、立面図の作成） 課題4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築の細部の知識と小住宅の設計：基本図面の作成：断面図・立面図
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	小住宅の設計 （模型の作成） 課題4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第13回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築の細部の知識と小住宅の設計：基本図面の作成：模型制作
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	小住宅の設計（プレゼンテーション図、パース等の作成）課題4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築の細部の知識と小住宅の設計：プレゼンテーション図面の作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第15回	授業テーマ	小住宅の設計 課題4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築の細部の知識と小住宅の設計：プレゼンテーション
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。（課題4提出日）
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

演習中の作業及びプレゼンテーションに対する講評を実施する。

評価方法

講義は演習形式のため、講義中に課題を実施します。課題ごとに表記の通り評価します。厳密には図面の正確性、完成度をみます。
・ルーブリックを用いて評価方法を示す。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題１～2	○	○		○
課題4	○	○	○	○
レポート 課題3		○	○	

評価割合

課題1、2、3 10点、課題４は（K）20点（v）20点、（A）20点とする。平常点10点とする。

使用教科書名(ISBN番号)

新しい建築の製図（設計製図演習Iにて使用したものを引き続き使用します）

参考図書

住宅雑誌など建築系雑誌 （雑誌の名称は授業内で提示します。）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「質の高い生活」を実現するために、建築製図に必要な基礎的な知識を習得する。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見して、設計製図の中で活かす工夫をする。
【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を想像するために、建築製図として必要な表現方法を習得する。

オフィスアワー

授業終了後３０分程度（小林）
青柳（木曜昼休み 1807ゼミ室）

学生へのメッセージ

二級建築士受験資格に必要な選択演習であり、製図は必須科目である。また図面を読み解く能力は建築士もしくはインテリアコーディネーターや宅建など建築等に関わる際に必須の能力である。

立体表現の基礎となる一点透視図法や二点透視図法は、その建物の良さをプレゼンテーションする方法として有用です。建築設計やインテリア設計など様々な場で必要となる技術ですので、頑張って勉強しましょう。
前期では、建築を見る基礎を学んでもらいました。気になる建物を見つけ、なぜ気になるのか考えてみて下さい。また、前期の復習はしっかりと行って下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員はいずれも建築製図における実務経験が豊富である。従って実践的な指導が可能である。
アクティブ・ラーニング	○	演習形式
情報リテラシー教育	○	建築図面は他者との共有情報のため正確性の重要を認識する。
ICT活用		

講義コード	G01091031
講義名	設計製図演習III
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	柿本 美樹枝	指定なし
教授	大橋 竜太	指定なし

ナンバリング

G24203C22

授業概要(教育目的)

設計製図演習IおよびIIで学んだ基礎知識と手法を活かし、木造住宅の設計課題に取り組みます。身近な生活を想定し、図面に表現することで、ものを作り上げる喜びを感じながら、技術の上達も目指します。
課題「3世代家族の家」
与えられた敷地に自由な発想で一戸建て住宅の設計を行う。

履修条件

本演習の履修は設計製図演習IIの単位取得済を条件とします。
「建築計画」を同時に履修すること。
また、模型製作などで材料等の実費負担が必要になります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	独立住宅の設計に必要な空間概念および機能について説明できる。またプロの住宅作品からデザイン手法を抽出できる。
思考・判断の観点 (K)	独立住宅についての設計方法、居住する家族とそこに求められる機能、敷地周辺環境との調和について理解した上で、自らの考えについて住宅を通して提案できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	現代の最先端の住宅デザインに関心を持ち、資料収集ができる。省エネや耐震についても、将来の地球環境や災害対応への住宅の在り方を考えることができる。
技術・表現の観点 (A)	建築の基本図面の作成、模型が制作でき、それに基づいて自らの考えを他者に説明できる。

学習計画		
第1回	授業テーマ	ガイダンス 設計手法01 スケール感覚と縮尺への理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在の住宅建築を取り巻く環境と課題について、本設計課題について説明します。 スケール感覚と縮尺の理解をします。モジュールについて理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題をよく読んで理解してきてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	授業テーマ	設計手法02 住宅設計の構造、断熱、設備の種類と工法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デザインエッセンス抽出、作図演習を行います。 木造軸組模型による部材名称と空間構成の把握、グループワーク
	教室外学習(予習・復習)の内容	図書館を利用し実例研究をしてきてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	授業テーマ	設計手法03 家族構成による暮らしのあり方と地域のとの関わり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゾーニング、エスキースを行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外でもエスキースを進めてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	授業テーマ	設計課題のゾーニング、エスキース
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エスキースを行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外においてもエスキースを進めてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	設計課題の平面図・断面図・立面図エスキース完成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	仕上げの検討、基本図面のエスキースを行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外においてもエスキースを進めてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	授業テーマ	詳細設計の製図１(矩計図のスケッチ）エスキースへのチェックバック
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	矩計図のエスキースを行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外においてもエスキースを進めてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	基本図面の製図１（平面図・断面図・立面図の清書） 中間発表

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本図面の作成を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業時間内で間に合わなかった部分は完成させてきてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	基本図面の製図２（平面図・断面図・立面図の清書）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本図面の作成を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外においても作業を進めてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	基本図面の製図３（平面図・断面図・立面図の清書と外構計画）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本図面の作成と外構の計画を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業時間内で間に合わなかった部分は完成させてきてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	詳細設計の製図２(矩計図の清書）作図表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	矩計図の清書をします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外においても製図を進めてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	授業テーマ	詳細設計の製図３(矩計図の完成)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	矩計図の清書をします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外においても製図を進めてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	図面の完成と模型の制作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平面図、断面図、立面図、矩計図をチェックしてさらに完成度を高めます。また模型の制作に取り掛かります。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業時間内に間に合わなかった場合は完成させて来てください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	模型制作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模型の制作を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業時間内に間に合わなかった場合は教室外においても作業を進めてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	図面と模型の完成、提出

第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模型、図面を完成させ提出します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模型、図面の完成度を高めてください。また次回の発表に向け準備をしてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第15回	授業テーマ	プレゼンテーション（課題の講評会）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指導教員や他の学生の前で、図面と模型を展示し口頭でプレゼンテーションをしていただきます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	口頭発表で何を伝えるかを整理してきてください。ポスターセッションは試験に準じますので充分な準備をしてきてください。
	教室外学習の時間（分）	90分

学生へのフィードバック方法

演習方式で行い、住宅設計の課題が１件出される。エスキース、作図、模型製作、写真撮影の手順で課題を完成させ、課題提出後にポスターセッション形式（オンライン方式となる場合がある）で採点および講評が行われる。

評価方法

講評会では担当教員や他の学生へ向け、図面と模型を提示して、口頭で設計内容を説明していただく。担当教員は発表の内容と提出された模型及び図面を採点する。
・ルーブリックを用いて評価方法を示す。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
模型	○	○	○	○
図面	○	○	○	○
口頭発表（プレゼン）	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

①企画・発想力②個性・オリジナル性③作図力やインテリアの描き込み, ④製図の正確性⑤外構計画⑥課題の深読み(地域との関わり)⑦テーマの深堀⑧授業の理解度や課題の進捗状況⑨模型制作完成度⑩発表の仕方

使用教科書名(ISBN番号)

新しい建築の製図（設計製図演習Iにて使用した教科書）
第4版 コンパクト建築設計資料集成

参考図書

新建築（月刊誌）、新建築住宅特集（月刊誌）、住宅建築

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「質の高い生活」を実現させるための社会の基盤の一部となる、生活空間の知識を得ること、理解することができる。
【思考・判断】生活･社会の諸問題を自ら発見し、住宅設計の中で解決する。
【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を想像するための問題を住宅の形で解決する。

オフィスアワー

金曜日５時限目

学生へのメッセージ

設計とは、与えられた条件の中で、一定の作図ルールに従いながらも、自由な発想で、自分の意図するところを表現することです。発想力、思考力、技術力を鍛えながら、暮らしのデザインにチャレンジしましょう。そして、自分の感性、自分なりの価値観による「解＝こたえ」を見つけ、それを形にする達成感を味わいましょう。

設計演習を通じて、これからの社会に必要な「物事を俯瞰してみる力」を養い、まちや地域との関係、環境に関わることへの視野を広げましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は建築設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能である。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01092031
講義名	設計製図演習IV
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	柳沢 伸也	指定なし
教授	大橋 竜太	指定なし

ナンバリング

G24204C22

授業概要(教育目的)

本授業では、「設計製図演習I～III」で培った知識や手法を活かし、2つの建築課題に取り組みます。課題は、**都市部の地域施設「カフェのあるシェアハウス」**と、**住宅地に立地するこども施設「スケルトン＆インフィルから考える幼稚園」**の設計演習です。異なる敷地条件・建築構造を持つこれらのテーマに対し、より現実的な建築設計を試みることを目的とします。

「カフェのあるシェアハウス」では、カフェを子育て世代の親子や高齢者など、さまざまな地域住民が集い、交流できる開かれた場とするとともに、入居者同士の交流スペースやプライバシーにも十分に配慮した設計を検討します。地域との関係性を重視しながら、住空間の快適性と社会的なつながりを両立させる空間構成を探求します。

「スケルトン＆インフィルから考える幼稚園」では、長寿命の建築を実現する手法として注目される「スケルトン＆インフィル（S&I）」の概念を踏まえた設計を行います。スケルトン（構造躯体）を耐久性の高いものとし、インフィル（内装・設備・間取り）をフレキシブルに計画することで、将来の用途変更や設備更新に対応できる柔軟な建築デザインを考えます。幼稚園という用途を前提としながらも、将来的な空間の使い方の変化を見据えた設計提案を求めます。
各課題では、用途に応じた適切なプランニングと外観デザインの検討を行い、模型などの手法を活用して設計案を深化させます。また、建築基準法をはじめとする関連法規を考慮しながら、建築設計の実践力を高めることも重要な要素となります。
さらに、設計のプロセスにおいては、類例調査や敷地調査などの基礎的調査に加え、さまざまな設計手法やプレゼンテーションのテクニックも学びます。これにより、建築設計に必要な総合的な能力を身につけることを目指します。

履修条件

本演習の履修は設計製図演習IIIの単位取得済を条件とします。

また、「建築設計論」を同時に履修してください。
模型材料は最低限のものについては準備しますが、各自、道具等の実費負担が必要になります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	木造、鉄筋コンクリート造とした構法別の設計に必要な知識について理解できる。建築基準法をはじめとする関連法規を考慮しながら、建築設計の実践力を高めることができる。
思考・判断の観点 (K)	現代の生活に発生する問題を抽出でき、それを解決できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	現代の最先端の住宅デザインや教育環境に関心を持ち、資料収集ができる。
技術・表現の観点 (A)	建築のプレゼンテーションに必要な図面、模型を作成でき、それに基づいて自らの考えを他者に説明できる。さまざまな設計手法やプレゼンテーションのテクニックを学ぶ。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	第1課題 敷地の提示・設計諸元説明、対象敷地見学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第１課題「カフェ付きシェアハウス」について説明します。設計条件について考察し、構想を始めます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図書館等を利用し、実例資料を集めて来てください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	**授業テーマ**	エスキース１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	構想に沿って、平面図、断面図のエスキースを進めます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外でもエスキースを進めて下さい。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	**授業テーマ**	エスキース２・模型制作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	立面図までのエスキースを完成させ、模型制作に入ります。
	教室外学習(予習・復習)の内容	エスキースを完成させてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	**授業テーマ**	基本図面の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図面の清書を始めます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次週までに図面を完成させてください。
	教室外学習の時間（分）	90分

第5回	授業テーマ	模型制作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模型を作成します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	時間外にも作業を進めてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	授業テーマ	第1課題プレゼンテーション図面の準備（図面着彩・模型写真撮影）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第1課題プレゼンテーション図面の準備（図面着彩・模型写真撮影）をしていただきます。ブラッシュアップの指導を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で指導を受けた部分は修正して次週の講評会に臨んでください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	授業テーマ	第１課題 作品講評会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指導教員や他の履修学生の前で、図面と模型を展示し口頭でプレゼンテーションをしていただきます。講評会は試験に準じます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	設計の意図を伝えられるよう準備してきてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	第2課題 敷地の提示・設計諸元説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第２課題「スケルトン＆インフィルから考える幼稚園」について説明します。設計条件について考察し、構想を始めます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図書館等を利用し、実例資料を集めて来てください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	エスキース１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平面図のエスキースを完成させます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外でもエスキースを進めて下さい。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	エスキース２・断面計画・模型
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	断面図・立面図までのエスキースを完成させ、模型製作に入ります。
	教室外学習(予習・復習)の内容	エスキースを完成させてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	模型製作

第11回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指導に従って模型製作を続けます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次週までに模型を完成させてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	模型検討、平面図、立面図、断面図の完成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平面･立面・断面図の提出していただきます。必要があればブラッシュアップの指導を行います。同時に図面の清書を始めます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次週までに図面を完成させてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	模型を利用した外観デザインと、外構デザインの検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	提出用のレイアウト検討を行います。ブラッシュアップの指導を受けてください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次週までにA2レイアウト図面をコピー仕上げにし。着彩して模型写真を添付、プレゼンテーションの準備をしてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	第2課題プレゼンテーション図面の検討（A2着彩・模型写真撮影）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第2課題プレゼンテーション図面の検討（平面、立面、断面図の着彩・模型写真撮影）をしていただきます。ブラッシュアップの指導を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で指導を受けた部分は修正して次週の講評会に臨んでください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第15回	授業テーマ	第2課題 作品講評会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指導教員や他の履修学生の前で、図面と模型を展示し口頭でプレゼンテーションをしていただきます。講評会は試験に準じます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	設計の意図を伝えられるよう準備してきてください。
	教室外学習の時間（分）	90分

学生へのフィードバック方法

演習方式で行い、前後半で設計の課題が２件出される。それぞれ敷地見学、エスキース、作図、コピー製版、着彩、模型製作、写真撮影の手順で課題を完成させ、課題提出後にポスターセッション形式で採点および講評が行われる。
なお本演習は、一級建築士、二級建築士及びインテリアプランナー受験資格取得の指定科目である。

評価方法

講評会では担当教員や他の学生へ向け、図面と模型を提示して、口頭で設計内容を説明していただく。担当教員は発表の内容と提出された模型及び図面を採点する。

・ルーブリックを用いて評価方法を示す。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
図面	○	○	○	○
模型	○	○	○	○
口頭発表（プレゼン）	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

講評会において、担当教員やたの学生へ図面と模型を提示し、口頭で設計内容を説明する。教員は発表の内容と提出された模型及び図面を採点。平常点20%、課題（提出期限、ポスターセッションを含む）80%とする。

使用教科書名(ISBN番号)

新しい建築の製図（設計製図演習Iにて使用した教科書）

参考図書

新建築（月刊誌）、新建築住宅特集（月刊誌）、住宅建築
コンパクト建築設計資料集成

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「質の高い生活」を実現させるための社会の基盤の一部となる、生活空間の知識を得ること、理解することができる。
【思考・判断】生活･社会の諸問題を自ら発見し、住宅設計の中で解決する。
【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を想像するための問題を住宅の形で解決する。

学生へのメッセージ

実際の建築の設計は様々な要素を検討しながら「新しい空間を創造してゆく」ことになります。授業では、実際の敷地を想定して、より具体的な「設計演習」を実施します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は建築設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能である。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01093031
講義名	現代家政演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	井上 清美	指定なし
教授	現代家政学科 教員	指定なし
准教授	青柳 由佳	指定なし

ナンバリング

G11001C12

授業概要(教育目的)

現代家政学科は、学生の興味や進むべき進路を見据えて、「食生活」「ハウジング」「ファッション」「生活者と社会」の各領域を横断的に学べることを特徴としている。この授業では、各領域での学びへの理解，教員や他の学生との対話，演習などを通して、現代家政領域における問題の新たな発見や興味・関心の学問的深まりを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	現代家政学科の「食生活」「ハウジング」「ファッション」「生活者と社会」の4領域における学びの特徴を理解し、今後4年間を通して学ぶ為の基本的な知識を得る。
思考・判断の観点 (K)	現代の生活は「食生活」「ハウジング」「ファッション」「生活者と社会」の各領域が有機的に関連して成立しているという思考を持つことが出来る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	現代家政の領域における問題の新たな発見や興味・関心を持てる。
技術・表現の観点 (A)	現代家政学科で学ぶ目標を考え、指示された形式でレポートを作成することが出来る。 現代家政学科4領域の学びの中から、最も関心を持った事象についてポスター形式で発表することが出来る。

学習計画		
第1回	授業テーマ	大学での学びを考えよう１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代家政学科の4領域の学びの紹介とカリキュラムの説明を聞き、現代の生活は各領域が有機的に関連して成立していることを知る。レポート等の提出にはGoogleClassroomを使用するので、その使用方法についても理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学生便覧，シラバスによる授業概要を確認する。資格科目についての履修条件などを確認する。自分の将来の目標を書き留める。
	教室外学習の時間（分）	40分
第2回	授業テーマ	大学での学びを考えよう２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	東京家政学院の創立者・大江スミについての映像を視聴し、その生涯と学院設立の経緯を知り、本学で学ぶことの意義を考える。また、現代家政学科で4年間学ぶ目標を考え、「自分の過去を振り返り、大学で何を学び、どのような将来を希望するか」についてのレポートを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の将来の希望を再確認し、その実現のために現代家政学科の４領域でどのように学ぶのかを考えてまとめる。レポートは、指示された形式や手順を守って作成し提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み１（食生活領域）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近年注目されている食品の機能性と調理・加工との関係や食品の機能性に関する法律などについて学ぶ（竹中） 調理と文化の関連性や学ぶ意義を理解する（伊藤）
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料等を参考にしながら内容をまとめ、食生活領域の学びについて理解を深める。（竹中、伊藤）
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み２（ハウジング領域）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	歴史的な建築物の保存を例として、建築物と生活や文化との関連性について理解する。（大橋） フードマイレージを例として、本学科で学ぶ「ハウジング」を「住空間」とだけでなく地球全体も含む「環境」としてとらえることを理解する。（沼波）
	教室外学習(予習・復習)の内容	「文化財建造物にはどのようなものがあるか」、「生活に関わる環境問題にはどのようなものがあるか」をインターネットを用いて調べ、各々その内のひとつについて特徴をまとめる。（大橋、沼波）
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み３（ハウジング領域／ファッション領域）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	建物が建つ仕組みを実際の建物を見ながら学ぶ。（青柳） 身近な話題として入学式でも着用する人が多いリクルートスーツを例に、社会の動向とファッションの関りについて学ぶ。（山村）

第5回	**を含む)**	
	教室外学習(予習・復習)の内容	建物の構造にはどのようなものがあるかをインターネットを用いて調べ、各々その内のひとつについて特徴をまとめる。（青柳） 講義内容に関連するファッションキーワードについて書籍、インターネットを用いて調べる。（山村）
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み４（ファッション領域）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	トレンドのつくられ方を学ぶために、まず流行色について概説し、ファッション情報の流れを理解する。（井澤） 服の機能の一例として、バッグとポケットの中身について考え、ファッションとジェンダーの関係を学ぶ。（太田）
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義内容に関連するファッションキーワードについて書籍、インターネットを用いて調べる。（井澤、太田）
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み５（生活者と社会領域）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費生活の現状と課題を理解し、消費者教育のニーズを理解する。（小野） 家族・家庭生活の変化を理解し、これからの家族関係について考える。（井上）
	教室外学習(予習・復習)の内容	若者の消費者トラブルについて調べ、問題の未然防止に役立つ方法を考える。（小野） 事前学習として、インターネット（SNSを含む）や映画、小説、アニメなどから自分の理想と考える家族像を探して、その特徴をまとめること。（井上）
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み６（生活者と社会領域）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活文化の変化が日本語に与えた影響を分析し、ことばと文化のつながりを理解する。（内田） Mark introduces some cultural ideas from different countries, and how to travel in these countries using English.（Lewis）
	教室外学習(予習・復習)の内容	明治時代から現代にかけ、日本人の衣服がどのように変化してきたかを調べ、考えておく。（内田） Look on a world map. Can you find Cabo San Lucas, Ukraine, Xian, and Istanbul? Which country mentioned by Mark in class would you most like to visit?（Lewis）
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み７（生活者と社会領域）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	生活文化を反映した風景やそれを活かした観光地化、地域活性化について、世界遺産・飛騨白川郷を事例に学ぶ。（加藤） 大学生活において「考える」とは何かを考え、少しだけキャリアにつ

第9回	育・ICT活用を含む)	いて考える。大学生活の過ごし方がキャリアに関係していることを理解する。（金森）
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習として、ガイドブックや観光用サイトで観光地としての白川郷がどのような場所なのか（観光スポットや食事、土産物等）、調べておく。（加藤） 大学4年間で何を考え行動するのか。事前に大学進学率、大学不要論、大学生活などをネットなどで調べておくこと。（金森）
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	授業テーマ	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み８（生活者と社会領域）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人生100年時代に生きる女性のキャリア形成とワーク・ライフ・バランスを考える。（佐野） 近年、健康は身体だけでなく、心や社会、環境なども含めた広い概念として取り扱われている。心理学的視点から、心と身体の相互作用に注目し、健康の回復・維持・増進のための方法について理解を深める。（北見）
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの配付資料などを参考に、自分が考える働き方、キャリ形成とワーク・ライフ・バランスについて考えをまとめておく。（佐野） 健康を取り巻く多種多様な社会環境の問題とその要因、ライフスタイルが健康に及ぼす影響などについて書籍やインターネットを用いて調べる。（北見）
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	大学を知ろう
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学園祭での生活に関わる展示やイベントを見学することにより、大学での学びの発展性について考える。さらに多くの人々に伝える方法について学ぶ。見学した後に見学レポートを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	大学での学びや活動を多くの人々に伝える場としての視点で本学の学園祭（ローズ祭）の見学を行い、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	問題の発見や関心の深まりを考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業の振り返りを行う。また、4領域の中で最も興味を持った事象や問題の新たな発見、興味・関心を持てる事象についてまとめ、レポートを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	8回分の領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組みを整理し、今後学びたいこと、将来にむけて4年間の大学生活で何をするかをまとめる。１回目のレポートに対する教員からのコメントも参考にして、再度レポートを作成し提出する。２回目もGoogleClassroomを使用して提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	「学び」の理解をまとめる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	発表用のパワーポイントを作成する。現代家政学科4領域の学びの中で最も関心を持った事象について、先に提出したレポート内容も踏まえ、ポスターを作成する。ポスターはパワーポイントで作成するので、その使用方法についても理解する。なお、定期試験期間中に発表

第13回	を含む)	会を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	2回目のレポートをまとめた内容のポスターを作成するので、要点をまとめておく。パワーポイントの使用方法の不明点があれば質問し、解決すること。ポスター形式の発表の注意事項を確認し、作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	キャリア特別講義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	将来の就職活動へ向けた心がまえを身につけることも視野に含みつつ、社会で役立つ、大学生に求められるスキルについて、佐々木ひとみ特任教授による授業を通じて理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	担当教員の指示に従う。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

授業内容の一部や授業の順番は、担当教員の都合等によって変更になる場合がある。
ローズ祭は6月に実施されるので、予定しておくこと。

学生へのフィードバック方法

・領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組みでのコメントシート等については、振り返りの中で解説する。
・２回のレポート課題については、教員からのコメントをGoogle Classroomに入力する。

評価方法

・平常点は、領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組みの各担当教員が授業内にコメントシート等を課し、理解状況や指示された学習課題への取り組み姿勢等を総合的に評価する。
・レポート課題は、指示された内容に沿って書かれているか、また、指示された形式や手順通りに作成・提出されているかを評価する。指示された形式や手順を守れていない場合や提出の遅れは減点の対象となるので注意すること。
・ポスター形式の発表は、最も関心を持った事象について、自分の考えを端的にまとめられているか、それを多くの人に伝えるための工夫がされているかを評価する。
・評価はルーブリックにもとづいて行う。ルーブリックは授業内で配付、もしくはGoogleClassroomで提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
レポート課題	○	○	○	○
ポスター形式の発表	○	○	○	○

評価割合

平常点（領域別の学びの理解状況や課題への取り組み）60%、課題（レポート課題、ポスター発表）40%

使用教科書名(ISBN番号)

プリント等を配布する予定。
ただし、配布の形態はデジタルファイルをGoogle Calssroomにおいて配信とすることもある。

参考図書

適宜、紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し、分析する。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。

オフィスアワー

教員別のオフィスアワーを授業内で配付、もしくはGoogleClassroomで提示する。

学生へのメッセージ

受講前に「大学に入学した目的」「将来の目標や夢」などについて考えをまとめておくこと。
また、1年前期に履修したい科目についても考えておくこと。
「現代家政演習」に関する不明な点は、授業については各領域の教員、全般については１年担任の先生、もしくは正地先生（1802室）に問い合わせること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	ポスター形式での発表を行う。
ICT活用	○	Google Classroomを使用して、レポート課題提出とコメント返却を行う。

講義コード	G01095031
講義名	社会調査法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小野 由美子	指定なし

ナンバリング

G22310C21

授業概要(教育目的)

社会調査とは社会事象を観察して分析する過程であり、様々な目的や種類、方法がある。まずは、政府統計などを用いたデータの読み取り方を解説する。次に、量的・質的調査のプロセスである「構想・計画」「準備」「実査」「データ入力と点検」「分析」「報告」「データの管理」について学習する。なかでも、調査票を作成する際に求められる適切な質問や選択肢の設定、調査結果の記述やグラフ化について詳説する。この授業では社会調査に関わる企画、実施、結果報告といった一連の流れについて、その知識と技術を身につける。

履修条件

大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントが必要である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	社会調査に関わる専門的知識を持つことができる。
思考・判断の観点 (K)	社会調査について多面的に考える姿勢を身に付けられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら取り組む学習態度を身に付けられる。
技術・表現の観点 (A)	自らの考えをまとめ、人に伝える技術力を身に付けられる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス 社会調査とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を知る。 社会調査の意義と目的を理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	総務省統計局の情報をインターネットで閲覧し、生活に関わる社会調査について考える。 テキスト第1章の内容をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190
第2回	**授業テーマ**	社会調査の種類：量的調査と質的調査 社会調査のプロセス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会調査の種類について、量的調査と質的調査それぞれの特徴を知る。 社会調査の全体像を把握して、各プロセスについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第2章と第3章の内容をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190
第3回	**授業テーマ**	社会調査のデザインと実査の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	因果分析を念頭にした社会調査のデザインを検討する。 どのようなデータ取集法があるか理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第4章と第5章の内容をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190
第4回	**授業テーマ**	調査票の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	質問の作成からレイアウトまで、その手順を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第6章の内容をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190
第5回	**授業テーマ**	サンプリング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対象者をどのように選び方を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第7章の内容をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190
第6回	**授業テーマ**	調査の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	郵送法、個別面接法、インターネット調査などの調査実施について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第8章の内容をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190
第7回	**授業テーマ**	データの電子ファイル化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データの構造化の流れ、コードの付け方などを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第9章の内容をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190
第8回	**授業テーマ**	調査の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データの収集と分析方法について理解し、調査票を作成する。 完成した調査票を使用して、調査を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査協力者を想定しながら、調査票のレイアウト、ワーディングなどを工夫する。
	教室外学習の時間（分）	190
第9回	**授業テーマ**	データの集計 調査報告とデータの管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データの集計方法を知り、実施する。 調査結果のとりまとめをする。

	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第10章と第13章の内容をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190
第10回	**授業テーマ**	内容分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	さまざまな内容分析の種類と手法を理解する。 質的データ分析ソフトを使用して、分析方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	分析の手順を確認する。
	教室外学習の時間（分）	190
第11回	**授業テーマ**	統計的推測
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	理論的に推測するために、標本抽出分布、標準誤差などを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第11章の内容をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190
第12回	**授業テーマ**	変数間の関連
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	変数の種類と分析方法を理解する。 散布図の作成と相関係数、クロス表を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第12章の内容をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190
第13回	**授業テーマ**	社会調査の意義と今日的課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会調査に関わる現状や論点について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第14章の内容をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190
第14回	**授業テーマ**	まとめと学習到達度の確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学習した内容の振り返りを行い、学習到達度を確認するための定期試験を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業全体の振り返りをする。
	教室外学習の時間（分）	230

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は30点満点で出題し、課題レポートを課す。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
受講状況・学習態度			○	
提出物	○	○		○
定期試験	○	○		

評価割合

受講状況・学習態度（10%）、提出物（60%）、定期試験（30%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

轟亮・杉野勇編『入門・社会調査法〔第4版〕：２ステップで基礎から学ぶ』法律文化社、2021年（9784589041418）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技術・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができている。次世代につながる健やかで
心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

【前期】水曜日 1701ゼミ室 12：40～14：40

学生へのメッセージ

関連する教材などを講義で紹介しますので、各自でも適宜、検索・活用してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、消費生活の研究に関する実務経験を有しており、社会調査の実査に関わり習得すべき一連の情報処理について教授している。
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、社会調査の能力の育成を図る
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01096031
講義名	食物学概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	竹中 真紀子	指定なし

ナンバリング

G13101C21

授業概要(教育目的)

人が健康に生活するため、食生活は重要であるばかりでなく、社会的、文化的な面からも様々な機能を果たしている。中学校・高等学校の家庭科の教員として食物学分野の教育を担当するために必要な食生活に関する基本的な知識を習得し、よりよい食生活を実行できる力を養うことを目標とする。食と栄養、食品の機能、食品と調理・加工などを中心に、総合的に食物学について講義する。

履修条件

本科目は、教員免許取得のために設定された科目です（必修は令和6年度入学生まで。令和7年度入学生からは、教員免許取得の必修科目ではなくなります）。
内容としては、「食品学概論」「栄養学概論」「食品学」などとの重複がありますので、これらの科目を履修する方は、重ねて「食物学概論」を履修する必要はありません。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．栄養素の生体内での働きを説明できる。 ２．各種食品に含まれる食品成分の機能性や調理・加工における変化を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	１．よりよい食生活を実践できるような食に関する総合力を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	１．現代の食生活における諸問題について関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

食物学概論

第1回	**授業テーマ**	はじめに
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食の主な機能を理解し、健康面からの「食べる」ことの意味(外部から物質を取り入れること）を理解する。現代の私たちの食生活における問題点を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第1章「食物とは」「人と食物」(1～3ページ、9～16ページ）第2章の「食と健康」（17～20ページ）を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	予習復習合わせて160分
第2回	**授業テーマ**	食と健康、栄養素の種類と消化吸収
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活習慣病と食生活との関わりを理解する。栄養素の種類と働きを理解し、食物を摂取した際の各栄養素の消化と吸収について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章の「生活習慣病と食生活」「栄養素の種類と消化吸収（20～27ページ）を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	予習復習合わせて160分
第3回	**授業テーマ**	栄養素の機能（炭水化物）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	炭水化物(特に糖質）に関して、単糖、少糖、多糖類の化学構造、特徴、主な供給源を理解し、エネルギー代謝と血糖値維持について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章の「炭水化物」（27～31ページ）を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	予習復習合わせて160分
第4回	**授業テーマ**	栄養素の機能（脂質）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質(特に中性脂肪）に関して、その化学構造、脂肪酸の種類と特徴を理解する。さらに、脂質の働き、脂質摂取における量と質について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章の「脂質」（30～33ページ）を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	予習復習合わせて160分
第5回	**授業テーマ**	栄養素の機能（タンパク質）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	タンパク質に関して、その化学構造、働き、主な供給源を理解する。また、タンパク質の栄養的な質と食生活との関連について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章の「タンパク質」（34～37ページ）を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。 三大栄養素（2から5回の授業内容）について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習復習合わせて160分
第6回	**授業テーマ**	栄養素の機能（ビタミン、ミネラル）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	微量栄養素であるビタミン、ミネラルの種類、働き、供給源を理解し、主なビタミンやミネラルの欠乏症、過剰症などの健康との関わりを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章の「ビタミン」「ミネラル」（37～43ページ）を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。

	教室外学習の時間（分）	予習復習合わせて160分
第7回	**授業テーマ**	食品中のその他の成分の機能、食生活の設計
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水分の生体内での働きと出納、水分摂取の重要性を理解する。栄養バランスのよい食生活を送ることができるように、日本人の食事摂取基準、食品成分表について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章の「食品中のその他の成分（水）」「食生活の設計」（44～46ページ、51～57ページ）を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	予習復習合わせて160分
第8回	**授業テーマ**	植物性食品の調理・加工（穀類）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主食となる、米、小麦に含まれる主な成分と、調理・加工における成分の変化について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章の「植物性食品 －米、小麦－」（64～75ページ）を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	予習復習合わせて160分
第9回	**授業テーマ**	植物性食品の調理・加工（いも類、豆類）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	いも類、豆類の種類と特徴を学び、いも類、豆類に含まれる主な成分、調理・加工における成分の変化、さらに加工食品について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章の「植物性食品 －いも類、豆－」（76～81ページ）を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	予習復習合わせて160分
第10回	**授業テーマ**	植物性食品の調理・加工（野菜類）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	野菜類の種類と特徴を学び、野菜類に含まれる主な成分、調理・加工における色素等成分の変化について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章の「植物性食品 －野菜－」（81～87ページ）を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	予習復習合わせて160分
第11回	**授業テーマ**	植物性食品の調理・加工（海藻類、果物類、きのこ類）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	海藻類、果実類、きのこ類の種類と特徴を学び、海藻類、果実類、きのこ類に含まれる主な成分、調理・加工における変化、それらの加工食品について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章の「植物性食品 －海藻、果物、きのこ－」（88～95ページ）を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	予習復習合わせて160分
第12回	**授業テーマ**	動物性食品の調理・加工（肉類、魚介類）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肉類、魚介類の種類と特徴を学び、肉類、魚介類に含まれる主な成分、鮮度判定法、調理・加工における変化、それらの加工食品について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章の「動物性食品 －肉、魚－」（95～107ページ）を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間	

	（分）	予習復習合わせて160分
第13回	**授業テーマ**	動物性食品の調理・加工（卵、乳類）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卵類、乳類の特徴、主な成分、鮮度判定法について学び、調理・加工における変化、それらの加工食品について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章の「動物性食品 －卵、乳類－」（107～124ページ）を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	予習復習合わせて160分
第14回	**授業テーマ**	その他の食品の調理・加工（甘味料、調味料、油脂等、ゲル化剤、嗜好飲料等）、まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	甘味料、調味料、油脂類、ゲル化剤の種類と特徴、調理性について理解する。茶、コーヒーなどの嗜好飲料の特徴と製造法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章の「その他の食品」（125～144ページ）を読んでおくこと。 授業で出される課題を行うこと。定期試験にむけて、これまでの授業全体の総復習をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習160分、復習460分

学習計画注記

授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業中に行う課題については、翌週に解答をまとめて紹介し、補足解説を行う。

評価方法

・授業中に行う課題については、その回の授業内容に関連した事項について、理解を確実にするための練習問題や、与えられたテーマについての記述する問題である。
・小テストは、2～5回の授業内容について、穴埋めを中心とした問題を出題する。
・定期試験は、小テストの振返りも含めて、授業内容全体から、穴埋め、記述等の形式で出題する。
・課題、小テスト、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。
・定期試験、小テスト等についてルーブリックでの評価を行う。ルーブリックはGoogle Classroomで公開する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○	○	
定期試験	○	○		

評価割合

定期試験80%、課題20%

使用教科書名(ISBN番号)

食物学概論 第2版 ／ 藤原葉子 編著 ／ 光生館 （ISBN 978-4-332-04065-1)
この教科書は、現在販売されていません。授業で必要なところはコピー等をお渡しする予定です。

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。

オフィスアワー

後期：火曜4時限目、1203研究室

学生へのメッセージ

食物学の科学的な領域を学んでいくためには、基礎に化学、生物学が必要となる。高校で学んだことをきちんと復習しておいてください。また、食に関するニュースや話題には関心をもつようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01097031
講義名	食と社会
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	竹中 真紀子	指定なし

ナンバリング

G33305C21

授業概要(教育目的)

現代の食生活のあり方は変化し続けており、それに伴い食の安全や信頼などに関する様々な問題が次々に発生している。それらの問題の原因や背景を正しく理解し、食物の生産、流通、消費の各段階でそれぞれに関わる人たちがどのように問題に向き合っていかなければならないのか考えるとともに、それらの問題を正しくとらえ、解決できる力を習得させることを目的としている。現代における食に関する様々な問題を具体的に取り上げながら、食と社会の関わりや消費者としてあるべき姿について解説する。

履修条件

特になし。
本科目は近隣大学との単位互換対象科目となっており、他大学の学生（男子学生を含む）が同時に履修する可能性があります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	現代において変化し続けている食生活のあり方と、それに伴い発生した様々な問題とその原因や解決策について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食に関わる様々な問題を理解した上で、自身が消費者としてとるべき行動について適切に判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食に関わる世の中の動きに関心を持ち、これまでの学びと結び付けて考察することができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

食と社会

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業全体について把握する。また、現代社会における食生活のあり方を考えるきっかけとして1990年代以降に頻発した「食の不祥事」に注目し、代表的な事例における原因や対策について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業後200分
第2回	授業テーマ	食品の生産から消費まで
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代における食品の生産から消費までの過程が非常に複雑化しているのと同時に縦割りの管理により互いの信頼関係が希薄になっている現状と、その改善策について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業後200分
第3回	授業テーマ	栄養素とそれ以外の食品成分
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費者が食に期待するものとして、栄養素の供給と栄養素以外の生体調節成分の供給に大別し、それらの適切なとらえ方について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業後200分
第4回	授業テーマ	食品添加物①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代の食生活をつくるうえで欠かせない食品添加物について、日本食品添加物協会が発行している冊子を教材として、その位置付け、分類、表示、安全性の確保について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業後200分
第5回	授業テーマ	食品添加物②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品添加物は消費者によってなぜ良くないイメージを持たれているのか、食の歴史を振り返りながら考える。
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業後200分
第6回	**授業テーマ**	食生活における健康志向
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代において見られる健康志向がいつ頃から高まり始めたのか、またそれに伴う混乱と政府による法整備、「健康」や「機能性」を表示することが認可された食品のカテゴリーについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業後200分
第7回	**授業テーマ**	食品の機能性とデータ栄養学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な食品の機能性が明らかになっているが、その効果をどうとらえていくか、データ栄養学の視点から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業後200分
第8回	**授業テーマ**	食育と社会の関わり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本において、第二次世界大戦後の食生活が大きく変化した中で食育の必要性が認識された背景と、食育基本法の概要、食育推進基本計画の策定や食育の取り組み、それらをまとめて公表している食育白書について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業後200分
第9回	**授業テーマ**	食の安全（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代における食の安全への関心の高まりと、その背景にある食の安全を脅かす事件・事故、それを受けて整備された安全行政体制と安全行政の仕組みについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業後200分
	授業テーマ	食の安全（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	前時の学習を踏まえ、食の安全は必要不可欠であるが、安全＝ゼロリスクではないこと、食生活においては様々なリスクが存在するがその

第10回	育・ICT活用を含む)	影響が十分に小さければ問題はないことを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業後200分
第11回	授業テーマ	くらしの中の食情報（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報化社会の現代において、特に人々の関心を引きやすい食情報の影響の大きさ、その極端な例としてのフードファディズム、確かな食情報の選択と日常生活における活用について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業後200分
第12回	授業テーマ	くらしの中の食情報（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	健康志向の高まりを受けて制度が整えられた「保健機能食品」と、これに相対する「いわゆる健康食品」の関係について学ぶ。一方で健康を意識した個別の食品を摂ることに注力するのではなく、「バランスのとれた食生活」を送ることも重要であることについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業後200分
第13回	授業テーマ	食品の表示と宣伝広告
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品表示法や保健機能食品の制度がある一方で、いわゆる健康食品などは、これらの法や規定に触れない方法で巧みな宣伝広告をしていることを理解し、消費者としての適切な判断について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業後200分
第14回	授業テーマ	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでに学習した内容を振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。期末試験に向けて、これまでの学習内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	授業後200分

学習計画注記

授業の進行具合により、変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

授業時に課した課題について、次時にフィードバックすることを数回実施する予定です。

評価方法

定期試験：80%、課題：20%により評価します。
評価基準については、Google Classroomに掲載するルーブリックを確認してください。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○	○	
定期試験	○			

評価割合

定期試験：80%、課題：20%。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。

オフィスアワー

前期：月曜日4時限目

学生へのメッセージ

食品学や栄養学の基礎知識が役に立ちます。また、日ごろから新聞等で食関係の確かな情報に目を向けておくことをおすすめします。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01098031
講義名	食生活演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	竹中 真紀子	指定なし
助教	伊藤 有紀	指定なし

ナンバリング

G33302C12

授業概要(教育目的)

本科目は、現代社会における食生活の乱れ、食文化の衰退などの様々な問題について自ら調べたり、健康、時短などのコンセプトに沿った企業の製品開発に触れたりしながら、具体的にその解決法を考えグループごとに発表することを通して、問題を正しくとらえ解決する力、問題の原因から結果までをまとめて示す力を養うことを目的とする。また、受講者同士がそれぞれの発表に対して意見を出し、内容の改善を図りながら学習を進められるように、授業を展開していく。

履修条件

栄養学系、食品学系、調理学系の専門科目を履修していることが望ましい。
実習のための材料費2500円程度を徴収することを予定している。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	人々の食生活をより豊かなものにするために必要な基本事項について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	献立作成等の取り組みに積極的に参加することができる。
技術・表現の観点 (A)	食生活に関して養った実践力を今後の食生活に活かすことができる。

学習計画

食生活演習

	授業テーマ	ガイダンス

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業スケジュールを確認する。自身の食生活を振り返り、現代の食生活における諸問題を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第2回	授業テーマ	健全な食生活のための献立作成と調理（1） 献立作成と栄養バランスについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第2回～第8回の「健全な食生活のための献立作成と調理」について理解を深め、食事における栄養バランス、献立作成の基本、食事バランスガイドや栄養価計算などを用いた考え方を修得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、宿題として課された献立作成の課題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	授業後100分
第3回	授業テーマ	健全な食生活のための献立作成と調理（2） 計画、実習準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	提出された課題について教員からのコメントを受け、グループで献立を決定し、ブラッシュアップする。次時の調理のために必要な食材の品目と量をとりまとめる。学生のパソコンで資料の修正や材料注文表の作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で不足した準備等を補っておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業後50分
第4回	授業テーマ	健全な食生活のための献立作成と調理（3） 試作、評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループで決定した献立について、調理を行う。実際の調理と試食を通して、自分たちが作成した献立を評価し、改善点を見出す。 次週の調理に向けて、材料の準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に調理実習の内容やポイントをまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業後50分
第5回	授業テーマ	健全な食生活のための献立作成と調理（4） 本番調理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前時の調理を踏まえ、改善した献立・レシピに沿って調理を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に調理実習の内容やポイントをまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業後50分
第6回	授業テーマ	健全な食生活のための献立作成と調理（5） 発表準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第2回～第5回までの取り組みについて、グループごとに次週の発表で使用する資料を作成する。学生のパソコンで資料作成を行う。
	教室外学習(予	授業内で不足した作業等を補っておくこと。

	習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	授業後50分
第7回	授業テーマ	校外授業（工場見学）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	工場見学を行い、後半の部（醤油を使った料理を含み、塩分管理がされた献立の作成）の学びにつなげる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	見学後に、課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	見学後50分
第8回	授業テーマ	健全な食生活のための献立作成と調理（6） グループ発表 醤油を使った料理を含み、塩分管理がされた献立の作成（1） 取り組みの説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第2回～第5回までの取り組みについて、グループごとにコンセプトやアピール点について発表し、他のグループの発表を聞いてコメントを述べたり質問したりして理解を深める。 第8回～第14回までの取り組みについて、理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループ発表を聞いて、重要と思ったポイント等をまとめる。 献立作成の課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	授業後100分
第9回	授業テーマ	醤油を使った料理を含み、塩分管理がされた献立の作成（2） 計画、実習準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個人が作成したレシピをグループごとに突き合わせ、グループで１つレシピを決定し、ブラッシュアップする。 次時の実習に向けた準備を行う。学生のパソコンで資料の修正および材料表の作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で不足した作業等を補っておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業後50分
第10回	授業テーマ	醤油を使った料理を含み、塩分管理がされた献立の作成（3） 試作・評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループで作成した献立について、調理を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に調理実習の内容やポイントをまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業後50分
第11回	授業テーマ	醤油を使った料理を含み、塩分管理がされた献立の作成（4） 献立の改善
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の試作を振り返り、改善点を確認する。次週の本番調理に向けて、献立の修正、材料注文表の作成を行う（学生のパソコンを使用）。
	教室外学習(予習・復習)の内容	

	教室外学習の時間（分）	
第12回	**授業テーマ**	醤油を使った料理を含み、塩分管理がされた献立の作成（5） 本番調理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前時の調理を踏まえ、改善したレシピに沿って調理を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に調理実習の内容やポイントをまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業後50分
第13回	**授業テーマ**	醤油を使った料理を含み、塩分管理がされた献立の作成（6） 発表準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	試作を重ねて完成したレシピについて、そのコンセプトやアピール点についてグループごとにまとめ、次時に発表するための資料を作成する。学生のパソコンで資料の作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で不足した作業等を補っておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業後50分
第14回	**授業テーマ**	醤油を使った料理を含み、塩分管理がされた献立の作成（7） グループ発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	試作を重ねて完成したレシピについて、コンセプトやアピール点について発表し、他のグループの発表を聞いてコメントを述べたり質問したりして理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループ発表を聞いて、重要と思ったポイント等をまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業後50分

学生へのフィードバック方法

グループ作業に関しては、その都度教員からコメント・アドバイスを行います。

評価方法

グループ作業（課題に対するディスカッション、実習等）への参加態度を評価します。
個人で取り組む課題を3回程度、グループで取り組む課題を2回程度課します。
平常点の評価基準についてはGoogle Classroomのルーブリックを参照のこと。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
グループ作業における参加態度			○	
提出された課題の内容	○			
発表	○			○

評価割合

平常点（40%）、課題（30%）、発表（30%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー

前期：月曜日昼休み時間～3限目（竹中）、水曜日5限目（伊藤）

学生へのメッセージ

グループでの作業（課題に対するディスカッション、実習等）を多く取り入れた授業です。食生活について自ら考え、意見を出し、実践する意欲をもって取り組んでください。
実習の材料費として、2500円程度を徴収する予定です。
評価基準についてはGoogle Classroomのルーブリックを参照のこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自ら献立やレシピを考え、グループメンバーと協力して目標達成に向けて学びを進める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01100031
講義名	建築ＣＡＤ演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	青柳 由佳	指定なし

ナンバリング

G34207C22

授業概要(教育目的)

建築設計においてＣＡＤの基本操作を身に付けることを目的とし、建築製図法の基本を確認していただく。ソフトウェアはＶｅｃｔｏｒＷｏｒｋｓを使用し、基礎的操作から２次元図面作成、さらに３次元モデリングや写真を貼りこんだレイアウトなど、プレゼンテーション図面を適切に表現するための必要な知識と技法を教示し、それらを演習によって修得する。

履修条件

基礎的な建築製図力、立体把握力を必要とするため、設計製図演習I～III（IV）の単位取得済であることを履修条件とする。
各自にてパソコンの用意（CADが操作できる容量等を確認のこと）が必要となる。ソフトウエアは各自でダウンロード（無償）する。詳細については第１回目の授業で示す。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	建築の図法および平面図、立面図、断面図の関連が説明できる。
思考・判断の観点 (K)	立面（断面）図と平面図の相互関係を読み取り立体にすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	操作を多くこなし、作業スピードの高速化が達成できる。
技術・表現の観点 (A)	他人を惹きつけるプレゼンテーションができる。

学習計画

	授業テーマ	イントロダクション・CADソフトの取り扱いかた
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	建築インテリア業界で使われているＣＡＤのソフトの現況や、授業で使用するソフト「ＶｅｃｔｏｒＷｏｒｋｓ」について概

第1回	育・ICT活用を含む)	要を説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	設計製図演習ＣまたはＤでそれぞれが作成した課題をＣＡＤ描画するので、そのときの図面を準備してください。
	教室外学習の時間(分)	90分
第2回	授業テーマ	２次元（平面）CAD基本描画（１）線
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	最初に２次元（平面）CADの基本描画（操作画面の説明、線の引き方、座標の見方）を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間や繰り返しの操作練習を行ってください。
	教室外学習の時間(分)	90分
第3回	授業テーマ	２次元CAD基本描画（２）図形
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	２次元（平面）CADの基本描画（図形の描画）を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間や自宅にて繰り返しの操作練習を行ってください。
	教室外学習の時間(分)	90分
第4回	授業テーマ	２次元CAD基本描画（３）住宅の平面図
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	２次元（平面）CADの基本描画（住宅の平面図:建具）を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間や自宅にて繰り返しの操作練習を行ってください。
	教室外学習の時間(分)	90分
第5回	授業テーマ	２次元CAD基本描画（４）住宅の平面図
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	２次元（平面）CADの基本描画（住宅の平面図：ハッチング）を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間や自宅にて繰り返しの操作練習を行ってください。
	教室外学習の時間(分)	90分
第6回	授業テーマ	２次元CAD基本描画（５）住宅の断面図
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	２次元（平面）CADの基本描画（住宅の断面図）を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間や自宅にて繰り返しの操作練習を行ってください。
	教室外学習の時間(分)	90分
	授業テーマ	２次元CAD基本描画（６）住宅の立面図

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	２次元（平面）CADの基本描画（住宅の立面図）を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間や自宅にて繰り返しの操作練習を行ってください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	CADデータの扱い方（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	CADで作成したデータについて出力方法（プリントアウト、PDF化）を身につけます。（課題１：2D図面）
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間や自宅にて繰り返しの操作練習を行ってください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	３次元（立体）CAD基本描画（１）住宅の立体作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	３次元（立体）CADの基本描画（住宅の立体作成）１回目を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間や自宅にて繰り返しの操作練習を行ってください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	３次元（立体）CAD基本描画（２）住宅の立体作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	３次元（立体）CADの基本描画（住宅の立体作成）２回目を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間や自宅にて繰り返しの操作練習を行ってください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	授業テーマ	３次元（立体）CAD基本描画（３）住宅の立体作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	３次元（立体）CADの基本描画（住宅の立体作成：建具）３回目を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間や自宅にて繰り返しの操作練習を行ってください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	３次元（立体）CAD基本描画（４）パース
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	３次元（立体）CADの基本描画（住宅の立体表現）を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間や自宅にて繰り返しの操作練習を行ってください。

	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	**授業テーマ**	最終提出課題作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	CADで作成した立体データについて出力方法（イメージファイル化）を身につけます。 身に着けた技術を使って２次元及び３次元の最終提出課題を作成します。（課題2：3D図面を含むプレゼンテーション図）
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間や自宅にて繰り返しの操作練習を行ってください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	**授業テーマ**	プレゼンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身に着けた技術を使って２次元及び３次元の最終提出課題を作成し、最後にデータを提出します。その上で皆の前で自分の作品のプレゼンテーションを行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間や自宅にて繰り返しの操作練習を行ってください。
	教室外学習の時間（分）	90分

学習計画注記

担当教員が履修生全員の作業を見ながら演習を進めるため、履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

テキストは無く、その場で全体または個別に指導を行い、技術を修得していく。

評価方法

毎回の課題進行状況（平常点）および提出課題によって、作図力、理解度、空間把握力などを総合的に評価する。
基本図面：40% ３D・最終プレゼンテーション図：50% 平常点：10%
・はじめの授業でルーブリックで評価方法を示す。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
提出図面（プリントアウト）	○	○		○
提出図面（データ）	○	○		○
平常点			○	

評価割合

基本図面：40% ３D・最終プレゼンテーション図：50% 平常点：10%

使用教科書名(ISBN番号)

なし、必要な資料または操作方法の動画（YoutubeのURL）を配布します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「質の高い生活」を実現させるための社会の基盤の一部となる、生活空間の知識を得ること、理解することができる。
【思考・判断】生活･社会の諸問題を自ら発見し自主的に作業を進めることができる。

【技能・表現】履修で得た専門的技能をもって課題を論理的に分析し表現することで他者の理解を得る表現を身につけることができる。

オフィスアワー

水曜日３時限目

学生へのメッセージ

現代社会においてパソコンのスキルは必修になっています。これを機会にノートパソコン等を用意し、パソコンのスキルアップに努めてください。
なお、授業で使用するＶｅｃｔｏｒＷｏｒｋｓは高価なソフトですが、教育機関および学生には無償提供されます。自宅でも使用できます。
テキストは無く、その場の指導で操作を覚えていく方式のため、遅刻や欠席への対応は難しいと考えてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	建築設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能である。
アクティブ・ラーニング	○	基本的な操作については伝えるが、自らの計画がよりわかりやすくビジュアルに他者に伝わるような工夫を積極的に行えるように指導を行う。
情報リテラシー教育	○	プレゼンテーション技法についても指導を行う。
ICT活用	○	ＣＡＤ自体がＩＣＴの一部となっているが、さらにインターネット上から造形素材をダウンロードして使用するなど、ＩＣＴを積極的に活用した授業となる。

講義コード	G01101031
講義名	建築調査
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大橋 竜太	指定なし

ナンバリング

G34307C22

授業概要(教育目的)

都市の歴史環境や伝統的な景観を保存・活用したまちづくりについて考える。健全な都市環境の形成にとって、その都市の景観や歩んできた歴史の尊重はきわめて重要である。わが国は、諸外国と比べ、遅れをとっていたが、昨今、これらを意識したまちづくりが各地で行われるようになった。こういったまちづくりに携わることができるように、それを実践するための制度等に関して学ぶとともに、先進的な事例を調査・検討しながら、明日のまちづくりを追求する。

履修条件

特に定めない

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	建築保存とまちづくりの実態を知る
思考・判断の観点 (K)	建築保存とまちづくりの実態を知る制度を知る
関心・意欲・態度の観点 (V)	理想のまちづくりを考える能力を身につける
技術・表現の観点 (A)	自分の考えを他者に伝える（プレゼンテーション）能力を身につける

学習計画

	授業テーマ	イントロダクション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	建築・都市の個性とは何か？ まちづくりの現状を知る

第1回	**む)**	
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターネット等を利用して、最近流行している「古民家カフェ」をひとつ選び、その建築的特徴を調べる
	教室外学習の時間(分)	90分
第2回	**授業テーマ**	建築・町並みの調べ方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文献調査、実測調査、聞き取り調査、その他の調査方法
	教室外学習(予習・復習)の内容	東京駅周辺の近代建築について調べる
	教室外学習の時間(分)	90分
第3回	**授業テーマ**	見学会１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	東京駅周辺の歴史的建造物を実際に見る 東京駅、旧東京中央郵便局、三菱一号館、明治生命館、日本工業倶楽部、等
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査結果をまとめる
	教室外学習の時間(分)	90分
第4回	**授業テーマ**	プレゼンテーション１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	見学会１で見学した歴史的建造物からひとつ選び、レポート（A4レポート用紙３枚）を作成するとともに【課題１】、その内容を５分程度で発表する。また、同級生の発表に質疑を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンテーションで指摘された点を修正し、レポートを完成させる
	教室外学習の時間(分)	90分
第5回	**授業テーマ**	さまざまな建築保存
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	わが国の建築保存の実例
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターネット等を利用し、各地で行われている歴史的建造物の活用について調べる
	教室外学習の時間(分)	90分
第6回	**授業テーマ**	建築保存の経緯
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築保存の歴史、各国の文化財保護関連法、各国の都市計画関連法、わが国の建築保存の歴史
	教室外学習(予習・復習)の内容	わが国と諸外国の町の景観の違いを整理する
	教室外学習の時間(分)	90分
	授業テーマ	建築保存の法制度

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文化財保護法（国宝・重要文化財、伝統的建造物群保存地区、登録有形文化財、文化的景観）、景観法、歴史町づくり法
	教室外学習(予習・復習)の内容	川越と土浦のまちづくりの違いについてまとめる
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	建築保存とまちづくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	歴史的建造物の保存・活用の実例、歴史的建造物の保存と観光
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターネット等を利用し、歴史をいかしたまちづくりの実例について調べる
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	文化財建造物の修復
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保存修復の手順、保存修復の現場 大崎八幡神社の修復（DVD）
	教室外学習(予習・復習)の内容	大崎八幡の修理のDVDを見た感想文をまとめる
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	復原とレプリカ 文化財防災
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	復原に関する議論、オーセンティシティと復原 三菱一号館の復原、朱雀門の復原（DVD） 文化財防災と被災時の対応
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターネットで三菱一号館の復原（再現）の経緯とその際の議論について調べる
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	授業テーマ	銀座・日本橋の歴史的建造物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	銀座・日本橋の歴史的建造物を概観する
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターネット等を用いて、銀座・日本橋の歴史的建造物の来歴、特徴等について調べる
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	見学会２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	銀座、日本橋の歴史的建造物を実際に見る 日本橋、日本銀行本店、三井本館、三越本館、高島屋、明治屋、等
	教室外学習(予習・)	調査結果をまとめる

	復習 の内容	
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	**授業テーマ**	プレゼンテーションの手法を学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	PPTの作成の方法を学ぶ。ソフトの使い方から、有効なスライドの作成方法を、課題２を通して学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題２のPPTを作成する
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	**授業テーマ**	プレゼンテーション２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	見学会２で見学した歴史的建造物をひとつ選び、それぞれの建築についてPPTで10分程度のプレゼンテーションを行う【課題２】
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンテーションで指摘された点を修正し、PPTを完成させる
	教室外学習の時間（分）	90分

学生へのフィードバック方法

採点したレスポンスシートを返却する。また、受講者のそれぞれのプレゼンテーションに対し、詳細にコメントする

評価方法

・Googleクラスルームに提示するルーブリックに基づき成績評価を行う
・毎回の授業の最後に10分程度で授業の概要をまとめ（レスポンスシート）、提出する。これにより、授業内容の把握状況を判断する。また、受講生の多くが十分に理解していないと判断した場合には、次回の授業の最初に、復習を行う
・ふたつの課題に対しては、プレゼンテーション、課題、他の受講者への質問内容の３点を評価する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業態度	○	○	○	
課題	○	○		○

評価割合

授業態度（レスポンスシートで評価する）20%と課題（授業課題60%、最終課題20%）で評価する

使用教科書名(ISBN番号)

特に定めない

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる

【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる
【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる

オフィスアワー

月曜１・５限 1702室

学生へのメッセージ

この授業は「まちづくり」に関する授業です。画一的なまちづくりが否定される現在、地域らしさを出すために、建築保存が脚光を浴びるようになってきました。また、こういった問題は、しばしばマスコミによって取り上げられます。日頃から、新聞記事などのチェックが重要となります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、歴史的建造物の修理工事等の委員会の委員を務めるなど、歴史的建造物の保存業務に関わる仕事を兼務しており、その経験をいかして授業を行っている
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、ディスカッション等の教育内容を含む
情報リテラシー教育	○	図書館の利用、インターネットを利用した情報収集、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む
ICT活用		

講義コード	G01110031
講義名	基礎ゼミ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	青柳 由佳	指定なし
教授	現代家政学科 教員	指定なし
准教授	井上 清美	指定なし

ナンバリング

G11002C12

授業概要(教育目的)

「生活の質の向上」を考えることは、現代家政学科の学びの中核をなしている。この授業では企業活動と生活，各領域の研究と生活，社会見学を通して、現代家政学科での学びと実社会との関わりについて実感を伴った理解を促す。そして、各自が現代家政演習で見つけた学習課題をより具体化することを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	現代家政学科での学びと実社会の関わりについて理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	現代家政学科４領域の学びを、実社会にどのように活かせるかを考えることが出来る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	現代家政演習で各自が見つけた学習課題について、興味・関心を持ち続ける。
技術・表現の観点 (A)	社会見学で得た知識や発見した諸問題について、自分の意見をレポートにまとめ、さらに口頭での発表を行うことが出来る。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス（各領域ゼミの事前説明、後期時間割の確認）

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基礎ゼミでは、全体での授業のほか、少人数でのゼミ形式の授業や学外での社会見学を行うので、それぞれの授業内容や学科での学びとの関わりについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学生便覧，シラバスの授業概要を確認しておく。前期の「現代家政演習」で見つけた学習課題を再検討する。
	教室外学習の時間（分）	40分
第2回	授業テーマ	社会見学の事前説明１（見学先紹介）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	後期後半に実施する社会見学について説明する。各領域に関連した施設や展示会等の見学を行うので、見学先と学科での学びとの関わりについて理解する。4領域のうち2領域（学生1人が2回）の見学に参加する。なお、見学終了後は見学レポートを提出し、１ヶ所については口頭発表を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの各領域の学びについて整理する。 社会見学についての配布資料をよく読んで、見学先の希望を考える。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	各領域の研究と学科での学びとの関わり１（各領域ゼミ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配属された各領域ゼミで授業を受ける。その１回目。担当教員から各時間の課題やコメントシートが課される。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各領域ゼミの担当教員の指示に従う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	各領域の研究と学科での学びとの関わり２（各領域ゼミ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配属された各領域ゼミで授業を受ける。その２回目。担当教員から各時間の課題やコメントシートが課される。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各領域ゼミの担当教員の指示に従う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	社会見学の事前説明２（見学先決定）、社会見学の事前学習１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自が参加する見学先を把握する。 社会見学に参加する際の注意事項，見学レポートの書き方についての説明を聞き、見学に備える。 1カ所目の見学先について、社会見学の担当教員から説明を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	決定した見学先について、事前の配布資料を確認し、ホームページ等で基本情報を調べる。見学レポートの書き方にそって、どのような観点で見学に参加するかを考える。

	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	社会見学発表会の事前説明、社会見学の事前学習２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会見学１ヶ所について行う口頭発表の形式について説明を聞き、方法や注意事項を理解する。 2カ所目の見学先について、社会見学の担当教員から説明を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の形式にしたがって、どのような観点で見学に参加するかを考える。パワーポイントの使用方法についても確認する。 見学先についての質問や不明点があれば担当教員に質問する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	現代家政学科の学びと実社会との関わり①（外部講師による講演）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	【校内特別授業】現代家政学科の４領域が有機的に関連して人々の「くらし」が成り立っていることを理解し、専門性にとらわれず「生活に関するすべてを学ぶ」という本学科の教育姿勢を実感するために実施する企業による講演の１回目。講演終了後、コメントシートを記入する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講演を行う企業等について、ホームページ等で基本情報を調べておくこと。講演を聞いた後に改めて確認し、現代家政学科の学びとの関連を考察する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	各領域の研究と学科での学びとの関わり３（各領域ゼミ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配属された各領域ゼミで授業を受ける。その３回目。担当教員から各時間の課題やコメントシートが課される。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各領域ゼミの担当教員の指示に従う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	各領域の研究と学科での学びとの関わり４（各領域ゼミ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配属された各領域ゼミで授業を受ける。その４回目。担当教員から各時間の課題やコメントシートが課される。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各領域ゼミの担当教員の指示に従う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	社会見学１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	【校外授業】決定した社会見学に参加する。１回目。

	教室外学習(予習・復習)の内容	社会見学の担当教員の指示に従う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	社会見学２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	【校外授業】決定した社会見学に参加する。２回目。
	教室外学習(予習・復習)の内容	社会見学の担当教員の指示に従う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	学びの振り返り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各領域ゼミでの学びや、学科での学びと社会との繋がりについて等、これまでの授業について整理し、解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業を振り返り、まとめておく。 社会見学レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	現代家政学科の学びと実社会との関わり②（外部講師による講演）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	【校内特別授業】現代家政学科の４領域が有機的に関連して人々の「くらし」が成り立っていることを理解し、専門性にとらわれず「生活に関するすべてを学ぶ」という本学科の教育姿勢を実感するために実施する企業による講演の2回目。講演終了後、コメントシートを記入する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講演を行う企業等について、ホームページ等で基本情報を調べておくこと。講演を聞いた後に改めて確認し、現代家政学科の学びとの関連を考察する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	**授業テーマ**	学びのまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業のまとめを行う。 また、社会見学１ヶ所について行う口頭発表のパワーポイントを作成し、データをGoogleClassroomで提出する。なお、定期試験期間中に発表会を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表する見学先について要点を絞り、どのようにパワーポイントにするか考えておく。口頭発表３分間の発表原稿も作成し、練習を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

授業内容の一部や授業の順番は、担当教員や外部講師の都合等によって変更になる場合があ

る。
社会見学は、時間割以外の日時に行うこともある。

学生へのフィードバック方法

・各領域ゼミでの課題やコメントシートについては、各授業にて解説する。
・社会見学レポート、校内特別授業の課題については、振り返りの中で解説する。
・パワーポイントを使用した口頭発表については、発表会終了時に全体に向けた教員からのコメントを伝える。

評価方法

・平常点は、校内特別授業、各領域ゼミおよび社会見学での授業内活動への参加状況、指示された学習課題への取り組み姿勢等を総合的に評価する。
・課題（校内特別授業（外部講師の講演・客員教授による授業）の課題やコメントシートと社会見学レポート）は、指示された内容に沿って作成されているかを担当教員が評価する。
・パワーポイントを使用した口頭発表は、指定された内容に沿ってパワーポイントが作成され、３分間の口頭発表が出来ているか等を担当教員が評価する。
・評価はルーブリックにもとづいて行う。ルーブリックは授業内で配付、もしくはGoogle Classroomで提示する。
※社会見学レポートと口頭発表は、指示された形式や締切期日を提出されたか等も評価に含める。なお、指示された形式を守れていない場合や提出の遅れは減点の対象となるので注意すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
課題・レポート	○	○	○	○
口頭発表	○	○	○	○

評価割合

平常点（授業（各領域ゼミ、社会見学）への参加状況・課題への取り組みの総合評価）60%、課題（校内特別授業（外部講師の講演・客員教授による授業）の課題やコメントシート・社会見学レポート・口頭発表）40%

使用教科書名(ISBN番号)

プリント等を配布する予定。ただし、配布の形態はデジタルファイルをGoogle Classroomにおいて配信とすることもある。

参考図書

適宜、紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し、分析する。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー

第１回目の授業で配布する資料に教員別のオフィスアワーを掲載する。

学生へのメッセージ

前期「現代家政演習」の内容を振り返り、将来の希望を考えておく。

教育等の取組み状況

	該当	概要

	有無	
実務経験を活かした授業	○	（第7回）大手通信会社による講演。サステナビリティの取り組みやCSR活動、災害時対応、最新の活動内容等について伺う。 （第13回）大手コーヒーチェーンによる講演。現代家政学科の学びに関係する企業の取り組みについて伺う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	パワーポイントを使用した口頭での発表を行う。
ICT活用	○	Google Classroomを使用してパワーポイントデータの提出を行う。

講義コード	G01110331
講義名	ファイナンシャルプランニング入門
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	古徳　佳枝	指定なし

ナンバリング

G22311C21

授業概要(教育目的)

当授業では、学生が将来社会に出たときに直面する、お金に関する意思決定について、より合理的かつ適切に行うことができる能力を育成することを目的とする。具体的には、まず日本の社会制度や税制について理解し、そのうえで、自分自身の生活や社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察できるような学びを目的とする。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日本の社会制度や税制について理解する。 経済の基本的仕組みを理解する。
思考・判断の観点 (K)	自分の目標を実現するためのプランニングができる。 複数の選択肢から合理的選択ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分自身の将来に向けて、キャリアプラン、ライフプランを構築する意欲を持つ。
技術・表現の観点 (A)	基本的な収入支出貯蓄額、税額、金利などの計算ができる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス：ファイナンシャルプランニングの全体像
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	ファイナンシャルプランニング（お金に関する計画）について、全体像を俯瞰し、自己責任で選択すべきことについて全体の流れを理解する。

第1回	育・ICT活用を含む)	ファイナンシャルプランニングに関するＤＶＤを視聴し、感想を提出する。 授業の進め方を把握し、当授業のルーブリックについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前にgoogle classroomに掲載した資料を読んでおくこと 復習：配布プリントを読み直し、十分に理解しておくこと
	教室外学習の時間（分）	150分
第2回	授業テーマ	教育・住宅・老後資金を準備する方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人生の３大資金といわれる「住宅」「教育」「老後」資金について、具体的な貯蓄方法とローンの考え方を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前にgoogle classroomに掲載した資料を読んでおくこと 復習：配布プリントを読み直し、十分に理解しておくこと
	教室外学習の時間（分）	150分
第3回	授業テーマ	キャッシュフロー表の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の収入・支出・貯蓄残高について、長期的に予測するためのキャッシュフロー表を作成する。 ＰＣを持参した学生は、エクセルをダウンロードして入力することも可。ＰＣを持参しない場合は、紙への記入も可。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：自分のライフプランについて具体的に考えておくこと 復習：キャッシュフロー表の構造や作成方法を十分理解し、自分自身で作成できるようにしておくこと
	教室外学習の時間（分）	240分
第4回	授業テーマ	お金を貯める方法・増やす方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	預貯金・債券・株式・投資信託といった金融商品について、その特徴やリスクを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前にgoogle classroomに掲載した資料を読んでおくこと 復習：配布プリントを読み直し、十分に理解しておくこと
	教室外学習の時間（分）	150分
第5回	授業テーマ	グループワーク（１）どの金融商品に何%ずつ配分するかを考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回学んだ内容をもとに、将来資産形成を行う際、どの金融商品を選択し、またそれぞれにどの程度配分するかについて、各自の考えをグループで話し合い、発表する。発表内容について相互にフィードバックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：テーマについて、自分の考えをまとめておくこと。必要に応じて、根拠となるデータを調べておくこと 復習：他者の意見と自分の考えの違いなどを咀嚼し、新たな気づきを得ること
	教室外学習の	240分

	時間（分）	
第6回	授業テーマ	所得にかかる税金の計算方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	就職した後、給料から差し引かれる所得税について、その計算方法を学ぶとともに、日本の税制について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前にgoogle classroomに掲載した資料を読んでおくこと 復習：配布プリントを読み直し、十分に理解しておくこと
	教室外学習の時間（分）	150分
第7回	授業テーマ	日本の社会保険制度
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	就職した後、給料から差し引かれる社会保険料について、その計算方法を学ぶとともに、社会保険の給付についても理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前にgoogle classroomに掲載した資料を読んでおくこと 復習：配布プリントを読み直し、十分に理解しておくこと
	教室外学習の時間（分）	150分
第8回	授業テーマ	グループワーク（２）日本の税と社会保険はどうあるべきかを考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第6回・第7回で学んだ内容をもとに、日本における税金や社会保険の負担と給付の関係について、適切なのかどうか、またどうあるべきなのかをグループで話し合い、発表する。発表内容について相互にフィードバックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：テーマについて、自分の考えをまとめておくこと。必要に応じて、根拠となるデータを調べておくこと 復習：他者の意見と自分の考えの違いなどを咀嚼し、新たな気づきを得ること
	教室外学習の時間（分）	240分
第9回	授業テーマ	リスクに備える保険の仕組み
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生命保険・損害保険について、どのようなリスクに備える商品があるのかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前にgoogle classroomに掲載した資料を読んでおくこと 復習：配布プリントを読み直し、十分に理解しておくこと
	教室外学習の時間（分）	150分
第10回	授業テーマ	グループワーク（３）保険に加入すべきかを考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回学んだ内容をもとに、将来リスクに備えるために保険に加入すべきか、加入するならばどのような保険を選ぶか、また加入しない場合はその理由について、各自の考えをグループで話し合い、発表する。発表内容について相互にフィードバックを行う。

	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：テーマについて、自分の考えをまとめておくこと。必要に応じて、根拠となるデータを調べておくこと 復習：他者の意見と自分の考えの違いなどを咀嚼し、新たな気づきを得ること
	教室外学習の時間（分）	240分
第11回	授業テーマ	住宅を購入する際の基礎知識
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	不動産を購入した場合に必要となる、保有中の負担や、自分で家屋を建築する場合に知っておくべき建築基準法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前にgoogle classroomに掲載した資料を読んでおくこと 復習：配布プリントを読み直し、十分に理解しておくこと
	教室外学習の時間（分）	150分
第12回	授業テーマ	グループワーク（４）家は買う？借りる？その違いを考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回学んだ内容をもとに、将来住む住宅について、買う場合と借りる場合の違い、費用負担以外の住宅に対する希望を含め、各自の考えをグループで話し合い、発表する。発表内容について相互にフィードバックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：テーマについて、自分の考えをまとめておくこと。必要に応じて、根拠となるデータを調べておくこと 復習：他者の意見と自分の考えの違いなどを咀嚼し、新たな気づきを得ること
	教室外学習の時間（分）	240分
第13回	授業テーマ	財産をもらうこと（贈与）と引き継ぐこと（相続）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢社会である日本においては、金融資産の偏在が問題になっていることを理解する。若年層である学生は受け継ぐ側として贈与や相続について基礎知識を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前にgoogle classroomに掲載した資料を読んでおくこと 復習：配布プリントを読み直し、十分に理解しておくこと
	教室外学習の時間（分）	150分
第14回	授業テーマ	グループワーク（５）日本人のお金を若年層に配分する施策を考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回学んだ内容をもとに、若年層に資金を移転するためにはどのような施策が考えられるかなどについてグループで話し合い、発表する。発表内容について相互にフィードバックする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：テーマについて、自分の考えをまとめておくこと。必要に応じて、根拠となるデータを調べておくこと 復習：他者の意見と自分の考えの違いなどを咀嚼し、新たな気づきを得ること。定期試験に備え、これまでの授業内容をすべて総復習しておくこと。
	教室外学習の	300分

	時間（分）	
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学生へのフィードバック方法

第３回授業において作成する「キャッシュフロー表」は、内容を確認して次週の授業にて返却する。
全５回行うグループワークは、発表後、学生相互でのフィードバックを行い、その後、講師からのフィードバックを行う。

評価方法

ルーブリックを用いて評価を行う（ルーブリックについては初回の授業で配布し、説明するとともに、google classroomに掲示する）。

・「キャッシュフロー表」の作成及び提出（第３回の授業にて実施）。
・「グループワーク全５回」
・「定期試験」

・キャッシュフロー表作成、グループワーク、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
キャッシュフロー表作成	○	○	○	○
グループワーク	○	○	○	○
定期試験	○	○		

評価割合

キャッシュフロー表（30%）、グループワーク５回（30%）、定期試験（40%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

「ファイナンシャル・プランニング入門–for Students－〔第6版〕」日本FP協会編、2023年発行
「10代から学ぶパーソナル・ファイナンス」日本ファイナンシャル・プランナーズ協会編

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の基盤としての各種制度（社会制度・税制・社会保険・経済金融）を理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けるこ

とができる。
【技能・表現】ライフプランニングなどの専門的技能（技術）をもって、次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

学生へのメッセージ

私たちが生きていくために、お金との関わりは切り離すことはできません。社会に出る前の今だからこそ、広く一般論として学ぶことが可能です。より賢い人生設計を行うために、自分の問題として、お金に関することを学びましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	金融機関で20年以上の実務経験があり、ファイナンシャル・プランナー上級資格を持つ教員が、理論の説明に加え、具体的な資産形成の手法や考え方について講義する。
アクティブ・ラーニング	○	キャッシュフロー表作成により、社会人になってから目標を実現するために行う、資産形成などについて具体的にイメージできるようにする。 グループワークにおける意見交換、発表により、主体的な学びを得ることができる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01110431
講義名	情報伝達と表現
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	小林 直弘	指定なし

ナンバリング

G22110C21

授業概要(教育目的)

現代社会で重要な能力の一つにコミュニケーション能力がある。情報を正しく理解し、伝えることがコミュニケーションの始まりである。そこで、本授業では、「情報の収集 → 分類 → 情報の再構築 → 情報の可視化」の流れるプロセスを理解し、如何に情報の表現を行うかを講義や事例を用いて説明を行う。また、グループワークを用いて、実際に情報を収集し、分類、情報の可視化を演習形式で行い、コミュニケーションを理解することを目的とする。

履修条件

上級生を優先する。また大学のPCの保有台数により定員は決定する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	情報を収集する方法や画像加工の概念、情報リテラシーの理解力を説明できる
思考・判断の観点 (K)	蒐集した情報の整理と分類の能力を識別し、広告すべき対象の検討と表現方法を判断できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	与えられた課題を理解し、的確に提出し、遊び心を持てるように関与できる
技術・表現の観点 (A)	パソコン作業を通して、画像加工、DTP、美的表現、評価を体現できる

学習計画

回数・授業テーマ

	授業テーマ	講義のオリエンテーション 情報伝達と表現の概要
	学習内容(ｱｸﾃｨ	

第1回	**ﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	情報とは何か？表現とは何か？様々な情報及び表現にさらされる現状を再確認を行う。広義の流れを確認し第一課題「辞典の作成」、第2課題は「広告作成」を行うことを確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「GOOD DESIGN AWARD」をホームページで受賞作品を確認して、各々が気になる作品を見つける。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	広告デザインとコミュニケーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報伝達を主たるものの広告を主題に、その表現方法を理解する。また、各種表現の方法論を読み解く。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：我が国には各種広告に対する賞が存在する。（TCC賞、ADC賞、広告電通賞など）日々目にする広告のよりよいといわれるものを見てみよう。また、各種媒体（テレビ、インターネット、屋外広告）の広告を見てみましょう。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	インフォメーションデザインと実例
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報伝達する媒体を確認し、媒体ごとの意味を考察する。そこで、多岐にわたる情報を収集し、整理し、最低限必要な情報を提示する作業を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習:朝起きてから大学に来るまでの間に多くの情報伝達媒体に遭遇する。（テレビコマーシャル、新聞広告、インターネット広告、雑誌）など気を付けてみて、素敵なものを探す。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	グラフィックデザインの要素（デザイン原理と文字表現）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	伝達手段には画像や文字がありその性質を考察する。画像は「色」で文字は「書体（フォント）」が印象を決定づける基本となる。「色」について色彩学を、文字の重要性を再確認し、書体、大きさ、色、文章表現による差異を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：日常生活のなかに様々な色に遭遇する。気分によりその受け取り方は変わるが、自分にとって好きな色を見つけ、携帯電話などで写真に収める。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	グラフィックデザインの要素（画像加工）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	表現すべき情報を伝達するために画像を利用することが多々ある。写真などの画像の原理を確認し、DTP作業を行い、方法を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：スマートフォンやプリント倶楽部など各種写真加工ができるツールがある。写真加工による効果を考察する。 復習：各人の課題の情報を収集する。

	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	グラフィックデザインの要素（法的規制）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	表現は自由であるべきであるが、我が国における法的規制が存在する。写真や制作物には著者保護のための著作権などである。伝達する際の注意点などを学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：著作権法、知的財産基本法、ベルヌ条約など各種著作者を保護する法律をホームページ上で検索し概要を確認する
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	情報伝達と表現の実践（情報収集とターゲットの検討）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第1回から7回にかけて情報伝達と表現の基礎をPC作業を通して実施した。そこで、身近な対象（家政学院大学現代生活学科の広告）を伝達するための方法を検討する。そのためにグループワークとする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：作成している課題を完成させ、印刷を行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	情報伝達と表現の実践（コンセプトの作成）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	伝達するためにはコンセプトが必要となる。コンセプト作成のための情報の整理方法を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習；それぞれが日常で気になる広告を探しそのコンセプトを考察し、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	情報伝達と表現の実践（中間発表）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成したコンセプトを基にグループごとに方向性を講師に発表し、エスキースを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：コンセプトを整理して、企画書としてまとまる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	情報伝達と表現の実践（キャッチコピーの作成）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	方向性（コンセプト）を基に情報を再度収集し、必要な文字を検討しパソコン作業を学び、作成する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：コンセプトにあう文字情報をグループ内で議論し、作成若しくは撮影を行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	情報伝達と表現の実践（画像加工）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	方向性（コンセプト）を基に情報を再度収集し、必要な画像を検討し、表現方法を考察し、パソコン作業を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：コンセプトにあう画像をグループ内で議論し、作成若しくは撮影を行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	情報伝達と表現の実践（制作物の校了と校正）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	方向性（コンセプト）を基に採取した情報をとりまとめ、適切な形で表現を行い完成を目指す。また完成した広告物が印刷され製品化するまでの流れを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：作成した作品を再確認し校正を行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	情報伝達と表現の実践（プレゼンテーション資料の作成）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した伝達物は、他者に説明し理解をしてもらう必要がある。そのため、説明資料の作成する方法論を学び、次回の発表のための資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習；我が国には各賞レースが存在する。その際使用されるプレゼンテーション用紙を検索し確認する。また2025年に開催予定の大阪万博誘致プレゼンテーションを検索し確認する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	情報伝達と表現の実践（プレゼンテーション）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した伝達物や他グループの作成物を自己評価し、価値の所在を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：プレゼンテーション資料を作成し、印刷を行う。サイズはA3とする。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

なし

学生へのフィードバック方法

課題1および２において提出もしくは発表後、講評を行う。

評価方法

・講義では、基礎から実践まで行うため、各種レポート、第一課題は知識・理解、思考・判断の基礎部分を行い、第2課題は総合力を見る
・但し４回以上の欠席、第2課題未提出もしくは欠席の場合は単位は修得できません

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
各種レポート	○			
課題１	○	○	○	○
課題２	○	○	○	○

評価割合

各種レポート１０%、第一課題２０%で基礎点として、第2課題は総合力として７０%（内訳作成物４０%、プレゼンテーション資料３０%）とする。

使用教科書名(ISBN番号)

なし。適宜レジュメを配布します。

参考図書

ヴィクター・パパネック著阿部公正翻訳『生きのびるためのデザイン』,1974.8.1
各種デザイン大賞受賞作品掲載ホームページ（各自で興味ある分野で検索のこと）
各種デザイン大賞受賞作品

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
【技能・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる。次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー

授業終了後30分程度

学生へのメッセージ

現代社会には情報にあふれています。普段見ている書籍、新聞、雑誌、そしてCMなどの情報媒体がどのように表現して、何を伝えたいのか注意してみてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は建築分野で企画立案プレゼンテーションを業務で実施している。その中で使用するノウハウを提供する。
アクティブ・ラーニング	○	講義と共にパソコン作業を取り入れ、講義広義内で得た知識をその場で実践し、技術を獲得する。
情報リテラシー教育	○	情報を収集し使用する際の法的拘束や倫理観を講義し理解を促す
ICT活用	○	講義の性質上、インターネットを利用し情報を収集し、ネットワークの基礎を学び、作成物の提出などで利用する。

講義コード	G01110531
講義名	家庭電気・機械・情報処理
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	吉野　和芳	指定なし

ナンバリング

G32204C21

授業概要(教育目的)

私たちの身の回りにある家電製品をはじめとする機器は，大小さまざまなコンピュータによって制御され，電気エネルギーを熱や動力に変えて動作している．この授業では，身の回りにある電気機器における機械的な技術，電気的な技術，および，コンピュータによる制御技術に関して，その基本原理としくみについて解説する．また，コンピュータによる制御技術において最近のトレンドとなっている人工知能（AI）についても紹介する.

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	コンピュータと身の回りにある電気機器に関して基本的な原理を説明できる.
思考・判断の観点 (K)	身の回りにある電気機器で利用されている技術や原理を推測できる.
関心・意欲・態度の観点 (V)	生活している中で目にする電気機器のしくみへの興味を持つことができる.
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

家庭電気・機械・情報処理

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰ	

第1回	ﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本講義で扱う内容についての概要を説明するとともに，身の回りにある家電製品や機器について考える.
	教室外学習(予習・復習)の内容	身の回りある機器，普段使っている機器にどんなものがあるか挙げられるように調べる.
	教室外学習の時間(分)	190
第2回	授業テーマ	コンピュータのしくみ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンピュータの種類やコンピュータの内部構造，動作原理について映像や写真などを使って説明する.
	教室外学習(予習・復習)の内容	Webなどでコンピュータが使われているもの，コンピュータの恩恵を受けていることについて調べる.
	教室外学習の時間(分)	190
第3回	授業テーマ	入力装置の種類としくみ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンピュータへデータを入力する装置とその原理について映像や写真などを使い説明する.
	教室外学習(予習・復習)の内容	Webなどで入力装置としてどんなものがあるか調べる.
	教室外学習の時間(分)	190
第4回	授業テーマ	出力装置の種類としくみ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンピュータで処理した結果を出力する装置とそのしくみについて映像や写真を利用して説明する.
	教室外学習(予習・復習)の内容	Webなどで出力装置としてどんなものがあるか調べる.
	教室外学習の時間(分)	190
第5回	授業テーマ	記憶装置の種類としくみ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンピュータなどでデータを保存しておくときに利用する記憶装置とそのしくみについて映像や写真を利用して説明する.
	教室外学習(予習・復習)の内容	Webなどで出力装置としてどんなものがあるか調べる.
	教室外学習の時間(分)	190
第6回	授業テーマ	ソフトウェアとマルチメディアについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	スマートフォンで利用しているアプリをはじめとするソフトウェアやそのソフトウェアで作成・利用するマルチメディアデータについて説明する.
	教室外学習(予習・復習)の内容	Webなどでマルチメディアとしてどんなものがあるか調べる.
	教室外学習の時間	190

	（分）	
第7回	授業テーマ	ネットワークについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターネットなどを閲覧するときなどに利用しているネットワークの基本原理，および，そこで使われる機器について説明する．また，コンピュータウィルスやその危険性に関しても説明する．
	教室外学習(予習・復習)の内容	Webなどでネットワークに関連する機器，コンピュータウィルスにどんなものがあるか調べる．
	教室外学習の時間（分）	190
第8回	授業テーマ	センサの種類としくみ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	私たち人の五感に相当するセンサとその原理，それらが利用されている機器について説明する．
	教室外学習(予習・復習)の内容	Webなどでセンサにどんなものがあるか調べる．
	教室外学習の時間（分）	190
第9回	授業テーマ	電気エネルギーの熱変換を利用した家電機器のしくみ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	電気エネルギーを熱エネルギーに変換することで動作する身の回りの家電機器とその原理について説明する．
	教室外学習(予習・復習)の内容	Webなどで電気を変換した熱エネルギーを利用している家電機器に関して調べる．
	教室外学習の時間（分）	190
第10回	授業テーマ	電気エネルギーの動力変換を利用した家電機器のしくみ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	電気エネルギーを動力エネルギーに変換することで動作する身の回りの家電機器とその原理について説明する．
	教室外学習(予習・復習)の内容	Webなどで電気を変換した動力エネルギーを利用している家電機器に関して調べる．
	教室外学習の時間（分）	190
第11回	授業テーマ	動きを伝えるしくみ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動力エネルギーを機械的に伝えたり，運動の方向や速度を変えたりする機械要素や機構について説明する．
	教室外学習(予習・復習)の内容	Webなどで機械要素や機構の種類にどのようなものがあるか調べる．
	教室外学習の時間（分）	190
第12回	授業テーマ	乗り物のしくみ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自動車や電車などの乗り物の動力に使われているエンジンやモータについての基本原理について説明する．また，電気自動車やハイブリットカー，電動アシスト自転車などについても説明する．

	教室外学習(予習・復習)の内容	Webなどで乗り物，および，その動力源についてどんなものがあるか調べる.
	教室外学習の時間(分)	190
第13回	授業テーマ	人工知能（AI）について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人の思考をコンピュータで実現した人工知能（AI）の種類や基本原理について説明する.
	教室外学習(予習・復習)の内容	Webなどで人工知能（AI）を利用したものにどのようなものがあるか調べる.
	教室外学習の時間(分)	190
第14回	授業テーマ	まとめと学習到達度の確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学んできた機器の基本原理や仕組みについての学習到達度を確認するためのテストを実施し，終了後，そのテストの設問について解説を行う.
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業で配布した資料や授業内で説明した内容を確認する.
	教室外学習の時間(分)	190

学生へのフィードバック方法

課題について，採点の後，授業中に講評を行う.

評価方法

毎回課すミニットペーパー，および，期間内に数回課すレポート課題，授業内に行うまとめテストの結果から総合的に評価する.
なお，成績評価はルーブリックに基づいて行います．ルーブリックはGoogle Classroomで提示します.

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ミニットペーパー	○		○	
課題	○	○	○	
まとめテスト	○	○		

評価割合

平常点（10%），ミニットペーパー(20%)，課題(10%)，まとめテスト(60%)の総合評価

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

中学校の技術・家庭の教科書（授業内で紹介する）

ディプロマポリシーとの関連

［知識・理解］　社会の基盤として「質の高い生活」とは何かを理解できる.
［思考・判断］　生活の諸問題を自ら発見し分析し，問題解決に導く考察をすることができる.

［関心・意欲・態度］　生活者の視点に立ち，生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる.

学生へのメッセージ

身の回りにある家電製品や機器を利用するだけでなく，その原理やしくみに興味を持ち，調べ，理解する楽しさを感じて欲しい．また，それらの機器の利点や欠点を探り，その改善策などについても考えられるようになって欲しい.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	映像やCGアニメーションなどを使ったわかりやすい原理説明などを行う.

講義コード	G01110631
講義名	企業と会計
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	古徳 佳枝	指定なし

ナンバリング

G32312C21

授業概要(教育目的)

当授業では、企業の経済取引に関して利益その他を報告する「会計情報」について学び、実際に利用できるようになることを目指す。具体的には、会計の基礎となる複式簿記の初歩的なルールを学び、財務諸表の構造を理解すると共に、財務諸表の分析能力の育成を目的とする。また、企業分析を通じて、実社会における企業活動について具体的にイメージし、将来「就職先の選定」「自身の仕事における資金管理」「投資先選定」等につながることも合わせて目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	企業会計とは何かを理解する。簿記の基本ルールを理解し、記帳と財務諸表作成ができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	財務諸表の数値を使って各社の安全性や収益性についての分析ができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分自身や社会にとって、各企業がどのような役割を果たしているかについて関心を持ち、情報収集が行える。
技術・表現の観点 (A)	企業のホームページ等から会社概要、財務諸表データ等を取得し、分析・発表することができる。

学習計画

	授業テーマ	企業と会計
	学習内容(ｱｸ	

第1回	ﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	企業活動における会計の意義や企業の資金調達方法について学ぶ。自分が起業するとしたら、どのように資金調達するかを考える。当授業のルーブリックを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前にgoogle classroomに掲示した資料を読んでおくこと。また、関心のある会社を１つ選んでおくこと 復習：企業の資金調達方法について理解すること
	教室外学習の時間（分）	150分
第2回	授業テーマ	損益計算書の構造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	企業の生み出した利益の額を計算する「損益計算書」の構造を理解する。実際の企業の損益計算書を取り上げ、記載されている数値や計算方法を実践的に、学生が持参したＰＣにエクセルで入力しながら理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前にgoogle classroomに掲示した資料を読んでおくこと 復習：損益計算書の構造を理解すること
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	貸借対照表の構造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	企業のある時点での財産状況を示す「貸借対照表」の構造を理解する。実際の企業の貸借対照表を取り上げ、記載されている数値や計算方法を実践的に、学生が持参したＰＣにエクセルで入力しながら理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前にgoogle classroomに掲示した資料を読んでおくこと 復習：貸借対照表の構造を理解すること
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	取引の仕訳
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	企業の日々の経済活動を記録するための「仕訳」について学ぶ。具体的な事例に基づいて、学生が持参したＰＣを使い、エクセルで仕訳の練習を行う。授業の最後に第１回確認テスト（仕訳の問題、紙ベース）を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前にgoogle classroomに掲示した資料を読んでおくこと 復習：第１回確認テストの問題を含め、仕訳を間違わずにできるよう、復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	総勘定元帳～精算表の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	初めに、前回実施した第１回確認テストを返却し、「仕訳」の解説を行う。 仕訳データから、総勘定元帳、試算表、精算表、PL・BSを作成する流れについて学ぶ。授業では具体的な事例に基づいて、学生が持参したＰＣ上のエクセルで練習を行い、最後に演習として各自が精算表作成までの一連の流れを作成し、作成データを提出する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前にgoogle classroomに掲示した資料を読んでおくこと 復習：次週の第２回確認テストに備え、総勘定元帳～精算表作成までの流れが自分で作成できるようにしておくこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	分析対象企業の選定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	冒頭、第２回確認テスト（精算表）を行う。 第14回で行う「企業分析発表」の概要を理解し、自分が分析比較したい企業２社を選定する。選定にあたっては、学生が持参したＰＣを用い、各自ＨＰなどで情報収集を行い、選定理由などを記入したエクセルデータを最後に提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：仕訳から精算表の作成までの一連の流れができるようにしておくこと 復習：分析対象企業について、ＨＰなどで自分や社会にとってどのような役割を果たしているか調べておくこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	**授業テーマ**	貸倒引当金と減価償却
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	初めに、前回の第２回確認テストを返却し、フィードバックを行う。 学生が持参したＰＣでエクセルを用いて、決算整理における「貸倒引当金」「減価償却」などの処理について学び、最後に演習データを提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前にgoogle classroomに掲示した資料を読んでおくこと 復習：次週行う第３回確認テストに備え、減価償却費計算が確実にできるようにしておくこと。返却された第２回確認テストの間違えた部分について見直しておくこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	キャッシュフロー計算書
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	初めに、第３回確認テスト（減価償却費計算）を行う。 学生が持参したＰＣのエクセルを使い、キャッシュフロー計算書の作成方法や分析の仕方を学び、最後に演習データを提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前にgoogle classroomに掲示した資料を読んでおくこと 復習：キャッシュフロー計算書の作成方法や意味について理解しておくこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	連結財務諸表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	初めに、前回の第３回確認テストを返却し、フィードバックを行う。 親会社と子会社の決算内容を合算して作成する「連結財務諸表」の作成方法について、学生が持参したＰＣのエクセルを用いて学び、最後に演習データを提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前にgoogle classroomに掲示した資料を読んでおくこと 復習：連結財務諸表が作成できるようにしておくこと。返却された第３回確認テストで間違えた部分について復習しておくこと

	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	財務諸表分析（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	貸借対照表を使った安全性分析と損益計算書を使った収益性分析について学ぶ。具体的には、学生が持参したＰＣのエクセルを用いて、自己資本比率、流動比率、固定比率およ売上高利益率についての算出方法を学び、最後に演習データを提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前にgoogle classroomに掲示した資料を読んでおくこと 復習：学習した指標の計算ができるようにしておくこと。次回の第４回確認テストに備え、学んだ計算式を覚えておくこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	財務諸表分析（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	貸借対照表と損益計算書を使った総合的な企業分析について学ぶ。具体的には、学生が持参したＰＣのエクセルを用いて、自己資本利益率、総資本利益率およびレバレッジ分析の算出方法を学び、演習データを提出する。授業の最後に、第４回確認テスト（財務諸表分析計算）を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前にgoogle classroomに掲示した資料を読んでおくこと 復習：第４回確認テストを見直し、第11回と第12回で学んだ財務諸表分析の各指標について、確実に計算できるようにしておくこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	企業分析演習（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回実施した、第４回確認テストを返却し、フィードバックを行う。 自身が選定した２社について、学生が持参したＰＣを用い、企業ＨＰで財務諸表データの取得を行う。取得した数値を表に入力、複数の指標を計算し、完成した表を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：第11回・第12回で学習した指標の計算ができるようにしておくこと 復習：分析対象企業について、時間内に表が完成させられなかった場合は、次回までに数値や算式を入力しておくこと。返却された確認テストの間違えた部分について復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	300分
第13回	**授業テーマ**	企業分析演習（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学生が持参したＰＣで、前回作成した企業２社の財務諸表分析データを用いて、２社比較や時系列比較による企業分析を行う。分析データをわかりやすく伝えるためのプレゼンテーション資料（パワーポイント）を作成し、発表内容を準備する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：分析対象企業２社のデータ収集・指標計算を済ませ、分析準備をしておくこと 復習：分析対象企業２社に関する、最終的なプレゼンテーション資料を完成させ、時間を効率的に使った発表ができるよう、準備しておくこと
	教室外学習の時間	300分

	（分）	
第14回	**授業テーマ**	企業分析発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学生が持参したＰＣ上に、自身が作成したプレゼンテーション資料を用いて、5-10分のプレゼンテーションを行う。プレゼンごとに教員からフィードバックを行うと共に、他の学生からもコメントをもらう。学生は自分の発表を行うだけでなく、他者のプレゼンテーションに耳を傾け、コメントを行う必要がある。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：他者に伝わるプレゼンとなるように、資料と原稿を準備する 復習：自身および他者の行ったプレゼン内容の内容を振り返り、企業分析の意味や有用性を理解する。授業全体を通じて学んだことを復習し、理解が不十分な点については、エクセルや確認テストの見直しを行って、知識定着を図る
	教室外学習の時間（分）	150分

学生へのフィードバック方法

・毎回提出されるエクセルデータについて、次週の授業にてコメントする。
・授業中に実施する４回の確認テストは、次週の授業の初めに返却の上、正解の解説とフィードバックを行う。
・最終回での企業分析発表については、各プレゼンテーションの発表直後に、良い点、改善点等についてフィードバックを行う。

評価方法

・毎回提出されるエクセルデータについて、授業をきちんと聞いて正しい計算式が入力できているか、などの点から教員が評価する。
・確認テストは、前回までの授業内容から出題し、授業内に計４回実施する。１回当たりの問題数は５問～10問で、「仕訳」「精算表」「減価償却計算」「財務分析指標計算」を対象とする。
・最終回での企業分析発表に対しては、「複数の分析指標を正しく計算し、分析に用いているか」「２社比較と時系列比較ができているか」「説得力あるプレゼン内容となっているか」の３つの観点から教員が総合評価する。
・当授業はルーブリックを用いて評価を行う（ルーブリックについては初回授業で説明する）。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
毎回提出のエクセルデータ	○	○	○	○
確認テスト４回	○	○		○
企業分析発表	○	○	○	○

評価割合

毎回提出のエクセルデータ（30%）、確認テスト４回（40%）、企業分析発表（30%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会における生産主体である「企業」について理解し、現代生活の諸問題を理解できる

【思考・判断】企業を含めた社会の諸問題を自ら発見・分析し、問題解決に導く考察をすることができる
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる
【技能・表現】次世代につながるより良い生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる

学生へのメッセージ

会計というと難しいイメージがありますが、この授業は初心者向けの内容となっていますので、苦手意識を持たず積極的に参加して下さい。エクセルでデータ入力しながら自然に数字に親しみ、簿記の基礎的な内容が身につきます。これから就職活動を始めようという人は検討先企業の分析にも役立ちます。社会に出る前の今こそ、企業や社会についてより深く理解するために、簿記や企業会計について一緒に学びましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	運用会社での勤務経験を有し、証券アナリスト資格を持つ教員が、企業分析について具体的かつ実践的に指導する。
アクティブ・ラーニング	○	学生がひとりひとりパソコンでの入力・検索・資料作成を行い、アクティブに学ぶ。最終授業では、各自作成した資料を用い、他者にわかりやすくプレゼンする。
情報リテラシー教育	○	ＷＥＢサイトから必要な情報を入手し、その情報を用いて分析を行う。エクセルやパワーポイントを活用する。
ICT活用	○	パソコン教室のシステムを用い、「教員から配布した資料に学生が入力して返信する」「教員からの質問に答える」など双方向型授業を行う。

講義コード	G01110731
講義名	家庭経営学概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	井上 清美	指定なし
教授	佐野 潤子	指定なし

ナンバリング

G12201C21

授業概要(教育目的)

人間が人間らしく生きる拠点が家庭であり、家庭生活を中心とした家族・コミュニティの営みが家政＝家庭経営である。現代社会における家庭経営の課題を、「家族」「消費者」をキーワードに、概説する。特に、親と子、夫と妻など家族を核とする人と人の関係や、仕事や消費といった日々の生活と生命の再生産の営みを中心に現代社会の危機的状況を生活者の視点から見直し、誰もが安心してくらせる、持続可能性のある消費者市民社会につくりかえる方法を、自分の生活設計と重ねて考える契機とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家庭生活が個人にとって、社会にとってどのような役割を持っているかを理解する。
思考・判断の観点 (K)	多様かつ急激な社会変動の中で、どのように家庭生活を営むかを自律的に構想できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分の現在の家族・家庭のあり方を見つめ、広い視野で将来設計に取り組める。
技術・表現の観点 (A)	人間の生き方や家族・家庭について豊かな感性と言葉で表現できる。

学習計画

	授業テーマ	現代社会における家庭経営の枠組み

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭経営学の定義、家族・家政学の定義、家庭経営学で頻繁に用いる概念や、SDGｓの活動を理解し、持続可能な社会と家政学・家庭経営・家庭科教育について考える授業であることを概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト序章「今日の生活経営」第3章「生活の組織と単位の変化」をよく読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	210分
第2回	授業テーマ	家族と法律・生活時間のとらえ方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①家族に関わる法律（家族法）の内容とそれがいかに家庭生活を規定するかを確認する。②生活時間を生活行動の量や時間配分でとらえ、ペイドワーク、アンペイドワークに注目し、ジェンダー格差を解消する取り組みを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章「家族に関わる法律」第6章「生活時間のとらえ方」をよく読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	人間関係のとらえ方と関係性の実態
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活組織における人間関係のとらえ方、家事育児の分担、介護を受ける側と介護する側の関係などさまざまな関係性・ネットワークの実態を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	第8章をよく読み、生活を人間関係でとらえるにはどのような方法があるのか、考えて授業をうける。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	生活と地域共生社会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活を支える地域の取り組み、多様な人々の暮らしの場としての地域の事例を知り、ローカルとコミュニティの課題、家族構成員とコミュニティの関係に留意して支えあうコミュニティ、地域共生社会を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第5章pp52～62をよく読んでおくこと。また授業内で提起された課題に対して調査し、その結果をまとめる。
	教室外学習	

	の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	働くこと・職業をもつこと
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	産業構造の変化・少子高齢化・グローバル化による働き手の多様化により、不安定雇用と収入問題など社会問題が複雑化する一方、これまでの働き方に規定されないオルタナティブな働き方もでてきている。支える・支えられるの２分法ではなく、共生保障という考え方も提示されているなかで、自分はどのような働き方をするのか考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第11章「働くこと・職業をもつこと」をよく読み、新聞記事などを参照して、レポートを作成し提出する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	生活の社会化と家事労働
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活の社会化は何を家庭経営にもたらしたのか。家事とは、家事労働とはなにか、コロナ禍で見える家事ばかりでなく見えない家事も注目されている。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第12章「生活の社会化と家事労働」をもとに、情報化・テクノロジーが家事労働に何をもたらしたのかを授業前に考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	生活と福祉
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会保障制度のしくみと地域共生社会、福祉と情報・テクノロジーの関係を事例をもとに考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第7回までに学んできた内容をふまえ、生活保障における互助・共助を自分の考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	生活とは何か～新しい価値・規範の創造へ～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コミュニティ エシカル消費と食品ロスなど現代社会・生活をとりまく状況を、主に統計資料を用いて考察する。グラフの読み取り方、その現象の持つ意味について学ぶ。
	教室外学習(予習・	授業前に第1章「生活とは何か」を良く読んでおくこと。

	復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	生活経営の方法と生活経営学研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭経営を取り巻く社会環境と生活意識・価値観の変化を確認し、生活経営の範囲と方法を学び、生活経営学の研究し、研究の対象とその方法について概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校・中学校・高等学校で学んだ家庭科の授業を振りかえってくること。授業前に教科書を良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	家庭生活の経済、共働き世帯の家計、高齢者世帯の家計
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の家庭経済の時代変化を産業構造や家族の変化と関連させながら概説する。家計でモノの消費の他にサービス消費の割合が増大している現状を把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	外食 食材購入、調理、片付け、心地よい空間などのサービスの利用について、新聞やSNSの記事を読む。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	生活と契約・消費者問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費者問題の現状を学ぶ。18歳から成人としてさまざまな消費者トラブルに注意が必要になることを自覚する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	該当する教科書の章は事前に読む。最近の消費者問題に関するトピックスを2つ以上挙げられるようにする。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	ライフスタイルと環境
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	SDGｓの課題から、このまま大量生産・大量消費型の経済でよいのか、環境問題を考える。

第12回	用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	地球温暖化、フードロスなど環境問題に関する新聞、SNSの記事を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	持続可能な社会の生活設計
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本では高度経済成長期に、 夫、妻、二人の子どもの「標準家族モデル」（山田2005）が確立され、夫は仕事、妻は家事・子育てを標準的なライフコースとしてきたが、現在多様なライフコースが出現していることを知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	多様なライフコースに備え、大学生活でやっておくべきことを資料を収集しながら考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの内容をもとに、総合的な家政学の視点から、現代生活の諸問題を理解し、問題解決に導くアプローチについて考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1回から第13回で提出した授業レポートを読み返し、最終レポートの構想をつくる。
	教室外学習の時間（分）	210分

学習計画注記

講義形式を中心としますが、ワークショップも行います。

学生へのフィードバック方法

授業内で提出するレポート内容について、次週に受講者全員と情報を共有する。

評価方法

授業内レポートでは、授業の内容を理解し授業課題に対し関心を持って取り組んでいるかという観点を中心に評価する。期末試験では、知識・理解を確認する内容と、思考をまとめる最終レポートで構成される。期末試験で何を評価されるのか、理解し周到に準備しているかを評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業内レポー	○		○	

ト				
期末試験	○	○	○	○

評価割合

授業ごとに提出するレポート（50%）
期末試験・最終レポート（50%）

使用教科書名(ISBN番号)

『持続可能な社会をつくる生活経営学』日本家政学会生活経営学部会 朝倉書店 2020年

参考図書

授業の中で紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導 く考察をすることができる。

オフィスアワー

井上前期金曜日３限（千代田三番町1701ゼミ室）
佐野前期水曜日2限（千代田三番町1805ゼミ室）
アポイントを取り時間調整を行うこと。

学生へのメッセージ

生活者としての視点から現代の家族問題や消費者の様相を相対化して考察できる基盤を培ってほしいと念願します。
家庭科の教員になるための必修科目です。家庭科教育法をうける前に履修してください。消費者力検定やファイナンシャルプランナーの資格を取るなどチャレンジしていくための基礎的科目になります。
第1回から第14回までの授業のうち、3分の2以上の出席が必須です。条件に満たない場合は、期末レポートを提出できません。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション等のワークショップを通して他者の考え・意見に触れ、自身の思考を錬磨する機会を持つ。
情報リテラシー教育	○	口頭発表に際して効果的な資料作成を指導する。
ICT活用		

講義コード	G01110831
講義名	生活経済学概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	佐野 潤子	指定なし

ナンバリング

G12101C21

授業概要(教育目的)

生活とは何か、労働力の再生産が暮らしの中でどのように行われているのか、生きる力の基盤となる日常生活や地域の暮らしに必要な知識と技術を概説する。また、私たちはどのように消費生活様式を選び取っていけばよいのかをという視点と、生活経営力を身に着けることを目的とする。そのため、アメリカの10代の学生が読む金融、経済、生活設計に関する本を読み、アメリカの教育と日本の家庭科教育を比較検討も試みる。

履修条件

毎回の授業に出席し、課題に前向きに取り組むこと。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	安全で豊かな消費生活を送るための基本事項を修得する。日本とアメリカの金融・経済・生活設計に関する教育内容を認識する。
思考・判断の観点 (K)	アメリカと日本の教育内容を比較検討することで、幅広い知識を深める。日本の家庭科教育における金融教の内容、教材を考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	修得した知識を活かし、安全で豊かな消費生活のために必要な行動をとることができる。家庭科教育の消費者教育、金融教育の分野などに取り入れる。
技術・表現の観点 (A)	担当分のテキストを和訳し、パワーポイントを作成してプレゼンテーションができる。

学習計画

家政学概論

	授業テーマ	ガイダンス 生活経済を学ぶということ

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全体の授業予定を確認し、今後の授業での段取りを説明する。テキストの担当を割り当て、プレゼンの方法を説明する。受講者の人数によって変更があるが、前期で一人1回から3回の報告、発表を予定している。 オンデマンド授業
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回の割り当てのページを読んでくること。
	教室外学習の時間（分）	授業前180分
第2回	授業テーマ	資本主義における生産と消費
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	私たちが生活している経済体制である資本主義経済の成立の歴史と、現在の日本社会の諸問題を解明するために必要な基礎的知識を身につける。 今後の発表のスケジュールを決める。対面授業の予定。
	教室外学習(予習・復習)の内容	該当する教科書のページを読んでくること。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第3回	授業テーマ	家族・世帯、ライフコース
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活経済に大きく影響を与える家族や世帯、生き方がどのように変化してきたかを概観する。 オンデマンド授業の予定
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	労働環境の現状と企業の社会的責任
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	労働環境の現状を把握し、変化する労働環境を働き方改革、雇用関係に寄らない働き方から考察する。オンデマンド授業の予定。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	家計収入・支出の構造に見るジェンダー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	世帯における女性と男性の経済的地位に注目し、家計関連統計からジェンダーの視点で現在の問題点を考察する。オンデマンド授業の予定。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	報告とディスカッション１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	報告者は担当分のテキストの内容を紹介し、日本の学校、家庭内教育と比較検討する。クラスでディスカッションを行う。対面授業の予定。
	教室外学習(予)	報告のあるテキストを読んでおくこと。

	習・復習 の内容	
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	報告とディスカッション２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	報告者は担当分のテキストの内容を紹介し、日本の学校、家庭内教育と比較検討する。クラスでディスカッションを行う。対面授業の予定。
	教室外学習(予習・復習)の内容	報告のあるテキストを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	報告とディスカッション３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	報告者は担当分のテキストの内容を紹介し、日本の学校、家庭内教育と比較検討する。クラスでディスカッションを行う。対面授業の予定。
	教室外学習(予習・復習)の内容	報告のあるテキストを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第9回	授業テーマ	家計の所得格差・貧困と所得再分配
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	政府の所得再分配の機能と日本社会の課題を考える。オンデマンド授業の予定。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	資産形成の変化と金融教育の高まり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	資産形成や信用金融から生じる消費者問題に焦点を当て、金融教育の必要性を考察する。オンデマンド授業の予定
	教室外学習(予習・復習)の内容	報告のあるテキストを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	報告とディスカッション４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	報告者は担当分のテキストの内容を紹介し、日本の学校、家庭内教育と比較検討する。クラスでディスカッションを行う。対面授業の予定。
	教室外学習(予習・復習)の内容	報告のあるテキストを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
	授業テーマ	報告とディスカッション５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	報告者は担当分のテキストの内容を紹介し、日本の学校、家庭内

第12回	**教育・ICT活用を含む)**	教育と比較検討する。クラスでディスカッションを行う。対面授業の予定。
	教室外学習(予習・復習)の内容	報告のあるテキストを読んでおくこと。 授業後に、学習内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第13回	**授業テーマ**	報告とディスカッション６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	報告者は担当分のテキストの内容を紹介し、日本の学校、家庭内教育と比較検討する。クラスでディスカッションを行う。対面授業の予定。
	教室外学習(予習・復習)の内容	報告のあるテキストを読んでおくこと。 授業後に、学習内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの報告内容とディスカッションを整理し、総括する。オンデマンド授業の予定。
	教室外学習(予習・復習)の内容	報告のあるテキストを読んでおくこと。 授業後に、学習内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第15回	**授業テーマ**	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

報告当番ではない回でも必ず、事前に授業で扱われる章は読んでくること。また自身が所有する中学、高校での家庭科の教科書と比較すること。

学生へのフィードバック方法

授業内で課す課題について、適宜フィードバックを行う。

評価方法

・5回以上の欠席の場合、単位は取得できません（受験資格なし）。
・出欠は、毎回確認します。対面式の授業の際は、3回の遅刻は1回の欠席になること、30分以上の遅刻は欠席扱いとしますのでご注意ください。
・出席日数が足りていても、期末レポート未提出の場合は単位を取得できません。必ず1回は英語のテキストの報告をしてください。報告をしなかった場合は出席日数がクリアしていても受験資格なしとなります。
出席、授業への参加態度20
授業内の発表30
期末レポート50

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
課題・定期試験	○	○	○	○

評価割合

出席（第1回から14回までのうち3分の2以上の出席が必要）を重視する。
出席、授業への参加態度20
授業内の発表30
期末レポート50

使用教科書名(ISBN番号)

The Infographic Guide to Personal Finance: A Visual Reference for Everything You Need to Know (Infographic Guide Series) (English Edition) （ISBN978-1-5072-0466-5)

授業の進度によっては別の教科書を追加で指定することがある。授業内でアナウンスする。

参考図書

『ジェンダーで学ぶ生活経済論』伊藤純・斎藤悦子編著ミネルヴァ書房
中学校、高等学校の家庭科教科書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な生活経済学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。

オフィスアワー

前期 火曜 昼休み 水曜2限（1805ゼミ室）
必ず事前にアポを取ってください。

学生へのメッセージ

本授業は担当を決め、受講生のみなさんが順番に担当章を報告していきます。必ず一人、1回から3回（受講生の人数によって変動します）報告していただきますので、毎回予習として次回の授業で扱うテーマの箇所を読んできてください。
この授業は出席を重視します。第1回から14回までの授業回で、3分の2以上の出席が必要です。さらに
担当章の報告がない場合は、期末レポートの提出はできません。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	受講生全員が順番に報告し、毎回報告内容についてクラスでディスカッションを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01110931
講義名	家族関係論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	井上 清美	指定なし

ナンバリング

G12207C21

授業概要(教育目的)

少子高齢化や価値観の多様化が進行する中で、私たちが経験する「家族」は変化し、様々な課題が生じている。生涯発達の視点をふまえ、乳幼児期、子ども期、青年期、壮年期、高齢期のそれぞれのライフステージで生じる事柄や課題を家族関係との関わりでとらえ、解決するための方法を探る。家族関係学を学ぶにあたっての基本的な用語を解説し、現代日本における家族の現状と課題を理論や客観的なデータを使って説明する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	ライフステージに生じる様々な課題を知り、家族関係を理解する上での基本的な知識を得る。
思考・判断の観点 (K)	家族関係の現状や変化の背景を理解し、自分なりに考えた課題解決の方法を提示できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	家族関係における問題の新たな発見や興味・関心を持てる。
技術・表現の観点 (A)	指定された形式でレポートを作成し、発表することが出来る。

学習計画

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第1回	ｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方やねらいを理解する。自分にとっての家族関係をふりかえり、これから学ぶ内容との関わりについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に教科書の全体に目を通し、どのようなことを学ぶのか理解しておく。事後は授業内に提示された課題について小レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	210分
第2回	授業テーマ	生まれる・育つ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもが生まれ育つ社会、発達の基盤としての家族の現状を知る。子どもの基本的生活習慣と家族のかかわり、子どもを取り巻く環境の重要性について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に教科書第1章「生まれる・育つ」を読んでおくこと。授業後は授業内に提示された課題について小レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	子どもが直面している課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在の日本で子どもが直面している問題を知り、その「生きづらさ」を理解する。子どものエンパワメントを高めるために家族に何が必要か考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に教科書第２章「子どもが直面している課題」を読んでおくこと。授業後は授業内に提示された課題について小レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	青年期の自立と親子関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	青年期の特徴と課題を学び、青年期の親子関係の抱える問題を知る。社会的自立に向けた家族関係のあり方について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に教科書第３章「青年期の自立と親子関係」を読んでおくこと。授業後は授業内に提示された課題について小レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	セクシュアリティ、性、生殖
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	多様な性の可能性を知り、若者の性行動や、医療技術の進歩と生殖の変化について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に教科書第４章「セクシュアリティ、性、生殖」を読んでおくこと。授業後は授業内に提示された課題について小レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	パートナーの選択と結婚
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	皆婚社会として知られてきた日本において、結婚がどのように変化しているかを理解する。結婚とは何かを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に教科書第５章「パートナーの選択と結婚」を読んでおくこと。授業後は授業内に提示された課題について小レポートを作成する。

	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	夫婦関係の諸相
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	夫婦関係に関する研究や学説を理解し、夫婦のパートナーシップの現状と課題を知る。ドメスティック・バイオレンスの問題と解決の方向性について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に教科書第６章「夫婦関係の諸相」を読んでおくこと。授業後は授業内に提示された課題について小レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	離婚・再婚とステップファミリー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	離婚の動向を確認し、日本の離婚制度について理解する。再婚にともなうステップファミリーや、離婚・再婚後の家族関係のあり方について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に教科書第７章「離婚・再婚とステップファミリー」を読んでおくこと。授業後は授業内に提示された課題について小レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	子育てと子どもの社会化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	親になる、親であるということについて学説を理解し、母親、父親の子育てが抱える課題を知る。子育てへの社会的支援を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に教科書第８章「子育てと子どもの社会化」を読んでおくこと。授業後は授業内に提示された課題について小レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	ワーク・ライフ・バランス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ワーク・ライフ・バランスについて学び、日本の現状を知る。よりよいバランスを可能にする家族関係とはどのようなものか考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に教科書第９章「ワーク・ライフ・バランス」を読んでおくこと。授業後は授業内に提示された課題について小レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	親のケアにかかわるということ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	親との居住距離とケアのかかわりを確認し、男性の介護や女性の介護の抱える問題を知る。介護と仕事の両立や、ストレスの軽減について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に教科書第10章「親のケアにかかわるということ」を読んでおくこと。授業後は授業内に提示された課題について小レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	高齢者の社会関係と生きがい
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢者を取り巻く社会関係を理解する。ひとり暮らしにともなう不安と問題を知り、幸せな高齢期を過ごすために必要な家族関係について考える。

第12回	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に教科書第11章「高齢者の社会関係と生きがい」を読んでおくこと。授業後は授業内に提示された課題について小レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	支えられて生きる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	要介護高齢者の現状を知り、介護意識や介護保険制度について理解する。親しい人々との死別に適応するために何が重要かを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に教科書第12章「支えられて生きる」を読んでおくこと。授業後は授業内に提示された課題について小レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第1回～14回までの学びを振り返り、ライフステージ上に生じる問題と家族関係の関わりについて確認し、問題解決のために必要な制度や環境について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の全体を読み返し、関心を持った事柄についてまとめておく。授業後は授業内に提示された課題についてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	210分

学習計画注記

本授業は「オンデマンド」と「対面」の混合方式の授業であり、授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。詳細なスケジュールについては学期初めに配布する。

学生へのフィードバック方法

小レポートに対する解説は授業内で行う。その他、授業内容の理解をはかるため、各回の最後にアンケートを実施し、結果を次の回で紹介する。

評価方法

・各回で提出される小レポートの内容（自分なりの意見が導き出され、自分の言葉で表明されているか）
・授業半ばで実施する小テストの点数
・期末テストの点数
成績評価はルーブリックに基づいて行う。ルーブリックはクラスルームで提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート作成	○	○	○	○
小テスト	○	○	○	
期末テスト	○	○	○	

評価割合

レポート：50%
小テスト：20%
期末テスト：30%

使用教科書名(ISBN番号)

長津美代子・小澤千穂子編著『新しい家族関係学』建帛社（978-4-7679-1450-3)

参考図書

授業内で提示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」「家族」とは何かを理解 し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる
【思考・判断】生活・家族・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の家族・諸問題について関心を持ち続けることができる
【技術・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる・次世代につながる健やかで心豊かな家 族・生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる

オフィスアワー

火曜日３限 千代田三番町キャンパス 1701ゼミ室

学生へのメッセージ

家族関係論の授業ではライフステージごとに家族の現状や課題を見ていきますが、みなさんは一人ひとり異なる家庭で育ち、家族に対する思いも様々でしょう。「多様性」を大切にしながら、これからの家族のあり方について一緒に考えていきたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01111031
講義名	家庭看護
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	石井 紀子	指定なし

ナンバリング

G22202C21

授業概要(教育目的)

家庭看護の対象は、人間とその生活全般である。したがって、生活体としての人間とかかわるためには、精神・身体・社会生活等広範囲な側面を基盤とした総合的な視点が必要である。
本講義では、日常的にかかりやすい病気や生活習慣病を取り上げ、家庭看護に必要な知識や技術を学習し実践するための基礎を学ぶと同時に、福祉的視点からの生活支援についても学ぶ。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1. 健康とは何かを、ライフサイクルをふまえて説明できるようになる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 健康増進方法や、日常生活における看護方法に興味を持ち、新たな発見ができるようになる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーションと健康の定義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ	授業をどのように進めていくのか、また、学習方法について理解する。 様々な健康の定義について確認し、健康とは何か自分の考えを明ら

第1回	ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	かにする。 授業の終わりに、グーグルクラスルームから振り返り・出席表（自由記述あり）を提出する。 毎回の授業で、デジタル媒体（スマートフォンやPC）を使用します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 ・教科書「はじめに」、第１章(2ページ～6ページ)を読み、内容の理解に努める。テキストが届いていない場合は、他のテキストやインターネットを参考に、健康の定義について調べる。授業の始めに、解説を行う。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。次回授業で振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 各100分
第2回	授業テーマ	からだやこころのしくみを知る
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分のからだやこころのしくみを理解し、健康を保つためにできることを明確にする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 ・人間の体の中(臓器など)が、どのように配置されているのか、また、それらの働きについて調べる。 テキストが届いていない場合は、他のテキストやインターネットを参考にする。授業の始めに、解説を行う。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。次回授業で振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 各100分
第3回	授業テーマ	女性の健康 母子保健と看護
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	女性のからだやこころのしくみを理解し、生活の中でどのような配慮を行う必要があるのか明確にする。また、実践できることを知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 ・女性のからだやこころの特徴を調べる。授業の始めに、解説を行う。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。次回授業で振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 各100分
第4回	授業テーマ	家庭看護の実際① 【家庭看護の技術】 バイタルサイン測定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	正確な、バイタルサイン測定方法を学ぶ。 バイタルサインの正常値を理解し、正常値からはずれた場合の原因を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 ・教科書第2章①(8ページ～14ページ)を読み、バイタルサインの測定方法や正常値を確認する。 授業の始めに、解説を行う。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。次回授業で振り返りを行う。

	教室外学習の時間（分）	予習・復習 各100分
第5回	**授業テーマ**	家庭看護の実際② 【日常生活における看護】 ボディメカニクスと安楽な姿勢
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ボディメカニクスとは何かを理解する。（動画視聴） 安楽な姿勢を保つための工夫を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 ・教科書第2章②の(15ページ～16ページ)を読み、ボディメカニクスや姿勢(体位)について調べる。授業の始めに、解説を行う。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。次回授業で振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 各100分
第6回	**授業テーマ**	家庭看護の実際③ 【日常生活における看護】 栄養と食事
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	健康を維持するための食事と、疾患を抱えた際の食事について、健康増進・看護の観点から理解する。 授業の終わりに、小テスト①（15点満点）を実施 試験範囲：第１回から第６回の授業
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 ・教科書第2章②の(16ページ～19ページ)を読み、栄養素、病院食の内容について調べる。授業の始めに、解説を行う。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。次回授業で振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 各90分
第7回	**授業テーマ**	家庭看護の実際④ 【日常生活における看護】 寝衣交換、清潔保持
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣服の交換や、清潔を保持する理由を理解する。（動画視聴） 衣服の交換方法や、清潔を保持する支援方法を理解できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 ・教科書第2章②の(19ページ～23ページ)を読み、衣服を交換、清潔にする目的をまとめる。 授業の始めに、解説を行う。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。次回授業で振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 各100分
第8回	**授業テーマ**	家庭看護の実際⑤ 【日常生活における看護】 排泄や睡眠のしくみ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	排泄や睡眠のしくみを理解し、リズムが乱れた際の対処方法を考えることができる。（尿取りパットの性能を、演習体験）
		【予習】

	教室外学習(予習・復習)の内容	・教科書第2章②の(23ページ～26ページ)を読み、排泄や睡眠のしくみについて調べる。 授業の始めに、解説を行う。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。次回授業で振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 各100分
第9回	**授業テーマ**	家庭看護の実際⑥ 【日常生活における看護】 罨法・消毒・服薬
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	罨法・消毒・服薬準備を実践を通して、家庭で行える支援や、対処方法の判断ができる。（動画視聴）
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 ・教科書第2章②の(26ページ～32ページ)を読み、罨法・消毒・服薬の種類と方法をまとめる。 授業の始めに、解説を行う。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。次回授業で振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 各100分
第10回	**授業テーマ**	家族が不調を訴えたときの看護 ①体調の不良
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体調不良に対して、原因や症状の判断や、対処方法の検討、医療機関への受診など適切な対応ができるよう理解を深める。（動画視聴）
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 ・教科書第3章①(34ページ～55ページ)を読み、症状別の原因や対処方法をまとめる。 授業の始めに、解説を行う。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。次回授業で振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 各90分
第11回	**授業テーマ**	家族が不調を訴えたときの看護 ②体調以外の不調
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体調以外の不調に対して、ライフサイクルをふまえた原因や症状の判断、対処方法の検討、医療機関への受診など適切な対応ができるよう理解を深める。（動画視聴） 授業の終わりに、小テスト②（15点満点）を実施 試験範囲：第７回から第11回の授業
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 ・教科書第3章②(56ページ～61ページ)を読み、症状別の原因や対処方法をまとめる。 授業の始めに、解説を行う。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。次回授業で振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 各90分
	授業テーマ	救急対応を要する症状と徴候、処置方法

第12回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	包帯法や移送法など、実践を通して、対処方法の理解を深め、技術を習得する。（動画視聴、包帯法の演習体験）
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 ・教科書第4章(64ページ～105ページ)を読み、救急対応方法をまとめる。授業の始めに、解説を行う。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。次回授業で振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 各90分
第13回	授業テーマ	小児期に多い疾患
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小児期の特徴をふまえて、それぞれの疾患や症状の対処方法を理解する。（動画視聴）
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 ・教科書第5章①(108ページ～120ページ)を読み、小児の特徴をふまえて、疾患や症状をまとめる。授業の始めに、解説を行う。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。次回授業で振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 各90分
第14回	授業テーマ	成人期に多い疾患 精神疾患、がん、看取り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	成人期の特徴をふまえて、それぞれの疾患や症状の対処方法を理解する。 精神疾患やがん、看取りについて理解を深める。（動画視聴）
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 ・教科書第5章②(121ページ～132ページ)、第5章③④⑤(133ページ～144ページ)を読み、特徴をふまえて疾患や症状をまとめる。 授業の始めに、解説を行う。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。次回授業で振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 各100分

学習計画注記

各単元のテーマがある授業のため、休まず授業に参加することを意識してください。

学生へのフィードバック方法

授業の始めに本日の学習目標を示し、復習と含めて目標が達成できているか、確認しながら授業を進めていきます。
学生より質問があった場合は、質問者に回答を行うとともに授業で情報共有を行います。

評価方法

・小テスト 15点満点×2回（計 30点）
・定期試験 70点満点
以上の合計100点満点で評価します。

定期試験の内容については、授業内で説明を行います。
（テキスト、授業資料、ノートなど持ち込み可）
授業内で自分の言葉で説明できるようにと伝える内容は、記述式で問う形とします。

選択式の設問も出題します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト（計２回）	○		○	
定期試験	○		○	

評価割合

小テスト(30%)および定期試験(70%)で評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

暮らしの看護 萱場一則 建帛社 (978-4-7679-1852-5)

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】 社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【関心・意欲・態度】 生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。

オフィスアワー

・対面授業の前後(質問は、積極的に行ってください。)
・毎授業の終わりに作成する振り返りシートでも、質問を受け付けます。

学生へのメッセージ

家庭でできることは多くあり、日々の生活を通して健康増進や体調不良時の対処方法など、自信を持って行えるようになることを期待しています。一緒に学びを深めていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	看護師としての実務経験を生かし、分かりやすく「からだやこころのしくみ」を説明します。 また、一工夫でできる専門的な対処方法を伝授致します。
アクティブ・ラーニング	○	予習を活用した解説を実施し、その際には、学生間の意見交換も取り入れる予定です。 （感染予防に留意して実施する形となります）
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01111131
講義名	消費者情報論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

G12303C21

授業概要(教育目的)

著しい変化をみせる社会において、一人の消費者・生活者として、自らの生活をどう守り、いかに創造していくかについて、消費者をめぐる情報の観点から検討する。消費生活に関する情報には表示や広告など、企業や行政、消費者団体などから提供・発信される情報がある。
これらの消費者情報は消費者にもたらされるだけでなく、消費者から提供・発信することも重要である。具体的な消費者問題を取り上げながら、情報の収集と整理、内容の分析と評価、情報発信などを消費者の視点から学ぶ。

履修条件

本科目は、対面授業とオンデマンド授業を組み合わせたハイブリッド授業である。
また、千代田区コンソーシアムの単位互換科目となっており、他大学の学生（男子学生を含む）が同時に履修する可能性がある。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	消費者情報に関わる専門的知識を持つことができる。
思考・判断の観点 (K)	消費者情報について多面的に考える姿勢を身に付けられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら取り組む学習態度を身に付けられる。
技術・表現の観点 (A)	自らの考えをまとめ、人に伝える技術力を身に付けられる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	消費者情報についてどのような素材・教材があるか調べる。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	消費者情報とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	企業、行政、消費者のそれぞれの立場からみた場合の消費者情報について理解する。

第2回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	今日の消費者が企業と行政から提供される消費者情報の種類・方法を調べる。
	教室外学習の時間（分）	190
第3回	授業テーマ	消費者教育をめぐる動向①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校教育における消費者教育を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学修者が受けてきた学校教育における消費者教育の実例について整理する。
	教室外学習の時間（分）	190
第4回	授業テーマ	消費者教育をめぐる動向②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会人教育における消費者教育を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	社会人教育における消費者教育の実例について整理する。
	教室外学習の時間（分）	190
第5回	授業テーマ	企業と消費者教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	企業が実施する消費者教育のメリットとデメリットについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	企業が提供している消費者教育の素材を調べる。
	教室外学習の時間（分）	190
第6回	授業テーマ	企業における消費者情報
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費者信用に関わる情報の内容と、消費者と事業者双方のメリットとデメリットを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	消費者信用情報機関について調べる。
	教室外学習の時間（分）	190
第7回	授業テーマ	行政における消費者情報①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国や自治体が実施している消費者教育やその素材について現状と課題を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	国や自治体が実施している消費者教育やその素材を調べる。
	教室外学習の時間（分）	190
第8回	授業テーマ	行政における消費者情報②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費生活相談情報のとりまとめや活用のされ方について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	消費生活相談情報の公表内容を調べる。
	教室外学習の時間（分）	190
第9回	授業テーマ	行政における消費者情報③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費者庁などが公表している消費者事故情報を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	公表されている消費者事故情報を調べる。
	教室外学習の時間（分）	190
第10回	授業テーマ	メディアリテラシーとは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	メディアリテラシーの重要性について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	メディアリテラシーに関わる教材を調べる。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	生活と宣伝・広告、チラシ広告の検討

第11回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費生活に関わる広告の種類や問題を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	誇大広告など問題のある宣伝内容を調べる。
	教室外学習の時間（分）	190
第12回	授業テーマ	消費者マーク①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費生活に関わる記号・絵表示・絵文字を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	消費生活に関わる記号・絵表示・絵文字を理解する。
	教室外学習の時間（分）	190
第13回	授業テーマ	消費者マーク②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費生活に関わる記号・絵表示・絵文字を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	消費生活に関わる記号・絵表示・絵文字を理解する。
	教室外学習の時間（分）	190
第14回	授業テーマ	消費者情報をめぐる取組み
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費者の様々なニーズを活用するための取組みを理解する。 これまで学習した内容の振り返りを行い、学習到達度を確認するための定期試験を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	行政のパブリックコメント制度（意見公募手続制度）のしくみについて調べる。
	教室外学習の時間（分）	230

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は40点満点で出題し、テキストや授業で配布した資料から出題する。
・定期試験・提出物は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
提出物			○	○
定期試験	○	○		

評価割合

提出物（60%）、定期試験（40%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

国民生活センター編『くらしの豆知識（2025年版）』2024年

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。

【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技術・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができている。次世代につながる健やかで
心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

【後期】水曜日 1701ゼミ室 11：00～13：00

学生へのメッセージ

関連するweb教材や動画などを講義で紹介しますので、各自でも適宜、検索・活用してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、消費生活の研究に関する実務経験を有しており、関連する法律と行政における運用のあり方については消費者と行政の双方の立場から現状と課題について検討する機会を提供している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	メディアリテラシーについて学ぶ機会を設け、情報モラルに関する知識と技術の向上に努めている。
ICT活用		

講義コード	G01111231
講義名	消費経済論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	金森 敏	指定なし

ナンバリング

G22305C21

授業概要(教育目的)

消費経済について、消費者の視点（消費者行動）を中心に授業を行う。主に、①個人消費者へのマーケティング、②個人としての消費者、③社会的存在としての消費者の3点から消費経済を学ぶ。①個人消費者へのマーケティングでは企業経営、②個人としての消費者では人間の心理・認知行動、③社会的存在としての消費者では集団心理などが関係する。これら3点から消費経済をダイナミックに見ていく。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	消費経済としての、消費者行動の全体像を把握することができる。
思考・判断の観点 (K)	消費者としての自身の行動について、理論を用いて他者に説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	講義全体の概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	３つの消費者行動を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスによく目をとおしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分

第2回	授業テーマ	説得的コミュニケーションとは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費者に品物やサービスを買ってもらうためのコミュニケーションを知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	5つの説得される消費者心理を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第3回	授業テーマ	セグメンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	なぜ人の好みは違うのかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	セグメンテーションについて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第4回	授業テーマ	店頭マーケティング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	売れるお店はどうやって作るのかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題①食品スーパーなどの売り上げをあげるために、インストア・マーチャンダイジングを考える。
	教室外学習の時間（分）	195分
第5回	授業テーマ	学習とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習とは、経験によって引き起こされる行動の永続的変化であり、購買の視点から学習を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習メカニズムについて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第6回	授業テーマ	記憶
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	購買の視点から学習を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	購買の記憶について復習しておくこと。なお、2回目の課題あり。
	教室外学習の時間（分）	195分
第7回	授業テーマ	意思決定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「意思決定者としての消費者」の観点から、消費者がどのように消費について意思決定しているのかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日経MJを題材とした3回目の課題あり。
	教室外学習の時間（分）	195分
第8回	授業テーマ	中間振り返り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでのキーワードなどを授業において復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポート作成について4回目の課題あり。
	教室外学習の時間（分）	195分

第9回	授業テーマ	レポート作成について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レポート作成について解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポート作成について復習を行っておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第10回	授業テーマ	消費で自己表現をしている
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費とは生きるために必要なものを得るだけではない。消費とは自己の存在と深くかかわっている。
	教室外学習(予習・復習)の内容	消費から自己を考え復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第11回	授業テーマ	文化について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費としての文化を考える。消費は単なる買い物ではなく、その人らしさを表現するものでもある
	教室外学習(予習・復習)の内容	消費と文化を復習しておくこと。日経MJを用いた5回目の課題あり。
	教室外学習の時間（分）	195分
第12回	授業テーマ	集団について（なぜ友人同士の服装は似てしまうのか？）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	友人などの周囲の人々が消費者の好みに及ぼす影響（意識的・無意識的を含めて）を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の消費について影響する人を考えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第13回	授業テーマ	家族の買い物は誰が決めているのか
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①家族の購買意思決定のあり方、②消費者としての子供の社会化について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家族としての購買意思決定について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第14回	授業テーマ	総復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで授業で取り扱ったキーワードを整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として、これまで授業で取り扱ったキーワードを整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや授業内容が変更される場合もあります。
イベントなどにおいて、授業の振替えを行うこともあります。

学生へのフィードバック方法

授業にて解説を行います。

評価方法

・課題は4回～5回出題します。Ａ４で1枚～2枚程度です。
・最終レポートは5000字程度、A4で4枚以上です。最終レポートとして、レポートの形になっているか、引用文献、参考文献、文章表現などができているかが大事です。授業において、レポートの書き方、また、質問などを受け付けます。
・課題、レポートは下表に示す力を養うことを目的に実施します。
・提出期限を過ぎた提出物、提出内容を満たしていない提出物は０点である。
なお、評価はルーブリック評価を用い、クラスルームに公開します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○			
レポート	○	○		

評価割合

レポート（60%）
課題4～5回（40%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし。

参考図書

松井剛・西川英彦、『1からの消費者行動』、碩学舎、2016年。
恩藏直人・冨田健司、『1からのマーケティング分析』、碩学舎、2022年。

ディプロマポリシーとの関連

生活・社会の諸問題を自ら発見し分析することができる。

オフィスアワー

前期、後期木曜日5限。
ただし、事前にアポをとってくること。

学生へのメッセージ

課題が多いので覚悟をもって受講すること。また、受講者には75mm×75mmのポストイット（1束100円程度）を購入してもらうかもしれない。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	レポートの書き方等の教育内容を含む。
ICT活用	○	グーグルフォームを活用しながら、双方向型授業を実施

講義コード	G01111331
講義名	児童学概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	中村　美和子	指定なし

ナンバリング

G12213C21

授業概要(教育目的)

子どもと出会って関わるとき、目の前にいる子どもの内面と背景を広い視野でとらえ、かけがえのないその子の存在を全体として受けとめられるよう、知識と洞察力を身につけてもらうための講義である。子どもとはおおむね0歳から18歳を指すが、保育・教育学、心理学、社会学、福祉学、文化学、芸術学、環境学、保健学、自然科学など、多様なアプローチから子どもという存在と育ちの環境にせまり、関心や理解を深められる内容を提供する。受講者が授業で理解したことを元に仲間と意見を交わしたり、子どもを知るための材料をさがして考えたりするうちに、自分のなかの子ども観を問いなおし、社会における子どもの問題に目を向けられるようになることを目ざして講義する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	学んだ知識を元に「子ども」に対するイメージを広げ、多様な個性と背景をもつ子どもがいることを理解できるようになる。
思考・判断の観点 (K)	「子ども」というレンズを用いて、社会の成り立ちや身のまわりの人間関係について考察できるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもへの関心をよりどころとして意欲的に仲間と学ぶ。自分とは異なる物の見方を尊重できるようになる。
技術・表現の観点 (A)	子どもや環境について考える力を身につけるため、授業で取り組むワークやリフレクションペーパーをツールとして意識的に活用する。身につけた考察力を元に、自分の意見を小論文形式で表現できるようになる。

学習計画		
多様なアプローチから把握する〈子ども〉と〈育ち〉		
第1回	授業テーマ	はじめに：子ども探究のための資源
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・「子ども」という対象と、子どもを考察する「児童学」のさまざまなアプローチについて理解を深める ・自分のなかの「子ども」を目ざめさせ、子ども探究に役立つ資源を確保し、学ぶ仲間と共有する
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】「子ども」ということばから、いろいろなモノ・コトを連想してみる。また、自分の子ども時代を振り返る 【復習】授業時に配布した資料を読み直して復習する
	教室外学習の時間（分）	各100分
第2回	授業テーマ	「子ども」とは何か①：その概念
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・「だれの子？」「どこの子？」と色分けせず、「かけがけのない唯一無二のその子」へ目を向ける大切さを学ぶ ・時代や社会など、大人の事情に左右される子ども存在を考え、「子どもらしさ」「子どものあるべき姿」を探究する
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】今の日本の家庭や社会において、子どもがどう把握されているかを考えてみる 【復習】授業時に配布した資料を読み直して復習する
	教室外学習の時間（分）	各100分
第3回	授業テーマ	「子ども」とは何か②：その不思議
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・物語や遊びのなかに入り込む子どもの姿について知り、子どもには独特の世界があることを感じ取る ・子どものお話理解や状況理解には、年齢に応じた段階、個性による差があることを学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】子ども時代と現在の自分の内面について、相違点と共通点を考えてみる 【復習】授業時に配布した資料を読み直して復習する
	教室外学習の時間（分）	各100分
第4回	授業テーマ	「子ども」とは何か③：表現された姿
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・子どもや子ども時代がモチーフとなった絵本、童話、アニメなどの作品に学び、知識の幅を広げる ・子どもが描かれた作品を鑑賞し、子どもを洞察する視点を検討する
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】子どもが登場する作品にはどういうものがあるか、知識を整理してみる 【復習】授業時に配布した資料を読み直して復習する
	教室外学習の時間（分）	各100分
第5回	授業テーマ	「子ども」とは何か④：その発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・「発達」という概念のとらえ方、発達の段階を整理した理論を学ぶ ・子どもの「からだ」「こころ」「ことば」の発達に関する知識を増やし、子どもの育ちについて理解を深める
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】子ども時代にできるようになったこと、できてうれしかったことやほめられたことを振り返る 【復習】授業時に配布した資料を読み直して復習する
	教室外学習の時間（分）	各100分
	授業テーマ	子どもの育つ環境①：自然のめぐみ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・	・子どもが自然とふれあう重要性を理解し、身近な自然とふれあう方法や環境について学ぶ

第6回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・外遊び、野外活動などの実践例を通し、子ども自身の表現への発展とその援助に関して考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】子どもが日常生活でふれあえる自然にはどういうものがあるかを考えてみる 【復習】授業時に配布した資料を読み直して復習する
	教室外学習の時間（分）	各100分
第7回	授業テーマ	子どもの育つ環境②：空間と居場所
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・子どもが育つまち、放課後の居場所など環境の広がりに目を向け、空間に対する愛着や心地よい場所について考える ・子どものくらしを楽しく快適にする空間づくりの理念、具体的な工夫の仕方を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】教室や通学路など、よく目にした場所、気に入っていた場所などを振り返ってみる 【復習】授業時に配布した資料を読み直して復習する
	教室外学習の時間（分）	各100分
第8回	授業テーマ	子どもの育つ環境③：家族との関わり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・親、きょうだい、祖父母、親せきなどと子どものつながりを理解し、子育て環境や生活・文化習慣などに対する関心を高める ・家族の多様性、さまざまな家庭の現代的課題を学び、これからの家族のありようを考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】インターネットやテレビ、広告などで、家族や子育てがどう語られているかを調べてみる 【復習】授業時に配布した資料を読み直して復習する
	教室外学習の時間（分）	各100分
第9回	授業テーマ	子どもの育つ環境④：仲間との関わり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・友だちや仲間の大切さを理解し、幼稚園や保育施設、学校、習いごと、ＳＮＳなどにおける仲間関係の広がりを考える ・いざこざ、けんか、いじめ、非行など、仲間関係の問題について考察し、他者とのより良い関係づくりを模索する
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】インターネットやテレビ、広告などで、友人関係や仲間関係に関して、どういう話題があるかを調べてみる 【復習】授業時に配布した資料を読み直して復習を行う
	教室外学習の時間（分）	各100分
第10回	授業テーマ	子どもの育つ環境⑤：教育制度と学びの場
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・集団行動に注目しながら、日本における学校教育制度の意味と課題を学び、理解を深める ・給食をはじめとする、授業時間以外での子どもの学びへの知識を広げ、生活の質について考察する
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】インターネットやテレビ、広告などで、学校制度や学校の課題がどう語られているかを調べてみる 【復習】授業時に配布した資料を読み直して復習する
	教室外学習の時間（分）	各100分
第11回	授業テーマ	子どもの育つ環境⑥：子どもの最善の利益
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・「子どもの権利条約」に掲げられた、子どもの発達や特性に合った教育について理解を深める ・世界の辺境で繰り広げられる教育活動の実践に学び、子どもの最善の利益のありようを考察する
	(	【予習】自分が受けてきた教育を振り返り、学びの楽しさ

	教室外学習 予習・復習)の内容	や難しさについて考えてみる 【復習】授業時に配布した資料を読み直して復習する
	教室外学習の時間（分）	各100分
第12回	授業テーマ	遊びと子ども①：先人に学ぶ／小論文の書き方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・伝承的な遊びを中心に遊びの種類や遊び方、遊びの援助の仕方などを学び、人から人へ伝えられる文化と遊びの関係を考える ・第14回実施の期末テスト（小論文形式）に向け、授業での学びを元に考えをまとめる方法と小論文の書き方の基礎事項を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】伝承的な遊びにはどういうものがあるかを調べてみる 【復習】授業時に配布した資料を読み直して復習する／葉末テストでの小論文執筆に向けたテーマの検討を始める
	教室外学習の時間（分）	各100分
第13回	授業テーマ	遊びと子ども②：メディアとサブカルチャー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・メディアの発展や商品開発と結びついて広がる子ども文化の世界、キャラクターの魅力などについて、知識の幅を広げる ・子ども文化の消費経済としての側面を学び、子どもにとっての遊びの意味を再確認する
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】おもちゃやゲームなどの商品、子どもに人気のキャラクターについて、知識を整理しておく 【復習】授業時に配布した資料を読み直して復習する
	教室外学習の時間（分）	各100分
第14回	授業テーマ	まとめ：講義全体の振り返りと期末テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・キーワードを手がかりに講義内容の整理と重要事項の確認を行い、子どもを取り巻く課題に対する自分の問題意識を明確化する ・授業における学びのなかで特に関心のあった内容を題材とし、自分なりの考えを小論文にまとめる
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】授業で特に関心を持った内容について、第12回に学んだ小論文の書き方を参考に、論述の構想を立てておく 【復習】授業時に配布した資料を読み直して復習する
	教室外学習の時間（分）	各50分

学習計画注記

各回の講義内容、講義の順番については変更することもあり得る。

学生へのフィードバック方法

提出物については、翌週以降の授業内でフィードバックを行う。提出物に直接コメントを記入し、返却する場合もあり得る。

評価方法

平常点として、各授業で提出を求めるリフレクションペーパーへの記述を評価の対象とする。このほか小論文形式の設問を中心に期末テストを課すが、小論文の書き方のコツは授業内で説明する。期末テストの成績評価は、ルーブリックに基づいて行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
提出物	○	○	○	○
期末テスト	○	○		○

評価割合

平常点（リフレクションペーパー等）60%、期末テスト40%

使用教科書名(ISBN番号)

・教科書は指定しない。

・参考文献・資料等は各授業内にて紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる

【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる

【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる

【技能・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる／次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる

学生へのメッセージ

・授業内で実施するワークに対し、意欲的に取り組む姿勢に期待します。そのためには、授業内容を受身で聞くだけではなく、「自分はこう受けとめる」という自分らしい感性や考え方を大切にしてください。

・これまでに経験したこと、思い出、感性、人のネットワークなどを「資源」と意識して活用し、子どもや育ちの環境に目を向けるようにしましょう。

・講義を実施する期間、子どもや子ども文化、教育などについて、ニュースにふれたり関連する場所を訪ねたりするなど関心を高めていきましょう。こうした取り組みを含め、自分なりに楽しく学ぶ工夫をしながら講義の予習・復習を行い、授業に臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	小論文形式の期末テスト実施に向け、授業での学びを元に考えをまとめる方法と小論文の書き方の基本事項について解説の講義を行う。
アクティブ・ラーニング	○	個人またはグループ単位のワーク、視聴覚教材などを取り入れ、受講生が主体的に参加しやすい工夫を図る。
情報リテラシー教育	○	受講生が授業で学んだ内容を整理できるリフレクションペーパーの記入を通し、学習内容の定着を図る。さらに、それを元に小論文執筆に取り組み、分かりやすい情報発信のあり方を学べるようにする。
ICT活用	○	講義で利用するスライドは各回の講義直前に配信し、手元で細部を確認したり、復習に活用したりができるようにする（講義中の各種デバイス使用を許可する）。

講義コード	G01111431
講義名	保育学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	中村　美和子	指定なし

ナンバリング

G32215C21

授業概要(教育目的)

保育（Early Childhood Education and Care）とは、人びとがこの世界にあらわれて以来ずっと取り組んできた、子どもたちを育む大切な営みである。そして人の一生を考えたとき、乳幼児期に受ける教育やケアは人間形成を左右するかけがえのないものといえる。子どもはそばにいて適切に働きかけてくれる人を信頼し、自分の身のまわりの環境をその子なりに認識したり、関わりを模索したりする。本講義では、そのような乳幼児期の子どもの育ちの基盤を支える保育について、具体的な取り組みや考え方を学ぶ。家庭や保育・教育施設における実践について理解を深めるほか、その外側に広がる社会、多様な世界との関係についても知識を得て、乳幼児期の保育がもたらす豊かさや今日的課題などを考察できるように講義する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	乳幼児期の教育・ケアの重要性と具体的内容を理解し、身につけた知識を日常的に説明できるようになる。
思考・判断の観点 (K)	乳幼児期の教育・ケアについて得た知識を元に、豊かな保育のあり方、今日的課題などを考察できるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	乳幼児の育ちと生活について興味関心を抱いたこと、調べたことを記録する習慣を身につける。実習ほか仲間との協働が必要な場面では、受容的・応答的姿勢で臨めるようになる。
技術・表現の観点 (A)	学びを振り返るリフレクションペーパーをツールとして活用し、自分の考えを簡潔に表現できるようになる。複数の実習を通し、幼児に働きかけたり伝えたりする表現方法を会得する。

学習計画

子どもの育ちを支える保育～実習と理論で学ぶ～

第1回	授業テーマ	はじめに：保育を学ぶということ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・「保育」という、ことばに含まれる意味の広がりを学ぶ ・乳幼児期の子どもを対象とする「保育学」で学習する内容を知る ・人の一生における乳幼児期というステージの大切さを理解し、その時期に育みたい資質を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】「保育」ということばから連想されるモノ・コトなどを書き留めてみる 【復習】授業時に配布した資料を読み直して復習する
	教室外学習の時間（分）	各100分
第2回	授業テーマ	赤ちゃん誕生に学ぶ①誕生の意味
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・家族にとって社会にとって、何よりその子にとって、赤ちゃん誕生には、どういう意味があるかを考える ・出産・育児を支える日本の制度と諸施設について知識を得る
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】インターネットやテレビなどで、出産・育児に関する情報を調べてみる 【復習】授業時に配布した資料を読み直して復習する
	教室外学習の時間（分）	各100分
第3回	授業テーマ	赤ちゃん誕生に学ぶ②赤ちゃんとのくらし
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・赤ちゃんが寝起きする時間、世話を受ける時間など、生活リズムについて学ぶ ・赤ちゃんのそばで世話をする大人(養育者)のワークライフバランスを考察する
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】自分がよく過ごす部屋をながめ、そこに乳幼児がいたら何が危険かを考えてみる 【復習】授業時に配布した資料を読み直して復習する
	教室外学習の時間（分）	各100分
第4回	授業テーマ	乳幼児の発達①からだ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・乳幼児期のからだの発達について学び、ほかの動物とは異なるヒトならではの特徴を把握する ・だっこ、おむつ替えなど赤ちゃんの世話を疑似体験しながら、赤ちゃんに受容的・応答的姿勢で向き合う大切さを学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】赤ちゃんの写真や動画などを見て、大人とは異なるどのような特徴があるかを観察してみる 【復習】授業時に配布した資料を読み直して復習する
	教室外学習の時間（分）	各100分
第5回	授業テーマ	乳幼児の発達②こころとことば
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・人の一生の基盤となる「アタッチメント」に関して理解を深める ・乳幼児期のことば、情緒、社会性などの発達について知識を得る ・第9回で体験する読みきかせに向けた準備として、絵本や紙芝居の種類について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】大人が乳幼児に対して使う「赤ちゃんことば」には、どういうものがあるかを書き留めてみる 【復習】授業時に配布した資料を読み直して復習する／読みきかせをしたい絵本(紙芝居)を探し始める
	教室外学習の時間（分）	各100分
	授業テーマ	乳幼児の発達③環境を通した保育

第6回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・保育の営みにおける「環境」が意味する内容を理解する ・環境を通して取り組まれる保育がどのようなものかを学び、乳幼児の活動を支える方法を考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】公園や保育施設・幼稚園の庭などを思い浮かべ、そこにどういう遊具、自然環境があるとよいかを考えてみる 【復習】授業時に配布した資料を読み直して復習する
	教室外学習の時間（分）	各100分
第7回	授業テーマ	乳幼児の発達④子どもの主体性を尊重するために
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・保育の歴史や思想などを学び、先人が子どもをどう理解し主体性を尊重しようとしてきたかを把握する ・多様な子ども一人ひとりの自発性を大切にする保育のありようを考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】知っている土地の保育園、認定こども園、幼稚園のホームページを検索し、教育理念、教育目標、教育の特色などを読んでみる 【復習】授業時に配布した資料を読み直して復習する
	教室外学習の時間（分）	各100分
第8回	授業テーマ	遊びと文化①発達と遊びの関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・乳幼児の遊びの体験が、からだやこころの発達と深い関わりがあることを理解する ・保育施設における遊びの時間の設け方を、一日のスケジュールで検討する
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】小さなころに好きだった遊び、くり返し遊んだことを思い出してみる 【復習】授業時に配布した資料を読み直して復習する
	教室外学習の時間（分）	各100分
第9回	授業テーマ	遊びと文化②絵本・紙芝居の読みきかせ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・乳幼児グループに向けた絵本や紙芝居の読みきかせを想定し、その意義、配慮するポイントや実演のコツを学ぶ ・絵本(紙芝居)の読みきかせを体験し、乳幼児への伝え方、乳幼児にとっての楽しみについて仲間と考察し、学び合う
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】自分が読みきかせを行う絵本(紙芝居)の絵をよくながめ、読み方や間の取り方を考えて実演の練習をする 【復習】実演に対して受けた助言を思い出し、鏡に向かってもう一度実演する。また、別の絵本にも挑戦してみる
	教室外学習の時間（分）	各100分
第10回	授業テーマ	遊びと文化③自発的な学びのための文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・遊びの支援を中心とする日本の保育とは異なる、乳幼児期の教育支援のありようを学ぶ ・整えられた環境の中で自ら育つ力や集中力を発揮し、作業に取り組む子どもたちの様子を動画で観察する
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】子どもが遊んでいる様子を公園や動画などで観察する 【復習】授業時に配布した資料を読み直して復習する
	教室外学習の時間（分）	各100分
第11回	授業テーマ	保育の現代的課題①子どもの安全を守るために
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・睡眠や食事など、乳幼児の生活に潜む危険に関する知識を得て、事故防止の方法を学ぶ ・子どもの目線を体験できる「チャイルド・ビジョン」を作成し、安全への配慮の大切さを考察する

	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】インターネットやテレビなどで、子どもの生活中に起こり得る事故について調べてみる 【復習】自分の生活空間で「チャイルド・ビジョン」を装着し、子どもの安全について振り返る
	教室外学習の時間（分）	各100分
第12回	授業テーマ	保育の現代的課題②特別な配慮を要する子ども
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・乳幼児のからだやこころ、生活習慣に関する課題、発達障害などについて知識の幅を広げる ・ソーシャル・インクルージョンの理念と拡がりを学び、共生社会に向けた保育のありようを考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】インターネットやテレビなどで、子どもの生活習慣の課題や発達障害がどう論じられているかを調べてみる 【復習】授業時に配布した資料を読み直して復習する
	教室外学習の時間（分）	各100分
第13回	授業テーマ	保育の現代的課題③保育におけるジェンダーと性教育／調査記録シート講評
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・保育の中に埋め込まれたジェンダー、乳幼児期から求められる性教育などを学ぶ ・提出した調査記録シートに関する全体講評を元に、調査の着眼点と方法、分かりやすい表現などを改めて整理する
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】これまでに受けてきた保育、教育で「女の子」「男の子」がどうあつかわれていたかを考えてみる 【復習】調査記録シートの講評を元に、自分の提出物の改良点を検討する
	教室外学習の時間（分）	各100分
第14回	授業テーマ	まとめ：講義全体の振り返りと期末テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・キーワードを手がかりに講義内容と重要事項の確認を行い、乳幼児の保育についての学びを整理する ・期末テストに取り組み、保育学における重要なキーワードやその内容、自分が興味関心を広げたことを確認する
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】保育学の授業で学んだことを振り返る 【復習】保育や子育てについて得た知識、保育や子育てについて考えが変わった点について、保育学を学ぶ前と比べてみる゛
	教室外学習の時間（分）	各50分

学習計画注記

各回の講義内容、講義の順番については変更することもあり得る。

学生へのフィードバック方法

提出物については、翌週以降の授業内でフィードバックを行う。提出物に直接コメントを記入し、返却する場合もあり得る。

評価方法

平常点として、各授業で提出を求めるリフレクションペーパーへの記述を評価の対象とする。また、調査した内容を記録するワークシートを中間レポートとして課すほか、学習内容を振り返る期末テストを実施する。成績評価はルーブリックに基づき行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
提出物	○	○	○	○

中間レポート（調査記録シート）	○	○	○	
期末テスト	○	○		

評価割合

平常点（リフレクションペーパー等）50%、中間レポート（調査記録シート）20%、期末テスト30%

使用教科書名(ISBN番号)

・教科書は指定しない。
・参考文献・資料は各授業にて紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる
【技能・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる／次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる

学生へのメッセージ

・授業内で実施する演習やワークに対し、意欲的な取り組みに期待します。そのためには、授業内容を受身で聞くだけではなく、「自分なりに挑戦してみよう」という姿勢を大切にしてください。また、同じチャレンジャーである仲間を尊重し、学び合う姿勢も忘れないようにしましょう。
・これまでに経験したこと、思い出、感性、人のネットワークなどを「資源」と意識して活用し、乳幼児や保育の営みに目を向けるようにしましょう。
・講義を実施する期間、乳幼児や保育などについて、ニュースにふれたり関連する場所を訪ねたりするなど関心を高める習慣を身につけ、講義の予習・復習を行いましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	絵本や紙芝居の読み聞かせについて、多様な実践体験に基づく注意点や実演のコツを教授し、演習での助言を行う。
アクティブ・ラーニング	○	赤ちゃん人形を使った実践的な活動、幼児の視界体験などの演習を取り入れ、行動的な学びを提供する。また、個人・グループ単位のワーク、視聴覚教材などを取り入れ、受講生が主体的に参加しやすい工夫を図る。
情報リテラシー教育	○	受講生が授業で学んだ内容を整理できるリフレクションペーパー、調べたことを記入するワークシートなどの提出を求め、学習内容の定着を図りながら、キャッチした情報を着実に整理する方法を身につけてもらえるよう工夫する。
ICT活用	○	講義で利用するスライドは各回の講義直前に配信し、手元で細部を確認したり、復習に活用したりができるようにする（講義中はデバイスの使用を許可する）。

講義コード	G01111531
講義名	衣生活学概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	井澤 尚子	指定なし
教授	山村 明子	指定なし

ナンバリング

G15101C21

授業概要(教育目的)

衣服に求められる機能は、社会・心理的快適性に関わる機能と、身体・生理的快適性に関わる機能から成る。したがって、衣服について学ぶには、服飾美学、被服構成学、被服材料学、被服管理学、被服衛生学等、多角的に学ぶことが必要となる。本講では、学年進行に伴う衣服に関する発展的学習に備えること、また教育の現場で求められる知識・能力を身につけることを目的として、衣生活に関する基礎的事項を概括的に解説する。さらに、現代そして今後の衣服に求められる課題について考える。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	快適な衣生活を構築するために必要となる知識を理解する
思考・判断の観点 (K)	快適な衣生活を送るための適切な選択ができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣生活に関する情報を積極的に収集する。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	衣服とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	JISに規定されている衣服に関する用語について学び、そこから衣服とはどのようなものであるかを理解する。

第1回	**含む)**	
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスを読み、授業概要について理解する。
	教室外学習の時間(分)	200分
第2回	**授業テーマ**	衣服の機能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	世界各地の民族服飾の例から、衣服は多様な機能を持つことを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業内容を振り返るとともに、授業で指示をする課題を行う。
	教室外学習の時間(分)	200分
第3回	**授業テーマ**	日本の服飾の変遷
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の服飾文化の変遷を現代から古代までさかのぼり、服飾文化と日本の社会状況とのかかわりを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業内容を振り返り、授業で指示をする課題を行う。
	教室外学習の時間(分)	200分
第4回	**授業テーマ**	衣服と身体環境
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体の生理的特徴と、衣服の機能の一つである温熱環境の維持について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書「5章1節 暑さ・寒さから身を守り快適に着る」を読む。
	教室外学習の時間(分)	200分
第5回	**授業テーマ**	既製衣料品のサイズ表示
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	JISに規定されている衣料品のサイズ表示の基本情報と、世界で流通している衣料品のサイズ表示、サイズ表示に関する消費者問題について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書「4章2節 衣服のサイズ表示」を読む。復習として授業内で指示をする課題を行う。
	教室外学習の時間(分)	200分
第6回	**授業テーマ**	中間試験 および 色彩とファッション(1)色彩のはたらき
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第1回から5回までの授業内容について中間試験を行う(30分間）。後半は、色彩に関する基礎知識として、色とは何か、そして色の三属性について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	中間試験に備えてこれまでの授業の振り返りを行う。
	教室外学習の時間(分)	200分
	授業テーマ	色彩とファッション(2)デザインの表現と色彩

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	色彩を系統的に理解するために、マンセル表色系、PCCSを取り上げ、カラーオーダーシステムの説明をする。さらに、衣服のデザイン表現に関係の深い、色の心理効果について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章の「衣服を構成する色彩とデザイン」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	衣服の材料(1)繊維・糸の種類・特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	布を構成する糸と、糸を構成する繊維について学ぶ。天然繊維と化学繊維、糸の種類、糸の太さ、糸の撚りなどについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章の「布を構成する糸」「糸を構成するいろいろな繊維」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	衣服の材料(2)布地の種類・特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣服を構成する布について学ぶ。織物と編物の違いを理解し、それぞれの特徴を活かした衣服への用いられ方と消費性能について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章の「衣服を構成する布」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	衣服の材料(3)機能性繊維・加工
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高性能衣服素材と加工の種類について理解を深める。衣生活のなかで身近にある高性能繊維素材について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教科書第8章を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	衣服の管理(1)衣服の汚れと洗たく
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	汚れの種類、着用による衣服の性能低下について考え、洗たくの必要性と洗たくの条件、洗浄作用について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第6章の「着用による衣服の性能変化」から「洗たくに必要なもの」までを読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	衣服の管理(2)家庭洗たくと商業洗たく
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭洗たくと商業洗たくの違いを学び、商業洗たくを利用する際の正しい判断基準を身につける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第6章の「家庭洗たくと商業洗たく」を読んでおく。

	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	衣服の管理(3)衣服の管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	洗たく以外の衣服の手入れとして、しみ抜きや漂白について理解する。さらに、適切な衣服の保管について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第6章の「洗たく以外の衣服の手入れ」を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	既成衣料品の取扱い表示、環境に配慮した衣生活、まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「繊維製品の洗たく等取扱い絵表示」に代表される、既成衣料品の取扱い絵表示について、絵表示の意味を正しく理解する。現代生活における衣生活の課題として、環境に配慮した衣生活について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第6章の「衣料取り扱い絵表示」、第7章を読んでおく。これまでの授業のまとめをする。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業の理解度を確認するために、前回授業内容についての「振り返りテスト」を行う。穴埋め方式で出題し、時間内に正解の解説をする。

評価方法

平常点（小テスト）では要点の理解を確認する。
中間・期末試験では授業内容全体の理解を問う。
ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間・期末試験	○	○	○	
平常点（小テスト）	○		○	

評価割合

平常点（小テスト）：15% 中間試験：30% 期末試験：55%

使用教科書名(ISBN番号)

『消費者の視点からの 衣生活概論』菅井清美・諸岡晴美 編著、井上書院 978-4-7530-2323-3

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】快適な衣生活を構築する能力を有することで「質の高い生活」の本質が理解できる 【思考・判断】快適な衣生活を送るための適切な選択ができることで、生活におこる諸問

題を解決するための考察ができる
【関心・意欲・態度】衣生活を多角的に学ぶことで情報の収集が広範囲になり、社会への関心も深まる

オフィスアワー

山村 月曜日2時限 1703
井澤 金曜日3時限 1704

学生へのメッセージ

本授業で学ぶ内容は、1年後期以降のファッション系の授業の基礎となり、また、教員採用試験や各種検定試験につながる。よく復習をして、今後の授業に活かしてほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01111631
講義名	ファッション造形実習Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	井澤　尚子	指定なし
助教	太田　茜	指定なし

ナンバリング

G15302C23

授業概要(教育目的)

衣服によるファッション表現の基礎となる衣服の基本的な構造および構成方法を学ぶ。人体の形状や動作性に適合する衣服の形態、ミシン縫製の基礎的な技術、及び被服材料の造形上の特性を修得する。中学・高校の家庭科教育の被服領域に対応。実習課題として、手縫いの基礎縫い（サンプルつくり）、ミシン縫製の基礎、手縫い作業の基礎、家庭科教材研究（ハーフパンツの製作）およびステップアップ課題（プルオーバーの製作）を取り上げる。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	洋服の基本的な構造および構成方法を理解し、日常の衣生活に活用することができる。
思考・判断の観点 (K)	作業工程を理解し、作業時間と作業の段取りを把握することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	修得した内容や技法を、さまざまな被服材料を用いた衣服デザイン製作に活用しようとすることができる。
技術・表現の観点 (A)	ミシン縫製の基礎技術、基礎手縫い技法を学ぶことで、衣服製作でのファッション表現の基礎技術を体得できる。

学習計画

	授業テー	ガイダンス、洋裁道具の説明、人体計測、ハーフパンツの製図と布地の説

第1回	マ	明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本授業の概略を説明する。実習に必要な裁縫道具の説明をする。ハーフパンツのデザイン、用途を解説し、製図に必要な身体計測の説明と実測を行い、製図について解説する。実習に必要な裁縫道具とハーフパンツの材料の説明をする。実習の概要を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバス内容、授業内容を確認しておく。裁縫道具の準備をする。裁縫道具とハーフパンツの材料を準備する。次回の内容をプリントで確認しておく。
	教室外学習の時間(分)	120分
第2回	授業テーマ	ハーフパンツの裁断、しるしつけ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ハーフパンツに用いる布地の特徴、裁断の準備のための地直し、アイロンの使い方を説明する。その後、裁断の説明、チャコペーパーを使用するしるしつけの説明をする。必要に応じて柄合わせの説明をする。ここでは、裁断、しるしつけについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	しるしつけまでを終わらせる。ミシンの種類やミシンの付属品について確認しておく。
	教室外学習の時間(分)	70分
第3回	授業テーマ	直線ミシン、ロックミシンの説明、ハーフパンツの脇縫い・縫い代の始末、ポケット作り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本縫いで使用する直線ミシン、ロックミシンの使い方の説明をする。その後、脇縫い、ロックミシンを使用した縫い代の始末、ポケット作りの説明をする。ここでは、ミシンで縫うためのまち針の打ち方を学び、用途に応じたミシンでの作業に慣れるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	脇縫い、ポケット作りまでを終わらせる。次回の内容についてプリントで確認しておく。
	教室外学習の時間(分)	70分
第4回	授業テーマ	ポケットつけ、股下縫い・縫い代の始末、裾上げ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ポケットつけでは、ポケット口の縫い方の説明をする。ポケットつけの点検をし、股下縫い・縫い代の始末、裾上げの説明をする。裾上げの方法として三つ折り縫いのやり方を理解する。
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	ポケットつけ、股下縫い、裾上げまでを終わらせる。次回の内容についてプリントで確認しておく。
	教室外学習の時間(分)	70分
第5回	授業テーマ	股上縫い・縫い代の始末、ウエストの始末・ゴム通し、ハーフパンツの仕上げの説明、ハーフパンツの提出、レポート提出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	股上縫いでは、二度縫いの説明をする。ウエストの始末ではゴム通しの作り方、平ゴムの通し方を学ぶ。最後にハーフパンツの仕上げとして、アイロン仕上げの説明をする。完成した作品の仕上げ方を理解する。ハーフパンツの提出、レポート提出。
	教室外学習(予習・復習)の内容	股上縫い、ウエストの始末・ゴム通し、仕上げまでを終わらせ、最終提出日までにハーフパンツ、レポートを提出する。
	教室外学習の時間(分)	70分
第6回	授業テーマ	人体計測、プルオーバーのデザイン説明、プルオーバーの製図、布地の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新しい課題であるプルオーバーのデザイン、用途を解説し、製図に必要な身体計測の説明と実測を行う。製図について解説し、製図を描く。プルオーバーの材料の説明をする。課題について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プルオーバーの材料を準備する。次回の内容をプリントで確認しておく。
	教室外学習の時間(分)	120分
第7回	授業テーマ	プルオーバーの裁断、しるしつけ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	布地の特徴、裁断の準備のための地直し、アイロンの使い方を説明する。その後、裁断の説明、チャコペーパーを使用するしるしつけの説明をする。必要に応じて柄合わせの説明をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	しるしつけまでを終わらせる。次回の内容についてプリントで確認しておく。
	教室外学習の時間(分)	70分
	授業テーマ	仮縫いの説明、プルオーバーの仮縫い

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	仮縫いに用いるしつけ糸、縫い針について解説する。プルオーバーの仮縫い（手縫い）の仕方を説明する。仮縫いで使用する手縫いの技法、仮縫い独特の明きの作り方、裾上げの仕方を学ぶ。試着点検の服装について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	仮縫いを終わらせる。試着点検、基礎縫いについてプリントで確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	基礎縫いの説明、プルオーバーの試着点検、補正の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基礎縫い（手縫い）の説明をする。プルオーバーの縫製段階で使用する縫い方として、手縫いの技法を学ぶ。プルオーバーの試着点検、補正の説明をする。仮縫いしたプルオーバーを試着点検することで、その必要性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	補正があった場合は、しるしを新たにつけておく。基礎縫いを提出日までに終わらせる。次回の内容についてプリントで確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	70分
第10回	授業テーマ	プルオーバーの本縫い、肩縫い・縫い代の始末、見返しの裁断
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先ず肩・脇・後ろ中心の縫い代にロックミシンをかけ、縫い代の始末をする。プルオーバーの本縫いとして、しつけをかけミシンで縫うことを学ぶ。衿ぐりの始末、袖ぐりの始末に使用する見返しの裁断をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プルオーバーの本縫い、肩縫い、見返しの裁断まで終わらせる。基礎縫いを提出日までに終わらせる。次回の内容についてプリントで確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	70分
第11回	授業テーマ	見返し作り、接着芯の説明・接着芯貼り、見返しのしるしつけ、見返し縫い、見返しつけ、基礎縫いの提出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	接着芯の特徴について説明をする。見返しに接着芯を貼り、しるしをつけ、見返しを縫う。衿ぐり、袖ぐり部分の見返しつけの説明をする。見返しつけ独特のまち針の打ち方、しつけのかけ方、ミシンのかけ方を学び、なぜそうするのかを理解する。基礎縫いを提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内	見返し作り、接着芯貼り、見返しのしるしつけ、見返し縫いまで終わらせる。次回の内容についてプリントで確認しておく。

	容	
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	見返しつけ、後ろ中心縫い
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	見返しを完成させるために、縫い代の始末、おさえミシンのかけ方の説明をする。見返しつけを完成させ、後ろ中心を縫う、見返しつけの点検をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	見返しつけ、後ろ中心縫いまで終わらせる。ファスナーの種類について調べる。次回の内容についてプリントで確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	ファスナーつけ、ファスナーつけの始末、脇縫い
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ファスナーつけに使用するコンシールファスナーについて理解する。縫い代に貼る伸び止めテープの説明、コンシールファスナーのつけ方および押えがねの説明をする。コンシールファスナーのつけ方を学ぶ。ファスナーつけの点検をする。脇縫いをし、見返しの下方部分にロックミシンをかける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ファスナーつけ、脇縫いを終わらせる。次回の内容およびプルオーバーの仕上げについてプリントで確認しておく。レポートを作成しておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	見返しの始末、裾の始末、プルオーバーの仕上げの説明、プルオーバーの提出、レポート提出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	見返しの始末、裾の始末の説明をする。見返しの始末には、基礎縫いで学んだ縦まつり、星止め、千鳥がけを用いる。裾の始末にはロックミシンをかけた後、奥まつりを用いる。基礎縫いで学んだ技法を理解する。プルオーバーの仕上げとして、スプリングホックのつけ方、アイロン仕上げの説明をする。授業で製作した課題についての総括をする。プルオーバーの提出、レポート提出。
	教室外学習(予習・復習)の内容	見返しの始末、裾の始末を終わらせる。プルオーバーの仕上げをし、最終提出日までにプルオーバー、レポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

※履修者数や授業進度によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業で、作業内容が理解されているか、作業進度を確認している。作業のポイントといえる箇所で必ず点検を行い、間違いがあれば訂正を促す。提出した作品については、返却時にコメントを書き、学生各自に作品の総合的な完成度を再確認させる。

評価方法

平常点は、授業参加状況と授業時の作品製作への取り組みを総合的に評価する。課題（作品）評価は、授業時の説明を正しく理解しているか、さらに縫製技法を正しく習得しているかを評価する。レポート評価では、レポート課題の各項目について授業時の説明とも照らし合わせ、書かれている内容を総合的に評価する。これらを下表に示す力を養うことを目的に実施している。
ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常の授業参加	○		○	
課題（ハーフパンツ等 2点）	○	○	○	○
課題（レポート）	○		○	

評価割合

平常点（20%）、作品課題（65%）、レポート課題（15%）

使用教科書名(ISBN番号)

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】衣服製作を学ぶことで、衣服製作の側面から家庭裁縫や被服教育の変遷を理解する機会を有する。

【思考・判断】生活者として現代の衣生活を考え、「質の高い衣生活」とは何であるかを多角的に考える力を養うことができる。

【関心・意欲・態度】衣生活の諸課題に積極的に関心を持ち、製作では自主的に作業を進めることができる。

【技術・表現】日常の衣生活や、ファッション表現のための裁縫の基礎技法を体得することができる。

オフィスアワー

水曜日2時限　1704ゼミ室（井澤）
月曜日2時限　1808ゼミ室（太田）

学生へのメッセージ

第1回目の授業から実習を行うので、履修希望の学生は必ず出席してください。授業時間外の作業も多いので、実習内容は次回まで持ち越さないほうが良いと思います。わからないことがあったら、遠慮なく担当教員に質問してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活		

かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	材料購入のための店舗見学、材料調査などを各自で行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	ミシンの使用方法、基礎縫いの技法などについては動画教材を制作し活用することで、繰り返し学習に役立てることができる。

講義コード	G01111632
講義名	ファッション造形実習Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	井澤　尚子	指定なし
助教	太田　茜	指定なし

ナンバリング

G15302C23

授業概要(教育目的)

衣服によるファッション表現の基礎となる衣服の基本的な構造および構成方法を学ぶ。人体の形状や動作性に適合する衣服の形態、ミシン縫製の基礎的な技術、及び被服材料の造形上の特性を修得する。中学・高校の家庭科教育の被服領域に対応。実習課題として、手縫いの基礎縫い（サンプルつくり）、ミシン縫製の基礎、手縫い作業の基礎、家庭科教材研究（ハーフパンツの製作）およびステップアップ課題（プルオーバーの製作）を取り上げる。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	洋服の基本的な構造および構成方法を理解し、日常の衣生活に活用することができる。
思考・判断の観点 (K)	作業工程を理解し、作業時間と作業の段取りを把握することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	修得した内容や技法を、さまざまな被服材料を用いた衣服デザイン製作に活用しようとすることができる。
技術・表現の観点 (A)	ミシン縫製の基礎技術、基礎手縫い技法を学ぶことで、衣服製作でのファッション表現の基礎技術を体得できる。

学習計画

	授業テー	ガイダンス、洋裁道具の説明、人体計測、ハーフパンツの製図と布地の説

第1回	マ	明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本授業の概略を説明する。実習に必要な裁縫道具の説明をする。ハーフパンツのデザイン、用途を解説し、製図に必要な身体計測の説明と実測を行い、製図について解説する。実習に必要な裁縫道具とハーフパンツの材料の説明をする。実習の概要を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバス内容、授業内容を確認しておく。裁縫道具の準備をする。裁縫道具とハーフパンツの材料を準備する。次回の内容をプリントで確認しておく。
	教室外学習の時間(分)	120分
第2回	授業テーマ	ハーフパンツの裁断、しるしつけ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ハーフパンツに用いる布地の特徴、裁断の準備のための地直し、アイロンの使い方を説明する。その後、裁断の説明、チャコペーパーを使用するしるしつけの説明をする。必要に応じて柄合わせの説明をする。ここでは、裁断、しるしつけについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	しるしつけまでを終わらせる。ミシンの種類やミシンの付属品について確認しておく。
	教室外学習の時間(分)	70分
第3回	授業テーマ	直線ミシン、ロックミシンの説明、ハーフパンツの脇縫い・縫い代の始末、ポケット作り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本縫いで使用する直線ミシン、ロックミシンの使い方の説明をする。その後、脇縫い、ロックミシンを使用した縫い代の始末、ポケット作りの説明をする。ここでは、ミシンで縫うためのまち針の打ち方を学び、用途に応じたミシンでの作業に慣れるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	脇縫い、ポケット作りまでを終わらせる。次回の内容についてプリントで確認しておく。
	教室外学習の時間(分)	70分
第4回	授業テーマ	ポケットつけ、股下縫い・縫い代の始末、裾上げ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ポケットつけでは、ポケット口の縫い方の説明をする。ポケットつけの点検をし、股下縫い・縫い代の始末、裾上げの説明をする。裾上げの方法として三つ折り縫いのやり方を理解する。
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	ポケットつけ、股下縫い、裾上げまでを終わらせる。次回の内容についてプリントで確認しておく。
	教室外学習の時間(分)	70分
第5回	授業テーマ	股上縫い・縫い代の始末、ウエストの始末・ゴム通し、ハーフパンツの仕上げの説明、ハーフパンツの提出、レポート提出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	股上縫いでは、二度縫いの説明をする。ウエストの始末ではゴム通しの作り方、平ゴムの通し方を学ぶ。最後にハーフパンツの仕上げとして、アイロン仕上げの説明をする。完成した作品の仕上げ方を理解する。ハーフパンツの提出、レポート提出。
	教室外学習(予習・復習)の内容	股上縫い、ウエストの始末・ゴム通し、仕上げまでを終わらせ、最終提出日までにハーフパンツ、レポートを提出する。
	教室外学習の時間(分)	70分
第6回	授業テーマ	人体計測、プルオーバーのデザイン説明、プルオーバーの製図、布地の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新しい課題であるプルオーバーのデザイン、用途を解説し、製図に必要な身体計測の説明と実測を行う。製図について解説し、製図を描く。プルオーバーの材料の説明をする。課題について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プルオーバーの材料を準備する。次回の内容をプリントで確認しておく。
	教室外学習の時間(分)	120分
第7回	授業テーマ	プルオーバーの裁断、しるしつけ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	布地の特徴、裁断の準備のための地直し、アイロンの使い方を説明する。その後、裁断の説明、チャコペーパーを使用するしるしつけの説明をする。必要に応じて柄合わせの説明をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	しるしつけまでを終わらせる。次回の内容についてプリントで確認しておく。
	教室外学習の時間(分)	70分
	授業テーマ	仮縫いの説明、プルオーバーの仮縫い

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	仮縫いに用いるしつけ糸、縫い針について解説する。プルオーバーの仮縫い（手縫い）の仕方を説明する。仮縫いで使用する手縫いの技法、仮縫い独特の明きの作り方、裾上げの仕方を学ぶ。試着点検の服装について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	仮縫いを終わらせる。試着点検、基礎縫いについてプリントで確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	基礎縫いの説明、プルオーバーの試着点検、補正の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基礎縫い（手縫い）の説明をする。プルオーバーの縫製段階で使用する縫い方として、手縫いの技法を学ぶ。プルオーバーの試着点検、補正の説明をする。仮縫いしたプルオーバーを試着点検することで、その必要性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	補正があった場合は、しるしを新たにつけておく。基礎縫いを提出日までに終わらせる。次回の内容についてプリントで確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	70分
第10回	授業テーマ	プルオーバーの本縫い、肩縫い・縫い代の始末、見返しの裁断
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先ず肩・脇・後ろ中心の縫い代にロックミシンをかけ、縫い代の始末をする。プルオーバーの本縫いとして、しつけをかけミシンで縫うことを学ぶ。衿ぐりの始末、袖ぐりの始末に使用する見返しの裁断をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プルオーバーの本縫い、肩縫い、見返しの裁断まで終わらせる。基礎縫いを提出日までに終わらせる。次回の内容についてプリントで確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	70分
第11回	授業テーマ	見返し作り、接着芯の説明・接着芯貼り、見返しのしるしつけ、見返し縫い、見返しつけ、基礎縫いの提出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	接着芯の特徴について説明をする。見返しに接着芯を貼り、しるしをつけ、見返しを縫う。衿ぐり、袖ぐり部分の見返しつけの説明をする。見返しつけ独特のまち針の打ち方、しつけのかけ方、ミシンのかけ方を学び、なぜそうするのかを理解する。基礎縫いを提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内	見返し作り、接着芯貼り、見返しのしるしつけ、見返し縫いまで終わらせる。次回の内容についてプリントで確認しておく。

	容	
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	見返しつけ、後ろ中心縫い
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	見返しを完成させるために、縫い代の始末、おさえミシンのかけ方の説明をする。見返しつけを完成させ、後ろ中心を縫う、見返しつけの点検をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	見返しつけ、後ろ中心縫いまで終わらせる。ファスナーの種類について調べる。次回の内容についてプリントで確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	ファスナーつけ、ファスナーつけの始末、脇縫い
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ファスナーつけに使用するコンシールファスナーについて理解する。縫い代に貼る伸び止めテープの説明、コンシールファスナーのつけ方および押えがねの説明をする。コンシールファスナーのつけ方を学ぶ。ファスナーつけの点検をする。脇縫いをし、見返しの下方部分にロックミシンをかける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ファスナーつけ、脇縫いを終わらせる。次回の内容およびプルオーバーの仕上げについてプリントで確認しておく。レポートを作成しておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	見返しの始末、裾の始末、プルオーバーの仕上げの説明、プルオーバーの提出、レポート提出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	見返しの始末、裾の始末の説明をする。見返しの始末には、基礎縫いで学んだ縦まつり、星止め、千鳥がけを用いる。裾の始末にはロックミシンをかけた後、奥まつりを用いる。基礎縫いで学んだ技法を理解する。プルオーバーの仕上げとして、スプリングホックのつけ方、アイロン仕上げの説明をする。授業で製作した課題についての総括をする。プルオーバーの提出、レポート提出。
	教室外学習(予習・復習)の内容	見返しの始末、裾の始末を終わらせる。プルオーバーの仕上げをし、最終提出日までにプルオーバー、レポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

※履修者数や授業進度によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業で、作業内容が理解されているか、作業進度を確認している。作業のポイントといえる箇所で必ず点検を行い、間違いがあれば訂正を促す。提出した作品については、返却時にコメントを書き、学生各自に作品の総合的な完成度を再確認させる。

評価方法

平常点は、授業参加状況と授業時の作品製作への取り組みを総合的に評価する。課題（作品）評価は、授業時の説明を正しく理解しているか、さらに縫製技法を正しく習得しているかを評価する。レポート評価では、レポート課題の各項目について授業時の説明とも照らし合わせ、書かれている内容を総合的に評価する。これらを下表に示す力を養うことを目的に実施している。
ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常の授業参加	○		○	
課題（ハーフパンツ等 2点）	○	○	○	○
課題（レポート）	○		○	

評価割合

平常点（20%）、作品課題（65%）、レポート課題（15%）

使用教科書名(ISBN番号)

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】衣服製作を学ぶことで、衣服製作の側面から家庭裁縫や被服教育の変遷を理解する機会を有する。

【思考・判断】生活者として現代の衣生活を考え、「質の高い衣生活」とは何であるかを多角的に考える力を養うことができる。

【関心・意欲・態度】衣生活の諸課題に積極的に関心を持ち、製作では自主的に作業を進めることができる。

【技術・表現】日常の衣生活や、ファッション表現のための裁縫の基礎技法を体得することができる。

オフィスアワー

水曜日2時限　1704ゼミ室（井澤）
月曜日2時限　1808ゼミ室（太田）

学生へのメッセージ

第1回目の授業から実習を行うので、履修希望の学生は必ず出席してください。授業時間外の作業も多いので、実習内容は次回まで持ち越さないほうが良いと思います。わからないことがあったら、遠慮なく担当教員に質問してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活		

かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	材料購入のための店舗見学、材料調査などを各自で行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	ミシンの使用方法、基礎縫いの技法などについては動画教材を制作し活用することで、繰り返し学習に役立てることができる。

講義コード	G01111731
講義名	食品学概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	竹中 真紀子	指定なし

ナンバリング

G13102C21

授業概要(教育目的)

食品は多種多様であるが、食品の基本的な性質を決定する成分は水、炭水化物、たんぱく質、脂質などに限られており、またそれらは調理・加工・保存中に変化することがある。一方で、食品の嗜好性に深く関わる微量成分（呈味成分、香気成分、色素など）の存在も重要である。本科目では、これら食品中に含まれる成分について、物質としての基本特性に加え、栄養性、嗜好性、調理特性なども関連付けて解説する。

本授業はオンデマンド方式で実施する（動画は火曜1限に配信）。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各種食品成分の種類、構造、性質、所在を説明できる。食品における成分間反応による嗜好性や栄養性の変化について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	食品成分に関心を持ち、日常生活において摂取している食品の特性を、成分の面から説明できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

食品学概論

第1回	授業テーマ	人と食べ物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人類の歴史における食の移り変わりや食をめぐる環境問題など、人と食べ物とのかかわりや、食生活の現状について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第1章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習し、課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第2回	授業テーマ	食品成分を理解する－有機化学の基礎－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	次時以降、食品成分や成分間反応について学ぶために、その基礎知識となる有機化学の基礎を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第2章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習し、課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第3回	授業テーマ	食品の成分（水）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品中の水の状態（結合水、自由水）と物性や貯蔵性との関係について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第3章-1を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習し、課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第4回	授業テーマ	食品の成分（炭水化物）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	炭水化物の定義を理解し、単糖、少糖、多糖の種類、構造、性質、所在ならびに食物繊維の構造や性質について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第3章-2を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習し、課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第5回	授業テーマ	食品の成分（脂質）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品中の脂質の種類、構造、性質、所在について理解する。また、油脂の品質を知るために様々な物理化学的指標があることや油脂の酸化について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第3章-3を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習し、課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第6回	授業テーマ	食品の成分（たんぱく質）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品中のアミノ酸、ペプチド、たんぱく質の種類、構造、性質、所在について理解する。またたんぱく質の変性と調理・加工との関係について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第3章-4を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復復習し、課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
	授業テーマ	食品の成分（ビタミン）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第7回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品中のビタミンの種類、構造、性質、所在について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第3章-5を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習し、課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第8回	授業テーマ	食品の成分（ミネラル、核酸）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品中のミネラルの種類、構造、性質、所在について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第3章-6,7を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習し、課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第9回	授業テーマ	中間まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教科書3章「食品の成分」の振り返りを行う。練習問題に取り組み、学習内容の定着を図る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、理解があいまいだったところを中心によく復習し、課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	授業後100分
第10回	授業テーマ	味の成分
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品に含まれる味と香りにかかわる成分の種類、構造、利用について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第4章-1を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習し、課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第11回	授業テーマ	香りの成分
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品に含まれる、香りにかかわる成分の種類、構造、性質などについて学ぶ。また、食品の調理・加工において二次的に生成する香り成分について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に、教科書第4章-2を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習し、課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第12回	授業テーマ	色の成分
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の色素成分の種類、構造、性質、所在、調理・加工との関係について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第4章-3を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習し、課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第13回	授業テーマ	成分間の相互作用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の酵素的褐変と非酵素的褐変の概要と食品学的意義を理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第5章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習し、課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第14回	**授業テーマ**	食品成分表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品成分表の概要を知り、実際の食生活における食品成分表の利用について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第9章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習し、課題に取り組む。定期試験に向けて、これまでの学習内容についても復習すること。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後200分

学習計画注記

授業の進み具合により、変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

授業時に課した課題等について、次時にフィードバックすることを数回実施する予定です。

評価方法

定期試験：80%、課題：20%で評価します。
評価基準については、Google Classroomに掲載するルーブリックを確認してください。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○			
課題	○		○	

評価割合

定期試験の得点：80%
課題：20%

使用教科書名(ISBN番号)

はじめて学ぶ健康・栄養系教科書シリーズ 食べ物と健康I 第2版（化学同人）（9784759818185）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。

オフィスアワー

後期：火曜日4時限目

学生へのメッセージ

私たちが毎日食べている食材に含まれる成分の特徴とその調理・加工における変化を中心に学んでいきます。高校や大学における化学や生物の知識が役立ちますので、復習しておくと理解しやすいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

ICT活用		

講義コード	G01111831
講義名	フードスペシャリスト論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	竹中 真紀子	指定なし

ナンバリング

G13303C21

授業概要(教育目的)

フードスペシャリストとはどのようなものか、その専門性や活躍分野について理解を深め、それを踏まえて、人類はどのようにして食物を獲得し、より嗜好性の高い食品を作ってきたのか、世界の食と日本の食の歴史と特徴、現代日本の食生活、食品産業の役割、食品の品質規格と表示、食情報と消費者保護などについての幅広い知識を修得させることを目指す。フードスペシャリストの専門分野としての「食」について、食文化、食生活、食産業、食の安全行政、消費者保護などの各面から解説する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	フードスペシャリストの概要と意義について理解し、フードスペシャリストが具備すべき基本知識を修得する。
思考・判断の観点 (K)	食の安全や環境、公正な取り引き、食料自給率などの様々な面を考慮し、食品の選択や管理に活かすことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	現代の食生活のあり方に関心を持ち、食に関するニュース報道などとも関連付けて考えることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

フードスペシャリスト論

	授業テーマ	フードスペシャリストとは

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フードスペシャリストの概念、専門性および活躍の分野の概要について学ぶ。また、フードスペシャリストが社会的な規範や法令を遵守し、食育へも積極的に貢献する責務があることについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第1章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第2回	授業テーマ	人類の歩みと食物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人類の歴史において世界の各地で発達した伝統的な食品加工・保存技術をたどり、日本独自の食品加工・保存技術について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第2章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第3回	授業テーマ	食品加工・保存技術史
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近代において発達した新しい食品加工・保存技術やイミテーションフーズについて学び、前時の内容と併せて、人類の歴史において食に関する様々な知恵と技術が生命をつないできたことを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第2章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第4回	授業テーマ	世界の食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	世界の食作法や食事内容の多様性を学び、国際化している食の世界に対応できる視野を養う。地域の自然環境によって生産・生活様式が確立され、食材とともに料理や食文化が構築されていたことについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第3章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第5回	授業テーマ	日本の食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の歴史において、人々は何を食べてきたのか、食べ物のバリエーションはどのように増えてきたのか、また料理様式の発達や食生活の変遷について理解する。また、地域における伝統野菜や郷土料理の発達とそれらを維持することの重要性について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第4章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。

	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第6回	**授業テーマ**	現代日本の食生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	戦後の食生活における食料経済や食環境の変化、食の外部化の進展、生活習慣病の増加、食品産業の構造や状況について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第5章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第7回	**授業テーマ**	食料の供給と食料自給率
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食料自給率の推移と課題、食品ロスやごみ問題などの改善策としての循環型社会の必要性などについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第5章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第8回	**授業テーマ**	食品製造業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品産業の構造や特性ついて学ぶ。食品産業の一つである食品製造業の概要、全製造業における食品製造業の特色や近代における状況の変化について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第6章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第9回	**授業テーマ**	食品流通業、外食産業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品産業のうちの食品流通業について、食品流通業を構成する食品卸売業と食品小売業の概要や特色、存在意義、近代における状況の変化について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第6章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第10回	**授業テーマ**	外食産業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外食産業について、その概要や特色、近代における状況の変化について理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に、教科書第6章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第11回	**授業テーマ**	食品の品質規格と表示
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の公正な取り引きと消費のために制定された食品の品質規格と表示に関する法体系の概要を理解する。さらにJAS法と食品表示法について詳しく学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第7章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第12回	**授業テーマ**	JAS法と食品表示法による表示
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	JAS法と食品表示法の概要を知り、これらが食品の公正な取り引きと消費に深く関わっていることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第7章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第13回	**授業テーマ**	健康や栄養に関する表示制度
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の品質規格と表示に関する法律である健康増進法と食品衛生法の概要について学び、近年注目されている食品の機能性に関する表示制度を正しく理解し、自身の食生活において機能性をうたった食品を適切に利用する姿勢を養う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第7章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第14回	**授業テーマ**	食情報と消費者保護
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食情報について学び、食品偽装、フードファディズム、風評被害、トレーサビリティシステムなど、食情報に関わる問題について考える。また、食品の安全におけるリスク分析や食品安全基本法、消費者問題など、消費者保護の在り方についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第8章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。 また授業後に、これまでの学習内容を復習し、期末試験に備える。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分

学習計画注記

授業の進み具合でスケジュールが変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

授業後に課した課題について、次時にフィードバックすることを数回実施する予定です。

評価方法

定期試験80%、課題20%で評価します。
評価基準については、Google Classroomに掲載するルーブリックを確認してください。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
課題	○	○	○	

評価割合

定期試験：80%、課題：20%。

使用教科書名(ISBN番号)

フードスペシャリスト論（日本フードスペシャリスト協会編、建帛社）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。

オフィスアワー

後期：火曜日4時限目

学生へのメッセージ

「フードスペシャリスト論」は、フードスペシャリストを目指す学生のための最も基本的な科目の１つとなっています。新聞やニュースなどで報道される食に関する様々な問題についても普段から関心を持って見るようにしてください。授業の中でも、関連する新聞記事等を紹介していきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01111931
講義名	栄養学概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	竹中 真紀子	指定なし

ナンバリング

G23107C21

授業概要(教育目的)

本科目では栄養学について広く理解することを目的として、栄養学の歴史、各種栄養素の特性と消化・吸収、代謝機構について中心に解説する。また、食品に含まれる栄養素以外の重要な成分として水と食物繊維についても、これらの特性やそれらが私たちの身体に与える影響や、食物が摂取された後、栄養素が体内で消化、吸収、代謝を経てエネルギーとして利用される際の変換効率や身体活動との関係についても解説する。摂取された食品成分のはたらきが、生命活動やヒトの健康につながっていることをイメージできるように、授業を展開していく。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各栄養素の概要、消化と吸収やエネルギー消費との関係が説明できる。また、栄養素ではなくても食物繊維のように体内で有効に働く成分があることを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	自身の食生活に関心を持ち、栄養素に関する知識を踏まえて考察することができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

栄養学概論

第1回	授業テーマ	ガイダンス、栄養とは、栄養素の発見
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養の本質を、「栄養」ということばの語源に立ち返って文化的な観点からとらえるとともに、「栄養素」と生物としてのヒトとのかかわりを科学的観点から理解する。また、栄養学の発展と栄養素の発見について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に、教科書1章および2章を読んで理解を深めておく。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第2回	授業テーマ	栄養素とそのはたらき（１）エネルギーになる栄養素＝糖質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	炭水化物の定義を理解し、単糖、少糖、多糖の種類、構造、性質、所在ならびに食物繊維の構造や性質について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第3章-1(1)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第3回	授業テーマ	栄養素とそのはたらき（２）エネルギーになる栄養素＝脂質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品中の脂質の種類、構造、性質、所在について理解する。また、油脂の品質を知るために様々な物理化学的指標があることや油脂の酸化について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第3章-１(2)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第4回	授業テーマ	栄養素とそのはたらき（３）からだをつくる栄養素-1＝たんぱく質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品中のアミノ酸、ペプチド、たんぱく質の種類、構造、性質、所在について理解する。またたんぱく質の変性と調理・加工との関係について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第3章-１(3)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第5回	授業テーマ	栄養素とそのはたらき（４）からだをつくる栄養素-2＝からだを構成する脂質とミネラル
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体を構成する栄養素で、たんぱく質以外のものとして、生体膜の成分であるリン脂質、血液の成分であるヘモグロビンの構成成分である鉄、骨の構成成分であるカルシウムについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第3章-2を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
	授業テーマ	栄養素とそのはたらき（５）からだのはたらきを調節する栄養素-1＝ビタミン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ	食品中のビタミンの種類、構造、性質、欠乏症と過剰症、所在につ

第6回	–教育・ICT活用を含む)	いて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第3章-3(1)(2)(3)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第7回	授業テーマ	栄養素とそのはたらき（６）からだのはらたきを調節する栄養素-2＝ミネラル
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ–教育・ICT活用を含む)	食品中のミネラルの種類、構造、性質、欠乏症と過剰症、所在について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第3章-3(4)(5)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第8回	授業テーマ	中間まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ–教育・ICT活用を含む)	第1回～第7回の内容を振り返り、理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、理解があいまいであったところを中心に復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業後100分
第9回	授業テーマ	水と食物繊維
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ–教育・ICT活用を含む)	栄養素以外の身体に必要な成分としての水について、身体における水分出納、水の役割を中心に学ぶ。 また食物繊維について、その分類、性質、日常生活における適切な摂取のし方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第4章-1を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第10回	授業テーマ	消化と吸収（１）消化の流れとパターン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ–教育・ICT活用を含む)	消化と吸収の定義、消化を担う臓器である消化管と消化腺、消化のパターン（管腔内消化と膜消化）を中心に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第5章1,2を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第11回	授業テーマ	消化と吸収（２）消化のしくみ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ–教育・ICT活用を含む)	口腔、胃、小腸、大腸における消化の概要と流れについて理解する。 また、栄養素が小腸から吸収される際の、受動輸送、能動輸送の概要と、その後の輸送経路について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第5章3,4を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時	授業前100分、授業後100分

	間（分）	
第12回	授業テーマ	エネルギー代謝
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	摂取エネルギーと消費エネルギーの関係、基礎代謝と活動時代謝、またエネルギー代謝を知るための身体の活動強度を示す指標や消費エネルギーの求め方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第6章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第13回	授業テーマ	後半まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第9回～第12回の内容を振り返り、理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、理解があいまいであったところを中心に復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業後200分
第14回	授業テーマ	全体まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	練習問題に取り組み、解説を聞いて知識を定着させる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業内容を復習し、定期試験に向けて準備すること。
	教室外学習の時間（分）	授業後300分

学習計画注記

授業の進み具合により、変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

確認テストの結果について、全体にフィードバックを行います。

評価方法

定期試験80%、課題・確認テスト20%で評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○			
課題・確認テスト	○	○	○	

評価割合

定期試験：80%、課題・確認テスト：20%。

使用教科書名(ISBN番号)

はじめて学ぶ健康・栄養系教科書シリーズ 基礎栄養学（化学同人）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。

オフィスアワー

前期：月曜日4時限目

学生へのメッセージ

栄養学の基礎について学びます。物質としての栄養素、またこれらが体内で変化を受けてエネルギーになる流れを理解するには、化学や生物の知識が不可欠です。これらの知識が不足していると思う場合は、共通教育科目の化学や生物に関する授業を受けて知識を補強してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01112031
講義名	食品学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	竹中 真紀子	指定なし

ナンバリング

G23103C21

授業概要(教育目的)

私たちの健康は適切な食物の摂取と規則正しい食生活によって維持される。食品には，生命を維持するための栄養機能（一次機能），味や香りなどを感じさせる嗜好機能（二次機能）のほか，病気のリスクを低減する機能（三次機能）を有している。現在，食品の生産・加工などの技術革新や流通手段の発達により，私たちが入手できる食品はさらに多様化してきている。この講義では代表的な食品の性質，成分の特徴と調理・加工・貯蔵などにおける変化，機能，利用などについて解説する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	代表的な食品についての性質や成分の特徴，ならびに調理・加工・貯蔵における変化を理解することができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	調理・加工・貯蔵した食品について正しい知識や新しい情報を理解することで，適切な食生活を維持するための情報の取捨選択ができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	現代の食生活における諸問題について関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	はじめに，植物性食品 穀類(米)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	現在の私たちを取り巻く様々な食環境，食品の分類，および食品のもつ機能性について理解する。

第1回	育・ICT活用を含む)	植物性食品の中の米について，その特性，含有成分，およびその加工品について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第1章「食品の分類と食品成分表」（p.1－4），第2章「植物性食品」「1．穀類」（p.5－14）を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間(分)	予習復習合わせて160分
第2回	授業テーマ	植物性食品 穀類（小麦・大麦・とうもろこし・その他）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	植物性食品の中の米以外の種々の穀類について，その特性，含有成分，およびその加工品について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第２章「植物性食品」「1．穀類」（p.14－19）を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間(分)	予習復習合わせて160分
第3回	授業テーマ	植物性食品 いも類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	植物性食品の中のいも類について，その特性，含有成分，およびその加工品について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章「植物性食品」「2．いも類」（p.19－26）を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間(分)	予習復習合わせて160分
第4回	授業テーマ	植物性食品 豆類・種実類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	植物性食品の中の豆類，種実類について，その特性，含有成分，およびその加工品について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第２章「植物性食品」「3．豆類」，「4．種実類」（p.26－41）を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間(分)	予習復習合わせて160分
第5回	授業テーマ	植物性食品 野菜類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	植物性食品の中の野菜類について，その特性，含有成分，およびその加工品について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章「植物性食品」「5．野菜類」（p.41－52）を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間(分)	予習復習合わせて160分
第6回	授業テーマ	植物性食品 果実類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	植物性食品の中の果実類について，その特性，含有成分，およびその加工品について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章「植物性食品」「6．果実類」（p.52－64）を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間(分)	予習復習合わせて160分
	授業テーマ	植物性食品 きのこ類・藻類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	植物性食品の中のきのこ類，藻類について，その特性，含有成

第7回	育・ICT活用を含む)	分，およびその加工品について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章「植物性食品」「7．きのこ類」（p.64－67）、「8．藻類」（p.68－71）を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	予習復習合わせて160分
第8回	授業テーマ	動物性食品 肉類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動物性食品の中の肉類について，その特性，含有成分，およびその加工品について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章「動物性食品」「1．肉類」（p.73－89）を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	予習復習合わせて160分
第9回	授業テーマ	動物性食品 魚介類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動物性食品の中の魚介類について，その特性，含有成分，およびその加工品について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章「動物性食品」「2．魚介類」（p.90－104）を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	予習復習合わせて160分
第10回	授業テーマ	動物性食品 乳製品
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動物性食品の中の乳類について，その特性，含有成分，およびその加工品について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章「動物性食品」「3．乳類」（p.105－115）を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	予習復習合わせて160分
第11回	授業テーマ	動物性食品 卵
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動物性食品の中の卵について，その特性，含有成分，およびその加工品について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章「動物性食品」「4．卵」（p.115－125）を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	予習復習合わせて160分
第12回	授業テーマ	その他の食品 油脂、甘味料，調味料、香辛料
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	油脂、甘味料、調味料および香辛料について，その分類，精製方法，および特性と機能について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章「油脂，甘味料，調味料，香辛料，嗜好飲料」「1．油脂、2. 甘味料、3．調味料、4.香辛料」（p.125－149）を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	予習復習合わせて160分
	授業テーマ	嗜好飲料、微生物利用食品（アルコール飲料，発酵調味料）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	嗜好飲料および微生物利用食品について，その種類，製造工程，およびその加工食品について理解する。

第13回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章「油脂，甘味料，調味料，香辛料，嗜好飲料」「5．嗜好飲料」、第5章「微生物利用食品」（p.149－163）を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間(分)	予習復習合わせて160分
第14回	授業テーマ	微生物利用食品（その他の微生物利用食品）およびまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	その他の微生物利用食品について，その種類，製造工程，およびその加工食品について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第５章「微生物利用食品」（p.163－168）を読んでおくこと。復習：授業で出される課題を行うこと。定期試験に向けてこれまでの授業内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習：160分，復習：460分

学習計画注記

※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業中に行う課題については、翌週に解答をまとめて紹介し、補足解説を行う。小テストは次週までに採点して返却し、誤りの多い箇所については解説する。

評価方法

・授業中に行う課題については、その回の授業内容に関連した事項について、理解を確実にするための練習問題や、与えられたテーマについての記述する問題である。
・定期試験および課題についてルーブリックでの評価を行う。ルーブリックはGoogle Classroomで公開する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○	○	
定期試験	○	○		

評価割合

定期試験（80%），8課題（20%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

食べ物と健康 三訂 マスター食品学II， 小関正道（編著） 他， 建帛社，978-4-7679-0698-0

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し，総合的な家政学の見地に立ち，現代社会の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し，問題解決に導く考察ができるようになる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。

オフィスアワー

後期：火曜4時限目、1203研究室

学生へのメッセージ

食品学概論で食品成分の特性から食品をみてきましたが，それを基礎としてこの科目では実際の種々の食品の特徴について学んでいきます。日常の生活においてもいろいろな食品に関心を持ってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01112131
講義名	調理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	伊藤 有紀	指定なし

ナンバリング

G23109C21

授業概要(教育目的)

どのような食品も調理してから食べ物として人間の口に入る。調理を経ることにより食品はおいしく、安全になり、消化しやすくなる。この授業では、調理の過程における食品材料の化学的・物理的、組織学的変化を知って、おいしくなるようにその変化をコントロールするためにはどのようにすればよいかを理解する。理解を通して調理により食生活の質を良くすることを学ぶ。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	調理とは何か，食品材料の種類と調理特性，調理過程での成分変化や調理操作の特徴，嗜好性への影響などについての基本的な事柄を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	食べ物と人間や社会，環境との関連を理解し，豊かな食生活に繋げる能力を身につけることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	現代の食生活における諸問題について関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	はじめに，調理の役割と意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ	

第1回	ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理の目的について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「人間と食品（食べ物）」（p.1-3）を読んでおく。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	160分
第2回	授業テーマ	おいしさと健康、おいしさに関与する要因
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	おいしさに関与する種々の要因について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「食嗜好と健康」（p.5-14）を読んでおく。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	160分
第3回	授業テーマ	調理の基本1①調理操作の分類と非加熱調理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理操作の分類，非加熱操調理操作について理解する。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書［調理操作の分類、非加熱調理」（p.21-36）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	160分
第4回	授業テーマ	調理の基本②加熱調理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理操作の分類，加熱操調理操作について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「加熱調理」（p.37-47）を読んでおく。授業で出される課題を行うこと。次週に1～4回目までの内容の小テストを行うので復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	160分
第5回	授業テーマ	調味操作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調味操作について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「調味操作」（p.49-52）を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。授業の最初に，１～４回の内容の小テストを行うので準備をしてくること。
	教室外学習の時間（分）	160分
第6回	授業テーマ	植物性食品の調理性①米
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	植物性食品の中の米について，その調理特性を理解する。
	教室外学習(予)	教科書「米の特性」（p.55-63）読んでおく。授業で出される課題を

	習・復習 の内容	行うこと。
	教室外学習の時間（分）	160分
第7回	**授業テーマ**	植物性食品の調理性②小麦，その他
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	植物性食品の中の小麦や雑穀について，その調理特性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「小麦・雑穀の特性」（p.63-68）読んでおく。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	160分
第8回	**授業テーマ**	植物性食品の調理性③いも類，豆類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	植物性食品の中のいも類,豆類、種実類について，その調理特性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「いも類の特徴、豆類の特徴、種実類の特徴」（p.69-77）を読んでおく。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	160分
第9回	**授業テーマ**	植物性食品の調理性④野菜類，その他
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	植物性食品の中の野菜類，果実類，きのこ類,藻類について，その調理特性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「野菜類の特性，果実類の特性，きのこ類の特性、藻類の特性」（p.77-92)を読んでおく。授業で出される課題を行うこと。次回授業の最初に，5-9回の授業内容に関わる小テストを実施するので，復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	160分
第10回	**授業テーマ**	動物性食品の調理性①肉類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動物性食品の中の肉類について，その調理特性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「食肉類の特性」（p.93-99)を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。授業の最初に，5-9回の授業内容に関わる小テストを実施するので，準備をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	160分
第11回	**授業テーマ**	動物性食品の調理性② 魚介類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動物性食品の中の魚介類について，その調理特性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「魚介類の特性」（p.99-108）を読んでおく。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	160分

第12回	授業テーマ	動物性食品の調理性③卵類，乳類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動物性食品の中の卵類、乳類について，その調理特性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「卵類の特性、乳類の特性」（p.108-118）を読んでおくこと。次回授業の最初に，10-12回の授業内容に関わる小テストを実施するので，準備しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	160分
第13回	授業テーマ	成分抽出素材の調理性①でんぷん、ゲル化材料
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	でんぷんとゲル化剤料について，その調理特性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「でんぷんの特性，ゲル化材料の特性」（p.121-134）を読んでおくこと。授業で出される課題を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	160分
第14回	授業テーマ	その他の食品の調理性③油脂、調味料・香辛料・嗜好飲料
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	油脂，調味料・香辛料・嗜好飲料について，その特性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「油脂の特性，調味料・香辛料・嗜好飲料の特性」（ｐ.134-148）を読んでおくこと。定期試験に向けて、これまでの授業を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習：160分，復習：460分

学習計画注記

履修者数や授業の進捗具合によってスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

授業中に行う課題については、授業の中で解答を示し、補足解説を行う。小テストは次週までに採点して返却し、誤りの多い箇所については解説する。

評価方法

・授業中に行う課題については、その回の授業内容に関連した事項について、理解を確実にするための練習問題や、与えられたテーマについて記述する問題である。
・小テストは、3～5回の授業内容について、当てはまる言葉を解答する問題を中心に出題する。
・定期試験は授業内容全体から、選択、穴埋め、記述等の形式で出題する。
・定期試験、小テスト等についてルーブリックでの評価を行う。ルーブリックは授業内で示すかGoogle Classroomで公開する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○	○	
小テスト	○			
定期試験	○	○		

評価割合

定期試験50% 小テスト30% 課題20%

使用教科書名(ISBN番号)

イラスト調理科学，中嶋加代子・山田志麻編著，東京教学社，978-4-8082-6088-0

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し，総合的な家政学の見地に立ち，現代社会の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し，問題解決に導く考察ができるようになる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。

オフィスアワー

月曜４限，1808研究室

学生へのメッセージ

調理を科学的に捉えて理論を理解することで，様々な料理に応用することができます。また、調理そのものに留まらず、食品製造や商品開発などの場につながる知識とそれを活かしていく力をつけることができます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01112231
講義名	栄養学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	竹中 真紀子	指定なし

ナンバリング

G33108C21

授業概要(教育目的)

本科目では、私たちが健康を維持するための食生活のあるべき姿について、科学的根拠に基づいて考えるための知識の習得を目指す。実際の食生活において、またそれぞれのライフステージにおいて、それぞれの栄養素をどのように摂取すればよいのか、「日本人の食事摂取基準」を踏まえて考察する。さらに、生活習慣病、食物アレルギー、ダイエット、健康づくりのための国の政策や指針など食生活に関わる様々な問題や取り組みについても解説する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各栄養素の概要、栄養素とからだの仕組みやエネルギー消費との関係が説明できる。健康づくりのための政策指針の内容やそれらが定められた背景が説明できる。
思考・判断の観点 (K)	健康に生きていくために必要な栄養素のバランスや食生活、それをどのように維持していくか説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自身の食生活に関心を持ち、栄養学の知識に基づいて考察することができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

栄養学

第1回	授業テーマ	健康と栄養
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	健康に生きていくということ、それらを支える適正な栄養素の摂取、適度な運動と休養、生体に備わるホメオスタシスについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に、教科書第1章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	授業前100分、授業後100分
第2回	授業テーマ	からだの仕組み
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヒトのからだの構成、生命を維持するための呼吸、消化、神経などのシステムについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に、教科書第2章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	授業前100分、授業後100分
第3回	授業テーマ	食事と栄養（１）糖質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品中の糖質に関して、単糖、少糖、多糖の種類、構造、性質、所在、消化と吸収について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第3章-1,2(1)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	授業前100分、授業後100分
第4回	授業テーマ	食事と栄養（２）脂質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品中の脂質の種類、構造、性質、所在、消化と吸収について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第3章-2(2)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	授業前100分、授業後100分
第5回	授業テーマ	食事と栄養（３）たんぱく質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品中のアミノ酸、ペプチド、たんぱく質の種類、構造、性質、所在、消化と吸収について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第3章-2(3)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	授業前100分、授業後100分
第6回	授業テーマ	食事と栄養（４）ミネラル、ビタミン、水分
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品中のミネラルとビタミンの種類、構造、性質、所在について学ぶ。
	教室外学習(予	授業前に教科書第3章-3,4,5を読んでおくこと。授業後に、学習し

	習・復習)の内容	た内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	授業前100分、授業後100分
第7回	**授業テーマ**	食事と健康（１）栄養状態の判定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養状態を総合的、客観的に評価・判定するために様々な方法があること、またそれぞれの方法の概要について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第4章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	授業前100分、授業後100分
第8回	**授業テーマ**	食事と健康（２）日本人の食事摂取基準
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本において栄養素の過不足は「日本人の食事摂取基準」を用いて評価すること、また健康の維持・増進や疾患の予防・改善には、栄養摂取だけでなく適正な身体活動も必要であることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に、教科書第4章-1を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	授業前100分、授業後100分
第9回	**授業テーマ**	我が国の食生活の変化と健康状況
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の食生活は第二次世界大戦直後の食料難から徐々に改善したが、現代においては栄養過剰や栄養バランスの崩れにより生活習慣病などの様々な問題が生じていることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第5章-1を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	授業前100分、授業後100分
第10回	**授業テーマ**	健康増進のための指針
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前時の学習内容を踏まえ、国民の健康増進のために様々な取り組みがなされてきたこと、またそれぞれの政策や指針の概要を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第5章-2を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	授業前100分、授業後100分
第11回	**授業テーマ**	健康とダイエット
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	飽食、過食、貧食など食行動に様々な問題がみられる今日における、健康を維持する食事（ダイエット）の意義、また適正な体重維持における理論と実際について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第6章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	授業前100分、授業後100分
	授業テーマ	ライフステージと栄養
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	胎児期から高齢期までの各ライフステージにおける生理的特徴と

第12回	教育・ICT活用を含む)	それに見合った栄養ケアについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第7章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	授業前100分、授業後100分
第13回	授業テーマ	生活習慣病と栄養
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活習慣病とはどのようなものであるか、また個々の疾病の概要と予防や食事療法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第8章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	授業前100分、授業後100分
第14回	授業テーマ	免疫と栄養
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	健康を維持するために重要な役割を果たす免疫反応の概要について学ぶ。また、この仕組みが時として食物アレルギーとして人に対してマイナスに作用する場合があることを知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第9章を読んでおくこと。授業後に、これまでに学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	授業前100分、授業後100分

学習計画注記

授業の進み具合でスケジュールが変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

授業時に課した課題等について、次時にフィードバックすることを数回実施する予定です。

評価方法

定期試験80%、課題20%で評価します。
評価基準については、Google Classroomに掲載するルーブリックを確認してください。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
課題	○	○	○	

評価割合

定期試験：80%、課題：20%

使用教科書名(ISBN番号)

栄養と健康（日本フードスペシャリスト協会編、建帛社）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。

オフィスアワー

前期：月曜日4時限目

学生へのメッセージ

栄養学の基礎と、実際に健康に生きていく上で栄養という現象が他の生命維持機能にどのようにかかわっているか、またそれをどのように維持していかなければならないかについて学びます。化学や生物の基礎知識も必要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01112331
講義名	食生活論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	伊藤 有紀	指定なし

ナンバリング

G13301C21

授業概要(教育目的)

世界の食料生産や流通の影響、生活スタイルや食に対する嗜好などを反映して、食材料や加工食品は多様化している。また様々な食情報も氾濫している。そのような中で健康的な食生活を営むには、健康的な食生活とはどのようなものか理解した上で問題点や課題を自覚する必要がある。本科目では、自分自身の食生活を振り返りながら、健康的な食生活について学ぶ。同時に戦後から現代にかけてのライフスタイルと食生活の関係や食と環境についても学び、質の高い食生活とは何かを考える力を養う。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	健康的な食生活とはどのようなものか具体的に理解できる。自身の食生活をめぐる環境を理解できる。日本人の食生活は高度経済成長期以後、現在までどのような変化を遂げてきたか、社会背景を踏まえて理解できる。
思考・判断の観点 (K)	自身の食生活の課題を導き出し、改善していくための方策を考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス、食生活の概念
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業概要の説明、食事の意義を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	食べることの意味①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身や日本の食生活をとりまく現状について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	食べることの意味②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「食べ物がおいしい」とはどのようなことか、現代人にとってのおいしさを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	健康的な食生活①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の食事の栄養バランスの評価に必要な、エネルギー量の把握、エネルギー産生栄養素バランスについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	健康的な食生活②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の食事の栄養バランスの評価に必要な栄養素の働きについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に指定したウェブサイトを見ておく。復習：授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	健康的な食生活③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事前に撮影した自身の食事を用いて、その食事の栄養のバランスをウェブサイトを参考に診断する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に指定したウェブサイトを見てくる。授業までに自身の食事の写真を撮影してくる。復習：授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間	200分

	（分）	
第7回	**授業テーマ**	健康的な食生活④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の食事を評価して、問題点を明らかにし、改善案を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	健康的な食生活⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の食生活を振り返りながら、間食や加工食品の取り方など健康的な食生活につながる食習慣について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	食事の評価学習まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	他の人が作成した動画を視聴し、食生活の質を向上するための考察を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パワーポイント使って自身の発表内容をまとめ、動画にする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	日本人の食生活①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	戦後～平成における日本人の食生活の変化について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	日本人の食生活②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平成に起きた食に関する事件や事故を概観しながら日本人の食生活の変化について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	日本人の食生活③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平成に起きた食に関する事件や事故を概観しながら日本人の食生活の変化について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	食育の意義

第13回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食育の意義と推進活動について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間(分)	200分
第14回	授業テーマ	食生活の未来を考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品ロスを中心に食と環境の問題について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。
	教室外学習の時間(分)	200分

学習計画注記

オンデマンド形式の授業で行う（配信は火曜の４限）。

学生へのフィードバック方法

・毎回、授業内容についての課題を出す。課題への回答の提出をもって出席とする。回答の期限は原則授業の翌週の月曜日の昼までとする。回答についてのフィードバックは翌週の授業の中またはグーグルクラスルームへの投稿をもって行う。レポートについては別途期限を伝える。
・レポートは２つ提出とする。１つ目は自身の食事の診断の結果をパワーポイントでまとめ、動画に変換したもの、２つ目は食品ロスに関するレポートである。１つ目のレポートに対しては個別にフィードバックを行う。
・質問がある場合は、1808研究室まで訪問するか、メール（yukito@kasei-gakuin.ac.jp）またはGoogleClassromを通して行うこと。

評価方法

毎回の授業内容についての課題は授業を視聴した上でなされたものであるかにもとづき評価する。レポート①（動画で作成）は指示した項目が入っていること、授業の中で学んだ内容をもとに自身の食事に対する評価を行っていること、パワーポイントのスライドの作成の仕方や説明の仕方などからわかりやすく表現しようとする姿勢が感じられることを評価基準とする。レポート②は、指示した項目が書かれていること、論旨が明確であること、自身の考え方を文章でわかりやすく表現しようとする姿勢が感じられることを評価基準とする。
ルーブリックはグーグルクラスルーム上に提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○		○
レポート①（動画作成）	○	○	○	○
レポート②	○	○	○	○

評価割合

課題40%，レポート①40%，レポート②20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし。毎回資料を配布する。

参考図書

授業内で紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】食生活の面から現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】自己を取り巻く食生活の諸問題を発見し、問題解決の行動につながる考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、食生活の諸問題について関心を持ち続けることができる。
【技術・表現】質の高い食生活を創造するための提案を自身の言葉でわかりやすく表現できる。

オフィスアワー

火曜３限.昼休み 1808研究室

学生へのメッセージ

自身の食生活に目を向けて、授業で学んだことと関連づけて考えてみて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01112431
講義名	調理学実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	伊藤 有紀	指定なし

ナンバリング

G13110C23

授業概要(教育目的)

安全でおいしい食事を作るためには、確かな調理技術と調理科学の理論が必要である。ここでは、非加熱調理操作、加熱調理操作などの基礎的調理技術を習得し、日本料理と諸外国の調理法や食文化の特徴を学ぶために、日本料理・西洋料理・中国料理の調理の実習を行う。これにより、食品の衛生的な取り扱い方、食品の調理性、調理による食品成分の変化、栄養性・嗜好性を高める調理法、調理器具や食器などの取り扱い方、食卓の演出、食事作法など調理と食生活に関する基礎総合力を養うことを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．食事作りに必要な調理科学の理論、食品の性質、日本および諸外国の食文化等を理解する。
思考・判断の観点 (K)	１．健康で心豊かな食生活を実践できるような食に関する総合力を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	１．健康で心豊かな食生活を実践できるような食に関する総合力を身につける。
技術・表現の観点 (A)	１．安全でおいしい食事を作りために必要な基礎的調理技術を身につける。

学習計画

調理学実習

	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	授業の進め方、実習ノートのまとめ方を理解する。切り方の基本（包丁及びまな板の扱いを含む）、計量を理解する。

第1回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	切り方の基本、計量について復習する。
	教室外学習の時間（分）	30分
第2回	授業テーマ	日本料理の基礎(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	三色丼、みそ汁、即席漬けの献立の実習。 炊飯、煮干しのだしのとり方、野菜の放水について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習内容のまとめに加えて、さらに、炊飯の基本などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	日本料理の基礎(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	さつまいもご飯、かきたま汁、ぶりの照り焼き、ほうれん草のごまあえの献立の実習。 塩味ご飯、混合だし、切り身魚の調理、青菜の茹で方、あえ物のポイントを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習内容のまとめに加えて、さらに、混合だしのポイントなどについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	日本料理の基礎(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	炊き込みご飯、すまし汁、厚焼き卵、切干し大根の煮物の献立の実習。 しょうゆ味ご飯、すまし汁、卵の焼き調理（１）、乾物の調理(戻し方）を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習内容のまとめに加えて、さらに、しょうゆ味ご飯のポイントなどについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	西洋料理の基礎(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	チキンピラフ、生野菜のサラダ、紅茶のゼリーの献立の実習。 ピラフ、野菜の吸水、ドレッシング、ゼラチンの調理の特徴を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習内容のまとめに加えて、さらに、ゼラチンゼリーのポイントなどについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	西洋料理の基礎(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロールキャベツ、温野菜のサラダ、ブランマンジェの献立の実習。 ひき肉の調理のポイント、野菜の加熱調理、デンプンの調理性(ゲル化）を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習内容のまとめに加えて、さらに、ひき肉調理のポイントなどについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。
	教室外学習の時間	60分

	（分）	
第7回	**授業テーマ**	中国料理の基礎(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ピーマンと牛肉のせん切り炒め、クラゲの酢の物、牛乳かんの献立の実習。 炒め物のポイント、あえ物、寒天の調理の特徴を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習内容のまとめに加えて、さらに、中国料理の特徴などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	中国料理の基礎(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	焼き餃子、水餃子、野菜の甘酢漬けの献立の実習。 小麦粉の調理（グルテンの形成）、野菜の調理（甘酢漬け）を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習内容のまとめに加えて、さらに、小麦粉調理におけるグルテンの形成などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	日本料理の基礎（4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イワシのかば焼き、けんちん汁、きゅうりとわかめの酢の物、ご飯、さつまいもの茶巾絞りの献立の実習。 魚の扱い(イワシの手開き）、具たくさんの汁物、酢の物のポイントを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習内容のまとめに加えて、さらに、魚の扱いのポイントなどについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	行事食(1) クリスマス料理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ローストチキン、コーンポタージュ、ブッシュ・ド・ノエルの献立の実習。 骨付き鶏もも肉の扱い、肉のロースト、スポンジケーキ(泡立て卵白による膨化）を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習内容のまとめに加えて、さらに、小麦粉調理における泡立て卵白による膨化などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	行事食(2) 正月料理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	伊達巻き、いり鶏、紅白なます、雑煮の実習。 日本の行事食(特に正月料理）、煮物(炒め煮）を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習内容のまとめに加えて、さらに、日本における行事食などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	西洋料理の基礎(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ピザ、ミネストローネ、チョコレートババロアの献立の実習。 イースト発酵、ゼラチンの調理（ババロア・ムース）のポイントを理解する。

第12回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	実習内容のまとめに加えて、さらに、小麦粉調理におけるイーストによる膨化などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	**授業テーマ**	行事食(3) ひなまつりの献立
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ちらしずし、はまぐりの潮汁、桜餅の献立の実習。 節句の行事食、すし飯のポイント、潮汁、緑茶のいれ方を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習内容のまとめに加えて、さらに、すし飯の調理などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	実習テスト、日本料理の基礎(5)、まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習テスト(野菜の切り方）、 茶碗蒸しの実習により希釈卵の蒸し物について理解する。実習の振り返りを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習テストに向けての練習を行う。希釈卵の蒸し調理などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。 授業内容全体について総復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	予習；60分 復習；120分

学習計画注記

※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

受講者の実習中に、その都度調理法その他について必要に応じて、指導を行う。5から6回の実習が終了した時点で、実習ノートを提出してもらい、教室外学習がきちんと行われているかの確認も含めて、指定した事項が記載されているかどうかについて採点し、不十分な場合には、実習ノートの再提出を促して再度記載内容を確認する。

評価方法

・実習への取り組みでは、実習への積極的な参加を評価する。
・課題では、遠隔授業の授業内容についての理解および自宅での実習の取り組みを評価する。
・実習ノートでは、毎回の実習内容に関して指定された項目をきちんとまとめているかどうか、さらに授業内容に関して自分で学びを深める学習を教室外でも行っているかを評価する。
・定期試験では、調理理論、食文化など、調理に必要な基本的な知識に関する問題を、穴埋め、選択、記述などさまざまな形式で出題する。
・実習への取り組み、実習ノート、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。
・定期試験、実習ノート等についてルーブリックでの評価を行う。ルーブリックはGoogle Classroomで公開する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実習への取り組み	○		○	
実習ノート	○	○	○	○
実習テスト				○
定期試験	○	○		

評価割合

実習への取り組み25%、実習ノート40%、実習テスト10%、定期試験25%

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない。プリント配布

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー

金曜1、2時限 1808ゼミ室

学生へのメッセージ

食品衛生の観点から必ず指定の清潔な身支度をして実習に参加してください。食生活に関心を持ち、自宅でもできるだけ調理する機会を増やしてください。実習材料費として10000円程度を徴収する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	体験学習等の教育内容が含まれる
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01112432
講義名	調理学実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	伊藤 有紀	指定なし

ナンバリング

G13110C23

授業概要(教育目的)

安全でおいしい食事を作るためには、確かな調理技術と調理科学の理論が必要である。ここでは、非加熱調理操作、加熱調理操作などの基礎的調理技術を習得し、日本料理と諸外国の調理法や食文化の特徴を学ぶために、日本料理・西洋料理・中国料理の調理の実習を行う。これにより、食品の衛生的な取り扱い方、食品の調理性、調理による食品成分の変化、栄養性・嗜好性を高める調理法、調理器具や食器などの取り扱い方、食卓の演出、食事作法など調理と食生活に関する基礎総合力を養うことを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．食事作りに必要な調理科学の理論、食品の性質、日本および諸外国の食文化等を理解する。
思考・判断の観点 (K)	１．健康で心豊かな食生活を実践できるような食に関する総合力を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	１．健康で心豊かな食生活を実践できるような食に関する総合力を身につける。
技術・表現の観点 (A)	１．安全でおいしい食事を作りために必要な基礎的調理技術を身につける。

学習計画

調理学実習

	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	授業の進め方、実習ノートのまとめ方を理解する。切り方の基本（包丁及びまな板の扱いを含む）、計量を理解する。

第1回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	切り方の基本、計量について復習する。
	教室外学習の時間（分）	30分
第2回	授業テーマ	日本料理の基礎(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	三色丼、みそ汁、即席漬け献立の実習。 炊飯、煮干しのだしのとり方、野菜の放水について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習内容のまとめに加えて、さらに、炊飯の基本などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	日本料理の基礎(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	さつまいもご飯、かきたま汁、ぶりの照り焼き、ほうれん草のごまあえの献立の実習。 塩味ご飯、混合だし、切り身魚の調理、青菜の茹で方、あえ物のポイントを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習内容のまとめに加えて、さらに、混合だしのポイントなどについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	日本料理の基礎(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	炊き込みご飯、すまし汁、厚焼き卵、切干し大根の煮物の献立の実習。 しょうゆ味ご飯、すまし汁、卵の焼き調理（１）、乾物の調理(戻し方）を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習内容のまとめに加えて、さらに、しょうゆ味ご飯のポイントなどについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	西洋料理の基礎(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	チキンピラフ、生野菜のサラダ、紅茶のゼリーの献立の実習。 ピラフ、野菜の吸水、ドレッシング、ゼラチンの調理の特徴を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習内容のまとめに加えて、さらに、ゼラチンゼリーのポイントなどについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	西洋料理の基礎(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロールキャベツ、温野菜のサラダ、ブランマンジェの献立の実習。 ひき肉の調理のポイント、野菜の加熱調理、デンプンの調理性(ゲル化）を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習内容のまとめに加えて、さらに、ひき肉調理のポイントなどについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。
	教室外学習の時間	60分

	（分）	
第7回	**授業テーマ**	中国料理の基礎(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ピーマンと牛肉のせん切り炒め、クラゲの酢の物、牛乳かんの献立の実習。 炒め物のポイント、あえ物、寒天の調理の特徴を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習内容のまとめに加えて、さらに、中国料理の特徴などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	中国料理の基礎(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	焼き餃子、水餃子、野菜の甘酢漬けの献立の実習。 小麦粉の調理（グルテンの形成）、野菜の調理（甘酢漬け）を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習内容のまとめに加えて、さらに、小麦粉調理におけるグルテンの形成などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	日本料理の基礎（4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イワシのかば焼き、けんちん汁、きゅうりとわかめの酢の物、ご飯の献立の実習。 魚の扱い(イワシの手開き）、具たくさんの汁物、酢の物のポイントを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習内容のまとめに加えて、さらに、魚の扱いのポイントなどについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	行事食(1) クリスマス料理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ローストチキン、コーンポタージュ、ブッシュ・ド・ノエルの献立の実習。 骨付き鶏もも肉の扱い、肉のロースト、スポンジケーキ(泡立て卵白による膨化）を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習内容のまとめに加えて、さらに、小麦粉調理における泡立て卵白による膨化などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	行事食(2) 正月料理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	伊達巻き、いり鶏、紅白なます、雑煮の実習。 日本の行事食(特に正月料理）、煮物(炒め煮）を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習内容のまとめに加えて、さらに、日本における行事食などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	西洋料理の基礎(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ピザ、ミネストローネ、チョコレートババロアの献立の実習。 イースト発酵、ゼラチンの調理（ババロア・ムース）のポイントを理解する。

第12回	教室外学習(予習・復習)の内容	実習内容のまとめに加えて、さらに、小麦粉調理におけるイーストによる膨化などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	授業テーマ	行事食(3) ひなまつりの献立
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ちらしずし、はまぐりの潮汁、桜餅の献立の実習。 節句の行事食、すし飯のポイント、潮汁、緑茶のいれ方を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習内容のまとめに加えて、さらに、すし飯の調理などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	実習テスト、日本料理の基礎(5)、まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習テスト(野菜の切り方）。 茶碗蒸しの実習により希釈卵の蒸し物について理解する。実習の振り返りを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習テストに向けての練習を行う。希釈卵の蒸し調理などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。 授業内容全体について総復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	予習；60分 復習；120分

学習計画注記

※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

受講者の実習中に、その都度調理法その他について必要に応じて、指導を行う。5から6回の実習が終了した時点で、実習ノートを提出してもらい、教室外学習がきちんと行われているかの確認も含めて、指定した事項が記載されているかどうかについて採点し、不十分な場合には、実習ノートの再提出を促して再度記載内容を確認する。

評価方法

・実習への取り組みでは、実習への積極的な参加を評価する。
・実習ノートでは、毎回の実習内容に関して指定された項目をきちんとまとめているかどうか、さらに授業内容に関して自分で学びを深める学習を教室外でも行っているかを評価する。レポートは指定されたテーマに関して、関心を持って取り組んだかを評価する。
・実習テストでは、調理の基本技術を身につけることができたかを評価する。
・定期試験では、調理理論、食文化など、調理に必要な基本的な知識に関する問題を、穴埋め、選択、記述などさまざまな形式で出題する。
・実習への取り組み、実習ノート、実習テスト、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。
・定期試験、実習ノート等についてルーブリックでの評価を行う。ルーブリックはGoogle Classroomで公開する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実習への取り組み	○		○	
実習ノート	○	○	○	○
実習テスト				○
定期試験	○	○		

評価割合

実習への取り組み25%、実習ノート40%、実習テスト10%、定期試験25%

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない。プリント配布

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー

金曜1,2時限 1808研究室

学生へのメッセージ

食品衛生の観点から必ず指定の清潔な身支度をして実習に参加してください。食生活に関心を持ち、自宅でもできるだけ調理する機会を増やしてください。実習材料費として10000円程度を徴収する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	体験学習等の教育内容が含まれる
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01112531
講義名	健康・食発達心理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	北見 由奈	指定なし

ナンバリング

G23304C21

授業概要(教育目的)

健康な身体をつくり、それを維持し、健康に生きるための基礎となるのが毎日の食事である。食事のとり方によって、私たちの健康は大きな影響を受ける。本授業では、食事管理、人の行動、ライフステージ、疾病予防、社会と環境の各視点から健康について科学的に考察することで、氾濫する様々な情報を収集・判断・活用し、バランスのとれた食生活が“実践”できる力を身につけることを目指す。
授業全体を通して、食事はどのような意味を持つのか、食生活から起こる問題にはどのようなものがあるのか、健康で望ましい食発達・食生活とはどのようなものか、自分なりの価値観を形成してほしい。

履修条件

本授業では、他の受講生と意見を交換し、自分の考えを他者に伝えることが求められる。そのため、そのような活動に参加する意思のある学生に履修してほしい。
また、本授業は選択科目であるため、履修者は授業内容について興味・関心を高く持っていることが前提となる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	授業で学んだ知識をもとに、食と健康との関係性について説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	科学的な視点から、健康で望ましい食発達・食生活とはどのようなものかを説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自身の食生活に興味・関心を持ち、食と健康に関する課題に参加することができる。
技術・表現の観点 (A)	授業で習得した知識や技術を用いて、食と健康に関する様々な課題を解決しようと試みることができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	イントロダクション：授業の進め方・授業で扱うテーマの説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンスとして、授業概要とスケジュール、評価方法等を説明する。 また、本授業ではGoogle Classroomを使用するため、その使い方についても簡単に説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：本授業を履修する上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。 復習：食と健康に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分にとって関心のある分野と授業とのつながりを考える。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	**授業テーマ**	食と健康について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事の重要性について理解する。 適切な食事および不適切な食事とは何かを理解する。 食事が健康に与える影響について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	食行動と健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人の行動の視点から、食と健康との関係性を理解する。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	ライフステージにおける食と健康（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳幼児期における食と健康との関係性について理解する。 新生児期から1歳前後（離乳後期）の口腔機能の特徴を理解する。 幼児期の食事道具操作の発達と、食事場面でのコミュニケーションの発達を理解する。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	ライフステージにおける食と健康（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰ	児童期における食と健康との関係性について理解する。 食物アレルギーとその対処、学校給食における対応について理解を深める。

第5回	**ﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	生活習慣病予備軍に関する原因と対処について理解を深める。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第6回	**授業テーマ**	ライフステージにおける食と健康（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	青年期における食と健康との関係性について理解する。 摂食障害についての理解を深める。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第7回	**授業テーマ**	ライフステージにおける食と健康（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	成人期における食と健康との関係性について理解する。 生活習慣病との関連性と予防について理解を深める。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第8回	**授業テーマ**	ライフステージにおける食と健康（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢者における食と健康との関係性について理解する。 高齢期の口腔機能の特徴を理解する。 高齢者における食事介助のポイントと、食事場面でのコミュニケーションについて理解する。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第9回	**授業テーマ**	疾病予防における食と健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	疾病予防の視点から、食と健康との関係性を理解する。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。

	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	社会・環境における食と健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会・環境が食と健康に与える影響について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	食行動の変容と心理学研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食行動の変容を目指した心理学的研究について理解する。 ・自己効力感と食行動 ・モチベーションと食行動 ・性格と食行動 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	食行動変容のためのヘルスプロモーション（健康教育）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食行動変容を目指したヘルスプロモーション（健康教育）について、政策や実践例などを通して理解する。 授業の導入で、Google Classroomを用いて前回の授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：授業内で扱ったキーワードを確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	大学生の食と健康に関する調査（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大学生の食と健康に関する調査を実施し、大学生が抱える食と健康に関する問題を理解する。 調査を通して、適切な行動に変容するために必要な支援を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料に目を通し、興味をもった点、わからない点を明らかにしておく。 復習：調査に必要な情報を文献、インターネット等を使用して自分で調べる。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	大学生の食と健康に関する調査（２）および学期末課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の前半50分では、大学生の食と健康に関する調査で明らかになったことをまとめる。 授業の後半50分では、学期末課題を実施する。

第14回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	予習：調査に必要な情報を文献、インターネット等を使用して自分で調べる。 復習：第2回～第13回の内容を振り返り、キーワードを説明できるようにする。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。
その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。

学生へのフィードバック方法

１．授業開始時に実施する「出席確認」については、その都度、教員との間で結果を共有する。
２.「ふりかえり」については、授業終了後に教員が確認し、原則として全体にフィードバックを行う。

評価方法

授業への姿勢（50%）、および学期末課題（50%）をもとに総合的に判断する。

１）授業への姿勢・・・「自己チェック」と「ふりかえり」に対する取り組みから総合的に判断。
・自己チェック（25%）：
前の回の内容に関する小テストを意味する。毎回の授業の冒頭で実施。Googleフォームを使用。出席確認を兼ねる。正答率ではなく、時間内にきちんと提出できているかを評価する。

・ふりかえり（25%）：
授業の感想・質問を記すリアクションペーパーを意味する。毎回の授業の最後で実施。Googleフォームを使用。時間内にきちんと提出できているかを評価する。

２）学期末課題・・・学期末課題の点数から判断。「自己チェック」の正答率は含まれない。

なお、この科目ではルーブリックに基づく成績評価を行う。ルーブリックについてはgoogle classroomまたは授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
自己チェック	○		○	
ふりかえり	○	○	○	○
学期末課題	○	○		

評価割合

授業への姿勢（50%）および学期末試験の結果（50%）もとに総合的に判断する。

参考図書

１）稲山貴代・大森 玲子（編）「食と健康の科学（第3版）」建帛社，2021年
２）外山紀子「生命を理解する心の発達――子どもと大人の素朴生物学」 ちとせプレス，2020年
３）外山紀子・長谷川智子・佐藤康一郎（編）「若者たちの食卓」ナカニシヤ出版，2017年
４）根ケ山光一・外山紀子・河原紀子（編）「子どもと食――食育を超える」東京大学出版会，2013年

その他、必要に応じて授業内で紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】現代社会が抱える諸問題について、食と健康に関する知識をもって理解する。
【思考・判断】心理学や健康科学に関する思考をもって食発達を理解し、現代社会においてあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を、食と健康への関心によって得る。
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会の中に課題を発見し、心理学や健康科学の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。

オフィスアワー

後期：水曜日３限（13：20～15：00） 千代田三番町キャンパス1805室

学生へのメッセージ

資料は、Google Classroomを介してデジタル配信を行う。紙媒体での配布は行わない。
学内もしくは自宅のプリンターでのプリントアウト、ノートPCやタブレット端末等でみられるように各自で準備しておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	個人ワークやグループワークなどを積極的に取り入れる。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomを、ふりかえり、自己チェック、配布資料のアーカイブなどで活用する。

講義コード	G01112731
講義名	食料経済
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	二瓶 徹	指定なし

ナンバリング

G01112731

授業概要(教育目的)

本講義では、食に関する生産から消費までのフードシステムについて、各段階の役割と全体の流れを体系的に捉えることを目的とする。前半では食を巡る状況の変化について、消費者側と食品産業側の両面から理解を促すとともに、フードシステムの概要および近年、発達が著しい中食と外食について理解を促す講義を行う。後半では主要食品の特性や種類、流通について学ぶとともに、それら食品をどのようにして販路拡大していくか、フードマーケティングの手法を学ぶ。そして最後に、フードシステムを取り巻く環境が目まぐるしく変化していることから、時局的問題と今後の課題について考える。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．フードシステムの概念と食品産業および食品製造の機能と役割が説明できる。 ２．フードシステムと消費者の生活様式および社会環境との関係性が説明できる。
思考・判断の観点 (K)	１．現代におけるフードシステムの利点と課題を整理することができる。 ２．現代および今後フードシステムが抱える課題の解決策を考えることができる。 ３．グローバルな視点でのフードシステムの望ましい在り方を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	１．自分自身の食生活から、我が国のフードシステムを積極的に捉えた発言をする。 ２．自分自身および取り巻く環境を踏まえ、体系的にフードシステムの在

	り方を捉え、積極的に提言する。
技術・表現の観点(A)	1．食を学ぶ者として、マーケティング手法を活用した企画提案や環境に配慮した企画提案をすることができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	豊かな食生活を支える食市場
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．食市場を支える食品産業を理解する。 2．外食産業が登場した背景と食生活の変化を理解する。 3．食の外部化をもたらした要因を理解する。 4．少子高齢化が変える食市場を理解する。 5．食品産業の技術発展内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第1章第1節を読んでおくこと。また、あらかじめ自分自身の食生活と国内のマクロ的な食生活を比較し、その違いを理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	360分
第2回	**授業テーマ**	消費者の食品消費の変化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．品目別食品消費の変化を理解する。 2．食品の価格決定と所得弾力性、価格段両区制を理解する。 3．栄養バランスからみた食品消費の変化を理解する。 4．加工食品がなぜ増加したかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第1章第2節を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第3回	**授業テーマ**	食生活の多様化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．多様化をもたらした社会的要因を理解する。 2．食における健康志向がなぜ高まっているかを理解する。 3．現代における食情報が多様化した理由を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第1章第3節を読んでおくこと。また、あらかじめ自分自身の食生活のスタイルを振り返っておくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第4回	**授業テーマ**	食品流通の役割と社会的使命
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．食品流通の役割を理解する。 2．卸売流通の役割を理解する。 3．小売流通の役割を理解する。 4．流通の社会的使命を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第2章第1節を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	**授業テーマ**	卸売流通が必要な食品流通
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．生鮮食品の卸売市場流通の仕組みを理解する。 2．加工食品の問屋流通の仕組みを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第2章第2節を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分

第6回	授業テーマ	食品の小売流通
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１．販売形態の分類を理解する。 ２．食品流通を担う多様な小売り業態を理解する。 ３．家庭内食を支える食品小売業の機能を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第2章第3節を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	授業テーマ	外食・中食産業と食生活の変化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１．私達の食生活の変化にともない、外食産業および中食産業がどのように変化したかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第3章第1節を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	授業テーマ	外食産業・中食産業のマーチャンダイジング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１．外食産業・中食産業の業態を理解する。 ２．外食産業・中食産業の販売形態を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第3章第2節を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	授業テーマ	主要食品の分類と流通の特性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１．商品特性による基本的分類を理解する。 ２．商品の制度的分類を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第4章第1節を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	授業テーマ	主食の流通と副食の流通
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１．食事の主な構成である主食と副食がどのように流通しているかを理解するとともに、その違いを理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第4章第2節及び第3節を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	授業テーマ	調味料等および中食、嗜好食品の流通
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１．料理や現代の食生活に欠かせない調味料や中食、嗜好食品の流通を理解するとともに、その違いを理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第4章第4節から第6節を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	フードマーケティング
		１．フードビジネスの概要を理解する。

第12回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2．6次産業化を理解する。 3．フードマーケティングの基礎知識を理解する。 4．フードマーケティングの機能を理解する。 5．フードマーケティングの担い手を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第5章を読んでおくこと。また、あらかじめマーケティングとフードマーケティングの違いを考えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	360分
第13回	授業テーマ	食料消費と環境問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．３Ｒを理解する。 2．食品リサイクルと食品廃棄物を理解する。 3．食品ロスを理解する。 4．環境関連の用語とその意味を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6章第1節を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	授業テーマ	食品流通の安全確保と食料消費を取り巻く課題、定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	下記内容の授業と定期試験を実施する。 1．食品の安全性を理解する。 2．食の安全性を取り巻く用語とその意味を理解する。 3．食を取り巻く諸問題と時局的な事柄を理解する。 4．授業全体の総括を行い、総合的に理解する。 なお、定期試験については、フードスペシャリスト試験の出題形式に沿った選択式問題と自らの理解度を把握する記述式問題を出題する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6章第2節および３節を読んでおくこと。また、あらかじめ食品の安全性に関する情報や食に関する時局的情報を収集しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	370分

学生へのフィードバック方法

毎回、提出を義務付けているリアクションペーパーに履修生と共有すべき課題や内容が盛り込まれている場合、翌週の講義時にフィードバックする。なお、個別で質問がある場合は、E-meil（p20088@kasei-gakuin.ac.jp）で受け付けるとともに、必要に応じて非常勤講師室にて対応する。

評価方法

初回の授業でルーブリックについて説明をする。
1．定期試験の得点（100%）で評価する。なお、定期試験は100点満点で出題し、フードスペシャリスト試験の出題形式に沿った選択式問題と自らの理解度を把握する記述式問題を出題する。
2．定期試験はノート及び配布資料など持ち込みは不可とする。
3．詳細については、最後の授業にて説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
食を取り巻く環境への理解	○	○	○	

フードシステム全体への理解	○	○	○	
食に関する課題解決手法の提言	○	○	○	○

評価割合

定期試験100%で評価する。なお、提出を義務付けているリアクションペーパーは出席確認も含め提出を求めているため、授業日翌日17時までに提出すること（未提出または締切後の場合、欠席扱いとなる）。

使用教科書名(ISBN番号)

四訂 食品の消費と流通（978-4-7679-0687-4）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】フードシステムの基礎的知識を習得するとともに、その概要を理解することにより、現代のフードシステムの課題を見出すことができるようになる。
【思考・判断】現代のフードシステムがどのように構築されたかを理解するとともに、現代のフードシステムの利点と課題を整理し、考察できるようになる。
【関心・意欲・態度】現代のフードシステムの諸課題を整理・分析し、望ましいフードシステムの在り方を具体的に提言できるようになる。
【知識・理解】履修生が習得する「人間の栄養」のみならず、フードシステムの基礎的知識を習得するとともに、その概要を理解することにより、現代のフードシステムの課題を見出すことができるようになる。

オフィスアワー

面談希望の学生は、月曜日の授業終了後、非常勤講師室にて対応する。

学生へのメッセージ

本講義内容は、卒業後、食品産業等で活躍する学生だけでなく、日々の食生活を送る上でも必要な基礎的内容となっている。しかしながら、食関連の専門性を持ち合わせる人でも、フードシステムを体系的に理解している人や望ましい食生活を送るための知識を習得している人は、それほど多くないため、主として栄養学を学ぶ履修生に消費の部分だけでなく、生産から消費までのフードシステムを体系的に捉え、栄養管理・栄養指導の場面でも活用していけるようになることを願っている。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、フードシステムの生産と問屋、商社といった３つの機能を持ち合わせている会社を経営していることから、テキストの基礎知識を教えるだけでなく、実際のフードシステムにおける必要な知識や情報を学生に教授する。
アクティブ・ラーニング	○	自らの思考力を高めるべく、一定の課題に対する分析のワーク（環境分析など）に取り組んでもらい、その内容を発表してもらうようにする。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01112931
講義名	食品の官能評価・鑑別演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	笠松 千夏	指定なし

ナンバリング

G33106C22

授業概要(教育目的)

豊かな食生活を営むためには、食品の特性を理解し、品質を見分ける能力を身につけることは重要である。適切な食品の選択を行う時に必要とされる食品の品質には、安全性、栄養性、嗜好性、生体調節機能などが関わる。食品の品質を評価する方法として、官能評価法、化学的評価法、物理的評価法について講義および演習により学ぶ。特に嗜好性を評価するうえで重要な官能評価法について、考え方、手法、具体的な実施方法などについて、演習を取り入れながら授業を行う。

履修条件

「食品学」「調理学」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．食品の品質を評価する方法として、官能評価法、化学的評価法、物理的評価法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	１．食品の品質評価から、食生活の問題点を発見し、その解決を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	１．食品の品質について関心を持ち、豊かな食生活につなげることができる。
技術・表現の観点 (A)	１．官能評価や食品実験について、目的・結果・考察等をわかりやすく記述し、口頭発表することができる。

学習計画

食品の官能評価・鑑別演習

	授業テーマ	はじめに 食品の品質とは

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の品質のひとつである食品の嗜好性とおいしさに関わる要因について理解する。2点嗜好試験法、塩分濃度の違いの識別についての演習を通して、食品の嗜好性を評価する重要な方法である官能評価について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書序章「食品の品質とは」 （1－2ページ）を読んでくること。 官能評価の演習（2点嗜好試験法、塩分濃度の識別）についてのレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	授業テーマ	官能評価の概要、味覚と閾値、官能評価の手法（比較法その1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	官能評価の概要、味の認識の機構と閾値について理解する。 2点識別試験法、5味の識別テストの演習を通して、味覚と閾値、濃度識別について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第1章「官能評価」 （3－5ページ）を読んでくること。 官能評価の演習（2点識別試験法、5味識別テスト）についてのレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	授業テーマ	官能評価の手法（比較法その２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	官能評価の結果に及ぼす要因とその対策、官能評価の評価環境、実施条件について理解する。 3点識別試験法、1：2点識別試験法の演習を通じて、2種の試料の違いの識別を調べる官能評価法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第1章「官能評価」 （3－5ページ）を読んでくること。 官能評価の演習（2点識別試験法、5味識別テスト）についてのレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	授業テーマ	官能評価の手法（順位法その１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	官能評価の手法として、比較法を理解する。 順位法（スペアマンの順位相関係数等）の演習を通じて、3種以上の試料の違いの識別を調べる方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第1章「官能評価」 （5－12ページ）を読んでくること。この回の官能評価の演習についてのレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	官能評価実習（第1回）および発表準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の調理法の違いをテーマに、実験計画を各グループで立て、3点識別試験法を用いた官能評価演習を各グループで実施して、結果をまとめて、次週の発表に向けて準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	官能評価実習（第1回）についてのレポートを各自作成し、次回の各グループの発表に向けて、授業内で準備できなかった部分を補っておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	官能評価実習発表（第1回）、官能評価の手法（順位法その2、評点法その１）
		官能評価演習(第1回）について発表を各グループで行い、講評を行

第6回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	う。 順位法(ケンドールの一致性の係数）、2種の試料を用いた評点法の演習を行い、平均値の差の検定などの統計処理方法について理解する。結果についてPCを用いてExcelによる統計処理を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	官能評価の演習（順位法、評点法）についてのレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	授業テーマ	官能評価の手法（評点法その2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	官能評価の手法として、順位法、評点法、記述法を理解する。PCを用いてExcelによる統計処理の課題を行う。 3種以上の試料を用いた場合の評点法の演習を行い、統計処理方法についても理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第1章「官能評価」（17－30ページ）を読んでくること。 官能評価の演習（評点法）についてのレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	食品の化学的評価法、官能評価の手法（配偶法）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の化学的評価法を理解する。 配偶法の演習を通じて、5種以上の試料の違いの識別を調べる方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章「化学的評価法」（31－58ページ）を読んでくること。 官能評価の演習（配偶法）についてのレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	食品の物理的評価法、官能評価の手法（記述法）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の物理的評価法を理解する。 食品の官能特性を列挙して話し合う円卓法を用いる記述法の演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章「物理的評価法」（59－85ページ）を読んでくること。 官能評価の演習についてのレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	食品の鑑別評価（植物性食品）、官能評価実習（第2回）についての試料試作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	植物性食品の鑑別について理解する。 テーマの食材を用いた2種の調理品を調製して、評点法を用いた官能評価を行う官能評価実習のために、試料の試作を実施し、評価項目を決定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章「個別食品の鑑別 米など」（87－138ページ）を読んでくること。官能評価実習（第2回）の実験計画を立て、試料調製のために、授業内で準備できなかった部分を補っておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	官能評価実習（第2回）の実施及び発表準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ	各グループで考えたテーマに沿った2種の調理品を調製し、評点法を用いた官能評価を実施し、結果をまとめ、次週の発表の準備を行

第11回	–教育・ICT活用を含む)	う。官能評価の結果についてPCを用いてExcelによる統計処理を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	官能評価実習（第2回）についてのレポートを各自作成し、次回の各グループの発表に向けて、授業内で準備できなかった部分を補っておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	官能評価実習（第2回）発表、動物性食品の鑑別演習(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ–教育・ICT活用を含む)	官能評価実習(第2回）について発表を各グループで行い、講評を行う。 卵の鮮度および性質を調べる実験を行い、卵の鮮度判定法と加熱調理性について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卵の鮮度および調理性についての実験レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	食品の鑑別評価（動物性食品）、動物性食品の鑑別演習(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ–教育・ICT活用を含む)	動物性食品の鑑別について理解する。 魚の鮮度および性質を調べる実験を行い、魚の鮮度判定法と加熱調理による変化について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章「個別食品の鑑別 魚介類など」（139－177ページ）を読んでくること。 魚の鮮度と加熱調理性についての実験レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	食品の鑑別評価食品の鑑別評価（その他の食品）、植物性食品の鑑別演習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ–教育・ICT活用を含む)	その他の食品の鑑別について理解する。 野菜の調理による色の変化の実験を行い、色の測定法や、野菜の色素の性質について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章「個別食品の鑑別 油脂など」（177－224ページ）を読んでくること。 野菜の色の変化についての実験レポートを作成する。定期試験に向けて、授業全体について復習をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

レポートについては、毎回次週までに採点して、多くの受講生が適切に記述できていなかった箇所については、授業の初めに説明を行い、不十分なレポートについては再提出を促し、再度確認する。官能評価実習での各グループの発表については、講評を行い、次回の実習にいかすことができるようにする。

評価方法

・演習への取り組み・課題では、食への関心をもって、官能評価や食品の鑑別を理解して、演習に取り組んでいるかを評価する。
・レポートでは、官能評価あるいは実験の目的を理解し、方法および結果を科学的にまとめ、必要に応じて適切な統計処理を行い、適切な資料を用いて調査し、考察を行い、わかりやすい

文章で記述しているかを評価する。
・定期試験では、演習も含めて授業内容全体について、穴埋め、選択、記述などさまざまな形式で出題する。
・演習への取り組み、レポート、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。
・演習・実験レポート、定期試験等についてルーブリックでの評価を行う。ルーブリックはGoogle Classroomで公開する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
演習への取り組み・発表・課題	○	○	○	○
レポート	○	○		○
定期試験	○	○		

評価割合

演習への取り組み・発表・課題30%、レポート等提出40%、定期試験30%

使用教科書名(ISBN番号)

五訂 食品の官能評価・鑑別演習／日本フードスペシャリスト協会 編／建帛社 （978―4-7679-0753-6）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー

千代田キャンパス：金曜日・2時限および昼休み 準備室
町田キャンパス：火曜日・2時限 2309研究室
e-mail; kasamatsu.chinatsu@kasei-gakuin.ac.jp

学生へのメッセージ

日常から、さまざまな食品に触れる機会を増やして、食品に対する関心を持ってほしい。「食品学」「調理学」などで学んだ食品の性質に関することを基礎にして、統計学の要素も加えた演習形式で行う。毎回PCを持参すること.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者は食品企業で商品開発を行っており，その経験を授業内で説明する
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、発表等の教育内容を含む。

情報リテラシー教育	○	課題解決のために必要な情報を探索（ 図書館利用法・ 文献探索等）や 、 情報のアウトプットに関するもの（レポートの書き方、プレゼンテーション技法等）の教育内容を含む。
ICT活用	○	データ解析は統計ソフト（jmp)を用いて行えるよう指導する

講義コード	G01113031
講義名	住居学概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小池 孝子	指定なし

ナンバリング

G14101C21

授業概要(教育目的)

住居全般についての基礎的知識を習得することを目的に、個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度から検討を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	住居全般についての基礎的知識、住生活に関する諸問題を理解する。
思考・判断の観点 (K)	人間にとって住まいとは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度からみた課題について検討を行うことができる。
技術・表現の観点 (A)	住生活に関する諸問題について解決案の提案ができる

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス・住居の機能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住居の備えるべき機能、住生活を構成する要素、生活行為と住空間の関係について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自宅を事例として、住居の備えるべき機能について考える。
	教室外学習の時間（分）	90分

第2回	授業テーマ	寸法と空間
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住宅内での生活行為とスケールの関係、住空間の配置とゾーニング、動線について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自宅を事例として、スケール、ゾーニング、動線について考える。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	日本の住まいの変遷（１）明治時代以前
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の住まい、住まい方の変遷について、古代～江戸時代までについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）住まい、住まい方の変化と時代背景について考える。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	日本の住まいの変遷（２）明治時代以後・生活様式と住居
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の住まい、住まい方の変遷について、明治時代～昭和時代までについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）住まい、住まい方の変化と時代背景について考える。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	現代の家族と住まい
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	少子化・高齢化など現代日本における家族の状況と、それに合わせて必要になる住まいについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分自身のライフサイクル、ライフコースと住居との関係について考える。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	日本の住宅政策
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第二次世界大戦後の日本の住宅政策の展開について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）誘導居住面積水準、最低居住面積水準で示される面積について、自宅や住宅広告などを例に具体的な広さを体感する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	住まいと環境
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	快適な住まいを実現するための温熱、光、音、空気、水などの住環境の調整方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自宅での水道使用量について調べ、平均と比較しながら水の節約について考える。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	安心・安全な住まい
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事故・災害、犯罪、健康被害などの建物の安全を脅かす事象とその防止法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自宅を事例に、災害への備えについて点検する。
	教室外学習の時間（分）	180分

第9回	授業テーマ	高齢化社会の住まい
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢社会における住居について、ユニバーサルデザイン、バリアフリーの観点から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自宅を事例に、バリアフリー化の状況について点検する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	集まって住むということ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集合住宅に住む意義、集合住宅と街との関係性、集合住宅の供給形式について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分の住む町の大規模集合住宅と周辺との関係性について考える。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	空き家問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の人口構造の変化に伴う空き家問題について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分の住む地域の空き家の状況について考える （レポート1/3）地域の居住環境に関するレポートに取り組む
	教室外学習の時間（分）	180分 ＋レポート90分
第12回	授業テーマ	福祉と住まい
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国、地方自治体が実施している居住支援について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分の住む自治体で実施されている居住支援策について調べる （レポート2/3）地域の居住環境に関するレポートに取り組む
	教室外学習の時間（分）	180分 ＋レポート90分
第13回	授業テーマ	住まいの管理と中古住宅市場
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住まいを管理することの重要性と中古住宅市場の関係について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）インスペクションの仕組みについて調べる （レポート3/3）地域の居住環境に関するレポートに取り組む
	教室外学習の時間（分）	180分 ＋レポート90分
第14回	授業テーマ	住まいのメンテナンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住居の適切なメンテナンスと耐用年数との関係について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自宅を事例として、住居の管理が適切に行われているか考える。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

小課題については、授業時間内に全体講評をおこなう。
レポートは、採点後にコメントを付して返却する。

評価方法

小課題は、毎回の授業で実施する。授業時間内に実習課題として実施するものと、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述するものがある。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。
レポートは、授業で得られた知識をもとに情報収集をおこない、発見した課題について自分の意見をまとめて記述する。課題の発見・整理は十分か、課題解決案は適切か、結論に至る筋道に論理性があるかについて評価する。
定期試験は、授業で配付したプリントのみ持ち込み可能とし、択一問題、穴埋め問題、語句の説明問題、考えを問う問題を出題する。
なお、評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小課題	○	○	○	
レポート	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	

評価割合

小課題40%、レポート25%、定期試験35%により総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特にテキストは指定しない

参考図書

定行まり子「生活と住居」光生館
小澤紀美子ほか「豊かな住生活を考える－住居学」彰国社

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、現代生活の諸問題を理解できる
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる
【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案ができる

学生へのメッセージ

家政学の他分野等との関連・連携を念頭に置き、広い視野に立ち問題を考えるよう心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01113131
講義名	建築史Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大橋 竜太	指定なし

ナンバリング

D13202M21

授業概要(教育目的)

日本建築史の通史を学ぶ。主としてパワーポイントを用いながら、おのおのの時代の建築を、タイプごとに、それらを代表する具体的な実例をいくつか取り上げながら、それぞれの建築の特徴を解説していく。また、意匠や技術的側面ばかりでなく、それぞれの建築のもつ社会的意義についても考察し、わが国の伝統文化を理解する。

履修条件

特に定めない

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日本建築の構造、意匠的特徴を理解する
思考・判断の観点 (K)	既存の建築から建築の建てられた時代背景を考える力を習得する
関心・意欲・態度の観点 (V)	既存の歴史的建築物の存在意義について考える力を身に付ける
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	イントロダクション 日本建築の構造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築史とは何か、建築史を学ぶ目的とは 木造軸組構造の基礎、部材の名称
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で説明した用語を復習すること

	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	先史時代の建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	竪穴住居、高床住居
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部I「竪穴式住居と高床式建物」（pp.10-11）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	神社建築の成立
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住吉造、大社造、神明造
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部II「古代の神社建築」（pp.12-13）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	仏教建築の伝来
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	飛鳥時代の仏教寺院の伽藍、法隆寺、奈良時代の寺院建築、組物の発達
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部III「仏教建築の伝来」（pp.14-15）を読んでおくこと。また、授業で配布するプリント（組物について）の組物名称を覚えること
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	古代の都市計画と寝殿造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	条坊制、モヤ・ヒサシ構造、寝殿造
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部IV「古代の都市計画と住宅」（pp.16-17）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	平安時代の仏教建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	密教建築、浄土教の建築
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部V「浄土教の建築」（pp.18-19）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	中世の神社建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	春日造、流造、拝殿や境内の整備
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部VII「中世の神社建築」（pp.24-25）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分

第8回	授業テーマ	中世の仏教建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	南都焼討と奈良の再建、大仏様、禅宗様、和様、折衷様、構造技術の発達
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部VI「中世の仏教建築」（pp.20-23）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	書院造へ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	寝殿造の簡略化、楼閣建築、座敷飾り、書院造
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部VIII「中世の住宅から書院造へ」（pp.26-27）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	近世社寺建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	権現造り、東照宮、東大寺大仏殿、善行寺、浅草寺、木割、大工集団
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部XI「近世の社寺建築」（pp.32-35）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	近世の都市と建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	城郭建築、茶室・数寄屋、近世社寺、新しい建築タイプの誕生
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部IX「城郭建築」（pp.28-29）X「茶室と数寄屋」（pp.30-31）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	民家建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	民家の種類、町屋、土蔵造
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部XII「民家」（pp.36-39）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	西洋建築の移入
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	擬洋風建築、日本人建築家の誕生
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第２部I「西洋文化の移入」（pp.42-43）II「日本人建築家の誕生」（pp.44-46）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	近現代建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第14回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	わが国の近代建築運動、耐震建築の発達、メタボリズム
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第２部V「モダニズム建築の到来」（pp.50-53）VIII「日本建築界からの発信」（pp.59-61）IX「モダニズムの先を求めて」（pp.62-63）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分

学生へのフィードバック方法

レスポンスシートをチェックし、理解が十分でない場合には、コメントをつけて返却する

評価方法

・Googleクラスルームに提示するルーブリックに基づき成績評価を行う
・レスポンスシート14回（55%）とレポート３題（45%）で評価する
・レスポンスシート：講義映像を視聴後、授業の概要をまとめるとともに、簡単な課題に取り組み、提出する。これにより、授業内容の把握状況を判断する
・レポート：具体的な建築を選んで、テーマに沿ってレポートを作成する。文献史料からどれだけ正しい情報を集められているか、また、個々の建築（実例）について、正確に理解できているか、を中心に評価する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レスポンスシート	○	○		
レポート	○	○	○	

評価割合

授業態度（レスポンスシートで判断）55%およびレポート45%で評価する

使用教科書名(ISBN番号)

「建築史」編纂委員会編著、『コンパクト版 建築史【日本・西洋】』、彰国社（ISBN：978-4-395-00876-6）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」の分野について、専門的知識を有している
【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し考察することができる
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる

オフィスアワー

月曜１・５限

学生へのメッセージ

建築を学ぶためには、建築を実際に見て、空間を体験することがもっともよい方法です。授業で知った建築を、チャンスがあったら見に行く
とよいでしょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01113231
講義名	建築史Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大橋 竜太	指定なし

ナンバリング

D23203M21

授業概要(教育目的)

西洋建築史の通史を学ぶ。主としてパワーポイントを用いながら、おのおのの時代の建築を、タイプごとに、それらを代表する具体的な実例をいくつか取り上げながら、それぞれの建築の特徴を解説していく。また、意匠や技術的側面ばかりでなく、それぞれの建築のもつ社会的意義についても学び、建築やそこで行われる生活を通して、各国の伝統文化の理解を深める。

履修条件

特に定めない

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	西洋建築の構造、意匠的特徴を理解する
思考・判断の観点 (K)	既存の建築から建築の建てられた時代背景を考える力を習得する
関心・意欲・態度の観点 (V)	既存の歴史的建築物の存在意義について考える力を身に付ける
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	イントロダクション 先史時代の建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ラスコー洞窟、ストンヘンジ、ルドルフスキー『建築家なしの建築』

	教室外学習(予習・復習)の内容	図書館で西洋建築史の通史数冊の目次をみて、この授業で何を学ぶかを把握すること
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	古代エジプトとオリエントの建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	マスタバ、ピラミッド、スフィンクス、オベリスク、エジプト神殿、ジッグラト、宮殿建築、アーチ構造
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第３部I「エジプト建築」（pp.66-67）II「オリエント建築」（pp.68-69）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	ギリシア建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クレタ島とミュケナイの建築、ギリシア神殿、アクロポリスとアゴラ、オーダーの誕生（ドリス式、イオニア式、コリント式）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第３部III「ギリシア建築」（pp.70-75）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	ローマ建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	５つのオーダーの完成、ローマの神殿、フォルム、公共建築、世俗建築、アトリウム型住宅
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第３部IV「ローマ建築」（pp.76-79）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	初期キリスト教建築 ビザンティン建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	旧サン・ピエトロ大聖堂、集中式教会堂と長堂式教会堂、ドームの発達（スキンチ、トロンプ、ペンデンティヴ）、ハギア・ソフィア大聖堂
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第３部V「初期キリスト教建築」（pp.80-81）VI「ビザンティン建築」（pp.82-83）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	ロマネスク建築
	学習内容(ｱｸﾃ	

第6回	**ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	修道院の建築、巡礼路教会、各国のロマネスク教会堂
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第３部VIII「ロマネスク建築」（pp.86-89）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	ゴシック建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゴシック建築の特徴、構造の発達、各国のゴシック建築
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第３部IX「ゴシック建築」（pp.90-94）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	中世の都市と世俗建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中世都市の特徴、城郭建築、町屋、民家（ハーフ・ティンバー等）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第３部X「中世の世俗建築」（pp.94-95）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	ルネサンス建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ルネサンス建築の特徴（古典様式の復興、教会堂建築の課題）、パラッツォとヴィッラ、フィレンツェの建築、ローマの建築、マニエリスム建築、ルネサンス建築の派生、パラーディオの建築
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第３部XI「ルネサンス建築」（pp.96-100）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	バロック建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サン・ピエトロ大聖堂の建替、ベルニーニとボロッミーニ、バロック建築の特徴、絶対王政と王宮建築
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第３部XII「バロック建築」（pp.101-107）を読んでおくこと
	教室外学習の	200分

	時間（分）	
第11回	**授業テーマ**	リヴァイヴァル建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築界と近代、啓蒙主義と建築、リヴァイヴァル建築、新古典主義とゴシック・リヴァイヴァル
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第３部XIII「リヴァイヴァル建築」（pp.108-111）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	新材料を用いた建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉄・ガラス・コンクリートの建築、土木構築物、アイアン・ブリッジ、温室、クリスタル・パレス
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第４部I「新材料を用いた構築物」（pp.114-115）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	近代の都市・住宅問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	産業革命の弊害としての都市問題、慈善家による住宅建設、モデル住宅、企業都市、ユートピア思想、郊外住宅地、田園都市論、ニュータウン
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第４部II「都市問題・住宅問題」（pp.116-118）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	近代建築運動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アーツ・アンド・クラフツ運動、アール・ヌーヴォ、アール・デコ、セセッション、シカゴ派、ドイツ工作連盟、ドイツ表現主義、イタリア未来派、ロシア構成主義、ディ・スティール、バウハウス
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第４部III「アーツ・アンド・クラフツ運動」、IV「アール・ヌーヴォ」、V「アメリカ建築の近代化」、VI「セセッション「」（pp.1118-127）ならびにVIII「ドイツ工作連盟」、IX「近代建築運動」（pp.130-133）、XI「アール・デコとスカイスクレイパー」（p.141）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分

学生へのフィードバック方法

レスポンスシートをチェックし、理解が十分でない場合には、コメントをつけて返却する

評価方法

・Googleクラスルームに提示するルーブリックに基づき成績評価を行う
・レスポンスシート14回（55%）とレポート３題（45%）で評価する
・レスポンスシート：講義映像を視聴後、授業の概要をまとめるとともに、簡単な課題に取り組み、提出する。これにより、授業内容の把握状況を判断する
・レポート：具体的な建築を選んで、テーマに沿ってレポートを作成する。文献史料からどれだけ正しい情報を集められているか、また、個々の建築（実例）について、正確に理解できているか、を中心に評価する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レスポンスシート	○	○		
レポート	○	○	○	

評価割合

授業態度（レスポンスシートで判断）55%およびレポート45%で評価する

使用教科書名(ISBN番号)

「建築史」編纂委員会編著、『コンパクト版 建築史【日本・西洋】』、彰国社（ISBN：978-4-395-00876-6）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」の分野について、専門的知識を有している。グローバルな視点から専門分野の知識を深めて理解する
【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し考察することができる
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる

オフィスアワー

月曜１・５限

学生へのメッセージ

建築を学ぶためには、建築を実際に見て、空間を体験することがもっともよい方法です。授業で知った建築を、チャンスがあったら見にいくとよいでしょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01113331
講義名	住生活論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大橋 竜太	指定なし

ナンバリング

G14102C21

授業概要(教育目的)

住生活の歴史をふまえ、家族と住まいのかかわりや住生活をとりまく諸問題について検討する。また、良好な住空間を計画するために、理想とされる住空間の構成のタイプ、設備、関連法規など、建築計画の基本的な事項を一通り概観するとともに、設計・製図の基本を学ぶ。

履修条件

特に定めない

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	わが国の住空間の特徴を習得する
思考・判断の観点 (K)	住空間を計画するにあたって何が重要かを理解できるようになる
関心・意欲・態度の観点 (V)	理想の住空間を計画することができるようになる
技術・表現の観点 (A)	住空間を1：50の建築図面（平面図）で表現できるようになる

学習計画

第1回	**授業テーマ**	イントロダクション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住まいとは、住まいに求められるもの、どこに住むか、住まいの分類、空間を理解する、日本建築のモデュール
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の部屋の簡単な間取りを描く
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	さまざまな住まい

第2回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住まいの進化とアメニティの追求、住まいの地域性、住み手と住まい、住まいの種類
	教室外学習(予習・復習)の内容	川崎市立日本民家園に移築保存されている民家をインターネットで調べ、現代住宅との違いを整理する
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	授業テーマ	住まいの伝統
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	寝殿造、舗設、書院造、座敷飾り、空間の上下
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターネットで書院造の実例を調べる
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	授業テーマ	住まいの西洋化とｎLDK住宅
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ベランダ式住宅、洋館、中廊下型住居、台所改革、住まい方の研究、51C型住宅、DKの登場、プレファブ住宅
	教室外学習(予習・復習)の内容	リビング（L）とダイニング（D)とキッチン（K）のつながり方を整理する
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	授業テーマ	住宅地開発と集合住宅
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	都市問題の発生、田園都市論、ニュータウン、モデル住宅、住宅政策、同潤会、日本住宅公団
	教室外学習(予習・復習)の内容	集合住宅と戸建住宅について、それぞれの長所と短所をまとめる
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	授業テーマ	住まいの管理と地域コミニュティ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住まいの安全、家庭内事故の現状、防犯、防災、住まいのメンテナンス、地域コミュニティ、地域計画
	教室外学習(予習・復習)の内容	自宅の安全対策を確認するとともに、火災や地震が起きた場合の対応を確認する
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	授業テーマ	住まいの構成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住まいの機能、パブリック・スペースとプライヴェート・スペース、多様なライフスタイルと住まい
	教室外学習(予習・復習)の内容	住まいで行う行為を列挙し、空間との関係を図示する
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	授業テーマ	住まいの計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	リビング、ダイニング、キッチンの計画
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の部屋の寸法を計測する
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	中間試験および同解説

第9回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	第１回～７回までの講義内容に関する試験を実施 授業後半にて、解答解説を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	不正解の問題を復習する
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	**授業テーマ**	図面の表現方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図面の縮尺 平面図、立面図、断面図、展開図の表現
	教室外学習(予習・復習)の内容	1：500、1：200、1：100、1：50、1：20のスケールバーを作図する
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	**授業テーマ**	１Kの住宅の計画１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4.2×6mの空間に１Kの住宅を計画する
	教室外学習(予習・復習)の内容	図面を完成させる
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	**授業テーマ**	１Kの住宅の計画２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1点透視図法で室内を表現する
	教室外学習(予習・復習)の内容	図面を完成させる
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	**授業テーマ**	マンションのリフォーム計画１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1：50の建築図面（平面図）を理解する 線の意味、躯体と間仕切壁の違いを学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	図面を完成させる
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	**授業テーマ**	マンションのリフォーム計画２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	理想の住戸を計画する
	教室外学習(予習・復習)の内容	図面を完成させる
	教室外学習の時間（分）	120分

学生へのフィードバック方法

授業で中間試験の解説を行う

評価方法

・Googleクラスルームに提示するルーブリックに基づき成績評価を行う
・中間試験では、それまでの講義で学んだ内容についての理解度を確認する。
・2つ課題に関しては、図法が理解できているか、家具のスケール感が正しかどうかを中心に採点する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間試験	○	○		
課題	○	○	○	○

評価割合

通常点（レスポンスシート：24パーセント）、中間試験(44%)、４つの課題(第一課題8%、第二課題8%、第三課題8%、第四課題8%)で評価する

使用教科書名(ISBN番号)

特に定めない

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる
【関心・意欲・態度】、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる
【技能・表現】・次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる

オフィスアワー

月曜１・５限 1702室

学生へのメッセージ

三次元の「空間」を理解するには、教室での授業だけでは十分ではありません。日頃から身の回りの空間に関心をもち、たとえば、ドアの幅や机の幅・高さなどを測ってみて、使いやすい寸法はいくつぐらいなのかを考えてみてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	製図の描き方等に関する教育内容を含む
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01113431
講義名	住居設備
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	柿本 美樹枝	指定なし

ナンバリング

G14310C21

授業概要(教育目的)

私たちが生活する住まいは様々な設備システムを維持管理することによって成り立っています。その設備システムには、快適性、利便性、機能性、安全性、信頼性、経済性、省エネ・省資源、環境保全性、保守管理性が求められています。
本授業では2つの視点で学びます。一つは自律した生活者として住まい設備の仕組みを知り、省エネや環境課題に対応できる賢い生活者になるという視点です。もう一つは、設計者として、知識を深めると同時に環境課題を解決するものづくりを目指すという未来を担う視点です。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	［建築士指定科目］住まいの給排水衛生設備システムについて、その名称、働きを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	住居設備の果たす役割を、考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会における住居設備に関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	専門用語を用いて、住居設備への自分の意見を述べることができる。

学習計画

住居設備

		ガイダンス

第1回	授業テーマ	住居設備の位置付け
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住まいを取り巻く環境要素には、空気、水、光、熱、音がある。 本授業では、その中でも水環境（給排水設備）を中心に、 暮らしに必要な設備全般の仕組みを学ぶ。 建築設備の位置付けや種類について理解する。都市インフラと生活基盤。 戸建住宅の建築設備／住宅で使用されるエネルギーの種類／建築士の仕事（設備の図面）
	教室外学習(予習・復習)の内容	建築設備の位置付けや種類について復習する
	教室外学習の時間（分）	150
第2回	授業テーマ	住居設備の概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	設備システムから見た戸建住宅と集合住宅の違いについて理解する。 「水・お湯」「空気・熱」「給排水・衛生」「空調」のしくみ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p7.8の概念図を比較してみる。 水、湯、熱の供給廃棄のしくみについて復習する 課題1_生活の中の「住居設備」を調べる。
	教室外学習の時間（分）	250
第3回	授業テーマ	建築と水環境（１） 水環境
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水と環境問題。日本と海外の事例。 生活者の視点から「ウォーターフットプリント」をはじめ、 温暖化に密接に関わる水事情を知る。 都市設備と建築設備／自然環境／再利用水などの水環境について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分自身の「ウォーターフットプリント」を考える
	教室外学習の時間（分）	150
第4回	授業テーマ	建築と水環境（２） 水の使途
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水の機能と用途について理解する。 暮らしの中の水、生命維持のための水、生活用水と使用水量 給排水衛生設備／上水 雑用水
	教室外学習(予習・復習)の内容	水の機能と用途について復習する。
	教室外学習の時間（分）	150
第5回	授業テーマ	水に関する基礎知識(1) 水質、給水圧力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水質、給水圧力について理解する。 飲料水から温泉水、水の再利用(中水)に至るまで。 水の圧力 ベルヌーイの式 浄水器 残留塩素 人の暮らしと産業と水質汚染
	教室外学習(予習・復習)の内容	水質と暮らしの関係を理解する
	教室外学習の時間（分）	150
第6回	授業テーマ	給水設備（１） 給水の汚染防止
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ ICT)	給排水設備とは概念を知る。 給水の汚染防止について理解する。

	ｼｰ教育・　活用を含む	給水量、衛生器具、配管の種類、器具の汚染防止
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題2_教科書第2章の例題を解いてみる。
	教室外学習の時間（分）	250
第7回	授業テーマ	給水設備（２） 給水方式
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給水方式について理解する。 システムの種類と構成 水槽 配管材料
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「給水設備」について読んでおく
	教室外学習の時間（分）	150
第8回	授業テーマ	給湯設備 給湯熱源の仕組み、給湯方式
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給湯熱源の仕組みについて理解する。 お湯と水の違い、給湯エネルギー、システムの種類と構成 ＊昨今のエコ設備について
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「給湯設備」について読んでおく
	教室外学習の時間（分）	150
第9回	授業テーマ	水に関する基礎知識（2） トラップの機能、破封現象、水使用の負荷
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	トラップの機能、破封現象、水使用の負荷について理解する。 排水トラップ、封水の役割と通気管、破封現象の種類と対策、 ウィルスと拡散と排水設備の関係(香港の事例から)、水使用の環境負荷。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題3_生活の中の「排水トラップ」の種類を調べる。
	教室外学習の時間（分）	250
第10回	授業テーマ	排水通気設備（１）排水の仕組み
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	排水・通気設備の目的 排水の種類と排水方式／通気方式／排水配管材料
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「排水・通気設備」について読んでおく。 課題４_「給湯設備」の例題を解いてみる。
	教室外学習の時間（分）	250
第11回	授業テーマ	排水通気設備（２）排水の円滑な流れ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	排水の仕組みについて理解する。 排水設備の目的 排水の汚染度の評価指標、PH～BOD／排水処理の分類と特徴 雨水利用や排水再利用設備
	教室外学習(予習・復習)の内容	給排水設備の総復習。 課題5_水環境と水問題のまとめ
	教室外学習の時間（分）	250
第12回	授業テーマ	衛生設備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衛生器具の種類について理解する。 給排水衛生設備の種類と主な関係法規 最新の機器情報 ＊設備機器オンライン見学またはショールーム
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「衛生設備」について読んでおく 課題６_衛生設備のまとめ
	教室外学習の時間（分）	250

第13回	授業テーマ	浄化設備・ガス設備・換気設備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	浄化槽、ガス設備について理解する。 浄化槽の役割と性能 ガスの種類と性質／供給方式／配管方法／安全対策 換気設備について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「ガス設備][換気・排煙」について読んでおく 課題7_「必要換気量」の例題を解いてみる
	教室外学習の時間（分）	250
第14回	授業テーマ	電気設備の基礎知識／定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	電気設備の基礎を理解する。 電気の役割と構成／照明コンセント、太陽光発電 定期試験
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「電気設備」について読んでおく
	教室外学習の時間（分）	50

学生へのフィードバック方法

課題については次の授業時に発表する場を設けます。

評価方法

・課題は、授業の理解度を示す記述式レポートと教科書の例題です。

・定期試験は、設備用語の概念とその仕組みの理解度を確認します。
建築士の試験問題に準じた課題を多肢択一で選ぶ設問も含みます。

・ルーブリックに基づく成績評価。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
課題	○	○	○	○

評価割合

定期試験(50%)、課題(50%)による総合評価

使用教科書名(ISBN番号)

初学者の建築講座 建築設備（第五版）／大塚雅之 著
安孫子義彦 専門監修／市ケ谷出版社／2022年／ISBN 9784870712645

参考図書

「図解入門 建築設備の基本と仕組み」／土井 巌 著／秀和システム／2019年／ISBN 9784798057583

ディプロマポリシーとの関連

現代家政学科
［知識・理解］ 社会の基盤として「質の高い生活」とは何かを理解できる。
生活デザイン学科
［知識・理解］ 住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。
現代家政学科・生活デザイン学科 共通
［思考・判断］ 住居設備の果たす役割を、考えることができる。
[関心・意欲・態度] 社会における住居設備に関心を持つことができる。
[技術・表現] 専門用語を用いて、住居設備への自分の意見を述べることができる。

オフィスアワー

学生へのメッセージ

建築士試験指定科目 ④建築設備 に認定。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は建築設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能である。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01113531
講義名	構造力学Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	白井 篤	指定なし

ナンバリング

G14401C21

授業概要(教育目的)

構造力学の入門編として、建築（住居）における力学への興味を喚起し、新しい空間構成を想像する能力の育成を目的としている。そのために、各種建築物のかたちと強さの関係について、平易に解説すると共に、実際にそれら建築物の構造模型を制作し、簡単な実験（一点で支える力の実験、梁の変形など）と計算を行うことによって、力学を含む数学的な知識の向上を図る。また、構造形式の異なる建築物（ラーメン構造、トラス構造、アーチ構造、膜構造、折板構造など）についても紹介する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．構造物に作用する荷重とそれによって生ずる支持反力を理解し説明できる。 ２．力の釣合い条件をもとに、トラスに生ずる部材応力の計算ができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス／力について
	学習内容(ｱｸ	

第1回	ﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業概要、授業の進め方、到達目標、必要とする教室外学習（予習・復習）、成績評価の方法・基準などについて理解する。力学を学ぶ上で理解して欲しい用語（質量、重量、荷重［固定荷重、積載荷重、積雪荷重、地震荷重、風圧力など］）についても説明できるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材について確認する。 【復習】ガイダンスで説明した内容について理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第2回	授業テーマ	力と形（１）１点で支える力の実験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１枚の紙に圧縮力がかかった時に、紙がどのような形だと大きな力を支えることができるかについて実験を通して理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材について確認する。 【復習】授業で説明した用語（外力、反力及び応力）の意味について、書籍やネットなどで調べて理解する。また、形と力の関係についても復習する。
	教室外学習の時間（分）	180
第3回	授業テーマ	力と形（２）１点で支える力の実験の解説
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	力と形に関係する図心、重心、剛心、座屈などの用語を用いながら、どんな形であれば大きな力を支えることができるかについて説明できる。また、応力度の計算ができる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材について確認する。 【復習】授業で説明した用語（図心、重心、剛心及び座屈）の意味について、書籍やネットなどで調べて理解する。また、応力度の計算についても復習する。
	教室外学習の時間（分）	180
第4回	授業テーマ	力と形（３）図心の求め方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図心について理解を深めるため、制作及び計算で図心を求めるので理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材を確認する。 【復習】図心の求め方について復習する。
	教室外学習の時間（分）	180
	授業テーマ	形と変形（片持ち梁の変形）／建物の構造形式
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	片持ち梁の変形について、部材断面の寸法や片持ちの長さを変えた実験を行いながら、形と変形の関係について説明するので理解する。剛構造［耐震構造］及び柔構造［免震構造・制震構造］）、建物の構造形式

第5回	育・ICT活用を含む)	（ラーメン構造、トラス構造、アーチ構造、膜構造、折板構造など）についても説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材を確認する。 【復習】形と変形の関係について復習して理解する。また、授業で説明した用語（ラーメン構造、トラス構造、アーチ構造、膜構造、折板構造など）についても書籍やネットなどで調べて理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第6回	授業テーマ	力の合成と分解（１）力の釣合い
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	力の合成と分解について理解する。また、荷重の種類（集中荷重、等分布荷重及び等変分布荷重）についても説明できるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材を確認する。 【復習】授業内容を復習して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第7回	授業テーマ	力の合成と分解（２）集中荷重
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集中荷重が作用したときの反力計算を理解する。 【宿題（１）】集中荷重
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材を確認する。 【復習】授業内容を復習して理解する。理解していることを確認するため、宿題（１）をやってみる。
	教室外学習の時間（分）	180
第8回	授業テーマ	力の合成と分解（３）等分布荷重＆等変分布荷重
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	等分布荷重＆等変分布荷重が作用したときの反力計算を理解する。 【宿題（２）】等分布荷重＆等変分布荷重
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材を確認する。 【復習】授業内容を復習して理解する。理解していることを確認するため、宿題（２）をやってみる。
	教室外学習の時間（分）	180
第9回	授業テーマ	力の合成と分解（４）片持ち梁＆ラーメン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	片持ち梁＆ラーメンに集中荷重及び等分布荷重が作用したときの反力計算を理解する。 【宿題（３）】片持ち梁＆ラーメン
	教室外学習(予習・復	【予習】Google Classroomに提示された教材を確認する。 【復習】授業内容を復習して理解する。理解していることを確認するた

	習)の内容	め、宿題（３）をやってみる。
	教室外学習の時間（分）	180
第10回	**授業テーマ**	トラス（１）（節点法①）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	トラスの解法の条件について説明し、実際に節点法を用いてトラスの部材応力の算出を行うので理解する。 【宿題（４）】トラス
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材を確認する。 【復習】授業内容を復習して理解する。理解していることを確認するため、宿題（４）をやってみる。
	教室外学習の時間（分）	180
第11回	**授業テーマ**	トラス（２）（節点法②）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	節点法によるトラス部材の応力計算ができる。 【宿題（５）】トラス
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材を確認する。 【復習】授業内容を復習して理解する。理解していることを確認するため、宿題（５）をやってみる。
	教室外学習の時間（分）	180
第12回	**授業テーマ**	トラス（３）（切断法①）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	切断法によるトラスの部材応力の算出を行うので理解できる。 【宿題（６）】トラス
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材を確認する。 【復習】授業内容を復習して理解する。理解していることを確認するため、宿題（６）をやってみる。
	教室外学習の時間（分）	180
第13回	**授業テーマ**	トラス（４）（切断法②）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	切断法によるトラス部材の応力計算ができる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材を確認する。 【復習】第７回から第14回までの授業内容について復習して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180

第14回	授業テーマ	力の合成と分解及びトラスの復習／定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	力の合成と分解及びトラス部材の応力計算について説明できる。また、学習目標の達成状況を確認するために定期試験を実施する
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材を確認する。第７回から第14回までの授業内容について復習して理解する。
	教室外学習の時間（分）	360

学生へのフィードバック方法

実施した小テスト、実験レポート及び宿題については、採点して次週の授業の初めに返却する。返却時に正答について解説を行う。

評価方法

平常点（140点）については、授業の最後に行う小テストもしくは授業中に実施する実験レポートで評価する。１回の授業の平常点は10点満点とし、小テストの正答率もしくは実験レポートの記載内容を３段階(A：10点、B５点、C：０点）で評価する。宿題については６回出し、１回10点満点で正答率によって３段階（A：10点、B：5点、C：０点）で評価する。定期試験は60点満点で、静定梁の反力計算が２問、トラス応力の計算が１問とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト・実験レポート	○			
宿題	○			
定期試験	○			

評価割合

平常点（約50%）、宿題（約25%）、定期試験（約25%）により、総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

教材については、Google Classroomに提示する。また、参考資料などについては、適宜、印刷・配付する。

参考図書

和田彰ら／建築構造設計／実教出版、山田修／やさしい建築の構造力学／オーム社、小野里憲一・西村彰敏／力のつり合いを理解する構造力学／彰国社

ディプロマポリシーとの関連

質の高い生活をおくるための１つに安全・安心な家づくりがある。その家づくりの基礎となる構造的な知識を身につけている。

オフィスアワー

火曜日４時限 非常勤講師室

学生へのメッセージ

授業で使用する教材については、授業の３日前にはGoogle Classroomに提示するので、事前に勉強した上で、授業に臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		授業で説明した内容について理解しているか確認するため、学生（学修者）に計算問題をやってもらう。
情報リテラシー教育		
ICT活用		書籍・雑誌、ネットなどを活用して収集した資料を加工・編集して、教材（提示用プレゼンテーション）を作成する。

講義コード	G01113631
講義名	構造計画Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	永井 佑季	指定なし

ナンバリング

G24402C21

授業概要(教育目的)

授業は、建築における構造デザインについて学ぶ内容とします。
構造に関する歴史的変遷を通して構造デザインの基礎知識を学び、現代建築における構造デザインの実例を通して、鉄骨構造、木質構造、鉄筋コンクリート構造等の概略の知識を習得します。その他、スタジアムのような大空間やシェル構造等の空間構造、さらに、ガラスやアルミ等の建築に使われる材料にも着目して、幅広く構造について学んでいきます。
また、「構造デザイン」がどういったものであるかの理解を深めるために、パスタブリッジのデザイン・制作・載荷実験を通して体得します。

履修条件

授業に積極的に参加をすることを原則とします。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	建築における、意匠設計と構造設計の関係性について理解を深めながら、各種構造に関する基礎知識を習得することを、目標とします。
思考・判断の観点 (K)	将来、建築のデザイン関係の仕事（設計やインテリアデザイン等）をする際に、構造に対する基礎的な知識により、適切なデザイン判断が出来るようになることを目標とします。
関心・意欲・態度の観点 (V)	建築の構造という分野に興味を持ち、構造デザインという分野に関心を持てるようになることを目標とします。
技術・表現の観点 (A)	建築を専門としない学生でも、建築を専門とする学生とチームを組み、グループで課題に取り組むことにより、建築的な技術を体得することを目標とします。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション「構造とデザインとは」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	当該授業で扱う建築における構造の世界の概要について説明を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	構造デザインについて参考図書を参照しながら学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	意匠設計と構造設計 / 構造デザインとは－１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	意匠設計と構造設計との関係を紐解きながら、構図デザインについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	構造デザインについて参考図書を参照しながら学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	模型実験で力の流れを理解する-１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パスタブリッジのデザイン・制作・載荷実験を通して、「構造」と「デザイン」の関係性について学ぶ。その第1回目として、パスタブリッジ制作のためのガイダンス及び、制作を行うグループ分け、デザインを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	構造デザインについて参考図書を参照しながら学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	鉄の構造-１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉄骨構造の歴史について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回の授業で課題としているパスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	鉄の構造-２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回に引き続き、現代の鉄骨構造のデザインにいて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回の授業で課題としているパスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	模型実験で力の流れを理解する-２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第3回のパスタブリッジの各グループのデザインについて中間発表を行い、互いのグループについて意見を述べたり質問をしたりすることで、製作に向けてデザインをブラッシュアップする。

	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回の授業で課題としているパスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	**授業テーマ**	木の構造-１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木造の基本について学ぶとともに、木を使った建物の実例から木の構造デザインについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回の授業で課題としているパスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	鉄筋コンクリートの構造-１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉄筋コンクリート構造の基本について学ぶとともに、鉄筋コンクリートを使った特殊な建物のデザインについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回の授業で課題としているパスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	鉄筋コンクリートの構造-２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉄筋コンクリートを使った現代の建物のデザインについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回の授業で課題としているパスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	模型実験で力の流れを理解する-３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第3回のパスタブリッジの課題である、パスタブリッジの制作を行う。パスタの強度、接着剤の材料的強度等を制作をとおして感じ取り、実際の建物の設計における強度とデザインのバランスについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回の授業で課題としているパスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	模型実験で力の流れを理解する-４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回に続き第3回のパスタブリッジの課題である、パスタブリッジの制作を行う。パスタの強度、接着剤の材料的強度等を制作をとおして感じ取り、実際の建物の設計における強度とデザインのバランスについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回の授業で課題としているパスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	模型実験で力の流れを理解する-５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ	前回に続き第3回のパスタブリッジの課題である、パスタブリッジ

第12回	ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	の制作を行う。パスタの強度、接着剤の材料的強度等を制作をとおして感じ取り、実際の建物の設計における強度とデザインのバランスについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回の授業で課題としているパスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	模型実験で力の流れを理解する-６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第3回から開始したパスタブリッジについて、最終的な成果物に重りを載荷し、自身が制作したブリッジの強度の確認を行い、構造とデザインについて学んだことを総括する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書等を参考に、自身が制作したパスタブリッジの強度について検証を行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	授業テーマ	総括
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	構造デザインについて学んだ内容について総括を行う。具体的には、授業中のレポート課題により、学んだ内容を復習するような内容とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書を参考としながら、構造デザインについて総括を行う。
	教室外学習の時間（分）	180分

学生へのフィードバック方法

パスタブリッジの制作を通して、授業中にコメント等を行う。

評価方法

授業への出席はもとより、授業への積極的な参加等の平常点や、授業内に行うレポートの提出等により評価を行う。
平常点50%、期末試験等50%

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
レポート・期末試験	○	○	○	

評価割合

出席及び平常点（授業への参加態度や授業中に小レポート等）（40%）
パスタブリッジに関する発表点（20%）
学期末の授業内課題レポート（40%）

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない

参考図書

「空間・構造・物語―ストラクチュラル・デザインのゆくえ（斎藤公男著・彰国社）」
「建築構造のしくみ―力の流れとかたち (建築の絵本)（川口 衞, 松谷 宥彦, 川崎 一雄, 阿部 優

共著・彰国社）

ディプロマポリシーとの関連

授業をとおして建築の構造デザインについて学ぶことをとおして建築における構造分野と向き合うことにより、生活・社会の諸問題を自らから分析し、問題解決に導く考察ができるようになると考えられる。

学生へのメッセージ

基本的に、スライドによる講義とします。適宜メモを取り、積極的な授業参加をしてください。講義内容を確認するため、さらに、より構造デザインに関する知識の幅を広げるために、参考図書による、予習・復習に役立てることをお勧めします。
なお、授業の途中では、パスタによるブリッジの制作により実際に手を動かしてもらい、建物に働く力の流れを体験してもらいます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01113731
講義名	インテリア材料
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	白井 篤	指定なし

ナンバリング

G24403C21

授業概要(教育目的)

建築材料の中から、インテリアを中心とした仕上げ材（壁材、床材、天井材など）や屋根材を取り上げて、それら部材に使われている材料（せっこうボード、繊維補強系ボード、軽量気泡コンクリート、タイル、れんが、石材、ガラス、塗料、断熱材、接着剤、プラスチック、瓦、スレートなど）の基本的事項を平易に解説する。また、インテリア材料は構造材料とは異なり、安全性や耐久性以外に、機能性、快適性、美観性などの性能も要求される。そこで、各部位に要求される性能条件と材料との関連性を理解させると共に、建築仕上げ材料選定にあたっての基礎的知識を養う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各種の建築仕上げ材料について、その基本的事項（種類、性質など）を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	各部位に要求される性能条件に適した建築仕上げ材料を選ぶことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業概要、授業の進め方、到達目標、必要とする教室外学習、成績評価の方法・基準などについて理解すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材を読んで確認する。 【復習】ガイダンスで説明した内容について理解する。

	教室外学習の時間（分）	100
第2回	**授業テーマ**	屋根材料（１）粘土瓦
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	粘土瓦(釉薬瓦、無釉瓦、いぶし瓦など）の種類や特徴について説明できるようにすること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて確認する。 【復習】授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	200
第3回	**授業テーマ**	屋根材料（２）スレート
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住宅屋根用化粧スレート、プレスセメント瓦、天然スレート、シングルなどの特徴及び種類について説明できるようにする。 【レポート課題①の提示】課題のタイトル「戸建て住宅の屋根材料を選ぶ上で」（提出期限：レポート課題提示から２～３週間後）
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業内容について再度、復習して理解する。また、レポート課題①に関する資料集めを行う。
	教室外学習の時間（分）	200
第4回	**授業テーマ**	屋根材料（３）金属板
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	金属板（トタン、ブリキ、ガルファン、ガルバリウム鋼板など）の特徴及び種類について説明できるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業内容を復習して理解する。また、レポート課題①について書き始める。
	教室外学習の時間（分）	200
第5回	**授業テーマ**	内装仕上げ材料 せっこうボード・壁紙
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	せっこうボード及び壁紙の特徴や種類について説明できるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業内容について再度、復習して理解する。また、レポート課題①についてルーブリックに示した観点に従って書いているか見直しを行う。
	教室外学習の時間（分）	200
第6回	**授業テーマ**	内外装仕上げ材料（１）繊維補強系ボード
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	繊維補強系ボードの種類やその特徴について説明できるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。また、レポート課題①について提出できるようにする。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業内容について再度、復習して理解する。
	教室外学習の時間（分）	200
	授業テーマ	内外装仕上げ材料（２）木質系材料

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木質系材料（合板、集成材、繊維板、パーティクルボードなど）の種類や特徴について説明するできるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業内容について再度、復習して理解する。
	教室外学習の時間（分）	200
第8回	授業テーマ	内外装仕上げ材料（３）タイル
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	タイルの種類（素地による区分）やその特徴について説明できるようにする。 【レポート課題①】返却と解説 【レポート課題②の提示】課題のタイトル：浴室の床材について（提出期限：レポート課題提示から２～３週間後）
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テスト及びレポート課題①について見直すと共に、授業内容について再度、復習して理解する。また、レポート課題②を書くための資料集めを行う。
	教室外学習の時間（分）	200
第9回	授業テーマ	内外装仕上げ材料（４）れんが
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	れんがの種類とその特徴、及び目地の種類について説明できるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業内容を復習して理解する。また、レポート課題②について書き始める。
	教室外学習の時間（分）	200
第10回	授業テーマ	内外装仕上げ材料（５）石材
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	石材の種類とその特徴について説明できるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業内容について再度、復習して理解する。また、レポート課題②についてルーブリックに示した観点に従って書いているか見直しを行う。
	教室外学習の時間（分）	200
第11回	授業テーマ	内外装仕上げ材料（６）軽量気泡コンクリート
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	軽量気泡コンクリートの特徴、壁への熱の伝わり方（熱伝導、熱伝達、熱貫流）及び不燃、準不燃、難燃材料の違いについて説明できるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。また、レポート課題②について提出できるようにする。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業内容について再度、復習して理解する。
	教室外学習の時間（分）	200
	授業テーマ	内外装仕上げ材料（７）ガラス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第12回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガラスの種類とその特徴について説明できるようにすること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで理解する。 【復習】返却した小テスト及びレポート課題②について見直すと共に、授業内容について再度、復習して理解する。
	教室外学習の時間（分）	200
第13回	授業テーマ	その他の材料（１）塗装材料・断熱材料
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	塗装材料及び断熱材料の種類とその特徴について説明できるようにする。 【レポート課題②】返却と解説 【定期試験の説明】
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テスト及びレポート課題②について見直すと共に、授業内容について再度、復習して理解する。
	教室外学習の時間（分）	200
第14回	授業テーマ	その他の材料（２）接着材料／定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	接着材料の種類とその特徴について説明できるようにする。また、学習目標の達成状況を確認するために定期試験を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。返却した小テストについて復習すると共に、第１回から第14回までの授業内容について復習して理解する。
	教室外学習の時間（分）	200

学生へのフィードバック方法

実施した小テスト及びレポート課題については、採点して次週の授業の初めに返却する。返却時に、小テストについては正答の説明を、レポート課題については評価基準の解説を行う。定期試験についても次週（第15回）に返却と解説を行う。

評価方法

平常点、レポート課題及び定期試験の３つで総合的に評価する。平常点(150点）については、授業の最後に行う小テスト及び発表で評価する。小テストの問題は、○×問題もしくは択一問題である。問題の多くは、過去のインテリアコーディネーター及び二級建築士資格試験で出されたもので、授業時の内容８割、授業外学習の内容2割である。１回の授業の平常点は10点満点とし、小テストの正答率によって３段階（A:10点、B：５点、C：０点）で評価する。発表については、各授業の到達目標（・・について理解し説明できること）に達しているかを授業の最後に説明してもらうことで確認する。（授業で理解したことを１分間で発表する） 発表については、「理解したことについて」「発表技術（時間、声の大きさ、話すスピード）」の２つの観点で（ルーブリックによって）評価する。レポート課題については、「課題に対する記述」「表現方法」「文章を書くときの技術的な約束事」「参考文献の活用」「その他（提出期限、分量、体裁など）」の５つの観点で（ルーブリックによって）評価する。評価基準については、レポート課題出題時に説明する。レポート課題については、50点満点とし、10段階
（S：50点、SA：45点、A：40点、AB：35点、B：30点、BC：25点、C：20点、CD:15点、D：10点、E：5点）で評価する。定期試験については、ノートや参考資料などは全て持ち込み可として、150点満点とし、全て記述式の問題とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点（小テスト及び発表）	○			
レポート課題	○	○		

定期試験	○			

評価割合

平常点(37.5%）、レポート課題（25%）及び定期試験（37.5%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

教材については、Google Classroomに提示する。また、参考資料などについては、適宜、資料を印刷・配付する。

参考図書

コーディネーター受験のためのインテリア仕上げ材／砂川幸雄・江口征男／相模書房、初学者の建築講座 建築材料／橘高義典ら／市ヶ谷出版

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】質の高い生活をおくるための１つに人や環境に優しい家づくりがある。その家づくりの基礎となる建築仕上げ材料についての専門的知識を有することで、現代生活が抱えている住生活分野の諸問題を理解できる力を養う。
【思考・判断】現代生活が抱えている住生活分野の諸問題について、解決に導く考察をすることができと共に、最適解を判断できる力を養う。

オフィスアワー

火曜日４時限 非常勤講師室

学生へのメッセージ

授業で使用する教材については、授業の３日前にはGoogle Classroomに提示するので、事前に勉強した上で授業に臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		授業の最後に、授業で理解したことを学生（学修者）に発表させることで、学修者が自分の思考を深められたり、自分の思考を整理したりできるようにする。
情報リテラシー教育		
ICT活用		書籍・雑誌、ネットなどを活用して収集した資料を加工・編集して、教材（提示用プレゼンテーション）を作成する。

講義コード	G01113831
講義名	住宅施工
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	白井 篤	指定なし

ナンバリング

G24404C21

授業概要(教育目的)

住宅生産の最終段階である施工について、住宅の主要構造形式である木構造を中心として（鉄筋コンクリート構造及び鋼構造を含む）、地業工事、主体工事、内外装仕上げ工事（タイル工事、左官工事など）、床工事（カーペット敷き込み工事、畳敷き工事など）の順に施工方法を平易に解説する。また、住宅などの建築物を建設する際に必要となる敷地とその周辺並びに地盤の調査方法についても学ぶ。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	住宅の施工方法について、工事種別ごとに説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス／施工・管理計画（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業概要、授業の進め方、到達目標、必要とする教室外学習、成績評価の方法・基準などについて理解する。また、工事契約の概略についても説明できる。 【レポート課題の提示】タイトル：木造在来軸組工法に使われている接合金物の種類とその使い方について
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材を読んで確認する。 【復習】ガイダンス及び施工・管理計画（１）で説明した内容について理解する。レポート課題の資料集めを始める。
	教室外学習の時間	

	（分）	180
第2回	**授業テーマ**	施工･管理計画（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	工程表の種類及び読み方について説明できる。また、工事現場での材料管理、工事着手前に行う各種の届出などについて説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材を読んで確認する。 【復習】授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。レポート課題について書き始める。
	教室外学習の時間（分）	180
第3回	**授業テーマ**	地業工事
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住宅が建てられる地盤及び住宅の地盤調査として用いられているスクリューウエイト貫入試験について説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材を読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。また、レポート課題についてルーブリックに示した観点に従って書いているか見直しを行う。
	教室外学習の時間（分）	180
第4回	**授業テーマ**	基礎工事
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住宅に用いられている基礎の種類について説明できると共に、基礎工事について、水盛り・やり方工事、割栗・捨てコンクリート工事、フーチング基礎工事などに分けて説明できるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材を読んで確認する。また、レポート課題について提出できるようにする。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第5回	**授業テーマ**	主体工事（木構造①）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木材の接合方法について説明できるようにすると共に、土台から柱の建て方まで説明できるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材を読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第6回	**授業テーマ**	主体工事（木構造②）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	床組、小屋組、屋根などの工事の方法について説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材を読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第7回	**授業テーマ**	主体工事（木構造③）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	壁及び天井の作り方について説明できる。また、２×４工法の仕組みについても説明できる。
	教室外学習(予習・復	【予習】Google Classroomに提示された教材を読んで確認する。

	習)の内容	【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第8回	**授業テーマ**	主体工事（鉄筋コンクリート構造①）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉄筋コンクリート工事の中の鉄筋工事及び型枠工事について説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材を読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第9回	**授業テーマ**	主体工事（鉄筋コンクリート構造②／コンクリートブロック工事）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉄筋コンクリート工事の中のコンクリート工事と、コンクリートブロック工事について説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材を読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第10回	**授業テーマ**	主体工事（鋼構造）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鋼構造に使われているボルト接合及び溶接について説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材を読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第11回	**授業テーマ**	内外装仕上げ工事（タイル工事／左官工事）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	タイル工事（湿式工法、乾式工法、先付け工法）及び左官工事（セメントモルタル塗り、プラスター塗り、土壁塗り）について説明できるようにすること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材を読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第12回	**授業テーマ**	床仕上げ工事（合成樹脂系／カーペット敷き）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	床仕上げ工事の中で住宅の床仕上げとしてよく使われている合成樹脂系（ビニルタイル及びビニルシート）の床仕上げ工事と、カーペット敷き工事について説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材を読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第13回	**授業テーマ**	設備工事／積算
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	設備工事の中の給排水設備工事と、積算について説明できる。

	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材を読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間(分)	180
第14回	**授業テーマ**	工事用機械／定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住宅施工に使われている工事用機械について説明できる。また、学習目標の達成状況を確認するために定期試験を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材を読んで確認する。第１回から第14回までの授業内容について復習して理解する。
	教室外学習の時間(分)	360

学生へのフィードバック方法

実施した小テスト及びレポート課題については、採点して次週の授業の初めに返却する。返却時に、小テストについては正答の説明を、レポート課題については評価基準の解説を行う。

評価方法

平常点、レポート課題及び定期試験の３つで総合的に評価する。平常点（150点）については、授業の最後に行う小テスト及び発表で評価する。小テストの問題は、○×問題もしくは択一問題である。問題の多くは、過去の二級建築士及び木造建築士の資格試験で出されたもので、授業時の内容８割、授業外学習の内容2割である。１回の授業の平常点は10点満点とし、小テストの正答率によって３段階（A:10点、B：５点、C：０点）で評価する。発表については、各授業の到達目標（・・について理解し説明できること）に達しているかを授業の最後に説明してもらうことで確認する。（授業で理解したことを１分間で発表する） 発表については、「理解したことについて」「発表技術（時間、声の大きさ、話すスピード）」の２つの観点で（ルーブリックによって）評価する。レポート課題については、「課題に対する記述」「表現方法」「文章を書くときの技術的な約束事」「参考文献の活用」「その他（提出期限、分量、体裁など）」の５つの観点で（ルーブリックによって）評価する。評価基準については、レポート課題提出時に説明する。レポート課題については、50点満点とし、10段階
（S：50点、SA：45点、A：40点、AB：35点、B：30点、BC：25点、C：20点、CD:15点、D：10点、E：5点）で評価する。定期試験については、ノートや参考資料などは全て持ち込み可として、150点満点とし、全て記述式の問題である。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点（小テスト及び発表）	○			
レポート課題	○			
定期試験	○			

評価割合

平常点（約42.5%）、レポート課題（約15%）及び定期試験（約42.5%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

教材については、Google Classroomに提示する。また、参考資料などについては、適宜、印刷・配付する。

参考図書

最新構造入門／青木博文／実教出版、建築施工テキスト（改訂版）／兼歳昌直／井上書院、やさしい建築施工／松本進／学芸出版社

ディプロマポリシーとの関連

質の高い生活をおくるための１つに安全・安心な家づくりがある。その家づくりの基本となる施工方法についての専門的知識を有している。

オフィスアワー

火曜日４時限 非常勤講師室

学生へのメッセージ

授業で使用する教材については、授業の３日前にはGoogle Classroomに提示するので、事前に勉強した上で授業に臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		授業の最後に、授業で理解したことを学生（学修者）に発表させることで、学修者が自分の思考を深められたり、自分の思考を整理したりできるようにする。
情報リテラシー教育		
ICT活用		書籍・雑誌、ネットなどを活用して収集した資料を加工・編集して、教材（提示用プレゼンテーション）を作成する。

講義コード	G01113931
講義名	建築法規
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	青柳 由佳	指定なし

ナンバリング

G34306C21

授業概要(教育目的)

建築基準法及び施行令を中心にその他の建築関係法令との関連も併せて、理解しにくい法令文や法令用語などを平易に解説しながら進め、建築関係法令の全体像を理解することで、社会活動上求められる法的知識やインテリア・住宅・建築関連の実務を行う上で必要と思われる法令及び資格取得の重要な項目である建築関係法令を理解出来るように説明する。

履修条件

建築士の受験資格を目指す人は必須の科目となります。
教科書の線引きを行うため、蛍光マーカーが必要になります（授業で色等は示します）。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	建築関連法の成立ちや概要を学ぶことで、法令の必要性を理解し、建築関連法令集の条文を理解できるようにする。
思考・判断の観点 (K)	建築に関係する法令への理解を深めることで、法令順守の意識を持ち常に適切に判断できるようにする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	建築関連法は普通に生活をするだけでも自身の回りに関わっている事を発見し法令集を確認する
技術・表現の観点 (A)	社会活動をおこなう上で必要な基礎的知識及びインテリア・住宅・建築に係わる企画、設計、施工、維持管理等の実務に役立つ建築関係法令の基礎的知識を学び、法令集の有効活用を修得する。

学習計画

	授業テー	建築基準法の必要性とこれまでの流れ、建築基準法及び関係法令の法体

	マ	系と構成
第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築関連法はいつどのように出来たのか、またこれまでの経緯を確認し、具体的にどの様に環境や人々とかかわっているかを認識する。法の位置づけ、体系、条文の構成、法令の用語など。
	教室外学習(予習・復習)の内容	建築基準法第1章 第1条 及び関係法令のこれまでの流れ、関連法の概要と法令集の項目を配布プリントで確認し復習すること。
	教室外学習の時間(分)	160分
第2回	授業テーマ	建築基準法の用語の定義と解説
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基準法・施行令・告示・士法・業法及び都市計画法・消防法・他、等の役割の説明。新築・改築・改修・修繕・模様替え・増築、以上・以下・未満・超える・含む・かつ・または、などの法律用語を理解する。建物用途、各種面積の算定・各種高さの基準・階数の算定・延焼の恐れのある部分・防火準耐火耐火構造,等の建築用語についての法令上の定義を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に建築基準法第2条各号を読んでおき、授業後に配布プリントを復習し基準法第2条と施行令関係各条令との関連を理解しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	160分
第3回	授業テーマ	敷地と道路、地域による建物の用途制限（集団規定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	道路の種類、敷地と道路幅員の関係、４２条２項道路の扱い、道路内の建築制限の種類、建物の用途制限、特殊建築物の種類、都市計画との関連、等を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に建築基準法第４２条から４８条までを読んでおく、授業後に施行令各条令との関連を再確認、都市計画地図の読み方を再確認すること。
	教室外学習の時間(分)	180分
第4回	授業テーマ	地域による面積制限（容積率・建ぺい率）（集団規定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建物の大きさを規制する、容積率及び建ぺい率制限の内容と限度(都市計画制限・道路幅員による規制）及び各要件ごとの緩和（特定道路、共同住宅、地下室、駐車場等）を理解する。
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	事前に建築基準法第５２、５３条を読んでおき、授業後に基準法第５２、５３条と施行令関係各条令との関連を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	地域毎による各種高さ制限（集団規定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建物の高さを規制する道路斜線・隣地斜線・北側斜線・高度斜線等の各斜線制限及び緩和規定を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に建築基準法第５５、５６条を読んでおき、授業後に基準法第５５、５６、５８条と施行令関係各条令との関連を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	日影規制、防火、準防火地域内の建築規制、その他の地域地区（集団規定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	防火地域、法２２条区域の概要及び建築の構造制限。景観法、文化財保護法、地区計画、等の概要や制限を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に建築基準法、第５６条の２、第２２条、６１～６８条を読んでおき、授業後に基準法第２２条、６１～６８条と施行令関係各条令との関連を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	**授業テーマ**	集団規定に関する総合演習問題及び設問の解説
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集団規定に関する演習問題を通してこれまでの学習内容の確認と解らなかったところを再度学習し理解すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前にれまでに学んだ集団規定について確認しておくこと、授業後に演習問題を、法令集及び施行令を確認しながら復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
	授業テーマ	一般構造（単体規定）

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	居室の採光、換気、階段に関する制限の概要を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に建築基準法第２８条を読んでおく。授業後に基準法第２８条と施行令23-26条、120条等との関連を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	防火と防火区画（単体規定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大規模建築物、法22条地域、木造の外壁、防火区画等の規定
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に建築基準法第21条から27条、を読んでおき、基準法第21条から27条と建築基準法施行令第112条を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	避難と内装制限（単体規定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	避難に関する規定と内装制限に関する規定を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	令119条、令121条-126条、法35条、令128条を事前に読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	建物の構造強度及び耐震に関する規定（単体規定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基礎及び支持地盤、耐震性、耐風性、耐久性や地域によって異なる条件などの概要を理解し耐震に関係する耐力壁に関する重要性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内	事前に、建築基準法第20条、建築基準法施行令第85-88条、を読んでおく。木造（令43-49条）、鉄骨造（令64-68条）、鉄筋コンクリート構造

	容	（令73-79条）の各構造の規定を復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	単体規定の総合問題及び設問の解説
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	単体規定に関する問題を解くことで、法文の理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第８回から11回までの授業を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	確認申請、建築士法、、バリアフリー法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	確認申請（法6条）、完了検査（法7条）について解説する。また建築基準法関連の法規（建築士法、バリアフリー法）についての概略を解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	建築基準法第6-7条を事前に読んでおくこと。建築士法、バリアフリー法を読み、本日の授業の復習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第14回	授業テーマ	建築基準法関連法規
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	耐震改修促進法、住宅品質確保法、都市計画法、建設業法について解説する
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の授業に関連する法規を事前に読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

履修者の理解度によって、スケジュールが変更になる場合があります

尚演習問題の授業に欠席した場合、演習問題の再授業は行いません各自配布された問題を確認してください、注意すること。

学生へのフィードバック方法

建築関係法令集、適宜プリントの配布、によって例題を交えながら解説し進める、また授業の進行途中での演習問題により理解度の確認をおこなう、演習問題はその授業で問題の解答解説を行い受講者にも自己採点できるようにしている。履修者の理解不足部分の解説を再度行う。必要によって次回授業の最初に問題の解説を行う場合がある。

評価方法

集団規定、単体規定に関する総合問題を各１回、及び定期試験を行い、問題はそれぞれ授業の内容から出題する、出題形式は国家試験の建築士試験の出題形式に基づくものにしてあり法令集の持ち込みを可能としています。３回の解答内容に授業への参加状況（授業の振り返りチェック）を加えて評価の対象とします。授業の初回にルーブリックを用いて説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
演習問題２回	○	○		
定期試験	○	○		
授業内の討論への参加			○	

評価割合

平常点（30%）、問題演習２回（計20%）、定期試験（50%）によって総合的に評価する。
（平常点は授業への参加状況、授業の振り返りシート）

使用教科書名(ISBN番号)

建築基準関連法令集 2025年度版（TAC）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】 建築法令等が求めているものを正しく理解できる
【思考・判断】 法令遵守を意識して問題解決に導く考察ができる
【関心・意欲・態度】建築やインテリアはもちろん周囲の問題についても法令との関連性を考えながら活動できる
【技術・表現】 建築士資格受験はもちろん諸問題において建築法令集の有効活用がスムースにできる

オフィスアワー

木曜日昼休み：1807室

学生へのメッセージ

建築法規を受講する事で、これまでに学んできた建築や住宅及びインテリア関連の多くの授業内容の重要性や関連性が見えてきます、建築法規及び関連法律をしっかり学ぶ事でより明確に社会で求められている事柄が把握できると考えられ、一級、二級建築士資格取得の必須科目でもあり、建築法規を理解することが自身の総合力のアップとなり、社会活動でのコンプライアンス（法令遵守）の意識が実務への近道となります。また将来家を建てたり土地を取得をする場合にはこの授業内容が活きてきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	担当教員は建築設計の実務経験がある。建築設計及び建築法規の基礎知識を生かした授業を実務経験を織り交ぜて行う。
アクティブ・ラーニング		本日の授業内容の解説を行った後に、教科書である法令集に線引きをして法令集を作り上げる作業を行う。その後、法令集を使って、本日の課題を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01114031
講義名	建築環境学Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	柿本 美樹枝	指定なし

ナンバリング

G24309C21

授業概要(教育目的)

環境とは、主体を人間として、建築、都市、自然、地球、宇宙の入れ子構造にあります。建築環境学は、その中でも人間が制御できる、より質の高い建築環境を考える学問です。自然科学に加え、人文社会学の知見も踏まえ、基本の原理から、設計目標、計画に至るまでトータルで学びます。また、昨今の地球環境問題、省エネについても最新情報とその動向についても知見を深めます。
この授業では、主に建築環境を形成する物理的要素である「熱・空気」の基本的性質を理解するとともに、その環境を評価する私たちの感覚の特性を知ることによって、建物・設備性能が居住者へ与える影響を考えます。それらの知識を踏まえて、居住者にとって望ましい建築環境を構築するための具体的な手法を習得します。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	［建築士指定科目］建築環境を構成する、熱・空気の基本的性質を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	住環境の果たす役割を、考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会における環境課題に関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	環境課題への自分の意見を、専門用語を用いて述べることができる。

学習計画

建築環境学A

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス 建築環境学の位置付け
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築環境工学の誕生／環境問題の発生／環境設計と新たな課題
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第1章I[基本と原理],II[設計目標]を読んでおく 建築環境学の位置付けについて復習
	教室外学習の時間（分）	150
第2回	**授業テーマ**	気候風土と建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	元祖環境住宅「聴竹居」の住まい事例から、現代の環境建築に至るまで、日本の暮らしと建築の変遷(縄文人の暮らしから昨今の高層住宅まで)を知ると共に、日本列島の気候風土の違いによる断熱指標と課題、今後の設計目標を知り、将来のあるべき住まい建築の姿を探る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題1[気候風土に適応した住宅]を調べる
	教室外学習の時間（分）	250
第3回	**授業テーマ**	建築環境学の概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的な「SI単位」を知ることから、パッシブデザイン(建築的手法)とアクティブデザイン(設備的手法)の融合が求められる時代に、快適さなど空間環境の質確保と省エネ性能の両立の重要性について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第1章III[計画と制御]を読んでおく 配布資料(SI単位)を復習する
	教室外学習の時間（分）	150
第4回	**授業テーマ**	温熱感（１） 温熱感に影響する要因
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体温調節温冷感温／熱環境の6要素／熱的快適性とエネルギー
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第6章I[基本と原理]を読んでおく
	教室外学習の時間（分）	150
	授業テーマ	温熱感（２） 温熱感の環境評価指標
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	作用温度(OT)、有効温度(ET)、予測平均温冷感申告(PMV)などの温熱環境指標と、局所不快の評価

第5回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第6章II [設計目標]を読んでおく 課題２,III[温熱環境の計画と制御]の復習
	教室外学習の時間（分）	250
第6回	授業テーマ	外界気象と地球環境問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	気温、気圧、雨雪、湿度などの指標から、台風、土砂災害、洪水対策、ヒートアイランド化など、昨今の環境課題や自然災害を引き起こす気象現象を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	地球環境問題の復習 課題３[昨今の災害事例]を調べる
	教室外学習の時間（分）	250
第7回	授業テーマ	日照環境（１） 日照
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	太陽と地球の関係、太陽放射とその作用、日照率
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第2章[基本と原理],[設計目標]を読んでおく
	教室外学習の時間（分）	150
第8回	授業テーマ	日照環境（２） 日影
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日影規制／日影曲線／日射遮蔽／日照調整
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題４III[日照と日影の計画と制御]の復習、日影図作成の練習
	教室外学習の時間（分）	250
第9回	授業テーマ	建物の熱性能（１） 建物の伝熱
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	熱エネルギーとその移動／熱貫流／熱伝導／対流と放射
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第5章I[基本と原理],II[設計目標]を読んでおく

	教室外学習の時間（分）	150
第10回	**授業テーマ**	建物の熱性能（２） 建物の断熱・熱容量
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建物の断熱・熱容量について理解する。 住宅の省エネルギー基準／断熱性能／気密化／蓄熱／暖冷房
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題５III[熱環境の計画と制御]の復習
	教室外学習の時間（分）	250
第11回	**授業テーマ**	湿気環境（１） 結露現象の原理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	湿り空気／露点温度／湿り空気線図
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第8章I[基本と原理],II[設計目標]を読んでおく
	教室外学習の時間（分）	150
第12回	**授業テーマ**	湿気環境（２） 結露現象とその防止策
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	湿気と結露／表面結露／内部結露／防止対策
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題６ III[結露の防止]の復習
	教室外学習の時間（分）	250
第13回	**授業テーマ**	空気環境(1) 室内の空気質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	室内空気と健康／空気汚染と許容濃度／空気流動の基礎／シックハウス、シックスクール対策
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第8章I[基本と原理],II[設計目標]を読んでおく 課題７III[室内空気環境の計画と制御]の復習
	教室外学習の時間（分）	250
	授業テーマ	空気環境（２）換気方式・換気量 定期試験
	学習内容(ｱｸﾃ	

第14回	ｲﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然換気／機械換気／各種換気設備 定期試験
	教室外学習(予習・復習)の内容	建築環境学の[熱と空気]全般について復習
	教室外学習の時間（分）	50

学生へのフィードバック方法

課題については授業中に説明します。

評価方法

・課題は、授業の理解度を示す記述式レポートと教科書の例題等です。

・定期試験は、環境工学用語の概念とその仕組みの理解度を確認します。
建築士の試験問題に準じた課題を多肢択一で選ぶ設問も含みます。

・ルーブリックに基づく成績評価。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
課題	○	○	○	○

評価割合

定期試験(50%)、課題(50%)による総合評価

使用教科書名(ISBN番号)

「しくみがわかる建築環境工学 第2版 基礎から計画・制御まで」／上野佳奈子他／彰国社／2022年／ISBN（978-4-395-32183-4)

ディプロマポリシーとの関連

現代家政学科
［知識・理解］ 社会の基盤として「質の高い生活」とは何かを理解できる。
生活デザイン学科
［知識・理解］ 住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。

現代家政学科・生活デザイン学科 共通
［思考・判断］ 住環境の果たす役割を、考えることができる。
[関心・意欲・態度] 社会における環境課題に関心を持つことができる。
[技術・表現] 環境課題への自分の意見を、専門用語を用いて述べることができる。

学生へのメッセージ

建築士試験指定科目 ③建築環境工学 に認定。

室内環境を整える建築環境学については、建築や住まいの設計だけではなく、インテリアデザインにとっても重要です。積極的に学びましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	担当教員は建築設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能である。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01114131
講義名	住居計画
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小池 孝子	指定なし

ナンバリング

G24303C21

授業概要(教育目的)

家族の暮らしの場である住居について、現代的な課題を踏まえたうえで、それぞれの家族にとって快適な住宅、住宅地のあり方について検討をおこなう。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	住宅および住宅地を計画する際に必要となるさまざまなことがらについて理解し、住居設計のための基礎知識を習得する
思考・判断の観点 (K)	家族の暮らしの場である住居に関する現代的な課題について、客観的に理解できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	住居に関する現代的な課題について、積極的に関心を持って考えることができる
技術・表現の観点 (A)	住居に関する現代的な課題に対応した快適な住宅、住宅地のあり方について提案ができる

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス・現代の家族と住まい
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家族のあり方の変化に伴う住まいの変容について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分の家族を対象に、家族形態の移り変わりについて考える
	教室外学習の時間（分）	70分

第2回	授業テーマ	家族のかたちと住まいのかたち
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家族認知、近代家族と住まいについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分の家族、自分の住む住宅について、授業で取り上げた内容と照らし合わせて考える
	教室外学習の時間（分）	140分
第3回	授業テーマ	家族の変化と新しい住まいのかたち
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築家の提案する新しい住まいのかたちについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）建築雑誌を読み、新しい住まいのかたちのバリエーションについて学ぶ
	教室外学習の時間（分）	140分
第4回	授業テーマ	居住歴と原風景
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	理想とする住まい・住環境に対して原風景が与える影響について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分の住む地域を対象に、建築が生み出す原風景について考える
	教室外学習の時間（分）	140分
第5回	授業テーマ	住居の設計プロセス、独立住宅の計画手法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住居の設計プロセスと建築家の責務、建築に関わる法規、独立住宅の計画における敷地と建物の関係、室の配置計画について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）建築雑誌を読み、独立住宅の敷地と建物の関係、室の配置計画のバリエーションについて学ぶ （中間レポート1/4）住宅計画に関する中間レポートに取り組む
	教室外学習の時間（分）	140分 ＋レポート120分
第6回	授業テーマ	生活行為と生活時間
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住宅内の生活行為と生活空間、生活時間との関係性について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分や家族の生活時間について考え、小課題を仕上げる （中間レポート2/4）住宅計画に関する中間レポートに取り組む
	教室外学習の時間（分）	140分 ＋レポート120分
第7回	授業テーマ	生活行為と住空間
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活行為とスケール、住空間のゾーニング、動線計画について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分や家族の生活を振り返り、起居様式の変化について考える （中間レポート3/4）住宅計画に関する中間レポートに取り組む
	教室外学習の時間（分）	140分 ＋レポート120分

第8回	授業テーマ	独立住宅の構造・構法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	独立住宅の構造、敷地と建物の関係、室の配置計画のバリエーションについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）建築雑誌を読み、独立住宅の敷地と建物の関係、室の配置計画のバリエーションについて学ぶ （中間レポート4/4）住宅計画に関する中間レポートに取り組む
	教室外学習の時間（分）	140分 ＋レポート120分
第9回	授業テーマ	集合住宅の平面構成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集合住宅の平面構成の移り変わりについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）建築雑誌を読み、集合住宅の平面構成のバリエーションについて学ぶ
	教室外学習の時間（分）	140分
第10回	授業テーマ	生活の外部化と地域施設
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活の外部化の状況、生活圏と地域施設配置計画について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分の生活を対象に生活の外部化について考える （期末レポート1/3）地域施設計画に関する期末レポートに取り組む
	教室外学習の時間（分）	140分 ＋レポート120分
第11回	授業テーマ	住宅でまちをつくる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住宅地計画、ニュータウン計画について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）多摩ニュータウン、港北ニュータウンを対象に、まちの構成について考える （期末レポート2/3）地域施設計画に関する期末レポートに取り組む
	教室外学習の時間（分）	140分 ＋レポート120分
第12回	授業テーマ	集合住宅地の計画１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集合住宅のアクセス形式、住棟配置計画について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分の住む地域の街並みの美しさについて考える （期末レポート3/3）地域施設計画に関する期末レポートに取り組む
	教室外学習の時間（分）	140分 ＋レポート120分
第13回	授業テーマ	集合住宅地の計画２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集合住宅団地の容積率、戸数密度、住棟配置計画について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分の家の周りについて、共有領域の形成状況について考える

	教室外学習の時間（分）	140分
第14回	**授業テーマ**	集合住宅団地の再生
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本における集合住宅の管理状況、マンション建て替え問題について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分の家の近くに管理不全マンションがないか考えてみる
	教室外学習の時間（分）	140分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

小課題については、授業時間内に全体講評をおこなう。
レポートは、採点後にコメントを付して返却する。

評価方法

小課題は、毎回の授業で実施する。授業時間内に実習課題として実施するものと、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述するものがある。取り組み状況、完成度、授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。
レポートは、授業で得られた知識をもとに情報収集をおこない、発見した課題について自分の意見をまとめて記述する。情報収集・整理は十分か、課題解決案は適切か、結論に至る筋道に論理性があるかについて評価する。中間と期末の２回実施する。
なお、評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小課題	○	○	○	
レポート	○	○	○	○

評価割合

小課題40%、中間レポート35%、期末レポート25%により総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特にテキストは指定しない。

参考図書

定行まり子「生活と住居」光生館
岡田光正ほか「住宅の計画学入門－住まい設計の基本を知る」鹿島出版会
小澤紀美子ほか「豊かな住生活を考える－住居学」彰国社

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、現代生活の諸問題を理解できる
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる
【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案ができる

学生へのメッセージ

住居の計画について、家族の生活という視点から考えること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01114231
講義名	福祉住環境
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小池 孝子	指定なし

授業概要(教育目的)

超高齢社会を迎え、高齢者や障害者が在宅で自立した生活をおくるための住環境整備が求められている。本授業は、この福祉住環境整備分野の初歩的な知識を習得することを目的とし、高齢者や身体障害者を対象とした住環境整備についての基礎知識を学ぶとともに、在宅介護の現状と問題点、特徴、必要な視点等から、介護保険制度の対象となる住宅改修、福祉用具、特定疾病等、建築・福祉・医療などに関して体系的な幅広い知識を学ぶ。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	高齢者や身体障害者を対象とした住環境整備についての基礎知識とともに、在宅介護の現状と問題点、特徴、必要な視点等から介護保険制度の対象となる住宅改修、福祉用具、特定疾病等、建築・福祉・医療などに関して体系的な幅広い知識を習得する。
思考・判断の観点 (K)	住環境整備についての基礎知識をもとに、在宅介護の現状と問題点に関する今日的課題を発見し、解決策について考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	住環境整備に関する諸問題に積極的に関心を持ち、その解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	住環境整備に関する課題に対応した住宅改修の方法について提案ができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス・福祉住環境の意義と役割
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	福祉住環境整備の意義と役割について、超高齢社会である日本の人口構成・世帯構成と合わせて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）日本の人口の動向について調べ、理解する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	授業テーマ	福祉・ノーマライゼーションの考え方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	福祉・ノーマライゼーションの考え方と、介護保険制度との対応について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリント、WEBなどを参照し、介護保険制度について理解しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	高齢者・障害者の住環境整備－１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢者・障害者の生活を支える福祉用具・共用品について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを参照し、福祉用具・共用品について理解し、自分の身の回りにある生活用具について、共用品・福祉用具にあたるものがないか考える。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	高齢者・障害者の住環境整備－２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活行為別にみた福祉用具の活用による住環境整備について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを参照し、自宅での生活と照らし合わせて、福祉用具の種類と使い方について理解しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	高齢者・障害者の住環境整備－３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活行為別にみた福祉用具の活用による住環境整備について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを参照し、自宅での生活と照らし合わせて、福祉用具の種類と使い方について理解しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	日本の住宅と住生活上の課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の在来工法による住宅にみられる高齢者・障害者の日常生活上の課題について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを参照し、自宅の構造と照らし合わせて、福祉住環境整備における日本の住宅の問題点について理解しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分

第7回	授業テーマ	福祉住環境整備の技術－１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	福祉住環境整備の技術－２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	福祉住環境整備の技術－３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	福祉住環境整備の技術－４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。 （レポート）住宅改修に関するレポートに取り組む。
	教室外学習の時間（分）	180分 ＋レポート90分
第11回	授業テーマ	高齢者の健康と自立
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢者の健康と自立、栄養と運動、身体的特性について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを参照し、高齢者のウェル・ビーイングのための条件について理解しておく。 （レポート）住宅改修に関するレポートに取り組む。
	教室外学習の時間（分）	180分 ＋レポート90分
第12回	授業テーマ	関連法規・高齢者の住環境整備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢者の住環境の実態について理解し、法令に基づく高齢者の住まいの選択肢について学ぶ。
	教室外学習(予習・復	（復習）配付プリントを参照し、高齢者の住まいの選択肢につ

	習)の内容	いて理解しておく。 （レポート）住宅改修に関するレポートに取り組む。
	教室外学習の時間（分）	180分 ＋レポート90分
第13回	授業テーマ	障害とは何か・障害者の住環境整備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害についての考え方・障害者の住環境の実態について理解し、法令に基づく障害者の住まいの選択肢について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを参照し、障害についての考え方・障害者の住まいの選択肢について理解しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	授業テーマ	リハビリテーションの考え方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	リハビリテーションの考え方と地域包括ケアシステムについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを参照し、リハビリテーションの考え方と地域包括ケアシステムについて理解し、自分の住む地域の地域包括ケアシステムについて確認する。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

本授業はオンデマンド方式で実施する。
毎回の授業を視聴後、授業ノートおよび小レポートを期日までに提出する。

学生へのフィードバック方法

第2回以降、前回講義内容に関する確認テストを実施する。
確認テストは評価に含めず、解説付きの答え合わせを行うことにより知識の定着を図る。
小レポート、レポートについては採点後にコメントを付けて返却する。

評価方法

小レポートは、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述する。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。
期末レポートは、授業で得られた知識をもとに情報収集をおこない、発見した課題について自分の意見をまとめて記述する。課題の発見・整理は十分か、課題解決案は適切か、結論に至る筋道に論理性があるかについて評価する。
定期試験は穴埋め問題、正誤問題を出題する。
なお、評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小レポート	○	○	○	
レポート	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合

小レポート40%、レポート25%、定期試験35%により総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特にテキストは指定しない。

参考図書

「新版福祉住環境」浅沼由紀/市ヶ谷出版社/2008

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、現代生活の諸問題を理解できる
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる
【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案ができる

学生へのメッセージ

本授業は、福祉住環境コーディネーター検定試験２級程度の基礎知識を習得する。現在の高齢者問題などの状況を把握していること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01114331
講義名	社会福祉概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	嶋田 芳男	指定なし

ナンバリング

G12315C21

授業概要(教育目的)

社会福祉の意味と理念、社会福祉の原理、社会福祉を取り巻く環境を理解した上で、社会福祉の展開、社会福祉を支える仕組みや専門職、方法論、社会保障、高齢者やこどもの福祉など、社会福祉全般について講義する

履修条件

この授業は、人間栄養学科との合同授業で実施する。なお、昨年度とは異なり、すべての授業は千代田三番町キャンパスで対面授業となる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	社会福祉の意味と理念、社会福祉の原理、社会福祉の歴史的展開、社会福祉を支える仕組みや専門職、方法論、社会保障、高齢者やこどもの福祉について説明できる
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会福祉分野に対する関心が持てる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

現代社会における社会福祉の意味と意義を考える

	授業テーマ	社会福祉の基礎概念（1）

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会福祉の意味とライフステージごとの福祉課題及び理念（ノーマライゼーションなど）が理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第2回	授業テーマ	社会福祉の基礎概念（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「社会生活の原理」と「バイステックの7原則」双方の原理を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第3回	授業テーマ	社会福祉を取り巻く環境（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	少子高齢化社会の現状と課題について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	少子化、高齢化の状況を調べておく
	教室外学習の時間（分）	195分
第4回	授業テーマ	社会福祉を取り巻く環境（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家族の現状や地域社会の特性・動向について理解するとともに、それぞれの課題についても併せて理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	世帯の状況を調べておく。配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第5回	授業テーマ	わが国における社会福祉の展開（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	明治期から大正期において、どのような社会福祉が展開されてきたかを理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト31～36ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく
	教室外学習の時間（分）	195分
第6回	授業テーマ	わが国における社会福祉の展開（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	昭和期から現在に至るまで、どのような社会福祉が展開されてきたかを理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト37～40ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく
	教室外学習の時間（分）	195分
	授業テーマ	社会福祉を支える法体系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会福祉の法体系及び各種法律の概要について理解する

第7回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第8回	授業テーマ	社会福祉を支える組織
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会福祉における国・都道府県・市町村によって設けられた各種行政組織や、民間組織について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第9回	授業テーマ	社会福祉を支える専門職
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）やケアワーカー、保育士、医療関係専門職の業務内容と資格、および連携について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト42～50ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	社会福祉の援助方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ケースワークを中心に、グループワーク、コミュニティワーク他、さまざまな方法論の内容を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト52～61ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	社会保障制度の概要（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	年金保険、医療保険制度の概要について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第12回	授業テーマ	社会保障制度の概要（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公的扶助（生活保護）の基本原理、基本原則、種類と内容について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第13回	授業テーマ	こどもの福祉と障害者の福祉
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	こどもと障害者の福祉の現状と施設・サービス体系などについて、その概要を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	分からない用語について調べておく

	教室外学習の時間（分）	195分
第14回	授業テーマ	高齢者の福祉及び試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢者の現状と法体系、および公的介護保険制度の概要を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト73～82ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく。 配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分

学習計画注記

授業の進み具合によってスケジュールが変更になることがある

学生へのフィードバック方法

特になし

評価方法

・平常点
授業の受講態度・姿勢について評価する。また、必要に応じて小課題を課す（３回程度）。
小課題は、ルーブリックを用いて評価する（詳細は、科目のオリエンテーション時に提示する）。
・定期試験
社会生活に必要となる知識について把握しているかを問う出題とする。詳細については、最後の授業で説
明する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	
定期試験	○			

評価割合

平常点20%、定期試験80%

使用教科書名(ISBN番号)

大熊信成他編『現代社会福祉の諸相』大学図書出版
必要に応じ、授業時にプリントを配布

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

知識・理解】
福祉活動に直接的・間接的に関係する各種社会福祉制度や社会福祉方法論に関する専門的な知識が修得できる
【関心・意欲・態度】
社会におけるさまざまな福祉課題などに関心が持て、必要に応じて福祉サービスを活用していくことができる

オフィスアワー

火曜3限、木曜2限

学生へのメッセージ

新聞等により、児童・障害者・高齢者にどのような社会問題があるのかを把握したうえで、授業に臨んでもらいたい

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	地域で福祉活動を展開している児童・高齢者施設のソーシャルワーカーの経験を有しており、業務を遂行していく上で必要と考える社会福祉全般の知識を講義している
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01114631
講義名	食文化演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	伊藤 有紀	指定なし

ナンバリング

G33202C12

授業概要(教育目的)

伝統食品の学習や、江戸時代に編纂された代表的な料理書の中の料理を実際に調理して再現することなどを通して、食文化の変遷とその延長上に現代の食卓があることを理解する。また、日本各地の郷土料理にも目を向け、地域の食文化についても学ぶ。グループでの実習と発表を通して、知識の定着やプレゼンテーション力の向上を目指す。

履修条件

・「調理学実習」を履修していることを原則とする。
・食材費として１人1000円～2000円を徴収する。
・自宅での調理の食材料費は一部自己負担となる。
・校外学習先への往復の交通費は自己負担となる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	江戸時代と現代の調理レシピや食生活の共通点・相違点を理解する。日本の郷土料理について、使用される食材の生産、加工法、調理法などを理解できる。
思考・判断の観点 (K)	江戸時代と現代の調理レシピや食生活の共通点・相違点の背景を考察できる。郷土料理について、使用される食材の生産、加工法、調理法などの面から地域での共通点・相違点を比較できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実習やグループワークなどに自ら積極的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	時代や地域ごとの食文化の共通点、相違点、考察した事柄などについて、ポスターやパワーポイントを用いてわかりやすくまとめて発表することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方の説明を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回の授業に向けて、授業内で指示するウェブサイトや配布資料を読んでくる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	江戸時代の料理1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	江戸の食文化の概要、料理書の歴史について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料を視聴あるいは読んでくる。授業の内容をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	**授業テーマ**	江戸時代の料理2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「大江文庫」の料理書を調味料に注目しながら読み、調味の歴史について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料を視聴あるいは読んでくる。レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	**授業テーマ**	みそづくりと利用法１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	みその利用法や味について、味噌を販売する店舗に赴いて学ぶ（校外学習）。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読み、重要な個所をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	**授業テーマ**	調理実習①みそづくりと利用法２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	味噌を使った調味料をつくり、味や料理への適性を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	味噌について配布資料などをもとに予習してくる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	**授業テーマ**	調理実習②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでに見た料理書に記載された料理をつくる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習する料理についてつくり方や段取りを予習してくる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	**授業テーマ**	江戸時代の料理についてのまとめ１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学んだ調味料や料理を軸に江戸時代の料理の特徴をポスター形式にまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表資料作成に必要な資料を準備する。

	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	**授業テーマ**	江戸時代の料理についてのまとめ２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学んだ調味料や料理を中心に江戸時代の料理の特徴を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	２～７回までの学習内容を踏まえ、発表資料を作成してくる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	**授業テーマ**	郷土料理の学習1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の郷土料理について、グループで食材や調理法などのテーマを決め、テーマを軸に共通点、相違点を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で紹介するウェブサイトを見たり、配布資料を読み、テーマに関する情報を収集してくる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	**授業テーマ**	郷土料理の学習2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1に続き、グループで食材や調理法などのテーマを決め、テーマを軸に共通点、相違点を学ぶ。実際に調理する料理を決める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実際に調理可能なレシピをを確認してくる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	**授業テーマ**	郷土料理の学習3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションの方法を学び、テーマに関する集計や情報収集を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で紹介する文献やウェブサイトから、興味のある郷土料理についての情報を収集しておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	**授業テーマ**	郷土料理の学習4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとにテーマに沿った郷土料理の調理を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身のグループでつくる料理について調理手順を整理しておく。結果をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	**授業テーマ**	郷土料理の学習5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理を行った郷土料理について、テーマに沿って食材や調理法、歴史的背景、実習での感想などをまとめた発表資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図書館やウェブサイトで、必要な文献や情報を収集しておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	**授業テーマ**	郷土料理の学習6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回までに作成した資料をもとにグループごとに発表と、評価を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表資料を完成させてくる。自分のグループの発表に対する評価から改善点を考察する。
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

履修者数により授業内容が一部変更になることがある。

学生へのフィードバック方法

課題は授業内で全体の講評を行う他、個別にコメントする。プレゼンテーションに対しては授業内で講評する。

評価方法

・提出物は、授業内容のまとめや調べもの、グループでのディスカッション結果のまとめなどである。
・プレゼンテーションは、個人・グループの発表に対する評価を行う。
・調理、ディスカッション、プレゼンテーション資料作成などへの取り組み姿勢（平常点）、提出物、プレゼンテーションの出来栄えで評価する。
・ルーブリックは授業内、あるいはグーグルクラスルーム上で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
提出物	○	○		
プレゼンテーション	○	○		○

評価割合

平常点（30%）提出物（40%）プレゼンテーション（30%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし。資料を配布する。

参考図書

授業内で紹介する。

参考URL

http://www.location-research.co.jp/kyoudoryouri100/

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】実習や調査を通して日本の食の独自性や多様性を知り、「質の高い生活」への理解を深められる。
【思考・判断】時代や地域による食生活の違いの理解を基礎に、「質の高い生活」についての考察ができる。
【関心・意欲・態度】食文化に関わる諸相に関心を持ち続けることができる。
【技能・表現】多様な食文化への理解や将来の食文化のあり方につながる発信ができる。

オフィスアワー

水曜３、４限、１８０８ゼミ室

学生へのメッセージ

・個人の取り組みの他、グループでも調理、ディスカッション、発表資料作りなどを行います。自主的に資料を探す、他の人と積極的に意見を交換しながら資料をつくるなど、主体的な態度を望みます。

・試食や実習では調理実習室を利用するため、上履き、白衣（エプロン）、三角巾が必要です。

教育等の取組み状況

	該当	

	有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループ・ディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	データベースへのアクセス、集計、集計結果のまとめ、パワーポイントを用いたプレゼンテーション資料作成の指導を行う。
ICT活用	○	データベースへのアクセス、集計、集計結果のまとめ、パワーポイントを用いたプレゼンテーション資料作成の指導を行う。

講義コード	G01114731
講義名	現代家政ゼミA
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	加藤 晴美	指定なし
教授	現代家政学科 教員	指定なし

ナンバリング

G31004C12

授業概要(教育目的)

現代家政学科の最終学年を迎える直前の時点で、現代家政学科での学びの振り返りを行い、さらに今後の学び、卒業後のあり方を考え、展開していくための基盤を築くことを目的とする。また、4年次で「卒業研究A」「卒業研究B」を履修するための基本的習得事項（情報収集、課題の把握、調査・実験方法など）を定着させる。現代家政学科において生活に関わる分野を横断的に学んだことを生かして、本学の建学の精神である「KVA」の視点から、現代社会のニーズや生活課題に対して取り組んでいく姿勢を育成したい。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	現代家政学の学びと社会とのかかわりについて理解する。
思考・判断の観点 (K)	学びを生かして社会で活躍していくための方策について思考する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	現代家政学を社会で活かしていくために、積極的に情報を収集する。
技術・表現の観点 (A)	現代家政学の学びについて、発信することができる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆ	授業の目的・進め方、卒研ゼミ決定までの流れとスケジュール

第1回	**ﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	など、受講の流れについて理解する。DPおよびGPS-Aについての説明を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒研ゼミ紹介に関して、事前に配布された要旨を読んで理解する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第2回	**授業テーマ**	卒業研究とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業生などを例に、準備や発表会の様子、評価のあり方等を紹介しながら、卒業研究に向けた姿勢を育む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒研ゼミ紹介に関して、事前に配布された要旨を読んで理解する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第3回	**授業テーマ**	卒研ゼミ紹介①（教員3名）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各ゼミでの卒業研究の内容をより正しく理解し、ゼミ希望調査での選択に役立つ情報を増やす。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒研ゼミ紹介に関して、事前に配布された要旨のうち、該当するゼミの要旨を予習として読み、理解する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第4回	**授業テーマ**	卒研ゼミ紹介②（教員3名）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各ゼミでの卒業研究の内容をより正しく理解し、ゼミ希望調査での選択に役立つ情報を増やす。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒研ゼミ紹介に関して、事前に配布された要旨のうち、該当するゼミの要旨を予習として読み、理解する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第5回	**授業テーマ**	卒研ゼミ紹介③（教員3名）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各ゼミでの卒業研究の内容をより正しく理解し、ゼミ希望調査での選択に役立つ情報を増やす。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒研ゼミ紹介に関して、事前に配布された要旨のうち、該当するゼミの要旨を予習として読み、理解する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第6回	**授業テーマ**	卒研ゼミ紹介④（教員3名）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各ゼミでの卒業研究の内容をより正しく理解し、ゼミ希望調査での選択に役立つ情報を増やす。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒研ゼミ紹介に関して、事前に配布された要旨のうち、該当するゼミの要旨を予習として読み、理解する。
	教室外学習の時間	45分

	（分）	
第7回	**授業テーマ**	卒研ゼミ紹介⑤（教員3名）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各ゼミでの卒業研究の内容をより正しく理解し、ゼミ希望調査での選択に役立つ情報を増やす。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒研ゼミ紹介に関して、事前に配布された要旨のうち、該当するゼミの要旨を予習として読み、理解する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	卒研のための情報収集方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文献検索、新聞情報の検索方法、図書館の活用方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らが関心を持つ研究やそれにまつわる文献、社会的な情報を考えておく。 復習として、それらの情報に実際にアクセスし、理解する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	講演（佐々木ひとみ理事）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	佐々木理事による講義を聴き、キャリア形成への関心を高める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に予告された内容に基づき、関連するウェブサイトや新聞等の情報を理解し、自分の考えを表現する準備をする。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	講演（本学卒業生・石田香澄氏）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業生特別講師による、グローバルに働くこととKVA精神のかかわりについての講演を聴き、自らの卒業後のあり方について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に予告された内容に基づき、関連するウェブサイトや新聞等の情報を理解し、自分の考えを表現する準備をする。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	特別講義（野村浩子特任教授）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今後の学び、卒業後のあり方を考え、専門教育と卒業後のキャリア形成のブリッジングについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に予告された内容に基づき、関連する情報を理解し、自分の考えを表現する準備をする。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	就職活動に関する講話
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	企業などに内定を得ている4年生から就職活動の具体的な進め方や心構えなどについての話を聞きキャリア形成に対する意識を持つ。

第12回	む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に予告された内容に基づき、各企業のウェブサイトなどで情報を集める。
	教室外学習の時間(分)	45分
第13回	授業テーマ	ゼミマッチング①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	受講生各自の関心に応じて卒研ゼミ担当教員ごとの少人数のクループに分かれ、それぞれの領域における研究の特色や方法を学ぶとともに、研究テーマの具体的な相談などをする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らが関心を持つ研究やそれにまつわる文献や情報を集める。
	教室外学習の時間(分)	45分
第14回	授業テーマ	ゼミマッチング②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	受講生各自の関心に応じて卒研ゼミ担当教員ごとの少人数のクループに分かれ、それぞれの領域における研究の特色や方法を学ぶとともに、研究テーマの具体的な相談などをする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らが関心を持つ研究やそれにまつわる文献や情報を集める。
	教室外学習の時間(分)	45分

学習計画注記

外部講師の都合等により授業内容の入れ替えを行うこともある。

学生へのフィードバック方法

課題については、振り返りの中で解説する。質問は各回の担当教員が受け、回答する。

評価方法

授業時に指示する課題を毎回提出する。
ルーブリックによって評価する。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業時の課題	○	○	○	○

評価割合

授業時の課題100%

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。

参考図書

なし。必要に応じて授業内で紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な見地で家政学を学び、現代生活の諸問題を理解する。
【思考・判断】生活の諸問題を分析し、問題解決を思考する。
【関心・意欲・態度】生活の諸問題について積極的に関心を持つ。
【技能・表現】生活の諸問題について他者と討議し、発信することができる。

オフィスアワー

初回に各教員のオフィスアワー一覧を配布

学生へのメッセージ

日ごろから私たちの生活における課題に目を向け、課題解決に向けて考える姿勢をもってほしい。「卒業研究」のテーマや自分の将来について真剣に考えてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実務経験を活かした授業：理事、特任教授、外部講師による講義。
アクティブ・ラーニング	○	第8回・第13回・第14回では、「現代家政ゼミB」での演習につながる調査方法の実践的な学び、および討議を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01115031
講義名	総合家政と地域生活
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小野 由美子	指定なし

ナンバリング

G12314C21

授業概要(教育目的)

主体的に生活を営むためには個人、家庭、地域社会との関わりで生活を理解し、生じる課題の解決を図る必要がある。子ども、障害者、女性といった生活者・消費者を例に、それぞれの特性を踏まえた生活課題の把握と課題解決の方向性を探る。あわせて、持続可能な地域生活のために食生活、ハウジング、ファッション、生活者と社会の4領域から構成される総合家政の学びを活かした地域貢献のあり方を考える。

履修条件

ノートパソコンを必携とする授業である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
技術・表現の観点 (A)	自らの考えをまとめ、人に伝える技術力を身に付けられる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰ	

第1回	ﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方やスケジュールに関する案内と、総合家政に関する基礎知識など受講にあたって必要な基本的知識を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱う先行研究について復習する。
	教室外学習の時間(分)	190
第2回	授業テーマ	生活者・消費者を取り巻く地域社会 (1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食生活領域との関わりで生活者・消費者を取り巻く地域社会の検討を通じて、問題意識を明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食生活領域との関わりで生活者・消費者としてできることについて調べる。
	教室外学習の時間(分)	190
第3回	授業テーマ	生活者・消費者を取り巻く地域社会 (2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ハウジング領域との関わりで生活者・消費者を取り巻く地域社会の検討を通じて、問題意識を明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ハウジング領域との関わりで生活者・消費者としてできることについて調べる。
	教室外学習の時間(分)	190
第4回	授業テーマ	生活者・消費者を取り巻く地域社会 (3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ファッション領域との関わりで生活者・消費者を取り巻く地域社会の検討を通じて、問題意識を明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ファッション領域との関わりで生活者・消費者としてできることについて調べる。
	教室外学習の時間(分)	190
第5回	授業テーマ	生活者・消費者を取り巻く地域社会 (4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	領域「生活者と家族」との関わりで生活者・消費者を取り巻く地域社会の検討を通じて、問題意識を明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	領域「生活者と家族」との関わりで生活者・消費者としてできることについて調べる。
	教室外学習の時間(分)	190
第6回	授業テーマ	消費者の安全と快適な生活提案(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもを含めた消費者にとって安全で快適な消費生活の開発について企業の取組を知る。家政学を学ぶ学生の視点から商品を提案します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家政学を学ぶ学生の視点から商品提案の準備をする。
	教室外学習の時間	190

	（分）	
第7回	**授業テーマ**	消費者の安全と快適な生活提案(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもを含めた消費者にとって安全で快適な消費生活に役立つ商品を、家政学を学ぶ学生の視点から提案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	他の学修者の発表や意見も踏まえて、今回、自身が提案した商品についてさらに検討する。
	教室外学習の時間（分）	190
第8回	**授業テーマ**	消費者の安全と快適な生活提案(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもを含めた消費者にとって安全で快適な消費生活に役立つ商品を、家政学を学ぶ学生の視点から提案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	他の学修者の発表や意見も踏まえて、今回、提案された商品について検討する。
	教室外学習の時間（分）	190
第9回	**授業テーマ**	障害のある消費者の生活課題(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害のある消費者の生活課題について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	障害のある消費者の生活課題について先行調査などを踏まえて整理する。
	教室外学習の時間（分）	190
第10回	**授業テーマ**	障害のある消費者の生活課題(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害のある人の特性と社会福祉法人の取組を知り、地域社会における支援のあり方について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	障害のある人の特性と社会福祉法人の取組について先行調査などを踏まえて整理する。
	教室外学習の時間（分）	190
第11回	**授業テーマ**	地域における生活課題と改善のための取組(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域の生活課題の実態と行政による取組を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	障害のある消費者の生活課題について先行調査などを手掛かりに整理する。
	教室外学習の時間（分）	190
第12回	**授業テーマ**	地域における生活課題と改善のための取組(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域の生活課題に取り組む行政職員から、家政学での学びを生かした取組のヒントを探る。

	教室外学習(予習・復習)の内容	行政や消費者団体が実施している調査について調べる。
	教室外学習の時間（分）	190
第13回	**授業テーマ**	とりまとめ(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業で学んだ3つのテーマ「生活者・消費者を取り巻く地域社会」「消費者の安全と快適な生活提案」「障害のある消費者の生活課題」を振り返り、授業を通して学んだ内容を取りまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業を通して学んだ内容を履修者と共有するために発表できるよう情報を整理する。
	教室外学習の時間（分）	190
第14回	**授業テーマ**	とりまとめ(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業を通して学んだ内容についての発表とディスカッションを行い、学習到達度を確認するための定期試験を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家政学の学びを活かした地域社会で求められる支援について調べる。
	教室外学習の時間（分）	230

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は40点満点で出題し、テキストや授業で配布した資料から出題する。
・定期試験・提出物は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
提出物			○	○
定期試験	○	○		

評価割合

提出物（60%）、定期試験（40%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることがで

きている。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。

オフィスアワー

【後期】水曜日 1701ゼミ室 11：00～13：00

学生へのメッセージ

授業で取り扱うテーマである子どもの貧困や、障害のある消費者の問題に関する情報を収集し、その問題点や社会的な取り組みの事例を通して、家政学を学ぶ皆さんに何ができるかを考えておきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、消費生活に関する実務経験を有しており、行政の取り組みと企業活動の双方の立場から現状と課題について検討する機会を提供している。
アクティブ・ラーニング	○	フィールドワークとその後の振り返りでは、体験学習やグループ・ディスカッションなどのアクティブ・ラーニングの手法を複数取り入れた授業進行である。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01115131
講義名	食と環境
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	沼波 秀樹	指定なし

ナンバリング

G13307C21

授業概要(教育目的)

この講義は，「食」と「環境」という別々に考え論議される二分野の関連性を学ぶことを通して，環境問題をより日常的な関連性の中で捉え直し，地球環境に対する理解を深めることを目的とする。環境問題の切り口や講義は多様であるが，「食」の問題を切り口として環境問題について考え，「食」と「環境」がいかに繋がっているかを理解できるようにする。今後現代家政学科での学びを進めていき，環境，経済，社会の面から見てSDGs（持続可能な開発目標）の根源である持続可能な生活・社会を実現するのに必要な考え方や価値観を持つ為の基礎的な知識の習得を目標とする。

履修条件

特に無し。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	「食」と「環境」との関連性を理解し，持続可能な生活・社会を実現するための基礎的な知識を習得できている。
思考・判断の観点 (K)	食べること，すなわち「食」と地球環境が関連しているという思考を持つことができている。「食」は個人的な行為では無く，地球環境へ負荷がかかっていることが判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	環境問題に関心を持ち，生活から環境問題を解決する意欲を持つようになる。また，SDGs（持続可能な開発目標）を実践する態度を身につける。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画		
第1回	授業テーマ	イントロダクション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今後の授業内容について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	なぜ，食べるのかを考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「食べる」ことの生物学的意義について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎教科書中の「細胞とエネルギー」「生態系内の物質・エネルギーの流れ」に関する部分を復習する。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	環境とは何か？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今後，授業の中心の一つになる「環境」について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎教科書中の「生物の多様性と生態系」編中の「植生の多様性と分布」「気候とバイオーム」の章を読み，生態系の成立要因について，まとめる。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	生態系と生態系サービス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生態系の成り立ちと人類が生態系から得ている利益について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	高校生物基礎教科書中の「生態系のバランスと保全」の章を読み，生態系のバランスについての知識を得る。復習：授業内容をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	食生活と生物多様性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	

第5回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生物多様性について解説し，遺伝的多様性が人類にもたらす利益を「品種改良」を例にして理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	生物多様性の3つの構成要素についてインターネットを用いて調べる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	資源としての生物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	資源としての生物についてマグロ資源を例として解説し，その特徴や化石燃料などのエネルギー資源などとの違いについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	高校生物基礎教科書中の「食物連鎖」に関連する部分を予習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	バイオテクノロジーと食料１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	遺伝子操作による品種改良の基本について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	高校生物基礎教科書中の「細胞内での遺伝子の発現」に関する部分を復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	バイオテクノロジーと食料２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バイオテクノロジーによる品種改良の変遷についてVTR映像などを用いて解説し，賛否について問う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	バイオテクノロジーによる賛否について，自分意見をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	フードシステムの環境負荷１ フードマイレージ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在のフードシステム（食料品の生産から流通・消費の相互関係）が環境に及ぼす影響について理解する。その一環として輸入食料について，総合的にとらえる目安として考えられたフードマイレージについて解説する。
	教室外学	フードマイレージについて調べ,フードマイレージと環境問題の関連性

	習(予習・復習)の内容	について，考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	フードシステムの環境負荷２ 水問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バーチャル・ウォーター（仮想水）と飲料水の輸入など水がもたらす環境負荷についても解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食品廃棄物と日本の食糧事情について，自分の考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	フードシステムの環境負荷３ 食品廃棄物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで解説した「フードマイレージ」「水問題」を踏まえて，日本の食糧事情や食品廃棄物問題と環境問題の関連性について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食品廃棄物と日本の食糧事情について，自分の考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	食を通して環境問題を考える（公害病を例として）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生物濃縮による食料からの人体に及ぼされる影響について，公害病を例に解説する。日本の公害の歴史を振り返り，現在の安全な食生活がどのようにつくられたかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	公害病の中で食品が原因のものを調べる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	廃棄物による環境汚染 マイクロプラスチック汚染
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで食料に関係する環境問題について授業を行ってきたが，現在，ペットボトルなどの食品の容器やレジ袋などプラスチック製品が砕けて微粒子状になるマイクロプラスチックによる環境汚染が問題視されている。マイクロプラスチック汚染について解説し，この問題について考える機会とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	マイクロプラスチック問題について企業の対応を調べる。
	教室外学習の時間（分）	190分

第14回	授業テーマ	食と持続可能な社会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業で解説して「食」と「環境」に関連性について振り返り，持続可能な社会と食生活について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1回から第14回授業を復習し，定期試験への準備をする。
	教室外学習の時間（分）	270分

学習計画注記

資料を配付して，授業を行う。クラス編成などの理由で，授業の順番や内容が変更になる可能性があります。

学生へのフィードバック方法

レポート・提出物については，解説する予定。

評価方法

・定期試験とレポート・提出物，平常点の総合評価（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）
・レポートや課題の評価基準の詳細については，クラスルームに掲載するルーブリック表を参照すること

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
レポート・提出物	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

定期試験60% レポート・提出物・平常点40%の総合評価（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない

参考図書

適宜，紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち，現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し，問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。

オフィスアワー

月曜日2時間目 1702室

学生へのメッセージ

1年生も履修できる科目なので，「環境」についての基本的な知識についても触れる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	南極地域観測隊員として南極昭和基地で生物・環境について越冬観測した実績を生かした授業。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01115331
講義名	グローバルコミュニケーション
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	マーク ルイス	指定なし

ナンバリング

G22109C12

授業概要(教育目的)

The teacher will instruct students how to describe and explain areas of Japanese culture in English.

履修条件

If you want to take Global Communication, you must buy the book, Say What You Like 2.5

English Communication 1 and 2 recommended.

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	Students will gain knowledge of basic English conversation patterns.
思考・判断の観点 (K)	Students will develop critical thinking skills to describe their feelings and to understand the perspectives of others.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Students will become active learners of English and will desire to learn more.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express their experiences in Japan, in English, and will become more at ease when speaking about Japan to others.

学習計画

第1回	**授業テーマ**	Introduction
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Where you are from; and the places that you like in Tokyo.
	教室外学習(予習・復習)の内容	Prepare for class by reading p.2-3; and p.34-35

	教室外学習の時間（分）	60
第2回	授業テーマ	Japan
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Traditional Japanese things / Convenience stores
	教室外学習(予習・復習)の内容	P. 4-5; 36-37
	教室外学習の時間（分）	60
第3回	授業テーマ	Transportation
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Getting a driver's license / Cherry blossom viewing
	教室外学習(予習・復習)の内容	P.6-7; 38-39
	教室外学習の時間（分）	60
第4回	授業テーマ	Animals / Spring
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	What do you like to do in the spring season? / Takoyaki and okonomiyaki
	教室外学習(予習・復習)の内容	P. 8-9; 40-41
	教室外学習の時間（分）	60
第5回	授業テーマ	Food
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Monjayaki / Going to a preparatory school
	教室外学習(予習・復習)の内容	P. 10-11; 42-43
	教室外学習の時間（分）	60
第6回	授業テーマ	More Food
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Natto and miso soup / Game centers
	教室外学習(予習・復習)の内容	P.12- 13; 44-45
	教室外学習の時間（分）	60
第7回	授業テーマ	Festivals
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Finding a good restaurant / Festival activities
	教室外学習(予習・復習)の内容	P.14-15; 46-47
	教室外学習の時間（分）	60
第8回	授業テーマ	Fishing
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Going fishing / Going to a hot spring
	教室外学習(予習・復習)の内容	P. 16-17; 48-49
	教室外学習の時間（分）	60
第9回	授業テーマ	Fashion
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Fashion magazines / Studio Ghibli movies
	教室外学習(予習・復習)の内容	P. 18-19; 50-51
	教室外学習の時間（分）	60
第10回	授業テーマ	Comic Books
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Favorite comic books / Green tea
	教室外学習(予習・復習)の内容	P. 20-21; 52-53
	教室外学習の時間（分）	60
	授業テーマ	More Food

第11回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Wagashi deserts / Japanese fast food
	教室外学習(予習・復習)の内容	P.22-23; 54-55
	教室外学習の時間（分）	60
第12回	授業テーマ	Cosmetics
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Perfume, cologne / Varieties of rice
	教室外学習(予習・復習)の内容	P.24-25; 56-57
	教室外学習の時間（分）	60
第13回	授業テーマ	Practice Speaking Test
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Practice speaking with a partner for final speaking test.
	教室外学習(予習・復習)の内容	P. 2- 59
	教室外学習の時間（分）	120
第14回	授業テーマ	Speaking Test
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Speak with a partner in a natural conversation about Japan. No notes or books.
	教室外学習(予習・復習)の内容	P. 2-59
	教室外学習の時間（分）	120

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

Students receive weekly quiz scores; feedback on weekly in-class writing; and feedback from the teacher on class participation.

評価方法

Quiz questions are from the previous week's lesson, and the current week's lesson. If you read the pages assigned as homework, you will do well on the weekly quizzes. The final speaking test lets you know how comfortable and fluent you've become speaking English by the end of the semester. An evaluation of speaking tests using rubrics will be provided. The rubric will be on Google Classroom.

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
Quizzes	○	○	○	○
Speaking Test	○	○	○	○
Pair/Group Work	○	○	○	○
Writiing	○	○	○	○

評価割合

Pair/group work 50%; Quizzes 30%; Writing 10%; Final Speaking Test 10%

使用教科書名(ISBN番号)

Say What You Like 2.5 (ISBN 978-4-9906347-5-9)

参考図書

A Japanese - English Dictionary

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
【技能・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる。次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー

Friday, period 2.

学生へのメッセージ

Relax and enjoy speaking Engish.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other.
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01115431
講義名	家族の心理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	北見 由奈	指定なし

ナンバリング

G22210C21

授業概要(教育目的)

家族心理学は、家族という集団における個々のメンバーの心に関する動きだけでなく、夫婦関係や親子関係、きょうだいなどといった複数の人たちとの関係性を捉えながら、家族全体が直面する様々な問題事象を心理学的視点から精査していく学問である。
本授業では、現代の家族の現象について、広い視野からその詳細を知り、原因や背景を学ぶ。最終的には、家族を取り巻く現代の問題に気づき、心理学の視点からの解決方法を模索できる力を醸成することを目的とする。また、家族心理学に隣接する社会心理学、集団心理学、生涯発達心理学などの視点を加えながら、家族プロセス、家族関係、家族力動について科学的に捉え、自分なりの考えをまとめる力を身につける。

履修条件

本授業では、他の受講生と意見を交換し、自分の考えを他者に伝えることが求められる。そのため、そのような活動に参加する意思のある学生に履修してほしい。
また、本授業は選択科目であるため、履修者は授業内容について興味・関心を高く持っていることが前提となる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．家族心理学の歴史や関連する学問領域とそれらとの関係を知る。 ２．家族心理学の知識によって、どのような社会の問題を明らかにできるのかがわかる。
思考・判断の観点 (K)	１．物事を考え、理解する方法の手段の一つとして、学んだ内容を生かそうとすることができる。 ２．自身の疑問を家族心理学の知識を用いて解決しようとすることができる。 ３．社会的な問題を家族心理学の知識を用いて解決しようとすることができる。

関心・意欲・態度の観点 (V)	日常生活にある事象から、家族心理学的なテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点 (A)	自身や身近な人の行動、及び社会現象に関して、家族心理学で得た知識に基づいて説明するなど、家族心理学と生活のつながりを発信することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	イントロダクション―家族心理学とは―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンスとして、授業の進め方、スケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家族心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	**授業テーマ**	家族とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「家族」の定義について学ぶ。家族心理学が生まれた背景、関連する学問領域を理解すると共に、家族に関する課題の現状を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家族の心理学に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分が関心のある分野と家族心理学のつながりを考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	家族システム理論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家族にまつわるシステム理論について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前配布の資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	家族ライフサイクルと家族の発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家族ライフサイクルについて理解し、家族システムの発達段階と危機について学ぶ。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前配布の資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分

第5回	授業テーマ	個人の発達と家族づくりの準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人の発達の観点から、家族はどのように作られていくのかを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前配布の資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	夫婦の発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	夫婦はどのように関係性が変化（発達）していくのかを知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前配布の資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	子どもが育つ場としての家族
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	養育のためのシステムと親子関係の変容について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前配布の資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	家族の健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家族の発達と変容について理解し、家族における「健康」とは何かを知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前配布の資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	家族への臨床的アプローチ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家族療法についての理解を深める。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内	事前配布の資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。

	容	
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	家族の危機（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	夫婦に生じる危機とその援助について知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前配布の資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	家族の危機（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家族に生じる危機と、その解決法を知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前配布の資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	家族の危機（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家族に生じる危機とその解決方法を知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前配布の資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	現代社会の特徴からみた家族 少年法の改正と背景の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代社会の特徴からみた「家族」について心理学的側面から理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前配布の資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	現代社会の子育て・期末試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	授業前半の50分では、現代社会における子育てをめぐる問題について知り、その解決法を考える。授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。授業後半の50分では、学期末試験を実施する。

第14回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前配布の資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。
その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。

学生へのフィードバック方法

１）授業開始時に実施する「出席確認（自己チェック）」については、その都度、教員との間で結果を共有する。
２）「ふりかえり」については、授業終了後に教員が確認し、原則として全体にフィードバックを行う。

評価方法

授業への姿勢（50%）、および学期末テストの結果（50%）をもとに総合的に判断する。

１）授業への姿勢・・・「自己チェック」と「ふりかえり」に対する取り組みから総合的に判断。
・自己チェック（25%）：
前の回の内容に関する小テストを意味する。毎回の授業の冒頭で実施。Googleフォームを使用。出席確認を兼ねる。正答率ではなく、時間内にきちんと提出できているかを評価する。

・ふりかえり（25%）：
授業の感想・質問を記すリアクションペーパーを意味する。毎回の授業の最後で実施。Googleフォームを使用。時間内にきちんと提出できているかを評価する。

２）学期末テスト・・・期末テストの点数から判断。「自己チェック」の正答率は含まれない。

なお、この科目ではルーブリックに基づく成績評価を行う。ルーブリックについては、google classroomまたは授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
自己チェック	○		○	
ふりかえり		○	○	○
学期末試験	○	○		

評価割合

授業への意欲・態度（50%）および学期末試験（50%）をもとに総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

原則として配布資料を用いる。
配布方法は、google classroomを使用してデジタルファイルでの配信とする。

参考図書

授業の中で紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「家族」という社会システムの観点から人間を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学的な知識を得る。

【思考・判断】心理学に関する思考をもって「家族」を理解し、その現代社会においてあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を、家族の心理学への知識に基づく関心によって得る。
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会の中に課題を発見し、家族心理学的な思考や家族心理学の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。

オフィスアワー

後期：水曜日３限（13：20～15：00） 千代田三番町キャンパス1805室

学生へのメッセージ

毎回の授業時に実施する１）自己チェック、２）ふりかえりは、いずれもgoogle classroom上で実施する。授業時にはノートPCやタブレット端末等が使用できるように準備しておくこと。

資料はgoogle classroomを介してデジタル配信を行う。紙媒体での配布は行わないので注意すること。学内もしくは自宅のプリンターでのプリントアウト、ノートPCやタブレット端末等で閲覧できるように各自で準備しておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	個人ワークやグループワークなどを積極的に取り入れる。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	google classroomを、自己チェック、ふりかえり、配布資料のアーカイブなどで活用する。

講義コード	G01115531
講義名	コミュニケーションの心理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	北見　由奈	指定なし

ナンバリング

G32217C21

授業概要(教育目的)

家族とのかかわりをスタートとして、現代の生活においては様々なコミュニケーションが求められる。また、ICTの普及により、コミュニケーションを取り巻く状況は近年目まぐるしく変化している。本授業では、コミュニケーションの基礎的な理論と、現代社会におけるコミュニケーションに関する現象を社会心理学をベースとして学んでいく。また、発達障害をはじめとする、コミュニケーションに困難を抱える状態についても理解を深め、コミュニケーションを取り巻く現代の問題に気づき、心理学の視点からの解決方法を具体的に模索できる力を醸成することを目的とする。

履修条件

本授業では、他の受講生と意見を交換し、自分の考えを他者に伝えることが求められる。そのため、そのような活動に参加する意思のある学生に履修してほしい。

また、本授業は選択科目であるため、履修者は授業内容について興味・関心を高く持っていることが前提となる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．心理学における「コミュニケーション」とは何かを理解する。 ２．心理学の観点から、コミュニケーションの仕組みを説明することができる。 ３．社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」を理解した上で、コミュニケーションに関する現代生活の諸問題を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	１．物事を考え、理解する方法の手段の一つとして、学んだ内容を生かそうとすることができる。 ２．自身の疑問をコミュニケーションの心理学の知識を用いて解決しようとすることができる

	3．生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
関心・意欲・態度の観点(V)	日常生活にある「何気ない」事象、生活・社会の諸問題から、コミュニケーション心理学的なテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点 (A)	1．自身や身近な人の行動に関して、コミュニケーションの心理学で学んだ知識に基づいて説明するなど、心理学と生活のつながりを発信することができる。 2．コミュニケーション心理学の知識に基づいて、次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	イントロダクション―コミュニケーション心理学とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンスとして、授業の進め方、スケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。その上で、コミュニケーション心理学で扱う内容を概観し、これから学ぶ学問領域は何かを知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：コミュニケーション心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。 復習：授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	コミュニケーションの仕組み
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コミュニケーションの仕組みについて理解する。 コミュニケーションを心理学でどのように理論化しているのか、その背景や関連する学問領域について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料を理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 復習：コミュニケーションに関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分のコミュニケーションについて考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	人間関係のなかの自己
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人間関係における自己について理解する。 ・自己意識理論 ・自己評価 ・社会的比較 ・自己確認課程 ・セルフ・モニタリング ・自己評価維持モデル　など
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料を理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 復習：授業で学んだことについて、自分なりの活かし方を考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	出会いから人間関係の展開
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	対人関係がどのように形成され、展開されていくのかを理解する。 ・対人認知 ・親和行動

第4回	育・ICT活用を含む)	・第一印象 ・自己呈示と印象管理 ・自己開示 ・人間関係の親密化　など
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料を理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 復習：授業で学んだことについて、自分なりの活かし方を考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	言語的コミュニケーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	言語的コミュニケーションについて実践的に学ぶ。 ・情報伝達が対人認知に及ぼす影響 ・言語表現と対人認知 ・言語的抽象度以外の要因　など
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：言語的コミュニケーションについて、どのようなものがあるのかを調べ、自分なりの見識をまとめる。 復習：授業で学んだことについて、自分なりの活かし方を考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	非言語的コミュニケーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	非言語的コミュニケーションについて実践的に学ぶ。 ・非言語的コミュニケーションの感情伝達力 ・アイ・コンタクト ・対人距離とパーソナルスペース　など
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：非言語的コミュニケーションについて、どのようなものがあるのかを調べ、自分なりの見識をまとめる。 復習：授業で学んだことについて、自分なりの活かし方を考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	CMCと自己の表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンピューターを媒介したコミュニケーション （CMC：Computer-Mediated Communication）のメリット・デメリットについて理解する。 CMCが対人関係や精神的健康に及ぼす影響について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：CMCについて、どのようなものがあるのかを調べ、自分なりの見識をまとめる。 復習：授業で学んだことについて、自分なりの活かし方を考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	ソーシャルスキルの理解と促進（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ソーシャルスキルにおける「きく」と「伝える」について実践的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料を理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 復習：授業で学んだことについて、自分なりの活かし方を考える。

	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	ソーシャルスキルの理解と促進（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ソーシャルスキルにおける「感情理解」について実践的に理解する。 ・好意的人間関係とは ・嫌悪的人間関係とは ・不快を伴うコミュニケーションの功罪　など
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料を理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 復習：授業で学んだことについて、自分なりの活かし方を考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	ソーシャルスキルの理解と促進（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ソーシャルスキルにおける「怒りのコントロール」について実践的に理解する。 ・攻撃行動の分類 ・攻撃行動起因の理論 ・対立的状況と対立的行動 ・アンガーマネジメント　など
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料を理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 復習：授業で学んだことについて、自分なりの活かし方を考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	ソーシャルスキルの理解と促進（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ソーシャルスキルにおける「問題解決」について実践的に理解する。 ・アサーション　など
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料を理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 復習：授業で学んだことについて、自分なりの活かし方を考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	集団のなかの人間関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集団における人間関係について理解する。 ・集団の人間関係の魅力 ・集団凝集性と集団圧力 ・リーダーシップ ・集団における社会認知の錯誤　など
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料を理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 復習：授業で学んだことについて、自分なりの活かし方を考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	社会のなかにおけるコミュニケーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰ	社会のなかにおけるコミュニケーションについて理解する。

第13回	ﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・噂 ・消費者行動とコミュニケーション ・ソーシャルサポート　など
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料を理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 復習：授業で学んだことについて、自分なりの活かし方を考える。
	教室外学習の時間(分)	190分
第14回	授業テーマ	文化とコミュニケーションおよび学期末試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業前半の50分では、人々のコミュニケーション様式に文化背景が与える影響について理解を深める。 授業後半の50分では、学期末試験を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布された資料を理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 復習：授業で学んだことについて、自分なりの活かし方を考える。
	教室外学習の時間(分)	190分

学習計画注記

本授業では、グループワークやディスカッションの機会が含まれる。
その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。

学生へのフィードバック方法

1．授業開始時に実施する「出席確認」については、その都度、教員との間で結果を共有する。
2.「ふりかえり」については、授業終了後に教員が確認し、原則として全体にフィードバックを行う。

評価方法

授業への姿勢（50%）、および学期末テストの結果（50%）をもとに総合的に判断する。

1）授業への姿勢・・・「自己チェック」と「ふりかえり」に対する取り組みから総合的に判断。
・自己チェック（25%）：
　前の回の内容に関する小テストを意味する。毎回の授業の冒頭で実施。Googleフォームを使用。出席確認を兼ねる。正答率ではなく、時間内にきちんと提出できているかを評価する。

・ふりかえり（25%）：
　授業の感想・質問を記すリアクションペーパーを意味する。毎回の授業の最後で実施。Googleフォームを使用。時間内にきちんと提出できているかを評価する。

2）学期末テスト・・・期末テストの点数から判断。「自己チェック」の正答率は含まれない。

　なお、この科目ではルーブリックに基づく成績評価を行う。ルーブリックについてはgoogle classroomまたは授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
自己チェック	○		○	

ふりかえり（アウトカム評価）	○	○	○	○
学期末試験	○	○		

評価割合

授業への姿勢（50%）および学期末試験の結果（50%）もとに総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

原則として配布資料を用いる。
配布方法は、原則としてgoogle classroomを使用して、デジタルファイルでの配信とする。

参考図書

1）岡本真一郎（編）「コミュニケーションの社会心理学――伝える・関わる・動かす」ナカニシヤ出版，2023年　ISBN：9784779517143
2）齊藤　勇「イラストレート人間関係の心理学（第2版）」 誠信書房，2015年　ISBN：9784414300062

その他、授業内で適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会について、特に対人行動に関する知識をもって理解する。
【思考・判断】心理学に関する思考をもって人間を理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を、心理学への知識に基づく関心によって得る。
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、心理学的な思考や心理学の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。

オフィスアワー

後期：水曜日３限（13：20～15：00）　千代田三番町キャンパス1805室

学生へのメッセージ

資料は、google classroomを介してデジタル配信を行う。紙媒体での配布は行わない。
学内もしくは自宅のプリンターでのプリントアウト、ノートPCやタブレット端末等でみられるように各自で準備しておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	コミュニケーションの具体的な側面について検討し、グループワークによる実践による学修の機会を設けている。 毎回必ず、その回の授業に関連する「質問」を考え、ふりかえりの際にgoogle classroomに記入することを求める。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	google classroomを、ふりかえり、自己チェック、配布資料のアーカイブなどで活用する。

講義コード	G01115931
講義名	コミュニティ福祉論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	嶋田 芳男	指定なし

ナンバリング

G32318C21

授業概要(教育目的)

地域福祉推進の背景、地域社会の特性、地域福祉の理念と歴史的変遷について理解した上で、地域福祉を推進する組織・人・支援技術・財源・福祉教育の具体的な内容について講義する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．地域福祉推進の背景、地域社会の特性、地域福祉の理念と歴史的変遷について説明できる 2．地域福祉を推進する組織・人・支援技術・財源・福祉教育の内容と現状を説明できる
思考・判断の観点 (K)	地域福祉を推進していく公的組織と民間組織、人々の活動や支援がイメージできる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	地域福祉の推進に必要な技術について理解できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	産業構造の変化からみた地域社会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	産業発展による就業構造の変化や家族形態の変化が、地域社会に及ぼした影響について理解する

	教室外学習(予習・復習)の内容	就業構造の変化や家族形態の変化について、文献、インターネットから調べておく。また、授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間(分)	195分
第2回	**授業テーマ**	高齢化の進展からみた地域社会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢化率や高齢者世帯の現状、および支援を必要とする高齢者数から地域社会の現状を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	高齢化率や高齢者世帯の現状、および支援を必要とする高齢者数の状況について調べておく。また、授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間(分)	195分
第3回	**授業テーマ**	地域社会の特性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域共同体モデル、伝統型アノミーモデル、個我モデル、コミュニティモデルといわれる地域社会の特性を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業で学んだ内容を復習しておく
	教室外学習の時間(分)	195分
第4回	**授業テーマ**	地域福祉の概念と理念
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域福祉の概念と理念（ノーマライゼーション、住民主体、ソーシャルインクルージョン）について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト10～22ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間(分)	195分
第5回	**授業テーマ**	わが国における地域福祉の展開
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	明治期から今日に至るまでの地域福祉実践と課題を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト28～32ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間(分)	195分
第6回	**授業テーマ**	地域福祉を支える組織（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公的組織（国・都道府県・市町村）の機能と役割について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト33～42ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間(分)	195分
第7回	**授業テーマ**	地域福祉を支える組織（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	民間非営利法人（社会福祉法人、NPO法人）、営利法人（株式会社、有限会社）の機能と役割について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト41～51ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく

	教室外学習の時間（分）	195分
第8回	**授業テーマ**	地域福祉を支える人々（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コミュニティワーカー、民生委員、各種相談員の役割と現状を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト52～59を読んでおく。また、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	195分
第9回	**授業テーマ**	地域福祉を支える人々（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ボランティア、認知症サポーター、介護相談員、各種施設職員の機能と役割について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	195分
第10回	**授業テーマ**	地域福祉を推進していくための支援技術（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コミュニティワークの成立過程とその展開過程について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト27～28、68～75ページを読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	195分
第11回	**授業テーマ**	地域福祉を推進していくための支援技術（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ある地域で実践された事例を検証することで、コミュニティワークを習得する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト60～66ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	195分
第12回	**授業テーマ**	地域福祉を支える財源（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公的な財源（補助金、地方交付税交付金、地域福祉基金）と民間財源（共同募金、ボランティア基金、助成金、地域通貨）について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト126～134ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	195分
第13回	**授業テーマ**	地域福祉を支える財源（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事例を基に新たな財源確保を考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	他のグループでプレゼンされた内容を振り返る
	教室外学習の時間（分）	195分

第14回	授業テーマ	地域福祉計画の概要と福祉教育の必要性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域福祉計画の目的とその内容及び作成手順が理解できる。また、福祉教育の歴史、現状及び課題について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト93～99ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に復習しておく
	教室外学習の時間（分）	195分

学習計画注記

授業の進捗状況によって、スケジュールが変更になることがある。

学生へのフィードバック方法

レポート提出の場合、採点したうえで返却する

評価方法

・平常点
毎授業時の小課題や、授業への参加度で評価する。また、ルーブリックを用いて評価する（詳細は、科目のオリエンテーション時に提示する）。
・定期試験
コミュニティ福祉実践に関する知識の習得が計れるような出題とする。詳細については、最終授業日に説明する。

※遠隔授業を実施した場合、評価方法が異なる場合がある。この場合、改めて授業時に説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○		○
定期試験	○			

評価割合

平常点60%（12回の小課題提出を含む）、定期試験40%

使用教科書名(ISBN番号)

井村圭壮他編『地域福祉の原理と方法（第3版）』学文社（ISBN978-4-7620-2874-8)
適宜、プリントを配布する

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
地域で派生している現代生活の諸問題（主に福祉問題）について考えることができる
【思考・判断】
諸問題を分析し、問題解決に導くことができる
【技術・表現】
地域で安定した生活ができるために、諸問題を解決するとともに、新たな提言・発信ができる

オフィスアワー

水曜・12:10 ～13：00

学生へのメッセージ

毎授業時の小課題に対し、意欲的に取り組んで欲しい

教育等の取組み状況

	該当	概要

	有無	
実務経験を活かした授業	○	地域で福祉活動を展開している児童・高齢者施設のソーシャルワーカーとしての経験を有しており、地域福祉を推進していくために必要な知見を講義している
アクティブ・ラーニング	○	地域福祉を支える人々に関して、学生自らがその現状と課題を調べ、プレゼンテーションできるような授業を行っている
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01116031
講義名	社会福祉方法論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	嶋田　芳男	指定なし

ナンバリング

G32319C21

授業概要(教育目的)

社会福祉領域で駆使されている社会福祉方法論（ソーシャルワーク）の技法について理解するための講義を行う。また、使用される技法について理解を深めるために演習を行う。
社会福祉方法論（ソーシャルワーク）は、社会福祉専門職が駆使する技術であるが、日常生活を営んでいく上で役立つ技術でもあるため、その視点に立った授業も展開していく。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	生活課題（福祉課題）の解決に必要となるケースワーク、ケアマネジメント、グループワーク、コミュニティワークの内容が説明できる
思考・判断の観点 (K)	生活課題（福祉課題）を解決するための支援がイメージできる
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間関係を構築していく際に必要な姿勢・態度が習得できる
技術・表現の観点 (A)	生活課題（福祉課題）の解決に必要となるケースワーク、ケアマネジメント、グループワーク、コミュニティワークの技法が習得できる

学習計画

	授業テーマ	社会福祉方法論（ソーシャルワーク）の体系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教 ICT)	社会福祉方法論（ソーシャルワーク）のケースワーク、ケアマネジメント、グループワーク、コミュニティワーク）の体系を

第1回	育・　活用を含む	理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第2回	授業テーマ	ケースワークの概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ケースワークの成立と展開過程について理解する。また、支援者が留意しておく必要があるバイステックの7原則について理解を深める
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを復習しておく
	教室外学習の時間（分）	195分
第3回	授業テーマ	ケースワーク実践の手法（1）演習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バイステックの7原則の視点からいくつかの事例を検討し、同原則の理解を深める
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に復習しておく
	教室外学習の時間（分）	195分
第4回	授業テーマ	ケースワーク実践の手法（2）演習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	面接技法（あいづち、繰り返し、質問、感情の反射、支持）について理解するとともに、体験する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に復習するとともに、体験を振り返る
	教室外学習の時間（分）	195分
第5回	授業テーマ	ケアマネジメントの内容
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ケアマネジメントの成立と展開過程、及びその構成要素について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に復習しておく
	教室外学習の時間（分）	195分
第6回	授業テーマ	ケアマネジメント実践手法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実践の場で駆使されているケアマネジメントを外部講師から講義してもらうことで、理解を深める。また、実践上の留意点についても理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に復習しておく。また、外部講師の講義内容を振り返る
	教室外学習の時間（分）	195分
第7回	授業テーマ	グループワークの内容
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループワークの成立と展開過程について理解する
	教室外学習(予習・復	配布したプリントを基に復習しておく

	習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	195分
第8回	授業テーマ	グループワークの実践手法（演習）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループワークの展開に必要な活動プラグラムを作成する（グループごと）で、同技法の理解を理解を深める
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループ活動とプログラム内容を振り返る
	教室外学習の時間（分）	195分
第9回	授業テーマ	コミュニティワークの内容
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コミュニティワークの成立と展開過程について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に復習しておく
	教室外学習の時間（分）	195分
第10回	授業テーマ	コミュニティワークの実践手法1（演習）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとに、事例におけるコミュニティワークの展開過程を検証し、プレゼンテーションすることで同技法の理解を深める
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループごとにプレゼンテーションされた内容を改めて検証する
	教室外学習の時間（分）	195分
第11回	授業テーマ	コミュニティワークの実践手法2（演習）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域で派生している生活課題（福祉課題）を抽出し、グループでその生活課題を解決するためのシステムを検証するとともに、その内容をプレゼンテーションする
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に地域で派生している生活課題を調べておく。また、他のグループからプレゼンテーションされた内容を改めて検証する
	教室外学習の時間（分）	195分
第12回	授業テーマ	ソーシャルネットワークの内容(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ソーシャルネットワークの成立と成立過程について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に復習しておく
	教室外学習の時間（分）	195分
第13回	授業テーマ	ソーシャルネットワークの内容（2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事例を用いて、ソーシャルネットワークの構築法について考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループごとにプレゼンテーションされた内容を改めて検証する
	教室外学習の時間	195分

	（分）	
第14回	授業テーマ	社会福祉方法論（ソーシャルワーク）総合演習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各種方法論（ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、ネットワーク）の重要事項を再確認し、知識・技術を駆使できるようにする
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を予習・復習しておく
	教室外学習の時間（分）	195分

学習計画注記

授業の進み具合によってスケジュールが変更になることがある
また、遠隔授業で実施することもある。この場合、改めて授業時に説明する

学生へのフィードバック方法

社会福祉方法論（ソーシャルワーク）総合演習で作成されたレポートは採点した上で返却する

評価方法

・平常点

毎授業時の小課題提出と授業への参加度で評価する。なお、小課題等はルーブリックを用いて評価する（詳細は、科目のオリエンテーション時に提示する）

・定期試験

社会福祉方法論（ソーシャルワーク）に関する必要な知識や技法が計れるようなレポートとする。詳細は授業最終日に説明する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点		○	○	○
定期試験（レポート）	○			○

評価割合

平常点60%、定期試験（レポート）40%

使用教科書名(ISBN番号)

適宜、プリントを配布する

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
社会で派生している生活課題（福祉課題）について理解できる
【思考・判断】
生活課題（福祉課題）を抽出・分析し、課題解決に導く考え方ができる
【関心・意欲・態度】
社会で派生している生活課題（福祉課題）に対して関心を持つことができる
【技術・表現】
さまざまな関係者との人間関係を構築することができる

オフィスアワー

月曜・12：10～13：00

学生へのメッセージ

授業ではグループ討議、プレゼンテーションが計画されているため、自発的・主体的に参加してほしい

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	ソーシャルワーカーの経験を有しているため、生活課題（福祉課題）の解決に必要となるケースワーク、ケアマネジメント、グループワーク、コミュニティワークの実践的知識や技法について講義している
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01116231
講義名	若者ファッション論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	山村 明子	指定なし

ナンバリング

G25203C21

授業概要(教育目的)

10代から20代にかけての若者層は、既存のルール・文化に抵抗し、あるいは迎合し、自らの価値観を示してきた。若者が発信する文化にはその時代と社会の新しい感性が潜んでいる。本講では主に第二次世界大戦以降平成にかけての日本のファッションの流行を取り上げ、そこに投影された若者の感覚について論じ、そこから時代ごとに作り出されてきた「若者」とはなにかを論じる。

履修条件

オンデマンド授業で実施する。（配信：木曜日1時限）
期末試験は対面方式で教室で実施する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	若者のファッション文化の変遷を学び、ファッション文化と社会の動向の関わりについて理解する。
思考・判断の観点 (K)	若者とは何か、社会における若者の位置づけについて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	現代のファッション文化に対して積極的に情報を収集することができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	若者とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆ	

第1回	ﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会の中で論じられてきた若者論について取り上げ、若者について考える意義について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスを読み、授業概要について理解する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第2回	授業テーマ	1950年代 シネマファッション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1950年代のファッションは映画・テレビといった映像文化に影響を受けていたことを学び、社会におけるファッションの位置づけについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第3回	授業テーマ	1960年代 ミニスカート
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本経済の成長と生活の進展を学び、ミニスカートがファッションの価値観の変容にかかわったことを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第4回	授業テーマ	1960年代 ヒッピーとサイケ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	安保闘争などの社会的な動きから、若者と社会とのかかわりについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第5回	授業テーマ	1960年代 ジーンズとフォークソング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	若者ファッションの代名詞となるジーンズと、フォークソングの流行から今日のジェンダー観への移行を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第6回	授業テーマ	1970年代 ファッション雑誌
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ファッション雑誌が提案した若者ファッションとライフスタイルについて学び、若者の消費行動の変化について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第7回	授業テーマ	1980年代 スポーツ天国と女子大生ブーム
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大学進学率の向上などを背景とする、若者のライフスタイルとファッションの関りについて理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	1980年代 ブランドの多様化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バブル経済の前後の事例を学び、ファッションブランドの多様化について理解する。バブル崩壊後のファッションの中でのカジュアル志向を学び、価値観の変容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	1990年代 ギャル文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	女子高生を中心としたファッションムーブメントとしてのギャル文化を学び、社会における若者の位置づけの変化を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	2000年代 ローティーン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2000年代以降のローティーンファッションに着目し、市場動向を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	カワイイとは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本のポップカルチャーの一つとして世界にも認知される「カワイイ」文化について学び、カワイイとは何かを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	エイジレス志向と若者ファッション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2000年代以降の女性のエイジレス志向を学び、そこから今日の若者とはどのような意味を持つのかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	成人式と振袖
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	若者と着物文化として成人式の振袖がどのようにファッション化したかを学び、着物文化が洋服の流行の影響を受けていることについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。

	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	卒業式の袴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	若い世代の人たちと着物とのかかわりについて、卒業式の袴から学ぶ。 これまで学んだ若者ファッションについて振り返り、ファッションと社会とのつながりを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分や家族と着物とのかかわりについて振り返る 試験に備えて、授業内容の整理と情報収集を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

受講生の理解度等により授業の進行を調整することがある。
学修内容に関連する動画や資料などの情報を提供するので、時間外学習に役立てることを勧める。

学生へのフィードバック方法

授業の理解度を確認するために、各回の授業内容についてのまたは小レポート課題を実施する。課題の内容については次の授業内で解説する。

評価方法

期末試験では、ファッションと社会との関わりにおいてについて理解しているかを問う。予習課題を課すので、配布資料を読み、自分でまとめることを求める。
期末試験では授業内容に加えて、現代の若者の流行に関する問題を課すので、積極的に情報収集する態度を評価する。
ルーブリックで評価します。ルーブリックはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業ごとの小テスト	○			
期末試験	○	○	○	

評価割合

授業ごとの小課題45%、期末試験55%

使用教科書名(ISBN番号)

なし。授業時に資料を配布する

参考図書

平芳裕子著，日本ファッションの一五〇年: 明治から現代まで (歴史文化ライブラリー 611)

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会と若者のファッション文化ついて理解を深める。
【思考・判断】ファッションを通して若者文化が包含する意味について思考することができる。
【関心・意欲・態度】若者のファッション文化について意欲的に関心を持ち、情報を収集できる。

オフィスアワー

月曜日2限 1703ゼミ室

学生へのメッセージ

第二次大戦以降の日本の若者のファッションについて取り上げる、メディアの情報などを積極的に収集してください。また、同時代を経験してきた身近な父母、祖父母などに質問するのもよいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	新聞データベースを利用し、情報を収集する

講義コード	G01116331
講義名	日本の服飾演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	太田　茜	指定なし

ナンバリング

G35205C12

授業概要(教育目的)

日本の民族衣装である和服の起源と変遷を理解し、現在の基本的な知識としての決まりごとやＴＰＯを学び、それぞれの特徴を理解する。さらにファッションカラー演習等の知識を活かして和装のスタイリングを考えてプレゼンテーションを行う。
また日本の特徴的な衣服として学生服を取り上げ、現在の自分の衣生活がどのような背景のもとになりたっているのかを学ぶ。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日本の服飾について多角的な視点に基づいて知り、現在の衣生活への影響を体系的に説明できる。
思考・判断の観点 (K)	和服についてどのように現在の形になったかを知り、その変化と受容について考察することで服飾における形の変化の原因とその影響について指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	和服の着装について技術だけでなく、文化的な背景についての知識を持って伝統的な行事等に参加することができる
技術・表現の観点 (A)	和服の様々な着装方法について学び、自分なりに表現できるようになる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス：小袖の成立

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イントロダクションとして日本の民族衣装である和服についてその起源を学ぶ。パワーポイントや動画等の図像資料を用い、現在の和服への変遷を知る。現在の和服は袖口が小さく縫われた小袖であるが、小袖はもともとは袖口から下が縫われていない大袖の中に着るものであった。それがどのように表着として着られるようになったのかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスの内容を確認しておく。
	教室外学習の時間(分)	30分
第2回	授業テーマ	場面ごとの和装
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在の衣生活において和服を着る機会が比較的多いのは冠婚葬祭の場面であり、特に結婚式では華やかな和装が多くみられる。また、そのような改まった場面でなくとも和服を着て外出する機会はつくることができ、その際に何を着たらよいのかというのは和装の知識の少ないものには難題となる。そこで和装の組み合わせかたについて学び、どのような組み合わせをしたらいいかを考える。 また、着付けの道具について理解し使い方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスの内容を確認しておく。また、自分が和装をしてみたい場面を考え、そこにふさわしいコーディネートを考える
	教室外学習の時間(分)	90分
第3回	授業テーマ	浴衣の着付け
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	浴衣の着付けを学び、長着の基本的な構造と着方を学ぶ。綺麗に見えるポイントや着た時に動きやすいコツを知る。浴衣の由来について調べ、またその着付けをおさらいしてレポートにまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスの内容を確認しておく。
	教室外学習の時間(分)	40分
第4回	授業テーマ	半幅帯を結ぶ・1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	帯は最初は小袖の前あわせをとめる紐状のものであったが、徐々に飾りとしての役割も兼ねるようになり、幅は広く長さは長くなっていった。まずはじめに現在使われている帯の中で比較的幅が細く結びやすい半幅帯の結びを学習する。
	教室外学習(予習・	

	復習)の内容	シラバスの内容を確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	40分
第5回	授業テーマ	半幅帯を結ぶ・２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	半幅帯の結び方について調べて、レポートにまとめる。また、半幅帯の帯結びをおさらいしてみる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスの内容を確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	40分
第6回	授業テーマ	学生の服装
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な国の学生服について知り、学生らしい服装をどのように規定しているのかを考える。女子の卒業式の服装としてよく見られる袴姿について学び、着流し（着物を着て帯を結んだだけの姿）に比べてどのような利点があるかを考える。さらに学校制服について制服メーカのショールームを見学し、洋服制服の変化や自分たちの通った学校の制服と比較する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスの内容を確認しておく。予習として自分が今までに着たことのある制服についてまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	授業テーマ	襦袢と袷・１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	裏付きの袷を着る際はその下に襦袢とよばれるものを着るため、その襦袢をつけての着付けを学ぶ。同時に補整の理屈を知り、着姿を整えるための補整を考え、実践してみる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスの内容を確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	40分
	授業テーマ	襦袢と袷・２

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	襦袢の構造と役割について調べ、レポートにまとめる。着付けのおさらいをする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスの内容を確認しておく。
	教室外学習の時間(分)	40分
第9回	授業テーマ	お太鼓・1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	袷を着る際には半幅帯以外に名古屋帯や袋帯を結ぶことが多く、また帯揚げや帯締めを使ったお太鼓に結ぶことでより本格的な印象にすることが出来る。ここでは普段の和装に便利な一重太鼓の結び方を学習し、同時に長着と帯、小物のコーディネートについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスの内容を確認しておく。
	教室外学習の時間(分)	40分
第10回	授業テーマ	お太鼓・2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	名古屋帯・袋帯の結び方について調べて、レポートにまとめる。また、お太鼓の結び方をおさらいしておく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスの内容を確認しておく。
	教室外学習の時間(分)	40分
第11回	授業テーマ	プレゼン：学生服について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の通っていた学校の制服について調査を行い、レポートにまとめてそれぞれがプレゼンを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内	シラバスの内容を確認しておく。自分の興味を持ったトピックについての資料を集めておく。

	容	
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	袴・１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	袴姿は現在は卒業式等の限定された場面でしか見ることが出来ないが、着流しに比べると動きやすく、そのために通学着として採用された経緯がある。ここでは行灯袴の着付けを学び、実際に動きやすいかどうかを検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスの内容を確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	40分
第13回	授業テーマ	袴・２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	袴の着付けについておさらいし、レポートにまとめる。着付けについてのレポートはまとめて提出することとする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスの内容を確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	40分
第14回	授業テーマ	プレゼン・ミニテスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今まで学んだことを活かして自分なりに和服を着るシチュエーションを設定し、コーディネートを考えてパワーポイントにまとめてプレゼンを行う。また、専門用語についてはミニテストを行い、知識が身についているかを確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスの内容を確認しておく。専門用語については今までのノートを確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	90分

学習計画注記
履修者数によってスケジュールや内容が変更になる場合もあります。また、制服メーカの見学は日程が変更になる可能性があります。

学生へのフィードバック方法

プレゼンテーションの講評を行い、またつくったコーディネートが適切かどうかを確認し、その都度指導する。またミニテストはコメントをつけて返却を行い、フィードバックを行う。

評価方法

プレゼンテーションは自分のコンセプトを適切に表現し、選んだテーマについての理解と説明できているかを評価する。ミニテストでは専門用語を正しく理解できているかを評価する。平常点は授業への参加状況とプレゼンへの取り組み状況を総合的に評価する。

評価についてはルーブリックを用いた評価を基準として行う。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ミニテスト	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合

プレゼンテーション2回（60%）、ミニテスト（10%）、平常点（30%）

使用教科書名(ISBN番号)

教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】衣生活について現代にいたる流れを知り、質の高い生活を送るための選択眼を養う

【思考・判断】現在の日本の服飾についての状況を分析し、自分なりの課題をみつけて解決の方法を探る

【関心・意欲・態度】和装の変遷や現在の形について理解することで、より日本文化や伝統行事に積極的に取り組む

【技能・表現】和装の技術を習得し、自分のイメージにあったコーディネートや着こなしができる

オフィスアワー

1808ゼミ室　2限～月曜昼休み

学生へのメッセージ

日本の服飾ときいて思い浮かべるものは人によって違ってきます。着る人の事情や社会にあわせてかわる服装という視点で日本の服飾を読み解くため、日常から服飾に興味を持ち、情報を収集してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	知識を生かして自分なりのアレンジを加えた和装のコーディネートを行えるようにする。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01116431
講義名	設計製図演習V
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	戸田 啓太	指定なし

ナンバリング

G34205C22

授業概要(教育目的)

設計製図演習A～Dならびに関連科目で学んだ知識や手法に基づき、チャペルの設計と集合住宅の設計を行う。
第１課題「海辺のチャペル」の設計に取組む。周辺環境を読み込み、その場所、空間にふさわしい建築とインテリアを提案し、基本図面、パース、模型等で表現することを目的とする。
第２課題「都心で暮らす単身者向け集合住宅」では集合住宅の設計に取組む。与えられた敷地から周辺環境を読み込み、法的条件の中でコンセプトを設定して設計する。さらに一住戸の設計及びインテリアの提案へとつなげる。プレゼンテーションを通して自らの考えを他者へ伝える手法を修得することを目的とする。

履修条件

本演習の履修は、設計製図演習IVの単位取得済みを条件とします。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	与えられた課題（チャペル、集合住宅）に必要な空間、機能について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	敷地条件から周辺環境を読み解くことができ、設計条件から居住者のライフスタイル等を読み解き、それに基づいた建築、空間を提案できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	建築、住宅、インテリアに関心を持ち、自ら資料収集ができる。
技術・表現の観点 (A)	建築設計に必要な作図、模型制作ができ、それに基づきながら自らの考えを他者に説明できる。

学習計画

第1回	授業テーマ	第１課題説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第１課題「海辺のチャペル」課題説明をします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図書館やインターネットを利用して、イメージする建築空間の事例調査をしてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	授業テーマ	実例研究発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実例研究２件を発表します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実例について図書館等で調べてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	授業テーマ	エスキス１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事例調査に基づいてコンセプトの設定、配置・平面計画のエスキスを行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外でもエスキースを進めてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	授業テーマ	エスキース２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	立面・断面計画を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	エスキースを進めてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	模型制作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模型を制作し、空間構成等のチェックをします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次週までに模型と図面レイアウトを完成させてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	授業テーマ	レイアウト図面提出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レイアウト図面を提出した上で、図面の手直しについて指導を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次週までに図面を印刷し、プレゼンテーションの準備をしてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	授業テーマ	第１課題講評会 第２課題の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第１課題の講評会を行います。また第２課題「都心で暮らす単身者向け集合住宅」について説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表準備をしてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	実例研究発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実例研究２件を発表します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実例について図書館等で調べてください。
	教室外学習の時間（分）	90分

第9回	授業テーマ	エスキース１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配置・平面計画を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外でもエスキースを進めてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	エスキース２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	断面計画を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外でもエスキースを進めてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	授業テーマ	エスキース３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	立面計画を行い、住戸平面計画を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外においてもエスキースを進めてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	エスキース４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全体計画の見直しを行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外においてもエスキースを進めてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	模型製作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模型を制作し、空間構成等のチェックを行います。また模型の手直しについても指導をします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次週までに模型と図面を完成させてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	レイアウト図面提出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レイアウト図面を提出した上で、図面の手直しについて説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次週までに図面を印刷し、プレゼンテーションの準備をしてきてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第15回	授業テーマ	第２課題講評会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第２課題の講評会を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	設計の意図を伝えられるように準備をしてきてください。
	教室外学習の時間（分）	90分

学生へのフィードバック方法

演習形式で行い、２課題が出される。エスキース、作図、模型、写真撮影の手順で課題を完成させ、課題提出後にポスターセッション形式で採点及び講評が行われる。

評価方法

講評会では担当教員や他の学生に向け、図面と模型を提示して、口頭で設計内容を説明しても

らう。担当教員は発表の内容と提出された図面及び模型を採点する。
・ルーブリックを用いて評価方法を示す。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
図面	○	○	○	○
模型	○	○	○	○
口頭発表（プレゼン）	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

２課題×40%＝80% 平常点＝20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

新建築（月刊誌）、新建築住宅特集（月刊誌）、商店建築、住宅建築

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「質の高い生活」を実現させるための社会の基盤の一部となる生活空間の知識を得ること、理解することができる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し、建築設計、インテリア設計を通して解決する。
【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を建築、インテリアを通して提案できる。

学生へのメッセージ

実際の建築設計は様々な要素を検討しながら「新しい空間を想像する」ことです。授業では実際の敷地条件の中で具体的な設計演習を行います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は建築設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能です。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01116531
講義名	設計製図演習VI
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	戸田 啓太	指定なし

ナンバリング

G34206C22

授業概要(教育目的)

設計製図演習I～Vならびに関連科目で学んだ知識や手法に基づき、複合施設の設計を行う。
デザインサーベイを通して周辺環境を読み込み、その場所、空間にふさわしい建築とインテリアを提案し、基本図面、パース、模型等で表現することで、プレゼンテーション等を通して自らの考えを他者へ伝える手法を修得することを目的とする。

履修条件

本演習の履修は設計製図演習Vの単位取得を履修条件とします。材料等の実費負担が必要になります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	与えられた課題（カフェ等）に必要な空間、機能について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	敷地条件から周辺環境を読み解くことができ、それに基づいた建築、空間を提案できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	建築、住宅、インテリアに関心を持ち、自ら資料収集ができる。
技術・表現の観点 (A)	建築設計に必要な作図、模型制作ができ、それに基づきながら自らの考えを他者に説明できる。

学習計画

	授業テーマ	第１課題 課題説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	第１課題「カフェ＋まちの機能を考える」課題説明をしま

第1回	を含む)	す。敷地の条件や設計条件等について理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デザインサーベイを実施し、図書館等を利用して資料を収集してください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	授業テーマ	デザインサーベイ１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	敷地周辺の環境や歴史などを調査し、まとめていきます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	現地調査や資料調査などを進めてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	授業テーマ	デザインサーベイ２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	敷地周辺の環境や歴史などを調査し、まとめていきます。プレゼンテーションのためにビジュアルで表現する手法を検討します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	現地調査や資料調査などを進めてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	授業テーマ	必要な機能を考える１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	カフェと複合して計画する、まちに必要な機能・用途を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外でも、まちに必要な機能・用途の検討を進めてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	必要な機能を考える２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	カフェと複合して計画する、まちに必要な機能・用途について、プレゼンテーションのためにダイヤグラム等を作成します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外でも、まちに必要な機能・用途の検討を進めてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	授業テーマ	中間発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デザインサーベイ及びまちに必要な機能について発表を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の準備を進めてきてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	授業テーマ	実例研究発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	まちに必要な機能に対する実例研究（２件）を発表してもらいます。パワーポイントにまとめます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図書館等を利用して実例資料を収集し、パワーポイントにまとめ発表できるように準備してください。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	エスキース１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	配置、平面計画を行います。

第8回	を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外でもエスキースを進めてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	エスキース２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	断面、立面計画を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外でもエスキースを進めてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	エスキース３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平面・断面・立面計画を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外でもエスキース、模型制作を進めてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	授業テーマ	エスキース４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インテリア計画を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外でも、エスキースを進めてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	模型製作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模型を製作し、空間構成のチェックを行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模型をつくった上で、再度平面計画、断面計画の見直しを行ってください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	図面・模型の見直し
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図面・模型の見直しを進めます。それぞれの完成度を高めていきます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次週までに図面をまとめ、模型の完成度を上げてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	レイアウト図面チェック
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レイアウト図面を提出し、図面の手直しについて指導します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次週までに図面を印刷しプレゼンテーションの準備をしてきてください。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	プレゼンテーション（講評会）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	講評会を行います。

第15回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	設計の意図を伝えられるように準備してください。
	教室外学習の時間（分）	90分

学生へのフィードバック方法

演習形式で行い、課題が出される。エスキース、作図、模型、写真撮影の手順で課題を完成させ、課題提出後にポスターセッション形式で採点及び講評が行われる。

評価方法

講評会では担当教員や他の学生に向け、図面と模型を提示して、口頭で設計内容を説明してもらう。担当教員は発表の内容と提出された図面及び模型を採点する。
・ルーブリックを用いて評価方法を示す。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
図面	○	○	○	○
模型	○	○	○	○
口頭発表（プレゼン）	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

中間提出・発表×30%＋最終提出・発表×50%＝80% 平常点＝20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

新建築（月刊誌）、新建築住宅特集（月刊誌）、商店建築、住宅建築

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「質の高い生活」を実現させるための社会の基盤の一部となる生活空間の知識を得ること、理解することができる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し、建築設計、インテリア設計を通して解決する。
【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を建築、インテリアを通して提案できる。

学生へのメッセージ

実際の建築設計は様々な要素を検討しながら「新しい空間を想像する」ことです。授業では実際の敷地条件の中で具体的な設計演習を行います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は建築設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能です。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01116631
講義名	現代家政ゼミB
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	加藤 晴美	指定なし
教授	現代家政学科 教員	指定なし

ナンバリング

G31005C12

授業概要(教育目的)

4年次の卒業研究A・Bの履修に先立ち、生活の中から課題を発見し、それぞれの研究テーマを決定するために必要な情報収集、課題発見のための力を養い、研究の基礎について学ぶ。資料の講読や討議を通じて、資料の収集方法、調査方法、論文の構成や書き方等について理解を深める。学生が自主的および主体的に取り組むことが望まれる。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	生活の諸課題を現代家政学の学びと関係づけて説明する。
思考・判断の観点 (K)	研究テーマを決定するための方法を理解し、選ぶことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	現代家政学について主体的に学ぶ態度を身につける。
技術・表現の観点 (A)	情報を収集し、課題を発見し、効果的に発信することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の目的・進め方など、受講にあたっての基本を理解する。卒業研究を行うにあたって必要となる研究倫理について、理解を深める。

	教室外学習(予習・復習)の内容	配属されるゼミでの演習を前に、学習の目的と主なテーマの理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	講演（岩村もと子氏）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業生特別講師による、社会における課題とKVA精神のかかわりについての講演を聴き、自らの卒業後のあり方について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に予告された内容に基づき、関連するウェブサイトや新聞等の情報を理解し、自分の考えを表現する準備をする。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	講演（佐々木ひとみ理事）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業後のキャリアプランに関する講演を聴き、キャリア形成への関心を高める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に予告された内容に基づき、関連するウェブサイトや新聞等の情報を理解し、自分の考えを表現する準備をする。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	特別講義（学長）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学長による講義を聴き、現代社会の課題を考え、自分なりに解決する方法を模索する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に予告された内容に基づき、関連する情報を理解し、自分の考えを表現する準備をする。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	卒業研究発表会に出席①（振替）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究発表会に出席し、内容をよく聞き理解すると共に、1年後の自分の卒業研究の発表に向けて、自らの卒業研究について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究発表会要旨集を読み、理解し、発表会で知りたいことを考える。加えて、自分の卒業研究の進め方やテーマ設定などを考える。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	卒業研究発表会に出席②（振替）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究発表会に出席し、内容をよく聞き理解すると共に、1年後の自分の卒業研究の発表に向けて、自らの卒業研究について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究発表会要旨集を読み、理解し、発表会で知りたいことを考える。加えて、自分の卒業研究の進め方やテーマ設定などを考える。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	国際交流センター映画上映会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地球規模の諸課題を扱った映画を鑑賞することを通じて、世界の現状への理解を深めるとともに、問題解決に向けて何ができるかを考える。
		事前に予告されたウェブサイトを閲覧し、上映される映画に

	教室外学習(予習・復習)の内容	関する基本情報を理解し、どのような問題意識を持って映画を鑑賞するかを考えておく。
	教室外学習の時間(分)	
第8回	**授業テーマ**	各配属ゼミでのガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配属ゼミの教員と、テーマや方法論などの実現可能性を個別に検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自らが関心を持つ研究やそれにまつわる文献や情報を集めておく。
	教室外学習の時間(分)	45分
第9回	**授業テーマ**	各配属ゼミでの演習：先行研究・参考文献の調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究や参考文献について調査し、配属されるゼミで取り扱うテーマの概要を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	情報の検索や収集の作業を進め、その内容を記録していく。
	教室外学習の時間(分)	45分
第10回	**授業テーマ**	各配属ゼミでの演習：研究方法の検討①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配属されるゼミで実施される研究の方法について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学んだ研究方法を実際に試してみること等を通じて、自らの研究テーマに適した研究方法を検討する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第11回	**授業テーマ**	各配属ゼミでの演習：研究方法の検討②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配属されるゼミで実施される研究の方法について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学んだ研究方法を実際に試してみること等を通じて、自らの研究テーマに適した研究方法を検討する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第12回	**授業テーマ**	各配属ゼミでの演習：調査・実験・製作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゼミで設定されたそれぞれの課題に取り組み、調査・実験・製作を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	提示された課題について、教員の指示に従って作業を進める。
	教室外学習の時間(分)	45分
第13回	**授業テーマ**	各配属ゼミでの演習：報告・発表の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配属ゼミでの学びを振り返り、成果をとりまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	報告・発表に向け、必要な準備に取り組む。

	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	**授業テーマ**	各配属ゼミでの演習：報告・発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配属ゼミでの学びの成果を報告・発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	報告・発表に向け、必要な準備に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

外部講師の都合等により授業内容の入れ替えを行うこともある。

学生へのフィードバック方法

配属ゼミでの演習は作業、発表、質疑応答、討議を中心に授業を進め、それらの活動の中で適宜フィードバックを行う。課題については、振り返りの中で解説する。質問は各回の担当教員が受け、回答する。

評価方法

授業時に指示する課題を毎回提出する。ルーブリックによって評価する。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業時の課題	○	○	○	○

評価割合

授業時の課題100%

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。

参考図書

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』
その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な見地で家政学を学び、現代生活の諸問題を理解する。
【思考・判断】生活の諸問題を分析し、問題解決を思考する。
【関心・意欲・態度】生活の諸問題について積極的に関心を持つ。
【技能・表現】生活の諸問題について他者と討議し、発信することができる。

オフィスアワー

初回に各教員のオフィスアワーの一覧を配布

学生へのメッセージ

日ごろから私たちの生活における課題に目を向け、課題解決に向けて考える姿勢をもってほしい。「卒業研究」のテーマや自分の将来について真剣に考えてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授	○	学長、理事及び外部講師による講義。

業		
アクティブ・ラーニング	○	配属されるゼミで研究テーマに関わり報告や発表を実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01116731
講義名	建築構法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	現代家政学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	青柳 由佳	指定なし

ナンバリング

G14304C21

授業概要(教育目的)

建築の仕組みについて理解することを目的とする。鉄骨造、鉄筋コンクリート構造、木造について理解し、構造種別ごとに適した計画を習得する。また各部位に必要な性能とつくり方を理解し、適切に選択できる力を習得する。授業の後半では建物の実測を行い、構法を表現できる力を養う。

履修条件

学外授業（川崎市民家園）を行うため、交通費、入園料が必要となります。13回と14回の授業として木曜日の午後に学外授業を行う予定です。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	建物を構成する各部位とその機能についての知識を養う
思考・判断の観点 (K)	建築の仕組みを理解し、自らが具体的に計画できる力を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	構造形式と種別を理解し、それに適した計画ができる。
技術・表現の観点 (A)	各部位に必要な性能を理解し、適切なつくり方を選択することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	建築構法とは・建物の機能と性能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンスを行います。また建築構法とは何かを学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p2-4を学習してください。

	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	**授業テーマ**	構造形式と構造種別
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建物の構造形式と種別について説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p7-13を学習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	設計・施工・維持管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建物をつくるプロセス（工程）を説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p244-247を学習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	駆体構法：鉄骨造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	構造種別ごとに必要な知識を学習します。（課題1：鉄骨造）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p30-50を学習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	駆体構造：鉄筋コンクリート構造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	構造種別ごとに必要な知識を学習します。（課題2：鉄筋コンクリート造）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p52-73を学習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	駆体構法：木造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	構造種別ごとに必要な知識を学習します。（課題3：木造）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書107-144を学習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	各部構法：屋根の構法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建物を構成する部位ごとの説明をします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p156-167を学習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	各部構法：壁・天井の構法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建物を構成する部位ごとの説明をします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p173-188,224-230を学習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	各部構法：基礎・床の構法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建物を構成する部位ごとの説明をします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p148-151,211-216を学習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	構法の記録１ 平面図の実測
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	民家園に行き、グループごとに実測を行い、平面図を作成します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実測をした平面図・断面図の清書を行います。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	構法の記録２ 断面図の実測

第11回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	民家園に行き、グループごとに実測を行い、断面図を作成します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実測をした平面図・断面図の清書を行います。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	モジュールと寸法調整
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建物の基本寸法について説明します。また校外学習に必要な図面の知識を解説します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p254-260を学習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	各部構法：開口部、建具の構法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建物を構成する部位ごとの説明をします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p194-205を学習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	各部構法： 階段・造作と納まり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建物を構成する部位ごとの説明をします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p231-237を学習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

建築士の受験資格取得を目標とする人は必ず受講すること。
設計製図演習Iを履修する人は必ず履修すること。

学生へのフィードバック方法

授業内で行う

評価方法

定期試験５０%、授業時の課題３０%、構法の記録（実測図面）２０%
・はじめの授業でルーブリックで評価方法を示す。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
試験	○			
試験		○		
授業時の課題			○	
構法の記録				○

評価割合

定期試験５０%、授業時の課題３０%、構法の記録（実測図面）２０%

使用教科書名(ISBN番号)

内田祥哉：建築構法：市ヶ谷出版（ISBN978-4-87071-001-6)

参考図書

日本建築学会 構造用教材

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】建築の成り立ちを通して「質の高い快適な生活」とは何かを理解し、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】建築を通して生活の諸問題を自ら発見し、問題解決に導く考察をすることができる。

【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、建築を理解することができる。
【技術・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を送るための空間を表現するための技術が身に付く。

オフィスアワー

木曜日昼休み

学生へのメッセージ

建物を構成する要素とその機能について説明します。建築を学ぶ基礎となりますので１つ１つの知識を着実に積み重ねてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	建築設計の実務経験に基づき、授業を行う
アクティブ・ラーニング	○	授業の後半には実際の建物の実測を通して建築物を表現する方法を学習する
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01116831
講義名	構造力学B
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	西村 彰敏	指定なし

ナンバリング

G34302C21

授業概要(教育目的)

静定構造物と不静定構造物を通して建築（住居）構造力学を学ぶ力を身に付け、自らの力で基本的な問題に対し解決できる能力の育成を目的とする。
本科目は初学者を対象とし、ラーメン構造やトラス構造などを題材とする。
また、反力計算や応力計算の他、材料や断面の性質を通して構造力学に対する問題解決の方法を学び、基礎力を身に付ける。

履修条件

構造力学Aを履修していること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1.静定と不静定構造の反力と応力計算ができる 2.材料性質の計算ができる 3.断面性質の計算ができる
思考・判断の観点 (K)	1.静定と不静定構造を正しく理解し説明できる 2.材料性質を正しく理解し説明できる 3.断面性質を正しく理解し説明できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	静定構造の反力計算1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	1.ラーメン構造とは 2.構造力学Aで学習した反力計算の復習

第1回	育・ICT活用を含む)	3.ラーメン構造の反力計算
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	静定構造の応力計算1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.構造力学Aで学習した応力計算の復習 2.ラーメン構造の反力計算 3.ラーメン構造の応力図
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	静定構造の反力計算2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.トラス構造とは 2.トラス構造の反力計算
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	静定構造の応力計算2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.トラス構造の応力計算 2.トラス構造の応力図
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	不静定構造の反力計算
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.静定・不静定構造とは 2.不静定構造の反力計算
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	不静定構造の応力計算
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.不静定構造の応力計算 2.不静定構造の応力図
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	材料の性質1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.応力度とは 2.ひずみ度とは 3.ヤング係数とは
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	材料の性質2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.荷重-変形と応力度-ひずみ度の関係 2.部材軸方向の剛性
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分

第9回	授業テーマ	断面の性質1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.断面積の計算 2.断面1次モーメントとは 3.断面1次モーメントの計算
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	断面の性質2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.断面2次モーメントとは 2.断面2次モーメントの計算
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	断面の性質3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.断面係数・縁応力度とは 2.断面係数の計算 3.縁応力度の計算
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	梁のたわみ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.梁のたわみとは 2.弾性曲線式 3.数学の基礎
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	力学演習1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.ラーメン構造の反力と応力計算の演習 2.トラス構造の反力と応力計算の演習 3.不静定構造の反力と応力計算の演習
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1～6回目を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	力学演習2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.材料と断面の性質の演習 2.梁のたわみ計算の演習
	教室外学習(予習・復習)の内容	第7～12回目を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学生へのフィードバック方法

授業中に質問の時間を設ける(当日理解が原則)。

評価方法

授業に対する取り組みと定期テストで評価する。

なお、評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期テスト	○	○		

評価割合

授業に対する取り組み（20%）、定期テスト（80%）で評価する

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない

参考図書

力のつり合いを理解する構造力学, 彰国社
変形を理解する構造力学, 彰国社

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」分野 について、専門的知識を有している
【思考・判断】各種の多様な情報を客観的に理解し判断できる

学生へのメッセージ

講義内容を自ら確認するため、各講義時間の中で15～30分程度の演習時間を設ける(質問等は演習時間に随時受け付ける)。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G01116931
講義名	エコロジー
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	現代家政学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	沼波 秀樹	指定なし

ナンバリング

G24501C22

授業概要(教育目的)

「エコロジー」とは，狭義には生物学の生態学のことを指しますが，広義には生態学的な知見を反映しようとする文化的・社会的・経済的な思想や活動を指しています。このように「エコロジー」は様々な意味を持っていますが，この授業では，主に「くらし」に関係した様々な環境要因や環境問題について解説し，人類と環境との共存について学びます。くらしと都市における環境問題の関係について理解するために，簡単な汚水の分析や上下水道関連施設の見学する。また，生物に支えられている「くらし」を理解するために台所にある器具を使ってのDNA抽出や「ちりめんじゃこ」に入っている混獲生物を調べ，生物多様性と人類の関わりを知る。さらに，環境保護教育・活動を実践的に学ぶために都市に自然環境を残すビオトープなどを見学する予定で，見学を通して「くらしと環境の共存」について考えます。見学や実験などを通して，くらしと環境問題の関係について実感を伴って理解します。また，世界中で取り組まれているSDGs（持続可能な開発目標）を多面的に考えて実践するための基礎知識を習得します。

履修条件

1年次に開講される共通科目「環境と資源」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	環境問題の歴史的変遷を学び，現在の環境問題と生活（くらし）との関係について理解する。 SDGs（持続可能な開発目標）を理解する上での基礎知識を習得する。
思考・判断の観点 (K)	環境問題とくらしとの関係を理解した上で，日々の生活が環境に及ぼす影響について考え，改善する思考・判断が出来るようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	環境問題に関心を持ち，生活から環境問題を解決する意欲を持つようになる。 また，SDGs（持続可能な開発目標）を実践する態度を身につける。

技術・表現の観点 (A)	簡単な実験による環境測定法の習得。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	イントロダクション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「エコロジー」の持つ意味・意義について解説する。今後の演習内容と見学の意義について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎の教科書中の「生物の多様性と生態系」編中の「生態系のバランスと保全」を読み，環境問題について予備知識を得る。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	**授業テーマ**	地球環境と生態系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「エコロジー」の基本概念である「環境」と「生態系」について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎教科書中の「生物の多様性と生態系」編中の「植生の多様性と分布」「気候とバイオーム」の章を読み，生態系の成立要因について，まとめる。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	生態系とくらし（生態系サービス）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人類が生態系からもたらされる様々な利益（生態系サービス）について解説し，生態系と人類の関係について理解する。また，身近な生態系サービスについて調べ，生活との結びつきを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎教科書中の生態系と生活の関連している部分を読む。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	環境問題の実態１（水質）
	学習内(	

第4回	容 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活に不可欠で身近な飲料でもある「水」が都市においてどのようにして確保されているのか，また生活排水を含む「下水」はどのように処理されているのかを解説する。その後，見学先である東京都虹の下水道館・水の科科学館をHPで見学する展示を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「上水」「下水」の処理方法について調べる。復習：授業内容の確認。見学先である東京都虹の下水道館・水の科科学館をHPで見学する展示を確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	環境問題の実態２（水質検査実験）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	都内数カ所からサンプリングした河川・壕の水と擬似的に作成した生活排水のCOD（化学的酸素要求量）や濁度などを簡易分析キットや濁度計を用いて測定し，生活排水が環境に及ぼす影響について実感を伴って理解する。簡単な実験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎教科書中の「生態系とその保全」を読む。復習：実験レポートの作成。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	環境問題の実態３（虹の下水道館・水の科学館見学）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	東京都虹の下水道館・水の科学館では，生命維持や生態系維持に必要不可欠な「水」の供給・処理の実態について理解することを目的として見学する。上水の水質維持には森林や河川と言った環境の重要性，下水の処理については多くの微生物が係わっていることを理解し，くらしに不可欠の「水」と環境との関連性について考える。特に虹の下水道館では下水設備の見学することによって，下水と環境問題について認識する。第6回と第7回の演習を見学にあてる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：見学内容の確認。復習：虹の下水道館・水の科学館の見学レポートの作成。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	環境問題の実態３（虹の下水道館・水の科学館見学）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第6回と第7回の演習を虹の下水道館・水の科学館の見学にあてる。
	教室外学習(予習・復習)の内	予習：見学内容の確認。復習：虹の下水道館・水の科学館の見学レポートの作成。

	容	
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	生物多様性とくらし１（生物多様性とくらしとの関係）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生物多様性の基本について解説した後，生物多様性と生活の関連性について「自然浄化」「品種」などをキーワードにVTR資料を使って理解を深める。遺伝的多様性から生まれる「品種」に関して，どのような生物が，どのように使われているのかを調べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎教科書中の生物多様性に関連している部分を読む。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	生物多様性とくらし２（種多様性とくらし：DNAを見てみる）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生物多様性の内，遺伝的多様性は生活に多くの利益をもたらしている。遺伝的多様性の基本であるDNAを台所にある器具を使い，取り出し，その実態について理解を深める。簡単な実験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高校生物基礎教科書中の遺伝子に関連している部分を読む。復習：実験レポートの作成。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	生物多様性とくらし３（ちりめんじゃこから環境問題を考える）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品として一般的な「ちりめんじゃこ」に含まれる混獲された生物を探し出すことにより，食料と生物多様性や生態系の関連性について理解する。「ちりめんじゃこ」に関連する漁業，製造方法などを解説した後，無選別の「ちりめんじゃこ」の中から混獲された生物を選別した後に定量化し，食品としての「ちりめんじゃこ」を作り出す為にどのくらいの量の生物が混獲されているのかを知る。この実習を通して食料と生物多様性・生態系との関連性を実感を伴って理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に配布したテキストを読み，実習内容の確認をする。復習：授業内容の確認。実験レポートの作成。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	環境とくらしの共生を考える（ビオトープを例として）
	学習内	

第11回	容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	都市環境下で自然環境を再現する「ビオトープ」について解説し，自然環境とくらしと共生の共存を考える。ビオトープの特徴を理解した上で，インターネットを用いて自宅周辺のビオトープを探し，特徴をまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：ビオトープに対する予備知識を得る。復習：授業内容の確認。
	教室外学習の時間(分)	190分
第12回	授業テーマ	くらしと身近な環境問題（まちづくりと環境；ヒートアイランドを測る）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	都市化に伴う環境問題をヒートアイランド現象を例として解説する。その後，校舎屋上のクーリングタワー周辺，大学周辺の歩道や公園で気温測定を行い，都市の高温化と緑地の意義について実感を伴って理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：測定場所の選定。測定方法の確認。復習：授業内容の確認。レポートの作成。
	教室外学習の時間(分)	190分
第13回	授業テーマ	環境保護教育・活動（見学）１（自然教育園・北の丸公園見学）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国立科学博物館附属自然教育園では，大都市東京の中心地である目黒地区のビオトープを見学し，人口過密地域での環境問題・環境保護等について理解を深め，人と自然との共存について考える。また，気温測定を自然教育園内と近隣の公園で行い，ヒートアイランド現象に対する緑地の意義について理解する。 北の丸公園とその周辺：大学からも近い北の丸公園は，東京都の中心地区にある大規模な緑地であり，市民の憩いの場になっている。このような大規模な公園と国立科学博物館附属自然教育園のようなビオトープとの違いを認識し，環境保護などについてのそれぞれの役割を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：国立科学博物館附属自然教育園についてインターネットを使って調べる。復習：見学レポートの作成。
	教室外学習の時間(分)	190分
第14回	授業テーマ	環境保護教育・活動（見学）２（自然教育園・北の丸公園見学）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第13回と第14回授業を自然教育園と北の丸公園の見学にあてる。
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	予習：北の丸公園など，都心における緑地の特徴についてインターネットを使って調べる。復習：見学レポートの作成。
	教室外学習の時間（分）	270分

学習計画注記

クラス編成などの理由で，授業の順番や内容が変更になる可能性があります。見学があるので，時間帯や曜日が不規則になる場合があります（土・日，補講日を利用）。原則として開講時間以外に見学をする場合は，通常の授業に振り替えて実施します。また，見学ための入園・入館料，交通費がかかります。見学する予定の国立科学博物館附属自然教育園（JR目黒駅，東京メトロ南北線・都営三田線白金台駅）の入園料330円，虹の下水道館・水の科学館（JR埼京線・東京臨海高速鉄道りんかい線国際展示場駅，ゆりかもめお台場海浜公園駅）の入館料は無料。
注意：新型コロナウイルス感染状況によっては，実習内容・見学場所などを変更する場合があります。

学生へのフィードバック方法

講義と見学，簡単な実験。
講義中の提出物などについては，解説する予定。

評価方法

・授業中に課した提出物や授業への取り組みと見学レポートの総合評価。1/3以上欠席すると定期試験の受験資格を失います。特に演習科目なので，欠席については厳格に評価します。見学や実験があるので，注意して下さい。
・レポートや課題の評価基準の詳細については，クラスルームに掲載するルーブリック表を参照すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
提出物・授業への取り組み	○	○	○	○
見学レポート	○	○	○	○

評価割合

授業中に課した提出物や授業への取り組み（60%），見学レポート（40%）の総合評価。

使用教科書名(ISBN番号)

特に定めない。

参考図書

授業中に適宜，紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち，現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し，問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を想像するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー

月曜2限 1702室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	南極観測隊に参加して南極昭和基地で生物・環境についての研究を行い，深海調査に参加して深海生物・環境についての研究している。実際のフィールドワークで得た知識や研究成果から実感を伴った理解を促進する演習を行う。
アクティブ・ラーニング	○	実験結果などについてディスカッションを行い，結果から何が導き出せるか考える。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03001001
講義名	生活デザイン演習Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	生活デザイン学科 教員	指定なし
准教授	澤田 雅彦	指定なし
准教授	花田 朋美	指定なし

ナンバリング

D11203M12

授業概要(教育目的)

初歩的な情報の収集・整理と発信の方法を体験することにより、能動的かつ自律的な学習態度を身につけ、大学の学習の特徴を理解する。更に協働作業を通じて相互理解を図り、大学と学科への所属意識を高めることを目的としている。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	社会の中の諸課題についての知識を得ることができる。
思考・判断の観点 (K)	社会の中の諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	さまざまな課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	必要な情報を収集・分析・整理し、他者に分かりやすく発信することができる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス・自己紹介の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ	ガイダンス（授業全体の日程と内容の説明）およびGoogle Classroomの使い方の練習を行う。その後、PPTを使った自己紹介

第1回	-教育・ICT活用を含む)	（出身地・出身校・特技・お国自慢・好きなものごと・苦手なものごと）の準備をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕授業の目的と内容およびGoogle Classroomの使い方を確認しておく。自身のことをクラスメートに理解してもらうために効果的な発表となるよう練習をする。
	教室外学習の時間（分）	30分
第2回	授業テーマ	自己紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ひとりずつPPTを用いて自己紹介をする。他の学生についても理解するとともに、質問やコメントをすることによりお互いの理解を深めていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕自分の自己紹介について振り返り、改善できる点をまとめる。東京家政学院大学のホームページから、図書館の案内を一通り確認する。
	教室外学習の時間（分）	30分
第3回	授業テーマ	図書館見学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大江文庫、電子ジャーナル、その他書籍の検索方法、および図書館の使用法などを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復〕通常授業のレポート、ゼミナール、卒業研究などの課題作成のために、図書館の資料検索ができるよう、図書館の使い方を確認する。 ［予］次週の訪問先の研究室について確認する。
	教室外学習の時間（分）	30分
第4回	授業テーマ	町田キャンパス研究室・実習室訪問（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活デザイン学科の各教員の研究室や演習室・実験室等を訪問し、学科の内容について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕次週の訪問先について確認する。 ［復］探検レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	町田キャンパス研究室・実習室訪問（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活デザイン学科の各教員の研究室や演習室・実験室等を訪問し、学科の内容について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕次週の訪問先について確認する。 ［復］探検レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	町田キャンパス研究室・実習室訪問（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活デザイン学科の各教員の研究室や演習室・実験室等を訪問し、学科の内容について理解する。
	(	

	教室外学習 予習・復習)の内容	［復］探検レポートを作成し、学科全体の学びの内容について理解する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	特別授業（外部講師によるキャリア形成授業）（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャリア形成について学び、今後の学生生活を考える機会とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕キャリア形成について調べる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	特別授業（外部講師によるキャリア形成授業）（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャリア形成について学び、今後の学生生活を考える機会とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復〕キャリア形成について、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	サスティナブルな生活とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身近な衣食住に関する環境問題についてグループディスカッションを行い、サスティナブルな生活とはどのようなことか考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕SDGsとはどのようなことか調べる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	クリエイティブリユース（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	チラシの紙を使って小箱をつくる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕クリエイティブリユース作品に活用できるアイディアを調べる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	クリエイティブリユース（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	廃棄物を利用したものづくりのアイディアを知り、体験する。－廃棄プラスチックを活用したおもちゃを作る－
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕クリエイティブリユース作品に活用できるアイディアを調べる。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	クリエイティブリユース（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ	

第12回	ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	古新聞のカラーページを使って花のブローチを作る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕クリエイティブリユース作品に活用できるアイディアを調べる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	クリエイティブリユース作品制作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーマに基づいて、廃棄物から生活を彩るものを各自制作する。自身のアイディアを表現し、形にする工程を経験する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕クリエイティブリユース作品に活用できるアイディアを調べ、制作の準備をする。作品を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	70分
第14回	授業テーマ	クリエイティブリユース作品発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	制作した作品を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	［復］自分の作品やクラスメートの作品を振り返り、クリエイティブユースについての更なるアイディアをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

授業の進捗状況等の諸事情により学習計画が変わることがあります。PCを持参する日がありますのでご確認ください。

学生へのフィードバック方法

授業中の作業時に口頭でアドバイスと、発表会で講評を行う。ポスター・報告書等にも随時コメントをする。

評価方法

1）自己紹介（内容、構成、PPT、プレゼンテーションにより評価）
2）レポート（内容、構成、表現、形式により評価）
3）作品＆発表（作品の完成度、プレゼンテーションにより評価）
4）平常点（発言・質問・提案の内容と、協働作業の状況、課題への取り組みの姿勢により評価）
評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
発表会	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

1）自己紹介 10%
2）レポート 30%

3）作品・発表 50%
4）平常点 10%

使用教科書名(ISBN番号)

適宜、資料を印刷・配付する。

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の中の諸課題についての知識を得ることができる。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
【関心・意欲・態度】さまざまな課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。
【技術・表現】必要な情報を収集・分析・整理し、他者に分かりやすく発信することができる。

オフィスアワー

澤田：水曜3限 1503研究室／花田：金曜日12:30～14:00 2407研究室、嶋田：火曜3限 1601研究室/森：月曜日3限、水曜日昼休み

学生へのメッセージ

生活デザイン学科に共通する学びのあり方を体験できる授業です。積極的に参加して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら調べ、グループで協同作業を行い実行する。
情報リテラシー教育	○	情報アウトプット（レポート、ポスター、プレゼンテーション技法等）に関する指導を行う。
ICT活用	○	Google を活用した双方向コミュニケーション

講義コード	G03002001
講義名	現代生活論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	生活デザイン学科 教員	指定なし
准教授	澤田 雅彦	指定なし
准教授	花田 朋美	指定なし
助教	佐々木 麻紀子	指定なし

ナンバリング

D21201M21

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科の専門分野に関わる問題について、共通のテーマに基づき、学科の教員が各々の専門分野の立場から講義を行う。様々な立場からの講義を通して、生活デザインに関する問題は、多角的・複合的な視点で考える必要があることを理解し、現代の生活における生活デザインの意義と役割を考える。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	生活デザイン学科の学習内容と方法の特徴を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	生活デザイン学科の各専門分野を関連づけて、さまざまな課題を考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中の諸課題に主体的かつ複眼的に関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション（澤田）
	学習内容(ｱｸﾃｨ	

第1回	ﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方と学期末レポートの説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復習】レポートの課題内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	生活デザイン学科で学ぶこと① （白井）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「私の歩み」と題し、自分自身の大学から現在までの教育・研究活動と関連づけながら「私の考える生活デザイン」及び「大学での学び」について説明するので、それぞれが、「生活デザイン」及び「大学での学び」について説明できるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 前週の授業の最後に渡した資料「学びのティップス（大学で鍛える思考法）」を読んだ上で、授業に臨むこと。 【復習】 返却したミニレポートへのコメントについて目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	生活デザイン学科で学ぶこと② （花田）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「今なぜ『生活デザイン学科で学ぶこと』を考えるのか」という問いを起点として、私たちの日々の生活は世界と繋がっていることを解説する。自らの考えを発信し、行動することの重要性について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復習】SDGsについて理解し、自分ができることは何かを考える。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	生活デザイン学科で学ぶこと③ （小池）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大学で研究をおこなうために必要となる科学的思考力、論理的思考力の重要性について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復習】新聞・雑誌記事などを読み、クリティカルシンキングを実践する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	生活デザイン学科で学ぶこと④ （富田）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「発想」とはどういうことか。「発想力」を鍛える方法があるのだろうか。舞台衣装のデザイン発想の流れに沿って「発想」のプロセスを理解する。また、アイディア発想法を使って物事を違う方向から見て発想する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	【復習】授業で紹介した発想法を日常の物事でも試してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	生活デザイン学科で学ぶこと⑤ （澤田）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2024年度の「東京家政学院を学ぶ」第12回「全体のまとめ」での「『女性活躍･女性の地位』について考える」の内容を、より詳しく説明しながら。生活デザイン学科で学ぶこととの関連を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復習】新聞記事やニュースの内容と、授業の内容を関連付けて考える。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	生活デザイン学科で学ぶこと⑥ （嶋田）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会福祉サービスの概要を理解することを目的に、それに関わる人や提供方法・利用方法、サービスの種類などについて授業を展開していきます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復習】授業で触れた福祉サービス（特に高齢者・障害者に関わるサービス）について調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	生活デザイン学科で学ぶこと⑦（呉）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	目には見えない情報を可視化することで伝えることができる。そのための表現とは如何なることかを考える。事例を見せながら解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復習】現代社会は情報で溢れている。どうすればその情報社会で良い暮らしができるかを考える。またその情報はどのような表現になってるのかを考える。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	生活デザイン学科で学ぶこと⑨（森）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	言語はコミュニケーションの重要なツールである。授業では人間が言語をどのように習得するのかについて学びを深めていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復習】授業内容から発展し、言語の役割について考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	生活デザイン学科で学ぶこと⑨（千葉）

第10回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲーム理論について知り、関わり合いを数理的に表現することを考える。何かのためになるとか、何かの役に立つとかは考えない。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復習】ゲーム理論について復習すること。身の周りの関わり合いを数理的に考えてみるとなおよい。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	生活デザイン学科で学ぶこと⑩（佐々木）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	快適な生活を営むためにはどのように考え行動するのがよいのか、衣服の選択と洗濯を例に挙げて解説する。衣服の管理の方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復習】自身の衣生活を振り返り、衣服の管理方法について考える。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	生活デザイン学科で学ぶこと⑪（小川）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デザインは、カタチのないもの（ソフト面）に求められることも多い。まちづくり活動を事例として、企画の立案・実施のプロセスを交えて解説する。デザインする際に重要なものが何かを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復習】今後の学内外での活動についてどう向き合い、取り組むべきかを考える。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	生活デザイン学科で学ぶこと⑫（石綱）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	私たちの生活の中にある植物を使った空間デザインを実例を挙げて解説する。暮らしの中にある植物の特徴と役割を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復習】レポートの課題内容の確認。身近にある植物を観察する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	生活デザイン学科で学ぶこと⑬（原口）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住宅の購入とリフォームについて、実例を写真で見せながら、住宅の買い方、価格、リフォームについて考察してもらい、今後の学びの重要性について理解を促す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復習】現在の自宅を買った、借りた経緯と面積、価格を調べる。リフォーム歴がある場合は、その内容やコストも調べる。

	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

授業計画は変更される可能性があります。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業で提出してもらうミニレポートは、その授業を担当した教員が採点します。

評価方法

・毎回の授業終了後にミニレポートを作成して提出する。ミニレポートの課題と提出方法については、各回の担当教員の指示に従ってください。
・ミニレポートについては、その日の授業の内容が的確に理解できているか、そして授業内容についての自分の考えが、整理されて分かりやすく説明されているか否かという観点で評価し、その評価結果を平常点とする。
・学期末レポートは第1回授業で課題内容を説明する。最終回の授業終了後に、授業全体の総括として作成し提出すること。
・学期末レポートは、14回の講義のうち、複数の講義の内容を関連づけ、それをふまえて自分が生活デザイン学科で学びたいことが、分かりやすく説明されているか否かという観点で評価する。
・なお評価はルーブリックに基づいて行う予定です。ルーブリックはGoogleクラスルームか初回授業で提示する予定です。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
学期末レポート	○	○	○	

評価割合

平常点60%と学期末レポート40%で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】生活デザイン学科の各分野についての知識を得て、その特徴について深く理解する。
【思考・判断】多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。

オフィスアワー

前期月曜日12:30～14:00 1503研究室（澤田）

学生へのメッセージ

この授業を通して、生活デザイン学科で学ぶ目的と意義を、改めて考え直してみて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	第13回の担当教員（石綱）は、植物園および大学研究機関で庭や植物コレクションの栽培管理業務に従事した実務経験を有している。実務経験をもとに、植物と空間デザインと生活の関わりについて解説する。 第14回の担当教員（原口）は、約20年間の建築設計監理経験を有しており、講義で述べる住宅の購入、リフォーム、運用については戸建て住宅10棟の実績がある。その実務経験から得られた知識を、教授する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークで作業や分析を行う授業があります。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03003001
講義名	卒業研究Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

D41209M22

授業概要(教育目的)

3年間学修した知識や実習で得た技術を統合して研究テーマを考え、成果をまとめることを目的とする。
Aでは個々のテーマに沿った調査、資料収集、整理分析をしながら論文としてまとめる準備を行い、前期終了時には中間報告を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

評価割合

平常点50% 中間報告書の成果50%

使用教科書名(ISBN番号)

各指導教員が個別に提示する。

学生へのメッセージ

自己のテーマに沿った内容について資料収集をする。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03003002
講義名	卒業研究Ａ（白井）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	白井 篤	指定なし

ナンバリング

D41209M22

授業概要(教育目的)

家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導に基づき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして、論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。

履修条件

卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	卒業論文を作成するために必要な専門的知識・技術を有している。
思考・判断の観点 (K)	社会の中にある住分野の課題について、論理的に分析し考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中にある住分野の諸問題について積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じて、その解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を集めて分析・整理でき、その課題解決策を発信できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス（卒業論文とは）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文とレポートの違いを理解できる。
第2回	**授業テーマ**	既往の研究の調査（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に必要な資料や情報などを収集する。
第3回	**授業テーマ**	既往の研究の調査（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に必要な資料や情報などを収集する。
第4回	**授業テーマ**	研究計画の立案（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に向けて、研究計画を立案する。
第5回	**授業テーマ**	研究計画の立案（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に向けて、研究計画を立案する。
第6回	**授業テーマ**	実験もしくは調査の実施（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に向けて、実験もしくは調査を実施する。
第7回	**授業テーマ**	実験もしくは調査の実施（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に向けて、実験もしくは調査を実施する。
第8回	**授業テーマ**	実験もしくは調査の実施（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に向けて、実験もしくは調査を実施する。
第9回	**授業テーマ**	実験もしくは調査の実施（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に向けて、実験もしくは調査を実施する。
第10回	**授業テーマ**	実験もしくは調査結果の取りまとめ（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実験もしくは調査結果について取りまとめる。
第11回	**授業テーマ**	実験もしくは調査結果の取りまとめ（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実験もしくは調査結果について取りまとめると共に、分析や整理を行う。
第12回	**授業テーマ**	実験もしくは調査結果の取りまとめ（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	取りまとめ作業に基づいて、論文を作成する。
第13回	**授業テーマ**	実験もしくは調査結果の取りまとめ（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文を作成すると共に、要旨（梗概）作成の準備を行う。
第14回	**授業テーマ**	卒業論文の要旨の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業論文の要旨を作成する。
第15回	**授業テーマ**	卒業研究発表会の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究発表会に向けた準備（パワーポイントの作成）を行う。

学生へのフィードバック方法

成果物については、随時、アドバイスを行い、レベルの高い卒業研究となるように指導する。

評価方法

成果物、要旨、発表会の３つで総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
成果物	○	○		○
要旨	○	○		○
発表会	○	○	○	○

評価割合

成果物、要旨、発表会の３つの総合評価

使用教科書名(ISBN番号)

特になし

参考図書

特に、参考書はないが、研究のテーマにより、各自に必要な書籍や論文などを紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

知識・理解の観点（K）：卒業論文を作成するために必要な専門的知識・技術を有している。
思考・判断の観点（K）：社会の中にある住分野の課題について、論理的に分析し考察することができる。
関心・意欲・態度（V）：社会の中にある住分野の諸問題について積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じて、その解決策を立案できる。
技術・表現の観点（A）：課題解決に必要な情報を集めて分析・整理でき、その課題解決策を発信できる。

学生へのメッセージ

指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	主体的な体験学習を通して、課題発見能力・課題解決能力を養う。
情報リテラシー教育	○	課題を解決する上で、図書館の利用方法、文献探索方法などの情報活用能力を養う。
ICT活用		

講義コード	G03003003
講義名	卒業研究Ａ（原口）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	原口 秀昭	指定なし

ナンバリング

D41209M22

授業概要(教育目的)

社会の中からテーマを自ら探し出し、敷地条件、建物機能、面積、高さ等を自ら設定し、コンセプトワーク、建築の設計製図、A1用紙やパワーポイントでのプレゼンテーションを行う。社会の中から問題を抽出し、分析、考察し、問題解決の具体的解決策を建築物として表現する。その際、3年次までに蓄積した製図、パース、模型作成の技術、計画、環境、構造、施工等の知識を活用、応用し、技術、知識をより確かなものとする。

履修条件

卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	建築物の計画、機能、面積配分、ゾーニング、基本寸法、基準寸法、RC造、S造の構造が分かる。
思考・判断の観点 (K)	建築物の設計案に対して、その設計、デザイン、機能の良否、可否を考え判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	建築物のデザイン、設計に関心を持ち、自らの設計、デザインに意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	建築物における基本設計、平面図、立面図、断面図の作図、パース、模型の制作ができる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究の進め方、評価などの説明をする。その後資料集め、コンセプトの考察。
	教室外学習(予習・復習)の内容	設計したい建築物、設計したい敷地、挑戦してみたい設計競技などを考えておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	授業テーマ	コンセプトワーク
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンセプトボードを使ってグループ内で発表し、教員の講評を受ける。コンセプトを考え、エスキースを始める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のコンセプトをまとめたコンセプトボード（A3）をつくる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	授業テーマ	コンセプトワークの修正
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	再度、コンセプトワークをまとめたコンセプトボードを発表、教員の講評を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講評を受けて、新たなコンセプトボードを作成する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	授業テーマ	エスキース
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンセプトボードを元にエスキースした成果を発表、教員から講評を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	コンセプトボードを元にエスキースをする。エスキースにはスタディ模型も併用する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第5回	授業テーマ	エスキースの修正
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	修正したエスキースを発表し、教員から講評を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の講評を受けて、エスキースを修正する。スタディ模型も併用する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第6回	授業テーマ	エスキースの確定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	再再度のエスキースを発表し、教員の講評を受けて確定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	再再度のエスキースの手直しを行う。スタディ模型も併用する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第7回	授業テーマ	平面図の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平面図を作成し、教員の講評を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	平面図を作成する。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	平面図の修正
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	

第8回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	修正された平面図を提示し、教員の講評を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の講評を元に、平面図を修正する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	授業テーマ	断面図の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	断面図を作成して、教員の講評を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	平面図を見ながら断面図を作成する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	授業テーマ	断面図の修正
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	修正された断面図を提示し、教員の講評を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回講評された断面図を修正する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	授業テーマ	立面図の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	立面図を作成し、教員の講評を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	平面図、断面図を見ながら、立面図を作成する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	授業テーマ	立面図の修正
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	修正した立面図を提示し、教員の講評を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回講評された断面図を修正する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	授業テーマ	パースの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パースを作成し、教員の講評を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パースを作成する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第14回	授業テーマ	模型の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模型を作成し、教員の講評を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	平面図、断面図、立面図から模型を作成する。
	教室外学習の時間（分）	240分
	授業テーマ	ポスターセッション（展示発表会）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。

第15回	む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	模型の写真を撮り、図面、パースと共にレイアウトする。
	教室外学習の時間（分）	480分

学生へのフィードバック方法

毎回、教員が学生のエスキース、図面、模型などを評価し、その都度、助言を与え、修正などの指示を与える。

評価方法

ポスターセッション（発表会）で作品を展示発表し、機能、デザイン、プレゼンテーションの3つの評価軸で採点する。詳細は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内での配布する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
設計作品の展示、発表	○	○	○	○

評価割合

課題作品の評価と出席による。配点は課題評価80%。課題評価のうち、第1作品40%、第2作品40%。平常点20%。
1),2)全てに合格した場合、総合的(100%)に評価する

使用教科書名(ISBN番号)

新しい建築の製図編集委員会編「新しい建築の製図」学芸出版（4-7615-2375-1）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」の建築物についての専門的知識を有している。
【思考・判断】社会にある建築物の基本設計を理解して良否、可否を判断できる。
【関心・意欲・態度】社会にある建築物に関心を持ち、デザインに意欲を持つ。
【技術・表現】建築物の設計を立案でき、社会に対して洗練された表現力で提示できる。

オフィスアワー

金曜2限時 3602研究室

学生へのメッセージ

3年までの設計製図において、建築物の各部寸法や平面図、断面図、立面図（展開図）、パース、模型の作成の技術を習得しました。同時に計画、環境、構造、施工の知識も養いました。卒業研究ではその集大成としての設計製図です。デザインを楽しみながら演習に取り組むことで、さらなる技量の向上を目指してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年の設計監理の実務経験がある。卒業研究の設計指導にあたり、実務で学んだ設計、デザインの知識を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回小人数グループで、設計製図の指導を演習を通して行う。
情報リテラシー教育		

ICT活用		

講義コード	G03003004
講義名	卒業研究Ａ（小池）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小池 孝子	指定なし

ナンバリング

D41209M22

授業概要(教育目的)

卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。大学における学びの集大成として学生自らの持つ問題意識に基づいて研究課題を設定し、その解決策の提案に取り組む。形式は、論文（レポート）とする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

履修条件

３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	「住」をはじめとする家政学の各分野 について専門的知識・技術を有している。 自ら設定した課題に対し、グローバルな視点に立ち、各分野の知識を深めて理解する。
思考・判断の観点 (K)	社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。 収集した各種の多様な情報を客観的に理解し判断して結論へと導くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 自ら設定した課題に対し、社会人としての自覚を持って取り組むことができる。
技術・表現の観点	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

(A)	社会に対して洗練された表現力で自ら設定した課題の解決策を発信できる力を身につけている。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	研究課題の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 各自の問題意識に基づき研究課題としたいテーマについて検討する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）興味のあるテーマを抽出し、レジュメにまとめる
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	**授業テーマ**	先行研究レビュー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 研究テーマに関する先行研究をレビューしまとめたものを持ち寄り、発表しディスカッションをおこなう
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）先行研究を検索し、要約をレジュメにまとめる
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	**授業テーマ**	研究課題と研究方法の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 先行研究レビューの結果をもとに、各自の研究課題、研究方法について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）研究課題、研究方法についてレジュメにまとめる
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	**授業テーマ**	資料収集１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 研究課題に関する資料を収集し、まとめたものを発表する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）収集した資料をレジュメにまとめる
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	**授業テーマ**	資料収集２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 研究課題に関する資料を収集し、まとめたものを発表する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）前回のゼミでの指摘事項を踏まえて収集した資料をレジュメにまとめる
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	**授業テーマ**	調査の実施１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 調査計画に沿って調査を実施し、進捗状況について発表、ディスカッションをおこなう
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）調査結果・調査の進捗状況をレジュメにまとめる
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	調査の実施２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 調査計画に沿って調査を実施し、進捗状況について発

第7回		表、ディスカッションをおこなう
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）調査結果・調査の進捗状況をレジュメにまとめる
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	授業テーマ	調査の実施３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 調査計画に沿って調査を実施し、進捗状況について発表、ディスカッションをおこなう
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）調査結果・調査の進捗状況をレジュメにまとめる
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	授業テーマ	論文執筆１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 調査を継続しながら論文を執筆し、進捗状況について発表する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）論文の目次を作成する
	教室外学習の時間（分）	100分
第10回	授業テーマ	論文執筆２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 調査を継続しながら論文を執筆し、進捗状況について発表する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）論文の進捗状況が分かる資料を用意する
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	授業テーマ	論文執筆３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 論文の内容について最終確認する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）論文を完成させる
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	授業テーマ	要旨の作成１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 論文の内容をもとに要旨を作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）要旨に書きたい内容をA3用紙にレイアウトする
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	授業テーマ	要旨の作成２・発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 要旨の内容をもとに発表会のためのプレゼンテーション資料を作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）要旨を完成させる
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	授業テーマ	発表練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 作成した発表会用プレゼンテーション資料を用いて発表練習をおこなう
	教室外学習(予習・復習)の内	（予習）発表用プレゼンテーションを完成させる

	容	
	教室外学習の時間（分）	100分
第15回	授業テーマ	発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションソフトを用いた発表を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

別途配付するスケジュール・要領に従って、締切や執筆要領等に注意して進めること。

学生へのフィードバック方法

ゼミでは研究の進捗に関するレジュメを毎回用意して発表し教員の指導を受ける。全員でのグループディスカッションを実施するので、積極的に議論に参加すること。
毎回のゼミに必ず出席すること。やむなく欠席する場合にはオフィスアワー等を利用して個別指導を受けること。

評価方法

論文（レポート）については、問題設定の着眼点・独自性、調査研究の精度、結論に至る論理構成について評価する。
平常点については、授業（ゼミ）への参画状況、研究への取り組みの積極性、計画的な研究の遂行について評価する。
プレゼンテーションについては、要旨を含むプレゼンテーション資料の完成度、質疑応答を含む発表内容について評価する。
なお、評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
論文（レポート）	○	○	○	○
平常点	○	○	○	
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合

論文（レポート）60%、平常点30%、プレゼンテーション10%

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」をはじめとする家政学の各分野 について、専門的知識・技術を有している
・グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる
【思考・判断】
・社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。また各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる
【関心・意欲・態度】
・社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる
【技能・表現】
・家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる

技能を身につけている
・社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている

オフィスアワー

金曜 2 時限 3508研究室

学生へのメッセージ

身近な住生活課題の解決のために、論文・設計作品による提案を行うのが卒業研究です。これまで学んできたことをベースに、ゼミで互いに意見を出し合い、自分の考えをしっかりまとめましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業はゼミ形式で実施する。研究の進捗について毎回発表、グループディスカッションを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03003005
講義名	卒業研究Ａ（嶋田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	嶋田 芳男	指定なし

ナンバリング

D41209M22

授業概要(教育目的)

家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導に基づき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして、論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。

履修条件

卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	卒業論文を作成するために必要な専門的知識・技術を有している。
思考・判断の観点 (K)	社会の中にある福祉分野の課題について、論理的に分析し考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中にある福祉分野の諸問題について積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じて、その解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を集めて分析・整理でき、その課題解決策を発信できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	論文の作成方法（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文の構成を学ぶとともに、事例を用いながら深化させていく。また、論文にふさわしい文言やふさわしくない文言についても理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	これから研究していく論文のテーマや構成につい考えておく。また、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	**授業テーマ**	論文の作成方法（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文にふさわしい数値表記とふさわしくない数値表記について学ぶとともに、引用文献や参考文献の違いについても理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	引き続き論文のテーマと構成について考えるとともに、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	**授業テーマ**	論文の作成方法（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前2回の授業内容をどの程度把握しているかを学生間で確認する。また、論文テーマとその構成についても討議し、深化を図る
	教室外学習(予習・復習)の内容	引き続き論文テーマとその構成について考える
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	**授業テーマ**	研究計画書の作成（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考えている論文テーマとその構成を文章化し、論文作成上の指導を受ける
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文に必要な文献や資料について考えておく
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	**授業テーマ**	研究計画書の作成（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の授業で指導された点について再考し、研究計画書を作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	引き続き論文作成に必要な文献や資料について考えておく
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	**授業テーマ**	論文関係文献の検索法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターネットや書籍などから、先行研究、関係文献、関係資料を検索する方法について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターネットや書籍などから、先行研究、関係文献、関係資料について調べる
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	**授業テーマ**	先行研究の検討（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集した先行研究を整理し、分析することで研究の具体的な方向性を知る
	教室外学習(予習・復)	先行研究の整理と分析を行う

	習 の内容	
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	**授業テーマ**	先行研究の検討（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集した先行研究を整理し、分析することで研究の具体的な方向性を知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究の整理と分析を行う
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	**授業テーマ**	収集した文献、資料の整理（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	具体的な研究の方向性に基づき、収集した文献、資料を整理することを知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集した文献、資料の整理を行う
	教室外学習の時間（分）	100分
第10回	**授業テーマ**	収集した文献、資料の整理（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	具体的な研究の方向性に基づき、収集した文献、資料を整理することを知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集した文献、資料の整理を行う
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	**授業テーマ**	収集した文献、資料の分析（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の方向性に合致している文献、資料の分析を行い、論文にどのように反映できるかを学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究の方向性に合致している文献、資料の分析を行う
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	**授業テーマ**	収集した文献、資料の分析（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の方向性に合致している文献、資料の分析を行い、論文にどのように反映できるかを学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究の方向性に合致している文献、資料の分析を行う
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	**授業テーマ**	量的調査の内容と手法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	留め置き・郵送・集合・面接・電話調査、公的データの活用について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で配布したプリントを基に、授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	**授業テーマ**	質的調査の内容と手法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別インタビュー、フォーカスグループインタビュー、Kj法の内容と手法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習しておく

教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

1つの授業テーマに対して、2限（2コマ）の授業時間を充てる。
また、授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

成果物は、評価した上で返却する。

評価方法

・平常点
先行研究、文献、資料の収集状況と論文作成に対する意欲から評価す
る。
・成果物、要旨、発表会の３つで総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
成果物	○	○		○
発表会	○	○	○	○

評価割合

平常点、成果物、発表会で総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

必要に応じてプリントを配布する。

参考図書

白井利明他著『よくわかる卒論の書き方』（ミネルヴァ書房）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解の観点】：卒業論文を作成するために必要な専門的知識・技術を有している。
【思考・判断の観点】：社会の中にある福祉分野の課題について、論理的に分析し考察することができる。
【関心・意欲・態度】：社会の中にある福祉分野の諸問題について積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じて、その解決策を立案できる。
【技術・表現の観点】：課題解決に必要な情報を集めて分析・整理でき、その課題解決策を発信できる。

オフィスアワー

火曜3限、木曜2限

学生へのメッセージ

日常から論文テーマに関係する新聞記事やニュースに関心を持ち、文献や関係資料の収集に努めて欲しい

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	高齢者施設や児童福祉施設におけるソーシャルワーカーの経験から、地域で発生している福祉課題の実態やその解決方策などを論文に反映できるような授業を展開している
アクティ		

ブ・ラーニング	○	図書館で論文作成に必要な文献、関係資料を収集するとともに、フィールドワークによる関係者へのインタビューを論文に反映できるよう指導している
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	インターネットの活用により、先行研究、関係資料、研究対象に関わる情報を収集するように指導している

講義コード	G03003007
講義名	卒業研究Ａ（呉）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	呉 起東	指定なし

ナンバリング

D41209M22

授業概要(教育目的)

家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導に基づき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして、論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。

履修条件

卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

卒業研究A

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進行方法の説明を行う。卒業研究又作品制作のテーマを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の関心のあるテーマを整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	**授業テーマ**	卒業研究のテーマを検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究のテーマを検討し、研究の背景、目的、方法を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究の計画やスケージュるを作成
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	**授業テーマ**	先行研究の調査１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究の調査を行い発表及びディスカションを行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究の調査を行いまとめる
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	**授業テーマ**	先行研究の調査２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究の調査を行い発表及びディスカションを行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究の調査を行いまとめる
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	**授業テーマ**	研究調査１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に沿って研究資料を収集
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査を結果をまとめる
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	**授業テーマ**	研究調査２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に沿って研究資料を収集
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査を結果をまとめる
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	**授業テーマ**	論文執筆又は作品制作１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文執筆又は作品制作を行う
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	**授業テーマ**	論文執筆又は作品制作２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文執筆又は作品制作を行う
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	**授業テーマ**	論文執筆又は作品制作３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文執筆又は作品制作を行う
	教室外学習の時間（分）	100分

第10回	授業テーマ	論文執筆又は作品制作４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文執筆又は作品制作を行う
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	授業テーマ	論文執筆又は作品制作５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文執筆又は作品制作を行う
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	授業テーマ	論文執筆又は作品制作６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文執筆又は作品制作を行う
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	授業テーマ	発表の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発表の準備や卒業研究要旨を作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究要旨を完成する
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	授業テーマ	発表の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究要旨の修正及び完成と発表の練習
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンテーション資料を完成する
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回授業の最後に感想や質問を提出させて、次回に感想や質問について解説を行う。別の質問などがある場合は研究室1307（E-mailも可）まで訪問すること。

評価方法

論文又は作品は70点満点で課題の結果と研究発表会で評価を行う。評価ルーブリックを基づいて「独創性」「論文又は作品の完成度」「デザイン性」を基準にして５段階評価を行う。平常点は30点満点で１４回を通して「積極的な授業の参加、態度」「積極的なディスカション」を基準に加点及び減点を行います。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
論文又は作品	○	○	○	○
平常点		○	○	

評価割合

論文又は作品は70％
平常点は30％

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

必要に応じて提示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー

月曜日３限、４限 １３０７研究室

学生へのメッセージ

指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	主体的な体験学習を通して、課題発見能力・課題解決能力を養う。
情報リテラシー教育	○	課題を解決する上で、図書館の利用方法、文献探索方法などの情報活用能力を養う。
ICT活用		

講義コード	G03003008
講義名	卒業研究Ａ（石綱）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	石綱 史子	指定なし

ナンバリング

D41209M22

授業概要(教育目的)

家政学と、それに関連する研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究の成果は、その内容を考慮して、教員の指導に基づき、論文・計画設計図書・制作等の形式を選択してまとめる。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とする。

履修条件

3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

	授業テーマ	イントロダクション
		本演演習および卒業研究の進め方

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	各自の目標設定 研究テーマ検討
	教室外学習(予習・復習)の内容	目標設定とテーマ決定
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	**授業テーマ**	テーマ決定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自テーマ決定し成果物規定を説明する。各自で研究計画をたてる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	計画及び各自の成果物の確認
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	**授業テーマ**	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別ディスカッション
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究遂行
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	**授業テーマ**	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別ディスカッション
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究遂行 進捗報告の準備
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	**授業テーマ**	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別ディスカッション
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究遂行 進捗報告の準備
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	**授業テーマ**	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	進捗報告会
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究遂行
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	**授業テーマ**	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別ディスカッション
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究遂行
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	**授業テーマ**	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別ディスカッション
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究遂行
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	**授業テーマ**	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別ディスカッション
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究遂行および進捗報告の準備
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	研究遂行

第10回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	進捗報告会と今後の日程の確認
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究遂行
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	**授業テーマ**	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別ディスカッション
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究遂行
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	**授業テーマ**	発表会準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別ディスカッション
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンテーションの準備
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	**授業テーマ**	発表会準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションの練習
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンテーションの修正
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	**授業テーマ**	発表会準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションの練習 前期のまとめ
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンテーションの修正 後期の準備
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

履修者数と研究の進捗状況によりスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

各自の研究計画に基づいて研究を遂行し、個別ディスカッションの中でフィードバックを行う。疑問・質問が生じた場合は、随時e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。

評価方法

以下の点について評価する。
平常点：研究に取り組む姿勢と態度。自ら計画を立て実行している。独自のアイディアを取り入れられた。
成果物：研究または制作の目的と意義を理解している。新規性が示されている。適切な調査研究を実施できたか。的確に成果をまとめ、考察しているか。提出期限や規定を守る。
発表：十分な準備。要点を抑えた明瞭な発表内容。態度と姿勢。

成果物と発表は、ルーブリックに基づく評価とします。ルーブリック評価の方法は授業内で解説します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	
成果物（要旨、論文または作品）	○	○		
発表会のプレゼンテーショ				

ン			○	○

評価割合

平常点30%、成果物（論文または制作）60%、発表10%で総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

該当なし。

参考図書

適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー

月曜日 2限 3609研究室

学生へのメッセージ

研究（または制作）の計画、実施、解釈、まとめ、発表等の一連のプロセスを通し主体的に学んで欲しい。個別ディスカッションには十分な準備をしてくること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03003009
講義名	卒業研究Ａ（澤田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	澤田 雅彦	指定なし

ナンバリング

D41209M22

授業概要(教育目的)

家政学と、それに関連する研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。
研究の成果は、その内容を考慮して、教員の指導に基づき、論文・計画設計図書・制作等の形式を選択してまとめる。
研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とする。

履修条件

卒業要件単位を90単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

	授業テーマ	研究テーマの検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	研究のテーマと目的、作品制作の場合は制作の意図を考

第1回	む)	えるとともに、研究の意義と方向性を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマ検討の継続。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	研究テーマと研究計画の検討（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究のテーマと内容を具体的に考え、研究の進め方を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマ検討の継続と研究計画の作成。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	授業テーマ	研究テーマと研究計画の検討（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究のテーマと内容を具体的に考え、研究の進め方を決定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマ検討の継続と研究計画の作成。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	授業テーマ	資料調査（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の方法と目的を明確にし、必要な資料を収集する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	資料収集とその内容の確認。
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	授業テーマ	資料調査（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の方法と目的を明確にし、必要な資料を収集する。研究内容が制作ならば、試作品の制作も併行して進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	資料収集とその内容の確認。試作品の制作。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	授業テーマ	資料調査（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の方法と目的を明確にし、必要な資料を収集する。研究内容が制作ならば、試作品の制作も併行して進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	資料収集とその内容の確認。試作品の制作。
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	授業テーマ	調査結果のまとめと考察（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査結果を整理して、必要に応じて研究の方向を修正し、作品の制作や報告書の作成を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	資料収集とその内容の確認。作品の制作、調査内容のまとめ。
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	調査結果のまとめと考察（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	作品制作、または報告書作成の継続。

第8回	む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品の制作、調査内容のまとめ。
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	授業テーマ	調査結果のまとめと考察（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作品制作・報告書作成の中間報告を研究室内で行い、相互に検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品の制作、調査内容のまとめ。
	教室外学習の時間（分）	100分
第10回	授業テーマ	調査結果のまとめと考察（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作品制作、または報告書作成の継続。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品の制作、調査内容のまとめ。
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	授業テーマ	調査結果のまとめと考察（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作品制作、または報告書作成の継続。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品の制作、調査内容のまとめ。
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	授業テーマ	調査結果のまとめと考察（６）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作品制作、または報告書作成の継続。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品の制作、調査内容のまとめ。
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	授業テーマ	発表の準備（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作品または報告書を完成させて、発表する際の要点を整理し、卒業研究要旨をまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品の制作、調査内容のまとめと研究要旨の作成。
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	授業テーマ	発表の準備（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発表原稿の作成と発表の練習。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パワーポイント資料の制作等、プレゼンテーションの準備。
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

研究計画は自分自身で常にチェックをし、進捗状況を確認するとともに臨機応変に研究・制作

を進めること。

学生へのフィードバック方法

毎週実施するミーティングで研究の進捗状況を確認し、研究室のメンバーでも相互の批評・検討を行う。最後の発表会は、学科教員が出席して研究内容を確認する。

評価方法

作品等の成果物については、研究・制作の着眼点や目的、独自性、技術的な仕上がりの状況で評価する。
報告書・発表の内容については、研究の意図や目的が分かりやすく示されているか、研究・制作の過程や考察の内容が、論理的に記述されているかといった点について評価する。
平常点は、研究への取り組みの姿勢、ゼミへの参加状況について評価する。
評価はルーブリックに基づいて行うことを予定しています。ルーブリックはGoogleクラスルームか初回授業で提示する予定です。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
作品等の成果物		○		○
報告書・発表の内容	○	○		○
平常点		○	○	

評価割合

作品等の成果物30%、報告書と発表の内容30%、平常点40%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー

前期月曜日3時限 1503研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03003012
講義名	卒業研究Ａ（森）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	森 朋子	指定なし

ナンバリング

D41209M22

授業概要(教育目的)

家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の総まとめとすることを目的とする。

履修条件

3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス 論文の論理構成１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	論文の特徴を学んだ後、論理構成とは何かを練習を通して理

第1回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	解する。練習はグループワークで実施し、発表およびディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回授業で話し合う練習問題をやる。
	教室外学習の時間(分)	90分
第2回	授業テーマ	論文の論理構成２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	与えられた情報を論理的な構成で整理することを目的とした練習を行う。練習はグループワークで実施し、発表およびディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回授業で話し合う練習問題をやる。
	教室外学習の時間(分)	90分
第3回	授業テーマ	論文の論理構成３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	与えられた文章を読み、論理構成が破綻しているところを発見する練習を行う。練習はグループワークで実施し、発表およびディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究でやりたいテーマについて複数挙げる。
	教室外学習の時間(分)	90分
第4回	授業テーマ	テーマの決定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーマの決定に必要な知識とスキルを学び、各自卒業研究のテーマを決定する。クラス全体で検証し、相互に改善点をアドバイスする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマを見直し、具体的なイメージを膨らませる。
	教室外学習の時間(分)	90分
第5回	授業テーマ	アウトラインの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アウトラインの構成を学び、アウトラインを修正する練習を行い、クラス全体で検証する。その上で、各自の卒業研究のアウトラインを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アウトラインを見直し、自分が研究したいイメージに近づけて修正する。
	教室外学習の時間(分)	90分
第6回	授業テーマ	文献収集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文献の種類と収集の方法を学ぶ。実際に図書館で各自の卒業研究のテーマにそって文献収集を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献収集を続ける。
	教室外学習の時間(分)	100分
第7回	授業テーマ	文献の使用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集した文献を自分の研究課題と関連させて読み、ノートを作成する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	ノート作成を続ける。
	教室外学習の時間(分)	100分
第8回	**授業テーマ**	テーマの修正
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集した文献と照らし合わせ、テーマを修正する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	修正したテーマで文献を検証し直す。
	教室外学習の時間(分)	100分
第9回	**授業テーマ**	アウトラインの修正
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	より詳細なアウトラインの構成について学び、自分の論文のアウトラインを修正する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アウトラインを見直し、さらに修正する。
	教室外学習の時間(分)	100分
第10回	**授業テーマ**	論文の構成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文の構成を学び、本論について詳細な計画を立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本論の論拠の部分に使われる文献の箇所を探す。
	教室外学習の時間(分)	100分
第11回	**授業テーマ**	調査方法の種類と特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査方法の種類と特徴を学び、自分の研究に適切な方法は何かを検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査の目的を考える。
	教室外学習の時間(分)	100分
第12回	**授業テーマ**	調査用紙の作成１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査用紙の作り方を学び、自分の研究の調査用紙を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査用紙の完成、修正をする。
	教室外学習の時間(分)	100分
第13回	**授業テーマ**	調査用紙の作成２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した調査用紙について、相互に意見を交換し、修正する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業での意見を受けて、調査用紙を修正する。

	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	**授業テーマ**	予備調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予備調査の結果を報告し、調査用紙について相互に改善点をアドバイスする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予備調査を実施し、修正点をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	100分

学生へのフィードバック方法

課題に対する口頭および書面によるコメント

評価方法

卒業研究の内容（研究課題の明確さ、構成の論理性、文献の的確さ、調査計画の的確さ） 課題（完成度） 平常点（ディスカッション、発表、取り組みの姿勢）
※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○	○	○
課題	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

卒業研究の内容70% 課題10% 平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー

水曜日昼休み、4限

学生へのメッセージ

自分が興味を持っているテーマを選び、思考を深めていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自ら設定した課題で研究を進める。

情報リテラシー教育	○	文献収集、調査・統計処理、論文作成および口頭発表を行う。
ICT活用		

講義コード	G03003013
講義名	卒業研究Ａ（富田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	富田 弘美	指定なし

ナンバリング

D41209M22

授業概要(教育目的)

家政学及びそれに関連する分野の研究テーマをゼミナールA・Bで学んだ内容を中心に指導教員のもとで研究テーマの設定、研究計画の作成、研究方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ、プレゼンテーションを行うなど一連の研究手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。

履修条件

3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。また、服飾造形実習Bを履修していること。評価はルーブリックを用いて行う。（ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配付等によって指示する。）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

卒業研究A（富田）

第1回	授業テーマ	研究テーマ・目的の検討、日程と内容の計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーマと目的に対して社会的な意義および研究成果のまとめ方についてを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマと目的をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	授業テーマ	研究方法の検討１、卒研作業計画１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作品制作の計画（デザイン、コンセプト、着用者の基本的サイズ、属性など）、また前期の作業計画（テーマ、目的、方法、要旨の書き方、発表準備など）を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	デザイン、着用者について考える。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	授業テーマ	研究方法の検討２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作品制作の計画（デザイン、コンセプト、素材、着用者の基本的サイズ、属性など）
	教室外学習(予習・復習)の内容	デザイン、コンセプト、素材について考える。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	授業テーマ	研究方法の検討３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デザイン、コンセプト、素材、着用者のサイズ計測、方法、日程等について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デザイン、コンセプト、素材について考え、デザイン画を描く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	作品の検討１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デザイン、コンセプト、素材選択について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デザイン、コンセプト、素材について考え、デザイン画を描く（修正）。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	授業テーマ	調査・作品の検討２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デザイン、コンセプト、素材の選択を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デザイン、コンセプト、素材選択について学ぶ（修正）。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	作品の検討３ 卒研作業計画２

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	素材の使用量、製図を学ぶまた、前期卒研発表までの作業計画（テーマ、目的、方法、要旨の書き方、発表準備など）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	材料を調達準備する。製図を完成させておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	作品の検討４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	製図を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	製図を完成させておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	結果の整理１、発表準備１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パワーポイントによる発表準備を学ぶ。（写真、図、表、材料サンプル、製図）
	教室外学習(予習・復習)の内容	パワーポイントの写真、図、表、材料サンプルを作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	結果の整理２、発表準備２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	要旨（目的、方法、結果、考察）の書き方を学ぶ。 パワーポイントによる発表準備を学ぶ。（写真、図、表、材料サンプル、製図）
	教室外学習(予習・復習)の内容	写真、図、表、材料サンプルを作成する。要旨の目的、方法を書くこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	授業テーマ	考察・まとめ１、発表準備３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	要旨（目的、方法、結果、考察）の書き方を学ぶ。 パワーポイントによる発表準備を学ぶ。（写真、図、表、材料サンプル、製図）
	教室外学習(予習・復習)の内容	要旨とパワーポイントの目的、方法、結果、考察をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	考察・まとめ２、発表準備４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パワーポイントによる発表準備を学ぶ。（写真、図、表、材料サンプル、製図）
	教室外学習(予習・復習)の内容	要旨とパワーポイントの目的、方法、結果、考察をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	考察・まとめ３、発表準備５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パワーポイントによる発表準備を学ぶ。（写真、図、表、材料サンプル、製図）

第13回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	要旨とパワーポイントの目的、方法、結果、考察について修正する。要旨を修正して完成させる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	口頭発表の練習 卒研作業計画３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パワーポイントによる口頭発表の準備と練習について学ぶ。夏休みの卒研作業計画（材料調達、縫製手順など）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表練習をする。
	教室外学習の時間（分）	90分

学生へのフィードバック方法

調査内容や作品に対してコメント

評価方法

平常点、調査・デザイン、作品制作

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点		○	○	
作品（デザイン、制作）	○	○	○	○
調査	○	○	○	○

評価割合

平常点（授業への参加状況を総合的に判断する）20%
作品（デザイン、制作）50%、発表30%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー

金曜日15:10～16:50

学生へのメッセージ

授業は必ず宿題等の準備をして来てください。作業日程の計画立てて、自身の健康管理をするように努力してくだい。問題点、困りごと等が生じた時には相談しながら進めていきますのでお申し出ください。やむを得ず欠席の場合は、日程を調整いたしますので前もってご連絡を入れてください。進捗状況によっては、夏休み、冬休みにも課題を進めていただきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03003014
講義名	卒業研究Ａ（小川）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	小川 圭子	指定なし

ナンバリング

D41209M22

授業概要(教育目的)

家政学と、それに関連する研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究の成果は、その内容を考慮して、教員の指導に基づき、論文・計画設計図書・制作等の形式を選択してまとめる。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とする。

履修条件

3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合には、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用することができる
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して理論的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識をもって課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる
技術・表現の観点 (A)	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる

学習計画

	授業テーマ	今後のスケジュールと卒業研究の進め方
		今後のスケジュールの確認、卒業研究の進め方を理解する。また、

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	情報モラルや資料の収集方法等についての知識を得る。 【設計の場合】施設内容の考案し、事例を調査する。計画敷地や周辺環境の下調べを行う。 【論文の場合】資料の収集方法や整理の方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の学習内容に応じたレジュメを作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	150
第2回	**授業テーマ**	取り組むテーマの決定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究で取り組むテーマの決定する。 【設計の場合】施設内容や建築用途、敷地の決定する。敷地等のデータを行う。 【論文の場合】既往研究の調査を行い、題目・目次案・研究の目的・方法・結論（仮）の策定を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の学習内容に応じたレジュメを作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	150
第3回	**授業テーマ**	コンセプトの決定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	必要な資料（図面）の確認を行う。 【設計の場合】コンセプト案を複数提示し、コンセプトの方針を確定する。建物のゾーニングやボリュームを検討する。 【論文の場合】資料の収集と、目的・方法・結果（仮）を再考し、アプローチにに問題がないか確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の学習内容に応じたレジュメを作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	150
第4回	**授業テーマ**	図面のエスキス（1）／資料収集とデータ分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図面のエスキスや資料収集とデータ分析を行う。 【設計の場合】配置図・平面図のエスキスを行い、配置計画・平面計画を検討する。 【論文の場合】資料の収集とデータ分析を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の学習内容に応じたレジュメを作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	150
第5回	**授業テーマ**	図面のエスキス（2）／データ分析と論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図面のエスキスとデータ分析等を行う。 【設計の場合】断面図・立面図のエスキスを行い、断面計画・立面計画を検討する。 【論文の場合】データ分析と論文の執筆を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の学習内容に応じたレジュメを作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	150
第6回	**授業テーマ**	図面の作図（1）／データ分析と論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図面のデータ化とデータ分析等を行う。 【設計の場合】配置図・平面図・断面図・立面図をCADソフトを使い作図する。影や線の太さなど図面の効果的な作図ができる。 【論文の場合】データ分析と論文執筆を行う。

	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の学習内容に応じたレジュメを作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	150
第7回	**授業テーマ**	図面の作図（2）／データ分析と論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図面のデータ化とデータ分析等を行う。 【設計の場合】配置図・平面図・断面図・立面図をCADソフトを使い作図する。影や線の太さなど図面の効果的な作図ができる。 【論文の場合】データ分析と論文執筆を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の学習内容に応じたレジュメを作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	150
第8回	**授業テーマ**	透視図の作図／論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンセプトを表した透視図のデータ化と論文の執筆を行う。 【設計の場合】空間を効果的に表現できるアングルを決め、3Dソフトやレンダリングソフトを使い、透視図を作成する。 【論文の場合】論文執筆を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の学習内容に応じたレジュメを作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	150
第9回	**授業テーマ**	模型制作・写真撮影／論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模型製作や写真撮影の方法、写真の加工も行う。 【設計の場合】模型を制作し、写真撮影を行い、解像度の調整、トリミングやスタンプ機能等の写真の加工し適切な表現ができる。 【論文の場合】図表の書き方を理解し、写真の加工ができるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の学習内容に応じたレジュメを作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	150
第10回	**授業テーマ**	レイアウト／論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レイアウトと論文執筆を行う。 【設計の場合】効果的なレイアウト方法を理解し、実践する。 【論文の場合】論文構成の最終確認を行い、不足している部分の追加作業を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回各回の学習内容に応じたレジュメを作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	150
第11回	**授業テーマ**	提出に向けた最終調整
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	提出に向けた最終調整を行う。 設計・論文とも、出力データの最終の調整を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）成果物の縮小版をカラーで出力し、持参すること。
	教室外学習の時間（分）	150
	授業テーマ	提出のための成果物の出力（要旨提出許可判定）

第12回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	成果物の出力を行い、提出のための体裁を整え、要旨提出許可判定を受ける。 【設計の場合】出力データを印刷し、提出する体裁に整える。 【論文の場合】出力データを印刷、ファイリングをし、提出する体裁に整える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）成果物の縮小版をカラーで出力し、持参すること。 （復習）成果物出力時には、A3判カラー印刷で圧着貼りで提出の場合は、A1判ケント紙を枚数分を持参すること。
	教室外学習の時間（分）	150
第13回	授業テーマ	要旨の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図表の修正や全体の構成の確認をした上で要旨の作成を行う。 【設計の場合】図面やレイアウトの修正を行い、要旨を作成する。それに加えて、展示用模型の制作を始める。 【論文の場合】全体の構成やデータの修正を行い、要旨を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）要旨のたたき台を作成し、持参すること。
	教室外学習の時間（分）	150
第14回	授業テーマ	プレゼンデータ・発表原稿の作成、発表練習、要旨印刷
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンデータ・原稿の作成、発表練習を行う。併せて要旨の最終確認も行う。また、発表練習を行い、自分が伝えるべきことが伝わるよう組み立てられているか確認を行う。さらに要旨の印刷を行いホチキス止めを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）修正した要旨のたたき台、プレゼンソフトのデータを出力したものと要旨原稿を持参すること。 （復習）プレゼンソフトを併用し、発表時間内に内容がまとめられている発表ができるよう練習をしてくること。設計の場合は、修正を終えたA1版ポスターの再印刷を行う
	教室外学習の時間（分）	150
第15回	授業テーマ	発表練習、要旨印刷
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンデータを使って発表練習を行い、自分が伝えるべきことが伝わるよう組み立てられているか確認を行う。要旨の印刷を行いホチキス止めを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）完成させた要旨原稿を持参すること。成果物を修正したものを改めて出力、（論文の場合は、併せてファイリング）をしておくこと。 （復習）プレゼンソフトを併用し、発表時間内に内容がまとめられている発表ができるよう練習をしてくること。設計の場合は、修正を終えたA1版ポスター5枚以上の再印刷を行う。
	教室外学習の時間（分）	90分
第16回	授業テーマ	発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションソフトを用いて、発表を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）プレゼンソフトデータや要旨の最終確認、掲示用A1版ポスター・模型の最終確認を行い、発表の練習を実施する。

	教室外学習の時間（分）	90分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

原則、授業時間内に個別に対応する。その他疑問点や相談は、オフィスアワーやアポイントを取った上日時を決めて、対応する。なお、授業に欠席した分については、必ず次回の授業までにオフィスアワー等を活用し、個別に指導を受けること。

評価方法

平常点（授業態度＋レジュメ提出や提出物）、成果物（設計図書または論文等）、要旨、発表の総合評価とする。
授業回数第1～10回までは、毎回A4版縦使い1枚に予習の成果をレジュメとしてまとめ、提出すること。
詳細は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
成果物	○			○
要旨	○	○		○
発表		○	○	

評価割合

平常点30%、成果物50%、要旨10%、発表10%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

必要であれば、随時指示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸問題を自ら発見し、理論的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習活動を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー

水曜昼休み～３時限 3512研究室

学生へのメッセージ

卒業研究は、これまで学んできたことの集大成として、重要な位置づけとなっています。自分の興味のあることに取り組み、それをどのように問題提起し、解決していくのかを他人に分かりやすく伝えることが必要とされます。事前に十分な準備をし、主体的な授業への参加を望みます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	要旨の作成やポスター・論文の作成にPCを使用し、そのデータ作成方法についても指導する。

講義コード	G03003015
講義名	卒業研究Ａ（佐々木）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	佐々木 麻紀子	指定なし

ナンバリング

D41209M22

授業概要(教育目的)

家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導にもとづき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。

履修条件

卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。
「被服整理学」または「染色」関連科目を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	研究テーマに関わる概念や課題を理解し、理論的・体系的に説明することができる
思考・判断の観点 (K)	研究テーマを設定し、適した調査や分析方法を考案することができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	課題に主体的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	研究内容を的確に形や文章として表現できる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関

第1回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：卒業研究の手引きをよく読み、卒業研究の概要を理解しておくこと。 復習：卒業研究のテーマを案を考え、卒業研究の研究スケジュールを作成すること
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	授業テーマ	研究方法の決定1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自のテーマに沿って適切な研究方法を考案し、調査・実験・制作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：研究計画スケジュールを考えておくこと 復習：研究テーマに関連した先行研究はどのような研究方法で行われているのかを調べ、情報を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自のテーマに沿って先行研究調査を行い、その内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：先行研究や参考文献などの資料を収集し、読んでおくこと。 復習：先行研究の要約を1つ以上作成すること
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自のテーマに沿って先行研究調査を行い、その内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：テーマに沿った先行研究や参考文献などの資料を収集し、読んでおくこと。 復習：先行研究の要約を２つ以上作成しておくこと
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	先行研究・参考文献の調査3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自のテーマに沿って先行研究調査を行い、その内容各自のテーマに沿って先行研究調査を行いを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：各自のテーマに沿った先行研究や参考文献などの資料を収集し、読んでおくこと。 復習：先行研究の要約を３つ以上作成しておくこと
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	授業テーマ	研究方法の決定2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自のテーマに沿って適切な研究方法を考案し、調査・実験・制作のスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：研究テーマに関連した先行研究はどのような研究方法で行われているのかを調べ、情報を整理し、研究計画をたてておくこと。

		復習：研究計画の沿って論文の概略を考えておくこと
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	**授業テーマ**	調査・実験・制作1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の計画したスケジュールに従い、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：研究スケジュールに沿って調査・実験・制作に必要なものを見積り、準備しておくこと 復習：各自のテーマに応じ必要な調査・実験・制作・分析などの結果をまとめておくこと
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	**授業テーマ**	調査・実験・制作2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の計画したスケジュールに従い、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：研究スケジュールに沿って調査・実験・制作に必要なものを見積り、準備しておくこと 復習：各自のテーマに応じ必要な調査・実験・制作・分析などの結果をまとめておくこと
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	**授業テーマ**	調査・実験・制作3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の計画したスケジュールに従い、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：研究スケジュールに沿って調査・実験・制作に必要なものを見積り、準備しておくこと 復習：各自のテーマに応じ必要な調査・実験・制作・分析などの結果をまとめておくこと
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	**授業テーマ**	調査・実験・制作4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の計画したスケジュールに従い、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：研究スケジュールに沿って調査・実験・制作に必要なものを見積り、準備しておくこと 復習：各自のテーマに応じ必要な調査・実験・制作・分析などの結果をまとめておくこと
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	**授業テーマ**	調査・実験・制作5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の計画したスケジュールに従い、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：研究スケジュールに沿って調査・実験・制作に必要なものを見積り、準備しておくこと 復習：各自のテーマに応じ必要な調査・実験・制作・分析などの結果をまとめておくこと

	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	**授業テーマ**	研究のまとめ1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの研究の要点を整理しまとめ、卒業研究要旨を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：これまでの調査・実験・制作等の資料を整理しておくこと 復習：卒業研究要旨の下書きを作成すること
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	**授業テーマ**	研究のまとめ2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の研究内容を基にプレゼンテーション資料を作成し、発表に向けた準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：これまでの調査・実験・制作等の資料を整理し、プレゼンテーション資料の下書きを作成しておく 復習：卒業研究要旨を作成する
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	**授業テーマ**	研究のまとめ3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の研究内容を基にプレゼンテーション資料を作成し、発表に向けた準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：これまでの調査・実験・制作等の資料を整理し、プレゼンテーション資料を作成する 復習：卒業研究要旨を作成し、プレゼンテーション資料を作成する
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

・各自のテーマ及び研究の進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。
・洗剤関連の学外施設の見学を予定していますが、状況に応じて変更になる場合もあります。
・内容によってはPCが必要になる場合がありますので、各自で用意して下さい。

学生へのフィードバック方法

調査・実験・制作などに関する報告・発表、提出された課題等については、講評や助言、添削指導を毎回行う。
質問等がある場合は2406研究室まで訪問すること。

評価方法

・卒業研究の内容・要旨・プレゼンテーションは以下の観点で評価を行う。
1）研究の目的や意義が明確である。
2）先行研究を充分に参照し、その内容を理解している。
3）研究テーマに適した方法で調査・実験・制作等ができている。
4）結果の内容が十分な信頼性がある。
5）研究の内容を適した文章や制作物等で表現することができている。
・平常点は授業内活動（報告・発表・ディスカッション等）への参加状況、指示された学習活動への取り組み姿勢、課題の提出状況などを総合的に判断し評価する。
学修成果の公平で客観的な評価の実施に向けて、ルーブリックを用いた評価を行います。
ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により学生に提示をします。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	
要旨とプレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合

卒業研究の内容30%、要旨10%、プレゼンテーション10%、平常点50%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

個々に指示する

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー

月曜2限 2406研究室

学生へのメッセージ

授業内のみならず、授業外にも自主的に調査・実験・制作などの作業を行うこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	各自の課題に対して、調査学習・問題解決学修・ディスカッション等を行う
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献検索方法、論文の書き方、プレゼンテーションの方法に関する内容を行う
ICT活用	○	情報収集や発表のために、PCや通信機器を活用する。

講義コード	G03003016
講義名	卒業研究Ａ（花田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	花田 朋美	指定なし

ナンバリング

D41209M22

授業概要(教育目的)

家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進めさせる。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導にもとづき形式を選択させる。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とした指導をする。

履修条件

3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	グループワークを行う。研究の進め方、スケジュールの確認、

第1回	ｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒研生として研究室での過ごし方を理解する。本研究室の先行研究を理解し、研究課題の検討を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復〕各自の問題意識、興味に基づき、先行研究のレジュメを作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	授業テーマ	研究テーマの決定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループワークを行う。先行研究の要約を報告し、研究の課題を確認して、テーマを決定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕先行研究のレジュメを作成し、人数分の資料を準備しておくこと。 〔復〕研究テーマに関連する参考文献を収集する。研究計画を立案する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	授業テーマ	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を行う。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	授業テーマ	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	研究報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループディスカッションを行う。各自の進捗状況を整理し、レジュメに基づき報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕研究の進捗状況をレジュメにまとめ、人数分の資料を準備しておくこと。 〔復〕ディスカッションに基づき、研究計画を再検討する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	授業テーマ	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第7回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	研究報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループディスカッションを行う。各自の進捗状況を整理し、レジュメに基づき報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕研究の進捗状況をレジュメにまとめ、人数分の資料を準備しておくこと。 〔復〕ディスカッションに基づき、研究計画を再検討する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	授業テーマ	研究報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループディスカッションを行う。各自の進捗状況を整理し、レジュメに基づき報告する。卒研A発表会の要旨とプレゼンテーションの内容の検討を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕研究の進捗状況をレジュメにまとめ、人数分の資料を準備しておくこと。 〔復〕報告会での検討内容に基づき要旨とプレゼンテーション資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	要旨とプレゼンテーション資料の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループディスカッションを行う。プレゼンテーション資料に基づき発表し、プレゼンテーション資料の内容を検討する。要旨を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕提出用要旨を作成してくること。 〔復〕検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を修正する。
	教室外学習の時間（分）	90分

第13回	授業テーマ	プレゼンテーション練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループディスカッションを行う。修正した資料に基づき、プレゼンテーション発表練習をして、再度発表内容の検討を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕修正した資料で発表練習をしておくこと。 〔復〕検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を修正する。返却された要旨を修正する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	プレゼンテーション練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループディスカッションを行う。修正した資料に基づき、プレゼンテーション発表練習をして、再度発表内容の検討を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕完成要旨を作成してくること。修正した資料で発表練習をしておくこと。 〔復〕検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を修正する。発表練習を繰り返し行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90分

学習計画注記

研究の進捗状況によりスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

個別ディスカッション、グループディスカッションにおいて対応。質問や相談は、随時受付。

評価方法

①平常点（意欲、態度、研究遂行に対する行動力、調整力、理解力を評価）
②研究報告会での発表（理解力、意欲、思考力を評価）
③卒業研究発表会（理解力、構成力、表現力を評価）
④成果物（理解力、構成力、思考力、完成度 を評価）
評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
発表（報告会）	○	○	○	○
発表（卒研発表会）	○	○	○	○
成果物	○	○	○	○

評価割合

1)研究要旨の合否判定
2)発表会におけるプレゼンテーションの合否判定
平常点30% 発表（報告会）20% 発表（卒研発表会）30% 成果物20% を総合的に評価

使用教科書名(ISBN番号)

指定なし

参考図書

指定なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー

木曜日１２時４０分～１４時２０分 ２４０７被服材料学研究室

学生へのメッセージ

４年間の集大成として、積極的に取り組んでほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション
情報リテラシー教育	○	文献探索、プレゼンテーションの指導
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション

講義コード	G03003017
講義名	卒業研究Ａ（千葉）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	千葉　一博	指定なし

ナンバリング

D41209M22

授業概要(教育目的)

家政学と、それに関連する研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究の成果は、その内容を考慮して、教員の指導に基づき、論文・計画設計図書・制作等の形式を選択してまとめる。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とする。

履修条件

3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章またはプログラムとして表現できる。

学習計画

	授業テーマ	研究テーマの設定と研究目的の明確化またはプログラミングなど
	(	

第1回	学習内容 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3年次に考えた研究テーマが本当に興味の対象なのか確認する。さもなければ主体的に再考する。不安材料をあげ、対策を議論する。そして、研究目的を議論して明確にする。または、プログラミングなどを行う。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: ノートを用意する。 研究テーマの分野を調査する。また、先行研究を調査し、文献を読んで理解する。そして、主張したいことを考える。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間（分）	190
第2回	授業テーマ	研究計画の策定またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の対象を考え、研究の計画とスケジュールを策定する。または、プログラミングなどを行う。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 研究目的に独自性があるか確認する。なければ再考する。
	教室外学習の時間（分）	190
第3回	授業テーマ	研究計画のレビューまたはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループで研究計画をレビューし、意見交換する。または、プログラミングなどを行う。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 研究計画書を作成し、提出する。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間（分）	190
第4回	授業テーマ	研究方法の検討またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究方法について、グループで議論して検討する。または、プログラミングなどを行う。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 研究方法にしたがい、研究を進める。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間（分）	195
	授業テーマ	研究活動またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	以降は、研究方法に依存する。 個別指導を受けたり、グループで検討したりして、論理的な思考や議論を展開する。研究のプロセスについても、議論の対象になる。必要に応じて、情報を収集して整理したり、観察や背景知識の学習をしたりす

第5回	育・ICT活用を含む)	る。または、プログラミングなどを行う。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 研究方法にしたがい、研究を進める。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間（分）	195
第6回	授業テーマ	研究活動またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別指導を受けたり、グループで検討したりして、論理的な思考や議論を展開する。研究のプロセスについても、議論の対象になる。必要に応じて、情報を収集して整理したり、観察や背景知識の学習をしたりする。または、プログラミングなどを行う。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 研究方法にしたがい、研究を進める。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間（分）	195
第7回	授業テーマ	研究活動またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別指導を受けたり、グループで検討したりして、論理的な思考や議論を展開する。研究のプロセスについても、議論の対象になる。必要に応じて、情報を収集して整理したり、観察や背景知識の学習をしたりする。または、プログラミングなどを行う。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 研究方法にしたがい、研究を進める。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間（分）	195
第8回	授業テーマ	研究活動またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別指導を受けたり、グループで検討したりして、論理的な思考や議論を展開する。研究のプロセスについても、議論の対象になる。必要に応じて、情報を収集して整理したり、観察や背景知識の学習をしたりする。または、プログラミングなどを行う。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 研究方法にしたがい、研究を進める。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間（分）	195
第9回	授業テーマ	研究活動またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別指導を受けたり、グループで検討したりして、論理的な思考や議論を展開する。研究のプロセスについても、議論の対象になる。必要に応じて、情報を収集して整理したり、観察や背景知識の学習をしたりする。または、プログラミングなどを行う。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復	復習: 研究方法にしたがい、研究を進める。または、プログラミングの

	習)の内容	結果を見直す。
	教室外学習の時間（分）	195
第10回	授業テーマ	結論の事前提示またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文をイメージし、結論を事前に提示してみる。または、プログラミングなどを行う。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 研究目的の達成具合をふり返る。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間（分）	190
第11回	授業テーマ	中間報告書作成またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	進み具合や途中結果を中間報告書として示す。それをレビューし、修正点について議論する。または、プログラミングなどを行う。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 進み具合や途中結果を整理する。 復習: 議論に基づき、中間報告書を修正して提出する。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間（分）	95 100
第12回	授業テーマ	前期卒研の要旨作成またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中間報告書に基づき、前期卒研の要旨を作成する。そして、その修正点について議論する。または、プログラミングなどを行う。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 要旨の構成を考える。 復習: 議論に基づき、要旨を修正する。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間（分）	95 100
第13回	授業テーマ	前期卒研のプレゼンテーション作成またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中間報告書と要旨に基づき、プレゼンテーションを作成する。そして、その修正点や課題について議論する。または、プログラミングなどを行う。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: プレゼンテーションの流れを考える。 復習: 議論に基づき、プレゼンテーションを編集して課題を整理する。またはプログラムなどを仮提出する。
	教室外学習の時間（分）	95 95

第14回	授業テーマ	前期卒研発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期卒研発表会で、中間報告書と要旨に基づいて口頭発表をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 発表練習をする。 復習: 発表会で受けた質問やコメントへの対応を考える。またはプログラムなどを提出する。
	教室外学習の時間(分)	95 95

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

仮提出された中間報告書またはプログラムなどは、チェックして返却する。

評価方法

・平常点は、授業への参加状況等で総合的に判断する。

・中間報告書と前期卒研要旨は各 20 点満点で、論理的な思考力と文章の的確性を確認する。プログラムなどは、情報処理の技術力を評価する。

・前期卒研発表は、独創的な考えの的確性を確認する。

・平常点、中間報告書またはプログラムなど・要旨、前期卒研発表は、下表に示す力を養うことを目的に評価する。

・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
平常点	○		○	
中間報告書またはプログラムなど		○		○
前期卒研要旨		○		○
前期卒研発表				○

評価割合

平常点（15%）、中間報告書またはプログラムなど（20%）、前期卒研要旨（20%）、前期卒研発表（45%）などを総合的に評価する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「衣」「住」「コミュニケーション・情報」「地域・園芸・ビジネス」「家庭科教育」の各分野について、専門的知識・技術を有している。グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。

【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。

【関心・意欲・態度】社会の中にある問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。

【技能・表現】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。

オフィスアワー

木曜 12:30-14:00 1411研究室
早朝・深夜を除き、メールでも相談に応じる。
必要であれば、日時を調整してオンラインで対応する。

学生へのメッセージ

自分で考えたテーマに没頭しよう。とことん考えよう。自分の将来に役立つかは考えなくてよい。研究のプロセスを楽しんだり苦しんだりすることが将来の自分を強くする。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に研究する、またはプログラミングなどを通して失敗から学ぶ。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03004001
講義名	卒業研究Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

D41210M22

授業概要(教育目的)

卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

評価割合

1)研究要旨の合否判定
2)発表会におけるプレゼンテーションの合否判定
1),2)全てに合格した場合、総合的(100%)に評価する

学生へのメッセージ

指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03004002
講義名	卒業研究Ｂ（白井）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	白井 篤	指定なし

ナンバリング

D41210M22

授業概要(教育目的)

家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導に基づき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして、論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。

履修条件

卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	卒業論文を作成するために必要な専門的知識・技術を有している。
思考・判断の観点 (K)	社会の中にある住分野の課題について、論理的に分析し考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中にある住分野の諸問題について積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じて、その解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を集めて分析・整理でき、その課題解決策を発信できる。

学習計画

第1回	授業テーマ	既往の研究の再調査（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に必要な追加の資料や情報などを収集する。
第2回	授業テーマ	既往の研究の再調査（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に必要な追加の資料や情報などを収集する。
第3回	授業テーマ	研究計画の見直し（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に向けて、研究計画を再度、見直す。
第4回	授業テーマ	研究計画の見直し（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に向けて、研究計画を再度、見直す。
第5回	授業テーマ	実験もしくは調査の実施（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に向けて、追加の実験もしくは調査を実施する。
第6回	授業テーマ	実験もしくは調査の実施（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に向けて、追加の実験もしくは調査を実施する。
第7回	授業テーマ	実験もしくは調査の実施（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に向けて、追加の実験もしくは調査を実施する。
第8回	授業テーマ	実験もしくは調査の実施（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に向けて、追加の実験もしくは調査を実施する。
第9回	授業テーマ	実験もしくは調査結果の取りまとめ（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実験もしくは調査結果について取りまとめる。
第10回	授業テーマ	実験もしくは調査結果の取りまとめ（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実験もしくは調査結果について取りまとめると共に、分析や整理を行う。
第11回	授業テーマ	実験もしくは調査結果の取りまとめ（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	取りまとめ作業に基づいて、論文を作成する。
第12回	授業テーマ	卒業論文の作成（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業論文を作成する。
第13回	授業テーマ	卒業論文の作成（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業論文を作成する。
第14回	授業テーマ	卒業論文の要旨の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業論文の要旨を作成する。
第15回	授業テーマ	卒業研究発表会の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究発表会に向けた準備を行う。

学生へのフィードバック方法

成果物については、随時、アドバイスを行い、レベルの高い卒業研究となるように指導する。

評価方法

成果物、要旨、発表会の３つで総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
成果物	○	○		○
要旨	○	○		○
発表会	○	○	○	○

評価割合

成果物、要旨、発表会の３つの総合評価

使用教科書名(ISBN番号)

特になし

参考図書

特に、参考書はないが、研究のテーマにより、各自に必要な書籍や論文などを紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

知識・理解の観点（K）：卒業論文を作成するために必要な専門的知識・技術を有している。
思考・判断の観点（K）：社会の中にある住分野の課題について、論理的に分析し考察することができる。
関心・意欲・態度（V）：社会の中にある住分野の諸問題について積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じて、その解決策を立案できる。
技術・表現の観点（A）：課題解決に必要な情報を集めて分析・整理でき、その課題解決策を発信できる。

学生へのメッセージ

指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	主体的な体験学習を通して、課題発見能力・課題解決能力を養う。
情報リテラシー教育	○	課題を解決する上で、図書館の利用方法、文献探索方法などの情報活用能力を養う。
ICT活用		

講義コード	G03004003
講義名	卒業研究Ｂ（原口）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	原口 秀昭	指定なし

ナンバリング

D41210M22

授業概要(教育目的)

社会の中からテーマを自ら探し出し、敷地条件、建物機能、面積、高さ等を自ら設定し、コンセプトワーク、建築の設計製図、A1用紙やパワーポイントでのプレゼンテーションを行う。社会の中から問題を抽出し、分析、考察し、問題解決の具体的解決策を建築物として表現する。その際、3年次までに蓄積した製図、パース、模型作成の技術、計画、環境、構造、施工等の知識を活用、応用し、技術、知識をより確かなものとする。

履修条件

卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	建築物の計画、機能、面積配分、ゾーニング、基本寸法、基準寸法、RC造、S造の構造が分かる。
思考・判断の観点 (K)	建築物の設計案に対して、その設計、デザイン、機能の良否、可否を考え判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	建築物のデザイン、設計に関心を持ち、自らの設計、デザインに意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	建築物における基本設計、平面図、立面図、断面図の作図、パース、模型の制作ができる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	卒業研究の進め方、評価などの説明をする。その後資料集め、コンセプトの考察
	教室外学習(予習・復習)の内容	設計したい建築物、設計したい敷地、挑戦してみたい設計競技などを考えておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	コンセプトワーク
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンセプトボードを使ってグループ内で発表し、教員の講評を受ける。コンセプトを考え、エスキースを始める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のコンセプトをまとめたコンセプトボード（A3）をつくる
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	**授業テーマ**	コンセプトワークの修正
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	再度、コンセプトワークをまとめたコンセプトボードを発表、教員の講評を受ける
	教室外学習(予習・復習)の内容	講評を受けて、新たなコンセプトボードを作成する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	**授業テーマ**	エスキース
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンセプトボードを元にエスキースした成果を発表、教員から講評を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	コンセプトボードを元にエスキースをする。エスキースにはスタディ模型も併用する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第5回	**授業テーマ**	エスキースの修正
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	修正したエスキースを発表し、教員から講評を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の講評を受けて、エスキースを修正する。スタディ模型も併用する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第6回	**授業テーマ**	エスキースの確定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	再再度のエスキースを発表し、教員の講評を受けて確定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	再再度のエスキースの手直しを行う。スタディ模型も併用する
	教室外学習の時間（分）	240分
第7回	**授業テーマ**	平面図の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平面図を作成し、教員の講評を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	平面図を作成する。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	平面図の修正
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	

第8回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	修正された平面図を提示し、教員の講評を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の講評を元に、平面図を修正する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	授業テーマ	断面図の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	断面図を作成して、教員の講評を受ける
	教室外学習(予習・復習)の内容	平面図を見ながら断面図を作成する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	授業テーマ	断面図の修正
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	修正された断面図を提示し、教員の講評を受ける
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回講評された断面図を修正する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	授業テーマ	立面図の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	立面図を作成し、教員の講評を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	平面図、断面図を見ながら、立面図を作成する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	授業テーマ	立面図の修正
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	修正した立面図を提示し、教員の講評を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回講評された断面図を修正する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	授業テーマ	パースの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パースを作成し、教員の講評を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パースを作成する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第14回	授業テーマ	模型の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模型を作成し、教員の講評を受ける
	教室外学習(予習・復習)の内容	平面図、断面図、立面図から模型を作成する。
	教室外学習の時間（分）	240分
	授業テーマ	ポスターセッション（展示発表会）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける

第15回	む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	模型の写真を撮り、図面、パースと共にレイアウトする
	教室外学習の時間（分）	480分

学生へのフィードバック方法

毎回、教員が学生のエスキース、図面、模型などを評価し、その都度、助言を与え、修正などの指示を与える。

評価方法

ポスターセッション（発表会）で作品を展示発表し、機能、デザイン、プレゼンテーションの3つの評価軸で採点する。詳細は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内での配布する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
設計作品の展示、発表	○	○	○	○

評価割合

課題作品の評価と出席による。配点は課題評価80%。課題評価のうち、第1作品40%、第2作品40%。平常点20%。
1),2)全てに合格した場合、総合的(100%)に評価する

使用教科書名(ISBN番号)

新しい建築の製図編集委員会編「新しい建築の製図」学芸出版（4-7615-2375-1）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」の建築物についての専門的知識を有している。
【思考・判断】社会にある建築物の基本設計を理解して良否、可否を判断できる。
【関心・意欲・態度】社会にある建築物に関心を持ち、デザインに意欲を持つ。
【技術・表現】建築物の設計を立案でき、社会に対して洗練された表現力で提示できる。

オフィスアワー

金曜2限時 3602研究室

学生へのメッセージ

3年までの設計製図、卒業研究Aにおいて、建築物の各部寸法や平面図、断面図、立面図（展開図）、パース、模型の作成の技術を習得しました。同時に計画、環境、構造、施工の知識も養いました。卒業研究Bではその集大成としての設計製図です。デザインを楽しみながら演習に取り組むことで、さらなる技量の向上を目指してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年の設計監理の実務経験がある。卒業研究の設計指導にあたり、実務で学んだ設計、デザインの知識を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回小人数グループで、設計製図の指導を演習を通して行う。
情報リテラシー教育		

ICT活用		

講義コード	G03004004
講義名	卒業研究Ｂ（小池）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小池 孝子	指定なし

ナンバリング

D41210M22

授業概要(教育目的)

卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。大学における学びの集大成として学生自らの持つ問題意識に基づいて研究課題を設定し、その解決策の提案に取り組む。形式は、論文または計画設計図書（模型を含む）とする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

履修条件

３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	「住」をはじめとする家政学の各分野 について専門的知識・技術を有している。 自ら設定した課題に対し、グローバルな視点に立ち、各分野の知識を深めて理解する。
思考・判断の観点 (K)	社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。 収集した各種の多様な情報を客観的に理解し判断して結論へと導くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 自ら設定した課題に対し、社会人としての自覚を持って取り組むことができる。
技術・表現の観点	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

(A)	社会に対して洗練された表現力で自ら設定した課題の解決策を発信できる力を身につけている。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	【論文】調査計画の立案 【設計】敷地の決定・コンセプトの立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文】卒業研究Ａで得られた結果をもとに論文の仮説を立て、検証のための調査計画を立案する 【設計】卒業研究Ａで得られた結果をもとに敷地を決定し、設計コンセプトを立案する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）【論文】論文の仮説、調査計画案を作成する （予習）【設計】コンセプトボードを作成する
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	**授業テーマ**	【論文】調査計画の検証 【設計】コンセプトの決定・プログラムの検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文】立案した調査計画について検証を行い、調査協力を依頼する 【設計】コンセプトを決定し、必要となる機能に対応する建築要素（プログラム）を検討する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）【論文】前回のゼミでの指摘事項を踏まえて調査計画をレジュメにまとめる （予習）【設計】前回のゼミでの指摘事項を踏まえてコンセプト案をまとめ、プログラム案を作成する
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	**授業テーマ**	【論文】 調査の実施１ 【設計】プログラムの決定・ボリュームの検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文】調査計画に沿って調査を実施し、進捗状況について発表、ディスカッションをおこなう 【設計】プログラムを決定し、それぞれのボリューム、全体ボリュームと敷地の関係について検討する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）【論文】調査結果・調査の進捗状況をレジュメにまとめる （予習）【設計】ボリュームを反映したプログラム案を作成する
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	**授業テーマ**	【論文】 調査の実施２ 【設計】ボリュームの決定・ダイアグラムの検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文】調査計画に沿って調査を実施し、進捗状況について発表、ディスカッションをおこなう 【設計】プログラムの各要素・全体のボリュームについて決定し、各要素の位置関係をダイアグラムを作成し検討する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）【論文】調査結果・調査の進捗状況をレジュメにまとめる （予習）【設計】ダイアグラム案を作成する
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	【論文】 調査の実施３ 【設計】ダイアグラムの決定・外観デザインの検討

第5回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文】調査計画に沿って調査を実施し、進捗状況について発表、ディスカッションをおこなう 【設計】ダイアグラムを決定し、外観のデザインを検討する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）【論文】調査結果・調査の進捗状況をレジュメにまとめる （予習）【設計】ダイアグラムを建物の構成が分かるような形で作成する
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	**授業テーマ**	【論文】調査結果の分析と考察１ 【設計】平面計画１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文】調査結果を分析して考察をおこない、進捗状況について発表する 【設計】作成したダイアグラムをもとに、配置図・平面図を作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）【論文】分析した調査結果についてレジュメを作成する （予習）【設計】配置図・平面図を作成する
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	**授業テーマ**	【論文】調査結果の分析と考察２ 【設計】平面計画２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文】調査結果を分析して考察をおこない、進捗状況について発表する 【設計】配置図・平面図を完成させる
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）【論文】分析した調査結果についてレジュメを作成する （予習）【設計】前回のゼミでの指摘事項を踏まえて配置図・平面図を修正する
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	**授業テーマ**	【論文】論文執筆１ 【設計】断面・立面計画１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文】分析・考察を継続しながら論文を執筆し、進捗状況について発表する 【設計】断面図・立面図を完成させる
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）【論文】論文の目次を作成する （予習）【設計】断面図・立面図を作成する
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	**授業テーマ**	【論文】論文執筆２ 【設計】プレゼンテーション図面の作成１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文】分析・考察を継続しながら論文を執筆し、進捗状況について発表する 【設計】各種図面・模型・パースを作成し、レイアウトする
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）【論文】論文の進捗状況が分かる資料を用意する （予習）【設計】提出用図面のレイアウト案、模型・パースを作成する

	教室外学習の時間（分）	100分
第10回	**授業テーマ**	【論文】論文執筆３ 【設計】プレゼンテーション図面の作成２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文】論文の内容について最終確認する 【設計】各種図面・模型・パースを仕上げ、レイアウトする
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）【論文】論文を完成させる （予習）【設計】提出用図面を完成させる
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	**授業テーマ**	【論文・設計】要旨の作成１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文・設計】論文の内容をもとに要旨を作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）【論文・設計】要旨に書きたい内容をA3用紙にレイアウトする
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	**授業テーマ**	【論文・設計】要旨の作成２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文・設計】要旨の内容について最終確認する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）【論文・設計】要旨を完成させる
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	**授業テーマ**	【論文・設計】発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文・設計】発表会のためのプレゼンテーション資料（ポスター）を作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）【論文・設計】ポスターのレイアウト案を作成する
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	**授業テーマ**	【論文・設計】発表練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文・設計】作成した発表会用プレゼンテーション資料を用いて発表練習をおこなう
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）【論文・設計】発表用ポスター、発表原稿を完成させる
	教室外学習の時間（分）	100分
第15回	**授業テーマ**	【論文・設計】発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	【論文・設計】ポスターセッション方式で発表を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

別途配付するスケジュール・要領に従って、締切や執筆要領等に注意して進めること。

学生へのフィードバック方法

ゼミでは研究の進捗に関するレジュメを毎回用意して発表し教員の指導を受ける。全員でのグループディスカッションを実施するので、積極的に議論に参加すること。
毎回のゼミに必ず出席すること。やむなく欠席する場合にはオフィスアワー等を利用して個別指導を受けること。

評価方法

論文については、問題設定の着眼点・独自性、調査研究の精度、結論に至る論理構成について評価する。
計画設計図書については、問題設定の着眼点・独自性、提案の妥当性、デザインについて評価する。
平常点については、授業（ゼミ）への参画状況、研究への取り組みの積極性、計画的な研究の遂行について評価する。
プレゼンテーションについては、要旨を含むプレゼンテーション資料の完成度、質疑応答を含む発表内容について評価する。
なお、評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
論文・計画設計図書	○	○	○	○
平常点	○	○	○	
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合

論文・計画設計図書60%、平常点30%、プレゼンテーション10%

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」をはじめとする家政学の各分野 について、専門的知識・技術を有している
・グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる
【思考・判断】
・社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。また各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる
【関心・意欲・態度】
・社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる
【技能・表現】
・家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている
・社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている

オフィスアワー

金曜 2 時限 3508研究室

学生へのメッセージ

身近な住生活課題の解決のために、論文・設計作品による提案を行うのが卒業研究です。これまで学んできたことをベースに、ゼミで互いに意見を出し合い、自分の考えをしっかりまとめましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業はゼミ形式で実施する。研究の進捗について毎回発表、グループディスカッションを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03004005
講義名	卒業研究Ｂ（嶋田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	嶋田 芳男	指定なし

ナンバリング

D41210M22

授業概要(教育目的)

家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導に基づき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして、論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。

履修条件

卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	卒業論文を作成するために必要な専門的知識・技術を有している。
思考・判断の観点 (K)	社会の中にある福祉分野の課題について、論理的に分析し考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中にある福祉分野の諸問題について積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じて、その解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を集めて分析・整理でき、その課題解決策を発信できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	論文の作成方法（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文の構成を学ぶとともに、事例を用いながら深化させていく。また、論文にふさわしい文言やふさわしくない文言についても理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	これから研究していく論文のテーマや構成につい考えておく。また、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	**授業テーマ**	論文の作成方法（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文にふさわしい数値表記とふさわしくない数値表記について学ぶとともに、引用文献や参考文献の違いについても理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	引き続き論文のテーマと構成について考えるとともに、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	**授業テーマ**	論文の作成方法（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前2回の授業内容をどの程度把握しているかを学生間で確認する。また、論文テーマとその構成についても討議し、深化を図る
	教室外学習(予習・復習)の内容	引き続き論文テーマとその構成について考える
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	**授業テーマ**	研究計画書の作成（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考えている論文テーマとその構成を文章化し、論文作成上の指導を受ける
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文に必要な文献や資料について考えておく
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	**授業テーマ**	研究計画書の作成（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の授業で指導された点について再考し、研究計画書を作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	引き続き論文作成に必要な文献や資料について考えておく
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	**授業テーマ**	論文関係文献の検索法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターネットや書籍などから、先行研究、関係文献、関係資料を検索する方法について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターネットや書籍などから、先行研究、関係文献、関係資料について調べる
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	**授業テーマ**	先行研究の検討（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集した先行研究を整理し、分析することで研究の具体的な方向性を知る
	教室外学習(予習・復)	先行研究の整理と分析を行う

	習 の内容	
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	**授業テーマ**	先行研究の検討（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集した先行研究を整理し、分析することで研究の具体的な方向性を知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究の整理と分析を行う
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	**授業テーマ**	収集した文献、資料の整理（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	具体的な研究の方向性に基づき、収集した文献、資料を整理することを知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集した文献、資料の整理を行う
	教室外学習の時間（分）	100分
第10回	**授業テーマ**	収集した文献、資料の整理（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	具体的な研究の方向性に基づき、収集した文献、資料を整理することを知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集した文献、資料の整理を行う
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	**授業テーマ**	収集した文献、資料の分析（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の方向性に合致している文献、資料の分析を行い、論文にどのように反映できるかを学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究の方向性に合致している文献、資料の分析を行う
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	**授業テーマ**	収集した文献、資料の分析（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の方向性に合致している文献、資料の分析を行い、論文にどのように反映できるかを学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究の方向性に合致している文献、資料の分析を行う
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	**授業テーマ**	量的調査の内容と手法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	留め置き・郵送・集合・面接・電話調査、公的データの活用について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で配布したプリントを基に、授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	**授業テーマ**	質的調査の内容と手法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別インタビュー、フォーカスグループインタビュー、Kj法の内容と手法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習しておく

教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

1つの授業テーマに対して、2限（2コマ）の授業時間を充てる。
また、授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

成果物は、評価した上で返却する。

評価方法

・平常点
先行研究、文献、資料の収集状況と論文作成に対する意欲から評価す
る。
・成果物、要旨、発表会の３つで総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
成果物	○	○		○
発表会	○	○	○	○

評価割合

平常点、成果物、発表会で総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

必要に応じてプリントを配布する。

参考図書

白井利明他著『よくわかる卒論の書き方』（ミネルヴァ書房）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解の観点】：卒業論文を作成するために必要な専門的知識・技術を有している。
【思考・判断の観点】：社会の中にある福祉分野の課題について、論理的に分析し考察することができる。
【関心・意欲・態度】：社会の中にある福祉分野の諸問題について積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じて、その解決策を立案できる。
【技術・表現の観点】：課題解決に必要な情報を集めて分析・整理でき、その課題解決策を発信できる。

オフィスアワー

火曜3限、木曜2限

学生へのメッセージ

日常から論文テーマに関係する新聞記事やニュースに関心を持ち、文献や関係資料の収集に努めて欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	高齢者施設や児童福祉施設におけるソーシャルワーカーの経験から、地域で発生している福祉課題の実態やその解決方策などを論文に反映できるような授業を展開している
アクティブ・ラー	○	図書館で論文作成に必要な文献、関係資料を収集するとともに、フィールドワ

ニング		ークによる関係者へのインタビューを論文に反映できるよう指導している
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	インターネットの活用により、先行研究、関係資料、研究対象に関わる情報を収集するように指導している

講義コード	G03004007
講義名	卒業研究Ｂ（呉）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	呉 起東	指定なし

ナンバリング

D41210M22

授業概要(教育目的)

社会の中からテーマを自ら探し出し、敷地条件、建物機能、面積、高さ等を自ら設定し、コンセプトワーク、建築の設計製図、A1用紙やパワーポイントでのプレゼンテーションを行う。社会の中から問題を抽出し、分析、考察し、問題解決の具体的解決策を建築物として表現する。その際、3年次までに蓄積した製図、パース、模型作成の技術、計画、環境、構造、施工等の知識を活用、応用し、技術、知識をより確かなものとする。

履修条件

卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から、各分野 の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
思考・判断の観点 (K)	多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信

学習計画

卒業研究B

第1回	授業テーマ	卒業研究の計画１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究Aの結果及び考察を基づいて論文執筆又は作品制作の計画を検討する
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究Aの結果及び考察を基づいて研究の計画を作成する
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	卒業研究の計画２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究Aの結果及び考察を基づいて論文執筆又は作品制作の計画を検討する
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究Aの結果及び考察を基づいて研究の計画を作成する
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	授業テーマ	研究調査１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に沿って研究資料を収集
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査を結果をまとめる
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	授業テーマ	研究調査２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に沿って研究資料を収集
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査を結果をまとめる
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	授業テーマ	論文執筆又は作品制作１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文執筆又は作品制作を行う
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	授業テーマ	論文執筆又は作品制作２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文執筆又は作品制作を行う
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	授業テーマ	論文執筆又は作品制作３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文執筆又は作品制作を行う
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	授業テーマ	論文執筆又は作品制作４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文執筆又は作品制作を行う
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	授業テーマ	論文執筆又は作品制作５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文執筆又は作品制作を行う
	教室外学習の時間（分）	100分

第10回	授業テーマ	論文執筆又は作品制作６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文執筆又は作品制作を行う
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	授業テーマ	論文執筆又は作品制作７
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文執筆又は作品制作を行う
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	授業テーマ	論文執筆又は作品制作８
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文執筆又は作品制作を行う
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	授業テーマ	発表の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発表の準備や卒業研究要旨を作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究要旨を完成する
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	授業テーマ	発表の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究要旨の修正及び完成と発表の練習
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンテーション資料を完成する
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回授業の最後に感想や質問を提出させて、次回に感想や質問について解説を行う。別の質問などがある場合は研究室1307（E-mailも可）まで訪問すること。

評価方法

論文又は作品は70点満点で課題の結果と研究発表会で評価を行う。評価ルーブリックを基づいて「独創性」「論文又は作品の完成度」「デザイン性」を基準にして５段階評価を行う。平常点は30点満点で１４回を通して「積極的な授業の参加、態度」「積極的なディスカション」を基準に加点及び減点を行います。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
論文又は作品	○	○	○	○
平常点		○	○	

評価割合

論文又は作品は70％
平常点は30％

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

必要に応じて提示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー

月曜日３限、４限 １３０７研究室

学生へのメッセージ

指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	主体的な体験学習を通して、課題発見能力・課題解決能力を養う。
情報リテラシー教育	○	課題を解決する上で、図書館の利用方法、文献探索方法などの情報活用能力を養う。
ICT活用		

講義コード	G03004008
講義名	卒業研究Ｂ（石綱）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	石綱 史子	指定なし

ナンバリング

D41210M22

授業概要(教育目的)

家政学と、それに関連する研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究の成果は、その内容を考慮して、教員の指導に基づき、論文・計画設計図書・制作等の形式を選択してまとめる。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とする。

履修条件

3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

	授業テーマ	イントロダクション
		本演演習および後期の進め方

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の研究について、これまでに行った内容を確認し後期の研究計画をたてる
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：後期の研究計画をたてる 予習：各自必要な成果物の確認
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	授業テーマ	テーマ決定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別ディスカッション
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：研究遂行
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	授業テーマ	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別ディスカッション
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：研究遂行
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	授業テーマ	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別ディスカッション
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：研究遂行と進捗報告の準備
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別ディスカッション
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：研究遂行と進捗報告の準備
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	授業テーマ	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	進捗報告会
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：研究遂行と進捗報告の準備
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	授業テーマ	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別ディスカッション
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：研究遂行と進捗報告の準備
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別ディスカッション
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：研究遂行と進捗報告の準備
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別ディスカッション
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：研究遂行と進捗報告の準備
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	

第10回	**教育・ICT活用を含む)**	個別ディスカッション
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：研究遂行と進捗報告の準備
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	**授業テーマ**	発表会準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別ディスカッション 発表要旨の準備
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：プレゼンテーションの準備、発表要旨の準備
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	**授業テーマ**	発表会準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションの練習
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：プレゼンテーションの修正
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	**授業テーマ**	発表会準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションの練習
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：プレゼンテーションの修正
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	**授業テーマ**	発表会準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションの練習 卒業研究のまとめ
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：プレゼンテーションの修正、卒業研究のまとめ、データ引継ぎ
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

履修者数と研究の進捗状況によりスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

各自の研究計画に基づいて研究を遂行し、個別ディスカッションの中でフィードバックを行う。疑問・質問が生じた場合は、随時e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。

評価方法

以下の点について評価する。
平常点：研究に取り組む姿勢と態度。自ら計画を立て実行している。独自のアイディアを取り入れられた。
成果物：研究または制作の目的と意義を理解している。新規性が示されている。適切な調査研究を実施できたか。的確に成果をまとめ、考察しているか。提出期限や規定を守る。
発表：十分な準備。要点を抑えた明瞭な発表内容。態度と姿勢。

成果物と発表は、ルーブリックに基づく評価とします。ルーブリック評価の方法は授業内で解説します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	
成果物（要旨、論文または作品）	○	○		

発表会のプレゼンテーション			○	○

評価割合

平常点30%、成果物（論文または制作）60%、発表10%で総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

該当なし。

参考図書

適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー

月曜日2限 3609研究室

学生へのメッセージ

研究（または制作）の計画、実施、解釈、まとめ、発表等の一連のプロセスを通し主体的に学んで欲しい。個別ディスカッションには十分な準備をしてくること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03004009
講義名	卒業研究Ｂ（澤田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	澤田 雅彦	指定なし

ナンバリング

D41210M22

授業概要(教育目的)

家政学と、それに関連する研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。
研究の成果は、その内容を考慮して、教員の指導に基づき、論文・計画設計図書・制作等の形式を選択してまとめる。
研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とする。

履修条件

卒業要件単位を90単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
技術・表現の観点 (A)	自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

	授業テーマ	研究計画の検討（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	前期の研究をふまえて、後期の研究の方向と進め方・日

第1回	む)	程等を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究計画の作成。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	研究計画の検討（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期の研究をふまえて、後期の研究の方向と進め方・日程等を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究計画の作成と資料調査。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	授業テーマ	資料調査／試作品制作（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	必要な資料を収集し、その内容について考察を進める。研究内容が制作ならば、試作品の制作も併行して進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	資料の内容の分析と考察。作品の制作。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	授業テーマ	資料調査／試作品制作（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	必要な資料を収集し、その内容について考察を進める。研究内容が制作ならば、試作品の制作も併行して進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	資料の内容の分析と考察。作品の制作。
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	授業テーマ	資料調査／試作品制作（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	必要な資料を収集し、その内容について考察を進める。研究内容が制作ならば、試作品の制作も併行して進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	資料の内容の分析と考察。作品の制作。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	授業テーマ	中間のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の内容を整理し、論文のまとめ方の方針、最終作品の概要を確定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	資料の内容の分析と考察。作品の制作。
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	授業テーマ	論文の作成／作品の制作（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究全体をまとめて論文を作成する。制作の場合は最終作品を制作しながら論文をまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文の作成と作品の制作作業。
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	論文の作成／作品の制作（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	研究全体をまとめて論文を作成する。制作の場合は最終作品を制作しながら論文をまとめる。

第8回	む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文の作成と作品の制作作業。
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	授業テーマ	論文の作成／作品の制作（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究全体をまとめて論文を作成する。制作の場合は最終作品を制作しながら論文をまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文の作成と作品の制作作業。
	教室外学習の時間（分）	100分
第10回	授業テーマ	研究のまとめ（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文と最終作品を完成させる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文の内容の再検討。
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	授業テーマ	研究のまとめ（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究内容についてディスカッションを行い、必要に応じて、訂正や追加の執筆や制作を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文の訂正、作品の追加制作。
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	授業テーマ	研究のまとめ（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究内容についてディスカッションを行い、必要に応じて、訂正や追加の執筆や作品の制作を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文の訂正、作品の追加制作。
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	授業テーマ	発表の準備（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究要旨集の原稿の作成。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品の制作、研究内容のまとめと研究要旨の作成。
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	授業テーマ	発表の準備（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発表原稿の作成と発表の練習。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パワーポイント資料の制作等、プレゼンテーションの準備。
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

研究計画は自分自身で常にチェックをし、進捗状況を確認するとともに臨機応変に研究・制作

を進めること。

学生へのフィードバック方法

毎週実施するミーティングで研究の進捗状況を確認し、研究室のメンバーでも相互の批評・検討を行う。最後の発表会は、学科教員が出席して研究内容を確認する。

評価方法

作品等の成果物については、研究・制作の着眼点や目的、独自性、技術的な仕上がりの状況で評価する。
論文（研究の要旨）・発表の内容については、研究の意図や目的が分かりやすく示されているか、研究・制作の過程や考察の内容が、論理的に記述されているかといった点について評価する。
平常点は、研究への取り組みの姿勢、ゼミへの参加状況について評価する。
評価はルーブリックに基づいて行うことを予定しています。ルーブリックはGoogleクラスルームか初回授業で提示する予定です。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
作品等の成果物		○		○
論文・発表の内容	○	○		○
平常点		○	○	

評価割合

作品等の成果物30%、論文と発表の内容30%、平常点40%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー

後期木曜日2時限 1503研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03004012
講義名	卒業研究Ｂ（森）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	森 朋子	指定なし

ナンバリング

D41210M22

授業概要(教育目的)

家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の総まとめとすることを目的とする。

履修条件

3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス 統計処理の方法／グラフ・図・表の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第1回	ｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計処理の方法およびグラフ・図・表の作成方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の調査の統計処理をし、グラフ・図・表を作成する。
	教室外学習の時間（分）	90
第2回	授業テーマ	論文の表現１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文に適さない表現を学び、文中不適切な部分を修正する練習をする。結果を発表し、相互に意見を出し合ってより良い表現にしていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文の表現についての練習問題をやる。
	教室外学習の時間（分）	90
第3回	授業テーマ	論文の表現2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文に適する表現を学び、まとまった文章をより論文にふさわしい文章に修正する練習をする。結果を発表し、相互に意見を出し合ってより良い表現にしていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文の表現についての練習問題をやる。
	教室外学習の時間（分）	90
第4回	授業テーマ	論文の構成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文の構成を学び、例示された論文をそれにあてはめて分析する。分析はグループワークで行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の論文の構成（アウトライン）を再検討する。
	教室外学習の時間（分）	90
第5回	授業テーマ	グラフ・図・表の使い方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グラフ・図・表の論文中での使い方を学び、自分の論文での計画を立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の論文の中のグラフ・図・表の解釈文を考える。
	教室外学習の時間（分）	90
第6回	授業テーマ	引用の方法２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	引用文献一覧等の書き方を学び、練習問題を通して形式を身につける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の論文の引用文献一覧を作成する。
	教室外学習の時間（分）	100
第7回	授業テーマ	引用の方法３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の論文の引用部分を整理する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	どの部分に直接引用、どの部分に要約引用を用いるかを考える。
	教室外学習の時間（分）	100
第8回	**授業テーマ**	グラフ・図・表の使い方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グラフ・図・表の論文中での使い方を学び、自分の論文での計画を立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の論文の中のグラフ・図・表の解釈文を考える。
	教室外学習の時間（分）	100
第9回	**授業テーマ**	本論の構成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本論の構成を学び、自分の論文の本論を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本論の執筆をする。
	教室外学習の時間（分）	100
第10回	**授業テーマ**	結論の構成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	結論の構成を学び、自分の論文の結論を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	結論の執筆をする。
	教室外学習の時間（分）	100
第11回	**授業テーマ**	要約の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	要約の方法を学び、論文要旨を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文要旨を修正し完成する。
	教室外学習の時間（分）	100
第12回	**授業テーマ**	レジュメの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レジュメの作成方法を学び、卒業研究発表会のレジュメを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レジュメを修正し完成する。
	教室外学習の時間（分）	100
第13回	**授業テーマ**	口述原稿の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	口述原稿の作成方法を学び、卒業研究発表会の口述原稿を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	口述原稿を修正し完成する。

	教室外学習の時間（分）	100
第14回	**授業テーマ**	卒業研究発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の卒業研究について発表し、質疑応答を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究について振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	100

学生へのフィードバック方法

課題に対する口頭および書面によるコメント

評価方法

卒業研究の内容（内容、構成、表現、形式）、平常点（ディスカッション、発表、取り組みの姿勢）
※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

卒業研究の内容80% 平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー

水曜日昼休み、3限

学生へのメッセージ

自分の興味を深めながら、それまでに習得した技術を駆使し、卒業研究を完成しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自ら設定した課題で研究を進める。
		文献収集、調査・統計処理、論文作成および口頭発表を行

情報リテラシー教育	○	う。
ICT活用	○	PCを駆使して資料を作成する。

講義コード	G03004013
講義名	卒業研究Ｂ（富田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	富田 弘美	指定なし

ナンバリング

D41210M22

授業概要(教育目的)

家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導にもとづき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。

履修条件

前期の「卒業研究A]を履修していること。評価はルーブリックを用いて行う。（ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配付等によって指示する。）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

卒業研究B（富田）

	授業テーマ	制作１、準備

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の後期の課題について、制作準備（材料調達、製図など）を学ぶ。論文の書き方、提出方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の後期の課題について内容・日程等の計画を立て、1回目の授業で提出すること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	授業テーマ	制作２、準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	制作準備（材料・道具の調達、製図など）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自に説明した課題を調べたり、制作を進めること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	授業テーマ	制作３、卒研作業計画１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期の試作を参考に制作方法を学ぶ。また、後期の作業計画（縫製、仕上げ、要旨完成、発表準備など）を立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自に説明した課題を調べて制作を進めること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	授業テーマ	制作４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	制作方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自に説明した課題を調べたり、制作を進めること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	制作５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	制作方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自に説明した課題を調べたり、制作を進めること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	授業テーマ	制作６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	制作方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自に説明した課題を調べたり、制作を進めること。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	制作７
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第7回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	制作方法、結果および考察について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自に説明した課題を調べたり、制作を進めること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	制作８ 卒研作業計画２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	制作方法、結果および考察について学ぶ。また、卒研作業計画（縫製、仕上げ、要旨完成、発表準備など）を立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	要旨（結果・考察）をまとめる。作品を完成させさせる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	制作９
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	制作方法、結果および考察（写真撮影）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	要旨（結果・考察）をまとめる。作品を完成させさせる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	要旨１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒研発表会の要旨（結果・考察）のまとめ方を学ぶ。 発表準備（パワーポイント）・論文を書く方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	要旨（結果・考察）をまとめる。作品を完成させさせる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	授業テーマ	要旨２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒研発表会の要旨（結果・考察）のまとめ方を学ぶ。 発表準備（パワーポイント）・論文を書く方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	要旨（結果・考察）を完成させる。発表用パワーポイントを作成し、論文を書まとめ、制作を進めること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	要旨３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒研発表会の要旨（結果・考察）のまとめ方を学ぶ。 発表準備（パワーポイント）・論文を書く方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	要旨（結果・考察）を完成させる。発表用パワーポイントを作成し、論文を書まとめ、制作を進めること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	要旨４ 卒研作業計画３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒研発表会の要旨（結果・考察）のまとめ方、発表準備（パワーポイント）・論文を書く方法を学ぶ。また、卒研作業計画（仕上げ、発表準備など）を立てる。

	教室外学習(予習・復習)の内容	要旨（結果・考察）を完成させる。発表用パワーポイントを作成し、論文を書まとめ、制作を進めること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	**授業テーマ**	卒研発表会の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発表準備、論文提出、作品提出について学ぶ。口頭発表、パワーポインの内容最終確認、他の学生の発表を聴いて質問等による積極的な参加を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パワーポイントによる発表、口頭発表は10分以内になるように練習してくること。
	教室外学習の時間（分）	90分

学生へのフィードバック方法

調査内容、作品のコメント

評価方法

平常点（授業への参加・状況、提出期日などで総合的に判断する）、調査内容、作品

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
調査内容	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

平常点（授業への参加状況を総合的に判断する）20%、作品（デザイン、制作）50%、発表30%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー

金曜日15:10～16:50

学生へのメッセージ

課題に対しては必ず事前に準備をすること。さらに、自分の健康について管理できる力、自主的な進め方を計画できる力などを身に付けるように心がけてください。また、問題が生じて困った時には相談してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03004014
講義名	卒業研究Ｂ（小川）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	小川 圭子	指定なし

ナンバリング

D41210M22

授業概要(教育目的)

家政学と、それに関連する研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究の成果は、その内藤を考慮して、教員の指導に基づき、論文・計画設計図書・制作等の形式を選択してまとめる。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とする。

履修条件

3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合には、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。ノートPCは毎回持参すること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用することができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して理論的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識をもって課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

	授業テーマ	今後のスケジュールと卒業研究の進め方

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	今後のスケジュールの確認、卒業研究の進め方を理解する。 【設計の場合】施設内容の考案し、事例を調査する。計画敷地や周辺環境の下調べを行う。 【論文の場合】資料の収集方法や整理の方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の学習内容に応じたレジュメを作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	150
第2回	**授業テーマ**	取り組むテーマの決定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究で取り組むテーマの決定する。 【設計の場合】施設内容や建築用途、敷地の決定する。敷地等のデータを行う。 【論文の場合】既往研究の調査を行い、題目・目次案・研究の目的・方法・結論（仮）の策定を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の学習内容に応じたレジュメを作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	150
第3回	**授業テーマ**	コンセプトの決定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンセプトの決定とレイアウトの大枠を捉え、必要な資料（図面）の確認を行う。 【設計の場合】コンセプト案を複数提示し、コンセプトの方針を確定する。建物のゾーニングやボリュームを検討する。 【論文の場合】資料の収集と、目的・方法・結果（仮）を再考し、アプローチにに問題がないか確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の学習内容に応じたレジュメを作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	150
第4回	**授業テーマ**	図面のエスキス（1）／資料収集とデータ分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図面のエスキスや資料収集とデータ分析を行う。 【設計の場合】配置図・平面図のエスキスを行い、配置計画・平面計画を検討する。 【論文の場合】資料の収集とデータ分析を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の学習内容に応じたレジュメを作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	150
	授業テーマ	図面のエスキス（2）／データ分析と論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	図面のエスキスとデータ分析等を行う。 【設計の場合】断面図・立面図のエスキスを行い、断面計画・立面計画を検討する。

第5回	用を含む)	【論文の場合】データ分析と論文の執筆を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の学習内容に応じたレジュメを作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。
	教室外学習の時間(分)	150
第6回	授業テーマ	図面の作図（1）／データ分析と論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図面のデータ化とデータ分析等を行う。 【設計の場合】配置図・平面図・断面図・立面図をCADソフトを使い作図する。影や線の太さなど図面の効果的な作図ができる。 【論文の場合】データ分析と論文執筆を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の学習内容に応じたレジュメを作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。
	教室外学習の時間(分)	150
第7回	授業テーマ	図面の作図（2）／データ分析と論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作図のデータ化とデータ分析を行う。 【設計の場合】配置図・平面図・断面図・立面図をCADソフトを使い作図するとともに、図面相互の関係の最終確認を行う。 【論文の場合】データ分析と論文執筆を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の学習内容に応じたレジュメを作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。
	教室外学習の時間(分)	150
第8回	授業テーマ	透視図の作図・模型制作・写真撮影／論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンセプトを表した透視図の制作・模型製作や写真撮影の方法、写真の加工も行う。 【設計の場合】透視図・模型を制作し、写真撮影を行い、解像度の調整、トリミングやスタンプ機能等の写真の加工し適切な表現ができる。 【論文の場合】論文執筆に加え、図表の書き方を理解し、写真の加工ができるようになる。 【論文の場合】論文執筆に加え、図表の書き方を理解し、写真の加工ができるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の学習内容に応じたレジュメを作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。
	教室外学習の時間(分)	150
	授業テーマ	レイアウト／論文執筆 提出に向けた最終調整
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	レイアウトと論文執筆を行う。提出に向けた最終調整を行う。設計・論文とも、出力データの最終の調整を行う。 【設計の場合】効果的なレイアウト方法を理解し、実践する。 【論文の場合】論文構成の最終確認を行い、不足している部分の追加作

第9回	**用を含む)**	業を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各回の学習内容に応じたレジュメを作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。成果物の縮小版をカラーで出力し、持参すること。
	教室外学習の時間(分)	150
第10回	**授業テーマ**	提出のための成果物の出力（要旨提出許可判定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	A1版ポスターの出力を行い、提出のための体裁を整え、要旨提出許可判定を受ける。 【設計の場合】出力データを印刷し、提出する体裁に整える。 【論文の場合】出力データを印刷、ファイリングをし、提出する体裁に整える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	A1版ポスターの縮小版をカラーで出力し、持参すること。 成果物出力時には、A3判カラー印刷で圧着貼りで提出の場合は、A1判ケント紙を枚数分を持参すること。
	教室外学習の時間(分)	150
第11回	**授業テーマ**	要旨の作成 模型の制作（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図表の修正や全体の構成の確認をした上で要旨の作成を行う。 【設計の場合】図面やレイアウトの修正を行い、要旨を作成する。それに加えて、展示用模型の制作も始める。 【論文の場合】データの修正を行い、要旨を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	要旨のたたき台を持参すること。
	教室外学習の時間(分)	150
第12回	**授業テーマ**	要旨の完成 模型差の作成（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	要旨の最終確認をし、完成させる。設計の場合は、展示用模型の制作を引き続き行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	修正した要旨を持参すること。
	教室外学習の時間(分)	150
第13回	**授業テーマ**	成果物の修正と再レイアウト 模型の作成（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	展示用A1版ポスターの修正を行い、レイアウトに関しても再考する。設計の場合はそれに加え、展示用の模型制作も同時に行う。
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	展示用A1版ポスターの修正を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	150
第14回	**授業テーマ**	発表原稿の作成 発表練習、ポスター印刷
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	原稿の作成、発表練習に加え、展示用模型写真の撮影および、修正した展示用ポスターのレイアウトを行う。伝えるべきことが伝わるよう組み立てられているか確認を行う。また、発表会での発表の方法についても最終確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	修正をした展示用A1版ポスター（縮小したものでも可）の出力したものを持参すること。発表時間内に内容がまとめられている発表ができるよう練習をしてくること。展示用模型を完成させ、修正を終えた展示用A1版ポスター5枚以上の再印刷を行う。指定された場所に展示を行う。論文の場合、本論も持参する。
	教室外学習の時間（分）	150
第15回	**授業テーマ**	発表練習、要旨印刷
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	伝えるべきことが伝わるよう組み立てられているか確認を行う。また、発表会での発表の方法についても最終確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表時間内に内容がまとめられている発表ができるよう練習をしてくること。展示用模型を完成させ、修正を終えた展示用A1版ポスター5枚以上の再印刷を行う。指定された場所に展示を行う。論文の場合、本論も持参する。
	教室外学習の時間（分）	90分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

原則、授業時間内に個別に対応する。その他疑問点や相談は、オフィスアワーやアポイントを取った上日時を決めて、対応する。なお、授業に欠席した分については、必ず次回の授業までにオフィスアワー等を活用し、個別に指導を受けること。

評価方法

平常点（授業態度＋レジュメ提出や提出物）、成果物（設計図書または論文等）、要旨、発表の総合評価とする。
授業回数第1～10回までは、毎回A4版縦使い1枚に予習の成果をレジュメとしてまとめ、提出すること。
詳細は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	

成果物	○			○
要旨	○	○		○
発表		○	○	

評価割合

平常点30%、成果物50%、要旨10%、発表10%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

必要であれば、随時指示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸問題を自ら発見し、理論的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習活動を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー

水曜昼休み～３時限 3512研究室

学生へのメッセージ

卒業研究は、これまで学んできたことの集大成として、重要な位置づけとなっています。自分の興味のあることに取り組み、それをどのように問題提起し、解決していくのかを他人に分かりやすく伝えることが必要とされます。事前に十分な準備をし、主体的な授業への参加を望みます。主体的な授業への参加を望みます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	要旨の作成やポスター・論文の作成にPCを使用し、そのデータ作成方法についても指導する。

講義コード	G03004015
講義名	卒業研究Ｂ（佐々木）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	佐々木 麻紀子	指定なし

ナンバリング

D41210M22

授業概要(教育目的)

家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導にもとづき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。

履修条件

卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	研究テーマに関わる概念や課題を理解し、理論的・体系的に説明することができる
思考・判断の観点 (K)	研究テーマを設定し、適した調査や分析方法を今あんすることができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	課題に主体的に取り組むことがでる
技術・表現の観点 (A)	研究テーマについて自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第1回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究の進め方、提出までのスケジュールを理解し、今後の研究計画を立てる
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：これまでの研究成果を整理しておく 復習：研究計画の修正を行い、卒論の目次を制作する
	教室外学習の時間(分)	90分
第2回	授業テーマ	調査・実験・制作1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の設定した研究計画に基づき、調査・実験・制作を行う。それらの作業結果をまとめ随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：各自の設定した研究計画に応じ、必要な資料の収集及び整理を行う 復習：作業結果をまとめ試料を作成する
	教室外学習の時間(分)	90分
第3回	授業テーマ	調査・実験・制作2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の設定した研究計画に基づき、調査・実験・制作を行う。それらの作業結果をまとめ随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：各自の設定した研究計画に応じ、必要な資料の収集及び整理を行う 復習：作業結果をまとめ試料を作成する
	教室外学習の時間(分)	90分
第4回	授業テーマ	調査・実験・制作3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の設定した研究計画に基づき、調査・実験・制作を行う。それらの作業結果をまとめ随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：各自の設定した研究計画に応じ、必要な資料の収集及び整理を行う 復習：作業結果をまとめ試料を作成する
	教室外学習の時間(分)	90分
第5回	授業テーマ	調査・実験・制作4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の設定した研究計画に基づき、調査・実験・制作を行う。それらの作業結果をまとめ随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：各自の設定した研究計画に応じ、必要な資料の収集及び整理を行う 復習：作業結果をまとめ試料を作成する
	教室外学習の時間(分)	90分
第6回	授業テーマ	調査・実験・制作5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の設定した研究計画に基づき、調査・実験・制作を行う。それらの作業結果をまとめ随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：各自の設定した研究計画に応じ、必要な資料の収集及び整理を行う 復習：作業結果をまとめ試料を作成する
	教室外学習の時間(分)	90分

第7回	授業テーマ	調査・実験・制作6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の設定した研究計画に基づき、調査・実験・制作を行う。それらの作業結果をまとめ随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：各自の設定した研究計画に応じ、必要な資料の収集及び整理を行う 復習：作業結果をまとめ試料を作成する
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	調査・実験・制作7
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の設定した研究計画に基づき、調査・実験・制作を行う。それらの作業結果をまとめ随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：各自の設定した研究計画に応じ、必要な資料の収集及び整理を行う 復習：作業結果をまとめ試料を作成する
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	研究のまとめ1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の設定した研究計画に基づき、調査・実験・制作の作業結果をまとめ随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：各自の設定した研究計画に応じ、必要な資料の収集及び整理を行うこと。 復習：これまでの結果をまとめ論文の下書きを行うこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	研究のまとめ2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の研究結果をまとめ、卒業論文の下書きを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：各自の研究結果を整理して卒業論文の下書きを作成する 復習：卒業論文の下書きを修正する
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	授業テーマ	研究のまとめ3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の研究結果をまとめ、卒業論文の下書きを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：各自の研究結果を整理して卒業論文の下書きを作成する 復習：卒業論文の下書きを修正する
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	研究のまとめ4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの研究の要点を整理しまとめ、卒業研究要旨を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：これまでの調査・実験・制作等の資料を整理し、卒業研究要旨の下書きを作成する

		復習：卒業論文を見直し適宜修正すること
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	**授業テーマ**	研究のまとめ5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの研究の要点を整理しまとめ、卒業研究要旨及びプレゼンテーション資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：卒業研究要旨、プレゼンテーション資料を作成する 復習：卒業論文を見直し適宜修正する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	**授業テーマ**	研究のまとめ6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の研究内容を基にプレゼンテーション資料を作成し、発表に向けた準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：プレゼンテーション資料の作成し発表の準備をする 復習：論文を見直し適宜修正する
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

・研究の進捗状況によりスケジュールに変更が生じる場合があります。
・内容によってはPCが必要になる場合がありますので各自で用意して下さい。

学生へのフィードバック方法

調査・実験・制作等に関する報告や提出された課題については講評や助言、添削などを随時行う。

評価方法

1）平常点は課題に対して授業内活動（報告・発表・ディスカッション等）への参加状況、指示された学習活動への取り組み姿勢、課題の提出状況などを総合的に判断し評価する。
2）研究要旨は課題の内容を理解し文章として表現できていることを評価する。
3）プレゼンテーションは課題の内容を十分に理解し、わかりやすく説明できていることを評価する。
4）卒業論文は課題に沿った十分な内容が記述されていること及び参考書やその他の資料からの記述を基に発展的な考察がされていることを評価する。
学修成果の公平で客観的な評価の実施に向けて、ルーブリックを用いた評価を行います。
ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により学生に提示をします。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点		○	○	
要旨	○	○		○
プレゼンテーション	○			○
卒業論文	○	○	○	○

評価割合

卒業研究の内容20%、要旨10%、プレゼンテーション10%、平常点60%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

個々に指示する

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー

月曜2限 2406研究室

学生へのメッセージ

授業内だけではなく授業外にも自主的に調査・実験・制作などを行うこと

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	各自の課題に対して、調査学習・問題解決学修・ディスカッション等の内容を行う。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献検索方法、論文の書き方、プレゼンテーションの方法に関する内容を行う。
ICT活用	○	情報収集やプレゼンテーションのためにPCや通信機器を活用する。

講義コード	G03004016
講義名	卒業研究Ｂ（花田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	花田 朋美	指定なし

ナンバリング

D41210M22

授業概要(教育目的)

家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進めさせる。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導にもとづき形式を選択させる。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とした指導をする。

履修条件

3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

	授業テーマ	研究テーマの確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	グループワークを行う。卒業研究Aの成果を整理し、発表す

第1回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	る。卒業研究Aでの課題に基づき、卒業研究Bの研究計画を立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕卒業研究Aの成果をレジュメにまとめ人数分の資料を準備しておくこと。 〔復〕研究計画を立案する。
	教室外学習の時間(分)	90分
第2回	授業テーマ	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。
	教室外学習の時間(分)	90分
第3回	授業テーマ	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。
	教室外学習の時間(分)	90分
第4回	授業テーマ	研究報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループディスカッションを行う。各自の進捗状況を整理し、レジュメに基づき報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕研究の進捗状況をレジュメにまとめ、人数分の資料を準備しておくこと。 〔復〕ディスカッションに基づき、研究計画を再検討する。
	教室外学習の時間(分)	90分
第5回	授業テーマ	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。
	教室外学習の時間(分)	90分
第6回	授業テーマ	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。
	教室外学習の時間(分)	90分
	授業テーマ	研究報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	グループディスカッションを行う。各自の進捗状況を整理し、

第7回	育・ICT活用を含む)	レジュメに基づき報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕研究の進捗状況をレジュメにまとめ、人数分の資料を準備しておくこと。〔復〕ディスカッションに基づき、研究計画を再検討する。
	教室外学習の時間(分)	90分
第8回	授業テーマ	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。
	教室外学習の時間(分)	90分
第9回	授業テーマ	研究報告会－要旨提出許可判定－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループディスカッションを行う。要旨提出許可判定審査として、研究テーマに対して取組んだこと全てに関するプレゼンテーション発表をにより報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕自分の研究全ての内容報告のためのプレゼンテーション資料を作成し、発表できるように準備してくること。 〔復〕要旨提出許可判定結果に基づき、要旨を作成する。
	教室外学習の時間(分)	90分
第10回	授業テーマ	研究遂行と論文作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	要旨提出許可判定の結果に基づき、不足の研究を進める。論文作成について、個別ディスカッションを行う。要旨を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕提出要旨を作成してくること。 〔復〕論文作成の準備を進める。
	教室外学習の時間(分)	90分
第11回	授業テーマ	要旨とプレゼンテーション資料の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別ディスカッションを行う。卒研B発表会の要旨とプレゼンテーションの内容、論文作成の検討を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕プレゼンテーション資料の内容を検討してくること。 〔復〕検討内容に基づきプレゼンテーション資料を作成する。最終提出要旨を作成する。
	教室外学習の時間(分)	90分
第12回	授業テーマ	論文とプレゼンテーション資料の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループディスカッションを行う。プレゼンテーション資料に基づき発表し、プレゼンテーション資料の内容を検討する。論文作成の個別ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕プレゼンテーション資料を作成し、発表できるように準備してくること。 〔復〕検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を修正する。論文の作成を進める。
	教室外学習の時間(分)	90分

第13回	授業テーマ	プレゼンテーション練習と論文の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループディスカッションを行う。修正した資料に基づき、プレゼンテーション発表練習をして、再度発表内容の検討を行う。論文作成の個別ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕修正した資料で発表練習をしておくこと。 〔復〕検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を修正する。論文の作成を進める。
	教室外学習の時間(分)	90分
第14回	授業テーマ	プレゼンテーション練習と論文の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループディスカッションを行う。修正した資料に基づき、プレゼンテーション発表練習をして、再度発表内容の検討を行う。論文作成の個別ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕完成要旨を作成してくること。修正した資料で発表練習をしておくこと。 〔復〕検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を修正する。発表練習を繰り返し行うこと。論文を作成すること。
	教室外学習の時間(分)	90分

学習計画注記

研究の進捗状況によりスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

個別ディスカッション、グループディスカッションにおいて対応。質問や相談は、随時受付。

評価方法

①平常点（意欲、態度、研究遂行に対する行動力、調整力、理解力を評価）
②研究報告会での発表（理解力、意欲、思考力を評価）
③卒業研究発表会（理解力、構成力、表現力を評価）
④成果物（理解力、構成力、思考力、完成度 を評価）
評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
平常点	○	○	○	○
発表（報告会）	○	○	○	○
発表（卒研発表会）	○	○	○	○
成果物	○	○	○	○

評価割合

1)研究要旨の合否判定
2)発表会におけるプレゼンテーションの合否判定
平常点30% 発表（報告会）20% 発表（卒研発表会）30% 成果物20% を総合的に評価

使用教科書名(ISBN番号)

指定なし

参考図書

指定なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー

木曜日１２時４０分～１４時２０分 ２４０７被服材料学研究室

学生へのメッセージ

４年間の集大成として、積極的に取り組んでほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション
情報リテラシー教育	○	文献探索、プレゼンテーションの指導
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション

講義コード	G03004017
講義名	卒業研究Ｂ（千葉）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	千葉　一博	指定なし

ナンバリング

D41210M22

授業概要(教育目的)

家政学と、それに関連する研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究の成果は、その内容を考慮して、教員の指導に基づき、論文・計画設計図書・制作等の形式を選択してまとめる。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とする。

履修条件

3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章またはプログラムとして表現できる。

学習計画

	授業テーマ	問題点の把握またはプログラミングなど
	(	

第1回	学習内容 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中間報告の議論を参考に、問題点や足りないことを把握する。または、プログラミングなどを行う。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 問題点や足りないことを整理する。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間（分）	190
第2回	授業テーマ	問題点の解決またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	問題点を解決するにはどうすればよいか、楽しく議論する。または、プログラミングなどを行う。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 問題点を解決し、足りないことを補うよう研究を進める。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間（分）	190
第3回	授業テーマ	研究活動またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別指導を受けたり、グループで検討したりして、論理的な思考や議論を展開する。研究のプロセスについても、議論の対象になる。必要に応じて、情報を収集して整理したり、観察や背景知識の学習をしたりする。または、プログラミングなどを行う。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 研究方法にしたがい、研究を進める。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間（分）	190
第4回	授業テーマ	図表の作成またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の結果などを図表として作成する。または、プログラミングなどを行う。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 図表を調整する。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	図表の分析またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図表を分析し、考察する。または、プログラミングなどを行う。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。

第5回	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 図表の分析、考察を深める。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間（分）	190
第6回	授業テーマ	関連研究の調査またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	関連研究を調査し、注意すべきことを書きだす。または、プログラミングなどを行う。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 関連研究を整理する。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間（分）	190
第7回	授業テーマ	研究の考察またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の意見や考えを出し、関連研究もあわせて研究結果を考察する。または、プログラミングなどを行う。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 研究の考察を深める。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間（分）	190
第8回	授業テーマ	研究プロセスのふり返りまたはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究のプロセスをふり返る。または、プログラミングなどを行う。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 研究の対象や方法、結果と考察を整理する。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間（分）	190
第9回	授業テーマ	論文作成の準備またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文の一貫性を保つようにあらすじを考え、論文作成の準備をする。または、プログラミングなどを行う。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 論文のアウトラインを考える。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習	

	の時間（分）	195
第10回	授業テーマ	論文作成またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の目的、対象や方法を書き、結果を示す。図表も配置する。研究の考察と背景を書き、論文をまとめて仮提出する。論文をレビューし、修正点について議論する。または、プログラミングなどを行う。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 結果を整理する。 復習: 議論に基づき、論文を修正する。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間（分）	100 100
第11回	授業テーマ	論文作成またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	参考文献のリストと必要に応じて謝辞を書き、論文の一貫性を確認する。論文をレビューし、修正点について議論する。または、プログラミングなどを行う。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 参考文献の書誌情報を整理する。 復習: 議論に基づき、論文を修正・清書して提出する。または、プログラミングの結果を確認する。
	教室外学習の時間（分）	100 100
第12回	授業テーマ	後期卒研の要旨作成またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文に基づき、後期卒研の要旨を作成する。そして、その修正点について議論する。または、プログラミングなどを行う。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 要旨の構成を考える。 復習: 議論に基づき、要旨を修正する。またはプログラムなどを仮提出する。
	教室外学習の時間（分）	100 100
第13回	授業テーマ	後期卒研のプレゼンテーション作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文と要旨に基づき、プレゼンテーションを作成する。そして、その修正点や課題について議論する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: プレゼンテーションの流れを考える。 復習: 議論に基づき、プレゼンテーションを編集して課題を整理する。 またはプログラムなどを提出する。
	教室外学習の時間（分）	95 100
	授業テーマ	後期卒研発表
	学習内容(ｱｸ	

第14回	ﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	後期卒研発表会で、研究の目的、対象、方法、結果、考察、結論としての主張したいことをわかりやすく口頭発表をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 発表練習をする。
	教室外学習の時間(分)	190

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

仮提出された論文またはプログラムなどは、チェックして返却する。

評価方法

・平常点は、授業への参加状況等で総合的に判断する。

・論文と後期卒研要旨は各 20 点満点で、論理的な思考力と文章の的確性を確認する。プログラムなどは、情報処理の技術力を評価する。

・後期卒研発表は、独創的な考えの的確性を確認する。

・平常点、論文またはプログラムなど・要旨、後期卒研発表は、下表に示す力を養うことを目的に評価する。

・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○		○	
論文またはプログラムなど		○		○
後期卒研要旨		○		○
後期卒研発表				○

評価割合

平常点 (15%) 、論文またはプログラムなど (20%) 、後期卒研要旨 (20%) 、後期卒研発表 (45%) などを総合的に評価する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「衣」「住」「コミュニケーション・情報」「地域・園芸・ビジネス」「家庭科教育」の各分野について、専門的知識・技術を有している。グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。

【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。

【関心・意欲・態度】社会の中にある問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。

【技能・表現】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。

オフィスアワー

月曜 4 限・水曜 3 限 1411研究室

早朝・深夜を除き、メールでも相談に応じる。
必要であれば、日時を調整してオンラインで対応する。

学生へのメッセージ

自己のテーマに沿った内容について論文またはプログラムなどの作成をする。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に研究する、またはプログラミングなどを通して失敗から学ぶ。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03005001
講義名	テキスタイル材料学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

D12101M21

授業概要(教育目的)

我々の生活に欠く事のできない被服を科学的に捉え、正しく理解するために、繊維製品に関する消費性能について考え、これらの性能を発現させるための原料となる繊維、繊維からなる糸、糸を組み合わせた織物・編物などの布帛について学び、主要な被服材料の化学的・物理的構造が被服にどのように反映されているのかについて考察する力を育成する。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	繊維集合体としての被服材料の性質を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	繊維製品の諸課題を主体的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	繊維製品の諸問題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点 (A)	繊維製品の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	テキスタイル材料学材料学って何？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テキスタイル材料学の講義内容について概説する。グループに分かれて、着用しているものについて、素材、色、形等を調査し、集計をして、発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕指示されたアイテムの衣服調査を行う。
	教室外学習の時間	120分

	（分）	
第2回	**授業テーマ**	被服着用の目的と繊維製品の消費性能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	私たちはなぜ被服を着用しているのか、被服着用の目的と消費性能について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕指示されたアイテムの衣服調査を行い、結果を整理する。配付プリントの「被服着用の目的」「繊維製品の消費性能」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	布帛について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣服調査の結果について、グループディスカッションを行い、指示されたアイテムの衣服がどのようなものであったか発表する。衣服調査の結果はレポート課題として提出する。また、布帛は、繊維や糸がどのように構成されできているのか、織物分解鏡で試料を観察し、衣服は繊維の集合体であることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕指示されたアイテムの衣服調査の結果をまとめる。配付プリントの「布について」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	織物の種類と構造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	織物の基本構造三原組織とはどのようなものか組織図を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕配付プリントの「織物の組織について」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	**授業テーマ**	織物組織資料の製作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	用意された用紙を用いて、三原組織（平織、斜文織、朱子織）の資料を各自作成し、組織の構造と表記の仕方を理解する。作成した資料は課題として提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復〕三原組織（平織、斜文織、朱子織）の資料を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	480分
	授業テーマ	編物の種類と構造 その他の布帛
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	編物経編と横編を理解し、編物の基本組織学ぶ。近年、使用量の増加し

第6回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ている不織布等、その他の布帛についても学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕配付プリントの「編物の組織について」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	授業テーマ	糸について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糸とはどのようなものか、繊維がどのように集合して糸を構成しているのか試料を分解しながら観察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕配付プリントの「糸について」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	授業テーマ	糸の太さの表示
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	恒長式番手、恒重式番手の表示の仕方、糸の太さの計算を方法を理解する。糸の太さの算出の練習問題にグループで回答を導き出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕配付プリントの「糸の太さの表示」を読んでおくこと。練習問題の振り返り。
	教室外学習の時間（分）	170分
第9回	授業テーマ	繊維について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	被服材料の原料となる繊維とはどのようなものであるか理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕配付プリントの「繊維について」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	授業テーマ	繊維の分類－天然繊維－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	天然繊維の構造と特徴の概要を理解する。
	教室外学習(予習・復	〔予・復〕配付プリントの「天然繊維」を読んでおくこと。

	習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	授業テーマ	繊維の分類－化学繊維－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	化学繊維の紡糸法を理解し、繊維製造の概要を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕配付プリントの「化学繊維の紡糸法」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	授業テーマ	新しいテキスタイル材料
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新しいテキスタイル材料についての概要を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕配付プリントの「新しいテキスタイル」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	授業テーマ	テキスタイル製品と環境問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣服の製造、着用、廃棄の各段階で生じている環境問題について理解する。（DVD観賞）
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復〕DVDを鑑賞し、印象に残った点、各自が問題だと感じた点等についてレポートとしてまとめ、提出する。
	教室外学習の時間（分）	250分
第14回	授業テーマ	快適な衣生活のために
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	快適な衣生活のために必要なテキスタイル材料とはどのようなものか総合的に考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕配付プリントを整理し、総復習をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	480分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。
提出課題に対しての修正、コメント。

評価方法

①試験課題
②課題提出（内容の理解、完成度、提出期限の順守について評価）
③平常点（意欲、態度、グループワークにおける行動力、調整力、理解力を評価）
評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
試験課題	○	○	○	
提出課題	○	○	○	○
平常点	○	○	○	

評価割合

筆記試験60% 提出課題20% 平常点20% を総合的に評価

使用教科書名(ISBN番号)

適宜プリントを配布

参考図書

①衣服材料の科学（ISBN4-7679-1044-7 島崎恒藏編著 建帛社発行 平成14年第４刷）
②最新テキスタイル工学II（ISBN978-4-908111-09-9 西松豊典編著 繊維社企画出版発行 2016年第２版）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。
【技能・表現】衣生活デザイン分野の学びを深め課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

オフィスアワー

木曜日１２時４０分～１４時２０分 ２４０７被服材料学研究室
tomoh@kasei-gakuin.ac.jp 質問や相談があればメールを下さい。必要に応じてオンライン、または対面にて対応します。

学生へのメッセージ

被服を最も身近な環境と捉え、快適な衣服とは何か考えてほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによる観察、ディスカッション、調査
情報リテラシー教育	○	情報を分析し整理する
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション

講義コード	G03007001
講義名	衣繊維学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	花田 朋美	指定なし

ナンバリング

D22103M21

授業概要(教育目的)

糸や布の原料である繊維材料としての高分子、その集合体である繊維の構造や性質を微細構造的に捉え、天然繊維、化学繊維の特徴を理解する。更に、高感性繊維、高機能性繊維等の話題の繊維とその繊維に施された技術や発想の原点を学び、繊維を形成する高分子がいかに多彩に変身するか、いかに新しい性質を持つようになったか等について考察する力を育成する。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	繊維集合体としての被服材料の性質を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	繊維製品の諸課題を主体的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	繊維製品の諸問題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点 (A)	繊維製品の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	衣繊維学の概要と繊維製品の消費性能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣繊維学の講義内容について概説する。繊維製品の消費性能とは何か理解する。グループに分かれて、着用している衣服を調査する。
	教室外学習(予習・復	〔予・復〕グループプワークの調査結果をまとめておく。身

	習)の内容	近にかわった繊維がないか調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	持続可能な衣生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣服の製造、着用、廃棄の各段階で生じている諸問題について、動画視聴やグループディスカッションを通して理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕衣服を巡る社会問題、環境問題について調べる。 〔復〕動画視聴やグループディスカッションで学んだ諸問題について、整理し、持続可能な衣生活のために取り組むべきことについて考察する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	繊維高分子の構造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	繊維の構造はどのようなものか、特に衣料用繊維は鎖状高分子であり、結晶性高分子であることが重要な要素であることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕配付プリントの「繊維高分子の構造」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	セルロース繊維－綿・麻－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	セルロース繊維である綿と麻の微細構造を理解する。担当者はプレゼンテーションをする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕配付プリントの「セルロース繊維の構造」を読んでおくこと。担当者はプレゼンテーション資料を準備すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	タンパク質繊維（１）－羊毛－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	タンパク質繊維である羊毛の微細構造を理解する。担当者はプレゼンテーションをする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕配付プリントの「タンパク質繊維－羊毛－の構造」を読んでおくこと。担当者はプレゼンテーション資料を準備すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	タンパク質繊維（２）－絹－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	タンパク質繊維である絹の微細構造を理解する。担当者はプレゼンテーションをする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕配付プリントの「タンパク質繊維－絹－の構造」を読んでおくこと。担当者はプレゼンテーション資料を準備すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	再生繊維・半合成繊維
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	再生繊維（キュプラ、レーヨン）と半合成繊維（アセテート）の微細構造を理解する。担当者はプレゼンテーションを

第7回	育・ICT活用を含む)	する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕配付プリントの「再生繊維・半合成繊維」を読んでおくこと。担当者はプレゼンテーション資料を準備すること。
	教室外学習の時間(分)	180分
第8回	授業テーマ	合成繊維（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ナイロン繊維、ポリエステル繊維、アクリル繊維の微細構造について理解する。担当者はプレゼンテーションをする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕配付プリントの「ナイロン繊維」「ポリエステル繊維」「アクリル繊維」を読んでおくこと。担当者はプレゼンテーション資料を準備すること。
	教室外学習の時間(分)	180分
第9回	授業テーマ	合成繊維（２）－その他の合成繊維、生分解性合成繊維ー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	その他衣料用繊維として汎用性の高い繊維や、近年注目されている生分解性合成繊維の構造を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕配付プリントの「その他の合成繊維」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
第10回	授業テーマ	高感性・高機能性繊維の開発の歴史と製造技術の進展（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高機能性繊維の発想の原点とその背景を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕配付プリントの「高感性・高機能性繊維（１）」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
第11回	授業テーマ	高感性・高機能性繊維の開発の歴史と製造技術の進展（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高機能性繊維の製造技術の進展と技術要素を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕配付プリントの「高感性・高機能性繊維（２）」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
第12回	授業テーマ	バイオミメティック繊維
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バイオミメティック（生体模倣）の繊維の着眼点と技術要素を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕配付プリントの「バイオミメティック繊維」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
	授業テーマ	進化を続ける高機能繊維
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	繊維の製造技術は進化し続け、私たちの周りには従来品を超える新しい高機能繊維があふれていることを理解し、快適な衣生活とは何か考察する。

第13回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕配付プリントの「進化を続ける高機能繊維い」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	授業テーマ	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	持続可能で快適な衣生活のために必要な取り組みとはとは何かグループディスカッションを行い、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕配布プリントを整理し、総復習をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	310分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。

評価方法

筆記試験
課題（内容の理解、完成度、プレゼンテーション、提出期限の順守を評価）
プレゼンテーション（内容の理解、完成度、プレゼンテーション、提出期限の順守を評価）
平常点（意欲、態度、グループワークにおける行動力、調整力、理解力を評価）
評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
筆記試験	○	○	○	
課題	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○
平常点	○	○	○	

評価割合

筆記試験40% 課題20% プレゼンテーション20% 平常点20% を総合的に評価

使用教科書名(ISBN番号)

適宜プリントを配布

参考図書

①衣服材料の科学（ISBN4-7679-1044-7 島崎恒藏編著 建帛社発行 平成14年第４刷）
②最新テキスタイル工学II（ISBN978-4-908111-09-9 西松豊典編著 繊維社企画出版発行 2016年第２版）
③新繊維学材料入門（ISBN4-526-03172-01 宮本武明 本宮達也著 日刊工業新聞社発行 2004年）
④繊維の科学（ISBN978-4-526-07641-1 日本繊維技術士センター編 日刊工業新聞社発行 2016年）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。

【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。

オフィスアワー

木曜日１２時４０分～１４時２０分 ２４０７被服材料学研究室
tomoh@kasei-gakuin.ac.jp 質問や相談があればメールを下さい。必要に応じてオンライン、または対面にて対応します。

学生へのメッセージ

被服を最も身近な環境と捉え、快適な衣服とは何か考えてほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによる観察、ディスカッション
情報リテラシー教育	○	情報の分析、整理、アウトプット（レポート、プレゼンテーション）
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション

講義コード	G03012001
講義名	被服整理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	長嶋 直子	指定なし

ナンバリング

D32108M21

授業概要(教育目的)

衣服は、人が着用することによって人体から汗や皮脂、外部環境から泥や粉塵などの汚れが付着する。付着した汚れは、洗濯によって取り除かれ、衣服は清潔に保たれる。近年、加工により様々な性質を持つ繊維が現れ、その洗浄方法は複雑化している。この授業では、洗剤、洗濯用水、衣服の付着した汚れ、汚れの種類と洗浄方法について自然科学の視点から解説する。衣服の洗浄について基礎的知識を習得し、日常生活に応用することを目標とする。

履修条件

テキスタイル材料学を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	洗剤や洗濯用水、衣服の付着した汚れ、汚れの種類と洗浄方法、環境との関わりについて、自然科学的に説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	家庭洗濯、商業洗濯、環境との関わりに関する諸課題を主体的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	家庭洗濯、商業洗濯、環境との関わりに関する諸問題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点 (A)	家庭洗濯、商業洗濯、環境との関わりに関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学習計画

被服整理学2023のスケジュール

	授業テーマ	被服整理学とは？
	学習内容(ｱｸ	

第1回	ﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	被服整理学の講義内容について概説する。 洗濯の対象となる衣服の汚れについて、汚れの分類、性状から見た汚れの種類、汚れの付着、汚れによる衣服地の性能の低下について概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	［予・復］教科書の第1章を読み、洗濯の必要性について考察する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	洗濯用水と衣料用洗剤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第2章の家庭洗濯で用いる「水」として、どのような水がふさわしいのか、その根拠は何か、解説する。また、「衣料用洗剤」の変遷、種類、表示、そして環境との関わりについて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	［予・復］自宅で使用している衣料用洗剤のラベルまたはHPに記載されている成分等をノートに記載しておく。洗濯排水による環境への影響について、どのようなことが懸念されるか、どのような対策が行われているか調べる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	洗剤の成分と洗浄作用（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	洗剤の主成分である界面活性剤とは何か、界面活性剤水溶液の性質（表面張力、界面張力、ミセル形成、水に対する溶解性）について概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	［予・復］第3章、1.界面活性剤、2.界面活性剤水溶液の性質を読み、臨界ミセル濃度、クラフト点、曇点などの用語を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	洗剤の成分と洗浄作用（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	界面活性剤の種類、配合剤の種類と洗浄作用について概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	［予・復］第3章3と4を読んだ上で、第2回の授業で調べた自宅の衣料用洗剤の成分の役割を再確認、整理する。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	洗剤の成分と洗浄作用（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	汚れ除去のメカニズムとして、ぬれ、油性汚れの除去、固体粒子汚れの除去について概説する。

第5回	用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	［予・復］第3章 5.汚れ除去のメカニズムを読み、ぬれ、乳化、可溶化、拡散電気二重層などの定義や言葉の意味を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	洗濯機
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	洗濯における機械力の歴史、世界の洗濯機の現状、日本における洗濯機の変遷と最近の動向について概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	［予・復］第4章を読んだ上で、自宅の洗濯機の洗浄方式、洗浄時間、洗濯容量は何Kgかなどを調べておく。家電量販店やHPなどで、最近の洗濯機の動向などを調べる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	家庭洗濯
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭洗濯による衣服の機能性低下、洗濯の手順と方法、洗剤濃度・温度・時間・浴比と洗浄力について概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	［予・復］第5章の図5-2、図5-3、図5-4のから読み取れることを整理しておく。講義を踏まえて、衣類の損傷をできるだけ抑え、効率的に汚れを除去する条件（洗浄温度、時間、洗剤濃度、浴比）を考察する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	洗浄力の試験法と評価、機械作用の試験法と評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	被洗物、洗剤、洗濯機、洗濯用水、洗浄条件について学んできたが、それらを組み合わせ、それぞれの目的にあった洗浄性の試験方法および評価方法が提案されている。また、洗濯は水、洗剤、機械力を組み合わせて行われ、洗濯時の機会作用を測定する試験方法が検討されている。それらについて、概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	［予・復］第6章、第7章を読み、①日本と海外の人工汚染布の汚垢組成が異なる理由、②機械作用の評価方法が規格化されていない理由を考える。汚染布の洗浄前後のK/S値から洗浄率（D）を求める復習問題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	漂白と増白、染み抜き
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第8章の漂白の原理、漂白剤の種類、使用方法、増白の原理、蛍光増白剤の特徴、第9章の染み抜きについて概説する。
	教室外学習(予習・復	［予・復］自宅にある漂白剤の品名、種類、成分、液性、使える色、使えないものを整理する。所有する衣服の漂白に関する記号とその意味を確認する。なぜ、ベビー用洗剤には蛍光増白剤が入っていないのか、そ

	習)の内容	の理由を考える。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	糊付けと仕上げ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	元の形や風合いを回復し、着心地の良いものにするために行う糊付け、柔軟仕上げ、アイロン仕上げについて概説する（第10章）。
	教室外学習(予習・復習)の内容	［予・復］①使用している柔軟剤の品名、成分、標準使用量の調査する。②柔軟剤使用による静電気防止の仕組みを説明する。③糊付けを行うとよいテキスタイル製品は何か、理由と共にを挙げる。④合成洗剤、セルロース系繊維、羊毛、それぞれアイロン仕上げが異なる理由を考える。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	衣服の保管
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	季節外の衣服は十分な手入れをして保管しておく必要がある。ここでは、保管中の衣服の損傷、虫害と防虫、防かびと抗菌、保管方法について概説する（第11章）。
	教室外学習(予習・復習)の内容	［予・復］自宅のクローゼットやタンスに使用している防虫剤の名称と薬剤名を調べる。講義を踏まえ、虫害やカビの被害にあわないために、どのような注意や手入れ、保管がよいか、整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	商業洗濯
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで家庭洗濯について学んできたが、ここでは商業洗濯（第12章）について学ぶ。いわゆるドライクリーニング、ランドリーそしてウェットクリーニングについて概説したのち、クリーニング事故の内容、ドライクリーニングと環境問題についても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	［予・復］スパンコールのついた衣服は、石油系溶剤とパークロロエチレンでは、どちらで処理すべきか、教科書を読んで考えておく。講義内容を踏まえ、ドライクリーニングの諸課題とくに環境問題について、ノートに整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	360分
第13回	**授業テーマ**	取扱い表示
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第13章の繊維製品の取扱い表示について、JIS L 0001の表示の説明、旧取扱い表示（JIS L 0217）との違いと対応表について概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	［予・復］各自の所持服の取扱い表示記号と付記用語を整理する。普段の洗濯行動と照らし合わせ、適切に行えていたか、なぜ行えないのか、考察する。

	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	**授業テーマ**	衣服の廃棄とリサイクル
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第14章の死蔵衣服、ゴミとしての処分、繊維製品の再資源化、企業におけるリサイクルの取り組みについて概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	［予・復］自分自身の衣服の処分の仕方について、振り返り、ノートに整理しておく。講義を踏まえて、今後、衣服の廃棄とリサイクルにどのように取り組むか考える。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

全14回、オンデマンドで行う。

学生へのフィードバック方法

Google Classroomに提出されるコメントペーパーにコメントする。または、翌週の授業冒頭でコメントする。

評価方法

以下2点について、内容の理解、完成度、提出期限の順守を評価する。
①授業ごとの課題
②総合課題
なお、評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業ごとの課題	○	○	○	○
総合課題	○	○	○	○

評価割合

授業ごとの課題70%、総合課題30%を総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

改訂被服整理学（一般社団法人日本衣料管理協会発行）

参考図書

授業中に適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心をもつことができる。
【技能・表現】衣生活デザイン分野の学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学生へのメッセージ

本科目の中心は洗濯です。各自が自分の生活の中で、洗濯（洗濯機洗い、手洗い、柔軟仕上げ、乾燥方法、仕上げと保管）を体験してください。また洗剤、漂白剤、柔軟剤、糊料などにはどのようなものがあるのか、ご自宅ではどのようなものを使っているのか、興味を持って調べてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	洗剤、柔軟剤、漂白剤、洗濯機などの市場調査
情報リテラシー教育	○	情報を分析し整理する
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション

講義コード	G03014001
講義名	染色加工学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	花田 朋美	指定なし

ナンバリング

D32106M21

授業概要(教育目的)

染色は古代から人類の生活に密接に関連する重要な分野で、多くの自然科学に関連する境界領域の科学である。色についての基礎的理解を深め、天然・合成染料の化学構造、化学構造と性質・分類などの一般的概念、及び染色の基礎理論を理解する。更に、伝統的な染色方法、現代の染色について学び、染色加工の問題について考察する力を育成する。

履修条件

なし（染色学実験を併せて履修することが望ましい）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	染色に関する基礎理論を理解し、実践できる知識と技術を身につけている。
思考・判断の観点 (K)	繊維に適した染料の選択と染色方法を例示できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	繊維製品の諸問題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点 (A)	繊維製品の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学習計画

	授業テーマ	染色学の概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	染色学の講義内容について概説する。染色とはどのような現象か、染料と顔料の違いは何か理解できる。

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	身近な衣服で染料で染色されたものと顔料でプリントされたものを探してみる。
	教室外学習の時間(分)	180分
第2回	**授業テーマ**	染色の歴史
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	染色の起源はいつどのようなものであったか、またどのように発展してきたかを学び、染色に使われてきた天然染料と合成染料の概要を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付プリントの「染色の歴史」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
第3回	**授業テーマ**	染色の方法と条件
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	浸染や捺染等の染色加工法の概要、及び、時間、温度、浴比、濃度等、染色時の設定条件を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付プリントの「染色の方法と条件」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
第4回	**授業テーマ**	光と色
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	色を認識するためには、「光」「物体」「視覚」の三要素が必要であること、特に可視領域の電磁波と色は密接な関係があることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付プリントの「光と色」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
第5回	**授業テーマ**	染色性の評価法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	染色化学においては、染料液の濃度や染色布の染着量などを科学的に測定することが基本となるため、染料液の吸光度測定と繊維表面の反射率測定により色素濃度を測定することを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付プリントの「染料及び染色物の評価」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
第6回	**授業テーマ**	天然染料の概説と伝統的な染色方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	代表的な天然染料を染料の実物や染色物を確認しながら理解する。伝統的な染色技法についても解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付プリントの「天然染料」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
	授業テーマ	染色の基礎理論

第7回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	染色過程における染料の染着挙動、繊維内部への拡散挙動を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付プリントの「染色とは」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
第8回	**授業テーマ**	合成染料の概説
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	合成染料開発の背景、及び各種合成染料の特徴を理解し、各々に適用繊維があることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付プリントの「合成染料」「合成染料の分類」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
第9回	**授業テーマ**	繊維と染料の結合力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	繊維と染料間に結合力（ファンデルワールス結合、水素結合、イオン結合、共有結合と配位結合）が生じるために染色ができることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付プリントの「結合の種類とその力」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
第10回	**授業テーマ**	セルロース繊維の染色
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	セルロース繊維の染色機構を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付プリントの「セルロース繊維の染染色機構」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
第11回	**授業テーマ**	タンパク質繊維の染色
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	タンパク質繊維の染色機構を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付プリントの「タンパク質繊維の染色機構」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
第12回	**授業テーマ**	合成繊維の染色
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	合成繊維の染色機構を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付プリントの「合成繊維の染色機構」を読んでおくこと。

	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	**授業テーマ**	染色に関するトラブル
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	染色物の変退色、事故品、色に関わるトラブル、染色の環境問題について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付プリントの「染色に関するトラブル」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	**授業テーマ**	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	繊維に適した染色について総括的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを整理し、総復習をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	310分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。

評価方法

①筆記試験
②課題提出（内容の理解、完成度、提出期限の順守について評価）
③平常点（関心、意欲、態度を評価）
評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
筆記試験	○	○	○	
課題	○	○	○	○
平常点	○	○	○	

評価割合

筆記試験60% 課題20% 平常点20% を総合的に評価

使用教科書名(ISBN番号)

適宜プリントを配布

参考図書

①染色 理論と工芸染色（青木美津枝 飯島敏郎 蓮見幸子共著 柴田書店発行 昭和61年三訂版第６刷）
②染色って何？やさしい染色の化学（ISBN978-4-9902580-4-7 繊維応用技術研究会編 繊維社企画出版発行 2015年第３版）
③染色加工学（一般社団法人 日本衣料管理協会出版部会編 日本衣料管理協会発行 2020年2月）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。

オフィスアワー

金曜日１２時４０分～１４時２０分 ２４０７被服材料学研究室
tomoh@kasei-gakuin.ac.jp 質問や相談があればメールを下さい。必要に応じてオンライン、または対面にて対応します。

学生へのメッセージ

被服を最も身近な環境と捉え、快適な衣服とは何か考えてほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッションを行う
情報リテラシー教育	○	情報を分析し整理する
ICT活用	○	Googleによる双方向コミュニケーション

講義コード	G03015001
講義名	染色加工学実験
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	花田 朋美	指定なし

ナンバリング

D32107M23

授業概要(教育目的)

染色学の講義で習得した知識をもとに、１）酸性染料の合成と羊毛の染色 ２）ナフトール染料による木綿の染色 ３）塩基性カチオン染料によるアクリルの染色 ４）建染め染料による木綿の染色 ５）天然繊維、合成繊維に対する各種染料の染色等のテーマについて、さまざまな染色条件での実験や測色に関する実験を実施し、染色に関する基礎理論を理解し、実践できる力を育成する。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	染色に関する基礎理論を理解し、実践できる知識と技術を身につけている。
思考・判断の観点 (K)	繊維に適した染料の選択と染色方法を例示できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	繊維製品の諸課題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点 (A)	繊維製品の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学習計画

	授業テーマ	実験プログラムの説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	染色学実験で行う実験内容、試料、器具の取り扱い等について概要を説明する。

第1回	育・ICT活用を含む)	レポートの書き方や情報検索の方法についても解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復〕実験書を確認し授業の全体像を確認する。実験やレポート作成に必要なものを準備する。
	教室外学習の時間（分）	30分
第2回	授業テーマ	酸性染料OrangeIIの合成（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	酸性染料OrangeIIの合成方法を理解し、グループ毎にカップリング反応の準備をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕実験書（p.1～2）「酸性染料OrangeIIの合成」の英文を訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	150分
第3回	授業テーマ	酸性染料OrangeIIの合成（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ジアゾ化反応、カップリング反応を理解し、グループ毎に酸性染料OrangeIIを合成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書（p.1～3）「酸性染料OrangeIIの合成」の英文と「Direction」を読み、OrangeIIの合成方法を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	酸性染料OrangeIIによる羊毛繊維の染色
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	合成した酸性染料OrangeIIを使用し、羊毛繊維の染色を行う。グループ毎に酸性度の条件を変化させ、酸性染料の染色に及ぼす酸性度の影響について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書（p.4～6）「OrangeIIによる羊毛の染色」を読んでおくこと。酸性染料OrangeIIの合成と羊毛繊維の染色のレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	150分
第5回	授業テーマ	ナフトール染料（不溶性アゾ染料）による木綿の染色（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループ毎に繊維上で染料を合成する染色法のナフトール染料を用いて木綿の染色を行う。下付け液を合成し、顕色剤として、Fast colour saltを用いる。更に、ソーピングの方法と効果を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書（p.7～17）「ナフトール染料による木綿の染色」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	ナフトール染料（不溶性アゾ染料）による木綿の染色（2）

第6回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	グループ毎にジアゾ化反応を行い、顕色剤を合成してナフトール染料による木綿の染色を行い、不溶性アゾ染料の染色方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書（p.7～17）「ナフトール染料による木綿の染色」を読み、顕色剤の合成方法を確認しておくこと。ナフトール染料による木綿の染色のレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	150分
第7回	**授業テーマ**	カチオン染料によるアクリル繊維の染色（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	カチオン染料によるアクリル繊維の染色を行う。グループ毎に染色温度を変化させ、染着に及ぼす温度効果について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書（p.18～20）「アクリル繊維の染色」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	カチオン染料によるアクリル繊維の染色（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	カチオン染料水溶液の検量線の作成、及び、アクリル繊維を染色した後のカチオン染料残液の可視吸収スペクトル測定を行い、染着量を算出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書（p.18～20）「アクリル繊維の染色」を読んでおくこと。可視吸収スペクトル測定値より、検量線となるグラフ、及び染着量の温度依存性の結果をグラフにまとめる。カチオン染料によるアクリル繊維の染色のレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	150分
第9回	**授業テーマ**	木綿の建染め染料による染色（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インジゴのハイドロサルファイト建染め染料を用いて木綿の染色を行い、建染染料の染色機構を理解する。参加回数の効果について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書（p.21、22、24、25）「木綿の建染め染料による染色－インジゴのハイドロサルファイト建染め染料ー 」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	木綿の建染め染料による染色（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アントラキノン系建染め染料を用いて、温浴法中色染色により木綿の染色を行う。染色時間の効果について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書（p.23、26、27）「木綿の建染め染料による染色－アントラキノン系建染め染料ー 」を読んでおくこと。 木綿の建染め染料による染色のレポートを作成する。

	教室外学習の時間（分）	150分
第11回	**授業テーマ**	各種染料による染色（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループ毎に三大天然繊維と三大合成繊維計６種を染色温度と時間の条件を変化させ、直接染料と酸性染料で染色実験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書（p.28、29、30）「各種染料による染色」「直接染料による染色 」「酸性染料による染色」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	各種染料による染色（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループ毎に三大天然繊維と三大合成繊維計６種を染色温度と時間の条件を変化させ、塩基性染料と分散染料で染色実験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書（p.28、31、32）「各種染料による染色」「塩基性染料による染色 」「分散染料による染色」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	各種染料による染色（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	三大天然繊維と三大合成繊維計６種を、染色温度と時間の条件ををを変化させ、４種の染料で染色した試料を整理、分析し、繊維による染色性の違いと温度と時間の効果を総合的に考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復〕各種染料による染色のレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	150分
第14回	**授業テーマ**	総合的考察
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全体の実験結果を振り返り、各種染料の用法と染色方法、染料と繊維の染着機構を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕繊維と染料間に働く親和力について整理する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。実験レポートへのコメント。

評価方法

①実験レポート（実験内容の理解、構成、丁寧さ、意欲、提出期限の順守を評価）
②平常点（実験内容の理解、行動力、調整力、意欲、態度を評価）
評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実験レポート	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

レポート60% 平常点40% を総合的に評価

使用教科書名(ISBN番号)

染色学実験実験書

参考図書

①染色 理論と工芸染色（青木美津枝 飯島敏郎 蓮見幸子共著 柴田書店発行 昭和61年三訂版第６刷）
②染色って何？やさしい染色の化学（ISBN978-4-9902580-4-7 繊維応用技術研究会編 繊維社企画出版発行 2015年第３版）
③染色加工学（一般社団法人 日本衣料管理協会出版部会編 日本衣料管理協会発行 2020年2月）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。
【技能・表現】衣生活デザイン分野の学びを深め課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

オフィスアワー

木曜日１２時４０分～１４時２０分 ２４０７被服材料学研究室
tomoh@kasei-gakuin.ac.jp 質問や相談があればメールを下さい。必要に応じてオンライン、または対面にて対応します。

学生へのメッセージ

各実際に実験を経験することで、講義で習得した知識をより深めることができると思います。主体的に参加してほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	毎回グループワークによる実験を実施する。
情報リテラシー教育	○	実験テーマ毎のレポート提出を課題とする。
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション

講義コード	G03018001
講義名	アパレル設計論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	富田 弘美	指定なし

ナンバリング

D22206M21

授業概要(教育目的)

被服設計の基礎知識として衣服の分類、人体の構造と計測、体型の特徴と衣服、JISサイズ、身頃原型の設定、身頃・袖・衿・ハーフパンツの製図と展開、服飾素材・副資材の選定、立体化の技法などを学び、衣服製作の設計力をつけることを目的とする。また、副資材（ファスナー）の企業による講師を迎えて特別授業を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	衣生活に関する諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

アパレル設計論

	授業テーマ	ガイダンス 人体人体計測（身頃原型に必要な寸法の計測）、製図の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	レポート課題と量産のために必要な人体計測機器、計測方法、各自の身頃原型に必要な計測について理解する。

第1回	む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「人体形態の把握」（p.5～11）、「基準線から」（p.11～30）を読んでおくこと。計測は衣服の上から行うが、厚い上着の場合は脱げるような服装でくること。
	教室外学習の時間（分）	185分
第2回	授業テーマ	パターン設計１（身頃原型の製図１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	立体的な人体と平面的な身頃原型から人体の形態を把握し、身頃原型の製図作成のための計測値の算計方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「パターン設計」（p.37～40、p.45～46）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	パターン設計２（身頃原型の製図２、完成）、シーチングの準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実物大の身頃原型の製図を書くことができる。シーチング（生地）の扱い方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「パターン設計」（p.46～48）や配付プリントを読んでおくこと。製図の点検後は、直しのある場合は修正すること。後期の「服飾造形実習Ｂ」で使用するので各自保管すること。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	パターン設計３（原型のパターン作成・裁断・印付け）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	製図からシーチングに原型をトレースし、裁断、印付付けの方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	印付けまで済ませておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	パターン設計４（原型の縫製１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ダーツ（AHダーツ、肩ダーツ、ウエストダーツ）の縫製方法を学ぶ。（ミシンまたは手縫いで行う。）
	教室外学習(予習・復習)の内容	ダーツ縫いを済ませておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	パターン設計５（原型の縫製２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	上半身の身頃の肩、脇、裾、AHなどの縫製方法を理解する。（ミシンまたは手縫いで行う。）
	教室外学習(予習・復習)の内容	縫製を完成させること。
	教室外学習の時間	190分

	（分）	
第7回	**授業テーマ**	パターン設計６（原型の試着点検）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	試着点検のやり方と補正の仕方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	縫製はすべて完成させること。身頃原型は後期の「服飾造形実習B」で使用するので、点検後の製図は保管しておくこと。試着点検は授業内で行い、着替えができる服装でくること。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	特別授業（副素材）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	副素材のファスナー・スナップについて株式会社ＹＫＫの講師によって講義を行う。実務経験を活かした授業である。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付プリント、資料の整理をすること。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	胸ダーツの展開１ レポート課題の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バストダーツの移動についてその意味と方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「パターン設計」（p.46～48）、教科書「バストダーツの移動」（p.41～43）を読んでおくこと。レポートのまとめとして重要。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	胸ダーツの展開２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肩ダーツの移動についてその意味と方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「肩ダーツの移動」（p.44）、「衿の作図」（54～55）を読んでおくこと。レポートのまとめとして重要。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	衿の製図１（衿のヴァリエーション・前身頃ブラウスとの関係）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前身頃ブラウスとの関係を把握し、1/4縮尺で基本のシャツカラー・スタンドカラー・台襟付きシャツカラー・ボウカラー・フラットカラーなどの製図を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「衿の作図」（p.54～55）を読んでおくこと。服飾造形実習Ｂの課題に関連するので衿の製図手順を整理しておくこと。レポートのまとめとして重要。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	衿の製図２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰ	

第12回	ﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本のシャツカラー・フラットカラーの製図、すなわち平面から立体に表現した衿の上がり寸法、衿腰の変化を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「衿の作図」（p.54～55）を読んでおくこと。服飾造形実習Ｂの課題に関連するので衿の製図手順を整理しておくこと。レポートのまとめとして重要。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	袖の製図１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本のセットインスリーブの製図（1/4）と袖山、袖幅の関係を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「袖の作図」（p.51～54）を読んでおくこと。レポートのまとめとして重要。
	教室外学習の時間（分）	185分
第14回	授業テーマ	袖の製図２（袖のヴァリエーション・前身頃ブラウスとの関係）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前身頃ブラウスとの関係を把握して基本のセットインスリーブからパフスリーブへの展開を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「袖の作図」（p.51～54）を読んでおくこと。レポート提出の準備をすること。
	教室外学習の時間（分）	185分

学習計画注記

身頃原型の試着点検や製図の提出期日を守こと。

学生へのフィードバック方法

提出物（身頃原型、その他）の課題に対するコメント

評価方法

平常点（授業への参加状況・課題提出期日などで総合的に判断する）、提出物（身頃原型の製図、その他）、レポートについて、ルーブリックを用いた評価を行う。（ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配付等によって指示する。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
提出物	○	○	○	○
レポート	○	○	○	

評価割合

平常点20%（授業への参加状況・提出期日などで総合的に判断する）、提出物（身頃原型の製図・縫製、衿・袖・ハーフパンツの製図他）40%、レポート40%

使用教科書名(ISBN番号)

「アパレル生産実習・アパレル設計実習」一般社団法人日本衣料管理協会
（3年「アパレル生産実習」でもこの教科書を使用する。）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】衣生活に関する諸課題についての知識を深める。【思考・判断】衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。【技術・表現】衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

オフィスアワー

木曜日12:30～14:00

学生へのメッセージ

身頃原型は、基本的な体型やサイズを映し出す基型になるものです。
この授業では身頃原型を製図し、後期の「服飾造形実習B」で使用しますので履修する学生は保管しておいてください。また、パターンに関する基礎力を付けたい方やパターンメーキング検定試験の受験を希望する方は、この科目で関連した内容を扱うので履修してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	副資材を扱っているファスナーの企業の講師を特別授業で依頼している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03025001
講義名	ウィービングデザイン演習Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	馬場 美和子	指定なし

ナンバリング

D22302M22

授業概要(教育目的)

テキスタイル材料学で学んだ織物に関する基礎知識をもとに、目的や用途に合った布地、風合い、色柄を備えたテキスタイルを適切に企画、設計、素材選定できる力を身に付けるため、手織機により三原組織（平織･斜文織･朱子織）の設計及び制作を行う。（但し朱子織は4枚綜絖の織り方とする。）テキスタイルデザインの基礎的な理論と技術を理解する力を育成する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．織物組織、糸と密度の関係、風合いについて理解を深める。 ２．手織機の構造を理解する。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	１．用途に合った布の仕上げ、表現ができる。 ２．手織機のセッティングと操作ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	織物の概要。 基礎制作「三原組織の色糸効果」の課題説明。 一人一台手織機を使用し２色以上のコントラストのはっきりしたウール糸を用いて配列を作りパターンを製作する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	経糸の配色のイメージを決める。整経をする。
	教室外学習の時間（分）	80分
第2回	**授業テーマ**	基礎織：三原組織の色糸効果
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	機ごしらえをする。（筬通し・綜絖通し・経糸の巻き込み・織り付け）
	教室外学習(予習・復習)の内容	機ごしらえを終わらせる。
	教室外学習の時間（分）	80分
第3回	**授業テーマ**	基礎織：三原組織の色糸効果
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平織と斜文織を織る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	平織と斜文織を織り終える。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	**授業テーマ**	基礎織：三原組織の色糸効果
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平織・斜文織･朱子織・自由織の組織図作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	組織図を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	**授業テーマ**	基礎織：三原組織の色糸効果
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	朱子織と自由織を織る。 機から下ろし、房の始末をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	朱子織と自由織を織り上げ、房の始末をする。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	**授業テーマ**	基礎織：三原組織の色糸効果
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	布の縮絨をする。 応用制作のガイダンス
	教室外学習(予習・復習)の内容	布の縮絨を終わらせる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	**授業テーマ**	応用制作：「食を彩るランチョンマット」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーブルコーディネイト、メニューを考え、料理に映えるランチョンマットを企画する。 組織（基礎織をアレンジする）を決め、デザインを考える。 基礎織の縮絨の記録レポートを書く。
	教室外学習(予習・復習)の内容	組織を決め、デザインを決定する。 レポートを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	80分
	授業テーマ	応用制作：「食を彩るランチョンマット」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	糸を決める。

第8回	む)	織物設計表を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	織物設計表を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	80分
第9回	授業テーマ	応用制作：「食を彩るランチョンマット」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	機ごしらえ（整経）
	教室外学習(予習・復習)の内容	整経を終わらせる。
	教室外学習の時間（分）	80分
第10回	授業テーマ	応用制作：「食を彩るランチョンマット」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	機ごしらえ（筬通し・綜絖通し・経糸の巻き込み・織り付け）
	教室外学習(予習・復習)の内容	機ごしらえを終わらせる。
	教室外学習の時間（分）	80分
第11回	授業テーマ	応用制作：「食を彩るランチョンマット」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	製織
	教室外学習(予習・復習)の内容	製織を終わらせる。
	教室外学習の時間（分）	80分
第12回	授業テーマ	応用制作：「食を彩るランチョンマット」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ランチョンマットの房のしまつと仕上げをする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ランチョンマットの房のしまつと仕上げを終わらせる。
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	授業テーマ	応用制作：「食を彩るランチョンマット」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーブルコーディネートをし、写真を撮る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	写真を撮り終える。 A4サイズの用紙にタイトル、コンセプト、写真を貼り付ける。 プリントアウトする。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	授業テーマ	講評会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基礎制作と応用制作の講評をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	提出物のまとめをする。
	教室外学習の時間（分）	80分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

期末提出物は採点し、返却する。

評価方法

ルーブリックに基づく評価成績です。（初回の授業でルーブリックについて説明します）
ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により掲示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末提出物	○		○	○
平常点・授業姿勢	○	○	○	
講評会（発表含む）		○	○	

評価割合

期末提出物60%
平常点・授業姿勢 30%
講評会（発表5%講評5%）

使用教科書名(ISBN番号)

プリント資料配布

参考図書

ウィービング・ノート 織物と組織・織りの計画・織りと道具 岸田幸吉著 1978年10月美術出版社
手織のデザイン基礎編 長谷川麥子著 1979年9月源流社
ハンドウィービング手織りの実習 浜野義子 田中佳子 太作星乃 田中通子共著 1984年9月文化出版局

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「衣」について専門的知識・技能を有している。グローバルな視点から「衣」の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。

学生へのメッセージ

織り実習では織機を１人１台使用します。毎回異なった作業をするので、できるだけ遅刻欠席の無いようにしてください。織り機を使って糸から布を織ってみたい方、歓迎です！ファブリックで生活に彩りを添えませんか？

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は染織作家として実務経験を有している。作品制作を行い個展の開催や商品の販売を行っており 制作について指導することができる。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03028001
講義名	衣環境衛生学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2,3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	丸田 直美	指定なし

ナンバリング

D32110M21

授業概要(教育目的)

快適で健康的・機能的な被服の在り方を人体の生理衛生的観点から理解するため、被服の条件を「気候への適応性」「運動・動作への適応性」「皮膚の生理・衛生」の３つの視点から捉え、適切な被服素材、設計、着装が選択でき、現代社会における被服の健康問題について考察する基礎的な知識を修得することを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	被服の素材、デザイン、着方および環境を含む衣生活全般について、専門的な知識を含めて修得し、その内容を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	快適で健康的・機能的な被服の在り方について、適切な被服素材、設計、着装の選択について考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣料管理士として、健康的な衣生活について専門的な知識や情報収集能力を持つことを自覚できる。
技術・表現の観点 (A)	人体生理衛生に関する事象に対して実証的に調べる基礎的な方法を身につけることができる。

学習計画

1	**授業テーマ**	被服による健康確保の概論および歴史的背景
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オリエンテーション 衣環境衛生学の目的、研究対象と範囲、快適性・健康とは何か。 アパレルが健康に及ぼす影響や健康増進に果たす役割を人間の生理に基礎をおいて捉えることの重要性について概説する。

第 回	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布資料の熟読 復習：現代の衣生活における問題点の抽出、原因や対策について考察
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習60分
第2回	授業テーマ	体温と皮膚温
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人間の体温は環境温度が変化してもほぼ一定に保たれるが、皮膚温は環境温度によって変化する。これらの仕組みについて体温調節の観点から概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布資料の熟読（体温、皮膚温について理解をする）。 復習：自分の平熱を測定して、1日の体温変動を調べるフィールドワークを行う。体温変動について考察しレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習240分
第3回	授業テーマ	人体における産熱
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体のエネルギー代謝の仕組みや種類、特徴について概説する。 自分の基礎代謝や一日のエネルギー代謝について調べ、自分自身の身体について理解を深める。 自身の一日の行動内容とエネルギー代謝量の関係を演習を通して確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布資料の熟読（エネルギー代謝のしくみについて理解を深める）。 復習：授業で取り上げた日以外の日を取り上げて、再度行動内容とエネルギー代謝について復習をする。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習120分
第4回	授業テーマ	人体からの熱の放散
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体からの熱の放散には4種類あり、その概念について概説し、自分の周りに起こっている熱の移動現象について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布資料の熟読（日常生活での熱移動現象について理解を深める）。 復習：日常の動作がどの放熱現象によるものか、小テストで確認する。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習120分
第5回	授業テーマ	体温調節機構
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体の体温調節機構について説明し、人間の体温調節の仕組みを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布資料の熟読（体温調節のしくみについて予習する）。 復習：自律性体温調節と行動性体温調節の違いがきちんと説明できるように復習をする。

	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習120分
第6回	**授業テーマ**	環境の温熱条件
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	環境条件を説明するための温熱因子、総合的な指標としての温熱指標にはどのようなものがあるのかを解説し、生活の中での温熱因子や温熱指標について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布資料の熟読（身の回りの温熱指標について理解しておく）。 復習：環境と被服の関わりを復習し、快適な衣生活のための被服の役割について考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習120分
第7回	**授業テーマ**	衣服による気候調節
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	我々は衣服を着ることで、暑い時でも寒い場所でも手軽に快適な状態を得ることができる。どのような衣服が気候調節に優れているのか、気候調節の観点から効果的に衣服を着るにはどうしたらよいのかを考える。また、快適な着衣を考える上での基本的な性能について、衣服の素材や形態に着目して学修する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布資料の熟読（衣服気候とはどういうものか調べておく）。 復習：自分の持っている衣服を用いて、暑さ寒さに対応した衣服のコーディネートを考える。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習120分
第8回	**授業テーマ**	環境に適した着衣量（衣服の保温性の評価）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	暑さ寒さに対応した快適な着装をするための指標として、衣服の保温性（熱抵抗）を表すクロ値（clo値）について概説する。 演習として、各自の着衣のクロ値を計算し、季節ごとにどのくらいのクロ値を着用しているのかを調べ、適正着衣量について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布資料の熟読（クロ値（clo値）とはどういうものか理解しておく）。 復習：実際に着用していた四季の衣服の着衣量（保温性）について調べ、環境との関係をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習120分
第9回	**授業テーマ**	暑い季節・寒い季節に適した衣服
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	暑い環境と寒い環境それぞれにおいて、具体的にどのような衣服を着用すればよいのか、衣服の形態、着装方法、重ね方などについて、科学的データをもとに解説し、理解を深める。さらに、今後の自分の着装行動に応用できるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布資料の熟読（暑い環境・寒い環境）への対策と適した衣服について、理解しておく）。 復習：暑い環境・寒い環境で実際にどのよな衣服を着用するか、自分事として考え、コーディネートを提案する。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習120分

第10回	授業テーマ	身体の拘束の指標としての衣服圧
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣服圧は、身体を拘束し着用時の無効仕事量を増大させるため、重要な指標として用いられている。そこでまず、衣服圧の発生要因とその測定方法を理解し、日常衣服での衣服圧について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布資料の熟読（衣服圧について理解し、身の回りの衣服による締め付けについて考えてみる）。 復習：身の回りの衣服による締め付けについて考え、衣服圧による不快感の軽減方法や快適な衣生活の方法を考える。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習120分
第11回	授業テーマ	衣服圧の人体への影響とアパレルにおける有効活用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	過度な衣服は健康に害をもたらす一方、適度な衣服圧は身体によい影響を及ぼし、生活の質の向上に資することも報告されている。そこで、衣服圧の影響についてその基本を理解するとともに、衣服圧の功罪をしり、適切なアパレルの選択ができるように理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布資料の熟読（衣服圧による人体への影響について理解する）。 復習：実際の自分の生活での衣服圧を考える。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習120分
第12回	授業テーマ	アパレルと皮膚の生理・衛生
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	皮膚の構造や機能について概説し、皮膚に関連して、被服と汚れ、衣料による皮膚障害について例をあげて概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布資料の熟読（皮膚構造を予習する）。 復習：皮膚障害についてこれまでの経験をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習120分
第13回	授業テーマ	アパレルと健康をめぐる現代的課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アパレルによる障害と対策、衣服による環境からの危害の防止、高齢者や障がい者などの衣服について考える。 これらの人々が快適な衣生活、健康的な衣生活をすることができるように、みんなで話し合いながら問題解決を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布資料の熟読（快適で健康的な衣生活のための問題について考える）。 復習：快適で健康的な衣生活のための問題について自分の考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習120分
	授業テーマ	まとめと学習到達度の確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	これまでの内容の確認テストを行い、これらの快適な衣生活、健康的な

第14回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣生活に向けて必要なこと、努力すること等を、みんなで話し合い理解の再確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：これまでに学んだ理論や知識について復習する。 復習：快適で健康的な衣生活のための問題について自分の考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習240分、復習60分

学生へのフィードバック方法

定期的にリアクションペーパーに記入してもらい、次回の授業でその内容や質問に関して解説し、学生にフィードバックを行う。

評価方法

平常点（授業態度や質問に対する応答、授業内演習等）、予習復習用の課題、確認テスト等で総合的に評価します。
初回の授業でルーブリックについて説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
予習復習用課題・レポート	○	○	○	○
確認テスト	○	○	○	○

評価割合

確認テスト（40%）、予習復習用課題・レポート（40%）、平常点（20%）

参考図書

アパレル生理衛生論（一般社団法人 日本衣料管理協会）
衣環境の科学（建帛社）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。

学生へのメッセージ

TA資格にための授業ですが、衣生活に役に立つ情報がたくさんあり、日常生活にも生かしていける内容です。日々の衣生活を快適に過ごすための学びとしても活用してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に取り組み、その結果等を授業内でディスカッションする。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミニュケーションを行う。

講義コード	G03049001
講義名	住居デザイン演習Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小池 孝子	指定なし
准教授	小川 圭子	指定なし

ナンバリング

D13101M22

授業概要(教育目的)

近い将来、建築やインテリアのプロ(専門職)として、また、本コースで学んだ知識や技術を生かした職業に就くことを目指すための初歩的かつ基礎的な建築製図手法や技術を習得するための演習授業である。住宅をはじめとする建物の基本的な図面作成方法と構成及び構法と模型制作方法を学習する。各種図面の表記記号や図面相互の関係を理解し、製図道具を正しく用いた図面表現や模型制作を通して、基本的な図面の読み書きができるよう進めていく。

履修条件

特になし(建築士試験指定科目)

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	住宅をはじめとする建物の基本的な図面作成方法と構成及び構法と模型製作方法を理解する。
思考・判断の観点 (K)	条件や生活像を踏まえて空間を計画し、適切な表現を選び、検討・改善しながら設計を進めることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	主体的に授業に参加し、疑問点等は自ら積極的に質問し解決することができる。
技術・表現の観点 (A)	基本的な建築やインテリアとしての建築製図分野の全般的な技術・表現を習得できる。

学習計画

	授業テーマ	授業概要の説明 課題１：線の練習

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	製図道具の種類、使い方について学び、線の引き方に関する課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）授業内容を確認し、課題１を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	100
第2回	授業テーマ	課題２：レタリング･文字の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	線の引き方に加え、建築製図に用いる文字の書き方に関する課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）授業内容を確認し、課題２を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	100
第3回	授業テーマ	課題３：建築図面の表示記号
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築図面の表記に用いる表示記号に関する課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）授業内容を確認し、課題３を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	100
第4回	授業テーマ	課題４：木造住宅／配置図・平面図の表現方法－１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木造住宅の配置図・平面図のトレース課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。
	教室外学習の時間（分）	100
第5回	授業テーマ	課題４：木造住宅／配置図・平面図の表現方法－２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木造住宅の配置図・平面図のトレース課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。
	教室外学習の時間（分）	100
第6回	授業テーマ	課題４：木造住宅／配置図・平面図の表現方法－３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木造住宅の配置図・平面図のトレース課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）授業内容を確認し、課題４を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	100
第7回	授業テーマ	課題５-1：木造住宅／断面図の表現方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木造住宅の断面図のトレース課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。
	教室外学習の時間（分）	100
第8回	授業テーマ	課題５-2：木造住宅／立面図の表現方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木造住宅の立面図のトレース課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）授業内容を確認し、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	100

第9回	授業テーマ	課題６：ＲＣ住宅／平面図の表現方法－１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉄筋コンクリート造住宅の平面図のトレース課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。
	教室外学習の時間（分）	100
第10回	授業テーマ	課題６：ＲＣ住宅／平面図の表現方法－２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉄筋コンクリート造住宅の平面図のトレース課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）授業内容を確認し、課題６を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	100
第11回	授業テーマ	課題７：ＲＣ住宅／立面図の表現方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉄筋コンクリート造住宅の立面図のトレース課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）授業内容を確認し、課題７を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	100
第12回	授業テーマ	課題８：住吉の長屋：安藤忠雄設計／模型製作－１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題６、課題７をもとに、建築模型を製作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで模型製作を進める。
	教室外学習の時間（分）	100
第13回	授業テーマ	課題８：住吉の長屋：安藤忠雄設計／模型製作－２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題６、課題７をもとに、建築模型を製作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで模型製作を進める。
	教室外学習の時間（分）	100
第14回	授業テーマ	課題８：住吉の長屋：安藤忠雄設計／模型製作－３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題６、課題７をもとに、建築模型を製作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）授業内容を確認し、課題８を完成させる
	教室外学習の時間（分）	100

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業時間内は教員が巡回して指導をおこなう。質問を歓迎する。提出された課題は採点後に講評とともに返却する。

評価方法

授業への参加度合、取り組み状況により平常点を採点する。
提出された課題は完成度によって評価する。
詳細は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
小テスト	○			
各成果物		○		○

評価割合

平常点：10%、小テスト：10%、各成果物：80%による総合評価とする。但し全課題提出を条件とする。

使用教科書名(ISBN番号)

「新しい建築の製図」／「新しい建築の製図」編集委員会／学芸出版社／2005／978-4-7615-2375-6
「図解 すまいの寸法・計画事典 第二版」／岩井一幸・奥田宗幸 ／彰国社／2004／4-395-10032-5

参考図書

その都度必要に応じ、参考になる資料を配布する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】住生活にかかわる知識を多面的に身に付けている。
【思考・判断】
【関心・意欲・態度】他者の視点やニーズを理解し、社会に新たな価値を見出すことができる。
【技能・表現】生活にかかわる技能を多面的に身に付けている。

オフィスアワー

金曜２時限 3508研究室（小池）
水曜昼休み～３時限 3512研究室（小川）

学生へのメッセージ

図書館にある「新建築」や「新建築住宅特集」、「住宅建築」などの建築雑誌を読むことを習慣とし、身近な建物の構造と図面表現の関係についても理解を深めること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	授業内で実施する小テストは、Googleフォームを使用し作成。学生は携帯端末機等で回答することによって理解状況を把握する。

講義コード	G03050001
講義名	住居デザイン演習Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小池 孝子	指定なし
准教授	小川 圭子	指定なし

ナンバリング

D13102M22

授業概要(教育目的)

住居デザイン演習Aで習得した技術を踏まえ、住宅の設計・作図を通して、設計技術、作図技術、プレゼンテーション技術などの習得と上達を目指す演習科目である。提示された計画敷地より、具体的にそこに居住する家族構成を想定し、その生活をイメージした計画を行っていく。そして、それらを踏まえ、平面図、立面図、断面図、パース（透視図）などの作図を行い、模型を作成する。さらに、図面の着彩、模型写真の撮影などを通して、プレゼンテーション技術の上達をも目標とする。

履修条件

住居デザイン演習Ａの単位を修得していることが望ましい。(建築士試験指定科目)

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	基礎的な設計課題を通し、住まい手の求める生活像を実現する住宅設計の基本プロセスを習得する
思考・判断の観点 (K)	条件や生活像を踏まえて空間を計画し、適切な表現を選び、検討・改善しながら設計を進めることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	住まい手の求める生活像について積極的に考え、提案できる
技術・表現の観点 (A)	住宅設計作品について、図面・パース・模型・写真を用いて表現できる

学習計画

	授業テーマ	授業の概要と課題の説明

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シラバス・授業の運営方法の説明。課題説明後、コンセプト等立案のための資料収集を実施し、それを提示しながらコンセプト案についてまとめる
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）自分が住みたい住宅として、どのような住宅とすべきか（仮想の）家族構成も含め、その構想をまとめる （予習）はさみ・糊・製図道具・クロッキー帳を持参する
	教室外学習の時間（分）	100
第2回	授業テーマ	エスキース（配置図・平面図）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平面や配置図の表現方法を再確認し、配置図・平面図のエスキスをで表現する また、必要な室や大きさ、そのつながりを視覚的に把握し、室のつながりを検討する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）教科書①第2章の「2-1.配置図」（18～19ページ）「2-2．平面図」（20～23ページ）を読んでおく （復習）平面図のエスキスを完成させておく
	教室外学習の時間（分）	100
第3回	授業テーマ	エスキース（断面図・立面図））
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	断面図の表現方法を再度確認し、断面のエスキスで表現する また、平面図との関係を再考し、齟齬を修正する 立面図の表現方法を再度確認し、立面のエスキスで表現する また、2～3回の授業で描いた各種図面の相互関係を確認し、必要に応じて修正を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）教科書①第2章の「2-3．断面図」（24～27ページ）と「2-4．立面図」（28～31ページ）を読んでおく （復習）断面図・立面図も含めた各図面のエスキスを完成させておく
	教室外学習の時間（分）	100
第4回	授業テーマ	清書（配置図・平面図）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配置図・平面図のエスキスを清書する手順を再確認しながら、作図技術も理解する また、配置図・平面図エスキスを清書として表現する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）教科書①第2章の「2．平面図」（20～23ページ）を再度読んでおく （予習）トレーシングペーパー（A3版又は幅のロール）を持参する
	教室外学習の時間（分）	100
第5回	授業テーマ	清書（断面図）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	断面図のエスキスを清書する手順を再確認しながら、作図技術も理解する また、断面図エスキスを清書として表現する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）教科書①第2章の「2-3．断面図」（24～27ページ）を再度読んでおく （次回）トレーシングペーパー（A3版又は幅のロール）を持参する
	教室外学習の時間（分）	100
	授業テーマ	清書（立面図）

第6回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	立面図のエスキスを清書する手順を再確認しながら、作図技術も理解する また、立面図エスキスを清書として表現する さらに10回目の授業で使用する模型材料について説明をする
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）教科書①第2章の「2-4．立面図」（28～31ページ）を再度読んでおく （次回）トレーシングペーパー（A3版又は幅のロール）を持参する
	教室外学習の時間（分）	100
第7回	授業テーマ	パースの下書き
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	一点透視図法の原理を把握する また、表現する室とアングルを決定する 一点透視図法による作図手順を理解しながら、パーガイドを作図する 作図技術を習得し、人物や植物その他什器の書き方についても理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）4～6回目に清書した図面は、数枚づつコピーをしてくる （予習）教科書①第7章の「7-4．一点透視投影法」（116～117ページ）を読んでおく、参考にしたい家具等の写真を持参する トレーシングペーパー（A3版又は幅のロール）を持参する
	教室外学習の時間（分）	100
第8回	授業テーマ	パースの原稿完成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	詳細を書き込み終えたら、必要な線をなぞり、パース原稿を清書する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）パースの下書きを完成させておく
	教室外学習の時間（分）	100
第9回	授業テーマ	模型制作（敷地と外壁の作成）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模型制作技法を理解する 敷地や外壁を作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）4～6回目に清書した図面は、数枚づつコピーする （予習）自らが作成する模型に適した材料を検討し、その材料を持参する
	教室外学習の時間（分）	100
第10回	授業テーマ	模型制作完成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模型制作技法を理解する 内壁や屋根、家具や人等も制作する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）4～6回目に清書した図面は、数枚づつコピーをしてくる 自らが作成する模型に適した材料を検討し、その材料を持参する （次回）ノートPCを持参する
	教室外学習の時間	100

	（分）	
第11回	**授業テーマ**	図面原稿の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	面積計算の方法を理解する コンセプトを文章としてまとめたものと図面等に貼り込む文字や数値をPCで入力・出力する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（次回）スティックのりを持参する
	教室外学習の時間（分）	100
第12回	**授業テーマ**	図面原稿の完成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図面等に寸法や文字を貼り込み、コピーし、印刷原稿を作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内に行うべき作業が終わっていない場合は各自進めておく
	教室外学習の時間（分）	100
第13回	**授業テーマ**	模型写真撮影、レイアウト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模型写真撮影技法を理解する レイアウトの基本を理解し、A2版レイアウト用紙に、図面やタイトル、写真等の配置の検討を行い、模型写真・パース以外のものの仮止めを行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	（宿題）レイアウト用紙に配置した図面等（模型写真を除く）を印刷（KVAショップ前コピー機の印刷代：80円/1枚）
	教室外学習の時間（分）	100
第14回	**授業テーマ**	着彩・仕上げ・プレゼンテーション・完成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アルコールマーカーによる着彩技法を理解する 図面やパースの着彩を行い、模型写真、パースを貼り込む 授業前半で図面・模型の最終仕上げを行い、授業後半でそれらを用いたプレゼンテーションを行う スキャナ、PDF化の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	（宿題）貼り付ける模型写真の大きさを検討し、現像若しくは印刷し、持参する。 （宿題）ポートフォリオの作成・印刷（PDF化）・提出
	教室外学習の時間（分）	100

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業時間内は教員が随時質問を受け付ける。提出された課題に対してコメント・講評をおこなう。

評価方法

授業への参加度合、取り組み状況により平常点を採点する。
提出された課題は完成度、プレゼンテーション内容によって評価する。
ただし、最終提出物（①作品ポスター、②模型、③ポートフォリオのすべての提出し、毎回課す進捗状況確認のための提出物のすべての提出を必須条件とする。
詳細は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内での周知する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	
課題（成果物）		○		○

評価割合

平常点：30%、提出課題（成果物）の完成度(A・B・C・D)：70%による総合評価とする。

使用教科書名(ISBN番号)

「新しい建築の製図」／「新しい建築の製図」編集委員会編／学芸出版社 2005／ISBN978-4-7615-2375-6
「図解 すまいの寸法・計画事典 第二版」／岩井一幸・奥田宗幸著／彰国社 2004／ISBN 4-395-10032-5

参考図書

その都度必要に応じ、参考になる資料を配布する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】生活にかかわる知識を多面的に身に付けている。
【思考・判断】
【関心・意欲・態度】他者の視点やニーズを理解し、社会に新たな価値を見出すことができる。
【技術・表現】生活にかかわる技能を多面的に身に付けている。

オフィスアワー

金曜２時限 3508研究室（小池）
水曜昼休み～３時限 3512研究室（小川）

学生へのメッセージ

「新建築」や「新建築住宅特集」、「住宅建築」などの建築雑誌を閲覧することを習慣とし、身近な建物の構造と図面表現の関係についての理解を深めること。 自分が心地よいと感じる空間について、スケール、素材など、その空間の構成要素について注意を払うこと。また、設計は、段階を踏んで形になっていきます。毎回の作業が遅れると、他の部分に支障をきたしますので、終わらすべき作業は、次回の授業までに完成をさせ、授業には主体的に取り組んでください。毎回の製図道具一式の持参、その都度持参を指示するトレーシングペーパーや模型材料等の消耗品は、個人負担で用意してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	発表やプレゼンテーションを通じて表現する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	各自のPCを用いて、設計趣旨や図面に貼り込む室名・寸法や面積表などを入力作成し出力を行う。また、各授業の終了時には、Googleフォームにより授業アンケートを実施し、理解度を確認する。

講義コード	G03051001
講義名	住居デザイン演習Ｃ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	原口 秀昭	指定なし
非常勤講師	柏木 穂波	指定なし
非常勤講師	藤田 敦	指定なし

ナンバリング

D23103M22

授業概要(教育目的)

RC造区分所有建物内の住宅（住戸）の設計、RC造独立建物の店舗の設計の2課題を通して、デザインを楽しみながら、設計、作図、プレゼンテーション技術の習得、各寸法、ゾーニング、機能連携、構造、構法、計画における知識の習得させる。第1課題は、与えられた実在する区分所有のRCマンション躯体内部に、住宅（住戸）の設計を指導する。第2課題は、与えられたRC造の店舗ビル躯体内部に、店舗の設計を指導する。エスキース、平面図、立面図、断面図などの作図、模型、パースの制作などを通じて、立体としての建物を理解させ、把握できるように指導する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	区分所有住宅、店舗の機能・面積配分、ゾーニング、基本寸法、基準寸法が分かる。
思考・判断の観点 (K)	区分所有住宅、店舗の設計案に対して、その設計、デザイン、機能の良否、可否を考え判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	区分所有住宅、店舗の内装デザインに関心を持ち、自らの設計、デザインに意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	区分所有住宅、店舗における基本設計、平面図、立面図、断面図の作図、パース、模型の制作ができる。

学習計画

区分所有住宅、店舗の設計製図

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス、課題説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住居デザイン演習の進め方、評価などの説明、第1課題（区分所有住宅）の説明をする。その後少人数グループに分かれて、区分所有住宅や今後の作業に関して各教員から説明を受け、資料集めとエスキースを始める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	1LDK程度の区分所有住宅について、ネットや図書で調べ、どのような問題点、設計上の課題、デザインがあるかを調べておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	区分所有住宅の見学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各グループ単位で、家族構成、設計コンセプトを立案し、教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	区分所有住宅の平面図、断面図を十二分に読み込んでくる。家族構成、設計コンセプトを考え、紙にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	**授業テーマ**	平面図の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平面図の作成を行う。家具の配置、床・壁・天井の仕上げ、照明の配置も同時に考え、平面図に記入する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	平面図のエスキース、製図を行う。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	**授業テーマ**	断面図の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	断面図2面の作成を行う。キッチン収納などの造り付け家具の立面、断面も必ず記入する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	断面図2面のエスキース、製図を行う。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	**授業テーマ**	パースの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	居間などの主要室のパース（透視図）を作成する。家具、人物を必ず入れる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パースの下図を作成する。
	教室外学習の時間（分）	240分
	授業テーマ	模型の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	模型を作成する。家具は必ず入れる。

第6回	を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	模型の部品を作成する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第7回	授業テーマ	ポスターセッション（展示発表会）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品をインキング、コピー、着彩し、模型の写真を撮り、レイアウトする。
	教室外学習の時間（分）	240分
第8回	授業テーマ	課題説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第2課題（店舗）について説明を行う。その後グループに分かれて、店舗の種類、コンセプトを考え、資料を集める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	雑誌で店舗の設計、デザインを見て、イメージを膨らませる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	授業テーマ	コンセプト発表、コンセプトワーク
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各グループでコンセプトの発表を一人ずつ行い、教員の講評を受ける。授業の後に、コンセプトボードは張り出される。コンセプトが不十分な場合は、再度、練り直す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	店舗の種類、コンセプト、デザインイメージについて、A3用紙1枚にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	240分
第10回	授業テーマ	エスキース
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回のコンセプトを元に、エスキースを進める。コンセプト模型、ラフな平面図、断面図を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	平面図のエスキース。
	教室外学習の時間（分）	240分
第11回	授業テーマ	平面図の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平面図のエスキース、製図を行う。造り付けの家具、什器は必ず記入する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	平面図のエスキース、製図を行う。
	教室外学習の時間（分）	240分
	授業テーマ	断面図の作成

第12回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	断面図を作成する。造り付けの家具、什器の断面、立面は必ず記入する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	断面図のエスキース、製図を行う。
	教室外学習の時間（分）	240分
第13回	授業テーマ	パース、模型の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	店舗のメイン部分のパースと全体模型を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パースの下書きを行う。模型もなるべく進めておく。
	教室外学習の時間（分）	240分
第14回	授業テーマ	ポスターセッション（展示発表会）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品作品をインギング、模型写真を撮り、レイアウト用紙にレイアウトしてから大型コピーしてから着彩する。
	教室外学習の時間（分）	240分

学生へのフィードバック方法

毎回、各教員が学生のエスキース、図面、模型などを評価し、その都度、助言を与え、修正などの指示を与える。

評価方法

ポスターセッション（発表会）で作品を展示発表し、教員3人により、機能、デザイン、プレゼンテーションの3つの評価軸で採点する。平常点として授業への参画、取り組み姿勢を評価する。詳細は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内での配布する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
設計作品の展示、発表	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

課題作品の評価と出席による。配点は課題評価80%。課題評価のうち、第1作品40%、第2作品40%。授業態度等20%。総合点100点。必要図面の欠落、展示発表会の遅刻は各マイナス5点。

使用教科書名(ISBN番号)

新しい建築の製図編集委員会編「新しい建築の製図」学芸出版（4-7615-2375-1）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」の分野の区分所有住宅、店舗についての専門的知識を有している。
【思考・判断】社会にある区分所有住宅、店舗の基本設計を理解して良否、可否を判断できる。
【関心・意欲・態度】社会にある区分所有住宅、店舗に関心を持ち、デザインに意欲を持つ。
【技術・表現】区分所有住宅、店舗の設計を立案でき、社会に対して洗練された表現力で提示できる。

オフィスアワー

金曜2時限 3602研究室

学生へのメッセージ

2年生前期はインテリアデザインに重点を置いた課題ですが、建築の基本として、住宅や店舗の各部寸法や平面図、断面図、立面図（展開図）などをしっかりとマスターしてください。製図するうちに、立体と2次元の図面が結びついて考えられるようになり、後期の独立住宅へとつなげることができます。建築、インテリアの設計ができるようになるためには、多くの図面、パースを書く必要があります。それを実行するために一番重要なのは、デザインを楽しみながら演習に取り組むことです。楽しんで続けることを、常に心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年の設計監理経験を有しており、区分所有住宅、店舗の実施設計経験がある。設計指導にあたり、実務で学んだ設計、デザインの知識を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回小人数グループで、設計製図の指導を演習を通して行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03052001
講義名	住居デザイン演習Ｄ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	原口 秀昭	指定なし
非常勤講師	柏木 穂波	指定なし
非常勤講師	藤田 敦	指定なし

ナンバリング

D23104M22

授業概要(教育目的)

RC造住宅、木造住宅の設計の2課題を通して、デザインを楽しみながら、設計、製図、プレゼンテーション技術の習得、各寸法、ゾーニング、機能連携、構造、構法、計画における知識の習得させることを目的とする。第1課題は、与えられた敷地と自らが想定した家族構成で、RC造住宅の設計を指導する。第2課題は、与えられた敷地と家族構成で、木造住宅の設計を指導する。エスキース、平面図、立面図、断面図などの作図、模型、パースの制作などを通じて、立体としての建物を理解させ、把握できるようにする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	RC造、木造住宅の機能・面積配分、ゾーニング、基本寸法、基準寸法が分かる。
思考・判断の観点 (K)	RC造、木造住宅の設計案に対して、その設計、デザイン、機能の良否、可否を考え判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	RC造、木造住宅のデザイン、設計に関心を持ち、自らの設計、デザインに意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	RC造、木造住宅における基本設計、平面図、立面図、断面図の作図、パース、模型の制作ができる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス、課題説明
	学習内容(ｱｸﾃ	住居デザイン演習の進め方、評価などの説明、第1課題（RC造住宅）の

第1回	ｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	説明をする。その後少人数グループに分かれて、RC造住宅や今後の作業に関して各教員から説明を受け、資料集めとエスキースを始める。設計の実務家による講義を聞き、建築設計を行うにあたり重要なことは何かを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	RC造住宅について、ネットや図書で調べ、どのような問題点、設計上の課題、デザインがあるかを調べておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	授業テーマ	エスキース
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各グループ単位で、家族構成、設計コンセプトを考え、エスキースを始め、教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家族構成、設計コンセプトを考えてまとめてくる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	授業テーマ	平面図の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平面図の作成を行う。家具の配置も同時に考え、平面図に記入する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	平面図のエスキース、製図を行う。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	授業テーマ	断面図、立面図の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	断面図2面、立面図4面の作成を行う。キッチン収納などの造り付け家具の立面、断面も必ず記入する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	断面図2面、立面図4面のエスキース、製図を行う
	教室外学習の時間（分）	240分
第5回	授業テーマ	パースの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	居間などの主要室のパース（透視図）を作成する。家具、人物を必ず入れる
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	パースの下図を作成する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第6回	**授業テーマ**	模型の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模型を作成する。家具は必ず入れる
	教室外学習(予習・復習)の内容	模型の部品を作成する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第7回	**授業テーマ**	ポスターセッション（展示発表会）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品をインキング、コピー、着彩し、模型の写真を撮り、レイアウトする。
	教室外学習の時間（分）	240分
第8回	**授業テーマ**	課題説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第2課題（木造住宅）について説明を行う。その後グループに分かれて、コンセプトを考え、資料を集める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	雑誌で木造住宅の設計、デザインの資料を集め、図面をよく読みこんでおく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	**授業テーマ**	コンセプト発表、コンセプトワーク
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各グループでコンセプトの発表を一人ずつ行い、教員の講評を受ける。木造住宅のエスキースを始める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	コンセプト、デザインイメージについて、考え、紙に書く。
	教室外学習の時間（分）	120分

第10回	授業テーマ	エスキース
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回のコンセプトを元に、エスキースを進める。コンセプト模型、ラフな平面図、断面図を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	平面図のエスキース
	教室外学習の時間（分）	240分
第11回	授業テーマ	平面図の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平面図のエスキース、製図を行う。造り付けの家具、什器は必ず記入する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	平面図のエスキース、製図を行う。
	教室外学習の時間（分）	240分
第12回	授業テーマ	断面図、立面図の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	断面図2面、立面図4面を作成する。造り付けの家具、什器の断面、立面は必ず記入する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	断面図2面、立面図4面のエスキース、製図を行う。
	教室外学習の時間（分）	240分
第13回	授業テーマ	パースと模型の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木造住宅のメイン部分のパースを作成する。全体模型と、できれば居間、食堂部分の家具も作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パースの下書き、模型材料の調達などを行う。
	教室外学習の時間（分）	240分
	授業テーマ	ポスターセッション（展示発表会）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける

第14回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品をインキング、コピー、着彩し、模型の写真を撮り、レイアウトする。
	教室外学習の時間（分）	240分

学生へのフィードバック方法

毎回、各教員が学生のエスキース、図面、模型などを評価し、その都度、助言を与え、修正などの指示を与える。

評価方法

ポスターセッション（発表会）で作品を展示発表し、教員3人により、機能、デザイン、プレゼンテーションの3つの評価軸で採点する。平常点として授業への参画、取り組み姿勢を評価する。詳細は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内での配布する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
設計作品の展示、発表	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

課題作品の評価と授業態度による。配点は課題評価80%。課題評価のうち、第1作品40%、第2作品40%。授業態度等20%。総合点100点。必要図面の欠落、展示発表会の遅刻は各マイナス5点。

使用教科書名(ISBN番号)

新しい建築の製図編集委員会編「新しい建築の製図」学芸出版（4-7615-2375-1）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」の分野のRC造、木造住宅についての専門的知識を有している。
【思考・判断】社会にあるRC造、木造住宅の基本設計を理解して良否、可否を判断できる。
【関心・意欲・態度】社会にあるRC造、木造住宅に関心を持ち、デザインに意欲を持つ。
【技術・表現】RC造、木造住宅の設計を立案でき、社会に対して洗練された表現力で提示できる。

オフィスアワー

金曜2時限 3602研究室

学生へのメッセージ

2年生後期は住宅に重点を置いた課題ですが、建築の基本として、住宅の各部寸法や平面図、断面図、立面図（展開図）などをしっかりとマスターしてください。RC造、木造の構造の基本も同時に習得してください。多くの図面、パースを書く必要がありますが、それを実行するために一番重要なのは、デザインを楽しみながら演習に取り組むことです。楽しんで続けることを、常に心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有	概要

	無	
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年の設計監理経験を有しており、RC造、木造住宅の実施設計経験がある。設計指導にあたり、実務で学んだ設計、デザインの知識を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回小人数グループで、設計製図の指導を演習を通して行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03053001
講義名	建築デザイン演習Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	原口 秀昭	指定なし
非常勤講師	前鶴 謙二	指定なし
非常勤講師	柿本 美樹枝	指定なし

ナンバリング

D33105M22

授業概要(教育目的)

RC造集合住宅の2課題を通して、デザインを楽しみながら、設計、製図、プレゼンテーション技術の習得、各寸法、ゾーニング、機能連携、構造、構法、計画における知識の習得を目的とする。第1課題は、与えられた敷地で、RC造テラスハウスを設計する。第2課題は、与えられた敷地と自らが想定したコンセプトによるシェアハウスで、RC造集合住宅を設計する。エスキース、平面図、立面図、断面図などの作図、模型、パースの制作などを通じて、立体としての建物を理解し、把握できるようにする

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	RC造集合住宅の機能・面積配分、ゾーニング、基本寸法、基準寸法、RC造の構造が分かる。
思考・判断の観点 (K)	RC造集合住宅の設計案に対して、その設計、デザイン、機能の良否、可否を考え判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	RC造集合住宅のデザイン、設計に関心を持ち、自らの設計、デザインに意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	RC造集合住宅における基本設計、平面図、立面図、断面図の作図、パース、模型の制作ができる。

学習計画

RC造集合住宅の設計製図

	授業テーマ	ガイダンス、課題説明

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	建築デザイン演習の進め方、評価などの説明、第1課題（RC造集合住宅・シェアハウス）の説明をする。その後少人数グループに分かれて、RC造集合住宅、シェアハウスや今後の作業に関して各教員から説明を受け、コンセプトを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	RC造集合住宅、シェアハウスについて、ネットや図書で調べ、どのような問題点、設計上の課題、デザインがあるかを調べておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	コンセプトワーク
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンセプトボードを使ってグループ内で発表し、教員の講評を受ける。コンセプトを考え、エスキースを始める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	集合住宅、シェアハウスのコンセプトをまとめたコンセプトボード（A3）をつくる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	**授業テーマ**	平面図の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平面図の作成を行う。ベッド、テーブル、椅子などの家具も記入する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	平面図のエスキース、製図を行う。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	**授業テーマ**	断面図、立面図の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	断面図2面、立面図4面の作成を行う。キッチン収納などの造り付け家具の立面、断面も必ず記入する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	断面図2面、立面図4面のエスキース、製図を行う。
	教室外学習の時間（分）	240分
第5回	**授業テーマ**	パースの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	居間などの主要室のパース（透視図）を作成する。家具、人物を必ず入れる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パースを作成する。

	教室外学習の時間（分）	240分
第6回	**授業テーマ**	模型の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模型を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模型の部品を作成する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第7回	**授業テーマ**	ポスターセッション（展示発表会）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模型の写真を撮り、図面、パースと共にレイアウトする。
	教室外学習の時間（分）	240分
第8回	**授業テーマ**	課題説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第2課題（RC造テラスハウス）について説明を行う。その後グループに分かれて、コンセプトを考え、資料を集める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	雑誌でRC造テラスハウスの設計、デザインの資料を集め、図面をよく読みこんでおく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	**授業テーマ**	コンセプト発表、コンセプトワーク
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各グループでコンセプトの発表を一人ずつ行い、教員の講評を受ける。RC造テラスハウスのエスキースを始める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	コンセプト、デザインイメージについて、考え、紙に書く。
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	**授業テーマ**	エスキース
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回のコンセプトを元に、エスキースを進める。コンセプト模型、ラフな平面図、断面図を作成する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	平面図のエスキース
	教室外学習の時間（分）	240分
第11回	**授業テーマ**	平面図の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平面図のエスキース、製図を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	平面図のエスキース、製図を行う。
	教室外学習の時間（分）	240分
第12回	**授業テーマ**	断面図、立面図の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	断面図2面、立面図4面を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	断面図2面、立面図4面のエスキース、製図を行う。
	教室外学習の時間（分）	240分
第13回	**授業テーマ**	パースと模型の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	RC造テラスハウスのメイン部分のパースと全体模型を作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	パースと模型を作成する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第14回	**授業テーマ**	ポスターセッション（展示発表会）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模型の写真を撮り、図面、パースと共にレイアウトする。
	教室外学習の時間（分）	240分

学生へのフィードバック方法

毎回、各教員が学生のエスキース、図面、模型などを評価し、その都度、助言を与え、修正な

どの指示を与える。

評価方法

ポスターセッション（発表会）で作品を展示発表し、教員3人により、機能、デザイン、プレゼンテーションの3つの評価軸で採点する。平常点として授業への参画、取り組み姿勢を評価する。詳細は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内での配布する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
設計作品の展示、発表	○	○	○	○

評価割合

課題作品の評価と平常点による。配点は課題評価80%。課題評価のうち、第1作品40%、第2作品40%。平常点20%。総合点100点。必要図面の欠落、展示発表会の遅刻は各マイナス5点。

使用教科書名(ISBN番号)

新しい建築の製図編集委員会編「新しい建築の製図」学芸出版（4-7615-2375-1）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」の分野のRC造集合住宅についての専門的知識を有している。
【思考・判断】社会にあるRC造集合住宅の基本設計を理解して良否、可否を判断できる。
【関心・意欲・態度】社会にあるRC造集合住宅に関心を持ち、デザインに意欲を持つ。
【技術・表現】RC造集合住宅の設計を立案でき、社会に対して洗練された表現力で提示できる。

オフィスアワー

金曜2限時 3602研究室

学生へのメッセージ

3年生前期は集合住宅に重点を置いた課題ですが、建築の基本として、住宅の各部寸法や平面図、断面図、立面図（展開図）などをしっかりとマスターしてください。RC造の構造の基本も同時に習得してください。多くの図面、パースを書く必要がありますが、それを実行するために一番重要なのは、デザインを楽しみながら演習に取り組むことです。楽しんで続けることを、常に心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年の設計監理経験を有しており、RC造集合住宅の実施設計経験がある。設計指導にあたり、実務で学んだ設計、デザインの知識を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回小人数グループで、設計製図の指導を演習を通して行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03054001
講義名	建築デザイン演習Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	原口 秀昭	指定なし
非常勤講師	前鶴 謙二	指定なし
非常勤講師	柿本 美樹枝	指定なし

ナンバリング

D33106M22

授業概要(教育目的)

福祉施設、展示施設の大型の建築2課題を通して、デザインを楽しみながら、設計、製図、プレゼンテーション技術の習得、各寸法、ゾーニング、機能連携、構造、構法、計画における知識の習得を目的とする。第1課題は与えられた敷地に建つ福祉施設、第2課題は与えられた敷地に建つ展示施設を設計する。エスキース、平面図、立面図、断面図などの作図、模型、パースの制作などを通じて、立体としての建物を理解し、把握できるようにする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	福祉施設、展示施設の機能・面積配分、ゾーニング、基本寸法、基準寸法、RC造、S造の構造が分かる。
思考・判断の観点 (K)	福祉施設、展示施設の設計案に対して、その設計、デザイン、機能の良否、可否を考え判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	福祉施設、展示施設のデザイン、設計に関心を持ち、自らの設計、デザインに意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	福祉施設、展示施設における基本設計、平面図、立面図、断面図の作図、パース、模型の制作ができる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス、課題説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	建築デザイン演習の進め方、評価などの説明、第1課題（RC造、S造福祉施設）の説明をする。その後少人数グループに

第1回	**教育・ICT活用を含む)**	分かれて、福祉施設や今後の作業に関して各教員から説明を受け、コンセプトを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	福祉施設について、ネットや図書で調べ、どのような問題点、設計上の課題、デザインがあるかを調べておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	コンセプトワーク
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンセプトボードを使ってグループ内で発表し、教員の講評を受ける。コンセプトを考え、エスキースを始める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	福祉施設のコンセプトをまとめたコンセプトボード（A3）をつくる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	**授業テーマ**	平面図の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平面図の作成を行う。テーブル、椅子などの家具も記入する
	教室外学習(予習・復習)の内容	平面図のエスキース、製図を行う。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	**授業テーマ**	断面図、立面図の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	断面図2面、立面図4面の作成を行う。造り付け家具の立面、断面も必ず記入する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	断面図2面、立面図4面のエスキース、製図を行う。
	教室外学習の時間（分）	240分
第5回	**授業テーマ**	パースの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	福祉施設の主要室のパース（透視図）を作成する。家具、人物を必ず入れる
	教室外学習(予習・復習)の内容	パースを作成する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第6回	**授業テーマ**	模型の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模型を作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	模型の部品を作成する
	教室外学習の時間（分）	240分

第7回	授業テーマ	ポスターセッション（展示発表会）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模型の写真を撮り、図面、パースと共にレイアウトする。
	教室外学習の時間（分）	240分
第8回	授業テーマ	課題説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第2課題（RC造、S造展示施設）について説明を行う。その後グループに分かれて、コンセプトを考え、資料を集める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	展示施設の設計、デザインの資料を集め、図面をよく読みこんでおく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	授業テーマ	コンセプト発表、コンセプトワーク
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各グループでコンセプトの発表を一人ずつ行い、教員の講評を受ける。展示施設のエスキースを始める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	コンセプト、デザインイメージについて、考え、紙に書く。
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	授業テーマ	エスキース
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回のコンセプトを元に、エスキースを進める。コンセプト模型、ラフな平面図、断面図を作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	平面図のエスキース
	教室外学習の時間（分）	240分
第11回	授業テーマ	平面図の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平面図のエスキース、製図を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	平面図のエスキース、製図を行う。
	教室外学習の時間（分）	240分
第12回	授業テーマ	断面図、立面図の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	断面図2面、立面図4面を作成する。
	教室外学習(予	断面図2面、立面図4面のエスキース、製図を行う。

	習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	240分
第13回	授業テーマ	パースと模型の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	展示施設のメイン部分のパースと全体模型を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パース、模型を作成する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第14回	授業テーマ	ポスターセッション（展示発表会）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模型の写真を撮り、図面、パースと共にレイアウトする。
	教室外学習の時間（分）	240分

学生へのフィードバック方法

毎回、各教員が学生のエスキース、図面、模型などを評価し、その都度、助言を与え、修正などの指示を与える。

評価方法

ポスターセッション（発表会）で作品を展示発表し、教員3人により、機能、デザイン、プレゼンテーションの3つの評価軸で採点する。平常点として授業への参画、取り組み姿勢を評価する。詳細は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内での配布する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
設計作品の展示、発表	○	○	○	○

評価割合

課題作品の評価と平常点による。配点は課題評価80%。課題評価のうち、第1作品40%、第2作品40%。平常点20%。総合点100点。必要図面の欠落、展示発表会の遅刻は各マイナス5点。

使用教科書名(ISBN番号)

新しい建築の製図編集委員会編「新しい建築の製図」学芸出版（4-7615-2375-1）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」の分野のRC造、S造の大型建物についての専門的知識を有している。
【思考・判断】社会にあるRC造、S造の大型建物の基本設計を理解して良否、可否を判断できる。
【関心・意欲・態度】社会にあるRC造、S造の大型建物に関心を持ち、デザインに意欲を持つ。
【技術・表現】RC造、S造の大型建物の設計を立案でき、社会に対して洗練された表現力で提示できる。

オフィスアワー

金曜2限時 3602研究室

学生へのメッセージ

3年生後期は大型建築に重点を置いた課題ですが、建築の基本として、各部寸法や平面図、断面図、立面図（展開図）などをしっかりとマスターしてください。RC造、S造の構造の基本も同時に習得してください。多くの図面、パースを書く必要がありますが、それを実行するために一番重要なのは、デザインを楽しみながら演習に取り組むことです。楽しんで続けることを、常に心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年の設計監理経験を有しており、RC造集合住宅の実施設計経験がある。設計指導にあたり、実務で学んだ設計、デザインの知識を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回小人数グループで、設計製図の指導を演習を通して行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03055001
講義名	住居ＣＡＤ演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	小川 圭子	指定なし

ナンバリング

D23107M22

授業概要(教育目的)

建築設計においてCADの基礎を身に付けることを目的とし、設計作業を通しながら、設計製図の基本を指導する。本講義では、AutoCADを使用し、基礎的操作から、図面作成のテクニックまで、さらに３次元のモデルやプレゼンテーション技法の習得を目指し、住宅の基本設計図を適切に表現するための必要な知識と技法を身に付けさせる。

履修条件

原則、「住居デザイン演習C」を履修し、単位取得ができていること。
教科書、ノートPC、マウスは毎回持参すること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	平面図、立面図、断面図の関連を説明できる。画層（レイヤー）の概念を用い、図面を構成する線やその種類等を類別できる。
思考・判断の観点 (K)	CADを活用して設計内容を適切に表現するための方法を考え、選択・検討・改善できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	プレゼンテーション手法全般について、興味もち、復習に積極的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	2次元CAD・3次元CADの基本コマンドを使いこなし、正しいく効果的な図面表現ができる。

学習計画

	授業テーマ	AutoCADの導入と操作の基本 ２Dの作図の基本（1）
		シラバスの説明

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	CADとは CADの用途 CADの特徴 建築汎用CADソフトの種類 AutoCADの特徴 手書き図面とAutoCADの手順の違い 縮尺による図面表現の違い 1-1AutoCADをはじめよう 1-2AutoCADの画面構成、環境設定 1-3ファイル操作 1-4画面の移動や拡大／縮小 1-5操作のルール、覚えておくと便利なショートカット
	教室外学習(予習・復習)の内容	初回授業時までに2Dの教科書を購入し持参するとともに、自宅のＰＣに個々のOSに対応するAutoCADをダウンロード・インストールしたノートPCを持参すること。また、授業後には、授業の内容を振り返り、授業内の演習に取り組み、復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	100
第2回	**授業テーマ**	２Dの作図の基本（2） ２Dの修正の基本（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コマンドの基本的な操作方法 2-1線分の描き方 2-2円の描き方 楕円・楕円の描き方 円弧の描き方 2-3長方形の描き方 正多角形（ポリゴン）・点・スプライン（曲線）・ポリラインの描き方 2-4練習問題 2-5ステップアップ問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	練習問題等、本日の授業の復習に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	100
第3回	**授業テーマ**	２Dの修正の基本（2） ２Dの注釈の基本
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3-1図形の削除 3-2図形の移動 3-3図形の複写 配列複写・ディバイダ（等分割） 3-4図形の回転 3-5図形のオフセット 3-6図形の鏡像（ミラー反転） 3-7図形のトリム（切断）／延長 線の部分削除と切断・長さ変更 3-8図形のフィレット 図形の尺度変更（拡大/縮小）・ストレッチ（伸縮）・結合（ポリライン化）・分解 3-9練習問題 3-10ステップアップ問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	練習問題等、本日の授業の復習に取り組む。

	教室外学習の時間（分）	100
第4回	**授業テーマ**	２Dの画層の基本 ２Dの総合演習（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4-1文字の記入と修正 4-2寸法と引出線の記入と修正 4-3ハッチングの記入と修正 4-4練習問題 4-5ステップアップ問題 画層の考え方、画層でできること 5-1図形の画層を指定する 5-2画層の表示とロック 【課題1】の出題 6-1図面作図の演習の概要 6-2テンプレートの作成（線種・画層の設定）
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の授業の復習に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	100
第5回	**授業テーマ**	２Dの総合演習（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	6-2テンプレートの作成の続き（文字スタイル、寸法スタイル、マルチ引出線スタイルの設定） 6-3尺度の設定 6-4壁芯の作図 6-5壁芯の寸法の作図 6-6壁の作図（1） 6-7壁の作図（2） 6-8開口の作図 6-9バルコニーと階段の作図 マルチライン
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の授業の復習に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	100
第6回	**授業テーマ**	総合演習（3） ２Dの作図がもっと便利になる機能 ２Dの設計・作図練習（平面図）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	6-10ドアと窓の作図 6-11バルコニーの窓の作図 6-12キッチンシンクの作図 6-13記号や文字の作図 6-14印刷 課題1（成果物1）の提出
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の授業の復習に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	100
	授業テーマ	２Dの設計・作図練習（配置図兼1階平面図）

第7回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	7-1クイック選択 7-2プロパティコピー 7-3ブロック 7-4他の図面からコピー（添景等の挿入） 7-5長さと面積の取得 ２DでのUCS座標の考え方 7-6レイアウト これまでの操作を踏まえて、設計をしながら、各階平面図をＣＡＤで作図する。成果物のデータ、印刷物を提出する。これまでの操作を踏まえて、設計をしながら、配置図兼1階平面図をＣＡＤで作図する。成果物のデータを提出する。 【課題2】の出題
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の授業の復習に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	100
第8回	**授業テーマ**	２Dの設計・作図練習（各階平面図）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題2の成果物を作成作成する。 これまでの操作を踏まえて、設計をしながら、各階平面図をＣＡＤで作図する（成果物2）。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の授業の復習に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	100
第9回	**授業テーマ**	２Dの設計・作図練習（断面図・立面図）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題2のレイアウト・出力 イメージをアタッチ（挿入）する レイアウトした課題2の提出方法 これまでの操作を踏まえて、設計をしながら、断面図・立面図をＣＡＤで作図する（成果物2）。成果物のデータをレイアウト・出力する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の授業の復習に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	100
第10回	**授業テーマ**	３Dの基本の基本（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	AutoCADによる投影の種類 1.1 AutoCADの準備 1.2 モデリングの概要 1.3 基本3D形状の作り方 1.4 ２D図形を押し出す 1.5 スイープ 1.6 回転体を作る 1.7 ロフトで形を作る ポリソリッド、境界線引き伸ばし 1.8 ３Dオブジェクトの編集と加工 1.9 移動と複写

		1.10 回転 1.11 配列複写 1.12 鏡像 1.13 位置合わせ
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の授業の復習に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	100
第11回	**授業テーマ**	３Dの基本の基本（2） 住宅のモデリング・レンダリング(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.14 ソリッド編集 1.15 簡易レンダリング 1.16 ビューを変える方法 ３DでのUCS座標の考え方 モデリングする基本的な考え方 2.1 モデリング方法の概要 2.2 基礎を作る 2.3 1階の壁を作る 2.4 1階の壁に穴をあけ、2階の床をつくる。 2.5 2階の壁を作る 2.6 1階の屋根を作る 2.7 2階の屋根を作る
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の授業の復習に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	100
第12回	**授業テーマ**	住宅のモデリング・レンダリング(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2.8 引き違いサッシュを作る 2.9 片引きサッシュを作る 2.10 モデリングの仕上げ 【課題3】出題
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の授業の復習に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	100
第13回	**授業テーマ**	インテリアパースの作成（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3-1 ビューの設定 3-2 光源 3-3 マテリアル 3-4 レンダリングの背景 3-5 住宅の仕上げ ３DのDWG形式のCADデータの添景 レンダリングイメージを取り出す パースに人型を配置するには トリミング 指定した空間をモデリング、レンダリングし、インテリアパースを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業時間内に完成できなかった場合は、完成をさせ、提出する。

	教室外学習の時間（分）	100
第14回	授業テーマ	インテリアパースの作成（2） レイアウト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指定した空間をモデリング、レンダリングし、インテリアパースを作成する。また、各階平面図、断面図、立面図、インテリアパース、模型写真等をA3サイズにレイアウトし、成果物3のデータと印刷物を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業時間内に完成できなかった場合は、指定期日までに完成をさせ、提出する。
	教室外学習の時間（分）	100

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

GoogleClassroom等を用い、成果物の管理を行う。
提出された提出物は、確認をし問題があれば、コメントして返却する。

評価方法

平常点（授業態度）、成果物計3点（CADで作図した平面図・断面図・立面図も含めたレイアウト課題）とする。
詳細は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
課題1成果物	○			○
課題2成果物	○	○		○
課題3成果物	○	○		○

評価割合

平常点20%、課題1成果物：20%、課題2成果物：50% 課題3成果物：10%

使用教科書名(ISBN番号)

「はじめてのAutoCAD2023/2022作図と修正の操作がわかる本」芳賀百合 ソシム 2022 ISBN978-4-8026-1370-5￥2,718（税込）
「AutoCADで3D攻略読本」鳥谷部真 エクスナレッジ 2020 ISBN987-4-7678-2798-8 ￥3,960（税込）

参考URL

https://sites.google.com/kasei-gakuin.ac.jp/autocad

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」の分野について、専門的知識・技術を有している
【思考・判断】
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる
【技能・表現】社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている

オフィスアワー

水曜昼休み～３時限 3512研究室
その他、授業中以外の質問等は、メール、GoogleClassroomでも受け付ける。

学生へのメッセージ

CAD修得には、予習よりも授業で行った操作について繰り返し練習することが重要です。授業内は集中して授業の取り組み、わからない、うまくできない部分は、そのままにせず、積極的に質問をするように心掛けてください。また、この授業が修得できれば、建築CAD検定試験4級の合格も目指せるかと思いますので、興味ある学生は挑戦してみてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学生が主体的にPC操作を行い、教員の個別指導や学生間の支援を通して学びを深める。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	自身のPCを使うことで、ソフトのダウンロード・インストールから、データの作成、インポート・エクスポート、ソフトの更新についても理解する。

講義コード	G03056001
講義名	建築ＣＡＤ演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	藤田 敦	指定なし

ナンバリング

D33108M22

授業概要(教育目的)

住居CAD演習で習得したスキルを基本に実社会に応用できる設計製図手法を身に付けることを目的とし、建築設計およびそのプレゼンテーション技法のテクニックを教育する。本講義では、AutoCADや関連ソフトを使用し、設計作業を通しながら、2次元から3次元図面作成のテクニックをさらに効果的に視覚化できるプレゼンテーション技法の習得を目指し、建築をわかりやすく適切に表現するために必要な知識と技法を指導する。

履修条件

・2年後期に住居CADデザイン演習を履修し、単位取得ができていること。
・モデリングソフトについて：有料ソフトである「教育版SketchUp」を用いて授業を行います。
授業期間中には13,750円/年 契約が必要です。
※価格は変動する可能性があります。
https://sketchup-alphacox.jp/planpricingを参考してください。
・レンダリングソフトについて：有料ソフトである「学生版Enscape」を用いて授業を行います。
授業期間中には19,400円/年 契約が必要です。
※価格は変動する可能性があります。
https://enscape3d.com/educational-license/student/を参考してください。
※レンダリングソフトについては、有料ソフトのEnscape、
もしくは無料ソフトのTwinmotionの2つから選択可能です。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	2次元図面と3次元図面の考え方、相互の関係を理解できる。
思考・判断の観	建築をわかりやすく正しくに表現するために、適したプレゼンを選択するこ

点 (K)	とができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	プレゼンテーション手法全般について、興味もち、復習に積極的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	2次元-CAD・3次元-CADの基本コマンドやレンダリングソストを使いこなし、正しいく効果的な図面・画像表現ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	イントロダクション ２D図面の復習とテクニック
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イントロダクション ２D図面作成で役立つテクニック 国土地理院の地図データを使用し、計画敷地周辺のCADデータを読み込み、加工する PDFデータを２DCADデータに変換
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の復習に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	100
第2回	**授業テーマ**	AutoCADの３Dデータの作成（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	２Dモデルから３Dモデルの生成方法 ３D モデルから 2D 図面を作成 アイソメパース、断面パースの描き方
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の復習に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	100
第3回	**授業テーマ**	AutoCADの３Dデータの作成（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	３Dモデル作成での役立つテクニック
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の復習に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	100
第4回	**授業テーマ**	レンダリングの基本（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レンダリングソフトの概要 アカウント登録 DL、インストルの方法 起動・終了等、日本語表示切り替え インターフェイス 基本操作（１） マテリアルの貼り込み 地形・植栽の配置、設定 調度品・備品の配置、設定 光の配置、設定、影 キャラクターの配置、設定 乗物の配置、設定 ツールの設定
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の復習に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	100
	授業テーマ	レンダリングの基本（2）
		基本操作（2） インポート

第5回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	周辺環境の設定 設定 メディア エキスポート
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の復習に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	100
第6回	**授業テーマ**	レンダリングの応用（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	静止画の作成 内観パース アイソメパース 断面パース 外観パース
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の復習に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	100
第7回	**授業テーマ**	レンダリングの応用（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動画の作成 ポートフォリオ等の作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の復習に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	100
第8回	**授業テーマ**	総合演習（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	AutoCADで平面図を作成し、提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業時間内に完成できなかった場合は、完成をさせ、提出する。
	教室外学習の時間（分）	100
第9回	**授業テーマ**	総合演習（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の授業で描いた２DのCADデータを用い、３Dに起こし開口部や屋根を作成し、提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業時間内に完成できなかった場合は、完成をさせ、提出する。
	教室外学習の時間（分）	100
第10回	**授業テーマ**	総合演習（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レンダリングソフトを用い、本日の授業の復習に取り組む。効果的な内観パース・外観を作成し、提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業時間内に完成できなかった場合は、完成をさせ、提出する。
	教室外学習の時間（分）	100
第11回	**授業テーマ**	総合演習（4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レンダリングソフトを用い、効果的なアイソメパース、断面パース等を作成し、提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業時間内に完成できなかった場合は、完成をさせ、提出する。

	教室外学習の時間（分）	100
第12回	**授業テーマ**	総合演習（5）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レンダリングソフトを用い、外構や周辺環境のの景を作成し、提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業時間内に完成できなかった場合は、完成をさせ、提出する。
	教室外学習の時間（分）	100
第13回	**授業テーマ**	総合演習（6）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レンダリングソフトを用い、効果的な動画を作成し、エクスポートする。完成したものを提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業時間内に完成できなかった場合は、完成をさせ、提出する。
	教室外学習の時間（分）	100
第14回	**授業テーマ**	総合演習（7） 課題提出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第8回から作成したデータを用いて、効果的なプレゼンテーションを用いてレイアウトしたものの印刷物とデータを提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業時間内に完成できなかった場合は、指定期日までに完成をさせ、提出する。
	教室外学習の時間（分）	100

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

GoogleClassroomを用い、成果物の管理を行う。
提出された提出物は、確認をし、コメントして返却する。

評価方法

平常点（授業態度）、総合演習の提出物、最終成果物（CADで作図した各種図面、３Dモデル、静止画パース、動画も含めたレイアウト課題）とする。
なお、評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
総合演習の提出物	○			○
最終成果物	○	○		○

評価割合

平常点30%、総合演習の提出物10%、成果物60%

使用教科書名(ISBN番号)

未定

参考図書

・はじめてのAutoCAD2025/2024作図と修正の操作がわかる本／芳賀百合

ソシム 2024 ISBN978-4-8026-1467-2 ￥2,860(税込)
・SketchUpパーフェクト 作図実践+テクニック編 阿部 秀之 エクスナレッジ 2019 ISBN-10:4767826594 ￥3,300(税込)

参考URL

https://enscape-to-sketchup.hateblo.jp/

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」の分野について、専門的知識・技術を有している
【思考・判断】各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる
【技能・表現】社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている

学生へのメッセージ

住居CAD演習で習得したスキルを前提として授業をすすめます。
CAD修得には、予習よりも授業で行った操作について繰り返し練習することが重要です。また、効果的なプレゼンテーションを行うには、プレゼンテーションを受ける側に立って行うことが重要です。授業内は集中して授業の取り組み、わからない、うまくできない部分は、そのままにせず、積極的に質問をするように心掛けてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	使用頻度の高いショートカットキーや、３Ｄ製作での豆知識、テクニックなどは授業の中で適時説明する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03057001
講義名	建築総合演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	柏木 穂波	指定なし

ナンバリング

D43109M22

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科における４年間の学修を確実なものとするために、木造軸組構法、ＲＣラーメン構造の戸建て住宅の設計作図をおこなう。設計にあたっては、構造計画・設備計画及び周辺環境との調和を図り、総合的にまとめあげることを要求する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	木造軸組構法、RCラーメン構造の住宅の構成・構造を理解する。
思考・判断の観点 (K)	木造軸組構法、RCラーメン構造の住宅について、適切な計画・構造となっているか判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	住宅について、積極的に住まい手の要求をくみ取り、快適な住生活のための適切な計画を提案できる。
技術・表現の観点 (A)	住宅について、住まい手の要求に適合した計画案を作成でき、建築設計図書として表現できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス、課題１ その1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンス、課題1説明、完成図例を配布後、各自、平面図を作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	建築製図の基礎、木造とRC造の構法の違いについて確認をしておく 授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること

	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	**授業テーマ**	課題１ その2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	面積表、仕上げ表、主要構造部材表、断面図を作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	**授業テーマ**	課題１ その3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配置図、立面図を作成する。法規チェック、記入もれがないか確認をおこなう
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	**授業テーマ**	課題２ その1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題１提出。課題２の説明後、各自、平面計画をおこなう
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	**授業テーマ**	課題２ その2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題２の完成図例を配布および解説後、各自、面積表、配置図、平面図を作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	**授業テーマ**	課題２ その3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	床伏図の考え方を解説後、主要構造部材表、床伏図を作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	**授業テーマ**	課題２ その4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	矩計図の解説後、矩計図を作成する。法規チェック、記入もれがないか確認をおこなう
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	**授業テーマ**	課題３ その1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題２提出。課題３の説明後、各自、平面計画をおこなう
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	**授業テーマ**	課題３ その2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業内に平面計画を提出。指導を受けた後、各自、面積表、平面図を作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること

	教室外学習の時間（分）	100分
第10回	**授業テーマ**	課題３ その3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業内に床伏図を提出。指導を受けた後、主要構造部材表、床伏図を作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	**授業テーマ**	課題３ その4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題３の完成図例を配布および解説 配置図、矩計図を作成する。法規チェック、記入もれがないか確認をおこなう
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	**授業テーマ**	課題４ その1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題３提出。課題４の説明後、各自、平面計画をおこなう。 授業内に平面計画を提出。指導を受けた後、各自、面積表、平面図を作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	**授業テーマ**	課題４ その2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題４の完成図例を配布および解説。平面図の完成と断面図を作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	**授業テーマ**	課題４ その3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配置図、立面図を作成する。法規チェック、記入もれがないか確認をおこなう。 課題４提出
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること
	教室外学習の時間（分）	50分

学生へのフィードバック方法

演習課題方式で授業を進める。授業内での質問を歓迎する。

評価方法

課題については、計画の適切性および図面の完成度によって評価する。平常点については、授業中の学習態度によって評価する。なお、評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
課題	○	○		○

評価割合

平常点：20%／課題：80%による総合評価、但し全課題提出を条件とする。

使用教科書名(ISBN番号)

「特に指定しない」
適宜、シラバスに沿ってプリント及び関連資料を配布する。

参考図書

「新しい建築の製図」「新しい建築の製図」編集委員会／学芸出版社／2005／978-4-7615-2375-6

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」分野 について、専門的知識・技術を有している。
【思考・判断】各種の多様な情報を客観的に理解し判断できる。
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、１級建築士の資格を有し、設計事務所開設後27年間、木造及び鉄骨造の住宅・事務所・店舗等の設計監理に携わっている。 建築総合演習の指導にあたり、実務で学んだ設計の専門的知識、技術を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03058001
講義名	建築計画
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小池 孝子	指定なし

ナンバリング

D33205M21

授業概要(教育目的)

建築計画学とは、建築をつくる上での基礎となる技術であり、人間の生活と空間との対応が重視される分野である。授業は建築計画に関する基礎的理論を学んだ後、各種建物に共通する基礎的問題や空間性能について具体的な建築としての各種施設を概説しながら進行する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	寸法の単位や寸法のシステム等寸法、人間の心理・行動と空間との関連、建築・住居の安全性に関する基本的な考え方及び技術者の社会的業務、各種施設の機能・形態別の特色と居住性などの基本的な「建築士」としての建築計画分野の全般的な知識を習得する。
思考・判断の観点 (K)	建物が適切な建築計画に基づいてつくられているか判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	建築士としての社会的業務・責務に関わる諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス／建築計画とは

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築計画の全体像について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）市民参加ワークショップによる計画事例について調べ、市民の設計プロセスへの係わりについて理解する。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	寸法の決め方・決まり方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築における寸法体系、寸法の決め方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを参照し、さまざまな要因から決まる寸法の事例について建築雑誌を用いて調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	空間移動と安全性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	群衆行動の法則性と建物の安全計画・安全設計、防災計画について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを参照し、群衆事故の事例について調べ、対策を考える。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	空間と知覚
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	空間の概念、知覚、錯視と知覚の恒常性、アフォーダンスの概念について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを参照し、身近なアフォーダンスの例について考える。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	空間と人間のイメージ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	都市のイメージ、レジビリティの概念について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを参照し、自分の住む都市のイメージについて考える。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	周辺空間と人間の心理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	空間におけるプライバシー、テリトリー、テリトリアリティの概念について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを参照し、自分の家の周りの領域性、自然監視について考える。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	小学校・中学校・高等学校
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校・中学校・高等学校の建築計画に関わる法規・機能・計画手法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを復習し、小学校・中学校・高等学校の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	幼稚園・保育所

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼稚園・保育所の建築計画に関わる法規・機能・計画手法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを復習し、幼稚園・保育所の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	美術館
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	美術館の備えるべき機能・計画手法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを復習し、美術館の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	図書館
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館の備えるべき機能・計画手法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを復習し、図書館の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	劇場
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	劇場の備えるべき機能・計画手法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを復習し、劇場の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	ホテル・事務所
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ホテルの建築計画に関わる法規・機能・計画手法、事務所の備えるべき機能・計画手法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを復習し、ホテル・事務所の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	病院・診療所・高齢者施設
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	病院・診療所・高齢者施設の建築計画に関わる法規・機能・計画手法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを復習し、病院・診療所・高齢者施設の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	商業施設・駐車場・スポーツ施設
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	商業施設・駐車場・スポーツ施設の備えるべき機能・計画手法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを復習し、商業施設・駐車場・スポーツ施設の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

小課題については採点し、次回授業時に全体講評をおこない返却する。
小レポートについては、次回授業時に全体講評をおこなう。
小テストについては採点し、授業内で解説するとともに返却する。

評価方法

小課題は、授業時間内に実習課題として実施する。取り組み状況、完成度によって評価する。２回の実施を予定している。
小レポートは、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述する。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。6回程度を予定している。
小テストは、第1回～第7回の授業内容について第8回授業にて、第8回～第14回の授業内容について第14回授業にて実施する。穴埋め問題を出題する。
定期試験は穴埋め問題、正誤問題を出題する。
なお、評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小課題	○	○		
小レポート	○	○	○	
小テスト	○			
定期試験	○			

評価割合

小課題・小レポート・小テストを合わせて60%、定期試験40%により総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特にテキストは指定しない。

参考図書

「図説やさしい建築計画」深水浩／学芸出版社／2011

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」分野 について、専門的知識を有している
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。また各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる

オフィスアワー

金曜２時限 3508研究室

学生へのメッセージ

建築士やインテリアコーディネーターなど資格取得の必須の科目であるため、その試験概要について把握していること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03059001
講義名	建築環境学Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	柿本 美樹枝	指定なし

ナンバリング

D33209M21

授業概要(教育目的)

本授業では人のコミュニケーションに欠かせない視覚と聴覚から入る情報を、いかに適正で快適に伝える建築空間を創造できるか、人間の身体的特性から紐解き、その性質を学びます。人間の目と耳の構造、環境評価の指数、採光計画や音響計画の概要について学びます。
この授業では、主に建築環境を形成する物理的要素である「光・音」の基本的性質を理解するとともに、その環境を評価する私たちの感覚の特性を知ることによって、建物・設備性能が居住者へ与える影響を考えます。それらの知識を踏まえて、居住者にとって望ましい建築環境を構築するための具体的な手法を習得します。

履修条件

建築環境学Aの履修が望ましい

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	［建築士指定科目］建築環境を構成する、光・音の基本的性質を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	建築環境の果たす役割を、考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会における建築環境課題に関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	建築環境課題への自分の意見を、専門用語を用いて述べることができる。

学習計画

建築環境学B

		ガイダンス

第1回	授業テーマ	人間の視覚の特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業計画 人間の視覚の特徴について、概要を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	人間の視覚の特徴について復習
	教室外学習の時間（分）	150
第2回	授業テーマ	光と視覚（１） 人間の目の構造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人間が光を感じるメカニズムを知り、快適な光環境を実現するための要件とは何か、生活環境の中で考える。比視感度／プルキンエ現象／暗順応／明順応
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第3章光環境I[基本と原理]を読んでおく
	教室外学習の時間（分）	150
第3回	授業テーマ	光と視覚（2） 測光量・測色量
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	測光量(光速、光度、照度、光速拡散度、輝度)の関係、測色量／色の三属性／色の三原色／表色系の種類
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第3章II[設計目標]を読んでおく
	教室外学習の時間（分）	150
第4回	授業テーマ	光と視覚（3） 色彩と光の伝達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	色彩調節と色彩計画 ／光の伝達／色温度／カラーバリアフリー
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題１「視覚特性と光と色」レポート[測光量・測色量]の復習
	教室外学習の時間（分）	250
第5回	授業テーマ	光環境の評価指標(1) IESNA明視条件
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	明るさと明るさのむら／グレア／輝度対比
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題２「色の見えの比較」[視覚特性]の復習
	教室外学習の時間（分）	250
第6回	授業テーマ	光環境の評価指標(2) 色の見えと演色
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	色の見え、演色評価数／光の指向性／雰囲気
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第3章III光環境の計画と制御]を読んでおく

	教室外学習の時間（分）	150
第7回	**授業テーマ**	光環境の計画と制御（1） 採光計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	昼光光源と採光計画／窓の位置や種類による分類
	教室外学習(予習・復習)の内容	採光計画における窓の役割を把握する。 課題３「採光・日照調整のための窓システム」を調べる。
	教室外学習の時間（分）	250
第8回	**授業テーマ**	光環境の計画と制御（2） 照明計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人工光源の特徴／照明方式の分類／配光
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題４_住宅の照明計画を行う 照明プロット図の作成
	教室外学習の時間（分）	250
第9回	**授業テーマ**	光環境の計画と制御（3） 照明計算
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	直接照度／間接照度／遂点法／光速法
	教室外学習(予習・復習)の内容	光環境のまとめ総復習 課題５_サイン計画を考える。 サインの色をデザインする。
	教室外学習の時間（分）	250
第10回	**授業テーマ**	音環境 音と聴覚(1) 人間の聴覚特性、聴覚と騒音レベル
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人間の耳の構造／音を表す量／身の周りの環境と騒音レベル／等ラウドネス曲線
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第4章I[基本と原理]を読んでおく
	教室外学習の時間（分）	150
第11回	**授業テーマ**	音環境 音と聴覚(2) 音の物理的性質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	音波／周波数と波長／音速／反射や吸収透過／音の三要素／音の単位／吸音と遮音／室内音場／音の伝搬と衰退
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題６[音の物的特性]の復習
	教室外学習の時間（分）	250
	授業テーマ	音環境の設計目標 遮音と音の響き
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	遮音性能／室内騒音の評価方法と数値目標／音の伝搬と減衰

第12回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	／
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第4章II[設計目標]を読んでおく
	教室外学習の時間（分）	150
第13回	授業テーマ	音環境の計画と制御（1） 騒音防止計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	壁の遮音性能／コインシデンス効果／サウンドブリッジ／振動防止／透過率と透過損失
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題７[音環境]の復習
	教室外学習の時間（分）	250
第14回	授業テーマ	音環境の計画と制御（２） 室内音響計画 定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	吸音機構と吸音材料／残響時間／室内騒音 定期試験
	教室外学習(予習・復習)の内容	建築環境学の[光と音]全般を復習
	教室外学習の時間（分）	50

学生へのフィードバック方法

課題については授業中に説明を行う。

評価方法

・課題は、授業の理解度を示す記述式レポートと教科書の例題です。

・定期試験は、環境工学用語の概念とその仕組みの理解度を確認します。
建築士の試験問題に準じた課題を多肢択一で選ぶ設問も含みます。

・ルーブリックに基づく成績評価。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
課題	○	○	○	○

評価割合

定期試験(50%)、課題(50%)による総合評価

使用教科書名(ISBN番号)

「しくみがわかる建築環境工学 第2版 基礎から計画・制御まで」／上野佳奈子他／彰国社／2022年／ISBN（978-4-395-32183-4)

ディプロマポリシーとの関連

［知識・理解］ 建築分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。

［思考・判断］ 建築環境の果たす役割を、考えることができる。
[関心・意欲・態度] 社会における建築環境課題に関心を持つことができる。
[技術・表現] 建築環境課題への自分の意見を、専門用語を用いて述べることができる。

学生へのメッセージ

建築士試験指定科目 ③建築環境工学 に認定。

室内環境を整える建築環境学については、建築や住まいの設計だけではなく、インテリアデザインにとっても重要です。積極的に学びましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は建築設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能である。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03059002
講義名	建築環境学Ｂ（2025年以降入学生用）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小池 孝子	指定なし

ナンバリング

D33209M21

授業概要(教育目的)

本授業では人のコミュニケーションに欠かせない視覚と聴覚から入る情報を、いかに適正で快適に伝える建築空間を創造できるか、人間の身体的特性から紐解き、その性質を学びます。人間の目と耳の構造、環境評価の指数、採光計画や音響計画の概要について学びます。
この授業では、主に建築環境を形成する物理的要素である「光・音」の基本的性質を理解するとともに、その環境を評価する私たちの感覚の特性を知ることによって、建物・設備性能が居住者へ与える影響を考えます。それらの知識を踏まえて、居住者にとって望ましい建築環境を構築するための具体的な手法を習得します。

履修条件

建築環境学Aの履修が望ましい

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	［建築士指定科目］建築環境を構成する、光・音の基本的性質を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

建築環境学B

	授業テーマ	ガイダンス 人間の視覚の特徴

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	授業計画 人間の視覚の特徴について、概要を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	人間の視覚の特徴について復習
	教室外学習の時間（分）	150
第2回	**授業テーマ**	光と視覚（１） 人間の目の構造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人間が光を感じるメカニズムを知り、快適な光環境を実現するための要件とは何か、生活環境の中で考える。比視感度／プルキンエ現象／暗順応／明順応
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第3章I[基本と原理]を読んでおく
	教室外学習の時間（分）	150
第3回	**授業テーマ**	光と視覚（2） 測光量・測色量
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	測光量(光速、光度、照度、光速拡散度、輝度)の関係、測色量／色の三属性／色の三原色／表色系の種類
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第3章II[設計目標]を読んでおく
	教室外学習の時間（分）	150
第4回	**授業テーマ**	光と視覚（3） 色彩と光の伝達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	色彩調節と色彩計画／光の伝達／色温度／カラーバリアフリー
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題１「視覚特性と光と色」レポート[測光量・測色量]の復習
	教室外学習の時間（分）	250
第5回	**授業テーマ**	光環境の評価指標(1) 明視条件
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	明るさと明るさのむら／グレア／輝度対比
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題２「色の見えの比較」[視覚特性]の復習
	教室外学習の時間（分）	250
第6回	**授業テーマ**	光環境の評価指標(2) 色の見えと演色
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	色の見え、演色評価数／光の指向性／雰囲気
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第3章III光環境の計画と制御]を読んでおく

	教室外学習の時間（分）	250
第7回	**授業テーマ**	光環境の計画と制御（1） 採光計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	昼光光源と採光計画／窓の位置や種類による分類
	教室外学習(予習・復習)の内容	採光計画における窓の役割を把握する。課題３「採光・日照調整のための窓システム」
	教室外学習の時間（分）	150
第8回	**授業テーマ**	光環境の計画と制御（2） 照明計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人工光源の特徴／照明方式の分類／配光
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題４_住宅の照明計画を行う 照明プロット図の作成
	教室外学習の時間（分）	250
第9回	**授業テーマ**	光環境の計画と制御（3） 照明計算
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	直接照度／間接照度／遂点法／光速法
	教室外学習(予習・復習)の内容	光環境のまとめ総復習 課題５_サイン計画を考える サインの色をデザインする
	教室外学習の時間（分）	250
第10回	**授業テーマ**	音環境 音と聴覚(1) 人間の聴覚特性、聴覚と騒音レベル
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人間の耳の構造／音を表す量／身の周りの環境と騒音レベル／等ラウドネス曲線
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第4章I[基本と原理]を読んでおく
	教室外学習の時間（分）	150
第11回	**授業テーマ**	音と聴覚(2) 音の物理的性質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	音波／周波数と波長／音速／反射や吸収透過／音の三要素／音の単位／吸音と遮音／室内音場／音の伝搬と衰退
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題６[音の物的特性]の復習
	教室外学習の時間（分）	250
	授業テーマ	音環境の設計目標 遮音と音の響き

第12回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	遮音性能／室内騒音の評価方法と数値目標／音の伝搬と減衰
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第4章II[設計目標]を読んでおく
	教室外学習の時間（分）	150
第13回	授業テーマ	音環境の計画と制御（1） 騒音防止計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	壁の遮音性能／コインシデンス効果／サウンドブリッジ／振動防止／透過率と透過損失
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題７[音環境]の復習
	教室外学習の時間（分）	250
第14回	授業テーマ	音環境の計画と制御（２） 室内音響計画 定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	吸音機構と吸音材料／残響時間／室内騒音 定期試験
	教室外学習(予習・復習)の内容	建築環境学の[光と音]全般を復習
	教室外学習の時間（分）	50

学生へのフィードバック方法

課題については授業中に説明を行う。

評価方法

・課題は、授業の理解度を示す記述式レポートと教科書の例題です。

・定期試験は、環境工学用語の概念とその仕組みの理解度を確認します。
建築士の試験問題に準じた課題を多肢択一で選ぶ設問も含みます。

・ルーブリックに基づく成績評価。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
課題	○		○	○

評価割合

定期試験(50%)、課題(50%)による総合評価

使用教科書名(ISBN番号)

「しくみがわかる建築環境工学 第2版 基礎から計画・制御まで」／上野佳奈子他／彰国社／2022年／ISBN（978-4-395-32183-4)

ディプロマポリシーとの関連

［知識・理解］ 住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。

学生へのメッセージ

建築士試験指定科目 ③建築環境工学 に認定。

室内環境を整える建築環境学については、建築や住まいの設計だけではなく、インテリアデザインにとっても重要です。積極的に学びましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03060001
講義名	建築環境システム
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	柿本 美樹枝	指定なし

ナンバリング

D33211M21

授業概要(教育目的)

建築空間と設備の機能が一体となって初めて、空間の環境は完成します。建築設備（給排水衛生・空気調和・電気・搬送・防災）の役割、種類と構成のシステムを知ると共に、平面・断面計画上の設備スペース。昨今、重要性が高まっている防災計画から、省エネルギー計画まで、建築と設備のあり方を学びます。

履修条件

「住居設備」の履修が望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	［建築士指定科目］建築設備の名称とその働きを説明できること。また、設備システムを選択する上で、考慮すべき点を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	建築システムの果たす役割を、考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会における建築システムに関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	専門用語を用いて、建築システムの課題への自分の意見を述べることができる。

学習計画

建築環境システム

	授業テーマ	ガイダンス 建築設備の概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第1回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業計画 建築設備の概要を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	建築設備の概要を復習する
	教室外学習の時間（分）	150
第2回	授業テーマ	建築から建築設備へ（１） 建築設備の位置付け
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地球環境問題と建築設備、建物と省エネルギー、維持管理、建物の長寿命化と建築設備の更新性について
	教室外学習(予習・復習)の内容	地球環境問題と建築設備のあり方を復習する
	教室外学習の時間（分）	150
第3回	授業テーマ	建築から建築設備へ（２） 設備デザインの可能性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	省エネルギー建築手法、自然エネルギーの活用、ハイブリッド空調、建築設備構造の統合デザイン
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題１_建築物環境性能評価ツールを調べる
	教室外学習の時間（分）	250
第4回	授業テーマ	建築と省エネルギー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	再生可能エネルギー、環境マネジメント、省エネ法、＊水素エネルギーの活用
	教室外学習(予習・復習)の内容	省エネルギーについて復習する
	教室外学習の時間（分）	150
第5回	授業テーマ	空気調和設備の概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	空気調和設備の目的と仕組み、 空気調和と室内環境、温熱感覚
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p98～109（空気調和設備とは～空気の状態を知る）を読んでおく
	教室外学習の時間（分）	150
第6回	授業テーマ	空調負荷（１） 自然環境と建築環境の関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	温熱環境、サスティナブルな建築と地球環境、光や熱、風の取り入れ方、植栽計画によるトータルな環境負荷削減の手法
	教室外学習(予習・復習)の内容	自然環境と建築環境の関係を復習する 課題2_教科書の例題を解いてみる
	教室外学習の時間（分）	250
	授業テーマ	空調負荷（２）

		空調負荷
第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	空調負荷の概要と条件、冷暖房負荷、熱負荷
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p110～（空調負荷の考え方）を読んでおく
	教室外学習の時間（分）	150
第8回	授業テーマ	空気調和設備（１）空調熱源装置と使用エネルギー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エネルギーの選択、冷凍機、ボイラ、ヒートポンプ、自動制御装置
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.122～（空気調和方式の種類）を読んでおく
	教室外学習の時間（分）	150
第9回	授業テーマ	空気調和設備（２）空調方式
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	空調方式の種類、熱源方式の種類
	教室外学習(予習・復習)の内容	空気調和方式の種類の復習 課題3_空気調和方式のまとめと考察
	教室外学習の時間（分）	250
第10回	授業テーマ	空気調和設備（３）熱搬送
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	送風機、ポンプ、ダクト、吹出口、吸込口、 配管システム
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.139～（熱源・熱搬送設備）を読んでおく 課題4_第3章教科書の確認問題を解いてみる。
	教室外学習の時間（分）	250
第11回	授業テーマ	電気設備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	電気設備の役割と構成、受変電、動力、蓄電池、情報通信、防災照明コンセント
	教室外学習(予習・復習)の内容	科書p162～（電気設備）を読んでおく
	教室外学習の時間（分）	150
第12回	授業テーマ	防災設備（１） 防災設備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築災害の種類、地震、火災に対する建築計画、防災関連設備、排煙設備、ハードだけではなく、まちや地域連携など、ソフト面も学ぶ。＊立川防災館の見学(補講日)
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p181～（防災設備）を読んでおく 課題5_防災設備のレポート
	教室外学習の時間（分）	250
	授業テーマ	防災設備（２） 消火設備

第13回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消化器、消火栓、スプリンクラー、連結送水、散水設備、その他の消火設備 重要文化財と消火設備(白川郷の事例など)
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.87～(消火設備)を読んでおく 課題6_消化設備のまとめ
	教室外学習の時間（分）	250
第14回	授業テーマ	設備計画とスペース/定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各機器の必要なスペースと配置計画、 昇降設備
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書186～（搬送設備）を読んでおく
	教室外学習の時間（分）	150

学生へのフィードバック方法

課題については授業中に説明を行う。

評価方法

・課題は、授業の理解度を示す記述式レポートと教科書の例題です。

・定期試験は、設備用語の概念とその仕組みの理解度を確認します。
建築士の試験問題に準じた課題を多肢択一で選ぶ設問も含みます。

・ルーブリックに基づく成績評価。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
課題	○	○	○	○

評価割合

定期試験(50%)、課題(50%)による総合評価

使用教科書名(ISBN番号)

初学者の建築講座 建築設備（第五版）／大塚雅之 著
安孫子義彦 専門監修／市ケ谷出版社／2022年／ISBN 9784870712645

参考図書

「図解入門 建築設備の基本と仕組み」／土井 巌 著／秀和システム／2019年／ISBN 9784798057583

ディプロマポリシーとの関連

［知識・理解］ 住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。
［思考・判断］ 建築システムの果たす役割を、考えることができる。
[関心・意欲・態度] 社会における建築システムに関心を持つことができる。
[技術・表現] 専門用語を用いて、建築システムの課題への自分の意見を述べることができる。

学生へのメッセージ

建築士試験指定科目 ④建築設備 に認定。

「住居設備」だけでは、網羅できなかった建築設備について学びます。
建築や住居設計だけではなく、インテリアデザインを行うにあたっても、室内環境の設備システムを学ぶことは重要です。積極的に学びましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は建築設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能である。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03062001
講義名	構造力学Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	西村 彰敏	指定なし

ナンバリング

D33302M21

授業概要(教育目的)

静定構造物と不静定構造物を通して建築（住居）構造力学を学ぶ力を身に付け、自らの力で基本的な問題に対し解決できる能力の育成を目的とする。
本科目は初学者を対象とし、ラーメン構造やトラス構造などを題材とする。
また、反力計算や応力計算の他、材料や断面の性質を通して構造力学に対する問題解決の方法を学び、基礎力を身に付ける。

履修条件

構造力学Aを履修していること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1.静定と不静定構造の反力と応力計算ができる 2.材料性質の計算ができる 3.断面性質の計算ができる
思考・判断の観点 (K)	1.静定と不静定構造を正しく理解し説明できる 2.材料性質を正しく理解し説明できる 3.断面性質を正しく理解し説明できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	静定構造の反力計算1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	1.ラーメン構造とは 2.構造力学Aで学習した反力計算の復習

第1回	育・ICT活用を含む)	3.ラーメン構造の反力計算
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	静定構造の応力計算1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.構造力学Aで学習した応力計算の復習 2.ラーメン構造の反力計算 3.ラーメン構造の応力図
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	静定構造の反力計算2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.トラス構造とは 2.トラス構造の反力計算
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	静定構造の応力計算2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.トラス構造の応力計算 2.トラス構造の応力図
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	不静定構造の反力計算
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.静定・不静定構造とは 2.不静定構造の反力計算
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	不静定構造の応力計算
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.不静定構造の応力計算 2.不静定構造の応力図
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	材料の性質1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.応力度とは 2.ひずみ度とは 3.ヤング係数とは
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	材料の性質2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.荷重-変形と応力度-ひずみ度の関係 2.部材軸方向の剛性
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分

第9回	授業テーマ	断面の性質1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.断面積の計算 2.断面1次モーメントとは 3.断面1次モーメントの計算
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	断面の性質2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.断面2次モーメントとは 2.断面2次モーメントの計算
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	断面の性質3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.断面係数・縁応力度とは 2.断面係数の計算 3.縁応力度の計算
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	梁のたわみ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.梁のたわみとは 2.弾性曲線式 3.数学の基礎
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	力学演習1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.ラーメン構造の反力と応力計算の演習 2.トラス構造の反力と応力計算の演習 3.不静定構造の反力と応力計算の演習
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1～6回目を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	力学演習2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.材料と断面の性質の演習 2.梁のたわみ計算の演習
	教室外学習(予習・復習)の内容	第7～12回目を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学生へのフィードバック方法

授業中に質問の時間を設ける(当日理解が原則)。

評価方法

授業に対する取り組みと定期テストで評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期テスト	○	○		

評価割合

授業に対する取り組み（20%）、定期テスト（80%）で評価する

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない

参考図書

力のつり合いを理解する構造力学, 彰国社
変形を理解する構造力学, 彰国社

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」分野 について、専門的知識を有している
【思考・判断】各種の多様な情報を客観的に理解し判断できる

学生へのメッセージ

講義内容を自ら確認するため、各講義時間の中で15～30分程度の演習時間を設ける(質問等は演習時間に随時受け付ける)。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03063001
講義名	構造力学Ｃ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	西村 彰敏	指定なし

ナンバリング

D43303M21

授業概要(教育目的)

建築(住居)における力学について講義する。構造力学Cは初学者向けの発展編である。
単純な構造を通して、巨視的・微視的な着眼点に基づく力学の考え方を理解し、力学に対するより深い洞察力の育成を目指す。また、構造力学A(入門編),B(基礎編)の復習についても並行して行う。

履修条件

構造力学A,Bを受講していること。または、構造力学A,Bの受講に相当する理解を備えていること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1.座屈の意味を理解し計算ができる 2.せん断変形と曲げ変形の違いを理解し計算ができる 3.梁の変形の計算ができる 4.不静定構造物の解法を理解し計算ができる
思考・判断の観点 (K)	1.軸変形, せん断変形, 曲げ変形, 座屈荷重による変形を正しく理解し説明できる 2.静定構造物と不静定構造物の解法について正しく理解し説明できる 3.梁の変形に対する考え方を正しく理解し説明できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

構造力学C

第1回	授業テーマ	概論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.構造力学Aの振り返り 2.構造力学Bの振り返り
	教室外学習(予習・復習)の内容	構造力学A, Bで学んだことを見直しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	座屈1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.座屈とは(座屈と圧縮について) 2.座屈荷重, 座屈長さ, 断面2次半径, 細長比
	教室外学習(予習・復習)の内容	構造力学A, Bで学んだ「断面2次モーメント, ヤング係数」を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	座屈2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.水平移動がある場合の座屈荷重 2.水平移動がない場合の座屈荷重
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の授業内容を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	せん断力による変形1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.せん断応力度 2.せん断力と曲げモーメントの関係
	教室外学習(予習・復習)の内容	構造力学A, Bで学んだ「モーメントの定義, 応力度, ひずみ度」を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	せん断力による変形2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.せん断応力度分布 2.数学の基礎(微分と積分)
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の授業内容を復習しておくこと 構造力学A, Bで学んだ「曲げ応力度分布」を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	せん断力による変形3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.せん断による変形(軸変形, 曲げ変形, せん断変形とは) 2.せん断弾性係数
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の授業内容を復習しておくこと 構造力学A, Bで学んだ「軸変形, 曲げ変形」の復習をしておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	梁の変形1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.弾性曲線式とは(概論) 2.たわみとたわみ角(変形の概略)
	教室外学習(予習・復習)の内容	たわみとたわみ角の違いを予習しておくこと 高校数学で学んだ「関数と定数の違い」を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	梁の変形2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.片持ち梁のたわみとたわみ角 2.力のつりあい計算とたわみ計算の違い
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の授業内容を復習しておくこと

	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	梁の変形3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.単純梁のたわみとたわみ角 2.代表的な構造のたわみとたわみ角
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の授業内容を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	不静定構造物の解法1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.曲げモーメントから外力とせん断力を求める 2.荷重と曲げモーメントからせん断力と軸方向力を求める
	教室外学習(予習・復習)の内容	構造力学A, Bで学んだ「応力計算, 応力図」を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	不静定構造物の解法2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.節点が移動しない構造物とは 2.中間荷重が作用しない構造物の解法
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の授業内容を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	不静定構造物の解法3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.節点が移動する構造物とは 2.基本的な梁の組み合わせによる構造物の解法
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の授業内容を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	力学演習1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.反力計算の演習(建築士試験問題) 2.ディスカッション 3.演習問題の解説
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1～8回目を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	力学演習2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.応力計算の演習(建築士試験問題) 2.ディスカッション 3.演習問題の解説
	教室外学習(予習・復習)の内容	第9～12回目を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第15回	**授業テーマ**	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学生へのフィードバック方法

授業中に質問の時間を設ける(当日理解が原則)。

評価方法

授業に対する取り組みと定期テストで評価する。
なお、評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期テスト	○	○		

評価割合

授業に対する取り組み（20%）、定期テスト（80%）で評価する

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない

参考図書

変形を理解する構造力学, 彰国社

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」分野 について、専門的知識を有している
【思考・判断】各種の多様な情報を客観的に理解し判断できる

学生へのメッセージ

講義内容を自ら確認するため、各講義時間の中で15～30分程度の演習時間を設ける(質問等は演習時間に随時受け付ける)。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03064001
講義名	住宅設計論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	原口 秀昭	指定なし

ナンバリング

D23304M21

授業概要(教育目的)

木造の基本を習得する。構法、構造、計画、材料、施工など、すべての分野のベースとなる部分を学ぶ。尺、寸、間などの寸法、在来工法、枠組み壁工法の基本、比較、基礎・地盤、壁・軸組み、1階床組み、2階床組み、小屋組み、屋根、外装、内装などの基本を、簡単な演習を交えて講義する。単に木造の知識を習得するのではなく、設計や実務に役に立つような生きた知恵の習得を目指す。後期から始まる木造設計に向けて、その時に知っておかなければならない最低限の知識を身に付ける。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	木造建築に関する材料、構法、納まりなどの基本事項を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	具体的な建築設計で、木造の構造的可否を判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	設計や工事現場における木造構法に関心をもち、設計を意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	木造住宅の1/100の設計ができ、それを図面に表現できる。

学習計画

	授業テーマ	面積計算、寸、尺、間、坪
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	面積計算（建ぺい率、容積率）の説明の後、寸、尺、間、坪などの伝統的な寸法体系、畳、襖、障子、テーブル、椅子、浴室、トイレなど

第1回	育・ICT活用を含む)	の寸法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp8～p28を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	容積率、建ぺい率、軸組構法と枠組み壁構法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	容積率、建ぺい率の計算の説明の後、在来軸組構法と枠組み壁構法（ツーバイフォー構法）を比較し、両者の長所、短所を学ぶ。小屋組みの和小屋、洋小屋を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp29～p50を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	面積計算、ドライエリア、軸組構法と枠組み壁構法の床組み、地盤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	面積計算とドライエリアの説明の後、軸組構法と枠組み壁構法の床組みの違いを学ぶ。地盤、L形擁壁、スウェーデン式貫入試験、不同沈下、地盤改良、杭などについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp51～p66を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	家具の大きさ、縄張り、コンクリート
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家具の大きさの説明の後、水杭、水貫、水糸、ベンチマーク、縄張り、フーチング、コンクリートなどを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp67～p83を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	軸組構法、枠組み壁構法、基礎、土台
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	軸組構法、枠組み壁構法の復習の後、布基礎、べた基礎、割栗石、切込み砂利、捨てコンクリート、RCの意味、RCの構造的特徴、モルタル、セメントペースト、コンクリート、基礎、土台、換気口などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp84～p105を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	W造、RC造、S造、木造軸組

第6回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	W造、RC造、S造の説明の後、木造1/100平面図の書き方、柱の置き方、通し柱、管柱、胴差し、軒桁、筋交い、金物、間柱などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp106～p129を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	RC造、S造、木造1階床組み
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	RC造、S造の説明の後、1階根太、大引き、金物、火打ち土台、土台の継手などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp130～p150を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	木造2階床組み
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2階根太、梁、梁の仕口、金物などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp151～p168を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	パラペット、ペントハウス、ドレイン、笠木、木造の屋根
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パラペット、ペントハウス、ドレイン、笠木の説明の後、垂木、母屋、棟木、小屋束、小屋梁、梁間、桁行、平側、妻側、切妻、寄棟、入母屋、京呂、折置、梁の仕口などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp169～p190を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	木造小屋組み
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木造の垂木と梁の架け方を何種類か学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp191～206pを読んでおくこと。

	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	木造屋根材
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アスファルトルーフィング、スレート、屋根勾配、水切り、棟包み、金属瓦棒葺き、金属立てはぜ葺き、本瓦、桟瓦、冠瓦、鬼瓦、巴瓦、スペイン瓦、セメント瓦、金属瓦、折版、雪留めなどを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp207～p227を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	基礎、土台、木造の雨仕舞、外壁
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基礎と土台の違いの説明の後、軒天井、樋、内樋、屋根の1/100立面図、1/100断面図、フラットルーフの防水、防水立ち上がり、ドレイン、笠木、下見板、サイディング、ガルバリウム鋼板、ALC板、シーリング、役物、胴縁、壁体内通気などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp228～p248を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第13回	**授業テーマ**	柱の入れ方、左官、サッシ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	柱の入れ方（RC造、S造、W造比較）の説明の後、ラス、木摺、吹き付けタイル、リシン吹き付け、磁器質タイル、役物、外付けサッシ、半外付けサッシ、サッシの留め方、木製枠、サッシの平面図、框などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp249～p266を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第14回	**授業テーマ**	床組み、ガラス、断熱材、ボード類、床材
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	床組み（軸組、枠組み壁）の比較の説明の後、フロートガラス、型ガラス、複層ガラス、網入りガラス、サランネット、ポリスチレンフォーム、グラスウール、岩綿吸音板、石膏ボード、化粧石膏ボード、石膏ラスボード、フローリング、クッションフロア、畳などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp267～p284を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分

学生へのフィードバック方法

各回で実施した小テストは、次週の授業にて返却する。質問等がある場合は、授業の前後か、3602研究室まで訪問すること。

評価方法

毎回小テストを実施する。小テストの内容は、その回に行った授業内容とし、問題数は10問。すべて記述式とする。小テストの再テストは原則として行わないので注意すること。定期試験は行わず、小テスト（平常点も兼ねる）で評価する。詳細は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内での配布する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○	○		○
平常点	○	○	○	○

評価割合

各授業の最後に、その授業でやったことの小テストを行い、その合計点で評価する。配点は平常点20%、小テストの得点80%で評価。

使用教科書名(ISBN番号)

原口秀昭著「ゼロからはじめる木造建築入門」彰国社（978-4-395-01014-1）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】木造建築に関する基本的知識を有している。
【思考・判断】木造の軸組に対して、構造的、計画的思考、判断ができる。
【関心・意欲・態度】社会にある木造建築に対して、常に関心をいだき、木造の設計に対して意欲がある。
【技術・表現】木造建築を平面図などの図面で表現できる。

オフィスアワー

金曜2限時 3602研究室

学生へのメッセージ

設計する上で必須の木造建築の技術を身に付け、デザイン演習の木造住宅の設計につなげてください。就職先がハウスメーカーやリフォーム会社の場合、必須の知識となります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年間の設計監理経験を有しており、木造建築の基本知識が設計、施工にどのように生かせるかを教授している。
アクティブ・ラーニング	○	ユーチューブ動画を見ながら教科書にマーカーを引きます。 ユーチューブ動画リストのURL↓ https://mikao-investor.com/wooden_architecture/
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03065001
講義名	構法計画
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	白井 篤	指定なし

ナンバリング

D43305M21

授業概要(教育目的)

木構造（在来軸組構法）を中心に建物がどのような仕組みで建てられているか、各部材の構成方法はどのようになっているかなどについて、部材の名称を含めて具体的に解説する。また、建築物を建設する際に必要となる積算についても学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	木造在来軸組構法について、部材の名称とその役割について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業概要、授業の進め方、到達目標、必要とする教室外学習、成績評価の方法などについて理解する。又、在来軸組構法、２×４構法、木質パネル構法について説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材を読んで確認する。 【復習】ガイダンスで説明した内容について理解する。
	教室外学習の時間（分）	120

第2回	授業テーマ	地盤・地業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住宅が建てられている地盤及び住宅を建てる上で必要となる地業について説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第3回	授業テーマ	基礎
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住宅の基礎の種類や、基礎の作り方について説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第4回	授業テーマ	木材の接合
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木造住宅の部材と部材を接合するのに用いられている各種の接合金物について説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第5回	授業テーマ	軸組（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１階の軸組ができるまでの仕組みについて説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第6回	授業テーマ	軸組（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	柱や梁・桁などを仮構して、軸組を作っていく仕組みについて説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
	授業テーマ	小屋組・屋根
	(	

第7回	学習内容 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小屋組と屋根ができあがるまでの仕組みについて説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間(分)	180
第8回	授業テーマ	壁・天井・階段・建具類／２×４構法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	壁や天井などができあがるまでの仕組みについて説明できる。 また、階段や建具類の種類についても理解できる。 ２×４構法ができあがるまでの仕組みについて説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間(分)	180
第9回	授業テーマ	内外装仕上げ構法（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	内外装仕上げの中のタイルを張っていく仕組みについて説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間(分)	180
第10回	授業テーマ	内外装仕上げ構法（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	内外装仕上げの中の左官材料で塗っていくときの仕組みについて説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間(分)	180
第11回	授業テーマ	床仕上げ構法（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ビニルタイル及びビニルシートで床を仕上げていく仕組みについて説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間(分)	180
	授業テーマ	床仕上げ構法（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	カーペットや畳で床を仕上げていく仕組みについて説明でき

第12回	育・ICT活用を含む)	る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間(分)	180
第13回	授業テーマ	設備／積算
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給排水設備の仕組みについて説明できる。また、積算に使われている用語と、積算の仕方ついて説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間(分)	180
第14回	授業テーマ	品確法／定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	品確法について説明できる。また、学習目標の達成状況を確認するために定期試験を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、第１回から第14回までの授業内容について復習して理解する。
	教室外学習の時間(分)	370

学生へのフィードバック方法

実施した小テストなどは、採点して次週の授業の初めに返却する。

評価方法

平常点については、授業の最後に行う小テストで評価する。小テストの問題は、○×問題もしくは択一問題である。問題の多くは、過去の二級建築士及び木造建築士の資格試験で出されたもので、授業時の内容８割、授業外学習の内容２割である。１回の授業の平常点は10点満点とし、小テストの正答率によって３段階（A:10点、B：5点、C：0点）で評価する。定期試験については、150点満点とし、全て記述式の問題とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○			
定期試験	○			

評価割合

平常点（50%）及び定期試験（50%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

教材については、Google Classroomに提示する。また、参考資料などについては、適宜、印刷・配付する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】住分野の中の木造住宅の構法についての専門的知識・技術を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。

オフィスアワー

水曜日４時限 3606研究室

学生へのメッセージ

授業で使用する教材については、授業の３日前にはGoogle Classroomに提示するので、事前に勉強した上で、授業に臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	書籍・雑誌、ネットなどを活用して収集した資料を加工・編集して、教材（提示用プレゼンテーション）を作成する。

講義コード	G03067001
講義名	建築材料学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	白井 篤	指定なし

ナンバリング

D33308M21

授業概要(教育目的)

現在のように次々に建築用新素材や新製品が開発されている時代には、各種の建築物の用途に応じた適正な建築材料の選択と使用方法が必要になる。そこで、建築材料の中から、建物の柱、梁などの構造材料として用いられている木材、コンクリート及び鋼材について取り上げて、それら材料の基本的事項（種類、特徴、性能など）を平易に解説する。また、部位に要求される性能条件と材料の性質との関連性を理解させると共に、建築材料選定に当たっての基礎的知識を養う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	建築材料（木材・コンクリート・金属）について、その基本的事項（種類、性質など）を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	１．各種の木材について、年輪幅、含水率、密度と強さの関係を思考・判断できる。 ２．適正なコンクリートを製造するためのポイントを指摘できる。 ３．金属材料（鉄筋）の機械的性質がJIS（日本産業規格）に合格しているか思考・判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	「知識・理解の観点」「思考・判断の観点」で得た、知識及び思考・判断をレポートにまとめる（表現する）ことができる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ	授業概要、授業の進め方、到達目標、必要とする教室外学習、成績評価の方法な

第1回	-教育・ICT活用を含む)	どについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材を読んで確認する。 【復習】ガイダンスで説明した内容について理解する。
	教室外学習の時間（分）	130
第2回	授業テーマ	木材
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ-教育・ICT活用を含む)	木材の種類や性質などについて説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第3回	授業テーマ	木材の圧縮強さ試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ-教育・ICT活用を含む)	各種の木材の圧縮強さと、年輪幅、比重、含水率などとの関係を説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習してくると共に、授業内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第4回	授業テーマ	木材の圧縮強さ試験のレポート作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ-教育・ICT活用を含む)	レポートの作成法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習してくると共に、授業内容について、再度、確認して理解する。また、実験レポート（木材）に関する資料集めを行う。
	教室外学習の時間（分）	180
第5回	授業テーマ	コンクリート用材料①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ-教育・ICT活用を含む)	コンクリート用材料の中のセメントの種類や特徴について説明できること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習してくると共に、授業内容について、再度、確認して理解する。実験レポート（木材）について書き始める。
	教室外学習の時間（分）	180
	授業テーマ	コンクリート用材料②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ-教育・ICT活用を含む)	コンクリート用材料の中の骨材及び混和材料の種類や特徴について説明できること。

第6回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習してくると共に、授業内容について、再度、確認して理解する。実験レポート（木材）について、ルーブリックに示した観点に従って書かれているか見直しを行い、提出できるようにする。
	教室外学習の時間（分）	300
第7回	**授業テーマ**	コンクリート供試体の作製
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンクリート供試体の作製方法に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習してくると共に、授業内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第8回	**授業テーマ**	硬化前のコンクリートの性質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	まだ固まらないコンクリートの性質について説明できる。 【実験レポート（木材）】返却と解説
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テスト及び実験レポート（木材）について見直すと共に、授業内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第9回	**授業テーマ**	金属材料
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	金属材料の種類や性質などについて説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習してくると共に、授業内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第10回	**授業テーマ**	鉄筋の引張試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉄筋の引張性状について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習してくると共に、授業内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
	授業テーマ	鉄筋の引張試験のレポート作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	鉄筋の引張試験のレポート作成方法について理解する。

	を含む)	
第11回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習してくると共に、授業内容について、再度、確認して理解する。また、実験レポート（鉄筋）に関する資料集めを行うと共に、書き始める。
	教室外学習の時間（分）	180
第12回	**授業テーマ**	コンクリートの圧縮強度試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンクリートの圧縮強度性状について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習してくると共に、授業内容について、再度、確認して理解する。実験レポート（鉄筋）について、ルーブリックに示した観点に従って書かれているか見直しを行い、提出できるようにする。
	教室外学習の時間（分）	300
第13回	**授業テーマ**	コンクリートの各種試験のレポート作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンクリートの各種試験のレポート作成方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習してくると共に、授業内容について、再度、確認して理解する。実験レポート（コンクリート）について、資料を集めて書き始める。
	教室外学習の時間（分）	180
第14回	**授業テーマ**	硬化後のコンクリートの性質及び鉄筋コンクリートの耐久性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	硬化後のコンクリートの性質及び鉄筋コンクリートの耐久性について理解する。 【実験レポート（鉄筋）】返却と解説
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テスト及び実験レポート（鉄筋）について見直すと共に、授業内容について、再度、確認して理解する。実験レポート（コンクリート）について、ルーブリックに示した観点に従って書かれているか見直しを行い、提出できるようにする。
	教室外学習の時間（分）	300

学生へのフィードバック方法

実施した小テスト及びデーターシートは、採点して次週の授業の初めに返却する。返却時に、小テストについては正答の説明を行う。実験レポートについては、提出された翌週もしくは翌々週に返却し、返却時に評価基準の解説を行う。

評価方法

平常点については、授業の最後に行う小テストもしくは、実験時のデーターシートの記載内容で評価する。小テストの問題は、○×問題もしくは択一問題である。問題の多くは、過去の二級建築士及び木造建築士の資格試験で出されたもので、授業時の内容８割、授業外学習の内容2割である。１回の授業の平常点は10点満点とし、小テストの正答率もしくはデータシートの記述内容によって３段階（A:10点、B：５点、C：０点）で評

価する。実験レポートについては、「課題に対する記述」「表現方法」「文章を書くときの技術的な約束事」「参考文献の活用」「その他（提出期限、分量、体裁など）」の５つの観点で（ルーブリックによって）評価する。評価基準については、レポート課題出題時に説明する。レポート課題については、50点満点とし、10段階
（S：50点、SA：45点、A：40点、AB：35点、B：30点、BC：25点、C：20点、CD：15点、D:10点、E：5点）で評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○			
データシート	○			
レポート課題	○	○		○

評価割合

平常点（５０%）及びレポート課題（５０%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

教材については、Google Classroomに提示する。また、参考資料などについては、適宜、印刷・配付する。

参考図書

初学者の建築講座 建築材料／橘高義典ら／市ヶ谷出版、やさしい建築材料／松本進／学芸出版社、初めての建築材料／前田幸夫ら／学芸出版社

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】住分野の中の建築材料についての専門的知識・技術を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
【思考・判断】講義及び実験から得られる情報、授業外学習から得られる情報などを客観的に理解して関係性を導き出すことができる。
【技能・表現】建築材料の学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理して、レポートにまとめることができる。

オフィスアワー

水曜日３時限及び４時限、３号棟６階３６０６研究室、できるだけ、メールなどで事前予約してください。

学生へのメッセージ

授業で使用する教材については、授業の３日前にはGoogle Classroomに提示するので、事前に勉強した上で、授業に臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教室内でのグループワークによる体験学習を通して、課題発見能力を養う。
情報リテラシー教育	○	レポート課題を作成する上で、図書館の利用方法、文献探索方法などの情報活用能力を養う。
ICT活用	○	書籍・雑誌、ネットなどを活用して収集した資料を加工・編集して、教材（提示用プレゼンテーション）を作成する。

講義コード	G03068001
講義名	建築施工
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	白井 篤	指定なし

ナンバリング

D33309M21

授業概要(教育目的)

建築生産の最終段階である施工について、建築物の主要構造形式である鉄筋コンクリート造と鋼構造を中心として、地業工事、主体工事、防水工事の順に施工方法を平易に解説する。また、施工する際の前段階として重要となる工事契約や工程表の作成方法についても説明する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	鉄筋コンクリート造及び鋼構造で建てられた建築物の施工方法について、工事種別ごとに説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス 施工・管理計画（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業概要、授業の進め方、到達目標、必要とする教室外学習、成績評価の方法・基準などについて理解する。又、工事契約の概略について説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材を読んで確認する。 【復習】ガイダンスで説明した内容について理解する。
	教室外学習の時間	

	（分）	120
第2回	**授業テーマ**	施工・管理計画（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	工程表の種類及びその読み方について説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第3回	**授業テーマ**	地業工事（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築物が建てられる地盤について説明できる。又、建築物の地盤調査として用いられている標準貫入試験について説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習してくると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第4回	**授業テーマ**	地業工事（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地業工事の中の杭工事について理解できる。【レポート課題の提示】鉄骨の接合方法について
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習してくると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。又、レポート課題の資料を集める。
	教室外学習の時間（分）	180
第5回	**授業テーマ**	地業工事（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地業工事の中の根切り山留め工事について理解できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習してくると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。また、レポート課題について書き始める。
	教室外学習の時間（分）	180
第6回	**授業テーマ**	主体工事（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉄筋コンクリート工事の中の鉄筋工事について説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習してくると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。また、レポート課題について書く。

	教室外学習の時間（分）	180
第7回	**授業テーマ**	主体工事（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉄筋コンクリート工事の中の型枠工事及びコンクリート工事について説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習してくると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。又、レポート課題についてルーブリックに示した観点に従って書いているか見直しを行い、提出できるようにする。
	教室外学習の時間（分）	180
第8回	**授業テーマ**	主体工事（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンクリートブロック工事及びプレストレストコンクリート工事について説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習してくると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第9回	**授業テーマ**	主体工事（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉄骨工事の中のボルト接合について説明できる。【レポート課題】返却と解説
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習してくると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第10回	**授業テーマ**	主体工事（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉄骨工事の中のボルト接合について説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テスト及びレポート課題について見直すと共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第11回	**授業テーマ**	防水工事（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	防水工事の中のアスファルト防水について説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習してくると共に、授業で説明した内容

		について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第12回	**授業テーマ**	防水工事（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	防水工事の中の改質アスファルト防水、シート防水、塗膜防水などについて説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習してくると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第13回	**授業テーマ**	防水工事（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	防水工事の中のステンレスシート防水、モルタル防水及びシーリング防水について説明できる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習してくると共に、授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	180
第14回	**授業テーマ**	工事用機械／定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	工事用機械の種類及び特徴について説明できる。また、学習目標の達成状況を確認するために定期試験を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。また、第1回から第14回までの授業内容について復習して理解する。
	教室外学習の時間（分）	370

学生へのフィードバック方法

実施した小テスト及びレポート課題については、採点して次週の授業の初めに返却する。返却時に、小テストについては正答の説明を、レポート課題については評価基準の解説を行う。

評価方法

平常点、レポート課題及び定期試験の３つで総合的に評価する。平常点（150点）については、授業の最後に行う小テスト及び発表で評価する。小テストの問題は、○×問題もしくは択一問題である。問題の多くは、過去の二級建築士及び木造建築士の資格試験で出されたもので、授業時の内容８割、授業外学習の内容2割である。１回の授業の平常点は10点満点とし、小テストの正答率によって３段階（A:10点、B：５点、C：０点）で評価する。発表については、各授業の到達目標（・・について理解し説明できること）に達しているかを授業の最後に説明してもらうことで確認する。（授業で理解したことを１分間で発表する） 発表については、「理解したことについて」「発表技術（時間、声の大きさ、話すスピード）」の２つの観点で（ルーブリックによって）評価する。レポート課題については、「課題に対する記述」「表現方法」「文章を書くときの技術的な約束事」「参考文献の活用」「その他（提出期限、分量、体裁など）」の５つの観点で（ルーブリックによって）評価する。評価基準については、レポート課題出題時に説明する。レポート課題については、50点満点とし、10段階
（S：50点、SA：45点、A：40点、AB：35点、B：30点、BC：25点、C：20点、CD：15点、D:10点、E：5点）で評価する。定期試験については、ノートや参考資料などは全て持ち込み可として、150点満点とし、全て記述式の問題とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点（小テスト及び発表）	○			
レポート課題	○			
定期試験	○			

評価割合

平常点（42.5%）、レポート課題（15%）及び定期試験（42.5%）で総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

教材については、Google Classroomに提示する。また、参考資料などについては、適宜、印刷・配付する。

参考図書

建築施工テキスト／兼歳昌直／井上書院、やさしい建築施工／松本進／学芸出版社、専門士課程 建築施工／福田健策ら／学芸出版社

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】住分野の中の建築施工についての専門的知識・技術を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。

オフィスアワー

水曜日４時限 3606研究室

学生へのメッセージ

授業で使用する教材については、授業の３日前にはGoogle Classroomに提示するので、事前に勉強した上で、授業に臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業の最後に、授業で理解したことを学生（学修者）に発表させることで、学修者が自分の思考を深められたり、自分の思考を整理したりできるようにする。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	書籍・雑誌、ネットなどを活用して収集した資料を加工・編集して、教材（提示用プレゼンテーション）を作成する。

講義コード	G03076001
講義名	マルチメディア演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	呉 起東	指定なし

ナンバリング

D34206M22

授業概要(教育目的)

現代社会に溢れている様々な情報を収集し、論理的に分析することにより、より正確な情報に変え、可視化することが必要である。
本授業では、映像制作を通じでマルチメディアの原理を理解し、情報伝達力と可視化のスキルを育成することを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から、各分野 の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
思考・判断の観点 (K)	多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション、チーム構成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の概要や内容、成績の評価の説明を行う、チーム構成とそれぞれの役割決める。ブレーインストミング方法によるテーマを設定する。

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	映像作品を１つ選定して映像の構成、特徴、視覚的効果などを調査してレーポトでまとめる。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	コンセプト、シナリオの作成１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ブレーインストミング方法を用いてコンセプト、シナリオを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	映像作品を１つ選定して映像の構成、特徴、視覚的効果などを調査してレーポトでまとめる。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	授業テーマ	コンセプト、シナリオの作成２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ブレーインストミング方法を用いてコンセプト、シナリオを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	映像作品のテーマ、コンセプト、シナリオをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	授業テーマ	絵コンテの作成１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	まとめたシナリオを基づいて絵コンテを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	まとめたシナリオを基づいて絵コンテを作成する。
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	授業テーマ	絵コンテの作成２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	まとめたシナリオを基づいて絵コンテを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	絵コンテの完成度を高める。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	授業テーマ	ロケーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成したシナリオや絵コンテを用いて撮影場所を視察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	撮影するための準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	授業テーマ	撮影
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成したシナリオや絵コンテを用いて撮影を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	撮影したデータを確認する。

	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	**授業テーマ**	撮影
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成したシナリオや絵コンテを用いて撮影を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作成したシナリオや絵コンテを用いて撮影を行う。
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	**授業テーマ**	撮影
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成したシナリオや絵コンテを用いて撮影を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	撮影したデータを確認する。
	教室外学習の時間（分）	100分
第10回	**授業テーマ**	撮影
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成したシナリオや絵コンテを用いて撮影を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	撮影したデータを確認する。
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	**授業テーマ**	映像編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	撮影したデータを用いて撮影を行う。カット編集でストーリを繋げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	編集したデータを確認する。
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	**授業テーマ**	映像編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	撮影したデータを用いて撮影を行う。カット編集でストーリを繋げる。 撮影したデータを用いて撮影を行う。BGMやアフレコの録音を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	編集したデータを確認する。
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	**授業テーマ**	映像編集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	撮影したデータを用いて撮影を行う。字幕処理などを行い完成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	編集したデータを確認する。プレゼンテーション準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	100分

第14回	授業テーマ	プレゼンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	完成した作品の試写会とプレゼンテーションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	完成した作品の試写会とプレゼンテーションを行う。
	教室外学習の時間(分)	100分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。履修者数が４人以下の場合１人制作になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

この演習は学生が主体で行う授業ですがブレインストーミングの手法、シナリオの作成方法、撮影、編集のテクニックについて授業中およびオフィスアワーの時間に適切なアドバイスを行う。別の質問などがある場合は研究室1307（E-mailも可）まで訪問すること。

評価方法

課題は６０点満点で課題の結果とプレゼンテーションで評価を行う。評価の基準はルーブリックを基づいて「課題の理解」「誠実さ」「デザイン性」を基準にして５段階評価を行う。

レポートと最終報告書は２０点満点で課題と同じく３つの基準を５段階評価で行う。

平常点は２０点満点で１４回を通して「積極的な授業の参加、態度」「積極的なディスカション」を基準に加点及び減点を行います。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○	○	○
レポート		○	○	○
最終報告書	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

課題（６０%）、レポート（１０%）最終報告書（１０%）平常点（２０%）で評価をする。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

必要に応じて提示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】情報 について、専門的知識・技術を有している。
【思考・判断】多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
【関心・意欲・態度】積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

オフィスアワー

月曜日２限 １３０７研究室

学生へのメッセージ

映像は情報表現にはとても重要な表現の手段です。映像制作に興味がある方は是非参加して楽

しい映像を制作しましょう。 受講申請が５名以下の場合は開講できません。少人数の映像製作は難しいからです。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら調べ、発表する。
情報リテラシー教育	○	情報そのものと情報の伝達をするための情報の収集、分類、基本的な表現スキルを教育する。
ICT活用	○	情報収集、作品制作、発表のために、PCや通信機器を活用する。

講義コード	G03077001
講義名	デジタルフォト論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	呉 起東	指定なし

ナンバリング

D24208M21

授業概要(教育目的)

カメラの仕組みと写真の基本的な理論を理解して演習を通じて知識を深める。写真は情報伝達の表現において大切な方法である。まず、「表現する」ために必要な能力を育つことを目的とする。テーマを用いた風景や人物などの撮影を行い、その結果を用いて様々なデジタル処理を行う。

履修条件

CGデザイン演習の履修が望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から、写真の知識を深めて理解することできる。
思考・判断の観点 (K)	多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	授業のオリエンテーション、デジタルフォトの概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の概要や内容、成績の評価の説明を行う。デジタルフォトと表現の可能性について説明を行う。
	教室外学習(予習・復習)の	写真家を２人選び作品（世界観、特徴など）について調

	内容	査しレポートをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	カメラについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	カメラの種類と機能、レンズの種類･絞りとシャッターの機能について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	写真家を２人選び作品（世界観、特徴など）について調査しレポートをまとめて提出。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	カメラについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シャッターの役割を学習して露出について理解する。またシャッターの変化による表現の可能性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題１：カメラの基本１（露出、シャッターの理解）を行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	カメラについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	絞りの役割を学習して露出について理解する。また絞りの変化による表現の可能性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題２：カメラの基本２（露出、絞り、露出の理解）を行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	撮影について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	写真と光について理解をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題３：光を探すをテーマとした課題を行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	撮影について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	何を撮るのか（足す芸術と引く芸術を理解する）
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題４：足す芸術（写真のストーリ性）と引く芸術（写真のテーマを明確にした撮影）を理解するための課題を行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	撮影について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人物をテーマとした写真について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題5：人物をテーマとして撮影を行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	撮影について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人物をテーマとした写真について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の	課題５：人物をテーマとして撮影を行う。プレゼンテー

	内容	ションの準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	プレゼンテーション１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	光・引く足す・季節・人物のテーマで撮影した作品についてプレゼンテーションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	今までの課題やレポート、プレゼンテーションを振り返る。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	デジタル補正１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	画像補正ツールについて理解する。写真をイメージとした表現の可能性について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デジタル補正の方法や表現の可能性について調査し、
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	デジタル補正２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	画像補正ツールについて理解する。写真をイメージとした表現の可能性について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デジタル補正の方法や表現の可能性について調査し、
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	撮影について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ドキュメントをテーマとした写真について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題６：自由にテーマを設定し撮影を行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	撮影について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ドキュメントをテーマとした写真について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題６：自由にテーマを設定し撮影を行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	プレゼンテーション２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自由にテーマを設定し撮影した作品についてプレゼンテーションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デジタル補正や課題６、レポート、プレゼンテーション２を振り返る.。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

課題、レポートは採点して、次週の授業にて返却をする。質問などがある場合は研究

室1307（E-mailも可）まで訪問すること。

評価方法

６回の課題は６０点満点で課題の結果とプレゼンテーションで評価を行う。評価はルーブリックを基づいて「課題の理解」「誠実さ」「デザイン性」の３つの基準で５段階評価を行う。

レポートは２０点満点で課題と同じく３つの基準を５段階評価で行う。

平常点は２０点満点で１４回を通して「積極的な授業の参加、態度」「積極的なディスカション」を基準に加点及び減点を行います。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

課題（６０%）、レポート（２０%）平常点（２０%）で評価をする。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

必要に応じて提示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】情報 について、専門的知識・技術を有している。
【思考・判断】多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
【関心・意欲・態度】積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。"

オフィスアワー

火曜日３限 １３０７研究室

学生へのメッセージ

写真は情報表現、情報伝達にとても有効なツールです。課題は多いですが写真について楽しく学びましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら調べ、発表する。
情報リテラシー教育	○	情報そのものと情報の伝達をするための情報の収集、分類、基本的な表現スキルを教育する。
ICT活用	○	情報収集、作品制作、発表のために、PCや通信機器を活用する。

講義コード	G03082001
講義名	インテリアデザイン論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	原口　秀昭	指定なし

ナンバリング

D31114M21

授業概要(教育目的)

インテリアデザインの入門として、内部空間との関係が深いモノや人との関係に関心を持ち、モデュールや形、色、テクスチャーの心理、家具、椅子、照明や材料などについての知識を深めていく。インテリアデザイン計画では建築空間の制約を受けると同時に、室内に配される物とも密接な関連を持っている。材料、技術、手法、建築法規などのハード面についての知識と人間の心理や行動、あるいは人間的スケールなど具体的な設計に応用できるための計画技術を学ぶ。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．インテリアエレメントの幅広い知識を理解し説明できる。 ２．建築の工法、材料、建築法規などを理解し説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	１．様々な諸問題を理解し、インテリアデザイン計画を行なうことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	西洋近代以前のインテリア
	(	

第1回	学習内容 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	西洋における近代以前のインテリアの歴史について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp27まで読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	240分
第2回	授業テーマ	ガウディ、ライトのインテリア
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アントニオ・ガウディ、フランク・ロイド・ライトのインテリアの実作を、写真や図を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp29～p47を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	240分
第3回	授業テーマ	マッキントッシュのインテリア
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	チャールズ・レニー・マッキントッシュによるインテリアの実作について、写真と図を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp48～p67を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第4回	授業テーマ	アールヌーヴォーからデ・スティールまで
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アール・ヌーヴォー、アールデコ、デ・スティールなどの、モダンデザインにおけるインテリアの実作について、写真と図を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp68～p85を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第5回	授業テーマ	コルビュジエ、ミースのインテリア
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	モダンデザインの基礎を築いたル・コルビュジエ、ミース・ファン・デル・ローエの実作について、写真と図を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp86～pp104を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第6回	授業テーマ	アアルト、カーンからデコンまで
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	モダンデザインに修正を加えたアルヴァ・アアルト、ルイス・カーンやデコントラクティビズムについて、実作から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp105～ｐ127を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	書院造のインテリア
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教ICT)	現代和風の基礎となる寝殿造、書院造り、数寄屋風書院造りの実作について、写真や図を通して学ぶ。

第7回	育・　活用を含む	
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp129～p152を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	授業テーマ	数寄屋風書院造りと書院造り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	数寄屋風書院造りと書院造りがどう違うのかを、実作を通して、写真と図から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp153～p165を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	授業テーマ	ボードの種類と特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インテリア建築に必要なボード類の種類と特徴について、図を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp168～p193を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	授業テーマ	床材、タイルの種類と特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フローリング、クッションフロア、畳、フロアタイルなどの床材の種類と特徴について、図を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp194～212を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	授業テーマ	石、ガラスの種類と特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	花崗岩、蛇紋岩、砂岩、型ガラス、ペアガラスなどの石材とガラスの種類と特徴を、図を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp213～p228を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	授業テーマ	インテリア各部の収まり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幅木、廻り縁、笠木、枠の散りや見付、面内、揃などの納まりを、図を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp229～p247を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	授業テーマ	インテリアの建付け
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	床、壁、天井のつくり、枠や建具の取り付けなどを、図を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復	教科書のp245～p269を読んでおくこと。

	習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	授業テーマ	造り付け家具、建具金物、カーテン、ブラインド
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	造り付け家具、建具、建具金物、カーテン、ブラインド、カーテンボックス、スリーブ、スイッチ、コンセントなどの種類や特徴、建付け方などを、図を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp270～p303を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

教科書の項目順に、ユーチューブ動画も併用して進めていくが、進み具合によりスケジュール変更の場合もある。

学生へのフィードバック方法

授業についての質問は常時受け付ける。質問がある場合は、研究室へ訪ねて下さい。メールも可。

評価方法

授業後の小テストの評価及び平常点。詳細は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内での配布する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
試験	○			
平常点			○	

評価割合

試験(85%）、平常点(15%)

使用教科書名(ISBN番号)

原口秀昭著「ゼロからはじめる建築の［インテリア］入門」彰国社

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」分野における知識を得、専門的な職業に通じる知識を得ることができる

オフィスアワー

水曜2限　3602研究室

学生へのメッセージ

インテリアに関心を持ち幅広い知識を吸収して、インテリア計画のできる人になれるように学修してくれることを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実務で経験した話やインテリアデザインの実作の写真などを使う。
アクティブ・ラーニング	○	ユーチューブ動画を見ながら、教科書にマーカーを引く。 ユーチューブ動画リストのURL↓ https://mikao-investor.com/interior_design/
情報リテラシー教育		

ICT活用		

講義コード	G03083001
講義名	生活美学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	澤田 雅彦	指定なし

ナンバリング

D31115M21

授業概要(教育目的)

ものの価値を判断する基準の1つである「美しさ」は、主観的な部分が大きく、時として曖昧であるが重要視される。その一方で、近代デザインに機能重視の考え方は欠かせない。生活用品の「美しさ」とと「使いやすさ（機能）」、あるいは生活における「価値」の考え方について、機能と美しさの関係も考慮しながら、歴史的な観点から考える。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	生活用品の「美しさ」「機能」「デザイン」の考え方を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	生活用品の価値の様々な側面を考慮しながら、生活における「美しさ」について判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	授業内容の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方と目的について解説する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	この授業の目的、と生活デザイン学科全体の学習内容の関係を考える。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	やきものの色と作り方と材料（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	やきものの作り方について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の身の周りにあるやきものの材料や作り方について、実際に手にとって観察し考える。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	やきものの色と作り方と材料（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	やきものの作り方と材料と、種類について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の身の周りにあるやきものの材料・作り方と、使いやすさについて考える。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	やきものの色と作り方と材料（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	やきものの絵付けの種類と特徴について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	普段自分が使っている生活用品の使いやすさや美しさについて考える。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	やきものの色と作り方と材料（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	やきものの絵付けの種類と特徴について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	やきものを観察して、絵付けの違いを確認する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	やきものの色と作り方と材料（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	やきものの焼成方法と窯の構造と、やきものの作り方の歴史的な変化について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身近にあるやきものを観察して、その材料や作り方を考える。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	日本のやきものの歴史（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本のやきもの作りの歴史的な流れを解説する。（縄文時代から弥生時代）
	教室外学習(予習・復習)の内容	縄文土器の表面の文様を観察する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	日本のやきものの歴史（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本のやきもの作りの歴史的な流れを解説する。（古墳時代から江戸時代）
	教室外学習(予習・復習)の内容	身近にあるやきものを観察して、その歴史的な背景を考える。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	中国の陶磁器について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中国のやきもの作りの歴史的な発展の概要について説明し、日本のやきもの作りとの関連について考える。

	教室外学習(予習・復習)の内容	中国の18世紀までの歴史の大まかな流れを理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	ヨーロッパの陶磁器について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヨーロッパのやきもの作りの歴史的な変化の概略と、中国とイスラム文化圏からの影響について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	18世紀までの世界史の大まかな流れを理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	漆器について（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	漆の特徴と、漆器の素地となる材料について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の家にある漆器を探して観察すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	漆器について（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	漆器の作り方について解説し、漆器の美しさと使いやすさの関係について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	陶磁器と漆器を、様々な点について比較してみる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	漆器について（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	漆器の色と、日本列島での古代の漆器作りについて解説し、漆器と生活の関わりを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	陶磁器と漆器を、様々な点について比較してみる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	博物館の見学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館または美術館を見学する。 （見学場所と見学の日程については授業の中で相談します。）
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートの作成
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

授業の進み具合や履修学生の状況を考慮し、授業内容を変更する可能性があります。

学生へのフィードバック方法

ミニレポート等は返却時に、履修者の解答のいくつかを選んで解説をする。

評価方法

１．授業終了時に、授業内容を整理するミニレポートを適宜課す。
２．ミニレポートは、授業内容をどの程度理解できているか、さらに、授業内容を自身の体験や生活と関連づけて考えているか、という視点で採点をし、出席状況とあわせて、平常点として評価する。
３．学期の半ば頃と、学期末にレポートを出題する。
４．レポートは、それまでの授業内容を体系的に整理できているか否か、そして、生活と「美しさ」の関わりに関する問題を考察し、自身の考え方として整理されているか否か、という視点で採点する。
評価はルーブリックに基づいて行うことを予定しています。ルーブリックはGoogleクラスルー

ムか初回授業で提示する予定です。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○			
レポート	○	○		

評価割合

平常点40%、レポート60%の割合で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
【思考・判断】各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。

オフィスアワー

前期月曜3時限 1503研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03087001
講義名	生活デザイン演習Ｄ（石綱）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	石綱 史子	指定なし

ナンバリング

D21206M12

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業や、学外学内のイベントへの参加、学外見学などのプログラムを実施する。内容は、プログラムを設定する教員によって異なり、複数のプログラムが設定される予定である。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点 (K)	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることできる。
技術・表現の観点 (A)	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	イントロダクション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	演習の内容と進め方について
	教室外学習(予習・復習)の内容	演習内容と課題の確認

	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	一般的な文章①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題1 一般的な文章を読み、要約する
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献を読む
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	一般的な文章②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題1 一般的な文章を読み、要約する
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献を読む
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	一般的な文章③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題1 一般的な文章を読み、要約する
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献を読む
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	文献の探し方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文献の種類と探し方について解説し、各自興味のある文献を探す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献の探し方を復習し、課題②の文献を決める
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	文献を読む①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献を読み要約、解説する準備をする
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	文献を読む②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献を読み要約、解説する準備をする
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	文献を読む③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献を読み要約、解説する準備をする
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	文献を読む④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献を読み要約、解説する準備をする
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	文献を読む⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献を読み要約、解説する準備をする
	教室外学習の時間（分）	45分

第11回	授業テーマ	文献を読む⑥
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献を読み要約、解説する準備をする
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	文献を読む⑦
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献を読み要約、解説する準備をする
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	文献を読む⑧
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献を読み要約、解説する準備をする
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	文献を読む⑨
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献を読み要約、解説する準備をする
	教室外学習の時間（分）	45分
第15回	授業テーマ	文献を読む⑩
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する 演習全体のまとめ
	教室外学習(予習・復習)の内容	本演習で学んだことをまとめ、今後の学修に活用する
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

履修者数や演習の進み具合などにより、スケジュールや課題変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

演習中に随時ディスカッションを行い、フィードバックする。各課題は採点し、コメントを付けて返却する。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。

評価方法

平常点：課題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。
課題：読解力、要約緑、文章構成力などを総合的に判断して評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
課題	○	○	○	○

評価割合

平常点50%、課題50%で総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

適宜、資料を印刷・配付する。

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。

オフィスアワー

月曜3限 3609研究室

学生へのメッセージ

初歩的な学術論文や科学雑誌などの文献を正しく読めるようになることを目的としています。
この演習を通じ、文章の読解力、要約する力、文章構成力などの基礎力の向上を目指します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03087002
講義名	生活デザイン演習Ｄ（呉）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	呉 起東	指定なし

ナンバリング

D21206M12

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03087004
講義名	生活デザイン演習Ｄ（小池）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小池 孝子	指定なし

ナンバリング

D21206M12

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03087006
講義名	生活デザイン演習Ｄ（佐々木）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	佐々木 麻紀子	指定なし

ナンバリング

D21206M12

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業や、学外学内のイベントへの参加、学外見学などのプログラムを実施する。内容は、プログラムを設定する教員によって異なり、複数のプログラムが設定される予定である。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点 (K)	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることできる。
技術・表現の観点 (A)	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、プログラム内容について理解する
		予習：インターネット等で天然染料の種類について調

	教室外学習(予習・復習)の内容	べる 復習：染めてみたい染料についてインターネット等で調べる
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	天然染料の染色1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サンプル制作を通じて、天然染料の特徴を知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：染めてみたい染料についてインターネット等で調べる 復習：染色したサンプルをサンプル帳に貼り、染色手順等を整理する
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	天然染料の染色2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サンプル制作を通じて、天然染料の特徴を知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：染めてみたい染料についてインターネット等で調べる 復習：染色したサンプルをサンプル帳に貼り、染色手順等を整理する
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	天然染料の染色3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サンプル制作を通じて、天然染料の特徴を知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：染めてみたい染料についてインターネット等で調べる 復習：染色したサンプルをサンプル帳に貼り、染色手順等を整理する
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	天然染料の染色4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サンプル制作を通じて、天然染料の特徴を知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：染めてみたい染料についてインターネット等で調べる 復習：染色したサンプルをサンプル帳に貼り、染色手順等を整理する
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	天然染料の染色5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サンプル制作を通じて、天然染料の特徴を知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：染めてみたい染料についてインターネット等で調べる 復習：染色したサンプルをサンプル帳に貼り、染色手順等を整理する
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	天然染料の染色6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サンプル制作を通じて、天然染料の特徴を知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：染めてみたい染料についてインターネット等で調べる 復習：染色したサンプルをサンプル帳に貼り、染色手順等を整理する

	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	染色堅牢度試験1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	染色した試料の染色堅牢度を調べる
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：インターネット等で染色堅ろう度試験方法について調べる 復習：堅ろう度試験結果をサンプル帳に記載しサンプル帳を完成させる
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	染色堅ろう度試験2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	染色した試料の染色堅ろう度を調べる
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：インターネット等で染色堅ろう度試験方法について調べる 復習：堅ろう度試験結果をサンプル帳に記載しサンプル帳を完成させる
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	染色堅牢度試験3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	染色した試料の染色堅ろう度を調べる
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：インターネット等で染色堅ろう度試験方法について調べる 復習：堅ろう度試験結果をサンプル帳に記載しサンプル帳を完成させる
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	染色堅牢度試験4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	染色した試料の染色堅ろう度を調べる
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：インターネット等で染色堅ろう度試験方法について調べる 復習：堅ろう度試験結果をサンプル帳に記載しサンプル帳を完成させる
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	作品制作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	堅ろう度試験の結果を踏まえ、天然染料を使って染色作品を制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：これまでの授業の内容を復習し、適切な染色方法で染められるように染料、布などを準備しておく 復習：染色手順や使用した染料について整理しておく
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	作品制作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	堅ろう度試験の結果を踏まえ、天然染料を使って染色作品を制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：これまでの授業の内容を復習し、適切な染色方法で染められるように染料、布などを準備しておく 復習：染色手順や使用した染料について整理しておく
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	作品制作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	堅ろう度試験の結果を踏まえ、天然染料を使って染色作品を制作する。

第14回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	予習：これまでの授業の内容を復習し、適切な染色方法で染められるように染料、布などを準備しておく 復習：染色手順や使用した染料について整理しレポートのまとめる
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

受講人数によってはスケジュールが変更になる場合があります。また、複数回の授業を、まとめて実施することがあります。

学生へのフィードバック方法

授業にて解説します。

評価方法

平常点80%、レポート20%で評価します。
平常点は授業への積極的な参加態度、授業内容の理解等を総合的に判断し評価します。
レポートは各A4用紙2枚程度に ①天然染料の種類と特徴②作品制作に用いた試料、方法、特徴等について記載してもらいます。
学修成果の公平で客観的な評価の実施に向けて、ルーブリックを用いた評価を行います。
ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により学生に提示をします。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
レポート①	○			○
レポート②		○		○

評価割合

平常点80%、レポート各10%で評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

・染色の技法/田中清香/理工学社/978-4844585855
・染色の基礎知識 増補改訂版合成染料の技法/高橋誠一郎/染色と生活社/978-4-975374-62-3

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。

オフィスアワー

月曜2時限 2406研究室

学生へのメッセージ

積極的な参加を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	身近な染料を用いて自身でサンプル制作をする。

情報リテラシー教育	○	課題に関する情報を収集・分析・整理する。
ICT活用	○	情報収集やレポート作成のために、PCや通信機器を活用する。

講義コード	G03087007
講義名	生活デザイン演習Ｄ（澤田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	澤田 雅彦	指定なし

ナンバリング

D21206M12

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03087008
講義名	生活デザイン演習Ｄ（白井）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	白井 篤	指定なし

ナンバリング

D21206M12

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03087009
講義名	生活デザイン演習Ｄ（千葉）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	千葉 一博	指定なし

ナンバリング

D21206M12

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03087010
講義名	生活デザイン演習Ｄ（富田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	富田 弘美	指定なし

ナンバリング

D21206M12

授業概要(教育目的)

（集中授業）
パターンメーキング3級検定試験の課題「ブラウス」の身頃と袖、衿の応用バリエーションの製図（実物大）とテキストによる記述試験の対策を学び、製図からシーチングによる立体組み立ての知識と技術を習得して試験合格基準の力を身に付けることが目的である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	社会の中にある諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	社会の中の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

生活デザイン演習D（富田１）

第1回	**授業テーマ**	パターンメーキング3級検定試験対策講座説明１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	道具、テキスト、日程、要項内容を理解する。
	教室外学習(予習・復	パターンメーキング検定試験の要項を読んでおくこと。製図用

	習)の内容	紙を準備すること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	衿の製図１、記述問題１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衿の製図（スタンドカラー、台衿付きシャツカラー、フラットカラーなど）、および記述問題を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	衿の製図を練習し、製図用紙を準備すること。パターンメーキング検定試験の要項を読み、受験を希望する学生は、検定試験の申込みをすること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	衿の製図２、記述問題２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衿の製図（セーラーカラー、オープンカラーなど）、および記述問題を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	衿の製図を練習し、製図用紙を準備すること。パターンメーキング検定試験の要項を読み、受験を希望する学生は、検定試験の申込みをすること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	袖の製図１、記述問題３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	袖の製図（セットインスリーブ）、および記述問題を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	袖の製図を練習し、シーチングと製図用紙を準備として基準線を入れ、アイロンがけをすること。受験を希望する学生は、検定試験の申込みをすること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	袖の製図２、記述問題４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	袖の製図（パフスリーブ2種）、および記述問題を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	袖の製図を練習し、シーチングと製図用紙を準備として基準線を入れ、アイロンがけをすること。受験を希望する学生は、検定試験の申込みをすること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	Aブラウス１、記述問題５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Aブラウスの製図、ファーストパターン、シーチング裁断、組み立てをし、および記述問題を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ブラウスAの製図を練習し、ノートやプリントを見ないで時間内に書けるようにすること。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	Aブラウス２、記述問題６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Aブラウスの製図、ファーストパターン、シーチング裁断、組み立てをし、および記述問題を学ぶ。

第7回	教室外学習(予習・復習)の内容	ブラウスAの製図を練習し、ノートやプリントを見ないで時間内に書けるようにすること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	授業テーマ	Aブラウス３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Aブラウスの製図、ファーストパターン、シーチング裁断、組み立て、点検と修正（身丈、衿の形、袖丈、ボタンの間隔、袖のいせこみ、袖・衿の付け方）などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	製図、シーチング組み立てを修正をしておくこと。試験時間内に仕上がるように練習すること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	授業テーマ	Bブラウス１、記述問題７
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	BブラウスBの製図、ファーストパターン、シーチング裁断、組み立て、および記述問題を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ブラウスBの製図を練習し、ノートやプリントを見ないで時間内に書けるようにすること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	授業テーマ	Bブラウス２、記述問題８
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Bブラウスの製図、ファーストパターン、シーチング裁断、組み立てを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ブラウスBの製図を練習し、ノートやプリントを見ないで時間内に書けるようにすること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	Bブラウス３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Bブラウスの製図、ファーストパターン、シーチング裁断、組み立て、点検と修正（身丈、衿の形、袖丈、ボタンの間隔、袖のいせこみ、袖・衿の付け方）などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	製図、シーチング組み立てを修正をしておくこと。試験時間内に仕上がるように練習すること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	パターンメーキング3級検定試験対策講座説明２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	記述問題のポイント、疑問点や試験用のシーチング2組、製図用紙2組、道具等の準備について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	問題・質問等を用意してくること。チーチングや製図用紙は、皺にならないように持ち運びを工夫すること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	Aブラウス４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Aブラウスの製図、ファーストパターン、シーチング裁断、組み立て、点検と修正（身丈、衿の形、袖丈、ボタンの間隔、袖のいせこみ、袖・衿の付け方）などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	製図、シーチング組み立てを修正をしておくこと。試験時間内に仕上がるように練習し、点検をうけること。

	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	**授業テーマ**	Bブラウス４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Bブラウスの製図、ファーストパターン、シーチング裁断、組み立て、点検と修正（身丈、衿の形、袖丈、ボタンの間隔、袖のいせこみ、袖・衿の付け方）などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	製図、シーチング組み立てを修正をしておくこと。試験時間内に仕上がるように練習し、点検をうけること。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

通常は対面授業であるが、新型コロナウイルス感染状況によっては遠隔授業に変更する場合がある。

学生へのフィードバック方法

製図、シーチング組み立てを点検してコメントする。

評価方法

平常点（授業への参加状況、提出期日などで総合的に判断する）、製図、立体について、ルーブリックを用いて評価する。（ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配付等によって指示する。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
製図、組み立て	○	○	○	○

評価割合

平常点20%、製図40%、立体40%

使用教科書名(ISBN番号)

パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック
日本ファッション教育振興協会

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の中にある諸課題についての知識を深める。【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。【技術・表現】者ハイの中の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

オフィスアワー

金曜日12:30～14:50

学生へのメッセージ

パターンメーキングの知識・技術を深めたい学生は、検定試験の受験の有無に関わらず履修してもかまいませんが、欠席しないようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03087011
講義名	生活デザイン演習Ｄ（花田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	花田 朋美	指定なし

ナンバリング

D21206M12

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業や、学外学内のイベントへの参加、学外見学などのプログラムを実施する。内容は、プログラムを設定する教員によって異なり、複数のプログラムが設定される予定である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点 (K)	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることできる。
技術・表現の観点 (A)	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

評価方法

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03087012
講義名	生活デザイン演習Ｄ（原口）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	原口 秀昭	指定なし

ナンバリング

D21206M12

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03087013
講義名	生活デザイン演習Ｄ（小川）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	小川 圭子	指定なし

ナンバリング

D21206M12

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03087014
講義名	生活デザイン演習Ｄ（森）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	森 朋子	指定なし

ナンバリング

D21206M12

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03087015
講義名	生活デザイン演習Ｄ（嶋田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	嶋田 芳男	指定なし

ナンバリング

D21206M12

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03087017
講義名	生活デザイン演習Ｄ（花田2）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

D21206M12

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業や、学外学内のイベントへの参加、学外見学などのプログラムを実施する。内容は、プログラムを設定する教員によって異なり、複数のプログラムが設定される予定である。

履修条件

プリンティングデザイン演習を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点 (K)	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることできる。
技術・表現の観点 (A)	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	この授業は、プリンティングデザイン演習を補完するものであることを理解する。捺染とはどのようなものかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復】捺染の技法について調べる。
	教室外学習の時間（分）	30分
	授業テーマ	型染めの工程を理解する－デザインの考案（１）－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第2回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シルクスクリーンプリントのルーツとなる型染めについて理解し、デザインを考案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復】型染めのデザインを考案する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第3回	授業テーマ	型染めの工程を理解する－デザインの考案（２）－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シルクスクリーンプリントのルーツとなる型染めについて理解し、デザインを考案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復】型染めのデザイン案を決定する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第4回	授業テーマ	型染めの工程を理解する－型彫り（１）－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考案したデザインの型彫りを進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復】型彫りを進める。
	教室外学習の時間(分)	45分
第5回	授業テーマ	型染めの工程を理解する－型彫り（２）－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考案したデザインの型彫りを進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復】型彫りを完了させる。
	教室外学習の時間(分)	45分
第6回	授業テーマ	型染めの工程を理解する－染色－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糊置きした生地を染色する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復】染色を完了させる。
	教室外学習の時間(分)	45分
第7回	授業テーマ	シルクスクリーンプリントの工程を理解する－色彩計画－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	色彩計画の方法を理解し、画像から色を抽出してストライプを構成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復】ストライプの色彩計画を完了する。
	教室外学習の時間(分)	45分
	授業テーマ	シルクスクリーンプリントの工程を理解する－パターン計画（１）－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	パターンデザインの抽出と抽象化する方法を理解し、デザインを考案する。

第8回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復】シルクスクリーンプリントのデザインを考案する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第9回	授業テーマ	シルクスクリーンプリントの工程を理解する－パターン計画（２）－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パターンデザインの抽出と抽象化する方法を理解し、デザインを考案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復】シルクスクリーンプリントのデザイン案を決定する。
	教室外学習の時間(分)	30分
第10回	授業テーマ	シルクスクリーンプリントの工程を理解する－リピート計画（１）－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シルクスクリーンプリントのリピートを理解し、リピート計画を立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復】シルクスクリーンプリントのリピートを考える。
	教室外学習の時間(分)	45分
第11回	授業テーマ	シルクスクリーンプリントの工程を理解する－リピート計画（２）－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シルクスクリーンプリントのリピートを理解し、リピート計画を立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復】シルクスクリーンプリントのリピートを完了する。
	教室外学習の時間(分)	30分
第12回	授業テーマ	捺染施設の見学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	八王子近郊の捺染施設の見学（教室外での見学学習）
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予】八王子のテキスタイル産業の歴史、現状について調べておく。
	教室外学習の時間(分)	135分
第13回	授業テーマ	捺染施設の見学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	八王子近郊の捺染施設の見学（教室外での見学学習）
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復】捺染の方法について整理してまとめる。
	教室外学習の時間(分)	135分
	授業テーマ	捺染施設見学の振り返り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	グループに分かれ、捺染施設見学を振り返りを行う。

第14回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復】捺染施設見学を振り返り、見学レポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第15回	授業テーマ	捺染施設見学の振り返り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	八王子のテキスタイル産業の歴史と現状について考察し、地場産業と地域振興の関係性について、ディスカッションし、整理して発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復】捺染施設見学を振り返り、見学レポートを完成させる。
	教室外学習の時間(分)	90分

学習計画注記

複数回の授業を、まとめて実施することがあります。また状況により、計画が変更される可能性もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。見学レポートへのコメント。

評価方法

①見学レポートの提出（実験内容の理解、構成、丁寧さ、意欲 の程度を評価）
②平常点（内容の理解、行動力、調整力、意欲、態度 の程度を評価）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
見学レポート	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

レポート80% 平常点20% を総合的に評価

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。

オフィスアワー

水曜日４限後半～５限前半 ２４０７被服材料学研究室

学生へのメッセージ

学外の施設を見学することは、捺染技術についての理解が深まる貴重な機会です。積極的に参加してほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング	○	学生の能動的な作業の実施
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03087018
講義名	生活デザイン演習Ｄ（富田2）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

D21206M12

授業概要(教育目的)

（集中授業）
舞台衣装（オペラまたはバレエ）の制作ではデザイン・プレゼンテーション・仮縫い・フィッティング・本縫いを行い、公演ではゲネプロ・本番に参加して衣装を管理する。これらの過程から基礎的な知識と技術を習得し、スタッフと協力して総合的芸術を創作する力を身に付けることが目的である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	社会の中にある諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

生活デザイン演習D（富田3）

第1回	**授業テーマ**	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	DVDや公演を観てあらすじ、時代背景、役柄などを把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	DVD等の衣装をスケッチし、デザインを参考にしてイメージを膨らませること。
	教室外学習の時間（分）	45分

第2回	授業テーマ	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣装および頭飾りや小道具などのデザインをし、デザイン画を描き、色彩、素材を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デザイン画の下描きをすること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デザイン画に彩色して仕上げる。デザイン画を仕上げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デザイン画を仕上げる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	素材とデザイン画を用意して演出家、脚本家などにプレゼンテーションを行う。（デザインが決定する。）
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンテーションのパワーポイントや資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生地標本から材料を決定して調達する。製図を書く。
	教室外学習(予習・復習)の内容	製図を完了させる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	製図（点検）、型紙つくり、裁断をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	印つけまで完了させる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	仮縫いの方法を理解し、縫いまとめる。
	教室外学習(予習・復	仮縫いまとめを完了させる。

	習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フォッティングを行い、補正、変更等を入れる。表面装飾の材料を調達する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	製図、型紙を修正し、本縫いの準備をする。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣装および頭飾りの本縫い1を行い、小道具を制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	続きの本縫い1等を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣装および頭飾りの本縫い2を行い、小道具を制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	続きの本縫い2等を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣装および頭飾りの本縫い3を行い、小道具を制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	続きの本縫い3等を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣装および頭飾りの本縫い4を行い、小道具を制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	続きの本縫い4等を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	衣装および頭飾りの本縫い5を行って仕上げる。小道具を仕上

第13回	ｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	げる。昨年のオペラ衣装(展示）とボディ、パネルを用意し、大学からの搬出準備をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	搬出準備を完了させる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	会場に衣装を搬入する。ゲネプロ、衣装管理、ロビーに衣を展示する。舞台上で確認して衣装の裾合わせと裾上げをする。頭飾りのとヘアスタイルの打合せを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	裾上げを完了させる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第15回	授業テーマ	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公演当日は、衣装着替えの補助、衣装管理（汚れ除去、アイロンかけなど）、衣装と展示の片付け、会場から搬出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	大学にて衣装や小道具等の片付けをする。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

通常は対面授業であるが、新型コロナウイルス感染状況によっては遠隔授業に変更する場合があり、会場での活動が出来ず、オンライン公演になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

プレゼンテーション、衣装作品に対するコメント

評価方法

平常点（授業への参加状況、提出期日などで総合的に判断する）、プレゼンテーション、衣装作品

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
オペラ衣装	○	○	○	○

評価割合

平常点40%、衣装作品60%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の中にある諸課題についての知識を深める。【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】社会

の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。
【技術・表現】他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

オフィスアワー

木曜日 12:30～14:00

学生へのメッセージ

舞台衣装の制作は、日常着用しないスタイルや材料を使用する衣服です。今まで衣服を作ったことのない方、もっと技術を磨きたい方、ステージ裏の作業を経験したい方など興味のある方は参加してください。衣服制作が初めての方は、グループで取り組んで部分的な箇所を担当していただき、また、頭飾りなどを担当していただきますのでご心配なさらないでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学生の能動的な参加である。演出家、脚本家、ソリストなどと打ち合わせ、外部の会場にて開催するに当り、発見やトラブルが生じることがあり、これらから問題解決能力や社会的能力の成長を目指している。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03087019
講義名	生活デザイン演習Ｄ（富田3）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

D21206M12

授業概要(教育目的)

（集中授業）
オペラ衣装の制作ではデザイン・プレゼンテーション・仮縫い・フィッティング・本縫いを行い、公演ではゲネプロ・本番に参加して衣装を管理する。これらの過程から基礎的な知識と技術を習得し、スタッフと協力して総合的芸術を創作する力を身に付けることが目的である。
（会場は南大沢文化会館の予定である。）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	社会の中にある諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

生活デザイン演習D（富田3）

第1回	**授業テーマ**	オペラ衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	DVDやオペラ公演を観てあらすじ、時代背景、役柄などを把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	DVD等の衣装をスケッチし、デザインを参考にしてイメージを膨らませること。
	教室外学習の時間（分）	45分

第2回	授業テーマ	オペラ衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣装および頭飾りや小道具などのデザインをし、デザイン画を描き、色彩、素材を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デザイン画の下描きをすること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	オペラ衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デザイン画に彩色して仕上げる。デザイン画を仕上げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デザイン画を仕上げる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	オペラ衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	素材とデザイン画を用意して演出家、脚本家などにプレゼンテーションを行う。（デザインが決定する。）
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンテーションのパワーポイントや資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	オペラ衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生地標本から材料を決定して調達する。製図を書く。
	教室外学習(予習・復習)の内容	製図を完了させる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	オペラ衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	製図（点検）、型紙つくり、裁断をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	印つけまで完了させる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	オペラ衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	仮縫いの方法を理解し、縫いまとめる。
	教室外学習(予習・復	仮縫いまとめを完了させる。

	習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	オペラ衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フォッティングを行い、補正、変更等を入れる。表面装飾の材料を調達する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	製図、型紙を修正し、本縫いの準備をする。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	オペラ衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣装および頭飾りの本縫い1を行い、小道具を制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	続きの本縫い1等を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	オペラ衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣装および頭飾りの本縫い2を行い、小道具を制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	続きの本縫い2等を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	オペラ衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣装および頭飾りの本縫い3を行い、小道具を制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	続きの本縫い3等を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	オペラ衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣装および頭飾りの本縫い4を行い、小道具を制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	続きの本縫い4等を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	オペラ衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣装および頭飾りの本縫い5を行って仕上げる。小道具を仕上げる。昨年のオペラ衣装(展示）とボディ、パネルを用意し、大学からの搬出準備をする。
	教室外学習(予習・復	

	習)の内容	搬出準備を完了させる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	**授業テーマ**	オペラ衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	会場に衣装を搬入する。ゲネプロ、衣装管理、ロビーに衣を展示する。舞台上で確認して衣装の裾合わせと裾上げをする。頭飾りのとヘアスタイルの打合せを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	裾上げを完了させる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第15回	**授業テーマ**	オペラ衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公演当日は、衣装着替えの補助、衣装管理（汚れ除去、アイロンかけなど）、衣装と展示の片付け、会場から搬出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	大学にて衣装や小道具等の片付けをする。
	教室外学習の時間（分）	45分

学生へのフィードバック方法

プレゼンテーション、衣装作品に対するコメント

評価方法

平常点、プレゼンテーション、衣装作品

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
オペラ衣装	○	○	○	○

評価割合

平常点40%、衣装作品60%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の中にある諸課題についての知識を深める。【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。【技術・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

オフィスアワー

木曜日 12:30～14:00

学生へのメッセージ

舞台衣装の制作は、日常着用しないスタイルや材料を使用する衣服です。今まで衣服を作ったことのない方、もっと技術を磨きたい方、ステージ裏の作業を経験したい方など興味のある方は参加してください。衣服制作が初めての方は、グループで取り組んで部分的な箇所を担当し

ていただき、また、頭飾りなどを担当していただきますのでご心配なさらないでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学生の能動的な参加である。演出家、脚本家、ソリストなどと打ち合わせ、外部の会場にて開催するに当り、発見やトラブルが生じることがあり、これらから問題解決能力や社会的能力の成長を目指している。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03088001
講義名	高分子材料学実験
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	花田 朋美	指定なし

ナンバリング

D22105M13

授業概要(教育目的)

テキスタイル材料学、衣繊維学の講義で習得した知識を、自分の手で実験し観察することは習得した事柄の理解をより深めると共に、実生活における有効な応用を可能にする手段となる。糸・布の構造観察と表示、及び機械的性質、快適性に関する性質、実用性能などに関する実験を行い、高分子の構造を背景とした繊維、繊維から糸、布にいたる繊維集合体としての性質、及びその相関を考察する力を育成する。

履修条件

繊維学実験を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	繊維集合体としての被服材料の性質を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	繊維の性質を評価する方法を理解し、分析できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	繊維製品の課題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点 (A)	繊維製品の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学習計画

	授業テーマ	実験プログラムの説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高分子材料学実験で行う実験内容、試料等について概要を説明する。レポートの書き方や情報探索の方法についても解説する。

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復〕実験書（p.1～16）読み、実験に対する心構えや諸注意、器具の取り扱い方、レポート書き方等を理解する。
	教室外学習の時間（分）	30分
第2回	**授業テーマ**	糸の観察
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループに分かれ、糸の長さと重量計測から糸の太さを算出する。恒長式番手・恒重式番手による糸の表示が理解できる。検撚機を用いて、糸の合糸数、より方向、より数の測定等を観察し、糸の構造を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書の「糸の観察」（p.高17～高23）を読んでおくこと。糸の観察の実験レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	110分
第3回	**授業テーマ**	織物の構造（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループに分かれ、織物の厚さと重量を計測し、目付、見掛け比重、含気率、カバーファクターを算出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書の「織物の構造」（p.高24～高33）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	40分
第4回	**授業テーマ**	織物の構造（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループに分かれ、三原組織試料布を用いて、組織図の表示、織密度、織縮率を算出し、織物の基本構造について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書の「織物の構造」（p.高24～高33）を読んでおくこと。織物の構造の実験レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	110分
第5回	**授業テーマ**	引張強伸度試験（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループに分かれ、各種繊維の切断時の強さと伸び率を測定し、織物の伸長特性を理解する。乾湿強度についても検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書の「引張強伸度試験」（p.高34～高38）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	40分
第6回	**授業テーマ**	引張強伸度試験（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループに分かれ、湿潤試料の切断時の強さと伸び率を測定し、乾湿強度について検討して、織物の伸長特性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書の「引張強伸度試験」（p.高34～高38）を読んでおくこと。引張強伸度試験の実験レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	110分
	授業テーマ	吸湿・吸水性試験（１）

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループに分かれ、繊維の等温吸湿曲線を作成するために絶乾状態の各種繊維を湿度の異なる調質デシケータにセットする。バイレック法により各種繊維の吸水性を観測する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書の「吸湿性試験」（p.高39～高46）、「吸水性試験」（p.高47～高48）を読んでおくこと。吸水性試験の実験レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	110分
第8回	授業テーマ	吸湿・吸水性試験（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループに分かれ、繊維の等温吸湿曲線を作成し、繊維の吸湿性について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書の「吸湿性試験」（p.高39～高46）を読んでおくこと。吸湿性試験の実験レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	110分
第9回	授業テーマ	摩耗・摩擦試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループに分かれ、各種繊維の平面摩耗試験と屈曲摩耗試験を行い繊維の摩耗特性について理解する。更に、傾斜板法により、静摩擦係数を測定し、織物の摩擦特性について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書の「摩耗試験」（p.高49～高52）を読んでおくこと。摩耗試験、摩擦試験の実験レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	110分
第10回	授業テーマ	ドレープ性試験（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループに分かれ、簡便法により各種繊維のドレープ係数を測定し、織物のドレープ性について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書の「ドレープ性試験」（p.高53～高56）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	40分
第11回	授業テーマ	ドレープ性試験（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループに分かれ、新合繊を試料として簡便法によりドレープ係数を測定し、繊維径によるドレープ性の相違を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書の「ドレープ性試験」（p.高53～高56）を読んでおくこと。ドレープ性試験の実験レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	110分
第12回	授業テーマ	保温性試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループに分かれ、冷却法により保温性試験を行い、繊維の保温性について考察する。
	教室外学習(予)	〔予・復〕実験書の「保温性試験」（p.高57～高61）を読んでおく

	習・復習 の内容	こと。保温性試験の実験レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	110分
第13回	**授業テーマ**	紡しわ性試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループに分かれ、針金法により防しわ性試験を行い、繊維の防しわ性について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書の「防しわ性試験」（p.高62～高63）を読んでおくこと。防しわ性試験の実験レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	110分
第14回	**授業テーマ**	総合的考察
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全体の実験結果を整理し、布帛は、繊維、糸、布の各々の性質と構造が複合的に相関した繊維集合体であることを総合的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕繊維、糸、布の構造や性質が、身近な衣服にどのように影響しているのか考察する。
	教室外学習の時間（分）	110分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。
実験レポートへのコメント。

評価方法

①実験レポートの提出（実験内容の理解、構成、丁寧さ、意欲を評価）
②平常点（実験内容の理解、行動力、調整力、意欲、態度を評価）
評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実験レポート	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

レポート60% 平常点40% を総合的に評価

使用教科書名(ISBN番号)

高分子材料学実験実験書

参考図書

①新稿被服材料学－概説と実験－（ISBN978-4-332-10047-8 中島利誠編著 光生館発行 2010年）
②被服材料実験書（ISBN4-8103-1104-X 石川欣造編 同文書院発行 平成１０年第三版14刷）
③衣服材料学実験（ISBN978-4-254-60634-8 松梨久仁子 平井郁子編著 朝倉書店発行 2018年）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各

種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。
【技能・表現】衣生活デザイン分野の学びを深め課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

オフィスアワー

木曜日１２時４０分～１４時２０分 ２４０７被服材料学研究室
tomoh@kasei-gakuin.ac.jp 質問や相談があればメールを下さい。必要に応じてオンライン、または対面にて対応します。

学生へのメッセージ

実験法を理解することにより、講義で習得した知識をより深めることができると思います。主体的に参加してほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	毎回グループワークによる実験を実施する
情報リテラシー教育	○	実験テーマ毎のレポート提出を課題とする
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション

講義コード	G03089001
講義名	繊維学実験
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	花田 朋美	指定なし

ナンバリング

D22104M13

授業概要(教育目的)

被服材料の構造と性質を考察するためには、被服を構成している基本物質である繊維、及び高分子についての理解が必要である。各種繊維の顕微鏡観察、繊維の燃焼性、呈色性、耐薬品性、繊維の製造実験等の繊維に関する化学的・物理的性質について実験し、繊維を鑑別する知識と技術を習得すると共に、繊維、及び高分子について深く理解させる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	被服材料として取り扱われている繊維の化学的・物理的性質を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	繊維の性質を評価する方法を理解し、分析できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	繊維製品の課題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点 (A)	繊維製品の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	実験プログラムの説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	繊維学実験で行う実験内容、試料等について概要を説明する。レポートの書き方や情報探索の方法についても解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復〕実験書（p.1～16）読み、実験に対する心構えや諸注意、器具の取り扱い方、レポート書き方等を理解する。
	教室外学習の時間	

	(分)	60分
第2回	**授業テーマ**	顕微鏡の取り扱いと繊維の観察（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループに分かれ、光学顕微鏡の取り扱いとマイクロメータの使い方を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書の「顕微鏡による繊維の観察」（p.17～20）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	60分
第3回	**授業テーマ**	顕微鏡による繊維の観察（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループに分かれ、光学顕微鏡により、既知繊維の側面・断面を観察し、各種繊維の形態的特徴を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書の「顕微鏡による繊維の観察」（p.17～20）を読んでおくこと。顕微鏡による繊維の観察の実験レポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	140分
第4回	**授業テーマ**	繊維の燃焼性試験（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループに分かれ、既知繊維繊維の燃え方、煙の状態、臭い、灰の様子について観察し、繊維の燃焼性について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書の「繊維の燃焼性試験」（p.21～26）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	60分
第5回	**授業テーマ**	繊維の燃焼性試験（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループに分かれ、バイルシュタイン法により既知繊維中の塩素を検出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書の「繊維の燃焼性試験」（p.21～26）を読んでおくこと。繊維の燃焼性試験の実験レポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	140分
第6回	**授業テーマ**	着色による繊維の鑑別（１）－鑑別用試薬－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループに分かれ、鑑別用試薬を用いて、既知繊維の呈色反応試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書の「繊維の燃焼性試験」（p.27～32）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	60分
第7回	**授業テーマ**	着色による繊維の鑑別（２）－混合インクー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループに分かれ、混合インクを用いて、既知繊維の呈色反応試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書の「繊維の燃焼性試験」（p.27～32）を読んでおくこと。着色による繊維の鑑別の実験レポートを作成する。
	教室外学習の時間	140分

	（分）	
第8回	**授業テーマ**	耐薬品性試験（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループに分かれ、繊維の薬品による溶解性について、安全に実験を行い、正しく、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書の「耐薬品性試験」（p.33～38）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	耐薬品性試験（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループに分かれ、繊維の薬品による溶解性について、安全に実験を行い、正しく、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書の「耐薬品性試験」（p.33～38）を読んでおくこと。耐薬品性試験の実験レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	140分
第10回	**授業テーマ**	ビニロン糸の紡糸－湿式紡糸法ー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループに分かれ、ポリビニルアルコールを繊維化し、凝固浴中に押し出してビニロン糸を製作する。ビニロン糸の製作を通して湿式紡糸の原理を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書の「耐薬品性試験」（p.39～40）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	ビニロン糸の紡糸－アセタール化－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループに分かれ、紡糸したビニロン糸にアセタール化処理を行い、実用性について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕実験書の「耐薬品性試験」（p.39～40）を読んでおくこと。ビニロン糸の紡糸の実験レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	140分
第12回	**授業テーマ**	未知試料の鑑別（１）－天然繊維－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	繊維学実験で行った実験方法を活かして、未知試料の鑑別試験を行う。参考にできるのは、各自のレポートのみとする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕事前に実験書の「繊維鑑別のための各種繊維の性質表」（p.41～44）を確認しておくこと。鑑別試験の結果を振り返り回答を導き出した思考プロセスを確認する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	未知試料の鑑別（２）ー化学繊維－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	繊維学実験で行った実験方法を活かして、未知試料の鑑別試験を行う。参考にできるのは、各自のレポートのみとする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕事前に実験書の「繊維鑑別のための各種繊維の性質表」（p.41～44）を確認しておくこと。鑑別試験の結果を振り返り回答を導き出した思考プロセスを確認する。
	教室外学習の時間（分）	60分

第14回	授業テーマ	総合的考察
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全体の実験結果を振り返り、繊維の形態的特徴や化学的性質を整理し理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕繊維の形態的特徴や化学的特徴を決定する要因について考察する。
	教室外学習の時間(分)	70分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。
実験レポートへのコメント。

評価方法

①実験レポートの提出（実験内容の理解、構成、丁寧さ、意欲、提出期限の順守を評価）
②未知試料の鑑別試験（実験内容の理解、行動力、調整力、意欲、態度を評価）
③平常点（実験内容の理解、行動力、調整力、意欲、態度を評価）
評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
実験レポート	○	○	○	○
未知試料の鑑別試験	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

レポート50% 未知試料の鑑別試験20% 平常点30% を総合的に評価

使用教科書名(ISBN番号)

繊維学実験実験書

参考図書

①新稿被服材料学－概説と実験－（ISBN978-4-332-10047-8 中島利誠編著 光生館発行 2010年）
②被服材料実験書（ISBN4-8103-1104-X 石川欣造編 同文書院発行 平成１０年第三版14刷）
③衣服材料学実験（ISBN978-4-254-60634-8 松梨久仁子 平井郁子編著 朝倉書店発行 2018年）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。
【技能・表現】衣生活デザイン分野の学びを深め課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

オフィスアワー

木曜日１２時４０分～１４時２０分 ２４０７被服材料学研究室
tomoh@kasei-gakuin.ac.jp 質問や相談があればメールを下さい。必要に応じてオンライン、または対面にて対応します。

学生へのメッセージ

実験法を理解することにより、講義で習得した知識をより深めることができると思います。主体的に参加してほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	毎回グループワークによる実験を実施する。
情報リテラシー教育	○	実験テーマ毎のレポート提出を課題とする。
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション

講義コード	G03090001
講義名	アパレルデザイン論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

D12204M21

授業概要(教育目的)

アパレル製品の企画・設計を行うには、デザインに関する基礎知識が必要である。この授業では商品企画とファッションビジネスの状況、ファッションの変遷と時代背景、衣服デザインの基礎構成要素やフォーム、カラー、テキスタイルを学ぶ。またデザインやファッションに関する内容のプレゼンテーションの情報や自分の考え・社会の問題点などを整理して発信することを目的とする。また、アパレル企業で実務経験のある講師による特別授業を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	衣生活に関する諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

アパレルデザイン論

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス、発表課題1～２、提出課題３～８、発表課題９（ファッションに関する自由テーマ）の説明、アパレルデザインについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	提出課題と発表課題の進め方、およびアパレル製品の台頭、衣服のファッション化、ファッションとアパレルデザインについて学ぶ。
	教室外学習(予習・	授業後は、発表課題1～２、および発表課題９（ファッション関

	復習)の内容	する自由テーマ）についてネット・書籍等で調べること。
	教室外学習の時間（分）	185分
第2回	**授業テーマ**	特別授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ファッションビジネスについて具体的に学ぶ。アパレル企業で実務経験のある講師の授業である。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノート整理をしておくこと。発表課題の資料・書籍等を収集し、課題のテーマを考えること。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	ファッションの変遷とその背景１-１、発表課題１（デザイン運動・用語）、提出課題３（衿）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近代から1940年代までの服飾について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ファッションデザイナー、歴史背景、流行した理由などをまとめておくこと。提出課題３（衿）を調べて送信する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	ファッションの変遷とその背景２、発表課題１-２（デザイン運動・用語）、提出課題４（袖）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代（20世紀後半）の服飾について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ファッションデザイナー、歴史背景、流行した理由などをまとめておくこと。提出課題４（袖）を調べて送信する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	衣服デザインの基礎１、発表課題１-３（デザイン運動・用語）、提出課題５（装飾形式の原理）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ファッションアイテムやデザインを表現・説明（発表）するために、デザイン構成の基礎として形態の分析、装飾形式の原理を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表課題の資料・書籍等を読み進めて発表内容を考えること。提出課題５（装飾形式の原理）を調べて送信する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	衣服デザインの基礎２、発表課題１-４（デザイン運動・用語）、発表課題９（ファッションに関する自由テーマ）の進め方と発表の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ファッションアイテムやデザインを表現したり説明（発表）するために、衣服の美の表現、立体造形に求められる機能について学ぶ。さらに、発表の仕方・提示資料・話し方などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表課題の資料・書籍等を読み進めて発表内容をまとめること。

	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	フォーム１、発表課題１-５（デザイン運動・用語）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デザインを表現したり説明（発表）するために、フォームのディテールとバリエーションを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表課題９（ファッションに関する自由テーマ）を提出し、内容を整理する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	フォーム２、発表課題２-１（ファッションデザイナー）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デザインを表現したり説明（発表）するために、イメージによる形態の表現、服種とデザインポイントについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表内容をまとめ、個人指導時に説明、質問等ができるように準備する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	カラー１、発表課題２-２（ファッションデザイナー）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	マンセル表色系、伝統色（日本・西洋）、色の見え方と見えやすさ、カラーイメージなどの基礎を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表内容をまとめ、個人指導時に説明・質問等ができるように準備する。概略をパワーポイントにまとめで指導を受けること。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	カラー２、発表課題２-３（ファッションデザイナー）、提出課題６（対称トーンの配色）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	色相とトーンを基準にしたカラーコーディネーション（配色）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	提出課題６（対称トーンの配色）を調べて送信する。発表内容をまとめ、個人指導時に説明・質問等ができるように準備する。概略をパワーポイントにまとめで指導を受けること。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	カラー３、発表課題２-４（ファッションデザイナー、提出課題７（同一色相による配色）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	色相とトーンを基準にしたカラーコーディネーション（配色）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表内容をまとめ、個人指導時に説明・質問等ができるように準備する。概略をパワーポイントにまとめで指導を受けること。提出課題７（同一色相による配色）を調べて送信する。
	教室外学習の時間（分）	190分

第12回	授業テーマ	発表課題９（ファッションに関する自由テーマ）の個別指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーマ、発表内容、考察（自分の考え）について短時間だが個人指導を行う。（人数によっては変更する場合がある。）他の学生は、各自のテーマに沿って発表準備をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表内容をまとめ、個人指導時に説明、質問等ができるように準備する。指導後はパワーポイント、プリント、その他発表資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	テキスタイル、発表課題２-５（ファッションデザイナー）、提出課題８（生地標本）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テキスタイルの種類と外観効果について、生地標本の作成を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	解りやすく、見やすく、時間内に発表委ができるようにスライドを作り、口頭発表の練習をすること。生地標本を完成させて提出する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	発表課題９（ファッションに関する自由テーマ）プレゼンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発表内容、テーマの設定、考察、発表資料の見やすさ・分かり易さ、声の大きさ、周りの反応、質問等の発表について学び、経験を積む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	時間内で口頭発表ができるように練習すること。生地標本と配色課題の提出準備をすること。
	教室外学習の時間（分）	185分

学習計画注記

通常は対面授業であるが、新型コロナウイルス感染状況によっては遠隔授業に変更する場合がある。

学生へのフィードバック方法

発表準備時の個人指導、および当日の発表に対するコメント

評価方法

平常点（授業への参加状況、提出期日などで総合的に判断する）、課題、総合的な課題発表（準備・テーマ設定・内容・提示資料・話し方・参加態度などで総合的に判断）について、 ルーブリックを用いた評価を行う。（ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配付等によって指示する。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
発表	○	○	○	○
提出物	○			○

評価割合

平常点10%、課題60% 発表30%

使用教科書名(ISBN番号)

「改訂アパレルデザインの基礎」 一般社団法人衣料管理協会
資料を配付する

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】衣生活に関する諸課題についての知識を深める。【思考・判断】衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。【技術・表現】衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

オフィスアワー

金曜日15:10～16:50

学生へのメッセージ

服飾デザインの授業には、デザイン発想を促す基本的な要素が満載です。デザインのディテールやニュアンスを説明するとき、ファッションの感覚や作品を表現するときなどに役立ちます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	アパレル企業の実務経験のある講師に特別講義を依頼している。
アクティブ・ラーニング	○	アパレル・ファションに関する内容のプレゼンテーションを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03091001
講義名	アパレルデザイン表現実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

D12205M13

授業概要(教育目的)

この授業では、アパレルの企画に沿って、デザイナーとパタンナー、生産者、バイヤーとのコミュニケーションツールとしてアパレルデザイン表現法を身に付けることが目的である。デザイン画による表現（平面表現）では、顔・手・足などの人体を捉え、衣服のスタイルとディテール、テクスチャーと柄、彩色方法などを行う。さらに、ドレーピングによる表現（立体表現）では、シーチングによる立体裁断のテクニックからパターン作成による表現方法を指導する。

履修条件

前期「服飾造形実習A」後期「アパレルデザイン論」を履修することが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	衣生活に関する諸課題についての知識を深められる。
思考・判断の観点 (K)	衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

第1回	授業テーマ	授業の概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の概要、準備する道具、アパレルのデザイン画について、人体の基礎（骨格・筋肉）、人体のパーツ（手、腕、脚）の描き方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回までに、使用する道具を用意すること。手、腕、脚の描き方を復習すること。

	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	デザイン画１　ポージングと着装画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体のパーツ（顔、ボディ）の描き方、ヌードボディのポージングと着装画を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ヌードボディのポージングと着装画を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	デザイン画２　ハンガーイラスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ハンガーイラスト（シャツ、スカート、パンツ、ジャケット）の表現法、ギャザーとフレアーのテキスタイルによる表現法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ハンガーイラスト（シャツ、スカート、パンツ、ジャケット）の表現法を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	デザイン画３　着彩画と素材テーマ(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	着彩画の手法を学ぶ。素材テーマ(1)フリルとラッフルの表現法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	フリルとラッフルのデザイン画を完成させておくこと。自由な発想のオリジナルデザイン（フォーマルドレス・パーティドレス）をPCを使って調査する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	デザイン画４　素材テーマ(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	素材の描き方を習得する。素材テーマ(2)レースの表現法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レース素材のデザイン画を完成させること。自由な発想のオリジナルデザイン（フォーマルドレス・パーティドレス）をPCを使って調査する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	デザイン画５　イメージの発想(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自由な発想のオリジナルデザイン（フォーマルドレス・パーティドレス）の調査（PC使用）とデザイン画への展開を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	オリジナルデザインについてPCを使用して調査して決定する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	デザイン画６　イメージの発想（2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自由な発想のオリジナルデザイン（フォーマルドレス・パーティドレス）の調査（PC使用）とデザイン画への展開を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	オリジナルデザインを決定し、デザイン画を完成させること。

	教室外学習の時間(分)	190分
第8回	授業テーマ	ドレーピング１　基礎(1)身頃原型
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ドレーピング（立体裁断）について、道具の準備、ボディの基準線入れ、トワルの地直しと基準線入れ、身頃原型（前）のドレーピングを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ドレーピングの道具、次回のトワルの準備をしておくこと。
	教室外学習の時間(分)	190分
第9回	授業テーマ	ドレーピング２　基礎(2)セミタイトスカート
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身頃原型（後）、タイトスカート（前・後）のドレーピング、製図用紙へのトレースを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回はオリジナルドレスのデザイン画、ドレーピングの道具を持参すること。
	教室外学習の時間(分)	190分
第10回	授業テーマ	ドレーピング３　オリジナルデザインのドレス(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オリジナルデザインのデザイン画からトップス、ボトムス、衿、袖、その他（装飾など）の構成を読み取り、トワルの準備、トワルから製図用紙にトレースする方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	オリジナルデザインのデザイン画、ドレーピングの道具を持参し、トップスを完成させること。
	教室外学習の時間(分)	190分
第11回	授業テーマ	ドレーピング４　オリジナルデザインのドレス(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ボトムス、衿、袖、その他（装飾など）のピン打ち、トワルから製図用紙のトレース、課題発表と提出について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ボトムスを仕上げておくこと。また、デザインコンセプトをまとめ、発表・提出課題の準備をすること。
	教室外学習の時間(分)	190分
第12回	授業テーマ	ドレーピング５　オリジナルデザインのドレス(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衿、袖、その他（装飾など）のピン打ち、トワルから製図用紙にトレースする方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	衿、その他（装飾など）を仕上げておくこと。また、デザインコンセプトをまとめ、発表・提出課題の準備をすること。
	教室外学習の時間(分)	190分
第13回	授業テーマ	ドレーピング６　オリジナルデザインのドレス(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	袖、その他（装飾など）のピン打ち、トワルから製図用紙にトレースする方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	袖、その他を仕上げておくこと。また、デザインコンセプトをまとめ、発表・提出課題の準備をすること。
	教室外学習の時間(分)	190分

第14回	授業テーマ	課題発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デザイン画とドレーピングのオリジナルドレスのコンセプト等を発表方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表、課題を提出すること。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

デザイン画は、添削して返却する。
ドレーピングは、授業内で点検する。
授業内で制作された優れた作品を公表し、全員で共有していく。

評価方法

・デザイン画の評価は、着装画とハンガーイラスト（20%）
・ドレーピングの評価は、身頃原型、スカートのトワルと製図とする（20%）
・オリジナルデザインの評価は、（デザイン画・ドレーピング）（50%）
・平常点（作品製作の取り組み等、総合的に判断する）(10%)
・ルーブリックに基づく評価。ルービックについては、授業内で説明する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
作品（デザイン画）	○	○	○	○
作品（ドレーピング）	○	○	○	○

評価割合

デザイン画（40%）、ドレーピング（50%）、平常点（10%）

使用教科書名(ISBN番号)

配付プリント

参考図書

文化服装学園編「文化ファッション大系　アパレル生産講座③　立体裁断　基礎編」文化出版局、2005年

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】被服分野に関する基礎的な知識を有し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる。【思考・判断】社会の中にある課題を自ら発見し、分析、整理し、考察できる。【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心をもつことができる。【技術・表現】生活や社会において具体的な技術を身に付け、改善・創作することができる。

オフィスアワー

金曜日15:10～16:50

学生へのメッセージ

実習では作品を完成させるので､欠席をしないように心がけ、やむを得ず欠席の場合は連絡をいれてください。次回までの準備等をお知らせします。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	各回で、デザイン画の制作をしていく。最終的にデザイン画とドレーピングのプレゼンテーションを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	情報収集のために、PCや情報機器を活用する。

講義コード	G03092001
講義名	服飾造形実習Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	富田 弘美	指定なし

ナンバリング

D12201M23

授業概要(教育目的)

下肢を包む衣服としてパンツ・スカートの製図とその展開・裁断・縫製、基礎の手縫いや部分縫いなどの習得、立体的な人体の下半身の構造と平面的なパターンとの関係を理解、基礎的な織地と編地（ニット）の縫製技法などを学び、製作技術、既製服の構成や縫製などを理解する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	衣生活に関する諸課題についての知識を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	アパレルに関する技術や製品に関心を持ち、積極的に日常生活や社会で役立つ技術力や表現力を身に付けることができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	スカートとハーフパンツの課題説明、裁縫道具、レポート説明1、材料、人体計測、セミタイトスカート1（実物大製図基本線）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	スカートのデザインと種類、材料（織地と編地）、レポートの説明、裁縫道具、人体計測（ウエスト、ヒップ、股上など）および製図に必要な寸法計算、製図の基本線の書き方を学ぶ。

	む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の寸法計算、製図の基本線までを終わらせておくこと。
	教室外学習の時間(分)	復習：30分
第2回	授業テーマ	洋裁道具確認・説明、セミタイトスカート2（実物大スカートの製図・地直し）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	道具の説明、実物大セミタイトスカートの平面パターンと人体の関係について学び、生地扱の扱いや地直しについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実物大のはハーフパンツの製図を完成させて提出すること。
	教室外学習の時間(分)	復習：30分
第3回	授業テーマ	セミタイトスカート2（型紙づくり、型紙の展開、裁断、印つけ1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本型スカートの型紙の展開（フレア・ギャザー）、裁断を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	裁断まで進めておくこと。
	教室外学習の時間(分)	復習：90分
第4回	授業テーマ	セミタイトスカート3、（印付け2、仮縫い）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	印付け（切りじつけ）、仮縫いの仕方を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	仮縫いを仕上げておくこと。（次回仮縫い点検をする。）
	教室外学習の時間(分)	復習：90分
第5回	授業テーマ	セミタイトスカート4（仮縫い点検）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	仮縫い点検（補正の修正方法）脇縫い、縫い代処理（ロック）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノート整理・レポート作成をすること。脇縫い、縫い代処理（ロック）まで終わらせておくこと。
	教室外学習の時間(分)	復習：50分 予習40分
第6回	授業テーマ	セミタイトスカート5（仮縫い点検、脇縫い、ファスナー付け）、レポート説明2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ファスナー付けの準備（伸び止めテープ、しつけかけ）、レポートの説明を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ファスナー付け（伸び止めテープ、しつけ）までを済ませておくこと。

	教室外学習の時間（分）	復習：90分
第7回	**授業テーマ**	セミタイトスカート6（ファスナー付け2）、
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ファスナー本体付けと完成までを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノート整理・レポート作成、ファスナーを完成させること。ファスナーを完成させること。レポートに使用するファスナー付けの段階を写真撮影する。
	教室外学習の時間（分）	復習：50分 予習40分
第8回	**授業テーマ**	セミタイトスカート7（ベルト付け）、基礎縫い1、ハーフパンツの製図（1/4縮尺）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ベルト付け、基礎縫い用布の準備と基礎縫い1（まつり縫い・たてまつり縫い）、ハーフパンツの製図（平面の形）・ニット地の扱いを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ベルト付けを完成させること。
	教室外学習の時間（分）	復習：90分
第9回	**授業テーマ**	ハーフパンツの縫製デモンストレーション1（型紙づくり・裁断・縫製）、基礎縫い2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	工業パターン（縫い代付きの型紙）作り、ニットの裁断、柄合わせ、基礎縫い2（オーバーロックミシン、カバーステッチミシン）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	裁断まで済ませること。基礎縫い2のオーバーロックミシン、裾上げのカバーステッチミシンをしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習：90分
第10回	**授業テーマ**	ハーフパンツの縫製デモンストレーション2（縫製・仕上げ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	裾上げ・ウエストの始末（カバーステッチミシン）、ゴム通し（直線ミシン）、仕上げまでを理解して完成させることを見て学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ハーフパンツを完成させること。
	教室外学習の時間（分）	復習：90分
第11回	**授業テーマ**	セミタイトスカート8（裾上げ）、基礎縫い
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	裾上げのロックミシン、基礎縫い2（奥まつり：裾のロック後に使用）を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	裾上げを仕上げておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習：90分
	授業テーマ	セミタイトスカート9（前カン付け）基礎縫い3、基礎縫い4

第12回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基礎縫い3のスカートのベルトの前カン（ホックとバー）のかがり方、基礎縫い4の半返し縫い、全返し縫い、千鳥けなどを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前カン付け、基礎縫い3,4を終わらせておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習：90分
第13回	授業テーマ	セミタイトスカート10（仕上げ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発表、仕上げを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	スカートを完成させ、コーディネートを考えて発表準備をする。
	教室外学習の時間（分）	復習：30分 予習：60分
第14回	授業テーマ	セミタイトスカートの着装発表、作品（スカートとパンツ）・基礎縫い・レポート提出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	スカートとのコーディネートを考えて着装し、デザインの特徴、生地名や素材、製作に対する問題点や反省点などの発表について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表、スカート、基礎縫い（1～4）、レポートなどを提出する準備をすること。（授業内で提出する。）
	教室外学習の時間（分）	90分

学生へのフィードバック方法

課題（スカート・パンツ）、基礎縫い、レポート、発表のコメント

評価方法

平常点20%、作品40%（着装発表を含む）、基礎縫い10%、着装発表、レポート30%
平常点（授業の参加状況、授業への取り組み方などを総合的に判断する）課題（スカート・パンツ）、基礎縫い、レポート、発表（内容・話し方など）について、ルーブリックを用いて行う。（ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配付等によって指示する。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
作品	○	○	○	○
基礎縫い	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○
発表	○	○	○	○

評価割合

平常点20%、課題40%、基礎縫い10%、着装発表10%、レポート20%

使用教科書名(ISBN番号)

プリント配付

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】被服分野に関する基礎的な知識を有し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる。【思考・判断】社会の中にある課題を自ら発見し、分析、整理し、考察できる。【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心をもつことができる。【技術・表現】生活や社会において具体的な技術を身に付け、改善・創作することができる。

オフィスアワー

木曜日12:30～14:00

学生へのメッセージ

基本的に授業で説明した内容は、次週までに進めてください。
特に実習は欠席しないように努め、やむを得ず欠席した場合は連絡を入れてください。遅れた部分を補うために、次の週までに進める内容をお伝えします。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03100001
講義名	生活デザイン演習 B
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	生活デザイン学科 教員	指定なし
准教授	澤田 雅彦	指定なし
准教授	花田 朋美	指定なし

ナンバリング

D11204M12

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科の専門分野が関わる社会の諸課題について、衣生活デザインの領域、住生活デザインの領域、そして生活デザイン共通領域のコミュニケーション、情報の分野の視点で考え、生活デザイン学科で学ぶための基礎となる考え方を体験的に学習する。また卒業生を招いて懇談会を開催し、生活デザイン学科での学習の意義と将来の進路についても考える。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	生活デザイン学科で考える課題がどのようなことなのかについて知識があり、理解できる。
思考・判断の観点 (K)	現代社会のさまざまな課題について掘り下げて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	この授業で学んだことを、今後の大学での学びに活かそうとする意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	各課題について、問題意識を持って調べ、プレゼンテーションする能力がある。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス やさしい日本語

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	冒頭に授業のガイダンス（授業内容、日程など）を行う。その後、「やさしい日本語」の必要性を学んだ上で、実際に文書を「やさしい日本語」で書き直してみる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：「やさしい日本語」に関する課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	**授業テーマ**	ポスターのレイアウト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ポスターを用いて自己紹介を行う際、美しく見やすいレイアウトを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：ポスターのレイアウトに関する課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	**授業テーマ**	水と洗濯（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	資源保護の観点から、水と洗濯の関わりについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：家庭での洗濯について調べておく（1日の回数、洗濯機や洗剤の種類等）
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	**授業テーマ**	水と洗濯（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭での洗濯用水の使用状況から、水資源の保護としてできることを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：洗濯について調べたことや考えたことをA3用紙にまとめポスターを制作する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	**授業テーマ**	都市公園の活用法を考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	町田薬師池公園四季彩の杜での石綱ゼミ（4年生）の取り組みの事例を紹介し、都市公園の魅力向上につながる新たなイベントや取り組みを考えてみる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：都市公園の活用法に関する課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	**授業テーマ**	図を書きながら議論する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループで図を書きながら議論することを通して、現状を複眼的に認識し、問題を発見してその要員を探り合う。情報社会に関することを話題にする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：情報社会に関する課題に取り組む。

	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	**授業テーマ**	快適な住環境を考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の住むまちを題材にどのようにして快適な住環境を維持するかについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：住環境に関する課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	**授業テーマ**	生活デザイン学科の学びと将来について（1）資格取得・就職
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己を見つめたり、同級生の考えに触れたりすることで、様々な生き方について知り、大学生活の意義をより多角的に捉えることができる。 課題（生活デザイン学科での自分自身の目標について／大学での学びと卒業後の目標は、どのように結び付けられるのかなど）：授業時間内に作成して提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：自分自身のキャリアを設計する上での必要な考え方を身につけるための第一歩となるように振り返る。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	**授業テーマ**	生活デザイン学科の学びと将来について（2）社会人の先輩にきく
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会で活躍する卒業生の講演を通して、これからの進むべき方向を考えるきっかけを作ることができる。 講演内容：学生生活の過ごし方、現在の仕事について、将来設計の考え方についてなど 課題（講演の要点、講演を聴いて学んだことなど）：授業時間内に作成して提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：卒業生への質問項目について考えてくること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	**授業テーマ**	博物館・美術館へ行こう！
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	世の中には、いろいろな博物館と美術館があり、実はとても面白いところである。そんな博物館・美術館の楽しみ方と、お勧めの博物館・美術館を紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：博物館・美術館に関する課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	**授業テーマ**	持続可能な衣服としてダーニング（繕い）を考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	私たちが所有している衣服をできるだけ長く着用すること、それだけでも、環境への負荷を減らすことができる。ダーニングを体験し、身の回りのことから自分たちにできることを始めてみる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：持続可能な衣服に関する課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	50分

第12回	授業テーマ	インテリアパース（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	和室のインテリアパースを描きながら、和室のデザインについて考えてみる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：和室、洋室について、次の授業までに調べる。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	授業テーマ	インテリアパース（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	洋室のインテリアパースを描きながら、洋室のデザインについて考えてみる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：和室、洋室のパース2枚に、着彩をして、A3用紙1枚にレイアウトして、要点を引き出し線と文字で書く。
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	授業テーマ	成果発表会（ポスターセッション方式）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各テーマで実施したプレゼンテーションの内容を各自用紙1枚にまとめ、ポスターとして展示して、発表を行う。学習内容を一望することで、本演習全体を振り返り、学生相互に良いところを学び合う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：発表原稿の作成
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

学習計画は担当教員の都合等により変更される可能性あり。

学生へのフィードバック方法

担当教員が随時行う。

評価方法

課題（内容・構成・表現・形式、および授業への参画度や取り組みの姿勢により評価する）
成果発表会（発表内容、ポスターの完成度、プレゼンテーションにより評価する）

なお、評価はルーブリックに基づいて行う。ルーブリックはGoogleクラスルームか初回授業で提示する予定。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点		○	○	○
プレゼンテーションの内容	○	○	○	

評価割合

課題 90%
成果発表会 10%

使用教科書名(ISBN番号)

適宜、資料を印刷・配付する。

参考図書

授業内で各担当者が紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【思考・判断】社会の中にある諸課題を自を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。

オフィスアワー

各教員にアポイントメントを取って、時間を調整してください。

学生へのメッセージ

授業の目的・意義を考えながら、意欲的に授業に取り組むことを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	各テーマ毎にグループワーク、ディスカッションを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03100401
講義名	情報デザイン論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	呉 起東	指定なし

ナンバリング

D34207M21

授業概要(教育目的)

現代社会で最も必要なのは情報とコミュニケーション能力と言える。情報を正しく理解し、伝えるのがコミュニケーションの始まりである。本授業では、情報の収集 → 分類 → 情報の再構築 → 情報の視覚化に流れるプロセスを理解し、如何に情報の表現を行うかを講義や事例を用いて説明を行う。
また、グループワークを用いて、実際に情報を収集し、分類、情報の視覚化を体験しながらコミュニケーションを育成することを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から、各分野 の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
思考・判断の観点 (K)	１．情報とコミュニケーションの意味、役割、表現について理解してこれからの情報デザインに関することについて思考・判断できる。 ２．インフォメーションデザインについて思考・判断できる。 ３．グラフィック表現にについて思考・判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	「知識・理解の観点」「思考・判断の観点」で得た、知識及び思考・判断をレポートにまとめる（表現する）ことができる。

学習計画

情報デザイン

	授業テーマ	オリエンテーション：ガイダンス、情報とコミュニ

		ケーション
第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の概要や内容、成績の評価の説明を行う、情報とコミュニケーションについて講義を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	情報デザインについて調査してレーポトでまとめる。
	教室外学習の時間（分）	２００分
第2回	授業テーマ	広告デザインとコミュニケーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	広告デザインとコミュニケーションの役割を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	情報デザインについて調査してレーポトでまとめる。情報の可視化の手法について振り返る。
	教室外学習の時間（分）	２００分
第3回	授業テーマ	インフォメーションデザインと実例
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インフォメーションデザインと実例について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	インフォメーションデザインのまとめる。
	教室外学習の時間（分）	２００分
第4回	授業テーマ	グラフィックデザインの要素（デザイン原理）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グラフィックデザインの要素（デザイン原理）について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グラフィックデザインのまとめ
	教室外学習の時間（分）	２００分
第5回	授業テーマ	テーマ決定、ブレインストーミング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブ・ラーニング）チーム構成、テーマ決定、ブレインストーミング
	教室外学習(予習・復習)の内容	情報の可視化について調査を行う。
	教室外学習の時間（分）	２００分
第6回	授業テーマ	情報の収集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブ・ラーニング）情報の収集
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集したデータの整理をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	２００分
第7回	授業テーマ	情報の分類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブ・ラーニング）情報の分類
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集したデータの分類を行う。
	教室外学習の時間（分）	２００分
第8回	授業テーマ	表現の基礎：反復、多様性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	表現の基礎：反復、多様性について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	表現の基礎演習
	教室外学習の時間（分）	２００分
第9回	授業テーマ	表現の基礎：リズム、バランス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	表現の基礎：リズム、バランスについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	表現の基礎演習
	教室外学習の時間（分）	２００分

第10回	授業テーマ	表現の基礎：強調、簡潔性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	表現の基礎：強調、簡潔性について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	表現の基礎演習
	教室外学習の時間（分）	２００分
第11回	授業テーマ	情報の可視化１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブ・ラーニング）情報の可視化１
	教室外学習(予習・復習)の内容	制作を行う。
	教室外学習の時間（分）	２００分
第12回	授業テーマ	情報の可視化２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブ・ラーニング）情報の可視化２
	教室外学習(予習・復習)の内容	制作を行う。
	教室外学習の時間（分）	２００分
第13回	授業テーマ	情報の可視化３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブ・ラーニング）情報の可視化３
	教室外学習(予習・復習)の内容	制作を行う。
	教室外学習の時間（分）	２００分
第14回	授業テーマ	プレゼンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンテーションの準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	２００分
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回授業の最後に感想や質問を提出させて、次回に感想や質問について解説を行う。別の質問などがある場合は研究室1307（E-mailも可）まで訪問すること。

評価方法

課題は６０点満点で課題の結果とプレゼンテーションで評価を行う。評価はルーブリックを基づいて「課題の理解」「誠実さ」「デザイン性」の３つを基準にして５段階評価（ルーブリックによる）を行う。レポートと最終報告書は２０点満点で課題と同じく３つの基準を５段階評価で行う。平常点は２０点満点で１４回を通して「積極的な授業の参加、態度」「積極的なディスカション」をルーブリックによって評価を行います。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○		○

レポートと最終報告書	○			○
平常点		○		

評価割合

課題（６０%）、レポート（１０%）最終報告書（１０%）平常点（２０%）で評価をする。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

必要に応じて提示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】情報 について、専門的知識・技術を有している。
【思考・判断】講義及び実験から得られる情報、授業外学習から得られる情報などを客観的に理解して関係性を導き出すことができる。
【技能・表現】情報やコミュニケーション、グラフィックの表現に関する知識の学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理して、レポートにまとめることができる。

オフィスアワー

月曜日 ５限

学生へのメッセージ

現代社会において情報の可視化はとても大切である。情報を可視化するために情報の収集、分類、情報の再構築と情報の表現を理解することが必要である。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら調べ、発表する。
情報リテラシー教育	○	情報そのものと情報の伝達をするための情報の収集、分類、基本的な表現スキルを教育する。
ICT活用	○	情報収集、作品制作、発表のために、PCや通信機器を活用する。

講義コード	G03100501
講義名	家庭電気・機械・情報処理
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	山際 基	指定なし

ナンバリング

D31106M21

授業概要(教育目的)

家庭で使用される機械や電気機器、情報機器について、仕組みと取扱法といった基本的知識を講義するとともに、消費するエネルギーの観点から機械や機器へのエネルギー変換、省エネルギーと経済性について、生活を合理的に管理するための能力を育成する。また社会における情報化の進展について理解し、家庭生活においてコンピュータを活用する能力と態度を育成する。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家庭で使用される機械や電気機器、情報機器についての基本的知識の習得できること。
思考・判断の観点 (K)	家庭生活において、修得した知識をもとに機械、電気、情報の各技術を活用できること。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日々進化する機械、電気、情報の各技術に対する関心を持ち、新たな技術に対して積極的に接することができること。
技術・表現の観点 (A)	修得した知識をもとに機械、電気、情報の各技術の特徴、利点と欠点について適切に説明できること。

学習計画

家庭電気・機械・情報処理

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	本講義の講義計画を説明するとともに、家庭における機械、電

第1回	ｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	気、情報の利用についての全体像・概要を理解する。また、初回の授業でルーブリックについて説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の家庭においてどのような機械、電気機器、情報機器があるのか調査する。
	教室外学習の時間（分）	90
第2回	授業テーマ	家庭における機械①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代生活と機械の基本的な関係について理解する。道具や機械の始まりや機械の3要素について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	道具や機械を利用する利点を考える。なぜ道具や機械が考えられたのか、機械と呼ばれる条件として何があるのかを考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第3回	授業テーマ	家庭における機械②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	機械の要素と働きについて理解するとともに、家庭生活と素材・材料について考えを深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	金属材料、非金属材料、複合素材、新素材と様々な材料を知るとともに、その機械的効果を考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第4回	授業テーマ	家庭における機械③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭生活における機械の実例について理解を深める。身近にあるミシンや自動車、自転車について取り上げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	機械の実例（ミシン、自転車、自動車）の構造、仕組みについて理解を深める。各機械の様々な機能を実現するためにどのような機構が存在するのか理解する。
	教室外学習の時間（分）	200
第5回	授業テーマ	機械、電気とエネルギー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エネルギーを発生させるもとになるものの存在から、機械や電気機器を動かすに至るまでのエネルギーの変換の基礎概念について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	エネルギーの種類と目的に応じた機械的、電気的利用について理解する。
	教室外学習の時間（分）	200
第6回	授業テーマ	電気の変換と家庭での利用①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	電気の熱への変換について、アイロン、調理機器を実例にあげて仕組みや構造を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	電気を熱に変換する方法を理解する。熱への変換は加熱と冷却の双方を念頭に置いて考える。
	教室外学習の時間（分）	200
	授業テーマ	電気の変換と家庭での利用②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	電気の動力への変換について、エアコン、冷蔵庫、洗濯機、掃除機を実例にあげて仕組みや構造を理解する。

第7回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	電気を動力に変換する方法を理解し、実例に挙げた以外の電気機器についても考えてみる。
	教室外学習の時間（分）	200
第8回	授業テーマ	電気の変換と家庭での利用③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	電気の光への変換について、照明器具を実例に挙げて理解を深める。また変換以外へのエネルギーの利用について、電子機器を実例に挙げて理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	電気の光への変換方法を理解するとともに、電子機器の機構や仕組みを理解する。
	教室外学習の時間（分）	200
第9回	授業テーマ	一般家庭における電力の供給
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	電気が発電所から一般家屋に届くまでの概要と一般家屋における電力線の屋内配線や利用される機器について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	屋内の配線における規格や利用される機器について理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	200
第10回	授業テーマ	現代生活と情報機器
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代生活と情報機器の関わりについて理解し、コンピュータの機能と操作について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	コンピュータの機能と仕組みについて理解する。
	教室外学習の時間（分）	200
第11回	授業テーマ	情報機器の家庭での利用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンピュータのハードウェアとソフトウェアおよびネットワークについて理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	コンピュータの各機能を実現するためにどのようなハードウェア、ソフトウェアがあるのか理解する。
	教室外学習の時間（分）	200
第12回	授業テーマ	クラウドコンピューティングとネットワークサービス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭生活に密接した情報システムについて、クラウドや各種ネットワークサービスの実例や仕組みを挙げるとともに理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	既に自分自身が家庭生活で利用している情報システムやネットワークサービスについて、機能と仕組みを理解する。
	教室外学習の時間（分）	200
第13回	授業テーマ	家庭生活と情報システム
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報システムの社会、家庭、経済への活用について理解する。
	教室外学習(予習・復)	自分自身の家計（会計）管理、消費者としての活動に合わせて、現存するシステムやネットワークサービスの活用方法につ

	習 の内容	いて理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	200
第14回	**授業テーマ**	講義全般のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	機械、電気、情報の各技術の関係と家庭への利用についてまとめる。また省エネルギー、経済性を考慮した家庭生活を送るための考え方について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	機械、電気、情報の各技術の関係と家庭への利用について、従来までの考え方や運用方法と新たな考え方や運用方法を検討する。
	教室外学習の時間（分）	210

学生へのフィードバック方法

・毎回の講義時の小レポートの講評については、採点後、講義時間中に全体講評を行う。

評価方法

・期末レポートは、機械・電気・情報の各技術が家庭生活に与えた影響について論じるレポートを出題する。記述の論理整合性、技術的（理論的）正当性を当然問うこととなるが、自身の経験などを含めた主体性のある主張、指摘についても評価する。
・平常点は、毎回の講義において、講義内容に沿った小レポートを出題する。なお、小レポートの出題及び評価はGoogle ClassroomおよびGoogle Classroomのルーブリックを用いて評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末レポート	○	○	○	○
平常点	○		○	○

評価割合

期末レポート(50%)、平常点（50%）による総合評価。

使用教科書名(ISBN番号)

新しい時代の家庭機械・電気・情報（第２版）／池本洋一、山下省蔵／ジュピター書房／2021（978-4909817006）

ディプロマポリシーとの関連

［知識・理解］ 家庭生活の基盤として「より良い生活と技術」の関わりについて理解できる。
［思考・判断］ 生活の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
［関心・意欲・態度］ 日々進化する技術について関心を持ち、どのようにして自分自身の家庭生活に役立てるか活動意欲を持つことができる。
［技術・表現］ 機械、電気、情報の各技術の特徴を把握し、その効果を説明できる。

オフィスアワー

非常勤講師のため講義時以外はメールで問い合わせること。

学生へのメッセージ

進化する様々な技術について興味や関心を持つことが重要です。そして、どのようにして自分自身の家庭生活に役立てるか主体的な意欲を持ち活動することが、知識や技能を深めることにつながります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03100601
講義名	デザイン概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

D11110M21

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科での学習の基本として、デザインとはなにかという問題を考える。そのことを通して、デザインの思考方法の特徴と、デザインという行為に求められることを理解する。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	デザインとは何かを理解できる。
思考・判断の観点 (K)	デザインするのに必要なことは何かを判断し、それに基づいて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	分かりやすく表現をすることができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	デザインとは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「デザインとは何か」という問題を考えながら、この授業の目標と、14回の授業で考えることについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「デザインとは何か？」という問いについての自分自身の考えを整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	デザイン思考について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「デザイン思考」あるいは「デザインシンキング」とはどのような概念なのかを理解する。
	(	

	教室外学習 予習・復習)の内容	生活デザイン学科の学習に、「デザイン思考」の考え方と手法が、どのように応用できるかを考える。
	教室外学習の時間(分)	200分
第3回	授業テーマ	デザインと「観察」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デザインにおける「観察」の大切さを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実際にいろいろな「もの」と「こと」を観察し、その結果をどのようにデザインに結び付けられるかを考える。
	教室外学習の時間(分)	200分
第4回	授業テーマ	デザインと「考える」「理解する」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「考える」「理解する」ということは、どういうことなのかを考え、デザインと「考えること」「理解すること」との関係を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「観察」と「理解すること」と「デザイン」の関係について、具体的な事例を探して、総合的に考えてみる。
	教室外学習の時間(分)	200分
第5回	授業テーマ	デザインと「作る・表現する」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「観察」「理解」「デザイン」の関係に基づいて、「作る・表現する」とはどのようなことなのかを考える。そこから「分かりやすい表現」についても理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ポスター、Webページ、雑誌などのデザインを、「分かりやすいデザイン」という視点で観察する。
	教室外学習の時間(分)	200分
第6回	授業テーマ	なにも考えないデザイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デザインの様々な考え方について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で紹介したデザインの考え方、発想方法を実践する。
	教室外学習の時間(分)	200分
第7回	授業テーマ	デザインの対象と領域
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デザインの対象となる「もの」と「こと」について考え、一般的に、デザインの対象領域はどのように考えられているのかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「･･･デザイン」という言葉を探して、そのデザインの対象と範囲について具体的に考える。
	教室外学習の時間(分)	200分
第8回	授業テーマ	「デザインのこころをみがくアドバイス」を考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デザインの考え方、見方、デザインに必要な心構えを身につけるにはどうしたら良いのか、「デザインあ」を参考にして考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分自身の「デザインのこころをみがくアドバイス」を考える。

	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	文字のデザイン１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本語の文字の書体として広く使われている、明朝体とゴシック体について理解し、文字のデザインと文書の読みやすさについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	いろいろな文字のデザインを観察する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	文字のデザイン２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本語の文字の書体として広く使われている、明朝体とゴシック体について理解し、文字のデザインと文書の読みやすさについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	明朝体の文字をお手本にならってかく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	わかりやすいデザイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文字や文書・ポスターのデザインの事例を通して、わかりやすいデザインはどのようなデザインなのかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	読みやすい文書を作ることを実践する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	マークとサインのデザイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	マークとサインのデザインの種類や事例を見て、マークとサインのデザインの特徴や役割などを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	サインデザインの実例を見つけて、そのサインの役割や性質について考える。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	ユニバーサルデザインについて（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ユニバーサルデザインとは何かについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身のまわりのユニバーサルデザインを探して、それのどこが、どう「ユニバーサルデザイン」なのかを考える。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	ユニバーサルデザインについて（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ユニバーサルデザインの発展の歴史と、これからのユニバーサルデザインの考え方について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ユニバーサルデザインの考え方で、世の中の様々なものとことを観察し、どのような問題があるかを考える。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

授業の進み具合や履修学生の状況を考慮し、授業内容を変更する可能性があります。

学生へのフィードバック方法

中間のレポートと、ミニレポートは全員の回答内容を一覧表にして返却し、その時に解説をする。

評価方法

1．授業終了時にミニレポートを適宜課す。ミニレポートは、その日の授業内容にあわせて課題を提示する。
2．ミニレポートは、その日の授業内容がどの程度理解できているか、さらに、その内容をふまえて、自分の考えが分かりやすく整理されているか否か、という視点で採点をし、出席状況とあわせて、平常点として評価する。
3．学期末にレポートを出題する。
4．レポートは、14回の授業内容を関連づけて整理できているか否か、そしてデザインについての自分の考えが、論理的に整理されて、記述されているか否か、という視点で採点する。
評価はルーブリックに基づいて行うことを予定しています。ルーブリックはGoogleクラスルームか初回授業で提示する予定です。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○		○
レポート	○	○		○

評価割合

平常点50%とレポート50%で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し考察することができる。
【技術・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

オフィスアワー

後期木曜日2時限　1503研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03100801
講義名	家庭経営学概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	河田 敦子	指定なし
教授	佐野 潤子	指定なし

ナンバリング

D11103M21

授業概要(教育目的)

人間が人間らしく生きる拠点が家庭であり、家庭生活を中心とした家族・コミュニティの営みが家政＝家庭経営である。現代社会における家庭経営の課題を、「家族」「ジェンダー」「消費者」をキーワードに、概説する。特に、親と子、夫と妻など家族を核とする人と人の関係や、仕事や消費といった日々の生活と生命の再生産の営みを中心に現代社会の危機的状況を生活者の視点から見直し、誰もが安心してくらせる、持続可能性のある消費者市民社会につくりかえる方法を、自分の生活設計と重ねながら考える。今年度は、2019年度まで相模原市で消費生活総合センター所長を務めておられた萩原康秋氏をお招きして「消費者」とはどのような存在なのか、その生き方をご講義頂き、考察を深める機会を設けている。第10回第11回は現代家政学科教授の佐野潤子先生にご担当いただきます。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家庭生活が個人にとって、社会にとってどのような役割を持っているかを理解できる。
思考・判断の観点 (K)	多様で急激な社会変動の中で、どのように家庭生活を営むかを自律的に構想できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分の現在の家族・家庭のあり方を見つめ、広い視野で将来設計に取り組める。
技術・表現の観点 (A)	人間の生き方や家族・家庭について豊かな感性と言葉で表現できる。

学習計画		
第1回	授業テーマ	現代社会における家庭経営の枠組み
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭経営学の定義、家族の定義、生活時間等家庭経営学で頻繁に用いる概念について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、レジュメを良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第2回	授業テーマ	社会における「家庭」 パブリックとプライベートの領域
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会における家庭の位置、その機能をパブリックとプライベートの概念に基づいて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レジュメを良く復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第3回	授業テーマ	生活経営～新しい価値・規範の創造へ～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代社会において家族・家庭がどのような状況にあるかを、主に津敬資料を用いて考察する。グラフの読み取り方、その現象の意味について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後にレジュメを良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第4回	授業テーマ	家庭経営とジェンダー（1）現代社会におけるワークライフバランス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	女性が社会で働くことが社会に定着するようになってからまだ日は浅い。それはなぜか。男女共同参画社会はどのようにしたら実現可能なのかを考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後レジュメを良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	家庭経営とジェンダー（2）近現代日本におけるジェンダー構造の変動
	学習内容(ｱｸﾃ	

第5回	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近現代日本社会でジェンダーの構造はどのように変動してきたのかを、江戸時代も含めて概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後レジュメを良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	江戸時代の女性の生き方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	江戸時代の女性の生き方について学ぶ。日本においてジェンダー構造が大きく変動したのは、明治中期であることは前回学んだ。では、それ以前の江戸時代の女性はどのように生きていたのか、只野真葛、内藤ます等の女性の生き方から、現代女性として自らの生き方についての考えを深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	江戸時代の女性にはどのような人がいるかを調べておくこと。可能であれば参考文献②を読んでおくことが望ましい。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	出産と子育て
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	女性の合計特殊出生率が急激に低下している日本社会における出産と子育てについて、その歴史的変遷も含めて概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後にレジュメを良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第8回	授業テーマ	家族・家庭と法律 婚姻・親権・相続等
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家族がどのような法律によって、どのように規定されているのかを、民法をもとに概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後レジュメを良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	消費者としての生き方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	萩原康秋先生による講義。萩原先生は、2019年度まで、相模原市 市民局 消費生活総合センターの所長であられた。「消費者」とは、社会の中でどのような存在なのかを、人間の生き方として広い視野でお話頂く。
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	授業内容をよく理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	現代社会と消費生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代社会における消費生活とは何かを考える。近年、急激に発展した高度情報通信社会における 消費生活の環境の激変、家計消費の質的変化について概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後にレジュメをよく読むこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	消費社会と家計問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新たな形態の消費者問題が発生していることについて概説し、消費者被害の未然防止と被害者救済のための方策について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後にレジュメをよく読むこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	現代社会における家族・家庭、ジェンダー（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代社会でどのような家族・家庭、ジェンダーをめぐる問題が発生しているかを、新聞記事をもとに考え、議論する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に配布する新聞記事をよく読み、関連文献を探してみること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	**授業テーマ**	現代社会における家族・家庭、ジェンダー（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家族をめぐる社会問題が顕在化した事件や新聞記事を紹介し、関心のあるテーマ毎に分かれて、グループディスカッションを行う。グループで話し合った結果を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の今後の生き方を見つめる機会である。前回までの授業で学んだことをもとにディスカッションを行うので、自分の考えをまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分

第14回	授業テーマ	少子高齢化社会における家族と家庭
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	少子高齢化社会の現代社会において持続可能な社会を創出するためには、どのように家族や家庭を作ることが求められるか、発表し合う。期末レポートを提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本講義全体を踏まえ、期末レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	240分

学習計画注記

特になし

学生へのフィードバック方法

プレゼンテーション時には、随時コメントします。

評価方法

・期末レポートの課題は、「現代社会の状況を踏まえ、今後の自分の生き方を考える」である。2000字以上。
評価方法・評価基準は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはクラスルーム
または授業内での配布等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末レポート	○	○	○	
グループディスカッション	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合

平常点（リアクションペーパー等） 20点
グループディスカッション、プレゼンテーション 20点
レポート 60%

使用教科書名(ISBN番号)

特になし

参考図書

①原ひろ子著『生活の経営―21世紀の人間の営み―』放送大学教育振興会 2002年
②柴桂子著『近世おんな旅日記 (歴史文化ライブラリー ; 13)』吉川弘文館 1997年
③河田敦子著 加藤時男翻刻 『幕末明治の女性 内藤ますの生涯とその教養形成過程』お茶の水女子大学グローバルCOE「格差センシティブな人間発達科学の創成」2010年
④日本家政学会・生活経営学部会編『暮らしをつくりかえる生活経営力』朝倉書店 2014年・臼井和恵編著『21世紀の生活経営 自分らしく生きる』同文書院 2011年
⑤山口一男『ワークライフバランス』日本経済新聞出版社2009年

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「衣」「住」「コミュニケーション・情報」「地域・園芸・ビジネス」「家庭科教育」の各分野 について、専門的知識・技術を有している

【思考・判断】社会の中にある諸課題を自 ・社会の中にある諸課題を自 ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。

オフィスアワー

随時調整し対応する。アポイントメントを取り、時間調整を行うこと。

学生へのメッセージ

生活者としての視点から現代の家族問題や女性の生き方、ジェンダーの問題、消費者の様相を相対化して考察できる基盤を培ってほしい。
教職必修

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	第9回 消費者としての生き方は実務経験のある方による特別授業である。
アクティブ・ラーニング	○	アクティブラーニング：第12，13回の授業ではグループディスカッション、プレゼンテーションの機会を設けている。
情報リテラシー教育	○	現代社会の状況について情報収集しながらレポートを作成する。
ICT活用		

講義コード	G03101001
講義名	家庭看護
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	遠藤 由美子	指定なし

ナンバリング

D21107M21

授業概要(教育目的)

家庭とは、生活を共にする家族の集まりである。家族が健康で日常生活を営むために年代別による健康管理が求められる。また加齢、病気などで障がいがあってもその人らしく生活を過ごすための知識・技術も必要である。家庭看護では、健康や疾患、加齢についての基礎知識とともに、生活を支援するための技術の習得を目的とする。

履修条件

特に求めない。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	健康と病気の定義について説明ができる。 年代別の健康問題と管理について説明ができる。 乳幼児から高齢期の特徴について説明ができる。
思考・判断の観点 (K)	制作をする過程において創造力を駆使して、作品を完成する。 自ら設定した課題のレポートを作成する過程で、資料検索の方法を知り、問題解決に導く力を養い、自己の考えを人に伝える能力を磨く。
関心・意欲・態度の観点 (V)	課された課題を、自宅学習を含め取り組み、「提出期限を守る」「決められたことを確実に行う」など社会的役割や責任を身に着ける
技術・表現の観点 (A)	演習を通して、人とのかかわりを学び社会性を身に着け、専門職としての視点を磨く。

学習計画

家庭看護

		オリエンテーション

第1回	授業テーマ	病児の遊びを考えよう①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	カエルのカスタを作りみんなで演奏しよう チャイルドビジョンを作り実際につけて歩き子どもの視界を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で体感した内容のレポートを作成し、期限内に提出。（期限：次回授業開始前まで）
	教室外学習の時間(分)	１８５分
第2回	授業テーマ	健康と病気 ①健康について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業内配布資料に沿って進める
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で配布したプリントを完成させ、期限内に提出。（期限：次回授業開始前まで）
	教室外学習の時間(分)	１９０分
第3回	授業テーマ	健康と病気 ②看護と介護
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業内配布資料に沿って進める
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で配布したプリントを完成させ、期限内に提出。（期限：次回授業開始前まで）
	教室外学習の時間(分)	１９０分
第4回	授業テーマ	病気と看護 家族の年代別健康管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業内配布資料に沿って進める
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で配布したプリントを完成させ、期限内に提出。（期限：次回授業開始前まで）
	教室外学習の時間(分)	１９０分
第5回	授業テーマ	病気と看護 病気の種類と特徴（子ども編）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業内配布資料に沿って進める
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で配布したプリントを完成させ、期限内に提出。（期限：次回授業開始前まで）
	教室外学習の時間(分)	１９０分
第6回	授業テーマ	病気と看護 病気の種類と特徴（大人編）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業内配布資料に沿って進める
	教室外学習(予習・	授業内で配布したプリントを完成させ、期限内に提出。（期限：

	復習)の内容	次回授業開始前まで）
	教室外学習の時間（分）	１９０分
第7回	**授業テーマ**	病気と看護 病児の遊びを考えよう②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パズルを作って、子どもの視点に立って遊びについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で作成中のパズルを完成及びその気づきをレポート作成、期限内に提出。（期限：次回授業開始前まで）
	教室外学習の時間（分）	１９０分
第8回	**授業テーマ**	身体の清潔と感染症対策（手洗いにTRY！）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実際に手を洗う
	教室外学習(予習・復習)の内容	介護実習室（体を動かしやすい服装・上履き・タオル・水分補給用の水分） 授業内で配布したプリントを完成させ、期限内に提出。（期限：次回授業開始前まで）
	教室外学習の時間（分）	１９０分
第9回	**授業テーマ**	病気と看護（バイタルサインの測定・体位変換にTRY！） コミュニケーション 体位 バイタルサインの測定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パワーポイントを活用して、コミュニケーションについての解説。実際にベッドを活用して体位を体感しよう 実際にバイタルサインの測定を行おう
	教室外学習(予習・復習)の内容	介護実習室（体を動かせる服装・上履き・タオル・水分補給用の水分） 授業内で配布したプリントを完成させ、期限内に提出。（期限：次回授業開始前まで）
	教室外学習の時間（分）	１９０分
第10回	**授業テーマ**	病気と看護（車椅子にTRY！） 移乗（車椅子、白杖）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実際に車いすを体験。白杖をもって歩いてみよう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	介護実習室（動きやすい服装・上履き・タオル・水分補給用の水分） 授業内で配布したプリントを完成させ、期限内に提出。（期限：次回授業開始前まで）
	教室外学習の時間（分）	１９０分
	授業テーマ	病気と看護（着脱にTRY！） 排泄、着脱

第11回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実際におむつを付けてみる。ベッド上での着替えの介助を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	介護実習室（動きやすい服装・上履き・タオル・水分補給用の水分） 授業内で配布したプリントを完成させ、期限内に提出。（期限：次回授業開始前まで）
	教室外学習の時間（分）	１９０分
第12回	授業テーマ	救急編（救急法にTRY！）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	救急法の実際をDVDで確認し、手順を覚える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	介護実習室（動きやすい服装・上履き・タオル・水分補給用の水分） 授業内で配布したプリントを完成させ、期限内に提出。（期限：次回授業開始前まで）
	教室外学習の時間（分）	１９０分
第13回	授業テーマ	課題作成・提出・発表（発表はパワーポイント、zoom又はチームスを使用し実施）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書室・PC室・自習室などを活用し、自身の決めた課題の資料を探し、レポート（５枚）、発表（５分以内）資料の作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマを自分で探す（授業に関連した内容で、興味を持ったものであれば可）資料収集、発表準備（パワーポイント、zoom、チームスを使用する事前提で準備）、提出用レポート作成
	教室外学習の時間（分）	１９０分
第14回	授業テーマ	課題作成・発表発表はパワーポイント、zoom又はチームスを使用し実施）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	他の学生の前で、自ら作成した資料を基に発表（zoom、チームスを使用）を行う。 他者の発表を聞き、評価に参加するとともに自己の発表のスキルアップに繋げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表を聞くことで、資料収集や提出用レポート作成の振り返り
	教室外学習の時間（分）	１８５分

学習計画注記

授業１～7回までは、座学を中心。授業８～14回は演習を中心に運営していく。（天候、感染症などに左右される場合は、この限りではない。）

学生へのフィードバック方法

講義の他、グループワーク、演習、ICTの活用等を行い、学生が楽しいと感じ達成感や物事の意味を考え、学生自ら主体的に授業に参加できるように運営していく。はさみ、サインペン、色鉛筆、カッターナイフ等を使う事に慣れる。

評価方法

授業成果物２６点（パズル、眼鏡・カエルカスタ）個々の個人の創造性を駆使して、完成を目指す。作成したもので遊びを通して、子供の特性を学ぶ。
授業内平常課題２４点授業内の課題プリントを課し、自宅学習を促す。
発表評価５０点（レポート１０点、教員評価２０点、学生参加者の評価平均点２０点）（評価項目：発表態度，プレゼン準備，プレゼン資料の完成度，テーマ選択）、テーマに従い資料検索を重ねレポートをまとめ、それをもとに他者に自分の考えを伝えるべく様々な方法を用いて発表準備を行い、人前で意見を述べることを通して、達成感を養い今後の自身の活動に役立つ手法を身に着ける。
評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
成果物		○	○	○
授業内平常課題	○	○	○	
発表評価	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○

評価割合

成果物２６点（パズル、眼鏡・カエルカスタ）授業内課題２４点，発表評価５０点（レポート１０点、教員評価２０点、学生参加者の評価平均点２０点）

使用教科書名(ISBN番号)

授業内で配布

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】幅広い視点から知識を深め、専門的に職業への道をつなぐことができている。
【思考・判断力】自ら設定した課題に取り組むことで、情報収集方法、理論的に分析する方法、考察するプロセスを学び行動できる力を身に着けている。
【関心・意欲・態度】授業内に課せられた課題に自ら取り組み、「課せられた課題をこなす」「提出期限を守る」など社会的マナーを守る力を培い、社会人としての役割を果たせる。
【技能・表現」 他の学生と演習を通して関わり、社会性を身に着けている。自ら設定した課題を人前で発表することで表現力を身に着けている。

オフィスアワー

前期火曜日１限 指定教室

学生へのメッセージ

日常生活のなかでは、特に健康について意識をしていないけれど病気になるとその大切さに気づきます。自分自身の健康管理ができかつ家族の健康も守ることができるように、自分の日常生活から健康について考えてみましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	医療現場や介護施設などで実際に体験した事例の活用
アクティブ・ラーニング	○	グループワークや車椅子体験などの実践的活動
情報リテラシー教育	○	図書館やインターネットなど活用し自分が必要とする情報を集め、レポートにまとめプレゼンの実践
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション

講義コード	G03101101
講義名	消費者調査法(3年次以降)
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

D15301M12

授業概要(教育目的)

消費者調査の種類と方法を理解し、調査を正しく行うための技術と、調査の結果を集計・分析・考察するための知識を修得させることを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	消費者調査に関わる専門的知識を有している。
思考・判断の観点 (K)	消費者調査について多面的に考える姿勢を身に付けている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら取り組む学習態度を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	自らの考えをまとめ、人に伝える技術力を身につけている。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	消費者調査とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費者調査の定義や意義、重要性などについて理解する。知識調査や意識調査の共通点や相違点を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第1章の演習問題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第2回	**授業テーマ**	利用目的による分類、情報の種類による分類、量と質による分類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事実調査、知識調査、意識調査について確認する。量的調査と質的調査の特徴と相違点を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第2章の演習問題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	情報の収集による分類（質問紙調査法、観察法）、動

		機調査
第3回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	質問紙調査法の種類とメリット・デメリットについて学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第2章の演習問題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第4回	授業テーマ	質問紙調査法の手順、調査票作成の手順
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	質問文の作成や実施に関わる留意事項を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第3章の演習問題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第5回	授業テーマ	調査票作成の仕方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	質問文の作成に関わる留意事項や、質問と回答の形式について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第3章の演習問題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第6回	授業テーマ	全数調査と標本調査、母集団と標本、標本抽出法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査対象の選び方に関わり、全数調査と標本調査、母集団と標本について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第4章の演習問題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第7回	授業テーマ	標本誤差と標本数
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査対象の選び方に関わり、標本誤差と標本数について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第4章の演習問題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第8回	授業テーマ	消費実態調査・トピックス調査の実例
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣料の消費実態調査の特徴と意義を理解する。調査項目や集計・分析について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第6章の演習問題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第9回	授業テーマ	調査企画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	質問紙調査を自ら実施するための調査企画を立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第7章の演習問題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第10回	授業テーマ	調査票の作成①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	質問紙調査を自ら実施するための調査項目を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第7章の演習問題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	190

第11回	授業テーマ	調査票の作成②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	質問紙調査を自ら実施するための調査項目を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第7章の演習問題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第12回	授業テーマ	調査の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	質問紙調査を実施して、回収した調査票のデータを集計する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第7章の演習問題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第13回	授業テーマ	調査の集計・分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集計の方法とグラフ化など分析に必要な知識を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第5章の演習問題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第14回	授業テーマ	調査結果の発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	定期試験として、調査の結果を取りまとめて発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査結果を他者にも理解しやすいよう集計の方法とグラフ化を工夫して発表する。
	教室外学習の時間（分）	230

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は40点満点で出題し、課題レポートを課す。
・提出物、定期試験は下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
提出物			○	○
定期試験	○	○		

評価割合

提出物（60%）、定期試験（40%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

日本衣料管理協会刊行委員会編『新版 消費者調査法』（日本衣料管理協会、2004年）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「衣」「住」「コミュニケーション・情報」「地域・園芸・ビジネス」「家庭科教育」の各分野について、専門的知識・技術を有している。グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができている。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができるまた、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できている。
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができている。
【技術・表現】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。

オフィスアワー

【後期】水曜日 1701ゼミ室 11：00～13：00
※上記は千代田三番町キャンパスのため、メールなどで適宜対応する。

学生へのメッセージ

自分でテーマを決めて質問紙調査を実施しますので、取り上げたいテーマを決めて、どのような質問をしたいのかを考えておきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

講義コード	G03101201
講義名	消費生活論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	黒澤 佳子	指定なし

ナンバリング

D25307M21

授業概要(教育目的)

安全で豊かな消費生活を送るために、消費者問題の現状と、それに対して消費者、行政、企業がなすべきことを知る必要がある。この授業は、消費者問題を体系的に捉え、消費者・行政・企業のあるべき姿を理解し、消費者問題の現状と政策を考察する基礎的な力を育成することを目的とする。近年はインターネットで買い物をする機会が増え、モノやサービスの購入スタイルも多様化してきた。また、貯蓄・投資や保険などの金融商品を選ぶ際には、自己責任が求められるようになっている。将来生きていくうえで誰もが知っておくべき金融経済の知識について、事例や体験談、ニュースで話題になっている事柄などを取り上げてわかりやすく解説する。

履修条件

オンデマンド（火曜２限）による実施

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	消費者問題の現状を知り、その背景にある市場メカニズムや経済状況、施策等を理解する。
思考・判断の観点 (K)	自立した社会人になるために、自分の身を自分で守るための「人間力」を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

消費生活論

第1回	授業テーマ	消費者問題の基礎
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費者問題とは何か、消費者を取り巻く環境の変化
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第1章「消費者問題の基礎」（1～34ページ）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	消費者問題と消費者政策（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費者保護基本法から消費者基本法へ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章「消費者問題と消費者政策」（35～41ページ）を読んで、わからないワードは調べておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	消費者問題と消費者政策（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費者政策の基本理念
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章「消費者問題と消費者政策」（42～48ページ）を読んで、わからないワードは調べておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	消費者問題と消費者政策（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費者行政
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章「消費者問題と消費者生活」（49～56ページ）を読んで、わからないワードは調べておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	消費者政策の展開（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費者関連法、消費者被害の発生・拡大防止
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章「消費者政策の展開」（57～64ページ）を読んで、わからないワードは調べておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	消費者政策の展開（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費者契約の適正化
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章「消費者政策の展開」（65～75ページ）を読んで、わからないワードは調べておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	消費者政策の展開（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費者紛争の解決
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章「消費者政策の展開」（76～92ページ）を読んで、わからないワードは調べておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	企業の消費者対応（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	企業の消費者対応の変遷と責務
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章「企業の消費者対応」（93～102ページ）を読んで、わからないワードは調べておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分

第9回	授業テーマ	企業の消費者対応（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費者対応部門の課題
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章「企業の消費者対応」（103～106ページ）を読んで、わからないワードは調べておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	企業の消費者対応（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	企業の社会的責任とコンプライアンス
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章「企業の消費者対応」（107～108ページ）を読んで、わからないワードは調べておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	企業の消費者対応（4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費者志向経営とSDGs
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章「企業の消費者対応」（108～114ページ）を読んで、わからないワードは調べておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	消費者教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費者教育の現状と課題
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第5章「消費者教育」（115～136ページ）を読んで、わからないワードは調べておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	消費生活情報（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費生活と情報の重要性
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第6章「消費生活情報」（137～143ページ）を読んで、わからないワードは調べておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	消費生活情報（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費生活相談情報
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第6章「消費生活情報」（143～156ページ）を読んで、わからないワードは調べておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

オンデマンド（火曜２限）による実施

学生へのフィードバック方法

毎授業ごとの小テストおよびミニレポートは、採点・コメントを付して返却する。

評価方法

毎回の授業で、その回の授業で扱った内容から、小テストもしくはミニレポートを実施する。
定期試験に代えて、学期末にレポートを課す。提出期限、テーマ、作成方法は授業中に指示をする。
初回の授業でルーブリックについて説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
ミニレポートおよび小テスト	○	○	○	
レポート	○	○	○	

評価割合

授業ごとの小テストもしくはミニレポート（50%）、レポート等の課題提出（50%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

「新版 消費生活論」社団法人日本衣料管理協会 2020年2月発行

参考図書

「10代から学ぶパーソナルファイナンス」日本FP協会（配付）
「学生生活マネー＆キャリアお役立ちハンドブック！」日本FP協会（配付）
「若手社会人のマネー＆ライフプラン お役立ちハンドブック！」日本FP協会（配付）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「消費生活」の分野 について専門的知識を有し、グローバルな視点から知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができ、また、多様な情報を客観的に理解し判断して行動することができる。

学生へのメッセージ

最近の消費者関連ニュースの解説および身近な人が詐欺被害にあった例を取り上げ、詐欺に合わないためにはどうしたらよいかも考えていきます。資格取得の観点だけでなく、自分自身の将来に有益な内容ですので、関心を持って主体的に取り組めると思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、銀行において金融の実務経験を有しており、ファイナンシャルプランナーとして消費生活におけるアドバイスを行っている。また中小企業診断士として企業側の消費者問題についても精通しており、生活に密着した身近な経済について教授している。
アクティブ・ラーニング	○	理解を深めるため、および解決策を探究する目的で、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等を行うことがある。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03101401
講義名	保育学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	新開 よしみ	指定なし

ナンバリング

D31108M21

授業概要(教育目的)

子どもと大人が共に豊かな成長を続けていくことのできる社会を目指し、家庭・地域・社会において大人が果たすべき役割、保育所・幼稚園・認定こども園における保育・幼児教育の今日的課題、共に育つ保育実践について考える。また、保育観察や子どもとのふれあい体験（自主実習）を通して実際の子どもの発達や遊びの実態を体験しながら、家庭科教育における保育領域の授業実践の工夫を具体的に構想できるよう導いていく。

履修条件

家庭科教員免許取得を目指していること、またはそれに準ずる意欲のあること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1. 家庭科教育における保育領域の意義について説明できる。 2. 保育・幼児教育の基本的事項について説明できる。 3. 乳幼児の生活と発達について具体的にイメージできる。
思考・判断の観点 (K)	1. 自主実習や保育観察を通して子どもとの関わりにおける自己課題を発見する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 保育領域に関心を持ち、積極的に課題や教材研究に取り組むことができる。 2. 保育観察や自主実習に意欲を持って取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1. 子どもの発達を想定した絵本の読み聞かせができる。 2. パワーポイント等を活用し、効果的にプレゼンテーションできる。

学習計画

第1回	授業テーマ	オリエンテーション～保育とは・子どもとは～ 家庭科教育における保育領域の意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育の出発点が子ども理解にあること、子ども観と保育観・教育観・人間観・社会観との関係性について理解する、 グループワークを通して、学習指導要領「家庭科」における保育領域の意義と目的を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・中学校・高校の学習指導要領「家庭科」の中の保育領域に関する部分を読んでおくこと ・履修動機、授業への期待について考えておくこと
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	わたしの中の子ども時代を振り返る
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児期の体験や遊びを振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自主実習に向けた計画を作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	保育・幼児教育の今／保育実技課題１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の保育制度、保育の原理原則、幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	保育実技１課題に取り組む。 自主実習の準備。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	「ぽかぽかひろば」保育観察１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児グループ「ぽかぽかひろば」の観察を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）「ぽかぽかひろば」の資料を読んでおくこと／（復習）観察記録をまとめること
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	子どもの遊びと保育／保育実技課題２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼稚園等で生活する子どもの姿から、遊びを中心とした保育について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題「自主実習のための準備」に取り組む
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	絵本の教材研究発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	絵本を３冊選びその内容を紹介するとともに１冊について「読み聞かせ」の実践をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	絵本選びと読み聞かせの練習
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	「ぽかぽかひろば」保育観察２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児グループ「ぽかぽかひろば」の観察を行う。

	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）「ぽかぽかひろば」の資料を読んでおくこと／（復習）観察記録をまとめること
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	自主実習（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児（０・１・２歳児）クラスの自主実習に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自主実習記録の作成
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	自主実習（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児（３・４・５歳児）クラスの自主実習に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自主実習記録の作成
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	子ども理解にはじまる保育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な子どもの姿から一人ひとりの子どもを大切にする保育のあり方について考え、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	自主実習報告会１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自主実習の成果について一人10分程度の報告を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表用パワーポイントの作成、発表の練習
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	自主実習報告会２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自主実習の成果について一人10分程度の報告を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表用パワーポイントの作成、発表の練習
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	自主実習報告会３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自主実習の成果について一人10分程度の報告を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表用パワーポイントの作成、発表の練習
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	授業のふりかえりとまとめ／レポート作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業をふりかえり、自己評価を行う。まとめのレポートを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の	

	内容	全授業の資料を整理し、内容を把握しておく。
	教室外学習の時間（分）	210分

学習計画注記

※履修者数等によって計画が前後したり変更になったりしますが、最終的に学習目標が達成されるよう調整します。

学生へのフィードバック方法

課題等は発表時または返却時にコメントするなどしてフィードバックを行う。質問や相談等がある場合は、1635研究室（emailも可）まで訪問すること。

評価方法

自主実習に対する取り組み（自主実習点）に加えて、これら以外の課題への取り組み（課題点）について総合的に評価する。課題点には指定の提出物に加え、グループワークや発表など平常授業への取り組みの評価を含むものとする。評価のポイントに関しては、ルーブリックを提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題点	○	○	○	○
自主実習点	○	○	○	○
最終レポート	○	○	○	○

評価割合

課題等の平常点（40%）自主実習及び発表（30%）最終レポート（30%）の割合で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

保育所保育指針
幼稚園教育要領
認定こども園教育・保育要領
高等学校学習指導要領解説「家庭編」,文部科学省,平成30年７月

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「家庭科教育」（保育）分野について専門的知識を有している。
【関心・意欲・態度】社会の中にある（保育をめぐる）諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通してその解決策を立案できる。
【技能・表現】家政学を学修し、家庭科教育（保育）分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー

（後期）金曜４限 1635研究室

学生へのメッセージ

この授業では自主実習に向けての事前の準備学習や教材研究など取り組むべき課題が多くあります。それぞれの課題に主体的に取り組む意欲と覚悟を持って受講してください。同時に、子どもについて学ぶこと、子どもとのふれあい体験をぜひ楽しんでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング	○	自主実習、グループディスカッション等を通し、主体的・能動的に学びを深めていく。
情報リテラシー教育	○	報告会では、効果的なプレゼンテーション資料の作成等に取り組む。
ICT活用	○	内容に応じてPCを活用した双方向型授業を展開する。

講義コード	G03101501
講義名	被服学概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	富田 弘美	指定なし
准教授	花田 朋美	指定なし

ナンバリング

D11101M21

授業概要(教育目的)

被服に求められる機能は、社会・心理的快適性に関わる機能と、身体・生理的快適性に関わる機能とから成る。したがって、被服について学ぶには、被服材料学、被服管理学、被服衛生学、服飾デザイン、被服構成学、服装史等、多角的に学ぶことが必要となる。本講では、家庭、地域、社会、及び教育の現場で求められる知識や能力を身に付けることを目的として、被服領域全般における基礎的事項を概括的に学ぶ。さらに、現代そして今後の衣生活に求められている課題について考える力を育成する。

（花田朋美／７回）被服に要求される保健衛生的快適性に関わる機能について概説する。
（富田弘美／７回）被服に要求される審美的・社会的快適性に関わる機能について概説する。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	被服分野の基礎的な知識を多角的に身に付けることができる。
思考・判断の観点 (K)	被服分野の各領域を総括的に捉え、適切な手法で理解して考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	被服分野に内在する諸課題に積極的に関心を持ち、新たな価値を見出すことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

被服学概論

第1回	授業テーマ	被服学の領域、被服の着用目的と被服の機能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	被服着用の目的を、人間の進化の観点から概説する。被服と人の関わりについて考察し、現代における被服の機能や役割について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復習】授業を振り返り、自身がなぜ、どのように服を着用しているのか考える。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	授業テーマ	被服の生産と消費
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	被服の生産と消費について学び、被服に関する社会問題について考察する。ICT活用と情報リテラシー教育として、スマートフォンやパソコン等で被服に関わる社会問題について情報を収集し、分析・整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 被服がどのように生産され消費されているかについて調べる。 【復習】 被服に関する社会問題について、より深く調べておく。
	教室外学習の時間（分）	215分
第3回	授業テーマ	被服の消費性能と被服材料の性能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	被服の使用目的や用途に応じて求められている性能とはどのようなことか、求める性能を発現するために必要な被服材料はどのようなものかを学ぶ。アクティブラーニングとして、グループに分かれて、繊維の吸水性を確かめる実験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 指定した場面ではどのような衣服が適しているか検討する。 【復習】 吸水性実験の結果を一例として、被服に求められる消費性能とは何か整理する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	被服の材料
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	被服を構成する繊維・糸・布の物理的な構造や化学的な性質について学び、被服を構成する材料について理解する。アクティブラーニングとして、サンプル布を解して、布⇒糸⇒繊維の構造を観察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 天然繊維の種類と化学繊維の種類について調べる。 【復習】 各種繊維の特徴的な構造や性質を整理し、まとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分

第5回	授業テーマ	被服材料の性能改善
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	用途に合わせた性能を持つさまざまな機能性材料が開発されている。その製造方法や加工技術について学び、高機能性繊維の概要を理解する。ICT活用と情報リテラシー教育として、「高機能性繊維」「バイオミメティック繊維」について情報収集し、分析・整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 身近な機能性素材について調べる。 【復習】 より多くの活用されている「高機能性繊維」「バイオミメティック繊維」について調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	被服の性能保持と健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	被服を長期的に着用するための被服洗浄と保管について科学的に理解し、被服管理について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 自身（もしくは家族）が行っている洗濯方法について確認し、まとめておく。 【復習】 被服の洗浄の科学的な仕組みを振り返り、自身で着用した服を洗濯し、長く着用するための保管方法を検討する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	持続可能な衣生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	環境や社会的な問題に配慮した衣服とはどのようなことか検討し、持続可能な衣生活のために自身ができる取り組みについて考察する。ICT活用と情報リテラシー教育として、スマートフォンやパソコン等で衣服に関する環境・社会問題とそれらに対応する新たな取り組みについて情報を収集し、分析・整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 衣服に関する環境・社会問題について調べておく。 【復習】 持続可能な衣生活のために自身が取り組めることについて整理してまとめる。
	教室外学習の時間（分）	220分
第8回	授業テーマ	アパレルデザイン１－デザインの基礎－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「デザイン」という言葉の意味・概念を理解し、デザイン構成要素、衣服美の表現について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の分野、興味ある分野に落とし込んで「デザインとは何か」を考え、アパレルデザインについてノートを整理すること。
	教室外学習	

	の時間（分）	185分
第9回	**授業テーマ**	被服の変遷１－西洋の服装－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	古代ギリシャ・ローマ、中世、15世紀から20世紀の服装について社会背景とともに変遷を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	創立者大江スミが留学した頃の20世紀初頭のファッションや芸術についてノートを整理すること。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	被服の変遷２－日本の服装（1)－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	古代から中世の公家装束、武士の甲冑、近世の小袖（きもの）、近代の宮廷服、戦後日本のファッションについて社会背景とともに変遷を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本の服装についてノートを整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	被服の変遷３－日本の服装（2)－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	古代から中世の公家装束、武士の甲冑、近世の小袖（きもの）、近代の宮廷服、戦後日本のファッション、ジェンダーレスファッションについて社会背景とともに理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	戦後日本のファッションについてノートを整理し、特にジェンダーレスファッションについて考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	和服の文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の民族衣装である和服について、浴衣を中心に男女の違い、着付けに必要な道具、たたみ方など基本的なことを理解し、各地の伝統的な織物、染物の特徴を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	和服の特徴についてノートを整理すること。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	アパレル設計１－ 身頃原型と既製服のJISサイズ
	学習内容(ｱｸ	

第13回	ﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	既製服の誕生から量産の背景、アパレル産業の構造、既製服のJISサイズのシステムを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分のJISサイズを把握し、ノートを整理すること。
	教室外学習の時間(分)	190分
第14回	授業テーマ	アパレル設計２－ 衣生活と福祉（ユニバーサルファッション）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アパレルの仕事、アパレル産業の現状について理解し、高齢者・障害のある人に考慮したデザイン（運動機能、生理機能）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノート全体を整理しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	190分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業内でのグループワークでの体験学習時のアドバイス、及びディスカッション。

評価方法

①第１回～７回担当者による筆記試験
②第１回～７回の平常点
③第８回～１４回担当者による筆記試験
④第８回～１４回の平常点

上記の評価は、ルーブリックを用いて行う。（ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配付等によって指示する。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
第1回～第8回の筆記試験	○	○	○	
第1回～第8回の平常点			○	
第8回～第14回の筆記試験	○	○	○	
第8回～第14回の平常点			○	

評価割合

第１回～第７回と第８回～第１４回の担当者別の筆記試験（80%）および平常点（20%）による総合評価

使用教科書名(ISBN番号)

適宜プリントを配布

参考図書

第１回～第７回
①やさしい繊維の基礎知識（ISBN4-526-05289-2 繊維学会編 日刊工業株式会社発行 2004年） ②アパレル生理衛生論(日本衣料管理協会刊行委員会編 一社 日本衣料管理協会発行 平成28年）
③衣服管理の科学（ISBN978-4-7679-1048-2 片山倫子編 建帛社発行 2016年第11刷)
④衣生活のための消費科学(日本衣料管理協会刊行委員会編 一社 日本衣料管理協会発行 平成30年）
第８回～第14回
①アパレルデザインの基礎（日本衣料管理協会刊行委員会編 一社 日本衣料管理協会発行 平成16年）
②アパレル設計実習・アパレル生産実習（日本衣料管理協会刊行委員会編 一社 日本衣料管理協会発行 2019年）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・技能】被服分野に関する課題に対して生活科学を基点とした知識を身に付けている。
【思考・判断】被服分野の諸問題を自分ごととしてとらえ、適切な分析、整理して考察することができる。
【関心・意欲・態度】身の回りの被服分野の課題に自らの意思で取り組み、課題解決に向けてやり抜くことができる（達成力）。

オフィスアワー

木曜日12時40分から14時20分 ２４０７被服材料学研究室（花田）
金曜日12時30分から14時50分 １４０５被服構成学研究室（富田）

学生へのメッセージ

被服を最も身近な環境と捉え、快適な衣服とは何か考えてほしいと思います。（花田）
被服材料、被服衛生、被服管理、被服造形、服飾デザイン、服飾美学、服飾史などを多角的に概説します。被服の領域全般を広く学ぶことによって基礎的な衣生活に関する力が身に付きます。また、興味のある分野との繋がりを考えて学際的に広い視野を持って学んでいただきたいと思います。(富田）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによるディスカッション。
情報リテラシー教育	○	情報を収集し、分析、整理して、まとめる。
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション。

講義コード	G03101601
講義名	和服構成学実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	富田 弘美	指定なし

ナンバリング

D32203M23

授業概要(教育目的)

日本の民族衣装である和服（浴衣）製作を課題として、各自の身体を計測し、基本的な手縫いの技法、和服の特徴と構造、縫製技術、着付けの仕方などを学ぶ。さらに和服の歴史、織物、色彩、文様などから和服の文化を理解し、自分で着装できること、英語で着付けの方法や和服の文化を説明できること、各自の浴衣の残り布で帯飾りを製作してSDGsを考えることなどを目的とする。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	和服に関する諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	和服に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	和服に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

和服構成学実習

	授業テーマ	和服の種類と構成、縫製道具、浴衣地、採寸 見積り、柄合わせ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗ	

第1回	ｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	和服の基礎、材料（浴衣地、糸）、道具、採寸（寸法計算）、見積り、柄合わせのやり方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	採寸のため着脱可能なものを着用すること。２回目の授業までに浴衣地・糸を用意すること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	柄合わせ、裁断、運針１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運針練習（3分）、身頃と袖の柄合わせ、裁断方法、運針のやり方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で習った柄合わせを各自が行い、すべて裁断を終わらせておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	袖づくり１、 運針２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運針の練習（3分）、袖の印付けの後に片方の袖の袖下を縫い、丸みの始末を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	丸みの始末までを進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	授業テーマ	袖づくり２、 運針３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運針の練習（3分）、袖口の三つ折りぐけを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期日までに両方の袖を仕上げて提出すること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	後身頃背中心の縫製、肩当て付け、 運針４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運針の練習は背縫いに代える。前と後ろ身頃の印付けを行い、背縫い、肩当て付けについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回までに肩当て付けまで終わらせること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	授業テーマ	脇縫い、脇の耳ぐけ、袖付けの縫い代出し、衽の印付け、運針５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運針練習（3分）、脇縫いと縫い代始末、袖付けの準備、衽の印付けを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期日までに脇の縫い代始末まで終わらせること。

	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	**授業テーマ**	前身頃と衽付け、衽耳ぐけ、衿下ぐけ、運針６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運針練習（3分）、前身頃に衽を付けて縫い代を始末する、衿下ぐけのやり方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期日までに両方の衽付け衿下ぐげを終わらせておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	**授業テーマ**	裾上げ、裾の角の始末（部分縫い１）、衿の印付け、帯飾りの製作１，運針７
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の浴衣の残り布を有効に使用して帯飾りを製作し、材料を捨てることなくアップサイクルすることを学ぶ。運針練習（3分）、裾上げの三つ折りぐけ、裾の角の始末（部分縫い１）、衿の印付けを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期日までに裾上げと裾の角（実物）を終わらせること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	**授業テーマ**	帯飾りの製作２、掛衿作りと本衿への縫い付け、運針８
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の浴衣の残り布を有効に使用して帯飾りを製作し、材料を捨てることなくアップサイクルすることを学ぶ。また、掛け衿と身頃の柄合わせをして掛衿のつくり方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	残り布を持参すること。掛衿を本衿に付けておくこと。
	教室外学習の時間（分）	30分
第10回	**授業テーマ**	衿付け１、衿先の止め（部分縫い２）、運針９
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運針練習（3分）、衿付け（ピン打ちとミシン）、衿先の止め（部分縫い２）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	衿を身頃に縫い付けておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	三つ衿芯、衿先の止め（実物）、運針10
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運針練習（3分）、衿付け、三つ衿芯の入れ方、本ぐけのやり方、前回の部分縫い２を参考にして実物の衿先の止めを仕上げについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期日までに衿の本ぐけまでを終わらせておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	衿の本ぐけ、袖つけ、着付けの準備、運針11
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	衿の本ぐけ、袖付け、袖の縫い代始末のやり方、着付けの下着と

第12回	教育・ICT活用を含む)	道具などについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回までに衿、袖、裾上げなどを終わらせておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	英語と日本語による和服の文化、着付け方法、閂止め、浴衣の仕上げ 運針12
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運針練習（3分）、閂止めのやり方、仕上げ、浴衣の着付けと帯結びの手順、およびアイロン仕上げ、たたみ方、例文を参考にして英語で和服の文化を紹介することなどを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分で着付けられるように練習し、着付けの道具を持参する。また、次回のパワーポイントによる発表の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	着付け、色彩・柄について発表、 課題提出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分で浴衣を着付けて帯を結ぶことができる。また、自分の浴衣の色彩や柄の意味、製作ポイントなどをわかりやすく説明することを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分で着付けられるように練習する。パワーポイントによる発表の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	90分

学習計画注記

浴衣の縫製は、主にミシンを使用するが手縫い部分もある。

学生へのフィードバック方法

課題、部分縫い、着装（着付け）・課題の発表などのコメント

評価方法

ルーブリックを用いた評価（クラスルームまたは授業内での配付等によって指示する。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
作品	○	○	○	○
部分縫い	○			○
和装小物			○	○
発表・小テスト	○	○	○	○

評価割合

平常点10%（授業への参加・状況、提出期日などで総合的に判断する）、部分縫い（運針）10%、浴衣30%、帯飾り10%、着装・課題発表40%

使用教科書名(ISBN番号)

プリント配付

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】衣分野の諸課題についての知識を深める。【思考・判断】衣分野の諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】衣分野の諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。【技術・表現】他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

オフィスアワー

金曜日12:30～14:50

学生へのメッセージ

基本的に授業で説明した内容まで進めてください。
浴衣の知識、技術、着付けなどを身に付けて自分らしい着こなしを楽しみましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03101901
講義名	食科学概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	黒田 久夫	指定なし

ナンバリング

D11104M21

授業概要(教育目的)

【授業の目的】
・食科学を学ぶことにより、食生活と健康にかかわる情報を正確に理解する力を身につけます。
・食科学を学ぶことにより、食生活と健康にかかわる情報の真偽を多面的に考える力を養います。
・食生活と健康にかかわる社会問題を科学の視点で分析し、課題と解決策を考える力を養います。
【授業の形式】
・本授業は、講義です。
・履修が確定したら、座席は固定します。
・授業中に理解度テストを行い、講義の理解度を評価します。
・授業の初めに復習テストを行います。

履修条件

1. PCを毎回持ってきてください。用意が出来ていない場合は、成績にペナルティを加えます。
2. 履修が確定したら、座席は指定します。基本的に、個人で授業を受けます。
3. 授業中に理解度テストを行い、授業の理解度を評価します。
4. 第2回から第13回では、授業初めに復習テストを行います。授業への参加度の評価に加算します。
5. 第14回に期末試験（50分）を行います。定期試験期間中のテストはありません。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	・食科学の基礎が理解できている。
思考・判断の観点	・食と栄養の問題を、印象や主観ではなく、客観的で合理的な考えに基

(K)	づいて判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・食科学を基礎から理解しようとするモチベーションがある。
技術・表現の観点 (A)	・食生活と健康にかかわる社会問題を自分の言葉で説明できる。 ・食生活と健康にかかわる社会問題を文章で表現することが出来る。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス・日本食品標準成分表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・本授業の学習目標・評価方法・予定を確認する。 ・科学とは何かについて、考える。 ・食と栄養を考える上で、科学が不可欠であることを確認する。 ・日本食品標準成分表の概要と、収載食品について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	栄養素と食品成分の基礎知識
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・健康増進法に規定されている栄養素を確認する。 ・日本人の食事摂取基準の概要を理解する。 ・食品成分データベースの基本的な利用方法を習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	たんぱく質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・タンパク質の基本的な構造を理解する。 ・食品と人体に存在するタンパク質の種類を理解する。 ・酵素について理解する。 ・栄養素としてのたんぱく質について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	炭水化物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・炭水化物の種類と構造について理解する。 ・食品に含まれている炭水化物について理解する。 ・栄養素としての炭水化物を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	脂質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・脂質の種類と構造について理解する。 ・食品に含まれている脂質について理解する。 ・栄養素としての脂質を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	ミネラル・ビタミン・健康機能に寄与する成分
		・ミネラル・ビタミン・健康機能に寄与する成分の種

第6回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	類と構造について理解する。 ・食品に含まれているミネラル・ビタミン・健康機能に寄与する成分について理解する。 ・栄養素としてのミネラル・ビタミンを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	栄養の設計（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・食品成分データベースを利用して、食事の栄養成分を分析します。 ・食事摂取基準に関する知識をもう一度復習します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	栄養の設計（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・エクセルを利用した食事の食品成分の解析を紹介します。 ・栄養と嗜好性のバランスについて考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	食品のリスク
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・食品に含まれる有害成分・有害生物の種類を学びます。 ・食品のリスクを低減する方法を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	食と健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・生活習慣病と食の関係を学びます。 ・近年問題となっている健康上の問題や、食と生活スタイルに関する知見を学び、解決方法を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	加工食品
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・加工食品の製造方法・品質管理について学びます。 ・近年健康上の問題が指摘されている超加工食品や食品添加物の問題点について考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	食科学に関する最近の話題（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・近年、報告された食品中のリスク成分や食品について解説します。 ・食生活と健康にかかわる社会問題を科学の視点で分析し、課題と解決策を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分

第13回	授業テーマ	食科学に関する最近の話題（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・近年、報告された食に関係する社会問題について、科学的に分析します。 ・食生活と健康にかかわる社会問題を科学の視点で分析し、課題と解決策を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	期末試験／授業のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・期末試験を実施します ・授業のまとめを行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業のまとめを投稿してください。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

1. PCを毎回持ってきてください。用意が出来ていない場合は、成績にペナルティを加えます。
2. 履修が確定したら、座席は指定します。基本的に、個人で授業を受けます。
3. 授業中に理解度テストを行い、授業の理解度を評価します。
4. 第2回から第13回では、授業初めに小テストを行います。小テストは、復習テストから出題します。授業への参加度の評価に加算します。

学生へのフィードバック方法

・質問がある場合は、クラスルームの教室外学習の質問に表示される「限定公開のコメント」が利用できます。質問があった場合は、個別に回答します。

評価方法

①授業の理解度
・授業初めの復習テストを用いて評価します。
・授業内での理解度テストを用いて評価します。
・教室外学習の取り組みを評価します。
②期末試験
・授業の理解度をペーパーテストで評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
①授業の理解度	○	○	○	○
②期末試験	○	○		○

評価割合

①授業の理解度（70%）
②期末試験（30%）

使用教科書名(ISBN番号)

ニュートン別冊 科学的に正しい栄養の教科書 改訂第２版
https://www.newtonpress.co.jp/separate/back_medical-pharmacy/mook_250821_3.html
ISBN978-4-315-52947-0

参考図書

日本人の食事摂取基準（2025年版）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/eiyou/syokuji_kijyun.html

日本食品標準成分表（八訂）増補2023年
https://www.mext.go.jp/a_menu/syokuhinseibun/mext_00001.html

食品成分データベース
https://fooddb.mext.go.jp/

その他に、各種ニュースソースや、データベースの記事等を利用します。URL等は、クラスルームに掲示します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】生活にかかわる知識を多面的に身に付けている。
【思考・判断】地域・社会に関する諸課題を自分ごととしてとらえ、適切な手法で分析することができる。
【関心・意欲・態度】他者の視点やニーズを理解し、社会に新たな価値を見出すことができる。
【技術・表現】人々が快適に生活できる持続可能な生活様式を提案することができる。

オフィスアワー

授業後

学生へのメッセージ

・食と栄養の社会的問題を考える上で、科学の側面を無視することはできないと思いますし、科学を理解していないデメリットやリスクはとても大きいと思います。
・栄養士を目指す食科学コースに配属された皆さんは、食品学や栄養学など、食と栄養の科学の習得はマストであり、仕事をする上でとても大切になります。
・本授業は、食科学コース以外の方も授業を理解できるように、講義を工夫していきます。必要な知識は、復習テストで確認できるようにしていますので、充分学習してください。食品成分と栄養の知識は、保育士を目指す皆さんにも必要ですし、健康な生活を生涯に渡って過ごす上でとても大切だと思います。
・習得した知識をどのように生活や仕事に活かしていくかを考えていくことが大事です。教室外学習では、それぞれの授業テーマに関連する社会的な問題に関する問題を出題しますので、関心をもって調べ、自分の意見を述べることができるように学んでいってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	食品企業でのキャリアから学んだ様々なことをお伝えしたいと考えています。
アクティブ・ラーニング	○	自主的に取り組めるコンテンツを多く用意しています。
情報リテラシー教育	○	各種データベースの利用方法を説明します。
ICT活用	○	・授業は、PCを利用します。 ・アプリ（エクセル）のスキルを説明します。

講義コード	G03103001
講義名	住居学概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	小川 圭子	指定なし

ナンバリング

D11102M21

授業概要(教育目的)

住居は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活を営むための最も基本的な場である。現代においても住居に関する様々な課題が存在している。この授業は、住居全般についての基礎的知識を習得することを目的に、個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度から検討を行う講義科目である。人間にとって住まいとは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について検討するための基礎的知識を講義する。

履修条件

特になし(建築士試験指定科目)

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	住居を中心とした住環境についての基礎的知識、住生活に関する諸問題を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	人間にとって住環境とは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度からみた課題について検討を行うことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス・住居の機能・寸法と空間
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	住環境とは、住居の備えるべき機能、住宅内での生活行為とスケールの関係、住空間の配置とゾーニング、動線につ

第1回	を含む)	いて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自宅を事例として、スケール、ゾーニング、動線について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第2回	授業テーマ	日本の住環境の歴史①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の住まい、住まい方の変遷について、古代～江戸時代までについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）住まい、住まい方の変化と時代背景について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第3回	授業テーマ	日本の住環境の歴史② 生活様式と住居
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の住まい、住まい方の変遷について、明治時代～昭和時代までについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）住まい、住まい方の変化と時代背景について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第4回	授業テーマ	現代の家族と住まい
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	少子化・高齢化など現代日本における家族の状況と、それに合わせて必要になる住まいについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分自身のライフサイクル、ライフコースと住居との関係について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第5回	授業テーマ	住宅政策
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第二次世界大戦後の日本の住宅政策の展開について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）誘導居住面積水準、最低居住面積水準で示される面積について、自宅や住宅広告などを例に具体的な広さを体感する。
	教室外学習の時間（分）	200
第6回	授業テーマ	住まいと環境
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	快適な住まいを実現するための温熱、光、音、空気、水などの住環境の調整方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自宅での水道使用量について調べ、平均と比較しながら水の節約について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第7回	授業テーマ	安心・安全な住まい
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事故・災害、犯罪、健康被害などの建物の安全を脅かす事象とその防止法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自宅を事例に、災害への備えについて点検する。
	教室外学習の時間（分）	200
	授業テーマ	高齢化社会と住まい・介護保険
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	

第8回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢社会における住居について、ユニバーサルデザイン、バリアフリーの観点から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自宅を事例に、バリアフリー化の状況について点検する。
	教室外学習の時間（分）	200
第9回	授業テーマ	集まって住む・共用部と専有部
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集合住宅に住む意義、集合住宅と街との関係性、集合住宅の供給形式について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分の住む町の大規模集合住宅と周辺との関係性について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第10回	授業テーマ	空き家問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の人口構造の変化に伴う空き家問題について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分の住む地域の空き家の状況について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第11回	授業テーマ	住居の設計・用途地域・建ぺい率・容積率
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図面の概念、住居の設計プロセス、建ぺい率、容積率について学ぶ。建築図面の種類について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）建築物の形がどのような理由でその形になっているのかを考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第12回	授業テーマ	平面図等の見方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平面図を読み取るために必要な基本的な表示記号や関連する事項を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	(復習)図面の線が何を表しているのかを身の回りの実物を見ながら確認する。
	教室外学習の時間（分）	200
第13回	授業テーマ	新築と増改築、建築主･施工者･設計者の関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築の種類や建築主・施工者・設計者の関係を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）建築に関する言葉の意味や建築主・施工者・設計者の関係を再確認する。
	教室外学習の時間（分）	200
第14回	授業テーマ	住環境と景観
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住環境と景観についての考え方や様々な制度を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）良好な景観を維持・創出するには、自身がどのような取り組みを行えば良いかを考える。
	教室外学習の時間（分）	200

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

小課題については、授業時間内に全体講評をおこなう。

評価方法

小課題は、授業時間内に実習課題として実施するものと、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述するもの、合わせて10回程度の実施を予定している。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。
定期試験は、授業で配付したプリントのみ持ち込み可能とし、択一問題、穴埋め問題、語句の説明問題、考えを問う問題を出題する。
なお、評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小課題	○	○	○	
定期試験	○	○	○	

評価割合

小課題40%、定期試験60%により総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

参考書1：生活と住居 定行まり子・沖田富美子編著 光生館 2013
参考書2：豊かな住生活を考える―住居学 小澤紀美子編 彰国社 2002

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】住環境について、知識を多面的に身に付けている。
【思考・判断】住環境について、諸課題を自分ごととしてとらえ、適切な手順で分析することができる。
【関心・意欲・態度】住環境について、他者の視点やニーズを理解し、社会に新たな価値を見出すことができる。

オフィスアワー

水曜昼休み～３時限 3512研究室

学生へのメッセージ

家政学の他分野等との関連・連携を念頭に置き、広い視野に立ち問題を考えるよう心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomを利用し、課題提出などを求める。

講義コード	G03103101
講義名	建築史Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大橋 竜太	指定なし

ナンバリング

D13202M21

授業概要(教育目的)

日本建築史の通史を学ぶ。主としてパワーポイントを用いながら、おのおのの時代の建築を、タイプごとに、それらを代表する具体的な実例をいくつか取り上げながら、それぞれの建築の特徴を解説していく。また、意匠や技術的側面ばかりでなく、それぞれの建築のもつ社会的意義についても考察し、わが国の伝統文化を理解する。

履修条件

特に定めない

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日本建築の構造、意匠的特徴を理解する
思考・判断の観点 (K)	既存の建築から建築の建てられた時代背景を考える力を習得する
関心・意欲・態度の観点 (V)	既存の歴史的建築物の存在意義について考える力を身に付ける
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	イントロダクション 日本建築の構造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築史とは何か、建築史を学ぶ目的とは 木造軸組構造の基礎、部材の名称
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で説明した用語を復習すること

	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	先史時代の建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	竪穴住居、高床住居
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部I「竪穴式住居と高床式建物」（pp.10-11）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	神社建築の成立
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住吉造、大社造、神明造
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部II「古代の神社建築」（pp.12-13）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	仏教建築の伝来
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	飛鳥時代の仏教寺院の伽藍、法隆寺、奈良時代の寺院建築、組物の発達
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部III「仏教建築の伝来」（pp.14-15）を読んでおくこと。また、授業で配布するプリント（組物について）の組物名称を覚えること
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	古代の都市計画と寝殿造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	条坊制、モヤ・ヒサシ構造、寝殿造
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部IV「古代の都市計画と住宅」（pp.16-17）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	平安時代の仏教建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	密教建築、浄土教の建築
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部V「浄土教の建築」（pp.18-19）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	中世の神社建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	春日造、流造、拝殿や境内の整備
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部VII「中世の神社建築」（pp.24-25）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分

第8回	授業テーマ	中世の仏教建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	南都焼討と奈良の再建、大仏様、禅宗様、和様、折衷様、構造技術の発達
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部VI「中世の仏教建築」（pp.20-23）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	書院造へ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	寝殿造の簡略化、楼閣建築、座敷飾り、書院造
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部VIII「中世の住宅から書院造へ」（pp.26-27）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	近世社寺建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	権現造り、東照宮、東大寺大仏殿、善行寺、浅草寺、木割、大工集団
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部XI「近世の社寺建築」（pp.32-35）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	近世の都市と建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	城郭建築、茶室・数寄屋、近世社寺、新しい建築タイプの誕生
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部IX「城郭建築」（pp.28-29）X「茶室と数寄屋」（pp.30-31）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	民家建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	民家の種類、町屋、土蔵造
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部XII「民家」（pp.36-39）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	西洋建築の移入
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	擬洋風建築、日本人建築家の誕生
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第２部I「西洋文化の移入」（pp.42-43）II「日本人建築家の誕生」（pp.44-46）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	近現代建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第14回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	わが国の近代建築運動、耐震建築の発達、メタボリズム
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第２部V「モダニズム建築の到来」（pp.50-53）VIII「日本建築界からの発信」（pp.59-61）IX「モダニズムの先を求めて」（pp.62-63）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分

学生へのフィードバック方法

レスポンスシートをチェックし、理解が十分でない場合には、コメントをつけて返却する

評価方法

・Googleクラスルームに提示するルーブリックに基づき成績評価を行う
・レスポンスシート14回（55%）とレポート３題（45%）で評価する
・レスポンスシート：講義映像を視聴後、授業の概要をまとめるとともに、簡単な課題に取り組み、提出する。これにより、授業内容の把握状況を判断する
・レポート：具体的な建築を選んで、テーマに沿ってレポートを作成する。文献史料からどれだけ正しい情報を集められているか、また、個々の建築（実例）について、正確に理解できているか、を中心に評価する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レスポンスシート	○	○		
レポート	○	○	○	

評価割合

授業態度（レスポンスシートで判断）55%およびレポート45%で評価する

使用教科書名(ISBN番号)

「建築史」編纂委員会編著、『コンパクト版 建築史【日本・西洋】』、彰国社（ISBN：978-4-395-00876-6）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】住居を含む建築の歴史にかかわる知識を多面的に身に付けている。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し考察することができる
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる

学生へのメッセージ

建築を学ぶためには、建築を実際に見て、空間を体験することがもっともよい方法です。授業で知った建築を、チャンスがあったら見に行く
とよいでしょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03103201
講義名	建築史Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大橋 竜太	指定なし

ナンバリング

D23203M21

授業概要(教育目的)

西洋建築史の通史を学ぶ。主としてパワーポイントを用いながら、おのおのの時代の建築を、タイプごとに、それらを代表する具体的な実例をいくつか取り上げながら、それぞれの建築の特徴を解説していく。また、意匠や技術的側面ばかりでなく、それぞれの建築のもつ社会的意義についても学び、建築やそこで行われる生活を通して、各国の伝統文化の理解を深める。

履修条件

特に定めない

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	西洋建築の構造、意匠的特徴を理解する
思考・判断の観点 (K)	既存の建築から建築の建てられた時代背景を考える力を習得する
関心・意欲・態度の観点 (V)	既存の歴史的建築物の存在意義について考える力を身に付ける
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	イントロダクション 先史時代の建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ラスコー洞窟、ストンヘンジ、ルドルフスキー『建築家なしの建築』

	教室外学習(予習・復習)の内容	図書館で西洋建築史の通史数冊の目次をみて、この授業で何を学ぶかを把握すること
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	古代エジプトとオリエントの建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	マスタバ、ピラミッド、スフィンクス、オベリスク、エジプト神殿、ジッグラト、宮殿建築、アーチ構造
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第３部I「エジプト建築」（pp.66-67）II「オリエント建築」（pp.68-69）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	ギリシア建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クレタ島とミュケナイの建築、ギリシア神殿、アクロポリスとアゴラ、オーダーの誕生（ドリス式、イオニア式、コリント式）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第３部III「ギリシア建築」（pp.70-75）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	ローマ建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	５つのオーダーの完成、ローマの神殿、フォルム、公共建築、世俗建築、アトリウム型住宅
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第３部IV「ローマ建築」（pp.76-79）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	初期キリスト教建築 ビザンティン建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	旧サン・ピエトロ大聖堂、集中式教会堂と長堂式教会堂、ドームの発達（スキンチ、トロンプ、ペンデンティヴ）、ハギア・ソフィア大聖堂
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第３部V「初期キリスト教建築」（pp.80-81）VI「ビザンティン建築」（pp.82-83）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	ロマネスク建築
	学習内容(ｱｸﾃ	

第6回	**ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	修道院の建築、巡礼路教会、各国のロマネスク教会堂
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第３部VIII「ロマネスク建築」（pp.86-89）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	ゴシック建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゴシック建築の特徴、構造の発達、各国のゴシック建築
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第３部IX「ゴシック建築」（pp.90-94）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	中世の都市と世俗建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中世都市の特徴、城郭建築、町屋、民家（ハーフ・ティンバー等）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第３部X「中世の世俗建築」（pp.94-95）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	ルネサンス建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ルネサンス建築の特徴（古典様式の復興、教会堂建築の課題）、パラッツォとヴィッラ、フィレンツェの建築、ローマの建築、マニエリスム建築、ルネサンス建築の派生、パラーディオの建築
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第３部XI「ルネサンス建築」（pp.96-100）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	バロック建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サン・ピエトロ大聖堂の建替、ベルニーニとボロッミーニ、バロック建築の特徴、絶対王政と王宮建築
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第３部XII「バロック建築」（pp.101-107）を読んでおくこと
	教室外学習の	200分

	時間（分）	
第11回	**授業テーマ**	リヴァイヴァル建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築界と近代、啓蒙主義と建築、リヴァイヴァル建築、新古典主義とゴシック・リヴァイヴァル
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第３部XIII「リヴァイヴァル建築」（pp.108-111）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	新材料を用いた建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉄・ガラス・コンクリートの建築、土木構築物、アイアン・ブリッジ、温室、クリスタル・パレス
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第４部I「新材料を用いた構築物」（pp.114-115）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	近代の都市・住宅問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	産業革命の弊害としての都市問題、慈善家による住宅建設、モデル住宅、企業都市、ユートピア思想、郊外住宅地、田園都市論、ニュータウン
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第４部II「都市問題・住宅問題」（pp.116-118）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	近代建築運動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アーツ・アンド・クラフツ運動、アール・ヌーヴォ、アール・デコ、セセッション、シカゴ派、ドイツ工作連盟、ドイツ表現主義、イタリア未来派、ロシア構成主義、ディ・スティール、バウハウス
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第４部III「アーツ・アンド・クラフツ運動」、IV「アール・ヌーヴォ」、V「アメリカ建築の近代化」、VI「セセッション「」（pp.1118-127）ならびにVIII「ドイツ工作連盟」、IX「近代建築運動」（pp.130-133）、XI「アール・デコとスカイスクレイパー」（p.141）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分

学生へのフィードバック方法

レスポンスシートをチェックし、理解が十分でない場合には、コメントをつけて返却する

評価方法

・Googleクラスルームに提示するルーブリックに基づき成績評価を行う
・レスポンスシート14回（55%）とレポート３題（45%）で評価する
・レスポンスシート：講義映像を視聴後、授業の概要をまとめるとともに、簡単な課題に取り組み、提出する。これにより、授業内容の把握状況を判断する
・レポート：具体的な建築を選んで、テーマに沿ってレポートを作成する。文献史料からどれだけ正しい情報を集められているか、また、個々の建築（実例）について、正確に理解できているか、を中心に評価する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レスポンスシート	○	○		
レポート	○	○	○	

評価割合

授業態度（レスポンスシートで判断）55%およびレポート45%で評価する

使用教科書名(ISBN番号)

「建築史」編纂委員会編著、『コンパクト版 建築史【日本・西洋】』、彰国社（ISBN：978-4-395-00876-6）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」の分野について、専門的知識を有している。グローバルな視点から専門分野の知識を深めて理解する
【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し考察することができる
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる

学生へのメッセージ

建築を学ぶためには、建築を実際に見て、空間を体験することがもっともよい方法です。授業で知った建築を、チャンスがあったら見にいくとよいでしょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03103301
講義名	住生活論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小池 孝子	指定なし

ナンバリング

D13201M21

授業概要(教育目的)

人口減少に伴う空き家の増加、高齢化問題、都市部への人口集中など、私たちの暮らしをとりまく住環境は変化を続けている。また、地球環境や資源の有効活用の視点からは、住まいのストック活用が急務とされ、維持管理やリフォームに関する知見が求められている。良好な住宅ストックの形成と都市居住・地域活性化への対応など、住み手が住まいを適切に管理しながら豊かな生活環境・地域環境を維持していくための方策について検討する。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	住環境を管理する方法について、基本的な知識を身につける。
思考・判断の観点 (K)	住環境を管理する専門家として広い視野から考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	住環境の管理に関する身近な課題について検討を行うことができる。
技術・表現の観点 (A)	住環境の管理に関する諸問題について解決案の提案ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス・ 住環境マネジメントとは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住環境マネジメントの意義、私たちの暮らしとの関わりについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分自身の生活がどのように住環境マネジメ

		ントに関わっているのかについて考える
	教室外学習の時間（分）	70分
第2回	**授業テーマ**	住まいのメンテナンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住まいのメンテナンスにはどのようなものがあるのか、具体的に学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自宅のメンテナンスの状況について確認し、改善点がないか考える
	教室外学習の時間（分）	140分
第3回	**授業テーマ**	住まいの老朽化対策とリフォーム
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住まいの老朽化とはどのようなことかについて学び、リフォームを行う意義と課題について考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）リフォームを実施する際の課題について考える
	教室外学習の時間（分）	140分
第4回	**授業テーマ**	住まいの管理と中古住宅市場
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の中古住宅市場の特徴について、住まいの管理という視点から学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）インスペクションの持つ意義と、国内への普及に関わる課題について考える
	教室外学習の時間（分）	140分
第5回	**授業テーマ**	賃貸集合住宅の管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	賃貸集合住宅の管理について、居住者としての役割について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）賃貸住宅に住む際の注意点について考える
	教室外学習の時間（分）	140分
第6回	**授業テーマ**	分譲集合住宅の管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	分譲集合住宅（分譲マンション）の管理について、所有者としての役割について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）分譲集合住宅管理の現代的課題について考える
	教室外学習の時間（分）	140分
第7回	**授業テーマ**	居住地の管理１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	快適な住環境を実現する居住地の条件について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）居住地の持つ課題について考える （中間レポート1/3）タウンウォッチングを通して、自分の住む地域の課題について考える
	教室外学習の時間（分）	140分+レポート180分
第8回	**授業テーマ**	居住地の管理２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	快適な住環境を維持していくために必要なことは何かについて考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）居住地管理の持つ課題について考える （中間レポート2/3）タウンウォッチングを通して、自分の住む地域の課題について考える
	教室外学習の時間（分）	140分+レポート180分
	授業テーマ	空き家問題１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	空き家が地域に与える影響について学び、空き家が生じる原因について社会的背景から考える

第9回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	（復習）自分の住む地域の空き家の状況について調べる （中間レポート3/3）タウンウォッチングを通して、自分の住む地域の課題について考える
	教室外学習の時間（分）	140分+レポート180分
第10回	**授業テーマ**	空き家問題２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	空き家の活用事例から、地域に合った空き家の解消方法について考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分の住む地域の空き家問題の解決策について考える
	教室外学習の時間（分）	140分
第11回	**授業テーマ**	住居費の管理１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住居にかかる費用にはどのようなものがあるのか学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）住居にかかる費用について、具体的事例から考える
	教室外学習の時間（分）	140分
第12回	**授業テーマ**	住居費の管理２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住居の確保にかかる費用について学び、居住支援について考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分の住む地域の居住支援について調べる
	教室外学習の時間（分）	140分
第13回	**授業テーマ**	ライフスタイルとモノの管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ライフスタイルの変遷に伴って増え続けるモノとの付き合い方について考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）モノの管理と収納計画との関係について考える （レポート1/2）自宅の死蔵品について調べる
	教室外学習の時間（分）	140分+レポート180分
第14回	**授業テーマ**	暮らしとモノの安全管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	モノの管理が住宅内での安全な生活にどう関わるのか考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）高齢者とモノの管理、住宅の安全性について考える （レポート2/2）自宅の死蔵品について調べる
	教室外学習の時間（分）	140分+レポート180分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

小課題については、授業時間内に全体講評をおこなう。
レポートは、採点後にコメントを付して返却する。

評価方法

小課題は、毎回の授業で実施する。授業時間内に実習課題として実施するものと、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述するものがある。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。
レポートは、授業で得られた知識をもとに情報収集をおこない、発見した課題について自分の意見をまとめて記述する。課題の発見・整理は十分か、課題解決案は適切か、結論に至る筋道に論理性があるかについて評価する。

なお、評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小課題	○	○	○	
レポート	○	○	○	○

評価割合

小課題：70%、レポート：30%により総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない

参考図書

図解住居学６ 住まいの管理、図解住居学編集委員会／編、彰国社、2003年 ISBN：4-395-28036-6

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】住環境管理にかかわる知識を多面的に身に付けている
【思考・判断】住環境管理に関する地域・社会の諸課題を自分ごととしてとらえ、適切な手法で分析することができる
【関心・意欲・態度】住環境に関する他者の関わりや視点・ニーズを理解し、自分の果たすべき役割を見出すことができる
【技能・表現】人々が快適に生活できる持続可能な住環境を企画・提案することができる

オフィスアワー

金曜２時限 3508研究室

学生へのメッセージ

他分野との関連・連携を念頭に置き、広い視野に立ち問題を考えるよう心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03103401
講義名	住居設備
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	柿本 美樹枝	指定なし

ナンバリング

D23210M21

授業概要(教育目的)

私たちが生活する住まいは様々な設備システムを維持管理することによって成り立っています。その設備システムには、快適性、利便性、機能性、安全性、信頼性、経済性、省エネ・省資源、環境保全性、保守管理性が求められています。
本授業では2つの視点で学びます。一つは自律した生活者として住まい設備の仕組みを知り、省エネや環境課題に対応できる賢い生活者になるという視点です。もう一つは、設計者として、知識を深めると同時に環境課題を解決するものづくりを目指すという未来を担う視点です。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	［建築士指定科目］住まいの給排水衛生設備システムについて、その名称、働きを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	住居設備の果たす役割を、考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会における住居設備に関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	専門用語を用いて、住居設備への自分の意見を述べることができる。

学習計画

住居設備

		ガイダンス

第1回	授業テーマ	住居設備の位置付け
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住まいを取り巻く環境要素には、空気、水、光、熱、音がある。 本授業では、その中でも水環境（給排水設備）を中心に、 暮らしに必要な設備全般の仕組みを学ぶ。 建築設備の位置付けや種類について理解する。都市インフラと生活基盤。 戸建住宅の建築設備／住宅で使用されるエネルギーの種類／建築士の仕事（設備の図面）
	教室外学習(予習・復習)の内容	建築設備の位置付けや種類について復習する
	教室外学習の時間（分）	150
第2回	授業テーマ	住居設備の概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	設備システムから見た戸建住宅と集合住宅の違いについて理解する。 「水・お湯」「空気・熱」「給排水・衛生」「空調」のしくみ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p7.8の概念図を比較してみる。 水、湯、熱の供給廃棄のしくみについて復習する 課題1_生活の中の「住居設備」を調べる。
	教室外学習の時間（分）	250
第3回	授業テーマ	建築と水環境（１） 水環境
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水と環境問題。日本と海外の事例。 生活者の視点から「ウォーターフットプリント」をはじめ、 温暖化に密接に関わる水事情を知る。 都市設備と建築設備／自然環境／再利用水などの水環境について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分自身の「ウォーターフットプリント」を考える
	教室外学習の時間（分）	150
第4回	授業テーマ	建築と水環境（２） 水の使途
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水の機能と用途について理解する。 暮らしの中の水、生命維持のための水、生活用水と使用水量 給排水衛生設備／上水 雑用水
	教室外学習(予習・復習)の内容	水の機能と用途について復習する。
	教室外学習の時間（分）	150
第5回	授業テーマ	水に関する基礎知識(1) 水質、給水圧力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水質、給水圧力について理解する。 飲料水から温泉水、水の再利用(中水)に至るまで。 水の圧力 ベルヌーイの式 浄水器 残留塩素 人の暮らしと産業と水質汚染
	教室外学習(予習・復習)の内容	水質と暮らしの関係を理解する
	教室外学習の時間（分）	150
第6回	授業テーマ	給水設備（１） 給水の汚染防止
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ ICT)	給排水設備とは概念を知る。 給水の汚染防止について理解する。

	ｼｰ教育・　活用を含む	給水量、衛生器具、配管の種類、器具の汚染防止
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題2_教科書第2章の例題を解いてみる。
	教室外学習の時間（分）	250
第7回	授業テーマ	給水設備（２） 給水方式
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給水方式について理解する。 システムの種類と構成 水槽 配管材料
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「給水設備」について読んでおく
	教室外学習の時間（分）	150
第8回	授業テーマ	給湯設備 給湯熱源の仕組み、給湯方式
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給湯熱源の仕組みについて理解する。 お湯と水の違い、給湯エネルギー、システムの種類と構成 ＊昨今のエコ設備について
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「給湯設備」について読んでおく
	教室外学習の時間（分）	150
第9回	授業テーマ	水に関する基礎知識（2） トラップの機能、破封現象、水使用の負荷
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	トラップの機能、破封現象、水使用の負荷について理解する。 排水トラップ、封水の役割と通気管、破封現象の種類と対策、 ウィルスと拡散と排水設備の関係(香港の事例から)、水使用の環境負荷。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題3_生活の中の「排水トラップ」の種類を調べる。
	教室外学習の時間（分）	250
第10回	授業テーマ	排水通気設備（１）排水の仕組み
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	排水・通気設備の目的 排水の種類と排水方式／通気方式／排水配管材料
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「排水・通気設備」について読んでおく。 課題４_「給湯設備」の例題を解いてみる。
	教室外学習の時間（分）	250
第11回	授業テーマ	排水通気設備（２）排水の円滑な流れ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	排水の仕組みについて理解する。 排水設備の目的 排水の汚染度の評価指標、PH～BOD／排水処理の分類と特徴 雨水利用や排水再利用設備
	教室外学習(予習・復習)の内容	給排水設備の総復習。 課題5_水環境と水問題のまとめ
	教室外学習の時間（分）	250
第12回	授業テーマ	衛生設備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衛生器具の種類について理解する。 給排水衛生設備の種類と主な関係法規 最新の機器情報 ＊設備機器オンライン見学またはショールーム
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「衛生設備」について読んでおく 課題６_衛生設備のまとめ
	教室外学習の時間（分）	250

第13回	授業テーマ	浄化設備・ガス設備・換気設備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	浄化槽、ガス設備について理解する。 浄化槽の役割と性能 ガスの種類と性質／供給方式／配管方法／安全対策 換気設備について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「ガス設備][換気・排煙」について読んでおく 課題7_「必要換気量」の例題を解いてみる
	教室外学習の時間（分）	250
第14回	授業テーマ	電気設備の基礎知識／定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	電気設備の基礎を理解する。 電気の役割と構成／照明コンセント、太陽光発電 定期試験
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「電気設備」について読んでおく
	教室外学習の時間（分）	50

学生へのフィードバック方法

課題については次の授業時に発表する場を設けます。

評価方法

・課題は、授業の理解度を示す記述式レポートと教科書の例題です。

・定期試験は、設備用語の概念とその仕組みの理解度を確認します。
建築士の試験問題に準じた課題を多肢択一で選ぶ設問も含みます。

・ルーブリックに基づく成績評価。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
課題	○	○	○	○

評価割合

定期試験(50%)、課題(50%)による総合評価

使用教科書名(ISBN番号)

初学者の建築講座 建築設備（第五版）／大塚雅之 著
安孫子義彦 専門監修／市ケ谷出版社／2022年／ISBN 9784870712645

参考図書

「図解入門 建築設備の基本と仕組み」／土井 巌 著／秀和システム／2019年／ISBN 9784798057583

ディプロマポリシーとの関連

現代家政学科
［知識・理解］ 社会の基盤として「質の高い生活」とは何かを理解できる。
生活デザイン学科
［知識・理解］ 住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。
現代家政学科・生活デザイン学科 共通
［思考・判断］ 住居設備の果たす役割を、考えることができる。
[関心・意欲・態度] 社会における住居設備に関心を持つことができる。
[技術・表現] 専門用語を用いて、住居設備への自分の意見を述べることができる。

オフィスアワー

学生へのメッセージ

建築士試験指定科目 ④建築設備 に認定。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は建築設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能である。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03103501
講義名	構造力学Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	西村 彰敏	指定なし

ナンバリング

D23301M21

授業概要(教育目的)

建築(住居)における力学について講義する。構造力学Aは初学者向けの入門編である。
単純な構造(単純梁、片持ち梁)を通して、力の性質・力の種類・力の釣り合い・構造物の表現・反力計算・応力計算・応力図を理解し力学に対する興味を喚起する。また、基礎編の構造力学Bに向け、事象に対する力学的な思考力の育成を目指す。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1.反力(支点に作用する力)と応力(部材に作用する力)の計算ができる 2.応力図(軸方向力図、せん断力図、モーメント図)を描くことができる
思考・判断の観点 (K)	1.力の釣り合いを正しく理解し説明できる 2.反力と応力の違いを正しく理解し説明できる 3.応力図の意味を正しく理解し説明できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

構造力学A

	授業テーマ	力の性質1

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	1.力とは(力の3要素) 2.力の演算(符号, 力の和と差) 3.力の単位(SI単位系) 4.数学の基礎(スカラとベクトル)
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書P8～11を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	力の性質2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.力の合成と分解(同一作用線上の力の合成, 同一作用線上にない力の合成) 2.生活における力の合成と分解 3.数学の基礎(三角関数, 単位円)
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書P12～28を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	力の性質3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.力のモーメント 2.生活におけるちからのモーメント 3.偶力(偶力とは, 偶力の性質) 4.バリニオンの定理
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書P29～38を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	構造物の表現と種類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.構造のモデル化とは 2.節点の種類(剛節点, 滑節点) 3.支点の種類(移動端, 回転端, 固定端) 4.荷重の種類(集中荷重, 等分布荷重, 等変分布荷重, モーメント荷重
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書P40～51を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	力のつり合い(反力1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.反力とは 2.力のつり合いとは 3.力のつり合い条件(2力のつり合い, 3力のつり合い) 4.反力の求め方
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書P54～66を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	力のつり合い(反力2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.反力の求め方(復習) 2.力のつり合い(復習) 3.力の合成と分解(復習) 4.支点の種類(復習) 5.集中荷重が作用する片持梁の反力計算 6.集中荷重が作用する単純梁の反力計算
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書P54～66を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分

第7回	授業テーマ	力のつり合い(反力3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.モーメント力(復習) 2.生活におけるモーメント力(事例) 3.モーメント荷重が作用する片持梁の反力計算 4.モーメント荷重が作用する単純梁の反力計算
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書P54～66を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	力のつり合い(反力4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.合力とは, 重心とは 2.合力と重心の考え方 3.等分布荷重または等変分布荷重が作用する片持梁の反力計算 4.等分布荷重または等変分布荷重が作用する単純梁の反力計算
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書P54～66を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	力のつり合い(応力1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.応力とは 2.反力と応力の違い 3.応力の種類(軸方向力, せん断力, 曲げモーメント) 4.応力の描き方(N図, Q図, M図)
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書P67～113を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	力のつり合い(応力2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.反力計算(復習) 2.切断法の考え方 3.集中荷重が作用する片持梁の応力計算 4.集中荷重が作用する単純梁の応力計算
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書P67～113を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	力のつり合い(応力3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.力のつり合い(復習) 2.切断法の考え方(復習) 3.モーメント荷重が作用する片持梁の応力計算 4.モーメント荷重が作用する単純梁の応力計算
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書P67～113を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	力のつり合い(応力4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.合力の考え方(復習) 2.等分布荷重と等変分布荷重が作用する片持梁の応力計算 3.等分布荷重と等変分布荷重が作用する単純梁の応力計算 4.数学の基礎(2次関数, 極値)
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考書P67～113を読んでおくこと又は相当する

		内容を学習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	力学演習1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.反力計算の演習(建築士試験問題) 2.ディスカッション 3.演習問題の解説
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1～8回目を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	力学演習2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1.応力計算の演習(建築士試験問題) 2.ディスカッション 3.演習問題の解説
	教室外学習(予習・復習)の内容	第9～12回目を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第15回	**授業テーマ**	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学生へのフィードバック方法

授業中に質問の時間を設ける(当日理解が原則)。

評価方法

授業に対する取り組みと定期テストで評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期テスト	○	○		

評価割合

授業に対する取り組み（20%）、定期テスト（80%）で評価する

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない

参考図書

力のつり合いを理解する構造力学, 彰国社

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」分野 について、専門的知識を有している
【思考・判断】各種の多様な情報を客観的に理解し判断できる

学生へのメッセージ

講義内容を自ら確認するため、各講義時間の中で15～30分程度の演習時間を設ける(質問等は演習時間に随時受け付ける)。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03103601
講義名	構造計画
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	西村 彰敏	指定なし

ナンバリング

D33306M21

授業概要(教育目的)

構造設計例を通して建築（住居）構造計画に対する興味を喚起し、構造計画を学ぶ能力の育成を目的とする。
本科目は初学者を対象とし、木造、RC造、S造の構造設計に共通する項目を題材とする。
また、構造力学と構造計画の知識を意匠設計に活かすための基本的な力を身に付ける。

履修条件

構造力学AとBを履修していること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	構造力学と構造計画の知識を意匠設計に活かすための基本的な計算ができる
思考・判断の観点 (K)	構造力学と構造計画の知識を意匠設計に活かすための概念が理解できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	設計荷重1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	設計荷重の概要 積算荷重の考え方
	教室外学習(予習・復習)の内容	構造力学Aと構造力学Bの復習をすること

	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	設計荷重2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	積雪荷重の考え方 風荷重の考え方 地震荷重の考え方
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1回目の復習をすること
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	構造設計の概論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	構造設計の流れと分類 偏心率、剛性率と塔状比の考え方 強度型と靭性型の考え方
	教室外学習(予習・復習)の内容	第2回目の復習をすること
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	木造の構造計算1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	必要壁量と存在壁量の考え方 壁倍率の考え方 必要壁量と存在壁量の設計演習
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回目の復習をすること
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	木造の構造計算2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	耐力要素の配置バランスの考え方 耐力要素の配置バランスの設計演習
	教室外学習(予習・復習)の内容	第4回目の復習をすること
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	木造の構造計算3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	N値計算の考え方 N値計算の設計演習
	教室外学習(予習・復習)の内容	第5回目の復習をすること
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	鉄筋コンクリート造の構造計算1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンクリートと鉄筋の性質 コンクリートと鉄筋の役割
	教室外学習(予習・復習)の内容	構造力学の復習（材料の性質と断面の特性）をすること
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	鉄筋コンクリート造の構造計算2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配筋（主筋）の考え方 配筋（せん断補強筋）の考え方 配筋の基本的な考え方
	教室外学習(予習・復習)の内容	第7回目の復習をすること
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	鉄筋コンクリート造の構造計算3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉄筋コンクリート造の断面設計の考え方 鉄筋コンクリート造の断面設計の演習
	教室外学習(予習・復習)の内容	第8回目の復習をすること
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	鉄骨造の構造計算1
		溶接の種類と考え方

第10回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	座屈の考え方 座屈計算の演習
	教室外学習(予習・復習)の内容	構造力学の復習（材料の性質と断面の特性）をすること
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	鉄骨造の構造計算2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉄骨造の断面設計の考え方 鉄骨造の断面設計の演習
	教室外学習(予習・復習)の内容	構造力学の復習（材料の性質と断面の特性）をすること
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	骨組の弾塑性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	降伏耐力と終局耐力の考え方 弾塑性と全塑性の考え方 塑性断面係数の考え方
	教室外学習(予習・復習)の内容	構造力学の復習（材料の性質と断面の特性）をすること
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	制振構造と免震構造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	制振と免震の考え方 耐震、制振と免震の違い
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1～12回目の復習をすること
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	演習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	構造計画の演習
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1～13回目の復習をすること
	教室外学習の時間（分）	200分
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学生へのフィードバック方法

授業中に質問の時間を設ける(当日理解が原則)。

評価方法

授業に対する取り組み、小レポートと最終レポートで評価する。
なお、評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小レポート	○	○		
最終レポート	○	○		

評価割合

授業に対する取り組み（20%）、小レポート(20%)、最終レポート(60%)で評価する

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない

参考図書

特に指定しない

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」分野 について、専門的知識を有している
【思考・判断】各種の多様な情報を客観的に理解し判断できる

学生へのメッセージ

講義内容を自ら確認するため、各講義時間の中で15～30分程度の演習時間を設ける(質問等は演習時間に随時受け付ける)。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03103701
講義名	インテリア材料
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	白井 篤	指定なし

ナンバリング

D23307M21

授業概要(教育目的)

建築材料の中から、インテリアを中心とした仕上げ材料（壁材、床材、天井材など）や屋根材料を取り上げて、それら部材に使われている材料（せっこうボード、壁紙、繊維補強系ボード、木質系材料、軽量気泡コンクリート、タイル、れんが、石材、ガラス、塗料、断熱材、接着剤、瓦、スレート類など）の基本的事項を平易に解説する。また、インテリア材料は構造材料とは異なり、安全性や耐久性以外に、機能性、快適性、美観性などの性能も要求される。そこで、各部位に要求される性能条件と材料との関連性を理解させると共に、建築仕上げ材料選定にあたっての基礎的知識を養う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各種の建築仕上げ材料について、その基本的事項（種類、性質など）を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	各部位に要求される性能条件に適した建築仕上げ材料を選ぶことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業概要、授業の進め方、到達目標、必要とする教室外学習、成績評価の方法などについて理解する。
	教室外学習(予習・	【予習】Google Classroomに提示された教材を読んで確認する。

	復習)の内容	【復習】ガイダンスで説明した内容について理解する。
	教室外学習の時間（分）	100
第2回	**授業テーマ**	屋根材料（１） 粘土瓦
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	粘土瓦(釉薬瓦、無釉瓦、いぶし瓦など）の種類や特徴について説明できるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて確認する。 【復習】授業で説明した内容について、再度、確認して理解する。
	教室外学習の時間（分）	200
第3回	**授業テーマ**	屋根材料（２） スレート類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住宅屋根用化粧スレート、プレスセメント瓦、天然スレート、シングルなどの特徴及び種類について説明できるようにする。 【レポート課題①の提示】課題のタイトル「戸建て住宅の屋根材料を選ぶ上で」（提出期限：レポート課題提示から2～3週間後）
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業内容について再度、復習して理解する。また、レポート課題①に関する資料集めを行う。
	教室外学習の時間（分）	200
第4回	**授業テーマ**	屋根材料（３） 金属板
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	金属板（トタン、ブリキ、ガルファン、ガルバリウム鋼板など）の特徴及び種類について説明できるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業内容を復習して理解する。また、レポート課題①について書き始める。
	教室外学習の時間（分）	200
第5回	**授業テーマ**	内装仕上げ材料（１） せっこうボード・壁紙
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	せっこうボード及び壁紙の特徴や種類について説明できるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業内容について再度、復習して理解する。また、レポート課題①についてルーブリックに示した観点に従って書いているか見直しを行う。
	教室外学習の時間（分）	200
第6回	**授業テーマ**	内外装仕上げ材料（１） 繊維補強系ボード
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	繊維補強系ボードの種類や特徴について説明できるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認すること。レポート課題①について提出できるようにする。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業内容について再度、復習して理解する。

	教室外学習の時間（分）	200
第7回	**授業テーマ**	内外装仕上げ材料（２） 木質系材料
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木質系材料（合板、集成材、繊維板、パーティクルボードなど）の種類や特徴について説明できるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業内容について再度、復習して理解する。
	教室外学習の時間（分）	200
第8回	**授業テーマ**	内外装仕上げ材料（３）タイル
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	タイルの種類(素地による区分）やその特徴について説明できるようにする。 【レポート課題①】返却と解説 【レポート課題②の提示】課題のタイトル：浴室の床材について（提出期限：レポート課題提示から2～3週間後）
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テスト及びレポート課題①について見直すと共に、授業内容について再度、復習して理解する。また、レポート課題②を書くための資料集めを行う。
	教室外学習の時間（分）	200
第9回	**授業テーマ**	内外装仕上げ材料（４）れんが
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	れんがの種類とその特徴、及び目地の種類について説明できるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業内容を復習して理解する。また、レポート課題②について書き始める。
	教室外学習の時間（分）	200
第10回	**授業テーマ**	内外装仕上げ材料（５）石材
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	石材の種類とその特徴について説明できるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業内容について再度、復習して理解する。また、レポート課題②についてルーブリックに示した観点に従って書いているか見直しを行う。
	教室外学習の時間（分）	200
第11回	**授業テーマ**	内外装仕上げ材料（６）軽量気泡コンクリート
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	軽量気泡コンクリートの特徴、壁への熱の伝わり方（熱伝導、熱伝達、熱貫流）及び不燃、準不燃、難燃材料の違いについて説明できるようにすること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。また、レポート課題②について提出できるようにする。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業内容について再

		度、復習して理解する。
	教室外学習の時間（分）	200
第12回	**授業テーマ**	内外装仕上げ材料（７）ガラス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガラスの種類とその特徴について説明できるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、授業内容について再度、復習して理解する。
	教室外学習の時間（分）	200
第13回	**授業テーマ**	その他の材料（１）塗装材料・断熱材料
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	塗装材料及び断熱材料の種類とその特徴について説明できるようにする。 【レポート課題②】返却と解説 【定期試験の説明】
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。 【復習】返却した小テスト及びレポート課題②について見直すと共に、授業内容について再度、復習して理解する。
	教室外学習の時間（分）	200
第14回	**授業テーマ**	その他の材料（２）接着材料／定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	接着剤の種類とその特徴について説明できるようにする。 また、学習目標の達成状況を確認するために定期試験を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】Google Classroomに提示された教材、参考資料、小テストなどについて読んで確認する。返却した小テストについて復習すると共に、第１回から第14回までの授業内容について復習して理解する。
	教室外学習の時間（分）	200

学生へのフィードバック方法

実施した小テスト及びレポート課題については、採点して次週の授業の初めに返却する。返却時に、小テストについては正答の説明を、レポート課題については評価基準の解説を行う。定期試験についても次週（第15回）に返却と解説を行う。

評価方法

平常点、レポート課題及び定期試験の３つで総合的に評価する。平常点（150点）については、授業の最後に行う小テスト及び発表で評価する。小テストの問題は、○×問題もしくは択一問題である。問題の多くは、過去のインテリアコーディネーター及び二級建築士資格試験で出されたもので、授業時の内容８割、授業外学習の内容2割である。１回の授業の平常点は10点満点とし、小テストの正答率によって３段階（A:10点、B：５点、C：０点）で評価する。発表については、各授業の到達目標（・・について理解し説明できること）に達しているかを授業の最後に説明してもらうことで確認する。（授業で理解したことを１分間で発表する）発表については、「理解したことについて」「発表技術（時間、声の大きさ、話すスピード）」の２つの観点で（ルーブリックににによって）評価する。レポート課題については、「課題に対する記述」「表現方法」「文章を書くときの技術的な約束事」「参考文献の活用」「その他（提出期限、分量、体裁など）」の５つの観点で（ルーブリックによって）評価する。評価基準については、レポート課題出題時に説明する。レポート課題については、50点満点とし、10段階（S：50点、SA：45点、A：40点、AB：35点、B：30点、BC：25点、C：20点、CD:15点、D：10点、E:5点）で評価する。定期試験については、ノートや参考資料などは全て持ち込み可として、150点満点で全て記述式の問題とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点（小テスト及び発表）	○			
レポート課題	○	○		
定期試験	○			

評価割合

平常点(37.5%）、レポート課題（25%）及び定期試験（37.5%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

教材については、Google Classroomに提示する。又、参考資料などについては、適宜、印刷・配付する。

参考図書

コーディネーター受験のためのインテリア仕上げ材／砂川幸雄・江口征男／相模書房、初学者の建築講座 建築材料／橘高義典ら／市ヶ谷出版

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】住分野の中の建築仕上げ材料についての専門的知識・技術を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
【思考・判断】住分野の中の建築仕上げ材料についての多様な情報を客観的に理解し判断して選別することができる。

オフィスアワー

水曜日４時限 ３６０６研究室

学生へのメッセージ

授業で使用する教材については、授業の３日前にはGoogle Classroomに提示するので、事前に勉強した上で、授業に臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業の最後に、授業で理解したことを学生（学修者）に発表させることで、学修者が自分の思考を深められたり、自分の思考を整理したりできるようにする。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	書籍・雑誌、ネットなどを活用して収集した資料を加工・編集して、教材（提示用プレゼンテーション）を作成する。

講義コード	G03103901
講義名	建築法規
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	原口 秀昭	指定なし

ナンバリング

D33207M21

授業概要(教育目的)

道路、敷地、面積、高さ、防火、避難、居室、構造など、建築基準法、建築士法、都市計画法、消防法の規制を知り、面積計算、高さ計算、採光計算などの計算練習をすることで、建築の設計、施工、不動産取引において必要となる法的な知識を身に付け、応用できる力を養う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	建築法規の目的、全体像、概念を知り、道路、敷地、面積、高さ、防火、避難、居室、構造などの建築基準法の基本的な規制を説明できる。建築関係法令集を自力で引ける。
思考・判断の観点 (K)	設計において、建築基準法の道路、敷地、面積、高さ、防火、避難、居室、構造などのチェックができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	他の設計図書を見た際に、建築法規に適合しているかどうか関心を持てる。
技術・表現の観点 (A)	社会に対して建築法規の範囲内で、洗練された表現力で「住」分野の課題解決を行い、設計図面として表現することができる。

学習計画

	授業テーマ	建築基準法の概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	法規のアウトライン 法律と条令、施行令、手続き規定と実体規定（単体規定、集団規定）、都市計画区域、市街化区域、市街化調整区域、各

第1回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	用途地域、高度地区などの意味、包含関係、適用範囲。また確認申請、工事届・除去届け、中間検査、完了検査、定期報告などの手続き。用語の定義などを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の8～25pを読み、p69の用途地域名はすべて暗記しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	道路と敷地
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	道路、敷地 42条の各項の道路、43条、44条など。特に2項道路、五号道路（位置指定道路）、接道義務について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp26～p64を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	建築物、特殊建築物、住居、長屋、共同住宅、寄宿舎の定義、住居系用途地域8種
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築物、特殊建築物、住居、長屋、共同住宅、寄宿舎の定義、違いについて説明する。13種の用途地域の特色と建てられる建築物について概説し、住居系用途地域8種について詳述する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	p65～p82まで読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	商業系、工業系用途地域
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	商業系、工業系用途地域5種の用途地域の説明をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp83～p89を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	建築面積、床面積、建蔽率、容積率
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築面積、床面積の定義とその緩和規定、建蔽率、容積率とその計算方法を説明し、計算練習をする。
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	教科書のp95～p113を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	床面積
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地階の住宅や駐車場の緩和規定を説明し、計算練習をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp114～p131を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	**授業テーマ**	道路幅から決まる容積率、用途地域をまたぐ場合の建ぺい率、容積率の計算
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	道路幅から決まる容積率、用途地域をまたぐ場合の建ぺい率、容積率の計算の説明をし、計算練習をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp132～p138を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	高さ制限
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高さ、軒高の測り方、緩和規定、絶対高さ、道路斜線、隣地斜線、北側斜線を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp139～p169を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	高さ制限の緩和規定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公園、広場、水路などによる緩和の取り方を説明し、計算練習をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp154～p170を再度読んで、代表的な緩和規定は覚えてくる。
	教室外学習の時間	180分

	（分）	
第10回	**授業テーマ**	天空率、日影規制
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	斜線制限ではない高さ制限としての天空率、日影規制の説明をする。斜線制限を入れたすべての高さ制限を再度説明し、計算練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp171～p183を読んでおくこと。また斜線制限を入れた高さ制限全体を、復習してくる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	防火規定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	不燃材料、準不燃材料、難燃材料、耐火構造、準耐火構造、防火構造、準防火構造、耐火建築物、準耐火建築物、防火地域、準防火地域の説明をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp184～p219を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	特殊建築物、防火区画、防火壁、界壁、隔壁、内装制限
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特殊建築物、防火区画、防火壁、界壁、隔壁、内装制限の説明をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp214～p242を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第13回	**授業テーマ**	階段、避難の規定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	階段の一般構造、直通階段、2以上の直通階段、歩行距離、避難階段、特別避難階段、排煙、非常用照明装置、非常用の進入口、非常用昇降機の説明をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp243～p270を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
	授業テーマ	居室の規制
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	居室の定義、採光面積計算、換気面積、換気設備の説明をし、計算練習

第14回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書のp271～p290を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分

学生へのフィードバック方法

各回で実施した小テストは、次週の授業にて返却する。質問等がある場合は、授業の前後か、3602研究室まで訪問すること。

評価方法

毎回小テストを実施する。小テストの内容は、その回に行った授業内容とし、問題数は10問、すべて記述式とする。小テストの再試験は原則として行わないので注意すること。定期試験は行わず、小テストと平常点で評価する。詳細は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内での配布する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○	○		○
平常点			○	

評価割合

毎回、その回でやった授業内容の小テストをして、15回分を集計して成績評価する。その際、平常点20%、得点80%とする。

使用教科書名(ISBN番号)

原口秀昭著「ゼロからはじめる建築の法規入門」彰国社（ISBN978-4-395-01028-8）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」の分野について、専門的知識・技術を有している。
【思考・判断】社会の中にある「住」分野の諸課題を自ら発見し、建築法規に照らして論理的に分析し考察することができる。
【関心・意欲・態度】社会の中にある「住」分野の成果物に対して、建築法規に適合しているか否かに関心を持つことができる。
【技術・表現】社会に対して建築法規の範囲内で、洗練された表現力で「住」分野の課題解決を行い、設計図面として表現することができる。

オフィスアワー

金曜2限時 3602研究室

学生へのメッセージ

2年次、3年次でのデザイン演習では建ぺい率、容積率が法規制として提示されました。実際の設計では、さらに道路制限、用途制限、高さ制限、防火規定、避難規定など、多くの法規制がされます。この授業で建築関連法規の基本を身に付けて社会に出ましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を		

活かした授業	○	担当教員は、約20年間の設計監理実務経験を有しており、建築基準法などが設計監理にいかに影響するか、設計時での法律的な注意点を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	ユーチューブの動画を見ながら教科書と法令集にマーカーを引いたり、インデックスを付けたりします。 ユーチューブ動画リストのURL↓ https://mikao-investor.com/regulation-law-book/
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03104001
講義名	建築環境学Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	柿本 美樹枝	指定なし

ナンバリング

D23208M21

授業概要(教育目的)

環境とは、主体を人間として、建築、都市、自然、地球、宇宙の入れ子構造にあります。建築環境学は、その中でも人間が制御できる、より質の高い建築環境を考える学問です。自然科学に加え、人文社会学の知見も踏まえ、基本の原理から、設計目標、計画に至るまでトータルで学びます。また、昨今の地球環境問題、省エネについても最新情報とその動向についても知見を深めます。
この授業では、主に建築環境を形成する物理的要素である「熱・空気」の基本的性質を理解するとともに、その環境を評価する私たちの感覚の特性を知ることによって、建物・設備性能が居住者へ与える影響を考えます。それらの知識を踏まえて、居住者にとって望ましい建築環境を構築するための具体的な手法を習得します。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	［建築士指定科目］建築環境を構成する、熱・空気の基本的性質を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	住環境の果たす役割を、考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会における環境課題に関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	環境課題への自分の意見を、専門用語を用いて述べることができる。

学習計画

建築環境学A

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス 建築環境学の位置付け
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築環境工学の誕生／環境問題の発生／環境設計と新たな課題
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第1章I[基本と原理],II[設計目標]を読んでおく 建築環境学の位置付けについて復習
	教室外学習の時間（分）	150
第2回	**授業テーマ**	気候風土と建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	元祖環境住宅「聴竹居」の住まい事例から、現代の環境建築に至るまで、日本の暮らしと建築の変遷(縄文人の暮らしから昨今の高層住宅まで)を知ると共に、日本列島の気候風土の違いによる断熱指標と課題、今後の設計目標を知り、将来のあるべき住まい建築の姿を探る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題1[気候風土に適応した住宅]を調べる
	教室外学習の時間（分）	250
第3回	**授業テーマ**	建築環境学の概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的な「SI単位」を知ることから、パッシブデザイン(建築的手法)とアクティブデザイン(設備的手法)の融合が求められる時代に、快適さなど空間環境の質確保と省エネ性能の両立の重要性について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第1章III[計画と制御]を読んでおく 配布資料(SI単位)を復習する
	教室外学習の時間（分）	150
第4回	**授業テーマ**	温熱感（１） 温熱感に影響する要因
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体温調節温冷感温／熱環境の6要素／熱的快適性とエネルギー
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第6章I[基本と原理]を読んでおく
	教室外学習の時間（分）	150
	授業テーマ	温熱感（２） 温熱感の環境評価指標
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	作用温度(OT)、有効温度(ET)、予測平均温冷感申告(PMV)などの温熱環境指標と、局所不快の評価

第5回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第6章II [設計目標]を読んでおく 課題２,III[温熱環境の計画と制御]の復習
	教室外学習の時間（分）	250
第6回	授業テーマ	外界気象と地球環境問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	気温、気圧、雨雪、湿度などの指標から、台風、土砂災害、洪水対策、ヒートアイランド化など、昨今の環境課題や自然災害を引き起こす気象現象を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	地球環境問題の復習 課題３[昨今の災害事例]を調べる
	教室外学習の時間（分）	250
第7回	授業テーマ	日照環境（１） 日照
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	太陽と地球の関係、太陽放射とその作用、日照率
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第2章[基本と原理],[設計目標]を読んでおく
	教室外学習の時間（分）	150
第8回	授業テーマ	日照環境（２） 日影
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日影規制／日影曲線／日射遮蔽／日照調整
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題４III[日照と日影の計画と制御]の復習、日影図作成の練習
	教室外学習の時間（分）	250
第9回	授業テーマ	建物の熱性能（１） 建物の伝熱
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	熱エネルギーとその移動／熱貫流／熱伝導／対流と放射
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第5章I[基本と原理],II[設計目標]を読んでおく

	教室外学習の時間（分）	150
第10回	**授業テーマ**	建物の熱性能（２） 建物の断熱・熱容量
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建物の断熱・熱容量について理解する。 住宅の省エネルギー基準／断熱性能／気密化／蓄熱／暖冷房
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題５III[熱環境の計画と制御]の復習
	教室外学習の時間（分）	250
第11回	**授業テーマ**	湿気環境（１） 結露現象の原理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	湿り空気／露点温度／湿り空気線図
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第8章I[基本と原理],II[設計目標]を読んでおく
	教室外学習の時間（分）	150
第12回	**授業テーマ**	湿気環境（２） 結露現象とその防止策
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	湿気と結露／表面結露／内部結露／防止対策
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題６ III[結露の防止]の復習
	教室外学習の時間（分）	250
第13回	**授業テーマ**	空気環境(1) 室内の空気質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	室内空気と健康／空気汚染と許容濃度／空気流動の基礎／シックハウス、シックスクール対策
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第8章I[基本と原理],II[設計目標]を読んでおく 課題７III[室内空気環境の計画と制御]の復習
	教室外学習の時間（分）	250
	授業テーマ	空気環境（２）換気方式・換気量 定期試験
	学習内容(ｱｸﾃ	

第14回	ｲﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然換気／機械換気／各種換気設備 定期試験
	教室外学習(予習・復習)の内容	建築環境学の[熱と空気]全般について復習
	教室外学習の時間（分）	50

学生へのフィードバック方法

課題については授業中に説明します。

評価方法

・課題は、授業の理解度を示す記述式レポートと教科書の例題等です。

・定期試験は、環境工学用語の概念とその仕組みの理解度を確認します。
建築士の試験問題に準じた課題を多肢択一で選ぶ設問も含みます。

・ルーブリックに基づく成績評価。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
課題	○	○	○	○

評価割合

定期試験(50%)、課題(50%)による総合評価

使用教科書名(ISBN番号)

「しくみがわかる建築環境工学 第2版 基礎から計画・制御まで」／上野佳奈子他／彰国社／2022年／ISBN（978-4-395-32183-4)

ディプロマポリシーとの関連

現代家政学科
［知識・理解］ 社会の基盤として「質の高い生活」とは何かを理解できる。
生活デザイン学科
［知識・理解］ 住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。

現代家政学科・生活デザイン学科 共通
［思考・判断］ 住環境の果たす役割を、考えることができる。
[関心・意欲・態度] 社会における環境課題に関心を持つことができる。
[技術・表現] 環境課題への自分の意見を、専門用語を用いて述べることができる。

学生へのメッセージ

建築士試験指定科目 ③建築環境工学 に認定。

室内環境を整える建築環境学については、建築や住まいの設計だけではなく、インテリアデザインにとっても重要です。積極的に学びましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	担当教員は建築設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能である。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03104002
講義名	建築環境学Ａ（2025年以降入学生用）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小池 孝子	指定なし

ナンバリング

D23208M21

授業概要(教育目的)

環境とは、主体を人間として、建築、都市、自然、地球、宇宙の入れ子構造にあります。建築環境学は、その中でも人間が制御できる、より質の高い建築環境を考える学問です。自然科学に加え、人文社会学の知見も踏まえ、基本の原理から、設計目標、計画に至るまでトータルで学びます。また、昨今の地球環境問題、省エネについても最新情報とその動向についても知見を深めます。
この授業では、主に建築環境を形成する物理的要素である「熱・空気」の基本的性質を理解するとともに、その環境を評価する私たちの感覚の特性を知ることによって、建物・設備性能が居住者へ与える影響を考えます。それらの知識を踏まえて、居住者にとって望ましい建築環境を構築するための具体的な手法を習得します。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	［建築士指定科目］建築環境を構成する、熱・空気の基本的性質を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

建築環境学A

第1回	授業テーマ	ガイダンス 建築環境学の位置付け
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築環境工学の誕生／環境問題の発生／環境設計と新たな課題
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第1章I[基本と原理],II[設計目標]を読んでおく 建築環境学の位置付けについて復習
	教室外学習の時間（分）	150
第2回	授業テーマ	気候風土と建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	元祖環境住宅「聴竹居」の住まい事例から、現代の環境建築に至るまで、日本の暮らしと建築の変遷(縄文人の暮らしから昨今の高層住宅まで)を知ると共に、日本列島の気候風土の違いによる断熱指標と課題、今後の設計目標を知り、将来のあるべき住まい建築の姿を探る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題1「気候風土に適応した住宅」を調べ考察する
	教室外学習の時間（分）	250
第3回	授業テーマ	建築環境学の概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的な「SI単位」を知ることから、パッシブデザイン(建築的手法)とアクティブデザイン(設備的手法)の融合が求められる時代に、快適さなど空間環境の質確保と省エネ性能の両立の重要性について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第1章III[計画と制御]を読んでおく 配布資料(SI単位)を復習する
	教室外学習の時間（分）	150
第4回	授業テーマ	温熱感（１） 温熱感に影響する要因
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体温調節温冷感温／熱環境の6要素／熱的快適性とエネルギー
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第6章I[基本と原理]を読んでおく
	教室外学習の時間（分）	150
第5回	授業テーマ	温熱感（２） 温熱感の環境評価指標
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作用温度(OT)、有効温度(ET)、予測平均温冷感申告(PMV)などの温熱環境指標と、局所不快の評価

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第6章II [設計目標]を読んでおく 課題２,III[温熱環境の計画と制御]のまとめと復習
	教室外学習の時間（分）	250
第6回	**授業テーマ**	外界気象と地球環境問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	気温、気圧、雨雪、湿度などの指標から、台風、土砂災害、洪水対策、ヒートアイランド化など、昨今の環境課題や自然災害を引き起こす気象現象を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	外界気象の復習 課題３(昨今の自然災害)を調べる
	教室外学習の時間（分）	250
第7回	**授業テーマ**	日照環境（１） 日照
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	太陽と地球の関係、太陽放射とその作用、日照率
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第2章[基本と原理],[設計目標]を読んでおく
	教室外学習の時間（分）	150
第8回	**授業テーマ**	日照環境（２） 日影
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日影規制／日影曲線／日射遮蔽／日照調整
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題４III[日照と日影の計画と制御]の復習
	教室外学習の時間（分）	250
第9回	**授業テーマ**	建物の熱性能（１） 建物の伝熱
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	熱エネルギーとその移動／熱貫流／熱伝導／対流と放射
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第5章I[基本と原理],II[設計目標]を読んでおく
	教室外学習の時間（分）	150

第10回	授業テーマ	建物の熱性能（２） 建物の断熱・熱容量
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建物の断熱・熱容量について理解する。 住宅の省エネルギー基準／断熱性能／気密化／蓄熱／暖冷房
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題５III[熱環境の計画と制御]のまとめと復習
	教室外学習の時間（分）	250
第11回	授業テーマ	湿気環境（１） 結露現象の原理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	湿り空気／露点温度／湿り空気線図
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第8章I[基本と原理],II[設計目標]を読んでおく
	教室外学習の時間（分）	150
第12回	授業テーマ	湿気環境（２） 結露現象とその防止策
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	湿気と結露／表面結露／内部結露／防止対策
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題６ III[結露の防止]の復習
	教室外学習の時間（分）	250
第13回	授業テーマ	空気環境(1) 室内の空気質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	室内空気と健康／空気汚染と許容濃度／空気流動の基礎／シックハウス、シックスクール対策
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第8章I[基本と原理],II[設計目標]を読んでおく 課題７III[室内空気環境の計画と制御]のまとめと復習
	教室外学習の時間（分）	250
	授業テーマ	空気環境（２）換気方式・換気量 定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	自然換気／機械換気／各種換気設備 ＊with コロナ、after コロナの新生活様式 定期試験

第14回	を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	建築環境学の[熱と空気]全般について復習
	教室外学習の時間（分）	50

学生へのフィードバック方法

課題については授業中に説明します。

評価方法

・課題は、授業の理解度を示す記述式レポートと教科書の例題等です。

・定期試験は、環境工学用語の概念とその仕組みの理解度を確認します。
建築士の試験問題に準じた課題を多肢択一で選ぶ設問も含みます。

・ルーブリックに基づく成績評価。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○			
課題	○		○	

評価割合

定期試験(50%)、課題(50%)による総合評価

使用教科書名(ISBN番号)

「しくみがわかる建築環境工学 第2版 基礎から計画・制御まで」／上野佳奈子他／彰国社／2022年／ISBN（978-4-395-32183-4)

ディプロマポリシーとの関連

現代家政学科
［知識・理解］ 社会の基盤として「質の高い生活」とは何かを理解できる。
生活デザイン学科
［知識・理解］ 住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。

学生へのメッセージ

建築士試験指定科目 ③建築環境工学 に認定。

室内環境を整える建築環境学については、建築や住まいの設計だけではなく、インテリアデザインにとっても重要です。積極的に学びましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03104101
講義名	住居計画
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小池 孝子	指定なし

ナンバリング

D23204M21

授業概要(教育目的)

家族の暮らしの場である住居について、現代的な課題を踏まえたうえで、それぞれの家族にとって快適な住宅、住宅地のあり方について検討をおこなう。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	住宅および住宅地を計画する際に必要となるさまざまなことがらについて理解し、住居設計のための基礎知識を習得する
思考・判断の観点 (K)	家族の暮らしの場である住居に関する現代的な課題について、客観的に理解できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	住居に関する現代的な課題について、積極的に関心を持って考えることができる
技術・表現の観点 (A)	住居に関する現代的な課題に対応した快適な住宅、住宅地のあり方について提案ができる

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス・現代の家族と住まい
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家族のあり方の変化に伴う住まいの変容について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分の家族を対象に、家族形態の移り変わりについて考える
	教室外学習の時間（分）	70分

第2回	授業テーマ	家族のかたちと住まいのかたち
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家族認知、近代家族と住まいについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分の家族、自分の住む住宅について、授業で取り上げた内容と照らし合わせて考える
	教室外学習の時間（分）	140分
第3回	授業テーマ	家族の変化と新しい住まいのかたち
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築家の提案する新しい住まいのかたちについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）建築雑誌を読み、新しい住まいのかたちのバリエーションについて学ぶ
	教室外学習の時間（分）	140分
第4回	授業テーマ	居住歴と原風景
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	理想とする住まい・住環境に対して原風景が与える影響について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分の住む地域を対象に、建築が生み出す原風景について考える
	教室外学習の時間（分）	140分
第5回	授業テーマ	住居の設計プロセス、独立住宅の計画手法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住居の設計プロセスと建築家の責務、建築に関わる法規、独立住宅の計画における敷地と建物の関係、室の配置計画について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）建築雑誌を読み、独立住宅の敷地と建物の関係、室の配置計画のバリエーションについて学ぶ （中間レポート1/4）住宅計画に関する中間レポートに取り組む
	教室外学習の時間（分）	140分 ＋レポート120分
第6回	授業テーマ	生活行為と生活時間
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住宅内の生活行為と生活空間、生活時間との関係性について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分や家族の生活時間について考え、小課題を仕上げる （中間レポート2/4）住宅計画に関する中間レポートに取り組む
	教室外学習の時間（分）	140分 ＋レポート120分
第7回	授業テーマ	生活行為と住空間
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活行為とスケール、住空間のゾーニング、動線計画について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分や家族の生活を振り返り、起居様式の変化について考える （中間レポート3/4）住宅計画に関する中間レポートに取り組む
	教室外学習の時間（分）	140分 ＋レポート120分

第8回	授業テーマ	独立住宅の構造・構法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	独立住宅の構造、敷地と建物の関係、室の配置計画のバリエーションについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）建築雑誌を読み、独立住宅の敷地と建物の関係、室の配置計画のバリエーションについて学ぶ （中間レポート4/4）住宅計画に関する中間レポートに取り組む
	教室外学習の時間（分）	140分 ＋レポート120分
第9回	授業テーマ	集合住宅の平面構成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集合住宅の平面構成の移り変わりについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）建築雑誌を読み、集合住宅の平面構成のバリエーションについて学ぶ
	教室外学習の時間（分）	140分
第10回	授業テーマ	生活の外部化と地域施設
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活の外部化の状況、生活圏と地域施設配置計画について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分の生活を対象に生活の外部化について考える （期末レポート1/3）地域施設計画に関する期末レポートに取り組む
	教室外学習の時間（分）	140分 ＋レポート120分
第11回	授業テーマ	住宅でまちをつくる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住宅地計画、ニュータウン計画について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）多摩ニュータウン、港北ニュータウンを対象に、まちの構成について考える （期末レポート2/3）地域施設計画に関する期末レポートに取り組む
	教室外学習の時間（分）	140分 ＋レポート120分
第12回	授業テーマ	集合住宅地の計画１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集合住宅のアクセス形式、住棟配置計画について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分の住む地域の街並みの美しさについて考える （期末レポート3/3）地域施設計画に関する期末レポートに取り組む
	教室外学習の時間（分）	140分 ＋レポート120分
第13回	授業テーマ	集合住宅地の計画２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集合住宅団地の容積率、戸数密度、住棟配置計画について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分の家の周りについて、共有領域の形成状況について考える

	教室外学習の時間（分）	140分
第14回	**授業テーマ**	集合住宅団地の再生
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本における集合住宅の管理状況、マンション建て替え問題について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分の家の近くに管理不全マンションがないか考えてみる
	教室外学習の時間（分）	140分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

小課題については、授業時間内に全体講評をおこなう。
レポートは、採点後にコメントを付して返却する。

評価方法

小課題は、毎回の授業で実施する。授業時間内に実習課題として実施するものと、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述するものがある。取り組み状況、完成度、授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。
レポートは、授業で得られた知識をもとに情報収集をおこない、発見した課題について自分の意見をまとめて記述する。情報収集・整理は十分か、課題解決案は適切か、結論に至る筋道に論理性があるかについて評価する。中間と期末の２回実施する。
なお、評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小課題	○	○	○	
レポート	○	○	○	○

評価割合

小課題40%、中間レポート35%、期末レポート25%により総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特にテキストは指定しない。

参考図書

定行まり子「生活と住居」光生館
岡田光正ほか「住宅の計画学入門－住まい設計の基本を知る」鹿島出版会
小澤紀美子ほか「豊かな住生活を考える－住居学」彰国社

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」分野について、専門的知識・技術を有している。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。また各種の多様な情報を客観的に理解し判断できる
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

オフィスアワー

金曜２限 3508研究室

学生へのメッセージ

住居の計画について、家族の生活という視点から考えること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03104201
講義名	福祉住環境
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小池 孝子	指定なし

ナンバリング

D23206M21

授業概要(教育目的)

超高齢社会を迎え、高齢者や障害者が在宅で自立した生活をおくるための住環境整備が求められている。本授業は、この福祉住環境整備分野の初歩的な知識を習得することを目的とし、高齢者や身体障害者を対象とした住環境整備についての基礎知識を学ぶとともに、在宅介護の現状と問題点、特徴、必要な視点等から、介護保険制度の対象となる住宅改修、福祉用具、特定疾病等、建築・福祉・医療などに関して体系的な幅広い知識を学ぶ。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	高齢者や身体障害者を対象とした住環境整備についての基礎知識とともに、在宅介護の現状と問題点、特徴、必要な視点等から介護保険制度の対象となる住宅改修、福祉用具、特定疾病等、建築・福祉・医療などに関して体系的な幅広い知識を習得する。
思考・判断の観点(K)	住環境整備についての基礎知識をもとに、在宅介護の現状と問題点に関する今日的課題を発見し、解決策について考察することができる。
関心・意欲・態度の観点(V)	住環境整備に関する諸問題に積極的に関心を持ち、その解決策を立案できる。
技術・表現の観点(A)	住環境整備に関する課題に対応した住宅改修の方法について提案ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス・福祉住環境の意義と役割
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	福祉住環境整備の意義と役割について、超高齢社会である日本の人口構成・世帯構成と合わせて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）日本の人口の動向について調べ、理解する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	**授業テーマ**	福祉・ノーマライゼーションの考え方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	福祉・ノーマライゼーションの考え方と、介護保険制度との対応について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリント、WEBなどを参照し、介護保険制度について理解しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	高齢者・障害者の住環境整備－１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢者・障害者の生活を支える福祉用具・共用品について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを参照し、福祉用具・共用品について理解し、自分の身の回りにある生活用具について、共用品・福祉用具にあたるものがないか考える。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	高齢者・障害者の住環境整備－２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活行為別にみた福祉用具の活用による住環境整備について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを参照し、自宅での生活と照らし合わせて、福祉用具の種類と使い方について理解しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	高齢者・障害者の住環境整備－３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活行為別にみた福祉用具の活用による住環境整備について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを参照し、自宅での生活と照らし合わせて、福祉用具の種類と使い方について理解しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	日本の住宅と住生活上の課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の在来工法による住宅にみられる高齢者・障害者の日常生活上の課題について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを参照し、自宅の構造と照らし合わせて、福祉住環境整備における日本の住宅の問題点について理解しておく。

	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	**授業テーマ**	福祉住環境整備の技術－１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	福祉住環境整備の技術－２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	福祉住環境整備の技術－３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	福祉住環境整備の技術－４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。 （レポート）住宅改修に関するレポートに取り組む。
	教室外学習の時間（分）	180分 ＋レポート90分
第11回	**授業テーマ**	高齢者の健康と自立
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢者の健康と自立、栄養と運動、身体的特性について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを参照し、高齢者のウェル・ビーイングのための条件について理解しておく。 （レポート）住宅改修に関するレポートに取り組む。
	教室外学習の時間（分）	180分 ＋レポート90分
	授業テーマ	関連法規・高齢者の住環境整備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	高齢者の住環境の実態について理解し、法令に基づく高齢者の住まいの選択肢について学ぶ。

第12回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを参照し、高齢者の住まいの選択肢について理解しておく。 （レポート）住宅改修に関するレポートに取り組む。
	教室外学習の時間（分）	180分 ＋レポート90分
第13回	授業テーマ	障害とは何か・障害者の住環境整備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害についての考え方・障害者の住環境の実態について理解し、法令に基づく障害者の住まいの選択肢について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを参照し、障害についての考え方・障害者の住まいの選択肢について理解しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	授業テーマ	リハビリテーションの考え方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	リハビリテーションの考え方と地域包括ケアシステムについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配付プリントを参照し、リハビリテーションの考え方と地域包括ケアシステムについて理解し、自分の住む地域の地域包括ケアシステムについて確認する。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

本授業はオンデマンド方式で実施する。
毎回の授業を視聴後、授業ノートおよび小レポートを期日までに提出する。

学生へのフィードバック方法

第2回以降、前回講義内容に関する確認テストを実施する。
確認テストは評価に含めず、解説付きの答え合わせを行うことにより知識の定着を図る。
小レポート、レポートについては採点後にコメントを付けて返却する。

評価方法

小レポートは、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述する。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。
期末レポートは、授業で得られた知識をもとに情報収集をおこない、発見した課題について自分の意見をまとめて記述する。課題の発見・整理は十分か、課題解決案は適切か、結論に至る筋道に論理性があるかについて評価する。
定期試験は穴埋め問題、正誤問題を出題する。
なお、評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小レポート	○	○	○	
レポート	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合

小レポート40%、レポート25%、定期試験35%により総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特にテキストは指定しない。

参考図書

「新版福祉住環境」浅沼由紀/市ヶ谷出版社/2008

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」分野 について、専門的知識・技術を有している
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。また各種の多様な情報を客観的に理解し判断できる
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる
【技能・表現】家政学を学修し、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている

オフィスアワー

金曜 2 時限 3508研究室

学生へのメッセージ

本授業は、福祉住環境コーディネーター検定試験 2 級程度の基礎知識を習得する。現在の高齢者問題などの状況を把握していること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03104301
講義名	生活デザイン演習Ｃ（石綱）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	石綱 史子	指定なし

ナンバリング

D21205M12

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業や、学外学内のイベントへの参加、学外見学などのプログラムを実施する。内容は、プログラムを設定する教員によって異なり、複数のプログラムが設定される予定である。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点 (K)	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることできる。
技術・表現の観点 (A)	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	イントロダクション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	演習の内容と進め方について
	教室外学習(予習・復習)の内容	演習内容と課題の確認

	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	一般的な文章①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題1 一般的な文章を読み、要約する
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献を読む
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	一般的な文章②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題1 一般的な文章を読み、要約する
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献を読む
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	一般的な文章③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題1 一般的な文章を読み、要約する
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献を読む
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	文献の探し方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文献の種類と探し方について解説し、各自興味のある文献を探す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献の探し方を復習し、課題②の文献を決める
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	文献を読む①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献を読み要約、解説する準備をする
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	文献を読む②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献を読み要約、解説する準備をする
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	文献を読む③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献を読み要約、解説する準備をする
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	文献を読む④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献を読み要約、解説する準備をする
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	文献を読む⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献を読み要約、解説する準備をする
	教室外学習の時間（分）	45分

第11回	授業テーマ	文献を読む⑥
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献を読み要約、解説する準備をする
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	文献を読む⑦
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献を読み要約、解説する準備をする
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	文献を読む⑧
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献を読み要約、解説する準備をする
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	文献を読む⑨
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献を読み要約、解説する準備をする
	教室外学習の時間（分）	45分
第15回	授業テーマ	文献を読む⑩
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する 演習全体のまとめ
	教室外学習(予習・復習)の内容	本演習で学んだことをまとめ、今後の学修に活用する
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

履修者数や演習の進み具合などにより、スケジュールや課題変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

演習中に随時ディスカッションを行い、フィードバックする。各課題は採点し、コメントを付けて返却する。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。

評価方法

平常点：課題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。
課題：読解力、要約緑、文章構成力などを総合的に判断して評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
課題	○	○	○	○

評価割合

平常点50%、課題50%とし総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

適宜、資料を印刷・配付する。

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。

オフィスアワー

月曜3限 3609研究室

学生へのメッセージ

初歩的な学術論文や科学雑誌などの文献を正しく読めるようになることを目的としています。
この演習を通じ、文章の読解力、要約する力、文章構成力などの基礎力の向上を目指します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03104302
講義名	生活デザイン演習Ｃ（呉）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	呉 起東	指定なし

ナンバリング

D21205M12

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業、学外学内のイベント等への参加などのプログラムを展開する。プログラムは学期の最初に生活デザイン学科で設定する。2年次3年次合同のプログラムもあり、個人での作業にとどまらず、グループの中で協力して計画と作業を進め、問題を解決する力を養う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

評価割合

平常点（50%）、課題（50%）の総合評価。（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。）

使用教科書名(ISBN番号)

適宜、資料を印刷・配付する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03104304
講義名	生活デザイン演習Ｃ（小池）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小池 孝子	指定なし

ナンバリング

D21205M12

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03104306
講義名	生活デザイン演習Ｃ（佐々木）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	佐々木 麻紀子	指定なし

ナンバリング

D21205M12

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業や、学外学内のイベントへの参加、学外見学などのプログラムを実施する。内容は、プログラムを設定する教員によって異なり、複数のプログラムが設定される予定である。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点 (K)	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることできる。
技術・表現の観点 (A)	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、プログラム内容について理解する
		予習：インターネット等で日本の伝統工芸染色

	教室外学習(予習・復習)の内容	技法について調べておく 復習：プログラム内容についてガイダンスで配布した資料を読む
	教室外学習の時間（分）	予習：15分 復習：15分
第2回	**授業テーマ**	サンプル制作1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サンプル制作を通じて、摺込み染の染色方法について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：インターネット等で摺込み染めについて調べる 復習：作成手順や制作したサンプルの写真等を整理しておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習：15分 復習：15分
第3回	**授業テーマ**	サンプル制作2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サンプル制作を通じて、摺込み染の特徴について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：摺込み染用の型紙を用意する 復習：摺込み染のサンプルを完成させ、摺込み染の特徴についてまとめる
	教室外学習の時間（分）	予習：15分 復習：45分
第4回	**授業テーマ**	サンプル制作3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サンプル制作を通じて、墨流し染のデザインと特徴を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：インターネット等で皮革の特徴について調べる 復習：墨流し染めの作成手順や特徴についてまとめる
	教室外学習の時間（分）	予習：15分 復習：15分
第5回	**授業テーマ**	サンプル制作4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	墨流し染で作品を制作する
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：インターネット等で墨流し染めについて調べる 復習：サンプルを完成させ、墨流し染の特徴についてまとめる
	教室外学習の時間（分）	予習：15分 復習30分
第6回	**授業テーマ**	サンプル作成5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	絞り染の特徴について理解し、サンプルを作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：インターネット等で絞り染について調べる 復習：絞り染のサンプル作成を進めておく(縫い絞り迄)
	教室外学習の時間（分）	予習：15分 復習：30分
第7回	**授業テーマ**	サンプル作成6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	絞り染のサンプル作成を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：絞り染めのサンプル作成をする 復習：絞り染のサンプル作成を進めておく(角絞り迄)
	教室外学習の時間（分）	予習15分 復習30分

第8回	授業テーマ	サンプル作成7
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	絞り染のサンプルの染色を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：染色の色を決め、染色手順のプリントを読む 復習：絞り染の特徴についてまとめる
	教室外学習の時間（分）	予習：15分 復習：30分
第9回	授業テーマ	サンプル作成8
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学外実習 学外の染色工房で江戸更紗染の体験を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：インターネット等で江戸更紗染の特徴について調べる 復習：江戸更紗染の体験についてのレポートを作成する
	教室外学習の時間（分）	予習：15分 復習：45分
第10回	授業テーマ	サンプル作成9
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ろうけつ染めの特徴を活かしてサンプルを作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：インターネット等でろうけつ染めについて調べる 復習：ろうけつ染めの特徴についてまとめる
	教室外学習の時間（分）	予習：15分 復習：15分
第11回	授業テーマ	サンプル作成10
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ろうけつ染めの特徴を活かしてサンプルを作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：ろうけつ染めのデザインを考える 復習：ろうけつ染めの特徴についてまとめておく
	教室外学習の時間（分）	予習：15分 復習：15分
第12回	授業テーマ	まとめ1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで体験した染色技法を基に自由作品を制作する
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：作成する自由作品の染色手順を調べ、必要なものを準備する。 復習：作成する自由作品に必要なものをそろえる
	教室外学習の時間（分）	予習：30分 復習：60分
第13回	授業テーマ	まとめ2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで体験した染色技法を基に自由作品を制作する
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：作成する自由作品の染色手順を調べ、必要なものを準備する 復習：染色手順についてまとめる
	教室外学習の時間（分）	予習：30分 復習：60分
第14回	授業テーマ	まとめ3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで体験した染色技法を基に自由作品を制作する
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：作成する自由作品の染色手順を調べ、必要なものを準備する。 復習：制作した作品の特徴についてまとめポス

		ターを制作する
	教室外学習の時間（分）	予習：30分 復習：60分

学習計画注記

・受講人数によってはスケジュールが変更になる場合があります。
・学外施設での実習を予定していますが、状況に応じて変更になる場合があります。
・作品制作では、実習費(3000～5000円程度）がかかります。

学生へのフィードバック方法

授業にて解説します。

評価方法

平常点80%、レポート10%、ポスター10%で評価します。
平常点は授業への積極的な参加態度、サンプルの完成度等を総合的に判断し評価します。
レポートはA4用紙1、2枚程度に ①各種染色技法の特徴について②自身の取り組み方について記載してもらいます。
ポスターはA4用紙1枚で自由作品について使用した技法、作品のコンセプト、自身の取り組みについて記載してもらいます。
学修成果の公平で客観的な評価の実施に向けて、ルーブリックを用いた評価を行います。
ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により学生に提示をします。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
レポート①	○			○
レポート②		○		○

評価割合

平常点80%、レポート各10%で評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

・染色の技法/田中清香/理工学社/978-4844585855
・染色の基礎知識 増補改訂版合成染料の技法/高橋誠一郎/染色と生活社/978-4-975374-62-3

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。

オフィスアワー

月曜2時限 2406研究室

学生へのメッセージ

積極的な参加を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを通じて、協働活動の方法について学ぶ。

情報リテラシー教育	○	課題に関する情報を収集・分析・整理する。
ICT活用	○	情報収集やレポート作成のために、PCや通信機器を活用する。

講義コード	G03104307
講義名	生活デザイン演習Ｃ（澤田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	澤田 雅彦	指定なし

ナンバリング

D21205M12

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

ICT活用		

講義コード	G03104308
講義名	生活デザイン演習Ｃ（白井）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	白井 篤	指定なし

ナンバリング

D21205M12

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03104309
講義名	生活デザイン演習Ｃ（千葉）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	千葉 一博	指定なし

ナンバリング

D21205M12

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03104310
講義名	生活デザイン演習Ｃ（富田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	富田 弘美	指定なし

ナンバリング

D21205M12

授業概要(教育目的)

（集中授業）
パターンメーキング3級検定試験の課題「ブラウス」の身頃と袖・衿の基本的な製図（実物大）とテキストによる記述試験の対策を行う。基礎的な知識と技術を習得して試験合格基準の力を身に付けることが目的である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	衣分野おける諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	衣分野おける諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣分野おける諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	衣分野おける課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

生活デザイン演習C（富田１）

第1回	**授業テーマ**	パターンメーキング3級検定試験対策講座（記述）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	道具、テキスト、日程、要項内容を理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	パターンメーキング検定試験の要項を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	**授業テーマ**	パターンメーキング3級検定試験対策講座（記述）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ブラウスAの身頃（前・後ろ）の製図（1/2）、胸ぐせ処理について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ブラウスAの身頃（前・後ろ）の製図（1/2）の練習する。「パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック」（記述問題のテキス）（18～22）、ダーツの方向移動（76～89）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	**授業テーマ**	パターンメーキング3級検定試験対策講座（記述）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ブラウスAの点検、衿のバリエーション1（シャツカラー、スタンドカラー）の製図を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ブラウスAの修正、衿のバリエーション１の練習をする。「パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック」既製服の概念～（23～43）、衿（90～99）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	**授業テーマ**	パターンメーキング3級検定試験対策講座（記述）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衿のバリエーション2（対衿付シャツカラー、セーラーカラー他）の製図を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	衿のバリエーション2の練習をする。「パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック」既製服のパターンメーキング～（44～57）、衿（90～99）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	**授業テーマ**	パターンメーキング3級検定試験対策講座（記述）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ブラウスBの身頃（前・後ろ）の製図を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ブラウスBの身頃（前・後ろ）の製図の練習をする。「パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック」ファーストパターンメーキング～（60～75）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分

第6回	授業テーマ	パターンメーキング3級検定試験対策講座（記述）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ブラウスBの点検、袖のバリエーション1（基本セットインスリーブ、パフスリーブA）の製図を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ブラウスBの修正、袖のバリエーション1の練習をする。「パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック」袖（100～109）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	パターンメーキング3級検定試験対策講座（記述）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	袖のバリエーション2（パフスリーブB、他）の製図を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	袖のバリエーション2の練習をする。「パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック」袖（100～109）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	パターンメーキング3級検定試験対策講座（記述）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	工業パターン（スカート他）の製図を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	工業パターン（スカート他）の練習をする。「パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック」ドレーピングの基礎（134～139）、工業パターンメーキング（160～183）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	パターンメーキング3級検定試験対策講座（記述）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	工業パターンの点検、各製図、過去の問題を確認して理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	工業パターンの点検後の修正、製図、過去の問題集、工業パターンの試験準備する。「パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック」工業パターンの基礎知識（184～217）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	授業テーマ	パターンメーキング3級検定試験対策講座（記述）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各製図、グレーディング、過去の問題を確認し、理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	製図、過去の問題集、工業パターンの試験準備をする。「パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック」グレーディング（220～225）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	**授業テーマ**	パターンメーキング3級検定試験対策講座（実技）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ブラウスAの実物製図、シーチングの扱い、ライン入れ、ピン打ちを学ぶ。（製図・立体組み立て点検をする。）
	教室外学習(予習・復習)の内容	ブラウスAの実物製図、ピン打ちの練習をする。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	**授業テーマ**	パターンメーキング3級検定試験対策講座（実技）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ブラウスAの実物製図を時間内で組み立てて要点を理解する。（製図・立体組み立て点検をする。）
	教室外学習(予習・復習)の内容	ブラウスAの実物製図、ピン打ちの練習をする。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	**授業テーマ**	パターンメーキング3級検定試験対策講座（実技）・生地準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ブラウスBの実物製図、シーチングの扱い、ライン入れ、ピン打ちを学ぶ。（製図・立体組み立て点検をする。）、試験用のシーチングのアイロン掛け、ライン入れ、道具の準備をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ブラウスBの実物製図、ピン打ちの練習をする。
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	**授業テーマ**	パターンメーキング3級検定試験対策講座（実技）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ブラウスBの実物製図、シーチングの扱い、ライン入れ、ピン打ちを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ブラウスBの実物製図、ピン打ちの試験準備をする。
	教室外学習の時間（分）	50分

学生へのフィードバック方法

製図の点検とともにコメントする。

評価方法

平常点、製図、立体について、ルーブリックを用いて評価する。（ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配付等によって指示する。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
製図、組み立て	○	○	○	○

評価割合

平常点20%、製図40%、立体40%

使用教科書名(ISBN番号)

パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック
日本ファッション教育振興協会

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の中にある諸課題についての知識を深める。【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。【技術・表現】社会の中にある課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

オフィスアワー

木曜日12:30～14:00

学生へのメッセージ

検定試験は12月上旬にあります。記述試験に関してはテキストをよく読んでください。また、製図は、前期（生活デザイン演習C）で基本的な身頃、袖、衿を、後期（生活デザイン演習D）で衿、袖の展開とシーチングの立体組み立てを行いますので、前期から計画的に履修してください。なお、パターンメーキングの知識、技術を深めたい学生は、検定試験の受験の有無に関わらず履修してもかまいませんが、欠席しないようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03104311
講義名	生活デザイン演習Ｃ（花田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	花田 朋美	指定なし

ナンバリング

D21205M12

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業や、学外学内のイベントへの参加、学外見学などのプログラムを実施する。内容は、プログラムを設定する教員によって異なり、複数のプログラムが設定される予定である。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点 (K)	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることできる。
技術・表現の観点 (A)	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

ポリ乳酸繊維の活用を考える

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業スケジュールと取り組み内容について解説。

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復〕スケジュールと内容の確認。身近な環境問題について調べる。
	教室外学習の時間（分）	30分
第2回	授業テーマ	私たちの生活を見直してみよう（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活の中の環境負荷についてディスカッションする。 私たちの日々の生活は世界と繋がっていること理解し、身近な環境問題について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕生活の中の環境負荷について調べる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	私たちの生活を見直してみよう（２）－プラスチック編ー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身のまわりにあるプラスチックについてテーマを絞り、どのように作られ、どのように使われ、廃棄されているのかディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕身のまわりのプラスチック製品について調べる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	私たちの生活を見直してみよう（３）－プラスチック編ー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身のまわりにあるプラスチックについてテーマを絞り、どのように作られ、どのように使われ、廃棄されているのかディスカッションを行い、問題点を抽出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕身のまわりのプラスチック製品について調べる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	生分解性繊維ってなんだろう？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ポリ乳酸繊維を代表とする生分解性繊維はどのようなものか解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕生分解性繊維について調べる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	生分解性ポリ乳酸繊維の活用（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ポリ乳酸繊維を実際に触って、活用例などを解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕ポリ乳酸繊維について調べる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	生分解性ポリ乳酸繊維の活用（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ポリ乳酸繊維布を染色する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕分散染料の染色方法について調べる。

	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	生分解性ポリ乳酸繊維の活用（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ポリ乳酸繊維を身近な繊維として活用するための方法についてディスカッションし検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕ポリ乳酸繊維の活用法を検討する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	生分解性ポリ乳酸繊維の活用（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ポリ乳酸繊維を一般の方に広く知ってもらうための方法をディスカッションし検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕ポリ乳酸繊維の活用法を検討する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	生分解性ポリ乳酸繊維の活用（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ポリ乳酸繊維を一般の方に広く知ってもらうための方法をディスカッションし検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕ポリ乳酸繊維の活用法を検討する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	生分解性ポリ乳酸繊維の活用（６）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ポリ乳酸繊維布を使った小物を作りの方法を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕ポリ乳酸繊維の活用法を検討する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	生分解性ポリ乳酸繊維の活用（６）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ポリ乳酸繊維布を使った小物を作りの方法を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕ポリ乳酸繊維の活用法を検討する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	持続可能な暮らしのために…（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	持続可能な暮らしのために必要なことは何かディスカッションし考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕持続可能性、SDGsについて調べる。
	教室外学習の時間（分）	45分

第14回	授業テーマ	持続可能な暮らしのために…。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	持続可能な暮らしのために必要なことは何かディスカッションし考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕持続可能性、SDGsについて調べる。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

複数回の授業を、まとめて実施することがあります。また状況により、計画が変更される可能性もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業（ディスカッションや作業時）において、アドバイスを行う。発表会での講評。参加報告書へのコメント。

評価方法

①課題（内容の理解、構成、表現、提出期限の順守を評価）
②平常点（ディスカッションでの提案力、調整力、行動力、コミュニケーション能力、課題への取り組みの姿勢を評価）
評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

課題50% 平常点50% を総合的に評価

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】グローバルな視点から、社会ある諸課題についての知識と理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、分析、整理し、考察すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の諸問題に積極的に関心を持つこと。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。

オフィスアワー

木曜日１２時４０分～１４時２０分 ２４０７被服材料学研究室

学生へのメッセージ

積極的に参加してほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション、協同作業の実施。
情報リテラシー教育	○	課題に対する情報を収集し、整理、分析して、発表する。
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション

講義コード	G03104312
講義名	生活デザイン演習Ｃ（原口）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	原口 秀昭	指定なし

ナンバリング

D21205M12

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03104313
講義名	生活デザイン演習Ｃ（小川）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	小川 圭子	指定なし

ナンバリング

D21205M12

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03104314
講義名	生活デザイン演習Ｃ（森）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	森 朋子	指定なし

ナンバリング

D21205M12

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03104315
講義名	生活デザイン演習Ｃ（嶋田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	嶋田 芳男	指定なし

ナンバリング

D21205M12

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03104317
講義名	生活デザイン演習Ｃ（富田2）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

D21206M12

授業概要(教育目的)

（集中授業）
舞台衣装（オペラまたはバレエ）の制作ではデザイン・プレゼンテーション・仮縫い・フィッティング・本縫いを行い、公演ではゲネプロ・本番に参加して衣装を管理する。これらの過程から基礎的な知識と技術を習得し、スタッフと協力して総合的芸術を創作する力を身に付けることが目的である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	社会の中にある諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

生活デザイン演習D（富田3）

第1回	**授業テーマ**	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	DVDやオペラ公演を観てあらすじ、時代背景、役柄などを把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	DVD等の衣装をスケッチし、デザインを参考にしてイメージを膨らませること。
	教室外学習の時間（分）	45分

第2回	授業テーマ	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣装および頭飾りや小道具などのデザインをし、デザイン画を描き、色彩、素材を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デザイン画の下描きをすること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デザイン画に彩色して仕上げる。デザイン画を仕上げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デザイン画を仕上げる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	素材とデザイン画を用意して演出家、脚本家などにプレゼンテーションを行う。（デザインが決定する。）
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンテーションのパワーポイントや資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生地標本から材料を決定して調達する。製図を書く。
	教室外学習(予習・復習)の内容	製図を完了させる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	製図（点検）、型紙つくり、裁断をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	印つけまで完了させる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	仮縫いの方法を理解し、縫いまとめる。
	教室外学習(予習・復	仮縫いまとめを完了させる。

	習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フォッティングを行い、補正、変更等を入れる。表面装飾の材料を調達する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	製図、型紙を修正し、本縫いの準備をする。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣装および頭飾りの本縫い1を行い、小道具を制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	続きの本縫い1等を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣装および頭飾りの本縫い2を行い、小道具を制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	続きの本縫い2等を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣装および頭飾りの本縫い3を行い、小道具を制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	続きの本縫い3等を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣装および頭飾りの本縫い4を行い、小道具を制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	続きの本縫い4等を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	衣装および頭飾りの本縫い5を行って仕上げる。小道具を仕上

第13回	ｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	げる。昨年のオペラ衣装(展示）とボディ、パネルを用意し、大学からの搬出準備をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	搬出準備を完了させる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	会場に衣装を搬入する。ゲネプロ、衣装管理、ロビーに衣を展示する。舞台上で確認して衣装の裾合わせと裾上げをする。頭飾りのとヘアスタイルの打合せを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	裾上げを完了させる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第15回	授業テーマ	舞台衣装のデザイン・制作・管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公演当日は、衣装着替えの補助、衣装管理（汚れ除去、アイロンかけなど）、衣装と展示の片付け、会場から搬出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	大学にて衣装や小道具等の片付けをする。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

通常は対面授業であるが、新型コロナウイルス感染状況によっては遠隔授業に変更する場合がある。また、会場での活動ができず、オンライン公演になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

プレゼンテーション、衣装作品に対するコメント

評価方法

平常点（授業への参加状況、提出期日などで総合的に判断する）、プレゼンテーション、衣装作品

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
オペラ衣装	○	○	○	○

評価割合

平常点40%、衣装作品60%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の中にある諸課題についての知識を深める。【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】社会

の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。
【技術・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

オフィスアワー

木曜日 12:30～14:00

学生へのメッセージ

舞台衣装の制作は、日常着用しないスタイルや材料を使用する衣服です。今まで衣服を作ったことのない方、もっと技術を磨きたい方、ステージ裏の作業を経験したい方など興味のある方は参加してください。衣服制作が初めての方は、グループで取り組んで部分的な箇所を担当していただき、また、頭飾りなどを担当していただきますのでご心配なさらないでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学生の能動的な参加である。演出家、脚本家、ソリストなどと打ち合わせ、外部の会場にて開催するに当り、発見やトラブルが生じることがあり、これらから問題解決能力や社会的能力の成長を目指している。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03104701
講義名	服飾造形実習Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	富田　弘美	指定なし

ナンバリング

D22202M23

授業概要(教育目的)

上半身を覆うブラウスまたはシャツのデザイン・製作が課題である。デザインはフォーム・カラー・テキスタイルなど自由で発想豊かなものを設計し、身頃・袖・衿の製図、裁断、縫製、基礎縫い（袖口の開き）を習得し、立体的な人体の上半身・腕・頸の構造と衣服の平面的なパターンとの関係および身頃原型の使い方について学ぶことが目的である。

履修条件

「服飾造形実習Ａ」「アパレル設計論」を履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	衣服に関する分野の諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	衣服に関する分野の諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣服に関する分野の諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つことができる。

学習計画

服飾造形実習B

	授業テーマ	ブラウス・シャツ・ハーフパンツの課題説明、レポート、材料、計測、デザイン条件の説明、製図1（身頃原型の使い方）、ハーフパンツの裁断・縫製1

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デザイン条件、ブラウスの種類、材料（生地・糸）、レポート課題説明、人体計測、および製図では身頃原型の置き方、ハーフパンツの裁断を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ブラウス・シャツのデザインを考える。2年前期「アパレル設計論」で作成した身頃原型を使用する。ハーフパンツの製図を持参すること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	授業テーマ	製図2（ブラウス・シャツの身頃・衿）、デザイン（相談）2、ハーフパンツの縫製2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自のサイズでブラウス・シャツの身頃と衿の製図とデザイン、ハーフパンツの縫製の仕方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ブラウス・シャツのデザインを決めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	授業テーマ	デザイン（決定）3、ハーフパンツの縫製3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デザインの決定とデザイン画、ハーフパンツの縫製方法を学ぶ。、
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自のサイズによる実物大のブラウス・シャツの製図を仕上げること。生地の選定をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	授業テーマ	製図3（袖・展開）、ブラウス・シャツのパターン作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	袖（セットインスリーブ・パフスリーブ・シャツスリーブ）の製図とその展開、布帛のブラウス・シャツのパターン、生地の地直しの仕方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パターンを完成させ、次回まで生地を購入し、地直しを済ませておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	製図4（点検）、ブラウス・シャツの生地の裁断・接着芯・印付け
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	裁断、接着芯の張り方、印付け（チャコペーパー・切りじつけ）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	地直しをした生地を持参すること。次回までに印つけまで進めること。
	教室外学習の時間（分）	90分
6	授業テーマ	仮縫い1（縫い方）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	仮縫いの手順について学ぶ。

第 回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	仮縫いを完成させること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	授業テーマ	仮縫い2（点検）、本縫い1（ダーツ、ヨーク、肩、前立、ポケット）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	仮縫い点検後の補正の仕方を学ぶ。さらにダーツ、ヨーク、肩、前立て、ポケットなどを本縫いする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	仮縫い点検ができるように縫いまとめを完成させ、補正を記入しておくこと。 ミシン糸を持参すること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	本縫い2（衿づくり）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衿（シャツカラー・フラットカラー・台衿付きシャツカラー）の作り方、衿（シャツカラー・フラットカラー・台衿付きシャツカラー）の付け方の違いを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	衿付けまでを終わらせておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	本縫い3、部分縫い（袖づくり、袖口、カウス）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	袖（セットスリーブ・シャツスリーブ）の作り方、袖口の開きの始末２（短冊開き、スラッシュ開き）、カウスの作り方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	袖・袖口の開き、カウス付けまでを終わらせておくこと。・衿付け
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	本縫い4（袖付け）、中仮縫い（点検）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	セットスリーブ・シャツスリーブの付け方の違い、セットインスリーブのいせ込みによる立体化、中仮縫いの仕方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	袖付けまでを完成させること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	授業テーマ	本縫い5（裾上げ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	裾上げを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	裾上げまで済ませておくこと。
	教室外学習の時間	90分

	（分）	
第12回	授業テーマ	ボタンホール（ミシン）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基礎縫い（ボタンホールの手かがり）、ミシンのボタンホールを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ボタンホールを済ませること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	ボタン付け、仕上げ、発表準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ボタン付け、仕上げについて学ぶ。また、デザインの特徴、縫製ポイント、生地名や素材、製作に対する問題点・反省点など発表について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ブラウス・シャツを完成させること。また、発表は時間内でできるように練習すること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	ブラウス・シャツの着装発表（ミニフロアショー）、発表（作品のデザインと製作）、写真撮影（スタジオにて）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ブラウス・シャツとのコーディネイトを考えて着装し、自分らしさを表現する。また、デザインの特徴、縫製ポイント、生地名や素材、製作に対する問題点・反省点などの発表について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ブラウス・シャツ・パンツの提出、発表準備をすること。
	教室外学習の時間（分）	90分

学生へのフィードバック方法

製図・基礎縫い、作品のコメント

評価方法

平常点（授業への参加・状況、提出期日などで総合的に判断する）製図、基礎縫い、作品、発表について、ルーブリックを用いて評価する。（ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配付等によって指示する。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
製図	○	○	○	○
部分縫い	○	○	○	○
作品	○	○	○	○
発表	○	○	○	○

評価割合

平常点20%（授業への参加・状況、提出期日などで総合的に判断する）、製図10%、基礎縫い10%、ブラウス（デザイン・パンツの縫製など）40%、発表20%

使用教科書名(ISBN番号)

適宜プリント配付

参考図書

なし、

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】衣分野の諸課題についての知識を深める。【思考・判断】衣分野の諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】衣分野の諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。【技術・表現】他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

オフィスアワー

金曜日12:30～14:50

学生へのメッセージ

この授業のブラウス・シャツの身頃・衿・袖を習得すると、日常着用している衣服（アパレル商品）の構成や縫製などがよくわかり、各自がデザインしたブラウスを形にすることができるようになります。なお、やむを得ず欠席した場合は連絡を入れてください。次回の授業までに遅れを取り戻すための指示をいたします。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	ネットなどでブラウスのデザインを収集する。

講義コード	G03105201
講義名	ゼミナールA（石綱）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	石綱 史子	指定なし

ナンバリング

D31207M12

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。

履修条件

なし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点 (K)	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることできる。
技術・表現の観点 (A)	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	演習内容についてのガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	演習の目的、進め方について解説する。 この演習は、各回を「1分間スピーチ」、「文章を読み要約し、発表する」、「各自が決めたレポートテーマに取り組む」の3部構成とする。

	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：演習の目的、進め方について理解する。 予習：1分間スピーチを準備する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	卒業研究とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本学科の卒業研究の要件、進め方について実例を挙げて解説する。 卒業研究要旨を読む、1分間スピーチ
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：1分間スピーチを準備する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	文献の探し方①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文献の種類と、探し方について解説する。 この演習は、各回を「1分間スピーチ」、「文章を読み要約し、発表する」の3部構成とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：演習の目的、進め方について理解する。 予習：1分間スピーチを準備する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	文献の探し方②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館やネットを使って、学術論文を探してみる。 1分間スピーチ、自分の興味のあるテーマの論文を探す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：1分間スピーチを準備する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	卒業研究の要旨を読む①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自興味のあるテーマの卒業研究要旨を選び、読み、要約し、発表する。 1分間スピーチ
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：1分間スピーチを準備する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	卒業研究の要旨を読む②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自興味のあるテーマの卒業研究要旨を選び、読み、要約し、発表する。 1分間スピーチ
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：1分間スピーチを準備する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	**授業テーマ**	卒業研究の要旨を読む③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自興味のあるテーマの卒業研究要旨を選び、読み、要約し、発表する。 1分間スピーチ
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：1分間スピーチを準備する。

	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	**授業テーマ**	卒業研究の要旨を読む④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自興味のあるテーマの卒業研究要旨を選び、読み、要約し、発表する。 1分間スピーチ
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：1分間スピーチを準備する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	**授業テーマ**	卒業研究の要旨を読む⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自興味のあるテーマの卒業研究要旨を選び、読み、要約し、発表する。 1分間スピーチ
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：1分間スピーチを準備する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	**授業テーマ**	文献を読む①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文献の種類を解説する。各自、興味のある一般的な文章または初歩的な文献を探す。 1分間スピーチ
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：1分間スピーチを準備する。興味のある文章を探す。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	**授業テーマ**	文献を読む②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自選んだ一般的な文書または初歩的な文献を、読み、要約し、発表する。 1分間スピーチ
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：1分間スピーチを準備する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	**授業テーマ**	文献を読む③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自選んだ一般的な文書または初歩的な文献を、読み、要約し、発表する。 1分間スピーチ
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：1分間スピーチを準備する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	**授業テーマ**	卒業研究のテーマを考える①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自、興味のある卒業研究のテーマを考え、目的、構成などを検討する。 1分間スピーチ
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：1分間スピーチを準備する。
	教室外学習の時間（分）	50分

第14回	授業テーマ	卒業研究のテーマを考える②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自のレポートとして取り上げたテーマについて発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：本演習で学んだことをまとめ、今後の学修に活用する。 予習：卒業研究で扱いたいテーマを検討する。
	教室外学習の時間(分)	50分

学習計画注記

第1回と第2回の授業はゼミナールA全テーマ合同の授業です。第3回目以降は担当教員別の授業で、各教員が指定する時間割と教室で授業を行います。
履修者数や演習の進み具合などにより、スケジュールや課題変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

演習中に随時ディスカッションを行い、フィードバックする。各課題は採点し、疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。

評価方法

平常点：課題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。
課題：1分間スピーチの準備状況、文献の読解力、要約緑、文章構成力など、各回の演習で課題を設定する。期限内に課題を提出できるか、設定した課題内容を理解し、課題を提出したかと課題の内容を総合的に判断して評価する。

課題はルーブリックに基づく評価とします。ルーブリック評価の方法は授業内で解説します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点		○	○	
課題	○			○

評価割合

平常点50%、課題50%で総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

適宜、資料を印刷・配付する。

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。

オフィスアワー

月曜日2限 3609研究室

学生へのメッセージ

石綱担当分では、基礎的な話す・書く・読む・考える力の向上を目的としています。4年次で取り組む卒業研究の実施内容を理解し、初歩的な学術論文を正しく読めるようになることを目標としています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自ら興味がある文献を探し、読み、要約し、発表する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03105202
講義名	ゼミナールA（呉）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	呉 起東	指定なし

ナンバリング

D31207M12

授業概要(教育目的)

ゼミナールA・B：生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から、各分野 の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
思考・判断の観点 (K)	多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信

学習計画

ゼミナールA

	授業テーマ	全体ガイダンス（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各担当教員のテーマ説明① （石綱・呉・小池・斎藤・佐々木・澤田・白井・千葉）

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	全体ガイダンス（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各担当教員のテーマ説明② （富田・花田・原口・深石・森・加地・嶋田・西口）
	教室外学習(予習・復習)の内容	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	グラフィックの基本１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グラフィックデザインの基本を学び各自の作品に応用する
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自のテーマを決め作品を制作する
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	グラフィックの基本２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グラフィックデザインの基本を学び各自の作品に応用する
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自のテーマを決め作品を制作する
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	グラフィックのまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作品の発表を行い作品についてディスカションを行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品の報告書を書く
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	**授業テーマ**	写真の基本１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	写真の基本を学び各自の作品に応用する
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自のテーマを決め作品を制作する
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	写真の基本２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	写真の基本を学び各自の作品に応用する
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自のテーマを決め作品を制作する
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	写真の基本３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	写真の基本を学び各自の作品に応用する
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自のテーマを決め作品を制作する
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	写真のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作品の発表を行い作品についてディスカションを行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品の報告書を書く
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	映像の基本１

第10回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映像の基本を学び各自の作品に応用する
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自のテーマを決め作品を制作する
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	映像の基本２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映像の基本を学び各自の作品に応用する
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自のテーマを決め作品を制作する
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	映像の基本３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映像の基本を学び各自の作品に応用する
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自のテーマを決め作品を制作する
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	映像のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作品の発表を行い作品についてディスカションを行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品の報告書を書く
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	プレゼンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全体作品を振りかえを行い作品についてディスカションを行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	全作品の報告書を書く
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回授業の最後に感想や質問を提出させて、次回に感想や質問について解説を行う。別の質問などがある場合は研究室1307（E-mailも可）まで訪問すること。

評価方法

課題は６０点満点で課題の結果とプレゼンテーションで評価を行う。評価の基準は３つの基準は「課題の理解」「誠実さ」「デザイン性」で５段階評価を行う。レポートと最終報告書は２０点満点で課題と同じく３つの基準を５段階評価で行う。平常点は２０点満点で１５回を通して「背極的な授業の参加、態度」「背極的なディスカション」を基準に加点及び減点を行います。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

課題80%
平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

必要に応じて提示する。

ディプロマポリシーとの関連

【【知識・理解】情報 について、専門的知識・技術を有している。【思考・判断】多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。【関心
・意欲・態度】積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

オフィスアワー

月曜日３限、４限

学生へのメッセージ

グラフィックデザイン、写真、映像の基本を理解してゼミナールBや卒業研究A,Bの基礎に役立つために積極的に課題に取り込んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら調べ、発表する。
情報リテラシー教育	○	情報そのものと情報の伝達をするための情報の収集、分類、基本的な表現スキルを教育する。
ICT活用	○	情報収集、作品制作、発表のために、PCや通信機器を活用する。

講義コード	G03105204
講義名	ゼミナールＡ（小池）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小池　孝子	指定なし

ナンバリング

D31207M12

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	自ら設定した課題に対し、グローバルな視点に立ち、「住」をはじめとする家政学の各分野の知識を深めて理解する。
思考・判断の観点(K)	社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点(A)	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今後の進め方についてのガイダンス
	教室外学習(予習・復習)の内	（予習）ゼミナールおよび卒業研究でやりたいことを

	容	考える
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	授業テーマ	社会調査の方法について・研究課題の検討（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会調査の意義と方法についての講義 （アクティブラーニング：グループワーク） 各自の問題意識に基づき研究課題としたいテーマについて検討する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）興味のあるテーマを抽出し、レジュメにまとめる
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	研究課題の検討（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 各自の問題意識に基づき研究課題としたいテーマについて検討する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）興味のあるテーマを抽出し、レジュメにまとめる
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	授業テーマ	先行研究レビュー（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 研究テーマに関する先行研究をレビューしまとめたものを持ち寄り、発表しディスカッションをおこなう
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）先行研究を検索し、要約をレジュメにまとめる
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	先行研究レビュー（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 研究テーマに関する先行研究をレビューしまとめたものを持ち寄り、発表しディスカッションをおこなう
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）先行研究を検索し、要約をレジュメにまとめる
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	フィールドワーク調査の立案（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 研究テーマに関するフィールドワーク調査を立案し、発表しディスカッションをおこなう
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）先行研究を検索し、各自の研究テーマに合った調査方法についてレジュメにまとめる
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	フィールドワーク調査の立案（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 研究テーマに関するフィールドワーク調査を立案し、発表しディスカッションをおこなう
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）先行研究を検索し、各自の研究テーマに合った調査方法についてレジュメにまとめる
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	フィールドワーク調査の実施（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 立案した調査計画に基づき、フィールドワーク調査をおこなう
	(　　)	

	教室外学習 予習・復習 の内容	（復習）フィールドワーク調査結果を資料として整理する
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	フィールドワーク調査の実施（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 立案した調査計画に基づき、フィールドワーク調査をおこなう
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）フィールドワーク調査結果を資料として整理する
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	授業テーマ	フィールドワーク調査の実施（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 立案した調査計画に基づき、フィールドワーク調査をおこなう
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）フィールドワーク調査結果を資料として整理する
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	授業テーマ	フィールドワーク調査の実施（4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 立案した調査計画に基づき、フィールドワーク調査をおこなう
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）フィールドワーク調査結果を資料として整理する
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	授業テーマ	フィールドワーク調査のまとめ（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） フィールドワーク調査の結果についてディスカッションし、まとめる
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）フィールドワーク調査結果についてまとめる
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	授業テーマ	フィールドワーク調査のまとめ（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） フィールドワーク調査の結果についてディスカッションし、まとめる
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）フィールドワーク調査結果についてまとめる
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	授業テーマ	全体のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究全体を振り返り、ディスカッションをおこなう
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）ディスカッションする内容をレジュメにまとめる
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

第1回と第2回の授業はゼミナールA全テーマ合同の授業です。第3回目以降は担当教員別の授業で、各教員が指定する時間割と教室で授業を行います。
履修者数や各自の希望する研究テーマによって授業内容が変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

ゼミでは研究の進捗に関するレジュメを毎回用意して発表し教員の指導を受ける。全員でのグループディスカッションを実施するので、積極的に議論に参加すること。
毎回のゼミに必ず出席すること。やむなく欠席する場合にはオフィスアワー等を利用して個別指導を受けること。

評価方法

課題については、問題設定の着眼点・独自性、調査研究の精度、結論に至る論理構成について評価する。
平常点については、授業（ゼミ）への参画状況、研究への取り組みの積極性、計画的な研究の遂行について評価する。
なお、評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○	○	○
平常点	○	○	○	

評価割合

課題の完成度50%、平常点50%とし、総合的に評価する

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
・グローバルな視点から「住」をはじめとする家政学の各分野についての知識を深めて理解する
【思考・判断】
・社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる
【関心・意欲・態度】
・社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる
【技能・表現】
・家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている

オフィスアワー

金曜２時限　3508研究室

学生へのメッセージ

身近な住生活課題の解決のために、論文・設計作品による提案を行うのが卒業研究です。卒業研究に向けて、課題解決・提案の手法について学びましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業はゼミ形式で実施する。研究の進捗について毎回発表、グループディスカッションを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03105206
講義名	ゼミナールA（佐々木）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	佐々木 麻紀子	指定なし

ナンバリング

D31207M12

授業概要(教育目的)

ゼミナールA・B：生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	被服整理分野の研究対象に必要な基礎を理解する
思考・判断の観点 (K)	被服整理分野を主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	必要な資料の収集ができる
技術・表現の観点 (A)	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①授業概要を理解し、これからの演習計画を立てる。 ②課題1 被服整理学の先行研究論文を読み、内容を要約する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：前後期時間割を作成し卒業研究へつながる演習計画を立てる。

		復習：課題の文章を要約し発表用資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	30分
第2回	**授業テーマ**	文献を探す
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題2 文献の種類と探し方について理解し、各自興味ある文献を探し、輪読し論文の内容について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：リテラシー演習の教科書等で、文献の探し方及び論文の要約方法を確認する。 復習：課題論文を要約し、解説資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	文献を探し、論文を読む
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題2 文献の種類と探し方について理解し、各自興味ある文献を探し、要約及び解説をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：リテラシー演習の教科書等で、文献の探し方及び論文の要約方法を確認する。 復習：課題論文を要約し、解説資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	文献を探し、論文を読む
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題2 文献の種類と探し方について理解し、各自興味ある文献を探し、要約を解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：リテラシー演習の教科書等で、文献の探し方及び論文の要約方法を確認する。 復習：課題論文を要約し、解説資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	被服整理学演習1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題3 被服整理学分野に関わる演習を行い、被服整理学分野の課題を見つける
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：指定した資料を読む 復習：演習で行った結果をまとめておく
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	被服整理学演習2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題3 被服整理学分野に関わる演習を行い、被服整理学分野の課題を見つける
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：指定した資料を読む 復習：演習で行った結果をまとめておく
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	被服整理学演習3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題3 被服整理学分野に関わる演習を行い、被服整理学分野の課題を見つける
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：指定した資料を読む 復習：演習で行った結果をまとめておく
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	被服整理学演習4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題3 被服整理学分野に関わる演習を行い、被服整理学分野の課題を見つける
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：指定した資料を読む 復習：演習で行った結果をまとめておく
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	被服整理学演習5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報	課題3 被服整理学分野に関わる演習を行い、被服整理学

第9回	リテラシー教育・ICT活用を含む)	分野の課題を見つける
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：指定した資料を読む 復習：演習で行った結果をまとめておく
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	授業テーマ	被服整理学演習6
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	課題3 被服整理学分野に関わる演習を行い、被服整理学分野の課題を見つける
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：指定した資料を読む 復習：演習で行った結果をまとめておく
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	まとめ1
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	課題4 演習で学んだことをまとめ、発表する
	教室外学習(予習・復習)の内容	演習で行った結果をまとめておく
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	まとめ2
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	課題4 演習で学んだことをまとめ、発表する
	教室外学習(予習・復習)の内容	本演習で学んだことをまとめ、発表する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	まとめ3
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	課題4 演習で学んだことをまとめ、発表する
	教室外学習(予習・復習)の内容	本演習で学んだことをまとめ、発表する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	まとめ4
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	課題4 演習で学んだことをまとめ、発表する
	教室外学習(予習・復習)の内容	本演習で学んだことをまとめ、発表する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

受講人数によっては課題やスケジュールが変更になる場合があります。授業内容によってはPCが必要になりますので、各自で用意して下さい。

学生へのフィードバック方法

演習中に随時ディスカッションを行い、フィードバックします。

評価方法

平常点と課題で評価します。
平常点は授業への積極的な参加態度や演習への取り組み状況を総合的に評価します。
課題1,2は読解力、文章構成力などを総合的に判断します。
課題3,4は演習内容の理解、課題解決の方法および結果を正確に表現できるかを評価します。
学修成果の公平で客観的な評価の実施に向けて、ルーブリックを用いた評価を行います。
ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示をします。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
課題	○	○	○	○

評価割合

平常点60%、課題40%で評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。

オフィスアワー

月曜2時限 2406研究室

学生へのメッセージ

文献の探し方、文献を読み要約することを学びます。また演習を通して被服整理学分野でどんな課題があるのか自ら文献調査することで新たな課題を発見することを目指します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	課題に関する情報を収集・分析・整理する。
ICT活用	○	情報収集や課題作成のために、PCや通信機器を活用する。

講義コード	G03105207
講義名	ゼミナールA（澤田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	澤田 雅彦	指定なし

ナンバリング

D31207M12

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
澤田が担当する授業では、「デザイントレーニング」のテーマで、
手を動かして、自分の考えを表現すること、伝えること、そして、デザインを考えることを実践する。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	デザインに関する知識と理解を深めること。
思考・判断の観点 (K)	自らの意図や思考に基づき、自分が表現したいことを論理的に考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会とデザインと自分自身の学びを関連づけて考えることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業内容と日程の説明。

	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容についての予備調査。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	**授業テーマ**	デザインの進め方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デザインの考え方と手順・手法の再確認。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デザインについての自分の考え方をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	**授業テーマ**	研究の方法について（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマの設定、研究の考え方と意味などについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマの具体的な検討。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	**授業テーマ**	研究の方法について（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の手順とレポート・論文のまとめ方について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	過去の卒業研究要旨と研究論文の確認。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	**授業テーマ**	研究発表の方法（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究発表のためのレジメの作成、発表原稿のまとめ方、口頭発表の方法について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	過去の卒業研究要旨と研究論文の確認。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	**授業テーマ**	研究発表の方法（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究発表のためのレジメの作成、発表原稿のまとめ方、口頭発表の方法について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	過去の卒業研究要旨と研究論文の確認。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	**授業テーマ**	研究課題の検討（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の研究テーマを検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマの具体的な検討。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	**授業テーマ**	研究課題の検討（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の研究テーマを決定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマと、研究の進め方の検討。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	**授業テーマ**	デザインに関する課題の調査・研究（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の研究を進め、進捗状況の報告とディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	資料収集と調査。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	**授業テーマ**	デザインに関する課題の調査・研究（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の研究を進め、進捗状況の報告とディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	資料収集と調査。
	教室外学習の時間（分）	50分

第11回	授業テーマ	デザインに関する課題の調査・研究（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の研究を進め、進捗状況の報告とディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	資料収集と調査。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	授業テーマ	デザインに関する課題の調査・研究（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の研究を進め、進捗状況の報告とディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	資料収集と調査。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	授業テーマ	研究のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究内容をまとめて発表の準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表のための資料や発表原稿の作成。
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	授業テーマ	研究発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の研究結果の発表
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表のための資料や発表原稿の作成。
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

授業計画は、各課題の進捗状況を考慮して変更します。

学生へのフィードバック方法

研究内容や提出物については、14回目の作品の発表会でコメントします。

評価方法

１．平常点は各回授業の内容に対する積極性や、ディスカッション等への参加状況で評価する。
２．課題やレポートについては、研究の過程や手順・工夫を、正確に分かりやすく示しているか、といった観点で評価する。
評価はルーブリックに基づいて行うことを予定しています。ルーブリックはGoogleクラスルームか初回授業で提示する予定です。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題・作品等の完成状況	○	○		○
平常点		○	○	

評価割合

課題・レポート等の完成状況50%、平常点50%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】デザインに関する知識と理解を深めること。
【思考・判断】デザインについての諸課題を自ら発見し、それを解決するために論理的な思考ができること。
【関心・意欲・態度】社会とデザインと自分自身の学びの関わりに積極的に関心を持つこと。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。

オフィスアワー

前期月曜日3時限 1503研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03105208
講義名	ゼミナールA（白井）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	白井 篤	指定なし

ナンバリング

D31207M12

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	新聞や雑誌、書籍などを読んで、その内容を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	新聞や雑誌、書籍などを読んで、自分の意見を持つと共に、問いを立てることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	「知識・理解の観点」「思考・判断の観点」で得た、知識・理解及び思考・判断をレポートにまとめることができると共に、そのまとめた内容を相手に正しく伝わるように話すことができる。

学習計画

	授業テーマ	全体ガイダンス（１） 各担当教員のテーマ説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	各担当教員のテーマについて理解できる。

第1回	育・ICT活用を含む)	各担当教員のテーマについて興味・関心を持つ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	興味・関心を持ったテーマについて、書籍、雑誌、インターネットなどを用いて調べる。
	教室外学習の時間(分)	30
第2回	授業テーマ	全体ガイダンス（２） 各担当教員のテーマ説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各教員のテーマについて理解できる。 各教員のテーマについて興味・関心を持つ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	興味・関心を持ったテーマについて、書籍、雑誌、インターネットなどを用いて調べる。
	教室外学習の時間(分)	30
第3回	授業テーマ	個別ガイダンス 情報源の長所・短所を理解しよう。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	私達の身近な情報源として「新聞」「テレビ」「インターネット」の３つを取り上げて、それぞれの特徴を導き出すことで、新聞活用の意味を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。
	教室外学習の時間(分)	45
第4回	授業テーマ	新聞を比較しよう。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	複数の新聞の記事を比較することで、それぞれの新聞の特徴や、同じ出来事でも捉え方が異なることなどを理解する。（新聞を読む初歩として）
	教室外学習(予習・復習)の内容	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。
	教室外学習の時間(分)	45
第5回	授業テーマ	新聞活用（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新聞記事を要約し、プレゼンすることで、読む力、書く力、話す力の３つを養う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。
	教室外学習の時間(分)	45
第6回	授業テーマ	振り返り（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の授業を振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。
	教室外学習の時間(分)	45
第7回	授業テーマ	新聞活用（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新聞を見て、気になる記事を読み、それを要約する。
	教室外学習(予習・復	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着さ

	習)の内容	せる。
	教室外学習の時間（分）	45
第8回	**授業テーマ**	振り返り（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の授業で要約した新聞記事についてプレゼンテーションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	**授業テーマ**	ロジカルシンキング（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロジカルシンキングについて理解できること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	**授業テーマ**	ロジカルシンキング（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	問題となっている事柄を観察し、正しい方法で解決策や改善策を導き出す技術を身につける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	**授業テーマ**	ロジカルシンキング（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	問題となっている事柄を観察し、正しい方法で解決策や改善策を導き出す技術を身につける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	**授業テーマ**	新聞活用（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新聞記事を要約し、プレゼンすることで、読む力、書く力、話す力の３つを養う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	振り返り（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の授業を振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。
	教室外学習の時間	45

	（分）	
第14回	**授業テーマ**	最終課題作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「私の強み」というテーマで書く力を養う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	60
第15回	**授業テーマ**	最終課題のプレゼン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の課題についてプレゼンを行うことで、話す力を養う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	60

学生へのフィードバック方法

実施した課題については、採点・評価して次週の授業の初めに返却する。返却時に評価基準についての解説を行う。

評価方法

平常点については、授業で実施した課題の成果で評価する。最終課題については、書く力（レポート）と話す力（プレゼンテーション）で評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○		○
最終課題	○	○		○

評価割合

平常点（70%）と最終課題（30%）で総合評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特になし。

参考図書

適宜、資料を印刷、配付する。

ディプロマポリシーとの関連

知識・理解の観点（K）：新聞や雑誌、書籍などを読んで、その内容を理解することで、専門的知識･技術を有することにつなげている。
思考・判断の観点（K）：新聞や雑誌、書籍などを読んで、自分の意見を持つと共に、問いを立てることができる。このことは、社会の中にある諸課題を分析し、考察することができるにつながる。
技術・表現の観点（A）：「知識・理解の観点」「思考・判断の観点」で得た、知識・理解及び思考・判断をレポートにまとめることができると共に、そのまとめた内容を相手に正しく伝わるように話すことができる。

オフィスアワー

金曜日３時限及び４時限。３号棟６階３６０６研究室。できるだけ、メールなどで事前予約してください。

学生へのメッセージ

個別ガイダンス（第３回）で配付した授業予定表に従って行うので、事前に予習した上で、授業に臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教室内でのグループワークによる体験学習を通して、課題発見能力を養う。
情報リテラシー教育	○	課題を作成する上で、図書館の利用方法、文献探索方法などの情報活用能力を養う。
ICT活用		

講義コード	G03105209
講義名	ゼミナールＡ（千葉）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	千葉　一博	指定なし

ナンバリング

D31207M12

授業概要(教育目的)

（学生便覧掲載の授業科目概要）

ゼミナールA：生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。

履修条件

卒業要件単位を 46 単位以上修得していること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	ゲーム理論または情報科学の分野における基本的な知識や技術を概ね説明できる。
思考・判断の観点 (K)	学生間や教員との間での議論において問題を指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学生間や教員との間での議論に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	自らの考えを明確に表現できる。または、プログラミングの初歩的な技術を身につけている。

学習計画

	授業テーマ	ゲーム理論事始めまたはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教ICT	ゲーム理論について、入門的な内容を学習する。または、プログラミングなどを演習する。必携またはパソコン室や図書館の

第1回	育・　活用を含む)	PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: ゲーム理論について、内容を復習する。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間(分)	15
第2回	授業テーマ	情報科学事始めまたはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報科学について、その各分野と基礎から応用までの入門的な内容を学習する。または、プログラミングなどを演習する。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: 情報科学について、その各分野と基礎から応用までの内容を復習する。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間(分)	15
第3回	授業テーマ	テーマに関する議論またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲーム理論または情報科学の分野で、意欲的に取り組めるテーマについて議論する。または、プログラミングなどを演習する。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: ゲーム理論または情報科学の分野で、意欲的に取り組めるテーマについて考える。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間(分)	15
第4回	授業テーマ	文献に関する議論またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲーム理論または情報科学の分野で、意欲的に輪読できる文献について議論する。または、プログラミングなどを演習する。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: ゲーム理論または情報科学の分野で、意欲的に輪読できる文献を検索する。または、プログラミングにおける疑問点を挙げておく。
	教室外学習の時間(分)	30
第5回	授業テーマ	輪読の計画またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	輪読の計画について議論する。または、プログラミングなどを演習する。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 輪読する文献を調達する。または、プログラミングにおける疑問点を挙げておく。
	教室外学習の時間(分)	30
第6回	授業テーマ	文献の輪読またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲーム理論または情報科学の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。または、プログラミングなどを演習する。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・)	予習: 必要に応じ、輪読する部分を予習するまたはプログラミングにおける疑問点を挙げておく。 :

	復習 の内容	復習 輪読した部分を復習する。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間（分）	30 15
第7回	授業テーマ	文献の輪読またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲーム理論または情報科学の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。または、プログラミングなどを演習する。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 必要に応じ、輪読する部分を予習するまたはプログラミングにおける疑問点を挙げておく。 復習: 輪読した部分を復習する。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間（分）	30 15
第8回	授業テーマ	文献の輪読またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲーム理論または情報科学の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。または、プログラミングなどを演習する。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 必要に応じ、輪読する部分を予習するまたはプログラミングにおける疑問点を挙げておく。 復習: 輪読した部分を復習する。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間（分）	30 15
第9回	授業テーマ	文献の輪読またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲーム理論または情報科学の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。または、プログラミングなどを演習する。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 必要に応じ、輪読する部分を予習するまたはプログラミングにおける疑問点を挙げておく。 復習: 輪読した部分を復習する。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間（分）	30 15
第10回	授業テーマ	文献の輪読またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲーム理論または情報科学の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。または、プログラミングなどを演習する。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 必要に応じ、輪読する部分を予習するまたはプログラミングにおける疑問点を挙げておく。 復習: 輪読した部分を復習する。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間（分）	30 15
	授業テーマ	文献の輪読またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	ゲーム理論または情報科学の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。または、プログラミングなどを演習する。必携 PC

第11回	む)	またはパソコン室や図書館の　　を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 必要に応じ、輪読する部分を予習するまたはプログラミングにおける疑問点を挙げておく。 復習: 輪読した部分を復習する。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間(分)	30 15
第12回	授業テーマ	文献の輪読またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲーム理論または情報科学の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。または、プログラミングなどを演習する。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 必要に応じ、輪読する部分を予習するまたはプログラミングにおける疑問点を挙げておく。 復習: 輪読した部分を復習する。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間(分)	30 15
第13回	授業テーマ	理解したことのまとめまたはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲーム理論または情報科学の分野に関して、理解したことをまとめるまたはプログラミングなどを演習する。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: ゲーム理論または情報科学の分野に関して、理解したことをまとめて提出する。またはプログラムなどを仮提出する。
	教室外学習の時間(分)	105
第14回	授業テーマ	理解したいことのまとめまたはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲーム理論または情報科学の分野に関して、今後理解したいことをまとめるまたはプログラミングなどを演習する。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: ゲーム理論または情報科学の分野に関して、今後理解したいことをまとめて提出する。またはプログラムなどを提出する。
	教室外学習の時間(分)	105

学習計画注記

学生らとの議論を通してより意欲的に取り組めるよう方法などは変更する可能性がある。

学生へのフィードバック方法

理解したことのまとめまたはプログラムなどは、チェックして返却する。

評価方法

・平常点は、平常時の理解度や思考力等に基づいて総合的に判断する。

・最後のまとめは、理解したことの程度と今後理解したいことの明確さや独自性を確認する。プログラムなどは、情報処理の技術力を評価する。

・平常点、最後のまとめまたはプログラムなどは、下表に示す力を養うことを目的に評価する。

・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点		○	○	
まとめまたはプログラムなど	○	○		○

評価割合

平常点（50%）、最後のまとめまたはプログラムなど（50%）を総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

議論して考える

参考図書

議論して考える

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「衣」「住」「コミュニケーション・情報」「地域・園芸・ビジネス」「家庭科教育」の各分野について、専門的知識・技術を有している。グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。

【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。

【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。

【技術・表現】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。

オフィスアワー

月曜 15:30-17:00 1411研究室
早朝・深夜を除き、メールでも相談に応じる。
必要であれば、日時を調整してオンラインで対応する。

学生へのメッセージ

議論を通してコミュニケーション力を向上させましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に勉強・議論する、またはプログラミングなどを通して失敗から学ぶ。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03105210
講義名	ゼミナールA（富田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	富田 弘美	指定なし

ナンバリング

D31207M12

授業概要(教育目的)

服飾デザイン・造形の課題として舞台衣装・各アイテム・ショー作品を取り上げ、実際の公演やショーなどで使用する衣服をデザイン・制作する知識と技術を身に見つけることを学ぶ。また、学生が興味を抱いている領域、衣服に関するの問題点や研究事例などを調べて、研究・制作の方法や卒研の進め方などを学んで卒業研究に結びつくような課題を見つけ出すことを目的とする。

履修条件

服飾造形実習A、服飾設計論、服飾造形実習Bを履修していることが望ましい。
各自のPCを使用することがある。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	衣分野における諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	衣分野における諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣分野における諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	衣分野における課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

ゼミナールA（富田）

第1回	授業テーマ	卒業研究（オペラ衣装の制作）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究（卒研内容）、日程、発表時期、発表の仕方、制作の進め方、提出課題などを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	社会的に意義のあるテーマを考える。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	授業テーマ	衣装デザイン１ デザイン画１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	舞台衣装・各アイテムのデザイン（設計）、制作に関する資料の収集、コンセプト、色彩・材料選定、デザイン画表現、制作（採寸、製図、縫製技術、材料の扱いなど）全体的な進め方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デザイン・制作するアイテム（舞台衣装作品）、色彩・材料を考える。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	衣装デザイン２ デザイン画２ 卒業研究のテーマと目的１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	舞台衣装・各アイテムのデザイン（設計）、作品制作に関する資料の収集、コンセプト、色彩・材料選定、デザイン画表現、制作（採寸、製図、縫製技術、材料の扱いなど）全体的な進め方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デザイン・制作するアイテム（舞台衣装作品）、色彩・材料を考える。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	授業テーマ	衣装のデザイン３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	舞台衣装・各アイテムのデザイン（設計）、資料の収集、コンセプト、色彩・材料選定、デザイン画表現、制作（採寸、製図、縫製技術、材料の扱いなど）全体的な進め方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デザイン・制作するアイテム（舞台衣装作品）、色彩・材料を考える。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	制作１（計測、製図１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体計測の仕方、各アイテムの製図（身頃原型、胸ぐせ処理）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	製図の基礎線、胸ぐせ処理まで進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	制作２（製図２） 卒業研究のテーマと目的２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	各アイテムの製図、卒研のテーマ・目的を学ぶ。

第6回	教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	製図を仕上げておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	制作３（製図３・型紙）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各アイテムの製図・型紙を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	製図を仕上げておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	制作４（裁断、縫製、材料の扱い、仮縫い１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	裁断、印付け、仮縫いを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	印付け・仮縫いを仕上げておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	制作５（縫製技術）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デザインディテールの基礎縫い（例：ポケット、コンシールファスナー他）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	基礎縫いを仕上げておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	授業テーマ	制作６（仮縫い２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各アイテムの仮縫い点検を受け、補正の技術を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	補正箇所の製図、型紙、実物に修正を入れる。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	授業テーマ	制作７（本縫い１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各アイテムの縫製を学ぶ。舞台衣装（オペラ）のコンセプト・デザインについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	説明内容まで進めること。
	教室外学習の時間	50分

	（分）	
第12回	**授業テーマ**	制作８（本縫２）、舞台衣装のデザイン１、卒業研究のテーマと目的３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各アイテムの縫製を学ぶ。舞台衣装（オペラ）のコンセプト・デザイン、および、卒業研究のテーマと目的２を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	説明内容まで進めること。舞台衣装のデザイン、卒研について考えること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	**授業テーマ**	制作９（本縫い３）、舞台衣装のデザイン２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各アイテムの縫製を学ぶ。舞台衣装（オペラ）のコンセプト・デザインについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	説明内容まで進めること。舞台衣装のデザインを考えること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	**授業テーマ**	発表（卒業研究のテーマと目的、舞台衣装のデザイン）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各アイテムの縫製、舞台衣装のまとめ、卒業研究のテーマと目的の発表としてパワーポイントの作成について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各アイテムの縫製、舞台衣装のデザイン、卒業研究のテーマと目的のパワーポイント作成と発表練習をする。場合によっては、縫製は夏休みも利用する。
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

通常は対面授業であるが、新型コロナウイルス感染状況によっては遠隔授業に変更する場合がある。

学生へのフィードバック方法

制作課題に対するコメント

評価方法

平常点（授業への参加状況、提出期日などで総合的に判断する）、デザイン、作品、発表について、 ルーブリックを用いた評価を行う。（ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配付等によって指示する。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
デザイン	○	○		○
製図・縫製	○	○		○
作品	○	○		○
発表	○	○	○	○

評価割合

平常点20% デザイン30%、制作（作品）30%、発表20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の中にある諸課題についての知識を深める。【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。【技術・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

オフィスアワー

木曜日12:30～14:00

学生へのメッセージ

オペラ衣装は7月頃に演目が決定する予定なので、前期はデザインまでを考えます。また、KVA祭ではファッションショーの作品は10月上旬（後期）までに仕上げ、企画の打合せは4月から始める予定です。
これらの作品は、演目や場面の資料を参考にしてデザインを発想し、シルエット・材料の検討、製図、仮縫い、本縫い、仕上げという流れで進めていきますので、創作的な作品、完成度の高い作品を制作する力が身に付きます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03105211
講義名	ゼミナールA（花田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	花田 朋美	指定なし

ナンバリング

D31207M12

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識を育成することを目的とする。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の基礎知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理し、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の進め方、スケジュールの確認、ゼミ生としての研究室での過ごし方を理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕各自の問題意識、興味に基づき、衣服や環境をテーマとした身近な問題を調べる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	ガイダンス（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本研究室の先行研究を理解し、研究課題の検討を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕各自の問題意識、興味に基づき、衣服や環境をテーマとした身近な問題を調べる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	衣服や環境に関する社会問題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣服や環境をテーマとして、身近な社会問題について調べ、その解決方法について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕調査した結果や検討した解決方法をまとめ、発表資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	衣服や環境に関する社会問題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自が調査した結果を発表し、問題の解決方法についてグループディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕調査した結果や検討した解決方法をまとめ、発表資料を作成する。 〔復〕興味を持った社会問題の解決方法について再考し、整理する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	持続可能な社会とは －SDGｓについて－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループディスカッションを行う。SDCｓについて調べたことを発表し、概要について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕SDGｓについて調べる。 〔復〕各自の興味とSDGｓの関連性について検討する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	衣服や環境に関する社会問題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自が興味を持った社会問題に関連する先行研究を調べ、研究概要のレジュメを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕先行研究のレジュメを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	衣服や環境に関する社会問題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自がまとめたレジュメに従い、先行研究の要約を発表し、問題の解決方法についてグループディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕先行研究のレジュメを作成する。 〔復〕研究テーマを検討する。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	衣服や環境に関する社会問題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	各自がまとめたレジュメに従い、先行研究の要約を発表し、問題の解決方法についてグループディスカッション

第8回	**含む)**	を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕先行研究のレジュメを作成する。 〔復〕研究テーマを検討する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	予備研究計画の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別ディスカッションを行い、予備研究の計画を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕ディスカッションに基づき、研究計画を検討する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	予備研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	予備研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	研究報告会の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別ディスカッションを行う。報告会にむけ、研究の進歩状況をまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕研究の進歩状況をレジュメにまとめておくこと。 〔復〕検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	研究報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループディスカッションを行う。進捗状況を整理し、プレゼンテーション発表を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕プレゼンテーション資料及びレジュメを作成し、発表練習をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	**授業テーマ**	研究計画の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別ディスカッションを行う。プレゼンテーション発表での課題について、再検討し、研究計画を再考する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕今後の研究計画の再検討をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

研究の進捗状況によりスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

個別ディスカッション、グループディスカッションにおいて対応。質問や相談は、随時受付。

評価方法

①平常点（意欲、態度、研究遂行に対する行動力、調整力、理解力を評価）
②研究報告会での発表（理解力、意欲、思考力を評価）
③成果物（理解力、構成力、思考力、完成度 を評価）
評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回の授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
発表（報告会）	○	○	○	○
成果物	○	○	○	○

評価割合

平常点４０％ 発表（報告会）４０％ 成果物２０％を総合的に評価

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

適宜指示

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の基礎知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できること。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理し、自らの考えを的確に形や文章として表現できること。

オフィスアワー

木曜日１２時４０分～１４時２０分 ２４０７被服材料学研究室

学生へのメッセージ

卒業研究に向けた基礎知識と手法の修得のため、積極的に取り組んでほしいと思います。
３、４年生が合同で活動することもあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	実験・実習・調査活動、グループディスカッション
情報リテラシー教育	○	文献探索、プレゼンテーションの指導
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション

講義コード	G03105212
講義名	ゼミナールA（原口）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	原口 秀昭	指定なし

ナンバリング

D31207M12

授業概要(教育目的)

自らの家を借りる、買うということは、最も経済的な重要度の高い消費者行動である。今まで住宅をつくる視点から住居デザイン演習などを行ってきたが、住宅を借りる、買う、経営するという視点で不動産としての住宅を考えられるようにトレーニングする。地価マップ、ハザードマップ、各種不動産サイト、ローン電卓アプリ、原口作成のエクセル表などを用いて、毎回演習を行う。

履修条件

住居デザイン演習A、B、C、Dを履修していること、履修する予定であることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	土地、建物価格、道路付けと接道条件、日照通風、各種建築知識などの不動産の基本的知識が分かる。
思考・判断の観点 (K)	物件自体の質と価格の良否を判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	新築物件、中古物件検索に意欲的に楽しみながら取り組む。
技術・表現の観点 (A)	不動産ポータルサイト、地価マップ、ハザードマップ、ローン計算ソフトが使えるようになる。不動産の分析内容を説明できる。

学習計画

学生へのフィードバック方法

毎回、教員が学生の選んだ物件とその分析を評価し、その都度、助言を与える。

評価方法

毎回の物件検索と評価の演習における取り組みと、期末でのレポートにて採点する。詳細は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内での配布する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○	○	○

評価割合

物件検索と評価のレポートが40%、出席と演習が40%、平常点20%

参考URL

https://mikao-investor.com/youtubemenu/realestate/

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】不動産についての専門知識を有している。
【思考・判断】建物と土地についての基本的法規を理解して、良否、可否を判断できる。
【関心・意欲・態度】不動産に関心、意欲を持つ。
【技術・表現】不動産の質、価格に対しての評価を提示できる。

オフィスアワー

金曜2限時 3602研究室

学生へのメッセージ

建物は建築したら不動産になります。建築物についての知識の上に不動産の知識を持てば、住宅・建築業界、不動産業界に進んだ場合の実務や自宅の購入などで大変役に立ちます。建築の勉強の上に、ぜひ不動産の勉強をしてみてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、17年ほどの不動産経営の実務経験がある。実務で学んだ不動産のノウハウを教授している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回少人数グループで、実際にネット上にある物件を検索、分析を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03105213
講義名	ゼミナールA（小川）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	小川 圭子	指定なし

ナンバリング

D31207M12

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究の対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究の対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。本ゼミナールでは、主に卒業設計のための調査に取り組む前段階としての演習を行う。

履修条件

卒業研究で設計を行う予定の場合、住居デザイン演習C/Dの単位取得、建築デザイン演習Aの履修をしていることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	専門知識・技術を持つことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	自身が取り組む課題に対し、問題意識をもって、取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	的確な方法を用いて人に伝えることができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス 基礎的図面表現の確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンス 間違いやすい図面表現（線の太さ・線種）を再確認し、過去のポートフォリオを修正する。 ミニ課題1：過去のポートフォリオを修正する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）過去のポートフォリオの元データを持参する。
	教室外学習の時間（分）	50
第2回	**授業テーマ**	CAD等による図面の表現方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	効果的に見せるための立面の輪郭線の太さの使い分けや影の付け方（３Dデータを側面からみて立面図とする）や効果的なパース等の選択について学ぶ。 ミニ課題2：過去のポートフォリオを修正する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）過去のポートフォリオの元データを持参する。
	教室外学習の時間（分）	50
第3回	**授業テーマ**	写真加工・背景画像作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ペイントやword、その他アプリなどを通して、写真の加工・背景画像の作成を行う。 ミニ課題3：写真加工や背景画像の作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）模型写真データ等を持参する。
	教室外学習の時間（分）	50
第4回	**授業テーマ**	模型写真の撮り方・トリミング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模型写真を魅力的に見せる取り方やトリミングの方法を学ぶ。 ミニ課題4：模型写真の取り方を実践する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）自身が撮影したデジタル模型写真を用意しておく。
	教室外学習の時間（分）	50
第5回	**授業テーマ**	ダイアグラムの作り方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ダイアグラムは、コンセプトや設計課程を伝えるために重要な要素になる。その意義や制作方法を理解し、実践する。 ミニ課題5：ダイアグラムを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）ダイアグラム作成に必要なコンセプトを言葉として整理しておく。 （復習）ダイアグラム作成について、設計演習科目にて実践する。
	教室外学習の時間（分）	50
第6回	**授業テーマ**	勾配屋根の掛け方・模型制作の方法（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	屋根の模型を作る演習を通して、屋根伏図と立面図との関係を理解する。 ミニ課題6：屋根伏図・立面図をもとに屋根の模型を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）教科書「新しい建築製図」を持参する。
	教室外学習の時間（分）	50
	授業テーマ	勾配屋根の掛け方・模型制作の方法（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	屋根の模型を作る演習を通して、屋根伏図と立面図との関係を理解する。

第7回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ミニ課題7：屋根伏図・立面図をもとに屋根の模型を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）教科書「新しい建築製図」を持参する。
	教室外学習の時間（分）	50
第8回	授業テーマ	設計のミニ課題（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの課題を活かした設計を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの総復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	50
第9回	授業テーマ	ポートフォリオの作り方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ポートフォリオのまとめ方について把握し、自己紹介のシートを作成し、提出する。 ミニ課題8：自己紹介シートを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）必要な写真データなどを持参する。
	教室外学習の時間（分）	50
第10回	授業テーマ	就活スケジュールの確認と対策
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	就活の活動状況を再確認し、以降のスケジュール、インターンシップ、在学中の資格取得等の就活対策を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）就活に向けた自身の考えを整理し、行動に移す。
	教室外学習の時間（分）	50
第11回	授業テーマ	模型の作り方の応用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	適した模型の種類を選択し、それらの作り方や様々なテクニックを理解する。 ミニ課題9：スケールに合った人型や家具、自動車、自転車等を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）模型材料（ケント紙、黒画用紙、透明プラバン等）や模型を製作するための道具を持参する。
	教室外学習の時間（分）	50
第12回	授業テーマ	構造力学の基本の復習（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築士の構造の過去問題（応力度・トラス）に取り組む。 ミニ課題10：計算過程を提出。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）「構造力学A・B」の習った部分を復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	50
	授業テーマ	構造力学の基本の復習（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	建築士の構造の過去問題（その他）に取り組む。 ミニ課題11：計算過程を提出。

第13回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）「構造力学A・B」のこれまで習った部分を復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	50
第14回	授業テーマ	設計のミニ課題（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの課題を活かした設計を行う。 ミニ課題12：設計のミニ課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの総復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	50

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回ミニ課題に取り組み提出する。授業時間内に回答もしくは翌週までにコメントを記載し、返却する（最終回を除く）。

評価方法

平常点（発表・授業態度）
ミニ課題：全12課題
詳細は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
発表・授業態度			○	
ミニ課題	○			○

評価割合

平常点（発表・授業態度）30%、ミニ課題70%

使用教科書名(ISBN番号)

必要であれば、随時指示する。

参考図書

必要であれば、随時指示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」の分野について、専門的知識・技術を有している。
【関心・意識・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。
【技術・表現】家政学を修学し、住の分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

オフィスアワー

水曜昼休み～３時限 3512研究室

学生へのメッセージ

自ら問題意識を持ち、手を動かしながら考え、作業を継続することが重要です。また、授業外

においても学外の展示会等には積極的に足を運び、自身の考えと向き合うことを習慣化させてください。4年次に取り組む卒業研究を悔いのないものにしましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は、授業内にミニ課題しながら、進める。ミニ課題作成を通し、他者への関心を持ちながら、自身の課題と向き合うこと。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	パソコンやインターネット用い、効率的な表現方法を学ぶ。

講義コード	G03105214
講義名	ゼミナールA（森）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	森 朋子	指定なし

ナンバリング

D31207M12

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日本語教育および言語コミュニケーションの分野の知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	日本語教育および言語コミュニケーションの分野の諸問題について、論理的に分析し考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本語教育および言語コミュニケーションの分野に深い関心を持ち、意欲的かつ積極的に課題に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	問題解決に必要な情報を収集・分析・考察し、研究作法に則って表現することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	全体ガイダンス(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各担当教員のテーマ説明①
	教室外学習(予習・復習)の内容	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。
	教室外学習の時間（分）	45分

第2回	授業テーマ	全体ガイダンス(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各担当教員のテーマ説明②
	教室外学習(予習・復習)の内容	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	イントロダクション テーマの決定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゼミナールAの概要を理解する。テーマの決定について、練習を通して理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題1のテーマを考える。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	課題1①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の課題1のテーマについてクラス全体で検討し、修正ポイントを明らかにする。修正後、アウトライン作成について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題1のアウトラインを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	課題1②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自のアウトラインをクラス全体で検討し、修正ポイントを明らかにする。修正後、文献の探し方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アウトラインにそって、情報が必要な項目や内容を整理する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	課題1③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館で文献検索の方法を実習し、文献を収集する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	探した文献を参考にアウトラインに修正を加える。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	課題1④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集した文献を参考にアウトラインを修正する。さらに必要な文献をリストアップする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	足りない文献を探す。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	授業テーマ	課題1⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レポートの3部構成を学び、練習を通して理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分のレポートの下書きを書く。
	教室外学習の時間（分）	45分

第9回	授業テーマ	課題1⑥
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	資料を用い、第三者のレポートの下書きを分析する。その上で、自分のレポートの修正点を明らかにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートの修正をする。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	課題1⑦
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レポートにふさわしい表現を練習を通して学ぶ。自分のレポートの修正点を明らかにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分のレポートを修正する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	課題2①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新たな課題のテーマを考える。クラス全体で各自の課題を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題2のアウトラインを書く。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	課題2②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自のアウトラインをクラス全体で検討し、修正点を明らかにする。修正後、文献収集をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題2の文献収集をする。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	課題2③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	口頭発表の方法および発表資料の作成の仕方を練習を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	口頭発表の資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	課題2④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	口頭発表を実施する。提供された話題についてディスカッションをすることで課題に対する理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表を振り返り、改善点をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45分

学生へのフィードバック方法

口頭および書面によるコメント

評価方法

課題（完成度により評価する） ポートフォリオ（課題設定、記録内容、整理の仕方により評価する） 平常点（ディスカッション、発表、取り組みの姿勢により評価する）
※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授

業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○	○	○
ポートフォリオ		○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

課題50% ポートフォリオ10% 平常点40%

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】日本語教育および言語コミュニケーションの分野の知識を学び、理解を深める。
【思考・判断】日本語教育および言語コミュニケーションの分野の諸問題について、論理的に分析し考察することができる。
【関心・意欲・態度】日本語教育および言語コミュニケーションの分野に深い関心を持ち、意欲的かつ積極的に課題に取り組むことができる。
【技術・表現】問題解決に必要な情報を収集・分析・考察し、研究作法に則って表現することができる。

オフィスアワー

水曜日昼休み、4限

学生へのメッセージ

自分の興味・関心を大きく広げて、新しい世界に踏み出しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に自主的に取り組む。ディスカッション等を通して、自分の意見を伝えると同時に、異なった意見をまとめる訓練をする。
情報リテラシー教育	○	図書館やインターネットを駆使して情報収集をし、成果物をまとめる。
ICT活用		

講義コード	G03105216
講義名	ゼミナールA（嶋田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	嶋田 芳男	指定なし

ナンバリング

D31207M12

授業概要(教育目的)

本学科では、社会福祉主事、児童指導員といった福祉関係資格が取得できるため、社会福祉に関する知識や技術の習得も必要と考える。そこで本授業では、社会福祉概論、高齢者福祉論の基礎的内容を学ぶことで、資格に見合った社会福祉全般の内容を理解することを目的にしている。

履修条件

特にない

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	社会福祉全般の概要、高齢者分野に関する知識が習得できる
思考・判断の観点 (K)	社会で派生しているさまざまな課題について、考えることができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	さまざまなライフステージにおける社会福祉の対象と課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳幼児期、学童期、思春期から青年期、結婚・子育て期、高齢期における社会福祉の対象と、各々に対する諸課題について理解する
	教室外学習(予習・復	さまざまなライフステージにおける社会福祉の対象を調べ

	習)の内容	ておく。また、授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	授業テーマ	社会福祉における人権、理念、原理、ニーズ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会福祉における人権と理念を理解するとともに、支援していく上で必要となる社会福祉の原理とニーズについて考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	社会福祉を取り巻く状況（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	少子社会と高齢社会の現状と課題について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	授業テーマ	社会福祉を取り巻く状況（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家族と地域社会の動向及び課題について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	家族と地域にどのような課題が存在するのかを調べておくとともに、授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	社会福祉の法律と行政の仕組み
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会福祉関係法とそれに基づく行政組織の役割・課題について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	社会福祉を支える団体と施設
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特に中核的な団体に位置づけられる社会福祉協議会について理解を深めるとともに、さまざまな施設について知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	社会福祉施設の種類とその役割を事前に調べておく
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	社会福祉の専門職
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会福祉領域の各種専門職とその役割・課題について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	社会福祉の方法論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークについて理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習しておく

	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	**授業テーマ**	社会保障の体系（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	医療保険、年金保険、介護保険について理解するとともに、それらの課題を知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	**授業テーマ**	社会保障の体系（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活保護制度を理解するとともに、その課題を知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	**授業テーマ**	総合演習（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会福祉全般、高齢者分野における福祉課題をそれぞれ1つ取り上げる
	教室外学習(予習・復習)の内容	福祉に関わるさまざまな資料を収集しておく
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	**授業テーマ**	総合演習（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会福祉全般、高齢者分野の課題について、詳細に考察する
	教室外学習(予習・復習)の内容	社会福祉全般、高齢者分野、子どもの分野の課題についてまとめる
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	**授業テーマ**	総合演習（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会福祉全般、高齢者分野の課題の解決方法を考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の解決方法をまとめる
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	**授業テーマ**	総合演習（4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会福祉全般、高齢者分野の課題とその解決法をプレゼンテーションする
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンテーションの準備を行う
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

本授業は2名の教員による合同開講であり、「社会福祉ゼミナール」としてオムニバス形式で実施する

学生へのフィードバック方法

提出された課題は、評価した後に返却する

評価方法

評価はゼミへの参加度、およびレポートで評価する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○		
レポート	○	○		

評価割合

平常点50%
レポート50%

使用教科書名(ISBN番号)

必要に応じてプリントを配布する

ディプロマポリシーとの関連

【思考・判断】【関心・意欲・態度】
社会の中にある諸課題に関心を持つことで自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。その過程では、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。

オフィスアワー

火曜3限、木曜2限

学生へのメッセージ

授業はゼミ形式で行うため、積極的な発言や提案を期待したい

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03105301
講義名	ゼミナールB（石綱）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	石綱 史子	指定なし

ナンバリング

D31208M12

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。

履修条件

なし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点 (K)	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることできる。
技術・表現の観点 (A)	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	演習の目的、進め方について解説する
	教室外学習(予習・復	1分間スピーチの準備

	習)の内容	卒業研究のテーマを考える
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	卒業研究のテーマについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究のテーマを具体的に考え、目的、アウトライン、方法を考える 1分間スピーチ
	教室外学習(予習・復習)の内容	1分間スピーチの準備
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	卒業研究のテーマに関連した文献を読む①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の卒業研究のテーマの先行研究や関連した文献を選び、読み、要約し、発表する 1分間スピーチ
	教室外学習(予習・復習)の内容	1分間スピーチを準備する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	卒業研究のテーマに関連した文献を読む②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の卒業研究のテーマの先行研究や関連した文献を選び、読み、要約し、発表する 1分間スピーチ
	教室外学習(予習・復習)の内容	1分間スピーチを準備する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	卒業研究のテーマに関連した文献を読む③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の卒業研究のテーマの先行研究や関連した文献を選び、読み、要約し、発表する 1分間スピーチ
	教室外学習(予習・復習)の内容	1分間スピーチの準備
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	卒業研究のテーマに関連した文献を読む④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の卒業研究のテーマの先行研究や関連した文献を選び、読み、要約し、発表する 1分間スピーチ
	教室外学習(予習・復習)の内容	1分間スピーチを準備する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	卒業研究で用いる手法①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特にどの様な手法が用いられているかに着目して、各自の卒業研究のテーマの先行研究や関連した文献を選び、読み、要約し、発表する 1分間スピーチ
	教室外学習(予習・復習)の内容	1分間スピーチの準備
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	卒業研究で用いる手法②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特にどの様な手法が用いられているかに着目して、各自の卒業研究のテーマの先行研究や関連した文献を選び、読み、要約し、発表する 1分間スピーチ

	教室外学習(予習・復習)の内容	1分間スピーチを準備する 各自、興味のある文章を探しておく
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	卒業研究で用いる手法③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特にどの様な手法が用いられているかに着目して、各自の卒業研究のテーマの先行研究や関連した文献を選び、読み、要約し、発表する 1分間スピーチ
	教室外学習(予習・復習)の内容	1分間スピーチを準備する
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	卒業研究で用いる手法④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特にどの様な手法が用いられているかに着目して、各自の卒業研究のテーマの先行研究や関連した文献を選び、読み、要約し、発表する 1分間スピーチ
	教室外学習(予習・復習)の内容	1分間スピーチを準備する
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	卒業研究のテーマを決める①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究のテーマを絞り込み、関連する先行研究の文献を選ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献を読む
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	卒業研究のテーマを決める②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究の目的とアウトライン案を検討する
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究の目的とアウトライン案を検討する
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	卒業研究のテーマを決める③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究の目的とアウトライン案に基づき、方法、材料等を検討する 具体的な日程などの具体的な計画を立てる
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究の目的とアウトライン案に基づき、方法、材料等案を決定する
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	卒業研究のテーマを決める④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究のテーマ、目的、アウトライン、方法、材料、今後の予定について発表する
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究Aに取り組む日程などの具体的な計画を完成する
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

履修者数や演習の進み具合などにより、スケジュールや課題変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

演習中に随時ディスカッションを行い、フィードバックする。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。

評価方法

平常点：課題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。
課題：1分間スピーチの準備状況、文献の読解力、要約緑、文章構成力など、各回の演習で課題を設定する。期限内に課題を提出できるか、設定した課題内容を理解し、課題を提出したかと課題の内容を総合的に判断して評価する。第14回までに卒業研究のテーマを設定できること。

課題はルーブリックに基づく評価とします。ルーブリック評価の方法は授業内で解説します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点		○	○	
課題	○			○

評価割合

平常点50%、課題50%で総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

適宜、資料を印刷・配付する。

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。

オフィスアワー

月曜日2限 3609研究室

学生へのメッセージ

石綱担当分では、基礎的な話す・書く・読む・考える力の向上を目的としています。4年次で取り組む卒業研究の実施内容を検討し、研究遂行に必要な文献や資料を読む力、文章を書く力、実験方法、調査方法、制作方法などを習得する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自ら興味がある研究テーマを探し、調査し、遂行方法を決める
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03105302
講義名	ゼミナールB（呉）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	呉 起東	指定なし

ナンバリング

D31208M12

授業概要(教育目的)

ゼミナールA・B：生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から、各分野 の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
思考・判断の観点 (K)	多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゼミナールAを振り返って各自テーマを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミナールAの課題の考察を行う。

	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	課題テーマの検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題のテーマを検討し、課題の背景、目的、方法を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の計画やスケージュるを作成
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	先行事例の調査１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行事例の調査を行い発表及びディスカションを行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行事例の調査を行いまとめる
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	先行事例の調査２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行事例の調査を行い発表及びディスカションを行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行事例の調査を行いまとめる
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	課題資料の調査１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	計画に沿って研究資料を収集
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査を結果をまとめる
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	**授業テーマ**	課題資料の調査２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	計画に沿って研究資料を収集
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査を結果をまとめる
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	課題の制作１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら作品制作を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品制作を行う
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	課題の制作２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら作品制作を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品制作を行う
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	課題の制作３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら作品制作を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品制作を行う
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	課題の制作４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら作品制作を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品制作を行う
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	課題の制作５

第11回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら作品制作を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品制作を行う
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	課題の制作６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら作品制作を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品制作を行う
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	課題の制作６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら作品制作を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品制作を行う プレゼンテーション資料を完成する
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	課題の制作７ 発表の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら作品制作を行う 課題の完成と報告書のまとめ
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品制作をまとめ発表の準備を行う プレゼンテーション資料を完成する
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回授業の最後に感想や質問を提出させて、次回に感想や質問について解説を行う。別の質問などがある場合は研究室1307（E-mailも可）まで訪問すること。

評価方法

課題は６０点満点で課題の結果とプレゼンテーションで評価を行う。評価の基準は３つの基準は「課題の理解」「誠実さ」「デザイン性」で５段階評価を行う。レポートと最終報告書は２０点満点で課題と同じく３つの基準を５段階評価で行う。平常点は２０点満点で１５回を通して「背極的な授業の参加、態度」「背極的なディスカション」を基準に加点及び減点を行います。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

課題80%
平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

必要に応じて提示する。

ディプロマポリシーとの関連

【【知識・理解】情報 について、専門的知識・技術を有している。【思考・判断】多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。【関心
・意欲・態度】積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

オフィスアワー

月曜日３限、４限

学生へのメッセージ

グラフィックデザイン、写真、映像について理解して卒業研究A,Bの基礎に役立つために積極的に課題に取り込んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら調べ、発表する。
情報リテラシー教育	○	情報そのものと情報の伝達をするための情報の収集、分類、基本的な表現スキルを教育する。
ICT活用	○	情報収集、作品制作、発表のために、PCや通信機器を活用する。

講義コード	G03105304
講義名	ゼミナールB（小池）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小池 孝子	指定なし

ナンバリング

D31208M12

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自ら設定した課題に対し、グローバルな視点に立ち、「住」をはじめとする家政学の各分野の知識を深めて理解する。
思考・判断の観点 (K)	社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	研究課題の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 各自の問題意識に基づき研究課題としたいテーマについて検討する

	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）興味のあるテーマを抽出し、レジュメにまとめる
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	**授業テーマ**	先行研究レビュー（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 研究テーマに関する先行研究をレビューしまとめたものを持ち寄り、発表しディスカッションをおこなう
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）先行研究を検索し、要約をレジュメにまとめる
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	**授業テーマ**	先行研究レビュー（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 研究テーマに関する先行研究をレビューしまとめたものを持ち寄り、発表しディスカッションをおこなう
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）先行研究を検索し、要約をレジュメにまとめる
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	**授業テーマ**	アンケート調査の立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 研究テーマに関するアンケート調査を立案し、発表しディスカッションをおこなう
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）先行研究を検索し、各自の研究テーマに合った調査方法についてレジュメにまとめる
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	**授業テーマ**	アンケート調査票の作成（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 調査計画に沿ってアンケート調査票を作成し、進捗状況について発表、ディスカッションをおこなう
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）アンケート調査票を作成する
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	**授業テーマ**	アンケート調査票の作成（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 調査計画に沿ってアンケート調査票を作成し、進捗状況について発表、ディスカッションをおこなう
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）アンケート調査票を作成する
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	**授業テーマ**	アンケート調査票の検討（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（アクティブラーニング：グループワーク） 作成したアンケート調査票を試してもらった結果について、ディスカッションをおこなって検討する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）アンケート調査票を周囲の人に試してもらう
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	**授業テーマ**	量的データを用いた分析１（基本統計量・代表値・分散など）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エクセルを用い、基本統計量・代表値・分散の計算方法を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内	（復習）データを用いて基本統計量・代表値・分散の

	容	計算方法を確認する
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	**授業テーマ**	量的データを用いた分析２（ヒストグラム・相関係数・散布図など）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エクセルを用い、ヒストグラム・相関係数・散布図の作成方法を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）データを用いてヒストグラム・相関係数・散布図の作成方法を確認する
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	**授業テーマ**	量的データを用いた分析３（平均値の検定、ｔ検定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エクセルを用い、平均値の検定、ｔ検定の方法を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）データを用いて平均値の検定、ｔ検定の方法を確認する
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	**授業テーマ**	質的データを用いた分析１（単純集計・データの性質）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エクセルを使って単純集計の方法を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）別のデータを用いて単純集計の方法を確認する
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	**授業テーマ**	質的データを用いた分析２（クロス集計など）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エクセルを使ってクロス集計の方法を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）別のデータを用いてクロス集計の方法を確認する
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	**授業テーマ**	質的データを用いた分析３（カイ二乗検定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エクセルを使ってカイ二乗検定の方法を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）別のデータを用いてカイ二乗検定の方法を確認する
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	**授業テーマ**	アンケートデータのまとめ・表現方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自が立案したアンケートデータのまとめ方、表現方法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）各自のアンケートデータをデータシートにまとめる
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

履修者数や各自の研究テーマによって授業内容が変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

ゼミでは研究の進捗に関するレジュメを毎回用意して発表し教員の指導を受ける。全員でのグループディスカッションを実施するので、積極的に議論に参加すること。
毎回のゼミに必ず出席すること。やむなく欠席する場合にはオフィスアワー等を利用して個別指導を受けること。

評価方法

課題については、問題設定の着眼点・独自性、調査研究の精度、結論に至る論理構成について評価する。
平常点については、授業（ゼミ）への参画状況、研究への取り組みの積極性、計画的な研究の遂行について評価する。
なお、評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○	○	○
平常点	○	○	○	

評価割合

課題の完成度50%、平常点50%とし、総合的に評価する

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
・グローバルな視点から「住」をはじめとする家政学の各分野についての知識を深めて理解する
【思考・判断】
・社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる
【関心・意欲・態度】
・社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる
【技能・表現】
・家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている

オフィスアワー

金曜 2 時限 3508研究室

学生へのメッセージ

身近な住生活課題の解決のために、論文・設計作品による提案を行うのが卒業研究です。卒業研究に向けて、課題解決・提案の手法について学びましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業はゼミ形式で実施する。研究の進捗について毎回発表、グループディスカッションを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03105306
講義名	ゼミナールB（佐々木）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	佐々木 麻紀子	指定なし

ナンバリング

D31208M12

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科の専門領域の中で各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	被服整理分野の研究対象に必要な基礎を理解する
思考・判断の観点 (K)	被服整理分野を主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	必要な資料の収集ができる
技術・表現の観点 (A)	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、演習内容について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：後期時間割を確認し演習スケジュール内容と課題を確認する 復習：先行研究論文を1つ以上探す

	教室外学習の時間（分）	30分
第2回	**授業テーマ**	文献を読む1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題1被服整理分野の先行研究論文を読み、要約をする
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：リテラシー演習テキスト等を使用し、論文の探し方及び要約の方法を確認する。 復習：課題の文章を読み、要約して解説資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	30分
第3回	**授業テーマ**	文献を読む2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題1被服整理分野の先行研究論文を読み、要約をする
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：リテラシー演習テキスト等を使用し、論文の探し方及び要約の方法を確認する。 復習：課題の文章を読み、要約して解説資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	30分
第4回	**授業テーマ**	文献を読む3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題2 各自探して文献を読み、要約し解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献を読み、要約し、解説をする資料を準備をする。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	文献を読む4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題2 各自探して文献を読み、要約し解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：先行研究文献を2つ以上探し、解説をする資料を準備をする。 復習：演習で取り上げた先行研究論文を読み、要約し解説資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	文献を読む5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題2 各自探して文献を読み、要約し解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：先行研究文献を2つ以上探し、解説をする資料を準備をする。 復習：演習で取り上げた先行研究論文を読み、要約し解説資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	演習1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題3 被服整理学分野の演習を通して、卒業研究につながる研究課題を見つける
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：演習計画を立て、目的や方法を説明できるように資料をまとめておく 復習：演習計画を修正する
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	演習2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題3 被服整理学分野の演習を通して、研究課題を見つける
		予習：演習に必要な資料を探し、準備する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：演習で行った結果をまとめ報告資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	演習3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題3 被服整理学分野の演習を通して、研究課題を見つける
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：演習に必要な資料を探し、準備する。 復習：演習で行った結果をまとめ報告資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	演習4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題3 被服整理学分野の演習を通して、研究課題を見つける
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：演習に必要な資料を探し、準備する。 復習：演習で行った結果をまとめ報告資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	演習5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題3 被服整理学分野の演習を通して、研究課題を見つける
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：演習に必要な資料を探し、準備する。 復習：演習で行った結果をまとめ報告資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	演習6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題3 被服整理学分野の演習を通して、研究課題を見つける
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：演習に必要な資料を探し、準備する。 復習：演習で行った結果をまとめ報告資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	演習7
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題3 被服整理学分野の演習を通して、研究課題を見つける
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：演習に必要な資料を探し、準備する。 復習：演習で行った結果をまとめ報告資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	**授業テーマ**	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	演習で学んだことをまとめ、発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：演習で行った結果をまとめ、発表する準備を行う 復習：卒業研究の計画を立てる
	教室外学習の時間（分）	90分

学習計画注記

受講人数によっては課題やスケジュールが変更になる場合があります。授業内容によってはPCが必要になる場合がありますので各自で用意して下さい。

学生へのフィードバック方法

演習中に随時ディスカッションを行い、フィードバックします。

評価方法

平常点と課題で評価します。
平常点は授業への積極的な参加態度や演習への取り組み状況を総合的に評価します。
課題1,2は読解力、文章構成力などを総合的に判断します。
課題3は演習内容の理解、課題解決の方法および結果を正確に表現できるかを評価します。
学修成果の公平で客観的な評価の実施に向けて、ルーブリックを用いた評価を行います。
ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により学生に提示をします。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
課題	○	○	○	○

評価割合

平常点60%、課題40%で評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。

オフィスアワー

月曜2時限 2406研究室

学生へのメッセージ

文献の探し方、文献を読み要約することを学びます。また演習を通して被服整理学分野でどんな課題があるのか自ら体験することで新たな課題を発見することを目指します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	課題に関する情報を収集・分析・整理する。
ICT活用	○	情報収集や課題作成のために、PCや通信機器を活用する。

講義コード	G03105307
講義名	ゼミナールB（澤田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	澤田 雅彦	指定なし

ナンバリング

D31208M12

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
澤田が担当する授業では、「デザイントレーニング」のテーマで、
手を動かして、形を描くこと、作ること、あるいは自分の考えを表現すること、伝えること、そして、デザインを考えることを実践する。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	デザインに関する知識と理解を深めること。
思考・判断の観点 (K)	自らの意図や思考に基づき、自分が表現したいことを論理的に考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会とデザインと自分自身の学びを関連づけて考えることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	テーマの設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分自身の制作テーマ、もしくは研究テーマと、作業計画を考える。

	教室外学習(予習・復習)の内容	制作テーマまたは研究テーマの決定と、目的・意義の検討、及び作業計画の作成。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	**授業テーマ**	制作の進め方の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	決定したテーマでの制作の計画を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	計画表の作成。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	**授業テーマ**	第１作品の制作（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１つめの作品の制作に着手。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品の制作。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	**授業テーマ**	第１作品の制作（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１つめの作品の制作を継続する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品の制作。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	**授業テーマ**	第１作品の制作（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１つめの作品の制作を継続する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品の制作。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	**授業テーマ**	第１作品の制作（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１つめの作品の完成。
	教室外学習(予習・復習)の内容	まとめの報告会の準備。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	**授業テーマ**	中間まとめの報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第１作品について発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第２作品のテーマを考える。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	**授業テーマ**	第２作品の制作（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第１作品の制作の内容をふまえて２つめの作品の制作方針を決定し、制作に着手する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品の制作。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	**授業テーマ**	第２作品の制作（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	２つめの作品の制作を継続する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品の制作。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	**授業テーマ**	第２作品の制作（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	２つめの作品の制作を継続する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品の制作。

	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	**授業テーマ**	第２作品の制作（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	２つめの作品の制作を継続する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品の制作。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	**授業テーマ**	第２作品の制作（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	２つめの作品を完成させる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品の写真撮影と、プレゼンテーションレポート作成の準備。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	**授業テーマ**	作品発表の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作品の発表会の準備（プレゼンテーションレポートの作成）
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンテーションレポートの作成
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	**授業テーマ**	作品の発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作品についてのプレゼンテーションレポートを作成して発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンテーションレポートの手直し。
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

学習計画は、作品制作の場合の例を示していますが、作品制作を伴わない研究の場合も、この学習計画に準じて授業を進めます。
なお授業計画は課題の進捗状況を考慮して変更します。

学生へのフィードバック方法

課題作品やレポートについては、授業中に随時コメントします。
作品は作品の発表会の後に返却します。レポートは作品の発表会が終わったら、そのまま学内に掲示する予定です。

評価方法

１．課題・作品等は、制作意図をきちんと考えて制作しているか、丁寧に作られているか、といった観点で評価する。
２．レポートは、作品についての情報と、作品の制作意図や制作の手順・工夫を、正確に分かりやすく示しているか、といった観点で評価する。
３．平常点は、作品の制作過程で、どれだけ多くのアイデアを出して試作をしたか、どの程度集中して制作に取り組んだか、といった観点で評価する。
評価はルーブリックに基づいて行うことを予定しています。ルーブリックはGoogleクラスルームか初回授業で提示する予定です。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題・作品等の完成状況	○	○		
レポート	○	○		
平常点		○	○	

評価割合

課題・作品等の完成状況30%、レポート30%、平常点40%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】デザインに関する知識と理解を深めること。
【思考・判断】デザインについての諸課題を自ら発見し、それを解決するために論理的な思考ができること。
【関心・意欲・態度】社会とデザインと自分自身の学びの関わりに積極的に関心を持つこと。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。

オフィスアワー

後期木曜日2時限 1503研究室

学生へのメッセージ

授業では常時、紙と鉛筆でのスケッチを行うので、鉛筆とクロッキー帳は毎回必ず準備する。
また制作の授業では、動きやすく、汚れてもかまわない服装で出席すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03105308
講義名	ゼミナールB（白井）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	白井 篤	指定なし

ナンバリング

D31208M12

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
ゼミナールAの履修を通して、「読む力」「書く力」「話す力」を養うことで、「考える力」の基礎的な部分を養えたので、ゼミナールBでは、「課題解決型プロジェクト」に取り組む。課題としては、「卒業研究のテーマ」もしくは「地域連携活動のテーマ」を取り上げる。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	社会の中にある課題について、論理的に分析し考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を集めて分析・整理でき、その課題解決策を発信できる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス（課題の提示／社会人基礎力）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決を通して養って欲しい力（社会人基礎力）について理解できる。

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	30
第2回	授業テーマ	提案課題の解決（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に必要な資料や情報などを収集する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	授業テーマ	提案課題の解決（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に必要な資料や情報などを収集する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	授業テーマ	提案課題の解決（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に必要な資料や情報などを収集する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	授業テーマ	提案課題の解決（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決のために収集した資料や情報を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	授業テーマ	提案課題の解決（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決のために収集した資料や情報を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	授業テーマ	提案課題の解決（６）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	分析した結果に基づいて、課題解決策を発信できるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	45
第8回	授業テーマ	提案課題の解決（７）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決策を発信する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	60
	授業テーマ	自己課題の解決（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に必要な資料や情報などを収集する。

第9回	教室外学習(予習・復習)の内容	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	30
第10回	授業テーマ	自己課題の解決（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に必要な資料や情報などを収集する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	授業テーマ	自己課題の解決（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に必要な資料や情報などを収集する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	授業テーマ	自己課題の解決（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決のために収集した資料や情報を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	授業テーマ	自己課題の解決（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決のために収集した資料や情報を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	授業テーマ	自己課題の解決（６）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	分析した結果に基づいて、課題解決策を発信できるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	45
第15回	授業テーマ	自己課題の解決（７）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決策を発信する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	60

学生へのフィードバック方法

実施した課題については、評価して次週の授業の初めに返却する。返却時に評価基準についての説明を行う。

評価方法

平常点については、授業で実施した課題解決策の成果で評価する。課題解決策については、解決内容（書く力・まとめる力）とプレゼンテーション（話す力）で評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点		○		○
課題解決策		○		○

評価割合

平常点（５２％）と課題解決策（４８％）で総合評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特になし

参考図書

適宜、資料を印刷、配付する。

ディプロマポリシーとの関連

思考・判断の観点（K）：課題について論理的に分析し考察できることは、社会の中にある課題解決にもつながる。
技術・表現の観点（A）：課題解決に必要な情報を集めて分析・整理でき、その課題解決策を発信できる。

オフィスアワー

金曜日３時限及び４時限。３号棟６階３６０６研究室。できるだけ、メールなどで事前予約してください。

学生へのメッセージ

第１回のガイダンスで配付した授業予定表に従って行うので、事前に予習した上で、授業に臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教室内でのグループワークによる体験学習を通して、課題発見能力・課題解決能力を養う。
情報リテラシー教育	○	課題を解決する上で、図書館の利用方法、文献探索方法などの情報活用能力を養う。
ICT活用		

講義コード	G03105309
講義名	ゼミナールＢ（千葉）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	千葉　一博	指定なし

ナンバリング

D31208M12

授業概要(教育目的)

（学生便覧掲載の授業科目概要）
ゼミナールB：生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。

履修条件

「ゼミナール A」の単位を修得していること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	ゲーム理論または情報科学の特定の分野における基本的な知識や技術を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	学生間や教員との間での議論において問題を指摘しまた解決できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学生間や教員との間での議論に意欲的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	自らの理解を的確に表現できる。または、プログラミングの基礎的な技術を身につけている。

学習計画

	授業テーマ	テーマに関する議論またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教 ICT	ゲーム理論または情報科学の特定の分野で、意欲的に取り組めるテーマについて議論する。または、プログラミングなどを演習す

第1回	育・　活用を含む)	る。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: ゲーム理論または情報科学の分野で、意欲的に取り組めるテーマについて考える。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間(分)	15
第2回	授業テーマ	文献に関する議論またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲーム理論または情報科学の特定の分野で、意欲的に輪読できる文献について議論する。または、プログラミングなどを演習する。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: ゲーム理論または情報科学の分野で、意欲的に輪読できる文献を検索する。または、プログラミングにおける疑問点を挙げておく。
	教室外学習の時間(分)	30
第3回	授業テーマ	輪読の計画またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	輪読の計画について議論する。または、プログラミングなどを演習する。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 輪読する文献を調達する。または、プログラミングにおける疑問点を挙げておく。
	教室外学習の時間(分)	30
第4回	授業テーマ	文献の輪読またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。または、プログラミングなどを演習する。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 必要に応じ、輪読する部分を予習するまたはプログラミングにおける疑問点を挙げておく。 復習: 輪読した部分を復習する。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間(分)	30 15
第5回	授業テーマ	文献の輪読またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。または、プログラミングなどを演習する。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 必要に応じ、輪読する部分を予習するまたはプログラミングにおける疑問点を挙げておく。 復習: 輪読した部分を復習する。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間(分)	30 15
	授業テーマ	文献の輪読またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。または、プログラミングなどを演習する。必携

第6回	む)	またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 必要に応じ、輪読する部分を予習するまたはプログラミングにおける疑問点を挙げておく。 復習: 輪読した部分を復習する。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間(分)	30 15
第7回	授業テーマ	文献の輪読またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。または、プログラミングなどを演習する。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 必要に応じ、輪読する部分を予習するまたはプログラミングにおける疑問点を挙げておく。 復習: 輪読した部分を復習する。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間(分)	30 15
第8回	授業テーマ	文献の輪読またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。または、プログラミングなどを演習する。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 必要に応じ、輪読する部分を予習するまたはプログラミングにおける疑問点を挙げておく。 復習: 輪読した部分を復習する。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間(分)	30 15
第9回	授業テーマ	文献の輪読またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。または、プログラミングなどを演習する。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 必要に応じ、輪読する部分を予習するまたはプログラミングにおける疑問点を挙げておく。 復習: 輪読した部分を復習する。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間(分)	30 15
第10回	授業テーマ	文献の輪読またはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。または、プログラミングなどを演習する。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 必要に応じ、輪読する部分を予習するまたはプログラミングにおける疑問点を挙げておく。 復習: 輪読した部分を復習する。または、プログラミングの結果を見直す。
	教室外学習の時間(分)	30 15

第11回	授業テーマ	理解したことのまとめまたはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関して、理解したことをまとめるまたはプログラミングなどを演習する。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関して、理解したことをまとめて提出する。または、プログラミングの結果を確認する。
	教室外学習の時間(分)	60
第12回	授業テーマ	論文スタイルで書くまたはプログラミングなど
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関して、理解したことを論文スタイルで書くまたはプログラミングなどを演習する。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関して、理解したことを論文スタイルで書いたものまたはプログラムなどを仮提出する。
	教室外学習の時間(分)	60
第13回	授業テーマ	卒業研究に向けて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関する卒業研究に向けて、独自の視点や問題意識を持つ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関して、理解したことを論文スタイルで書いたものまたはプログラムなどを提出する。
	教室外学習の時間(分)	60
第14回	授業テーマ	今後の課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関する卒業研究に向けて、今後の課題をまとめる。必携またはパソコン室や図書館の PC を使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関する卒業研究に向けて、今後の課題をまとめて提出する。
	教室外学習の時間(分)	60

学習計画注記

学生らとの議論を通してより意欲的に取り組めるよう方法などは変更する可能性がある。

学生へのフィードバック方法

仮提出された論文またはプログラムなどは、チェックして返却する。

評価方法

・平常点は、平常時の思考力や意欲の程度等に基づいて総合的に判断する。
・まとめは、理解したことの程度と今後の課題における明確さや独自性を確認する。
・論文は、論理的な思考力と文章の的確性を確認する。プログラムなどは、情報処理の技術力を評価する。
・平常点、最後のまとめ、論文またはプログラムなどは、下表に示す力を養うことを目的に評価する。

・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点		○	○	
まとめ	○	○		
論文またはプログラムなど		○		○

評価割合

平常点（30%）、まとめ（30%）、論文またはプログラムなど（40%）を総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

議論して考える

参考図書

議論して考える

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「衣」「住」「コミュニケーション・情報」「地域・園芸・ビジネス」「家庭科教育」の各分野について、専門的知識・技術を有している。グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。

【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。

【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。

【技術・表現】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。

オフィスアワー

月曜 4 限・水曜 3 限 1411研究室
早朝・深夜を除き、メールでも相談に応じる。
必要であれば、日時を調整してオンラインで対応する。

学生へのメッセージ

基本的な知識や技術を学んで様々な場面で活用できる基礎力を身につけましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に勉強・議論する、またはプログラミングなどを通して失敗から学ぶ。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03105310
講義名	ゼミナールB（富田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	富田 弘美	指定なし

ナンバリング

D31208M12

授業概要(教育目的)

服飾デザイン・造形の課題として舞台衣装・各アイテム・ショー作品を取り上げ、実際の公演やショーなどで使用する衣服をデザイン・制作する知識と技術を身に見つけることを学ぶ。また、学生が興味を抱いている領域、衣服に関するの問題点や研究事例などを調べて、研究・制作の方法や卒研の進め方などを学んで卒業研究に結びつくような課題を見つけ出すことを目的とする。

履修条件

服飾造形実習A、服飾設計論、服飾造形実習Bを履修していることが望ましい。
各自のPCを使用することがある。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	衣分野における諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	衣分野における諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣分野における課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	衣分野における情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

ゼミナールB（富田１）

	授業テーマ	卒業研究・制作、オペラ衣装の縫製１

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究・制作について、日程、中間発表、要旨、論文提出など全般について進め方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究・制作の方法を完成させること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	授業テーマ	卒業研究・制作、オペラ衣装の縫製２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究・制作について、日程、中間発表、要旨、論文提出など全般について進め方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究・制作の方法を考え、作品を完成させること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	卒業研究・制作、オペラ衣装の縫製３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究・制作について、日程、中間発表、要旨、論文提出など全般について進め方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究・制作の方法を考え、作品を完成させること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	授業テーマ	卒業研究・制作、オペラ衣装の縫製４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究・制作について、日程、中間発表、要旨、論文提出など全般について進め方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究・制作の方法を考え、作品を完成させること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	卒業研究・制作、オペラ衣装の縫製５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究・制作について、日程、中間発表、要旨、論文提出など全般について進め方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究・制作の方法を考え、作品を完成させること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	卒業研究・制作、オペラ衣装の縫製６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究・制作について、日程、中間発表、要旨、論文提出など全般について進め方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究・制作の方法を考え、ショーの準備・練習をする。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	卒業研究・制作、オペラ衣装の縫製７
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	資料・文献を読み要点を把握する。また、制作に伴う基礎技術（デザイン画、製図・型紙など）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	資料等を参考にして要点をまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	卒業研究・制作、オペラ衣装の縫製８
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	

第8回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	資料・文献を読み要点を把握する。また、制作に伴う基礎技術（デザイン画、製図・型紙など）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	資料等を参考にして要点をまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	卒業研究・制作、オペラ衣装の縫製９
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒研内容を進める方法、および制作に伴う基礎技術（部分縫製、素材別縫製方法など）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマ、目的、方法について整理しておくこと。部分縫いなどを進めること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	授業テーマ	卒業研究・制作、オペラ衣装の縫製10
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒研内容を進める方法、および制作に伴う基礎技術（部分縫製、素材別縫製方法など）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマ、目的、方法についてまとめて提出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	授業テーマ	卒業研究・制作、オペラ衣装の縫製11
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	具体的に卒研に取り掛かる日程（予定）、進め方、材料、道具について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身のスケジュールに照らし合わせて検討し、作業の日程表（予定）を作成すること。部分縫いを提出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	授業テーマ	卒業研究・制作、オペラ衣装の縫製12
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	具体的に卒研に取り掛かる日程（予定）、進め方、材料、道具について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身のスケジュールに照らし合わせて検討し、作業の日程表（予定）を作成すること。部分縫いを提出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	授業テーマ	卒研の作業計画１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日程予定、進め方、材料や道具について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作業の日程表（予定）を提出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	授業テーマ	卒研の作業計画２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	後期にまとめた内容をパワーポイントとで発表することを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表内容の準備をすること。
	教室外学習の時間（分）	50分

第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

制作作業の進捗状況によっては、空き時間、春休みなども利用して完成させることもある。（公演は5月中旬予定のため）

学生へのフィードバック方法

制作課題に対するコメント

評価方法

平常点（授業への参加・状況、提出期日などで総合的に判断する）、提出課題点について、ルーブリックを用いて行う。（ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配付等によって指示する。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
デザイン	○	○	○	○
制作・製図	○	○	○	○
作品	○	○	○	○

評価割合

平常点20% デザイン30%、制作（作品）30%、発表20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の中にある諸課題についての知識を深める。【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。【技術・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

オフィスアワー

金曜日12:30～14:50

学生へのメッセージ

ゼミナールB（後期）の舞台衣装制作は製図、仮縫い、本縫いを行う。さらに、卒業研究のテーマ、目的、方法を設定し、卒業研究の作業日程の計画を立てる。資料を参考にしてデザインを発想し、シルエットや材料の検討、製図、仮縫い、本縫い、仕上げの流れを経験することで、創作的な作品、完成度の高い作品を制作できる力が身に付きます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03105311
講義名	ゼミナールB（花田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	花田 朋美	指定なし

ナンバリング

D31208M12

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識を育成することを目的とする。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の基礎知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理し、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	研究テーマの確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループワークを行う。ゼミナールAの成果を整理し、ゼミナールBの研究計画を再考する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕ゼミナールBの研究計画を整理し、人数分の資料を準備しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	45分
第2回	**授業テーマ**	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第3回	**授業テーマ**	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第4回	**授業テーマ**	研究検討会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループディスカッションを行う。各自の進捗状況を整理し、レジュメに基づき報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕研究の進捗状況をレジュメにまとめ、人数分の資料を準備しておくこと。〔復〕ディスカッションに基づき、研究計画を再検討する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第5回	**授業テーマ**	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第6回	**授業テーマ**	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第7回	**授業テーマ**	研究検討会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループディスカッションを行う。各自の進捗状況を整理し、レジュメに基づき報告する。
	教室外学習(予習・復	〔予〕研究の進捗状況をレジュメにまとめ、人数分の資料を準備しておくこと。〔復〕ディスカッションに基づき、研究

	習)の内容	計画を再検討する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	研究遂行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	研究報告会の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別ディスカッションを行う。報告会にむけ、研究の進歩状況をまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕研究の進歩状況をレジュメにまとめておくこと。 〔復〕検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	研究報告会の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別ディスカッションを行う。報告会にむけ、研究の進歩状況をまとめ、プレゼンテーション資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を作成する。〔復〕検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を修正し、発表練習をすること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	研究報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	３、４年生合同のグループディスカッションを行う。進捗状況を整理し、プレゼンテーション発表を行う。
	教室外学習(予習・復	〔予〕プレゼンテーション資料作成し、発表練習をしておく

	習)の内容	こと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	研究計画の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別ディスカッションを行う。プレゼンテーション発表での課題について、再検討し、研究計画を再考する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予〕今後の研究計画の再検討をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

研究の進捗状況によりスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

個別ディスカッション、グループディスカッションにおいて対応。質問や相談は、随時受付。

評価方法

①平常点（意欲、態度、研究遂行に対する行動力、調整力、理解力を評価）
②研究報告会での発表（理解力、意欲、思考力を評価）
③成果物（理解力、構成力、思考力、完成度 を評価）
評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
発表（検討会・報告会）	○	○	○	○
成果物	○	○	○	○

評価割合

平常点４０% 発表（検討会・報告会）４０% 成果物２０%を総合的に評価

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

適宜指示

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の基礎知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できること。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理し、自らの考えを的確に形や文章として表現できること。

オフィスアワー

木曜日１２時４０分～１４時２０分 ２４０７被服材料学研究室

学生へのメッセージ

卒業研究に向けた基礎知識と手法の修得のため、積極的に取り組んでほしいと思います。３、４年生が合同で活動することもあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	実験・実習・調査活動、グループディスカッション、グループワークの実施
情報リテラシー教育	○	文献探索、プレゼンテーションの指導
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション

講義コード	G03105312
講義名	ゼミナールB（原口）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	原口 秀昭	指定なし

ナンバリング

D31208M12

授業概要(教育目的)

今まで住宅をつくる視点から住居デザイン演習などを行ってきたが、住宅を借りる、買う、経営するという視点で不動産としての住宅を考えられるようにトレーニングする。ゼミナールAでは自宅を買うという視点で演習を行ったが、ゼミナールBでは収益物件を買って経営するという視点で演習を行う。地価マップ、ハザードマップ、各種不動産サイト、ローン電卓アプリ、原口作成のエクセル表などを用いて、毎回演習を行う。

履修条件

住居デザイン演習A、B、C、Dを履修していること、履修する予定であることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	土地、建物価格、道路付けと接道条件、日照通風、各種建築知識などの不動産の基本的知識が分かる。
思考・判断の観点 (K)	物件自体の質と価格の良否を判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	新築物件、中古物件検索に意欲的に楽しみながら取り組む。
技術・表現の観点 (A)	不動産ポータルサイト、地価マップ、ハザードマップ、ローン計算ソフトが使えるようになる。不動産の分析内容を説明できる。

学習計画

学生へのフィードバック方法

毎回、教員が学生の選んだ物件とその分析を評価し、その都度、助言を与える。

評価方法

毎回の物件検索と評価の演習における取り組みと、期末でのレポートにて採点する。詳細は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内での配布する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○	○	○

評価割合

物件検索と評価のレポートが40%、出席と演習が40%、平常点20%

参考URL

https://mikao-investor.com/youtubemenu/realestate/

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】不動産についての専門知識を有している。
【思考・判断】建物と土地についての基本的法規を理解して、良否、可否を判断できる。
【関心・意欲・態度】不動産に関心、意欲を持つ。
【技術・表現】不動産の質、価格に対しての評価を提示できる。

オフィスアワー

金曜2限時 3602研究室

学生へのメッセージ

建物は建築したら不動産になります。建築物についての知識の上に自宅物件、収益物件の不動産知識を持てば、住宅・建築業界、不動産業界に進んだ場合の実務や自宅の購入などで大変役に立ちます。建築の勉強の上に、ぜひ不動産の勉強をしてみてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、17年ほどの不動産経営の実務経験がある。実務で学んだ不動産のノウハウを教授している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回少人数グループで、実際にネット上にある物件を検索、分析を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03105313
講義名	ゼミナールB（小川）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	小川 圭子	指定なし

ナンバリング

D31208M12

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。

履修条件

卒業研究で設計を行う予定の場合、住居デザイン演習C/D、建築デザイン演習の単位取得、建築デザイン演習Bの履修をしていることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	専門知識・技術を持つことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	自身が取り組む課題に対し、問題意識をもって、取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	的確な方法を用いて人に伝えることができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス 地図を取り込む（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンス 国土地理院地図データのダウンロードから地図を取り込み、設計で活用できるデータを作成する。 ミニ課題1：国土地理院地図データを用いて、CADで加工する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	地図の取り込みについて、復習する。
	教室外学習の時間（分）	50
第2回	**授業テーマ**	地図を取り込む（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	GoogleMap等を画像ファイルで取り込み、CADでトレースする。 ミニ課題2：GoogleMapをもとにCADでトレースして地図を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	地図の取り込みについて、復習する。
	教室外学習の時間（分）	50
第3回	**授業テーマ**	敷地の広さと縮尺の関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	決められた紙面にどのくらいの縮尺で敷地が収まるのかを計算し、理解する。 ミニ課題3：実例をもとに計算をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	計算過程について復習する。
	教室外学習の時間（分）	50
第4回	**授業テーマ**	就活における自己アピール等のテクニック
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	就活の面接では、自己を客観視しながら、魅力的に表現することが不可欠である。そのため、自己アピール等のテクニック等を理解し学ぶ。 ミニ課題4：自己アピールを作成・リスト化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニ課題で取りんだリストの活用の方法を実践する。
	教室外学習の時間（分）	50
第5回	**授業テーマ**	就活における就職試験の対策
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	就活における就職試験について、必要となる情報や知識の整理や対策方法の確認を行う。 ミニ課題5：就職試験に使われる問題等を解く。
	教室外学習(予習・復習)の内容	繰り返し実践し、知識や方法を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	50
第6回	**授業テーマ**	設計のミニ課題（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの課題を活かした設計を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの総復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	50
	授業テーマ	卒業設計・論文とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究の目標・位置づけの他、これからやるべきことを整理する。 ミニ課題6：雑誌に掲載の卒業研究から気になるものを選び、概要についてまとめ、自身の卒業研究をどのようなもの

第7回		にしたいかをまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）ミニ課題6を完成させ、提出する。
	教室外学習の時間（分）	50
第8回	授業テーマ	卒業研究事例研究 カタチの印象
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究の事例を紹介し、カタチの印象について理解する。 ミニ課題7：自身の取り組む卒研テーマをどのような観点で進めるかを明確にする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究の作品が掲載されている雑誌を熟読し、授業で紹介したものが、実際にどのような作品の考え方につながっているのかを確認する。
	教室外学習の時間（分）	50
第9回	授業テーマ	効果的なレイアウトの仕方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	効果的なレイアウトをコンセプトの関係を事例から理解する。 ミニ課題8：雑誌「卒業研究」を参考にし、効果的なレイアウトを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	効果的なレイアウトについて復習する。
	教室外学習の時間（分）	50
第10回	授業テーマ	卒業設計・論文のテーマ設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究ので何をテーマとするかを考え発表する。 ミニ課題9：自身のテーマを考え、まとめて発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）卒業設計・論文について、調べてくること。
	教室外学習の時間（分）	50
第11回	授業テーマ	縦動線の書き方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	階段・EV・エスカレーター等の構造を理解し、図面に表現する。 ミニ課題10：EV・エスカレーターの図面に表現する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	階段・EV・エスカレーターの図面表記について復習する。
	教室外学習の時間（分）	50
第12回	授業テーマ	指定フォーマットでのデータ作成方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Wordなどの指定フォーマットでデータを作成する方法を身に付ける。 ミニ課題11：予めあるテキストデータを指定フォーマットで書き直す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指定フォーマットでのデータ作成の仕方を復習する。
	教室外学習の時間（分）	50
	授業テーマ	設計のミニ課題（2）

第13回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの課題を活かした設計を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの総復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	50
第14回	授業テーマ	卒業研究のテーマの決定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業を通して、卒業研究のテーマを決定し、概要をまとめ、春休みからのスケジュールを立案する。 ミニ課題12：卒業研究のテーマを決定し、概要、スケジュールをまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のスケジュールに沿って、資料や情報を収集する。
	教室外学習の時間（分）	50

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回ミニ課題に取り組み提出する。授業時間内に回答もしくは翌週までにコメントを記載し、返却する。

評価方法

平常点（発表・授業態度）
ミニ課題：全12課題
詳細は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
発表・授業態度			○	
ミニ課題	○			○

評価割合

平常点（発表・授業態度）30%、ミニ課題70%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

必要であれば、随時指示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」の分野について、専門的知識・技術を有している。
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。
【技術・表現】家政学を修学し、住の分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

オフィスアワー

水曜昼休み～３時限 3512研究室

学生へのメッセージ

自ら問題意識を持ち、手を動かしながら考え、作業を継続することが重要です。また、授業外においても学外の展示会等には積極的に足を運び、自身の考えと向き合うことを習慣化させてください。4年次に取り組む卒業研究を悔いのないものにしましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は、授業内にミニ課題しながら、進める。ミニ課題作成を通し、他者への関心を持ちながら、自身の課題と向き合うこと。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	パソコンやインターネット用い、効率的な表現方法を学ぶ。

講義コード	G03105314
講義名	ゼミナールB（森）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	森 朋子	指定なし

ナンバリング

D31208M12

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日本語教育および言語コミュニケーションの分野の知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	日本語教育および言語コミュニケーションの分野の諸問題について、論理的に分析し考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本語教育および言語コミュニケーションの分野に深い関心を持ち、意欲的かつ積極的に課題に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	問題解決に必要な情報を収集・分析・考察し、研究作法に則って表現することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	イントロダクション 研究の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゼミナールBの内容を理解する。ゼミナールAの内容をふまえ、グループで研究の流れを整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アンケート調査のテーマを決める。
	教室外学習の時間	

	（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	アンケート調査1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自のテーマにそってアウトラインを作成する。各自のアウトラインをクラス全体で検討し、修正点を明らかにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アウトラインを修正し、文献が必要な項目、内容を確認する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	アンケート調査2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館で文献収集を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献を参考にアウトラインを修正する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	アンケート調査3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文献の使い方を学び、各自文献から引用する箇所を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	不足する文献を探す。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	アンケート調査4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文献の内容を資料にまとめて発表する方法を学ぶ。各自発表の準備をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	アンケート調査5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行文献のまとめの部分を発表する。ディスカッションを通して、お互いの発表内容について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アンケートの例を探す。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	アンケート調査6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アンケートに必要な項目についてグループで考えた上で、アンケート作成方法について学ぶ。各自アンケート（下書き）の作成を始める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アンケート（下書き）を完成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	アンケート調査7

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自のアンケートをクラス全体で検討し、修正点を明らかにする。各自修正を開始する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アンケートを完成する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第9回	授業テーマ	アンケート調査8
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アンケートの実施方法について学び、クラス全体で実施計画を立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アンケートを配付する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第10回	授業テーマ	アンケート調査9
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アンケートの集計方法および統計処理の方法を練習を通して学ぶ。表、グラフの作成のしかたも練習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自アンケートの項目によってどのように統計を処理するかを考える。
	教室外学習の時間(分)	45分
第11回	授業テーマ	アンケート調査10
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アンケート調査の口頭発表の方法を練習を通して学ぶ。アンケートの集計と統計処理を始める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自口頭発表の資料を作る。
	教室外学習の時間(分)	60分
第12回	授業テーマ	アンケート調査11
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アンケート調査のあるレポートの作成方法を練習を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートの下書きを作成する。
	教室外学習の時間(分)	60分
第13回	授業テーマ	アンケート調査12
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レポートに適する表現を練習を通して学ぶ。各自のレポートの修正点を相互に指摘し、修正を開始する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートを修正し完成する。
	教室外学習の時間(分)	60分
	授業テーマ	アンケート調査13
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お互いのレポートを読み、発展できる点をディスカッションする。

第14回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	レポートを修正する。
	教室外学習の時間（分）	45分

学生へのフィードバック方法

口頭および書面によるコメント

評価方法

課題（完成度により評価する） ポートフォリオ（課題設定、記録内容、整理の仕方により評価する） 平常点（ディスカッション、発表、取り組みの姿勢により評価する）
※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○	○	○
ポートフォリオ		○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

課題50% ポートフォリオ10% 平常点40%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】日本語教育および言語コミュニケーションの分野の知識を学び、理解を深める。
【思考・判断】日本語教育および言語コミュニケーションの分野の諸問題について、論理的に分析し考察することができる。
【関心・意欲・態度】日本語教育および言語コミュニケーションの分野に深い関心を持ち、意欲的かつ積極的に課題に取り組むことができる。
【技術・表現】問題解決に必要な情報を収集・分析・考察し、研究作法に則って表現することができる。

オフィスアワー

水曜日昼休み、3限

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に自主的に取り組む。ディスカッション等を通して、自分の意見を伝えると同時に、異なった意見をまとめる訓練をする。
情報リテラシー教育	○	図書館やインターネットを駆使して情報収集をし、成果物をまとめる。
ICT活用		

講義コード	G03105316
講義名	ゼミナールB（嶋田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	嶋田 芳男	指定なし

ナンバリング

D31208M12

授業概要(教育目的)

本学科では、社会福祉主事、児童指導員といった福祉関係資格が取得できるため、社会福祉に関する知識や技術の習得も必要と考える。そこで本授業では、地域福祉、ソーシャルワーク、障がい者の福祉に関する基礎的内容を学ぶことで、資格に見合った社会福祉全般の内容を理解することを目的にしている。

履修条件

特にない

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	地域福祉、ソーシャルワーク、障がい者福祉分野に関する知識が習得できる
思考・判断の観点 (K)	社会で派生しているさまざまな課題について、考えることができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	ソーシャルワークの技法を習得できる

学習計画

第1回	**授業テーマ**	地域と家族について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域と家族の現状と課題を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	地域で派生している生活課題を調べておく

	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	**授業テーマ**	地域社会の理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域社会の4つのモデルを理解し、それぞれに対するアプローチ法を習得する
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身が住んでいる地域がどのモデルに相当するかを考えるとともに、アプローチ法を検討する
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	**授業テーマ**	地域福祉と障がい者福祉の理念、概念
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域福祉と障がい者福祉の理念、概念について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	**授業テーマ**	地域福祉と障がい者福祉の変遷
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域福祉と障がい者福祉の歴史について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	**授業テーマ**	地域福祉と障がい者福祉に関わる人びと
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域福祉と障がい者福祉に関わっているフォーマルな人びとと、インフォーマルな人びとについて理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	**授業テーマ**	地域と障がい者福祉に関わる組織
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域福祉と障がい者福祉に関わるフォーマルな組織とインフォーマルな組織について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	**授業テーマ**	地域福祉計画と障がい者福祉計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域と障がい者に関する福祉計画の作成、およびその内容について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	**授業テーマ**	地域福祉と障がい者福祉に関する財源
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域福祉と障がい者福祉に関するフォーマルな財源とインフォーマルな財源について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	フォーマルな財源とインフォーマルな財源について調べるとともに、復習しておく
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	**授業テーマ**	地域福祉と障がい者福祉の福祉教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域福祉と障がい者福祉の福祉教育の方法と内容について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習しておく

	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	**授業テーマ**	高齢者福祉、こどもの福祉、障がい者福祉におけるケースワーク
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ケースワークの方法と内容について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	**授業テーマ**	高齢者福祉、こどもの福祉、障がい者福祉におけるグループワーク
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループワークの方法と内容について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	**授業テーマ**	高齢者福祉、こどもの福祉、障がい者福祉におけるコミュニティワーク
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コミュニティワークの方法と内容について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	**授業テーマ**	総合演習（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障がい者福祉分野における生活課題を抽出する
	教室外学習(予習・復習)の内容	各種資料を収集し、障がい者福祉に関わる課題を把握する
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	**授業テーマ**	総合演習（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障がい者福祉分野における生活課題に対する解決法を考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	障がい者福祉分野における生活課題に対する解決法を考える
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

本授業は2名の教員による合同開講であり、「社会福祉ゼミナール」としてオムニバス形式で実施する

学生へのフィードバック方法

提出された課題は、評価した後に返却する

評価方法

評価はゼミへの参加度、およびレポートで評価する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○		○
レポート	○	○		○

評価割合

平常点50%
レポート50%

使用教科書名(ISBN番号)

必要に応じてプリントを配布する

参考図書

授業はゼミ形式で行うため、積極的な発言や提案を期待したい

ディプロマポリシーとの関連

【思考・判断】【関心・意欲・態度】
社会の中にある諸課題に関心を持つことで自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。その過程では、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。

オフィスアワー

火曜2限

学生へのメッセージ

授業はゼミ形式で行うため、積極的な発言や提案を期待したい

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03105501
講義名	アパレル生産実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	富田　弘美	指定なし

ナンバリング

D32208M13

授業概要(教育目的)

アパレル製品が、システム化された作業工程に従って商品化される過程を模擬的に体験して学園祭で販売する。商品の企画、デザイン、CADによる工業用衣料パターンメーキング、サンプル製作、縫製仕様書による指示、カッティング、縫製、仕上げ、検品と製品評価などの生産工程と商品のパッケージ、広告、販売について学び、品質のよい製品を効率よく生産するための基礎を習得することが目的である。また、アパレル企業の実務経験をもつ講師による特別講義を行う。

履修条件

「アパレルCAD実習」を履修すること。発表のときには個人のPCを使用するが、課題作成では主にパソコン室のPCを使用する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	衣生活に関する諸課題についての知識を深められる。
思考・判断の観点 (K)	衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つことができる。

学習計画

アパレル生産実習

第1回	授業テーマ	ガイダンス、既製服の歴史 プロジェクト１（プロジェクトの説明・商品企画）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	既製服の歴史を学び、模擬的なアパレル企業の企画、設計、生産、検品、販売（KVA祭）などの作業内容を理解する。また、商品企画では、ターゲット、ライフスタイル、コンセプト、およびプロダクト（工業）パターン（製図・型紙）について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の商品テーマ、コンセプトに沿ったデザインを考えてデザイン画で表現する。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	特別授業

第2回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	長年アパレル企業に勤務していた豊富な実務経験のある講師により、アパレル企業の店舗運営、売上、利益管理（価格設定）、ブランド管理等について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	この講義を参考にして、摸擬的なアパレル生産の商品管理・価格設定などを考えること。
	教室外学習の時間（分）	30分
第3回	授業テーマ	プロジェクト２（コンセプト決定・プロダクトパターン）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ターゲット、ライフスタイル、コンセプトを決定し、デザイン設定、プロダクトパターン作成（CAD使用）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	生産する商品のコンセプト、デザインを決定し、デザイン画で表現する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	プロジェクト３（デザイン検討・グレーディング）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パターン（型紙）のグレーディング（CADでサイズ展開）、デザイン案を検討して材料について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	商品の材料（生地、副資材）などを考える。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	プロジェクト４（デザイン検討・サンプル作成・中間発表の準備）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プロダクトパターン作成とグレーディングを行い、シーチングでサンプルを縫製する。シルエット、サイズ、縫製方法、材料（生地・副資材）を学び、各自、または各グループごとの中間発表について準備する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プロダクトパターンを作成、シーチングのサンプルの裁断、縫製を進めること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	プロジェクト５（デザイン決定・サンプル作成・価格設定・中間発表の準備）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	CADによるプロダクトパターン作成とグレーディングを行い、シーチングでサンプルを縫製する。シルエット、サイズ、縫製方法、材料（生地・副資材）、価格設定、中間発表について学ぶ。
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	プロダクトパターンを作成、シーチングのサンプルの裁断、縫製を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	プロジェクト６（中間発表・縫製準備・材料調達）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	商品企画（ターゲット、ライフスタイル、コンセプト）、プロダクト（工業）パターン、シーチングのサンプルとデザイン画によるデザインの説明について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	解り易いパワーポイントを作成し、制限時間内で発表するための練習をする。材料の種類、量、金額などを考えて調達する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	プロジェクト７（製品の裁断・縫製準備・縫製仕様書）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地直し、裁断（マーキング）、仕分け（バンドリング）、芯貼りの方法、および縫製仕様書について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	縫製の前段階まで進め、縫製仕様書を完成させること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	授業テーマ	プロジェクト８（製品の縫製１・縫製工程分析）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	職業用ミシン、ロック（縁かがり）ミシン、カバーステッチミシン、プレスなどの作業について縫製工程分析表作成について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	製品の縫製を進めること。縫製仕様書および縫製について点検を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	プロジェクト９（製品の縫製２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	縫製仕様書と工程分析表の流れに従って作業を進め、職業用ミシン、ロック（縁かがり）ミシン、カバーステッチミシン、プレスなどの作業について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	製品の縫製を進めること。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テー	

第11回	マ	プロジェクト　（製品の縫製３・パッケージデザイン・パネル作成）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	縫製仕様書と工程分析表の流れに従って作業を進め、職業用ミシン、ロック（縁かがり）ミシン、カバーステッチミシン、プレスなどの作業について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	製品の縫製を進めること。縫製仕様書および縫製について点検を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	プロジェクト11（製品の縫製４・パッケージデザイン・KVA祭パネル作成）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	縫製仕様書と工程分析表の流れに従って作業を進め、職業用ミシン、ロック（縁かがり）ミシン、カバーステッチミシン、プレスなどの作業について学ぶ。パッケージデザイン、パネル作成について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	製品の縫製を進め、パッケージ（包装）デザイン、メッセージなどを考える。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	プロジェクト12（製品完成・製品評価・検品・プレゼンテーションの準備）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	洗濯表示、品質表示などの法律的に添付する内容、製品の包装プレゼンテーションのパネル作成をについて学び、検査項目に従って検品方法、プレゼンテーションについて学ぶ。また、縫製指示書、工程分析表の質問、確認、コメントの対応などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	KVA祭パネル作成、プレゼンテーションの準備をする。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	プロジェクトのプレゼンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	商品企画（ターゲット、ライフスタイル、コンセプト）、デザイン画、完成した製品、プロダクト（工業）パターン（製図・型紙）、縫製仕様書、縫製工程分析を用いたパワーポイントの発表について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	検品、包装済みの商品を提出すること。プレゼンテーションの準備をする。KVA祭のパネルを完成させること。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

KVA祭に参加するので、後期KVA祭の準備日と当日の日程を調整しておいてください。

学生へのフィードバック方法

商品企画・製作物・提出課題、発表に対するコメント

評価方法

平常点（授業への参加状況、提出期限など総合的に評価する。）、商品企画・製作物、提出課題、発表について、ルーブリックによる評価を行う。
（ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内で説明する。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
商品企画・制作物	○	○	○	○
提出課題	○	○	○	○
発表	○	○	○	○

評価割合

平常点20%、商品企画・製作物30%、提出課題20%　発表30%

使用教科書名(ISBN番号)

・「アパレル設計実習　アパレル生産実習」一般社団法人日本衣料管理協会
（2年「アパレル設計論」の教科書を使用する。）
・プリント配付

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】衣生活に関する諸課題についての知識を深める。【思考・判断】衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。【技術・表現】衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

オフィスアワー

木曜日12:30～14:00

学生へのメッセージ

・グループまたは個人で作業で行うため、欠席をしないように心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	アパレル企業で豊富な実務経験のある講師によるアパレル企業の店舗運営などの講義を依頼している。また、工業ミシンの見学では、世界中の縫製工場で使用している最新のミシンについて学ぶ。
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して自発的に調べ、グループで協議して発表する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03105801
講義名	室内園芸
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	濱田　恵理子	指定なし

ナンバリング

D35205M21

授業概要(教育目的)

室内園芸全般につき、その意義、使用する植物、植物以外の素材、活用法などを解説する。
室内で植物を育てることにより得ることのできる効果を理解する。
植物を含むインテリアの概要、歴史、近代のインテリアデザイン等について知り、合わせてそれぞれのインテリアに対し、適切で効果的な植物の種類、コーディネートを実施出来る力を養う。技術的、用語的な解説だけではなく、コーディネートや設計に応用可能なように、なるべくデザインに関連させて説明する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	室内園芸に向く植物について名前、特性、栽培方法、効果的なコーディネート方法など基本的な事項を説明できる。
思考・判断の観点(K)	想定したインテリア内での植物の姿をイメージし、関係素材、設備なども含めてプランを立てることができる。
関心・意欲・態度の観点(V)	実生活の中でも室内園芸に興味を持ち、植物の種類、デザイン、メンテナンス等につき確認してみる習慣をつける。和洋を問わずインドアガーデン等掲載の雑誌、書籍等に目を通す。自分で授業外で獲得した知識をレポートなどに活かせる。
技術・表現の観点(A)	室内園芸の総合的なプラニングにつき、スケッチ、コラージュなどで具体的に表現できる。

学習計画		
室内園芸の実際		
第1回	授業テーマ	植物のある空間について考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	植物のもつさまざまな効用、演出上の効果など概要を説明する。自分が植物につき現在どの程度理解しているか再確認し、上手に共生していくために何を学ぶべきか知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の全般に目を通し、室内園芸の効用、室内植物の姿に見聞を広める。 身の回りにある植物につき、分類、名前、基礎的な知識等について調べたり、知ったりする努力をすること。
	教室外学習の時間（分）	予復習に180分。
第2回	授業テーマ	基本的な植物の性質と環境づくり、手入れ。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	植物が他の無機質のインテリアエレメントと大きく異なる点は「いきもの」であることである。ただ、美しい、可愛らしいとチョイスするのでは欠ける部分が生育環境となる。基本的な生育環境、栽培について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	校内や、自宅で各所の明るさと、そこに適応している植物の姿を確認すること。 教科書に掲載の写真の中から最も気にいったものにつき、植物、環境、鉢等周囲のトリートメントを考察すること。
	教室外学習の時間（分）	190分で予習。
第3回	授業テーマ	基本的な植物の性質　2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	植物をより健康に保つ技能、コンテナやスタンドなど植物をより効果的に見せるアイテム、植物のテクスチャーを読み取ることを学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	植物と暮らすということを疑似体験してみること。(ごく小型なグリーンを配布する予定です。手元に来た植物について名前やその他の情報を知り、健常に育てることをスタート。)
	教室外学習の時間（分）	予復習として180分。
第4回	授業テーマ	植物の配置で変化をつける。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉢植えの置き方(単独・複数)、寄せ鉢、寄せ植え、造形(つる性植物の誘引、トピアリー)により、その印象が変わることを知る。 鉢や鉢カバーの素材やデザインのいろいろを知り、インテリアとの関係性を考察すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.105からp.108に目を通す。具体的にインテリアスタイル、植物のテクスチャーのコーディネートについて興味を持つ。
	教室外学習の時間（分）	予復習に190分程度。
	授業テーマ	栽培方法　ハイドロカルチャー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	室内園芸の代表的な技法であるハイドロカルチャー について知る。必

第5回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	要な資材、植物選択、植え込み方法、管理等の手順を学ぶ。 ボトルガーデン、テラリウム 等応用形を知り、その長短所を知る。ビルトインのシステムも紹介。
	教室外学習(予習・復習)の内容	可能であればハイドロカルチャーにつき実践を試みる。
	教室外学習の時間（分）	予復習として190分目安。
第6回	授業テーマ	植物のある家1 リビングルーム を考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	植物を「置く」「吊るす」「掛ける」等レイアウト方法のバリエーションを知る。合わせてそれぞれに適した植物の選択、栽培方法につき知識を広める。室内環境の照度、湿度、温度についてイメージする。 自分なら理想のリビングルーム はこうしたい・・・の実現に向けて。
	教室外学習(予習・復習)の内容	インテリアショップ、モデルハウス、雑貨店などで様々なスタイルのリビングルーム を見る。その場所に合う植物の姿をイメージする。
	教室外学習の時間（分）	予復習に190 分。
第7回	授業テーマ	色彩とテクスチャー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	色彩的な知識と、植物の持つ色彩、テクスチャーについて知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	色彩学の基本につき、既知の点は確認し、知識を徹底。伝統色のトーンのニュアンスを感じる。最近流行のインテリアのカラースキームはどう言った感じなのかなど幅広く興味を持ち、そこに植物を取り入れるとしたら・・・をイメージする。
	教室外学習の時間（分）	予復習に各180分程。
第8回	授業テーマ	植物のある家２　リビングルーム②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家具や内装を構成する素材、植物の種類組み合わせにつき具体的に学習する。インテリアスタイルの歴史、種類、代表的家具等にも知識をひろげる。照明器具と植物のコンビネーションの可能性を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	照明器具にはどんなデザインのものがある? 植物を組み合わせる可能性は? 植物の生育に必要な照度を補うための照明についても知る。
	教室外学習の時間（分）	主に復習に180から190分。
第9回	授業テーマ	キッチンに置く植物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	いわゆるキッチンガーデンの展開について知る。観賞・栽培・収穫・料理・クラフト等生活の様々なシーンで楽しむ植物。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ハーブ、スプラウト等に知識を広める。 教科書 p.92-96 に目を通す。可能ならスプラウト栽培などを実践する。

	教室外学習の時間（分）	予復習に各90 分を充てる。
第10回	授業テーマ	和の演出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主に観葉植物を使用して和の景観づくりを考える。インテリアとして長く人気の和風モダンのスタイルを知る。 また、ホテル、店舗など商業空間で人気の高いヌーベルシノワ、オリエンタル等東洋風なスタイルと植物のコーディネートの実例をみる。 室内で植物が楽しまれる様になった歴史にもあたる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	例として提示する店舗などを訪店してみる。そのときに感じた印象等データを記録する。
	教室外学習の時間（分）	予復習計190分。
第11回	授業テーマ	居室をつなげる空間づくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	玄関、廊下、壁、天井、吹き抜けなどの植物による立体的な演出。安全面、建築基準法への配慮。 特殊空間緑化(温度他の微気象緩和の効果について知る)へのつながり。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	予復習に180分充てる。
第12回	授業テーマ	水回り、エクステリアと植物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	トイレ、洗面所、バスルーム といった水まわりでの植物展開。清潔感、メンテナンスとの兼ね合い。 バルコニー 、コンサバトリー、サンルームといったアウトドアリビングの植物演出。 水生植物、イルミネーション等にも知識をひろげる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実際にプランを立てる～① 演習
	教室外学習の時間（分）	復習として課題190分ほど。
第13回	授業テーマ	ハンドメイドという考え方　室内で植物と共に楽しむ素材のいろいろ。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	DIY、ハンドクラフトを施して楽しむインテリアと植物。ペイントやワイヤー、雑貨との組み合わせや、具合的な方法などにつき知る。 生花、人工樹木、プリザーブドフラワー、ハーバリウム、アートフラワー、エアプランツ、コケ 、多肉植物他。多種類にわたる素材の基礎知識を持つ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	年中行事と植物モチーフにつき考察する。 小さなスペースの演出についてプランを作る。~② 演習 教科書のp.85,86に目を通す。
	教室外学習の時間（分）	復習として190分程度充てる。
	授業テーマ	総合的な園芸による空間演出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	居室の一部コーナーにつき総合的な空間演出のプランを立てる。テーマ、コンセプトを設定し、適切なプレゼンテーションができることを目標とする。

第14回	を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	簡単にイラスト等でプレゼンテーションツールを作成することを目標とする。
	教室外学習の時間（分）	復習に180分ほどを充てる。

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
初回講義にてルーブリックについて解説いたします。

学生へのフィードバック方法

課題等は、次週の授業にて解説する。

評価方法

課題を課す。内容は、その回に行った授業内容とし、問題数は3～5問。すべて記述式とする。定期試験を実施。課題と合算し(平常点も兼ねる）評価する。課題につき50%定期試験につき50%で評価する。

ルーブリックを用いて評価いたします。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業の出欠席				
課題	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	○

評価割合

授業内容の定着を目標とした課題をだす。定期試験と集計して成績評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

室内植物があなたを救う　ISBN978-4-540-13138-7

参考図書

講義中に都度参考となる書籍を紹介。購入は自由とします。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」と「衣」分野に関係するインテリアとそれに付随する植物について、専門知識・技術を有している。

【思考・判断】社会の中にある住宅、店舗の中での植物のもつ課題を自ら発見し、分析し、考察することができる。

【技術・表現】社会に対して、インテリアエレメントとしての植物に関して、洗練された表現で課題解決を行い表現することができる。

学生へのメッセージ

「住」と「衣」分野の双方にまたがるインテリアデザイン、より快適な空間の構成をするために植物の存在は欠かせません。デスクの上のほんのひと鉢から、インテリア全体にかかわるインテリアエレメントとしての植物は、非常に興味深い分野であると同時に、人間生活を名実共に豊かにするものでもあります。この授業で室内園芸とインテリアの基本を身に付けましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	担当教員は、30年以上植物プラニングの経験を有しており、園芸や植物の基本知識がインテリアデザインやインテリアコーディネートにどのように生かせるかを教授している。
アクティブ・ラーニング	○	一部グループワークを予定しているが、進度等により勘案します。
情報リテラシー教育	○	室内園芸につきたてたプランを第三者に伝えるプレゼンテーション技法を学ぶ予定です。
ICT活用		

講義コード	G03106101
講義名	ＣＧデザイン演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

D14202M22

授業概要(教育目的)

情報の伝達、表現方法である２次元CGの基礎学習を目的とする。この授業は２次元グラフィックツールを用いて課題を行いながら表現の基礎を学ぶ。

履修条件

有料ソフトである「CLIP STUDIO PAINT PRO」 Ver.２.0を用いて授業を行います。
授業期間中にはソフトの購入（5,000円）又は月額（480円）の契約が必要です。
＊価格は変動する可能性があります。
www.clip-studio.comを参考してください。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	２次元グラフィックツールの知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
思考・判断の観点 (K)	必要な情報を収集し分類を行う。その結果を用いてアイディアに展開することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	必要な情報を収集し分類を行う。その結果を用いてアイディアに展開することができる。
技術・表現の観点 (A)	情報伝達を理解し情報を可視化することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	授業のオリエンテーション、２次元CGの概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の概要や内容、成績の評価の説明を行う。２次元CGについて概要と表現の可能性について説明を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	２次元CGについてどのようなことができるか、何を表現したいのかについて調査を行いレポートを書く。
	教室外学習の時間(分)	１００分

第2回	授業テーマ	２次元CG基礎１−１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ビットマップ画像を用いたグラフィックツールの基本的なインタフェースを理解する。選択、移動、拡大、縮小の機能を応用した小課題１（野菜でコックさんを作る）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題を理解するために再度小課題１（野菜でコックさんを作る）を復習する。次回の課題１（コラージュ）のための素材を収集する。
	教室外学習の時間（分）	１００分
第3回	授業テーマ	２次元CG基礎１ー２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レイヤー機能について演習を行う。画像の合成、スタンプツールなどを用いて小課題２（ベネチアの風景）を行う。課題１（コラージュ）を制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題を理解するために再度小課題２（ベネチアの風景）を復習する。
	教室外学習の時間（分）	１００分
第4回	授業テーマ	２次元CG基礎１ー３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イメージのレタッチについて演習を行う。課題２（ありえない世界）の説明行い制作を始める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題２（ありえない世界）のアイディアスケッチと表現のための素材を収集する。
	教室外学習の時間（分）	１００分
第5回	授業テーマ	課題２（ありえない世界）の制作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ビットマップ画像を用いたグラフィックツールを駆使して課題２（ありえない世界）の制作を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題２（ありえない世界）の完成度を高める。
	教室外学習の時間（分）	１００分
第6回	授業テーマ	２次元CG基礎２−１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ベクトル画像を用いたグラフィックツールの基本的なインタフェースを理解する。基本形の図形、選択、移動、拡大、縮小の機能を応用した小課題２（初めてドロー）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ベクトル画像を用いたグラフィックツールの基本を復習する。
	教室外学習の時間（分）	１００分
第7回	授業テーマ	２次元CG基礎２−２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	色の選択・グラデーション・ペーンツールの使い方を学ぶ。課題３（キャラクター）の制作を始める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャラクターについて資料を収集して課題３（キャラクター）のアイディアスケッチを行う。
	教室外学習の時間（分）	１００分
	授業テーマ	課題３（キャラクター）の制作

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ベクトル画像を用いたグラフィックツールを駆使いてキャラクターを制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャラクターデザインの完成度を高める。
	教室外学習の時間(分)	１００分
第9回	授業テーマ	課題３（キャラクター）の制作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ベクトル画像を用いたグラフィックツールを駆使いてキャラクターを制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャラクターデザインの完成度を高める。
	教室外学習の時間(分)	１００分
第10回	授業テーマ	課題３（キャラクター）の制作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ベクトル画像を用いたグラフィックツールを駆使いてキャラクターを制作する。制作レポートを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャラクターデザインの完成度を高める。制作レポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	１００分
第11回	授業テーマ	課題４（年賀状）の制作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題３のキャラクターを用いて年賀状を制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	年賀状デザインの完成度を高める。
	教室外学習の時間(分)	１００分
第12回	授業テーマ	課題４（年賀状）の制作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題３のキャラクターを用いて年賀状を制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	年賀状デザインの完成度を高める。
	教室外学習の時間(分)	１００分
第13回	授業テーマ	課題４（年賀状）の制作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題３のキャラクターを用いて年賀状を制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	年賀状デザインの完成度を高める。
	教室外学習の時間(分)	１００分
	授業テーマ	プレゼンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャラクター、年賀状のデザインについてプレゼンテーションを行う。

第14回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	制作レポートを作成して提出する。
	教室外学習の時間（分）	１００分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

小課題、課題、レポートは採点して、次週の授業にて返却をする。質問などがある場合は研究室1307（E-mailも可）まで訪問すること。

評価方法

２回の小課題は１０点満点で提出した結果を３つの基準で評価を行う。３つの基準は「課題の理解」「誠実さ」「デザイン性」で５段階評価を行う。４回の課題は６０点満点で課題の結果、制作レポート、プレゼンテーションで評価を行う。評価の基準は小課題と同じく３つの基準を５段階評価で行う。２回のレポートは２０点満点で小課題や課題と同じく３つの基準を５段階評価で行う。平常点は１０点満点で１４回を通して「背極的な授業の参加、態度」「背極的なディスカション」を基準に加点及び減点を行います。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小課題	○	○	○	○
課題	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

小課題（１０%）、課題（６０%）、レポート（２０%）平常点（１０%）で評価をする。

使用教科書名(ISBN番号)

なし、必要に応じてプリントを配布する。

参考図書

必要に応じて提示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】情報 について、専門的知識・技術を有している。
【思考・判断】多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
【関心・意欲・態度】積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

オフィスアワー

火曜日２限 １３０７研究室

学生へのメッセージ

情報の表現は沢山の方法があります。如何に効率よく正確にわかりやすく伝えるかが大切です。更に表現を行うさいには美しくなる必要があります。どうすれば美しいデザインができるかを一緒に探ってみたいです。この授業はパソコンを使います。パソコンの基本をわからないのであれば事前学習して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら調べ、発表する。
情報リテラシー教育	○	情報そのものと情報の伝達をするための情報の収集、分類、基本的な表現スキルを教育する。
ICT活用	○	情報収集、作品制作、発表のために、PCや通信機器を活用する。

講義コード	G03106301
講義名	ガーデニング概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	石綱 史子	指定なし

ナンバリング

D11111M21

授業概要(教育目的)

人々が様々なストレスを抱えた現代の社会では、植物に求められる機能や用途も多様化している。本講義では、園芸やガーデニングとについて考え、定義する。主にガーデニングを行う際に必要な植物学や庭のデザインに関する基礎的な知識や技術について紹介する。本講義を通じ、私たちの生活の中に多く存在している植物に気づき、見る力を養う。園芸領域科目（園芸学、ガーデニング実習など）の入門編の講義である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	身の回りの植物を用いた空間デザインについて興味を持ち、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	植物を生活に取り入れることのメリット、デメリットを判断し、その楽しさや難しさ示すことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	本講義を受ける前には気がつかなかった、私たちの生活の中にある植物に気づき、興味を持つ。
技術・表現の観点 (A)	植物を生活に取り入れるために必要な園芸やガーデニングの基礎的知識を身につける。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンスとイントロダクション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本講義の到達目標、講義内容、進め方を説明する。身近にどのような植物があるか、どのような植物を知っているかを考える。 課題①植物の紹介について説明し、進め方を決定する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：本講義の到達目標や進め方をよく理解すること。 予習：生活の中にある植物を観察する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	植物、庭、花壇、園芸、ガーデニングとは 植物学の基礎
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本講義で扱う言葉の定義を例を紹介しながら解説する 植物学的分類、命名法、植物の形態の基礎を実例を挙げながら解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義で扱った言葉の定義を復習し違いを理解し解説できるようにする 予習：植物の名前はどの様につけられているか、植物の形態と部分の名前を理解し解説できるようになる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	造園とランドスケープの歴史①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本庭園の歴史と様式を事例を挙げながら解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：日本庭園の歴史を復習し、なぜ時代によって庭園の様式が変化したか理解する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	造園・ランドスケープの歴史②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	西洋の庭園の歴史、様式を実例を挙げながら解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：授業内容を復習し、西洋の庭園の歴史と時代によって異なる様式を理解する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	造園・ランドスケープの歴史③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国外の庭園の歴史と様式を実例を挙げて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義内容を復習する。第3回から第5回までの造園・ランドスケープの歴史について理解する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	園芸植物の基礎①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	園芸植物とは何か、栽培植物の起源と育種について、特に野菜の実例を挙げて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義内容を復習する。野菜の栽培化や育種について理解し、具体例を説明できるようにする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	園芸植物の基礎②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	園芸植物とは何か、栽培植物の起源と育種について、特に果物の実例を挙げて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義内容を復習する。果物の栽培化や育種について理解し、具体例を説明できるようにする。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	園芸植物の基礎③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	

第8回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	園芸植物とは何か、栽培植物の起源と育種について、特に花の実例を挙げて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義内容を復習する。花の栽培化や育種について理解し、具体例を説明できるようにする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	植物についての正しい情報を得る方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	植物図鑑の見方（用語の解説など）、インターネットサイトなど、植物についての正しい情報を得る方法を解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義内容の復習とインターネットなどを実際に閲覧し、情報を得る方法を確認する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	園芸用資材と季節の飾り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガーデニングや園芸で使用する特殊な資材、用土について実例を挙げて解説する。 年末にかけてみられるクリスマスの飾りについて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義内容の復習。どの様な道具や資材を使うか理解し、解説できるようにする。 街に飾られている植物を使った飾りを観察する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	身の回りにある植物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	街の景観の構成要素や私たちの暮らしの中にある植物について考察し解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義内容を復習する。各自の生活の中の景観や植物を改めて観察する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	季節の重要性と植物を使った空間デザイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	庭や植物の季節の重要性、日本文化で昔から用いられる四季の代表的な植物を実例を挙げて解説する。 植物を使った空間デザインについて、実例を紹介し解説する。 お正月飾りについて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義内容の復習と秋と冬に美しい植物を観察する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	「シンボルツリーを選ぶ」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	初歩的な題材として住宅のアプローチへ植栽するシンボルツリーを実例を挙げて解説し、各自で課題に取組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：一般的な住宅で玄関前に植えられている植物を観察する。 予習：シンボルツリーを選ぶ時に重要なポイントを考えておく。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	課題「シンボルツリーを選ぶ」の発表とふりかえり 本講義の総括
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	クラスメートが課題「シンボルツリーを選ぶ」で選んだ樹種や理由を共有する。

第14回	**を含む)**	この講義で学んだこと、到達目標は達成できたか振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：デザイントの考え方について復習する。身の回りある植物を改めて観察する。
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

履修者数など諸事情により、スケジュールや課題が変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

課題は採点し、コメントを付けて返却する。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。

評価方法

平常点（70%）：各回授の終わりに業内容についてのコメントシートの提出や授業内容に関連した小課題をだす。その提出状況に基づき、授業に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。
課題（30%)植物の紹介（レポートと発表）：課題の主旨を理解しているか、疑問や問題に適切に答えているか、文章構成力、表現力などを総合的に判断して評価する。

課題はルーブリックに基づく評価とします。ルーブリック評価の方法は授業内で解説します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
課題	○	○		○

評価割合

平常点（70%)、課題（30%)による総合評価。

使用教科書名(ISBN番号)

適宜、資料を印刷・配付する。

参考図書

適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー

月曜日 2限 3609研究室

学生へのメッセージ

私たちの生活に身近な植物について学びます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かし	○	担当教員は、植物園および大学研究機関で庭や植物コレクションの栽培管理業務に従事した実務経験を有している。実務経験をもとに現場で必要な園芸と植物の

た授業		基礎的知識とは何かを講義で伝えている。
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら考え、調べ、デザインとして表現する。 課題発表では質疑応答を行い、意見交換等する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	授業内で課題をパワーポイントを使い発表する。

講義コード	G03106401
講義名	言語学概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	森 朋子	指定なし

ナンバリング

D11109M21

授業概要(教育目的)

「ことば」は「コミュニケーションの道具」と言われており、人間の生活は「ことば」なしには成り立たない。授業では、あまりにも身近な存在である「ことば」の特徴を客観的に学ぶことで、言語によるコミュニケーションの役割について考察していく。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	言語を音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論の観点から理解する。
思考・判断の観点 (K)	学んだ知識を基に、自分達が日常使っている言語を科学的に分析する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	言語の機能、不思議さ、面白さに興味を持ち、外国語習得や言語コミュニケーションに役立てることができる。
技術・表現の観点 (A)	言語の分析を論理的に他者に伝えることができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	人間の言語と動物のコミュニケーション・システムの違い
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人間の言語と動物のコミュニケーション・システムの違いについて学び、言語の役割や機能について考える。言語学概論がどのような学問なのかについても学ぶ。

	教室外学習(予習・復習)の内容	世界にはどのぐらいの言語があるかを調べる。自分の興味のある言語の概要についても調べる。
	教室外学習の時間（分）	180
第2回	**授業テーマ**	世界の言語
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	世界の言語の数や分類、特徴について学ぶ。各自調べてきた言語について発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習し小テストに備える。
	教室外学習の時間（分）	200
第3回	**授業テーマ**	音声学１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	音声のしくみと子音について学び、日本語の子音の特徴について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習し小テストに備える。
	教室外学習の時間（分）	200
第4回	**授業テーマ**	音声学２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	母音について学び、日本語の母音の特徴を分析する。母語の体系にない音声はなぜ難しいのか、母語にない音はどのように発声するのかについても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習し小テストに備える。
	教室外学習の時間（分）	200
第5回	**授業テーマ**	音韻論１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	音と音がつながった時にどのような変化が起きるのかを分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習し小テストに備える。
	教室外学習の時間（分）	180
第6回	**授業テーマ**	音韻論２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	音と音がつながった時にどのような変化が起きるのかの分析を続ける。このような変化がなぜ起きるのかについても考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習し小テストに備える。
	教室外学習の時間（分）	200
第7回	**授業テーマ**	形態論１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	形態素について学び、語がどのように成り立っているのかを分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習し小テストに備える。

	教室外学習の時間（分）	180
第8回	**授業テーマ**	形態論２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新しい語ができる際の成り立ちについて学び、いくつかの例を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習し、中間試験に備える。
	教室外学習の時間（分）	200
第9回	**授業テーマ**	中間試験（ここまでの振り返り）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人間の言語と動物のコミュニケーション・システムの違い、言語の役割、世界の言語の分類、音の体系、語の構成について、学んだ知識を活かして分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	中間試験で十分に分析できなかったところを復習する。
	教室外学習の時間（分）	180
第10回	**授業テーマ**	統語論１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	伝統文法による文の分類について学び、文を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習し小テストに備える。
	教室外学習の時間（分）	200
第11回	**授業テーマ**	統語論２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	構造主義による統語論を学び、文を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習し小テストに備える。
	教室外学習の時間（分）	200
第12回	**授業テーマ**	統語論３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	変形生成文法について学び、文を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習し小テストに備える。
	教室外学習の時間（分）	200
第13回	**授業テーマ**	意味論・語用論１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	意味の分類について学び、例を用いて意味を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習し小テストに備える。
	教室外学習の時間（分）	200

第14回	授業テーマ	意味論・語用論３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本語のコミュニケーションの特徴を学ぶ。例を用いて分析をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習し期末試験に備える。
	教室外学習の時間（分）	200

学生へのフィードバック方法

試験は振り返りを行う。その他は口頭、書面でコメントする。

評価方法

小テスト（全体を理解するために要点となる知識を評価する）
中間試験・期末試験（主に学んだ知識を使って分析する力を評価する）
平常点（授業およびグループディスカッションでの発言、取り組みの姿勢を評価する）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○			
中間試験・期末試験	○	○		○
平常点	○	○	○	○

評価割合

小テスト10% 中間試験35% 期末試験35% 平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解の観点】言語を音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論の観点から理解する。
【思考・判断の観点】学んだ知識を基に、自分達が日常使っている言語を科学的に分析する。
【関心・意欲・態度の観点】言語の機能、不思議さ、面白さに興味を持ち、外国語習得や言語コミュニケーションに役立てることができる。
【技術・表現の観点】言語の分析を論理的に他者に伝えることができる。

オフィスアワー

水曜日昼休み、4限

学生へのメッセージ

授業では、実際に体験したり、グループで話し合ったりすることが多くなります。好奇心を持って、積極的に参加して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	例を収集する。ディスカッションをする。
情報リテラシー教育	○	図書館を利用して課題について調べる。
ICT活用		

講義コード	G03106501
講義名	ウェブデザイン
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

D14203M21

授業概要(教育目的)

情報化社会に必須とされる情報の発信のためウェブデザインの理解が必要である。本講義では、ウェブデザインの歴史、技術、デザインなどの知識を通してウェブデザインについて理解を深めることを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から、各分野 の知識を深めて理解することで、情報に関する専門的な職業の道へつなぐことができる。
思考・判断の観点 (K)	1．インターネットの誕生から今日までの展開、影響と意味，役割を理解してこれからのネットワークに関することについて思考・判断できる。 2．ウェブ関連のプラグラムについて思考・判断できる。 3．ウェブサイト構築について思考・判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	「知識・理解の観点」「思考・判断の観点」で得た、知識及び思考・判断をレポートにまとめる（表現する）ことができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション、Webデザインとは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の概要や内容、成績の評価の説明を行う、Webデザインの概要について講義を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書１章の「Webデザインの世界を知る」（９～２６ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	Webデザインの世界を知る

第2回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターネットの誕生から今日までの展開、影響と意味，役割を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書２章の「Webサイトを設計する」（２９～５２ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	Webサイトを設計する１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Webサイトについて理解する。テクノロジー（CGI, PHP, Flash）について，Webの 現状と今後について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書２章の「Webサイトを設計する」（２９～５２ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	Webサイトを設計する２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Webサイトについて理解する。テクノロジー（CGI, PHP, Flash）について，Webの 現状と今後について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書３章の「HTMLの役割とできること」（５５～１１２ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	HTMLの役割とできること１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	HTMLについて理解する。テキスト情報とマークアップ。要素と属性の違い。HTMLの基本構造を理解する。 PCを用いて基本的なHTMLの文法は役割などの演習を行う。 FreeソフトBrackets（テキストエディター）をインストールする必要があります。インストール仕方は講義中に教えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書３章の「HTMLの役割とできること」（５５～１１２ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	HTMLの役割とできること２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	HTMLについて理解する。Headの要素とBodyの要素などを理解する。 PCを用いて基本的なHTMLの文法は役割などの演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書３章の「HTMLの役割とできること」（５５～１１２ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	HTMLの役割とできること３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	HTMLについて理解する。リストを表現する要素と表組みを作成するための要素などを理解する。 PCを用いて基本的なHTMLの文法は役割などの演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書５章の「Webサイトを構成する素材」（１９３～２１０ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	CSSの役割とできること１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	CSSはで情報をデザインするなどを理解する。 PCを用いて基本的なCSSの文法は役割などの演習を行う。

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書５章の「Webサイトを構成する素材」（１９３～２１０ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	CSSの役割とできること２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報をブロック単位で並べるなどを理解する。 PCを用いて基本的なCSSの文法は役割などの演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書4章の「CSSの役割とできること」（１１７～１９０ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	CSSの役割とできること３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	CSSによるレイアウトなどを理解する。 PCを用いて基本的なCSSの文法は役割などの演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書５章の「Webサイトを構成する素材」（１９３～２１０ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	Webサイトを構成する素材
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Webサイトで使う素材、著作権などについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書６章の「Webサイトを表現する色」（２１３～２２０ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	Webサイトを表現する色
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Webカラーについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書７章の「Webサイトを公開する」（２２３～２４０ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	Webサイトを公開する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ホスティングサービスや情報を公開する前に確認することなどを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書８章の「Webサイトを運用する」（２４３～２５８ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	Webサイトを運用する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	SNSとの連携やアクセス解析などを理解する。 今までの講義内容を振り返ります。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書９章の「Webサイトを制作する」（２６１～２７８ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

講義の理解や課題の進み具合によって予定は変更する場合があります。

学生へのフィードバック方法

毎回授業の最後に感想や質問を提出させて、次回に感想や質問について解説を行う。別の質問などがある場合は研究室1307（E-mailも可）まで訪問すること。

評価方法

定期試験は７０点満点で出題する。Webデザインを行う際に必要な基本的な知識を出題する。平常点は３０点満点で14回を通して「毎回の感想や質問」「積極的な授業の参加、態度」「積極的なディスカション」をルーブリックによって評価を行います。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○			○
平常点		○		

評価割合

定期試験（７０%）平常点（３０%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

Webデザインの新しい教科書「改訂新版」 ISBN978-8443-6563-1

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】情報 について、専門的知識・技術を有している。
【思考・判断】講義及び実験から得られる情報、授業外学習から得られる情報などを客観的に理解して関係性を導き出すことができる。
【技能・表現】情報やウェブに関する知識の学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理して、レポートにまとめることができる。

オフィスアワー

火曜日 ３限

学生へのメッセージ

現代社会において情報発信はとても大切である。情報発信の基本であるWebデザインを理解することで情報表現する幅が広がると思われる。特にこの科目はウェブデザイン実務士の必須科目でもあるので主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	情報そのものと情報の伝達をするための情報の収集、分類、基本的な表現スキルを教育する。
ICT活用		

講義コード	G03106601
講義名	消費者調査法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

D15301M12

授業概要(教育目的)

消費者調査の種類と方法を理解し、調査を正しく行うための技術と、調査の結果を集計・分析・考察するための知識を修得させることを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	消費者調査に関わる専門的知識を有している。
思考・判断の観点 (K)	消費者調査について多面的に考える姿勢を身に付けている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら取り組む学習態度を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	自らの考えをまとめ、人に伝える技術力を身につけている。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	消費者調査とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費者調査の定義や意義、重要性などについて理解する。知識調査や意識調査の共通点や相違点を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第1章の演習問題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第2回	**授業テーマ**	利用目的による分類、情報の種類による分類、量と質による分類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事実調査、知識調査、意識調査について確認する。量的調査と質的調査の特徴と相違点を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第2章の演習問題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	情報の収集による分類（質問紙調査法、観察法）、動

		機調査
第3回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	質問紙調査法の種類とメリット・デメリットについて学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第2章の演習問題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第4回	授業テーマ	質問紙調査法の手順、調査票作成の手順
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	質問文の作成や実施に関わる留意事項を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第3章の演習問題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第5回	授業テーマ	調査票作成の仕方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	質問文の作成に関わる留意事項や、質問と回答の形式について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第3章の演習問題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第6回	授業テーマ	全数調査と標本調査、母集団と標本、標本抽出法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査対象の選び方に関わり、全数調査と標本調査、母集団と標本について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第4章の演習問題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第7回	授業テーマ	標本誤差と標本数
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査対象の選び方に関わり、標本誤差と標本数について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第4章の演習問題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第8回	授業テーマ	消費実態調査・トピックス調査の実例
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣料の消費実態調査の特徴と意義を理解する。調査項目や集計・分析について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第6章の演習問題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第9回	授業テーマ	調査企画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	質問紙調査を自ら実施するための調査企画を立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第7章の演習問題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第10回	授業テーマ	調査票の作成①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	質問紙調査を自ら実施するための調査項目を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第7章の演習問題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	190

第11回	授業テーマ	調査票の作成②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	質問紙調査を自ら実施するための調査項目を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第7章の演習問題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第12回	授業テーマ	調査の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	質問紙調査を実施して、回収した調査票のデータを集計する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第7章の演習問題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第13回	授業テーマ	調査の集計・分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集計の方法とグラフ化など分析に必要な知識を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第5章の演習問題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	190
第14回	授業テーマ	調査結果の発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	定期試験として、調査の結果を取りまとめて発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査結果を他者にも理解しやすいよう集計の方法とグラフ化を工夫して発表する。
	教室外学習の時間（分）	230

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

・定期試験は40点満点で出題し、課題レポートを課す。
・提出物、定期試験は下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
提出物			○	○
定期試験	○	○		

評価割合

提出物（60%）、定期試験（40%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

日本衣料管理協会刊行委員会編『新版 消費者調査法』（日本衣料管理協会、2004年）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「衣」「住」「コミュニケーション・情報」「地域・園芸・ビジネス」「家庭科教育」の各分野について、専門的知識・技術を有している。グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができている。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができるまた、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できている。
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができている。
【技術・表現】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。

オフィスアワー

【後期】水曜日 1701ゼミ室 11：00～13：00
※上記は千代田三番町キャンパスのため、メールなどで適宜対応する。

学生へのメッセージ

自分でテーマを決めて質問紙調査を実施しますので、取り上げたいテーマを決めて、どのような質問をしたいのかを考えておきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

講義コード	G03106701
講義名	ファッションビジネス論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

D15304M21

授業概要(教育目的)

本授業では、まず日本のファッション産業の構造や、フランスと日本における産業の発展の歴史について解説する。次に、現代のファッション産業界におけるグローバル化と、ITの進歩による新たなビジネスモデルについて説明していく。本授業はオンデマンド型（木曜、AM9：00）により実施する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1.ファッション産業の構造とその業務について理解できる。 2.ファッションビジネスの基礎的な用語と、ファッション産業の歴史を説明できる。 3.グローバルな視点から、ファッションビジネスの知識を深めて理解できる。
思考・判断の観点 (K)	1.ファッションビジネスの現状と課題を認識し、論理的に考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1.各回の課題に対して、積極的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1.自分の考えや提案を、論理的にわかりやすく表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	授業の概要、ファッションビジネスとは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の概要。ファッションビジネスの定義と、その特性を学ぶ。 本授業は、第1回から第14回まですべて遠隔授業（オンデマンド型）で実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付プリントのファッションビジネスの定義と、その特性を読んで復習すること。

	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	ファッション産業の構造、ファッション産業（1）素材産業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	繊維ファッション産業の4段階の構造と、それぞれの流れを学ぶ。その中の繊維素材産業とテキスタイル産業について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付プリントの繊維ファッション産業の4段階を読んで復習すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	ファッション産業（2）アパレル産業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アパレル産業の分類とアパレルメーカーの業種・業態を学ぶ。アパレルメーカーの各職種（MD、デザイナー、パタンナー）と、その業務について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付プリントのアパレルメーカーの業種と業態を読んで復習すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	ファッション産業（3）アパレル小売産業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アパレル小売業の分類と3つの業態を学ぶ。アパレル小売業の各職種（バイヤー、FA）と、その業務について理解する。ファッション小売業の分類について学んでいく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付プリントの小売業の分類と業態を読んで復習すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	ファッション消費と消費者行動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費者行動とマズローの5段階欲求を学ぶ。ライフスタイルの各分類とお客様の購買行動について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付プリントのライフスタイルの各分類を読んで復習すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	ファッション・マーケティング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	マーケティングの定義とマーケティングの4Pについて学ぶ。マーケティングの分類を学び、ファッション感性に関する用語を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付プリントの4Pと、ファッション感性に関する用語を覚えるようにすること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	フランスのファッション産業の歴史（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オートクチュールの盛衰からプレタポルテの発展までの歴史を学ぶ。ウォルト、ポワレに注目し、そのビジネススタイルを概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付プリントのオートクチュールからプレタポルテまでの歴史と、各ブランドのビジネススタイルを復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分

第8回	授業テーマ	フランスのファッション産業の歴史（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オートクチュールの盛衰からプレタポルテの発展までの歴史を学ぶ。シャネルに焦点をあて、そのビジネス戦略を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付プリントのフランスの産業の歴史を読んで復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	日本のファッションビジネスの歴史(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本のファッションビジネスの変遷について、戦前から1970年代までを、当時の時代背景を踏まえながら学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付プリントの日本のファッションビジネスの歴史を読んで復習すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	日本のファッションビジネスの歴史(2)、日本のデザイナーズブランド
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本のファッションビジネスの変遷について、1980年代から1990年代までを学習する。また、コム・デ・ギャルソンや、日本人デザイナーのブランドビジネスについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付プリントの日本のデザイナーズブランドの戦略について読んで復習すること。DCブランドについて調べること。
	教室外学習の時間（分）	240分
第11回	授業テーマ	グローバルビジネスの世界（1）ーラグジュアリーブランドとファストファッション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ラグジュアリーブランドの「ブランドの民主化」と、台頭するファストファッションの興隆を学習する。SPAと利益の構造について学んでいく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付プリントのファストファッションの興隆を読んで復習すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	授業テーマ	グローバルビジネスの世界（2）ーエコとエシカル
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エコ、エシカルの視点から、世界のファッション生産地の問題を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付プリントの世界の工場について読んで復習すること。レポート課題の調査を行う。
	教室外学習の時間（分）	240分
第13回	授業テーマ	新しいビジネスモデルー通販市場
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ECビジネスの発展について学ぶ。コロナ禍による購買行動の変化により、大きく伸長したEC市場について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付プリントのECビジネスについて読んで復習すること。レポート課題の分析を行う。
	教室外学習の時間（分）	240分
		2000

第14回	授業テーマ	年以降のビジネスの動向と総括
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近年の日本のファッションビジネスの動向と、これまでの授業のまとめ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	近年のファッションビジネスの動向について復習すること。これまでの授業をまとめていくこと。
	教室外学習の時間(分)	240分

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

・Google Classroom上の授業を閲覧してから書いてもらう毎回のミニレポートで、ファッションビジネスについての質問を提出してもらい、その質問にGoogle Classroom上で回答していく。

評価方法

成績評価は、最終レポート課題と、毎回のミニレポート課題の内容と、平常点。
ルーブリックに基づく成績評価。
ルーブリックについては、クラスルームでの配布により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○	○	○	○
毎回のミニレポート	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

最終レポート（70%）、毎回のミニレポート（20%）、平常点（10%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし。配付プリント

参考図書

・社）日本衣料管理協会刊行委員会　「ファッションビジネス論」　日本衣料管理協会、2003年
・永松浩介編　「ファッションビジネスの世界」　日本衣料管理協会、2011年
・藤田雅夫編　「ファッションビジネスの基礎知識」　日本衣料管理協会、2023年

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】・ファッションビジネスの専門的知識を有している。
・グローバルな視点から知識を深め、専門的な職業の道につなげることができる。
【思考・判断】・社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
【関心・意欲・態度】・ファッションビジネスにおける各課題に対して、積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じて、その課題を解決していくことができる。

学生へのメッセージ

店舗で洋服を購入する際に、店舗の場所、ブランドと商品の特徴、商品の価格帯、店員の接客態度と購買層、商品の原産国表示、ブランドの広告などにも注目するようにしていてください。その企業やブランドの戦略が見えてきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は複数のアパレルメーカーにおいて商品企画の実務経験を10年以上有している。「ファッション産業の構造」「産業の歴史」「ファッションビジネスの現状と課題」を実務家の視点からわかりやすく解説する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	各課題の情報収集のために、PCや通信機器を活用する。

講義コード	G03106801
講義名	基礎調理学実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	小川 聖子	指定なし

ナンバリング

D21105M23

授業概要(教育目的)

日本･西洋･中国料理の調理実習を通して、基礎的調理技術（加熱、非加熱、調味）や、食品の性質と衛生的な取り扱い方、食事作法など食事に関する基礎的総合能力を養うことを目的とする。また、原則として１回の食事となる献立の実習を通して、それぞれの料理様式の特徴や食卓の整え方についても示範を確認しながら理解できるよう、また、多面的な場面で実践をすることが可能となる内容とする。
複数人の班員とともに、献立を作り上げるのでお互いに「協調」「協力」して目標を達成する。
本科目は、中学・高等学校の教員免許（家庭科）のための必須科目である。
食材の購入状況により、授業内容が変更になる場合がある。
自分で調理をし、試食して感想を記録することは楽しい時間であることを実感する。

履修条件

体調が悪い（発熱・感染性の疾病・消化器系の不調・あるいはそれらの回復期など）場合は、実習を見学・もしくは試食のみを指示する場合がある。
予め欠席の予定がある場合には、教員または学校に連絡をすること（欠席の場合でも、実習費の返却はできません）。
欠席した場合も、その回の課題レポートを後日提出する必要がある。
アレルギーのある学生は、事前に申し出てください。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	炊飯方法、各種だしの取り方など基本的な調理手順を説明できる。 実習で用いた食材の名称、調理特性、調理法を説明できる。 調味料の使い方（分量・投入のタイミング・化学的変化等）を習得する。

思考・判断の観点 (K)	食材・器具の衛生的な扱い理解することが出来る。 調理器具、食器、計量器具などの目的に合わせた扱いができる。 食材を料理ごとに適切に切砕でき、加熱・調味ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	一つの食材を工夫し、多様に調味、調理できる。
技術・表現の観点 (A)	盛り付け、配膳、コーディネートなど目的、対象者に合わせて展開することができる。

学習計画

調理学実習基礎

第1回	**授業テーマ**	授業の概要及び実習室使用上の取り決め事の説明 調理実習の順番や献立は、仕入れの都合等により変更になる場合があります。 鍋による炊飯とみそ汁・卵焼き・漬物の献立の調理作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オリエンテーション：服装の確認、授業の進め方、特にタイムスケジュールの徹底。授業の開始時間と終了時間の確認。 班分けと、当番の説明。各種洗剤、布巾類の取り扱い方、調理担当者としての健康管理、安全衛生管理など実習授業全般の流れ、取り決め事について学ぶ。 ※白衣またはエプロン、三角巾を着用すること。上履きを用意する。服装は度毎に洗濯し清潔を心がける。 ※服装等が不備な場合でも、貸し出し用の物は用意していないので注意する。 ※調理実習では衛生上の配慮から、爪は短く、ネイルは禁止。 ※マスカラ、つけまつげなど、料理に混入する可能性のある化粧などは控える。髪はまとめておく。 ※アクセサリー・時計は外す。 ※油跳ね、熱湯や蒸気の事を考え、肌が露出しすぎない服装を選ぶ ・ご飯を炊く（デモンストレーションでは鍋を使用する） ・きゅうりとかぶの浅漬け ・たまご焼き ・味噌汁（豆腐・油揚げ・青ネギ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	本回の調理実習レポートを作成する。 授業の目的と授業内容を整理し、配布された次週の実習に備える。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	旬の野菜を使って、短時間にできるシチューを学ぶ 調理における牛乳の使い方を考える 手作りのドレッシングのつくり方を学び、味わってみる（ドレッシングを構成している調味料を知る）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・春野菜のシチュー ・ミモザサラダ（レタス・ゆで卵・ドレッシング） ・フルーツ ・パン
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、反省・感想を記録すること。 次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。
	教室外学習の時間（分）	120分
		和風の魚料理：煮魚のつくり方を学ぶ

第3回	授業テーマ	青菜のゆで方を習得する すまし汁（だしの取り方）適した具を考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・煮魚 ・辛し和え（菜の花またはカキナなどの青菜） ・おすまし（ウド・新わかめ） ・ご飯（五穀米入りなど）
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、反省・感想を記録すること。 次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	授業テーマ	中国風の料理の特徴を学ぶ 高温の油で短時間炒め調理法を学習する 中国風の汁物と副菜を学ぶ 季節のフルーツを味わう（ （晩柑類など）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・鶏肉と春野菜の炒め物 ・トマトと卵のスープ ・ザーサイの和え物 ・ごはん ・フルーツ
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、栄養価計算、反省・感想を記録すること。 次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	授業テーマ	和洋折衷の特徴を考える① 洋風の衣揚げ（フライ）の調理上の注意点を知る。その上で実習を行う。 魚介のフライに良くあうタルタルソースのつくり方を学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・エビフライ ・キャベツの千切り ・タルタルソース ・ニンジンのきんぴら ・味噌汁（旬の野菜など）
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、栄養価計算、反省・感想を記録すること。 次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	授業テーマ	和風の肉の扱いについて学ぶ 和風の副菜の特徴を考える 伝統的な汁物のつくり方を学ぶ 季節のフルーツを味わう
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・肉じゃが（牛肉・じゃがいも・新玉ねぎ） ・梅和え（きゅうり・ツナ・梅肉） ・かみなり汁（豆腐・ニラ） ・ご飯 ・フルーツ

	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、栄養価計算、反省・感想を記録すること。 次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	**授業テーマ**	中国風の献立を考える 卵料理の特徴を学ぶ 中国風の副菜と汁物について考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・かに玉 ・チンゲン菜と蒸し鶏 ・中華スープ ・フルーツ ・ご飯
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、栄養価計算、反省・感想を記録すること。 次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	**授業テーマ**	パスタのゆで方の特徴を学ぶ 具だくさんのパスタのソースのつくり方を学ぶ シンプルなサラダのつくり方について考える 数種の果物を用いてフルーツポンチを作る
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・野菜入りボンゴレ ・トマトとチーズのサラダ ・マチュドニア（フルーツポンチ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、栄養価計算、反省・感想を記録すること。 次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	**授業テーマ**	切り身肉の火の通し方を学ぶ 豚肉に合う、梅酒の梅を用いたソースを作る 夏野菜を使用したスープのつくり方を学ぶ 白米に雑穀を加える手法を学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ポークソテー梅ソース ・夏野菜のスープ ・麦ごはん ・サラダまたはフルーツ
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法を記載し、技術的なポイント、科学的ポイントを整理する。さらに、配膳図(写真）、栄養価計算、反省・感想を記録する。 次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	夏野菜をふんだんに使ったひき肉のカレーを学ぶ バターライスの特徴を考える カレーに合う、デザートを学ぶ

第10回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ひき肉となすのカレー（トマト・カレー粉・いんげん） ・バターライス（ターメリック・パセリ・ローストナッツ） ・コールスローサラダ ・フルーツヨーグルト
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法を記載し、技術的なポイント、科学的ポイントを整理する。さらに、配膳図(写真）、栄養価計算、反省・感想を記録する。 次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	授業テーマ	和の麺のゆで方を学ぶ 主菜になるつけ汁のつくり方を考える 夏野菜を取り合わせた副菜のつくり方を学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・鶏南蛮つけ蕎麦 （鶏もも肉・ネギ・卵）薬味：わさび・ネギ・七味唐辛子 ・夏野菜の甘酢漬け （アスパラ・ズッキーニ・ミニトマト） ・フルーツ （メロンまたはスイカなど）
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法を記載し、技術的なポイント、科学的ポイントを整理する。さらに、配膳図(写真）、栄養価計算、反省・感想を記録する。 次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	授業テーマ	和洋折衷の献立を学ぶ② ひき肉の料理の特徴を学ぶ ご飯に合う副菜の調理を考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ハンバーグ（付け合わせ） ・和風サラダ ・大根の味噌汁 ・ご飯 ・お茶
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法を記載し、技術的なポイント、科学的ポイントを整理する。さらに、配膳図(写真）、栄養価計算、反省・感想を記録する。また、調理法や栄養価など日本料理、西洋料理との違いなども比較してまとめておくこと。 次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	授業テーマ	すし飯のつくり方を学ぶ 火を使わない夏のすし飯の具材を考える かぼちゃを煮物にする（おとしぶたの使い方を考える）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・夏のちらしずし（塩鮭・シイタケ・きゅうり・みょうが・いりごま・かまぼこ） ・かぼちゃの煮物 ・おすまし（ウズラの卵・オクラ・わかめ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法を記載し、技術的なポイント、科学的ポイントを整理する。さらに、配膳図(写真）、栄養価計算、反省・感想を記録する。 14週の実習を終えて、復習として自身の評価をまとめること。

	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	**授業テーマ**	授業のまとめ 掃除と片付け 簡単な昼食を作る
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・親子どんぶり ・即席すまし汁 ・果物
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに日本料理・西洋料理・中国料理の献立の特徴（調理法、配膳図、栄養価計算など）の比較、反省・感想を記録すること。
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

天候による食材の関係で、授業内容を変更することがあります。

学生へのフィードバック方法

デモンストレーション後の実習において、理解できていない点や技術面の指導、サポートを行います。
また、質問等は時間内またはe-mailで受けます。

評価方法

実習参加状況：デモンストレーション、実習を通して、実習班内での協力や実習へ意欲的・積極的な参加態度を評価する。
筆記テスト：調理の基本的な内容についての筆記試験。
実習試験：基礎的な調理技術（到達）を確認する試験。
調理レポート：指定された項目の記載（14週分）内容について評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実習参加状況	○	○	○	○
実習試験		○		○
筆記試験	○	○		
実習ノート	○			○

評価割合

実習レポート：材料・分量・調理法の記載、配膳図、反省、感想、考察（50%）、授業参加状況（50%）
なお、評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

使用教科書名(ISBN番号)

教員が作成したレシピをプリントして配布する。

参考図書

必要に応じて印刷して配付する。
・八訂 食品成分表 2021 女子栄養大学出版部(ISBN978-4-7895-1021-9）
・調理のためのベーシックデータブック 女子栄養出版部（ISBN978-4-7895-0323-5）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】グローバルな視点から知識を深めている。
【思考・判断】社会中にある諸課題を自ら発見し、理論的に分析し考察できる。また、多様な

情報を客観的に理解、判断して行動できる。
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚をもって責任を果たすことができる。
【技術・関心】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。

学生へのメッセージ

・授業後には、毎回実習内容を実習レポートにし、次回の授業開始時に提出しましょう。
・日常的に調理の機会を作ることで、技術の上達や応用力が身につきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	料理研究家としての活動を通して得られた知見を生かして授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	実習を通して、グループ内での協力・協調性を養います。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03106901
講義名	ものづくり演習Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	澤田 雅彦	指定なし

ナンバリング

D21112M12

授業概要(教育目的)

数種類の材料を使って、立体的な造形物を複数制作する。その作業を通して、材料の特徴や制作技術の応用方法などを考えつつ、制作意図に沿ったかたちの作り方を体験的に理解することを目的とする。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	指定された材料と道具を用いて、定められた条件の形を作る課程を理解し、形を作ることができる。
思考・判断の観点 (K)	材料の特徴を考え、作り方を工夫しながら、形を作りあげることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	自分の考えを形にすることができる。

学習計画

	授業テーマ	授業内容の説明と 課題１：立方体の制作（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	授業の日程と具体的な内容について説明。 その後、課題1として、異なる素材と異なる作り方で、一辺が50mmまたは40mmの立方体を、3個以上制作す

第1回	む)	る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回以降の授業で使用する材料と道具の準備と、立方体の作り方の考案。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	授業テーマ	課題１：立方体の制作（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	異なる素材と異なる作り方で、一辺が50mmまたは40mmの立方体を、3個以上制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回の授業で使用する材料と道具の準備と、立方体の作り方の考案。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	課題１：立方体の制作（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	異なる素材と異なる作り方で、一辺が50mmまたは40mmの立方体を、3個以上制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回の授業で使用する材料と道具の準備と、立方体の作り方の考案。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	授業テーマ	課題１：立方体の制作（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	異なる素材と異なる作り方で、一辺が50mmまたは40mmの立方体を、3個以上制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	完成作品の写真撮影とレポート作成の準備。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	課題２：木で曲面を作る（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木の丸枝材を削り、平面・曲がった面・ねじれた面で構成された形をつくる。 （１）試作品の制作と面の形の確認
	教室外学習(予習・復習)の内容	試作品の制作作業。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	課題２：木で曲面を作る（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木の丸枝材を削り、平面・曲がった面・ねじれた面で構成された形をつくる。 （２）デザインの決定とヤスリでの切削作業開始
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品の制作作業。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	課題２：木で曲面を作る（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木の丸枝材を削り、平面・曲がった面・ねじれた面で構成された形をつくる。 （３）制作作業の続き
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品の制作作業。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	課題２：木で曲面を作る（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	木の丸枝材を削り、平面・曲がった面・ねじれた面で構成された形をつくる。

第8回	む)	（４）制作作業の続き
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品の制作作業。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	課題２：木で曲面を作る（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木の丸枝材を削り、平面・曲がった面・ねじれた面で構成された形をつくる。 （５）制作作業の続き
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品の制作作業。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	授業テーマ	課題２：木で曲面を作る（６）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木の丸枝材を削り、平面・曲がった面・ねじれた面で構成された形をつくる。 （６）紙ヤスリによる作品の仕上げ
	教室外学習(予習・復習)の内容	完成作品の写真撮影とレポート作成の準備。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	授業テーマ	課題３：文字の観察とデザイン（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	商品パッケージなどにかかれた文字を観察して特徴をまとめ、その特徴を有する文字をデザインする。 （１）文字の観察と特徴のまとめ
	教室外学習(予習・復習)の内容	観察対象とする文字探しと、文字の観察及び特徴の分析。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	授業テーマ	課題３：文字の観察とデザイン（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	商品パッケージなどにかかれた文字を観察して特徴をまとめ、その特徴を有する文字をデザインする。 （２）文字の観察と特徴のまとめと、文字のデザイン
	教室外学習(予習・復習)の内容	観察した文字（2種類）の特徴を、レポート（2つ）にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	授業テーマ	課題３：文字の観察とデザイン（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	商品パッケージなどにかかれた文字を観察して特徴をまとめ、その特徴を有する文字をデザインする。 （３）観察した文字の特徴を有する文字をデザインする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文字の観察結果に基づき、観察した文字の特徴を採り入れた文字を2つデザインする。
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	授業テーマ	作品合評会の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	３つの課題の制作内容について、合評会の準備をする。 合評会は試験期間中に実施の予定。
	教室外学習(予習・復習)の内容	制作意図のまとめと作品の制作レポート（プレゼンテーションレポート）の制作
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

作品制作の進捗状況等により、授業計画を変更します。

学生へのフィードバック方法

提出された作品は授業終了後に返却します。

評価方法

１．提出する課題は以下のとおり。
課題１：完成した立方体3点とプレゼンテーションレポート
課題２：試作品と、完成した作品とプレゼンテーションレポート
課題３：観察した文字（2種類）の特徴をまとめたレポート2つと、そのうちの1つの特徴を採り入れてデザインした文字2つ
２．作品は、指定した条件にあっているか、制作意図を反映したデザインであるか、丁寧に作られているか、といった観点で評価する。
３．プレゼンテーションレポートは、作品の情報、制作意図や制作の手順・工夫を、正確に分かりやすく示しているかという観点で評価する。
４．平常点は、作品の制作過程で、どれだけ多くのアイデアを出して試作をしたか、どの程度集中して制作に取り組んだか、といった観点で評価する。
評価はルーブリックに基づいて行うことを予定しています。ルーブリックはGoogleクラスルームか初回授業で提示する予定です。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
提出作品	○	○		○
レポート	○	○		○
平常点		○		○

評価割合

提出作品40%とレポート40%と平常点20%で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【思考・判断】各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
【関心・意欲・態度】自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

オフィスアワー

水曜4時限目 1503研究室または工作工房

学生へのメッセージ

授業では常時、紙と鉛筆でのスケッチを行うので、鉛筆とクロッキー帳は毎回必ず準備する。
また動きやすく、汚れてもかまわない服装で出席すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03107001
講義名	ものづくり演習Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	澤田 雅彦	指定なし

ナンバリング

D31113M12

授業概要(教育目的)

ものづくりの基礎として、材料に適した形を考えること、寸法を正確に測ってものを作ること、抽象的な形を考えること等、いくつかの手法でものづくりを体験し、デザインの手法と考え方を理解する。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	指定された材料と道具を用いて、定められた条件の形を作る過程を理解し、形を作ることができる。
思考・判断の観点 (K)	材料の特徴を考え、作り方を工夫しながら、意図する形を正確に作りあげることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	自分の考えを形にすることができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	授業の説明と課題１：紙のカードの「TOWER」制作（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業内容と日程の説明と課題１の説明及び（１）カードの裁断作業

	教室外学習(予習・復習)の内容	次回以降の授業で使用する材料と道具などの準備。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	**授業テーマ**	課題１：紙のカードの「TOWER」制作（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ケント紙のカード40枚を、切り込みだけで組み合わせ、高さ400mm以上の構造物「TOWER」を制作する。 （２）試作品の制作
	教室外学習(予習・復習)の内容	試作品の制作作業。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	**授業テーマ**	課題１：紙のカードの「TOWER」制作（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ケント紙のカード40枚を、切り込みだけで組み合わせ、高さ400mm以上の構造物「TOWER」を制作する。 （３）試作品の制作とデザインの決定
	教室外学習(予習・復習)の内容	試作品の制作作業とデザインの決定。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	**授業テーマ**	課題１：紙のカードの「TOWER」制作（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ケント紙のカード40枚を、切り込みだけで組み合わせ、高さ400mm以上の構造物「TOWER」を制作する。 （４）作品の完成
	教室外学習(予習・復習)の内容	制作意図のまとめと作品の制作レポート（プレゼンテーションレポート）の制作
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	**授業テーマ**	課題２：木の食器具の制作（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木の丸枝を材料としてヘラ状の食器具（バターナイフ・ジャムスプーンなど）を制作する。 （１）デザインの検討と制作
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品のデザインの検討
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	**授業テーマ**	課題２：木の食器具の制作（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木の丸枝を材料としてヘラ状の食器具（バターナイフ・ジャムスプーンなど）を制作する。 （２）デザインの検討と制作
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品の制作作業
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	**授業テーマ**	課題２：木の食器具の制作（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木の丸枝を材料としてヘラ状の食器具（バターナイフ・ジャムスプーンなど）を制作する。 （３）作品の制作
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品の制作作業
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	**授業テーマ**	課題２：木の食器具の制作（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木の丸枝を材料としてヘラ状の食器具（バターナイフ・ジャムスプーンなど）を制作する。 （４）作品の制作の続き
	教室外学習(予習・復習)の内	

	容	作品の制作作業
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	課題２：木の食器具の制作（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木の丸枝を材料としてヘラ状の食器具（バターナイフ・ジャムスプーンなど）を制作する。 （５）作品制作の続き
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品の制作作業
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	授業テーマ	課題２：木の食器具の制作（６）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木の丸枝を材料としてヘラ状の食器具（バターナイフ・ジャムスプーンなど）を制作する。 （６）作品の仕上げ作業
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品の制作作業と作品レポート（プレゼンテーションレポート）の準備。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	授業テーマ	課題３：文字を切り抜いた立方体の制作（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	立方体6面のうち、5面に文字（アルファベット）を切り抜いた立方体を作る （１）材料の検討と切り抜く文字のデザイン
	教室外学習(予習・復習)の内容	立方体をつくる材料の調達と文字のデザイン
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	授業テーマ	課題３：文字を切り抜いた立方体の制作（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	立方体6面のうち、5面に文字（アルファベット）を切り抜いた立方体を作る （２）文字の切り抜き作業
	教室外学習(予習・復習)の内容	文字の切り抜き作業と試作品の制作
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	授業テーマ	課題３：文字を切り抜いた立方体の制作（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	立方体6面のうち、5面に文字（アルファベット）を切り抜いた立方体を作る （３）立方体の組み立て・作品の完成
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品レポート（プレゼンテーションレポート）制作の準備
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	授業テーマ	作品合評会の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	３つの課題の制作内容について、合評会の準備をする。合評会は試験期間中に実施の予定。
	教室外学習(予習・復習)の内容	制作意図のまとめと作品の制作レポート（プレゼンテーションレポート）の制作
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

教室外学習の時間を有効に使って作品の制作を進めて下さい。

学生へのフィードバック方法

提出された作品は授業終了後に返却します。

評価方法

１．提出する課題は以下のとおり。
課題１：完成した「TOWER」と制作レポート
課題２：完成した作品と制作レポート
課題３：完成した「文字を切り抜いた立方体」の作品と制作レポート
２．作品は、指定した条件にあっているか、制作意図を反映したデザインであるか、丁寧に作られているか、といった観点で評価する。
３．レポートは、作品についての情報と、作品の制作意図や制作の手順・工夫を、正確に分かりやすく示しているか、といった観点で評価する。
４．平常点は、作品の制作過程で、どれだけ多くのアイデアを出して試作をしたか、どの程度集中して制作に取り組んだか、といった観点で評価する。
評価はルーブリックに基づいて行うことを予定しています。ルーブリックはGoogleクラスルームか初回授業で提示する予定です。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
提出作品		○		○
レポート	○	○		○
平常点		○		

評価割合

提出作品40%とレポート40%と平常点20%で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【思考・判断】各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
【関心・意欲・態度】自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

オフィスアワー

月曜日5時限 1503教室または工作工房

学生へのメッセージ

手も服も汚れる作業をします。それに対する準備をして授業に参加して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03107101
講義名	スタディツアー
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	生活デザイン学科 教員	指定なし
教授	富田 弘美	指定なし
准教授	呉 起東	指定なし

ナンバリング

D21202M22

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科の各分野〔「衣生活デザイン」「住生活デザイン」「グローバルコミュニケーション（コミュニケーション・情報）」「コミュニティデザイン（地域・園芸・ビジネス）」〕に関係する地域や施設を訪ねる実習体験を通して、高度な専門性と実践的な知識・技術の習得や、現地での人との交流を通してコミュニケーション力を養うことを目的としている。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	衣生活デザイン、住生活デザインに関する高度な専門性について理解できる。
思考・判断の観点 (K)	実践的な知識や技術を理解し、分析することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中にある諸課題に主体的、複眼的に関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	収集した情報を分析、整理し、他者に分かり易く発信することができる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「韓国・ソウル市スタディツアー」の紹介とスタディツアー実施方法と課題の説明。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習・復習）「韓国・ソウル市」について、どのような地域なのかを確認する。韓国への渡航・ソウル市内の移動について調べる。
	教室外学習の時間（分）	200
第2回	授業テーマ	ソウル市の取り組み事前調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ソウルの子ども中心のまちづくり・コミュニティデザインについて担当教員の研究から学び、グループで事例を調査する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習・復習）授業内のグループ課題をまとめる。スタディツアーでの各自の参加の計画を立案する。
	教室外学習の時間（分）	200
第3回	授業テーマ	ソウル市の事前調査報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループ毎に事例調査の結果を報告する。スタディツアー実施の詳細の確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習・予習）授業内のグループ発表の内容をまとめ、スタディツアーでの自分の目標を立案する。
	教室外学習の時間（分）	240
第4回	授業テーマ	ソウル市スタディツアーの実施（第2日）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ソウル市の子ども・若者施設訪問見学１。訪問箇所は学生と相談の上選定する。（備考：初日は移動日）
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）訪問した施設の取り組みで学んだことを記録する。
	教室外学習の時間（分）	50
第5回	授業テーマ	ソウル市スタディツアーの実施（第2日）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ソウル市の子ども・若者施設訪問見学２。訪問箇所は学生と相談の上選定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）訪問した施設の取り組みで学んだことを記録する。
	教室外学習の時間（分）	50
第6回	授業テーマ	ソウル市スタディツアーの実施（第2日）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ソウル市の子ども・若者施設訪問見学３。訪問箇所は学生と相談の上選定する。
	教室外学習(予	（復習）訪問した施設の取り組みで学んだこと、第２日に訪問し

	習・復習 の内容	た３つの施設についての考察を記録する。
	教室外学習の時間（分）	200
第7回	**授業テーマ**	ソウル市スタディツアーの実施（第3日）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国の伝統的および最新の建築調査１。訪問見学箇所は事前の学生との相談で選定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）訪問した施設で学んだことを記録する
	教室外学習の時間（分）	50
第8回	**授業テーマ**	ソウル市スタディツアーの実施（第3日）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国の伝統的および最新の建築調査２。訪問見学箇所は事前の学生との相談で選定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）訪問した施設で学んだことを記録する。
	教室外学習の時間（分）	50
第9回	**授業テーマ**	ソウル市スタディツアーの実施（第3日）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	韓国の伝統的および最新の建築調査３。訪問見学箇所は事前の学生との相談で選定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）訪問した施設で学んだこと、第３日に訪問した３施設についての考察を記録する。
	教室外学習の時間（分）	200
第10回	**授業テーマ**	ソウル市スタディツアーの実施（第４日）韓国デザインの最前線見学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イラク出身の建築家ザハ・ハディッド氏が設計士、３次元の立体設計技法を駆使して設計された非線形的な建築デザインが特徴のDPP（東大門デザインプラザ）内の「アートホール」を訪問見学する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）訪問した施設で学んだことを記録する。
	教室外学習の時間（分）	50
第11回	**授業テーマ**	ソウル市スタディツアーの実施（第４日）韓国デザインの最前線見学２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	DPP（東大門デザインプラザ）内の「ミュージアム」を訪問見学する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）訪問した施設で学んだことを記録する。
	教室外学習の時間	50

	（分）	
第12回	**授業テーマ**	ソウル市スタディツアーの実施（第４日）韓国デザインの最前線見学３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	DPP（東大門デザインプラザ）内のデザインビジネス拠点「デザインラボ」を訪問見学する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）訪問した施設で学んだこと、DPPについての考察を記録する。
	教室外学習の時間（分）	120
第13回	**授業テーマ**	ソウル市スタディツアーの実施（第5日）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現地でのまとめミーティング・帰国 各自が作成した見学活動報告レポートを基に、グループ毎に見学活動内容を振り返り、実施報告用のパワーポイント資料の作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習・復習）見学活動の振り返り内容をまとめ報告を準備する。 （予習）見学活動の振り返り内容をまとめ見学活動報告レポートを執筆する。
	教室外学習の時間（分）	300
第14回	**授業テーマ**	「韓国・ソウル市」スタディツアーの振り返り スタディツアー実施報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	見学活動報告について、パワーポイントを用いたプレゼンテーションにより発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

グループワーク時に適宜口頭でアドバイス。
発表会での講評。
報告レポートへのコメント。

評価方法

①報告会（報告内容、構成、表現、プレゼンテーション）
②報告レポート（報告内容、構成、表現）
③ツアーでの活動内容（計画の遂行能力、自律的行動力）
④平常点（グループワークにおける提案力、調整力、行動力、課題への取り組みの姿勢）
などを総合的に評価する。
ルーブリックを用いた評価を行います。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

事前調査報告会	○	○	○	○
実施報告会	○	○	○	○
報告レポート	○	○	○	○
ツアー活動内容	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

報告会２０％ 報告レポート３０％ ツアーでの活動内容２０％ 平常点３０％

使用教科書名(ISBN番号)

『市民力で創る子育てとコミュニティ 韓国・市民活動の挑戦』Art.31

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】生活デザインの専門分野に関する知識を身につけ、高度な専門性について理解できる。
【思考・判断】実践的な知識や技術を理解し、分析することができる。
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸課題に主体的、複眼的に関心を持つことができる。
【技術・表現】情報を収集し、分析、整理できる能力を身につけ、他者に分かり易く発信することができる。

オフィスアワー

齋藤：火曜日2限～昼休み 1607研究室
呉：火曜日2限～昼休み 1307研究室 （E-Mailも可）

学生へのメッセージ

韓国では市民・企業・行政のそれぞれに子どもを中心にしたまちづくり・応援の取り組みが進んでいます。また、文化も大切にされ、日本へもKポップや韓流ドラマがたくさん紹介されています。韓国の現場に出かけ、日本でのまちづくりや生活のデザインに活かす視野を得ましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に対し自ら調べ、グループワークで協議し、発表する。
情報リテラシー教育	○	課題に関する情報を収集、分析、整理し、発表する。
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション

講義コード	G03107201
講義名	テキスタイル加工演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	花田 朋美	指定なし

ナンバリング

D22102M12

授業概要(教育目的)

各種繊維の性質を応用してテキスタイルにデザイン的・機能的な付加価値を付与するための加工法について理解する。特にデザイン性を付与する加工については、作品制作を通して、デザインの考案と加工理論や技術を習得させることを目的としている。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	繊維製品の高付加価値化に関する理論や技術を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	繊維製品の諸課題を主体的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	繊維製品の諸問題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点 (A)	洗練された表現力で課題解決策を発信できる力を身につけている。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	繊維製品の加工
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	繊維製品の一般加工と特殊加工について学習する。この授業では、特に布の風合いやテクスチャー、外観を変化させる特殊加工を行い作品制作をすることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復】各テーマの作品に活かせるデザイン要素を収集する。

	教室外学習の時間（分）	30分
第2回	**授業テーマ**	繊維の耐薬品性の相違を応用した加工（１）－綿の収縮加工①－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	繊維の耐薬品性を応用した綿布の収縮加工の理論と技術を理解する。－デザイン考案とデザイン付与－
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予】綿の収縮加工のデザインを考案してくること。【復】収縮加工の準備を完了させること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	繊維の耐薬品性の相違を応用した加工（１）－綿の収縮加工②－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	繊維の耐薬品性を応用した綿布の収縮加工の理論と技術を理解する。－収縮加工の実施－
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復】綿の収縮加工のレポートを作成すること。収縮加工テキスタイルを使用した作品制作を進める。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	特殊素材の加工ーアルミ蒸着布①－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アルミ蒸着布の構造を理解し、どのようにデザインに活かすかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復】アルミ蒸着布の加工デザインを考案しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	30分
第5回	**授業テーマ**	特殊素材の加工ーアルミ蒸着布②－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考案したデザインに基づき、アルミ蒸着布の染色加工準備をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予】アルミ蒸着布の染色加工の準備を完了すること。
	教室外学習の時間（分）	30分
第6回	**授業テーマ**	特殊素材の加工ーアルミ蒸着布③－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考案したデザインに基づき、アルミ蒸着布の染色加工をする。疎水性繊維の染色方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復】アルミ蒸着布の加工のレポートを作成すること。アルミ蒸着布を加工したテキスタイルを使用して作品制作を進める。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	繊維の耐薬品性の相違を応用した加工（２）－オパール加工①－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	繊維の耐薬品性を応用したオパール加工の理論と技術を理解する。－デザインの考案－
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復】オパール加工のデザイン下絵を終わらせること。

	教室外学習の時間（分）	30分
第8回	**授業テーマ**	繊維の耐薬品性の相違を応用した加工（２）－オパール加工②－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	繊維の耐薬品性を応用しオパール加工の理論と技術を理解する。－糊置き－
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復】オパール加工の理論と技術を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	30分
第9回	**授業テーマ**	繊維の耐薬品性の相違を応用した加工（２）－オパール加工③－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	繊維の耐薬品性を応用したオパール加工の理論と技術を理解する。－糊置き－
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復】オパール加工糊置を完了させること。
	教室外学習の時間（分）	30分
第10回	**授業テーマ**	繊維の耐薬品性の相違を応用した加工（２）－オパール加工④－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	繊維の耐薬品性を応用したオパール加工の理論と技術を理解する。－繊維除去－
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復】オパール加工の理論と技術を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	30分
第11回	**授業テーマ**	繊維の耐薬品性の相違を応用した加工（２）－オパール加工⑤－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	繊維の耐薬品性を応用したオパール加工の理論と技術を理解する。セルロース繊維の染色方法を理解する。－染色ー
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復】オパール加工のレポートを作成すること。オパール加工テキスタイルを使用した作品制作を進める。
	教室外学習の時間（分）	55分
第12回	**授業テーマ**	作品制作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	加工したテキスタイルを活かした作品制作の仕上げを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復】加工したテキスタイルを活かした作品を完成しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	プレゼンテーション資料の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	加工したテキスタイルを活かした作品のコンセプト、制作方法等のプレゼンテーション資料を作成する。
	教室外学習(予習・復	【予・復】作品発表会のプレゼンテーションの資料を完成し、

	習)の内容	発表練習をすること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	作品発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	加工したテキスタイルを活かした作品のコンセプト、制作方法等をプレゼンテーションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予】作品発表会のプレゼンテーションの練習をしておくこと。【復】作品報告レポートを完成させること。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。
作品発表会での講評。
提出レポート、作品に対してのコメント。

評価方法

①レポート提出（内容の理解、丁寧さ、提出期限の順守について評価）
②作品提出（完成度）
③発表会のプレゼンテーションでのパフォーマンス（内容の理解、構成、表現力を評価）
④平常点（意欲、態度、グループワークにおける行動力、調整力、理解力を評価）
評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○	○	○
作品	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

提出レポート・プレゼンテーション40% 作品30% 平常点30% を総合的に評価

使用教科書名(ISBN番号)

適宜プリントを配付

参考図書

①衣服材料の科学（ISBN4-7679-1044-7 島崎恒藏編著 建帛社発行 平成14年第４刷）
②最新テキスタイル工学II（ISBN978-4-908111-09-9 西松豊典編著 繊維社企画出版発行 2016年第２版）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。
【技能・表現】衣生活デザイン分野の学びを深め課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

オフィスアワー

木曜日１２時４０分～１４時２０分 ２４０７被服材料学研究室
tomoh@kasei-gakuin.ac.jp 質問や相談があればメールを下さい。必要に応じてオンライン、または対面にて対応します。

学生へのメッセージ

イメージしたことを形にすることを楽しんでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによる作業、ディスカッション。作品発表会。
情報リテラシー教育	○	デザイン情報を収集し整理して、オリジナルデザインを考案し、プレゼンテーションする。
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション。

講義コード	G03107301
講義名	テキスタイルデザイン論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	顧　真源	指定なし

ナンバリング

D22301M21

授業概要(教育目的)

衣服やインテリア製品に使用され、私たちの生活に欠くことのできない布帛（テキスタイル）はどのように設計され、制作されているのか、技術的、歴史的、文化的側面から捉え、テキスタイルデザインとは何かについて考察考察する力を育成する。

履修条件

特に無し

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１、テキスタイルデザインについて技法の特徴を説明できる。 ２、技法について歴史的な発展経緯を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	１、社会的要因によって、影響を受けてきたテキスタイルデザインの分析を重ね、デザインについての分析の仕方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗ	この授業の全体をオムニバス的に紹介する。東洋の織りと染めの歴史の変遷を文様の意匠から理解する。染織品に表れた文様がどのような染織

第1回	ｼｰ教育・ICT活用を含む)	技法で表現され、それらが時代によってどのように移り変わってきたかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で配布したプリントの「染織史」を読むこと。
	教室外学習の時間（分）	150分
第2回	授業テーマ	植物繊維
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	植物から糸を作る工程を紹介する。植物の素材としての特徴と使用する人々が持っている認識についての分析。また、使用されるシチュエーションの紹介。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で配布したプリントの「植物繊維」を読むこと。
	教室外学習の時間（分）	150分
第3回	授業テーマ	動物繊維
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動物から糸を作る工程を紹介する。動物の素材としての特徴と使用する人々が持っている認識についての分析。また、使用されるシチュエーションの紹介。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で配分したプリントの「動物繊維」を読むこと。
	教室外学習の時間（分）	150分
第4回	授業テーマ	「このような生地があったらいいな。」をテーマにし、5w1hワークシートを作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「When：いつ」「Where：どこで」「Who：だれが」「What：何を」「Why：なぜ」「How：どのように」と6つの視点から自身のコンセプトを細かく説明する力を養う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワークシートをフィードバックし、クラスメイトとディスカッションする。
	教室外学習の時間（分）	150分
	授業テーマ	色
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗ	天然の染料の原料の紹介。天然染料の発色と、化学染料の発色を見比べ

第5回	ｼｰ教育・ICT活用を含む)	る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で配分したプリントの「色」を読むこと。
	教室外学習の時間（分）	150分
第6回	授業テーマ	絞り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	絞りは昔纐纈と呼ばれ、糸や紐で布をくくったり、しごいたりして防染する古典的な染色技法の一つである。インドから中央アジア、中国を経て日本には7世紀に伝播している。現在では愛知県の有松・鳴海絞りや京都の京絞りへと伝承されている。授業内では、様々な絞りの手法を実材見本を提示し、さらに知識を深めていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で配分したプリントの「絞り」を読むこと。
	教室外学習の時間（分）	150分
第7回	授業テーマ	型染
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	三重県白川白子地区で代々受け継がれている「伊勢型」を使った染色法である。「型染め」のルーツと変遷、現在へどのように受け継がれているかを検証し学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で配分したプリントの「型染」を読むこと。
	教室外学習の時間（分）	150分
第8回	授業テーマ	プリント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の「型染め」がルーツと言われ、印刷技術と共にイギリスで開発された効率化を実現した「シルクスクリーンプリント」技法。その歴史的背景と、現況と市場での位置づけなどを作品の実例などを提示しながらその特徴を学ぶ。 また、1983年にパーソナルコンピューターが普及し、印刷技術のデジタル化が急速に発展した。同時に染色分野にもデジタル化が追随することになるが、あらゆる表現が可能になるデジタル染色品の事例と実材サンプルを手捺染との比較をしながらその特徴を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で配分したプリントの「プリント」を読むこと。
	教室外学習の時間（分）	150分
	授業テーマ	昇華プリント体験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第9回	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身が用意したトートバッグやTシャツに昇華プリントをする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で配分したプリントの「昇華プリント」を読むこと。
	教室外学習の時間（分）	150分
第10回	授業テーマ	注染と友禅
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	注染と友禅、それぞれの技法の特徴と歴史を紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で配分したプリントの「注染と友禅」を読むこと。
	教室外学習の時間（分）	150分
第11回	授業テーマ	絣
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の木綿の三大絣を中心に講義を進める。その中でも現在も市場で評価の高い、久留米絣を中心に、その発祥から現在に至るまでの産地の状況や、絣布の魅力を学ぶ。さらには、これからの伝統工芸の課題なども考察していく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で配分したプリントの「絣」を読むこと。
	教室外学習の時間（分）	150分
第12回	授業テーマ	綴織
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	西洋でいうところのタペストリーと同じ技法なので、東洋の作品と西洋の作品の両方の紹介。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で配分したプリントの「綴織」を読むこと。
	教室外学習の時間（分）	150分
	授業テーマ	沖縄の染織
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗ	久米島紬、宮古上布、琉球絣、首里織、喜如嘉の芭蕉布、紅型などそれ

第13回	ｼｰ教育・ICT活用を含む)	ぞれの技法を紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で配分したプリントの「沖縄の染織について」を読むこと。
	教室外学習の時間（分）	150分
第14回	授業テーマ	近代から現代へ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アニ・アルバースによる、バウハウスのテキスタイルデザインと後世への影響を紹介する。また、株式会社会社NUNOを紹介し、時代の転機と現代のテキスタイル業界を把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で配分したプリントの「バウハウスのテキスタイルデザインについて」を読むこと。 日本の染織技法・工芸家・作家・デザイナーなど、各自テキスタイルに関わるテーマを決めて2000文字のレポートにまとめ提出する。授業についてのリアクション・レポートでも構わない。
	教室外学習の時間（分）	150分 550分

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回授業の最後にレジュメを提出する。質問等がある場合には、次の授業にで回答する。

評価方法

・毎回のレジュメの内容から理解度の確認。
・日本の染織技法・工芸家・作家・デザイナーなど、各自テキスタイルに関わるテーマを決めて2000文字の　レポートにまとめ提出する。授業についてのリアクション・レポートでも構わない。
・評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レジュメ	○			
レポート	○	○		

評価割合

レジュメ（70%）及びレポート（30%）で評価する。
ただし、最終レポートの提出は必須。

使用教科書名(ISBN番号)

適宜プリントを配付。

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】テキスタイル作品を見ることで、その生地の技法を判断できる。

【思考・判断】テキスタイルの歴史を分析することで、時代に沿った提案ができるようになる。

学生へのメッセージ

生活の中で、切り離すことができないテキスタイルという分野を詳しく理解して見ませんか。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、型染デザイナーとして実務経験を有りしており、個人的に作家活動を行っている。広い視野でテキスタイルデザインについて指導することができる。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03107501
講義名	プリンティングデザイン演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	顧 真源	指定なし

ナンバリング

D22304M22

授業概要(教育目的)

テキスタイルプリントデザインの基本となる柄の送りについて学び、自然をモチーフにしたデザイン、幾何学的デザイン等、更に、対象や用途を設置したデザインについて解説し、捺染技法の基礎を理解する力を育成する。

履修条件

特に無し

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１、歴史的な観点で捺染を説明することができる。 ２、染物の種類を把握することができる。
思考・判断の観点 (K)	１、色の組み合わせ、モチーフの選択、配置をバランスよく組み合わせることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	１、自らクリエイティブな発想をしようと日常的に意識することができる。
技術・表現の観点 (A)	１、プリントする際に、キレイに見せるための段取りや力加減が調整できる。

学習計画

	授業テーマ	講義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	捺染とは：染料を布地になすりつけて染めること。技法で分類すると、直接捺染法・抜染法・型付け浸染法などが主である。それぞれの技法の説明と特徴についての講義と、作品制作のサンプルを提示する。

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で配分したプリントを読むこと。 制作したい作品をイメージすること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第2回	**授業テーマ**	色彩計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでに撮影した画像を見直し、気に入った素材を探し出す。画像から色を抽出し、ストライプ状に色を構成する。（刺繍糸、カラーカード、ガッシュ、ポスターカラー、クレヨン、色鉛筆等々）
	教室外学習(予習・復習)の内容	色彩計画を作成
	教室外学習の時間(分)	200分
第3回	**授業テーマ**	パターン計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	何からデザインを抽出するかを考える。写真などの画像から、あるいは、手描きドローイングなどを元に抽象化することを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デザインを考えること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第4回	**授業テーマ**	パターン計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	抽象化したパターン作成。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デザインを考えること。 原画を制作すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第5回	**授業テーマ**	リピート計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	抽象化したパターンを繰り返し構成することで、画面の広がりと共にリズムが生まれる。捺染する前の重要な行程である。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デザインを考えること。 原画を制作すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第6回	**授業テーマ**	シルクスクリーンの版下作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	版下作成は、捺染工程では重要である。専用の紙にオペークマーカーで描き作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	版下作成
	教室外学習の時間(分)	200分
	授業テーマ	製版

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	枠に紗を張り、焼き付け機で露光し製版する。製版したスクリーンは丁寧に水洗いし乾燥する。またピンホールなどがある場合はラッカーで補修をして仕上げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	製版
	教室外学習の時間（分）	160分
第8回	授業テーマ	色糊制作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	②で検討した色彩計画のなかからデザインとのバランスを考慮して一色抽出し、色糊を作る。色糊は染料の濃度に注意しながら作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	色糊の配合を考える。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	捺染
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	捺染の手順に沿って染め進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品を染めること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	捺染
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	捺染の手順に沿って染め進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品を染めること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	捺染
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	捺染の手順に沿って染め進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品を染めること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	捺染
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	捺染の手順に沿って染め進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品を染めること。

	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	展示発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	制作した布がどのように使われるべきか、あるいはどのように展示されるべきか検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品を染めること。 展示方法を考えること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	鑑賞と講評
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	仕上がった布を展示することで、作品の見え方、環境が変化することを実感することは重要である。テキスタイルが生活にとってどのような役割であるかを検証する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品をディスプレイしておくこと。 これまでの授業内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	150分

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回授業の最後にレジュメを提出する。質問等がある場合には、次の授業にで回答する。

評価方法

・毎回のレジュメの内容から理解度の確認。
・作品からは色と模様とリズムのバランスを見て評価する。
・評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レジュメ		○		
作品		○		○

評価割合

平常点（30%）及び作品（70%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

適宜プリントを配付。

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【思考・判断】歴史的な背景からデザインを語れる。
【技術・表現】オリジナリティ溢れる表現を身につける。

学生へのメッセージ

伝統技法が衰退しているかなで、イノベーションを起こしませんか。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、型染デザイナーとして実務経験を有りしており、個人的に作家活動を行っている。 生地の制作と、生地を日用品にする制作の両方を行っており、広い視野で制作について指導することができる。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03107601
講義名	日本文化論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	内藤　久義	指定なし

ナンバリング

D24101M21

授業概要(教育目的)

日本文化論はとても広範な学問ジャンルを包含していて、いったい何を学ぶ授業なのか分かりにくいと思います。

でも皆さんが生活する日常に目を向けると、古代から連綿と続く日本文化が根底にあることに気づきます。

食事、住居、家具、衣服、年中行事など、現在の日々の暮らしは、古層にある文化事象を取り込んで成立したことを発見し学習するのが本授業です。

現代の日本文化にも目を向け、LGBTQXなどのジェンダーの問題、都市伝説、ポップカルチャーについても学びます。

しかし、授業は教員の講義だけでなく映像や音楽の視聴などを含めて、学生自身が様々な文化事象を見つけ出し、これらの成り立ちと、なぜ現在まで伝え続けられてきたのかを、日本文化論という視座から学び発見していくことを本授業の教育目的としています。

また学生自身の知見を他者に伝える技術や方法を、ディスカッションや授業内での課題発表を通して身につけます。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

	現在の日本文化の成り立ちを日常にある様々な事象から学生が発見・考察し、以下の3点を知識・理解の到達目標とする。 ①今ある私たちの日常の営みが、どのような基層文化を経て成立しているかを、学生自身が日本文化論という視座から説明できるようになる。 ②日本文化論を学ぶことにより、文化の成り立ちやそこに付される意味を発見

知識・理解の観点 (K)	し、レポートとしてまとめられる力を付ける。 ③自身の知見や意見を、発表や対話を通じで他者に伝える技術を習得する。 以上をグローバルな視点も含めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐ一助とする。
思考・判断の観点 (K)	なぜ日本にはこのような文化が存在するのかという問いを学生自身が提起し、それを論理的に思考・判断し回答を導くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	①授業内での質疑応答やグループセッション等で意欲的に発言できる。 ②授業の知見から社会の中にある諸問題に関心を持ち、学生自身がその問題に対しての方策を立案することができる。 以上の2点を自覚を持って取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	①学習したことをリアクションペーパーやレポートに文章として的確に表現する技術を身につける。 ②授業内での課題発表で、PowerPointや図表を使用した発表の技術を習得する。 ③ディスカッションにおいて、自身の意見を他者に伝え理解させる能力を獲得する。 これらは、今後、社会人として生活する上で役立つものとする。

学習計画

日本文化論

第1回	授業テーマ	ガイダンス　文化とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業内容・評価方法などのガイダンス、ルーブリックについて説明します。また授業では「文化」の概念について、アフリカの「FOLI」やロシア・サハ共和国のアーティスト「UUTAI」、日本の「SEKAINO OWARI」の映像に表象されるものから考えてゆきます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：配布されたレジュメを読む。
	教室外学習の時間（分）	193
第2回	授業テーマ	日本と文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在の日本文化はどのようにして形成されたのかを、中世の「源氏物語絵巻」、近代（大正時代）を舞台としたアニメ「鬼滅の刃」第１話を事例に文化の変容から検討します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：『源氏物語』および「源氏物語絵巻」の概要を調べておく。 復習：配布されたレジュメを読む。
	教室外学習の時間（分）	193
	授業テーマ	里山の文化―伝承の形から
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	日本の文化は戦後の高度経済成長期に大きく変貌しました。経済成長により各地で土地開発が行われ、伝承の宝庫であった里山が消滅して

第3回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゆきます。里山が生み出した日本文化について、アニメ「となりのトトロ」をヒントに考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：里山とはどのような地域にあり、どのような機能を持つか調べておく。 復習：配布されたレジュメを読む。
	教室外学習の時間（分）	193
第4回	授業テーマ	文化と境界①境界の発見
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	私たちは生まれたときから様々な境界を設け成長してゆきます。境界は文化を考える上で重要な概念であり、日本人は境界を超えた先に「異界」を設定しました。 「異界」とは何か、また「境界」はどのように日本文化に作用して来たのかについて、アニメ「GHOST IN THE SHEL 攻殻機動隊」の映像から発見します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布した資料、赤坂憲雄『境界の発生』の序章部分を読んでおく。 復習：配布されたレジュメを読む。
	教室外学習の時間（分）	193
第5回	授業テーマ	文化と境界②境界とメルクマール
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	境界は街の風景の中にも存在します。境界にはメルクマール（指標）が設定され、現世と異界の境を指示しています。アニメ「千と千尋の神隠し」や『古事記』「黄泉の国」の読解から、なぜ境界にはメルクマールが設定されるのかを考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：青空文庫『古事記』「黄泉の国」https://www.aozora.gr.jp/cards/001518/files/51732_44768.html　を読んでおく。 復習：配布されたレジュメを読む。
	教室外学習の時間（分）	193
第6回	授業テーマ	幽霊と妖怪①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	境界を超えてやって来る異界のモノたちに幽霊や妖怪がいます。日本文化において幽霊・妖怪はどうのように発生し、なぜ我々の元へやって来るのか。そして現在まで、なぜ語り継がれているのかを図像資料や映像から考察します。また柳田国男や諏訪春雄の幽霊と妖怪の定義について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：自身が遭遇した幽霊・妖怪談をまとめておく（体験のない人は親・兄弟・友人、または本やSNSから情報を得る）。 復習：配布されたレジュメを読む。
	教室外学習の時間（分）	193
	授業テーマ	幽霊と妖怪 ②怪談発表

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学生たちが体験した怪談を語ってもらい（体験のない人は親・兄弟・友人、または本やSNSから情報を得る）、その語りから日本文化において幽霊や妖怪とはどのような存在であるのか、伝承とは何かを考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：怪談の発表原稿を準備する。 復習：配布されたレジュメを読む。他者が発表した怪談についてまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	193
第8回	授業テーマ	ことばと恋愛
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	古代より日本人は愛する人への思いを歌や俳句に詠んできました。新海誠監督のアニメ「言の葉の庭」の視聴から、ことばの持つ力「言霊」について考えます。 また皆さんにも歌（短歌・俳句）を詠んで発表してもらいます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：『万葉集』と柿本人麻呂について調べておく。 復習：配布されたレジュメを読む。
	教室外学習の時間（分）	193
第9回	授業テーマ	人生と儀礼
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在も七五三や成人式、還暦など人生の節目にはさまざまな儀礼が行われます。成人年齢が引き下げられ今年新成人を迎えた学生もいるかと思います。哲学対話（ディスカッション）を通して自分にとっての成人とは何か、日本文化における成人とはどのような意味を持つのかを議論します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：人生儀礼にはどのようなものがあるかを調べ、成人とは何かをまとめておく。 復習：配布されたレジュメを読む。
	教室外学習の時間（分）	193
第10回	授業テーマ	文化の創造①物語を創る
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	『桃太郎』『一寸法師』『猿蟹合戦』など、日本にはさまざまな物語が伝わっていますが、これらは文字ではなくことばで伝承（口頭伝承）されてきた日本の重要な文化です。 皆さんには物語を創作し、画像とともに口頭発表してもらいます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：物語創作の素材を集めておく。 復習：配布されたレジュメを読む。
	教室外学習の時間（分）	193
	授業テーマ	文化の創造②発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自が創作した物語に画像を付けてPowerPointで発表します。

第11回	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：PowerPoint資料を準備する。 復習：配布されたレジュメを読む。他者の発表した内容をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	193
第12回	授業テーマ	性と日本文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	性の多様性について日本や世界の状況を知り、さらに日本の中世に遡りジェンダーはどのように文化の中に反映されていたのかを、中世絵巻や『とりかえばや物語』、Siaのミュージックビデオなどから討議します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：東京レインボープライドのホームページ https://tokyorainbowpride.org/learn/lgbtq/　などからジェンダーの概要を把握しておりく（推奨）。 復習：配布されたレジュメを読む。
	教室外学習の時間（分）	193
第13回	授業テーマ	世間話と日本文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日常の何気ない会話が成立するのも、その基底に共通の文化があるからこそです。哲学対話（グループディスカッション）を通じて、現代の日本文化に現れる問題を討論します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に対話のテーマを知らせるので、それについて自身の意見をまとめておく。 復習：配布されたレジュメを読む。
	教室外学習の時間（分）	193
第14回	授業テーマ	授業総括　日本文化論から未来へ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全14回の授業の総括とともに、今後日本文化はどのように進み変容していくのかを考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：全14回の授業の感想を書く。
	教室外学習の時間（分）	193

学習計画注記

本授業の特徴として、私（教員）の一方的な講義だけではなく、様々な映像を視聴しながら学生たちから意見を求めます。さらに学生同士のグループセッションや「哲学対話（ディスカッション）」において議論を行います。

前半の授業では講義が中心になりますが、中盤以降は学生の課題発表やディスカッションを行っていきます。

なお進行度合いや学生数により、授業テーマは前後することがあります。

学生へのフィードバック方法

質問は授業終了後、また各回のリアクションペーパーやストリームなどで応答します。

評価方法

①授業内で提出したリアクションペーパー
②学期末レポート
③授業及びグループセッションでの積極的な参加態度（発言や質問）
ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内で説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○	○	○	○
リアクションペーパー	○	○	○	○
授業への積極的な参加		○	○	

評価割合

レポート70%、リアクションペーパー20%、授業への積極的な参加10%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

履修する学生は以下の文献、アニメを観ておくとことを薦めます。
・文献
小松和彦『異人論—民俗社会の心性』1995年（初出1985年）ちくま学芸文庫
赤坂憲雄『境界の発生』2002年（初出1989年）講談社学術文庫
メアリ・ダグラス著／塚本利明訳『汚穢と禁忌』2009年（初出1972年）ちくま学芸文庫

・アニメ
「となりのトトロ」宮崎駿　1988年
「もののけ姫」宮崎駿　1997年
「千と千尋の神隠し」宮崎駿　2001年
「君の名は。」新海誠　2016年

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】学生が日本文化の成り立ちについて専門的知識を有し、その意味について理解している。
【思考・判断】日本文化に表象される様々な問題について、学生自身が問いを提起しそれを解決する力を有する。
【関心・意欲・態度】現代の日本社会に展開される事象に関心を持ち、意欲的に学び吸収することができる。

オフィスアワー

メールまたは授業終了後に対応します。

学生へのメッセージ

本授業では皆さんが暮らしている日本という国について「文化」をキーワードに学びます。
しかし、文化とはとても広く深く、そして曖昧な概念です。
はたして文化とは何でしょうか。

例えばインスタやTikTokやＸに「映える」写真や映像をアップしている学生もいるかと思います。これも現代のポップな文化でしょう。
しかし、映える文化はSNSが登場してから始まったわけではありません。室町時代には、すでにジョジョ立ちしている美少年の絵がアップされ（屏風図に）、平安時代の『源氏物語』は宮中の女性たちの奪い合いになるほどバズりました。そして『源氏物語』のアニメ版「源氏物語絵巻」が登場します。
また現代のマンガやアニメ描写の手法は、すでに平安時代の絵巻「信貴山縁起絵巻」や「鳥獣戯画」などで使われているのです。

幽霊や妖怪も重要な日本の文化です。
1000年以上も昔に怪談は登場し、今もトイレの花子さんや口裂け女、きさらぎ駅など、怪談は語られ続けています。
なぜ幽霊には足がないのか、幽霊と妖怪とオバケの違いとは？　都市伝説とは？　なぜ怪談はいまだに語り続けられているのか？　これらを知ることも日本文化論の授業です。

幼児が最初に出会う幽霊や妖怪が、せなけいこさんの『ねないこだれだ』に出てくるオバケと、PCゲームで撃ち殺されていくゾンビとでは、幼児の心性の発達にも大きな違いが出てくるかもしれません。
私たちだけでなく次世代に語り継ぐためにも、日本文化論という視座から幽霊や妖怪をきちんと学び考察する必要があります。

しかし日本文化論は「昔」を知る授業ではありません。現代のサブカルチャーやLGBTQさらにXなどジェンダーについても皆さんと議論します。
そしてこの授業では学生自身が考えて「書くこと」「伝えること」に重点をおきます。
自身の考えたことを文章にして他者に伝える。書くことは一番身近で重要な表現方法です。毎回のリアクションペーパーや学期末レポートで、日本文化について皆さんが学んだことを表現してください。
また他者に自分の考えや意見を伝えることも重要です。
哲学対話（ディスカッション）や授業内での発表を通して、その技術や方法論を学んでもらいます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		自然科学系出版社の編集者、研究教育機関の特任研究員として勤務した経験を授業に取り込む
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	レポート作成の際の引用・参考文献の正しい表記方法、インターネット引用の場合のリテラシーについての学習
ICT活用	○	パワーポイント使用（毎回）・パワーポイント内リンクからネット上の映像再生

講義コード	G03107701
講義名	Practical English A（旧カリ単位数2）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

D24102M22

授業概要(教育目的)

英語を使った教室活動を通して、英語によるコミュニケーション能力を養っていく。授業は英語で行われるが、現在の力は問わない。求められるのは「文法の正確さ」ではなく、英語を使ってコミュニケーションを成立させようとする力である。また、英語を使ったコミュニケーション時の態度および英語圏の国の習慣・文化についても学び、使える英語（Practical English）を身につけていく。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から、英語コミュニケーションに必要な知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	伝える内容および伝え方を客観的、論理的に考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語および英語圏文化ならびに世界共通語としての英語の役割に関心を持ち、意欲を持って習得に励むことができる。また、自主的に自らの課題を見つけ、解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	意味を伝えるために的確な表現で英語を使ったコミュニケーションができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス・自己紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コミュニケーションとは何かを学んだ上で、授業内容・方法について理解する。各自簡単な自己紹介をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	他者の自己紹介を作文する。
	教室外学習の時間（分）	45

第2回	授業テーマ	いつも何をしている？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分が「いつもしていること」について紹介し合う。その際に必要な表現、文法、語彙等も学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	他者の「いつもしていること」を作文する。
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	授業テーマ	大学で好きな場所1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「大学で好きな場所」のモデル発表を見る。その後、アウトラインの立て方を学び、自分の発表のアウトラインを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表のためのPPTを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	授業テーマ	大学で好きな場所2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	口述原稿の書き方を学び、口述原稿を作成する。さらに、発表および質疑応答の方法を学び、練習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をする。
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	授業テーマ	大学で好きな場所3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	PPTを使って「大学で好きな場所」の発表を行う。相互に質問やコメントをすることで話題を発展していく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	未来を表現するための文法や語彙の資料を読み、練習問題をやる。
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	授業テーマ	未来の私1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の30代～50代についての計画や希望をシートにまとめ、発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シートを修正する。
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	授業テーマ	未来の私2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の60代～80代の計画や希望をシートにまとめ、発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の未来について作文する。
	教室外学習の時間（分）	45
第8回	授業テーマ	忘れられない出来事1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	忘れられない出来事について、話題を選び、アウトラインを作成する。さらに、レジュメの作成の方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	写真を準備し、レジュメを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	忘れられない出来事2

第9回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	過去を表現するための文法や語彙を学び、モデルを参考に口述原稿を書く。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をする。
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	授業テーマ	忘れられない出来事3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「忘れられない出来事」についての発表をする。相互に質問やコメントをすることで話題を発展していく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの頃好きだった外国の絵本のリストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	授業テーマ	英語でストーリーを読んでみよう！
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	英語のストーリーを複数読む。内容を理解した上で、共通する点についてディスカッションをする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分のストーリーについて、登場人物や話の展開をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	授業テーマ	英語でストーリーを書いてみよう1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	典型的な物語展開のパターンを学び、自分のストーリーのイラストや写真の計画を立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分のストーリーのイラストや写真を準備する。
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	授業テーマ	英語でストーリーを書いてみよう2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ストーリーの執筆と修正をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をする。
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	授業テーマ	英語でストーリーを書いてみよう3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ストーリーをブックにまとめ、発表する。相互に質問やコメントをすることで話題を発展していく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分のストーリーについて改善できる点をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45

学習計画注記

学習計画の内容に加え、ルーチンとして、日常生活についての会話、発音・アクセント練習、歌の練習を行う。

学生へのフィードバック方法

口頭および書面によるコメント。

評価方法

課題（完成度により評価する）

発表（プレゼンテーションにより評価する）
平常点（発言ならびに取り組みの姿勢で評価する）

※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○	○	
発表	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

課題30%、発表40%、平常点30%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解の観点】グローバルな視点から、英語コミュニケーションに必要な知識を学び、理解を深める。
【思考・判断の観点】伝える内容および伝え方を客観的、論理的に考えることができる。
【関心・意欲・態度の観点】英語および英語圏文化ならびに世界共通語としての英語の役割に関心を持ち、意欲を持って習得に励むことができる。また、自主的に自らの課題を見つけ、解決に取り組むことができる。
【技術・表現の観点】意味を伝えるために的確な表現で英語を使ったコミュニケーションができる。

オフィスアワー

月曜日昼休み、火曜日3限（前期）

学生へのメッセージ

今の力は問いません。「英語でコミュニケーションしたい」という気持ちだけ持って来て下さい。一段ずつ階段を上るように進めます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自ら課題を見つけ、解決に取り組む。コミュニケーションを目的とした教室活動を通して実践的に学ぶ。
情報リテラシー教育	○	自らの課題を解決するために情報を収集する。
ICT活用		

講義コード	G03107801
講義名	Practical English B（旧カリ単位数2）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

D24102M22

授業概要(教育目的)

英語を使った教室活動を通して、英語によるコミュニケーション能力を養っていく。授業は英語で行われるが、現在の力は問わない。求められるのは「文法の正確さ」ではなく、英語を使ってコミュニケーションを成立させようとする力である。また、英語を使ったコミュニケーション時の態度および英語圏の国の習慣・文化についても学び、英語による思考能力も高めていく。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から、英語コミュニケーションに必要な知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	伝える内容および伝え方を客観的、論理的に考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語および英語圏文化ならびに世界共通語としての英語の役割に関心を持ち、意欲を持って習得に励むことができる。また、自主的に自らの課題を見つけ、解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	意味を伝えるために的確な表現で英語を使ったコミュニケーションができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス・自己紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コミュニケーションとは何かを学んだ上で、授業内容・方法について理解する。各自簡単な自己紹介をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	他者の自己紹介を作文する。

	教室外学習の時間（分）	45
第2回	授業テーマ	どんな地球に住みたい？1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アムネスティの世界人権宣言の前半を読み、侵害されている具体例をワークシートにまとめる。その後、各自発表し、各項目についての理解を深めていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	世界人権宣言の後半部分を読む。
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	授業テーマ	どんな地球に住みたい？2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アムネスティの世界人権宣言の後半を読み、侵害されている具体例をワークシートにまとめる。その後、各自発表し、各項目についての理解を深めていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	難民について調べる。
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	授業テーマ	どんな地球に住みたい？3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	難民についての映画を視聴する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	人権に関する世界規模の課題について、自分達ができることをリストにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	授業テーマ	どんな地球に住みたい？4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自考えてきた「自分達にできること」を発表する。それを踏まえて、「住みたい地球」を図にまとめていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	クリスマスについて知っていることをリストにする。
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	授業テーマ	クリスマスを迎えるために1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クリスマスは何の日かについて、ワークシートにまとめ発表する。その後、キリストの誕生についての物語を読む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	キリストの誕生の物語の続きを読む。
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	クリスマスを迎えるために2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	キリストの誕生の物語の続きを読み、内容を理解する。

第7回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	キリストの誕生についてのワークシートをまとめる。
	教室外学習の時間(分)	45
第8回	授業テーマ	クリスマスを迎えるために3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	英国の作家チャールズ･ディケンズの『クリスマス・キャロル』について学ぶ。その後、アニメーションを視聴し、内容を理解した上で、クリスマス精神について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	クリスマス精神をもって、クリスマスに何をしたいかまとめる。
	教室外学習の時間(分)	45
第9回	授業テーマ	クリスマスを迎えるために4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アメリカの作家ドクター・スースによる『グリンチ』について学ぶ。その後、アニメーションを視聴し、内容を理解した上で、テーマについてディスカッションをする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アメリカでのクリスマスの過ごし方（習慣、行事、食べ物など）について調べる。
	教室外学習の時間(分)	45
第10回	授業テーマ	クリスマスを迎えるために5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アメリカでのクリスマスの過ごし方について、調べてきたことを発表する。その上で、『クリスマス・キャロル』『グリンチ』から学んだクリスマス精神との合致や乖離についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アメリカの新年の迎え方について調べる。
	教室外学習の時間(分)	45
第11回	授業テーマ	新年の迎え方1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アメリカの新年の迎え方について、各自調べたことを発表する。その後、日本の新年の迎え方の違いについてディスカッションし、図にまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本の新年の迎え方、過ごし方（習慣、行事、食べ物など）を英語でどう表現するかを調べる。
	教室外学習の時間(分)	45
第12回	授業テーマ	新年の迎え方2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	北米で、現在新年をどのように迎えているかについて、アニメーションを視聴する。内容を理解した上で、英語圏と日本の新年に関する捉え方の違いをディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	正月の写真を準備する。
	教室外学習の時間(分)	45
	授業テーマ	新年の迎え方4

第13回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分が正月をどう過ごしたかについて、発表のアウトライン、PPT、口述原稿を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をする。
	教室外学習の時間(分)	45
第14回	授業テーマ	復活祭
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「正月」について発表する。相互に質問やコメントをすることで話題を発展していく。さらに、復活祭について、歴史、習慣などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復活祭のカードを書く。
	教室外学習の時間(分)	45

学習計画注記

学習計画の内容に加え、ルーチンとして、日常生活についての会話、発音・アクセント練習、歌の練習を行う。

学生へのフィードバック方法

口頭および書面によるコメント。

評価方法

課題（完成度により評価する）
発表（プレゼンテーションにより評価する）
平常点（発言ならびに取り組みの姿勢で評価する）

※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○	○	
発表	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

課題30%、発表40%、平常点30%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解の観点】グローバルな視点から、英語コミュニケーションに必要な知識を学び、理解を深める。
【思考・判断の観点】伝える内容および伝え方を客観的、論理的に考えることができる。
【関心・意欲・態度の観点】英語および英語圏文化ならびに世界共通語としての英語の役割に関心を持ち、意欲を持って習得に励むことができる。また、自主的に自らの課題を見つけ、解

決に取り組むことができる。
【技術・表現の観点】意味を伝えるために的確な表現で英語を使ったコミュニケーションができる。

オフィスアワー

月曜日3限、木曜日3限（後期）

学生へのメッセージ

英語は、「科目」ではなく「ことば」です。文法の正確さを重視するのではなく、意味が伝わるかどうかを重視して練習していきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自ら課題を見つけ、解決に取り組む。コミュニケーションを目的とした教室活動を通して実践的に学ぶ。
情報リテラシー教育	○	自らの課題を解決するために情報を収集する。
ICT活用		

講義コード	G03107901
講義名	言語コミュニケーション
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

D24106M21

授業概要(教育目的)

言語コミュニケーションの特性およびあり方について、「異文化間コミュニケーション」「アサーティブ・コミュニケーション」「やさしい日本語」「言論の自由とヘイトスピーチ」「人を動かすことば」から考えていく。いずれもケース・スタディを通して実践的に学ぶことで、コミュニケーションの本質に迫っていく。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	グローバルおよび多文化的な視点から言語コミュニケーションの知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	真のコミュニケーションにおける言語運用の諸課題について分析的に考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	言語コミュニケーションについての諸課題に関心を持ち、自分の言動に反映させることができる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理した上で、分かりやすく他者に伝えることができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	異文化間コミュニケーション1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	言語コミュニケーションの特徴について学び、言語によって何ができるかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	言語コミュニケーションの特徴と言語によって何ができるのかをまとめる。

	教室外学習の時間（分）	180
第2回	授業テーマ	異文化間コミュニケーション2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	非言語コミュニケーションの特徴について学び、言語コミュニケーションができることとの違いについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	非言語コミュニケーションの特徴と言語コミュニケーションとの違いをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180
第3回	授業テーマ	異文化間コミュニケーション3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	言語と文化の関係を学び、文化の違いによってコミュニケーションがどのように違うのか考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	言語と文化の関係と文化の違いによるコミュニケーションの違いをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200
第4回	授業テーマ	異文化間コミュニケーション4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	異文化間コミュニケーションがスムーズに行かなかったケースについて、その理由を分析し、解決策を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分のコミュニケーションのタイプについてワークシートで分析する。
	教室外学習の時間（分）	200
第5回	授業テーマ	アサーティブ・コミュニケーション1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コミュニケーションのタイプについて学び、なぜアサーティブ・コミュニケーションが求められるのかを分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アサーティブ・コミュニケーションができずに、失敗した例をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180
第6回	授業テーマ	アサーティブ・コミュニケーション2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な事例について、アサーティブ・コミュニケーションでの解決方法を探る。

	教室外学習(予習・復習)の内容	災害についてのポスター、チラシ、文書を集める。
	教室外学習の時間（分）	200
第7回	授業テーマ	やさしい日本語1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「やさしい日本語」の特徴を学び、通常の文書を優しい日本語にする練習をする。その後、各自持参した資料のどこが分かりにくいかを分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の資料を「やさしい日本語」に作り直す。
	教室外学習の時間（分）	200
第8回	授業テーマ	やさしい日本語2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自作成した「やさしい日本語」による資料を発表し、改善点を明らかにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	改善した資料をパワーポイントに作成する。
	教室外学習の時間（分）	200
第9回	授業テーマ	「やさしい日本語」3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自「やさしい日本語」で作成し直した文書についてパワーポイントを使って紹介する。相互に質問や意見を述べることで、考察を深めていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ヘイトスピーチの例を集める。
	教室外学習の時間（分）	200
第10回	授業テーマ	言論の自由とヘイトスピーチ1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	言論の自由について学ぶ。各自持参したヘイトスピーチの事例を紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ヘイトスピーチは「言論の自由」かについて、理由とともに考える。
	教室外学習の時間（分）	200
	授業テーマ	言論の自由とヘイトスピーチ2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報	

第11回	ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヘイトスピーチの事例を分析して上で、ヘイトスピーチは言論の自由の範囲かどうかについて意見を交換する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	人を動かすことばを残した人 (A)のについて調べる。
	教室外学習の時間（分）	200
第12回	授業テーマ	人を動かすことば1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人を動かすことばを残した人 (A)に関して学び、映像を視聴する。その上で、どのような要素が人を動かしたのかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	人を動かすことばを残した人 (B)について調べる。
	教室外学習の時間（分）	180
第13回	授業テーマ	人を動かす言葉2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人を動かすことばを残した人 (B)に関して学び、映像を視聴する。その上で、どのような要素が人を動かしたのかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	人を動かすことばを残した人 (C)について調べる。
	教室外学習の時間（分）	200
第14回	授業テーマ	人を動かす言葉3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人を動かすことばを残した人 (C)に関して学び、映像を視聴する。その上で、どのような要素が人を動かしたのかを考える。また、これまでの授業内容から、他者とよりよい関係を構築するためのコミュニケーションには何が必要かを考察していく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業内容を総括して、コミュニケーションおよび言語コミュニケーションの意義、難しさ、方法について発表の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180

学生へのフィードバック方法

口頭および書面でのコメント

評価方法

課題（完成度、独創性等で評価する）
発表（内容、構成、表現、プレゼンテーションで判断する）
平常点（発言や取り組みの姿勢で判断する）
※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
ワークシート	○	○	○	○
発表	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

課題　30%　発表　40%　平常点　30%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解の観点】グローバルな視点から言語コミュニケーションの知識を学び、理解を深める。

【思考・判断の観点】真のコミュニケーションにおける言語運用の諸課題について分析的に考えることができる。

【関心・意欲・態度の観点】言語コミュニケーションについての諸課題に関心を持ち、自分の言動に反映させることができる。

【技術・表現の観点】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理した上で、分かりやすく他者に伝えることができる。

オフィスアワー

月曜日昼休み、火曜日3限（前期）

学生へのメッセージ

グローバル化、多文化共生化が進む社会において、万人とコミュニケートできる「ことば」を持つことは大切な力となります。日本語コミュニケーションの特徴についての発見を楽しみながら、世界の人とコミュニケーションできる「ことば」の習得を目指していきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題達成を自主的に進める。ディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	図書館やインターネットで情報を収集する。
ICT活用		

講義コード	G03108001
講義名	情報倫理
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	千葉 一博	指定なし

ナンバリング

D24201M21

授業概要(教育目的)

情報社会と情報を伝達するメディアについて考え、それらに関する問題を探ることにより、情報倫理の学修力を育成することを目的とする。皆で考えて話し合うように、積極的な参加を促す。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	情報社会におけるさまざまな問題を正しく認識することができる。
思考・判断の観点 (K)	情報社会におけるさまざまな問題の解決策を自分で考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	話し合いに積極的に参加することができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	高度情報社会と生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。高度情報社会における生活に関係する倫理について考える。 学期の中間時点を期限とするレポート課題を確認する。
	教室外学習(予習・復	復習: 倫理について復習すること

	習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	110
第2回	**授業テーマ**	情報とはなにか1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個人情報について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 個人情報に関して自分で考えて下調べしておくこと 復習: 個人情報について復習すること
	教室外学習の時間（分）	95 110
第3回	**授業テーマ**	情報とはなにか2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ビッグデータについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: ビッグデータに関して自分で考えて下調べしておくこと 復習: ビッグデータについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	95 110
第4回	**授業テーマ**	情報社会における心の問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報社会における心の問題を議論し、情報倫理の必要性について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 情報社会における心の問題に関して自分で考えて下調べしておくこと 復習: 情報社会における心の問題について復習すること
	教室外学習の時間（分）	95 110
第5回	**授業テーマ**	SNS（Social Networking Service）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	SNSについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: SNSに関して自分で考えて下調べしておくこと 復習: SNSについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	95 110
第6回	**授業テーマ**	撮影（ドローン、防犯カメラ、…）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ドローンや防犯カメラなどによる撮影ついて議論し、倫理的な視点で考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: ドローンや防犯カメラなどによる撮影に関して下調べしておくこと 復習: ドローンや防犯カメラなどによる撮影について復習すること
	教室外学習の時間（分）	95 110
第7回	**授業テーマ**	メディアとはなにか
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	メディアについて理解し、表現の自由について議論する。
		予習: メディアと表現の自由に関して自分で考えて下調べ

	教室外学習(予習・復習)の内容	しておくこと 復習: 表現の自由について復習すること
	教室外学習の時間（分）	95 95
第8回	**授業テーマ**	メディア（新聞）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	メディアのなかでも新聞などマスメディアについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: マスメディアに関して自分で考えて下調べしておくこと 復習: マスメディアについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	95 95
第9回	**授業テーマ**	IoT（Internet of Things）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	IoTと日常生活環境の関連について議論する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: IoTに関して自分で考えて下調べしておくこと 復習: IoTについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	95 95
第10回	**授業テーマ**	ネット依存
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ネット依存について自己評価し、ネットやゲームに関わる問題を議論する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: ネットやゲームに関わる問題を自分で考えておくこと 復習: ネット依存について復習すること
	教室外学習の時間（分）	95 95
第11回	**授業テーマ**	バーチャルリアリティ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バーチャルリアリティについて議論し、その応用について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: バーチャルリアリティに関して自分で考えて下調べしておくこと 復習: バーチャルリアリティについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	95 95
第12回	**授業テーマ**	情報メディア
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報メディアの一つとしてデジタルサイネージについて議論する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: デジタルサイネージに関して下調べしておくこと 復習: デジタルサイネージについて復習すること
	教室外学習の時間（分）	95 95
	授業テーマ	情報社会と生活1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	知的財産権について考える。

	を含む)	
第13回	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: 知的財産権に関して自分で考えて下調べしておくこと 復習: 知的財産権について復習すること
	教室外学習の時間（分）	95 95
第14回	授業テーマ	情報社会と生活2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	セキュリティについて考える。 情報倫理に関する定期試験を含む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: セキュリティに関して自分で考えて下調べしておくこと 授業全体をふり返ること
	教室外学習の時間（分）	235

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

下調べのレポートなどは、チェックして返却する。

評価方法

・平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する。
・定期試験は 40 点満点で、授業のふり返りに基づいた論述形式とする。また、情報倫理に関する理解度と思考力を確認する。
・平常点、レポート、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
レポート	○			
定期試験		○		

評価割合

平常点（50%）、レポート（10%）、定期試験（40%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「衣生活」または「住生活」を中心とするさまざまな知識を有することで、人と人、人と自然が共生する持続可能な生活について理解できる。
【思考・判断】生活にかかわる多様な諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。生活にかかわる情報を客観的に理解・判断した上で適切な行動ができる。
【関心・意欲・態度】積極的な関心と解決するための意欲を持って生活にかかわる諸問題に対応することができる。

オフィスアワー

月曜 4 限・水曜 3 限 1411研究室

早朝・深夜を除き、メールでも相談に応じる。
必要であれば、日時を調整してオンラインで対応する。

学生へのメッセージ

授業の予習・復習をすること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的にディスカッションに参加することによって、倫理的、社会的な能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報倫理の学修力を養成する。
ICT活用		

講義コード	G03108101
講義名	ウェブデザイン演習Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	高嶋　章雄	指定なし

ナンバリング

D24204M22

授業概要(教育目的)

ウェブサイトは情報化社会における情報発信手段として必須のメディアである。この授業では、学生がウェブサイトをデザインするための技術的な要素（HTML、CSS）を理解し、基礎的なウェブサイト制作スキルを身につけることを目的として、演習形式で講義する。

履修条件

専門科目「ウェブデザイン」の単位を修得していること、またはそれと同等の勉強をし、HTML、CSSに関する技術を十分理解していること。
対面・オンラインを問わず、パソコンの利用が必須となる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	1. ウェブサイトを構成する、HTML、CSSの仕組みを説明できる。 2. ウェブサイト制作技術を用いてコーディングし、情報をウェブサイトとして表現できる。

学習計画

	授業テーマ	サイト制作の基礎
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リ	サイト制作の流れを把握し、学習範囲を明確にする。ウェブ技術の標準化、オーサリングソフトやエディタ、jQuery等、周辺技術の紹

第1回	ﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	介も含め全講義を概観する。ウェブサイトの構成要素（HTML、CSS）を理解する。課題提出あり。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ウェブサイト構成要素を確認し、PCを用いた作業の流れを把握する。
	教室外学習の時間（分）	60
第2回	授業テーマ	HTML・CSSの基礎（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的なタグ（ドキュメントタイプ宣言、メタデータ用タグ、見出し、段落、箇条書き等）を利用したサイトを制作する。セレクタについて理解する。課題提出あり。
	教室外学習(予習・復習)の内容	基本要素だけで構成されるシンプルなページを制作する。
	教室外学習の時間（分）	100
第3回	授業テーマ	HTML・CSSの基礎（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的なタグ（画像、表、リンク等）を利用したサイトを制作する。セクショニングコンテンツ（section、article、nav、header、footer等）を理解する。課題提出あり。
	教室外学習(予習・復習)の内容	基本要素だけで構成されるシンプルなページを制作する。
	教室外学習の時間（分）	100
第4回	授業テーマ	HTML・CSSの基礎（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	IDセレクタ、クラスセレクタ、タイプセレクタを使い分けたサイトを制作する。リセットCSSを理解する。課題提出あり。
	教室外学習(予習・復習)の内容	セレクタを使い分けてサイトを制作する。
	教室外学習の時間（分）	100
第5回	授業テーマ	レイアウト（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ボックスモデルを理解する。基本的な単位（px、%、em、rem、vh、vw）を理解する。課題提出あり。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ボックスモデルを用いたサイトを制作する。
	教室外学習の時間（分）	60

第6回	授業テーマ	レイアウト（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	float、positionを利用したサイトを制作する。課題提出あり。
	教室外学習(予習・復習)の内容	複数のレイアウト手法によるサイトを制作する。
	教室外学習の時間（分）	100
第7回	授業テーマ	CSS3、ウェブフォント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	CSS3で導入された属性（角丸、シャドウ、グラデーション、ウェブフォント等）を利用したサイトを制作する。課題提出あり。
	教室外学習(予習・復習)の内容	様々なCSS3表現を用いた試用する。
	教室外学習の時間（分）	100
第8回	授業テーマ	レイアウト（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	flexboxを理解する。ナビゲーションメニューを実現するための手法（画像スプライト、CSS3、疑似クラス）を理解する。課題提出あり。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リンクの表現方法を確認する。
	教室外学習の時間（分）	100
第9回	授業テーマ	動的なwebサイト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	JavaScript、ｊQueryを用いた動きのあるサイトを制作する。課題提出あり。
	教室外学習(予習・復習)の内容	様々なJavaScript（jQuery）プラグインを検索する。
	教室外学習の時間（分）	100
第10回	授業テーマ	外部ウェブサービス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Googleマップ、Twitter、Facebook等の外部コンテンツを埋め込む手法を理解する。課題提出あり。
	教室外学習(予習・復習)の内	SNS等外部ウェブサービスを埋め込んだサイトを制作する。

	容	
	教室外学習の時間（分）	60
第11回	授業テーマ	レイアウト（4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	メディアクエリを理解し、モバイル対応したサイトを制作する。課題提出あり。
	教室外学習(予習・復習)の内容	複数デバイスに対応したサイトを制作する。
	教室外学習の時間（分）	100
第12回	授業テーマ	レイアウト（5）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	モバイル対応したシングルページを制作し、これまでの内容を復習する。課題提出あり。
	教室外学習(予習・復習)の内容	スマートフォン向けのサイトを制作する。
	教室外学習の時間（分）	100
第13回	授業テーマ	レイアウト実践（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個人またはグループで、テーマに沿ったウェブサイトを制作する（企画、コンテンツ収集、コーディング等）。課題提出あり。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマに沿ったサイトを制作する。
	教室外学習の時間（分）	150
第14回	授業テーマ	レイアウト実践（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個人またはグループで、テーマに沿ったウェブサイトを制作する（コーディング、まとめ、発表）。課題提出あり。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマに沿ったサイトを制作する。
	教室外学習の時間（分）	120

学習計画注記
※履修者数や学生の理解度に応じてスケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法

各課題に対しコメント付きで返却し、必要に応じて授業内で講評する。

評価方法

・講義時間内のコーディング作業に取り組む姿勢を平常点とし、実装の完了を以て技術の習得を確認する。
・各回の学習内容に関するレポートで、技術の習得および内容の理解度を確認する。締め切りを過ぎたレポートは著しく評価が下がるので注意すること。
・最終課題では、学習した技術を実践で活用できたかを確認し、グループへの貢献も含めて評価する。
・一部の評価はルーブリックを用いて実施し、内容はClassroomに掲示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点				○
レポート				○
最終課題				○

評価割合

平常点20%、各回のレポート60%、最終課題20%を基準とし、総合的に判断して評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし。必要に応じて講義関連資料を配布する。

ディプロマポリシーとの関連

【技術・表現】 テーマに沿った情報を収集・分析・整理し、ウェブサイトという媒体を通じて表現、発信できる。

学生へのメッセージ

パソコンやタブレット、スマートフォンの普及により、ウェブサイトは最も手軽な情報収集の手段となっている。情報の受け手としてではなく、送り手として情報を表現・発信するために、ウェブサイトを構成する技術を主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	一部の課題でグループワークを実施する。
情報リテラシー教育	○	情報の表現方法を検討し、ウェブサイトとしてアウトプットする。
ICT活用	○	PCを利用し、HTML・CSSのコーディングを行う。

講義コード	G03108301
講義名	園芸論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	石綱 史子	指定なし

ナンバリング

D25201M21

授業概要(教育目的)

近年、園芸植物やそれを扱う人々が必要とする技術は多様化している。本講義では、蔬菜（野菜）、果樹、花卉（花）の生産を主とする商業園芸と家庭菜園や庭づくりなどの家庭園芸の現状、ガーデニングなどで植物を栽培し、利用するために必要な基礎的な技術や植物生理について解説する。園芸領域科目（ガーデニング実習等）の他の科目につながる基礎的な力を養う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	園芸の現状を理解し、植物の基礎的知識を身につけ、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	植物の栽培管理を行う場合に、いつ、なぜ、この管理作業が必要であるか判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	本講義で得た植物の性質や特徴の知識を、植物を用いた空間デザインや表現や生活の中で活かすことができる。

学習計画

	授業テーマ	イントロダクション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本講義の到達目標、講義内容、進め方について説明する。 本講義で扱う園芸学の定義について解説する。

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：本講義の内容と園芸学の定義について理解する。 予習：疑問点を、次の講義までにまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	園芸の起源と歴史
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の園芸の発達と変遷、園芸植物の起源について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義内容の復習、日本の園芸の起源と歴史について理解する。 予習：疑問点を、次の講義までにまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	種子と発芽
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	植物の種子の構造とその役割、種子の休眠と発芽に影響する環境条件について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義内容の復習、植物の種子の構造、役割や発芽のメカニズムについて理解する。 予習：疑問点を、次の講義までにまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	植物の生長
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	植物の生長と組織の分化、茎や葉の構造について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義内容の復習、植物の生長と組織の分化、茎や葉の構造について理解する。 予習：疑問点を、次の講義までにまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	地下器官の生長と発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	根の生長と地下器官の発達、菌根菌との共生などについて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義内容の復習、根の生長と地下器官の発達、菌根菌について理解する。 予習：疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	花芽分化と開花
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生殖と花芽形成、花芽分化に影響する環境条件やホルモンについて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義内容の復習、生殖と花芽形成、花芽分化に影響する環境条件やホルモンについて理解する。 予習：疑問点を、次の講義までにまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	果実の発育と成熟
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	果実の形態、発達の仕組み、生産と栽培について解説する。
	教室外学習(予習・復	復習：講義内容の復習、果実の形態、発達の仕組み、生産と栽培について理解する。

	習)の内容	予習：疑問点を、次の講義までにまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	植物ホルモン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オーキシン、ジベレリン、サイトカイニン、アブシジン酸、エチレンなどの植物ホルモンについて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義内容の復習、オーキシン、ジベレリン、サイトカイニン、アブシジン酸、エチレンなどの植物ホルモンについて理解する。 予習：疑問点を、次の講義までにまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	養分の吸収と光合成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	植物の養分吸収の生理と光合成の仕組みと役割について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義内容の復習、植物の養分吸収の生理と光合成の仕組みと役割について理解する。 予習：疑問点を、次の講義までにまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	栽培環境とその制御
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	温度、光、水など園芸作物の栽培に影響する栽培環境について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義内容の復習、園芸作物の栽培に影響する栽培環境について理解する。 予習：疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	病害虫と雑草、繁殖
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	病気、外注、雑草の防除とコントロール法について解説する。 園芸植物の繁殖様式（種子繁殖と栄養繁殖）法について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義内容の復習、病気、外注、雑草の防除とコントロール法について理解する。 予習：疑問点を、次の講義までにまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	特別授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学外から講師を招き、植物育種についての最前線についてのお話を伺う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義内容の復習、園芸植物の繁殖様式（種子繁殖と栄養繁殖）法について理解する。 予習：疑問点を、次の講義までにまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	品種改良
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	園芸植物の品種の改良について実例を挙げて解説する。
	教室外学習(予習・復	復習：講義内容の復習、園芸植物の品種の改良について理

	習)の内容	解する。 予習：期末試験の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	総括と期末試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本講義のまとめと到達目標の達成度の確認。 期末試験を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：期末試験の結果と内容を確認し、本講義全体の内容について理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

履修者数や講義の進み具合などにより、スケジュールや課題変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

講義中に質問時間を設け、必要に応じディスカッションを行い、フィードバックする。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。

評価方法

平常点：講義中のディスカッションや問題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。
定期試験：講義で扱った話題や問題の中から選択式と記述式で60点満点で出題する。

評価基準

評価基準

評価方法	**知識・理解（K）**	**思考・判断（K）**	**関心・意欲・態度（V）**	**技術・表現（A）**
平常点	○			○
定期試験	○	○		○

評価割合

平常点40%、定期試験60%で総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

「園芸学の基礎」鈴木正彦編（農山漁村文化協会）978-4-540-11105-1

参考図書

「最新園芸・植物用語集」土橋豊（淡交社）978-4473042668
その他、必要に応じて授業内で紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー

月曜 2限 3609研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	**概要**
実務経験		担当教員は、植物園および大学研究機関で庭や植物コレクションの栽培管理業務

を活かした授業	○	に従事した実務経験を有している。実務経験をもとに現場で必要な園芸と植物の基礎的知識とは何かを講義で伝えている。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03108401
講義名	ガーデニング実習I
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	石綱 史子	指定なし

ナンバリング

D25202M23

授業概要(教育目的)

ガーデニング概論や園芸論などの講義で得た基礎的な知識をいかし、実際に植物の栽培管理を行う。ガーデニング実習IIと合わせて年間を通した植物の栽培管理法を解説する。季節に適した植物を用い、その栽培に必要な管理計画を検討し、実習する。安全に作業をするための知識を養う。植物を生活に取り入れ利用する様々な方法についても、文化的な年間行事と植物の関係性に着目して、工夫やその効果を実践を通して解説する。

履修条件

「ガーデニング概論」、「園芸論」、「観賞植物素材論」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	身の回りで栽培されている植物に興味を持ち、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	植物を栽培することの楽しさや難しさ示すことができる。 植物を取り入れたい生活空間の目的や場所の環境条件に適した植物種を選ぶことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	植物栽培に必要な作業を考え、他の人と協力し安全に配慮しながら行うことができる。
技術・表現の観点 (A)	庭や花壇をデザインする際に必要な植物、材料、道具を使用することができる。

学習計画

	授業テーマ	イントロダクション 菜園の準備

		ドライフラワーの作製
第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	本実習の到達目標、進め方、持ち物、服装、安全上の注意などについて説明する。 菜園の区画分け、植栽準備、苗の注文など 花壇の花を収穫して、ドライフラワーを作製する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：本実習の内容と安全上の注意などをよく理解すること。 予習（準備）：持ち物、服装を準備する。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	**授業テーマ**	菜園：植栽配置図 春の一年草の播種
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	菜園の各自の分担区画内の植栽配置図と管理計画を完成する。 栽培する植物の栽培方法を調べる。 花壇などに植える春の一年草を播種する。 校内の秋の植物を観察し、記録する
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習・予習：作業日誌に記入する。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	**授業テーマ**	菜園の植え付け
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自が作成した植栽配置図に従って、菜園区画に、植え付けを行う。 防虫ネット設置などの作業を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習・予習：作業日誌に記入する。水やりなどの菜園管理。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	**授業テーマ**	チューリップの花壇の植栽計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	花壇に植えるチューリップの植栽配置図を作製する グループに分かれ、作業方法と手順を検討し、必要な道具をリスト化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習・予習：作業日誌に記入する。水やりなどの菜園管理。
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	**授業テーマ**	植物の利用：季節の飾り チューリップの花壇のデザイン決定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	観賞用カボチャを用い、ジャックオーランタンを作り、校内に飾り付ける。 チューリップの花壇のデザインを投票で決定し、必要な球根の色と数を確定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習・予習：作業日誌に記入する。水やりなどの菜園管理。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	**授業テーマ**	菜園の管理 イネ、タデアイの種子の収穫
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	菜園の除草、追肥、土寄せなどを行う。 来年の春にガーデニング実習IIで栽培するイネとタデアイの種子を収穫する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習・予習：作業日誌に記入する。水やりなどの菜園管理。
	教室外学習の時間（分）	100分

第7回	授業テーマ	チューリップの球根の植え付けの準備 果樹の苗の選抜
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとに植え付けの手順を確認し、区画分けなどの準備を行う。 ウメなどの果樹の苗木を購入するために必要な情報を整理して、候補を選ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習・予習：作業日誌に記入する。水やりなどの菜園管理。
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	授業テーマ	チューリップの球根の植え付け 菜園の管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとに計画に従って、チューリップの植え付けを行う。 菜園の管理作業（追肥、防虫、土寄せ）とサニーレタスなどを収穫する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習・予習：作業日誌に記入する。水やりなどの菜園管理。
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	授業テーマ	春の寄せ植えのデザイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	チューリップの球根や、春の一年草を使って寄せ植えのデザインをする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：寄せ植えのデザインを完成させる。 復習・予習：作業日誌に記入する。水やりなどの菜園管理。
	教室外学習の時間（分）	100分
第10回	授業テーマ	春の寄せ植えをつくる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自のデザインに従って、春の寄せ植えをつくる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習・予習：作業日誌に記入する。水やりなどの菜園、花壇、寄せ植えの管理。
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	授業テーマ	果樹を植える 菜園の収穫
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	選んだ果樹の苗木の植え付けを行う。 菜園の収穫を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習・予習：作業日誌に記入する。水やりなどの菜園、花壇、寄せ植えの管理。収穫した野菜を調理して食べてみる。
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	授業テーマ	季節の飾り、菜園の収穫と管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	しめ縄飾りの土台を作る。菜園の収穫と管理、これまで植えつけた植物の確認。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習・予習：作業日誌に記入する。水やりなどの菜園、花壇、寄せ植えの管理。収穫した野菜を調理して食べてみる しめ縄飾りの飾りの部分のデザインを考え、材料を準備

		しておく。
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	**授業テーマ**	季節の飾り、菜園の収穫と管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回作ったしめ縄の土台に、自分たちで作ったドライフラワーや稲穂を使って飾り付けをする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：作ったしめ縄を自宅で飾りつける。街に飾ってあるお正月飾りを観察する。収穫した野菜を調理して食べてみる。 予習：作業日誌を完成させる。水やりなどの菜園、花壇、寄せ植えの管理。
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	**授業テーマ**	総括・テスト 菜園の収穫と片付け
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	菜園の収穫と片付け 日誌を提出
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：収穫した野菜を調理して食べてみる
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

本科目は、履修者数、天候、植物の生育速度により実施スケジュールや課題が変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

実習中に随時ディスカッションを行い、フィードバックする。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。

評価方法

平常点（50%）：各回の授業で課題をだす。実習中の作業や課題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。
日誌（20%）：実習中に行った作業、実習以外に行った管理作業、作業を通じて生じた疑問点、その疑問点を解決するために自ら調べた結果などを第3者へ伝わる様式で記録を残す。作業日誌を総合的に判断して評価する。
試験（30%)：実習中に行った作業や解説の内容について

日誌は、ルーブリックに基づく評価とします。ルーブリック評価の方法は授業内で解説します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	
課題	○	○		○
試験	○	○		○

評価割合

平常点50%、課題20%、テスト30%

使用教科書名(ISBN番号)

適宜、資料を印刷・配付する。

参考図書

適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー

月曜日 2限 3609研究室

学生へのメッセージ

本科目履修には、材料費一人2,000円（予定）の負担が必要です。
作業服、作業靴、軍手、帽子などの準備が必要です。詳しくは第1回の授業で説明します。
第1回授業も軽作業を行いますので、動きやすい服装と靴で参加してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、植物園および大学研究機関で庭や植物コレクションの栽培管理業務に従事した実務経験を有している。実務経験をもとに庭や植栽のデザイン、植栽管理計画、管理作業の重要性を実習を通して伝えている。
アクティブ・ラーニング	○	授業内の作業や課題に関して、自ら考え、調べ、デザインとして表現する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03108501
講義名	観賞植物素材論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	石綱 史子	指定なし

ナンバリング

D25204M21

授業概要(教育目的)

ガーデニングやエクステリアデザインでは多種多様な植物が用いられる。植物を使った空間デザインを効果的にするためには、個々の植物の知識が不可欠である。本講義では、特にエクステリアデザインなどで用いられる一般的な樹木を同定する力を養う。熱帯花木、山野草、盆栽、ハーブ、サボテン類、洋ラン等の観賞植物の分類及び特徴と栽培方法、園芸における活用方法を解説する。観賞植物の特徴を、体系的に理解し、正しい情報を入手する力を養う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	園芸やガーデニングには多種多様な植物の名前、性質、特徴などを理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	園芸やガーデニングには多種多様な植物を栽培法や環境条件を類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	本講義で得た植物の知識を植物を用いた空間デザインや植物の栽培に活用できる。

学習計画

	授業テーマ	イントロダクション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆ	本講義の到達目標、講義内容、進め方、樹種名同定小テストの方法について説明する。本講義で用いる用語や植物の利用上の

第1回	ﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	分類の定義を確認する。 町田キャンパスの校舎周辺を散策し、樹木の観察を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：本講義で用いる用語や植物の利用上の分類の定義を確認する。講義の内容と用語や植物の利用上の分類を理解する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	エクステリアデザインの材料
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エクステリアデザインで使用する植物や材料について解説する。 樹種名同定小テスト用の樹木を解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：樹木の描き方の基本を理解する。 予習：樹種名同定テストの準備をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	観葉植物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	観葉植物の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト用の樹木を解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：観葉植物について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。 予習：樹種名同定テストの準備をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	特別校内授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実務者から現場での活動や体験について、具体的な施工例をあげながら解説していただく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：多肉植物とサボテンについて理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。 予習：樹種名同定テストの準備をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	草花（一年草、二年草、多年草、宿根草）、多肉植物とサボテン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	草花（一年草、二年草、多年草、宿根草）、多肉植物とサボテンの性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト用の樹木を解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：草花（一年草、二年草、多年草、宿根草）について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。 予習：樹種名同定テストの準備をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	低木と高木
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	低木と高木の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト用の樹木を解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：低木と高木について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。 予習：樹種名同定テストの準備をする。

	教室外学習の時間(分)	200分
第7回	**授業テーマ**	果樹
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	果樹の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト用の樹木を解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：果樹について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。 予習：樹種名同定テストの準備をする。
	教室外学習の時間(分)	200分
第8回	**授業テーマ**	家庭菜園
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭菜園で使われる植物の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト用の樹木を解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：家庭菜園で使われる植物について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。 予習：樹種名同定テストの準備をする。
	教室外学習の時間(分)	200分
第9回	**授業テーマ**	山野草
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	山野草の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト用の樹木を解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：山野草について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。 予習：樹種名同定テストの準備をする。
	教室外学習の時間(分)	200分
第10回	**授業テーマ**	薬草と有毒植物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	薬草と有毒植物の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト用の樹木を解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：薬草と有毒植物について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。 予習：樹種名同定テストの準備をする。
	教室外学習の時間(分)	200分
第11回	**授業テーマ**	盆栽とラン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	盆栽とランの性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト用の樹木を解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：盆栽とランについて理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。 予習：樹種名同定テストの準備をする。
	教室外学習の時間(分)	200分
	授業テーマ	屋上緑化、壁面緑化、ベランダガーデニング 公園とビオトープ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆ	屋上緑化、壁面緑化、ベランダガーデニングに適した植物の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。

第12回	ﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公園とビオトープで使用される植物の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト用の樹木を解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：屋上緑化、壁面緑化、ベランダガーデニングに適した植物について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。 予習：樹種名同定テストの準備をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	在来植物と外来植物 ファイトレメディエーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	在来植物と外来植物の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 ファイトレメディエーションに用いられる植物の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テストまとめ
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：在来植物と外来植物について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。 予習：樹種名同定テストの準備をする。課題のまとめ。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	総括 小テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本講義のまとめ、到達目標の達成状況の確認など、本科目の振り返り。 樹種名同定小テスト 課題の提出
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：本講義で得た知識をもとに、生活の中にある植物にこれまで以上に注意を払い、名前と特徴を知っている身の回りの植物を増やす。
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

履修者数や講義の進み具合などにより、スケジュールや課題変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

講義中に質問時間を設け、必要に応じディスカッションを行い、フィードバックする。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。

評価方法

平常点(40%)：講義中のディスカッションや課題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。
小テスト（40 %)：樹木名の同定テストと授業で扱った植物に関するテスト。
課題(20%)：エクステリアデザインで使う樹木を図面上で表現するために、針葉樹、広葉樹、落葉樹、常緑樹の描き方を練習し、修得する。

課題は、ルーブリックに基づく評価とします。ルーブリック評価の方法は授業内で解説します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○		○

課題	○	○		○

評価割合

平常点40%、小テスト40%、課題20%で総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

適宜、資料を印刷・配付する。

参考図書

「葉っぱでわかる造園樹木図鑑」船越亮二著 講談社(978-4-06-220463-7)
その他、随時、講義内で紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー

月曜 2限 3609研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、植物園および大学研究機関で庭や植物コレクションの栽培管理業務に従事した実務経験を有している。実務経験をもとに現場で必要な園芸と植物の基礎的知識とは何かを講義で伝えている。
アクティブ・ラーニング	○	樹木を観察し、樹種を判別の方法を修得し、他者と情報を共有する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03108701
講義名	マーケティング論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	鈴木 一正	指定なし

ナンバリング

D25303M21

授業概要(教育目的)

●マーケティングの基礎を解説する。特にファッションビジネスに関わる人材に求められるマーケティングに関する知識や技術を習得できるようにする。
●消費者の意思決定プロセスを理解し、主要なフレームワークをビジネスの実務で活用出来るようにする。
●ビジネスにおけるマーケティング事例も取り上げ、業界に対する理解が深まるよう講義をおこなう。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	●セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、４Ｐを理解している。 ●マーケティングに関わるフレームワークを理解している。 ●消費者の意思決定プロセスを理解している。
思考・判断の観点 (K)	●企業のマーケティング戦略や施策の課題を分析できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	●教室外学習時間を活用し、課題に取り組む。 ●学習効果を高めるために、積極的に質問し、自分自身の意見を述べる。
技術・表現の観点 (A)	●分析結果を踏まえて、企業の戦略や施策を評価し、具体的な提案を述べることができる。

学習計画

マーケティングの基本について、アパレル業界を中心に実例も取り上げながら、楽しく理解出来る講義を目指す。

第1回	**授業テーマ**	イントロダクション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	講義の目的、目標、講義スケジュール、評価方法について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：テキスト「はじめに」(i-iv頁)及び事前配付資料を読んでおくこと 復習：指定された課題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	**授業テーマ**	マーケティングの考え方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・マーケティングと販売の違い、顧客志向の本質などについて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：テキスト第1章(1-36頁)を読んでおくこと 復習：指定された課題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	マーケティングのエッセンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・顧客価値やマーケティング・マネジメント・プロセスなどについて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：テキスト第2章(37-69頁)を読んでおくこと 復習：指定された課題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	マーケティングのための戦略的視点
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・マーケティングと戦略との関係などについて、製品ライフサイクル、競争地位別戦略なども含め解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：テキスト第3章(70-103頁)を読んでおくこと 復習：指定された課題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	小テスト等
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	☆小テスト…第１回～第４回の講義内容についての確認テスト ☆事例分析 その1 ☆グループワーク
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：テキスト第1章～第3章(1-103頁)を読んでおくこと。 復習：指定された課題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	マーケティング環境のとらえ方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・外部環境分析及び内部環境分析について、SWOT分析、5FORCE分析、VRIO分析、PPM分析、3C分析なども含め、解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：テキスト第4章(105-134頁)を読んでおくこと 復習：指定された課題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	マーケティング・リサーチ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	・マーケティング・リサーチの考え方と具体的な手法につ

第7回	**情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	いて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：テキスト第5章(135-158頁)を読んでおくこと 復習：指定された課題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	消費者の理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・消費者知覚や感覚マーケティング、関与の考え方などについて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：テキスト第6章(159-186頁)を読んでおくこと 復習：指定された課題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	小テスト等
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	☆小テスト第6回～第8回の講義内容についての確認テスト ☆事例分析 その2 ☆グループワーク
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：これまでの講義資料を良く読んでおくこと 復習：指定された課題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	セグメンテーションとターゲティング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・セグメンテーションとターゲティングの考え方と活用方法について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：テキスト第7章(187-222頁)を読んでおくこと 復習：指定された課題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	ポジショニング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ポジショニングの考え方について、知覚マップの活用も含め解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：テキスト第8章(223-249頁)を読んでおくこと 復習：指定された課題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	マーケティング・ミックス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・４Ｐ（製品・価格・プロモーション・流通チャネル）の考え方と活用方法について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：テキスト第9章(250-309頁)を読んでおくこと 復習：指定された課題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	小テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	☆小テスト第10回～第12回の講義内容についての確認テスト ☆事例分析 その3 ☆グループワーク
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：これまでの講義資料を良く読んでおくこと 復習：指定された課題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	ファッション・マーケティング 講義の総まとめ

第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・『ファッションビジネスの基礎知識』（衣料管理協会、2023）からマーケティングに関する部分を解説する。 ・最終回として、講義の総まとめをする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配付資料を読んでおくこと 復習：指定された課題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	190分
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

講義内の議論やビジネスの動向を踏まえ、スケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

講義内容に関する質問やさらに議論したい点について、講義終了時にアンケートを提出する。
当該内容について、翌週の講義冒頭にて解説する。

評価方法

小テストは、第5回、第9回、第13回に実施する。（各回10点×3回＝30点満点）
質問・意見等の共有は、講義の中での発言や提出物などにおいて、思考・判断、関心・意欲・態度の視点から評価する。（30点満点）
課題レポートは、講義の内容を踏まえ、特定の企業や組織についてのマーケティング戦略の現状と今後取り組むべき施策についての提言とする。なお、評価はルーブリックに基づく。（40点満点）
※ルーブリックについては初回講義にて説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
確認テスト	○	○		○
質問・意見・アイデアの共有	○	○	○	○
課題レポート	○	○		○

評価割合

確認テスト（30%）、質問・意見等の共有（30%）、課題レポート（40%）

使用教科書名(ISBN番号)

久保田進彦ら(2022),はじめてのマーケティング[新版],有斐閣ストゥディア
ISBN 978-4-641-15097-3

参考図書

日本衣料管理協会(2023),ファッションビジネスの基礎知識,日本衣料管理協会
ISBN 978-4-911060-00-1
※衣料管理士の資格取得を目指す方は上記参考図書もご用意ください。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「衣」分野におけるマーケティングに関する専門知識を有しており、職業人として実務に活用出来る。
【思考・判断】外部環境と内部環境を整理し、的確なマーケティング戦略や施策を立案するこ

とが出来る。消費者の意思決定プロセスを踏まえた施策立案が出来る。
【関心・意欲・態度】「衣」分野で日々生じている事象を積極的に収集し、マーケティングの視点から理解し、自分なりの見解を持てる。
【技術・表現】マーケティングのフレームワークを駆使して、現状の課題を把握し、解決策にまとめ上げていくことが出来る。

オフィスアワー

メールでの問合せは随時受け付ける。
また、毎週の講義終了後、教室での質問も受け付ける。

学生へのメッセージ

モノが売れない時代にあってマーケティングの重要性は従来以上に高まってきていると言われる。将来を担う皆さんにはマーケティングの重要性を理解し、基本的な知識や技術を学び、ビジネスに活かして欲しい。
学生の皆さんの理解を深めるために、講義では積極的に発言し、取り上げるべき事例などがあれば、ぜひ提案して欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、流通小売業（百貨店）におけるマーケティングの実務経験を有しており、講義ではファッション関連企業の実例を取り上げて議論する。
アクティブ・ラーニング	○	小テスト内の課題について、履修者自らが分析内容を共有し、意見交換を行っていく。
情報リテラシー教育	○	適宜、書籍や論文の探索方法を解説し、マーケティング以外も含めた情報収集のノウハウを伝えて行く。
ICT活用	○	Google Classroomを通して資料提供・レポート提出などを実施する。

講義コード	G03108801
講義名	被服整理学実験
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	佐々木 麻紀子	指定なし

ナンバリング

D32109M13

授業概要(教育目的)

衣料用洗剤の洗浄力に関して、起泡性、浸透力、界面張力等を測定し臨界ミセル濃度を求める。また、人工汚染布を用いた洗浄力試験を行い、市販洗剤の性能を評価すると共に、洗浄に関する要因とそれらの相関性などを考察する。これらの実験を通じ、生活に関わる身近な問題を科学的に観察する方法を学ぶことを目的とする。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	被服の洗浄に関わる現象を理解することを目標とする。
思考・判断の観点 (K)	得た知識を持って有効な洗濯および取扱い方法を選択できることを目標とする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけることを目標とする。
技術・表現の観点 (A)	洗剤、洗濯、漂白などについて適切で効果的な方法や条件を理解し、実生活で活用できることを目標とする

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス 洗剤水溶液の性質1 水の硬度測定1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	①実験概要の説明及び実験にあたっての諸注意

第1回	育・ICT活用を含む)	②水の全硬度測定のための試薬作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：インターネット等で水の硬度について調べる 復習：配布したプリントをよく読み、次回からの実験概要について理解しておくこと
	教室外学習の時間(分)	30分
第2回	授業テーマ	洗剤水溶液の性質1 水の硬度測定2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水の全硬度測定をEDTA法によって測定し、実験機器の取扱い方や滴定実験を通じて、検水による硬度の違いを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：洗剤各社のHPを見て洗濯用洗剤の成分を確かめておく 復習：実験で得られたデータを整理し、次回に発表できるよう準備する
	教室外学習の時間(分)	45分
第3回	授業テーマ	洗剤水溶液の性質1 水の硬度測定3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水の全硬度測定をEDTA法によって測定し、実験機器の取扱い方や滴定実験を通じて、洗濯用水の硬度と洗剤成分のはたらきを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：インターネット等でEDTA法以外の水の硬度測定法について調べる。 復習：実験結果を図表に整理し、洗剤成分と水の硬度の関係をレポートにまとめる。
	教室外学習の時間(分)	45分
第4回	授業テーマ	洗剤水溶液の性質2 起泡力の測定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロスマイルス起泡力測定装置を使った実験を通じて、界面活性剤の種類により起泡力及び泡の安定性が異なることを理解し、市販洗剤の起泡性と泡の安定性の関係と泡の役割について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：洗濯における泡の効果についてインターネット等で調べておく 復習：実験データを整理して図表にまとめ、洗濯における泡の効果についてレポートにまとめる。
	教室外学習の時間(分)	45分
第5回	授業テーマ	洗剤水溶液の性質3 比界面張力の測定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①キシレンと水の比界面張力を基準として、液適法による各種洗剤水溶液の比界面張力を測定する。 ②実験を通じて、臨界ミセル濃度について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「界面」についてインターネット等で調べる。 復習：実験データを整理し図表にまとめ、比界面張力と洗剤濃度の関係についてレポートにまとめる。
	教室外学習の時間(分)	45分
	授業テーマ	洗剤水溶液の性質4 まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	これまでの洗剤水溶液を使った実験の結果をまとめ、洗剤水溶液

	育・ICT活用を含む)	の性質とはたらきについて理解を深める。
第6回	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：洗濯用洗剤成分の種類についてインターネット等で調べる。 復習：洗剤水溶液の成分とその濃度影響について洗濯に必要な条件をレポートにまとめる。
	教室外学習の時間(分)	45分
第7回	授業テーマ	洗浄力試験1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人工汚染布を用いて洗浄力試験を行い、洗濯条件と洗浄力の関係について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：人工汚染布の種類についてインターネット等で調べる。 復習：配布した資料を読み、実験手順を理解しておく。
	教室外学習の時間(分)	45分
第8回	授業テーマ	洗浄力試験2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人工汚染布を用いて洗浄力試験を行い、洗濯条件と洗浄力の関係について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：使用した洗剤の成分についてインターネット等で調べる。 復習：実験で得られたデータを整理し図表にまとめる。
	教室外学習の時間(分)	45分
第9回	授業テーマ	洗浄力試験3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人工汚染布を用いて洗浄力試験を行い、洗濯条件と洗浄力の関係について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：洗浄力試験方法の種類についてインターネット等で調べる。 復習：実験結果をレポートにまとめる。
	教室外学習の時間(分)	45分
第10回	授業テーマ	漂白試験1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	漂白に使用する汚染布を作製し、汚染布の作製方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：汚染布の作製方法について配布したプリントを読む。 復習：衣類につくシミの種類について調べる。
	教室外学習の時間(分)	45分
第11回	授業テーマ	漂白試験2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各種漂白剤試験を行い、漂白剤の特徴を理解する
	教室外学習(予習・	予習：各漂白剤の特徴についてインターネット等で調べる。

	復習 の内容	復習：実験結果を図表にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	漂白試験3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各種漂白剤試験を行い、グレースケールを使用した評価方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：JISグレースケールについてインターネット等で調べる。 復習：実験結果を図表にまとめ漂白剤の種類と使用上の注意についてレポートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	各種繊維製品の取扱方法1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各種衣料品の洗濯や仕上を体験し、各種衣料品の取扱方法の特徴について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：衣類の取扱い表示についてインターネット等で調べる。 復習：各種衣料品の取扱方法について説明できる資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	各種繊維製品の取扱方法2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各種衣料品の取扱方法で注意すべき点について実験結果や調べたことを基に資料を作成し発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：衣類の組成や取扱いについてインターネット等で調べる。 復習：各種衣料品の取扱方法について説明できる資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

履修人数によって授業計画を変更する場合があります。

学生へのフィードバック方法

・レポートはコメントをつけて返却する。
・質問は授業中および授業後に受けるが、出来る範囲内で適宜個別対応も行う。

評価方法

・平常点は、授業への参加・実験への意欲的な取り組み姿勢や理解度を総合的に評価する。
・レポートは、実験で得られた結果を図表などにまとめられているか、適切な考察ができているか、文章構成力、期限内に提出できているか等と課題の内容の理解度を総合的に判断して評価する。
学修成果の公平で客観的な評価の実施に向けて、ルーブリックを用いた評価を行います。
ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により学生に提示をします。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	

レポート	○	○		○

評価割合

レポートを40%、平常点を60%の総合評価とする。

使用教科書名(ISBN番号)

使用しない。適宜プリントを配布する。

参考図書

被服管理学／増子 他／朝倉書店
被服整理学／吉永 他／光生館
被服整理学/日本衣料管理協会刊行委員会編/社団法人日本衣料管理協会

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】レポートの書き方に関する豊かな知識を有している。
【関心・意欲・態度】主体的に学ぶ姿勢を身につけている。
【技術・表現】実験形式の具体的な作業で得た技術をもって生活の中へ応用できる能力を身につけている。

オフィスアワー

月曜日3限 2406研究室

学生へのメッセージ

生活に欠かせない洗濯について、洗濯機と水と洗剤がどのようなメカニズムで汚れを落としているのか、実験によって理解を深めて下さい。ひとつひとつの実験を注意深く丁寧に行い、得られた結果から分かる事は何か、また、各項目の結果を総合的に考まとめてみると、洗浄条件と洗浄力の色々な関係が見えてきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に授業に参加することによって、被服管理の専門性への理解を図る。
情報リテラシー教育	○	レポートの作成方法に関する教育を行う。
ICT活用		

講義コード	G03108901
講義名	アパレル企画実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	江良　智美	指定なし

ナンバリング

D32209M13

授業概要(教育目的)

この授業ではアパレル市場における商品について、消費者のニーズに対応した製品の企画・設計を具体的な事例を交えて体験的に習得することにより、商品企画の背景、意図、商品化までのプロセスを理解することでアパレル企画力を育成する。

履修条件

「マーチャンダイジング」を履修していることが望ましい。
＊オンデマンド＋集中講義で行う。詳細はGoogle Classroomに記載する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	ファッション産業で求められるアパレル商品の企画についての基礎知識を習得する。
思考・判断の観点 (K)	ファッション情報やトレンド情報のみならず、近年の社会状況の理解など多角的な視点を持って、ファッション企画を立案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自身の課題や分野の理解に意欲的に取り組み、作品に反映することができる。
技術・表現の観点 (A)	自らが表現したい企画に対し、技術力を高める意欲を持って取り組むことができる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス　ファッション産業におけるアパレル企画とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育 ICT)	ガイダンス　授業のねらいと到達目標の確認。ファッション産業の取り巻く社会状況を理解し、情報を整理する。

第1回	育・　活用を含む	
	教室外学習(予習・復習)の内容	情報収集の方法等を理解する。PCの使用方法などを確認する。
	教室外学習の時間(分)	180分
第2回	授業テーマ	オリジナルブランドのコンセプト立案（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在の社会状況や消費者動向から、どんな商品やテイストが求められているかを考えながら、オリジナルブランドのコンセプトを立案する。情報収集のため、PCを使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	オリジナルブランドの立案をするための資料を収集する。事前に配布した資料から、考えを整理しておく。
	教室外学習の時間(分)	240分
第3回	授業テーマ	オリジナルブランドのコンセプト立案（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オリジナルブランドのターゲットのライフスタイルなどを検討し、ペルソナを策定する。ターゲットの消費動向やテイストをマップとして作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の提出日までに作業を進めること。
	教室外学習の時間(分)	240分
第4回	授業テーマ	オリジナルブランドの企画案作成（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オリジナルブランドの訴求する世界観をマップ・コラージュなどの技法を用いて表現する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	マップ・コラージュを期日までに完成させること。
	教室外学習の時間(分)	240分
第5回	授業テーマ	オリジナルブランドの企画案作成（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ニュース、コレクション情報、統計情報などから商品企画で注目すべき情報を収集する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ファッション情報に限らず、広く社会で起きている事柄に関心を向け、情報を収集すること。
	教室外学習の時間(分)	180分
第6回	授業テーマ	オリジナルブランドの企画案作成（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集した情報からコンペティターの分析を行う。アパレル企画をより具体化させるため、ポジショニングマップを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	オリジナルブランドのポジショニングマップの発表準備をすること。
	教室外学習の時間(分)	240分
第7回	授業テーマ	オリジナルブランドの商品企画（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	S/S、A/Wいずれかのシーズンを選択し、今季テーマ、コンセプトの設定する。メインカラー、素材の検討をする。
	教室外学習(予習・	カラーコーディネート案を検討すること。

	復習)の内容	
	教室外学習の時間(分)	180分
第8回	授業テーマ	オリジナルブランドの商品企画（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回検討したシーズンテーマ、カラー、素材等の検討をより具体的に資料化する。 資料作成のためにPCを使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	設定したシーズンに適した素材のコーディネートを検討する。
	教室外学習の時間(分)	240分
第9回	授業テーマ	オリジナルブランドの商品企画（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	商品企画案を作成する。製品図を描き、商品ラインナップを検討する
	教室外学習(予習・復習)の内容	製品図のラフスケッチを作成すること。
	教室外学習の時間(分)	240分
第10回	授業テーマ	（集中講義）オリジナルブランドのスタイリング提案（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで作成したオリジナルブランドのマップ・商品企画案をまとめ、製品図を描く。スタイリング提案を立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	全体を俯瞰し、細くすべき情報や資料の必要性を検討する。スタイリング提案をするための下描きを作成する。
	教室外学習の時間(分)	240分
第11回	授業テーマ	（集中講義）オリジナルブランドのスタイリング提案（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	設定したターゲットのライフスタイルを想定し、スタイリング提案資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	スタイリング提案資料の下描きを完成する。
	教室外学習の時間(分)	240分
第12回	授業テーマ	（集中講義）オリジナルブランドのVMD計画（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オリジナルブランドを訴求するためのVMDを計画する。資料作成のためにPCを使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	オリジナルブランドの世界観を表現するVMD構想を検討し、期限までに資料を作成する。
	教室外学習の時間(分)	240分
第13回	授業テーマ	（集中講義）オリジナルブランドのVMD計画（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オリジナルブランドのVMD計画を完成させ、資料を俯瞰し完成する。イメージをコラージュとして作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	提出期限までに表紙を作成し、補足すべき資料の必要性などを検討すること。
	教室外学習の時間	240分

	（分）	
第14回	授業テーマ	（集中講義）オリジナルブランドのプレゼンテーション・講評会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	完成したオリジナルブランド企画について発表・講評会を行う。授業の総括し、アパレル企画のために求められる知見について、意見交換を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンテーションの準備をすること。また、自分の考えを整理しまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分

学習計画注記

＊履修者数、進捗度合いによって作業計画が前後する可能性があります。
＊オンデマンド＋集中講義で行う。詳細はGoogle Classroomに記載する。

学生へのフィードバック方法

・提出物、企画について個別指導を行う。
・アパレル企画について中間課題提出最終課題提出を返却し、具体的な指導を行う。

評価方法

・各テーマの提出物の基本的理解度、表現、技術的な理解度などを総合的に判断する。
・作業の取り組み、意欲、コメントシート等も評価対象とする。
・ルーブリック評価に基づいて行う予定だが、ルーブリックはガイダンス時に解説し、クラスルームでの配布により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
各テーマの理解	○	○	○	○
コンセプト・企画立案	○	○	○	○
情報収集・資料作成	○	○	○	○
完成資料	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合

平常点（授業課題への取り組み）60%
作品点（資料の完成度）30%
発表・プレゼンテーション（10%）

使用教科書名(ISBN番号)

適宜プリント等を配布する予定である。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】ファッション産業の概況、アパレル商品企画についての基礎知識と技術を習得する。
【思考・判断】社会状況とアパレル商品企画を関連させて検討できる思考力・判断力を習得する。
【関心・意欲・態度】自らの企画に責任を持って取り組み、自律して作業を進めることができる。
【技術・表現】自身の発想を豊かに表現するための技術を習得する。

学生へのメッセージ

アパレル企業のマーチャンダイザー（MD）には、積極的な行動力と表現力、多角的な視点など

が求められます。社会の中でアパレル製品がもたらす役割を理解し、より豊かな生活空間を創造する商品企画に挑戦してみましょう。毎回の授業にはテーマがあり、課題を自ら進める必要がありますので、しっかりと取り組めるように努力しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教員は舞台衣装デザイン、服飾雑貨デザイン等の経歴を持つ。また、繊維製品品質管理士（TES）の知見からトレーサビリティや企業の社会的責任等の理解を深める指導を行う。
アクティブ・ラーニング	○	各回で少人数制の個別指導を行い、適宜発表、履修者同士の意見交換を行うアクティブ・ラーニングを進める予定である。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	資料作成や情報収集のためにPCを活用する。また、アーカイブ等の資料閲覧時にもPCを使用する、

講義コード	G03109001
講義名	ウィービングデザイン演習Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	馬場 美和子	指定なし

ナンバリング

D32303M22

授業概要(教育目的)

三原組織の変化組織と二重織の技法を学び、素材や配色を考えることで、オリジナリティある布を織る力を育成する。
また、織物工場で廃棄される生地耳を織ることによりSDGsの目標12「つくる責任・つかう責任」を考え、アップサイクルする力を育成する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	織物組織図を理解することができる。 素材と織物組織の名前が分かる。
思考・判断の観点 (K)	素材や布の密度によって季節感や用途を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	織物の概要。 織り機と織道具の名称を理解する。 サンプル布を見ながら、課題説明。 変化組織のサンプル織と二重織の組織図を作成する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	組織図を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	基礎制作：変化組織のサンプル
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	変化組織の織物から興味のある布を１つえらび、担当者を決め糸をデザインし機ごしらえする。 履修生が順次織って布サンプルを作る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	機ごしらえを終わらせる。
	教室外学習の時間（分）	80分
第3回	**授業テーマ**	基礎制作：変化組織のサンプル織と生地耳座マット
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当組織の製織と同時進行で大機の機がけをする。 大機の機がけは１人１台ではなく履修生で分担して行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	担当組織を織り上げる。 大機の機がけを終わらせる。
	教室外学習の時間（分）	80分
第4回	**授業テーマ**	基礎制作：変化組織のサンプル織と生地耳座マット（糸染め）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	染色加工実験で製造した酸性染料（オレンジII）で絹糸を染める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	糸染めを終わらせる
	教室外学習の時間（分）	80分
第5回	**授業テーマ**	基礎制作：変化組織織のサンプル織と生地耳座マット
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当組織以外のサンプル織の製織 大機で生地耳の座マット（椅子に敷く敷物）を製織する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	製織を終わらせる。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	**授業テーマ**	基礎制作：大機で生地耳の座マット（椅子に敷く敷物）を製織する。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当組織以外のサンプル織の製織 大機で生地耳の座マット（椅子に敷く敷物）を製織する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	製織を終わらせる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	**授業テーマ**	変化組織のサンプル織
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サンプル織をファイリングする。 座マットの仕上げをする。 組織図とサンプル布をA4クリアファイルにまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ファイリングと座マットの仕上げを終わらせる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	**授業テーマ**	応用制作：二重織（無縫製によるバッグ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	二重織（袋織）で無縫製によるバッグを制作する。 縞のデザインを考える。 織物設計表を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	縞のデザインを決めて設計表を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	80分
	授業テーマ	応用制作：二重織

第9回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	整経をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	整経を終わらせる。
	教室外学習の時間（分）	80分
第10回	授業テーマ	応用制作：二重織
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	機がけをする。 織り始める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	機がけを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	授業テーマ	応用制作：二重織
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	製織をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	製織を進める。
	教室外学習の時間（分）	80分
第12回	授業テーマ	応用制作：二重織
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	製織をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	製織を終わらせる。
	教室外学習の時間（分）	80分
第13回	授業テーマ	応用制作：二重織
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バッグの仕上げをする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	バッグを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	授業テーマ	講評
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サンプル織・二重織の講評会、意見交換をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	提出物の振り返りをする。
	教室外学習の時間（分）	80分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になることがある。

学生へのフィードバック方法

期末提出物は採点し、返却する。

評価方法

ルーブリックに基づく評価成績です。（初回の授業でルーブリックについて説明します）
ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により掲示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末提出物	○			○
平常点・授業姿勢	○	○	○	
講評会（発表含む）		○	○	

評価割合

期末提出物60%
平常点･授業姿勢（作業記録レポート含む）30%
講評会（講評5%発表5%）

使用教科書名(ISBN番号)

プリント資料配布

参考図書

ウィービング・ノート 織物と組織・織りの計画・織りと道具 岸田幸吉著 1978年10月美術出版社
手織のデザイン基礎編 長谷川麥子著 1979年9月源流社
ハンドウィービング手織りの実習 浜野義子 田中佳子 太作星乃 田中通子共著 1984年9月文化出版局

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「衣」「住」について専門的知識・技術的を有している。グローバルな視点から「衣」「住」の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。

学生へのメッセージ

織り実習では織機を１人１台使用します。
毎回異なった作業をするので、できるだけ遅刻欠席の無いようにして下さい。
学校にある糸を原則使用します。
織物初心者、織姫のようにトントンと織り機で布を織ってみたい方も歓迎です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は染織作家として実務経験を有している。 作品制作を行い個展の開催や商品の販売を行っており制作について指導することができる。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03109101
講義名	ファッション・インテリアファブリックデザイン演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	馬場　美和子	指定なし

ナンバリング

D32305M22

授業概要(教育目的)

ウィービングデザイン演習A・Bで身につけた基本的な織物の技術を基に、ファッション用、またはインテリア用のテキスタイルを企画し、設計、製作する体験を通して、用途に応じたテキスタイル設計のプロセスを理解する力を育成する。

履修条件

ウィービングデザイン演習Aまたはウィービングデザイン演習Bを履修していること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	テキスタイルの用途、技法を理解することができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	制作した布の使い方を提案できるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	「衣」「住」のテキスタイルに関心を持ち、自主的な学習を通じて企画・デザインを立案できるようになる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・	パソコンを使用。 ファッション、インテリアテキスタイルの使用例を見る。 様々な布サンプルやウィービングデザイン演習で織った布

第1回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	からイメージしたファッション又はインテリアテキスタイルを考える。 ファッションかインテリアファブリックか選択する。 ファッションならマフラー・ショール、インテリアならクッションカバーまたはテーブルランナーを織る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ファッションファブリックかインテリアファブリックかどちらか決める。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	授業テーマ	企画書作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パソコンを使用。 ファッションかインテリアか何を織るか発表する。 イメージに合う写真を集める。 コンセプトとタイトルを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	コンセプトとタイトルを決めておく。 イメージボードの画像を集める。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	授業テーマ	企画書作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パソコンを使用。 素材、色を決める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	企画書を完成させる。 糸を選ぶ。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	授業テーマ	企画書作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	企画書を元に、テーマ、キャッチコピー、イメージ画像をまとめたプレボードを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンボードを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	110分
第5回	授業テーマ	制作:ファッション・インテリアファブリック
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	企画書からサンプル織の織物設計表を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	織物設計表を完成させる。糸の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	授業テーマ	制作：ファッション・インテリアファブリック
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サンプル織の機ごしらえをする。 サンプル織をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	サンプル織を織り上げ、仕上げをする。
	教室外学習の時間（分）	80分
第7回	授業テーマ	制作：ファッション・インテリアファブリック
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本番制作の織物設計表を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	設計表を完成させ、糸を購入する。

	教室外学習の時間（分）	80分
第8回	授業テーマ	制作：ファッション・インテリアファブリック
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	機ごしらえをする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	機ごしらえを終わらせる。
	教室外学習の時間（分）	80分
第9回	授業テーマ	制作：ファッション・インテリアファブリック
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	製織する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	製織を進める。
	教室外学習の時間（分）	80分
第10回	授業テーマ	制作：ファッション・インテリアファブリック
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	製織する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	製織を進める。
	教室外学習の時間（分）	80分
第11回	授業テーマ	制作：ファッション・インテリアファブリック
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	製織する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	製織を終わらせる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	授業テーマ	制作：ファッション・インテリアファブリック
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	房のしまつや整理をする。素材に合った仕上げをする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	布の仕上げを終わらせる。
	教室外学習の時間（分）	80分
第13回	授業テーマ	制作：ファッション・インテリアファブリック
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作品の写真を撮る。 写真、コンセプト、作品の詳細を記入した作品ボードを作成する。（パソコン使用）
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品ボードを完成させ、プリントアウトする。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	授業テーマ	講評会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンボードと作品ボードをA4イラストボードに貼る。 布のプレゼンテーションをする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	企画書、プレゼンボード、作品ボード、織物設計表、デザイン画等提出する。

	教室外学習の時間（分）	80分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

期末提出物は採点し、返却する。

評価方法

ルーブリックに基づく評価成績です。（初回の授業でルーブリックについて説明します）
ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により掲示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
期末提出物	○	○	○	○
平常点・授業姿勢	○		○	
講評会（発表含む）		○	○	

評価割合

期末提出物60%
平常点・授業姿勢30%
講評会（講評5%発表5%）

使用教科書名(ISBN番号)

プリント資料配布

参考図書

ウィービング・ノート 織物と組織・織りの計画・織りと道具　岸田幸吉著　1978年10月美術出版社
ハンドウィービング手織りの実習　浜野義子 田中佳子 太作星乃 田中通子共著 1984年9月文化出版局
手織りのためのスコットランドチェック　明石恵子著　2015年9月誠文堂新光社
オーバーショット　明石恵子著　2018年3月手織工房タリフ

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「衣」「住」について専門的知識・技術的を有している。グローバルな視点から「衣」「住」の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
【技能・表現】「衣」「住」のテキスタイルの学びを深め、課題解決に必要な情報蒐集・分析・整理できる技能を身につけている。

学生へのメッセージ

ウィービングデザイン演習AまたはBを履修していることが望ましいです。
織物初心者の方はウィービングデザイン演習A（後期3.4限）の履修をお勧めします。
実習では織り機を１人1台使用します。
毎回違った作業をするので出来るだけ遅刻欠席のないようにしてください。
作品作りの為の資料集めを積極的に行ってください。
企画デザインに合った糸を各自購入し、作品を製作します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	担当教員は染織作家として実務経験を有している。 作品制作を行い個展の開催や商品の販売を行っており制作について指導することができる。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03109201
講義名	ハンドクラフト演習Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	顧 真源	指定なし

ナンバリング

D32306M22

授業概要(教育目的)

近年衣料素材としての使用量が急増している（編物）について、その特性や製造方法を理解するため、経編の基礎としてかぎ針編と緯編の基礎として棒針編みについて学び、ニット製品の規格に必要な編技法の基礎知識を習得させることを目的とする。

履修条件

特に無し

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１、技術的な観点で編みを説明することができる。 ２、編み物の種類を把握することができる。
思考・判断の観点 (K)	１、編糸の選択、編み方の組み合わせをバランスよく組み合わせることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	１、自らクリエイティブな発想をしようと日常的に意識することができる。
技術・表現の観点 (A)	１、編み物をする際に、キレイに見せるための段取りや力加減が調整できる。

学習計画

	授業テーマ	講義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	編み物は大きく分かれると、経編の基礎としてかぎ針編と緯編の基礎として棒針編この二種類がある。それぞれの技法の説明と特徴についての講義と、作品制作のサンプルを提示する。

第1回	を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で配分したプリントを読むこと。道具や糸を準備すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	かぎ針編み
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	かぎ針の持ち方と糸のかけ方について説明する。正しい持ち方とかけ方を覚えとくと、指が疲れず、スムーズに編める。その後、「作り目」の種類とそれぞれの編み方を説明し演習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で配分したプリントを読むこと。 作り目の編み方を練習すること。
	教室外学習の時間（分）	150分
第3回	授業テーマ	基本の編み方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平編みで編む・中心から編む・だ円に編む・立体に編むなどの基本的な編み方を説明し演習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	基本的編み方を練習しサンプルを作ること。
	教室外学習の時間（分）	150分
第4回	授業テーマ	練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的編み方を練習しサンプルを作る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	サンプルを作ること。
	教室外学習の時間（分）	150分
第5回	授業テーマ	応用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	編み込み模様の編み方・モチーフ編みの編み方・ビーズの編み込み方を演習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デザインを考えること。
	教室外学習の時間（分）	150分
	授業テーマ	制作
	学習内容(ｱｸﾃｨ	

第6回	**ﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	こらまで学んだ編み方を選んで、作品を作る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品を制作すること。
	教室外学習の時間（分）	270分
第7回	**授業テーマ**	制作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	編みの手順に沿って作業を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品を制作すること。
	教室外学習の時間（分）	270分
第8回	**授業テーマ**	棒針編み
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	棒針の持ち方と糸のかけ方について説明する。６種類の基本的編み方を説明し演習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	それぞれの編み方を練習すること。
	教室外学習の時間（分）	150分
第9回	**授業テーマ**	制作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的編み方で編み地を作る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	６枚の編み地を作ること。
	教室外学習の時間（分）	150分
第10回	**授業テーマ**	応用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	編み込み模様を編む・目を増やす・目を減らすなどを演習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	それぞれの編み方を練習すること。
	教室外学習の	150分

	時間（分）	
第11回	**授業テーマ**	制作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロシアの編み作家であるオルガさんの作品の紹介。並びに、オルガさんの作品の編み方を演習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プリントを読むこと。デザインを考えること。
	教室外学習の時間（分）	150分
第12回	**授業テーマ**	制作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学んだ編み方を選んで組み合わせて、作品を作る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品を制作すること。
	教室外学習の時間（分）	270分
第13回	**授業テーマ**	制作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	編みの手順に沿って作業を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品を制作すること。
	教室外学習の時間（分）	270分
第14回	**授業テーマ**	鑑賞と講評
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	制作した作品がどのように使われるべきか、あるいはどのように展示されるべきか検討する。仕上がった作品を展示することで、作品の見え方、環境が変化することを実感することは重要である。テキスタイルが生活にとってどのような役割であるかを検証する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	展示方法を考えること。 これまでの授業内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	170分

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回授業の最後にレジュメを提出する。質問等がある場合には、次の授業にで回答する。

評価方法

・作品からは色と模様とリズムのバランスを見て評価する。
・評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レジュメ	○	○	○	
作品	○	○		○

評価割合

平常点（30%）及び作品（70%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

適宜プリントを配付。

参考図書

「棒針編みの教科書」
「かぎ針編みの教科書」

ディプロマポリシーとの関連

【思考・判断】技術的背景からデザインを語れる。
【技術・表現】オリジナリティ溢れる表現を身につける。

学生へのメッセージ

やってみたら簡単なことばかりなので、一緒チャレンジしてみましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、型染デザイナーとして実務経験を有りしており、個人的に作家活動を行っている。 生地の制作と、生地を日用品にする制作の両方を行っており、広い視野で制作について指導することができる。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03109301
講義名	Practical English C
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

D24102M22

授業概要(教育目的)

英語を使った教室活動を通して、英語によるコミュニケーション能力を養っていく。授業は英語で行われるが、現在の力は問わない。求められるのは「文法の正確さ」ではなく、英語を使ってコミュニケーションを成立させようとする力である。また、英語を使ったコミュニケーション時の態度および英語圏の国の習慣・文化についても学び、使える英語（Practical English）を身につけていく。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から、英語コミュニケーションに必要な知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	伝える内容および伝え方を客観的、論理的に考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語および英語圏文化ならびに世界共通語としての英語の役割に関心を持ち、意欲を持って習得に励むことができる。また、自主的に自らの課題を見つけ、解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	意味を伝えるために的確な表現で英語を使ったコミュニケーションができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス・自己紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コミュニケーションとは何かを学んだ上で、授業内容・方法について理解する。各自簡単な自己紹介をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	他者の自己紹介を作文する。
	教室外学習の時間（分）	45

第2回	授業テーマ	仲間を知ろう1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	仲間を知るための質問事項をクラス全体で考え、それにそってパートナーにインタビューをする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パートナーのインタビューの答えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	授業テーマ	仲間を知ろう2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パートナー紹介のモデル発表をきく。また、パワーポイントと口述原稿の作り方を学び作成を始める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パワーポイントと口述原稿を完成する。
	教室外学習の時間（分）	60
第4回	授業テーマ	仲間を知ろう3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自パワーポイントを使ってパートナー紹介をする。相互に質問やコメントをすることで話題を発展させていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の子どもの頃からの夢の変遷をワークシートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	授業テーマ	私の夢1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自夢の変遷を年表にまとめる。説明のための表現、文法、語彙を学び、口述原稿を書き始める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	口述原稿を完成する。
	教室外学習の時間（分）	60
第6回	授業テーマ	私の夢2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	私の夢の変遷についてのモデル発表をきく。パワーポイントと口述原稿を修正する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をする。
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	授業テーマ	私の夢3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自パワーポイントを使って、夢の変遷について発表する。相互に質問やコメントをすることで話題を発展させていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	他の人の夢の変遷の感想を書く。
	教室外学習の時間（分）	45
第8回	授業テーマ	私の夢4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これからの夢を改めて考え直し、実現のためのステップを挙げていく。クラスで発表し、相互に夢の実現に向けてアドバイスをする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの体験の中で貴重だったと思うものをリストにする。
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	私の貴重な体験1

第9回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の貴重な体験を物語りにするためのアウトラインを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パワーポイントに使う写真やイラストを集める。
	教室外学習の時間（分）	60
第10回	授業テーマ	私の貴重な体験2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	私の貴重な体験のモデル発表をきき、質疑応答をする。パワーポイントと口述原稿作成上の注意点を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パワーポイントと口述原稿を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	授業テーマ	私の貴重な体験3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パワーポイントと口述原稿を修正する。発表の練習をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をする。
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	授業テーマ	私の貴重な体験4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自パワーポイントを使って貴重な体験の発表をする。相互に質問やコメントをすることで話題を発展させていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本学の創立に関する資料（日本語）を読む。
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	授業テーマ	私の大学＆学生生活1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	東京家政学院大学の創設者についての資料を読む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	大学の創設者についての感想を書く。
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	授業テーマ	私の大学＆学生生活2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	町田キャンパスの平面図を見ながら、英語名称を確認する。大学のどこを紹介したいかをリストアップする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	所属学科の説明を考える。
	教室外学習の時間（分）	45
第15回	授業テーマ	私の大学＆大学生活3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	東京家政学院大学生としての自分の生活をワークシートを使ってまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	創設者、キャンパス、学科紹介、学生生活を含め、発表のアウトラインを立てる。
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	私の大学＆大学生活4

第16回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アウトラインを修正する。「私の大学＆大学生活」についてのモデル発表をきく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パワーポイントを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60
第17回	授業テーマ	特別な思い出3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	口述原稿を書くために必要な表現、文法、語彙を学ぶ。口述原稿を書き始める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	口述原稿の下書きを完了する。
	教室外学習の時間（分）	45
第18回	授業テーマ	私の大学＆大学生活5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パワーポイントを修正し、口述原稿を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パワーポイントと口述原稿を修正する。
	教室外学習の時間（分）	45
第19回	授業テーマ	私の大学＆大学生活6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	効果的なプレゼンテーションの方法について学び、発表の練習をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をする。
	教室外学習の時間（分）	45
第20回	授業テーマ	私の大学＆大学生活7
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	必要に応じてパワーポイントおよび口述原稿を修正し、発表の練習をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をする。
	教室外学習の時間（分）	45
第21回	授業テーマ	文化紹介1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	英語圏の文化紹介（A)を読み、疑問点や感想を述べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	疑問点について調べる。
	教室外学習の時間（分）	60
第22回	授業テーマ	文化紹介2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	英語圏の文化紹介（B)を読み、疑問点や感想を述べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	疑問点について調べる。
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	文化紹介3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	

第23回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	英語圏の文化紹介（C)を読み、疑問点や感想を述べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	疑問点について調べる。
	教室外学習の時間（分）	45
第24回	授業テーマ	文化紹介4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アウトラインにそって、レジュメの計画を立てる。写真やイラストを図書館等で集める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レジュメを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45
第25回	授業テーマ	文化紹介5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	説明に必要な表現、文法、語彙を学び、口述原稿を書く。
	教室外学習(予習・復習)の内容	口述原稿を完成する。
	教室外学習の時間（分）	60
第26回	授業テーマ	文化紹介6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文化紹介のモデル発表をきき、質疑応答をする。自分のレジュメと口述原稿の修正をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をする。
	教室外学習の時間（分）	45
第27回	授業テーマ	文化紹介7
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発表の練習をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をする。
	教室外学習の時間（分）	45
第28回	授業テーマ	文化紹介8
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自パワーポイントを使って発表する。相互に質問やコメントをすることで話題を発展させていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	英語圏の文化と日本文化の考え方の違いについて作文する。
	教室外学習の時間（分）	45

学習計画注記

学習計画の内容に加え、ルーチンとして、日常生活についての会話、発音・アクセント練習、歌の練習を行う。

学生へのフィードバック方法

口頭および書面によるコメント。

評価方法

課題（完成度により評価する）
発表（プレゼンテーションにより評価する）

平常点（発言ならびに取り組みの姿勢で評価する）

※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○	○	
発表	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

課題30%、発表40%、平常点30%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解の観点】グローバルな視点から、英語コミュニケーションに必要な知識を学び、理解を深める。
【思考・判断の観点】伝える内容および伝え方を客観的、論理的に考えることができる。
【関心・意欲・態度の観点】英語および英語圏文化ならびに世界共通語としての英語の役割に関心を持ち、意欲を持って習得に励むことができる。また、自主的に自らの課題を見つけ、解決に取り組むことができる。
【技術・表現の観点】意味を伝えるために的確な表現で英語を使ったコミュニケーションができる。

オフィスアワー

月曜日昼休み、火曜日3限（前期）

学生へのメッセージ

今の力は問いません。「英語でコミュニケーションしたい」という気持ちだけ持って来て下さい。一段ずつ階段を上るように進めます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自ら課題を見つけ、解決に取り組む。コミュニケーションを目的とした教室活動を通して実践的に学ぶ。
情報リテラシー教育	○	自らの課題を解決するために情報を収集する。
ICT活用		

講義コード	G03109401
講義名	Practical English D
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

D24102M22

授業概要(教育目的)

英語を使った教室活動を通して、英語によるコミュニケーション能力を養っていく。授業は英語で行われるが、現在の力は問わない。求められるのは「文法の正確さ」ではなく、英語を使ってコミュニケーションを成立させようとする力である。また、英語を使ったコミュニケーション時の態度および英語圏の国の習慣・文化についても学び、使える英語（Practical English）を身につけていく。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から、英語コミュニケーションに必要な知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	伝える内容および伝え方を客観的、論理的に考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語および英語圏文化ならびに世界共通語としての英語の役割に関心を持ち、意欲を持って習得に励むことができる。また、自主的に自らの課題を見つけ、解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	意味を伝えるために的確な表現で英語を使ったコミュニケーションができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス・自己紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コミュニケーションとは何かを学んだ上で、授業内容・方法について理解する。各自簡単な自己紹介をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	他者の自己紹介を作文する。

	教室外学習の時間(分)	45
第2回	授業テーマ	英語圏の大学生活について知ろう1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	英語圏の大学生活について知りたいことをクラス全体でリストアップし、自分の担当を決める。英語圏の大学のパートナーに送る自己紹介文を書く。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自己紹介文を修正し、パートナーに送る。
	教室外学習の時間(分)	45
第3回	授業テーマ	英語圏の大学生活について知ろう2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大学生活やキャンパスについての表現、文法、語彙等を学び、質問の答えがよく分からなかった時の聞き返しを練習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パートナーに自分の担当の項目について質問する。
	教室外学習の時間(分)	45
第4回	授業テーマ	英語圏の大学生活について知ろう3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パートナーの回答をもとに、発表のアウトラインを立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アウトラインを修正する。
	教室外学習の時間(分)	45
第5回	授業テーマ	英語圏の大学生活について知ろう4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	英語圏の大学生活についてのモデル発表をきき、質疑応答をする。自分の発表のパワーポイントを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	口述原稿を作成する。
	教室外学習の時間(分)	60
第6回	授業テーマ	英語圏の大学生活について知ろう5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	口述原稿を修正し、発表の練習をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をする。
	教室外学習の時間(分)	45
	授業テーマ	英語圏の大学生活について知ろう6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	各自パワーポイントを使って発表する。相互に質問やコメントをすることで考察を深め、自分達の学生生活との共通点と相違点を確認する。

第7回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	こんな地球に住みたいという具体的なイメージをリストにする。
	教室外学習の時間(分)	45
第8回	授業テーマ	どんな地球に住みたい？1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「どんな地球に住みたい？」の各自のアイディアを発表し、クラス全体として図にまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	国連のSDGs17の目標を確認する。
	教室外学習の時間(分)	45
第9回	授業テーマ	どんな地球に住みたい？2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自確認してきた国連のSDGs17の目標につけ加えたいものを話し合い、図に追加する。アムネスティの世界人権宣言を読む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アムネスティの世界人権宣言を最後まで読み終える。
	教室外学習の時間(分)	45
第10回	授業テーマ	どんな地球に住みたい？3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分達が住みたいと思い描いた地球にするために、自分達で何ができるかについてアイディアを出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分達でできることの中で、特に興味を持ったものを一つ選ぶ。
	教室外学習の時間(分)	45
第11回	授業テーマ	どんな地球に住みたい？4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「どんな地球に住みたい？－自分達にできること－」のモデル発表を聞き、自分の発表のパワーポイントと口述原稿を作り始める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表のパワーポイントと口述原稿を作成する。
	教室外学習の時間(分)	60
第12回	授業テーマ	どんな地球に住みたい？5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	難民もしくは人権に関する映画を観る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	映画の感想をまとめる。発表の練習をする。
	教室外学習の時間(分)	45
	授業テーマ	どんな地球に住みたい？6

第13回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	映画の感想を紹介しあう。その後、「どんな地球に住みたいー私達にできることー」について、パワーポイントを使って発表する。相互に質問やコメントをすることで話題を発展していく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	クリスマスは何の日かをまとめる。
	教室外学習の時間(分)	45
第14回	授業テーマ	クリスマスを迎えるために1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クリスマスは何の日かについて、各自まとめたものを発表する。その後、クリスマスについての物語を読む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	クリスマスは何の日かについて作文する。
	教室外学習の時間(分)	60
第15回	授業テーマ	クリスマスを迎えるために2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クリスマス精神について学び、自分がしたいことを考える。そのための具体的な目標を立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	平面で作成するクリスマスツリーのイメージ図を描く。
	教室外学習の時間(分)	45
第16回	授業テーマ	クリスマスを迎えるために3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クリスマスツリーのイメージ図を紹介しあい、クラスのクリスマスツリーのイメージを決定する。クリスマスツリーを作成するために、必要な材料、道具についてアイディアを出し合う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	クリスマスについての思い出を紹介するためのアウトラインを作成する。
	教室外学習の時間(分)	45
第17回	授業テーマ	クリスマスを迎えるために4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クリスマスの過ごし方が書かれたストーリーを読み、感想を述べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	クリスマスの思い出を紹介するためのパワーポイントを作成する。
	教室外学習の時間(分)	60
第18回	授業テーマ	クリスマスを迎えるために5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クリスマスの過ごし方を書いたストーリーの続きを読み、自分でも取り入れたいことをまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	クリスマスの思い出を紹介するための口述原稿を作成する。

	教室外学習の時間(分)	60
第19回	授業テーマ	クリスマスを迎えるために6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クリスマスツリーを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	口述原稿を修正する。
	教室外学習の時間(分)	45
第20回	授業テーマ	クリスマスを迎えるために7
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	英語圏で有名なクリスマスを題材としたアニメを観て、ストーリーを確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	映画の感想を作文する。
	教室外学習の時間(分)	45
第21回	授業テーマ	クリスマスを迎えるために8
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パーティの招待状の書き方や返信の仕方を学び、実際に作成する。簡単なケーキのレシピを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教員からのクリスマスパーティの招待状（メール）に返信する。
	教室外学習の時間(分)	45
第22回	授業テーマ	クリスマスを迎えるために9
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自宅に招待された時の訪問の仕方や使われる表現を学び、シミュレーションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	習ったケーキのレシピを見ながら、実際にケーキを作る。クリスマスの思い出の紹介の練習をする。
	教室外学習の時間(分)	60
第23回	授業テーマ	クリスマスパーティ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室を家に見立て、クリスマスパーティをする。クリスマスパーティでは、パワーポイントを使って「クリスマスの思い出」を紹介する。互いに質問やコメントをすることで話題を発展させていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教員を招待者と見立てThank Youメールを出す。正月に写真を撮る。
	教室外学習の時間(分)	45
	授業テーマ	お正月には何をする？1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	日本のお正月でよく見られるものや光景の絵を見て、何をしているかを説明する。その中で、自分の家でもするもの／することを挙げ、外国人への説明を考える。

第24回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	お正月の説明に必要な英単語や表現を調べる。
	教室外学習の時間(分)	45
第25回	授業テーマ	お正月には何をする？2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の正月について、外国人がどのようなものやことに関心を持つのかについて書かれた文章を読み、感想を述べ合う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文章の感想を作文する。
	教室外学習の時間(分)	45
第26回	授業テーマ	お正月には何をする？3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外国のお正月の過ごし方（A）について学び、感想を述べ合う。また、自分のお正月の過ごし方についての発表のパワーポイントを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パワーポイントを完成する。
	教室外学習の時間(分)	45
第27回	授業テーマ	お正月は何をする？4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外国のお正月の過ごし方（B)について学び、感想を述べ合う。発表の口述原稿を完成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をする。
	教室外学習の時間(分)	45
第28回	授業テーマ	お正月には何をする？7
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分のお正月の過ごし方についてパワーポイントを使って発表する。相互に質問やコメントを述べ合うことで、話題を発展していく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教員に授業の感想をメールする。
	教室外学習の時間(分)	45

学習計画注記

学習計画の内容に加え、ルーチンとして、日常生活についての会話、発音・アクセント練習、歌の練習を行う。

学生へのフィードバック方法

口頭および書面によるコメント。

評価方法

課題（完成度により評価する）
発表（プレゼンテーションにより評価する）

平常点（発言ならびに取り組みの姿勢で評価する）
※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○	○	
発表	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

課題30%、発表40%、平常点30%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解の観点】グローバルな視点から、英語コミュニケーションに必要な知識を学び、理解を深める。
【思考・判断の観点】伝える内容および伝え方を客観的、論理的に考えることができる。
【関心・意欲・態度の観点】英語および英語圏文化ならびに世界共通語としての英語の役割に関心を持ち、意欲を持って習得に励むことができる。また、自主的に自らの課題を見つけ、解決に取り組むことができる。
【技術・表現の観点】意味を伝えるために的確な表現で英語を使ったコミュニケーションができる。

オフィスアワー

月曜日　昼休み＆3限（後期）

学生へのメッセージ

英語は、「科目」ではなく「ことば」です。文法の正確さを重視するのではなく、意味が伝わるかどうかを重視して練習していきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自ら課題を見つけ、解決に取り組む。コミュニケーションを目的とした教室活動を通して実践的に学ぶ。
情報リテラシー教育	○	自らの課題を解決するために情報を収集する。
ICT活用		

講義コード	G03109501
講義名	日本語教育法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	森 朋子	指定なし

ナンバリング

D34107M21

授業概要(教育目的)

「日本語教育」とは、「日本語を母語としない人」に日本語を教える教育のことである。授業では日本日本語学習者の多様性や日本語教育とは何かを学んだ上で、日本語教育コースを作るための知識と技術を学び、日本語教育に関する基礎的な力を養っていく。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日本語教育に関する基礎的な知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	日本語教育および外国語教育の諸課題について分析的に考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本語教育に関心・意欲を持って、積極的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	問題解決に必要な情報を収集・分析・整理した上で、分かりやすく他者に伝えることができる。

学習計画

第1回

	授業テーマ	ガイダンス／日本語学習者の多様性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	日本国内外の日本語学習者について、身近な例から予測を立てる。その後、グループで、国籍、人数、年齢、学習目的別のデータを分析し、ク

第1回	育・ICT活用を含む)	ラス全体で確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本国内外の日本語学習者の問題点を調べる。
	教室外学習の時間（分）	180
第2回	授業テーマ	日本語教育とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本国内外の日本語学習者の問題点について調べたことを発表し、クラス全体でディスカッションする。日本語教育とは何かについて、国語教育との違いや日本語教育の種類（外国語としての日本語教育、第2言語としての日本語教育）を通して学んでいく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	外国語としての日本語教育と第2言語としての日本語教育の学習者について調べる。
	教室外学習の時間（分）	200
第3回	授業テーマ	シラバス・デザイン1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外国語としての日本語教育と第2言語としての日本語教育の学習者について、調べたことを発表し、クラス全体でディスカッションする。その後、シラバスとは何かを学んだ上で、構造的シラバス、場面的シラバスについて学ぶ。それぞれの長所・短所、適する学習者について、グループで分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	構造的シラバスおよび場面的シラバスで作成された日本語教科書の1課がどのような構成になっているのかを分析する。
	教室外学習の時間（分）	200
第4回	授業テーマ	シラバス・デザイン2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	構造的シラバスと場面的シラバスの分析の結果を発表し、クラス全体でディスカッションする。その後、機能的シラバス、トピックシラバス、スキルシラバス、タスクシラバスについて学び、それぞれの長所・短所、適する学習者についてグループで分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	それぞれのシラバスで作成された日本語教科書の1課がどのような構成になっているかを分析する。
	教室外学習の時間（分）	180
第5回	授業テーマ	シラバス・デザイン3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	機能的シラバス、スキルシラバス、タスクシラバスの分析の結果を発表し、クラス全体でディスカッションする。その後、学習者のニーズによって、適するシラバスを選定する練習をする。クラス全体で発表し相互に意見を交換することで、より実質的なシラバス・デザインに近づけていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	中間試験に備え、復習する。

	教室外学習の時間（分）	200
第6回	**授業テーマ**	中間試験（ここまでの振り返り）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本語学習者の多様性、日本語教育とは何か、シラバス・デザインについて、学んだ知識を活かし、論理的に表現する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまで受けた外国語の授業では「何をしたか」をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180
第7回	**授業テーマ**	カリキュラム・デザイン1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中間試験の振り返りを行う。その後、外国語教授法のうち、文法訳読法とオーディオ・リンガル法のミニレッスンを受け、それぞれの長所・短所、適する学習者についてグループで分析する。さらに、理論と実践、結果のつながりを考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	コミュニケーションで使えるようになるためには、どのような方法で目標言語を学べば効果的かを考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第8回	**授業テーマ**	カリキュラム・デザイン2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コミュニカティブ・アプローチのミニレッスンを受け、長所・短所、適する学習者、文法訳読法とオーディオ・リンガル法との違いをグループで分析する。また、どのような工夫を加えることで教室活動をコミュニカティブにできるかを考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分がどのように母語を獲得したのかをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180
第9回	**授業テーマ**	カリキュラム・デザイン3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンプリヘンション・アプローチのミニレッスンを受け、長所・短所、適する学習者、コミュニカティブ・アプローチとの違いをグループで分析する。また、教授法を決める上での留意点について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分がこれまで受講した外国語の授業において、自分の役に立ったと考える教室活動をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200
	授業テーマ	教室活動1

第10回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	自分の役に立ったと考えられる教室活動について発表し、クラス全体でディスカッションする。その後、教室活動の段階について学び、導入のための教室活動について練習を通して理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分が選んだ学習者に対するレッスンの導入のための教室活動を作成する。
	教室外学習の時間（分）	200
第11回	**授業テーマ**	教室活動2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自作成した導入のための教室について発表し、クラス全体でディスカッションする。その後、練習および確認のための教室活動について学び、練習を通して理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分が選んだ学習者に対するレッスンの練習および確認のための教室活動を作成する。
	教室外学習の時間（分）	200
第12回	**授業テーマ**	評価法1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自作成した練習および確認のための教室活動を発表し、クラス全体でディスカッションする。その後、評価法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワークシートに指定された学習者と学習項目について、評価の方法を考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第13回	**授業テーマ**	評価法2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自考えた評価方法について発表し、クラス全体でディスカッションする。その後、コース全体の評価方法について学び、グループで各コースに適する評価法を決定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期末試験に備え、復習する。
	教室外学習の時間（分）	200
	授業テーマ	評価法3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各グループごとに考えたコースの評価法を発表し、クラス全体でディスカッションする。その後、期末試験を実施する。

第14回	教室外学習(予習・復習)の内容	日本語教育法で学んだことを振り返り、ワークシートをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180

学生へのフィードバック方法

口頭および書面でのコメント

評価方法

中間試験・期末試験（主に学んだ知識を使って分析する力を評価する）
平常点（授業およびグループディスカッションでの発言、取り組みの姿勢を評価する）
※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間試験・期末試験	○	○		○
ミニレッスン	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

中間試験40% 期末試験40% 平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解の観点】日本語教育に関する基礎的な知識を学び、理解を深める。
【思考・判断の観点】日本語教育および外国語教育の諸課題について分析的に考えることができる。
【関心・意欲・態度の観点】言語教育に関心・意欲を持って、積極的に取り組むことができる。
【技術・表現の観点】問題解決に必要な情報を収集・分析・整理した上で、分かりやすく他者に伝えることができる。

オフィスアワー

水曜日昼休み、3限

学生へのメッセージ

日本が多文化共生社会となる上で、日本語教育は重要な要素です。身近な問題として考えていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題達成を自主的に進める。ディスカッションやミニレッスンを行う。
情報リテラシー教育	○	図書館やインターネットで情報を収集する。

ICT活用		

講義コード	G03109601
講義名	比較文化論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

D34108M21

授業概要(教育目的)

「文化」とは，ある集団に共通するものの見方や考え方，行動の仕方，人との関わり方などにみられるパターンであり，私たちはそうした「文化」をとおして「世界」を認識したり，解釈したりしている。この授業では，文化の多様性について学ぶとともに，異なる文化との比較をとおして自文化について反省的に考える力を身につけることを目的とする。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	文化の背景にあるさまざまな価値観，思考形式，行動様式の違い，および共通性について理解することができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	比較という手法を学ぶことで，ものごとを客観的にとらえることができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	グローバル化のなかで生活者の視点に立ち，社会の諸問題に対して関心をもって取り組むことができるようになる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を収集，分析，整理するとともに，他者と議論し，その結果や自分の考えを的確に表現することができるようになる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の目的やねらい，評価方法，進め方などについて説明する。「文化」に対して抱いているイメージを明確にする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「文化」からイメージされること／ものについて考える。
	教室外学習の時間（分）	100
	授業テーマ	文化とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	

第2回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文化をとおして「世界」をみる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	他国の文化について調べる。
	教室外学習の時間（分）	200
第3回	授業テーマ	文化の普遍性／特殊性と比較の視点
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	普遍性と特殊性（共通点と相違点）について考える。 タテ（時間軸）とヨコ（空間軸）について学ぶ・考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	他国の文化と自国の文化の共通点と相違点について調べる。
	教室外学習の時間（分）	200
第4回	授業テーマ	異文化接触
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	カルチャー・ショックについて考える（グループディスカッション）
	教室外学習(予習・復習)の内容	カルチャー・ショックを受けた経験を思い出す。
	教室外学習の時間（分）	200
第5回	授業テーマ	ステレオタイプと文化変容
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先入観・固定観念と文化の変容について学ぶ・考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身のまわりの〈あたりまえ〉について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第6回	授業テーマ	中間試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業の内容をふまえ，「文化」とはどのようなものなのかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	中間試験に向けて授業の内容を振り返り，自分の考えをまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	200
第7回	授業テーマ	日本人論・日本文化論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本人論・日本文化論について学ぶ・考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本人論・日本文化論の特徴を整理する。
	教室外学習の時間（分）	200
第8回	授業テーマ	ジェンダーとセクシュアリティ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国際比較からジェンダーとセクシュアリティについて学ぶ・考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本の男女平等について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
	授業テーマ	家族と結婚（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	国際比較から家族・結婚のあり方について考える。

第9回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分のイメージする家族像を明確にする。
	教室外学習の時間（分）	200
第10回	授業テーマ	家族と結婚（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	選択的夫婦別姓について考える（ディスカッション）。
	教室外学習(予習・復習)の内容	選択的夫婦別姓に対する自分の考えを明確にする。
	教室外学習の時間（分）	200
第11回	授業テーマ	宗教――イスラーム
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イスラームについて学ぶ・考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ハラルフードが食べられるお店を探してみる。
	教室外学習の時間（分）	200
第12回	授業テーマ	個人発表（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自でテーマを設定し，調べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマの候補を考えておく。
	教室外学習の時間（分）	200
第13回	授業テーマ	個人発表（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調べたことをまとめ，発表の準備をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表用の資料を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	200
第14回	授業テーマ	個人発表（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調べたことを発表し，質問に答える（質疑応答）。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の準備をし，質問にも答えられるようにしておく。
	教室外学習の時間（分）	200

学習計画注記

学生の関心や授業の展開によって若干の変更がありうる。

学生へのフィードバック方法

ディスカッション時のコメント，リアクションペーパーの実施。
中間試験の解答の解説。
個人発表へのコメント。

評価方法

・中間試験（授業内容についての確認と授業をふまえて自分の考えを述べる論述）
・個人発表（各自でテーマを設定し，調べて発表する）

・平常点（リアクションペーパーの提出，ディスカッション時の発言，授業への取り組み姿勢）
◎初回の授業でルーブリックについて説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間試験	○	○	○	○
個人発表	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

中間試験（25%）
個人発表（40%）
平常点（35%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「文化」という視点から現代生活の諸問題を理解する。
【思考・判断】現代生活の諸問題を分析し，問題解決に導く考察をする。
【関心・意欲・態度】「文化」に関わる社会の諸問題に対して関心をもって取り組む。
【技能・表現】他者と議論し，その結果や自分の考えを的確に表現する。

学生へのメッセージ

「文化について学ぶ」ということは，たんに「文化を知る」ということではありません。とくに，文化の多様性を知るということは，私たちにとっての〈あたりまえ〉をあらためて見つめ直すきっかけとなるもので，視野を広げ，新たな選択肢の可能性を切り拓き，私たちの「生」（生き方や生活）をより豊かにすることにつながります。授業では一方的な講義とならないように，ディスカッションや個人発表も取り入れ各自が「考える」ことを重視します。他者との議論を通して，自分の視野を広げ，考えを深めていってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ディスカッション時に自分の考えや意見を述べる。 個人テーマについて調べ，発表する。
情報リテラシー教育	○	授業の内容について理解を深めるために必要な情報を収集する。
ICT活用		

講義コード	G03109701
講義名	多文化共生
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

D34109M21

授業概要(教育目的)

グローバル化が進む現代社会では，日常生活のさまざまな場面において外国にルーツをもつ人たちと出会い，関わる機会が増えている。こうした状況のなか，日本においても「多文化共生」という言葉や考え方が注目されるようになっている。この授業では，とくに人権という観点から，あらゆる人々の多様性を尊重していく多文化共生社会のあり方やそれを実現するための方法について考える力を身につけることを目的とする。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から現代生活の諸問題を理解することができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	現代生活の諸問題を分析し，問題解決に導く考察をすることができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	グローバル化のなかで生活者の視点に立ち，社会の諸問題に対して関心をもって取り組むことができるようになる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を収集，分析，整理するとともに，他者と議論し，その結果や自分の考えを的確に表現することができるようになる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の目的やねらい，評価方法，進め方などについて説明する。「多文化共生」に対して抱いているイメージを明確にする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「多文化共生」からイメージされること／ものについて考える。
	教室外学習の時間(分)	100

第2回	授業テーマ	ヨーロッパにおける移民との共生（1）フランス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「共和国モデル」に着目し，移民との共生について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「共和国モデル」について復習し，理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	200
第3回	授業テーマ	ヨーロッパにおける移民との共生（2）ドイツ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「国籍法」の変化に着目し，移民との共生について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本の国籍制度について自分なりの考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200
第4回	授業テーマ	ヨーロッパにおける移民との共生（3）イギリス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「シティズンシップ・テスト」に着目し，移民との共生について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「シティズンシップ・テスト」の有効性と課題について自分の考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200
第5回	授業テーマ	難民問題について考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	難民問題の現状と背景について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	難民問題と自分との関わりについて考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第6回	授業テーマ	中間試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業内容をふまえ，「共生」のあり方にはさまざまなバリエーションがあることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	中間試験に向けて授業の内容を振り返り，自分の考えをまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	200
第7回	授業テーマ	日本における多文化共生（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本における外国人住民について，その歴史的背景・経緯や現状を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の周りにいる外国人について想像し，考える。
	教室外学習の時間（分）	200
	授業テーマ	日本における多文化共生（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆ	地域における多文化共生の取り組みとして川崎市の事例につい

第8回	ﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	て学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	外国人市民代表者会議について調べる。
	教室外学習の時間（分）	200
第9回	授業テーマ	日本における多文化共生（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外国につながる子どもたちについて，とくにアイデンティティや教育に関する問題を中心に考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもたちの課題・問題についての理解を整理する。
	教室外学習の時間（分）	200
第10回	授業テーマ	日本における多文化共生（4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	多文化共生2.0という考え方を知るとともに，近年の排外主義の高まりやヘイトスピーチといった問題について考察することで，多文化共生の難しさや課題について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ヘイトスピーチについて調べる。
	教室外学習の時間（分）	200
第11回	授業テーマ	人権とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人権についてその意義や重要性を確認するとともに，それを保障し，実現することの難しさや課題についても考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	人権をめぐる理想と現実について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第12回	授業テーマ	あらためて多文化共生を考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「障害の社会モデル」や「LGBT」などを取りあげ，多文化共生の射程と意義についてあらためて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	移民／外国人以外の多文化共生について，自分の身近な例から考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第13回	授業テーマ	多文化共生の課題について考える（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業を振り返り，多文化共生社会のあり方やそれを実現するための方法について，グループディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業の内容を振り返り，自分の考えを表現できるように整理し，まとめておく。
	教室外学習の時間（分）	200
第14回	授業テーマ	多文化共生の課題について考える（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回のグループディスカッションをふまえて，あらためて自分の考えを整理し，まとめる。

	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な情報を新たに調べたうえで，自分の考えを整理してまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200

学習計画注記

学生の関心や授業の展開によって若干の変更がありうる。

学生へのフィードバック方法

ディスカッション時のコメント，リアクションペーパーの実施。
中間試験の解答の解説。

評価方法

・中間試験と期末レポート（授業内容についての確認と授業をふまえて自分の考えを述べる論述）
・平常点（リアクションペーパーの提出，ディスカッション時の発言，授業への取り組み姿勢）
◎初回の授業でルーブリックについて説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間試験	○	○	○	○
期末レポート	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

中間試験（25%）
期末レポート（40%）
平常点（35%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】グローバルな視点から現代生活の諸問題を理解する。
【思考・判断】現代生活の諸問題を分析し，問題解決に導く考察をする。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち，社会の諸問題に対して関心をもって取り組む。
【技能・表現】他者と議論し，その結果や自分の考えを的確に表現する。

学生へのメッセージ

「多文化共生」という視点や考え方は，私たち一人ひとりの「生」（生き方や生活）に関わるものです。多様な人々が共生する社会のなかで，他者を尊重するということは，翻せば他者から自分が尊重されるということにつながります。授業では一方的な講義とならないように，ディスカッションやグループワークを行い各自が「考える」ことを重視します。他者との議論を通して，自分の視野を広げ，考えを深めていってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニン	○	ディスカッション時に自分の考えや意見を述べる。

グ		
情報リテラシー教育	○	授業の内容について理解を深めるために必要な情報を収集する。
ICT活用		

講義コード	G03109801
講義名	ウェブデザイン演習Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	高嶋　章雄	指定なし

ナンバリング

D34205M22

授業概要(教育目的)

ウェブサイトは情報化社会における情報発信手段として必須のメディアである。この授業は、学生がウェブサイトの構造やデザイン、情報としての役割を理解すること、およびウェブサイトをデザインするための技術（HTML、 CSS、Javascriptなど ）を駆使し、サイトのコンセプト設計・デザイン・コーディング・公開を含めたウェブディレクションスキルを身につけることを目的として、演習形式で実施する。

履修条件

専門科目「ウェブデザイン」「ウェブデザイン演習A」の単位を修得していること。またはそれと同等の勉強をし、HTML、CSSに関する技術を十分理解していること。
オンライン授業となる場合は、スマートフォンやタブレット端末ではなく、パソコンの利用が必須となる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	1. 情報を収集・整理・分析し、表現に落とし込むことができる。 2. ウェブサイトを構成する、HTML、CSSの仕組みを説明できる。 3. ウェブサイト制作技術を用いてコーディングし、情報をウェブサイトとして表現・発信できる。

学習計画

ウェブデザイン演習B

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ウェブディレクションの流れを把握し、学習範囲を明確にする。課題提出あり。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ウェブサイト構成要素を確認し、PCを用いた作業の流れを把握する。
	教室外学習の時間（分）	60
第2回	授業テーマ	ウェブサイトの評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ウェブデザインの主要原則を学び、制作者視点でウェブを閲覧する。課題提出あり。
	教室外学習(予習・復習)の内容	既存のウェブサイトからGoodデザイン＆Badデザインを選び、内容をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60
第3回	授業テーマ	ウェブサイト設計（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的なレイアウト構成、サイトマップ、ワイヤーフレーム制作、ウェブの標準化、ユーザビリティ、アクセシビリティについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	設計に必要な要素を理解し、制作に試用する。
	教室外学習の時間（分）	80
第4回	授業テーマ	ウェブサイト設計（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	タイポグラフィ、配色、トーン＆マナーについて学ぶ。デザイン案・デザイン解説書を含むデザインカンプを作成する。課題提出あり。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デザインカンプを試作する。
	教室外学習の時間（分）	80
第5回	授業テーマ	HTML・CSS（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ウェブデザイン演習Aで学習した、基本的なタグを用いた表現を復習する。課題提出あり。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ボックスモデルを用いたサイトを制作する。
	教室外学習の時間（分）	80
第6回	授業テーマ	HTML・CSS（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ウェブデザイン演習Aで学習した、基本的なレイアウト表現を復習する。課題提出あり。
	教室外学習(予習・復習)の内容	複数のレイアウト手法によるサイトを制作する。
	教室外学習の時間（分）	80
第7回	授業テーマ	HTML・CSS（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ウェブデザイン演習Aで学習した、javascript、外部サービスを用いた表現を復習する。課題提出あり。
	教室外学習(予習・復	javascriptを利用したサイト、SNS等外部ウェブサービスを埋

	習)の内容	め込んだサイトを制作する。
	教室外学習の時間（分）	80
第8回	授業テーマ	企画（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	制作するウェブサイトのテーマを設定する。ウェブサイト制作をプロジェクトとしてとらえ、管理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プロジェクト管理ツールを設定し使用する
	教室外学習の時間（分）	120
第9回	授業テーマ	企画（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーマに沿った資料を収集し、必要となるコンテンツを準備する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	企画書を制作する。資料収集・コンテンツを制作する。
	教室外学習の時間（分）	120
第10回	授業テーマ	ウェブサイト制作（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーマに沿ったウェブサイトを制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プロジェクト計画に基づき、資料収集・コンテンツ制作・コーディングを実施する。
	教室外学習の時間（分）	120
第11回	授業テーマ	ウェブサイト制作（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーマに沿ったウェブサイトを制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プロジェクト計画に基づき、資料収集・コンテンツ制作・コーディングを実施する。
	教室外学習の時間（分）	120
第12回	授業テーマ	ウェブサイト制作（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーマに沿ったウェブサイトを制作する。課題提出あり。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プロジェクト計画に基づき、資料収集・コンテンツ制作・コーディングを実施する。
	教室外学習の時間（分）	120
第13回	授業テーマ	ウェブサイト制作（4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーマに沿ったウェブサイトを制作する。完成したウェブサイトをサーバーにアップロードし公開する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プロジェクト計画に基づき、資料収集・コンテンツ制作・コーディングを実施し、完成したウェブサイトを公開する。
	教室外学習の時間（分）	140
第14回	授業テーマ	プレゼンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	制作したウェブサイトの内容を、他者に伝える。課題提出あり。
	(	

	教室外学習 予習・復習)の内容	プロジェクトを振り返る。
	教室外学習の時間（分）	90

学習計画注記

履修者数や学生の理解度に応じてスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

課題等提出物に対しコメント付きで返却し、必要に応じて授業内で講評する。

評価方法

・講義時間内の作業に取り組む姿勢を平常点とし、実装の完了を以て技術の習得を確認する。
・制作したウェブサイトの実装内容と各回の作業報告をもとに、サイト完成度と作業量を確認する。
・最終報告書で、講義で学習した知識・技術を実践で活用できたかを確認し評価する。
・一部の評価はルーブリックを用いて実施し、内容はClassroomに掲示する。

※ウェブデザイン実務士の資格を取得する場合は、「良」以上の評価を要する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点				○
サイト完成度と作業量				○
最終報告書				○

評価割合

平常点（20%）、制作したサイトの完成度および各自の作業量（60%）、最終報告書（20%）を基準とし、総合的に判断して評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし。必要に応じて講義関連資料を配布する。

ディプロマポリシーとの関連

【技術・表現】 テーマに沿った情報を収集・分析・整理し、ウェブサイトという媒体を通じて表現、発信できる。

学生へのメッセージ

近年、ウェブサイトは最も手軽な情報収集の手段となっている。情報の受け手としてではなく、送り手として情報を表現・発信するために、ウェブサイトを構成する技術を主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	一部の課題でグループワークを実施する。
情報リテラシー教育	○	情報の表現方法を検討し、ウェブサイトとしてアウトプットする。
ICT活用	○	PCを利用し、HTML・CSSのコーディングを行う。

講義コード	G03110001
講義名	社会園芸
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	小澤 直子	指定なし

ナンバリング

D35103M21

授業概要(教育目的)

園芸と人間との関わりにおける社会的役割、人々の暮らしや社会を豊かにし、心に安らぎを与える園芸の効用と可能性を学修するとともに、植物を活用することのリスクマネジメントについても認識する。
「ひとが主役の園芸」とは何か、生活の中の植物・園芸の効用、植物・園芸によるQOLの向上、療法・福祉への活用について考える力を養う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1. 園芸と人間との関わりにおける社会的役割を説明できる。 2. 心に安らぎを与える園芸の効用と可能性を説明できる。 3. 植物を活用するうえで注意すべき有毒植物・禁忌事項について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 植物および園芸により社会を豊かにするためのデザインを考察することができる。 2. 「ひとが主役の園芸活動」に植物を活用するうえで注意すべき点を考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1．授業内では、「園芸療法」についても学ぶことになるが、「療法」と名の付く他の療法と実際に比較することで、「療法」の1つとしての「園芸」の意義・役割を主体的に関わることで考察することができる。
技術・表現の観点 (A)	1．自身で工夫した道具を製作してもらう。様々の現場で臨機応援に対応できる行動力・想像力・実践力をつける。

学習計画

社会園芸

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス、「社会園芸」を学ぶにあたって
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本講義の到達目標、講義内容、進め方、評価方法について説明する。また、初回の授業で社会園芸学および周辺領域学問を解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本講義の到達目標についてあらかじめ理解しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	**授業テーマ**	ひとと植物の関係について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人類よりも先に地球に出現した植物、その植物とひととの関係性を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポート配布するので、次週に向けて植物がひとに与える効果、メリットについてまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	植物がひとに与える効果について考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	植物が、人の精神面、心理面においてどのような効果をもたらすのか、また植物が社会的にはどのような影響を与えるのかについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学習したプラス効果に加えて、デメリットやリスクについて、両側面から調べてまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	ひとと植物・園芸作業のデメリットについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回のひとに対するプラス効果に加えて、必ずデメリット・リスクが存在することを学び、リスクの回避方法について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	植物のひとに与えるプラス・マイナスの両側面を認識した上で、数ある植物種の中で毒を有する植物について調べる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	有毒植物について考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人を対象として使用する際に理解しておく必要のある有毒植物について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	5回までを振り返り、生産目的の植物との関わり方と生育・成長・利用活用目的での植物の関わり方の違いについて復習し、園芸が社会にもたらす役割について考察する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	園芸・園芸福祉・園芸療法の違いと園芸活動の現場紹介。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	園芸療法を実際に行う現場の紹介、既往研究を通じて園芸療法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	園芸療法活動は全国の現場で実施されている。各自その活動について調べておく
	教室外学習の時間	190分

	（分）	
第7回	**授業テーマ**	園芸活動に使用される植物・リスクマネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	園芸療法活動では様々な植物が使用される。実際に石鹸を作るプログラム（視覚障がい者体験）を体験する中で、園芸療法活動の実際を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	園芸療法活動では対象者が種々障がいを持していることもある。安全な園芸活動においてのリスクマネジメントについて考える
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	道具の工夫について（身体ものさし）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	園芸活動現場では道具が完備されていないことも多い。臨機応変に対応するための方法について考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	実践の場でどのように道具を工夫することができるのか、対象者に特化した道具作りを行う
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	暮らしの中の園芸①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	伝統行事を理解し植物を切り口としてその伝統行事との関連性について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	伝統行事を始めとして、数ある植物をいつどのようにどのような人に使用するのか、各自調査してプレゼンテーションにまとめる準備をする。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	暮らしの中の園芸②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	園芸活動に携わる機会があるときに必ず必要となるのが、植物の選択である。 対象者がなるべく多くの作業過程に関わることができるようにプログラムを立案する中でどのような植物が適しているのかを把握するためにそのリストを各自作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回、各自製作した園芸用具の発表となるため、準備をしっかりしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	園芸用具のプレゼンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自が設定した対象者に向けた園芸活動で使用するための道具について発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回はこれまで配布済レポートの最終提出締切日となります。各自しっかりと準備をしておくこと
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	園芸療法を他の療法と比較する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「療法」と名の付く民間療法は数多くある。今回は「コラージュ療法」を体験することで、園芸療法との違い、 また療法としての共通点を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回は伝統行事にみる植物の活用について各自プレゼンテーションをしらもらいます。しっかりと準備をすること

	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	プレゼンテーション（伝統行事に見る植物の活用）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の伝統行事を割り振り各自調査した植物を切り口とした、伝統行事と植物の関連性についてのプレゼンテーションを行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回は最終授業内試験となります。これまでのレジュメ、資料等の復習をしておくこと
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	授業全体のまとめ・園芸用具発表表彰・定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会園芸授業全体のまとめを行う。その後、定期試験を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業についてまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	230分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

毎回、授業の最後に提出する振り返りシートに質問を記入してもらい、次回に解説する。
最終試験は試験終了後に解説する。

評価方法

振り返りシート・レポート、プレゼンテーション、講義最終日の最終試験で評価する。
なお、合理的な理由がない限り再試験は実施しない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		○
レポート	○	○	○	○
振り返りシート	○	○		
プレゼンテーション		○	○	○

評価割合

振り返りシート（10点）・レポート（20%）・プレゼンテーション（40%）・定期試験（30%）

参考図書

社会園芸学のすすめ－環境・教育・福祉・まちづくり－ 松尾英輔著 農文協 ISBN4-540-04294-7

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「衣」「住」「コミュニケーション・情報」「地域・園芸・ビジネス」「家庭科教育」の各分野について、専門的知識・技術を有している。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができるまた、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる
【関心・意欲・態度】
社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、

社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる

学生へのメッセージ

生活園芸士の資格取得に必要な科目とともに、植物および園芸を活用した生活デザインを考えるために必要な知識が得られます。
皆さんが楽しみながら授業に取り組めるように、授業内での体験型プログラムを取り入れています。
主体的に学んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、東京都豊島区高齢者通所型サービスB事業／労働共同組合ないろわおんでの園芸療法活動現場を持ち、指導を行っている。
アクティブ・ラーニング	○	授業内では、視覚障がい者体験による石鹸作り、園芸療法活動時に使用可能な対象者に特化した道具作りなど、学生主体で考えながら取り組めるプログラムを取り入れている。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03110101
講義名	生活と環境
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	柿本 美樹枝	指定なし

ナンバリング

D35104M21

授業概要(教育目的)

生活を取り巻く環境の理解を通して、衣食住と植物との関係、植栽デザイン、持続可能な開発目標（SDGs）に基づく都市や郊外住宅地の住環境整備において緑化の果たす役割、バイオフィリックデザイン、ユニバーサルデザイン、園芸活動によるまちづくりなど、身近な生活と環境との関係を学ぶ。また、生物多様性、地球温暖化とヒートアイランド現象など、地球規模な環境問題について考える力を養う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1.生活を取り巻く環境を、生命の関わりの中で理解する。 2.現代社会の抱える環境問題、社会課題について理解できる。 3.まちづくりや住まい環境への植物や園芸の持つ役割を説明できる。 4.こどもの環境教育における木育や森育の有効性を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	持続可能な社会の実現に向け、開発目標(SDGs)の観点に立って、エシカル消費やバイオミミクリーの可能性を考えることが出来る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	身近な生活改善への行動力と環境負荷削減へ関心を持つことができる。 自分なりのセンス・オブ・ワンダーを身につける。
技術・表現の観点 (A)	生活における植物の生かし方やデザインを提案できる。

学習計画

生活と環境

第1回	授業テーマ	ガイダンス 生活を取り巻く環境とは？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生き物が生きていく上で必要な環境要素と、それらを取り巻く、現代の現況や課題(温暖化、災害、水や森林環境等)の概略を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本科目の到達目標等を理解しておく。生活とは何か、環境とは何かについて調べておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	生命誌への理解とワンヘルス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生命の誕生から、人と動植物がどのように環境形成に関わっているか理解する。 ヒト、動物、環境の健康を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	人と動植物の環境形成について振り返り、理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	バイオフィリア仮説と園芸、植物の空間デザイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バイオフィリア仮説から理論活用へ、園芸活動によるまちづくりや現代社会への活用方法を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	バイオフィリアとは何かを調べておく。 ワークスペースの植物デザインを考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	バイオミミクリーとバイオミメティクス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身近な生活の中のバイオミミクリーを活かしたデザインを調べ、今後の可能性について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	バイオミミクリーとバイオミメティクスの概念を復習する
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	日本庭園から紐解く日本人の自然観
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本庭園の美学と、西洋庭園の作り方の違いを知る。外構計画やデザインの可能性、ランドスケープデザインの方向性を考える。
	教室外学習(予	

	習・復習)の内容	ランドスケープデザインにはどのようなものがあるか調べておく
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	都市における植物と人間の関わり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	都市部でのヒートアイランド対策、防風林、防災林など、災害対策。 植物園の役割と多様な活動を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身近な地域の中で、植栽による環境対策の事例をリサーチしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	SDGsと生物多様性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	SDGsの具体的なアジェンダ（行動目標）を学ぶとともに、30by30など昨今の生物多様性保全の目標を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身近な植物園にはどのようなところがあるか調べておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	森林環境と水の問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	豊かな里山を守ることにもつながる森林の手入れ。害獣対策や水源涵養保安林の関係を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	里山の課題と都市生活への影響はどのようなものがあるか調べておく
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	持続可能な社会形成のために ~樹木たちの知られざる生活~
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	森林保全、環境保全に活躍する樹木や植物同士のコミュニケーションについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森林保全、環境保全について調べておく
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	間伐材利用や地域木材の活用を考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報	森林保全にもつながる循環する木材の利用。バイオマスエネルギー

第10回	リテラシー教育・ICT活用を含む)	や、木造ビルなどの事例を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身近な空間の木質化案を考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	これからの生活環境に求められる概念 ～ユニバーサルデザインからコンプリヘンシブデザインへ
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	空間や環境のバリアフリーだけではなく、心理的なバリアフリーも必要である。これからの社会に必要なダイバーシティーやインクルージョンの発想から考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ダイバーシティー&インクルージョンの社会とは、どのような社会か考えておく
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	自然とこども
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	こどもの成長における自然の果たす役割と必要性を考える。木育や森育について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	こどもの成長に必要な環境教育には、どのようなものがあるか調べておく
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	脱炭素社会と創環エネルギー
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	CO2削減に向けた取り組みや、サスティナブルな社会実現に向けた作る責任と使う責任に加えて、モノを地球に還していくエネルギーの課題を考える。庭からつながる杜づくりを参考に
	教室外学習(予習・復習)の内容	脱炭素社会に向けた身近な事例を調べておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	課題の発表(定期試験)
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	これまで学んだことを応用し、社会課題を一つ選択して、自分なりの課題解決の実行できる行動方法や社会への提案、植物を活かしたデザインを行うことができる。発表方法は、文章、写真、図面や模型など自由選択で良い。A3サイズ1枚程度。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表準備をしておく。これまでの授業についてまとめておく。
	教室外学習の	230分

	時間（分）	

学生へのフィードバック方法

授業テーマの課題については、授業中に発表時間を設ける。

評価方法

平常点、課題提出、課題最終発表で評価する。
ルーブリックに基づく評価を行う。ルーブリックの詳細は授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
課題提出	○	○	○	○
最終発表、定期試験	○	○	○	○

評価割合

平常点（20点）、授業時説明の課題（30点）、定期試験(最終の課題提出と発表)（50点）

使用教科書名(ISBN番号)

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
【思考・判断】生活にかかわる多様な諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】・生活にかかわる諸問題を具体的に解決できる技能を身につけ、社会に役立てることができる
・自分の考えや提案を論理的かつ分かりやすく表現することができる

学生へのメッセージ

現代社会の課題を理解し、SDGｓに基づく生活デザインを考えるために必要な知識を身につけ、昨今の気候変動や環境問題に対処する力を養いましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、建築設計の活動の中で、木育ワークショップ等の実践経験がある。
アクティブ・ラーニング	○	授業テーマについて、グループディスカッションやグループワークを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03110201
講義名	ガーデニング実習II
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	石綱 史子	指定なし

ナンバリング

D35203M23

授業概要(教育目的)

1,2年次の園芸領域の講義と実習で得た基礎的な知識と経験をいかし、実際に植物の栽培管理を行う。ガーデニング実習Iと合わせて年間を通した植物の栽培管理法を解説する。季節に適した植物を用い、その栽培に必要な管理計画を検討し、実習する。安全に作業をするための知識を養う。植物を生活に取り入れ利用する様々な方法についても、文化的な年間行事と植物の関係性に着目して、工夫やその効果を実践を通して解説する。また、園芸や造園の役割を理解し、植物を使った時間的、空間的なデザインを見る目、思考力、判断力の向上を目指す。

履修条件

「ガーデニング実習I」を履修していること。「ガーデニング概論」、「園芸論」、「観賞植物素材論」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	身の回りで栽培されている植物に興味を持ち、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	植物を栽培することの楽しさや難しさ示すことができる。 植物を取り入れたい生活空間の目的や場所の環境条件に適した植物種を選ぶことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	植物栽培に必要な作業を考え、他の人と協力し安全に配慮しながら行うことができる。
技術・表現の観点 (A)	庭や花壇をデザインする際に必要な植物、材料、道具を使用することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	イントロダクション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本実習の到達目標、進め方、春夏の季節に必要な持ち物、服装、安全上の注意などについて説明する。 花壇の区画分け、片付け、植栽準備。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：本実習の内容と安全上の注意などをよく理解すること。作業日誌に記入する。 予習：春夏の季節に必要な持ち物、服装を準備する。
	教室外学習の時間（分）	270分
第2回	授業テーマ	菜園の準備、栽培計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	菜園の栽培計画を作成する。 花壇苗用の草花とタデアイの播種作業を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：作業日誌に記入する。
	教室外学習の時間（分）	270分
第3回	授業テーマ	菜園の植え付け
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	それぞれに作製した植栽配置図に従っての野菜の苗の植え付ける。 防虫ネットを設置も行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：作業日誌に記入する。水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
	教室外学習の時間（分）	270分
第4回	授業テーマ	イネの種子播種 校内の里山エリアの散策（タケノコ堀り）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イネの種子を水に浸け、播種する。 校内の里山エリアの散策し、タケノコ堀りを体験する。 菜園の植物の観察、水やりなどの管理。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：作業日誌に記入する。水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
	教室外学習の時間（分）	270分
第5回	授業テーマ	春・夏の一年草の鉢上げ 花壇の植栽デザイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発芽して、苗になった一年草の種類と数を確認し、それらを使って夏の花壇の植栽をデザインする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：作業日誌に記入する。水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
	教室外学習の時間（分）	270分
第6回	授業テーマ	菜園の管理 花壇の植栽デザインの選抜
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	菜園の管理作業（支柱立てと誘引、間引き、追肥、除草、防虫）と収穫。 前回デザインした花壇の植栽デザインを発表し、実際に植え付けを行うデザインを選抜する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：作業日誌に記入する。水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
	教室外学習の時間（分）	270分
	授業テーマ	菜園の管理と収穫 花壇植え付けの準備 寄せ植えのデザイン
		菜園の管理作業（支柱立てと誘引、間引き、追肥、除

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	草、防虫）と収穫。 花壇の植え付けの手順と方法の計画を立てる。 花壇の植栽に利用しなかった一年草の種類と数を確認し、それらを使って寄せ植えをデザインする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：作業日誌に記入する。水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
	教室外学習の時間（分）	270分
第8回	授業テーマ	園芸実習場花壇の植え付け 菜園の管理と収穫
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	植栽デザインと前の週に計画した手順に従って、区画分けを行い植え付けを行う。 菜園の管理作業（支柱立てと誘引、間引き、追肥、除草、防虫）と収穫。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：植栽配置図を実際の植え付けを反映し、完成させる。 予習・復習：作業日誌に記入する。水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
	教室外学習の時間（分）	270分
第9回	授業テーマ	寄せ植えの植え付け 菜園と花壇の管理 イネの定植
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デザインした寄せ植えの植え付けを行う。 菜園の管理作業（支柱立てと誘引、間引き、追肥、除草、防虫）と収穫。 発芽したイネをバケツに定植する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：作業日誌に記入する。水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
	教室外学習の時間（分）	270分
第10回	授業テーマ	菜園で育てた野菜の利用（ぬか漬けにして食べよう！） 菜園の管理と収穫
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ぬか床をつくる。 菜園の管理作業（支柱立てと誘引、間引き、追肥、除草、防虫）と収穫。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：作業日誌に記入する。水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
	教室外学習の時間（分）	270分
第11回	授業テーマ	タデアイの収穫と絞り染めの準備 菜園の管理と収穫
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	タデアイを収穫し、重さを量り、水に浸け発酵させる。 藍染めの絞り染めにするためのハンカチを縫う、縛る、留めて染める準備をする。 菜園の管理作業（支柱立てと誘引、間引き、追肥、除草、防虫）と収穫。 ぬか床を混ぜる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：作業日誌に記入する。水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。 藍染め用のハンカチの絞りを完成させること。
	教室外学習の時間（分）	270分
	授業テーマ	多肉植物の寄せ植え 菜園の管理と収穫

		ぬか床、タデアイの液の管理
第12回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	多肉植物の寄せ植えをつくる 菜園の管理作業（支柱立てと誘引、間引き、追肥、除草、防虫）と収穫。 ぬか床を混ぜる。タデアイの発酵状況を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：作業日誌に記入する。水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
	教室外学習の時間（分）	270分
第13回	**授業テーマ**	藍染を体験する 菜園の管理と収穫
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業で準備しておいた染液と絞ったハンカチを使って藍染を体験する。 菜園の管理作業（支柱立てと誘引、間引き、追肥、除草、防虫）と収穫。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：作業日誌に記入する。水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
	教室外学習の時間（分）	270分
第14回	**授業テーマ**	総括
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本実習のまとめ、到達目標の達成度について確認する。 菜園の野菜収穫、片付け。 作業日誌提出。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：夏休み期間中、野菜や花を各自収穫し片付けを行う。
	教室外学習の時間（分）	270分

学習計画注記

履修者数、天候、植物の生育速度により、スケジュールや課題が変更になります。

学生へのフィードバック方法

実習中に随時ディスカッションを行い、フィードバックする。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。

評価方法

平常点（60%）：各回の授業で課題をだす。実習中の作業や課題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。
日誌（40%）：実習中に行った作業、実習以外に行った管理作業、作業を通じて生じた疑問点、その疑問点を解決するために自ら調べた結果などを第3者へ伝わる様式で記録を残す。作業日誌を総合的に判断して評価する。
日誌は、ルーブリックに基づく評価とします。ルーブリック評価の方法は授業内で解説します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	
課題	○	○		○

評価割合

平常点60%、課題40%で総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

適宜、資料を印刷・配付する。

参考図書

適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー

月曜日 2限 3609研究室

学生へのメッセージ

本科目には、材料費一人2,000円の負担が必要です。
第1回から軽作業を行います、ガーデニング実習Iで使用した作業服、作業靴、手袋、帽子、虫よけなどをご準備ください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、植物園および大学研究機関で庭や植物コレクションの栽培管理業務に従事した実務経験を有している。実務経験をもとに庭や植栽のデザイン、植栽管理計画、管理作業の重要性を実習を通して伝えている。
アクティブ・ラーニング	○	授業内の作業や課題に関して、自ら考え、調べ、デザインとして表現する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03110301
講義名	園芸装飾実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	澤田 佳与子	指定なし

ナンバリング

D35207M23

授業概要(教育目的)

生活に植物を取り入れるためには様々な方法があることを説明し、行事と植物の関係性に着目して、工夫やその効果を実践を通して解説する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	植物の利用法や多様性について理解する。 植物が生活にどう溶け込んでいるかを知る。
思考・判断の観点 (K)	様々な場面でどんな植物を扱うのかを考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	生活の中に植物を利用して豊かな感性を培う。
技術・表現の観点 (A)	場面に適応できる技術や手法を知る。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方を説明する。また、受講生の身近にある植物について考えてもらう機会とする。そして様々な場面での植物表現を担当講師の作品写真などを使い紹介し、植物の持つ可能性について触れる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習
	教室外学習の時	90分

	間（分）	
第2回	授業テーマ	暮らしの中の植物１ ： 五節句 －おもてなしの心－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	一年を通して迎える5節句について知り、人々が節句に抱く思いや由来・歴史などを学ぶ。またそれにまつわる代表的なおもてなしの様式などにも触れる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習
	教室外学習の時間（分）	135分
第3回	授業テーマ	暮らしの中の植物２ ： ハロウィン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近年では、日本古来の行事に加わり外国の文化を取り入れた行事も根付いてきている。その一つのハロウィンに着目し、ハロウィンを表現するアレンジメントを作成し、室内装飾にも発展させる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	授業テーマ	いけばな１： 盛花
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本伝統文化のいけばなに触れ歴史なども学ぶ。盛花は水盤と剣山を使用し体験する。また花型図なども説明する（草月流より）
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	いけばな２： 投入
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	いけばなのもう一つの手法で、剣山を使用しない投入れを体験する。（草月流より）
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	授業テーマ	暮しの中の植物３：キャンパスの自然をいける
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャンパスの敷地にある植物を採取し、それを使用して作品を作る。自然の中の植物に触れることでフラワーショップにはない花材に出会う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	授業テーマ	ウェディングフラワーアレンジ１ ： ブーケ、ブートニアを作る
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ウェディングでの新婦用ブーケ、新郎用ブートニアについて紹介し、実際に制作する。 フラワーアレンジメントに使用される保水用オアシスなどの扱いについても説明する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	復習
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	**授業テーマ**	ウェディングフラワーアレンジ２ ： 会場装飾
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ウェディング会場を想定し、受講者でグループを作り会場装飾を考え、テーブル花などを合作する。場をしつらえることを体験する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	**授業テーマ**	暮らしの中の植物４ ： クリスマス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クリスマス行事の時に植物を使用するクリスマス飾りを紹介する。この授業ではクリスマス飾りを制作する。あわせて工具の使い方やワイヤーワークなども体験し、できあがった作品を飾り「場」について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	**授業テーマ**	ドライ・漂白・着色素材などを使って：レリーフ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	枯らした植物や、白く漂白された植物、またそれらに着色などをし、材料の魅力を見つけレリーフを制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	**授業テーマ**	異質素材（植物でないもの）と生の植物を使った表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	異質素材（植物でないもの）と生の植物を合わせて制作する。様々な表現の可能性を模索する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	**授業テーマ**	暮しの中の植物５：お正月
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	一年の最初の行事であるお正月に使われる松や水引などをとりいれた作品を制作する
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	①ドライフラワーなどを使ったハーバリウム・レジン作品制作 ②押花 花の表情の変化を学ぶ

第13回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	①近年流行している、インテリアとしてのハーバリウムやレジンを使った小物を作る。 ②押花の手法を知り、立体的な花が平面になることで生まれる表情などを観察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	**授業テーマ**	いけばな３： 自己表現としての自由花
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	いけばなは自己表現の方法にもなる。自由花には様々な表現方法があるので、色彩やフォルム、メッセージなどを考えて、自分らしい作品をいける。 授業の総括をし、レポートを提出する。 まとめ
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習・最終提出日までにレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	135分

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールがなどによって変更がある場合もあります。

学生へのフィードバック方法

実習については、作業の様子や、完成した作品を見てアドバイスを行い、質問なども受ける。
レポートにもコメントを加える。

評価方法

授業への取り組み、作品制作への理解、レポートなど

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
作品制作	○	○	○	○
レポート	○	○		

評価割合

課題制作50%、最終報告20%、授業への参加および平常点30%

使用教科書名(ISBN番号)

プリント

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

生活デザイン学科では生活環境を取り巻く諸問題に積極的に向き合い、生活をデザインするための高度な専門的知識と技術、および表現力を体得することを目的の一つとしている。園芸装飾実習はコミュニティデザイン領域に配した科目であり、植物を介して人や生活を捉え直し、彩りと豊かさ、癒しを生活に取入れるための表現力を学ぶことができる。

学生へのメッセージ

本科目では、材料費一人8000円程度かかります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員はいけばな草月流本部講師であり国内外で指導を行い、スポーツや企業イベントなどでいけばなの手法を使い会場装飾なども手がける。 また、デモンストレーションや、子供イベントなども展開している。 オランダでフラワーアレンジメント留学をし、ウエディングの仕事なども展開。
アクティブ・ラーニング	○	華展や書籍、フラワーショップをみる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03110401
講義名	マーチャンダイジング
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	手島　由記子	指定なし

ナンバリング

D35305M21

授業概要(教育目的)

マーチャンダイジングは商品計画と言われ、「市場が求める最適な商品を、最適な場所と時期に、最適な価格と数量を計画」することである。本授業では、アパレル企業や小売企業においての商品企画・開発の基本、販売計画、売価設定と利益の構造、市場調査、プロモーション技術について解説していく。社会状況、経済状況、トレンドなど大きな流れを捉えながら、マーケットのニーズを見つけ、より良い商品企画に繋げる方法を解説する。オンデマンド型（金曜、AM9：00）による実施。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1.マーチャンダイジング（商品企画）の重要性と構造、その業務について理解できる。
思考・判断の観点 (K)	1.ファッション市場における様々なターゲットの類型を理解し区別することができる。 2.市場が求める最適な商品・場所・価格を調査し、考察する基本を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1.各回の課題に対して、積極的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1.学修で得た専門知識をもって、課題を論理的に分析・統合し、それを表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	授業の概要、マーチャンダイジングとは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の概要。マーチャンダイジングの定義と、その特性を学ぶ。 本授業は、第1回～第14回まですべて遠隔授業（オンデマンド型）により実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付プリントのマーチャンダイジングの定義と、その特性を読んで復習すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	マーケティング上の分類方法（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ファッションマーケティング戦略の基礎知識を学ぶ。ターゲット設定の重要性と、ターゲットセグメンテーションの手法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ファッションマーケティング戦略の基礎知識を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	マーケティング上の分類方法（2）、ファッション感性による分類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ファッション志向による分類（ティスト分類、革新度による分類、マインド別分類法)を学ぶ。ファッション感性について理解する。グレード別分類法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ファッション志向による分類、特にティスト別の分類とグレード別分類を覚えるようにすること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	商品企画のステップ、MDとデザイナーの仕事
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アパレル企業の商品企画の必要性、商品企画立案のポイントと、商品企画ステップについて学ぶ。MDとデザイナーの職務について理解する。商品企画のスケジュールを学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アパレル企業の商品企画の重要性、企画のステップについて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	ターゲット企画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アパレルの商品企画におけるターゲット・クラスター分類について具体的に学ぶ。 「企画マップ①」の課題がある。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ターゲット・クラスター分類について復習しておくこと。「企画マップ①」の課題を作成すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	ファッション情報の収集と分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ファッション情報の収集と分析について学ぶ。市場調査とマーケティングリサーチの基本を学習する。
	教室外学習(予	配付プリントのファッション情報の収集の手法を復習する。

	習・復習)の内容	
	教室外学習の時間(分)	240分
第7回	授業テーマ	シーズンコンセプト企画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シーズンテーマの設定、シーズン・コンセプト立案について学ぶ。シーズン毎のテーマの特徴について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シーズンコンセプト企画について復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
第8回	授業テーマ	シーズンスタイリング企画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シーズンスタイリング企画について学ぶ。中間レポートの課題がある。
	教室外学習(予習・復習)の内容	中間レポートの作成をする。
	教室外学習の時間(分)	240分
第9回	授業テーマ	アイテム企画と価格
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	商品コンセプトにおけるファッション感度の段階と品揃え構成について学ぶ。アイテム構成企画について学習する。アパレルメーカーの製造原価、上代・下代・掛け率、売価設定について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	製造原価と価格の関係を理解しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
第10回	授業テーマ	商品企画の具体化活動、プロモーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	商企画の具体化活動について学ぶ。プロモーション活動について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	企業のプロモーションについて復習をしておくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
第11回	授業テーマ	VMD戦略の基礎
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小売業におけるVMD戦略の基礎を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	VMD戦略の基礎について復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
	授業テーマ	シーズン別VMDストーリー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	店舗におけるシーズン別VMDを理解する。「企画マップ②」の課

第12回	教育・ICT活用を含む)	題がある。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題「企画マップ②」を作成する。
	教室外学習の時間(分)	180分
第13回	授業テーマ	リテールMD計数
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	目標達成率と前年比、粗利益、商品管理などの小売店における基本的な計数の知識を、演習を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リテールMD計数について復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	240分
第14回	授業テーマ	SPAのVMD、総括
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ 教育・ICT活用を含む)	小売業における業態別VMD、とりわけSPAのVMDの特性について学ぶ。これまでの復習。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業の復習をすること。
	教室外学習の時間(分)	180分

学生へのフィードバック方法

・Google Classroom上の授業を閲覧してから書いてもらう毎回のミニレポートで、マーチャンダイジングについての質問を提出してもらい、その質問にGoogle Classroom上で回答していく。

評価方法

・課題「企画マップ①」「企画マップ②」を作成してもらう。
・中間レポート
・平常点
・毎回のミニレポート
以上を総合的に判断する。
ルーブリックに基づく成績評価。
ルーブリックは、クラスルームでの配布により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間レポート	○	○	○	○
企画マップ①②	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

中間レポート（30%）、企画マップ①（30%）、企画マップ②（30%）、毎回のミニレポート・平常点（10%）

(ISBN　　)

使用教科書名　　番号

なし。配付プリント

参考図書

・菅原正博監修　「アパレル・マーチャンダイジング」　ファッション教育社、2007年
・高見俊一、川畑洋之助、風間健　「マーケティング論」　日本衣料管理協会、2006年

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】マーチャンダイジングの専門的知識を有している。
【思考・判断】市場が求める最適な商品・場所・価格を調査し、客観的に分析することができる。
【関心・意欲・態度】各課題に対して、自主的な学習を取り組むことができる。
【技能・表現】課題を論理的に分析・統合することができる。自分の考えや立案した企画をわかりやすく表現し、発信することができる。

学生へのメッセージ

マーチャンダイジングは、アパレル企業における企画部門のマーチャンダイザー（MD）やデザイナーの仕事です。商品企画に興味のある人に受講をお勧めします。また、講義の後半は小売業におけるMDの話となるため、販売やプレスに興味のある人にも受講をお勧めします。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は複数のアパレルメーカーにおいて商品企画の実務経験を10年以上有している。「商品企画・商品開発の基本」「売価設定と利益の構造」「市場調査」「プロモーションの基礎」を実務家の視点からわかりやすく解説する。
アクティブ・ラーニング	○	・課題「企画マップ」では体験的に学ぶことで、知識を深め、思考力を養っていく。 ・中間レポートでは、学外の調査学習を実施することで、体験的に学んでいく。 ・計数の授業では、基礎的な計数の知識を演習を通して学ぶ。理解を深めていく目的である。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	PCを活用する。

講義コード	G03110501
講義名	グローバルビジネス論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

D35306M21

授業概要(教育目的)

本講義では、国際情勢に対する基本的な見方を身につけ、国際情勢の変化が国内外における企業のビジネス活動にどのように影響するのか考える力を育成する。
ウクライナやパレスチナにおける紛争や世界各国における選挙をはじめ、時事問題となっている国際社会における諸問題を中心に、日本と世界とのかかわりを理解することに主眼を置く。食品や食糧の問題も扱うので、学生が将来、関連のビジネスや家庭科教育に従事する際に役立つ内容である。国際社会が直面する問題には、政治問題と経済問題があり、時には双方が絡み合うので、関連する国際政治学と国際経済学の考え方の基本も学ぶ。他の授業や将来のキャリア、その他、学生の関心を考慮して、新聞や動画も使って分かりやすく解説するので、心配はいらない。授業では他の科目の学習や卒業論文の執筆、就職活動や将来の仕事にも役立つ「記述力」を高めることを重視する。このため、毎回の授業では、受講者に理解した内容や興味を持った事項、あるいは、理解が不十分であった点についてのまとめのペーパーを書いてもらう。
各授業の事前事後学習としては、授業内容を確実に理解すると共に、広く時事問題に関心を持つことが必要である。単に知識を身につけるだけでなく、物事を整理して理解し、理解したことを表現できるようになることが目標である。国際情勢を見る眼と考え方、記述力、問題を設定する力を養うことを重視するため、テストではなく、プレゼンとレポートによって評価する。
なお、担当教員は、他大学で小中高の教員（主に社会科）を目指す学生向けの政治学の授業を担当しており、家庭科教員を目指す学生の受講も歓迎する。

履修条件

なし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	国際情勢に関する時事問題が、他の科目の学習や、日常生活、就職活動、そして、将来の仕事とどのように関連するのかをイメージできる。
思考・判断の観点 (K)	国際情勢に関する時事問題の原因と影響を説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の	

観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンスとイントロダクション この授業でどのようなことを学び、どのような心構えが必要なのかを説明する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第2回	**授業テーマ**	国際政治学とはどのような学問か 国同士はなぜ友好的になったり、敵対的になったりするのかを考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対面授業、遠隔授業、いずれの場合も、授業で使う資料の配布と課題の提出は、Googleclassを利用し、授業終了までにその日の課題を提出する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する
	教室外学習の時間（分）	予習と復習合わせて２２１
第3回	**授業テーマ**	国際経済学とはどのような学問か 貿易、為替相場の変動、景気と物価の関係についての基本を学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対面授業、遠隔授業、いずれの場合も、授業で使う資料の配布と課題の提出は、Googleclassを利用し、授業終了までにその日の課題を提出する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する
	教室外学習の時間（分）	予習と復習合わせて２２１
第4回	**授業テーマ**	世界各国の選挙 今年は米国はじめ、世界各国で選挙が行われているので、各選挙が与える影響について考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対面授業、遠隔授業、いずれの場合も、授業で使う資料の配布と課題の提出は、Googleclassを利用し、授業終了までにその日の課題を提出する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する
	教室外学習の時間（分）	予習と復習合わせて２２１
第5回	**授業テーマ**	ウクライナとパレスチナの紛争 紛争が発生した原因と影響に関して学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対面授業、遠隔授業、いずれの場合も、授業で使う資料の配布と課題の提出は、Googleclassを利用し、授業終了までにその日の課題を提出する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する
	教室外学習の時間	

	（分）	予習と復習合わせて２２１
第6回	**授業テーマ**	日米関係 経済問題 経済問題を中心に日米関係について学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対面授業、遠隔授業、いずれの場合も、授業で使う資料の配布と課題の提出は、Googleclassを利用し、授業終了までにその日の課題を提出する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する
	教室外学習の時間（分）	予習と復習合わせて２２１
第7回	**授業テーマ**	日韓および日朝関係 日本と韓国、北朝鮮との間にある諸問題について学ぶ。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対面授業、遠隔授業、いずれの場合も、授業で使う資料の配布と課題の提出は、Googleclassを利用し、授業終了までにその日の課題を提出する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する
	教室外学習の時間（分）	予習と復習合わせて２２１
第8回	**授業テーマ**	米中関係 米中間の安全保障と経済の問題について学ぶ。貿易交渉に焦点を当てる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対面授業、遠隔授業、いずれの場合も、授業で使う資料の配布と課題の提出は、Googleclassを利用し、授業終了までにその日の課題を提出する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する
	教室外学習の時間（分）	予習と復習合わせて２２１
第9回	**授業テーマ**	日本とアジア諸国との関係 日本とアジア諸国との間の貿易、直接投資、日本企業の現地でのビジネスに焦点を当てる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対面授業、遠隔授業、いずれの場合も、授業で使う資料の配布と課題の提出は、Googleclassを利用し、授業終了までにその日の課題を提出する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する
	教室外学習の時間（分）	予習と復習合わせて２２１
第10回	**授業テーマ**	発展途上国が直面する課題 発展途上国が直面する政治や経済の問題全般と日本との関係について学ぶ。援助、貿易、直接投資、日本企業の現地でのビジネスに焦点を当てる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対面授業、遠隔授業、いずれの場合も、授業で使う資料の配布と課題の提出は、Googleclassを利用し、授業終了までにその日の課題を提出する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する
	教室外学習の時間（分）	予習と復習合わせて２２１
		まとめ

第11回	授業テーマ	学期に学んだことの総まとめと学生の実施するプレゼンテーション、ミニレポートについて説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対面授業、遠隔授業、いずれの場合も、授業で使う資料の配布と課題の提出は、Googleclassを利用し、授業終了までにその日の課題を提出する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学んだ内容につき、自分でも整理し、プレゼンテーションとレポートのテーマを決定する
	教室外学習の時間(分)	予習と復習合わせて２２１
第12回	授業テーマ	ミニレポートの執筆：今までの授業内容と学生の関心のあるテーマに関して
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対面授業、遠隔授業、いずれの場合も、授業で使う資料の配布と課題の提出は、Googleclassを利用し、授業終了までにその日の課題を提出する
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の関心のあるテーマに関連する情報を調べ、整理して、レポート執筆の準備をする。
	教室外学習の時間(分)	予習と復習合わせて２２１
第13回	授業テーマ	ミニレポートの執筆：今までの授業内容と学生の関心のあるテーマに関して
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対面授業、遠隔授業、いずれの場合も、授業で使う資料の配布と課題の提出は、Googleclassを利用し、授業終了までにその日の課題を提出する
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の関心のあるテーマに関連する情報を調べ、整理して、レポート執筆の準備をする。
	教室外学習の時間(分)	予習と復習合わせて２２１
第14回	授業テーマ	ミニレポートに対する講評、最終レポートの通知
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対面授業、遠隔授業、いずれの場合も、授業で使う資料の配布と課題の提出は、Googleclassを利用し、授業終了までにその日の課題を提出する
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレポートの問題点を踏まえ、最終レポートを完成させる
	教室外学習の時間(分)	

学習計画注記

遠隔授業となった場合や、国際情勢に大きな変化のあった場合、授業テーマの一部を変更する可能性がある

学生へのフィードバック方法

毎回の授業で書いたペーパーの質問は翌週の授業で解答し、補足説明をする

評価方法

評価方法
毎回の授業で書くペーパー、第１２回から第１４回に行うミニレポートにより、授業の理解度や積極性、平常点を評価する
毎回出席しても、最終レポートを提出しないと単位を与えない。

評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
毎回の授業で書くコメント	○	○	○	○
ミニレポート	○	○	○	○
最終レポート	○	○	○	○

評価割合

毎回の授業で書くコメント、第１２回から第１４回に行うミニレポート合計５０%、最終レポート５０%

使用教科書名(ISBN番号)

なし。資料は毎回の授業で配布。

参考図書

なし。ウエッブなど参考になる情報ソースを適宜紹介

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考 察することができるまた、各 種の多様な情報を客観的に 理解し判断して行動できる

オフィスアワー

教員は非常勤であり、学内に研究室を持たないので、質問、相談の際はメール（p20106@kasei-gakuin.ac.jp）で連絡すること

学生へのメッセージ

授業は、パワーポイントに音声を録音したものを使う。

授業で扱うトピックを難しい問題や縁のない問題と思わずに、身近な問題であり、自分にかかわる問題として捉えること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教員は、金融界での実務経験の有しているが、授業の内容で関連のするのは、国際経済に関する解説の一部だけである。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G03110601
講義名	ハンドクラフト演習Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	江良 智美	指定なし

ナンバリング

D42307M22

授業概要(教育目的)

この授業ではテキスタイル製品の装飾技法の一つである刺繍の様々な技法について、その発展の歴史や文化的背景の理解と共に、作品制作を通して、代表的な刺繍技術の習得と装飾表現方法を習得させることを目的としている。

履修条件

特になし

本授業はオンデマンド＋集中講義で行う。詳細はFGoogle Classroomに記載する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	テキスタイル製品の装飾技法である刺繍の歴史の知識を深め、文化的背景を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	刺繍作品を創作するために美術資料やデジタルアーカイブス等を活用し、情報の収集、整理をすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	サンプラーなどで示される代表的な刺繍技法を積極的に習得することができる。
技術・表現の観点 (A)	学修した刺繍技法を用い、オリジナルデザインの作品を完成させ、テーマに沿った表現をすることができる。

学習計画

ハンドクラフト演習B

		ガイダンス・道具の説明・刺繍とは・ハンドクラフトと現代社

	授業テーマ	会
第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方の説明、道具の種類と揃え方の説明、映像資料、画像資料にて道具の揃え方を指導する。その後基本的な針の動かし方等を習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：授業内で制作を開始した作品の完成度を高める。
	教室外学習の時間（分）	予習：95分 復習：95分
	授業テーマ	クロスステッチの技法と作品制作：サンプラー制作
第2回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クロスステッチの歴史と技法を学ぶ。例題のステッチを刺して、サンプラーを完成させる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：授業内で制作を開始した作品の完成度を高める。
	教室外学習の時間（分）	予習：95分 復習：95分
	授業テーマ	刺し子・こぎんざしの技法と作品制作と歴史の理解：コースターの制作
第3回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	刺し子・こぎんざしの技法や歴史を理解し、コースターを完成させる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：授業内で制作を開始した作品の完成度を高める。
	教室外学習の時間（分）	予習：95分 復習：95分
	授業テーマ	フランス刺繍の技法と作品制作：アルファベット刺繍でイニシャルを刺す
第4回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フランス刺繍の歴史と技法を学ぶ。素材に下絵転写の方法を学ぶ。ワンポイントモチーフとしてアルファベットを刺繍する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：授業内で制作を開始した作品の完成度を高める。
	教室外学習の時間（分）	予習：95分 復習：95分
	授業テーマ	フランス刺繍の技法と作品制作：カルトナージュボックスの刺繍を刺す①
第5回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フランス刺繍の歴史と技法を学ぶ。さまざまなステッチを取り入れたサンプラーから、カルトナージュボックスの表面の刺繍を刺す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：授業内で制作を開始した作品の完成度を高める。
	教室外学習の時間	予習：95分

	（分）	復習：95分
第6回	**授業テーマ**	刺繍技法と応用作品の制作：カルトナージュボックスの刺繍を刺す②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学んだ刺繍技法からカルトナージュボックスの刺繍を完成させる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：授業内で制作を開始した作品の完成度を高める。
	教室外学習の時間（分）	予習：30分 復習：60分
第7回	**授業テーマ**	世界の刺繍デザイン・刺繍を用いた衣生活計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	世界の刺繍作品や特徴を学び、実際に衣生活に応用する計画を立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：授業内で制作を開始した作品の完成度を高める。
	教室外学習の時間（分）	予習：95分 復習：95分
第8回	**授業テーマ**	刺繍の技法を用いて表情豊かな作品をつくる：フェルトのマスコット人形
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	手軽に入手できるフェルト素材でも、創意工夫によって表情豊かなマスコット人形を製作することが可能である。自分のイメージするキャラクターの表情を刺繍で刺し、表現する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：デザイン企画案の完成度を高める。
	教室外学習の時間（分）	予習：95分 復習：95分
第9回	**授業テーマ**	つまみ細工の技法と日本刺繍について：作品制作と作品鑑賞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の伝統的工芸品であるつまみ細工の製作と日本刺繍の作品鑑賞により同技法の理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：授業内で制作を開始した作品の完成させる。また、授業内で指示したアーカイブ資料等の調査を行う。
	教室外学習の時間（分）	予習：95分 復習：95分
第10回	**授業テーマ**	（集中講義）ビーズ刺繍の技法と作品制作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ビーズ刺繍の歴史と技法を学ぶ。基本的な刺し方を例題作品から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：授業内で制作を開始した作品の完成度を高める。

	教室外学習の時間（分）	予習：95分 復習：95分
第11回	**授業テーマ**	（集中講義）リボン刺繍の技法と理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	リボン刺繍の技法を理解し、実際に刺繍してみる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：授業内で制作を開始した作品の完成度を高める。
	教室外学習の時間（分）	予習：95分 復習：95分
第12回	**授業テーマ**	（集中講義）最終課題：動物と草花をモチーフとした作品制作（カルトナージュ）①パッチワーク技法を理解する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	カルトナージュボックスの表面を飾るパッチワークを製作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：授業内で制作を開始した作品の完成度を高める。
	教室外学習の時間（分）	予習：95分 復習：95分
第13回	**授業テーマ**	（集中講義）最終課題：動物と草花をモチーフとした作品制作（カルトナージュ）②刺繍とボックスの組み立て
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デザインに沿って刺繍を刺し、ボックスを組み立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：授業内で制作を開始した作品の完成度を高める。
	教室外学習の時間（分）	予習：95分 復習：95分
第14回	**授業テーマ**	（集中講義）最終課題：動物と草花をモチーフとした作品制作（カルトナージュ）③: 作品の完成と発表、解説・まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作品を完成させる。また、講評会を開催する。各自プレゼンテーションを行い、受講者同士で意見交換を行う。最終レポートを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：授業内で制作を開始した作品の完成度を高める。
	教室外学習の時間（分）	予習：95分 復習：95分

学習計画注記

授業内で必要な道具等を指示する。
本授業はオンデマンド＋集中講義で行う。詳細はFGoogle Classroomに記載する。

学生へのフィードバック方法

レポート添削返却、作品添削返却を通してフィードバックする。

評価方法

平常点：基本的に授業内での学修意欲、制作意欲をみます。
授業内で指示した刺繍に関する歴史・文化的背景に関する授業内コメントシートの作成、課題作品の制作と提出、その他、指定した資料群を調査した報告レポートの作成、オリジナル作品の制作・提出を合わせて総合的に判断します。
総合的にルーブリックに基づく成績評価を行います。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内配布資料にて提示いたします。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業内コメントシートの作成	○	○	○	○
報告レポートの作成	○	○	○	○
課題作品の制作と提出			○	○
オリジナル作品の制作・提出		○	○	○

評価割合

平常点；授業内コメントシートと課題作品の制作・提出：55%
報告レポート:15%
最終作品の制作・提出 30%

使用教科書名(ISBN番号)

特になし

参考図書

授業内で適宜指示する

ディプロマポリシーとの関連

【技能・表現】＜社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている＞に対し、刺繍に関する歴史や技法を学び、その文化的背景を理解することにより、生活をより豊かに彩るデザインを創作し、また、技術習得や学修過程において情報を収集し、活用する技術を身につけ現代社会における課題解決策を発信する点において関連する。

学生へのメッセージ

色とりどりの刺繍糸でひと針ずつ描いていく刺繍の技法にはとても古い歴史があり、多くの人々が思いをこめてきました。この授業ではそうした刺繍の文化的背景を学びつつ、自分らしい作品の制作をすることができる技術を習得していきます。穏やかな心で作品を完成させてみましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教員は舞台衣装デザイン、服飾雑貨デザイン等の経歴を持つ。
アクティブ・ラーニング	○	制作に関する途中経過を受講者で共有し、より良い作品の完成を目指す。
情報リテラシー教育	○	デジタル・アーカイブス等を活用し、世界の美術資料から情報を得ることができるようになる。
ICT活用	○	デザイン制作や作品資料の整理などに初歩的なICT活用ができるようになる。

講義コード	G03110701
講義名	地域デザイン論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	小川 圭子	指定なし

ナンバリング

D45105M21

授業概要(教育目的)

都市や地域は、それぞれの土地の歴史、風土の中で発展してきたものである。地域の住環境がどのように形成されてきたのか、様々な課題にどう対処してきたのかについて知ることが、将来的に発生する課題に対応する力を身に付けるための第一歩となる。本授業では、都市の成り立ちについて歴史的に概観し、都市計画の仕組みについて基本的な知識を習得するとともに、植物をはじめとする地域の良好な住環境形成のために配慮すべき指標について理解する。

履修条件

特になし（建築士試験指定科目）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	地域デザインを構成している様々な要素について説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	地域の問題について、様々な背景を整理した上で、自ら思考し、適切な判断をすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	地域の特徴を把握した上で、主体的に行動することができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	授業の概要説明等 都市論の誕生と展開
		地域デザインとは何か

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近代都市論の発展 現代に至る都市論の展開 日本の近代化と住居
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを再度確認し、授業概要、近代都市論の発展や現代に至る都市論の展開、日本の近代化と住居について理解する
	教室外学習の時間（分）	193
第2回	授業テーマ	生活空間計画の展開
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集合住宅からニュータウンへ ニュータウン開発とその変化
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを再度確認し、我が国の戦後の住宅政策の一つである集合住宅建設からニュータウン開発について理解する
	教室外学習の時間（分）	193
第3回	授業テーマ	生活圏域を取り巻く土地利用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活圏域における土地利用に実態と課題 農地保全と活用 自然環境の保全
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを再度確認し、土地利用の実態や農地・自然環境の保全について理解する
	教室外学習の時間（分）	193
第4回	授業テーマ	土地利用コントロール
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の都市計画と都市形成 国土と大都市圏の計画 都市計画のしくみとマスタープラン 都市計画による土地利用コントロール 建築基準法による建築用途・形態制限
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを再度確認し、土地利用をコントロールするためのマスタープランや制度・法規について理解する
	教室外学習の時間（分）	193
第5回	授業テーマ	都市の植物・緑による公園やまちづくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	緑の種類と効果 緑を確保する施策 公園の種類と管理 都市計画による土地利用コントロール 建築基準法による建築用途・形態制限
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを再度確認し、都市の緑を確保する政策や公園の管理等について理解する
	教室外学習の時間（分）	193
第6回	授業テーマ	治水・利水と廃棄物・エネルギー・交通計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水と廃棄物 電気・送配電システム 公共交通のネットワークと計画 道路の種類とネットワーク 生活道路の整備と管理
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを再度確認し、エネルギーや交通計画についてその整備と管理について説明する
	教室外学習の時間（分）	193
	授業テーマ	開発と環境・市民

第7回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	都市の開発 事業プロセスと市民参加 環境アセスメント 道路の種類とネットワーク 生活道路の整備と管理
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを再度確認し、都市の開発の種類や環境アセスメント等について理解する
	教室外学習の時間（分）	193
第8回	**授業テーマ**	快適な居住環境をつくる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	居住密度と暮らし 居住環境評価 地域に合わせたルールづくり 地区計画
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを再度確認し、快適な居住環境をつくるための規制について理解する
	教室外学習の時間（分）	193
第9回	**授業テーマ**	地域の個性と景観
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	景観の形成 景観の継承と景観まちづくり
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを再度確認し、地域による景観の保全について理解する
	教室外学習の時間（分）	193
第10回	**授業テーマ**	災害に備える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	さまざまな災害 都市防災の歴史的背景 これからの防災 復興の取り組み
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを再度確認し、災害の種類とこれからの防災についての取り組みを理解する
	教室外学習の時間（分）	193
第11回	**授業テーマ**	さまざまな主体から考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢者の生活空間 子どもの生活環境 インクルーシブが社会をつくる 復興の取り組み
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを再度確認し、さまざまな主体から生活空間・生活環境を理解する
	教室外学習の時間（分）	193
第12回	**授業テーマ**	農村・中心市街地・密集市街地・郊外住宅地・都心住居
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	農山漁村の現況 農村の再生 中心市街地・密集市街地の変化と現況と再編 郊外戸建住宅地・住宅団地の現況と再編 都心住居の現況
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを再度確認し、各地域の生活空間について理解する 期末レポート出題
	教室外学習の時間（分）	193
	授業テーマ	住民とまちづくり
		コミュニティと市民集団

第13回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	参加・協働型まちづくりの発展 参加・協働型まちづくりの方法と仕組み 郊外戸建住宅地・住宅団地の現況と再編 都心住居の現況
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを再度確認し、市民と協働するまちづくりについて理解する （予習・復習）期末レポートの作成
	教室外学習の時間（分）	193
第14回	授業テーマ	コミュニティを支えるマネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	まちづくりの担い手 地域価値を高めるコミュニティ・マネジメント
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを再度確認し、コミュニティ・マネジメントについて理解する （予習・復習）期末レポートの作成・提出
	教室外学習の時間（分）	193

学習計画注記

授業の進捗状況等の諸事情により学習計画が変わることがあります。

学生へのフィードバック方法

毎回その日の授業内容に応じた小テストを行う。小テストの結果は、GoogleClassroomにて返却する。

評価方法

期末レポートの評価基準
1）出題の意図を把握し、それに沿った記述がされているか。
2）自分の言葉でまとめられているか。
3）自分の考えのプロセスがきちんと明記されているか。
4）これまでの授業内容が生かされた内容となっているか。
5）出典等がある場合、適切に示されているか。
についてを各10段階で評価する。
詳細は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
小テスト	○			
ミニレポート		○		
期末レポート	○			

評価割合

平常点15%、小テスト15%、ミニレポート15%、期末レポート55%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

生活の視点でとく都市計画 第2版 薬袋奈美子・室田昌子・加藤仁美・後藤智香・三寺潤著 彰国社 2023 ISBN-13：978-4395321995

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「地域」の分野について、専門的知識・技術を有している。

【思考・判断】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的な関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。

オフィスアワー

水曜昼休み～３時限 3512研究室

学生へのメッセージ

生活の身近にある地域デザインについて学びます。都市や地域に関心を持って履修してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	各回の授業終了時には、振り返りとしてGoogleフォームにより小テストを実施し、理解度を確認する。

講義コード	G03110703
講義名	地域デザイン論(2023年度以降入学生用)
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	小川 圭子	指定なし

ナンバリング

D45105M21

授業概要(教育目的)

都市や地域は、それぞれの土地の歴史、風土の中で発展してきたものである。地域の住環境がどのように形成されてきたのか、様々な課題にどう対処してきたのかについて知ることが、将来的に発生する課題に対応する力を身に付けるための第一歩となる。本授業では、都市の成り立ちについて歴史的に概観し、都市計画の仕組みについて基本的な知識を習得するとともに、植物をはじめとする地域の良好な住環境形成のために配慮すべき指標について理解する。

履修条件

特になし（建築士試験指定科目）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	地域デザインを構成している様々な要素について説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	地域の問題について、様々な背景を整理した上で、自ら思考し、適切な判断をすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	地域の特徴を把握した上で、主体的に行動することができる。
技術・表現の観点 (A)	学んだ内容を、適切にまとめ、わかりやすく示すことができる。

学習計画

	授業テーマ	授業の概要説明等 都市論の誕生と展開
		地域デザインとは何か

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近代都市論の発展 現代に至る都市論の展開 日本の近代化と住居
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを再度確認し、授業概要、近代都市論の発展や現代に至る都市論の展開、日本の近代化と住居について理解する
	教室外学習の時間（分）	193
第2回	授業テーマ	生活空間計画の展開
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集合住宅からニュータウンへ ニュータウン開発とその変化
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを再度確認し、我が国の戦後の住宅政策の一つである集合住宅建設からニュータウン開発について理解する
	教室外学習の時間（分）	193
第3回	授業テーマ	生活圏域を取り巻く土地利用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活圏域における土地利用に実態と課題 農地保全と活用 自然環境の保全
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを再度確認し、土地利用の実態や農地・自然環境の保全について理解する
	教室外学習の時間（分）	193
第4回	授業テーマ	土地利用コントロール
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の都市計画と都市形成 国土と大都市圏の計画 都市計画のしくみとマスタープラン 都市計画による土地利用コントロール 建築基準法による建築用途・形態制限
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを再度確認し、土地利用をコントロールするためのマスタープランや制度・法規について理解する
	教室外学習の時間（分）	193
第5回	授業テーマ	都市の植物・緑による公園やまちづくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	緑の種類と効果 緑を確保する施策 公園の種類と管理 都市計画による土地利用コントロール 建築基準法による建築用途・形態制限
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを再度確認し、都市の緑を確保する政策や公園の管理とうについて理解する
	教室外学習の時間（分）	193
第6回	授業テーマ	治水・利水と廃棄物・エネルギー・交通計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水と廃棄物 電気・送配電システム 公共交通のネットワークと計画 道路の種類とネットワーク 生活道路の整備と管理
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを再度確認し、エネルギーや交通計画についてその整備と管理について説明する
	教室外学習の時間（分）	193
	授業テーマ	開発と環境・市民

第7回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	都市の開発 事業プロセスと市民参加 環境アセスメント 道路の種類とネットワーク 生活道路の整備と管理
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを再度確認し、都市の開発の種類や環境アセスメント等について理解する
	教室外学習の時間（分）	193
第8回	**授業テーマ**	快適な居住環境をつくる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	居住密度と暮らし 居住環境評価 地域に合わせたルールづくり 地区計画
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを再度確認し、快適な居住環境をつくるための規制について理解する
	教室外学習の時間（分）	193
第9回	**授業テーマ**	地域の個性と景観
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	景観の形成 景観の継承と景観まちづくり
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを再度確認し、地域による景観の保全について理解する
	教室外学習の時間（分）	193
第10回	**授業テーマ**	災害に備える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	さまざまな災害 都市防災の歴史的背景 これからの防災 復興の取り組み
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを再度確認し、災害の種類とこれからの防災についての取り組みを理解する
	教室外学習の時間（分）	193
第11回	**授業テーマ**	さまざまな主体から考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢者の生活空間 子どもの生活環境 インクルーシブが社会をつくる 復興の取り組み
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを再度確認し、さまざまな主体から生活空間・生活環境を理解する
	教室外学習の時間（分）	193
第12回	**授業テーマ**	農村・中心市街地・密集市街地・郊外住宅地・都心住居
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	農山漁村の現況 農村の再生 中心市街地・密集市街地の変化と現況と再編 郊外戸建住宅地・住宅団地の現況と再編 都心住居の現況
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを再度確認し、各地域の生活空間について理解する 期末レポート出題
	教室外学習の時間（分）	193
	授業テーマ	住民とまちづくり
		コミュニティと市民集団

第13回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	参加・協働型まちづくりの発展 参加・協働型まちづくりの方法と仕組み 郊外戸建住宅地・住宅団地の現況と再編 都心住居の現況
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを再度確認し、市民と協働するまちづくりについて理解する （予習・復習）期末レポートの作成
	教室外学習の時間（分）	193
第14回	授業テーマ	コミュニティを支えるマネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	まちづくりの担い手 地域価値を高めるコミュニティ・マネジメント
	教室外学習(予習・復習)の内容	スライドを再度確認し、コミュニティ・マネジメントについて理解する （予習・復習）期末レポートの作成・提出
	教室外学習の時間（分）	193

学習計画注記

授業の進捗状況等の諸事情により学習計画が変わることがあります。

学生へのフィードバック方法

毎回その日の授業内容に応じた小テストを行う。小テストの結果は、GoogleClassroomにて返却する。

評価方法

期末レポートの評価基準
1）出題の意図を把握し、それに沿った記述がされているか。
2）自分の言葉でまとめられているか。
3）自分の考えのプロセスがきちんと明記されているか。
4）これまでの授業内容が生かされた内容となっているか。
5）出典等がある場合、適切に示されているか。
についてを各10段階で評価する。
詳細については、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについては、Google Classroomまたは授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
小テスト	○			
ミニレポート		○		
期末レポート	○			

評価割合

平常点15%、小テスト15%、ミニレポート15%、期末レポート55%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

生活の視点でとく都市計画 第2版 薬袋奈美子・室田昌子・加藤仁美・後藤智香・三寺潤著 彰国社 2023 ISBN-13：978-4395321995

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「地域」の分野について、専門的知識・技術を有している。

【思考・判断】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的な関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。
【技術・表現】地域の歴史や環境要素を調査・整理し、レポート・図表など適切な方法で分かりやすく表現する力を身に付けることができる。

オフィスアワー

水曜昼休み～３限 3512研究室

学生へのメッセージ

生活の身近にある地域デザインについて学びます。都市や地域に関心を持って履修してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	各回の授業終了時には、振り返りとして、Google フォームにより小テストを実施し、理解度を確認する。

講義コード	G03110801
講義名	日本語教育概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

授業概要(教育目的)

日本語を母語としない人に対する教育について基礎的知識を学ぶ。その中で、世界の中で日本語はどのような言語か、どのように使われているかを考えていく。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日本語教育と日本語に関する基礎的な知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	日本語教育と日本語について分析的に考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本語教育と日本語に関心・意欲をもって、積極的に学ぶことができる。
技術・表現の観点 (A)	問題解決に必要な情報を収集・分析・整理した上で、分かりやすく他者に伝えることができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	日本語学習者の多様性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本国内、海外の日本語学習者の数、学んでいる教育機関、学習の動機について学び、どのように変遷してきたのかをグループで考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	今後、日本語教育はどのように変わっていくのかの予測をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180
	授業テーマ	国語教育と日本語教育の違い
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	国語教育と日本語教育の違いをグループでディスカッションする。その後、クラス全体で発表し、日本語教育とは何かについての理解を深める。

第2回	**含む)**	
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本語教育を受けている人／受けた経験がある人の身近な例を集める。
	教室外学習の時間（分）	180
第3回	**授業テーマ**	外国語としての日本語教育と第2言語としての日本語教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外国語としての日本語教育と第2言語としての日本語教育の対象者について学び、どのような違いがあるのかをグループで考える。その後、クラス全体で発表し、それぞれの課題に対する理解を深めていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本語学習者についての新聞記事を読む。
	教室外学習の時間（分）	180
第4回	**授業テーマ**	日本語教育の歴史
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本語教育の歴史について学び、どこが転換点であったか、どのように変わってきたか、またこの先どのように変わって行くことが望ましいかをグループで考える。その後、クラス全体で発表し、日本語教育の歴史についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本語教育の今後に関する新聞記事を読む。
	教室外学習の時間（分）	180
第5回	**授業テーマ**	外国語教授法1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	代表的な外国語教授法のいくつかを学び、特徴、長所、短所などをグループで考える。その後、クラス全体で発表し、教授法がどのような理念でどのような方法を取り、どのような成果に結びつくのかについての理解を深めていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次の教授法について調べる。
	教室外学習の時間（分）	180
第6回	**授業テーマ**	外国語教授法2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	代表的な外国語教授法のいくつかを学び、特徴、長所、短所などをグループで考える。その後、クラス全体で発表し、教授法がどのような理念でどのような方法を取り、どのような成果に結びつくのかについての理解を深めていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次の教授法について調べる。
	教室外学習の時間（分）	200
	授業テーマ	外国語教授法3
	学習内容(ｱｸﾃｨ	

第7回	ﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	代表的な外国語教授法のいくつかを学び、特徴、長所、短所などをグループで考える。その後、クラス全体で発表し、教授法がどのような理念でどのような方法を取り、どのような成果に結びつくのかについての理解を深めていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	中間試験の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	200
第8回	授業テーマ	中間試験 日本語の文字の特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学んだ知識を活かして、中間試験に解答する。日本語の文字の特徴について学び、日本語学習者にとって難しい点をグループで考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本語の文字で、日本語学習者にとって難しい点をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200
第9回	授業テーマ	中間試験ふりかえり 日本語の文字の指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中間試験をふりかえり、前半の内容について理解を深める。次に日本語の文字が日本語学習者に難しい点を発表し、それを踏まえてどのような指導が効果的かをグループで考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本語の文字の指導についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200
第10回	授業テーマ	日本語の語彙の特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本語の語彙について学び、日本語学習者にとって難しい点をグループで考える。その後、クラス全体で発表し、日本語の語彙についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本語の語彙の指導法について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第11回	授業テーマ	日本語の語彙の指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本語の語彙の指導について学び、具体的な指導法をグループで考える。その後、クラス全体で発表し、指導法についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本語の文法についてのワークシートをやる。
	教室外学習の時	

	間（分）	200
第12回	授業テーマ	日本語の文法の特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本語の文法について学び、日本語学習者に難しい点をグループで考える。その後、クラス全体で発表し、日本語の文法についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導法について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第13回	授業テーマ	日本語の文法の指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本語の文法の指導について学び、グループで具体的な指導法について考える。その後、クラス全体で発表し、指導法についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本語のコミュニケーションの特徴について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第14回	授業テーマ	日本語のコミュニケーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ケーススタディを通して、日本語のコミュニケーションの特徴をグループで考える。その後、クラス全体で発表し、日本語母語話者と日本語非母語話者がコミュニケーションをする際の注意点を考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本語のコミュニケーションの特徴の例をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200

学生へのフィードバック方法

口頭および書面でのコメント

評価方法

中間試験
期末試験
平常点
※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間試験・期末試験	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

中間試験40%
期末試験40%
平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解の観点】日本語教育と日本語に関する基礎的な知識を学び、理解を深める。
【思考・判断の観点】日本語教育と日本語について分析的に考えることができる。
【関心・意欲・態度の観点】日本語教育と日本語に関心・意欲をもって、積極的に学ぶことができる。
【技術・表現の観点】問題解決に必要な情報を収集・分析・整理した上で、分かりやすく他者に伝えることができる。

オフィスアワー

月曜日 昼休み＆3限（後期）

学生へのメッセージ

日本語教育を学ぶと、日本語と日本が世界でどのように見られているかが見えてきます。グローバルな視点を持って学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題達成を自主的に進める。ペアやグループでディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	図書館やインターネットで情報を収集する。
ICT活用		

講義コード	G03110901
講義名	日本語教育演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2,3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	森 朋子	指定なし

授業概要(教育目的)

日本語を母語としない人に対する日本語教育力をミニレッスン等の実践を通して養っていく。学習項目の分析、レッスン・プラン、実技の流れを通して、外国語としての日本語を教えることを体験する。

履修条件

日本語教育概論、日本語教育法を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日本語教育および日本語に関する知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	日本語教育および日本語について分析的に考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教えることに関心・意欲を持って、積極的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	問題解決に必要な情報を収集・分析・整理した上で、分かりやすく他者に伝えることができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス／学習項目の分析1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の概要を理解した後、学習項目の分析方法について学ぶ。グループで練習を行い、クラス全体で確認する。
	教室外学習(予	

	習・復習)の内容	初級日本語の教科書を探してくる。
	教室外学習の時間（分）	45
第2回	**授業テーマ**	学習項目の分析2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	持ち寄った初級日本語の教科書で、どのような文型がどの順番で取り上げられているかをグループで分析する。その後、グループごとに発表し、クラス全体で確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分が担当する文型について調べ、レジュメにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60
第3回	**授業テーマ**	学習項目の分析3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	それぞれの学習項目（文型）について発表する。相互に質疑応答をすることで、初級日本語の文型についての理解を深めて行く。小テストの作成方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の文型についての小テストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	**授業テーマ**	学習項目の分析4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	それぞれが作成した小テストを実施し、その場で採点する。間違いが多かったものについては、クラス全体で確認する。その後、自分の文型について、最初に初級学習者に教えるべきポイントと混乱を避けるために後に回すポイントについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレッスンで取り上げる文型の内容を決定し、ワークシートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	**授業テーマ**	教材の作成1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「正確さのための練習」を目的とした教材作成の方法や注意点を学ぶ。グループで練習を行い、クラス全体で確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の文型の「正確さのための練習」の教材を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	教材の作成2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	それぞれ作成した「正確さのための練習」の教材を発表する。相互に質疑や意見を交わすことで、改善のためのヒントを得ていく。各自教

第6回	**育・ICT活用を含む)**	材を修正する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「なめらかさのための練習」の教材作成に関する資料を読む。
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	**授業テーマ**	教材の作成3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「なめらかさのための練習」を目的とした教材作成の方法や注意点を学ぶ。グループで練習を行い、クラス全体で確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の文型の「なめらかさのための練習」の教材を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60
第8回	**授業テーマ**	教材の作成4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	それぞれ作成した「なめらかさのための練習」の教材を発表する。相互に質疑や意見を交わすことで、改善のためのヒントを得ていく。各自教材を修正する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の「正確さのための練習」および「なめらかさのための練習」を見直し、必要であれば修正を加える。
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	**授業テーマ**	教案の作成1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教案の作成の方法や注意点を学ぶ。グループで練習を行い、クラス全体で確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分のミニレッスンの教案を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60
第10回	**授業テーマ**	教案の作成2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	それぞれ作成した教案を発表する。相互に質疑や意見を交わすことで、改善のためのヒントを得ていく。各自教案を修正する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教案を修正し、必要であればそれに合わせて教材も修正する。
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	教案の作成3

第11回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	修正した教案をグループ内で発表する。相互に質疑や意見を交わすことで改善のためのヒントを得ていく。教案をさらに修正する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教案を修正し、必要であればそれに合わせて教材も修正する。
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	**授業テーマ**	レッスンの進め方1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実際にレッスンを進めるための方法を学ぶ。グループで練習を行い、クラス全体で確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレッスンの練習をする。
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	**授業テーマ**	レッスンの進め方2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ミニレッスンの練習をした結果、うまくいかなかった点をクラス全体で共有し改善策を考えていく。それを踏まえて、教案と教材を修正していく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミニレッスンの練習をする。
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	**授業テーマ**	ミニレッスン発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ミニレッスンの発表を行う。学習項目の理解、教材の作成、教案の作成、レッスンの進め方について、各自振り返りを行い、クラス全体で共有することで、より良い外国語としての日本語のクラスのあり方を考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	振り返りについてワークシートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45

学習計画注記

特になし

学生へのフィードバック方法

口頭および書面でのコメント

評価方法

課題（課題の完成度により評価する）
ミニレッスン（実技の完成度により評価する）

平常点（発言ならびに取り組みの姿勢により評価する）

※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○	○	○
ミニレッスン	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

課題 50%
ミニレッスン 30%
平常点 20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解の観点】日本語教育および日本語に関する知識を学び、理解を深める。
【思考・判断の観点】日本語教育および日本語について分析的に考えることができる。
【関心・意欲・態度の観点】教えることに関心・意欲を持って、積極的に取り組むことができる。
【技術・表現の観点】問題解決に必要な情報を収集・分析・整理した上で、分かりやすく他者に伝えることができる。

オフィスアワー

水曜日昼休み、3限

学生へのメッセージ

学んだ知識を実践に生かす授業です。教えることに興味があることが必須です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題達成を自主的に進める。ディスカッションやミニレッスンを行う。
情報リテラシー教育	○	図書館やインターネットで情報を収集する。
ICT活用		

講義コード	G03111001
講義名	Practical English A
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	森 朋子	指定なし

ナンバリング

D24102M22

授業概要(教育目的)

英語を使った教室活動を通して、英語によるコミュニケーション能力を養っていく。授業は英語で行われるが、現在の力は問わない。求められるのは「文法の正確さ」ではなく、英語を使ってコミュニケーションを成立させようとする力である。また、英語を使ったコミュニケーション時の態度および英語圏の国の習慣・文化についても学び、使える英語（Practical English）を身につけていく。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から、英語コミュニケーションに必要な知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	伝える内容および伝え方を客観的、論理的に考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語および英語圏文化ならびに世界共通語としての英語の役割に関心を持ち、意欲を持って習得に励むことができる。また、自主的に自らの課題を見つけ、解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	意味を伝えるために的確な表現で英語を使ったコミュニケーションができる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス・自己紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	

第1回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コミュニケーションとは何かを学んだ上で、授業内容・方法について理解する。各自簡単な自己紹介をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	他者の自己紹介を作文する。
	教室外学習の時間（分）	45
第2回	授業テーマ	いつも何をしている？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分が「いつもしていること」について紹介し合う。その際に必要な表現、文法、語彙等も学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	他者の「いつもしていること」を作文する。
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	授業テーマ	大学で好きな場所1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「大学で好きな場所」のモデル発表を見る。その後、アウトラインの立て方を学び、自分の発表のアウトラインを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表のためのPPTを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	授業テーマ	大学で好きな場所2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	口述原稿の書き方を学び、口述原稿を作成する。さらに、発表および質疑応答の方法を学び、練習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をする。
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	授業テーマ	大学で好きな場所3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	PPTを使って「大学で好きな場所」の発表を行う。相互に質問やコメントをすることで話題を発展していく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	未来を表現するための文法や語彙の資料を読み、練習問題をやる。
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	授業テーマ	未来の私1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の30代～50代についての計画や希望をシートにまとめ、発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シートを修正する。
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	授業テーマ	未来の私2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の60代～80代の計画や希望をシートにまとめ、発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の未来について作文する。
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	忘れられない出来事1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	忘れられない出来事について、話題を選び、アウトライン

第8回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	を作成する。さらに、レジュメの作成の方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	写真を準備し、レジュメを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	授業テーマ	忘れられない出来事2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	過去を表現するための文法や語彙を学び、モデルを参考に口述原稿を書く。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をする。
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	授業テーマ	忘れられない出来事3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「忘れられない出来事」についての発表をする。相互に質問やコメントをすることで話題を発展していく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの頃好きだった外国の絵本のリストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	授業テーマ	英語でストーリーを読んでみよう！
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	英語のストーリーを複数読む。内容を理解した上で、共通する点についてディスカッションをする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分のストーリーについて、登場人物や話の展開をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	授業テーマ	英語でストーリーを書いてみよう1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	典型的な物語展開のパターンを学び、自分のストーリーのイラストや写真の計画を立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分のストーリーのイラストや写真を準備する。
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	授業テーマ	英語でストーリーを書いてみよう2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ストーリーの執筆と修正をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をする。
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	授業テーマ	英語でストーリーを書いてみよう3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ストーリーをブックにまとめ、発表する。相互に質問やコメントをすることで話題を発展していく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分のストーリーについて改善できる点をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45

学習計画注記

学習計画の内容に加え、ルーチンとして、日常生活についての会話、発音・アクセント練習、歌の練習を行う。

学生へのフィードバック方法

口頭および書面によるコメント。

評価方法

課題（完成度により評価する）
発表（プレゼンテーションにより評価する）
平常点（発言ならびに取り組みの姿勢で評価する）

※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○	○	
発表	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

課題30%、発表40%、平常点30%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解の観点】グローバルな視点から、英語コミュニケーションに必要な知識を学び、理解を深める。
【思考・判断の観点】伝える内容および伝え方を客観的、論理的に考えることができる。
【関心・意欲・態度の観点】英語および英語圏文化ならびに世界共通語としての英語の役割に関心を持ち、意欲を持って習得に励むことができる。また、自主的に自らの課題を見つけ、解決に取り組むことができる。
【技術・表現の観点】意味を伝えるために的確な表現で英語を使ったコミュニケーションができる。

オフィスアワー

水曜日昼休み、4限

学生へのメッセージ

今の力は問いません。「英語でコミュニケーションしたい」という気持ちだけ持って来て下さい。一段ずつ階段を上るように進めます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自ら課題を見つけ、解決に取り組む。コミュニケーションを目的とした教室活動を通して実践的に学ぶ。
情報リテラシー教育	○	自らの課題を解決するために情報を収集する。
ICT活用		

講義コード	G03111101
講義名	Practical English B
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	森　朋子	指定なし

ナンバリング

D24102M22

授業概要(教育目的)

英語を使った教室活動を通して、英語によるコミュニケーション能力を養っていく。授業は英語で行われるが、現在の力は問わない。求められるのは「文法の正確さ」ではなく、英語を使ってコミュニケーションを成立させようとする力である。また、英語を使ったコミュニケーション時の態度および英語圏の国の習慣・文化についても学び、英語による思考能力も高めていく。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から、英語コミュニケーションに必要な知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	伝える内容および伝え方を客観的、論理的に考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語および英語圏文化ならびに世界共通語としての英語の役割に関心を持ち、意欲を持って習得に励むことができる。また、自主的に自らの課題を見つけ、解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	意味を伝えるために的確な表現で英語を使ったコミュニケーションができる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス・自己紹介
	(	

第1回	学習内容 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コミュニケーションとは何かを学んだ上で、授業内容・方法について理解する。各自簡単な自己紹介をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	他者の自己紹介を作文する。
	教室外学習の時間(分)	45
第2回	授業テーマ	どんな地球に住みたい？1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アムネスティの世界人権宣言の前半を読み、侵害されている具体例をワークシートにまとめる。その後、各自発表し、各項目についての理解を深めていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	世界人権宣言の後半部分を読む。
	教室外学習の時間(分)	45
第3回	授業テーマ	どんな地球に住みたい？2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アムネスティの世界人権宣言の後半を読み、侵害されている具体例をワークシートにまとめる。その後、各自発表し、各項目についての理解を深めていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	難民について調べる。
	教室外学習の時間(分)	45
第4回	授業テーマ	どんな地球に住みたい？3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	難民についての映画を視聴する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	人権に関する世界規模の課題について、自分達ができることをリストにまとめる。
	教室外学習の時間(分)	45
第5回	授業テーマ	どんな地球に住みたい？4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自考えてきた「自分達にできること」を発表する。それを踏まえて、「住みたい地球」を図にまとめていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	クリスマスについて知っていることをリストにする。
	教室外学習の時間(分)	45
第6回	授業テーマ	クリスマスを迎えるために1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クリスマスは何の日かについて、ワークシートにまとめ発表する。その後、キリストの誕生についての物語を読む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	キリストの誕生の物語の続きを読む。

	教室外学習の時間（分）	45
第7回	授業テーマ	クリスマスを迎えるために2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キリストの誕生の物語の続きを読み、内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	キリストの誕生についてのワークシートをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45
第8回	授業テーマ	クリスマスを迎えるために3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	英国の作家チャールズ･ディケンズの『クリスマス・キャロル』について学ぶ。その後、アニメーションを視聴し、内容を理解した上で、クリスマス精神について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	クリスマス精神をもって、クリスマスに何をしたいかまとめる。
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	授業テーマ	クリスマスを迎えるために4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アメリカの作家ドクター・スースによる『グリンチ』について学ぶ。その後、アニメーションを視聴し、内容を理解した上で、テーマについてディスカッションをする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アメリカでのクリスマスの過ごし方（習慣、行事、食べ物など）について調べる。
	教室外学習の時間（分）	45
第10回	授業テーマ	クリスマスを迎えるために5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アメリカでのクリスマスの過ごし方について、調べてきたことを発表する。その上で、『クリスマス・キャロル』『グリンチ』から学んだクリスマス精神との合致や乖離についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アメリカの新年の迎え方について調べる。
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	授業テーマ	新年の迎え方1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アメリカの新年の迎え方について、各自調べたことを発表する。その後、日本の新年の迎え方の違いについてディスカッションし、図にまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本の新年の迎え方、過ごし方（習慣、行事、食べ物など）を英語でどう表現するかを調べる。
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	新年の迎え方2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	北米で、現在新年をどのように迎えているかについて、アニメーションを視聴する。内容を理解した上で、英語圏と日本の新年に関する捉え方の違いをディスカッションする。

第12回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	正月の写真を準備する。
	教室外学習の時間(分)	45
第13回	授業テーマ	新年の迎え方4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分が正月をどう過ごしたかについて、発表のアウトライン、PPT、口述原稿を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をする。
	教室外学習の時間(分)	45
第14回	授業テーマ	復活祭
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「正月」について発表する。相互に質問やコメントをすることで話題を発展していく。さらに、復活祭について、歴史、習慣などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復活祭のカードを書く。
	教室外学習の時間(分)	45

学習計画注記

学習計画の内容に加え、ルーチンとして、日常生活についての会話、発音・アクセント練習、歌の練習を行う。

学生へのフィードバック方法

口頭および書面によるコメント。

評価方法

課題（完成度により評価する）
発表（プレゼンテーションにより評価する）
平常点（発言ならびに取り組みの姿勢で評価する）

※ルーブリックに基づく成績評価となります。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題	○	○	○	
発表	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

課題30%、発表40%、平常点30%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解の観点】グローバルな視点から、英語コミュニケーションに必要な知識を学び、理解を深める。
【思考・判断の観点】伝える内容および伝え方を客観的、論理的に考えることができる。
【関心・意欲・態度の観点】英語および英語圏文化ならびに世界共通語としての英語の役割に関心を持ち、意欲を持って習得に励むことができる。また、自主的に自らの課題を見つけ、解決に取り組むことができる。
【技術・表現の観点】意味を伝えるために的確な表現で英語を使ったコミュニケーションができる。

オフィスアワー

水曜日昼休み、3限

学生へのメッセージ

英語は、「科目」ではなく「ことば」です。文法の正確さを重視するのではなく、意味が伝わるかどうかを重視して練習していきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自ら課題を見つけ、解決に取り組む。コミュニケーションを目的とした教室活動を通して実践的に学ぶ。
情報リテラシー教育	○	自らの課題を解決するために情報を収集する。
ICT活用		

講義コード	G03205601
講義名	アパレルＣＡＤ実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	富田 弘美	指定なし

ナンバリング

D32207M13

授業概要(教育目的)

アパレルCADは、設計(デザイン)、パターンメーキング（製図）、生産工程等を効率化するための道具である。基本的なパターンメーキングを理解し、CADの操作方法を身に付ける。また、「アパレル生産実習」の授業で企画したデザインを商品化するために、CADで製図、型紙（パターン）、マーキング（裁ち合せ図）等を作成し、生産工程におけるCADを操作できることを目的とする。また、特別授業ではアパレル企業で商品企画、店舗管理などの実務経験をもつ講師に依頼している。

履修条件

「アパレル生産実習」を履修すること。授業はパソコン室（４F）で行うので、PCを持参しなくてもよい。なお、指定したアパレルCADソフト（無料）をインストールして、自宅で自由に宿題や練習などができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	衣生活に関する諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

アパレルCAD実習

第1回	**授業テーマ**	基本操作、画面の表示操作方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本操作である直線・曲線の引き方、拡大・縮小・移動・印刷・ファイル保存などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	操作について各自練習すること。
	教室外学習の時間(分)	45分
第2回	**授業テーマ**	パターンメーキング１（基礎・ストレートスカート）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	9ARサイズの前スカートの製図およびCADの操作を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前スカートの製図を仕上げること。
	教室外学習の時間(分)	45分
第3回	**授業テーマ**	特別授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アパレル企業で豊富な実務経験のある講師により、アパレル生産の現場における店舗経営・販売、今後のアパレルの未来について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アパレル企業についてノート整理をすること。
	教室外学習の時間(分)	45分
第4回	**授業テーマ**	パターンメーキング２（プロダクトパターン・フレアスカートの展開）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	9ARサイズの前スカートの製図に縫い代を付けたプロダクト（工業）パターンの作成について理解し、前タイトスカートのダーツから切り開らいたフレアの入れ方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	フレアスカートの製図を仕上げること。
	教室外学習の時間(分)	45分
第5回	**授業テーマ**	パターンメーキング３（身頃原型１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身頃原型のパターンメーキングで直線、カーブ（衿ぐり、ＡＨ）、角度（ダーツ、肩）などの書き方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の身頃原型に必要な寸法を計算すること。（アパレル設計論の身頃原型の寸法表を参考にする。）
	教室外学習の時間(分)	45分
第6回	**授業テーマ**	パターンメーキング４（身頃原型２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身頃原型のパターンメーキングの方法から直線、カーブ、角度などの書き方などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身頃原型を完成させること。
	教室外学習の時間	45分

	（分）	
第7回	**授業テーマ**	パターンメーキング５（製品のパターン）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アパレル生産実習で製作する製品のプロダクトパターン（縫い代付き）を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プロダクトパターンを仕上げること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	グレーディング１（身頃原型）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身頃原型を例として、まずは手法で7号、11号へのグレーディング方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身頃原型のグレーディングを仕上げること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	グレーディング２（製品のプロダクトパターン）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アパレル生産実習の製品のプロダクトパターンのサイズ展開を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グレーディングを仕上げること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	マーキング（製品のプロダクトパターン裁ち合せ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アパレル生産実習の製品のプロダクトパターンを各生地幅に合わせて配置し、無駄のない配置を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	マーキングを仕上げること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	縫製仕様書の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	縫製仕様書に記入する内容（項目）を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	縫製仕様書を仕上げること。（変更があった場合は修正する。）
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	縫製工程分析表の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	縫製工程分析表に記入する内容（項目）を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	縫製工程分析表を仕上げること。（変更があった場合は修正する。）
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	プロジェクトのプレゼンテーションの準備

第13回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自のパワーポイントを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	口頭発表の練習をすること。
	教室外学習の時間(分)	45分
第14回	授業テーマ	データの整理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	タイトスカート、フレアスカート、身頃原型、縫製仕様書、縫製工程分析表の修正と保存。
	教室外学習(予習・復習)の内容	データを提出する。
	教室外学習の時間(分)	45分

学習計画注記

2025年度（R7年度）は、パソコン室の関係で2年生と3年生の同時開講になります。
2026年度には開講しませんので、希望者は今年度中に履修してください。

学生へのフィードバック方法

提出課題に対するコメント

評価方法

平常点（授業への参加状況、提出期日などで総合的に判断する）、提出課題について、ルーブリックを用いた評価を行う。（ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配付等によって指示する。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
課題	○	○	○	○

評価割合

平常点20点（授業への参加状況などで総合的に判断する）、課題80点

使用教科書名(ISBN番号)

CADのマニュアル
適宜プリント配付

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】衣生活に関する諸課題についての知識を深める。【思考・判断】衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。【技術・表現】衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

オフィスアワー

木曜日12:30～14:00

学生へのメッセージ

授業で使用するCADは無料ソフトウエアなので、空き時間や自宅などで練習してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	アパレル企業で商品企画、店舗管理などの経験をもつ講師に特別講義を依頼している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	アパレルCADの操作を学ぶ

講義コード	G03205901
講義名	エクステリア演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	石綱 史子	指定なし

ナンバリング

D35206M22

授業概要(教育目的)

建築物の設計において、内部空間のデザインと同様に外部空間のデザインもまた重要である。豊かな外部空間は、建築物全体の快適性を高めるものである。また、エクステリアは建物単体に付随するだけのものではなく、都市の景観を形成する重要な要素でもある。本授業では、植物を使った空間デザインを題材とする。設計課題を通し、玄関や庭などのプライベートな小さな空間や公園など公共性のある大きな空間のデザインについて検討する。エクステリアやガーデンデザインの基本的な力である、見る力と表現力の向上を目指す。

履修条件

「住居学概論」、「住居デザイン演習A・B」、「ガーデニング概論」、「観賞植物素材論」「ガーデニング実習I・II」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	エクステリアの基礎的な用語や考え方を理解する。
思考・判断の観点 (K)	建築物の外部空間、庭、公園など必要な構成要素を自ら考え、適切な材料や植栽する植物を判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	演習で扱う課題を通じ、身の回りのエクステリアに関心を持ち、使われている材料や植物などを識別できる。
技術・表現の観点 (A)	自分の考える空間（外溝、庭、公園など）を図面、写真などを用いて人に伝える技術を習得する。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス 図面の基本（課題①）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本演習の目的、進め方、評価方法、本演習で扱うエクステリアに関連した用語、準備が必要な道具について説明する 課題①「図面の基礎練習」の説明する。 図面の表示方法を練習、平面図をトレースする
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：演習内で説明したエクステリアの概要と用語を理解する 予習：課題に取り組む
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	図面の基本（課題①）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エクステリアデザイン、庭のデザインの基本を解説 図面の表示方法を練習、立面図、パースを描く
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：エクステリアデザイン、庭のデザインの基本を復習する 予習：課題に取り組む
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	授業テーマ	課題②の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題②デザイン課題の詳細説明、コンセプト、平面図作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：課題に取り組む
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	授業テーマ	課題②立面図と植栽配置図
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題②の平面図を完成させ、立面図と植栽配置図の解説と作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：課題に取り組む
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	授業テーマ	課題②パースの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題②の植栽配置図を完成させ、パースを作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：課題に取り組む
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	授業テーマ	課題②レイアウトと彩色
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題②の図面をA2サイズにまとめ、色を付けるなど体裁を整える
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：課題に取り組む課題②を完成させる 予習：発表会の準備をする
	教室外学習の時間（分）	100分
		課題②発表会

第7回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題②を掲示し、各自の作品について解説する。課題の講評 課題③の課題説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：課題に取り組む
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	授業テーマ	課題③コンセプト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題③のコンセプト作成に取り組む
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：課題に取り組む
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	授業テーマ	課題③コンセプト・平面図
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題③のコンセプトを完成させ、平面図に取り組む
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：課題に取り組む
	教室外学習の時間（分）	100分
第10回	授業テーマ	課題③平面図
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題③の平面図に取り組む
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：課題に取り組む
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	授業テーマ	課題③立面図と植栽配置図
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題③の立面図と植栽配置図に取り組む
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：課題に取り組む
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	授業テーマ	課題③パース
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題③パースに取り組む
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：課題に取り組む
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	授業テーマ	課題③レイアウトと彩色
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題③をA2サイズにまとめ、色を付けるなど体裁を整える

	教室外学習(予習・復習)の内容	予習・復習：課題③を完成させる 予習：発表会の準備を行う
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	**授業テーマ**	課題③の発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題③図面を掲示し、各自の作品について解説する 講評を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：課題①～③すべて提出済であることを確認する 予習：演習での体験をもとに、日常生活のエクステリアデザインを観察する
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

製図道具を使用します、必要に応じて購入が必要です。

学生へのフィードバック方法

授業中の作業時に口頭でアドバイスと、課題について評価とコメントをする。

評価方法

課題①図面の基礎練習(10%):図面の正確性、丁寧にきれいな仕上がり
課題②デザイン課題(30%):デザインの独創性、図面の正確性、表現方法、プレゼンテーションを評価
課題③デザイン課題(40%):デザインの独創性、図面の正確性、表現方法、プレゼンテーションを評価
平常点（20%）：小レポートや課題に取り組む態度を評価

課題はルーブリックに基づく評価とします。ルーブリック評価の方法は授業内で解説します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
課題	○	○		○

評価割合

課題（提出物）80%、平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

適宜、資料を印刷・配付する。

参考図書

適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】エクステリアについての専門的知識を有している。
【思考・判断】身近にある（社会の中にある）外溝デザイン、庭などの空間デザインを客観的に判断できる。
【関心・意欲・態度】身の回りにある外溝デザイン、庭、公園などの空間デザインに積極的に関心を持つ。
【技術・表現】課題解決に必要な情報を収集、分析、整理、表現できる。

オフィスアワー

月曜日 2限 3609室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら考え、調べ、デザインとして表現する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G06001001
講義名	食生産体験演習Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	宮内 泰之	指定なし

ナンバリング

R10001M12

授業概要(教育目的)

生産現場に対する関心や理解を深めるだけでなく、日本の食生活が自然の恩恵の上に成り立ち、食に関わる多様な人々の活動に支えられていることについて理解を深めることがこれからの食の現場では重要である。体験学習型の学びとして、地域との交流、次世代や社会へ広く食に関わる事柄を発信できるように、実際に作物などを自分たちで栽培・収穫することを通し、生産の大変さ、食べ物の大切さなどを体得することを目的とする。

履修条件

野外での栽培実習。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	野菜栽培・育成の基礎（野菜・米の分類、有機農業、播種の方法、コンパニオンプランツ、連作障害、土壌の性質、肥料の3要素、肥料の種類、雑草の種類と防除）を理解し栽培方法を説明できる。野菜・米の品種の特徴を理解し、食の安全について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	野菜・米の特性や栽培期間を理解し、作業手順や作業効率を考え、栽培計画を立てることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	野菜・米栽培に興味を持ち、それらのメカニズムに関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	一般的な夏野菜・米の栽培育成ができる。種からの栽培、苗からの栽培などの特性を生かした栽培作業ができる。

学習計画

食生産体験演習Ａ

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス、ジャガイモの定植。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食物生産を実践を通して学ぶ意義、1年間の作物生産の流れを学ぶ。 ジャガイモの定植方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：ジャガイモの分類、主な栽培品種とその特徴について調べる。 復習：ジャガイモの栽培方法と、栽培の歴史、主食としている国・地域や国内外の主な産地についてまとめる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第2回	**授業テーマ**	エダマメとニンジンの播種
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	野菜についての概説（根菜・葉菜・果菜）。播種（種まき）の方法、種子について学ぶ。 エダマメとニンジンの播種方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：エダマメとニンジンの分類、主な栽培品種とその特徴について調べる。 復習：播種の方法と種子の構造、エダマメとニンジンの栽培方法と、国内外の主な産地についてまとめる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第3回	**授業テーマ**	イネの種籾播種、ジャガイモの芽かき、追肥と土寄せ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イネの栽培方法、播種から白米になるまでの栽培、作業の流れについて学ぶ。 イネの様々な育苗方法について学ぶ。 ジャガイモの芽かき、追肥と土寄せ（1回目）の方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：イネの分類、主な栽培品種とその特徴について調べる。 復習：イネの栽培方法と、栽培の歴史、主食としている国・地域や国内外の主な産地についてまとめる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第4回	**授業テーマ**	キュウリとサトイモの定植
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	雑草の種類と防除法、コンパニオンプランツについて学ぶ。 キュウリとコンパニオンプランツとしてのネギの定植、除草の方法について学ぶ。 サトイモの定植方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：キュウリとサトイモの分類、主な栽培品種とその特徴について調べる。 復習：雑草の種類、コンパニオンプランツ、キュウリとサトイモの栽培方法と、栽培の歴史、国内外の主な産地についてまとめる。
	教室外学習の時間(分)	90分
	授業テーマ	トマトの定植
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	施肥の方法（元肥え、追肥）、連作食害について学ぶ。 トマトとコンパニオンプランツとしてのニラの定植。

	む)	輪作と連作障害について学ぶ。
第5回	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：トマトの分類、主な栽培品種とその特徴、施肥の方法について調べる。 復習：トマトの栽培方法と、栽培の歴史、国内外の主な産地についてまとめる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第6回	授業テーマ	ラッカセイの播種、キュウリの誘引
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	マルチの目的と資材について学ぶ。 ラッカセイの播種、キュウリの誘引、落葉マルチについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：ラッカセイの分類、主な栽培品種とその特徴について調べる。 復習：マルチ、ラッカセイの栽培方法と、栽培の歴史、国内外の主な産地についてまとめる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第7回	授業テーマ	田植え
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水田の準備と田植えの方法、地域や品種による田植え時期の違いについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：早稲・中稲・晩稲について調べる。 復習：水田の準備と田植えの方法についてまとめる。イネ苗の手植えと機械植えの違いについて調べる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第8回	授業テーマ	キュウリの収穫、ジャガイモの追肥と土寄せ（2回目）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	有機農業と慣行農業の違いについて学ぶ。 キュウリの花と果実の構造、収穫方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：キュウリの花と果実の構造について調べる。 復習：有機農業と慣行農業についてまとめる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第9回	授業テーマ	相原地区の農業について学ぶ。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	相原地区で有機農業を実践されている農家の畑を見学する。 （都合により通常授業に変更する場合があります）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：町田市相原地区およびその周辺地域の地勢について調べる。 復習：見学を通して学んだことをレポートにまとめる。
	教室外学習の時間(分)	60分
	授業テーマ	ジャガイモの収穫
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	ジャガイモの毒成分とジャガイモの収穫方法について学ぶ。

	む)	
第10回	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：ジャガイモの品種ごとの特徴と適した料理方法について調べる。 復習：ジャガイモの毒成分とジャガイモの収穫方法についてまとめる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第11回	授業テーマ	トマトの収穫
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	トマトの収穫方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：大玉トマト、ミニトマトそれぞれの品種とその特徴、適した料理方法について調べる。 復習：ジャガイモの毒成分とジャガイモの収穫方法についてまとめる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第12回	授業テーマ	田んぼの除草
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	畑、水田の土壌の構造、性質、それぞれの雑草と防除方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：関東地方の畑、水田それぞれの夏の雑草の種類について調べる。 復習：畑、水田の土壌の構造、性質についてまとめる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第13回	授業テーマ	エダマメの収穫と収量計測
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エダマメのさやの数、さやと豆の総重量を計測し記録する。一本の枝に何さや付いているか、3粒、2粒、1粒それぞれの数を記録。10本全体の総重量を計測。後日、全員の平均値を算出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：エダマメの一般的な収量について調べる。 復習：エダマメの収穫方法と収量の計測結果をまとめる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第14回	授業テーマ	収穫祭（予定）、収穫物の試食会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	冷凍エダマメと、収穫したてのエダマメの香り・味の違いを体験する。 その他の収穫物を試食する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：エダマメの調理方法について調べる。 復習：収穫したてのエダマメの香り・味の違いを確認し、収穫について考え調べてみる。
	教室外学習の時間(分)	90分
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	

	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

屋外での野菜栽培は、天候に左右されることがあります。また、校外授業を予定していますが日程の調整があるため、予定変更が発生する可能性があります。ご留意をお願いします。

学生へのフィードバック方法

レポート提出は、後期最初の授業で返却し、評価についてコメントします。

評価方法

授業への積極的な参加を重要視します。特にグループワークとして行動、活動することが多いため、協調性、チームワーク等の態度を見ます。最終レポート、見学レポート、平常点で評価します。
評価方法・評価基準はルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはクラスルーム
または授業内での配布等により提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
最終レポート	○	○		
見学レポート		○	○	
外部講師感想		○	○	
平常点			○	

評価割合

最終レポート（40%）、見学レポート（20%）、平常点（40%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】野菜栽培・育成の基礎（野菜・米の分類、有機農業、播種の方法、コンパニオンプランツ、連作障害、土壌の性質、肥料の3要素、肥料の種類、雑草の種類と防除）を理解し栽培方法を説明できる。野菜・米の品種の特徴を理解し、食の安全について説明できる。
【思考・判断】野菜・米の特性や栽培期間を理解し、作業手順や作業効率を考え、栽培計画を立てることができる。
【関心・意欲・態度】野菜・米栽培に興味を持ち、それらのメカニズムに関心を持つことができる。
【技能・表現】一般的な夏野菜・米の栽培育成ができる。種からの栽培、苗からの栽培などの特性を生かした栽培作業ができる。

学生へのメッセージ

野菜・米栽培に興味を持ち、実祭に体験・体得することも多いと考えます。積極的な授業参加を期待しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活か	○	野生植物調査に関する実務経験を活かし、植物の形態や雑草防除方

した授業		法について解説する。
アクティブ・ラーニング	○	手や体を動かし、能動的に対応することで体得する。
情報リテラシー教育	○	授業で扱う野菜に関する情報を収集し、レポート等にまとめる。
ICT活用	○	グループで作業を行ったり、調べたりすることにより、コミュニケーション力を身に付ける。

講義コード	G06002001
講義名	食生産体験演習Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	宮内 泰之	指定なし

ナンバリング

R10001M12

授業概要(教育目的)

生産現場に対する関心や理解を深めるだけでなく、日本の食生活が自然の恩恵の上に成り立ち、食に関わる多様な人々の活動に支えられていることについて理解を深めることがこれからの食の現場では重要である。体験学習型の学びとして、地域との交流、次世代や社会へ広く食に関わる事柄を発信できるように、実際に作物などを自分たちで栽培・収穫することを通し、生産の大変さ、食べ物の大切さなどを体得することを目的とする。

履修条件

野外での栽培実習。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	野菜栽培・育成の基礎（野菜・米の様々な品種、有機農業、緑肥、稲作にまつわる伝統文化）を理解し栽培方法を説明できる。野菜・米の品種の特徴を理解し、食の安全について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	野菜・米の特性や栽培期間を理解し、作業手順や作業効率を考え、栽培計画を立てることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	野菜・米栽培に興味を持ち、それらのメカニズムに関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	一般的な秋冬野菜・米の栽培育成ができる。種からの栽培、苗からの栽培などの特性を生かした栽培作業ができる。

学習計画

食生産体験演習B

第1回	授業テーマ	ガイダンス、ハクサイの定植、ダイコンの播種。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	秋から翌春までの野菜栽培の流れを学ぶ。 ハクサイの定植、ダイコンの播種方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：ハクサイ・ダイコンの分類、主な栽培品種とその特徴について調べる。 復習：ハクサイ・ダイコンの栽培方法と、栽培の歴史、国内外の主な産地についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	キク科野菜（シュンギク他）、アブラナ科野菜（コマツナ他）の播種
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キク科野菜（シュンギク、リーフレタス）、アブラナ科野菜（コマツナ、ラディッシュ、コカブ、チンゲンサイ）それぞれの種類と性質、播種方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：主なキク科、アブラナ科野菜の種類について調べる。 復習：キク科、アブラナ科野菜の栽培方法と、国内外の主な産地についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	稲刈り、ゲンゲ（レンゲソウ）の播種
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	緑肥の種類と効果、方法について学ぶ。 稲刈り、稲架掛け（はざかけ）、ゲンゲの播種の方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：米の天日干し、機械乾燥の違いについて調べる。 復習：緑肥、稲刈り、稲架掛け、ゲンゲの播種の方法についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	ヒユ科野菜（ホウレンソウ他）の播種、ダイコンの間引き
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	間引きの効果と方法について学ぶ。 ヒユ科野菜（ホウレンソウ他）の播種の方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：ホウレンソウの分類、主な栽培品種とその特徴について調べる。 復習：ホウレンソウの栽培方法と、栽培の歴史、国内外の主な産地についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	ラッカセイ、ネギの収穫と試食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ラッカセイ、ネギの収穫方法について学ぶ。 ラッカセイの試食を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：ラッカセイの調理方法、ネギの分類、主な栽培品種とその特徴、施肥の方法について調べる。 復習：ラッカセイ、ネギの収穫、調理方法についてまとめる。
	教室外学習の時	60

	間（分）	分
第6回	授業テーマ	イネの脱穀、籾摺り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イネの果実（米）の構造と栄養素について学ぶ。 イネの脱穀と籾摺りについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：手動による様々な脱穀手法について調べる。 復習：イネの脱穀と籾摺りについてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	サトイモの収穫
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サトイモの成分と収穫方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：サトイモの特徴と適した料理方法について調べる。 復習：サトイモの成分と収穫方法についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	収穫感謝祭
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収穫感謝祭の意味について学ぶ。米とその他の収穫物の試食。 米の品種、産地、炊飯方法の違いによる香り、食感、味の違いを比較する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：米のとぎ方と鍋（釜）による炊飯方法について調べる。 復習：試食した結果についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	相原地区の農業について学ぶ。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	相原地区で有機農業を実践されている農家の畑を見学する。 （都合により通常授業に変更する場合があります)
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：多摩地域の郷土野菜について調べる。 復習：見学を通して学んだことをレポートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	しめ飾りの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	稲作にまつわる伝統文化について学ぶ。 稲わらを使用したしめ飾りの作成方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：稲わらの使用方法について調べる。 復習：稲わらを使用したしめ飾りの作成方法についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	ハクサイ、ダイコンの収穫
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ハクサイの結球の仕組み、ダイコンの構造、それぞれの収穫方法について学ぶ。

	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：ハクサイ、ダイコンの市場価格について調べる。 復習：ハクサイ、ダイコンの構造と収穫方法についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	食生産体験の意義（グループ討論）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1年間の畑実習を踏まえて、「食の安全」「生活環境の保全」「現状と課題」といった観点から、食生産体験の意義についてグループ討論を行う。討論の内容を記録し、次回の授業でのグループ発表の準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：食生産体験の意義と食の安全について調べ、自身の意見をまとめておく。 復習：討論の内容をまとめ、グループ発表の準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	食生産体験の意義（グループ発表）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1年間の畑実習を踏まえて、「食の安全」「生活環境の保全」「現状と課題」といった観点から、食生産体験の意義についてグループ発表、質疑応答を行う。各グループの発表内容、質疑応答を記録する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：12回目の討論の内容をまとめ、グループ発表の準備を行う。 復習：グループ発表を通して自身の考えをまとめ最終レポートとする。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	春の七草、野菜の糖度
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	春の七草の種類と意味について学ぶ（可能であれば七草粥を作成して試食する）。 冬野菜の糖度について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：春の七草の種類と歴史について調べる。 復習：冬野菜の特徴と糖度が高まる仕組みについてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第15回	**授業テーマ**	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

屋外での野菜栽培は、天候に左右されることがあります。また、校外授業を予定していますが日程の調整があるため、予定変更が発生する可能性があります。ご留意をお願いします。

評価方法

授業への積極的な参加を重要視します。特にグループワークとして行動、活動することが多いため、協調性、チームワーク等の態度を見ます。最終レポート、見学レポート、グループ発表、平常点で評価します。
評価方法・評価基準はルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはクラス

ルーム
または授業内での配布等により提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
最終レポート	○	○		
見学レポート		○	○	
外部講師感想		○	○	
平常点			○	

評価割合

最終レポート（40%）、見学レポート（20%）、グループ発表（20%）、平常点（20%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】野菜栽培・育成の基礎（野菜・米の様々な品種、有機農業、緑肥、稲作にまつわる伝統文化）を理解し栽培方法を説明できる。野菜・米の品種の特徴を理解し、食の安全について説明できる。
【思考・判断】野菜・米の特性や栽培期間を理解し、作業手順や作業効率を考え、栽培計画を立てることができる。
【関心・意欲・態度】野菜・米栽培に興味を持ち、それらのメカニズムに関心を持つことができる。
【技能・表現】一般的な夏野菜・米の栽培育成ができる。種からの栽培、苗からの栽培などの特性を生かした栽培作業ができる。

学生へのメッセージ

野菜・米栽培に興味を持ち、実祭に体験・体得することも多いと考えます。積極的な授業参加を期待しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	野生植物調査に関する実務経験を活かし、植物の形態や雑草防除方法について解説する。
アクティブ・ラーニング	○	手や体を動かし、能動的に対応することで体得する。
情報リテラシー教育	○	授業で扱う野菜に関する情報を収集し、レポート等にまとめる。
ICT活用	○	グループで作業を行ったり、調べたりすることにより、コミュニケーション力を身に付ける。

講義コード	G06003001
講義名	栄養士論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大中 佳子	指定なし

ナンバリング

R11802M21

授業概要(教育目的)

本科目は、食品衛生監視員・食品衛生管理者、資格取得のための必修科目である。
国家資格である「栄養士」について、栄養士法から学ぶ。栄養士の職務として、対象者の健康の保持・増進、疾病予防・治療、QOLの向上を図るために、栄養管理された食事を提供するにあたり、給与栄養目標量を設定し、目標量に合った献立を作成することが求められる。本授業では、日本人の食事摂取基準、食品成分表の使い方、食品構成、献立作成の手順やポイントを講義し、栄養・食事管理プロセスの基本を講義する。

履修条件

食科学コースの学生のみ履修可です。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	給与栄養目標量の設定方法とそれに基づいた栄養・食事計画の流れを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	作成した栄養・食事計画について評価できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食品や食生活を取り巻く様々な問題や課題について関心を持ち、それらを栄養・食事計画に反映できる。
技術・表現の観点 (A)	給与栄養目標量の設定と、その目標量に合った献立を作成することができ、栄養・食事計画を立案できる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス、栄養・食事計画と献立作成
		・授業内容、課題提出物について説明する。

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・栄養・食事計画および献立作成について、その意義と目的を理解する。 ・日本人の食事摂取基準2025年版を用いた栄養・食事管理の方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：日本人の食事摂取基準2025年版の総論を読んでおくこと 復習：授業の重要点をまとめておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第2回	授業テーマ	栄養・食事管理（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・給食の目的・意義について理解する。 ・献立の役割について、食事管理の意義と目的より理解する。 ・日本人の食事摂取基準2025年版を活用した栄養・食事計画について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：日本人の食事摂取基準2025年版の総論を読んでおくこと 復習：授業の重要点をまとめておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第3回	授業テーマ	栄養・食事管理（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・対象者の1日に必要なエネルギー量を生活時間調査から算出する方法を理解し、身体活動レベル基準値との関連について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：日本人の食事摂取基準2025年版の総論を読んでおくこと 復習：授業の重要点をまとめ、1日の生活時間を記録すること。
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第4回	授業テーマ	栄養・食事管理（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・記録した生活時間調査から対象者の1日に必要なエネルギー量を算出する。 ・献立作成の手順と必要な帳票（食品構成表）について理解する。 ・八訂食品成分表を用いた栄養計算について理解する。 ・食品構成表を食品成分表を用いて作成し、食品構成表の作成技術を習得する。 演習課題の提出 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：日本人の食事摂取基準2025年版の総論を読んでおくこと 復習：配布したプリント課題について授業内で完成できなかった場合、完成させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第5回	授業テーマ	栄養・食事管理（4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・献立作成の手順と必要な帳票（食品構成表）について理解する。 ・食品構成表を食品成分表を用いて作成し、食品構成表の作成技術を習得する。 食品構成表を理解するために、演習課題を提示する。演習課題の提出 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復	予習：授業で配布したプリントを確認しておくこと 復習：配布したプリント課題について授業内で完成できな

	習)の内容	かった場合、完成させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第6回	授業テーマ	栄養・食事管理（5）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・献立作成の手順と必要な帳票（食品構成表）について理解する。 ・食品構成表を食品成分表を用いて作成し、食品構成表の作成技術を習得する。 食品構成表を理解するために、演習課題を提示する。 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業で配布したプリントを確認しておくこと 復習：配布したプリント課題について授業内で完成できなかった場合、完成させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第7回	授業テーマ	栄養・食事管理（6）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・献立作成の手順と必要な帳票（食品構成表）について理解する。 ・食品構成表を食品成分表を用いて作成し、食品構成表の作成技術を習得する。 食品構成表を理解するために、演習課題を提示する。 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業で配布したプリントを確認しておくこと 復習：配布したプリント課題について授業内で完成できなかった場合、完成させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第8回	授業テーマ	栄養・食事管理（7）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・献立作成の手順と必要な帳票（食品構成表）について理解する。 ・食品構成表を食品成分表を用いて作成し、食品構成表の作成技術を習得する。 食品構成表を理解するために、演習課題を提示、9回授業で提出する。 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業で配布したプリントを確認しておくこと 復習：配布したプリント課題について授業内で完成できなかった場合、完成させておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第9回	授業テーマ	食事計画:献立作成の実際(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・主食・主菜・副菜について、献立の組み合わせを方法を理解する。 ・給与栄養目標量を満たす献立の作成方法を理解する。 8回の授業で提示した食品構成表の課題を提出する。 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書をよく読んでおくこと 復習：配布したプリント課題について授業内で完成できなかった場合、完成させておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第10回	授業テーマ	食事計画:献立作成の実際(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・給与栄養目標量を満たし、食事計画に基づいた献立を作成することで、食事管理を理解する。 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復	予習：教科書をよく読んでおくこと

	習)の内容	復習：配布したプリント課題について授業内で完成できなかった場合、完成させておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第11回	**授業テーマ**	食事計画:献立作成の実際1(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・給与栄養目標量を満たし、食事計画に基づいた献立を作成することで、食事管理を理解する。 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書をよく読んでおくこと 復習：配布したプリント課題について授業内で完成できなかった場合、完成させておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第12回	**授業テーマ**	食事計画:献立作成の実際(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・給与栄養目標量を満たし、食事計画に基づいた献立を作成することで、食事管理を理解する。 演習課題の提出 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書をよく読んでおくこと 復習：配布したプリント課題について授業内で完成できなかった場合、完成させておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第13回	**授業テーマ**	食事計画:献立作成の実際(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・給与栄養目標量を満たし、食事計画に基づいた献立を作成することで、食事管理を理解する。 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書をよく読んでおくこと 復習：配布したプリント課題について授業内で完成できなかった場合、完成させておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第14回	**授業テーマ**	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養・食事計画について学んだことについて試験を行う。 演習課題の提出
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：栄養・食事管理について、日本人の食事摂取基準2020年版をよく読むこと 復習：これまでの授業の重要点をまとめておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分

学習計画注記

・シラバスに掲載していますが、演習形式の課題を行うこともありますので、教科書、配布したプリントは必ず毎回持参してください。また、電卓やPC、参考書を適宜持参してください。

学生へのフィードバック方法

提出物にコメントを記入し返却します。
提出物の評価において、共通コメントは授業内で伝えます。

評価方法

平常点、提出物の提出状況および内容、定期試験結果により総合的に評価する。
評価方法・評価基準は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはクラスルーム
または授業内での配布等により提示をする。

出題範囲は授業で講義した箇所、配布資料を基本とするが、具体的な範囲および傾向について

は、試験前の週の授業で説明します。
・定期試験は下表に示す力を養うことを目的として実施しています。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	
提出物	○	○	○	○
定期試験	○	○		

評価割合

平常点20%、提出物30%、定期試験50%

使用教科書名(ISBN番号)

・すぐわかる栄養指導実習 新訂第3版 ／萌文書林（978-4-89347-069-0）
・日本人の食事摂取基準（2025年版）／第一出版
・調理のためのベーシックデータブック 第6版／女子栄養大出版部 （978-4-7895-0325-9）
・八訂食品成分表2025 香川明夫/監修（978-4-7895-1025-7）

参考図書

・栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎／化学同人（978-4-7598-1826-0）
・オールガイド食品成分表八訂準拠 ビジュアル食品成分表／大修館書店（9784469270167）
・トレーニーガイドPDCAによる給食マネジメント実習 第2版／医歯薬出版株式会社（2年次使用）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境を理解し、栄養・食事管理する上で、様々な立場や状況の人々と疎通ができるコミュニケーション力を身につけている。
【思考・判断】栄養管理する対象者の情報を整理し、対象者別の栄養・食事管理できる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象や情報について関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技能・表現】食生活と健康、食を通じて生活の質の向上をはかるような食事計画を立案できるようになる。

オフィスアワー

・金曜２限、金曜昼休み：給食管理学研究室（2311室）
・事前にメールで予約してから来訪して下さい。

学生へのメッセージ

・対象者の健康状態や栄養状態にあわせた献立を作成するにあたり、本科目の講義内容は基礎となります。栄養士業務の栄養・食事管理について基本的な事項を学修してください。
・教科書「すぐわかる栄養指導実習 新訂第3版／萌文書林」に直接書き込みながら、栄養・食事管理について学びます。
・ビジュアル食品成分表は食品の写真が多いので推薦しました。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	総合病院の栄養食事指導、児童・高齢者福祉施設において管理栄養士業務かつマネジメント職務実績のある教員が、栄養士・管理栄養士の職務や社会で即実践できる栄養・食事管理について講義する。
アクティブ・ラー	○	給与栄養目標量を設定する際、グループワークやディスカッションを行う。

ニング		
情報リテラシー教育	○	食品や食に関する情報をインターネットを利用して収集する。
ICT活用	○	献立の栄養計算、給与栄養目標量の算出に栄養計算ソフトや表計算ソフトを使用する。

講義コード	G06004001
講義名	地球環境と食
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	山岡 義卓	指定なし

ナンバリング

R21012M21

授業概要(教育目的)

食は人類が存続するために不可欠な要素である。一方、人口が一定水準を超えた段階から、食料の安定確保は地球環境に対する「作用」なしには持続することができなくなった。その「作用」は結果として食料の安定的生産を損ねる結果を招いており、この悪循環が地球環境の破壊を再生不能な段階まで進めることとなっている。そこで、地球環境と食料生産・食料確保との関係について学習し、持続可能な食の確保について考察する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	地球環境と食にどのような関係があるのか理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	前記理解を踏まえて地球環境の観点から、現代の食にどのような問題があるか把握することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	前記理解および問題把握を踏まえて環境問題の解決に向けた取り組みを進められるようになる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス 地球環境と食の関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	シラバスに記載された本科目の目的や授業計画について理解する。私たちの食の営みが地球環境とどのような関係があるのかを俯瞰的に理解する。

第1回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1回の授業の予習としてシラバスをよく読んで授業の目的や進め方を理解しておく。復習として身の回りの食の営み（例：アルバイト先や日頃利用するスーパー、飲食店等）と自然環境との関係を調べる。次回の予習として新聞やニュース、インターネットにより環境問題（食に関わることに限らず）に関する最近の話題について調べる。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	環境問題の変遷・世界の食料需給
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	環境問題が現代的課題として浮上してきた経緯および世界の食糧需給の現状と環境問題の関係を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として世界の食料需給の現状を踏まえて私たちの日頃の食品消費のあり方をどのように見直すことができるか考える。予習として新聞やニュース、インターネットにより気候変動に関する最近の話題を調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	地球環境と食にまつわる諸課題 ①気候変動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今回から7回にわたり地球環境と食にまつわる諸課題をテーマごとに学習する。第1回として気候変動と食の関係を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習としてここ最近の大規模な気象災害（特に地球温暖化と関連する可能性のあるもの）による食産業への影響について調べる。予習として生物多様性の言葉の意味やその意義等について書籍やインターネット等により調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	地球環境と食にまつわる諸課題 ②生物多様性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生物多様性と食の関係を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として生物多様性が大切だという理解を促すための方策を考える。予習として新聞やニュース、インターネットにより水資源に関する最近の話題を調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	地球環境と食にまつわる諸課題 ③水資源の問題

第5回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水資源の現状と課題等を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として水の大切さについての理解を促す活動にどのようなものがあるか調べる。予習として新聞やニュース、インターネットにより食の工業化・グローバル化に関する最近の話題（特に環境と関係するもの）を調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	地球環境と食にまつわる諸課題 ④食の工業化・グローバル化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食の工業化・グローバル化と地球環境の関係を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として身の回りの工業化・グローバル化された食品を取り上げ、その生産から消費に至るプロセスがどのようになっているか調べる。予習として新聞やニュース、インターネットにより種子および遺伝子組換え食品に関する最近の話題（特に環境と関係するもの）を調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	地球環境と食にまつわる諸課題 ⑤遺伝子組換え食品・種子の問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	遺伝子組換え食品や種子をとりまく現状と地球環境の関係を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習としてゲノム編集技術について調べ環境への影響について考察する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食品廃棄物や食品ロス削減に関する最近の話題（特に環境と関係するもの）を調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	地球環境と食にまつわる諸課題 ⑥食品廃棄物と食品ロス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品廃棄物や食品ロスの現状を確認し、地球環境の関係を理解するとともにその削減策を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として自分の食生活を振り返り、食品廃棄や食品ロス削減のためにどのような見直しができるか考える。 予習として新聞やニュース、インターネットにより容器包装廃棄物やプラスチックに関する最近の話題（特に環境と関係するもの）を調べる。
	教室外学習	

	の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	地球環境と食にまつわる諸課題 ⑦容器包装廃棄物とプラスチック問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	容器包装廃棄物やプラスチックに問題の現状を確認し、地球環境の関係を理解するとともにその削減策を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として自分の食生活における容器包装の取り扱いを振り返り、どのように改善できるか考察する。予習として地産地消の言葉の意味や具体的な取り組み等について書籍やインターネット等により調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	地球環境に配慮した食の営み ①地産地消、CSA等
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地球環境に配慮した営みとして地産地消の活動、意義、課題等について理解するとともに、その推進のための方策を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として身近な地産地消の取り組み（直売所やマルシェ等）を見聞し、授業で学んだことと照らし合わせて考察する。予習としてエシカル消費の意味や具体的な取り組み等について書籍やインターネット等により調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	地球環境に配慮した食の営み ②エシカル消費、サーキュラーエコノミー等
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エシカル消費の意味や内容を確認し、私たちの消費行動と地球環境の関係について理解するとともに日頃の食品消費をどのように見直せるか考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として自分の食生活を振り返り、どのような点がエシカルと言えるか、あるいは言えないか考察し、今後どのように改善できるか考察する。予習として次週訪問する環境に配慮した食に関する活動についてインターネット等により調べ、これまで学んだことを参照したうえで、どのような点が環境配慮と言えるか考察する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	地球環境に配慮した食の営み ③事例研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	環境に配慮した食に関わる活動の現場を訪問する。これまでの学習内容を参照し、その活動の意義や課題、可能性等を理解する。さらに環境に配慮したフードビジネスを推進するための方策を考察する。校外授業として実施する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として現場訪問で見聞きした事柄を振り返り、環境配慮の取り組みを推進するための方策を考える。予習および準備学習としてこれまでの学習を踏まえて、身の回りで地球環境に配慮していると思われる営みを取り上げ、その内容、意義、課題、可能性等について論ずる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	ワーク 地球環境の視点からこれからの食品消費を考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの学習を踏まえて地球環境の視点からこれからの食品消費の望ましいあり方についてグループワークを通じて考究する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業内のワークで作った提案内容を振り返り、具体的な行動に落とし込めるようにブラッシュアップする。予習として定期試験に備えてこれまでの授業内容を振り返り、疑問点等を明確にしておく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	まとめ・振り返り・期末試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	期末試験を実施し、これまでに学んだことを振り返り、学習目標の達成について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期末試験の結果も踏まえて授業全体を通して学んだことを改めて振り返り、知識の定着を確認することはもちろん、自分自身が今後、地球環境への影響を配慮しつつ、今後自分はどのように食に関わっていきたいかを考える。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

毎回の授業において主に学習内容を確認するためのミニテストを実施するとともにリアクションペーパーを記入する。また毎回の授業冒頭において10分程度の時間で前回の振り返りを行う。

学生へのフィードバック方法

リアクションペーパーのコメントやミニテストの回答いくつかをピックアップし、授業内で解説や補足説明等によりフィードバックする。合わせてGoogleクラスルームを通じてもフィードバックを行う。14回目の授業で実施する期末試験については試験終了後に解説を行う。

評価方法

期末試験は第14回の受業内にて実施する。
中間レポートは授業の復習の一環として9回目以降に実施し、情報収集や考察により評価する。
中間レポートの課題はいずれも授業内にて提示する。
平常点は毎回のミニテストとリアクションペーパーの内容により理解度を確認し、評価する。
ルーブリックに基づく成績評価を行います。ルーブリックについては初回の授業で説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末試験	○	○	○	
中間レポート	○	○	○	
平常点	○	○	○	

評価割合

期末試験50点、中間レポート25点、平常点25点

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない。必要な文献や資料は授業の際に随時配付する。

参考図書

必要に応じて紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】学内外で講義・実習・演習を通し、多様な食環境や食文化を理解し、様々な立場や状況の人々と意思疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身に着ける
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている 力を身につけている
【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる
栄養士、教員、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある

学生へのメッセージ

食と環境に関連する諸課題、先進的な事例、政策や法律等に関する情報を積極的に収集するように心がけること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品メーカーにおいて商品開発に実務に携わった経験があり、また、現在もさまざまなフードビジネス事業者（生産、流通、小売等）との連携活動を行っている。
アクティブ・ラーニング	○	第13回の授業において学んだことを踏まえて自分たちに何ができるかを考えるグループワークを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G06005001
講義名	フードビジネス概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	山岡　義卓	指定なし

ナンバリング

R11005M21

授業概要(教育目的)

「食」は、いのちの源であり、私たちが生きていく上では欠くことのできない営みである。フードビジネスは、食に関わるあらゆる事業活動の総称であり、私たちの生活に密接に関わることはもちろん、殊更重要な社会的役割を有する。本授業では、食品の生産から消費に至る過程を軸に各種フードビジネスの事業や担い手について概観し、その機能や役割を理解すると同時にフードビジネスが抱える諸課題を確認する。さらに、今後、持続可能な社会の構築を目指すうえでの望ましいあり方や進むべき方向性についても考える。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各種フードビジネスの事業や担い手、歴史的経緯等基本的な知識を身につけることにより、その機能や役割、現代社会における諸課題を理解できるようになる。
思考・判断の観点 (K)	上記理解に基づき、持続可能な食の営みを目指すうえでフードビジネスの望ましいあり方や進むべき方向性を考究することができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	短期的な視点からの消費者メリットやビジネス上のメリットだけでなく、長期的および倫理的な観点も考慮して相応しい考え方や行動ができるようになる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス：フードビジネスとは

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シラバスに記載された本科目の目的や授業計画について理解し、学習領域であるフードビジネスの全体像を概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習としてシラバスをよく読んで授業の目的や進め方を理解しておく。復習としてフードビジネスの全体像（生産・加工・流通・消費）を概観したうえで自分自身が興味・関心のある分野を複数選び、どのようなフードビジネスの事例があるか調べ、意義や課題について考察する。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	私たちの暮らしとフードビジネス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身近な食品を題材にして、フードビジネスが私たちの暮らしとどのように関係しているのかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として身近な食品（授業で取り上げた以外）のいくつかについて、それぞれどのようなフードビジネスが関係しているのかを洗い出して、改めてフードビジネスと自分たちの生活との関係を確認する。予習として新聞やニュース、インターネットにより農業や漁業に関する最近の話題を調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	フードビジネス①生産（農業・漁業：概要）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	農業・漁業について概観するとともにフードビジネスとしての特徴を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として加工食品の原材料や家庭で使用している食材について産地や生産方法を調べ、さまざまな食料生産のあり方があることを確認する。予習として新聞やニュース、インターネットにより農業や漁業に関する最近の話題（特に課題に関する事柄）を調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	フードビジネス②生産（農業・漁業：意義と可能性）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回に続き農業と漁業を扱う。フードビジネスとしての農業・漁業の意義と可能性について理解する。
	教室外学習(予習・	復習として前回と今回の授業で学んだ農業・漁業の現状や課題、可能性を

	復習)の内容	整理し、その特徴を確認する。予習として身近な加工食品を製造しているメーカーの事業内容について調べ、その特徴を考察する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	フードビジネス③加工・製造（食品製造業：概要）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品製造業について概観し、その特徴を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として身近な加工食品を自分自身でつくることで製造工程の複雑さや衛生管理の難しさ等を理解する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食品製造業の最近の話題を調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	フードビジネス④加工・製造（食品製造業：法規制・傾向・課題）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品製造業に関するさまざまな法規制とその目的、近年の傾向や諸課題について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として身近な加工食品の表示や販売方法がどのような法規制に基づく対応であるかを確認し、法規制の消費者への影響を確認する。予習として生鮮食品の流通の仕組みを調べその特徴を考察する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	フードビジネス⑤流通（食品の流通の概要）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品流通の全体像について概観し、その特徴を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業で学んだ食品流通の仕組みを整理し、その特徴を確認する。予習として新聞やニュース、インターネットにより卸売市場に関する最近の話題を調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	フードビジネス⑥流通（卸売流通）

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品流通のうち生鮮食品（青果、鮮魚、精肉等）の卸売流通の特徴について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業で学んだ卸売流通の流れを食品の種類ごとに整理し、その特徴を確認する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食品小売業、外食、中食に関する最近の話題を調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	フードビジネス⑦小売流通・外食・中食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品流通のうち小売流通（スーパー、専門小売店等）についてその特徴を理解する。外食についてはチェーンレストランと個人経営の飲食店の比較を通して、中食についてはコンビニエンスストアを題材に、それぞれフードビジネスとしての特徴を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として代表的な小売流通であるスーパーと専門小売店について、両者で買い物をしたうえでその特徴、メリット、デメリットなどを比較し、今後、小売流通をどのように利用したいか考察する。また、外食や中食の利用に際してそのオペレーションを想像しながら授業で学んだことを確認する。予習として次週訪問するフードビジネスの現場についてインターネット等で事前に情報収集し、その特徴等を理解する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	フードビジネスの実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フードビジネスの現場を訪問し、フードビジネスに携わる講師の講話を聴く。フードビジネスの現場から見た意義や課題、可能性等について理解する。校外授業として実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習としてフードビジネスの現場で見聞きした事柄を振り返り、当該ビジネスの意義、課題、可能性を整理し、課題解決の方策を考察する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食のグローバル化や工業化に関する最近の話題を調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	フードビジネスの現代的課題①グローバル化・工業化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グローバル化や工業化が進展することでフードビジネスの領域において生起する諸課題を理解する。
	教室外学	復習として具体的な食品を題材に、工業化やグローバル化が進展すること

	習(予習・復習)の内容	による課題を解決するための方策を考察する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食品の安全性や環境に関する最近の話題を調べる。
	教室外学習の時間(分)	200分
第12回	授業テーマ	フードビジネスの現代的課題②食の安全性・環境問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食の安全性や環境に関する問題とフードビジネスの関係について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として食の安全性や環境に関する諸課題を自分たち（消費者）の立場で解決できる方策について考察する。予習として地産地消について言葉の意味や具体的な取り組み等について書籍やインターネット等により調べる。
	教室外学習の時間(分)	200分
第13回	授業テーマ	これからのフードビジネス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フードビジネスの抱える諸課題を解決するための方策のひとつとして地産地消やフェアトレード等いくつかの事例を取り上げ、その内容や意義、課題について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として身近な地産地消の営み（直売所やマルシェ等）を見聞し、授業内容に照らし合わせて意義や課題等について考察する。予習として定期試験に備えてこれまでの授業内容を振り返り、疑問点等を明確にしておく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第14回	授業テーマ	まとめ・振り返り・期末試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	期末試験を実施し、これまでに学んだことを振り返り、学習目標の達成について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期末試験の結果も踏まえて授業全体を通して学んだことを改めて振り返り、知識の定着を確認することはもちろん、自分自身が今後、どのようにフードビジネスに向き合っていきたいかを考える。
	教室外学習の時間(分)	200分

学習計画注記

毎回の授業の最後にその日の学習内容を確認するためのミニテストを実施するとともに、リアクションペーパーを記入する。また毎回の授業冒頭において前回の振り返りを行う。

学生へのフィードバック方法

リアクションペーパーのコメントやミニテストの回答いくつかをピックアップし、授業内で解説や補足説明等によりフィードバックする。合わせてGoogleクラスルームを通じてもフィードバックを行う。14回目の授業で実施する期末試験については試験終了後に解説を行う。

評価方法

期末試験は第14回の受業内にて実施する。
中間レポートは授業の復習の一環として7回目以降に実施し、情報収集や考察により評価する。中間レポートの課題はいずれも授業内にて提示する。
平常点は毎回のミニテストとリアクションペーパーの内容により理解度を確認し、評価する。
ルーブリックに基づく成績評価を行います。ルーブリックについては初回の授業で説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末試験	○	○	○	
中間レポート	○	○	○	
平常点	○	○	○	

評価割合

期末試験50点、中間レポート25点、平常点25点

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない。必要な文献や資料は授業の際に随時配布する。

参考図書

なし。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】生活にかかわる知識を多面的に身に付けている。
【思考・判断】地域・社会に関する諸課題を自分ごととしてとらえ、適切な手法で分析することができる。
【関心・意欲・態度】他者の視点やニーズを理解し、社会に新たな価値を見出すことができる。
・地域・社会の多様な人々と協働して、新しいライフスタイルを共に創り上げることができる。
【技能・表現】人々が快適に生活できる持続可能な生活様式を企画・提案することができる。

学生へのメッセージ

フードビジネスに限らず、食に関するさまざまな社会問題、先進的な事例、政策や法律等に関する情報を積極的に収集するように心がけること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品メーカーにおいて商品開発に実務に携わった経験があり、また、現在もさまざまなフードビジネス事業者（生産、流通、小売等）との連携活動を行っている。
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G06006001
講義名	コミュニケーション・プレゼン演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

R11003M12

授業概要(教育目的)

【授業の概要】アクティブラーニングに対応するための基本的な対話力を養う。グループワーク形式で各種課題に取り組む過程で、コミュニケーションの基礎 ー受容と発信ー を身につける。また、多数の人に効果的なプレゼンテーションを行う方法を学ぶ。近代的な教育に適応するための初めの演習であり、今後の学びの基盤を築く。

【授業の内容】

コミュニケーションのワークは、テキストを利用したものと、独自に開発したワーク（オリジナルコンテンツ）の２種類があります。

【授業の形式】

・４人または３人１組でチームを組み、ワークを進めていきます。
・３回のクールがあり、各クールでメンバーをくじ引きで決めます。
・クラス全体にプレゼンテーションを行う回があります。

履修条件

・一部集中となっています。時間割以外の日程で授業を行う回があります。集中授業の日程は、第1回に説明します。
・グループワークが中心の授業です。グループ（班）は、毎回くじ引きで決定します。グループワークでは、ファシリテーターと、プレゼンターの役割を交代で行います。全員が、必ず、最低でも1回、ファシリテーターとプレゼンターの役割を経験します。
・クラスにプレゼンを行う回があります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・コミュニケーションに必要な基本的な知識と技術が理解できている ・基本的なプレゼンテーションスキルが理解できている ・ファシリテーターの基本的な役割が理解できている
思考・判断の観点 (K)	良好なコミュニケーションを成立させるための行動を自分で判断できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	コミュニケーションとプレゼンのスキルを身につける意欲・態度が養われている
技術・表現の観点 (A)	・ファシリテーターの基本的な役割を担うことができる

	・多数の人に自分の考えを表現・発信することができる

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「グループワークの進め方と基本的なコミュニケーション技術の説明」 ・授業内容を説明します。 ・コミュニケーションに必要な受容と発信、コミュニケーションを促すファシリテーションを説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・授業内容を確認してください。 ・コミュニケーションとプレゼンテーションに関するアンケート（Google Form）に回答してください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	授業テーマ	第１クール：チーム・ディスカッション①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「大学で学びたいこと、学ぶべきこと」 私たちは大学で何を学ぶべきでしょうか？何を学びたいですか？大学に入学した意味をグループでディスカッションし、発表します。 オリジナルコンテンツ
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	第１クール：ファシリテーション・ワーク①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「新説・桃太郎」 昔話桃太郎を題材としたグループワークから、コミュニケーションを考えます。 テキスト p.74-78
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	授業テーマ	第１クール：プレゼンテーション・スキル①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「プレゼンテーション・スキルを磨く」 良いプレゼンテーションとはどのようなプレゼンテーションでしょうか？心に響くプレゼンをTEDから学びます。 オリジナルコンテンツ
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	第１クール：コミュニケーション・スキル①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「ファシリテーションの人間観」 人間関係を形成する中で、ファシリテーションがなぜ必要なのか、大事なのかを理解します。 テキスト p.1-14
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）
	教室外学習の時間（分）	50分

第6回	授業テーマ	第２クール：チーム・ディスカッション②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「私たちが置かれている状況について考える」 社会環境や時代を考えてみましょう。ディスカッションにより、気づきを得ます。 オリジナルコンテンツ
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00)
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	第２クール：ファシリテーション・ワーク②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「デザインコピー」 設計図を元に模型を組み立てます。グループで協力して取り組んでください。このグループワークから、コミュニケーションに必要な要素を考えていきます。 テキスト p.112-113
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00)
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	【PC必携】第２クール：プレゼンテーション・スキル②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	効果的なプレゼンテーション資料の作り方を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第12回のプレゼンの資料の作成を進めてください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	第２クール：コミュニケーション・スキル②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「観察する」 私達が普段どのようなコミュニケーションをしているのかを観察してみましょう。 テキスト p.47-53
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00)
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	授業テーマ	第３クール：チーム・ディスカッション③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「多様性とは？」 多様性を考えてみましょう。 オリジナルコンテンツ
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00) 次週のプレゼンで使用するパワーポイントファイルをUSBに入れて、USBを持ってきてください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	授業テーマ	【USB必携】第３クール：プレゼンテーション・スキル③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「ショートプレゼン・効果的に大勢の人の心に伝える」 あなたの興味のある題材について、短いスピーチをしてみてください。うまくプレゼンする必要はありません。あなたらしいプレゼンをしてみてください。

		オリジナルコンテンツ
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00)
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	授業テーマ	第３クール：コミュニケーション・スキル③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「ジョハリの窓」 自己分析のワークをしてみましょう。 テキスト p.60-63
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00)
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	授業テーマ	まとめのファシリテーション・ワーク 7/22
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「共に成長する」 ロールプレイのワークを行います。 テキスト p.141-147
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00)
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	授業テーマ	授業のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・コミュニケーションとプレゼンテーションに必要な知識と技術を振り返ります。 ・コミュニケーションを高めるために、今後どのようなことをしたら良いか具体的な目標を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アンケート（Google Form）に回答してください。
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

1. 第８回では、パワーポイントを利用したプレゼンの資料の作成方法を学びます。PCを持参してください。
2. グループワークに対する振り返りは、次週授業日の前日9:00までに回答してください。

学生へのフィードバック方法

Google Classroomの投稿機能を利用して、質問に対してフィードバックします。

評価方法

①演習への参加度（50%）
・ルーブリック評価します。
・ルーブリック表は、クラスルームに掲示します。
②振り返りの投稿（50%）
・グループワークに対する振り返りを評価します。
・振り返りの採点基準（ルーブリック表）は、クラスルームに掲示します。
———
定期試験は、ありません。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 K	思考・判断 K	関心・意欲・態度 V	技術・表現 A

	( )	( )	( )	( )
演習への参加度	○	○	○	○
振り返りの投稿	○	○	○	○

評価割合

①演習への参加度（50%）
②振り返りの投稿（50%）

使用教科書名(ISBN番号)

【教科書】実践 人間関係づくりファシリテーション ISBN 9784760826476
第３回から使用します。教員として生徒を指導する時や、将来職場の人間関係を調整する際にも、とても役に立ちます。長く使えるテキストです。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】様々な立場や状況の人々と意思疎通ができるコミュニケーションとプレゼンテーションが理解できている
【思考・判断】多種多様の情報を整理する力を身につけている。
【関心・意欲・態度】
栄養士・食の専門家として必要なコミュニケーションとプレゼンのスキルを身につける意欲・態度が養われている
【技能・表現】食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、開発企画に必要な基礎的な表現力を身につけている。

オフィスアワー

火曜日・２限と昼休み

学生へのメッセージ

・有意義で、役に立つ演習にしたいと思います。みなさんの積極的でポジティブな姿勢が授業を楽しくします。実りのある時間にしましょう。みなさんの建設的な意見も積極的に授業に取り入れてきます。
・ファシリテーションの技術は、ティーチングにもとても役に立つので、教職を目指す学生にもお勧めします。新指導要領において要求されているアクティブラーニングやコンピテンシーの概念について、体験的に学ぶことができると思います。
・仕事の70%は、対人関係の調製やコミュニケーションだと言われています（管理職は、90%以上）。コミュニケーションに必要なこと・スキルを、体験的に学んでいってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	企業で経験した人事管理やチーム形成マネジメントをもとに、人の心理行動を理解する方法や、効果的に人とコミュニケーションするため技術、さらにファシリテーション技術などを教授していきます。コンテンツについては、大学生が理解できる内容・レベルに調整しています。
アクティブ・ラーニング	○	本科目は、学生どうしのディスカッションやグループワークを中心とした内容となります。
情報リテラシー教育	○	マイクロソフト・パワーポイントの利用方法を学びます。
ICT活用	○	Google Classroomを活用します。

講義コード	G06007001
講義名	有機化学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	黒田　久夫	指定なし

ナンバリング

R11008M21

授業概要(教育目的)

【授業の概要】

・食科学コースの専門科目を理解するために必要な化学と有機化学の知識を習得します。具体的には、食品学総論・食品学実験・基礎栄養学・応用栄養学・生化学（総論）・代謝栄養学などの学びに役立ちます。

・高校で化学を学ばなかった方も理解できるように授業を進めます。ただし、化学を習得するには根気が必要なので、粘り強く勉強する必要があります。化学は、語学と似たところがあり、ある程度の暗記が必要になってきます。

・有機合成や分子軌道論など、食科学コースの専門科目を理解する上で直接必要の無い内容は扱いません。

・栄養素や食品成分を名称だけではなく、構造をベースに理解する力を養います。

【授業の形式】

・対面の講義です。全１４回です。

・履修が確定次第、座席を固定します。座席表は、クラスルームに掲載します。

・講義の理解度は、理解度チェックで確かめます。

・テキストの自主学習を中心とした教室外学習があります。

履修条件

1. PCを毎回持ってくること。マウスを用意し、接続しておくことを勧めます。PCが無いと授業に参加できない場合があるので注意してください。PCを忘れた場合は、各回で、成績から１点を減じます（１００点満点として）。

2. 分子模型を利用したワークがあります。分子模型は貸与します（購入の必要はありません）。

3. 食科学コース以外の方の履修を歓迎しますが、内容は一般教養的なものでなく、食科学コースの専門科目を理解するための実践的な内容になっています。教養としての化学を学びたい方は、教養の化学や基礎化学などの共通科目を履修してください。

4. 有機合成や分子軌道論など、食科学コースの専門科目を理解する上で直接必要の無い内容は

扱いません。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・化学と有機化学の基礎知識が習得できている。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	・栄養素や食品成分を名称だけではなく、構造も勉強したいという強いモチベーションがある。 ・化学と有機化学は覚えることも多数あり、習得が面倒な学問だが、それでも粘り強く習得したいという強いモチベーションがある。
技術・表現の観点 (A)	・化合物の構造式を読むことができる。 ・栄養素や食品成分を名称だけではなく、構造を説明できる。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本授業の学習目標・評価方法・予定を確認します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・本授業の学習目標・評価方法・予定の確認フォームとアンケートに回答してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	化学の基礎（１）元素
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・食品や人体に含まれる元素を学びます。 ・原子の構造を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・次回のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲を予習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	化学の基礎（２）分子
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・物質の種類と分類を学びます。 ・物質の分離方法を学びます。 ・物質の三態について学びます。 ・分子から成る物質について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・本日のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲をよく復習して、次週の授業の初めの復習テストの準備をしてください。 ・次回のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲を予習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	基本の分子（１）アルカン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・代表的なアルカンを学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・本日のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲をよく復習して、次週の授業の初めの復習テストの準備をしてください。 ・次回のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲を予習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分

第5回	授業テーマ	基本の分子（２）アルケンとアルキン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	炭素-炭素間に二重結合、三重結合のある分子について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・本日のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲をよく復習して、次週の授業の初めの復習テストの準備をしてください。 ・次回のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲を予習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	基本の分子（３）アルコール
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヒドロキシ基を有する分子について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・本日のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲をよく復習して、次週の授業の初めの復習テストの準備をしてください。 ・次回のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲を予習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	基本の分子（４）カルボン酸
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	カルボキシ基を持つ分子について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・本日のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲をよく復習して、次週の授業の初めの復習テストの準備をしてください。 ・次回のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲を予習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	基本の分子（５）アミノ酸
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アミノ酸について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・本日のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲をよく復習して、次週の授業の初めの復習テストの準備をしてください。 ・次回のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲を予習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	基本の分子（６）糖類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖類について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・本日のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲をよく復習して、次週の授業の初めの復習テストの準備をしてください。 ・次回のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲を予習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	基本の分子（７）脂肪酸

第10回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂肪酸について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・本日のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲をよく復習して、次週の授業の初めの復習テストの準備をしてください。 ・次回のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲を予習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	高分子（１）たんぱく質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	タンパク質について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・本日のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲をよく復習して、次週の授業の初めの復習テストの準備をしてください。 ・次回のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲を予習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	高分子（２）脂質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・本日のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲をよく復習して、次週の授業の初めの復習テストの準備をしてください。 ・次回のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲を予習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	高分子（３）炭水化物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	炭水化物について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期末試験の準備を進めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	期末試験・授業のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・期末試験を行います（筆記試験） ・授業のまとめを行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・授業で学んだことを振り返り、理解できていなかった部分を確認してください。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

・PCを毎回持ってくること。マウスを用意し、接続できるようにしておくこと。PCを忘れた場合は、各回で、成績から１点を減じます（１００点満点として）。

・有機合成や分子軌道論など、食科学コースのの必修科を理解する上で直接必要の無い内容は扱いません。

・高校で化学を十分学んできた方には、前半は易しすぎる内容になるかも知れませんが、基礎固めとして、知識の穴をつぶしていってください。後半は、高校化学では学ばない内容が出て

きます。
・高校で化学を学ばなかった方も理解できるように授業を進めます。ただし、化学は根気が必要なので、簡単には知識は身につきません。粘り強く勉強する必要があります。知識の定着は、理解度チェックを利用して行います。

学生へのフィードバック方法

・理解度テスト等は、グーグルフォームを利用します。繰り返し解けるように設定しているので、繰り返し問題を解いて、知識を定着していってください。
・テキスト「高校やさしくわかりやすい 化学基礎」は、基礎から丁寧に記述されているワークブックで、一人で学習できます。十分に活用して勉強してください

評価方法

①授業への取り組み
・授業中の理解度チェックの正解率で評価します。グーグルフォームを利用します。
②教室外学習
・わかりやすい化学ワークブックの取り組みを次週の復習テストで評価します。グーグルフォームを利用します。
③期末試験
・授業全体の理解度をペーパーテストで評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
①授業への取り組み	○	○	○	
②教室外学習	○	○	○	
③期末試験	○	○		○

評価割合

①授業への取り組み（35%）
②教室外学習（35%）
③期末試験（30%）

使用教科書名(ISBN番号)

・高校やさしくわかりやすい 化学基礎
https://www.bun-eido.co.jp/detail/detail/24447/
このテキスト（ワークブック）は、第２回の教室外学習から使用します。準備をしておくこと。
・理系のリテラシースキル（グーグルクラスルーム）クラスコード：ivice5a
理系の知識をまとめた辞書のようなクラスルームです。どなたでも参加できます。

参考図書

・各種データベースや資料などをクラスルームに紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
・食と栄養の科学を理解する上で必要な化学と有機化学の基礎知識を習得し、生活にかかわる知識を多面的に身に付けている。
【関心・意欲・態度】
・食と栄養の科学の深い学びをもとに、地域・社会の多様な人々の食と健康に貢献する。
【技術・表現】
・栄養素や食品成分を名称だけではなく、構造を説明できることで、食生活を取り巻く様々な事象と関連性や課題を見出すことができる。
・上記で身につけた資質を、食生活と健康、食の安全性、食を通じての生活の質の向上を図るための指導に活かすことができる。人々が快適に生活できる持続可能な生活様式を企画・提案することができる。

オフィスアワー

金曜日・３限（会議等が入り不在にする場合があるので、面談を希望する場合は、必ずメールで予約を取ってください）

学生へのメッセージ

・本科目は、食科学コースの専門科目を理解する上で必要な化学と有機化学の知識を習得します。
・高校で化学を学ばなかった方も理解できるように授業を進めます。ただし、化学を習得するには根気が必要なので、粘り強く勉強する必要があります。暗記が必要なこともあります。
・栄養素や食品成分を名称だけでなく、構造を理解・説明できることを学習目標にしています。
・食事を作ることだけでなく、栄養の指導・啓蒙の仕事、食品の企画・設計・開発・製造の仕事、管理栄養士を目指す人に役に立ちます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	１方向の講義ではなく、理解度チェックや、教室外学習などを利用して、知識の習得を確かめながら授業を進めます。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	授業は、PCを用いて進めます。

講義コード	G06008001
講義名	分子生物学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	鈴木 美穂	指定なし

ナンバリング

R11009M21

授業概要(教育目的)

生命の基本であるセントラルドグマ、遺伝現象を司る遺伝子のはたらき、すなわちDNA・RNA・それらの構造と機能・遺伝情報の解読と利用のしくみ・遺伝情報の発現を学び、この遺伝情報の発現によって生産され、生命活動において機能するタンパク質のはたらきを中心に、生物の恒常性を担う、代謝やそれらの調節機構である信号伝達のしくみについて分子生物学的視点から詳しく解説し、その機構について明らかにしていく。さらにその機構に不具合が生じると起こる疾病や機構を利用した機能評価などについても学ぶ。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	生物を構成している主要物質について、構造・機能を説明できる 遺伝現象について、その原理を説明できる 核酸(DNAやRNA)、タンパク質、脂質、糖質など生体高分子の構造・機能について説明できる
思考・判断の観点 (K)	生命維持に関わる物質について、構造や所在からその機能を類推することができる 生物の恒常性に関わる物質について、その構造と機能から生体内で起こる総括的な生命現象を類推することができる 食物に関してなされる遺伝子に関する科学技術について、その意義・問題点等を評価・批判することができる
関心・意欲・態度の観点	生物の恒常性に関わる物質を摂食によって得られる要素やその代謝によってなされる生命維持との関連付けができ、食に関する興味・関心をもつことができる

(V)	遺伝子に関わる技術が人間社会におよぼす影響について関心をもつことができる
技術・表現の観点 (A)	摂食とそれに関連する生命活動が理解できる様になり、それによって引き起こされる社会現象を自身の言葉で表現できる

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の流れについて説明する。授業毎に出される課題やその解説、特別課題の位置付けと今後この授業を受講するにあたっての心構えや予習、復習などについて説明し、高校の化学、あるいは生物で履修した生体高分子の構造と機能を復習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	高校の化学、あるいは生物で履修した生体高分子の構造と機能を復しておく。
	教室外学習の時間（分）	240
第2回	**授業テーマ**	セントラルドグマとは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生物の基本である生命の基本であるセントラルドグマ、遺伝現象を司る遺伝子のはたらき、すなわちDNA・RNA・それらの構造と機能・遺伝情報の解読と利用のしくみ・遺伝情報の発現を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の課題で分からなかった点を理解する様努める。また、シラバスの内容から予め必要と思われる知識を教科書を基に予習する。授業後は課題に取り組むことで授業の理解を客観的に考え、理解が追いつかなかった点は次回の課題解説で理解する様に努める。
	教室外学習の時間（分）	240
第3回	**授業テーマ**	タンパク質の機能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	遺伝情報の発現によって生産される機能性タンパク質：ヘモグロビンやミオグロビンや構造性タンパク質：コラーゲンやアクチン、チューブリンにつてその違いと生物おける役割を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の課題で分からなかった点を理解する様努める。また、シラバスの内容から予め必要と思われる知識を教科書を基に予習する。授業後は課題に取り組むことで授業の理解を客観的に考え、理解が追いつかなかった点は次回の課題解説で理解する様に努める。
	教室外学習の時間（分）	240
第4回	**授業テーマ**	酵素の構造とはたらき
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生体触媒と言われる酵素のタンパク質としての構造と機能する仕組みを理解する。また、バイオテクノロジーにおいてそれらがどの様に利用されているかも学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の課題で分からなかった点を理解する様努める。また、シラバスの内容から予め必要と思われる知識を教科書を基に予習する。授業後は課題に取り組むことで授業の理解を客観的に考え、理解が追いつかなかった点は次回の課題解説で理解する様に努める。
	教室外学習の	

	時間（分）	240
第5回	授業テーマ	脂質と生体膜
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生体膜は脂質二重膜でできている。その構成成分や膜の特徴について理解し膜の機能を理解する。特に重要な構成成分である膜タンパク質の分類や生体膜との関わりについて深く理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の課題で分からなかった点を理解する様努める。また、シラバスの内容から予め必要と思われる知識を教科書を基に予習する。授業後は課題に取り組むことで授業の理解を客観的に考え、理解が追いつかなかった点は次回の課題解説で理解する様に努める。
	教室外学習の時間（分）	240
第6回	授業テーマ	膜輸送とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	膜輸送は生体膜を介した物質の流通である。生体分子は分子量や物性に応じて生体膜を通過できず、それらを輸送する膜タンパク質が存在している。その意義と膜輸送を介したエネルギー論を示し、生物がこの様な仕組みをもっているかと理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の課題で分からなかった点を理解する様努める。また、シラバスの内容から予め必要と思われる知識を教科書を基に予習する。授業後は課題に取り組むことで授業の理解を客観的に考え、理解が追いつかなかった点は次回の課題解説で理解する様に努める。
	教室外学習の時間（分）	240
第7回	授業テーマ	膜輸送
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生体膜を介した膜輸送の種類（受動輸送、能動輸送）を紹介し、その仕組みの理解と生物がどの様に使い分けているのかを具体例を示しながら理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の課題で分からなかった点を理解する様努める。また、シラバスの内容から予め必要と思われる知識を教科書を基に予習する。授業後は課題に取り組むことで授業の理解を客観的に考え、理解が追いつかなかった点は次回の課題解説で理解する様に努める。
	教室外学習の時間（分）	240
第8回	授業テーマ	シグナル伝達の基礎
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シグナル伝達とは何か、生物が物質ではなく情報のやり取りをするその仕組みと伝達経路の特徴を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の課題で分からなかった点を理解する様努める。また、シラバスの内容から予め必要と思われる知識を教科書を基に予習する。授業後は課題に取り組むことで授業の理解を客観的に考え、理解が追いつかなかった点は次回の課題解説で理解する様に努める。
	教室外学習の時間（分）	240
	授業テーマ	シグナル伝達の具体例
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報	

第9回	リテラシー教育・ICT活用を含む)	シグナル伝達に関連する伝達経路を分類し、その具体的な例を示すことでシグナル伝達の理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の課題で分からなかった点を理解する様努める。また、シラバスの内容から予め必要と思われる知識を教科書を基に予習する。授業後は課題に取り組むことで授業の理解を客観的に考え、理解が追いつかなかった点は次回の課題解説で理解する様に努める。
	教室外学習の時間（分）	240
第10回	授業テーマ	シグナル伝達と感染症及びがん
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	シグナル伝達に関連する伝達経路に細菌、ウイルスがどの様に関わり感染症を引き起こすのか、また複雑に調節される伝達経路にどの様な不具合が生じるとがんになるのかをシグナル伝達の理解に基づき解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の課題で分からなかった点を理解する様努める。また、シラバスの内容から予め必要と思われる知識を教科書を基に予習する。授業後は課題に取り組むことで授業の理解を客観的に考え、理解が追いつかなかった点は次回の課題解説で理解する様に努める。
	教室外学習の時間（分）	240
第11回	授業テーマ	代謝調節とエネルギー論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	代謝とは何か。分解と合成、異化と同化の意義を学ぶ。また代謝によって得られる生命維持に必要なエネルギーの種類や生産方法、その利用の仕方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の課題で分からなかった点を理解する様努める。また、シラバスの内容から予め必要と思われる知識を教科書を基に予習する。授業後は課題に取り組むことで授業の理解を客観的に考え、理解が追いつかなかった点は次回の課題解説で理解する様に努める。
	教室外学習の時間（分）	240
第12回	授業テーマ	哺乳類の代謝調節とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	代謝回路の代表として糖代謝を中心に脂質代謝、タンパク質代謝を学びさらにはそれらがどの様に関係して個体全体として成立しているかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の課題で分からなかった点を理解する様努める。また、シラバスの内容から予め必要と思われる知識を教科書を基に予習する。授業後は課題に取り組むことで授業の理解を客観的に考え、理解が追いつかなかった点は次回の課題解説で理解する様に努める
	教室外学習の時間（分）	240
第13回	授業テーマ	哺乳類の代謝調節と回路
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	糖、脂質、タンパク質代謝によって得られるエネルギーやその代謝回路を個体として調整するホルモンについて学ぶ。さらにそれらの代謝回路の障害と引き起こされる疾病に関してその関連性を理解する。
	教室外学習(予	前回の課題で分からなかった点を理解する様努める。また、シラバス

	習・復習)の内容	の内容から予め必要と思われる知識を教科書を基に予習する。授業後は課題に取り組むことで授業の理解を客観的に考え、理解が追いつかなかった点は次回の課題解説で理解する様に努める。
	教室外学習の時間（分）	240
第14回	**授業テーマ**	総復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業における学習内容を振り返ってダイジェストで解説を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	今までの授業内容を復習し，重要な項目について理解を深めておく。疑問の点があればこの授業で解決できる様努力する。それでも理解が追いつかなかった場合は直接もしくはメール等で質問をし，解決しておくようにする。
	教室外学習の時間（分）	240

学習計画注記

授業で分かりにくかった点や授業毎に出される課題の不明点をそのままにせず、担当教員への授業後の直接の質問及びメール等を利用した積極的な質問を奨める。

学生へのフィードバック方法

授業の理解度を確認するため、毎授業理解度課題を課す。その課題の解答は次の授業の冒頭に改めて説明する。また授業の冒頭では前回の授業をダイジェストで復習し、反復学習とする。
授業折り返し地点でアンケートを実施し、進行度に関する意見を収集し、その結果を後半の授業の進行に反映させる。
授業直後の30分間は質問があれば対応する。

評価方法

授業に積極的に参加しているか（平常点）。
アンケートに回答したか（アンケート）。
授業毎に出される課題としっかり向き合い理解度を客観的に捉えようとしているか（課題点）。
分子生物学的な知識を十分に得て、それをもとにした、代謝やエネルギー論に関する課題に応用することができるか（特別課題点）
分子生物学、それを基に展開される生化学、生命現象に関連した技術の利点・問題点等を理解しているか（定期試験）。
平常点及びアンケートから関心・意欲等を中心に評価する。特別課題点から思考・判断並びに技術・表現を中心に評価する。
課題点、定期試験により知識・理解を中心に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
課題点	○		○	
アンケート			○	○
特別課題点	○	○	○	○
定期試験	○	○		

評価割合

平常点10%，授業毎度課題20%、特別課題20%、定期試験50%。

(ISBN　　)

使用教科書名　　番号

エッセンシャル生化学 第３版 東京化学同人
9784807909193

参考図書

ヴォート基礎生化学 第５版 東京化学同人
9784807909254
バイオサイエンスのための物理化学 第５版 東京化学同人
9784807908806

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境は遺伝子の働きとそれに基づく代謝やエネルギー論をを理解することでより正確に捉えることができます。
【思考・判断】多様・大量の情報を整理し、客観的な判断ができるような基礎力が身につきます。
【関心・意欲・態度】食生活を取り巻くさまざまな事象について関心をもち、自ら課題を見いだし、その解決に意欲的に取り組むことができます。
【技術・表現】変化する食環境の理解が速やかに行われ自身の表現として発信できます。

学生へのメッセージ

生物に関連した学問分野は分子生物学に留まらず、生化学、生物物理学、細胞生物学など近年とても発展しており、日々新しい発見が生まれています。その知見を応用した技術は、くらしを便利にしたり、病気を治したりすることに加え、人間の生まれ持った個性や寿命にまで影響するような段階に来ています。また、食環境もそれらに応じて刻々と変わっていっています。本講義を受講して、これらの知識・技術の基本を理解し、その有用性と問題点について理解を深めて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	分子生物学関連の授業に携わって10年程度になりますが、この間、鳥インフルエンザ、オーバードーズ、新型コロナなど時々の話題を盛り込んで展開しています。取り上げて欲しい話題があれば申し出てください。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	予め教材をアップロードしておくので，各自PC等にダウンロードして授業に臨んでもらいます。毎回の課題や特別課題もアップロードしますので各自こちらから提出をお願いします。

講義コード	G06009001
講義名	統計学演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	黒田 久夫	指定なし

ナンバリング

R11004M12

授業概要(教育目的)

【授業の概要】統計の基礎概念を理解し、計算方法を習得します。最終的には、実験データや社会調査結果がどのように数値化され、意味付けられているかを理解します。疫学統計の考え方も紹介していきます。
【授業の形式】
・本授業は集中授業となります。授業予定は、クラスルームに掲示します。
・PCを用いた演習問題に取り組みます。
・グループワークが２回あります。

履修条件

【2025年度の授業は、集中授業となります】
授業予定（日程）は、追ってお知らせします。対面と課題型を組み合わせて進める予定です。
【履修の各条件】
1. 対面授業では、PCを毎回必ず持参してください。マウスも用意して、PCに接続できるようにしてください。エクセルを用いて、統計量の計算を行いますので、エクセルを必ずPCにインストールしてきてください。
2. PCは、Macも可能ですが、授業ではWindowsを用いて進めます。また、一部、Macでは対応していない機能を用いることがあります。
3. テキストは、第３回から使用しますので、それまでに用意しておいてください。
【エクセルのPCへのインストールについて】
大学のMicrosoft 365 Appsが無料で利用できます。ID, パスワードを忘れた人は、町田業務部に確認してください。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・統計学の基本的な考え方と計算方法が理解できている ・エクセルの操作方法を理解できている。

思考・判断の観点 (K)	・数値やグラフの意味を判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・印象や主観のバイアスにとらわれず、データを数値から解析し、確からしさを判断できる。
技術・表現の観点 (A)	・初歩的な統計の計算ができる。 ・数値データの意味を文章で説明できる。 ・エクセルを用いて、統計量を計算できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス／PCとGSuiteへのログイン／中学と高校の数学の振り返り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・本授業の学習目標・評価方法・予定を確認する。 ・統計と栄養学に必要な中学と高校の数学について理解度を確認する。 ・統計学を学ぶ目的を確認する。 ・GSuiteの利用法を確認する。 ・PCの基本的な使い方を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本授業の学習目標・評価方法・予定を良く確認して、履修するかどうかを決定してください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	**授業テーマ**	エクセルの基本演算の習得
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Microsoft Excelの操作と、基本演算子の使い方を習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組み、提出すること
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	**授業テーマ**	データの種類と尺度／基本統計量／データの図表化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・データの種類を理解し、データの種類によってどのような統計量や図表を利用したら良いのかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組み、提出すること
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	**授業テーマ**	度数分布とヒストグラム／相関解析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・エクセルを用いて、データの基本統計量の計算や図表の作成を習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組み、提出すること
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	**授業テーマ**	母集団と標本／統計的仮説検定とp値／統計処理のフローチャート
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・母集団と標本の概念や、標本の分布について学ぶ。 ・統計的仮説検定の概念と、p値の考え方を理解する。 ・数値データが得られた後に、どのような統計処理をしたらよいのかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組み、提出すること
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	【グループワーク１】与えられたデータの分析（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報	・食と栄養に関するデータを与えるので、班で協力し

第6回	リテラシー教育・ICT活用を含む)	てデータ分析して、与えられた質問に回答すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組み、提出すること
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	2つの平均値の比較
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	・２つの平均値を比較する手法を学ぶ。 ・エクセルを用いて、t検定ができるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組み、提出すること
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	分散分析と多重比較（その１）
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	・分散分析と多重比較の計算方法を学ぶ。 ・エクセルを用いて、分散分析表を作成することができるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組み、提出すること
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	分散分析と多重比較（その２）
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	・エクセルを用いて、多重比較の計算ができるようになる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組み、提出すること
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	授業テーマ	実験計画とクロス集計
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	・実験計画法を学びます。 ・クロス集計に関する注意点を学びます。 ・統計ソフトのクロス集計の機能を紹介します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組み、提出すること
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	授業テーマ	カイ２乗検定／相関係数の検定
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	・カイ２乗検定を学びます ・相関係数の検定を学びます
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組み、提出すること
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	授業テーマ	栄養学・疫学と統計
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	・栄養学や疫学で使われている統計情報について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組み、提出すること
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	授業テーマ	【グループワーク２】与えられたデータの分析（２）
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	・食と栄養に関するデータを与えるので、班で協力してデータ分析して、与えられた質問に回答すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組み、提出すること
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	期末試験／授業のまとめ

第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・これまで学んだ統計手法について復習します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期末試験の準備をしてください。
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

・グループワークが２回あります。
・３年生、４年生の参加も歓迎します。

学生へのフィードバック方法

教室外学習の解答に質問があった場合は、回答します。

評価方法

・授業への参加度
・教室外学習
・期末試験
授業の参加度は、ルーブリック評価をします。クラスルームに掲示しますので、確認してください。
期末試験の一部は、教室外学習から出題します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業への参加度	○	○	○	○
教室外学習	○	○	○	○
期末試験	○	○		○

評価割合

・授業への参加度（30%）
・教室外学習（30%）
・期末試験（40%）

使用教科書名(ISBN番号)

『よくわかる心理統計』（ISBN-13: 978-4623039999）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】実験や研究に必要な統計の基礎的な知識が理解できている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている
【関心・意欲・態度】
・食生活を取り巻く様々な事象について、データを元に課題を見出すことができる。
【技能・表現】データを統計の手法を用いて分析できる。

オフィスアワー

授業後

学生へのメッセージ

・ものごとを数値で評価する利点は、主観や印象に基づいた偏り（バイアス・独りよがりな解釈）や誤差（間違い・勘違い）を少なくすることです。統計を学んでおくと、官能検査、疫学調査、社会調査のデータの信頼性を「確からしさ（確率）」で論じ、正しさの根拠を示すことができるようになります。
・本授業では、数学的要素をなるべく少なくして、統計の手法をどのように利用するかを学んでいきます。この授業で学んだことは、実験や卒業研究にかなり役立ちます。

・エクセルソフトウェアは、ワード・パワーポイントと並んで必須のICTスキルになっています。この授業でスキルをマスターしてください。例年、エクセルやPCに強くなれて良かったとの感想をいただいています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	数理統計について、ディスカッションしながら理解する回が２回あります。
情報リテラシー教育	○	統計情報の分析方法を学びます。
ICT活用	○	エクセルソフトウェアの使い方を習得します

講義コード	G06010001
講義名	基礎サイエンス実験
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

R11010M13

授業概要(教育目的)

・食と栄養の科学を理解するために必要な化学・生物学・数学・物理学の基礎を習得し、２年次より始まる専門科目（講義・演習）を単位修得するための力を身につける。
・化学・有機化学・生化学の基本的な実験技術を習得し、２年次より始まる専門科目（実験）を単位修得するための力を身につける。
・クリティカルシンキングや、仮説構築と検証など、科学的な思考力をトレーニングする。
・ラボノートの記帳や研究倫理についても学習し、卒業研究に至る専門科目の学びの基盤を築く。

履修条件

1. 実験では、頭髪・爪・服装（アクセサリーの着用）・履物について条件があります。
2. 実験では、事故や怪我を起こさないように、体調管理を整えて参加してください。安全上問題があると判断した場合は、退席していただく場合があります。
3. 実験では、酸・アルカリ・有機溶媒などの試薬を使用します。ガラス器具や分析機器を利用します。
4. 実験ノートを用意してください。リング式ノートやルーズリーフは不可です。方眼タイプが良いです。ラボノートが一番適しています。
5. PCを毎回持ってきてください。マウスも用意して、PCに接続できるようにしてください。ワード・エクセルをインストールしておくこと。第1回から、持ってきてください。忘れた場合は、ペナルティーがあります（各回成績から１点を減じます）。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	食と栄養の科学を理解するために必要な化学・数学・生物学・物理学の基礎が習得できている。
思考・判断の観点 (K)	科学的根拠に基づいて、データの解釈ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食と栄養の科学を深く、本質的に理解しようとする関心・意欲・態度が養われている。
技術・表現の観点 (A)	実験技術の基礎が習得されている。 基礎的な実験データを解析し、解釈することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・学習目標、予定、評価方法を確認します。 ・食と栄養の科学を理解するために必要な高校理科の理解度チェックを行います。 ・実験ノートの記載方法について説明します。 ・蒸留水を用いて、ビュレット・ホールピペット・ピペットマンの操作を練習します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ビュレットとホールピペットの操作に関する動画を視聴し、操作方法をノートに記帳してください。
	教室外学習の時間(分)	30分
第2回	**授業テーマ**	物理学と数学の基礎
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・SI単位、温度、圧力、物質の状態、エネルギー、速度、電流と電気などの基本的な概念と計算方法について学びます。 ・エクセルを用いた四則演算・指数関数・対数関数・基本的な統計量の計算、散布図と近似式の作図を学びます。 ・栄養士養成施設の必修科目である生化学、食品学、調理学などを理解するために、物理学と数学の基礎がどのように役に立つのか、理解が必要なのかを説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・理解度チェックで不正解だった問題について、復習してください。
	教室外学習の時間(分)	30分
第3回	**授業テーマ**	化学の基礎
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・食と栄養の科学を理解するために必要な化学の基礎を学びます。 ・食と栄養の科学に登場する元素記号と元素名を覚えます。 ・分子模型を用いて、基本的な有機化合物の構造と官能基について理解します。 ・栄養士養成施設の必修科目である生化学、栄養学、食品学、調理学、食品衛生学などを理解するために、化学の基礎がどのように役に立つのか、理解が必要なのかを説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・理解度チェックで不正解だった問題について、復習してください。
	教室外学習の時間(分)	30分
第4回	**授業テーマ**	生物学の基礎
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・生物の分類の基礎を学びます。 ・植物と動物の構造と機能の基礎を学びます。 ・細胞の構造と機能を学びます。 ・顕微鏡で、植物と動物の細胞の構造の違い、臓器・組織による細胞の構造を観察します。 ・栄養士養成施設の必修科目である解剖生理学, 食品衛生学、食品学などを理解するために、生物学の基礎がどのように役に立つのか、理解が必要なのかを説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・理解度チェックで不正解だった問題について、復習してください。 ・次回の実験マニュアルを確認してください。
	教室外学習の時間(分)	30分
	授業テーマ	脂肪酸の構造と性質

第5回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・脂肪酸の基本的な構造を分子模型で理解します。 ・脂肪酸の構造と融点の関係について実験を通して学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・実験ノートを良く確認し、書かれていない情報を記帳して、完成させてください。 ・次回の実験マニュアルを確認してください。
	教室外学習の時間(分)	30分
第6回	授業テーマ	有機化合物の分離と同定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	薄層クロマトグラフィーを用いて植物性食品に含まれる色素を分離・同定します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・実験ノートを良く確認し、書かれていない情報を記帳して、完成させてください。
	教室外学習の時間(分)	30分
第7回	授業テーマ	有機化学のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実験で学んだ有機化学を復習し、２年次以降に始まる専門科目の学びを準備します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・次回の実験マニュアルを確認してください。
	教室外学習の時間(分)	30分
第8回	授業テーマ	モルの計算と試薬調製
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	一定のモル濃度を有する試薬の調製方法を習得します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・実験ノートを良く確認し、書かれていない情報を記帳して、完成させてください。 ・次回の実験マニュアルを確認してください。
	教室外学習の時間(分)	30分
第9回	授業テーマ	中和滴定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・中和滴定の原理と実験方法を学びます。 ・中和の公式と、計算方法を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・実験ノートを良く確認し、書かれていない情報を記帳して、完成させてください。 ・次回の実験マニュアルを確認してください。
	教室外学習の時間(分)	30分
	授業テーマ	pH
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・pHとpHの測定について学びます。 ・緩衝作用について学びます。

第10回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	・実験ノートを良く確認し、書かれていない情報を記帳して、完成させてください。 ・次回の実験マニュアルを確認してください。
	教室外学習の時間(分)	30分
第11回	**授業テーマ**	分析化学のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・分析化学の基礎を復習し、基本的な計算ができるようにします。 ・エクセルを用いた実験データ（数値）の解析方法を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・実験ノートを良く確認し、書かれていない情報を記帳して、完成させてください。
	教室外学習の時間(分)	30分
第12回	**授業テーマ**	アミノ酸のニンヒドリン反応
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・アミノ酸の同定法を学びます。 ・分光光度計の原理と測定方法を学びます。 ・アミノ酸の定量方法と計算を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・次回の実験マニュアルを確認してください。
	教室外学習の時間(分)	30分
第13回	**授業テーマ**	酵素反応
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・α-アミラーゼの酵素活性を測定します。 ・酵素反応速度論の初歩を理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・実験ノートを良く確認し、書かれていない情報を記帳して、完成させてください。
	教室外学習の時間(分)	30分
第14回	**授業テーマ**	理解度テスト・授業のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでに学んできた知識が定着しているかを確認します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	理解が不足していた分野を良く復習しておいてください。
	教室外学習の時間(分)	60分

学習計画注記

PCを毎回持参してください。資料の確認や、実験データの解析に利用します。

学生へのフィードバック方法

・実験ノートを適宜確認して、理解度を確認します。

評価方法

・授業への参加度
・理解度テストと小テスト
授業への参加度は、ルーブリック評価します。ルーブリック表は、クラスルームに掲載しま

す。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業への参加度	○	○	○	○
理解度テストと小テスト	○	○	○	○

評価割合

・授業への参加度（70%）
・理解度テストと小テスト（30%）

使用教科書名(ISBN番号)

・理系のリテラシースキル（グーグルクラスルーム）クラスコード：ivice5a
・マニュアル等のpdfや、解析用のエクセルシートは、メール添付でGmailで送付します。

参考図書

高校の理科の理解が不十分だと感じた方へ、以下のテキストをお勧めします。ワークブック形式で、独学しやすいです。
高校わかりやすいシリーズ
化学 https://www.bun-eido.co.jp/store/detail/24362/
生物 https://www.bun-eido.co.jp/store/detail/24361/

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】食と栄養の科学を理解するための基礎知識を習得します。
【思考・判断】科学的思考力を習得します。
【関心・意欲・態度】食と栄養の科学を深く、本質的に理解するモチベーションを養います。
【技能・表現】実験データを解析する基礎的な力を習得します。

オフィスアワー

火曜・５限

学生へのメッセージ

２年次以降の食物学科の専門科目を単位修得するには、高校で学んだ理科の知識が不可欠です。近年、解剖生理学や生化学など、栄養士養成施設の必修科目の単位修得が困難な学生が増えています。理由は、試験が合格できない、授業が理解できないので欠席が続くなどです。理系の勉強の基礎ができていないことが、大きな理由だと思います。高校で化学・生物学・数学・物理学が十分学べなかった方、学んだけれど良く分かっていないと感じている方は是非履修してください。基礎から、丁寧に説明していきます。また、管理栄養士を目指す方も、国家試験の解剖生理学や生化学の試験問題を突破するには、基礎力が求められるので、是非受講してください。近年、化学構造を問う問題なども出題されています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	・暗記ではなく、理解を目的として授業を展開します。クラスルームの資料の確認や、グーグルフォームの理解度チェックなどを主体的に取り組んでいきます。 ・実験では、グループで取り組む内容もあります。
情報リテラ		

シー教育	○	科学・栄養・食品に関するwebの資料やデータベースを利用します。
ICT活用	○	エクセルを使いこなすための基礎を養います。

講義コード	G06011001
講義名	食と語学Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

R11011M12

授業概要(教育目的)

栄養・食の専門家としてグローバルな視野を持つために、「食」をキーワードにコミュニケーション能力・外国語運用能力を有する学びを展開する。「食」をグローバルに発信できるスキルを身に着ける。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	「食」に関連した日常会話や専門知識の基礎的な会話の場面を想定して、英語でコミュニケーションを取れる
思考・判断の観点 (K)	食や栄養教育の領域に特徴的な表現や考え方を理解すると共に、食に関連する文化的、社会的な相違を認識できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	コミュニケーションを積極的に行う姿勢を身につけ、自己表現のための英語の表現や技術の習得に意欲を持って臨む
技術・表現の観点 (A)	常に実生活や将来の職場や社会生活を念頭に学びを深めると同時に、そこで必要とされる食に関連した英語の表現や技術を自発的に学ぶ方法を身につける

学習計画

第1回	**授業テーマ**	Meeting People
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	英語で自己紹介をする。大学での勉強のことや、大学外での自分のこと、興味のあること等を英語で会話をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	Talking about the Kitchen (1)

第2回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1. 各種台所用品の英語を学ぶ。 2. 台所用品の置き場所が説明できるようにするために、場所を表す前置詞や形容詞を学び、クラスメートと練習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	Talking about the Kitchen (2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回に続いて各種台所用品の英語を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	授業テーマ	Likes and Dislikes
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1. 自分の食べ物の好き嫌いを英語で話せるようにし、クラスメートと練習する。 2. 人の話したことへの肯定、否定の返答の表現を学び、練習する。 3. クラスメートと相談しながら、自分の興味ある日本、その他の国の料理をインターネット等で調べ、次回の授業で英語で発表できるように準備をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。 学習内容の3を完成させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	1. 自分が興味がある料理についての英語での発表。（発表①） 2. Ordering Food: What Do We Need?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1. 自分が興味を持っている料理を英語で発表する。内容と聞き取り易さの2面から評価する。 2. 食品の買い物を例にして、各種食品の数の数え方、量の計り方を学ぶ。（可算名詞、不可算名詞の学習）
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	At a Restaurant
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1. レストランでの注文の場面の英語を学び、練習する。 2. 自分の好きなレストランについて、英語で紹介できるようにする。（次回で発表）
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。 学習内容2を完成させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	1. 自分の好きなレストランについての英語での紹介 2．Cooking
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	1. 前回の授業で作成した自分の好きなレストランの英語での紹介を発表する。（発表②）

第7回	育・ICT活用を含む)	2. 具体的な調理手順を英語で聞き、話せるようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。
	教室外学習の時間(分)	50分
第8回	授業テーマ	Recipes
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1. 英文レシピを読めるようにする。 2. 自分で料理を選んで英文レシピを作成する。（次回で発表）
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。 学習内容2を完成させておくこと。
	教室外学習の時間(分)	50分
第9回	授業テーマ	1. 自分で作成した英文レシピの発表 2. Giving Dietary Advice
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1. 前回の授業で作成した英文レシピの発表をする。（発表③） 2. 栄養指導で重要となる英語を学び、練習する。 3. 食品各種のグリセミック指数（血糖指数）を学ぶ。 4. 「～しなさい」、「～してはいけません」の英語を練習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。
	教室外学習の時間(分)	50分
第10回	授業テーマ	Talking about Diets (1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1. 食関係の場面を例として、英語での頻度の表し方を学び、練習する。 2. 日米のそれぞれの外食利用の頻度を比較する。 3. 頻度の表現を含めて、自分の食生活を英語で紹介できるようにする。（次回で発表）
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。 学習内容3を完成させておくこと。
	教室外学習の時間(分)	50分
第11回	授業テーマ	1. 自分の食生活についての発表 2. Researching Diet Information
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1. 前回の授業で作成した自分の食生活についての英語での発表をする。（発表④） 2. 食品各種の栄養価について英語で聞き、話せるようにする。 3. 食品の英語での栄養分析表を読む練習をする。 4. バランスの良い食生活のための食品チャートの日米の違いを知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。
	教室外学習の時間(分)	50分
	授業テーマ	Life as a Dietitian
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	栄養士の仕事内容を英語で説明できるようにし、将来自分が

第12回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	どのような栄養士として働きたいのか、を英語で作成する。（次回で発表）
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。 学習内容を完成させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	授業テーマ	1. 自分が将来どのような栄養士として働きたいのかの英語での発表 2. Talking about Diets (2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1. 前回の授業で作成した将来の希望についての英語での発表（発表⑤） 2. さらに食関係の英語を学ぶ。 3. 日本式朝食と西洋式朝食のそれぞれの長所と短所をクラスメートと相談しながら考え、英語で作成する。（次回で発表）
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。 学習内容3を完成させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	授業テーマ	1. 日本式朝食と西洋式朝食のそれぞれの長所と短所についての英語での発表 2. People with Special Dietary Needs
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1. 前回の授業で作成した日本式朝食と西洋式朝食のそれぞれの長所と短所についての英語での発表をする。（発表⑥） 2. 特別食が必要な人達のための栄養指導で使われる英語を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分

学生へのフィードバック方法

各授業でのコメントペーパーは必要に応じてクラスで共有または個人的に回答を行う。
毎回実施する小テストはその場で採点し、回答の説明、質疑応答をする。
英語によるプレゼンの前に、作成した文章はチェックして返却する。

評価方法

ルーブリックに基づいた評価（クラスルームに記載）
平常点（コメントペーパー、小テスト）
英語による発表（全6回、事前原稿のチェック）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○		○
英語による発表	○	○	○	○

評価割合

平常点 40%（各コメントペーパーの提出+小テストの得点）
英語による発表 10x6回＝60%

使用教科書名(ISBN番号)

Speaking of Nutrition（南雲堂、2017）978-4-523-17827-9

参考図書

必要に応じて授業時に提示します

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】世界での多様な食環境、食文化を知るとともに、日本食を英語で紹介し、基礎的な栄養指導ができる。
【思考・判断】食品各種の持つ栄養価についての英語による資料を理解し、日米の食生活の違いや栄養指導方法の違い等を考える。
【関心・意欲・態度】栄養士として英語で食に関する会話や栄養指導を行う、意欲的な態度や姿勢を養う。
【技能・表現】英語で基礎的な栄養指導や将来自分が目指す栄養士像の話、日本食の紹介や好きなレストランの紹介ができる。

学生へのメッセージ

いまや世界中の人々が日本の食文化や食習慣に関心を持ち、実際に経験したい（食べたい）ものとして注目されています。これからの社会で栄養士として活躍する皆さんはほぼ必ず、海外の人たちと食について専門的な話をする機会をもつことになるでしょう。この授業での経験はきっと役立ちます。間違えることを恐れず、積極的に取り組んでみてください！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	通訳のトレーニング方法を応用した学習法を取り入れます
アクティブ・ラーニング	○	クラスメートとの会話練習や共同作業、ディスカッション、発表など、受講生主体で実践的な授業です。
情報リテラシー教育	○	英語の資料やインターネットを使った調査など、多様な生の情報を取得し読み取って、適切に検証し活用する方法を学びます。
ICT活用		

講義コード	G06012001
講義名	食と語学Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	高橋 幸子	指定なし

ナンバリング

R21013M12

授業概要(教育目的)

科学をテーマに、関連する最新の研究成果や技術革新について、これまでに培った英語のコミュニケーション能力を一歩進んだものに引き上げることを目的とする。英語のリーディング力とライティング力を二つの柱としているが、リスニング力やスピーキング力も十分に運用できるようにする。トピックは、テクノロジー・環境・建築・生物・バイオサイエンス・都市計画・行動科学・人体・科学倫理など、多岐にわたる。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	科学の分野における英語の語彙と文法の知識を増やす。 母語とは異なる言語背景・文化背景のテキストを聴いたり読んだりして、理解する。
思考・判断の観点 (K)	科学における、英語を使った情報を整理し、多様な角度から検討した上で、論理的・客観的に自分の意見を述べるための批判的思考力をつける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	科学に関する英語表現に関心を持ち、理解しようと努める。 自分が感じたことや考えを英語で表現しようと努める。
技術・表現の観点 (A)	科学に関する英語で書かれたテキストを、正確に理解し、英語を使って、自分が分析したことや考えたことを表現できるようになる。

学習計画

		Session 1

第1回	授業テーマ	自己紹介 授業の進め方 No car, Happy life? Carless cities in Spain
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己紹介 授業の進め方を説明しながら、Unit 1 No car, Happy life? Carless cities in Spain の Reading を進めます。 Writingは、Paragraph structure and organization を説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Session 1 で学習したこと全てを復習 ライティング課題あり 次の Session の予習
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	授業テーマ	Session 2 Science fiction is not fiction: Building down and building underwater
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Reading: 建築 Writing: Introduction/Topic sentence
	教室外学習(予習・復習)の内容	Session 2 で学習したこと全てを復習 ライティング課題あり 次の Session の予習
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	Session 3 Save summer heat for winter: Air conditioning past and future
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Reading: 環境 Writing: Body/Supporting sentences
	教室外学習(予習・復習)の内容	Session 3 で学習したこと全てを復習 ライティング課題あり 次の Session の予習
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	授業テーマ	Session 4 Are you ready for cultured meat?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Reading: バイオサイエンス Writing: Conclusion/Concluding sentences
	教室外学習(予習・復習)の内容	Session 4 で学習したこと全てを復習 ライティング課題あり 次の Session の予習
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	Session 5 Good news: Ozone hole is recovering
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Reading: 環境 Writing: Organization 1 (time order)
	教室外学習(予習・復習)の内容	Session 5 で学習したこと全てを復習 ライティング課題あり 次の Session の予習
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	Session 6 Last wallet: Will you ever get it back?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘ	Reading: 行動科学

第6回	ﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Writing: Organization 2 (comparison & contrast)
	教室外学習(予習・復習)の内容	Session 6 で学習したこと全てを復習 ライティング課題あり 次の Session の予習
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	Session 7 I am a cyborg: How machines are meshing with humans
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Reading: 科学倫理 Writing: Organization 3 (cause & effect) Mini mid-term test 実施
	教室外学習(予習・復習)の内容	Session 7 で学習したこと全てを復習 ライティング課題あり 次の Session の予習
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	Session 8 Wireless powerrevolution: Smart pills and wireless power transmission
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Reading: テクノロジー Writing: Organization 4 (problem & solution 1)
	教室外学習(予習・復習)の内容	Session 8 で学習したこと全てを復習 ライティング課題あり 次の Session の予習
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	Session 9 The simple, free solution to myopia?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Reading: 人体・健康 Writing: Organization 5 (problem & solution 2)
	教室外学習(予習・復習)の内容	Session 9 で学習したこと全てを復習 ライティング課題あり 次の Session の予習
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	授業テーマ	Session 10 Why do zebras have stripes?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Reading: 生物 Writing: Writing by purpose (classification)
	教室外学習(予習・復習)の内容	Session 10 で学習したこと全てを復習 ライティング課題あり 次の Session の予習
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	授業テーマ	Placebo effect is real: Fake treatment do cure patient
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Reading: 人体・健康 Writing: Writing by purpose 2
	教室外学習(予習・復習)の内容	Session 11で学習したこと全てを復習 ライティング課題あり 次の Session の予習
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	Session 12 How smart are crows? They even enjoy skiing!
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Reading: 生物 Writing: Writing by purpose 3 (procedure & process 1)

第12回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	Session 12 で学習したこと全てを復習 ライティング課題あり 次の Session の予習
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	授業テーマ	Session 13 Fake scientific evidence: Can we distinguish science and pseudoscience?
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Reading: 科学倫理 Writing: Writing by purpose 4 (procedure & process 2)
	教室外学習(予習・復習)の内容	Session 13 で学習したこと全てを復習 ライティング課題あり 次の Session の予習
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	授業テーマ	Session 14 Pizza, milk and nursing food: All 3D-printed
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Reading: テクノロジー Writing: Writing in action 1 (writing a summary part)
	教室外学習(予習・復習)の内容	Session 14 で学習したこと全てを復習 ライティング課題あり Mini final test 実施
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

Session 7 で Mini mid-term test
Session 14 で Mini final test

学生へのフィードバック方法

学生から回収したコメントや質問は、必要に応じてクラスで共有する。
紙による Mid -term test は、返却する。

評価方法

以下の総合点から評価する。
・平常点（毎回の課題）ルーブリックによる基準を使用
ルーブリックは、Classroom に表示します。
・Mini mid-term test
・Mini final test

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
Mini mid-term t	○	○		○
Mini final test	○	○		○

評価割合

平常点（毎回の課題）50%
Mid-term test 20%
Final test 30%

使用教科書名(ISBN番号)

Our Science, 978-4-7919-7264-7

参考図書

各自今まで使用していた辞書
必要な資料は適時配布します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】科学における英語の言語的知識を増やす。トピックの背景にあるものを理解する。
【思考・判断】科学において、英語で得た新しい情報を、今まで持っている情報と比べて、相違点や一致点を判断する。
【関心・意欲・態度】科学の世界の考え方に関心を持つ。英語で書かれたテキストや情報を理解し、自らのことばで考えたことを発信しようと努める。
【技能・表現】科学分野の英語において、正確に、適切に、一貫性のある理解と表現をする。

オフィスアワー

水曜の４限

学生へのメッセージ

母語でない言語を使って、何かを理解したり、自分の感じたことや考えたことを表現できることは、楽しいものです。具体的な目標を作って、楽しく学習しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実生活に密着した受業の展開
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを中心とした学生主体の受業展開
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Webを利用した授業外活動

講義コード	G06013001
講義名	社会福祉学概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

R11006M21

授業概要(教育目的)

社会福祉の意味と理念、社会福祉の原理、社会福祉を取り巻く環境を理解した上で、社会福祉の展開、社会福祉を支える仕組みや専門職、方法論、社会保障、高齢者やこどもの福祉など、社会福祉全般について講義する

履修条件

この授業は、他学科との合同授業のため、千代田三番町キャンパス、町田キャンパス双方で、交互（隔週）に対面授業、オンライン授業（同時配信）を行います。このため、オンライン授業の回は各自のパソコン等で受講することになりますので必ずパソコンを準備しておいてください。なお、大学で用意した教室で受講することも、自宅などの学外で受講することも可能です。
その具体的なスケジュールは学期初めに示しますが、第1回授業は千代田三番町キャンパス・対面授業、町田キャンパスはオンライン授業で行う予定です。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	社会福祉の意味と理念、社会福祉の原理、社会福祉の歴史的展開、社会福祉を支える仕組みや専門職、方法論、社会保障、高齢者やこどもの福祉について説明できる
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会福祉分野に対する関心が持てる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

現代社会における社会福祉の意味と意義を考える

	授業テーマ	社会福祉の基礎概念（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	社会福祉の意味とライフステージごとの福祉課題及び理念

第1回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（ノーマライゼーションなど）が理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第2回	授業テーマ	社会福祉の基礎概念（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「社会生活の原理」と「バイステックの7原則」双方の原理を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第3回	授業テーマ	社会福祉を取り巻く環境（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	少子高齢化社会の現状と課題について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	少子化、高齢化の状況を調べておく
	教室外学習の時間（分）	195分
第4回	授業テーマ	社会福祉を取り巻く環境（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家族の現状や地域社会の特性・動向について理解するとともに、それぞれの課題についても併せて理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	世帯の状況を調べておく。配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第5回	授業テーマ	わが国における社会福祉の展開（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	明治期から大正期において、どのような社会福祉が展開されてきたかを理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト31～36ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく
	教室外学習の時間（分）	195分
第6回	授業テーマ	わが国における社会福祉の展開（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	昭和期から現在に至るまで、どのような社会福祉が展開されてきたかを理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト37～40ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく
	教室外学習の時間（分）	195分
第7回	授業テーマ	社会福祉を支える法体系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会福祉の法体系及び各種法律の概要について理解する

	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第8回	**授業テーマ**	社会福祉を支える組織
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会福祉における国・都道府県・市町村によって設けられた各種行政組織や、民間組織について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第9回	**授業テーマ**	社会福祉を支える専門職
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）やケアワーカー、保育士、医療関係専門職の業務内容と資格、および連携について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト42～50ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	社会福祉の援助方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ケースワークを中心に、グループワーク、コミュニティワーク他、さまざまな方法論の内容を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト52～61ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	社会保障制度の概要（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	年金保険、医療保険制度の概要について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第12回	**授業テーマ**	社会保障制度の概要（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公的扶助（生活保護）の基本原理、基本原則、種類と内容について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第13回	**授業テーマ**	こどもの福祉
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	こども福祉の現状と施設体系などについて、その概要を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	分からない用語について調べておく

	教室外学習の時間（分）	195分
第14回	**授業テーマ**	高齢者の福祉及び試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢者の現状と法体系、および公的介護保険制度の概要を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト73～82ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく。 配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分

学習計画注記

授業の進み具合によってスケジュールが変更になることがある

学生へのフィードバック方法

特になし

評価方法

・平常点
授業の受講態度・姿勢について評価する。また、必要に応じてルーブリックを用いて評価する（詳細は、科目のオリエンテーション時に提示する）。
・定期試験
福祉専門職との連携を図るために必要な知識について把握しているかを問う出題とする。詳細については、最後の授業で説明する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	
定期試験	○			

評価割合

平常点20%、定期試験80%

使用教科書名(ISBN番号)

大熊信成他編『現代社会福祉の諸相』大学図書出版
必要に応じ、授業時にプリントを配布

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
福祉活動に直接的・間接的に関係する各種社会福祉制度や社会福祉方法論に関する専門的な知識が修得できる
【関心・意欲・態度】
さまざまな福祉課題などに関心が持て、各種の福祉専門職との連携を図ることができる。

オフィスアワー

火曜3限、木曜2限

学生へのメッセージ

新聞等により、児童・障害者・高齢者にどのような社会問題があるのかを把握したうえで、授業に臨んでもらいたい

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	地域で福祉活動を展開している児童・高齢者施設のソーシャルワーカーの経験を有しており、業務を遂行していく上で必要と考える社会福祉全般の知識を講義している
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G06021001
講義名	公衆衛生学I（総論）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	伊藤 僚子	指定なし

ナンバリング

R20101M21

授業概要(教育目的)

公衆衛生学ではヒトの集団を対象とし、疾病の予防、健康の保持と増進等を学ぶ。本講義では、『環境問題と健康』、『依存症』（たばこ、飲酒、ゲーム）、『感染症』、『高齢者』などをテーマに、日本社会が抱える健康問題とその対策について学ぶ。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	主要な生活習慣病と感染症の疫学と予防対策について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	生活習慣病、感染症等の疾病と社会構造との関連性を理解し、これらの健康問題に対する、住民参加の健康対策の展開方法がわかる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	講義、演習課題をとおして、「健康問題の原因を追究し、解決する。」という公衆衛生学的視点を身に付ける。
技術・表現の観点 (A)	栄養士の専門知識を生かして、他の保健・医療・福祉分野の専門家と共に、公衆衛生活動を遂行できる技術を身に付ける。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	衛生と公衆衛生
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公衆衛生の概念、疾病予防と健康管理
	教室外学習(予習・復習)の内	「健康」に関する自分の考えをもってから出席してく

	容	ださい。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	ヘルスプロモーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	WHOが提唱するヘルスプロモーションとはどのような考え方なのか。健康対策の進め方を具体的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「ヘルスプロモーション」とはなにかを調べておく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	環境と健康１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生態系と環境保全、環境汚染と健康影響
	教室外学習(予習・復習)の内容	代表的な公害について調べておく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	環境と健康２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	放射線の健康影響
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：厚生労働省『食品中の放射性物質への対応』に目をとおしておく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	格差社会と健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会的弱者の健康問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本における結核の流行状況について調べておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	生活習慣の現状と対策１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食生活、身体活動、休養
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として厚生労働省の国民健康栄養調査の結果に目を通しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	生活習慣の現状と対策２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	喫煙
	教室外学習(予習・復習)の内容	健康増進法について調べておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	生活習慣の現状と対策３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	飲酒
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本における飲酒量の変化について調べておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	主要疾患の疫学と予防対策１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	悪性新生物、循環器疾患
	教室外学習(予習・復習)の内	日本におけるがん検診の制度について調べておく。

	容	
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	総合演習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	環境問題と安全安心の食料供給
	教室外学習(予習・復習)の内容	フードマイレージ、バーチャルウォーターについて調べておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	主要疾患の疫学と予防対策３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	口腔保健
	教室外学習(予習・復習)の内容	虫歯、歯周病とはどのような病気か、予習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	感染症対策１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	感染症と関連法規 COVID-19、鳥インフルエンザ等
	教室外学習(予習・復習)の内容	感染症の法律について調べておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	高齢者保健
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢者福祉サービスの現状について
	教室外学習(予習・復習)の内容	介護保険制度について調べておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	精神保健対策
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	精神保健関連制度と現状
	教室外学習(予習・復習)の内容	精神保健対策の歴史と現状について調べておく。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によって演習内容などの内容が変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業内課題については、各授業で解説します。質問は授業後・次回授業前ならびに、e-mailでも対応します。

評価方法

初回の授業でルーブリックについて説明します。
演習課題と定期試験の評価ですが、
演習課題では、『公衆衛生学的視点』を理解することが
求められます。次に、公衆衛生学視点で『健康問題の解決方法が理解できているか』評価します。
定期試験では、栄養士として公衆衛生活動を行うために必要な、法律、理論などが身についているのかを評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

授業内課題	○	○	○	
定期試験	○			○

評価割合

演習課題30点、定期試験70点で評価をする。

使用教科書名(ISBN番号)

「社会・環境と健康 公衆衛生学」柳川 洋編著（医歯薬出版株式会社）

参考図書

「国民衛生の動向」 厚生統計協会

ディプロマポリシーとの関連

○知識・理解
学内外で講義･実習･演習を通し、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。
○思考・判断
多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
○関心・意欲・態度
食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。

学生へのメッセージ

公衆衛生学では、『物事を考えること』を重視しており、スマホの返信とは異なる思考力が求められます。戸惑うかもしれませんが、慣れていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	大学病院勤務、国際協力（インドネシアの保健所、国際緊急援助隊）、特定保健指導の経験を踏まえ、広い視野から公衆衛生学について講義を行う。(管理栄養士免許所持)
アクティブ・ラーニング	○	グループごとに課題に取り組む参加型授業も取り入れる。
情報リテラシー教育	○	予習として、インターネットを活用した厚生労働省のHPなどからの情報収集が求められる。
ICT活用		

講義コード	G06022001
講義名	公衆衛生学II（各論）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	伊藤 僚子	指定なし

ナンバリング

R30102M21

授業概要(教育目的)

公衆衛生学ではヒトの集団を対象とし、疾病の予防、健康の保持と増進等を学ぶ。本授業では疫学と保健・医療・福祉政策の各論を学ぶ。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	健康、疾病、行動にかかわる統計について説明できる。 疫学の方法、保健・医療・福祉政策について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	公衆衛生学の各領域について、栄養士を目指す者として自分の考えをもち、他者の意見を判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会・環境と健康の現状と課題について、関心をもつことができる。
技術・表現の観点 (A)	健康情報を効率的に収集し、その質を評価することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	厚生統計1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人口動態統計 生命表
	教室外学習(予習・復習)の内容	平均寿命、健康寿命について予習をする。

	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	厚生統計2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	出生率、少子化対策
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本の出生率の変化、少子化対策について調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	母子保健
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	母子保健法 妊産婦、乳幼児の健康対策
	教室外学習(予習・復習)の内容	母子保健法について調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	厚生統計3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	死亡統計
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本の死因について、時代とともにどのように変化をしたのか調べておく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	厚生統計4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	疾病統計
	教室外学習(予習・復習)の内容	『疾病統計』とはどのような統計なのかを調べておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	保健・医療・福祉のしくみ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会保障制度の概要と今後
	教室外学習(予習・復習)の内容	保健所の仕事内容、病院の仕事内容、福祉施設の仕事内容について把握しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	医療制度、医療法と医療計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	医療法、医療計画
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本の医療費について調べておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	疫学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	疫学とは、疫学調査法
	教室外学習(予習・復習)の内容	疫学について教科書を読んで予習をする。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	生活習慣病対策１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特定保健指導
	教室外学習(予習・復習)の内容	生活習慣病とは何か、予習をしておく。

	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	学校保健と産業保健
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校保健の制度と役割、労働者の健康管理、過労死
	教室外学習(予習・復習)の内容	学校関連の法律にはどのような法律があるのか、把握しておく。過労死の事例について調べておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	総合演習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループ別参加型学習、健康対策シュミレーション
	教室外学習(予習・復習)の内容	健康になるために必要な社会の条件について考えておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	生活習慣病対策2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	健康日本21
	教室外学習(予習・復習)の内容	健康日本21について調べておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	危機管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	災害対策、災害時の対応
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の家の備蓄食品を把握しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	国際保健
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国際的な健康づくりの取り組み
	教室外学習(予習・復習)の内容	SDG s とは何か、調べておく。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によって演習内容が変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業内課題については、各授業で解説します。質問は授業後・次回授業前ならびに、e-mailでも対応します。

評価方法

初回の授業でルーブリックについて説明します。
演習課題と定期試験の評価ですが、
演習課題では、『公衆衛生学的視点』を理解することが
求められます。次に、公衆衛生学視点で『健康問題の解決方法が理解できているか』評価します。
定期試験では、栄養士として公衆衛生活動を行うために必要な、法律、理論などが身についているのかを評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業内課題	○	○	○	

定期試験	○			○

評価割合

演習課題30点、定期試験70点で評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

「社会・環境と健康 公衆衛生学」柳川 洋編著（医歯薬出版株式会社）
（2024年度後期『公衆衛生学I』のテキストを継続して使用します。）

参考図書

「国民衛生の動向」 厚生統計協会

ディプロマポリシーとの関連

○知識・理解
学内外で講義･実習･演習を通し、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。
○思考・判断
多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
○関心・意欲・態度
食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。

学生へのメッセージ

公衆衛生学は、健康問題を解決していく学問です。本講義でも、「自分で調べて、自分で考える。」ことを重要視します。社会の健康問題について調べ、自分なりの意見を持てるようになっていただきたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	大学病院勤務、国際協力（インドネシアの保健所、国際緊急援助隊）、特定保健指導の経験を踏まえ、広い視野から栄養士養成に向けた講義を行う。(管理栄養士免許所持)
アクティブ・ラーニング	○	グループで取り組む参加型授業も実施予定である。
情報リテラシー教育	○	本講義では、総務省統計局や厚生労働省などの統計について解説を行うが、学生自身も、HPで最新情報について調べ、積極的な授業への参加が求められる。
ICT活用		

講義コード	G06023001
講義名	解剖生理学I（解剖学）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・2年次以降
必修・選択の別	コース必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	林 省吾	指定なし

ナンバリング

R10201M21

授業概要(教育目的)

解剖生理学は，人が生きていくための，体のしくみを学ぶ学問である。解剖学者は，人体のかたち（構造）からしくみを明らかにしようとし，生理学者は，人体のはたらき（機能）からしくみを明らかにしようとする。かたちとはたらきは，車の両輪であり，かたちを知らずしてはたらきを明らかにすることはできないし，はたらきを知らずして，かたちを明らかにすることはできない。とは言え，かたち（の一部）は目に見えるため，比較的取り付きやすい（ように見える）が，はたらきは目に見えないので，一見難しい（ように見える）。そこで，解剖生理学I（解剖）では，まず人体のかたち（構造）を学び，そこから理解できる範囲のはたらき（機能）に触れることで，人体の基本的なしくみを学ぶ。次年度の解剖生理学II（生理）では，解剖生理学I（解剖）で学んだ人体のかたちを武器に，より深く人体のはたらきを学ぶ。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	人体の基本的な構造と機能を理解し，自分の言葉で説明できる。
思考・判断の観点 (K)	人体の構造と機能についての基礎知識をもとに，健康に関する客観的な判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	解剖生理学の知識を活かし、それぞれの立場から社会貢献しようという意欲を持つ。
技術・表現の観点 (A)	相手の知識や立場など，状況に応じて適切な説明手段を選び，相手に応じて説明できる。

学習計画

第1回	授業テーマ	人体と器官系，細胞と細胞小器官
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体の大まかなかたちを学ぶ。また，人体の基本単位である細胞の構造を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「はじめに」（教科書）1B，2，3 第1章1A，2A，3
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	生体膜，組織
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	物質が出入りする膜のかたちを学ぶ。また，細胞が集まってできる組織の構造を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1章4A，5，6
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	消化器系1：消化管
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食物を摂取し，排泄するまでの経路を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第2章1-5
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	消化器系2：消化腺
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食物を消化・吸収し，栄養素に変えるための構造を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第2章2A4)，6A-E，6G，6D-F 第11章8
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	呼吸器系1：気道
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	空気を肺に出し入れする経路を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第2章3 第5章1-3
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	呼吸器系2：肺
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体内に酸素を取り入れ，二酸化炭素を排出するための構造を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第5章4，5
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	血液と血球
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養素，酸素，二酸化炭素を人体の各部分に運ぶ血液の構成を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3章1，3A，4-6B 第5章1 第6章3
	教室外学習の時間（分）	200分

第8回	授業テーマ	循環器系1：心臓
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	血液を人体の各部分に送り届けるための構造を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第4章1-3 第5章1
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	循環器系2：血管
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	血液が流れる血管の構造と，その主な経路を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第4章3，5 第5章1
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	調節系1：内分泌系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでに学んだ構造物を，血液を介して調節するしくみを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第10章1-3，4A，5A，6A，7A，8A 第2章6D 第6章1-3，4A，B，5
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	授業テーマ	体壁系（筋骨格系，皮膚）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体を包む皮膚と人体を動かすための構造を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第8章1，2 第9章1，2A，B 第14章1，2 第12章6
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	調節系2：中枢神経系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学んだ構造物を，神経を介して調節するしくみを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第11章1，2A-F，4
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	調節系3：末梢神経系，感覚器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中枢神経系の指令を全身に送る経路，全身の刺激を中枢神経系に伝える経路を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第11章3，5-8 第12章
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	泌尿生殖器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	摂取した食物（栄養素）から代謝された老廃物を排泄する経路とともに，次世代に子孫を残すための構造を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の	第6章1-4B

	内容	第7章 第10章9
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

毎回の授業は，下記の【予習】，【授業】，【復習】のプロセスで行う。

【予習】
1. 教科書解剖生理学ノート 人体の構造と機能（以下「ノート」）の学習のポイントを読む。各項目（番号）の前に，「全く意味がわからない項目（文章）」にX，「意味がわかるところもある項目」に△（わかる範囲に［カッコ］などで印をつけておくと更によい），「全ての意味がわかる項目」に○を付ける。
2. ノートのKeywordsを読み，「知らない用語」にX，「聞いたことはあるが，意味のわからない用語」に△，「意味まで知っている用語」に○を付ける。
3. ノートの「書いてみよう！」に取り組む。

【授業】
1. ノート「要点整理問題」の重要（赤丸）項目を中心に，教科書を参照しながら解説する。取り上げた［カッコ］事項にチェック（✓）を付ける。［カッコ］の中は空欄のままにする。決して正解を書かないこと。
2. 解説をメモするノートを別に用意してもよいが，ノートに直接書き込むことを推奨する。

【復習】
1. ノートの学習のポイントを改めて読む。各項目（番号）の前に，「全く意味がわからない項目（文章）」にX，「意味がわかるところもある項目」に△（わかる範囲に［カッコ］などで印をつけておくと更によい），「全ての意味がわかる項目」に○を新たに付ける。予習時のマークを決して消さないこと（色を変えるなどして，予習時と復習時の見分けがつくようにしておくと良い）。
2. 授業で取り上げた［カッコ］事項を，正解を見ずに記入する。記入できなかった場合は，空欄のままにせず，［X］と記入する。
3. 記入した項目の正解を確認する，不正解の場合は，解答にXを付ける。
4. 教科書の授業で取り上げた要点整理問題について書かれているところを通読する。特に，これまで△やXだった項目は，（たとえ復習時に○であっても！）必ず教科書で確認し，［カッコ］を付けるなどして必ず記録しておくこと。

＊ 上記【予習】・【授業】・【復習】の状況は、評価の対象である。（後述）

学生へのフィードバック方法

メール<p20158@kasei-gakuin.ac.jp>またはGoogle Classroomによる質問や意見を歓迎する。また，授業日に合わせて，対面による質問，学習相談にも対応する。

評価方法

定期試験と教室外学習（授業後のノート）により評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
教室外学習（授業後のノート）		○	○	○

評価割合

定期試験を主とし，適宜教室外学習（授業後のノート）の評価を加味する。

使用教科書名(ISBN番号)

解剖生理学ノート 人体の構造と機能 第3版 (栄養科学イラストレイテッド[演習版]) (978-4-758-11363-2)
解剖生理学 人体の構造と機能 第3版 (栄養科学イラストレイテッド) (978-4-758-11362-5)

参考図書

人体解剖ビジュアル（978-4-907-176273）
イラストでまなぶ 人体のしくみとはたらき 第3版 (978-4-260-03887-4)
新版 からだの地図帳 (978-4-062-61025-4)
からだの地図帳 解剖学用語 (978-4-062-61026-1)

参考URL

https://life-science-edu.net/

ディプロマポリシーとの関連

人体の構造と機能を理解し、いろいろな立場の人に説明できる。
食事や栄養が人体に与える影響について、客観的に判断することができる。

オフィスアワー

「学生へのフィードバック方法」を参照。

学生へのメッセージ

この授業では，栄養士にとってもっとも重要な，食物（栄養）が人体を通過する経路（消化管）のしくみをまず取り扱う。そこからさらに，食物を消化・吸収して栄養素に変えるしくみ，栄養素を呼吸によってエネルギーを得るしくみ，エネルギーを使って体を動かすしくみを学んでいくことにしよう。さらに，体を動かすためには，動かそうと考え，その考えを伝えるしくみも必要になる。これら人体の基本的なしくみに関する知識と理解は，解剖生理学II(生理学)の学修の前提になるとともに，臨床栄養、病態生理などを学ぶための，重要な足がかりとなる。今，その山頂は目に見えないほど高く，とても登る気にならないかもしれません。だけど，どんな山でも，一歩踏み出せば，山頂は一歩近づきます。歩き続ければ，いつか山頂も見えるはず。まずは一歩を踏み出そう！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G06024001
講義名	解剖生理学II（生理学）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	林 省吾	指定なし

ナンバリング

R20203M21

授業概要(教育目的)

解剖生理学は，人が生きていくための，体のしくみを学ぶ学問である。解剖学者は，人体のかたち（構造）からしくみを明らかにしようとし，生理学者は，人体のはたらき（機能）からしくみを明らかにしようとする。かたちとはたらきは，車の両輪であり，かたちを知らずしてはたらきを明らかにすることはできないし，はたらきを知らずして，かたちを明らかにすることはできない。私たちは，解剖生理学I（解剖）で，まず人体のかたち（構造）を学び，そこから理解できる範囲のはたらき（機能）に触れることで，人体の基本的なしくみを学んできた。解剖生理学II（生理）では，解剖生理学I（解剖）で学んだ人体のかたちを武器に，より深く人体のはたらきを学ぶ。「解剖生理学」は人体の構造と機能について学ぶ学問である。解剖生理学I・IIを通して修得した，正常な（健康な）人体の構造と機能の基礎知識は，臨床栄養，病態生理などを学ぶ基礎となる。本科目は現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修科目である。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	人体の基本的な構造と機能を理解し，自分の言葉で説明できる。
思考・判断の観点 (K)	人体の構造と機能についての基礎知識をもとに，健康に関する客観的な判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	解剖生理学の知識を活かし、それぞれの立場から社会貢献しようという意欲を持つ。
技術・表現の観点 (A)	相手の知識や立場など，状況に応じて適切な説明手段を選び，相手に応じて説明できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	細胞と組織1：細胞
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	すべての臓器に共通する，細胞の機能を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「はじめに」（教科書） 第1章1-3
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	細胞と組織2：生体膜，組織，器官
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	細胞などを物質が出入りする膜の機能を学ぶ。さらに，組織，器官とそれらの関係を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1章4-6
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	消化器系1：消化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食物を摂取し，排泄するまでの機能を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第2章1B，3-5 第11章B，D，8 第12章7
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	消化器系2：吸収
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食物を消化・吸収し，栄養素に変えるための機能を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第2章6 第3章3D 第10章8A
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	呼吸器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体内に酸素を取り入れ，体外に二酸化炭素を排出する機能を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第5章5-8 第3章3C 第6章3 第11章2B，8
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	血液・リンパ・凝固系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養素，酸素，二酸化炭素を人体の各部分に運ぶ機能を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3章1C，2，3B-C，4B，5-8 第6章3-5 第10章6，7A-C，8
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	環器系1：心臓
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	

第7回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養素，酸素，二酸化炭素を人体の各部分に送りだすための機能を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第4章1-3A，6A 第10章5，7D 第11章2B，8
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	循環器系2：血管と血圧
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	血液が全身を円滑に流れるための機能を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第4章3B，4-6 第6章3-5 第10章7B，D 第11章2B，2D，8
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	調節系1：内分泌系1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでに学んだ機能を，血液を介して調節するしくみを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第10章1-4 第11章2D
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	調節系2：内分泌系2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでに学んだ機能を，血液を介して調節するしくみを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第10章5-9 第6章4，5 第7章4，5
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	体壁系（筋骨格系，皮膚）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体を包む皮膚と人体を動かす筋の機能を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第8章3，4 第9章2B-E，3 第10章6 第14章2 第11章6，7，8 第12章6
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	調節系3：中枢神経系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学んだ機能を，神経を介して調節するしくみを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第11章2，5-8
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	調節系3：末梢神経系，感覚器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	中枢神経系の指令を全身に送る経路，全身の刺激を中枢

第13回	**報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	神経系に伝える経路の機能を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第11章3，5-8 第12章
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	泌尿生殖器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	摂取した食物（栄養素）から代謝された老廃物を排泄する機能とともに，次世代に子孫を残すための機能を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6章2-4 第7章 第10章9
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

毎回の授業は，下記の【予習】，【授業】，【復習】のプロセスで行う。

【予習】
1. 教科書解剖生理学ノート 人体の構造と機能（以下「ノート」）の学習のポイントを読む。各項目（番号）の前に，「全く意味がわからない項目（文章）」にX，「意味がわかるところもある項目」に△（わかる範囲に［カッコ］などで印をつけておくと更によい），「全ての意味がわかる項目」に○を付ける。
2. ノートのKeywordsを読み，「知らない用語」にX，「聞いたことはあるが，意味のわからない用語」に△，「意味まで知っている用語」に○を付ける。
3. ノートの「書いてみよう！」に取り組む。

【授業】
1. ノート「要点整理問題」の重要（赤丸）項目を中心に，教科書を参照しながら解説する。取り上げた［カッコ］事項にチェック（✓）を付ける。［カッコ］の中は空欄のままにする。決して正解を書かないこと。
2. 解説をメモするノートを別に用意してもよいが，ノートに直接書き込むことを推奨する。

【復習】
1. ノートの学習のポイントを改めて読む。各項目（番号）の前に，「全く意味がわからない項目（文章）」にX，「意味がわかるところもある項目」に△（わかる範囲に［カッコ］などで印をつけておくと更によい），「全ての意味がわかる項目」に○を新たに付ける。予習時のマークを決して消さないこと（色を変えるなどして，予習時と復習時の見分けがつくようにしておくと良い）。
2. 授業で取り上げた［カッコ］事項を，正解を見ずに記入する。記入できなかった場合は，空欄のままにせず，［X］と記入する。
3. 記入した項目の正解を確認する，不正解の場合は，解答にXを付ける。
4. 教科書の授業で取り上げた要点整理問題について書かれているところを通読する。特に，これまで△やXだった項目は，（たとえ復習時に○であっても！）必ず教科書で確認し，［カッコ］を付けるなどして必ず記録しておくこと。

＊ 上記【予習】・【授業】・【復習】の状況は、評価の対象である。（後述）

学生へのフィードバック方法

講義終了時に記入していただくコメントシートに対して、次の講義でフィードバックする。授業後の質問には，その都度対応する。その他、大学に登録してあるメールアドレスによる質問や意見も歓迎する。

評価方法

定期試験，教室外学習（授業後のノート）により評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
授業中の演習	○	○	○	
教室外学習（授業後のノート）		○	○	○

評価割合

定期試験を主とし，授業中の演習，教室外学習（授業後のノート）の評価を適宜加味する。

使用教科書名(ISBN番号)

解剖生理学ノート 人体の構造と機能 第3版 (栄養科学イラストレイテッド[演習版]) (羊土社) ISBN: 978-4-758-11363-2
解剖生理学 人体の構造と機能 第3版 (栄養科学イラストレイテッド) (羊土社) ISBN: 978-4-758-11362-5

参考図書

人体解剖ビジュアル（サイオ出版）ISBN: 978-4-907-176273
イラストでまなぶ 人体のしくみとはたらき 第3版 (医学書院) ISBN: 978-4-260-03887-4
新版 からだの地図帳 (講談社) ISBN: 978-4-062-61025-4
からだの地図帳 解剖学用語 (講談社) ISBN: 978-4-062-61026-1

参考URL

https://life-science-edu.net/

ディプロマポリシーとの関連

人体の構造と機能を理解し、いろいろな立場の人に説明できる。
食事や栄養が人体に与える影響について、客観的に判断することができる。

オフィスアワー

「学生へのフィードバック方法」を参照。

学生へのメッセージ

この授業では，栄養士にとってもっとも重要な，食物（栄養）が人体を通過する経路（消化管）のしくみをまず取り扱う。そこからさらに，食物を消化・吸収して栄養素に変えるしくみ，栄養素を呼吸によってエネルギーを得るしくみ，エネルギーを使って体を動かすしくみを学んでいくことにしよう。さらに，体を動かすためには，動かそうと考え，その考えを伝えるしくみも必要になる。これら人体の基本的なしくみに関する知識と理解は，臨床栄養，病態生理などを学ぶための，重要な足がかりとなる。その山頂は未だ目に見えないほど高いままかもしれません。だけど，解剖生理学I（解剖）で学んできたあなたにの眼下には，既に最初には想像もできなかったほどに広大な景色が広がっているでしょう。そして，これまでに学んだ人体のかたちに関する知識は，これからの一歩をずっと楽で，楽しいものにしてくれるでしょう。歩き続ければ，いつか山頂も見えるはず。次の一歩を踏み出そう！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G06025001
講義名	解剖生理学実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	岩本 直樹	指定なし

ナンバリング

R20202M13

授業概要(教育目的)

人体模型や実験動物を用いた実習によってヒトにおける各臓器や臓器系の配置、形態を学習する。さらに、ブタ、ヒトの組織標本を用いて組織的形態と機能の間の関連について実地に理解する。また、鏡検観察によって細胞レベルでの微細構造を観察し、各組織・臓器にみられる細胞学的特徴を把握して機能との関連を理解する。生理学的領域においては、生体の基本的バイタルサインを、検査機器を用いて観察・記録し、さらにバイタルサインが示す生理機能について理解する。本科目は、栄養士免許証取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．人体模型、ブタ、ヒトの組織標本を用いて人体の形態と機能について説明できる。 2．臨床栄養学の理解につなげるために病理学についても形態的観点から説明できる。 3．生理学的領域において、生体の基本的バイタルサインを、検査機器を用いて観察・記録し、さらにバイタルサインが示す生理機能について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	生命の尊厳を尊重できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	各課題に対し、他者との協働を重んじて貢献することができる。
技術・表現の観点 (A)	各実習における機器・器具を正しく操作活用できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション・循環器に関するビデオ学習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オリエンテーション（実習の目的と進め方）を行う。また、NHKスペシャル 驚異の小宇宙 人体 Vol.2「しなやかなポンプ～心臓・血管～」 [DVD]を観て、心臓内部の様子やしくみを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	人体模型
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体模型による臓器位置の確認及び骨格標本を用いて骨の名称の確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	身体観測
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体観測と計測を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	循環１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	血圧の測定、心音の聴取、安静時の体温測定を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	循環２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動負荷による心拍数、血圧、体温の測定を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	**授業テーマ**	心肺蘇生法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	心肺蘇生法の原理や方法を習得する。
	教室外学習(予習・	実験におけるレポートを作成する。

	復習)の内容	
	教室外学習の時間(分)	60分
第7回	**授業テーマ**	呼吸
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肺活量の測定、努力肺活量の測定を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	60分
第8回	**授業テーマ**	組織の観察１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	光学顕微鏡を用いて消化器系（胃・腸）の組織を観察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	60分
第9回	**授業テーマ**	組織の観察２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	光学顕微鏡を用いて消化器系（肝臓）の組織を観察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	60分
第10回	**授業テーマ**	組織の観察３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	光学顕微鏡を用いて筋肉の構造を観察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	60分
第11回	**授業テーマ**	内分泌
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インスリンによる低血糖状態の観察と血糖測定（マウス）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	60分
	授業テーマ	解剖
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	

第12回	育・ICT活用を含む)	動物の解剖（マウス）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	60分
第13回	授業テーマ	感覚
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	皮膚感覚・反射神経、盲斑の検出を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	60分
第14回	授業テーマ	総括と学習到達度の確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1回目～13回目の実習についての総括を行い、授業の一部で学習到達度の確認テストを実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	確認テストの復習をする。
	教室外学習の時間(分)	60分

学習計画注記

※シラバスの内容は、やむをえない事情等により一部変更することがあります。

学生へのフィードバック方法

・提出されたレポート（オリジナル実習ノート）は、評価した後に返却する。確認テストも同様に問題用紙は返却する。
・質問等がある場合には2101研究室まで訪問（E-mailでも可）すること。

評価方法

・ルーブリックに基づいて成績を評価する。ルーブリックについてはGoogle Classroom等で提示する。
・確認テストは実習の振り返りを行い、100点満点で出題する。
・実習内容と関連する内容についてディスカッションする。そこで「実習態度」を評価する。
・評価方法であるレポート、確認テストおよび実習態度は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○	○	
確認テスト	○	○		
実習態度			○	○

評価割合

科目修了試験40%、レポート（オリジナル実習ノート）評価50%および実習態度10%で総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

松村譲兒編『人体解剖ビジュアル』サイオ出版
東京消防庁編『身につけよう応急手当普通救命講習テキスト』東京法令出版
※授業中に購入します。事前に購入したりしないように気を付けてください。

参考図書

解剖生理学I・IIで使用している教科書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】実習内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技能・表現】専門的、体系的な学修を通じて、生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身に付けている。

オフィスアワー

火曜2・4限 2101研究室
（2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）

学生へのメッセージ

実習時は白衣（実験用）を着用のこと。
レポート（オリジナル実習ノート）の提出は、提出期限・形式を守ること。
授業内容を事前に教科書などで予習すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	指定された班員おいて、実験・実習を協同し、得られた結果を共有、解析する。また、定期的に栄養士実力認定試験の問題を用いて発表やディスカッションを行う。ディスカッションを行うことで、知識の定着はもちろん、自分の意見を正しく伝えて説得するための論理的思考力が鍛えられる。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	実験で得られたデータについて、Excel等を用いて図示して検討する方法を習得する。また、Google Classroomに課題や資料を共有する。

講義コード	G06025002
講義名	解剖生理学実習（RB）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

R20202M13

授業概要(教育目的)

人体模型や実験動物を用いた実習によってヒトにおける各臓器や臓器系の配置、形態を学習する。さらに、ブタ、ヒトの組織標本を用いて組織的形態と機能の間の関連について実地に理解する。また、鏡検観察によって細胞レベルでの微細構造を観察し、各組織・臓器にみられる細胞学的特徴を把握して機能との関連を理解する。生理学的領域においては、生体の基本的バイタルサインを、検査機器を用いて観察・記録し、さらにバイタルサインが示す生理機能について理解する。本科目は、栄養士免許証取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．人体模型、ブタ、ヒトの組織標本を用いて人体の形態と機能について説明できる。 2．臨床栄養学の理解につなげるために病理学についても形態的観点から説明できる。 3．生理学的領域において、生体の基本的バイタルサインを、検査機器を用いて観察・記録し、さらにバイタルサインが示す生理機能について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	生命の尊厳を尊重できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	各課題に対し、他者との協働を重んじて貢献することができる。
技術・表現の観点 (A)	各実習における機器・器具を正しく操作活用できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション・循環器に関するビデオ学習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オリエンテーション（実習の目的と進め方）を行う。また、NHKスペシャル 驚異の小宇宙 人体 Vol.2「しなやかなポンプ～心臓・血管～」 [DVD]を観て、心臓内部の様子やしくみを理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	学習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	60分
第2回	**授業テーマ**	人体模型
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体模型による臓器位置の確認及び骨格標本を用いて骨の名称の確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	60分
第3回	**授業テーマ**	身体観測
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体観測と計測を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	60分
第4回	**授業テーマ**	循環１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	血圧の測定、心音の聴取、安静時の体温測定を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	60分
第5回	**授業テーマ**	循環２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動負荷による心拍数、血圧、体温の測定を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	60分
第6回	**授業テーマ**	心肺蘇生法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	心肺蘇生法の原理や方法を習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	60分
	授業テーマ	呼吸
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰ	

第7回	ﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肺活量の測定、努力肺活量の測定を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	60分
第8回	授業テーマ	組織の観察１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	光学顕微鏡を用いて消化器系（胃・腸）の組織を観察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	60分
第9回	授業テーマ	組織の観察２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	光学顕微鏡を用いて消化器系（肝臓）の組織を観察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	60分
第10回	授業テーマ	組織の観察３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	光学顕微鏡を用いて筋肉の構造を観察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	60分
第11回	授業テーマ	内分泌
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インスリンによる低血糖状態の観察と血糖測定（マウス）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	60分
第12回	授業テーマ	解剖
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動物の解剖（マウス）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間	60分

	（分）	
第13回	**授業テーマ**	感覚
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	皮膚感覚・反射神経、盲斑の検出を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	総括と学習到達度の確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1回目～13回目の実習についての総括を行い、授業の一部で学習到達度の確認テストを実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	確認テストの復習をする。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

※シラバスの内容は、やむをえない事情等により一部変更することがあります。

学生へのフィードバック方法

・提出されたレポート（オリジナル実習ノート）は、評価した後に返却する。確認テストも同様に問題用紙は返却する。
・質問等がある場合には2101研究室まで訪問（E-mailでも可）すること。

評価方法

◆ルーブリックに基づいて成績を評価する。ルーブリックについてはGoogle Classroom等で提示する。
・確認テストは実習の振り返りを行い、100点満点で出題する。
・実習内容と関連する栄養士実力認定試験問題集を用いてディスカッションする。そこで「実習態度」を評価する。
・評価方法であるレポート、確認テストおよび実習態度は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○	○	
確認テスト	○	○		
実習態度			○	○

評価割合

科目修了試験40%、レポート（オリジナル実習ノート）評価50%および実習態度10%で総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

松村譲兒編『人体解剖ビジュアル』サイオ出版
東京消防庁編『身につけよう応急手当普通救命講習テキスト』東京法令出版
※授業中に購入します。事前に購入しないようにしてください。

参考図書

解剖生理学I・IIで使用している教科書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】実習内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技能・表現】専門的、体系的な学修を通じて、生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身に付けている。

オフィスアワー

火曜4・5限 2101研究室
（2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）

学生へのメッセージ

実習時は白衣（実験用）を着用のこと。
レポート（オリジナル実習ノート）の提出は、提出期限・形式を守ること。
授業内容を事前に教科書などで予習すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	指定された班員おいて、実験・実習を協同し、得られた結果を共有、解析する。また、定期的に栄養士実力認定試験の問題を用いて発表やディスカッションを行う。ディスカッションを行うことで、知識の定着はもちろん、自分の意見を正しく伝えて説得するための論理的思考力が鍛えられる。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	実験で得られたデータについて、Excel等を用いて図示して検討する方法を習得する。また、Google Classroomに課題や資料を共有する。

講義コード	G06026001
講義名	生化学（総論）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	川上 文貴	指定なし

ナンバリング

R20204M21

授業概要(教育目的)

生体内での様々な化学反応や物質交換が生命を維持している。その主軸となる細胞や生体物質の構造と代謝、生理機能の基礎を総合的に講義する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１、生体成分の構造と性質を理解する。 ２、酵素の役割、その調節機構を理解する。 ３、生体成分の代謝の基礎、代謝調節の基礎を理解する。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

生化学総論

第1回	**授業テーマ**	生化学概論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体の化学組成、細胞内小器官について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 p1～12を予習する
	教室外学習の時間（分）	180
	授業テーマ	糖質の構造と分類

第2回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖質の分類、構造の特徴と役割について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 p41-51を予習する。
	教室外学習の時間（分）	180
第3回	授業テーマ	糖質の代謝
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ブドウ糖の異化反応を学ぶ 解糖系とペントースリン酸経路
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 p37～78 を予習する
	教室外学習の時間（分）	180
第4回	授業テーマ	脂質の構造と分類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質の分類、構造の特徴と役割について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 p79-80を予習する。
	教室外学習の時間（分）	180
第5回	授業テーマ	脂質の代謝
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質のエネルギー代謝を学ぶ。 脂肪酸の合成とβ酸化、リン脂質の合成、コレステロールの合成
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 p79～89, p95を予習する
	教室外学習の時間（分）	180
第6回	授業テーマ	アミノ酸の構造と分類、タンパク質の構造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アミノ酸の構造、種類とタンパク質について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 p104-110を予習する。
	教室外学習の時間（分）	180
第7回	授業テーマ	アミノ酸の代謝
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アミノ酸の種類と代謝を学ぶ。 蛋白質構成アミノ酸、アミノ基転移、尿素回路
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 p106～109, p114～120,および p124を予習する
	教室外学習の時間（分）	180
第8回	授業テーマ	核酸の構造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	核酸の基本構造、ＤＮＡとＲＮＡについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 p125～142を予習する
	教室外学習の時間（分）	180
第9回	授業テーマ	タンパク質の合成、遺伝子発現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	タンパク質の合成、遺伝子発現について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 p125～p142を予習する。
	教室外学習の時間（分）	180
第10回	授業テーマ	酵素
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	酵素の性質、酵素反応、酸化還元反応、アミノ酸の代謝と他栄養因子との関係について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 p145～158を予習する
	教室外学習の時間（分）	180
	授業テーマ	免疫による生体防御
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃ	自然免疫、獲得免疫、液性免疫、細胞性免疫、アレ

第11回	ﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ルギーについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 p227～p245を予習する。
	教室外学習の時間（分）	180
第12回	授業テーマ	ビタミン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ビタミンの分類と構造、これらによる酵素活性調節について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 p178～190を予習する
	教室外学習の時間（分）	180
第13回	授業テーマ	ホルモン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ホルモンによる調節、作用、コレステロールの代謝について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 p90 , p160～176を予習する
	教室外学習の時間（分）	180
第14回	授業テーマ	総復習（演習形式）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各項目についての総復習を演習形式で行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書や講義資料を予習する
	教室外学習の時間（分）	180
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第16回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学生へのフィードバック方法

各講義で、重要点についての小テストを行い、解説する。

評価方法

平常点は、出席を含む小テストによる理解度、と定期試験が各50%。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
出席、小テスト	○	○	○	
確認テスト	○	○	○	
定期試験	○	○	○	
課題提出	○		○	

評価割合

出席、確認テストの平常点（50 %）、定期試験（50 %）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

基礎から学ぶ生化学（南江堂）（978-4-254-24651-9) 教科書として予習、復習に用いる
生化学きほんノート（南山堂）（978-4-525-13151-7） 復習に用いる

ディプロマポリシーとの関連

多様な食環境や食事文化を理解し、客観的な判断ができる基礎力を身につける。このことにより専門家としての探求心を持って社会に貢献する意欲を得る。

学生へのメッセージ

生化学特に代謝学は覚えることが多い学問です。講義毎に重要な点を理解するために、講義内容について考える機会を複数持つように心がけてください。１）講義を聴く、２）まとめとスライドで復習する、３）教科書の問題を考えてみる、などです。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G06027001
講義名	代謝栄養学（生化学各論）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	川上 文貴	指定なし

ナンバリング

R30206M21

授業概要(教育目的)

栄養素の代謝反応とその調節の生化学、恒常性を維持するホルモンの作用について、生化学における各論部分を学習し、栄養素の代謝と食生活、環境の変化に対する生体機能の適応などの仕組みについて理解する。
授業毎に出席確認を兼ねた確認問題を出題する。必ず、学生番号と氏名、回答を自書して提出すること。提出後に解説する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１、生体における代謝調節のしくみについて理解する。 ２、食生活、環境の変化に対する生体機能の調節のしくみについて理解する。
思考・判断の観点 (K)	１、これまでに生化学（総論）で学習したことを基本として学習する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	１、予習、復習、授業毎の確認問題、非定期の復習問題で理解を深める。 ２、これらの問題の間違い直しを積極的に行う。 ３．教科書の問題を解いてみるのは復習に最適である。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

代謝栄養学（生化学各論）

第1回	**授業テーマ**	代謝とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	代謝の基本的概念について学ぶ 異化と同化、生命のエネルギー、恒常性
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 p13～36を予習する
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	栄養素の消化・吸収
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養素の消化・吸収について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p13～p23を予習する。
	教室外学習の時間（分）	180
第3回	**授業テーマ**	糖質の代謝①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖の構造と性質について学ぶ 異化反応 解糖系とペントースリン酸経路、グルコース以外の糖の代謝
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 p41～78を予習する 生化学総論で学習した教科書上記範囲の糖質の特徴、解糖系、ペントースリン酸経路について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	糖質の代謝②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エネルギー産生反応について学ぶ 補酵素A、クエン酸回路、電子伝達系、酸化的リン酸化、基質レベルのリン酸化
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 2B～3B の該当部位を予習する
	教室外学習の時間（分）	240分
第5回	**授業テーマ**	糖質の代謝③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖の同化反応、血糖について学ぶ グリコーゲンの分解と合成、糖新生
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 2B～3B の該当部位を予習する
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	脂質の代謝①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質の種類と機能、両親媒性、疎水性、疎水性分子の輸送方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 3C1, p79～85を予習する
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	**授業テーマ**	脂質の代謝②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質代謝の詳細について学ぶ。 β酸化、脂肪酸生合成、ケトン体

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 3C3,4,6 (p85～91）を予習する
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	タンパク質の代謝①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	窒素含有化合物について学ぶ。 アミノ酸、アミノ基転移、尿素回路
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 3D6,7 (p114～120）を予習する
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	タンパク質の代謝②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヌクレオチドとタンパク質ついて学ぶ タンパク質の分類、合成、分解、ヌクレオチドの分類、合成、分解
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 3D6,7 (p104～114), 3E1(125～129)を予習する
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	タンパク質の代謝③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アミノ酸の炭素骨格部分の代謝と他栄養因子との関係について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 3D6,7 (p114～125)を予習する
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	ビタミン、ミネラル
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ビタミン、ミネラルによる酵素活性調節。水の恒常性
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 p178～200をよく読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	核酸の代謝
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヌクレオチドの合成と分解について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 p125を予習する
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	**授業テーマ**	生体内の情報伝達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	細胞間や細胞内の情報伝達について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 p145～p157を予習する
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	**授業テーマ**	総復習（演習形式）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖質、脂質、アミノ酸、血液についての総復習を演習形式で行う。
	教室外学習(予習・復習)の	各自ノートや各回のまとめなど、参考できるものを用意

	内容	し、持参して臨むとよい
	教室外学習の時間（分）	240分
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学生へのフィードバック方法

授業毎の確認問題の解説はその講義で行う。
復習問題の解説は提出後授業にて行い、質問を受け付ける。

評価方法

出席を含む確認問題は講義に対する意欲、復習問題は日ごろの復習の積み重ねと考え、平常点として評価する。
定期試験は、これらの問題の振り返りや、管理栄養士国家試験の出題形式に基づく選択式の問題を含む。
これらの課題及び試験は、下記評価基準に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
出席確認問題	○	○	○	
復習問題	○	○	○	
定期試験	○	○	○	
課題提出	○		○	

評価割合

出席、確認テスト、復習テストを含む平常点（40 %）、定期試験（60 %）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

基礎から学ぶ 生化学 （南江堂） （978-4-524-24651-9)

参考図書

生化学きほんノート（南山堂）（978-4-525-13151-7）
いちばんやさしい代謝ドリル （講談社） (978-4-06-513420-7)

学生へのメッセージ

毎回の授業の前に、教科書の該当部分を読んでおくと講義が理解しやすくなります。
前回の復習をしておくと次の講義で代謝の世界にスムーズに入れます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G06028001
講義名	栄養学・生化学実験
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	岩本 直樹	指定なし
教授	大嶋 孝之	指定なし

ナンバリング

R20205M13

授業概要(教育目的)

栄養学・生化学実験では食品学実験でも扱う栄養素成分に対して生体試料の側面から採り上げ、分析する力を学ぶ。実験遂行に際し、必然となる事前準備や手法、試料の扱い方を体得していく。人体に対する実験的学びの中で必要とされる倫理面に対する留意事項に関しても学ぶ。

履修条件

基礎的な生物、化学を理解し、関係教科を履修済み、履修中であることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各関係教科の知識と理解を応用し、結果の予測、得られた結果の考察に活用できる。
思考・判断の観点 (K)	栄養学・生化学領域の講義で修得した成分、生体物質の構造および機能について、客観的に実験手法を分析し、結果を解析できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	使命感と責任感をもって職務を遂行するためのコミュニケーションがとれる。
技術・表現の観点 (A)	各実験における機器・器具を正しく操作活用できる。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション、実験器具の説明（担当：岩本）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	栄養学実験についてのオリエンテーションを行う。使用機器･器具の予備知識、実験対象試料と研究倫理を行

第1回	む)	う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	消化試験①（担当：岩本）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	唾液アミラーゼによるデンプンの分解を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験における結果・考察等をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	消化試験②（担当：岩本）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	膵液による脂質の消化試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験における結果・考察等をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	消化試験③（担当：岩本）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	膵液によるタンパク質の消化試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験における結果・考察等をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	生体成分の分析法（栄養学）①（担当：岩本）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肝臓組織成分に関する実験(肝臓のグリコーゲン量の測定）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験における結果・考察等をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	生体成分の分析法（栄養学）②（担当：岩本）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	血液成分に関する実験(血中中性脂肪の定量）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験における結果・考察等をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	生体成分の分析法（栄養学）③（担当：岩本）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	尿成分に関する実験（尿中クレアチニンの定量や尿中カルシウムの測定）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験における結果・考察等をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	実験準備（担当：大嶋）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・各実験における試薬準備等の事前準備(試薬調製、機器準備）を行う。 ・ビタミンの定性試験

第8回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	生体反応の分析方法（生化学１）（担当：大嶋）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	DNAプロファイリング実験(PCR)①PCRを用いたDNA増幅
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	生体反応の分析方法（生化学２）（担当：大嶋）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	DNAプロファイリング実験(電気泳動)②PCR産物の電気泳動
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	生体反応の分析方法（生化学３）（担当：大嶋）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・DNAプロファイリング実験③解析 ・タンパク質精製実験①細菌を用いたライブラリ構築
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	生体反応の分析方法（生化学４）（担当：大嶋）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	タンパク質精製実験②スクリーニングと培養
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	生体反応の分析方法（生化学５）（担当：大嶋）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・タンパク質精製実験③タンパク質抽出 ・アミノ酸の定性試験
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	生体反応の分析方法（生化学６）（担当：大嶋）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	タンパク質精製実験③カラムクロマトグラフィーを用いたタンパク質精製と解析
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

※シラバスの内容は、やむをえない事情等により一部修正することがある。

学生へのフィードバック方法

提出されたレポートは、評価した後に返却する。質問等がある場合には2101研究室（岩本）または2308研究室（大嶋）まで訪問すること。

評価方法

・レポート評価80%および実習態度20%で総合的に評価する（小数点以下は四捨五入）。
・レポートおよび実験態度は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。
・評価詳細に関するルーブリックは当該各担当GoogleClassroomへ掲載する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○		○
実験態度			○	○

評価割合

レポート評価80%および実験態度20%で総合的に評価（小数点以下は四捨五入）、評価ルーブリックは当該各担当GoogleClassroomへ掲載。

使用教科書名(ISBN番号)

『基礎栄養学』（アイケイコーポレーション）：前期購入済（岩本）
必要内容資料を適宜配布（大嶋）

参考図書

各関係教科の教科書、授業配布資料等

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】実験内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技術・表現】専門的技術を身につける。

オフィスアワー

火曜3・4限 2101研究室 2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。（岩本）
木曜2限目 2308研究室 授業前後やメール等で事前に予約と訪問時間の承諾を得てください（大嶋）。

学生へのメッセージ

実習時は白衣（実験用）を着用のこと。
レポートの提出は、提出期限・形式を守ること。
授業内容を事前に教科書などで予習すること。
現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。
また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、HACCP管理者資格取得に必要な選択科目でもあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	指定された班員おいて、実験を協同し、得られた実験結果を共有、解析する。
		情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導

情報リテラシー教育	○	する。
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。

講義コード	G06028002
講義名	栄養学・生化学実験（RB）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

R20205M13

授業概要(教育目的)

栄養学・生化学実験では食品学実験でも扱う栄養素成分に対して生体試料の側面から採り上げ、分析する力を学ぶ。実験遂行に際し、必然となる事前準備や手法、試料の扱い方を体得していく。人体に対する実験的学びの中で必要とされる倫理面に対する留意事項に関しても学ぶ。本科目は現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科である。また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、HACCP管理者資格取得に必要な選択科目でもある。

履修条件

基礎的な生物、化学を理解し、関係教科を履修済み、履修中であることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各関係教科の知識と理解を応用し、結果の予測、得られた結果の考察に活用できる。
思考・判断の観点 (K)	栄養学・生化学領域の講義で修得した成分、生体物質の構造および機能について、客観的に実験手法を分析し、結果を解析できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	使命感と責任感をもって職務を遂行するためのコミュニケーションがとれる。
技術・表現の観点 (A)	各実験における機器・器具を正しく操作活用できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	実験の心得（担当：岩本）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	使用機器･器具の予備知識,実験対象試料と研究倫理を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	消化試験１（担当：岩本）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ	

第2回	–教育・ICT活用を含む)	唾液アミラーゼによるデンプンの分解を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	消化試験２（担当：岩本）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ –教育・ICT活用を含む)	膵液による脂質の消化試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	消化試験３（担当：岩本）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ –教育・ICT活用を含む)	膵液によるタンパク質の消化試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	生体成分の分析法（栄養学）１（担当：岩本）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ –教育・ICT活用を含む)	血液成分に関する実験(血糖の定量:ムタロターゼ·GOD法）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	生体成分の分析法（栄養学）２（担当：岩本）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ –教育・ICT活用を含む)	血液成分に関する実験(血中中性脂肪·コレステロール·遊離脂肪酸の定量）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	生体成分の分析法（栄養学）３（担当：岩本）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ –教育・ICT活用を含む)	尿成分に関する実験（尿中クレアチニンの定量）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	実験準備（担当：上薗）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ –教育・ICT活用を含む)	・各実験における試薬準備等の事前準備(試薬調製、機器準備）を行う。 ・ビタミンの定性試験
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	生体反応の分析方法（生化学１）（担当：上薗）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ –教育・ICT活用を含む)	DNAプロファイリング実験(PCR)①PCRを用いたDNA増幅
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	生体反応の分析方法（生化学２）（担当：上薗）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ –教育・ICT活用を含む)	DNAプロファイリング実験(電気泳動)②PCR産物の電気泳動
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	生体反応の分析方法（生化学３）（担当：上薗）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ	・DNAプロファイリング実験③解析 ・タンパク質精製実験①細菌を用いたライブラリ

第11回	–教育・ICT活用を含む)	構築
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	生体反応の分析方法（生化学４）（担当：上薗）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ –教育・ICT活用を含む)	タンパク質精製実験②スクリーニングと培養
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	生体反応の分析方法（生化学５）（担当：上薗）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ –教育・ICT活用を含む)	・タンパク質精製実験③タンパク質抽出 ・アミノ酸の定性試験
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	生体反応の分析方法（生化学６）（担当：上薗）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ –教育・ICT活用を含む)	タンパク質精製実験③カラムクロマトグラフィーを用いたタンパク質精製と解析
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

※シラバスの内容は、やむをえない事情等により一部修正することがある。

学生へのフィードバック方法

提出されたレポートは、評価した後に返却する。質問等がある場合には2101研究室（岩本）または2308研究室（上薗）まで訪問すること。

評価方法

・レポート評価90%および実験態度10%で総合的に評価する（小数点以下は四捨五入）。
・レポートおよび実験態度は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。
・評価詳細に関するルーブリックは当該各担当GoogleClassroomへ掲載する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○		○
実験態度			○	○

評価割合

レポート評価90%および実験態度10%で総合的に評価（小数点以下は四捨五入）、評価ルーブリックは当該各担当GoogleClassroomへ掲載。

使用教科書名(ISBN番号)

林淳三編『基礎栄養学』建帛社（978-4-7679-0529-7）（岩本）
必要内容資料を適宜配布（上薗）

参考図書

各関係教科の教科書、授業配布資料等

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。

【関心・意欲・態度】実験内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技術・表現】専門的技術を身につける。

オフィスアワー

月曜4・5限 2101研究室 2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。（岩本）
金曜4限目 2308研究室 授業前後やメール等で事前に予約と訪問時間の承諾を得てください（上薗）。

学生へのメッセージ

実習時は白衣（実験用）を着用のこと。
レポートの提出は、提出期限・形式を守ること。
授業内容を事前に教科書などで予習すること。
現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。
また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、HACCP管理者資格取得に必要な選択科目でもあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	生化学領域 担当教員が食製造現場等における現地調査等を行った実務経験より、実験内容がヒトと食においてどのように活用されているか、今後、活用されるかについても紹介する。
アクティブ・ラーニング	○	指定された班員おいて、実験を協同し、得られた実験結果を共有、解析する。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。

講義コード	G06029001
講義名	食品学総論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・2年次以降
必修・選択の別	コース必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大嶋 孝之	指定なし

ナンバリング

R10301M21

授業概要(教育目的)

食品はヒトにとって大変身近な存在であり，生命維持に必要不可欠な存在である。食品の成分を理解し，日々の生活の維持，健康増進のために役立てる知識を自身が実働的に活用，また第三者へも提供できる基盤となる知識を食品が有する三つの基本的機能（一次機能；栄養特性，二次機能；嗜好特性，三次機能；健康機能特性）を柱に本講義では学びを展開する。そのために食品を構成する成分を化学的に捉えられるようになる学びに加え，近年の食品に関係する法律の変化も捉えながら知識を深める講義展開を行う。

履修条件

高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	食品の成分と機能を説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	様々な食品を扱う際に食品の成分と機能の知識を基に思考、判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食の諸問題対処に対し、食品の成分や機能を基に意欲をもって対処できる。
技術・表現の観点 (A)	食品の成分と機能に関し、他者に正しく伝える文章を作成できる。

学習計画

	授業テーマ	人間と食品
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	1．食文化と歴史的変遷 2．食料と環境問題 3．食事摂取基準（2020年版）と食品機能

第1回	**含む)**	を理解する。 ＊食品学総論展開内容の補足も行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第1章「人間と食品」（1～9ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第2回	**授業テーマ**	食品機能と食品学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．食品には三つの機能がある 2．食品の一次機能とは 3．食品の二次機能とは 4．食品の三次機能とは について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第2章「食品機能と食品学」（11～14ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第3回	**授業テーマ**	食品の一次機能①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．食品と水 2．たんぱく質 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第3章「食品の一次機能」（15～34ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第4回	**授業テーマ**	食品の一次機能②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2．たんぱく質（前回の続き） 3．炭水化物 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第3章「食品の一次機能」（22～43ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第5回	**授業テーマ**	食品の一次機能③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3．炭水化物（前回の続き） 4．脂質 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第3章「食品の一次機能」（34～59ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第6回	**授業テーマ**	食品の一次機能④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4．脂質（前回の続き） 5．ビタミン について理解する。 ＊食品学総論展開内容の補足も行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第3章「食品の一次機能」（43～65ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第7回	**授業テーマ**	食品の一次機能⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	5．ビタミン（前回の続き） 6．ミネラル について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第3章「食品の一次機能」（59～70ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分

第8回	授業テーマ	食品の一次機能⑥ 食品の二次機能①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	6．ミネラル（前回の続き） 1．色素成分 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第3章「食品の一次機能」（65～70ページ）、第4章「食品の二次機能」（71～76ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第9回	授業テーマ	食品の二次機能②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2．呈味・匂い成分 3．食品のコロイド について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第4章「食品の二次機能」（76～87ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第10回	授業テーマ	食品の二次機能③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4．食品のテクスチャー 5．食品のレオロジー について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第4章「食品の二次機能」（87～98ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第11回	授業テーマ	食品の三次機能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．消化管内で作用する機能 2．消化管吸収後の標的組織での体調調節機能 3．体調調節機能をもつ植物以外の活性成分 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第5章「食品の三次機能」（99～112ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第12回	授業テーマ	食品成分の相互作用①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．たんぱく質の変化 2．炭水化物の変化 3．脂質の変化 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第6章「食品成分の相互作用」（113～125ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第13回	授業テーマ	食品成分の相互作用②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3．脂質の変化（前回の続き） 4．褐変（酵素的褐変、非酵素的褐変） 5．酵素による成分変化 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第6章「食品成分の相互作用」（120～133ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
	授業テーマ	食品表示の規格：健康や栄養に関する食品表示
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	1．食品表示制度 2．健康や栄養に関する食品表示

第14回	含む)	について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第7章「食品表示の規格：健康や栄養に関する食品表示」（135～158ページ）を読んでおくこと。 第1回目～第14回までの授業内容の復習を行っておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分

学習計画注記

＊授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。

評価方法

中間確認課題40%、定期試験（筆記試験）60%の総合評価（100%）とします。課題等に関する評価のルーブリックは当該授業のGoogleClassroomへ掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間確認課題	○	○	○	○
定期試験（筆記試験）	○	○		○

評価割合

中間確認課題40%、定期試験（筆記試験）60%の総合評価（100%）とします。課題等に関する評価のルーブリックは当該授業のGoogleClassroomへ掲載します。

使用教科書名(ISBN番号)

食べ物と健康，食品と衛生 食品学総論 第４版 編：辻 英明 編：海老原 清 編：渡邊 浩幸 編：竹内 弘幸
定価2600+税 2021年3月22日発行 B5 ・176ページ ISBN 978-4-06-522467-0

参考図書

授業内で必要に応じて，紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】食品の成分と機能に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技術・表現】専門的知識を他者に正しく伝える文章力を身につける。

オフィスアワー

金曜2限目 2308研究室 授業前後やメール等で事前に予約と訪問時間の承諾を得て下さい。

学生へのメッセージ

食品を理解するために基礎生物学，基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なかたほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。
現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。
また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、中学校教諭一種免許状、高等学

校教諭一種免許状（家庭）に必要な選択科目でもあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポート作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	資料提供、課題提出等に活用する。 必要に応じて、授業中に食品成分構造視聴に活用する。

講義コード	G06031001
講義名	食品学各論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大嶋 孝之	指定なし

ナンバリング

R20302M21

授業概要(教育目的)

多種多様な食品を利用し、ヒトは生命を維持しながら、多彩な食文化を構築し、食生活を営んでいる。食生活形成においては食材の特性を知り、有効活用できる能力が必要である。本講義においては、日本食品標準成分上の分類ごとの特性と属する食品素材に加え、グローバル化する現況を鑑み、輸入食材や新たな食素材にも視点をおき、選択を的確に行うために必要性な専門的知識を学ぶ授業展開を行う。

履修条件

高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	多種多様な食品の特性とその利用について専門的知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	多種多様な食品の特性を活かした思考、応用判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	多種多様な食品の特性に関心をもち、応用展開ができる。
技術・表現の観点 (A)	多種多様な食品の特性を他者へ正しく伝える文章を作成できる。

学習計画

	授業テーマ	人間と食品① 食品成分表①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	1．食生活の変遷 2．食品廃棄と食品ロス 3．食品成分表

第1回	**用を含む)**	について理解する。 ＊食品学総論展開内容の補足も行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第1章「人間と食品」（1～13ページ）、第2章「食品成分表（七訂）を使いこなすには」（17～28）ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第2回	**授業テーマ**	人間と食品② 食品成分表②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3．食品成分表（前回の続き） 4．日本の食文化 について理解する。 ＊食品学総論展開内容の補足も行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第1章「人間と食品」（7～16ページ）、第2章「食品成分表（七訂）を使いこなすには」（17～28）ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第3回	**授業テーマ**	植物性食品①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．穀類（種類と特徴、加工特性（種類と特徴、加工特性等）等） 2．いも及びでん粉類 について理解する。 ＊食品学総論展開内容の補足も行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第3章「植物性食品」（29～45ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第4回	**授業テーマ**	植物性食品②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3．砂糖及び甘味類（種類と特徴、加工特性等） 4．豆類（種類と特徴、加工特性等） について理解する。 ＊食品学総論展開内容の補足も行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第3章「植物性食品」（45～56ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第5回	**授業テーマ**	植物性食品③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	5．種実類（種類と特徴、加工特性等） 6．野菜類（種類と特徴、加工特性等） について理解する。 ＊食品学総論展開内容の補足も行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第3章「植物性食品」（56～68ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第6回	**授業テーマ**	植物性食品④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	7．果実類（種類と特徴、加工特性等） 8．きのこ類（種類と特徴、加工特性等） について理解する。 ＊食品学総論展開内容の補足も行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第3章「植物性食品」（68～78ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
	授業テーマ	動物性食品①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	1．魚介類（種類と特徴、加工特性等）

第7回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	について理解する。 ＊食品学総論展開内容の補足も行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第4章「動物性食品」（79～88ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第8回	授業テーマ	動物性食品②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2．肉類（種類と特徴、加工特性等） について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第4章「動物性食品」（88～98ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第9回	授業テーマ	動物性食品③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3．卵類（種類と特徴、加工特性等） 4．乳類（種類と特徴、加工特性等） について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第4章「動物性食品」（98～114ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第10回	授業テーマ	油脂類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．油脂類（種類と特徴等） について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第5章「油脂類、菓子類、し好性飲料、調味料及び香辛料、調理加工食品類」（115～122ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第11回	授業テーマ	菓子類 し好性飲料
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2．菓子類（種類と特徴等） 3．し好性飲料（種類と特徴等） について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第5章「油脂類、菓子類、し好性飲料、調味料及び香辛料、調理加工食品類」（122～128ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第12回	授業テーマ	調味料及び香辛料 調理加工食品類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4．調味料及び香辛料（種類と特徴等） 5．調理加工食品類（種類と特徴等） について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第5章「油脂類、菓子類、し好性飲料、調味料及び香辛料、調理加工食品類」（128～132ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第13回	授業テーマ	食品成分表（7訂）に記載された調理条件、注意を要する食品
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品成分表（7訂）に記載された調理条件、注意を要する食品 について理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第6章「食品成分表（7訂）に記載された調理条件、注意を要する食品」（163～179ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第14回	**授業テーマ**	食品表示法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品表示法 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第7章「食品表示法」（180～193ページ）を読んでおくこと。 第1回目～第14回までの授業内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分

学習計画注記

＊授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。

評価方法

中間確認課題40%、定期試験（筆記試験）60%の総合評価（100%）とします。課題等に関する評価のルーブリックは当該授業のGoogleClassroomへ掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間確認課題	○	○	○	○
定期試験（筆記試験）	○	○		○

評価割合

中間確認課題40%、定期試験（筆記試験）60%の総合評価とし、評価のルーブリックは当該授業GoogleClassroomへ掲載。

使用教科書名(ISBN番号)

ステップアップ栄養・健康科学シリーズ 食品学II 中島肇、佐藤薫／編 株式会社化学同人
定価2300+税 2017年4月28日発行 B5 ・184ページ ISBN 978-4-7598-1895-6

参考図書

＊購入の必要性はありません。二重購入を行わないように注意してください。
ステップアップ栄養・健康科学シリーズ 食品学I 佐藤薫、中島肇／編
定価2300+税 2017年3月28日発行 B5 ・184ページ ISBN 978-4-7598-1894-9
ステップアップ栄養・化学シリーズ 食品加工学 著者中島肇・佐藤薫 編 化学同人 出版年月日 2020年3月30日 ISBN9784759818963 判型・ページ数B5 ・176ページ 定価本体2,300円＋税
または
栄養科学イラストレイテッド 食品学I 改訂第2版 食べ物と健康―食品の成分と機能を学ぶ／羊土社
水品善之、菊﨑泰枝、小西洋太郎／編
定価2600+税 2021年10月25日発行 B5判 216ページ ISBN 978-4-7581-1365-6
ご自身が使用された当該年度の発刊をご持参ください。新規に購入する必要性はありません。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】食品の分類と特性に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技術・表現】専門的知識を他者に正しく伝える文章力を身につける。

オフィスアワー

火曜日2限目 2308研究室 授業前後やメール等で事前に予約と訪問時間の承諾を得て下さい。

学生へのメッセージ

食品を理解するために基礎生物学、基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なかたほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。
現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格、フードコーディネーター3級認定登録に関する必修科目でもあります。家庭科の中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状の資格取得の選択科目でもあります。
●1年次「食品学総論」で使用した教科書（参考図書部分に記載）を初回より毎回、持参して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポート等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	資料提供、課題提出等に活用する。 必要に応じて、授業中に生産・製造工程動画視聴に活用する。

講義コード	G06032001
講義名	食品学実験
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大嶋 孝之	指定なし

ナンバリング

R20303M13

授業概要(教育目的)

健康の維持・増進に不可欠な各種食品成分の栄養特性・成分変化、性質を実践的に理解するために、食品に係わる分析法、分析技術、分析値の解析を学ぶ授業展開を行う。また、実験を行うにあたり必要となる化学実験における一般的注意事項や試薬・器具・機器の取り扱いついても学びながら、科学的な考え方や技術を学ぶ授業展開も行う。

履修条件

高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	食品の成分分析の基礎と併せて理化学試験を遂行する知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	倫理的、客観的視野から実験結果を捉える思考、判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実験を編成された班で協同遂行し、実験工程における試料変化等に関心をもち、実験工程、結果を観察し、情報共有ができる。
技術・表現の観点 (A)	安全性と倫理性に留意した精密で正確な実験操作ができる。

学習計画

	授業テーマ	実験を行うための基礎知識・基礎実験を行う準備①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品学実験を行う注意事項、試薬調製、実験器具、基本操作を理解し、実働する。 実験器具の洗浄と乾燥を行う。

第1回	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第2回	授業テーマ	実験を行うための基礎知識・基礎実験を行う準備②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品学実験を行う注意事項、試薬調製、実験器具、基本操作を理解し、実働する。 計測器具・機器の特性把握を行う。 試薬調製を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第3回	授業テーマ	定性分析と定量分析①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	容量分析；中和滴定（水酸化ナトリウム溶液の標定）を行う。 食品成分定量実験用試料調製を行う。 水分の定量；常圧加熱乾燥法用秤量びん恒量① 灰分の定量；直接灰化法用るつぼの恒量①
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第4回	授業テーマ	定性分析と定量分析②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	容量分析；中和滴定（食酢中の酢酸の定量）を行う。 食品成分定量実験用試料調製を行う。 水分の定量；常圧加熱乾燥法用秤量びん恒量② 灰分の定量；直接灰化法用るつぼの恒量②
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第5回	授業テーマ	定性分析と定量分析③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	容量分析；沈澱滴定（醤油中の食塩の定量）を行う。 食品成分定量実験用試料調製を行う。 水分の定量；常圧加熱乾燥法用秤量びん恒量③ 灰分の定量；直接灰化法用るつぼの恒量③
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第6回	授業テーマ	定性分析と定量分析④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	強酸と強塩基の滴定曲線作成を行う（pH測定）。 水分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量① 灰分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量①
	(	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験

	教室外学習 予習・復習)の内容	内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第7回	**授業テーマ**	定性分析と定量分析⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	タンパク質・アミノ酸の定性反応実験を行う。 水分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量② 灰分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量②
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第8回	**授業テーマ**	定性分析と定量分析⑥
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質の定性反応実験を行う。 水分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量③ 灰分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量③
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第9回	**授業テーマ**	定性分析と定量分析⑦
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖の定性反応実験を行う。 脂質の定量；ソックスレー抽出法：受器（脂肪定量びん）恒量①
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第10回	**授業テーマ**	定性分析と定量分析⑧
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質の定量；ソックスレー抽出法：試料と円筒ろ紙精秤、受器（脂肪定量びん）恒量② タンパク質の定量；ケルダール法：試薬調製
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第11回	**授業テーマ**	定性分析と定量分析⑨
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質の定量；ソックスレー抽出法：脂質抽出 タンパク質の定量；ケルダール法：試薬調製、試料調製
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
	授業テーマ	定性分析と定量分析⑩
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	脂質の定量；ソックスレー抽出法：脂質抽出後の受器（脂

第12回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肪定量びん）恒量① タンパク質の定量；ケルダール法：試料の分解
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第13回	授業テーマ	定性分析と定量分析⑪
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質の定量；ソックスレー抽出法：脂質抽出後の受器（脂肪定量びん）恒量② タンパク質の定量；ケルダール法：蒸留・中和滴定①
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。 ３．第1回～第13回までの振返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第14回	授業テーマ	定性分析と定量分析⑫＋確認試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	タンパク質の定量；ケルダール法：蒸留・中和滴定 分析データのまとめを行う。 実技＋筆記試験（実技内容を含む）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分

学習計画注記

＊授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。

評価方法

実験態度（編成された班における協同の様子等）30%、実験結果解析・課題レポート70%の総合評価（100%）とします。評価詳細のルーブリックは当該GoogleClassroomへ掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実験態度	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○

評価割合

実験態度（編成された班における協同の様子等）30%、実験結果解析・課題レポート70%の総合評価（100%）とします。評価詳細のルーブリックは当該GoogleClassroomへ掲載します。

使用教科書名(ISBN番号)

実験食品学実験―実験で学ぶ食品学― 改訂初版／同文書院 江角彰彦 著
定価2750円（税込）ISBN978-4-8103-1517-2

参考図書

栄養科学イラストレイテッド 食品学I 食べ物と健康―食品の成分と機能を学ぶ／羊土社
水品善之、菊﨑泰枝、小西洋太郎／編 定価2600+税
栄養科学イラストレイテッド 食品学II改訂第2版食べ物と健康―食品の分類と特性、加工を学ぶ／羊土社
栢野新市、水品善之、小西洋太郎／編 定価2700円＋税

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】食品の専門的な知識を基礎に多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】実験内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技術・表現】食品成分分析における専門的技術を身につける。

オフィスアワー

火曜日2限目 2308研究室 授業前後やメール等で事前に予約と訪問時間の承諾を得て下さい。

学生へのメッセージ

食品を理解するために基礎生物学，基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なかたほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。
現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。
また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格に必要な必修科目でもあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	指定されたグループで協同かつ得られた結果を共有し、共に解析を行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	資料提供、課題提出等に活用する。

講義コード	G06032002
講義名	食品学実験（RB)
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	必修
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

R20303M13

授業概要(教育目的)

健康の維持・増進に不可欠な各種食品成分の栄養特性・成分変化、性質を実践的に理解するために、食品に係わる分析法、分析技術、分析値の解析を学ぶ授業展開を行う。また、実験を行うにあたり必要となる化学実験における一般的注意事項や試薬・器具・機器の取り扱いついても学びながら、科学的な考え方や技術を学ぶ授業展開も行う。現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科である。また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格に必要な必修科目でもある。

履修条件

高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	食品の成分分析の基礎と併せて理化学試験を遂行する知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	倫理的、客観的視野から実験結果を捉える思考、判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実験を編成された班で協同遂行し、実験工程における試料変化等に関心をもち、実験工程、結果を観察し、情報共有ができる。
技術・表現の観点 (A)	安全性と倫理性に留意した精密で正確な実験操作ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	実験を行うための基礎知識・基礎実験を行う準備①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品学実験を行う注意事項、試薬調製、実験器具、基本操作を理解し、実働する。 実験器具の洗浄と乾燥を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。

		２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第2回	**授業テーマ**	実験を行うための基礎知識・基礎実験を行う準備②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品学実験を行う注意事項、試薬調製、実験器具、基本操作を理解し、実働する。 計測器具・機器の特性把握を行う。 試薬調製を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第3回	**授業テーマ**	定性分析と定量分析①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	容量分析；中和滴定（水酸化ナトリウム溶液の標定）を行う。 食品成分定量実験用試料調製を行う。 水分の定量；常圧加熱乾燥法用秤量びん恒量① 灰分の定量；直接灰化法用るつぼの恒量①
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第4回	**授業テーマ**	定性分析と定量分析②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	容量分析；中和滴定（食酢中の酢酸の定量）を行う。 食品成分定量実験用試料調製を行う。 水分の定量；常圧加熱乾燥法用秤量びん恒量② 灰分の定量；直接灰化法用るつぼの恒量②
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第5回	**授業テーマ**	定性分析と定量分析③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	容量分析；沈澱滴定（醤油中の食塩の定量）を行う。 食品成分定量実験用試料調製を行う。 水分の定量；常圧加熱乾燥法用秤量びん恒量③ 灰分の定量；直接灰化法用るつぼの恒量③
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第6回	**授業テーマ**	定性分析と定量分析④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	強酸と強塩基の滴定曲線作成を行う（pH測定）。 水分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量① 灰分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量①
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
		30　　60

	教室外学習の時間（分）	予習　分、復習　分
第7回	**授業テーマ**	定性分析と定量分析⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	タンパク質・アミノ酸の定性反応実験を行う。 水分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量② 灰分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量②
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第8回	**授業テーマ**	定性分析と定量分析⑥
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質の定性反応実験を行う。 水分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量③ 灰分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量③
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第9回	**授業テーマ**	定性分析と定量分析⑦
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖の定性反応実験を行う。 脂質の定量；ソックスレー抽出法：受器（脂肪定量びん）恒量①
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第10回	**授業テーマ**	定性分析と定量分析⑧
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質の定量；ソックスレー抽出法：試料と円筒ろ紙精秤、受器（脂肪定量びん）恒量② タンパク質の定量；ケルダール法：試薬調製
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第11回	**授業テーマ**	定性分析と定量分析⑨
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質の定量；ソックスレー抽出法：脂質抽出 タンパク質の定量；ケルダール法：試薬調製、試料調製
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第12回	**授業テーマ**	定性分析と定量分析⑩
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質の定量；ソックスレー抽出法：脂質抽出後の受器（脂肪定量びん）恒量① タンパク質の定量；ケルダール法：試料の分解
		１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験

	教室外学習(予習・復習)の内容	内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第13回	**授業テーマ**	定性分析と定量分析⑪
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質の定量；ソックスレー抽出法：脂質抽出後の受器（脂肪定量びん）恒量② タンパク質の定量；ケルダール法：蒸留・中和滴定①
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。 ３．第1回～第13回までの振返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第14回	**授業テーマ**	定性分析と定量分析⑫＋確認試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	タンパク質の定量；ケルダール法：蒸留・中和滴定 分析データのまとめを行う。 実技＋筆記試験（実技内容を含む）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分

学習計画注記

＊授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。

評価方法

実験態度（編成された班における協同の様子等）25%、実験結果解析・課題レポート45%、実技試験（実験操作）10%、筆記試験（全14回授業内容）20%の総合評価（100%）とします。評価詳細のルーブリックは当該GoogleClassroomへ掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実験態度	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○
実技試験	○	○		○
筆記試験	○	○		

評価割合

実験態度25%、実験結果解析・課題レポート45%、実技試験10%、筆記試験20%の総合評価（100%）、評価のルーブリックは当該各担当GoogleClassroomへ掲載。

使用教科書名(ISBN番号)

実験食品学実験―実験で学ぶ食品学― 改訂初版／同文書院 江角彰彦 著
定価2750円（税込）ISBN978-4-8103-1517-2

参考図書

栄養科学イラストレイテッド 食品学I 食べ物と健康―食品の成分と機能を学ぶ／羊土社
水品善之、菊﨑泰枝、小西洋太郎／編 定価2600+税
栄養科学イラストレイテッド 食品学II改訂第2版食べ物と健康―食品の分類と特性、加工を学ぶ／羊土社
栢野新市、水品善之、小西洋太郎／編 定価2700円＋税

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】食品の専門的な知識を基礎に多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】実験内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技術・表現】食品成分分析における専門的技術を身につける。

オフィスアワー

火曜日2限目 2308研究室 授業前後、メール等で事前に予約と時間の承諾を得て下さい。

学生へのメッセージ

食品を理解するために基礎生物学，基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なかたほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。
現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。
また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格に必要な必修科目でもあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。
アクティブ・ラーニング	○	指定されたグループで協同かつ得られた結果を共有し、共に解析を行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	資料提供、課題提出等に活用する。

講義コード	G06033001
講義名	食品衛生学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大嶋 孝之	指定なし

ナンバリング

R30304M21

授業概要(教育目的)

食品に対する多様な要望の中でも安全性は基本的必要条件である。食品衛生の対象は食品だけでなく食品添加物、器具、容器包装、おもちゃ、洗剤なども含まれる。近年の食中毒の発生状況からみた傾向、食品添加物の安全性と発ガンの問題、食品と感染症や寄生虫との関係などについての理解を深め、食生活の中で留意すべき点についても学ぶ。

履修条件

高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	多種多様な食品と場の安全管理に必要な専門的知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	多種多様な食品と場の安全確保の思考、応用判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	多種多様な食品と場の安全管理に関心をもち、応用展開ができる。
技術・表現の観点 (A)	多種多様な食品と場の安全管理に関する事項を他者へ正しく伝える文章を作成できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	私たちの食生活と食品衛生
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	私たちの食生活と食品衛生 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の	教科書；第1章「私たちの食生活と食品衛生」を読んでお

	内容	くこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第2回	**授業テーマ**	食品の安全性を保障する仕組み
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の安全性を保障する仕組み について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第2章「食品の安全性を保障する仕組み」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第3回	**授業テーマ**	食品の変質と腐敗，汚染
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の変質と腐敗，汚染 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第3章「食品の変質と腐敗，汚染」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第4回	**授業テーマ**	食品による食中毒を引き起こす微生物と毒素の特徴①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品による食中毒を引き起こす微生物と毒素の特徴 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第4章「食品による食中毒を引き起こす微生物と毒素の特徴」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第5回	**授業テーマ**	食品による食中毒を引き起こす微生物と毒素の特徴②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品による食中毒を引き起こす微生物と毒素の特徴 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第4章「食品による食中毒を引き起こす微生物と毒素の特徴」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第6回	**授業テーマ**	食品による食中毒を引き起こす微生物と毒素の特徴③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品による食中毒を引き起こす微生物と毒素の特徴 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第4章「食品による食中毒を引き起こす微生物と毒素の特徴」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第7回	**授業テーマ**	食品による食中毒を引き起こす微生物と毒素の特徴④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品による食中毒を引き起こす微生物と毒素の特徴 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第4章「食品による食中毒を引き起こす微生物と毒素の特徴」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第8回	**授業テーマ**	食品による感染症と寄生虫症，人畜共通感染症
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品による感染症と寄生虫症，人畜共通感染症 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第5章「食品による感染症と寄生虫症，人畜共通感染症」を読んでおくこと。

	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第9回	**授業テーマ**	食品添加物①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品添加物 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第6章「食品添加物」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第10回	**授業テーマ**	食品添加物②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品添加物 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第6章「食品添加物」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第11回	**授業テーマ**	食品添加物③ 食品の安全性を保障する具体的な仕組み：食品表示と規格基準①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品添加物 食品の安全性を保障する具体的な仕組み：食品表示と規格基準 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第6章「食品添加物」、第7章「食品の安全性を保障する具体的な仕組み：食品表示と規格基準」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第12回	**授業テーマ**	食品の安全性を保障する具体的な仕組み：食品表示と規格基準②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の安全性を保障する具体的な仕組み：食品表示と規格基準 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第7章「食品の安全性を保障する具体的な仕組み：食品表示と規格基準」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第13回	**授業テーマ**	食品の安全性を担保するこれからの仕組み①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の安全性を担保するこれからの仕組み について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第8章「食品の安全性を担保するこれからの仕組み」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第14回	**授業テーマ**	食品の安全性を担保するこれからの仕組み②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の安全性を担保するこれからの仕組み について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第8章「食品の安全性を担保するこれからの仕組み」を読んでおくこと。 第1回目～第14回までの授業内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分

学習計画注記

＊授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。

評価方法

中間確認課題40%、定期試験60%の総合評価（100%）とします。課題等に関する評価のルーブリックは当該授業のGoogleClassroomへ掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間確認課題	○	○	○	○
定期試験（筆記試験）	○	○		○

評価割合

中間確認課題40%、定期試験（筆記試験）60%の総合評価とし、評価のルーブリックは当該授業GoogleClassroomへ掲載。

使用教科書名(ISBN番号)

食品衛生学 第2版(新スタンダード栄養・食物シリーズ8)一色賢司 編
定価2500+税 2019年3月17日発行 B5 ・248ページ ISBN 9784807916801 株式会社化学同人

参考図書

＊購入は必要性ありません。
トニー・ハート 恐怖の病原体図鑑 ウイルス・細菌・真菌完全ビジュアルガイド 西村書店
濱田篤郎 寄生虫ビジュアル図鑑 危険度・症状で知る人に寄生する生物 誠文堂新光社

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】食品の分類と特性に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技術・表現】専門的知識を他者に正しく伝える文章力を身につける。

オフィスアワー

火曜日2限目 2308研究室 授業前後やメール等で事前に予約と訪問時間の承諾を得て下さい。

学生へのメッセージ

食品を理解するために基礎生物学、基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なかたほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。
現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格、フードコーディネーター3級認定登録に関する必修科目でもあります。家庭科の中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状の資格取得の選択科目でもあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポート作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	資料提供、課題提出等に活用する。 必要に応じて、授業中に危機管理システム理解や危害対象物特性視聴に活用する。

講義コード	G06034001
講義名	食品衛生学実験
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大嶋 孝之	指定なし

ナンバリング

R30305M13

授業概要(教育目的)

実際に取引をされている食品の安全性はどのように確認をされているのか、基準を設定されているのか、食品を扱う・食品衛生の管理を行う・食品衛生管理の指導をする立場として必要とされる食品衛生管理手法を実際の各現場における実用性にも視点をおき、実験手法を通して講義教科で学んだ内容を体得していく。実験を行うにあたり必要となる化学実験における一般的注意事項や試薬・器具・機器の取り扱いついても学びながら、科学的な考え方や技術を学ぶ授業展開も行う。

履修条件

高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	食品衛生管理の基礎知識と併せて理化学試験を遂行する知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	倫理的、客観的視野から実験結果を捉える思考、判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実験を編成された班で協同遂行し、実験工程における試料変化等に関心をもち、実験工程、結果を観察し、情報共有ができる。
技術・表現の観点 (A)	安全性と倫理性に留意した精密で正確な実験操作ができる。

学習計画

	授業テーマ	実験を行うための基礎知識・基礎実験を行う準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	

第1回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品衛生学実験を行うための基礎知識・食品微生物学的検査を行うための事前準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第2回	授業テーマ	食品の微生物的検査①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発酵食品を試料とした細菌の形態観察と染色法、顕微鏡観察を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第3回	授業テーマ	食品の微生物的検査②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の一般衛生微生物検査（生菌数・大腸菌群・真菌類・黄色ブドウ球菌）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第4回	授業テーマ	食品の微生物的検査③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前週に採取・培養した食品の一般衛生微生物検査（生菌数・大腸菌群・真菌類・黄色ブドウ球菌）結果の解析を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第5回	授業テーマ	環境衛生実験①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	飲用水中の生菌・大腸菌検査、水道水の残留塩素試験、空中落下細菌検査を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第6回	授業テーマ	環境衛生実験②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前週に採取・培養した飲用水中の生菌・大腸菌検査結果、空中落下細菌検査結果解析を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。

	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第7回	**授業テーマ**	食品の鮮度・異常簡易試験①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理器具・手指の細菌検査、食品成分の残留試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第8回	**授業テーマ**	食品の鮮度・異常簡易試験②＋実技試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理器具・手指の細菌検査結果解析を行う。 魚類の鮮度試験（揮発性塩基窒素測定）を行う。 顕微鏡操作に関する実技試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。 ３．顕微鏡操作に関して復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第9回	**授業テーマ**	食品の鮮度・異常簡易試験③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	牛乳の鮮度試験（レサズリン試験）、卵の鮮度試験（比重測定，割卵判定）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第10回	**授業テーマ**	食品の鮮度・異常簡易試験④ 食品の理化学試験①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	油脂の変質試験（酸価試験，過酸化物価試験）を行う。 容器包装材試験（材料判別燃焼試験）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第11回	**授業テーマ**	食品の理化学試験②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保存料試験（高速液体クロマトグラフィー・紫外線吸光法による定性・定量試験）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
	授業テーマ	食品の理化学試験③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	着色料試験（薄層クロマトグラフィーによる定性試験，羊毛染色法試験）を行う。

第12回	を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第13回	授業テーマ	食品の理化学試験④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	漂白料試験（亜硫酸定性試験，通気蒸留法による定量試験）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。 ３．第1～第13回の授業内容の復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第14回	授業テーマ	食品の理化学試験⑤＋筆記試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発色剤試験（比色法による亜硝酸塩定量試験）を行う。 筆記試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分

学習計画注記

＊授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。

評価方法

実験態度（編成された班における協同の様子等）30%、実験結果解析・課題レポート70%の総合評価（100%）とします。評価詳細のルーブリックは当該GoogleClassroomへ掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実験態度	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○

評価割合

実験態度（編成された班における協同の様子等）30%、実験結果解析・課題レポート70%の総合評価（100%）とします。評価詳細のルーブリックは当該GoogleClassroomへ掲載します。

使用教科書名(ISBN番号)

新しい食品衛生実験 新版第2版
西島基弘・宮澤文雄・安達修一・石川ふさ子・井部明弘・大島赴夫・金井美恵子・佐藤吉朗
三共出版 B5判 148ページ ISBN 978-4-7827-0753-1

参考図書

栄養科学イラストレイテッド 食品衛生学 改訂第２版
田﨑達明／編 羊土社 2019年08月20日発行 B5判 272ページ ISBN 978-4-7581-1359-5

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】食品衛生管理の専門的な知識を基礎に、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】実験内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技術・表現】食品衛生分析における専門的技術を身につける。

オフィスアワー

金曜2限目 2308研究室 授業前後やメール等で事前に予約と訪問時間の承諾を得て下さい。

学生へのメッセージ

食品衛生管理を理解するために基礎生物学，基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なかたほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。
現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。
また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格に必要な必修科目でもあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。
アクティブ・ラーニング	○	指定されたグループで協同かつ得られた結果を共有し、共に解析を行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	資料提供、課題提出等に活用する。

講義コード	G06034002
講義名	食品衛生学実験（RB)
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

R30305M13

授業概要(教育目的)

実際に取引をされている食品の安全性はどのように確認をされているのか、基準を設定されているのか、食品を扱う・食品衛生の管理を行う・食品衛生管理の指導をする立場として必要とされる食品衛生管理手法を実際の各現場における実用性にも視点をおき、実験手法を通して講義教科で学んだ内容を体得していく。実験を行うにあたり必要となる化学実験における一般的注意事項や試薬・器具・機器の取り扱いついても学びながら、科学的な考え方や技術を学ぶ授業展開も行う。

履修条件

高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	食品衛生管理の基礎知識と併せて理化学試験を遂行する知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	倫理的、客観的視野から実験結果を捉える思考、判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実験を編成された班で協同遂行し、実験工程における試料変化等に関心をもち、実験工程、結果を観察し、情報共有ができる。
技術・表現の観点 (A)	安全性と倫理性に留意した精密で正確な実験操作ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	実験を行うための基礎知識・基礎実験を行う準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品衛生学実験を行うための基礎知識・食品微生物学的検査を行うための事前準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。

	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第2回	**授業テーマ**	食品の微生物的検査①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発酵食品を試料とした細菌の形態観察と染色法、顕微鏡観察を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第3回	**授業テーマ**	食品の微生物的検査②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の一般衛生微生物検査（生菌数・大腸菌群・真菌類・黄色ブドウ球菌）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第4回	**授業テーマ**	食品の微生物的検査③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前週に採取・培養した食品の一般衛生微生物検査（生菌数・大腸菌群・真菌類・黄色ブドウ球菌）結果の解析を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第5回	**授業テーマ**	環境衛生実験①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	飲用水中の生菌・大腸菌検査、水道水の残留塩素試験、空中落下細菌検査を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第6回	**授業テーマ**	環境衛生実験②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前週に採取・培養した飲用水中の生菌・大腸菌検査結果、空中落下細菌検査結果解析を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第7回	**授業テーマ**	食品の鮮度・異常簡易試験①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理器具・手指の細菌検査、食品成分の残留試験を行う。
		１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験

	教室外学習(予習・復習)の内容	内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第8回	**授業テーマ**	食品の鮮度・異常簡易試験②＋実技試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理器具・手指の細菌検査結果解析を行う。 魚類の鮮度試験（揮発性塩基窒素測定）を行う。 顕微鏡操作に関する実技試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。 ３．顕微鏡操作に関して復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第9回	**授業テーマ**	食品の鮮度・異常簡易試験③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	牛乳の鮮度試験（レサズリン試験）、卵の鮮度試験（比重測定，割卵判定）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第10回	**授業テーマ**	食品の鮮度・異常簡易試験④ 食品の理化学試験①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	油脂の変質試験（酸価試験，過酸化物価試験）を行う。 容器包装材試験（材料判別燃焼試験）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第11回	**授業テーマ**	食品の理化学試験②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保存料試験（高速液体クロマトグラフィー・紫外線吸光法による定性・定量試験）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第12回	**授業テーマ**	食品の理化学試験③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	着色料試験（薄層クロマトグラフィーによる定性試験，羊毛染色法試験）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分

第13回	授業テーマ	食品の理化学試験④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	漂白料試験（亜硫酸定性試験，通気蒸留法による定量試験）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。 ３．第1～第13回の授業内容の復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第14回	授業テーマ	食品の理化学試験⑤＋筆記試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発色剤試験（比色法による亜硝酸塩定量試験）を行う。 筆記試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分

学習計画注記

＊授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。

評価方法

実験態度（編成された班における協同の様子等）30%、実験結果解析・課題レポート70%の総合評価（100%）とします。評価詳細のルーブリックは当該GoogleClassroomへ掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実験態度	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○

評価割合

実験態度（編成された班における協同の様子等）30%、実験結果解析・課題レポート70%の総合評価（100%）とします。評価詳細のルーブリックは当該GoogleClassroomへ掲載します。

使用教科書名(ISBN番号)

新しい食品衛生実験 新版第2版
西島基弘・宮澤文雄・安達修一・石川ふさ子・井部明弘・大島赴夫・金井美恵子・佐藤吉朗
三共出版 B5判 148ページ ISBN 978-4-7827-0753-1

参考図書

栄養科学イラストレイテッド 食品衛生学 改訂第２版
田﨑達明／編 羊土社 2019年08月20日発行 B5判 272ページ ISBN 978-4-7581-1359-5

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】食品衛生管理の専門的な知識を基礎に、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。

【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】実験内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技術・表現】食品衛生分析における専門的技術を身につける。

オフィスアワー

金曜2限目 2308研究室 授業前後やメール等で事前に予約と訪問時間の承諾を得て下さい。

学生へのメッセージ

食品衛生管理を理解するために基礎生物学，基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なかたほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。
現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。
また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格に必要な必修科目でもあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	指定されたグループで協同かつ得られた結果を共有し、共に解析を行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	資料提供、課題提出等に活用する。

講義コード	G06035001
講義名	基礎栄養学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	岩本 直樹	指定なし

ナンバリング

R20401M21

授業概要(教育目的)

栄養とは何かを理解し、健康の維持・増進や疾病の予防・治療における栄養の役割について学ぶ。また、五大栄養素（炭水化物、脂質、タンパク質、ビタミン、無機質）の生理的意義を理解するとともに、消化・吸収の仕組みや栄養素の体内動態についても講義する。
さらに、栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験の出題基準に基づき、管理栄養士・栄養士として必要不可欠な基礎知識を習得する。本科目は、栄養士免許証の取得に加え、フードスペシャリスト、教職（中学・高校）、食品衛生監視員・食品衛生指導者、フードコーディネーターの資格取得に必要な必修科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．栄養に関する基本用語を説明することができる。 2．５大栄養素の体内での変化、生理的作用並びに相互作用ついて説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	各栄養素がからだの中に入ると消化器官のどこでどのような作用を受け、どのような作用を発揮するのかを類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	健康の保持・増進における栄養の役割を説明できる。
技術・表現の観点 (A)	基礎栄養学を通じて、食と健康など、生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身に付けている。

学習計画

	授業テーマ	栄養の定義、摂食行動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	栄養の定義、生活リズムと食生活および摂食の調節につい

第1回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	て学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第2章（p1−19）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	炭水化物の栄養（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	炭水化物の消化・吸収について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第5章（p53−65）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	炭水化物の栄養（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	炭水化物の体内代謝について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第5章（p53−65）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	脂質の栄養（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質の消化と吸収について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6章（p67−77）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	脂質の栄養（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質の体内代謝、脂質代謝異常と動脈硬化について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6章（p67−77）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	タンパク質の栄養（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アミノ酸とタンパク質とは何か、タンパク質の消化と吸収について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第4章（p39−52）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	タンパク質の栄養（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	タンパク質の体内代謝について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第4章（p39−52）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	ビタミンの栄養（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂溶性ビタミンの働きと摂取量について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第7章（p79−97）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	ビタミンの栄養（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水溶性ビタミンの働きと摂取量について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第7章（p79−97）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	無機質の栄養
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	多量元素・微量元素の働きと摂取量について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第8章（p99−112）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	機能性非栄養成分
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水・食物繊維について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第9章（p113−121）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	消化と吸収と栄養素の体内動態（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消化器系の構造と機能（消化の場・仕組み）について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第3章（p21−38）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	消化と吸収と栄養素の体内動態（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消化・吸収の基本概念（吸収部位・吸収の仕組み）について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	(	教科書の第3章（p21−38）を通読する。

	教室外学習 予習・復習)の内容	教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	エネルギー代謝
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生体におけるエネルギー、消費エネルギーについてについて学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第10章（p123−136）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

※シラバスの内容は、やむを得ない事情等により一部変更することがあります。
※教科書が改訂された場合は、シラバス記載のページ数が異なることがあります。

学生へのフィードバック方法

・毎回の授業時に実施する小テストの問題や解答は、Google Classroomのフォーム内に掲載する。必ず確認すること。
・定期試験および追再試験の問題用紙は返却する。
・質問がある場合は、2101研究室を訪問するか、E-mailで問い合わせること。
・小テストの結果や総合成績は、随時Google Classroomにアップされる。各自確認すること。

評価方法

・ルーブリックに基づいて成績を評価する。ルーブリックの詳細はGoogle Classroom等で提示する。
・小テストは、前回の授業内容から出題し、全13回実施する。各回の問題数は原則5問、5点満点の五者択一形式とする。小テストを受験しなかった場合は、解説・解答を提示するため、追再テストは実施しない。
・毎回の小テストの問題をもとにディスカッションを行い、その受け答えを通じて「学習態度」を評価する。
・定期試験は、小テストの振り返りを踏まえ、100点満点で出題する。
・小テスト、定期試験、および学習態度の評価は、下表に示す力を養うことを目的とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○	○	○	
定期試験	○	○		
学習態度			○	○

評価割合

定期試験（60%）および授業中に行う小テスト（30%）、さらに学習態度（10%）で総合的に判断し評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

川端輝江編『基礎栄養学 栄養素のはたらきを理解するために』アイケイコーポレーション

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。

【関心・意欲・態度】様々な事象について、関心を持ち自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
【技能・表現】専門的、体系的な学修を通じて、生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身に付けている。

オフィスアワー

火曜2・4限 2101研究室
（2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）

学生へのメッセージ

基礎栄養学は、応用栄養学や人体の構造、臨床栄養学と深く関わる科目です。2年前期に「基礎栄養学」をしっかりと習得すれば、これらの科目の理解が深まり、学習がスムーズに進みます。結果として、栄養士実力認定試験（3年次全員受験）や管理栄養士国家試験（希望者・要実務経験）の勉強も効率よく進められます。集中して取り組み、確実に知識を身につけてほしいです。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	毎時間、小テストを用いて発表やディスカッションを行う。ディスカッションを行うことで、知識の定着はもちろん、自分の意見を正しく伝えて説得するための論理的思考力が鍛えられる。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。また、小テスト等はGoogleフォームを用いる。試験結果や総合成績はGoogle Classroomに逐一アップする。

講義コード	G06036001
講義名	応用栄養学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	岩本 直樹	指定なし

ナンバリング

R20402M21

授業概要(教育目的)

本講義では、人の一生を通じた発育、加齢、妊娠などの各ライフステージにおける身体の構造変化や、生理学的・生化学的な代謝の変化について学ぶ。これらの知識を基に、各段階に応じた適切な栄養ケア・マネジメント（栄養管理）の基本的な考え方を習得する。
さらに、適切な評価・判定を行い、身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の方法を学ぶ。栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験の出題基準に基づき、管理栄養士・栄養士に必要な各ライフステージ別の栄養学の基礎知識を理解する。また、運動・スポーツ、ストレス、特殊環境における栄養ケアについても学ぶ。
本科目は、栄養士免許証および食品衛生監視員・食品衛生指導者の資格取得に必要な必修科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．各ライフステージにおける身体状況や栄養状態に応じた栄養管理について説明できる。 2．運動や特殊環境における人体の特性、栄養管理について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	健康の維持・増進及び疾病予防のために栄養素の機能等を十分理解し、健康に及ぼすリスクの管理について基本的な考え方を説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	基礎的な栄養素の知識や解剖生理学の知識を応用し、総合的に理解するよう取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	専門的、体系的な学修を通じて、食と健康など、生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身に付けている。

学習計画

第1回	授業テーマ	食事摂取基準
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ライフステージ別食事摂取基準について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第2章（p27−58）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	成長・発達・加齢
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動機能の発達、加齢による機能低下について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第3章（p59−74）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	妊娠期（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	妊娠期の生理的特徴と性周期について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第4章（p75−101）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	妊娠期（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	妊娠期の栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第4章（p75−101）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	授乳期
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授乳期の栄養・食事管理について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第4章（p75−101）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	新生児・乳児期（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新生児・乳児の生理的特徴について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第5章（p105−126）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習す

		る。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	新生児・乳児期（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新生児期・乳児期の発育について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第5章（p105−126）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	成長期（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	成長期（幼児期・学童期・思春期）の生理的特徴について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6章（p127-156）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	成長期（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	成長期（幼児期・学童期・思春期）の栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6章（p127-156）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	成人期（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	成人期の生理的特徴について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第7章（p157−176）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	成人期（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	成人期の栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第7章（p157−176）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	高齢期（１）
		高齢期の生理的特徴について学ぶ。

第12回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第8章（p177-198）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	高齢期（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢期の栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第8章（p177-198）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	健康増進と運動、スポーツ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	健康増進と運動およびスポーツと栄養について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第9章（p201-214）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

※シラバスの内容は、やむを得ない事情等により一部変更することがあります。
※教科書が改訂された場合は、シラバス記載のページ数が異なることがあります。

学生へのフィードバック方法

・毎回の授業時に実施する小テストの問題や解答は、Google Classroomのフォーム内に掲載する。必ず確認すること。
・定期試験および追再試験の問題用紙は返却する。
・質問がある場合は、2101研究室を訪問するか、E-mailで問い合わせること。
・小テストの結果や総合成績は、随時Google Classroomにアップされる。各自確認すること。

評価方法

・ルーブリックに基づいて成績を評価する。ルーブリックの詳細はGoogle Classroom等で提示する。
・小テストは、前回の授業内容から出題し、全13回実施する。各回の問題数は原則5問、5点満点の五者択一形式とする。小テストを受験しなかった場合は、解説・解答を提示するため、追再テストは実施しない。
・毎回の小テストの問題をもとにディスカッションを行い、その受け答えを通じて「学習態度」を評価する。
・定期試験は、小テストの振り返りを踏まえ、100点満点で出題する。
・小テスト、定期試験、および学習態度の評価は、下表に示す力を養うことを目的とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○	○	○	
定期試験	○	○		

学習態度			○	○

評価割合

定期試験（60%）および授業中に行う小テスト（30%）、さらに学習態度（10%）で総合的に判断し評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

栢下淳編『栄養科学イラストレイテッド応用栄養学』羊土社

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】様々な事象について、関心を持ち自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
【技能・表現】専門的、体系的な学修を通じて、生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身に付けている。

オフィスアワー

火曜3・4限 2101研究室
（2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）

学生へのメッセージ

「応用栄養学」では、さまざまなライフステージに加え、スポーツ時や特殊な環境下における人体の生理的特徴を理解し、それぞれの状況に応じた栄養管理を学ぶ。学ぶ範囲は広範にわたるが、習得した知識を自身や家族、友人の健康に役立てられるよう、主体的に取り組んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	毎時間、小テストを用いて発表やディスカッションを行う。ディスカッションを行うことで、知識の定着はもちろん、自分の意見を正しく伝えて説得するための論理的思考力が鍛えられる。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。また、小テスト等はGoogleフォームを用いる。試験結果や総合成績はGoogle Classroomに逐一アップする。

講義コード	G06037001
講義名	栄養学各論実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	岩本 直樹	指定なし

ナンバリング

R30405M13

授業概要(教育目的)

応用栄養学の講義を踏まえ、各ライフステージおよびさまざまな環境に応じた実践的な栄養マネジメントが展開できることを目指す。目的となる対象者の特性を理解し、食事摂取基準に基づいた献立作成も含めた食事計画を行い、実際に作成した献立を実習することで理解を深める。本科目は、栄養士免許証取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	応用栄養学で学習した内容を基礎とし、各ライフステージ及びスポーツ時の特性を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	対象者に応じた栄養ケアプロセスを展開し、栄養診断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	各課題に対し、他者との協働を重んじて貢献することができる。 食品構成からの献立作成、調理、供食という一連の流れを、実践に繋げていくことができる。
技術・表現の観点 (A)	ライフステージ別における栄養管理の特徴を示し、栄養マネジメントが展開できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション・栄養マネジメントの理論、栄養診断、ＳＯＡＰの書き方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オリエンテーション（実習の目的と進め方）を行う。また栄養マネジメントや栄養診断、SOAPについて学ぶ。

	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	妊娠期の栄養（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	妊娠期のモデルに対して栄養診断・献立作成をする。妊娠期及び授乳期に関する栄養士実力認定試験の問題を用いてディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。栄養士実力認定試験の問題集を解く。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	妊娠期の栄養（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	妊娠期のモデルに対して立てた献立で調理実習を行い、評価をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	乳児期の栄養（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児期のモデルに対する献立作成を行う。乳児期に関する栄養士実力認定試験の問題を用いてディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	乳児期の栄養（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児期のモデルに対する調乳実習と評価を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	**授業テーマ**	乳児期の栄養（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児期のモデルに対して栄養診断及び離乳食調理を行い、さらに粥の種類について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	思春期の栄養（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	思春期のモデルに対する献立作成を行う。また、思春期を含めた成長期に関する栄養士実力認定試験の問題を用いてディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。栄養士実力認定試験の問題集を解く。

	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	思春期の栄養（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	思春期のモデルに対して立てた献立で調理実習を行い、評価をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	高齢期の栄養（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢期のモデルに対して献立作成を行う。また、高齢期に関する栄養士実力認定試験の問題を用いてディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。栄養士実力認定試験の問題集を解く。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	高齢期の栄養（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢期のモデルに対して立てた献立で軟菜食調理を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	高齢期の栄養（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	介護食について学び調理や市販品の試食を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	スポーツと栄養（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	競技スポーツ選手のモデルに対して献立作成を行う。また、実際にスポーツ選手が摂る補食の試食やプロテイン飲料の試飲を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	スポーツと栄養（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	競技スポーツ選手のモデルに対して立てた献立で調理を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分

第14回	授業テーマ	総括と学習到達度の確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1 回目～13回目の実習についての総括を行い、授業の一部で学習到達度の確認テストを実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	確認テストの復習をする。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

※シラバスの内容は、やむを得ない事情等により一部変更することがあります。

学生へのフィードバック方法

・提出されたレポート（オリジナル実習ノート）は、評価した後に返却する。確認テストも同様に問題用紙は返却する。
・質問等がある場合には2101研究室まで訪問（E-mailでも可）すること。

評価方法

・ルーブリックに基づいて成績を評価する。ルーブリックについてはGoogle Classroom等で提示する。
・確認テストは実習の振り返りを行い、100点満点で出題する。
・実習内容と関連する栄養士実力認定試験問題集を用いてディスカッションする。そこで「実習態度」を評価する。
・評価方法であるレポート、確認テストおよび実習態度は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○	○	
確認テスト	○	○		
実習態度			○	○

評価割合

科目修了試験40%、レポート（オリジナル実習ノート）評価50%および実習態度10%で総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

栢下淳編『栄養科学イラストレイテッド応用栄養学』羊土社:2年次後期購入済

参考図書

小野友紀編『子どもの食と栄養』アイ・ケイコーポレーション

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】実習内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技能・表現】専門的、体系的な学修を通じて、生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身に付けている。

オフィスアワー

火曜3・4限 2101研究室
（2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）

学生へのメッセージ

実習時は白衣（調理用）を着用のこと。
レポート（オリジナル実習ノート）の提出は、提出期限・形式を守ること。
授業内容を事前に教科書などで予習すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	指定された班員おいて、調理を協同し、得られた結果を共有する。。また、定期的に栄養士実力認定試験の問題を用いて発表やディスカッションを行う。ディスカッションを行うことで、知識の定着はもちろん、自分の意見を正しく伝えて説得するための論理的思考力が鍛えられる。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。

講義コード	G06037002
講義名	栄養学各論実習（RB)
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

R30405M13

授業概要(教育目的)

応用栄養学の講義を踏まえ、各ライフステージおよびさまざまな環境に応じた実践的な栄養マネジメントが展開できることを目指す。目的となる対象者の特性を理解し、食事摂取基準に基づいた献立作成も含めた食事計画を行い、実際に作成した献立を実習することで理解を深める。本科目は、栄養士免許証取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	応用栄養学で学習した内容を基礎とし、各ライフステージ及びスポーツ時の特性を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	対象者に応じた栄養ケアプロセスを展開し、栄養診断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	各課題に対し、他者との協働を重んじて貢献することができる。 食品構成からの献立作成、調理、供食という一連の流れを、実践に繋げていくことができる。
技術・表現の観点 (A)	ライフステージ別における栄養管理の特徴を示し、栄養マネジメントが展開できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション・栄養マネジメントの理論、栄養診断、ＳＯＡＰの書き方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オリエンテーション（実習の目的と進め方）を行う。また栄養マネジメントや栄養診断、SOAPについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	妊娠期の栄養（1）
	(	

第2回	学習内容 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	妊娠期のモデルに対して栄養診断・献立作成をする。妊娠期及び授乳期に関する栄養士実力認定試験の問題を用いてディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。栄養士実力認定試験の問題集を解く。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	妊娠期の栄養（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	妊娠期のモデルに対して立てた献立で調理実習を行い、評価をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	乳児期の栄養（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児期のモデルに対する献立作成を行う。乳児期に関する栄養士実力認定試験の問題を用いてディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	乳児期の栄養（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児期のモデルに対する調乳実習と評価を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	乳児期の栄養（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児期のモデルに対して栄養診断及び離乳食調理を行い、さらに粥の種類について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	思春期の栄養（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	思春期のモデルに対する献立作成を行う。また、思春期を含めた成長期に関する栄養士実力認定試験の問題を用いてディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。栄養士実力認定試験の問題集を解く。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	思春期の栄養（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	思春期のモデルに対して立てた献立で調理実習を行い、評価をする。

第8回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	高齢期の栄養（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢期のモデルに対して献立作成を行う。また、高齢期に関する栄養士実力認定試験の問題を用いてディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。栄養士実力認定試験の問題集を解く。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	高齢期の栄養（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢期のモデルに対して立てた献立で軟菜食調理を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	高齢期の栄養（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	介護食について学び調理や市販品の試食を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	スポーツと栄養（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	競技スポーツ選手のモデルに対して献立作成を行う。また、実際にスポーツ選手が摂る補食の試食やプロテイン飲料の試飲を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	スポーツと栄養（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	競技スポーツ選手のモデルに対して立てた献立で調理を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	総括と学習到達度の確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1 回目～13回目の実習についての総括を行い、授業の一部で学習到達度の確認テストを実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	確認テストの復習をする。

	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

※シラバスの内容は、やむを得ない事情等により一部変更することがあります。

学生へのフィードバック方法

・提出されたレポート（オリジナル実習ノート）は、評価した後に返却する。確認テストも同様に問題用紙は返却する。
・質問等がある場合には2101研究室まで訪問（E-mailでも可）すること。

評価方法

◆ルーブリックに基づいて成績を評価する。ルーブリックについてはGoogle Classroom等で提示する。
・確認テストは実習の振り返りを行い、100点満点で出題する。
・実習内容と関連する栄養士実力認定試験問題集を用いてディスカッションする。そこで「実習態度」を評価する。
・評価方法であるレポート、確認テストおよび実習態度は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○	○	
確認テスト	○	○		
実習態度			○	○

評価割合

科目修了試験40%、レポート（オリジナル実習ノート）評価50%および実習態度10%で総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

堀江祥允編『ライフステージ栄養学実習書』光生館

参考図書

栢下淳編『栄養科学イラストレイテッド応用栄養学』羊土社
小野友紀編『子どもの食と栄養』アイ・ケイコーポレーション

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】実習内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技能・表現】専門的、体系的な学修を通じて、生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身に付けている。

オフィスアワー

月曜4・5限 2101研究室
（2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）

学生へのメッセージ

実習時は白衣（調理用）を着用のこと。
レポート（オリジナル実習ノート）の提出は、提出期限・形式を守ること。
授業内容を事前に教科書などで予習すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	指定された班員おいて、調理を協同し、得られた結果を共有する。。また、定期的に栄養士実力認定試験の問題を用いて発表やディスカッションを行う。ディスカッションを行うことで、知識の定着はもちろん、自分の意見を正しく伝えて説得するための論理的思考力が鍛えられる。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。

講義コード	G06038001
講義名	臨床栄養学総論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	岩本 直樹	指定なし

ナンバリング

R30403M21

授業概要(教育目的)

栄養ケアプロセスの概要を知り、臨床栄養学分野における栄養士業務について学ぶ。また、栄養素の補給手段である栄養法（経口栄養・経腸栄養・静脈栄養）について学ぶ。そして、代表的な代謝・内分泌疾患である肥満、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症などの病態生理や栄養状態の特徴に基づいた適切な栄養管理の基本を学ぶ。
栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験出題基準に従い、管理栄養士・栄養士に必要不可欠な栄養学の基礎知識を理解する。本科目は、栄養士免許証取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．医療における臨床栄養の意義を説明できる。 2．栄養補給法の目的、種類、手法について説明ができる。
思考・判断の観点 (K)	各疾患の栄養生理及び栄養食事療法について説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	職業倫理を理解し、チーム医療における管理栄養士の役割について説明できる。
技術・表現の観点 (A)	専門的、体系的な学修を通じて、食と健康など、生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身に付けている。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	臨床栄養の概念
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臨床栄養の意義・医療及び介護における管理栄養士・栄養士について学ぶ。

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第1章（p2−9）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	栄養ケア・マネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養ケアの意義と方法、栄養スクリーニング、栄養評価等について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第2章（p10−35）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	人体への栄養補給（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養補給法の歴史、経口栄養法について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第3章（p36−37）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	人体への栄養補給（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	経腸栄養法について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第3章（p38−41）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	人体への栄養補給（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	経静脈栄養法について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第3章（p42−45）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	栄養障害
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養失調、たんぱく質・エネルギー栄養障害やリフィーディング症候群及びその患者の栄養管理について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第5章（p52−57）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	肥満と代謝疾患（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肥満・メタボリックシンドロームについて学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復	教科書の第6章（p58−61）を通読する。

	習)の内容	教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	肥満と代謝疾患（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質異常症（病態生理）について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6章（p70−75）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	肥満と代謝疾患（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質異常症（栄養食事療法・薬物療法）について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6 章（p70−75）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	肥満と代謝疾患（4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖尿病（病態生理、薬物療法）について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6章（p62−69）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	肥満と代謝疾患（5）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖尿病（栄養食事療法）について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6章（p62−69）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	肥満と代謝疾患（6）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖尿病（運動療法・妊娠糖尿病・小児糖尿病）について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6章（p62−69）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	肥満と代謝疾患（7）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖尿病腎症、高尿酸血症と痛風について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第11章（p164−166）第6章（p76−81）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。

	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	消化器疾患
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	胃炎、胃・十二指腸潰瘍・胃癌、大腸癌及びその患者の栄養管理について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第7章（p88−103）及び第8章（p106-115）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

※シラバスの内容は、やむを得ない事情等により一部変更することがあります。
※教科書が改訂された場合、シラバス記載のページ数が異なることがあります。

学生へのフィードバック方法

・毎回の授業時に実施する小テストの問題や解答は、Google Classroomのフォーム内に掲載する。必ず確認すること。
・定期試験および追再試験の問題用紙は返却する。
・質問がある場合は、2101研究室を訪問するか、E-mailで問い合わせること。
・小テストの結果や総合成績は、随時Google Classroomにアップされる。各自確認すること。

評価方法

・ルーブリックに基づいて成績を評価する。ルーブリックの詳細はGoogle Classroom等で提示する。
・小テストは、前回の授業内容から出題し、全13回実施する。各回の問題数は原則5問、5点満点の五者択一形式とする。小テストを受験しなかった場合は、解説・解答を提示するため、追再テストは実施しない。
・毎回の小テストの問題をもとにディスカッションを行い、その受け答えを通じて「学習態度」を評価する。
・定期試験は、小テストの振り返りを踏まえ、100点満点で出題する。
・小テスト、定期試験、および学習態度の評価は、下表に示す力を養うことを目的とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○	○	○	
定期試験	○	○		
学習態度			○	○

評価割合

定期試験（60%）および授業中に行う小テスト（30%）、さらに学習態度（10%）で総合的に判断し評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

多賀昌樹編『臨床栄養学基礎から学べる』アイ・ケイコーポレーション

参考図書

日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版』文光堂

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。

【関心・意欲・態度】様々な事象について、関心を持ち自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
【技能・表現】専門的、体系的な学修を通じて、生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身に付けている。

オフィスアワー

火曜2・4限 2101研究室
（2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）

学生へのメッセージ

病院で働く栄養士は主に患者の食事を作る調理業務を担い、管理栄養士は患者一人ひとりの病状に合わせた栄養管理や栄養指導を行います。そのため、学生時代に学ぶ「臨床栄養学」はとても重要です。
しかし「臨床栄養学」は病院のような医療施設や介護施設で働かなければ必要ないのでは？と思われがちですが、私たちの各ライフステージにおいて、臨床栄養学の知識はとても役に立ちます。
対象者の病態や栄養状態をどのようにすれば改善できるのかを学ぶことはもちろんですが、私たちが食習慣や栄養についてどのように気を付ければこのような病気にならないか、健康でいられるのかを学ぶことができます。
ぜひ「自分ごと化」して前向きに取り組んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	毎時間、小テストを用いて発表やディスカッションを行う。ディスカッションを行うことで、知識の定着はもちろん、自分の意見を正しく伝えて説得するための論理的思考力が鍛えられる。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。また、小テスト等はGoogleフォームを用いる。試験結果や総合成績はGoogle Classroomに逐一アップする。

講義コード	G06039001
講義名	臨床栄養学各論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	岩本 直樹	指定なし

ナンバリング

R30407M21

授業概要(教育目的)

疾患・病態の成立および予防と治療に栄養がどのように関係しているかの機序を学び、どのような栄養学的治療手段が適切かを学び、対象者のQOLを損なわない食事について考える。病状に影響を及ぼす栄養素、食品、調理法を知り、適正な栄養管理を行う為の知識を得る。
栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験出題基準に従い、管理栄養士・栄養士に必要不可欠な栄養学の基礎知識を理解する。本科目は、栄養士免許証取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各疾患の栄養状態、病態について説明ができる。
思考・判断の観点 (K)	1．栄養・治療アセスメントの意義・手技を呈示することができる。 2．各疾患の患者の栄養ケアについて説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	職業倫理を理解し、チーム医療における管理栄養士の役割について説明できる。
技術・表現の観点 (A)	専門的、体系的な学修を通じて、食と健康など、生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身に付けている。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	循環器疾患（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高血圧、動脈硬化及びその患者の栄養管理について学ぶ。
	教室外学習(予習・復	教科書の第10章（p138−153）を通読する。

	習)の内容	教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	循環器疾患（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	虚血性心疾患・心不全及びその患者の栄養管理について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第10章（p138−153）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	腎臓の疾患（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	腎臓の働きと栄養代謝について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第11章（p154−189）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	腎臓の疾患（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	慢性腎臓病とその患者の栄養管理について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第11章（p154−189）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	腎臓の疾患（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糸球体腎炎・ネフローゼ症候群・透析及びその患者の栄養管理について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第11章（p154−189）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	血液疾患
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	貧血とその患者の栄養管理について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第15章（p216−223）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	筋・骨格疾患
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	骨粗鬆症、くる病、サルコペニアについて学ぶ。また、それらの栄養ケアについても学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復	教科書の第16章（p224−233）を通読する。

	習)の内容	教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	免疫とアレルギー疾患、感染症
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	免疫とアレルギー疾患、感染症及びその患者の栄養管理について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第5章（p234−243）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	乳幼児・小児疾患
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先天性代謝異常症・周期性嘔吐症・消化不良症について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第20章（p270−283）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	妊産婦・授乳婦疾患
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	妊娠高血圧症候群について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第21章（p284−287）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	摂食障害、神経疾患
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	神経性食欲不振症及び神経性過食症について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第13章（p196−203）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	呼吸器系疾患
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息の栄養管理について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第14章（p204−213）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	肝・胆膵系疾患
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肝臓の働きと栄養代謝及び肝炎、脂肪肝、NAFLD及びその患者の栄養管理について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復	教科書の第9章（p116−135）を通読する。

	習)の内容	教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	内分泌の疾患
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	甲状腺機能亢進症と低下症についてについて学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第12章（p190−195）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

※シラバスの内容は、やむを得ない事情等により一部変更することがあります。
※教科書が改訂された場合、シラバス記載のページ数が異なることがあります。

学生へのフィードバック方法

・毎回の授業時に実施する小テストの問題や解答は、Google Classroomのフォーム内に掲載する。必ず確認すること。
・定期試験および追再試験の問題用紙は返却する。
・質問がある場合は、2101研究室を訪問するか、E-mailで問い合わせること。
・小テストの結果や総合成績は、随時Google Classroomにアップされる。各自確認すること。

評価方法

・ルーブリックに基づいて成績を評価する。ルーブリックの詳細はGoogle Classroom等で提示する。
・小テストは、前回の授業内容から出題し、全13回実施する。各回の問題数は原則5問、5点満点の五者択一形式とする。小テストを受験しなかった場合は、解説・解答を提示するため、追再テストは実施しない。
・毎回の小テストの問題をもとにディスカッションを行い、その受け答えを通じて「学習態度」を評価する。
・定期試験は、小テストの振り返りを踏まえ、100点満点で出題する。
・小テスト、定期試験、および学習態度の評価は、下表に示す力を養うことを目的とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○	○	○	
定期試験	○	○		
学習態度			○	○

評価割合

定期試験（60%）および授業中に行う小テスト（30%）、さらに学習態度（10%）で総合的に判断し評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

多賀昌樹編『臨床栄養学基礎から学べる』アイ・ケイコーポレーション

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】様々な事象について、関心を持ち自ら課題を見出し、その解決に意欲的

取り組むことができる。
【技能・表現】専門的、体系的な学修を通じて、生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身に付けている。

オフィスアワー

火曜3・4限 2101研究室
（2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）

学生へのメッセージ

病院で働く栄養士は主に患者の食事を作る調理業務を担い、管理栄養士は患者一人ひとりの病状に合わせた栄養管理や栄養指導を行います。そのため、学生時代に学ぶ「臨床栄養学」はとても重要です。
しかし「臨床栄養学」は病院のような医療施設や介護施設で働かなければ必要ないのでは？と思われがちですが、私たちの各ライフステージにおいて、臨床栄養学の知識はとても役に立ちます。
対象者の病態や栄養状態をどのようにすれば改善できるのかを学ぶことはもちろんですが、私たちが食習慣や栄養についてどのように気を付ければこのような病気にならないか、健康でいられるのかを学ぶことができます。
ぜひ「自分ごと化」して前向きに取り組んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	毎時間、小テストを用いて発表やディスカッションを行う。ディスカッションを行うことで、知識の定着はもちろん、自分の意見を正しく伝えて説得するための論理的思考力が鍛えられる。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。また、小テスト等はGoogleフォームを用いる。試験結果や総合成績はGoogle Classroomに逐一アップする。

講義コード	G06040001
講義名	臨床栄養学実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	吉川 絵梨	指定なし

ナンバリング

R30406M13

授業概要(教育目的)

臨床栄養学の実践として、各疾患の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理（栄養ケアマネジメント）を行うために、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、栄養療法の基礎を学び、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について理解することを目的とする。さらに、代表的な治療食の献立作成から調理、評価を行えるようにする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1.適切な栄養管理を行うために、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解できる 2.具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について理解できる 3.チーム医療における管理栄養士の役割を理解できる
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	1.チーム医療の一員として臨床に通用する力を身につけることができる
技術・表現の観点 (A)	1.代表的な疾患の病態に適した治療食の献立作成、調理ができる

学習計画

	授業テーマ	授業概要 病院における管理栄養士の役割

		栄養補給方法
第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業概要の説明 病院における管理栄養士の役割、治療食、栄養補給方法について理解する 臨床検査からの栄養状態および病態の評価、身体計測、カルテの書き方、食事調査について実習を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養学の授業を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	授業テーマ	治療食の意義、目的 一般治療食（展開食）①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	傷病者の栄養補給方法について学ぶ 一般治療食の展開を学び、献立作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養学の授業を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	一般治療食（展開食）②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	一般治療食（展開食）の調理実習を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回作成した献立を調理できるよう準備しておく
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	授業テーマ	一般治療食（展開食）③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	一般治療食（展開食）の栄養管理、献立作成、調理についてグループごとに発表する（パワーポイントで資料作成するためパソコン利用します）
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表準備をしておく
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	脂質異常症、肥満症 糖尿病①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質異常症、肥満症、糖尿病の栄養管理計画書作成 糖尿病食の献立作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	脂質異常症、肥満症、糖尿病について調べておく
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	糖尿病②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖尿病の栄養管理計画書作成 糖尿病食の献立作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	糖尿病について調べておく
	教室外学習の時間	

	(分)	50分
第7回	**授業テーマ**	糖尿病③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖尿病食の調理実習を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回作成した献立を調理できるよう準備しておく
	教室外学習の時間(分)	50分
第8回	**授業テーマ**	エネルギーコントロール食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖尿病食の栄養管理、献立作成、調理についてグループごとに発表する（パワーポイントで資料作成するためパソコン利用します） その他エネルギーコントロール食について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表準備をしておく
	教室外学習の時間(分)	50分
第9回	**授業テーマ**	腎臓病①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	腎臓病の栄養管理計画書作成 腎臓病食の献立作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	腎臓病について調べておく
	教室外学習の時間(分)	50分
第10回	**授業テーマ**	腎臓病②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	腎臓病の栄養管理計画書作成 腎臓病食の献立作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	腎臓病について調べておく
	教室外学習の時間(分)	50分
第11回	**授業テーマ**	腎臓病③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	腎臓病食の調理実習を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回作成した献立を調理できるよう準備しておく
	教室外学習の時間(分)	50分
第12回	**授業テーマ**	たんぱくコントロール食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	腎臓病食の栄養管理、献立作成、調理についてグループごとに発表する（パワーポイントで資料作成するためパソコン利用します） その他たんぱくコントロール食について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表準備をしておく
	教室外学習の時間	50分

	（分）	
第13回	**授業テーマ**	濃厚流動食①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	濃厚流動食の利用方法について学ぶ 濃厚流動食の試飲をする 病態別の濃厚流動食について調べる
	教室外学習(予習・復習)の内容	濃厚流動食を調べておく
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	**授業テーマ**	まとめ 確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	確認テストを実施、解説を行い授業のまとめをする
	教室外学習(予習・復習)の内容	今までの授業を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

履修者や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

提出した課題は次週返却し、授業中に解説します。

評価方法

平常点、発表、課題提出
初回の授業でルーブリックについて説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点、発表、課題提出	○		○	○

評価割合

平常点40%、発表30%、課題提出30%

使用教科書名(ISBN番号)

糖尿病食事療法のための食品交換表(978-4-8306-6046-7)
腎臓病食品交換表（978-4-263-70674-9）

参考図書

臨床栄養学 基礎から学べる アイ・ケイコーポレーション

ディプロマポリシーとの関連

適切な栄養管理を行うためにための知識と技術を有している。
チーム医療の一員として栄養管理に責任をもって参画できる知識と技術を有している。

学生へのメッセージ

チーム医療の中で、管理栄養士は責任をもって積極的に栄養管理をしていく必要があります。ぜひ積極的に授業に参加し、その知識と技術を習得してください。臨床現場のみならず多方面で活躍できる管理栄養士を目指しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、臨床現場での栄養管理の経験を有し、その経験を元に授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを中心に授業を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G06040002
講義名	臨床栄養学実習（RB)
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

R30406M13

授業概要(教育目的)

臨床栄養学の実践として、各疾患の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理（栄養ケアマネジメント）を行うために、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、栄養療法の基礎を学び、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について理解することを目的とする。さらに、代表的な治療食の献立作成から調理、評価を行えるようにする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1.適切な栄養管理を行うために、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解できる 2.具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について理解できる 3.チーム医療における管理栄養士の役割を理解できる
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	1.チーム医療の一員として臨床に通用する力を身につけることができる
技術・表現の観点 (A)	1.代表的な疾患の病態に適した治療食の献立作成、調理ができる

学習計画

第1回	**授業テーマ**	授業概要 病院における管理栄養士の役割 治療食の意義、目的 栄養補給方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業概要の説明 病院における管理栄養士の役割、治療食、栄養補給方法について理解する 臨床検査からの栄養状態および病態の評価、身体計測、カルテの書き方、食事調査について実習を行う

		傷病者の栄養補給方法について学ぶ、一般治療食の展開を学び、献立作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養学の授業を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	10分
第2回	**授業テーマ**	肥満症、脂質異常症
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肥満症、脂質異常症の栄養管理計画書作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	肥満症、脂質異常症について調べておく
	教室外学習の時間（分）	10分
第3回	**授業テーマ**	糖尿病①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖尿病の栄養管理計画書作成 糖尿病食の献立作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	糖尿病について調べておく
	教室外学習の時間（分）	10分
第4回	**授業テーマ**	糖尿病②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖尿病の栄養管理計画書作成 糖尿病食の献立作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	糖尿病について調べておく
	教室外学習の時間（分）	10分
第5回	**授業テーマ**	糖尿病③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖尿病食の調理実習を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回作成した献立を調理できるよう準備しておく
	教室外学習の時間（分）	30分
第6回	**授業テーマ**	エネルギーコントロール食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖尿病食の栄養管理、献立作成、調理についてグループごとに発表する（パワーポイントで資料作成するためパソコン利用します） その他エネルギーコントロール食について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表準備をしておく
	教室外学習の時間（分）	30分
第7回	**授業テーマ**	腎臓病①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	腎臓病の栄養管理計画書作成 腎臓病食の献立作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	腎臓病について調べておく
	教室外学習の時間（分）	10分
	授業テーマ	腎臓病②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	

第8回	**情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	腎臓病の栄養管理計画書作成 腎臓病食の献立作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	腎臓病について調べておく
	教室外学習の時間（分）	10分
第9回	**授業テーマ**	腎臓病③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	腎臓病食の調理実習を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回作成した献立を調理できるよう準備しておく
	教室外学習の時間（分）	30分
第10回	**授業テーマ**	たんぱくコントロール食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	腎臓病食の栄養管理、献立作成、調理についてグループごとに発表する（パワーポイントで資料作成するためパソコン利用します） その他たんぱくコントロール食について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表準備をしておく
	教室外学習の時間（分）	30分
第11回	**授業テーマ**	濃厚流動食①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	濃厚流動食の利用方法について学ぶ 濃厚流動食の試飲をする 病態別の濃厚流動食について調べる
	教室外学習(予習・復習)の内容	濃厚流動食を調べておく
	教室外学習の時間（分）	30分
第12回	**授業テーマ**	濃厚流動食②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	病態別の濃厚流動食について試飲し、発表する（パワーポイントで資料作成するためパソコン利用します）
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回調べた病態別の濃厚流動食について発表できるよう準備しておく
	教室外学習の時間（分）	30分
第13回	**授業テーマ**	在宅栄養管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	病態別の在宅栄養管理について学ぶ 試食した感想をグループごとに発表する
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表準備をしておく
	教室外学習の時間（分）	10分
第14回	**授業テーマ**	まとめ 確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	確認テストを実施、解説を行い授業のまとめをする
	教室外学習(予習・復習)の内容	今までの授業を復習しておく
	教室外学習の時間（分）	30分

学習計画注記

履修者や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

提出した課題は次週返却し、授業中に解説します。

評価方法

平常点、発表、課題提出
初回の授業でルーブリックについて説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点、発表、課題提出	○		○	○

評価割合

平常点30%、発表30%、課題提出40%

使用教科書名(ISBN番号)

糖尿病食事療法のための食品交換表(978-4-8306-6046-7)
腎臓病食品交換表（978-4-263-70674-9）

参考図書

臨床栄養学 基礎から学べる アイ・ケイコーポレーション

ディプロマポリシーとの関連

適切な栄養管理を行うためにための知識と技術を有している。
チーム医療の一員として栄養管理に責任をもって参画できる知識と技術を有している。

学生へのメッセージ

チーム医療の中で、管理栄養士は責任をもって積極的に栄養管理をしていく必要があります。ぜひ積極的に授業に参加し、その知識と技術を習得してください。臨床現場のみならず多方面で活躍できる管理栄養士を目指しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、臨床現場での栄養管理の経験を有し、その経験を元に授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを中心に授業を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G06041001
講義名	栄養学実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期後半
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	岩本 直樹	指定なし

ナンバリング

R30404M13

授業概要(教育目的)

基礎栄養学の講義では、栄養学の基礎領域を全体的に学んだ。本実習ではこれらの基礎知識を、「動物」や「ヒト（自分）」のサンプルを用い実験・実習を通して再確認する。本科目は、栄養士免許証取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	生体成分（血液、尿、唾液）の成分値や体内での働きについてについて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	生命の尊厳を尊重できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1．各課題に対し、他者との協働を重んじて貢献することができる。 2．実習を通して学んだ栄養に関する知識を、応用栄養学や人体の構造、臨床栄養学で発展できる。
技術・表現の観点 (A)	栄養士資格専門科目教育内容の「栄養と健康」の科目（基礎栄養学、応用栄養学、臨床栄養学）の知識に基づいて論じることができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オリエンテーション（実習の目的と進め方）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分

第2回	授業テーマ	味の閾値と五基本味
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	味の閾値と五基本味の識別の検査を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	生活時間調査票
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活時間調査票からのエネルギー代謝量の算出を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	正常尿成分実験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	尿中尿素窒素の測定を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	血糖値の測定①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	経口ブドウ糖負荷試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	血糖値の測定②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	経口ブドウ糖負荷試験の評価をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	血糖値の測定③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品成分が血糖に与える影響について、血糖値を測定して観察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	血糖値の測定④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品成分が血糖に与える影響について、測定した血糖値を用いて考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	食品成分が腸内細菌叢に与える影響
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品（海藻）を用いて腸内細菌について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	呼気からの安静時代謝の算出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	呼気からの安静時代謝の算出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	安静時代謝量の測定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃ	安静時代謝量の測定を行う。

第11回	ﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	ビタミン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ビタミンの過剰症・欠乏症カルタ大会を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	ミネラル
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ミネラルの過剰症・欠乏症カルタ大会を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	総括と学習到達度の確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1回目～13回目の実習についての総括を行い、授業の一部で学習到達度の確認テストを実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	確認テストの復習をする。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

※シラバスの内容は、やむを得ない事情等により一部変更することがあります。

学生へのフィードバック方法

・提出されたレポート（オリジナル実習ノート）は、評価した後に返却する。確認テストも同様に問題用紙は返却する。
・質問等がある場合には2101研究室まで訪問（E-mailでも可）すること。

評価方法

・ルーブリックに基づいて成績を評価する。ルーブリックについてはGoogle Classroom等で提示する。
・確認テストは実習の振り返りを行い、100点満点で出題する。
・実習内容と関連する栄養士実力認定試験問題集を用いてディスカッションする。そこで「実習態度」を評価する。
・評価方法であるレポート、確認テストおよび実習態度は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○	○	
確認テスト	○	○		
実習態度			○	○

評価割合

科目修了試験40%、レポート（オリジナル実習ノート）評価50%および実習態度10%で総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

『基礎栄養学』で使用した教科書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる

知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】実習内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技能・表現】専門的、体系的な学修を通じて、生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身に付けている。

オフィスアワー

火曜2・4限 2101研究室
（2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）

学生へのメッセージ

実習時は白衣（実験用）を着用のこと。
レポート（オリジナル実習ノート）の提出は、提出期限・形式を守ること。
授業内容を事前に教科書などで予習すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	指定された班員おいて、実験・実習を協同し、得られた結果を共有、解析する。また、定期的に栄養士実力認定試験の問題を用いて発表やディスカッションを行う。ディスカッションを行うことで、知識の定着はもちろん、自分の意見を正しく伝えて説得するための論理的思考力が鍛えられる。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	実験で得られたデータについて、Excel等を用いて図示して検討する方法を習得する。また、Google Classroomに課題や資料を共有する。

講義コード	G06042001
講義名	栄養指導論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	三澤 朱実	指定なし

ナンバリング

R30501M21

授業概要(教育目的)

・本科目は、栄養士免許証の取得のための必修科目である。この授業では、人々の健康増進や疾病予防のため、健康状態や栄養状態、食生活状況を把握する方法（栄養アセスメント）について解説する。加えて、対象者のライフステージ、ライフスタイルに合わせた栄養指導・教育の方法について、個別指導と集団指導に分けて、P（計画）・D（実施）・C（評価）・A（改善）サイクルに沿って、教授します。

履修条件

特に無し

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・学生が栄養指導対象者の健康・栄養状態をアセスメントする方法を説明できる。 ・学生が対象者のライフステージ、ライフスタイルに沿った栄養指導ポイントを説明できる。 ・学生が多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々の食生活を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	・学生が対象者に応じた栄養指導の目標設定、指導計画立案、評価の方法を判断できる。 ・学生が集団討議法の特徴を理解し、目的に応じた集団栄養指導を判断できる。 ・学生が多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
	・学生が自分や家族、地域等における食関連問題に関心を持ち、課題解決に向けて積極的に教育手法や食教材を考える意欲がある。

関心・意欲・態度の観点 (V)	・学生が食生活を取り巻く様々な事象について関心を持って自ら課題を見出し、解決に意欲的取り組むことができる。 ・学生が、栄養士として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	第1・2・3章 栄養指導の定義と意義、 栄養指導の沿革、栄養指導と関係法規
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養指導の定義と意義、栄養指導の沿革、栄養指導と関係法規（栄養指導にかかわる法規、教育関連・保健・医療関連・高齢者関連の法規）について、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間(分)	予習100分、復習100分
第2回	**授業テーマ**	第4・5章 食生活・栄養に関する諸調査、栄養教育の方法と技術
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食生活・栄養に関する調査の概要を理解する。 栄養指導の方法と技術として、栄養指導の一般原則、栄養指導のマネジメントサイクル（PDCA）について、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間(分)	予習100分、復習100分
第3回	**授業テーマ**	第5章 栄養教育の方法と技術
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養指導の計画、方法として、個別指導について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間(分)	予習100分、復習100分
第4回	**授業テーマ**	第5章 栄養教育の方法と技術-集団指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養指導の方法として、集団指導の方法について、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間(分)	予習100分、復習100分
第5回	**授業テーマ**	第6章 栄養指導の実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養指導の実際として、指導方法の選択、カウンセリングの理論と意義、行動科学と栄養指導（行動科学理論、行動変容技法）について、理解する。
	教室外学習(予習・	予習：教科書を事前に読んでおく。

	復習)の内容	復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間(分)	予習100分、復習100分
第6回	**授業テーマ**	第7章 栄養指導に必要な基礎事項
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養指導に必要な基礎事項として、日本人の食事摂取基準の基本的な考え方、活用した栄養指導方法について、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間(分)	予習100分、復習100分
第7回	**授業テーマ**	第7章 栄養指導に必要な基礎事項
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養指導に使う教材・媒体として、食生活指針について、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間(分)	予習100分、復習100分
第8回	**授業テーマ**	第7章 栄養指導に必要な基礎事項
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養指導に使う教材・媒体として、食事バランスガイドについて、基本的な考え方、料理区分、活用の方法について、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間(分)	予習100分、復習100分
第9回	**授業テーマ**	第7章 栄養指導に必要な基礎事項
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食育関連として、食育基本法と栄養指導、食育と栄養教諭制度について、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間(分)	予習100分、復習100分
第10回	**授業テーマ**	第７章 栄養指導に必要な基礎事項
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養指導と運動指導（運動指導の原則、健康づくりのための身体活動基準、健康づくりのための身体活動指針）について、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間(分)	予習100分、復習100分
	授業テーマ	第8章 ライフステージ別栄養指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	ライフステージ別栄養指導として、妊娠期・授乳期、乳児期、幼

第11回	育・ICT活用を含む)	児期における栄養指導のポイントについて、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間(分)	予習100分、復習100分
第12回	授業テーマ	第8章 ライフステージ別栄養指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ライフステージ別栄養指導として、乳幼児期、学童期、における栄養指導のポイントについて、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間(分)	予習100分、復習100分
第13回	授業テーマ	第8章 ライフステージ別栄養指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ライフステージ別栄養指導として、思春期、成人期、高齢期における栄養指導のポイントについて、理解する。 講義後、試験範囲を連絡する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間(分)	予習100分、復習100分
第14回	授業テーマ	第9章 ライフスタイル別栄養指導、 定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ライフスタイル別栄養指導として、単身生活者、スポーツ栄養（スポーツの種類と栄養特性、エネルギーの供給源からみたスポーツ種目）における栄養指導ポイントについて、理解する（50分）。 講義後、定期試験を実施する（50分）。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 試験範囲を勉強しておく。
	教室外学習の時間(分)	予習100分、復習100分

学習計画注記

・授業の最後に毎回質問を受け付けます。
・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問する。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。）
・新型コロナの状況、やむを得ない事情によっては、授業内容が変更されることがあります。

学生へのフィードバック方法

・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックします。

評価方法

・定期試験（100点満点）100%で評価します。
・出題範囲は授業で講義した箇所、配布資料を基本とするが、具体的な範囲および傾向については、試験前の週の授業で説明します。
・定期試験（50分）は下表に示す力を養うことを目的として実施しています。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○	○	

評価割合

・定期試験（100点満点）100%で評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

・Nブックス 三訂 栄養指導論 建帛社（ISBN 978-4-7679-0667-6 C3047）

参考図書

・「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル 第3版 第一出版 (ISBN 978-4-8041-1358-6 C3077)
・日本人の食事摂取基準 2025版

参考URL

https://www.kenpakusha.co.jp/np/isbn/9784767906676/

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
・生活にかかわる知識を多面的に身に付けている。
・多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。
【思考・判断】
・地域・社会に関する諸課題を自分ごととしてとらえ、適切な手法で分析することができる。
・多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】
・他者の視点やニーズを理解し、社会に新たな価値を見出すことができる。
・地域・社会の多様な人々と協働して、新しいライフスタイルを共に創り上げることができる。
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
【技能・表現】
・生活にかかわる技能を多面的に身に付けている。
・人々が快適に生活できる持続可能な生活様式を企画・提案することができる。
・生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー

・月曜3限、火曜1限、火曜昼休み：栄養指導研究室（2106室）
・事前にg-mail（misawa@kasei-gakuin.ac.jp）で予約してから来訪して下さい。
・基本的に、毎週金曜日は研修日のため大学不在です。

学生へのメッセージ

・栄養士になるための必須専門科目であることから、実社会における栄養指導や食育の実例を示しながら講義するので、学生自身も卒後の働く場をイメージして是非主体的に学んで欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験		・担当教員は「栄養の指導」分野の中核である患者への個別栄養指導、健診後の栄養教育など、病院での実務経験を有している。将来の栄養士・管理栄養士として習

を活かした授業	○	得すべき生活習慣病やメタボリックシンドローム等の疾病者への栄養指導、健常者への予防的栄養教育に関し実例を示して、より実践的に栄養指導方法を教授します。
アクティブ・ラーニング	○	・コミュニケーションスキルが自然と身に着くよう、履修者間で議論・検討できる機会を数回設定します。
情報リテラシー教育	○	・正しく有益な健康・栄養情報の検索・収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）を活用して教授します。 ・資料提供、課題提出等に活用する。 ・ノートパソコンは必携です。

講義コード	G06043001
講義名	栄養指導実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	三澤 朱実	指定なし

ナンバリング

R30504M13

授業概要(教育目的)

・本科目は、栄養士免許証の取得のための必修科目である。この授業では、人々の健康増進や疾病予防のため、健康状態や栄養状態、食生活状況を把握する方法（アセスメント）について解説するので、ワークシートを使って実習して頂く。対象者のライフステージ、ライフスタイルに合わせた栄養指導や食育の方法について、個別指導と集団指導に分け、P（計画）・D（実施）・C（評価）・A（改善）サイクルに沿って、栄養指導対象者の問題解決に対し、食行動の変容を図るための技法を教授します。

履修条件

・「栄養指導論」を履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	・学生が栄養指導対象者の健康・栄養状態、食行動の変容に関する知識を身に着け、それを理解できる。 ・学生が多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々の食生活を理解できる。
思考・判断の観点(K)	・学生が栄養指導対象者の健康・栄養状態をアセスメントして、正しい判断ができる。 ・学生が多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
関心・意欲・態度の観点(V)	・学生が協調的に参加し栄養指導方法を積極的に提案して、グループの考えをまとめることができる。 ・学生が食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。・学生が栄養士、教員、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。

技術・表現の観点(A)	・学生が対象者の栄養問題解決に向け目標設定、計画立案、評価のスキルを身に着けそれを表現できる。 ・学生が対象者の問題行動を修正し、行動変容を導くためのサポートや効果的な集団指導のスキルを身に着けそれを表現できる。 ・学生が食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身につけている。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	集団討議法-デイベイトフォーラム（公論式討議法）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ミニサイズのデイベイトフォーラム（公論式討議法）を体験し、集団討議法の特徴を把握する。 効果的な討議能力を身に着け、同時にコミュニケーション能力を養う。 「課題提出あり」 アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。減塩食（薄味の食事）について調べておく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第2回	**授業テーマ**	行動変容ステージの把握と栄養指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対象者の食生活改善を支援するため、行動変容の準備性を把握して栄養の指導に役立てる。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「行動変容に対する準備性の把握、対象者アセスメントのまとめ、指導計画」の箇所を読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第3回	**授業テーマ**	健康信念モデルを用いた栄養指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	健康信念モデルを用いて、行動変容をおこす栄養指導を身につける。 コミュニケーションやカウンセリング能力を養う。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「健康信念モデルを用いた栄養指導、自己効力感を高める工夫」の箇所を読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
	授業テーマ	自己効力感を用いた栄養指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己効力感を高める栄養指導を身につける。 コミュニケーションやカウンセリング能力を養う。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指す。

第4回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	予習：「自己効力感を高める工夫」の箇所を読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第5回	**授業テーマ**	栄養アセスメント-身体計測・評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対象者の栄養状態や健康状態を把握するための方法として、身体計測の実際を体験する。 併せて、その評価を行って対象者の身体状況や栄養状態等を推測する。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「栄養アセスメント、身体計測、栄養状態の把握」の箇所を読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第6回	**授業テーマ**	内臓脂肪減量（エネルギー調整）のためのプランニング、モニタリング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肥満やメタボリックシンドロームの者、予備群に対する科学的な減量方法として、「内臓-脂肪減量のためエネルギー調整シート」を活用した指導計画を立てる技術を身に着ける。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「健康づくりのための身体活動基準2013、内臓-脂肪減量のため エネルギー調整シート」の箇所を読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第7回	**授業テーマ**	食事調査結果の食事摂取基準を用いた栄養評価、教材を用いた栄養指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事摂取基準を用いて栄養素等摂取量を評価し、個人に見合った栄養指導計画を立てる技術を身に着ける。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。「食事摂取基準を用いた食事調査の評価表」（秤量記録法）を完成させ持参する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
	授業テーマ	食事バランスガイドを活用した栄養評価・指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事バランスガイドを活用した食事評価、教材を活用した栄養指導の方法を身に着ける。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指す。
		予習：教科書を事前に読んでおく。食事バランスガイドの5つの

第8回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	料理区分、１SVについて把握しておく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第9回	**授業テーマ**	生活活動量の把握（タイムスタデイ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個人の生活活動量を（タイスタデイ）記録して、身体活動レベルの判定につなげる。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「栄養アセスメント、身体計測、栄養状態の把握」の箇所を読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第10回	**授業テーマ**	栄養教育媒体の企画・作成（テーブルポップ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対象者の行動変容を導く効果的な栄養教育媒体（テーブルポップ）の企画作成に関する技術を身に着ける。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「栄養教育媒体の作成-啓発用ポスター、卓上メモ」の箇所を読んでおく。栄養教育用のテーブルポップについて下調べしておくこと。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第11回	**授業テーマ**	小学校低学年向け食育教材の開発・作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校低学年向けの食育教材（エプロンシアター）を考え、作成する。 どのように教材を活用すれば、分かりやすい食育ができるかを学ぶ。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。食育テーマを事前に考えておく。テーマについて何を作るかの構想を練っておく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第12回	**授業テーマ**	減塩指導ー味噌汁編
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体験学習により対象者の減塩の支援に役立てる。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指す。
	教室外学習(予習・	予習：教科書を事前に読んでおく。汁物の減塩方法について調べておく。

	復習)の内容	復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第13回	**授業テーマ**	発表会-テーブルポップについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーション技術を身に着ける。 アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。発表の練習をしておく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。テーブルポップの実物（紙媒体1枚、USBデータ）を持参する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第14回	**授業テーマ**	発表会-エプロンシアターについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーション技術を身に着ける。 アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。発表の練習をしておく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。エプロンシアターの実物を持参する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分

学習計画注記

・授業の最後に毎回質問を受け付ける。
・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問する。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。）
・新型コロナの状況、やむを得ない事情（物理的な環境・教材等）によっては、授業内容が変更されることがあります。

学生へのフィードバック方法

・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックします。

評価方法

・平常点40%、レポート点40%、発表点20%で評価します。
・レポート作成、発表は下表に示すスキルを養うことを目的として実施します。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
レポート点	○	○	○	○
発表点	○	○	○	○

評価割合

・平常点40%、レポート点40%、発表点20%で評価します。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

使用教科書名(ISBN番号)

・栄養科学シリーズNEXT 栄養教育論実習 第2版 講談社 （ISBN 978-4-06-155381-1 C3377）

参考図書

・「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル 第3版 第一出版 (ISBN 978-4-8041-1358-6 C3077)
・日本人の食事摂取基準 2025版

参考URL

https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000149035

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
・生活にかかわる知識を多面的に身に付けている。
・多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。
【思考・判断】
・地域・社会に関する諸課題を自分ごととしてとらえ、適切な手法で分析することができる。
・多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】
・他者の視点やニーズを理解し、社会に新たな価値を見出すことができる。
・地域・社会の多様な人々と協働して、新しいライフスタイルを共に創り上げることができる。
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
【技能・表現】
・生活にかかわる技能を多面的に身に付けている。
・人々が快適に生活できる持続可能な生活様式を企画・提案することができる。
・生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー

・月曜5限、火曜5限：栄養指導研究室（2106室）
・事前にg-mail（misawa@kasei-gakuin.ac.jp）で予約してから来訪して下さい。
・基本的に、毎週金曜日は研修日のため大学不在です。

学生へのメッセージ

・栄養士になるための必須専門科目であることから、実社会における栄養指導や食育の実例を示しながら実習してもらうので、学生自身も卒後の働く場をイメージして是非主体的に学んで欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は「栄養の指導」分野の中核である患者への個別栄養指導、健診後の栄養教育など、病院での実務経験を有している。将来の栄養士・管理栄養士として習得すべき生活習慣病やメタボリックシンドローム等の疾病者への栄養指導、健常者への予防的栄養教育に関し実例を示して、より実践的に栄養指導方法を教授します。
アクティ		・栄養指導対象者の食生活改善上の問題解決を図り、栄養指導技術をより高めるため、グループ内でデイスカッションし、時にデイベイトして、能動的に学べるよう

ブ・ラーニング	○	教授します。 ・アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、各学生の食生活上の行動変容を導く授業内容です。
情報リテラシー教育	○	・正しく有益な健康・栄養情報の検索・収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）を活用して教授します。 ・食事摂取量の測定方法の一つとして、若年層の誰もが保有するスマートフォンを活用して自らの食事を撮影する方法（食事画像評価法）を実習に取り入れます。 ・資料提供、課題提出等に活用する。 ・ノートパソコンは必携です。

講義コード	G06043002
講義名	栄養指導実習（RB)
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

R30504M13

授業概要(教育目的)

・本科目は、栄養士免許証の取得のための必修科目である。この授業では、人々の健康増進や疾病予防のため、健康状態や栄養状態、食生活状況を把握する方法（アセスメント）について解説するので、ワークシートを使って実習して頂く。対象者のライフステージ、ライフスタイルに合わせた栄養指導や食育の方法について、個別指導と集団指導に分け、P（計画）・D（実施）・C（評価）・A（改善）サイクルに沿って、栄養指導対象者の問題解決に対し、食行動の変容を図るための技法を教授します。

履修条件

・「栄養指導論」を履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	・学生が栄養指導対象者の健康・栄養状態、食行動の変容に関する知識を身に着け、それを理解できる。 ・学生が多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々の食生活を理解できる。
思考・判断の観点(K)	・学生が栄養指導対象者の健康・栄養状態をアセスメントして、正しい判断ができる。 ・学生が多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
関心・意欲・態度の観点(V)	・学生が協調的に参加し栄養指導方法を積極的に提案してグループの考えを纏めることができる。 ・学生が食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。・学生が栄養士、教員、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
技術・表現の観点(A)	・学生が対象者の栄養問題解決に向け目標設定、計画立案、評価のスキルを身に着けそれを表現できる。 ・学生が対象者の問題行動を修正し、行動変容を導くためのサポートや効果的な集団指導のスキルを身に着けそれを表現できる。 ・学生が食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身につけている。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	集団討議法-ブレインストーミング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ブレインストーミングを体験し、集団討議法の特徴を把握して効果的な討議能力を身に着ける。 同時にコミュニケーション能力を養う。 「課題提出あり」 アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。朝食を食べない理由について調べておく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第2回	**授業テーマ**	行動変容ステージの把握と栄養指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対象者の食生活改善を支援するため、行動変容の準備性を把握して栄養の指導に役立てる。 「課題提出あり」 アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書「行動変容に対する準備性の把握、対象者アセスメントのまとめ、指導計画」の箇所を読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第3回	**授業テーマ**	健康信念モデルを用いた栄養指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	健康信念モデルを用いて、行動変容をおこす栄養指導を身につける。 コミュニケーションやカウンセリング能力を養う。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書「健康信念モデルを用いた栄養指導、自己効力感を高める工夫」の箇所を読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第4回	**授業テーマ**	自己効力感を用いた栄養指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己効力感を高める栄養指導を身につける。 コミュニケーションやカウンセリング能力を養う。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書「自己効力感を高める工夫」の箇所を読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
	授業テーマ	栄養アセスメント-身体計測・評価

第5回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	対象者の栄養状態や健康状態を把握するための方法として、身体計測の実際を体験する。 併せて、その評価を行って対象者の身体状況や栄養状態等を推測する。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書「栄養アセスメント、身体計測、栄養状態の把握」の箇所を読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第6回	**授業テーマ**	内臓脂肪減量（エネルギー調整）のためのプランニング、モニタリング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肥満やメタボリックシンドロームの者、予備群に対する科学的な減量方法として、「内臓-脂肪減量のためエネルギー調整シート」を活用した指導計画を立てる技術を身に着ける。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書「健康づくりのための身体活動基準2013、内臓-脂肪減量のためエネルギー調整シート」の箇所を読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第7回	**授業テーマ**	食事調査結果の食事摂取基準を用いた栄養評価、教材を用いた栄養指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事摂取基準を用いて栄養素等摂取量を評価し、個人に見合った栄養指導計画を立てる技術を身に着ける。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：公衆栄養学実習シート3-2「食事摂取基準を用いた食事調査」を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第8回	**授業テーマ**	食事バランスガイドを活用した栄養評価・指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事バランスガイドを活用した食事評価、教材を活用した栄養指導の方法を身に着ける。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。食事バランスガイドの5つの料理区分、１SVについて把握しておく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
	授業テーマ	生活活動量の把握（タイムスタデイ）

第9回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個人の生活活動量を（タイスタデイ）記録して、身体活動レベルの判定につなげる。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書「栄養アセスメント、身体計測、栄養状態の把握」の箇所を読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第10回	授業テーマ	栄養教育媒体の企画・作成（テーブルポップ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対象者の行動変容を導く効果的な栄養教育媒体（テーブルポップ）の企画作成に関する技術を身に着ける。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書「栄養教育媒体の作成-啓発用ポスター、卓上メモ」の箇所を読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第11回	授業テーマ	小学校低学年向け食育教材の開発・作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校低学年向けの食育教材（エプロンシアター）を考え、作成する。 どのように教材を活用すれば、分かりやすい食育ができるかを学ぶ。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。食育テーマを事前に考えておく。テーマについて理解してもらうため、何を作るかを考えておく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第12回	授業テーマ	減塩指導ー味噌汁編
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体験学習により対象者の減塩の支援に役立てる。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。汁物の減塩方法について調べておく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
	授業テーマ	発表会-テーブルポップについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	プレゼンテーション技術を身に着ける。

第13回	育・ICT活用を含む)	アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。発表の練習をしておく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。テーブルポップの実物を持参する。
	教室外学習の時間(分)	予習40分、復習60分
第14回	授業テーマ	発表会-エプロンシアターについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーション技術を身に着ける。 アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。発表の練習をしておく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。エプロンシアターの実物を持参する。
	教室外学習の時間(分)	予習40分、復習60分

学習計画注記

・授業の最後に毎回質問を受け付けます。
・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問する。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。）
・新型コロナの状況、やむを得ない事情（物理的な環境・教材等）によっては、授業内容が変更されることがあります。

学生へのフィードバック方法

・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックします。

評価方法

・平常点42%、レポート点42%、発表点16%で評価します。
・レポート作成、発表は下表に示すスキルを養うことを目的として実施しています。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
レポート点	○	○	○	○
発表点	○	○	○	○

評価割合

・平常点45%、レポート点45%、発表点10%で評価します。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

使用教科書名(ISBN番号)

・栄養科学シリーズNEXT 栄養教育論実習 第2版 講談社 （ISBN 978-4-06-155381-1 C3377）

参考図書

・「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル 第3版 第一出版 (ISBN 978-4-8041-1358-6 C3077)
・日本人の食事摂取基準 2020版

参考URL

https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000149035

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー

・月曜5限、火曜5限：栄養指導研究室（2106室）
・事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。

学生へのメッセージ

・栄養士になるための必須専門科目であることから、実社会における栄養指導や食育の実例を示しながら実習してもらうので、学生自身も卒後の働く場をイメージして是非主体的に学んで欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は「栄養の指導」分野の中核である患者への個別栄養指導、健診後の栄養教育など、病院での実務経験を有している。将来の栄養士・管理栄養士として習得すべき生活習慣病やメタボリックシンドローム等の疾病者への栄養指導、健常者への予防的栄養教育に関し実例を示して、より実践的に栄養指導方法を教授します。
アクティブ・ラーニング	○	・栄養指導対象者の食生活改善上の問題解決を図り、栄養指導技術をより高めるため、グループ内でデイスカッションし、時にデイベイトして、能動的に学べるよう教授します。 ・アクティブ・ラーニングとして、PBL（問題解決型授業）を取り入れ、食生活上の行動変容を目指します。
情報リテラシー教育	○	・正しく有益な健康・栄養情報の検索・収集について教授します。
ICT活用	○	・食事摂取量の測定方法の一つとして、若年層の誰もが保有するスマートフォンを活用して自らの食事を撮影する方法を実習に取り入れます。 ・食事画像を食教材「食事バランスガイド」に沿って定量評価し、自らの食事改善を図ることで授業における学びが能動的になるよう教授します。 ・資料提供、課題提出等に活用する。 ・ノートパソコンは必携です。

講義コード	G06044001
講義名	栄養カウンセリング論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大中 佳子	指定なし

ナンバリング

R30502M21

授業概要(教育目的)

・本科目は、栄養士免許証の取得のための必修科目である。この授業では、栄養カウンセリング理論や技法の基礎について解説する。食生活や食行動は心理的な側面によっても大きく左右されるため、人々の複雑な心のあり方や、心理面からの食生活改善のためのアプローチ方法をについて、事例を示して教授します。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・学生がカウンセリングの必要性、理論と技術、人々の食行動と心理面の関係性を説明できる。 ・学生が多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々の食生活を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	・学生が対象者の気持ちに寄り添ったサポートについて判断できる。 ・学生が人々の健康状態、ストレス状態を理解し、それに合ったアプローチについて判断できる。 ・学生が多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・学生が家族や友人等の身近な人々の食の悩みや相談に関心を持ち、積極的に人々に寄り添い、共感しようとする意欲がある。 ・学生が食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち自ら課題を見出し、解決に意欲的取り組むことができる。 ・学生が栄養士として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。

技術・表現の観点 (A)	傾聴を構成する技法を身につける。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	栄養教育におけるカウンセリングの位置づけ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育におけるカウンセリングの位置づけ（栄養カウンセリングの定義、特徴、効果）について、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間（分）	予習100分、復習100分
第2回	**授業テーマ**	栄養教育に必要な栄養カウンセリングスキル
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育に必要な栄養カウンセリングスキルとして、基本的態度（受容、共感、自己一致）、傾聴の意義について、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間（分）	予習100分、復習100分
第3回	**授業テーマ**	栄養教育に必要な栄養カウンセリングスキル
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	傾聴を構成する技法（かかわり行動、単純受容、確認、受けとめ、要約、開かれた質問・閉ざされた質問）について、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間（分）	予習100分、復習100分
第4回	**授業テーマ**	栄養教育に必要な栄養カウンセリングスキル
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	目標、計画、実行段階における行動療法やコーチングの活用について、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間（分）	予習100分、復習100分
第5回	**授業テーマ**	栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養カウンセリングに必要な栄養カウンセリング理論（精神分析療法、来訪者中心療法）について、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間（分）	予習100分、復習100分
	授業テーマ	栄養カウンセリングに必要なカウンセリングスキル

第6回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	行動療法（行動療法とは、流れ、保健医療分野への応用、手順、技法）について、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間（分）	予習100分、復習100分
第7回	**授業テーマ**	栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	交流分析（交流分析とは、交流分析）、家族療法（家族療法とは、栄養教育における家族療法）について、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間（分）	予習100分、復習100分
第8回	**授業テーマ**	栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パーソナリテイ理論（パーソナリテイ理論とは、その発達）、グループアプローチ（グループアプローチとは、特徴）について、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間（分）	予習100分、復習100分
第9回	**授業テーマ**	心理アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	心理アセスメントとして、面接、心理テスト、行動観察による心理面のアセスメントについて、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間（分）	予習100分、復習100分
第10回	**授業テーマ**	栄養教育に関係が深い疾病や健康に関する保健行動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育に関係深い保健行動として、健康信念モデル、自己効力感について、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間（分）	予習100分、復習100分
第11回	**授業テーマ**	カウンセリングに必要な食行動理論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養カウンセリングに必要な食行動理論として、食行動に影響を及ぼす要因（文化的、社会的、生理的、心理的、認知的要因）、食行動と学習（レスポンデント学習、オペラント学習、認知的学習）について、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。

	教室外学習の時間（分）	予習100分、復習100分
第12回	**授業テーマ**	カウンセリングに必要な食行動理論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ストレスと食行動（ストレスとは、行動との関係）、摂食障害における食行動（高度な肥満、神経性食欲不振症、神経性大食症）について、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間（分）	予習100分、復習100分
第13回	**授業テーマ**	ライフステージと食行動の特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ライフステージと食行動の特徴として、妊婦・授乳期、乳幼児期、学童期の食行動について、理解する。 講義後、試験範囲を連絡する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間（分）	予習100分、復習100分
第14回	**授業テーマ**	ライフステージと食行動の特徴 定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	青年期、成人期、壮年期、高齢期の食行動について、理解する（50分）。 講義後、定期試験を実施する（50分）。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 試験範囲を勉強しておく。
	教室外学習の時間（分）	予習100分、復習200分

学習計画注記

・授業の最後に毎回質問を受け付けます。
・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2311研究室を訪問する。（事前にメール予約してから来訪して下さい。）

学生へのフィードバック方法

・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックします。

評価方法

・定期試験70%、平常点30%で評価します。
・出題範囲は授業で講義した箇所、配布資料を基本とするが、具体的な範囲および傾向については、試験前の週の授業で説明します。
・定期試験は下表に示す力を養うことを目的として実施しています。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○	○	

評価割合

・定期試験70%、平常点30%で評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

・栄養科学シリーズ ＮＥＸＴ 栄養カウンセリング論 第2版 （ISBN 978-4-06-155358-3 C3377）

参考図書

・医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 生活習慣病を中心に：医歯薬出版 （ISBN 978-4-263-23337-5 C3047）

参考URL

https://www.kspub.co.jp/book/detail/1553583.html

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー

・金曜２限、金曜昼休み：給食管理学研究室（2311室）
・事前にメールで予約してから来訪して下さい。

学生へのメッセージ

・栄養士になるための必須専門科目であることから、実社会における栄養カウンセリングの実例を示しながら講義するので、学生自身も卒後の働く場をイメージして是非主体的に学んで欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は入院・外来診療における患者への栄養食事指導ならびに健診センタ-において栄養カウンセリングの実務経験を有している。生活習慣病等の患者に対する個別面談の栄養食事指導、将来の栄養士・管理栄養士として習得すべきクライアントの気持ちに寄り添った栄養カウンセリングスキルについて、実例を示してより実践的に講義します。
アクティブ・ラーニング	○	・栄養指導対象者の気持ちに寄り添い共感力を身に着けるため、単に講義を聴講するのではなく、講義内容についてどのように共感したか、できなかったか、隣席の学生とデイスカッションを行う。これにより考える力、表現する力が養えるよう教授します。
情報リテラシー教育	○	・正しく有益な健康・栄養情報の検索・収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）を活用して教授します。 ・資料提供、課題提出等に活用する。 ・ノートパソコンは必携です。

講義コード	G06045001
講義名	栄養カウンセリング実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大中　佳子	指定なし

ナンバリング

R30505M13

授業概要(教育目的)

・本科目は、栄養士免許証の取得のための必修科目である。この授業では、食生活や食行動は心理的な側面によっても大きく左右されるため、人々の複雑な心のあり方や、心理面からの食生活改善のためのアプローチ方法をについて解説するので、ワークシートに沿って実習して頂く。具体的には、コーチングやロールプレイ等の実習を通して、個々の対象者に合わせた心理面からの栄養ケアについて、対象者が自発的に行動変容できるよう教授します。

履修条件

・「栄養カウンセリング論」を履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・学生が栄養指導対象者の健康・栄養状態に伴う心理面の状態に関する知識を身に着け、それを理解できる。 ・学生が多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々の食生活を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	・学生が対象者の心理面を考え、気持ちに寄り添ったサポートを判断できる。 ・学生が多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・学生が協調的に参加し栄養カウンセリング方法を積極的に提案してグループの考えを纏めることができる。 ・学生が食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。 ・学生が栄養士として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
	・学生が対象者の心理面を理解し信頼関係を築くことで、対象者の気持ちに寄り

技術・表現の観点 (A)	添ったサポートや、対象者の自発的な行動変容を促すためのスキルを身に着け、それを表現できる。 ・学生が食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身につけている。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス、栄養カウンセリング実習の基本的事項
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養カウンセリングを行う際の基本的事項（倫理的配慮、環境整備、場面構成および実施通知）について学ぶ。 栄養カウンセリングにおける職業倫理について 栄養カウンセリングを行う際の環境整備について 栄養カウンセリングの場面構成、実施通知の作成 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第2回	授業テーマ	人の話を聴くときの視線、姿勢および態度
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人の話を聴く時の好ましい時とそうでない時の違いについて体験し、人の話を聴く技術を身に着ける。 聴くことが難しい視線、姿勢、態度についての体験 聴くときの好ましい視線、姿勢、態度についての体験 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第3回	授業テーマ	初回面接時でのかかわり行動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	初回面接でのクライエントに対する栄養士の好ましいい接し方やかかわり行動について体験し、かかわり行動に関する技術を身に着ける。 初回面接でのかかわり行動について話を構成する→栄養士役・クライエント役を決めてロールプレイングを行う。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
	授業テーマ	単純受容
		「うなずき、あいづち、繰り返し」を活用し、クライエント

第4回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	の話の流れを妨げずに熱心に聴く態度を養う。 「うなずき」だけを使って聴く体験 「うなずき、あいづち、1語か2語の繰り返し」を使って聴く体験 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第5回	授業テーマ	理解したことを確認する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クライエントの話しの内容や気持ちを理解して、正確に簡潔に確認する方法を習得する。 ファーストステップ：クライエントの話の1文ずつを正確に確認する体験 セカンドステップ：クライエントの話をある程度聴いて、理解したことを確認する体験 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第6回	授業テーマ	要約
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クライエントの状況や思いを関連付けて、話の趣旨を要約することの効果を実感し、その技術を身に着ける。 クライエント役は相談する→栄養士役はクライエントの思いを関連付けて話の趣旨を要約する。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第7回	授業テーマ	開かれた質問と閉ざされた質問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クライエントの正確な情報を引き出し気持ちを理解するため、開かれた質問と閉ざされた質問を状況に応じて活用し、対象者を理解する技術を身に着ける。 閉ざされた質問の体験 ・開かれた質問の体験 ・閉ざされた質問と開かれた質問を状況に合わせて使う体験 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
		予習：教科書を事前に読んでおく。

	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第8回	授業テーマ	信頼関係を築く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育の実践事例の体験をとおして、クライエントの気持ちを受け止めて受容し、信頼関係を築く技術を身に着ける。 クライエントと信頼関係を築くことができなかった事例とできた事例の体験 栄養士が無意識に患者の栄養教育を拒否してしまった事例と受容できた事例の体験 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第9回	授業テーマ	共感
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育の実践事例を体験することで、クライエントに共感し、信頼関係を築く技術を身に着ける。 共感できずに追求し、追い込んでしまった事例と共感できた事例の体験 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書「実習10：栄養教育の実践事例」を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第10回	授業テーマ	気持ちを受けとめる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養士がクライエントの気持を受けとめる方法を習得して、受け止めることの効果を知り、技術を身に着ける。 教科書に沿って2回目、3回目のロールプレイングを行う→栄養士役は傾聴し、気持ちを受けとめる。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
	授業テーマ	行動療法、コーチングの活用
		行動療法やコーチングを活用して、対象者（クライエント）が自己決定し行動変容するように導く技術を身に着ける。

第11回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	受容、共感、自己一致の態度で応答し、行動変容の計画を立てるまでの事例の体験 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第12回	授業テーマ	栄養カウセリングの総仕上げ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	役割演技（ロールプレイング）のストーリーの考案 役割演技（ロールプレイング）のストーリーをペアで考案する。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。事前に役割演技のストーリーを考え調べておく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。次回の授業日にストーリーを持参する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第13回	授業テーマ	栄養カウセリングの総仕上げ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	役割演技（ロールプレイング）のスキルを身に着ける。 発表に向けて、考案した役割演技（ロールプレイング）のストーリーをペアで練習する。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。役割演技の事前練習をしておく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第14回	授業テーマ	発表会ー役割演技（ロールプレイング）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ペアごとに役割演技（ロールプレイング）を披露する。 他者の役割演技（ロールプレイング）をみて参考にする。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。役割演技（ロールプレイング）の事前練習をしておく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分

学習計画注記

・授業の最後に毎回質問を受け付けます。
・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2311研究室を訪問する。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。）

学生へのフィードバック方法

・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックします。

評価方法

・平常点42%、レポート点42%、発表点16%で評価します。
・レポート作成、発表は下表に示すスキルを養うことを目的として実施しています。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
レポート点	○	○	○	○
発表点	○	○	○	○

評価割合

・平常点45%、レポート点45%、発表点10%で評価します。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

使用教科書名(ISBN番号)

・栄養科学シリーズ　ＮＥＸＴ　栄養カウンセリング論　第2版：講談社　(ISBN　978-4-06-155358-3　C3377)　(前期の栄養カウンセリング論と同じ教科書)

参考図書

・医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎　生活習慣病を中心に　医歯薬出版　(ISBN　978-4-263-23337-5　C3047)

参考URL

https://www.kspub.co.jp/book/detail/1553583.html

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー

・火曜２限、火曜昼休み：給食管理学研究室（2311室）
・事前にメールで予約してから来訪して下さい。

学生へのメッセージ

・栄養士になるための必須専門科目であることから、実社会における栄養カウンセリングの実例を示しながら実習してもらうので、学生自身も卒後の働く場をイメージして是非主体的に学んで欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は入院・外来診療における患者への栄養食事指導ならびに健診センタ-において栄養カウンセリングの実務経験を有している。生活習慣病等の患者に対する個別面談の栄養食事指導、将来の栄養士・管理栄養士として習得すべきクライアントの気持ちに寄り添った栄養カウンセリングスキルについて、実例を示してより実践的に講義します。
アクティブ・ラーニング	○	・栄養指導対象者の気持ちに寄り添った栄養カウンセリング技術をより高めるため、グループワーク、グループデイスカッションを行い能動的に学べるよう教授します。 アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
情報リテラシー教育	○	・正しく有益な健康・栄養情報の検索・収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）を活用して教授します。 ・資料提供、課題提出等に活用する。 ・ノートパソコンは必携です。

講義コード	G06045002
講義名	栄養カウンセリング実習（RB）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

R30505M13

授業概要(教育目的)

・本科目は、栄養士免許証の取得のための必修科目である。この授業では、食生活や食行動は心理的な側面によっても大きく左右されるため、人々の複雑な心のあり方や、心理面からの食生活改善のためのアプローチ方法をについて解説するので、ワークシートに沿って実習して頂く。具体的には、コーチングやロールプレイ等の実習を通して、個々の対象者に合わせた心理面からの栄養ケアについて、対象者が自発的に行動変容できるよう教授します。

履修条件

・「栄養カウンセリング論」を履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・学生が栄養指導対象者の健康・栄養状態に伴う心理面の状態に関する知識を身に着け、それを理解できる。　・学生が多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々の食生活を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	・学生が対象者の心理面を考え、気持ちに寄り添ったサポートを判断できる。 ・学生が多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・学生が協調的に参加し栄養カウンセリング方法を積極的に提案してグループの考えを纏めることができる。 ・学生が食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。 ・学生が栄養士として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	・学生が対象者の心理面を理解し信頼関係を築くことで、対象者の気持ちに寄り添ったサポートや、対象者の自発的な行動変容を促すためのスキルを身に着け、それを表現できる。 ・学生が食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身につけている。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス、栄養カウンセリング実習の基本的事項
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養カウンセリングを行う際の基本的事項（倫理的配慮、環境整備、場面構成および実施通知）について学ぶ。 栄養カウンセリングにおける職業倫理について 栄養カウンセリングを行う際の環境整備について 栄養カウンセリングの場面構成、「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第2回	授業テーマ	人の話を聴くときの視線、姿勢および態度
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人の話を聴く時の好ましい時とそうでない時の違いについて体験し、人の話を聴く技術を身に着ける。 聴くことが難しい視線、姿勢、態度についての体験・聴くときの好ましい視線、姿勢、態度についての体験 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第3回	授業テーマ	初回面接時でのかかわり行動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	初回面接でのクライエントに対する栄養士の好ましいい接し方やかかわり行動について体験し、かかわり行動に関する技術を身に着ける。 初回面接でのかかわり行動について話を構成する→栄養士役・クライエント役を決めてロールプレイングを行う。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第4回	授業テーマ	単純受容
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「うなずき、あいづち、繰り返し」を活用し、クライエントの話の流れを妨げずに熱心に聴く態度を養う。 「うなずき」だけを使って聴く体験 「うなずき、あいづち、1語か2語の繰り返し」を使って聴く体験 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
		予習：教科書を事前に読んでおく。

	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第5回	授業テーマ	理解したことを確認する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クライエントの話しの内容や気持ちを理解して、正確に簡潔に確認する方法を習得する。 ファーストステップ：クライエントの話の1文ずつを正確に確認する体験 セカンドステップ：クライエントの話をある程度聴いて、理解したことを確認する体験 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第6回	授業テーマ	要約
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クライエントの状況や思いを関連付けて、話の趣旨を要約することの効果を実感し、その技術を身に着ける。 クライエント役は相談する→栄養士役はクライエントの思いを関連付けて話の趣旨を要約する。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第7回	授業テーマ	開かれた質問と閉ざされた質問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クライエントの正確な情報を引き出し気持ちを理解するため、開かれた質問と閉ざされた質問を状況に応じて活用し、対象者を理解する技術を身に着ける。 閉ざされた質問の体験 ・開かれた質問の体験 ・閉ざされた質問と開かれた質問を状況に合わせて使う体験 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
	授業テーマ	信頼関係を築く
		栄養教育の実践事例の体験をとおして、クライエントの気持

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ちを受け止めて受容し、信頼関係を築く技術を身に着ける。 クライエントと信頼関係を築くことができなかった事例とできた事例の体験 栄養士が無意識に患者の栄養教育を拒否してしまった事例と受容できた事例の体験 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第9回	授業テーマ	共感
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育の実践事例を体験することで、クライエントに共感し、信頼関係を築く技術を身に着ける。 共感できずに追求し、追い込んでしまった事例と共感できた事例の体験 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書 「実習10：栄養教育の実践事例」を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第10回	授業テーマ	気持ちを受けとめる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養士がクライエントの気持を受けとめる方法を習得して、受け止めることの効果を知り、技術を身に着ける。 教科書に沿って2回目、3回目のロールプレイングを行う→栄養士役は傾聴し、気持ちを受けとめる。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第11回	授業テーマ	行動療法、コーチングの活用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動療法やコーチングを活用して、対象者（クライエント）が自己決定し行動変容するように導く技術を身に着ける。 受容、共感、自己一致の態度で応答し、行動変容の計画を立てるまでの事例の体験 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
	教室外学習(予習・復)	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 Classroom

	習 の内容	課題：　　に掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第12回	授業テーマ	栄養カウセリングの総仕上げ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	役割演技（ロールプレイング）のストーリーの考案 役割演技（ロールプレイング）のストーリーをペアで考案する。 「課題提出あり」アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。事前に役割演技のストーリーを考え調べておく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。次回の授業日にストーリーを持参する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第13回	授業テーマ	栄養カウセリングの総仕上げ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	役割演技（ロールプレイング）のスキルを身に着ける。 発表に向けて、考案した役割演技（ロールプレイング）のストーリーをペアで練習する。 アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。役割演技の事前練習をしておく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第14回	授業テーマ	発表会ー役割演技（ロールプレイング）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ペアごとに役割演技（ロールプレイング）を披露する。 他者の役割演技（ロールプレイング）をみて参考にする。 アクティブ・ラーニングとして、ペアワークを取り入れ、互いにできばえをチェック、改善し合います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。役割演技（ロールプレイング）の事前練習をしておく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分

学習計画注記

・授業の最後に毎回質問を受け付けます。

・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問する。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。）

・新型コロナの状況、やむを得ない事情（物理的な環境・教材等）によっては、授業内容が変更されることがあります。

学生へのフィードバック方法

・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックします。

評価方法

・平常点42%、レポート点42%、発表点16%で評価します。
・レポート作成、発表は下表に示すスキルを養うことを目的として実施しています。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
レポート点	○	○	○	○
発表点	○	○	○	○

評価割合

・平常点45%、レポート点45%、発表点10%で評価します。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

使用教科書名(ISBN番号)

・栄養科学シリーズ　ＮＥＸＴ　栄養カウンセリング論　第2版：講談社　(ISBN　978-4-06-155358-3　C3377)　(前期の栄養カウンセリング論と同じ教科書)

参考図書

・医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎　生活習慣病を中心に　医歯薬出版　(ISBN　978-4-263-23337-5　C3047)

参考URL

https://www.kspub.co.jp/book/detail/1553583.html

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断が゛て゛きる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことが゛て゛きる。
・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー

・月曜5限、火曜5限：栄養指導研究室（2106室）
・事前にg-mail（misawa@kasei-gakuin.ac.jp）で予約してから来訪して下さい。
・基本的に、毎週金曜日は研修日のため大学不在です。

学生へのメッセージ

・栄養士になるための必須専門科目であることから、実社会における栄養カウンセリングの実例を示しながら実習してもらうので、学生自身も卒後の働く場をイメージして是非主体的に学んで欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験		・担当教員は外来診療における患者への栄養カウンセリングの実務経験を有してい

を活かした授業	○	る。生活習慣病や心的要因による拒食症や過食症等の患者に対する個別面談の栄養指導、将来の栄養士・管理栄養士として習得すべきクライアントの気持ちに寄り添った栄養カウンセリングスキルについて、実例を示してより実践的に教授します。
アクティブ・ラーニング	○	・栄養指導対象者の気持ちに寄り添った栄養カウンセリング技術をより高めるため、グループワーク、グループデイスカッションを行い能動的に学べるよう教授します。
情報リテラシー教育	○	・正しく有益な健康・栄養情報の検索・収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）を活用して教授します。 ・資料提供、課題提出等に活用する。 ・ノートパソコンは必携です。

講義コード	G06046001
講義名	公衆栄養学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	三澤 朱実	指定なし

ナンバリング

R30503M21

授業概要(教育目的)

・本科目は、栄養士免許証の取得のための必修科目である。この授業では、地域や職場などの健康・栄養問題の実態、それらを取り巻く自然、社会、経済、環境問題について解説する。
人々の健康の保持増進を図るため、健康・栄養施策や具体的な実践活動、集団に対する栄養マネジメントについて教授します。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・学生が公衆栄養活動の進め方を説明できる。 ・学生が健康・栄養問題の現状とそれに対しどのような施策・取り組みが行われているかを説明できる。 ・学生が多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々の食生活を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	・学生が人々の栄養と健康の関連や問題点を類別し判断できる。 ・学生が具体的な対策方法として、対象者に応じた食事調査方法、栄養疫学の研究デザインを判断できる。 ・学生が多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・学生が地域や近郊における食関連問題に関心を持ち、課題解決に向けて積極的に施策や活動を計画しようとする意欲がある。 ・学生が食生活を取り巻く様々な事象について関心を持ち、自ら課題を見出し解決に意欲的取り組むことができる。 ・栄養士として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいと

	いう意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	1回目 第1章 公衆栄養の概念
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公衆栄養の概念、公衆栄養活動について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間（分）	予習100分、復習100分
第2回	**授業テーマ**	2回目 第2章 健康・栄養問題の現状と課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会環境と健康・栄養問題（食料問題）、健康状態の変化について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間（分）	予習100分、復習100分
第3回	**授業テーマ**	３回目 第2章 健康・栄養問題の現状と課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事の変化（エネルギー・栄養素・食品群別摂取量、食事パターン）、食生活の変化（食行動、食知識、食態度、食スキルの変化）について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間（分）	予習100分、復習100分
第4回	**授業テーマ**	４回目 第2章 健康・栄養問題の現状と課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食環境の変化（フードバランスシート、食糧自給率）、諸外国の健康・栄養問題の現状と課題について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間（分）	予習100分、復習100分
第5回	**授業テーマ**	５回目 第3章 栄養政策
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	わが国の公衆栄養活動、公衆栄養関係法規（地域保健法、健康増進法、食育基本法など）について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間（分）	予習100分、復習100分
第6回	**授業テーマ**	６回目 第3章 栄養政策
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国民健康・栄養調査（調査の目的、沿革、内容、方法）について理解する。
	教室外学習(予習・復	予習：教科書を事前に読んでおく。

	習)の内容	復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間（分）	予習100分、復習100分
第7回	**授業テーマ**	７回目 第3章 栄養政策
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国の健康増進の基本方針と地方計画（健康日本21、健康日本21（第二次）、食育推進基本計画）について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間（分）	予習100分、復習100分
第8回	**授業テーマ**	８回目 第3章 栄養政策
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	諸外国の健康・栄養政策（現状、ヘルシーピープル、フードガイドなど）の概要について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間（分）	予習100分、復習100分
第9回	**授業テーマ**	９回目 第4章 栄養疫学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養疫学の概要、曝露情報としての食事摂取量、食事摂取量の測定方法（食事記録法、24時間思い出し法、食物摂取頻度調査法など）の特徴について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間（分）	予習100分、復習100分
第10回	**授業テーマ**	１０回目 第4章 栄養疫学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事摂取量の評価方法（食事調査と食事摂取基準、総エネルギー調整栄養素摂取量、栄養素密度法、残差法）について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間（分）	予習100分、復習100分
第11回	**授業テーマ**	１１回目 第4章 栄養疫学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事摂取量の評価方法（データ処理と解析、主な統計解析手法、栄養疫学研究デザイン）について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間（分）	予習100分、復習100分
第12回	**授業テーマ**	１２回目 第5章 公衆栄養マネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公衆栄養マネジメントの方法（ＰＤＣＡサイクルとプリシード・プロシードモデルの各段階）、公衆栄養アセスメント（質問調査の方法と活用）について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間	予習100分、復習100分

	（分）	
第13回	**授業テーマ**	１３回目 第5章 公衆栄養マネジメント 試験範囲
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・公衆栄養プログラムの計画（アセスメント）、目標設定（短期・中期・長期目標）、評価（経過・影響・成果評価）について理解する。 ・講義後、試験範囲を連絡する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。
	教室外学習の時間（分）	予習100分、復習100分
第14回	**授業テーマ**	１４回目 第6章 公衆栄養プログラムの展開 定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食環境づくりのためのプログラムの展開（食環境の整備、栄養成分表示の活用）について理解する（50分）。 講義後、定期試験を実施する（50分）。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 試験範囲を勉強しておく。
	教室外学習の時間（分）	予習100分、復習200分

学習計画注記

・授業の最後に毎回質問を受け付けます。
・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問すること。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。）
・新型コロナの状況、やむを得ない事情によっては、授業内容が変更されることがあります。

学生へのフィードバック方法

・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックする。

評価方法

・定期試験（100点満点）100%で評価します。
・出題範囲は授業で講義した箇所、配布資料を基本とするが、具体的な範囲および傾向については、試験前の週の授業で説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○	○	

評価割合

・定期試験（100点満点）100%で評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

・カレント 公衆栄養学 第3版 （建帛社） （ISBN 978-4-7679-0684-3 C3047）

参考図書

・日本人の食事摂取基準 2025版（第一出版）

参考URL

https://www.kenpakusha.co.jp/np/isbn/9784767906843/

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
・生活にかかわる知識を多面的に身に付けている。
・多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。
【思考・判断】
・地域・社会に関する諸課題を自分ごととしてとらえ、適切な手法で分析することができる。
・多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】
・他者の視点やニーズを理解し、社会に新たな価値を見出すことができる。
・地域・社会の多様な人々と協働して、新しいライフスタイルを共に創り上げることができる。
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
【技能・表現】
・生活にかかわる技能を多面的に身に付けている。
・人々が快適に生活できる持続可能な生活様式を企画・提案することができる。
・生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー

・月曜3限、火曜1限、火曜昼休み：栄養指導研究室（2106室）
・事前にg-mail（misawa@kasei-gakuin.ac.jp）で予約してから来訪して下さい。
・基本的に、毎週金曜日は研修日のため大学不在です。

学生へのメッセージ

・栄養士になるための必須専門科目であることから、実社会における公衆栄養活動の実例を示しながら講義するので、学生自身も卒後の働く職場や実践社会をイメージして是非主体的に学んで欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は、第一種衛生管理者（健康管理の国家資格：厚生労働省）、産業栄養指導者（厚生労働省外郭団体中央労働災害防止協会認定資格）を有し、トータル・ヘルス・プロモーションプランにおける栄養教育、集団給食部門における栄養改善に関する実務経験を有している。将来の栄養士・管理栄養士として習得すべき公衆栄養施策の計画立案・評価・改善について、実例を示してより実践的に教授します。
アクティブ・ラーニング	○	・コミュニケーションスキルが自然と身に着くよう、履修者間で議論・検討できる機会を数回設定します。
情報リテラシー教育	○	・正しく有益な健康・栄養情報の検索・収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集ではインターネット、授業のフィードバックではclassroomを活用して教授します。 ・資料提供、課題提出等に活用する。 ・ノートパソコンは必携です。

講義コード	G06047001
講義名	公衆栄養学実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	三澤 朱実	指定なし

ナンバリング

R30506M13

授業概要(教育目的)

・本科目は、栄養士免許証の取得のための必修科目である。この授業では、人々の健康の保持・増進を図るため、健康・栄養問題の把握と分析について解説するので、ワークシートに沿って実習して頂く。これらの実習を通して、対象集団の状況に即した栄養改善計画の立案、実践、評価、フィードバックを行うための栄養マネジメントが身に着くよう教授します。

履修条件

・「公衆栄養学」を履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・学生が栄養指導対象集団の健康・栄養状態に及ぼす食環境面の様々な要因に関する知識を身に着け、それを理解できる。 ・学生が多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々の食生活を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	・学生が健康・栄養問題を分析し、なぜそうなるのかの要因や問題点を抽出し、判断できる。 ・学生が多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・学生が協調的に参加し公衆栄養施策の方法を積極的に提案して、グループの考えを纏めることができる。 ・学生が食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。 ・学生が栄養士として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
	・学生が公衆栄養活動のための的確な調査を実施し、対象集団に応じた計画

技術・表現の観点 (A)	立案、評価・改善のスキルを身に着け、それを表現できる。 ・学生が栄養疫学、統計の基本処理のスキルを身に着け、それを表現できる。 ・学生が食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身につけている。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	秤量記録法、食事画像撮影による食事調査の記録
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事画像撮影による食事調査の特徴について理解する。 「課題提出あり」アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第2回	**授業テーマ**	食物摂取頻度調査法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食物摂取頻度調査法による食事調査の回答方法を習得する。 「課題提出あり」アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第3回	**授業テーマ**	秤量記録法の分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	秤量記録法による食事調査の分析方法を理解する。 「課題提出あり」アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第4回	**授業テーマ**	秤量記録法の分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	秤量記録法による食事調査の分析方法を理解する。 「課題提出あり」アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
	授業テーマ	秤量記録法による食事調査の評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	秤量記録法による食事調査の栄養素摂取量の計算方法を習得する。

第5回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個人の栄養素摂取量を食事摂取基準に沿って評価する。 「課題提出あり」アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第6回	授業テーマ	24時間思い出し法による食事調査の記録
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	24時間思い出し法による食事調査の聞き取り（面接による聞き取りのロールプレイング）を体験する。 24時間思い出し法における目安量を重量化できるようになる。 「課題提出あり」アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。料理・食品の1食分、ポーションサイズ等を把握しておく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第7回	授業テーマ	24時間思い出し法による食事調査の分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	24時間思い出し法による食事調査記録の分析ついて学ぶ。 「課題提出あり」アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第8回	授業テーマ	24時間思い出し法による食事調査の評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	24時間思い出し法による食事調査記録の誤差について把握する。 「課題提出あり」アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第9回	授業テーマ	食物摂取頻度調査法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食物摂取頻度調査法による分析結果を評価する。 「課題提出あり」アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した

		内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第10回	**授業テーマ**	生活活動時間調査によるエネルギー消費量
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活活動時間調査の記録方法を習得する。 「課題提出あり」アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第11回	**授業テーマ**	食生活質問票の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養改善のための活動や取組の効果を評価するため、食生活質問票を考案できるようになる。 「課題提出あり」アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 これまでの食事調査結果から問題点・課題を把握し、食生活上のどのような点について調査したいか考えておく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第12回	**授業テーマ**	調査の実施、分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食生活質問票を用いた調査を実施し、集計する。 食生活質問票を用いた調査の集計結果を表にする。 「課題提出あり」アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第13回	**授業テーマ**	発表スライド作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食生活質問票を用いた調査の集計結果の表から、発表用スライドを作成する. 「課題提出あり」アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。データ分析、表作成を完了させておく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
	授業テーマ	発表会-質問紙調査結果について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	プレゼンテーション技術を身に着ける。 「課題提出あり」アクティブラーニングとして調査学習

	む)	を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げます。
第14回	教室外学習(予習・復習)の内容	発表用スライドのデータをUSBに入れておくこと。 予習：教科書を事前に読んでおく。発表の練習をしておく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分

学習計画注記

・授業の最後に毎回質問を受け付ける。
・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問すること。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。）
・新型コロナの状況、やむを得ない事情（物理的な環境・教材等）によっては、授業内容が変更されることがあります。

学生へのフィードバック方法

・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックします。

評価方法

・平常点45%、レポート点45%、発表点10%で評価します。
・レポート作成、発表は下表に示すスキルを養うことを目的として実施しています。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
レポート点	○	○	○	○
発表点	○	○	○	○

評価割合

・平常点45%、レポート45%、発表点10%で評価します。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

使用教科書名(ISBN番号)

・栄養科学シリーズ ＮＥＸＴ 公衆栄養学実習 （講談社） （ISBN 978-4-06-155355-2 C3347）

参考図書

・日本人の食事摂取基準 2025版（第一出版）

参考URL

https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000149009

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
・生活にかかわる知識を多面的に身に付けている。
・多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。
【思考・判断】
・地域・社会に関する諸課題を自分ごととしてとらえ、適切な手法で分析することができる。
・多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】
・他者の視点やニーズを理解し、社会に新たな価値を見出すことができる。

・地域・社会の多様な人々と協働して、新しいライフスタイルを共に創り上げることができる。
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
【技能・表現】
・生活にかかわる技能を多面的に身に付けている。
・人々が快適に生活できる持続可能な生活様式を企画・提案することができる。
・生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー

・月曜5限、火曜5限：栄養指導研究室（2106室）
・事前にg-mail（misawa@kasei-gakuin.ac.jp）で予約してから来訪して下さい。
・基本的に、毎週金曜日は研修日のため大学不在です。

学生へのメッセージ

・栄養士になるための必須専門科目であることから、実社会における公衆栄養活動の実例を示しながら実習してもらうので、学生自身も卒後の働く場をイメージして是非主体的に学んで欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は、第一種衛生管理者（健康管理の国家資格：厚生労働省）、産業栄養指導者（厚生労働省外郭団体中央労働災害防止協会認定資格）を有し、トータル・ヘルス・プロモーションプランにおける栄養教育、集団給食部門における栄養改善に関する実務経験を有しており、将来の栄養士・管理栄養士として習得すべき公衆栄養施策の計画立案・評価・改善について、実例を示してより実践的に教授します。
アクティブ・ラーニング	○	・公衆栄養学活動における計画、実施、評価、改善の技術をより高めるため、グループ内でデイスカッションし、時にデイベイトして、能動的に学べるよう教授します。 ・アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げています。
情報リテラシー教育	○	・正しく有益な健康・栄養情報の検索・収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）、データ入力・集計（エクセル）、栄養分析（エクセル栄養君）、統計解析（SPSS）等の各種ソフトウェアを活用して教授します。 ・資料提供、課題提出等に活用する。 ・ノートパソコンは必携です。

講義コード	G06047002
講義名	公衆栄養学実習（RB)
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

R30506M13

授業概要(教育目的)

・本科目は、栄養士免許証の取得のための必修科目である。この授業では、人々の健康の保持・増進を図るため、健康・栄養問題の把握と分析について解説するので、ワークシートに沿って実習して頂く。これらの実習を通して、対象集団の状況に即した栄養改善計画の立案、実践、評価、フィードバックを行うための栄養マネジメントが身に着くよう教授します。

履修条件

・「公衆栄養学」を履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・学生が栄養指導対象集団の健康・栄養状態に及ぼす食環境面の様々な要因に関する知識を身に着け、それを理解できる。 ・学生が多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々の食生活を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	・学生が健康・栄養問題を分析し、なぜそうなるのかの要因や問題点を抽出し、判断できる。 ・学生が多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・学生が協調的に参加し公衆栄養施策の方法を積極的に提案して、グループの考えを纏めることができる。 ・学生が食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。 ・学生が栄養士として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	・学生が公衆栄養活動のための的確な調査を実施し、対象集団に応じた計画立案、評価・改善のスキルを身に着け、それを表現できる。 ・学生が栄養疫学、統計の基本処理のスキルを身に着け、それを表現できる。 ・学生が食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身につけている。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	秤量記録法、食事画像撮影による食事調査の記録
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事画像撮影による食事調査の特徴について理解する。 「課題提出あり」アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第2回	**授業テーマ**	秤量記録法の分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	秤量記録法による食事調査の分析方法を理解する。 「課題提出あり」アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第3回	**授業テーマ**	秤量記録法の分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	秤量記録法による食事調査の分析方法を理解する。 「課題提出あり」アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第4回	**授業テーマ**	秤量記録法による食事調査の評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	秤量記録法による食事調査の栄養素摂取量の計算方法を習得する。 個人の栄養素摂取量を食事摂取基準に沿って評価する。 「課題提出あり」アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第5回	**授業テーマ**	24時間思い出し法による食事調査の記録
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	24時間思い出し法による食事調査の聞き取り（面接による聞き取りのロールプレイング）を体験する。 24時間思い出し法における目安量を重量化できるようになる。 「課題提出あり」アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げます。
		予習：教科書を事前に読んでおく。料理・食品の1食分、ポーションサイズ等を把握しておく。

	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第6回	**授業テーマ**	24時間思い出し法による食事調査の分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	24時間思い出し法による食事調査記録の分析ついて学ぶ。 「課題提出あり」アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第7回	**授業テーマ**	24時間思い出し法による食事調査の評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	24時間思い出し法による食事調査記録の誤差について把握する。 「課題提出あり」アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第8回	**授業テーマ**	食物摂取頻度調査法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食物摂取頻度調査法による食事調査の回答方法を習得する。 「課題提出あり」アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第9回	**授業テーマ**	食物摂取頻度調査法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食物摂取頻度調査法による分析結果を評価する。 「課題提出あり」アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第10回	**授業テーマ**	生活活動時間調査によるエネルギー消費量
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活活動時間調査の記録方法を習得する。 「課題提出あり」アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げます。
		予習：教科書を事前に読んでおく。

	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第11回	**授業テーマ**	食生活質問票の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養改善のための活動や取組の効果を評価するため、食生活質問票を考案できるようになる。 「課題提出あり」アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。これまでの食事調査結果から問題点・課題を把握し、食生活上のどのような点について調査したいか考えておく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第12回	**授業テーマ**	調査の実施、分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食生活質問票を用いた調査を実施し、集計する。 食生活質問票を用いた調査の集計結果を表にする。 「課題提出あり」アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第13回	**授業テーマ**	発表スライド作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食生活質問票を用いた調査の集計結果の表から、発表用スライドを作成する. 「課題提出あり」アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。データ分析、表作成を完了させておく。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分
第14回	**授業テーマ**	発表会-質問紙調査結果について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーション技術を身に着ける。 「課題提出あり」アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書を事前に読んでおく。発表の練習をしておく。 発表用スライドのデータをUSBに入れておくこと。 復習：授業で配布した資料を活用し振り返りをしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習40分、復習60分

学習計画注記

・授業の最後に毎回質問を受け付ける。
・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問すること。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。）
・新型コロナの状況、やむを得ない事情（物理的な環境・教材等）によっては、授業内容が変更されることがあります。

学生へのフィードバック方法

・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックします。

評価方法

・平常点42%、レポート点42%、発表点16%で評価します。
・レポート作成、発表は下表に示すスキルを養うことを目的として実施します。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
レポート点	○	○	○	○
発表点	○	○	○	○

評価割合

・平常点45%、レポート45%、発表点10%で評価します。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

使用教科書名(ISBN番号)

・栄養科学シリーズ ＮＥＸＴ 公衆栄養学実習 （講談社）（ISBN 978-4-06-155355-2 C3347）

参考図書

・日本人の食事摂取基準 2020版（第一出版）

参考URL

https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000149009

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー

・月曜5限、火曜5限：栄養指導研究室（2106室）
・事前にg-mail（misawa@kasei-gakuin.ac.jp）で予約してから来訪して下さい。
・基本的に、毎週金曜日は研修日のため大学不在です。

学生へのメッセージ

・栄養士になるための必須専門科目であることから、実社会における公衆栄養活動の実例を示しながら実習してもらうので、学生自身も卒後の働く場をイメージして是非主体的に学んで欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は、第一種衛生管理者（健康管理の国家資格：厚生労働省）、産業栄養指導者（厚生労働省外郭団体中央労働災害防止協会認定資格）を有し、トータル・ヘルス・プロモーションプランにおける栄養教育、集団給食部門における栄養改善に関する実務経験を有しており、将来の栄養士・管理栄養士として習得すべき公衆栄養施策の計画立案・評価・改善について、実例を示してより実践的に教授します。
アクティブ・ラーニング	○	・公衆栄養学活動における計画、実施、評価、改善の技術をより高めるため、グループ内でデイスカッションし、時にデイベイトして、能動的に学べるよう教授します。 ・アクティブラーニングとして調査学習を取り入れ、分析力・思考力の向上に繋げています。
情報リテラシー教育	○	・正しく有益な健康・栄養情報の検索・収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）、データ入力・集計（エクセル）、栄養分析（エクセル栄養君）、統計解析（SPSS）等の各種ソフトウェアを活用して教授します。 ・資料提供、課題提出等に活用する。 ・ノートパソコンは必携です。

講義コード	G06048001
講義名	給食管理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大中 佳子	指定なし

ナンバリング

R20603M21

授業概要(教育目的)

この科目は、栄養士免許、食品衛生管理者資格、食品衛生監視員資格、取得の必修科目である。
・健康増進法、栄養士法から栄養士・管理栄養士の職務について学ぶ。
・給食の経営資源（人・物・資金）の活用、給食システムの構造や、栄養アセスメントから給食の生産と提供・評価・改善までの栄養・食事管理の流れを学ぶ。
・大量調理の特性を理解し、給食提供に至るまでの（食材・原価・生産・設備・安全・衛生）管理システムを学び給食マネジメントを行うための知識と技術を修得する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	栄養士の役割、特定給食施設の種類および特性、給食の意義・目的について説明できる。 給食の原価・食材・給食の生産から提供までの工程を述べることができる。 大量調理の特性、大量調理施設衛生管理マニュアル、PP（Prerequisite Programs)、HACCP（Hazard Analysis Critical Control Point）について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	給食マネジメントシステムの理解とPDCAサイクルで評価できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	給食対象者を理解し、アセスメントを行い、対象者の給与栄養目標量に合わせた献立作成のために必要な資源や情報を収集できる。

技術・表現の観点 (A)	対象者の給与栄養目標量に合わせた栄養食事管理ができる。 給食運営システムの実践・マネジメントスキルの修得

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス、給食の概念、管理栄養士・栄養士の職務と関連法規
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食の概念、給食の目的、栄養士・管理栄養士の職務について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「給食の概念」の該当箇所を学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第2回	**授業テーマ**	給食の概要 給食施設の特徴と栄養・食事管理（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食の意義と目的 健康増進法における特定給食施設とその栄養管理について理解する。 医療施設の給食の目的、栄養・食事管理、栄養士の役割について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「給食の概念」の該当箇所を学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第3回	**授業テーマ**	給食施設の栄養・食事管理（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢者・介護福祉施設施設、児童福祉施設、障害者福祉施設 各福祉施設の概要と給食の目的、栄養・食事管理、栄養士の役割について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「給食の概念」の該当箇所を学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第4回	**授業テーマ**	給食施設の栄養・食事管理（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校給食の目的、学校給食法について学ぶ 学校の栄養・食事管理、栄養士の役割について理解する。 事業所給食の目的と栄養・食事管理、栄養士の役割について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「給食の概念」の該当箇所を学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第5回	**授業テーマ**	給食の資源と管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食の原価構成と収支構造について理解する。 損益分岐点について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「給食の資源と管理」の該当箇所を学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第6回	**授業テーマ**	給食の品質管理、生産管理、提供管理（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・食材料の選択、購買と検収、保管・在庫管理について理解する。 ・大量調理の特性の理解と大量調理機器を活用し

		た品質管理について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「給食の品質管理、生産管理、提供管理」の該当箇所を学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第7回	**授業テーマ**	給食の品質管理、生産管理、提供管理（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生産と提供：給食のオペレーションシステム、生産計画について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「給食の品質管理、生産管理、提供管理」の該当箇所を学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第8回	**授業テーマ**	給食の品質管理、生産管理、提供管理（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	提供サービス：配食・配膳システム、食事環境の設備について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「給食の品質管理、生産管理、提供管理」の該当箇所を学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第9回	**授業テーマ**	安全・衛生管理（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	一般衛生管理プログラム、HACCPの運用について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「給食の安全・衛生」の該当箇所を学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第10回	**授業テーマ**	安全・衛生管理（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大量調理施設衛生管理マニュアルについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「給食の安全・衛生」の該当箇所を学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第11回	**授業テーマ**	安全・衛生管理（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大量調理施設衛生管理マニュアルについて理解する。 学校給食における衛生管理について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「給食の安全・衛生」の該当箇所を学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第12回	**授業テーマ**	安全・衛生管理（4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事故・災害時対策について学ぶ。（食中毒、異物混入、誤配膳、アレルギー対応） 危機管理対策：インシデント、アクシデント管理の意義について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「給食の安全・衛生」の該当箇所を学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第13回	**授業テーマ**	給食の組織・人事管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食の組織の原則と形態、関連部門との連携について理解する。 給食運営業務の外部委託について理解する。 給食業務従事者の教育・訓練について学ぶ。 小テスト

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「給食経営の概要と組織」の該当箇所を学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第14回	**授業テーマ**	まとめ 定期試験について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食運営について、これまでの授業内容をまとめる。 定期試験についての連絡：試験期間に定期試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「給食の概念」の該当箇所を学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第15回	**授業テーマ**	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

本科目の講義内容は、給食管理の基礎となります。給食システムの基本的な事項を予復習してください。

学生へのフィードバック方法

小テスト・課題は採点し返却、および授業にて解説を行います。

評価方法

平常点、課題、定期試験で評価を行います。
評価方法・評価基準は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはクラスルーム
または授業内での配布等により提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
小テスト・課題	○	○	○	
定期試験	○	○		

評価割合

平常点20%、小テスト・課題20%、定期試験60%

使用教科書名(ISBN番号)

サクセス管理栄養士・栄養士養成講座「給食経営管理論」第12版／第一出版
（ISBN978-4-8041-1490-3C3377）

参考図書

日本人の食事摂取基準2025年版／第一出版

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、【思考・判断】多種多様の情報を整理し、【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組み、【技能・表現】食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図る。

オフィスアワー

・金曜２限、金曜昼休み：給食管理学研究室（2311室）
・事前にメールで予約してから来訪して下さい。

学生へのメッセージ

校内・校外給食管理実習を学ぶ前の給食管理の基礎と理論を学ぶ授業です。この科目は校内給食管理実習を受けるための必須要件となっていますので、予復習を行い、知識を修得してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		総合病院、児童・高齢者福祉施設において管理栄養士の実務経験とマネジメント経験のある教員が、各給食施設の栄養・食事管理、給食の生産管理、衛生管理や給食管理システムについて講義します。
アクティブ・ラーニング		食材料費の原価計算を行い、予算管理を考えます。損益分岐点を計算し、給食におけるマーケティングの活用を考えていきます。
情報リテラシー教育		食品や食に関する情報をインターネットを利用して収集します。
ICT活用		インターネットによる情報収集を行う。 授業のフィードバック、課題提出、資料提供など、Google classroomを活用し配布します。

講義コード	G06049001
講義名	校内給食管理実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期前半
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大中 佳子	指定なし

ナンバリング

R30605M13

授業概要(教育目的)

この科目は、栄養士免許、食品衛生管理者資格、食品衛生監視員資格、取得のための必修科目である。
・特定給食施設を想定した「給食の運営」について、栄養・食事管理について、計画・生産・提供・評価・改善のマネジメントサイクルを実施しながら学修する。
・大量調理はグループ単位で行う。栄養士役を中心に、栄養・食事計画、生産計画にもとづいた給食の提供を行う。
・給食の品質管理、大量調理機器の稼働と安全・衛生について実践する。
・栄養・食事管理、経営管理、品質管理、安全・衛生管理の帳票を作成する。

履修条件

以下の科目を修得済みであること。
1．基礎調理学実習（１年前期・必修科目）
2．調理学（２年前期・必修科目）
3．調理科学実験（２年後期・必修科目）
4．給食管理学（２年前期・必修科目）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・栄養士が行う給食の運営の流れについて説明できる。 ・給食の経営資源を活用し、大量調理の特性にもとづいた生産から提供までの工程が立案できる。
思考・判断の観点 (K)	・リスクを予知でき、リーダーシップとチームワークがとれる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・大量調理はグループを編成して実施するが、グループ内のコミュニケーションを図り協力し合い、栄養・食事計画を実施できる。

	・報告・連絡・相談を行うことができる。
技術・表現の観点 (A)	・特定給食施設の給食の運営、PDCAサイクルにもとづいた栄養・食事管理が実践できる。 ・栄養・食事管理、運営管理、品質管理、安全・衛生管理の帳票を作成できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習内容および実習の進め方について講義します。 ・給食の発注計画、食材料の発注伝票作成し提出する。 ・実習室の構造、厨房機器の配置と操作を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	大量調理施設衛生管理マニュアル、教科書の該当箇所を読んでおくこと。 実習で提供する給食の献立等関係帳票を作成しておくこと。 厨房機器の用途と使用方法、配置を調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習75分 復習75分
第2回	**授業テーマ**	給食の生産・提供①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1班）厨房実習 指示献立の調理 ・指示された献立の調理を生産計画にもとづき実施する。 ・実習室の作業区域の区別、食材の消毒方法、加熱食材の中心温度の計測方法、盛り付け方法など、給食の一連の作業を理解する。 ・実施献立の評価を行い、改善案を計画する。 2班）演習 ・指示献立の生産計画、作業工程表・発注書の作成と提出指示献立の生産計画、作業工程表・発注書の作成と提出 ・厨房実習下膳・洗浄
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に大量調理施設衛生管理マニュアル、作業指示書、作業工程表を確認しておくこと 実習中の記録を整理しておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習75分 復習75分
第3回	**授業テーマ**	給食の生産・提供①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2班）厨房実習 指示献立の調理 ・指示された献立の調理を生産計画にもとづき実施する。 ・実習室の作業区域の区別、食材の消毒方法、加熱食材の中心温度の計測方法、盛り付け方法など、給食の一連の作業を理解する。 ・実施献立の評価を行い、改善案を計画する。 1班）演習

		・前回の厨房実習①実施後の帳票を作成し提出する。 ・前回の厨房実習①の評価・改善から、次回の指示献立の生産計画、作業工程表・発注書の作成と提出を行う。 ・厨房実習下膳・洗浄
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に大量調理施設衛生管理マニュアル、作業指示書、作業工程表を確認しておくこと 実習中の記録を整理しておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習75分 復習75分
第4回	**授業テーマ**	帳票作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	演習 ・給食の生産実習①実施後の帳票を作成し提出する。 ・給食の生産実習①の評価・改善から、次回の指示献立の生産計画、作業工程表・発注書の作成と提出を行う。 ・栄養教育計画と媒体作成 ・個人課題について
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に大量調理施設衛生管理マニュアル、作業指示書、作業工程表を確認しておくこと 実習中の記録を整理しておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習75分 復習75分
第5回	**授業テーマ**	帳票作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	演習 ・給食の生産実習①実施後の帳票を作成し提出する。 ・給食の生産実習①の評価・改善から、次回の指示献立の生産計画、作業工程表・発注書の作成と提出を行う。 ・栄養教育計画と媒体作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に大量調理施設衛生管理マニュアル、作業指示書、作業工程表を確認しておくこと 実習中の記録を整理しておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習75分 復習75分
第6回	**授業テーマ**	帳票作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	演習 ・給食の生産実習①実施後の帳票を作成し提出する。 ・給食の生産実習①の評価・改善から、次回の指示献立の生産計画、作業工程表・発注書の作成と提出を行う。 ・栄養教育計画と媒体作成、提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に大量調理施設衛生管理マニュアル、作業指示書、作業工程表を確認しておくこと 実習中の記録を整理しておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習75分 復習75分
	授業テーマ	給食の生産・提供②

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1班）厨房実習100食 指示献立の調理 ・指示された献立の調理を生産計画にもとづき実施する。 ・実習室の作業区域の区別、食材の消毒方法、加熱食材の中心温度の計測方法、盛り付け方法など、給食の一連の作業を理解する。 ・実施献立の評価を行い、改善案を計画する。 2班）演習 ・指示献立の生産計画、作業工程表・発注書の作成と提出指示献立の生産計画、作業工程表・発注書の作成と提出 ・厨房実習下膳・洗浄
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に大量調理施設衛生管理マニュアル、作業指示書、作業工程表を確認しておくこと 実習中の記録を整理しておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習75分 復習75分
第8回	授業テーマ	給食の生産・提供②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2班）厨房実習100食 指示献立の調理 ・指示された献立の調理を生産計画にもとづき実施する。 ・実習室の作業区域の区別、食材の消毒方法、加熱食材の中心温度の計測方法、盛り付け方法など、給食の一連の作業を理解する。 ・実施献立の評価を行い、改善案を計画する。 1班）演習 ・前回の厨房実習①実施後の帳票を作成し提出する。 ・前回の厨房実習①の評価・改善から、次回の指示献立の生産計画、作業工程表・発注書の作成と提出を行う。 ・厨房実習下膳・洗浄
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に大量調理施設衛生管理マニュアル、作業指示書、作業工程表を確認しておくこと 実習中の記録を整理しておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習75分 復習75分
第9回	授業テーマ	帳票作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	演習 ・給食の生産実習①実施後の帳票を作成し提出する。 ・給食の生産実習①の評価・改善から、次回の指示献立の生産計画、作業工程表・発注書の作成と提出を行う。 ・栄養教育計画と媒体作成、提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に大量調理施設衛生管理マニュアル、作業指示書、作業工程表を確認しておくこと 実習中の記録を整理しておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習75分 復習75分
		給食の生産・提供③

第10回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1班）厨房実習100食 指示献立の調理 ・指示された献立の調理を生産計画にもとづき実施する。 ・実習室の作業区域の区別、食材の消毒方法、加熱食材の中心温度の計測方法、盛り付け方法など、給食の一連の作業を理解する。 ・実施献立の評価を行い、改善案を計画する。 2班）演習 ・指示献立の生産計画、作業工程表・発注書の作成と提出指示献立の生産計画、作業工程表・発注書の作成と提出 ・厨房実習下膳・洗浄
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に大量調理施設衛生管理マニュアル、作業指示書、作業工程表を確認しておくこと 実習中の記録を整理しておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習75分 復習75分
第11回	授業テーマ	給食の生産・提供③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2班）厨房実習100食 指示献立の調理 ・指示された献立の調理を生産計画にもとづき実施する。 ・実習室の作業区域の区別、食材の消毒方法、加熱食材の中心温度の計測方法、盛り付け方法など、給食の一連の作業を理解する。 ・実施献立の評価を行い、改善案を計画する。 1班）演習 ・前回の厨房実習①実施後の帳票を作成し提出する。 ・前回の厨房実習①の評価・改善から、次回の指示献立の生産計画、作業工程表・発注書の作成と提出を行う。 ・厨房実習下膳・洗浄
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に大量調理施設衛生管理マニュアル、作業指示書、作業工程表を確認しておくこと 実習中の記録を整理しておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習75分 復習75分
第12回	授業テーマ	帳票作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	演習 ・給食の生産実習①実施後の帳票を作成し提出する。 ・給食の生産実習①の評価・改善から、次回の指示献立の生産計画、作業工程表・発注書の作成と提出を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。

	教室外学習の時間（分）	予習75分 復習75分
第13回	**授業テーマ**	帳票作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	演習 ・給食の生産実習①実施後の帳票を作成し提出する。 ・給食の生産実習①の評価・改善から、次回の指示献立の生産計画、作業工程表・発注書の作成と提出を行う。 ・個人課題（帳票類）の提出
	教室外学習(予習・復習)の内容	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習75分 復習75分
第14回	**授業テーマ**	発表、まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・各グループの給食管理実習の学び、栄養・食事計画の実施について反省と改善点をPDCA形式でまとめ発表する。 ・小テスト実施
	教室外学習(予習・復習)の内容	各帳票の意味について理解し課題を作成しておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習75分 復習75分

学習計画注記

・電卓やPC、参考書を適宜持参してください。
・教科書「トレーニーガイドPDCAによる給食マネジメント実習」は2年次授業「栄養士総合演習」でも使用下教科書です。毎回持参してください。
・食品成分表は八訂であればどの出版社でも可、女子栄養大学出版部の成分表は資料付きですので推薦します。

学生へのフィードバック方法

・グループ課題は、14回まとめの発表時に口頭でコメントする。
・個人課題は、提出レポートにコメントを記入し返却する。

評価方法

平常点、実習に取り組む姿勢、協働意欲、給食運営理解度を総合的に評価する。
評価方法・評価基準は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはクラスルーム
または授業内での配布等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
実習に取り組む姿勢			○	
協働意欲		○	○	
給食運営理解度	○	○		○

評価割合

個人課題40% グループ課題20% 受講状況（平常点）30% まとめ小テスト10%

使用教科書名(ISBN番号)

・トレーニーガイドPDCAによる給食マネジメント実習 第2版／医歯薬出版株式会社（ISBN978-4-263-70728-9）
・八訂 食品成分表2024/女子栄養大学出版部（ISBN978-4-7895-1204-0）

参考図書

・調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル／学建書院
・日本人の食事摂取基準2025年版／第一出版株式会社
・調理のためのベーシックデータ第6版/女子栄養大学出版部

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】様々な立場や状況の人々とのコミュニケーション力を身につける。
【思考・判断】多種多様の情報を整理する。
【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について、自ら課題を見出しその解決に意欲的取り組み、栄養士として探究心および倫理観を持つ
【技術・表現】専門的、体系的な科目の学修を、特定給食施設の給食を通し、国民の栄養・食事管理と健康増進に貢献できる技術を身につける。

オフィスアワー

・金曜２限、金曜昼休み：給食管理学研究室（2311室）
・事前にメールで予約してから来訪して下さい。

学生へのメッセージ

・定期的に、グループで課題および帳票の提出を課します。課題については授業内で説明します。
・食中毒予防のために厨房実習前に細菌検査（検便の提出）や諸注意を行います。注意事項を遵守しない場合や細菌検査に異常があった場合は、厨房実習は参加できません。実習中の健康に留意して、万全の体調で実習に臨んでください。
・厨房実習は時間を要するので、各回、授業時間が変わります。時間割を提示しますので予定を確認の上、予習・復習を十分に行い実習に備えてください。連絡事項などはClassroomで掲示します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		総合病院、児童・高齢者福祉施設において管理栄養士の実務経験とマネジメント経験のある教員が、各給食施設の栄養・食事管理、給食の生産管理、衛生管理や給食管理システムについて講義します。
アクティブ・ラーニング	○	・対象者の給与栄養目標量にを合った献立の作成と給食の生産・提供をグループで実施します。 ・対象者への栄養教育テーマを、グループディスカッションしながら決定し、媒体作成します。
情報リテラシー教育	○	・栄養教育用の媒体に用いる情報の収集を行い、科学的根拠のあるデータの使用について講義します。
ICT活用		・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）を活用します。 ・資料提供、課題提出等に活用します。 ・ノートパソコンは必携です。

講義コード	G06050001
講義名	校外給食管理実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大中 佳子	指定なし

ナンバリング

R30606M13

授業概要(教育目的)

この科目は、栄養士免許、食品衛生管理者資格、食品衛生監視員資格、取得のための必修科目である。
給食施設において、給食を運営する栄養士の業務を体験することにより、実践力を培い、栄養士としての社会的な役割と職業倫理について知る。給食マネジメントについて総合的に理解し、給食施設における栄養士の役割と業務内容を学修する。

履修条件

校外給食管理実習を履修するためには、以下の科目を修得済みでなければならない。
1．校内給食管理実習を修得済みであること
2．食品衛生学（３年前期・必修）が修得済みであること
3．食品衛生学実験（3年後期・必修）は履修中であること
4．GPA2.00 以上であること（３年前期の単位修得時点）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	給食管理学や校内給食管理実習での学びから得た知識のもと、学外実習を通して、栄養士業務の実際を理解することができる。
思考・判断の観点(K)	実習施設での業務を通して得た情報を整理し、多角的な視点から考えて行動できるようになる。給食の安全・衛生管理においてリスクを予測できる。
関心・意欲・態度の観点(V)	給食の意義を理解し、実習に臨むことができる。実習先の指導者の指示内容に真摯な態度で臨み行うことができる。あらかじめ実習施設の特性や役割等について調べ、他職種協働で作業する中で栄養士の役割を理解することができる。

技術・表現の観点(A)	実習施設の指導者の指示に従い、衛生的に給食の生産・提供することができる。実習記録ノートや実習関連書類へ正確な記載ができ、期限内に提出することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	校外実習①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習
	教室外学習の時間(分)	60分
第2回	**授業テーマ**	校外実習②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習
	教室外学習の時間(分)	60分
第3回	**授業テーマ**	校外実習③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習
	教室外学習の時間(分)	60分
第4回	**授業テーマ**	校外実習④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習
	教室外学習の時間(分)	60分
第5回	**授業テーマ**	校外実習⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習
	教室外学習の時間(分)	60分
第6回	**授業テーマ**	校外実習⑥
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。
	教室外学習(予習・復	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運

	習)の内容	営に関する学びの復習
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	校外実習⑦
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	校外実習⑧
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	校外実習⑨
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	校外実習⑩
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	校外実習⑪
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	校外実習⑫
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習
	教室外学習の時間	60分

	（分）	
第13回	**授業テーマ**	校外実習⑬
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各実習施設で学んだことを発表する。異なる施設の給食の実際について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

実習先施設により、その施設特性から実習日程や内容が異なり、提出書類も異なるので、実習先からの連絡事項をよく確認すること。

学生へのフィードバック方法

実習先施設指導者からの指摘内容を個別に伝える。
実習記録ノートにコメントを記載し返却する。

評価方法

実習前の事前指導に取り組む姿勢・意欲、実習先の指導者の評価、実習後の事後指導・報告会への出席・提出物、について評価する。評価方法・評価基準は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
事前指導に取り組む意欲・姿勢	○		○	
事後指導に取り組む意欲・姿勢	○		○	○
実習先からの評価	○	○	○	○
実習記録ノートの内容	○	○	○	○

評価割合

実習先の指導者の評価20%、実習前の事前指導に取り組む姿勢20%、実習後の事後指導に取り組む姿勢20%、実習記録ノート20%、授業態度20%

使用教科書名(ISBN番号)

資料を配布する。

参考図書

日本人の食事摂取基準2025年版／第一出版株式会社
八訂日本食品成分表
トレーニーガイドPDCAによる給食マネジメント実習／医歯薬出版株式会社

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】学外での実習を通し、様々な立場や状況の人々とのコミュニケーション力を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組み、栄養士として探究心および倫理観を持って、社会に貢献したいという意欲がある。
【技術・表現】専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や食品・食物の調理・加工の技能を身につけている。

オフィスアワー

・火曜２限、火曜昼休み：給食管理学研究室（2311室）
・事前にメールで予約してから来訪して下さい。

学生へのメッセージ

事前準備と事前学習を怠らず、提出書類は正確に記入して期限や提出先を間違えずに提出すること。
実習先の指導内容や実習予定に従い、ホウレンソウ（報告・連絡・相談）を忘れずに、意欲をもって実習に臨むこと。疑問点を質問する場合は、まず自分で調べ、疑問の内容を明らかにしてから問い合わせること。どのような事が起きても、給食は毎日提供されます。多くの人が関わり、安心安全な食事を提供します。専門職として他職種連携など多くの関わりを学んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	総合病院、児童・高齢者福祉施設において管理栄養士の実務経験とマネジメント経験のある教員が、各給食施設の栄養・食事管理、給食の生産管理、衛生管理や給食を媒体とした栄養教育について実習の指導をする。
アクティブ・ラーニング	○	校外実習事前指導において、実習施設の情報を事前に調べ、得た情報を同じ実習先の学生と情報共有や意見交換する。事後指導では、実習報告会を開催し、実習先別の学びについて情報交換する。
情報リテラシー教育	○	校外実習先施設の概要やアクセス方法などをインターネットを利用して情報収集する。
ICT活用	○	献立作成において栄養計算・表計算ソフトを利用する。 実習報告会での発表資料を、PowerPointやExcel、Wordなどを利用して作成する。 連絡事項や、課題提出について、Googleクラスルームを活用する。

講義コード	G06050002
講義名	校外給食管理実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

R30606M13

学習計画

講義コード	G06051001
講義名	基礎調理学実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・2年次以降
必修・選択の別	コース必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	米澤 加代	指定なし

ナンバリング

R10601M23

授業概要(教育目的)

日本･西洋･中国料理の調理実習を通して、基礎的調理技術（加熱、非加熱、調味）や、食品の性質と衛生的な取り扱い方、食事作法など食事に関する基礎的総合能力を養うことを目的とする。また、原則として１回の食事となる献立の実習を通して、それぞれの料理様式の特徴や食卓の整え方についても師範を確認しながら理解できるよう、また、多面的な場面で実践をすることが可能となる内容とする。
本科目は、栄養士免許証、中・高教員免許、フードスペシャリスト、フードコーディネーター取得のための必須科目である。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	炊飯方法、各種だしの取り方など基本的な調理手順を説明できる。 実習で用いた食材の名称、調理特性、調理法を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食材・器具の衛生的な取り扱いをすることができる。 調理器具、食器、計量器具などを目的に合わせた扱いができる。 調理の目的に合わせて食材を適切に切砕でき、加熱・調味ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	協調して授業に参加することができ、班の構成員としての役割に対して寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	基本的な調理道具が使用でき、盛り付け、配膳、コーディネートなど目的、対象者に合わせて展開することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	授業の概要及び実習室使用上の取り決め事の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理の意義・目的を学び、実習授業の流れと実習室使用上のルールを把握する。包丁、まな板、各種計量器具について種類と適切な使い方を学ぶ。また、各種洗剤、石鹸、布巾類の取り扱い方他、調理担当者としての健康管理、安全衛生管理など実習授業全般の流れ、取り決め事について学ぶ。計量の方法、野菜の切り方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調理実習ノートを作成し、授業の目的と授業内容を整理し、次週からの実習に備える。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	日本料理① 炊飯、だしの取り方、野菜のゆで方、和え物、お吸い物 （白飯、だし巻きたまご、ほうれん草のごま和え、吉野鶏のすまし汁）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	炊飯の調理工程（計量、洗米、浸漬、加水、蒸らし）を理解し、盛り付け方、配膳・配置を学ぶ。だしは、昆布、かつお、および混合出しの取り方を学ぶ。汁物の椀だね、椀妻、吸い口を学ぶ。正しいまな板への向かい方、包丁の持ち方と野菜の切り方を実習を通して、技術を取得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	**授業テーマ**	日本料理②揚げ物、酢の物、煮干しだし、寄せもの（天丼、わかめときゅうりの酢の物、なめこの味噌汁、水ようかん）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	揚げ物の要点・注意点について学ぶ。和え衣の調味割合、和え方の注意点を学ぶ。また寒天の扱い方について、寄せ方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	**授業テーマ**	日本料理③ 煮方、蒸し方、練り物 （お赤飯、炊き合わせ、かきたま汁、葛桜）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習を通して、もち米の吸水、加熱法とささげ豆によるもち米への着色方法を学ぶ。煮方について学び、炊き合わせの方法について学ぶ。葛でんぷんの糊化と透明感と口触り、温度管理など実習で学ぶ。

	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	**授業テーマ**	日本④寿司、蒸し方（太巻き寿司、ばらの巻き寿司、茶わん蒸し、わらび餅）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	すし飯のための炊飯（加水量、加熱・蒸らし時間）の要点と合わせ酢の調味割合を実習を通して学ぶ。茶わん蒸しのだしと卵の割合、加熱の要点を学ぶ。わらび粉の扱い方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	**授業テーマ**	中国料理①冷菜、点心（冷菜、チンジャオロース、粥、桃饅頭）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中国料理の様式の特徴と盛り付け、配置・配膳を学ぶ。什錦拌盤では、3種の食材を冷菜としての盛り付け方、塩クラゲの処理法と味付け、きゅうりの切り方と下処理法と調味を学ぶ。また中華粥の調理法、桃饅頭の生地作り、成形、蒸し方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	**授業テーマ**	中国料理②焼菜、炒菜（炒飯、麻婆豆腐、トマトスープ、タピオカのココナッツミルク）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	炒飯では、飯、具材の下準備と炒め方、味付けの要点を学ぶ。溜菜（麻婆豆腐）では、肉への下味、炒め方など溜菜の要点を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	中国料理③湯菜、溜菜、点心（花巻、鶏絲黄花湯、咕咾肉、杏仁豆腐）
	学習内容(ｱ	花巻では蒸し方、湯（鶏ガラスープ）の取り方、澄ませ方について西洋

第8回	ｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	料理のスープストック取り方の相違点なども比較しながら学ぶ。杏仁豆腐では、粉寒天の扱い方の復習と牛乳の調理上の注意点を学ぶ。シロップの材料割合と加熱条件を学ぶ。 実習ノート中間提出。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	授業テーマ	西洋料理①肉料理、野菜料理、スープ、コーンスターチ （ビーフステーキ、マッシュポテト、ブイヤベース、ブラマンジェ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	スープは基本となるブイヨンの取り方を学び、ソテーは肉の下処理、調味法、焼き方を学ぶ。マッシュポテトはジャガイモの裏ごしの要点と加熱・調味法を学ぶ。ブラマンジェは、コーンスターチの調理上の特徴（糊化）と攪拌効果（粘弾性）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	授業テーマ	西洋料理②クリスマス料理（ローストチキン、バターライス、にんじんのグラッセ、ブロッコリーのソテー、コーンスープ、フルーツポンチ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鶏肉の下処理、成形、焼き方、にんじん切り方、グラッセの方法、ゆで方、ソテーの方法、フルーツのカットの方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	授業テーマ	行事食：お正月①（田づくり、栗きんとん、伊達巻、雑煮）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お正月の重箱詰め（一の重、二の重、三の重、与の重）、器への盛り付けを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。

	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	**授業テーマ**	行事食：お正月②（のし鶏、ぶり照り、筑前煮、なます、菊花かぶ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お正月の重箱詰め（一の重、二の重、三の重、与の重）、器への盛り付けを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	**授業テーマ**	冷凍食品
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	冷凍食品についての講義、実習。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の筆記試験の確認をすること。これまでの実習を振り返って、復習として自身の評価を実習ノートにまとめること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	**授業テーマ**	まとめ 実技試験、筆記試験、掃除
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでのまとめと調理の基本的な内容について、実技試験および筆記試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノート最終提出。
	教室外学習の時間（分）	120分
第15回	**授業テーマ**	テーブルマナーの体験授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ホテルでテーブルマナーの体験授業を実施する。西洋料理のマナーを学ぶ。
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	西洋料理のテーブルマナーについて、事前に調べ、きちんとした作法で食事ができるように準備しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

天候他で食材に影響がある場合、授業内容を変更することがあります。

学生へのフィードバック方法

デモンストレーション後の実習において、机間巡視をしながら理解できていない点や技術面の指導、サポートを行います。また、質問等は時間内または、研究室（2108室やemail）で受けます。
実習ノートは定期的に回収し、採点をして返却します。

評価方法

実習参加状況：デモンストレーション、実習を通して、実習班内での協力や実習へ意欲的・積極的な参加態度を評価する。
筆記テスト：調理の基本的な内容についての筆記試験。
実習試験：基礎的な調理技術（到達）を確認する試験。
実習ノート：指定された項目の記載（14週分）内容について評価する。
評価詳細のルーブリックは当該GoogleClassroomへ掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実習参加状況	○	○	○	○
実習試験		○		○
筆記試験	○	○		
実習ノート	○	○	○	○

評価割合

授業参加状況（20%）、実技・筆記試験（30%）、実習ノート（50%）

使用教科書名(ISBN番号)

①応用自在な調理の基礎 日本料理篇 河内一行、川端晶子他共著 建帛社（978-4-7679-0629-4）
②応用自在な調理の基礎 西洋料理篇 川端晶子 編著建帛社（978-4-7606-0247-6）
③応用自在な調理の基礎 中国料理篇 川端晶子、澤山茂 編著 建帛社 （978-4-7679-0631-7）
④八訂 2020食品成分表 女子栄養大学出版部（978-4-7895-1021-9）
⑤調理のためのベーシックデータブック 女子栄養出版部（978-4-7895-0323-5）

参考図書

必要に応じてプリントを配布する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境・食事文化を理解する。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力身につけている。
【関心・意欲・態度】食生活を取りまくさまざまな事象について関心を持ち、課題を見出し、その解決に意欲的の取り組む。
【技能・表現】食を通じて生活質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理加工の技能を身につけている。

オフィスアワー

前期 水曜日 2限 2108研究室
後期 木曜日 2限 2108研究室
面談を希望する場合はmailで事前に連絡を入れて下さい。

学生へのメッセージ

授業後には、実習内容を毎回実習ノートにまとめること。調理の機会を作ることで技術の上達や応用力が身につきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	実習中はその内容を通して、学生自身が能動的、実践的に技術・知識深めながら、判断力、汎用力の育成を図ることができる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G06052001
講義名	調理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	米澤 加代	指定なし

ナンバリング

R20602M21

授業概要(教育目的)

調理は食品の栄養性の向上や安全性を配慮し、美味しい食事を作ることを目的とする。そのためには、より良い食事計画を行い調理理論に基づいた効率的な加工法や調理法を習得する必要がある。本講義では、食事設計について理解し、調理器具、調理操作について学び、調理の果たす役割について専門的な基礎知識の習得を図る。
本科目は、栄養士免許、フードスペシャリスト、フードコーディネーター取得のための必修科目である。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1.調理の意義、目的を説明できる。 2.食品の調理特性を説明できる。 3.調理による食品の栄養成分の変化、テクスチャーの変化を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1.適切な調理操作と調理機器の使用法、関係性を分類できる。 2.おいしさの要因について分類できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	授業概要、調理の目的と意義について

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理学の授業内容の概要を理解する。また、調理の目的と意義を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習により授業内容について調べ、理解が深まる様に努めること。調理について調べておくこと。 授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第2回	授業テーマ	おいしさの設計1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食べ物の嗜好性―おいしさの要因―
	教室外学習(予習・復習)の内容	おいしさの設計について教科書をよく読んでくること。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第3回	授業テーマ	おいしさの設計2 食事設計1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	おいしさの演出―おいしさを生み出すだしと調味― 食事設計の基本について
	教室外学習(予習・復習)の内容	食事計画について、食事バランスガイドについて調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第4回	授業テーマ	食事設計2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	献立作成について
	教室外学習(予習・復習)の内容	献立作成ついて調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第5回	授業テーマ	調理操作1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	非加熱操作 非加熱調理操作の種類と目的およびその操作に必要となる器具の種類と特徴について理解をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	非加熱操作について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第6回	授業テーマ	調理操作2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	加熱操作 加熱調理操作法の種類と操作目的とその効果について学ぶ。また、それらの操作に用いる加熱器具・設備についてその特徴と調理上の効果を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	加熱操作について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
	授業テーマ	調理設備、器具
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第7回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理設備、器具
	教室外学習(予習・復習)の内容	調理設備、器具について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第8回	授業テーマ	食品の調理特性1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	植物性食品1 穀類：米、小麦粉
	教室外学習(予習・復習)の内容	主食となる食品について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第9回	授業テーマ	食品の調理特性2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	植物性食品2 いも類、豆類、種実類
	教室外学習(予習・復習)の内容	副食のうち、副菜となる食品について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第10回	授業テーマ	食品の調理特性3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動物性食品1 食肉類、魚介類
	教室外学習(予習・復習)の内容	副食のうち、主菜となる食品について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第11回	授業テーマ	食品の調理特性4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動物性食品2 卵類、乳類
	教室外学習(予習・復習)の内容	完全栄養食品について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第12回	授業テーマ	食品の調理特性5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ビタミン、無機質を多く含む食品の調理性 野菜類、果実類、きのこ類、海藻類
	教室外学習(予習・復習)の内容	からだの調子を調える食品について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第13回	授業テーマ	食品の調理特性6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	成分抽出素材 油脂類、砂糖、ゲル化素材

	教室外学習(予習・復習)の内容	成分抽出素材について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第14回	**授業テーマ**	食品の調理特性7、調理の役割
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調味料、香辛料について、調理の果たす食品開発への役割、授業まとめ
	教室外学習(予習・復習)の内容	調味料の役割について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。 第1回目から第14回目までの内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	200分

学習計画注記

授業の進み具合によって授業内容を変更することがあります。

学生へのフィードバック方法

毎時間5分程度の質問の時間を設ける。また、小テスト（確認）を実施し、採点後に正回答を明示する。質問等がある場合には時間内または研究室（2108室やemail）で受けます。

評価方法

小テスト10%、定期試験90%の総合評価とする。
評価詳細のルーブリックは当該GoogleClassroomへ掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業への取り組み	○	○	○	○
小テスト	○	○		
筆記試験	○	○		

評価割合

小テスト10%、定期試験90%を合計して評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

調理学 第2版（公社）日本フードスペシャリスト協会 編 建帛社 （978-4 -7679-0656-0）

参考図書

必要に応じて指示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境・食事文化を理解する。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力身につけている。

オフィスアワー

前期 水曜日 2限 2108研究室
後期 木曜日 2限 2108研究室
面談を希望する場合はmailで事前に連絡を入れて下さい。

学生へのメッセージ

栄養士養成の必修科目であるため、授業前に教科書を読んでおくこと。また、授業後は講義内容を復習するなど、積極的、自主的に授業に臨んで下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G06053001
講義名	調理科学実験
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	米澤 加代	指定なし

ナンバリング

R20604M13

授業概要(教育目的)

調理科学実験では、調理操作上で起こる様々な現象について、その諸条件と食品の物性や化学性への変化との関連性、および食感、食味への影響を学び、食品の調理特性と嗜好性の向上に関与する要因について理解する。また、調理の実際において実践展開ができる応用力をつけることを目的とする。本授業は、栄養士免許取得に必須科目である。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．食品の調理特性を説明できる。 2．調理操作法（非加熱、加熱、調味）による食品の外観、テクスチャーなど食味、栄養成分への影響を関係づけて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食品の調理・加工特性に基づいて、調理法の適否を指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	調理上の変化のメカニズムを探求することに協調的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	実験機器・器具が正しく使用できる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス：調理科学実験の概要と実験上の諸注意。機器・器具の取り扱い方、計量・計測について。実験レポートの作成法について。（講義）

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	調理科学実験の概要について理解する。実験の進め方、実験結果のまとめ方を理解する。また、基本的な器具・機器の扱い方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書iv～vページの調理科学実験を始めるにあたってを読んでおくこと。 教科書2～9ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	**授業テーマ**	植物性食品：米（米の形状と吸水）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	米の種類とその形状についてについての違いを理解する。米の吸水について種類（もち米、うるち米、無洗米）と水温により吸水速度が異なることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前は、教科書10ページの実験1、プリントの方法を読み、実験の流れをノートにまとめておく。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次回提出する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	**授業テーマ**	小麦粉の種類と特徴：グルテン形成に及ぼす要因
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	薄力粉と強力粉の違いを識別できるように、外観、色、手触りを比較する。ドウ調製のための加水量とドウの伸展性を比較し、こね、寝かしの効果を確認する。また、調味料の種類とその添加時期によりグルテン形成への影響を確認し、調理への応用を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前は、教科書16ページの実験1を読み、実験の流れをノートにまとめておくこと。授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	**授業テーマ**	小麦粉：蒸しパンに及ぼす膨化剤の影響
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	膨化剤の違いによる膨化の違いについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前は、教科書18ページの実験2を読み、実験の流れをノートにまとめておくこと。授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次回提出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	**授業テーマ**	野菜・果物の色（溶液のpHと加熱条件、酵素的褐変）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	野菜にふくまれる色素（クロロフィル、アントシアニン、フラボノイド）は、加熱溶液のpHや食塩、塩類の影響を受けることを理解し、調理への適性を考察する。酵素的褐変の機構と防止法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内	教科書の22ページ実験1と31ページ実験2を読み実験手順をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提

	容	出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	**授業テーマ**	いも類の扱い方（じゃかいも、さつまいも）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	じゃがいもにおいて粉質性と粘質性の2種のいもの加熱後の扱いが、調理後のテクスチャーの与える影響を学ぶ。さつまいもの加熱方法（蒸し加熱、オーブン加熱、電子レンジ加熱）の違いが甘味、色調、香りが異なることを知り、調理への応用を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の28ページ実験1、31ページ実験2を読み、実験の手順をまとめておくこと。授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	**授業テーマ**	豆類（豆類の種類と吸水・膨潤、あずきあんの調整と性状）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	豆の種類による吸水パターンの特徴および時間との関係について調べ、適切な浸漬吸水時間を知る。またあんの調整方法をあずきを原料として学び、生あんや練あんの性状について、テクスチャーやあんとでん粉の関係を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書34ページ実験1と36ページ実験2を読み実験手順をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	**授業テーマ**	肉の加熱と調味液によるテクスチャーと味の変化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調味料類や野菜・果物中に含まれる酵素（植物プロテアーゼ）の作用が肉の軟化に及ぼす影響を理解する。 ハンバーグにおける食塩や副材料の影響について、それぞれの役割を理解し、その他のひき肉料理への応用を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の42ページ実験3、44ページ実験4のを読み、実験の手順をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次回提出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	**授業テーマ**	魚肉の加熱と調味液によるテクスチャーと味の変化（さば、いか）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	煮魚を煮る場合、煮汁に魚を入れる時期やしょうが汁を加える時期により煮魚のにおいや味、外観がどのように変わるのか確認し、調味料やしょうが汁の役割を理解する。いかのテクスチャーが加熱時間により変化することを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の48ページ実験2、50ページ実験3を読み、実験の手順をまとめておくこと。授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	卵の調理性（熱凝固性、希釈性）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報	卵黄、卵白の熱凝固性を知る。希釈卵液の希釈濃度、希釈液や調味料

第10回	リテラシー教育・ICT活用を含む)	種類による影響について、茶碗蒸し、卵豆腐、カスタードプリンを対象にゲル化特性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の52ページ実験1、53ページ実験2、54ページ実験3を読み実験手順をまとめておくこと。授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	授業テーマ	各種茹で卵の調整、卵液の調理性2（起泡性、乳化性）
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	加熱温度と時間の設定の違いから、調理用途に応じた茹で卵の調整を理解する。卵白を撹拌すると起泡するが、その際の添加物（砂糖、油脂、卵黄、塩、レモン汁）と温度の影響を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の53ページの実験2、56ページ実験4、実験の手順をまとめておくこと。授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次回提出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	授業テーマ	牛乳・乳製品の調理特性（酸、熱による影響、クリームの起泡性）
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	牛乳が酸凝固（カード化）するpHを確認し、カッテージチーズを調製する。牛乳のたんぱく質の熱変性（皮膜、加熱臭）について、その要因を把握する。また各種クリームの気泡条件とその違いを理解し、適正な起泡条件を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の60ページ実験1、61ページ実験2、62ページ実験3を読み、実験の手順をまとめておくこと。授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	授業テーマ	成分抽出素材と調理1（砂糖の加熱による変化）
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	砂糖の加熱温度と攪拌時間の関係を理解し、フォンダン、砂糖衣の要点を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の72ページ実験1と配布プリントを読み手順をまとめておくこと。授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	授業テーマ	成分抽出素材と調理2（寒天、ゼラチン、カラギーナンゲルの調理特性）
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	寒天、ゼラチンに添加する砂糖のゲル化、テクスチャーへの影響について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の66ページ実験1の手順をまとめておくこと。授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。

	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

諸事情により食材の搬入に影響があった場合は、授業内容を変更することがある。

学生へのフィードバック方法

提出されたレポートのコメントを参考にして修正を行い再提出すること。質問がある場合には、2108研究室（email可）まで訪問すること。

評価方法

実験授業への参加状況（実験を通して、班内での協力や実験へ意欲的・積極的な参加態度を評価する。）30%、レポートによる評価70%
評価詳細のルーブリックは当該GoogleClassroomへ掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業参加状況	○	○	○	○
レポート	○	○	○	

評価割合

授業参加状況（実験を通して、班内での協力や実験へ意欲的・積極的な参加態度を評価する。）10%、レポート60%、定期試験30%

使用教科書名(ISBN番号)

新編 調理学実験 今井悦子他 アイ・ケイコーポレーション（978-4-87492-385-6-C3077）

参考図書

必要に応じて提示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境・食事文化を理解する。
【思考・判断】多種多様な情報を整理し客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】食生活を取りまく様々な事象について関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。

オフィスアワー

前期 水曜日 2限 2108研究室
後期 木曜日 2限 2108研究室
面談を希望する場合はmailで事前に連絡を入れて下さい。

学生へのメッセージ

失敗をせず、嗜好性の高い食事づくりには、その食材の調理特性を知り、的確な調理・加工をすることが必要となります。調理は、実習、実験、講義の3つの科目を履修し技術を向上させながら、科学的な理由を学び、実験により確認をすることで栄養士として、様々な対象者に対して確実な食事作りが可能となります。主体性をもって授業に臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	実験中はその内容を通して、学生自身が能動的、実践的に知識深めながら、判断力、汎用力の育成を図ることができる。
情報リテラシ		

一教育		
ICT活用		

講義コード	G06053002
講義名	調理科学実験（RB)
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	必修
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

R20604M13

授業概要(教育目的)

調理科学実験では、調理操作上で起こる様々な現象について、その諸条件と食品の物性や化学性への変化との関連性、および食感、食味への影響を学び、食品の調理特性と嗜好性の向上に関与する要因について理解する。また、調理の実際において実践展開ができる応用力をつけることを目的とする。本授業は、栄養士免許取得に必須科目である。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．食品の調理特性を説明できる。 2．調理操作法（非加熱、加熱、調味）による食品の外観、テクスチャーなど食味、栄養成分への影響を関係づけて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食品の調理・加工特性に基づいて、調理法の適否を指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	調理上の変化のメカニズムを探求することに協調的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	実験機器・器具が正しく使用できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス：調理科学実験の概要と実験上の諸注意。機器・器具の取り扱い方、計量・計測について。実験レポートの作成法について。（講義）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理科学実験の概要について理解する。実験の進め方、実験結果のまとめ方を理解する。また、基本的な器具・機器の扱い方を学ぶ。
	教室外学習(予	教科書iv～vページの調理科学実験を始めるにあたってを読んでおくこ

	習・復習)の内容	と。 教科書2～9ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	授業テーマ	植物性食品：米（米の形状と吸水）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	米の種類とその形状についてについての違いを理解する。米の吸水について種類（もち米、うるち米、無洗米）と水温により吸水速度が異なることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前は、教科書10ページの実験1、プリントの方法を読み、実験の流れをノートにまとめておく。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次回提出する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	小麦粉の種類と特徴：グルテン形成に及ぼす要因
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	薄力粉と強力粉の違いを識別できるように、外観、色、手触りを比較する。ドウ調製のための加水量とドウの伸展性を比較し、こね、寝かしの効果を確認する。また、調味料の種類とその添加時期によりグルテン形成への影響を確認し、調理への応用を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前は、教科書16ページの実験1を読み、実験の流れをノートにまとめておくこと。授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	授業テーマ	小麦粉：蒸しパンに及ぼす膨化剤の影響
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	膨化剤の違いによる膨化の違いについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前は、教科書18ページの実験2を読み、実験の流れをノートにまとめておくこと。授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次回提出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	野菜・果物の色（溶液のpHと加熱条件、酵素的褐変）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	野菜にふくまれる色素（クロロフィル、アントシアニン、フラボノイド）は、加熱溶液のpHや食塩、塩類の影響を受けることを理解し、調理への適性を考察する。酵素的褐変の機構と防止法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の22ページ実験1と24ページ実験2を読み実験手順をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	いも類の扱い方（じゃかいも、さつまいも）
	学習内容(ｱｸﾃｨ	

第6回	ﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	じゃがいもにおいて粉質性と粘質性の 種のいもの加熱後の扱いが、調理後のテクスチャーの与える影響を学ぶ。さつまいもの加熱方法（蒸し加熱、オーブン加熱、電子レンジ加熱）の違いが甘味、色調、香りが異なることを知り、調理への応用を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の28ページ実験1、31ページ実験2を読み、実験の手順をまとめておくこと。授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	豆類（豆類の種類と吸水・膨潤、あずきあんの調整と性状）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	豆の種類による吸水パターンの特徴および時間との関係について調べ、適切な浸漬吸水時間を知る。またあんの調整方法をあずきを原料として学び、生あんや練あんの性状について、テクスチャーやあんとでん粉の関係を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書34ページ実験1と36ページ実験2を読み実験手順をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	肉の加熱と調味液によるテクスチャーと味の変化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調味料類や野菜・果物中に含まれる酵素（植物プロテアーゼ）の作用が肉の軟化に及ぼす影響を理解する。 ハンバーグにおける食塩や副材料の影響について、それぞれの役割を理解し、その他のひき肉料理への応用を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の42ページ実験3、44ページ実験4のを読み、実験の手順をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次回提出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	魚肉の加熱と調味液によるテクスチャーと味の変化（さば、いか）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	煮魚を煮る場合、煮汁に魚を入れる時期やしょうが汁を加える時期により煮魚のにおいや味、外観がどのように変わるのか確認し、調味料やしょうが汁の役割を理解する。いかのテクスチャーが加熱時間により変化することを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の48ページ実験2、50ページ実験3を読み、実験の手順をまとめておくこと。授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	授業テーマ	卵の調理性（熱凝固性、希釈性）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卵黄、卵白の熱凝固性を知る。希釈卵液の希釈濃度、希釈液や調味料種類による影響について、茶碗蒸し、卵豆腐、カスタードプリンを対象にゲル化特性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内	教科書の52ページ実験1、54ページ実験3を読み実験手順をまとめておくこと。授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成

	容	し、次週提出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	授業テーマ	各種茹で卵の調整、卵液の調理性2（起泡性、乳化性）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	加熱温度と時間の設定の違いから、調理用途に応じた茹で卵の調整を理解する。卵白を撹拌すると起泡するが、その際の添加物（砂糖、油脂、卵黄、塩、レモン汁）と温度の影響を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の53ページの実験2、56ページ実験4読み、実験の手順をまとめておくこと。授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次回提出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	授業テーマ	牛乳・乳製品の調理特性（酸、熱による影響、クリームの起泡性）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	牛乳が酸凝固（カード化）するpHを確認し、カッテージチーズを調製する。牛乳のたんぱく質の熱変性（皮膜、加熱臭）について、その要因を把握する。また各種クリームの気泡条件とその違いを理解し、適正な起泡条件を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の60ページ実験1、61ページ実験2、62ページ実験3を読み、実験の手順をまとめておくこと。授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	授業テーマ	成分抽出素材と調理1（砂糖の加熱による変化）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	砂糖の加熱温度と攪拌時間の関係を理解し、フォンダン、砂糖衣の要点を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の72ページ実験1と配布プリントを読み手順をまとめておくこと。授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	授業テーマ	成分抽出素材と調理2（寒天、ゼラチン、カラギーナンゲルの調理特性）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	寒天、ゼラチンに添加する砂糖のゲル化、テクスチャーへの影響について理解する。また、牛乳、果汁を添加することで各ゲル化に及ぼす影響を理解する。たんぱく質分解酵素を含む果物の添加方法とゲル化への影響を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の66ページ実験1の手順をまとめておくこと。授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

諸事情により食材の搬入に影響があった場合は、授業内容を変更することがある。

学生へのフィードバック方法

提出されたレポートのコメントを参考にして修正を行い再提出すること。質問がある場合には、2108研究室（email可）まで訪問すること。

評価方法

実験授業への参加状況（実験を通して、班内での協力や実験へ意欲的・積極的な参加態度を評価する。）30%、レポートによる評価70%
評価詳細のルーブリックは当該GoogleClassroomへ掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業参加状況	○	○	○	○
レポート	○	○	○	

評価割合

授業参加状況（実験を通して、班内での協力や実験へ意欲的・積極的な参加態度を評価する。）10%、レポート60%、定期試験30%

使用教科書名(ISBN番号)

調理学実験 改訂新版 今井悦子他 アイ・ケイコーポレーション（978－4－87492－345－0 C3077）

参考図書

必要に応じて提示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境・食事文化を理解する。
【思考・判断】多種多様な情報を整理し客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】食生活を取りまく様々な事象について関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。

オフィスアワー

前期 水曜日 2限 2108研究室
後期 木曜日 2限 2108研究室
面談を希望する場合はmailで事前に連絡を入れて下さい。

学生へのメッセージ

失敗をせず、嗜好性の高い食事づくりには、その食材の調理特性を知り、的確な調理・加工をすることが必要となります。調理は、実習、実験、講義の3つの科目を履修し技術を向上させながら、科学的な理由を学び、実験により確認をすることで栄養士として、様々な対象者に対して確実な食事作りが可能となります。主体性をもって授業に臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	実験中はその内容を通して、学生自身が能動的、実践的に知識深めながら、判断力、汎用力の育成を図ることができる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G06061001
講義名	微生物学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	竹田 志郎	指定なし

ナンバリング

R21705M21

授業概要(教育目的)

微生物は多種多様であり，ヒトの生活と密接な関係を持っている。本講義では食品の安全確保、あるいは食品加工（伝統食品や新食品開発）などに重要なヒト・動植物および食品に関わる病原あるいは有用微生物を対象とし、その種類・性質といった微生物の概略から、微生物の利用、制御、感染症の発生メカニズムなど応用的な事柄に至るまで授業展開する。

履修条件

高校における生物を理解していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・微生物の種類、特徴、構造・形態、増殖様式を説明できる。 ・微生物による食品の変敗や食中毒について説明できる。 ・微生物の食品への有効利用について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	・微生物と人との関わりについて、有効利用と排除の両面から具体的に説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・食品の安全に関する理解に寄与できる。 ・微生物の利活用に関する理解に寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	微生物学の歴史：微生物とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの微生物学の歴史について学修する。

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付資料を熟読し、講義内容を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	授業テーマ	微生物学の基礎(I)：微生物の種類と特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生物界における微生物の位置づけ、微生物の種類と特徴について学修する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	授業テーマ	微生物学の基礎(II)：微生物の構造と機能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	原核細胞・真正細菌および古細菌の構造と機能、真菌の細胞構造と機能について学修する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	授業テーマ	微生物学の基礎(III):微生物の代謝
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発酵・呼吸・光合成・微生物の同化、微生物の代謝、酵素の分類名、ゲノム解析、代謝調節について学修する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	微生物学の基礎(IV):微生物の増殖と分化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	微生物の生育のための環境要因、微生物の増殖、微生物の分化について学修する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	授業テーマ	微生物学の基礎:ウイルスについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ウイルスの構造と機能、宿主との関係、増殖性について学修する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	病原微生物学:細菌および真菌感染
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	

第7回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	病原細菌および真菌の分類を概説し、主な細菌および真菌感染症について学修する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	食品微生物学(I):食品加工と微生物①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発酵食品など食品加工への微生物利用について学修する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	食品微生物学(II):食品加工と微生物②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	微生物による食品の腐敗や変敗について学修する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	食品・病原微生物学:微生物による食中毒について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国内・海外で発生率の高い食中毒について、病原体の種類や病態について学修する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	授業テーマ	微生物の取り扱い
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	微生物を用いた一般的な実験方法について学修する。特に滅菌、消毒についての概念について学修する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	微生物と免疫
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	微生物による宿主への感染とそれに対する宿主の生体防御について学修する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。

	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	**授業テーマ**	微生物のバイオテクノロジー(I)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な分野における微生物を用いたバイオテクノロジー技術について学修する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	**授業テーマ**	微生物のバイオテクノロジー(II)および定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳酸菌など有用細菌による宿主への有用性について学修する(50分)。その後、定期試験を行う(50分)。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第15回	**授業テーマ**	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回の講義後に行う小テストは、次回の講義で正答の提示と解説、質疑応答を受け付けます。

評価方法

・毎回の講義後に、その回の講義を振り返る小テストを行います。問題数は5問（各1点）で五択問題または正誤問題とします。1～14回までの点数の合計点（70点）を40点満点に換算し、評価します。小テストの再試験は行わないので注意すること。
・定期試験は60点満点で出題し、出題の傾向については、第13回の授業にて説明する。
・小テスト及び定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。
・初回の授業でルーブリックについて説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
小テスト	○		○	

評価割合

定期試験（60%）および小テスト（40%）で評価します。
評価方法等は初回授業時に説明します。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

新・微生物学 新装第2版 (新バイオテクノロジーテキストシリーズ), 別府 輝彦 (著), 講談社, ISBN-10 : 4061563564
微生物学 (エキスパート管理栄養士養成シリーズ) (エキスパート管理栄養士養成シリーズ 6), 小林 秀光・白石 淳(編), 化学同人, ISBN-10 ： 4759812393

ディプロマポリシーとの関連

栄養士や教員、食の専門家として、探究心を持つとともに、使命感と倫理観を持って社会に貢献するための専門知識を有している。
また、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るために必要な指導力を身につけている。

オフィスアワー

なし

学生へのメッセージ

微生物は食品加工への応用により保存性や嗜好性の改善に加えて様々な機能性を発揮させる一方で、食品の変敗や我々人の命を脅かす食中毒の原因にもなります。これらの知識は食品を扱う上で必要不可欠であるため、理解を深めるよう務めて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は，乳業メーカーにおいて乳製品に関する研究開発の実務経験を有している。その際に得られた知見や経験を交え、食品製造現場における留意点や、微生物利用の注意点などを教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G06062001
講義名	ＨＡＣＣＰ実践演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	山本 詩織	指定なし
准教授	黒田 久夫	指定なし

ナンバリング

R41713M22

授業概要(教育目的)

食品の製造・流通のグローバル化に伴い、すべての食品等事業者においてHACCPによる衛生管理が義務化されている。HACCPによる衛生管理とは、各原材料の受入れから製品出荷までのすべての工程において危害要因を科学的に管理する手法であり、本授業ではHACCPに基づいた食品衛生管理を実践できるようになるための知識や技術を習得する。また、それに関する専門性の高い分析機器に関する演習も展開する。

履修条件

食品衛生に関する総体的基礎知識を有し、特に食品の調理・加工工程における食品衛生管理のポイントを理解していることが望ましい。
なお、第2回・第7回・第10回については、オンデマンドによる実施とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	食品製造工程や食品衛生管理の基礎知識と併せて、HACCPに基づいた衛生管理を説明できる。また、食品の安全確保・検証に必要となる専門理化学試験を遂行する知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	倫理的、客観的視野から実験結果を捉える思考、判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	演習を編成された班での協同遂行を通じて、演習工程や結果の分析、情報共有ができる。
技術・表現の観点 (A)	安全性と倫理性に留意し、精密で正確な実験操作・HACCP立案ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	・オリエンテーション：授業の進め方、HACCPシステムについて ・グループワーク①：HACCPシステム（危害要因分析）について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1. 食品衛生管理に関わる法規と、基本的な考え方（特にHACCP、一般的衛生管理、7S）について学ぶ。 2. HACCPに関する理解を深めるため、グループ毎に分かれてHACCPの概要についてのプレゼンテーションを作成するとともに、提示された課題における危害要因分析を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[予習]HACCPについて調べておくこと [復習]授業内容を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習60分
第2回	**授業テーマ**	・食品製造現場における衛生管理と微生物制御について ・グループワーク①（続き）：HACCPシステム（危害要因分析）について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1. 食品に潜むリスクとそのリスク分析について学ぶとともに、その制御対策についての知識を習得する。 2. 講義の内容を踏まえて、前週に行った危害要因分析についてブラッシュアップを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[予習]食品製造現場における食品衛生、特に食品に潜むリスクについて調べておくこと [復習]授業内容を復習し、次回のグループワーク発表に向けて準備をしておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習60分
第3回	**授業テーマ**	・グループワーク①（続き）：HACCPシステム（危害要因分析）についての発表・討論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1. 各グループによる発表と討論を行い、他グループのプレゼンや討論を通じて、内容をブラッシュアップする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[予習]グループワーク発表の準備をしておくこと [復習]作成した資料のブラッシュアップを完了し、提出すること
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第4回	**授業テーマ**	・小規模事業者における衛生管理について ・グループワーク②：「小規模事業者（飲食店等）における衛生管理」について（グループ分け・立案）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1. 小規模事業者における衛生管理として、「HACCPの考え方を取り入れた衛生管理」について学ぶ。 2. グループ毎に分かれて、飲食店（小規模事業者）における衛生管理の立案を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[予習]小規模事業者における衛生管理について調べておくこと [復習]授業内容を復習し、グループワークの「立案」を終了させておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習60分
	授業テーマ	・グループワーク（続き）：「小規模事業者（飲食店等）における衛生管理」について（プラン作成）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆ	1. 前週に引き続き、グループ毎での飲食店（小規模事業者）に

第5回	ﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	おける衛生管理のプランニングを行う。 2. 次週に行う発表の準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[予習]小規模事業者における衛生管理について復習しておくこと [復習]グループワークの「プランニング」を終了させ、発表の準備をしておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第6回	授業テーマ	・グループワーク②（続き）：「小規模事業者（飲食店等）における衛生管理」について（発表・ブラッシュアップ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1. 前週までの内容を発表するとともに、他グループのプレゼンや討論を通じて内容をブラッシュアップする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[予習]グループワーク発表の準備をしておくこと [復習]作成した資料のブラッシュアップを完了し、提出すること
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第7回	授業テーマ	・飲食店における事例のHACCPプランニング（個人演習）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1. 提示された事例に対する危害要因分析・重要管理点の決定を通して、HACCPプランの作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[予習]飲食店における食中毒事例について調べておくこと [復習]HACCPプランニングを行い、提出すること
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習60分
第8回	授業テーマ	・機器分析を理解するために必要な化学・有機化学の基礎 ・原子吸光分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・元素と原子の構造の基礎 ・有機化合物の構造の基礎 ・試料の抽出・精製・誘導体化 ・原子吸光分析の原理と機器分析の方法
	教室外学習(予習・復習)の内容	クラスルームから出題される課題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	100
第9回	授業テーマ	・高速液体クロマトグラフィー（HPLC） ・ガスクロマトグラフィー質量分析（GCMS） ・定量のための数学の基礎
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・クロマトグラフィーの原理と、HPLCとLCの構造 ・検出器と質量分析計の仕組み ・単位／測定誤差／定量計算
	教室外学習(予習・復習)の内容	クラスルームから出題される課題に取り組むこと
	教室外学習の時間（分）	100
第10回	授業テーマ	・大規模事業者における衛生管理について ・グループワーク③：「大規模事業者（製造工場等）における衛生管理」について（グループ分け・立案）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1. 大規模事業者における衛生管理として、「HACCPに基づく衛生管理」について学ぶ。 2. グループ毎に分かれて、製造工場等（大規模事業者）における衛生管理の立案を行う。

	教室外学習(予習・復習)の内容	[予習]大規模事業者における衛生管理について調べておくこと [復習]授業内容を復習し、グループワークの「立案」を終了させておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習60分
第11回	**授業テーマ**	・グループワーク③（続き）：「大規模事業者（製造工場等）における衛生管理」について（プラン作成[～手順5まで]・発表・ブラッシュアップ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1. 前週に引き続き、グループ毎での製造工場等（大規模事業者）における衛生管理のプランニングとして手順5までを行う。 2. 後半に発表・討論を行い、その内容を踏まえて手順5までの内容をブラッシュアップする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[予習]大規模事業者における衛生管理について復習しておくこと [復習]グループワークの「プラン作成（～手順5）」を終了させておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第12回	**授業テーマ**	・グループワーク③（続き）：「大規模事業者（製造工場等）における衛生管理」について（プラン作成[7原則(手順6～)]）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1. 前週に引き続き、グループ毎での製造工場等（大規模事業者）における衛生管理のプランニングとして7原則（手順6以降）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[予習]大規模事業者における衛生管理について復習しておくこと [復習]グループワークの「プラン作成（手順6以降）」を終了させ、発表の準備をしておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第13回	**授業テーマ**	・グループワーク③（続き）：「大規模事業者（製造工場等）における衛生管理」について（発表・ブラッシュアップ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1. 前週までの内容を発表するとともに、他グループのプレゼンや討論を通じて内容をブラッシュアップする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[予習]グループワーク発表の準備をしておくこと [復習]作成した資料のブラッシュアップを完了し、提出すること
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第14回	**授業テーマ**	・授業のまとめ ・確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1. 第1回～第13回までのまとめを行う。 2. HACCPプランニングに関する確認テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	[予習]これまでに学修した内容を復習し、事前にまとめておくこと [復習]確認テストの解答・解説を確認し、理解を深めておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習180分、復習60分

学習計画注記

授業展開において、履修者数や進捗状況によるスケジュール変更の可能性があります。

学生へのフィードバック方法

授業内において、適宜フィードバックします。質問等がある場合はメールにて問い合わせてく

ださい。

評価方法

第1回～第7回、第10回～第14回の評価（担当：山本）
・演習態度（グループワークでの協働の様子、発表・討論の様子等を重視）（50%）
・HACCPプランニング後の資料を課題として提出（30%）
・確認テストを通じ、HACCPに関する理解度を評価（20%）
・12/14回 × 100 点を配点します。
・ルーブリックはクラスルームへ掲載します。

第8回と第9回の評価（担当：黒田）
・授業の理解度（70%）
・教室外学習（30%）
・2/14回 × 100 点を配点します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
演習態度	○	○	○	○
課題レポート	○	○	○	○
確認テスト	○	○		○

評価割合

上記の評価方法に記載しています。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

HACCP管理者認定テキスト 日本食品保蔵科学会HACCP管理者認定委員会編 豊福肇 春田正行 日佐和夫 共著 建帛社 発行年月日2021年4月30日 ISBN；978-4-7679-0706-2 CコードC3047
※その他、授業中に適宜提示します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】食品衛生管理の専門的な知識を基に、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】食品の安全性について関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技術・表現】食品製造現場における衛生管理システムの専門的技術を身につける。

学生へのメッセージ

食品衛生管理や食品製造工程等といった基礎知識を踏まえ、専門的かつ実務的な要素が入る演習となります。それため、グループワークが多くなりますので、授業内での積極的な発言を推奨します。
詳細は授業展開時に説明をします。
【留意事項】グループワークの際にノートパソコンを必携とします。エクセルやPowerPointデータを編集できる環境を整えてください。また、一部オンデマンド授業となるため、オンライン接続できる環境を整えてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	指定されたグループで協働かつ得られた結果を共有し、共に解析やプラン立案を行い、プレゼン発表も行う。

情報リテラシー教育	○	情報収集、HACCP立案や報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	授業参加時にノートパソコンを必携とし、情報収集・HACCP立案・報告書作成等に必要なツールを活用する。 また、資料提供や課題提出等にも活用する。

講義コード	G06063001
講義名	食品機能学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	黒田 久夫	指定なし

ナンバリング

R31708M21

授業概要(教育目的)

近年の栄養学や食品科学の発展は目覚ましく、食品の機能性に関する多くの知見が蓄積されている。また、それらの知見を利用して新しい食品素材や技術が開発・実用化されている。一方では、科学技術の進歩は、新たな有害成分の問題や、生活習慣病の問題を引き起こしている。本講義では、最新の科学研究の記事を紹介しながら、食品機能を学びます。
まず、栄養素の基礎を復習します。次に、食品機能の基礎を学び、食品機能の最新の知見を学びます。学術研究のしくみと、研究倫理・ヒト試験の進め方についても理解します。

履修条件

1. PCを毎回持ってきてください。用意が出来ていない場合は、成績にペナルティを加えます。
2．食と栄養の科学、特に食品の健康機能に関して、発展的な学びをしたい方を対象としています。
3. 将来、より専門的な職種を目指したい方（研究職・大学教員・医療現場の管理栄養士など）にも適した内容になっています。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・食と栄養の科学の基礎が理解できている ・食と栄養に関する最新の科学研究や産業応用例の知識が深まっている
思考・判断の観点 (K)	データを読み取って、科学的根拠に基づく客観的で合理的な解釈ができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	食や栄養の専門家として深い探究心を持ち、より進んだ学びを志している
技術・表現の観点 (A)	データを読み取って、科学的根拠に基づく客観的で合理的な説明ができる

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・本授業の学習目標・評価方法・予定を確認する。 ・２年後期までに学んだ食品機能の知識の理解度をチェックする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本授業の学習目標・評価方法・予定の確認フォームとアンケートに回答してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	基礎知識の確認（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・日本人の食事摂取基準（2025年版）の知識の確認
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストを学習してください。 ・教室外学習に取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	基礎知識の確認（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・日本食品標準成分表2023年版（八訂増補）の知識の確認
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストを学習してください。 ・教室外学習に取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	学術研究と研究倫理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・情報のエビデンスレベルについて学びます ・論文投稿のしくみを理解します ・疫学と統計の基礎を学びます ・ヒト試験と、研究倫理について学びます
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストを学習してください。 ・教室外学習に取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	食品機能学の基礎
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・タンパク質、酵素、核酸、ゲノム、遺伝子発現、細胞の構造などに関する知識を復習します。 ・有機化学の基礎（分子結合の基礎と脂肪酸の構造）について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストを学習してください。 ・教室外学習に取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	テキスト『食と健康』（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肥満に関する新しい知見（１） カロリーのコントロールだけで、肥満は防ぐことができるか？ 「カロリー神話の落とし穴」 S. B. ロバーツ／S. K. ダス
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストを学習してください。 ・教室外学習に取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	テキスト『食と健康』（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肥満に関する新しい知見（２） 運動すれば、痩せるか？ 「運動のパラドックス なぜやせられないのか」 H. ポ

第7回		ンツァー
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストを学習してください。 ・教室外学習に取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	テキスト『食と健康』（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肥満に関する新しい知見（３） 肥満と糖尿病の蔓延は、人類の進化の中で遺伝子が変化したせいかも知れない？ 「姿現す肥満遺伝子」R. J. ジョンソン／P. アンドリュー
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストを学習してください。 ・教室外学習に取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	テキスト『食と健康』（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	和食の素晴らしさを遺伝子チップで証明する 「1975年の食卓 食から読み解く日本人の健康」都築毅
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストを学習してください。 ・教室外学習に取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	テキスト『食と健康』（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・刺激や苦味を有する成分は、健康機能性を有するものが多い 「カレーのスパイスを新薬に」G. スティックス ・最近話題となった食品に含まれる化学物質（成分・機能性物質・添加物等）について
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストを学習してください。 ・教室外学習に取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	テキスト『食と健康』（６）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・遺伝子組換え食品・遺伝子編集食品を受け入れますか？ ・人工培養肉を受け入れますか？ 「幹細胞から育てた食肉」G. O. シェーファー 「組み換えなしで高速育種」F. ジャブル
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストを学習してください。 ・教室外学習に取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	テキスト『食と健康』（７）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食欲と脳（１） 加工食品は、有害でしょうか？有害だとしたら、何が問題でしょうか？ 「食欲の暴走を招く？超加工食品」E. R. シェル
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストを学習してください。 ・教室外学習に取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	テキスト『食と健康』（８）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃ	食欲と脳（２） お腹の中の腸内細菌が、あなたの思考と気分を決めているかも知れない！

第13回	ﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「減量手術が明かした腸と脳の関係」 B. ステッカ 「胃腸と脳の意外なつながり」 M. コンスタンディ
	教室外学習(予習・復習)の内容	期末試験の準備を進めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	期末試験／授業のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業で学んだことを振り返ります。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業アンケートに回答してください。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

・PCを毎回持参してください。振り返りの投稿や、資料の確認に利用します。
・授業レベルは、少し高めです。おさらいはしますが、食品学と栄養学の知識は習得している前提で授業を進めます。

学生へのフィードバック方法

・課題への回答に質問があった場合、フィードバックします。

評価方法

①授業の参加度
・講義中の理解度チェックの回答率をもとに評価します。
・復習テストの取り組みを評価します。
②教室外学習
・教室外学習の取り組みを評価します。
③期末試験
・復習テストの問題と教室外学習の質問を中心に出題します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
①授業への参加度	○	○	○	
②教室外学習	○	○	○	○
③期末試験	○	○	○	○

評価割合

授業への参加度（40%）
教室外学習（30%）
期末試験（30%）

使用教科書名(ISBN番号)

日経サイエンス 別冊237 『食と健康』
日経サイエンス編集部 編
2020年2月17日 A4変型判 27.6cm×20.6cm 128ページ ISBN978-4-532-51237-8
定価2,200円（10%税込）

この本のみを購入する場合は、Amazonを利用する方が費用を節約できます（送料無料となるため）

参考図書

教科書以外の資料については、pdfやURLをGoogle Classroomに掲載します。

ディプロマポリシーとの関連

【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている
【関心・意欲・態度】
・栄養士、食の専門家として探究心を持っている。
【技能・表現】
食と栄養に関して、科学的根拠をもとに合理的に説明できる表現力を身につけている

オフィスアワー

金曜日・３限（会議等が入り不在にする場合があるので、面談を希望する場合は、必ずメールで予約を取ってください）

学生へのメッセージ

近年の食品科学と栄養学の発展は、目覚ましいものがあります。実は、教科書には書かれていることは、分かっていることの、ほんの一部です。最先端の科学研究の面白さを味わってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	食品企業にて経験した食品機能の研究や製品開発について、紹介します。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	科学データや、文献情報を検索する方法を説明します。
ICT活用	○	PCを積極的に利用します。

講義コード	G06064001
講義名	食品加工学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	守田 和弘	指定なし

ナンバリング

R21706M21

授業概要(教育目的)

世界各地には様々な食料を保存するために考案されてきた伝統的な加工食品がある。また、近年は様々な食材と新たな技術との組合せによって多様な加工食品が開発されている。これらの加工食品は我々の食生活に欠かせないものとなっている。食品の保存法、種々の加工食品の製造法の概要とその製造原理、加工による成分と性状の変化などを学ぶことにより加工食品の多様性を理解する。

履修条件

高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	多種多様な食品の特性を生かした加工食品製造に必要な専門知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	加工食品製造における各種工程において、安全面に配慮し、倫理的思考と判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	基礎的知識を生かして、応用発展に繋げるコミュニケーションができる。
技術・表現の観点 (A)	加工食品に関する知識を正しく他者に伝える文章作成ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	食品加工の意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品を加工する目的と意義を理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書の該当箇所を読んでおくこと。 配布資料について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第2回	**授業テーマ**	食品の保存技術
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水分調節、pH調節、低温などによる食品の保存技術を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書の該当箇所を読んでおくこと。 配布資料について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第3回	**授業テーマ**	食品の殺菌技術
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の加熱殺菌、非加熱殺菌について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書の該当箇所を読んでおくこと。 配布資料について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第4回	**授業テーマ**	穀類の加工
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	穀類の加工食品とその製造技術について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書の該当箇所を読んでおくこと。 配布資料について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第5回	**授業テーマ**	いも類・豆類の加工
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	いも類・豆類の加工食品とその製造技術について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書の該当箇所を読んでおくこと。 配布資料について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第6回	**授業テーマ**	野菜類・果実類の加工
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	野菜類・果実類の加工食品とその製造技術について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書の該当箇所を読んでおくこと。 配布資料について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第7回	**授業テーマ**	きのこ類・藻類の加工
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	きのこ類・藻類の加工食品とその製造技術について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書の該当箇所を読んでおくこと。 配布資料について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第8回	**授業テーマ**	魚介類の加工
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	魚介類の加工食品とその製造技術について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書の該当箇所を読んでおくこと。 配布資料について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第9回	**授業テーマ**	卵類の加工
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卵類の加工食品とその製造技術について理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書の該当箇所を読んでおくこと。 配布資料について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第10回	**授業テーマ**	食肉の加工
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肉類の加工食品とその製造技術について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書の該当箇所を読んでおくこと。 配布資料について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第11回	**授業テーマ**	乳類の加工
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳類の加工食品とその製造技術について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書の該当箇所を読んでおくこと。 配布資料について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第12回	**授業テーマ**	嗜好飲料の加工
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	嗜好飲料とその製造技術について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書の該当箇所を読んでおくこと。 配布資料について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第13回	**授業テーマ**	菓子類の加工
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	菓子類の加工とその製造技術について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書の該当箇所を読んでおくこと。 配布資料について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第14回	**授業テーマ**	まとめと学習到達度の確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業のまとめと確認テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書の該当箇所を読んでおくこと。 配布資料について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第15回	**授業テーマ**	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

＊授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。

評価方法

講義への取り組み態度・小テスト20%、確認テストおよび課題提出80%で評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
講義への取り組み態度・小テスト	○	○	○	○
確認テストおよび課題提出	○	○	○	○

評価割合

講義への取り組み態度・小テスト20%、確認テストおよび課題提出80%で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

資料を配布します。

参考図書

＊購入は必須ではありません。
●露木英男、田島眞：食品加工学-加工から保蔵まで-第２版[共立出版株式会社、2007、\3,000、ISBN：978-4-320-06158-3]

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】食品加工に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技術・表現】専門的知識を他者に正しく伝える文章力を身につける。

学生へのメッセージ

食品を理解するために基礎生物学、基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なかたほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	公設試験研究機関の研究員として食品開発の経験を持つ教員が、 実例を紹介しながら講義を進める。
アクティブ・ラーニング	○	実物資料を基にその特性を理解する。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポート作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	資料提供、課題提出等に活用する。 必要に応じて、授業中に生産・製造工程動画視聴に活用する。

講義コード	G06065001
講義名	食品加工学実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	守田 和弘	指定なし

ナンバリング

R21707M23

授業概要(教育目的)

加工食品を自らの手で製造することで、食品加工の原理を理解する。農産加工食品、畜産加工食品、発酵食品などの加工食品を製造する。それぞれの原料の物性変化や化学変化、微生物の作用などを観察し、加工食品が完成するまでのプロセスを科学的に理解する。

履修条件

高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	多種多様な食品素材を生かした一般的な加工技術工程を食品加工を行う意義と併せて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	加工原料、加工工程の状態を把握し、応用的思考、判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	基礎的な食品加工工程を応用へ繋げる意欲や関心をもち、編成された班で協同できる。
技術・表現の観点 (A)	基礎的な食品加工操作を自身並びに他者への安全面にも留意した加工操作ができる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス こんにゃくの製造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品加工学実習における注意事項を理解する。 こんにゃくの製造工程ならびに凝固の原理を理解する。

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	1．事前に案内する参考図書の指定内容ならびに配布資料を読んでおくこと。 2．実習レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習90分
第2回	授業テーマ	米味噌の製造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	米味噌の製造工程ならびに発酵の原理と豆類の加工特性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	1．事前に案内する参考図書の指定内容ならびに配布資料を読んでおくこと。 2．実習レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習90分
第3回	授業テーマ	中華麺の製造①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	麺類の製造原理を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	1．事前に案内する参考図書の指定内容ならびに配布資料を読んでおくこと。 2．実習レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習90分
第4回	授業テーマ	中華麺の製造②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中華麺の製造を行い、製造工程ならびにかん水と小麦粉の反応による色調と物性の変化を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	1．事前に案内する参考図書の指定内容ならびに配布資料を読んでおくこと。 2．実習レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習90分
第5回	授業テーマ	バターの製造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バターの製造工程と併せて乳製品の特性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	1．事前に案内する参考図書の指定内容ならびに配布資料を読んでおくこと。 2．実習レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習90分
第6回	授業テーマ	パンの製造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パンの製造工程ならびに発酵の仕組みを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	1．事前に案内する参考図書の指定内容ならびに配布資料を読んでおくこと。 2．実習レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習90分
第7回	授業テーマ	ヨーグルトの製造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヨーグルトの製造工程ならびに乳酸発酵について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	1．事前に案内する参考図書の指定内容ならびに配布資料を読んでおくこと。 2．実習レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習90分
	授業テーマ	果実缶詰の製造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	果実缶詰の製造工程ならびに缶の巻締め工程を理解する。

第8回	教室外学習(予習・復習)の内容	1．事前に案内する参考図書の指定内容ならびに配布資料を読んでおくこと。 2．実習レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習90分
第9回	授業テーマ	ソーセージの製造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ソーセージの製造工程ならびに畜肉の物性変化を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	1．事前に案内する参考図書の指定内容ならびに配布資料を読んでおくこと。 2．実習レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習90分
第10回	授業テーマ	アイスクリームの製造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アイスクリームの製造工程ならびに乳等省令による成分規格を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	1．事前に案内する参考図書の指定内容ならびに配布資料を読んでおくこと。 2．実習レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習90分
第11回	授業テーマ	豆腐の製造①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	豆腐の製造原理を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	1．事前に案内する参考図書の指定内容ならびに配布資料を読んでおくこと。 2．実習レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習90分
第12回	授業テーマ	豆腐の製造②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	豆腐の製造（木綿豆腐、絹ごし豆腐）を行い、食品添加物（凝固剤）の特性と豆類の加工特性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	1．事前に案内する参考図書の指定内容ならびに配布資料を読んでおくこと。 2．実習レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習90分
第13回	授業テーマ	ジャムの製造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	果実ジャムの製造工程ならびに長期保存可能な瓶詰方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	1．事前に案内する参考図書の指定内容ならびに配布資料を読んでおくこと。 2．実習レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習90分
第14回	授業テーマ	生キャラメルの製造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生キャラメルの製造工程ならびにショ糖の温度による色調や物性の変化を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	1．事前に案内する参考図書の指定内容ならびに配布資料を読んでおくこと。 2．実習レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習90分
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	

	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

＊授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。

評価方法

実習に取り組む態度50%、レポート50%で評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実習に取り組む態度	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○

評価割合

実習に取り組む態度50%、レポート50%で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

資料を配布します。

参考図書

＊購入は必須ではありません。
露木英男・田島眞編著：食品加工学-加工から保蔵まで-第２版[共立出版、2010]
宮尾茂雄・高野克己編著：食品加工学実習テキスト[建帛社、2013]
谷口亜樹子編著：食品加工学と実習・実験[光生館、2013]

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】実習内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技術・表現】食品加工における専門的技術を身につける。

学生へのメッセージ

食品を理解するために基礎生物学、基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なかたほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	公設試験研究機関の研究員として食品開発の経験を持つ教員が、加工食品の製造原理・製造方法について解説する。
アクティブ・ラーニング	○	指定されたグループで協同かつ得られた結果を共有し、共に解析を行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	資料提供、課題提出等に活用する。

講義コード	G06066001
講義名	応用調理学実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

R11702M23

授業概要(教育目的)

基礎調理学実習を発展させた日本・西洋・中国料理の調理実習を行う。季節向きの献立、行事食、精進料理等、各趣向や目的に合わせた献立において内容に沿った食べ物の文化的、歴史背景も学べる内容とする。技術、食品の性質とその取り扱い方、演出、食事作法なども学ぶ。本科目は、中・高教員免許、フードコーディネーターの資格取得に必須の科目である。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．行事食を通して食べ物と行事の繋がりや意味合い、食の文化的、歴史的背景を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1．食材の下処理法や衛生的な取扱い方、調理技術が身についている。 2．食品の種類と概量を説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	協調して授業に参加することができ、班の構成員としての役割に対して寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	調理用具・機器を使用でき、目的に合わせた食事の演出とマナーや献立作成ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	授業概要、授業の目的と進め方、評価、実習上の心得、準備等。 行事食の実技試験についての説明、個人献立の作成課題。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の意義・目的を学び、実習授業の流れと実習室使用上のルールを把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成し授業の目的と授業内容を整理すること。次週の実習内容を確認すること。 各班、指示のあった行事食の個人献立の作成を行い、次週提出。

	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	中国料理の献立による実習（春餅、豆腐の肉団子スープ、マンゴープリン）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	立春を祝う料理（春餅）の実習では、小麦粉の扱い方、揚げ物、炒め物について、またマンゴープリンではゼラチンの扱い方について復習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価、考察を記載すること。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	**授業テーマ**	中国料理の献立による実習（粽子、春巻き、玉米湯、蒸しカステラ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	粽子ではもち米の扱い方、春巻きでは野菜の切り方、揚げ方、玉米湯ではスープのとろみのつけ方、溶き卵の流し方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価、考察を記載すること。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	**授業テーマ**	韓国料理の献立による実習（鶏肉のジョン、チヂミ、三色ナムル、かぶとリンゴのキムチ、わかめスープ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	朝鮮の伝統調理方法であるジョンについて、またナムル、キムチの実習を行い、韓国料理の様式やマナーについて学ぶ。 班行事食献立（栄養計算まで）提出。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価、考察を記載すること。韓国の食文化についてもまとめる。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	**授業テーマ**	精進料理の献立による実習（さつまいもご飯、飛龍頭、卵の花、ごま豆腐、生麸の味噌汁）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	塩味飯について塩分濃度、調味料の添加時期など白飯と比較をしながら要点と技術を理解、習得する。豆腐の水切り、揚げ方、おからの炒り煮の方法、くずでんぷんの糊化と練り上げ終点について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価、考察を記載すること。精進料理についてまとめること。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	**授業テーマ**	献立作成（行事食）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行事食個人献立返却、班で献立作成、班行事食献立提出（料理名、材料、重量、完成図まで）
	(	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要

	教室外学習 予習・復習)の内容	点）、配膳図、出来上がりの評価、考察を記載すること。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	**授業テーマ**	西洋料理の献立による実習（チキンカレー、バターライス、サーモンのカクテル、フルーツの盛り合わせ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イギリス式カレーソースの作り方、バターライスの炊き方、フルーツ飾切りまた盛り付け方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価、考察を記載すること。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	**授業テーマ**	西洋料理の献立による実習（ザクースカ、ピロシキ、ボルシチ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロシア料理による前菜であるザクースカの盛り合わせ、パン生地を作成し、生地のこね、発酵、形成、焼成の流れを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価、考察を記載すること。ロシアの食文化についてもまとめる。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	**授業テーマ**	行事食：クリスマス料理（ローストチキン、バターライス、にんじんのグラッセ、ブロッコリーのソテー、フルーツポンチ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鶏肉の下処理、成形、焼き方、にんじん切り方、グラッセの方法、ゆで方、ソテーの方法、フルーツのカットの方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価、考察を記載すること。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	**授業テーマ**	スイーツ（シュークリーム） 献立作成最終確認、発注書作成、作業工程確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シュー生地の材料割合と加熱方法、カスタードクリームの材料割合と調理法、生クリームの泡立ての要点を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価、考察を記載すること。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	行事食：お正月①（田づくり、栗きんとん、伊達巻、雑煮）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お正月の重箱詰め（一の重、二の重、三の重、与の重）、器への盛り付けを学ぶ。

第11回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価、考察を記載すること。次週の実習内容を確認すること。食材とおせち料理の言われなどを調べておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	**授業テーマ**	行事食：お正月②（のし鶏、ぶり照り、筑前煮、なます、菊花かぶ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お正月の重箱詰め（一の重、二の重、三の重、与の重）、器への盛り付けを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価、考察を記載すること。次週の実習内容を確認すること。我が家のおせちについてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	**授業テーマ**	実技試験：行事食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各班で作成した献立についての実技試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価、考察を記載すること。次週の発表準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	**授業テーマ**	実技試験発表、まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行事食実習（実技試験）の発表、片付け
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表練習。これまでの実習を振り返り、自身の評価を実習ノートにまとめること。実習ノート最終提出。
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

天候他、材料の搬入に影響があった場合は実習内容の変更をすることがあります。

学生へのフィードバック方法

デモンストレーション後の実習において、机間巡視をしながら理解できない点や技術面の指導、サポートを行います。また、質問等は2108研究室（emailも可）を訪問してください。

評価方法

実習参加状況：デモンストレーション、実習を通して、実習班内での協力や実習への取り組み方を評価する。
技術試験：応用的な実技試験を行う。
調理ノート：指定された項目の記載（14週分）と課題の記述を評価する。
評価詳細のルーブリックは当該GoogleClassroomへ掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

実習参加状況	○	○	○	○
実習試験		○		○
実習ノート	○	○	○	○

評価割合

平常点（40%、授業への参加状況）、実技試験(30%)、調理実習ノート他提出物(30%)による総合評価。

使用教科書名(ISBN番号)

①応用自在な調理の基礎 日本料理篇 河内一行、川端晶子他共著 建帛社（978-4-7679-0629-4）
②応用自在な調理の基礎 西洋料理篇 川端晶子 編著建帛社（978-4-7606-0247-6）
③応用自在な調理の基礎 中国料理篇 川端晶子、澤山茂 編著 建帛社 （978-4-7679-0631-7）
④八訂 2020食品成分表 女子栄養大学出版部
⑤調理のためのベーシックデータブック 女子栄養出版部（978-4-7895-0323-5

参考図書

必要に応じてプリントを配布する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境・食事文化を理解する。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力身につけている。
【関心・意欲・態度】食生活を取りまくさまざまな事象について関心を持ち、課題を見出し、その解決に意欲的の取り組む。
【技能・表現】食と通じて生活質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理加工の技能を身につけている。

オフィスアワー

前期 水曜日 2限 2108研究室
後期 木曜日 2限 2108研究室
面談を希望する場合はmailで事前に連絡を入れて下さい。

学生へのメッセージ

実習ノートを活用し、時間を見つけて調理をすることで技術が上達します。栄養士は、多様な食材の特徴を知り、一食材を多様に、また多くの食材を使いこなせる知識と技術が求められます。積極的に取り組みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	実習中はその内容を通して、学生自身が能動的、実践的に技術・知識深めながら、判断力、汎用力の育成を図ることができる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G06067001
講義名	製品・食品鑑別演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	笠松 千夏	指定なし

ナンバリング

R31709M22

授業概要(教育目的)

豊かな食生活を営むためには、食品の特性を理解し、品質を見分ける能力を身につけることは重要である。適切な食品の選択を行う時に必要とされる食品の品質には、安全性、栄養性、嗜好性、生体調節機能などが関わる。食品の品質を評価する方法として、官能評価法、化学的評価法、物理的評価法について講義および演習により学ぶ。特に嗜好性を評価するうえで重要な官能評価法について、考え方、手法、具体的な実施方法などについて、演習を取り入れながら授業を行う。

履修条件

「食品学」「調理学」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．食品の品質を評価する方法として、官能評価法、化学的評価法、物理的評価法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	１．食品の品質評価から、食生活の問題点を発見し、その解決を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	１．食品の品質について関心を持ち、豊かな食生活につなげることができる。
技術・表現の観点 (A)	１．官能評価や食品実験について、目的・結果・考察等をわかりやすく記述し、口頭発表することができる。

学習計画

食品の官能評価・鑑別演習

	授業テーマ	はじめに 食品の品質とは

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の品質のひとつである食品の嗜好性とおいしさに関わる要因について理解する。2点嗜好試験法、塩分濃度の違いの識別についての演習を通して、食品の嗜好性を評価する重要な方法である官能評価について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書序章「食品の品質とは」 （1－2ページ）を読んでくること。 官能評価の演習（2点嗜好試験法、塩分濃度の識別）についてのレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	授業テーマ	官能評価の概要、味覚と閾値、官能評価の手法（比較法その1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	官能評価の概要、味の認識の機構と閾値について理解する。 2点識別試験法、5味の識別テストの演習を通して、味覚と閾値、濃度識別について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第1章「官能評価」 （3－5ページ）を読んでくること。 官能評価の演習（2点識別試験法、5味識別テスト）についてのレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	授業テーマ	官能評価の手法（比較法その２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	官能評価の結果に及ぼす要因とその対策、官能評価の評価環境、実施条件について理解する。 3点識別試験法、1：2点識別試験法の演習を通じて、2種の試料の違いの識別を調べる官能評価法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第1章「官能評価」 （3－5ページ）を読んでくること。 官能評価の演習（2点識別試験法、5味識別テスト）についてのレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	授業テーマ	官能評価の手法（順位法その１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	官能評価の手法として、比較法を理解する。 順位法（スペアマンの順位相関係数等）の演習を通じて、3種以上の試料の違いの識別を調べる方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第1章「官能評価」 （5－12ページ）を読んでくること。この回の官能評価の演習についてのレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	官能評価実習（第1回）および発表準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の調理法の違いをテーマに、実験計画を各グループで立て、3点識別試験法を用いた官能評価演習を各グループで実施して、結果をまとめて、次週の発表に向けて準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	官能評価実習（第1回）についてのレポートを各自作成し、次回の各グループの発表に向けて、授業内で準備できなかった部分を補っておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	官能評価実習発表（第1回）、官能評価の手法（順位法その2、評点法その１）
		官能評価演習(第1回）について発表を各グループで行い、講評を行

第6回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	う。 順位法(ケンドールの一致性の係数）、2種の試料を用いた評点法の演習を行い、平均値の差の検定などの統計処理方法について理解する。結果についてPCを用いてExcelによる統計処理を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	官能評価の演習（順位法、評点法）についてのレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	授業テーマ	官能評価の手法（評点法その2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	官能評価の手法として、順位法、評点法、記述法を理解する。PCを用いてExcelによる統計処理の課題を行う。 3種以上の試料を用いた場合の評点法の演習を行い、統計処理方法についても理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第1章「官能評価」（17－30ページ）を読んでくること。 官能評価の演習（評点法）についてのレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	食品の化学的評価法、官能評価の手法（配偶法）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の化学的評価法を理解する。 配偶法の演習を通じて、5種以上の試料の違いの識別を調べる方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章「化学的評価法」（31－58ページ）を読んでくること。 官能評価の演習（配偶法）についてのレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	食品の物理的評価法、官能評価の手法（記述法）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の物理的評価法を理解する。 食品の官能特性を列挙して話し合う円卓法を用いる記述法の演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章「物理的評価法」（59－85ページ）を読んでくること。 官能評価の演習についてのレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	食品の鑑別評価（植物性食品）、官能評価実習（第2回）についての試料試作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	植物性食品の鑑別について理解する。 テーマの食材を用いた2種の調理品を調製して、評点法を用いた官能評価を行う官能評価実習のために、試料の試作を実施し、評価項目を決定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章「個別食品の鑑別 米など」（87－138ページ）を読んでくること。官能評価実習（第2回）の実験計画を立て、試料調製のために、授業内で準備できなかった部分を補っておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	官能評価実習（第2回）の実施及び発表準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ	各グループで考えたテーマに沿った2種の調理品を調製し、評点法を用いた官能評価を実施し、結果をまとめ、次週の発表の準備を行

第11回	–教育・ICT活用を含む)	う。官能評価の結果についてPCを用いてExcelによる統計処理を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	官能評価実習（第2回）についてのレポートを各自作成し、次回の各グループの発表に向けて、授業内で準備できなかった部分を補っておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	官能評価実習（第2回）発表、動物性食品の鑑別演習(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ–教育・ICT活用を含む)	官能評価実習(第2回）について発表を各グループで行い、講評を行う。 卵の鮮度および性質を調べる実験を行い、卵の鮮度判定法と加熱調理性について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卵の鮮度および調理性についての実験レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	食品の鑑別評価（動物性食品）、動物性食品の鑑別演習(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ–教育・ICT活用を含む)	動物性食品の鑑別について理解する。 魚の鮮度および性質を調べる実験を行い、魚の鮮度判定法と加熱調理による変化について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章「個別食品の鑑別 魚介類など」（139－177ページ）を読んでくること。 魚の鮮度と加熱調理性についての実験レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	食品の鑑別評価食品の鑑別評価（その他の食品）、植物性食品の鑑別演習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ–教育・ICT活用を含む)	その他の食品の鑑別について理解する。 野菜の調理による色の変化の実験を行い、色の測定法や、野菜の色素の性質について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章「個別食品の鑑別 油脂など」（177－224ページ）を読んでくること。 野菜の色の変化についての実験レポートを作成する。定期試験に向けて、授業全体について復習をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

レポートについては、毎回次週までに採点して、多くの受講生が適切に記述できていなかった箇所については、授業の初めに説明を行い、不十分なレポートについては再提出を促し、再度確認する。官能評価実習での各グループの発表については、講評を行い、次回の実習にいかすことができるようにする。

評価方法

・演習への取り組み・課題では、食への関心をもって、官能評価や食品の鑑別を理解して、演習に取り組んでいるかを評価する。
・レポートでは、官能評価あるいは実験の目的を理解し、方法および結果を科学的にまとめ、必要に応じて適切な統計処理を行い、適切な資料を用いて調査し、考察を行い、わかりやすい

文章で記述しているかを評価する。
・定期試験では、演習も含めて授業内容全体について、穴埋め、選択、記述などさまざまな形式で出題する。
・演習への取り組み、レポート、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。
・演習・実験レポート、定期試験等についてルーブリックでの評価を行う。ルーブリックはGoogle Classroomで公開する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
演習への取り組み・発表・課題	○	○	○	○
レポート	○	○		○
定期試験	○	○		

評価割合

演習への取り組み・発表・課題30%、レポート等提出40%、定期試験30%

使用教科書名(ISBN番号)

五訂 食品の官能評価・鑑別演習／日本フードスペシャリスト協会 編／建帛社 （978―4-7679-0753-6）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー

千代田キャンパス：金曜日・2時限および昼休み 準備室
町田キャンパス：火曜日・2時限 2309研究室
e-mail; kasamatsu.chinatsu@kasei-gakuin.ac.jp

学生へのメッセージ

日常から、さまざまな食品に触れる機会を増やして、食品に対する関心を持ってほしい。「食品学」「調理学」などで学んだ食品の性質に関することを基礎にして、統計学の要素も加えた演習形式で行う。毎回PCを持参すること.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者は食品企業で商品開発を行っており，その経験を授業内で説明する
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、発表等の教育内容を含む。

情報リテラシー教育	○	課題解決のために必要な情報を探索（ 図書館利用法・ 文献探索等）や 、 情報のアウトプットに関するもの（レポートの書き方、プレゼンテーション技法等）の教育内容を含む。
ICT活用	○	データ解析は統計ソフト（jmp)を用いて行えるよう指導する

講義コード	G06068001
講義名	食空間コーディネート論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	福田 里美	指定なし

ナンバリング

R21703M21

授業概要(教育目的)

現代生活において、「食べる」とは、「おいしい」とは、「テーブルコーディネート」とは、という
観点から食空間コーディネートの必要性を多面的に学び、食卓を整えるという専門的知識を習得する。
また、日本および西洋の食文化の歴史、料理、伝統行事について理解を深めることで、グローバルな視点を養う。総合的には、食空間や食卓演出に関する多様な学びを通じて、様々なシチュエーションにおける社会のニーズに合った食空間の演出が提案できる能力を身につける。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	食空間を整える必要性を多面的に理解し、食卓を整えるためのテーブルアイテム等の知識を習得する。
思考・判断の観点 (K)	日本・西洋の食文化の歴史や料理、伝統行事を理解するこにより、現代生活で求められる食空間の課題を考察する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食卓を整える目的に適したテーブルコーディネートのプランニングシートを作成することで、さらに意欲的に課題に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	食空間・食卓演出における自己表現を通して、他者に企画提案をする力を養う。

学習計画

	授業テーマ	食空間コーディネートとは 食空間の在り方

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食空間コーディネートの必要性、テーブルコーディネートの基礎理論、食空間の構成について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマに関する内容を教科書(旧刊 p.2～8 p.98～99)で確認し、予習をしておく。 また、授業の内容をノートにまとめる。
	教室外学習の時間(分)	200分
第2回	授業テーマ	テーブルコーディネートアイテムI
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	陶磁器の分類、洋食器の種類と用途、ガラス器、グラスの形状、カトラリーについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマに関する教科書の項目(旧刊 p.10～17 p.26～39 p.54～58)を読み、予習をしておく。また、授業の内容をノートにまとめる。
	教室外学習の時間(分)	200分
第3回	授業テーマ	テーブルコーディネートアイテムII
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	陶磁器の分類、和食器の種類と用途、漆器の特徴と扱い方、箸の種類、竹製品のついて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマに関する教科書の項目(旧刊 p.18～25 p.40～53)読み、予習をしておく。また、授業の内容をノートにまとめる。
	教室外学習の時間(分)	200分
第4回	授業テーマ	テーブルコーディネートアイテムIII
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食卓装飾品、テーブルリネン、照明、光、テーブルを飾る花の役割について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマに関する教科書の項目(旧刊 p.60～80)を読み、予習をしておく。また、授業の内容をノートにまとめる。
	教室外学習の時間(分)	200分
第5回	授業テーマ	色彩の基礎と配色
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	カラーシステムを知り、テーブルの色合い、配色テクニックを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマに関する教科書の項目(旧刊 p.82～96)を読み、予習をしておく。また、授業の内容をノートにまとめる。
	教室外学習の時間(分)	200分
第6回	授業テーマ	洋風テーブルセッティング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	西洋料理における献立例を知り、基本のテーブルセッティングからフォーマルなセッティングまで様々な手順を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマに関する教科書の項目(旧刊 p.100～104)を読み、予習をしておく。また、授業の内容をノートにまとめる。
	教室外学習の時間(分)	200分
	授業テーマ	和食卓のセッティング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第7回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	和食の一汁三菜の基本のセッティングを知り、配膳について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマに関する教科書の項目(旧刊 p.105～107)を読み、予習をしておく。また、授業の内容をノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	おもてなし料理I
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本料理の特色や変遷、伝統的形式を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマに関する教科書の項目(旧刊 p.114～121）を読み、予習をしておく。また、授業の内容をノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	おもてなし料理II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	西洋料理の変遷や献立の立て方を知り、諸外国の料理についても理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマに関する教科書の項目(旧刊 p.122～132)を読み、予習をしておく。また、授業の内容をノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	酒類・飲料類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	酒類の分類やサービス方法を知り、料理との相性関しても理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマに関する教科書の項目(旧刊 p.133～137)を読み、予習をしておく。また、授業の内容をノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	テーブルマナー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本料理における箸使いのマナーや食卓の席次を知り、西洋料理・中国料理のそれぞれのテーブルマナーも理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマに関する教科書の項目(旧刊 p.138～142)を読み、予習をしておく。また、授業の内容をノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	国内外の行事
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の歳時記や海外の祝祭日を理解し、テーマに沿った国内外のテーブルコーディネートを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマに関する教科書の項目(旧刊 p.110～112)を読み、予習をしておく。また、授業の内容をノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	パーティーについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パーティーの歴史や種類、マナーについて知り、ビュッフェテーブルや、アフタヌーンティーパーティーのセッティングについて理解する。

第13回	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマに関する教科書の項目(旧刊 p.102～103 p.108～109 p.128)を読み、予習をしておく。また、授業の内容をノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	「卓育」について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食空間と食卓を整え、生涯を通して大切にしたい健やかな心と体の育みについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマに関する教科書(旧刊 p.144～152）及び資料を読み、予習をしておく。また、授業の内容をノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

進度により学習内容が前後する場合があります。

学生へのフィードバック方法

授業内で質疑応答時間を設け、またクラスルームを活用して理解度を確認します。

評価方法

授業への取り組み・課題(20%）、定期試験（80%）による総合評価。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業への取り組み・課題	○	○	○	○
定期試験	○	○		

評価割合

授業への取り組み・課題20%、定期試験80%

使用教科書名(ISBN番号)

「TALK食空間コーディネーターテキスト3級」食空間コーディネート協会 優しい食卓
(ISBN978-4-901359-47-4)
(本学で行う食空間コーディネーター資格取得講座で使用する教科書と同じ物です。)
2025年8月末の新刊発行予定→【変更】2025年9月29日発売
教科書販売MyKiTSシステムでは対応できないため、発売後、各自で購入をお願いいたします。
2025年後期初回の講義は教本発売前なので、持参の必要はございません。
食空間コーディネーター資格取得講座ですでに旧教本を購入済の方はご持参ください。

参考図書

『和食器のきほん』(誠文堂新光社刊) 浜 裕子著 ISBN-13 ： 978-4416717196
『洋食器のきほん』(誠文堂新光社刊) 浜 裕子著 ISBN-13 ： 978-4416518045

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食文化を理解し、食空間を整ることの意義を考えることにより、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション能力を養う。
【思考・判断】食文化において多種多様な情報を整理することにより、現代の食空間に関する諸課題について客観的かつ的確な判断力を身につけていく。
【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について関心を持ち、食空間の分野から自

らの考えを発信できることができる。
【技能・表現】食空間コーディネートという専門的な学びを通して、生活の質の向上を図るための指導力を身に付ける。

学生へのメッセージ

フードコーディネーター資格取得のための必修科目です。テーマに沿った知識の定着を図るために積極的に学習を進めておきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループでのプランニングシートの作成など。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	クラスルーム活用で課題などの提出や情報共有など。

講義コード	G06069001
講義名	比較食文化・食生活論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	小池 美穂	指定なし

ナンバリング

R11701M21

授業概要(教育目的)

世界の食文化と日本の食文化が形成された要因を自然環境、社会環境の視点から考え、多様な食文化を学ぶ。さらに、時代における日本食についての特徴を知り、近世以降日本食に影響を与えた事柄について歴史を辿ることにより、その背景についても理解する。
近代においては、西洋文化の受容について知り、日本食が変化する様子を社会の変化から捉える。食生活の地域差、食の工夫、調理文化、食教育の形成などについても理解し、食生活の現状と課題について考える。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	世界の食文化形成と日本の食文化形成の要因について比較し、特徴について理解できる。
思考・判断の観点 (K)	「日本食」が形成され、変化する過程を辿ることにより現代の食の課題、将来の食について発展させて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	各時代における調理文化・郷土食などの学びから食文化の継承について考え、興味を広げることができる。
技術・表現の観点 (A)	「食」が紡ぐ文化を通して自らの視点で比較し、様々な事柄に反映できる力を養う。

学習計画

	授業テーマ	食文化の領域
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆ	

第1回	ﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食文化の定義を知り、食文化研究の対象について考える。ルーブリックに基づく成績評価について資料を用いて説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食文化の領域に関する内容について教科書(p.2～13)を読み、予習をしておく。授業の内容をノートにまとめて復習し、価値ある資料となるよう作成する。
	教室外学習の時間(分)	200分
第2回	授業テーマ	世界の食文化形成の特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	世界の食文化圏、料理文化圏の分類からその形成要因を自然環境、社会環境の視点から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	世界の食文化に関する内容を資料で確認し、予習をしておく。授業の内容をノートにまとめておく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第3回	授業テーマ	日本の食文化形成の特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の食文化形成についてその要因を自然環境、社会環境から考え、特徴を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本の食文化形成に関する内容を資料で確認し、予習をしておく。授業の内容をノートにまとめておく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第4回	授業テーマ	異文化接触と受容
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	喫茶文化にみられる異文化の受容の過程を学び、日本独自の食文化形成について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	茶の歴史について調べ、予習をしておく。授業の内容をノートにまとめておく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第5回	授業テーマ	日本の料理形式の発展①平安・鎌倉時代
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大饗料理、精進料理の特徴について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	平安・鎌倉時代の料理形式について教科書(p.16～41）を読み、予習をしておく。授業の内容をノートにまとめておく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第6回	授業テーマ	日本の料理形式の発展②室町・安土桃山・江戸時代
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本膳料理、懐石料理、会席料理の変遷を知り、現代の食事様式に至る流れを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本の料理形式に関する内容について教科書(p.42～75）を読み、予習をしておく。授業の内容をノートにまとめておく。
	教室外学習の時間(分)	200分
	授業テーマ	年中行事と行事食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	平安時代から継承され、江戸時代に制定された年中行事を中心に行事食との関わりを学ぶ。

第7回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	年中行事について各地に見られる行事食を調べておく。授業の内容をノートにまとめておく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第8回	授業テーマ	江戸時代の料理書の特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	江戸時代に出版された料理書の特徴を知り、日本食発展の原点を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	江戸時代に出版された料理書に関する内容について教科書(p.76～99)を読み、調べておく。授業の内容をノートにまとめておく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第9回	授業テーマ	西洋文化の導入と西洋料理書、家庭向け料理書
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	明治時代における西洋文化の導入と西洋料理書、家庭向け料理書・雑誌の特徴から家庭料理の影響について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	明治時代における西洋文化の導入について教科書(p.100～127 p.132～143）を読み、授業の内容をノートにまとめておく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第10回	授業テーマ	明治後期以降の食生活の変化、栄養学の発展と女子の食教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	明治後期から変化する食生活について社会的背景を理解し、大正・昭和期の日常食の地域差について学ぶ。女子の食教育の始まりについて知り、食物教育の内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	大正・昭和期の日常食の地域差、明治期の食教育について教科書(p.144～147 p.128～131）を読み、授業内容をノートにまとめておく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第11回	授業テーマ	戦時食料統制下の食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	非常食の工夫を昭和時代の戦時食料統制下などの歴史と戦時下の教育から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	戦争時における食生活についての資料と教科書(p.148～151）を読み、予習をしておく。授業内容をノートにまとめておく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第12回	授業テーマ	高度経済成長期にみられる食の変容、学校給食の歴史的概要と課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高度経済成長期の食生活の変化について知り、学校給食の変遷と課題について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	高度経済成長期の食の変容と学校給食の在り方について教科書(p.156～171 p.180～183）を読み、授業の内容をノートにまとめておく。
	教室外学習の時間(分)	200分
	授業テーマ	日本型食生活の特徴と推奨、食料自給率の国際比較と変化、郷土食の特徴

第13回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本型食生活の特徴と評価について学び、食料消費の変化について考える。郷土料理の定義を知り、郷土食の流れを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本型食生活の特徴、食料自給率の種類と推移について教科書(p.172～17 p.184～187 p.212～215）を読み、授業内容をノートにまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	和食文化のユネスコ無形文化遺産登録と世界につながる食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の食文化の基本を「自然の尊重」という軸から考え、世界各地の文化との繋がりを知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本食の文化の特徴について教科書(p.188～211）を読み、考えておく。授業内容をノートにまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

進度により学習内容が前後する場合がある。

学生へのフィードバック方法

授業の際のリアクションペーパーや質問について随時対応し、回答を通して学習内容の理解度を深められるようにする。

評価方法

授業への取り組み、課題評価、確認テスト、期末レポート作成を総合したルーブリックに基づく成績評価とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業への取り組み・課題評価			○	
確認テスト	○			○
学期末レポート作成	○	○		

評価割合

授業への取り組み・課題評価(10%）、確認テスト(20%）、学期末レポート(70%）

使用教科書名(ISBN番号)

日本食の文化 原始から現代に至る食のあゆみ 江原絢子 編著 アイ・ケイコーポレーション (ISBN 978-4-87492-375-7)

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】世界と日本の食文化の多様性を理解し、行事食などの課題に取り組むことで培った独自のコミュニケーション力を持っている。
【思考・判断】食生活に関する諸課題について、豊かな想像力に基づく的確な判断力を身に付けている。
【関心・意欲・態度】調理文化、郷土食の具体例に学ぶことにより食文化について関心を持ち、自ら考えをまとめる力を発揮することができる。
【技能・表現】専門的な学びを通して、食に関する諸問題など社会に生かせる表現力を身に付けている。

学生へのメッセージ

世界と日本の食文化について興味があるトピックスを見つけ、独自の視点から調べておきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	課題を通して視覚的に共有することにより互いに学び合うことができる。

講義コード	G06070001
講義名	調理と文化
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	小川 聖子	指定なし

ナンバリング

R41712M23

授業概要(教育目的)

食文化的視点から調理実習を行う。はじめに各国の料理と食材、調理法、調味の共通点や違いを知るため、いくつかの国を事例とした調理実習を通して、食文化の背景を学ぶ。
また、日本においては、各地域の食文化(粉食文化、粒食文化と食材など）について、郷土料理の実習を通して考える。さらに、本学の大江文庫に収められている江戸時代の料理書を紐解き、饗応の為の本膳料理形式を知り、時代による経緯についても理解を深める。江戸時代の再現料理を通し、素材、調理法、調味の工夫を学び、現代に生かす知恵に繋げる。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日本の料理形式を知り、時代による経緯を学び、知識を得る。 粉食文化、粒食文化について調理実習を通して理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	世界の料理、日本の郷土料理、伝統野菜、米・米粉を用いた料理などの課題に取り組むことにより、食文化の視点から調理を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	世界の料理文化と日本の料理文化の特徴を知り、素材、調理法、調味の工夫を実践できる。
技術・表現の観点 (A)	各国の料理を通して、多様な調理方法及び調理技術を習得し、自ら応用できる力を養う。

学習計画

		授業計画について

第1回	授業テーマ	世界と日本の食文化について 成績評価について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業内容と進行の予定、実習上の諸注意、ルーブリックに基づく成績評価、課題についての説明を資料を用いて行う。 世界と日本の食文化と調理について食文化の背景と特徴を解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題についての計画を立てる。次週の実習の予習をする。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	授業テーマ	世界の粉食文化と料理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	無発酵のパン類と食材の特徴を学ぶ実習。事例としてインド、メキシコ、中国料理の特徴を実習を通して考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容について工夫をしてポートフォリオを作成する。[項目：調理名、材料・分量、調理法、盛り付けの写真等、評価・感想、復習の写真]
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	授業テーマ	世界の粉食文化と料理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発酵したパン類と食材の特徴を学ぶ実習。事例としてイタリア、中国料理の特徴を実習を通して考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ポートフォリオの作成 世界の料理についての課題作成
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	世界の粉食文化と料理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発酵したパン類と食材の特徴を学ぶ実習。事例としてドイツ料理の特徴を実習を通して考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ポートフォリオの作成 日本の郷土料理についての課題作成
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	世界の粉食文化と料理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	米粉を用いた料理と食材の特徴を学ぶ実習。事例としてベトナム料理の特徴を実習を通して考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ポートフォリオ作成 伝統野菜を用いた料理の考案
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	日本の粉食文化と料理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小麦粉(手打ちうどん）の実習と郷土料理の実習を通して各地域に見られる料理の特徴について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ポートフォリオの作成 各地域に見られる米を用いた料理、米粉を用いた料理の考案
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	日本の米の多様な利用と料理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	各地域に見られる米・米粉を用いた料理の実習を通して地域の料理の特徴について学ぶ。

第7回	を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	ポートフォリオの作成
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	授業テーマ	西洋料理の形式
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	西洋料理の正餐のメニュー構成とテーブルセッテイングを学ぶ。 (オードブル・スープ・肉料理・サラダ・菓子)
	教室外学習(予習・復習)の内容	ポートフォリオの作成
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	授業テーマ	日本料理の形式
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	懐石料理について七夕の茶事の料理を通して日本料理の形式を学ぶ。 (飯・汁・向付・煮物椀・焼物・香の物・主菓子)
	教室外学習(予習・復習)の内容	ポートフォリオの作成
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	授業テーマ	江戸時代の本膳料理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	江戸時代の料理書『素人庖丁』『料理早指南』などを用い、本膳料理形式(武家社会の饗応料理)から発展した料理形式を学ぶ。 (飯・汁・膾・坪・香の物・焼物・菓子)
	教室外学習(予習・復習)の内容	ポートフォリオの作成
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	授業テーマ	江戸時代の精進料理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	江戸時代の料理書『素人庖丁』『精進献立集』などを用い、精進料理(禅宗における調理法)を学ぶ。 (飯・汁・向付・平皿・坪・香の物・菓子)
	教室外学習(予習・復習)の内容	ポートフォリオの作成
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	授業テーマ	江戸時代の料理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	材料別料理書として流行した『豆腐百珍』から料理の工夫を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ポートフォリオの作成
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	授業テーマ	江戸時代の料理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	江戸時代の料理書『料理物語』『万宝料理秘密箱』『年中番菜録』などを用い、食材を生かす工夫を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ポートフォリオの作成
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	江戸時代の料理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	江戸時代の料理書『料理珍味集』『万宝料理秘密箱』などを用い、香辛料、香味野菜を取り入れる工夫と料理を彩る

第14回	を含む)	方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ポートフォリオの作成
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

食材の入荷状況等により、実習内容が変更になる可能性があります。

学生へのフィードバック方法

課題を通して、学習内容の理解度を確認し、学びが深められる教材の提示を行う。質問について随時対応し、知識と技術の定着を図るようにする。

評価方法

平常点(授業への取り組み)、課題評価、ポートフォリオの作成、実習試験を総合して評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点(授業への取り組み)			○	
課題評価	○			○
ポートフォリオの作成	○	○		
実習試験	○	○	○	○

評価割合

平常点(授業への取り組み)(20%)、課題評価(20%)、ポートフォリオの作成(30%）、実習試験(30%)を総合して判断します。

使用教科書名(ISBN番号)

実習・資料プリントを配布します。

参考図書

江原絢子編『日本食の文化』アイ・ケイコーポレーション(2021)
吉井始子『翻刻江戸時代料理本集成』臨川書店 全10巻・別巻(1978～81)
日本の食生活全集編集委員会編『日本の食生活全集』全50巻(1984～1993)

ディプロマポリシーとの関連

[知識・理解]多様な食文化を理解し、実習により培った独自のコミュニケーション力を持っている。
[思考・判断]豊かな想像力に基づく的確な判断力を身に付けている。
[関心・意欲・判断]課題とするテーマに取り組むことにより、自ら考え、まとめる力を発揮することができる。
[技能・表現]専門的な学びを通して、社会に生かせる技術力と表現力を身に付けている。

学生へのメッセージ

テーマとしている世界と日本の食文化について、学生各人の視点から調べておきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		料理研究家としての実務経験を活かして、調理実習における技術や知識に関しての指導を行う。
アクティブ・ラ		

ーニング		各回授業のために、必要な食材購入を学生が試みる場合がある。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	課題を通して、視覚的に共有することにより、互いに学び合うことができる。

講義コード	G06071001
講義名	栄養士総合演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大中 佳子	指定なし

ナンバリング

R20704M12

授業概要(教育目的)

この科目は、栄養士免許取得のための必修科目である。
本科目では、校外給食実管理習に向けて、各特定給食施設の概要と給食の目的、栄養士業務（栄養・食事管理、給食の生産管理、品質管理、安全衛生管理）について、これまでの授業の学びを関連付け、校外給食管理実習において活用できるよう講義する。実習の意義と目的、専門職としての職業倫理と心構えや、実習記録ノートへの記載方法など校外実習の事前教育を行う。
さらに、校内給食管理実習に向けて、栄養食事計画の流れを演習形式で学ぶ。対象者の栄養アセスメントから栄養給与目標量を算出し、栄養食事計画を立案、その計画に基づき献立作成ならびに試作調理を行う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・栄養士の役割を理解し、日本人の食事摂取基準を用いた栄養・食事管理ができる。 ・各給食施設における栄養管理された献 立作成と安全・衛生管理を理解し実施することができる。
思考・判断の観点 (K)	・対象者に合わせた各栄養素およびエネルギー量を満たす献立の給与栄養目標量を設定できる。 ・情報を整理して客観的な判断に基づき、給食の安全・衛生面でリスクを予知できる。そして、食中毒予防や安全・衛生管理ができる。
関心・意欲・態	・献立作成においては積極的に料理や調理方法や食材料の提案ができる。

度の観点 (V)	・グループワークに積極的に参加し、同グループのメンバーと協調し、調整できる。
技術・表現の観点 (A)	・対象者別に栄養管理された献立表と献立の作業工程表を作成できる。 ・給食の安全・衛生管理ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス 栄養・食事管理の概念
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養士について、栄養法から理解する。 特定給食施設の栄養・食事管理の流れを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：栄養士法を読んでおくこと 復習：健康増進法施行規則の栄養管理について重要点をまとめておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習25分 復習25分
第2回	**授業テーマ**	校外給食管理実習に向けて（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	校外実習の考え方 ・栄養士としての職業倫理 ・校外実習の意義と目的
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：給食の運営実習について調べておくこと。 復習：授業で配布した資料や授業内容を再度確認し、重要点をまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習50分 復習50分
第3回	**授業テーマ**	校外給食管理実習に向けて（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	校外実習の事前指導について ・事前学習の重要性 ・基礎知識の習得
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：校外給食管理実習「実習の手引き」を読んでおくこと。 復習：授業で配布した資料や授業内容を再度確認し、重要点をまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習50分 復習50分
第4回	**授業テーマ**	校外給食管理実習に向けて（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	校外実習の考え方 ・実習にあたっての心構え（態度・マナーなど） ・提出物、持ち物 ・規則・指示に従う
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：校外給食管理実習「実習の手引き」を読んでおくこと。 復習：授業で配布した資料や授業内容を再度確認し、重要点をまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習50分 復習50分
第5回	**授業テーマ**	校外給食管理実習に向けて（4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事前の準備 ・連絡 ・実習施設への事前訪問 実習開始時と実習中の注意 ・出勤・退勤、休憩中の過ごし方 ・言葉遣い、礼儀、接遇 ・守秘義務 ・体調管理

		・飲食 ・実習記録ノートの記入法
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：校外給食管理実習「実習の手引き」を読んでおくこと。 復習：授業で配布した資料や授業内容を再度確認し、重要点をまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習50分 復習50分
第6回	**授業テーマ**	校外給食管理実習に向けて（5）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習開始時と実習中の注意 ・実習記録ノートの記入法 実習後の学習 ・お礼状の作成 ・実習報告 課題の提出
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：校外給食管理実習「実習の手引き」を読んでおくこと。 復習：授業で配布した資料や授業内容を再度確認し、重要点をまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習50分 復習50分
第7回	**授業テーマ**	校外給食管理実習に向けて（6）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・課題の返却と解説 ・問題点についてグループディスカッションを行い、まとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：校外給食管理実習「実習の手引き」を読んでおくこと。 復習：授業で配布した資料や授業内容を再度確認し、重要点をまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習50分 復習50分
第8回	**授業テーマ**	栄養・食事計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給与栄養目標量にもとづいた献立作成 ・献立作成 ※持参物：授業で配布したプリント、八訂食品成分表、電卓、PC（栄養計算ソフト使用可）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：前回で作成したプリントを確認する。 復習：授業で示した重要点をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習50分 復習50分
第9回	**授業テーマ**	校内給食管理実習のための献立作成（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対象者別の献立作成：グループ討議 ・グループで献立のコンセプト、栄養教育のテーマを決める。 ・対象者の給与栄養目標量に基づいた献立作成を行う。 ※持参物：八訂食品成分表、電卓、PC（栄養計算ソフト使用可）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：日本人の食事摂取基準の総論を理解し、対象者に合わせた献立作成ができるようにしておくこと。 復習：授業で示した重要点をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習50分 復習50分
	授業テーマ	校内給食管理実習のための献立作成（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	グループワーク：献立、作業指示書（レシピ・衛生CCP）、作業工程表を作成する。 ・対象者の給与目標量と栄養教育テーマに基づいた献立作成を行う。

第10回	**報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	・調理と衛生管理の指示書を作成する。 ・使用する大量調理機器を考えながら、作業工程を計画する。 ※持参物：八訂食品成分表、電卓、PC（栄養計算ソフト、使用可）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：栄養教育のテーマを考えておく 復習：作成した献立指示書指示書をもとに、生産工程をイメージすること
	教室外学習の時間（分）	予習50分 復習50分
第11回	**授業テーマ**	校内給食管理実習のための献立作成（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループワーク：献立、作業指示書（レシピ・衛生CCP）、作業工程表を作成する。 ・対象者の給与目標量と栄養教育テーマに基づいた献立作成を行う。 ・調理と衛生管理の指示書を作成する。 ・使用する大量調理機器を考えながら、作業工程を計画する。 ・試作調理用の食材の発注 ※持参物：八訂食品成分表、電卓、PC（栄養計算ソフト、使用可）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書をよく読んでおくこと 復習：作成した献立指示書指示書をもとに、生産工程をイメージすること
	教室外学習の時間（分）	予習50分 復習50分
第12回	**授業テーマ**	校内給食管理実習のための試作調理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループワーク：献立、作業指示書（レシピ・衛生CCP）、作業工程表を作成する。 ・11回授業で作成した献立に基づき、試作調理する。 ・料理の品質評価、反省
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：作業指示書（レシピ）を確認する。 復習：作成した献立指示書指示書を見直し、気付きをまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習50分 復習50分
第13回	**授業テーマ**	校内給食管理実習のための献立作成（4）まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループワーク：試作調理から献立、作業指示書（レシピ・衛生CCP）、作業工程表を見直す。 ・課題の提示 ・確認テストについて ※持参物：八訂食品成分表、電卓、PC（栄養計算ソフト、使用可）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：献立、作業指示、作業工程表を見直す。 復習：これまで作成した献立類を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	予習50分 復習50分
第14回	**授業テーマ**	確認テスト グループワークの成果発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・確認テスト ・これまで作成した献立、作業指示（レシピ・衛生CCP）、作業工程についてグループワークの成果を発表し、提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：グループワークの成果を、発表できるようにまとめておくこと 復習：発表会後のコメントを参考に、成果物の内容を見直しておくこと

		※持参物：授業で配布した資料、PC
	教室外学習の時間（分）	予習50分 復習50分

学習計画注記

・演習形式で授業を行いますので、シラバスに掲載していますが電卓やPC、参考書を適宜持参してください。
・教科書「トレーニーガイドPDCAによる給食マネジメント実習」は3年次授業「校内給食管理実習」でも使用します。毎回持参してください。
・食品成分表は八訂であればどの出版社でも可、女子栄養大学出版部の成分表は資料付きですので推薦します。

学生へのフィードバック方法

提出された個人課題の提出物にコメントを入れて返却する。グループの提出物については、コメントを授業内で伝える。
グループ討議後のまとめの発表に対してもコメントを伝える。

評価方法

平常点、提出物（グループ・個人）、グループ討議の参加状況（グループ作業も含む）で評価する。
評価方法・評価基準は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点		○	○	
提出物(グループ・個人)	○	○	○	○
グループ討議の参加状況			○	○
確認テスト	○	○		

評価割合

平常点20%、
校外給食管理実習関連：提出物20%確認テスト30%
校内給食管理実習関連：提出物20%（グループ5%・個人20%）、グループワークの参加状況5%

使用教科書名(ISBN番号)

・トレーニーガイドPDCAによる給食マネジメント実習 第2版／医歯薬出版株式会社（ISBN978-4-263-70728-9）
・八訂 食品成分表2024/女子栄養大学出版部（ISBN978-4-7895-1204-0）
・校外給食管理実習関連は、「実習の手引き」を配布します。

参考図書

・調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル／学建書院
・日本人の食事摂取基準2025年版／第一出版株式会社
・調理のためのベーシックデータ第6版/女子栄養大学出版部

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境を理解し、様々な立場や状況の人々と疎通ができるコミュニケーション力を身につけている。
【思考・判断】栄養管理する対象者の情報を整理し、対象者別の栄養・食事管理できる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について関心を持ち、自ら課題を見出し、

その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技能・表現】食を通じて生活の質の向上をはかるために食品・食物の調理・加工の技能を身につけている。

オフィスアワー

・火曜２限、火曜昼休み：給食管理学研究室（2311室）
・事前にメールで予約してから来訪して下さい。

学生へのメッセージ

・給食で提供する食事にはこれまでの学びが全て詰まっています。対象者の栄養状態に合わせて栄養・食事計画を立案し、献立どおりの食事を提供する。栄養管理された食事を摂取することで栄養改善や健康の保持増進につながっていきます。食事は一生続くので、栄養・食事管理の技術を学修して得た知識と技術を生かして地域住民やご家族他、人々の健康・増進へとつなげてください。
・給与栄養目標量に合わせた献立を作成することは日本人の食事摂取基準、食品に関する知識および理解が必要になります。現在、様々な料理や食品が出回っています。多くの料理や食品に興味を持ち、日頃から観察したり情報収集を行うようにしてください。それから、栄養管理された食事を提供しても食べ残しがあれば栄養も摂取できません。また、給食で食中毒事故を起こさないようにするため、食中毒の予防方法や安全衛生管理について学びましょう。
・食の専門家ということを意識しながら、食べ残しの原因を探り、美味しくかつ衛生面でも安全・安心な食事を提供できるよう献立作成の技術を学修しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	総合病院、児童・高齢者福祉施設において栄養食事指導などの管理栄養士業務かつマネジメント職務の実績がある教員が、栄養管理や安全衛生管理された献立の作成について演習授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークにより、対象者の給与栄養目標量を設定し、その目標量に合わせて献立作成する。成果物について発表を行う。
情報リテラシー教育	○	献立作成時にインターネットを利用して料理方法など情報収集する。
ICT活用	○	献立作成時に栄養計算ソフトや表計算ソフトを利用する。 グループの成果物や個人課題など提出物の作成はPowerPointやExcel、Wordを利用して作成する。 PC持参のこと。

講義コード	G06072001
講義名	食物総合演習 A
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	黒田 久夫	指定なし
教授	河田 敦子	指定なし
教授	三澤 朱実	指定なし
教授	大嶋 孝之	指定なし
教授	大中 佳子	指定なし
准教授	岩本 直樹	指定なし
准教授	米澤 加代	指定なし
特任教授	笠松 千夏	指定なし
特任教授	高橋 幸子	指定なし

ナンバリング

R30710M12

授業概要(教育目的)

本演習は、卒業研究を始める前段階の基礎的能力を養うために設置された科目である。自分の興味のある分野が何かを見極め、その分野を専門とする教員の指導を受けながら、「研究をする」ということの意味や方法を学ばせることを目的とする。

履修条件

特になし
食物学科3年次生必修科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	具体的な研究テーマ案を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	提案する研究テーマについて，その意義（オリジナリティ・有用性等）を考えることができる。
関心・意欲・	自らテーマを探し，調査研究の対象として具体化することができる。

態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	自分の興味関心のあるテーマを教員に伝え、教員とコミュニケーションを取りながら自らの研究テーマや分野を自覚的に考察することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション・教員紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	50
第2回	**授業テーマ**	黒田ゼミの紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・担当教員の専門分野である食品機能学の概要と、現在取り組んでいる研究テーマについて説明します。 ・黒田研究室のゼミの進め方、指導のポイントを説明します。本ゼミの食物総合演習B、卒業研究A, Bのシラバスも紹介します。 ・資料の確認や、クラスルームの投稿などをPCで行いますので、必ずPCを持参してください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	クラスルームから、課題を発信しますので、期日までに回答してください。
	教室外学習の時間（分）	50
第3回	**授業テーマ**	大中ゼミの紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・大中ゼミの計画、進め方について説明します。 ・現在ゼミナールで取り組んでいる研究内容を説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	クラスルームから課題を配信しますので、その内容について提出してください。
	教室外学習の時間（分）	50
第4回	**授業テーマ**	米澤ゼミ（調理学研究室）の紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・調理学研究室ゼミの概要、進め方について ・現在進めている研究内容について
	教室外学習(予習・復習)の内容	クラスルームから課題を発信しますので、期日までに提出して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50
第5回	**授業テーマ**	笠松ゼミの紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	加工食品開発、官能科学，官能評価等を専門にしています。
	教室外学習(予習・復習)の内容	クラスルームから課題を発信しますので，期日までに提出してください.
	教室外学習の時間（分）	50
第6回	**授業テーマ**	高橋ゼミの紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・高橋の自己紹介 ・ゼミの内容（食と文化） ・ゼミの進め方 ・課題の発信と評価方法

	教室外学習(予習・復習)の内容	課題は、Classroom を使って発信・受信します。
	教室外学習の時間（分）	50
第7回	**授業テーマ**	大嶋ゼミ（衛生・食品工学研究室）の紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・大嶋の紹介およびゼミの進め方 ・現在進めている研究内容について
	教室外学習(予習・復習)の内容	クラスルームから課題を発信しますので、期日までに提出して下さい。
	教室外学習の時間（分）	50
第8回	**授業テーマ**	三澤ゼミ（栄養指導研究室）の紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ゼミの研究テーマ（食育など）の概要、現在取り組んでいる研究について紹介します。 ・研究の進め方、指導ポイントを説明します。 ・classroomを活用して情報発信します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・クラスルームから課題を発信、提出します。
	教室外学習の時間（分）	50
第9回	**授業テーマ**	河田ゼミ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育の歴史や家族・家庭、ジェンダー史、女性のライフヒストリーについての研究について紹介します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日常的に接している事象を掘り起こす面白味に気付いて下さい。
	教室外学習の時間（分）	50
第10回	**授業テーマ**	岩本ゼミ（栄養学研究室）の紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	岩本ゼミの研究テーマを紹介します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の興味を具体的にイメージし、研究室の主要な研究テーマとの関連を考える。
	教室外学習の時間（分）	50
第11回	**授業テーマ**	質問したい先生への質問会（教員全員参加） 質問会終了後ゼミ希望調査を実施する。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分が興味のある研究をしている先生のところに質問に行く。教室内に食物学科全教員が参集している。何人にでも質問してよい。
	教室外学習(予習・復習)の内容	質問したい内容を考えておく。 所属したいゼミを第1希望から第5希望くらいを考えておく。
	教室外学習の時間（分）	50
第12回	**授業テーマ**	公認心理師・キャリアコンサルタントの佐々木ひとみ先生による講演
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公認心理師・キャリアコンサルタントの佐々木ひとみ先生による、卒業後のキャリアプランに関する講演及びワークショップ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に予告された内容に基づき、関連するウェブサイトや新聞等の情報を理解し、自分の考えを表現する準備をする。
	教室外学習の時間（分）	50

第13回	授業テーマ	所属ゼミ希望アンケート調査結果報告
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゼミ分けを発表します。発表後は、所属ゼミの先生の指示に従ってください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	50
第14回	授業テーマ	ゼミ活動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゼミに分かれて、活動を開始します。各ゼミの先生のところへ行って、説明や指導を受けて下さい。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	50

学習計画注記

本演習は、食物学科のゼミの内容を理解することが目的です。すべての授業に出席して、先生方の多様な研究分野についての知見を高めて下さい。

学生へのフィードバック方法

第11回にゼミ配属希望調査を行う予定です。第13回にゼミ配属先を発表する予定です。本授業の評価は、基本的に出席が重視されますが、詳細はクラスルームに掲載されるルーブリック表などを参照してください。

評価方法

・授業の参加度（100%）とし、各回で等分する（各回100/14点）。
・第1回～第12回は、グーグル・クラスルームに評価方法を記載する。
・第13回～第14回は、配属先の先生に評価方法を確認すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業への参加度	○	○	○	

評価割合

授業への参加度（100%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

各教員から紹介がある。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】様々な立場や状況の人々に，自分が検討した内容を具体的に伝えることができる
【思考・判断】種々の情報を整理し，研究テーマの意義を客観的に判断できる
【関心・意欲・態度】自らテーマを設定し，課題を見出し，その解決に意欲的に取り組むことができる
【技能・表現】体系的な学修を通じて，研究テーマの内容・意義を分かりやすく伝えることができる

オフィスアワー

教員によって異なりますので、話を訊きたいと思う教員に直接コンタクトを取ってアポイントメントを取って下さい。

学生へのメッセージ

食物学科で研究できることは多いです。是非研究の楽しさを感じ、自分に適した充実した学びができるようなゼミを選択をしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G06072002
講義名	食物総合演習Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

R30710M12

授業概要(教育目的)

4年生で取り組む卒業研究の準備学習を行う。
①文献調査の方法（インターネットで調べる。図書館で調べる。文書館で調査する。）
②フィールドワークの方法（インタビュー調査。現地調査。聞き取り調査。学校調査等）
③テーマの設定（テーマはどの程度の絞り、広がりのある展望のあるテーマにするか）
④先行研究の検討
以上の4項目は、どのような研究においても必要な基礎力である。ゼミナールAでは①、②について文献を読み、図書館に赴いき、学校調査に参加する等、基礎的理解を深め、能力を高める。
教職課程履修学生の場合は、「教えるということ」や「授業研究」についても学習の機会を設ける予定である。

履修条件

社会における教育や人間の在り方に興味を持っている事。
基本的に、文献調査かインタビュー調査なので、こうした研究方法に興味関心があることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	文献を読みながら要約することができる。
思考・判断の観点 (K)	フィールドワークや文献調査を行いながら、何が重要かを自分なりに考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分の興味関心を深く調べ、様々なことに関連付けて発展させることができる。
技術・表現の観点 (A)	自分の興味関心のあることや自分で調べたことを少しずつでも論理的に他者に伝えることができる。

学習計画

	授業テーマ	研究に必要なこと（1）文献調査の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰ	研究するためには、研究対象に対して知識、理解が必要である。

第1回	ﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	そのために、関連文献を調べ、ひも解く力を養う。インターネット検索や図書館のOPACの使い方、文献の取り寄せ方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターネット検索を学んだら、実際に様々な検索ワードで検索をしてみること。
	教室外学習の時間(分)	240分
第2回	授業テーマ	国会図書館、大学図書館のOPACの使い方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パソコン室で国会図書館や大学図書館のOPACを用いて、どのような文献がヒットするかを実際に行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	検索用語は沢山ある。思わぬ用語で面白い文献に出会う面白さを味わってほしい。
	教室外学習の時間(分)	240分
第3回	授業テーマ	文献を読む（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	検索して入手を申し込んだ文献を読んで要約する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献を読む。研究論文は、小説や物語のようには読めない。論文を読むということを学ぶ。
	教室外学習の時間(分)	240分
第4回	授業テーマ	文献を読む（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分が選んだ文献を読んで要点をまとめ、プレゼンする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼン用のレジュメの準備をする。
	教室外学習の時間(分)	360分
第5回	授業テーマ	文献を読む（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンされた文献について、ゼミ生同士でディスカッションする。自分の物事の見方だけではなく、他者の多様な見方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ディスカッションで学んだことにより自分の研究を更に発展させて、調べる。
	教室外学習の時間(分)	360分
第6回	授業テーマ	フィールドワークとは(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フィールドワークとは、現地調査のことであるが、どのような方法があるかを原ひろ子著『観る・集める・考える』（1993年）を読みながら学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	短い文章なので、一人10ページを担当しする。本全体を読みながら自分の担当する部分の意味を考え、要約のレジュメを作成する。

	教室外学習の時間（分）	240分
第7回	**授業テーマ**	フィールドワークとは(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フィールドワークとは、現地調査のことであるが、どのような方法があるかを原ひろ子著『観る・集める・考える』（1993年）を読みながら学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	短い文章なので、一人10ページを担当しする。本全体を読みながら自分の担当する部分の意味を考え、要約のレジュメを作成する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第8回	**授業テーマ**	『フィールドワークの技法』を読む
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	箕浦康子著『フィールドワークの技法』の第1章ををを一人一節ずつ担当して、その要約を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	『フィールドワークの技法』の第1章を読んで、担当節をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	240分
第9回	**授業テーマ**	『フィールドワークの技法』を読む
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	箕浦康子著『フィールドワークの技法』第2章を一人一節ずつ担当して、その要約を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	『フィールドワークの技法』第2章を読んで、担当節をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	240分
第10回	**授業テーマ**	『フィールドワークの技法』を読む
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	箕浦康子著『フィールドワークの技法』第3章を一人一節ずつ担当して、その要約を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	『フィールドワークの技法』第3章を読んで、担当節をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	240分
第11回	**授業テーマ**	国会図書館を使ってみる(3回分)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実際に国会図書館へ行き、自分の興味ある事柄について文献調査を行う。アクティブラーニングである。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調べたいことを整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
	授業テーマ	国会図書館を使ってみる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	実際に国会図書館へ行き、自分の興味ある事柄について文献調査

第12回	育・ICT活用を含む)	を行う。アクティブラーニングである。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調べたいことを整理しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	240分
第13回	授業テーマ	調べたことをまとめてプレゼンする。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今回のゼミで自分が調べた学びをまとめてプレゼンする。一人20分程度
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンの準備をする。
	教室外学習の時間(分)	300分
第14回	授業テーマ	調べたことをまとめてプレゼンする。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今回のゼミで自分が調べた学びをまとめてプレゼンする。一人20分程度
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンの準備をする。
	教室外学習の時間(分)	300分

学習計画注記

ゼミ形式。随時ゼミ発表を行う。国会図書館へ行ったり、近隣の学校に足を運んだりする。

学生へのフィードバック方法

発表時にコメントし、調査方法については随時助言する。

評価方法

研究への関心・意欲・態度。
ゼミ発表の内容
で評価する。
評価方法・評価基準は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはクラスルーム
または授業内での配布等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
熱意をもってゼミに参加している			○	
文献の要約ができる	○	○		○
研究として深めようとする意欲が			○	

評価割合

熱意をもってゼミに参加している（30%）。
論文や参考資料等、文献の要約ができる（40%）。

自分の興味や関心を研究として深めようとする意欲がある（30%）

使用教科書名(ISBN番号)

特に無

参考図書

・原ひろ子『観る・集める・考えるー発見のためのフィールド・ワーク』カタツムリ社1993年
・箕浦康子『フィールドワークの技法』
・河田敦子「宮城県M郡K町における「姉家督」について」『民族学研究』1985年
・林竹二『授業の成立』筑摩書房1983年
・

ディプロマポリシーとの関連

○思考・判断
・多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身に着けている、に該当。
○関心・意欲・態度
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組む ことができる、に該当。

オフィスアワー

月曜日4限ほか随時。メールでアポイントメントを取ること。

学生へのメッセージ

研究とは、自分の興味関心を「とことん極める」ことです。
自分が何を「知りたい」、「極めたい」のか、何に「興味があるのか」を知ることが一番大切です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ゼミ発表。図書館調査。
情報リテラシー教育	○	文献検索。
ICT活用	○	PPTを用いた発表。

講義コード	G06072003
講義名	食物総合演習Ａ（三澤）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

R30710M12

授業概要(教育目的)

・本演習では、人々の健康増進、疾病予防、栄養・食生活改善のための、地域や身近な人々の問題・課題課題解決へ向けたアプローチ方法を企画立案する方法を解説する。これらの能力も身に着けることにより、どのようにしたら地域社会に食の面で貢献できるかを考える力が身に着くよう育成する。具体的には、食教材の開発や食育の手法を企画開発できるよう教授します。

履修条件

・栄養指導論、栄養カウンセリング論、公衆栄養学を履修済みであること、栄養指導実習、栄養カウンセリング実習、公衆栄養学実習を履修中であることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・学生が対象となる人々の 多様な食生活や食環境の実態を調査する方法を学び、その内容を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	・学生が多様な栄養・食生活等に関する情報を整理して、客観的に思考、判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・学生が対象集団・地域社会の課題を見い出し、その解決のための食育や食生活改善に興味や関心を持ち、貢献したいという意欲をもつようになること。
技術・表現の観点 (A)	・学生がさらなる実態把握や研究のため、質問紙調査、食事調査などを考案できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食物総合演習の全体の進め方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマについて、興味をもてるものを事前に調べ考えておく。
		100

	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等　　分
第2回	**授業テーマ**	テーマ選定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究のテーマ選定の方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実践社会における食育や栄養教育について、興味をもって事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第3回	**授業テーマ**	対象集団の設定・課題抽出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・テーマ関連の先行研究調査、文献検索の方法を学ぶ。 ・栄養士実力認定試験対策
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に図書館で検索し、書籍等で調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第4回	**授業テーマ**	対象集団の設定・課題抽出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーマ関連の先行研究調査、文献検索の方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に図書館で検索し、書籍等で調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第5回	**授業テーマ**	食育・食生活改善の手法、教材の調査・整理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーマ関連の先行研究調査、文献検索の方法を学ぶ。 栄養士実力認定試験対策
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に図書館で検索し、書籍等で調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第6回	**授業テーマ**	食育・食生活改善の手法、教材の調査・整理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーマ関連の先行研究調査、文献検索の方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に図書館で検索し、書籍等で調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第7回	**授業テーマ**	食育・食生活改善の手法、教材の調査・整理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題を見つけ（テーマ選定）、そのための食育や食生活改善に対し、手法・施策・教材等を意欲的に調べまとめる。 栄養士実力認定試験対策
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に図書館で検索し、書籍等で調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分

第8回	授業テーマ	調査票・教材開発
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題を見つけ（テーマ選定）、そのための食育や食生活改善に対し、手法・施策・教材等を意欲的に調べまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に図書館で検索し、書籍等で調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第9回	授業テーマ	調査票・教材開発
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題を見つけ（テーマ選定）、そのための食育や食生活改善に対し、手法・施策・教材等を意欲的に調べまとめる。 栄養士実力認定試験対策
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に図書館で検索し、書籍等で調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第10回	授業テーマ	調査票・教材開発
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題を見つけ（テーマ選定）、そのための食育や食生活改善に対し、手法・施策・教材等を意欲的に調べまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に図書館で検索し、書籍等で調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第11回	授業テーマ	発表会の資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題を見つけ（テーマ選定）、そのための食育や食生活改善に対し、手法・施策・教材等を意欲的に調べまとめる。 栄養士実力認定試験対策
	教室外学習(予習・復習)の内容	同じ研究分野の発表資料を事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第12回	授業テーマ	発表会の資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題を見つけ（テーマ選定）、そのための食育や食生活改善に対し、手法・施策・教材等を意欲的に調べまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	同じ研究分野の発表資料を事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第13回	授業テーマ	食育・栄養教育体験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題を見つけ（テーマ選定）、そのための食育や食生活改善に対し、手法・施策・教材等を意欲的に調べまとめる。 栄養士実力認定試験対策
	教室外学習(予習・復習)の内容	実践社会における食育や栄養教育について、興味をもって事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。

	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第14回	授業テーマ	発表方法の習得
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	４年生の卒業研究中間発表を聴講し参考にする。 「課題提出あり」（テーマに関する先行研究リスト）
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に発表テーマ、要旨を参照しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分

学習計画注記

・授業の最後に毎回質問を受け付けます。
・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問する。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。）
・新型コロナの状況、やむを得ない事情（物理的な環境・教材等）によっては、授業内容が変更されることがあります。

学生へのフィードバック方法

・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックします。

評価方法

・平常点50%、提出課題点50%で評価します。
・提出課題（研究資料作成）は下表に示すスキルを養うことを目的としています。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
資料点	○	○	○	○
発表点	○	○	○	○

評価割合

・平常点42%、レポート点58%で評価します。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

使用教科書名(ISBN番号)

・特に指定しない

参考図書

・「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル 第3版 （第一出版）
(ISBN 978-4-8041-1358-6 C3077)
・日本人の食事摂取基準 2020版 （第一出版）

参考URL

http://www.daiichi-shuppan.co.jp/book/book205.html

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解／K】
・学内外で講義･実習･演習を通し、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。
【思考・判断／K】
・多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度／V】
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。

・栄養士、教員、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。"
【技術・表現／A】
・専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理･加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー

・月曜3限、火曜1限、火曜昼休み：栄養指導研究室（2106室）
・事前にg-mail（misawa@kasei-gakuin.ac.jp）で予約してから来訪して下さい。
・基本的に、毎週金曜日は研修日のため大学不在です。

学生へのメッセージ

・実社会における食育等の経験や地域連携活動の機会を提供するので、是非主体的、積極的に学んで欲しい。自分の興味ある研究テーマ・活動を見つけ、卒業後も役に立ち思い出に残るような研究となるよう取り組んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は、病院（管理栄養士）及び企業（第一種衛生管理者、産業栄養指導者）において、「栄養の指導」分野の中核を成す栄養指導及び栄養教育の実務経験を有している。将来の栄養士・管理栄養士として習得すべき栄養指導（ハイリスクアプローチ）、予防的栄養教育、公衆栄養活動（ポピュレーションアプローチ）に関して、実例を示しより実践的に、結果（アウトカム）を出せるよう、研究を指導します。
アクティブ・ラーニング	○	・対象者の食生活改善上の問題解決を図り、栄養の指導分野の技術をより高めるため、チームで自主的にデイスカッションし、能動的に学べるよう教授します。
情報リテラシー教育	○	・正しく有益な健康・栄養情報の検索・収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）、データ入力・集計（エクセル）、栄養分析（エクセル栄養君）、統計解析（SPSS）等の各種ソフトウェアを活用して教授します。

講義コード	G06072005
講義名	食物総合演習Ａ（岩本）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	岩本 直樹	指定なし

ナンバリング

R30710M12

授業概要(教育目的)

3年までに学修した知識・技術を総合的に判断する能力を養うことを目的とし、栄養士や食のスペシャリストとして、社会で活動する多様な分野について最新の情報をもとにした演習を行う。科目を横断して知識・技能を統合し、総合的な能力を養う。本科目は、栄養士免許証取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	栄養と食のスペシャリストとして、栄養学の概念、消化・吸収の調節機構、糖質、脂質等の栄養素の摂取と生活習慣病との関連について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	3年次までに学んだ様々な知識・技術を横断的に統合し、現代の食・栄養に関わる課題に対して解決案が提示できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1．各課題に対し、他者との協働を重んじて貢献することができる。 2．栄養と食のスペシャリストとして、人々の健康に広く貢献する者としての意欲と使命感を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	学習内容や研究活動についてプレゼンテーションができ、根拠に基づくディスカッションができる。 社会の一員であることを自覚し、コミュニケーション能力および豊かな人間性を身につけている。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	学科長より授業概要、スケジュール、研究の進め方を説明する。

第1回	**含む)**	
	教室外学習(予習・復習)の内容	アカデミックスキル科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	河田研究室のテーマを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	三澤研究室のテーマを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	黒田研究室のテーマを学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	米澤研究室のテーマを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	岩本研究室のテーマを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	海野研究室のテーマを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	笠松研究室のテーマを学ぶ。

第8回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	授業テーマ	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品学研究室（仮称）のテーマを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	授業テーマ	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食管理研究室（仮称）のテーマを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	キャリアカウンセラー（外部講師）による講演
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャリアカウンセラーによる、卒業後のキャリアプランに関する講演及びワークショップ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に予告された内容に基づき、関連するウェブサイトや新聞等の情報を理解し、自分の考えを表現する準備をする。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問を行い、指導教員に話を伺い研究内容について学びを深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問を行い、指導教員に話を伺い研究内容について学びを深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	希望調査と研究室配属について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問の結果より、自分の希望について振り返りを行い、研究室希望調査の提出を行う。 配属先の発表と今後について話を聞く。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

前半の研究室紹介は対面もしくはオンデマンドで実施、研究室訪問は対面の他、各教員の指示に従うこと。

学生へのフィードバック方法

各担当教員のオフィスアワーの時間等を活用すること。その際に各学生にフィードバックする。

評価方法

成績評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについてはクラスルーム内での配布等により掲示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
報告書	○	○	○	○

評価割合

平常点（50%）、 報告 （50%）

使用教科書名(ISBN番号)

指定しない。

参考図書

指定しない。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】学習内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技能・表現】専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー

火曜4・5限 2101研究室（岩本）
（2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）

学生へのメッセージ

各研究室の内容をよく調べ、研究室訪問は複数個所訪問し、配属希望を出してください。
配属決定後は、研究活動を主体的に実施することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	同じテーマを持った班員において、調理や実験を協同し、得られた結果を共有・解析する。 グループ学習を事前に行った上で、担当教員を含めて活発なディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。

講義コード	G06072007
講義名	食物総合演習Ａ（黒田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

R30710M12

授業概要(教育目的)

本研究室の食物総合演習Aでは、本研究室の研究テーマの基礎を学びます。
また、卒業研究で取り組むテーマについて考えていきます。

履修条件

来年度の卒業研究を履修する前までに、食品機能学（前期）を履修してください。必修科目の履修と重なる場合は、相談に乗ります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・本研究室の実験技術と解析方法の基礎が理解できている。 ・研究に必要な２つの要素（新規性と進歩性）の概念が理解できている。 ・研究テーマの探索・試験実験・結果の分析・考察の進め方が理解できている。
思考・判断の観点 (K)	・研究テーマの新規性と進歩性が判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・研究テーマに必要な知識と技術の習得について、意欲的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	・研究討議会に参加し、意見や質問を発信できる。 ・本研究室の基礎的な実験と解析を進めることができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	全体ガイダンス（全体）／チームミーティング（4/14）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・研究室のミーティングを行います。卒業までの年間予定等を確認します。 ・研究室のテーマの全体像を説明します。 ・研究に必要な新規性と進歩性を説明します。 ・研究論文の基本的な構造を説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・前期の授業内容を確認し、授業を受ける準備を進めてください。

	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	**授業テーマ**	研究室の研究テーマの説明（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室の各研究のテーマの内容を説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の振り返りを投稿してください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	**授業テーマ**	研究室の研究テーマの説明（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室の各研究のテーマの内容を説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の振り返りを投稿してください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	**授業テーマ**	研究室の研究テーマの説明（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室の各研究のテーマの内容を説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の振り返りを投稿してください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	**授業テーマ**	研究室の研究テーマの説明（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室の各研究のテーマの内容を説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の振り返りを投稿してください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	**授業テーマ**	自由研究テーマの説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室の自由研究のテーマの探し方、研究の進め方を説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の振り返りを投稿してください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	**授業テーマ**	研究テーマの探索（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマを探索します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の振り返りを投稿してください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	**授業テーマ**	研究テーマの探索（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマを探索します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の振り返りを投稿してください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	**授業テーマ**	研究テーマの探索（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマを探索します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の振り返りを投稿してください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	**授業テーマ**	研究テーマの探索（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の研究テーマの探索について、中間発表を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の振り返りを投稿してください。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	官能検査の基礎（１）

第11回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・VAS法による官能検査の方法を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題を取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	授業テーマ	官能検査の基礎（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・t検定を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題を取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	授業テーマ	官能検査の基礎（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・分散分析・多重比較を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題を取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	授業テーマ	授業のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食物総合演習Aで学んだことを復習します。 食物総合演習Bのテーマを決定します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポート提出の準備をしてください。
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

・PCを毎回持参してください。振り返りの投稿や、資料の確認に利用します。また、データの解析や統計の演習にも利用します。

学生へのフィードバック方法

・授業の振り返りの質問・コメントにフィードバックします。

評価方法

①授業への参加度
②レポート
ルーブリック評価します。ルーブリック表は、クラスルームに掲示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業への参加度	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○

評価割合

①授業への参加度（50%）
②レポート（50%）

使用教科書名(ISBN番号)

ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方
石井 一成 (著)
出版社： ナツメ社

サイズ：１９ｃｍ／２１５ｐ
ISBN：978-4-8163-5057-3
このテキストは、食物総合演習Bにおいても使用します。

参考図書

各自の研究テーマに関連する書籍を最低１冊は読んでください。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】学内外で講義･実習･演習を通し、基礎的・専門的知識を身につけ、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている
【関心・意欲・態度】
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる
・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある
【技能・表現】・専門的、体系的な学修を通じて、優れたコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身につけている。その上で、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理･加工の技能と、これらの開発企画能力や表現力を身につけている

オフィスアワー

ゼミ後

学生へのメッセージ

・ゼミは、大学でしか経験できないコンテンツの一つだと思います。取り組むのは大変に感じるかと思いますが、他の授業では得られない大きな達成感が得られると思います。
・ゼミでは、教員との深い対話も経験できます。専門領域の学びだけでなく、人生をどう生きるべきかなど、哲学的な話もする機会があると思います。
・最後に、ラルフ・エマーソンの言葉を紹介します「大学とは？大学とは、高い理想を仰ぎ見る若い魂が人生経験の深い賢明な魂と出会う場である。」

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・食品企業での食品の研究開発の経験（食品機能学）を伝えます。
アクティブ・ラーニング	○	・学生同士でディスカッションし、論理思考力と対話力を磨きます。 ・メンターとして、みなさんの論理思考力と対話力を鍛えます。
情報リテラシー教育	○	・各種学術データベースの使用方法を習得します。
ICT活用	○	・PCを積極的に利用します。 ・マイクロソフトオフィス（エクセル・パワーポイント・ワード）と統計ソフトウェアのスキルを習得します。

講義コード	G06072010
講義名	食物総合演習Ａ（米澤）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

R30710M12

授業概要(教育目的)

3年次までに学修した知識・技術を総合的に判断する能力を養うことを目的とし、栄養士や食のスペシャリストとして、社会で活動する多様な分野について最新の情報をもとにした演習を行う。
卒業論文と連動して、実験を計画・実施するための、調理学分野の文献検索や適切な対照区の設け方設定などの実験計画法を自分の課題を題材として学ぶ。課題に適した実験方法が書かれている論文・教科書の読み込なしについて学習する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	具体的な研究テーマ案を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	提案する研究テーマについて，その意義（オリジナリティ・有用性等）を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分が興味を持ったテーマを探索し、テーマ調査や予備試験を粘り強く取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	研究テーマの内容とその意義（オリジナリティ・有用性等）を分かりやすくプレゼンテーションができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション・希望調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室のミーティングを行います。卒業までの年間予定等を確認します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を確認し、授業を受ける準備を進めてください。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	研究室ガイダンス

第2回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	本研究室の研究テーマの紹介、本研究室のルール説明、研究計画書の作成手順の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマの探索を始める。
	教室外学習の時間(分)	50分
第3回	**授業テーマ**	文献検索①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究するためには、研究対象に対して知識、理解が必要である。そのために、関連文献を調べ、ひも解く力を養う。インターネット検索や図書館のOPACの使い方、文献の取り寄せ方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究室テーマの中でまた興味のあるテーマについて探索する。
	教室外学習の時間(分)	50分
第4回	**授業テーマ**	文献検索②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室のテーマの中で興味のあるテーマについて文献検索を行い、読み込み、要点をまとめる。発表用にパワーポイント資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献の入手と読み込みおよび文献の理解できなかった箇所の復習を行う。
	教室外学習の時間(分)	50分
第5回	**授業テーマ**	文献紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自、興味・関心の内容，興味・関心を抱いた理由を説明し、検索文献のまとめをパワーポイントを使用して行う。質問・提案等を受けてより具体化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の興味・関心と，研究する内容との関係について、また収集した情報の内容・精度を検討し、説明できるようにしておく。
	教室外学習の時間(分)	50分
第6回	**授業テーマ**	予備実験計画①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画書の作成方法について。
	教室外学習(予習・復習)の内容	興味のある研究テーマについて研究計画書を作成する。
	教室外学習の時間(分)	50分
第7回	**授業テーマ**	予備実験計画②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画書の作成、提出。（背景、目的、方法まで）
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。

	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	**授業テーマ**	予備実験計画③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	訂正を受けた実験計画書について修正、発表準備（背景、目的、方法まで）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予備実験計画の発表のためにパワーポイントで発表用資料を作成し、発表の練習をする。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	**授業テーマ**	中間発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画について中間発表（背景、目的、方法まで）を行い、ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表スライドの作成、発表練習を行う。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	**授業テーマ**	予備実験データ検討①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	改定した実験計画書を提出。計画した予備実験を実行する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	データが出れば、図表の作成を行う。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	**授業テーマ**	予備実験データ検討②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	改定した実験計画書を提出。計画した予備実験を実行する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図表の作成を行う。参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	**授業テーマ**	予備実験データ検討③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	計画した予備実験を実行する。結果、考察について検討を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図表の作成を行う。参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	予備実験データ検討④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	計画した予備実験を実行する。結果、考察について検討を行う。

第13回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	図表の作成を行う。参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間(分)	50分
第14回	授業テーマ	予備実験についてまとめの発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予備実験について中間発表（背景、目的、方法、結果、考察）を行い、ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表スライドの作成、発表練習を行う。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間(分)	50分

学習計画注記

テーマ内容によっては準備に時間がかかることもあるので、授業外学習時間については変動があると予想される。また、一部は学外での活動を要する可能性もある（必ず事前に調整する）。原則として各自テーマを設定する。

学生へのフィードバック方法

基本的にゼミ形式で進行するので、授業中・発表中の質問・回答等、フィードバックを随時行う。

評価方法

授業への参加度（積極的に意見を出し、自分の考えを明らかにできているか）と課題となる発表内容・完成度で評価する。

ルーブリック表は、クラスルームに掲示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
授業への参加度	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合

授業への参加度50%
プレゼンテーション50%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

提示されたテーマにあわせて紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】様々な立場や状況の人々に、自分が検討した内容を具体的に伝えることができる。
【思考・判断】種々の情報を整理し、研究テーマの意義を客観的に判断できる。
【関心・意欲・態度】自らテーマを設定し、課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。

【技能・表現】体系的な学修を通じて、研究テーマの内容・意義を分かりやすく伝えることができる。

オフィスアワー

前期 水曜日 2限 2108研究室
後期 木曜日 2限 2108研究室
面談を希望する場合はmailで事前に連絡を入れて下さい。

学生へのメッセージ

研究とは、誰も知らないことを探求することで、本来その人の自主的な興味に基づいて行うものです。研究を進める上で大切なことは、行動力、観察力、発想力と責任感です。報告、連絡、相談をよくして、共に研究活動を行いましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	多くの回で、履修者同士が議論・検討・提案できる機会を設定します。
情報リテラシー教育	○	研究情報・文献検索を行い情報を収集し整理を行い、レポート・計画書の作成、プレゼンテーションによるアウトプット方法を学びます。
ICT活用	○	研究情報・文献調査については、インターネットを利用しての情報収集を行います。また各種ソフトウェアを使用して、数値データ・画像データ等の解析を行います。

講義コード	G06072011
講義名	食物総合演習Ａ（笠松）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

R30710M12

授業概要(教育目的)

3年次までに学修した知識・技術を総合的に判断する能力を養うことを目的とし、栄養士や食のスペシャリストとして、社会で活動する多様な分野について最新の情報をもとにした演習を行う。
卒業論文と連動して、実験を計画・実施するための、調理学分野の文献検索や適切な対照区の設け方設定などの実験計画法を自分の課題を題材として学ぶ。課題に適した実験方法が書かれている論文・教科書の読み込なしについて学習する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	具体的な研究テーマ案を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	提案する研究テーマについて，その意義（オリジナリティ・有用性等）を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分が興味を持ったテーマを探索し、テーマ調査や予備試験を粘り強く取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	研究テーマの内容とその意義（オリジナリティ・有用性等）を分かりやすくプレゼンテーションができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション・希望調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室のミーティングを行います。卒業までの年間予定等を確認します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を確認し、授業を受ける準備を進めてください。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	研究室ガイダンス

第2回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	本研究室の研究テーマの紹介、本研究室のルール説明、研究計画書の作成手順の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマの探索を始める。
	教室外学習の時間(分)	50分
第3回	**授業テーマ**	文献検索①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究するためには、研究対象に対して知識、理解が必要である。そのために、関連文献を調べ、ひも解く力を養う。インターネット検索や図書館のOPACの使い方、文献の取り寄せ方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究室テーマの中でまた興味のあるテーマについて探索する。
	教室外学習の時間(分)	50分
第4回	**授業テーマ**	文献検索②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室のテーマの中で興味のあるテーマについて文献検索を行い、読み込み、要点をまとめる。発表用にパワーポイント資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献の入手と読み込みおよび文献の理解できなかった箇所の復習を行う。
	教室外学習の時間(分)	50分
第5回	**授業テーマ**	文献紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自、興味・関心の内容，興味・関心を抱いた理由を説明し、検索文献のまとめをパワーポイントを使用して行う。質問・提案等を受けてより具体化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の興味・関心と，研究する内容との関係について、また収集した情報の内容・精度を検討し、説明できるようにしておく。
	教室外学習の時間(分)	50分
第6回	**授業テーマ**	予備実験計画①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画書の作成方法について。
	教室外学習(予習・復習)の内容	興味のある研究テーマについて研究計画書を作成する。
	教室外学習の時間(分)	50分
第7回	**授業テーマ**	予備実験計画②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画書の作成、提出。（背景、目的、方法まで）
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。

	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	**授業テーマ**	予備実験計画③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	訂正を受けた実験計画書について修正、発表準備（背景、目的、方法まで）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予備実験計画の発表のためにパワーポイントで発表用資料を作成し、発表の練習をする。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	**授業テーマ**	中間発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画について中間発表（背景、目的、方法まで）を行い、ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表スライドの作成、発表練習を行う。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	**授業テーマ**	予備実験データ検討①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	改定した実験計画書を提出。計画した予備実験を実行する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	データが出れば、図表の作成を行う。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	**授業テーマ**	予備実験データ検討②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	改定した実験計画書を提出。計画した予備実験を実行する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図表の作成を行う。参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	**授業テーマ**	予備実験データ検討③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	計画した予備実験を実行する。結果、考察について検討を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図表の作成を行う。参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	予備実験データ検討④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	計画した予備実験を実行する。結果、考察について検討を行う。

第13回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	図表の作成を行う。参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間(分)	50分
第14回	授業テーマ	予備実験についてまとめの発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予備実験について中間発表（背景、目的、方法、結果、考察）を行い、ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表スライドの作成、発表練習を行う。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間(分)	50分

学習計画注記

テーマ内容によっては準備に時間がかかることもあるので、授業外学習時間については変動があると予想される。また、一部は学外での活動を要する可能性もある（必ず事前に調整する）。原則として各自テーマを設定する。

学生へのフィードバック方法

基本的にゼミ形式で進行するので、授業中・発表中の質問・回答等、フィードバックを随時行う。

評価方法

授業への参加度（積極的に意見を出し、自分の考えを明らかにできているか）と課題となる発表内容・完成度で評価する。

ルーブリック表は、クラスルームに掲示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
授業への参加度	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合

授業への参加度50%
プレゼンテーション50%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

提示されたテーマにあわせて紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】様々な立場や状況の人々に、自分が検討した内容を具体的に伝えることができる。
【思考・判断】種々の情報を整理し、研究テーマの意義を客観的に判断できる。
【関心・意欲・態度】自らテーマを設定し、課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。

【技能・表現】体系的な学修を通じて、研究テーマの内容・意義を分かりやすく伝えることができる。

オフィスアワー

前期 水曜日 2限 2108研究室
後期 木曜日 2限 2108研究室
面談を希望する場合はmailで事前に連絡を入れて下さい。

学生へのメッセージ

研究とは、誰も知らないことを探求することで、本来その人の自主的な興味に基づいて行うものです。研究を進める上で大切なことは、行動力、観察力、発想力と責任感です。報告、連絡、相談をよくして、共に研究活動を行いましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	多くの回で、履修者同士が議論・検討・提案できる機会を設定します。
情報リテラシー教育	○	研究情報・文献検索を行い情報を収集し整理を行い、レポート・計画書の作成、プレゼンテーションによるアウトプット方法を学びます。
ICT活用	○	研究情報・文献調査については、インターネットを利用しての情報収集を行います。また各種ソフトウェアを使用して、数値データ・画像データ等の解析を行います。

講義コード	G06072012
講義名	食物総合演習Ａ（海野）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

R30710M12

授業概要(教育目的)

3年次までに学修した知識・技術を総合的に判断する能力を養うことを目的とし、栄養士や食のスペシャリストとして、社会で活動する多様な分野について最新の情報をもとにした演習を行う。
卒業論文と連動して、実験を計画・実施するための、調理学分野の文献検索や適切な対照区の設け方設定などの実験計画法を自分の課題を題材として学ぶ。課題に適した実験方法が書かれている論文・教科書の読み込なしについて学習する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	具体的な研究テーマ案を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	提案する研究テーマについて，その意義（オリジナリティ・有用性等）を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分が興味を持ったテーマを探索し、テーマ調査や予備試験を粘り強く取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	研究テーマの内容とその意義（オリジナリティ・有用性等）を分かりやすくプレゼンテーションができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション・希望調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室のミーティングを行います。卒業までの年間予定等を確認します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を確認し、授業を受ける準備を進めてください。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	研究室ガイダンス

第2回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	本研究室の研究テーマの紹介、本研究室のルール説明、研究計画書の作成手順の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマの探索を始める。
	教室外学習の時間(分)	50分
第3回	**授業テーマ**	文献検索①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究するためには、研究対象に対して知識、理解が必要である。そのために、関連文献を調べ、ひも解く力を養う。インターネット検索や図書館のOPACの使い方、文献の取り寄せ方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究室テーマの中でまた興味のあるテーマについて探索する。
	教室外学習の時間(分)	50分
第4回	**授業テーマ**	文献検索②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室のテーマの中で興味のあるテーマについて文献検索を行い、読み込み、要点をまとめる。発表用にパワーポイント資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献の入手と読み込みおよび文献の理解できなかった箇所の復習を行う。
	教室外学習の時間(分)	50分
第5回	**授業テーマ**	文献紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自、興味・関心の内容，興味・関心を抱いた理由を説明し、検索文献のまとめをパワーポイントを使用して行う。質問・提案等を受けてより具体化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の興味・関心と，研究する内容との関係について、また収集した情報の内容・精度を検討し、説明できるようにしておく。
	教室外学習の時間(分)	50分
第6回	**授業テーマ**	予備実験計画①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画書の作成方法について。
	教室外学習(予習・復習)の内容	興味のある研究テーマについて研究計画書を作成する。
	教室外学習の時間(分)	50分
第7回	**授業テーマ**	予備実験計画②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画書の作成、提出。（背景、目的、方法まで）
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。

	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	**授業テーマ**	予備実験計画③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	訂正を受けた実験計画書について修正、発表準備（背景、目的、方法まで）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予備実験計画の発表のためにパワーポイントで発表用資料を作成し、発表の練習をする。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	**授業テーマ**	中間発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画について中間発表（背景、目的、方法まで）を行い、ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表スライドの作成、発表練習を行う。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	**授業テーマ**	予備実験データ検討①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	改定した実験計画書を提出。計画した予備実験を実行する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	データが出れば、図表の作成を行う。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	**授業テーマ**	予備実験データ検討②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	改定した実験計画書を提出。計画した予備実験を実行する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図表の作成を行う。参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	**授業テーマ**	予備実験データ検討③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	計画した予備実験を実行する。結果、考察について検討を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図表の作成を行う。参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	予備実験データ検討④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	計画した予備実験を実行する。結果、考察について検討を行う。

第13回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	図表の作成を行う。参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間(分)	50分
第14回	授業テーマ	予備実験についてまとめの発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予備実験について中間発表（背景、目的、方法、結果、考察）を行い、ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表スライドの作成、発表練習を行う。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間(分)	50分

学習計画注記

テーマ内容によっては準備に時間がかかることもあるので、授業外学習時間については変動があると予想される。また、一部は学外での活動を要する可能性もある（必ず事前に調整する）。原則として各自テーマを設定する。

学生へのフィードバック方法

基本的にゼミ形式で進行するので、授業中・発表中の質問・回答等、フィードバックを随時行う。

評価方法

授業への参加度（積極的に意見を出し、自分の考えを明らかにできているか）と課題となる発表内容・完成度で評価する。

ルーブリック表は、クラスルームに掲示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
授業への参加度	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合

授業への参加度50%
プレゼンテーション50%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

提示されたテーマにあわせて紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】様々な立場や状況の人々に、自分が検討した内容を具体的に伝えることができる。
【思考・判断】種々の情報を整理し、研究テーマの意義を客観的に判断できる。
【関心・意欲・態度】自らテーマを設定し、課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。

【技能・表現】体系的な学修を通じて、研究テーマの内容・意義を分かりやすく伝えることができる。

オフィスアワー

前期 水曜日 2限 2108研究室
後期 木曜日 2限 2108研究室
面談を希望する場合はmailで事前に連絡を入れて下さい。

学生へのメッセージ

研究とは、誰も知らないことを探求することで、本来その人の自主的な興味に基づいて行うものです。研究を進める上で大切なことは、行動力、観察力、発想力と責任感です。報告、連絡、相談をよくして、共に研究活動を行いましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	多くの回で、履修者同士が議論・検討・提案できる機会を設定します。
情報リテラシー教育	○	研究情報・文献検索を行い情報を収集し整理を行い、レポート・計画書の作成、プレゼンテーションによるアウトプット方法を学びます。
ICT活用	○	研究情報・文献調査については、インターネットを利用しての情報収集を行います。また各種ソフトウェアを使用して、数値データ・画像データ等の解析を行います。

講義コード	G06072013
講義名	食物総合演習Ａ（大中）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

R30710M12

授業概要(教育目的)

3年次までに学修した知識・技術を総合的に判断する能力を養うことを目的とし、栄養士や食のスペシャリストとして、社会で活動する多様な分野について最新の情報をもとにした演習を行う。
卒業論文と連動して、実験を計画・実施するための、調理学分野の文献検索や適切な対照区の設け方設定などの実験計画法を自分の課題を題材として学ぶ。課題に適した実験方法が書かれている論文・教科書の読み込なしについて学習する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	具体的な研究テーマ案を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	提案する研究テーマについて，その意義（オリジナリティ・有用性等）を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分が興味を持ったテーマを探索し、テーマ調査や予備試験を粘り強く取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	研究テーマの内容とその意義（オリジナリティ・有用性等）を分かりやすくプレゼンテーションができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション・希望調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室のミーティングを行います。卒業までの年間予定等を確認します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を確認し、授業を受ける準備を進めてください。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	研究室ガイダンス

第2回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	本研究室の研究テーマの紹介、本研究室のルール説明、研究計画書の作成手順の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマの探索を始める。
	教室外学習の時間(分)	50分
第3回	**授業テーマ**	文献検索①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究するためには、研究対象に対して知識、理解が必要である。そのために、関連文献を調べ、ひも解く力を養う。インターネット検索や図書館のOPACの使い方、文献の取り寄せ方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究室テーマの中でまた興味のあるテーマについて探索する。
	教室外学習の時間(分)	50分
第4回	**授業テーマ**	文献検索②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室のテーマの中で興味のあるテーマについて文献検索を行い、読み込み、要点をまとめる。発表用にパワーポイント資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献の入手と読み込みおよび文献の理解できなかった箇所の復習を行う。
	教室外学習の時間(分)	50分
第5回	**授業テーマ**	文献紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自、興味・関心の内容，興味・関心を抱いた理由を説明し、検索文献のまとめをパワーポイントを使用して行う。質問・提案等を受けてより具体化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の興味・関心と，研究する内容との関係について、また収集した情報の内容・精度を検討し、説明できるようにしておく。
	教室外学習の時間(分)	50分
第6回	**授業テーマ**	予備実験計画①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画書の作成方法について。
	教室外学習(予習・復習)の内容	興味のある研究テーマについて研究計画書を作成する。
	教室外学習の時間(分)	50分
第7回	**授業テーマ**	予備実験計画②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画書の作成、提出。（背景、目的、方法まで）
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。

	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	**授業テーマ**	予備実験計画③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	訂正を受けた実験計画書について修正、発表準備（背景、目的、方法まで）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予備実験計画の発表のためにパワーポイントで発表用資料を作成し、発表の練習をする。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	**授業テーマ**	中間発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画について中間発表（背景、目的、方法まで）を行い、ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表スライドの作成、発表練習を行う。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	**授業テーマ**	予備実験データ検討①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	改定した実験計画書を提出。計画した予備実験を実行する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	データが出れば、図表の作成を行う。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	**授業テーマ**	予備実験データ検討②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	改定した実験計画書を提出。計画した予備実験を実行する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図表の作成を行う。参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	**授業テーマ**	予備実験データ検討③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	計画した予備実験を実行する。結果、考察について検討を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図表の作成を行う。参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	予備実験データ検討④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	計画した予備実験を実行する。結果、考察について検討を行う。

第13回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	図表の作成を行う。参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間(分)	50分
第14回	授業テーマ	予備実験についてまとめの発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予備実験について中間発表（背景、目的、方法、結果、考察）を行い、ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表スライドの作成、発表練習を行う。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間(分)	50分

学習計画注記

テーマ内容によっては準備に時間がかかることもあるので、授業外学習時間については変動があると予想される。また、一部は学外での活動を要する可能性もある（必ず事前に調整する）。原則として各自テーマを設定する。

学生へのフィードバック方法

基本的にゼミ形式で進行するので、授業中・発表中の質問・回答等、フィードバックを随時行う。

評価方法

授業への参加度（積極的に意見を出し、自分の考えを明らかにできているか）と課題となる発表内容・完成度で評価する。

ルーブリック表は、クラスルームに掲示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
授業への参加度	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合

授業への参加度50%
プレゼンテーション50%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

提示されたテーマにあわせて紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】様々な立場や状況の人々に、自分が検討した内容を具体的に伝えることができる。
【思考・判断】種々の情報を整理し、研究テーマの意義を客観的に判断できる。
【関心・意欲・態度】自らテーマを設定し、課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。

【技能・表現】体系的な学修を通じて、研究テーマの内容・意義を分かりやすく伝えることができる。

オフィスアワー

前期 水曜日 2限 2108研究室
後期 木曜日 2限 2108研究室
面談を希望する場合はmailで事前に連絡を入れて下さい。

学生へのメッセージ

研究とは、誰も知らないことを探求することで、本来その人の自主的な興味に基づいて行うものです。研究を進める上で大切なことは、行動力、観察力、発想力と責任感です。報告、連絡、相談をよくして、共に研究活動を行いましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	多くの回で、履修者同士が議論・検討・提案できる機会を設定します。
情報リテラシー教育	○	研究情報・文献検索を行い情報を収集し整理を行い、レポート・計画書の作成、プレゼンテーションによるアウトプット方法を学びます。
ICT活用	○	研究情報・文献調査については、インターネットを利用しての情報収集を行います。また各種ソフトウェアを使用して、数値データ・画像データ等の解析を行います。

講義コード	G06073002
講義名	食物総合演習Ｂ（河田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	河田 敦子	指定なし

ナンバリング

R30711M12

授業概要(教育目的)

4年生で取り組む卒業研究の準備学習を行う。
①文献調査の方法（インターネットで調べる。図書館で調べる。文書館で調査する。）
②フィールドワークの方法（インタビュー調査。現地調査。聞き取り調査。学校調査等）
③テーマの設定（テーマはどの程度の絞り、広がりのある展望のあるテーマにするか）
④先行研究の検討
以上の4項目は、どのような研究においても必要な基礎力である。ゼミナールBでは③、④について文献を読んだり、図書館に赴いたり、学校調査に参加する等、基礎的理解を深め、能力を高める。

履修条件

ゼミナールAを履修済みであること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	研究とはどういうものかを理解する。
思考・判断の観点 (K)	テーマの設定はどのようにしたら良いのかを考えられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	何かを研究によって明らかにしたいという意欲を持つ。
技術・表現の観点 (A)	自分の研究で明らかにしたいことについての方法を考え、それを解明する筋を表現することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	研究テーマの設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分が興味があることを具体化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	いろいろな情報を得ながら、テーマを絞ったり広げたり試みる。
	教室外学習の時間（分）	240分
第2回	授業テーマ	テーマの設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	おおよそのテーマを決めたら、そのテーマに関連する文献を渉猟する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	国会図書館OPACや本学図書館、様々な図書館のホームページに入って、多様なキーワードで検索を行う。
	教室外学習の時間（分）	240分
第3回	授業テーマ	研究方法を考える。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文献調査なのかフィールドワークなのか、自分のテーマと適性をもとに考える。箕浦康子著『フィールドワークの技法と実際』第4章を読む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	箕浦康子著『フィールドワークの技法と実際』第4章を一人1節ずつ担当して読む。自分の調べたいことがあるところ、人がいるところへ行ってみる計画を立てる。
	教室外学習の時間（分）	240分
第4回	授業テーマ	学校調査（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校にはどのような文書があるのか、実際に学校調査を行う。調査時、調査終了後にどのような挨拶が必要なのかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	撮影用カメラ、フィールドノートを準備すること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	学校調査（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校にはどのような文書があるのか、実際に学校調査を行う。調査したことの記録の方法、個人情報への配慮を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	撮影用カメラ、フィールドノートを準備すること。
	教室外学習の時間（分）	240分
第6回	授業テーマ	調査結果の整理(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	撮影した情報の整理。エクセル表の作成の仕方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	エクセル表の作成方法を学んだら、自宅でデータ入力をする。
	教室外学習の時間（分）	240分
	授業テーマ	調査結果の整理(2)

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	撮影した情報の整理。エクセル表の作成の仕方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	エクセル表の作成方法を学んだら、自宅でデータ入力をする。
	教室外学習の時間（分）	240分
第8回	授業テーマ	調査結果から何を読み取るか
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	得られたデータを整理した結果から何が読み取れるかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	データをよく見る習慣を持つ。
	教室外学習の時間（分）	240分
第9回	授業テーマ	調査結果を発表し合う(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分なりに読み取った調査結果を報告し合う。アクティブラーニングである。
	教室外学習(予習・復習)の内容	報告発表の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	240分
第10回	授業テーマ	調査結果を発表し合う(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分なりに読み取った調査結果を報告し合う。アクティブラーニングである。
	教室外学習(予習・復習)の内容	報告発表の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	240分
第11回	授業テーマ	インタビュー調査（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究方法でインタビューを選んだ者は、インタビューノート作成とテープ起こしを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テープ起こしをしてくる。
	教室外学習の時間（分）	240分
第12回	授業テーマ	インタビュー調査から読み取れること
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インタビュー調査の報告会をする。言葉、表情、状況から何を読み取るかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	インタビュー調査記録の読み取り。
	教室外学習の時間（分）	240分
	授業テーマ	インタビュー調査から読み取れること
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インタビュー調査の報告会をする。言葉、表情、状況から何を読み取るかを考える。

第13回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	インタビュー調査記録の読み取り。
	教室外学習の時間（分）	240分
第14回	授業テーマ	河田ゼミの4年次生の卒研発表を聴く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4年次生の卒研発表を聴き、来年度に向けて卒業研究についての理解を深め、ゼミナールBを振り返って、何を学び、何を面白く感じたかを発表し合う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒研で何に取り組むか、自分の研究計画をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	60分

学生へのフィードバック方法

随時コメント、指導を行う。

評価方法

①自分が関心を持っているテーマに対し、どれほど真剣に、取り組んでいるか。
②学術的なレベルに達するために、先行研究や文献の探索に取り組んでいるか。
③調査対象となる人々との関わりや事象に対し、しっかりとした配慮や態度で取り組めているか。
④まとめられた研究成果は論理性があるか。
の項目で評価する。
評価方法・評価基準は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはクラスルーム
または授業内での配布等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
真剣に組む姿勢			○	
先行研究や文献の渉猟	○	○	○	
調査対象への配慮		○	○	○
研究成果の論理性	○	○		○

評価割合

①テーマに対する取り組み方。（30%）
②興味関心を学術的なレベルに達するために、先行研究の探索に取り組んでいるか。（20%）
③調査対象への配慮。（20%）
④研究成果の論理性。（30%）

使用教科書名(ISBN番号)

特に無。

参考図書

・原ひろ子『観る・集める・考えるー発見のためのフィールド・ワーク』カタツムリ社1993年
・箕浦康子『フィールドワークの技法』
・河田敦子「宮城県M郡K町における「姉家督」について」『民族学研究』1985年
・林竹二『授業の成立』筑摩書房1983年
・

ディプロマポリシーとの関連

○知識・理解
・学内外で講義･実習･演習を通し、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている
○思考・判断
・多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている
③関心・意欲・態度
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組む ことができる。

オフィスアワー

アポイントメントにより、随時相談に応じる。

学生へのメッセージ

研究は、自分のテーマに対する興味関心の強さ深さによって大きく左右されます。その意味で、自分を見つめ、育てる良い学びをしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	随時、ゼミ発表を行う。
情報リテラシー教育	○	文献検索。図書館での調査。
ICT活用	○	図書館ラーニングコモンズでの模擬授業も可能です。

講義コード	G06073003
講義名	食物総合演習Ｂ（三澤）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	三澤 朱実	指定なし

ナンバリング

R30711M12

授業概要(教育目的)

・本演習では、栄養素等の分析結果、食生活状況に関するアンケート調査結果の処理、集計、分析方法、分析結果を用いた図表の作成方法、論文の構成、書き方について解説するので、ワークシート等を使って演習して頂く。次年度の研究活動のためのスキル、プレゼンテーション能力も身につくよう教授します。

履修条件

・栄養指導論、栄養カウンセリング論、公衆栄養学、食物総合演習Aを履修済み、栄養指導実習、栄養カウンセリング実習、公衆栄養学実習を履修中であることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・学生が対象となる人々の 多様な食事、食生活、食環境の実態を表現するため、データの分析、図表の作成方法について学び、理解できる。
思考・判断の観点 (K)	・学生が多様な栄養・食情報を整理し、表現して、客観的に思考、判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・学生が対象集団・地域社会の課題を見い出し、その解決のための食育や食生活改善に興味や関心を持ち、貢献したいという意欲をもつようになる。
技術・表現の観点 (A)	・学生が対象集団の課題解決のための教材開発や食事改善計画をプランニングし、それらを活用して周知したり、発表できる。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗ	

第1回	ｼｰ教育・ICT活用を含む)	食物総合演習Bの全体の進め方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第2回	授業テーマ	実践社会の食育・栄養教育の体験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実践社会における食育や栄養教育の学習をしていただく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実践社会における食育や栄養教育を実施したあとのまとめ方について、事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第3回	授業テーマ	研究デザイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーマに関する研究デザインを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実践社会における食育や栄養教育、その評価方法について、事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第4回	授業テーマ	調査票・食育方法の考案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究デザインに沿って調査票・食教育方法を考案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査票について、事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第5回	授業テーマ	調査票・食育方法の考案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究デザインに沿って調査票・食教育案を考案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実践社会における食育や栄養教育を実施したあとのまとめ方について、事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第6回	授業テーマ	調査票・食育方法の考案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究デザインに沿って調査票・食教育案を考案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	統計処理された文献を読みこなしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第7回	授業テーマ	調査票の処理・分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究デザインに沿って調査票・食教育案を考案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	統計処理された文献を読みこなしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分

第8回	授業テーマ	調査票・食育方法の考案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究デザインに沿って調査票・食教育案を考案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	統計処理された文献を読みこなしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第9回	授業テーマ	調査票・食育方法の考案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究デザインに沿って調査票・食教育案を考案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	統計処理された文献を読みこなしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第10回	授業テーマ	調査票・食育方法の考案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究デザインに沿って調査票・食教育案を考案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	統計処理された文献を読みこなしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第11回	授業テーマ	プレ調査実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考案した調査票を使ってプレ調査を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	同じ研究分野の発表資料を事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第12回	授業テーマ	プレ調査結果分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレ調査の実施結果を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	同じ研究分野の発表資料を事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第13回	授業テーマ	プレ調査結果分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレ調査の実施結果を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	同じ研究分野の発表資料を事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第14回	授業テーマ	報告資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレ調査の実施結果を報告する。 「課題提出あり」
	教室外学習(予習・復習)の内容	過大資料を作成しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分

学習計画注記

・授業の最後に毎回質問を受け付けます。
・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問する。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。）
・新型コロナの状況、やむを得ない事情（物理的な環境・教材等）によっては、授業内容が変更されることがあります。

学生へのフィードバック方法

・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックします。

評価方法

・平常点50%、作成資料または校内外活動点50%で、総合的に評価します。
・提出課題（研究資料作成）は下表に示すスキルを養うことを目的としています。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
資料点	○	○	○	○

評価割合

・平常点50%、作成資料または校内外活動点50%で評価します。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

使用教科書名(ISBN番号)

・特に指定しない

参考図書

・「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル 第3版 （第一出版）
(ISBN 978-4-8041-1358-6 C3077)
・日本人の食事摂取基準 2025版 （第一出版）

参考URL

http://www.daiichi-shuppan.co.jp/book/book205.html

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
・生活にかかわる知識を多面的に身に付けている。
・多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。
【思考・判断】
・地域・社会に関する諸課題を自分ごととしてとらえ、適切な手法で分析することができる。
・多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】
・他者の視点やニーズを理解し、社会に新たな価値を見出すことができる。
・地域・社会の多様な人々と協働して、新しいライフスタイルを共に創り上げることができる。
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
【技能・表現】
・生活にかかわる技能を多面的に身に付けている。
・人々が快適に生活できる持続可能な生活様式を企画・提案することができる。
・生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー

・月曜5限、火曜5限：栄養指導研究室（2106室）
・事前にg-mail（misawa@kasei-gakuin.ac.jp）で予約してから来訪して下さい。

学生へのメッセージ

・栄養士になるための必須専門科目である。実社会における食育等の経験や地域連携活動の機会を提供するので、是非主体的、積極的に学んで欲しい。自分の興味ある研究活動を見つけ、卒業後も役に立ち思い出に残るような研究となるよう取り組んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は、病院（管理栄養士）及び企業（第一種衛生管理者、産業栄養指導者）において、「栄養の指導」分野の中核を成す栄養指導及び栄養教育の実務経験を有している。将来の栄養士・管理栄養士として習得すべき栄養指導（ハイリスクアプローチ）、予防的栄養教育、公衆栄養活動（ポピュレーションアプローチ）に関して、実例を示しより実践的に、結果（アウトカム）を出せるよう、研究を指導します。
アクティブ・ラーニング	○	・対象者の食生活改善上の問題解決を図り、栄養の指導分野の技術をより高めるため、チームでデイスカッションし、能動的に学べるよう教授します。
情報リテラシー教育	○	・正しく有益な健康・栄養情報の検索・収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）、データ入力・集計（エクセル）、栄養分析（エクセル栄養君）、統計解析（SPSS）等の各種ソフトウェアを活用して教授します。 ・資料提供、課題提出等に活用する。 ・ノートパソコンは必携です。

講義コード	G06073005
講義名	食物総合演習Ｂ（岩本）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	岩本 直樹	指定なし

ナンバリング

R30711M12

授業概要(教育目的)

卒業研究時には研究の遂行、論文作成時、卒業後にも社会や進学により研究や調査を行うような現場では、他の研究者が行っている研究内容を参考に、利用する必要性がある。そのためには学術論文等を読み、理解できることが必要となる。本演習では食科学、栄養学分野における学術論文を読みこなせる能力を養う。また、併せて栄養士という資格を実践的・包括的に捉えることができる能力も養う。本科目は、栄養士免許証取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	栄養と食のスペシャリストとして、栄養学の概念、消化・吸収の調節機構、糖質、脂質等の栄養素の摂取と生活習慣病との関連について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	3年次までに学んだ様々な知識・技術を横断的に統合し、現代の食・栄養に関わる課題に対して解決案が提示できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1．各課題に対し、他者との協働を重んじて貢献することができる。 2．栄養と食のスペシャリストとして、人々の健康に広く貢献する者としての意欲と使命感を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	学習内容や研究活動についてプレゼンテーションができ、根拠に基づくディスカッションができる。 社会の一員であることを自覚し、コミュニケーション能力および豊かな人間性を身につけている。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	オリエンテーション（食物総合演習Bの目的と進め方）を行

第1回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマを考える。栄養士実力認定試験の過去問題についてグループ学習を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	栄養士実力認定試験対策①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養士実力認定試験の問題（栄養学総論）についてディスカッション及びプレゼンテーションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習内容に対して復習を行う。また、次回の予習としてグループ学習を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	卒業研究計画書作成準備①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4年次の卒業研究のための研究テーマを予備実験・予備調査や文献調査等を通して具体化させていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究体験活動における報告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	栄養士実力認定試験対策②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養士実力認定試験の問題（応用栄養学）についてディスカッション及びプレゼンテーションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習内容に対して復習を行う。また、次回の予習としてグループ学習を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	卒業研究計画書作成準備②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4年次の卒業研究のための研究テーマを予備実験・予備調査や文献調査等を通して具体化させていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究体験活動における報告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	栄養士実力認定試験対策③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養士実力認定試験の問題（解剖生理学）についてディスカッション及びプレゼンテーションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習内容に対して復習を行う。また、次回の予習としてグループ学習を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	卒業研究計画書作成準備③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4年次の卒業研究のための研究テーマを予備実験・予備調査や文献調査等を通して具体化させていく。

	教室外学習(予習・復習)の内容	研究体験活動における報告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	卒業研究計画書作成準備④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4年次の卒業研究のための研究テーマを予備実験・予備調査や文献調査等を通して具体化させていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究体験活動における報告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	栄養士実力認定試験対策④と学習到達度の確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養士実力認定試験の問題（まとめ）についてディスカッション及びプレゼンテーションを行う。授業時間の一部で学習到達度の確認テストを実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習内容に対して復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	卒業研究計画書作成準備⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4年次の卒業研究のための研究テーマを予備実験・予備調査や文献調査等を通して具体化させていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究体験活動における報告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	卒業研究計画書作成準備⑥
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4年次の卒業研究のための研究テーマを予備実験や文献調査等を通して考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究体験活動における報告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	卒業研究計画書作成準備⑦
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4年次の卒業研究のための研究テーマを予備実験・予備調査や文献調査等を通して具体化させていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究体験活動における報告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	卒業研究計画書作成準備⑧
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4年次の卒業研究のための研究テーマを予備実験や文献調査等を通して考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究体験活動における報告書を作成する。

	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	総括と卒業研究計画書提出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1回目～13回目の演習についての総括を行い、研究テーマを具体化した卒業研究計画書を提出してもらう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	来年度の卒業研究に向けて文献調査等を進める。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

※シラバスの内容は、やむをえない事情等により一部変更することがあります。

学生へのフィードバック方法

授業時間内でフィードバックできない場合は研究室で個別に対応する。また質問等がある場合には2101研究室まで訪問（E-mailでも可）すること。

評価方法

◆ルーブリックに基づいて成績を評価する。ルーブリックについてはGoogle Classroom等で提示する。
・確認テスト（栄養士実力認定試験出題基準の問題）を行い、20点満点で出題する。
・随時提出を求める研究活動報告書および毎回のプレゼンテーションを評価する。
・提出を求める研究計画書について評価する。
確認テスト、報告書作成、プレゼンテーション、研究計画書は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
確認テスト	○			
報告書	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○
研究計画書	○	○	○	○

評価割合

確認テスト10%、研究活動報告書50%およびプレゼンテーション30%、研究計画書10%で総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

全国栄養士養成施設協会 編『栄養士実力認定試験過去問題集』建帛社（978-4-7679-0659-1）

参考図書

・林淳三編『基礎栄養学』建帛社（978-4-7679-0529-7）
・松村譲兒編『人体解剖ビジュアル』サイオ出版（9784907176273）
・栢下淳 他編『栄養科学イラストレイテッド応用栄養学』羊土社（978-4-7581-0877-5）
・小野友紀編『子どもの食と栄養』アイ・ケイコーポレーション（978-4-87492-347-4）
・多賀昌樹編『臨床栄養学基礎から学べる』アイ・ケイコーポレーション（9784874923641）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。

【関心・意欲・態度】学習内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技能・表現】専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー

火曜3・4限 2101研究室
（2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）

学生へのメッセージ

栄養士の勉強の上に研究があります。より良い研究をするために、しっかり栄養士の知識を身につけてください。問題集を解く際にグループ学習を事前に行ってもらいます。また、研究活動にあたっては、担当教員（岩本）と十分にコミュニケーションをとり、研究活動に対する助言・指導を受けるとともに、進捗状況に関する情報を共有してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	同じテーマを持った班員において、調理や実験を協同し、得られた結果を共有・解析する。 グループ学習を事前に行った上で、担当教員を含めて活発なディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。また、確認テスト等はGoogleフォームを用いる。

講義コード	G06073007
講義名	食物総合演習Ｂ（黒田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	黒田 久夫	指定なし

ナンバリング

R30711M12

授業概要(教育目的)

・本研究室の研究テーマを理解します。
・研究活動に必要な知識を習得します。
・研究活動の進め方と、研究論文の作成方法を理解します。
・研究倫理について学びます。
・初歩的な批判的思考のスキルを習得します。

履修条件

1. 本研究室の研究分野は、「食品機能学」です。物質レベルで、食品の機能を解明することを目的としています。自然科学を基盤とし、食文化や食育など、人文科学・社会科学のテーマは扱いません。本ゼミでは、研究の結果、食品が開発される可能性はありますが、食品の開発を目的に研究を行うことはありません。研究の目的は、食品機能の解明であり、食品の開発ではありません。
2. PCを毎回持ってきてください。マウスも用意して、PCに接続できるようにしてください。ワード・エクセル・パワーポイントをインストールしておくこと。用意が出来ていない場合は、成績にペナルティを加えます。第1回から、準備してください。
3. 研究活動は、基本的にチーム単位で行います。
【アプリのPCへのインストールについて】
大学のMicrosoft 365 Appsが無料で利用できます。まだ、自分のPCにアプリ（ワード・エクセル・パワポ）を入れていない場合は、以下のリンクを開いて利用できるようにしてください。不明な点は、町田業務部に問い合わせてください。
https://sites.google.com/a/kasei-gakuin.ac.jp/ipc/microsoft

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

	・研究に必要な２つの要素（新規性と進歩性）が理解できている。

知識・理解の観点 (K)	・研究に必要な知識が身についている。 ・研究倫理が理解できている。
思考・判断の観点 (K)	・初歩的な批判的思考ができる。 ・研究の新規性・進歩性が判断できる。 ・試験方法が研究倫理に適合するかを判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・文献読解や試験を意欲的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	・研究に必要なスキルが身についている。 ・ゼミにおいて、質問や意見を発信できる。 ・調査結果や実験結果を合理的に説明できる（口頭・文書）。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・食物総合演習Bの進め方と予定を確認します。 ・評価方法を説明します。 ・研究倫理と倫理審査制度について説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容をよく確認してください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	**授業テーマ**	脂質と栄養に関する基礎知識（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質と栄養に関する基礎知識の学習
	教室外学習(予習・復習)の内容	理解度テストを良く復習し、期末試験の対策をしてください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	**授業テーマ**	脂質と栄養に関する基礎知識（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質と栄養に関する基礎知識の学習
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献の指定した個所を読み、クラスルームから出題される質問に回答してください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	**授業テーマ**	脂質と栄養に関する基礎知識（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質と栄養に関する基礎知識の学習
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査・予備試験の考察と気づきを研究ノートに記載してください。 理解度チェックを誤答した場合は、授業内容をもう一度よく復習してください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	**授業テーマ**	脂質と栄養に関する基礎知識（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質と栄養に関する基礎知識の学習
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査・予備試験の考察と気づきを研究ノートに記載してください。 理解度チェックを誤答した場合は、授業内容をもう一度よく復習してください。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	脂質と栄養に関する基礎知識（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質と栄養に関する基礎知識の学習

第6回	教室外学習(予習・復習)の内容	調査・予備試験の考察と気づきを研究ノートに記載してください。 理解度チェックを誤答した場合は、授業内容をもう一度よく復習してください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	調査（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１週間の食事の分析
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に完了できなかったことを、次回までに取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	調査（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１週間の食事の分析
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に完了できなかったことを、次回までに取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	調査（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１週間の食事の分析
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に完了できなかったことを、次回までに取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	授業テーマ	調査（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１週間の食事の分析
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に完了できなかったことを、次回までに取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	授業テーマ	調査（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１週間の食事の分析
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に完了できなかったことを、次回までに取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	授業テーマ	研究論文の作成方法の学習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究論文の構造と作成方法を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	授業テーマ	期末試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・脂質と栄養に関する基礎知識について、ペーパーテストを行います。 ・知識の確認をしてください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	授業テーマ	４年生の卒業研究発表会（最終）に参加する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先輩方の発表を聞いて、来年度の卒業研究への準備をしてください。

	教室外学習(予習・復習)の内容	授業フィードバックを回答してください。
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

・毎回PCを持参すること。
・テキストを読むワークを行います。

学生へのフィードバック方法

・ゼミの中で、質問に答えます。

評価方法

・授業への取り組み
・教室外学習
・期末試験
評価の基準については、クラスルームに掲示するルーブリック表を確認してください。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業への取り組み	○	○	○	○
教室外学習	○	○	○	○
期末試験	○	○		○

評価割合

授業への取り組み（40%）
教室外学習（30%）
期末試験（30%）

使用教科書名(ISBN番号)

資料をクラスルームに掲示するか、プリントを配布します。

参考図書

資料をクラスルームに掲示するか、プリントを配布します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】学内外で講義･実習･演習を通し、基礎的・専門的知識を身につけ、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている
【関心・意欲・態度】
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる
・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある
【技能・表現】専門的、体系的な学修を通じて、優れたコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身につけている。その上で、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理･加工の技能と、これらの開発企画能力や表現力を身につけている

オフィスアワー

ゼミ後

学生へのメッセージ

・本研究室の食物総合演習Bでは、卒業研究に必要な知識とスキルについて学びます。
・研究に必要なコミュニケーションスキルやディスカッションの力も身につけます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	・ディスカッションを通して、論理思考力と対話力を鍛えます。
情報リテラシー教育	○	・各種学術データベースの使用方法を教授します。
ICT活用	○	・PCを積極的に利用します。 ・マイクロソフトオフィス（エクセル・パワーポイント・ワード）の発展的スキルを教授します。

講義コード	G06073010
講義名	食物総合演習Ｂ（米澤）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	米澤 加代	指定なし

ナンバリング

R30710M12

授業概要(教育目的)

3年次までに学修した知識・技術を総合的に判断する能力を養うことを目的とし、栄養士や食のスペシャリストとして、社会で活動する多様な分野について最新の情報をもとにした演習を行う。
卒業論文と連動して、実験を計画・実施するための、調理学分野の文献検索や適切な対照区の設け方などの実験計画法を自分の課題を題材として学ぶ。課題に適した実験方法が書かれている論文・教科書の読み込なしについて学習する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	具体的な研究テーマ案を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	提案する研究テーマについて、その意義（オリジナリティ・有用性等）を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分が興味を持ったテーマを探索し、テーマ調査や予備試験を粘り強く取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	研究テーマの内容とその意義（オリジナリティ・有用性等）を分かりやすくプレゼンテーションができる。

学習計画

	授業テーマ	研究室ガイダンス：研究テーマ関連領域の理解と研究テーマの決定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	食物総合演習Aの取り組みを参考に、卒業研究の準備を行う。研究テーマの決定。

第1回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマの検討を行う。
	教室外学習の時間(分)	50分
第2回	授業テーマ	文献検索①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマに関連する文献を検索し、熟読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマの関連領域の検討。
	教室外学習の時間(分)	50分
第3回	授業テーマ	文献検索②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室テーマ関連領域で検索した文献の読み込み、要点をまとめる。発表用にパワーポイント資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献の入手と読み込みおよび文献の理解できなかった箇所の復習を行う。
	教室外学習の時間(分)	50分
第4回	授業テーマ	文献紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文献について、研究テーマとの関連性、重要性、参考箇所について説明し、検索文献のまとめをパワーポイントを使用して行う。質問・提案等を受けてより具体化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマとの関連性、今後の研究への参考箇所の内容・精度を検討し、説明できるようにしておく。
	教室外学習の時間(分)	50分
第5回	授業テーマ	予備実験計画①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画書の再検討、作成。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマについて研究計画書を作成する。
	教室外学習の時間(分)	50分
第6回	授業テーマ	予備実験計画②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画書の作成、提出。（背景、目的、方法まで）
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間(分)	50分
第7回	授業テーマ	予備実験計画③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	訂正を受けた実験計画書について訂正、発表準備（背景、目的、方法まで）
	教室外学習(予習・復	予備実験計画の発表のためにパワーポイントで発表用資料を作

	習)の内容	成し、発表の練習をする。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	中間発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画について中間発表（背景、目的、方法まで）を行い、ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表スライドの作成、発表練習を行う。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	予備実験データ検討①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	改定した実験計画書を提出。計画した予備実験を実行する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	データが出れば、図表の作成を行う。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	授業テーマ	予備実験データ検討②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	改定した実験計画書を提出。計画した予備実験を実行する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図表の作成を行う。参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	授業テーマ	予備実験データ検討③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	計画した予備実験を実行する。結果、考察について検討を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図表の作成を行う。参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	授業テーマ	予備実験データ検討④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	計画した予備実験を実行する。結果、考察について検討を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図表の作成を行う。参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	授業テーマ	予備実験データ検討⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	計画した予備実験を実行する。結果、考察について検討を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図表の作成を行う。参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。 発表スライドの作成、発表練習を行う。

	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	**授業テーマ**	予備実験について発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予備実験について発表（背景、目的、方法、結果、考察）を行い、ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表スライドの作成、発表練習を行う。ディスカッション後に改善点も検討し、卒業研究につなげること。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

テーマ内容によっては準備に時間がかかることもあるので、授業外学習時間については変動があると予想される。また一部は学外での活動を要する可能性もある（必ず事前に調整する）。原則として各自テーマを設定する。

学生へのフィードバック方法

基本的にゼミ形式で進行するので、授業中・発表中の質問・回答等、フィードバックを随時行う。

評価方法

授業への参加度（積極的に意見を出し、自分の考えを明らかにできているか）と課題となる発表内容・完成度で評価する。
ルーブリック表は、クラスルームに掲示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業への参加度	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合

授業への参加度50%
プレゼンテーション50%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

提示されたテーマにあわせて紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】様々な立場や状況の人々に、自分が検討した内容を具体的に伝えることができる。
【思考・判断】種々の情報を整理し、研究テーマの意義を客観的に判断できる。
【関心・意欲・態度】自らテーマを設定し、課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技能・表現】体系的な学修を通じて、研究テーマの内容・意義を分かりやすく伝えることができる。

オフィスアワー

前期 水曜日 2限 2108研究室
後期 木曜日 2限 2108研究室

面談を希望する場合はmailで事前に連絡を入れて下さい。

学生へのメッセージ

研究とは、誰も知らないことを探求することで、本来その人の自主的な興味に基づいて行うものです。研究を進める上で大切なことは、行動力、観察力、発想力と責任感です。報告、連絡、相談をよくして、共に研究活動を行いましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	多くの回で、履修者同士が議論・検討・提案できる機会を設定します。
情報リテラシー教育	○	研究情報・文献検索を行い情報を収集し整理を行い、レポート・計画書の作成、プレゼンテーションによるアウトプット方法を学びます。
ICT活用	○	研究情報・文献調査については，インターネットを利用しての情報収集を行います。また各種ソフトウェアを使用して、数値データ・画像データ等の解析を行います。

講義コード	G06073011
講義名	食物総合演習Ｂ（笠松）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	笠松 千夏	指定なし

ナンバリング

R30711M12

授業概要(教育目的)

・本演習では、官能評価に関する基礎，調査票の設計，データ収集方法，データ解析方法、分析結果を用いた図表の作成方法、論文の構成、書き方について解説する.
官能評価士テキストを輪読し，希望者は次年度官能評価士の資格検定試験を受験することができる。
自らの味嗅覚感度の測定を行い，実際の官能評価に参加し，識別能力や感覚知覚を向上させる.
次年度の研究活動のためのスキル、プレゼンテーション能力も身につくよう教授します。

履修条件

・食品企業への就職を希望するものが望ましい

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・学生が多様な食生活、食環境の課題を見つけ、官能評価を適切に設計し遂行できる．データに基づき，結果を理解できる．図表の作成方法について学び、理解できる。
思考・判断の観点 (K)	・学生が多様な食情報，実験データを整理し、表現して、客観的に思考、判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・学生が食生活の課題を見い出し、その解決のための調査，実験を行うことに興味や関心を持ち、データに基づいた提案を行うことで，社会に貢献したいという意欲をもつようになる。
技術・表現の観点 (A)	・学生が社会課題の解決のための実験データに基づいて提案をまとめ、発表できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食物総合演習Bの全体の進め方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第2回	**授業テーマ**	実践社会（食品企業，商品開発）における官能評価の体験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実践社会（食品企業）における商品開発や官能評価の学習をしていただく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実践社会における商品開発や官能評価を行ったあとのまとめ方について、事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第3回	**授業テーマ**	研究デザイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーマに関する研究デザインを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実践社会における商品開発や官能評価について、事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第4回	**授業テーマ**	調査票・官能評価実験の設計
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究デザインに沿って調査票・実験計画を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査票について、事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第5回	**授業テーマ**	調査票・官能評価実験の設計
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究デザインに沿って調査票を作成し・官能評価実験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実践社会における商品開発や官能評価について、事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第6回	**授業テーマ**	調査票・官能評価実験の設計
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究デザインに沿って官能評価を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	統計処理された文献を読みこなしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第7回	**授業テーマ**	調査票の処理・分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究デザインに沿って官能評価を実施する。
		統計処理された文献を読みこなしておく。

	教室外学習(予習・復習)の内容	課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第8回	**授業テーマ**	官能評価実験の設計
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究デザインに沿って調査票・官能評価を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	統計処理された文献を読みこなしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第9回	**授業テーマ**	官能評価実験の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究デザインに沿って官能評価を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	統計処理された文献を読みこなしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第10回	**授業テーマ**	官能評価実験の設計
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究デザインに沿って官能評価を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	統計処理された文献を読みこなしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第11回	**授業テーマ**	官能評価データ解析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実施した官能評価のデータ解析を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	同じ研究分野の発表資料を事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第12回	**授業テーマ**	官能評価データ解析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実施した実験のデータ解析とまとめ方を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	同じ研究分野の発表資料を事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第13回	**授業テーマ**	官能評価のデータ解析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実施した官能評価の解析結果を図表にまとめる
	教室外学習(予習・復習)の内容	同じ研究分野の発表資料を事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第14回	**授業テーマ**	報告資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実験の実施結果を報告する。 「課題提出あり」
	(　　)	資料を作成しておく。 Classroom

	教室外学習 予習・復習 の内容	課題：　　に掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分

学習計画注記

・授業の最後に毎回質問を受け付けます。
・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問する。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。）
・新型コロナの状況、やむを得ない事情（物理的な環境・教材等）によっては、授業内容が変更されることがあります。

学生へのフィードバック方法

・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックします。

評価方法

・平常点42%、レポート点58%で評価します。
・提出課題（研究資料作成）は下表に示すスキルを養うことを目的としています。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
資料点	○	○	○	○
発表点	○	○	○	○

評価割合

・平常点45%、資料点45%、発表点10%で評価します。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

使用教科書名(ISBN番号)

・特に指定しない

参考図書

・「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル 第3版 （第一出版）
(ISBN 978-4-8041-1358-6 C3077)
・日本人の食事摂取基準 2020版 （第一出版）

参考URL

http://www.daiichi-shuppan.co.jp/book/book205.html

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー

・月曜5限、火曜5限：栄養指導研究室（2106室）
・事前にg-mail（misawa@kasei-gakuin.ac.jp）で予約してから来訪して下さい。

学生へのメッセージ

・栄養士になるための必須専門科目である。実社会における食育等の経験や地域連携活動の機会を提供するので、是非主体的、積極的に学んで欲しい。自分の興味ある研究活動を見つけ、卒業後も役に立ち思い出に残るような研究となるよう取り組んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は、病院（管理栄養士）及び企業（第一種衛生管理者、産業栄養指導者）において、「栄養の指導」分野の中核を成す栄養指導及び栄養教育の実務経験を有している。将来の栄養士・管理栄養士として習得すべき栄養指導（ハイリスクアプローチ）、予防的栄養教育、公衆栄養活動（ポピュレーションアプローチ）に関して、実例を示しより実践的に、結果（アウトカム）を出せるよう、研究を指導します。
アクティブ・ラーニング	○	・対象者の食生活改善上の問題解決を図り、栄養の指導分野の技術をより高めるため、チームでデイスカッションし、能動的に学べるよう教授します。
情報リテラシー教育	○	・正しく有益な健康・栄養情報の検索・収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）、データ入力・集計（エクセル）、栄養分析（エクセル栄養君）、統計解析（SPSS）等の各種ソフトウェアを活用して教授します。 ・資料提供、課題提出等に活用する。 ・ノートパソコンは必携です。

講義コード	G06073012
講義名	食物総合演習Ｂ（高橋）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	高橋 幸子	指定なし

ナンバリング

R30711M12

授業概要(教育目的)

本演習では、「食と文化」に関連する情報・資料・論文を検索する方法を習得し、研究活動につながる論文作成やプレゼンテーションスキルを得ることを目的とする。ICTを利用して、異なる文化の「食と文化」に関する先行研究を得る。ディスカッションを通して、他者の考えを受け入れ、自らの考えも相手に伝えようとする。コース終了時には、レポートを完成させる。
1.「食と文化」におけるテーマ選び
2. 先行研究の収集（英語論文を含む）
3. 調査（簡略版）
4. 分析
5. レポートの作成

履修条件

英語の情報・資料・論文を検索する意欲がある。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	食と文化の関係性に関する新しい知識を得る。 異なる文化における食に関する理解をする。
思考・判断の観点 (K)	異なる文化における「食と文化」の関係における情報を整理し、多様な角度からの検討をした上で、論理的・客観的に自分の意見を述べるための批判的思考力を得る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	「食と文化」に関する新しい知識を得る意欲がある。 「食と文化」に関する新しい情報を理解し、自分が考えたことを表現する意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	多岐にわたる「食と文化」に関する知識を得、研究活動につながる調査・論文作成・プレゼンテーションスキルを持つ。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	Session 1 Introduction ゼミの進め方 情報・資料の集め方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己紹介 ゼミの進め方を説明します。 情報収集・論文作成に関して、ざっくりと説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	資料検索（何を検索するのか、授業中に説明します）
	教室外学習の時間（分）	95分
第2回	**授業テーマ**	Session 2 「食と文化」に関する先行研究（1&2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「食と文化」に関する先行研究 1（日本語論文）と先行研究 2（英語論文）を紹介します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学習したことを復習 自分の関心があるテーマを探す。
	教室外学習の時間（分）	95分
第3回	**授業テーマ**	Session 3 Session 2 「食と文化」に関する先行研究（3&4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「食と文化」に関する先行研究 3（日本語論文）と先行研究 4（英語論文）を紹介します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学習したことを復習 自分の関心があるテーマを探す。
	教室外学習の時間（分）	95分
第4回	**授業テーマ**	Session 4 「食と文化」に関する先行研究（5&6)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分が探した「食と文化」に関する先行研究 をクラス内で紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学習したこと全てを復習 自分の関心があるテーマと先行研究を探す。
	教室外学習の時間（分）	95分
第5回	**授業テーマ**	「食と文化」に関する先行研究（7&8)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分が探した「食と文化」に関する論文をクラスに紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学習したことを復習 自分の関心があるテーマと先行研究を探す。
	教室外学習の時間（分）	95分
第6回	**授業テーマ**	Session 6 調査の方法 1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	質問紙による調査方法やインタビュー1 ・質問紙と質問項目（量的研究方法） ・インタビュー（質的研究方法）
	教室外学習(予習・復習)の内容	質問紙の項目作り（先行研究の資料より）
	教室外学習の時間（分）	95分
	授業テーマ	Session 7 調査の方法 2

第7回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	質問紙による調査方法やインタビュー2
	教室外学習(予習・復習)の内容	質問紙の項目の検討
	教室外学習の時間（分）	95分
第8回	**授業テーマ**	Session 8 Introduction の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Introduction の作成 ・研究の背景 ・先行研究 ・研究目的 ・研究の意義
	教室外学習(予習・復習)の内容	Introdcution の作成
	教室外学習の時間（分）	95分
第9回	**授業テーマ**	Session 9 Introduction の作成と検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Introduction の作成と検討 ・研究の背景 ・研究目的 ・研究の意義
	教室外学習(予習・復習)の内容	Introduction の作成
	教室外学習の時間（分）	95分
第10回	**授業テーマ**	Session 10 Methodの作成と検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Methodの作成と検討 ・調査対象者 ・手順 ・分析方法など
	教室外学習(予習・復習)の内容	Method 作成
	教室外学習の時間（分）	95分
第11回	**授業テーマ**	Session 11 Results の作成と検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Results の作成と検討 ・調査結果
	教室外学習(予習・復習)の内容	Results の作成と検討
	教室外学習の時間（分）	95分
第12回	**授業テーマ**	Session 12 Discussion の作成 1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Discussion の作成と検討 ・研究目的に対する回答 ・結果の解釈 ・調査方法に関する考察 ・将来の研究に対する示唆
	教室外学習(予習・復習)の内容	Results と Discussion の作成
	教室外学習の時間（分）	95分
第13回	**授業テーマ**	Session 13 Discussion の作成と検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Discussion の作成と検討
	教室外学習(予習・復習)の内容	Results と Discussion の作成

	教室外学習の時間（分）	95分
第14回	**授業テーマ**	Session 14 Presentation の作成と検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Presentation の作成と検討 パワーポイントを使った発表 （ポスター／発表）
	教室外学習(予習・復習)の内容	Presentation の見直し
	教室外学習の時間（分）	95分

学習計画注記

調査は、授業時間外に行うことがあります。その際には、できるだけ早くに連絡します。

学生へのフィードバック方法

g-mailまたはclassroomを利用します。

評価方法

平常点・レポート・プレゼンテーションで総合的に評価します。
評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合

平常点 50%
レポート 40%
プレゼンテーション 10%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

適時紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「食と文化」における知識を増やす。トピックの背景にあるものを理解する。
【思考・判断】「食と文化」において得た新しい情報を、今まで持っている情報と比べて、相違点や一致点を検討する。
【関心・意欲・態度】「食と文化」において、新しい情報や自分とは違う他者の考え方に関心を持つ。新しく得たテキストや情報を理解し、自らのことばで考えたことを発信しようと努める。
【技能・表現】「食と文化」において、正確に、適切に、一貫性のある理解と表現をする。

オフィスアワー

水曜の４限

学生へのメッセージ

ネット上で翻訳ツールを使うことが容易になり、便利な世の中になりました。それでも、頭の中で、言語をスウィッチさせる方が、やはり速い理解につながります。英語の情報を探していくことで、違った世界が見えてくるかもしれません。楽しい学習にしていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実生活に密着した授業の展開
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを中心とした学生主体の授業展開
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Webを利用した授業外活動 ExcelとSPSS（Base、Advanced、Regression）を利用。

講義コード	G06073013
講義名	食物総合演習Ｂ（大中）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大中 佳子	指定なし

ナンバリング

R30711M12

授業概要(教育目的)

本演習では、食の専門家、栄養士として最新の情報と必要な情報の収集・整理・活用する能力を身につけ、研究活動へとつなげることを目的とします。
1.研究テーマの設定
2.文献調査、先行研究の検討
3.卒業研究に向けて研究計画をたてます。
予備実験やディスカッションを行い、研究の進め方を学びます。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	多様な食環境や食習慣を理解し、対象者の栄養状態に合わせた栄養・食事計画を立案できる。
思考・判断の観点 (K)	栄養・食に関する情報を整理し、客観的に思考、判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食生活や食環境に関心を持ち、給食の役割・意義を理解し、給食の品質改善のための研究に意欲的に取り組むことができる。探究心を持ち、食の専門家として社会に貢献したいという意欲をもつようになる。
技術・表現の観点 (A)	給食の品質向上のため、作業管理や衛生管理方法を研究開発し、その内容をプレゼンテーションできる。

学習計画

第1回	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食物総合演習Bの進め方、スケジュールについて打ち合わせを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	提示した研究テーマの中から興味・関心のあるテーマを選んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	こども食堂の実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学外授業 「こども食堂」を見学し、その衛生管理や調理・運営について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	こども食堂について、運営目的・対象者など概要をあらかじめ調べておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	研究概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文検索の方法
	教室外学習(予習・復習)の内容	興味のある研究テーマの論文をいくつか検索しておく
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	研究デザイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマに関する検索した論文を各自持ちより、その論文内容を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	興味のある研究テーマの論文を各自検索しておくこと
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	研究デザイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマを決め、先行研究から研究の流れについて学び、研究方法を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	興味のある研究テーマの論文を各自検索し読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	研究デザイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマにもとづき、先行研究から研究の流れについて学び、研究方法を検討する。データ処理、統計処理、図表の書き方など、論文の書き方について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマの論文を各自検索し読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	60分

第7回	授業テーマ	研究デザイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマにもとづき、研究の流れについて学び、研究方法を検討する。データ処理、統計処理、図表の書き方など、論文の書き方について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマの論文を各自検索し読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	調査・実験方法の考案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究デザインに沿って調査・実験方法を考案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	統計処理された文献を読むこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	調査・実験方法の考案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究デザインに沿って調査・実験方法を考案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	統計処理された文献を読むこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	調査・実験方法の考案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究デザインに沿って調査・実験方法を考案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	統計処理された文献を読むこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	調査・実験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考案した研究方法に基づき、プレ調査・実験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	計画した研究方法をよく読み、実験手順を予習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	こども食堂の実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学外授業 「こども食堂」を見学し、その衛生管理や調理・運営について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	こども食堂について、前回の見学からの学びを振り返り、気がついたことをまとめておく
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	予備調査・実験結果の分析、報告資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第13回	ｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予備調査・実験結果を分析し、報告資料にまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	まとめた予備調査・実験結果について見直し、報告資料を提出できるようしておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	報告資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予備調査の実施結果をまとめ、報告資料を作成する。 報告資料を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	報告資料を作成しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

・予備調査・実験は、内容によっては授業時間外に行うことがあります。事前連絡します。
・学外学習として「こども食堂」見学し、衛生管理や調理・運営について学びます。
見学は開催日（日曜日）に合わせて2回見学を予定しています。見学予定日は事前に連絡します。

学生へのフィードバック方法

・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックします。

評価方法

・論文・要旨・作成資料点、発表点で総合的に評価します。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点		○	○	
提出資料点	○	○	○	○
発表点	○	○	○	○

評価割合

平常点30%、課題提出40%、発表点30%で評価します。
評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

大量調理施設衛生管理マニュアル

参考URL

https://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/iyaku/syoku-anzen/gyousei/dl/130201_9-2.pdf

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。栄養士、食の専門家として探究心を持っている。

【技能・表現】栄養教育、健康増進、食の安全性など、給食を通して生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能を身につけている。

オフィスアワー

・火曜２限、火曜昼休み：給食管理学研究室（2311室）
・事前にメールで予約してから来訪して下さい。

学生へのメッセージ

栄養士免許取得の必須科目である。給食を通して増進増進、生活習慣病予防、食生活の改善を行うために、食の専門家としての技術を、研究を通して身につけてほしいです。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	総合病院、児童・高齢者福祉施設において管理栄養士業務かつマネジメント職務の実績がある教員が、実践にもとづいた栄養・食事管理方法を演習授業し、研究を指導します。
アクティブ・ラーニング	○	栄養士としての栄養・食事管理の技術を向上させるため、給食施設の状況に合わせた給食の提供方法や品質管理方法について、実際の大量調理機器を使用して実験を行います。 「こども食堂」を見学し、衛生管理・調理・運営について学びます。
情報リテラシー教育	○	最新の健康・栄養情報の検索・収集・整理について講義します。
ICT活用	○	インターネットを利用して情報収集を行い、各種ソフトウェア（Excel、SPSSなど）を利用してデータ入力・集計、栄養分析、統計解析を行います。資料提供、課題提出等に活用します。 PCを使用します。

講義コード	G06073014
講義名	食物総合演習Ｂ（大嶋）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大嶋 孝之	指定なし

ナンバリング

R30711M12

授業概要(教育目的)

・研究テーマを理解します。
・研究テーマに必要な知識を習得します。
・研究の進め方と、研究論文の作成方法を理解します。
・研究倫理について学びます。
・初歩的な批判的思考のスキルを習得します。

履修条件

1. 本研究室の研究分野は、「食品機能学」です。物質レベルで、食品の機能を解明することを目的としています。自然科学を基盤としています。食文化や食育などの、人文科学・社会科学のテーマは対象としません。本ゼミでは、研究の結果、食品が開発される場合はありますが、食品の開発を目的に研究を行いません。研究の目的は、食品機能の解明であり、食品の開発ではありません。
2. PCを毎回持ってきてください。マウスも用意して、PCに接続できるようにしてください。ワード・エクセル・パワーポイントをインストールしておくこと。用意が出来ていない場合は、成績にペナルティを加えます。第1回から、持ってきてください。
3. 卒業研究は、チーム単位で行います。チーム編成は、相談の上決定します。
4. 卒業研究論文は、全員、個別に執筆し、個別に提出します。チームで共同して得られたデータは、共有します。各自が独自に得たデータは、各自で利用します。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・研究に必要な２つの要素（新規性と進歩性）が理解できている。 ・研究に必要な知識が身についている。 ・研究倫理が理解できている。
	・初歩的な批判的思考ができる。

思考・判断の観点 (K)	・研究の新規性・進歩性が判断できる。 ・試験方法が研究倫理に適合するかを判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・文献読解や予備試験を意欲的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	・研究に必要なスキルが身についている。 ・ゼミにおいて、質問や意見を発信できる。 ・調査結果や実験結果を合理的に説明できる（口頭・文書）。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・食物総合演習Bの進め方と予定を確認します。 ・評価方法を説明します。 ・研究倫理と倫理審査制度について説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容をよく確認してください。
	教室外学習の時間(分)	50分
第2回	**授業テーマ**	研究テーマの解説（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて説明しますので、よく理解してください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献の指定した個所を読み、クラスルームから出題される質問に回答してください。
	教室外学習の時間(分)	50分
第3回	**授業テーマ**	研究テーマの解説（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて説明しますので、よく理解してください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献の指定した個所を読み、クラスルームから出題される質問に回答してください。
	教室外学習の時間(分)	50分
第4回	**授業テーマ**	研究テーマの調査・予備試験（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマを理解するための調査・実験・試験等を進めます。作業だけでなく、原理も良く理解すること。座学も行います。授業の理解度は、授業の終わりに行う理解度チェックで確かめること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査・予備試験の考察と気づきを研究ノートに記載してください。 理解度チェックを誤答した場合は、授業内容をもう一度よく復習してください。
	教室外学習の時間(分)	50分
	授業テーマ	研究テーマの調査・予備試験（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	研究テーマを理解するための調査・実験・試験等を進めます。作業だけでなく、原理も良く理解すること。座学も行います。授業の理解度は、授業の終わりに行う理解度チェックで確かめるこ

	む)	と。
第5回	教室外学習(予習・復習)の内容	調査・予備試験の考察と気づきを研究ノートに記載してください。 理解度チェックを誤答した場合は、授業内容をもう一度よく復習してください。
	教室外学習の時間(分)	50分
第6回	授業テーマ	研究テーマの調査・予備試験（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマを理解するための調査・実験・試験等を進めます。作業だけでなく、原理も良く理解すること。座学も行います。授業の理解度は、授業の終わりに行う理解度チェックで確かめること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査・予備試験の考察と気づきを研究ノートに記載してください。 理解度チェックを誤答した場合は、授業内容をもう一度よく復習してください。
	教室外学習の時間(分)	50分
第7回	授業テーマ	研究テーマの調査・予備試験（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマを理解するための調査・実験・試験等を進めます。作業だけでなく、原理も良く理解すること。座学も行います。授業の理解度は、授業の終わりに行う理解度チェックで確かめること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査・予備試験の考察と気づきを研究ノートに記載してください。 理解度チェックを誤答した場合は、授業内容をもう一度よく復習してください。
	教室外学習の時間(分)	50分
第8回	授業テーマ	研究テーマの調査・予備試験（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマを理解するための調査・実験・試験等を進めます。作業だけでなく、原理も良く理解すること。座学も行います。授業の理解度は、授業の終わりに行う理解度チェックで確かめること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査・予備試験の考察と気づきを研究ノートに記載してください。 理解度チェックを誤答した場合は、授業内容をもう一度よく復習してください。
	教室外学習の時間(分)	50分
第9回	授業テーマ	研究テーマの調査・予備試験（６）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマを理解するための調査・実験・試験等を進めます。作業だけでなく、原理も良く理解すること。座学も行います。授業の理解度は、授業の終わりに行う理解度チェックで確かめること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査・予備試験の考察と気づきを研究ノートに記載してください。 理解度チェックを誤答した場合は、授業内容をもう一度よく復習してください。
	教室外学習の時間(分)	50分
	授業テーマ	研究テーマの調査・予備試験（７）

第10回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマを理解するための調査・実験・試験等を進めます。作業だけでなく、原理も良く理解すること。座学も行います。授業の理解度は、授業の終わりに行う理解度チェックで確かめること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査・予備試験の考察と気づきを研究ノートに記載してください。 理解度チェックを誤答した場合は、授業内容をもう一度よく復習してください。
	教室外学習の時間(分)	50分
第11回	授業テーマ	研究テーマの調査・予備試験（８）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマを理解するための調査・実験・試験等を進めます。作業だけでなく、原理も良く理解すること。座学も行います。授業の理解度は、授業の終わりに行う理解度チェックで確かめること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査・予備試験の考察と気づきを研究ノートに記載してください。 理解度チェックを誤答した場合は、授業内容をもう一度よく復習してください。
	教室外学習の時間(分)	50分
第12回	授業テーマ	研究論文の書き方（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究論文の書き方を習得してください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組んでください。
	教室外学習の時間(分)	50分
第13回	授業テーマ	研究論文の書き方（２）／研究チームの編成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究論文の書き方を習得してください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組んでください。
	教室外学習の時間(分)	50分
第14回	授業テーマ	期末試験／研究チームのメンバー決定／卒業研究に向けて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・期末試験により、授業の内容の理解を確認します。これまに学んできたこと、研究したことを振り返ります。 ・卒業研究の取り組みについて、研究チームごとに打合せをします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組んでください。
	教室外学習の時間(分)	50分

学習計画注記

・毎回PCを持参すること。

・テキストを読むワークを行います。

学生へのフィードバック方法

・ゼミの中で、質問に答えます。

評価方法

・授業への取り組み
・教室外学習
・期末試験
評価の基準については、クラスルームに掲示するルーブリック表を確認してください。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業への取り組み	○	○	○	○
教室外学習	○	○	○	○
期末試験	○	○		○

評価割合

授業への取り組み（50%）
教室外学習（30%）
期末試験（20%）

使用教科書名(ISBN番号)

資料をクラスルームに掲示するか、プリントを配布します。

参考図書

資料をクラスルームに掲示するか、プリントを配布します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】学内外で講義･実習･演習を通し、基礎的・専門的知識を身につけ、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている
【関心・意欲・態度】
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる
・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある
【技能・表現】専門的、体系的な学修を通じて、優れたコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身につけている。その上で、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理･加工の技能と、これらの開発企画能力や表現力を身につけている

オフィスアワー

ゼミ後

学生へのメッセージ

・本研究室の食物総合演習Bでは、次年度に卒業研究をスタートできるように準備を進めます。卒業研究に必要な知識と技術を十分習得してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		・食品工学で培った食品の研究に関する知識と技術を授けます。
アクティブ・ラ		

ーニング		・メンターとして、みなさんの論理思考力と対話力を鍛えます。
情報リテラシー教育		・各種学術データベースの使用方法を教授します。
ICT活用		・PCを積極的に利用します。 ・マイクロソフトオフィス（エクセル・パワーポイント・ワード）の発展的スキルを教授します。

講義コード	G06073015
講義名	食物総合演習Ｂ（三澤：集中）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

R30711M12

授業概要(教育目的)

・本演習では、栄養素等の分析結果、食生活状況に関するアンケート調査結果の処理、集計、分析方法、分析結果を用いた図表の作成方法、論文の構成、書き方について解説するので、ワークシート等を使って演習して頂く。次年度の研究活動のためのスキル、プレゼンテーション能力も身につくよう教授します。

履修条件

・栄養指導論、栄養カウンセリング論、公衆栄養学、食物総合演習Aを履修済み、栄養指導実習、栄養カウンセリング実習、公衆栄養学実習を履修中であることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・学生が対象となる人々の 多様な食事、食生活、食環境の実態を表現するため、データの分析、図表の作成方法について学び、理解できる。
思考・判断の観点 (K)	・学生が多様な栄養・食情報を整理し、表現して、客観的に思考、判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・学生が対象集団・地域社会の課題を見い出し、その解決のための食育や食生活改善に興味や関心を持ち、貢献したいという意欲をもつようになる。
技術・表現の観点 (A)	・学生が対象集団の課題解決のための教材開発や食事改善計画をプランニングし、それらを活用して周知したり、発表できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食物総合演習Bの全体の進め方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
	授業テーマ	実践社会の食育・栄養教育の体験

第2回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実践社会における食育や栄養教育の学習をしていただく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実践社会における食育や栄養教育を実施したあとのまとめ方について、事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第3回	授業テーマ	研究デザイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーマに関する研究デザインを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実践社会における食育や栄養教育、その評価方法について、事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第4回	授業テーマ	調査票・食育方法の考案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究デザインに沿って調査票・食教育方法を考案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査票について、事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第5回	授業テーマ	調査票・食育方法の考案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究デザインに沿って調査票・食教育案を考案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実践社会における食育や栄養教育を実施したあとのまとめ方について、事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第6回	授業テーマ	調査票・食育方法の考案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究デザインに沿って調査票・食教育案を考案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	統計処理された文献を読みこなしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第7回	授業テーマ	調査票の処理・分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究デザインに沿って調査票・食教育案を考案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	統計処理された文献を読みこなしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第8回	授業テーマ	調査票・食育方法の考案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究デザインに沿って調査票・食教育案を考案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	統計処理された文献を読みこなしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。

	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第9回	**授業テーマ**	調査票・食育方法の考案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究デザインに沿って調査票・食教育案を考案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	統計処理された文献を読みこなしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第10回	**授業テーマ**	調査票・食育方法の考案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究デザインに沿って調査票・食教育案を考案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	統計処理された文献を読みこなしておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第11回	**授業テーマ**	プレ調査実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考案した調査票を使ってプレ調査を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	同じ研究分野の発表資料を事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第12回	**授業テーマ**	プレ調査結果分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレ調査の実施結果を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	同じ研究分野の発表資料を事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第13回	**授業テーマ**	プレ調査結果分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレ調査の実施結果を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	同じ研究分野の発表資料を事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分
第14回	**授業テーマ**	報告資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレ調査の実施結果を報告する。 「課題提出あり」
	教室外学習(予習・復習)の内容	過大資料を作成しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	報告書作成・研究等100分

学習計画注記

・授業の最後に毎回質問を受け付けます。
・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問する。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。）
・新型コロナの状況、やむを得ない事情（物理的な環境・教材等）によっては、授業内容が変更されることがあります。

学生へのフィードバック方法

・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックします。

評価方法

・平常点42%、レポート点58%で評価します。
・提出課題（研究資料作成）は下表に示すスキルを養うことを目的としています。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
資料点	○	○	○	○
発表点	○	○	○	○

評価割合

・平常点45%、資料点45%、発表点10%で評価します。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

使用教科書名(ISBN番号)

・特に指定しない

参考図書

・「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル 第3版 （第一出版）
(ISBN 978-4-8041-1358-6 C3077)
・日本人の食事摂取基準 2020版 （第一出版）

参考URL

http://www.daiichi-shuppan.co.jp/book/book205.html

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー

・月曜5限、火曜5限：栄養指導研究室（2106室）
・事前にg-mail（misawa@kasei-gakuin.ac.jp）で予約してから来訪して下さい。

学生へのメッセージ

・栄養士になるための必須専門科目である。実社会における食育等の経験や地域連携活動の機会を提供するので、是非主体的、積極的に学んで欲しい。自分の興味ある研究活動を見つけ、卒業後も役に立ち思い出に残るような研究となるよう取り組んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験		・担当教員は、病院（管理栄養士）及び企業（第一種衛生管理者、産業栄養指導者）において、「栄養の指導」分野の中核を成す栄養指導及び栄養教育の実務経験

を活かした授業	○	を有している。将来の栄養士・管理栄養士として習得すべき栄養指導（ハイリスクアプローチ）、予防的栄養教育、公衆栄養活動（ポピュレーションアプローチ）に関して、実例を示しより実践的に、結果（アウトカム）を出せるよう、研究を指導します。
アクティブ・ラーニング	○	・対象者の食生活改善上の問題解決を図り、栄養の指導分野の技術をより高めるため、チームでデイスカッションし、能動的に学べるよう教授します。
情報リテラシー教育	○	・正しく有益な健康・栄養情報の検索・収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）、データ入力・集計（エクセル）、栄養分析（エクセル栄養君）、統計解析（SPSS）等の各種ソフトウェアを活用して教授します。 ・資料提供、課題提出等に活用する。 ・ノートパソコンは必携です。

講義コード	G06073016
講義名	食物総合演習Ｂ（黒田：集中）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

R30711M12

授業概要(教育目的)

・研究テーマを理解します。
・研究テーマに必要な知識を習得します。
・研究の進め方と、研究論文の作成方法を理解します。
・研究倫理について学びます。
・初歩的な批判的思考のスキルを習得します。

履修条件

1. 本研究室の研究分野は、「食品機能学」です。物質レベルで、食品の機能を解明することを目的としています。自然科学を基盤としています。食文化や食育などの、人文科学・社会科学のテーマは対象としません。本ゼミでは、研究の結果、食品が開発される場合はありますが、食品の開発を目的に研究を行いません。研究の目的は、食品機能の解明であり、食品の開発ではありません。
2. PCを毎回持ってきてください。マウスも用意して、PCに接続できるようにしてください。ワード・エクセル・パワーポイントをインストールしておくこと。用意が出来ていない場合は、成績にペナルティを加えます。第1回から、持ってきてください。
3. 卒業研究は、チーム単位で行います。チーム編成は、相談の上決定します。
4. 卒業研究論文は、全員、個別に執筆し、個別に提出します。チームで共同して得られたデータは、共有します。各自が独自に得たデータは、各自で利用します。

【アプリのPCへのインストールについて】
大学のMicrosoft 365 Appsが無料で利用できます。まだ、自分のPCにアプリ（ワード・エクセル・パワポ）を入れていない場合は、以下のリンクを開いて利用できるようにしてください。不明な点は、町田業務部か情報処理センターに問い合わせてください。
https://sites.google.com/a/kasei-gakuin.ac.jp/ipc/microsoft

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・研究に必要な２つの要素（新規性と進歩性）が理解できている。 ・研究に必要な知識が身についている。 ・研究倫理が理解できている。
思考・判断の観点 (K)	・初歩的な批判的思考ができる。 ・研究の新規性・進歩性が判断できる。

	・試験方法が研究倫理に適合するかを判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・文献読解や予備試験を意欲的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	・研究に必要なスキルが身についている。 ・ゼミにおいて、質問や意見を発信できる。 ・調査結果や実験結果を合理的に説明できる（口頭・文書）。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・食物総合演習Bの進め方と予定を確認します。 ・評価方法を説明します。 ・研究倫理と倫理審査制度について説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容をよく確認してください。
	教室外学習の時間(分)	50分
第2回	**授業テーマ**	研究テーマの解説（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて説明しますので、よく理解してください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献の指定した個所を読み、クラスルームから出題される質問に回答してください。
	教室外学習の時間(分)	50分
第3回	**授業テーマ**	研究テーマの解説（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて説明しますので、よく理解してください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の文献の指定した個所を読み、クラスルームから出題される質問に回答してください。
	教室外学習の時間(分)	50分
第4回	**授業テーマ**	研究テーマの調査・予備試験（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマを理解するための調査・実験・試験等を進めます。作業だけでなく、原理も良く理解すること。座学も行います。授業の理解度は、授業の終わりに行う理解度チェックで確かめること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査・予備試験の考察と気づきを研究ノートに記載してください。 理解度チェックを誤答した場合は、授業内容をもう一度よく復習してください。
	教室外学習の時間(分)	50分
	授業テーマ	研究テーマの調査・予備試験（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマを理解するための調査・実験・試験等を進めます。作業だけでなく、原理も良く理解すること。座学も行います。授業の理解度は、授業の終わりに行う理解度チェックで確かめること。

第5回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	調査・予備試験の考察と気づきを研究ノートに記載してください。 理解度チェックを誤答した場合は、授業内容をもう一度よく復習してください。
	教室外学習の時間(分)	50分
第6回	**授業テーマ**	研究テーマの調査・予備試験（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマを理解するための調査・実験・試験等を進めます。作業だけでなく、原理も良く理解すること。座学も行います。授業の理解度は、授業の終わりに行う理解度チェックで確かめること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査・予備試験の考察と気づきを研究ノートに記載してください。 理解度チェックを誤答した場合は、授業内容をもう一度よく復習してください。
	教室外学習の時間(分)	50分
第7回	**授業テーマ**	研究テーマの調査・予備試験（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマを理解するための調査・実験・試験等を進めます。作業だけでなく、原理も良く理解すること。座学も行います。授業の理解度は、授業の終わりに行う理解度チェックで確かめること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査・予備試験の考察と気づきを研究ノートに記載してください。 理解度チェックを誤答した場合は、授業内容をもう一度よく復習してください。
	教室外学習の時間(分)	50分
第8回	**授業テーマ**	研究テーマの調査・予備試験（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマを理解するための調査・実験・試験等を進めます。作業だけでなく、原理も良く理解すること。座学も行います。授業の理解度は、授業の終わりに行う理解度チェックで確かめること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査・予備試験の考察と気づきを研究ノートに記載してください。 理解度チェックを誤答した場合は、授業内容をもう一度よく復習してください。
	教室外学習の時間(分)	50分
第9回	**授業テーマ**	研究テーマの調査・予備試験（６）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマを理解するための調査・実験・試験等を進めます。作業だけでなく、原理も良く理解すること。座学も行います。授業の理解度は、授業の終わりに行う理解度チェックで確かめること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査・予備試験の考察と気づきを研究ノートに記載してください。 理解度チェックを誤答した場合は、授業内容をもう一度よく復習してください。
	教室外学習の時間(分)	50分
	授業テーマ	研究テーマの調査・予備試験（７）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰ	研究テーマを理解するための調査・実験・試験等を進めます。作

第10回	ﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	業だけでなく、原理も良く理解すること。座学も行います。授業の理解度は、授業の終わりに行う理解度チェックで確かめること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査・予備試験の考察と気づきを研究ノートに記載してください。 理解度チェックを誤答した場合は、授業内容をもう一度よく復習してください。
	教室外学習の時間(分)	50分
第11回	授業テーマ	研究テーマの調査・予備試験（８）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマを理解するための調査・実験・試験等を進めます。作業だけでなく、原理も良く理解すること。座学も行います。授業の理解度は、授業の終わりに行う理解度チェックで確かめること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査・予備試験の考察と気づきを研究ノートに記載してください。 理解度チェックを誤答した場合は、授業内容をもう一度よく復習してください。
	教室外学習の時間(分)	50分
第12回	授業テーマ	研究論文の書き方（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究論文の書き方を習得してください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組んでください。
	教室外学習の時間(分)	50分
第13回	授業テーマ	研究論文の書き方（２）／研究チームの編成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究論文の書き方を習得してください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組んでください。
	教室外学習の時間(分)	50分
第14回	授業テーマ	期末試験／研究チームのメンバー決定／卒業研究に向けて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・期末試験により、授業の内容の理解を確認します。これまに学んできたこと、研究したことを振り返ります。 ・卒業研究の取り組みについて、研究チームごとに打合せをします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組んでください。
	教室外学習の時間(分)	50分

学習計画注記

・毎回PCを持参すること。
・テキストを読むワークを行います。

学生へのフィードバック方法

・ゼミの中で、質問に答えます。

評価方法

・授業への取り組み
・教室外学習
・期末試験
評価の基準については、クラスルームに掲示するルーブリック表を確認してください。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業への取り組み	○	○	○	○
教室外学習	○	○	○	○
期末試験	○	○		○

評価割合

授業への取り組み（40%）
教室外学習（30%）
期末試験（30%）

使用教科書名(ISBN番号)

資料をクラスルームに掲示するか、プリントを配布します。

参考図書

資料をクラスルームに掲示するか、プリントを配布します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】学内外で講義･実習･演習を通し、基礎的・専門的知識を身につけ、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている
【関心・意欲・態度】
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる
・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある
【技能・表現】専門的、体系的な学修を通じて、優れたコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身につけている。その上で、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理･加工の技能と、これらの開発企画能力や表現力を身につけている

オフィスアワー

ゼミ後

学生へのメッセージ

・本研究室の食物総合演習Bでは、次年度に卒業研究をスタートできるように準備を進めます。卒業研究に必要な知識と技術を十分習得してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・食品企業で培った食品の研究に関する知識と技術を授けます。
アクティブ・ラーニング	○	・メンターとして、みなさんの論理思考力と対話力を鍛えます。

情報リテラシー教育	○	・各種学術データベースの使用方法を教授します。
ICT活用	○	・PCを積極的に利用します。 ・マイクロソフトオフィス（エクセル・パワーポイント・ワード）の発展的スキルを教授します。

講義コード	G06074002
講義名	卒業研究Ａ（河田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	河田 敦子	指定なし

ナンバリング

R40714M22

授業概要(教育目的)

①教育（家庭科教育・食に関する教育・教育の歴史）に関すること
・家庭科における食分野の指導方法
・家庭科教育の歴史 家庭科はどのように教科になったのか等
②食と人間の関わりを社会科学的に考える
・世界の給食
・食育に対する意識調査等
③ライフヒストリー研究（ある人間と社会の関わりの歴史）
・ある豆腐屋の歴史等

本ゼミは、人間や社会と食との関わりを社会科学的に研究する研究室です。研究方法は、文献、インタビュー、アンケート調査等です。自分は何を学び、何を研究したいのかを考えながらゼミを行います。研究とは何か、論文の書き方から学びます。

履修条件

卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。
食物総合演習ABで河田の指導を受けていることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	自分が設定してテーマの研究目的を結論に導くために必要な知識・理解が積み上げられている。
思考・判断の観点(K)	自分が設定したテーマの研究目的を達成するための思考・判断を継続的に行うことができる。
関心・意欲・態度の	自らの関心を研究テーマとし、卒業研究に意欲的に自律的な態度で取り

観点 (V)	組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	自分の研究内容を他者に伝える技術・表現力を持っている。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	卒論の書き方（１）テーマの設定と先行研究の調査収集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分が何を研究テーマとするかを決め、そのテーマに関する先行研究を国会図書館や各種図書館の検索機能を用いて調査収集する。 先行研究目録を作成し、一つ一つ所在を確かめ読み進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	国会図書館のOPACで、キーワード検索を行い、できるだけ多くの文献をピックアップし、その文献のコピーを取ること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	先行研究の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今回までに調べて入手した先行研究のリストと、一つでも良いので読んだ文献を授業中に紹介する。文献の説明の仕方も学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献検索とそのリスト化、文献収集と読みを継続して行う。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	**授業テーマ**	先行研究の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新たに見つけた先行研究の文献紹介を行う。できれば、前回紹介した文献との違いの比較検討の仕方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究の文献のリスト化、検索を続ける。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	**授業テーマ**	卒研の書き方（２）研究方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究の検討を通して、何をどのように調べれば、先行研究に対して新たな知見となるのかを考える。調査には、インタビュー調査、アンケート調査、文献調査等いろいろある。何を選ぶことが自分の研究目的達成のために妥当な方法なのかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究方法の選び方は、自分の性格や環境に合った方法を選ぶこと。できることとできないことの見極めが重要である。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	研究方法の選定
	学習内容(ｱｸﾃｨ	

第5回	ﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究方法については指導教員とディスカッションしながら、決定する。文献講読を引き続き行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究の収集、読みを継続して行う。常に自分の研究テーマに関連する事象について看取できるようにアンテナを張っておくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	授業テーマ	研究調査計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査方法、研究方法を決めたら、どのように実施するかの計画を立てる。インタビュー調査であれば、何月に何人位のインタビューを行うのか、対象者はどのように選定依頼するのか等、具体的な計画を立て、指導教員と相談する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	インタビュー対象者の選定や依頼、文献購入等は、指導教員に相談してから行うこと。
	教室外学習の時間（分）	220分
第7回	授業テーマ	調査の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査計画の基づき、第一回調査のための準備を行う。得られる調査結果の予想や仮設を立てながら、どのような情報、データを入手したいのかを書き出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査結果の仮設や予想は、繰り返し繰り返し考察を重ねること。その内容は常に記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	220分
第8回	授業テーマ	第1回調査の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	準備が良くできたら、実際に調査を行ってみる。本調査のプレテストのような意味もある調査となる。実際に調査を行ってみて、驚いたこと、予想もしなかったことに遭遇することは、非常に大事であることを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	インタビュー調査であれば、質問項目を事前に挙げておく。この質問項目は必ず指導教員と相談すること。
	教室外学習の時間（分）	220分
第9回	授業テーマ	調査の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	引き続き調査を行う。試行錯誤の過程をきちんと記録しておくこと。仮説や予想が何故はずれたのか、予想が的中したのはなぜか、それを考えることが研究の更なる発展を促すことを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外で調査を実施する。
	教室外学習の	220分

	時間（分）	
第10回	授業テーマ	調査経過報告
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査経過をまとめてゼミで報告する。報告内容には何が含まれていなければいけないかを学ぶ。報告の順序立て方も学ぶ。調査内容が豊富であればあるほど、データ整理は大変である。それを楽しめるようになることが研究を深めるこつである。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査内容を整理し、報告できるようにすること。
	教室外学習の時間（分）	240分
第11回	授業テーマ	調査結果をまとめ、次の課題を見出す。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査結果をまとめ、そこから言えることを考察する。より正確な結論や深まりのある研究にするためには次に何を調べる必要があるのかを考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	得られた調査結果に関連する文献を探す。
	教室外学習の時間（分）	240分
第12回	授業テーマ	卒研中間発表会の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒研発表会のためのPPTを作成する。決められた時間内に研究発表をどのように行うのかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	PPT資料と発表原稿を作成してくること。
	教室外学習の時間（分）	240分
第13回	授業テーマ	卒研中間発表会のリハーサル
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成し、1回指導を受けた発表内容を発表する。卒研中間発表要旨も作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒研中間発表要旨は、作成してくること。
	教室外学習の時間（分）	240分
第14回	授業テーマ	卒研の中間発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒研中間発表会
	教室外学習(予	

	習・復習)の内容	発表原稿は何度も読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分

学生へのフィードバック方法

卒研ゼミで個別に指導する。

評価方法

取り組み姿勢が重要である。
教員とディスカッションを行い、指導に耳を傾ける態度。
自律的に文献を検索収集し、文献を読み進める力、
調査における行動力、
論理的思考力
の観点から評価する。
評価方法・評価基準は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはクラスルーム
または授業内での配布等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
取り組み姿勢			○	
指導を受け入れる柔軟性		○	○	
文献講読力	○	○		
調査における行動力			○	○
論理的思考力	○	○		○

評価割合

取り組み姿勢（30%）、柔軟性（10%）、文献講読力（20%）、調査能力（20%）、論理的思考力（20%）

1),2)全てに合格した場合、総合的(100%)に評価する

使用教科書名(ISBN番号)

特になし

参考図書

授業内で紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種のた王な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
【技能・表現】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

オフィスアワー

授業内（1612室）で時間調整を行う。

学生へのメッセージ

自分が取り組みたいと思うテーマを思う存分極めるようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業内は常に対話形式である。プレゼンも頻繁に行う。
情報リテラシー教育	○	様々な図書館での文献検索の方法を身に付けられるようにする。
ICT活用		

講義コード	G06074003
講義名	卒業研究Ａ（三澤）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	三澤 朱実	指定なし

ナンバリング

R40714M22

授業概要(教育目的)

・本科目は、卒業のための必修科目である。本授業では、自らが発見した食生活に関わる課題や地域での活動を研究テーマとして設定し、食教育や調査を行い研究に繋げる。学生はそのテーマを追求するため、結果の分析、教育方法の纏め、考察、結論を導いていく。研究プロセス、発表方法、論文執筆の方法について、テーマに応じて適切な指導を行う。これらの研究活動を通して新たな自分を発見でき、延いては地域・社会に貢献できる力が身に着くよう教授します。

履修条件

・栄養指導論、栄養カウンセリング論、公衆栄養学、栄養指導実習、栄養カウンセリング実習、公衆栄養学実習、食物総合演習A・Bを履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・学生が研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 ・学生が研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	・学生が多様な栄養・食情報を整理し、表現して、客観的に思考、判断することができる。 ・学生が問題を明確化して、自ら研究のテーマを設定し、それに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・学生が対象集団・地域社会の課題を見い出し、その解決のための食育や食生活改善に興味や関心を持ち、貢献したいという意欲をもつようになる。 ・学生が研究活動（文献収集、調査、分析、教育考案、プロトコル作成）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。

技術・表現の観点 (A)	・学生が対象集団の課題解決のための教材開発や食事改善計画をプランニングし、それらを活用・周知できる。 ・学生が自身が行った研究の内容を、学術的な文章の執筆、発表スライドを作成でき、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマを考え、テーマに関連する授業科目の内容を復習しておくこと。関連する学術論文に興味をもって事前に調べ考えておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第2回	**授業テーマ**	問題分析、課題設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマに沿って、課題・問題点、解決方法、調査方法を明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマに関する文献、書籍、雑誌、新聞、インターネット上の情報を調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第3回	**授業テーマ**	先行研究・参考文献の調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本学の図書館を利用して、書籍・文献探索の方法を学び、研究テーマに関する参考文献を収集する。これまで明らかになっていること、明らかになっていないこと等、整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマに沿った先行研究・参考文献を事前に集めて、精読して理解しておくこと。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第4回	**授業テーマ**	研究方法の立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、食教育・教材開発・調査実施・分析・考察・纏めなどのスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養指導論・実習において学んだPDCAサイクルに沿った企画立案について復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分

第5回	授業テーマ	調査票・教材の企画開発
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマに沿った調査票・教育教材を企画・開発する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	関連するアンケート調査票、食教育教材について、インターネット、書籍、文献などから事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第6回	授業テーマ	調査票・教材の企画開発
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマに沿った調査票・教育教材を企画・開発する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	関連するアンケート調査票、食教育教材について、インターネット、書籍、文献などから事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第7回	授業テーマ	調査票・教材の企画開発
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマに沿った調査票・教育教材を企画・開発する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	関連するアンケート調査票、食教育教材について、インターネット、書籍、文献などから事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第8回	授業テーマ	調査・食教育の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	スケージュール、学習指導案に沿って、調査・食教育を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査はやり直しができないため、不備や漏れは無いか事前に確認しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第9回	授業テーマ	調査結果の分析、事業評価票の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査結果について作表・解析・分析する。食教育について事業評価を行い報告書を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作表や統計解析方法について予習・復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。

	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第10回	**授業テーマ**	調査結果の分析、事業評価票の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査結果について作表・解析・分析する。食教育について事業評価を行い報告書を作成する。「課題提出あり」
	教室外学習(予習・復習)の内容	作表や統計解析方法について予習・復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第11回	**授業テーマ**	図表作成、論文構成立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図表の作成方法、論文の構成について解説するので、作成・立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作表や統計解析方法について予習・復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第12回	**授業テーマ**	図表作成、論文構成立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図表の作成方法、論文の構成について解説するので、作成・立案する。「課題提出あり」
	教室外学習(予習・復習)の内容	作表や統計解析方法について予習・復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第13回	**授業テーマ**	中間発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中間発表の資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	同じ研究分野の発表資料を事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第14回	**授業テーマ**	中間発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中間発表の資料を作成する。 「課題提出あり」
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をしておく。 他者の発表を聴き、最終発表に向けて修正、改善する。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時	

	間（分）	研究遂行200分

学習計画注記

・授業の最後に毎回質問を受け付ける。
・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問する。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。）
・新型コロナの状況、やむを得ない事情（物理的な環境・教材等）によっては、授業内容が変更されることがあります。

学生へのフィードバック方法

・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックします。

評価方法

・論文、要旨、作成資料、発表等で総合的に評価します。
・論文および発表は下表に示すスキルを養うことを目的としています。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
論文・要旨・作成資料点	○	○	○	○
発表点	○	○	○	○

評価割合

・論文、要旨、資料等（50%）、発表点（50%）
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

使用教科書名(ISBN番号)

・特に指定しない

参考図書

・SPSSでやさしく学ぶアンケート処理（東京図書）
・日本人の食事摂取基準 2025版 （第一出版）
・「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル 第3版 （第一出版）
(ISBN 978-4-8041-1358-6 C3077)

参考URL

http://www.tokyo-tosho.co.jp/download/

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
・生活にかかわる知識を多面的に身に付けている。
・多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。
【思考・判断】
・地域・社会に関する諸課題を自分ごととしてとらえ、適切な手法で分析することができる。
・多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】
・他者の視点やニーズを理解し、社会に新たな価値を見出すことができる。
・地域・社会の多様な人々と協働して、新しいライフスタイルを共に創り上げることができる。
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという

意欲がある。
【技能・表現】
・生活にかかわる技能を多面的に身に付けている。
・人々が快適に生活できる持続可能な生活様式を企画・提案することができる。
・生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー

・月曜3限、火曜1限、火曜昼休み：栄養指導研究室（2106室）
・事前にg-mail（misawa@kasei-gakuin.ac.jp）で予約してから来訪して下さい。
・基本的に、毎週金曜日は研修日のため大学不在です。

学生へのメッセージ

・学生便覧の食物学科卒業研究内規を確認しておくこと
・実社会における食育等の経験や地域連携活動の機会を提供するので、是非主体的、積極的に学んで欲しい。
・自分の興味ある研究活動を見つけ、卒業後も役に立ち思い出に残るような研究となるよう取り組んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は、病院（管理栄養士）及び企業（第一種衛生管理者、産業栄養指導者）において、「栄養の指導」分野の中核を成す栄養指導及び栄養教育の実務経験を有している。将来の栄養士・管理栄養士として習得すべき栄養指導（ハイリスクアプローチ）、予防的栄養教育、公衆栄養活動（ポピュレーションアプローチ）に関して、実例を示しより実践的に、結果（アウトカム）を出せるよう、研究を指導します。
アクティブ・ラーニング	○	・対象者の食生活改善上の問題解決を図り、栄養の指導分野の技術をより高めるため、チームでデイスカッションし、能動的に学べるよう教授します。
情報リテラシー教育	○	・研究のための文献検索、アイデアの情報収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）、データ入力・集計（エクセル）、栄養分析（エクセル栄養君）、統計解析（SPSS）等の各種ソフトウェアを活用して教授します。 ・資料提供、課題提出等に活用する。 ・ノートパソコンは必携です。

講義コード	G06074005
講義名	卒業研究Ａ（岩本）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	岩本 直樹	指定なし

ナンバリング

R40714M22

授業概要(教育目的)

卒業研究Bと連動し、大学での学びの集大成として、主に栄養・食品・教育を専門領域とした研究テーマを設定し、各担当教員とのディスカッションを行いながら先行研究調査、研究手法の検討、結果・結論を見出し考察をおこなう。また、それらの経過・結果について、口頭発表、論文の作成の指導を受ける。これにより研究を進めるための基本となる様々な要素を習得し、卒業論文作成を進める。本科目は、栄養士免許証取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	研究テーマの目的を、社会的背景や既往の研究と関連付けて理解できる。
思考・判断の観点 (K)	得られた実験データから導かれる解釈を正しく理解できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1．各課題に対し、他者との協働を重んじて貢献することができる。 2．研究目的に沿って実験を遂行し、その結果を観察・記録し、実験ノートに整理できる。
技術・表現の観点 (A)	実験成果を口頭で発表し、討論において的確に受け答えができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	卒業研究テーマ設定（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	過去の研究テーマ、卒業論文なども参考にして研究課題を設定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究計画書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分

第2回	授業テーマ	卒業研究テーマ設定（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	選択したテーマについてプレゼンテーションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼン資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	卒業研究の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究を進める上で、必要な資材を準備する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	必要な資材を準備する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	リサーチミーティング（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究の進捗状況、今後の課題などをプレゼンテーションし、論議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究活動における報告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	論文紹介（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	関係論文を検索し、主要な論文について、ゼミにて報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文の検索をし、主要なポイントを要約する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	リサーチミーティング（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究の進捗状況、今後の課題などをプレゼンテーションし、論議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究活動における報告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	論文紹介（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	関係論文を検索し、主要な論文について、ゼミにて報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文の検索をし、主要なポイントを要約する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	リサーチミーティング（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究の進捗状況、今後の課題などをプレゼンテーションし、論議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究活動における報告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	論文紹介（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	関係論文を検索し、主要な論文について、ゼミにて報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文の検索をし、主要なポイントを要約する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	リサーチミーティング（4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究の進捗状況、今後の課題などをプレゼンテーションし、論議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究活動における報告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	論文紹介（4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	関係論文を検索し、主要な論文について、ゼミ

第11回	教育・ICT活用を含む)	にて報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文の検索をし、主要なポイントを要約する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	リサーチミーティング（5）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究の進捗状況、今後の課題などをプレゼンテーションし、論議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究活動における報告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	中間報告会の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中間報告会の準備をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼン資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	中間報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の進捗状況について、報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼン資料で予行練習をする。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

※シラバスの内容は、やむを得ない事情等により一部変更することがあります。

学生へのフィードバック方法

授業時間内でフィードバックできない場合は研究室で個別に対応する。また質問等がある場合には2101研究室まで訪問（E-mailでも可）すること。

評価方法

卒業研究の取り組みをルーブリックに基づいて成績を評価する。ルーブリックについてはGoogle Classroom等で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
先行研究の整理	○	○	○	
ディスカッション			○	○
プレゼンテーション；発表	○	○	○	○

評価割合

先行研究の整理（40%）、リサーチミーティングでのディスカッションへの参加（30%）、中間報告（プレゼンテーション；発表）（30%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

・林淳三編『基礎栄養学』建帛社（978-4-7679-0529-7）
・松村譲兒編『人体解剖ビジュアル』サイオ出版（9784907176273）
・栢下淳 他編『栄養科学イラストレイテッド応用栄養学』羊土社（978-4-7581-0877-5）
・小野友紀編『子どもの食と栄養』アイ・ケイコーポレーション（978-4-87492-347-4）
・多賀昌樹編『臨床栄養学基礎から学べる』アイ・ケイコーポレーション（9784874923641）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】学習内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技能・表現】専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー

火曜2・4限 2101研究室
（2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）

学生へのメッセージ

研究活動にあたっては、担当教員（岩本）と十分にコミュニケーションをとり、研究活動に対する助言・指導を受けるとともに、進捗状況に関する情報を共有してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	同じテーマを持った班員において、調理や実験を協同し、得られた結果を共有・解析する。 担当教員を含めて活発なディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。

講義コード	G06074007
講義名	卒業研究Ａ（黒田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	黒田 久夫	指定なし

ナンバリング

R40714M22

授業概要(教育目的)

【卒業研究の概要】
・脂質と栄養プロジェクト、テーマ①「私たちは、どのような食事をしていて、どのような脂質を摂っているのか、その質と量を分析する」について、食物総合演習Bで予備調査を進めてきましたが、卒業研究では、テーマ①を本格的に取り組み、データ解析を進めていきます。
・研究の新規性・進歩性と、研究倫理についても学習していきます。
・思考のプロセスについても学び、論理思考力や批判的思考（クリティカルシンキング）も高めていきます。
【授業の形式】
・対面と課題型を組み合わせます。対面授業は、月曜日の3,4限とします。日程は、クラスルームに掲示します。課題型では、各自データ解析に取り組むこと。
・教室外学習は、独自に取り組む内容とします。取り組む内容は自由としますが、「脂質と栄養プロジェクト」のテーマの範囲内とし、研究倫理の手続きが必要な場合は相談して下さい。教室外学習は、グループを作って取り組んでも良いです。

履修条件

・卒業研究を履修するための単位を修得していること。学生便覧の現代生活学部食物学科卒業研究内規を確認しておいてください。
・対面授業では、PCとマウスを必ず用意すること。ワード・エクセル・パワーポイントをインストールしておくこと。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・研究に必要な新規性と進歩性が理解できている ・研究テーマに関連する知識が、広く、深くなっている
思考・判断の観点 (K)	・批判的に思考できる＝クリティカルシンキングが身についている

関心・意欲・態度の観点 (V)	・粘り強く研究を進めることができる ・データの信頼性を厳しく評価することができる
技術・表現の観点 (A)	・データから得られた結果と考察を、論理的かつ簡潔に口頭で説明できる。 ・データから得られた結果と考察を、論理的かつ明瞭に文章で表現できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	脂質と栄養プロジェクトの開始
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・プロジェクトの内容と予定を確認します。 ・研究に必要な２つの要素―新規性と進歩性について、説明します。 ・研究倫理と倫理審査制度について説明します。 ・卒業研究を開始します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	脂質と栄養プロジェクトに関する個人・グループ研究
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	**授業テーマ**	脂質と栄養プロジェクト（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質と栄養プロジェクトを進めます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	脂質と栄養プロジェクトに関する個人・グループ研究
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	**授業テーマ**	脂質と栄養プロジェクト（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質と栄養プロジェクトを進めます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	脂質と栄養プロジェクトに関する個人・グループ研究
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	**授業テーマ**	脂質と栄養プロジェクト（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質と栄養プロジェクトを進めます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	脂質と栄養プロジェクトに関する個人・グループ研究
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	**授業テーマ**	脂質と栄養プロジェクト（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質と栄養プロジェクトを進めます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	脂質と栄養プロジェクトに関する個人・グループ研究
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	**授業テーマ**	脂質と栄養プロジェクト（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質と栄養プロジェクトを進めます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	脂質と栄養プロジェクトに関する個人・グループ研究
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	脂質と栄養プロジェクト（６）

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質と栄養プロジェクトを進めます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	脂質と栄養プロジェクトに関する個人・グループ研究
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	授業テーマ	脂質と栄養プロジェクト（７）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質と栄養プロジェクトを進めます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	脂質と栄養プロジェクトに関する個人・グループ研究
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	授業テーマ	脂質と栄養プロジェクト（８）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質と栄養プロジェクトを進めます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	脂質と栄養プロジェクトに関する個人・グループ研究
	教室外学習の時間（分）	100分
第10回	授業テーマ	脂質と栄養プロジェクト（９）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質と栄養プロジェクトを進めます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	脂質と栄養プロジェクトに関する個人・グループ研究
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	授業テーマ	脂質と栄養プロジェクト（１０）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質と栄養プロジェクトを進めます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	脂質と栄養プロジェクトに関する個人・グループ研究
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	授業テーマ	中間発表の準備（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中間発表の準備を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	中間発表の準備を進めてください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	授業テーマ	中間発表の準備（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中間発表の練習を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・中間発表の準備を進めてください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	授業テーマ	中間発表会への参加
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プロジェクトの取り組みを発表してください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・前期の取り組みと、発表の振り返りを投稿してください。
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

1. 対面授業では、毎回PCを持参すること。

2. 中間発表会への参加は、必須です。欠席した場合は、別日に発表となります。
3. 就職試験等による対面授業の欠席については、学生便覧の規定を確認してください。

学生へのフィードバック方法

・ゼミの取り組みの中でフィードバックします。

評価方法

①授業への取り組み
・プロジェクト共通部分への取り組みをルーブリック評価します。
②教室外学習
・個人・グループ自由研究の取り組みをルーブリック評価します。

ルーブリック表は、クラスルームに掲示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
①授業への取り組み	○	○	○	○
②教室外学習	○	○	○	○

評価割合

①授業への取り組み（70%）
②教室外学習（30%）

参考図書

テーマに従って、参考図書を推薦します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている
【関心・意欲・態度】
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる
・食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある
【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている

オフィスアワー

ゼミ後

学生へのメッセージ

・プロジェクトに積極的に取り組み、意義のある研究を進めてください。
・自らデータを厳しく評価して、結果を批判的に考える力を養ってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	企業で経験した研究のスキルを伝えます。
アクティブ・ラーニング	○	対話を重視したゼミを展開します。
情報リテラシー教育	○	各種データベースを活用します。
ICT活用	○	エクセル・ワード・パワポのスキルを高めます。

講義コード	G06074010
講義名	卒業研究Ａ（米澤）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	米澤 加代	指定なし

ナンバリング

R40714M22

授業概要(教育目的)

家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文とする。研究テーマの設定，研究計画の策定、研究の方法の検討、論文のまとめ及びプレゼンテーションと一連の研究の手順を実践し、食物学科の学習の集大成とすることを目的とする。

履修条件

3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	研究テーマについてその先行研究についてその内容を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	研究上で得られた様々な情報や経過・結果について分析・考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	研究のプロセスにおいて課題解決をするために自主的に学習を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	研究成果についてその目的、方法、結果、考察について理論的な報告ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	研究テーマ・目的の検討、日程と内容の計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の研究テーマに即した研究計画立案を行う。テーマと目的に対して社会的な意義および研究成果のまとめ方についてを学ぶ。

	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究Aで遂行する研究テーマの絞り込みを行い、研究計画素案を立案する。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	**授業テーマ**	研究方法の検討①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の研究テーマに必要となる情報収集を行うツールを選択し、文献調査を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究等の情報集と精査を行う。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	**授業テーマ**	研究方法の検討②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文献調査、実験の計画を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究等の情報集と精査を行う。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	**授業テーマ**	研究方法の検討③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでにまとめた実験計画に関連する参考文献をまとめて、1人15分程度で報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パワーポイントで簡単に文献紹介用に発表スライドを準備する。
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	**授業テーマ**	調査・実験の検討①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実験計画を詳細に検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	引き続き参考文献をまとめ、実験計画を立てる。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	**授業テーマ**	調査・実験の検討②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査・実験のプレテストを行い、統計分析について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考文献をまとめておく。 統計分析の方法を把握する。
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	**授業テーマ**	調査・実験の検討③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレテストのデータ入力や解析ソフトの使い方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考文献内容をまとめておく。 解析ソフトの使い方を理解する。
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	**授業テーマ**	調査・実験の検討④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	参考文献内容を理解する。 本調査の準備について学ぶ。
	教室外学習(予習・復	参考文献内容をまとめておく。

	習)の内容	解析ソフトの使い方を理解する。
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	**授業テーマ**	結果の整理①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実験データの入力と解析を学ぶ。（材料サンプル、写真、図、表の作成）
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考文献内容をまとめておく。 データ入力、写真、図、表を作成する。
	教室外学習の時間（分）	100分
第10回	**授業テーマ**	結果の整理②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実験データの入力と解析について学ぶ。 要旨（目的、方法、結果、考察）の書き方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考文献内容をまとめておく。 実験データの入力と解析を学ぶ。（材料サンプル、写真、図、表の作成） 要旨の目的、方法を書くこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	**授業テーマ**	考察・まとめ①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	要旨（目的、方法、結果、考察）の書き方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考文献内容をまとめておく。 要旨の結果、考察をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	**授業テーマ**	考察・まとめ②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計分析の結果から考察を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考文献内容をまとめておく。 要旨を完成させること。
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	**授業テーマ**	発表準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでにまとめた目的、方法、結果、考察までを発表資料としてパワーポイントで作成する。わかりやすく伝える発表の練習。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パワーポイントファイルおよび発表原稿の作成。発表スライドの訂正および発表原稿の訂正。
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	**授業テーマ**	中間発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究Aの研究成果の発表を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表練習および質疑応答対策を行う。
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

進度によっては、予定した時間外での指導を行うことがあります。

学生へのフィードバック方法

毎週の授業内で個別指導を行うとともに、必要な状況では、随時、個別指導を行います。

評価方法

1）研究要旨の合否判定
2）発表会におけるプレゼンテーションの合否判定

ルーブリック表は、クラスルームに掲示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
研究要旨	○	○	○	○
研究発表	○	○	○	○

評価割合

1）研究要旨の合否判定
2）発表会におけるプレゼンテーションの合否判定
1）2）を総合的(100%)に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特になし

参考図書

必要に応じて紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】グローバルな視点から知識を深めている。
【思考・判断】社会中にある諸課題を自ら発見し、理論的に分析し考察できる。また、多様な情報を客観的に理解、判断して行動できる。
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚をもって責任を果たすことができる。
【技術・関心】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。

オフィスアワー

前期 水曜日 2限 2108研究室
後期 木曜日 2限 2108研究室
面談を希望する場合はmailで事前に連絡を入れて下さい。

学生へのメッセージ

指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。また、研究は予定通り進まないこともあるため、時間の余裕をもって計画・実施することを心掛けること。
また、研究上の疑問や方向性に不安なことがある場合は、すぐに相談に来ること。2108研究室(またはemail)を訪ねること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	研究打合せ時に、ディスカッションを積極的に行う。
情報リテラシー教育	○	各種文献データーベースの使用方法を学ぶ。
		統計ソフトウエアや研究要旨作成、発表用資料作成、論文作成に必

ICT活用	○	要なツールを活用する。

講義コード	G06074011
講義名	卒業研究Ａ（笠松）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	笠松 千夏	指定なし

ナンバリング

R40714M22

授業概要(教育目的)

・本科目は、卒業のための必修科目である。本授業では、自らが発見した食生活に関わる課題や地域での活動を研究テーマとして設定し、食教育や調査を行い研究に繋げる。学生はそのテーマを追求するため、結果の分析、教育方法の纏め、考察、結論を導いていく。研究プロセス、発表方法、論文執筆の方法について、テーマに応じて適切な指導を行う。これらの研究活動を通して新たな自分を発見でき、延いては地域・社会に貢献できる力が身に着くよう教授します。

履修条件

・栄養指導論、栄養カウンセリング論、公衆栄養学、栄養指導実習、栄養カウンセリング実習、公衆栄養学実習、食物総合演習A・Bを履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・学生が研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 ・学生が研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	・学生が多様な栄養・食情報を整理し、表現して、客観的に思考、判断することができる。 ・学生が問題を明確化して、自ら研究のテーマを設定し、それに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・学生が対象集団・地域社会の課題を見い出し、その解決のための食育や食生活改善に興味や関心を持ち、貢献したいという意欲をもつようになる。 ・学生が研究活動（文献収集、調査、分析、教育考案、プロトコル作成）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。

技術・表現の観点 (A)	・学生が対象集団の課題解決のための教材開発や食事改善計画をプランニングし、それらを活用・周知できる。 ・学生が自身が行った研究の内容を、学術的な文章の執筆、発表スライドを作成でき、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマを考え、テーマに関連する授業科目の内容を復習しておくこと。関連する学術論文に興味をもって事前に調べ考えておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第2回	**授業テーマ**	問題分析、課題設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマに沿って、課題・問題点、解決方法、調査方法を明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマに関する文献、書籍、雑誌、新聞、インターネット上の情報を調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第3回	**授業テーマ**	先行研究・参考文献の調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本学の図書館を利用して、書籍・文献探索の方法を学び、研究テーマに関する参考文献を収集する。これまで明らかになっていること、明らかになっていないこと等、整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマに沿った先行研究・参考文献を事前に集めて、精読して理解しておくこと。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第4回	**授業テーマ**	研究方法の立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、食教育・教材開発・調査実施・分析・考察・纏めなどのスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	官能評価士テキストにおいて学んだ内容に沿った企画立案について復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分

第5回	授業テーマ	調査票・教材の企画開発
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマに沿った調査票・教育教材を企画・開発する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	関連するアンケート調査票、食教育教材について、インターネット、書籍、文献などから事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第6回	授業テーマ	調査票・教材の企画開発
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマに沿った調査票・教育教材を企画・開発する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	関連するアンケート調査票、食教育教材について、インターネット、書籍、文献などから事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第7回	授業テーマ	調査票・教材の企画開発
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマに沿った調査票・教育教材を企画・開発する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	関連するアンケート調査票、食教育教材について、インターネット、書籍、文献などから事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第8回	授業テーマ	調査・実験の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	計画した内容に沿って実験を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査はやり直しができないため、不備や漏れは無いか事前に確認しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第9回	授業テーマ	データ解析と結果解釈、
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査結果について作表・解析・分析する。報告書を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作表や統計解析方法について予習・復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。

	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第10回	**授業テーマ**	調査結果の分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査結果について作表・解析・分析する。報告書を作成する。「課題提出あり」
	教室外学習(予習・復習)の内容	作表や統計解析方法について予習・復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第11回	**授業テーマ**	図表作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図表の作成方法、論文の構成について解説するので、作成・立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作表や統計解析方法について予習・復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第12回	**授業テーマ**	図表作成、論文構成立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図表の作成方法、論文の構成について解説するので、作成・立案する。「課題提出あり」
	教室外学習(予習・復習)の内容	作表や統計解析方法について予習・復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第13回	**授業テーマ**	中間発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中間発表の資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	同じ研究分野の発表資料を事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第14回	**授業テーマ**	中間発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中間発表の資料を作成する。 「課題提出あり」
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をしておく。 他者の発表を聴き、最終発表に向けて修正、改善する。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時	

	間（分）	研究遂行200分

学習計画注記

・授業の最後に毎回質問を受け付ける。
・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2309研究室を訪問する。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。）
・やむを得ない事情（物理的な環境・教材等）によっては、授業内容が変更されることがあります。

学生へのフィードバック方法

・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックします。

評価方法

・論文・要旨・作成資料点、発表点で総合的に評価します。
・論文および発表は下表に示すスキルを養うことを目的としています。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
論文・要旨・作成資料点	○	○	○	○
発表点	○	○	○	○

評価割合

・論文、要旨（50%）、発表点（50%）
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

使用教科書名(ISBN番号)

・特に指定しない

参考図書

・SPSSでやさしく学ぶアンケート処理（東京図書）
・日本人の食事摂取基準 2020版 （第一出版）
・「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル 第3版 （第一出版）
(ISBN 978-4-8041-1358-6 C3077)

参考URL

http://www.tokyo-tosho.co.jp/download/

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー

火曜日2時限
2309研究室

学生へのメッセージ

・学生便覧の食物学科卒業研究内規を確認しておくこと
・実社会における食育等の経験や地域連携活動の機会を提供するので、是非主体的、積極的に学んで欲しい。
・自分の興味ある研究活動を見つけ、卒業後も役に立ち思い出に残るような研究となるよう取り組んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は、食品企業において商品開発を行った経験がある
アクティブ・ラーニング	○	・人々の食生活課題に対する解決課題を設定し、実験設計を行う．内容についてデイスカッションし、能動的に学べるよう教授します。
情報リテラシー教育	○	・研究のための文献検索、アイデアの情報収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）、データ入力・集計（エクセル）、栄養分析（エクセル栄養君）、統計解析（jmp）等の各種ソフトウェアを活用して教授します。 ・資料提供、課題提出等に活用する。 ・ノートパソコンは必携です。

講義コード	G06074012
講義名	卒業研究Ａ（海野）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	海野 るみ	指定なし

ナンバリング

R40714M22

授業概要(教育目的)

・本科目は、卒業のための必修科目である。本授業では、自らが発見した食生活に関わる課題や地域での活動を研究テーマとして設定し、食教育や調査を行い研究に繋げる。学生はそのテーマを追求するため、結果の分析、教育方法の纏め、考察、結論を導いていく。研究プロセス、発表方法、論文執筆の方法について、テーマに応じて適切な指導を行う。これらの研究活動を通して新たな自分を発見でき、延いては地域・社会に貢献できる力が身に着くよう教授します。

履修条件

・栄養指導論、栄養カウンセリング論、公衆栄養学、栄養指導実習、栄養カウンセリング実習、公衆栄養学実習、食物総合演習A・Bを履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・学生が研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 ・学生が研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	・学生が多様な栄養・食情報を整理し、表現して、客観的に思考、判断することができる。 ・学生が問題を明確化して、自ら研究のテーマを設定し、それに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・学生が対象集団・地域社会の課題を見い出し、その解決のための食育や食生活改善に興味や関心を持ち、貢献したいという意欲をもつようになる。 ・学生が研究活動（文献収集、調査、分析、教育考案、プロトコル作成）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。

技術・表現の観点 (A)	・学生が対象集団の課題解決のための教材開発や食事改善計画をプランニングし、それらを活用・周知できる。 ・学生が自身が行った研究の内容を、学術的な文章の執筆、発表スライドを作成でき、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマを考え、テーマに関連する授業科目の内容を復習しておくこと。関連する学術論文に興味をもって事前に調べ考えておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第2回	**授業テーマ**	問題分析、課題設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマに沿って、課題・問題点、解決方法、調査方法を明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマに関する文献、書籍、雑誌、新聞、インターネット上の情報を調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第3回	**授業テーマ**	先行研究・参考文献の調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本学の図書館を利用して、書籍・文献探索の方法を学び、研究テーマに関する参考文献を収集する。これまで明らかになっていること、明らかになっていないこと等、整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマに沿った先行研究・参考文献を事前に集めて、精読して理解しておくこと。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第4回	**授業テーマ**	研究方法の立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、食教育・教材開発・調査実施・分析・考察・纏めなどのスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養指導論・実習において学んだPDCAサイクルに沿った企画立案について復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分

第5回	授業テーマ	調査票・教材の企画開発
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマに沿った調査票・教育教材を企画・開発する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	関連するアンケート調査票、食教育教材について、インターネット、書籍、文献などから事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第6回	授業テーマ	調査票・教材の企画開発
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマに沿った調査票・教育教材を企画・開発する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	関連するアンケート調査票、食教育教材について、インターネット、書籍、文献などから事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第7回	授業テーマ	調査票・教材の企画開発
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマに沿った調査票・教育教材を企画・開発する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	関連するアンケート調査票、食教育教材について、インターネット、書籍、文献などから事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第8回	授業テーマ	調査・食教育の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	スケージュール、学習指導案に沿って、調査・食教育を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査はやり直しができないため、不備や漏れは無いか事前に確認しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第9回	授業テーマ	調査結果の分析、事業評価票の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査結果について作表・解析・分析する。食教育について事業評価を行い報告書を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作表や統計解析方法について予習・復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。

	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第10回	**授業テーマ**	調査結果の分析、事業評価票の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査結果について作表・解析・分析する。食教育について事業評価を行い報告書を作成する。「課題提出あり」
	教室外学習(予習・復習)の内容	作表や統計解析方法について予習・復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第11回	**授業テーマ**	図表作成、論文構成立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図表の作成方法、論文の構成について解説するので、作成・立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作表や統計解析方法について予習・復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第12回	**授業テーマ**	図表作成、論文構成立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図表の作成方法、論文の構成について解説するので、作成・立案する。「課題提出あり」
	教室外学習(予習・復習)の内容	作表や統計解析方法について予習・復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第13回	**授業テーマ**	中間発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中間発表の資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	同じ研究分野の発表資料を事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第14回	**授業テーマ**	中間発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中間発表の資料を作成する。 「課題提出あり」
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をしておく。 他者の発表を聴き、最終発表に向けて修正、改善する。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時	

	間（分）	研究遂行200分

学習計画注記

・授業の最後に毎回質問を受け付ける。
・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問する。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。）
・新型コロナの状況、やむを得ない事情（物理的な環境・教材等）によっては、授業内容が変更されることがあります。

学生へのフィードバック方法

・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックします。

評価方法

・論文・要旨・作成資料点、発表点で総合的に評価します。
・論文および発表は下表に示すスキルを養うことを目的としています。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
論文・要旨・作成資料点	○	○	○	○
発表点	○	○	○	○

評価割合

・論文、要旨（50%）、発表点（50%）
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

使用教科書名(ISBN番号)

・特に指定しない

参考図書

・SPSSでやさしく学ぶアンケート処理（東京図書）
・日本人の食事摂取基準 2020版 （第一出版）
・「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル 第3版 （第一出版）
(ISBN 978-4-8041-1358-6 C3077)

参考URL

http://www.tokyo-tosho.co.jp/download/

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー

・月曜3限、火曜1限、火曜昼休み：栄養指導研究室（2106室）
・事前にg-mail（misawa@kasei-gakuin.ac.jp）で予約してから来訪して下さい。
・基本的に、毎週金曜日は研修日のため大学不在です。

学生へのメッセージ

・学生便覧の食物学科卒業研究内規を確認しておくこと
・実社会における食育等の経験や地域連携活動の機会を提供するので、是非主体的、積極的に学んで欲しい。
・自分の興味ある研究活動を見つけ、卒業後も役に立ち思い出に残るような研究となるよう取り組んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は、病院（管理栄養士）及び企業（第一種衛生管理者、産業栄養指導者）において、「栄養の指導」分野の中核を成す栄養指導及び栄養教育の実務経験を有している。将来の栄養士・管理栄養士として習得すべき栄養指導（ハイリスクアプローチ）、予防的栄養教育、公衆栄養活動（ポピュレーションアプローチ）に関して、実例を示しより実践的に、結果（アウトカム）を出せるよう、研究を指導します。
アクティブ・ラーニング	○	・対象者の食生活改善上の問題解決を図り、栄養の指導分野の技術をより高めるため、チームでデイスカッションし、能動的に学べるよう教授します。
情報リテラシー教育	○	・研究のための文献検索、アイデアの情報収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）、データ入力・集計（エクセル）、栄養分析（エクセル栄養君）、統計解析（SPSS）等の各種ソフトウェアを活用して教授します。 ・資料提供、課題提出等に活用する。 ・ノートパソコンは必携です。

講義コード	G06074013
講義名	卒業研究Ａ（大嶋）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大嶋 孝之	指定なし

ナンバリング

R40714M22

授業概要(教育目的)

・本科目は、卒業のための必修科目である。本授業では、自らが発見した食生活に関わる課題や地域での活動を研究テーマとして設定し、食教育や調査を行い研究に繋げる。学生はそのテーマを追求するため、結果の分析、教育方法の纏め、考察、結論を導いていく。研究プロセス、発表方法、論文執筆の方法について、テーマに応じて適切な指導を行う。これらの研究活動を通して新たな自分を発見でき、延いては地域・社会に貢献できる力が身に着くよう教授します。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・学生が研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 ・学生が研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	・学生が多様な栄養・食情報を整理し、表現して、客観的に思考、判断することができる。 ・学生が問題を明確化して、自ら研究のテーマを設定し、それに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・学生が対象集団・地域社会の課題を見い出し、その解決のための食育や食生活改善に興味や関心を持ち、貢献したいという意欲をもつようになる。 ・学生が研究活動（文献収集、調査、分析、教育考案、プロトコル作成）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	・学生が対象集団の課題解決のための教材開発や食事改善計画をプランニングし、それらを活用・周知できる。 ・学生が自身が行った研究の内容を、学術的な文章の執筆、発表スライドを作成でき、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマを考え、テーマに関連する授業科目の内容を復習しておくこと。関連する学術論文に興味をもって事前に調べ考えておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第2回	**授業テーマ**	問題分析、課題設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマに沿って、課題・問題点、解決方法、調査方法を明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマに関する文献、書籍、雑誌、新聞、インターネット上の情報を調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第3回	**授業テーマ**	先行研究・参考文献の調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本学の図書館を利用して、書籍・文献探索の方法を学び、研究テーマに関する参考文献を収集する。これまで明らかになっていること、明らかになっていないこと等、整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマに沿った先行研究・参考文献を事前に集めて、精読して理解しておくこと。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第4回	**授業テーマ**	研究方法の立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、食教育・教材開発・調査実施・分析・考察・纏めなどのスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養指導論・実習において学んだPDCAサイクルに沿った企画立案について復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
	授業テーマ	調査票・教材の企画開発
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ	研究テーマに沿った調査票・教育教材を企画・開発する。

	–教育・ICT活用を含む)	
第5回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	関連するアンケート調査票、食教育教材について、インターネット、書籍、文献などから事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第6回	**授業テーマ**	調査票・教材の企画開発
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマに沿った調査票・教育教材を企画・開発する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	関連するアンケート調査票、食教育教材について、インターネット、書籍、文献などから事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第7回	**授業テーマ**	調査票・教材の企画開発
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマに沿った調査票・教育教材を企画・開発する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	関連するアンケート調査票、食教育教材について、インターネット、書籍、文献などから事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第8回	**授業テーマ**	調査・食教育の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	スケージュール、学習指導案に沿って、調査・食教育を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査はやり直しができないため、不備や漏れは無いか事前に確認しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第9回	**授業テーマ**	調査結果の分析、事業評価票の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査結果について作表・解析・分析する。食教育について事業評価を行い報告書を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作表や統計解析方法について予習・復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
	授業テーマ	調査結果の分析、事業評価票の作成

第10回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査結果について作表・解析・分析する。食教育について事業評価を行い報告書を作成する。「課題提出あり」
	教室外学習(予習・復習)の内容	作表や統計解析方法について予習・復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第11回	授業テーマ	図表作成、論文構成立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図表の作成方法、論文の構成について解説するので、作成・立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作表や統計解析方法について予習・復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第12回	授業テーマ	図表作成、論文構成立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図表の作成方法、論文の構成について解説するので、作成・立案する。「課題提出あり」
	教室外学習(予習・復習)の内容	作表や統計解析方法について予習・復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第13回	授業テーマ	中間発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中間発表の資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	同じ研究分野の発表資料を事前に調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第14回	授業テーマ	中間発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中間発表の資料を作成する。 「課題提出あり」
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をしておく。 他者の発表を聴き、最終発表に向けて修正、改善する。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分

学習計画注記

・授業の最後に毎回質問を受け付ける。
・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2308研究室を訪問する。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。）
・新型コロナの状況、やむを得ない事情（物理的な環境・教材等）によっては、授業内容が変更されることがあります。

学生へのフィードバック方法

・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックします。

評価方法

・論文・要旨・作成資料点、発表点で総合的に評価します。
・論文および発表は下表に示すスキルを養うことを目的としています。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
論文・要旨・作成資料点	○	○	○	○
発表点	○	○	○	○

評価割合

・論文、要旨（70%）、発表点（30%）
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

使用教科書名(ISBN番号)

・特に指定しない

参考図書

・SPSSでやさしく学ぶアンケート処理（東京図書）
・日本人の食事摂取基準 2020版 （第一出版）
・「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル 第3版 （第一出版）
(ISBN 978-4-8041-1358-6 C3077)

参考URL

http://www.tokyo-tosho.co.jp/download/

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

学生へのメッセージ

・学生便覧の食物学科卒業研究内規を確認しておくこと
・実社会における食育等の経験や地域連携活動の機会を提供するので、是非主体的、積極的に学んで欲しい。
・自分の興味ある研究活動を見つけ、卒業後も役に立ち思い出に残るような研究となるよう取り組んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	・チームでデイスカッションし、能動的に学べるよう教授します。
情報リテラシー教育	○	・研究のための文献検索、アイデアの情報収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）、データ入力・集計（エクセル）、栄養分析（エクセル栄養君）、統計解析（SPSS）等の各種ソフトウェアを活用して教授します。 ・資料提供、課題提出等に活用する。 ・ノートパソコンは必携です。

講義コード	G06074014
講義名	卒業研究Ａ（大中）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大中 佳子	指定なし

ナンバリング

R40714M22

授業概要(教育目的)

・本科目は、卒業のための必修科目である。本授業では、給食に関する課題を研究テーマとして設定し、実験を行い、研究結果を考察する。学生はそのテーマを追求するため、研究方法、結果の分析、考察、結論を導いていく。研究プロセス、発表方法、論文執筆の方法について、テーマに応じて適切な指導を行う。これらの研究活動を通して新たな自分を発見でき、栄養士としての実践力が身に着くよう教授します。

履修条件

・食物総合演習A・Bを履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・学生が研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 ・学生が研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	・学生が多様な情報を整理し、表現して、客観的に思考、判断することができる。 ・学生が問題を明確化して、自ら研究のテーマを設定し、それに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・学生が給食に関するテーマを見い出すことができる。 ・給食を媒体に食育や食生活改善に興味や関心を持ち、貢献したいという意欲をもつようになる。 ・学生が研究活動（文献収集、実験、分析、考察）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
	・安心・安全の給食提供に向け、進化する大量調理機器を活用し、労働生産

技術・表現の観点 (A)	性を上げることができる。 ・学生が自身が行った研究内容をまとめ、学術的な文章の執筆、発表スライドを作成でき、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマを考え、テーマに関連する授業科目の内容を復習しておくこと。関連する学術論文に興味をもって事前に調べ考えておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第2回	**授業テーマ**	問題分析、課題設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマに沿って、課題・問題点、解決方法、調査方法を明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究のテーマに関する文献、書籍、雑誌、新聞、インターネット上の情報を調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第3回	**授業テーマ**	先行研究・参考文献の調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本学の図書館を利用して、書籍・文献探索の方法を学び、研究テーマに関する参考文献を収集する。これまで明らかになっていること、明らかになっていないこと等、整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマに沿った先行研究・参考文献を事前に集めて、精読して理解しておくこと。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第4回	**授業テーマ**	研究方法の立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、実験・分析・考察・まとめなどのスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	給食システムについて調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
	授業テーマ	研究方法の立案

第5回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、実験・分析・考察・まとめなどのスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	給食システムについて調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第6回	**授業テーマ**	研究方法の立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、実験・分析・考察・まとめなどのスケジュールを立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	給食システムについて調べておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第7回	**授業テーマ**	計画した研究手順に基づき実験を行う。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	計画した研究手順に基づいた手順で、実験を行い、評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験の経過記録を、まとめておく 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第8回	**授業テーマ**	計画した研究手順に基づき実験を行う。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	計画した研究手順に基づいた手順で、実験を行い、評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験の経過記録を、まとめておく 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第9回	**授業テーマ**	実験結果の分析、評価を行う。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実験結果について作表・解析・分析し、報告書を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作表や統計解析方法について予習・復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
	授業テーマ	実験結果の分析、評価を行う。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ	

第10回	–教育・ICT活用を含む)	実験結果について作表・解析・分析し、報告書を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作表や統計解析方法について予習・復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第11回	授業テーマ	図表作成、論文構成立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図表の作成方法、論文の構成について解説するので、作成・立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作表や統計解析方法について予習・復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第12回	授業テーマ	図表作成、論文構成立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図表の作成方法、論文の構成について解説するので、作成・立案する。「課題提出あり」
	教室外学習(予習・復習)の内容	作表や統計解析方法について予習・復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第13回	授業テーマ	中間発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中間発表の資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表資料を完成させること。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第14回	授業テーマ	中間発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中間発表の資料を作成する。 「課題提出あり」
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の練習をしておく。 他者の発表を聴き、最終発表に向けて修正、改善する。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分

学習計画注記

・授業の最後に毎回質問を受け付ける。

・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2311研究室を訪問する。事前にメール予約してから来訪して下さい。

学生へのフィードバック方法

・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックします。

評価方法

・論文・要旨・作成資料点、発表点で総合的に評価します。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
論文・要旨・作成資料点	○	○	○	○
発表点	○	○	○	○

評価割合

・研究への参加状況20%、論文・要旨40%、発表点40%
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

使用教科書名(ISBN番号)

・特に指定しない

参考図書

・大量調理施設衛生管理マニュアル/厚生労働省
・サクセス管理栄養士・栄養士養成講座「給食経営管理論」/第一出版

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー

・金曜２限、金曜昼休み：給食管理学研究室（2311室）
・事前にメールで予約してから来訪して下さい。

学生へのメッセージ

・学生便覧の食物学科卒業研究内規を確認しておくこと
・栄養士業務として社会で即実践できる研究ですので、積極的に学んで欲しい。
・興味ある研究活動を見つけ、卒業後も社会に貢献できるよう、大学での研究に取り組んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かし	○	・総合病院、児童・高齢者福祉施設において管理栄養士業務かつマネジメント職務の実績がある教員が、社会で即実践できるよう、給食システムに関する研

た授業		究を指導します。
アクティブ・ラーニング	○	・給食システムについて、大量調理機器を使用した研究を行います。
情報リテラシー教育	○	・研究のための文献検索、情報収集の方法を学びます。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）、データ入力・集計（エクセル）、統計解析（SPSS）等の各種ソフトウェアを活用します。 ・資料提供、課題提出等に活用します。ノートパソコンは必携です。

講義コード	G06075002
講義名	卒業研究Ｂ（河田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	河田 敦子	指定なし

ナンバリング

R40715M22

授業概要(教育目的)

卒業研究Aで行った、先行研究の検討、研究方法の決定、調査計画に基づき、オリジナルデータ取得のための調査を実施する。その結果を分析し、卒業論文を作成、卒研発表会で発表を行う。

履修条件

卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。
卒業研究Aで河田の指導を受けていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	卒行研究のために調べた事柄を整理し、論述する基本的な知識・理解がある。
思考・判断の観点 (K)	調査等から得られた内容を論理的に整理できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	この卒研から何かを得ようという積極的関心・意欲・態度がある。
技術・表現の観点 (A)	何をどのような目的と方法で研究しているかを他者にわかり易く表現することができる。

学習計画

	授業テーマ	調査計画の確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ	今後の調査計画の確認を行う。何を明らかに知るために、何を調べるのか。そのためにはどのような準備と段取りが必要なのか、どの

第1回	**-教育・ICT活用を含む)**	程度の期間が調査に必要なのかを、指導教員とディスカッションしながら確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	上記の学習内容に必要は情報（文献、インタビュー対象者、調査地）等についてよく考えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	調査の実施と報告
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業時間内には実施した調査内容を少しずつ報告する。調査時間に本授業を含める場合もある。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査自体が教室室外学習である。
	教室外学習の時間（分）	240分
第3回	**授業テーマ**	調査の実施と報告
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業内では、調査結果の報告を行う。調査時間が少ない場合は、本授業時間を調査時間に含める場合もある。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外で調査を行い、その結果を記録する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第4回	**授業テーマ**	調査の実施と報告
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査内容の報告を受け、卒論の論旨を構築しながら、更に必要な資料・データについて指導教員とディスカッションして考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	更に必要な資料・データがある場合は、更に調査を計画する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第5回	**授業テーマ**	調査結果の整理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査で得られた資料・データを整理して、分析し易いようにする。授業時間を用いて整理を行うことも可。
	教室外学習(予習・復習)の内容	1回で整理はできないので、授業時間外にもデータ整理を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	調査データの整理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	引き続き調査で得られたデータ整理を行う。データ不足の場合は、再度調査を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外での調査がある場合もある。
	教室外学習の時間（分）	120分

第7回	授業テーマ	調査結果のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	得られたデータから何が言えるか、について指導教員とディスカッションを行う。言えることは常に箇条書きにして記録しておくこと。
	教室外学習(予習・復習)の内容	得られたデータ、整理したデータから何が言えるか、自分が何を言いたいのかを、常に考えること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	授業テーマ	卒論の書き方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒論の目次（章・節）の立て方を学ぶ。目次の立て方を学んだ後で、自分の論文の目次を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	目次の作成は、非常に重要である。何度も組み換えをしながら、論旨を組み立てること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	卒論の執筆（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	目次に従い、自分が書き易い章から執筆していく。途中で指導教員の前でプレゼンし、文言の表現の仕方等を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	とにかく、書き続けること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	卒論執筆（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の目的、研究方法、先行研究の検討は、執筆終了。調査の概要に着手し、得られたデータから読み取れることを箇条書きにしておく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	得られたデータ・資料を何度も何度も読むこと。読んで気付いたことは必ず箇条書きに記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	卒論執筆（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	得られたデータについて気付いたことを箇条書きにした内容を吟味し、同じ項目で整理できるものを探して、幾つかの項目を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒研を書き続ける。
	教室外学習の時間（分）	240分
第12回	授業テーマ	卒研要旨の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒研発表会のための要旨を作成して、指導教員の指導を受け、要旨の書き方を学ぶ。
	教室外学習(予	要旨の書き方、短い文章で論旨をまとめるまとめ方について考える

	習・復習)の内容	こと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	卒研発表の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業論文をPPT資料にして、他者に分かり易く伝えられるようにする。研究内容を他者に分かり易く、アピールするようにプレゼンするにはどのようにすれば良いのかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図や絵、写真がプレゼンには欠かせないので準備すること。
	教室外学習の時間（分）	240分
第14回	授業テーマ	卒研発表と卒論提出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒研発表会で発表し、コメントをもらうことで、自分の卒研を振り返る。他の学生の発表を聴くことからも、いろいろなことを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業論文を完成させる事。参考文献も整理すること。
	教室外学習の時間（分）	240分

学習計画注記

特になし

学生へのフィードバック方法

ゼミ形式、発表、個別指導

評価方法

取り組み姿勢：多様な問題に直面した時に、助言を受けて自律的に解決方法を見つけて卒業研究をやり抜くことができる。
卒業研究要旨・簡潔に卒研の要旨をまとめることができる。
卒業論文：研究目的、研究動機、研究方法、調査結果、結論等がしっかり文章化されている。
評価方法・評価基準は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはクラスルーム
または授業内での配布等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
取り組み姿勢			○	
卒業研究要旨作成	○	○		○
卒業論文	○	○	○	○

評価割合

取り組み姿勢（30%）
卒業研究要旨・簡潔に要旨をまとめることができる。（30%）
卒業論文（40%）

使用教科書名(ISBN番号)

特になし

参考図書

授業内に指示する。参考図書はできるだけ自分で探すこと。

ディプロマポリシーとの関連

【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
【技能・表現】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

オフィスアワー

随時アポイントメントを取ること。（1612教室）

学生へのメッセージ

指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ゼミでは、常にディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	資料情報の収集・入手の方法は、随時指導する。
ICT活用		

講義コード	G06075003
講義名	卒業研究Ｂ（三澤）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	三澤 朱実	指定なし

ナンバリング

R40715M22

授業概要(教育目的)

・本科目は、卒業のための必修科目である。本授業では、自らが発見した食生活に関わる課題や地域での活動を研究テーマとして設定し、食教育や調査を行い研究に繋げる。学生はそのテーマを追求するため、結果の分析、教育方法の纏め、考察、結論を導いていく。研究プロセス、発表方法、論文執筆の方法について、テーマに応じて適切な指導を行う。これらの研究活動を通して新たな自分を発見でき、延いては地域・社会に貢献できる力が身に着くよう教授します。

履修条件

・栄養指導論、栄養カウンセリング論、公衆栄養学、栄養指導実習、栄養カウンセリング実習、公衆栄養学実習、食物総合演習A・B、卒業研究Aを履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・学生が研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 ・学生が研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	・学生が多様な栄養・食情報を整理し、表現して、客観的に思考、判断することができる。 ・学生が問題を明確化して、自ら研究のテーマを設定し、それに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・学生が対象集団・地域社会の課題を見い出し、その解決のための食育や食生活改善に興味や関心を持ち、貢献したいという意欲をもつようになる。 ・学生が研究活動（文献収集、調査、分析、教育考案、プロトコル作成）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。

技術・表現の観点 (A)	・学生が対象集団の課題解決のための教材開発や食事改善計画をプランニングし、それらを活用して周知したりできる。 ・学生が自身が行った研究の内容を、学術的な文章の執筆、発表スライドを作成でき、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	スケージュール
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文執筆のスケジュールを立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「卒業研究の手引き」をよく精読しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第2回	**授業テーマ**	論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の卒業論文を読んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第3回	**授業テーマ**	論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の卒業論文を読んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第4回	**授業テーマ**	論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の卒業論文を読んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第5回	**授業テーマ**	論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の卒業論文を読んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第6回	**授業テーマ**	論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の卒業論文を読んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
	授業テーマ	要旨の作成

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の要旨を事前に学んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第8回	授業テーマ	要旨の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の要旨を事前に学んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第9回	授業テーマ	発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の要旨に沿って、パワーポイントの発表資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表資料の作成方法について事前に復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第10回	授業テーマ	発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の要旨に沿って、パワーポイントの発表資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表資料の作成方法について事前に復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第11回	授業テーマ	発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の要旨に沿って、パワーポイントの発表資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表資料の作成方法について事前に復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	発表準備・論文執筆200分
第12回	授業テーマ	発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の要旨に沿って、パワーポイントの発表資料を作成する。「課題提出あり」
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表資料の作成方法について事前に復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	発表準備・論文執筆200分
第13回	授業テーマ	発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゼミナールにおいてプレ発表会を行う。 卒業論文についてゼミ内で確認、討議する。 発表後、纏め方等について議論し内容の向上を図る。

	教室外学習(予習・復習)の内容	所定時間内に発表できるよう練習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	発表準備・論文執筆200分
第14回	**授業テーマ**	発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゼミナールにおいてプレ発表会を行う。 卒業論文についてゼミ内で確認、討議する。 発表後、纏め方等について議論し内容の向上を図る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	所定時間内に発表できるよう練習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	発表準備・論文執筆200分

学習計画注記

・授業の最後に毎回質問を受け付ける。
・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問する。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。）
・新型コロナの状況、やむを得ない事情（物理的な環境・教材等）によっては、授業内容が変更されることがあります。

学生へのフィードバック方法

・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックします。

評価方法

・論文、要旨、作成資料等、発表で総合的に評価します。
・論文および発表は下表に示すスキルを養うことを目的としています。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
論文・要旨・作成資料点	○	○	○	○
発表点	○	○	○	○

評価割合

・論文、要旨、作成資料等（50%）、発表点（50%）
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

使用教科書名(ISBN番号)

・特に指定しない

参考図書

・SPSSでやさしく学ぶアンケート処理（東京図書）
・日本人の食事摂取基準 2025版 （第一出版）
・「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル 第3版 （第一出版）
(ISBN 978-4-8041-1358-6 C3077)

参考URL

http://www.tokyo-tosho.co.jp/download/

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
・生活にかかわる知識を多面的に身に付けている。

・多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。
【思考・判断】
・地域・社会に関する諸課題を自分ごととしてとらえ、適切な手法で分析することができる。
・多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】
・他者の視点やニーズを理解し、社会に新たな価値を見出すことができる。
・地域・社会の多様な人々と協働して、新しいライフスタイルを共に創り上げることができる。
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
【技能・表現】
・生活にかかわる技能を多面的に身に付けている。
・人々が快適に生活できる持続可能な生活様式を企画・提案することができる。
・生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー

・月曜5限、火曜5限：栄養指導研究室（2106室）
・事前にg-mail（misawa@kasei-gakuin.ac.jp）で予約してから来訪して下さい。
・基本的に、毎週金曜日は研修日のため大学不在です。

学生へのメッセージ

・学生便覧の食物学科卒業研究内規を確認しておくこと
・実社会における食育等の経験や地域連携活動の機会を提供するので、是非主体的、積極的に学んで欲しい。自分の興味ある研究活動を見つけ、卒業後も役に立ち思い出に残るような研究となるよう取り組んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は、病院（管理栄養士）及び企業（第一種衛生管理者、産業栄養指導者）において、「栄養の指導」分野の中核を成す栄養指導及び栄養教育の実務経験を有している。将来の栄養士・管理栄養士として習得すべき栄養指導（ハイリスクアプローチ）、予防的栄養教育、公衆栄養活動（ポピュレーションアプローチ）に関して、実例を示しより実践的に、結果（アウトカム）を出せるよう、研究を指導します。
アクティブ・ラーニング	○	・対象者の食生活改善上の問題解決を図り、栄養の指導分野の技術をより高めるため、チームでデイスカッションし、能動的に学べるよう教授します。
情報リテラシー教育	○	・研究のための文献検索、アイデアの情報収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）、データ入力・集計（エクセル）、栄養分析（エクセル栄養君）、統計解析（SPSS）等の各種ソフトウェアを活用して教授します。 ・資料提供、課題提出等に活用する。 ・ノートパソコンは必携です。

講義コード	G06075005
講義名	卒業研究Ｂ（岩本）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	岩本 直樹	指定なし

ナンバリング

R40715M22

授業概要(教育目的)

卒業研究Aと連動し、大学での学びの集大成として、主に栄養・食品・教育を専門領域とした研究テーマを設定し、各担当教員とのディスカッションを行いながら先行研究調査、研究手法の検討、結果・結論を見出し考察をおこなう。また、それらの経過・結果について、口頭発表、論文の作成の指導を受ける。これにより研究を進めるための基本となる様々な要素を習得し、卒業論文作成を行う。本科目は、栄養士免許証取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	研究テーマの目的を、社会的背景や既往の研究と関連付けて理解できる。
思考・判断の観点 (K)	得られた研究データから導かれる解釈を正しく理解できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1．各課題に対し、他者との協働を重んじて貢献することができる。 2．研究目的に沿って実験や活動等を遂行し、その結果を観察・記録し、実験ノートに整理できる。
技術・表現の観点 (A)	実験や活動等の成果を口頭で発表し、討論において的確に受け答えができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	リサーチミーティング①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究Aの中間報告の内容に加えて調べ、実験等を行ってきたことを報告する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	研究活動における報告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	リサーチミーティング②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究Aの中間報告の内容に加えて調べ、実験等を行ってきたことを報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究活動における報告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	リサーチミーティング③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究Aの中間報告の内容に加えて調べ、実験等を行ってきたことを報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究活動における報告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	考察の検討①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考察の検討をするため、ディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究データ等から考察を考える。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	考察の検討②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考察の検討をするため、ディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究データ等から考察を考える。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	**授業テーマ**	論文作成①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究等の資料を分析し、論文の構想・論旨の組み立てを行いアウトラインを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業論文を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	論文作成②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究等の資料を分析し、論文の構想・論旨の組み立てを行いアウトラインを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業論文を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	論文作成③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究等の資料を分析し、論文の構想・論旨の組み立てを行いアウトラインを作成する。定期的にディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復	

	習)の内容	卒業論文を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	論文作成④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究等の資料を分析し、論文の構想・論旨の組み立てを行いアウトラインを作成する。定期的にディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業論文を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	論文作成⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アウトラインから本文の執筆を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業論文を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	研究発表とプレゼンテーション準備①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	最終報告でのプレゼンテーション用の資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼン資料の作成
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	研究発表とプレゼンテーション準備②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	最終報告でのプレゼンテーション用の資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼン資料の作成
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	研究発表とプレゼンテーション準備③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	最終報告でのプレゼンテーション用の資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼン資料の作成
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	研究発表と質疑応答
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションを行った後、ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼン資料の作成
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

※シラバスの内容は、やむを得ない事情等により一部変更することがあります。

学生へのフィードバック方法

授業時間内でフィードバックできない場合は研究室で個別に対応する。また質問等がある場合には2101研究室まで訪問（E-mailでも可）すること。

評価方法

卒業研究の取り組みをルーブリックに基づいて成績を評価する。ルーブリックについてはGoogle Classroom等で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
先行研究の整理	○	○	○	
ディスカッション			○	○
プレゼンテーション;発表	○	○	○	○
卒業論文	○	○	○	○

評価割合

先行研究の整理（10%）、リサーチミーティングでのディスカッションへの参加（20%）、最終報告等の発表（プレゼンテーション）（40%）や卒業論文（30%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

・林淳三編『基礎栄養学』建帛社
・松村譲兒編『人体解剖ビジュアル』サイオ出版
・栢下淳 他編『栄養科学イラストレイテッド応用栄養学』羊土社
・小野友紀編『子どもの食と栄養』アイ・ケイコーポレーション
・多賀昌樹編『臨床栄養学基礎から学べる』アイ・ケイコーポレーション

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】学習内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技能・表現】専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー

火曜3・4限 2101研究室
（2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）

学生へのメッセージ

研究活動にあたっては、担当教員（岩本）と十分にコミュニケーションをとり、研究活動に対する助言・指導を受けるとともに、進捗状況に関する情報を共有してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	同じテーマを持った班員において、調理や実験を協同し、得られた結果を共有・解析する。 担当教員を含めて活発なディスカッションを行う。

情報リテラシー教育	○	情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。

講義コード	G06075007
講義名	卒業研究Ｂ（黒田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	黒田 久夫	指定なし

ナンバリング

R40715M22

授業概要(教育目的)

【卒業研究Bの概要】
・脂質と栄養プロジェクト、テーマ①「私たちは、どのような食事をしていて、どのような脂質を摂っているのか、その質と量を分析する」について、卒業研究A取り組んだ内容を確認の上、さらに研究を進めていきます。
・思考のプロセスについても学び、論理思考力や批判的思考（クリティカルシンキング）をさらに高めていきます。
【授業の形式】
・対面授業、月曜日の3,4限です。
・日程は、クラスルームに掲示します。
・教室外学習は、独自に取り組む内容とします。取り組む内容は自由としますが、「脂質と栄養プロジェクト」のテーマの範囲内とし、研究倫理の手続きが必要な場合は相談して下さい。教室外学習は、グループを作って取り組んでも良いです。

履修条件

・対面授業では、PCとマウスを必ず用意すること。ワード・エクセル・パワーポイントをインストールしておくこと。
・卒業研究論文を執筆する覚悟を固めておくこと。地道に取り組むこと。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・研究に必要な新規性と進歩性が正確に理解できている ・研究テーマの理解が、広く、深くなっている
思考・判断の観点 (K)	・批判的に思考できる＝クリティカルシンキングが身についている ・根拠に基づいて、データを判断できる
関心・意欲・態度の観点	・粘り強く研究を進めることができる

(V)	・データの信頼性を厳しく評価することができる
技術・表現の観点 (A)	・データから得られた結果と考察を、論理的かつ簡潔に口頭で説明できる ・データから得られた結果と考察を、論理的かつ明瞭に文章で表現できる

学習計画

第1回	授業テーマ	脂質と栄養プロジェクト（１１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期の取り組みを確認し、後期の予定を確認します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	脂質と栄養プロジェクトに関する個人・グループ研究
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	脂質と栄養プロジェクト（１２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質と栄養プロジェクトを進めます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	脂質と栄養プロジェクトに関する個人・グループ研究
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	授業テーマ	脂質と栄養プロジェクト（１３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質と栄養プロジェクトを進めます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	脂質と栄養プロジェクトに関する個人・グループ研究
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	授業テーマ	脂質と栄養プロジェクト（１４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質と栄養プロジェクトを進めます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	脂質と栄養プロジェクトに関する個人・グループ研究
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	授業テーマ	脂質と栄養プロジェクト（１５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質と栄養プロジェクトを進めます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	脂質と栄養プロジェクトに関する個人・グループ研究
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	授業テーマ	脂質と栄養プロジェクト（１６）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質と栄養プロジェクトを進めます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	脂質と栄養プロジェクトに関する個人・グループ研究
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	授業テーマ	脂質と栄養プロジェクト（１７）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質と栄養プロジェクトを進めます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	脂質と栄養プロジェクトに関する個人・グループ研究

	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	**授業テーマ**	卒業研究論文の執筆（１）図表の完成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図表を作成してください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図表を完成させてください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	**授業テーマ**	卒業研究論文の執筆（２）結果と考察
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図表をもとに、結果と考察を記述してください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	結果と考察を完成させてください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第10回	**授業テーマ**	卒業研究論文の執筆（３）背景と目的・引用文献・資料
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・背景と目的を確認し、記載してください。 ・引用文献、資料などを準備して、記載してください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業論文（草稿）の準備を進めてください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	**授業テーマ**	卒業論文（草稿）の提出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業論文の草稿を提出してください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	最終発表のパワーポイントファイルを提出して下さい。
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	**授業テーマ**	最終発表会の準備（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	最終発表のスライドを作成します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	最終発表のスライドを完成させ、原稿を作成してください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	**授業テーマ**	最終発表会の準備（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	要旨を作成します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	要旨を完成させてください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	**授業テーマ**	最終発表会の参加
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・最終発表を行ってください。 ・最終発表会に参加し、積極的に質問してください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業論文を完成させて、提出してください。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

1．毎回PCを持参すること。
2. 最終発表会への参加は、必須です。合否の判定の場となっています。欠席した場合は、別日に発表を行います。

3. 卒業研究の合否は、食物学科の教員全員が判定します。成績は、指導担当の教員が決定します。
4. 就職試験等による平常授業の欠席については、学生便覧の規定を確認してください。

学生へのフィードバック方法

・ゼミの取り組みの中でフィードバックします。

評価方法

①プロジェクトへの取り組み
②卒業研究論文

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
①プロジェクトへの取り組み	○	○	○	○
②卒業研究論文	○	○	○	○

評価割合

①プロジェクトへの取り組み（50%）
②卒業研究論文（50%）

参考図書

必要な文献を、適宜紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている
【関心・意欲・態度】
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる
・食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある
【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている

オフィスアワー

ゼミ後

学生へのメッセージ

自らデータを厳しく評価して、結果を批判的に考えること力を養ってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	企業で経験した研究のスキルを伝えます。
アクティブ・ラーニング	○	対話を重視したゼミを展開します。
情報リテラシー教育	○	学術情報の検索と、適切な解釈について教授します。
ICT活用	○	マイクロソフトオフィス（エクセル・パワーポイント・ワード）の高度なスキルを教授します。

講義コード	G06075010
講義名	卒業研究Ｂ（米澤）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	米澤 加代	指定なし

ナンバリング

R40714M22

授業概要(教育目的)

家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文とする。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、論文のまとめ及びプレゼンテーションと一連の研究の手順を実践し、食物学科の学習の集大成とすることを目的とする。

履修条件

3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	研究テーマについてその先行研究についてその内容を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	研究上で得られた様々な情報や経過・結果について分析・考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	研究のプロセスにおいて課題解決をするために自主的に学習を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	研究成果についてその目的、方法、結果、考察につて理論的な報告ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	研究テーマ・目的の再検討、日程と内容の計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の研究テーマに即した研究計画の再検討と研究計画書の作成

	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究Bで研究する研究計画書を修正する。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	**授業テーマ**	実験もしくは調査の実施①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に必要な追加の実験もしくは調査を実施する。 各自の研究テーマに必要となる情報収集を行うツールを選択し、文献調査を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究等の情報集と精査を行い、課題解決に必要な追加資料や情報などを収集する。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	**授業テーマ**	実験もしくは調査の実施②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に必要な追加の実験もしくは調査を実施する。 各自の研究テーマに必要となる情報収集を行うツールを選択し、文献調査を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究等の情報集と精査を行い、課題解決に必要な追加資料や情報などを収集する。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	**授業テーマ**	実験もしくは調査の実施③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に必要な追加の実験もしくは調査を実施する。 各自の研究テーマに必要となる情報収集を行うツールを選択し、文献調査を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究等の情報集と精査を行い、課題解決に必要な追加資料や情報などを収集する。
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	**授業テーマ**	実験もしくは調査の実施④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に必要な追加の実験もしくは調査を実施する。 各自の研究テーマに必要となる情報収集を行うツールを選択し、文献調査を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究等の情報集と精査を行い、課題解決に必要な追加資料や情報などを収集する。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	**授業テーマ**	実験もしくは調査の実施⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に必要な追加の実験もしくは調査を実施する。 各自の研究テーマに必要となる情報収集を行うツールを選択し、文献調査を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究等の情報集と精査を行い、課題解決に必要な追加資料や情報などを収集する。
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	**授業テーマ**	実験もしくは調査の実施⑥
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に必要な追加の実験もしくは調査を実施する。 各自の研究テーマに必要となる情報収集を行うツールを選択し、文献調査を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究等の情報集と精査を行い、課題解決に必要な追加資料や情報などを収集する。

	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	**授業テーマ**	実験もしくは調査の実施⑦
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に必要な追加の実験もしくは調査を実施する。 各自の研究テーマに必要となる情報収集を行うツールを選択し、文献調査を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究等の情報集と精査を行い、課題解決に必要な追加資料や情報などを収集する。
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	**授業テーマ**	結果の整理①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実験データの入力と解析を学ぶ。（材料サンプル、写真、図、表の作成）
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考文献内容をまとめておく。 データ入力、写真、図、表を作成する。
	教室外学習の時間（分）	100分
第10回	**授業テーマ**	結果の整理②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実験データの入力と解析について学ぶ。 目的、方法、結果、考察の書き方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考文献内容をまとめておく。 実験データの入力と解析を学ぶ。（材料サンプル、写真、図、表の作成） 要旨の目的、方法を書くこと。
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	**授業テーマ**	考察・まとめ①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	背景、目的、方法、結果、考察の書き方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考文献内容をまとめておく。 結果、考察をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	**授業テーマ**	考察・まとめ②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計分析の結果から考察を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	引用文献、目次、表紙を記述し、卒業論文を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	**授業テーマ**	発表準備 要旨完成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	要旨を完成させる。 これまでにまとめた目的、方法、結果、考察までを発表資料としてパワーポイントで作成する。わかりやすく伝える発表の練習。Q＆Aの確認。
	教室外学習(予習・復	パワーポイントファイルおよび発表原稿の作成。発表スライドの訂正および発表原稿の訂正。Q＆Aを通して研究内容の

	習)の内容	構成を整える。
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	**授業テーマ**	最終発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究AおよびBの研究成果の発表を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究AおよびBの取り組みを振り返り、自己評価を行う。
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

進度によっては、予定した時間外での指導を行うことがあります。

学生へのフィードバック方法

毎週の授業内で個別指導を行うとともに、必要な状況では、随時、個別指導を行います。

評価方法

1）研究要旨の合否判定
2）発表会におけるプレゼンテーションの合否判定

研究への取り組み：取り組みの姿勢を総合評価し、出席率を乗じて計算します。
ルーブリック評価します。ルーブリック表は、クラスルームに掲示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
研究要旨	○	○	○	○
研究発表	○	○	○	○

評価割合

1）研究要旨の合否判定
2）発表会におけるプレゼンテーションの合否判定
1）2）を総合的(100%)に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特になし

参考図書

必要に応じて紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】グローバルな視点から知識を深めている。
【思考・判断】社会中にある諸課題を自ら発見し、理論的に分析し考察できる。また、多様な情報を客観的に理解、判断して行動できる。
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚をもって責任を果たすことができる。
【技術・関心】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。

オフィスアワー

前期 水曜日 2限 2108研究室
後期 木曜日 2限 2108研究室

面談を希望する場合はmailで事前に連絡を入れて下さい。

学生へのメッセージ

指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。また、研究は予定通り進まないこともあるため、時間の余裕をもって計画・実施することを心掛けること。
また、研究上の疑問や方向性に不安なことがある場合は、すぐに相談に来ること。2108研究室(またはemail)を訪ねること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	研究打合せ時に、ディスカッションを積極的に行う。
情報リテラシー教育	○	各種文献データーベースの使用方法を学ぶ。
ICT活用	○	統計ソフトウエアや研究要旨作成、発表用資料作成、論文作成に必要なツールを活用する。

講義コード	G06075011
講義名	卒業研究Ｂ（笠松）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	笠松 千夏	指定なし

ナンバリング

R40715M22

授業概要(教育目的)

・本科目は、卒業のための必修科目である。本授業では、自らが発見した食生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、官能評価やアンケート調査を行い研究に繋げる。学生はそのテーマを追求するため、結果の分析、教育方法の纏め、考察、結論を導いていく。研究プロセス、発表方法、論文執筆の方法について、テーマに応じて適切な指導を行う。これらの研究活動を通して新たな自分を発見でき、延いては地域・社会に貢献できる力が身に着くよう教授します。

履修条件

・食物総合演習A・B、卒業研究Aを履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・学生が研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 ・学生が研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	・学生が多様な栄養・食情報を整理し、表現して、客観的に思考、判断することができる。 ・学生が問題を明確化して、自ら研究のテーマを設定し、それに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・学生が食に関する社会課題を見い出し、その解決のための官能評価や商品開発に興味や関心を持ち、貢献したいという意欲をもつようになる。 ・学生が研究活動（文献収集、調査、分析、教育考案、プロトコル作成）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
	・学生が対象集団の課題解決のための実験計画をプランニングし、それらを遂

技術・表現の観点 (A)	行することができる。 ・学生が自身が行った研究の内容を、学術的な文章の執筆、発表スライドを作成でき、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	スケージュール
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文執筆のスケジュールを立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「卒業研究の手引き」をよく精読しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第2回	**授業テーマ**	論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の卒業論文を読んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第3回	**授業テーマ**	論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の卒業論文を読んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第4回	**授業テーマ**	論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の卒業論文を読んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第5回	**授業テーマ**	論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の卒業論文を読んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第6回	**授業テーマ**	論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の卒業論文を読んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
	授業テーマ	要旨の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執

第7回	教育・ICT活用を含む)	筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の要旨を事前に学んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第8回	授業テーマ	要旨の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の要旨を事前に学んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第9回	授業テーマ	発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の要旨に沿って、パワーポイントの発表資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表資料の作成方法について事前に復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第10回	授業テーマ	発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の要旨に沿って、パワーポイントの発表資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表資料の作成方法について事前に復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第11回	授業テーマ	発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の要旨に沿って、パワーポイントの発表資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表資料の作成方法について事前に復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	発表準備・論文執筆200分
第12回	授業テーマ	発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の要旨に沿って、パワーポイントの発表資料を作成する。「課題提出あり」
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表資料の作成方法について事前に復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	発表準備・論文執筆200分
第13回	授業テーマ	発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゼミナールにおいてプレ発表会を行う。 卒業論文についてゼミ内で確認、討議する。 発表後、纏め方等について議論し内容の向上を図る。
		所定時間内に発表できるよう練習しておく。

	教室外学習(予習・復習)の内容	課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	発表準備・論文執筆200分
第14回	**授業テーマ**	発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゼミナールにおいてプレ発表会を行う。 卒業論文についてゼミ内で確認、討議する。 発表後、纏め方等について議論し内容の向上を図る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	所定時間内に発表できるよう練習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	発表準備・論文執筆200分

学習計画注記

・授業の最後に毎回質問を受け付ける。
・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2309研究室を訪問する。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。）
・やむを得ない事情（物理的な環境・教材等）によっては、授業内容が変更されることがあります。

学生へのフィードバック方法

・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックします。

評価方法

・論文・要旨・作成資料点、発表点で総合的に評価します。
・論文および発表は下表に示すスキルを養うことを目的としています。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
論文・要旨・作成資料点	○	○	○	○
発表点	○	○	○	○

評価割合

・論文、要旨（50%）、発表点（50%）
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

使用教科書名(ISBN番号)

・特に指定しない

参考図書

・官能評価士テキスト

参考URL

http://www.tokyo-tosho.co.jp/download/

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。

・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー

・木曜日2限：2309室）
・事前にg-mail（kasamatsu.chinatsu@kasei-gakuin.ac.jp）で予約してから来訪して下さい。
・毎週水曜日は研修日のため大学不在です。

学生へのメッセージ

・学生便覧の食物学科卒業研究内規を確認しておくこと
・実社会における食育等の経験や地域連携活動の機会を提供するので、是非主体的、積極的に学んで欲しい。自分の興味ある研究活動を見つけ、卒業後も役に立ち思い出に残るような研究となるよう取り組んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は、食品企業において商品開発，官能評価の実務経験を有している。商品開発に生かせる官能補油か技術について実例を示しより実践的に、結果（アウトカム）を出せるよう、研究を指導します。
アクティブ・ラーニング	○	・対象者の食生活改善上の問題解決を図り、商品開発への提案力をより高めるため、チームでデイスカッションし、能動的に学べるよう教授します。
情報リテラシー教育	○	・研究のための文献検索、アイデアの情報収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）、データ入力・集計（エクセル）、栄養分析（エクセル栄養君）、統計解析（jmp）等の各種ソフトウェアを活用して教授します。 ・資料提供、課題提出等に活用する。 ・ノートパソコンは必携です。

講義コード	G06075012
講義名	卒業研究Ｂ（海野）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	海野 るみ	指定なし

ナンバリング

R40715M22

授業概要(教育目的)

・本科目は、卒業のための必修科目である。本授業では、自らが発見した食生活に関わる課題や地域での活動を研究テーマとして設定し、食教育や調査を行い研究に繋げる。学生はそのテーマを追求するため、結果の分析、教育方法の纏め、考察、結論を導いていく。研究プロセス、発表方法、論文執筆の方法について、テーマに応じて適切な指導を行う。これらの研究活動を通して新たな自分を発見でき、延いては地域・社会に貢献できる力が身に着くよう教授します。

履修条件

・栄養指導論、栄養カウンセリング論、公衆栄養学、栄養指導実習、栄養カウンセリング実習、公衆栄養学実習、食物総合演習A・B、卒業研究Aを履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・学生が研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 ・学生が研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	・学生が多様な栄養・食情報を整理し、表現して、客観的に思考、判断することができる。 ・学生が問題を明確化して、自ら研究のテーマを設定し、それに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・学生が対象集団・地域社会の課題を見い出し、その解決のための食育や食生活改善に興味や関心を持ち、貢献したいという意欲をもつようになる。 ・学生が研究活動（文献収集、調査、分析、教育考案、プロトコル作成）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。

技術・表現の観点 (A)	・学生が対象集団の課題解決のための教材開発や食事改善計画をプランニングし、それらを活用して周知したりできる。 ・学生が自身が行った研究の内容を、学術的な文章の執筆、発表スライドを作成でき、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	スケージュール
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文執筆のスケジュールを立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「卒業研究の手引き」をよく精読しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第2回	**授業テーマ**	論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の卒業論文を読んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第3回	**授業テーマ**	論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の卒業論文を読んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第4回	**授業テーマ**	論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の卒業論文を読んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第5回	**授業テーマ**	論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の卒業論文を読んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第6回	**授業テーマ**	論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の卒業論文を読んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
	授業テーマ	要旨の作成

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の要旨を事前に学んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第8回	授業テーマ	要旨の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の要旨を事前に学んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第9回	授業テーマ	発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の要旨に沿って、パワーポイントの発表資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表資料の作成方法について事前に復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第10回	授業テーマ	発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の要旨に沿って、パワーポイントの発表資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表資料の作成方法について事前に復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第11回	授業テーマ	発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の要旨に沿って、パワーポイントの発表資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表資料の作成方法について事前に復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	発表準備・論文執筆200分
第12回	授業テーマ	発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の要旨に沿って、パワーポイントの発表資料を作成する。「課題提出あり」
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表資料の作成方法について事前に復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	発表準備・論文執筆200分
第13回	授業テーマ	発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゼミナールにおいてプレ発表会を行う。 卒業論文についてゼミ内で確認、討議する。 発表後、纏め方等について議論し内容の向上を図る。

	教室外学習(予習・復習)の内容	所定時間内に発表できるよう練習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	発表準備・論文執筆200分
第14回	**授業テーマ**	発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゼミナールにおいてプレ発表会を行う。 卒業論文についてゼミ内で確認、討議する。 発表後、纏め方等について議論し内容の向上を図る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	所定時間内に発表できるよう練習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	発表準備・論文執筆200分

学習計画注記

・授業の最後に毎回質問を受け付ける。
・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問する。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。）
・新型コロナの状況、やむを得ない事情（物理的な環境・教材等）によっては、授業内容が変更されることがあります。

学生へのフィードバック方法

・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックします。

評価方法

・論文・要旨・作成資料点、発表点で総合的に評価します。
・論文および発表は下表に示すスキルを養うことを目的としています。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
論文・要旨・作成資料点	○	○	○	○
発表点	○	○	○	○

評価割合

・論文、要旨（50%）、発表点（50%）
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

使用教科書名(ISBN番号)

・特に指定しない

参考図書

・SPSSでやさしく学ぶアンケート処理（東京図書）
・日本人の食事摂取基準 2020版 （第一出版）
・「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル 第3版 （第一出版）
(ISBN 978-4-8041-1358-6 C3077)

参考URL

http://www.tokyo-tosho.co.jp/download/

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。

【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー

・月曜5限、火曜5限：栄養指導研究室（2106室）
・事前にg-mail（misawa@kasei-gakuin.ac.jp）で予約してから来訪して下さい。
・基本的に、毎週金曜日は研修日のため大学不在です。

学生へのメッセージ

・学生便覧の食物学科卒業研究内規を確認しておくこと
・実社会における食育等の経験や地域連携活動の機会を提供するので、是非主体的、積極的に学んで欲しい。自分の興味ある研究活動を見つけ、卒業後も役に立ち思い出に残るような研究となるよう取り組んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は、病院（管理栄養士）及び企業（第一種衛生管理者、産業栄養指導者）において、「栄養の指導」分野の中核を成す栄養指導及び栄養教育の実務経験を有している。将来の栄養士・管理栄養士として習得すべき栄養指導（ハイリスクアプローチ）、予防的栄養教育、公衆栄養活動（ポピュレーションアプローチ）に関して、実例を示しより実践的に、結果（アウトカム）を出せるよう、研究を指導します。
アクティブ・ラーニング	○	・対象者の食生活改善上の問題解決を図り、栄養の指導分野の技術をより高めるため、チームでデイスカッションし、能動的に学べるよう教授します。
情報リテラシー教育	○	・研究のための文献検索、アイデアの情報収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）、データ入力・集計（エクセル）、栄養分析（エクセル栄養君）、統計解析（SPSS）等の各種ソフトウェアを活用して教授します。 ・資料提供、課題提出等に活用する。 ・ノートパソコンは必携です。

講義コード	G06075013
講義名	卒業研究Ｂ（大嶋）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大嶋 孝之	指定なし

ナンバリング

R40715M22

授業概要(教育目的)

・本科目は、卒業のための必修科目である。本授業では、自らが発見した食生活に関わる課題や地域での活動を研究テーマとして設定し、食教育や調査を行い研究に繋げる。学生はそのテーマを追求するため、結果の分析、教育方法の纏め、考察、結論を導いていく。研究プロセス、発表方法、論文執筆の方法について、テーマに応じて適切な指導を行う。これらの研究活動を通して新たな自分を発見でき、延いては地域・社会に貢献できる力が身に着くよう教授します。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・学生が研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 ・学生が研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	・学生が多様な栄養・食情報を整理し、表現して、客観的に思考、判断することができる。 ・学生が問題を明確化して、自ら研究のテーマを設定し、それに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・学生が対象集団・地域社会の課題を見い出し、その解決のための食育や食生活改善に興味や関心を持ち、貢献したいという意欲をもつようになる。 ・学生が研究活動（文献収集、調査、分析、教育考案、プロトコル作成）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	・学生が対象集団の課題解決のための教材開発や食事改善計画をプランニングし、それらを活用して周知したりできる。 ・学生が自身が行った研究の内容を、学術的な文章の執筆、発表スライドを作成でき、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	スケージュール
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文執筆のスケジュールを立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「卒業研究の手引き」をよく精読しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第2回	**授業テーマ**	論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の卒業論文を読んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第3回	**授業テーマ**	論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の卒業論文を読んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第4回	**授業テーマ**	論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の卒業論文を読んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第5回	**授業テーマ**	論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の卒業論文を読んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第6回	**授業テーマ**	論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の卒業論文を読んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第7回	**授業テーマ**	要旨の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の要旨を事前に学んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で

		説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第8回	**授業テーマ**	要旨の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の要旨を事前に学んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第9回	**授業テーマ**	発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の要旨に沿って、パワーポイントの発表資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表資料の作成方法について事前に復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第10回	**授業テーマ**	発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の要旨に沿って、パワーポイントの発表資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表資料の作成方法について事前に復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第11回	**授業テーマ**	発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の要旨に沿って、パワーポイントの発表資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表資料の作成方法について事前に復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	発表準備・論文執筆200分
第12回	**授業テーマ**	発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の要旨に沿って、パワーポイントの発表資料を作成する。「課題提出あり」
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表資料の作成方法について事前に復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	発表準備・論文執筆200分
第13回	**授業テーマ**	発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゼミナールにおいてプレ発表会を行う。 卒業論文についてゼミ内で確認、討議する。 発表後、纏め方等について議論し内容の向上を図る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	所定時間内に発表できるよう練習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	発表準備・論文執筆200分

第14回	授業テーマ	発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゼミナールにおいてプレ発表会を行う。 卒業論文についてゼミ内で確認、討議する。 発表後、纏め方等について議論し内容の向上を図る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	所定時間内に発表できるよう練習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	発表準備・論文執筆200分

学習計画注記

・授業の最後に毎回質問を受け付ける。
・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2308研究室を訪問する。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。）
・新型コロナの状況、やむを得ない事情（物理的な環境・教材等）によっては、授業内容が変更されることがあります。

学生へのフィードバック方法

・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックします。

評価方法

・論文・要旨・作成資料点、発表点で総合的に評価します。
・論文および発表は下表に示すスキルを養うことを目的としています。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
論文・要旨・作成資料点	○	○	○	○
発表点	○	○	○	○

評価割合

・論文、要旨（70%）、発表点（30%）
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

使用教科書名(ISBN番号)

・特に指定しない

参考図書

・SPSSでやさしく学ぶアンケート処理（東京図書）
・日本人の食事摂取基準 2020版 （第一出版）
・「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル 第3版 （第一出版）
(ISBN 978-4-8041-1358-6 C3077)

参考URL

http://www.tokyo-tosho.co.jp/download/

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。

・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

学生へのメッセージ

・学生便覧の食物学科卒業研究内規を確認しておくこと
・実社会における食育等の経験や地域連携活動の機会を提供するので、是非主体的、積極的に学んで欲しい。自分の興味ある研究活動を見つけ、卒業後も役に立ち思い出に残るような研究となるよう取り組んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	・対象者の食生活改善上の問題解決を図り、栄養の指導分野の技術をより高めるため、チームでデイスカッションし、能動的に学べるよう教授します。
情報リテラシー教育	○	・研究のための文献検索、アイデアの情報収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）、データ入力・集計（エクセル）、栄養分析（エクセル栄養君）、統計解析（SPSS）等の各種ソフトウェアを活用して教授します。 ・資料提供、課題提出等に活用する。 ・ノートパソコンは必携です。

講義コード	G06075014
講義名	卒業研究Ｂ（大中）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大中 佳子	指定なし

ナンバリング

R40715M22

授業概要(教育目的)

・本科目は、卒業のための必修科目である。本授業では、給食に関する課題を研究テーマとして設定し、実験を行い、研究結果を考察する。学生はそのテーマを追求するため、研究方法、結果の分析、考察、結論を導いていく。研究プロセス、発表方法、論文執筆の方法について、テーマに応じて適切な指導を行う。これらの研究活動を通して新たな自分を発見でき、栄養士としての実践力が身に着くよう講義します。

履修条件

食物総合演習A・B、卒業研究Aを履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・学生が研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 ・学生が研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	・学生が多様な栄養・食情報を整理し、表現して、客観的に思考、判断することができる。 ・学生が問題を明確化して、自ら研究のテーマを設定し、それに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・学生が給食に関するテーマを見い出すことができる。 ・給食を媒体に食育や食生活改善に興味や関心を持ち、貢献したいという意欲をもつようになる。 ・学生が研究活動（文献収集、実験、分析、考察）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
	・安心・安全の給食提供に向け、進化する大量調理機器を活用し、労働生産

技術・表現の観点 (A)	性を上げることができる。 ・学生が自身が行った研究内容をまとめ、学術的な文章の執筆、発表スライドを作成でき、適切に表現することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	スケージュール
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文執筆のスケジュールを立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「卒業研究の手引き」をよく精読しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第2回	**授業テーマ**	論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の卒業論文を読んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第3回	**授業テーマ**	論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の卒業論文を読んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第4回	**授業テーマ**	論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の卒業論文を読んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第5回	**授業テーマ**	論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の卒業論文を読んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第6回	**授業テーマ**	論文執筆
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の卒業論文を読んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
	授業テーマ	要旨の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執

第7回	教育・ICT活用を含む)	筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の要旨を事前に学んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第8回	授業テーマ	要旨の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業生の要旨を事前に学んでおく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第9回	授業テーマ	発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の要旨に沿って、パワーポイントの発表資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表資料の作成方法について事前に復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第10回	授業テーマ	発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の要旨に沿って、パワーポイントの発表資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表資料の作成方法について事前に復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	研究遂行200分
第11回	授業テーマ	発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の要旨に沿って、パワーポイントの発表資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表資料の作成方法について事前に復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	発表準備・論文執筆200分
第12回	授業テーマ	発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の要旨に沿って、パワーポイントの発表資料を作成する。「課題提出あり」
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表資料の作成方法について事前に復習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	発表準備・論文執筆200分
第13回	授業テーマ	発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゼミナールにおいてプレ発表会を行う。 卒業論文についてゼミ内で確認、討議する。 発表後、纏め方等について議論し内容の向上を図る。
		所定時間内に発表できるよう練習しておく。

	教室外学習(予習・復習)の内容	課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	発表準備・論文執筆200分
第14回	**授業テーマ**	発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゼミナールにおいてプレ発表会を行う。 卒業論文についてゼミ内で確認、討議する。 発表後、纏め方等について議論し内容の向上を図る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	所定時間内に発表できるよう練習しておく。 課題：Classroomに掲載した期日までに、授業で説明した内容の課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	発表準備・論文執筆200分

学習計画注記

・授業の最後に毎回質問を受け付ける。
・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2311研究室を訪問する。事前にメール予約してから来訪して下さい。

学生へのフィードバック方法

・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックします。

評価方法

・論文・要旨・作成資料点、発表点で総合的に評価します。
・論文および発表は下表に示すスキルを養うことを目的としています。
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
論文・要旨・作成資料点	○	○	○	○
発表点	○	○	○	○

評価割合

・論文、要旨（50%）、発表点（50%）
・評価のルーブリックは当該授業のGoogle Classroomに掲載します。

使用教科書名(ISBN番号)

・特に指定しない

参考図書

・大量調理施設衛生管理マニュアル/厚生労働省
・サクセス管理栄養士・栄養士養成講座「給食経営管理論」/第一出版

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力

や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー

・火曜２限、火曜昼休み：給食管理学研究室（2311室）
・事前にメールで予約してから来訪して下さい。

学生へのメッセージ

・学生便覧の食物学科卒業研究内規を確認しておくこと
・実社会における食育等の経験や地域連携活動の機会を提供するので、是非主体的、積極的に学んで欲しい。自分の興味ある研究活動を見つけ、卒業後も役に立ち思い出に残るような研究となるよう取り組んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・総合病院、児童・高齢者福祉施設において管理栄養士業務かつマネジメント職務の実績がある教員が、社会で即実践できるよう、給食システムに関する研究を指導します。
アクティブ・ラーニング	○	・給食システムについて、大量調理機器を使用した研究を行います。
情報リテラシー教育	○	・研究のための文献検索、情報収集の方法を学びます。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）、データ入力・集計（エクセル）、統計解析（SPSS）等の各種ソフトウェアを活用します。 ・資料提供、課題提出等に活用します。ノートパソコンは必携です。

講義コード	G06076001
講義名	フードスペシャリスト論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	笠松 千夏	指定なし

ナンバリング

R11801M21

授業概要(教育目的)

この科目は、フードスペシャリストおよび専門フードスペシャリストの資格取得のために必須の科目である。「食」は心豊かに健康な日常生活を送る上で重要な要素である。「食」を取り巻く環境や現状、変遷を踏まえ、日本国内に限らず、大きくな視野で「食」を捉え、食文化、食生活、食品産業、食情報、加工・貯蔵性など幅広く最新の話題も交えながら総合的に学ぶ。フードスペシャリストの意義とその概要、活用等の基本知識を習得するよう講義を行う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	フードスペシャリストの仕事内容、活躍の分野、役割について説明ができる。
思考・判断の観点 (K)	食に関する様々な問題および課題について、食品産業分野の観点から考え、解決方法を提案できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食品の開発製造から流通、販売、外食、消費に至る食関係の広範な分野について、常に関心を持ち、情報収集を積極的にできる。
技術・表現の観点 (A)	「食」に関する総合的･体系的な知識・技術を身につけ、豊かで安全かつバランスのとれた「食」を消費者に提案できる。

学習計画

	授業テーマ	フードスペシャリストとは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報	食の専門職の現状、フードスペシャリストの概念、フードスペシャリ

第1回	リテラシー教育・ICT活用を含む)	ストの業務とその専門性、フードスペシャリストの養成と資格、フードスペシャリストの活躍分野、フードスペシャリストの責務について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第1章の「食の専門職の現状」「フードスペシャリストの概念」「フードスペシャリストの業務とその専門性」「フードスペシャリストの養成と資格」「フードスペシャリストの活躍分野」「フードスペシャリストの責務」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	人類と食物①
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	人類の歩みと食物について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第2章の「人類の歩みと食物」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	人類と食物②
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	食品の加工・保存技術史について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第2章の「食品の加工・保存技術史」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	世界の食①
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	食作法、食の禁忌と忌避について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第3章の「食作法」「食の禁忌と忌避」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	世界の食②
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	世界各地の食事事情について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第3章の「世界各地の食事事情」を読んでおくこと。
	教室外学習の	

	時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	日本の食①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本食物史について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第4章の「日本食物史」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	日本の食②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食の地域差について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第4章の「食の地域差」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	現代日本の食生活①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	戦後の食生活の変化、食生活の現状と消費生活について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第5章の「戦後の食生活の変化」「食生活の現状と消費生活」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	現代日本の食生活②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食生活の変化と食産業、食料の供給と食料自給率、環境と食について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第5章の「食生活の変化と食産業」「食料の供給と食料自給率」「環境と食活」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	食品産業の役割①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フードシステムと食品産業、食品製造業の規模と動向、食品製造業の目的と特徴について理解する。
	教室外学習(予	

	習・復習)の内容	教科書の第6章の「フードシステムと食品産業」「食品製造業の規模と動向」「食品製造業の目的と特徴」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	食品産業の役割②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品卸売業、食品小売業、外食産業について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6章の「食品卸売業」「食品小売業」「外食産業」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	食品の品質規格と表示①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の品質規格、表示に関わる法律、JAS法による規格、食品表示法による表示について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第7章の「食品の品質規格」「表示に関わる法律」「JAS法による規格」「食品表示法による表示」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	食品の品質規格と表示②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	健康や栄養に関する表示制度、その他お法令等による表示による表示について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第7章の「健康や栄養に関する表示制度」「その他お法令等による表示」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	食情報と消費者保護、授業のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食情報の発信と受容、食情報の濫用、食の情報管理、食品の安全、消費者保護の制度について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第8章の「食情報の発信と受容」「食情報の濫用」「食の情報管理」「食品の安全」「消費者保護の制度」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分

学生へのフィードバック方法

学んだ内容について、各回でフードスペシャリストの過去問題を行い、その場で答え合わせを

行う。質問等がある場合には、2309研究室まで来るか、メールで問い合わせをすること。

評価方法

平常点と定期試験で評価を行う。この科目は、フードスペシャリストおよび専門フードスペシャリストの資格取得のための必須の科目であるが、定期試験の再試験は行わないため注意すること。
評価詳細のルーブリックは当該GoogleClassroomへ掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
定期試験	○	○		
レポート	○	○	○	○

評価割合

平常点30%、レポート30%、定期試験40%

使用教科書名(ISBN番号)

フードスペシャリスト論／日本フードスペシャリスト協会編／建帛社
（978-4-7679-0660-7）

参考図書

特に指定しない

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し【思考・判断】多種多様の情報を整理し、【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組む。

オフィスアワー

木曜日 3限 2309研究室
面談を希望する場合はmailで事前に連絡を入れて下さい。

学生へのメッセージ

フードスペシャリスト協会認定資格試験を受験したい学生には必修の科目です。
教科書と併せて過去問題集の取り組みもしましょう。
また、この科目は定期試験の再試験は行いませんので、しっかり勉強しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	
アクティブ・ラーニング	○	
情報リテラシー教育	○	
ICT活用	○	

講義コード	G06077001
講義名	フードコーディネート論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	笠松　千夏	指定なし

ナンバリング

R21803M21

授業概要(教育目的)

この科目は、フードコーディネーター3級およびフードスペシャリスト・専門フードスペシャリストの資格取得のために必須の科目である。

食の様々な場面において、多様な条件や要求を満足させるための演出をすることが、フードコーディネートである。食卓、食品販売、食情報を発信するイベントやマスメディアや広告企画、ライフステージに合わせた食育、店舗経営などで、食空間のコーディネートやサービスマナー、メニュープランニング、フードマネージメントなどについて講義する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	フードコーディネーターの仕事の内容、活躍の分野、役割について説明ができる。
思考・判断の観点 (K)	食に関する正しい知識および情報と誤った情報との選択・識別をすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	専門分野だけの知識・技術をコーディネートするだけではく、専門以外にも幅広い知識を習得し、多様な状況においてものごとを総合的な視点で捉えることができる。
技術・表現の観点 (A)	新しい食の「ブランド」「トレンド」を創る 食の「開発」「演出」「運営」を行うことができる。

学習計画

	授業テーマ	フードコーディネートの基本理念

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	おいしさの本質、おいしさとフードコーディネートとに関連について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の「第1章　フードコーディネートの基本理念」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	195分
第2回	授業テーマ	食事の文化について①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事の概念、食のタブーと宗教について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第2章の「食事とは」「食のタブーと宗教」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	195分
第3回	授業テーマ	食事の文化につい②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の食事の歴史、特別な日の食事、外国の食事について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第2章の「日本の食事の歴史」「特別な日の食事」「外国の食事」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	195分
第4回	授業テーマ	食卓のコーディネート①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーブルコーディネートの要点、日本料理の食卓のコーディネートについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第3章の「テーブルコーディネートの要点」「日本料理の食卓のコーディネート」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	195分
第5回	授業テーマ	食卓のコーディネート②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中国料理の食卓のコーディネート、西洋料理の食卓のコーディネートについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第3章の「中国料理の食卓のコーディネート」「西洋料理の食卓のコーディネート」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	195分
第6回	授業テーマ	食卓のサービスとマナー①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サービスとマナーの基本、日本料理のサービスとマナー、中国料理のサービスとマナー
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書農耕第4章の「サービスとマナーの基本」「日本料理のサービスとマナー」「中国料理のサービスとマナー」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	195分
	授業テーマ	食卓のサービスとマナー②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝ	西洋料理のサービスとマナー、パーティー、プロトコルにつ

第7回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	いて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第4章の「西洋料理のサービスとマナー」「パーティー」「プロトコル」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第8回	授業テーマ	メニュープランニング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	メニュープランニングの要件、料理様式とメニュー開発の基礎について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第5章の「メニュープランニングの要件」「料理様式とメニュー開発の基礎」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第9回	授業テーマ	食空間のコーディネート①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食空間のコーディネートの基礎を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6章の「食空間のコーディネートの基礎」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第10回	授業テーマ	食空間のコーディネート②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事空間のコーディネート、キッチンコーディネートを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6章の「食事空間のコーディネート」「キッチンコーディネート」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第11回	授業テーマ	フードサービスマネジメント①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フードサービスマネジメントの動向と特性、マネジメントの基本、フードサービス（レストラン）の起業について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第7章の「フードサービスマネジメントの動向と特性」「マネジメントの基本」「フードサービス（レストラン）の起業」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第12回	授業テーマ	フードサービスマネジメント②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	投資計画の作成、収支計画の作成、損益分岐点売上高について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第7章の「投資計画の作成」「収支計画の作成」「損益分岐点売上高」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
	授業テーマ	食企画の実践コーディネート
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教ICT)	食企画の流れ、食企画に必要な基礎スキルについて理解する。

第13回	育・　活用を含む	
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第8章の「食企画の流れ」「食企画に必要な基礎スキル」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第14回	授業テーマ	まとめと定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全体のまとめおよび定期試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	わかりにくかった内容について、その箇所を教科書で確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分

学生へのフィードバック方法

学んだ内容について、各回でフードスペシャリストの過去問題を行い、その場で答え合わせを行う。質問等がある場合には、2309研究室まで来るか、メールで問い合わせをすること。

評価方法

平常点とレポート，定期試験で評価を行う。この科目は、フードコーディネーター3級およびフードスペシャリスト・専門フードスペシャリストの資格取得のために必須の科目であるが、定期試験の再試験は行わないため注意すること。

評価方法・評価基準は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはクラスルーム

または授業内での配布等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
定期試験	○	○		
レポート	○	○	○	○

評価割合

平常点30%、レポート30%、定期試験40%

使用教科書名(ISBN番号)

フードコーディネート論／日本フードスペシャリスト協会編／建帛社

参考図書

特に指定しない

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し【思考・判断】多種多様の情報を整理し、【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組み、【技能・表現】食に関する表現力を身につける。

オフィスアワー

火曜日　2時限　2309研究室

学生へのメッセージ

この科目は、フードコーディネーター3級およびフードスペシャリスト・専門フードスペシャリストの資格取得のために必須の科目です。この科目は定期試験の再試験は行わないため、これら資格取得を目指している人はしっかり勉強してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G06078001
講義名	フードビジネスの経済と経営
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	黒田 久夫	指定なし

ナンバリング

R31809M21

授業概要(教育目的)

【資格取得との関係】本科目は、FBA（フードビジネスアドミニストレーター）の資格取得に必要な科目です。
【授業の概要】フードビジネスの分野で仕事をするために必要な、経営・政治・経済の基礎を学ぶ。フードビジネスの事例について学び、課題と解決法について考える。

履修条件

・経営・政治・経済を基礎から学びたい方を対象にしています。
・特に、総合職を目指す方に必要な知識・分析力・判断力が身につけられるように授業を展開します。
・授業は、グループワークディスカッションが中心です。
・現在、ビジネススキルとして、PCのスキルはマストとなっています。スマホは、アプリケーションに制約がある、PCに比べできることが少ない、画面が小さい（pdf資料が見にくい）等、PCに比べ不利です。また、仕事をするとキーボードでのテキスト入力のスピードが必要になってきます。大学生のうちに、高度なPCスキルを習得してください。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・財務、政治と経済の基礎が理解できている ・フードビジネスの諸問題が理解できている
思考・判断の観点 (K)	フードビジネスの諸問題について、根拠に基づいた客観的で合理的な分析ができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	フードビジネスが社会・経済・環境・生活に与える影響に深い関心がある
技術・表現の観点 (A)	・フードビジネスの諸問題について、根拠に基づいた客観的で合理的な文章を作成できる

	・フードビジネスの諸問題について、根拠に基づき、客観的で合理的な説明ができる

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス・基礎知識のチェック
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・授業の学習目標・評価方法・予定について説明します ・政治経済に関する一般常識の理解度を確認します
	教室外学習(予習・復習)の内容	・授業の学習目標・評価方法・予定を確認して、履修するかどうかを決定してください。
	教室外学習の時間（分）	200
第2回	**授業テーマ**	財務会計の基本
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・財務管理の概要を学びます ・決算書の基本的な仕組みについて学びます ・決算書から、企業価値を分析する方法を習得します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組み、課題を提出してください。
	教室外学習の時間（分）	200
第3回	**授業テーマ**	政治の仕組み（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・民主政治の基本原理と日本国憲法 ・法の支配とは、なぜ法が必要か？
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組み、課題を提出してください。
	教室外学習の時間（分）	200
第4回	**授業テーマ**	政治の仕組み（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・日本の政治制度と現代日本政治 ・日本の政治の流れと、最近の潮流
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組み、課題を提出してください。
	教室外学習の時間（分）	200
第5回	**授業テーマ**	政治の仕組み（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・現代の国際政治 ・グローバル社会の中の日本の役割、過去・現在・未来
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組み、課題を提出してください。
	教室外学習の時間（分）	200
第6回	**授業テーマ**	経済の仕組み（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・経済社会の種類を学びます。 ・資本主義経済の仕組みを学びます。 ・財政・税・貨幣・金融政策などについて学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組み、課題を提出してください。
	教室外学習の時間（分）	200
第7回	**授業テーマ**	経済の仕組み（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本経済の発展と国民福祉の向上 ・戦後日本の経済成長 ・産業構造の変化 ・中小企業・農業の問題 ・労働問題 ・社会保障・消費者問題・環境問題
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組み、課題を提出してください。

	教室外学習の時間（分）	200
第8回	**授業テーマ**	経済の仕組み（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国民経済と国際政治 ・国際政治のしくみを学びます。 ・経済のグローバル環境を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組み、課題を提出してください。
	教室外学習の時間（分）	200
第9回	**授業テーマ**	フードビジネスの事例研究（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・フードビジネスに関連する資料を分析して、意見を述べます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組み、課題を提出してください。
	教室外学習の時間（分）	200
第10回	**授業テーマ**	フードビジネスの事例研究（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・フードビジネスに関連する資料を分析して、意見を述べます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組み、課題を提出してください。
	教室外学習の時間（分）	200
第11回	**授業テーマ**	フードビジネスの事例研究（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・フードビジネスに関連する資料を分析して、意見を述べます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組み、課題を提出してください。
	教室外学習の時間（分）	200
第12回	**授業テーマ**	フードビジネスの事例研究（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・フードビジネスに関連する資料を分析して、意見を述べます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組み、課題を提出してください。
	教室外学習の時間（分）	200
第13回	**授業テーマ**	総合討論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・フードビジネスの様々な問題を総合的に討論します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・期末試験の準備をします。
	教室外学習の時間（分）	200
第14回	**授業テーマ**	期末試験／授業のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・政治経済の基礎知識について、理解度を確認します。 ・これまでに学んできたことを振り返ります。
	教室外学習(予習・復習)の内容	200分
	教室外学習の時間（分）	200

学習計画注記

・第２回の教室外学習より、テキストを利用しますので、それまでに購入しておくこと。

学生へのフィードバック方法

・本授業は、ディスカッションが中心の授業です。質問がある場合は、授業内で質問してください。フィードバックします。

評価方法

・授業への参加度
・教室外学習
・期末試験

ルーブリック表は、クラスルームに掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業への参加度	○	○	○	○
教室外学習	○	○	○	○
期末試験	○	○	○	○

評価割合

授業への参加度（35%）
教室外学習（35%）
期末試験（30%）

使用教科書名(ISBN番号)

・新版もういちど読む山川政治経済（ISBN 978-4-634-59107-3）第２回の教室外学習から利用しますので、それまでに購入してください。

参考図書

・pdfファイルを適宜配布します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている
【関心・意欲・態度】
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる
【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー

金曜日・３限（会議等が入り不在にする場合があるので、面談を希望する場合は、必ずメールで予約を取ってください）

学生へのメッセージ

・授業は、ディスカッションが中心です。積極的に参加して、活きた知識・活用できる知識を身につけてください。
・政治と経済の重要性を感じ、学び、卒業後のキャリア形成に役立ててください。
・企業で経験したことも伝えていきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	食品企業での実務経験をもとに、卒業後のキャリア形成に役立つ実践的な授業を展開します。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークディスカッションが中心の授業です。
情報リテラシー教育	○	新聞やメディアの情報から、社会の変化を読み取る力を養います
ICT活用		

講義コード	G06079001
講義名	バイオサイエンス演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	黒田　久夫	指定なし

ナンバリング

R31811M22

授業概要(教育目的)

【資格との関係】

本科目は、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格を取得するための必修科目です（A群 化学関係）。詳細は、学生便覧を確認のこと。

【授業の概要】

前半が分析化学、後半がバイオサイエンス各論となっています。前半で、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格に関連した基礎化学および分析化学の知識と実験手技の習得を確認した後に、後半は、バイオサイエンスの原理と実験方法を学びます。

【実験について】

分析・実験は、基本的に一人で行い、データを解析して結果を解釈するところまでを習得します。履修人数によっては、一度に実験を行うことができない場合がありますが、その場合は、実験組とテキスト学習組分けます。テキスト学習組は、テキストを学習してください。

履修条件

【授業の準備】

1. テキストは、第1回の教室外学習より使用するので、必ず準備しておくこと。

2. PCを毎回持ってくること。マウスを必ず用意し、接続しておくこと。ワードとエクセルをインストールしておくこと。資料は、pdfで確認します。データ解析もPCを利用します。PCが無いと授業に参加できないので注意してください。用意が出来ていない場合は、成績にペナルティを加えます。

【アプリのPCへのインストールについて】

大学のMicrosoft 365 Appsが無料で利用できます。まだ、自分のPCにアプリ（ワード・エクセル）を入れていない場合は、インストールしてください。不明な点は、学務室に問い合わせてください。

2. 実験ノートをこの授業のために一冊用意すること。糊で綴じたA4ノート（ルーズリーフやリング式は不可）で、方眼が良い。ラボノートの使用を強く勧める。実験中は、このノート以外にデータを記録しないこと（実験結果を他のノートやメモ用紙に記入しないこと）。実験ノー

トは、評価の対象となります。
【実験の準備】
・分析化学では、防護メガネと白衣を準備すること（第3回より）
・バイオサイエンス各論では、眼鏡（伊達メガネで良い）と白衣を準備すること（第10回より）
・その他、実験の心構えをまとめた資料をクラスルームに掲示するので、良く確認し、準備すること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・分析化学の知識が理解できている。 ・バイオサイエンスの原理と実験方法が理解できている。
思考・判断の観点 (K)	・データを科学的に分析できる。 ・実験結果の意味を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・分析化学とバイオサイエンスを深く学ぼうとする意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	・分析化学の計算を一人でできる。 ・分析化学の実験手技を一人で正確に行うことができる。 ・実験結果の分析を一人で正確に行うことができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	【ガイダンス】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・本授業の学習目標・評価方法・予定を確認する。 ・２年次までの授業で学んだ生化学と分析化学の知識の定着を理解度チェックにより確認する。 ・実験ノートの記載方法を理解しているかを確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・テキストの学習。範囲は、クラスルームに掲示します。 ・次回の授業の初めに、指示した範囲の理解度テストを行います。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	【分析化学（１）】化学の基本
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	【教室外学習の理解度テスト】 【授業内容】 ・理系のリテラシースキルの以下のトピックスを学びます。 基礎知識 化学の基礎 数学と統計の基礎 分析化学の基礎 ・エクセルの基本的な使い方を習得します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・テキストの学習。範囲は、クラスルームに掲示します。 ・次回の授業の初めに、指示した範囲の理解度テストを行います。
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	【分析化学（２）】試薬の調製
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	【教室外学習の理解度テスト】 【授業内容】 ・指定されたモル濃度のクエン酸水溶液を調製しま

第3回		す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・テキストの学習。範囲は、クラスルームに掲示します。 ・次回の授業の初めに、指示した範囲の理解度テストを行います。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	授業テーマ	【分析化学（３）】滴定（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	【教室外学習の理解度テスト】 【授業内容】 ・中和滴定の実験技術と計算方法を習得します。 ①実験組 ・前回調製した試薬の中和滴定と濃度測定を行います。 ②テキスト学習組 ・テキストを各自学習してください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・テキストの学習。範囲は、クラスルームに掲示します。 ・次回の授業の初めに、指示した範囲の理解度テストを行います。
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	授業テーマ	【分析化学（４）】滴定（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	【教室外学習の理解度テスト】 【授業内容】 ・中和滴定の実験技術と計算方法を習得します。 ①実験組 ・前回調製した試薬の中和滴定と濃度測定を行います。 ②テキスト学習組 ・テキストを各自学習してください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・テキストの学習。範囲は、クラスルームに掲示します。 ・次回の授業の初めに、指示した範囲の理解度テストを行います。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	授業テーマ	【分析化学（５）】滴定（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	【教室外学習の理解度テスト】 【授業内容】 ・中和滴定の実験技術と計算方法を習得します。 ①実験組 ・濃度の分からない試薬について、中和滴定と濃度測定を行います。 ②テキスト学習組 ・テキストを各自学習してください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・テキストの学習。範囲は、クラスルームに掲示します。 ・次回の授業の初めに、指示した範囲の理解度テストを行います。
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	授業テーマ	【分析化学（実技テスト）】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・滴定の操作と、中和とモルの計算を習得しているか評価します。
		・テキストの学習。範囲は、クラスルームに掲示します。

	教室外学習(予習・復習)の内容	・次回の授業の初めに、指示した範囲の理解度テストを行います。
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	授業テーマ	【分析化学（中間テスト）】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・基礎化学と分析化学の知識と計算が習得できているか評価します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・バイオサイエンス各論の実験マニュアルの確認と実験ノートへの記入
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	授業テーマ	【バイオサイエンス各論（1）】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・分子の構造を、分子模型のワークで理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・バイオサイエンス各論の実験マニュアルの確認と実験ノートへの記入
	教室外学習の時間（分）	100分
第10回	授業テーマ	【バイオサイエンス各論（2）】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・タンパク質の抽出と、タンパク質の濃度測定を習得します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・バイオサイエンス各論の実験マニュアルの確認と実験ノートへの記入
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	授業テーマ	【バイオサイエンス各論（3）】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・酵素活性の測定と、比活性の計算方法を習得します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・バイオサイエンス各論の実験マニュアルの確認と実験ノートへの記入
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	授業テーマ	【バイオサイエンス各論（4）】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・精製した酵素の性質を解析します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・バイオサイエンス各論の実験マニュアルの確認と実験ノートへの記入
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	授業テーマ	【バイオサイエンス各論（5）】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・レポートの作成を行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・レポートを完成させ、提出してください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	授業テーマ	【期末試験・授業のまとめ】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・バイオサイエンス各論のレポートを提出します。 ・バイオサイエンス各論について、理解度を確認する筆記試験を行います。 ・これまでに習ったことを振り返ります。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・バイオサイエンス各論のレポートを完成し、期日までに提出してください。
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

・①PCを毎回持ってくること。②マウスを必ず用意し、接続できるようにしておくこと。マウスとPCを忘れた場合は、各回、①と②、それぞれ、成績から１点を減じます（１００点満点として）。
・実験ノートをこの授業のために一冊用意すること。糊で綴じたA4ノート（ルーズリーフやリング式は不可）とすること。方眼が良い。ラボノートの使用を勧める。

学生へのフィードバック方法

・実験手技に関して、一人ひとり確認をしていき、正しい分析方法を指導します。
・実験ノートの記帳の方法が理解できているか、指導します。
・データの解釈が正しくできているかを確認し、指導します。

評価方法

①マウスとPCを毎回持ってきてください。PCには、エクセルをインストールしてください。マウスとPCを忘れた場合は、各回１点ずつを成績から減じます。
②分析化学
・テキストの学習を教室外学習の理解度テストで評価します（20点）
・基本的な実験手技を一人で行うことができ、データを適切に解析することができるかを実技試験で確認します（20点）
・中間テストで、分析化学の知識や計算方法が身についているかを確認します。データの解析を正確にできるかも確認します（20点）
・中間テスト実施中に、前半の実験ノートを確認します。
③バイオサイエンス各論
・レポートを提出してください（20点）
・授業で習った内容に関して、期末試験で理解度を確認します。筆記試験とします（20点）
・期末テスト実施中に、後半の実験ノートを確認します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
分析化学	○	○	○	○
バイオサイエンス各論	○	○	○	○

評価割合

①分析化学
・実技試験とノート（20%）
・テスト（40%）
②バイオサイエンス各論
・レポートとノート（20%）
・期末試験（20%）
以上の合計に出席率を乗じて素点とする

使用教科書名(ISBN番号)

【テキスト】
・高校やさしくわかりやすい 化学基礎
https://www.bun-eido.co.jp/detail/detail/24447/
テキストは、第1回の教室外学習より使用するので、必ず準備しておくこと。
【学習用クラスルーム】
・理系のリテラシースキル（グーグルクラスルーム）クラスコード：ivice5a
【実験マニュアル】
・各実験のマニュアルは、クラスルームに掲示します。

参考図書

・これまでに使用した食品学実験と生化学のテキストを良く復習してください。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
実験を通して、分析化学とバイオサイエンスの専門的知識を身につける。
【思考・判断】
実験で得られる様々な情報を整理し、客観的で合理的な考察ができる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】
・分析化学とバイオサイエンスの知識と技術を身につけ、その知識と技術を利用して、食生活を取り巻く様々な事象と関連性や課題を見出すことができる。
・食品衛生管理者及び食品衛生監視員になるための探究心、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある
【技術・表現】
・実験データや結果・考察を、他者に正確にわかりやすくコミュニケーション及びプレゼンテーションすることができる。
・上記の資質を、食生活と健康、食の安全性、食を通じての生活の質の向上を図るための指導に活かすことができる。

オフィスアワー

授業後

学生へのメッセージ

・本科目は、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格を取得するための必修科目です。A群化学関係に分類されていますので、化学、とくに分析化学の知識と技術の習得に重きを置いています。現場で、食品の分析をするときに必要となる知識と技術を身につけてください。その資格を担う仕事をする機会を得た時に、業務を担えるように知識と技術を完全にしておいてください。そのために、実験は、グループではなく、個人個人が取り組めるように授業を進めていきます。
・後半は、バイオサイエンスの分野の実験を体験していただきます。知識と技術の習得に加えて、実験レポートを正確に記述できる力も身につけてください。食品衛生管理者及び食品衛生監視員の仕事では、報告書を書くことで仕事が完了しますが、この文書を科学的に正確でわかりやすく作成することが求められます。バイオサイエンスの実験も、個人個人に経験できるように授業を進めていきます。
・実験・分析は、操作を行ったところでは完結しません。結果を適切に解析し、考察し、結論付けることが必要です。この点についても指導します。特に、数値データの基礎的な統計解析についても習得します。エクセルを用いて数値解析していきますので、エクセルのスキルも習得していってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	食品企業では、どのような考えで食品の品質管理を行っているのかをお話しします。 食品企業の技術者や管理者に求められる資質についてお話しします。
アクティブ・ラーニング	○	実験を一人で取り組み、結果を分析し、考察することにより、考える力を身につけます。
情報リテラシー教育	○	各種学術データベースの利用方法を学びます。
ICT活用	○	エクセルを利用したデータ解析法や、図表の作成法を学びます。

講義コード	G06080001
講義名	フードビジネス演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3,4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	黒田　久夫	指定なし

ナンバリング

R41812M22

授業概要(教育目的)

【資格取得との関係】本科目は、FBA（フードビジネスアドミニストレーター）の資格取得に必要な科目です。

【授業の内容】
グループワーク形式で、フードビジネスの諸問題、マーケティング、マネジメント・スキル、コミュニケーション・スキルを学び、ビジネスで求められるコンピテンシーを獲得する。
・ビジネスで活きる実践的な授業内容です。
・グループで討議するワークが中心の授業になります。
・自己分析やリーダーシップを理解するワークなど、コミュニケーション・スキル（対人関係の形成能力）を練習するワークがあります。
・キャリア形成について考えます。
※ビジネスコミュニケーションの習得を目的としています。高度なディスカッションや、プレゼンができる人を対象としています。

【授業の形式】
・本授業は、一部集中となっています。
・対面授業と課題型授業があります。
・対面授業の予定は、クラスルームに掲示します。

履修条件

【本授業は、ビジネスで求められる高度なコミュニケーション能力・分析力・判断力の習得を目的としています】
・心理学的スキルを学ぶ内容があります。
・コミュニケーションスキルについて、アドバイスすることがあります。
・教員と学生、学生どうしでディスカッションする内容があります。
・プレゼンテーションのスキルについて、アドバイスすることがあります。

・ビジネスマネジメント（人事管理）に関する学びの内容があります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	・フードビジネスの諸問題とマーケティングに関する深い知識が理解できている。 ・コンプライアンスやマネジメントに関する深い知識が理解できている。 ・ビジネスで求められるマネジメントとコミュニケーション技術に関して、深い知識が理解できている。
思考・判断の観点(K)	・フードビジネスの諸問題とマーケティングに対して、自身の解釈と意見を述べることができる。 ・コンプライアンスやマネジメントに関して、適切な思考・判断ができる。 ・ビジネスで求められるマネジメントとコミュニケーション技術に関して、適切な思考・判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・グループワークに積極的に参加し、質の高い対話力が身についている。
技術・表現の観点(A)	・自分の考えを整理し、簡潔明瞭に他者に口頭で伝えることができる。 ・自分の考えを整理し、簡潔明瞭な文章として表現できる。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本演習の内容と、授業の進め方を説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワーク「日経新聞を読む」（課題型）を取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	コミュニケーション・スキル（１）自己分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己分析のワークを経験し、自分の強み・弱み・機会・脅威を分析します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワーク「日経新聞を読む」（課題型）を取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	授業テーマ	フード・ビジネスの諸問題（１）日本のフード・ビジネスの構造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本のフードビジネスが抱える構造的な問題について解説し、問題点をディスカッションします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワーク「日経新聞を読む」（課題型）を取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	マネジメント・スキル（１）倫理とコンプライアンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	・倫理とコンプライアンスの基本を理解します。 ・フードビジネスを取り巻く労働環境・ジェンダーギャッ

第4回	育・ICT活用を含む)	プ・経済格差などを考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワーク「日経新聞を読む」（課題型）を取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	授業テーマ	マーケティング（1）フィールド・スタディ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	感度の高い商圏を観察して、新しいフードサービスを探してください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワーク「日経新聞を読む」（課題型）を取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	授業テーマ	コミュニケーション・スキル（2）人間関係のコントロール・その1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人間関係において、軋轢やトラブルが生まれる基本的な原因と、それらを回避するための方法を理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワーク「日経新聞を読む」（課題型）を取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	授業テーマ	フード・ビジネスの諸問題（2）ケーススタディ・その1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自がキャリア形成を考えている業界・業種について調べます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワーク「日経新聞を読む」（課題型）を取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	授業テーマ	マネジメント・スキル（2）交渉術
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ビジネスにおける交渉について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワーク「日経新聞を読む」（課題型）を取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	授業テーマ	マーケティング（2）マーケティング・ツールの基本
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	マーケティング・ツールの基礎を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワーク「日経新聞を読む」（課題型）を取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	100分
10	授業テーマ	コミュニケーション・スキル（3）人間関係のコントロール・その2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教ICT)	同僚とのコミュニケーション、部下と上司のコミュニケーションについて学び、自分が管理職になったときのシミュレー

第　回	育・　活用を含む	ションをロールプレイします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワーク「日経新聞を読む」（課題型）を取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	授業テーマ	フード・ビジネスの諸問題（３）ケーススタディ・その２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自がキャリア形成を考えている業界・業種について調べます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワーク「日経新聞を読む」（課題型）を取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	授業テーマ	マネジメント・スキル（３）リーダーシップとチームの管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	チームを形成するために必要なスキルを学びます。 リーダーシップの発揮の仕方、人間関係の形成における注意点を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワーク「日経新聞を読む」（課題型）を取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	授業テーマ	マーケティング（４）マーケティング・ツールの応用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	CVCAやプロジェクトマネジメントなど、発展的なスキルを学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワーク「日経新聞を読む」（課題型）を取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	授業テーマ	授業のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本授業で学んだことを発表してください。 発表時間は、履修人数によって決定します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の振り返りを投稿してください。 課題に取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

・本授業は、一部集中となっています。対面授業と課題型授業を組み合わせて展開します。
・対面授業の予定は、クラスルームに掲示します。対面授業では、PCを毎回持参してください。PCのスキルも、キャリア形成において非常に重要です。

学生へのフィードバック方法

・授業の振り返り等に投稿された学生の質問やコメントに対して、個別に回答します。

評価方法

①ワーク「日本経済新聞を読む」（課題型）
・毎週、日本経済新聞の記事を２つ以上読み、要約と分析をクラスルームに投稿してください。
・取り組みを評価します。
②対面授業への参加度

[判断する項目]
・コミュニケーション力（理解力と発信力）
・判断力（分析力・推察する力）

ルーブリック表は、クラスルームに掲示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
①「日経新聞を読む」	○	○	○	○
②対面授業への参加度	○	○	○	○

評価割合

①ワーク「日経新聞を読む」（50%）
② 対面授業への参加度（50%）

使用教科書名(ISBN番号)

【教科書（テキスト）は、第１回のガイダンスを必ず受けてから購入してください】
①『図解 孫子の兵法 丸くおさめる戦略思考』齋藤 孝　定価：1,430円（税込み）200ページ発売日：2018年 6月20日ISBN：978-4-86310-203-3
キンドル（電子書籍）の利用も可能です。
②日本経済新聞　図書館で読めます。コンビニでも購入できます。総合職を目指す方は、定期的に購読することを強く勧めます。

参考図書

参考図書や資料を紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】様々な立場や状況の人々との意思の疎通ができるコミュニケーション力とプレゼンテーション力を身につけている
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断が゛て゛きる
【関心・意欲・態度】
・食を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことが゛て゛きる
【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー

金曜日・３限（会議等が入り不在にする場合があるので、面談を希望する場合は、必ずメールで予約を取ってください）

学生へのメッセージ

・本授業は、ビジネスの世界で仕事をしていくために必要な知識と技術を身につけるための実践的な授業です。発展的な内容となりますので難易度は高いですが、卒業後に即戦力となるために必要な知識や、コミュニケーションスキルなどの技術が身につきます。特に、総合職を考えている方に最適です。
・総合職に求められることは、一言で言うと課題発見・課題解決です。そのためには、論理思考力・コミュニケーションスキル・アジリティーが必要です。この授業で行うディスカッションやワークを通して、その力を身につけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かし		企業で経験したビジネスの実践的な知識・ノウハウをお伝えしま

た授業	○	す。
アクティブ・ラーニング	○	学生どうし、学生と教員のディスカッションにより、深くて強い対話力を養います。
情報リテラシー教育	○	日本経済新聞、日経ニュース、日経メルマガの記事などを授業に取り入れます。
ICT活用	○	PCを利用します。

講義コード	G06081001
講義名	食企画・開発演習I
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	黒田　久夫	指定なし

ナンバリング

R21804M22

授業概要(教育目的)

【授業の概要】食品の企画と開発を行うための基礎力を養う。食と栄養の科学の基礎を学び直し、科学的根拠に基づいた食品開発のスキルを習得する。マーケティングの知識も習得する。

【授業の目的】食企画・開発演習Iでは、食と栄養の科学と、食品の開発に必要なマーケティングを理解することにより、根拠（エビデンス）に基づいた食を開発できる力を養います。この基礎力が身についた方を対象に、食企画・開発演習IIのテーマを進めていきます。

【授業の内容】

・エクセルを利用した食品成分の設計を学びます。
・テキスト『科学的に正しい 栄養の教科書』を通して、食品成分の機能を復習します。
・エビデンスに基づいた食品の企画と設計の基礎力を養います。

【資格取得との関係】本科目は、FBA（フードビジネスアドミニストレーター）の資格取得に必要な科目です。

履修条件

1. PCを毎回持ってきてください。マウスも用意して、PCに接続できるようにしてください。ワード・エクセルをインストールしておくこと。用意が出来ていない場合は、成績にペナルティを加えます。第1回から、持ってきてください。
2. 成分の設計は、エクセルを利用します。
3. チームで取り組む課題があります。グループワークディスカッションにおいて、他者と対話できる方を対象としています。グループワークは、毎回くじ引きでランダムにメンバーを決定します。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

	・食品の企画開発に必要な「食と栄養の科学」が理解できている。

知識・理解の観点 (K)	・食品の企画開発に必要な食品の開発に必要なマーケティングの基礎が理解できている。
思考・判断の観点 (K)	・食品の企画開発において、科学的根拠を思考・判断できる。 ・食品の企画開発に必要なマーケティング方法を思考・判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・他者と対話できる。
技術・表現の観点 (A)	・エクセルを用いて、食品成分の設計ができる。 ・食品の企画開発において、根拠をわかりやすく口頭・文書で論理的に説明できる。

学習計画

第1回	授業テーマ	【ガイダンス】根拠に基づいた食品の開発とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・本授業の学習目標・予定・評価方法を確認します。 ・GSuiteとエクセルの利用の確認します。 ・エクセルを練習します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・本授業の学習目標・予定・評価方法を確認してください。 ・GSuiteとエクセルを利用できる環境を準備してください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	【食品成分の設計】日本人の食事摂取基準と食品成分データベース
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・日本人の食事摂取基準2025の要点を開設します。 ・食品成分データベースから、食品成分データのエクセルファイルをダウンロードするスキルを習得します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の課題に取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	授業テーマ	【食品の設計（１）】食品成分の基礎
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・日本食品成分表2023年版（八訂増補）を用いて、食品成分の基礎を説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の課題に取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	授業テーマ	【食品の設計（２）】食品成分の設計（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・食品成分データベースからデータを入手し、エクセルを用いて食品の成分を解析する方法を習得します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の課題に取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	授業テーマ	【食品の設計（３）】食品成分の設計（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・食品成分の設計の課題を振り返ります。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の課題に取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	100分
		【テキストの学習】テキスト１章

第6回	授業テーマ	【グループワーク】マーケティングスキル
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・本日のテキストの内容を解説します。 ・基本的なマーケティングスキルをグループワークで理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の課題に取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	授業テーマ	【テキストの学習】テキスト２章 【グループワーク】企業経営のスキル
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・本日のテキストの内容を解説します。 ・基本的なマーケティングスキルをグループワークで理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の課題に取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	授業テーマ	【テキストの学習】テキスト３章 【グループワーク】コンプライアンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・本日のテキストの内容を解説します。 ・基本的なマーケティングスキルをグループワークで理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の課題に取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	授業テーマ	【テキストの学習】テキスト４章前半 【グループワーク】リーダーシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・本日のテキストの内容を解説します。 ・基本的なマーケティングスキルをグループワークで理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の課題に取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第10回	授業テーマ	【テキストの学習】テキスト４章後半 【グループワーク】交渉術
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・本日のテキストの内容を解説します。 ・基本的なマーケティングスキルをグループワークで理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の課題に取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	授業テーマ	【テキストの学習】テキスト５章 【グループワーク】企画開発のプロへの道
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・本日のテキストの内容を解説します。 ・基本的なマーケティングスキルをグループワークで理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の課題に取り組んでください。
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	【個人企画】準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	・個人で企画を立案し、必要な原材料表（エクセル）・企画書（ワード）・プレゼン資料（パワポ）を作成してくだ

第12回	を含む)	さい。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・資料を完成させて、提出してください。 ・プレゼン資料（パワポ）は、USBに保存してください。図書館ラーニングコモンズのPCに接続して、プレゼンを行います。
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	授業テーマ	【個人企画】発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・企画を発表してください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題に取り組み、提出してください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	授業テーマ	【期末試験】／授業のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・期末試験を実施します。 ・授業を振り返ります。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・授業を振り返って、今後の目標を立ててください。 ・授業アンケートに回答してください。
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

・PCを毎回持参してください。振り返りの投稿や、資料の確認に利用します。

学生へのフィードバック方法

・授業に対する振り返りや課題を確認し、フィードバックします。（Google Classroomを利用）

評価方法

・授業への参加度
PCとマウスを忘れた場合は、各回、成績から１点を減じます（１００点満点として）。
授業への参加度は、ルーブリック評価します。ルーブリック表は、クラスルームに掲載します。
・教室外学習
・個人企画
・期末試験

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業への参加度	○	○	○	○
教室外学習	○	○	○	○
個人企画	○	○	○	○
期末試験	○	○	○	○

評価割合

授業の参加度（30%）
教室外学習（20%）
個人企画（20%）
期末試験（30%）

使用教科書名(ISBN番号)

ニュートン別冊　科学的に正しい栄養の教科書 改訂第２版
https://www.newtonpress.co.jp/separate/back_medical-pharmacy/mook_250821_3.html
ISBN978-4-315-52947-0
Amazonで購入できます。
本学の教科書販売購入する場合は送料がかかるので、このテキスト一冊のみを購入する場合は、Amazonを利用した方が安く購入できます。

参考図書

教科書以外の資料については、pdfやURLをGoogle Classroomに掲載します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断が゛て゛きる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことが゛て゛きる。
・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー

火曜・５限

学生へのメッセージ

・食の企画開発を目指す方への実践的な学びを提供します。
・本授業の目的は、「おいしいもの」を調理加工することではありません。根拠に基づいた食を開発できる力（コンピテンシー）を養うことです。根拠とは、その一つは、科学的根拠です。科学的根拠に基づいた食の開発ができるようになるために、「食と栄養の科学」の知識を深め、応用できる力が必要です。
・多様な意見からアイデアを生み出す力も養いましょう。そのためには、他者と対話できる力を習得する必要があります。
・ビジネスでは、PCのスキルもとても重要になってきています。大学のうちに、ワード・エクセル・パワポに慣れ親しんでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	食品企業での研究開発の経験と知識をお伝えします。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークでは、学生同士でディスカッションし、企画開発に必要な対話力を養います。
情報リテラシー教育	○	食の栄養と科学に関するデータベースの利用法を学びます。
ICT活用	○	エクセルを利用した栄養成分の分析・設計法を習得します。

講義コード	G06082001
講義名	食企画・開発演習II
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	黒田 久夫	指定なし

ナンバリング

R31808M22

授業概要(教育目的)

【資格取得との関係】本科目は、FBA（フードビジネスアドミニストレーター）の資格取得に必要な科目です。
【授業の概要】
食品の企画開発を担うための応用力を養う。
【授業の内容】
・食品の企画と開発に関して発展的な知識と技術を学びます。
・根拠に基づいた食品の開発のスキルを深めます。

履修条件

1. PCを毎回持ってきてください。マウスも用意して、PCに接続できるようにしてください。用意が出来ていない場合は、成績にペナルティを加えます。第1回から、持ってきてください。
2. 食企画・開発演習Iの単位を修得している必要があります。
3. 食企画・開発演習Iの学びを理解し、スキルが習得できていることが履修の条件です。
4. チームで取り組む課題があります。
5. 企画開発の内容とスケジュールについては、履修確定後に決定します。
6. 企業連携を行う場合には、企業と大学が共同研究契約を締結した上で、学生は「学生確認書」を大学に提出します。学生確認書の提出を以って、学生が本授業で開発した商品などの発明の知的財産は大学に帰属することになります。授業で企業連携を行う場合で、学生確認書を提出しないと、この授業を履修できないので注意してください。また、企業連携を行う場合は、大学より、年度末（例年２月中旬）の地域交流会での口頭発表とポスター発表を求められる場合があります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

	・食の企画開発に必要な批判的思考の方法が理解できている。

知識・理解の観点 (K)	・根拠に基づき考えるスキルが理解できている。
思考・判断の観点 (K)	・食品開発における確からしさを思考・判断できる。 ・根拠に基づき考える基礎ができている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・食品の開発において、根拠を大切にしている。
技術・表現の観点 (A)	・食品の開発において、根拠をわかりやすく合理的に説明することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・本授業の概要を説明します。 ・授業アンケートに回答してください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・授業内容を確認してください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	**授業テーマ**	企画①−1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・メンバーを決定します。 ・テーマを説明します。 ・コンセプトを検討します。 ・マーケティングのスキルを学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・課題に取り組み、課題を提出してください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	**授業テーマ**	企画①−2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・企画の設計
	教室外学習(予習・復習)の内容	・課題に取り組み、課題を提出してください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	**授業テーマ**	企画①−3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・企画を実行してください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・課題に取り組み、課題を提出してください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	**授業テーマ**	企画①−4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・企画を実行してください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・課題に取り組み、課題を提出してください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	**授業テーマ**	中間のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・これまでの取り組みを振り返り、今後の課題を考えてください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・課題に取り組み、課題を提出してください。
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	企画①−5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	

第7回	育・ICT活用を含む)	・活動内容を報告してください
	教室外学習(予習・復習)の内容	・課題に取り組み、課題を提出してください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	授業テーマ	企画②−1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・メンバーを決定します。 ・テーマを説明します。 ・コンセプトを検討します。 ・マーケティングのスキルを学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・課題に取り組み、課題を提出してください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	授業テーマ	企画②−2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・企画の設計 ・マーケティングのスキルを学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・課題に取り組み、課題を提出してください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第10回	授業テーマ	企画②−3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・企画を実行してください。 ・マーケティングのスキルを学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・課題に取り組み、課題を提出してください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	授業テーマ	企画②−4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・企画を実行してください。 ・マーケティングのスキルを学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・課題に取り組み、課題を提出してください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	授業テーマ	企画②−5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・企画を実行してください。 ・マーケティングのスキルを学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・課題に取り組み、課題を提出してください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	授業テーマ	企画②−6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・企画を実行してください。 ・マーケティングのスキルを学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・課題に取り組み、課題を提出してください。
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	授業テーマ	期末試験／授業のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・授業の内容の理解度テストを実施します。 ・授業内容の振り返りをします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・課題に取り組み、課題を提出してください。
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

・PCを毎回持参してください。

学生へのフィードバック方法

・授業中に積極的に質問してください。フィードバックします。
・教室外学習に質問があった場合は、フィードバックします。

評価方法

・授業への参加度
PCとマウスを忘れた場合は、成績から１点を減じます（１００点満点として；第2回より）。
授業への参加度は、ルーブリック評価します。ルーブリック表は、クラスルームに掲載します。
・教室外学習
クラスルームから出題します。
・期末試験
授業で学習したことの確認を行います。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業への参加度	○	○	○	○
教室外学習	○	○	○	○
期末試験	○	○	○	○

評価割合

授業への参加度（40%）
教室外学習（30%）
期末試験（30%）

参考図書

クラスルームに参考図書を掲載します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている
【関心・意欲・態度】
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる
・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある
【技能・表現】
・生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている

オフィスアワー

金曜日・３限（会議等が入り不在にする場合があるので、面談を希望する場合は、必ずメールで予約を取ってください）

学生へのメッセージ

・本授業は、単に知識と技術を習得するのではなく、知識と技術を活用する力＝コンピテンシーを養うことを目的としています。コンピテンシーとは、①知識を相互作用的に活用する力、②人間関係形成能力、③自律的に行動する力の３つです。授業を取り組む過程で、この３つの力を養います。

・食品を作るうえでは、「根拠」が必要です。どのようにしたら、その根拠を示すことができるのか、論理思考力と表現力を身につけます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・企業で経験した企画開発の実践的な知識を教授します。 ・企画とプレゼンに必要なコンピテンシーを教授します。
アクティブ・ラーニング	○	学生同士でディスカッションと作業を行い、企画を実現していきます。
情報リテラシー教育	○	食と栄養に関するデータベースを使いこなせるようにします。
ICT活用	○	PCを積極的に利用します。 マイクロソフトオフィスを利用します。

講義コード	G06083001
講義名	食企画・開発演習III
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

R31810M22

授業概要(教育目的)

【授業の概要】食企画・開発演習I、IIで学んだ知識を利用して、食品の企画と設計を実践する。
【授業の内容】
・食品の企画と設計に必要な科学をもう一度復習する。
・根拠に基づいた食品開発ができるようする。

履修条件

1. PCを毎回持ってきてください。マウスも用意して、PCに接続できるようにしてください。用意が出来ていない場合は、成績を１点ずつ減点します。第２回から使用します。
2. 食企画・開発演習IIの単位を修得している必要があります。
3. 第３回、第６回、第９回、第１２回は、自宅での試作とします。試作に必要な食材は、各自で購入・調達してください。
※３年次前期までの必修科目、特に食品学と栄養学を理解している前提として、授業を進めます。授業の中で、習得していない知識は各自で取り組むこと。期末テストを突破するために必要です。
※ この授業は、教室外学習や、試作などの課題、レポートが多いです。期末テストもあります。３年次の必修科目の単位修得とのバランスをよく考えて、履修登録をしてください。本科目は、おいしい食品を楽しく作ることが目的ではありません。食品の開発に必要な科学的知識と企画力を身につける授業です。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・食品の企画と設計に必要な食と栄養の科学と、批判的思考の方法が理解できている。 ・根拠に基づき考えるスキルが理解できている。
思考・判断の観点 (K)	・食と栄養の科学の知識を基盤として、食品の企画と設計における科学的根拠の確からしさを思考・判断できる。 ・根拠に基づき考えるスキルが身についている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・難しい問題もあきらめずに、考え抜く意欲と態度が身についている。
技術・表現の観点	・食品の企画と設計に関する科学的根拠を論理的にわかりやすく説明できる。

(A)	・根拠に基づいて、企画を効果的かつ魅力的に提案できる。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・本授業の内容を説明します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・授業内容を確認してください。
	教室外学習の時間(分)	100分
第2回	授業テーマ	食品の企画と設計①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・課題に対するレシピを考案し、栄養計算をしてください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・グーグルフォームまたはグーグルクラスルームから出題される課題を、期日までに提出してください。期限に遅れた場合は、減点します。
	教室外学習の時間(分)	100分
第3回	授業テーマ	食品の企画と設計①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・試作を行ってください。試作の様子を動画で録画してください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・グーグルフォームまたはグーグルクラスルームから出題される課題を、期日までに提出してください。期限に遅れた場合は、減点します。
	教室外学習の時間(分)	100分
第4回	授業テーマ	食品の企画と設計①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・栄養計算を行ってください。 ・企画書をまとめてください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・グーグルフォームまたはグーグルクラスルームから出題される課題を、期日までに提出してください。期限に遅れた場合は、減点します。
	教室外学習の時間(分)	100分
第5回	授業テーマ	食品の企画と設計②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・課題に対するレシピを考案し、栄養計算をしてください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・グーグルフォームまたはグーグルクラスルームから出題される課題を、期日までに提出してください。期限に遅れた場合は、減点します。
	教室外学習の時間(分)	100分
	授業テーマ	食品の企画と設計②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	・試作を行ってください。試作の様子を動画で録画してくだ

第6回	育・ICT活用を含む)	さい。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・グーグルフォームまたはグーグルクラスルームから出題される課題を、期日までに提出してください。期限に遅れた場合は、減点します。
	教室外学習の時間(分)	100分
第7回	授業テーマ	食品の企画と設計②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・栄養計算を行ってください。 ・企画書をまとめてください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・グーグルフォームまたはグーグルクラスルームから出題される課題を、期日までに提出してください。期限に遅れた場合は、減点します。
	教室外学習の時間(分)	100分
第8回	授業テーマ	食品の企画と設計③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・課題に対するレシピを考案し、栄養計算をしてください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・グーグルフォームまたはグーグルクラスルームから出題される課題を、期日までに提出してください。期限に遅れた場合は、減点します。
	教室外学習の時間(分)	100分
第9回	授業テーマ	食品の企画と設計③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・試作を行ってください。試作の様子を動画で録画してください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・グーグルフォームまたはグーグルクラスルームから出題される課題を、期日までに提出してください。期限に遅れた場合は、減点します。
	教室外学習の時間(分)	100分
第10回	授業テーマ	食品の企画と設計③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・栄養計算を行ってください。 ・企画書をまとめてください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・グーグルフォームまたはグーグルクラスルームから出題される課題を、期日までに提出してください。期限に遅れた場合は、減点します。
	教室外学習の時間(分)	100分
第11回	授業テーマ	食品の企画と設計④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・課題に対するレシピを考案し、栄養計算をしてください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・グーグルフォームまたはグーグルクラスルームから出題される課題を、期日までに提出してください。期限に遅れた場合は、減点します。
	教室外学習の時間(分)	100分

第12回	授業テーマ	食品の企画と設計④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・試作を行ってください。試作の様子を動画で録画してください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・グーグルフォームまたはグーグルクラスルームから出題される課題を、期日までに提出してください。期限に遅れた場合は、減点します。
	教室外学習の時間(分)	100分
第13回	授業テーマ	食品の企画と設計④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・栄養計算を行ってください。 ・企画書をまとめてください。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・グーグルフォームまたはグーグルクラスルームから出題される課題を、期日までに提出してください。期限に遅れた場合は、減点します。
	教室外学習の時間(分)	100分
第14回	授業テーマ	期末試験／授業のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・筆記試験 ・授業のまとめ
	教室外学習(予習・復習)の内容	・本授業の振り返りをクラスルームに投稿してください。
	教室外学習の時間(分)	100分

学習計画注記

・PCを毎回持参してください。

学生へのフィードバック方法

・教室外学習に質問があった場合は、都度フィードバックします。

評価方法

① 授業への参加度
PCとマウスを忘れた場合は、成績から１点を減じます（１００点満点として）。
②教室外学習
③期末テスト

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
①授業への参加度	○	○	○	○
②教室外学習	○	○	○	○
③期末テスト	○	○	○	○

評価割合

①授業への参加度（30%）
②教室外学習（30%）

③期末テスト (40%)

使用教科書名(ISBN番号)

資料をクラスルームに掲示するか、配布します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断が゛て゛きる基礎力を身につけている
【関心・意欲・態度】
・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことが゛て゛きる
・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある
【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている

オフィスアワー

火曜昼休み・３限

学生へのメッセージ

・食品の企画と設計に必要な科学をもう一度復習し、根拠に基づいた食品開発ができるようします。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	各種データベースの利用を学びます。
ICT活用	○	PCを積極的に利用します。 現代の文房具、パワポ・ワード・エクセルを自在に使えるようにします。

講義コード	G06084001
講義名	病態生理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	岩本 直樹	指定なし

ナンバリング

R21805M21

授業概要(教育目的)

人体の正常な機能の異常や、調節機能が傷害されることによって起こる病気の身体機能の状態と傷害をきたす原因を学ぶ。特に主要疾患の成因、病態、診断、治療などについて説明できるようになることを目的とする。本科目は、HACCP管理者資格取得のための選択科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	主要疾患の成因、病態、診断、治療などについて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	主要疾患の治療において栄養面以外で必要とされるケアについても把握し、栄養士・管理栄養士が医療チームの中での役割を列記することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	解剖生理学で学んだ人体の構造と機能に関する知識を基に、正常な状態が病気によって傷害された際に起こる変化について理解できる。
技術・表現の観点 (A)	専門的、体系的な学修を通じて、食と健康など、生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身に付けている。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	循環器疾患（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	循環器系疾患の成因・病態について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6章（p101−119）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。

	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	循環器疾患（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	循環器系疾患の診断・治療の概要について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6章（p101−119）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	呼吸器疾患（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	呼吸器疾患の成因・病態について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第10章（p151−157）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	呼吸器疾患（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	呼吸器疾患の診断・治療の概要について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第10章（p151−157）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	消化管疾患
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消化器疾患の成因・病態・診断・治療の概要について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第5章（p69−81）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	肝・胆・膵疾患
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肝・胆・膵疾患の成因・病態・診断・治療の概要について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第5章（p86−100）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	腎臓・尿路疾患（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	腎・尿路疾患の成因・病態について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第7章（p122−136）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分

第8回	**授業テーマ**	腎臓・尿路疾患（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	腎・尿路疾患の診断・治療の概要について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第7章（p122−136）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	内分泌疾患
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	内分泌疾患の成因・病態・診断・治療の概要について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第8章（p137−144）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	代謝疾患（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	代謝疾患の成因・病態について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第3章（p24−36）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	代謝疾患（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	代謝疾患の診断・治療の概要について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第4章（p37−68）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	自己免疫・アレルギー疾患
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	免疫・アレルギー疾患の成因・病態・診断・治療の概要について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第14章（p178−185）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	血液疾患
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	血液系の疾患・障害の成因・病態・診断・治療の概要について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第13章（p171−177）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分

第14回	授業テーマ	筋疾患
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	筋骨格疾患の成因・病態・診断・治療の概要について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第11章（p158−165）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

※シラバスの内容は、やむを得ない事情等により一部変更することがあります。
※教科書が改訂された場合、シラバス記載のページ数は異なることがあります。

学生へのフィードバック方法

・毎回の授業時に実施する小テストの問題や解答は、Google Classroomのフォーム内に掲載する。必ず確認すること。
・定期試験および追再試験の問題用紙は返却する。
・質問がある場合は、2101研究室を訪問するか、E-mailで問い合わせること。
・小テストの結果や総合成績は、随時Google Classroomにアップされる。各自確認すること。

評価方法

・ルーブリックに基づいて成績を評価する。ルーブリックの詳細はGoogle Classroom等で提示する。
・小テストは、前回の授業内容から出題し、全13回実施する。各回の問題数は原則5問、5点満点の五者択一形式とする。小テストを受験しなかった場合は、解説・解答を提示するため、追再テストは実施しない。
・毎回の小テストの問題をもとにディスカッションを行い、その受け答えを通じて「学習態度」を評価する。
・定期試験は、小テストの振り返りを踏まえ、100点満点で出題する。
・小テスト、定期試験、および学習態度の評価は、下表に示す力を養うことを目的とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○	○	○	
定期試験	○	○		
学習態度			○	○

評価割合

定期試験（60%）および授業中に行う小テスト（30%）、さらに学習態度（10%）で総合的に判断し評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

田中明編『疾病の成り立ち：臨床医学』建帛社

参考図書

松村譲兒編『人体解剖ビジュアル』サイオ出版

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】様々な事象について、関心を持ち自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
【技能・表現】専門的、体系的な学修を通じて、生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身に付けている。

オフィスアワー

火曜3・4限 2101研究室
（2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）

学生へのメッセージ

HACCP管理者資格希望者だけでなく、管理栄養士国家試験受験を希望する学生や、病院における食事管理、栄養指導などに興味のある学生はぜひ選択して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	毎時間、小テストを用いて発表やディスカッションを行う。ディスカッションを行うことで、知識の定着はもちろん、自分の意見を正しく伝えて説得するための論理的思考力が鍛えられる。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。また、小テスト等はGoogleフォームを用いる。試験結果や総合成績はGoogle Classroomに逐一アップする。

講義コード	G06085001
講義名	子供の食とアレルギー
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	岩本 直樹	指定なし

ナンバリング

R31806M21

授業概要(教育目的)

子どもに関わる者にとって、子どもの食と栄養についての正しい知識は不可欠である。子どもの栄養のみならず、幅広く食育についての知識も習得する。また、「食べる喜び」は、年齢を問わず与えられるべきものであるが、特定の食品に触れたり、吸い込んだり、摂取することにより心身に様々なアレルギー症状が起こる「食物アレルギー」について、その原因やメカニズム、対処方法等を専門的に解説する。本科目は、HACCP管理者資格取得のための選択科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を説明できる。 2．子どもの発育・発達と食生活の関連について説明できる。 3．養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について説明できる。 4．関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について説明できる。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成 23年3月、厚生労働省）、「保育所における食事の提供ガイドライン」（平成24年3月、厚生労働省）等
思考・判断の観点 (K)	家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもの食生活について関心をもち、子どもの｢食｣に関する課題に意欲的に取り組むことができる。
技術・表現の	専門的、体系的な学修を通じて、食と健康など、生活の質の向上を図るための

観点 (A)	指導力や表現力を身に付けている。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス・子どもの健康と食生活の食意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学修の進め方等のガイダンス及び子どもの心身の健康と食生活、子どもの食生活の現状と課題について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第1章（p2-7）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	栄養に関する基本的知識（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食物中の栄養素のはたす役割、消化吸収、炭水化物について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第2章（p9−13）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	栄養に関する基本的知識（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質、たんぱく質、ミネラル、ビタミン、水分の機能について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第2章（p16−23）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	栄養に関する基本的知識（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事摂取基準と献立作成・調理の基本について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第2章（p24−31）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	子どもの発育・発達と食生活（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第3章（p32−51）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	子どもの発育・発達と食生活（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児期の心身の発達と食生活について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復	教科書の第3章（p52−64）を通読する。

	習)の内容	教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	子どもの発育・発達と食生活（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学童期の心身の発達と食生活について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第3章（p65−71）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	子どもの発育・発達と食生活（4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生涯発達と食生活について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第3章（p72−79）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	食育の基本と内容（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育における食育の意義・目的と基本的考え方、食育の内容について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第4章（p80−94）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	食育の基本と内容（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食育のための環境及び地域の関係機関や職員間の連携について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第4章（p95−109）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	家庭や児童福祉施設における食生活の現状（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭における食事と栄養について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第5章（p110−117）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	家庭や児童福祉施設における食生活の現状（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童福祉施設における食事と栄養について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第5章（p118−137）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。

	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	特別な配慮を要する子どもの食と栄養（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食物アレルギーの原因やメカニズムについて学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6章（p138−149）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	特別な配慮を要する子どもの食と栄養（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	疾病および食物アレルギーの子どもへの対応について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6章（p138−149）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

※シラバスの内容は、やむを得ない事情等により一部変更することがあります。
※教科書が改訂された場合は、シラバス記載のページ数が異なることがあります。

学生へのフィードバック方法

・毎回の授業時に実施する小テストの問題や解答は、Google Classroomのフォーム内に掲載する。必ず確認すること。
・定期試験および追再試験の問題用紙は返却する。
・質問がある場合は、2101研究室を訪問するか、E-mailで問い合わせること。
・小テストの結果や総合成績は、随時Google Classroomにアップされる。各自確認すること。

評価方法

・ルーブリックに基づいて成績を評価する。ルーブリックの詳細はGoogle Classroom等で提示する。
・小テストは、前回の授業内容から出題し、全13回実施する。各回の問題数は原則5問、5点満点の五者択一形式とする。小テストを受験しなかった場合は、解説・解答を提示するため、追再テストは実施しない。
・毎回の小テストの問題をもとにディスカッションを行い、その受け答えを通じて「学習態度」を評価する。
・定期試験は、小テストの振り返りを踏まえ、100点満点で出題する。
・小テスト、定期試験、および学習態度の評価は、下表に示す力を養うことを目的とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○	○	○	
定期試験	○	○		
学習態度			○	○

評価割合

定期試験（60%）および授業中に行う小テスト（30%）、さらに学習態度（10%）で総合的に判断し評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

小野友紀編『子どもの食と栄養』アイ・ケイコーポレーション

参考図書

適宜、資料やデータを配布する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】様々な事象について、関心を持ち自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
【技能・表現】専門的、体系的な学修を通じて、生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身に付けている。

オフィスアワー

火曜3・4限 2101研究室
（2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）

学生へのメッセージ

この科目は「応用栄養学」の“子ども”の領域をより深く掘り下げて学びます。栄養学や食物アレルギーの基礎知識を自分自身の食生活に活用・実践することで、知識の定着を図って欲しいです。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	毎時間、小テストを用いて発表やディスカッションを行う。ディスカッションを行うことで、知識の定着はもちろん、自分の意見を正しく伝えて説得するための論理的思考力が鍛えられる。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。また、小テスト等はGoogleフォームを用いる。試験結果や総合成績はGoogle Classroomに逐一アップする。

講義コード	G06086001
講義名	調理と素材
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	米澤 加代	指定なし

ナンバリング

R31807M23

授業概要(教育目的)

食品の調理特性は、その扱い方により調理後の外観や食味に様々な影響を及ぼす。この授業では、一つの食材または食品群に視点を当て、食品の持つ多様な調理加工上の特徴・特性について調理実習を通して理解することを目的とする。さらに、これらの調理特性を活かした様々な新しい料理法への発想と、嗜好性の高い料理を具現化できる実践力、技術力を向上させる。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各種食材の種類や品種の特徴やその調理特性（調理中、調理後の変化）を理解して説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1.食材の調理特性を生かした献立組やレシピの作成ができる。 2.調理中の食品の変化を見極め、より嗜好性の高い料理をつくることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1.食品、食材への興味感心を持が持てる。 2.美味しい料理に仕上げるための注意・判断ができる。 3.協調して授業に参加することができ、自身の役割を果たすことができる。
技術・表現の観点 (A)	1.食材の特性を生かすための調理技術を基に基本となる調理操作を適切にこなせる。 2.食材の特性を生かした新しい料理へも応用・展開できる。

学習計画

第1回	授業テーマ	授業概要。授業の目的と概要、授業の進め方、評価。実習上の心得、準備等。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の意義・目的を学び、実習授業の流れと実習室使用上のルールを把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成し、授業の目的と授業内容を整理すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	授業テーマ	穀類（米、米粉）に視点をあてた献立内容による実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	米、もち米、上新粉、白玉粉を用いた実習を通して、こめの種類と加工法（うるち、もち種の粒・粉状）の違いと調理法（扱い方）及び調理後の食味の特徴を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、材料・分量、調理法（科学的、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価・考察を記録すること。また、米の調理特性についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	授業テーマ	小麦粉（薄力粉、強力粉）に視点をあてた料理実習（中国料理、点心）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小麦粉の種類（薄力粉、強力粉）と調理特性（伸展性、粘弾性他）の違いについて調理実習を通して、種類、扱い方と調理適性の違いを学ぶ。また点心についても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、材料・分量、調理法（科学的、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価・考察を記録すること。また、小麦の調理特性についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	授業テーマ	いも類に視点をあてた献立による実習（1）西洋料理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	じゃがいも（男爵、メークイン）の調理特性の違いとそれに伴う調理法の違いを学ぶ。諸外国でのいもの利用法も学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、材料・分量、調理法（科学的、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価・考察を記録すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	授業テーマ	いも類に視点をあてた献立による実習（2）日本料理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本料理の一汁三菜にいも類やその加工品を使用した献立による調理実習を行う。各いも類の下処理法などの違いとその理由も学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、材料・分量、調理法（科学的、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価・考察を記録すること。また、前回の内容も踏まえて各いもの調理特性についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	豆類に視点をあてた献立（おから料理）
	(	

第6回	学習内容 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	豆とその加工品（おから）を使った献立実習により、調理・加工法が異なることを実習を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、材料・分量、調理法（科学的、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価・考察を記録すること。また、まめ類の調理特性についてまとめる。
	教室外学習の時間(分)	120分
第7回	授業テーマ	豆類に視点をあてた献立（日本料理）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	豆とその加工品を使った献立実習により、各種豆の成分の違いから調理・加工法が異なることを実習を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、材料・分量、調理法（科学的、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価・考察を記録すること。
	教室外学習の時間(分)	120分
第8回	授業テーマ	指定素材を使用した献立作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指定素材を用いて、実技試験に向けて献立を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、材料・分量、調理法（科学的、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価・考察を記録すること。卵の特性を生かした料理などを調べる。
	教室外学習の時間(分)	120分
第9回	授業テーマ	魚介類に視点をあてた献立（中国料理）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中国料理の実習を通して、魚介類の調理特性を学ぶ。 実習ノート中間提出。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、材料・分量、調理法（科学的、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価・考察を記録すること。
	教室外学習の時間(分)	120分
第10回	授業テーマ	肉類に視点をあてたの実習（中国料理）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	種類の異なる肉を使用し、肉の種類と部位の特徴に適した料理法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、材料・分量、調理法（科学的、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価・考察を記録すること。
	教室外学習の時間(分)	120分
第11回	授業テーマ	卵、乳・乳製品に視点をあてた献立による実習（西洋料理）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	西洋料理の実習を通して、卵、乳・乳製品の調理特性を学ぶ。

	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、材料・分量、調理法（科学的、技術的要点）、配膳図、反省・感想を記録すること。乳・乳製品の特性を生かした料理などを調べる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	**授業テーマ**	野菜・果物に視点をあてた献立による実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	西洋料理の実習を通して、野菜の種類や品種により調理特性の違いを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、材料・分量、調理法（科学的、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価・考察を記録すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	**授業テーマ**	材料の組み合わせによる献立
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第2回～13回（米から野菜）をすべて使用した献立による実習。松華堂弁当箱への盛り付けを行い、皿や鉢への盛り付け方との違いも学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、材料・分量、調理法（科学的、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価・考察を記録すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	**授業テーマ**	まとめと実技試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食材の調理特性を利用した献立作成を行い、その中から実習を行う。 実習ノート最終提出。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートに献立、材料・分量、調理法（科学的、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価・考察を記録すること。
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

天候他、材料の搬入に影響があった場合は、実習内容を変更することがあります。

学生へのフィードバック方法

デモンストレーション後の実習において机間巡視しながら理解できていない点や技術面の指導やサポートを行います。また、質問等は授業時間中、時間外は2108室（e-mail可）を訪問してください。

評価方法

実習参加状況：デモンストレーション、実習を通して実習班内での協力や実習への取り組み方を評価する。
実習試験：素材の特性を生かした課題に関する実技試験を実施、評価する。
実習ノート：指定された項目に記載（14回分）を課題の記述内容について評価する。
評価詳細のルーブリックは当該GoogleClassroomへ掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実習参加状況	○	○	○	○
実習試験	○	○	○	○

実習ノート	○	○	○	○

評価割合

平常点（20%）、実習試験(30%）、実習ノート（50%）による総合評価。

使用教科書名(ISBN番号)

「調理と素材」のプリントを配布。

参考図書

・八訂 食品成分表/女子栄養大学出版（978-4-7895-1021-9）
・調理のためのベーシックデータ/女子栄養大学出版部（978-4-7895-0323-5）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・技術】多様な食環境・食事文化を理解できる。
【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる。
【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について関心を持ち、課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技能・表現】食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理加工の技術を身につける。また、新しい発想・応用力を養い、その実践ができる。

オフィスアワー

前期 水曜日 2限 2108研究室
後期 木曜日 2限 2108研究室
面談を希望する場合はmailで事前に連絡を入れて下さい。

学生へのメッセージ

食材の特徴を理解することで、多様な料理へと利用を可能にします。時間を見つけて調理をすることで技術・応用力がついていきます。
栄養士は、1つの食材を多様に、また多くの食材を使いこなせることが求められます。積極的に取り組みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	実習中はその内容を通して、学生自身が能動的、実践的に技術・知識深めながら、判断力、汎用力の育成を図ることができる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G06087001
講義名	食事計画論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大中 佳子	指定なし

ナンバリング

R11802M21

授業概要(教育目的)

本科目は、食品衛生監視員・食品衛生管理者、およびフードコーディネーターの資格取得のための必須の科目である。対象者または対象集団の健康の保持・増進、疾病予防・治療、QOLの向上を図るために、栄養管理された食事を安全に提供することが大切であり、給与栄養目標量にあった献立、バランスを考慮した献立を作成することが求められる。本授業では、対象者の栄養目標量に合わせた献立作成につながるよう食事摂取基準、食品成分表の使い方、食品構成、献立作成の手順やポイントを講義し、栄養・食事管理プロセスの基礎的知識を養う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	給与栄養目標量の設定方法とそれに基づいた栄養・食事計画の流れを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	作成した栄養・食事計画について評価できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食品や食生活を取り巻く様々な問題や課題について関心を持ち、それらを栄養・食事計画に反映できる。
技術・表現の観点 (A)	給与栄養目標量の設定と、その目標量に合った献立を作成することができ、栄養・食事計画を立案できる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス、栄養・食事計画と献立作成
		・授業内容、課題提出物について説明する。

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	・栄養・食事計画および献立作成について、その意義と目的を理解する。 ・日本人の食事摂取基準2025年版を用いた栄養・食事管理の方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：日本人の食事摂取基準2025年版の総論を読んでおくこと 復習：授業の重要点をまとめておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第2回	**授業テーマ**	栄養・食事管理（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・給食の目的・意義について理解する。 ・献立の役割について、食事管理の意義と目的より理解する。 ・日本人の食事摂取基準2025年版を活用した栄養・食事計画について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：日本人の食事摂取基準2020年版の総論を読んでおくこと 復習：授業の重要点をまとめておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第3回	**授業テーマ**	栄養・食事管理（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・対象者の1日に必要なエネルギー量を生活時間調査から算出する方法を理解し、身体活動レベル基準値との関連について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：日本人の食事摂取基準2025年版の総論を読んでおくこと 復習：授業の重要点をまとめ、1日の生活時間を記録すること。
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第4回	**授業テーマ**	栄養・食事管理（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・記録した生活時間調査から対象者の1日に必要なエネルギー量を算出する。 ・献立作成の手順と必要な帳票（食品構成表）について理解する。 ・八訂食品成分表を用いた栄養計算について理解する。 ・食品構成表を食品成分表を用いて作成し、食品構成表の作成技術を習得する。 食品構成表を理解するために、演習課題を提示する。 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：日本人の食事摂取基準2025年版の総論を読んでおくこと 復習：配布したプリント課題について授業内で完成できなかった場合、完成させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第5回	**授業テーマ**	栄養・食事管理（4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・献立作成の手順と必要な帳票（食品構成表）について理解する。 ・食品構成表を食品成分表を用いて作成し、食品構成表の作成技術を習得する。 演習課題を提出する。 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業で配布したプリントを確認しておくこと 復習：配布したプリント課題について授業内で完成できなかった場合、完成させておくこと。

	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第6回	**授業テーマ**	栄養・食事管理（5）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・献立作成の手順と必要な帳票（食品構成表）について理解する。 ・食品構成表を食品成分表を用いて作成し、食品構成表の作成技術を習得する。 食品構成表を理解するために、演習課題を提示する。 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業で配布したプリントを確認しておくこと 復習：配布したプリント課題について授業内で完成できなかった場合、完成させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第7回	**授業テーマ**	食事計画:献立作成の実際(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・主食・主菜・副菜について、献立の組み合わせを方法を理解する。 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業で配布したプリントを確認しておくこと 復習：配布したプリント課題について授業内で完成できなかった場合、完成させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第8回	**授業テーマ**	食事計画:献立作成の実際(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・対象者の給与栄養目標量を設定する。 ・設定した給与栄養目標量に基づき、献立を作成する。 ・給与栄養目標量を満たす献立の作成方法を理解する。 ・演習課題を提示、12回授業で提出する。 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業で配布したプリントを確認しておくこと 復習：配布したプリント課題について授業内で完成できなかった場合、完成させておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第9回	**授業テーマ**	食事計画:献立作成の実際(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・給与栄養目標量を満たす献立の作成方法を理解する。 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書をよく読んでおくこと 復習：配布したプリント課題について授業内で完成できなかった場合、完成させておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第10回	**授業テーマ**	食事計画:献立作成の実際(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・給与栄養目標量を満たし、食事計画に基づいた献立を作成することで、食事管理を理解する。 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書をよく読んでおくこと 復習：配布したプリント課題について授業内で完成できなかった場合、完成させておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
	授業テーマ	食事計画:献立作成の実際1(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	・給与栄養目標量を満たし、食事計画に基づいた献立を作成することで、食事管理を理解する。

第11回	**用を含む)**	持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書をよく読んでおくこと 復習：配布したプリント課題について授業内で完成できなかった場合、完成させておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第12回	**授業テーマ**	食事計画:献立作成の実際(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・給与栄養目標量を満たし、食事計画に基づいた献立を作成することで、食事管理を理解する。 ・課題の提出 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書をよく読んでおくこと 復習：配布したプリント課題について授業内で完成できなかった場合、完成させておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第13回	**授業テーマ**	食事計画:栄養教育の実際（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・食事記録表（症例）を用いて、栄養教育プランを考える。 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書をよく読んでおくこと 復習：配布したプリント課題について授業内で完成できなかった場合、完成させておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第14回	**授業テーマ**	食事計画:栄養教育の実際（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・13回授業症例：栄養教育プランの発表 ・13回配布プリントを完成させ、提出する。 ・まとめ ・定期試験について 栄養・食事計画について学んだことについて試験期間に定期試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：栄養・食事管理について、日本人の食事摂取基準2025年版をよく読むこと 復習：これまでの授業の重要点をまとめておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分

学習計画注記

・事前にシラバスに目を通してください。演習形式の課題を行いますので、配布したプリントは必ず毎回持参してください。また、電卓やPC、参考書を適宜持参してください。

学生へのフィードバック方法

提出物にコメントを記入し返却します。
提出物の評価において、共通事項については授業でコメントします。

評価方法

平常点、提出物の提出状況および内容、試験結果により総合的に評価します。
評価方法・評価基準は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはクラスルーム
または授業内での配布等により提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	
提出物	○	○	○	○
定期試験	○	○		

評価割合

平常点20%、提出物40%、試験40%

使用教科書名(ISBN番号)

・オールガイド食品成分表八訂準拠 ビジュアル食品成分表／大修館書店（9784469270167）

参考図書

・日本人の食事摂取基準（2025年版）／第一出版
・すぐわかる栄養指導実習 新訂第3版 ／萌文書林（978-4-89347-069-0）
・栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎／化学同人（978-4-7598-1826-0）
・調理のためのベーシックデータブック 第6版／女子栄養大出版部 （978-4-7895-0325-9）
・トレーニーガイドPDCAによる給食マネジメント実習 第2版／医歯薬出版株式会社（978-4-263-70728-9）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境を理解し、栄養・食事管理する上で、様々な立場や状況の人々と疎通ができるコミュニケーション力を身につけている。
【思考・判断】栄養管理する対象者の情報を整理し、対象者別の栄養・食事管理できる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象や情報について関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技能・表現】食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上をはかるころができる。食事計画および献立作成ができるようになる。

オフィスアワー

・火曜２限、火曜昼休み：給食管理学研究室（2311室）
・事前にメールで予約してから来訪して下さい。

学生へのメッセージ

・対象者の健康状態や栄養状態にあわせた献立を作成するにあたり、本科目の講義内容は基礎となります。栄養・食事管理の基本的な事項を学修してください。
・上記に示した参考書「トレーニーガイドPDCAによる給食マネジメント実習」は、2・3年次の必修授業でも使用します。
・食品成分表については、どこの出版社の成分表でも可です。ビジュアル成分表は食品の写真が多いので推薦しました。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	総合病院、児童・高齢者福祉施設において管理栄養士業務かつマネジメント職務の実績がある教員が、社会で即実践できるよう、経験談を交えて対象者の栄養・食事管理について講義する。
アクティブ・ラーニング	○	給与栄養目標量を設定する際、グループワークやディスカッションを行う。
情報リテラシー教	○	インターネットを利用した、食品や食に関する正しい情報収集の方法について考える。

育		
ICT活用	○	献立の栄養計算、給与栄養目標量の算出に栄養計算ソフトや表計算ソフトを使用する。 課題はPCのソフトウェア（Excel、Word、PowerPointなど）を使用して作成する。 連絡事項はGoogleクラスルームで通知する。

講義コード	G06088001
講義名	食教育研究
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	笠松 千夏	指定なし

ナンバリング

R41813M21

授業概要(教育目的)

中学生および高校生の食に関する問題点を文献および統計データより明確にし、その改善方法を考え、指導媒体を作成できるように指導する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	若い世代の健康問題を抽出することができる。
思考・判断の観点(K)	教育実習あるいはこれまで学んだことを生かし、抽出した健康問題を解決するための方法を提案をすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教育実習あるいはこれまで学んだことを生かし、健康問題を解決するための方法を具現化することができる。
技術・表現の観点(A)	対象者の行動変容を引き起こすことができる指導媒体を作成することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の概要、進め方等を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。

	教室外学習の時間（分）	195分
第2回	**授業テーマ**	中学生・高校生の食に関する問題点の抽出①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文献や統計データを調べ、中学生・高校生の食に関する問題点について調べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第3回	**授業テーマ**	中学生・高校生の食に関する問題点の抽出②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文献や統計データを調べ、中学生・高校生の食に関する問題点について調べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第4回	**授業テーマ**	中学生・高校生の食に関する問題点の抽出③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文献や統計データを調べ、中学生・高校生の食に関する問題点について調べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第5回	**授業テーマ**	問題点を解決するための指導媒体の作成①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中学生・高校生の食に関する問題点を解決するための指導媒体の作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第6回	**授業テーマ**	問題点を解決するための指導媒体の作成②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中学生・高校生の食に関する問題点を解決するための指導媒体の作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第7回	**授業テーマ**	問題点を解決するための指導媒体の作成③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中学生・高校生の食に関する問題点を解決するための指導媒体の作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第8回	**授業テーマ**	問題点を解決するための指導媒体の作成④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中学生・高校生の食に関する問題点を解決するための指導媒体の作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第9回	**授業テーマ**	問題点を解決するための指導媒体の作成⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中学生・高校生の食に関する問題点を解決するための指導媒体の作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。

	教室外学習の時間（分）	195分
第10回	**授業テーマ**	問題点を解決するための指導媒体の作成⑥
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中学生・高校生の食に関する問題点を解決するための指導媒体の作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第11回	**授業テーマ**	指導媒体を用いた指導の発表①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中学生・高校生を対象とした食指導媒体を用い発表を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第12回	**授業テーマ**	指導媒体を用いた指導の発表②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中学生・高校生を対象とした食指導媒体を用い発表を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第13回	**授業テーマ**	指導媒体を用いた指導の発表③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中学生・高校生を対象とした食指導媒体を用い発表を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分
第14回	**授業テーマ**	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全体のまとめおよび振り返りを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	195分

学生へのフィードバック方法

課題を評価し、コメントを直接本人に伝える。

評価方法

平常点、プレゼンテーション、提出物により総合的に判断する。
評価方法・評価基準は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはクラスルーム
または授業内での配布等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
プレゼンテーション	○	○	○	○
提出物	○	○	○	○

評価割合

平常点（20%）、プレゼンテーション（40%）、提出物（40%）

使用教科書名(ISBN番号)

必要に応じ指示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、【思考・判断】多種多様の情報を整理し、【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組み、【技能・表現】食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図る。

オフィスアワー

火曜日 2限目 2309教室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品企業に勤務した経験があり、消費者向け食育普及活動について実学的な情報を取り入れながら授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	受講者自らが食育対象者について深く知るために、能動的に調べ、教室内でグループディスカッション、ディベート、グループ・ワークを行う。
情報リテラシー教育	○	公開情報（オンライン、企業HP検索等）について扱い方、読み解り方を学習する。
ICT活用		学生向け統計解析ソフトウェアJMPを活用し、インタラクティブなデータやグラフ作成の授業を行う。

講義コード	G06091001
講義名	被服学概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	富田 弘美	指定なし
准教授	花田 朋美	指定なし

ナンバリング

R11904M21

授業概要(教育目的)

被服に求められる機能は、社会・心理的快適性に関わる機能と、身体・生理的快適性に関わる機能とから成る。したがって、被服について学ぶには、被服材料学、被服管理学、被服衛生学、服飾デザイン、被服構成学、服装史等、多角的に学ぶことが必要となる。本講では、家庭、地域、社会、及び教育の現場で求められる知識や能力を身に付けることを目的として、被服領域全般における基礎的事項を概括的に学ぶ。さらに、現代そして今後の衣生活に求められている課題について考える力を育成する。

（花田朋美／７回）被服に要求される保健衛生的快適性に関わる機能について概説する。
（富田弘美／７回）被服に要求される審美的・社会的快適性に関わる機能について概説する。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	被服分野の基礎的な知識を多角的に身に付けることができる。
思考・判断の観点 (K)	被服分野の各領域を総括的に捉え、適切な手法で理解して考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	被服分野に内在する諸課題に積極的に関心を持ち、新たな価値を見出すことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

被服学概論

第1回	授業テーマ	被服学の領域、被服の着用目的と被服の機能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	被服着用の目的を、人間の進化の観点から概説する。被服と人の関わりについて考察し、現代における被服の機能や役割について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復習】授業を振り返り、自身がなぜ、どのように服を着用しているのか考える。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	授業テーマ	被服の生産と消費
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	被服の生産と消費について学び、被服に関する社会問題について考察する。ICT活用と情報リテラシー教育として、スマートフォンやパソコン等で被服に関わる社会問題について情報を収集し、分析・整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 被服がどのように生産され消費されているかについて調べる。 【復習】 被服に関する社会問題について、より深く調べておく。
	教室外学習の時間（分）	215分
第3回	授業テーマ	被服の消費性能と被服材料の性能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	被服の使用目的や用途に応じて求められている性能とはどのようなことか、求める性能を発現するために必要な被服材料はどのようなものかを学ぶ。アクティブラーニングとして、グループに分かれて、繊維の吸水性を確かめる実験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 指定した場面ではどのような衣服が適しているか検討する。 【復習】 吸水性実験の結果を一例として、被服に求められる消費性能とは何か整理する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	被服の材料
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	被服を構成する繊維・糸・布の物理的な構造や化学的な性質について学び、被服を構成する材料について理解する。アクティブラーニングとして、サンプル布を解して、布⇒糸⇒繊維の構造を観察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 天然繊維の種類と化学繊維の種類について調べる。 【復習】 各種繊維の特徴的な構造や性質を整理し、まとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分

第5回	授業テーマ	被服材料の性能改善
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	用途に合わせた性能を持つさまざまな機能性材料が開発されている。その製造方法や加工技術について学び、高機能性繊維の概要を理解する。ICT活用と情報リテラシー教育として、「高機能性繊維」「バイオミメティック繊維」について情報収集し、分析・整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 身近な機能性素材について調べる。 【復習】 より多くの活用されている「高機能性繊維」「バイオミメティック繊維」について調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	被服の性能保持と健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	被服を長期的に着用するための被服洗浄と保管について科学的に理解し、被服管理について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 自身（もしくは家族）が行っている洗濯方法について確認し、まとめておく。 【復習】 被服の洗浄の科学的な仕組みを振り返り、自身で着用した服を洗濯し、長く着用するための保管方法を検討する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	持続可能な衣生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	環境や社会的な問題に配慮した衣服とはどのようなことか検討し、持続可能な衣生活のために自身ができる取り組みについて考察する。ICT活用と情報リテラシー教育として、スマートフォンやパソコン等で衣服に関する環境・社会問題とそれらに対応する新たな取り組みについて情報を収集し、分析・整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 衣服に関する環境・社会問題について調べておく。 【復習】 持続可能な衣生活のために自身が取り組めることについて整理してまとめる。
	教室外学習の時間（分）	220分
第8回	授業テーマ	アパレルデザイン１－デザインの基礎－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「デザイン」という言葉の意味・概念を理解し、デザイン構成要素、衣服美の表現について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の分野、興味ある分野に落とし込んで「デザインとは何か」を考え、アパレルデザインについてノートを整理すること。
	教室外学習	

	の時間（分）	185分
第9回	**授業テーマ**	被服の変遷１－西洋の服装－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	古代ギリシャ・ローマ、中世、15世紀から20世紀の服装について社会背景とともに変遷を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	創立者大江スミが留学した頃の20世紀初頭のファッションや芸術についてノートを整理すること。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	被服の変遷２－日本の服装（1)－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	古代から中世の公家装束、武士の甲冑、近世の小袖（きもの）、近代の宮廷服、戦後日本のファッションについて社会背景とともに変遷を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本の服装についてノートを整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	被服の変遷３－日本の服装（2)－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	古代から中世の公家装束、武士の甲冑、近世の小袖（きもの）、近代の宮廷服、戦後日本のファッション、ジェンダーレスファッションについて社会背景とともに理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	戦後日本のファッションについてノートを整理し、特にジェンダーレスファッションについて考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	和服の文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の民族衣装である和服について、浴衣を中心に男女の違い、着付けに必要な道具、たたみ方など基本的なことを理解し、各地の伝統的な織物、染物の特徴を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	和服の特徴についてノートを整理すること。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	アパレル設計１－ 身頃原型と既製服のJISサイズ
	学習内容(ｱｸ	

第13回	ﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	既製服の誕生から量産の背景、アパレル産業の構造、既製服のJISサイズのシステムを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分のJISサイズを把握し、ノートを整理すること。
	教室外学習の時間(分)	190分
第14回	授業テーマ	アパレル設計２－ 衣生活と福祉（ユニバーサルファッション）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アパレルの仕事、アパレル産業の現状について理解し、高齢者・障害のある人に考慮したデザイン（運動機能、生理機能）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノート全体を整理しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	190分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業内でのグループワークでの体験学習時のアドバイス、及びディスカッション。

評価方法

①第１回～７回担当者による筆記試験
②第１回～７回の平常点
③第８回～１４回担当者による筆記試験
④第８回～１４回の平常点

上記の評価は、ルーブリックを用いて行う。（ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配付等によって指示する。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
第1回～第8回の筆記試験	○	○	○	
第1回～第8回の平常点			○	
第8回～第14回の筆記試験	○	○	○	
第8回～第14回の平常点			○	

評価割合

第１回～第７回と第８回～第１４回の担当者別の筆記試験（80%）および平常点（20%）による総合評価

使用教科書名(ISBN番号)

適宜プリントを配布

参考図書

第１回～第７回
①やさしい繊維の基礎知識（ISBN4-526-05289-2 繊維学会編 日刊工業株式会社発行 2004年） ②アパレル生理衛生論(日本衣料管理協会刊行委員会編 一社 日本衣料管理協会発行 平成28年）
③衣服管理の科学（ISBN978-4-7679-1048-2 片山倫子編 建帛社発行 2016年第11刷)
④衣生活のための消費科学(日本衣料管理協会刊行委員会編 一社 日本衣料管理協会発行 平成30年）
第８回～第14回
①アパレルデザインの基礎（日本衣料管理協会刊行委員会編 一社 日本衣料管理協会発行 平成16年）
②アパレル設計実習・アパレル生産実習（日本衣料管理協会刊行委員会編 一社 日本衣料管理協会発行 2019年）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・技能】被服分野に関する課題に対して生活科学を基点とした知識を身に付けている。
【思考・判断】被服分野の諸問題を自分ごととしてとらえ、適切な分析、整理して考察することができる。
【関心・意欲・態度】身の回りの被服分野の課題に自らの意思で取り組み、課題解決に向けてやり抜くことができる（達成力）。

オフィスアワー

木曜日12時40分から14時20分 ２４０７被服材料学研究室（花田）
金曜日12時30分から14時50分 １４０５被服構成学研究室（富田）

学生へのメッセージ

被服を最も身近な環境と捉え、快適な衣服とは何か考えてほしいと思います。（花田）
被服材料、被服衛生、被服管理、被服造形、服飾デザイン、服飾美学、服飾史などを多角的に概説します。被服の領域全般を広く学ぶことによって基礎的な衣生活に関する力が身に付きます。また、興味のある分野との繋がりを考えて学際的に広い視野を持って学んでいただきたいと思います。(富田）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによるディスカッション。
情報リテラシー教育	○	情報を収集し、分析、整理して、まとめる。
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション。

講義コード	G06092001
講義名	服飾造形実習Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

R11905M23

授業概要(教育目的)

下肢を包む衣服としてパンツ・スカートの製図とその展開・裁断・縫製、基礎の手縫いや部分縫いなどの習得、立体的な人体の下半身の構造と平面的なパターンとの関係の理解、基礎的な織地と編地（ニット）の縫製技法などを学び、製作技術、既製服の構成や縫製などを理解する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	被服分野の基礎的な知識を多角的に捉え、様々な立場の人々とのコミュニケーション力を身につけている。
思考・判断の観点 (K)	衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	アパレルに関する技術や製品に関心を持ち、積極的に日常生活や社会で役立つ技術力や表現力を身に付けることができる。

学習計画

服飾造形実習A

第1回	**授業テーマ**	スカートとハーフパンツの課題説明、裁縫道具、レポート説明1、材料、人体計測、セミタイトスカート1（実物大製図基本線）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	スカートのデザインと種類、材料（織地と編地）、レポートの説明、裁縫道具、人体計測（ウエスト、ヒップ、股上など）および製図に必要な寸法計算、製図の基本線の書き方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の寸法計算、製図の基本線までを終わらせておくこと。
	教室外学習の時間（分）	30分

第2回	授業テーマ	洋裁道具確認・説明、セミタイトスカート2（実物大スカートの製図・地直し）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	道具の説明、実物大セミタイトスカートの平面パターンと人体の関係について学び、生地扱の扱いや地直しについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実物大のハーフパンツの製図を完成させて提出すること。
	教室外学習の時間（分）	30分
第3回	授業テーマ	セミタイトスカート2（型紙づくり、型紙の展開、裁断、印つけ1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本型スカートの型紙の展開（フレア・ギャザー）、裁断を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	裁断まで進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	授業テーマ	セミタイトスカート3、（印付け2、仮縫い）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	印付け（切りじつけ）、仮縫いの仕方を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	仮縫いを仕上げておくこと。（次回仮縫い点検をする。）
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	セミタイトスカート4（仮縫い点検）、レポート説明2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	仮縫い点検（補正の修正方法）脇縫い、縫い代処理（ロック）を学び、レポート説明を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノート整理・レポート作成をすること。脇縫い、縫い代処理（ロック）まで終わらせておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	授業テーマ	セミタイトスカート5（仮縫い点検、脇縫い、ファスナー付け）、レポート説明2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ファスナー付けの準備（伸び止めテープ、しつけかけ）を理解する。また、レポートの説明を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ファスナー付け（伸び止めテープ、しつけ）までを済ませておくこと。レポートに使用するファスナー付けの段階を写真撮影する。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	セミタイトスカート6（ファスナー付け2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰ	

第7回	ﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ファスナー本体付けと完成までを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノート整理・レポート作成、ファスナーを完成させること。レポートに使用するファスナー付けの段階を写真撮影する。
	教室外学習の時間(分)	90分
第8回	授業テーマ	セミタイトスカート7（ベルト付け）、基礎縫い1、ハーフパンツの製図（1/4縮尺）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ベルト付け、基礎縫い用布の準備と基礎縫い1（まつり縫い・たてまつり縫い）、ハーフパンツの製図（平面の形）・ニット地の扱いを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ベルト付けを完成させること。
	教室外学習の時間(分)	90分
第9回	授業テーマ	ハーフパンツの縫製デモンストレーション1（型紙づくり・裁断・縫製）、基礎縫い2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	工業パターン（縫い代付きの型紙）作り、ニットの裁断、柄合わせ、基礎縫い2（オーバーロックミシン、カバーステッチミシン）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	裁断まで済ませること。 基礎縫い2のオーバーロックミシン、裾上げのカバーステッチミシンをしておくこと。
	教室外学習の時間(分)	90分
第10回	授業テーマ	ハーフパンツの縫製デモンストレーション2（縫製・仕上げ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	裾上げ・ウエストの始末（カバーステッチミシン）、ゴム通し（直線ミシン）、仕上げまでを理解して完成させることを見て学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ハーフパンツを完成させること。
	教室外学習の時間(分)	90分
第11回	授業テーマ	セミタイトスカート8（裾上げ）、基礎縫い3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	裾上げのロックミシン、基礎縫い3（奥まつり：裾のロック後に使用）を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	裾上げを仕上げておくこと。
	教室外学習の時間(分)	90分
第12回	授業テーマ	セミタイトスカート9（前カン付け）基礎縫い3、基礎縫い4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基礎縫い3のスカートのベルトの前カン（ホックとバー）のかがり方、基礎縫い4の半返し縫い、全返し縫い、千鳥けなどを理解する。
	(	

	教室外学習 予習・復習)の内容	前カン付け、基礎縫い3,4を終わらせておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	**授業テーマ**	セミタイトスカート10（仕上げ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発表、仕上げを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	スカートを完成させ、コーディネートを考えて発表準備をする。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	**授業テーマ**	セミタイトスカートの着装発表、作品（スカートとパンツ）・基礎縫い・レポート提出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	スカートとのコーディネートを考えて着装し、デザインの特徴、生地名や素材、製作に対する問題点や反省点などの発表について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表、スカート、基礎縫い（1～4）、レポートなどを提出する準備をすること。（授業内で提出する。
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

。

学生へのフィードバック方法

課題（スカート・パンツ）、基礎縫い、レポート、発表のコメント

評価方法

平常点20%、作品40%（着装発表を含む）、基礎縫い10%、着装発表、レポート30%
平常点（授業の参加状況、授業への取り組み方などを総合的に判断する）課題（スカート・パンツ）、基礎縫い、レポート、発表（内容・話し方など）について、ルーブリックを用いて行う。（ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配付等によって指示する。）"

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
作品	○	○	○	○
基礎縫い	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○
発表	○	○	○	○

評価割合

平常点20%、課題30%、基礎縫い10%、レポート20% 発表20%
授業の参加状況、作品制作の取り組み方等を総合的に判断する

使用教科書名(ISBN番号)

プリント配付

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】被服分野に関する基礎的な知識を有し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる。【思考・判断】社会の中にある課題を自ら発見し、分析、整理し、考察できる。【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心をもつことができる。【技術・表現】生活や社会において具体的な技術を身に付け、改善・創作することができる。

オフィスアワー

金曜日15:10～16:50

学生へのメッセージ

基本的に授業で説明した内容は、次週までに進めてください。
特に実習は欠席しないように努め、やむを得ず欠席した場合は連絡を入れてください。遅れた部分を補うために、次の週までに進める内容をお伝えします。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G06093001
講義名	住居学概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	小川 圭子	指定なし

ナンバリング

R11903M21

授業概要(教育目的)

住居は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活を営むための最も基本的な場である。現代においても住居に関する様々な課題が存在している。この授業は、住居全般についての基礎的知識を習得することを目的に、個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度から検討を行う講義科目である。人間にとって住まいとは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について検討するための基礎的知識を講義する。

履修条件

特になし(建築士試験指定科目)

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	住居を中心とした住環境についての基礎的知識、住生活に関する諸問題を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	人間にとって住環境とは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度からみた課題について検討を行うことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス・住居の機能・寸法と空間
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	住環境とは、住居の備えるべき機能、住宅内での生活行為とスケールの関係、住空間の配置とゾーニング、動線につ

第1回	を含む)	いて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自宅を事例として、スケール、ゾーニング、動線について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第2回	授業テーマ	日本の住環境の歴史①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の住まい、住まい方の変遷について、古代～江戸時代までについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）住まい、住まい方の変化と時代背景について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第3回	授業テーマ	日本の住環境の歴史② 生活様式と住居
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の住まい、住まい方の変遷について、明治時代～昭和時代までについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）住まい、住まい方の変化と時代背景について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第4回	授業テーマ	現代の家族と住まい
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	少子化・高齢化など現代日本における家族の状況と、それに合わせて必要になる住まいについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分自身のライフサイクル、ライフコースと住居との関係について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第5回	授業テーマ	住宅政策
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第二次世界大戦後の日本の住宅政策の展開について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）誘導居住面積水準、最低居住面積水準で示される面積について、自宅や住宅広告などを例に具体的な広さを体感する。
	教室外学習の時間（分）	200
第6回	授業テーマ	住まいと環境
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	快適な住まいを実現するための温熱、光、音、空気、水などの住環境の調整方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自宅での水道使用量について調べ、平均と比較しながら水の節約について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第7回	授業テーマ	安心・安全な住まい
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事故・災害、犯罪、健康被害などの建物の安全を脅かす事象とその防止法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自宅を事例に、災害への備えについて点検する。
	教室外学習の時間（分）	200
	授業テーマ	高齢化社会と住まい・介護保険
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	

第8回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢社会における住居について、ユニバーサルデザイン、バリアフリーの観点から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自宅を事例に、バリアフリー化の状況について点検する。
	教室外学習の時間（分）	200
第9回	授業テーマ	集まって住む・共用部と専有部
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集合住宅に住む意義、集合住宅と街との関係性、集合住宅の供給形式について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分の住む町の大規模集合住宅と周辺との関係性について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第10回	授業テーマ	空き家問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の人口構造の変化に伴う空き家問題について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分の住む地域の空き家の状況について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第11回	授業テーマ	住居の設計・用途地域・建ぺい率・容積率
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図面の概念、住居の設計プロセス、建ぺい率、容積率について学ぶ。建築図面の種類について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）建築物の形がどのような理由でその形になっているのかを考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第12回	授業テーマ	平面図等の見方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平面図を読み取るために必要な基本的な表示記号や関連する事項を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	(復習)図面の線が何を表しているのかを身の回りの実物を見ながら確認する。
	教室外学習の時間（分）	200
第13回	授業テーマ	新築と増改築、建築主･施工者･設計者の関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築の種類や建築主・施工者・設計者の関係を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）建築に関する言葉の意味や建築主・施工者・設計者の関係を再確認する。
	教室外学習の時間（分）	200
第14回	授業テーマ	住環境と景観
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住環境と景観についての考え方や様々な制度を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）良好な景観を維持・創出するには、自身がどのような取り組みを行えば良いかを考える。
	教室外学習の時間（分）	200

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

小課題については、授業時間内に全体講評をおこなう。

評価方法

小課題は、授業時間内に実習課題として実施するものと、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述するもの、合わせて10回程度の実施を予定している。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。
定期試験は、授業で配付したプリントのみ持ち込み可能とし、択一問題、穴埋め問題、語句の説明問題、考えを問う問題を出題する。
なお、評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小課題	○	○	○	
定期試験	○	○	○	

評価割合

小課題40%、定期試験60%により総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

参考書1：生活と住居 定行まり子・沖田富美子編著 光生館 2013
参考書2：豊かな住生活を考える―住居学 小澤紀美子編 彰国社 2002

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】住環境について、知識を多面的に身に付けている。
【思考・判断】住環境について、諸課題を自分ごととしてとらえ、適切な手順で分析することができる。
【関心・意欲・態度】住環境について、他者の視点やニーズを理解し、社会に新たな価値を見出すことができる。

オフィスアワー

水曜昼休み～３時限 3512研究室

学生へのメッセージ

家政学の他分野等との関連・連携を念頭に置き、広い視野に立ち問題を考えるよう心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomを利用し、課題提出などを求める。

講義コード	G06094001
講義名	家庭経営学概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	河田 敦子	指定なし
教授	佐野 潤子	指定なし

ナンバリング

R11902M21

授業概要(教育目的)

人間が人間らしく生きる拠点が家庭であり、家庭生活を中心とした家族・コミュニティの営みが家政＝家庭経営である。現代社会における家庭経営の課題を、「家族」「ジェンダー」「消費者」をキーワードに、概説する。特に、親と子、夫と妻など家族を核とする人と人の関係や、仕事や消費といった日々の生活と生命の再生産の営みを中心に現代社会の危機的状況を生活者の視点から見直し、誰もが安心してくらせる、持続可能性のある消費者市民社会につくりかえる方法を、自分の生活設計と重ねながら考える。今年度は、2019年度まで相模原市で消費生活総合センター所長を務めておられた萩原康秋氏をお招きして「消費者」とはどのような存在なのか、その生き方をご講義頂き、考察を深める機会を設けている。第10回第11回は現代家政学科教授の佐野潤子先生にご担当いただきます。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家庭生活が個人にとって、社会にとってどのような役割を持っているかを理解できる。
思考・判断の観点 (K)	多様で急激な社会変動の中で、どのように家庭生活を営むかを自律的に構想できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分の現在の家族・家庭のあり方を見つめ、広い視野で将来設計に取り組める。
技術・表現の観点 (A)	人間の生き方や家族・家庭について豊かな感性と言葉で表現できる。

学習計画		
第1回	授業テーマ	現代社会における家庭経営の枠組み
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭経営学の定義、家族の定義、生活時間等家庭経営学で頻繁に用いる概念について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、レジュメを良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第2回	授業テーマ	社会における「家庭」 パブリックとプライベートの領域
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会における家庭の位置、その機能をパブリックとプライベートの概念に基づいて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レジュメを良く復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第3回	授業テーマ	生活経営～新しい価値・規範の創造へ～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代社会において家族・家庭がどのような状況にあるかを、主に津敬資料を用いて考察する。グラフの読み取り方、その現象の意味について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後にレジュメを良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第4回	授業テーマ	家庭経営とジェンダー（1）現代社会におけるワークライフバランス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	女性が社会で働くことが社会に定着するようになってからまだ日は浅い。それはなぜか。男女共同参画社会はどのようにしたら実現可能なのかを考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後レジュメを良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	家庭経営とジェンダー（2）近現代日本におけるジェンダー構造の変動
	学習内容(ｱｸﾃ	

第5回	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近現代日本社会でジェンダーの構造はどのように変動してきたのかを、江戸時代も含めて概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後レジュメを良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	江戸時代の女性の生き方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	江戸時代の女性の生き方について学ぶ。日本においてジェンダー構造が大きく変動したのは、明治中期であることは前回学んだ。では、それ以前の江戸時代の女性はどのように生きていたのか、只野真葛、内藤ます等の女性の生き方から、現代女性として自らの生き方についての考えを深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	江戸時代の女性にはどのような人がいるかを調べておくこと。可能であれば参考文献②を読んでおくことが望ましい。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	出産と子育て
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	女性の合計特殊出生率が急激に低下している日本社会における出産と子育てについて、その歴史的変遷も含めて概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後にレジュメを良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第8回	授業テーマ	家族・家庭と法律 婚姻・親権・相続等
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家族がどのような法律によって、どのように規定されているのかを、民法をもとに概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後レジュメを良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	消費者としての生き方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	萩原康秋先生による講義。萩原先生は、2019年度まで、相模原市 市民局 消費生活総合センターの所長であられた。「消費者」とは、社会の中でどのような存在なのかを、人間の生き方として広い視野でお話頂く。
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	授業内容をよく理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	現代社会と消費生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代社会における消費生活とは何かを考える。近年、急激に発展した高度情報通信社会における 消費生活の環境の激変、家計消費の質的変化について概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後にレジュメをよく読むこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	消費社会と家計問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新たな形態の消費者問題が発生していることについて概説し、消費者被害の未然防止と被害者救済のための方策について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後にレジュメをよく読むこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	現代社会における家族・家庭、ジェンダー（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代社会でどのような家族・家庭、ジェンダーをめぐる問題が発生しているかを、新聞記事をもとに考え、議論する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に配布する新聞記事をよく読み、関連文献を探してみること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	**授業テーマ**	現代社会における家族・家庭、ジェンダー（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家族をめぐる社会問題が顕在化した事件や新聞記事を紹介し、関心のあるテーマ毎に分かれて、グループディスカッションを行う。グループで話し合った結果を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の今後の生き方を見つめる機会である。前回までの授業で学んだことをもとにディスカッションを行うので、自分の考えをまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分

第14回	授業テーマ	少子高齢化社会における家族と家庭
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	少子高齢化社会の現代社会において持続可能な社会を創出するためには、どのように家族や家庭を作ることが求められるか、発表し合う。期末レポートを提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本講義全体を踏まえ、期末レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	240分

学習計画注記

特になし

学生へのフィードバック方法

プレゼンテーション時には、随時コメントします。

評価方法

・期末レポートの課題は、「現代社会の状況を踏まえ、今後の自分の生き方を考える」である。2000字以上。
評価方法・評価基準は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはクラスルーム
または授業内での配布等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末レポート	○	○	○	
グループディスカッション	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合

平常点（リアクションペーパー等） 20点
グループディスカッション、プレゼンテーション 20点
レポート 60%

使用教科書名(ISBN番号)

特になし

参考図書

①原ひろ子著『生活の経営―21世紀の人間の営み―』放送大学教育振興会 2002年
②柴桂子著『近世おんな旅日記 (歴史文化ライブラリー ; 13)』吉川弘文館 1997年
③河田敦子著 加藤時男翻刻 『幕末明治の女性 内藤ますの生涯とその教養形成過程』お茶の水女子大学グローバルCOE「格差センシティブな人間発達科学の創成」2010年
④日本家政学会・生活経営学部会編『暮らしをつくりかえる生活経営力』朝倉書店 2014年・臼井和恵編著『21世紀の生活経営 自分らしく生きる』同文書院 2011年
⑤山口一男『ワークライフバランス』日本経済新聞出版社2009年

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「衣」「住」「コミュニケーション・情報」「地域・園芸・ビジネス」「家庭科教育」の各分野 について、専門的知識・技術を有している

【思考・判断】社会の中にある諸課題を自 ・社会の中にある諸課題を自 ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。

オフィスアワー

随時調整し対応する。アポイントメントを取り、時間調整を行うこと。

学生へのメッセージ

生活者としての視点から現代の家族問題や女性の生き方、ジェンダーの問題、消費者の様相を相対化して考察できる基盤を培ってほしい。
教職必修

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	第9回 消費者としての生き方は実務経験のある方による特別授業である。
アクティブ・ラーニング	○	アクティブラーニング：第12，13回の授業ではグループディスカッション、プレゼンテーションの機会を設けている。
情報リテラシー教育	○	現代社会の状況について情報収集しながらレポートを作成する。
ICT活用		

講義コード	G06095001
講義名	家庭電気・機械・情報処理
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	山際 基	指定なし

ナンバリング

R31907M21

授業概要(教育目的)

家庭で使用される機械や電気機器、情報機器について、仕組みと取扱法といった基本的知識を講義するとともに、消費するエネルギーの観点から機械や機器へのエネルギー変換、省エネルギーと経済性について、生活を合理的に管理するための能力を育成する。また社会における情報化の進展について理解し、家庭生活においてコンピュータを活用する能力と態度を育成する。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家庭で使用される機械や電気機器、情報機器についての基本的知識の習得できること。
思考・判断の観点 (K)	家庭生活において、修得した知識をもとに機械、電気、情報の各技術を活用できること。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日々進化する機械、電気、情報の各技術に対する関心を持ち、新たな技術に対して積極的に接することができること。
技術・表現の観点 (A)	修得した知識をもとに機械、電気、情報の各技術の特徴、利点と欠点について適切に説明できること。

学習計画

家庭電気・機械・情報処理

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	本講義の講義計画を説明するとともに、家庭における機械、電

第1回	ｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	気、情報の利用についての全体像・概要を理解する。また、初回の授業でルーブリックについて説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の家庭においてどのような機械、電気機器、情報機器があるのか調査する。
	教室外学習の時間（分）	90
第2回	授業テーマ	家庭における機械①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代生活と機械の基本的な関係について理解する。道具や機械の始まりや機械の3要素について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	道具や機械を利用する利点を考える。なぜ道具や機械が考えられたのか、機械と呼ばれる条件として何があるのかを考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第3回	授業テーマ	家庭における機械②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	機械の要素と働きについて理解するとともに、家庭生活と素材・材料について考えを深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	金属材料、非金属材料、複合素材、新素材と様々な材料を知るとともに、その機械的効果を考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第4回	授業テーマ	家庭における機械③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭生活における機械の実例について理解を深める。身近にあるミシンや自動車、自転車について取り上げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	機械の実例（ミシン、自転車、自動車）の構造、仕組みについて理解を深める。各機械の様々な機能を実現するためにどのような機構が存在するのか理解する。
	教室外学習の時間（分）	200
第5回	授業テーマ	機械、電気とエネルギー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エネルギーを発生させるもとになるものの存在から、機械や電気機器を動かすに至るまでのエネルギーの変換の基礎概念について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	エネルギーの種類と目的に応じた機械的、電気的利用について理解する。
	教室外学習の時間（分）	200
第6回	授業テーマ	電気の変換と家庭での利用①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	電気の熱への変換について、アイロン、調理機器を実例にあげて仕組みや構造を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	電気を熱に変換する方法を理解する。熱への変換は加熱と冷却の双方を念頭に置いて考える。
	教室外学習の時間（分）	200
	授業テーマ	電気の変換と家庭での利用②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	電気の動力への変換について、エアコン、冷蔵庫、洗濯機、掃除機を実例にあげて仕組みや構造を理解する。

第7回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	電気を動力に変換する方法を理解し、実例に挙げた以外の電気機器についても考えてみる。
	教室外学習の時間（分）	200
第8回	授業テーマ	電気の変換と家庭での利用③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	電気の光への変換について、照明器具を実例に挙げて理解を深める。また変換以外へのエネルギーの利用について、電子機器を実例に挙げて理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	電気の光への変換方法を理解するとともに、電子機器の機構や仕組みを理解する。
	教室外学習の時間（分）	200
第9回	授業テーマ	一般家庭における電力の供給
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	電気が発電所から一般家屋に届くまでの概要と一般家屋における電力線の屋内配線や利用される機器について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	屋内の配線における規格や利用される機器について理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	200
第10回	授業テーマ	現代生活と情報機器
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代生活と情報機器の関わりについて理解し、コンピュータの機能と操作について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	コンピュータの機能と仕組みについて理解する。
	教室外学習の時間（分）	200
第11回	授業テーマ	情報機器の家庭での利用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンピュータのハードウェアとソフトウェアおよびネットワークについて理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	コンピュータの各機能を実現するためにどのようなハードウェア、ソフトウェアがあるのか理解する。
	教室外学習の時間（分）	200
第12回	授業テーマ	クラウドコンピューティングとネットワークサービス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭生活に密接した情報システムについて、クラウドや各種ネットワークサービスの実例や仕組みを挙げるとともに理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	既に自分自身が家庭生活で利用している情報システムやネットワークサービスについて、機能と仕組みを理解する。
	教室外学習の時間（分）	200
第13回	授業テーマ	家庭生活と情報システム
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報システムの社会、家庭、経済への活用について理解する。
	教室外学習(予習・復)	自分自身の家計（会計）管理、消費者としての活動に合わせて、現存するシステムやネットワークサービスの活用方法につ

	習 の内容	いて理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	200
第14回	**授業テーマ**	講義全般のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	機械、電気、情報の各技術の関係と家庭への利用についてまとめる。また省エネルギー、経済性を考慮した家庭生活を送るための考え方について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	機械、電気、情報の各技術の関係と家庭への利用について、従来までの考え方や運用方法と新たな考え方や運用方法を検討する。
	教室外学習の時間（分）	210

学生へのフィードバック方法

・毎回の講義時の小レポートの講評については、採点後、講義時間中に全体講評を行う。

評価方法

・期末レポートは、機械・電気・情報の各技術が家庭生活に与えた影響について論じるレポートを出題する。記述の論理整合性、技術的（理論的）正当性を当然問うこととなるが、自身の経験などを含めた主体性のある主張、指摘についても評価する。
・平常点は、毎回の講義において、講義内容に沿った小レポートを出題する。なお、小レポートの出題及び評価はGoogle ClassroomおよびGoogle Classroomのルーブリックを用いて評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末レポート	○	○	○	○
平常点	○		○	○

評価割合

期末レポート(50%)、平常点（50%）による総合評価。

使用教科書名(ISBN番号)

新しい時代の家庭機械・電気・情報（第２版）／池本洋一、山下省蔵／ジュピター書房／2021（978-4909817006）

ディプロマポリシーとの関連

［知識・理解］ 家庭生活の基盤として「より良い生活と技術」の関わりについて理解できる。
［思考・判断］ 生活の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
［関心・意欲・態度］ 日々進化する技術について関心を持ち、どのようにして自分自身の家庭生活に役立てるか活動意欲を持つことができる。
［技術・表現］ 機械、電気、情報の各技術の特徴を把握し、その効果を説明できる。

オフィスアワー

非常勤講師のため講義時以外はメールで問い合わせること。

学生へのメッセージ

進化する様々な技術について興味や関心を持つことが重要です。そして、どのようにして自分自身の家庭生活に役立てるか主体的な意欲を持ち活動することが、知識や技能を深めることにつながります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G06096001
講義名	保育学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	新開 よしみ	指定なし

ナンバリング

R31908M21

授業概要(教育目的)

子どもと大人が共に豊かな成長を続けていくことのできる社会を目指し、家庭・地域・社会において大人が果たすべき役割、保育所・幼稚園・認定こども園における保育・幼児教育の今日的課題、共に育つ保育実践について考える。また、保育観察や子どもとのふれあい体験（自主実習）を通して実際の子どもの発達や遊びの実態を体験しながら、家庭科教育における保育領域の授業実践の工夫を具体的に構想できるよう導いていく。

履修条件

家庭科教員免許取得を目指していること、またはそれに準ずる意欲のあること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1. 家庭科教育における保育領域の意義について説明できる。 2. 保育・幼児教育の基本的事項について説明できる。 3. 乳幼児の生活と発達について具体的にイメージできる。
思考・判断の観点 (K)	1. 自主実習や保育観察を通して子どもとの関わりにおける自己課題を発見する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 保育領域に関心を持ち、積極的に課題や教材研究に取り組むことができる。 2. 保育観察や自主実習に意欲を持って取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1. 子どもの発達を想定した絵本の読み聞かせができる。 2. パワーポイント等を活用し、効果的にプレゼンテーションできる。

学習計画

第1回	授業テーマ	オリエンテーション～保育とは・子どもとは～ 家庭科教育における保育領域の意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育の出発点が子ども理解にあること、子ども観と保育観・教育観・人間観・社会観との関係性について理解する、 グループワークを通して、学習指導要領「家庭科」における保育領域の意義と目的を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・中学校・高校の学習指導要領「家庭科」の中の保育領域に関する部分を読んでおくこと ・履修動機、授業への期待について考えておくこと
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	わたしの中の子ども時代を振り返る
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児期の体験や遊びを振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自主実習に向けた計画を作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	保育・幼児教育の今／保育実技課題１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の保育制度、保育の原理原則、幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	保育実技１課題に取り組む。 自主実習の準備。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	「ぽかぽかひろば」保育観察１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児グループ「ぽかぽかひろば」の観察を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）「ぽかぽかひろば」の資料を読んでおくこと／（復習）観察記録をまとめること
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	子どもの遊びと保育／保育実技課題２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼稚園等で生活する子どもの姿から、遊びを中心とした保育について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題「自主実習のための準備」に取り組む
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	絵本の教材研究発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	絵本を３冊選びその内容を紹介するとともに１冊について「読み聞かせ」の実践をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	絵本選びと読み聞かせの練習
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	「ぽかぽかひろば」保育観察２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児グループ「ぽかぽかひろば」の観察を行う。

	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）「ぽかぽかひろば」の資料を読んでおくこと／（復習）観察記録をまとめること
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	自主実習（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児（０・１・２歳児）クラスの自主実習に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自主実習記録の作成
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	自主実習（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児（３・４・５歳児）クラスの自主実習に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自主実習記録の作成
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	子ども理解にはじまる保育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な子どもの姿から一人ひとりの子どもを大切にする保育のあり方について考え、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	自主実習報告会１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自主実習の成果について一人10分程度の報告を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表用パワーポイントの作成、発表の練習
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	自主実習報告会２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自主実習の成果について一人10分程度の報告を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表用パワーポイントの作成、発表の練習
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	自主実習報告会３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自主実習の成果について一人10分程度の報告を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表用パワーポイントの作成、発表の練習
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	授業のふりかえりとまとめ／レポート作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業をふりかえり、自己評価を行う。まとめのレポートを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の	

	内容	全授業の資料を整理し、内容を把握しておく。
	教室外学習の時間（分）	210分

学習計画注記

※履修者数等によって計画が前後したり変更になったりしますが、最終的に学習目標が達成されるよう調整します。

学生へのフィードバック方法

課題等は発表時または返却時にコメントするなどしてフィードバックを行う。質問や相談等がある場合は、1635研究室（emailも可）まで訪問すること。

評価方法

自主実習に対する取り組み（自主実習点）に加えて、これら以外の課題への取り組み（課題点）について総合的に評価する。課題点には指定の提出物に加え、グループワークや発表など平常授業への取り組みの評価を含むものとする。評価のポイントに関しては、ルーブリックを提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題点	○	○	○	○
自主実習点	○	○	○	○
最終レポート	○	○	○	○

評価割合

課題等の平常点（40%）自主実習及び発表（30%）最終レポート（30%）の割合で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

保育所保育指針
幼稚園教育要領
認定こども園教育・保育要領
高等学校学習指導要領解説「家庭編」,文部科学省,平成30年７月

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「家庭科教育」（保育）分野について専門的知識を有している。
【関心・意欲・態度】社会の中にある（保育をめぐる）諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通してその解決策を立案できる。
【技能・表現】家政学を学修し、家庭科教育（保育）分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー

（後期）金曜４限 1635研究室

学生へのメッセージ

この授業では自主実習に向けての事前の準備学習や教材研究など取り組むべき課題が多くあります。それぞれの課題に主体的に取り組む意欲と覚悟を持って受講してください。同時に、子どもについて学ぶこと、子どもとのふれあい体験をぜひ楽しんでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング	○	自主実習、グループディスカッション等を通し、主体的・能動的に学びを深めていく。
情報リテラシー教育	○	報告会では、効果的なプレゼンテーション資料の作成等に取り組む。
ICT活用	○	内容に応じてPCを活用した双方向型授業を展開する。

講義コード	G06097001
講義名	食科学概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	黒田 久夫	指定なし

ナンバリング

R11901M21

授業概要(教育目的)

【授業の目的】
・食科学を学ぶことにより、食生活と健康にかかわる情報を正確に理解する力を身につけます。
・食科学を学ぶことにより、食生活と健康にかかわる情報の真偽を多面的に考える力を養います。
・食生活と健康にかかわる社会問題を科学の視点で分析し、課題と解決策を考える力を養います。
【授業の形式】
・本授業は、講義です。
・履修が確定したら、座席は固定します。
・授業中に理解度テストを行い、講義の理解度を評価します。
・授業の初めに復習テストを行います。

履修条件

1. PCを毎回持ってきてください。用意が出来ていない場合は、成績にペナルティを加えます。
2. 履修が確定したら、座席は指定します。基本的に、個人で授業を受けます。
3. 授業中に理解度テストを行い、授業の理解度を評価します。
4. 第2回から第13回では、授業初めに復習テストを行います。授業への参加度の評価に加算します。
5. 第14回に期末試験（50分）を行います。定期試験期間中のテストはありません。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	・食科学の基礎が理解できている。
思考・判断の観点	・食と栄養の問題を、印象や主観ではなく、客観的で合理的な考えに基

(K)	づいて判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・食科学を基礎から理解しようとするモチベーションがある。
技術・表現の観点 (A)	・食生活と健康にかかわる社会問題を自分の言葉で説明できる。 ・食生活と健康にかかわる社会問題を文章で表現することが出来る。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス・日本食品標準成分表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・本授業の学習目標・評価方法・予定を確認する。 ・科学とは何かについて、考える。 ・食と栄養を考える上で、科学が不可欠であることを確認する。 ・日本食品標準成分表の概要と、収載食品について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	栄養素と食品成分の基礎知識
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・健康増進法に規定されている栄養素を確認する。 ・日本人の食事摂取基準の概要を理解する。 ・食品成分データベースの基本的な利用方法を習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	たんぱく質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・タンパク質の基本的な構造を理解する。 ・食品と人体に存在するタンパク質の種類を理解する。 ・酵素について理解する。 ・栄養素としてのたんぱく質について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	炭水化物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・炭水化物の種類と構造について理解する。 ・食品に含まれている炭水化物について理解する。 ・栄養素としての炭水化物を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	脂質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・脂質の種類と構造について理解する。 ・食品に含まれている脂質について理解する。 ・栄養素としての脂質を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	ミネラル・ビタミン・健康機能に寄与する成分
		・ミネラル・ビタミン・健康機能に寄与する成分の種

第6回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	類と構造について理解する。 ・食品に含まれているミネラル・ビタミン・健康機能に寄与する成分について理解する。 ・栄養素としてのミネラル・ビタミンを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	栄養の設計（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・食品成分データベースを利用して、食事の栄養成分を分析します。 ・食事摂取基準に関する知識をもう一度復習します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	栄養の設計（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・エクセルを利用した食事の食品成分の解析を紹介します。 ・栄養と嗜好性のバランスについて考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	食品のリスク
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・食品に含まれる有害成分・有害生物の種類を学びます。 ・食品のリスクを低減する方法を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	食と健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・生活習慣病と食の関係を学びます。 ・近年問題となっている健康上の問題や、食と生活スタイルに関する知見を学び、解決方法を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	加工食品
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・加工食品の製造方法・品質管理について学びます。 ・近年健康上の問題が指摘されている超加工食品や食品添加物の問題点について考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	食科学に関する最近の話題（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・近年、報告された食品中のリスク成分や食品について解説します。 ・食生活と健康にかかわる社会問題を科学の視点で分析し、課題と解決策を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分

第13回	授業テーマ	食科学に関する最近の話題（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・近年、報告された食に関係する社会問題について、科学的に分析します。 ・食生活と健康にかかわる社会問題を科学の視点で分析し、課題と解決策を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	期末試験／授業のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・期末試験を実施します ・授業のまとめを行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業のまとめを投稿してください。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

1. PCを毎回持ってきてください。用意が出来ていない場合は、成績にペナルティを加えます。
2. 履修が確定したら、座席は指定します。基本的に、個人で授業を受けます。
3. 授業中に理解度テストを行い、授業の理解度を評価します。
4. 第2回から第13回では、授業初めに小テストを行います。小テストは、復習テストから出題します。授業への参加度の評価に加算します。

学生へのフィードバック方法

・質問がある場合は、クラスルームの教室外学習の質問に表示される「限定公開のコメント」が利用できます。質問があった場合は、個別に回答します。

評価方法

①授業の理解度
・授業初めの復習テストを用いて評価します。
・授業内での理解度テストを用いて評価します。
・教室外学習の取り組みを評価します。
②期末試験
・授業の理解度をペーパーテストで評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
①授業の理解度	○	○	○	○
②期末試験	○	○		○

評価割合

①授業の理解度（70%）
②期末試験（30%）

使用教科書名(ISBN番号)

ニュートン別冊 科学的に正しい栄養の教科書 改訂第２版
https://www.newtonpress.co.jp/separate/back_medical-pharmacy/mook_250821_3.html
ISBN978-4-315-52947-0

参考図書

日本人の食事摂取基準（2025年版）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/eiyou/syokuji_kijyun.html

日本食品標準成分表（八訂）増補2023年
https://www.mext.go.jp/a_menu/syokuhinseibun/mext_00001.html

食品成分データベース
https://fooddb.mext.go.jp/

その他に、各種ニュースソースや、データベースの記事等を利用します。URL等は、クラスルームに掲示します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】生活にかかわる知識を多面的に身に付けている。
【思考・判断】地域・社会に関する諸課題を自分ごととしてとらえ、適切な手法で分析することができる。
【関心・意欲・態度】他者の視点やニーズを理解し、社会に新たな価値を見出すことができる。
【技術・表現】人々が快適に生活できる持続可能な生活様式を提案することができる。

オフィスアワー

授業後

学生へのメッセージ

・食と栄養の社会的問題を考える上で、科学の側面を無視することはできないと思いますし、科学を理解していないデメリットやリスクはとても大きいと思います。
・栄養士を目指す食科学コースに配属された皆さんは、食品学や栄養学など、食と栄養の科学の習得はマストであり、仕事をする上でとても大切になります。
・本授業は、食科学コース以外の方も授業を理解できるように、講義を工夫していきます。必要な知識は、復習テストで確認できるようにしていますので、充分学習してください。食品成分と栄養の知識は、保育士を目指す皆さんにも必要ですし、健康な生活を生涯に渡って過ごす上でとても大切だと思います。
・習得した知識をどのように生活や仕事に活かしていくかを考えていくことが大事です。教室外学習では、それぞれの授業テーマに関連する社会的な問題に関する問題を出題しますので、関心をもって調べ、自分の意見を述べることができるように学んでいってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	食品企業でのキャリアから学んだ様々なことをお伝えしたいと考えています。
アクティブ・ラーニング	○	自主的に取り組めるコンテンツを多く用意しています。
情報リテラシー教育	○	各種データベースの利用方法を説明します。
ICT活用	○	・授業は、PCを利用します。 ・アプリ（エクセル）のスキルを説明します。

講義コード	G06098001
講義名	家庭看護（学校安全・救急看護法）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	遠藤 由美子	指定なし

ナンバリング

R21906M21

授業概要(教育目的)

家庭とは、生活を共にする家族の集まりである。家族が健康で日常生活を営むために年代別による健康管理が求められる。また加齢、病気などで障がいがあってもその人らしく生活を過ごすための知識・技術も必要である。家庭看護では、健康や疾患、加齢についての基礎知識とともに、生活を支援するための技術の習得を目的とする。

履修条件

特に求めない。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	健康と病気の定義について説明ができる。 年代別の健康問題と管理について述べることができる。 乳幼児期の心身の特徴について、説明ができる。
思考・判断の観点 (K)	制作をする過程において創造力を駆使して、作品を完成する。 自ら設定した課題のレポートを作成する過程で、資料検索の方法を知り、問題解決に導く力を養い、自己の考えを人に伝える能力を磨く。
関心・意欲・態度の観点 (V)	課された課題を、自宅学習を含め取り組み、「提出期限を守る」「決められたことを確実に行う」など社会的役割や責任を身に着ける
技術・表現の観点 (A)	演習を通して、人とのかかわり方を学び社会性を身に着け専門職としての視点を持つ。

学習計画

家庭看護

		オリエンテーション

第1回	授業テーマ	病児の遊びを考えよう①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	カエルのカスタを作りみんなで演奏しよう チャイルドビジョンを作り実際につけて歩き子どもの視界を知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で体感した内容のレポートを作成し期限内に提出。（期限：次回授業開始まで）
	教室外学習の時間(分)	１８５分
第2回	授業テーマ	健康と病気 ①健康について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業内配布資料に沿って進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で配布したプリントを完成させ期限内に提出。（期限：次回授業開始まで）
	教室外学習の時間(分)	１９０分
第3回	授業テーマ	健康と病気 ②看護と介護
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業内配布資料に沿って進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で配布したプリントを完成させ期限内に提出。（期限：次回授業開始まで）
	教室外学習の時間(分)	１９０分
第4回	授業テーマ	病気と看護 家族の年代別健康管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業内配布資料に沿って進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で配布したプリントを完成させ期限内に提出。（期限：次回授業開始まで）
	教室外学習の時間(分)	１９０分
第5回	授業テーマ	病気と看護 病気の種類と特徴（子ども編）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業内配布資料に沿って進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で配布したプリントを完成させ期限内に提出。（期限：次回授業開始まで）
	教室外学習の時間(分)	１９０分
第6回	授業テーマ	病気と看護 病気の種類と特徴（大人編）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業内配布資料に沿って進める。
	教室外学習(予習・	授業内で配布したプリントを完成させ期限内に提出。（期限：次

	復習)の内容	回授業開始まで）
	教室外学習の時間（分）	１９０分
第7回	**授業テーマ**	病気と看護 病児の遊びを考えよう②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パズルを作って、実際に遊んでみて子どもの遊びについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で作成中のパズルを完成させ、その気づきをレポート作成、期限内に提出。（期限：次回授業開始まで）
	教室外学習の時間（分）	１９０分
第8回	**授業テーマ**	身体の清潔と感染症対策（手洗いにTRY！）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実際に手を洗う
	教室外学習(予習・復習)の内容	介護実習室（体を動かしやすい服装・上履き・タオル・水分補給用の水分） 授業内で配布したプリントを完成させ期限内に提出。（期限：次回授業開始まで）
	教室外学習の時間（分）	１９０分
第9回	**授業テーマ**	病気と看護（バイタルサインの測定・体位変換にTRY！） コミュニケーション 体位 バイタルサインの測定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パワーポイントを活用して、コミュニケーションについての解説。実際にベッドを活用して体位を体感しよう 実際にバイタルサインの測定を行おう
	教室外学習(予習・復習)の内容	介護実習室（体を動かせる服装・上履き・タオル・水分補給用の水分） 授業内で配布したプリントを完成させ期限内に提出。（期限：次回授業開始まで）
	教室外学習の時間（分）	１９０分
第10回	**授業テーマ**	病気と看護（車椅子にTRY！） 移乗（車椅子、白杖）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実際に車いすを体験。白杖をもって歩いてみよう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	介護実習室（動きやすい服装・上履き・タオル・水分補給用の水分） 授業内で配布したプリントを完成させ期限内に提出。（期限：次回授業開始まで）
	教室外学習の時間（分）	１９０分
	授業テーマ	病気と看護（着脱にTRY！） 排泄、着脱
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰ	

第11回	ﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実際におむつを付けてみる。ベッド上での着替えの介助を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	介護実習室・校内散策（動きやすい服装・上履き・運動靴・タオル・水分補給用の水分） 授業内で配布したプリントを完成させ期限内に提出。（期限：次回授業開始まで）
	教室外学習の時間(分)	１９０分
第12回	授業テーマ	救急編（救急法にTRY！）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	救急法の実際をDVDで確認し、手順を覚える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	介護実習室（動きやすい服装・上履き・タオル・水分補給用の水分） 授業内で配布したプリントを完成させ期限内に提出。（期限：次回授業開始まで）
	教室外学習の時間(分)	１９０分
第13回	授業テーマ	課題作成・提出・発表（発表はパワーポイント、zoom又はチームスを使用し実施）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書室・PC室・自習室などを活用し、自身の決めた課題の資料を探し、レポート（５枚）、発表（５分以内）資料の作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマを自分で探す（授業に関連した内容で、興味を持ったものであれば可）資料収集、発表準備（パワーポイント、zoom、チームスを使用する事前提で準備）、提出用レポート作成
	教室外学習の時間(分)	１９０分
第14回	授業テーマ	課題作成・発表発表はパワーポイント、zoom又はチームスを使用し実施）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	他の学生の前で、自ら作成した資料を基に発表（zoom、チームスを使用）を行う。 他者の発表を聞き、評価に参加するとともに自己の発表のスキルアップに繋げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表を聞くことで、資料収集や提出用レポート作成の振り返り
	教室外学習の時間(分)	１８５分

学習計画注記

授業１～7回までは、座学を中心。授業８～14回は演習を中心に運営していく。（天候、感染症などに左右される場合は、この限りではない。）

学生へのフィードバック方法

講義の他、グループワーク、演習、ICTの活用等を行い、学生が楽しいと感じ達成感や物事の意味を考え、学生自ら主体的に授業に参加できるように運営していく。はさみ、サインペン、色鉛筆、カッターナイフ等を使う事に慣れる。

評価方法

授業成果物２６点（パズル、眼鏡・カエルカスタ）個々の個人の創造性を駆使して、完成を目

指す。作成したもので遊びを通して、子供の特性を学ぶ。
授業内平常課題２４点授業内の課題プリントを課し、自宅学習を促す。
発表評価５０点（レポート１０点、教員評価２０点、学生参加者の評価平均点２０点）（評価項目：発表態度，プレゼン準備，プレゼン資料の完成度，テーマ選択）、テーマに従い資料検索を重ねレポートをまとめ、それをもとに他者に自分の考えを伝えるべく様々な方法を用いて発表準備を行い、人前で意見を述べることを通して、達成感を養い今後の自身の活動に役立つ手法を身に着ける。
評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
成果物		○	○	○
授業内平常課題	○	○	○	
発表評価	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○

評価割合

成果物２６点（パズル、眼鏡・カエルカスタ）授業内課題２４点，発表評価５０点（レポート１０点、教員評価２０点、学生参加者の評価平均点２０点）

使用教科書名(ISBN番号)

授業内で配布

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】自ら選択した課題を、レポートとして仕上げ発表するプロセスを体験、演習を通して、対人関係に必要なマナーやプレゼンテーション能力を身に着けることができる。
【思考・判断力】情報の整理やまとめる力を培うことができる。
【関心・意欲・態度】課せられた課題に自主的に取り組むことで、自己の責任や役割を認識し、社会人としての倫理観を身に着けている。
【技能・表現】制作など独自の創造力を駆使して、作品完成させることで、表現力を身に着けている。

オフィスアワー

前期火曜日１限 指定教室

学生へのメッセージ

日常生活のなかでは、特に健康について意識をしていないけれど病気になるとその大切さに気づきます。自分自身の健康管理ができて、家族の健康も守ることができるように、自分の日常生活から健康について考えてみましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	医療現場や介護施設などで実際に体験した事例の活用
アクティブ・ラーニング	○	グループワークや車椅子体験などの実践的活動
情報リテラシー教育	○	図書館やインターネットなど活用し自分が必要とする情報を集め、レポートにまとめプレゼンの実践
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション

講義コード	G04002001
講義名	発達心理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	丹羽 さがの	指定なし

ナンバリング

P10002M21

授業概要(教育目的)

人は生涯を通じて発達的に変化していく。その発達の過程を、特に心的活動の変化に焦点を当てて学習する。まず、発達心理学の考え方や研究法の基本、発達の諸理論を学び，その上で、胎児期から老年期に至るまでの各時期の発達課題や発達的特徴について、具体的事例や視聴覚教材も参照しながら基本的知識を身に付ける。人の発達に関する知見を、保育・教育実践に結び付けることができるよう、事例や自分自身の体験とも関連させながら具体的に理解し、考えを深める。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・発達心理学の基本的概念を説明できる・人の生涯発達の概観，各発達期の特徴を理解する
思考・判断の観点 (K)	・人の発達に関する知見を，保育・教育実践に結びつけて考えることができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	・自分自身のこれまでの体験と関連させながら，人の発達について具体的に理解しようとする
技術・表現の観点 (A)	・発達心理学的知見が保育，教育実践にどのように活かされているか説明できる

学習計画

	授業テーマ	イントロダクション：発達を学ぶ重要性，発達のメカニズム
	学習内容(ア	

第1回	ｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生涯発達心理学の考え方を知る。教育における発達の理解の意義を学ぶ。内的要因（遺伝）と外的要因（環境）の相互作用による発達のメカニズムを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕（１）テキスト第１～３章（p.3-52）を読み，生涯発達を対象とする心理学と発達のメカニズムについて概観をつかむ。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える。
	教室外学習の時間（分）	195分
第2回	授業テーマ	乳児期の運動・認知の発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児期の運動発達と認知発達について相互に関連しながら発達することを含めて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕テキスト第５章（pp.77-97）を読み乳児期の身体的機能・運動機能・知覚と認知の発達について概観をとらえる〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える。
	教室外学習の時間（分）	195分
第3回	授業テーマ	乳児期の言語・社会性の発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児期の言語発達と社会性の発達について認知面とも相互に関連しながら発達することを学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕テキスト第９章～第１０章（pp.157-188），を読み，乳児期，幼児期の言語と社会性の発達について概観をつかむ〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える
	教室外学習の時間（分）	195分
第4回	授業テーマ	幼児期の運動・認知の発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児期の運動発達と認知発達（記憶，概念学習，推論能力，メタ認知）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕テキスト第８章（pp.135-156）を読み，乳幼児期の運動発達，認知発達の概観をつかむ。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える
	教室外学習の時間	195分

	（分）	
第5回	**授業テーマ**	幼児期の言語・社会性の発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児の文字への関心を含めた言語発達，仲間関係の発達について事例も用いて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕テキスト第11章（pp.189-204）を読み，幼児の言語発達・社会性の発達について，園での生活をイメージしながらつかむ〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える。確認小テスト（１）に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	195分
第6回	**授業テーマ**	乳幼児期の自己と情動制御の発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳幼児期を通して現れてくる自己と情動制御（自己主張・自己抑制）の発達について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕テキスト第７章（pp.117-133）を読み，情動の発達，自己の発達，社会情動的スキルの発達の概観をつかむ。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える
	教室外学習の時間（分）	195分
第7回	**授業テーマ**	児童期の認知発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童期の認知発達をその要因（物理的・人的環境）とともに学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕テキスト第１５章（pp.265-274）を読み，児童期の環境と認知発達との関係を考える〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える
	教室外学習の時間（分）	195分
第8回	**授業テーマ**	児童期の社会性の発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	仲間関係の発達，仲間関係を形成する力を高めるソーシャルスキル・トレーニングについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内	〔予習〕テキスト第５章（pp.265-274）を読み，児童期の仲間関係が教室での適応と深くかかわっていることを理解する。その上で，教室での適応に必要な社会的能力を書き出してくる。〔復習〕授業中に理解不足を

	容	感じた点について，再度テキストを読み考える
	教室外学習の時間（分）	195分
第9回	**授業テーマ**	青年期のアイデンティティの発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アイデンティティとは何か，アイデンティティ選択の方法について自らを振り返りながら学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕エリクソンの発達理論と青年期の課題についてテキスト第１５章（pp.278-286）を読む他，参考図書などを用いて調べる〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度参考図書を読み考える
	教室外学習の時間（分）	195分
第10回	**授業テーマ**	青年期の人間関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	青年期の親子関係，友人関係の様相について，自らの関係性を振り返りながら学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕テキスト第１５章（pp.275-277）を読んだ上で，自らの高校時代～現在の親子関係について振り返りまとめる。自分にとっての友人の存在の意味についてまとめる〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度参考図書を読み考える。確認小テスト（２）に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	195分
第11回	**授業テーマ**	学びの様々な理論と学びの動機づけ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学びの原理に関する代表的な理論（学習理論，観察学習理論，ピアジェとヴィゴツキーの認知発達理論）を学び，各発達段階の学びにふさわしい学習の仕方を理解する。 主体的な学びを支える動機づけ，主体的学びを阻害する経験（学習性無力感）について学び，各発達段階にふさわしい指導のあり方を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕テキスト第１２章（pp.207-222）を読み，代表的な学習に関する理論の概観と，各発達段階における学びの概観をとらえる〔復習〕動機づけ，原因帰属，学習性無力感など，授業で学んだ内容を復習しながら，各発達段階にふさわしい指導のあり方のポイントを考えてみる。授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える。
	教室外学習の時間（分）	195分
	授業テーマ	集団における学び・育ちと保育における評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	幼児期の協同的な活動において得られる学び，育ちについて事例を用いて学ぶ。個と集団の育ちの視点に立った評価について理解する

第12回	用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復習〕事例を再度読み，協同的な活動を通しての学び・育ちについてまとめる。保育における評価とはどういうものかまとめる
	教室外学習の時間（分）	195分
第13回	授業テーマ	成人期の発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子育て期から子育て卒業期の親の心理について学び，子育てという経験がもつ意味を考える。教育・保育現場における保護者支援・保護者との連携の必要性と重要性を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕テキスト第１６章（pp.287-294）と事前配布資料を読み，子育て支援の意義，支援の実際の概要をつかむ。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える
	教室外学習の時間（分）	195分
第14回	授業テーマ	老年期の発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生物学的な衰えを補う心理的・社会的仕組みついて学び，生涯学び続ける存在としての人の一生を概観する
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕テキスト第１６章（pp.294-301）を読み，老年期の発達的特徴を知る〔復習〕バルテスの理論について授業資料を読み返しまとめる。その上で，生涯学び続けるために必要な環境について考える。確認小テスト（３）に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	195分

学生へのフィードバック方法

コミュニケーション・カードに下線and/orコメント付きで返却する。多かった質問・疑問については次回授業冒頭で解説する。また特によかったコメントについては次回授業冒頭で紹介する。それ以外の質問がある場合は1626研究室まで訪問すること。

評価方法

・平常点は学びに向かう姿勢，意欲，理解度をコミュニケーション・カードの記入状況，内容，確認小テストから評価する。定期試験は60点満点で出題し，授業で学んだ内容全てが範囲となる。心理学的概念，各発達段階の特徴の理解度，心理学的知見と教育・保育実践との関連についての理解度を測る選択式・記述式の問題から構成される。出題の傾向については，最後の授業にて説明する。
・成績評価はルーブリックに基づいて行う。ルーブリックはクラスルームまたは授業内での配布により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

平常点	○	○	○	
定期試験	○	○		○

評価割合

平常点（40%）及び定期試験（60%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

教育職・心理職のための発達心理学，中道圭人・小川翔大（編著），978-4-7795-1547-7

参考図書

問いから始める心理学―生涯にわたる育ちの科学，有斐閣ストゥディア，坂上裕子他編著，978-4-641-15013-3
その他授業において適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもの心理についての専門的な知識を有している。【思考・判断】子どもの心身の発達についての知識を基に教育・保育実践の現場で出会う様々な課題に柔軟に対応できる力を身に付けている。

オフィスアワー

水曜日２限 1626研究室

学生へのメッセージ

人の発達・成長の面白さに触れるとともに、自らの成長の道のりを振り返る機会にもなる授業です。積極的に参加してくれることを期待します。
毎回授業内容の復習をしてください。わからない点についてはそのままにせず、質問したり自分で調べたりするようにして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自らの体験を振り返るワーク，事例に基づき考えるワーク等に，小グループでのディスカッションを取り入れる
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04003001
講義名	教育心理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	北見 由奈	指定なし

ナンバリング

P10101M21

授業概要(教育目的)

「教育心理学」は、教育に関する諸事象について心理学的に探究し、教育効果を高めるのに役立つような心理的知見と心理的技術を提供しようとする学問である。
本授業では、教育心理学に関する諸理論を理解するとともに、現代の児童生徒が抱える心理的課題や教師に求められる教育的援助について学習する。具体的には、発達に関する心理、学習に関する心理、適応に関する心理について理解を深め、教師として効果的な教育が行えるよう、その基礎的な知識と技能を身につける。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．教育心理学の理論を理解する。 ２．教育にまつわる事象が教育心理学の理論によってどのように説明できるのかを理解する。
思考・判断の観点 (K)	１．教育心理学の理論を、教育現場において生かそうとすることができる。 ２．自身の疑問を教育心理学の知識を用いて解決しようとすることができる。 ３．教育的な問題を教育心理学の知識を用いて解決しようとすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教育現場での日常にある事象から、教育心理学的なテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点 (A)	教育現場における問題、自身や身近な人の行動、及び社会現象に関して、教育心理学で得た知識に基づいて説明するなど、教育心理学と教育現場のつながりを発信することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	イントロダクション―心理学と教育、人の発達の関わり―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンスとして、授業の進め方、スケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。 その上で、教育心理学で扱う内容を概観し、これから学ぶ学問領域は何かを知る。 この授業ではgoogle classroomを使用するため、その使い方についても簡単に説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。
	教室外学習の時間(分)	190分
第2回	授業テーマ	発達と教育１――発達課題と身体的発達――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発達と教育について学ぶ。発達の定義、発達課題と、発達の身体的側面について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「発達」に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分が関心のある分野と教育心理学のつながりを考える。
	教室外学習の時間(分)	190分
第3回	授業テーマ	発達と教育２――運動機能の発達と発達の普遍性と可変性―― 発達と教育３――脳と神経の発達――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動機能の発達について知り、発達の普遍的な部分と、時代や地域、文化によって可変的な部分について理解する。 発達の内、脳と神経の発達について知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第4回	授業テーマ	発達と教育４――自我の発達――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自我の発達について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第5回	授業テーマ	発達と教育５――自我の防衛機制――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自我の防衛機制を理解し、日常場面、教育場面においてどのような状況が想定されるか考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
	授業テーマ	発達と教育６――社会性の発達――
	(	社会性の発達を理解する。

第6回	学習内容 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第7回	授業テーマ	発達と教育７――認知の発達――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	認知の発達について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第8回	授業テーマ	学習を支えるメカニズム１――動機づけ――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習理論について知り、動機づけとは何かを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第9回	授業テーマ	学習を支えるメカニズム２――記憶――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	記憶のメカニズムを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第10回	授業テーマ	学習を支えるメカニズム３――自己効力感――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己効力感を理解し、教育現場でどのように応用できるかを考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第11回	授業テーマ	学習に関する理論１――条件づけ――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	条件づけを理解し、教育現場でどのように応用できるかを考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
	授業テーマ	学習に関する理論２――観察学習と技能学習、教育における評価――

第12回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	観察学習と技能学習について理解し、教育現場でどのように応用できるか考える。評価とは何かを知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	障害と教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害とは何か、合理的配慮とな何かを理解し、特別支援教育やインクルーシブ教育について知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	総括と学期末試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業前半の50分では、授業のまとめと振り返りを行う。授業後半の50分では、学期末試験を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分

学生へのフィードバック方法

・授業開始時に実施する「出席確認（自己チェック）」については、その都度、教員との間で結果を共有する。
・「ふりかえり」については、授業終了後に教員が確認し、原則として全体にフィードバックを行う。

評価方法

授業への姿勢（40%）、および学期末試験の結果（60%）をもとに総合的に判断する。

＜授業への姿勢＞
自己チェックへの取り組みとふりかえりへの取り組みから総合的に判断。
・自己チェック 20%
→ 出席確認を兼ねる。前の回の内容に関する課題への回答を、毎回の講義のはじめに求める。
→ 正答率ではなく、時間内にきちんと提出できているかどうかを評価の対象とする。
・ふりかえり 20%
→ 受講の後で提示される課題に回答を求める。
→ 期限内にきちんと提出できているかどうかを評価の対象とする。

なお、この科目ではルーブリックに基づく成績評価を行う。また、ルーブリックについてはgoogle classroomまたは授業内にて提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
自己チェック	○		○	
ふりかえり	○	○	○	○
学期末試験	○	○		

評価割合

授業への姿勢（40%）、学期末試験の結果（60%）

使用教科書名(ISBN番号)

原則としてgoogle classroomを通して資料を配布する。

参考図書

お勧めの参考書としては以下があります。教科書ではありません。
1）桜井茂男（編） 「改訂版 たのしく学べる最新教育心理学: 教職に関わるすべての人に」 図書文化社 2017，ISBN: 9784810076905
2）柏崎秀子（編） 「教職ベーシック 発達・学習の心理学」 北樹書房 2017（改訂版），ISBN: 9784779305269
その他参考資料は講義の際に適宜紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「教育」「学校」という観点から人間を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学的な知識を得る。
【思考・判断】心理学的な思考をもって「教育」を理解し、その現代社会においてあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々、特に学校現場のために働く能力を、教育の心理学への知識に基づく関心によって得る。
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会、学校の中に課題を発見し、教育心理学的な思考や教育心理学の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。

オフィスアワー

前期：月曜日３限（13：20～15：00） 町田キャンパス1608室

学生へのメッセージ

・質問や問題提起をgoogle classroomのコメント機能を使って共有することも推奨。
・展開によって生きた流れを優先するため、内容を変更することもある。
・教育に関する新聞やニュースには必ず目を通すように心がけること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	google classroomを、自己チェック、授業内容の動画、ふりかえり、配布資料のアーカイブなどで活用する。

講義コード	G04004001
講義名	教育原理
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	齋藤 義雄	指定なし

ナンバリング

P10005M21

授業概要(教育目的)

教育の基本概念は何か。また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育および学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたかを理解する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	教育の基本概念を身につけるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育および、学校の変遷を理解する。教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育との関わりを理解している。
思考・判断の観点 (K)	現代の教育問題の本質にあるものを見つめ、自分なりの考えをもつことができる。
関心・意欲・態度の観	常に「教育とは何か」という問題意識をもっている。

点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	教育の意義を理解することで、教職をこころざす者としての心構えを身につけ、広い視野で教育活動を中心とした社会貢献ができる教員を目指す姿勢をもてるようになる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	教育とは何か 教育の意味と可能性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育の法的位置づけ 教育とは何か 教育課程と全体的な計画 子どもの福祉の視点から こどもの権利について
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第１章、第２章を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	１９０分
第2回	**授業テーマ**	西洋の教育の歴史（古代・中世・近世）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	古代ギリシャの哲学と教育 ソフィストの教育思想 ・ソクラテス、プラトン、アリストテレス 近代教育のはじまり ・コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、オウエン
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第３章と第４章の前半(P39まで）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	１９０分
第3回	**授業テーマ**	西洋の教育の歴史（近世・近代）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	西洋の学校教育のはじまり ・ベル・ランカスター、ヘルバルト 新教育運動の起こりとその背景 ・エレン・ケイ、モンテッソーリ、デューイ、キルパトリック、ウォシュバーンとパーカースト
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第４章後半（p39から）、第５章を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	１９０分
第4回	**授業テーマ**	西洋の教育の歴史（現代）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第２次世界大戦後の教育改革 学校化する社会への批判 ・ニイルの「サマーヒル」、イリイチ「脱学校の社会」
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第６章を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	１９０分
第5回	**授業テーマ**	日本の教育の歴史（古代・中世・近世）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	古代の教育の特質 ・国学 中世の教育の特質 ・足利学校 近世の教育の特質 ・武士の教育と庶民の教育 藩校と寺子屋
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第７章と第８章を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	１９０分

第6回	授業テーマ	日本の教育の歴史（近代）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	明治期の教育 ・学制 ・学校令と教育勅語 大正期の教育 ・大正自由教育、八大教育主張 戦時体制下の教育
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第９章を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	１９０分
第7回	授業テーマ	日本の教育の歴史（現代：昭和期）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	戦後の教育改革の概要 戦後の教育改革の内容 ・第一期第一段階 梅根悟、大村はま ・第一期第二段階 国分一太郎、無着成恭 ・第二期第一段階 東井義雄、齋藤喜博 ・第二期第二段階 遠山啓、板倉聖宣
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第１０章を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	１９０分
第8回	授業テーマ	日本の教育の歴史（現代：平成・令和）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平成の教育改革 ・教育基本法の改正、学習指導要領の改訂 令和の教育改革 ・令和の日本型学校教育
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第１１章を読んでおくこと。 これまでのまとめとして、教育の理念・歴史・思想について振り返る。 ここまでのまとめとして、レポート１（中間）を作成する。
	教室外学習の時間（分）	２００分
第9回	授業テーマ	教育課程とは 教育方法・技術
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育課程 学習指導要領の変遷 新しい教育課程での注目点 ・カリキュラム・マネジメント、主体的・対話的で深い学び 教育方法・技術 ・対話
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第１２章を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	１９０分
第10回	授業テーマ	生徒指導と道徳教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	修身による道徳教育 生活綴り方教育における生徒指導 特設道徳 生徒指導提要 特別の教科道徳
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第１３章を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	１９０分
第11回	授業テーマ	教育制度と学校・学級経営
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育法令から見る日本の教育制度 ・教育基本法、学校教育法 学校経営と学級経営

		・学校だより、学級だより
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第１４章を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	１９０分
第12回	**授業テーマ**	特別活動・総合的な学習（探究）の時間、キャリア教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別活動 ・学校行事、学級活動、生徒会活動、クラブ活動 総合的な学習（探究）の時間 キャリア教育
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第１５章を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	１９０分
第13回	**授業テーマ**	教師の専門性とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教師に求められる専門性 教師に必要な研修 省察すること 人間性と知識・技術
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第１６章を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	１９０分
第14回	**授業テーマ**	現代日本の学校教育の現状と課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育の理念・歴史・思想について振り返る。 最新の学校教育の現状を知る。 これからの日本の教育課題を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでのまとめとして、教育の理念・歴史・思想について振り返る。 これからの日本の学校教育の課題について、レポート2（期末）にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	２２０分

学習計画注記

アクティブラーニングをできるだけ取り入れ、探究する姿勢を身につけてもらいたい。教育課題をより深く探究するために、レポート1（中間）、レポート2（期末）によって、探究を深めてもらう予定である。

学生へのフィードバック方法

全ての授業で録画を撮り、復習が可能なようにしたい。動画をyoutubeにあげ、クラスルームで限定公開する。毎時間の復習や、欠席した場合に有効にかつようしてもらいたい。

評価方法

課題（ノート、振り返りシート） 40点
レポート1（中間） 30点
レポート2（期末） 30点

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題 ノート	○		○	
課題 振り返りシート	○		○	
レポート1（中間）		○		○
レポート2（期末）		○		○

評価割合

課題（ノート、振り返りシート） 40点
レポート1（中間） 30点
レポート2（期末） 30点

使用教科書名(ISBN番号)

佐藤環監修 田中卓也・時田詠子他『資料とアクティブラーニングで学ぶ 初等・幼児教育の原理』萌文書林 2022年 1900円＋税

参考図書

齋藤義雄・倉本哲男・野澤有希『新版 教育課程論』大学図書出版 2021年
齋藤義雄『教育方法・技術論』大学図書出版 2018年
齋藤義雄『教職概論』大学図書出版 2020年

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様なこどものwell-being向上に寄与する知識を身につけている。
【思考・判断】こどもを取り巻く社会における課題の解決に向けて、論理的・多角的に考えることができる。
【関心・意欲】地域・社会に主体的に参画・貢献できる協働力・共感力を身につけている。
【技能・表現】多様なこどものwell-being向上に寄与する技能を身につけている。

オフィスアワー

火曜日 3限 1628教室（齋藤研究室）
授業の前後は、遠慮なく質問してください。

学生へのメッセージ

教育原理は、基本的なことなので、教員採用試験や幼稚園教諭等の公務員試験に多く出題されます。
基本的な内容を理解し、必要なことは覚えてください。
専門科目が始まると、繰り返し同じ内容が出てくるかもしれませんが、それだけ重要だと考え知識の定着を図ってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		担当教員は、小学校教諭として実務経験を有しており、小学校の実際について理解し、実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回、テキストにあるアクティブラーニングの実践例に基づき、話し合い・探究活動を行う。
情報リテラシー教育		特色ある教育実践に関する情報を収集し、授業で取り上げる。出典についてきちんと明記することで、情報リテラシー教育につなげる。
ICT活用		パワーポイントを活用したプレゼンテーションを授業で取り入れるように心がける。全ての授業をteams等を使って録画し、youitubeにあげ、クラスルームで限定公開する。

講義コード	G04007001
講義名	教師・保育者論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	新開 よしみ	指定なし
教授	齋藤 義雄	指定なし

ナンバリング

P20201M21

授業概要(教育目的)

教師・保育者は、どのような仕事をしているかについて具体的に論じる。教師・保育者の指導観・保育観の基本は、「子どものためになるかどうか」である。優れた教師・保育者の実践を振り返り、教職とは何か、教職の意義とは何かを学び、理想の教師・保育者像を議論する。教師・保育者の１日や１年の仕事の具体的な内容について、教師・保育者の仕事の実態を理解させたい。反省的実践家としての教師・保育者は、日々の授業や保育を振り返り、常に改善を図っている。職場において、若手の教師・保育者が抱える悩みや不安について、アクティブラーニングを通して理解を深めたり改善策を考えたりして、教育実習・保育実習や教職への意欲の向上を図る。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	教育者・保育者の資質・能力について、いくつか具体例を挙げて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 教育者・保育者としての成長のプロセスを自分なりにイメージし、「わたしの理想の教師像・保育者像」を持つことができる。 2. 自分を振り返り、必要な知識・技能・態度について考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教育・保育のあり方についての様々な意見・考え方に関心を持ち、自分で調べたり、グループ討議に積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	自分の意見を他者に伝わるよう適切に表現しながら、ディスカッションを通して自分の考えを吟味したり、深めたりすることができる。

学習計画		
第1回	授業テーマ	専門職としての教師・保育者：プロフェッショナルとは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	専門職とは何か、保育者の制度的位置づけと職務内容の特徴や義務、倫理等について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指定された課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	保育者の役割：保育における養護と教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育者の役割について、保育所保育指針に記された養護と教育の一体性の視点から考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指定された課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	保育者の専門性：保育者になるために～実習を通した学びとは～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習の学びの概要について知る。実習に向けた自己課題ついて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指定された課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	保育者の役割：「遊び」「生活」と保育者の専門性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育者の役割について、「遊び」と「生活」の視点から考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指定された課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	保育者の役割：子ども理解と環境を通した保育実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢でいることの重要性を踏まえながら、環境を通した保育実践について考える。

	教室外学習(予習・復習)の内容	指定された課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	保育者の専門性：反省的実践家の視点
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	反省的実践家の視点から、保育者の専門性について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指定された課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	まとめと振り返り～教育者・保育者の資質向上とキャリア形成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前半：保育者間および保護者、他機関との連携や協働の視点から、保育者の専門性について考える。後半：これまでの学習を振り返り、保育者としての資質向上とキャリア形成のために必要なことについて具体的に考える。最終課題レポートの作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	指定された課題に取り組む。レポート作成の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	210分
第8回	**授業テーマ**	教職の意義：公教育の目的
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公教育の目的を学ぶとともに、「わたしの理想の教師像・保育者像」をイメージしながら、教育者・保育者の専門性とは何か、教育者・保育者になるために身につけるべき知識・技能・態度とは何かを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト『教職概論』の序章・第１章を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	教職の意義：他の職業との比較による教職の特徴の理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	他の職業との比較を通して、教職の特徴を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト『教職概論』の第２章を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	教職の職業的特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報	

第10回	リテラシー教育・ICT活用を含む)	教職の職業的特徴について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト『教職概論』の第３章を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	教員の役割：教職間の変遷
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教員の役割について考えるとともに、教職観の変遷について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト『教職概論』の第４章を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	教員の役割：教員に求められる資質 道徳
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教員の役割について考えるとともに、教員に求められる資質として、知・徳・体の徳をになう道徳について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト『教職概論』の第５章を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	教員の役割：教員に求められる資質 学習指導
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教員に求められる資質として、学習指導について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト『教職概論』の第６章を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	チーム学校運営への対応:学校内における業務
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	学校内の業務を理解するとともに、校内のチーム学校として、同僚とのチームワークや学びあい、専門職、関係機関との連携や協働の重要性について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト『教職概論』の第９章・終章を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

齋藤：毎時間のリフレクションペーパーを通して、授業内小試験の重要項目を周知する。初期の段階にレポート課題を提示することで、作成の期間を十分に取る。質問等がある場合は1628研究室まで訪問すること。
新開：提出課題等については授業内にてその都度返却し解説を行う。質問等がある場合は1635研究室（emailも可）まで訪問すること。

評価方法

齋藤：授業内小試験を実施するとともに、レポートを提出してもらう。授業に取り組む状況等については、「積極的な参加態度」として評価する。
新開：授業内小試験と最終課題レポートを主な評価対象とする。加えて、各回の授業に取り組む態度やグループワークへの参加状況等については「積極的な参加態度」として評価する。
評価のポイントに関しては、ルーブリックを提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業内小試験	○	○	○	
レポート	○	○	○	○
積極的な参加態度		○	○	
ノート（教育者論）			○	○

評価割合

授業内小試験及びレポート（80%）、リフレクションペーパー・課題・積極的な参加態度（20%）の割合で評価する。齋藤は、ノートも評価する。ノートの評価は、積極的な参加態度の一部とする。

使用教科書名(ISBN番号)

齋藤義雄『教職概論』大学図書出版 ２０２０年

参考図書

小学校学習指導要領
保育所保育指針／幼稚園教育要領／認定こども園教育・保育要領＜原本＞（平成２９年度告示）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもの教育・保育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている。
【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。
【技能・表現】子どもの専門家として社会に貢献できる。

オフィスアワー

齋藤：月曜３時限 1628研究室
新開：水曜３時限 1635研究室

学生へのメッセージ

「わたしの理想の教師像・保育者像」を考え、教育者・保育者の専門性について学ぶ授業です。自分の考えを深めるために教育・保育に関する文献を最低1冊は読みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	小学校教員としての実務経験を活かし、小学校の実態や実践事例等を具体的に教える。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを適宜取り入れる。
情報リテラシー教育	○	子どもを取り巻く諸問題について調査する過程で、的確な情報を収集し、多方面から読み解き、考察する。
ICT活用	○	パワーポイントを活用したプレゼンテーションを授業で取り入れるように心がけるとともに、授業を録画し、欠席者等にＹＯＵＴＵＢＥで公開できるように努める。（齋藤）

講義コード	G04008001
講義名	児童文化
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	吉田 久実	指定なし

ナンバリング

P10603M21

授業概要(教育目的)

わが国独自の概念として成立した児童文化について、時代と共に変化する児童文化の歴史をたどり、その重要性を問い直す。そして、子どもとおとなが共につくり、共に遊び、共に楽しみ、伝え合っていく文化を創造するにはどうしたらよいかを考える。具体的には児童文化の歩み、子どもの遊び・遊具・玩具、子どもと表現活動・造る、描く、子どもと文学・絵本、現代の子どもの生活と文化、児童文化を支え・育む活動について考察する。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	児童文化の歴史的変遷や背景に目を向けながら現在の子どもたちが置かれている状況を捉える。
思考・判断の観点 (K)	児童文化についての基本的な考え方と具体的な内容について理解する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	様々な児童文化と文化財に目を向け、広く深く考察をしたり、他者の視点にも関心を持つ。
技術・表現の観点 (A)	身近な児童文化財について学んだことを発展させ、制作や自分なりの表現につなげていく。

学習計画

	授業テーマ	児童文化と子ども
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	「児童文化」という語が形成される歴史的過程を検証し、現代の子どもたちを取り囲む文化環境に目を向け、社会史に位置づ

第1回	育・ICT活用を含む)	ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	児童文化に関するニュースなどを見つけ、児童文化について考える。
	教室外学習の時間(分)	190分
第2回	授業テーマ	子どもと遊び・ごっこ遊び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの発達過程における遊びの重要性は広く認められているが、児童文化の側面から見た遊びの重要性についても考える。みたて・つもり・ふり遊び、役割遊びなどとも言われる子どもの身近な遊びを取り上げ、文化的背景と意義を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	遊びとその重要性について自身の考えをまとめてくる。 ○○ごっこと題して、自身の幼少のころ体験したごっこ遊びについて報告するための準備をする。
	教室外学習の時間(分)	190分
第3回	授業テーマ	手遊び・歌遊び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	手と歌で繰り広げられる遊びのいろいろと、年齢に応じた楽しみ方や特徴、児童文化との関わりについても知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	秋の季節にふさわしい手遊び・歌遊びを１つ選び探して紹介できるように準備する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第4回	授業テーマ	子どもと児童文化財・おもちゃ（玩具）について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な児童文化財について知り、歴史的、文化的背景と子どもの遊びとの関連性についてみていく。以降、各文化財の理論と実践 について学ぶ。 おもちゃの文化史と意義
	教室外学習(予習・復習)の内容	玩具、絵本、紙芝居、素話（語り）、児童文学、児童劇などの中から、自身が一番興味深い作品を1つ選び、歴史的背景や子ども文化とのかかわりについて調べる。
	教室外学習の時間(分)	190分
第5回	授業テーマ	おもちゃ（玩具）で遊ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発達過程に応じた提示の仕方、遊びの展開について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の準備をし、発表後は振り返りのレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第6回	授業テーマ	絵本について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	絵本の文化史と意義
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の準備をし、発表後は振り返りのレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	190分
	授業テーマ	絵本を楽しむ

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発達過程に応じた提示の仕方、遊びの展開について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の準備をし、発表後は振り返りのレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	紙芝居について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	紙芝居の文化史と意義
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の準備をし、発表後は振り返りのレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	紙芝居を演じる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発達過程に応じた提示の仕方、遊びの展開について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表のための準備をし、発表後は振り返りのレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	お話に親しむ・子どもと児童文学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	素話・語りの文化史と意義、発達過程に応じた提示の仕方、遊びの展開について学ぶ。 日本と海外の児童文学の歴史について概観し、児童文学が子どもにもたらすもの、多様な子どもの文学とその意義について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表のための準備をし、発表後は振り返りのレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	子どもと児童劇
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の児童演劇の歴史について概観し、観劇や子どもたちの身近にある多様な劇活動とその意義について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表ための準備をし、発表後は振り返りのレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	子どもとつくる劇
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育における身近な素材（お話、教材）を使って制作した様々な子どもの劇活動について知り、実践例から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身近な素材（お話・教材）を使って保育の中で子どもと共に創作する劇遊びについて考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	絵本と遊び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第13回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	絵本から広がる子どもの遊びについての発表と振り返り。
	教室外学習(予習・復習)の内容	絵本を使った遊びの紹介をするための準備と発表後の振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	子どもと児童文化と大人（保育者） まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもに向かって提示される媒体としての側面と、子ども自ら及び大人と共に作り・伝え・育む、創造活動としての児童文化について考察する。 児童文化の社会的意義と、子どもと共にある大人、保育者のあり方を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの学習内容を振り返り、また、自身の発表などからも考え感じたことをまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

履修者数、授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。教室外学習は各自の発表準備やまとめの時間にあてる。

学生へのフィードバック方法

毎回の講義で提出するレポートを通し、質問や感想を受け付ける。質問事項に関しては、翌週の講義で解説する。

評価方法

・平常点（授業中の実績）と課題レポートの結果から判定する。
評価のルーブリックについては初回授業において説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
課題レポート	○	○	○	○

評価割合

平常点40%・課題レポート60%
（平常点は、毎回の授業での取り組み、レポート提出の状況等を総合して判断します）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学を構成する6領域を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識を修得した上で児童文化について考えることができる。
【思考・判断】児童文化からの学びを保育の実践においても応用出来、学生自らがさまざまな課題に柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】子どもたちの健全な成長・発達のために使命感を持って行動でき、子どもたちに児童文化を積極的に伝えることができる。
【技能・表現】子どもの専門家として児童文化財の選択と、児童文化の伝承に貢献できる。同時に、玩具での遊びや絵本読みなどにおいて豊かな表現力が身についている。

学生へのメッセージ

児童文化は子どもの幸せを願いながら大人とともに育まれてきました。
授業内容とそれに関わる予習・復習に加えて、児童文化に日頃から興味を持ち、幅広く情報を取り入れることを心掛けてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	児童文学、児童文化財についての研究と保育者としての経験を授業に反映させる。
アクティブ・ラーニング	○	学生が自ら考え、調べたことを生かし、それを授業内で発表することで進められる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04009001
講義名	子どもの保健
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	西田 怜子	指定なし

ナンバリング

P20001M21

授業概要(教育目的)

子どもの保健は日常生活を実践の場とし、子どもの心身の健康の保持・増進を目的としている。常に成長・発達する子どもの健康の保持・増進につとめられるよう、身体的・社会的・精神的側面から子どもの特徴や発育の過程を理解するとともに、子どもに特有な症状や疾病とその対応についての学びを深める。また、現代の複雑多様な社会背景や環境において、子どもを守る保育者の在り方を考えることを目的とする。

１．子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
２．子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。
３．子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。
４．子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。

履修条件

子どもの健やかな成長発達をめざし、子どもの健康課題について学ぼうとする意欲のあることを履修条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・子どもの身体的・社会的・精神的特徴や成長発達の過程を説明できる。 ・子どもに特有な症状や疾病と、その対応方法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	・子どもの疾患や怪我の緊急性、重症度について判断し対応できる。 ・子どもの発達段階に応じた事故予防、保育における衛生管理、危機管理、安全管理の現状を指摘し、改善策について思考することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・子どもを取り巻く社会的問題に関心を持ち、地域における子育て支援に寄与できる。

技術・表現の観点 (A)	・子どもの身体発育の評価ツールを用いて評価することができる。 ・子どもの運動発達の評価ツールを用いて評価することができる。 ・子どもの健康状態の変化を表現することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	・オリエンテーション ・保育における保健活動の意義と目的 子どもの保健の概要と範囲
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・授業の計画と内容、到達目標、評価方法を知り、本科目を学ぶ意義と目的を把握する。 ・子どもの保健で扱う範囲を知る。 ・子どもの保健の知識を保育でどのように役立てるか考える。 ・保育所保育指針における子どもの保健の位置づけを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・学習の進め方を理解し、学習計画を立てる。 ・教科書p.2～p.9を読む。 ・教科書と配布資料を確認し、自分なりにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	・子どもの健康の現状と保健 ・子どもの出生と母子保健 ・子どもの発育・発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・子どもの健康の指標と動向を知り、現代社会の子どもの健康に関する理解を深める。 ・女性の妊娠から出産の過程と胎児の発育について学ぶ。 ・女性の健康支援や母子保健の意義について理解する。 ・成長と発達の一般的原則を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・教科書p.12～p.13を読む。 ・振り返りの問題に取り組む。 ・教科書と配布資料を確認し、自分なりにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	子どもの発育・発達 新生児・乳児
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・新生児期・乳児期における形態的、運動的、精神機能、生理的発達を理解する。 ・原始反射と自動運動の発達過程を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・教科書p.12～p.33を読む。 ・振り返りの問題に取り組む。 ・教科書と配布資料を確認し、自分なりにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	子どもの発育と発達 幼児期
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・幼児期における形態的、運動的、精神機能、生理的発達を理解する。 ・愛着形成、認知発達について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・教科書p.12～p.33を読む。 ・教科書と配布資料を確認し、自分なりにまとめる。

	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	・子どもの発育と発達 学童期 ・子どもの成長・発達の評価 ・子どもの身体計測
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・学童期における形態的、運動的、精神機能、生理的発達を理解する。 ・成長、発達の評価方法について理解する。 ・発達段階に応じた身体計測の方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・教科書p.12～p.44を読む。 ・振り返りの問題に取り組む。 ・教科書と配布資料を確認し、自分なりにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	子どもの健康と養育環境
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・子どもの安全な養育環境について理解する。 ・子どもの特性と基本的生活習慣、しつけについて理解する。 ・発達段階に応じた適切な養育方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・教科書p.46～p.80、82～85を読む。 ・振り返りの問題に取り組む。 ・教科書と配布資料を確認し、自分なりにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	**授業テーマ**	子どもの病気と保育（１）子どもの健康状態の把握と体調の変化への対応
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・子どもの健康状態の観察ポイントを知り、日々の観察方法を理解する。 ・子どもに特有な症状について学ぶ。 ・病児保育の記録表の見方や書き方を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・振り返りの問題に取り組む。 ・教科書と配布資料を確認し、自分なりにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	子どもの病気と保育（２）子どもの免疫と感染症
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・子どもの免疫の発達について理解する。 ・子どもに多い感染症の種類や特徴を理解する。 ・感染症の症状と対応について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・教科書p.106～p.158を読む。 ・振り返りの問題に取り組む。 ・教科書と配布資料を確認し、自分なりにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	子どもの病気と保育（３）感染症の予防と対応
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・感染症の発生の原因を知り、感染症対策や保育の場における環境作りについて理解する。 ・子どもの予防接種について理解する。
		・教科書p.106～p.158を読む。

	教室外学習(予習・復習)の内容	・振り返りの問題に取り組む。 ・教科書と配布資料を確認し、自分なりにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	子どもの病気と保育（４)急を要する子どもの疾患や怪我
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・子どもの救急疾患や怪我の特徴と対応方法を理解する。 ・事故を起こしやすい子どもの特徴や子どもに多い事故を理解する。 ・安全な子どもの環境について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・教科書p.86～p.104を読む。 ・振り返りの問題に取り組む。 ・教科書と配布資料を確認し、自分なりにまとめる。 【課題レポート】保育の現場における昨今の子どもの事故についての考察
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	子どもの病気と保育（５)子どものアレルギー疾患の特徴と対応
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・子どものアレルギーの特徴や種類、対応方法を理解する。 ・集団生活におけるアレルギーの子どもへの対応について考える。 ・エピペンの使い方を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・教科書p.126～p.133を読む。 ・振り返りの問題に取り組む。 ・教科書と配布資料を確認し、自分なりにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	子どもの病気と保育（６)子どもの慢性疾患の特徴と対応
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・子どもの慢性疾患の特徴を理解し、保育の方法を考える。 ・慢性疾患を抱える子どもの保護者への支援の方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・教科書p.134～p.146を読む。 ・振り返りの問題に取り組む。 ・教科書と配布資料を確認し、自分なりにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	**授業テーマ**	障害をもつ子どもと家族への支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・障害の概念について理解する。 ・障害を伴う疾病、症状とそのケアについて学ぶ。 ・医療的ケアの方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・教科書p.160～p.186を読む。 ・振り返りの問題に取り組む。 ・教科書と配布資料を確認し、自分なりにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	・子どもの虐待防止

第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・子どもの虐待の現状と、虐待防止の取り組みを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・教科書p.188～p.194を読む。 ・振り返りの問題に取り組む。 ・教科書と配布資料を確認し、自分なりにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第15回	授業テーマ	保育における保健活動の総括
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・母子健康手帳の健康の記録の見方を理解する。 ・事例に基づく健康障害のある子どもの観察とケア方法について考える。 ・保護者との情報共有の内容や方法について理解する。 ・保育現場と医療現場の連携、地域連携、保護者連携について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・これまで学んだ教科書や資料を見直す。 ・配布資料を確認し、自分なりにまとめる
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

・授業の進捗状況により授業テーマが前後することもある。その場合は事前に知らせる。

学生へのフィードバック方法

・振り返りの問題は、授業にて解説する。
・課題レポートは返却する。
・その他、授業に関する疑問点等についてはメール等で返信する。

評価方法

・定期試験、課題レポートにより総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
振り返り	○	○	○	○
課題レポート	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	○

評価割合

定期試験60%
課題レポート40%

使用教科書名(ISBN番号)

・子どもの保健 演習 改定第2版 編集 大西文子 中山書店 （ISBN 978-4-521-74458-2）

参考図書

・授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト 改訂第２版 小林美由紀編著 診断と治療社 2021年：ISBN978-4-7878-2531-5
・授業で現場で役に立つ！子どもの健康と安全演習ノート 改訂第２版 小林美由紀編著 診断と治療社 2021年
・これならわかる！子どもの保健演習ノート 改訂第３版 榊原洋一監修 診断と治療社 2016年
・やるべきことがすぐわかる 今日から役立つ改訂版保育園の保健のしごと 東社協保育士会保健部会／編 株式会社赤ちゃんとママ社 2020
・子どもの保健演習 改訂第２版 大西文子編集 中山書店 2017年

・子どもの保健 改訂第３版 渡辺博編著 中山書店 2017年

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「子どもの健康」を理解し、子どもの健康と健やかな成長発達に関する専門的な知識が修得できる。
【思考・判断】家族、地域と協働しながら子どもの健やかな成長発達を支援するための感性を培うことができる。
【関心・意欲・態度】多様化する子どもの健康課題や問題に関心を持って取り組み、子どもの健やかな成長発達のために使命感を持って行動できる。

オフィスアワー

なし

学生へのメッセージ

・配布資料を自分なりに工夫してファイリングすること。
・専用のノートを作成し、自分なりに授業内容をまとめること。
・授業で習った内容を復習し定着を図るため、各章の終わりにある振り返り問題を行うこと。
・課題レポート類の提出は期日を厳守すること。
・現代の子どもに関する諸問題について常に調べ、学んだことを踏まえながら自分なりに考察すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	小児病棟や小児外来における小児看護経験を用いることにより、子どもの保健に関して具体的に解説していく。
アクティブ・ラーニング	○	適宜グループディスカッションを取り入れ、各自の考えを発現し、グループ内における意見を統合し発表を行い、クラスで共有する時間を設ける。
情報リテラシー教育		子どもの体の仕組みや子どもへの日常生活のケア方法など適宜動画を活用する
ICT活用		

講義コード	G04010001
講義名	卒業研究Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P40001M22

授業概要(教育目的)

子どもの福祉と保育，心理と発達，健康と環境，文化と社会，生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から，先行研究をふまえつつ自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。中間報告会では，これまでの研究成果をプレゼンテーションし，卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

評価割合

平常点（60%），中間報告（プレゼンテーション）（40%）による総合評価。
（平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）

学生へのメッセージ

3年次後期に指導教員を決めるので，それまでに自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また，4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため，指導教員と連絡を密に取りながら，計画的に研究のための時間を十分に確保して，一歩一歩研究が進められる

ように努力しよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04010002
講義名	卒業研究Ａ（松山）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P40001M22

授業概要(教育目的)

子どもの福祉と保育，心理と発達，健康と環境，文化と社会，生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から，先行研究をふまえつつ自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。中間報告会では，これまでの研究成果をプレゼンテーションし，卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。

履修条件

卒業研究の履修には、3年次終了までに、90単位以上を取得していることが履修条件となる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自身の研究テーマに関連する社会的課題や、先行研究で示された知見を説明することができる。 自身の研究テーマの課題や方法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	社会的背景と先行研究、自身の研究との繋がりを指摘することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自身で研究テーマを設定し、主体的に研究活動に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	プレゼンテーションや文章を用いた論述から、自身の研究テーマを分かりやすく他者に伝えることができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・授業の進め方、スケジュール等について確認する。 ・研究論文の構成を学ぶ。 ・研究テーマ設定を見直す
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）児童学研究ゼミBで設定した自身の研究テーマと計画を再確認しておくこと。 （復習）次週の発表に向けて研究テーマに対する考えをまとめておくこと。

	教室外学習の時間（分）	190
第2回	**授業テーマ**	報告会①研究テーマの設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・自身の設定した研究テーマを扱う理由を改めて検討し、その結果がどのような貢献に繋がるのかを含めて発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）発表に向けた準備を進めておくこと。 （復習）発表で指摘された内容を記録し、検討しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	先行研究の検討（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の関心のある領域の先行研究をレビューし、知見をまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）その日に扱う先行研究を検索しておくこと。 （復習）先行研究のなかに出てきた用語などについてまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	先行研究の検討（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の関心のある領域の先行研究をレビューし、知見をまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）その日に扱う先行研究を検索しておくこと。 （復習）レビューが不足する場合は、さらにレビューを進めること。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	報告会②研究領域の知見
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の研究テーマに関連する先行研究をまとめ、領域としての知見や課題をまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）発表に向けた準備を進めておくこと。 （復習）発表で指摘された内容を記録し、検討しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	研究課題の検討（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の研究テーマに関連する先行研究のレビューと自身の研究計画を比較し、自身の研究の独創性や新規性、位置づけについて検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）先行研究のレビュー結果を整理しておくこと。 （復習）自分自身の研究の位置づけを文章にまとめていくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	研究課題の検討（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の研究テーマの背景と、それに応じた研究の目的について検討する。

第7回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	（予習）先行研究のレビュー結果で示されている社会的背景を整理しておくこと。 （復習）自分自身の研究の目的を文章にまとめていくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	研究課題の検討（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の研究テーマの目的に応じたデータの種類と収集方法、分析方法について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）先行研究のレビューで利用されているデータの種類や収集方法を整理しておくこと。 （復習）自分自身の研究の目的と方法を文章にまとめていくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	報告会③研究計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の研究テーマの背景、目的、研究の方法、予想される結果について発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）発表に向けた準備を進めておくこと。 （復習）発表で指摘された内容を記録し、検討しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	研究計画の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の研究テーマの背景、目的、研究の方法、予想される結果について、前回の発表で受けた指摘を反映して修正し、文章にまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）発表で指摘された内容を記録し、検討しておくこと。 （復習）発表で指摘された内容をを反映させた文章を作成しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	調査に向けた準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データ収集に向けて必要な手順（調査用紙の作成、依頼文章の作成、場の設定等）を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）先行研究で使用されている質問紙などの資料を確認しておくこと。 （復習）自身の研究方法に必要な資料の作成を進めること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	調査・データ収集（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査・データ収集を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）自身で作成した資料の確認・相互チェックを進めること。 （復習）収集したデータの整理・集計を進めること。

	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	調査・データ収集（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査・データ収集を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）自身で作成した資料の確認・相互チェックを進めること。 （復習）収集したデータの整理・集計を進めること。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

・意欲的に卒業研究を進めていきたいとする場合は状況に応じて授業内容を変更します。
・履修状況や研究の進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合があります。
・個々の研究テーマによる演習の他に、共通のテーマで文献の講読やディスカッションを行うことがあります。

学生へのフィードバック方法

・毎時の授業では、各学生が設定したテーマ、 方法論、そして執筆された原稿等を適宜フィードバックします。
・研究室訪問による質問も受け付けます（緊急時以外は事前連絡をください）。
・メールによる質問は随時受け付けます。
・ゼミでの連絡や資料共有は主に「Slack」で行います。

評価方法

授業への参加、卒業論文への取り組み、プレゼンテーションにより、自分自身が設定した課題に対する主体的な取り組みを総合的に評価します。
レポートやプレゼンテーション課題を課す場合、授業内で適宜にルーブリック評価表を示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
論文等の成果物	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合

平常点（40%）、成果物（30%）、中間報告（プレゼンテーション）（30%）による総合評価（平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学の6領域について総合的・専門的知識が修得できている。
【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学びあう具体的・実践的な機会を通して、自らさまざまな課題に柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー

前期：木曜2限 1605（松山研究室）
後期：金曜4限 1605（松山研究室）
要：事前アポイントメント（但し、緊急時を除く）

学生へのメッセージ

3年次までに自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい（3年次に卒業論文の作成をスタートさせた場合、4年次からもその継続的な指導を行う）。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・プロバスケットボールチーム（スポーツビジネスの経験、スポーツコーチングの経験）、特別支援学校での勤務経験、児童擁護施設での勤務経験、海外での競技経験等、活かした指導を行う。
アクティブ・ラーニング	○	・主体的にテーマを発見していく過程を重視する。 ・ゼミ生相互の発表、ディスカッションを通して研究を進め、学びを深めていく。
情報リテラシー教育	○	・文献の扱い方について、文献検索方法やデータベースの活用法、適切な引用方法について学ぶ。
ICT活用	○	・ICT・IoT機器を活用した研究機材を複数紹介する。 ・授業（卒業研究執筆に向けた一連の作業）は、PCを活用して進める。

講義コード	G04010010
講義名	卒業研究Ａ（中田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	中田 範子	指定なし

ナンバリング

P40001M22

授業概要(教育目的)

各自でテーマを決めて論文を作成する。幼児教育学研究室では、保育現場での観察研究などの方法を用いて、保育・幼児教育現場における乳幼児の生活に関わるすべてのことを研究対象としている。その際には、保育者と子どもという関係性を踏まえて、子どもを中心とした考察をすること、子どもの現在と未来がより豊かで充実したものとなるための研究を行うことを重視している。具体的には、以下のような研究内容である。
1.保育・教育方法に関する研究
2.保育・教育現場での環境や教材に関する研究
3.保育現場における事例に見られる関係性(子どもと保育者、子ども同士など)に関する研究

履修条件

所定の単位数を取得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	・各自のテーマに関連する先行研究から研究に有意な情報を判断し、論文作成に活用する。 ・各自のテーマに関連する事項を多角的な視点からとらえ、子どもを中心とした思考・判断のもとに考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	研究協力者である子どもや保護者、園関係者に対する倫理的配慮のある態度で、子どもの現在と未来に有意義な研究をすすめる。
技術・表現の観	各自のリサーチクエスチョンに適した研究方法を実現し、論文に適した文章

点 (A)	等に表現する。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究リストの作成と先行研究の活用について 卒論提出までのスケジュールの確認
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究文献リストの完成
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	研究の基本①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童学の研究に関する基本について資料に基づき検討する。先行研究を自身の研究に活用する際の視点について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「卒業研究テキスト」内の演習問題を完成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	研究の基本②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身のテーマに適した研究方法を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究法に関する文献を手掛かりに適した研究方法について検討する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	研究法①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	観察法を中心とした先行研究を参考に、各自のテーマに沿った研究デザインを作成し、発表し討議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の準備及びレジュメの作成
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	研究法②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インタビュー法を中心とした先行研究を参考に、各自のテーマに沿った研究デザインを作成し、発表し討議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の準備及びレジュメの作成
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	研究法③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文献法を中心とした先行研究を参考に、各自のテーマに沿った研究デザインを作成し、発表し討議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の準備及びレジュメの作成
	教室外学習の時間（分）	190分

第7回	授業テーマ	研究法④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テキストマイニングを用いた先行研究を参考にして、各自のテーマに沿った研究デザインを作成し、発表し討議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の準備及びレジュメの作成
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	予備調査と中間発表の概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予備調査の手続きについて検討し、各自準備を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予備調査の手続きを具体的に考え、適したフィールドを検索する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	調査研究の実際①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	観察法について、観察園での倫理的配慮及び記録、分析の視点について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	観察園への依頼文を完成し、観察研究を進める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	調査研究の実際②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インタビュー法、アンケート調査について、研究協力者への倫理的配慮及び記録、分析の視点について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	インタビューガイド、アンケート項目を作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	中間発表①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究のまとめと予備調査の結果、今後の予定について各自発表し、考察の視点、研究方法等について討議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	中間発表の準備及びpptとレジュメの作成
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	中間発表②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究のまとめと予備調査の結果、今後の予定について各自発表し、考察の視点、研究方法等について討議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	中間発表の準備及びpptとレジュメの作成
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	中間発表③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究のまとめと予備調査の結果、今後の予定について各自発表し、考察の視点、研究方法等について討議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	中間発表の準備及びpptとレジュメの作成

	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	中間発表④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究のまとめと予備調査の結果、今後の予定について各自発表し、考察の視点、研究方法等について討議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	中間発表の準備及びpptとレジュメの作成
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

授業の進行状況等により変更する可能性があります。

学生へのフィードバック方法

提出された、サブノート、発表用レジュメ等はすべて確認し、適宜添削し、コメントを付して返却する。また、基本的には個別にフィードバックをするが、クラス全体で考えたい問題については、授業内で解説をする。

評価方法

作成されたサブノート、発表用レジュメを点数化して評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
論文発表(レジュメも含む)		○	○	○
中間発表(資料も含む)		○	○	○

評価割合

論文発表50%、中間発表50%
ルーブリックに基づいて評価する。ルーブリックは授業内に提示する。

使用教科書名(ISBN番号)

無

参考図書

2020-2021 東京家政学院大学児童学科中田ゼミ卒業研究テキスト
中澤潤他：心理学マニュアル観察法. 北大路書房. 2014
秋田喜代美ほか編：はじめての質的研究法 教育・学習編. 東京図書. 2014
中坪史典編：子ども理解のメソドロジー. ナカニシヤ出版. 2012
他、適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【思考・判断】 子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、 具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に 対応できる。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する 課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために 使命感を持って行動できる。
【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。

オフィスアワー

火曜3限

学生へのメッセージ

研究を進めていく中では疑問点を持つことは大切です。疑問・質問がある場合には、遠慮せずに申し出てください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、幼稚園・保育所で教諭・保育士として実務経験を有しており、幼稚園、保育所をフィールドとした研究について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回、発表、討議を行う。
情報リテラシー教育	○	研究テーマに関連した資料を収集し、論文作成に活用する。
ICT活用	○	中間発表の際には、予備調査の結果を画像、動画等を利用し、PPTを用いて自身の研究を報告する。

講義コード	G04010011
講義名	卒業研究Ａ（新開）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	新開 よしみ	指定なし

ナンバリング

P40001M22

授業概要(教育目的)

子どもと保育にかかわる児童学関連分野から，先行研究をふまえつつ学生が自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事するよう支援する。中間報告会では，これまでの研究成果のプレゼンテーションとディスカッションを通して，卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。

履修条件

学生便覧に示された条件を満たしていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	論文の読み方や構成について理解する。
思考・判断の観点 (K)	先行研究を行いながら、研究テーマを深めたり、研究の目的と方法を検討することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に論文・文献収集を行う。 ゼミのディスカッションに主体的に参加する。
技術・表現の観点 (A)	ゼミのディスカッショにおいて、わかりやすい言葉で研究について報告したり意見を述べたりできる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業論文提出までの道のりを考える。

	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究計画について、いつ、何をどこまで明らかにしたいのかについて考えておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	**授業テーマ**	現状分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の研究テーマについての現状分析を行い、争点・論点について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマについての現状分析を行い、争点・論点を探っておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	**授業テーマ**	先行研究①文献抄読（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究を検索し、論文を精読しておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	**授業テーマ**	先行研究②文献抄読（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究を検索し、論文を精読しておく。 抄読した論文を、要約して提出する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	**授業テーマ**	先行研究③文献抄読（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。 抄読した論文を、要約して提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究を検索し、論文を精読しておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	**授業テーマ**	先行研究④文献抄読（4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究を検索し、論文を精読しておく。 抄読した論文を、要約して提出する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	**授業テーマ**	先行研究⑤発展的まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究の要約を検討する中で、各自の研究課題・研究方法を明確にしていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究の要約。 様々な調査の中から、自身のに研究にふさわしい手法を探しておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	**授業テーマ**	研究方法と手続き①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自が研究方法について発表し、全員で検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究方法について明らかにし、具体的に説明できるようにしておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	**授業テーマ**	研究方法と手続き②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画立案に向け、研究方法およびその手続きについて決定する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	研究方法を決定し、具体的な手続きについてまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	**授業テーマ**	研究骨子の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の研究計画について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究計画を立案する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	**授業テーマ**	調査・データ収集等①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討①
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	**授業テーマ**	調査・データ収集等②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討②
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	**授業テーマ**	調査・データ収集等③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討③
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	**授業テーマ**	中間報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の進捗状況について、全員が報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究の進捗状況について、PPT等を活用してプレゼンテーションの準備をしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

※履修状況や研究の進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

研究方法・内容について、受講生の課題解決に向けて、毎回の講義で相談・指導を行います。メール、および研究室訪問による質問も、随時受け付けます。

評価方法

受講生の、講義内における発表内容および中間報告について、テーマに関する先行研究の収集の状況とその整理、提出するレポートへの文章のわかりやすさ、文章構造の論理性などにより評価します。ディスカッションへの参加は、積極的に様々な課題について思考し、主体的対話的に問題解決に向かう姿勢を評価します。評価のポイントに関しては、ルーブリックを提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

先行研究の整理	○	○	○	
ディスカッションへの参加			○	
中間報告（プレゼンテーション）		○		○

評価割合

研究への取り組み・先行研究の整理（４0%）、ディスカッションへの参加（３0%），中間報告（プレゼンテーション）（３0%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
子どもと保育についての専門的知識を習得する。
【思考・判断】
子どもと直接触れ合ったり、保育者・教師などの実践から学ぶなど、具体的・実践的な学びの機会から得た知識をもとに、様々な課題に柔軟に対応できる感性と応用力をもつ。
【関心・意欲・態度】
自ら課題を見出し、それに向けて専門的知識を収集するとともに、保育参観及び子どもと関わることから学びを深める。
【技能・表現】
知識・理解をもとに、考えたことを論理的に表現する。

オフィスアワー

金曜４時限 1635研究室

学生へのメッセージ

3年次後期に指導教員を決めるので，それまでに自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また，4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため，指導教員と連絡を密に取りながら，計画的に研究のための時間を十分に確保して，一歩一歩研究が進められるように努力しよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	発表内容について全員でディスカッションを重ねることを通し、主体的・能動的に学びを深めていく。
情報リテラシー教育	○	webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。
ICT活用		

講義コード	G04010012
講義名	卒業研究Ａ（柳瀬）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	柳瀬 洋美	指定なし

ナンバリング

P40001M22

授業概要(教育目的)

子どもの福祉と保育，心理と発達，健康と環境，文化と社会，生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から，先行研究をふまえつつ自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。中間発表では，これまでの研究成果をプレゼンテーションし，卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。

履修条件

3年次終了までに90単位修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	4年間の児童学科における学びの集大成として，自ら研究課題を設定し研究計画を立てる。
思考・判断の観点 (K)	研究課題は、将来的に実務に生かすことのできる内容等、自身の興味・関心に沿うものとする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	主体的に研究活動に取り組む
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業論文提出までの道のりを考える。

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究計画について、いつ、何をどこまで明らかにしたいのかについて考えておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	問題の分析と課題領域の設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の研究テーマについての現状分析を行い、争点・論点について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマについての現状分析を行い、争点・論点を探っておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	先行研究一週目（文献抄読①）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究を検索し、論文を精読しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	先行研究二週目（文献抄読②）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究を検索し、論文を精読しておく。 抄読した論文を、要約して提出する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	先行研究三週目（文献抄読③）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究を検索し、論文を精読しておく。 抄読した論文を、要約して提出する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	先行研究四週目（文献抄読④）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究を検索し、論文を精読しておく。 抄読した論文を、要約して提出する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	先行研究のまとめと研究課題の設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究の要約を検討する中で、各自の研究課題・研究方法を明確にしていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究の要約。 様々な調査の中から、自身のに研究にふさわしい手法を探しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	研究方法，手続きの検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自が研究方法について発表し、全員で検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究方法について明らかにし、具体的に説明できるようにしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	研究方法，手続きの決定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画立案に向け、研究方法およびその手続きについて決定する。

第9回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究方法を決定し、具体的な手続きについてまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	研究計画の立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の研究計画について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究計画の立案
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	調査・データ収集等一週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討①
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	授業テーマ	調査・データ収集等二週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討②
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	調査・データ収集等三週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討③
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	授業テーマ	中間発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の進捗状況について、全員が報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究の進捗状況について、要旨原稿の書式にまとめ、プレゼンテーションの準備をしておく。
	教室外学習の時間（分）	310分

学習計画注記

※履修学生の保育・教育実習の状況によりスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業時の助言に加えて、学生一人ひとりのペースに即して、適宜コメントや助言を返す。

評価方法

受講生の、講義内における発表内容および中間報告について、テーマに関する先行研究の収集の状況とその整理、提出するレポートへの文章のわかりやすさ、文章構造の論理性などにより評価します。ディスカッションへの参加は、積極的に様々な課題について思考し、主体的対話的に問題解決に向かう姿勢を評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
先行研究の整理	○	○	○	

ディスカッションへの参加			○	
論理的思考		○		○
プレゼンテーション		○		○

評価割合

研究への取り組み・先行研究の整理（40%）、ディスカッションへの参加（30%）、中間発表（プレゼンテーション）（30%）で評価する。

参考図書

講義内で必要に応じて紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
「児童学」について、音楽・教育・文化といった領域に関する豊かな知識。
【思考・判断】
子どもと直接触れ合ったり、保育者・教師などの実戦から学ぶなど、具体的・実践的な学びの機会から得た知識をもとに、様々な課題に柔軟に対応できる感性と応用力をもつ。
【関心・意欲・態度】
自ら課題を見出し、それに向けて専門的知識を収集するとともに、保育・授業参観及び子どもと関わることから学びを深める。
【技能・表現】
知識・理解をもとに、考えたことを論理的に表現する。

オフィスアワー

水曜日5時限 1619研究室

学生へのメッセージ

3年次後期に指導教員を決めるので，それまでに自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また，4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため，指導教員と連絡を密に取りながら，計画的に研究のための時間を十分に確保して，一歩一歩研究が進められるように努力しよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は心理臨床現場での実務経験が豊富であり、学生の研究テーマが現場での実践や事例に関するものである場合に、教員の実務経験に基づく助言を、研究を進める上で生かしていく。
アクティブ・ラーニング	○	発表内容について全員でディスカッションを重ねることを通し、主体的・能動的に学びを深めていく。
情報リテラシー教育	○	・webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。 ・各自のテーマに基づいた情報収集を行い、分析・考察を行う。
ICT活用		

講義コード	G04010013
講義名	卒業研究Ａ（新海）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	新海 公昭	指定なし

ナンバリング

P40001M22

授業概要(教育目的)

「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」の6つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から, 先行研究をふまえつつ自らで研究課題を設定し, 研究方法を吟味し, 研究計画に基づいて調査・データ収集・データ分析等に従事できる力を養う。中間報告会では, これまでの研究成果をプレゼンテーションしてもらい, 卒業研究Bに向けての課題を明らかにする機会をもつ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	4年間の児童学科における学びの集大成として, 子どもをめぐる課題に対して, 自ら研究課題を設定し研究計画を立て, 主体的に研究活動に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	子どもをめぐる課題をより深め，発展させることができ, 理論と実践の融合を図り, 専門家として社会に貢献できる。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	卒業論文提出までのスケジュールや, 計画について話し合う。 自身の興味の対象について説明することで, 自身の研究テーマの方向性を明らかにする。

第1回	む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	翌週に向けての研究の準備をする（復習）。
	教室外学習の時間(分)	200分
第2回	授業テーマ	課題の分析と課題領域の設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	関心のある研究テーマおよび課題領域を知る。知ったことをゼミで報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題領域から研究テーマをを絞っていく（復習）。
	教室外学習の時間(分)	200分
第3回	授業テーマ	先行研究一週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマおよびその周辺領域の先行研究を行う。得た知見をゼミで報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究をまとめながら, 翌週に向けての研究の準備をする（予習・復習）。
	教室外学習の時間(分)	200分
第4回	授業テーマ	先行研究二週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究を重ねながら, 自身の研究テーマを焦点化していく。得た知見をゼミで報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究一週目の報告をし, 翌週に向けての研究の準備をする（予習・復習）。
	教室外学習の時間(分)	200分
第5回	授業テーマ	先行研究三週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究を重ねながら, 自身の研究テーマを焦点化していく。得た知見をゼミで報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究二週目の報告をし, 翌週に向けての研究の準備をする（予習・復習）。
	教室外学習の時間(分)	200分
第6回	授業テーマ	先行研究四週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究を重ねながら, 自身の研究テーマを焦点化していく。得た知見をゼミで報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究三週目の報告をし, 翌週に向けての研究の準備をする（予習・復習）。
	教室外学習の時間(分)	200分
	授業テーマ	先行研究のまとめと研究課題の設定

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の研究に取り組んだ動機，研究課題の背景，研究課題の設定に関する事柄をまとめたうえで, 先行研究の概要をゼミで報告することで, 自身の研究テーマと先行研究との関係性を明らかにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究に関する動機, 背景, 研究課題の設定, および先行研究について整理しなおす（予習・復習）。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	研究方法，手続きの検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の研究課題に対する研究仮説をたてる。研究仮設をゼミで報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	翌週に向けて, 仮説の妥当性について説明する資料等を集める（復習）。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	研究方法，手続きの決定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の研究課題に対する研究仮説の妥当性と検証方法について考える。考えたことをゼミで報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	集めた資料を整理し報告できるように準備する（予習）。 翌週に向けて, 仮説の妥当性を説明する資料をさらに集めたり検証方法について考える（復習）。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	仮説検証のための研究計画の立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	仮設を検証するための計画を立てる。どのような立場から，何を，どこまで，どのような方法で明らかにするのかを考える。必要な統計手法を確認する。それをゼミで報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	仮説を検証する計画概要を完成させる（復習）。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	調査・データ収集等一週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査対象者, 調査期間等の決定等, 調査やデータ収集に必要な調査票の作成等の準備を始める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査対象者, 調査期間等の決定等, 調査やデータ収集に必要な調査票の作成等の準備を進める（復習）。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	調査・データ収集等二週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査対象者, 調査期間等の決定等, 調査やデータ収集に必要な調査票の内容を完成させ, ゼミで報告する。
	教室外学習(予習・)	検証のために必要な調査票等を完成させる（予習・復習）。

	復習 の内容	
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	調査・データ収集等三週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査等により, 実際にデータを収集する。進捗状況を報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集したデータを整理する（予習・復習）。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	中間報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中間報告会にて、得られたデータの集計結果および検証に必要な統計手法等について報告する。 卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	中間報告会に向けての準備をする（予習）。 卒業研究Bに向けて, 中間報告で明らかになった課題を整理する（復習）。
	教室外学習の時間（分）	200分

学生へのフィードバック方法

毎回のゼミの時間で, 各ゼミ生に発表する機会をもってもらう。その発表に対して, ゼミ生全員で協議を行う。その協議の内容を基に, 次への課題等を教員から提案する。

評価方法

１．平常課題 30点
平常課題は毎週報告する自身の研究への取り組みや, ゼミ生同士の討論への参加の積極性等で総合的に判断する。

２．中間報告（プレゼンテーション） 60点
報告内容とプレゼンテーションを評価する。

３.ルーブリックを用いた自己評価 10点
ルーブリックを用いた自己評価を評価する。

＊平常課題, 中間報告, ルーブリックを用いた自己評価は, 下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	**知識・理解（K）**	**思考・判断（K）**	**関心・意欲・態度（V）**	**技術・表現（A）**
平常課題			○	
中間報告			○	○
ルーブリックを用いた自己評価			○	○

評価割合

平常課題（30%）, 中間報告（プレゼンテーション）（60%）, ルーブリックを用いた自己評価10点

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】子どもをめぐる課題に関心を持って取り組み, 子どもたちの健全で豊かな成長・発達のための提案ができる。

【技術・表現】子どもをめぐる課題に関する理論と実践の融合を図り, 専門家として社会に貢献できる力を有している。

オフィスアワー

前期：水曜日 12：30～14：00
後期：水曜日 12: 30～14：00

学生へのメッセージ

現実の世界にはあいまいさを含む事項が多数存在する。例えば, 人間の感情, 感性, 意思決定, 評価はその典型である。私は主に, このようなあいまいな情報や事象を, ファジィ理論や統計解析の手法を主に用いて, 定量的に取り扱う研究をしている。また, 算数•数学教育に興味をもっており, 主に教育評価, 教材構造分析, 豊かな学びあいを実現するための数学的活動に関する研究, 遊びから豊かな学びを実現させる就学前算数教育に強い関心がある。プログラミング教育にも大変関心がある。興味があれば, ぜひ1625研究室を訪問してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教員主導ではなく, ゼミ生同士で討議を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04010016
講義名	卒業研究Ａ（齋藤義）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	齋藤 義雄	指定なし

ナンバリング

P40001M22

授業概要(教育目的)

子どもの福祉と保育，心理と発達，健康と環境，文化と社会，生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から，先行研究をふまえつつ自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。なお、授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	先行研究の情報等を収集し、基礎的な理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	先行研究をふまえつつ、自らの研究課題を設定することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	研究方法を吟味し，研究計画に基づいて、調査・データ収集に意欲的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	ワード等で文書を作成する技術に習熟し、ゼミにおいて発表（プレゼンテーション）の力を向上することができる。

学習計画

卒業研究Ａ

	授業テーマ	1. オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究Ａの概要について理解できる。

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究Ａの概要について理解できる。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	授業テーマ	2（１） 問題の分析と課題領域の設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	問題の分析と課題領域を設定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	問題の分析と課題領域を設定する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	2（２） 問題の分析と課題領域の設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	問題の分析と課題領域を設定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	問題の分析と課題領域を設定する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	授業テーマ	2（３）課題の分析と課題領域の設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題の分析と課題領域を設定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の分析と課題領域を設定する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	３（１）先行研究調査一週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究を調査する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究を調査する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	３（２）先行研究調査第一週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究を調査する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究を調査する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	４（１）先行研究調査第二週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究を調査する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究を調査する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	４（２）先行研究調査第二週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究を調査する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究を調査する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	５（１）先行研究調査第三週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究を調査する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究を調査する。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	５（２）先行研究調査第三週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	

第10回	用を含む)	先行研究を調査する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究を調査する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	授業テーマ	６（１）先行研究調査第四週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究を調査する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究を調査する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	授業テーマ	６（２）先行研究調査第四週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究を調査する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究を調査する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	授業テーマ	７（１）先行研究のまとめと研究課題の設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究のまとめと研究課題を設定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究のまとめと研究課題を設定する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	授業テーマ	７（２）先行研究のまとめと研究課題の設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究のまとめと研究課題を設定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究のまとめと研究課題を設定する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第15回	授業テーマ	８（１）研究方法，手続きの検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究方法，手続きを検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究方法，手続きを検討する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第16回	授業テーマ	８（２）研究方法，手続きの検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究方法，手続きを検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究方法，手続きを検討する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第17回	授業テーマ	９（１）研究方法，手続きの決定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究方法，手続きを決定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究方法，手続きを決定する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第18回	授業テーマ	９（２）研究方法，手続きの決定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究方法，手続きを決定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究方法，手続きを決定する。
	教室外学習の時間（分）	50分

第19回	授業テーマ	１０（１）今後の研究計画の立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今後の研究計画を立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	今後の研究計画を立案する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第20回	授業テーマ	１０（２）今後の研究計画の立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今後の研究計画を立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	今後の研究計画を立案する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第21回	授業テーマ	１１（１）調査・データ収集第一週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査・データ収集を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査・データ収集を行う。
	教室外学習の時間（分）	50分
第22回	授業テーマ	１１（２）調査・データ収集第一週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査・データ収集を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査・データ収集を行う。
	教室外学習の時間（分）	50分
第23回	授業テーマ	１２（１）調査・データ収集第二週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査・データ収集を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査・データ収集を行う。
	教室外学習の時間（分）	50分
第24回	授業テーマ	１２（２）調査・データ収集第二週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査・データ収集を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査・データ収集を行う。
	教室外学習の時間（分）	50分
第25回	授業テーマ	１３（１）調査・データ収集第三週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査・データ収集を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査・データ収集を行う。
	教室外学習の時間（分）	50分
第26回	授業テーマ	１３（２）調査・データ収集第三週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査・データ収集を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査・データ収集を行う。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	１４（１）調査・データ収集第四週目

第27回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査・データ収集を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査・データ収集を行う。
	教室外学習の時間（分）	50分
第28回	授業テーマ	１４（２）調査・データ収集第四週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査・データ収集を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査・データ収集を行う。
	教室外学習の時間（分）	50分

学生へのフィードバック方法

ゼミでは、毎回研究に関する進捗状況を確認し、質疑・応答のコミュニケーションを通して、今後の指針を学生に伝えていく。レポートに関しては、内容に関する修正案を提案する。

評価方法

ゼミは、出席するのが当たり前である。平常点は毎週の授業への積極的な参加，研究への取り組みや討論への積極的な参加が望まれる。また、卒業研究の２万字に対し、前期終了時点で１万字程度記述することが望ましい。

ルーブリックで評価する場合は、授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
レポート		○		

評価割合

平常点（５０%），レポート（５０%）による総合評価。
（平常点は毎週の授業への積極的参加，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

特になし。

参考図書

各自に伝える。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】先行研究の情報等を収集し、基礎的な理解を深める。
【思考・判断】自ら様々な課題に柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
【技術・表現】ワード等で文書を作成する技術に習熟し、ゼミにおいて発表（プレゼンテーション）の力を向上することができる。

オフィスアワー

ゼミの前後 １６２８研究室

学生へのメッセージ

3年次までに、自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また，4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため，指導教員と連絡を密に取りながら，計画的に研究のための時間を十分に確保して，一歩一歩研究が進められるように努力することが望まれ

る。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	小学校・中学校の教員としての経験を伝えるとともに、幼稚園・保育園・認定こども園・児童養護施設等の巡回訪問の経験を伝えている。
アクティブ・ラーニング	○	卒業研究のテーマに関して、話し合い（コミュニケーション）を通して、理解の深化を図っている。
情報リテラシー教育	○	先行研究の調査において、適切な引用の在り方を学んでいる。
ICT活用	○	調査やデータ収集の結果を、パソコン等で適切に処理している。

講義コード	G04010019
講義名	卒業研究Ａ（立川）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	立川 泰史	指定なし

ナンバリング

P40001M22

授業概要(教育目的)

子どもの福祉と保育，心理と発達，健康と環境，文化と社会，生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から，先行研究をふまえつつ自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。中間報告会では，これまでの研究成果をプレゼンテーションし，卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	児童学の専門的な知識に基づく視点をもち、主体的に設定した研究課題の背景・目的・内容・方法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	自らの研究課題に関する問題意識を明確にし、先行研究や調査結果を整理・考察を通して課題解決に向けた提案や根拠を説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らの問題意識を基に今日的課題を解決することに関心をもち、研究の倫理・人権・法令に準拠した探究活動を実践できる。
技術・表現の観点 (A)	研究課題の探究について、適切な調査方法に基づく調査・分析・考察・論述の基本的な技能を有している。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	問題意識に沿い、課題化に向けた問題の精選や分析の可能性を検討・考察する。各自の問題意識をメンバーで共有し、質疑応答を通して問題設定の意味や価値について明らかにする。

第1回	を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自の問題意識を整理し、先行研究の有無や調査対象について説明できるようにしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	問題の分析と課題領域の設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	着目した問題の本質化を試み、課題領域、参考文献の検索領域を明らかにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	問題に関する先行研究（論文・著書・事例）をあげ、メンバーに提示できるように資料の準備をしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	先行研究一週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究の検索・精選・整理を行う。基本事項を記録し、参照・集積する手段を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考テキスト「卒業研究のいろは（ゼミ版）」を参照し、参考資料・先行研究文献の基本情報を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	先行研究二週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究の検索・精選・整理を行う。基本事項を記録し、参照・集積する手段を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考テキスト「卒業研究のいろは（ゼミ版）」を参照し、参考資料・先行研究文献の基本情報を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	先行研究三週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究の検索・精選・整理を行う。対人調査の対象や内諾方法の計画、研究倫理に伴う人権や個人情報の取扱いについて確認する。基本事項を記録し、参照・集積する手段を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査対象に対して内諾と依頼書を作成する。 参考テキスト「卒業研究のいろは（ゼミ版）」を参照し、参考資料・先行研究文献の基本情報を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	先行研究四週目

第6回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究の検索・精選・整理を行う。基本事項を記録し、参照・集積する手段を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考テキスト「卒業研究のいろは（ゼミ版）」を参照し、参考資料・先行研究文献の基本情報を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	先行研究のまとめと研究課題の設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究について文献・資料の有効性や有意性を検討し、討論や質疑を通して研究課題や目的を明らかにする。 問題意識を疑問文にした資料を基に、研究主題・副題の趣旨を表す文言を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集した文献・資料の要約一覧を作成しながら、文献相互の重要度や主従関係を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	研究方法，手続きの検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題に関わる実態や解決策を調査する対象や方法について検討する。調査の対象施設や調査依頼のスケジュール、具体的な調査手段などについて実施の準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査の対象・事象を精選し、調査と分析方法に応じた計画案を仮作成しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	研究方法，手続きの決定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題に関わる実態や解決策を調査する対象や方法を決定する。調査の対象施設や調査依頼のスケジュール、具体的な調査手段などの実施手続きを確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査と分析方法に応じた計画案に沿って、依頼状や調査日程、必要となる調査用具を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	研究計画の立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで検討した調査の内容や方法、調査日程を確認し、研究計画を作成する。調査を分析・考察する際に参照できる文献・資料を確認し、必要な情報処理機器類の準備を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考テキスト「卒業研究のいろは（ゼミ版）」を参照し、調査の種類や要件を確認しておく。調査機器の取り扱い事項や人権保護の観点を中心に確認しておく。

	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	調査・データ収集等一週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に向けた調査を計画案を基に実施し、必要なデータを収集する。個人情報の取り扱いや著作権等の法令に配慮し、セキュリティーの高い保存方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	データの取り扱いについて基礎的事項を確認し、保存に適した機材や場所を準備しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	調査・データ収集等二週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題解決に向けた調査を計画案を基に実施し、必要なデータを収集する。個人情報の取り扱いや著作権等の法令に配慮し、セキュリティーの高い保存方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	データの取り扱いについて基礎的事項を確認し、保存に適した機材や場所を準備しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	**授業テーマ**	調査・データ収集等三週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した「研究計画書」を基に、研究の主題、研究の概要と背景、研究目的、研究方法、調査の目的・対象・手段、分析方法などを中心に報告する。視覚機材を用いたグループ討論や質疑を基に、不足や修正に関する事項を理解し、対策や改善をまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	データの取り扱いについて基礎的事項を確認し、保存に適した機材や場所を準備しておく。 中間発表に向けてプレゼンテーションの準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	270分
第14回	**授業テーマ**	調査・データ収集等四週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した「研究計画書」を基に、研究の主題、研究の概要と背景、研究目的、研究方法、調査の目的・対象・手段、分析方法などを中心に報告する。視覚機材を用いたメンバー全員の討論や質疑を基に、不足や修正に関する事項を理解し、対策や改善を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	データの取り扱いについて基礎的事項を確認し、保存に適した機材や場所を準備しておく。
	教室外学習の時間（分）	270分

学習計画注記

履修学生の各種実習期間の都合により、スケジュールは柔軟に変更する場合がある。

学生へのフィードバック方法

・毎回、各自の研究課題についてドキュメンテーションを行い、相互質疑や討論を中心に協働

的に取り組む。
特に、研究主題の設定理由となる社会的背景や問題意識、研究の目的と調査分析の方法について、研究の進度に沿って助言・コメントや資料や情報の提供で応答する。
・学期末には、中間報告書（研究計画と研究の概要）の提出と、各自15分程度のプレゼンテーションを求め、中間報告書は、研究主題・内容・調査方法の改善についてコメント付きで返却する。

評価方法

・毎回の報告や討論・質疑については、自他の問題意識への関心や着目点の明確さについて総合的に評価する。
・中間報告書とプレゼンテーションは、調査計画の内容や調査・分析方法の課題を観点に評価する。
特に、論文の構成について、卒業研究として設定する主題や問題意識、調査・分析・考察の内容や方法について、探究の筋道や倫理に着目し、論文構成の妥当性・主題や問題意識の独自性・社会への寄与を総合的に評価する。
・上記の観点からルーブリックを明示して評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
ドキュメンテーション・質疑		○	○	
中間報告書・プレゼンテーション	○	○		○

評価割合

平常点（60%），中間報告（プレゼンテーション）（40%）による総合評価。
（平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

各自の探求課題にそって適宜提示する。

参考図書

各自の探求課題にそって適宜提示する。
『卒業研究論文のいろは（ゼミ版）』の冊子を配布する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学を構成する領域（子どもの心理・健康・保育・教育・福祉・文化）に関する専門的な知識に基づく問題意識をもち、研究主題を設定している。
【思考・判断】研究主題に応じた研究の調査・分析・考察方法を選定し、計画を立案している。
【関心・意欲・態度】明確な問題意識をもち、研究課題の解決と提案に向かう主体性を発揮している。
【技能・表現】論文の記述や調査について、基本的な技能を有し、人権・倫理・法令を尊重して探究できる。

オフィスアワー

金曜日3限、1629研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務		担当教員は、小学校教員としての経験をもち、造形・美術教育の実践研究・開発・

経験を活かした授業	○	提案に従事した。文部科学省の学習資料作成委員や文部科学省検定教科書の編修著者として、現職教員の研修・地域行政や社会的教育機関・企業などのネットワークを生かして、今日的な課題に応じた造形教育の内容や情報を考察対象として提供する。
アクティブ・ラーニング	○	各自による研究調査の報告とメンバー間の相互主体的な討論や質疑を中心に進める。
情報リテラシー教育	○	参照する文献の検索・整理し、主題との整合性・妥当性を判断する場面で、情報処理の基本的な能力を発揮する機会をもつ。
ICT活用	○	文献の検索サイトやアプリケーションの活用、図書館での著書や資料の閲覧システムの利用、プレゼンテーションや分析データの視覚化などについて、適切なテクノロジーを効率的に運用する機会をもつ。

講義コード	G04010020
講義名	卒業研究Ａ（丹羽）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	丹羽 さがの	指定なし

ナンバリング

P40001M22

授業概要(教育目的)

発達心理学に関わる児童学関連分野から，先行研究をふまえつつ自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等が行えるようにする。中間報告会では，これまでの研究成果をプレゼンテーションし，卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・子どもの心の発達を中心とした、文化・保育・教育といった領域について総合的に理解する。 ・論文の読み方や構成について理解する。
思考・判断の観点 (K)	・複数の論文をクリティカルに読み、総合的に判断して自分の考えをまとめることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・自身のテーマに関する、関連する文献・論文等を積極的に収集する。 ・ゼミのディスカッションにおいて、主体的に意見を述べる。
技術・表現の観点 (A)	・わかりやすい文章表現ができる。 ・論理的に文章を構成することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業論文提出までのスケジュールや, 計画について話し合う。自身の興味の対象についてゼミ生たちに説明することで, 自身の研究テーマの方向性を明らかにする。
	教室外学習(予習・	自身の研究計画について、いつ、何をどこまで明らかにしたいの

	復習)の内容	かについて考えておく。
	教室外学習の時間(分)	100分
第2回	**授業テーマ**	課題の分析と課題領域の設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の研究テーマについての現状分析を行い、争点・論点について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマについての現状分析を行い、争点・論点を探っておく。
	教室外学習の時間(分)	100分
第3回	**授業テーマ**	先行研究一週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究をまとめながら, 翌週に向けての研究の準備をする。
	教室外学習の時間(分)	100分
第4回	**授業テーマ**	先行研究二週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究をまとめながら, 翌週に向けての研究の準備をする。
	教室外学習の時間(分)	100分
第5回	**授業テーマ**	先行研究三週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究をまとめながら, 翌週に向けての研究の準備をする。
	教室外学習の時間(分)	100分
第6回	**授業テーマ**	先行研究四週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究をまとめながら, 翌週に向けての研究の準備をする。
	教室外学習の時間(分)	100分
	授業テーマ	先行研究のまとめと研究課題の設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	自身の研究に取り組んだ動機，研究課題の背景，研究課題の設定

第7回	**育・ICT活用を含む)**	に関する事柄をまとめたうえで, 先行研究の概要を紹介をすることで, 自身の研究テーマと先行研究との関係性を明らかにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の研究に関する動機, 背景, 研究課題の設定, および先行研究について整理しなおす。
	教室外学習の時間(分)	100分
第8回	**授業テーマ**	研究方法，手続きの検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自が研究方法について発表し、全員で検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究方法について明らかにし、具体的に説明できるようにしておく。
	教室外学習の時間(分)	100分
第9回	**授業テーマ**	研究方法，手続きの決定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画立案に向け、研究方法およびその手続きについて決定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究方法を決定し、具体的な手続きについてまとめておく。
	教室外学習の時間(分)	100分
第10回	**授業テーマ**	研究骨子の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の研究計画について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究計画の立案
	教室外学習の時間(分)	100分
第11回	**授業テーマ**	調査・データ収集等(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討(1)
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。
	教室外学習の時間(分)	100分
第12回	**授業テーマ**	調査・データ収集等(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討(2)
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。
	教室外学習の時間(分)	100分

第13回	授業テーマ	調査・データ収集等(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討(3)
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。
	教室外学習の時間(分)	100分
第14回	授業テーマ	中間発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究の進捗状況について、PPT等を活用してプレゼンテーションの準備をしておく。
	教室外学習の時間(分)	120分

学習計画注記

履修状況や研究の進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

研究方法・内容について、受講生の課題可決に向けて、毎回の講義で相談・指導を行います。メール、および研究室訪問による質問も、随時受け付けます。

評価方法

・受講生の、講義内における発表内容および中間報告について、テーマに関する先行研究の収集の状況とその整理、提出するレポートへの文章のわかりやすさ、文章構造の論理性などにより評価します。ディスカッションへの参加は、積極的に様々な課題について思考し、主体的対話的に問題解決に向かう姿勢を評価します。
・成績評価はルーブリックに基づいて行う。ルーブリックはクラスルームまたは授業内での配布により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
先行研究の整理	○	○	○	
ディスカッションへの参加			○	
論理的思考		○		○
プレゼンテーション		○		○

評価割合

研究への取り組み・先行研究の整理（４0%）、ディスカッションへの参加（３0%），中間報告（プレゼンテーション）（３0%）で評価する。

参考図書

講義内で適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもの心の発達を中心とした、文化・保育・教育といった領域についての専門的知識を習得する。

【思考・判断】子どもと直接触れ合ったり、保育者・教師などの実戦から学ぶなど、具体的・実践的な学びの機会から得た知識をもとに、様々な課題に柔軟に対応できる感性と応用力をもつ。
【関心・意欲・態度】自ら課題を見出し、それに向けて専門的知識を収集するとともに、保育・授業参観及び子どもと関わることから学びを深める。
【技術・表現】知識・理解をもとに、考えたことを論理的に表現する。

オフィスアワー

水曜日２限

学生へのメッセージ

3年次後期に指導教員を決めるので，それまでに自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また，4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため，指導教員と連絡を密に取りながら，計画的に研究のための時間を十分に確保して，一歩一歩研究が進められるように努力しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	発表内容について全員でディスカッションを重ねることを通し、主体的・能動的に学びを深めていく。
情報リテラシー教育	○	webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。
ICT活用		

講義コード	G04010021
講義名	卒業研究Ａ（和田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	和田 美香	指定なし

ナンバリング

P40001M22

授業概要(教育目的)

子どもの福祉と保育，心理と発達，健康と環境，文化と社会，生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から，先行研究をふまえつつ自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。中間報告会では，これまでの研究成果をプレゼンテーションし，卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。

履修条件

規定の単位を満たしていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	研究の方法について理解する。
思考・判断の観点 (K)	自ら立てた問いについて、様々な可能性を考え、適切な研究方法を選択していく。
関心・意欲・態度の観点 (V)	4年間の児童学科における学びの集大成として、子どもをとりまく課題について自ら問いを立て、研究計画を立案することで、主体的に研究活動に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	子どもをめぐる課題をより深め、発展させることにより、理論と実践を癒合していく。

学習計画

卒業研究A（和田）

	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃ	卒業論文提出のスケジュールや計画について話し合

第1回	ﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	課題領域の設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	おおまかな課題領域の設定を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	先行研究の探し方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究の探し方を図書館のレクチャーも含めて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	先行研究の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゼミのメンバーに自分の先行研究を紹介しながら、自身の研究テーマを明らかにしていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	研究テーマの焦点化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究をもとに、研究テーマを焦点していく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	研究テーマと概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマと概要について、ゼミのメンバーに発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	研究の動機、背景をまとめる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の研究の動機、背景をまとめながら、先行研究を整理し直す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	研究方法、手続きの検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の研究課題に対する仮説をたて、仮説の妥当性についてゼミのメンバーに説明し討論する。

第8回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	研究方法、手続きの具体化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	資料を集め、仮説をもとに研究方法、手続きの具体化を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	研究方法、手続きの決定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の研究方法、手続きを分りやすく説明し、ゼミのメンバーで共有する。 それぞれの研究の様々な可能性について話し合う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	研究計画の立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	おおまかな研究計画を立てる。 どのような立場から、何を、どこまで、どのような方法で明らかにするのかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	調査、データ収集について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	立案した研究計画にしたがい、調査、データ収集について具体的に考えていく。 必要な調査票の作成などの準備を始める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	**授業テーマ**	調査・データ収集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査等により、実際にデータを収集する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	**授業テーマ**	中間報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの研究成果をプレゼンテーションし、卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分

学生へのフィードバック方法

毎回のゼミの時間で、各ゼミ生に発表の機会をもってもらう。その発表に対して、ゼミ生全員で協議を行い、それをもとに、次の課題を教員から助言する。

評価方法

平常点と中間報告により評価する。
また、ルーブリックに基づく成績評価をする。
（ルーブリックについては、Googleクラスルームまたは授業内での配付等により提示をする。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
中間報告			○	○

評価割合

平常点（60%），中間報告（プレゼンテーション）（40%）による総合評価。
（平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

特になし。

参考図書

特になし。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】研究の方法について理解する。
【思考・判断】自ら立てた問いについて、様々な可能性を考え、適切な研究方法を選択していく。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる課題に関心をもって取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のための提案ができる。
【技能・表現】子どもをめぐる課題に関する理論と実践の融合を図り、専門家として社会に貢献できる力を有する。

オフィスアワー

月曜日２限から４限

学生へのメッセージ

3年次後期に指導教員を決めるので，それまでに自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また，4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため，指導教員と連絡を密に取りながら，計画的に研究のための時間を十分に確保して，一歩一歩研究が進められるように努力しよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は保育所等の実務経験を有しており、子どもと関わるフィールドワークを中心に研究を行う。
アクティブ・ラーニング	○	教員主導ではなく、ゼミ生同士で討議を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04010023
講義名	卒業研究Ａ（吉永）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	吉永 早苗	指定なし

ナンバリング

P40001M22

授業概要(教育目的)

主に音楽に関連する児童学関連分野から，先行研究をふまえつつ,学生自らが研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事できるよう指導します。中間報告会では，これまでの研究成果をプレゼンテーションすることを通し，また, ゼミ仲間の研究内容・方法についても共に考えながら, 卒業研究Bに向けての課題を明らかにしていきます。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	子どもと音楽を中心とした、文化・保育・教育といった領域について総合的に理解する。 論文の読み方や構成について理解する。
思考・判断の観点 (K)	複数の論文をクリティカルに読み、総合的に判断して自分の考えをまとめることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自身のテーマに関する、関連する文献・論文等を積極的に収集する。 ゼミのディスカッションにおいて、主体的に意見を述べる。
技術・表現の観点 (A)	わかりやすい文章表現ができる。 論理的に文章を構成することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業論文提出までの道のりを考える。
		自身の研究計画について、いつ、何をどこまで明ら

	教室外学習(予習・復習)の内容	かにしたいのかについて考えておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	現状分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の研究テーマについての現状分析を行い、争点・論点について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマについての現状分析を行い、争点・論点を探っておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	先行研究①文献抄読（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究を検索し、論文を精読しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	先行研究②文献抄読（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究を検索し、論文を精読しておく。 抄読した論文を、要約して提出する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	先行研究③文献抄読（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究を検索し、論文を精読しておく。 抄読した論文を、要約して提出する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	先行研究④文献抄読（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究を検索し、論文を精読しておく。 抄読した論文を、要約して提出する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	**授業テーマ**	先行研究⑤発展的まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究の要約を検討する中で、各自の研究課題・研究方法を明確にしていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究の要約。 様々な調査の中から、自身のに研究にふさわしい手法を探しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	研究方法と手続き①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自が研究方法について発表し、全員で検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究方法について明らかにし、具体的に説明できるようにしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	研究方法と手続き②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画立案に向け、研究方法およびその手続きについて決定する。
		研究方法を決定し、具体的な手続きについてまとめ

	教室外学習(予習・復習)の内容	ておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	研究骨子の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の研究計画について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究計画の立案
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	調査・データ収集等①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討①
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	調査・データ収集等②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討②
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	**授業テーマ**	調査・データ収集等③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討③
	教室外学習(予習・復習)の内容	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	**授業テーマ**	中間発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の進捗状況について、全員が報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究の進捗状況について、PPT等を活用してプレゼンテーションの準備をしておく。
	教室外学習の時間（分）	360分

学習計画注記

履修状況や研究の進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

研究方法・内容について、受講生の課題可決に向けて、毎回の講義で相談・指導を行います。メール、および研究室訪問による質問も、随時受け付けます。

評価方法

受講生の、講義内における発表内容および中間報告について、テーマに関する先行研究の収集の状況とその整理、提出するレポートへの文章のわかりやすさ、文章構造の論理性などにより評価します。ディスカッションへの参加は、積極的に様々な課題について思考し、主体的対話的に問題解決に向かう姿勢を評価します。プレゼンテーション作成にあたっては、ルーブリックを提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
先行研究の整理	○	○	○	

ディスカッションへの参加			○	
論理的思考		○		○
プレゼンテーション		○		○

評価割合

研究への取り組み・先行研究の整理（４0%）、ディスカッションへの参加（３0%），中間報告（プレゼンテーション）（３0%）で評価する。

参考図書

講義内で紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
子どもと音楽を中心とした、文化・保育・教育といった領域についての専門的知識を習得する。
【思考・判断】
子どもと直接触れ合ったり、保育者・教師などの実践から学ぶなど、具体的・実践的な学びの機会から得た知識をもとに、様々な課題に柔軟に対応できる感性と応用力をもつ。
【関心・意欲・態度】
自ら課題を見出し、それに向けて専門的知識を収集するとともに、保育・授業参観及び子どもと関わることから学びを深める。
【技能・表現】
知識・理解をもとに、考えたことを論理的に表現する。

オフィスアワー

火曜日 ３限 1601

学生へのメッセージ

3年次後期に指導教員を決めるので，それまでに自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また，4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため，指導教員と連絡を密に取りながら，計画的に研究のための時間を十分に確保して，一歩一歩研究が進められるように努力しよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	発表内容について全員でディスカッションを重ねることを通し、主体的・能動的に学びを深めていく。
情報リテラシー教育	○	webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。
ICT活用	○	タブレット型PCやアプリケーション、視聴覚機器などを課題解決に用いる学習を通して、チームアプローチによる討論や対話の深まりを体験的に理解する。

講義コード	G04010024
講義名	卒業研究Ａ（末松）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	末松 加奈	指定なし

ナンバリング

P40001M22

授業概要(教育目的)

子どもの福祉と保育，心理と発達，健康と環境，文化と社会，生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から，先行研究をふまえつつ自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。中間報告会では，これまでの研究成果をプレゼンテーションし，卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。

履修条件

規定の単位を満たしていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	研究の方法について理解する。
思考・判断の観点 (K)	自ら立てた問いについて、様々な可能性を考え、適切な研究方法を選択していく。
関心・意欲・態度の観点 (V)	4年間の児童学科における学びの集大成として、子どもをとりまく課題について自ら問いを立て、研究計画を立案することで、主体的に研究活動に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	子どもをめぐる課題をより深め、発展させることにより、理論と実践を癒合していく。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業論文提出のスケジュールや計画について話し合う。

第1回	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	問題の分析と課題領域の設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマおよび課題領域を決める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	授業テーマ	先行研究一週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゼミのメンバーに先行研究を紹介しながら、課題領域に関する理解を深め、研究テーマを焦点化していく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	授業テーマ	先行研究二週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゼミのメンバーに先行研究を紹介しながら、課題領域に関する理解を深め、研究テーマを焦点化していく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	授業テーマ	先行研究三週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゼミのメンバーに先行研究を紹介しながら、課題領域に関する理解を深め、研究テーマを焦点化していく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	授業テーマ	先行研究のまとめと研究課題の設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の研究に取り組んだ動機、研究課題の背景等をまとめ、各自の研究目的・研究方法を明確にしていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	授業テーマ	研究方法、手続きの検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自が研究方法について発表し、全員で検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	研究方法、手続きの決定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画立案に向け、研究方法およびその手続きについて決定する。

第8回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	**授業テーマ**	研究計画の立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の研究計画について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	100分
第10回	**授業テーマ**	調査・データ収集等一週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	**授業テーマ**	調査・データ収集等二週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	**授業テーマ**	調査・データ収集等三週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	**授業テーマ**	調査・データ収集等四週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	**授業テーマ**	中間報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの研究成果を発表し（PCを使用）、卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

※履修学生の保育・教育実習の状況によりスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

毎回のゼミの時間で、各ゼミ生に発表の機会をもってもらう。その発表に対して、ゼミ生全員で協議を行い、それをもとに、次の課題を教員から助言する。

評価方法

平常点（60%），中間報告（プレゼンテーション）（40%）による総合評価。
（平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）
・ルーブリックに基づく成績評価である。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
中間報告			○	○

評価割合

平常点（60%），中間報告（プレゼンテーション）（40%）による総合評価。
（平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

講義内で必要に応じて紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】研究の方法について理解する。
【思考・判断】自ら立てた問いについて、様々な可能性を考え、適切な研究方法を選択していく。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる課題に関心をもって取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のための提案ができる。
【技能・表現】子どもをめぐる課題に関する理論と実践の融合を図り、専門家として社会に貢献できる力を有する。

オフィスアワー

火曜２限

学生へのメッセージ

3年次後期に指導教員を決めるので，それまでに自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また，4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため，指導教員と連絡を密に取りながら，計画的に研究のための時間を十分に確保して，一歩一歩研究が進められるように努力しよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教員主導ではなく、ゼミ生同士で討議を行う。
情報リテラシー教育	○	文献を検索・整理し、主題との整合性・妥当性を判断する中で、情報リテラシーを育む機会をもつ。
ICT活用		

講義コード	G04010025
講義名	卒業研究Ａ（原田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	原田 晋吾	指定なし

ナンバリング

P40001M22

授業概要(教育目的)

子どもの福祉と保育，心理と発達，健康と環境，文化と社会，生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から，先行研究をふまえつつ自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。中間報告会では，これまでの研究成果をプレゼンテーションし，卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。

履修条件

学生便覧の履修規定「卒業研究 ④現代生活学部児童学科卒業研究内規第６条」に示されている通り、研究の履修に際しては、３年次終了までに、90単位以上取得していることが履修条件となる。
（90単位に満たない場合は、90単位取得後、次の学期により研究を開始することができる。）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自ら立てたテーマに関する先行研究をまとめ、自身の研究を位置付けることができる。
思考・判断の観点 (K)	先行研究で得られた結果や自身の研究活動で収集したデータに基づいた考察ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	関心のあるテーマについて研究課題を設定し、研究計画を立て、研究活動に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	自身の論文の内容と構成を十分理解し、要旨について簡潔に説明することができる。 研究発表の場で効果的なプレゼンテーションを行うことができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・卒業論文を書き進めるために必要な工程を知る ・卒業論文提出までのスケジュールを確認する ・研究倫理について要点を確認する ・関心のあるテーマについて報告する
	教室外学習(予習・復習)の内容	・卒業論文提出までのスケジュールを確認し、自身の計画を立てる（復習） ・関心のあるテーマについて書かれてある書籍を１冊読む（予習）
	教室外学習の時間（分）	復習30分 予習150分
第2回	**授業テーマ**	論文の構造を知る
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・論文を構成する３つの柱（問い・論証・主張）を知る。 ・論文執筆の際の流れ（問題提起→論証→結論）を知る。 ・先行研究や文献を読むときの注意点を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・論文の構造について学んだことをまとめる（復習） ・関心のあるテーマについて書かれてある書籍を１冊読む（予習）
	教室外学習の時間（分）	復習30分 予習150分
第3回	**授業テーマ**	研究テーマを絞り込む① 問いの定式化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・関心のあるテーマを報告する ・テーマについて書かれてある文献を紹介し、関心を持った理由について報告する ・「問いの定式化」について学び、具体的な問いに絞り込む方法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	・関心のあるテーマについて書かれてある書籍を読み直す（復習） ・各自で「問いの定式化」のための作業を進める（予習）
	教室外学習の時間（分）	復習 90分 予習 90分
第4回	**授業テーマ**	研究テーマを絞り込む② 問いに対する自らの主張を設定する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・絞り込んだ研究テーマについて報告する。 ・掲げた研究テーマについて、自身の主張を報告する。 ・絞り込んだ研究テーマに対する自らの主張が論証可能か検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・絞り込んだ研究テーマの内容について書かれた文献を探す（復習） ・複数の文献を読み、自身の研究テーマについて明らかにされていることを知る（予習）
	教室外学習の時間（分）	復習 30分 予習150分
	授業テーマ	文献検索の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・先行研究や文献検索の方法について学ぶ （図書館OPAC、 ILL、文献データベースの活用）

第5回	教室外学習(予習・復習)の内容	・実際に文献収集を行う（復習） ・取り寄せた文献に目を通す（予習）
	教室外学習の時間（分）	復習 120分 予習 60分
第6回	授業テーマ	卒業論文のアウトライン作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・論文の構成要素（タイトル、要約、本文、まとめ、参考文献）を知る。 ・研究課題として取り上げる問いについて、さまざまな疑問をぶつけることで複数の論点をあげる。 ・卒業論文の骨子となるアウトラインの作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・研究課題にぶつける疑問を複数想定し、事前に自分なりの答えを書き出しておく（復習：詳細は授業内で説明） ・最も興味のある論点を選び、インターネットを用いてそれに関する情報を収集しておく（予習）
	教室外学習の時間（分）	復習 90分 予習 90分
第7回	授業テーマ	研究デザイン検討会資料の作成①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・作成したアウトラインに沿って、定式化した研究課題を文章でまとめる ・研究課題に対する自身の主張を論証するための方法について検討する ・「タイトル、はじめに（問題提起）、方法、参考文献」で構成される研究デザイン検討会資料作成に取り掛かる。 ・資料作成に必要な先行研究を収集し、精読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・研究デザイン検討会資料を作成する（復習・予習）
	教室外学習の時間（分）	復習/予習 180分
第8回	授業テーマ	研究デザイン検討会資料の作成②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・作成したアウトラインに沿って、定式化した研究課題を文章でまとめる ・研究課題に対する自身の主張を論証するための方法について検討する ・「タイトル、はじめに（問題提起）、方法、参考文献」で構成される研究デザイン検討会資料作成に取り掛かる。 ・資料作成に必要な先行研究を収集し、精読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・研究デザイン検討会資料を作成する（復習・予習）
	教室外学習の時間（分）	復習/予習 180分
第9回	授業テーマ	研究デザイン検討会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・資料に基づき、現段階の研究計画を発表する（１人10分程度で） ・他のゼミと合同で実施し、発表を受けて出た質問や意見に回答する ・検討会で出た意見等から、自身の研究課題や研究の方法について検討する
	教室外学習(予習・復習)の内容	・研究デザイン検討会資料を作成する（復習） ・検討会で出た意見を書き出し、今後の課題や改善点について記入する（予習）
		復習 90分

	教室外学習の時間（分）	予習 90分
第10回	**授業テーマ**	先行研究の収集①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・定式化した研究課題を論じるうえで必要となる情報は何かについて検討する（グループワーク） ・論文のアウトライン上に先行研究を位置付け、論じる順序について整理する ・既に収集した参考文献の引用欄や、情報データベースを用いて、参考文献を収集する
	教室外学習(予習・復習)の内容	・参考文献を収集し、精読する（復習・予習）
	教室外学習の時間（分）	復習/予習 180分
第11回	**授業テーマ**	先行研究の収集②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・定式化した研究課題を論じるうえで必要となる情報は何かについて検討する（グループワーク） ・既に収集した参考文献の引用欄や、情報データベースを用いて、参考文献を収集する ・入手した参考文献の要旨を紹介し、自身の研究との関係について報告する（グループワーク） ・論文のアウトライン上に先行研究を位置付け、論じる順序について整理する
	教室外学習(予習・復習)の内容	・参考文献を収集し、精読する（復習・予習）
	教室外学習の時間（分）	復習/予習 180分
第12回	**授業テーマ**	先行研究の収集③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・定式化した研究課題を論じるうえで必要となる情報は何かについて検討する（グループワーク） ・既に収集した参考文献の引用欄や、情報データベースを用いて、参考文献を収集する ・入手した参考文献の要旨を紹介し、自身の研究との関係について報告する（グループワーク） ・論文のアウトライン上に先行研究を位置付け、論じる順序について整理する
	教室外学習(予習・復習)の内容	・参考文献を収集し、精読する（復習・予習）
	教室外学習の時間（分）	復習/予習 180分
第13回	**授業テーマ**	先行研究の収集④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・定式化した研究課題を論じるうえで必要となる情報は何かについて検討する（グループワーク） ・既に収集した参考文献の引用欄や、情報データベースを用いて、参考文献を収集する ・入手した参考文献の要旨を紹介し、自身の研究との関係について報告する（グループワーク） ・論文のアウトライン上に先行研究を位置付け、論じる順序について整理する
	教室外学習(予習・復習)の内容	・参考文献を収集し、精読する（復習・予習）
	教室外学習の時間（分）	復習/予習 180分
	授業テーマ	アカデミックライティング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・学術的文章や学術的文章を書く技術について学ぶ ・一文一義、主語と述語、パラグラフライティングについて、例文を参照しながら学ぶ ・これまでに執筆した文章のセルフチェックを行い、必

第14回		要な箇所を修正する
	教室外学習(予習・復習)の内容	・授業で学んだアカデミックライティングの要点をまとめる（復習） ・これから執筆する文章に、学んだことを反映させる（予習）
	教室外学習の時間（分）	復習 120分 予習 60分

学習計画注記

参考文献の収集や論文執筆の進捗状況により、スケジュールを変更して授業を進める場合がある。

学生へのフィードバック方法

研究課題の設定、参考文献の収集、アウトラインの作成、報告資料の作成、執筆内容、文書校正等について、適宜指導、助言を行う。

評価方法

授業への参加、教室外活動への取り組み状況、成果物の報告により評価する。先行研究のまとめ及びプレゼンテーションの評価に際しては、授業内でルーブリック評価表を提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
取り組みの姿勢			○	
論理的思考	○	○		○
文書表現	○	○		○
プレゼンテーション	○			○

評価割合

平常点（60%），中間報告（プレゼンテーション）（40%）による総合評価。
（平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

使用テキストなし（授業内で資料を配布）

参考図書

戸田山和久 著「新版 論文の教室」NHKブックス.2012.

ディプロマポリシーとの関連

◯知識・理解
卒業論文を作成する過程で、各自のテーマに関する先行研究を通して、子どもに関する専門的な知識の修得を目指します。

◯思考・判断
卒業論文を作成する過程で、子どもに関する問題を定式化し、その問題に対する客観的なデータを収集します。得られたデータに基づいて、問題に対する自身の主張を論じられるようになることを目指します。

◯関心・意欲・態度
論文のテーマ設定では、できるだけ具体的な問いを掲げられるように、問題の絞り込みを行います。絞り込まれた問いに対する論証や考察を通して、子どもに関する問題に関心をもち、健全で豊かな成長・発達を促す手がかりについて探究し続けられるようになることを目指します。

○技能・表現
論文を執筆するにあたり、文章表現の方法（アカデミック・ライティング）について学びます。また、ディスカッションに参加する際の主張の仕方や、研究成果を発表する際のプレゼンテーションの方法について学びます。

オフィスアワー

原田（月曜３限 1509教室）
*上記以外の時間帯は、メールにて対応します

学生へのメッセージ

毎時間の学習が自分の論文に反映されていることを実感できるように、授業を進めていきます。ゼミ内でそれぞれの研究課題を共有しながら、学外での発表も視野に入れて、研究活動を進めていきましょう。

本科目の担当者は、特別支援教育を専門としており、特に知的障害者や発達障害者の支援方法や指導技法に興味を持っています。また、基本的には量的研究の手法を用いた卒業研究の取り組みを推奨しています。履修するにあたって相談したいことがある場合は、事前にメールで連絡の上1509教室までお訪ねください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	・ゼミ学生同士で研究課題を共有し、グループワーク（討議）を通して研究の切り口を探索したり、論証の方法について検討します。論文の内容のみでなく、論文執筆の進捗状況等についても共有しながら授業を進めます。 ・研究デザイン検討会、中間発表など、進捗状況について定期的に発信する機会を設定します。
情報リテラシー教育	○	・参考文献を入手するための文献データベース等の利用方法について学びます。 ・効果的なプレゼンテーションを実行するために、プレゼンテーションソフトの利用方法を学習します。
ICT活用	○	・論文執筆や収集したデータの整理は、原則PCを利用して行います。操作方法等について適宜指導を行います。 ・学習履歴を残しておくためにSlackを利用する予定です。

講義コード	G04010026
講義名	卒業研究Ａ（佐藤）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	佐藤 冬果	指定なし

ナンバリング

P40001M22

授業概要(教育目的)

子どもの福祉と保育，心理と発達，健康と環境，文化と社会，生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から，先行研究をふまえつつ自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。中間報告会では，これまでの研究成果をプレゼンテーションし，卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。

履修条件

卒業研究の履修には、3年次終了までに、90単位以上を取得していることが履修条件となります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自身の研究テーマに関連する社会的課題や、先行研究で示された知見を説明することができる。 自身の研究テーマの課題や方法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	社会的背景と先行研究、自身の研究との繋がりを指摘することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自身で研究テーマを設定し、主体的に研究活動に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	プレゼンテーション等において、自身の研究テーマを分かりやすく他者に伝えることができる。

学習計画

		オリエンテーション

第1回	授業テーマ	研究テーマの設定 倫理審査について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・授業の進め方、スケジュール等について確認する。 ・自身の設定した研究テーマを扱う理由を改めて検討し、その結果がどのような貢献に繋がるのかを含めて発表する。 ・自身の計画している研究計画において求められる倫理的配慮と、それに伴う手続きについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）児童学研究ゼミBで設定した自身の研究テーマと計画を再確認しておくこと。 （復習）発表で指摘された内容を記録し、検討しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	授業テーマ	先行研究の検討（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の関心のある領域の先行研究をレビューし、知見をまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）その日に扱う先行研究を検索しておくこと。 （復習）先行研究のなかに出てきた用語などについてまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	授業テーマ	先行研究の検討（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の関心のある領域の先行研究をレビューし、知見をまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）その日に扱う先行研究を検索しておくこと。 （復習）レビューが不足する場合は、さらにレビューを進めること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	授業テーマ	報告会②研究領域の知見
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の研究テーマに関連する先行研究をまとめ、領域としての知見や課題をまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）発表に向けた準備を進めておくこと。 （復習）発表で指摘された内容を記録し、検討しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	研究課題の検討（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の研究テーマに関連する先行研究のレビューと自身の研究計画を比較し、自身の研究の独創性や新規性、位置づけについて検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）先行研究のレビュー結果を整理しておくこと。 （復習）自分自身の研究の位置づけを文章にまとめていくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	研究課題の検討（2）

第6回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の研究テーマの背景と、それに応じた研究の目的について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）先行研究のレビュー結果で示されている社会的背景を整理しておくこと。 （復習）自分自身の研究の目的を文章にまとめていくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	授業テーマ	研究課題の検討（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の研究テーマの目的に応じたデータの種類と収集方法、分析方法について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）先行研究のレビューで利用されているデータの種類や収集方法を整理しておくこと。 （復習）自分自身の研究の目的と方法を文章にまとめていくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	報告会③研究計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の研究テーマの背景、目的、研究の方法、予想される結果について発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）発表に向けた準備を進めておくこと。 （復習）発表で指摘された内容を記録し、検討しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	研究計画の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の研究テーマの背景、目的、研究の方法、予想される結果について、前回の発表で受けた指摘を反映して修正し、文章にまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）発表で指摘された内容を記録し、検討しておくこと。 （復習）発表で指摘された内容をを反映させた文章を作成しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	調査に向けた準備（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データ収集に向けて必要な手順（調査用紙の作成、依頼文章の作成、場の設定等）を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）先行研究で使用されている質問紙などの資料を確認しておくこと。 （復習）自身の研究方法に必要な資料の作成を進めること。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	調査に向けた準備（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データ収集に向けて必要な手順（調査用紙の作成、依頼文章の作成、場の設定等）を進める。

第11回	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）先行研究で使用されている質問紙などの資料を確認しておくこと。 （復習）自身の研究方法に必要な資料の作成を進めること。
	教室外学習の時間(分)	90分
第12回	授業テーマ	調査・データ収集（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査・データ収集を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）自身で作成した資料の確認・相互チェックを進めること。 （復習）収集したデータの整理・集計を進めること。
	教室外学習の時間(分)	90分
第13回	授業テーマ	調査・データ収集（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査・データ収集を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）自身で作成した資料の確認・相互チェックを進めること。 （復習）収集したデータの整理・集計を進めること。
	教室外学習の時間(分)	90分
第14回	授業テーマ	報告会④調査結果の報告
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査・データ収集の結果など、進捗状況について報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）発表に向けた準備を進めておくこと。 （復習）発表で指摘された内容を記録し、検討しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	90分

学習計画注記

履修状況や研究の進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業において、提示された内容（テーマ設定、方法論の設定、執筆された原稿等）について適宜フィードバックを行います。
メールおよび研究室訪問による質問も随時受け付けます。

評価方法

・授業への参加、卒業論文への取り組み、成果物、プレゼンテーションにより、自分自身が設定した課題に対する主体的な取り組みを総合的に評価します。
・ルーブリックを用いた評価を行います。ルーブリックについてはクラスルームにより提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
平常点			○	

成果物	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合

平常点（40%）、成果物（30%）、中間報告（プレゼンテーション）（30%）による総合評価（平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

研究の育て方：ゴールとプロセスの「見える化」
近藤 克則 著、医学書院
ISBN 978-4-260-03674-0
定価 2,750円 （本体2,500円+税）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学の6領域について総合的・専門的知識が修得できている。
【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学びあう具体的・実践的な機会を通して、自らさまざまな課題に柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー

月曜4限 1618室

学生へのメッセージ

3年次までに自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また，4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため，指導教員と連絡を密に取りながら，計画的に研究のための時間を十分に確保して，一歩一歩研究が進められるように努力しよう。

卒業研究は、教科書には載っていない、新しい知識を自分自身で生み出す機会です。研究テーマの設定で迷わないためにも、気になることや知りたいことなど、これまでの学びや体験の中で抱いた疑問や気付きを書き留めておくことをお勧めします。また、教員の指示で動く学びではなく、自分自身で考えた方法を自分自身で遂行する学びの機会であることを理解して取り組んで頂きたいと思います。
なお、担当者の専門領域は野外教育、身体教育です。相談がある方はいつでもご連絡ください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	・教員による指示ではなく、主体的にテーマを発見していく過程を重視します。 ・ゼミ生相互の発表、ディスカッションを通して研究を進め、学びを深めていきます。
情報リテラシー教育	○	・文献の扱い方について、文献検索方法やデータベースの活用法、そして適切な引用方法について提示します。 ・論文執筆のための文章作成技法について、ワープロソフトの活用法を含めて学びます。 ・プレゼンテーションの技法について、プレゼンテーションソフトの活

		用法を含めて学びます。
ICT活用	○	・授業（卒業研究執筆に向けた一連の作業）は、PCを利用して進めます。

講義コード	G04010027
講義名	卒業研究Ａ（江田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	江田 裕介	指定なし

ナンバリング

P40001M22

授業概要(教育目的)

子どもの福祉と保育，心理と発達，健康と環境，文化と社会，生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から，先行研究をふまえつつ自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。中間報告会では，これまでの研究成果をプレゼンテーションし，卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。

履修条件

卒業研究の履修には、3年次終了までに、90単位以上を取得していることが履修条件となります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自身の研究テーマに関連する社会的課題や、先行研究で示された知見を説明することができる。 自身の研究テーマの課題や方法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	社会的背景と先行研究、自身の研究との繋がりを指摘することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自身で研究テーマを設定し、主体的に研究活動に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	プレゼンテーション等において、自身の研究テーマを分かりやすく他者に伝えることができる。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・授業の進め方、スケジュール等について確認する。 ・研究論文の構成を学ぶ。 ・研究テーマ設定を見直す
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）児童学研究ゼミBで設定した自身の研究テーマと計画を再確認しておくこと。 （復習）次週の発表に向けて研究テーマに対する考えをまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	報告会①研究テーマの設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・自身の設定した研究テーマを扱う理由を改めて検討し、その結果がどのような貢献に繋がるのかを含めて発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）発表に向けた準備を進めておくこと。 （復習）発表で指摘された内容を記録し、検討しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	先行研究の検討（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の関心のある領域の先行研究をレビューし、知見をまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）その日に扱う先行研究を検索しておくこと。 （復習）先行研究のなかに出てきた用語などについてまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	先行研究の検討（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の関心のある領域の先行研究をレビューし、知見をまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）その日に扱う先行研究を検索しておくこと。 （復習）レビューが不足する場合は、さらにレビューを進めること。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	報告会②研究領域の知見
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の研究テーマに関連する先行研究をまとめ、領域としての知見や課題をまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）発表に向けた準備を進めておくこと。 （復習）発表で指摘された内容を記録し、検討しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	研究課題の検討（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の研究テーマに関連する先行研究のレビューと自身の研究計画を比較し、自身の研究の独創性や新規性、位置づけについて検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）先行研究のレビュー結果を整理しておくこと。 （復習）自分自身の研究の位置づけを文章にまとめていく

		こと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	研究課題の検討（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の研究テーマの背景と、それに応じた研究の目的について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）先行研究のレビュー結果で示されている社会的背景を整理しておくこと。 （復習）自分自身の研究の目的を文章にまとめていくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	研究課題の検討（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の研究テーマの目的に応じたデータの種類と収集方法、分析方法について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）先行研究のレビューで利用されているデータの種類や収集方法を整理しておくこと。 （復習）自分自身の研究の目的と方法を文章にまとめていくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	報告会③研究計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の研究テーマの背景、目的、研究の方法、予想される結果について発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）発表に向けた準備を進めておくこと。 （復習）発表で指摘された内容を記録し、検討しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	研究計画の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の研究テーマの背景、目的、研究の方法、予想される結果について、前回の発表で受けた指摘を反映して修正し、文章にまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）発表で指摘された内容を記録し、検討しておくこと。 （復習）発表で指摘された内容をを反映させた文章を作成しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	調査に向けた準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データ収集に向けて必要な手順（調査用紙の作成、依頼文章の作成、場の設定等）を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）先行研究で使用されている質問紙などの資料を確認しておくこと。 （復習）自身の研究方法に必要な資料の作成を進めること。
	教室外学習の時間	200分

	（分）	
第12回	**授業テーマ**	調査・データ収集（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査・データ収集を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）自身で作成した資料の確認・相互チェックを進めること。 （復習）収集したデータの整理・集計を進めること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	調査・データ収集（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査・データ収集を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）自身で作成した資料の確認・相互チェックを進めること。 （復習）収集したデータの整理・集計を進めること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	報告会④調査結果の報告
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査・データ収集の結果など、進捗状況について報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）発表に向けた準備を進めておくこと。 （復習）発表で指摘された内容を記録し、検討しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

履修状況や研究の進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合があります。
個々の研究テーマによる演習の他に、共通のテーマで文献の講読やディスカッションを行うことがあります。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業において、提示された内容（テーマ設定、方法論の設定、執筆された原稿等）について適宜フィードバックを行います。
メールおよび研究室訪問による質問も随時受け付けます。

評価方法

授業への参加、卒業論文への取り組み、成果物、プレゼンテーションにより、自分自身が設定した課題に対する主体的な取り組みを総合的に評価します。各課題について授業内で適宜にルーブリック評価表を示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
成果物	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合

平常点（40%）、成果物（30%）、中間報告（プレゼンテーション）（30%）による総合評価（平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学の6領域について総合的・専門的知識が修得できている。
【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学びあう具体的・実践的な機会を通して、自らさまざまな課題に柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー

前期：月曜３限（江田研究室）
後期：金曜４限（江田研究室）

学生へのメッセージ

3年次までに自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また，4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため，指導教員と連絡を密に取りながら，計画的に研究のための時間を十分に確保して，一歩一歩研究が進められるように努力しよう。

卒業研究は、教科書には載っていない、新しい知識を自分自身で生み出す機会です。研究テーマの設定で迷わないためにも、気になることや知りたいことなど、これまでの学びや体験の中で抱いた疑問や気付きを書き留めておくことをお勧めします。また、教員の指示で動く学びではなく、自分自身で考えた方法を自分自身で遂行する学びの機会であることを理解して取り組んで頂きたいと思います。
なお、担当者の専門領域は野外教育、身体教育です。相談がある方はいつでもご連絡ください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	指導教員は重度障害児の教育臨床に16年間従事した経験を有します。
アクティブ・ラーニング	○	・教員による指示ではなく、主体的にテーマを発見していく過程を重視します。 ・ゼミ生相互の発表、ディスカッションを通して研究を進め、学びを深めていきます。
情報リテラシー教育	○	・文献の扱い方について、文献検索方法やデータベースの活用法、適切な引用方法について学びます。 ・オンライの教育やコミュニケーションにおける情報モラルについて学びます。 ・プレゼンテーションの技法について、プレゼンテーションソフトの活用法を含めて学びます。
ICT活用	○	・オンラインでコンテンツを共有し、基本的にペーパーレスで指導を行います。その利用方法は分かりやすく教えます。 ・授業（卒業研究執筆に向けた一連の作業）は、PCを利用して進めます。

講義コード	G04011001
講義名	卒業研究Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P40002M21

授業概要(教育目的)

卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理，分析，考察を行い，研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出する。卒業研究発表会では，最終的な研究成果を口頭で発表し，質疑応答を行う。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

評価割合

平常点（40%），研究論文（50%），研究発表（プレゼンテーション）（10%）による総合評価。
（平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）

学生へのメッセージ

卒業研究Ｂでは，卒業研究Ａの成果をさらに発展させて，１つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は，大変根気の要る作業であり，一日一日の積み重ねが非常に大切である。また，研究成果を要約した要旨の作成や，卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象となる。学生生活の締めくくりとして，ぜひ意欲的に取り組んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04011002
講義名	卒業研究Ｂ（松山）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P40001M22

授業概要(教育目的)

卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理，分析，考察を行い，研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出する。卒業研究発表会では，最終的な研究成果を口頭で発表し，質疑応答を行う。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。

履修条件

卒業研究Aの単位を取得していることが履修条件となる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自身の研究テーマに関連する社会的課題や、先行研究で示された知見を説明することができる。 自身の研究テーマの課題や方法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	社会的背景と先行研究、自身の研究との繋がりを指摘することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自身で研究テーマを設定し、主体的に研究活動に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	プレゼンテーションや文章を用いた論述から、自身の研究テーマを分かりやすく他者に伝えることができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	データの整理と検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータを整理し、進捗状況を共有する。追加調査の必要性や分析の方針を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）収集したデータを整理し、発表できるように準備しておくこと。 （復習）追加調査が必要な場合は計画を立てること。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	データの整理・分析（１）

第2回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータを整理し、分析方法について検討し、分析を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）データの整理を進めておくこと。 （復習）自身の研究に合わせた分析方法を調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	データの整理・分析（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	分析の結果を考察する。また必要に応じて図表を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）分析を進めておくこと。 （復習）図表の作成を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	執筆内容（序論）の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の背景から得られた結果までの流れを確認し、ストーリー構成を決定する。序論の執筆方針を決定し、執筆を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）研究の問いを振り返り、一貫性を持ったストーリーが構成されているかを検討すること。 （復習）序論の執筆を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	先行研究に関する章の執筆を進め、自身の研究に過不足なく必要な先行研究が提示されているかを確認する。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の研究テーマに関連する先行研究をまとめ、領域としての知見や課題をまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）一貫性を持ったストーリーに必要な先行研究が提示されているかを検討すること。 （復習）先行研究の執筆を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	執筆内容（方法）の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究方法に関する章の執筆を進め、自身の研究の方法が適切に提示されているかを確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）研究の全体を見直し、方法や手順をまとめておくこと。 （復習）方法の執筆を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	執筆内容（序論）の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の背景から得られた結果までの流れを確認し、ストーリー構成を決定する。序論の執筆方針を決定し、執筆を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）研究の問いを振り返り、一貫性を持ったストーリーが構成されているかを検討すること。 （復習）序論の執筆を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	執筆内容（考察）の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考察に関する章の執筆を進め、自身の研究の考察が適切に提示されているかを確認する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）結果と考察をまとめておくこと。 （復習）考察の執筆を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	執筆内容（結論）の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	結論に関する章の執筆を進め、自身の研究の結論が適切に提示されているかを確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）研究の全体を見直し、研究の概要や総合考察をまとめておくこと。 （復習）結論の執筆を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	論文要旨の作成（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	要旨の構成と、記述内容を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）自身の研究を振り返り、要旨に掲載するポイントを整理しておくこと。 （復習）要旨の作成を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	論文要旨の作成（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	要旨を発表し、指摘に応じて修正を加える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）要旨の作成を進めておくこと。 （復習）指摘を受けた点について修正を加えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	プレゼンテーションの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションの流れを検討し、パワーポイント資料を作成する。また、発表原稿を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）自身の研究を振り返り、発表で説明するポイントを整理しておくこと。 （復習）パワーポイント資料・発表原稿の作成を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	発表練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成したパワーポイント資料・発表原稿を用い、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）パワーポイント資料・発表原稿の作成を進め、発表練習をしておくこと。 （復習）指摘を受け、パワーポイント資料・発表原稿の修正を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	卒業研究発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究の成果を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の	（予習）発表練習をしておくこと。

	内容	（復習）質疑応答で出た質問を整理し、回答をまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

・意欲的に卒業研究を進めていきたいとする場合は状況に応じて授業内容を変更します。
・履修状況や研究の進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合があります。
・個々の研究テーマによる演習の他に、共通のテーマで文献の講読やディスカッションを行うことがあります。

学生へのフィードバック方法

・毎時の授業では、各学生が設定したテーマ、 方法論、そして執筆された原稿等を適宜フィードバックします。
・研究室訪問による質問も受け付けます（緊急時以外は事前連絡をください）。
・メールによる質問は随時受け付けます。
・ゼミでの連絡や資料共有は主に「Slack」で行います。

評価方法

授業への参加、卒業論文への取り組み、プレゼンテーションにより、自分自身が設定した課題に対する主体的な取り組みを総合的に評価します。
レポートやプレゼンテーション課題を課す場合、授業内で適宜にルーブリック評価表を示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
論文等の成果物	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合

平常点（40%）、成果物（30%）、中間報告（プレゼンテーション）（30%）による総合評価（平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学の6領域について総合的・専門的知識が修得できている。
【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学びあう具体的・実践的な機会を通して、自らさまざまな課題に柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー

前期：木曜2限 1605教室（松山研究室）
後期：金曜4限 1605教室（松山研究室）
要：事前アポイントメント（メールなど）但し、緊急時を除く

学生へのメッセージ

卒業研究Ｂでは，卒業研究Ａの成果をさらに発展させて，１つの論文としてまとめることを目指す。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・プロバスケットボールチーム（スポーツビジネスの経験、スポーツコーチングの経験）、特別支援学校での勤務経験、児童擁護施設での勤務経験、海外での競技経験等、活かした指導を行う。
アクティブ・ラーニング	○	・主体的にテーマを発見していく過程を重視する。 ・ゼミ生相互の発表、ディスカッションを通して研究を進め、学びを深める。
情報リテラシー教育	○	・文献の扱い方について、文献検索方法やデータベースの活用法、適切な引用方法について学ぶ。
ICT活用	○	・ICT・IoT機器を活用した研究機材を複数紹介する。 ・授業（卒業研究執筆に向けた一連の作業）は、PCを活用して進める。

講義コード	G04011007
講義名	卒業研究Ｂ（末松）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	末松 加奈	指定なし

ナンバリング

P40002M21

授業概要(教育目的)

卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理，分析，考察を行い，研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出する。卒業研究発表会では，最終的な研究成果を口頭で発表し，質疑応答を行う。

履修条件

卒業研究Aの単位を修得済みであること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	研究の方法について理解する。
思考・判断の観点 (K)	自ら立てた問いについて、様々な可能性を考え、適切な研究方法を選択していく。
関心・意欲・態度の観点 (V)	4年間の児童学科における学びの集大成として、子どもをとりまく課題について自ら問いを立て、研究計画を立案することで、主体的に研究活動に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	子どもをめぐる課題をより深め、発展させることにより、理論と実践を癒合していく。

学習計画

	授業テーマ	研究データの整理，分析，考察一週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究に関して、中間発表で得られた課題を明確にし、発展させる。 卒研Aで得られたデータに関してデータ分析を

第1回		進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	研究データの整理、分析、考察二週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究に関して、先週までに取り組んだ内容を報告し協議する。 得られたデータに関してデータ分析を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	授業テーマ	研究データの整理、分析、考察三週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究に関して、先週までに取り組んだ内容を報告し協議する。 得られたデータに関してデータ分析を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	授業テーマ	研究データの整理、分析、結果の整理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今までの分析結果を整理し, 報告する。その結果について協議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	授業テーマ	論文構成の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文の構成を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	授業テーマ	論文作成１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文作成で, 先週までに取り組んだを報告し協議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	授業テーマ	論文作成２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文作成で, 先週までに取り組んだを報告し協議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	論文作成３

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文作成で, 先週までに取り組んだを報告し協議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	授業テーマ	論文作成４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文作成で, 先週までに取り組んだを報告し協議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。
	教室外学習の時間（分）	100分
第10回	授業テーマ	論文作成５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文作成で, 先週までに取り組んだを報告し協議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	授業テーマ	論文要旨作成１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文全体の確認及び論文要旨の検討
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	授業テーマ	論文要旨作成２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文全体の確認及び論文要旨の検討
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	授業テーマ	発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションの内容及び発表原稿の検討 発表練習（PCを使用）
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	授業テーマ	卒業研究発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の１年間の集大成として, 卒業研究発表会で発表を行う。（PCを使用）
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表に向けた練習を行う。
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

※履修学生の保育・教育実習の状況によりスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

毎回のゼミの時間で、各ゼミ生に発表の機会をもってもらう。その発表に対して、ゼミ生全員で協議を行い、それをもとに、次の課題を教員から助言する。

評価方法

平常点（40%），研究論文（50%），研究発表（プレゼンテーション）（10%）による総合評価。
（平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）
・ルーブリックに基づく成績評価である。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
卒業研究論文	○	○		○
研究発表			○	○

評価割合

平常点（40%），研究論文（50%），研究発表（プレゼンテーション）（10%）による総合評価。
（平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

講義内で必要に応じて紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】研究の方法について理解する。
【思考・判断】自ら立てた問いについて、様々な可能性を考え、適切な研究方法を選択していく。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる課題に関心をもって取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のための提案ができる。
【技能・表現】子どもをめぐる課題に関する理論と実践の融合を図り、専門家として社会に貢献できる力を有する。

オフィスアワー

月曜３限

学生へのメッセージ

卒業研究Ｂでは，卒業研究Ａの成果をさらに発展させて，１つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は，大変根気の要る作業であり，一日一日の積み重ねが非常に大切である。また，研究成果を要約した要旨の作成や，卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象となる。学生生活の締めくくりとして，ぜひ意欲的に取り組んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教員主導ではなく、ゼミ生同士で討議を行う。
情報リテラシー		文献を検索・整理し、主題との整合性・妥当性を判断する中で、情報

教育	○	リテラシーを育む機会をもつ。
ICT活用		

講義コード	G04011008
講義名	卒業研究Ｂ（原田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	原田 晋吾	指定なし

ナンバリング

P40002M21

授業概要(教育目的)

卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理，分析，考察を行い，研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出する。卒業研究発表会では，最終的な研究成果を口頭で発表し，質疑応答を行う。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。

履修条件

学生便覧の履修規定「卒業研究 ④現代生活学部児童学科卒業研究内規第６条」に示されている通り、卒業研究の履修に際しては、３年次終了までに、90単位以上取得していることが履修条件となる。
（90単位に満たない場合は、90単位取得後、次の学期により研究を開始することができる。）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自ら立てたテーマに関する先行研究をまとめ、自身の研究を位置付けることができる。
思考・判断の観点 (K)	先行研究で得られた結果や自身の研究活動で収集したデータに基づいた考察ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	関心のあるテーマについて研究課題を設定し、研究計画を立て、研究活動に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	自身の論文の内容と構成を十分理解し、要旨について簡潔に説明することができる。 研究発表の場で効果的なプレゼンテーションを行うことができる。

学習計画

	授業テーマ	方法の検討

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・研究課題について考察するために、どのようなデータを収集し、結果を得る必要があるか検討する。 ・データ収集の計画を立てる（時期、対象、場所、方法等）
	教室外学習(予習・復習)の内容	・卒業研究Aで立てた研究課題を再確認し、論証のために必要なデータに関するリストを作成する（復習） ・データ収集の計画に必要な準備を進める（予習）
	教室外学習の時間（分）	復習 60分 予習 120分
第2回	授業テーマ	データの収集と解析①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・収集するデータから得られる結果とその解析方法について検討する。 ・量的研究の場合は、解析に必要なアプリケーションの操作方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・データの収集を継続して行う（復習・予習） ・アプリケーションを利用した解析を行う場合は、収集できたデータの入力作業を進める（復習・予習）
	教室外学習の時間（分）	復習/予習 180分
第3回	授業テーマ	データの収集と解析②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・収集するデータから得られる結果とその解析方法について検討する。 ・量的研究の場合は、解析に必要なアプリケーションの操作方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・データの収集を継続して行う（復習・予習） ・アプリケーションを利用した解析を行う場合は、収集できたデータの入力作業を進める（復習・予習）
	教室外学習の時間（分）	復習/予習 180分
第4回	授業テーマ	データの収集と解析③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・収集するデータから得られる結果とその解析方法について検討する。 ・量的研究の場合は、解析に必要なアプリケーションの操作方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・データの収集を継続して行う（復習・予習） ・アプリケーションを利用した解析を行う場合は、収集できたデータの入力作業を進める（復習・予習）
	教室外学習の時間（分）	復習/予習 180分
第5回	授業テーマ	方法と結果の整理①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・データ収集の方法について文書化する際の注意事項について学ぶ ・研究倫理規定の記載方法について学び、実際に記入する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・データ収集の方法について、論文執筆を進める（復習） ・執筆の仕方で不明な点を箇条書きにして挙げておく（予習）
	教室外学習の時間（分）	復習/予習 180分
第6回	授業テーマ	方法と結果の整理②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・収集したデータを効果的に示す方法について学ぶ ・図表の作成方法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	・「結果」について、論文執筆を進める（復習） ・執筆の仕方で不明な点を箇条書きにして挙げておく

		（予習）
	教室外学習の時間（分）	復習/予習 180分
第7回	**授業テーマ**	方法と結果の整理③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・収集したデータを効果的に示す方法について学ぶ ・図表の作成方法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	・「結果」について、論文執筆を進める（復習） ・執筆の仕方で不明な点を箇条書きにして挙げておく（予習）
	教室外学習の時間（分）	復習/予習 180分
第8回	**授業テーマ**	方法と結果の整理④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・収集したデータを効果的に示す方法について学ぶ ・図表の作成方法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	・「結果」について、論文執筆を進める（復習） ・執筆の仕方で不明な点を箇条書きにして挙げておく（予習）
	教室外学習の時間（分）	復習/予習 180分
第9回	**授業テーマ**	方法と結果の整理⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・方法と結果について受講生間で報告し、考察の視点を得る ・研究課題を簡潔に説明し、論証するための方法と得られた結果について報告を行う ・他の受講生の報告を聞き、質問コメントをする
	教室外学習(予習・復習)の内容	・研究課題について簡潔にまとめておく（復習） ・報告のための提示資料を用意する（予習）
	教室外学習の時間（分）	復習/予習 180分
第10回	**授業テーマ**	研究結果の考察①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・卒業研究で取り上げる問いを振り返り、自分の主張（仮説）を整理する ・研究活動で収集したデータが、自分の主張（仮説）を支持するものか、受講生全員で検討する
	教室外学習(予習・復習)の内容	・卒業研究Aで立てた研究課題を振り返り、自分の主張（仮説）を報告できるようにしておく（復習） ・担当教員や受講生とのグループワークのなかで得た考察のポイントを整理する（予習） ・今回の研究活動でわからなかったことや、研究を発展させるために必要な研究について検討する（予習）
	教室外学習の時間（分）	復習 60分 予習 120分
第11回	**授業テーマ**	研究結果の考察②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・卒業研究で取り上げる問いを振り返り、自分の主張（仮説）を整理する ・研究活動で収集したデータが、自分の主張（仮説）を支持するものか、受講生全員で検討する
	教室外学習(予習・復習)の内容	・卒業研究Aで立てた研究課題を振り返り、自分の主張（仮説）を報告できるようにしておく（復習） ・担当教員や受講生とのグループワークのなかで得た考察のポイントを整理する（予習） ・今回の研究活動でわからなかったことや、研究を発展させるために必要な研究について検討する（予習） ・研究論文（考察）を執筆する
	教室外学習の時間（分）	復習 60分 120

		予習　　分
第12回	授業テーマ	研究結果の考察③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・卒業研究で取り上げる問いを振り返り、自分の主張（仮説）を整理する ・研究活動で収集したデータが、自分の主張（仮説）を支持するものか、受講生全員で検討する
	教室外学習(予習・復習)の内容	・卒業研究Aで立てた研究課題を振り返り、自分の主張（仮説）を報告できるようにしておく（復習） ・担当教員や受講生とのグループワークのなかで得た考察のポイントを整理する（予習） ・今回の研究活動でわからなかったことや、研究を発展させるために必要な研究について検討する（予習） ・研究論文（考察）を執筆する（予習）
	教室外学習の時間（分）	復習 60分 予習 120分
第13回	授業テーマ	論文のアウトラインの確認 要旨の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・これまで執筆してきた卒業論文のアウトラインを確認し、論文の全体構成の確認を行う ・アウトラインに沿って研究の要旨を作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	・卒業論文のアウトライン（最終版）を作成しておく（復習） ・アウトライン（最終版）と論文（本文）を照合する（復習） ・要旨の執筆を進める（予習）
	教室外学習の時間（分）	復習 150分 予習 30分
第14回	授業テーマ	発表用資料の作成・発表練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・卒業研究発表会に向け、授業内で発表の練習を行う ・発表練習後、発表用スライドの確認・修正を行う（グループワーク）
	教室外学習(予習・復習)の内容	・論文の要旨を確認し、「序論/方法/結果/考察」について、発表時間（６分）の配分・配列を行う（復習） ・発表時に提示する必要のあるデータ（図表）を選定する ・発表原稿を作成する（復習）
	教室外学習の時間（分）	復習/予習 180分

学習計画注記

参考文献の収集や論文執筆の進捗状況により、スケジュールを変更して授業を進める場合がある。

学生へのフィードバック方法

研究課題の設定、参考文献の収集、アウトラインの作成、報告資料の作成、論文執筆内容、文書校正、発表用スライドの作成等について、適宜指導、助言を行う。

評価方法

授業への参加、教室外活動への取り組み状況、研究論文の内容、研究成果物の提出・報告により評価する。卒業論文及び卒業研究発表会でのプレゼンテーションの評価に際しては、授業内でルーブリック評価表を提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技術・表現

	(K)	(K)	(V)	(A)
取り組みの姿勢			○	
論理的思考	○	○		○
文書表現	○	○		○
プレゼンテーション	○			○

評価割合

平常点（40%），研究論文（50%），研究発表（プレゼンテーション）（10%）による総合評価。
（平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

使用テキストなし（授業内で資料を配布）

参考図書

山田剛史・村井潤一郎「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房.2004.

ディプロマポリシーとの関連

○知識・理解
卒業論文を作成する過程で、各自のテーマに関する先行研究を通して、子どもに関する専門的な知識の修得を目指します。

○思考・判断
卒業論文を作成する過程で、子どもに関する問題を定式化し、その問題に対する客観的なデータを収集します。得られたデータに基づいて、問題に対する自身の主張を論じられるようになることを目指します。

○関心・意欲・態度
論文のテーマ設定では、できるだけ具体的な問いを掲げられるように、問題の絞り込みを行います。絞り込まれた問いに対する論証や考察を通して、子どもに関する問題に関心をもち、健全で豊かな成長・発達を促す手がかりについて探究し続けられるようになることを目指します。

○技能・表現
論文を執筆するにあたり、文章表現の方法（アカデミック・ライティング）について学びます。また、ディスカッションに参加する際の主張の仕方や、研究成果を発表する際のプレゼンテーションの方法について学びます。

オフィスアワー

原田（月曜３限 1509教室）
*上記以外の時間帯は、メールにて対応します

学生へのメッセージ

卒業研究Ｂでは，卒業研究Ａの成果をさらに発展させて，１つの論文としてまとめることを目指します。
毎時間の学習が自分の論文に反映されていることを実感できるように、授業を進めていきます。ゼミ内でそれぞれの研究課題を共有しながら、学外での発表も視野に入れて、研究活動を進めていきましょう。

本科目の担当者は、特別支援教育を専門としており、特に知的障害者や発達障害者の支援方法や指導技法に興味を持っています。また、基本的には量的研究の手法を用いた卒業研究の取り組みを推奨しています。履修するにあたって相談したいことがある場合は、事前にメールで連絡の上、1509教室までお訪ねください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	・ゼミ学生同士で研究課題を共有し、グループワーク（討議）を通して研究の切り口を探索したり、論証の方法について検討します。論文の内容のみでなく、論文執筆の進捗状況等についても共有しながら授業を進めます。 ・研究デザイン検討会、中間発表など、進捗状況について定期的に発信する機会を設定します。
情報リテラシー教育	○	・参考文献を入手するための文献データベース等の利用方法について学びます。 ・効果的なプレゼンテーションを実行するために、プレゼンテーションソフトの利用方法を学習します。
ICT活用	○	・論文執筆や収集したデータの整理は、原則PCを利用して行います。操作方法等について適宜指導を行います。 ・学習履歴を残しておくためにSlackを利用する予定です。

講義コード	G04011010
講義名	卒業研究Ｂ（中田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	中田 範子	指定なし

ナンバリング

P40002M21

授業概要(教育目的)

「卒業研究A」での成果をもとに、論文を完成し、発表する。幼児教育学研究室では、以下のようなテーマで研究を進める。
1.保育・教育方法に関する研究
2.保育・教育現場での環境や教材に関する研究
3.保育現場における事例に見られる関係性(子どもと保育者、子ども同士など)に関する研究
なお、各自のテーマ、研究方法は異なるため、進捗状況に応じて、個別指導が中心となる。

履修条件

「卒業研究A」の単位を修得し、所定の単位数を修得していることを原則とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	調査結果を多角的な視点からとらえ、子どもを中心とした思考・判断のもとに考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	研究を進めるにあたり、研究協力者である子どもや保護者、園関係者に対する倫理的配慮をしながら、子どもの現在と未来に有意義な研究をすすめる。
技術・表現の観点 (A)	自身の研究をアウトリーチの意義を踏まえ、他者が理解できるような論文に適した文章に表現する。

学習計画

		ガイダンス

第1回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	予備調査の結果等研究の進捗状況を報告し、卒業研究発表会までの概要を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予備調査の結果をまとめておく
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	論文の構成と文章化①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成したサブノート①の内容を確認しながら、「はじめに」を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「はじめに」の文章を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	論文の構成と文章化②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成したサブノート②の内容を確認しながら、「目的」を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「目的」の文章を完成させる
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	論文の構成と文章化③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した文献リストの内容を確認しながら、先行研究をまとめ、リサーチクエスチョンを明確にする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「先行研究」の文章を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	論文の構成と文章化④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中間発表の内容を確認し、「方法」の章を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「方法」の文章を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	論文の構成と文章化⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中間発表の内容を確認し、「分析手続き」を文章化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「分析手続き」の文章を完成させる。
	教室外学習の時間	190分

	（分）	
第7回	**授業テーマ**	論文の構成と文章化⑥
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査結果を文章化、図式化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「結果」を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	論文の構成と文章化⑦
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査結果をもとに考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「考察」の文章を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	論文の構成と文章化⑧
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査結果及び考察をもとに全体的な考察と展望を文章化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「全体的な考察」「展望」の文章を完成させる
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	研究結果のアウトリーチについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究結果を外部に公表することの意義と責任について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文全体の構成について見直し、外部に公表することを踏まえて適宜修正する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	要旨の作成について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究を通して最も伝えたい点を明らかにし、要旨を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	要旨を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	発表原稿の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	他者が理解しやすいプレゼンテーションの方法を理解し、発表原稿を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表原稿を完成させる。

	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	卒業研究発表会の予行
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究発表会を想定して、発表の予行を行う。限られた時間内にどのように要点を定めて発表するかを考える。また、討議しながら発表内容を精査する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予行において気付いた修正点を修正し、発表会の準備を進める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	卒業研究発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究発表会で、自身の研究を発表し、質疑応答する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表会の準備を進める。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

授業の進行状況等により、変更する可能性があります。

学生へのフィードバック方法

提出された、論文、要旨、発表原稿等はすべて確認し、適宜添削し、コメントを付して返却する。また、基本的には個別にフィードバックをするが、クラス全体で考えたい問題については、授業内で解説をする。

評価方法

提出された論文と卒業研究発表会の発表内容(要旨、発表原稿も含む)を点数化して評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
論文		○	○	○
要旨	○			○
卒業研究発表				○

評価割合

論文50%、要旨25%、卒業研究発表25%
ルーブリックに基づいて評価する。ルーブリックは授業内に提示する。

使用教科書名(ISBN番号)

無

参考図書

2020-2021 東京家政学院大学児童学科中田ゼミ卒業研究テキスト
中澤潤他：心理学マニュアル観察法. 北大路書房. 2014
秋田喜代美ほか編：はじめての質的研究法 教育・学習編. 東京図書. 2014
中坪史典編：子ども理解のメソドロジー. ナカニシヤ出版. 2012

ディプロマポリシーとの関連

【思考・判断】 子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、 具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に 対応できる。

【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する 課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために 使命感を持って行動できる。
【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。

オフィスアワー

火曜日3限目

学生へのメッセージ

研究を進めていく中では疑問点を持つことは大切です。疑問・質問がある場合には、遠慮せずに申し出てください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、幼稚園・保育所で教諭・保育士として実務経験を有しており、幼稚園、保育所をフィールドとした研究について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	発表、討議を中心とした授業を行う。
情報リテラシー教育	○	研究テーマに関連した資料を収集し、論文作成に活用する。
ICT活用	○	卒業研究発表会の際には、PPTを用いて自身の研究を報告する。

講義コード	G04011011
講義名	卒業研究Ｂ（新開）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	新開 よしみ	指定なし

ナンバリング

P40002M21

授業概要(教育目的)

卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理，分析，考察を行い，研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出を求める。卒業研究発表会では，最終的な研究成果を口頭で発表し，質疑応答を行う。

履修条件

※学生便覧参照

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自身の研究内容についての豊かな知識を身につけ、適切に理解している。
思考・判断の観点 (K)	研究課題の分析と考察が適切に行われ、自分の研究について論理的に説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	主体的に研究論文に取り組み、計画的に遂行しようとしている。
技術・表現の観点 (A)	文章表現や議論の展開が明確である。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	研究データの整理・分析・考察①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討①
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。

	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	**授業テーマ**	研究データの整理・分析・考察②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討②
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	**授業テーマ**	研究データの整理・分析・考察③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討③
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	**授業テーマ**	研究データの整理・分析・考察④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討④
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	**授業テーマ**	論文構成の見直し
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでのデータについての整理・分析・考察のまとめと論文構成とを照合し、見直しを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの成果を大まかにまとめ、章立てを見直しておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	**授業テーマ**	研究データの整理・分析・考察⑥
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討⑤
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	**授業テーマ**	論文執筆内容の検討①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の目的と先行研究レビューの検討
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究の目的と先行研究レビューをまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	**授業テーマ**	論文執筆内容の検討②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究方法と結果及び図表についての検討と調整
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究方法及び図表を中心に整理をしておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	**授業テーマ**	論文執筆内容の検討③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考察の記述に関する検討①
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究、結果に基づいて考察を深める。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	論文執筆内容の検討④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃ	

第10回	ﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考察の記述に関する検討②
	教室外学習(予習・復習)の内容	第11回の検討に基づき、考察を深める。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	授業テーマ	論文執筆内容の検討⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全体考察を検討し、序及び結の内容を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	全体考察・論文のまとめを作成する。序及び結びの内容を加筆修正しておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	論文要旨の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文全体の確認及び論文要旨の検討
	教室外学習(予習・復習)の内容	指定された様式に則し、要旨を作成しておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	プレゼンテーションの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションの内容及び発表原稿の検討
	教室外学習(予習・復習)の内容	PPT等を活用して発表用の巣量及び原稿を準備しておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	卒業研究発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究の成果を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表練習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

※履修状況や研究の進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

研究方法・内容について、受講生の課題可決に向けて、毎回の講義で相談・指導を行います。メール、および研究室訪問による質問も、随時受け付けます。

評価方法

受講生の授業への参加状況，研究への取り組みやディスカッションへの参加の積極性等を総合的に判断します。論文執筆では、考察の深まり、論理的思考の展開、明確な議論の展開、文章表現のわかりやすさ等の総合的な視点から評価します。評価のポイントに関しては、ルーブリックを提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
取り組みの姿勢			○	
論理的思考	○	○		○
文章表現	○	○		○

評価割合

平常点（40%），研究論文（50%），研究発表（プレゼンテーション）（10%）による総合評

価。（平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
「児童学」の保育領域に関する豊かな知識。
【思考・判断】
子どもと直接触れ合ったり、保育者・教師などの実戦から学ぶなど、具体的・実践的な学びの機会から得た知識をもとに、様々な課題に柔軟に対応できる感性と応用力をもつ。
【関心・意欲・態度】
自ら課題を見出し、それに向けて専門的知識を収集するとともに、保育・授業参観及び子どもと関わることから学びを深める。
【技能・表現】
知識・理解をもとに、考えたことを論理的に表現する。

オフィスアワー

金曜４時限 1635研究室

学生へのメッセージ

卒業研究Ｂでは，卒業研究Ａの成果をさらに発展させて，１つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は，大変根気の要る作業であり，一日一日の積み重ねが非常に大切である。また，研究成果を要約した要旨の作成や，卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象となる。学生生活の締めくくりとして，ぜひ意欲的に取り組んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	発表内容について全員でディスカッションを重ねることを通し、主体的・能動的に学びを深めていく。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04011012
講義名	卒業研究Ｂ（柳瀬）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	柳瀬 洋美	指定なし

ナンバリング

P40002M21

授業概要(教育目的)

卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理，分析，考察を行い，研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出する。卒業研究発表会では，最終的な研究成果を口頭で発表し，質疑応答を行う。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。

履修条件

卒業研究Aの単位を修得済みであること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自身の研究内容についての豊かな知識を身につけ、適切に理解している。
思考・判断の観点 (K)	研究課題の分析と考察が適切に行われ、自分の研究について論理的に説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	主体的に研究論文に取り組み、計画的に遂行しようとしている。
技術・表現の観点 (A)	文章表現や議論の展開が明確である。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	研究データの整理・分析・考察①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討①
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。

	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	研究データの整理・分析・考察②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討②
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	研究データの整理・分析・考察③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討③
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	研究データの整理・分析・考察④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討④
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	論文構成の見直し
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでのデータについての整理・分析・考察のまとめと論文構成とを照合し、見直しを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの成果を大まかにまとめ、章立てを見直しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	研究データの整理・分析・考察⑥
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討⑥
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	**授業テーマ**	研究データの整理・分析・考察⑦
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討⑦
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	論文執筆内容の検討①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の目的と先行研究レビューの検討
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究の目的と先行研究レビューをまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	論文執筆内容の検討②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究方法と結果及び図表についての検討と調整
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究方法及び図表を中心に整理をしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	論文執筆内容の検討③

第10回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考察の記述に関する検討①
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究、結果に基づいて考察を深める。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	論文執筆内容の検討④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考察の記述に関する検討②
	教室外学習(予習・復習)の内容	第11回の検討に基づき、考察を深める。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	授業テーマ	論文執筆内容の検討⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全体考察を検討し、序及び結の内容を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	全体考察・論文のまとめを作成する。序及び結びの内容を加筆修正しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	論文要旨の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文全体の確認及び論文要旨の検討
	教室外学習(予習・復習)の内容	指定された様式に則し、要旨を作成しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	授業テーマ	発表用プレゼンテーションの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションの内容及び発表原稿の検討
	教室外学習(予習・復習)の内容	PPT等を活用して発表用の資料及び原稿を準備しておく。
	教室外学習の時間（分）	240分
第15回	授業テーマ	卒業研究発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究の成果を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表練習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

※履修学生の保育・教育実習の状況や研究の進捗状況によりスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業時の助言に加えて、学生一人ひとりのペースに即して、適宜コメントや助言を返す。

評価方法

平常点（40%），研究論文（50%），研究発表（プレゼンテーション）（10%）による総合評価。（平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
研究への取り組みの姿勢			○	

論理的思考	○	○		○
文章表現	○	○		○

評価割合

平常点（40%），研究論文（50%），研究発表（プレゼンテーション）（10%）による総合評価。
（平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）

参考図書

授業内で必要に応じて紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
「児童学」について、音楽・教育・文化といった領域に関する豊かな知識。
【思考・判断】
子どもと直接触れ合ったり、保育者・教師などの実戦から学ぶなど、具体的・実践的な学びの機会から得た知識をもとに、様々な課題に柔軟に対応できる感性と応用力をもつ。
【関心・意欲・態度】
自ら課題を見出し、それに向けて専門的知識を収集するとともに、保育・授業参観及び子どもと関わることから学びを深める。
【技能・表現】
知識・理解をもとに、考えたことを論理的に表現する。

オフィスアワー

水曜日5時限 1619研究室

学生へのメッセージ

卒業研究Ｂでは，卒業研究Ａの成果をさらに発展させて，１つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は，大変根気の要る作業であり，一日一日の積み重ねが非常に大切である。また，研究成果を要約した要旨の作成や，卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象となる。学生生活の締めくくりとして，ぜひ意欲的に取り組んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は心理臨床現場での実務経験が豊富であり、学生の研究テーマが現場での実践や事例に関するものである場合に、教員の実務経験に基づく助言を、考察に生かしていく。
アクティブ・ラーニング	○	発表内容について全員でディスカッションを重ねることを通し、主体的・能動的に学びを深めていく。
情報リテラシー教育	○	・webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。 ・・各自のテーマに基づいた情報収集を行い、分析・考察を行う。
ICT活用		

講義コード	G04011013
講義名	卒業研究Ｂ（新海）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	新海 公昭	指定なし

ナンバリング

P40002M21

授業概要(教育目的)

卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理・分析・考察を行い, 研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出できるような力を養成する。卒業研究発表会では, 最終的な研究成果を口頭で発表する機会をもつ。

履修条件

卒業研究Aの単位を修得済みであること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	4年間の児童学科における学びの集大成として, 子どもをめぐる課題に対して, 自ら設定した研究課題に関して, 主体的に分析と考察を重ねながら、最終的な結論を導き出すことができる。
技術・表現の観点 (A)	子どもをめぐる課題をより深め，発展させることができ, 研究成果についての発表と質疑応答を通して, 理論と実践の融合を図り, 専門家として社会に貢献できる。

学習計画

	授業テーマ	研究データの整理，分析，考察一週目
		自身の卒業研究に関して, 卒研Aでの中間発表で得られ

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	た課題を深化そして発展させる。 卒研Aで得られたデータに関してデータ分析を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究を進める（復習）。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	研究データの整理，分析，考察二週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の卒業研究に関する課題に関して, 先週までに取り組んだ内容を報告し協議する。 得られたデータに関してデータ分析を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	報告の準備をする（予習）。 報告を通してみつかった課題について, 検証を進める（復習）。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	研究データの整理，分析，考察三週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の卒業研究に関する課題に関して, 先週までに取り組んだ内容を報告し協議する。 得られたデータに関してデータ分析を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	報告の準備をする（予習）。 報告を通してみつかった課題について, 検証を進める（復習）。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	研究データの整理，分析，考察四週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の卒業研究に関する課題に関して, 先週までに取り組んだ内容を報告し協議する。 得られたデータに関してデータ分析を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	報告の準備をする（予習）。 報告を通してみつかった課題について, 検証を進める（復習）。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	研究データの整理，分析，結果の整理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今までの分析結果を整理し, 全体報告をする。その結果について協議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒研Aから取り組んでいる先行研究, 研究課題に関する仮説検証の結果を統合的に整理する（予習）。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	論文の構成の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文の構成を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	検討した論文構成に従って論文を書き始める（復習）。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	論文作成１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文作成で, 先週までに取り組んだを報告し協議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	報告の準備をする（予習）。 協議で得た課題を反映させながら, 論文を書き進める（復習）。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	論文作成２

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文作成で, 先週までに取り組んだを報告し協議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	報告の準備をする（予習）。 協議で得た課題を反映させながら, 論文を書き進める（復習）。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	論文作成３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文作成で, 先週までに取り組んだを報告し協議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	報告の準備をする（予習）。 協議で得た課題を反映させながら, 論文を書き進める（復習）。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	論文作成４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文作成で, 先週までに取り組んだを報告し協議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	報告の準備をする（予習）。 協議で得た課題を反映させながら, 論文を書き進める（復習）。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	論文作成６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文を完成させる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	完成した論文をもとに, 要旨の構想を考える（復習）。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	論文要旨作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文の要旨に記すコンテンツを整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文の要旨を完成させる（復習）。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発表資料を作成する。ゼミ生の前で質疑応答を含む発表練習をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業論文および要旨の内容を基にして, 発表資料を完成させる。 そして発表練習をふまえて, 卒業研究発表会に向けた準備を行う（復習）。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	卒業研究発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の１年間の集大成として, 卒業研究発表会で発表を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒研発表会のプレゼン資料を完成させ、準備を終わらせる（予習）。 卒研発表後、ゼミ生全員で振り返りを行う（復習）。
	教室外学習の時間（分）	200分

学生へのフィードバック方法

毎回のゼミの時間で, 各ゼミ生に発表や報告をする機会をもってもらう。その発表や報告に対して, ゼミ生全員で協議を行う。その協議の内容を基に, 次への課題等を教員から提案する。

評価方法

１．平常課題 20点
平常課題は毎週発表や報告する自身の研究への取り組みや, ゼミ生同士の討論への参加の積極性等で総合的に判断する。

２．卒業論文 60点
内容を評価する。

３．卒研発表会 20点
報告内容とプレゼンテーションを評価する。

４．ルーブリックを用いた自己評価 10点
ルーブリックを用いた自己評価を評価する。

＊平常課題, 卒業論文,卒研発表会, ルーブリックを用いた自己評価は, 下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常課題			○	
卒業論文	○	○	○	
卒研発表会			○	○
ルーブリックを用いた自己評価			○	○

評価割合

平常課題（20%）, 卒業論文（60%）, 研究発表会（20%）, ルーブリックを用いた自己評価（10%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解・思考・判断】児童学の領域を総合的に理解し, 子どもに関する専門的な知識が修得できている。そして, 修得した知識や実証分析を通して論理的に論文構成を組み立てることができる。

【関心・意欲・態度】子どもをめぐる課題に関心を持って取り組み, 子どもたちの健全で豊かな成長・発達のための提案ができる。

【技術・表現】子どもをめぐる課題に関する理論と実践の融合を図り, 専門家として社会に貢献できる力を有している。

オフィスアワー

前期：水曜日 12：30～14：00
後期：水曜日 12: 30～14：00

学生へのメッセージ

卒業研究Ｂでは, 卒業研究Ａの成果をさらに発展させて, 自身の研究をレポートレベルではない

１つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は、大変根気の要る作業であり, 一日一日の積み重ねが非常に大切になる。また, 研究成果を要約した要旨の作成や, 卒業研究発表会でのプレゼンテーションも行う。学生生活の締めくくりとして, 主体的に取り組んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教員主導ではなく, ゼミ生同士で討議を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04011016
講義名	卒業研究Ｂ（齋藤義）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	齋藤 義雄	指定なし

ナンバリング

P40002M21

授業概要(教育目的)

子どもの福祉と保育，心理と発達，健康と環境，文化と社会，生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から，先行研究をふまえつつ自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	先行研究の情報等を収集し、基礎的な理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	先行研究をふまえつつ、自らの研究課題を設定することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	研究方法を吟味し，研究計画に基づいて、調査・データ収集に意欲的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	ワード等で文書を作成する技術に習熟し、ゼミにおいて発表（プレゼンテーション）の力を向上することができる。

学習計画

卒業研究Ｂ

第1回	**授業テーマ**	１（１）研究データの整理、分析、考察第一週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究データの整理、分析、考察する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	研究データの整理、分析、考察する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	**授業テーマ**	１（２）研究データの整理、分析、考察第一週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究データの整理、分析、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究データの整理、分析、考察する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	**授業テーマ**	２（１）研究データの整理、分析、考察第二週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究データの整理、分析、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究データの整理、分析、考察する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	**授業テーマ**	２（２）研究データの整理、分析、考察第二週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究データの整理、分析、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究データの整理、分析、考察する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	**授業テーマ**	３（１）研究データの整理、分析、考察第三週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究データの整理、分析、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究データの整理、分析、考察する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	**授業テーマ**	３（２）研究データの整理、分析、考察第三週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究データの整理、分析、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究データの整理、分析、考察する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	**授業テーマ**	４（１）研究データの整理、分析、考察第四週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究データの整理、分析、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究データの整理、分析、考察する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	**授業テーマ**	４（２）研究データの整理、分析、考察第四週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究データの整理、分析、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究データの整理、分析、考察する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	**授業テーマ**	５（１）研究データの整理、分析、考察第五週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究データの整理、分析、考察する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	研究データの整理、分析、考察する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	**授業テーマ**	５（２）研究データの整理、分析、考察第五週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究データの整理、分析、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究データの整理、分析、考察する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	**授業テーマ**	６（１）研究データの整理、分析、考察第六週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究データの整理、分析、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究データの整理、分析、考察する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	**授業テーマ**	６（２）研究データの整理、分析、考察第六週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究データの整理、分析、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究データの整理、分析、考察する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	**授業テーマ**	７（１）論文構成の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文構成を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文構成を検討する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	**授業テーマ**	７（２）論文構成の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文構成を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文構成を検討する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第15回	**授業テーマ**	８（１）論文作成 第一週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論論文を作成する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第16回	**授業テーマ**	８（２）論文作成 第一週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文を作成する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第17回	**授業テーマ**	９（１）論文作成 第二週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文を作成する。
	教室外学習の時間（分）	50分
18	**授業テーマ**	９（２）論文作成 第二週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文を作成する。

第　回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文を作成する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第19回	授業テーマ	１０（１）論文作成 第三週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文を作成する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第20回	授業テーマ	１０（２）論文作成 第三週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文を作成する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第21回	授業テーマ	１１（１）論文作成 第四週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文を作成する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第22回	授業テーマ	１１（２）論文作成 第四週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	論文を作成する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第23回	授業テーマ	１２（１）卒業研究の論文完成・要旨作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究の論文完成・論文要旨を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究の論文作成・論文要旨を作成する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第24回	授業テーマ	１２（２）卒業研究の論文完成・要旨作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究の論文完成・論文要旨を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究の論文作成・論文要旨を作成する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第25回	授業テーマ	１３（１）卒業研究の要旨をパワーポイント作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究の要旨をパワーポイントで作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究の要旨をパワーポイントで作成する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第26回	授業テーマ	１３（２）卒業研究の要旨をパワーポイント作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究の要旨のパワーポイントを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究の要旨のパワーポイントを作成する。

	教室外学習の時間（分）	50分
第27回	**授業テーマ**	１４（１）卒業研究の要旨をパワーポイントで発表する。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究の要旨のパワーポイントで発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究の要旨のパワーポイントで発表する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第28回	**授業テーマ**	１４（２）卒業研究の要旨をパワーポイントで発表する。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究の要旨のパワーポイントで発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業研究の要旨のパワーポイントで発表する。
	教室外学習の時間（分）	50分

学生へのフィードバック方法

ゼミでは、毎回研究に関する進捗状況を確認し、質疑・応答のコミュニケーションを通して、今後の指針を学生に伝えていく。レポートに関しては、内容に関する修正案を提案する。

評価方法

ゼミは、出席するのが当たり前である。平常点は毎週の授業への積極的な参加，研究への取り組みや討論への積極的な参加が望まれる。また、卒業研究の２万字は、１１月中に書き上げ、１２月・１月は、修正に充てることが望ましいので、計画的に研究を進めることが望まれる。卒業研究Ｂでは、卒業研究という成果として具現化する。

ルーブリックで評価する場合は、授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
卒業研究		○		

評価割合

平常点（３０%），卒業研究（６０%）、研究発表（プレゼンテーション）（１０%）による総合評価。
（平常点は毎週の授業への積極的参加，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

特になし。

参考図書

各自に伝える。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】先行研究の情報等を収集し、基礎的な理解を深める。
【思考・判断】自ら様々な課題に柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
【技術・表現】ワード等で文書を作成する技術に習熟し、ゼミにおいて発表（プレゼンテーション）の力を向上することができる。

オフィスアワー

ゼミの前後 １６２８研究室

学生へのメッセージ

4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため，指導教員と連絡を密に取りながら，計画的に研究のための時間を十分に確保して，一歩一歩研究が進められるように努力することが望まれる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	小学校・中学校の教員としての経験を伝えるとともに、幼稚園・保育園・認定こども園・児童養護施設等の巡回訪問の経験を伝えている。
アクティブ・ラーニング	○	卒業研究のテーマに関して、話し合い（コミュニケーション）を通して、理解の深化を図っている。
情報リテラシー教育	○	先行研究の調査において、適切な引用の在り方を学んでいる。
ICT活用	○	調査やデータ収集の結果を、パソコン等で適切に処理している。

講義コード	G04011019
講義名	卒業研究Ｂ（立川）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	立川 泰史	指定なし

ナンバリング

P40002M21

授業概要(教育目的)

卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理，分析，考察を行い，研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出する。卒業研究発表会では，最終的な研究成果を口頭で発表し，質疑応答を行う。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	児童学の専門的な知識に基づく視点をもち、主体的に設定した研究課題の背景・目的・内容・方法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	自らの研究課題に関する問題意識を明確にし、先行研究や調査結果を整理・考察を通して課題解決に向けた提案や根拠を説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らの問題意識を基に今日的課題を解決することに関心をもち、研究の倫理・人権・法令に準拠した探究活動を実践できる。
技術・表現の観点 (A)	研究課題の探究について、適切な調査方法に基づく調査・分析・考察・論述の基本的な技能を有している。

学習計画

	授業テーマ	研究データの整理，分析，考察一週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	調査から収集できたデータを整理し、適切な観点と方法で分析・考察を行う。分析・考察の過程について、対人臨床研究における研究倫理の確認、人権・肖像権等の処理や個人データの取扱いについて確認する。随時討論と質疑応答を通して確認・改善を行う。

第1回	**用を含む)**	
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集したデータを課題の領域や時系列で整理・保管しておく。
	教室外学習の時間(分)	180分
第2回	**授業テーマ**	研究データの整理，分析，考察二週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査から収集できたデータを整理し、適切な観点と方法で分析・考察を行う。分析・考察の過程について、随時討論と質疑応答を通して確認・改善を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集したデータを課題の領域や時系列で整理・保管しておく。
	教室外学習の時間(分)	180分
第3回	**授業テーマ**	研究データの整理，分析，考察三週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査から収集できたデータを整理し、適切な観点と方法で分析・考察を行う。分析・考察の過程について、随時討論と質疑応答を通して確認・改善を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集したデータを課題の領域や時系列で整理・保管しておく。
	教室外学習の時間(分)	180分
第4回	**授業テーマ**	研究データの整理，分析，考察四週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査から収集できたデータを整理し、適切な観点と方法で分析・考察を行う。分析・考察の過程について、随時討論と質疑応答を通して確認・改善を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集したデータを課題の領域や時系列で整理・保管しておく。
	教室外学習の時間(分)	180分

第5回	授業テーマ	研究データの整理，分析，考察五週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査から収集できたデータを整理し、適切な観点と方法で分析・考察を行う。分析・考察の過程について、随時討論と質疑応答を通して確認・改善を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集したデータを課題の領域や時系列で整理・保管しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	研究データの整理，分析，考察六週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査から収集できたデータを整理し、適切な観点と方法で分析・考察を行う。分析・考察の過程について、随時討論と質疑応答を通して確認・改善を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集したデータを課題の領域や時系列で整理・保管しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	論文構成の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文の構成について、基本的な事項や順序を考慮して検討する。研究全体の運び方と調査・分析の過程を区別し、問題領域の中で論理的な文脈が保たれているか確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	章立てや項目トピックの主従関係を図式化し、整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	論文作成一週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	序章・第１章では、問題意識の所在を明確にし、研究の背景、研究の目的・研究の方法について記述する。 分析・考察の過程について、対人臨床研究における研究倫理の確認、人権・肖像権等の処理や個人データの取扱いについて確認する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	研究計画案に則して研究の概要を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	論文作成二週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第１章では、先行研究の歴史的変遷や問題点の現代の社会・文化歴史的な実態における位置づけを明確に述べる。論理的な文脈とともに、引用文献と主観的な考察との区別・データ分析や図表の取り扱い・脚注など、論文記述の原則に適した方法をとる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究の目的や趣旨に則して、有意な文献や調査データを精選し、整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	論文作成三週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論理的な文脈とともに、引用文献と主観的な考察との区別・データ分析や図表の取り扱い・脚注など、論文記述の原則に適した方法をとる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究の目的や趣旨に則して、有意な文献や調査データを精選し、整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	論文作成四週目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論理的な文脈とともに、引用文献と主観的な考察との区別・データ分析や図表の取り扱い・脚注など、論文記述の原則に適した方法をとる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究の目的や趣旨に則して、有意な文献や調査データを精選し、整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テー	論文作成五週目

	マ	
第12回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論理的な文脈とともに、引用文献と主観的な考察との区別・データ分析や図表の取り扱い・脚注など、論文記述の原則に適した方法をとる。論理的な文脈とともに、引用文献と主観的な考察との区別・データ分析や図表の取り扱い・脚注など、論文記述の原則に適した方法をとる。最終章では、総合的考察では、各章の成果を概観し、研究主題に対応した結論を記述する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究の目的や趣旨に則して、有意な文献や調査データを精選し、整理しておく。
	教室外学習の時間(分)	180分
第13回	授業テーマ	卒業研究発表の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論理的な文脈とともに、引用文献と主観的な考察との区別・データ分析や図表の取り扱い・脚注など、論文記述の原則に適した方法をとる。最終章では、総合的考察では、各章の成果を概観し、研究主題に対応した結論を記述する。 また、発表プレゼンテーション資料において、視覚的な構成と論理的な説明の関係について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンテーションの資料を作成し、リハーサルを行うなどして要旨を相互評価しながら確認する。 内容と主旨、図表や個人情報の取扱いなど、研究倫理違反がないか確認する。 プレゼンテーションのページ・レイアウトをより分かりやすく、伝わりやすく工夫する。
	教室外学習の時間(分)	270分
第14回	授業テーマ	卒業研究発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の卒業研究について、プレゼンテーション資料を提示しながら口頭で発表する。学生や教員と質疑応答を行い、研究の成果や意義について振返る機会とする。また、質疑の成果や課題を受けて、卒業研究論文の改善や修正を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	口頭発表のルールやマナーを理解し、予想される質疑などを基に、シミュレーションを行っておく。
	教室外学習の時間(分)	270分

学習計画注記

修学生の各種実習期間の都合により、スケジュールは柔軟に変更する場合がある。

学生へのフィードバック方法

・毎回、各自の研究課題についてドキュメンテーション（進捗状況の報告等）を行い、相互質疑や討論を中心に協働的に取り組む。特に、研究主題の設定理由となる社会的背景や問題意識、研究の目的と調査分析の方法について、研究の進度に沿って助言・コメントや資料や情報

の提供で応答する。
・学期末には、卒業研究論文の提出と、卒業研究論文は、規定文字数（20,000字以上）の有無、研究主題・内容・調査方法、及び研究の成果と課題の明確さなどについて、仮提出後に修正・改善のコメントを記して返却する。
・「卒業研究発表会」において各自10分程度の口頭発表によるプレゼンテーションを求める。プレゼンテーションのリハーサル段階において、必要な修正・改善についてコメントで応答する。

評価方法

・各自が行う研究課題についてのドキュメンテーションは、研究主題の設定理由となる社会的背景や問題意識、研究の目的と調査分析の方法に関する観点から、質疑応答の実態を基に評価する。
・卒業研究論文は、規定文字数（20,000字以上）の有無、研究主題・内容・調査方法、及び研究の成果と課題の明確さなどを基に、研究の妥当性や独自性を観点に総合的に評価する。
・プレゼンテーションは、発表リテラシーに着目し、内容整理の適切さ、視覚的な情報伝達技能を中心に総合的に評価する。
卒業研究は論文だけでなく、口頭発表と諮問までが単位認定の評価材料となる
・ルーブリックを明示して評価を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
ドキュメンテーション		○	○	
卒業研究論文	○	○		○
プレゼンテーション			○	○

評価割合

平常点（40%），研究論文（50%），研究発表（プレゼンテーション）（10%）による総合評価。
（平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

各自の課題に添い適宜提示する。

参考図書

各自の課題に添い適宜提示する。
『卒業研究論文のいろは（ゼミ版）』の冊子を配布する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学を構成する領域（子どもの心理・健康・保育・教育・福祉・文化）に関する専門的な知識に基づく問題意識をもち、研究主題を設定している。
【思考・判断】研究主題に応じた研究の調査・分析・考察方法を選定し、計画を立案している。
【関心・意欲・態度】明確な問題意識をもち、研究課題の解決と提案に向かう主体性を発揮している。
【技能・表現】論文の記述や調査について、基本的な技能を有し、人権・倫理・法令を尊重して探究できる。

オフィスアワー

水曜4限、1629研究室

学生へのメッセージ

卒業研究Ｂでは，卒業研究Ａの成果をさらに発展させて，１つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は，大変根気の要る作業であり，一日一日の積み重ねが非常に大切である。また，研究成果を要約した要旨の作成や，卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象

となる。学生生活の締めくくりとして意欲的に取り組むよう期待する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、小学校教員としての経験をもち、造形・美術教育の実践研究・開発・提案に従事した。文部科学省の学習資料作成委員や文部科学省検定教科書の編修著者として、現職教員の研修・地域行政や社会的教育機関・企業などのネットワークを生かして、今日的な課題に応じた造形教育の内容や情報を考察対象として提供する。
アクティブ・ラーニング	○	各自による研究調査の報告とメンバー間の相互主体的な討論や質疑を中心に進める。
情報リテラシー教育	○	参照する文献の検索・整理し、主題との整合性・妥当性を判断する場面で、情報処理の基本的な能力を発揮する機会をもつ。
ICT活用	○	文献の検索サイトやアプリケーションの活用、図書館での著書や資料の閲覧システムの利用、プレゼンテーションや分析データの視覚化などについて、適切なテクノロジーを効率的に運用する機会をもつ。

講義コード	G04011020
講義名	卒業研究Ｂ（丹羽）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	丹羽 さがの	指定なし

ナンバリング

P40002M21

授業概要(教育目的)

卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理，分析，考察を行い，研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出を求める。卒業研究発表会では，最終的な研究成果を口頭で発表し，質疑応答を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自身の研究内容についての豊かな知識を身につけ、適切に理解している。
思考・判断の観点 (K)	研究課題の分析と考察が適切に行われ、自分の研究について論理的に説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	主体的に研究論文に取り組み、計画的に遂行しようとしている。
技術・表現の観点 (A)	文章表現や議論の展開が明確である。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	研究データの整理・分析・考察(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討(1)
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	研究データの整理・分析・考察(2)

第2回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討(2)
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	授業テーマ	研究データの整理・分析・考察(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討(3)
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	授業テーマ	研究データの整理・分析・考察(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討(4)
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	授業テーマ	論文構成の見直し
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでのデータについての整理・分析・考察のまとめと論文構成とを照合し、見直しを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの成果を大まかにまとめ、章立てを見直しておく。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	授業テーマ	研究データの整理・分析・考察(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討(6)
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	授業テーマ	研究データの整理・分析・考察(6)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討(7)
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	授業テーマ	論文執筆内容の検討(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の目的と先行研究レビューの検討
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究の目的と先行研究レビューをまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	授業テーマ	論文執筆内容の検討(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究方法と結果及び図表についての検討と調整
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究方法及び図表を中心に整理をしておく。
	教室外学習の時間（分）	100分
第10回	授業テーマ	論文執筆内容の検討(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考察の記述に関する検討(1)

	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究、結果に基づいて考察を深める。
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	**授業テーマ**	論文執筆内容の検討(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考察の記述に関する検討(2)
	教室外学習(予習・復習)の内容	第11回の検討に基づき、考察を深める。
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	**授業テーマ**	論文執筆内容の検討(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全体考察を検討し、序及び結の内容を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	全体考察・論文のまとめを作成する。序及び結びの内容を加筆修正しておく。
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	**授業テーマ**	論文要旨の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文全体の確認及び論文要旨の検討
	教室外学習(予習・復習)の内容	指定された様式に則し、要旨を作成しておく。
	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	**授業テーマ**	プレゼンテーションの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションの内容及び発表原稿の検討
	教室外学習(予習・復習)の内容	PPT等を活用して発表用の資料及び原稿を準備しておく。
	教室外学習の時間（分）	100分
第15回	**授業テーマ**	卒業研究発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究の成果を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表練習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

履修状況や研究の進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

研究方法・内容について、受講生の課題解決に向けて、毎回の講義で相談・指導を行います。
メール、および研究室訪問による質問も、随時受け付けます。

評価方法

・参加状況，研究への取り組みやディスカッションへの参加の積極性等を総合的に判断します。論文執筆では、考察の深まり、論理的思考の展開、明確な議論の展開、文章表現のわかりやすさ等の総合的な視点から評価します。
・成績評価はルーブリックに基づいて行う。ルーブリックはクラスルームまたは授業内での配布により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
取り組みの姿勢			○	
論理的思考	○	○		○

文章表現	○	○		○

評価割合

平常点（40%），研究論文（50%），研究発表（プレゼンテーション）（10%）による総合評価。（平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）

参考図書

講義内で適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「児童学」について、発達・心理・教育・文化といった領域に関する豊かな知識。
【思考・判断】子どもと直接触れ合ったり、保育者・教師などの実戦から学ぶなど、具体的・実践的な学びの機会から得た知識をもとに、様々な課題に柔軟に対応できる感性と応用力をもつ。
【関心・意欲・態度】自ら課題を見出し、それに向けて専門的知識を収集するとともに、保育・授業参観及び子どもと関わることから学びを深める。
【技術・表現】知識・理解をもとに、考えたことを論理的に表現する。

オフィスアワー

水曜日２限

学生へのメッセージ

卒業研究Ｂでは，卒業研究Ａの成果をさらに発展させて，１つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は，大変根気の要る作業であり，一日一日の積み重ねが非常に大切である。また，研究成果を要約した要旨の作成や，卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象となる。学生生活の締めくくりとして，ぜひ意欲的に取り組んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	発表内容について全員でディスカッションを重ねることを通し、主体的・能動的に学びを深めていく。
情報リテラシー教育	○	webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。
ICT活用		

講義コード	G04011021
講義名	卒業研究Ｂ（和田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	和田 美香	指定なし

ナンバリング

P40002M21

授業概要(教育目的)

卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理，分析，考察を行い，研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出する。卒業研究発表会では，最終的な研究成果を口頭で発表し，質疑応答場面において教員や学生とやりとりを行う。

履修条件

規定の単位数を取得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	研究の方法について理解する。
思考・判断の観点 (K)	自ら立てた問いについて、様々な可能性を考え、適切な研究方法を選択していく。
関心・意欲・態度の観点 (V)	4年間の児童学科における学びの集大成として、子どもをとりまく課題について自ら問いを立て、研究計画を立案することで、主体的に研究活動に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	子どもをめぐる課題をより深め、発展させることにより、理論と実践を癒合していく。

学習計画

	授業テーマ	研究データの整理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究に関して、中間発表で得られた課題を明確にし、発展させる。 卒研Aで得られたデータを整理する。

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	研究データの整理、分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究に関する課題について、先週までに取り組んだ内容を報告し、ゼミ内で協議する。 得られたデータについて分析を始める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	データの分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究に関する課題について、先週までに取り組んだ内容を報告し、ゼミ内で協議する。 得られたデータについて分析を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	データの分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	得られたデータの分析をしながら、適宜、ゼミ内で発表していく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	データ分析の成果発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	得られたデータ分析について、結果を報告する。 その結果について協議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	論文の構成の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文の構成を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	論文作成１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文作成で、先週までに取り組んだ内容を報告し、協議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	論文作成２

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文作成で、先週までに取り組んだ内容を報告し、協議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	論文要旨作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文要旨に記すコンテンツを整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	論文要旨完成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文要旨を完成させる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	卒業研究発表資料作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発表資料を完成させる。ゼミ生の前で質疑応答を含む発表練習をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	授業テーマ	卒業研究発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の一年間の集大成として、卒業研究発表会で発表を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に発表の練習をする
	教室外学習の時間（分）	180分

学生へのフィードバック方法

毎回のゼミの時間で、各ゼミ生に発表の機会をもってもらう。その発表に対して、ゼミ生全員で協議を行い、それをもとに、次の課題を教員から助言する。

評価方法

平常点、卒業論文とその発表により評価する。
ルーブリックに基づく成績評価をする。
（ルーブリックについては、Googleクラスルームまたは授業内での配付等により提示をする。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○		
卒業論文			○	○
研究発表			○	○

評価割合

平常点（40%），研究論文（50%），研究発表（プレゼンテーション）（10%）による総合評価。
（平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

特になし。

参考図書

特になし。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】研究の方法について理解する。
【思考・判断】自ら立てた問いについて、様々な可能性を考え、適切な研究方法を選択していく。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる課題に関心をもって取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のための提案ができる。
【技能・表現】子どもをめぐる課題に関する理論と実践の融合を図り、専門家として社会に貢献できる力を有する。

オフィスアワー

月曜日２限から４限

学生へのメッセージ

卒業研究Ｂでは，卒業研究Ａの成果をさらに発展させて，１つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は，大変根気の要る作業であり，一日一日の積み重ねが非常に大切である。また，研究成果を要約した要旨の作成や，卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象となる。学生生活の締めくくりとして，ぜひ意欲的に取り組んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は保育所等の実務経験を有しており、子どもと関わるフィールドワークを中心に研究を行う。
アクティブ・ラーニング	○	教員主導ではなく、ゼミ生同士で討議を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04011023
講義名	卒業研究Ｂ（吉永）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	吉永 早苗	指定なし

ナンバリング

P40002M21

授業概要(教育目的)

卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理、分析、考察を行い、研究の成果をまとめた論文及び要旨の作成・提出を求めます。卒業研究発表会において最終的な研究の成果をスライドに示しながら口頭で発表し、質疑応答を行います。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自身の研究内容についての豊かな知識を身につけ、適切に理解している。
思考・判断の観点 (K)	研究課題の分析と考察が適切に行われ、自分の研究について論理的に説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	主体的に研究論文に取り組み、計画的に遂行しようとしている。
技術・表現の観点 (A)	文章表現や議論の展開が明確である。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ルーブリックについて 研究データの整理・分析・考察①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業論文のルーブリックをの検討 収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討①
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒業論文のルーブリックを、まず自分で作成しておく。 収集しているデータを整理・分析・考察し、報告で

		きるようまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	研究データの整理・分析・考察②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討②
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	研究データの整理・分析・考察③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討③
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	研究データの整理・分析・考察④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討④
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	研究データの整理・分析・考察⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討⑤
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	論文構成の見直し
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでのデータについての整理・分析・考察のまとめと論文構成とを照合し、見直しを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの成果を大まかにまとめ、章立てを見直しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	**授業テーマ**	研究データの整理・分析・考察⑥
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討⑥
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	研究データの整理・分析・考察⑦
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討⑦
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	論文執筆内容の検討①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の目的と先行研究レビューの検討
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究の目的と先行研究レビューをまとめておく。

	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	論文執筆内容の検討②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究方法と結果及び図表についての検討と調整
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究方法及び図表を中心に整理をしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	論文執筆内容の検討③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考察の記述に関する検討①
	教室外学習(予習・復習)の内容	先行研究、結果に基づいて考察を深める。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	論文執筆内容の検討④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考察の記述に関する検討②
	教室外学習(予習・復習)の内容	第11回の検討に基づき、考察を深める。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	**授業テーマ**	論文執筆内容の検討⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全体考察を検討し、序及び結の内容を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	全体考察・論文のまとめを作成する。序及び結びの内容を加筆修正しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	**授業テーマ**	論文要旨・プレゼンテーションの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文全体の確認及び論文要旨の検討及び卒論発表会のプレゼンテーションスライドの確認
	教室外学習(予習・復習)の内容	指定された様式に則し、要旨を作成しておく。卒論発表会に向けてのスライドを準備しておく。
	教室外学習の時間（分）	360分

学習計画注記

履修状況や研究の進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

研究方法・内容について、受講生の課題可決に向けて、毎回の講義で相談・指導を行います。メール、および研究室訪問による質問も、随時受け付けます。

評価方法

受講生の授業への参加状況，研究への取り組みやディスカッションへの参加の積極性等を総合的に判断します。論文執筆では、考察の深まり、論理的思考の展開、明確な議論の展開、文章表現のわかりやすさ等の総合的な視点から評価します。より良い論文・発表を目指すために、ルーブリックを提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
取り組みの姿勢			○	
論理的思考	○	○		○
文章表現	○	○		○

評価割合

平常点（40%），研究論文（50%），研究発表（プレゼンテーション）（10%）による総合評価。

参考図書

講義内で紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
「児童学」について、音楽・教育・文化といった領域に関する豊かな知識。
【思考・判断】
子どもと直接触れ合ったり、保育者・教師などの実践から学ぶなど、具体的・実践的な学びの機会から得た知識をもとに、様々な課題に柔軟に対応できる感性と応用力をもつ。
【関心・意欲・態度】
自ら課題を見出し、それに向けて専門的知識を収集するとともに、保育・授業参観及び子どもと関わることから学びを深める。
【技能・表現】
知識・理解をもとに、考えたことを論理的に表現する。

オフィスアワー

火曜日 ３限 1601

学生へのメッセージ

卒業研究Ｂでは，卒業研究Ａの成果をさらに発展させて，１つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は，大変根気の要る作業であり，一日一日の積み重ねが非常に大切である。また，研究成果を要約した要旨の作成や，卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象となる。学生生活の締めくくりとして，ぜひ意欲的に取り組んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	発表内容について全員でディスカッションを重ねることを通し、主体的・能動的に学びを深めていく。
情報リテラシー教育	○	webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。
ICT活用	○	タブレット型PCやアプリケーション、視聴覚機器などを課題解決に用いる学習を通して、チームアプローチによる討論や対話の深まりを体験的に理解する。

講義コード	G04011026
講義名	卒業研究Ｂ（佐藤）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	佐藤 冬果	指定なし

ナンバリング

P40002M21

授業概要(教育目的)

卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理，分析，考察を行い，研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出する。卒業研究発表会では，最終的な研究成果を口頭で発表し，質疑応答を行う。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。

履修条件

卒業研究Aの単位を取得していることが履修条件となります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自身の研究によって得られた知見や今後の課題を説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	調査によって得られたデータを適切に考察し、主張することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自身で設定した研究テーマに対し、主体的に研究活動に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	プレゼンテーション等において、自身の研究テーマを分かりやすく他者に伝えることができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	データの整理と検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータを整理し、進捗状況を共有する。追加調査の必要性や分析の方針を検討する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）収集したデータを整理し、発表できるように準備しておくこと。 （復習）追加調査が必要な場合は計画を立てること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	**授業テーマ**	データの整理・分析（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータを整理し、分析方法について検討し、分析を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）データの整理を進めておくこと。 （復習）自身の研究に合わせた分析方法を調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	**授業テーマ**	データの整理・分析（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	分析の結果を考察する。また必要に応じて図表を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）分析を進めておくこと。 （復習）図表の作成を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	**授業テーマ**	執筆内容（序論）の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の背景から得られた結果までの流れを確認し、ストーリー構成を決定する。序論の執筆方針を決定し、執筆を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）研究の問いを振り返り、一貫性を持ったストーリーが構成されているかを検討すること。 （復習）序論の執筆を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	**授業テーマ**	執筆内容（先行研究）の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究に関する章の執筆を進め、自身の研究に過不足なく必要な先行研究が提示されているかを確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）一貫性を持ったストーリーに必要な先行研究が提示されているかを検討すること。 （復習）先行研究の執筆を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	**授業テーマ**	執筆内容（方法）の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究方法に関する章の執筆を進め、自身の研究の方法が適切に提示されているかを確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）研究の全体を見直し、方法や手順をまとめておくこと。 （復習）方法の執筆を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	**授業テーマ**	執筆内容（結果）の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	結果に関する章の執筆を進め、自身の研究の結果が適切に提示されているかを確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）研究の全体を見直し、得られた結果をまとめておくこと。 （復習）結果の執筆を進めておくこと。

	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	**授業テーマ**	執筆内容（考察）の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考察に関する章の執筆を進め、自身の研究の考察が適切に提示されているかを確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）結果と考察をまとめておくこと。 （復習）考察の執筆を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	**授業テーマ**	執筆内容（結論）の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	結論に関する章の執筆を進め、自身の研究の結論が適切に提示されているかを確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）研究の全体を見直し、研究の概要や総合考察をまとめておくこと。 （復習）結論の執筆を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	**授業テーマ**	論文要旨の作成（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	要旨の構成と、記述内容を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）自身の研究を振り返り、要旨に掲載するポイントを整理しておくこと。 （復習）要旨の作成を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	**授業テーマ**	論文要旨の作成（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	要旨を発表し、指摘に応じて修正を加える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）要旨の作成を進めておくこと。 （復習）指摘を受けた点について修正を加えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	**授業テーマ**	プレゼンテーションの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションの流れを検討し、パワーポイント資料を作成する。また、発表原稿を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）自身の研究を振り返り、発表で説明するポイントを整理しておくこと。 （復習）パワーポイント資料・発表原稿の作成を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	**授業テーマ**	発表練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成したパワーポイント資料・発表原稿を用い、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）パワーポイント資料・発表原稿の作成を進め、発表練習をしておくこと。 （復習）指摘を受け、パワーポイント資料・発表原稿の修正を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分

第14回	授業テーマ	卒業研究発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究の成果を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）発表練習をしておくこと。 （復習）質疑応答で出た質問を整理し、回答をまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

履修状況や研究の進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業において、提示された内容（テーマ設定、方法論の設定、執筆された原稿等）について適宜フィードバックを行います。
メールおよび研究室訪問による質問も随時受け付けます。

評価方法

・授業への参加、卒業論文への取り組み、成果物、プレゼンテーションにより、自分自身が設定した課題に対する主体的な取り組みを総合的に評価します。
・ルーブリックを用いた評価を行います。ルーブリックについてはクラスルームにより提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
成果物	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合

平常点（40%）、成果物（30%）、中間報告（プレゼンテーション）（30%）による総合評価（平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

研究の育て方：ゴールとプロセスの「見える化」
近藤 克則 著、医学書院
ISBN 978-4-260-03674-0
定価 2,750円 （本体2,500円+税）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学の6領域について総合的・専門的知識が修得できている。
【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学びあう具体的・実践的な機会を通して、自らさまざまな課題に柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー

月曜4限 1618室

学生へのメッセージ

卒業研究Ｂでは，卒業研究Ａの成果をさらに発展させて，１つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は，大変根気の要る作業であり，一日一日の積み重ねが非常に大切である。また，研究成果を要約した要旨の作成や，卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象となる。学生生活の締めくくりとして，ぜひ意欲的に取り組んでほしい。

卒業研究の執筆は、4年間の学びのまとめであると言えます。完成には、自分自身で1つ1つのことを「やり切る力」が必要になると思います。論文が完成した時、児童学のなかに自分自身が発見した知識が残る喜びが感じられるよう、サポートしたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	・教員による指示ではなく、主体的に研究を進めていく過程を重視します。 ・ゼミ生相互の発表、ディスカッションを通して研究を進め、学びを深めていきます。
情報リテラシー教育	○	・文献の扱い方について、文献検索方法やデータベースの活用法、そして適切な引用方法について提示します。 ・論文執筆のための文章作成技法について、ワープロソフトの活用法を含めて学びます。 ・プレゼンテーションの技法について、プレゼンテーションソフトの活用法を含めて学びます。
ICT活用	○	・授業（卒業研究執筆に向けた一連の作業）は、PCを利用して進めます。

講義コード	G04011027
講義名	卒業研究Ｂ（江田）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	江田 裕介	指定なし

ナンバリング

P40002M21

授業概要(教育目的)

卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理，分析，考察を行い，研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出する。卒業研究発表会では，最終的な研究成果を口頭で発表し，質疑応答を行う。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。

履修条件

卒業研究Aの単位を取得していることが履修条件となります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自身の研究によって得られた知見や今後の課題を説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	調査によって得られたデータを適切に考察し、主張することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自身で設定した研究テーマに対し、主体的に研究活動に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	プレゼンテーション等において、自身の研究テーマを分かりやすく他者に伝えることができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	データの整理と検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータを整理し、進捗状況を共有する。追加調査の必要性や分析の方針を検討する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）収集したデータを整理し、発表できるように準備しておくこと。 （復習）追加調査が必要な場合は計画を立てること。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	**授業テーマ**	データの整理・分析（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収集したデータを整理し、分析方法について検討し、分析を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）データの整理を進めておくこと。 （復習）自身の研究に合わせた分析方法を調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	データの整理・分析（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	分析の結果を考察する。また必要に応じて図表を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）分析を進めておくこと。 （復習）図表の作成を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	執筆内容（序論）の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の背景から得られた結果までの流れを確認し、ストーリー構成を決定する。序論の執筆方針を決定し、執筆を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）研究の問いを振り返り、一貫性を持ったストーリーが構成されているかを検討すること。 （復習）序論の執筆を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	執筆内容（先行研究）の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究に関する章の執筆を進め、自身の研究に過不足なく必要な先行研究が提示されているかを確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）一貫性を持ったストーリーに必要な先行研究が提示されているかを検討すること。 （復習）先行研究の執筆を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	執筆内容（方法）の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究方法に関する章の執筆を進め、自身の研究の方法が適切に提示されているかを確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）研究の全体を見直し、方法や手順をまとめておくこと。 （復習）方法の執筆を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	執筆内容（結果）の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	結果に関する章の執筆を進め、自身の研究の結果が適切に提示されているかを確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）研究の全体を見直し、得られた結果をまとめておくこと。 （復習）結果の執筆を進めておくこと。

	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	執筆内容（考察）の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考察に関する章の執筆を進め、自身の研究の考察が適切に提示されているかを確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）結果と考察をまとめておくこと。 （復習）考察の執筆を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	執筆内容（結論）の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	結論に関する章の執筆を進め、自身の研究の結論が適切に提示されているかを確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）研究の全体を見直し、研究の概要や総合考察をまとめておくこと。 （復習）結論の執筆を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	論文要旨の作成（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	要旨の構成と、記述内容を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）自身の研究を振り返り、要旨に掲載するポイントを整理しておくこと。 （復習）要旨の作成を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	論文要旨の作成（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	要旨を発表し、指摘に応じて修正を加える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）要旨の作成を進めておくこと。 （復習）指摘を受けた点について修正を加えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	プレゼンテーションの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションの流れを検討し、パワーポイント資料を作成する。また、発表原稿を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）自身の研究を振り返り、発表で説明するポイントを整理しておくこと。 （復習）パワーポイント資料・発表原稿の作成を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	発表練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成したパワーポイント資料・発表原稿を用い、発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）パワーポイント資料・発表原稿の作成を進め、発表練習をしておくこと。 （復習）指摘を受け、パワーポイント資料・発表原稿の修正を進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分

第14回	授業テーマ	卒業研究発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業研究の成果を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）発表練習をしておくこと。 （復習）質疑応答で出た質問を整理し、回答をまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

履修状況や研究の進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合があります。
個々の研究テーマによる演習の他に、共通したテーマで文献の講読やディスカッションを行うことがあります。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業において、提示された内容（テーマ設定、方法論の設定、執筆された原稿等）について適宜フィードバックを行います。
メールおよび研究室訪問による質問も随時受け付けます。

評価方法

授業への参加、卒業論文への取り組み、成果物、プレゼンテーションにより、自分自身が設定した課題に対する主体的な取り組みを総合的に評価します。各課題について授業内で適宜にルーブリック評価表を示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
成果物	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合

平常点（40%）、成果物（30%）、中間報告（プレゼンテーション）（30%）による総合評価（平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

・適宜に資料の配布やオンライン・コンテンツの共有を行います。

参考図書

適宜に紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学の6領域について総合的・専門的知識が修得できている。
【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学びあう具体的・実践的な機会を通して、自らさまざまな課題に柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー

前期：月曜３限（江田研究室）
後期：金曜４限（江田研究室）

事前に必ずメール等でアポイントメントをとってください。

学生へのメッセージ

卒業研究Ｂでは，卒業研究Ａの成果をさらに発展させて，１つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は，大変根気の要る作業であり，一日一日の積み重ねが非常に大切である。また，研究成果を要約した要旨の作成や，卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象となる。学生生活の締めくくりとして，ぜひ意欲的に取り組んでほしい。

卒業研究の執筆は、4年間の学びのまとめであると言えます。完成には、自分自身で1つ1つのことを「やり切る力」が必要になると思います。論文が完成した時、児童学のなかに自分自身が発見した知識が残る喜びが感じられるよう、サポートしたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	指導教員は重度障害児の教育臨床に16年間従事した経験を有します。
アクティブ・ラーニング	○	・教員による指示ではなく、主体的に研究を進めていく過程を重視します。 ・ゼミ生相互の発表、ディスカッションを通して研究を進め、学びを深めていきます。
情報リテラシー教育	○	・文献の扱い方について、文献検索方法やデータベースの活用法、適切な引用方法について学びます。 ・オンライの教育やコミュニケーションにおける情報モラルについて学びます。 ・プレゼンテーションの技法について、プレゼンテーションソフトの活用法を含めて学びます。
ICT活用	○	・オンラインでコンテンツを共有し、基本的にペーパーレスで指導を行います。その利用方法は分かりやすく教えます。 授業（卒業研究執筆に向けた一連の作業）は、PCを利用して進めます。

講義コード	G04013001
講義名	発達臨床心理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	柳瀬 洋美	指定なし

ナンバリング

P30101M21

授業概要(教育目的)

人間のライフサイクルを「生涯発達」という連続性のなかで捉え、乳児期・幼児期、学童期・思春期、青年期、成人期、老年期の各時期に生ずる様々な悩みや問題について理解を深める。また、直面する課題に即した臨床実践のあり方や支援に必要な心理臨床の基礎的理論、技法、実践を学ぶ。発達臨床心理学の意義と課題、子どもの問題のとらえ方、臨床心理学の基礎理論、発達と学習、心理的アセスメントと援助の方法、事例研究、等から理解し学ぶ。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	発達臨床学的な課題に対応するために必要な心理臨床の基礎的な理論・方法を学ぶ。
思考・判断の観点 (K)	発達臨床心理学の意義と課題、子どもの問題のとらえ方、臨床心理学の基礎理論、発達と学習、心理的アセスメントと援助の方法、事例研究、等から理解し学ぶ。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間のライフサイクルにおいて直面するさまざまな問題について「生涯発達」という視点から理解を深めていく。
技術・表現の観点 (A)	１．各種発達検査・心理検査の模擬体験等を通して、発達臨床に関する課題の把握とアセスメント、課題解決に向けての実践力を培う。 ２．事例を理解する上で有効な手段であるジェノグラムとエコマップなどの作成方法を学ぶ。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	発達臨床心理学の背景と意義～生涯発達という視点から考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・発達心理学と臨床心理学の基本的な考え方と発達臨床心理学という学問が生まれた背景と意義について学ぶ ・発達を生涯にわたるものとしてとらえ、エリクソンのライフサイクル論やピアジェやフロイトの発達論など おもな生涯発達に関する理論について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・「発達とは何か」という問いについて、配布資料をもとに考える。 ・授業後は、授業で配布する資料を復習し、生涯発達の基本について理解しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	**授業テーマ**	胎児期～乳児期の発達と心理臨床
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	胎児期～乳児期の発達の基本について学び、未熟児医療やこの時期の臨床的な課題と支援について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	胎児期～乳児期の臨床事例について、学んだことをもとに検討しまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	幼児期～学童期の発達と心理臨床
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児期～学童期の発達のテーマを知り、この時期に多く見られる心理臨床的な課題とその対応について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまで学んできたことや自分自身が実習等で経験したことをもとに、事例をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	発達障害と共に生きるということ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	おもな発達障害に関する事例の検討を通し、発達障害と共に生きること、共に生きる家族を支えることについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまで学んできたことや自分自身が実習等で経験したことをもとに、事例をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	心理的アセスメントの方法①発達検査・心理検査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	心理的アセスメントの方法として、主な発達検査・心理検査について知り、その一部を実際に体験し、各種検査への理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実際に発達検査・心理検査を経験し、得られた考察をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	心理的アセスメントの方法②総合的理解と見立て
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各種検査から得られた検査結果をどのように読み取り、どのように対象児に生かすのか、支援の基本を学ぶ。
	教室外学習(予習・復	これまで学んできたことや自分自身が実習等で経験したこと

	習)の内容	をもとに、事例をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	学校の発達臨床―不登校といじめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	不登校やいじめ等、学校現場における臨床事例について、発達臨床的な視点から理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	今回の授業で学んだことをもとに、学校現場における臨床事例について検討してみる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	児童養護と発達臨床
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	虐待等、児童養護の問題について現状について知り、発達臨床的視点から考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	今回の授業で学んだことをもとに、児童養護に関する臨床事例について検討してみる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	ジェノグラムとエコマップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事例を理解し方針を検討する上で有効な手段であるジェノグラムとエコマップの作成方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事例をもとに、自分でジェノグラムとエコマップを作成する課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	思春期～青年期の発達と心理臨床
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	思春期～青年期の発達のテーマを知り、この時期に多く見られる心理臨床的な課題とその対応について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	思春期～青年期の臨床事例について、学んだことをもとに検討しまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	成人期の発達と心理臨床
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	成人期の発達のテーマを知り、この時期に多く見られる心理臨床的な課題とその対応について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	今回の授業で学んだことをもとに、成人期の臨床事例について検討してみる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	老年期の発達と心理臨床
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	老年期の発達のテーマを知り、この時期に多く見られる心理臨床的な課題について、「語ること」「傾聴すること」の重要性を主軸とした対応について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	今回の授業で学んだことをもとに、老人期の臨床事例について検討しまとめる。
	教室外学習の時間	190分

	（分）	
第13回	**授業テーマ**	家族関係と発達臨床
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「家族もまた発達する存在である」という考え方を基盤とし、そこに展開する家族関係や家族に関する諸問題を発達的視点から理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	今回の授業で学んだことをもとに、家族に関する臨床事例について検討してみる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	授業全体のまとめと確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業全体を振り返り、最後に、発達臨床に関する基礎知識を問い、臨床的な課題への対応について考える確認テストを実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストや授業で配布された資料をもとに、これまでの授業内容を振り返り、まとめる。 確認テストは授業内で配布した資料や板書の内容から提出する。
	教室外学習の時間（分）	310分

学習計画注記

※履修者の保育・教育実習の状況や授業の進み具合によりスケジュールが変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

授業内ミニ課題やリアクションペーパーを実施し、次の回の授業時間内に、寄せられた質問への回答や解説する。また、学生の興味・関心を授業内容に適宜反映させる。

評価方法

・授業内で実施する課題への取り組みも評価の対象とする。
・授業の最後に、まとめと振り返りを行い、確認テストを実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○	○	
授業内課題	○	○	○	○

評価割合

定期試験70%、授業内ミニ課題20%、平常点（授業への取り組み等）10%
ルーブリックに基づいて評価する。ルーブリックは授業内に提示する。

使用教科書名(ISBN番号)

麻生武・浜田寿美男 編「よくわかる臨床発達心理学」（2017第4版）ミネルヴァ書房
ISBN：978-4-623-06326-0

参考図書

人間関係の理解と心理臨床（978-4-7664-2466-9） 吉川晴美・松井知子 編著（慶應義塾大学出版会）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】課題に対応するために必要な心理臨床の基礎的な理論・方法を学ぶ。
【思考・判断】人間のライフサイクルにおいて直面するさまざまな問題について「生涯発達」という視点から理解を深めていく。

【技術・表現】心理劇（ロールプレイ）等を通じて、問題の把握と問題解決への実践力を養う。

オフィスアワー

水曜日5時限 1619研究室

学生へのメッセージ

子どもの発達や臨床に関する身の回りの記事やニュースに興味をもって授業に臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員の療育現場や子育て支援現場での実務経験を生かし、事例をもとに考える授業を取り入れる。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによる事例検討やロールプレイを取り入れながら、学生自身が感じ、考え、理解を深める時間を大切にする。
情報リテラシー教育	○	自分の興味・関心にそって情報収集を行い、自ら考察する経験を積み重ねる。
ICT活用		

講義コード	G04014001
講義名	対人関係の発達
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P30102M21

授業概要(教育目的)

乳幼児期から老年期までの、各世代の対人関係の発達や特徴について概観した上で，社会の変化を背景として対人関係のあり方も変化してきていることを理解できるようにする。現代に生きる子どもたちの対人関係の課題について取り上げ、ソーシャルスキルトレーニングなどの支援について紹介する。青年期の対人関係の課題については、学生自身の対人関係について振り返りつつ考えていけるようにする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・乳幼児期から老年期までの各世代の対人関係の特徴を説明できる
思考・判断の観点 (K)	・授業で学んだ知識を自らの人間関係の課題と結び付け考えられる
関心・意欲・態度の観点 (V)	・現代社会における人間関係をめぐる課題に関心を持ち，よりよく人と人がつながり，生きることができる社会のあり方を考え続ける態度を身に付けている
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション：人にとっての人とのかかわり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人の一生を他者とのかかわりという視点から概観する
	教室外学習(予習・復習)の内	〔予習〕誕生から人生の終わりまでの人とのかかわりにどのようなものがあるか書き出してみる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点に

	容	ついて再度授業資料を読み考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	乳児期の人間関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生後一年間の成長を追ったドキュメンタリー映画を教材に，人は人との関係の中に生まれてくること，それはどの社会においても変わらないこと，乳児と他者との関係のありようは文化によって違うこと等を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復習〕生後一年間の乳児と他者のかかわりについて，文化を通じて共通している点，文化によって異なる点をまとめ小レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	210分
第3回	授業テーマ	児童期の人間関係(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童期の人間関係の特徴を概観した後，児童期の子どもたちを描いた映像作品を鑑賞し，その特徴の具体的な現れ方を考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕１年次「発達心理学」で学んだ児童期の発達的特徴についてテキスト・授業資料の該当箇所を読み直し確認しておく。〔復習〕授業中に鑑賞した映像作品において，児童期の親子関係，仲間関係の特徴が具体的にどのように現れていたか小レポートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	210分
第4回	授業テーマ	児童期の人間関係(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自作成したレポートをグループ内で発表し，児童期の人間関係についてディスカッションを行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕前回の授業後に作成したレポートを基にグループでの発表準備をする。〔復習〕グループディスカッションで得た気づきを小レポートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	思春期・青年期の人間関係(1):ソーシャルスキルトレーニング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	思春期・青年期の対人関係の特徴を概観したうえで，近年教育の現場にも取り入れられているソーシャルスキルトレーニングについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕1年次前期「発達心理学」で学んだ思春期・青年期の発達的特徴についてテキスト・授業資料の該当箇所を読み直し確認しておく。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料を読み考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	思春期・青年期の人間関係(2):恋愛関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	青年期の恋愛関係の発達について概観を学んだ後，グループディスカ

第6回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ッションを行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕事前配布プリントを読んでおく。〔復習〕グループディスカッションを通して得た気づきを小レポートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	210分
第7回	授業テーマ	現代社会における人間関係を考える(1)青年の人間関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	友人との関係のあり方について，自分たちの世代と上の世代を比較し，グループディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕事前配布プリントを読んでおく。〔復習〕グループディスカッションを通して得た気づきを小レポートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	210分
第8回	授業テーマ	現代社会における人間関係を考える(2)SNSの世代
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代の青年の人間関係にSNSがどのような影響を与えているかグループディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕一週間のうちどのようなSNSをどのくらいどのように利用したか記録しておく。若者のSNS利用についてどのような意見があるかインターネット等で調べておく。〔復習〕グループディスカッションを通して得た気づきを小レポートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	現代社会における人間関係を考える(3)自分たちの人間関係を振り返る
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代の青年の人間関係の特徴について他の世代との比較，SNS利用との関係などから総合的に考察する
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕第８回，第９回のグループディスカッションの内容を見返しておく。〔復習〕グループディスカッションの内容を次回発表できる形にまとめる
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	現代社会における人間関係を考える(4)グループ発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代の青年の人間関係の特徴について各グループの考察を発表する
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復習〕これまでのグループディスカッションから得た気づきを小レポートにまとめる。
	教室外学習の	190分

	時間（分）	
第11回	**授業テーマ**	成人期の人間関係(1)メンターの役割①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	職場でのメンターの役割について学んだ上で，メンター的存在を描く映像作品を鑑賞する
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕自分が社会で働く際，上司に求めることを書き出しておく。〔復習〕映像作品に描かれるメンター的存在の特徴について気が付いたことを書き出しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	成人期の人間関係(2)職場の人間関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	職場の人間関係において大切なことについてグループディスカッションを行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復習〕自分が働きだしたとき，新人としてどのような姿勢をもつことが必要か，自分が指導する立場に立ったとき，どのような配慮が必要か，授業でのディスカッションを参考にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	老年期の人間関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人生の最後の時期の人とのかかわりについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕祖父母とどのようなかかわりをもってきたか，自分が乳幼児の時，児童期の時，思春期，青年期に分けて書き出す。〔復習〕祖父母の視点から見た孫との関係について，気が付いたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	まとめと発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業を通して人との関係について学んだことを各自発表する
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕これまでの授業資料を読み返し，学んだことを発表できる形にまとめる。〔復習〕発表した内容も含めた形で最終レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	220分

学習計画注記

授業の進み具合等によりスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

コミュニケーション・カードに下線and/orコメント付きで返却する。多かった質問・疑問については次回授業冒頭で解説する。また特によかったコメントについては次回授業冒頭で紹介す

る。それ以外の質問がある場合は1626研究室まで訪問すること。

評価方法

・平常点は学びに向かう姿勢，意欲，理解度をコミュニケーション・カードの記入状況，内容から評価する。
・小レポートは，取り組みと内容により評価する。
・最終レポート課題では， 授業で得た気づきを基に，自ら積極的に考える姿勢，考察の内容を評価する。
・平常点，課題，最終レポートは，下表に示す力を養うことを目的に実施する。
・成績評価はルーブリックに基づいて行う。ルーブリックはクラスルームまたは授業内での配布により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
小レポート	○	○	○	
最終レポート		○	○	

評価割合

平常点（20%），課題(50%)，最終レポート（30%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない。適宜資料を配布する。

参考図書

授業のなかで適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人の生涯にわたる人間関係の発達に関する専門的知識を有している。【思考・判断】授業で学んだ知識を自らの人間関係の課題と結び付け考えられる。【関心・意欲・態度】現代社会における人間関係をめぐる課題に関心を持ち，よりよく人と人がつながり，生きることができる社会のあり方を考え続ける態度を身に付けている。

オフィスアワー

水曜日４限 1626研究室

学生へのメッセージ

授業形態は講義ですが，演習的な内容が多く含まれています。知識を得るだけではなく，それを用いて考えることを重視した授業ですので，受け身でなく，積極的な姿勢で参加できる方の受講を歓迎します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	小グループでのディスカッション，全体での発表を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04015001
講義名	発達障害の理解と支援
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	原田 晋吾	指定なし

ナンバリング

P20404M21

授業概要(教育目的)

・自閉スペクトラム症（ASD）、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）等についての理解と指導や支援方法について理解する。
・幼稚園、小学校、特別支援学校における指導事例を取り上げ、障害が及ぼす学習面・行動面・コミュニケーション面等への影響と二次障害について理解し、具体的な指導や支援の在り方について学ぶ。
・個別指導、集団指導、校内支援、保護者・地域関係機関との連携について、発達障害等のある幼児児童やその家族にとって望ましい支援の在り方について考える。

履修条件

特になし。
＊本科目は特別支援学校教諭一種免許状の取得を目指す場合の必修科目である

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	1.自閉スペクトラム症（ASD）、学習障害（ＬＤ）、注意欠陥多動性障害（ＡＤＨＤ）等についての理解と指導や支援方法について理解する。 2.幼稚園、小学校、特別支援学校における指導事例を取り上げ、障害が及ぼす学習面・行動面・コミュニケーション面等への影響と二次障害について理解し、具体的な指導や支援の在り方について学ぶ。
思考・判断の観点(K)	1.個別指導、集団指導、校内支援、保護者・地域関係機関との連携について、発達障害等のある幼児児童やその家族にとって望ましい支援の在り方について考える。
関心・意欲・態度	1.様々な発達障害の障害特性や状況及び学習や生活上の困難について、事例を通して特徴的な行動について理解を深める。

の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	1.発達障害の様々な障害特性や支援法について、説明ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	発達障害児に対する指導・支援の現状
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・発達障害の児童生徒が学ぶ場について現状を知る ・発達障害の児童生徒に対する教育課程の考え方を確認する ・特別支援学校、特別支援学級、そして小・中学校等における特別な配慮を必要とする児童生徒等への指導を理解する ・家庭や医療、福祉及び労働機関等との連携のあり方について好事例から学ぶ ・特別支援学校のセンター的機能の発揮について知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	○予習 書籍やインターネットを用いて「発達障害」の概要を調べる ○復習 本時の学びを通してインクルーシブ教育システムについて考えたことを整理し、我が国の現状を調べる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	**授業テーマ**	学習障害（LD）の理解と支援①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習障害（LD:Leaning Disability）の原因となる脳機能に関わる病理面や心理面の特徴について知り、疑似体験等を通してLDの児童生徒が経験する困難について知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	○予習 書籍やインターネットを用いて学習障害（LD）について調べておく ○復習 学習障害（LD）の児童生徒が経験する困難さに応じた学習支援のあり方について自分なりの考えをまとめておく
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	学習障害（LD）の理解と支援②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・学習障害（LD）の児童生徒に有効な指導支援方法について学ぶ。 ・二次的な障害について理解し、その予防的対応について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	○予習 書籍やインターネットを用いて「二次障害」とは何かについて調べておく ○復習 学習障害（LD）の児童生徒に対するエビデンスに基づいた指導支援方法について整理する
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	学習障害（LD）の理解と支援③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・学習障害（LD）のアセスメント法について学び、学習指導の計画に有効な情報収集の仕方について学ぶ ・RTI(Response to Intervention）を実践している自治体の事例を学び、早期介入の重要性について学ぶ ・学習障害（LD）の児童に対する個別の指導計画作成について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	○予習 書籍やインターネットを用いて発達障害における「アセスメント」の定義と具体的な方法について調べておく ○復習 学習障害の特性と指導支援のポイントについてまとめておく
	教室外学習の時間	

	（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	注意欠如・多動症（ADHD）の理解と支援①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	注意欠如・多動症（ADHD）の原因となる脳機能に関わる病理面や心理面の特徴について知り、疑似体験等を通してADHDの児童生徒が経験する困難について知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	○予習 書籍やインターネットを用いて注意欠如・多動症（ADHD）について調べておく ○復習 注意欠如・多動症（ADHD）の児童生徒が経験する困難さに応じた学習支援のあり方について自分なりの考えをまとめておく
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	注意欠如・多動症（ADHD）の理解と支援②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・注意欠如・多動症（ADHD）の児童生徒に有効な指導支援方法について学ぶ。 ・二次的な障害について理解し、その予防的対応について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	○予習 書籍やインターネットを用いて「ADHDマーチ（反抗挑戦性障害、素行障害、行為障害）」について調べておく ○復習 注意欠如・多動症（ADHD）の児童生徒に対するエビデンスに基づいた指導支援方法について整理する
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	注意欠如・多動症（ADHD）の理解と支援③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・注意欠如・多動症（ADHD）のアセスメント法について学び、学習指導の計画に有効な情報収集の仕方について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	○予習 書籍やインターネットを用いて注意欠如・多動症（ADHD）のアセスメント法に関する具体的な方法を調べておく ○復習 注意欠如・多動症（ADHD）の特性と指導支援のポイントについてまとめ
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	自閉スペクトラム症（ASD）の理解と支援①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自閉スペクトラム症（ASD）の原因となる脳機能に関わる病理面や心理面の特徴について知り、疑似体験等を通してASDの児童生徒が経験する困難について知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	○予習 書籍やインターネットを用いて自閉スペクトラム症（ASD）について調べておく ○復習 自閉スペクトラム症（ASD）の児童生徒が経験する困難さに応じた学習支援のあり方について自分なりの考えをまとめておく
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	自閉スペクトラム症（ASD）の理解と支援②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・自閉スペクトラム症（ASD）の児童生徒に有効な指導支援方法について学ぶ。 ・二次的な障害について理解し、その予防的対応について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	○予習 書籍やインターネットを用いて成人期のASD者の困難について調べておく ○復習 自閉スペクトラム症（ASD）の児童生徒に対するエビデンスに基づいた指導支援方法について整理する

	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	自閉スペクトラム症（ASD）の理解と支援③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・自閉スペクトラム症（ASD）のアセスメント法について学び、学習指導の計画に有効な情報収集の仕方について学ぶ ・学習障害（LD）の児童に対する個別の指導計画作成について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	○予習 書籍やインターネットを用いて発達障害における「ASDのアセスメント」に関する具体的な方法について調べておく ○復習 自閉スペクトラム症（ASD）の特性と指導支援のポイントについてまとめておく
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	自閉スペクトラム（ASD）の理解と支援④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼稚園、保育所、小学校等に在籍する自閉スペクトラム症（ASD）の児童に対する指導支援の進め方について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	○予習 第8~10回の授業内容を振り返り、自閉スペクトラム症（ASD）の特性についておさらいをしておくこと ○復習 定型発達の児童のなかで ASDの児童の指導支援を進めるうえで持つべき視点について整理する
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	障害の特性等に応じた指導・支援の実際(小学校通常学級および通級指導教室)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校の通常学級における発達障害児の教育を学び、通常の学級の授業の中での支援を理解する。 通級指導教室で行われる自立活動の実際を知り、通級指導教室における授業実践を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	○予習 書籍やインターネットを用いて「ソーシャルスキルトレーニング（SST：Social Skill Trainning）」について調べておく ○復習 SSTで取り扱うべき児童の社会的行動を挙げ、それらの指導の具体的進め方について検討する
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	障害の特性等に応じた指導・支援の実際(小学校特別支援学級)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校特別支援学級における発達障害児の教育を学び、特別支援学級の授業の指導・支援を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	○予習 書籍やインターネットを用いて「特別支援学級」について調べ、「通常学級」との違いについて整理しておく ○復習 「交流及び共同学習」について調べ、具体的な実践例を一つ以上調べてまとめておく
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	障害の特性等に応じた指導・支援の実際(小学校通級による指導)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校通級による指導における発達障害児の教育を学び、特別支援学級の授業の指導・支援を理解する。 授業後半で、確認テストを実施

第14回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	○予習 書籍やインターネットを用いて「通級指導」の指導形態について調べておく ○復習 発達障害児童生徒の指導支援の場について整理しておく
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

・授業の内容によっては、図書館での調べ学習やグループワークなどを取り入れて、主体的な学びを行えるようにする。グループワークにおける貢献度について自己評価・他者評価を行う。毎回のリフレクションシートには可能な限り科目担当者のコメントを付してフィードバックする。

評価方法

授業でのリフレクションシート（30%）、期末レポート(40%）、平常点(30%）
により総合的に評価する。
定期試験における評価規準は、授業内でルーブリック評価表を配布する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
リフレクションシート	○	○	○	
期末レポート	○	○		
平常点			○	○

評価割合

授業でのリフレクションシート（30%）
定期試験(40%)
平常点(30%)
により総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

授業内で適宜情報提供します

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】小・中学校等の発達障害児等への理解と指導について理解し、障害のある子どもの教育に関する専門的な知識の修得ができている。
【思考・判断】小・中学校等の発達障害児等への理解と指導について理解を深め具体的・実践的な教育活動や地域連携などの状況を把握し障害の有無に関係なく共に育つ共生社会を創造できる完成やコミュニケーション能力が備わっている。

オフィスアワー

月曜3限（1509教室）

学生へのメッセージ

保育所、幼稚園、小学校、特別支援学校の教員をめざす上で、発達障害の児童生徒に対する理解を深めるとともに、さまざまな支援方法を知り、実践力を身につけることが重要です。
障害の捉え方やさまざまな発達障害の理解と支援についてはじめて学ぶ学生にも分かりやすい授業を心がけますので、興味のある方は是非受講してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業内容に応じて、ワークシートを活用して個人の意見をまとめたり、小集団での話し合いや発表をしたりする機会を設けて、より主体的対話的な学びの機会を設ける。
情報リテラシー教育	○	障害のある子どもに関する教育におけるICT活用や個人情報保護及び個人情報流出防止等に関する情報を提供し人権尊重に結びつけた指導をする。
ICT活用	○	映像、パワーポイント資料等を活用しながら、より障害理解を深めるための適切な指導とICT機器を活用した視覚・聴覚支援について情報を提供する。

講義コード	G04018001
講義名	児童とカウンセリング
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	柳瀬　洋美	指定なし

ナンバリング

P40101M21

授業概要(教育目的)

ひとは生きていく上で、苦しみや哀しみと無縁ではいられない。時には「何が辛く苦しいのか」すら分からないほど困難な状態に陥ってしまう場合もある。そのような場合、まず困っている自分自身に気づき、理解し、その状況を客観的に再認識するところから始めると、新たなかかわり方の工夫が可能となり、問題解決へと結びついていくことが少なくない。本授業では、子どもにかかわる事例を中心に取り上げながら、基本的なカウンセリングの理論と技法、実践を統合的に理解し自分と向き合いながら、ひとがひとを理解し支えるとはどういうことなのか、ひとの心に寄り添うとはどういうことなのかについて考えていく。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．基本的なカウンセリングに関する理論と知識・支援者としての姿勢について学ぶ。
思考・判断の観点 (K)	１．課題や悩みを抱える相手に寄り添うということについて理解を深め、支えていくために必要な姿勢とカウンセリング・スキルの基礎を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	１．「自己の内面を見つめ、肯定的にありのままの自分を受け入れること」の大切さと他者の思いに寄り添う際に求められる基本的な姿勢について学ぶ。
技術・表現の観点 (A)	１．自己の課題に気づき、課題と向き合うために必要なスキルを学ぶ。

学習計画

第1回	授業テーマ	オリエンテーション～カウンセリングとは何か/カウンセリングの歴史的変遷
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	カウンセリングとは何か、カウンセリングについてのイメージや、身近なカウンセリングについて知っていることを話し合う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自で「こころ」について、興味のあるテーマや自分自身の課題についてまとめてみる。
	教室外学習の時間（分）	130分
第2回	授業テーマ	カウンセリングの歴史的変遷
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代のカウンセリングという形になるまでの歴史的変遷と精神分析学、ゲシュタルト心理学、ユング心理学、クライエント中心療法、認知情動療法など、カウンセリングへとつながるおもな心理療法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「こころ」について、興味のあるテーマや自分自身の課題についてまとめてみる。
	教室外学習の時間（分）	130分
第3回	授業テーマ	こころとからだのメッセージ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	心身一元論や心身二元論など、こころとからだに関する基本的な理論について知り、様々な事例から、こころとからだの深い関連性について学ぶ。 自律訓練法や呼吸法、リラクゼーションなどについても実際に体験してみる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学んだ自律訓練法や呼吸法、リラクゼーションなど体験したことについてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	こころの病理の理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	こころの病理について基本的な知識を学び、おもな精神疾患の症状と周囲の理解や対応について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	今回の授業で学んだことをもとに、こころの病理に関するテーマでのミニレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	“Who am I？”～私の「自分探し」～自分を理解するということ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己分析の技法のひとつである「Who am I test」を用いて自分自身を客観的に見つめ、自己分析を行う。
	教室外学習(予	

	習・復習)の内容	自己分析によって気づいたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	自分の内面を見つめる―描画法と投影法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	描画法と投影法を用いて、自分の内面を見つめる経験をし、自己理解体験をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で体験した描画法や投影法によって気づいたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	自己を表現するということ～セルフアサーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「さわやかな自己表現」と言われるセルフアサーションを学び、ロールプレイ等による体験を通して「相手も自分も尊重する」コミュニケーションのあり方について実践的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で体験したセルフアサーションから得た気づきをミニレポートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	語ることの意味と聴くことの意味
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	カウンセリングの最も重要な作業である「語ること」と「聴くこと」について、その意義を学び、ロールプレイにより実際に体験する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ロールプレイで体験した「語ること」と「聴くこと」の重要性について、自分自身の経験をもとにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	カウンセリングにおける基本的な態度
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	相手の話を聴く際に必要な基本的な姿勢として、「受容」「共感」「無条件の肯定的関心」「自己一致」等、カウンセリングにおける基本的な態度について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬カウンセリングによって体験したカウンセリングにおける基本的な態度について、ミニレポートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	カウンセリングの展開と気づきのプロセス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	インテーク（初回面接）に始まる、カウンセリングの基本的な展開とクライエントの気づきのプロセスについて、いくつかのの事例を

第10回	育・ICT活用を含む)	もとに学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で提示された事例について、自分自身で気づいたことについてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	カウンセリングの理論と技法①クライエント中心療法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	C.ロジャーズが創始者であるクライエント中心療法について、その基本理念と理論について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	今回の授業で学んだことを、教科書と配布資料をもとに復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	カウンセリングの理論と技法②認知療法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	うつの治療に有効とされる認知療法について、そのもととなるA.エリスの論理療法や論理情動療法のABC理論、ABCD理論から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として、認知療法に関するミニワークを実際に取り組んでみる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	カウンセリング体験～ロールプレイ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	あらかじめ用意されたシナリオを用いたロールプレイによるカウンセリング体験と自分で考えた課題場面を用いての試行カウンセリングにより、相談をする側と受ける側の体験を通してカウンセリングに必要な配慮やスキルを実践的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	カウンセラー側、クライエント側、それぞれの立場で感じたことや考えたことについてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	事例検討とスーパーヴィジョン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育・療育・教育現場や心理相談の場で対応することの多い事例を取り上げ、アセスメントと支援について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事例検討を通して得られた気づきや考察についてミニレポートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	300分

学習計画注記

※履修者の実習期間の状況や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

講義に加えて、グループワークやロールプレイ等の実践演習もまじえ、その場で解説を行い、理解を深める。
リアクションペーパーを通して出された質問事項や興味・関心に対しては、以降の授業で回答したり、授業内容に反映させたりしていく。

評価方法

期末レポートや授業内ミニ課題、平常点（授業への取り組み状況等）により評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末レポート	○	○	○	
ミニレポート	○	○	○	○

評価割合

・期末レポート60%、ミニレポート30%、平常点（授業への参加状況・討論への参加などで総合的に判断）10%
・ルーブリックに基づいて評価する。ルーブリックは授業内で提示する。

使用教科書名(ISBN番号)

柳瀬洋美，2022「気になる保護者の理解のために－内なる子どもとの対話を通して」ジアース教育新社

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】基本的なカウンセリングに関する理論と知識・支援者としての姿勢について学ぶ。
【思考・判断】課題や悩みを抱える相手に寄り添うということについて理解を深め、支えていくために必要な姿勢とカウンセリング・スキルの基礎を学ぶ。
【関心・意欲・態度】「自己の内面を見つめ、肯定的にありのままの自分を受け入れること」の大切さと他者の思いに寄り添う際に求められる基本的な姿勢について学ぶ。
【技術・表現】自己の課題に気づき、課題と向き合うために必要なスキルを学ぶ。

オフィスアワー

水曜日5時限　1619研究室（その他、メールで積極的に連絡してください。）

学生へのメッセージ

・自分自身の課題や、身近な人が抱える課題について、整理しておいてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	授業担当者は長年、療育や教育、子育て支援等の現場において心理の専門職として勤務しており、豊富で実践的な教材を提供することができる。
アクティブ・ラーニング	○	事例検討や試行カウンセリング体験、心理検査体験を取り入れた授業展開ができる。
情報リテラシー教育	○	自分の興味・関心にそって情報収集を行い、自ら考察する経験を積み重ねる。
ICT		

活用		

講義コード	G04022001
講義名	社会福祉
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	嶋田 芳男	指定なし

ナンバリング

P104０1M21

授業概要(教育目的)

社会福祉の意味と理念、社会福祉の原理、社会福祉を取り巻く環境を理解した上で、社会福祉の展開、社会福祉を支える仕組みや専門職、方法論、社会保障、高齢者やこどもの福祉など、社会福祉全般について講義する

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	社会福祉の意味と理念、社会福祉の原理、社会福祉の歴史的展開、社会福祉を支える仕組みや専門職、方法論、社会保障、高齢者やこどもの福祉について説明できる
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	保育分野に関わる関心だけでなく、他の社会福祉分野に対する関心が持てる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	社会福祉の基礎概念（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	社会福祉の意味とライフステージごとの福祉課題及び理念（ノ

第1回	育・ICT活用を含む)	ーマライゼーションなど）が理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第2回	授業テーマ	社会福祉の基礎概念（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「社会生活の原理」と「バイステックの7原則」双方の原理が理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第3回	授業テーマ	社会福祉を取り巻く環境
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	少子高齢化社会の現状と課題について理解する。また、家族の現状や地域社会の特性・動向について理解するとともに、それぞれの課題についても併せて理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	少子化、高齢化の状況を調べておく
	教室外学習の時間（分）	195分
第4回	授業テーマ	わが国における社会福祉の展開（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	明治期から大正期において、どのような社会福祉が展開されてきたかを理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト31～36ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく
	教室外学習の時間（分）	195分
第5回	授業テーマ	わが国における社会福祉の展開（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	昭和期から現在に至るまで、どのような社会福祉が展開されてきたかを理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト37～40ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく
	教室外学習の時間（分）	195分
第6回	授業テーマ	社会福祉を支える法体系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会福祉の法体系及び各種法律の概要について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第7回	授業テーマ	社会福祉を支える組織
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会福祉における国・都道府県・市町村によって設けられた各種行政組織や、民間組織について理解する
	教室外学習(予習・復	

	習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第8回	**授業テーマ**	社会福祉を支える専門職
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）やケアワーカー、保育士、医療関係専門職の業務内容と資格、および連携について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト42～50ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	社会福祉の援助方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ケースワークを中心に、グループワーク、コミュニティワーク他、さまざまな方法論の内容を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト52～61ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	社会保障制度の概要（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	年金保険、医療保険制度の概要について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第11回	**授業テーマ**	社会保障制度の概要（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公的扶助（生活保護）の基本原理、基本原則、種類と内容について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第12回	**授業テーマ**	こどもの福祉
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	こども福祉の現状と施設体系などについて、その概要を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	分からない用語について調べておく
	教室外学習の時間（分）	195分
第13回	**授業テーマ**	障害者の福祉および高齢者の福祉
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害者関係法の変遷と障害者総合支援法の概要、高齢者の現状について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間	

	（分）	195分
第14回	**授業テーマ**	高齢者の福祉
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公的介護保険制度について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分

学習計画注記

授業の進み具合によってスケジュールが変更になることがある

学生へのフィードバック方法

特になし

評価方法

・平常点
授業の受講態度・姿勢について評価する。また、必要に応じてルーブリックを用いて評価する（詳細は、科目のオリエンテーション時に提示する）。
・定期試験
保育士として、他の福祉専門職との連携を図るために必要な知識について把握しているかを問う出題とする。詳細については、最後の授業で説明する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
定期試験	○			

評価割合

平常点20%、定期試験80%

使用教科書名(ISBN番号)

大熊信成他編『現代社会福祉の諸相』大学図書出版
必要に応じ、授業時にプリントを配布

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
子どもの保育活動に直接的・間接的に関係する各種社会福祉制度や社会福祉方法論に関する専門的な知識が修得できる
【関心・意欲・態度】
子どもをめぐるさまざまな福祉課題などに関心が持て、子どもたちが健全で豊かに成長できるように行動するとともに、子どもの視点で支援できる

オフィスアワー

火曜3限、木曜2限

学生へのメッセージ

新聞等により、児童・障害者・高齢者にどのような社会問題があるのかを把握したうえで、授業に臨んでもらいたい

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	地域で福祉活動を展開している児童・高齢者施設のソーシャルワーカーの経験を有しており、保育士業務を遂行していく上で必要と考える社会福祉全般の知識を講義している
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04023001
講義名	社会的養護I
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	髙橋 雅人	指定なし

ナンバリング

P20402M21

授業概要(教育目的)

近年、児童虐待の増加、深刻化により社会的養護の注目が高まっている。そのため、現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解し、社会的養護の現状と課題、法制度や実施体系を総合的に学んでいく。また、このような時代に求められる施設保育士や児童指導員のあり方について考える授業とする。本授業では、施設養護の支援内容（アドミッションケア、インケア、リービングケア、アフターケア）を学び、施設で暮らす子どもたちや、それを支援する社会状況について理解することを目的とする。

履修条件

・現在の家庭や子どもが抱える日常に関心を持ち、新聞に掲載されている情報に目を通してほしい。
・親と暮らすことができない子どもたちは、不安を抱えて施設で生活をしている。そのような子どもたちをどのように支えていくか考えながら授業を受けてほしい。
・常に良好で快適な学習環境を維持できるように最低限の受講マナーを守ること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・社会的養護の制度や現状、今後のあり方について説明できるようになる。 ・児童福祉施設の制度や現状、今後のあり方について説明できるようになる。
思考・判断の観点 (K)	・児童福祉施設で保育士として働くために、子どもの家庭状況や施設での生活について考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・望ましい保育士となるために、社会的養護に関する基本的な知識、人間性を身につける。
技術・表現の観点	・施設で不安を抱えて生活している子どもたちが安心して暮らしていけ

(A)	る、その支援方法を身につけることができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	社会的養護とは（ガイダンス）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	なぜ保育士が社会的養護を学ぶのか説明し、理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスをよく読んで、本講義で扱う内容について予習し、配布した資料を参考に社会的養護について復習すること
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	授業テーマ	社会的養護の歴史
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	石井十次、留岡幸助、長谷川良信、糸賀一雄を例にあげ、社会的養護の歴史について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	社会的養護の歴史について、配布した資料を参考に予習、復習すること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	授業テーマ	施設養護と家庭養護
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	入所型施設と里親制度について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	入所型施設と里親制度について配布した資料を参考に予習、復習すること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	授業テーマ	児童虐待と児童相談所
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童虐待について理解を深める。あわせて児童相談所や社会的養護に関連する法律について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	児童虐待、児童相談所について、配布した資料を参考に予習、復習すること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	措置を基本とする施設①（乳児院、児童養護施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児院、児童養護施設について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	乳児院、児童養護施設について、配布した資料を参考に予習、復習すること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	授業テーマ	措置を基本とする施設②（児童自立支援施設、児童心理治療施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童自立支援施設、児童心理治療施設について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	児童自立支援施設、児童心理治療施設について、配布した資料を参考に予習、復習すること。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	利用・契約を基本とする施設
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	障害児入所施設（福祉型・医療型）、児童発達支援セン

第7回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ターについて理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	障害児入所施設（福祉型・医療型）、児童発達支援センターについて、配布した資料を参考に予習、復習すること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	里親制度と里親支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	里親、ファミリーホーム、養子縁組について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	里親、ファミリーホーム、養子縁組について、配布した資料を参考に予習、復習すること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	施設養護における支援の実際①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事例をもとにアドミッションケアについて理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布した資料を参考に予習、復習すること。不安をかかえて入所してきた子どもを安心させる方法を考える。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	施設養護における支援の実際②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事例をもとにインケアについて理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	インケアについて、配布した資料を参考に予習、復習すること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	授業テーマ	施設養護における支援の実際③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事例をもとにリービングケア、アフターケアについて理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リービングケア、アフターケアについて、配布した資料を参考に予習、復習すること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	ソーシャルワークと家庭支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事例をもとにライフストーリーワーク、家族再統合について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	施設におけるソーシャルワークについて、配布した資料を参考に予習、復習すること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	被措置児童等の虐待防止
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事例をもとに施設内で起きる不適切な対応について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	保育士として、体罰を起さないために何をするべきか予習、復習すること。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	児童虐待を受けた子どもへの支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	

第14回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	虐待を受けた子どもへの施設における支援について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	施設における被虐待児の支援について予習、復習すること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第15回	授業テーマ	まとめと今後の社会的養護の課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭養護の促進や施設の小規模化など社会的養護における変化と課題について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業で学んだことをふりかえり、社会的養護がどうあるべきかについて考える。
	教室外学習の時間（分）	90分

学生へのフィードバック方法

感想や質問へのフィードバックは次回の授業内で解説する。

評価方法

最終試験、フィードバックペーパー、授業の参加状況を総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
フィードバックペーパー	○	○	○	
最終試験	○	○		○

評価割合

毎授業後のフィードバックペーパー、授業の参加状況（30%）、最終試験（70%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

使用しない

参考図書

原田旬哉・杉山宗尚 2024 図解で学ぶ保育 社会的養護I（第2版） 萌文書林

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学を構成する6領域のうち、「子どもの保育」「子どもの福祉」「子どもの心理」について理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できる。
【関心・意欲・態度】児童虐待の問題を通して、子どもをめぐる諸問題について理解し、子どもの健全な成長・発達のために自分に何ができるかを考えることができる。また、社会的養護にある子どもたちの理解を通して、子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけることができる。

オフィスアワー

非常勤なのでオフィスアワーは設定しません。メールなどで連絡ください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務		

経験を活かした授業	○	担当教員は、東京都特別区福祉職・東京都福祉職（通算25年） 障害者施設（5年）、教護院・児童自立支援施設（9年6か月）、児童扶養手当担当（4年6か月）、大型児童館（2年）、児童相談所一時保護所（4年）の実務経験を有しており、施設養護の支援内容について、実際の体験をもとに教授している。
アクティブ・ラーニング	○	問題解決力を養うための事例研究を取り入れる。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	映像、パワーポイント、新聞記事などの視聴覚教材を活用する。

講義コード	G04024001
講義名	社会的養護II
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	江田 裕介	指定なし
非常勤講師	横井 義広	指定なし

ナンバリング

P20402M12

授業概要(教育目的)

施設で子ども達と関わりあうための基礎となる重要な概念について身についているかどうか自己評価・相互検討を行い、スーパーヴァイズを受ける。併せて養護技術の基礎を習得する。子どもとの関わりの中で主体的に考え判断できるような態度を形成する。また、児童期にふさわしい生活プログラムを作成するなどの演習をとおして、居住型児童施設に生活する児童の立場についての理解を深める。日常的に展開されている児童の具体的な活動や生活の援助の方法を学ぶ。児童の心身の成長や発達を保障し、援助するために必要な知識や技能を習得する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1.子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解することができる
思考・判断の観点 (K)	1.施設養護及び家庭養護の実際について理解し社会的養護を必要とする子どもの家庭状況や施設での生活について考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1.子どもとの関わりの中で主体的に考え判断できるような態度を形成し社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について関心をもつことができる
技術・表現の観点 (A)	1.施設で子ども達と関わりあうための基礎的概念を理解し養護技術の基礎を習得することができる。 2.社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解し個に応じた具体的な支援法を習得することができる

学習計画		
第1回	授業テーマ	社会的養護の概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会的養護の概要について学び、社会的養護における子どもの理解として、社会的養護の理念と仕組み、社会的養護を必要とする子どもの現状、児童相談所一時保護、子ども家庭支援センター、家庭養護と施設養護について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	厚生労働省HPを閲覧し社会的養護の定義と原理、児童虐待、障害児の入所増加、障害児入所施設の種類について予習・復習をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	日常生活支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日常生活支援について学び、基本的生活習慣の獲得、生活リズムと日課、社会性の獲得と自立、事例分析と支援方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	厚生労働省HPを閲覧し障害児入所施設の概要、障害者総合支援法、障害児入所施設における支援、児童福祉施設と保育士の役割について予習・復習をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	治療的支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	治療的支援について学び、愛着関係の形成、行動の分析と理解、心理治療、事例分析と支援方法について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	図書で治療的支援について予習・復習をする。
	教室外学習の時間（分）	210分
第4回	授業テーマ	自立支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自立支援について学び、児童養護施設の自立支援、自立援助ホームの自立支援、施設出身者の自助グループの自立支援、事例分析と支援方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図書で、児童養護施設における自立支援について予習・復習をする
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	施設養護の生活特性及び実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	施設養護の生活特性及び実際を学び、乳児院、児童養護施設における生活支援の実際について理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	乳児院、児童養護施設HPで児童養護施設の生活と支援の実際について予習・復習をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	施設養護の生活特性及び実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	施設養護の生活特性及び実際を学び、児童自立支援施設、母子生活支援施設、児童心理治療施設における生活支援の実際を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図書で、施設における発達障害児の理解と支援、自閉症等の発達障害児などのある子どもへの接し方について予習・復習をする。
	教室外学習の時間（分）	210分
第7回	**授業テーマ**	福祉型障害児入所施設の生活特性及び実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	福祉型障害児入所施設の生活特性及び実際を学び、主として知的障害のある児童を入所させる施設、主として自閉症児を入所させる施設、主として盲児を入所させる施設、主としてろう児を入所させる施設、主として肢体不自由児を入所させる施設における生活支援の実際を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	入所型施設HPを閲覧し日常生活の支援、個別及び集団における支援、個別支援計画について予習・復習をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	医療型障害児入所施設の生活特性及び実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	医療型障害児入所施設の生活特性及び実際を学び、主として肢体不自由児を入所させる施設、主として重症心身障害児を入所させる施設における生活支援ついて理解をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図書で児童福祉施設の支援者としての資質について予習・復習をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	家庭養護の生活特性及び実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭養護の生活特性及び実際を学び、家庭的養護と家庭養護、小規模グループケア、地域小規模児童養護施設、里親、ファミリーホームの概要について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図書や関連施設HPで、各施設の概要と特徴について理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	210分
	授業テーマ	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	アセスメントと個別支援計画の作成を学び、アセスメントの意義と方

第10回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	法、個別支援計画の内容、事例分析と個別支援計画の作成について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図書でアセスメントと個別の支援計画について理解を深める
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価を学び、記録の意義と内容、第三者評価、自己評価ガイドライン、自己評価の実際について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	図書で支援計画と自己評価について調べ理解を深める
	教室外学習の時間（分）	210分
第12回	授業テーマ	社会的養護に関わる専門的技術 保育の専門性に関わる知識・技術とその実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会的養護に関わる専門的技術を学び、保育の専門性に関わる知識・技術とその実践 として、施設環境の整備、生活支援の基本、行動上の問題への対応、個別援助と集団援助について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	図書で、社会的養護が必要な子どもに対する様々な支援法について理解を深める
	教室外学習の時間（分）	210分
第13回	授業テーマ	社会的養護に関わる専門的技術
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会的養護に関わる専門的技術を学び、社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践として、家庭との協働、支援プログラムによる保護者への支援、児童福祉施設における就労支援について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	図書で、相談援助や家庭との連携について理解を深める
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	今後の課題と展望-社会的養護における家庭支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今後の課題と展望について学ぶ。社会的養護における家庭支援として、子ども虐待・DV等の現状、施設による親子関係再構築支援の重要性、親子関係再構築支援の事例分析と支援内容・方法について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	図書や厚生労働省HPなどで、社会的養護に関する施策を理解する
	教室外学習の	190分

	時間（分）	

学習計画注記

履修数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
※前半を横井が7回分、後半を江田が7回分(定期試験を含む)担当する。

学生へのフィードバック方法

・参考図書、プリント、ビデオなどを用いて、実践的に具体的で見て分かりやすい授業をする。
・質問等がある場合は、メール等で対応する。

評価方法

①定期試験、②授業内レポート、③コメントカードの提出、及び④授業への参加状況を総合的に評価する。
①に関しては授業内でルーブリック評価表を配布する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
授業内レポート			○	○

評価割合

①定期試験80% ②授業内レポート・コメントカード・授業への参加状況20%
①に関しては授業内でルーブリック評価表を配布する。

使用教科書名(ISBN番号)

特になし
授業でプリント教材を配布する。
後半の授業ではオンライン・コンテンツを共有する。

参考図書

・社会的養護、新保育士養成講座、全国社会福祉協議会
・よくわかる社会的養護内容、小木・宮本・鈴木編、ミネルヴァ書房
○適宜、資料を配布する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもの保育を総合的に理解し子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【技能・表現】保育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身に付けている。

オフィスアワー

前期：月曜３限（江田研究室）
後期：金曜４限（江田研究室）
必ず事前にメール等でアポイントメントを取ること。

学生へのメッセージ

保育所、施設等で勤務する際、虐待などの子どもを取り巻く環境の変化や地域の子育て支援に関する知識や実践的な指導力は欠かせない。社会的養護内容を学び、基本的な考え方や支援方法について理解を深めて欲しい。

教育等の取組み状況

	該当	概要

	有無	
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、施設長として施設運営、母子生活支援等に関する基本的な考え、援助方法、地域連携に関する幅広い実務経験を有しており、保育士資格に関する実務的・実践的な知見を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	ワークシートを活用して個人の意見をまとめたり、小集団での話し合いや発表をしたりする機会を設けて、より主体的に学ぶ施設を育む。
情報リテラシー教育	○	個人情報保護や個人情報流出防止に関する法令等を説明し人権尊重に結びつけた指導をする。
ICT活用	○	映像、パワーポイント資料、新聞記事などを活用しながら、より障害理解を深めるための適切なICT機器による視覚・聴覚支援について情報を提供する。

講義コード	G04029001
講義名	保育内容総論Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	中田 範子	指定なし

ナンバリング

P20202M12

授業概要(教育目的)

幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が示す内容を踏まえ、乳幼児期の発達を理解しながら、保育現場で展開されている保育の内容について総体的に学ぶ。また、わが国の保育の基本である「一人ひとりの特性に応じた援助」、「環境を通した教育」、「遊びを通した総合的な指導」について、具体的な事例を持ち寄り、理解を深める。

履修条件

特に定めない。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の各領域の構造や位置づけについて説明できる。 ・「遊びを通した総合的指導」の重要性を踏まえて、幼児の遊びについて調査し、乳幼児の遊びと学び・発達との関連性を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	幼児期の遊びの重要性を理解しながら、子どもの経験の豊かさに繋がる保育内容を考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	保育内容の概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第1回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの園生活と遊びの様子を紹介するビデオを視聴し、保育内容の意味と意義について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を確認し、配布資料の演習問題を完成する。
	教室外学習の時間(分)	50分
第2回	授業テーマ	幼児の園生活と保育者の援助①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育現場の事例から、「言葉の前のことば」「子どもの視点に立つ」「子ども同士の関係を援助する」について討議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料の演習問題を完成する。
	教室外学習の時間(分)	50分
第3回	授業テーマ	幼児の園生活と保育者の援助②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育現場の事例から、「共感する」「乳幼児の表現」について討議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料の演習問題を完成する。
	教室外学習の時間(分)	50分
第4回	授業テーマ	子ども観と保育の変遷
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な時代、様々な国の子ども観と子どもの生活から「子ども」を大人がどう捉え、どのような保育が求められたのかを考える。確認テストあり。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第1章をよく読み、大人は子どもをどうとらえるのかについて考えをまとめておくこと。
	教室外学習の時間(分)	50分
第5回	授業テーマ	子どもの遊びの意味
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの行う遊びの実際から、遊びのもつ総合性と子どもの学びについて考える。確認テストあり。
	教室外学習(予習・復習)の内容	確認テストの復習、乳幼児向けの遊びの種類について資料を収集する。
	教室外学習の時間(分)	50分
第6回	授業テーマ	領域・ねらい・内容①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	領域、ねらい、内容の関連性を構造的に理解する。確認テストあり。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章を予習し、５領域について内容を確認する。確認テストの復習
	教室外学習の時間(分)	50分
第7回	授業テーマ	領域・ねらい・内容②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	領域「健康」と関連事項として、食育、「幼児期運動指針」について理解する。確認テストあり。

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第5章を予習し、子どもの言葉と人とのかかわりについて内容を確認する。確認テストの復習
	教室外学習の時間(分)	50分
第8回	**授業テーマ**	領域・ねらい・内容③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	領域「人間関係」、「環境」と関連事項として、「道徳性の芽生え」「協同的な学び」「規範意識の芽生え」「環境を通した教育」について理解する。確認テストあり。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章を予習し、子どもの環境について内容を確認する。確認テストの復習
	教室外学習の時間(分)	50分
第9回	**授業テーマ**	領域・ねらい・内容④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	領域「言葉」、「表現」と関連事項として絵本の読み聞かせを体験する。確認テストあり。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章の予習・復習し、子どもの環境について内容を確認する。確認テストの復習
	教室外学習の時間(分)	50分
第10回	**授業テーマ**	乳児保育と保育所保育指針①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所の機能と役割、保育所保育指針について理解する。確認テストあり。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第7章の予習し、保育所の概要について内容を確認する。確認テストの復習
	教室外学習の時間(分)	50分
第11回	**授業テーマ**	乳児保育と保育所保育指針②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所の生活や保育士の援助について実際を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワークシートの完成
	教室外学習の時間(分)	50分
第12回	**授業テーマ**	幼児教育と幼稚園教育要領
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児期の学びや発達特性と幼稚園教育要領の内容と構造について理解する。確認テストあり。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第6章を予習し、幼稚園の概要について内容を確認する。確認テストの復習
	教室外学習の時間(分)	50分
第13回	**授業テーマ**	身近な素材を使った遊びの実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「小麦粉粘土」の製作を通して、身近で可塑性のある素材の活用について、演習を通して考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワークシートに、小麦粉粘土の作り方や完成後の変化について記入する。

	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	**授業テーマ**	構成遊びの意義と実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「カプラ」を利用した構成遊びの実際と保育の工夫について、演習を通して考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワークシートに、完成した製作物の画像とともに遊び方の工夫について記入する。
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

授業の進行状況等により変更する場合があります。

学生へのフィードバック方法

授業時に行われる確認テストは、学生が自己採点をする。教員が学生の習熟度を確認しながら、解説を行う。

評価方法

・授業中に行う確認テストは、各自で採点し授業内容の理解を確認するためのものであるため、評価に含めない。
・定期テストは、授業中に行う確認テストを中心に出題する。
・ルーブリックに基づいて評価する。ルーブリックは授業内に提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期テスト	○	○		
ワークシート		○		○

評価割合

定期テスト(60%)、ワークシート(40%)

使用教科書名(ISBN番号)

中田範子著「子どもの育ちと環境ー未来を見据えた保育の探求ー」大学図書出版

参考図書

幼稚園教育要領、同解説書、保育所保育指針、同解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、同解説書
その他、適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学を構成する 6 領域のうち、「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」を理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている
【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・感性が備わっている
【技能・表現】保育者・教育者として求められる豊かな表現力を身につけている

オフィスアワー

火曜3限

学生へのメッセージ

学習を進めていく中では疑問点を持つことは大切です。疑問・質問がある場合には、遠慮せずに申し出てください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、幼稚園・保育所で教諭・保育士としての実務経験を有しており、幼稚園、保育所の保育の実際について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	学生が実物を使って遊ぶ中での気づきを大切にしながら、グループ討議を取り入れている。
情報リテラシー教育	○	乳幼児向けの遊びの種類について調査し、情報を収集、活用する。
ICT活用	○	画像や動画を活用しながら、幼稚園・保育所の生活や保育者の援助の実際を理解する。保育現場とオンラインでつながり、保育の実際と関連させながら学ぶ。

講義コード	G04041001
講義名	保育方法論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	末松 加奈	指定なし

ナンバリング

P30202M21

授業概要(教育目的)

本講義では、従来の保育思想を基本に踏まえながら、現代社会とのかかわりの中で改めて保育理論を構造的に解明し、保育方法の内容を検討し、保育実践を整理・再考できるようにする。乳幼児が主体的、自発的に遊び、活動する中で、価値のある学びが生まれ、心身のすこやかな成長と発達が助成される。そのような環境を構成し、価値のある取り組みができるように援助する方法を学び、幼稚園・保育所における保育の計画や指導方法、ならびに幼稚園教諭・保育士としての役割について考えられるようにする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	保育の基本、および保育の方法に関する基本的知識を身につける。
思考・判断の観点 (K)	事例等から学び、自ら保育の方法を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもへの理解を深め、保育者の役割について考えられるようになる。
技術・表現の観点 (A)	現場に生きるような保育の方法を考える力を身につける。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	0・1・2歳児の発達の時期に応じた保育方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・各年齢ごとに園に慣れるまでの子どもの様子を理解する。 ・各年齢の遊びの形と保育者の関わり方について理解する。 ・0・1・2歳児の発達に応じた環境の特徴について考え、グループで討議する。
	教室外学習(予	・資料を読み返し、理解を深める。 ・（小レポート）事例を見ながら、この時期の子どもたちに対し

	習・復習)の内容	保育者が大切にすべきことを考える。
	教室外学習の時間(分)	190分
第2回	**授業テーマ**	3・4・5歳児の発達の時期に応じた保育方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・各年齢の遊びの形と保育者の関わり方、環境の工夫について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・資料を読み返し、理解を深める。 ・（小レポート）事例を見ながら、この時期の子どもたちに対し保育者が大切にすべきことを考える。
	教室外学習の時間(分)	190分
第3回	**授業テーマ**	様々な保育形態
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・様々な保育形態を確認する。 ・過去に本学の実習先となった保育所、幼稚園、認定こども園からいくつか選択し、その園の保育の特徴を調べ比較する（PCを使用）。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・資料の説明した部分を読み返す。
	教室外学習の時間(分)	190分
第4回	**授業テーマ**	遊びを通した保育方法・個と集団を生かした保育方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・遊びの重要性について、事例をもとに理解を深める。 ・個の育ちと集団の育ちについて、事例をもとに理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・保育所保育指針や幼稚園教育要領から保育を行う上で何が大切なのか、総合的な保育を行う上で何が大切なのか理解を深める。
	教室外学習の時間(分)	190分
第5回	**授業テーマ**	小学校との交流活動のデザインとアプローチカリキュラム
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事例をもとに幼小連携の実際について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・資料を読み、様々な交流活動があることを理解する。 ・（小レポート）事例を通して、小学校に進学する時期の子どもの困難さへの理解を深め、その様な子どもたちに対し、保育者・教員はどのような対応が可能か考える。
	教室外学習の時間(分)	190分
第6回	**授業テーマ**	配慮を要する子どもへの保育方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インクルーシブな保育や外国籍の子ども等への保育の実際について、事例をもとに理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・資料を読み返し、理解を深める。 ・（小レポート）事例の検討を通して、具体的な配慮の方法について考える。
	教室外学習の時間	190

	（分）	分
第7回	**授業テーマ**	子ども理解にもとづいた保育方法と評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事例検討を通して、子どもの内面や発達を捉える視点を学ぶ。 ・子ども理解にもとづいた保育の評価の方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・資料の説明した部分を読み返す。 ・（小レポート）学んだ評価方法を実践してみる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	家庭・地域との連携を生かした保育（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・連絡帳やクラスだより、園だよりを見て、グループで話し合いながら、園での子どもの姿や成長の様子を家庭や地域に伝える上で何が大切なのか理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・資料を読み返し、理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	家庭・地域との連携を生かした保育（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・防災に関する取り組みを見て、家庭や地域と連携する上で何が大切なのか理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・（小レポート）園における防災について、授業を通して気が付いたことを整理し、自分の考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	家庭・地域との連携を生かした保育（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・首都圏のいくつかの地域について、当該地域で想定される災害やその規模、危険性を調べ、園の防災マップを作成する。その際には、保育現場を想定し、避難場所や避難経路の選定も行う。（PCを使用）
	教室外学習(予習・復習)の内容	・（課題①）園における防災マップを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	教材や情報機器を活かした保育方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・保育におけるICT活用について調べ、おすすめアプリ5選を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・資料を読み返し、理解を深める。 ・（小レポート）おすすめアプリについて資料にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	保育の計画・実践・評価（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・行事前の週案について、グループワークを通して検討する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	・ワークを振り返り、行事前にどのような活動が必要なのか実例を探しながら考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	保育の計画・実践・評価（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・前時のワークをもとに、各自週案を書く。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・授業で作成した週案を読み返し、修正等を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	保育の計画・実践・評価（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・前回作成した週案をグループで読み合わせ、お互いに気付いたことや改善点などを話し合う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・（課題②）グループの話し合いで出た意見をもとに、各自週案を振り返り修正する。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

課題等の提出物は、次週以降にコメントを記載して返却する。また、必要に応じて授業中に紹介するなどし、授業内容理解に役立てる。

評価方法

・平常点（授業内のワークやグループディスカッションへの取り組み状況等）、小レポート、課題、最終レポートで評価する。
・ルーブリックに基づく成績評価である。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点		○	○	○
小レポート	○	○		
課題	○	○		
最終レポート	○	○		

評価割合

平常点15%、小レポート35%、課題20%、最終レポート30%

参考図書

・保育所保育指針（厚生労働省）
・幼稚園教育要領（文部科学省）
・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】保育の方法について総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組むことができている。子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。
【技能・表現】子どもの専門家として社会に貢献できる。

オフィスアワー

月曜３限 研究室1501（必ず事前にアポイントをとること）

学生へのメッセージ

事例の検討やグループワークなど、積極的に参加してください。自分の考えを持つこと、他者の考えを聞くことを大切にしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	個別探究（個人で考える）→協同探究（グループ・ディスカッション）→個別探究（個人で考える）のサイクルを取り入れることで理解を深めます。
情報リテラシー教育	○	調べ学習の際には、情報発信元の信憑性をよく考えた上で適切に情報収集を行う。
ICT活用	○	保育現場で使用されているデジタルデバイスやアプリを授業内で紹介し、実際に操作してもらいます。

講義コード	G04043001
講義名	保育・教職実践演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	中田 範子	指定なし
教授	新開 よしみ	指定なし
教授	和田 美香	指定なし
教授	吉永 早苗	指定なし
准教授	柳瀬 洋美	指定なし
准教授	丹羽 さがの	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし
助教	末松 加奈	指定なし
助教	佐藤 冬果	指定なし

ナンバリング

P40201M22

授業概要(教育目的)

本授業は、模擬保育やグループ討議を積極的に取り入れる。これらを通して、幼稚園教諭・保育士として求められる①使命感や責任感、教育的愛情について、②社会性や対人能力、③幼児理解や学級経営について、④保育者として求められる援助方法について、学生が実習や教育課程以外の体験も踏まえて省察し、保育・教育を取り巻く状況の変容を踏まえ、4年間で身につけた知識や技能を活用しながら課題を見出し、改善方法を身に付ける。

履修条件

幼稚園教員免許、保育士資格取得を前提とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	保育現場をめぐる現代的問題と保育者に求められる使命や責任について理解する。
思考・判断の観点 (K)	乳幼児を取り巻く環境の変化を踏まえた保育現場の現状から、援助・指導上の課題について考え、判断する。

関心・意欲・態度の観点 (V)	地域・家庭との連携の重要性を踏まえ、適切に対応する態度を身につける。
技術・表現の観点 (A)	カリキュラム・マネジメントの観点で自身の保育実践を省察し、幼児を多面的に理解しながら保育者に求められる方法を見出す技術を身につける。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	これまでの学びの振り返りと省察・ 保育者としての使命と責任
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学修した内容を振り返り、保育者になる者として必要な学びについて考える。保育をめぐる現代的諸課題を踏まえ、これからの保育者が果たすべき使命や社会的責任とは何かについて考える。また、自分が保育者（社会人・大人）として使命感や責任感を持って取り組みたい課題について問い直し、整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】児童学カルテを作成しておく。保育に関連したニュースや新聞記事などを３つ以上収集して持参する。 【復習】自分の履修状況を確認し、履修カルテを作成する。保育者として（または保育関連資格の保有者として）今後意識して取り組んでいきたいことについてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	95
第2回	**授業テーマ**	特別支援教育の現状と課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別な支援を要する児童の支援や就学先の決定について、仮想事例をもとに、ロールプレイやグループ討議を取り入れながら検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】文部科学省HPで、「障害のある子どもの就学先決定」に関するページに目を通しておく。 【復習】就職先あるいは自宅のある市区町村の就学相談の手順について調べ、整理する。
	教室外学習の時間（分）	90
第3回	**授業テーマ**	保育とICTの活用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育における情報リテラシー教育とデジタルデバイスの活用について、その意義と現状について理解する。活用事例を取り上げ学び、保育の様々な場面でどのように活用できるのか考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】実習園でICT活用に関することを見聞きしたことがあればその内容を、なければWEBなどで調べまとめる。 【復習】どのような活用が可能か考え、また保育現場に取り入れる際に課題と思われることをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	90
	授業テーマ	保育現場と小学校との連携
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	保幼小連携・接続について，その意義と現状について理解する。接続カリキュラム・活動の具体例も取りあげ学び，今後求められることを考え

	育・ICT活用を含む)	る。
第4回	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】実習園で保幼小連携に関することを見聞きしたことがあればその内容を，なければ自分の住む自治体での保幼小連携の取り組みについて調べまとめる。 【復習】今後，園，自治体に求められる取り組みについて考えまとめる。
	教室外学習の時間（分）	90
第5回	授業テーマ	担任の役割と保育マネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担任の役割やクラス経営の基本を押さえたうえで、クラス運営における子どもの育ちの捉えや発信、保護者との関係構築について学ぶ。さらに、組織全体の質向上の視点から、保育マネジメント業務についても触れる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】実習で見聞きした「連絡帳」「おたより」「ドキュメンテーション」などの取り組みがあれば、その記録をまとめておく。 【復習】授業で学んだ担任の役割やクラス経営の基本をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	90
第6回	授業テーマ	課題探究学習①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育者になることを前提として、在学中にさらに学んでおきたい（深めておきたい）テーマを設定し、保育・幼児教育に関する探究学習１回目を行う。 テーマ例：幼稚園・保育所の行事、地域社会との連携、地域子育て支援、多文化共生保育など
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】テーマを設定し、調査計画の立案等、探究学習に向けた具体的な準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	95
第7回	授業テーマ	課題探究学習②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（同上の）保育・幼児教育に関する探究学習、２回目を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復習】調査の結果についてまとめ、報告会での発表に備える。
	教室外学習の時間（分）	95
第8回	授業テーマ	事例検討①：気になる子どもへの保育者の援助
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育場面で出会う「気になる子ども」を事例として取り上げ、多面的に理解する。さらに、保育者の援助のあり方について、ロールプレイなどの実践を通して学びを深める。
		【予習】自分が「気になる子ども」について、その特性を整理してお

	教室外学習(予習・復習)の内容	く。 【復習】授業内で検討したことをもとに、援助のあり方についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	120
第9回	**授業テーマ**	事例検討②子どもの遊びと援助
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育現場における園内研修を想定して、保育場面で出会った乳幼児の遊びに関する事例を取り上げ、多面的に理解する。さらに、子どもの思いを捉えた、子どもの育ちへの援助のあり方について、ロールプレイなどの実践を通して学びを深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】これまでの実践で出会った遊び場面を想起し、エピソード記録にまとめておく。 【復習】授業内で検討したことをもとに、援助のあり方にいついてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	120
第10回	**授業テーマ**	事例検討③家庭との連携
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	さまざまなニーズをもつ家庭との連携のあり方や保護者への対応の実際について、事例検討やロールプレイを通して、多面的に理解し学びを深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】実習中にみられた保育者と保護者の関わりの具体的場面やその様子、家庭との連携の実際や工夫などについて、ふりかえりまとめておく。 【復習】授業内で検討したことをもとに、家庭との連携のあり方についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	95
第11回	**授業テーマ**	園庭環境と安全管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然環境下などの戸外での保育・教育における安全管理について、事故事例をもとに考える。 また、戸外の危険個所を探るハザードマップ作成のワークを通じて、安全管理に求められる視点を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】実習園等で示された安全管理の方針を振り返っておく。 【復習】事故事例を1つ取り上げ、事故防止のための対策まとめる。
	教室外学習の時間（分）	90
第12回	**授業テーマ**	学び続ける保育者としての在り方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	養成から育成に向かう流れの中で、保育者のキャリアについて理解する。さらに園内研修、保育者のライフコース、保育者の処遇、研修制度に関する論文を読み解きながら、学び続けることの意味を考えていく。
	教室外学	【予習】論文のタイトルをあらかじめ提示するので、それを読んでお

	習(予習・復習)の内容	く。 【復習】授業内容を踏まえて、今後の自身のキャリアの展望についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	90
第13回	授業テーマ	課題探究学習③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題探究学習の報告会１回目。各自、テーマに沿った探究学習の成果を発表し、互いに学び合う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】報告会用パワーポイントと発表原稿を作成し、発表の練習をする。
	教室外学習の時間（分）	95
第14回	授業テーマ	課題探究学習④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題探究学習の報告会２回目。各自、テーマに沿った探究学習の成果を発表し、互いに学び合う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復習】 ２回の報告会を通した学びや気づきをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	95

学習計画注記

状況により学習計画を変更する場合があります。

学生へのフィードバック方法

提出物はすべて添削し、返却する。また、グループ討議、発表の際には、質疑応答を通して学習目標が達成できるように適宜助言する。

評価方法

提出されたレポート課題、発表の内容を点数化して評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート課題	○	○		
発表	○	○	○	○

評価割合

レポート課題(55%)、事例発表(15%)、課題探究学習発表(30%)
ルーブリックに基づいて評価する。ルーブリックは授業内に提示する。

使用教科書名(ISBN番号)

無

参考図書

増田まゆみ、矢藤誠慈郎編著「ワークで学ぶ保育・教育職の実践演習」(建帛社)
幼稚園教育要領、同解説書、保育所保育指針、同解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、同解説書、履修カルテ他、授業内に提示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学を構成する 6 領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・感性が備わっている。
【関心・意欲・態度】子どもの環境をめぐる多様化した課題や問題に関心を持って取り組み、使命感を持って行動できる。
【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。

オフィスアワー

火曜3限(中田)

学生へのメッセージ

本授業は幼稚園教諭・保育士に必要な資質能力が形成されたかについて最終的に確認するものである。学生が保育者としての自分の在り方について考え、不足する部分を補い、課題を見出し、保育者としての資質を高めることが目標及びテーマである。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員のうち2名は、保育士として実務経験を有しており、保育士に必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	課題探究学習や事例検討を通して、学生同士が意見交換をする中で、保育現場の実際に基づいて多面的に理解する。
情報リテラシー教育	○	保育でどのような情報リテラシーが求められるのか、事例をもとに考える。
ICT活用	○	保育におけるデジタルデバイスの活用方法の意義と現状を事例と共に教授し、実際の活用方法を考える。

講義コード	G04044001
講義名	算数科教育
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	新海 公昭	指定なし

ナンバリング

P20303M21

授業概要(教育目的)

「知識及び技能」,「思考力・判断力・表現力」,「学びに向かう力・人間性」の三つの柱に基づいた「数学的な見方・考え方を働かせ, 数学的活動を通して, 数学的に考える資質・能力を育成する」という小学校算数科の目標をふまえ,「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」および「数学的活動」の教科内容の背景にある専門的な知識および技能を身につける。具体的には, 学びの連続性の観点から小学校から高校までに学習する算数・数学のカリキュラムの系統性を理解し, 教材研究を行うことで, 教師に必要とされる教材観や指導観を形成する。また, 就学前後の連携・接続の観点から, インフォーマル算数についても考える。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」および「数学的活動」の教科内容の背景にある専門的な知識および技能を身につける。
思考・判断の観点 (K)	日常生活の中で見える課題や数学の世界の問題をモデリングし, 数学的な見方・考え方を働かせながら問題を解決する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	算数・数学の内容への関心・意欲を高め，授業実践等に活かそうとする態度を形成する。
技術・表現の観点 (A)	発達の連続性に基づいた就学前算数を用いた「遊びの提案」をする。算数・数学の学習指導内容について考え，具体的な問題を用いて表現する。

学習計画

	授業テーマ	新学習指導要領の概略, 就学前算数と数学の概論

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校学習指導要領解説算数編および幼稚園教育要領解説の中で算数に関するポイントを学び, 今後何を学ぶべきかを明らかにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：小学校学習指導要領解説算数編の第１章「総説」および第２章「算数科の目標及び内容」に目を通すこと。さらに, 幼稚園教育要領解説の第１章「総説」および第２章「ねらい及び内容」第２節３の「環境」に目を通すこと。 復習：予習で指定した箇所を読み直しながら, 授業で学んだことを整理する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	就学前算数１（数, 量）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	０歳児から５歳児までの「数と量」に関する発達を学ぶ。「インフォーマルな遊び」についてディスカッションする。第１回目の理解を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：学修で得た知識を使って, 発達段階に応じた数や量に関する遊びを考え始める。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	就学前算数２（図形）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	０歳児から５歳児までの「図形」に関する発達を学ぶ。「インフォーマルな遊び」についてディスカッションする。第２回目の理解を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：学修で得た知識を使って, 発達段階に応じた図形に関する遊びを考え始める。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	就学前算数３（論理）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	０歳児から５歳児までの「論理」に関する発達を学ぶ。「インフォーマルな遊び」についてディスカッションする。第３回目の理解を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：学修で得た知識を使って, 発達段階に応じた論理に関する遊びを考え始める。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	数と計算１（数の体系, 四則演算）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	数の体系, 四則演算を学ぶ。児童の予想される躓きについてディスカッションする。第４回目の理解を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予	予習：配布プリントの課題に取り組む。

	習・復習)の内容	復習：配布プリントの課題について再考する。遊びの提案の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	240分
第6回	**授業テーマ**	数と計算２（記数法, 筆算）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	記数法, 筆算を学ぶ。児童の予想される躓きについてディスカッションする。第５回目の理解を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。遊びの提案の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	240分
第7回	**授業テーマ**	測定および変化と関係１（量, 単位）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	離散量と連続量, 量の性質, 単位を学ぶ。児童の予想される躓きについてディスカッションする。第６回目の理解を確かめるための小テストを行う。中間テスト（遊びの提案）も行い, 相互評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	測定および変化と関係２（単一量と複合量, 割合, 比）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	単一量と複合量, 割合（同種, 異種）, 比を学ぶ。児童の予想される躓きについてディスカッションする。第７回目の理解を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	測定および変化と関係３（表とグラフ, 関数）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	表とグラフから始めて, 関数を学ぶ。児童の予想される躓きについてディスカッションする。第８回目の理解を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	図形１（平面幾何）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	様々な平面図形とその性質, 面積について学ぶ。児童の予想される躓きについてディスカッションする。第９回目の理解を確かめるため

第10回	**育・ICT活用を含む)**	の小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	図形２（立体幾何）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な空間図形とその性質, 体積を学ぶ。ユークリッド幾何およびリーマン幾何についても紹介する。児童の予想される躓きについてディスカッションする。第１０回目の理解を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	図形３（図形の合同, 図形の相似）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図形の合同, 図形の相似, 論証幾何を学ぶ。児童の予想される躓きについてディスカッションする。第１１回目の理解を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	データの活用１（平均値, 分散, 箱ひげ図）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	まず, 平均値, 中央値, 最頻値を学ぶ。次に散らばりをみる分散, 箱ひげ図を学ぶ。児童の予想される躓きについてディスカッションする。第１２回目の理解を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	データの活用２（場合の数、確率）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	場合の数および確率（条件付確率、ベイズの定理を含む）を学ぶ。児童の予想される躓きについてディスカッションする。第１３回目の理解を確かめるための小テストを行う。第１５回目に期末テストおよびその振り返りを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。
	教室外学習の時間（分）	200分

学生へのフィードバック方法

復習で扱う演習問題(課題)について, 毎回回収してチェックをする。また, 第２回以降毎回行う小テストとルーブリックを用いた学生自身の自己評価により, 学修成果を可視化し学びの深化を支援したい。質問は町田キャンパスの1625研究室（emailも可：k-shinkai@kasei-gakuin.ac.jp）あるいはZoom等で対応する。遠慮せず声をかけてほしい。

評価方法

１．就学前算数の遊びの提案（中間テスト）10点
第１回から第４回で学習した内容を踏まえて, ３歳児から５歳児の数, 量, 図形, 論理に関する具体的な遊びを提案する。その際, 遊びの内容はもちろんのこと, 子どもの発達段階に応じた連続的な学びが実現できる遊びであるかを評価する。

２．定期テスト（期末テスト）20点
第５回以降で学習した内容の類題を出題する。
テスト中は教科書や参考書の持ち込みは不可とする。

３．課題 60点
毎回の復習時に取り組む課題, 報告書および小テストで評価する。

４．ルーブリックを用いた自己評価 10点
ルーブリックを用いた自己評価を評価する。

＊テスト, 課題, ルーブリックを用いた自己評価は, 下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
遊びの提案（中間テスト）	○	○		○
定期テスト（期末テスト）	○	○		○
課題	○	○	○	○
ルーブリックを用いた自己評価	○	○	○	○

評価割合

遊びの提案(10%), 定期テスト(20%), 課題(60%), ルーブリックを用いた自己評価(10%)

使用教科書名(ISBN番号)

小学校学習指導要領解説算数編（平成29年告示）（ISBN:978-4-536-59010-5）
幼稚園教育要領解説（平成30年3月）（ISBN:978-4-577-81447-5）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を, 算数・数学的な知識に基づいて理解する力を有している。
【思考・判断】数学的な見方・考え方を働かせながら様々な問題を探究する力を有している。
【関心・意欲・態度】算数・数学の内容への関心・意欲を高め，子どもの成長・発展を支援する態度を有している。
【技術・表現】修得した算数・数学の理論に基づいた実践を計画し表現する力を有している。

オフィスアワー

前期：水曜日 12：30～14：00
後期：水曜日 12: 30～14：00

学生へのメッセージ

算数・数学は, 授業のみでは理解した気になるだけで身につかない。予習と復習を通して, 自らの頭と手を動かして思考することが大事である。あるときは教師として, あるときは小学生として, 算数・数学を考えてほしい。授業は丁寧に説明したいと思うが, 理解できない部分は, 遠慮せず質問してほしい。主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教員主導ではなく, 学生同士で積極的に討議を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	教材や学習支援において, 積極的にICTの活用（プログラミングを含む）をする。

講義コード	G04045001
講義名	生活科教育
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	中田 範子	指定なし

ナンバリング

P10301M21

授業概要(教育目的)

小学校教育課程の生活科で取り扱われている基本的事項について理解を深める。身近な生活に関する見方・考え方を生かし、自立し、生活を豊かにしていく資質・能力を育成することを目標にした生活科教育の特性を理解し、幼保小の接続のあり方を視野に入れながら学ぶ授業である。そのため、可能な限り、踏査を通した演習を取り入れ、体験を通して小学校低学年の児童を対象とした生活科教育に役立つ知識、概念、技能を習得することが目的である。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	幼稚園教育から小学校教育への接続の重要性を踏まえ、生活科の意義と内容の基本を理解する。
思考・判断の観点 (K)	生活科で取り上げている児童と人・自然・社会・家庭などとのかかわりについて実践例を通して考え、その意義と内容を理解する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス・子どもを取り巻く環境と生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	諸外国の子どもと我が国の子どもの生活や社会経験・自然体験について、調査結果をもとに理解し、小学校教育の中でできることを探る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料の演習問題を完成する。
	教室外学習の時間(分)	200
第2回	授業テーマ	幼児教育と小学校教育の接続について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児教育・小学校教育の制度・内容・子どもの学び方の特性を理解し、接続の重要性について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料の演習問題を完成する。
	教室外学習の時間(分)	120
第3回	授業テーマ	生活科創設の経緯と意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活科創設の経緯を理解するとともに、現在の子どもを取り巻く環境や学校教育における課題に即して、生活科の位置づけや意義について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	演習問題を完成させる。
	教室外学習の時間(分)	200
第4回	授業テーマ	学校と生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校内を探索することを通して得られた児童の気づきの質を高めることの意義と方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワークシートに記入する。また、友人のワークシートには、授業内容を踏まえた教師としてのコメントを記入する。
	教室外学習の時間(分)	200
第5回	授業テーマ	家庭と生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	昨今の家庭環境の変化と課題について把握しながら、家庭や地域に開かれた教育課程について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料の演習問題を完成する。
	教室外学習の時間(分)	200
第6回	授業テーマ	地域と生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校と地域の連携の重要性と児童にとっての意義について、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	大学周辺を踏査し、記録をとる。
	教室外学習の時間(分)	200
	授業テーマ	公共物や公共施設の利用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆ	児童館の見学を通して、地域と学校の連携や地域にある子ども

第7回	ﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	の居場所の実態を理解する。また、児童館の周囲の環境について踏査する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	児童館を見学した際の記録を作成する。
	教室外学習の時間(分)	200
第8回	授業テーマ	環境教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校教育課程における環境教育や総合的学習の時間について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料の演習問題を完成する。
	教室外学習の時間(分)	200
第9回	授業テーマ	季節の変化と生活と自然や物を使った遊び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童の自然体験活動の意義について理解し、学内において、児童向けの野外活動を体験しながら、身近な自然から豊かな体験と気づきが得られる学習内容について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワークシートに季節の移り変わりについて感じたことを「季節からの招待状」として作成する。
	教室外学習の時間(分)	200
第10回	授業テーマ	動植物の飼育・栽培
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童にとっての飼育栽培の意味、命の教育、食育について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	再生野菜の観察記録を完成する。
	教室外学習の時間(分)	200
第11回	授業テーマ	生活や出来事の交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校と地域の連携が必要な活動について計画を立て、指導案の作成について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワークシートを完成させ、友人のワークシートに教師としてのコメントを記入する。
	教室外学習の時間(分)	200
第12回	授業テーマ	子どもと事故、災害、安全教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校環境の安全対策の在り方について実例を交えながら理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料の演習問題を完成する。
	教室外学習の時間(分)	200
第13回	授業テーマ	子どもと情報化社会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校教育における外国につながる児童に関する諸問題に理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	グループ討議の結果を踏まえたワークシートを完成する。
	教室外学習の時間(分)	200
第14回	**授業テーマ**	自分自身の成長
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童が捉える自己評価、他者評価について理解し、児童に対する教師の評価について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワークシートを完成させ、友人のワークシートに教師としてのコメントを記入する。
	教室外学習の時間(分)	200

学習計画注記

授業の進行状況等により変更する場合があります。

学生へのフィードバック方法

提出されたワークシート等はすべて確認し、返却する。また、学期末レポートは、仮提出をした学生に対して、本提出に向けた添削と助言をして返却する。

評価方法

提出物、学期末レポートの評価をすべて点数化して成績を付ける。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
ワークシート	○	○	○	○
学期末レポート	○	○		

評価割合

ワークシート40%、学期末レポート60%
ルーブリックに基づいて評価する。ルーブリックは授業内に提示する。

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない。適宜授業時に紹介する。

参考図書

小学校学習指導要領生活編、同解説書、環境教育指導資料(幼稚園、小学校編)他、適宜授業中に示す。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学を構成する 6 領域 のうち、「子どもの教育」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・感性が備わっている。

オフィスアワー

火曜日3限目

学生へのメッセージ

学習を進めていく中では疑問点を持つことは大切です。疑問・質問がある場合には、遠慮せずに申し出てください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学内及び学外の踏査を行う。また、学内において、自然と関わる演習を行う。
情報リテラシー教育	○	環境教育の実際について情報を収集し、レポート作成に活用する。
ICT活用	○	学内の踏査を通して発見したもの等を画像を用いて発表する。その際には、デジタルカメラやパソコン等を活用する。

講義コード	G04046001
講義名	音楽科教育
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	塚本 恭子	指定なし
教授	吉永 早苗	指定なし

ナンバリング

P30306M21

授業概要(教育目的)

子どもの音楽表現の発達の諸相を知ると同時に、乳幼児期の音楽表現の指導から小学校の音楽科の指導に関する知識と実践について解説する。学習指導要領の内容に沿って、音楽科の各領域（歌唱・器楽・鑑賞・音楽づくり）の内容について理解を目指す。また、歌唱や器楽、鑑賞等の実践を通して、学生自身の音楽実践力の向上を図る。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	幼児・児童期の音楽的発達について理解する。音楽表現の多様性を実感するとともに、教科教育としての音楽科の目標・内容・方法を理解する。
思考・判断の観点 (K)	音楽に関する知識・技能を応用して、幼児期の音楽表現活動や小学校音楽科の授業内容を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	生活や社会の中の音や音楽と豊かにかかわるとともに、表現することを楽しむ。わが国や諸外国の音楽に触れることを楽しむ。
技術・表現の観点 (A)	曲想と音楽の構造等の関わりについての理解、音楽表現に関する知識・技能、小学校音楽科学習指導要領にある【共通事項】に関する知識を用いて音楽表現を工夫したり、音楽づくりをしたりすることができる。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション：小学校音楽科の意義と目的①

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育・学校教育における音楽教育は何を目指すのか
	教室外学習(予習・復習)の内容	保育所保育指針、幼稚園教育要領、小学校音楽科学習指導要領等の関連箇所を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	150分
第2回	授業テーマ	音楽教育の意義と目的②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	音楽的な見方・考え方について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校音楽科学習指導要領の関連箇所を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	150分
第3回	授業テーマ	音楽教育の意義と目的③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校音楽科に関するマイクロディベート
	教室外学習(予習・復習)の内容	論題に対する肯定側及び否定側立論を考える。
	教室外学習の時間（分）	240分
第4回	授業テーマ	音楽教育と楽譜①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	楽譜の存在について考える。図形楽譜に関する知識と実践。
	教室外学習(予習・復習)の内容	楽譜の歴史について調べておく。
	教室外学習の時間（分）	150分
第5回	授業テーマ	音楽教育と楽譜②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図形楽譜の制作と表現、発表。
	教室外学習(予習・復習)の内容	音楽をイメージして図形楽譜を制作する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	歌唱についての知識・技能①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	声遊びからボイスアンサンブルへ。発声法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ボイスアンサンブルの譜読みをしておく。
	教室外学習の時間（分）	150分
第7回	授業テーマ	歌唱についての知識・技能②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情景が伝わる歌唱の工夫を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校音楽教科書から歌唱曲を選択し、練習しておく。 小学校音楽科学習指導要領の関連箇所を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	240分
第8回	授業テーマ	歌唱についての知識・技能③ 指揮の知識・技能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	合唱の実践を通し、アンサンブルの美しさを感じ、合唱指導の基礎知識を学ぶ。 指揮基礎的な知識を学び、実践を通してその基礎技能を習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内	パート練習をしておく。

	容	
	教室外学習の時間（分）	240分
第9回	授業テーマ	器楽についての知識・技能①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鍵盤ハーモニカの導入と活動の展開について、実践を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校音楽科学習指導要領の関連箇所を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	240分
第10回	授業テーマ	器楽についての知識・技能②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	リコーダーの導入と活動の展開にいて実践を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リコーダー曲の練習。 小学校音楽科学習指導要領の関連箇所を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	150分
第11回	授業テーマ	器楽についての知識・技能③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ボディーパーカッションを通してその基礎知識を学ぶとともに、アンサンブルの教育的意義を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題曲の予習。
	教室外学習の時間（分）	150分
第12回	授業テーマ	音楽づくりの知識・実践①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身の回りのものを使った即興表現
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校音楽科学習指導要領の関連箇所を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	150分
第13回	授業テーマ	音楽づくりの知識・実践②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	環境の中に音楽をつくる。発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループで作品を制作する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第14回	授業テーマ	鑑賞教育 まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鑑賞の授業展開について学ぶ。 授業の振り返りを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校音楽科学習指導要領の関連箇所を読んでおく。 まとめのレポートの準備。
	教室外学習の時間（分）	270分

学習計画注記

学習内容により、教室を移動することがあります。

学生へのフィードバック方法

リフレクションシート、レポートは採点して、次週の授業で返却します。リフレクションシートに記載された質問事項についても、次週にお答えします。

評価方法

評価の視点は次の通りです。
・ディベートやペアトークに積極的に参加し、その内容に自分の考えを反映させてレポートや

リフレクションシートが書かれているか。
・幼児期の音楽表現活動のねらいや、小学校音楽科の目標が理解されているか。
・表現活動に積極的に取り組み、基礎的な技能の習得につとめているか。
・音楽の基礎的な知識を理解し、音楽表現や音楽の授業プランへの応用を考えることができているか。
・課題レポートについては、評価の観点をルーブリックで提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○		
作品発表	○		○	○
ディベート	○	○	○	
リフレクションシート	○	○	○	

評価割合

リフレクションシート（60%）作品発表（２０%）、期末レポート（20%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

小学生のおんがく１年～６年（教育芸術社）
小学校学習指導要領解説 音楽編 文部科学省

参考図書

保育所保育指針解説
幼稚園教育要領解説

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
子どもの保育・子どもの教育・子どもの文化としての音楽についての知識を修得する。
【思考・判断】
音楽に関する知識・技能を応用して、幼児期の音楽表現活動や小学校音楽科の授業内容を考えることができる。
【関心・意欲・態度】
子どもの豊かな成長・発達の姿を想定して、生活や社会の中の音や音楽と豊かにかかわる。
【技術・表現】
協働して音楽表現に取り組むことにより、保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につける。

オフィスアワー

月曜日 ３限 1601

学生へのメッセージ

教科教育の基礎を学ぶとともに、音楽実践として合唱、合奏を行います。積極的な参加と自主的な練習を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者の1名は、公立小学校及び国立大学教育学部附属小学校での豊富な実践経験を有す。
アクティブ・ラーニング	○	音楽教育をテーマとしたディベートを行う。また、実践を通しての知識・技能を習得する。
情報リテラシー教		

育	○	音楽の著作権法についての基本的な知識を学ぶ。
ICT活用	○	ICTを活用した情報検索や教材作成を行う。

講義コード	G04047001
講義名	図画工作科教育
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	立川 泰史	指定なし

ナンバリング

P20306M21

授業概要(教育目的)

小学校図画工作科の特性を理解し、学習指導要領の目標と内容に準じた指導方法について学ぶ。Ａ表現「造形遊びをする活動」、「絵や立体・工作に表す活動」においては、「思考・判断・表現」の力としての発想や構想に関する事項、「技能」に関する事項としての材料・用具の特徴、表し方を工夫する力の指導について体験的に理解する。「B鑑賞」においては、実践教材を用いた様々な展開方法や見方・感じ方を生活の中の造形に広げる指導や表現活動との連携などを考察する。理論と実践の両面から「形や色、イメージ」など、造形的な特徴への視点及び「内容の取り扱い」に必要な知識と技能の修得する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	小学校図画工作科の教科の特性及び目標・内容・内容の取り扱い・評価活動について学習指導要領に基づく基礎的知識を有し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	小学校図画工作科の内容領域の構成と事項に基づいた題材の開発や展開について、発達に配慮した観点を基に学習指導計画案を作成できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもの生活を取り巻く教育課題や造形文化に関心をもち、主体的な感性を重視する造形活動の意味や価値を説明できる。
技術・表現の観点 (A)	子どもが主体的に取り組む造形活動を開発・導入・展開する技能を有し、適切な評価の材料・観点について説明できる。

学習計画

	授業テーマ	今日的な教育課題と子どもの造形表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リ	今日的な教育課題と子どもの造形表現の関連を知り、子どもの生活に根ざす発想や表現の特徴について理解する。現代の社会・文化的

第1回	ﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	状況や教育の歴史的変遷の観点から事例や情報を参照し、造形教育・教科学習の役割を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育課題と期待する子ども像に関連した学校や地域の実例を参照し、特徴や観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	図画工作科の目標・内容と期待する児童像
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図画工作科の目標・内容と期待する児童像の関連に着目して学習指導要領の改訂趣旨や教科目標を捉え、内容領域の構成、学年ごとの目標や内容、題材活動の概要を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習指導要領の総則にある改訂趣旨・図画工作科の教科目標を参照し、重視する観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	A表現「造形遊び」（低学年）の指導と評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	A表現「造形遊び」（低学年）における指導と評価の一体的扱いについて、体験的に理解する。低学年児童の遊びや生活に根ざす発想過程と表現について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	A表現「造形遊び」（低学年）の指導と評価について、検定教科書の題材や事例を参照しながら気付いた特徴や観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	A表現「造形遊び」（中・高学年）の指導と評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	A表現「造形遊び」（中。高学年）における指導と評価の一体的扱いについて、体験的に理解する。中学年・高学年児童の認識の発達に根ざす発想過程と表現について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	A表現「造形遊び」（中。高学年）における指導と評価について、検定教科書の題材や事例を参照しながら気付いた特徴や観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	A表現「絵に表す」活動の指導と評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	A表現「絵に表す」活動の指導と評価の一体的な扱いについて、体験的に理解する。描画材料や用具の基礎的な知識を知り、題材の目標との関連や育てたい資質・能力との関連を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	A表現「絵に表す」活動の指導と評価について、検定教科書の題材や事例を参照し、気付いた特徴や観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分

第6回	授業テーマ	A表現「立体に表す」活動の指導と評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	A表現「立体に表す」活動の指導と評価の一体的な扱いについて、体験的に理解する。材料・用具の特徴や育てたい資質・能力との関連について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	A表現「立体に表す」活動の指導と評価について、検定教科書の題材や事例を参照し、気付いた特徴や観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	A表現「工作に表す」活動の指導と評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	A表現「工作に表す」活動の指導と評価の一体的な扱いについて。体験的に理解する。工作と伝統工芸、理科工作との違いを知り、材料の特徴や発想過程を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	A表現・「工作に表す」活動の指導と評価について、検定教科書や事例を参照し、気付いた特徴や観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	デジタル機器やメディアコンテンツを活用する題材の展開
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デジタル機器やメディアコンテンツを活用する題材の展開について、題材の目標との関連や機器機能の活用方法について体験的に理解する。タブレット型PCを有効に活用する表現活動について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デジタル機器やメディアコンテンツを活用する題材の展開について、検定教科書の題材や事例を参照し,気づいた特徴や観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	身体感覚や認識を楽しむ題材の展開
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日常生活で培われる身体感覚や認識を楽しむ題材の展開について、発想過程や表現の特徴を体験的に理解する。感覚と連携する認識と造形発想について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日常生活で培われる身体感覚や認識を楽しむ題材の展開について事例を参照し、気づいた特徴や観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	造形的な関わりを楽しむコミュニケーション題材の展開
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	友だちとの造形的な関わりを造形発想や行為のきっかけとする題材について、「意味や価値をつくり出す喜び」と相互作用の関連に着目し、体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内	友だちとの造形的な関わりに着目する造形表現について、検定教科書や事例を参照し,気付いた特徴や観点を整理しておく。

	容	
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	B鑑賞「相互鑑賞活動」の展開と方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	B鑑賞「相互鑑賞活動」の展開と方法について、体験的に理解する。子どもの造形的な見方・感じ方を多面多様にするゲームや視覚機器（タブレット型PCやデジタルカメラ）を活用する実践事例を基に、鑑賞活動の可能性や課題を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	B鑑賞「相互鑑賞活動」の展開と方法について、児童相互が見方・感じ方を変化させるための手だてや観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	授業テーマ	B鑑賞「親しみのある造形文化や生活観を活かす鑑賞活動」の展開と方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	B鑑賞の独立した鑑賞活動について、親しみのある造形文化や生活観を活かす展開と方法について体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	B鑑賞「親しみのある造形文化や生活観を活かす鑑賞活動」の展開と方法について検定教科書の題材を参照し、気付いた特徴や観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	B鑑賞「表現と鑑賞を一体的に扱う題材」の展開と方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	B鑑賞「表現と鑑賞を一体的に扱う題材」の展開と方法について、体験的に理解する。表現から鑑賞に、または鑑賞から表現に領域を超えて働く子どもの感覚や感性の特徴を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	B鑑賞「表現と鑑賞を一体的に扱う題材」の展開と方法をもつ活動について、検定教科書の題材を参照し、気付いた特徴や観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	270分
第14回	授業テーマ	身の回りの場所や自然を活用する題材の展開と方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身の回りの場所や自然を活用する題材の展開と方法について、発想過程の特徴や内容領域を超えて働く子どもの感覚や感性を体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身の回りの場所や自然を活用する題材の展開と方法について、検定教科書にある題材を参照し、気付いた特徴や観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	270分

学習計画注記

履修者数やテーマに対する関心の広がりによってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

・講義及び討論・発表による混合形式。グループや全体のディスカッションでは適宜必要な解説と助言で応じる。毎回授業を振返り、各自の気付きや考察を記して提出するドキュメントシートについて、コメント付きで返却する。
・授業中盤で、子どもの発達に応じた対応に考慮した題材の略案を記す課題レポートの提出を求め、改善点をチェックして返却する。

評価方法

・毎回授業を振返り、各自の気付きや考察を記して提出するドキュメントシート（各回200字程度）の提出を求める。記述内容について、学習目標の規準を観点に評価する。
・発達を踏まえた題材の略案レポートは、発達に応じた対応を中心とする実践課題への着目と方略を観点に評価する。
・学期末に、「生活や遊び・身近な材料を生かす造形題材」を共通テーマにした小論レポートの提出（1200～1600字程度）を求める。レポートは、学習目標の到達規準に準拠する観点から評価する。
・評価の観点をルーブリックに明示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
ドキュメントシート	○	○	○	
課題レポート	○			○
小論レポート	○	○		

評価割合

平常点10%、ドキュメントシート20%、課題レポート20%、期末小論レポート50%を総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

特になし（授業者が適宜資料を配布する）

参考図書

①立川泰史『意味づくりの造形教育 見方をむすぶ学びのニューカテゴリー』開隆堂出版、2018年10月、ISBN978-4-304-03115-1 C3037
②文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説・図画工作編』日本文教出版、2018年3月、ISBN-10: 4536590110
（上記及びその他資料を授業内で適宜配布する。）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】教科の特性を理解し、育む資質・能力について実践に必要な基礎的かつ専門的な知識を有している。
【思考・判断】教科の目標や内容・評価について、児童観・教材観・指導観を基に展開方法を考察する指導観と評価観を有している。
【関心・意欲・態度】児童の発達や造形教育の歴史的変遷に関心をもち、現代的な課題の解決に向かう実践感覚を有している。
【技能・表現】造形的な見方・考え方を育む実践展開を考察・計画・評価する基本的な能力を有している。

オフィスアワー

水曜4限・1629研究室

学生へのメッセージ

講義内容を体験的に学ぶので、そのプロセスや成果を自身で記録・保管する。
参考資料は授業で適宜配布する。
講義のほか簡単な制作実技を行うため、動きやすく汚れてもよい服装や安全に配慮する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、小学校教員としての経験をもち、造形・美術教育の実践研究・開発・提案に従事した。文部科学省の学習資料作成委員や文部科学省検定教科書の編修著者として、現職教員の研修・地域行政や社会的教育機関・企業などのネットワークを生かして、今日的な課題に応じた造形教育の内容や情報を考察対象として提供する。
アクティブ・ラーニング	○	造形表現活動の意味や価値について体験的に理解するとともに、集団討論を通して、基礎的な知識・技能の実践的な活用・応用力を向上する。
情報リテラシー教育	○	事前学習や集団討論に必要な観点の基礎になる実践事例の収集、自身が着目した観点から事後学習で参照する実態調査を通して、情報処理能力を向上する機会をもつ。
ICT活用	○	教師や子どもの学習評価、表現・鑑賞活動の中でデジタル機器の活用場面を知るとともに、授業内の集団討論やプレゼンテーションでタブレット型 PC・アプリケーションコンテンツを活用する。

講義コード	G04048001
講義名	国語科教育（書写を含む）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	成家 雅史	指定なし
教授	和田 美香	指定なし

ナンバリング

P10302M21

授業概要(教育目的)

○小学校教員として国語科とことばの教育についての理解を深める。
・子どもにとってことばを学ぶことの意義を理解する。
・子どものことばの発達について理解する。
・国語科の求めることばの教育のねらいや内容を理解する。
・国語科におけることばの学習の留意点について理解する。
・国語科におけることばの学習は，基本的には子どもの生活をよりよく楽しいものにするために行われ
るべきものであるという基本に立ち，子どもはどのようにことばを獲得し，ことばの力を活用してい
くのかを理解する。
・どのような内容を学ばせることが求められているのか，どのような方法で学ばせることが望ましいかに
ついて，子どもの立場になって体験することを通して実践知を身に付ける。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	ことばの機能や役割と国語科教育の接点に着目して，小学校国語科教育の意義，目標，内容を理解し，指導に必要な基礎的知識を身に付ける。
思考・判断の観点(K)	現代の国語科教育に求められていること，各教科の基盤として，「ことばで学ぶ」「ことばを学ぶ」ことが国語科であることを踏まえ，実際の言語活動を体験しながら，指導の在り方を考察することができる。
関心・意欲・態度	毎時間の課題，提出課題に真摯に向き合い，学んだことをもとに自分の考えをも

の観点 (V)	ち，話し合いや記述等，学習に取り組んでいる。
技術・表現の観点 (A)	現代の国語科教育に求められている授業のあり方を理解し，必要な基礎的事項を自ら調べ，わかりやすく，活用できる形にまとめることができる。

学習計画

国語科教育

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション 国語とは何か，国語科におけることばの教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国語を学ぶ意味を考え，ことばの機能や役割と国語科の目標や内容との関連について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎回、ダウンロードした資料，配布する資料を読み，整理してファイルし持参する。出された課題を期日までに提出する。身近な国語調査を行い，各回の担当に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180
第2回	**授業テーマ**	子どものことばの発達と思考
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どものことばの発達と思考の結び付きについて，講義内容や資料から理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義で指定されたテキストや配布された資料を読んでおく。 身近な国語調査を行い、各回の担当に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180
第3回	**授業テーマ**	話すこと・ 聞くことの学習指導とことばの学び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	話すこと・聞くことの学習指導における子どものことばの獲得やことばの力について，講義内容や資料，言語活動を通して理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義で指定されたテキストや配布された資料を読んでおく。 身近な国語調査を行い，各回の担当に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180
第4回	**授業テーマ**	書くことの学習指導とことばの学び （書写を含む）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	書くことの学習指導における子どものことばの獲得やことばの力について，講義内容や資料、言語活動を通して理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義で指定されたテキストや配布された資料を読んでおく。 身近な国語調査を行い，各回の担当に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180
5	**授業テーマ**	読むこと（説明的文章）の学習指導とことばの学び1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	読むこと（説明的文章）の学習指導における子ども（1年生から3年生）のことばの獲得やことばの力について，講義内容や資料，言語活動を通して理解する。

第 回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義で指定されたテキストや配布された資料を読んでおく。 身近な国語調査を行い，各回の担当に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180
第6回	授業テーマ	読むこと（説明的文章）の学習指導とことばの学び2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	読むこと（説明的文章）の学習指導における子ども（4年生から6年生）のことばの獲得やことばの力について，講義内容や資料，言語活動を通して理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義で指定されたテキストや配布された資料を読んでおく。 身近な国語調査を行い，各回の担当に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180
第7回	授業テーマ	読むこと（文学的文章）の学習指導とことばの学び1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	読むこと（文学的文章）の学習指導における子ども（1年生から3年生）のことばの獲得やことばの力について，講義内容や資料，言語活動を通して理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義で指定されたテキストや配布された資料を読んでおく。 身近な国語調査を行い，各回の担当に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180
第8回	授業テーマ	読むこと（文学的文章）の学習指導とことばの学び2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	読むこと（文学的文章）の学習指導における子ども（4年生から6年生）のことばの獲得やことばの力について，講義内容や資料，言語活動を通して理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義で指定されたテキストや配布された資料を読んでおく。 身近な国語調査を行い，各回の担当に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180
第9回	授業テーマ	〔知識及び技能〕のことばの学び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	〔知識及び技能〕によることばの学びについて理解する。 小学校国語科教科書の〔知識及び技能〕の内容を調べて，調べたことの中から最も関心のある内容を発表し，ことばの学びについて感想を交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義で指定されたテキストや配布された資料を読んでおく。 身近な国語調査を行い，各回の担当に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180
第10回	授業テーマ	国語科における学習用語
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国語科で用いられる学習用語について知る。 学習用語に着目した国語科の授業づくりのイメージをもち，学習用語に対する理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義で指定されたテキストや配布された資料を読んでおく。 身近な国語調査を行い，各回の担当に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	200
	授業テーマ	詩の授業（ことばの学びにおける教師の役割）

第11回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	詩の授業に参加して，詩とことばの学びの可能性について考え，詩を使ったことばの学びのイメージをもつ。 ことばの学びにおける教師の役割について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義で指定されたテキストや配布された資料を読んでおく。 身近な国語調査を行い，各回の担当に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	200
第12回	授業テーマ	詩を使った授業づくり1（教材研究，言語活動研究の方法）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校国語科教科書1年生から6年生までの教科書を概観し，どのような詩教材があるのかを知る。 教科書の中から、関心をもった詩教材について，教材研究や言語活動研究の仕方を学び，理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	選択した詩教材についての教材研究や言語活動研究に取り組む。 身近な国語調査を行い，各回の担当に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	200
第13回	授業テーマ	詩を使った授業づくり2（言語活動の実践）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	選択した詩教材についての教材研究や言語活動研究の結果を交流し，互いが考案した言語活動に取り組み，感想を交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の実践や他の言語活動に取り組んだリフレクションを行う。 身近な国語調査を行い，各回の担当に向けて準備をする。
	教室外学習の時間（分）	240
第14回	授業テーマ	子どものことばの学びと国語科についてまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの講義を通した自らの学びを振り返り，ことばの発達における国語科教育の役割を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料や記録を整理して国語科教育についての自らの学びを振り返る。
	教室外学習の時間（分）	240

学習計画注記

授業の進み具合等によってスケジュールが変更になることもあります。ダウンロードした資料は持参してください。PCは毎回使用します。資料は、さかのぼって使用することがあります。〇回○月◎日配布と記入しファイルしておき資料整理，活用力も身に付けてください。事前に準備し，学習に取り組み，授業後，学んだことを振りかえることで，自分で成長していく力をつけていきたいと考えます。

学生へのフィードバック方法

振り返りカードに書かれた振り返りや質問，提出課題などに，評価またはコメントを記入し返却する。

評価方法

毎回，自身の取組の振り返りや授業内容についての自身の考察を記入する。授業に真摯に参加し，記述することで思考力・判断力・表現力等を確認する。
自ら調べた資料も含め，学んだことを活用できる形にまとめる課題に取り組み，わかりやすく

表現することをめざすことで必要な知識を得たことを確認する。
最後の全体振り返りは，記述方法を提示する。毎回の授業の積み重ねの中で，得た知識を根拠として自分の考えが書けるようになることの確認を行う。
ルーブリックによる評価を行う。
（ルーブリックについてはクラスルーム，授業内に配布する）
知識・理解 振り返り 提出課題記述内容 授業中の取組
思考・判断 振り返り 提出課題記述内容 授業中の取組
関心・意欲・態度 授業への取組 課題への取組 記述内容

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
振り返り記述内容	○	○	○	○
提出課題記述内容	○	○	○	○
授業への取組	○	○	○	○
ルーブリックによる評価	○	○	○	○

評価割合

授業への取組３０％
振り返り記述内容４０％
提出課題への取組と記述内容３０％

使用教科書名(ISBN番号)

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編 文部科学省

参考図書

岡本夏木（1985）「ことばと発達」岩波書店
内田伸子（1990）「子どもの文章」東京大学出版会
宮川健郎（2023）「物語もっと深読み教室」岩波ジュニア新書

ディプロマポリシーとの関連

授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り，子どもの専門家として社会に貢献できる。

学生へのメッセージ

振り返りカードに書かれた振り返りや質問，提出課題などに，評価またはコメントを記入し返却する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	小学校教諭経験を生かし，実際の児童の様子，実際場面での指導の様子も具体的に示して授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	体験する，自らの考えを記述する，分かりやすく表現する，グループ等で交流する等の活動を取り入れて授業を行う。
情報リテラシー教育	○	指導を行う上で必要な情報リテラシー，コミュニケーションスキルに触れながら授業を行う。
ICT活用	○	学習に必要な資料を得るなど，情報を得る，引用する等の活動も取り入れながら授業を行う。 パソコンを使用し，著作権や人権に配慮しながら，情報収集や情報選択等

		行い，児童向けの授業を想定してプリント作成や，交流などを行う。

講義コード	G04049001
講義名	体育科教育
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	佐藤 冬果	指定なし

ナンバリング

P20308M21

授業概要(教育目的)

小学校における体育科教育の目的・目標、学習内容、方法、評価等についての基本的理論を学び、学習指導要領を読み解くことで小学校における体育科の意義を考える。また、小学校体育の各領域の内容について、児童の発育・発達に応じた教材の適切な取り上げ方、指導法について学び、代表的な教材を用いて指導計画の作成方法および指導方法についても取り上げる。

履修条件

・模擬授業を実施する回には、運動に適した服装、体育館シューズで参加してください。
・体育実技を実施する上で健康上の配慮が必要な人は、申し出てください。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	小学校における体育科教育の目標、および授業で扱う領域・内容と評価法について理解している。
思考・判断の観点 (K)	模擬授業の内容を学習指導要領と照らし合わせ、その適切性について指摘することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学習指導要領に沿った授業づくりの工夫に積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	模擬授業を展開し、適切な運営や声掛けができるようになる。

学習計画

	授業テーマ	小学校「体育科教育」の概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	小学校体育科教育の概要について学び、その枠組みや改訂のポイント等について理解する。

第1回	を含む)	（学習指導要領解説（体育編）の確認にPCを使用します）
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習指導要領解説（体育編）に目を通し、その内容を理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第2回	授業テーマ	体育科の目標と内容
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校教育の中で体育科が担うべき役割と意義、また各学年での目標を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習指導要領解説（体育編）のうち、「教科の目標および内容」に目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第3回	授業テーマ	教科としての体育の歴史と意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体育科授業を取り巻く制度的な条件と、体育が教科として学校教育の中で果たしてきた役割と意義について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	戦前・戦後の体育の役割について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第4回	授業テーマ	運動やスポーツの教授方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動やスポーツを教えるための基本的な方法論を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習法や学習者の心理的影響、体の発育・発達に伴うスポーツの影響等の基本を理解しておく。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第5回	授業テーマ	体育科の学習内容と授業計画の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習計画や指導案の作成について基本的原則を学ぶ。 （指導案の作成にPCを使用します）
	教室外学習(予習・復習)の内容	環境や教員、地域性等から年間の学習計画が影響されること、施設や用具等の制限から教材選びが影響されることを理解しておく。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第6回	授業テーマ	体育における指導と評価の一体化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体育科における学習成果の評価について理解する。 模擬授業の授業案づくりを進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	評価の意義や目的、方法について理解しておく。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第7回	授業テーマ	模擬授業I： 体つくりの運動遊び 体つくり運動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「体つくり運動遊び」「体つくり運動」の背景や目的・意義と学習内容について理解する。 領域担当者は、作成した授業案に沿って、模擬授業を展開する。 担当者以外の学生は、児童役として授業に参加する。
	教室外学習(予習・復	・「体つくり運動（遊び）」の授業案の例を検索しておくこと。

	習)の内容	・模擬授業を振り返り、教師役を担当した学生へのフィードバックを観点別に作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第8回	**授業テーマ**	模擬授業II： 器械・器具を使っての運動遊び 器械運動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「器械・器具を使っての運動遊び」「器械運動」の背景や目的・意義と学習内容について理解する。 領域担当者は、作成した授業案に沿って、模擬授業を展開する。 担当者以外の学生は、児童役として授業に参加する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・「器械・器具を使っての運動遊び」「器械運動」の授業案の例を検索しておくこと。 ・模擬授業を振り返り、教師役を担当した学生へのフィードバックを観点別に作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第9回	**授業テーマ**	模擬授業III： 走・跳の運動遊び 走・跳の運動 陸上運動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「走・跳の運動遊び」「走・跳の運動」「陸上運動」の背景や目的・意義と学習内容について理解する。 領域担当者は、作成した授業案に沿って、模擬授業を展開する。 担当者以外の学生は、児童役として授業に参加する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・「走・跳の運動遊び」「走・跳の運動」「陸上運動」の授業案の例を検索しておくこと。 ・模擬授業を振り返り、教師役を担当した学生へのフィードバックを観点別に作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第10回	**授業テーマ**	模擬授業IV： ゲーム ボール運動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「ゲーム」「ボール運動」の背景や目的・意義と学習内容について理解する。 領域担当者は、作成した授業案に沿って、模擬授業を展開する。 担当者以外の学生は、児童役として授業に参加する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・「ゲーム」「ボール運動」の授業案の例を検索しておくこと。 ・模擬授業を振り返り、教師役を担当した学生へのフィードバックを観点別に作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第11回	**授業テーマ**	模擬授業V： 表現リズム遊び 表現運動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「表現リズム遊び」「表現運動」の背景や目的・意義と学習内容について理解する。 領域担当者は、作成した授業案に沿って、模擬授業を展開する。 担当者以外の学生は、児童役として授業に参加する。
	教室外学習(予習・復	・「表現リズム遊び」「表現運動」の授業案の例を検索しておくこと。

	習)の内容	・模擬授業を振り返り、教師役を担当した学生へのフィードバックを観点別に作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第12回	**授業テーマ**	模擬授業VI： 保健（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「保健領域」のうち、「健康な生活」「体の発育・発達」に関する背景や目的・意義と学習内容について理解する。 領域担当者は、作成した授業案に沿って、模擬授業を展開する。 担当者以外の学生は、児童役として授業に参加する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・「保健領域」のうち、「健康な生活」「体の発育・発達」の授業案の例を検索しておくこと。 ・模擬授業を振り返り、教師役を担当した学生へのフィードバックを観点別に作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第13回	**授業テーマ**	模擬授業VII： 保健（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「保健領域」のうち、「心の健康」「けがの防止」「病気の予防」に関する背景や目的・意義と学習内容について理解する。 領域担当者は、作成した授業案に沿って、模擬授業を展開する。 担当者以外の学生は、児童役として授業に参加する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・「保健領域」のうち、「心の健康」「けがの防止」「病気の予防」の授業案の例を検索しておくこと。 ・模擬授業を振り返り、教師役を担当した学生へのフィードバックを観点別に作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第14回	**授業テーマ**	「水遊び」「水泳運動」 授業のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「水遊び」「水泳運動」の背景や目的・意義と学習内容について理解する。 授業を振り返り、学んだことを整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「水遊び」「水泳運動」の授業案の例を検索しておくこと。 最終レポートの作成に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分

学習計画注記

授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

模擬授業担当者には、教員からのフィードバックに加え、児童役として参加した学生からのフィードバックのコメントを集約して返却します。

評価方法

・各回の小レポート（含、模擬授業の他者評価フィードバック）
・指導案
・模擬授業
・授業への積極的な参加
・最終レポート
を総合的に評価します。

ルーブリックを用いた評価を行います。ルーブリックについてはクラスルームにより提示しま

す。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
各回の小レポート	○	○	○	
指導案	○	○	○	○
模擬授業	○	○	○	○
授業への積極的な参加			○	○

評価割合

・各回の小レポート、授業への積極的な参加 4×13回＝52%
・指導案（授業設計力） 15%
・模擬授業（授業実践力） 15%
・最終レポート 18%

使用教科書名(ISBN番号)

文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説体育編 東洋館出版社

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもに関する専門的な知識が修得できている
【思考・判断】自ら様々な課題に柔軟に対応できる
【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる
【技術・表現】豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている

オフィスアワー

月曜4限 1618室

学生へのメッセージ

小学校の体育は、生涯にわたるスポーツとの付き合い方、ひいては生涯にわたる運動習慣（健康）に影響を与えうる科目と言えます。
それだけでなく、人との関わり方や、上手く物事が進まない時の行動など、人として大事なことを学ぶ場でもあると思っています。
体育が苦手だと感じている方もいると思いますが、「体育『を』教えるより、体育『で』人を育てる」という気持ちで、臨んでいただけたらと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	理論として学んだ学習指導要領の内容を生かした模擬授業を実践する。また、児童役として授業に参加する。それらの体験を振り返ることで、体験的に授業の在り方を学ぶ。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04050001
講義名	社会科教育
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	齊藤 和貴	指定なし

ナンバリング

P20302M21

授業概要(教育目的)

小学校社会科が目指す「公民的資質・能力の育成」の目標の趣旨及び「地域や我が国の国土の地理的環境」「現代社会の仕組みや働き」「地域や我が国の歴史や伝統と文化を通した社会生活の理解」などに区分される内容領域について理解を深める。児童が、社会的事象の意味や相互の関連を多角的に考え、社会に見られる課題を主体的に解決しようとする「社会的な見方・考え方」を働かせながら、社会への関わり方を選択・判断する力を育む学習や指導の実践事例や育てたい児童の姿を検討し、よりよい社会の構成者としての人格を育む学習の価値観や指導観を形成する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・小学校社会科の目標と内容（各学年の単元構成）を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	・主体的・対話的で深い学びを実現する授業形態・指導方法の有効性について考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・周囲と積極的に関わりコミュニケーションを取りながら、学習内容を理解しようとしている。
技術・表現の観点 (A)	・「授業のまとめと振り返り」において、わかったこと、そこから考えたことを文章にまとめることができる。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション：授業実践映像の分析を通して
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	社会科授業の実際の映像を視聴し、授業のねらい、教材の提示法、対話、板書、子どもの実態について理解する。

第1回	用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）『社会編』1～30ページを読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	2時間
第2回	授業テーマ	小学校社会科の目標と内容、評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会科の目標と内容、評価について理解する。 「主体的・対話的で深い学び」について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）『社会編』135～141、148～154ページを読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	2時間
第3回	授業テーマ	小学校社会科の歴史と現代的課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会科の誕生と学習指導要領の変遷と特徴について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）『社会編』1～16ページを読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	2時間
第4回	授業テーマ	地域学習の教材開発の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域学習の教材開発や教材づくり、教科書の取り扱い、資料提示の方法（ICT活用を含む）について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）『社会編』148～154ページを読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	2時間
第5回	授業テーマ	地域学習の内容と教材研究：相模原市のまちの様子を例に
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習指導要領に明示されている第３学年の目標と内容について理解する。 教科書の内容を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）『社会編』31～47ページを読んでおく。 （予習）児童が使用する教科書や資料集を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	2時間
第6回	授業テーマ	地域学習の内容と教材研究：地域の先人の働き
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習指導要領に明示されている第４学年の目標と内容について理解する。 教科書の内容を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）「社会編』31～47ページを読んでおく。 （予習）児童が使用する教科書や資料集を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	2時間
第7回	授業テーマ	国土・産業学習の教材開発の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国土・産業学習の教材開発や教材づくり、教科書の取り扱い、資料提示の方法（ICT活用を含む）について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）『社会編』148～154ページを読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	2時間
	授業テーマ	国土学習の内容と教材研究：わたしたちの国土
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習指導要領に明示されている第５学年の目標と内容について理解する。 教科書の内容を理解する。

第8回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）『社会編』48～69ページを読んでおく。 （予習）児童が使用する教科書や資料集を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	2時間
第9回	授業テーマ	産業学習の内容と教材研究：わたしたちの生活と工業生産
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習指導要領に明示されている第５学年の目標と内容について理解する。 教科書の内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）『社会編』48～69ページを読んでおく。 （予習）児童が使用する教科書や資料集を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	2時間
第10回	授業テーマ	歴史学習と政治・国際関係学習の教材開発の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	歴史学習と政治・国際関係学習の教材開発や教材づくり、教科書の取り扱い、資料提示の方法（ICT活用を含む）について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）『社会編』97～134ページを読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	2時間
第11回	授業テーマ	政治学習の内容と教材研究：わたしたちのくらしと日本国憲法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習指導要領に明示されている第６学年の目標と内容について理解する。 教科書の内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）『社会編』97～134ページを読んでおく。 （予習）児童が使用する教科書や資料集を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	3時間
第12回	授業テーマ	歴史学習の内容と教材研究：大陸に学んだ国づくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習指導要領に明示されている第６学年の目標と内容について理解する。 教科書の内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）『社会編』97～134ページを読んでおく。 （予習）児童が使用する教科書や資料集を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	3時間
第13回	授業テーマ	歴史学習の内容と教材研究：3人の武将と天下統一
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習指導要領に明示されている第６学年の目標と内容について理解する。 教科書の内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）『社会編』97～134ページを読んでおく。 （予習）児童が使用する教科書や資料集を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	3時間
第14回	授業テーマ	学習の振り返りとまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「主体的・対話的で深い学び」による授業改善の方策についてまとめる。 カリキュラム・マネジメントについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）『社会編』17～30ページを読んでおく。 （予習）『総則編』46～95ページを読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	2時間
	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	

第15回	用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

可能であればフィールドワークを通した教材研究を行います。その際、交通費や入館料などは各自の負担となります。

学生へのフィードバック方法

・授業の最後に５～１０分間「授業のまとめと振り返り」の時間をとる。全体に紹介・共有したり、コメントを記入して返却したりする。

評価方法

コメントカードを含む授業への参加状況や課題レポートの内容を、ルーブリックを用いて評価する。
ルーブリックは、授業において配布する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
参加態度・発言・コメントカード	○		○	
課題への取り組み		○		○

評価割合

・参加態度・発言・コメントカードの内容等（５０%）
・課題への取り組み（５０%）

使用教科書名(ISBN番号)

・『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編』（文部科学省発行）(ISBN978-4-536-59009-9)

参考図書

講義の中で適宜、紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「子どもの教育」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【思考・判断】家族・地域・社会と共同しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている。
【関心・意欲・態度】子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。
【技能・表現】本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献する。

学生へのメッセージ

社会科は暗記科目という固定観念をもたれています。そのため、社会科の授業が知識の詰め込みのための講義型になりがちです。子どもたちが資料やデータを読み取りながら考え、話し合う授業を実現することで、「社会科が好き」という子どもを育ててください。

教育等の取組み状況

	該当有	概要

	無	
実務経験を活かした授業	○	担当教員は公立・国立大学附属小学校の教員経験を有し、社会科教育について授業研究を続けてきました。児童が意欲的に学習課題に取り組む方策などを、学校現場に即して、具体的な事例を示しながら分かりやすく工夫する。
アクティブ・ラーニング	○	学習者が能動的に学ぶ方法として、グループディスカッション、グループワーク等を取り入れ、体験的に学ぶ機会を重視する。
情報リテラシー教育	○	調べ学習をする際の図書の活用法やインターネットでの情報収集の仕方、調べた結果をまとめる方法、情報を扱う上での注意点(情報モラル)等について具体的事例を紹介する。
ICT活用	○	プレゼンソフトや実際の授業実践映像の視聴などを通して、授業内容の理解を図る。また、受講者がICTを活用した教材・資料づくりの方法を体験できるようにする。

講義コード	G04051001
講義名	理科教育
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	末松 加奈	指定なし

ナンバリング

P20304M21

授業概要(教育目的)

理科の学習では，子どもが自然に対して興味・関心をもち，問題解決の活動を通して科学的なものの見方や考え方をするようになることが期待されている。学生が小学校理科の目標と各区分の内容を理解し，子どもの自然認識の形成を図る基本的な指導法を習得できるようにする。理科離れ・理科嫌いと言われる最近の子どもにいかに興味を持たせるかについても考えられるようにする。

履修条件

「生活科教育」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	児童が科学的なものの見方や考え方を持てるように指導する知識を得ることができる。
思考・判断の観点 (K)	自身が科学的な思考の基本である客観的な考え方やそれに基づいた判断が出来て，それを児童に教えることをができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	科学教育への関心，意欲，態度を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	小学校理科のVTR映像や講義中の実験を通して，児童に対して適切な表現ができるようになる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス、小学校における理科教育の意義と役割
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	・本授業の履修方法や評価方法について理解する。 ・学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」から理科の目

第1回	育・ICT活用を含む)	標と小・中学校理科の内容構成について、その全体像を検定教科書と照らし合わせながら理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」pp.1-28に目を通しておく。 （復習）教科書の特徴について、調べてまとめる。
	教室外学習の時間(分)	190分
第2回	授業テーマ	授業のねらいと教材（１）：植物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・単元の構成・内容の基本的な考え方を解説し、植物の観察・実験を通して理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」pp.39-42, pp.67-69, pp.86-87に目を通しておく。 （復習）知識確認プリントを行い単元内容への理解を深める。
	教室外学習の時間(分)	190分
第3回	授業テーマ	授業のねらいと教材（２）：動物と人体
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・単元の構成・内容の基本的な考え方を解説し、教材研究を通して理解を深める。 ・前時の内容の確認テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」pp.39-42, pp.52-55, pp.70-71, pp.84-86に目を通しておく。 （復習）知識確認プリントを行い単元内容への理解を深める。
	教室外学習の時間(分)	190分
第4回	授業テーマ	授業のねらいと教材（３）：エネルギー（てこ・振り子）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・単元の構成・内容の基本的な考え方を解説し、実験を通して理解を深める。 ・前時の内容の確認テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」pp.65-66, pp.80-81に目を通しておく。 （復習）知識確認プリントを行い単元内容への理解を深める。
	教室外学習の時間(分)	190分
第5回	授業テーマ	授業のねらいと教材（４）：エネルギー（電気）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・単元の構成・内容の基本的な考え方を解説し、実験を通して理解を深める。 ・前時の内容の確認テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」pp.50-52, pp.66-67, pp.82-83に目を通しておく。 （復習）知識確認プリントを行い単元内容への理解を深める。
	教室外学習の時間(分)	190分
	授業テーマ	授業のねらいと教材（５）：粒子（水の三態変化、燃焼）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・単元の構成・内容の基本的な考え方を解説し、実験を通して理解を深める。 ・前時の内容の確認テストを行う。

第6回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」pp.47-50, pp.77-78に目を通しておく。 （復習）知識確認プリントを行い単元内容への理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	授業のねらいと教材（６）：粒子（物の溶け方）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・単元の構成・内容の基本的な考え方を解説し、実験を通して理解を深める。 ・前時の内容の確認テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」pp.63-64に目を通しておく。 （復習）知識確認プリントを行い単元内容への理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	授業のねらいと教材（７）：粒子（水溶液の性質）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・単元の構成・内容の基本的な考え方を解説し、実験を通して理解を深める。 ・前時の内容の確認テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」pp.78-80に目を通しておく。 （復習）知識確認プリントを行い単元内容への理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	授業のねらいと教材（８）：地球（月と星、月と太陽）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・単元の構成・内容の基本的な考え方を解説し、実験や動画資料を通して理解を深める。 ・前時の内容の確認テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」pp.59-60, pp.92-93に目を通しておく。 （復習）知識確認プリントを行い単元内容への理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	授業のねらいと教材（９）：地球（流れる水の働き）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・単元の構成・内容の基本的な考え方を解説し、実験や動画資料を通して理解を深める。 ・前時の内容の確認テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」pp.71-73に目を通しておく。 （復習）知識確認プリントを行い単元内容への理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	授業のねらいと教材（１０）：地球（土地のつくりと変化）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・単元の構成・内容の基本的な考え方を解説し、実験や動画資料を通して理解を深める。 ・前時の内容の確認テストを行う。
	教室外学習(予習・	（予習）学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」pp.89-

	復習)の内容	91に目を通しておく。 （復習）知識確認プリントを行い単元内容への理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	授業のねらいと教材（１１）：地球（天気）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・単元の構成・内容の基本的な考え方を解説し、動画資料等を通して理解を深める。 ・前時の内容の確認テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」pp.57-59, pp.73-74に目を通しておく。 （復習）知識確認プリントを行い単元内容への理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	教材研究（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・自分の興味のある単元を一つ選択し、その単元の教材を考える。制約のある環境下でも教育が行えるよう、身近な素材や３Dプリンタを用いるなど工夫して教材づくりをする。 ・前時の内容の確認テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）各学年の単元内容を振り返る。 （復習）教材づくりをする。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	教材研究（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した教材について、発表会を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）発表練習を行う。 （復習）教材について相互評価を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

前時に学んだ内容について確認のための小テストを行う。
毎回PCを持参すること。

学生へのフィードバック方法

・小テストに関しては、返却時に解答・解説を配布するので各自振り返ること。

評価方法

・小テスト（学習した単元ごとに次の時間に確認のための小テストを実施）
・提出物、発表（教材研究で作成した教材および発表会の内容を評価する）
・平常点（授業への取り組み状況等で総合的に判断する）。
・ルーブリックに基づく成績評価である。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○	○		
提出物	○	○	○	○
発表	○	○	○	○

平常点			○	

評価割合

小テスト（50%）、提出物・発表（30%）、平常点（20%）

使用教科書名(ISBN番号)

小学校学習指導要領解説 理科編 ―平成29年7月（978-4-491-03463-8）

参考図書

適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもに関する専門的な知識が習得できている。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み，子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
【技能・表現】本学科の特徴ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り，子どもの専門家として社会に貢献できる。

オフィスアワー

月曜3限 研究室1501（必ず事前にアポイントをとること）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	実験や観察などでグループワークを取り入れる。教材研究は発表が含まれる。
情報リテラシー教育	○	エセ科学を誤って用いないように適宜注意点を伝える。
ICT活用	○	教材や教育方法で理科教育においてどのようにICT活用を行うか事例を紹介したり実際に体験する。

講義コード	G04052001
講義名	国語科教育法（書写を含む）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	成家 雅史	指定なし

ナンバリング

P20301M21

授業概要(教育目的)

小学校における国語科教育の位置づけと役割，国語科の目標と内容を，教育にかかわる法，社会情勢を含めて理解することを目指す。指導するにあたって必要な基本的事項，小学校の低学年，中学年，高学年の各学年の発達にふさわしい指導内容，主体的に学ぶ児童を育成し，思考力，判断力，表現力を身に付ける国語指導のあり方について実践的に学習する。具体的には，小学校国語科教育の目標と内容，「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」（説明的文章・文学的文章）の教材研究の実際，国語科授業展開の方法，書写指導の方法，学習評価のあり方等を、実際の授業記録や取組事例をもとに学んだり，模擬授業や討論によって学んだりして、児童の視点に立ち、主体的・対話的で深い学びを引き出す国語科授業法を身に付けることを目指す。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	小学校国語科の目標と内容を関連付けて授業方法の説明ができる。
思考・判断の観点 (K)	小学校国語科の目標の背景，発達段階，児童の視点を根拠として，指導の在り方について考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	国語科教育の目標と児童の視点，主体的・対話的で深い学びを意識して授業に参加している。
技術・表現の観点 (A)	講義内容を生かして授業づくりをすることができる。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション

第1回		授業から学ぶ小学校国語科教育の意義と本質，現状と課題や展望
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主体的な学びの指導者をめざし，目指す授業イメージ，指導者像をつかみ，自らの学びの目当てと意欲をもつ。 現代社会が学校教育及び初等国語科教育に求めていることについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎回，配布するレジメを読み，整理してファイルし持参する。途中，出された課題を期日までに提出する。 小学校指導要領解説「国語編」 総説（P1～P10）を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	小学校国語科教育の目標と学習内容（教科構造）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校国語科学習指導要領解説を読み，国語科教育の目標を理解する。「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力」から構成されている国語科の内容について理解する。「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」の３領域と，言語活動を通して指導事項を指導することを知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校指導要領解説「国語編」 国語科の目標及び内容 （P11～P15、P16～P39）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	小学校の国語科の授業の実際1―(1)言葉の特徴や使い方/情報の扱い方/我が国の言語文化に関する事項の学習指導（書写含む）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	言語活動の特徴と具体的な指導法について，体験を通して学び，気づいたことを交流する。 語彙，情報，読書，書写（水性）
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校指導要領解説 「国語編」 （P16～P27，P41～P56，P76～P93，P115～P131）を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	小学校の国語科の授業の実際1―(2)言葉の特徴や使い方/情報の扱い方/我が国の言語文化に関する事項の学習指導（書写含む）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	具体的な授業アイデアの検討，発表，協議を通して，学習内容や言語活動の理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義内容を復習し，提示された教材・題材について教材研究をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	小学校の国語科の授業の実際2「話すこと・聞くこと」の学習指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	言語活動の特徴と具体的な指導法について，体験を通して学び，気づいたことを交流する。スピーチ，対話，討論。 具体的な授業アイデアの検討，発表，協議を通して，学習内容や言語活動の理解を深める。

第5回	を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校指導要領解説 「国語編」「話すこと・聞くこと」（P28～P31,P57～P62,P94～P100,P132～P138）を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	小学校の国語科の授業の実際3「書くこと」の学習指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	言語活動の特徴と具体的な指導法について，体験を通して学び，気づいたことを交流する。報告・説明，手紙・礼状，想像・創作。 具体的な授業アイデアの検討，発表，協議を通して，学習内容や言語活動の理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校指導要領解説 「国語編」「書くこと」（P32～P35,P63～P68,P101～P107,P139～P145）を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	小学校の国語科の授業の実際4-(1)「読むこと（説明的文章）」の学習指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	言語活動の特徴と具体的な指導法について，体験を通して学び，気づいたことを交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校指導要領解説 「国語編」「読むこと」（P36～P39,P69～P75,P108～P114,P146～P152）を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	小学校の国語科の授業の実際4-(2)「読むこと（説明的文章）」の学習指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	具体的な授業アイデアの検討，発表，協議を通して，学習内容や言語活動の理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義内容を復習し，提示された教材・題材について教材研究をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	小学校の国語科の授業の実際5-(1)「読むこと（文学的文章）」の学習指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	言語活動の特徴と具体的な指導法について，体験を通して学び，気づいたことを交流する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校指導要領解説 「国語編」「読むこと」（P36～P39,P69～P75,P108～P114,P146～P152）を読んでおく。
	教室外学習の	180分

	時間（分）	
第10回	**授業テーマ**	小学校の国語科の授業の実際5-(2)「読むこと（文学的文章）」の学習指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	具体的な授業アイデアの検討，発表，協議を通して，学習内容や言語活動の理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義内容を復習し，提示された教材・題材について教材研究をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	教材研究と学習指導案作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教材を自由に選び、学習者目線に立った教材研究に基づいた学習指導案（本時案）を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分自身が選んだ教材について、教材研究を行い、学習指導案（本時案）を作成する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	模擬授業1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教師役と児童役に分かれ，授業実践をしながら，発問・指示，板書，教材，支援等わかる授業に向けた工夫のあり方について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習指導案（本時案）を完成させて提出する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	模擬授業2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教師役と児童役に分かれ，授業実践をしながら，発問・指示，板書，教材，支援等わかる授業に向けた工夫のあり方について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習指導案（本時案）を完成させて提出する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第14回	**授業テーマ**	まとめと振り返り，目指す国語の授業像について具体的にレポートする
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	これまでの学びを振り返り，自らの目指す国語の授業像を具体的に記述し，発表する。

	を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	振り返り記入をするので前回までのレジメを読み返し、わかったこと、わからないことを整理するともに自ら目指す国語の授業像、教師像、学びの目標を考察しておく。
	教室外学習の時間（分）	240分

学習計画注記

授業の進み具合によってスケジュールが変更になることもあります。PCは毎回持参する必要があります。
配布資料は，さかのぼって使用することがあります。○回○月◎日配布と記入し，ファイルしておき資料整理，活用力も身に付けてください。事前に準備し，学習に取り組み，授業後、学んだことを振り返ることで，自分で成長していく力をつけていきたいと考えます。

学生へのフィードバック方法

振り返りカードに書かれた振り返りや質問，提出課題などに，評価またはコメントを記入し返却する。

評価方法

毎回，自身の取組の振り返りや授業内容についての自身の考察を記入する。授業に真摯に参加し，記述することで思考力・判断力・表現力等を確認する。
最後の全体振り返りは，記述方法を提示する。毎回の授業の積み重ねの中で，得た知識を根拠として自分の考えが書けるようになることの確認を行う。
ルーブリックによる評価を行う。
（ルーブリックについてはクラスルーム、授業内で提示する）

知識・理解 振り返り 提出課題記述内容 授業中の取組
思考・判断 振り返り 提出課題記述内容 授業中の取組
関心・意欲・態度 授業への取組 課題への取組 記述内容

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
振り返り記述内容	○	○	○	○
提出課題記述内容	○	○	○	○
授業への取組	○	○	○	○
ルーブリックによる評価	○	○	○	○

評価割合

授業及び課題への取組３０％
振り返り記述内容４０％
模擬授業への取組（教師役としては準備や主体性，児童役としては協調性）３０％

使用教科書名(ISBN番号)

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編 文部科学省

ディプロマポリシーとの関連

関心・意欲・態度
子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身に付けている。

学生へのメッセージ

生涯，主体的に学び続ける人の育成が求められています。そのために「話す・聞く」「書く」「読む」力を育てる国語科の重要性は増しています。指導するためには、児童との信頼感が土台となります。
日ごろから、探求心をもって調べ，体験し，読書し，考える，ICT機器を活用するなど，主体的に学びに取り組みましょう。そして，児童の気持ちや思いに寄り添える信頼される教師となるために，どうすればよいか考え，互いの考えの交流を行い，自らを振り返ることを大切にしながら，学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	小学校教諭経験を生かし，実際の児童の様子，実際場面での指導の様子も具体的に示して授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	体験する，自らの考えを記述する，グループ等で交流する等の活動を取りいれて授業を行う。
情報リテラシー教育	○	指導を行う上で必要な情報の探索方，図書館の活用，情報リテラシー，コミュニケーションスキルに触れながら授業を行う。
ICT活用		パソコンを使用し，情報収集や選択，著作権，人権に配慮した文書作成，交流などを行う。

講義コード	G04053001
講義名	社会科教育法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	齊藤 和貴	指定なし

ナンバリング

P30301M21

授業概要(教育目的)

小学校社会科が目指す目標と内容領域の指導事項を理解し、学習活動の構成や指導と評価活動の連携的な扱いについて実践的な知識と基本的な指導力を身に付ける。社会的な見方・考え方を働かせて国家・社会を形成する公民的資質・能力の育成を目指す教科の特色を理解し、「地理的環境と人々の生活」、「歴史と人々の生活」、「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」に区分される内容について、学習指導計画や指導案の作成・実践・省察・評価の観点と方法を修得する。特に、社会的事象の特色や関連を多角的に捉えて解決に向かう主体的な思考力・判断力を育成する指導の実際、情報機器や調査資料を活かす教材の工夫、地域の歴史・文化財・産業に触れる活動の展開等について学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	学習指導要領の目標と内容を理解する。社会科の指導計画の編成から学習指導案の作成までの手順と指導方法を知る。
思考・判断の観点 (K)	社会科教育の在り方を教育制度や学習理論，代表的な実践などから考える。また，社会科の授業を分析して、自らの学習指導にいかせるようにする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	周囲と積極的に関わりコミュニケーションを取りながら、学習内容を理解していく。
技術・表現の観点 (A)	授業の課題や「授業のまとめと振り返り」などで、考えたことを文章にまとめたり、発表したりすることができる。

学習計画

社会科教育府

第1回	授業テーマ	オリエンテーション：授業実践映像の分析を通して
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方 実際の授業実践映像を視聴し、社会科のねらい、教材提示法、対話、板書、子どもの実態について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）『社会編』1～30ページを読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	2時間
第2回	授業テーマ	小学校社会科の目標・内容・評価と教材研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会科の目標と内容、評価について理解する。 「主体的・対話的で深い学び」にむけた教材研究について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）『社会編』135～141、148～154ページを読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	2時間
第3回	授業テーマ	フィールドワーク：体験学習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会科の内容に関わる体験学習を行い、教材研究の実際や資料づくりの方法について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	東京都の地理・歴史について調べておく。
	教室外学習の時間（分）	2時間
第4回	授業テーマ	フィールドワーク：博物館・資料館の活用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会科の内容に関わる教材研究や資料づくりのための博物館・資料館の活用法について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	東京都の地理・歴史について調べておく。
	教室外学習の時間（分）	2時間
第5回	授業テーマ	学習指導案の作成：教材構造図
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	目標と内容に即した教材構造図を作成し、指導計画の作成に向けた教材研究を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作成する指導単元・実践する模擬授業の単元の内容について調べておく。
	教室外学習の時間（分）	3時間
第6回	授業テーマ	学習指導案の作成：単元の指導計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	目標と内容に即した教材構造図をもとに、各時間の内容、資料、評価の観点と方法について検討する。 学習問題とめあて（問い）について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作成する指導単元・実践する模擬授業の単元の内容について調べておく。
	教室外学習の時間（分）	3時間
第7回	授業テーマ	学習指導案の作成：本時案と板書計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本時の目標と内容に即した教材作成や板書計画を立案する。 発問と指示の方法について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作成する指導単元・実践する模擬授業の単元の内容について調べておく。
	教室外学習の時間（分）	3時間
	授業テーマ	教材づくり：地図活用とICT活用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報	地図帳やICTの活用方法について考える。

第8回	リテラシー教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	作成する指導単元・実践する模擬授業の単元の内容について調べておく。
	教室外学習の時間（分）	3時間
第9回	授業テーマ	模擬授業と協議・評価（地域学習）
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	模擬授業を行い、学習活動、対話、板書、資料提示の方法について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループで話し合った内容や指導分担を確認して，個別に指導細案を作成する。 模擬授業の準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	2時間
第10回	授業テーマ	模擬授業と協議・評価（国土学習）
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	模擬授業を行い、学習活動、対話、板書、資料提示の方法について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループで話し合った内容や指導分担を確認して，個別に指導細案を作成する。 模擬授業の準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	2時間
第11回	授業テーマ	模擬授業と協議・評価（産業学習）
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	模擬授業を行い、学習活動、対話、板書、資料提示の方法について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループで話し合った内容や指導分担を確認して，個別に指導細案を作成する。 模擬授業の準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	2時間
第12回	授業テーマ	模擬授業と境地・評価（政治・国際関係学習）
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	模擬授業を行い、学習活動、対話、板書、資料提示の方法について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループで話し合った内容や指導分担を確認して，個別に指導細案を作成する。 模擬授業の準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	2時間
第13回	授業テーマ	模擬授業と協議・評価（歴史学習）
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	模擬授業を行い、学習活動、対話、板書、資料提示の方法について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループで話し合った内容や指導分担を確認して，個別に指導細案を作成する。 模擬授業の準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	2時間
第14回	授業テーマ	社会科授業づくりのまとめ
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりについて考え、まとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）『社会編』17～30ページを読んでおく。 （予習）『総則編』46～95ページを読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	2時間
第15回	授業テーマ	
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内	

	容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

フィールドワークを計画しています。交通費や入館料などは各自の負担となります。
グループを作成し、模擬授業のための学習指導案や授業実践を行うため、グループ活動の機会が多くなります。そのため、授業時間以外に集まって活動したり、話し合いや教材づくりの場をもつことが必要になります。

学生へのフィードバック方法

・教材研究や指導案作成の方法について、授業内での質疑応答の時間を設ける。
・作成した指導案についての助言やコメントを記入する。
・模擬授業の実践について、学生相互の議論の後で総括的なコメントを伝える。

評価方法

作成された学習指導案の内容や作成された教材・資料、授業への参加状況、模擬授業へ取り組み状況を、ルーブリックを用いて評価する。
ルーブリックは、授業において配布する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
参加態度・発言等	○		○	
学習指導案の作成内容	○	○		○
模擬授業への取り組み		○	○	

評価割合

・参加態度・発言の内容等（２５%）
・学習指導案の作成内容（２５%）
・模擬授業への取り組み（５０%）

使用教科書名(ISBN番号)

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編』（文部科学省発行）(ISBN978-4-536-59009-9)

参考図書

講義の中で適宜、紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】小学校社会科の目標と内容を説明できる。
【思考・判断】主体的・対話的で深い学びを実現する授業形態・指導方法・教材研究の方法について考えることができる。
【関心・意欲・態度】仲間と積極的に関わりコミュニケーションを取りながら、学習内容を理解しようとしている。
【技能・表現】社会科の内容と方法を関連させながら、学習指導案や単元指導計画を作成し、模擬授業を通して表現することができる。

学生へのメッセージ

小学校社会科の授業づくりのための実践的な内容と方法を、学習指導案の作成と模擬授業の実践を通して学びます。そのため、講義をただ受けるという姿勢でなく、積極的に、参加する態度が必要になります。また、教材研究や教材・資料づくりなど、事前に準備をして授業に臨む必要があります。「社会科は暗記科目」という固定観念を払拭できるような授業づくりの方法を身に付け、「社会科が好き」という子どもを育ててください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は公立・国立大学附属小学校の教員経験を有し、社会科教育について授業研究を続けてきました。児童が意欲的に学習課題に取り組む方策などを、学校現場に即して、具体的な事例を示しながら分かりやすく工夫する。
アクティブ・ラーニング	○	学習者が能動的に学ぶ方法として、模擬授業の実践、フィールドワーク、グループディスカッション、グループワーク等を取り入れ、体験的に学ぶ機会を重視する。
情報リテラシー教育	○	調べ学習をする際の図書の活用法やインターネットでの情報収集の仕方、調べた結果をまとめる方法、情報を扱う上での注意点(情報モラル)等について具体的事例を紹介する。
ICT活用	○	プレゼンソフトや実際の授業実践映像の視聴などを通して、授業内容の理解を図る。また、受講者がICTを活用した教材・資料づくりの方法を体験できるようにする。

講義コード	G04054001
講義名	算数科教育法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	新海 公昭	指定なし

ナンバリング

P30302M21

授業概要(教育目的)

「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する」という小学校算数科の目標をふまえ, 指導および評価に関する基礎的事項を理解し, 深い教材研究力および実践的な指導力を身につける。具体的には, 生活者の視点から日常のなかにある様々な問題を数学的に解決する教材研究や学習活動の具体的な展開方法, 小学校算数科の特性に応じたICT機器の効果的な活用法, 児童の実態に応じた学習指導計画や指導案の作成・評価方法を学び, 模擬授業を通して実践的な指導力, 授業改善の視点を身につける。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する」という小学校算数科の目標をふまえ、指導および評価に関する基礎的事項を理解し、実践的な指導力を身につける。
思考・判断の観点 (K)	日常生活の中で見える課題や数学の世界の問題をモデリングし, 数学的な見方・考え方を働かせるような教材提案ができる。児童の躓きを的確に捉え、実態に応じた指導をすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	小学校算数科の内容やその学習指導方法・評価方法への関心・意欲を高め，授業実践に活かそうとする態度を形成する。
技術・表現の観点 (A)	ICT機器を効果的に活用し, 学習で得た理論を基に模擬授業等の実践を行うことが出来る。また, 学習指導案や授業の改善点を批判的に検討する中で, 他者の考えを受け入れ理解することができるとともに自らの考えを表現することができる。

学習計画		
第1回	授業テーマ	算数教育, 新学習指導要領と算数科の目標
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主体的・対話的で深い学びを目指す算数教育, ICTを用いた算数教育, カリキュラム・マネジメントに基づく算数教育, 算数教育のユニバーサルデザイン, 数学的活動の重視の観点から算数科の目標を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第１章と第２章（1ページから25ページ）に目を通すこと。適宜, 小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直しながら, 授業で学んだことを整理し報告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	「A 数と計算」の指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「A 数と計算」の教材研究や指導法を学ぶ。ディスカッションを通して数学的活動も考える。第１回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第３章（27ページから61ページ）に目を通すこと。適宜, 小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直しながら, 授業で学んだことを整理し報告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	「C 測定」の指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「C 測定」の教材研究や指導法を学ぶ。ディスカッションを通して数学的活動も考える。第２回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第５章（87ページから94ページ）に目を通すこと。適宜, 小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直しながら, 授業で学んだことを整理し報告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	「C 変化と関係」の指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「C 変化と関係」の教材研究や指導法を学ぶ。ディスカッションを通して数学的活動も考える。第３回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第６章（97ページから105ページ）に目を通すこと。適宜, 小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直しながら, 授業で学んだことを整理し報告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	「B 図形」の指導
	学習内容(ｱｸﾃｨ	

第5回	ﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「B 図形」の教材研究や指導法を学ぶ。ディスカッションを通して数学的活動も考える。第４回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第４章（65ページから85ページ）に目を通すこと。適宜, 小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直しながら, 授業で学んだことを整理し報告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	「D データの活用」の指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「D データの活用」の教材研究や指導法を学ぶ。ディスカッションを通して数学的活動も考える。第５回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第７章（109ページから124ページ）に目を通すこと。適宜, 小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直しながら, 授業で学んだことを整理し報告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	算数の授業づくり, 指導計画の作成と評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	算数の授業づくりにおける学習指導計画, 発問計画, 評価方法を学ぶ。第６回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第８章（127ページから130ページ）に目を通すこと。適宜, 小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直しながら, 授業で学んだことを整理し報告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	模擬授業と協議会１（１年生）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１年生の学習内容において, 模擬授業と協議会を行い相互評価する。模擬授業では積極的にICTを活用する。第７回の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業者は指導案作成等を含めた授業準備を行う。授業者以外は, 授業者の授業の指導案に目を通して, その前後を含めた単元の理解を深めておく。適宜, 小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習；協議会の内容を整理し, 省察を通してよりよい授業を行うための提案を行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	模擬授業と協議会２（２年生）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	２年生の学習内容において, 模擬授業と協議会を行い相互評価する。模擬授業では積極的にICTを活用する。第８回の模擬授業で扱った単元の学習内容の理解度を確かめるための小テストを行う。

第9回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	予習：授業者は指導案作成等を含めた授業準備を行う。授業者以外は, 授業者の授業の指導案に目を通して, その前後を含めた単元の理解を深めておく。適宜, 小学校学習指導要領解説算数編も確認する。復習；協議会の内容を整理し, 省察を通してよりよい授業を行うための提案を行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	模擬授業と協議会３（３年生）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	３年生の学習内容において, 模擬授業と協議会を行い相互評価する。模擬授業では積極的にICTを活用する。第９回の模擬授業で扱った単元の学習内容の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業者は指導案作成等を含めた授業準備を行う。授業者以外は, 授業者の授業の指導案に目を通して, その前後を含めた単元の理解を深めておく。適宜, 小学校学習指導要領解説算数編も確認する。復習；協議会の内容を整理し, 省察を通してよりよい授業を行うための提案を行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	模擬授業と協議会４（４年生）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	４年生の学習内容において, 模擬授業と協議会を行い相互評価する。模擬授業では積極的にICTを活用する。第１０回の模擬授業で扱った単元の学習内容の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業者は指導案作成等を含めた授業準備を行う。授業者以外は, 授業者の授業の指導案に目を通して, その前後を含めた単元の理解を深めておく。適宜, 小学校学習指導要領解説算数編も確認する。復習；協議会の内容を整理し, 省察を通してよりよい授業を行うための提案を行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	模擬授業と協議会５（５年生）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	５年生の学習内容において, 模擬授業と協議会を行い相互評価する。模擬授業では積極的にICTを活用する。第１１回の模擬授業で扱った単元の学習内容の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業者は指導案作成等を含めた授業準備を行う。授業者以外は, 授業者の授業の指導案に目を通して, その前後を含めた単元の理解を深めておく。適宜, 小学校学習指導要領解説算数編も確認する。復習；協議会の内容を整理し, 省察を通してよりよい授業を行うための提案を行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	模擬授業と協議会６（６年生）＊特別講師による指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	６年生の学習内容において, 模擬授業と協議会を行い相互評価する。模擬授業では積極的にICTを活用する。第１２回の模擬授業で扱った単元の学習内容の理解度を確かめるための小テストを行う。

第13回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	予習：授業者は指導案作成等を含めた授業準備を行う。授業者以外は, 授業者の授業の指導案に目を通して, その前後を含めた単元の理解を深めておく。適宜, 小学校学習指導要領解説算数編も確認する。復習；協議会の内容を整理し, 省察を通してよりよい授業を行うための提案を行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	種々の教育法の提案および模擬授業と協議会 ＊特別講師による指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別講師から, 算数科をとりまく現場の今日的な課題や子どもの実態に即した教育法について学ぶことで, 授業における教師の役割についての認識を深める。第１３回の模擬授業で扱った単元の学習内容の理解度を確かめるための小テストを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に告知された課題に取り組む。 復習：授業で学んだことを整理し報告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	200分

学生へのフィードバック方法

復習で扱う課題について, 毎回回収してチェックをする。模擬授業においては授業実践者に参加者からのコメントを共有する。また, 第２回以降毎回行う小テストとルーブリックを用いた学生自身の自己評価により, 学修成果を可視化し学びの深化を支援したい。質問は町田キャンパスの1625研究室（emailも可：k-shinkai@kasei-gakuin.ac.jp）あるいはZoom等で対応する。遠慮せず声をかけてほしい。

評価方法

１．指導案作成 30点
内容を評価する。

２．模擬授業と協議会 40点
模擬授業の内容と協議会のやりとりを評価する。

３．課題 20点
毎回の復習時に取り組む報告書や, 模擬授業後の省察や授業の改善案の提案の内容, 小テストを評価する。

４．ルーブリックを用いた自己評価 10点
ルーブリックを用いた自己評価を評価する。

＊上記の評価項目は, 下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
指導案作成	○	○		
模擬授業と協議会	○	○	○	○
課題	○	○	○	○
ルーブリックを用いた自己評価	○	○	○	○

評価割合

指導案作成（30%）, 模擬授業と協議会（40%）, 課題（20%）, ルーブリックを用いた自己評価(10%)

使用教科書名(ISBN番号)

小学校学習指導要領解説算数編（平成29年告示）（ISBN:978-4-536-59010-5）
小学校算数科教育法（ISBN:978-4-7679-2112-9）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を, 算数・数学的な知識に基づいて理解する力を有している。
【思考・判断】数学的な見方・考え方を働かせながら様々な問題を探究する力を有している。子どもの躓きを的確に捉え、その躓きに寄り添いながら実態に応じた支援をする力を有している。
【関心・意欲・態度】算数・数学の内容や指導方法・評価方法への関心・意欲を高め，子どもの成長・発展を子どもの視点に立って支援する態度を有している。
【技術・表現】修得した理論を基にして模擬授業等で実践することで理論と実践の融合を図る力を有している。また, 学習指導案や授業の改善点を批判的に検討する中で, 他者の考えを受け入れ理解することができるとともに自らの考えを伝えることができるコミュニケーション能力および表現力を有している。

オフィスアワー

前期：水曜日 12：30～14：00
後期：水曜日 12: 30～14：00

学生へのメッセージ

算数・数学は, 授業のみでは理解した気になるだけで身につかない。予習と復習を通して, 自らの頭と手を動かして思考することが大事である。あるときは教師として, あるときは小学生として, 算数・数学を考えてほしい。授業は丁寧に説明したいと思うが, 理解できない部分は, 遠慮せずに質問してほしい。主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	大学教員が学問の専門性を伝えるだけでなく, 現場の教員から日々の実践研究に裏付けされた視点による今日的な課題や子どもの実態に即した教育法について知り, 授業における教師の役割についての認識を深める。
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業はまさにアクティブ・ラーニングであることが求められる。また, 協議会等では, 学生同士で活発な議論を行う。
情報リテラシー教育	○	小学校で実践されている教材例や指導方法などの情報収集を行い, それらの情報を教材開発や指導計画に活用する能力を高めていく。「D データの活用」の学びにおいては, RawDataから必要な情報を収集・選択し, 整理し分析する数学的活動を行う。「B 図形」や「C 変化と関係」の学びおいては, プログラミング体験活動を行い,教科の理解を深める。
ICT活用	○	教材研究や学習支援そして模擬授業において, 積極的にICTの活用（プログラミングを含む）をする。

講義コード	G04055001
講義名	理科教育法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	末松 加奈	指定なし

ナンバリング

P30303M21

授業概要(教育目的)

子どもに対して，理科の楽しさや興味・関心をもたせるためには，子どもの考えに基づいた問題が大切となる。本授業では，子どもの問題解決的な学習を構成できる資質・能力を身につけることを目的とする。初等理科での授業実践に必要な基礎的内容・方法を学ぶ授業内容となる。

履修条件

「理科教育」を履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	科学的なものの見方・考え方を児童自身で身につけられるように、教材を工夫し知識・理解の効果的な定着を図れるようになる。
思考・判断の観点 (K)	学生一人一人が科学的な思考である客観的な考え方やそれに基づいた判断を身につけ、児童を指導することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	理科教育への関心・意欲・態度を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	小学校理科にICT教材を取り入れたり，実験を行ったりしながら、児童に適切な表現ができるようにする。

学習計画

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス、理科の授業の実際と授業研究（１）
		・本授業のガイダンス（スケジュールや評価方

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	法) ・理科授業の実際について事例から理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で扱った事例を復習するとともに、関連する他の事例を調べる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	理科の授業の実際と授業研究（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・理科授業の実際について事例から理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で扱った事例を復習するとともに、関連する他の事例を調べる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	理科の授業の実際と授業研究（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・理科授業の実際について事例から理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で扱った事例を復習するとともに、関連する他の事例を調べる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	実験の基本（安全な実験実施のために）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・安全な実験実施のための指導や理科室管理について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考資料をよく読み、基本事項についてよく復習をすること。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	学習指導案の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・自分で興味のある単元を1つ選択し、学習指導案を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）興味のある単元について、教科書を見るなど理解を深める。 （復習）学習指導案を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	学習指導案の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した学習指導案について、学年ごとに分かれグループで検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	検討を基に指導案を修正する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	教材の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習指導案に基づき、模擬授業で使用する教材を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	どのような教材が必要か調べ、学習指導案とよく照らし合わせながら検討する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	模擬授業と研究協議（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・作成した学習指導案と教材を用い、模擬授業を行う。 ・研究協議では学生間で質疑応答をしっかり行うこと。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業や研究協議で気づいたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分

第9回	授業テーマ	模擬授業と研究協議（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・作成した学習指導案と教材を用い、模擬授業を行う。 ・研究協議では学生間で質疑応答をしっかり行うこと。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業や研究協議で気づいたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	模擬授業と研究協議（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・作成した学習指導案と教材を用い、模擬授業を行う。 ・研究協議では学生間で質疑応答をしっかり行うこと。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業や研究協議で気づいたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	模擬授業と研究協議（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・作成した学習指導案と教材を用い、模擬授業を行う。 ・研究協議では学生間で質疑応答をしっかり行うこと。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業や研究協議で気づいたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	模擬授業と研究協議（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・作成した学習指導案と教材を用い、模擬授業を行う。 ・研究協議では学生間で質疑応答をしっかり行うこと。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業や研究協議で気づいたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	模擬授業と研究協議（６）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・作成した学習指導案と教材を用い、模擬授業を行う。 ・研究協議では学生間で質疑応答をしっかり行うこと。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業や研究協議で気づいたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	模擬授業と研究協議（７）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・作成した学習指導案と教材を用い、模擬授業を行う。 ・研究協議では学生間で質疑応答をしっかり行うこと。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業や研究協議で気づいたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

毎回PCを持参すること。

学生へのフィードバック方法

模擬授業については、研究協議の場で適宜フィードバックを行う。

評価方法

・レポート（授業実践事例について調べてまとめたもの。調べるだけでなく、気づきがしっか

りと記述されているかの観点から評価する）
・学習指導案（体裁、単元内容への理解、教材や教育方法の工夫の観点から評価する）
・模擬授業（わかりやすさや工夫の観点から評価する）
・研究協議（質疑応答の積極性や振り返りの記述から参加への関心・意欲・態度を評価する）
・平常点
・ルーブリックに基づく成績評価である。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○		○	
学習指導案	○	○	○	○
模擬授業	○	○	○	○
研究協議	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

レポート（10%）、学習指導案・模擬授業・研究協議（80%）、平常点（10%）

使用教科書名(ISBN番号)

小学校学習指導要領解説 理科編：平成29年7月発行
「観察・実験 セーフティマニュアル」（大日本図書）978-4-477-03179-8

参考図書

適宜、授業中に紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

1. 初等理科教育に関する基礎的な知識・技能とともに理科についての関心とその内容の探究に必要な思考力・判断力・表現力を養う
2. 講義、演習、実技においては、専門知識・技能の基礎を習得させるとともに、課題解決のための思考力、判断力、表現力を育むアクティブ・ラーニング科目を充実させる。

オフィスアワー

月曜3限 研究室1501（必ず事前にアポイントをとること）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業を通して、実践的な知識を身に付ける。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	学習指導案、模擬授業に当たっては、積極的にICT活用を行うことを推奨する。

講義コード	G04056001
講義名	生活科教育法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	池田 仁人	指定なし

ナンバリング

P20305M21

授業概要(教育目的)

生活科の成果と課題の検討、授業参観を通して授業構成の原理を探求し、生活科の授業を計画・実施するために必要な力量を育成するとともに授業技術の向上をはかる。また、学習指導案を作成し、模擬授業を展開する事を通して生活科授業実践のための指導力を育成する。

履修条件

特にありません。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	小学校教育における生活科の役割を理解する。
思考・判断の観点 (K)	生活科における子どもの見方、支援の仕方について理解する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	模擬授業及びその準備に積極的に参加する。
技術・表現の観点 (A)	指導案作成を通し生活科授業を構成する力および生活科の活動計画を作成する力を身につける。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活科授業について、授業の方針、授業計画について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内	学習指導要領解説生活編を読み、生活科の目的や育て

	容	たい子ども像について具体的に捉えておく。
	教室外学習の時間（分）	160分
第2回	**授業テーマ**	生活科の理念
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業例や学習指導要領をもとに、生活科で育てたい子ども像や生活科の役割について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	生活科成立までの歴史や現在の問題点などについて調べておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	**授業テーマ**	生活科の現状と課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在の生活科が置かれている状況、問題点などについて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	生活科成立までの歴史や現在の問題点などについて調べておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	生活科の実際①-1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活科の活動を体験し、その意味について理解する。解説と取材(1)
	教室外学習(予習・復習)の内容	校舎外や実際の町に出て、活用できそうな教材をピックアップする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	生活科の実際①-2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活科の活動を体験し、その意味について理解する。解説と取材(2)
	教室外学習(予習・復習)の内容	校舎外や実際の町に出て、活用できそうな教材をピックアップする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	生活科の実際①-3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活科の活動を体験し、その意味について理解する。 作品の製作。 生活科マップ等の作成及び機器の活用について。
	教室外学習(予習・復習)の内容	活用する教材・素材を用意する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	生活科の指導計画の解説①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	単元を立案し、教材や活動について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教材を設定し、単元の枠組みを考えておく。 授業後、生活科の理念を反映させて単元目標を修正していく。 自らの生活科の経験を振り返り、どのような活動がどのような目的の下に行われたかについて考察する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第8回	**授業テーマ**	生活科の指導計画の解説②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	単元目標、子どもと教材との関わりなどについて解説する。単元目標の設定をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教材を設定し、単元の枠組みを考えておく。 授業後、生活科の理念を反映させて単元目標を修正していく。
	教室外学習の時間（分）	180分

第9回	授業テーマ	生活科の実際②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活科の活動を体験し、その意味について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	生活科の理念に沿った授業中の投げかけや展開の仕方について考察する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	生活科の指導計画の解説③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	単元計画・授業計画案作りの仕方について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導の流れや教材観をもとにし、授業中に立てた単元の計画を修正していく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	生活科の指導計画の実際①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各グループ（若しくは個人）で授業計画を立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導計画や子どもへの投げかけを想定し、指導案の修正をする。また、教材の調べ活動も引き続き行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	授業テーマ	生活科の指導計画の実際②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各グループ（若しくは個人）で授業計画を立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導計画や子どもへの投げかけを想定し、指導案の修正をする。また、教材の調べ活動も引き続き行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	生活科の指導計画作成①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業計画案作りの仕上げを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で検討し尽くせなかった指導案の作成と、教材の準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	授業テーマ	生活科の指導計画作成①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指導計画を再吟味し、確定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導計画の反省をまとめ、低学年指導の仕方について考察する。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

生活科の授業は一般にイメージしにくいので、授業計画の組み立ての順番も段階的に指導していく。

学生へのフィードバック方法

単元計画や単元目標、指導観など、その時間で立てた計画等は回収し､添削を加えて返却することにより、指導案作りの力が身につくようにしていく。

評価方法

・授業の中で作成した単元目標、指導観や単元計画など（授業内のレポート）と完成した指導案で総合的に評価する。
・模擬授業の完成度を評価に加える。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業内レポート	○	○	○	○
指導案	○	○		○
模擬授業				

評価割合

授業内レポート(20%)、指導案(80%)

使用教科書名(ISBN番号)

特にありません。

参考図書

小学校学習指導要領解説生活編

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学を構成する 6 領域のうち、「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」を理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている
【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・感性が備わっている
【関心・意欲・態度】
・子どもの視点に立ち、子どもから学ぶと いう謙虚な姿勢・態度を身につけている
【技能・表現】・本学科の特色ある授業への 積極的な参加を通して理論 と実践の融合を図り、子ども の専門家として社会に貢献できる

学生へのメッセージ

生活科は特に学級経営･子ども支援に影響のある科目です。低学年教師になったつもりで取り組んで下さい。幼児教育に関する知識があるとより理解が深まります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者は小学校教員経験者である。実際の授業や低学年指導の様子を話しながら、イメージしにくい生活科の授業について教授していく。
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業を行ううえで、学生同士で内容を検討しながら学びを進めていく。また、実際に低学年が行う活動を体験し、実体験の重要性などについて理解する。
情報リテラシー教育	○	季節や地域の特長を活かすために、図書資料、映像資料、文献等を検索し、活用する。
ICT活用	○	模擬授業に於いて、導入に視聴覚機器を用いるなどして子どもの関心を呼び起こすようにする。

講義コード	G04057001
講義名	音楽科教育法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	塚本 恭子	指定なし
教授	吉永 早苗	指定なし

ナンバリング

P30307M21

授業概要(教育目的)

小学校音楽科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された小学校音楽科の学習内容について、目標・内容・指導計画等と対応させながら理解を深める。様々な学習理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることを目指し、子どもにとって実りある授業づくりを探究する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	小学校音楽科における目標、目指す資質・能力及び指導内容について理解する。 小学校音楽科学習指導要領の内容について理解する。
思考・判断の観点 (K)	小学校音楽の授業を構成し実践するための授業感を形成する。 児童の学習の実際や様々な指導方法に基づいた授業づくりの方法を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	児童に伝えたい音楽を探求する。
技術・表現の観点 (A)	小学校音楽科の授業を行うにあたっての、豊かな表現力や基礎的な指導技術を身に付ける。

学習計画

	授業テーマ	学習指導要領解説①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リ	

第1回	ﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の音楽教育の歴史、教育目標・育成を目指す資質能力について
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校音楽科学習指導要領、音楽科の目標を通読。日本の音楽教育の歴史に関する文献を検索し、読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	150分
第2回	授業テーマ	学習指導要領解説②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校音楽科学習指導要領に関する全体構造及び指導上の留意点の理解
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校音楽科学習指導要領と小学校音楽科教科書を照合しながら読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	150分
第3回	授業テーマ	音楽的発達と学習内容の関連及び保幼小連携としての音楽の役割
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をふまえた低学年における指導上の留意点
	教室外学習(予習・復習)の内容	幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿について復習し、小学校音楽科との関連を考えておく。
	教室外学習の時間（分）	150分
第4回	授業テーマ	児童の認識・思考・学力等の実態を視野に入れた教材研究①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	歌唱教材・器楽教材の教材研究の方法と展開について 指導案の書き方を含む
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校音楽科教科書に掲載されている歌唱教材及び器楽教材に目を通し、歌ったり演奏したりしておく。学習指導案の書き方について、配布プリンを熟読して具体的なイメージがもてるようにしておくとともに、疑問点を確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	240分
第5回	授業テーマ	音楽科におけるインクルーシブ教育の実際とその意義の理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事例を通し、音楽を介したコミュニケーションの可能性を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の体験を振り返ったり文献を検索したりして、インクルーシブ教育における音楽の役割を考えておく。
	教室外学習の時	240分

	間（分）	
第6回	授業テーマ	児童の認識・思考・学力等の実態を視野に入れた教材研究②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	音楽づくりの実践と発表 指導案の書き方を含む
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校音楽科教科書に掲載されている音楽づくりのための教材をピックアップし、その内容を確認しておく。 学習指導案の書き方について、配布プリンを熟読して具体的なイメージがもてるようにしておくとともに、疑問点を確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	240分
第7回	授業テーマ	児童の認識・思考・学力等の実態を視野に入れた教材研究③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鑑賞曲の教材研究の方法と展開について 指導案の書き方を含む
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校音楽科教科書に掲載されている鑑賞教材を調 べ、CDやYouTube等で確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	150分
第8回	授業テーマ	音楽の授業づくり①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	歌唱教材に関する模擬授業（２グループ）とその振り返り
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業の実践に向けての教材研究、学習指導案の準備、模擬授業実践の打ち合わせ等を行なっておく。
	教室外学習の時間（分）	240分
第9回	授業テーマ	音楽の授業づくり②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	器楽教材に関する模擬授業（２グループ）とその振り返り
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業の実践に向けての教材研究、学習指導案の準備、模擬授業実践の打ち合わせ等を行なっておく。
	教室外学習の時間（分）	240分
第10回	授業テーマ	音楽の授業づくり③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鑑賞教材、音楽づくりに関する模擬授業（２グループ）とその振り返り

	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業の実践に向けての教材研究、学習指導案の準備、模擬授業実践の打ち合わせ等を行なっておく。
	教室外学習の時間（分）	240分
第11回	**授業テーマ**	音楽の授業づくり④と講義の振り返り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	評価についての理解。模擬授業及び講義全体を通しての振り返りを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	６件の模擬授業について、学び・助言・反省点を含むレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	150分
第12回	**授業テーマ**	音楽の授業づくり⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報機器を活用した学習指導案やポートフォリオの作成方法についての基礎知識及び、音楽の著作権法や引用の方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パソコンを使用した学習指導案の作成の方法や、写真やイラストの添付の仕方について予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	150分
第13回	**授業テーマ**	日本の伝統音楽について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校音楽科教科書に掲載されている日本の伝統音楽について、鑑賞したり実際に楽器を演奏したりして知識・理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校音楽科教科書に掲載されている日本の伝統音楽を調べ、CDやYouTube等で確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	**授業テーマ**	小学校音楽科教育に関する実践研究の動向
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校音楽科教育に関する実践研究について検索した内容の発表とその検討
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校音楽科教育に関する実践研究について検索し、要点をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	240分

学習計画注記

授業内容により、教室を変更することがあります。第5回は実務経験者による特別講義を予定し

ています。

学生へのフィードバック方法

質問はメールにて随時受け付けます。質問事項については、全体に解説が必要な場合はGoogleクラスルーム及び翌週の講義で解説します。

評価方法

課題レポートでは、小学校音楽科に関する知識・理解、及び予習と講義の振り返りに対する関心・意欲・態度を評価します。
学習指導案・模擬授業では、講義内容の理解とその応用、実践力を中心に評価します。
期末レポートでは、小学校音楽科の授業に向けての資質・能力、授業づくりの方法についての理解と応用力などを評価します。評価の観点は、ルーブリックにより提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題レポート	○	○	○	
学習指導案・模擬授業	○	○	○	○
期末レポート	○	○		

評価割合

リフレクションシートへの記入（60%）、学習指導案・模擬授業（20%）、期末レポート（20%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

小学校音楽科学習指導要領解説（文部科学省）
小学校音楽科教科書１年～６年（教育出版）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
小学校音楽科における目標、目指す資質・能力及び指導内容、小学校音楽科学習指導要領の内容について専門的な知識を修得する。
【思考・判断】
模擬授業を通し、児童の学習の実際や様々な指導方法に基づいた授業づくりの方法を、実践的に学び、さまざまな課題に柔軟に対応できる姿勢を身に付ける。
【関心・意欲・態度】
児童に伝えたい音楽を探求する。
【技術・表現】
小学校音楽科の授業を行うにあたっての、豊かな表現力や基礎的な指導技術を身に付ける。

オフィスアワー

月曜日 ３限 1601

学生へのメッセージ

全員が模擬授業を行います。一人ひとりが責任をもって取り組んでください。

小免必修

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者の1名は、公立小学校及び国立大学教育学部附属小学校での豊富な実践経験を有す。

アクティブ・ラーニング	○	グループで協働し、学習指導案を作成し、模擬授業の準備を行う。講義ではペアトーク、グループディスカッションを毎回取り入れて、理解の向上を図る。
情報リテラシー教育	○	音楽の著作権法や文献の引用方法についての基礎的な知識を身に付ける。
ICT活用	○	パソコンを使用した学習指導案の作成の方法や、写真やイラストを挿入したレポートの作成を行う。

講義コード	G04058001
講義名	図画工作科教育法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	立川 泰史	指定なし

ナンバリング

P30304M21

授業概要(教育目的)

小学校図画工作科の目標と内容、その指導と評価の実践方法を学ぶ。子どもと図画工作科をとりまく今日的な課題や教育観の変遷を知り、「表現と鑑賞」の題材や評価の事例から教師の役割を考える。そのうえで、「造形遊び」・「絵や立体・工作」などの表現と鑑賞の内容領域を結ぶ指導及び評価活動について協議し、基礎的な理解を深める。また、「材料・用具」の特徴や「学年目標と内容」に配慮する教材研究や題材開発を行い、学習指導案の作成と模擬授業を通して実践的な指導方法の習得と展開・活用力の修得を目指す。

履修条件

R2年度開講なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	小学校図画工作科の学習指導要領に準拠した目標・内容・評価について、基本的な知識を有し、説明できる。 造形・鑑賞活動を通して育む資質・能力の観点から、実践的な内容や方法について必要な事項を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	図画工作科の教科特性を理解し、個に応じる児童観・指導観・教材観・評価の観点をもち、題材の導入・展開・評価について計画したり、説明したりできる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	児童をとりまく今日的な課題に関心をもち、育みたい資質・能力と関連づけて指導と評価の内容や方法を改善することができる。
技術・表現の観点 (A)	題材の設定や開発、指導の展開、評価材の収集などについて実践的な技能を有し、授業を改善する具体的な観点や方法を説明できる。

学習計画		
第1回	授業テーマ	図画工作科の今日的課題や動向
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図画工作科の今日的課題や動向について、他教科との関連や子どもの実態などの社会的背景を基に考察し、教科特性と目標を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図画工作科の今日的課題や動向に着目し、象徴的な事象を調べて整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	子どもの発達と造形表現の特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの発達と造形表現の特徴の関連について、児童の感覚や認識の発達と造形表現の特徴を知り、発達・成長に応じた題材の構成や指導の観点を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの発達と造形表現の関連という視点から、現行の図画工作科教科書の題材を基に、特徴的な事例を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	図画工作科・美術科教育の理念と変遷
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図画工作科・美術科教育の理念と変遷について知り、今日期待される教科学習の目的と実践課題について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図画工作科・美術科教育の理念と変遷の観点から、現行学習指導要領の改訂の趣旨や期待する子ども像を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	図画工作科教育の目標と内容
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図画工作科教育の目標と内容について、学習指導要領に示される教科目標及び内容、具体的な展開における内容の取り扱い、表現・鑑賞・共通事項の構造を理解する。他教科との関連や造形的な見方・考え方について集団討議を通して考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図画工作科教育の目標と内容の観点から、学習指導要領図画工作科の教科目標、学年ごとの目標と内容について整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	内容領域と指導方法（1）造形遊び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	表現活動としての「造形遊び」の目標・内容を知り、具体的な実践事例を通して学年ごとの活動の特徴や展開方法の要件を理解する。事例題材の実技的考察や集団討論を通して、主題・技法・内容の取り扱いについて体験的に理解する。
	教室外学習(予	

	習・復習)の内容	表現活動としての「造形遊び」の目標・内容について現行学習指導要領を参照し、各学年の違いや特徴を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	内容領域と指導方法（2）絵に表す
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「絵に表す」表現活動について、目標・内容を知り、学年に応じた題材の設定や特徴、描画材料や用具、指導上の留意点について理解する。事例題材の実技的考察や集団討論を通して、主題・技法・内容の取り扱いについて体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「絵に表す」表現活動について、目標・内容について、現行学習指導要領を参照して整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	内容領域と指導方法（3）立体に表す
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「立体に表す」表現活動について、目標・内容を知り、学年に応じた題材の設定や特徴、描画材料や用具、指導上の留意点について理解する。事例題材の実技的考察や集団討論を通して、主題・技法・内容の取り扱いについて体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「立体に表す」表現活動について、目標・内容について、現行学習指導要領を参照し、整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	内容領域と指導方法（4）工作に表す
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「工作に表す」表現活動について、目標・内容を知り、学年に応じた題材の設定や特徴、描画材料や用具、指導上の留意点について理解する。事例題材の実技的考察や集団討論を通して、主題・技法・内容の取り扱いについて体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「工作に表す」表現活動について、目標・内容について、現行学習指導要領を参照し、整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	内容領域と指導方法（5）鑑賞活動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鑑賞の内容領域の目標と内容について知り、学年による鑑賞題材の趣旨・特徴や違いについて理解する。具体的な事例を体験しながら集団討議を通して、実践指導の要件や鑑賞活動の展開方法を体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	鑑賞の内容領域の目標と内容について、 現行学習指導要領を参照し、学年目標や内容の概要を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	図画工作科学習の評価活動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	図画工作科学習の評価活動について、目標と評価規準の関係、教師の評価と評価材料の収集、児童の相互評価活動や自己評価活動などの実

第10回	**育・ICT活用を含む)**	践的内容と方法を理解する。実際に評価の各形態を体験し集団討論することを通して課題や可能性を考察検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図画工作科学習の評価活動について、現行学習指導要領を参照し、目的と評価材料の種類を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	学習指導案の基礎的事項と作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習指導案における基礎的な指導計画の形態・記述事項、記述方法について知り、その作成・活用の仕方や意味について理解する。図画工作科の教科特性に応じた指導計画と他教科との違いを比較する討論・考察を通して特徴を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習指導案の基礎的事項と作成方法について具体的な事例を参照し、気付いた観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	模擬授業と討論（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自が設定した題材の学習指導案を基に模擬授業を行い、相互評価の討論を通して実践的課題や展開可能性を考察・検討する。学習指導案と授業改善の関連や改善の視点について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自が設定した題材の学習指導案を基に模擬授業のシミュレーションを行い、児童観・教材観・指導観の要旨を説明できるようにしておく。協議で得た意見を基に省察し指導案の改善をはかる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	**授業テーマ**	模擬授業と討論（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自が設定した題材の学習指導案を基に模擬授業を行い、相互評価の討論を通して実践的課題や展開可能性を考察・検討する。学習指導案と授業改善の関連や改善の視点について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自が設定した題材の学習指導案を基に模擬授業のシミュレーションを行い、児童観・教材観・指導観の要旨を説明できるようにしておく。議で得た意見を基に省察し指導案の改善をはかる。
	教室外学習の時間（分）	270分
第14回	**授業テーマ**	模擬授業（３）、まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自が設定した題材の学習指導案を基に模擬授業を行い、相互評価の討論を通して実践的課題や展開可能性を考察・検討する。学習指導案と授業改善の関連や改善の視点について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自が設定した題材の学習指導案を基に模擬授業のシミュレーションを行う。 児童観・教材観・指導観の要旨を説明できるようにしておく。 講評や相互評価で得た意見を基に省察し、指導案の改善をはかる。
	教室外学習の時間（分）	270分

学習計画注記

授業後半に個々が設定する題材の学習指導案の作成と模擬授業を行う。

学生へのフィードバック方法

講義及び討論・発表による混合形式。グループや全体のディスカッションでは適宜必要な解説と助言で応じる。毎回授業を振返り、各自の気付きや考察を記して提出するドキュメントシートについて、コメント付きで返却する。
授業計画の後半で各自が実施する模擬授業に際し、事前の学習指導案の提出を求め、改善点などの指摘・助言をして応じる。模擬授業は、各自が実践した題材展開について、実践的な問題・留意点を中心に協議してコメントする。

評価方法

・毎回授業を振返り、各自の気付きや考察を記して提出するドキュメントシート（各回200字程度）の提出を求める。記述内容について、学習目標の規準を観点に評価する。
・教育実習など教育現場での実践を想定した学習指導案は、基本的な書式や内容事項、指導と評価の一体的な扱いの捉え方を観点に評価する。模擬授業は、実践的な展開に向けた題材設定、教材研究の視点、実践の技能について評価する。
・講義全体の内容、自ら着目した題材を基に考察したことをテーマにした小論レポートの提出（1200～1600字程度）を学期末に求める。レポートは、学習目標の到達規準に準拠する観点から評価する。
・評価観点をルーブリックに明示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
ドキュメントシート	○	○	○	
学習指導案・模擬授業	○	○		○
小論レポート	○	○		

評価割合

平常点10% 、学習指導案20%、模擬授業20%、期末小論レポート50%などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

必要な学習資料を毎回の授業で配布する。

参考図書

①文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説・図画工作編』日本文教出版／平成30年3月、ISBN-10: 4536590110
②文部科学省検定教科書『図画工作』及び『教師用指導書』開隆堂出版／平成27年版
③立川泰史『意味づくりの造形教育 見方をむすぶ学びのニューカテゴリー』開隆堂出版、2018年10月、ISBN978-4-304-03115-1 C3037

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】教科の特性を理解し、育む資質・能力について実践に必要な基礎的かつ専門的な知識を有している。
【思考・判断】教科の目標や内容・評価について、児童観・教材観・指導観を基に展開方法を考察する観点を有している。
【関心・意欲・態度】児童の発達や造形教育の歴史的変遷に関心をもち、現代的な課題の解決に向かう実践感覚を有している。
【技能・表現】造形的な見方・考え方を育む実践展開を考察・計画・評価する基礎的能力を有している。

オフィスアワー

金曜3限・1629研究室

学生へのメッセージ

授業で配布する資料は各自でファイリング保管し、レポート課題作成時や復習で参照すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は小学校教諭として造形・美術教育の題材開発・教材開発や授業研究に従事した。文部科学省検定教科書の編修著者代表、文部科学省の学習資料作成委員として現職教員の研修・地域や企業・社会的教育機関と連携するネットワークを生かし、学習指導要領に準拠した教科目標や内容を今日の社会文化的背景に照して提供する。
アクティブ・ラーニング	○	児童の表現活動にあるメッセージ性や実践形態としての協働学習を体験的に理解することを重視する。グループ討論や学習成果の相互評価活動を随時行う。
情報リテラシー教育	○	小学校で実践されている題材事例、学習指導案や授業形態の事例などの情報を収集・整理することを通して、題材開発や指導計画に活用する能力を高めていく。
ICT活用	○	グループ討論や教材研究についてタブレット型 PCを活用する。模擬授業での実践展開においてオンラインwebコンテンツを活用する。

講義コード	G04059001
講義名	家庭科教育法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	室矢 真弓	指定なし

ナンバリング

P20307M21

授業概要(教育目的)

小学校家庭科教育の目標と内容について理解し、指導と評価の具体的方法について学ぶ。
また、教材研究や学習指導計画の作成、模擬授業などを通して実践的な指導方法の習得を図る。
子どもの家庭生活や小学校現場の現状にも目を向け、小学校家庭科教育の在り方や教育的意義について理解を深める。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	小学校家庭科の目標や内容、指導と評価の具体的方法について理解することができる
思考・判断の観点 (K)	各領域のねらいを理解し、児童の現状を考慮した指導を考えることができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	家庭科の授業構想力と実践的指導に必要な資質を身に付けようとしている
技術・表現の観点 (A)	学習指導要領に基づいた家庭科学習指導計画を立案することができる

学習計画

家庭科教育法

	授業テーマ	ガイダンス、家庭科教育について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	家庭科教育全体像をつかみ、その変遷と意義を理解する。シラバス、評価及び評価方法（ルーブリックを含む）について確認

第1回	育・ICT活用を含む)	する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習指導要領や家庭科教科書に目を通し、学習内容を確認する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	小学校家庭科の目標と内容
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校学習指導要領における小学校家庭科教育の目標と内容、他教科との関連について理解する。小学校現場での家庭生活の現状と配慮事項について把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習指導要領解説の目標と内容、授業で取り上げた事項について確認する。年間計画作成に関して学習指導要領解説の該当箇所に目を通す。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	家庭科年間指導計画と評価、学習指導案の作成方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科年間指導計画と評価、学習指導案の作成方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習指導要領や資料の読み込み
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	家庭科の教育方法（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「家族・家庭生活」に関する授業内容と具体的方法、配慮事項について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り上げた事項の確認。学習指導要領や家庭科教科書の「家族・家庭生活」の部分を読み込み。「衣生活」について小学校家庭科教科書に目を通す。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	家庭科の教育方法（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「衣生活」に関する授業内容と具体的方法、配慮事項について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り上げた事項の確認。学習指導要領や家庭科教科書の「衣生活」の部分読み込み。家庭科教科書の「基礎的な縫い方」の手順に目を通す。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	生活を豊かにするための布を用いた製作①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「布製作」に関するミシン縫いや手縫いの具体的方法を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り上げた事項の確認。布製作に必要な縫い方を復習する。家庭科教科書の該当箇所に目を通す。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	生活を豊かにするための布を用いた製作②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	「布製作」に関する実際の授業内容について理解する。

第7回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り上げた事項の確認。学習指導要領や家庭科教科書の「食生活」の部分読み込み。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	家庭科の教育方法（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「食生活」に関する実際の授業内容と具体的方法、和食文化について理解する。 家庭科室の管理や点検、食物アレルギーへの配慮等学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り上げた事項の確認。学習指導要領や家庭科教科書の「住生活」の部分読み込み。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	家庭科の教育方法（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「住生活」に関する実際の授業内容と具体的方法、日本の家屋や住まい方などの伝統文化について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り上げた事項の確認。学習指導要領や家庭科教科書の「消費生活・環境」の部分読み込み。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	家庭科の教育方法（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「消費生活・環境」に関する実際の授業内容と具体的方法について理解し、実践力を育成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り上げた事項の確認。第３回の講義内容「学習指導案の作成方法」について復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	学習指導案の作成（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業実践事例を参考にし、家庭科の授業を考える。実際に模擬授業を行うことを視野に入れて作成する。 グループで意見交換を行い、改善点を見出し、よりよい指導案にする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作成した指導案の改善点や加筆点について確認。模擬授業に向けて準備
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	学習指導案の作成（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実際に模擬授業を行うことを視野に入れて作成する。グループで意見交換を行い、改善点を見出し、よりよい指導案にする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作成した指導案の流れを確認。模擬授業に向けて準備
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	模擬授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教師役と児童役に分かれ、作成した指導案による模擬授業を実施する。実施後グループで協議を行い、評価や改善点について考える。

	教室外学習(予習・復習)の内容	授業を振り返り、実施した模擬授業の改善点を確認する
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	学習成果の振り返り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学びの成果や家庭科教育の展望について考え、意見交換する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業内容の復習
	教室外学習の時間（分）	100分
第15回	**授業テーマ**	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

受講人数や授業の進捗状況によりスケジュールを変更する場合があります。

学生へのフィードバック方法

実施したレポート等については、内容を吟味して授業内で解説します。

評価方法

授業内提出物、学期末レポート、作成した学習指導案、授業への取り組みや発言等を総合的に評価します。
評価方法・評価基準は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについては授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○	○	○
授業内提出物	○	○	○	○
模擬授業	○	○	○	
平常点（授業への参加状況）			○	

評価割合

レポート（３０%）、授業内提出物（２０%）模擬授業（指導案・改善案・相互評価等）（３０%）
平常点（授業参加状況等）（２０%）

参考図書

小学校家庭科教小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説 家庭編 文部科学省 東洋館出版（文部科学省HPよりダウンロード可）
文部科学省検定小学校家庭科教科書（令和６年版）２社のうち一つ
「新しい家庭５・６」東京書籍・「私たちの家庭科５・６」開隆堂育法 建帛社

初等家庭科教育 ミネルヴァ社

ディプロマポリシーとの関連

【知】子どもの発達を踏まえた家庭科教育の進め方を理解することができる
【思】家庭科指導内容を通して、家族・地域・社会とのコミュニケーション能力を高めるよう意識することができる
【関】子どもをめぐる多様化する課題に関心をもち、家庭科の指導内容を工夫する力を養うことができる
【技】家庭科教育における理論と実践の融合を図り、豊かな表現力、コミュニケーション能力を身に付けることができる

学生へのメッセージ

小学校の家庭科授業の実践には、教師自身の生活力が極めて大切になります。子どもに教える前に自分自身がまずは、やってみることから始めましょう。教師ができないことや分からないことは恥ずかしいことではありません。一緒にやろう、勉強しようという姿勢が子どもの共感を得るでしょう。授業を楽しみ、ご自身の生活技術力を高めていくことを願っています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	小学校現場での家庭科授業実践に基づいた授業者の心構えや配慮、現場の実態や事例を介しながら実践力を培う授業を目指します。
アクティブ・ラーニング	○	適宜、グループワークや対話、発表、体験等を取り入れ、他者との共同を通して学びを深めることを期待します。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	プレゼンテーション資料を活用し、分かりやす授業に努めます。

講義コード	G04060001
講義名	体育科教育法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	佐藤 冬果	指定なし
非常勤講師	佐藤 豊	指定なし

ナンバリング

P30305M21

授業概要(教育目的)

小学校体育科の目的・目標、学習内容、方法、評価等についての基本的理論を学び、評価規準の作成および単元構造図の作成、学習指導案の作成および模擬授業とその省察を通じて、授業設計力・授業実践力（基本的教授技術・内容的教授技術）・教材展開力そして授業省察力を育成することを目的とする。

履修条件

・模擬授業を実施する回には、運動に適した服装、体育館シューズで参加してください。
・体育実技を実施する上で健康上の配慮が必要な人は、申し出てください。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	小学校体育の授業方法について理解している。
思考・判断の観点 (K)	小学校の学年に対応した教材の構成を組み立てることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	探究心をもって教材の準備や授業運営に参加することができる。
技術・表現の観点 (A)	学年に応じた教材を活用して体育授業を展開することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション 学習指導要領の見方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業で扱う内容や進め方、スケジュール等について確認する。 小学校における体育授業の全体像、評価方法について学ぶ。 （学習指導要領の確認にPCを使用します）

	教室外学習(予習・復習)の内容	学習指導要領解説（体育編）のうち、「教科の目標および内容」に目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第2回	**授業テーマ**	指導案作成に向けて（1） 単元構造図の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当する学年・領域を例に、指導内容の抽出や評価機会を整理することで、単元構造図の作成方法について学ぶ。 （単元構造図の作成にPCを使用します）
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習指導要領のうち、模擬授業を担当する学年、領域について記載されたページを読み込んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第3回	**授業テーマ**	指導案作成に向けて（2） 教材の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当する学年・領域を例に、適した教材とその指導の流れ（はじめ、なか、まとめ）を検討する。 （教材に関する情報収集にPCを使用します）
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校体育で用いられる様々な教材について調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第4回	**授業テーマ**	指導案作成に向けて（3） 指導案の作成と修正
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当する学年・領域を例に、1時間分の指導案を作成し、模擬授業に向けた準備を進める。 （指導案の作成と修正にPCを使用します）
	教室外学習(予習・復習)の内容	掲示物の作成など、模擬授業に向けて準備を進めること。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第5回	**授業テーマ**	模擬授業I： 体つくりの運動遊び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した指導案に基づき、模擬授業を展開する。 担当者以外の学生は、児童役として授業に参加する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導を担当した学生は、自分自身の指導案の改善点について振り返る。 児童役として参加した学生は、指導役の学生に対するフィードバックを記述する。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第6回	**授業テーマ**	模擬授業II： 器械・器具を使っての運動遊び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した指導案に基づき、模擬授業を展開する。 担当者以外の学生は、児童役として授業に参加する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導を担当した学生は、自分自身の指導案の改善点について振り返る。 児童役として参加した学生は、指導役の学生に対するフィードバックを記述する。

	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第7回	**授業テーマ**	模擬授業III： 走・跳の運動遊び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した指導案に基づき、模擬授業を展開する。 担当者以外の学生は、児童役として授業に参加する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導を担当した学生は、自分自身の指導案の改善点について振り返る。 児童役として参加した学生は、指導役の学生に対するフィードバックを記述する。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第8回	**授業テーマ**	模擬授業IV： 陸上運動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した指導案に基づき、模擬授業を展開する。 担当者以外の学生は、児童役として授業に参加する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導を担当した学生は、自分自身の指導案の改善点について振り返る。 児童役として参加した学生は、指導役の学生に対するフィードバックを記述する。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第9回	**授業テーマ**	模擬授業V： ゲーム
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した指導案に基づき、模擬授業を展開する。 担当者以外の学生は、児童役として授業に参加する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導を担当した学生は、自分自身の指導案の改善点について振り返る。 児童役として参加した学生は、指導役の学生に対するフィードバックを記述する。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第10回	**授業テーマ**	模擬授業VI： ボール運動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した指導案に基づき、模擬授業を展開する。 担当者以外の学生は、児童役として授業に参加する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導を担当した学生は、自分自身の指導案の改善点について振り返る。 児童役として参加した学生は、指導役の学生に対するフィードバックを記述する。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第11回	**授業テーマ**	模擬授業VII： 表現リズム遊び 表現運動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した指導案に基づき、模擬授業を展開する。 担当者以外の学生は、児童役として授業に参加する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	指導を担当した学生は、自分自身の指導案の改善点について振り返る。 児童役として参加した学生は、指導役の学生に対するフィードバックを記述する。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第12回	**授業テーマ**	模擬授業VIII： 保健（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した指導案に基づき、模擬授業を展開する。 担当者以外の学生は、児童役として授業に参加する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導を担当した学生は、自分自身の指導案の改善点について振り返る。 児童役として参加した学生は、指導役の学生に対するフィードバックを記述する。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第13回	**授業テーマ**	模擬授業IX： 保健（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した指導案に基づき、模擬授業を展開する。 担当者以外の学生は、児童役として授業に参加する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導を担当した学生は、自分自身の指導案の改善点について振り返る。 児童役として参加した学生は、指導役の学生に対するフィードバックを記述する。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第14回	**授業テーマ**	振り返りとまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業をふりかえり、小学校体育の指導案の作成時の注意事項や、授業の展開方法について理解を深める。自分自身の体育授業の指導力についても考察を深める。 （実践的指導力に関するフォーム回答にPCを使用します）
	教室外学習(予習・復習)の内容	作成した指導案に修正を加え、改訂版を提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分

学習計画注記

・授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
・評価規準や単元構造図、学習指導案の作成にはPCを使用します。

学生へのフィードバック方法

・各課題に対してコメントを加えて返却します。

評価方法

・提出物（評価規準、単元構造図、学習指導案）およびの模擬授業、授業への参加度の総合的な評価を行います。
・ルーブリックを用いた評価を行います。ルーブリックについてはクラスルームにより提示します。

評価基準

評価基準

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技術・表現

評価方法	(K)	(K)	(V)	(A)
各回の小レポート	○	○	○	
模擬授業	○	○	○	○
提出物（評価規準、単元構造図）	○	○	○	○

評価割合

・提出物（評価規準、単元構造図、学習指導案）、授業実践力 40%
・模擬授業の準備、実践的指導力分析シートへの回答 30%
・授業への参加度 30% の総合的な評価とする。

使用教科書名(ISBN番号)

文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説体育編 東洋館出版社

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもに関する専門的な知識が修得できている
【思考・判断】自ら様々な課題に柔軟に対応できる
【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる
【技術・表現】豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている

オフィスアワー

月曜4限 1618室

学生へのメッセージ

小学校の体育は、生涯にわたるスポーツとの付き合い方、ひいては生涯にわたる運動習慣（健康）に影響を与えうる科目と言えます。
それだけでなく、人との関わり方や、上手く物事が進まない時の行動など、人として大事なことを学ぶ場でもあると思っています。
体育が苦手だと感じている方もいると思いますが、「体育『を』教えるより、体育『で』人を育てる」という気持ちで、臨んでいただけたらと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	学校現場での教員経験を有し、教科調査官（文部科学省）を務めた非常勤講師が授業を担当します。
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業の指導を通じて学びを深める。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	PCを活用して授業案の作成を行う。また、体育授業におけるICT活用についても学ぶ。

講義コード	G04063001
講義名	小児保健演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	田中 和香菜	指定なし

ナンバリング

P30501M12

授業概要(教育目的)

子どもの保健で学んだ知識を基に、昨今の子どもたちを取り巻く様々な環境に目を向け、保育者として子どもの健康と安全を守るために必要な技術や小児期に多い疾病への対応、体調不良や傷害への適切な対応、事故防止対策や災害への備え等について講義します。これらの保健的な技術が保育現場で実践できるよう演習を行います。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・子どもの病気や健康診断について説明できる。 ・保育環境や安全対策、災害への備えについて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	・子どもが体調不良やけがに対して迅速に正しい判断ができる。 ・災害時などに子どもの命を守る判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・子どもの健康に関する情報をニュースや本等から収集する。 ・積極的に授業に参加し、グループの仲間と協力する。 ・自分自身の健康状態を正しく感じとり、体調管理ができる。
技術・表現の観点 (A)	・だっこやおんぶ、沐浴等の子どもの養護が適切に行える。 ・身長・体重やバイタルサインが正しく測定できる。 ・衛生的で安全な保育環境を整えることができる。 ・応急手当が正しく行える。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス、乳幼児の養護（１）だっこ

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オリエンテーション、本講義の内容および進め方、準備するものなどについて説明する。実際に沐浴人形をだっこして、首がすわらない乳児の安全な抱き方、寝かせ方、首がすわってからの乳児の抱き方の演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１章を事前に読んで、子どもの健康と安全を学ぶ理由を理解しておくこと。抱っこのしかたを理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	授業テーマ	乳幼児の養護（２）衣服の着脱
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児の衣服の着脱について演習を行う。 乳児・幼児の衣服の着脱においては、特に０～５ヶ月頃までの乳児の場合、衣服も特有のもので着脱にもコツがある。幼児期の衣服に関しては、子どもが着脱しやすい工夫が施してある。それらを理解しながら、保育者として着脱の方法を学び、子どもたちへの着脱の援助のしかたについても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第５章Ｐ186～を事前に読んで、衣服の種類や着脱のしかた、子どもへの声かけのしかたなどを理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	乳幼児の養護（３）おむつ交換
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	布おむつと紙おむつについて、それぞれの特徴やかえ方のポイントをおさえておくこと。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第５章P182～を事前に読んで、布おむつのかえ方、紙おむつのかえ方、そのポイント、子どもへの声かけのしかたなどを理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	授業テーマ	保育における健康観察
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	健康状態を把握する方法を学び、体温測定のしたか等を演習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第５章P149～を事前に読んで、子どもの健康観察の方法について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	身体計測
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	乳幼児用体重計、乳幼児用身長計、メジャー等を用いて、人形の体重、身長、胸囲、頭囲を測定し、正しい計測方法、注意点について学ぶ。

第5回	を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第５章P165～を事前に読んで、身体計測を行う目的、測定方法について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	身体発育の評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体計測の結果から発育の評価方法について学び、ワークシートを用いて演習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第５章p172～を事前に読んで、発育の評価の方法について理解しておくこと。発育評価の結果をワークシートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	乳幼児の養護（４）沐浴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児の清潔を守るための方法について学ぶ。沐浴人形を使って、沐浴の演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第５章P190～を事前に読んで、沐浴の手順について理解してから演習に臨むこと。演習を行う際の服装に気をつけること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	健康診断
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	それぞれの健康診断を行う目的や方法について学び、結果の記入のしたかなどの演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第５章P155～を事前に読んで、健康診断の目的、健康診断の種類や方法を理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	子どもの体調不良への対応と感染症
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳幼児は体調を崩しやすく、特に乳児の体調不良には注意が必要である。発熱や嘔吐、下痢などのそれぞれの体調不良時の対応について学ぶ。子どものかかりやすい感染症と感染症が発生したときの対応について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第３章P52～と４章P119～を事前に読んで、子どもが体調をくずした時の対応や、感染症と感染症発生時の対応について理解しておくこと。

	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	**授業テーマ**	保育における健康と安全の管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもが長い時間を過ごす園の環境について学ぶ。子どもが安心・安全に生活できるような保育環境、安全対策について学ぶ。また災害への備えについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第２章P11～を事前に読んで、衛生管理、安全管理、危機管理や災害への備えについて理解おくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	**授業テーマ**	応急手当（１）きずの種類と応急手当
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもが怪我をしたときの基本的な応急手当について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第３章P83～を事前に読んで、子どもの怪我やその手当について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	**授業テーマ**	応急手当（２）包帯法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	止血の方法、ネット包帯の使い方、三角巾の扱い方について演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第３章P102～を事前に読んで、止血の方法や包帯をする目的やその種類、巻き方について理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	**授業テーマ**	応急手当（３）一次救命処置
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	心肺蘇生法とAEDの使い方、気道異物除去について学び、演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第３章P109～を読んで、一次救命処置の目的や手順を理解しておくこと。気道異物除去の手順を理解しておくこと。動きやすい服装で参加すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	個別の配慮を必要とする子どもへの対応、まとめと解説

第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食物アレルギーなど個別に配慮を必要な疾病を理解し、そのような子どもへの対応や緊急時の対応について学ぶ。アナフィラキシー対策としてエピペンの使い方の演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第５章P214～を事前に読んで、アレルギー疾患、慢性疾患について理解しておくこと。あわせてこれまでの学びの不明点を明確にしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	50分
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

毎回授業の終了後に感想やわからないことを書いてもらいます。質問等への回答は次回授業時に全員にお伝えします。

評価方法

・筆記試験を行います。出題の傾向については最後の授業で説明します。
・各々の課題の点数を合計した総合評価ですが、合格には筆記試験が６割以上できていることが条件です。
・初回の授業でルーブリックについて説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
授業への参加姿勢			○	○
課題	○			

評価割合

定期試験（60%）、授業への参加姿勢（20%）、課題（20%）

使用教科書名(ISBN番号)

「これだけはおさえたい！保育者のための健康と安全［改訂二版］」（鈴木美枝子編著、創成社）

参考図書

「これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健［改訂版］」(鈴木美枝子編著、創成社)
その他、授業時に適宜紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】保育者として乳幼児の保健、養護に関する専門的な知識を有している。
【技術・表現】体調の良くない子どもやけがをした子どもなどの状況を正しく判断し、適切な対応を行うことができる。

オフィスアワー

金曜３限 非常勤講師室

学生へのメッセージ

子どもの気持ちに寄り添い、子どもの健康と命を守れる保育者になるべく主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は幼稚園で養護教諭として勤務経験があり、保育者としての心構えや習得するべき子どもの健康の保持増進についての知識と技術を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04064001
講義名	子どもの食と栄養
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	太田 百合子	指定なし

ナンバリング

P20501M22

授業概要(教育目的)

乳児期、幼児期、学童期、産前産後の食事、小児期の疾病の特徴と食事、児童福祉施設の給食の役割などDVD視聴や献立作成を通して実践力を身に付け、食育を行うための能力を習得するための講義をする。実習は、理論を生かした成人食、調乳、離乳食、幼児食等の調理実習を指導する。食育発表を通して実践力を身に付けるための演習指導を行う。
栄養学、調理学、食品学などの基礎的な知識や子どもの身体発育・発達を理解し、子どもに教えられる基礎を身に付けることを目指す。また、保護者に対して食生活支援ができる知識を身に付けることを目指す。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1.献立と栄養素の関連を関係づけられる。 2.子どもの発育・発達に即した要点を説明できる。 3.栄養に関する基礎知識を食育に関係づけられる。
思考・判断の観点 (K)	1.現代の食生活の問題点を指摘できる。 2.子どもの病気の時の食事を理解し、それに合わせた食事内容を判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1.調理実習には意欲、協調性を持ってできる。
技術・表現の観点 (A)	1.調理実習では、調理器具を適宜使用できる。 2.子どもが楽しめる食育媒体を作成し、楽しく教育できる。

学習計画

	授業テーマ	子どもの健康と食生活の意義

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	現代の食生活の問題点を理解する。演習：身体発育曲線により栄養を評価する。演習：そのまんまカードで栄養バランスを知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第1章P.10～19を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習を合わせて120分
第2回	**授業テーマ**	栄養に関する基礎知識、栄養に関する制度、妊娠期と授乳期の食生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養学の基本的理論を理解する。食事摂取基準を理解する。食中毒予防と衛生管理について理解する。妊娠期、授乳期の食のありかたを理解する。演習：食事バランスガイドを学ぶ。DVD視聴：食品添加物について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章、3章、4章P.22～59を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習を合わせて120分
第3回	**授業テーマ**	実習：成人用献立
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理技術を学ぶ。調理の段取りを理解する。成人の栄養の摂り方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	包丁の扱いに慣れておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習を合わせて120分
第4回	**授業テーマ**	乳児期の食生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳汁栄養の種類と特徴を理解する。調整粉乳の調乳法を理解する。授乳と離乳食の栄養バランスを理解する。授乳の仕方、栄養について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第5章 P.62～74を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習を合わせて120分
第5回	**授業テーマ**	実習：調乳・離乳食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消毒法を学ぶ。発達に合わせた離乳食を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第5章 P.67、P.71を理解しておくこと。包丁でみじん切り、乱切りなど切り方を練習すること。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習を合わせて120分
第6回	**授業テーマ**	幼児期の食生活、学童期・思春期の食生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児期の機能の発達を理解する。食事の内容の理解と間食の意義を理解する。保護者の食事上の問題と対応を理解する。DVDを視聴し、対応の理解を深める。弁当の衛生管理と栄養配分を理解する。学童期の身体的特徴を理解する。肥満と痩せ、朝食欠食を理解する。カルシウムと鉄不足を補う献立作成から理解する。今まで経験した給食の内容、食育の思い出の情報交換を行う。

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第6章、7章P.76～104を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習を合わせて120分
第7回	**授業テーマ**	実習：1～2歳児の食事とおやつ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1～2歳児に適する調理を理解する。1～2歳児のおやつを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第6章 P.76～89を読んでおくこと。おにぎりを握れるように練習すること。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習を合わせて120分
第8回	**授業テーマ**	生涯発達と食生活、食育の基本と内容
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生涯発達と変化を理解する。成人期、高齢期の健康上の課題を理解する。 食育がなぜ必要とされるのか理解する。和食文化を理解する。子どもに望ましい食育を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第8章、9章 P.106～131を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習を合わせて120分
第9回	**授業テーマ**	実習：3～5歳児の弁当とおやつ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	弁当作りの衛生管理を理解する。弁当の内容、バランスを理解する。3歳以上のおやつを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第6章P.82～83を読んでおくこと。3歳以上の幼児に適する弁当の容量を調べて用意する。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習を合わせて120分
第10回	**授業テーマ**	家庭や児童福祉施設における食と栄養、特別な配慮を要する子どもの食と栄養
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童福祉施設と給食の役割について理解する。保育所給食の運営について理解する。 体調不良の時の食事を理解する。水分摂取について理解する。 障がいの種類や特徴から食事形態を理解する。DVD視聴から介助方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第10章11章 P.132～158を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習を合わせて120分
第11回	**授業テーマ**	実習：行事食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1年間の行事食のいわれなどを理解する。衛生管理を学び、配膳方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	行事食、郷土料理などの内容を調べて理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習を合わせて120分

第12回	授業テーマ	アレルギー疾患を持つ子どもの食と栄養、実習：食育媒体づくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食物アレルギーの定義、症状、診断方法について理解する。食物除去の考え方を理解する。園における食物アレルギー対応を理解する。 集団で行う食育を理解する。グループで対象年齢に合わせた内容を考え、効果的なものを制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第12章 P.161～170を読んでおくこと。園で行われている食育を調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習を合わせて120分
第13回	授業テーマ	実習：食育媒体づくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集団で行う食育を理解する。グループで制作、発表練習を行い理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	園で行われている食育を調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習を合わせて120分
第14回	授業テーマ	まとめ。実習：食育発表を通して理解する。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループで食育発表を行い、評価を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業内容を総復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習を合わせて120分

学習計画注記

すべて対面授業。演習や調理実習は取り組みレポート提出。

学生へのフィードバック方法

レポートは期限までに提出してもらい随時採点して返却する。質問は授業振り返りシートに記入してもらい次の授業にて解説する。

評価方法

・定期試験は、50点満点で6割以上とれていること。
・演習レポートは、文章、表現などから知識や理解を評価する。各5点満点（5点学んだ知識などから説明されているなどの模範解答。3-4点大きな間違いがなく説明できている、1-2最低限の説明ができている。）
・調理実習は、各5点満点（5点献立レシピ通りに作成され、レポートは自らの考えを述べ模範解答である。3-4点大きな間違いなく作成され、自らの考えを最低限述べている。1-2点間違いもあるが最低限作成され、自らの考えを述べていない。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○			
演習レポート	○	○	○	○
学習態度（調理実習を含む）	○	○	○	○

評価割合

試験50%、提出レポート40%、食育発表10%による総合評価。

使用教科書名(ISBN番号)

子どもの食と栄養 羊土社 太田百合子、堤ちはる編著（978-4-7581-1380-9）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもの食に関して専門的な知識を有している。
【思考・判断】具体的、実践的な機会を通して、柔軟に対応できる力を身に付けている。
【関心・意欲・態度】子どもの食の課題を理解し、専門的にかかわれる態度を身に付けている。
【技術・表現】豊かな表現力、コミュニケーション能力を身に付けている。

学生へのメッセージ

現場では、保護者から食の悩みごとを相談されることが多く、子どもたちには毎日の保育活動に食育を関連させています。このことからも食の知識は重要だということがわかります。まずは自分自身が、食べること、料理をすることを楽しみ、さらに授業での学びを通して、バランスのとれた食事ができるようになれば、子どもたちや保護者にも食の大切さを教えることができるようになるでしょう。
授業では調理実習を予定しているので、包丁が使えること、簡単な料理が出来るよう練習しておきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、国立総合児童センター内の小児保健部・小児科クリニツクに30年間勤務経験がある。小児肥満改善教室、離乳食講座、広場事業、妊婦栄養相談、離乳食・幼児食栄養相談、ダウン症や自閉症等の摂食指導を行ってきた経験を活かす。保育士等キャリアアップ講師、育児雑誌監修等の経験を生かした授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	食に関するテーマをもとにグループ・ワークを適宜取り入れる。献立作成、調理実習、演習をもとに発見学習を繰り返し、今後の実習や卒後に生かせるようにする。
情報リテラシー教育	○	レポート、演習は、情報を収集する力を養う。
ICT活用		

講義コード	G04067001
講義名	自然体験活動論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	佐藤 冬果	指定なし
助教	末松 加奈	指定なし

ナンバリング

P40501M21

授業概要(教育目的)

自然の中での様々な体験・遊びは、身体を通じて五感に働きかけ、幼児・児童期の子どもの心身の豊かな成長を促すものである。現代社会ではその機会が減少しており、保育所保育指針や幼稚園教育要領、小学校学習指導要領などで自然とのかかわりを充実させることの重要性が示されている。
本授業では、園や学校において身近な自然を活用した自然体験活動（キャンプ）を効果的にかつ安全に指導するための知識技術を修得することを目的とし、自然体験活動（キャンプ）に関連する基本的な理論を取り扱う。

履修条件

希望者は、本授業の単位取得（ただし、*印がついた授業回への出席が必須）、および「自然体験活動演習I」の単位取得により、公益社団法人日本キャンプ協会が発行する「キャンプインストラクター」の資格を取得することができます。詳細は初回授業で説明をします。
（資格を申請する場合は、別途登録費用（13300円+テキスト代2200円）が必要となります。）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自然体験活動（キャンプ）の意義や効果について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	自然体験活動（キャンプ）を取り巻く現状と現代社会における課題を指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自然体験活動（キャンプ）で扱うアクティビティに対して積極的に関与することができる。
技術・表現の観点 (A)	保育・教育に自然体験活動（キャンプ）を積極的に取り入れることができる。

学習計画		
第1回	授業テーマ	オリエンテーション 過去の自然体験から学ぶ （佐藤・末松）（*）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業で扱う内容や進め方、スケジュール等について確認する。 また、過去に経験した自然体験活動の記憶を想起し、自然体験による教育効果について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分自身の最も印象的な自然体験活動のエピソードについてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	自然体験活動の意義：非認知能力の育ち （佐藤）（*）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験活動が子どもに与える影響について、自己との繋がり、他者との繋がり、自然との繋がりの観点から理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分自身の自然体験活動の経験を振り返り、非認知能力への影響について考察を深める。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	自然体験活動の意義：認知能力の育ち （末松）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験活動が学力や教科の学習観に与える影響について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分自身の自然体験活動の経験を振り返り、認知能力への影響について考察を深める。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	日本の保育における自然体験 （末松）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の保育に自然体験が取り入れられてきた歴史や現行の制度を学び、保育における自然体験教育の現状を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	戦前～現代の保育における自然体験に関する文献に目を通し、当時の保育における自然体験の意味を考察する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	日常の保育活動の中で行われる自然体験（1） （末松）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日常の保育活動の中で実践される自然体験から、「園の中」で行われる活動について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事例から、子どもの認知能力や非認知能力の発達に寄与する体験についてまとめる。
	教室外学習の時	60分

	間（分）	
第6回	授業テーマ	日常の保育活動の中で行われる自然体験（2） （末松）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日常の保育活動の中で実践される自然体験から、散歩や遠足など「園の外」で行われる活動について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	散歩・遠足を通した学びの内容や、日々の保育や子どもの姿と散歩・遠足との関係についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	デンマーク、ドイツ、日本における森のようちえん （末松）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児を対象とした野外活動である「森のようちえん」活動について、その概要や国内外での発展の歴史と現状を知るとともに、幼稚園教育における意義について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森のようちえん全国ネットワークの団体会員一覧の中から、選択した団体の保育の特徴をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	自然体験活動の指導（1） （佐藤）（*）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験活動（キャンプ）における指導者の役割や、求められる資質能力を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの自身の経験をふりかえり、自分自身に肯定的な影響を与えた指導者の行動、態度などについてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	自然体験活動の指導（2） （佐藤）（*）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験活動（キャンプ）の指導において重要な「キャンプカウンセリング」について、その考え方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャンプカウンセリング的なかかわり方について整理し、事例に対する対応について考える。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	自然環境と環境配慮 （佐藤）（*）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験活動の活動フィールドである自然環境について、基本的な知識と、環境を破壊しないために配慮すべき点について学ぶ。また、植物の同定に必要な知識を学び、危険植物の判別や自然解説に必要な知識を身につける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自然環境下で活動する上で注意が必要な危険植物について調べ、その特徴をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
		自然体験活動（キャンプ）のプログラム

第11回	授業テーマ	（佐藤）（*）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験活動（キャンプ）の一つの実施形態である「組織キャンプ」について、その概要や、プログラムの立案に必要な知識を修得するとともに、指導者の役割分担とそれぞれの役割について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャンプで実施されるアクティビティについて調べ、それぞれの活動がもたらしうる効果について整理する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	環境教育プログラム （佐藤）（*）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験活動（キャンプ）のプログラムの一つである「ネイチャーゲーム」について、環境教育の観点から歴史や理論的背景を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもがネイチャーゲームを経験することによって得ることが期待される効果についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	自然体験活動（キャンプ）における安全管理 （佐藤）（*）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験活動（キャンプ）に潜むリスク要因について学び、具体的な事故事例等から配慮すべき点について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実際に森の中を歩いた際に発見したリスクについてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	安全な自然体験活動（キャンプ）に向けて 全体のまとめ （佐藤・末松）（*）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験活動（キャンプ）を安全に運営するための知識や技術（自然環境の危険、生物的な危険、社会文化人為的な危険等）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自然体験活動（キャンプ）を安全に運営するための知識や技術（自然環境の危険、生物的な危険、社会文化人為的な危険等）を学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

授業の進み具合によってはスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

各回で提出された小レポートに対するフィードバックを、次回授業内において回答します。

評価方法

・毎授業後の小レポート 70点（5点×14回）
・学期末レポート 15点
・平常点 15点

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小レポート	○	○	○	
学期末レポート	○	○	○	
平常点	○	○	○	○

評価割合

毎授業後の小レポート（75%）、学期末レポート（10%）、平常点（15%）

参考図書

日本キャンプ協会『キャンプ指導者入門』（第5版）
（※日本キャンプ協会発行資格（キャンプインストラクター）を申請予定の方は購入して頂く必要があります。(税込み2200円、初回授業時に希望調査)）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもに関する専門的な知識が修得できている
【思考・判断】自ら様々な課題に柔軟に対応できる
【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる
【技術・表現】豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている

オフィスアワー

月曜4限 1618室

学生へのメッセージ

都市化された現代の生活では、子ども達が自然に触れる機会が減少しています。
しかし、幼児･児童期に自然と直接関わり、五感を刺激し、自然と生まれる興味のままに物事に取り組んだ経験は、無意識のうちに心の深いところに根付き、その後の心身の成長に大きな影響を与えてくれます。そして、その体験の質の鍵を握るのは、そこにいる「大人」の存在であるとも言われます。
保育者・教育者など、子どもの専門家を目指す皆さんには、まずは皆さん自身が自然にたくさん触れることで子ども達の自然体験の意義を実感を持って理解し、豊かな体験をサポートできる存在になってほしいと願います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自然体験活動（キャンプ）で扱うアクティビティや安全管理のトレーニングについては、実際にキャンパス内の森に出向いて体験的に学んでいただきたいと思います。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04067002
講義名	野外活動論（児童と野外環境）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P40501M21

授業概要(教育目的)

自然の中での様々な体験・遊びは、身体を通じて五感に働きかけ、幼児・児童期の子どもの心身の豊かな成長を促すものである。現代社会ではその機会が減少しており、保育所保育指針や幼稚園教育要領、小学校学習指導要領などで自然とのかかわりを充実させることの重要性が示されている。
本授業では、園や学校において身近な自然を活用した自然体験活動（キャンプ）を効果的にかつ安全に指導するための知識技術を修得することを目的とし、自然体験活動（キャンプ）に関連する基本的な理論を取り扱う。

履修条件

希望者は、本授業の単位取得（ただし、*印がついた授業回への出席が必須）、および「自然体験活動演習I」の単位取得により、公益社団法人日本キャンプ協会が発行する「キャンプインストラクター」の資格を取得することができます。詳細は初回授業で説明をします。
（資格を申請する場合は、別途登録費用（13300円+テキスト代2200円）が必要となります。）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自然体験活動（キャンプ）の意義や効果について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	自然体験活動（キャンプ）を取り巻く現状と現代社会における課題を指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自然体験活動（キャンプ）で扱うアクティビティに対して積極的に関与することができる。
技術・表現の観点 (A)	保育・教育に自然体験活動（キャンプ）を積極的に取り入れることができる。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション 過去の自然体験から学ぶ （佐藤・末松）（*）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗ	授業で扱う内容や進め方、スケジュール等について確認する。 また、過去に経験した自然体験活動の記憶を想起し、自然体験によ

第1回	**ｼｰ教育・ICT活用を含む)**	る教育効果について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分自身の最も印象的な自然体験活動のエピソードについてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	自然体験活動の意義：非認知能力の育ち （佐藤）（*）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験活動が子どもに与える影響について、自己との繋がり、他者との繋がり、自然との繋がりの観点から理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分自身の自然体験活動の経験を振り返り、非認知能力への影響について考察を深める。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	自然体験活動の意義：認知能力の育ち （末松）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験活動が学力や教科の学習観に与える影響について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分自身の自然体験活動の経験を振り返り、認知能力への影響について考察を深める。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	日本の保育における自然体験 （末松）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の保育に自然体験が取り入れられてきた歴史や現行の制度を学び、保育における自然体験教育の現状を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	戦前～現代の保育における自然体験に関する文献に目を通し、当時の保育における自然体験の意味を考察する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	日常の保育活動の中で行われる自然体験（1） （末松）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日常の保育活動の中で実践される自然体験から、「園の中」で行われる活動について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事例から、子どもの認知能力や非認知能力の発達に寄与する体験についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	**授業テーマ**	日常の保育活動の中で行われる自然体験（2） （末松）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日常の保育活動の中で実践される自然体験から、散歩や遠足など「園の外」で行われる活動について理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	散歩・遠足を通した学びの内容や、日々の保育や子どもの姿と散歩・遠足との関係についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	デンマーク、ドイツ、日本における森のようちえん （末松）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児を対象とした野外活動である「森のようちえん」活動について、その概要や国内外での発展の歴史と現状を知るとともに、幼稚園教育における意義について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森のようちえん全国ネットワークの団体会員一覧の中から、選択した団体の保育の特徴をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	自然体験活動の指導（1） （佐藤）（*）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験活動（キャンプ）における指導者の役割や、求められる資質能力を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの自身の経験をふりかえり、自分自身に肯定的な影響を与えた指導者の行動、態度などについてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	自然体験活動の指導（2） （佐藤）（*）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験活動（キャンプ）の指導において重要な「キャンプカウンセリング」について、その考え方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャンプカウンセリング的なかかわり方について整理し、事例に対する対応について考える。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	自然環境と環境配慮 （佐藤）（*）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験活動の活動フィールドである自然環境について、基本的な知識と、環境を破壊しないために配慮すべき点について学ぶ。また、植物の同定に必要な知識を学び、危険植物の判別や自然解説に必要な知識を身につける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自然環境下で活動する上で注意が必要な危険植物について調べ、その特徴をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	自然体験活動（キャンプ）のプログラム （佐藤）（*）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験活動（キャンプ）の一つの実施形態である「組織キャンプ」について、その概要や、プログラムの立案に必要な知識を修得するとともに、指導者の役割分担とそれぞれの役割について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャンプで実施されるアクティビティについて調べ、それぞれの活動がもたらしうる効果について整理する。

	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	環境教育プログラム （佐藤）（*）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験活動（キャンプ）のプログラムの一つである「ネイチャーゲーム」について、環境教育の観点から歴史や理論的背景を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもがネイチャーゲームを経験することによって得ることが期待される効果についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	自然体験活動（キャンプ）における安全管理 （佐藤）（*）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験活動（キャンプ）に潜むリスク要因について学び、具体的な事故事例等から配慮すべき点について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実際に森の中を歩いた際に発見したリスクについてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	安全な自然体験活動（キャンプ）に向けて 全体のまとめ （佐藤・末松）（*）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験活動（キャンプ）を安全に運営するための知識や技術（自然環境の危険、生物的な危険、社会文化人為的な危険等）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自然体験活動（キャンプ）を安全に運営するための知識や技術（自然環境の危険、生物的な危険、社会文化人為的な危険等）を学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

授業の進み具合によってはスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

各回で提出された小レポートに対するフィードバックを、次回授業内において回答します。

評価方法

・毎授業後の小レポート 70点（5点×14回）
・学期末レポート 15点
・平常点 15点

・ルーブリックを用いた評価を行います。ルーブリックについてはクラスルームにより提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小レポート	○	○	○	

学期末レポート	○	○	○	
平常点	○	○	○	○

評価割合

毎授業後の小レポート（75%）、学期末レポート（10%）、平常点（15%）

参考図書

日本キャンプ協会『キャンプ指導者入門』（第5版）
（※日本キャンプ協会発行資格（キャンプインストラクター）を申請予定の方は購入して頂く必要があります。(税込み2200円、初回授業時に希望調査)）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもに関する専門的な知識が修得できている
【思考・判断】自ら様々な課題に柔軟に対応できる
【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる
【技術・表現】豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている

オフィスアワー

月曜4限 1618室

学生へのメッセージ

都市化された現代の生活では、子ども達が自然に触れる機会が減少しています。
しかし、幼児･児童期に自然と直接関わり、五感を刺激し、自然と生まれる興味のままに物事に取り組んだ経験は、無意識のうちに心の深いところに根付き、その後の心身の成長に大きな影響を与えてくれます。そして、その体験の質の鍵を握るのは、そこにいる「大人」の存在であるとも言われます。
保育者・教育者など、子どもの専門家を目指す皆さんには、まずは皆さん自身が自然にたくさん触れることで子ども達の自然体験の意義を実感を持って理解し、豊かな体験をサポートできる存在になってほしいと願います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自然体験活動（キャンプ）で扱うアクティビティや安全管理のトレーニングについては、実際にキャンパス内の森に出向いて体験的に学んでいただきたいと思います。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04068001
講義名	児童とことば
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P30601M21

授業概要(教育目的)

児童期の子どもの言葉の発達を理解し、その時期の言語生活を豊かにするための具体的な環境や方法について伝える。
また、幼児期からの繋がりを意識した上で、小学校以降の教科学習をしていくための基礎としての言葉についても考えていくようにする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・言葉の基本や児童期の子どもの言葉の発達について理解する。 ・1次的言葉から2次的言葉への移行について理解する。
思考・判断の観点 (K)	・児童期の子どもの言葉の課題をみつけ、解決していく態度を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・児童期の子どもが置かれた言葉の環境や、現代的課題について関心をもつ。
技術・表現の観点 (A)	・言葉を味わい、言語活動を展開していく技術を養う。 ・話すこと、聞くこと、読むこと、書くことの実践的な指導力を身に付ける。

学習計画

児童とことば

第1回	**授業テーマ**	国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力とは何か、ということを講義形式で学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。

	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	**授業テーマ**	日常生活における児童期の言葉
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日常生活における児童期の言葉について、事例を用いながら講義形式とグループワークを組み合わせて学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループワークの内容をまとめながら復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	1次的言葉と2次的言葉
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1次的言葉と2次的言葉について、資料と具体的事例をもとに理解する。またその獲得が、児童の生活にどのように影響するのかということについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。言葉の発達に遅れのある子どもの事例を実習日誌などから拾い上げ次回の予習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	言葉の発達が気になる児童に対する支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	言葉の発達が気になる児童に対する支援について、具体的事例をもとにその実際を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	伝え合う力を高めるとは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	伝え合う力を高める実践について講義形式とグループワークにより理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	思考力や想像力を養うとは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	言葉によって思考力や想像力を養うことについて理解し、その具体的実践について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	文字・語句・表記に関する事項
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文字・語句・表記に関する事項について、児童期の言語発達の視点から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分

第8回	授業テーマ	話すこと・聞くこと
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童期の話すこと・聞くことに関する事例をもとに、その発達と具体的な実践について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。 子ども時代に書いた文字などが残っていれば、探して用意しておく（次回の予習）
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	読むこと・書くこと
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童期の読むこと・書くことに関する事例をもとに、その発達と具体的な実践について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	児童期の言語感覚を養う実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童期の言語感覚を養う実践について、講義とグループワークにより学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。 図書館等で『ごんぎつね』の本を探して読んでおく（予習）
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	言語活動の展開１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	『ごんぎつね』を題材にして児童期の言語活動の展開を具体的に考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。 図書館等で『スーホの白い馬』の本を探して読んでおく（予習）
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	言語活動の展開２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	『スーホの白い馬』を題材にして児童期の言語活動の展開を具体的に考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。 図書館等で『モチモチの木』の本を探して読んでおく（予習）
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	言語活動の展開３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	『モチモチの木』を題材にして児童期の言語活動の展開を具体的に考える。 図書館等で『注文の多い料理店』の本を探して読んでおく（予習）
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。
	教室外学習の時間	

	（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	言語活動の展開４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	『注文の多い料理店』を題材にして児童期の言語活動の展開を具体的に考える。 これまでの授業を通した、まとめを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

テキストは使用しないが、適宜資料を配布する。定期試験の前には、その資料をもとに準備すること。
講義形態の授業ではあるが、その中にも、発表やグループワーク等を適宜組み入れて展開する。

学生へのフィードバック方法

授業の質問、感想、要望を受け付ける。毎回それに対してのフィードバックを行う。
指導案など提出したものは添削、助言をして返却する。

評価方法

平常点（50%）、定期試験（50%）
（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）
ルーブリックに基づく成績評価をする。
（ルーブリックについては、Googleクラスルームまたは授業内での配付等により提示をする。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	○
定期試験	○	○		

評価割合

平常点（50%）、定期試験（50%）
（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

特になし

参考図書

『のはらうたI』工藤直子 童話屋

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】言葉の基本や児童期の子どもの言葉の発達について理解できている。
【思考・判断】児童期の子どもの言葉の課題をみつけ、解決していく態度を養う。
【関心・意欲・態度】児童期の子どもが置かれた言葉の環境や、現代的課題について関心をもつ。
【技能・表現】言葉を味わい、言語活動を展開していく技術を養う。

オフィスアワー

月曜２限から４限

学生へのメッセージ

言葉に関する自分自身の感性を豊かにするために、日頃から言葉の楽しさや美しさを意識して、授業に臨んでほしい。

授業資料をGoogleクラスルームに配信する場合があるので、PCを用意してください。（スマホでも可）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、保育士・幼稚園教諭として実務経験を有しており、子どもとかかわるうえで必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授を行う。
アクティブ・ラーニング	○	言語活動の展開は、グループワークを取り入れ、教員と学生、学生同士の双方向のやりとりを行う。
情報リテラシー教育	○	先行研究などを収集する際、その情報の発信元や発信の目的などに目を向けた上で、信頼性のある情報か否かを判断する。
ICT活用	○	各自の言語活動の展開をパワーポイントなどにまとめて発表し、他者にわかりやすいプレゼンテーションを実践する。

講義コード	G04070001
講義名	音楽実技Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	佐藤 くみ	指定なし
非常勤講師	渡邉 有里香	指定なし
非常勤講師	久田 由紀子	指定なし
非常勤講師	武内 貴久子	指定なし

ナンバリング

P20601M12

授業概要(教育目的)

本授業の目的は、音楽実技Aで習得した演奏技術を基盤に、さらに音楽表現力を向上させることである。保育実践や小学校音楽科において、子どもが生き生きと音楽活動を楽しみ、感性を育むことができるような歌唱・ピアノ伴奏について、弾き歌いの実技を通して演習を行う。演奏表現に必要な音楽の基礎知識（楽典）も理解し、履修者各自のレベルに応じた課題曲のレパートリーを広げながら、より高い歌唱・ピアノ演奏技術および、表現力の獲得につながるように講義を構成する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	子どもの歌における声の出し方や楽譜の読み方、伴奏の役割を理解している。
思考・判断の観点 (K)	子どもの様々な音楽活動の状況に合わせ、即興的に伴奏を工夫することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	他者の表現の工夫を学び、自分の演奏に生かすことができる。
技術・表現の観点 (A)	簡易伴奏を考えたり、曲想に沿った伴奏を工夫できるような、実践的な力を身につけている。

学習計画

		オリエンテーション

第1回	授業テーマ	春のうた①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業のねらい、講義の進め方の説明とクラス分け おはながわらった、めだかのがっこう、春の小川 など
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題曲の譜読み、個人練習
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	授業テーマ	春のうた②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	おかあさん、ことりのうた、こいのぼり など
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題曲の譜読み、個人練習
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	授業テーマ	夏のうた①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	あめふりくまのこ、たなばたさま など
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題曲の譜読み、個人練習
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	授業テーマ	夏のうた②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アイスクリームのうた、うみ など
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題曲の譜読み、個人練習
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	秋のうた①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	とんぼのめがね、まつぼっくり、虫の声 など
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題曲の譜読み、個人練習
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	授業テーマ	秋のうた②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	きのこ、夕やけこやけ、もみじ など
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題曲の譜読み、個人練習
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	授業テーマ	発表と自己評価①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	弾き歌いの中間発表と鑑賞、講義を振り返り、自己評価を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表会用の弾き歌いを練習する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	冬のうた①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ジングルベル、あわてんぼうのサンタクロース など
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題曲の譜読み、個人練習
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	冬のうた②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お正月、北風小僧の寒太郎 など
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題曲の譜読み、個人練習
	教室外学習の時間（分）	90分

第10回	授業テーマ	動物のうた①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アイアイ、犬のおまわりさん、森のくまさん など
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題曲の譜読み、個人練習
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	授業テーマ	動物のうた②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ありさんのおはなし、やぎさんゆうびん、山の音楽家 など
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題曲の譜読み、個人練習
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	みんなのうた①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	さんぽ、ドレミのうた、小さな世界 など
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題曲の譜読み、個人練習
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	みんなのうた②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	思い出のアルバム、せかいじゅうのこどもたちが など
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題曲の譜読み、個人練習
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	発表と自己評価②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	弾き歌いの成果発表と鑑賞、講義を振り返り、自己評価を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表会用の弾き歌いを練習する。
	教室外学習の時間（分）	150分

学習計画注記

１クラスを２つのグループに分け、２人の講師が順に個人レッスンを行います。最初の講義において、グループ分けをします。また、授業内容によっては全体の講義も行います。学習計画に具体的な曲名をあげていますが、各自の技術、進度に合わせて課題曲を選定します。

学生へのフィードバック方法

リフレクションシートに、気づき、学び、困ったことなどを記載して毎回のレッスン時に提示していただきます。そのことで、全員の講師が受講生それぞれの状況を把握し、しっかりと支援をします。

評価方法

リフレクションシートに記載された学習状況と音楽的な気づき等によって、関心・意欲・態度や知識・理解の状況、保育者・教師としての音楽的資質に関する思考等について判断します。課題の取り組みの進捗状況から、積極的に個人練習に励んでいるか、また表現技術の習得について判断します。第7週、最終週には発表会を予定しています。クラス全員の前で弾き歌いを発表することを通し、表現技術の習得状況を判断します。演奏発表の評価基準は、ルーブリックを提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
リフレクションシート	○		○	
課題の進捗状況		○	○	○

発表		○		○

評価割合

リフレクションシート（３０%）、課題の進捗状況（３０%）、発表会（４０%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

有村さやか・今泉明美・望月たけ美 編（2023）
『保育のための やさしい子どもの歌』ミネルヴァ書房

参考図書

各自の進度に応じて、紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
子ども独自の音楽文化をふまえ、楽曲の背景、楽譜の読み方、基本的な音楽理論が習得できている。
【思考・判断】
子どもの音楽活動の状況に合わせて、弾き歌いをすることができる。
【関心・意欲・態度】
保育者・小学校教諭として身につけておきたい弾き歌い曲について、幅広いレパートリーを有している。
【技能・表現】
子どもとともに音楽を楽しみ、子どもの音楽的感性を育むための表現技術を身に付けている。

オフィスアワー

授業時間前後

学生へのメッセージ

予習復習および自己練習の時間を毎日少しでも確保して、表現技術の向上に努めてください。
ピアノ伴奏の練習をする前に、まずその曲の詩を味わい、よく歌えるようにしておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04072001
講義名	子どもと造形
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	立川 泰史	指定なし

ナンバリング

P20603M12

授業概要(教育目的)

子どもの心身の発達に伴う造形表現の変容を理解し、指導の内容と方法について体験的な理解を導いていく。「生活や遊び」から表したいことを見付ける題材、「形や色」を言葉のように使って表したり伝えたりする喜びを味わう活動、子どもの「感覚や感性」を生かす環境や言葉掛けなど、実践的な事例を示す。また、さまざまな造形表現の演習を通して、素材の具体的な特徴や出会い方、子どもの表現に適した「材料・用具」に関する知識と技能を紹介し、今日の教育的課題を解決する応用力・指導力を高めるため、その要件を検討する機会を設ける。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．幼児期における造形表現の特徴と発達の関連、活動の意義や価値について、基礎的な事項を説明できる。 2．幼児の造形活動に適した内容や教材・用具の使用方法に関する基礎的な知識をもち、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	幼児の発達や個性を理解する視点をもち、個に応じた支援・指導の展開方法を検討できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	幼児が親しむ遊びや造形文化に関心をもち、子どもらしく個性的な感性を育む視点を説明できる。
技術・表現の観点 (A)	身近な生活や遊びに関連づけた造形活動に導入・展開する基本的技能を活用し、具体的な活動を運ぶ要件を説明できる。

学習計画

	授業テーマ	1. 子どもの造形表現と保育の意義
	学習内容(ｱｸﾃ	

第1回	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今日の社会や造形文化と子どもの造形表現の関連を知り、保育における位置づけや意義を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	親しみのある造形文化の概要を把握し、幼児の造形表現と生活の関連を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	授業テーマ	「形や色」に触れる出会い
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活や遊びにある「形や色」に触れる大切さを知り、造形活動を展開する実践的方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	生活にある「形や色」について考え、造形活動を開発・展開する事例を調査しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	「描画材や用具」に触れる出会い
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児が造形表現に用いる描画材や用具の特徴について、基礎的な知識と基本的な技能を体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	造形表現に用いる材料や用具の活用に係る事例をあげ、意義や特徴を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	「身近な材料」に触れる出会い
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身近な自然材料や人工材料の種類や特徴及び活用方法について、体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身近な生活にある自然材料を中心に活用事例をあげ、意義や特徴を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	子どもの育ちと造形表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児期から児童期に至る心身や認識の発達と造形表現の特徴を知り、支援の方法や観点を体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	幼児期の発達や成長の特徴について整理しておく。
	教室外学習の	45分

	時間（分）	
第6回	**授業テーマ**	さまざまな表し方と活用（１）技法や行為から
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児の造形活動に適した表現技法や遊びを生かした表現行為について体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	幼児期の造形活動について技法や行為を生かした事例を調べておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	さまざまな表し方と活用（２）感覚や認識から
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児の造形表現を支える身体感覚や認識の特徴を知り、造形活動に導く意義や具体的な方法を体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	幼児の成長に伴う感覚や認識の発達について、参考資料を基に特徴を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	季節を感じる表現と壁面装飾
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	季節感を基に発想する造形表現の意味や材料特徴の生かし方を知り、楽しい壁面装飾と環境づくりを体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	季節感を大切にした造形活動や材料の事例を調べ、活動構成に求められる観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	遊びから生まれる造形表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	材料の特徴を味わう遊びや気付きを生かした造形表現の内容や環境づくりについて体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	幼児の遊びにある感覚や認識の働きについて年齢を基に基礎的な事項を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	人とつながる造形表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	協働性や社会性を重視する造形表現について意義や価値を知り、具体的な展開方法について体験的に理解する。
	教室外学	幼児のコミュニケーション能力を生かす造形活動の内容や展開につい

	習(予習・復習)の内容	て事例をあげ、特徴を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	からだで生みだす造形表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体の動きや感覚を生かした造形表現の意義や内容を知り、知覚や認識をつなげる造形活動の展開について体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日常生活の中で働く幼児の運動感覚や身体感覚について具体的場面の特徴を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	かたまりから生まれる造形表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	粘土の種類や特徴の違いを知り、かたまりの中から発想を広げる造形表現の可能性について体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	紙粘土や土粘土の特徴を生かした幼児の表現について事例をあげ、支援する観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	語り継がれるお話づくり（１）構想・製作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児に適した創作物語を構想するグループの話し合いを通して物語文化に触れ、楽しく表現するための要件について体験的に理解する。タブレット型PCを活用したビジュアル・コミュニケーションや構想プロセスを体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パネルシアターやエプロンシアターなどの実践事例をあげ、物語の創作・演技の意義・目的を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	70分
第14回	**授業テーマ**	語り継がれるお話づくり（２）制作と演じ方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループで創作した物語を相互鑑賞し改善点や工夫点を協議することを通して、物語的表現のよさや違い、幼児の発達・成長に果たす役割を体験的に理解する。各演習で習得した知識や技能について総合的に振返る対話を基に、子どもと造形表現の関係や支援環境の要件を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの造形体験や討論を振返り、造形的な表現活動に求められる知識・技能について資料を基に整理する。 各演習で体験した内容を基に、実践的な造形活動の構想・計画し、子どもの発達に寄与する意義を考察するレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	70分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

実技演習を中心とする。取り組みの中で個やグループに応じた支援・助言をする。
毎回の実技体験について自身の考察を記すドキュメントシートをコメント付きで返却する。

評価方法

・毎回の授業で、体験した内容から気付きや考察を記すドキュメントシート（各回200字程度）の提出を求める。記述内容について、学習目標の規準を観点に評価する。
・全演習の内容に準拠した実践開発・教材研究を共通テーマにした小論レポート（1200~1600字程度）の提出を学期末に求める。
・評価の観点をルーブリックに明示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
ドキュメントシート	○	○	○	
小論レポート	○	○		
演習・グループディスカッション			○	○

評価割合

平常点20%・提出物30%・期末小論レポート50%について総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特になし（毎回の授業にて適宜資料を配布する）

参考図書

文部科学省『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』フレーベル館、2018年
（ISBN：9784577814475）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもをとりまく生活や遊びの視点を通して、児童学を構成する領域を総合的に理解し、子どもの造形表現の特徴と発達の関連など、専門的な知識を有している。
【思考・判断】幼児期における造形表現の特徴に適した具体的・実践的な造形活動の展開について考察・検討し、討論する方略を有し、家族・地域・社会と協働しながら「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション力・感性を備えている。
【関心・意欲・態度】幼児が親しむ遊びや造形文化に関心をもち、子どもらしく個性的な感性を育む手立てについて進んで探究している。
【技術・表現】造形活動を開発・展開する基礎的な技能や表現力を有し、理論と実践の融合を図ることを通して、子どもの専門家として社会に貢献できる。

オフィスアワー

金曜3限 1629研究室

学生へのメッセージ

「つくる・みる・つたえる」ことに関心をもって、演習に取り組むこと。
自らつくる楽しさを味わうことが、子どもに表現の喜びを知らせることにつながる。
そのため、身近な材料や自然、地域と文化に興味をもち、造形表現やデザインへの意識を広げることが望まししい。
学んだ成果やエピソードは、配布資料とともにポートフォリオとしてまとめるように心がける。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	担当教員は小学校教員として教育現場に従事した経験をもち、文部科学省検定教科書の編修代表として題材開発や教材開発に携わる。文部科学省の学習資料作成委員として学習指導要領に準拠する教育内容の普及に努める一方、幼稚園・小学校の現職教員の研修、社会的教育機関や企業との連携を生かし、今日的課題に応じた学習内容を提供する。
アクティブ・ラーニング	○	演習では個人の活動と協働的学習の両立を目指し、自他の対話を通した対話的で実感的な理解を主に授業を構成する。
情報リテラシー教育	○	教育現場で実践されている具体的な事例を授業前後に参照することを通して、webコンテンツや検索スキルを向上する。
ICT活用	○	タブレット型PCをグループディスカッションや造形表現の構想プロセス等で活用する。

講義コード	G04073001
講義名	保育表現技術
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P10604M12

授業概要(教育目的)

関係的存在・身体的存在である人間は、言葉による伝え合い（バーバル・コミュニケーション）だけでなく、声・表情・姿勢・動き・ふるまい方など様々なノンバーバルな方法を用いてコミュニケーションをとっています。この授業では、保育者として子どもに「伝わるように伝え」たり、「伝えたいことを互いに伝え合う」ための表現技術（バーバル・コミュニケーション及びノンバーバル・コミュニケーション）について考えます。同時に、保育者に求められる、子どものささやかな表現に気づき「受け止める」「支える」「即興的にふるまう」「対話する」といった保育技術の開発を目指します。さらに、児童文化財（素話、絵本、紙芝居、人形劇等）を用いた演習を通して、子どもの視点から「見て、聴いて、感じて、想像する楽しさ」や「表現への意欲・関心」を育むための効果的な演じ方について学び合います。各自が、主体的にさまざまな表現技法に取り組み、自分の得意な表現方法を見つけること、演習を通して実践的な表現力を身につけることを目標とします。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・発達に応じた保育表現技術の使い方について説明できる。 ・保育者、教育者として常に社会情勢に関心を持ち、それについて学び、考え、自分の意見を述べることができる。
思考・判断の観点 (K)	・子どもの視点に立ち思考を共有したうえで、様々な課題に実践的に取り組み解決することができる。 ・年齢を問わず様々な人と相互理解できるコミュニケーション能力を有し、柔軟に対応する判断力を持つ。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・授業内容に関心を持ち、積極的に能動的に参加し表現力豊かに情報発信ができる。 ・グループワークではメンバーの多様性を認め、それぞれが能力を発揮するチーム作りができる。
技術・表現の観	・理論 と実践の融合を図り、保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュ ニケーション能力を身に着けている。 ・「伝わるように伝える」ために、明瞭で良く通る声を持つ。

点 (A)	・言葉だけではなく全身を使って情報発信をすることができるスキルを持つ。 ・読む、話す、演じるの基本的なスキルを身に着け、演出力や表現力を十分に発揮することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	自分自身について伝える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・全員の前で、各自が自己紹介 ・自分の得意なことについてプレゼンする ・印象的なフレーズや全身で自己表現する技術を授業で身につけるための第一歩とする
	教室外学習(予習・復習)の内容	・自宅やアルバイト先などで他人が自分をどう見ているかをリサーチ ・他人が自分に対して持つイメージを確認し自己イメージとのギャップを確認 ・自己イメージを投影したオリジナル名刺・動画を作成
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	自分の体験をわかりやすく表現する チャレンジしたいシアター・パフォマンスについて考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・「ある日の私」をテーマに2分程度のスピーチをする ・「ある日の私」をテーマに書かれた他者のスピーチを聞き、印象的な部分や興味深い部分など評価してメモをとる ・KVA祭「わくわくシアター」に向けて取り組みたいシアター・パフォーマンスの計画を立てる
	教室外学習(予習・復習)の内容	スピーチ原稿の作成
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	素話に挑戦１ わくわくシアター作り①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・３歳児20人程度への素話を想定して行う ・グループごとにシアター作りと練習をする
	教室外学習(予習・復習)の内容	・素話の自習 ・自己評価メモの作成
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	素話に挑戦２ わくわくシアター作り②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・第３回の素話をブラッシュアップして再チャレンジ ・グループごとにシアター作りと練習をする
	教室外学習(予習・復習)の内容	・自主練習により、よりよく伝わる工夫をする
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	絵本の読み聞かせ わくわくシアター作り③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・好きな絵本を使って、意味の取り方・強調の方法・読むスピードの演出的効果などを学ぶ ・グループごとにシアター作りと練習をする
	教室外学習(予習・復習)の	

	内容	・発声・滑舌を含む読み聞かせの練習
	教室外学習の時間（分）	75分
第6回	授業テーマ	外国語絵本でお話作り わくわくシアター作り④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・馴染みのない言語で書かれた絵本にオリジナルのストーリーをつけて読み聞かせをする ・グループごとにシアター作りと練習をする
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第7回	授業テーマ	ノンバーバルコミュニケーション１ わくわくシアター・リハーサル
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・言葉以外の方法でコミュニケーションをとるワーク ・わくわくシアターのリハーサルを行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第8回	授業テーマ	ノンバーバルコミュニケーション２ わくわくシアター鑑賞会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ノンバーバルコミュニケーションを活かした活動を構想する ・わくわくシアターを振り返る
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第9回	授業テーマ	心理劇１ 手作りシアターの制作①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	何もない空間でふるまうことによって即興劇を創る ・手作りシアターの制作及び練習をする
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第10回	授業テーマ	心理劇２ 手作りシアターの制作②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・今、ここで、新しくふるまう体験から学ぶ ・手作りシアターの制作及び練習をする
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第11回	授業テーマ	心理劇３ 手作りシアターの制作③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・補助自我の体験をする ・手作りシアターの制作及び練習をする
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

第12回	授業テーマ	身体表現の工夫 手作りシアターの制作④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・手遊び,体操,ダンスによる身体表現の工夫について考える ・手作りシアターの制作及び練習をする
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第13回	授業テーマ	手作りシアター発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・人形劇、エプロンシアター、パネルシアター、などを制作して発表する
	教室外学習(予習・復習)の内容	・発表に向けての練習
	教室外学習の時間（分）	195分
第14回	授業テーマ	表現者としての自分の成長について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・スピーチと得意な表現方法を組み合わせて自分の成長を伝える
	教室外学習(予習・復習)の内容	・発表準備 ・発表の評価メモ作成
	教室外学習の時間（分）	60分

学生へのフィードバック方法

・提出物等についてのフィードバックは授業内で行う。
・質問があれば直接またはメールなどで応じる。

評価方法

指定した課題・作品の提出内容、授業内における発表の内容、グループワークなど平常授業の取り組み状況等について、総合的に評価する。評価のポイントに関しては、ルーブリックを提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題・作品	○	○	○	○
発表	○	○	○	○
授業態度・グループワークへの取	○	○	○	○

評価割合

1）課題・作品（手作りシアター等）の提出と内容　30%
2）発表における表現力・コミュニケーション能力　40%
3）授業に対する取り組み・積極性 30%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

ディプロマポリシーとの関連

・授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献

できる
・保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている

オフィスアワー

（後期）金曜４限　1635研究室

学生へのメッセージ

・相手に自分の気持ちが伝わる＜話し方＞＜聞き方＞を学ぼう
・子どもの視点を忘れずに、常に好奇心を持ち、発見を楽しもう
・授業には積極的に参加し自分から「表現を楽しむ気持ち」を大切にしよう

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	積極的にグループワークを行う。話す・演じる・演出するなど人前で情報を発信する効果的な方法を指導する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04074001
講義名	英語アクティビティ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P10605M12

授業概要(教育目的)

英語圏の伝承童謡であるNursery Rhyme （ナーサリーライム）を中心に、英語の語彙と文化を楽しく学ぶ方法を探求し、子どもたちに教えられるレベルを目指して教室内で実践練習を行う。
また、遊びを通しての言語習得の効果や、幼小児に適した英語の教育方法・教材の選択について伝える。
文化的多様性への理解を深め、国際感覚を養い、効果的な英語教育を幼小児に提供するための基盤を築くことを目的とする。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	幼少期に有効とされる英語学習のアプローチを理解する。幼児教育における創造芸術の使い方の知識を広げる。
思考・判断の観点 (K)	幼少期教育に適切かつ有益な音楽や文学を探索し、歌唱、身体表現や絵本の読み聞かせなど、幼小児に有意義な活動を英語で行える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	他国の児童文化への興味・関心を示す。異文化から来ている子どもや親たちとのコミュニケーションに必要な基本的な英語の言い回しを積極的に習得する。
技術・表現の観点 (A)	子どもに英語の歌や遊びの行い方を伝えることができ、子どもと一緒に表現できる。

学習計画

英語アクティビティ

第1回	**授業テーマ**	コース概要とシラバスの説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本科目について 英語での自己紹介 英語での Ice breaker ゲーム → 保育や幼児教育の場での応用を考える
	教室外学習(予習・復習)の	シラバス内容をよく把握する

	内容	大学の図書館で英語の児童文学を探索する
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	**授業テーマ**	Nursery Rhymeとは 感情(emotions, feelings)を表す英語表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	なぜNursery Rhymeと呼ばれるのか 感情(emotions, feelings)を表す英語表現と保育での取り入れ Emotion に関連のある Nursery Rhymes: “Rain Rain Go Away” “If You're Happy and You Know It"
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習した歌を練習する ”Head, Shoulders, Knees and Toes”を探索し予習する
	教室外学習の時間（分）	90分～120分
第3回	**授業テーマ**	身体の部位の英語表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の復習 “ Head, Shoulders, Knees and Toes” - 歌と動作の学習と子どもを相手にする場面設定での実践練習 他の学生を子ども達と想定して教える
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでに学んだ歌の復習、メロディーと歌詞を覚える
	教室外学習の時間（分）	90分～120分
第4回	**授業テーマ**	英語での身体表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児を対象とした語学学習と動きの取り入れについて 絵本 “From Head to Toe” を使ったアクティビティ 身体の部位を使った英語でのアクティビティを考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	大学もしくは近隣の図書館で、自分で読める英語の絵本を探索、できれば貸し出す 自身で読む練習をする 次回の授業に持参する
	教室外学習の時間（分）	90分～120分
第5回	**授業テーマ**	英語の絵本
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学生が持参した絵本を利用して学ぶ それらの本を応用したアクティビティを考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分が貸し出した本を利用したアクティビティの案を書き出す
	教室外学習の時間（分）	90分～120分
第6回	**授業テーマ**	対照語、反対語の英語表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	英語の対照語、反対語を学ぶ、子どもに教える活動を考える 絵本 – “Big Bear Little Chair” Fingerplay song (指遊び歌) – “Open Shut Them”
	教室外学習(予習・復習)の内容	さらに対照語を英語で探索し、書き出す ”Big Bear Little Chair" を基にして新たに数ページ作る、描く
	教室外学習の時間（分）	90分～120分
第7回	**授業テーマ**	数を学ぶ、教える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の復習 Fingerplay song – “Five Little Monkeys Jumping on the Bed” 身近なものを子ども達と数えるアクティビティを考え、実践する

	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでに学んだ英語の語彙全ての復習
	教室外学習の時間（分）	90分～120分
第8回	**授業テーマ**	中間地点でのチェック
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中間テスト これまでに学んだ語彙の習得度のチェック それぞれの学生はこれまでに学んだ Nursery rhymes・Fingerplay songsの中から一曲歌う
	教室外学習(予習・復習)の内容	テストの準備（予習）、振り返り（復習）
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	**授業テーマ**	身近な動物を表す英語語彙
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Nursery Rhymes – “Mary Had a Little Lamb”, “Old McDonald Had a Farm” これらの歌を利用して、様々な動物に入れ替える
	教室外学習(予習・復習)の内容	この授業で学んだ歌の復習 "Mary Had a xxxx zzzz (違う動物)" の歌詞を考えて書いてくる（１verse）
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	**授業テーマ**	動物と数の学習の応用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	"1, 2, 3 To The Zoo" (絵本) “Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?” (絵本)
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布された絵本のラインを練習し、子ども達を相手に読めるようにする
	教室外学習の時間（分）	90分～120分
第11回	**授業テーマ**	幼児を対象とした英語のアルファベット学習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	“ABC Song” この歌を歌う時に補助材料となる画材や教材を考える、作る この歌を利用した別のアクティビティを考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	アルファベットを教えるアクティビティに必要な教材を作ってくる
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	**授業テーマ**	アルファベット学習（続） 幼少期の言語学習の補助としての小楽器の利用法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学生が作った教材を使って アルファベット学習を行う 様々な楽器の名称を学び、正しく発音する 楽器を利用して子どもに様々なコンセプトを教える
	教室外学習(予習・復習)の内容	楽器の英語の名称を正しく発音する練習をする 期末グループ発表に向けて準備する
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	**授業テーマ**	幼児教育に使われる楽器について（続） 期末プレゼンテーション開始
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	期末プレゼンテーション： 少人数のグループごと、各自で選んだ英語の童謡・指遊び歌を子ども達に教える、あるいは自作の英語絵本を読み聞かせする 各グループ発表後、他の学生は発表への感想・フィードバックを言う
	教室外学習(予習・復習)の	グループプレゼンテーションの準備

	内容	プレゼンテーションの反省
	教室外学習の時間（分）	90分～120分
第14回	**授業テーマ**	期末プレゼンテーション 学期のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループプレゼンテーションの続き 学生同士ののフィードバック 今学期の振り返り、反省、質疑
	教室外学習(予習・復習)の内容	今学期の授業内容への質問を書き出しておく 今学期の総復習
	教室外学習の時間（分）	90分～120分
第15回	**授業テーマ**	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

上記の予定は、履修学生の数や学生の英語レベルによって柔軟に対応する。また、課題や教材については学生の特性や興味を考慮して決定する。
小楽器は、大学にない場合は講師が持参する。

学生へのフィードバック方法

書記課題(アクティビティ案など）上に直接コメントを記して返却する。評価のよい課題はクラスに見せる。
プレゼンテーションのフィードバックは口頭で授業中に行う。学生同士でも互いにフィードバックをする。

評価方法

平常点 - 授業中の取り組み・態度、ディスカッションへの参加、クラスメートへのフィードバック
筆記課題
学期中間地点でのチェック
学期末プレゼンテーション

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
筆記課題	○	○	○	○
中間テスト	○	○	○	○
学期末プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合

平常点（授業への取り組み、態度・ディスカッションへの参加・クラスメートへのフィードバック等) 30%
筆記課題 20%

中間テスト 20%
学期末プレゼンテーション 30%

使用教科書名(ISBN番号)

指定なし
必要な教材は講師が配布する

参考図書

「From Head to Toe」by Eric Carle
「Big Bear little chair 」 by Lizi Boyd
「1, 2, 3 to the Zoo」 by Eric Carle
「Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?」 by Bill Martin Jr.
他

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】英語のナーサリーライムや英語圏の児童文化についての知識を深め、それらを子どもの発達レベルに相応しい活動に利用できる。
【思考・判断】歌唱、身体表現や絵本の読み聞かせなど、幼小児に有意義な活動を英語で行える。
【関心・意欲・態度】他文化、特に児童文化への関心を示し、積極的に英語の教材を習得する。英語の基本的なコミュニケーションがとれる様に努力する。
【技能・表現】英語の歌や手あそびの技術、その表現法を子どもたちに伝えることができる。

オフィスアワー

授業の後に教室で個々に質問を受ける
必要に応じて学生は直接講師にアポイントメントをとる

学生へのメッセージ

授業中の積極的な参加が求められます
わからない事は率先して聞くこと

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		担当教員は、ピアノ・音楽教師として長年の経験があり、またアメリカに長く在住、現地の大学で幼児教育、子どもの発達学の教鞭をとった。英語の童謡や遊びを用いて様々な文化の子ども達と接して来た経験を活かして授業を行う。
アクティブ・ラーニング		学生は自主的に英語の絵本や童謡を探索する。 授業中は、学んだことを積極的に応用、実践する。質問を進んでする。 授業外でも、習得中の事を応用できる機会を見つけて実践する。 学生同士で適切なフィードバックをする技術を身につける。
情報リテラシー教育		英語の児童文学を検索するのに大学や近隣の図書館を有効に活用する。
ICT活用		自身の英語の学びや子どもに教える教材として、動画などを有効に利用する。

講義コード	G04075001
講義名	児童と外国語Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P30602M21

授業概要(教育目的)

この授業では、英語の絵本について学ぶ。絵本の歴史、絵本のテクニックなどについて理解し、①から④までの内容を学び、実際に英語の絵本を読んで子どもたちに英語絵本の楽しさを教えられるレベルをめざす。
①児童の外国語教育及び、日本語を母語としない児童に対応するための言語教育として、なぜ「児童文学」が適しているのかについて考え、児童文学（絵 本・子ども向けの歌や詩等）に関する理解や外国の文化に関する基本的な事柄を理解することができる。
②子どもの外国語(英語)学習に、なぜ「児童文学」が適しているのか。本物の文学作品がもつ、ことば、リズム、物語の構造などを理解し、児童文学に書かれている言葉や表現を活用して、英語の音声やリズムを体得する。
③実践指導に必要な子どもの特質を活かした教授法や第二言語習得理論、異文化理解教育を踏まえた指導法及び、Classroom English等の基礎的な知識と英語コミュニケーション能力を習得する。
④2024年度から導入されるデジタル教科書等、ICT機器を積極的に活用して音声指導・文字指導（４技能５領域）及び、視聴覚教材（絵本やデジタル教科書等）等の効果的な活用の知識と指導を習得する。

履修条件

積極的に授業に参加できることを望みます。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	外国語（英語）の絵本について理解し、子どもに伝えられる。
思考・判断の観点 (K)	どのような外国語（英語）の絵本が子どもたちに適切か判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に外国語（英語）の表現を学び、子どもたちに英語の面白さ、楽しさを伝えることができる。
技術・表現の観点 (A)	自信をもって子どもたちに英語の絵本の読み聞かせができる。

学習計画

児童と外国語A

第1回	授業テーマ	オリエンテーション（授業概要の説明） 英米文学における児童文学の役割について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	英語での自己紹介 （これまで読んだことがある英語の絵本や知っている英語の絵本について） Nursery RhymeとMother Goose についてのクイズ
	教室外学習(予習・復習)の内容	英語の絵本と自分との関わりについて簡単な英語で紹介する準備
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	Mother Goose について（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Mother Goose を活用して、英語の歌やチャンツ遊びを考える。 Pease porridge hot,や Twinkle, twinlke, Little star等の手遊び歌から、英語圏の母語教育について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付するプリントやネットの情報内容を理解し、活用する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	Mother Goose について（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イギリス児童文学の歴史について学ぶために、Mother Goose を活用した歌やチャンツ、 Here we go round the mulberry bush, London Bridge is broken down, Humpty Dumpty sat on a wall等を活用して、幼児や児童の日本の外国語活動に活用できる指導法について考える。 絵本の基本概念について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部第一章を読んでおく。 配付するプリントの内容を理解する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	絵本のテキスト（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の子ども達に対する英語教育について、。 ①ICTを活用した教材を作成し、②歌とチャンツの効果等から、Mother Goose を活用して、指導について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部第２章を読んでおく。 配付するプリントの内容を理解する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	絵本のテキスト（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の子ども達に対する英語教育について、①絵本の視覚表現、色彩表現、時間と空間の表現等の利点を踏まえて、絵本の機能と技法について学ぶ。 ②ICT活用で作成した絵本教材を使って、Mother Goose の歌とチャンツでの発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部第2章を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	Mother Goose の歌とチャンツでの発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	ICTを活用した絵本教材を使って、学習したMother Goose の歌とチャンツの中から１曲を選んで、発表する。

第6回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	ICT教材の作成、指導案を用意する
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	子どもの発達と絵本
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの発達段階を踏まえた絵本について 日本の外国語活動や外国語教育で扱っている絵本について学び、その指導法などについて考える。 Five Little Monkeys jumping on the bed, Tiny Boppers, Who stole the Cookies?
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部第３章を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	絵本の種類（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	物語絵本について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部第４章を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	絵本の種類(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々なジャンルの絵本について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部第４章を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	英語の絵本の実際（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	英語の絵本を読み、日本の子ども達に言語学習と異文化理解教育を指導することを学ぶ。 子ども達に絵本の読み聞かせを行うためにICT教材を作成する。 Brown Bear,Brown Bear, What do you see? 日本で作成された英語の絵本について比較し、日本の子ども達に言語学習と異文化理解教育を指導することを学ぶ。 A Teddy Bear 絵本はプリントを配付する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実際に声に出して読む練習をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	英語の絵本の実際（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	英語の絵本を読み、日本の子ども達に言語学習と異文化理解教育を指導することを学ぶ。 子ども達に絵本の読み聞かせを行うためにICT教材を作成する。 Today is Monday 絵本はプリントを配付する。
	教室外学習(予習・)	実際に声に出して読む練習をする。

	復習 の内容	
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	英語の絵本の実際（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	英語の絵本を読み、日本の子ども達に言語学習と異文化理解教育を指導することを学ぶ。 子ども達に絵本の読み聞かせを行うためにICT教材を作成する。 Dear Zoo 絵本はプリントを配付する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実際に声に出して読む練習をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	**授業テーマ**	英語の絵本の実際（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	英語の絵本を読む。日本の子ども達に言語学習と異文化理解教育を指導することを学ぶ。 子ども達に絵本の読み聞かせを行うためにICT教材を作成する。 The Very Hungry Caterpillar 日本で作成された英語の絵本について比較し、日本の子ども達に言語学習と異文化理解教育を指導することを学ぶ。 A Beautiful Butterfly, 絵本はプリントを配付する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実際に声に出して読む練習をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	**授業テーマ**	まとめと期末プレゼンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでに学習した内容についての総復習として、英語の絵本から１つ選んで、ICT教材を活用してプレゼンテーションを行う。 各自での発表後に、自身の振り返りと他学生からの感想等のフィードバックを行い、次の学習につなげる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導案と発表の準備
	教室外学習の時間（分）	180分
第15回	**授業テーマ**	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

履修者数、授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

授業では随時パフォーマンス発表等を行い、内容を確認する。

評価方法

・平常点（授業中の実績）と最終試験としての発表の結果から判定する。

・授業中の実績には振り返りや小テストの結果を含める。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
試験	○	○	○	○

評価割合

平常点（授業中の実績）50%、試験50%で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

生田美秋他編著（2013）『ベーシック絵本入門』ミネルヴァ書房
978-4-623-06433-5

参考図書

授業中に指示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学を構成する6領域を総合的に理解し、子どもに関する専門てきた知識を修得した上で外国語を指導できる。
【思考・判断】子どもと直接ふれあい学びあう実践的な機会を通して、学生自らがさまざまな課題に柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】子どもたちの健全な成長・発達のために使命感を持って行動でき、子どもたちへの外国語の指導に意欲的い取り組むことができる。
【技能・表現】子どもの専門家として外国語を指導することができ、豊かな表現力・コミュニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー

授業後に受け付けますが、予め連絡をメールで下さい。
連絡先は、授業のはじめにお伝えいたします。
但し、緊急を要する場合は、授業後すぐに対応致します。

学生へのメッセージ

自信をもって子ども達に外国語（英語）を教えられるように、授業では積極的・主体的に取り組んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		担当教員は、教員養成大学・大学院で早期英語教育の研究と実践指導の経験、また、子ども英語教育の専門家として、教育委員会での実際に子どもの指導をするモデルレッスンや、大学附属幼稚園での指導等、子ども英語の指導経験も豊富である。 英語圏での調査研究をはじめとし、バイリンガル教育等で関わった諸外国の児童の言語教育の研究を活かした授業を行う。
アクティブ・ラーニング		授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。 絵本の読み聞かせ等の実践を習得するために、積極的に参加することが求められる。 受講者同士での「協働的な学び」として、パフォーマンス発表等でクリティカルな視点からのフィードバックができるように努力したい。
情報リテラシー教育		英語の絵本をはじめとし、世界の児童文学について調査できるように、ネット検索、図書館を活用する。

ICT活用		授業では、視聴覚教材を利用して、効果的な指導法について考察する。 学生の英語コミュニケーション力向上のために、ICT教材を積極的に活用する。

講義コード	G04076001
講義名	児童と外国語Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P30603M21

授業概要(教育目的)

本講義では、外国語としての英語の特徴（音声、形態、意味、統語、語用など）について、日本語と英語の比較を通して相違点や類似点を分析する「ことばへの気づき」を働かせながら主体的に学習に取り組み、実際の外国語指導の中で活用できる知識及び技能を身につけることを目標とする。また、家政学や他の講義内容（「外国語科教育法」等）と関連付け、幼児や児童を対象とした活動や授業を協働で考案し、模擬実践の発表を行う。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	外国語としての英語の特徴（音声、形態、意味、統語、語用など）について理解する。
思考・判断の観点 (K)	日本語と英語の比較を通して相違点や類似点を分析することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	ことばの豊かさに対する理解を深め、主体的に学習に取り組む態度を養う。
技術・表現の観点 (A)	外国語としての英語についての知識を活用した外国語指導を展開することができる。

学習計画

児童と外国語B

第1回	**授業テーマ**	「英語」とは何者なのか？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「英語」に対する自身の考え方を共有し省察するとともに、新たな視点を獲得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に指示された学習課題を行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	英語の「音声」(1)

第2回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本語と英語の「音声」における相違点や類似点を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に指示された学習課題を行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	英語の「音声」⑵
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校外国語教材等において、英語の「音声」がどのように扱われているのかを調査し活用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に指示された学習課題を行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	英語の「形態」⑴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本語と英語の「形態」における相違点や類似点を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に指示された学習課題を行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	英語の「形態」⑵
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校外国語教材等において、英語の「形態」がどのように扱われているのかを調査し活用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に指示された学習課題を行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	英語の「意味」⑴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本語と英語の「意味」における相違点や類似点を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に指示された学習課題を行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	英語の「意味」⑵
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校外国語教材等において、英語の「意味」がどのように指扱われているのかを調査し活用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に指示された学習課題を行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	英語の「統語」⑴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本語と英語の「統語」における相違点や類似点を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に指示された学習課題を行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	英語の「統語」⑵
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校外国語教材等において、英語の「統語」がどのように扱われているのかを調査し活用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に指示された学習課題を行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	英語の「語用」⑴

第10回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	日本語と英語の「語用」における相違点や類似点を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に指示された学習課題を行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	英語の「語用」⑵
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校外国語教材等において、英語の「語用」がどのように扱われているのかを調査し活用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に指示された学習課題を行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	活動考案⑴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学習してきた内容を基に、幼児や児童を対象とした活動や授業を協働で考案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に指示された学習課題を行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	**授業テーマ**	活動考案⑵
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考案した活動や授業の概案を他者と共有し、改善点や新たな視点を探求する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に指示された学習課題を行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	**授業テーマ**	発表と総括
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考案した活動や授業を模擬実践し、これまでの学習と合わせて省察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に指示された学習課題を行う。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

学習計画の詳細は、第1回目の授業で提示いたします。
また、履修者数や授業の進み具合により学習計画が変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

ワークシート記述などに対して、次回の授業時においてフィードバックする。

評価方法

平常点、ワークシート記述、活動案・学習指導案、模擬実践

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点		○	○	○
ワークシート記述	○	○	○	
活動案・学習指導案	○			○
模擬実践		○		○

評価割合

平常点（30%）、ワークシート記述（30%）、活動案・学習指導案（20%）、模擬実践（20%）
※各評価基準の詳細は、授業内においてルーブリック等を用いて提示いたします。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

文部科学省 (2017).「小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 外国語活動・外国語編」https://www.mext.go.jp/content/20220614-mxt_kyoiku02-100002607_11.pdf
※その他の参考図書等は、授業内において随時紹介いたします。

ディプロマポリシーとの関連

本講義での学習を通して、生活者視点で人間らしい社会の創造に貢献するための実践力を体得するとともに、外国語指導の専門性を高めることができる。

学生へのメッセージ

「ことばの豊かさ」を体感し、よりよい言語学習者・指導者を共に目指しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学生を主体とした活動を軸とし、学生同士による協働的な学びを展開する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	模擬実践内容の考案において、ICTを積極的に活用した教材開発を行う。

講義コード	G04077001
講義名	児童と文学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	竹内 識晃	指定なし

ナンバリング

P40501M21

授業概要(教育目的)

題目：子どもと文学
・保育者、教育者を目指す学生が講義の履修を通じて、子どもと文学に関わる教養を身につけ、子どもの年齢にふさわしい児童文学を選書する力を養うことを目指す。
・児童文学の代表的な作品を紹介し、子ども読者の視点から読み解く。
・児童文学のジャンル（伝承文学、ファンタジー、絵本など）の特徴を考察する。
・保育、教育における絵本の役割と文脈理解力など言語能力との関わりを考察する。
・国語科教育における児童文学の教材化と想像力の育成を考察する。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・児童文学に関する用語など基本的な知識を身につけている。 ・児童文学を読んで理解したことを自分の言葉で説明できる。
思考・判断の観点 (K)	・児童文学が扱うテーマや作品の評価について自分の考えを言語化できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・子どもに手渡す視点を意識して児童文学を選書することができる。
技術・表現の観点 (A)	・児童文学の楽しさを伝える表現方法を学び、子どもに向けて情報発信することができる。

学習計画		
第1回	授業テーマ	ガイダンス・児童文学への誘い
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の概要と目的を確認し、授業のやり方や成績評価のポイントについて説明する。子どもを読者対象にした文学、「児童文学」について考える。子どもの本の分類（ジャンル別・形式別・対象年齢別）を確認する。書誌情報の検索方法や子どもの本の探し方について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：読書経験を振り返り、幼児期に読みきかせ等で印象に残った絵本、小学生の時に読んで印象に残った本を１冊ずつ選び、「書名」「作者名」「出版社名」「出版年」をそれぞれ調べてくる。 復習：配付資料を再読し、学習内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	海外の児童文学(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子ども観の変遷を確認し、イギリスとアメリカの児童文学史を概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：前時に配布した資料を再読してくる。 復習：配付資料を再読し、学習内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	日本の児童文学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の児童文学史を概観する。神沢利子『くまの子ウーフ』を読み、幼年童話の特徴を確認する。「童話」「おとぎばなし」「幼年文学」「ＹＡ文学」などの語義を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：前時に配布したプリントを再読してくる。 予習：配付資料を再読し、学習内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	海外の児童文学(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	ルイス･キャロルの『不思議の国のアリス』を取り上げ、海外の児童文学の翻訳の違い（全訳と抄訳、翻案）について考える。複数の日本語訳を比較し、翻訳者の表現上の工夫を捉える。作品中の「言葉遊び」も考察する。伝承童謡として「マザーグース」を取り上げ、子どもの世界で伝承されてきた「ナーサリー・ライム」と「わらべうた」を紹介する。

第4回	用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：前時に配布した資料を再読してくる。 復習：配布資料を再読し、学習内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	児童文学としての伝承文学(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童文学としての伝承文学を考える。伝承文学のジャンル（神話、伝説、昔話）を確認する。伝承文学と創作文学の違いを考えるために、グリム童話とアンデルセン童話を例に取り上げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：グリム兄弟とアンデルセンについて調べておく。 復習：配布した資料を再読し、学習内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	150分
第6回	授業テーマ	児童文学としての伝承文学(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	昔話について考える。昔話の研究方法の違いを解説する。グリム童話の「赤ずきん」とペロー童話の「赤ずきん」を比較して読み、類話について理解する。子どもに本を紹介する立場から昔話の残酷性や昔話のパロディー作品についても考察する。昔話のパロディーとして、ロアルド・ダールの作品を取り上げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：第6回の授業前日までに課題を提出する。 復習：配付資料を再読し、学習内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第7回	授業テーマ	児童文学と絵本(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童文学の絵本化を考える。グリム童話の絵本を取り上げ、昔話絵本の再話を考える。同じ話型の昔話絵本を比較し、再話のされ方の違いを検討する。また、宮澤賢治の絵本を取り上げ、物語絵本を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：宮澤賢治の「注文の多い料理店」を読んでおく。 復習：配布資料を再読し、学習内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分

第8回	授業テーマ	ファンタジー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ファンタジーを「異世界もの」と「エブリデイマジック」に分けて考察する。作品はライマン・フランク・ボームの『オズの魔法使い』、アーシュラ･ル・グウィン『影との戦い』を取り上げ、ファンタジーの特徴を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配付資料を読み、クイズに答える。 復習：配布資料を再読し、学習内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	児童文学と戦争
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童文学は戦争をどのように伝えようとしているのか。児童文学に描かれた戦争を取り上げ、戦争を物語で学ぶ必要性を考える。小学校国語科教科書で学ぶ作品も考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：戦争と平和を文学で表現する意味について自分の意見を文章にまとめてくる。 予習：配付資料を再読し、学習内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	児童文学と教科書
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校国語科教科書に採録された児童文学の名作を読み、教材としての児童文学を考えてみる。新美南吉「ごんぎつね」を読み、受講者同士で作品の魅力を伝え合う。子どもを主体的な読み手を育てる読書について考える。国語科の読書単元や並行読書について考察し、子どもの読書活動の推進に役立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：新美南吉の「ごんぎつね」を読んでおく。 復習：配付資料を再読し、学習内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	児童文学と絵本(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	絵本の評論や書評を読み、絵本の選び方、絵本を紹介する表現や技術を学ぶ。なかやみわ『くれよんのくろくん』を読み、子どもに伝えようとしているメッセージを考え、意見交流をする。

	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：子どもの頃に読んで印象に残った絵本を１冊選び、書名、作者名、出版社名と選書理由を書いてくる。 復習：配付資料を再読し、学習内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	児童文学とメディア
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童文学を映像化した作品（アニメや実写映画）を概観する。グリム童話を映像化した作品を取り上げ、メディアの特性を考えた上で文学作品と映像作品を比較する。「シンデレラ」「白雪姫」などのディズニー作品での昔話の翻案のされ方についても触れる。また、「魔女の宅急便」「ハウルの動く城」などの宮崎駿監督作品を取り上げ、その原作を紹介し、児童文学の再創造について考察する。昔話の語りやオーディオ・ブックなど耳で聴く、文学の楽しみ方を紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：映像化された児童文学作品を１作品選び、調べておく。原作と映像作品を比較し、異なる点があれば。報告する。 復習：配付資料を再読し、学習内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	児童文学と絵本(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	赤ちゃん絵本を考える。松谷みよ子『いないいないばあ』を取り上げ、赤ちゃん絵本の特徴を確認する。ブックスタート事業での「ブックスタート赤ちゃん絵本」を紹介する。ディック・ブルーナのミッフィーの絵本を読み、子どもの発達段階にふさわしい絵本について考える。絵本の読み聞かせとブックトークについても考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：読み聞かせで使いたい絵本１冊を選び、選書の理由と対象年齢を文章にまとめてくる。 復習：配布資料を再読し、学習内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	現代の児童文学・まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童文学の名作を読み直し、ジェンダーなどの観点から問題点を考える。ヤングアダルト文学やライトノベルにも触れ、ＳＤＧｓについて学べる絵本も紹介する。これまでの講義内容を振り返り、「児童文学」とは、どのような文学かを改めて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：これまでの授業で扱った児童文学作品を一作品選び、自分の考えを文章にまとめてくる。 復習：配付資料を再読し、学習内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

・学習内容は授業の進み具合や受講者の関心等によって変更になる場合があります。
・第１回のガイダンス時に、受講者の関心のある児童文学作品や子どもの本に関するテーマを確認します。授業に反映できるものはします。

学生へのフィードバック方法

・リアクションペーパーに記された質問は、次の授業で取り上げて解説を加え、情報を共有します。
・授業後に、Google Classroomを通じて、質問を受け付けます。
・教室外学習において生じた質問や課題に関する質問はメールにて受け付けます。

評価方法

期末レポート、課題、授業への参加状況（リアクションペーパー、討論への参加、児童文学に関するクイズ、アンケート等）により総合的に評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末レポート	○	○	○	○
課題	○	○	○	○
授業への参加	○	○	○	○

評価割合

期末レポート 40%、課題 30%、授業への参加（討論、リアクションペーパー、クイズ、アンケート） 30%による総合評価。

使用教科書名(ISBN番号)

特定の教科書は使用しない。毎回、資料（レジュメや必要に応じてテキストの抜粋）を配布する。

参考図書

川端有子著『児童文学の教科書 改訂新版』玉川大学出版部、2025年3月。
その他、授業内で適宜指示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童文学の用語やジャンルなどを理解し、作品を読解する力が修得できている。
【思考・判断】児童文学を読み、作品をどう理解したかを自分の言葉で述べることができている。
【関心・意欲・態度】子どもに作品を手渡す視点を意識して、児童文学を捉え、考えている。
【技術・表現】児童文学の魅力を子どもに向けて情報発信する表現力を身につけている。

学生へのメッセージ

・大学生の皆さんが子どもの本をあらためて読み、その魅力に触れる講義にしたいと考えています。
・できるだけ多くの作品を紹介し、子ども読者を意識して本文を精読し、内容を検討します。
・読書を苦手だと感じ、これまで子どもの本をあまり読んでこなかった方の受講も歓迎します。
・授業テーマに関連した絵本を毎回１冊紹介する予定です。絵本に関心のある方は、ぜひ受講してください。
・授業で触れた作品や内容でもう少し深く掘り下げて欲しいことがあれば、リアクションペーパーなどでお知らせください。
・皆さんが今まで読んできた本でおすすめの本を、ぜひ教えてください。

【PCとGoogle Classroomの使用】Google Classroomを通じて、資料や課題を送信します。そのため、Google Classroomの登録は早めにお願いします。また、授業内でパソコンを使うこともあります。課題への質問などは、遠慮なく、メールでお問い合わせください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は、専門図書館の司書、中学校の国語科教諭および司書教諭の実務経験を有している。 ・国語科教諭の経験から、小学校および中学校の国語科教科書に採録された教材としての児童文学を考察する。 ・司書および司書教諭の経験から、子どもの本の選書や子どもの読書活動について解説する。
アクティブ・ラーニング	○	他の受講者や教員の作品解釈や批評を聞き、受講者自身の作品解釈と照合させることで、児童文学への理解が深まるように授業をすすめる。
情報リテラシー教育	○	・子どもの本の書誌情報の検索方法、子どもの年齢やテーマに応じた選書ができるように指導する。 ・子ども読者に向けた本の紹介方法について、著作権に配慮して指導する。
ICT活用	○	・子どもの本の選書をインターネットを通じて行えるように、書誌情報や参考文献の確認方法を指導する。

講義コード	G04079001
講義名	カリキュラム論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	齋藤 義雄	指定なし
教授	中田 範子	指定なし

ナンバリング

P30309M21

授業概要(教育目的)

学校や幼稚園にはさまざまな問題が山積しており、新たな教育のあり方が問われている。そこで重要となるのが、「学校における子どもの学びの総体」であるカリキュラムの充実である。また、カリキュラムマネジメントの重要さも増している。この講義では、カリキュラムやカリキュラムマネジメントをとらえる際に必要な視点や学習指導要領ついての基礎的・基本的事項について、歴史的な視点を通して講義を行う。
また、保育所及び幼保連携型認定こども園における計画の意義やその種類と役割を理解しつつ、保育内容の充実に資する計画と評価の在り方を具体的に学ぶ授業である。乳幼児の育ちを支えるための記録・計画・実践の関連性について理解しながら、よりよい保育のあり方を探ることが目的である。具体的な事例を通した演習や計画の作成を行う。

履修条件

特になし（小学校教諭・幼稚園教諭・保育士資格取得希望の者を含む）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	カリキュラムの意味と意義が理解できる。 カリキュラムに関する基礎的・基本的な知識を獲得し、編成の方法が理解できる。 保育実践における計画の種類とそれらの意味と意義を説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	子どもの発達の様子に即した教育内容・保育内容を吟味しながら、学びを支える教師や育ちを支える保育者の在り方と方法について考え、判断し、計画に反映することができる。
関心・意欲・態度の	教育者・保育者として教育課程（カリキュラム）に関する興味・関心を持つことができる。

観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容を踏まえた表現で、計画を作成することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	計画の意味と意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育の展開における計画の意味と意義について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書（中田）の第９章を予習し、記録の意味と意義について内容を確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	**授業テーマ**	保育の計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	計画の種類と実践・記録・計画の関連について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第１０章を予習・復習し、計画の種類について内容を確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	記録の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼稚園の生活の流れを理解し、幼児の姿を捉える観点と記録の方法について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	初等教育実習Aの手引きをよく読み理解する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	幼稚園の指導計画①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼稚園の短期的な活動の内容案を考案し、活動案の作成について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	年齢に応じた遊び・保育内容に関する資料を収集し、適した保育内容を吟味する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	幼稚園の指導計画②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	内容案を精査し、幼稚園の活動案を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料の演習問題を完成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	幼稚園の指導計画③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した活動案を精査・検討する。
	教室外学習(予習・復	

	習)の内容	活動案を完成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	計画と省察・まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育を展開する手がかりを導くための評価・反省・省察の在り方の実際について理解する。授業内容を復習しながらまとめのレポートを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	幼稚園教育要領に記載の内容について復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	カリキュラムとカリキュラムの類型
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	カリキュラムの意味と意義、カリキュラムの類型を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書（齋藤）の第１章.第２章を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	カリキュラムに関する法制および行政
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	カリキュラムに関する法制および行政、教科書検定制度を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第２章、第３章を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	近代日本のカリキュラム 明治・大正編
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	明治期や大正自由教育、国民学校等を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第４章を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	現代日本のカリキュラム 昭和編
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	戦後の経年主義、教育の現代化と人間化を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第５章を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	現代日本のカリキュラム 平成編
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゆとり教育と生きる力を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第６章を読んでおく。
	教室外学習の時間	

	（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	現代日本のカリキュラム 令和編
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現行の学習指導要領の詳細と、中教審答申の概要について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第７章を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	カリキュラム・マネジメントとカリキュラム評価、反省的実践家の事例
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ＰＤＣＡマネジメントサイクルによるカリキュラム・マネジメントとカリキュラム評価について理解する。カリキュラム・マネジメントと反省的実践家の実践事例。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第９章、第１０章を読んでおくこと。 特色ある保育所、認定こども園、幼稚園、小学校等の実践事例を調べておく。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

授業の進行状況等により、変更の可能性があります。

学生へのフィードバック方法

授業の最初と最後には質問の時間を設定するとともに、授業中以外は研究室に質問に来ること。提出したノートは、確認後返却する。
提出物はすべて添削して授業内に返却する。また、子ども主体の内容になっているが、年齢に応じた保育内容が、保育者として適切な表現を用いているか等を観点として、適宜助言をする。

評価方法

保育分野（中田担当）と教育分野（齋藤担当）の割合は、５０点：５０点とする。
保育分野では、提出された内容案・活動案、日案を点数化して評価する。
教育分野では、授業内小試験は、100点満点で出題する予定である。（コロナの感染状況によっては、レポートとなることがある。）出題の傾向については、最後の授業で説明し、内容は教員採用試験に出題されるような基礎的・基本的内容とする。出題方法は、記述式・選択式の問題を出題する。レポートは、授業で興味を持った内容や特色ある小学校について調べてもらう予定である。授業のノートはきちんと取ること。確認後返却する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
指導案		○		
中間レポート	○	○		○
学期末レポート	○	○		○
ノート	○		○	○
積極的な参加態度			○	

評価割合

保育分野：指導案45%、学期末レポート５５％

教育分野：中間レポート・学期末レポート 70%、平常点30%（ノートの評価を含む）
ルーブリックに基づいて評価する。ルーブリックは授業内に提示する。

使用教科書名(ISBN番号)

保育分野
中田範子『子どもの育ちと環境ー未来を見すえた保育の探究ー』大学図書出版（978-4-907166-88-5）
教育分野
齋藤義雄・倉本哲男・野澤有希『新版教育課程ーカリキュラムマネジメント入門』大学図書出版 2021年
（978－4－909655－51－6）

参考図書

小学校学習指導要領、同解説書、幼稚園教育要領、同解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、同解説書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学を構成する６領域のうち、「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」を総合的
に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・感性が備わっている。
【関心・意欲・態度】教育者・保育者として学習内容に関する興味・関心を持つことができる。
【技能・表現】保育者・教育者として求められる豊かな表現力を身につけている。

オフィスアワー

火曜日2限目(齋藤)
火曜日3限目(中田)

学生へのメッセージ

学習を進めていく中では疑問点を持つことは大切です。質問がある場合には、遠慮せずに申し出てく

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、幼稚園・保育所で教諭・保育士として実務経験を有しており、幼稚園、保育所の実際について理解し、実務経験に基づいて教授している。 担当教員は、小学校で教諭として実務経験を有しており、巡回訪問等で幼稚園、保育所、認定こども園等の保育の実際について理解し、実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	計画作成にあたりグループ討議を行う。レポートに関するグループ討議を行い、話合いに関してプレゼンテーションを実施する。
情報リテラシー教育	○	幼児に適した保育内容に関する情報を収集するとともに、特色ある小学校に関する情報を収集し、指導案作成等に活用する。
ICT活用	○	パワーポイントを活用したプレゼンテーションを授業で取り入れるように心がけるとともに、授業を録画し、欠席者等にＹＯＵＴＵＢＥで公開できるように努める。

講義コード	G04080001
講義名	子育て支援
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	井上 清美	指定なし
非常勤講師	勝山 幸	指定なし

ナンバリング

P30402M12

授業概要(教育目的)

子育て支援のニーズが多様化、複雑化する中で、保育者が保護者に寄り添いながら、共に子育てをしていくために何が必要かを考える。授業の目的は以下の2点である。
１．保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。
２．保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	保育士が保護者に対して行う「保育相談支援」について具体的に説明できる
思考・判断の観点 (K)	現代社会における子育ての困難の問題を理解できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	子育て困難の保護者に対して関心を寄せ続け、また一人一人に即した方法で関与しようとする意欲を持つことができる
技術・表現の観点 (A)	地域の社会資源や多職種間連携を通じて子育て困難にある保護者に対してアクセスする技術や、表現の方法を理解し、活用できる

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教員の自己紹介 授業の概要 学生からの質疑応答
	教室外学習(予習・復習)の内容	子育て困難についてインターネットで調べる
	教室外学習の時間（分）	２４０
第2回	授業テーマ	子どもの保育とともに行う保護者の支援①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育士には、在園児の保護者や地域の子育て家庭を支援する役割があることを理解する。保育士の専門性を生かしながら、子ども・子育て家庭を支えていく姿勢について事例をもとに考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に「保育所保育指針」4章「子育て支援」を読み、内容をまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	２４０
第3回	授業テーマ	子どもの保育とともに行う保護者の支援②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代社会における家族・家庭の多様性を理解し、保護者や個々の家庭が抱える様々な支援ニーズについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に、インターネットや映画、小説、アニメなどから自分の理想と考える家族像を探して、その特徴をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	２４０
第4回	授業テーマ	日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所保育指針の内容をふまえ、保護者との相互理解や信頼関係とはどのようなものか理解する。また保護者と信頼関係を形成する上で必要なことについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で配布した事例プリントを読み、保護者への適切な言葉がけを考え、課題を作成する。
	教室外学習の時間（分）	２４０
第5回	授業テーマ	日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所に求められる子育て支援の意義や役割を理解し、支援内容について学ぶ。保護者の不安や悩みに寄り添い、支援していくための基本的姿勢を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で配布した事例プリントを読み、保護者への適切な言葉がけを考え、課題を作成する。
	教室外学習の時間（分）	２４０
第6回	授業テーマ	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域子育て支援が必要とされる背景と、地域子育て支援拠点やその他のサービス内容と支援について解説する。保育所の特性を活かした子育て支援のあり方を、具体例をもとに学ぶ。

	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に、自分の住む自治体の地域子育て支援拠点のHPを確認し、どのようなサービスが行われているか調べる。
	教室外学習の時間（分）	２４０
第7回	**授業テーマ**	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近年、保育所でニーズの高まる子育て支援、例えば外国籍家庭への支援や障害のある子どもとその保護者への支援等について解説する。実際に取り組まれている支援内容を、事例をもとに学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で配布した事例プリントを読み、保護者への適切な言葉がけを考え、課題を作成する。
	教室外学習の時間（分）	２４０
第8回	**授業テーマ**	ソーシャルワークを軸とする子育て支援の展開
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	継続的支援が必要な家庭に対しては、園内外の関係者の協働が必要になる。この際用いられるソーシャルワークの軸を理解し、ケース検討における保育士としての役割を、事例をもとに学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で配布したプリントを読み返し、園内外の関係機関の理解を確認する事後課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	２４０
第9回	**授業テーマ**	社会資源の活用と多機関連携①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子育て支援は、保育所等以外の地域の様々な施設でも実施されている。近隣地域の子育て支援マップを作成し、保育所等の保育士は地域社会資源をどのように活用できるかを考える（グループワーク）。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で課題が終わらなかったグループは担当を決めたうえでマップを完成させておく。
	教室外学習の時間（分）	２４０
第10回	**授業テーマ**	社会資源の活用と多機関連携②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループで作成したマップの発表とディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表前に担当を決め発表準備をしておく。授業後は各自がワークを通した気づき（課題）をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	２４０
第11回	**授業テーマ**	保育士の行う子育て支援とその実際（保育所等における支援①）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所等で行われる子育て支援について演習を行う。保育相談技術を理解し、援助の技術について演習を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前共有の事例について、自分の対応方法を整理した上で授業の演習に臨む。授業後に振り返る（課題）。
	教室外学習の時間（分）	２４０
	授業テーマ	保育士の行う子育て支援とその実際（保育所等における支援②）

第12回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所等で行われる子育て支援について演習を行う。援助技術を活かすための方法（対話や文字情報、ICTの活用等）について演習を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前共有の事例について、自分の対応方法を整理した上で授業の演習に臨む。授業後に振り返る（課題）。
	教室外学習の時間（分）	２４０
第13回	授業テーマ	保育士の行う子育て支援とその実際（地域の子育て家庭に対する支援①）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域の子育て家庭向けのイベントを企画し、入所児童の保護者に対する支援とはどのような違いがあるのか、どのような視点が必要かを考える（グループワーク）。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で課題が終わらなかったグループは担当を決めたうえで企画書を完成させておく。
	教室外学習の時間（分）	２４０
第14回	授業テーマ	保育士の行う子育て支援とその実際（地域の子育て家庭に対する支援②）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループで検討した地域の子育て家庭向けイベントの発表とディスカッション
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表前に担当を決め発表準備をしておく。授業後は各自がワークを通した気づき（課題）をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	２４０

学習計画注記

グループワークやディスカッション、発表を中心とした授業を行う。

学生へのフィードバック方法

レポートへのコメント付記、リアクションペーパでのレスポンスなど。

評価方法

・各回で提出される課題の内容（自分なりの意見が導き出され、自分の言葉で表明されているか）
・グループワークや発表への取り組み
・期末レポート
成績評価はルーブリックに基づいて行う。ルーブリックはクラスルームで提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末試験	○			○
レポート			○	○

評価割合

担当教員による総合点評価
グループワークや発表、各回の課題 60%
期末レポート40%

期末試験40%、グループワーク等への取り組み30%、授業ごとの課題 30%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

授業内で紹介する

ディプロマポリシーとの関連

【知識・技術】
・児童学を構成する 6 領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
児童学を構成する児童の福祉を現代社会における「子育てt支援」について総合的に学び理解できる
【思考・判断】
・子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる・家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーシ
ョン能力・感性が備わってい 子育て困難にある家庭に対して社会や資源と協働し、コミュニケーションの能力を高める
【関心・意欲・態度】
・子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる・
【技術・表現】
子育て困難な人へのアプローチの方法としての「コミュニケーション能力」を高め、授業を踏まえた実践活動を志向する
【技能・表現】
・本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる・保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につ ソーシャルワークの展開方法を学び、この中で、バイステッィクのケースワークの原則を理解し、コミュニケーションの方法を深める

オフィスアワー

井上：火曜３限 千代田三番町キャンパス1701ゼミ室
（オンラインでも対応します）

学生へのメッセージ

現在、子育て支援は、保育者の重要な役割となっています。保護者との関係づくりに不安を抱いている人もいるかもしれませんが、この授業でロールプレイングやグループワークへ積極的に取り組み、実践的に学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	ソーシャルワーカやセラピストの経験がある担当教員はできるだけ事例に即して授業展開を行う
アクティブ・ラーニング		授業では、事例を用いて、グループワークなどを通じて、他者から学ぶことを目指す
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04082001
講義名	子ども家庭支援論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	新開 よしみ	指定なし
非常勤講師	赤沼 未佳	指定なし

ナンバリング

P30404M21

授業概要(教育目的)

現代において社会的な子育て支援が必要となった背景、家族を取りまく社会状況、子育て支援体制の現状をふまえ、家庭支援の実際や関係機関との連携のあり方について事例を通して具体的に考えることを目的とする。前半（担当：新開）は、保育の場における保護者支援や地域の子育て支援の実際について学ぶ。後半（担当：赤沼）は，障害のある子どもとその家族の支援についての理解を深める。家族が子どもの誕生から成長に伴い，どのような生活問題に直面することになるのかを考えていくことにより，家庭支援のあり方について学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・保育の場に求められる家庭支援の意義と基本的事項について理解し、説明できる。 ・障害のある子どもとその家族の抱える様々な困難について理解し、いくつかの支援方法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	事例検討において、家庭のニーズに応じた支援方法について考えたり、提案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	課題（探究学習を含む）やグループワークに意欲を持って取り組み、積極的に参加することができる。
技術・表現の観点 (A)	事例理解の手法を必要に応じて活用することができる。

学習計画

	授業テーマ	現代の子育てについて考える

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代の子育て家庭の抱える課題について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料をよく読み、指定された課題に取り組み理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	子ども家庭支援の意義と役割
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所保育指針「子育て支援」の内容と現代の子育て家庭の課題を関連づけて考えることにより、保育所における家庭支援の意義と目的についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料をよく読み、指定された課題に取り組み理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	
第3回	授業テーマ	保育士・保育教諭による子ども家庭支援の基本
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所や地域子育て支援施設における環境を通した子育て支援の原則、保護者と連携して子どもの育ちを支える視点、子どもの育ちを保護者と共に喜び合う基本的態度について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料をよく読み、指定された課題に取り組み理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	保育士・保育教諭による支援の実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日常のやりとり、行事を生かした支援など、保育と連動した具体的な支援の方法について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料をよく読み、指定された課題に取り組み理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	事例報告会（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自が調べた「保育者の行う子育て支援の実際」の事例を報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	報告の準備（プレゼン資料の作成、発表練習）

	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	事例報告会（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自が調べた「保育者の行う子育て支援の実際」の事例を報告する。事例報告会のふりかえりとまとめを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	報告の準備（プレゼン資料の作成、発表練習）
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	多様な支援の展開と関係機関との連携
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	要保護児童、要支援児童を取り巻く地域ネットワークの役割や対応例について理解する。社会資源、エコマップについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前半まとめレポートの作成
	教室外学習の時間（分）	210分
第8回	**授業テーマ**	障害の基礎的な知識
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育や幼児教育の現場で関わる可能性の高い障害について確認する。また、子どもの障害によって保護者がどのような大変さを抱えやすいのかについて理解を深め、保育者として保護者にどのように寄り添うことができるか事例を通して考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料をよく読み、理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	家族が子どもの特性について理解を深めていくための援助
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害のあるお子さんの認知や行動について、家族がより深く理解し、互いに良好なコミュニケーションを持つことができるようになることを目指して、どのような援助が行われているのかをいくつかの支援方法を通じて学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料をよく読み、理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	ことばの遅れ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	ことばの遅れは幼児期のお子さんを育てている保護者が抱きやすい悩みである。前半はことばの遅れの要因にはどのようなものがあるのかについて確認し、後半はことばを促す関わりや生活面の配慮について事例やワークを通して学習する。

第10回	を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料をよく読み、理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	トイレットトレーニング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児期には保護者・保育者・お子さんが協力してトイレットトレーニングに取り組むことが必要となる。前半は一般的なトイレットトレーニングの流れを確認し、後半は障害のあるお子さんの場合にどのような配慮や工夫が必要となるのかを事例やワークを通して学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料をよく読み、理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	家族は子どもの障害をどのように受けとめていくのか
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害のあるお子さんを育てているご家族が、お子さんの障害をどのように受けとめていくのかについて、いくつかの学説や当事者のお母さんの手記に触れながら理解を深める。また、家族の一員である「きょうだい児」の心理や支援についても学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料をよく読み、理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	障害をお持ちのお子さんを育てていらしたお母さんのお話から学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害をお持ちのお子さんを育ててこられたお母さんへのインタビュー動画を視聴し、子育てを通して感じる喜びや困難について理解を深める。また、動画内で紹介される病棟保育士の様子を参考にして、病棟内での遊びについて考えるワークに取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料をよく読み、理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	後半の授業のまとめと最終課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学んできたことを活かし、授業時間内に以下の課題に取り組む。①自分の幼少期を振り返り、自分自身を対象児とした就学支援シートを保護者の視点から作成する②前回の授業で動画を通じてお話を聞かせてくださったお母さんへのお礼のメッセージカードを作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	最終課題に取り組むためには、第13回で視聴した動画の内容を整理・把握しておくことと、自分自身の幼少期(主に年長～小学一年生)を振り返っておくことが必要になります。
	教室外学習の時間（分）	210分
	授業テーマ	

第15回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

＊授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業中に記述したコメントペーパーや事例検討などについては、適宜次週以降の授業中に紹介し、授業内容の理解に役立てていく。
質問がある場合には授業の前後または研究室（mailも可）に積極的に声をかけること。

評価方法

平常点（提出物、授業態度、出席状況など）20%、課題（発表を含む）40%、レポート40%の割合で評価する。レポートの課題については授業中に説明する。評価のポイントに関しては、ルーブリックを提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
課題探究学習	○	○	○	○
定期試験（レポート）	○	○	○	○

評価割合

平常点（提出物を含む）20%、課題探究学習（発表を含む）40%、レポート40%の割合で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

保育所保育指針
幼保連携型認定こども園教育・保育要領

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子ども家庭支援にかかわる専門的な知識を修得する。
【思考・判断】家庭・地域・社会と協働しながら「共に育つ」ことのできる想像力・コミュニケーション能力・感性を磨く。
【関心・意欲・態度】子ども家庭をめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子ども家庭の健全で豊かな育ちのために使命感を持って行動できる。
【技術・表現】保育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につける。

オフィスアワー

新開：金曜日 ４時限 1635研究室

学生へのメッセージ

保育士資格の必修科目です。保育施設に通う子どもの家庭、地域の子育て家庭、障害のある子どもの家庭など、さまざまなニーズをもつ家庭への支援について、興味関心を持って受講してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	後半を担当する赤沼先生は療育センターでの実務経験を有する。
アクティブ・ラーニング	○	前半はグループディスカッション、課題探究学習及び発表等を通し、主体的・能動的に学びを深めていく。 第８回～第１２回の授業では、授業テーマと関連する絵本をグループに分かれて読み聞かせ合い、ワークシートへ記入する活動を行う。絵本を通して授業の内容への理解を深めるとともに、読み聞かせの際に配慮する点について意識を向ける機会とする。(絵本は講師の方で準備致します)
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	内容に応じてPCを活用した双方向型授業を展開する。

講義コード	G04084001
講義名	家庭科教育
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	室矢 真弓	指定なし

ナンバリング

P10303M21

授業概要(教育目的)

小学校家庭科について、教育課程における位置付けや意義、目標等について理解し、実際の指導内容等について歴史的な側面を踏まえて学ぶ。また、学習指導要領を通して、現在、小学校で進められている家庭科教育の現状を把握し、これからの家庭科教育のあり方を視野に入れながら研究する。実際の講義にあたっては、①家庭科教育の変遷と今日的意義、②小学校家庭科における目標と内容、③家庭科における教材研究と授業展開、評価規準の活用、他教科との関連等について理論と実践を結び付けて学ぶ。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家庭科教育の意義と目的、果たす役割について理解できる
思考・判断の観点 (K)	家庭科教育が目指す視点をもとに思考・判断することができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	家庭科授業構想力と実践的指導に必要な資質を身に付けようとしている
技術・表現の観点 (A)	学習指導要領に基づき家庭科の学習指導計画を立てることができる

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション 家庭科教育の概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	これまで経験した家庭科授業をもとに、家庭科教育全体像をつかむ。 シラバス、評価及び評価方法（ルーブリックを含む）につい

第1回	育・ICT活用を含む)	て確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習指導要領や家庭科教科書に目を通し、学習内容を確認。家庭科教育の今日的意義を考える。
	教室外学習の時間(分)	200分
第2回	授業テーマ	家庭科教育の変遷と今日的意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科教育の歴史的変遷を把握し、家庭生活の社会的変化に伴う家庭科教育の今日的意義を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習内容の振り返り。学習指導要領に目を通す。
	教室外学習の時間(分)	200分
第3回	授業テーマ	小学校家庭科における目標と内容
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習指導要領に基づき、小学校家庭科の目標と内容を把握し、年間教育計画や学習指導案の内容、評価方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習指導要領の小学校家庭科の目標と内容読み込み。「家族・家庭生活」について小学校家庭科教科書に目を通す。
	教室外学習の時間(分)	200分
第4回	授業テーマ	教材研究と授業研究（１）「家族・家庭生活」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「家族・家庭生活」の目標・教材分析を通して指導内容を理解する。指導上の留意点や配慮事項について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「家族・家庭生活」について学習指導要領を見直す。「衣生活」について小学校家庭科教科書に目を通す
	教室外学習の時間(分)	200分
第5回	授業テーマ	教材研究と授業研究（２）「衣生活」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「衣生活」の目標・教材分析を通して指導内容を理解する。指導上の留意点や配慮事項について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「衣生活」について小学校家庭科教科書の教材分析の見直し。布製作に向けて方法を確認し準備する。
	教室外学習の時間(分)	200分
第6回	授業テーマ	生活を豊かにするための布を用いた製作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	布を用いた製作をミシン縫い及び手縫いを実践する。小学校て行われている基礎的な裁縫の手順を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実践した「基礎的な縫い方」を復習する。
	教室外学習の時間(分)	200分
第7回	授業テーマ	「衣生活」の授業の実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「衣生活」布を用いた製作に関する授業研究を行い、具体的な指導法や配慮事項について理解する。
	教室外学習(予習・復	「衣生活」の授業研究の教科書該当箇所を再度確認し復習す

	習)の内容	る。「住生活」について小学校家庭科教科書に目を通す
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	教材研究と授業研究（３）「住生活」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「住生活」の目標・教材分析を通して指導内容を理解する。指導上の留意点や配慮事項について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「住生活」について学習指導要領を見直す。「食生活」について小学校家庭科教科書に目を通す
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	教材研究と授業研究（４）「食生活」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「食生活」の目標・教材分析を通して指導内容を理解する。指導上の留意点や配慮事項について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「食生活」について学習指導要領を見直す。「消費生活・環境」について小学校家庭科教科書に目を通す
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	教材研究と授業研究（５）「消費生活・環境」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「消費生活・環境」の目標・教材分析を通して指導内容を理解する。指導上の留意点や配慮事項について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「消費生活・環境」について学習指導要領を見直す。指導案作成に向けて構想を練る。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	指導案作成（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業実践例を参考に家庭科授業を具体的に考える。グループで意見交換を行い改善点を見出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまで学んだ授業の実例を参考に作成した家庭科指導案の改善点について確認する。模擬授業に向けて準備する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	指導案作成（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業を想定し、学習指導案を作成する。授業の流れを考え、実際の授業に必要なものを検討する。グループで意見交換を行いよりよい指導案にする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作成した指導案にあらたな改善点はないか、児童の立場になって考え、見直す。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	模擬授業の実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した指導案をもとに教師役・児童役に分かれ、模擬授業を行う。授業後、グループで協議を行い良かったところや改善点を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の振り返り、指導案を見直す。
	教室外学習の時間	200分

	（分）	
第14回	**授業テーマ**	家庭科教育の展望
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習成果を振り返る。児童の実態を踏まえ、これからの家庭科教育の展望について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	全学習内容の復習
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

授業人数や授業の進捗状況によりスケジュールを変更する場合があります。

学生へのフィードバック方法

実施したレポート等については、内容を吟味して授業内で解説します。

評価方法

授業内提出物、学期末レポート、作成した学習指導案、授業への取り組みや発言等を総合的に評価します。
評価方法・評価基準は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについては授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○	○	○
授業内提出物	○	○	○	○
発表、交流	○		○	○
授業への参加状況			○	

評価割合

レポート（30%）、授業内提出物（20%）学習指導案（20%）平常点（作品提出，発表・交流など授業参加状況）（30%）

参考図書

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 家庭科編 文部科学省 東洋館出版（文部科学省HPよりダウンロード可）
文部科学省検定小学校家庭科教科書（令和６年度版）２社のうち一つ
「新しい家庭５・６」東京書籍・「私たちの家庭科５・６」開隆堂
小学校家庭科教育法 建帛社
初等家庭科教育 ミネルヴァ社

ディプロマポリシーとの関連

【知】子どもの発達を踏まえた家庭科教育の進め方を理解することができる
【思】家庭科指導内容を通して、家族・地域・社会とのコミュニケーション能力を高めるよう意識することができる
【関】子どもをめぐる多様化する課題に関心をもち、家庭科の重要性を理解することができる
【技】家庭科教育における理論と実践の融合を図り、豊かな表現力、コミュニケーション能力を身に付けることができる

学生へのメッセージ

小学校の家庭科学習を楽しみながら学びましょう。家庭科は「五感」を働かせる学習です。
「見る、聴く、嗅ぐ、味わう、触る」ことで世界は広がります。豊かな生活に繋がります。授

業を創り、学ぶ楽しさを味わいながら、五感を磨き、学びを深めていくことを願っています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	小学校で現場での家庭科教育実践に基づいた授業者の心構えを介しながら、実践力を育む授業を目指します。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークや対話、発表、体験等を取り入れ他者との共同を通して学びを深めることを期待します。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	プレゼンテーション資料を活用し、分かりやすい授業に努めます。

講義コード	G04100301
講義名	人格心理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P30103M21

授業概要(教育目的)

人格心理学との関連が深い領域をいくつか取り上げながら、人格についての理解を深める。具体的には、人格と発達的側面、対人関係、感情、文化、健康の関係について扱う。また、人格の測定では、各手法についての理解を深め、測定における課題についても考察を深める。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1. 人格心理学における概念、理論や発達について理解を深めるとともに、それらが私たちの身近な問題に関わっていることを学ぶ。 2. 人格を形成するには人間の心理的な理解にとどまらず、進化や遺伝、脳との関連からも理解できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 人格の発達や変化について理解し、身近な問題とどのように関わるかを判断することができる。 2. 文化や社会による人格の多様性を認め、家族・地域・社会の中で、創造力・コミュニケーション能力・感性を磨くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 人格に関する領域の理解だけでなく、自ら疑問を持ち、科学的に考える姿勢を身につけることを目指す。 2. デスカッションを行うときには積極的に意見を出し合いながら強調することができる。
技術・表現の観点 (A)	1. 講義を通して、客観的事実なのか、自分の意見なのかを区別して表現できる。 2. パーソナリティテストの知識を習得することで自分自身を見つめなおし、自身の表現力を向上させることができる。

学習計画

	授業テーマ	ルーブリックについて、ガイダンス、パーソナリティの定義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝ	ルーブリックについて説明する。 パーソナリティの定義、一般的な特徴を学ぶ。

第1回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンスとして、授業の進め方、スケジュールなど、受講にあたっての基本的な姿勢を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パーソナリティ心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。 授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習の時間(分)	180分
第2回	授業テーマ	パーソナリティの歴史
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パーソナリティの理解についての歴史的な流れをふまえて，心理学とパーソナリティの関わりを理解する。 アクティブワークを用いて，授業内容に関連する疑問についてのディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習の時間(分)	180分
第3回	授業テーマ	パーソナリティの諸理論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パーソナリティを扱う諸理論について紹介し，どのような軸をもとにパーソナリティの理論が理解されてきたかを学ぶ。 アクティブワークを用いて，授業内容に関連する疑問についてのディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習の時間(分)	180分
第4回	授業テーマ	パーソナリティと相互作用論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	問題行動がある場合に、人のどの側面が影響するかを巡る議論から、パーソナリティと状況の影響について学ぶ。 アクティブワークを用いて，授業内容に関連する疑問についてのディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習の時間(分)	180分
第5回	授業テーマ	パーソナリティと発達(1)乳児期～青年期
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児期から青年期にかけて発達するパーソナリティの特徴について学ぶ。 アクティブワークを用いて，授業内容に関連する疑問についてのディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習の時間(分)	180分

第6回	授業テーマ	パーソナリティと発達(2)成人期以降
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	成人期以降のパーソナリティの発達について学ぶ。 アクティブワークを用いて，授業内容に関連する疑問についてのディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習の時間(分)	180分
第7回	授業テーマ	パーソナリティの発達的変化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パーソナリティの生涯を通した発達的変化を紹介する。どのようなパーソナリティの変化があるのかを学ぶ。 アクティブワークを用いて，授業内容に関連する疑問についてのディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習の時間(分)	180分
第8回	授業テーマ	パーソナリティと遺伝
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	遺伝的側面からみたパーソナリティや，行動遺伝学からみたパーソナリティの研究方法を紹介する。 アクティブワークを用いて，授業内容に関連する疑問についてのディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習の時間(分)	180分
第9回	授業テーマ	パーソナリティと対人関係(1)友人関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	友人関係の良好さ，維持に関わるパーソナリティについて紹介し，友人との関係性とパーソナリティについて考える。 アクティブワークを用いて，授業内容に関連する疑問についてのディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習の時間(分)	180分
第10回	授業テーマ	パーソナリティと対人関係(2)親密な関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	親密な関係の形成や，悪化，維持に関わるパーソナリティや理論について学ぶ。 アクティブワークを用いて，授業内容に関連する疑問についてのディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 授業内容についての自己チェックを行う。

	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	パーソナリティと病理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パーソナリティの正常と異常の考え方や、パーソナリティ障害について学ぶ。 アクティブワークを用いて，授業内容に関連する疑問についてのディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	授業テーマ	パーソナリティと文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文化による考え方や行動の違いについて，パーソナリティに関する様々な心理学的観点をもとに理解する。 アクティブワークを用いて，授業内容に関連する疑問についてのディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	パーソナリティと健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	健康リスクとなるパーソナリティについて紹介し，疾患と関わるパーソナリティやその経路の理論について学ぶ。 アクティブワークを用いて，授業内容に関連する疑問についてのディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	授業テーマ	パーソナリティと測定、まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パーソナリティの測定法について，質問紙法や投影法といった手法を概観しながら，測定に関連する信頼性や妥当性について理解を深める。 アクティブワークを用いて，授業内容に関連する疑問についてのディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 授業内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合等によってスケジュールや内容が変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

１．授業時に実施する自己チェックについては、その都度、教員との間で結果を共有する。

2．リアクションペーパーへの回答については、教員が出席状況と記入内容をチェックした後、次の授業で質問事項に対して回答する。

評価方法

・授業では毎回小テストを行う。選択式および記述式の混合型で行う。
・定期試験は小テストを振り返りながら選択式および記述式の混合型で実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
自己チェック	○	○		
リアクションペーパー	○		○	○
試験	○	○		

評価割合

試験70%、授業への意欲・態度（自己チェック，リアクションペーパー，アクティブワーク）30%

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない。授業時にレジュメを配布する。

参考図書

授業の中で適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学を構成する子どもの６領域「保育」「教育」「福祉」「健康」「心理」「文化」を総合的に理解するための、人の思考や行動に関わる専門的な知識が習得できる。

【思考・判断】パーソナリティ心理学についての理解を深めることで、家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性を備えることができる。

【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に対して、心理学の知識に基づいて理解し、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために何ができるかを科学的に考え行動できる。

【技能・表現】子どもをはじめとする人間の社会活動に関わるパーソナリティに関する知見をもとに，子どもの専門家として社会に貢献できる。

オフィスアワー

質問がある場合は、メールで連絡してください。

鄭 軟姝（ジョン ヨンジュ）　p22021@kasei-gakuin.ac.jp

学生へのメッセージ

自分自身をも含めた「人」への関心を高めてください。日常的に経験している友人・家族・親密な人との関係や，文化の違い，自分自身の成長や健康とも関係のある分野です。パーソナリティの奥深さに触れながら，楽しんで学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	パーソナリティの理解に関する疑問や課題について、グループ・ディスカッションを行う。
情報リテラシー教育		

ICT活用	○	（google classroomを用いて）連絡事項や配布資料などをアップする。

講義コード	G04100801
講義名	児童学概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	新開 よしみ	指定なし

ナンバリング

P10001M21

授業概要(教育目的)

子どもとは何か。私たちは子どもについてどのように考え、関わっていったらよいか。こども学における基礎的課題（子ども観、子どもの発達等）を、現実の生活と関連して捉え、子どもについての理解を深める。また、子どもを取り巻く問題の解明に向けて、大人や社会、子どもを取り巻く環境のあり方について探究する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	「子ども理解」を出発点とした子どもの保育・教育、福祉、文化等の視点から、現代の子どもを取り巻く基礎的諸課題について理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	子どもと共に生きる大人が果たすべき役割について、具体的に考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・子どもをめぐる諸問題・課題に関心を持ってとりくみ、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために行動する態度を身につける。 ・子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につける。
技術・表現の観点 (A)	自分の意見を他者に伝わるよう適切に表現しながら、ディスカッションを通して自分の考えを吟味したり、深めたりすることができる。

学習計画

	授業テーマ	こども学の対象としての「子ども」

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもを知り、子どもに学び、子どもとの関係を考える子ども学のあり方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第2回	授業テーマ	わたしの中の子どもと出会う
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの頃の自分、周りの人々、好きだった遊び、印象に残っている出来事、その時の気持ちなどについて振り返りながら、人生における子ども時代の意味を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第3回	授業テーマ	子ども時代回想の詩 朗読会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の作った詩を朗読しあい、子どもの内面の多様性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第4回	授業テーマ	子どもと絵本
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもと絵本のかかわりについて考える。絵本の中に描かれた子どもの姿から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第5回	授業テーマ	子どもの遊びと文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの遊び文化、児童文化財、メディア環境について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
	授業テーマ	子どもの遊びと環境
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	子どもの遊び場や遊びの環境について考える。

	育・ICT活用を含む)	
第6回	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第7回	授業テーマ	乳児の世界～赤ちゃんってどんな存在？～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所保育指針や映像をもとに、乳児の発達について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第8回	授業テーマ	０・１・２歳児の育ちと保育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所保育指針や映像をもとに、０・１・２歳児の保育の基本について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第9回	授業テーマ	幼児の世界（１）園生活と子ども
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指針・要領や映像をもとに、幼児の発達と保育の基本について学ぶ。 現行の保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領の骨子を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第10回	授業テーマ	幼児の世界（２）幼児理解にはじまる保育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	園生活における具体的な幼児の姿から、その内面について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：これまでの授業で学んだことを整理し、授業後半に向けた準備をする。
	教室外学習の時間(分)	190分
	授業テーマ	幼児の世界（3）主体的な遊びと幼児の育ち
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	園生活の中で主体的な遊びや生活を通して育まれる子どもの資

第11回	育・ICT活用を含む)	質・能力について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：これまでの授業で学んだことを整理し、授業後半に向けた準備をする。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	子どもの権利条約
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代社会における子育て・子育ちの諸課題と関連づけながら、子どもの権利条約について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	子どもをめぐる今日的課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近年の子ども・子育て・教育・保育をめぐる日本や諸外国の動向について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	子どもと共に主体として生きる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	講義のまとめ（50分）：これまでの学習内容を振り返る。 期末レポートの作成（50分）：今後取り組むべき課題について整理・考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：期末レポート作成の準備をする。授業で学んだことを整理し、今後の学習や研究に興味・関心を持って臨めるようにする。
	教室外学習の時間（分）	230分

学生へのフィードバック方法

授業中に記述したコメントペーパーや事例検討などについては、適宜次週以降の授業中に紹介し、授業内容の理解に役立てていく。
質問がある場合には授業の前後または研究室（mailも可）に積極的に声をかけること。

評価方法

授業への取り組みの態度、授業中の実績、課題提出状況等に基づく平常点（50%）と、期末レポート（50%）により総合的に判断する。
レポートの評価のポイントに関しては、ルーブリックを提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
期末レポート	○	○	○	○

評価割合

平常点（授業や課題への取り組み等）（50%）、期末レポート（50%）

参考図書

授業中に適宜指示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
多様な子どものwell-being向上に寄与する基礎的知識を身につける。
【思考・判断】
子どもを取り巻く社会における課題の解決に向けて、論理的・多角的に考えることができる。
【関心・意欲・態度】
身の回りの子どもをめぐる諸問題・課題に関心を持ち、課題解決に向けてクラスメイトと共に協働して取り組む。
【技能・表現】
多様な子どもたちのwell-being向上に寄与する技能を身につける。

オフィスアワー

木曜日 2時限 1632研究室

学生へのメッセージ

子どもに関する様々な課題（子どもを観察したり、接したりしてみること、子どもに関する様々な問題についてニュース、新聞、本等で調べること、絵本、児童文学や玩具、遊び場、子どもの生活する環境等に触れてみること）に関心を向け、積極的にかかわったり、行ったりしてみることを望みます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション、発表等を通し、主体的・能動的に学びを深めていく。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	内容に応じてPCを活用した双方向型授業を展開する。

講義コード	G04101001
講義名	児童福祉論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	市川 和男	指定なし

ナンバリング

P20401M21

授業概要(教育目的)

児童福祉の理念と意義、現代社会における児童の成長・発達と生活実態、それらにおける問題点や、児童福祉制度の歴史的社会的背景の根拠を学び、実践に役立つ知識へ発展させる。さらに、児童に関する福祉ニーズの捉え方や、現在の児童福祉に関する法律および制度、福祉サービス体系について講義する。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1.児童福祉の意義及び歴史的展開過程について説明できる。 2.児童福祉の法律、制度、福祉機関、施設を体系的に説明できる。 3.児童の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、人権擁護、児童福祉需要(子育て、ひとり親家庭、児童虐待、ドメスティックバイオレンスなど)に対するサービスを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1.児童の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、人権擁護、児童福祉需要(子育て、ひとり親家庭、児童虐待、ドメスティックバイオレンスなど)に対するサービスの現状と課題について指摘できる。 2.児童福祉の専門職としての社会福祉士、保育士などの役割を類別し、現状と課題について指摘できる。 3.児童家庭福祉の動向と展望について指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現	

の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション・（ルーブリック評価について） 児童福祉とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オリエンテーション・（ルーブリック評価について）、児童家庭福祉の授業の全体像について理解する。 子どもを表す用語や社会福祉や児童福祉の目的を学び、児童とは何か、児童福祉とは何かについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：テキスト第1章「児童福祉とは何か」（11～15ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習97分、復習97分
第2回	**授業テーマ**	現代社会と子どもの生活（１）子どもの生活環境の変化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	急速な社会の変化や、少子化の進展について学び、子どもの生活環境の変化について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：テキスト第2章1節「子どもの生活環境の変化」（17～24ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習97分、復習97分
第3回	**授業テーマ**	現代社会と子どもの生活（２）子どもの成長や発達をめぐる問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの生活習慣やからだと心の変化、高学歴社会の子ども達や、心と行動へのケアが必要な子ども達の現状を学び、子どもの成長や発達をめぐる問題について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：テキスト第2章2節「子どもの成長や発達をめぐる問題」（25～37ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習97分、復習97分
	授業テーマ	現代社会と子どもの生活（３）子育てをめぐる問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活)	子育ての負担・安心感や、経済的な負担感、仕事と子育ての両立の現状を学び、子育てをめぐる問題を理解する。

第4回	用を含む	
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：テキスト第2章3節「子育てをめぐる問題」（37～50ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習97分、復習97分
第5回	授業テーマ	児童福祉の理念
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童福祉理念の国際的動向や、日本における児童福祉の理念、子どもの権利条約の意義と内容について学び、児童家庭福祉の理念と概念について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：テキスト第3章「児童家庭福祉の理念と概念」（51～61ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習97分、復習97分
第6回	授業テーマ	児童福祉の歴史①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近代以前の時代における児童保護、明治初期の児童保護対策、児童保護事業の始まり、児童保護にかかわる制度・政策、児童福祉法の成立の歴史を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：テキスト第4章「児童家庭福祉の歴史」（63～76ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習97分、復習97分
第7回	授業テーマ	児童福祉の歴史②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	欧米における児童福祉の歩みについて学び、児童家庭福祉の歴史を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：テキスト第5章「児童福祉および関連施策の体系」（76～82ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習97分、復習97分
	授業テーマ	児童福祉および関連施策の体系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第8回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童福祉及び関連施策の対象、関連施策の諸形態、児童対策にかかわる主な法律、児童福祉及び関連施策の全体場について学び、児童福祉および関連施策の体系を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：テキスト第5章「児童福祉および関連施策の体系」（83～90ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習97分、復習97分
第9回	授業テーマ	児童福祉の法制度
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童福祉法の構成、児童福祉施設および事業、児童福祉の機関と児童福祉実施のしくみ、児童福祉の財政について学び、児童福祉の法制度を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：テキスト第6章「児童福祉の法制度」（91～111ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習97分、復習97分
第10回	授業テーマ	保育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育をめぐる現状、子ども・子育て支援制度、保育所・認定こども園、地域型保育給付、地域こども・子育て支援事業について学び、児童家庭福祉と保育を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：テキスト第7章「児童家庭福祉と保育」（113～128ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習97分、復習97分
第11回	授業テーマ	児童養護問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会的養護の仕組み、要保護児童の動向、児童虐待、社会的養護の現状について学び、児童家庭福祉と児童養護を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：テキスト第8章「児童家庭福祉と児童養護」（129～147ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習97分、復習97分

第12回	授業テーマ	非行問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	非行とは、少年非行への対応、非行の要因と背景、非行少年の自立支援について学び、児童家庭福祉と非行問題を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：テキスト第9章「児童家庭福祉と非行問題」（149～162ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習97分、復習97分
第13回	授業テーマ	障害児福祉
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害のある子ども、障害児福祉の制度を学び、児童家庭福祉と障害児問題を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：テキスト第10章「児童家庭福祉と障害児問題」（163～179ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習97分、復習97分
第14回	授業テーマ	子どもの遊びの保障／児童福祉の専門職／医療的ケア児支援法について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの「遊び」やその問題、「遊び」を保障する場と制度、「子どもの権利」と「遊び」について学び、次世代育成支援と子どもの遊びの保障を理解する。／児童福祉に関わる専門職、保育士制度の歴史と意義について学び、児童家庭福祉の専門職を理解する。／医療的ケア児支援法の概要を知り、保育士による保育の実際について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：テキスト第11章「次世代育成支援と子どもの遊びの保障」（181～196ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。／テキスト第12章「児童家庭福祉の専門職」（193～199ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してこれまで学んだ章の内容をまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習97分、復習97分
第15回	授業テーマ	期末試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

実施した小テストは授業中に解説する。それでも疑問点がある学生は、必ず教員に質問してください。

評価方法

・小テストは3～4回分の授業に係る学習範囲から出題し，授業内に実施します。1回あたりの問題数は10問程度で出題します。
・定期試験は、小テストの振り返りや記述問題によって応用的な思考力や判断力を確認する。
・ルーブリックを用いた成績評価を行います。ルーブリックについては、授業初回のガイダンスにて配布資料を参照ください。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○	○		
態度		○	○	
定期試験	○	○		

評価割合

小テスト（20%）、態度（20%）、定期試験（60%）にて評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

松本園子・堀口美智子・森和子編著『子どもと家庭の福祉を学ぶ』第3版 ななみ書房 2023年。
978-4-910973-21-0

参考図書

その日の授業に関連する資料を配布します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
・児童学を構成する6領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識を有している。

【思考・判断】
・子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる力を身につけている。
・家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性を身につけている。

オフィスアワー

毎回、小テストに「質問・感想」の記入欄を設けているため、質問等の応答は可能。

学生へのメッセージ

主体的に授業に参加するために、日ごろから授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読み、その内容の背景に関心を持ち、取りあげられている現状に対して自分自身や身近な身の回

りのことに照らし合わせたり置き換え、考えられる客観的な理由などをもとにして、自分なりに考えるようにしましょう。
※感染症が蔓延する場合の出欠席の対応について
・感染や濃厚接触が疑われる場合は、すみやかに大学へ連絡して下さい。この連絡状況から、感染者に対する出欠席の取り扱いを行います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は，児童家庭福祉領域の中で、知的障害児、重症心身障害児になどの児童やその家族に関する、福祉、看護医療の専門職として実務経験を有しており、生活支援技術、相談支援技術、保育（療育）に関する理論や支援技術を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04101501
講義名	自然体験活動演習I
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P40502M23

授業概要(教育目的)

森のようちえん活動において実施される自然体験活動プログラムを実際に体験し、その魅力や意義・効果について体験的に理解することで、自然体験活動の指導に必要な素地を養うことを目的としている。また、学んだ知識技術を基に、子ども達の活動を支える「キャンプカウンセラー」の役割を補助的に担い、キャンプカウンセリング的なかかわり方や安全管理技術を修得するとともに、子ども達が自然の中で活動することが子ども達にどのような影響を与えるのかについて、実際の経験を通じて理解を深めることを目指す。

履修条件

自然体験活動論を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自然体験活動（キャンプ）で実施される様々なプログラムについて説明できる。 自然体験活動（キャンプ）で実施されるプログラムの意義や効果ついて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	自然体験活動（キャンプ）のプログラムの効果的な運営に寄与することができる。
技術・表現の観点 (A)	自然体験活動（キャンプ）で活用される様々なプログラムで必要な技術を修得している。

学習計画

第1回	授業テーマ	オリエンテーション 森のようちえんとは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業で扱う内容や進め方、スケジュール等について確認する。 また、森のようちえんの概要や教育目的等について理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	過去の森のようちえんの実施報告に目を通し、活動内容を理解する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	森のようちえんの指導法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャンプカウンセリング的なかかわり方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森のようちえん活動における子どもの様子を映像で視聴し、その場で求められるキャンプカウンセリング的なかかわり方について整理する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	森のようちえん活動におけるリスク管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験活動（キャンプ）がはらむリスクとその対処について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	過去の事故事例から、安全管理の面で指導者が担うべき役割や対策について整理する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	森のようちえん（A）の指導に向けた準備（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プログラムディレクターの指示のもと実地踏査を行い、活動内容の把握を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実施予定のプログラムの特性を理解し、適した指導方法について考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	森のようちえん（A）の指導に向けた準備（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プログラムディレクターの指示のもと実地踏査を行い、安全確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森のようちえん実施にあたって想定されるリスクとその対応について整理する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	森のようちえん（A）の指導（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘ	

第6回	ﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子ども達を対象にした森のようちえんにおいて、特にプログラムの指導においてカウンセラーとしての役割を果たす。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの活動中の様子の記録（プログラムへの取り組み方について）を作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	授業テーマ	森のようちえん（A）の指導（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子ども達を対象にした森のようちえんにおいて、特にグループマネジメントにおいてカウンセラーとしての役割を果たす。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの活動中の様子の記録（他者とのかかわり方について）を作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	森のようちえん（A）の指導のふりかえり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	活動を振り返り、子どもの様子や他者とのかかわり方について考察し、記録をする。また指導上の改善点についてまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導方法に関する学生相互での気づきを整理すること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	森のようちえん（B）の指導に向けた準備（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プログラムディレクターの指示のもと実地踏査を行い、活動内容の把握を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実施予定のプログラムの特性を理解し、適した指導方法について考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	森のようちえん（B）の指導に向けた準備（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プログラムディレクターの指示のもと実地踏査を行い、安全確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森のようちえん実施にあたって想定されるリスクとその対応について整理する。
	教室外学習の時間（分）	60分

第11回	授業テーマ	森のようちえん（B）の指導（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子ども達を対象にした森のようちえんにおいて、特にプログラムの指導においてカウンセラーとしての役割を果たす。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの活動中の様子の記録（プログラムへの取り組み方について）を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	森のようちえん（B）の指導（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子ども達を対象にした森のようちえんにおいて、特にグループマネジメントにおいてカウンセラーとしての役割を果たす。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの活動中の様子の記録（他者とのかかわり方について）を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	森のようちえん（B）の指導のふりかえり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	活動を振り返り、子どもの様子や他者とのかかわり方について考察し、記録をする。また指導上の改善点についてまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導方法に関する学生相互での気づきを整理すること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	指導法に関するふりかえり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	森のようちえん活動における指導を振り返り、特に子どもの様子に焦点を当て、自分自身の働きかけや周囲の子ども、活動内容と子どもの様子の影響関係について考察を深める。また、自分自身の指導法に焦点を当て、気づきを整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの様子をまとめた報告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内	

	容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

・野外活動が出来る服装で受講して下さい。
・森のようちえんの実施状況等によりスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

プログラム実施後に面談の機会を設け、ともにふりかえりを実施し、フィードバックを伝えます。

評価方法

・森のようちえん活動への取り組み
・活動記録
・最終レポート（ノート提出）
を総合的に評価します。

・ルーブリックを用いた評価を行います。ルーブリックについてはクラスルームにより提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
森のようちえん活動への取り組み	○	○	○	○
活動記録	○	○	○	○
最終レポート（ノート提出）	○	○	○	

評価割合

・森のようちえん活動への取り組み　60%
・活動記録　20%
・最終レポート（ノート提出）　20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

キャンプ指導者入門 第5版(キャンプインストラクター養成用)
ISBN:978-4-904008-15-7
定価：2,200円(本体2,000円+税10%)

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもに関する専門的な知識が修得できている
【思考・判断】自ら様々な課題に柔軟に対応できる
【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる
【技術・表現】豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている

オフィスアワー

月曜4限　1618室

学生へのメッセージ

都市化された現代の生活では、子ども達が自然に触れる機会が減少しています。

しかし、幼児･児童期に自然と直接関わり、五感を刺激し、自然と生まれる興味のままに物事に取り組んだ経験は、無意識のうちに心の深いところに根付き、その後の心身の成長に大きな影響を与えてくれます。そして、その体験の質の鍵を握るのは、そこにいる「大人」の存在であるとも言われます。

保育者・教育者など、子どもの専門家を目指す皆さんには、まずは皆さん自身が自然にたくさん触れることで子ども達の自然体験の意義を実感を持って理解し、豊かな体験をサポートできる存在になってほしいと願います。

また、本授業ではそのような「場づくり」の役割を担うことで、豊かな体験の場を作る力をもって現場に出てほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	森のようちえんにおける指導を実際に行いながら、体験的に学びます。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04101601
講義名	自然体験活動演習II
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	佐藤　冬果	指定なし

ナンバリング

P40502M23

授業概要(教育目的)

本授業は、自然体験活動演習Iで学んだ知識と実践的能力を基に、森のようちえん活動において、子ども達の活動を支える「キャンプカウンセラー」の役割を主任的な立場で担うことを通じ、自然体験活動の指導力を養うことを目的としている。体験的にキャンプカウンセリング的なかかわり方や安全管理技術を修得するとともに、子ども達が自然の中で活動することが子ども達にどのような影響を与えるのかについて、実際の経験を通じて理解を深めることで、自然体験活動の指導力を育成することを目指す。

履修条件

自然体験活動演習Iを履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自然体験活動（キャンプ）の指導法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	個々の子どもに適した関わり方を指摘できる。 自然環境下の危険箇所について指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自然体験活動（キャンプ）における子どもの指導に積極的に寄与することができる。
技術・表現の観点 (A)	自然体験活動（キャンプ）を適切に指導することができる。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション 森のようちえんとは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆ	授業で扱う内容や進め方、スケジュール等について確認する。

第1回	ﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	また、森のようちえんの概要や教育目的等について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	過去の森のようちえんの実施報告に目を通し、活動内容を理解する。
	教室外学習の時間(分)	60分
第2回	授業テーマ	森のようちえんの指導法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャンプカウンセリング的なかかわり方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森のようちえん活動における子どもの様子を映像で視聴し、その場で求められるキャンプカウンセリング的なかかわり方について整理する。
	教室外学習の時間(分)	60分
第3回	授業テーマ	森のようちえん活動におけるリスク管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験活動（キャンプ）がはらむリスクとその対処について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	過去の事故事例から、安全管理の面で指導者が担うべき役割や対策について整理する。
	教室外学習の時間(分)	60分
第4回	授業テーマ	森のようちえん（A）の指導に向けた準備（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プログラムディレクターの指示のもと実地踏査を行い、活動内容の把握を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実施予定のプログラムの特性を理解し、適した指導方法について考えをまとめる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第5回	授業テーマ	森のようちえん（A）の指導に向けた準備（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プログラムディレクターの指示のもと実地踏査を行い、安全確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森のようちえん実施にあたって想定されるリスクとその対応について整理する。
	教室外学習の時間(分)	60分
第6回	授業テーマ	森のようちえん（A）の指導（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子ども達を対象にした森のようちえんにおいて、特にプログラムの指導において主任カウンセラーとしての役割を果たす。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの活動中の様子の記録（プログラムへの取り組み方について）を作成する。

	教室外学習の時間(分)	90分
第7回	授業テーマ	森のようちえん（A）の指導（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子ども達を対象にした森のようちえんにおいて、特にグループマネジメントにおいて主任カウンセラーとしての役割を果たす。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの活動中の様子の記録（他者とのかかわり方について）を作成する。
	教室外学習の時間(分)	90分
第8回	授業テーマ	森のようちえん（A）の指導のふりかえり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	活動を振り返り、子どもの様子や他者とのかかわり方について考察し、記録をする。また指導上の改善点についてまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導方法に関する学生相互での気づきを整理すること。
	教室外学習の時間(分)	90分
第9回	授業テーマ	森のようちえん（B）の指導に向けた準備（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プログラムディレクターの指示のもと実地踏査を行い、活動内容の把握を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実施予定のプログラムの特性を理解し、適した指導方法について考えをまとめる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第10回	授業テーマ	森のようちえん（B）の指導に向けた準備（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プログラムディレクターの指示のもと実地踏査を行い、安全確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森のようちえん実施にあたって想定されるリスクとその対応について整理する。
	教室外学習の時間(分)	60分
第11回	授業テーマ	森のようちえん（B）の指導（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子ども達を対象にした森のようちえんにおいて、特にプログラムの指導において主任カウンセラーとしての役割を果たす。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの活動中の様子の記録（プログラムへの取り組み方について）を作成する。
	教室外学習の時間(分)	60分
	授業テーマ	森のようちえん（B）の指導（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	子ども達を対象にした森のようちえんにおいて、特にグループマネジメントにおいて主任カウンセラーとしての役割を果たす。

第12回	む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの活動中の様子の記録（他者とのかかわり方について）を作成する。
	教室外学習の時間(分)	60分
第13回	授業テーマ	森のようちえん（B）の指導のふりかえり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	活動を振り返り、子どもの様子や他者とのかかわり方について考察し、記録をする。また指導上の改善点についてまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導方法に関する学生相互での気づきを整理すること。
	教室外学習の時間(分)	90分
第14回	授業テーマ	子どもの様子及び指導法に関するふりかえり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	森のようちえん活動における指導を振り返り、特に子どもの様子に焦点を当て、自分自身の働きかけや周囲の子ども、活動内容と子どもの様子の影響関係について考察を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの様子をまとめた報告書を作成する。
	教室外学習の時間(分)	90分

学習計画注記

・森のようちえんの実施状況等によりスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

プログラム実施後に面談の機会を設け、ともにふりかえりを実施し、フィードバックを伝えます。

評価方法

・森のようちえん活動への取り組み
・活動記録
・最終レポート（ノート提出）
を総合的に評価します。

・ルーブリックを用いた評価を行います。ルーブリックについてはクラスルームにより提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
森のようちえん活動への取り組み	○	○	○	○
活動記録	○	○	○	○
最終レポート（ノート提出）	○	○	○	

評価割合

・森のようちえん活動への取り組み　60%

・活動記録　20%
・最終レポート（ノート提出）　20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

キャンプ指導者入門 第5版(キャンプインストラクター養成用)
ISBN:978-4-904008-15-7
定価：2,200円(本体2,000円+税10%)

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもに関する専門的な知識が修得できている
【思考・判断】自ら様々な課題に柔軟に対応できる
【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる
【技術・表現】豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている

オフィスアワー

月曜4限　1618室

学生へのメッセージ

都市化された現代の生活では、子ども達が自然に触れる機会が減少しています。
しかし、幼児･児童期に自然と直接関わり、五感を刺激し、自然と生まれる興味のままに物事に取り組んだ経験は、無意識のうちに心の深いところに根付き、その後の心身の成長に大きな影響を与えてくれます。そして、その体験の質の鍵を握るのは、そこにいる「大人」の存在であるとも言われます。
保育者・教育者など、子どもの専門家を目指す皆さんには、まずは皆さん自身が自然にたくさん触れることで子ども達の自然体験の意義を実感を持って理解し、豊かな体験をサポートできる存在になってほしいと願います。
また、本授業ではそのような「場づくり」の役割を担うことで、豊かな体験の場を作る力をもって現場に出てほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	森のようちえんにおける指導を実際に行いながら、体験的に学びます。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04101701
講義名	自然体験活動実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	佐藤　冬果	指定なし

ナンバリング

P40502M23

授業概要(教育目的)

自然体験活動演習Iと自然体験活動演習IIで学んだ知識と実践的能力を基に、森のようちえん活動において取り扱うプログラムの指導法について深く学ぶことを目的としています。また活動内容の企画運営を主となって実施する「プログラムディレクター」の役割を担うことで、自然体験活動の場を設定し、運営する能力を育成するとともに、子ども達が自然の中で活動することが子ども達にどのような影響を与えるのかについて、実際の経験を通じて理解を深めることを目指します。

履修条件

自然体験活動演習Iと自然体験活動演習IIを履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自然体験活動（キャンプ）のプログラムと期待される効果について説明できる。 自然体験活動（キャンプ）の指導法や指導の考え方について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	目的に応じた自然体験活動（キャンプ）を計画し、提示することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自然体験活動（キャンプ）の企画運営に積極的に寄与することができる。
技術・表現の観点 (A)	自然体験活動（キャンプ）のプログラムを適切に企画・運営・指導することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	オリエンテーション 森のようちえんとは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業で扱う内容や進め方、スケジュール等について確認する。 また、森のようちえんの概要や教育目的等について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	過去の森のようちえんの実施報告に目を通し、活動内容を理解する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	アイスブレーキングゲームの指導法（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験活動の具体的なプログラムの一つである「アイスブレイクゲーム」のうち、緊張感をほぐすことを目的としたゲームを体験し、その効果を理解するとともに、その指導法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アイスブレイキングゲームを通して得た気づきや、子どもがアイスブレイキングゲームを経験することによって得ることが期待される効果についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	アイスブレーキングゲームの指導法（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験活動の具体的なプログラムの一つである「アイスブレイクゲーム」のうち、互いを知り合うことを目的としたゲームを体験し、その効果を理解するとともに、その指導法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アイスブレイキングゲームを通して得た気づきや、子どもがアイスブレイキングゲームを経験することによって得ることが期待される効果についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	イニシアティブゲームの指導法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験活動の具体的なプログラムの一つである「イニシアティブゲーム」を体験し、その効果を理解するとともに、その指導法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	イニシアティブゲームを通して得た気づきや、子どもがイニシアティブゲームを経験することによって得ることが期待される効果についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	オリエンテーリングの指導法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験活動の具体的なプログラムの一つであり、動物の痕跡探し（アニマルトラッキング）や植物の観察を行いながら進める「自然発見オリエンテーリング」を体験し、その効果を理解するとともに、その指導法について学ぶ。
	教室外学習(予	自然発見オリエンテーリングを通して得た気づきや、子どもが自然

	習・復習)の内容	発見オリエンテーリングを経験することによって得ることが期待される効果についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	ネイチャーゲームの指導法（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験活動の具体的なプログラムの一つである「ネイチャーゲーム」について、環境教育の観点から歴史や理論的背景を知る。また、いくつかの春や夏に適したアクティビティを実際に体験することで、その指導法と効果について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ネイチャーゲームを通して得た気づきや、子どもがネイチャーゲームを経験することによって得ることが期待される効果についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	授業テーマ	焚火の指導法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験活動の中でも大きな教育的な意義をもつ焚火を実際に体験することで、その効果と安全な指導法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	焚火を通して得た気づきや、子どもが焚火を経験することによって得ることが期待される効果についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	森のようちえんのプログラム立案（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	森のようちえん全体の教育目的を踏まえ、自身が担当する森のようちえんでの教育目標を設定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プログラムとその目的、期待される効果等について整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	森のようちえんのプログラム 立案（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な自然体験活動プログラムの中から、目的に合ったプログラムを選択し、その指導法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プログラムとその目的、期待される効果等について整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	森のようちえんのプログラム 計画と準備（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨ	

第10回	ﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実地踏査を行い、活動場所や移動経路等を設定し、危険箇所などの確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実施予定のプログラムの特性を理解し、適した運営方法について考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	森のようちえんのプログラム 計画と準備（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	当日の行動予定表やスタッフ配置、準備物や指導法などについて計画を進め、実施に向けた準備を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森のようちえん実施に向けた準備を進める。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	森のようちえんのプログラム 実施（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子ども達を対象にした森のようちえんを実施し、プログラムディレクターとしての役割を体験する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森のようちえん実施に向けた準備を進める。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	森のようちえんのプログラム 実施（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子ども達を対象にした森のようちえんを実施し、プログラムディレクターとしての役割を体験する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森のようちえん実施に向けた準備を進める。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	ふりかえり、まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	企画・運営を行ったプログラムを振り返り、その成果や改善点についてまとめる。
	教室外学習(予)	森のようちえんの活動内容や時程、子どもの様子を記載した活動報

	習・復習 の内容	告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分

学習計画注記

・森のようちえんの実施状況等によりスケジュールが変更になる場合もあります。

・日本キャンプ協会認定の「キャンプインストラクター」の資格保有者が本授業を履修し、森のようちえん活動の宿泊キャンプに参加した上で単位を取得することで、上位資格である「キャンプディレクター2級」に申請することができます。
（別途、テキスト代：2,200 円（税込）、登録諸経費：11,000 円（税込）が必要です。）

学生へのフィードバック方法

プログラム実施後に面談の機会を設け、ともにふりかえりを実施し、フィードバックを伝えます。

評価方法

・プログラム企画・運営への取り組み
・企画書
・実施報告書
・レポート（ノート提出）
を総合的に評価します。

・ルーブリックを用いた評価を行います。ルーブリックについてはクラスルームにより提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
プログラム企画・運営への取り組	○	○	○	○
企画書	○	○	○	○
実施報告書		○	○	○
最終レポート（ノート提出）	○	○	○	○

評価割合

・プログラム企画・運営への取り組み　20%×2回＝40%
・企画書　10%×2回＝20%
・実施報告書　10%×2回＝20%
・最終レポート（ノート提出）　20%

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもに関する専門的な知識が修得できている
【思考・判断】自ら様々な課題に柔軟に対応できる
【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる
【技術・表現】豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている

オフィスアワー

月曜4限　1618室

学生へのメッセージ

都市化された現代の生活では、子ども達が自然に触れる機会が減少しています。

しかし、幼児･児童期に自然と直接関わり、五感を刺激し、自然と生まれる興味のままに物事に取り組んだ経験は、無意識のうちに心の深いところに根付き、その後の心身の成長に大きな影響を与えてくれます。そして、その体験の質の鍵を握るのは、そこにいる「大人」の存在であるとも言われます。

保育者・教育者など、子どもの専門家を目指す皆さんには、まずは皆さん自身が自然にたくさん触れることで子ども達の自然体験の意義を実感を持って理解し、豊かな体験をサポートできる存在になってほしいと願います。

また、本授業ではそのような「場づくり」の役割を担うことで、豊かな体験の場を作る力をもって現場に出てほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	森のようちえんの企画・運営を実際に行いながら、体験的に学びます。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04101801
講義名	初等教育演習Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	西尾　琢郎	指定なし

ナンバリング

P20311M12

授業概要(教育目的)

小学校教員採用試験に合格するために必要な様々な準備を行う。初等教育演習Ａでは、教育や教職への理解を深めながらそれを志す意思を固め、教員採用試験に合格するために必要な基礎学力の向上を図る。

また、学生の状況や求めによって、小学校・特別支援学校でのボランティアや授業見学を実施する場合がある。

小学校教員採用試験に合格するために必要な学習計画を学生自ら立て、実行できるようにするための支援を行う。また、自分を客観的に見つめる視点や、現代の教育課題に対する関心を持つことを習慣化するための活動を行う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	小学校の教員採用試験の基礎・基本を理解し、過去問を通して実践力をつける。
思考・判断の観点 (K)	現代的な教育課題について、様々な情報を収集し、それに基づき、考察し、自分なりに判断できる力をつける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で学び、教育に関する課題を自ら見出し、掘り下げようとする意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	調べ、吟味し、伝える技術、それらを総合してプレゼンテーションする力をつける。

学習計画

初等教育演習Ａ

第1回	授業テーマ	認知と学びの多様性について知り、自分自身を見つめる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・講師のファシリテーションにより、教えることと学ぶことについてディスカッションし、考察する ・個別最適な学びについて、人間の認知特性やマルチプルインテリジェンスなどの概念を通じて知る ・自分自身について自分が持っているイメージについて語り合い、メタ認知を体験的に学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	・学び手としての自分について考えたことを言語化する ・（ルーティーン）自分が関心を持った「教育に関するニュース」「教育用語」について、自分の出来る範囲で調べ、それについて自分なりに考えたことを合わせて発表する
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	授業テーマ	教職と教職採用試験について、自分のイメージを持つ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・学校と教員のあり方について、過去・現在・未来を通観する ・教職を志望することについて、社会全体の状況を俯瞰しながらイメージする ・教員採用試験の概要について調べ、チェックすべきポイントを理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	・希望する自治体の試験概要を確認し、自分なりの取り組みカレンダーを作成する ・（ルーティーン）自分が関心を持った「教育に関するニュース」「教育用語」について、自分の出来る範囲で調べ、それについて自分なりに考えたことを合わせて発表する
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	教育課題について考える 教職教養問題へのチャレンジ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・教育課題の近年のトレンドについて学ぶ ・東京。神奈川などの教職教養や論文の出題傾向を概観し、教育課題との関連について把握する ・過去問題に取り組み、実際の出題の様子から対策のイメージを持つ
	教室外学習(予習・復習)の内容	・引き続き教職教養の過去問に取り組む ・（ルーティーン）自分が関心を持った「教育に関するニュース」「教育用語」について、自分の出来る範囲で調べ、それについて自分なりに考えたことを合わせて発表する
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	授業テーマ	学びの作戦会議を開催する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・認知特性についての自己診断を行い、自分なりの学びの特性について知る ・過去問に取り組んで感じた自分の苦手分野についての対策を考え、共有する ・自分の特性と、志望自治体の試験内容から、自分なりの学習計画を立てる
	教室外学習(予習・復習)の内容	・自分の学習計画を完成させ、それに沿った自学をスタートさせる ・（ルーティーン）自分が関心を持った「教育に関するニュース」「教育用語」について、自分の出来る範囲で調べ、それについて自分なりに考えたことを合わせて発表する

	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	一般教養問題へのチャレンジ（その１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・完成させた自分の学習計画に沿って一般教養の過去問題にチャレンジする ・自分が間違えたり、課題と感じた点、およびその理由や対策を自分の言葉で共有する ・それぞれの対策についてディスカッションする
	教室外学習(予習・復習)の内容	・自分で立てた学習計画に沿って一般教養の過去問に取り組む ・（ルーティーン）自分が関心を持った「教育に関するニュース」「教育用語」について、自分の出来る範囲で調べ、それについて自分なりに考えたことを合わせて発表する
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	一般教養問題へのチャレンジ（その２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・自分の立てた計画を見直しながら、一般教養の過去問題にチャレンジする ・自分が間違えたり、課題と感じた点、およびその理由や対策を自分の言葉で共有する ・それぞれの対策についてディスカッションする
	教室外学習(予習・復習)の内容	・修正した学習計画に沿って一般教養の過去問に取り組む ・（ルーティーン）自分が関心を持った「教育に関するニュース」「教育用語」について、自分の出来る範囲で調べ、それについて自分なりに考えたことを合わせて発表する
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	一般教養問題へのチャレンジ（その３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・自分の立てた計画を見直しながら、一般教養の過去問題にチャレンジする ・自分が間違えたり、課題と感じた点、およびその理由や対策を自分の言葉で共有する ・それぞれの対策についてディスカッションする ・本番試験を模した授業内テストに挑戦する
	教室外学習(予習・復習)の内容	・修正した学習計画に沿って一般教養の過去問に取り組む ・（ルーティーン）自分が関心を持った「教育に関するニュース」「教育用語」について、自分の出来る範囲で調べ、それについて自分なりに考えたことを合わせて発表する
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	教養とは何か、教養と教育のかかわりについて考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・教養について考えることを通じて「令和の日本型学校教育」について考察する ・一般教養、教職教養について学ぶことが、教職を目指す自分とどうかかわっているのかを考え、ディスカッションする
	教室外学習(予習・復習)の内容	・自分の学習計画に沿って教職教養、一般教養の過去問に取り組む ・（ルーティーン）自分が関心を持った「教育に関するニュース」「教育用語」について、自分の出来る範囲で調べ、それについて自分なりに考えたことを合わせて発表する
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	教職を目指す自分について考える

第9回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・学習計画の作成にあたって実施した自己分析やメタ認知、その後の学習への取り組みを経て、自分の現在地を確認する ・そもそも教職を志そうと考えた自分の原点に立ち返り、講師が提示するいくつかのポイントについて、自分の経験・体験を織り交ぜながら文章化する ・作成した「私の教職志望物語」を発表し合い、内容について交流する
	教室外学習(予習・復習)の内容	・教職を目指す自分の「物語」を完成させる ・（ルーティーン）自分が関心を持った「教育に関するニュース」「教育用語」について、自分の出来る範囲で調べ、それについて自分なりに考えたことを合わせて発表する
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	授業テーマ	SPI3について知り、社会における新人採用について視野を広げる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・SPI3とは何か、教員採用試験でのSPI３の採用が何を意味するかを知る ・社会一般の新人採用の状況について知り、その中で教職を志すということを自分の中で価値付ける ・今年度の教員採用状況を概観し、中長期で自分の取り組みスケジュールを考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	・志望自治体についての情報を改めて整理し、自分の取り組みスケジュールを完成させる ・（ルーティーン）自分が関心を持った「教育に関するニュース」「教育用語」について、自分の出来る範囲で調べ、それについて自分なりに考えたことを合わせて発表する
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	授業テーマ	小論文試験の傾向と対策（その1・概論と整理）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・論文試験が問うていることについて整理する ・希望自治体の論文試験の過去問を概観し、その傾向を把握する ・これまでに蓄積してきたルーティン課題のテーマから志望自治体の傾向に合致するものを選択し、時間、文字数、体裁などを本番に合わせて論文作成に取り組む
	教室外学習(予習・復習)の内容	・時間内とは別のテーマについて、同様に論文を作成し、オンラインで提出する
	教室外学習の時間（分）	70分
第12回	授業テーマ	小論文試験の傾向と対策（その２・共有と対話）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・提出した論文に対するフィードバックを共有しながら、そpの良い点や改善点についてディスカッションする ・フィードバック内容を生かして、また別のテーマについて論文作成に取り組む
	教室外学習(予習・復習)の内容	・時間内とは別のテーマについて、同様に論文を作成し、オンラインで提出する
	教室外学習の時間（分）	70分
	授業テーマ	次年度の教員採用試験について整理し、教採突破戦略会議を開催する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	・志望自治体の最新情報を整理し、３年次前倒し試験の検討を含め、自分の取り組み計画を再構築する ・計画を共有し、ディスカッションしながら練り上げる

第13回	育・ICT活用を含む)	・講師を交え、それぞれが持つ課題について、学び合い・教え合いを行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	・（ルーティーン）自分が関心を持った「教育に関するニュース」「教育用語」について、自分の出来る範囲で調べ、それについて自分なりに考えたことを合わせて発表する
	教室外学習の時間（分）	40分
第14回	授業テーマ	次期学習指導要領を含む最新の教育トレンドを概観する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・この頃議論が山場に差しかかっているはずの次期学習指導要領に関する論点を整理し、最新の教育トレンドを理解するためのマインドマップを作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	議論が山場に差しかかっているはずの次期学習指導要領に関する論点に注目し、そこから課題を一つ選び、考察を文章化する
	教室外学習の時間（分）	40分

学習計画注記

受講の過程で自己理解を深めながら、自分に合った学習計画を立て、随時それを改善しながら自学自習の力を高めていけるように努力することが必要。

学生へのフィードバック方法

作成した小論文、自己アピール文は、添削して学生に返却する。

評価方法

ルーティン課題やその他のレポート等の提出課題と、ペアおよび集団での活動への参加姿勢を総合的に評価する。

提出課題、活動参加のいずれについてもそれぞれルーブリックを提示し、それに基づく評価を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ルーティン課題	○		○	○
レポート	○	○		
平常点		○	○	

評価割合

ルーティン課題およびレポート（各40%）、平常点（20%）
総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特になし

参考図書

2026年度版　教員採用試験　一般教養　合格問題集』TAC出版編　2024年9月刊行

ディプロマポリシーとの関連

【知識理解】教育および教育にの本質を理解し、子どもの教育に必要な知識が修得できている。
【思考・判断】現代の教育課題について、様々な情報を収集し、考察し、自分なりに判断できる。
【関心・意欲・態度】身の回りのさまざまなできごとや課題を教育に引き付けて考える習慣を持ち、子どもたちのために使命感をもって行動することができる。
【技術・表現】調べ、吟味し、伝える技術、それらを総合してプレゼンテーションすることができる。

学生へのメッセージ

教員採用試験では、能力面だけでなく教養や熱意など多岐に渡る人間力が問われることになる。そのための力は授業の中だけで付けられるものではないため、自分で自分のことをよく知り、自分に適した学び方を見出し自ら実践することによって、はじめて結果を得ることができる。このことは教師の役割が単なる「知識の教え手」から「学びの伴走者」へと変化しつつある今日の学校現場で求められる力でもあるということを意識し、クラスメイトはもちろん講師とも「共に学ぶ」という姿勢で受講に臨んでもらいたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	学校管理職としての実践経験に基づいて、教職の実践事例等を詳しく伝える。
アクティブ・ラーニング	○	関心を持った教育ニュースや教育課題について調べ、考察し、表現し、交流して学び合う活動をルーティンワークとして実施する。
情報リテラシー教育	○	多様な情報の収集や解釈、活用に取り組む中で、著作権を含む実践的な情報リテラシーについて学ぶ。
ICT活用	○	GIGAスクール後の学校現場で不可欠なICT活用を学生自ら学び手として積極的に実践することで「善き使い手」としての姿を子どもに示すことのできるセンスを身に付ける。

講義コード	G04101901
講義名	初等教育演習Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	西尾 琢郎	指定なし

ナンバリング

P30312M12

授業概要(教育目的)

初等教育演習Ａでの学びを基礎に、教員採用試験の過去問題の演習などを通して教員採用試験に合格するために必要な基礎学力の定着を図る。

教職を志す意思を固め、小学校教員採用試験に合格するために必要な学習計画を学生自ら立て、実行できるようにするための支援を行う。また、自分を客観的に見つめる視点や、現代の教育課題に対する関心を持つことを習慣化するための活動を行う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	小学校の教員採用試験の基礎・基本を理解し、過去問を通して実践力をつける。
思考・判断の観点 (K)	現代的な教育課題について、様々な情報を収集し、それに基づき、考察し、自分なりに判断できる力をつける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で学び、教育に関する課題を自ら見出し、掘り下げようとする意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	調べ、吟味し、伝える技術、それらを総合してプレゼンテーションする力をつける。

学習計画

初等教育演習Ｂ

		教職と、教職をめざす自分について考える

第1回	**授業テーマ**	（その1・希望や願い）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・改めて、教職とは何かについてディスカッションし、考察する ・就職活動において重要な3年次で教職を希望している自分の思いやそのための備えを客観的に確認する ・「学びの特性」についての自己診断を行い、自分なりの学び方について考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	・教職について考えたことと自分との関わりを言語化する ・（ルーティーン）自分が関心を持った「教育に関するニュース」「教育用語」について、自分の出来る範囲で調べ、それについて自分なりに考えたことを合わせて発表する
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	**授業テーマ**	教員採用試験の全体像を知る 教採突破戦略会議を開催する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ルーティーン課題の発表とディスカッションを行う ・早期化・複雑化している採用の全体像を把握する ・希望する自治体の試験概要とそのねらいを知り、準備のための戦略を対話的に練り上げる
	教室外学習(予習・復習)の内容	・希望する自治体の試験概要を確認し、自分の対策カレンダーを作成する ・（ルーティーン）自分が関心を持った「教育に関するニュース」「教育用語」について、自分の出来る範囲で調べ、それについて自分なりに考えたことを合わせて発表する
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	**授業テーマ**	教育課題について考え、教職教養問題にチャレンジする 学び方のアップデートについて考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・現代の教育課題についてのトピックと、それを考察する上での切り口について学ぶ ・興味を持ったトピックについて、その場で調べ、考察し、ペアワークでディスカッションする
	教室外学習(予習・復習)の内容	・ルーティーンで討論した教育課題について復習し、それをベースに教職教養問題に取り組む ・（ルーティーン）自分が関心を持った「教育に関するニュース」「教育用語」について、自分の出来る範囲で調べ、それについて自分なりに考えたことを合わせて発表する
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	**授業テーマ**	学びの作戦会議を開催する （自分に適した学びの手立てについて考える）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・一般教養問題の過去問に取り組み、自分の現在地を確認する ・自分の能力・特性と希望する自治体試験の試験内容から、教職／一般教養の追い込みの学習計画を立てる
	教室外学習(予習・復習)の内容	・自分で立てた学習計画に沿って過去問に取り組む ・（ルーティーン）自分が関心を持った「教育に関するニュース」「教育用語」について、自分の出来る範囲で調べ、それについて自分なりに考えたことを合わせて発表する
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	一般教養問題へのチャレンジ（その１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗ	・一般教養問題の過去問に取り組み、自分の現在地を確認する

第5回	ｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・自分の能力・特性と希望する自治体試験の試験内容から、教職／一般教養の追い込みの学習計画を立てる
	教室外学習(予習・復習)の内容	・自分で立てた学習計画に沿って過去問に取り組む ・（ルーティーン）自分が関心を持った「教育に関するニュース」「教育用語」について、自分の出来る範囲で調べ、それについて自分なりに考えたことを合わせて発表する
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	一般教養問題へのチャレンジ（その2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ひきつづき一般教養問題の過去問に取り組む ・教室外学習で自分が間違えたり、課題と感じた点、およびその理由や対策を自分の言葉で共有する
	教室外学習(予習・復習)の内容	・自分で立てた学習計画を修正しながら過去問に取り組む ・（ルーティーン）自分が関心を持った「教育に関するニュース」「教育用語」について、自分の出来る範囲で調べ、それについて自分なりに考えたことを合わせて発表する
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	一般教養問題へのチャレンジ（その3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ひきつづき一般教養問題の過去問に取り組む（必要に応じて教職教養にも取り組む） ・教室外学習で自分が間違えたり、課題と感じた点、およびその理由や対策を自分の言葉で共有する
	教室外学習(予習・復習)の内容	・取り組みを振り返り、集中的な弱点補強に取り組む ・（ルーティーン）自分が関心を持った「教育に関するニュース」「教育用語」について、自分の出来る範囲で調べ、それについて自分なりに考えたことを合わせて発表する
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	教養とは何か 教育と教養の接点について考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・そもそも教養とは何かを考え、教員として求められる教養についてディスカッションを行う ・取り組んできた教職／一般教養が、全体としてどのようにつながっているのかを考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	・取り組みを振り返り、集中的な弱点補強に取り組む ・（ルーティーン）自分が関心を持った「教育に関するニュース」「教育用語」について、自分の出来る範囲で調べ、それについて自分なりに考えたことを合わせて発表する
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	小論文試験の傾向と対策 （その1・概論と整理）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・論文試験のねらいと実施方法について確認する ・希望自治体の小論文試験の過去問を概観してその傾向をつかむ ・学んできた教育課題の中からテーマを設定し、論文作成にチャレンジする
	教室外学習(予習・復習)の内容	・（ルーティーン＋α）自分が関心を持った「教育に関するニュース」「教育用語」について、自分なりの考えを、論文試験の実施方式に合わせて（時間、文字数等）まとめ、オンラインで提出する

	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	**授業テーマ**	小論文試験の傾向と対策 （その2・共有と対話）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・教室外学習で書いた論文とそれに対する講師のフィードバックを全体で共有する ・共有内容を生かして、学んできた教育課題の中からテーマを設定し、論文作成にチャレンジする
	教室外学習(予習・復習)の内容	・（ルーティーン＋α）自分が関心を持った「教育に関するニュース」「教育用語」について、自分なりの考えを、論文試験の実施方式に合わせて（時間、文字数等）まとめ、オンラインで提出する
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	**授業テーマ**	教育課題と自分のMUST／CAN／WILLの関わりについて考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・教員に求められるMUSTについて考え、自分のCANの過不足について考える ・現代の教育課題を念頭に、教員になった自分が何をしたいか（WILL）について対話する
	教室外学習(予習・復習)の内容	・対話での気づきを織り込みながら、自分が考える教員としての「MUST/CAN/WILL」についてまとめる ・（ルーティーン）自分が関心を持った「教育に関するニュース」「教育用語」について、自分の出来る範囲で調べ、それについて自分なりに考えたことを合わせて発表する
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	**授業テーマ**	教職と、教職を目指す自分について考える （その2・経験や体験）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・初回の自己診断と、ここまでの学びに自分の経験を紐付けながら、志望に至る自分の物語を書く ・物語を共有しながら、それについて互いに対話を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	・対話での気づきを織り込みながら、自分の物語を完成させる ・（ルーティーン）自分が関心を持った「教育に関するニュース」「教育用語」について、自分の出来る範囲で調べ、それについて自分なりに考えたことを合わせて発表する
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	**授業テーマ**	面接および模擬授業（指導場面）の傾向と対策
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・志望自治体での面接実施内容について確認する ・面接官視点での注目ポイントについて講義で学ぶ ・想定問答を実施し、その様子を動画撮影する
	教室外学習(予習・復習)の内容	・想定問答録画を視聴し、自分なりの改善点を検討する ・（ルーティーン）自分が関心を持った「教育に関するニュース」「教育用語」について、自分の出来る範囲で調べ、それについて自分なりに考えたことを合わせて発表する
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	採用試験応募に向けた自己アピール文の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	・志望自治体の志望書類の体裁を確認する ・自己アピール文作成のポイントについて学ぶ

第14回	教育・ICT活用を含む)	・これまでの学びを総合して、教員のMUSTを意識しながら、自分のCANやWILLについて言語化する
	教室外学習(予習・復習)の内容	自己アピール文を書き上げ、自分なりに推敲して完成させる
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

受講の過程で自己理解を深めながら、自分に合った学習計画を立て、随時それを改善しながら自学自習の力を高めていけるように努力することが必要。

学生へのフィードバック方法

作成した小論文、自己アピール文は、添削して学生に返却する。

評価方法

ルーティン課題やその他のレポート等の提出課題と、ペアおよび集団での活動への参加姿勢を総合的に評価する。

提出課題、活動参加のいずれについてもそれぞれルーブリックを提示し、それに基づく評価を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
ルーティン課題	○		○	○
レポート	○	○		○
平常点		○	○	

評価割合

ルーティン課題およびレポート（各40%）、平常点（20%）
総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特になし

参考図書

2026年度版 教員採用試験 一般教養 合格問題集』TAC出版編 2024年9月刊行

ディプロマポリシーとの関連

【知識理解】教育および教育にの本質を理解し、子どもの教育に必要な知識が修得できている。
【思考・判断】現代の教育課題について、様々な情報を収集し、考察し、自分なりに判断できる。
【関心・意欲・態度】身の回りのさまざまなできごとや課題を教育に引き付けて考える習慣を持ち、子どもたちのために使命感をもって行動することができる。
【技術・表現】調べ、吟味し、伝える技術、それらを総合してプレゼンテーションすることができる。

学生へのメッセージ

教員採用試験では、能力面だけでなく教養や熱意など多岐に渡る人間力が問われることになる。そのための力は授業の中だけで付けられるものではないため、自分で自分のことをよく知

り、自分に適した学び方を見出し自ら実践することによって、はじめて結果を得ることができる。このことは教師の役割が単なる「知識の教え手」から「学びの伴走者」へと変化しつつある今日の学校現場で求められる力でもあるということを意識し、クラスメイトはもちろん講師とも「共に学ぶ」という姿勢で受講に臨んでもらいたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	学校管理職としての実践経験に基づいて、教職の実践事例等を詳しく伝える。
アクティブ・ラーニング	○	関心を持った教育ニュースや教育課題について調べ、考察し、表現し、交流して学び合う活動をルーティンワークとして実施する。
情報リテラシー教育	○	多様な情報の収集や解釈、活用に取り組む中で、著作権を含む実践的な情報リテラシーについて学ぶ。
ICT活用	○	GIGAスクール後の学校現場で不可欠なICT活用を学生自ら学び手として積極的に実践することで「善き使い手」としての姿を子どもに示すことのできるセンスを身に付ける。

講義コード	G04102001
講義名	初等教育演習Ｃ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P30313M12

授業概要(教育目的)

小学校教員採用試験に合格するために必要な様々な準備を行う。初等教育演習Ｃでは、初等教育演習Bまでの学びを基礎に、教員採用試験の過去問題や予想問題の演習を通して教員採用試験に合格するために必要な一般・教職教養の学力の向上を図る。また、面接や小論文および模擬授業の対策も行う。
特別支援教育については、別途勉強会を実施しているので、希望者は連絡して参加する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	小学校の教員採用試験の基礎・基本を理解し、過去問を通して実践力をつける。
思考・判断の観点 (K)	現代的な教育課題について、様々な情報を収集に基づき、考察し、自分で判断できる力をつける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で学び、教職に関する関心・意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	教える技術やプレゼンテーションの力を向上することができる。

学習計画

初等教育演習Ｃ

第1回	**授業テーマ**	心構え、ガイダンス、教職
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教職の心構えについて確認する。授業の概要について確認する。教職関係について復習する。 時間割に位置づけ、継続的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教職の心構えについて確認する。授業の概要について確認する。教職関係について復習する。
	教室外学習の時間（分）	50分

第2回	授業テーマ	教職教養
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教員採用試験対策演習 教職教養 を継続的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教職教養 について復習する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	算数・数学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教員採用試験対策演習 算数・数学 週１回木曜日５限を通して継続的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	算数・数学について復習する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	授業テーマ	算数・数学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教員採用試験対策演習 算数・数学 週１回木曜日５限を通して継続的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	算数・数学について復習する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	英語・国語
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教員採用試験対策演習 英語・国語
	教室外学習(予習・復習)の内容	英語・国語について復習する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	教職実践演習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教員採用試験対策講座 場面指導の実際１ 集中講義で行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	場面指導の実際について復習する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	教職実践演習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教員採用試験対策講座 場面指導の実際２
	教室外学習(予習・復習)の内容	場面指導の実際について復習する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	教職実践演習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教員採用試験対策講座 教育課題の解決に向けて小論文作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育課題の解決に向けて小論文作成について復習する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	教職実践演習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教員採用試験対策講座 模擬授業と集団協議１
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業と集団協議について復習する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	授業テーマ	教職実践演習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教員採用試験対策講座 模擬授業と集団協議２
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業と集団協議について復習する。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	教職実践演習

第11回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教員採用試験対策講座 模擬授業と集団協議３
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業と集団協議について復習する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	授業テーマ	教職実践演習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教員採用試験対策講座 授業力をつける 指導案の改善
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業力をつける 指導案の改善について復習する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	授業テーマ	教職実践演習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教員採用試験対策講座 授業力をつける 教材の工夫
	教室外学習(予習・復習)の内容	教材の工夫について復習する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	授業テーマ	教職実践演習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教員採用試験対策講座 指導内容と方法の工夫改善
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導内容と方法の工夫改善について復習する。
	教室外学習の時間（分）	50分

学生へのフィードバック方法

作成した小論文、自己アピール文は、修正して学生に返却する。

評価方法

各分担による試験またはレポート課題、平常点をもとに評価する。
担当者の評価を、総合的に評価する。

ルーブリックで評価する場合は、授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業内小定期試験	○			
レポート		○		
平常点			○	

評価割合

授業内小試験またはレポート（５０％）、平常点（５０％）
総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

２０２４年度 教員採用試験対策問題集１ 教職教養』東京アカデミー編 ２０２２年１０月発刊

ディプロマポリシーとの関連

【知識理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【思考・判断】現代的な教育課題について、様々な情報を収集に基づき、考察し、自分で判断

できる力をつける。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちのために使命感をもって行動できる。
【技術・表現】教える技術やプレゼンテーションの力を向上することができる。

オフィスアワー

各担当者の都合を確認し、各研究室に質問に行く。

学生へのメッセージ

教員採用試験の勉強は、基本的には自分が主体的に進めるものである。この時間は、ペースづくりに活用してほしい。教えてもらうという受動的な態度ではなく、能動的な取り組みを期待する。授業では丁寧に説明するように心掛けたい。理解できない部分は、遠慮せずに気楽に研究室を訪れ、質問して疑問を解消するように努めることを期待する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教職としての実践経験に基づいて、教職の実践事例等を詳しく伝える。
アクティブ・ラーニング	○	現代的な教育課題について話し合い、理解を深める。
情報リテラシー教育	○	特色ある小学校に関する情報を収集し、指導案作成等に活用する。
ICT活用	○	パワーポイントを活用したプレゼンテーションを授業で取り入れるように心がけるとともに、授業を録画し、欠席者等にＹＯＵＴＵＢＥで公開できるように努める。

講義コード	G04102101
講義名	初等教育演習Ｄ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P40301M12

授業概要(教育目的)

小学校教員採用試験に合格するために必要な様々な準備を行う。初等教育演習Ｄでは、初等教育演習Ｃまでの学びを基礎に、教員採用試験の過去問題や予想問題の演習を通して教員採用試験に合格するために必要な一般・教職教養の学力の定着を図る。また、面接や小論文及び模擬授業の対策も行い、教師への志望動機や理想とする教師像等について適切に表現できるかを再確認するとともに、自己理解を深め、自己に関するプレゼンテーション能力の向上を図る。
特別支援教育については、別途勉強会を実施しているので、希望者は連絡して参加する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	小学校の教員採用試験の基礎・基本を理解し、過去問・予想問題を通して実践力をつける。
思考・判断の観点 (K)	現代的な教育課題について、様々な情報を収集に基づき、考察し、自分で判断できる力をつける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で学び、教職に関する関心・意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	教える技術やプレゼンテーションの力を向上することができる。

学習計画

初等教育演習D

第1回	**授業テーマ**	心構え、ガイダンス、教職
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教職の心構えについて確認する。授業の概要について確認する。教職教養について復習する。 時間割に位置づけ、継続的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教職の心構えについて確認する。授業の概要について確認する。教職教養について復習する。
		50

	教室外学習の時間（分）	分
第2回	**授業テーマ**	教職教養
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教員採用試験対策演習 教職教養 を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教職教養 について復習する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	**授業テーマ**	算数・数学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教員採用試験対策演習 算数・数学 週１回木曜日５限を通して継続的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	算数・数学について復習する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	**授業テーマ**	算数・数学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教員採用試験対策演習 算数・数学 週１回木曜日５限を通して継続的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	算数・数学について復習する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	**授業テーマ**	英語・国語
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教員採用試験対策演習 英語・国語 週１回木曜日５限を通して継続的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	英語・国語について復習する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	**授業テーマ**	教職実践演習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教員採用試験対策講座 自己アピール文提出 集中講義で行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自己アピール文提出について復習する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	**授業テーマ**	教職実践演習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教員採用試験対策講座 教育実習に向けての心構え
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育実習に向けての心構えについて復習する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	**授業テーマ**	教職実践演習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教員採用試験対策講座 教育実習の反省と学習したこと
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育実習の反省と学習したことについて復習する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	**授業テーマ**	教職実践演習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教員採用試験対策講座 自己アピール文完成
	教室外学習(予習・復習)の内容	自己アピール文を完成する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	**授業テーマ**	教職実践演習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教員採用試験対策講座 予想問題の小論文作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	予想問題の小論文作成について復習する。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	教職実践演習

第11回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教員採用試験対策講座 模擬授業と集団協議の実施と改善１
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業と集団協議の実施と改善１について復習する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	授業テーマ	教職実践演習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教員採用試験対策講座 模擬授業と集団協議の実施と改善２
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業と集団協議の実施と改善２について復習する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	授業テーマ	教職実践演習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教員採用試験対策講座 面接対応と場面指導の実施と改善１
	教室外学習(予習・復習)の内容	面接対応と場面指導の実施と改善１について復習する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	授業テーマ	教職実践演習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教員採用試験対策講座 面接対応と場面指導の実施と改善１
	教室外学習(予習・復習)の内容	面接対応と場面指導の実施と改善１について復習する。
	教室外学習の時間（分）	50分

学生へのフィードバック方法

作成した小論文、自己アピール文は、修正して学生に返却する。

評価方法

各分担による試験またはレポート課題、平常点をもとに評価する。
担当者の評価を、総合的に評価する。

ルーブリックで評価する場合は、授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業内小試験	○			
レポート		○		
平常点			○	

評価割合

授業内小試験またはレポート（５０％）、平常点（５０％）
総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特になし

参考図書

２０２４年度 教員採用試験対策問題集１ 教職教養』東京アカデミー編 ２０２２年１０月発刊

ディプロマポリシーとの関連

【知識理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【思考・判断】現代的な教育課題について、様々な情報を収集に基づき、考察し、自分で判断できる力をつける。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちのために使命感をもって行動できる。
【技術・表現】教える技術やプレゼンテーションの力を向上することができる。

オフィスアワー

各担当者の都合を確認し、各研究室に質問に行く。

学生へのメッセージ

教員採用試験の勉強は、基本的には自分が主体的に進めるものである。この時間は、ペースづくりに活用してほしい。教えてもらうという受動的な態度ではなく、能動的な取り組みを期待する。授業では丁寧に説明するように心掛けたい。理解できない部分は、遠慮せずに気楽に研究室を訪れ、質問して疑問を解消するように努めることを期待する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教職としての実践経験に基づいて、教職の実践事例等を詳しく伝える。
アクティブ・ラーニング	○	現代的な教育課題について話し合い、理解を深める。
情報リテラシー教育	○	特色ある小学校に関する情報を収集し、指導案作成等に活用する。
ICT活用	○	パワーポイントを活用したプレゼンテーションを授業で取り入れるように心がけるとともに、授業を録画し、欠席者等にＹＯＵＴＵＢＥで公開できるように努める。

講義コード	G04102201
講義名	児童臨床実習ＡI
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	柳瀬 洋美	指定なし

ナンバリング

P40102M13

授業概要(教育目的)

学内で実施している乳幼児とその保護者を対象とした親子参加型のグループ活動実習を通し、現代日本の子育て支援の現状についてその実際を知り、保育者としての実践力、臨床家としての資質を養成する。

履修条件

原則として、後期開講の「児童臨床実習ＡII」と合わせ、通年で履修すること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．乳幼児の発達について実践を通して学ぶ。 ２．保護者との交流を通し、現代日本の子育て支援の現状についてその実際を知る。
思考・判断の観点 (K)	１．個々の子どもに寄り添った保育者としてのかかわりについて実践的に学ぶ。 ２．保護者との交流を通し、現代日本の子育て支援の現状についてその実際を知り、保護者支援のあり方について理解を深める。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	１．学生が主体となって毎回の保育活動計画を立て、保育者としての実践力を身につける。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代の子育て事情を背景に、本実習授業の目的や各自の課題について知る。 初回の活動準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自が授業を履修するにあたっての目的と課題について考える。
	教室外学習の時間(分)	60分
第2回	**授業テーマ**	子育て支援の現状と子育て支援グループ活動の基礎理論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループ参加者（子どもと保護者）の基本的な情報を共有する。 子育て支援グループ活動の基礎理論について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー（主担当者）は、活動案を計画を作成する。
	教室外学習の時間(分)	60分
第3回	**授業テーマ**	子育て支援グループ実践活動①インテーク（集団における個の課題の確認）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インテーク面談により、各参加者（子どもと保護者）の様子を把握し、現状と課題について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。
	教室外学習の時間(分)	60分
第4回	**授業テーマ**	子育て支援グループ実践活動②（集団での安定、出会い体験）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集団に包まれ安定できる状況のもと、参加者（子どもと保護者）が安心して活動するために、保育者はどのようなことに留意し、役割を果たしたらよいのかについて考え、実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。
	教室外学習の時間(分)	60分
第5回	**授業テーマ**	子育て支援を考える②（親子の交流の場としての役割について考える）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	親子の交流の場としての子育てひろば、子育て支援拠点が果たす役割について考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー（主担当者）は、活動案を計画を作成する。
	教室外学習の時間	60分

	（分）	
第6回	**授業テーマ**	子育て支援グループ実践活動③（保護者支援の実践の試み）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・保育者として、子どもたち一人ひとりの活動の充実をはかる。 ・保護者のグループワークへの参加を通して、保護者支援のあり方を探る。 ・保護者支援において、保育者が果たしうる役割やかかわりのポイントについて考えてみる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	子育て支援グループ実践活動④（集団におけるコーナー活動の展開②）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集団活動において、コーナー間の交流を促進する保育者としてのかかわりに留意し、保育を実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	子育て支援グループ実践活動⑤（グループダイナミクス）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集団におけるグループダイナミクスに着目した保育を実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	子育て支援を考える④（地域社会と子育て）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域社会による子育て支援について、社会資源とのかかわりで考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー（主担当者）は、活動案を計画を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	子育て支援グループ実践活動⑥（季節行事を取り入れた家族参加活動）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	通常活動に参加している子どもと保護者に加えて祖父母やきょうだい等も一緒に参加する家族参加活動の実践を通し、保育者としてのスキルアップを図る。
		・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現

	教室外学習(予習・復習)の内容	状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。
	教室外学習の時間(分)	60分
第11回	**授業テーマ**	子育て支援を考える⑤（現代社会における子育てをめぐる環境について）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代社会における子育てをめぐる環境について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー（主担当者）は、活動案を計画を作成する。
	教室外学習の時間(分)	60分
第12回	**授業テーマ**	子育て支援グループ実践活動⑦（集団活動体験の統合）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育場面において、子どもたち一人ひとりの活動やコーナー活動での体験が統合され、個と集団が共に育ちあうために、保育者がどのように動いたらよいのかについて考え、実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。
	教室外学習の時間(分)	60分
第13回	**授業テーマ**	子育て支援活動を考える⑥（現代社会における子育ての課題の理解と支援の実際）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代日本社会の子育てをめぐる社会的背景を踏まえながら、子育てに関する課題を理解し、支援の実際について探る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー（主担当者）は、活動案を計画を作成する。
	教室外学習の時間(分)	60分
第14回	**授業テーマ**	まとめ （前期活動の総括および個人の実践研究成果発表）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期の活動を総括し、個人の実践研究の成果を発表し、全体で共有する。また、前期の総括を踏まえ、後期の「児童臨床実習CII」に向け、課題を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・前期も含めた1年間の実習の全体の活動の総括と各自の課題についての総括をおこなう。
	教室外学習の時間(分)	60分

学習計画注記

※履修学生の保育・教育実習の状況によりスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

・毎回の活動前後の話し合いでのコメント
・期末レポートへのコメント

評価方法

実習課題への取り組みや期末レポート、毎回の活動記録、平常点（活動への参加状況や討論への参加）などによる総合評価

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末レポート	○	○	○	
実習課題への取り組み	○	○	○	○
毎回の活動記録	○	○	○	

評価割合

平常点（授業への参加状況・討論への参加など）および実習課題への取り組みやレポートなどによる総合評価

参考図書

東京家政学院大学児童学科「児童臨床実習」担当者グループ著「子育て・発達支援―地域に開く大学として共に育つ保育活動から― 第III巻 2010年度」

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】乳幼児の発達について実践を通して学ぶ。保護者との交流を通し、現代日本の子育て支援の現状についてその実際を知る。
【思考・判断】個々の子どもに寄り添った保育者としてのかかわりについて実践的に学ぶ。
【技術・表現】学生が主体となって毎回の保育活動計画を立て、保育者としての実践力を身につける。

オフィスアワー

水曜日5時限 1619研究室（メール等でも積極的に連絡をください。）

学生へのメッセージ

0歳～3歳の乳幼児期の子どもたちの発達や子育て支援について、これまで学んできたことを振り返っておいて下さい。また、卒業研究テーマ等、各自の興味や・関心について、本実習授業をどのように生かしていくのか考えておいて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	学生が主体となって毎回の保育活動計画を立て、保育者としての実践力を身につける。(担当教員は長年、子育て支援の現場で臨床経験がある。)
アクティブ・ラーニング	○	毎回の活動計画を学生が立てるほか、活動後にはグループディスカッションを通じて、各自の理解を深める。
情報リテラシー教育	○	現代の子育て家庭を取り巻く現状を踏まえ、情報機器やITネットワークを活用した子育て支援のあり方を探る。
ICT活用	○	ZoomやYouTube等のICTを活用し、保育教材を作成するなど、新たな子育て

		支援のあり方について考えていく。

講義コード	G04102301
講義名	児童臨床実習ＡII
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	柳瀬 洋美	指定なし

ナンバリング

P40103M13

授業概要(教育目的)

０歳～3歳の乳幼児とその保護者を対象とした親子参加型のグループ活動学内実習。前期の「児童臨床実習ＡI」を踏まえ、参加者である子どもと保護者個々の課題と取り組み、保育者、臨床家としての資質の向上をはかる。毎回の活動体験にもとづく集団討議をおこない、児童学研究上の諸問題などについても考究する。

履修条件

原則として、前期開講の「児童臨床実習ＡI」と合わせ、通年で履修すること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．保護者の置かれている状況や心情への理解を深め、子育て支援のあり方について実践的に学ぶ。 ２．個と集団の相即的発展を意識し、保育者としての役割について実践的に学ぶ。
思考・判断の観点 (K)	１．子どもひとりひとりの個性や発達課題を踏まえ、個々に寄り添った支援をおこなう。
関心・意欲・態度の観点 (V)	１．子どもひとりひとりの個性や発達課題を踏まえ、個々に寄り添った支援をおこなう。
技術・表現の観点 (A)	１．学生が主体となって毎回の保育活動計画を立て、保育者としての実践力を身につける。

学習計画

第1回	授業テーマ	オリエンテーション・後期・子育て支援グループ準備活動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期「児童臨床実習CI」を改めて振り返り、後期からの本実習授業の目的や各自の課題についてグループで共有する。 また、後期の活動準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自が授業を履修するにあたっての目的と課題について考える。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	子育て支援グループ実践活動①（集団における個の課題の検討）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループ参加者（子どもと保護者）の個と集団の育ちに着目し、個々の課題を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	子育て支援を考える①（子ども理解と保育の目標及び子育て支援の目標の設定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回活動での参加児と保護者の様子を踏まえ、各参加者（子どもと保護者）の課題を確認し、後期の活動・支援方針について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー（主担当者）は、活動案を計画を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	子育て支援グループ実践活動②（集団におけるコーナー活動の展開①）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個と集団の関係性に着目しながら、一人ひとりの子どもたちにとってのコーナー活動の充実を意識した保育を実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	子育て支援を考える②（親子の交流の場としての役割について考える）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	親子の交流の場としての子育てひろば、子育て支援拠点が果たす役割

第5回	育・ICT活用を含む)	について考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー（主担当者）は、活動案を計画を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	子育て支援グループ実践活動③（保護者支援の実践の試み）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・保育者として、子どもたち一人ひとりの活動の充実をはかる。 ・保護者のグループワークへの参加を通して、保護者支援のあり方を探る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	子育て支援を考える③（保育者による保護者支援）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保護者支援において、保育者が果たしうる役割やかかわりのポイントについて考えてみる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー（主担当者）は、活動案を計画を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	子育て支援グループ実践活動④（集団におけるコーナー活動の展開②）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集団活動において、コーナー間の交流を促進する保育者としてのかかわりに留意し、保育の実践を
	教室外学習(予習・復習)の内容	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	子育て支援グループ実践活動⑤（グループダイナミクス）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集団におけるグループダイナミクスに着目した保育を実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課

		題確認、記録作成を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	子育て支援を考える④（地域社会と子育て）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域社会による子育て支援について、社会資源とのかかわりで考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー（主担当者）は、活動案を計画を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	子育て支援グループ実践活動⑥（季節行事を取り入れた家族参加活動）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	通常活動に参加している子どもと保護者に加えて祖父母やきょうだい等も一緒に参加する家族参加活動の実践を通し、保育者としてのスキルアップを図る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	子育て支援を考える⑤（現代社会における子育てをめぐる環境について）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代社会における子育てをめぐる環境について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー（主担当者）は、活動案を計画を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	子育て支援グループ実践活動⑥（季節行事を取り入れた保育）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クリスマスという季節行事を取り入れながら、子どもたちが主体的に楽しめる保育内容を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	子育て支援グループ実践活動（最終）とまとめ （1年間の活動の総括

		および個人の実践研究成果発表）
第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期「児童臨床実習CI」も含め、1年間の活動全体を振り返り、参加者（子どもと保護者）一人ひとりの成長や変化、集団全体の成長と発展について確認し、今年度最後の活動をまとめる。また学生についても保育者としての気づきや成長を総括する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・前期も含めた1年間の実習の全体の活動の総括と各自の課題についての総括をおこなう。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

※履修学生の保育・教育実習の状況によりスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

・毎回の活動前後の話し合いでのコメント
・期末レポートへのコメント

評価方法

実習課題への取り組みや期末レポート、毎回の活動記録、平常点（活動への参加状況や討論への参加）などによる総合評価

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末レポート	○	○	○	
実習課題への取り組み	○	○	○	○
毎回の活動記録	○		○	

評価割合

期末レポート30%、実習課題への取り組み30%、毎回の活動記録40%

参考図書

東京家政学院大学児童学科「児童臨床実習」担当者グループ著「子育て・発達支援―地域に開く大学として共に育つ保育活動から― 第III巻 2010年度」

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】保護者の置かれている状況や心情への理解を深め、子育て支援のあり方について実践的に学ぶ。個と集団の相即的発展を意識し、保育者としての役割について実践的に学ぶ。
【思考・判断】子どもひとりひとりの個性や発達課題を踏まえ、個々に寄り添った支援をおこなう。
【関心・意欲・態度】子どもひとりひとりの個性や発達課題を踏まえ、個々に寄り添った支援をおこなう。
【技術・表現】学生が主体となって毎回の保育活動計画を立て、保育者としての実践力を身につける。

オフィスアワー

水曜日5時限 1619研究室

学生へのメッセージ

0歳～３歳の乳幼児期の子どもたちの発達や子育て支援について、これまで学んできたことを振り返っておいて下さい。また、卒業研究のフィールドとして選択している人は、研究課題等、各自の興味や・関心について、本実習授業をどのように生かしていくのか考えておいて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	授業担当者は公認心理師・臨床心理士等の有資格者であり、長年、療育・子育て支援現場で心理専門職としての実務経験を有している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回の活動計画を学生が立てるほか、活動後にはグループディスカッションを通じて、各自の理解を深める。
情報リテラシー教育	○	現代の子育て家庭を取り巻く現状を踏まえ、情報機器やITネットワークを活用した子育て支援のあり方を探る。
ICT活用	○	ZoomやYouTube等のICTを活用し、保育教材を作成するなど、新たな子育て支援のあり方について考えていく。

講義コード	G04102401
講義名	児童臨床実習ＢI
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	佐藤　冬果	指定なし

ナンバリング

P40502M23

授業概要(教育目的)

自然体験活動演習Iと自然体験活動演習II、自然体験活動実習で学んだ知識と実践的能力を基に、森のようちえん活動において、活動内容の企画運営を主となって実施する「プログラムディレクター」の役割を担い、春～夏に適した自然体験活動の場を設定し、運営する能力を育成する。さらに、計画→実施→ふりかえりのサイクルを2度行うことで、実践的な能力の定着を目指す。子ども達が自然の中で活動することが子ども達にどのような影響を与えるのかについて、実際の経験を通じて理解を深める。

履修条件

自然体験活動演習Iと自然体験活動演習II、自然体験活動実習を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自然体験活動（キャンプ）のプログラムと期待される効果について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	目的に応じた自然体験活動（キャンプ）を計画し、提示することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自然体験活動（キャンプ）の企画運営に積極的に寄与することができる。
技術・表現の観点 (A)	自然体験活動（キャンプ）のプログラムを適切に指導することができる。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション 森のようちえんのプログラム（A）立案（1）

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業で扱う内容や進め方、スケジュール等について確認する。また、森のようちえんの概要や教育目的等について理解する。 森のようちえん全体の教育目的を踏まえ、自身が担当する森のようちえんでの教育目標を設定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プログラムとその目的、期待される効果等について整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	森のようちえんのプログラム（A） 立案（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な自然体験活動プログラムの中から、目的に合ったプログラムを選択し、その指導法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プログラムとその目的、期待される効果等について整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	森のようちえんのプログラム（A） 計画と準備（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実地踏査を行い、活動場所や移動経路等を設定し、危険箇所などの確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実施予定のプログラムの特性を理解し、適した運営方法について考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	森のようちえんのプログラム（A） 計画と準備（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	当日の行動予定表やスタッフ配置、準備物や指導法などについて計画を進め、実施に向けた準備を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森のようちえん実施に向けた準備を進める。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	森のようちえんのプログラム（A） 実施（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子ども達を対象にした森のようちえんを実施し、プログラムディレクターとしての役割を体験する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森のようちえんを実施する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	授業テーマ	森のようちえんのプログラム（A） 実施（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子ども達を対象にした森のようちえんを実施し、プログラムディレクターとしての役割を体験する。
	教室外学習(予習・復)	森のようちえんを実施する。

	習 の内容	
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	授業テーマ	ふりかえり（プログラム（A））
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	企画・運営を行ったプログラム（A）を振り返り、その成果や改善点についてまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森のようちえんの活動内容や時程、子どもの様子を記載した報告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	森のようちえんのプログラム（B） 立案（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	森のようちえん全体の教育目的を踏まえ、自身が担当する森のようちえんでの教育目標を設定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プログラムとその目的、期待される効果等について整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	森のようちえんのプログラム（B） 立案（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な自然体験活動プログラムの中から、目的に合ったプログラムを選択し、その指導法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プログラムとその目的、期待される効果等について整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	森のようちえんのプログラム（B） 計画と準備（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実地踏査を行い、活動場所や移動経路等を設定し、危険箇所などの確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実施予定のプログラムの特性を理解し、適した運営方法について考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	森のようちえんのプログラム（B） 計画と準備（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プログラム（A）の学びを基に、当日の行動予定表やスタッフ配置、準備物や指導法などについて計画を進め、実施に向けた準備を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森のようちえん実施に向けた準備を進める。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	森のようちえんのプログラム（B） 実施（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	子ども達を対象にした森のようちえんを実施し、プログラム

第12回	育・ICT活用を含む)	ディレクターとしての役割を体験する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森のようちえん実施に向けた準備を進める。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	森のようちえんのプログラム（B） 実施（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子ども達を対象にした森のようちえんを実施し、プログラムディレクターとしての役割を体験する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森のようちえん実施に向けた準備を進める。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	ふりかえり、まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	企画・運営を行ったプログラム（B）を振り返り、その成果や改善点についてまとめる。 また、プログラム（A）との比較を行い、成果の差や運営方法の改善などについて理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森のようちえんの活動内容や時程、子どもの様子を記載した報告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分

学習計画注記

・森のようちえんの実施状況等によりスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

プログラム実施後に面談の機会を設け、ともにふりかえりを実施し、フィードバックを伝えます。

評価方法

・プログラム企画・運営への取り組み
・企画書
・実施報告書
・レポート（ノート提出）
を総合的に評価します。

・ルーブリックを用いた評価を行います。ルーブリックについてはクラスルームにより提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
プログラム企画・運営への取り組	○	○	○	○
企画書	○	○	○	○
実施報告書		○	○	○
最終レポート（ノート提出）	○	○	○	○

評価割合

・プログラム企画・運営への取り組み　20%×2回＝40%
・企画書　　10%×2回＝20%
・実施報告書　10%×2回＝20%
・最終レポート（ノート提出）　20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

キャンプ指導者入門 第5版(キャンプインストラクター養成用)
ISBN:978-4-904008-15-7
定価：2,200円(本体2,000円+税10%)

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもに関する専門的な知識が修得できている
【思考・判断】自ら様々な課題に柔軟に対応できる
【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる
【技術・表現】豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている

オフィスアワー

月曜4限　1618室

学生へのメッセージ

都市化された現代の生活では、子ども達が自然に触れる機会が減少しています。
しかし、幼児･児童期に自然と直接関わり、五感を刺激し、自然と生まれる興味のままに物事に取り組んだ経験は、無意識のうちに心の深いところに根付き、その後の心身の成長に大きな影響を与えてくれます。そして、その体験の質の鍵を握るのは、そこにいる「大人」の存在であるとも言われます。
保育者・教育者など、子どもの専門家を目指す皆さんには、まずは皆さん自身が自然にたくさん触れることで子ども達の自然体験の意義を実感を持って理解し、豊かな体験をサポートできる存在になってほしいと願います。
また、本授業ではそのような「場づくり」の役割を担うことで、豊かな体験の場を作る力をもって現場に出てほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	森のようちえんの企画・運営を実際に行いながら、体験的に学びます。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04102501
講義名	児童臨床実習ＢII
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	佐藤　冬果	指定なし

ナンバリング

P40502M23

授業概要(教育目的)

自然体験活動演習Iと自然体験活動演習II、自然体験活動実習で学んだ知識と実践的能力を基に、森のようちえん活動において、活動内容の企画運営を主となって実施する「プログラムディレクター」の役割を担い、秋～冬に適した自然体験活動の場を設定し、運営する能力を育成する。さらに、計画→実施→ふりかえりのサイクルを2度行うことで、実践的な能力の定着を目指す。子ども達が自然の中で活動することが子ども達にどのような影響を与えるのかについて、実際の経験を通じて理解を深める。

履修条件

自然体験活動演習Iと自然体験活動演習II、自然体験活動実習を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自然体験活動（キャンプ）のプログラムと期待される効果について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	目的に応じた自然体験活動（キャンプ）を計画し、提示することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自然体験活動（キャンプ）の企画運営に積極的に寄与することができる。
技術・表現の観点 (A)	自然体験活動（キャンプ）のプログラムを適切に指導することができる。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション 森のようちえんのプログラム（A）立案（1）

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業で扱う内容や進め方、スケジュール等について確認する。また、森のようちえんの概要や教育目的等について理解する。 森のようちえん全体の教育目的を踏まえ、自身が担当する森のようちえんでの教育目標を設定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プログラムとその目的、期待される効果等について整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	森のようちえんのプログラム（A） 立案（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な自然体験活動プログラムの中から、目的に合ったプログラムを選択し、その指導法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プログラムとその目的、期待される効果等について整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	森のようちえんのプログラム（A） 計画と準備（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実地踏査を行い、活動場所や移動経路等を設定し、危険箇所などの確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実施予定のプログラムの特性を理解し、適した運営方法について考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	森のようちえんのプログラム（A） 計画と準備（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	当日の行動予定表やスタッフ配置、準備物や指導法などについて計画を進め、実施に向けた準備を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森のようちえん実施に向けた準備を進める。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	森のようちえんのプログラム（A） 実施（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子ども達を対象にした森のようちえんを実施し、プログラムディレクターとしての役割を体験する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森のようちえん実施に向けた準備を進める。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	授業テーマ	森のようちえんのプログラム（A） 実施（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子ども達を対象にした森のようちえんを実施し、プログラムディレクターとしての役割を体験する。
	教室外学習(予習・復)	森のようちえん実施に向けた準備を進める。

	習 の内容	
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	授業テーマ	ふりかえり（プログラム（A））
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	企画・運営を行ったプログラム（A）を振り返り、その成果や改善点についてまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森のようちえんの活動内容や時程、子どもの様子を記載した報告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	森のようちえんのプログラム（B） 立案（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	森のようちえん全体の教育目的を踏まえ、自身が担当する森のようちえんでの教育目標を設定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プログラムとその目的、期待される効果等について整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	森のようちえんのプログラム（B） 立案（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な自然体験活動プログラムの中から、目的に合ったプログラムを選択し、その指導法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プログラムとその目的、期待される効果等について整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	森のようちえんのプログラム（B） 計画と準備（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実地踏査を行い、活動場所や移動経路等を設定し、危険箇所などの確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実施予定のプログラムの特性を理解し、適した運営方法について考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	森のようちえんのプログラム（B） 計画と準備（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プログラム（A）の学びを基に、当日の行動予定表やスタッフ配置、準備物や指導法などについて計画を進め、実施に向けた準備を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森のようちえん実施に向けた準備を進める。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	森のようちえんのプログラム（B） 実施（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	子ども達を対象にした森のようちえんを実施し、プログラム

第12回	育・ICT活用を含む)	ディレクターとしての役割を体験する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森のようちえん実施に向けた準備を進める。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	森のようちえんのプログラム（B） 実施（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子ども達を対象にした森のようちえんを実施し、プログラムディレクターとしての役割を体験する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森のようちえん実施に向けた準備を進める。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	ふりかえり、まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	企画・運営を行ったプログラム（B）を振り返り、その成果や改善点についてまとめる。 また、プログラム（A）との比較を行い、成果の差や運営方法の改善などについて理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森のようちえんの活動内容や時程、子どもの様子を記載した報告書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分

学習計画注記

・森のようちえんの実施状況等によりスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

プログラム実施後に面談の機会を設け、ともにふりかえりを実施し、フィードバックを伝えます。

評価方法

・プログラム企画・運営への取り組み
・企画書
・実施報告書
・レポート（ノート提出）
を総合的に評価します。

・ルーブリックを用いた評価を行います。ルーブリックについてはクラスルームにより提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
プログラム企画・運営への取り組	○	○	○	○
企画書	○	○	○	○
実施報告書		○	○	○
最終レポート（ノート提出）	○	○	○	○

評価割合

・プログラム企画・運営への取り組み　20%×2回＝40%
・企画書　　10%×2回＝20%
・実施報告書　10%×2回＝20%
・最終レポート（ノート提出）　20%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

キャンプ指導者入門 第5版(キャンプインストラクター養成用)
ISBN:978-4-904008-15-7
定価：2,200円(本体2,000円+税10%)

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもに関する専門的な知識が修得できている
【思考・判断】自ら様々な課題に柔軟に対応できる
【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる
【技術・表現】豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている

オフィスアワー

月曜4限　1618室

学生へのメッセージ

都市化された現代の生活では、子ども達が自然に触れる機会が減少しています。
しかし、幼児･児童期に自然と直接関わり、五感を刺激し、自然と生まれる興味のままに物事に取り組んだ経験は、無意識のうちに心の深いところに根付き、その後の心身の成長に大きな影響を与えてくれます。そして、その体験の質の鍵を握るのは、そこにいる「大人」の存在であるとも言われます。
保育者・教育者など、子どもの専門家を目指す皆さんには、まずは皆さん自身が自然にたくさん触れることで子ども達の自然体験の意義を実感を持って理解し、豊かな体験をサポートできる存在になってほしいと願います。
また、本授業ではそのような「場づくり」の役割を担うことで、豊かな体験の場を作る力をもって現場に出てほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	森のようちえんの企画・運営を実際に行いながら、体験的に学びます。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04102801
講義名	障害の基礎的理解
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	岡部 一郎	指定なし

ナンバリング

P10004M21

授業概要(教育目的)

障害者に対する基礎的理解を得るために、3つの事に焦点を当てた講義を実践する。第1に特別支援教育の概要や基礎的理念の理解を図る。第2に個別障害に対する基礎的理解を図る。第3に障害の擬似体験から障害に対する実践的な理解を目指す。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	障害種による基本的知識の理解が十分である。
思考・判断の観点 (K)	障害による生活や学習上の困難さを説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	疑似体験活動後のディスカッションに協力的態度で取り組み事ができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーションと特別支援教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オリエンテーションとして、授業計画及び学習目標を提示する。また、現場経験を踏まえて特別支援教育の魅力について触れる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスを参照し、全講義の流れを確認しておく事。
	教室外学習の時間	200

	(分)	分
第2回	**授業テーマ**	特別支援教育の概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別支援教育の概念について触れるとともに、教育現場の様子を資料から学ぶことで、実践に向けた理解を深める。 キーワード：学校種, 個別性, 合理的配慮
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分が考える「特別支援教育」のイメージや定義について、ノートに記載しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	200分
第3回	**授業テーマ**	特別支援教育の基本的理念
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別支援教育に関連が深い障害の概念、差別・平等、ノーマライゼーション、インクルージョンについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業で取り上げた用語について整理し、各概念をノートにまとめておくこと。
	教室外学習の時間(分)	200分
第4回	**授業テーマ**	障害体験・支援に向けた基礎知識
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	車椅子や白状を活用する身体障害・視覚障害者の方を支援する方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	視覚障害・身体障害者の方の生活や必要な支援について調べておく事。
	教室外学習の時間(分)	200分
第5回	**授業テーマ**	視覚障害（弱視・全盲）と白杖体験 & 肢体不自由と車椅子体験1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ツールを活用して視覚障害と身体障害の疑似体験及び支援を行い、視覚障害や身体障害を持つ方々の困難さや支援に対する理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、疑似体験した際の困難や支援の体験についてにまとめておく事。
	教室外学習の時間(分)	200分
第6回	**授業テーマ**	視覚障害（弱視・全盲）と白杖体験 & 肢体不自由と車椅子体験2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ツールを活用して視覚障害と身体障害の疑似体験及び支援を行い、視覚障害や身体障害を持つ方々の困難さや支援に対する理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、疑似体験した際の困難や支援の体験についてにまとめておく事。
	教室外学習の時間(分)	200分
第7回	**授業テーマ**	視覚障害（弱視・全盲）と白杖体験 & 肢体不自由と車椅子体験3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ツールを活用して視覚障害と身体障害の疑似体験及び支援を行い、視覚障害や身体障害を持つ方々の困難さや支援に対する理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、疑似体験した際の困難や支援の体験についてにまとめておく事。

	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	障害者の理解と支援「ICIDHとICF」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国際障害分類（ICIDH）の歴史的背景と課題ついて理解するとともに、国際生活機能分類（ICF）による課題解決の視点や障害に対する捉えを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、ICFのモデルを活用した事例を一つノートに書くこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	障害の基礎的理解②「知的障害者」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	知的障害者の心理機能について理解する。特に、知覚、認知、学習、行動調整の特性を中心に理解する。また、事例から知的障害者の教育について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	知的障害を持つ児童生徒の特徴、及び困難と支援の方法を整理しておく事。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	障害の基礎的理解①「身体障害:肢体不自由」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害の基礎的理解として、身体障害者の定義、肢体不自由について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、各障害についてノートに整理すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	障害の基礎的理解①「身体障害:視覚, 聴覚, 平衡機能障害」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害の基礎的理解として、視覚障害、聴覚障害、平衡機能の障害について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、各障害についてノートに整理すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	障害の基礎的理解①「身体障害者: 内部障害」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害の基礎的理解として内部障害について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、障害についてノートに整理すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	障害の基礎的理解「発達障害①：ゲストスピーカー」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害、学習障害について、その感覚や行動等の特性について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発達障害を持つ児童生徒の特徴、及び困難と支援の方法を整理しておく事。
	教室外学習の時間（分）	200分

第14回	授業テーマ	障害の基礎的理解「発達障害②」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害、学習障害について、その感覚や行動等の特性について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発達障害を持つ児童生徒の特徴、及び困難と支援の方法を整理しておく事。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

・履修状況や授業の進捗具合によりスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

・授業後のまとめの時間に質問を受け付け、その質問に回答する。

評価方法

・毎回の授業後に出席を兼ねたリフレクションペーパーの記載を求める。
・リフレクションペーパーの内容、擬似体験とゲストスピーカーの講演後に提出する小レポート、及び期末レポート（もしくは定期試験）により評価する。
・学外実習等の止むを得ない事情により欠席した場合には、個別の欠席課題等により評価を行う。

※レポートはルーブリックに基づく評価を行う。
※ルーブリックによる評価基準はクラスルーム或いは授業内で配布を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業・疑似体験		○	○	
レポート・リフレクションペーパ	○	○	○	
期末レポート(或いは定期試験)	○	○		

評価割合

リフレクションペーパーの内容（15%）、小レポート(25%)、期末レポート(或いは期末試験)(60%)
30分未満までの入室までは「遅刻」、30分以後の入室は「欠席」とします（理由ある遅刻を除く）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】特別な支援ニーズを有する子どもの専門的、基礎的知識が修得できている。
【思考・判断】家族・地域・社会との繋がりの観点から、共生社会に向けた障害理解について主体的に考えられる。
【関心・意欲・態度】障害のある子どもの立場から、生活、学習上の困難さを理解しようとする。

オフィスアワー

木曜２、３限（1605研究室）

学生へのメッセージ

社会環境の変化や価値観の多様化に伴い、子どもの支援ニーズも多様化しています。保育や教育の現場では、多様な支援ニーズに対応するための専門的知識や技能が求められています。本講で「障害」の基礎的事項について学び、「障害」について主体的に考えて欲しいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、主に３つの実務経験を有している。 ①特別支援学校教諭：知的障害、発達障害、肢体不自由、聴覚障害、精神障害、聴覚障害、重複障害を持つ生徒に対する実務経験。②病弱者に対する学習支援：白血病等で病院の外へ出る事ができない子ども達への教育支援。③特別支援学校の部活指導：知的障害者に対する陸上競技の指導。以上の実務経験に基づいた教授を行う。
アクティブ・ラーニング	○	講義では障害の疑似体験ツールを活用した体験学習を取り入れて、それら経験に基づくディスカッションからアクティブラーニングを実践する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	適宜、特別支援教育の合理的配慮に有用なICT機器の活用方法について紹介する。

講義コード	G04102901
講義名	特別支援学校教育課程論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	岡部 一郎	指定なし

ナンバリング

P10306M21

授業概要(教育目的)

障害のある児童の教育は、その基本的な目的において、障害のない児童の教育と何ら変わるところはない。しかし、障害による困難を補い、多様な発達の課題に応じた教育を行うため、特別支援学校の教育課程には、自立活動という領域が加えられていることや、柔軟な課程編成が認められているなどの特色がある。また実際の指導は、一人一人の教育ニーズに応じて個別の指導計画を作成することや、医療、福祉、就労など地域の関係諸機関や保護者と密接に連携して進めることが必要とされている。本講義では、こうした特別支援学校の教育課程について基本的な知識を学ぶとともに、その実践例を通じて具体的な指導の展開を検討する。あわせて特別支援学校における今日的な教育課題について講ずる。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	特別支援学校の教育課程について、各教科等の取り扱いや、障害の状態に応じた課程編成の方法を知り、その意義を理解する。
思考・判断の観点 (K)	自立活動の区分及びその内容と、各教科や特別活動など他の領域の指導との関連を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	障害のある児童の教育に関心をもち、教職への意欲を高める。
技術・表現の観点 (A)	個別の指導計画を作成するために必要な学習課題の分析を適切に行うことができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	イントロダクション「特別支援教育の目的」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校教育法や障害者基本法に基づき特別支援教育の目的について知る。その目的が、特別支援学校の教育課程にどのように反映しているかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学校教育法や障害者基本法について調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	各教科等を合わせた指導 (1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別支援学校における柔軟な教育課程の編成の一つに「各教科等を合わせた指導」がある。本時は、その中から「日常生活の指導」と「遊びの指導」について実践例を通じて学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「特別支援学校」と「日常生活の指導」「遊びの指導」をキーワードとして実践例の紹介を調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	各教科等を合わせた指導 (2)：
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「各教科等を合わせた指導」の中から、本時は、「生活単元学習」と「作業学習」について実践例を通じて学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「特別支援学校」と「生活単元学習」「作業学習」をキーワードとして実践例の紹介を調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	重複障害者等に関する教育課程の取り扱い
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	二つ以上の重複した障害を有する児童に対しては、より柔軟な教育課程の編成が認められている。本時は、重複障害者に対する自立活動を主とした指導について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習指導要領の中で自立活動に関する記載を調べておきましょう。 【参考例】 文部科学省ホームページ 『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』

		https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	自立活動 (1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自立活動は特別支援学校の教育課程に設けれている特別な領域である。本時は、自立活動の意義と変遷、指導の基本について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特別支援学校の自立活動について調べ、学びを深めてください。 【参考例】 文部科学省ホームページ 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	自立活動 (2)： ６つの区分と指導内容
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本時は、自立活動の６つの区分と、それぞれの主な指導内容について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自立活動の６つの区分と内容が、各教科や他の領域の指導とどのように関連づけられるかを調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	個別の指導計画 (1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別の指導計画について学び、日本の特別支援教育に導入された経過を考える。また、参考とされたアメリカのＩＥＰについて学び、日本の個別の指導計画との共通点や相違点について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アメリカの障害児教育におけるＩＥＰについて調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	個別の指導計画 (2)： 長期目標と短期目標、学習課題の分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	個別の指導計画の特徴の一つとして、長期目標と短期目標の二つの目標の立て方がある。本時は、その目標の設定に必要な学習課題の分析方法について学ぶ。

第8回	**育・ICT活用を含む)**	
	教室外学習(予習・復習)の内容	自立活動と個別の指導計画との関連を調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	個別の教育支援計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別の指導計画は、個々の児童の教育ニーズに合わせて個別化された学校教育のプログラムである。これに対して、個別の教育支援計画は、学校と関係機関（医療・保健、福祉、就労等）や地域社会、保護者との連携を図るために作成されるものである。本時は、個別の教育支援計画について学びながら、学校と地域社会との連携の在り方を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	個別の教育支援計画について調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	特別支援学校のキャリア教育（1）： キャリア発達と社会参加
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本時は、障害の児童生徒のキャリア発達と社会参加について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャリア教育について調べ、学びを深めてください。 【参考例】 文部科学省ホームページ 『小学校キャリア教育の手引き（改訂版）』 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1293933.htm
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	特別支援学校のキャリア教育 (2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本時は、特別支援学校におけるキャリア教育の実践例を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特別支援学校のキャリア教育の実践例の紹介を調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	交流及び共同学習

第12回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害のある児童の教育は、障害のない児童と教育の場が分離されて行われることが多いため、相互の交流及び共同学習の機会を設けることが求められている、本時は、交流教育の形態と実践について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	交流教育にはどのような方法があるのか、またそれぞれの実践例の紹介を調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	ICTの活用と情報モラル教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本時は、障害のある児童の学習やコミュニケーションを補う支援技術について学習する。社会が急速に情報化されているため、障害者の生きる力も、「情報化社会を生きる力」として見直していく必要がある。また、情報モラル教育の重要性についても考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特別委支援教育におけるＩＣＴ活用の実践例の紹介を調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	特別支援学校の性教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害者の性教育は、以前は性的な問題の予防的な観点から行われる傾向があった。しかし、現代では、セクシャリティ教育の視点から、障害者の権利として性を考えていくことが求められている。本時は、ユネスコの「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」に基づき、障害者に対する性教育を見直す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ユネスコの「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」について調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

授業の進度等により内容の入れ替えや順序の変更等を行うことがある。

学生へのフィードバック方法

・授業毎にコメントカードを提出する。カードの内容に学生からの質問が含まれるときは、次回の授業の冒頭で取り上げて答える。また、学習内容の振り返りのために、教員の側でいくつかかーどをピックアップして意見を紹介する。コメントカードは、記載内容の紹介を授業で行うことの可否について、カードのチェック欄で学生自身が選択することができる。
・サブノートを配布し、その記入を課題として提出を求めることがある。サブノートはディスカッションの素材として、教員の側からコメントを加えてピックアップし、授業内で紹介する。

評価方法

・授業時数の内、実習等の特別な事由による欠席を除き、３分の２以上を出席した者を評価の対象とする。
・評価の方法は、①期末レポートと、②授業で配布するサブノートへの記入の提出課題、③ディスカッションへの参加状況、④各授業でのコメントカードの提出を総合して採点を行う。①に関しては授業内でルーブリック評価表を配布する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末レポート	○	○		○
サブノート	○	○	○	
ディスカッション		○	○	○
コメントカード	○	○	○	

評価割合

期末レポート（70%）、サブノート（10%）、ディスカッション（10%）、コメントカード（10%）

使用教科書名(ISBN番号)

毎時間プリント教材を配布する。

参考図書

適宜に紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】特別支援学校の教育課程について、各教科等の取り扱いや、障害の状態に応じた課程編成の方法を知り、その意義を理解する。
【思考・判断】自立活動の区分及びその内容と、各教科や特別活動など他の領域の指導との関連を考えることができる。
障害のある児童の教育に関心をもち、教職への意欲を高める。
【関心・意欲・態度】障害のある児童の教育に関心をもち、教職への意欲を高める。
【技術・表現の観点】個別の指導計画を作成するために必要な学習課題の分析を適切に行うことができる。

オフィスアワー

前期：月曜３限（江田研究室）
後期：金曜４限（江田研究室）

学生へのメッセージ

障害のある児童の教育ニーズは、ニーズそのものが特別なものではなく、障害のない児童とまったく同じ、ごく当たり前のニーズを持っているに過ぎません。しかし、その当たり前のニーズを達成するためには、特別な指導のプロセスを必要とすることがあります。例えば、目の見えない子どもに対して、他の子どもと同じプリントの教材を配ったとしたら、それは平等な扱いであったとしても、公平な指導とは言えません。その児童が他の児童と同じように教育の目的に到達するためには、教材を点字のプリントに変更したり、通常の学級の教育課程にはない点字の指導を新たに加えることが必要になります。そうしたプロセスの変更が特別支援教育そのものなのです。また、その指導の方法も、何か特殊なことを行っているのではなく、、一人一人の発達状況や障害に合わせた「個に応じた指導」が、より丁寧に行われているだけなのだと分かります。すなわち、特別支援教育とは、じつは特別な教育ではなく、誰一人置き去りにしない教育であり、その学びは、どんな子どもの教育においても、きっと有用であると言えるでしょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	指導教員は重度障害児の教育臨床に16年間従事した経験を有する。
アクティブ・ラーニング	○	学生どうしでディスカッションを行う機会を設ける。 想定事例で児童の学習課題の分析を行う。
情報リテラシー教育	○	情報モラルの教育について学ぶ。
ICT活用	○	特別支援教育におけるＩＣＴの活用について実践例を通じて学ぶ。

講義コード	G04103001
講義名	特別支援教育総論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	江田 裕介	指定なし

ナンバリング

P10305M21

授業概要(教育目的)

特別支援教育は、障害のある児童や、発達につまずきや偏りがある児童、その他の特別な教育ニーズを有する児童を対象として、その個人差に応じた支援を行うことで学習や生活の困難を補い、児童の自立を図るために必要な知識や技能を提供するものです。しかし、特別支援教育の目的の根本は、障害のない児童の教育と何ら変わるものではありません。同じ教育の目的を達成するために、そのプロセスにおいて特別な配慮や支援をより丁寧に行っていく教育が、特別支援教育の本質であるといえます。
本講義では、「障害とは何か？」という素朴な疑問からスタートして、障害の概念の歴史的な変遷や、現代の国際社会における障害の定義へと学びを進めていきます。また、障害者の人権や教育保障に関わる国内法規や国際条約を概観し、特別支援教育をめぐる現代の課題について考えます。知的障害、肢体不自由、病弱、視覚障害、聴覚障害、重度重複障害それぞれの障害に応じた教育の歴史と、その教育支援に必要となる基本的な臨床的知識を提供します。加えて海外の特別支援教育を紹介します。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	知的障害、肢体不自由、病弱、視覚障害、聴覚障害、重度重複障害それぞれの障害に応じた教育の歴史を理解し、その教育支援に必要となる基本的な臨床的知識を知る。
思考・判断の観点 (K)	特別支援教育をめぐる現代の課題について考える。
関心・意欲・態度の	特別支援教育における障害種別の教育活動への関心を深め、教職への意識を高める。

観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	1障害種ごとの特徴的な教育内容・方法を、他者に説明することができる。

学習計画

特別支援教育総論

第1回	**授業テーマ**	イントロダクション「障害とは何か？」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ＷＨＯ（世界保健機構）のＩＣＦ（国際生活機能分類）について学ぶ。「障害とは何か？」についてディスカッションを通じて考えながら、現在の国際社会における障害の概念定義を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ＩＣＦ（国際生活機能分類）について調べ、学を深めてください・ 【参考例】 厚生労働省ホームページ 「国際生活機能分類－国際障害分類改訂版－」（日本語版） https://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0805-1.html
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	障害者の人権と教育保障
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代の日本の教育法規と障害者基本法、国際連合の障害者の権利に関する条約について学び、障害のある人の人権と教育の保障がどのように図られているかを知る。そのキーワードとして「合理的配慮」「アクセシビリティ」「バリアフリー」の意義について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・「学校教育法」における特別支援教育に関する事項を調べてみましょう。 ・「障害者基本法」と国際連合の「障害者の権利に関する条約」について調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	肢体不自由の理解と教育支援（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肢体不自由者に対する教育の歴史を概観するとともに、その教育支援に必要となる基本的な知識を学ぶ。本時は、肢体不自由教育の時代的な変遷を概観する。また、車椅子の操作と介助を体験的に学び、支援の在り方について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パラリンピックの車椅子競技など、肢体不自由者の活躍を調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	肢体不自由の理解と教育支援（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	重度の肢体不自由者における「自立」と「自律」をどのように考えるか、ディスカッションを通じて考える。また、肢体不自由者の教育における医療との連携や、学校における医療的ケアなどについて学び、現在の学校教育の課題について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・「自立」とはどのような状態を言うのか？ 自分はどの程度自立しているかを考え、ノート等に記録して授業に臨んでください。 ・授業後、その考え方がどのように変化したかを記して、考えをまとめ、深めてください。

	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	視覚障害の理解と教育支援（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	古くは日本の中世の当道座から始まる、日本独特の視覚障害者の教育や職業訓練の歴史を概観する。また、点字と歩行訓練の体験的な学習を通じて、教育支援の基本的な心構えについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	点字と視覚障害者の白杖歩行について調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	視覚障害の理解と教育支援（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	視覚のはたらきについて学びながら、障害の程度や発生の時期による課題を考え、盲人、弱視者の教育支援に必要となる基本的な知識を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	視力検査に用いられるランドルト環とその利用の歴史、色覚検査と色覚障害による資格制限などについて調べてみましょう。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	聴覚障害の理解とその支援（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	聴覚障害者の教育の歴史を概観するとともに、ろう学校の教育の動画を視聴し、口話法（聴覚口話法）と手話、人工内耳等の支援方法についてディスカッションを通じて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	口話法、手話、人工内耳について、それぞれ調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	聴覚障害の理解とその支援（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	手話の歴史と、聴覚障害者の教育における方法論の変遷について考える。また、手話と指文字の体験的な学習を通じて、教育支援に必要な心構えについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指文字を調べ、自分の名前を指文字で綴れるようになりましょう。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	知的障害の理解と教育支援（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	知的障害をめぐる概念定義や診断基準の変遷、及び教育的な処遇の歴史について学び、その人権と教育保障について考える。

	教室外学習(予習・復習)の内容	知的障害の福祉手帳が発布される条件について調べてみましょう。知能や知能検査、及び「適応行動」の意味などを調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	知的障害の理解と教育支援（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	知的障害者の進路とキャリア教育について学ぶとともに、現代の社会生活における支援の課題と「生きる力」について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特別支援学校高等部の卒業生の進路について調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	重度重複障害の理解と教育支援（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別支援教育の対象となる児童の障害が重度化、重複化する傾向について、第二次大戦の前後から現代までの変遷を学ぶとともに、その要因について考える。また対象者の実態の変化にともなう、教育課題の変化について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特別支援学校における重複障害の学級に在籍する児童生徒の人数変化について調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	重度重複障害の理解と教育支援（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ＩＣＴの技術的な発展が障害者の教育にもたらす変化を知る。重度重複障害を有する児童に対する教育の方法について、特にアシスティブテクノロジーの活用から考える。また「情報処理機器アクセシビリティ指針」等、こうした変化の背景にある制度的な変化について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「情報処理機器アクセシビリティ指針」を調べ、それが自分が利用しているコンピュータやスマートフォンにどのように反映しているか確かめてみましょう。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	海外の特別支援教育（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	東南アジア、特にベトナムにおける特別支援教育と、児童の医療、福祉について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ベトナムについて調べておきましょう。特に日本との関係に注目して調べ、考えたことを記録してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	海外の特別支援教育（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	アメリカ合衆国、特に中西部のネブラスカ州における特別支援教育

第14回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	と、児童の医療、福祉について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アメリカのネブラスカ州について調べてみましょう。また、アメリカの特別支援教育で用いられるＩＥＰ（個別教育計画）について調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

・授業毎に提出するコメントカードは、内容に質問が含まれるときは次回の授業の冒頭で取り上げて答える。また、学習内容の振り返りのために、教員の側でいくつかピックアップして意見を紹介する。コメントカードは、記載内容の紹介を授業で行うことの可否について、カードのチェック欄で学生自身が選択することができる。

評価方法

・授業時数の内、実習等の特別な事由による欠席を除き、３分の２以上を出席した者を評価の対象とする。
・評価の方法は、①期末レポートと、②ディスカッションへの参加状況、④各授業でのコメントカードの提出を総合して採点を行う。①に関しては授業内でルーブリック評価表を配布する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末レポート	○	○		○
ディスカッション	○	○	○	○
コメントカードコメントカード	○		○	

評価割合

期末レポート(80%)、ディスカッション（10%）、コメントカード（10%）

使用教科書名(ISBN番号)

各授業でプリント教材を配布する。またはオンライン・コンテンツを共有する。

参考図書

適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】知的障害、肢体不自由、病弱、視覚障害、聴覚障害、重度重複障害それぞれの障害に応じた教育の歴史を理解し、その教育支援に必要となる基本的な臨床的知識を知る。
【思考・判断】特別支援教育をめぐる現代の課題について考える。
【関心・意欲・態度】特別支援教育における障害種別の教育活動への関心を深め、教職への意識を高める。
【技術・表現】1障害種ごとの特徴的な教育内容・方法を、他者に説明することができる。

オフィスアワー

前期：月曜3限（江田研究室）、後期：金曜4限（江田研究室）
事前に必ずメールなどでアポイントメントをとってください。

学生へのメッセージ

障害のある児童の教育に対する理解は、ふだん当たり前だと思っていたことへの疑問から始ま

ります。すなわち理解が進むほど、疑問が増えてきます。「複雑でよく分からない」と感じたとしたら、それはむしろ自分の認識が深まっている証だとも言えるでしょう。そうした疑問を、好奇心と学びの意欲につなげてくれることを期待しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	指導教員は重度障害のある児童の教育臨床に16年間従事した経験を有する。
アクティブ・ラーニング	○	学生どうしでディスカッションを行う機会を設ける。
情報リテラシー教育	○	個人情報保護及び個人情報流出防止等に関する法令等を説明し人権尊重に結びつけた指導をする。
ICT活用	○	障害のある児童の学習とコミュニケーションを支援するＩＣＴの活用について学ぶ。

講義コード	G04103101
講義名	知的障害者の教育
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	江田 裕介	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし
助教	岡部 一郎	指定なし

ナンバリング

P20310M21

授業概要(教育目的)

知的障害児の障害特性や状況等に応じた各教科の段階ごとの目標や内容及び指導法について概説する。知的障害児の障害特性や状況を踏まえた教科別の指導や各教科等を合わせた指導などの指導の形態、実態把握から指導目標の設定、指導内容・方法、学習評価、学習指導案作成、個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成・活用、教材・教具について学び、知的障害児の障害特性や状況に応じた指導について理解を深める。これらの学習を通して、特別支援学校教育要領・学習指導要領に基づき編成される特別支援学校（知的障害）の教育課程とカリキュラム・マネジメントについて理解することを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1.知的障害児の障害や学習特性及び各学部や各段階のつながりの観点から基本的な指導方法を理解することができる。 2.指導案作成や模擬授業の実施を通して、特別支援学校（知的障害）の教育実践を理解する。
思考・判断の観点 (K)	1.事例を通して、知的障害の障害特性や行動面への理解を深めることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1.知的障害児の指導法について、実態把握を行い指導目標の設定や指導内容・方法の検討を行う指導の流れを理解し適切な指導や必要な支援について理解を深めることができる。
技術・表現の観点 (A)	1.知的障害教育の指導内容・方法や学習評価の理解及び学習指導案を作成することができる。 2.知的障害教育における基本的な指導内容や指導方法を他者に説明することができる。

学習計画

授業テーマ	知的障害の定義と行動指標、及び指導の段階
学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	知的障害の定義を「知的機能」と「適応行動」及び「発達期」の３つのキーワードから理解する。知的障害の概念は、2021年にAAIDDの定義が改訂され、発達期が従来の18歳から22歳へと拡大された。また2022年にWHOの国際疾病分類ICD-11が発効し、知的障害の重症度に対応した新たな行動指標が示されている。これら最新の知見に基づき、知的障害者の発達の特性に応じた指導の在り方を考える。

第1回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	・<予習>『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』に示されている、知的障害者である児童生徒の教育課程における各教科の目標・内容の段階について調べる。 ・参考URL 文部科学省ホームページ https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm ・<復習> ICD-11に示されている知的障害の重症度の行動指標と、学習指導要領に示された目標の段階との関係を整理し、まとめる。 。参考URL（日本語訳の資料は授業時間に提供する） https://icd.who.int/browse11/l-m/en#/http%3a%2f%2fid.who.int%2ficd%2fentity%2f605267007 表6-1 知的機能の行動指標 表6-2 適応行動における幼児期の行動指標、表6-3 児童期・青年期の行動指標、表6-4 成人期の行動指標
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	知的障害者の障害特性と学習指導上の配慮
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	知的障害者の認知及び行動の発達的な特性について理解する。心理的、社会的な課題に対するアセスメントの方法を学びつつ、学習活動に生じるつまずきの事例を検討し、効果的な指導のプロセスを考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・<予習・復習> 知的障害の学習特性に対して学校教育ではどのように対応や配慮が行われているかを調べて考察する。 ・参考URL 『資料5-3：知的障害に関する学校における配慮事項について』 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/046/siryo/ 『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説（各教科等編）』 https://www.mext.go.jp/content/20220715-mxt_tokubetu01-100002983_1.pdf
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	知的障害者の教育における視覚支援の理論と実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	知的障害者の認知の特性に応じた、言葉による教示以外の指導の方法について、視覚支援の教材作りを具体例に取り上げながら講ずる。グラフィック・シンボルの利用や、視線によるコミュニケーション、ICTの活用など、実践的な指導法について学ぶとともに、各教科の指導や、自立活動の目標・内容との関係を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	<予習・復習> 現在、学校教育の現場で用いられているグラフィック・シンボルの種類や、視覚支援の教材について調べ、その効果的な利用の方法について考える。 ・参考URL 『ドロップレットプロジェクト』 http://droplet.ddo.jp/drops/ 『日本PIC研究会』 http://j-pic.net/menu001a.html
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	学習課題の分析と個別の指導計画の作成（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害のある児童の教育における「個別の指導計画」の作成について、個々の児童の障害の特性や発達の状態に応じた目標の設定と、段階的な指導のプロセスを検討する。あわせて指導計画における長期目標と短期目標の相違と関連性を学び、個別の目標設定に必要となる課題分析のアセスメントについて考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	<予習・復習> 「個別の指導計画」の一般的な様式や内容の項目について調べる。 参考URL 文部科学省 ホームページ 「特別支援教育について、資料5 個別の指導計画の様式例」 https://www.pref.oita.jp/uploaded/life/2081944_2693097_misc.pdf
	教室外学習の時間	200分

	（分）	
第5回	**授業テーマ**	学習課題の分析と個別の指導計画の作成（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童の個別的な学習課題の分析について、事例の検討を通じて、＜実態把握＞ー＜長期目標と短期の設定＞ー＜指導の計画＞－＜実践＞ー＜評価＞ー＜改善＞の実践的な展開を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	＜予習・復習＞ 各都道府県や学校ごとに作成されている「個別の指導計画」やそのマニュアルを調べ、共通点や相違点について考察する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	個別の教育支援計画の意義と実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別の教育支援計画の作成において重視される地域の関連機関や保護者との連携、生涯を見渡したキャリア発達の視点などについて学ぶ。各都道府県や各学校で作成されている個別の教育支援計画の内容を調べ、その共通点や相違点を検討しながら、計画作成の意義を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	＜予習＞ 「個別の教育支援計画」を作成する目的と「個別の指導計画」との関係を調べる。 参考URL 文部科学省 平成27年度 教育課程 特別支援教育部会資料 7 『個別の指導計画と個別の教育支援計画について』 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/063/siryo/__icsFiles/afieldfile/2015/12/07/1364742_04.pdf 文部科学省ホームページ 個別の教育支援計画の参考様式について https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00005.htm ＜復習＞ 授業資料の他にも、各都道府県や各学校で作成されている「個別の教育支援計画」を調べ、その項目・内容を比較して、共通点や相違点を考察する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	知的障害者の読み書き能力の発達とその指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	知的障害者や発達障害にともなう、文字や文章の読み書きにおける発達的な特性を理解し、障害や発達の状況に応じた効果的な指導の方法について考察する。また、児童の読み書き能力の発達と指導効果を評価するためのアセスメントの方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	＜予習＞ 通常の学級に在籍する幼児児童の読み書き能力について資料を調べる。 参考URL 国立国語研究所情報リポジトリ 『幼児の読み書き能力』 file:///C:/Users/Top-User-CFRZ2/Downloads/kkrep_045.pdf ＜復習＞ 児童の読み書き能力の評価に用いられている様々な検査方法について調べる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	知的障害児の各教科等の指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・知的障害の教科の目標や内容について、学習指導要領の記載に基づき概要を理解する ・育成すべき資質・能力と各段階の観点から特別支援学校で行われている学習指導の実際を知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	○予習 書籍やWebサイトから知的障害の定義と特性について調べておく ○復習 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領のp.78以降（各教科）を読み、各教科の目標や内容を確認する

	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	知的障害児の国語・算数
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・知的障害の状態や特性に合わせた学習の基礎的内容の指導法について理解する ・重度の知的障害がある児童を想定し、数の概念を獲得するための指導方法を検討する
	教室外学習(予習・復習)の内容	○予習 未就学の子どもが日々の生活経験を通して、どのように数の概念を獲得するのか自分なりの考えをまとめておく ○復習 数の概念獲得を促す指導の進め方についてまとめる 刺激等価性の考え方を用いた知的障害児のアセスメント方法について図を用いて説明できるようにする
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	知的障害児の国語・算数（授業実践）①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・算数科の単元について検討し、指導案および教材の作成を行う ・模擬授業を通して、知的障害のある児童に対する授業及び事後協議を体験し、授業改善の実際を知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	○予習 数の指導を進めるための教材を作成する ○復習 模擬授業を振り返り、知的障害のある児童を対象に授業を進めるうえで特に配慮すべき事項について整理しておく
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	知的障害児の国語・算数（授業実践）②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・算数科の単元について検討し、指導案および教材の作成を行う ・模擬授業を通して、知的障害のある児童に対する授業及び事後協議を体験し、授業改善の実際を知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	○予習 数の指導を進めるための教材を作成する ○復習 模擬授業を振り返り、知的障害のある児童を対象に授業を進めるうえで特に配慮すべき事項について整理しておく
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	知的障害児の自立活動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・知的障害教育における自立活動の目的を確認 ・各種学校（特別支援学級、通級指導教室、通常学級）の自立活動の取り扱いを理解する ・ADL（日常生活動作）を指導する上で有効な指導法と評価法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内	○予習 着替えが自立していない子どもに対して自分ならどのように教えるかを説明できるようにしておく ○復習 指導者として日常生活動作を教える上で持つべき視点について「行動連鎖」「課題分析」「プロンプ

	容	ト」等の観点から整理する
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	知的障害児の自立活動の指導の実際①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・自立活動の「コミュニケーション」領域を取り上げて、重度知的障害児のコミュニケーションの指導法について学ぶ ・知的障害を伴う自閉症児への対応として、TEACCHプログラムや応用行動分析学に基づく効果的な指導方法を知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	○予習 書籍やインターネットを用いてTEACCHプログラムの概要について調べておく ○復習 応用行動分析学による行動の捉え方（特にオペラント条件づけによる「正の強化」の考え方）について説明できるようにしておく
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	知的障害児の自立活動の指導の実際②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・自立活動の「心理的な安定」領域を取り上げ、知的障害児の行動上の支援について知る ・強度行動障害に関する概要を知り、行動上の問題に対するアプローチの方法について検討する ・カリキュラムマネジメントの一環として、地域のリソースを活用した連携の進め方について検討する
	教室外学習(予習・復習)の内容	○予習 Youtube等で「強度行動障害」に関する動画を視聴しておく ○復習 行動上の問題を示す児童に対し、エビデンスに基づく適切な指導を計画する上で有効な手立てについてまとめておく
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

履修数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

・授業ではスライドを提示したり、オンライン・コンテンツを共有するなど、理解しやすい授業を行う。
・質問等がある場合は、研究室訪問やメール連絡で対応する。

評価方法

・授業時数の内、実習等の特別な事由による欠席を除き、３分の２以上を出席した者を評価の対象とする。
・評価の方法は、①定期試験（または期末レポート）と、②授業内で指示した課題の提出、④コメントカードの提出を総合して採点を行う。①に関しては授業内でルーブリック評価表を配布する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験（または期末レポート）	○	○		
提出課題	○	○		○
コメントカード	○		○	

評価割合

定期試験（または期末レポート）70%、提出課題20%、コメントカード10%

使用教科書名(ISBN番号)

各授業でプリント教材等を配布、またはオンライン・コンテンツを共有する。

参考図書

適宜に紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】特別支援学校の知的障害教育について理解し、知的障害のある子どもの教育に関する専門的な知識の修得ができている。
【技能・表現】学習指導案の作成や指導法及び教材の作成について学び、保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション力を身に付けている。
【関心・意欲・態度】知的障害児の指導法について、実態把握を行い指導目標の設定や指導内容・方法の検討を行う指導の流れを理解し適切な指導や必要な支援について理解を深めることができる。
【技術・表現】知的障害教育の指導内容・方法や学習評価の理解及び学習指導案を作成することができる。知的障害教育における基本的な指導内容や指導方法を他者に説明することができる。

オフィスアワー

原田（月曜２～３限）、それ以外の時間帯はメールによる対応

学生へのメッセージ

知的障害と他の障害は重複している場合も多いので、知的障害について知ることは、様々な障害を知る上での基礎となる。したがって、将来、保育所、幼稚園、小学校、特別支援学校の教員をめざしている学生にとって、知的障害を理解しておくことはとても重要である。学習指導案の作成や教材・教具を活用した支援方法などについて、具体的にプリントやビデオなどを使用して、分かりやすく授業をする。初めての学生にも分かるように授業をするので、是非、受講して知的障害教育への理解を深めて欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、重度障害児童の教育臨床に16年間従事した経験を有する。
アクティブ・ラーニング	○	ワークシートを活用して個人の意見をまとめたり、小集団での話し合いや発表をしたりする機会を設けて、より主体的に学ぶ姿勢を育む。
情報リテラシー教育	○	個人情報保護及び個人情報流出防止等に関する法令等の情報を提供し人権尊重に結びつけた指導をする。
ICT活用	○	障害のある児童のための電子教科書の利用や、ＩＣＴを導入した学習指導の方法を学ぶ。

講義コード	G04103201
講義名	肢体不自由者の教育
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	岡部 一郎	指定なし

ナンバリング

P30310M21

授業概要(教育目的)

肢体不自由教育の歴史や肢体不自由を持つ児童・生徒の学習上又は生活上の困難等に関する基本的事項について解説する。また、障害の特性に応じた指導について解説し、合理的配慮や教材の工夫について考える。特にICT機器を用いた教材や教具の工夫について考えるディスカッションを多く取り入れる。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	肢体不自由の心身の状態や特性、そして発達段階を踏まえた指導方法を理解している。
思考・判断の観点 (K)	肢体不自由による生活や学習上の困難さを説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	グループで実施する疑似体験に協力的な態度で取り組めている。
技術・表現の観点 (A)	ICT機器などを活用した教材・教具を通じて指導効果を高める授業提案を行うことができる。 実践的な場面から各教科等や特別の教科の指導に向けた授業計画を発想することができる。

学習計画

肢体不自由者の教育

	授業テーマ	オリエンテーション肢体不自由の定義

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オリエンテーションとして、年間の授業計画及び学習目標を提示する。肢体不自由の定義について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	肢体不自由についてWebで調べておくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	肢体不自由教育の歴史（肢体不自由特別支援学校における教育の歴史について学ぶ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肢体不自由者を対象とした学校ができるまでの歴史を解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Webで肢体不自由者について調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	肢体不自由教育の現在とその実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肢体不自由者教育の現在及び現状について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Webで肢体不自由者について調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	肢体不自由の擬似体験（車いすを活用した移動方法や教育方法について考える）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	車椅子等の扱い方を疑似体験を通して知り,肢体不自由のある人の生活上、学習上の困難さを知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	車椅子、義足、万能カフ、カットアウトテーブル、座位保椅子及び食形態などを調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	肢体不自由の擬似体験（万能カフを活用した執筆を教育方法について考える）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	車椅子, 義足, 万能カフを活用して肢体不自由を擬似体験する。 体験から肢体不自由の困難や支援方法を体験的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	体験時に感じた困難や実際に行った支援方法等をノートにまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	肢体不自由児の理解１：脳性麻痺編（原因・種類・身体的特徴、教育方法）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肢体不自由の概念と支援の概要、脳性麻痺について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各症状についてWeb上の情報を調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	肢体不自由児の理解２：脊髄障害・筋ジストロフィー編（原因・種類・身体的特徴、教育方法）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脳性麻痺、脊椎障害、進行性筋ジストロフィー、末梢神経疾患とそれらを有する児童・生徒に対する指導方法を解説する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	各症状についてWeb上の情報を調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	肢体不自由の教育課程１（教育課程の種類と内容）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肢体不自由特別支援学校の教育課程について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	肢体不自由特別支援学校についてWeb上の情報を調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	肢体不自由の教育課程２（自立活動、各教科・特別の科目の種類と内容、あわせた指導について）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肢体不自由特別支援学校の教育課程について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	どのような教科があるか調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	肢体不自由児の指導法１（ICT機器を用いた指導法）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ICT機器を用いた指導法を実例を踏まえて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ICT機器を活用した指導法を自ら考えて、メモに書き留めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	肢体不自由児の指導法２（ICT機器を用いた各教科の指導法）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各教科の視点から、ICT機器を用いた各教科の指導法をディスカッションし、発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	WebでICT機器を活用した授業例を調べ、参考にすること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	肢体不自由児の指導法３（ICT機器を用いた特別の教科の指導法）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各教科の視点から、ICT機器を用いた各教科の指導法をディスカッションし、発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	WebでICT機器を活用した授業例を調べ、参考にすること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	第１３回：肢体不自由児の指導法４（保健体育科：パラスポーツの実践１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パラスポーツに取り組み、その指導方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パラスポーツについて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	第１４回：肢体不自由児の指導法５（保健体育科：パラ

		スポーツの実践２）
第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パラスポーツに取り組み、その指導方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パラスポーツについて調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

・履修状況や授業の進捗具合によりスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

・授業後のまとめの時間に質問を受け付け、その質問に回答する。

評価方法

・毎回の授業後に出席を兼ねたリフレクションペーパーの記載を求める。
・リフレクションペーパーの内容、疑似体験等、終了後に提出する小レポート、及び期末レポート（もしくは定期試験）により評価する。
・学外実習等の止むを得ない事情により欠席した場合には、個別の欠席課題等により評価を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業・リフレクションペーパー		○	○	
疑似体験・小レポート	○	○	○	
期末レポート(或いは定期試験)	○	○		

評価割合

授業・リフレクションペーパー（15%）、小ポート（25%）、期末レポート(或いは定期試験)(60%)

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】肢体不自由の専門的、基礎的知識が修得できている。
【思考・判断】肢体不自由があることによる独自の困難さが理解できている。
【関心・意欲・態度】肢体不自由のある児童・生徒の立場から、生活、学習上の困難さを理解しようとする。

オフィスアワー

前期：火曜2限（岡部研究室）
後期：未定(岡部研究室)

学生へのメッセージ

肢体不自由はただ手や足が不自由ということではありません。それによる学習や生活上の困難さが存在します。本授業では、そうした困難さと当該ニーズに応じた指導法について、実際に教具を用いて体験的な理解を図ります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	担当教員は、主に３つの実務経験を有している。 ①特別支援学校教諭、、肢体不自由、聴覚障害、重複障害のある児童生徒に対する教育支援。②一般小学校、特別支援学級教諭：知的障害、発達障害のある児童への教育支援。③一般小学校、管理職(校長・副校長)及び通級指拳導教室設置校、管理職。
アクティブ・ラーニング	○	テーマに即したディスカッションを行い、主体的・協働的な活動を実践する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	適宜、特別支援教育の合理的配慮に有用なICT機器の活用方法について紹介する。

講義コード	G04103301
講義名	病弱者の教育
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	江田 裕介	指定なし

ナンバリング

P30311M21

授業概要(教育目的)

「病気」や「虚弱」という言葉は、広く曖昧な意味で用いられているため、病弱者の教育を理解するためには、まず教育対象となる児童の疾病や、学習または生活の困難について知る必要がある。また病弱者の教育は、医療との関係が深いゆえに、医療のシステムや治療法の変化にともなって、対象者の実態や教育の場が時代によって変遷する。そのため歴史や制度に関する学びが不可欠である。また、この授業では、病弱者の教育において求められる個別の指導計画の作成を、課題分析の実習を通じて学習する。具体的な指導法として、ＩＣＴを用いた支援技術や、遠隔教育の方法、食事場面での支援などを、実習や実験により体験的に学んでいく。あわせて学校における医療的ケアや、教育と医療及び福祉の連携など、病弱者の教育における今日の課題について講ずる。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	病弱者の教育において対象となる疾病の種類と特徴を知り、学習上または生活上に生じる困難を理解できる。 病弱者の教育の変遷を知り、現代の学校教育における課題を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	教員との質疑応答や、学生どうしのディスカッションの中で、他者の意見から思考を修正し、自身の論述の水準を高めることができる。 ICT等の支援技術の適性を判断し、児童の実態に応じた教材・教具の選択が行える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	ディスカッションに積極的に参加し、他者の意見にも耳を傾けることができる。 指導計画や教材の作成において、先例を模倣せず、独自性のある提案を行うことができる。 授業の中で分からないことや疑問を感じたことは、まず自分で調べて解決する態度をもつ。
技術・表現の観点 (A)	児童の学習課題を分析する方法を身につけ、個別の指導計画を立案することができる。 遠隔教育の指導法を習得し、児童の障害に応じてオンライン教材等の工夫を行うことができる。

学習計画

病弱者の教育

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション「病弱・身体虚弱とは」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	年間の授業計画及び学習目標を提示する。「病弱児の教育」という言葉に対する各自のイメージに基づきディスカッションを行う。 その上で、小児の慢性疾患や難病、精神疾患、身体虚弱等、「病弱」の教育カテゴリーに含まれる病理の概念と、児童の生活や学習の 状況について概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・受講に先立ち、「病弱」「身体虚弱」のキーワードから連想するイメージを、ノート等にできるだけ多く箇条書きにしておいてください。 ・授業でのディスカッションと学習を通じて、自分の当初のイメージがどのように変わったかを記録し、この授業で自分が身に付けたい 知識や技能、及び教職に向けての課題を具体化してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	病弱教育の変遷
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	明治期から現代まで、病弱者の教育の歴史的な変遷をたどり、対象疾患と教育制度及び教育形態の時代的変化を学ぶ。 特に今日国際的に目指されている障害者のインクルーシブ教育と、病弱者の教育の在り方との関係について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・事前に国際連合のCRPD「障害者の権利に関する条約」に目を通しておきましょう。 文部科学省ホームページ（日本語訳） https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/attach/1323315.htm 国際連合（United Nation）（原文） https://www.un.org/development/desa/disabilities/convention-on-the-rights-of-persons-with-disabilities.html
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	主な病気と教育支援（１）「小児がん、白血病、膠原病」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	病弱者の疾病の概要と、教育支援に必要な基礎的知識、心構えを学ぶ。 本時は、小児慢性特定疾病の中から、白血病や固形腫瘍等の悪性新生物、ベーチェット病や若年性特発性関節炎等の膠原病について 知り、その教育支援の課題を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・小児慢性特定疾病の疾患群や病気の種類について調べてください。 【参考例】 小児慢性特定疾病情報センターホームページ https://www.shouman.jp/disease/search/group/ ・授業で学んだ病気や、その患者の教育について、各自で調べて学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	主な病気と教育支援（２）「アレルギー疾患、糖尿病（1型糖尿病）、てんかん」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	病弱者の疾病の概要と、教育支援に必要な基礎的知識、心構えを学ぶ。 本時は、小児気管支喘息やアトピー性皮膚炎、食物アレルギー等のアレルギー疾患や、1型糖尿病、てんかんについて知り、 その教育支援の課題を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・この授業で学ぶ病気について調べ、授業後の学びを深めましょう。 【参考例】 アレルギー疾患の手引き（日本アレルギー学会） https://www.jsaweb.jp/huge/allergic_manual2022.pdf 日本てんかん協会ホームページ

		https://www.jea-net.jp/epilepsy
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	主な病気と教育支援（３）「筋ジストロフィー、先天性ミオパチー、ＡＬＳ」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	病弱者の疾病の概要と、教育支援に必要な基礎的知識、心構えを学ぶ。 本時は、筋ジストロフィーや先天性ミオパチー、ＡＬＳ（筋萎縮性側索硬化症）等の筋疾患について知り、その教育支援の課題を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・「難病」「指定難病」の定義と、その病気の種類や医療制度について調べてください。 【参考例】 難病情報センターホームページ https://www.nanbyou.or.jp/ 日本ＡＬＳ協会ホームページ https://alsjapan.org/how_to_cure-summary/ ・こうした疾病を有する人にどのような教育支援が行われているか調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	主な病気と教育支援（４）「精神病性障害」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	病弱者の疾病の概要と教育支援に必要な基礎的知識、心構えを学ぶ。本時は、統合失調症等の精神病性障害について知り、 その教育支援の課題を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・授業中に精神障害者家族会のよる調査資料を提供するので、そこから考えられることをまとめ、サブノートに記入して次回の授業で提出してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	病弱者の教育における自立活動と個別の指導計画（１）「自立活動の６つの区分と内容」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別支援学校の教育課程における自立活動の６つの領域とその内容が、病弱者の教育とどのように関連づけられるかを検討し、 個別の指導計画の立案に向けて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編』第7章1「個別の指導計画の作成」及び病弱の生徒の個別の指導計画に 目を通しておいてください。 以下から参照できます。 文部科学省ホームページ https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/02/04/1399950_5.pdf
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	病弱者の教育における自立活動と個別の指導計画（２）「目標の設定と課題分析」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別の指導計画の作成を体験的に学習する。指導目標を適切に設定するため、課題分析の理論を学び、児童の実態把握（スタート）から 目標（ゴール）まで指導のプロセスを計画する実習を行う。
	教室外学習(予習・	・授業で学んだことをもとに、各自で具体的な活動の目標を想定して、課題分析を行ってください。そ

	復習)の内容	の指導計画のアイディアを サブノートに記入し、次回の授業で提出してください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	病弱者の教育における自立活動と個別の指導計画（３）「指導の展開」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学生がそれぞれに作成した個別の指導計画を提案し、授業内でディスカッションを行う。また指導の目標と計画が、自立活動の ６つの区分と内容にどのように関係するかを検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・授業内でディスカッションから学んだことを基に、自分で行った課題分析と指導計画の完成度を高めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	病弱者の教育における支援技術（１）「視線コミュニケーション」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	病弱者の教育における具体的な指導法について学ぶ。 本時は、筋ジストロフィーやＡＬＳ等の筋疾患により、自発的な身体の運動が困難となった児童に対して、視線により学習や コミュ ニケーションを行う支援技術を体験する。 先端的な工学技術を用いたハイテクレベル、身近な教材を活用するローテクレベル、道具を用いないノンテクレベルの指導法を それぞれ学ぶ。 特にローテクレベルの支援技術は、その効果について授業内で実証実験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・障害者の学習やコミュニケーションを支援するアシスティブ・テクノロジーについて調べてみよう。 【参考例】 厚生労働省『障害者の支援機器の活用ガイドブック』 https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/000307902.pdf ・授業後、視線を利用したコミュニケーションを効果的に行うためには、どのような教材の工夫が考えられるか、自分のアイデアを サブノートに記入し、次回の授業で提出してください。 【参考】本時の実験について指導教員の以下の論文に詳しく書かれています。参考にしてください。 「視線コミュニケーションにおける注視点判別の効果的な条件設定に関する研究」 http://repository.center.wakayama-u.ac.jp/files/public/0/456/20180820135121465708/KJ00004327742.pdf
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	病弱者の教育における支援技術（２）「ＩＣＴの活用」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	病弱者の教育における具体的な指導法について学ぶ。 本時は、障害の重い児童のコミュニケーションや遊びを充実させるため、ＩＣＴを活用した指導法を体験する。 多様なスイッチやセンサーを導入して、障害のある児童の残存機能を効果的に引き出し、子どもの活動の主体性を高めることを 目的とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・障害の重い子どものコミュニケーションや遊びを支援する機材にはどのようなものがあるか調べてみよう。 【参考例】 able-netホームページ（アメリカ） https://www.ablenetinc.com/
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テー	

第12回	マ	病弱者の教育における支援技術（３）遠隔教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	病弱者の教育における具体的な指導法について学ぶ。 本時は、インターネット等のオンラインを利用した遠隔教育が、病弱者の教育に果たす役割について検討する。 タブレット型情報端末を利用した体験実習を行う。あわせて遠隔教育における情報モラルについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・日本の学校における遠隔教育の現状について調べてください。 【参考例】 文部科学省「遠隔教育システム活用ガイドブック」第3版 https://www.mext.go.jp/content/20210601-mxt_jogai01-000010043_002.pdf
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	病弱者の医療的ケア
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	医療施設に入院・入所している間、医師や看護師が行っていた医療的なケアを、家庭や学校で継続して行うことが必要なばあい、 家族や教員等の非医療職の人間が対応することになる。 医療的ケアは今日の特別支援教育における重要な課題の一つである。医療的ケアに対応する上で必要となる知識と心構えを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・学校における医療的ケアがなぜ必要になっているのか。. また学校で医療ケア児が増えているのはなぜか、各自で仮説を考えて授業に臨んでください。 ・授業後は、学校における医療的について調べ、学びを深めてください。 【参考例】 文部科学省「学校における医療的ケアの今後の対応について（通知）」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1414596.htm
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	病弱者の食事の指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	病弱者における食事の指導は、健康の維持や増進のための栄養管理面だけでなく、障害の重い児童にとっては、発達支援の 基礎となる重要な側面を有している。 本時は、児童の食べる機能の発達について、体験実習を通じて学習する。 特に、食べ物を口の中に取り込み、咀嚼し、飲み込むまでの一連の摂食動作の機能的な発達とその障害、及び指導法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・様々な食材による口腔の摂食動作の違いを試し、そのプロセスを言語化して、説明できるようにしてください。 ・食べる機能の発達と、発声や発音などの言語の機能的な発達との関係を調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

・授業の進度等により内容の順序の変更や入れ替えを行うことがある。
・第14回授業における食事の指導の体験実習では教材費として実費（100～200円程度）を徴収する。

学生へのフィードバック方法

・授業毎に提出するコメントカードは、内容に質問が含まれるときは次回の授業の冒頭で取り上げて答える。また、学習内容の振り返りのために、教員の側でいくつかピックアップして意見を紹介する。コメントカードは、記載内容の紹介を授業で行うことの可否について、カードのチェック欄で学生自身が選択することができる。
・サブノートの提出課題は、ディスカッションの素材として、教員の側でコメントを加えてピックアップし、授業内で紹介する。

評価方法

・授業時数の内、実習等の特別な事由による欠席を除き、３分の２以上を出席した者を評価の対象とする。
・評価の方法は、①期末レポートと、②授業で配布するサブノートへの記入の提出課題、③ディスカッションへの参加状況、④各授業でのコメントカードの提出を総合して採点を行う。①に関しては授業内でルーブリック評価表を配布する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末レポート	○	○		○
提出課題	○	○	○	○
ディスカッション	○	○	○	○
コメントカード	○	○	○	

評価割合

期末レポート(60%)、提出課題（20%）、ディスカッション（10%）、コメントカード（10%）

使用教科書名(ISBN番号)

毎時プリント教材を配布する。またオンライン・コンテンツを共有する。

参考図書

『標準「病弱児の教育」テキスト』ジアース教育新社
日本育療学会【編著】/山本昌邦/島治伸/滝川国芳【編】
1,980円（税込）
（ISBN978-4-86371-493-9）
『特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理』ミネルヴァ書房
小野 次朗/西牧 謙吾/榊原 洋一【編著】

参考URL

https://www.shouman.jp/disease/search/group/

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】病弱者の教育において対象となる疾病の種類と特徴を知り、学習上または生活上に生じる困難を理解できる。病弱者の教育の変遷を知り、現代の学校教育における課題を理解できる。
【思考・判断】教員との質疑応答や、学生どうしのディスカッションの中で、他者の意見から思考を修正し、自身の論述の水準を高めることができる。ICT等の支援技術の適性を判断し、児童の実態に応じた教材・教具の選択が行える。
【関心・意欲・態度】ディスカッションに積極的に参加し、他者の意見にも耳を傾けることができる。指導計画や教材の作成において、先例を模倣せず、独自性のある提案を行うことができる。授業の中で分からないことや疑問を感じたことは、まず自分で調べて解決する態度をもつ。
【技術・表現】ディスカッションに積極的に参加し、他者の意見にも耳を傾けることができる。指導計画や教材の作成において、先例を模倣せず、独自性のある提案を行うことができる。授業の中で分からないことや疑問を感じたことは、まず自分で調べて解決する態度をもつ。

オフィスアワー

前期：月曜３限（江田研究室）
後期：金曜４限（江田研究室）

学生へのメッセージ

障害のある児童の教育に対する理解は、ふだん当たり前だと思っていたことへの疑問から始まります。すなわち理解が進むほど、疑問が増えてきます。「複雑でよく分からない」と感じたとしたら、それはむしろ自分の認識が深まっている証だとも言えるでしょう。この授業では、「病気とは何か？」「病気と障害の違いは何か？」といった問題から始まり、毎日当たり前に行っている食事についても、きっと「どうやって自分が食べているのか分からない」と思うようになるでしょう。そうした疑問を、好奇心と学びの意欲につなげてくれることを期待しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	重度障害のある児童の教育臨床に16年間従事した経験を有する。
アクティブ・ラーニング	○	学生どうしでディスカッションを行う機会を設ける。 想定事例で児童の学習課題の分析を行う。 視線コミュニケーションの効果について実証実験を行う。 食事指導及び遠隔教育について体験の会を設ける。
情報リテラシー教育	○	遠隔教育における情報モラルについて指導を行う。
ICT活用	○	障害のある児童の学習とコミュニケーションを支援するＩＣＴの活用について体験実習を行う。 オンラインの遠隔教育のバリエーションについて体験実習を行う。

講義コード	G04103401
講義名	知的障害者の心理・生理・病理
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	原田 晋吾	指定なし
非常勤講師	飯野 彰人	指定なし

ナンバリング

P10502M21

授業概要(教育目的)

知的障害の定義、診断、発生要因等の病理的特徴と、学習、記憶、認知、知覚等の心理的特徴から障害特性等の基礎的な知識を取り上げる。知的障害児者が抱える社会生活上の課題等について先行研究や事例を取り上げながら、支援する上で重要な点を解説する。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・知的障害に関する諸側面を、医学的、病理学的な観点から説明することができる。 ・知的障害のある子どもの心理的特性について、定型発達児と異なる点を解説できる。 ・知的障害のある子どもにみられる疾患にはどのようなものがあるか説明できる。
思考・判断の観点 (K)	・知的障害の心理的特性について説明することができ、生活上の困難を指摘したり、特性に合わせた指導支援のあり方を提案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・授業の予習（事前学習）で調べたことをまとめる。 ・授業内で取り上げた障害について要点を整理し、毎回の授業後に記述する。 ・授業内で行う疑似体験やグループ討議等で、積極的に発言する。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

知的障害者の心理・生理・病理

第1回	**授業テーマ**	授業ガイダンス 知的障害の基礎知識
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・知的障害の定義に関する歴史的変遷。 ・現在の知的障害（知的能力障害）の診断基準。 ・知的障害の発生要因と発生頻度。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）厚生労働省のサイト（e-ヘルスネット）で「知的障害（精神遅滞）」について調べ、要点をまとめておく。 （復習）知的障害の診断基準について整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	**授業テーマ**	知的障害者の知的機能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・知的障害の診断基準の１つである「知的機能」という概念について。 ・「知的機能の制約」とはどのような状態を指すか。 ・知能指数(IQ)、生活年齢(CA)、精神年齢(MA)について。 ・知能指数(IQ)の観点から定型発達と知的障害について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）第1回で学習した「知的障害の診断基準」を復習する。インターネット等で「正規分布」について調べ、簡単な図とそれが示す意味を知る。 （復習）知的機能の制約によって生じる生活上の困難について考える。知能指数(IQ)の分布について説明できるようにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	知的機能の評価法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・知能指数(IQ)を評価するための心理検査（田中ビネー式知能検査V・WISC-IV）の概要 ・知能指数の算出方法 ・知的障害者の知能指数(IQ)を測定することの意味について
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）第２回で学習した「知能指数(IQ)」を復習する。 （復習）知的障害児が社会生活を送る上で、心理検査結果をどのように活用するとよいか説明できるようにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	知的障害者の適応機能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・知的障害の診断基準の１つである「適応機能」という概念について。 ・「適応機能の制約」とはどのような状態を指すか。 ・社会生活、日常生活を支えるための指導支援
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）第１回で学習した「知的障害の診断基準」を復習する。 （復習）適応機能の下位分類について整理する。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	適応機能の評価法と分類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・適応機能を評価するための評価尺度（SM社会生活能力検査、vineland-II）の概要 ・知能指数の算出方法 ・知的障害者の知能指数(IQ)を測定することの意味について

第5回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）第４回で学習した「適応機能」を復習する。 （復習）知的障害児が社会生活を送る上で、適応機能尺度の結果をどのように活用するとよいか説明できるようにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	知的障害者の心理機能①（言語・コミュニケーション）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・知的障害者の言語・コミュニケーションの特徴。 ・重度知的障害者のコミュニケーションの特徴と補助代替コミュニケーション。 ・コミュニケーションの指導・支援。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）インターネット等で、重度の知的障害者のコミュニケーション手段（支援ツール）について調べておく。 （復習）知的障害児のコミュニケーション指導を行ううえで重要な点を整理しておく。支援ツールのアイディアを出す。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	知的障害の心理機能②（記憶）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・記憶の分類について ・知的障害者の記憶に関する特徴 ・発達支援の視点からの検討
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）インターネット等で「ワーキングメモリー」について調べ、書き留めておく。 （復習）支援方法や支援ツールのアイディアを箇条書きで挙げておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	知的障害の心理機能③（知覚・注意）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・知的障害者の視知覚および注意に関する特徴 ・発達支援の視点からの検討
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）インターネット等で「ゲシュタルトの法則」について調べ、まとめておく。 （復習）知的障害児の指導・支援を進めていく上での注意点について整理しておく。支援方法や支援ツールのアイディアを箇条書きで挙げておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	知的障害の心理機能④（運動）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・知的障害者の運動機能（粗大運動・微細運動）に関する特徴 ・行動調整機能 ・発達支援の視点からの検討
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）新生児・乳児の反射反応や運動発達について要点をまとめておく。 （復習）知的障害児の指導・支援を進めていく上での注意点について整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	知的障害のある子どもの支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・幼稚園、保育園に在籍する知的障害児の支援の実際 ・特別支援学校に在籍する知的障害児の支援の実際 ・ユニバーサルデザイン

第10回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	（予習）インターネット等で「ユニバーサルデザイン」について調べておく。 （復習）幼稚園や保育園で実施するユニバーサルデザインを取り入れた教育・保育に関するアイディアを挙げる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	知的障害の病理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	知的障害の医学的な定義を振り返り、診断までの流れを解説する。 また、「グレーゾーン」「ボーダーライン」と呼ばれる境界知能の特性について学び、学校生活や社会生活の中で直面する困難とその支援方法について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）第１～１０回の講義内容をおさらいしておく。 （復習）知的障害の定義、境界知能の子どもの支援について整理する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	自閉症スペクトラム障害(ASD)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・自閉症スペクトラム障害の基礎的知識（診断基準、疫学、行動特性等）について。 ・自閉症スペクトラム障害の子どもの治療（診療）と支援。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）自閉症スペクトラム障害の子どもの特徴について、インターネット等で調べておく。 （復習）自閉症スペクトラム障害の子どもの支援の要点をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	注意欠如多動性障害(ADHD)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・注意欠如多動性障害(ADHD)の基礎的知識（診断基準、疫学、行動特性等）について。 ・ADHDの子どもの治療（診療）と支援。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）ADHDの子どもの特徴について、インターネット等で調べておく。 （復習）ADHDの子どもの支援の要点をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	学習障害（LD)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・学習障害(LD)の基礎的知識（診断基準、疫学、行動特性等）について。 ・LDの子どもの診断（診療）と支援。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）LDの子どもの特徴について、インターネット等で調べておく。 （復習）LDの子どもの支援の要点をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

第1回～10回は原田が担当。
第11回～14回は、夏季集中講義期間に飯野が担当。
夏季集中講義の日程については決まり次第、授業内で連絡します。

学生へのフィードバック方法

・授業の中では学生が主体となって活動する機会を設定する。活動の成果や授業内での発言、グループ討議で出されたアイディアに対して、適宜フィードバックを行う。

評価方法

（中間試験）第10回目の授業後に、レポート課題を実施する。
（期末レポート）第11～14回（夏季集中講義）で学んだ内容についてレポートにまとめる。
（リフレクションシート）各授業回で、その時間に学んだ内容を簡潔にまとめる時間を設け、授業終了後に回収する。
（平常点）グループディスカッションへの貢献、授業参加の態度、等

＊レポート課題に関しては評価基準をルーブリック評価表にて示す

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間試験	○	○		
期末レポート	○	○		
リフレクションシート		○	○	
平常点			○	

評価割合

中間試験（40%)、期末レポート(10%)、リフレクションシート（10%）平常点(20%)

使用教科書名(ISBN番号)

なし（毎回の授業で講義内容に関する資料を配布します）

参考図書

勝二博亮 編著「知的障害児の心理・生理・病理」北大路書房
小池敏英・北島善夫 著 「知的障害の心理学」北大路書房

ディプロマポリシーとの関連

多様なこどものwell-being向上に寄与する知識を身に付けている。（知識・理解）
多様性に配慮して他者を尊重した表現をすることができる。（思考・判断）。
地域・社会に主体的に参画・貢献できる協働力・共感力を身に付けている。（関心・意欲・態度）

オフィスアワー

原田（月曜３～４限 1509教室）

学生へのメッセージ

知的障害のある子どもの保育や教育に携わるうえで、心理・生理・病理の各側面から障害の特性を知っておくことはとても重要です。この科目を通して、知的障害の子どもの保育や教育に関する基礎知識を習得し、実践に活かせるようにしてほしいと思います。特別支援学校の免許取得を希望する学生は必修の授業となっていますが、それ以外の学生の受講も歓迎します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラー	○	学生のみなさんが主体となって考え活動できるように、調べ学習、ペアワーク、グループワーク、疑似体験の機会などを設けながら授業を進める。

ニング		
情報リテラシー教育	○	授業では適宜、図表を使って解説を行います。図表の読み取り方など、必要に応じて説明を加えます。また、情報のアウトプットに関する指導として、レポート課題では文章表現のチェックも行います。
ICT活用		

講義コード	G04103501
講義名	肢体不自由者の心理・生理・病理
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	岡澤 慎一	指定なし

ナンバリング

P20504M21

授業概要(教育目的)

肢体不自由がある子どもの心理・生理・病理に関する基本的な事項について講義する．実際的，具体的な理解を促進するために，肢体不自由がある子どもとの教育的係わり合いに関する映像資料を多用する．

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	肢体不自由のある子どもが抱える困難と障害状況について心理的あるいは生理・病理的な観点から一定程度説明することができる
思考・判断の観点 (K)	肢体不自由がある子どもとの教育的係わり合いの実際について具体的に検討することをとおして，肢体不自由がある子どもとの教育的係わり合いの方針を設定することができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	肢体不自由の定義と状態像
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	肢体不自由の定義と状態像について理解する

第1回	む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	授業テーマ	肢体不自由のある子どもが抱える困難と障害状況／運動系の発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肢体不自由のある子どもが抱える困難と障害状況について理解する 運動系の発達について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	授業テーマ	肢体不自由のある子どもの生理・病理1（肢体不自由の原因疾患：脳原性疾患）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肢体不自由の原因疾患：脳原性疾患について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	授業テーマ	肢体不自由のある子どもの生理・病理2（肢体不自由の原因疾患：神経・筋疾患）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肢体不自由の原因疾患：神経・筋疾患について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	授業テーマ	肢体不自由のある子どもの生理・病理3（肢体不自由の原因疾患：骨・関節疾患）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肢体不自由の原因疾患：骨・関節疾患について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	授業テーマ	肢体不自由のある子どもの心理1（感覚・知覚・認知）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肢体不自由のある子どもの心理（感覚・知覚・認知）について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	授業テーマ	肢体不自由のある子どもの心理2（言語）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肢体不自由のある子どもの心理（言語）について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること
	教室外学習の時間（分）	120分

第8回	授業テーマ	肢体不自由のある子どもの心理3（コミュニケーション）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肢体不自由のある子どもの心理（コミュニケーション）について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	授業テーマ	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点1（探索活動，Joyful shared event）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点（探索活動，Joyful shared event）について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	授業テーマ	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点2（コミュニケーション・システム）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点（コミュニケーション・システム）について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	授業テーマ	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点3（感覚運動）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点（感覚運動）について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	授業テーマ	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点4（課題学習）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点（課題学習）について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	授業テーマ	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際1（知的障害を併せ有する肢体不自由事例）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際（知的障害を併せ有する肢体不自由事例）について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際2（感覚障害を併せ有する肢体不自由事例）

第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際（感覚障害を併せ有する肢体不自由事例）について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること
	教室外学習の時間（分）	120分
第15回	授業テーマ	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際3（医療的ケアの必要な肢体不自由事例）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際（医療的ケアの必要な肢体不自由事例）について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること
	教室外学習の時間（分）	120分
第16回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールは変更します

学生へのフィードバック方法

毎回，授業の終わりに意見や感想，質問を書いてもらい，次回の授業の冒頭で意見や感想を紹介したり，質問に答えたりする

評価方法

毎回の「意見や感想，質問」の内容および最終試験の結果による

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
「意見や感想，質問等」の内容		○	○	○
最終試験	○	○		

評価割合

「意見や感想，質問等」の内容（20%），最終試験（80%）

使用教科書名(ISBN番号)

テキストは使用しない．参考資料は適宜配布する．

参考図書

重度・重複障害児指導研究会（編）（1979）講座 重度・重複障害児の指導技術 第1巻～第6巻．岩崎学術出版社．
川住隆一（1999）生命活動の脆弱な重度・重複障害児への教育的対応に関する実践的研究．風間書房．

ディプロマポリシーとの関連

肢体不自由のある子どもが抱える困難と障害状況について心理的あるいは生理・病理的な観点

からの理解を深めるとともに，肢体不自由がある子どもとの教育的係わり合いの実際について具体的に検討することをとおして，肢体不自由がある子どもの行動の意味を捉えるための実践的な力量を身に着けている

オフィスアワー

集中講義のため，休み時間などにお尋ねください

学生へのメッセージ

障害児教育が教育の原点であるという言説の実相の一端を共有できればうれしく思います

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04103601
講義名	病弱者の心理・生理・病理
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	市川 和男	指定なし
非常勤講師	山本 智子	指定なし

ナンバリング

P20505M21

授業概要(教育目的)

病弱児の人体の生理、各種疾患や障がいの病理、心理的特性について学び、病弱児への適切な配慮、具体的な発達の支援について事例を取り上げながらその根拠を学び、実践に役立つ知識へ発展させる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．小児慢性疾患を抱える病弱児の人体の特徴の生理、小児慢性疾患の病理、心理特性について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1．小児慢性疾患を抱える病弱児に必要な配慮や発達支援の方法について類別し、現状と課題について指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション・（ルーブリック評価について） 病気や障害をめぐる動向（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	オリエンテーション・（ルーブリック評価について）、健康や病気、障害の概念や、疫学統計、病弱、障害児教育の歴史的展開について学び、

第1回	育・ICT活用を含む)	病気や障害をめぐる動向について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：テキスト序章「病気や障害をめぐる動向」（1～14ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習97分、復習97分
第2回	授業テーマ	病気や障害をめぐる動向（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	健康や病気、障害の概念や、疫学統計、病弱、障害児教育の歴史的展開について学び、病気や障害をめぐる動向について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：テキスト序章「病気や障害をめぐる動向」（1～14ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習97分、復習97分
第3回	授業テーマ	子どもの発達・精神、運動面の発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発達の領域、支えるもの、脳内機能局在、遅れの診断について学び、子どもの発達・精神、運動面の発達について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：テキスト第1章「子どもの発達・精神、運動面の発達」（17～27ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習97分、復習97分
第4回	授業テーマ	発達障害の考え方と広汎性発達障害、注意欠陥性障害（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発達障害、自閉症、広汎性発達霜害、注意欠陥多動性障害を学び、発達障害の考え方と広汎性発達障害、注意欠陥性障害について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：テキスト第2章「発達障害の考え方と広汎性発達障害、注意欠陥性障害」（28～44ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習97分、復習97分
	授業テーマ	発達障害の考え方と広汎性発達障害、注意欠陥性障害（2）

第5回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発達障害、自閉症、広汎性発達霜害、注意欠陥多動性障害を学び、発達障害の考え方と広汎性発達障害、注意欠陥性障害について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：テキスト第2章「発達障害の考え方と広汎性発達障害、注意欠陥性障害」（28～44ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習97分、復習97分
第6回	授業テーマ	知的障害を伴わない発達障害と二次障害（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	二次障害に陥りやすい子どもたち、二次障害を予防していくための視点、メンタルヘルスを考慮した個別の指導計画の作成と指導や支援について学び、知的障害を伴わない発達障害と二次障害について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：テキスト第3章「知的障害を伴わない発達障害と二次障害」（45～55ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習97分、復習97分
第7回	授業テーマ	知的障害を伴わない発達障害と二次障害（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	二次障害に陥りやすい子どもたち、二次障害を予防していくための視点、メンタルヘルスを考慮した個別の指導計画の作成と指導や支援について学び、知的障害を伴わない発達障害と二次障害について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：テキスト第3章「知的障害を伴わない発達障害と二次障害」（45～55ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習97分、復習97分
第8回	授業テーマ	病気や障害の受容とセルフケア
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	病気や障害の受容とセルフケア、発達段階とセルフケア、疾患の受け止め方と心理や情緒面、セルフケアの力を育てるカリキュラム、慢性疾患に適応するための支援について学び、病気や障害の受容とセルフケアについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：テキスト第12章「病気や障害の受容とセルフケア」（197～205ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。
	教室外学習	

	の時間（分）	予習97分、復習97分
第9回	**授業テーマ**	病気や障害の子どもの心理特性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	病気の概念の発達、疾患と病気の違い、発達段階から見た心理社会的問題について学び、病気や障害の子どもの心理特性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：テキスト第13章「病気や障害の子どもの心理特性」（206～214ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習97分、復習97分
第10回	**授業テーマ**	教育・医療・保健・福祉の連携と支援／病気や障害のある子どもを支える法制度
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域で暮らすことへの包括支援、全人的ケアの理念と機能、QOLを高める教育・医療・保健・福祉の連携と支援について学び、教育・医療・保健・福祉の連携と支援を理解する。／社会保障制度、母子保健関連施策と子どもの医療制度について学び、病気や障害のある子どもを支える法制度を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：テキスト第14章「教育・医療・保健・福祉の連携と支援」（215～224ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。／テキスト第15章「病気や障害のある子どもを支える法制度」（225～231ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習97分、復習97分
第11回	**授業テーマ**	【第1回目集中授業 2月・3月】 循環器疾患の理解と支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	就学先の循環器疾患の経年変化、学校現場で良く見る循環器疾患における児童への対応の注意点について学び、環器疾患の理解と支援を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：テキスト第4章「環器疾患の理解と支援」（59～73ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習97分、復習97分
	授業テーマ	【第1回目集中授業 2月・3月】 吸器疾患の理解と支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗ	就学先の心疾患児童への対応の注意点や、呼吸器の感染症、気管支ぜん

第12回	ｼｰ教育・ICT活用を含む)	息、過換気症候群について学び、吸器疾患の理解と支援を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：テキスト第5章「吸器疾患の理解と支援」（74～85ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習97分、復習97分
第13回	授業テーマ	【第2回目集中授業 2月・3月】 神経系疾患の理解と支援（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	てんかん、脳性麻痺、ダウン症、神経皮膚症候群について学び、神経系疾患の理解と支援を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：テキスト第10章「神経系疾患の理解と支援（1）」（150～172ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習97分、復習97分
第14回	授業テーマ	【第2回目集中授業 2月・3月】 神経系疾患の理解と支援（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	知的障害、脊髄性筋萎縮症、筋ジストロフィー、水頭症について学び、神経系疾患の理解と支援を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：テキスト第11章「神経系疾患の理解と支援（2）」（173～194ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：これまでの学びのキーワードを整理してまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習97分、復習97分

学習計画注記

・履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
・授業教室：XXXX教室

学生へのフィードバック方法

・実施した小テストは授業中に解説する。それでも疑問点がある学生は、必ず教員に質問してください。

評価方法

・小テストは3～4回分の授業に係る学習範囲から出題し，授業内に計4回実施する。1回あたりの問題数は10問で、すべて穴埋め方式で出題する。
・定期試験は、小テストの振り返りの問題を含む。また、記述問題によって応用的な思考力や判断力を確認する。
・小テスト及び定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

・ルーブリックを用いた成績評価を行います。ルーブリックについては、授業初回のガイダンスにて配布資料を参照ください。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○	○		
定期試験	○	○		

評価割合

・小テスト（20%）、態度（20%）、定期試験（60%）にて評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

・小野次郎・西牧謙吾・榊原洋一編著『特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理』（ミネルヴァ書房）978-4-623-06153-2

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
・児童学を構成する6領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識を有している。
【思考・判断】
・子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる力を身につけている。
・家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性を身につけている。

オフィスアワー

・特になし。

学生へのメッセージ

・主体的に授業に参加するために、日ごろから授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読み、その内容の背景に関心を持ち、取りあげられている現状に対して自分自身や身近な身の回りのことに照らし合わせたり置き換え、考えられる客観的な理由などをもとにして、自分なりに考えるようにしましょう。
※感染症が蔓延する場合の出欠席の対応について
・感染や濃厚接触が疑われる場合は、すみやかに大学へ連絡して下さい。この連絡状況から、感染者に対する出欠席の取り扱いを行います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	＜市川和男＞担当教員は，特別支援学校、児童福祉施設、小児医療を専門とする医療機関において、教員と連携しながら、病弱の児童やその家族に対して、医療や福祉の専門職として実務経験を有している。
アクティブ・ラーニング	○	
情報リテラシー教育	○	対面授業では、小グループなどにより授業を展開することもある。
ICT活用	○	本授業は、遠隔授業と対面授業にて実施する。また、第1～10回授業については、Google formにて小テストを実施する。

講義コード	G04103701
講義名	視覚障害の理解と支援
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	嶋 俊樹	指定なし

ナンバリング

P10402M12

授業概要(教育目的)

視覚障害児（者）の実態と支援の必要性についての理解を目指す。視覚障害による学習上又は生活上の困難さについての体験的理解を図り、指導事例を通して支援や指導の在り方を考えられるようにする。また、共生社会の実現に向けて、どのような障害理解教育や合理的配慮が必要かを考え、視覚障害に配慮した指導の基礎的な力を育成する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	視覚障害に関する基本的知識（障害の特性）を有し支援・指導のポイントを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	視覚障害による学習上又は生活上の困難さに対して、適切な支援・指導方法を考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	体験活動への参加態度、リフレクションペーパーへの記入を通して、視覚障害教育にかかわる課題に対し問題意識を持ち主体的に学びを深めることができる。
技術・表現の観点 (A)	視覚障害の特性に配慮した指導ができるようになる。

学習計画

	授業テーマ	視覚障害の概念
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	視覚障害者の病理・生理・心理について理解する。視覚器と視覚認知の仕組み、自覚・他覚検査や行動に基づく視覚機能のアセス

第1回	教育・ICT活用を含む)	メント（視力検査を体験する）、視覚障害の補助具について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：これまでの経験をもとに、視覚障害について考えておく。参考書第2章「視覚の成り立ち」を読んでおくとよい。 復習：視覚障害について、わかったこと、考えたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	視覚障害幼児の発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	視覚障害が乳幼児の発達に及ぼす影響について、全盲と弱視に分けて理解する。また乳幼児期の発達を促すための支援について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：資料をもとに視覚障害乳幼児の発達と支援について、疑問点を整理しておく。考書第3章「視覚障害乳幼児の発達と支援」を読んでおくとよい。 復習：視覚障害が乳幼児の発達に及ぼす影響、わかったこと、考えたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	視覚障害児の歩行とその指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	視覚障害児の位置の定位や歩行を促すための指導について理解する。また、歩行を介助、誘導するための介助方法について、白杖を用いた疑似体験をもとに理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：資料をもとに視覚障害児の発歩行指導について、疑問点を整理しておく。参考書第9章「自立活動の指導」を読んでおくとよい。 復習：視覚障害児の歩行と指導について、わかったこと、考えたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	視覚障害児の教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全盲児の自立活動や準ずる教育における指導法について点字学習指導を例に理解する。また、点字盤の使い方を体験し、点字の読み書きの難しさを体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：点字学習について、疑問点を整理しておく。参考書第6章「点字」を読んでおくとよい。 復習：点字学習について、わかったこと、考えたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	視覚障害のさまざまな見え方の疑似体験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	視覚障害の原因となる代表的な疾病について、その病理と見え方を理解する。シュミレーションレンズを用いて、弱視、視野狭窄、白内障等による生活や学習の困難さについて体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：資料をもとに視覚障害乳幼児の発達と支援について、疑問点を整理しておく。参考書第5章「弱視児の指導」を読んでおくとよい。 復習：視覚障害が乳幼児の発達に及ぼす影響、わかったこと、考えたことをまとめる。

	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	視覚障害児の触覚や聴覚などの活用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	視覚障害児が触覚や聴覚などを活用して環境や事物を把握し、慣れ親しむことの重要性について、疑似体験を通して理解する。また、そのための教育や支援の方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：資料をもとに視覚障害乳幼児の発達と支援について、疑問点を整理しておく。参考書第4章「盲児の指導」を読んでおくとよい。 復習：体験を通して学んだことや教育や支援の在り方について、わかったこと、考えたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	視覚障害児の教育の場と教育課程
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	視覚障害児の教育の場とその仕組みについて、その根拠となる学習指導要領や法令を理解し、共生社会実現のためのこれからの視覚障害教育の在り方について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：資料をもとに視覚障害児の教育の場と教育課程について、疑問点を整理しておく。参考書第1章「視覚障害児と学びの場」を読んでおくとよい。 復習：共生社会実現のためのこれからの視覚障害教育の在り方についてわかったこと、考えたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

＊履修状況や授業の進捗具合によりスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

・リフレクションペーパー等により提出された質問については、次回の授業の冒頭にて解説する。

評価方法

・毎回の授業でリフレクションペーパーに授業内容からわかったこと、考えたことを書いてもらう。
・授業で学んだことを踏まえて作成した最終レポート課題から、知識の修得状況、思考力、表現力を総合的に評価する。
・平常点は、発問に対する応答、グループディスカッションへの参加状況など、授業への参加状況を評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
リフレクションペーパー	○	○	○	
最終レポート課題	○	○	○	○
平常点		○	○	

評価割合

リフレクションペーパーの内容（30%）、最終レポート課題(60%)、平常点（10%）

参考図書

青柳まゆみ・鳥山由子:編著 2020「新・視覚障害教育入門」ジアース教育新社
日本視覚障害社会科教育研究会編集 2017「みんなの地図帳～見やすい・使いやすい～」帝国書院
文部科学省 2017 特別支援学校学習指導要領および解説書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】視覚障害者の専門的、基礎的知識が修得できている。
特別支援学校学習指導要領に基づく視覚障害教育の基礎基本が修得できている。
【思考・判断】家族・地域・社会との繋がりの観点から、共生社会に向けた障害理解について主体的に考えられる。
【関心・意欲・態度】視覚障害者の立場から、学習上・生活上の困難さを理解しようとする。

学生へのメッセージ

「視覚障害」の見え方や感じ方は十人十色である。視覚に障害のある子どもの生活や学習上の困難さについて体験的に学ぶとともに視覚障害の特性を踏まえた指導や支援の在り方について考えてみましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、視覚特別支援学校で12年間の勤務経験を有し、視覚に障害のある児童の授業実践例や教材教具を紹介しながら講義する。
アクティブ・ラーニング	○	体験活動を取り入れ視覚障害児・者の心理や教育の在り方について自ら考えるとともに考えたことを他者と共有する時間を設定する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04103801
講義名	聴覚障害の理解と支援
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	渡部 杏菜	指定なし

ナンバリング

P204０5M12

授業概要(教育目的)

聴覚障害の生理・病理の基礎、聴覚障害教育の制度と教育課程、聴覚補償やコミュニケーション方法の在り方や聴覚障害の特性に配慮した指導事例を理解し、聴覚障害児の支援・指導の在り方を考え、対応する力を育成することを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	聴覚障害の特性、支援・指導のポイントを説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	聴覚障害教育における教育学的・心理学的諸問題に対し、適切な支援・指導方法を考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	聴覚障害教育にかかわる教育学的・心理学的諸問題に関心を示し、主体的に学びを深める。
技術・表現の観点 (A)	聴覚障害の特性に配慮した指導ができるようになる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	聴覚障害の定義と特質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	聴覚障害の定義・原因・分類について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：これまでの経験をもとに、聴覚障害とはどんな障害かを考えておく。 復習：聴覚障害の定義・原因・分類について、わかったこと、考えたことをまとめる。
	教室外学習の時間	

	（分）	予習60分、復習125分
第2回	**授業テーマ**	聴覚障害児の支援と教育の場
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	聴覚障害児は、どのような場で学び、どのような支援を受けているかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料を読んで、聴覚障害児の支援と教育の場について、疑問点やより深く学びたい点をまとめておく。 復習：聴覚障害児の支援と教育の場について、わかったこと、考えたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第3回	**授業テーマ**	特別支援学校（聴覚障害）の教育課程
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	聴覚障害児の言語指導や児童生徒の各教科等の教育課程の現状と課題について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料を読んで、聴覚障害の教育課程について、疑問点やより深く学びたい点をまとめておく。 復習：聴覚障害の教育課程について、わかったこと、考えたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第4回	**授業テーマ**	聴覚障害のきこえと聴覚補償
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	聴覚障害の原因や分類を理解し、聴覚補償のための聴力検査、補聴器、人工内耳及び集団補聴システムについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料を読んで、聴覚障害のきこえや聴覚補償について、疑問点やより深く学びたい点をまとめておく。 復習：聴覚障害のきこえや聴覚補償について、わかったこと、考えたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第5回	**授業テーマ**	聴覚障害教育の歴史
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	世界及び日本の聴覚障害教育の歴史について学び、コミュニケーション指導の考え方の変遷から、現在の聴覚障害教育の在り方を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料を読んで、聴覚障害教育の歴史について、疑問点やより深く学びたい点をまとめておく。 復習：聴覚障害教育の歴史について、わかったこと、考えたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第6回	**授業テーマ**	聴覚障害と多様なコミュニケーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	聴覚口話法やキュード法、手話などの多様なコミュニケーション方法について体験的に学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：手話について情報を得たり、考えたりしておく。 復習：聴覚障害における多様なコミュニケーション方法について、わかったこと、考えたことをまとめる。
	教室外学習の時間	予習60分、復習130分

	（分）	
第7回	授業テーマ	聴覚障害教育における教科指導と自立活動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	聴覚障害児一人一人に応じた授業の実際について、具体的な場面をDVDで見ながら学び考える。 聴覚障害児に対する言語・コミュニケーション指導や発音指導、聴覚活用の指導方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前配布資料を読んで、聴覚障害児への教科指導や自立活動について、疑問点やより深く学びたい点をまとめておく。 復習：聴覚障害児への教科指導や自立活動について、わかったこと、考えたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分

学生へのフィードバック方法

各授業について小レポート課題を実施する。小レポート課題にはコメントをつけて返却する。

評価方法

・小レポート課題では、授業内容からわかったこと、考えたことを書いてもらう。知識を修得できているか、授業内容に関心をもって考えられているかを評価する。
・最終レポート課題では、授業で学んだことを根拠に説明したり、考えたりする問いを出題し、知識の修得状況、思考力、表現力を評価する。
・平常点では、発問に対する応答、グループディスカッションへの参加状況など、授業への積極的参加状況を評価する。

評価にはルーブリックを用いる。初回の授業でルーブリックについて説明するとともに、クラスルームで公開または授業内で配布をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小レポート課題	○		○	
最終レポート課題	○	○		○
平常点		○	○	

評価割合

小レポート課題30%、最終レポート課題60%、平常点10%

使用教科書名(ISBN番号)

なし（資料を配布する）

参考図書

１．聴覚障害教育の基本と実際 (2008) 中野 善達・根本 匡文 田研出版
２．教育オーディオロジーハンドブック 聴覚障害のある子どもたちの「きこえ」の補償と学習指導(
2017) 大沼直紀監修・著 立入哉・中瀬浩一編著 ジアース教育新社
３．特別支援教育・療育における聴覚障害のある子どもの理解と支援 (2021) 廣田栄子 学苑社
４．特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編 文部科学省
URL：教育支援資料：文部科学省

参考URL

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250.htm

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】聴覚障害児に対する適切な教育を行うことのできる専門的な知識を修得できている。
【思考・判断】聴覚障害教育の具体的実践例による学びを通し、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】聴覚障害児を巡る課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。

学生へのメッセージ

聴覚障害は、見た目にはわかりにくい障害である。そのため、聴覚障害の障害特性を理解し指導の在り方を学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、聴覚特別支援学校の教員としての実務経験を有しており、学校現場の現状や授業実践例を挙げた講義を行うことができる。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッションやグループワークにより、聴覚障害教育における諸問題への対応方法や支援・指導方法を考えることを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04103901
講義名	重複障害の理解と支援
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	岡部 一郎	指定なし

ナンバリング

P30401M21

授業概要(教育目的)

障害が重複することによる独自の困難さを理解し、個別のニーズに基づいた指導法について受講者自らが考え、理解することを目的とする。授業においては、事例から個別の教教育指導計画の作成、自立活動の計画、指導のロールプレイを交え、重複障害の理解と教育実践に対する理解を深める。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	重複障害に関する基本的知識を理解している。 特別支援学校において編成された教育課程の内容を理解している。
思考・判断の観点 (K)	障害が重複することによる生活や学習上の困難さを説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	疑似体験活動後のディスカッションに協力的な態度で取り組めている。
技術・表現の観点 (A)	個別の教教育指導計画の作成、自立活動の計画、指導のロールプレイを通じて指導力を身につけている。

学習計画

重複障害の理解と支援

	授業テーマ	オリエンテーションと重複障害の定義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	オリエンテーションとして、年間の授業計画及び学習目標を

第1回	**育・ICT活用を含む)**	提示する。重複障害の定義について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	重複障害を持つ児童・生徒についてWebで調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	重複障害児に向けた教育課程１（準ずる教育課程、下学年の教育課程、知的障害特別支援学校の教育課程、自立活動の教育課程）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別支援学校の教育課程について、データ等を活用しながら解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特別支援学校の教育課程の種類や内容について、概要を調べておく事。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	複障害児に向けた教育課程２（自立活動、6区分27項目：健康の保持、心理的な安定、人間関係の形成、環境の把握、身体の動き、コミュニケーション）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別支援学校の教育課程について、詳しく解説していく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特別支援学校の教育課程について調べておく事。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	重複障害児に向けた教育課程と指導法１（事例から６区分の相関図を作成する）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自立活動に取り組む上で、6区分の相関図を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自立活動の6区分27項目について調べておく事。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	重複障害児に向けた教育課程と指導法２（事例から６区分の相関図を作成する）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	モデル生徒を擬似的に立て、自立活動に向けた6区分27項目の関係図を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自立活動に向けた6区分27項目の復習をしておく事。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	重複障害児に向けた教育課程と指導法３（相関図から指導方法を発想する、個別の教育指導計画の作成）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	モデル生徒を擬似的に立て、作成した関係図をから授業内容を発想する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導の実例をWebで検索して参考にできるようにしておくこと。
	教室外学習の時間	

	（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	重複障害児に向けた教育課程と指導法４（相関図から指導方法を発想する、個別の教育指導計画の作成）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	モデル生徒を擬似的に立て、作成した関係図をから授業内容を発想する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導の実例をWebで検索して参考にできるようにしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	重複障害児の指導法１（グループ別自立活動指導のロールプレイ、教育課程を踏まえたディスカッション）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業の準備&実践を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「教育課程」について復習しておく事。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	重複障害児の指導法２（グループ別自立活動指導のロールプレイ、教育課程を踏まえたディスカッション）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業の準備&実践を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「教育課程」について復習しておく事。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	重複障害児の指導法３（グループ別自立活動指導のロールプレイ、教育課程を踏まえたディスカッション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業の準備&実践を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの講義内容を復習しておく事。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	重複障害児の指導法４（保健体育科、ローリングバレーボール、ICT機器の活用）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パラスポーツの指導方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パラスポーツについてwebで調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	重複障害児の指導方法５（保健体育科、ぼっちゃ、ICT機器の活用）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パラスポーツの指導方法について学ぶ。

	教室外学習(予習・復習)の内容	パラスポーツについてwebで調べておくこと。
	教室外学習の時間(分)	200分
第13回	**授業テーマ**	重複障害児の指導方法６（保健体育科、インクルーシブ体育）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インクルーシブな環境で指導を行う場合に配慮するべき点は何か、実践的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの講義内容を復習しておく事。
	教室外学習の時間(分)	200分
第14回	**授業テーマ**	重複障害児の指導方法７（日常生活の指導、特別活動、ICT機器の活用）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日常生活の指導、特別活動を発想する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日常生活の指導、特別活動について、復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	200分

学習計画注記

・履修状況や授業の進捗具合によりスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

・授業後のまとめの時間に質問を受け付け、その質問に回答する。

評価方法

・毎回の授業後に出席を兼ねたリフレクションペーパーの記載を求める。
・リフレクションペーパーの内容、疑似体験とゲストスピーカーの講演後に提出する小レポート、及び期末レポート（もしくは定期試験）により評価する。
・学外実習等の止むを得ない事情により欠席した場合には、個別の欠席課題等により評価を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業・リフレクションペーパー		○	○	
擬似体験・小レポート	○	○	○	
期末レポート(或いは定期試験)	○	○		

評価割合

授業・リフレクションペーパー（15%）、小レポート（25%）、期末レポート(或いは定期試験)（60%）

使用教科書名(ISBN番号)

「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）」（文部科学

省、ISBN:4304042297）
「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」（文部科学省、ISBN:4304042319）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】重複障害の専門的、基礎的知識が修得できている。
【思考・判断】重複障害独自の困難さが理解できている。
【関心・意欲・態度】疑似体験や自立活動の体験を通じたディスカッションに熱心に取り組めている。

オフィスアワー

前期：火曜２限(岡部研究室)
後期：未定(岡部研究室)

学生へのメッセージ

重複障害の独自の生活上、学習上の困難さを理解し、児童・生徒一人一人の将来の自立に向けた指導に繋げてもらえればと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、主に３つの実務経験を有している。 ①特別支援学校教諭、肢体不自由、聴覚障害、重複障害のある児童生徒に対する教育支援。②一般小学校、特別支援学級教諭：知的障害、発達障害のある児童への教育支援。③一般小学校、管理職(校長・副校長)及び通級指導教室設置校、管理職。
アクティブ・ラーニング	○	講義では障害の疑似体験ツールを活用した体験学習を取り入れて、それら経験に基づくディスカッションからアクティブラーニングを実践する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	適宜、特別支援教育の合理的配慮に有用なICT機器の活用方法について紹介する。

講義コード	G04104001
講義名	保育原理
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	和田 美香	指定なし
助教	末松 加奈	指定なし

ナンバリング

P10003M21

授業概要(教育目的)

保育とは何か、保育の理念と概念、社会的役割や制度的位置づけ、保育の原理と方法など、保育を行う上で基本となる知識、考え方を伝える。これまでの日本、諸外国における保育の歴史を理解し、我が国の保育の特色と現状、課題を把握できるようにする。子育て支援、小学校教育との接続のあり方、子ども・子育て新制度などを取りあげ、理解を深めるようにする。また、保育実践の基礎となる子ども観、保育観、発達観について、学生自身のもつそれらを確かめ、授業を進める中でその多様性や専門家である保育者との違いに気がつくようにする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	保育の意義や保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育の基本について理解する。
思考・判断の観点 (K)	保育の思想と歴史的変遷について学習しながら、それぞれの保育観、子ども観を考えていく。
関心・意欲・態度の観点 (V)	保育の内容と方法の基本について関心をもって取り組む。
技術・表現の観点 (A)	保育内容について技術的な面も含め習得する。

学習計画

保育原理

第1回	授業テーマ	幼児教育・保育の概念と意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児教育・保育の基本的概念、理念にはどのようなものがあるのか理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育の概念や意義を復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	西洋における保育思想の歴史
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	西洋における保育思想の歴史を理解し、どのような歴史的変遷があったのかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育の西洋の歴史を復習する。その際、授業で取り扱わなかった人物についても調べて おく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	日本の保育思想と歴史
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の保育思想と歴史について、年代を追って理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で使用したワークシートなどをもとに、日本の保育思想と歴史について復習する。その際、授業で取り扱わなかった人物についても調べて おく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	保育ニーズの拡大と保育制度の整備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育ニーズの拡大と保育制度の整備について、現代的課題と絡めながら理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	保育ニーズの拡大と保育制度の整備について、身近な事例を取り上げて考察する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	新たな保育制度の始まり（認定子ども園、子ども・子育て支援新制度）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新たな保育制度の始まりについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	認定子ども園や子ども子育て支援新制度について整理する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	保育所保育と幼稚園教育の実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所保育と幼稚園教育の実際について、共通点と相違点を指針と要領で確認しながら理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育所保育と幼稚園教育の実際について復習する。

	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	保育の内容
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育の内容について乳児保育の3つの視点や5領域、10の姿の視点も含めて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で使用したワークシートなどをもとに保育の方法や形態について復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	保育の計画と記録・評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の保育の内容と関連付けながら、保育の計画と記録・評価について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	保育の計画と記録について要点をまとめ、復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	保育の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	方法や形態について具体的事例をもとに学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育の方法や形態について復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	保育者の職務
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育者の職務について、具体的な事例をもとに理解する。 保育士の倫理綱領についても触れる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	保育士の倫理綱領については、具体的な事例をあげながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	園と家庭との連携、地域との連携
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	園と家庭との連携、地域との連携にはどのようなものがあるのか理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で使用したワークシートなどをもとに、園と家庭との連携、地域との連携について復習する。 地域の広報などにも関心を持ち、身近な事例をもとにその実際を調べ学習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	子育てに関する相談・援助
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子育てに関する相談・援助があるのか理解する。 保育園の子育て機能について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育園の子育て機能について理解を深める。 さらに、興味がある人は、地域の子育て支援センターなどに

		行き、そのニーズを知る。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	多様な保育ニーズ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	多様な保育ニーズにはどのようなものがあるのか理解する。その際、保育における現代的課題と関連付けて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	多様な子育てニーズについて、新聞やインターネットなどで調べ学習を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	今日の保育問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今日の保育問題について、事例を中心に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で扱った事例をもとに、新聞やインターネットなどで調べ学習を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

原則講義形式で行うが、DVD視聴、ワーク、ディスカッション等も取り入れる。

学生へのフィードバック方法

提出物については、添削して返却する。

評価方法

平常点20%、定期試験80%で評価する。
ルーブリックに基づく成績評価をする。
（ルーブリックについては、Googleクラスルームまたは授業内での配付等により提示をする。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点		○	○	○
定期試験	○			

評価割合

定期試験（80%）、平常点（20%）

参考図書

アクティベート保育学 保育原理（ミネルヴァ書房）
保育所保育指針（厚生労働省）、幼稚園教育要領（文部科学省）
幼保連携型認定こども園 教育・保育要領

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】保育の意義や保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育の基本について理解する。
【思考・判断】保育の思想と歴史的変遷について学習しながら、それぞれの保育観、子ども観を考えていく。
【関心・意欲・態度】保育の内容と方法の基本について関心をもって取り組む。
【技能・表現】保育内容について技術的な面も含め習得する。

オフィスアワー

和田：月曜２限から４限
末松：火曜2限 (1501室)

学生へのメッセージ

保育所保育指針、幼稚園教育要領、教育・保育要領の内容がわかるものを用意してください。
毎回予習復習をし、理解が十分でなかった点については質問をするか、自分で調べて確認しておいてください。
保育の基本を理解する重要な科目です。積極的に参加することを期待します。
授業資料をGoogleクラスルームに配信する場合があるので、PCを用意してください。（スマホでも可）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は保育所等の実務経験を有しており、子どもと関わるうえで必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授を行う。
アクティブ・ラーニング	○	発表などを通して、講義形式の中にもアクティブラーニングの要素を取り入れる。
情報リテラシー教育	○	調べ学習で情報を収集する際、その情報の発信元や発信の目的などに目を向けて、信憑性のある情報か否かを判断する。
ICT活用		

講義コード	G04104101
講義名	子どもの理解と援助
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	丹羽 さがの	指定なし

ナンバリング

P10102M12

授業概要(教育目的)

子ども理解が「保育の出発点」であることを理解できるようにする。幼稚園，子ども園，保育所における乳幼児の生活や遊びの実態に即して，乳幼児の発達及びその過程で生じるつまずき，その要因を把握するための知識を身に付け，対応の方法を考えられるようにする。幼児理解が幼児教育のあらゆる営みの基本となることを理解できるようにする。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・子ども理解が保育の出発点であるという意味を説明できる ・発達に関する知識を子どもの姿と結び付けながら深く理解する
思考・判断の観点 (K)	・子どもの姿を発達的な知識を基に理解しようとする姿勢をもつ ・乳幼児の発達過程で生じるつまづきとその要因を把握するための視点を身に付け、対応の方法を考えられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・子どもの発達をめぐる課題，問題に関心をもって取り組み，保育現場における援助の方法を提案できる
技術・表現の観点 (A)	・授業を通して得た自らの気づきや学びを文章で表現して伝える

学習計画

	授業テーマ	イントロダクション・幼児教育における幼児理解の意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	

第1回	育・ICT活用を含む)	幼児理解と指導案作成・保育実践・評価との関係を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。
	教室外学習の時間(分)	50分
第2回	授業テーマ	乳幼児理解における発達の把握
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発達段階と発達過程，個人差への配慮を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕事前配布資料を読み，発達段階と発達過程，発達を捉えるツールとしての発達検査の概要を捉える。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。
	教室外学習の時間(分)	50分
第3回	授業テーマ	乳幼児の学びの課程を捉える視点
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳幼児が遊びと生活の中で何を学び，身に付けているのかを読み取る
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕前期の「発達心理学」で学んだ乳幼児期の発達について復習しておく。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。
	教室外学習の時間(分)	50分
第4回	授業テーマ	乳幼児の学びを支える保育者
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育者の受容的姿勢，乳幼児と保育者の信頼関係の重要性
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕保育者は乳幼児の発達にどのような影響を与えうるか考えてみる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。
	教室外学習の時間(分)	50分
第5回	授業テーマ	いざこざから学ぶこと
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	いざこざ場面の事例から，個の育ちと集団の育ちを読み取る
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕乳幼児はどんなことが原因でケンカになるか考えてみる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。
	教室外学習の時間(分)	50分
	授業テーマ	仲間関係の事例からつまずきの要因を学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	仲間関係におけるつまずきの事例から，子ども同士の関係性その他の要因を考える

第6回	む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。
	教室外学習の時間(分)	50分
第7回	授業テーマ	観察・記録の実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳幼児の発達や学びを捉える観察及び記録の方法を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。
	教室外学習の時間(分)	50分
第8回	授業テーマ	観察記録と考察の発表とディスカッション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の記録と考察をグループ内で発表し協議することを通して多様な見方・考え方に気付く
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕前回授業の内容を復習しておく。〔復習〕グループ内での話し合いで得られた気づきを小レポートにまとめる
	教室外学習の時間(分)	50分
第9回	授業テーマ	観察・記録からの乳幼児理解と学びの読み取り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	観察記録を元に，子どもたちの育ち・学びを伝えるということを意識しながらドキュメンテーションを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕ドキュメンテーションについて調べておく。〔復習〕グループ内での話し合いで得られた気づきを小レポートにまとめる
	教室外学習の時間(分)	50分
第10回	授業テーマ	保育における評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育・幼児教育における評価とは何か学ぶ。評価の種類，評価と指導計画との関連，PDCAサイクルについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕第１回の授業内容を復習しておく。 〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。
	教室外学習の時間(分)	50分
第11回	授業テーマ	基本的生活習慣の獲得と発達援助
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的生活習慣の獲得と援助の方法，基本的生活習慣と主体性の育ちについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。
	教室外学習の時間(分)	50分

第12回	授業テーマ	発達の課題に応じた援助やかかわり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発達課題とは何か，保育者による援助の基本，配慮点を理解する。また保育者以外の専門家による援助について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕保育現場において，保育者以外に子どもの育ちの援助に関わる専門家にはどのような人がいるか調べてみる。 〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。
	教室外学習の時間(分)	50分
第13回	授業テーマ	発達や学びの連続性と就学への支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児期から児童期にかけての学びと育ちの連続性，小学校との連携・接続と就学支援について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストを読み考える。
	教室外学習の時間(分)	50分
第14回	授業テーマ	現代社会における子どもの発達と保育の課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計資料や事例から子育て支援の課題を捉える
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕乳幼児をもつ子育て家庭の現状と課題について調べてみる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。
	教室外学習の時間(分)	50分

学習計画注記

授業の進度その他の事情によって計画が変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

毎回コミュニケーション・カードを確認し，下線and/orコメントをつけて返却する。質問や疑問点についてはフィードバック資料を作成し，次回授業時に解説する。

評価方法

・平常点は学びに向かう姿勢，意欲，理解度を授業内課題への取り組みと内容，コミュニケーション・カードの記入状況，内容から評価する。中間レポートは観察記録と考察，グループディスカッションを通しての気づきをまとめたものとし，理解度・観察記録技術・考察，気づきの深さを評価する。最終レポート課題では，多角的な視点から子どもの育ちを理解する視点，子ども理解に基づき具体的な援助を考える力等，授業の到達目標に基づき評価する。
・平常点，中間レポート，最終レポートは，下表に示す力を養うことを目的に実施する。
・成績評価はルーブリックに基づいて行う。ルーブリックはクラスルームまたは授業内での配布により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
中間レポート	○	○	○	○
最終レポート	○	○	○	○

評価割合

平常点（50%），中間レポート(20%)，最終レポート（30%）で評価する。

参考図書

授業中に適宜指示する。

ディプロマポリシーとの関連

【思考・判断】子どもの心身の発達についての知識を基に教育・保育実践の現場で出会う様々な課題に柔軟に対応できる力を身に付けている。【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心をもって取り組み，子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。子どもの視点に立ち，子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身に付けている。

オフィスアワー

水曜日４限 1626研究室

学生へのメッセージ

前期の発達心理学で学んだ知識を基に，子どもを理解しその育ちを援助する方法について学びます。前期のテキスト，授業資料も手元に置いて，必要に応じて見返しながら受講してください。保育・教育現場での実践につながる内容です。授業，ワーク，課題へ積極的に参加するとともに，理論と実践を結びつけながら，自ら考える姿勢を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	小グループでのディスカッションを取り入れる。記録を実際に作成するワークを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04104201
講義名	乳児保育I
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	柳瀬 洋美	指定なし
教授	和田 美香	指定なし

ナンバリング

P10201M21

授業概要(教育目的)

テキストや保育所保育指針等を手掛かりとして「乳児保育の基本となる考え方」について理解を深める。乳児保育に関する歴史的変遷も踏まえながら、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状を知る。さらに3歳未満児の発達と生活について知る。
乳児保育における職員間の連携･協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解し、豊かな保育内容を探求するための基盤づくりをする。

履修条件

特になし。
なお、本科目は保育士必修科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解し説明できる。 ２．３歳未満児の発育･発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	１．保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 ２．乳児保育における職員間の連携･協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	１．身の回りの乳児と乳児を取り巻く環境や問題について興味・関心をもつ。

技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	乳児保育の意義･目的と歴史的変遷
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児保育の意義と目的、歴史的変遷について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第1章を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	**授業テーマ**	乳児保育の役割と機能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児保育が果たす役割の機能について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第1章を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	乳児保育における養護と教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児保育における養護と教育について、日本の現状を知り、今後の展開について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの養護と教育の観点から、自分でもメディア等でニュースを調べてみる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	保育所における乳児保育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所における乳児保育の基本について保育所保育指針をもとに理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援・家庭との連携
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場として、保育所や認定こども園のほか、在宅保育や乳児院、子育て支援センター等のさまざまな社会資源について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第9章を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題について、最新のデータを踏まえながら、事例等を通して理解を深める。

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章、第7章をよく読んでおく。 メディア等、乳児保育や子育て支援家庭に関する社会の動向に興味・関心をもって自分でも調べてみる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	乳児保育おける連携・協働（自治体や地域の関係機関との連携・協働）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児保育の現場でどのような関係機関とどのように連携・協働しているのかについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分が住んでいる地域の乳児期を支援する関係機関や事業について調べる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所以外の児童福祉施設について知り、その役割や機能、そこに入所している（利用している）乳児の生活や実状について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第9章§5「乳児院」について読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	家庭的保育等における乳児保育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭的保育とは何か、その意義と現状について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第9章§３在宅保育についてよく読んでおくほか、今住んでいる地域の資源について調べてみる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	3歳未満児の生活と健康・安全
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3歳未満児の生活と環境のうち、健康と安全に焦点を当て、保育室内外の環境について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章§１「日課」、§７「子どもの居る場所」、第4章についてよく読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	3歳未満児の遊びと環境
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3歳未満児の遊びと環境のうち、遊びを取り上げ、発達等の観点から理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章§２「遊ぶ」読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	3歳未満児の発育･発達を踏まえた保育における配慮および保育士等による援助や関わり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3歳未満児の発育･発達を踏まえた保育における配慮および保育士等による援助や関わりについて、実践例をもとに理解を深める。

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第5章、第6章をよく読んでおく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第13回	**授業テーマ**	乳児保育における計画・記録・評価とその意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児保育において、子どもたちの生活を支える上で重要な保育計画・記録・評価のあり方について学び、その意義について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第5章を読んでおく。
	教室外学習の時間(分)	180分
第14回	**授業テーマ**	乳児保育の振り返りとまとめテスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業全体を振り返り、保育者として必要な乳児保育に関する基礎知識と重要な視点を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書や授業で配布した資料をもとにこれまで学んだことを振り返る。
	教室外学習の時間(分)	240分

学習計画注記

※ 状況により、スケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

授業内で出す課題やリアクションペーパーへのコメントを通じて、学生の疑問や質問へのフィードバックを行っていく。

評価方法

・試験はテキストと必要に応じて配布する資料の中から出題する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○	○	
授業内課題	○	○	○	

評価割合

・試験60%、提出物（授業内課題等）30%、平常点（授業への取り組み等）10%
・ルーブリックに基づいて評価する。ルーブリックは授業内に提示する。

使用教科書名(ISBN番号)

『乳児保育I・II』（新・基本保育シリーズ）（中央法規）

参考図書

演習乳児保育の基本（978-4-89347-125-3）阿部和子編（萌文書林）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解し説明できる。また、３歳未満児の発育･発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解し説明できる。
【思考・判断】保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について把握できている。
乳児保育における職員間の連携･協働及び保護者や地域の関係機関との連携について考えること

ができる。

オフィスアワー

水曜５時限 1619研究室（その他、メールで積極的に連絡してください。）

学生へのメッセージ

日頃より、本授業の対象年齢である０～３歳児を意識し、身の回りや社会の状況に興味・関心をもって授業に臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員2名のうち1名は障害児療育センターや子育て支援センターにおいて長年の臨床経験を有しており、家庭的保育以外にも施設での乳児保育等の実際についてもよく知っている。またもう1名は保育士として保育現場での実務経験を有する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	自分の興味・関心にそって情報収集を行い、自ら考察する経験を積み重ねる。
ICT活用		

講義コード	G04104301
講義名	乳児保育II
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	和田 美香	指定なし
准教授	柳瀬 洋美	指定なし

ナンバリング

P10202M12

授業概要(教育目的)

乳児保育の基本を押さえながら、現場におけるその実際を伝える。
さらに画像を使って、実践的な内容を解説し、考えていくようにする。
実践的なワークを行いながら具体的に理解するようにしていく。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 ・養護と教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 ・乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。
思考・判断の観点 (K)	・乳児の生活や遊びの環境とその安全管理について、様々な視点からその工夫を考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・関心を持ち、積極的に園見学などに参加する。
技術・表現の観点 (A)	・沐浴やオムツ交換、調乳や授乳などの技術について学ぶ。

学習計画

乳児保育II

第1回	授業テーマ	子どもと保育士等との関係の重要性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもと保育士等との関係の重要性について、保育所保育指針を参考にしながら理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	保育所保育指針やテキストから子どもと保育士等との関係の重要性について触れられているところをチェックし、復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わりについて、保育所保育指針の文言をもとに考え、事例を見ながら理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わりについて、保育所保育指針やテキストを参考に復習をする。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	子どもの主体性の尊重と自己の育ち
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの主体性の尊重と自己の育ちについて事例をもとに検討し、発達段階に応じた関わりについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	保育所保育指針やテキストを参考にしながら乳児の発達段階について復習をする。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	子どもの体験と学びの芽生え
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの体験と学びの芽生えについて、保育所保育指針の「乳児保育の３つの視点」を参考にしながら、その具体的なところを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	乳児保育の3つの視点について復習をして、その内容をよく理解しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	子どもの一日の生活の流れと保育の環境
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの一日の生活の流れと保育の環境について、テキストや視聴覚教材により理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内	テキストと授業内で配布されたプリントなどを参考にしながら、子どもの一日の生活の流れと保育の環境について復習をする。

	容	
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	子どもの生活や遊びを支える環境の構成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの生活や遊びを支える環境の構成について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で作成した環境構成図について、良さや課題についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際について、事例をもとに考察していく。写真や動画などをみながらその実際に触れる。（保育所を訪問する際のポイントをまとめる）
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で扱った事例から、援助のポイント、見学のポイントをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際 0歳児のおむつ交換について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際について知る。 0歳児のおむつ交換を赤ちゃん人形を使ってやってみる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で扱った援助のポイントについてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	子ども同士の関わりとその援助の実際 （保育所見学事前指導）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児保育の中での子ども同士の関わりについて理解する。乳児保育の3つの視点における「人との関わり」、領域「人間関係」につながる発達の見通しについて学ぶ。保育所見学の事後指導をすることにより、さらに学びを深める。 保育所見学の準備（挨拶、身だしなみなどのマナー面や、見学のポイントを整理する）
	教室外学習(予習・復習)の内容	乳児保育の３つの視点について事例をまとめ、領域との関係を整理する。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	保育所での見学（保育所で実際に乳児と関わる）
	学習内容(ｱｸﾃｨ	

第10回	**ﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	乳児の安全安心について具体的に学ぶ。 乳児の遊びと生活についてその実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	見学の記録を指定の用紙にまとめる。 事後指導の際の発表の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	保育所見学事後指導。 集団生活における個別の対応、配慮事項について考える。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集団生活の中で、個別の生活リズムを保障していくための、具体的な配慮を考える。 進級時などの移行に関する配慮についても学ぶ。 それぞれのまとめを発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で学んだことのポイントをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	指導計画について・まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指導計画について学ぶ。（長期指導計画、短期指導計画、個別の指導計画について） これまでの授業の復習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	乳児クラスにおける指導計画を実際に書いてみる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	保育現場の実際から考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アクティブラーニング（子どもの発達を考えた手作りおもちゃの作製、発表をする）
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの発達を考えた手作りおもちゃについて、その意義を整理する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	**授業テーマ**	保育現場の実際から考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アクティブラーニング （園見学とこれまでの授業内容をまとめ、振り返り。）
	教室外学習(予習・復習)の内容	保育の生活と遊びについて、具体的な方法をまとめる。

	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

毎回の演習課題をもとに授業を進めていく。

学生へのフィードバック方法

授業の最後に質問の時間を設け、フィードバックを行う。
毎回の授業の振り返りを毎回教員が用意した「振り返りシート」に記入する。質問などがあれば、そこに記入して、個別または全体のフィードバックとして、やりとりを行う。

評価方法

平常点60%と授業内テスト40%をもとに評価する。
ルーブリックに基づく成績評価をする。
（ルーブリックについては、Googleクラスルームまたは授業内での配付等により提示をする。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点		○	○	○
授業内テスト	○			

評価割合

平常点60%と定期試験40%をもとに評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

『乳児保育I・II』（新・基本保育シリーズ）（中央法規）

参考図書

『乳児保育の基本』（萌文書林）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。養護と教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。
【思考・判断】乳児の生活や遊びの環境について、安全管理について、様々な視点から考える。
【関心・意欲・態度】演習課題に積極的に取り組む。
【技能・表現】沐浴やオムツ交換、調乳や授乳などの技術について学ぶ。

オフィスアワー

月曜２限から４限

学生へのメッセージ

演習課題中心の授業です。自分から課題を見つけ、積極的な姿勢で取り組んでください。
授業資料をGoogleクラスルームに配信するので、PCを用意してください。（スマホでも可）
保育士資格必修

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は保育士として実務経験を有しており、子どもとかかわるうえで必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授を行う。
アクティブ・ラーニング	○	演習課題を通してアクティブラーニングを実践していく。
情報リテラシ		調べ学習をする際、その情報の発信元や発信目的などに目を向けた上で、

一教育	○	信頼性を判断する。
ICT活用		

講義コード	G04104401
講義名	外国語科教育
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	山田 浩	指定なし

ナンバリング

P10304M21

授業概要(教育目的)

小学校における外国語活動・外国語の授業を行うために必要となる実践的な英語運用力と、外国語教育に係る背景的な知識を身に付ける。具体的には、授業場面で必要となる「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の力を身に付けること、他校種との連携を踏まえた英語、言語習得、異文化理解に関する知識を身に付けること、教育現場で直面しうる困難に対応するための思考力や判断力を養うこと、教師としての生き方や考え方を児童に伝えるための表現力を養うことを目標とする。
授業では、小学校における外国語教育に必要な英語表現と背景知識について講義を受けるだけでなく、自らの英語運用力に関する諸課題を発見し、調査や体験活動を通じて主体的に解決策を見出し、他者と互いに考えを表現し合うことで幅広い視点から考察する。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	外国語活動・外国語科の授業実践に必要な基本的英語運用力が身についている。
思考・判断の観点 (K)	外国語（英語）を指導する授業の在り方について自ら思考し、判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に英語運用力の向上に努め、他校種との連携や異文化理解などについて興味関心を持って学ぶことができる。
技術・表現の観点 (A)	基本的な語彙・表現、英文法、英語の四技能について学ぶことができる。

学習計画

外国語科研究

	授業テーマ	小・中・高等学校外国語科の概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	学習指導要領に基づいて、日本の小学校における外国語教育の歴史を振

第1回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	り返るとともに、小学校から高等学校までの外国語教育の目標について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に提示された課題学習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	語彙・表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校外国語教育において必要な語彙・表現について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に提示された課題学習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	リスニング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校外国語教育における「聞くこと」の指導について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に提示された課題学習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	スピーキング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校外国語教育における「話すこと」の指導について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に提示された課題学習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	リーディング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校外国語教育における「読むこと」の指導について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に提示された課題学習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	ライティング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校外国語教育における「書くこと」の指導について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に提示された課題学習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	中間のまとめと振り返り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ここまでに学習した内容を確認し、自分の学習を振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に提示された課題学習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	コミュニケーション活動の理論と意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校外国語教育におけるコミュニケーション活動の理念と方法について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に提示された課題学習をする。

	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	コミュニケーション活動の実践（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の中で教師が外国語を使用する場面を想定してコミュニケーション活動を実践し、教師による外国語使用の目的について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に提示された課題学習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	コミュニケーション活動の実践（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の中で教師が外国語を使用する場面を想定してコミュニケーション活動を実践し、教師による外国語使用の目的について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に提示された課題学習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	コミュニケーション活動の実践（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の中で教師が外国語を使用する場面を想定してコミュニケーション活動を実践し、教師による外国語使用の目的について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に提示された課題学習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	コミュニケーション活動の実践（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の中で教師が外国語を使用する場面を想定してコミュニケーション活動を実践し、教師による外国語使用の目的について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に提示された課題学習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	コミュニケーション活動の実践（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の中で教師が外国語を使用する場面を想定してコミュニケーション活動を実践し、教師による外国語使用の目的について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に提示された課題学習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	コミュニケーション活動の反省と振り返り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習指導要領の観点から自分自身および他の学生によるコミュニケーション活動を振り返り、よりよい授業に向けた改善点について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に提示された課題学習をする。
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

・詳細な内容は、第１回目の授業で提示します。
・毎回の授業中に、次の授業までにこなしておく課題を提示しますので、それに取り組んでください。

学生へのフィードバック方法

提出された振り返りシートなどに記入されたコメントに対して、次の授業時にフィードバックをする。

評価方法

・平常点、レポート、コミュニケーション活動
・ルーブリックは、第１回目の授業で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
レポート		○	○	
コミュニケーション活動	○	○	○	○

評価割合

(1) 平常点（40%）
(2) レポート（20%）
(3) コミュニケーション活動（40%）

使用教科書名(ISBN番号)

・小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編（平成29年） 文部科学省
（https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_011.pdf）

参考図書

・小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm）文部科学省
・We Can! 1 & We Can! 2（外国語教科書） 文部科学省
・Let's Try! 1 & Let's Try 2（外国語活動資料） 文部科学省

ディプロマポリシーとの関連

・こどもを取り巻く社会における課題の解決に向けて、論理的・多角的に考えることができる。
・地域・社会に主体的に参画・貢献できる協働力・共感力を身に付けている。

学生へのメッセージ

教師自身が英語を使ってコミュニケーションを楽しんでいる姿を児童に見せることが、効果的な授業の第一歩になります。他の学生と協力しながら、小学校での外国語教育に関わる理論と実践を学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自らが体験する。自分の考えを他者に伝える。グループ内で協働作業をして、目標に達する。
情報リテラシー教育	○	必要な情報を検索する。情報モラルに関して確認する。伝えるためのテクニックを取得する。
ICT活用	○	必要に応じて、WEB会議ツール等を利用する。

講義コード	G04104501
講義名	インターンシップ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・1年次
必修・選択の別	選択
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P10307M23

授業概要(教育目的)

小学校・特別支援学校等の教育現場において、教師としての経験を積むために、インターンとして仕事の一部を体験する。教育現場でのインターンとしての活動では、学生ではなく教師としての言動が望まれる。事前・事後の学習では、小学校・特別支援学校の別のコースに分かれて学習する。体験後、学んだことをレポートにまとめるとともに、成果報告会でのプレゼンテーションなどの振り返り（リフレクション）を通して、教育実習に生かすことはもとより、将来の職業選択・キャリア形成に資する力の育成を目指す。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	教職に関する知識を身につけ、教職について理解している。
思考・判断の観点 (K)	子ども、教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教職に関する関心があり、教育現場で体験に意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

インターンシップ

	授業テーマ	1 オリエンテーション・校種選択
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップに関する概要を知り、小学校か特別支援学校かの参加する学校種を明らかにする。小学校と特別支援学校とに分かれる。 小学校：インターンシップの意義と目的 特別支援学校：インターンシップの意義と目的・心構え、

第1回		勤務規律等
	教室外学習(予習・復習)の内容	学校種について考え、変更がある場合は、直ちに連絡する。 インターンシップの意義と目的について確認する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	2 インターンシップの概要、インターンシップ校の研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校：インターンシップの概要について理解する。 特別支援学校：インターンシップ校の研究（学校目標、教育課程等）
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校：インターンシップの概要について確認する。 特別支援学校：インターンシップ校について調べる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	3 インターンシップの心得、様々な障害の理解と支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校：インターンシップの心得について理解する。 特別支援学校：知・肢・聴・視の障害特性、自閉症の特性等
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校：インターンシップの心得について確認する。 特別支援学校：知・肢・聴・視の障害特性、自閉症の特性について確認する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	4 インターンシップ校の研究、特別支援学校の教育課程
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校：インターンシップ校の研究（学校目標、教育課程等） 特別支援学校：校種ごとの特徴、教科・領域について 等
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校：インターンシップ校の研究（学校目標、教育課程等）について調べる。 特別支援学校：校種ごとの特徴、教科・領域について 等について調べる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	5 インターンシップ校の研究、自立活動の指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校：インターンシップ校の研究（教育課程、日課表等） 特別支援学校：自立活動の６区分の内容、指導法
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校：インターンシップ校の研究（教育課程、日課表等）について調べる。 特別支援学校：自立活動の６区分の内容、指導法について確認する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	6 自己紹介文の書き方、知的障害特別支援学校小学部における国語算数指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校：自己紹介文を書く 特別支援学校：知的障害特別支援学校小学部における国語算数指導（指導法、学習指導案、教育活動の理解）
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校：自己紹介文を確認する。 特別支援学校：知的障害特別支援学校小学部における国語算数指導（指導法、学習指導案、教育活動の理解）につい

		て確認する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	7 日誌の書き方、肢体不自由特別支援学校小学部における国語算数指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校：日誌の書き方 特別支援学校：肢体不自由特別支援学校小学部における国語算数指導（指導法、学習指導案、教育活動の理解）
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校：日誌の書き方を確認する。 特別支援学校：肢体不自由特別支援学校小学部における国語算数指導（指導法、学習指導案、教育活動の理解）を確認する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	8 直前の最終確認、危機管理・アレルギー対策、日常生活の中での指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校：直前の最終確認（インターンシップ日誌の書き方、心構え） 特別支援学校：危機管理・アレルギー対策、日常生活の中での指導
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校：直前の最終確認（インターンシップ日誌の書き方、心構え）をする。 特別支援学校：危機管理・アレルギー対策、日常生活の中での指導を確認する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第10回	**授業テーマ**	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第11回	**授業テーマ**	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	

第12回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第13回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第14回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第15回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第16回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第17回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	

第18回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第19回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第20回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第21回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第22回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第23回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第24回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）

	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第25回	**授業テーマ**	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第26回	**授業テーマ**	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第27回	**授業テーマ**	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第28回	**授業テーマ**	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第29回	**授業テーマ**	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第30回	**授業テーマ**	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）

	教室外学習の時間（分）	
第31回	**授業テーマ**	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第32回	**授業テーマ**	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第33回	**授業テーマ**	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第34回	**授業テーマ**	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第35回	**授業テーマ**	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第36回	**授業テーマ**	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	

第37回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第38回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第39回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第40回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第41回	授業テーマ	41 リフレクション（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校：インターンシップの振り返り、各自の成果と課題をまとめる（ワークシート） 特別支援学校：観察した内容の整理、指導内容の再現（報告）
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校：インターンシップの振り返り、各自の成果と課題のまとめ（ワークシート）を確認する。 特別支援学校：観察した内容の整理、指導内容の再現（報告）を確認する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第42回	授業テーマ	42 リフレクション（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校：インターンシップの振り返り、成果のパワーポイントの作成 特別支援学校：児童生徒指導、１人１人の特性に応じた指導支援
		小学校：インターンシップの振り返り、成果のパワーポイ

	教室外学習(予習・復習)の内容	ントの作成。 特別支援学校：児童生徒指導、１人１人の特性に応じた指導支援の確認。
	教室外学習の時間（分）	60分
第43回	**授業テーマ**	リフレクション(３)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校：インターンシップの振り返り、課題のパワーポイントの作成 特別支援学校：指導法、教室環境の工夫、構造化
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校：インターンシップの振り返り、課題のパワーポイントの作成 特別支援学校：指導法、教室環境の工夫、構造化を確認する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第44回	**授業テーマ**	44 リフレクション（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校：インターンシップ報告会 パワーポイントによるプレゼンテーション 特別支援学校：身につけたい力と発揮したい力の検討
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校：インターンシップ報告会 パワーポイントによるプレゼンテーション 特別支援学校：身につけたい力と発揮したい力の検討を確認する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第45回	**授業テーマ**	45 リフレクション（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校：まとめ、報告会についてまとめることを通して、インターンシップのまとめを行う。 特別支援学校：４年生教育実習報告会への参加
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校：まとめ、報告会についてまとめることを通して、インターンシップのまとめを行う。 特別支援学校：４年生教育実習報告会への参加
	教室外学習の時間（分）	60分

学生へのフィードバック方法

インターンシップを通して、教育現場の現実をよく理解してほしい。

評価方法

インターンシップ校による観察に基づく評価と事前・事後指導の平常点

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
観察			○	
平常点			○	

評価割合

インターンシップ校による観察に基づく評価（７０％）
事前・事後指導の平常点（３０％）

使用教科書名(ISBN番号)

授業で紹介する

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的知識が修得できている。
【思考・判断】子ども、保育者、教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。

オフィスアワー

随時 １６２８研究室

学生へのメッセージ

インターンシップは、教育現場を知る貴重な機会である。教育実習の準備段階でもあるが、将来の職業選択やキャリア形成に役立ててほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教職の実践経験を活かし、実践事例を含めて説明する。
アクティブ・ラーニング	○	グループラーニングやプレゼンテーションを取り入れたアクティブラーニングを実践する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	パワーポイントによるプレゼンテーション

講義コード	G04104601
講義名	子どもと音楽
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期後半
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	吉永 早苗	指定なし

ナンバリング

P10601M12

授業概要(教育目的)

身のまわりのモノの音や人の声、音楽からその印象を感じ、共鳴し、感情が起こり、さまざまな連想を引き起こしている「音感受」のプロセスを事例を通して解説する。音は、聴覚で感じるだけではない。体の諸感覚で、音を捉え、音と戯れ、音でつながるこどもの「音感受」の世界に学びながら、こどもの頃の感性に体験を通し再会することで「いま、ここ」を実感する。その上で、音を介した感性のコミュニケーションと私たちの豊かなくらしとの関係について、具体的な事例を検討しながら考える。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・「音感受」の概念を理解し、音が感情や記憶、イメージと結びつくプロセスを説明できる。 ・音が環境や身体にどのように作用するかを科学的に理解し、音の特性（振動、共鳴、リズムなど）について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	・音を聴いたときに生じる自身の印象や連想を言語化し、それを他者と比較・共有することで新たな視点を得ることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・身のまわりの音に対する感受性を高め、日常の音環境に積極的に注意を向ける態度を育む。 ・音を介した表現やコミュニケーションに対して興味を持ち、自身の感覚を活かした創造的な試みに意欲的に取り組む。
技術・表現の観	・音を視覚的・身体的・言語的に表現する手法を身につけ、自分なりの音の感じ方を多様な形で表現できる。

点 (A)	・身近な物を使って音を生み出し、音の組み合わせやパターンを創造する技術を習得する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	音を感じるとは？―音感受のプロセスを知る
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①「音感受」とは何か？ ②身のまわりの音に意識を向けるワーク ③音を聞いたときの印象・感情・連想の違いを共有 ④音を音スケッチする
	教室外学習(予習・復習)の内容	音を言葉やイメージに変換するワーク
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	音と自然―森の音を聴く・遊ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①「こどもはどのように音と関わるのか？」：こどもから音感受を学ぶ ②キャンパス内の森や広場で「音遊び」を体験
	教室外学習(予習・復習)の内容	こども時代の「音の記憶」を思い出し、エピソードを記録する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	音と記憶―図書館で「音の物語」を探す
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①言葉と音の関係（擬音語・擬態語）について ②音が想起する記憶や物語の力について ③図書館で「音」に関する本を探し、印象的なフレーズを共有する
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の記憶と結びついた「音の物語」を短く書く
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	音声情報の認知と表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①音声コミュニケーションについて ②声遊び ③声の重なりを味わう
	教室外学習(予習・復習)の内容	１週間の音日記を書こう
	教室外学習の時間（分）	240分
第5回	**授業テーマ**	からだで感じる音・身の回りのものでつくる音楽
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①「音を見る」「音に触れる」 ②からだでから生まれる音で会話する ③一枚の紙から生まれる音を繋いで音楽を創り出す
	教室外学習(予習・復習)の内容	紙を使用した音楽作品の創作
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	音を編む―音でつながるコミュニケーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①第5回の課題発表と意見交換 ②ペンタトニックについて理解する ③ペンタトニックの音の重なりを味わう ④トーンチャイムを演奏する
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループ練習を行う
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	「音感受」の探究―発表と振り返り

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①トーンチャイム作品の発表と振り返り ②これまでの学びを振り返る ③「音感受」を通して得た新たな視点を言語化する
	教室外学習(予習・復習)の内容	「音の豊かさを活かした未来の保育・教育・社会」を考えよう
	教室外学習の時間（分）	210分

学習計画注記

野外での活動や、動きを伴う活動を行う際には、それに適した服装で参加してください。

学生へのフィードバック方法

Googleクラスルームを通して提出していただくリフレクションシートや課題については、翌週の授業の最初に共有し、振り返りを行います。質問事項も随時受け付けます。
最終レポート課題にはルーブリックを提示し、採点後、コメントをフィードバックします。

評価方法

小課題及び最終レポートでは、学習内容の理解、意欲・態度等に加え、知識・理解・思考・判断の状況を評価します。
授業内での個人発表、グループ発表及び「音日記」では、講義内容の理解と応用力、取り組み方、表現力等の視点で評価します。
最終レポート課題にはルーブリックを提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小課題	○	○	○	○
「音日記」課題	○	○	○	○
最終レポート	○	○	○	○
授業への参加態度			○	○

評価割合

積極的な取組み：授業への参加態度及び小課題の提出（40%）
「音日記」の作成と考察（20%）
最終レポート（30%）

使用教科書名(ISBN番号)

吉永早苗著『音から広がる子どもの世界』ぎょうせい（ISBN-10 ： 4324109931）

参考図書

授業内で適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】音感受への理解を通し、well-being向上に寄与する知識を身に付けている。
【思考・判断】こどもを取り巻く音環境の課題解決に向けて、論理的・多角的に考えることができる。
【関心・意欲・態度】音・音楽体験を通し、協働力、共感力、人間性を育み続ける力を身に付けている。
【技能・表現】創作活動やグループ発表等の体験を通し、多様性に配慮して他者を尊重した表現をすることができる。

オフィスアワー

木曜4限

学生へのメッセージ

音は単に聞こえるものではなく、私たちの心や体にさまざまな影響を与えています。この授業では、音を「聴く」だけでなく、音と「出会い」「対話する」感覚を大切にします。受講者の皆さんと共に「いま、ここ」に意識を向け、音を通じた自己との対話や他者とのつながりを大切にしたいと考えています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	
アクティブ・ラーニング		ペアトークやグループ・ディスカッションを適宜導入する。
情報リテラシー教育		情報の主体的活用、メディア表現リテラシー
ICT活用		ICTを活用した作品の創作・発表

講義コード	G04104701
講義名	音楽実技Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	佐藤 くみ	指定なし
非常勤講師	渡邉 有里香	指定なし
非常勤講師	久田 由紀子	指定なし
非常勤講師	武内 貴久子	指定なし

ナンバリング

P10602M12

授業概要(教育目的)

本授業の目的は、ピアノの弾き歌いの実技を通し、保育者として子どもの様々な音楽的な表現を受けとめ、育むために必要な知識や技術の基礎を身につけることである。楽譜の読み方や音楽理論の知識を実践を通して理解し、各自のレベルに応じた童謡や唱歌に取り組みながら、ピアノ演奏の基本的な技術および歌唱技術を獲得できるように講義を構成する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	楽譜の読み方や基本的な音楽理論について理解している。
思考・判断の観点 (K)	子どもの音楽的成長を支えるための保育者・教師としての音楽的な資質について理解している。
関心・意欲・態度の観点 (V)	表現技術の獲得に向け、積極的に教室外学習に励んでいる。
技術・表現の観点 (A)	子どもの音楽表現活動のための弾き歌いの基本的な技術が身についている。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃ	本講義のねらい、弾き歌いを通しての学びについて

第1回	ﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	の概説、講義の進め方の説明とクラス分け
	教室外学習(予習・復習)の内容	弾き歌いのテキストに目を通し、知っている曲について１～３曲、歌ったり弾いたりしておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	授業テーマ	読譜の基礎学習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	楽譜の読み方・ピアノ演奏の基礎基本
	教室外学習(予習・復習)の内容	初回に決められた課題曲の練習
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	授業テーマ	発声の基礎知識
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育者・小学校教諭として必要な歌唱技能に関し、その発声法の基礎を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題曲を暗譜して歌えるようにしておく。
	教室外学習の時間（分）	９０分
第4回	授業テーマ	ピアノ伴奏の基礎技術①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	和音の弾き方を中心とした、音の響かせ方や音色作りについて
	教室外学習(予習・復習)の内容	個別に提示された課題曲の予習・復習
	教室外学習の時間（分）	９０分
第5回	授業テーマ	ピアノ伴奏の基礎技術②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指遣いとメロディーの響かせ方
	教室外学習(予習・復習)の内容	個別に提示された課題曲の予習・復習
	教室外学習の時間（分）	９０分
第6回	授業テーマ	ピアノ伴奏の基礎技術③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	強弱の表現について
	教室外学習(予習・復習)の内容	個別に提示された課題曲の予習・復習
	教室外学習の時間（分）	９０分
第7回	授業テーマ	ピアノ演奏の基礎技術④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	歌唱と伴奏のバランス
	教室外学習(予習・復習)の内容	個別に提示された課題曲の予習・復習
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	ピアノ伴奏の基礎技術⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	曲の構造に関する知識
	教室外学習(予習・復習)の内容	個別に提示された課題曲の予習・復習
	教室外学習の時間（分）	９０分
第9回	授業テーマ	ピアノ伴奏の基礎技術⑥
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アーティキュレーションを学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	個別に提示された課題曲の予習・復習
	教室外学習の時間（分）	９０分
第10回	授業テーマ	ピアノ演奏の基礎技術⑦
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの声を引き出すために

	教室外学習(予習・復習)の内容	個別に提示された課題曲の予習・復習
	教室外学習の時間（分）	９０分
第11回	**授業テーマ**	ピアノ伴奏の基礎技術⑧
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもとともに歌うということ
	教室外学習(予習・復習)の内容	個別に提示された課題曲の予習・復習
	教室外学習の時間（分）	９０分
第12回	**授業テーマ**	ピアノ演奏の基礎技術⑨
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	歌詞の情景が思い描かれるような歌唱表現
	教室外学習(予習・復習)の内容	個別に提示された課題曲の予習・復習
	教室外学習の時間（分）	９０分
第13回	**授業テーマ**	ピアノ伴奏の基礎技術⑩
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情景を思い描いた伴奏表現の方法
	教室外学習(予習・復習)の内容	個別に提示された課題曲の予習・復習
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	**授業テーマ**	発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発表会形式で、弾き歌いを披露する。友達の演奏表現から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表会用の弾き歌いを練習する。
	教室外学習の時間（分）	150分

学習計画注記

１クラスを４つのグループに分け、４人の講師が個人レッスンを行います。最初の講義において、グループ分けをします。

学生へのフィードバック方法

リフレクションシートに、気づき、学び、困ったことなどを記載して毎回のレッスン時に提示していただきます。そのことで、全員の講師が受講生それぞれの状況を把握し、しっかりと支援をします。その他質問事項があれば専任教員の吉永がお答えします。

評価方法

リフレクションシートに記載された学習状況と音楽的な気づき等によって、関心・意欲・態度や知識・理解の状況、保育者・教師としての音楽的資質に関する思考等について判断します。課題の取り組みの進捗状況から、積極的に個人練習に励んでいるか、また表現技術の習得について判断します。最終週には発表会を予定しています。クラス全員の前で弾き歌いを発表することを通し、表現技術の習得状況を判断します。演奏発表の評価基準は、ルーブリックで提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
リフレクションシート	○		○	
課題の進捗状況		○	○	○
発表		○		○

評価割合

リフレクションシート（４0%）、課題の進捗状況（３0%）、発表会（３０%）で評価する。
参加態度および授業内容に関連した課題20%で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

島田和昭・高倉秋子 編（1998）『うたってひいて童謡ぴっこりーの』共同音楽出版社

参考図書

各自の進度に合わせ、適宜紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
子どもの文化をとしての、楽譜の読み方、基本的な音楽理論の習得。
【思考・判断】
子どもとの音楽表現の場面を想定し、弾き歌いをすることができる。
【関心・意欲・態度】
保育者・小学校教師に必要な音楽的資質の獲得に向けて、積極的に課題に取り組んでいる。
【技能・表現】
子どもとともに音楽を楽しみ、子どもの音楽的感性を育むための表現技術を身に付けている。

オフィスアワー

吉永をお訪ねください。
月曜日 ３限 1601

学生へのメッセージ

予習復習および自己練習の時間を毎日少しでも確保して、表現技術の向上に努めてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04104801
講義名	造形表現基礎
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	立川 泰史	指定なし

ナンバリング

P10606M12

授業概要(教育目的)

子どもが造形文化に親しみ、美的な生活づくりに向かう態度や感性を育む意味を造形体験から考える。さまざまな実技体験を通して子どもの造形活動に立ち合うための基礎的な知識と基本的な技能に関する知見を広げる。また、各種の画材や素材の特徴や可能性、さまざまな材料や用具の適切な扱い方を知る。それにより、子どもの造形体験と文化的な生活との親和的な関係、教材化に向けた開発・応用についての討論を深め、造形感覚に基づく視点を子どもの生活や遊びに活かす視点と力を培う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	子どもの発達過程と造形表現の関連、身近な材料や用具の特徴について基礎的な知識を有し、表現活動を安全かつ効果的に実践する方法を理解する。
思考・判断の観点 (K)	子どもの心身の発達に応じた造形活動を計画・展開する視点から、さまざまな材料・用具の特徴を生かす題材を展開するための基本事項を検討・考察して説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもが生活の中で親しむ造形文化や遊びに関心をもち、表現活動に立ち合うための環境づくりについて説明できる。
技術・表現の観点 (A)	子どもの主体的な造形表現を促す主題設定、材料・用具の特徴に見合う取り扱いなどについて基本的な技術を有し、安全で楽しい活動を展開する環境を構想し説明できる。

学習計画

	授業テーマ	今日の生活・文化と子どもの造形表現

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	身近な造形文化と子どもの造形表現の関連について考える。 簡単な実技を通して、造形活動の意義や役割を体験的に理解し考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	親しみ深い今日の造形文化について事例を知り、それぞれの特徴や問題について整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	遊びから生まれるイメージと造形表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然な遊びから生まれるイメージと造形表現を知り,子どもの認識や関心に基づく造形表現の特徴について体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	遊びから生まれるイメージと造形表現について象徴的な事例を探し、共通する特徴を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	からだの感覚を生かす造形表現（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	からだの感覚を生かす造形表現を知り、心身の成長・発達に基づく感覚を楽しむ造形表現を体験的に理解する。特に、からだ全体の運動感覚を楽しみながら働く造形的な想像力の特徴を討論し、考察・検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	からだの感覚を生かす造形表現について象徴的な事例を探し、共通する特徴を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	からだの感覚を生かす造形表現（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	からだの感覚を生かす造形表現を知り、心身の成長・発達に基づく感覚を楽しむ造形表現を体験的に理解する。特に、触感・視覚・聴覚など形・色・質感の感覚が総合的に働く造形的な想像力の特徴を討論し、考察・検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	手触りや形・色などの感覚を生かす造形表現についていくつかの事例をあげ、共通する特徴を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	自然の材料から生まれる造形表現（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然の材料（木枝・葉や実・石・土・水など）に触れることから生まれる造形表現を知り、自然材料のもつ性質や特徴を生かすイメージ発想と造形表現について体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの造形表現に使われる自然材料（上記）について実践事例をあげ、それぞれの特徴の生かし方について観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	自然の材料から生まれる造形表現（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然の材料（光や影、風・空気などの手に取れないもの）に触れることから生まれる造形表現を知り、自然材料のもつ性質や特徴に基づくイメージ発想と造形表現について体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの造形表現に使われる自然材料（上記）について実践事例をあげ、それぞれの特徴の生かし方について観点を整理しておく。

	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	身近な材料から生まれる造形表現（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日常生活で触れる身近な人工材料（紙や粘土など）から生まれる造形表現について知り、それぞれの特徴に基づくイメージ発想や造形表現について体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日常にある人工材料（上記）を活用する実践事例を参照し、それぞれの活動で期待される効果や観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	身近な材料から生まれる造形表現（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特殊な人工材料（アルミ箔・プラスティック素材・段ボールなど）から生まれる造形表現について知り、それぞれの特徴に基づくイメージ発想や造形表現について体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	やや特殊な人工材料（上記）を活用する実践事例を参照し、それぞれの活動で期待される効果や観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	用具の操作や技法から生まれる造形表現（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	用具の操作や技法から生まれる造形表現を知り、ウレタンローラー・絵筆・凸凹のある素材などの操作や身体的な感覚を生かす技法から発想するイメージや造形表現について体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	用具の特徴を生かした技法や実践事例をあげ、期待する効果や観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	用具の操作や技法から生まれる造形表現（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	用具の操作や技法から生まれる造形表現を知り、ローラー・絵筆・凸凹のある素材などの操作や身体的な感覚を生かす技法から発想するイメージや造形表現について体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	用具の操作や技法から発想する実践事例をあげ、期待する効果や観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	ことばから生まれるイメージと造形表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ことばから生まれるイメージと造形表現を知り、ことばの発達に応じて広がる認識や感情からイメージする造形表現について体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ことばの発達に応じて広がる認識や感情を生かす実践事例をあげ、共通する特徴や観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	物語から生まれるイメージと造形表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	絵本やアニメなどの物語から生まれるイメージと造形表現を知り、子どもの発想や構想の基になる物語性や創造的想像力について体験的に理解する。

第12回	用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	物語のストーリーや絵から発想する造形表現の実践事例をあげ、期待する効果や観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	季節や地域の体験から生まれる造形表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	四季の自然や行事で感じる季節感や地域の風土や行事など、子どもの実体験から生まれる造形表現について、活用意図や期待効果について体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	季節感を大切にする実践事例を参照し、共通する特徴や観点を整理しておく。 期末課題について情報や文献を収集し、考察をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	70分
第14回	授業テーマ	見方・感じ方の変化を生かす造形表現、まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	さまざまな対象や事象に触れつつ変化する「見方・感じ方」を重視する造形表現を知り、活動の意味や価値について体験的に理解する。 本授業を総合的にふり返り、集団討議とクロストークで検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	形や色についての見方・感じ方の変化を楽しむ造形的な表現の事例をあげ、着目点の変化やイメージの特徴を整理しておく。 造形表現の意味や喜びについて学んだこと、自身の発見した課題についてレポートにまとめ、提出する。
	教室外学習の時間（分）	70分

学習計画注記

履修者数や進み具合でスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

・実技演習を中心とする。取り組みの中で個やグループに応じた支援・助言をする。
・毎回の実技体験について自身の考察を記すドキュメントシートをコメント付きで返却する。
・授業中期以降に、それまでの演習体験から印象に残る３～5例の画像をあげて考察する中間ポートフォリオ（A4判・形式自由）の提出を求める。

評価方法

・毎回の授業で、体験した内容から気付きや考察を記すドキュメントシート（各回200字程度）の提出を求める。記述内容について、学習目標の規準を観点に評価する。
・授業中期以降に提出するポートフォリオは、コメントを記して返却する。
・学期末に全演習の内容に準拠した実践開発・教材研究を共通テーマにした小論レポート（1200～1600字程度）の提出を求める。
・評価観点及び基準は、ルーブリックで明示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
ドキュメントシート	○	○	○	
中間ポートフォリオ			○	○
小論レポート	○	○		

評価割合

平常点20%・提出物30%・期末小論レポート50%について総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特になし。必要な資料を適宜配布する。

参考図書

・厚生労働省／編『保育所保育指針 平成30年3月』2018、フレーベル館、ISBN：9784577814482
・内閣府／文部科学省／厚生労働省／著『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月』2018、フレーベル館、ISBN：9784577814499
・文部科学省/著『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』2018、フレーベル館、ISBN：9784577814475

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもの生活・文化・遊び、子どもの造形表現の特徴について専門的な知識を有している。
【思考・判断】乳幼児期の造形的な表現の特徴に適した材料・用具・環境に配慮し考察・判断できる。
【関心・意欲・態度】成長・発達する子どもの生活、文化、遊びに関心をもち、特徴や意味を理解している。
【技能・表現】乳幼児の認識や関心に基づいて造形的な表現活動や環境を設定し、立ち合う技術や方略を発揮する能力を有する。

オフィスアワー

金曜3限・1629研究室

学生へのメッセージ

「つくる・みる・つたえる」という表現の基礎的な意味や価値について、造形体験を楽しみながら実感的に理解する。
このように、自分らしい価値を「つくりだす喜び」を味わうことが、子どもに「表現の楽しさ」を知らせることにつながる。
それには、日頃から「身近な材料や自然」、「身近な地域や造形文化」に関心をもち、よさや違いについて意識を広げたい。
自身が学んだ成果は、配布資料とともにポートフォリオとしてまとめるように心がける。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、小学校教員としての経験をもち、造形・美術教育の実践研究・開発・提案に従事した。文部科学省の学習資料作成委員や文部科学省検定教科書の編修著者として、現職教員の研修・地域行政や社会的教育機関・企業などのネットワークを生かして、今日的な課題に応じた造形教育の内容や情報を考察対象として提供する。
アクティブ・ラーニング	○	演習を中心とし、成長・発達する子どもの感覚や認識に着目し、造形表現活動の意味や価値について体験的に理解するとともに、集団討論を通して、基礎的な知識・技能の実践的な活用・応用力を向上する。
情報リテラシー教育	○	今日の社会や文化の視点から子どもの生活や遊びの実態を把握するために、webコンテンツやジャーナルの実践事例を参照し考察する。

ICT活用	○	造形活動のみとり・言葉掛け・援助・反省的実践に活用できる機器としてタブレット型PCやアプリケーションの活用方法を体験的に理解する。

講義コード	G04105001
講義名	子どもと健康
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	佐藤 冬果	指定なし

ナンバリング

P20205M12

授業概要(教育目的)

温かな触れ合いのなかで子どもの心身の健康を守り育て、生涯にわたって健康に過ごすための基本的な習慣や態度を養うことは、保育者の重要な役割の一つである。本科目は、幼稚園教諭・保育士として必要な専門的知識（領域に関する専門的事項）である「健康」（健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う）のねらいと内容について解説し、その実践に必要な知識・技能について、講義だけでなく、毎回のグループワーク、グループ発表などの主体的な学修を通して育成することを目的としている。具体的には、「健康」の概念、乳幼児期の子どもの健康課題や心身の発育発達、生活習慣や食習慣の形成、運動技能の発達や遊び、家庭や社会との連携に関して学び、実際の保育現場において子どもの健康を支援するための知識・技能・態度を養う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・乳幼児期の子どもの心身の発達や諸機能、および健康状態に関する基礎知識をもち、説明できる。 ・子どもの健康的な生活習慣の形成に必要な方策、および周囲の大人の役割を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	・子どもが自ら健康で安全な生活をつくり出すための、適切な支援や指導展開を提案できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・子どもの心身の健康を育むことに関心を持ち、子どもの健康増進に寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	・子どもの心身の健康を維持増進するための指導案を作成し、発表を通してその詳細や意義を表現できる。

学習計画

第1回	授業テーマ	領域「健康」の理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	領域に関する専門的事項「健康」について、そのねらいと内容を理解する。また、幼稚園教育要領改訂による変更点に着目し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連や、これからの時代に求められる健康教育のあり方についてグループごとに考えを深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	保育所保育指針および幼稚園教育要領の「領域に関する専門的事項『健康』」該当部分に目を通し、そのねらいと内容を理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	授業テーマ	子どもの心身の健康と疾病について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	心と体の健康は、相互に密接な関連がある。乳幼児期の子どもが見せる様々な健康状態の異常と、関連が想定される心の課題について理解する。また子どもの疾病の事例を取り上げ、グループごとにその背景や対応について考察を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	頻繁にみられる子どもの疾病について、その背後にある心身の課題や対応について調べ、よく理解すること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	授業テーマ	子どもの生活習慣と健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの基本的生活習慣（就寝、起床、食事、睡眠、排泄、着衣、清潔など）について理解し、生活習慣と健康の関連について理解する。また、家庭や周囲の大人の生活習慣が子どもに与える影響についてグループごとに整理し、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	基本的生活習慣の発達に関する資料に目を通し、現代の子どもが抱える生活習慣に関する課題と大人の影響について理解すること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	授業テーマ	子どもの食生活と健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	健康な心と体を育てるためには食育を通じた望ましい食習慣が重要である。保育における食育の意義を学ぶと同時に、周囲の大人の食習慣が子どもに与える影響について理解する。また、より良い食習慣を形成するための方策について、グループごとに考えを共有することを通じて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	現代の子どもの食生活を取り巻く状況や問題点を調べ、その改善のための支援策を考えること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	健康教育に関する指導計画の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとに子どもの基本的生活習慣に関する今日的課題を取り上げ、その背後にある要因等についてインターネットや文献等を活用して検討する。また、その解決を目指し、よりよい基本的な生活習慣を形成するための長期の指導計画を作成する。
	教室外学習(予習・復	テーマについての情報を収集し、発表に向けての準備を進めること。

	習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	授業テーマ	健康教育に関する指導計画のグループ発表とふりかえり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した指導計画や、その背景等についてグループごとに発表する。ディスカッションやふりかえりを通じて、子どもの健康を支援する保育について総合的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表に向けて、指導計画の目的や留意点を十分に理解し、発表の準備を進めること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	授業テーマ	子どもの身体的機能の発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳幼児期の子どもの身体の諸機能について、運動および生理機能の観点からその特徴と発育発達を理解する。また、グループごとに乳幼児期の様々な子どもの映像を視聴して特徴をまとめ、子どもの発達には個人差があることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	乳幼児期の子どもの身体的な特徴を理解し、発達には個人差があることと同時に、異常が疑われるケースについて理解すること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	子どもの運動能力の現状と課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳幼児期の子どもは、身体の諸機能が著しく発達する時期である反面、現代社会の生活習慣によって様々な課題を抱えている。子どもの運動能力についての現状と課題を学ぶことに加え、生活習慣が子どもの運動能力に与える影響について、グループごとに考察を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	現代生活のなかで不足している動きを引き出すことができる環境や道具、場の設定について具体的な案を考えること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	子どもの遊びと運動能力
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体の発達に伴い、子どもは色々な「遊び」をする。多様な遊びを楽しむことで心身が動き、発達していくことを理解する。また一人遊びや集団遊び、室内遊びから戸外遊びなど、様々な遊びの特徴を学び、グループでの対話を通じてそれらの遊びの意義について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの遊びの具体例についての情報を収集し、それぞれが身体に与える影響を理解すること。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	戸外遊びとその指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	戸外での遊びは体の諸機能の発達を促すと同時に、自然との触れ合いが心の健康や認知機能の発達にも寄与することなど、戸外遊びの意義を理解する。また、戸外遊びへの興味および遊びを通じた子どもの心身の発達を引き出す方策を考え、グループごとに共有することで理解

第10回	を含む)	を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの運動意欲を高める戸外遊びの具体例についての情報を収集し、それぞれの特性を理解すること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	授業テーマ	安全管理とリスクマネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの遊びや生活の中、また交通や災害時における危険と安全管理について理解する。また、子どもが主体的に安全を管理するための教育やリスクマネジメント理論を学ぶとともに、グループでの対話を通じて大人が危険をいかに取り扱うべきかについての考察を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	遊びに潜む危険と安全管理について、具体的な事故事例をもとに、求められる対応について理解すること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	戸外遊びに関する指導計画の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所あるいは幼稚園における戸外遊びの指導案を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	戸外遊びや指導案作成に関する情報を収集し、発表の準備を進めること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	指導計画のグループ発表とふりかえり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した指導案をグループ内で発表する。ディスカッションやふりかえりを通じて、総合的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	戸外遊びや指導案作成に関する情報を収集し、発表の準備を進めること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	子どもの健康と社会との連携 授業のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業で取り扱った内容を総合的にまとめると同時に、これまで学んだ保育現場での健康教育と、社会（家庭や地域、幼保小学校連携など）とのつながりについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの学びの内容を総復習し、自身の理解度や疑問点を整理すること。また最終レポートに取り組み、学びを総合的に生かした考察をすること。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

授業の進み具合によってスケジュールを変更する場合もあります。

学生へのフィードバック方法

提出された小レポートに記載された質問や意見には、次回授業で回答します。質問はメールにて随時受け付けます。

評価方法

・毎授業後の小レポート 70点（5点×14回）
・平常点（授業への積極的な参加） 15点
・最終課題の発表 15点

・ルーブリックを用いた評価を行います。ルーブリックについてはクラスルームにより提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
毎授業後の小レポート	○	○	○	
平常点（授業への積極的な参加）	○	○	○	○
最終課題の発表	○	○	○	○

評価割合

・毎授業後の小レポート 70点（5点×14回）
・平常点（授業への積極的な参加） 15点
・最終課題の発表 15点

参考図書

『保育所保育指針解説書』（平成 30 年 3 月告示） 厚生労働省 フレーベル館
『幼稚園教育要領解説』（平成 30 年 3 月告示） 文部科学省 フレーベル館
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成 30 年 3 月告示）内閣府・文部科学省・厚生労働省・フレーベル館

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもの健康を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている
【思考・判断】家族・地域・社会と協働して子どもの健康を守り、育てるためのコミュニケーション能力・感性が備わっている
【関心・意欲・態度】子どもの健康をめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる

オフィスアワー

月曜4限 1618室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループごとのディスカッション、および指導案の作成と発表を通し、主体的で能動的な学修を進める。
情報リテラシー教育	○	得られた情報を整理し、レポートにまとめる。
ICT活用		

講義コード	G04105101
講義名	子どもと言葉
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	和田 美香	指定なし

ナンバリング

P20207M12

授業概要(教育目的)

領域「言葉」の基礎となる考え方を理解し、「言葉のもつ意義と機能」「言葉の感覚を豊かにする実践」「児童文化財の活用」の視点から、どのようにしたら乳幼児が豊かな言葉や表現を育むことができるかを考えるようにする。上記の目的を達成する過程において、主体的に考えることができるように、グループディスカッションやワークショップなども取り入れながら、「言葉」の意義と機能について具体的に理解するようにする。その上で乳幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身につけるようにする。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解する。 「言葉」の意義と機能について理解する。 乳幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身に付ける。
思考・判断の観点 (K)	乳児の言葉を育てるための具体的な方法について考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	乳児の言葉を育てるための方法について主体的に考えることができる。
技術・表現の観点 (A)	子どもの生活と遊びを豊かに展開するために「言葉」の領域から、必要な知識や技術を実践的に習得する。 児童文化財などの教材の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。

学習計画

子どもと言葉

第1回	**授業テーマ**	保育内容としての領域言葉（他領域との関わりなど）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	領域言葉の内容を捉えた後、グループワークなどを通して、他領域との関係の中で具体的に考える、
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。 指針や要領を手元に用意し、3つの視点や5領域についての文言を確認しておく（予習）
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	**授業テーマ**	乳児保育の３つの視点と５領域における領域言葉
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前言語期から乳児の言葉、さらに幼児の言葉への発達をどのように支えていくかという視点から領域言葉を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。 言葉にはどのような意義があるのか、思いつくままに箇条書きにしておく（予習）
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	言葉のもつ意義と機能（コミュニケーション、思考の手段など）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	言葉のもつ意義と機能について、実際にワークショップを行いながら具体的に考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。 言葉の意義について日常生活から具体例をあげて考えてみる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	言葉のもつ意義と機能（コミュニケーション、思考の手段など）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の授業の内容を踏まえて、事例や動画などを見ながら、具体的な実践に置き換えて考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	子どもの言葉の発達２（話し言葉から書き言葉の習得まで、１次的言葉と２次的言葉）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	話し言葉から書き言葉の習得までを子どもの発達段階に合わせて考えていく。さらに保育の中で具体的な援助をどのようにしていけばよい

第5回	**育・ICT活用を含む)**	かということを、議論を展開しながら考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	言葉に対する感覚（言葉の美しさ、楽しさ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	詩や回文などを題材にして、実際に言葉の美しさや楽しさを体験する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。 回文を作ってみる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	言葉を豊かにする保育環境（保育者の役割、言葉掛け、保育室の環境など）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの言葉を育む環境とはどのようなものか。物的環境と人的環境の両面から議論し、保育室の環境設定や言葉かけなど自分なりの視点で考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	言葉遊びと保育実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な言葉遊びの世界を体験するなかで、その楽しさを味わう。さらに、保育実践の中ではどのような援助が必要かということにつなげて考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	児童文化財とは何か（子どもにとっての児童文化財の意義）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童文化財の定義から、その具体的な実践に至るまで、体験を通して考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分

第10回	授業テーマ	児童文化財の実際（種類や歴史、保育への取入れ方）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	紙芝居や絵本などの児童文化財を保育に取り入れる場合、どのような配慮が必要かという視点からグループワークなどを通して考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	児童文化財を用いた実践（絵本、紙芝居）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回議論した内容をもとに、絵本や紙芝居を用いた演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学んだポイントを復習しながら、絵本や紙芝居などを再度読んでみる。 図書館などで色々な絵本を読んでみる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	児童文化財を用いた実践（昔話とストーリーテリングを用いた模擬保育）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の模擬保育の経験を踏まえて、昔話やストーリーテリングといった題材をもとに、模擬保育を行う。また、2回分の模擬保育の振り返りを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	児童文化財を用いた実践（ペープサート、人形劇、パネルシアター）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ペープサート、人形劇、パネルシアターなどの教材を用いた模擬保育を行う。その際、子どもにとってどのような学びがあるのか、また子ども自身が主体的にその時間を過ごすためにはどのような工夫や配慮が必要かということを考えながら行うようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱った内容をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	子どもの生活と遊びにおける体験（見立て遊びご,っこ遊び,劇遊び,わらべうた遊び等）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの生活と遊びという視点から、言葉の発達を考えていく。ままごと遊びや見立て、ごっこ遊びの中での子どもの言葉の育ちをどうとらえるかということをグループワークで考えていく。

	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。 具体的場面をイメージして子どもの生活と遊びにおける体験を書き出してみる。 これまで扱った資料をまとめ、それぞれのつながりを考え、領域言葉を総合的に捉えてみる。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

講義と演習形式で行う。
①資料を手掛かりとして、考察し、発見しあう授業
②過去の研究を手掛かりとして、知識を得る講義
③テーマを共有してふるまいながら気付き、身につける演習

学生へのフィードバック方法

授業の質問、感想、要望、を受け付ける。毎回それに対してのフィードバックを行う。指導案など提出したものは、添削、助言をして返却する。

評価方法

平常点50%、定期試験50%
（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）
ルーブリックに基づく成績評価をする。
（ルーブリックについては、Googleクラスルームまたは授業内での配付等により提示をする。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点		○	○	○
定期試験	○			

評価割合

平常点50%、定期試験50%
（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

コンパクト版『保育内容シリーズ４ 言葉』

参考図書

保育所保育指針
幼稚園教育要領

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】言葉のもつ意義と機能を理解する。
【思考・判断】言葉の美しさや楽しさを幼児の生活の中に適宜取り入れていける力を付ける。
【関心・意欲・態度】子どもの姿（生活や遊び、発達段階）を基本に活動内容を考えていく。
【技能・表現】幼児にとっての児童文化財の意義を理解し、その技術を身に付ける。

オフィスアワー

月曜2限から４限

学生へのメッセージ

保育所保育指針、幼稚園教育要領を基本に進めていくので、毎回持参すること。グループワークなども多く含まれるので、授業では自分の意見を述べるなど、積極的に参加してほしい。

授業資料をGoogleクラスルームに配信する場合があるので、PCを用意すること。（スマホでも可）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、保育士・幼稚園教諭として実務経験を有しており、子どもとかかわるうえで必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授を行う。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、発表などを行い、教員と学生、学生同士の双方向のやり取りを行っていく。
情報リテラシー教育	○	調べ学習で情報を収集する際、その情報の発信元や発信の目的などに目を向けて、信憑性のある情報か否かを判断する。
ICT活用	○	各自の発表をパワーポイントなどにまとめて行い、他者にわかりやすいプレゼンテーションを実践する。

講義コード	G04105201
講義名	子どもと人間関係
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	丹羽 さがの	指定なし

ナンバリング

P20209M12

授業概要(教育目的)

現代の乳幼児を取り巻く人間関係をめぐる課題を理解し，幼児教育に求められる教育内容について理解することを目的とする。乳幼児期の人と関わる力は，大人や仲間など他者との関係や集団における経験の中で育つことを理解できるようにする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・現代の乳幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解する ・乳幼児期の人間関係の発達について基本的な知識を身に付ける ・「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」について理解する
思考・判断の観点 (K)	・保育の現場における子どもたちの実際の姿と，それに影響を与えている社会的要因を結び付けて考えることができる ・乳幼児期の人と関わる力を育む援助，保育について考えることができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	・現代社会に育つ子どもたちの人間関係をめぐる課題に関心を持ち，保育者としてその解決に意欲的に取り組む姿勢をもつ
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	現代の乳幼児を取りまく人との関係，領域「人間関係」とは

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭・地域での経験と乳幼児教育に期待されるもの，領域「人間関係」のねらいと内容，他の領域との関連について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の「人間関係」部分を読んでおく。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	授業テーマ	乳幼児期の発達と領域「人間関係」（１）親との出会いとかかわり（２）保育者との出会いとかかわり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人生最初の人間関係である愛着の形成と，園での生活の基盤となる保育者との信頼関係について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕幼稚園，保育所での保育者とのかかわりで印象に残っているエピソードを書いてくる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	乳幼児期の発達と領域「人間関係」（３）仲間との出会いとかかわり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	園での仲間との出会い，関係の始まり・発展と，仲間集団・クラス集団において現れる自己主張・自己抑制の発達について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕自分が幼稚園や保育所に通っていた時の，友達とのかかわりで思い出に残っていることを書き出してくる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	授業テーマ	乳幼児期の遊びと人間関係 （１）遊びと子どもの育ち （２）遊びと人間関係の発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	遊びを通して学ぶ子どもの姿，遊びの発達と人間関係の発達との関連について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕乳幼児が「砂場」での遊びで学ぶことを思いつく限り書き出してくる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	乳幼児期の遊びと人間関係 （３）うまくいかない経験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「自分を出して遊ぶこと」と「なかまとともに遊ぶこと」の統合の仕方を学ぶ過程について学ぶ
	教室外学習(予	〔予習〕幼児期の友だちとのケンカで覚えていることを書き出して

	習・復習)の内容	くる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について授業資料等を読み考える。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	乳幼児期の生活と人間関係 （１）家庭生活を通して
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	きょうだいや祖父母とのかかわり，家庭生活を通しての育ちについて理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕乳幼児期のきょうだい，祖父母とのかかわりで印象に残っていることを書き出してくる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	乳幼児期の生活と人間関係 （２）園生活を通して
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活の自立と人とのかかわり，自分たちで生活を作っていく中での学び・育ちついて理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕園生活の中で経験されに身につけられていく「生活に必要な行動」にはどのようなものがあるか，思いつく限り書き出してくる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について授業資料等を読み考える。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	個と集団の育ち
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	仲間集団やクラス集団における関係性の育ち，個と集団の育ちの捉え方について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕これまでの友達とのかかわりから身についたことにどのようなものがあるか，書き出してくる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	乳幼児期の自立心の育ち
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己の発達と自立心の育ちについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕乳幼児期の自己の発達，自己主張と自己抑制の発達について，1年次前期「発達心理学」のテキスト・授業資料の該当箇所を見直し確認しておく。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	幼児期の協同性の育ち
	学習内容(ｱｸﾃｨ	

第10回	ﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	他者と目標を共有してやり遂げようとする力の育ちについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕幼児期になかまと力を合わせた経験，そのときの保育者のかかわりを思い出し書き出す。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	授業テーマ	乳幼児期の道徳性・規範意識・思いやりの芽生えと育ち
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	他者との葛藤経験を通してきまりの必要性を理解し，気持ちを調整し折り合いをつける力の育ちについて学ぶ。 仲間とのかかわりの中で現れてくる他者への思いやりの気持ちとその発達について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕園生活における「お約束」にどのようなものがあったかを思い出し書き出す。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	授業テーマ	幼児の人と関わる力の育ちについて映像から学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	仲間集団における葛藤を経験する中で，他者の気持ちに気づき，自分の行動を調整する姿を見せる女児のエピソードを見て，仲間とのかかわりを通した，人と関わる力の育ちの実際を知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	授業テーマ	乳幼児期の人間関係の広がり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳幼児の地域での生活で経験される人間関係や，そこで育まれるものについて考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕乳幼児期の地域の人々とのかかわりについて，覚えていることを書き出してくる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	授業テーマ	幼児期に育みたい資質・能力と人間関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児期・幼児期・学童期以降の育ちのつながりを理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕事前配布課題に取り組む。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。
	教室外学習の時	50分

	間（分）	

学習計画注記

授業の進み具体等によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

コミュニケーション・カードに下線and/orコメント付きで返却する。多かった質問・疑問については次回授業冒頭で解説する。また特によかったコメントについては次回授業冒頭で紹介する。それ以外の質問がある場合は1626研究室まで訪問すること。

評価方法

・平常点は，学びに向かう姿勢，意欲，理解度をコミュニケーション・カードの記入状況，内容から評価する。
・課題は，事前課題や授業内の課題（グループワークや発表を含む）への取り組みと内容により評価する。
・最終レポート課題は， 授業到達目標の達成の程度を測るものとする。
・平常点，課題，最終レポートは，下表に示す力を養うことを目的に実施する。
・成績評価はルーブリックに基づいて行う。ルーブリックはクラスルームまたは授業内での配布により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
課題	○	○	○	
最終レポート	○	○		

評価割合

平常点（40%），課題(30%)，最終レポート（30%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

『新版 事例で学ぶ保育内容 領域 人間関係』無藤隆（監修）・岩立京子（編集代表），萌文書林
（978-4-89347-257-1)

参考図書

授業中に適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】領域人間関係，乳幼児期の人間関係の発達に関する専門的知識を有している。【思考・判断】子どもの人と関わる力を育む保育，保育者の援助について考えることができる。【関心・意欲・態度】現代社会に育つ子どもたちの人間関係をめぐる課題に関心をもち，保育者としてその解決に意欲的に取り組む姿勢をもつ。

オフィスアワー

水曜日４限 1626研究室

学生へのメッセージ

1.演習科目ですので、ワークやディスカッションに積極的に参加する姿勢を求めます。
2.毎回授業内容を復習しておいてください。
3.宿題とした課題は必ず次回までに取り組んでおいてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	小グループでのディスカッションを行う。
情報リテラシー教育		

ICT活用		

講義コード	G04105301
講義名	子どもと環境
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	中田 範子	指定なし

ナンバリング

P20111M12

授業概要(教育目的)

子どもを取り巻く環境は、保育者、保護者、友達等の人的環境及び玩具等の物的環境、自然環境や社会環境等子どもを取り巻くすべてが相互に関連しながら構成されている。子どもを取り巻く環境の現状を踏まえ、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示す領域「環境」及び乳児保育における三つの視点に示すねらい及び内容、内容の取扱いについて理解を深める授業である。また、その指導のもととなる環境に対する感性を養い、必要な知識・技能を身に付けることを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	「環境を通した教育」の意味を踏まえ、子どもを取り巻く環境の構造を理解する。
思考・判断の観点 (K)	・領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、子どもの経験内容とそれに対する保育者の配慮事項について考える。 ・子どもが環境にかかわる姿を捉え、その意味や意義を考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	小学校教育への接続を踏まえ、自然環境、数量・図形、標識・文字等に関わる姿から、幼児の科学的概念の発達について関心を持って捉える。
技術・表現の観点 (A)	演習を通して、子ども主体の環境を通した保育を展開するために必要な技術を身につける。

学習計画

第1回	授業テーマ	現代の子どもを取り巻く環境の構造と特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代の子どもを取り巻く環境の概要から、その構造と子どもに与える影響について考え、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	現代の子どもにとって必要な体験と幼児期の体験が意味することを考え、ノートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	50
第2回	授業テーマ	子どもを取り巻く環境の変化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代の子どもを取り巻く環境に関する様々なデータから、現状と課題にzいて考え、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料の演習問題を完成する。
	教室外学習の時間（分）	50
第3回	授業テーマ	乳幼児にとっての環境の意味と意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳幼児が自発的、主体的に環境に関わる様々な事例を通して、子どもにとっての環境の意味を考え、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料の演習問題を完成する。
	教室外学習の時間（分）	50
第4回	授業テーマ	領域「環境」のねらい・内容・内容の取扱い
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示す、領域「環境」のねらい、内容、内容の取扱いについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業内容を復習し、領域「環境」との関連について理解する。
	教室外学習の時間（分）	50
第5回	授業テーマ	植物栽培の知識と技術
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	植物栽培に関する基礎的事項を理解し、ハツカダイコンの栽培に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ハツカダイコンを栽培・観察・記録する。園生活で子どもたちが飼育する小動物の生態と飼育方法について調査・まとめ・発表準備をする。
	教室外学習の時間（分）	50
第6回	授業テーマ	生き物の飼育の知識と技術
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生き物の飼育や生態系に関する基礎的事項を理解し、飼育の方法や命の教育の実際から理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	演習問題を完成する。
	教室外学習の時間（分）	50
	授業テーマ	身近な環境にある数と形

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ネイチャーゲーム「フィールドパターン」、「カモフラージュ」を行い、数と形に関する保育内容について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワークシートを完成する。
	教室外学習の時間（分）	50
第8回	授業テーマ	子どもの文字環境
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳幼児が文字・数量とかかわる姿から、文字・数量に対する「感覚を豊かにする」ことの意味を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの遊びの中にある文字・数量について考える。
	教室外学習の時間（分）	50
第9回	授業テーマ	子どもの自然環境
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ネイチャーゲーム「フィールドパターン」、「サウンドマップ」、「サイレントウォーク」の実践を通して、自然環境に対する感覚を豊かにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワークシートにネイチャーゲームを通して気付いたことを記入し、演習問題を完成する。
	教室外学習の時間（分）	50
第10回	授業テーマ	子どもの情報環境
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの生活にある情報とICTとの関わりについて考え、理解する。ネイチャーゲームの体験をもとにドキュメンテーションを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	演習問題を完成する。
	教室外学習の時間（分）	50
第11回	授業テーマ	自然の移り変わりと伝統行事(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	春の自然と伝統行事に関する事項や保育内容を調査し、発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自然と伝統行事に関する資料を収集し、発表の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	50
第12回	授業テーマ	自然の移り変わりと伝統行事(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	夏の自然と伝統行事に関する事項や保育内容を調査し、発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自然と伝統行事に関する資料を収集し、発表の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	50
	授業テーマ	子どもの地域社会とのかかわりについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教ICT)	地域の社会的資源を生かした保育内容の実際について考え、理解する。

第13回	育・　活用を含む	
	教室外学習(予習・復習)の内容	演習問題を完成する。
	教室外学習の時間(分)	50
第14回	授業テーマ	幼児の視点で環境を見る
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	写真投影法や幼児視野体験メガネを用いて、子どもの視点で環境を見ながら、保育環境の作り手としての幼児について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	演習問題を完成する。
	教室外学習の時間(分)	50

学習計画注記

授業の進行状況等により変更の可能性があります。

学生へのフィードバック方法

提出されたワークシートはすべて添削し、返却する。また、グループ討議、発表の際には、質疑応答を通して学習目標が達成できるように適宜助言する。

評価方法

・発表は授業内に評価する。
・学期末レポートは各自で作成し、評価する。
・ワークシート等の提出物については、提出期限が守られなかった場合には、減点の対象とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
ワークシート		○	○	○
観察記録		○	○	○
発表	○			
学期末レポート	○	○		

評価割合

ワークシート(20%)、観察記録(10%)、発表(20%)、学期末レポート(50%)
ルーブリックに基づいて評価する。ルーブリックは授業内に提示する。

使用教科書名(ISBN番号)

特に定めない。

参考図書

幼稚園教育要領、同解説書、保育所保育指針、同解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、同解説書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学を構成する 6 領域のうち、「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」を理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・感性が備わっている。
【関心・意欲・態度】子どもの環境をめぐる多様化した課題や問題に関心を持って取り組む。
【技能・表現】保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身

につ けている。

オフィスアワー

火曜日3限 1623研究室

学生へのメッセージ

実際に乳幼児と関わる経験と結びつけながら理解を深めてください。受け身ではなく、積極的な態度で授業に臨むことを期待しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、幼稚園・保育所で教諭・保育士として実務経験を有しており、領域「環境」の実際について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	学内において、ネイチャーゲームの実施等を通して、体験を通して学ぶ。
情報リテラシー教育	○	季節の自然や伝統行事に関する資料を収集し、自ら設定したテーマのもとに情報をまとめ、発表する。
ICT活用	○	調査した季節の自然や伝統行事を発表する際には、画像や動画を用いて、発表内容をppt等にまとめ、他者に理解しやすく発表する。

講義コード	G04105401
講義名	子どもと表現
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	新開 よしみ	指定なし
教授	立川 泰史	指定なし
教授	吉永 早苗	指定なし

ナンバリング

P20213M12

授業概要(教育目的)

乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、子どもの感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成について実践的に学ぶ。様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通し、乳幼児の表現を支える保育者としての感性や表現力・創造性を養う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	乳幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けを理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	様々な表現の基礎的な知識技能を活かし、乳幼児の表現活動に展開することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	乳幼児の発達と表現の関係について関心を持ち、積極的に課題に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	身の回りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。

学習計画

	授業テーマ	領域「表現」とは
	学習内容(ｱｸﾃ	

第1回	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	領域「表現」のねらい及び内容について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	幼稚園教育要領の領域「表現」の章をよく読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	授業テーマ	乳幼児の素朴な表現の実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事例を通して、乳幼児の表現の発達について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第１部（第１章～第３章） を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	授業テーマ	表現の源に出会う体験（１）身体への気づき
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ノンバーバルコミュニケーションを中心としたいくつかのワークを通して、表現媒体・コミュニケーション媒体としての「身体」に気づく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第４章を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	表現の源に出会う体験（２）多感覚を実感する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	触り心地を音にする。音楽を描く。絵から音を作り出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「黄色い声」「尖った音」など、複数の感覚が重なった音の表現を探してみる。 「共感覚」について調べておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	表現の源に出会う体験（３）さわりごこちマップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々なさわりごち（触感）を基に、身近な場所の特徴を視覚化するマップをつくる。統合的に働く感覚と造形表現の関連を理解し、教材選び・活動構成・環境づくりの意味を実体験する。
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	からだの感覚や経験から生まれる新しい見方・感じ方について、自身の経験や事例をあげて説明できるようにしておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	**授業テーマ**	からだで感じて（１）絵の具で遊ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	共同絵の具の特徴や用具の扱いから生まれる造形表現について理解し、活動や主題の構成・開発について可能性と課題を探究する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	共同絵の具や用具の種類、特徴などについて実践事例をあげ、活動の趣旨を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	からだで感じて（２）音のマップ～環境との対話
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サウンドウォークを体験する。自然の中、建物の中を歩き、そこに聞こえる音や音の響きに耳をすませてみよう。壁に耳を当てると、聴こえ方が違うかも知れない。右足と左足、音は同じかな？
	教室外学習(予習・復習)の内容	サウンドウォーク、サウンドマップ、サウンドスケープをキーワドとした論文を検索し、読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	からだで感じて（３）からだであらわすワーク
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「なりたいものになる」ワークなど、即興的な身体表現に取り組み、表現活動を仲間とつくっていく楽しさや心地よさを味わう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習課題：身体表現としての「ふり」探し
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	身近な素材の発見（１）コラージュで遊ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「形や色（造形言語）の引用」という観点から、創造的な造形表現の可能性を探究する。異なるものを結び重ねると生じる発想イメージの働きについて、体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「～としてみる」「～であってもよい」という比喩的な見方・感じ方を活用する事例を探索し、子どもの認識発達と関連付けて説明できるようにする。
	教室外学習の時間	60分

	（分）	
第10回	**授業テーマ**	身近な素材の発見（２）つくって遊ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身近で親しみのある材料を生かす造形表現の意義や可能性を探究する。製作とチームアプローチの討論から、諸材料（自然材料と人工材料・手に取れる材料と取れない材料、可塑性の有無で区別できる材料、透明・不透明材料など）の特徴を知り、活動構成と育てたい資質・感性・技能を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日常生活にある身近な材料を「自分の観点」で探す。（例：白いもの、光るもの、透明なもの、細長いもの） 集めた材料を授業に持参できるように、準備しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	身近な素材の発見（３）音遊び・音づくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	手作り楽器の製作とアンサンブル。 音のイメージを描き、それを音にしていく。そのあと、音で会話してみよう。どんな音の物語ができるかな？
	教室外学習(予習・復習)の内容	手作り楽器を製作する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	**授業テーマ**	文化的・協働的表現（１）鑑賞から企画へ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①子どもを対象にする作品、②子どもと体験する表現遊び、のいずれかをグループごとに企画する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自「企画案」を作成する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	**授業テーマ**	文化的・協働的表現（２）創造する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①子どもを対象にする作品、②子どもと体験する表現遊び、のいずれかをグループごとに制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループ内で分担を決め、企画・制作に向けた準備等を行う。
	教室外学習の時間（分）	240分
	授業テーマ	文化的・協働的表現（３）発表 総括
	学習内容(ｱｸﾃ	

第14回	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①子どもを対象にする作品、②子どもと体験する表現遊び、のいずれかをグループごとに発表する。 ポートフォリオをまとめながら学びの過程の振り返りを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表に向けてグループごとに準備・練習等を行う。 ポートフォリオをまとめ、提出する。
	教室外学習の時間（分）	300分

学生へのフィードバック方法

3名の授業担当者より、それぞれの専門の立場からコメントやアドバイスを加えながら授業を進行していく。

評価方法

各授業における課題（提出物、演習への取り組み、発表態度等）の評価とともに、「ポートフォリオ」によって本授業全体を通した学びの過程と成果を総合的に評価する。評価のポイントに関しては、ルーブリックを提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業課題	○	○	○	○
ポートフォリオ	○	○	○	○

評価割合

授業課題（コメントシート）の評価（60%）、ポートフォリオ課題の評価（40%）

使用教科書名(ISBN番号)

子どもの活動が広がる・深まる保育内容「表現」吉永早苗編集 中央法規

参考図書

幼稚園教育要領
保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「子どもの保育」における「表現」の位置付けを理解し、子どもに関する専門的な知識が習得できている。
【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。
【技能・表現】保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー

（前期）新開：金曜3限 1635研究室
吉永：月曜３限 1601研究室
立川：水曜３限 1629研究室

学生へのメッセージ

保育士資格・幼稚園教員免許の必修科目です。実習などでのやむを得ない欠席の場合も、後日必ず学習内容を確認して、それぞれの課題に臨みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者は国公立小学校の教諭として教育研究に従事した経験を有する。文部科学省検定教書の編修著者代表や文部科学省学習資料作成委員として各教育委員会主催の現職教員の研究・研修及び地域行政や企業と連携するネットワークを生かし、今日的な教育・保育の課題に対応する情報や知見を提供する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによる課題への取り組みや発表など、さまざまな実践的ワークを通して主体的、能動的に学んでいく。
情報リテラシー教育	○	webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。
ICT活用	○	タブレット型PCやアプリケーション、視聴覚機器などを課題解決に用いる学習を通して、チームアプローチによる討論や対話の深まりを体験的に理解する。

講義コード	G04105501
講義名	児童学研究ゼミＡ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	児童学科 教員	指定なし
教授	中田 範子	指定なし
教授	和田 美香	指定なし

ナンバリング

P30001M12

授業概要(教育目的)

児童学研究における研究課題の決定、研究方法、卒業論文に求められる要素など、4年次の卒業研究（卒業論文作成）に必要な基本的知識について学ぶ。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化）における知識と、児童学研究の在り方について理解している。
思考・判断の観点 (K)	児童学における研究課題を見いだすことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
技術・表現の観点 (A)	4年次で取り組む卒業研究のための基本的知識・技能が身についている。

学習計画

児童学研究法

	授業テーマ	授業オリエンテーション／文献研究の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ	児童学研究ゼミAの授業概要、卒業論文に関する取り決め、児童学

第1回	ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究ゼミAの評価等について概説し、児童学研究ゼミ配属先決定方法について説明する。／ 図書館の使い方、文献・資料検索の方法について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の取り組みたい研究課題について考えておく。リテラシー演習で学んだ内容を復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	授業テーマ	領域別研究方法１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	領域別研究方法について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒論を念頭において、どのような研究が可能か考える。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	領域別研究方法２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	領域別研究方法について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒論を念頭において、どのような研究が可能か考える。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	授業テーマ	キャリアデザインについて学ぶ１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業後の進路（保育者・教育者等）を見据えて、今後どのように児童学研究に取り組むべきかについて考える。（佐々木先生）
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒論を念頭において、どのような研究が可能か考える。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	キャリアデザインについて学ぶ２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業後の進路（保育者・教育者等）を見据えて、今後どのように児童学研究に取り組むべきかについて考える。（佐々木先生）
	教室外学習(予習・復習)の内容	卒論を念頭において、どのような研究が可能か考える。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	合同ゼミ相談(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	どのような研究が可能か、合同面接により相談する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の取り組みたい研究課題について発表できるようにしておく。
	教室外学習の時	50分

	間（分）	
第7回	授業テーマ	合同ゼミ相談(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	どのような研究が可能か、合同面接により相談する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の取り組みたい研究課題について発表できるようにしておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	合同ゼミ相談（予備日）・ゼミ配属希望調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマ、研究方法によって配属希望を提出する。ゼミ配属希望担当教員と面接し、必要に応じて配属の調整を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の取り組みたい研究課題について明確にしておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	ゼミ活動１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゼミ担当教員の指示に従って研究を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミ担当教員の指示に従う。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	授業テーマ	ゼミ活動２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゼミ担当教員の指示に従って研究を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミ担当教員の指示に従う。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	授業テーマ	ゼミ活動３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゼミ担当教員の指示に従って研究を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミ担当教員の指示に従う。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	授業テーマ	ゼミ活動４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゼミ担当教員の指示に従って研究を進める。

	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミ担当教員の指示に従う。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	**授業テーマ**	ゼミ活動５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゼミ担当教員の指示に従って研究を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ゼミ担当教員の指示に従う。
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	**授業テーマ**	ゼミ活動中間報告会（児童学研究ゼミAのまとめ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前期ゼミ活動の成果についてのプレゼンテーションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼン資料の作成、発表練習、報告会の振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

・ゼミ配属先は、各自が取り組みたい研究課題（案）を明記した「児童学研究ゼミ配属先希望調査票」により決定される。そのため、ゼミ相談終了までに、具体的な研究テーマや計画案について考えておくこと。

学生へのフィードバック方法

・質問等には個別に対応する。
・必要に応じて担当教員から個別にフィードバックを行う。

評価方法

平常点（授業の取り組み方、課題の提出）及び各ゼミにおける活動実績に基づき総合的に評価する。
＊評価のポイントに関しては、各担当教員よりルーブリックを提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
ゼミ活動実績	○	○	○	○

評価割合

平常点（前半授業への取り組み、課題提出等）50%
各ゼミにおける活動実績（後半のゼミ活動への取り組み、成果報告会）50%

使用教科書名(ISBN番号)

なし（プリント配付）

参考図書

授業中に指示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化）について総合的・専門的知識が修得できている。
【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学びあう具体的・実践的な機会を通して、自らさまざまな課題に柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー

研究室により異なる。

学生へのメッセージ

これまでに学んだ児童学全般の授業内容について復習をしておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実務経験(保育・教育現場経験)のある教員による講義が含まれる。
アクティブ・ラーニング	○	議論、発表など双方向の授業を行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集、情報整理、情報発信について学ぶ
ICT活用	○	コンピューター技術を利用した情報処理を行う。

講義コード	G04105601
講義名	児童学研究ゼミB
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	児童学科 教員	指定なし
教授	中田 範子	指定なし
教授	和田 美香	指定なし

ナンバリング

P30002M12

授業概要(教育目的)

4年次に開講される卒業研究A・B履修に先立ち、各自が取り組みたいテーマをもとに研究の基礎について学ぶ。具体的には、資料の収集、講読及び討議を通して仮説や探究したい点を絞り込み、論文の構成や書き方について理解を深める。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化）における知識と、児童学研究の在り方について理解している。
思考・判断の観点 (K)	児童学における研究課題を見いだすことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
技術・表現の観点 (A)	4年次で取り組む卒業研究のための基本的知識・技能が身についている。

学習計画

卒業研究基礎ゼミ

	授業テーマ	児童学研究ゼミB (1)

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分で取り組みたい研究課題について考察する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	授業テーマ	児童学研究ゼミB (2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分で取り組みたい研究課題について考察する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	児童学研究ゼミB (3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分で取り組みたい研究課題について考察する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	授業テーマ	児童学研究ゼミB (4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分で取り組みたい研究課題について考察する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	児童学研究ゼミB (5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分で取り組みたい研究課題について考察する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	児童学研究ゼミB (6)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分で取り組みたい研究課題について考察する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	児童学研究ゼミB (7)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分で取り組みたい研究課題について考察する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	児童学研究ゼミB (8)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分で取り組みたい研究課題について考察する。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	児童学研究ゼミB (9)

第9回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分で取り組みたい研究課題について考察する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	授業テーマ	児童学研究ゼミB (10)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分で取り組みたい研究課題について考察する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	授業テーマ	児童学研究ゼミB (11)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分で取り組みたい研究課題について考察する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	授業テーマ	児童学研究ゼミB (12)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分で取り組みたい研究課題について考察する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	授業テーマ	児童学研究ゼミB (13)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分で取り組みたい研究課題について考察する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	授業テーマ	児童学研究ゼミB (14)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分で取り組みたい研究課題について考察する。
	教室外学習の時間（分）	50分

学生へのフィードバック方法

配属されるゼミの指示に従う。

評価方法

配属されるゼミにおける平常点（授業中の実績）と課題（卒研発表会におけるワークシートおよび指定された提出物）の提出等により総合的に評価する。
評価のポイントは、各ゼミ担当教員により示される。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
課題提出	○	○	○	○

評価割合

平常点80%、課題提出20%

使用教科書名(ISBN番号)

配属されるゼミ担当教員の指示に従う。

参考図書

配属されるゼミ担当教員の指示に従う。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化）について総合的・専門的知識が修得できている。
【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学びあう具体的・実践的な機会を通して、自らさまざまな課題に柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー

研究室により異なる。

学生へのメッセージ

これまでに学んだ児童学全般の授業内容について復習をしておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実務経験(保育・教育現場経験)のある教員による講義が含まれる。
アクティブ・ラーニング	○	議論、発表など双方向の授業を行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集、情報整理、情報発信について学ぶ。
ICT活用	○	コンピューター技術を利用した情報処理を行う。

講義コード	G04105701
講義名	障がい児保育Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	中野 佐世子	指定なし

ナンバリング

P30203M12

授業概要(教育目的)

障害児保育を支える理念に関して理解を深め、保育所、障害乳幼児通園施設等での保育の現状、および今後の課題を理解する。
障害についての基本的考え方としては、障害を持つ子どもを「助けを必要としている子ども・要助児」と捉える。そして保育者としての役割は、助けることを必要としている子どもであることに気づいて、保育者として自分が何をしたらいいか、役割の可能性を探ることにある。
このように「障害児保育」をとらえ、福祉・保育・心理などの知見を総合的に学ぶ。
保育の場で日常的に歌われている曲に手話を付け、障害児も一緒にできる手話ソングの学習を行う。

履修条件

講義の初回から毎回出席し、意欲的に学ぶ姿勢のある者。
話し合い、発表を行うため、他者とのコミュニケーションが積極的にとれる者。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	個々の障害について正しく理解し、保護者と共に子どもの発達を促せる保育者になる。
思考・判断の観点 (K)	障害児の成長を促すため、今どのような助けが必要となるのかを判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	障害を身近な問題としてとらえ、社会の中の障害者への関心が高まる。
技術・表現の観点 (A)	保護者への伝え方、提言の仕方を考え、保育者のアドバイスを受け入れてもらえる伝え方が身につく。 手話ソングや手話によるゲームをする技術が身につく。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	「障害」のとらえ方 - 「障害」とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害とは何か？を 身近なマークなどから学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書P-17を読んで復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	「障害」のとらえ方 - 「障害児とは」「要助児の概念」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体障害、知的障害、精神障害・発達障害の概要を学び、障害児についての理解を深める
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書P-4,5を読んで復習をする
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	障害に応じた保育支援 視覚障害I
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	視野の発達と障害、色覚の発達と障害について学び、援助方法、保護者への伝え方などについて学ぶ グループ討議をして発表する
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書P-10,11を読んで復習 ネットで＜色覚多様性＞について確認をする
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	障害に応じた保育支援 視覚障害II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	視力の発達と障害について学び、援助・ガイドの方法を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書P-12,13を読んで復習する 身近にあるユニバーサルデザインについて調べる
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	障害に応じた保育支援 聴覚言語障害I
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	耳の構造を学び、聞こえのしくみと聴覚障害について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書P-6,7を読んで復習する 「みみ展」を検索し、聞こえ方についての理解を深める
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	障害に応じた保育支援 聴覚言語障II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	聞こえないことと話せないことの関係について学び、二次的な障害（話せない、日本語の獲得が難しい）について理解を深める
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを読み復習をする
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	障害に応じた保育支援 聴覚言語障III
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	聴覚障害児、難聴児とのコミュニケーション方法や留意点について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書P-8,9を読んで復習をする

	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	障害に応じた保育支援 肢体不自由I
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肢体不自由の種類や状態、介助する場合の留意点について学び、理解を深める DVDを視聴
	教室外学習(予習・復習)の内容	紹介されたHPを確認し、視聴したDVDについて考え復習する
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	障害に応じた保育支援 肢体不自由II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肢体不自由者の目に見えない障害について理解し、園活動（運動会、遠足などを含む）においての留意点を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書P-14を読んで復習する
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	障害に応じた保育支援 知的障害 I
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	知的障害について学び、理解する DVDを視聴する
	教室外学習(予習・復習)の内容	視聴したDVDのレポートを作成する
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	障害に応じた保育支援 知的障害 II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	知的障害の特性を学び、それぞれの特性に合わせた援助方法を理解する 援助方法についてグループ討議をし、発表する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを読んで復習する
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	障害に応じた保育支援 発達障害 I
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発達障害の種類やその特性について学ぶ プリントを配布する Eテレ番組を紹介
	教室外学習(予習・復習)の内容	プリントを読んで理解を深める
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	障害に応じた保育支援 発達障害 II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発達障害の特性に合わせた援助方法や留意点について学ぶ 援助方法についてグループ討議をし、発表する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを読んで復習する
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	**授業テーマ**	障害児を取り巻く保育の現状と課題 補助犬について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今まで学んできたことを踏まえ、改めて障害児保育の現状と課題について学ぶ ユニバーサルデザイン公園、共遊玩具の紹介 補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）について理解し、園活動における留意点について学ぶ（DVDを視聴）

	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリント と 教科書P-15を読んで復習をする
	教室外学習の時間（分）	45分
第15回	**授業テーマ**	期末試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	講義の振り返りと習熟度を確認するためのペーパー試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

講義時間30時間（2時間×1コマ×15週）＋事前事後学習20時間
こちらは前期(中野先生)のシラバスです。後期は上出先生のシラバスをご覧ください。

学生へのフィードバック方法

講義の最後にリアクションペーパーに感想や考察、疑問点を記入し提出。
講師はこれを添削し、コメントを記載して返却する。
また、必要なことに関しては、全体に向けても再度説明を行い、講師と学生の意見交換をすすめる。

評価方法

ルーブリックに基づく成績評価である。
ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示する。
具体的には、リアクションペーパーの内容、平常点、定期試験等で評価をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
リアクションペーパー	○	○	○	
グループ発表	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	

評価割合

平常点30% レポート30% 試験40% の割合で評価する
（平常点とは、授業での積極的な態度や、リアクションペーパーの内容等を総合的に評価するものである。）

使用教科書名(ISBN番号)

①「手話ソングブック ～ともだちになるために～」 すずき出版 新沢としひこ
中野 佐世子 共著

②「ハッピーコミュニケーションのすすめ」中野 佐世子著 書店での取り扱いがないため、講義内で販売します。800円(税込)

参考図書

・手話ソングブック２／新沢としひこ・中野佐世子共著／すずき出版
・手話ソングブック３／新沢としひこ・中野佐世子共著／すずき出版
・手話ゲームブック ／新沢としひこ・中野佐世子共著／すずき出版

ディプロマポリシーとの関連

・児童学を構成する6領域を総合的に理解し、障害児の専門職における必要な知識・技能を有す

ることができる。
・障害児に対する総合的かつ包括的な相談支援の知識と技術を修得し、子ども及び保護者への支援ができる。
・講義を通してコミュニケーションの取り方の基本を身につけ、子ども及び保護者に対して円滑なコミュニケーションを図ることができる。
・多様化する障害に対して興味関心を持ち続け、先入観を持たず、今、目の前にいる子どもから学ぼうとすることができる。
・子どもや障害に関する知識と技術を修得し、社会貢献できる以下の能力（基礎的な能力・知識・技術）を有することができる。
・手話の学習を通して、豊かなコミュニケーション能力が身に付き、それを保育で実践できる

学生へのメッセージ

保育の現場で出会う「障害児」達を想定し、皆さんが「困らない」、子ども達を「困らせない」知識を身につけます。
実習に間に合うよう、すぐに使える手話ゲーム・手話ソングを取り入れています。

テキストについては、講義の中で案内します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・心身障害児総合医療療育センターで勤務した経験を活かし、様々な障害および支える家族の問題について伝える。 ・手話通訳として活動している経験を活かし、手話の楽しさ、保育における有用性について伝える
アクティブ・ラーニング	○	・グループトークを行い、発表する
情報リテラシー教育	○	・毎回のリアクションペーパーを通して、考察の導き方、書き方を説明する
ICT活用		

講義コード	G04105801
講義名	障がい児保育Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	安達 敬子	指定なし

ナンバリング

P30204M12

授業概要(教育目的)

インクルーシブな社会が声高に叫ばれている昨今、とりわけ、障がいのある子どもたちや、社会から疎外されやすい子どもたちへの特別な支援が必要であり、その実践や環境整備が課題となっている。
本授業では、「障害」を社会の中にあるさまざまなバリアととらえる考え方を基に、障がい児保育・教育を支えてきた考え方や歴史的変遷を学び、「障害」に関する基礎的知識・理解を深める。さらに、障がいのある子どもたちの身近な事例や、エビデンスに基づく保育・教育実践にふれ、演習を通して学生同士が自ら省察し学び合い、支援のアイディアを発見できるような授業を展開する。その中で、感性を磨き合い、創造力・表現力・コミュニケーションの力を培っていく。また、障がいのある・なしにかかわらず、多様な子どもたちの「自分らしく生きる姿」や社会の中で抱えている「生きづらさ・生きにくさ」に気づき、一人ひとりの「いのち」にかかわるニーズについても考察する。教材の一例として、「障害に関することを描いた子どもの本」を紹介し、「ふつうとは」「ちがいとは」「障害とは」「特別とは」などを問いながら、「ともに生きる」意味を探究し「すべての人々と学ぶ誠実な姿勢」について導いていく。
全授業を通して、豊かで確かな知識を修得し、温かくて深い理解のある保育・教育者として成長し続ける実践者のあり方を学ぶことを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	・障害の社会モデルを理解し、障がいのある子どもの教育・保育を支える理念や概念、歴史的変遷について幅広い専門的知識を修得している。 ・インクルーシブ保育・教育の現状と課題、障がいのある子どもの特性や支援の具体的な方法について、説

	明できる。
思考・判断の観点 (K)	・感性を磨き、創造力・表現力・コミュニケーションの力を備え、障害のある・なしにかかわらず、社会の 中で子どもたちと保育者が「ともに育つ」意味を省察している。 ・個や集団における、障がいのある子どもの心身の発達に応じた多様な支援、合理的配慮や環境設定の工夫 などを通して、保育内容を創造できるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・特別な支援を必要とする子ども（障がいのある子どもを含む）の教育・保育に関する現状の課題に向き合 い、問題意識をもちながら主体的に取り組んでいる。 ・多様な人々と「ともに生きる」誠実な姿勢を大切にし、「子どもと学ぶ」「子どもに学ぶ」という謙虚な 姿勢をもち、日常生活上のきまりを守り、真摯な態度で授業に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	・障がいのある子どもの事例を参考に「個別の指導計画」の簡易版を作成し、支援のためのさまざまな学習 教材の特徴を知り、子どもや関係者へ提供できる技術を有している。 ・支援の必要な子どもの家庭や関係機関等との連携について理解し、適切な伝達方法（言語表現・身体表 現など）を獲得し、専門家として社会に貢献できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション ー「ふつう」と「生きづらさ」のあいだにあるものー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「障がい児保育・教育」の意義について考え、幼児期や学童期をふりかえる。 （発表） 自己紹介 授業内容と学習の仕方 評価方法の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の「まえがき」「目次」「あとがき」を読んで「障がい児保育Ｂ」の授業内容を概観する。 教科書pp.2-17、p.260
	教室外学習の時間（分）	25分
第2回	**授業テーマ**	「障がい」の概念と「障害のある子どもの教育・保育」の歴史的変遷 ー「障がいがある」ということー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「障害」に対するイメージを語り、歴史や民俗学の見地から「障害」とはなにかを学ぶ。 （発表） 「障害」のとらえかた 表記に関する考え方 障がい児保育の歴史的変遷（１）
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回配布したプリントを読み復習し、「障害の捉え方と障害児保育の歴史」「子ども同士のかかわりと育ち合い」「職員間の協働」の章を読んで予習する。 教科書pp.20-35、pp.144-168
	教室外学習の時間（分）	30分
	授業テーマ	「インクルーシブ教育・保育」 とは

		ー「すべての子どもたち」に応えるということー
第3回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ノーマライゼーションからインクルーシブまでの流れについて確認する。 （演習） 障害が「ある」と「もつ」の意味 インクルーシブとは 障がい児保育の歴史的変遷（２）
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回配布したプリントの「資料」を読み復習し、教科書の「障害児保育の基本」の章を読んで予習する。 教科書pp.36-48
	教室外学習の時間（分）	40分
第4回	授業テーマ	「知的障害」のある子どもの理解と援助 ー「ゆっくり育つ」ということー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個や集団・家庭生活から、子どもの興味・関心に寄り添い、保育にいかすことを話し合う。 （グループワーク） 知的障害と発達障害 定型発達とは 発達検査 家庭や医療機関との連携 みんなちがってゆっくりと
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回配布したプリントの「資料」を読み復習し、教科書の「知的障害児の理解と支援」の章を読んで予習する。 教科書pp.73-88
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	「自閉症スペクトラム障害」のある子どもの理解と援助 ー「僕が跳びはねる理由」を超えてー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自閉症の子どもたちにわかりやすい支援について、こころの理論を通して学ぶ。 （発表・ビデオ視聴） 自閉症とは 発達障害の診断マニュアル 障がい児保育の安全・安心・安定 特性の理解 社会性の育ちを支援
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回配布したプリントの「資料」を読み、教科書の「発達障害児の理解と支援」の章を読んで復習する。 教科書pp.90-101
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	「注意欠陥(欠如)・多動性障害」のある子どもの理解と援助 ー「ありのまま」を受けとめ深めるということー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「ありのまま」だけでなく発達の可能性を信じ、子どもと関わる方法に気づく。 （演習） 注意・欠陥(欠如)多動性障害(ADHD)とは 重なる障害 障害種や障害名からではない支援 個々の具体的な場面や行動からの支援
	教室外学習(予習・復習)の内	前回配布したプリントの「資料」を読み復習し、教科書の「発達障害の理解と支援」の章の「注意欠陥多動性障害(ADHD)」を読んで予習する。

	容	教科書pp.102-112
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	「学習障害」のある子どもの理解と援助 ー「学べない」のではなく「学び方がちがう」ということー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事例を通じて「できた・できない」ではなく、子どもの「努力している姿」を理解する。 （演習・ビデオ視聴） 学習障害(LD)とは 主な３つのタイプと支援 「発達の最近接領域」と「合理的配慮」
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回配布したプリントの「資料」を読み復習し、教科書の「発達障害児の理解と支援」の章の「注意欠陥多動性障害(ADHD)」の章を読んで復習する。 教科書pp.102-112
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	「言語障害」のある子どもの理解と援助 ー「共感する」ということー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	心理面の配慮をしながらことばを促すには、どのようなステップがあるのかを把握する。 （演習・ビデオ視聴） 言語障害とは 構音障害・吃音 ことばの発達の遅れ 地域の専門機関との連携 「共感」と「同情」のちがい
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回配布したプリントの「資料」を読み復習し、教科書の「肢体不自由児、視覚障害・聴覚障害児の理解と支援」の章の「聴覚障害児の理解と支援」を読んで復習する。 教科書pp.64-71
	教室外学習の時間（分）	40分
第9回	**授業テーマ**	「視覚障害」のある子どもの理解と援助 ー「みる」ということと「さわる」ということー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	目が不自由な子どものあそびを豊かにするには、どのような支援があるのかを調べる。 （演習） 視覚障害とは 視力障害と視野障害 色覚多様性 ものの見え方 こころで見るということ 人以外の支援（補助犬など）
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回配布したプリントの「資料」を読み復習し、教科書の「肢体不自由児、視覚障害・聴覚障害児の理解と支援」の章の「視覚障害児の理解と支援」を読んで予習する。 教科書pp.59-63、pp.68-71
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	「聴覚障害」のある子どもの理解と援助

第10回		ー「聴くと聞こえる」ということー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	耳の不自由な子どもとの関わりにおいて、身体全体で表現する必要のあることを知る。 （グループワーク・ビデオ視聴） 聴覚障害とは 音がきこえない・きこえにくい状態 「聴く」と「聞く」のちがい コミュニケーションの支援
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回配布したプリントの「資料」を読み復習し、教科書の「肢体不自由児、視覚障害・聴覚障害児の理解と支援」の章の「聴覚障害児の理解と支援」を読んで予習する。 教科書pp.64-71
	教室外学習の時間（分）	40分
第11回	授業テーマ	「肢体不自由」のある子どもの理解と援助 ー「自ら立つ」ということー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肢体不自由の子どもへのさまざまな支援を挙げ、どんな支援ができるのかを考える。 （発表） 肢体とは 身体障害の中の５つの障がい 支援方法 「～してあげる」から「～をいっしょに」へ
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回配布したプリントの「資料」を読み復習し、教科書の「肢体不自由児、視覚障害・聴覚障害児の理解と支援」の章の「肢体不自由児の理解と支援」「身体障害児の実態」を読んで予習する。 教科書pp.50-59、pp.68-71
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	「病弱・身体虚弱」の子どもの理解と援助 ー「子どもからのメッセージ」をどう受けとめるかー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	病気の子どもへの正しい知識と理解のある対応を、こころのケアの視点から理解する。 （演習） 病弱・身体虚弱とは 主な疾患の種類とその症状 個に合わせた支援の連続性 家族への柔軟な対応
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回配布したプリントの「資料」を読み復習し、教科書の「肢体不自由児、視覚障害・聴覚障害児の理解と支援」の章の「身体障害児の実態」と、「保健・医療における現状と課題」の章を読んで予習する。 教科書pp.68-71 pp.208-242
	教室外学習の時間（分）	40分
第13回	授業テーマ	「新たな教育的ニーズ」のある子どもの教育・保育の実際 ー「声なき声」を社会全体で考えるということー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会の中でどんなことが「障がい」＝バリアになっているのかを探る。 （グループワーク） 支援を必要とする子どもたちへの新たなニーズとは 「障がい」の社会モデルと医療モデル 心のバリアフリー

	教室外学習(予習・復習)の内容	前回配布したプリントの「資料」を読み復習し、教科書の「支援の広がりとつながり」の章を読んで予習する。 教科書pp.243-255
	教室外学習の時間（分）	40分
第14回	**授業テーマ**	「家庭及び自治体・関係機関」との連携・協働 ー書きとめて「省察する」ということー 「教育・保育の支援」にかかわる現状と課題 授業のまとめ ー「ともに生きる」ということー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	記録の目的と種類を理解し、子どもと家庭に配慮しながら指導計画（簡易版）を作成する。 （演習） 障がいのある子どもの実態を記録する意義とその種類 保育を支える支援プロセス 関係諸機関との連携と信頼 個々のちがいや多様性を理解し、ともに生きるために、保育において大切なことを考える。 授業を通じて変容したことを伝え合う。 （発表） 障害者差別解消法 合理的配慮と基礎的環境整備 インクルーシブ保育の理念 障害児保育の展望と課題 自己のふりかえり 保育者としての将来の自分磨き
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回配布したプリントの「資料」を読み、教科書の「障害児保育を支える記録・評価」「保護者や家族に対する理解と支援の方法」「地域の専門機関などとの連携や子ども一人ひとりの支援計画の作成」「小学校などとの連携」の章を読んで予習する。 教科書pp.114-143、 pp.170-206 前回配布したプリントの「資料」を読み復習し、教科書の「保健・医療における現状と課題」「福祉・教育における現状と課題」の章を読んで予習する。 教科書pp.208-242
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

・授業の進捗状況により授業内容が変更になる場合がある。
・実習等の出欠席の状況により、授業テーマを入れ替えることがある。

学生へのフィードバック方法

・毎回、授業の最後にリアクションペーパーなどを提出する。記述された意見・感想・質問について、次時の
授業の資料に反映する。
・授業の中の「ふりかえり」で、レポートの内容を解説し全体へフィードバックする。
・「障害に関することを描いた子どもの絵本」を検索し、実践にいかすことのできる本を読むことで、テーマ
への興味・関心を促す。

評価方法

・「授業への参加姿勢」「レポート提出の有無」「グループセッション等への状況」「各授業

回のふりかえ
りとしてのリアクションペーパーへの記述内容」「本授業のまとめとしての定期試験」等、より多角的・
多面的な観点から総合的に成績評価を行う。
・学修成果の公平で客観的な評価を実施するために、ルーブリックでの評価を用いる。

【成績評価基準の割合】
・授業参加の姿勢（グループセッション、リアクションペーパー・レポート等含む）…４０％
・定期試験 …６０％
【試験等のＦＢ】
・定期試験の出題趣旨については、試験前に説明
・リアクションペーパー等に記述された意見・質問については、次時の授業の「ふりかえり」の中で
フィードバック

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点（授業参加時の態度）			○	○
平常点（授業への意欲）		○	○	
平常点（提出物）	○	○	○	○
リアクションペーパー・レポート	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	○

評価割合

・授業参加の姿勢（授業態度など）…１０％
・授業参加の意欲（発言・発表力）…１０％
・リアクションペーパー・レポート…２０％
・定期試験……６０％

使用教科書名(ISBN番号)

・藤永保（監修）阿部五月他（著）『障害児保育 …子どもとともに成長する保育者を目指して…』萌文書林
ISBN978-4-89347-310-3

参考図書

・障害と本の研究会（著）『障害とバリアフリー』いっしょに生きる 子どもブックガイド かもがわ出版
ISBN978-4-7803-1239-3

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
児童学を構成する６領域を総合的に理解し、障害や疾患のある子どもに関する専門的知識を有している
【思考・判断】
障害のある子どもと家族への支援を具体的に計画し、実践的な学びにつなげることができる
【関心・意欲】
障害に関連する保育や社会問題などに関心を持ち、意欲的に課題へ取り組むことを身につける
【技術・表現】
保育者として、障がいや疾患のある子どもの具体的支援の実践技術をプレゼンを通して表現する力、
コミュニケーション力を身につける

学生へのメッセージ

私たちを取り巻く社会は、大きく変化してきています。社会福祉の理念に基づいた自己選択と自己決定、ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザインなどの考えも具現化されてきています。同時に、障害の概念や人々の価値観も多様化してきました。近年では、さまざまなちがいを尊重するインクルーシブな社会が求められています。
みなさんが教員として実践するとき、障害のある子どもやその家族と出会うでしょう。そのような中で、特別な支援の必要な子どもたちのいる保育の世界に何が期待されているのでしょう。時代や法律、人々の価値観が多様化しても変わらないものは何でしょう。私たちが知るべきことは何でしょう。現状と課題として何があるのでしょう。「障がい児保育Ｂ」の授業では、事実や事例を通して「障害の社会モデル」に着目し、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。
障害のある子どもとその家族への理解と支援は、実際に関わることで深めることができます。日頃から多様な子どもたちと接する機会を積極的につくるとともに、障害に関連する保育や社会的問題などに関心を示し、互いに学び合っていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	公立通常小学校、公立聴覚特別支援学校幼稚部、中学部、公立知的特別支援学校小学部、国立附属知的特別支援学校幼稚部、小学部、中学部教員としての実務経験をいかし、保育・教育の具体的な実践を紹介する。障害のある・なしにかかわらず、すべての子どもたちの保育・教育と家庭支援の方法等について、多様で多彩な事例に基づき、多角的な視点から教授する。
アクティブ・ラーニング	○	・少人数でのグループワークやプレゼン（発表）をする。
情報リテラシー教育	○	・課題レポートのために必要な情報についてデータベースの活用や、文献など探索して作成をする。
ICT活用	○	・障害のある子どもの活動場面のビデオ視聴や、子どもの作品を紹介するためにスライドを利用する。 ・視覚的な資料を用い、参加者と情報を共有するためにパソコンを用い、双方型授業を実施する。

講義コード	G04105901
講義名	健康の指導法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	佐藤 冬果	指定なし
非常勤講師	中島 悠介	指定なし

ナンバリング

P20204M22

授業概要(教育目的)

本科目は、領域「健康」のねらいと内容、および内容の取扱いについて理解し、子どもが健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うことに向け、その指導に必要な知識・技能を育成することを目的としている。特に運動発達とそれを促す運動遊びについて理解し、その指導力の修得を目指す。

履修条件

・模擬授業を実施する回には、運動に適した服装、体育館シューズで参加してください。
・体育実技を実施する上で健康上の配慮が必要な人は、申し出てください。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・領域「健康」のねらいと内容、および内容の取扱いについて理解している ・子どもの成長と運動の関係について理解している ・子どもの運動遊びの指導の在り方を理解している
思考・判断の観点 (K)	・子どもが自ら健康で安全な生活をつくり出すための運動遊びについて、適切な支援や指導展開を提案できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	・子どもの心身の健康を育むことに関心を持ち、子どもの健康増進に寄与できる
技術・表現の観点 (A)	・子どもの心身の健康を維持増進するための指導案を作成し、模擬授業を展開できる

学習計画

第1回	授業テーマ	領域「健康」の理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	領域「健康」のねらいおよび内容を理解し、幼児期の運動遊びの意義を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	幼稚園教育要領および保育所保育指針（平成29年告示）に目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第2回	授業テーマ	領域「健康」の内容の取扱い
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的な生活習慣や安全能力を育むための援助について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	幼稚園教育要領および保育所保育指針（平成29年告示）に目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第3回	授業テーマ	アイスブレイキングゲームの体験とその指導方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アイスブレイキングゲームは、個々人の緊張をほぐし、安心感の共有と一体感の醸成に繋がる活動である。様々なゲームを体験する中で、コミュニケーションの幅の広がり（身近な人から知らない人と）、コミュニケーションの質の変化（クローズとオープンの違い）を体験的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アイスブレイキングゲームの種類やその指導法について調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第4回	授業テーマ	ニュースポーツ（モルック）遊びの体験とその指導方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	モルックは近年日本で広まっているニュースポーツの一つである。 木の棒を目標物に向かって投げて得点を競うゲームで、試合が終盤になるほど戦略性が求められる特徴がある。 その体験を通じ、ニュースポーツの意義やその背景を理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	道具を用いた遊びの意義について考察し、まとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第5回	**授業テーマ**	ボールを用いたネット型の運動遊びの体験とその指導方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ボールを用いた運動遊びの例としてソフトバレーボールを基にしたゲームを体験し、道具・ルール・技術を調整することで、種目の難易度が変わることを理解する。 スポーツの種目には正式なルールや道具があるが、それを調整することで難しい種目が個人または集団に合った楽しい種目に変わることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ボールを用いた運動遊びの種類と、その教育的意義について調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第6回	**授業テーマ**	ニュースポーツ（テニポン）を基にした運動遊びの体験とその指導方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テニポンは体育館の中で行うニュースポーツの一つである。ボールは大きく柔らかくスピードが遅くなるため、初心者でも気軽に楽しめる種目である。道具やコートが変わることで、楽しみ方が変わることを体感する。 遊びの元となっている種目の特性を理解し、種目の動作の分析を行うことが、具体的な指導法に関わることを理解する。技術を習得させる時に、最終的に必要な動作を分割して体験させることによって、スムーズに指導を展開できることを学ぶ。技術のつながり・経験のつながりを意識したプログラム展開方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	任意の運動種目を取り上げ、動きを分析することで、その運動には多様な動きが含まれることを理解しておく。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第7回	**授業テーマ**	ターゲット型の運動遊びの体験とその指導方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ターゲット型の運動遊びの例としてドッチビーを用いたゲームを行う。ドッチビーの元であるドッチボールは、投動作をしっかりと習得しなければ勢いがあるボールを投げることは難しい。また投げられたボールが身体に当たると痛いため、好き嫌いが別れる種目である。しかし、ドッチビーを用いることで投動作のレベル差を少なくすることができ、当たっても痛くなくなるため、多くの人が楽しめるスポーツになる。道具を変えることで多くの人が楽しめる種目になることを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運動が嫌いになる子どもの心理についてまとめておくこと。
	教室外学習の時間	予習60分、復習130分

	（分）	
第8回	**授業テーマ**	運動指導の計画（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3～4名のグループに分かれ、多くの人が楽しめる種目を考案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	技術のつながり・経験のつながりを意識した指導展開、道具・ルール・技術を調整したプログラム計画を十分に留意して計画を進めること。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第9回	**授業テーマ**	運動指導の計画（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3～4名のグループに分かれ、多くの人が楽しめる種目を考案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	技術のつながり・経験のつながりを意識した指導展開、道具・ルール・技術を調整したプログラム計画を十分に留意して計画を進めること。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
第10回	**授業テーマ**	運動指導の計画（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3～4名のグループに分かれ、多くの人が楽しめる種目を考案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	技術のつながり・経験のつながりを意識した指導展開、道具・ルール・技術を調整したプログラム計画を十分に留意して計画を進めること。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習130分
	授業テーマ	運動指導の模擬保育（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	グループごとに考案し計画したプログラムを、1班30分の持ち時間で発表し、実際に模擬保育を展開する。

第11回	**用を含む)**	
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬保育に参加し、指導を担当したグループに対するフィードバックのコメントを作成することでふりかえりを深めること。
	教室外学習の時間(分)	予習60分、復習130分
第12回	**授業テーマ**	運動指導の模擬保育（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとに考案し計画したプログラムを、1班30分の持ち時間で発表し、実際に模擬保育を展開する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬保育に参加し、指導を担当したグループに対するフィードバックのコメントを作成することでふりかえりを深めること。
	教室外学習の時間(分)	予習60分、復習130分
第13回	**授業テーマ**	運動指導の模擬保育（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとに考案し計画したプログラムを、1班30分の持ち時間で発表し、実際に模擬保育を展開する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬保育に参加し、指導を担当したグループに対するフィードバックのコメントを作成することでふりかえりを深めること。
	教室外学習の時間(分)	予習60分、復習130分
第14回	**授業テーマ**	運動指導の模擬保育（4） まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとに考案し計画したプログラムを、1班30分の持ち時間で発表し、実際に模擬保育を展開する。 模擬保育のふりかえりを行い、「健康」の指導に対するまとめを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬保育に参加し、指導を担当したグループに対するフィードバックのコメントを作成することでふりかえりを深めること。
	教室外学習の時間(分)	予習60分、復習130分

学習計画注記

授業の進み具合によってスケジュールを変更する場合もあります。

学生へのフィードバック方法

各グループの発表に対し、教員からのフィードバックを行います。

評価方法

・平常点（授業への積極的な参加） 40%
・指導案の作成 20%
・模擬授業の展開 20%
・最終レポート課題 20%

・ルーブリックを用いた評価を行います。ルーブリックについてはクラスルームにより提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点（授業への積極的な参加	○	○	○	○
指導案の作成	○	○		
模擬授業の展開	○	○	○	○
最終レポート課題	○	○		

評価割合

・平常点（授業への積極的な参加） 40%
・指導案の作成 20%
・模擬授業の展開 20%
・最終レポート課題 20%
の総合評価とする。

参考図書

『保育所保育指針解説書』（平成 30 年 3 月告示） 厚生労働省 フレーベル館
『幼稚園教育要領解説』（平成 30 年 3 月告示） 文部科学省 フレーベル館
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成 30 年 3 月告示）内閣府・文部科学省・厚生労働省・フレーベル館

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもの健康を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている
【思考・判断】家族・地域・社会と協働して子どもの健康を守り、育てるためのコミュニケーション能力・感性が備わっている
【関心・意欲・態度】子どもの健康をめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる

オフィスアワー

月曜4限 1618室

学生へのメッセージ

子ども時代に楽しく身体を動かした思い出は、子ども達が生涯にわたって健康に過ごす基盤となるのだと思います。皆さんには、子どもたちが楽しく、夢中になって身体を動かす活動に取り組む場を作るための指導力を身につけて頂きたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当	

	有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	いくつかの運動プログラムを体験することで、子どもの運動を通じた心身の変化を体験的に学ぶ。また、指導案の作成と発表を通し、主体的で能動的な学修を進める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04106001
講義名	言葉の指導法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	和田 美香	指定なし

ナンバリング

P20206M22

授業概要(教育目的)

領域のねらい「生活の中で、言葉の興味や関心を育て、話したり、聞いたり、相手の話を理解しようとするなど、言葉の豊かさを養うこと」を柱にして、保育のあり方、子どもの姿の捉え方、について考えることを目的とする科目である。
言葉の機能や乳幼児期の言葉の発達について理解しそれらの知識を総合的に保育実践に取り入れる力を養うようにする。
保育の中で活動を展開できる技術を獲得する他、指導計画を作成し模擬保育を行うなかで、その技術をさらに実践的な力にしていく。
また、言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもの理解や、言葉をめぐる相談の実際と対応について等、現代における言葉の諸問題についても学べるようにする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	領域「言葉」の基礎となる考え方を理解する。 「言葉」の意義と機能について理解する。
思考・判断の観点 (K)	幼児がどのようにしたら豊かな言葉や表現を育むことが出来るかを考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	演習課題に積極的に取り組みながら、主体的に考える。
技術・表現の観点 (A)	実践を通して言葉に対する感覚を豊かにし、保育実践に生かすための技術を学ぶ。

学習計画		
言葉の指導法		
第1回	授業テーマ	保育所保育指針、幼稚園教育要領の基本的な考え方（乳児保育の視点と領域言葉を中心に）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所保育指針、幼稚園教育要領から領域言葉の内容を捉える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。 指針や要領の当該箇所を再度確認をしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	領域言葉のねらいと内容
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	領域言葉のねらいと内容について、文言を一つ一つ確認し、具体的事例をあげながら解説をする。その後、保育の実践と照らし合わせてグループワークの形式で議論する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。 子どもを観察して生活の中の言葉について気付いたことを箇条書きにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	生活と遊びの中の言葉（養護と教育に関わる保育内容の展開）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活と遊びの中の言葉について、具体的事例に基づいて考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	領域言葉の指導上の留意点、配慮事項
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	領域言葉の指導上の留意点、配慮事項について、解説書をもとに理解をする。その後、事例や動画などを見ながら、具体的な実践に置き換えて考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。 保育の過程について「保育原理」の授業の当該箇所を見ておく（予習）
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	保育の過程（計画、実践、記録、省察、評価、改善）について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育の過程（計画、実践、記録、省察、評価、改善）について領域言葉を中心にして指導計画をもとに考えていく。 実際に計画を立てることをしながら、保育の流れ（計画、実践、記録、省察、評価、改善）のポイントをつかむ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	指導案の立案

第6回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	遊び（5領域）は総合的な活動なので領域言葉だけを取り出して指導案を書くという考え方ではないことを伝えたうえで、まずは指導案を書くということに目的にして、言葉の発達を意識した指導計画を立てていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	指導計画立案の振り返り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指導計画の立案を得て、どのような視点から保育の評価を行うかということについて具体的に考えていく
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	児童文化財とは何か（子どもにとっての児童文化財の意義）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童文化財の定義から、その具体的な実践に至るまで、体験を通して考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。児童文化財を一つ取り上げ、実践してみる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	領域言葉と国語科教育のスムーズな連携（幼保小接続）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	領域言葉と国語科教育のそれぞれのねらいや内容を確認し、その違いや共通点について話し合う。そのうえで、どのような配慮があればスムーズな連携が可能になるのかを考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	配慮の必要な子どもへの対応（外国籍の子ども、障害のある子ども）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配慮の必要な子どもへの対応について、その配慮や留意点について、領域言葉の側面から考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	領域言葉の保育実践の動向
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育実践が、今どのような方向を目指しているのかということを紹介し、領域言葉の視点から考えていく。
	教室外学習(予)	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。

	習・復習 の内容	
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	総合的な保育の展開・まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業を振り返りながら、保育の現代的課題と領域言葉の関連について考えていく。保育者の振り返りの視点、保育の評価の視点を確認し、その具体的な方法について事例をもとに考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。これまでの授業のポイントをまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	保育現場の実際から考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アクティブラーニング（内容については変更の可能性あり）
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマに沿った内容を生活の中で具体例の年込み、考えたことをまとめておく。（詳細は授業で指示）
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	保育現場の実際から考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アクティブラーニング（内容については変更の可能性あり）
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマに沿った内容を生活の中で具体例の年込み、考えたことをまとめておく。（詳細は授業で指示）
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

毎回の演習課題を中心に授業をすすめていく。
積極的に取り組むこと。

学生へのフィードバック方法

毎回の演習課題について個別または全体に対してフィードバックを行う。

評価方法

平常点50%、定期試験50%
（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）
ルーブリックに基づく成績評価をする。
（ルーブリックについては、Googleクラスルームまたは授業内での配付等により提示をする。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点		○	○	○
定期試験	○			

評価割合

平常点50%、定期試験50%
（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

コンパクト版『保育内容シリーズ４ 言葉』

参考図書

特になし。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】言葉のもつ意義と機能を理解する。
【思考・判断】言葉の美しさや楽しさを幼児の生活の中に適宜取り入れていける力を付ける。
【関心・意欲・態度】子どもの姿（生活や遊び、発達段階）を基本に活動内容を考えていく。
【技能・表現】幼児にとっての児童文化財の意義を理解し、その技術を身に付ける。

オフィスアワー

月曜２限から４限

学生へのメッセージ

領域「言葉」は、他の領域との関係が大変深い。言葉が、生活や遊びの中で、他の領域と密接に関連しながら子ども達の育ちを支えていることをよく理解して、広い視点から言葉について考えてもらいたい。そのために、日頃から日常生活の中での言葉に感心を持ち、課題を見つけ積極的に授業に参加して欲しい。
授業資料をGoogleクラスルームに配信する場合があるので、PCを用意すること。（スマホでも可）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、保育士・幼稚園教諭として実務経験を有しており、子どもとかかわるうえで必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授を行う。
アクティブ・ラーニング	○	演習課題を中心に双方向のやり取りを行っていく。
情報リテラシー教育	○	調べ学習で情報を収集する際、その情報の発信元や発信の目的などに目を向けて、信憑性のある情報か否かを判断する。
ICT活用	○	各自の発表をパワーポイントなどにまとめて行い、他者にわかりやすいプレゼンテーションを実践する。

講義コード	G04106101
講義名	人間関係の指導法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	丹羽 さがの	指定なし

ナンバリング

P20208M22

授業概要(教育目的)

幼稚園教育要領等に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深めていく授業である。そうした理解に基づき，幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身につけることを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１）幼稚園教育要領における領域「人間関係」のねらい及び内容、並びに全体構造を理解している。 ２）幼稚園教育における育みたい領域「人間関係」における資質能力について理解している。 ３）領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、自立心を育て、人とかかわる力を養うために必要な、幼児が経験し見につけていく内容と指導上の留意点を理解している。 ４）幼児期の集団生活を通してさまざまな人と関わる経験と、小学校以降の生活や教科等とのつながりについて理解している。
思考・判断の観点 (K)	幼児の心情、認識、思考及び幼児の体験と動き等を踏まえた教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	領域「人間関係」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。
	教材の効果的な活用法を理解し、保育を構想することができる。また、情報機器

技術・表現の観点 (A)	について、幼児の体験との関連を考慮しながら活用するなど留意点を理解している。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション・前期「子どもと人間関係」の復習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼稚園教育要領・保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領における領域「人間関係」の全体像について，前期授業の復習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復習〕今回授業で学んだことを、教科書や配布資料を読んで復習し、しっかり理解する
	教室外学習の時間（分）	70分
第2回	**授業テーマ**	生きるための基盤を育む領域「人間関係」１：ねらいと内容の記述から領域「人間関係」の目指すものを理解する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	領域「人間関係」のねらい・内容を子どもの姿と結び付けながら理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復習〕グループワークを通して気が付いたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	**授業テーマ**	生きるための基盤を育む領域「人間関係」２：保育者の役割
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	領域「人間関係」のねらいや内容の理解を基に，保育者の役割を具体的な事例を通して考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕前回の演習の内容を復習しておく 〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度資料を読み考える。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	**授業テーマ**	身近な人と気持ちが通じ合う・共に過ごすことの喜び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	０・１・２歳児の人間関係について事例を通して学ぶ。子どもの思いや願いをどのようにくみ取るのか，受容的・応答的なかかわりとはどのようなかかわりか，保育者の役割について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度資料を読み考える。
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	自立心の育ち１：幼児期の終わりまでに育てたい姿「自立心」

第5回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児期の終わりまでに育てたい姿「自立心」に関する内容を保育における具体的な子どもの姿と結び付けながら理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕幼児期の終わりまでに育てたい姿を読んでくる 〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度資料を読み考える。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	授業テーマ	自立心の育ち２：自分が大好きになる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人間関係を育む基盤になる「自分が大好きになる」ことについて，どのような経験を重ねそうなるのか，また保育者の援助について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕前回の授業内容を復習しておく 〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度資料を読み考える。
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	授業テーマ	協同する面白さを知る
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	遊びを通した，自分とは違う他者との出会いと，その違いの面白さに気付き，互いに認め合いながら関わりを深めていく様子を事例を通して学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度資料を読み考える。
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	授業テーマ	友だちとともに楽しむ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	友だちとかかわり合って遊ぶ中でどのようなことを経験しているのか，保育者として何を大切にしたいかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度資料を読み考える。
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	授業テーマ	道徳性・規範意識の芽生えを育む保育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもたちが，きまりの必要性を理解し，きまりを作ったり守ったりする姿について事例を通して学び，保育者の援助について考える。

	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度資料を読み考える。
	教室外学習の時間（分）	100分
第10回	**授業テーマ**	いろいろな人と共に楽しむ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域の人など「いろいろな人」との出会いやかかわりを楽しみながら，どのようなことを学んでいくのか，具体的な事例を通して考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度資料を読み考える。
	教室外学習の時間（分）	100分
第11回	**授業テーマ**	幼児教育と小学校教育の接続１：円滑な接続に向けて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を軸に幼小接続期を考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を読み，人間関係にかかわる項目について，年長の終わり頃にどのような具体的な姿が見られそうか考えてみる。そしてそれが，小学校での生活と学びにどのようにつながっていきそうか，考えてみる。 〔復習〕幼児期に育まれた力を大切にした，接続期の小学校での学び方・生活の仕方について，授業での学びを基に具体的に考えてみる。
	教室外学習の時間（分）	100分
第12回	**授業テーマ**	幼児教育と小学校教育の接続２：交流活動を考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼保小の交流活動を考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕前回の授業内容を復習しておく 〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度資料を読み考える。
	教室外学習の時間（分）	100分
第13回	**授業テーマ**	領域「人間関係」の現代的課題と動向
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育の質向上について考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度資料を読み考える。

	教室外学習の時間（分）	100分
第14回	**授業テーマ**	まとめとふりかえり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学んだことをふりかえり，最終課題に向けた準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストや授業内で配布した資料をもとに本授業全体を振り返りまとめる。
	教室外学習の時間（分）	140分

学習計画注記

授業の進み具体等によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業についてフィードバック資料を作成し，次回授業時に配布する。

評価方法

・平常点は，学びに向かう姿勢，意欲，理解度を授業内課題への取り組み，リフレクションペーパーの記入状況，内容から評価する。
・最終レポート課題は， 授業到達目標の達成の程度を測るものとする。
・平常点，最終レポートは，下表に示す力を養うことを目的に実施する。
・成績評価はルーブリックに基づいて行う。ルーブリックはクラスルームまたは授業内での配布により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
最終レポート	○	○		

評価割合

平常点（70%)，最終レポート（30%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない。

参考図書

授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】領域人間関係，乳幼児期の人間関係の発達に関する専門的知識を有している。【思考・判断】子どもの人と関わる力を育む保育，保育者の援助について考えることができる。【関心・意欲・態度】現代社会に育つ子どもたちの人間関係をめぐる課題に関心をもち，保育者としてその解決に意欲的に取り組む姿勢をもつ。

オフィスアワー

水曜日４限 1626研究室（メールでの質問も歓迎します。訪問の場合可能な限り事前にご連絡下さい）

学生へのメッセージ

1.演習科目ですので、ワークやディスカッションに積極的に参加する姿勢を求めます。
2.毎回授業内容を復習しておいてください。

3.宿題とした予習課題は必ず次回までに取り組んでおいてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	小グループでのディスカッションを行う
情報リテラシー教育	○	・自分の興味・関心にそって情報収集を行い、自ら考察する経験を積み重ねる。
ICT活用		

講義コード	G04106201
講義名	環境の指導法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	中田 範子	指定なし

ナンバリング

P20210M22

授業概要(教育目的)

乳幼児の発達の特性や環境を通した教育の重要性を踏まえた、領域環境のねらい、内容に応じた指導法を修得する授業である。乳幼児は、様々な環境と関わりながら深い学びを実現する。このような乳幼児の発達の特性や環境を通した教育の重要性を踏まえた、乳児保育における三つの視点、及び領域「環境」の示すねらいや内容、内容の取扱いを踏まえた指導法について、カリキュラムマネジメントを意識しながら演習を通して理解を深めることを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	幼児期の環境との関わりの重要性を踏まえ、環境を通した教育と小学校教育への接続について理解する。
思考・判断の観点 (K)	環境を通した教育の指導を行うための教材の活用法を理解しその具体的な方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	国内外の乳幼児向けの自然体験活動の実践に関心を持ち、保育の質の向上に向けて、カリキュラムマネジメントの在り方を理解する。
技術・表現の観点 (A)	・指導計画(活動案)の作成を通して、年齢に応じた環境構成や援助、指導法を身につける。 ・園内環境構成案を作成し、子どもの豊かな経験に結びつく環境のあり方について考える。

学習計画

	授業テーマ	幼児の環境を通して学ぶ姿

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	レイチェルカーソン「センス・オブ・ワンダー」を参照しながら、乳幼児期の環境との関わりの重要性について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を踏まえ、環境の影響の大きさについて日常生活の中で考える。
	教室外学習の時間（分）	100
第2回	**授業テーマ**	幼児向け野外活動プログラムの実際と検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ネイチャーゲーム「森の色合わせ」の実践を通して、自然環境に対する興味を喚起し、自然に対する気づきの重要性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワークシートにネイチャーゲームを通して気づいたこと、子どもに気づいてほしいことを記入し、理解する。
	教室外学習の時間（分）	100
第3回	**授業テーマ**	季節の移り変わりに関する保育の指導法の検討①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	秋の自然環境を調査・発表し、保育内容にどのように取り入れるのかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	資料の収集と発表の準備。リフレクションシートの作成
	教室外学習の時間（分）	100
第4回	**授業テーマ**	季節の移り変わりに関する保育の指導法の検討②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	冬の自然環境を調査・発表し、保育内容にどのように取り入れるのかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	資料の収集と発表の準備。リフレクションシートの作成
	教室外学習の時間（分）	100
第5回	**授業テーマ**	季節の移り替わりに関わる保育内容の指導法の検討③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然環境を活用した保育内容や、指導法(保育形態、ICTの活用等)について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	資料の収集と発表の準備。リフレクションシートの作成
	教室外学習の時間（分）	100
第6回	**授業テーマ**	季節の移り変わりに関する保育の指導法の検討④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	秋の伝統行事を調査・発表し、保育内容にどのように取り入れるのかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	資料の収集と発表の準備。リフレクションシートの作成

	教室外学習の時間(分)	100
第7回	**授業テーマ**	季節の移り変わりに関する保育の指導法の検討⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	冬の伝統行事を調査・発表し、保育内容にどのように取り入れるのかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	資料の収集と発表の準備。リフレクションシートの作成
	教室外学習の時間(分)	100
第8回	**授業テーマ**	季節の移り変わりに関する保育の指導法の検討⑥
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	伝統行事を題材にした保育内容や、指導法(家庭や地域との連携、指導計画と実際等)について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	資料の収集と発表の準備。リフレクションシートの作成
	教室外学習の時間(分)	100
第9回	**授業テーマ**	園内環境の構成案の作成と検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	【私たちの園を作ろう】様々な園の園舎や園庭を調査し、子どもにとって有意義な園内環境を考える。また、園の設置基準に関する法令等を調査し、園の保育方針、人的配置等を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各班で、園庭や園舎を園のパンフレットの形式で作成する。
	教室外学習の時間(分)	120
第10回	**授業テーマ**	園外保育の計画作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	【秋の遠足の立案】秋の遠足に適した場所を検索し、立案する。また、その内容を保護者向けのおたよりの形式でまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	秋の遠足に適した場所を検索しておく。「保護者向けおたより」を完成する。
	教室外学習の時間(分)	120
第11回	**授業テーマ**	模擬保育①園生活と社会環境(保護者会を通した保護者との連携)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	立案した秋の遠足の内容を保護者向け説明会の形式で発表する。保護者の立場に立ってねらいと内容を分かりやすく説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の準備をする。秋の遠足のねらいと内容をどのようにわかりやすく説明するか、保護者に信頼感と安心感を得ることができる発表の方法を考える。
	教室外学習の時間(分)	100
	授業テーマ	模擬保育②園生活と社会環境(園外保育と自然環境に関わる保育内容)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰ	

第12回	ﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	立案した秋の遠足の内容を保護者向け説明会の形式で、発表する。想定される保護者からの要望への対応を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	保護者の立場に立って、保育者に対する要望や子どもに対する配慮等について想定し、よりよく家庭と連携しながら、子どもを中心とした保育への実現について考える。
	教室外学習の時間(分)	100
第13回	授業テーマ	模擬保育③園生活と社会環境(社会資源の活用と幼児の地域社会とのかかわり)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬保育を振り返り、省察しながら計画の修正を行う。また、家庭や地域との連携について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リフレクションシートを完成する。
	教室外学習の時間(分)	90
第14回	授業テーマ	幼児の事故の特徴と災害に対する安全教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育環境にある安全に対する配慮、災害に対する対応について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワークシートに授業内容と園での災害に対する対応について考察を記入する。
	教室外学習の時間(分)	90

学習計画注記

授業の進行状況等により、変更の可能性があります。

学生へのフィードバック方法

学生が提出した提出物はすべて添削、採点し、返却する。また、グループ討議や発表の際には、質疑応答を通して学習目標が達成できるように適宜助言する。

評価方法

提出物、学期末レポートの評価を点数化する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
園内環境構成案	○	○	○	○
保護者向けおたより	○	○	○	○
学期末レポート	○	○		○
発表	○	○	○	○

評価割合

提出物(30%)、発表(20%)、学期末レポート(50%)
ルーブリックに基づいて評価する。ルーブリックは授業内に提示する。

使用教科書名(ISBN番号)

無

参考図書

幼稚園教育要領、同解説書、保育所保育指針、同解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、同解説書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学を構成する 6 領域のうち、「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」を理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている
【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーシ ョン能力・感性が備わっている
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組む。
【技能・表現】保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている

オフィスアワー

火曜2限

学生へのメッセージ

「子どもと環境」で学んだことを整理し、実際に乳幼児と関わる経験と結びつけながら理解を深めてください。受け身ではなく、積極的な態度で授業に臨むことを期待しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、幼稚園・保育所で教諭・保育士として実務経験を有しており、領域「環境」の指導法について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	ネイチャーゲームの実施等を通して、体験を通して学ぶ。
情報リテラシー教育	○	季節の自然や伝統行事に関する資料を収集し、自ら設定したテーマのもとに情報をまとめ、発表する。
ICT活用	○	調査した季節の自然や伝統行事を発表する際には、画像や動画を用いて、発表内容をppt等にまとめ、他者に理解しやすく発表する。また、オンラインで保育現場とつなぎ、保育の実際に触れながら理解を深める。

講義コード	G04106301
講義名	表現の指導法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	新開 よしみ	指定なし
教授	立川 泰史	指定なし
教授	吉永 早苗	指定なし

ナンバリング

P20212M22

授業概要(教育目的)

領域「表現」は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目指すものである。乳幼児期に育みたい資質能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説に示されたねらい及び内容について、音楽・造形・身体表現領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想し、実現する方法を習得する。

履修条件

「子どもと表現」を履修しておくこと。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1. 領域「表現」のねらい及び内容並びに全体構造を理解し、乳幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点、評価、小学校の教科等とのつながりを理解している。
思考・判断の観点 (K)	1. 乳幼児の生活と実態に即した表現について構想することができる。 2. 表現活動を豊かにするための環境構成・指導法の工夫について考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. グループ討議、指導案の作成や模擬保育において積極的に協働し、自分の役割を見つけて寄与できる。
技術・表現 (A)	1. 指導案の作成や模擬保育への参加において、自分なりの感性、創造力、表現力

の観点	を十分に発揮することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	子どもの遊びや生活における表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの「表現」の捉え方について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第１章を精読しておく。
	教室外学習の時間（分）	150分
第2回	**授業テーマ**	音楽的な感性と表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの表現のありようについて、音楽の視点から考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第3章の精読
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	音楽表現の教材と指導法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	音楽表現の視点から、指導案の構造を理解し、表現のねらいについて具体的に考え、ねらいを実現する教材研究を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第7章の精読
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	3歳未満児の領域「表現」の指導方法及び保育の構想
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの姿を想定し、学内の施設・環境を活用した模擬保育の実践を通し、保育における表現活動のあり方を考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第2章の精読
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	3歳以上児の領域「表現」の指導方法及び保育の構想
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの姿を想定し、学内の施設・環境を活用した模擬保育の実践を通し、保育における表現活動のあり方を考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第6章の精読
	教室外学習の時間（分）	240分
第6回	**授業テーマ**	乳幼児期の発達と表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	表現における素材との出会い、他者との関わり、子どもの思い・保育者の思い等について考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第2章の精読
	教室外学習の時間（分）	240分
第7回	**授業テーマ**	身体的な感性と表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの表現のありようについて、身体表現の視点から考える

	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第5章の精読
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	領域「表現」と環境構成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	豊かな感性を育み表現を引き出す環境構成について考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第3章の精読
	教室外学習の時間（分）	150分
第9回	**授業テーマ**	造形的な感性と表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの表現のありようについて、造形の視点から考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの第4章の精読
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	領域「表現」と小学校教科等とのつながり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	領域表現を視点として小学校への接続を考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第9章の精読
	教室外学習の時間（分）	150分
第11回	**授業テーマ**	造形表現の教材と指導法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	造形表現の視点から、指導案の構造を理解し、表現のねらいについて具体的に考え、ねらいを実現する教材研究を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第8章の精読
	教室外学習の時間（分）	150分
第12回	**授業テーマ**	表現活動におけるICTの活用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報機器及び教材の活用法について体験的に学び、保育に活用できるアイディアを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	表現活動におけるICT活用の事例を収集する
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	**授業テーマ**	領域「表現」の歴史と内容
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の変遷とその理由について考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第1章を参照するとともに、要領や指針の変遷とその理由について調べておく
	教室外学習の時間（分）	240分
	授業テーマ	乳幼児期の表現に関わる現代的課題 振り返りと総括
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	乳幼児期の表現に関わる課題、研究動向についての知識を広げるとともに、 これまでの学びを振り返り、乳幼児の表現とその指導の

第14回	含む)	あり方について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第9章の精読 これまでの学習を振り返り、3年次での実習で取り組みたい表現活動について具体的にまとめる
	教室外学習の時間（分）	300分

学習計画注記

「表現の指導方法と保育の構想」では、グループに分かれて指導案を作成し、模擬保育とその振り返りを行います。模擬保育では、保育者役を担当する人以外は幼児役を担当し、その年齢の幼児になりきることで子ども理解を深めます。

学生へのフィードバック方法

3名の授業担当者より、それぞれの専門の立場からコメントやアドバイスを加えながら授業を進行します。質問はメール等でも随時受け付けます。

評価方法

以下の５つの観点から３名の教師が総合的に評価を行う（Googleクラスルームにルーブリックを提示する）。
1. 乳幼児の表現のありようと指導上の留意点を理解している。
2. 情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。
3. 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
4. 模擬保育とその振り返りを通し、他者と協力して保育を改善する視点を見出すことができる。
5. 保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
学びの過程の評価		○	○	○
学びの成果の評価	○	○	○	○

評価割合

学びの過程の評価（課題提出・グループ発表や模擬保育への参加等）70%、学びの成果の評価（最終レポート）30%、 の割合で総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

子どもの活動が広がる・深まる保育内容「表現」吉永早苗編集 中央法規

参考図書

幼稚園教育要領
保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領
小林紀子・砂上史子・刑部育子編著 新しい保育講座11 保育内容「表現」
ミネルヴァ 書房
無藤隆監修・浜口順子編者代表『事例で学ぶ保育内容 領域「表現」』萌文書林 2018 (978-4-89347-260-1)

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもの表現についての知識を広げ、より豊かな感性と表現を育むための指導法について理解している。
【思考・判断】模擬保育における具体的・実践的な場面において、自ら様々な課題に柔軟に対

応できる。
【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。
【技能・表現】本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー

新開：金曜４限 1635研究室
吉永：月曜３限 1601研究室
立川：水曜３限 1629研究室

学生へのメッセージ

ICTを活用し、ドキュメンテーションやポートフォリオなどの記録、幼児にわかり易い教材や資料の作成を行ってみましょう。
グループで指導案作成に取り組み、協働して模擬保育を展開することができるよう、自主学習を行ってください。
幼稚園教諭一種免許状・保育士資格取得に必要な授業科目であることに留意すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者は、国公立小学校教諭として従事した経験を有する。文部科学省検定教科書の編修や文部科学省学習資料作成委員として教育委員会主催の現職教員の研究研修や地域行政・企業と連携するネットワークを生かし、今日的な教育・保育課題に対応する知識や情報を提供する。
アクティブ・ラーニング	○	指導案作成や模擬保育のほか、グループワークを多く取り入れています。
情報リテラシー教育	○	活動をデジタル機器に記録・保存したり、トピック・エピソードを精選したりする活動を通して、情報管理や発信に関する倫理観、基本的な処理技能を高める。
ICT活用	○	乳幼児期の表現教育におけるICT活用について学ぶと共に、学生自身がタブレット型PCやアプリケーションを用いて、学習プロセスのドキュメンテーションや相互評価を行う。

講義コード	G04106401
講義名	保育内容総論Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	中田 範子	指定なし

ナンバリング

P20203M21

授業概要(教育目的)

「保育内容総論A」で学習した内容を踏まえ、現行の幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の5領域にそれぞれ示されているねらい、内容、内容の取扱いについての理解を深める。さらに、年齢に応じた保育の計画と実践に関する今日的課題に視点を広げ、発達段階に応じた保育の計画と指導法のあり方について演習を通して検討し、学生自らの発見をもとに理解を深める。

履修条件

「保育内容総論A」の単位を取得した者を原則とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	乳幼児期の発達の特性を踏まえ、一人ひとりの乳幼児の特性に応じた援助の重要性を説明できる。 国内・国外の保育の実際を参考にしながら、乳幼児の興味や発達の特性に応じた援助の在り方を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	乳幼児期の遊びや環境の重要性を踏まえ、遊びを通した保育を行うための教材の活用法を理解しその具体的な方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	作成した指導案を検討し、振り返りながら保育を改善する視点を身に付ける。
技術・表現の観点 (A)	それまで得られた保育に関するあらゆる知識を関連付けながら、実際を想定して指導計画(活動案)を作成し、適した保育技術を身につける。

学習計画

		幼児の園生活と保育者の援助①

第1回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンス「個と集団」「一人で遊ぶ子ども」をテーマとした事例をもとに、討議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分が気になる子どもの特徴とその理由について覚知する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	幼児の園生活と保育者の援助②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「子ども同士の育ちあい」「子どもの自己主張と自己抑制」をテーマにした事例をもとに討議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料の演習問題を完成する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	幼児の園生活と保育者の援助③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	園生活を映し出した動画を視聴し、作成したエピソード記録をもとに、保育者の援助の意図を見出し、子ども理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料の演習問題を完成する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	乳児の生活と保育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児の発達の特徴と保育者の援助について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章を予習し、乳児の言葉と人とのかかわりについて内容を確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	1-2歳児の生活と保育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1-2歳児の発達の特徴と遊び、おもちゃとの関わりについて理解し、物とのかかわりの重要性について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章を予習し、1-2歳児の言葉と人とのかかわりについて内容を確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	様々な保育形態
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域型保育事業の実際から、1,2歳児の保育の理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料の演習問題を完成する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	3～4歳児の生活と保育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3～4歳児の発達の特徴と遊び、遊びの意義について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワークシートを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	200分

第8回	授業テーマ	4～5歳児の生活と保育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4～5歳児の発達の特徴と遊び、子ども同士の関係への援助について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワークシートを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	諸外国の特徴的な指導法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	諸外国の先駆的な幼児教育について学び、理論や指導法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワークシートを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	保育に活用する教材について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育に活用できる身近な素材と環境構成について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	サブノートのテーマ1,2を完成する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	保育内容と指導計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指導計画(活動案)の作成について理解し、年齢に応じた保育内容を考案・作成・検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第10章を予習し、計画作成の概要について内容を確認する。各グループで討議をすすめ、指導計画を完成する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	模擬保育①音楽遊びの展開
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した指導計画をもとに、音楽遊びをテーマとした模擬保育を行う。時系列の観察記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬保育の省察をもとに計画の修正をする。観察記録を完成する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	模擬保育②造形遊びの展開
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した指導計画をもとに、造形遊びをテーマとした模擬保育を行う。エピソード記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬保育の省察をもとに計画の修正をする。観察記録を完成する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	模擬保育③運動遊びの展開
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した指導計画をもとに、運動遊びをテーマとした模擬保育を行う。エピソード記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬保育の省察をもとに計画の修正をする。観察記録を完成する。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

授業の進行状況等により変更の可能性があります。

学生へのフィードバック方法

提出された指導案はすべて確認し、修正点について適宜コメントする。観点は、年齢に応じた保育内容であること、ねらいと内容が合致していること、保育の展開方法が適切であること等である。

評価方法

サブノート、学期末レポート、模擬保育を点数化して評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
指導案作成	○	○	○	○
サブノート	○	○	○	○
学期末レポート	○	○		

評価割合

指導案の作成25%、サブノート25%、学期末レポート50%
ルーブリックに基づいて評価する。ルーブリックは授業内に提示する。

使用教科書名(ISBN番号)

中田範子著「子どもの育ちと環境ー未来を見据えた保育の探求」大学図書出版

参考図書

幼稚園教育要領、同解説書、保育所保育指針、同解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、同解説書
その他、適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学を構成する 6 領域のうち、「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」を理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【関心・意欲・態度】子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。
【技能・表現】保育者・教育者として求め られる豊かな表現力を身につけている。

オフィスアワー

火曜3限

学生へのメッセージ

学習を進めていく中では疑問点を持つことは大切です。疑問・質問がある場合には、遠慮せずに申し出てください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、幼稚園・保育所で教諭・保育士として実務経験を有しており、幼稚園、保育所の保育の実際について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラー	○	学生が指導計画作成及び検討を通して、考案した保育内容をどのように実現するかを考え、理解する。また、子ども同士の関係や保育者の援助をテーマとし

ニング		た、グループ討議を行う。
情報リテラシー教育	○	乳幼児に適した保育内容について調査し、情報を収集し、指導案作成に活用する。
ICT活用	○	画像や動画を活用しながら、保育所の生活や保育士の援助の実際を理解する。 また、オンラインで保育現場とつながり、実際を理解しながら学ぶ。

講義コード	G04106501
講義名	保育の計画と評価
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	和田 美香	指定なし
教授	中田 範子	指定なし

ナンバリング

P30201M21

授業概要(教育目的)

保育所及び幼保連携認定こども園における、全体的な計画と指導計画の意義を伝える。その種類と役割を理解しつつ、保育内容の充実に資する計画と評価の在り方を具体的に考えられるようにする。
乳幼児の育ちを支えるための記録・計画・実践・評価の関連性について理解しながら、よりよい保育の在り方を探ることが目的である。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解する。
思考・判断の観点 (K)	子ども理解に基づく保育の過程について理解しながら、それぞれの保育観を考えていく。
関心・意欲・態度の観点 (V)	保育の内容の充実と質の向上について関心をもって取り組む。
技術・表現の観点 (A)	保育内容の充実と質の向上について技術的な面を含め修得する。

学習計画

保育の計画と評価

第1回	**授業テーマ**	カリキュラムの基礎理論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	カリキュラムの基礎理論について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で使用したパワーポイントやワークシートなどの資料をもとに、カリキュラムの考え方について復習をする。
	教室外学習の時間(分)	200分
第2回	**授業テーマ**	保育における計画と評価の意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育における計画と評価の意義について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で使用したパワーポイントやワークシートなどの資料をもとに、計画と評価の意義について復習をする。 保育の過程の循環について予習しておく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第3回	**授業テーマ**	子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の循環による保育の質の向上
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子ども理解についてどのような方法があるか考えてみる。 子どもの姿から考える保育の過程の循環を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で使用したパワーポイントやワークシートなどの資料をもとに、子ども理解に基づく保育の過程の循環について復習をする。 保育所保育指針や幼稚園教育要領を手元において読み、次の授業の準備をしておく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第4回	**授業テーマ**	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容及び社会的背景
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容及び社会的背景について、保育の実際をイメージしながら理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で使用したパワーポイントやワークシートなどの資料をもとに、指針と要領の内容と社会的背景について復習をする。 保育所保育指針等をよく読んで、保育の目標について予習しておく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第5回	**授業テーマ**	保育所保育指針等における保育の目標と計画の基本的考え方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育の目標と計画の基本的考え方について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で使用したパワーポイントやワークシートなどの資料をもとに、保育の目標について復習をする。 保育所保育指針等をよく読んで、全体的な計画と指導計画について予習しておく。

	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	指導計画（長期的・短期的）の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	短期的・長期的な指導計画を全体的な計画と指針・要領を踏まえて作成する。 実践例などを検討しながら、具体的に考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で使用したパワーポイントやワークシートなどの資料をもとに全体的な計画と指導計画の関係について復習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	全体的な計画と指導計画の関係性・前半のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全体的な計画と指導計画の関係性について、実践をイメージしながら。具体的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で使用したパワーポイントやワークシートなどの資料をもとに、全体的な計画と指導計画の関係について復習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	保育の記録の振り返り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の保育実践の記録を振り返り、不明な点を明らかにして解決方法を考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習日誌等を手がかりに保育実践の振り返りをする。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	保育所の日案の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	記録に基づき、保育所の一日の流れを理解しながら、一日の計画を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	記録を整理し確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	保育所の日案の作成と検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考案した活動案を実践する一日を想定して、日案を作成・検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作成した日案のコメントを参考にしながら、検討・修正をする。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	保育所の月案の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	長期的な視野で子どもの生活を捉え、各月で経験したい保育内容を精査しながら、月案を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	月案を完成する。
	教室外学習の時間（分）	190分

第12回	授業テーマ	保育所の月案の作成と検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した月案を精査・検討し、保護者に向けた案内を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	保護者向けの案内を完成する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第13回	授業テーマ	省察とまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所保育指針を復習しながら、省察・自己評価の意義を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業内容を復習する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第14回	授業テーマ	家庭との連携まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭と連携した記録・計画について概要を理解し、授業内容を復習しながらまとめを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	保育所保育指針に記載の内容について復習する。
	教室外学習の時間(分)	190分

学習計画注記

原則講義形式で行うが、動画視聴、グループワーク、ディスカッション等も取り入れる。
よりアクティブラーニングを意識した授業展開を行うこととする。
現場で起こっている実際問題にも触れながら、より具体的な授業内容になるようにしていく。

学生へのフィードバック方法

提出物については、添削して返却する。
質問は、次の回に全体に共有する形でフィードバックする。

評価方法

平常点20%、定期試験80%で評価する。
ルーブリックに基づく成績評価をする。
（ルーブリックについては、Googleクラスルームまたは授業内での配付等により提示をする。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点		○	○	○
定期試験	○			

評価割合

定期試験（80%）、平常点（20%）

使用教科書名(ISBN番号)

・子どもの姿ベースの新しい指導計画の考え方

参考図書

・０，１，２歳児 子どもの姿ベースの指導計画
・３，４，５歳児 子どもの姿ベースの指導計画

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。
子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解する。
【思考・判断】子ども理解に基づく保育の過程について理解しながら、それぞれの保育観を考えていく。
【関心・意欲・態度】保育の内容の充実と質の向上について関心をもって取り組む。
【技能・表現】保育内容の充実と質の向上について技術的な面を含め修得する。

オフィスアワー

月曜2限から4限（和田）
火曜3限(中田)

学生へのメッセージ

保育所保育指針、幼稚園教育要領、教育・保育要領の内容がわかるものを手元において随時読んでください。
毎回予習復習をし、理解が十分でなかった点については復讐をするか。自分で調べて確認をしておいてください。
保育の基本を理解する重要な科目です。
積極的に参加することを期待します。
授業資料をGoogleクラスルームに配信する場合があるので、PCを用意してください。（スマホでも可）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は現場経験を有しており、子どもと関わるうえで必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授を行う。
アクティブ・ラーニング	○	発表などを通して講義形式の中にもアクティブラーニングの要素を取り入れる。
情報リテラシー教育	○	調べ学習で情報を収集する際、その情報の発信元や発信の目的などに目を向けて、信憑性のある情報か否かを判断する。
ICT活用	○	保育現場におけるＩＣＴの活用を授業の中で体験してみる。

講義コード	G04106601
講義名	外国語科教育法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	山田 浩	指定なし

ナンバリング

P30308M21

授業概要(教育目的)

学習指導要領に基づき、小学校における外国語活動・外国語の指導方法を身に付ける。具体的には、他校種の外国語教育との連携、小学校外国語教育に係る教材、児童期の第二言語習得理論などの基本を理解する。その上で、実際の教育現場で遭遇するであろう諸課題を予測し、それに対応するための思考力や判断力を養う。さらに、教師としてどのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送っていくかについて主体的に考え、適切な教育観を身につける。
授業では、小学校における外国語教育法について講義を受けるだけでなく、小学校英語教育に関わる諸問題や、教師として生きていく上での諸課題を発見し、調査や実験を通じて主体的に解決策を見出し、他者と互いに考えを表現し合うことで幅広い視点から考察する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日本の外国語（英語）教育における小学校「外国語」「外国語活動」の役割を知り、児童や学校の多様性に柔軟に対応するための基本的な事項を理解する。
思考・判断の観点 (K)	小学校「外国語」「外国語活動」担当教員の問題を自分の問題として考えることができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	「外国語」「外国語活動」の授業を、自分が教師として担当するという意識を持つ。
技術・表現の観点 (A)	自らが外国語（英語）でコミュニケーションしたいと思う。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	小・中・高等学校外国語科の目標
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習指導要領に基づいて、日本の小学校における外国語教育の歴史を振り返るとともに、小学校から高等学校までの外国語教育の目標を理解することにより、日本の外国語教育の目標を考察する。
	教室外学習(予習・	授業中に指示された課題学習をする。

	復習)の内容	
	教室外学習の時間(分)	200分
第2回	**授業テーマ**	教材や教具の特徴と活用方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校での外国語教育で活用できる教材・教具を概観し、主体的・対話的で深い学びの中で教材・教具を用いて身につけさせる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に指示された課題学習をする。
	教室外学習の時間(分)	200分
第3回	**授業テーマ**	第二言語習得理論１（音声によるインプット）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第二言語習得理論に基づき、音声を重視する外国語教育の重要性を理解するとともに、音声による効果的なインプットの条件を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に指示された課題学習をする。
	教室外学習の時間(分)	200分
第4回	**授業テーマ**	第二言語習得理論２（音声から文字への移行）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第二言語習得理論に基づき、小学校における文字指導の重要性と目標を理解し、アルファベットの識別から簡単な語句や基本的な表現を用いた文を書かせるまでの段階的な指導を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に指示された課題学習を行う。
	教室外学習の時間(分)	200分
第5回	**授業テーマ**	コミュニケーション活動１（児童の発話を引き出す工夫）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童から発話を引き出したり、児童間のやり取りを促したりする工夫として、インフォメーション・ギャップを生かした段階的なスピーキングの指導を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に指示された課題学習をする。
	教室外学習の時間(分)	200分
第6回	**授業テーマ**	コミュニケーション活動２（文字の指導）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	まとまりのある文章を黙読させたり音読させたりする際に、グループでの活動を実施することによって児童の関心や意欲を引き出す指導を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に指示された課題学習をする。
	教室外学習の時間(分)	200分
第7回	**授業テーマ**	中間のまとめと振り返り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでに学習した内容を確認し、自分の学習を振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に指示された課題学習をする。
	教室外学習の時間(分)	200分
	授業テーマ	授業計画の立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆ	学習指導要領や第二言語習得理論を踏まえて、コミュニケーション活動を軸に

第8回	ﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	した授業計画を立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に指示された課題学習をする。
	教室外学習の時間(分)	200分
第9回	授業テーマ	模擬授業１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでに学習した内容を踏まえて、模擬授業を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に指示された課題学習をする。
	教室外学習の時間(分)	200分
第10回	授業テーマ	模擬授業２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでに学習した内容を踏まえて、模擬授業を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に指示された課題学習をする。
	教室外学習の時間(分)	200分
第11回	授業テーマ	模擬授業３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでに学習した内容を踏まえて、模擬授業を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に指示された課題学習をする。
	教室外学習の時間(分)	200分
第12回	授業テーマ	模擬授業４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでに学習した内容を踏まえて、模擬授業を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に指示された課題学習をする。
	教室外学習の時間(分)	200分
第13回	授業テーマ	模擬授業５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでに学習した内容を踏まえて、模擬授業を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に指示された課題学習をする。
	教室外学習の時間(分)	200分
第14回	授業テーマ	模擬授業の反省と振り返り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習指導要領、第二言語習得理論、コミュニケーション活動等の観点から自分自身および他の学生による模擬授業を振り返り、よりよい授業に向けた改善点を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に指示された課題学習をする。
	教室外学習の時間	100分

	（分）	

学習計画注記

・詳細な内容は、第１回目の授業で提示します。
・毎回の授業中に、次の授業までにこなしておく課題を提示しますので、それに取り組んでください。

学生へのフィードバック方法

提出された振り返りシートなどに記入されたコメントに対して、次の授業時にフィードバックをする。

評価方法

・模擬授業、平常点、レポート
・ルーブリックは、第１回目の授業で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
模擬授業	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○
レポート		○	○	

評価割合

(1) 模擬授業（40%）
(2) 平常点（40%）
(3) レポート（20%）

使用教科書名(ISBN番号)

・小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編（平成29年） 文部科学省
（https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_011.pdf）

参考図書

・小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm）文部科学省
・We Can! 1 & We Can! 2（外国語教科書） 文部科学省
・Let's Try! 1 & Let's Try 2（外国語活動資料） 文部科学省

ディプロマポリシーとの関連

・家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている。
・子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。

学生へのメッセージ

教師自身が英語を使ってコミュニケーションを楽しんでいる姿を児童に見せることが、効果的な授業の第一歩になります。他の学生と協力しながら、小学校での外国語教育に関わる理論と実践を学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自らが体験する。自分の考えを他者に伝える。グループ内で協働作業をして、目標に達する。
情報リテラシー教育	○	必要な情報を検索する。情報モラルに関して確認する。伝えるためのテクニックを取得する。
ICT活用	○	必要な場合、WEB面接ツール等を利用する。

講義コード	G04106701
講義名	子ども家庭支援の心理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	柳瀬 洋美	指定なし

ナンバリング

P30403M21

授業概要(教育目的)

生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題について理解する。また、家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。その他、子育て家庭を巡る現代の社会的状況と課題について理解し、子どもの精神保健とその課題について理解する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．生涯発達に関する関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達 課題等について理解する。 ２．子どもの精神保健とその課題について理解する。
思考・判断の観点 (K)	家族･家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。
技術・表現の観点 (A)	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解し、課題に対応するために必要な心理臨床の基礎的な理論・方法を学ぶ。

学習計画

	授業テーマ	乳幼児期から学童期前期にかけての発達と心理臨床（柳瀬）

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳幼児期～学童期前期の発達課題や家族関係について学ぶとともに、この時期に多く見られる心理臨床的な課題とその対応について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	乳幼児期の基本的な発達について、これまで学んできたことも踏まえて理解する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	学童期後期から青年期にかけての発達と心理臨床（柳瀬）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学童期後期から青年期の発達課題や家族関係について学ぶとともに、この時期に多く見られる心理臨床的な課題とその対応について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学童期後期から青年期の基本的な発達について、これまで学んできたことも踏まえて理解する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	成人期･老年期における発達と心理臨床（柳瀬）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	成人期・老年期の発達課題や家族関係について学ぶとともに、この時期に多く見られる心理臨床的な課題とその対応について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	今回の授業で学んだことを元に、成人期・老年期の発達課題についてさらに理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	家族･家庭の意義と機能（柳瀬）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家族･家庭の意義と機能について、「子どもの成長」という観点から理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまで学んできたことや自分自身が経験したことをもとに、配布資料をもとに課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	親子関係･家族関係の理解（柳瀬）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	親子関係･家族関係に関する様々な事例の検討を通し、心理臨床的な課題への理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	今回の授業で学んだことをもとに、親子関係･家族関係に関する臨床事例についてさらに検討し、理解を深める。

	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	子育ての経験と親としての育ち（柳瀬）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「育てられるもの」から「育てるもの」へという視点から、子育ての経験を通して親が親として成長していく過程やそこに生じる心理臨床的な課題について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	今回の授業で学んだことをもとに、子育てをめぐる臨床事例についてさらに検討し、理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	子育てを取り巻く社会的状況（柳瀬）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子育てを取り巻く、現代日本社会の現状について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子育てに関する記事等を調べ、授業で学んだことを元に自身で検討し、その問題点についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	ライフコース・ライフサイクルと仕事･子育て（柳瀬）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代日本人のライフコース・ライフサイクルについて、諸外国との比較も交えながら学ぶ。また、女性のライフサイクルにおける「仕事と子育て」について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	現代日本社会における「仕事と子育て」に関する記事等を調べ、授業で学んだことを元に自身で検討し、その問題点についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	多様な家庭とその理解（柳瀬）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家族や家庭の多様性とその現状について知り、支援の基本について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	今回の授業で学んだことをもとに、自分が興味を持った「家庭」をひとつ取り上げ、課題についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	特別な配慮や支援を要する家庭（柳瀬）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別な配慮や支援を要する家庭にはどのような家庭があるのか、そしてどのような課題を抱えているのかについて学ぶ。

	教室外学習(予習・復習)の内容	今回の授業で学んだことをもとに、特別な配慮や支援を要する家庭に関する臨床事例について検討しまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	子どもの精神保健と心理臨床（発達に課題のある子どもたち）（柳瀬）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・発達に課題のある子どもたちについて、障がいと児童養護の両方の視点から検討し、子ども理解を深める。 ・発達的課題や心理臨床的な課題を抱える子どもについて、その現状と課題をどのように理解し、支援方針を立てていくかについて、その基本を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	今回の授業で学んだことをもとに、障がいのある子どもたちの臨床事例について検討しまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	子どもの生活･生育環境とその影響（柳瀬）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもに関する諸課題の背景にある家庭問題に焦点を当て、子どもの生活･生育環境が与える影響について知り、生涯発達という観点から考える。授業では、おもに児童虐待を取り上げ、「世代間連鎖」という視点から、子育て支援、家庭支援のあり方について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	今回の授業で学んだことをもとに、児童虐待に関する臨床事例について検討しまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	子どもの心の健康に関わる問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	精神医学の観点から、子どもの心の健康に関わる様々な問題と支援の基本について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	今回の授業で学んだことをもとに、興味・関心を持った子どもの心の健康に関わる様々な問題を自身で取り上げ、検討し、得られた考察をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	70分
第14回	**授業テーマ**	１．子どもと家庭支援のあり方について、心理臨床的な視点から検討し、理解を深める。 ２．まとめと確認テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業全体を振り返り、最後に、子育て支援・家庭支援に関する基礎知識を問い、臨床的な課題への対応について考える確認テストを実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	確認テストはテキストや授業内で配布した資料、板書の内容から提出する。
	教室外学習の時間（分）	300分

学習計画注記

※履修者の保育・教育実習の状況や授業の進み具合によりスケジュールが変更になることがあります

学生へのフィードバック方法

授業内ミニ課題やリアクションペーパーを実施し、次の回の授業時間内に、寄せられた質問への回答や解説する。また、学生の興味・関心を授業内容に適宜反映させる。

評価方法

・平常点は，学びに向かう姿勢，意欲，理解度を授業内課題への取り組み，リフレクションペーパーの記入状況，内容から評価する。
・まとめテストや最終レポート課題は， 授業到達目標の達成の程度を測るものとする。
・平常点，最終レポートは，下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業内課題	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	

評価割合

定期試験60%、授業内ミニ課題30%、平常点（授業への取り組み等）10%
ルーブリックに基づいて評価する。ルーブリックは授業内に提示する。

使用教科書名(ISBN番号)

柳瀬洋美，2022「気になる保護者の理解のために－内なる子どもとの対話を通して」ジアース教育新社

参考図書

適宜、授業内で紹介していく。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】領域人間関係，乳幼児期の人間関係の発達に関する専門的知識を有している。【思考・判断】子どもの人と関わる力を育む保育，保育者の援助について考えることができる。【関心・意欲・態度】現代社会に育つ子どもたちの人間関係をめぐる課題に関心をもち，保育者としてその解決に意欲的に取り組む姿勢をもつ。

オフィスアワー

水曜日５限 1609研究室（その他、メールで積極的に連絡してください。）

学生へのメッセージ

1.日頃より、子育て支援に関する情報に注目し、
2.毎回授業内容を復習しておいてください。
3.宿題とした予習課題は必ず次回までに取り組んでおいてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者は障害児療育センターや子育て支援センターにおいて長年の臨床経験を有している。授業には子ども家庭支援に関する実践的な内容の資料や事例を教材として効果的に取り入れていく。
アクティブ・ラーニング	○	調べ学習を積極的に取り入れ、学生自らが問題意識をもって授業の課題に取り組む。
情報リテ		

ラシー教育	○	現代の子育て家庭を取り巻く現状を踏まえ、情報機器やITネットワークを活用した子ども家庭支援のあり方について考えていく。
ICT活用		

講義コード	G04106801
講義名	多文化教育・保育
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	中田 範子	指定なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	G04106901
講義名	インターンシップ（小学校）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	齋藤 義雄	指定なし

ナンバリング

P10307M23

授業概要(教育目的)

小学校の教育現場において、教師としての経験を積むために、インターンとして仕事の一部を体験する。教育現場でのインターンとしての活動では、学生ではなく教師としての言動が望まれる。事前の学習では、小学校の現状・インターンシップについて基礎的なものを学ぶ。体験後、学んだことをレポートにまとめるとともに、成果報告会でのプレゼンテーションなどの振り返り（リフレクション）を通して、教育実習に生かすことはもとより、将来の職業選択・キャリア形成に資する力の育成を目指す。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	教職に関する知識を身につけ、教職について理解している。
思考・判断の観点 (K)	子ども、教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教職に関する関心があり、教育現場での体験に意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	実践を通して、教える技術や表現の仕方を学ぶ。

学習計画

インターンシップ

第1回	授業テーマ	1 オリエンテーション・校種選択
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップに関する概要を知る。 インターンシップの意義と目的、心構え、勤務規律等
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップの意義と目的について確認する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	授業テーマ	2 インターンシップの概要、インターンシップ校の研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップの概要について理解する。インターンシップ校の研究（学校目標、教育課程等）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップの概要について確認する。インターンシップ校について調べる。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	3 インターンシップの心得
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップの心得について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップの心得について確認する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	授業テーマ	4 インターンシップ校の研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ校の研究（学校目標、教育課程 等）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ校の研究（学校目標、教育課程 等）について調べる。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	5 インターンシップ校の研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ校の研究（教育課程、日課表等）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ校の研究（教育課程、日課表等）について調べる。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	6 自己紹介文の書き方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己紹介文を書く、指導法、学習指導案、教育活動の理解
	教室外学習(予習・復習)の内容	自己紹介文を確認する。指導法、学習指導案、教育活動について確認する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	7 日誌の書き方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日誌の書き方
	教室外学習(予習・復習)の内容	日誌の書き方を確認する。
	教室外学習の時間（分）	50分
		8 直前の最終確認、危機管理・アレルギー対策、日常生活

第8回	授業テーマ	の中での指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	直前の最終確認（インターンシップ日誌の書き方、心構え）危機管理・アレルギー対策、日常生活の中での指導
	教室外学習(予習・復習)の内容	直前の最終確認（インターンシップ日誌の書き方、心構え）をする。危機管理・アレルギー対策、日常生活の中での指導を確認する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第10回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第11回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第12回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第13回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第14回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）

	教室外学習の時間（分）	
第15回	**授業テーマ**	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第16回	**授業テーマ**	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第17回	**授業テーマ**	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第18回	**授業テーマ**	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第19回	**授業テーマ**	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第20回	**授業テーマ**	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第21回	**授業テーマ**	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	

第22回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第23回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第24回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第25回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第26回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第27回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第28回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	

第29回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第30回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第31回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第32回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第33回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第34回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第35回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
	授業テーマ	インターンシップ

第36回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第37回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ（８時間×６日間）
	教室外学習の時間（分）	
第38回	授業テーマ	1 リフレクション（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップの振り返り、各自の成果と課題をまとめる（ワークシート） 観察した内容の整理、指導内容の再現（報告）
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップの振り返り、各自の成果と課題のまとめ（ワークシート）を確認する。 観察した内容の整理、指導内容の再現（報告）を確認する。
	教室外学習の時間（分）	50分
第39回	授業テーマ	2 リフレクション（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップの振り返り、成果のパワーポイントの作成
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップの振り返り、成果のパワーポイントの作成。
	教室外学習の時間（分）	50分
第40回	授業テーマ	3 リフレクション（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ報告会 パワーポイントによるプレゼンテーション
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターンシップ報告会 パワーポイントによるプレゼンテーション
	教室外学習の時間（分）	50分
第41回	授業テーマ	4 リフレクション（4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	まとめ、報告会についてまとめることを通して、インターンシップのまとめを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	まとめ、報告会についてまとめることを通して、インターンシップのまとめを行う。
	教室外学習の時間（分）	50分

学生へのフィードバック方法

インターンシップを通して、教育現場の現実をよく理解してほしい。

評価方法

インターンシップ校による観察に基づく評価と事前・事後指導の平常点

ルーブリックで評価する場合は、授業で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
観察			○	
平常点			○	

評価割合

インターンシップ校による観察に基づく評価（７０％）
事前・事後指導の平常点（３０％）

使用教科書名(ISBN番号)

授業で紹介する

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的知識が修得できている。
【思考・判断】子ども、保育者、教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。
【技術・表現】事前指導では、学校のホームページ等で情報を収集する技術を学ぶとともに、事後指導では成果をパワーポイント等にまとめ、プレゼンテーションで成果を表現する。

オフィスアワー

随時 １６２８研究室

学生へのメッセージ

インターンシップは、教育現場を知る貴重な機会である。教育実習の準備段階でもあるが、将来の職業選択やキャリア形成に役立ててほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教職の実践経験を活かし、実践事例を含めて説明する。
アクティブ・ラーニング	○	グループラーニングやプレゼンテーションを取り入れたアクティブラーニングを実践する。
情報リテラシー教育	○	事前指導では、学校のホームページ等で情報を収集するとともに、事後指導では成果をパワーポイント等にまとめ、プレゼンテーションを実施する。
ICT活用	○	パワーポイントを活用したプレゼンテーションを授業で取り入れるように心がけるとともに、授業を録画し、欠席者等にＹＯＵＴＵＢＥで公開できるように努める。

講義コード	G04107001
講義名	インターンシップ（特別支援学校）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	児童学科・2年次以降
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	齋藤 義雄	指定なし
教授	江田 裕介	指定なし
非常勤講師	原田 一義	指定なし

ナンバリング

P10307M23

授業概要(教育目的)

特別支援学校等の教育現場において、教師としての経験を積むために、インターンとして仕事の一部を体験する。教育現場でのインターンとしての活動では、学生ではなく教師としての言動が求められる。事前学習では、特別支援学校の学校教育目標や教育課程、在籍する児童生徒の障害特性等について学び、インターンシップ先となる学校の情報収集を行う。インターンシップ実施中は日々の経験から学んだことを日誌にまとめる。終了後は、学んだことを授業内でディスカッションし、レポートにまとめるたりプレゼンテーションを行うことなどを通して振り返る。将来の職業選択・キャリア形成に資する力の育成を目指す。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	特別支援学校に勤務する教育職員の職務を知り、障害のある児童生徒の教育を行う上で必要な資質・能力について理解している。
思考・判断の観点 (K)	具体的・実践的な機会を通して、様々な課題に柔軟に対応することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	特別支援学校の教育職員の職務に関心をもち、社会人としてのマナーを守りながら意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	障害のある児童生徒の教育や支援について、実践的な技能を身につける。

学習計画		
インターンシップ（特別支援学校）		
第1回	授業テーマ	1 オリエンテーション・校種選択（事前指導）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップに関する概要を知り、インターンシップの意義と目的・心構え、勤務規律等を学ぶ。 近隣の特別支援学校を調べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第2回	授業テーマ	2 インターンシップ校の研究（事前指導）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ校の研究（学校教育目標、教育課程、時間割、設置学部等）
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第3回	授業テーマ	3 インターンシップの心得、様々な障害の理解と支援（事前指導）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップの心得について理解する。 インターンシップ先の特別支援学校に通う児童生徒の障害特性に関する知識を深める（知・肢・聴・視の障害特性、自閉症の特性 等）
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第4回	授業テーマ	4 特別支援学校の教育課程（事前指導）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・インターンシップ先の特別支援学校の教育課程に関する知識を深める（知・肢・聴・視の障害特性、自閉症の特性等）
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第5回	授業テーマ	5 特別支援学校で行われる教科・領域①「自立活動の指導」（事前指導）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別支援学校：自立活動の６区分27項目の内容と指導法および個別の指導計画について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第6回	授業テーマ	6 特別支援学校で行われる教科・領域②「知的障害特別支援学校における国語算数指導」（事前指導）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別支援学校：知的障害特別支援学校小学部における国語算数指導（指導法、学習指導案、教育活動の理解）について学ぶ（事前指導）

	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第7回	**授業テーマ**	7 インターンシップ中の観察のポイントと日誌の書き方（事前指導）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別支援学校でのインターンシップを実施するにあたり、教員や児童生徒との関わりのなかで観察すべきポイントを整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第8回	**授業テーマ**	8 直前の最終確認、危機管理・アレルギー対策、日常生活の中での指導（事前指導）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別支援学校における危機管理・アレルギー対策、日常生活の中での指導
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第9回	**授業テーマ**	９ 特別支援学校教諭の職務に関する振り返り①（事後指導）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ中に観察した内容の整理、指導内容の再現（報告）を行うことを通して、特別支援学校教諭の職務や児童生徒理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第10回	**授業テーマ**	10 特別支援学校教諭の職務に関する振り返り②（事後指導）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ中に観察した内容の整理、指導内容の再現（報告）を行うことを通して、特別支援学校教諭の職務や児童生徒理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第11回	**授業テーマ**	11 特別支援学校に在籍する児童生徒に関する振り返り①（事後指導）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ中に観察した内容の整理、指導内容の再現（報告）を行うことを通して、特別支援学校教諭の職務や児童生徒理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
	授業テーマ	12 特別支援学校に在籍する児童生徒に関する振り返り②

		（事後指導）
第12回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	インターンシップ中に観察した内容の整理、指導内容の再現（報告）を行うことを通して、特別支援学校教諭の職務や児童生徒理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第13回	**授業テーマ**	13 特別支援学校での教育実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	４年生教育実習報告会に参加し、特別支援学校の教育課程や授業実践、児童生徒の障害の状態や程度等に関する理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第14回	**授業テーマ**	14 まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別支援学校でのインターンシップや事後指導を通して学んだ内容をまとめ、授業内で発表する。 他の履修生の発表を聞き、抽出したテーマについてディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前準備）インターンシップで学んだことに関するプレゼンテーションの準備
	教室外学習の時間（分）	250分

学習計画注記

・インターンシップ先を決定するまでに時間を要することがあります。
・インターンシップは5日間（8時間×５日＝2,400分）を基本とします。
・事前事後指導は全14コマ（100分×14コマ=1,400分）実施します。
・事後指導における教室外学習（250分）で振り返りのためのレポートあるいはプレゼンテーション資料作成を行ってもらいます。
・インターンシップ実施期間は受け入れ先の状況により受講生ごとに異なります（大学の授業期間中に実施することもありますが、その場合、公欠扱いにはなりません）。

学生へのフィードバック方法

事後指導では、インターンシップ先で経験したことや、先生方から指導していただいた内容をディスカッション、レポート作成、プレゼンテーション等の形で成果報告を行い、特別支援学校教諭の職務に関する理解を深めていきます。

評価方法

インターンシップ校担当者による評価と事前・事後指導の平常点により評価を行います。
なお、事後指導の成果報告においてはルーブリック評価表を授業内で示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
インターンシップ先の評価	○		○	○
事後指導における成果報告	○	○		○
事前事後指導における平常点			○	

評価割合

インターンシップ校担当者による評価（60%）
事後指導における成果報告（20%）
事前事後指導の平常点(10%)

使用教科書名(ISBN番号)

なし（参考図書を授業内で紹介する）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的知識が修得できている。
【思考・判断】子ども、保育者、教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。

オフィスアワー

月曜3-4限 1509教室（原田）

学生へのメッセージ

インターンシップは、教育現場を知る貴重な機会です。将来の進路選択やキャリアアップに必ず役に立ちます。
特別支援学校の教員を目指している方や、障害のある子どもの支援に興味のある方はぜひ履修してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教職の実践経験を活かし、実践事例を含めて説明する。
アクティブ・ラーニング	○	事前事後指導では、グループラーニングやプレゼンテーションを取り入れたアクティブラーニングを実践する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	事後指導における成果報告では、パソコンを用いて資料を作成する。

講義コード	G04107101
講義名	ＩＣＴ活用の理論と実践
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	児童学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	末松 加奈	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし

授業概要(教育目的)

ICT（情報通信技術）を活用した教育の在り方について、社会的な背景を踏まえ、その意義や理論への理解を深めることを目的とする。また、教育現場におけるICT 活用の実際、学習指導、園務・校務の推進、ICT環境の整備、情報モラルの育成といった観点を取り扱う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・社会的背景の変化を踏まえ、現在のICT活用の意義と在り方を説明できる。 ・個別最適な学びと協働的な学びにどうICTを活用するか説明できる。 ・特別の支援を必要とする児童へのICT活用の意義、学校におけるICT環境の整備の在り方を説明できる。 ・各科目等に応じたICT活用について説明できる。 ・教育データの活用と情報セキュリティの重要性を説明できる。 ・遠隔・オンライン授業の意義、統合型校務支援システムを活用した校務について説明できる。 ・各教科等を通して横断的に育成する情報活用能力（情報モラルを含む）について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	・学習場面に応じた、また各教科等の特性に応じたICTを活用した指導法を考えることができる。 ・児童にデジタルデバイスの基本的な操作を身に付けさせるための指導法を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・自ら積極的にデジタルデバイスを活用しようとする。
技術・表現の観点 (A)	・ICTを活用した基礎的な指導法を身に付けている。 ・学校現場で用いられるデジタルデバイスの基本的な操作を身に付けている。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス、ICT活用の意義とあり方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・履修方法や評価について ・これからの教育に必要なICT活用とは何なのか、その意義とあり方について学ぶ。 ・グループワーク：教科書のいくつかの章をグループに割り当てる。それぞれのグループは、自分が担当する章を読み込み、関連する具体例や補足の情報などを調べた上で、スライドに内容をまとめ発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第1章を読み、「学びの保障」「デジタルデバイド」の意味について整理しておくこと。 復習：配布資料等を読み返し、現在の教育現場のICT活用状況について理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	**授業テーマ**	情報モラルの育成について知ろう
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・子ども達が置かれているデジタル環境（デジタルメディア）について理解し、それらのデジタル環境が子どもに与え得る様々なリスクについて学ぶ。 ・情報モラルについて、動画などを用いながら、具体的に学ぶ。さらに、身近な話題から実際にどのようなことに気を付けるべきかを検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：デジタル環境がもたらすリスクにはどのようなものがあるだろうか。各自思いつくリスクを書き出しておく。 復習：情報モラルについて、身近な話題や自分自身の経験と関連付けながら何に気を付けるべきか整理する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	動画編集技術を身に付けよう（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育や教育現場では、ICT活用が拡大するに伴い、保育者や教師が動画編集を行う機会が増えている。さらに、子ども自身が園や学校、行事や活動の紹介をするための動画を作成する機会も増えている。そこで、「大学を紹介する」というテーマでグループ毎に動画を撮影し編集を行う。本時では、撮影計画と動画構成を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：YouTubeなどで子どもや園・学校が作成した様々な動画を視聴し、見やすさなどポイントを書き出しておく。 復習：撮影した計画について見返しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	動画編集技術を身に付けよう（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本時ではグループ毎に動画を撮影する。
	教室外学習(予習・	予習：撮影場所を確認しておく。役割分担や持ち物の確認をする。

	復習)の内容	復習：撮影した動画を確認し、必要に応じて構成を修正する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	動画編集技術を身に付けよう（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本時では前時で撮影した動画を編集し、YouTube用（横型、長い）とインスタリール用（縦型、短い）を制作する。グループ毎に制作した動画に対し、相互評価を行うことにより、動画編集技術の向上を図る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：前時で撮影した動画を確認する。 復習：他のグループが作成した動画を見て、相互評価を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	園務、校務への活用について調べよう
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・そもそも校務・園務とは何かということから、現在の教育現場の課題とされている長時間労働などの問題も踏まえ、校務・園務におけるICT活用がもたらす意義について理解を深める。 ・統合型校務・園務支援システムの導入などICT環境整備の方法について、実際のシステムを複数調べ比較検討する。また、自分ならどのようなシステムが欲しいか考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第5章第7章を読み、校務・園務には何があるのかを整理しておく。 復習：文部科学省「校務支援システム導入・運用の手引き」や埼玉県「園務改善のための ICT化事例集」も参考にしながら、実際の導入事例について調べてみよう。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	お便りをつくろう
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・園や学校では、保護者向けのお便りを作る機会が多くある。本時では、お便りの種類や記載すべき内容について学び、実際に作成する。 ・保護者向けのお便りは、これまで大学で行ってきたレポート作成などとは異なる文書作成技術が必要とされる。デザインやレイアウト面の工夫、必要事項の見せ方、文書の体裁など、何種類かのお便りを比較しながら、実際に作成することでその技術を習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：園や学校ではどのような便りが保護者向けに作られているか調べる。 復習：文書の体裁について復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	授業や遊びへの活用事例を調べよう（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	現在、授業や遊びの中へ急速にICTが活用されるようになっている。そこで、グループ毎に活用事例を調べ、発表することで様々な活用方法への理解を深める。

第8回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第3章、第6章を読んでおく。 復習：グループで発表練習を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	授業や遊びへの活用事例を調べよう（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在、授業や遊びの中へ急速にICTが活用されるようになっている。そこで、グループ毎に活用事例を調べ、発表することで様々な活用方法への理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第3章と第6章を読んでおく。 復習：各グループの発表内容を振り返る。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	個に応じた学びに適したICT活用を学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近年、個に応じた学びに対応した様々なアプリが開発されている。それらのアプリを調べ、個に応じた学びにICTを活用する際の利点や課題について整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第2章と第3章を読んでおく。 復習：他の人が調べたアプリの中で自分が知らないものがあれば、それらのアプリを確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	ICTを活用した指導法を考える（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教科等横断的な視点で育成する情報活用能力について理解を深める。また、様々な事例から、各教科等や遊びの特性に応じたICTの活用方法とデジタルデバイスの基本的な操作に関する指導法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第3章、第4章を読んでおくこと。 復習：授業で取り上げた指導法以外に、どの様な活用方法があるか考えてみよう。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	ICTを活用した指導法を考える（２）
	学習内容(ｱ	

第12回	ｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前時で学んだことを踏まえながら、ICT活用を含む指導案もしくは日案を作成する。グループに分かれて、指導案の内容を発表し、その内容について討議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：前時の資料を振り返り、指導案の内容を検討しておくこと。 復習：授業内の討議の内容を受けて、自分の指導案を修正し提出する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	特別支援教育におけるICTの活用(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害のある児童生徒の学習や生活を支えるためのツールとして、ICTは重要な役割を果たす。 本時は、障害（視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱）による学習上・生活上の困難を確認し、実践例や実際に体験することを通して、学習支援や自立活動の指導を進めるためのICT活用について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第8章を読み、以下のことを整理しておくこと ・特別支援教育の対象となる各障害の特性について 復習：障害のある児童生徒に対するICTを用いた教育実践について、「魔法のプロジェクト」のサイト内「アプリ紹介」を閲覧すること。https://maho-prj.org/app/
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	特別支援教育におけるICTの活用(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本時は障害のある児童生徒の創作活動や、意思表示・コミュニケーション等に用いられるICT活用について学ぶ。 また、障害者の日常生活を支えたり、就労の選択肢を広げることを実現するICTの活用例を知ることにより、特別支援学校卒業後の自立や社会参加を促進するために解決すべき課題について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第8章を読み、以下のことを整理しておくこと ・「アクセシビリティ」「アシスティブ テクノロジー」「ユニバーサルデザイン」の意味について 復習：障害のある児童生徒に対するICTを用いた教育実践について、「魔法のプロジェクト」のサイト内「アプリ紹介」を閲覧すること。https://maho-prj.org/app/
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

※集中講義の日程によってスケジュールが変更になる場合があります。
※授業では毎回PCと教科書を持参してください。
※授業担当者：第1回～第12回（末松）、第13・14回（原田）

学生へのフィードバック方法

授業で課した課題・ワークシート等については、コメントを付けて返却するなど、適宜、授業担当教員からフィードバックする。

評価方法

平常点（授業内のグループワークや発表等への参加態度、予習復習などの取り組み状況）、指

導案・日案、最終レポートで評価する。
・ルーブリックに基づく成績評価である。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	
指導案・日案	○	○		○
最終レポート	○	○		

評価割合

平常点35%、指導案25%、最終レポート40%

使用教科書名(ISBN番号)

末松加奈（編）「やさしく学ぶ教職課程 幼児と児童のための教育とICT活用」（学文社）ISBN：978-4-7620-3206-6

参考図書

参考資料については授業内で都度提示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】
これからのSociety5.0時代に向けて、情報通信技術（ICT）がもたらす意義とリスクを豊かな知識と深い思考をもって理解し、教育におけるICT活用のあるべき姿を的確に判断して提案できる能力が身についている。

オフィスアワー

末松 月曜3限 研究室1501

学生へのメッセージ

・自分から積極的にICTを活用しましょう。
・毎回予習と復習を記載していますので、しっかりと取り組んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	適宜、グループワークやグループディスカッションを取り入れる。
情報リテラシー教育	○	子どもを取り巻くデジタル環境の変化を含め、様々なリスクとそれらへの対応方法について学ぶ。
ICT活用		

講義コード	H02001031
講義名	人間栄養学原論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	會退 友美	指定なし
教授	江川 賢一	指定なし
准教授	城田 直子	指定なし
助教	建路 七織	指定なし

ナンバリング

H11001C21

授業概要(教育目的)

健康の維持・増進を目的とした栄養管理において、食べ物からの側面（栄養・調理など）だけでなく、人からの側面（嗜好、代謝、疾病・健康状態、身体活動量など）を考慮した食生活を営めるよう計画・実施することが不可欠である。一方、食生活とは、個々人を取り巻く地域の自然・社会・経済・文化などの条件や歴史的変遷とも密接に関わって形成される。
そこで、1～5回では、人間栄養学や管理栄養士としての職業倫理について、管理栄養士業務の実例を通して講義する。6～14回では、望ましい食生活を実現化させるための栄養管理にかかわる基礎知識を、食品の生産・流通、食品の選択、調理、食文化との関連を踏まえて解説する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	①４年間の学びおよび管理栄養士としての業務の基礎となる「人間栄養学」の内容を説明できる。 ②人間栄養学を基にした栄養管理の目的および手法を説明できる。 ③栄養管理に必要な知識（食事摂取基準、食品成分表、食品構成、食文化等）を理解し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	①社会における管理栄養士の役割を学び、自身が4年間の学びを捉え、自身の将来像を考え、学習のあり方を思考・判断することができる。 ②テーマに沿ったグループでの討議に参加し、適切なディスカッションを行う力を身につける。

関心・意欲・態度の観点 (V)	①人間栄養学」および管理栄養士の役割を理解したうえで、管理栄養士として社会貢献しようとする意欲を持つ。 ②将来の目標に向かって主体的に学ぶ意欲、態度を身につける。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	（１）オリエンテーション：授業の概要、諸注意事項など （２）人間栄養学、管理栄養士について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	（１）授業の受講ルールやレポートの書き方を学ぶ。 （２）人間栄養学、管理栄養士について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義内容を振り返り、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	**授業テーマ**	フードサービス分野における管理栄養士の役割と多分野との協働
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	管理栄養士の活躍の場のうちフードサービスでの現場の実務経験者の講義を通し、管理栄養士の役割や職業倫理を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義内容を振り返り、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	**授業テーマ**	臨床栄養分野における管理栄養士の役割と多分野との協働
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	管理栄養士の活躍の場のうち臨床栄養での現場の実務経験者の講義を通し、管理栄養士の役割や職業倫理を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義内容を振り返り、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	**授業テーマ**	スポーツ栄養分野における管理栄養士の役割と多分野との協働
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	管理栄養士の活躍の場のうちスポーツ分野での現場の実務経験者の講義を通し、管理栄養士の役割や職業倫理を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義内容を振り返り、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	**授業テーマ**	食育・地域分野における管理栄養士の役割と多分野との協働
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	管理栄養士の活躍の場のうち食育・地域分野での現場の実務経験者の講義を通し、管理栄養士の役割や職業倫理を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義内容を振り返り、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	キャリアを考える

第6回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会で活躍する人になるためのキャリアについて考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：学習した内容を振り返り、整理する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	授業テーマ	社会における管理栄養士のイメージ像をまとめる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第6回までの社会における管理栄養士の役割やイメージ像をまとめる
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、レポートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	人間の生活を整理する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人間の生活における食の内容を整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	人間の食行動・食習慣、それに関わる要因を整理する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループワークで人間の食行動や食習慣を整理し、さらに行動レベルに関連する要因を整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	人間の体をつくるものを整理する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	健康の維持・増進を目的とした栄養管理を計画・実施する際の柱となる日本人の食事摂取基準など、栄養素レベルでの食と人間の関係を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	授業テーマ	ツールを使って、食べ物を科学的に捉える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品成分表などのツールを用いて、食品レベルや料理レベルでの食を整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	人間のQOL・健康に関わる食を全体的に捉える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで整理してきた栄養素レベル、食品・料理レベル、行動レベルなどの学びから、グループワークを通して、人間のQOLや健康に関わる食を総合的にまとめ、整理する。

第12回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	人の生活に関わる管理栄養士になるために4年間で必要な学びを整理しよう
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人の生活に関わる管理栄養士になるために必要な学びについて、グループワークを通して整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人間栄養学を柱とした栄養管理の目的、手法等の基礎知識について、実践に向け整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第14回の内容を振り返り、まとめる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

クラスルームを用いて出欠確認、資料等の配布、課題提出、フィードバックをする。

学生へのフィードバック方法

課題については授業内で解説する。
また質問がある場合には、各教員に問い合わせることができる。

評価方法

レポート課題（30%）、グループワーク発表（20%）、定期試験(30%)、平常点（20%）で評価する。授業内で説明するルーブリックに沿って評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○	○	○
定期試験	○	○		
グループワーク	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

レポート課題（30%）、グループワーク発表（20%）、定期試験(30%)、平常点（20%）

使用教科書名(ISBN番号)

「八訂食品成分表」 女子栄養大出版部
「調理の基本 まるわかり便利帳」 女子栄養大出版部
「日本人の食事摂取基準[2025年版]」 第一出版

参考図書

適宜紹介する

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解でき
る専門的知識を有している。
管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。

オフィスアワー

江川：木曜日昼休み（1202研究室）
城田：月曜日3時限（1404研究室）
建路：木曜日3時限（1312研究室）
會退：木曜日2限（1607研究室）

学生へのメッセージ

受講にあたり、以下の内容に取り組むことを期待する。
○様々な人の考えを聞き、自分の考えとまとめて議論をするように心がけましょう
○レポートの作成の場合には、文章の書き方や構成など伝えたいことなどを整理して書くように心がけましょう
○電卓を用意しましょう（スマートフォン、多機能のものは不可）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	食育、行政機関（會退）、民間企業の研究機関（江川）、臨床施設（城田）、高齢者福祉施設（建路）等に従事した経験を踏まえ、管理栄養士業務にかかわる食育・地域栄養ケア、フードサービス、臨床栄養、スポーツ栄養の４つの領域に関する基礎知識および職業倫理についての理解を促進するための専門的知識を教授する。
アクティブ・ラーニング	○	学ぶことに興味・関心を持ち、自分のキャリアの方向性と様々な学習との関連性を意識しながら学ぶ機会を提供する。また、レポート作成や、ワークシート、練習課題を用いて自分の学習活動をふりかえり、次の学習つなげられるよう教授する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02002031
講義名	管理栄養士の早期体験実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	城田 直子	指定なし

ナンバリング

H11002C12

授業概要(教育目的)

管理栄養士が活躍している「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「食品開発・サービス」など、多岐にわたる分野において食・栄養とのかかわりについて講義する。早期からの体験学習プログラムの参加を通して将来の進路の選択肢を増やし、自主的に考える力、表現する力、コミュニケーション能力、課題抽出力と課題解決能力を身につけるよう実習を行う。さらに、専門職業人として「人間の栄養」に対する知識・技術・表現力を養い、社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力を身につけるための授業を展開する。

履修条件

授業内容を理解し、履修意欲のある学生の参加を望みます。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	管理栄養士が活躍している「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「食品開発・サービス」など多岐にわたる分野において食・栄養とのかかわりを理解し、適切に説明できる。
思考・判断の観点 (K)	管理栄養士が活躍している「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「食品開発・サービス」など多岐にわたる分野における課題を自主的に見出し、その解決策を提示できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	早期からの体験学習プログラムの参加を通して将来の進路の選択肢を増やし、自主的に考える力、表現する力、コミュニケーション能力、課題抽出力と課題解決能力を身に着け、発揮できる。
	専門職業人として「人間の栄養」に対する知識・技術・表現力を養い、身に着け

技術・表現の観点 (A)	ている。 個人ワーク、グループディスカッション、グループワークにおいて、自分の考えを適切に表現できる。適切なプレゼンテーションが行える。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	授業概要説明、管理栄養士について考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	選択科目としての履修判断材料になるよう、授業概要について詳しく説明する。人間栄養学部人間栄養学科について理解を深め、管理栄養士について自分なりに考える。個人ワーク、グループディスカッション、グループワークを通して、知識を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後は、内容を整理し、課題を完成させる。履修を検討し、履修を希望する場合は履修登録を進める。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	**授業テーマ**	管理栄養士と食、栄養とのかかわりについて考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個人ワーク、グループディスカッション、グループワークにより、自主的に考え、まとめ、表現する、他者の考えを知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後は、内容を整理し、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	**授業テーマ**	日本栄養士会について学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自のノートパソコンを用いて、正しい情報を適切な方法で取得する。職業倫理について理解する。個人ワーク、グループディスカッション、グループワークにより、自主的に考え、まとめ、表現する、他者の考えを知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後は、内容を整理し知識を定着させ、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	さまざまな分野で活躍する管理栄養士について学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	日本栄養士会のホームページなどから、管理栄養士が活躍している分野について知る。また、管理栄養士に必要なスキルとはなにかを考える。個人ワーク、グループディスカッション、グループワークにより、自主

第4回	育・ICT活用を含む)	的に考え、まとめ、表現する、他者の考えを知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後は、内容を整理し、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	授業テーマ	管理栄養士が実施する食事調査、その手法を学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現場で実際に行われている食事調査とその目的を学び、実際に体験する。個人ワーク、グループディスカッション、グループワークにより、課題を抽出し、解決策を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後は、内容を整理し知識を定着させ、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	授業テーマ	体験実習について学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今後の体験実習（臨地実習含め）についての流れと目的などを理解する。授業内で配付する「管理栄養士の学外実習の手引き」を活用し、体験実習について考える。当該科目の体験実習に向け、班を構成し、実習テーマを決定する。個人ワーク、グループディスカッション、グループワークにより、自主的に考え、まとめ、表現する、他者の考えを知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後は、内容を整理し、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	授業テーマ	早期体験学習①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今後の臨地実習で体験しない分野での見学を通し、管理栄養士と食、栄養とのかかわりを学ぶ。（状況により、学外での見学→学内での体験実習に変更する可能性あり）
	教室外学習(予習・復習)の内容	体験学習に備え、事前にしっかりと下調べを行い、予習しておく。 体験学習後は、学習内容について各自でまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	早期体験学習②
	学習内容(ｱ	

第8回	ｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今後の臨地実習で体験しない分野での見学を通し、管理栄養士と食、栄養とのかかわりを学ぶ。（状況により、学外での見学→学内での体験実習に変更する可能性あり）
	教室外学習(予習・復習)の内容	体験学習に備え、事前にしっかりと下調べを行い、予習しておく。 体験学習後は、学習内容について各自でまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	授業テーマ	体験実習のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体験実習を基に課題抽出→解決策を考える。各班の実習テーマに沿ってまとめる。（個人ワーク、グループディスカッション、グループワーク）
	教室外学習(予習・復習)の内容	体験学習で学んだ内容を復習し、授業に備える。 授業後は、内容を整理し、課題を進める。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	報告会に向けた課題作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループワークにより、体験学習報告会に向けた課題を完成させる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	体験学習時の配布資料や各自でまとめた内容を整理し、持ち寄る。 授業後は、報告会の発表メンバーで協力し、プレゼンテーションの準備を進める。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	授業テーマ	体験学習報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体験学習の課題を各班でプレゼンテーションし、質疑応答、討議を行う。他の班の課題について学び、理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	報告会に向け、プレゼンテーション、質疑応答の準備を進める。 授業後は、内容を整理し、知識を定着させ、課題を完成させる。
	教室外学習の時間	120分

	（分）	
第12回	**授業テーマ**	体験学習報告会のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体験学習報告会で得た学びをまとめ、改めて課題とその解決策について話し合う。（個人ワーク、グループディスカッション、グループワーク）
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後は、内容を整理し、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	管理栄養士の今後の展望
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業を通して、管理栄養士の今後の展望について考える。 （個人ワーク、グループディスカッション、グループワーク）
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後は、内容を整理し、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	学びの考察、将来像の描画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	当該科目の受講を通して自分自身が学んだこと、解決したことは何かなどを考察し、現時点での将来像を認識、描画する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業内容を整理しておく。 授業後は、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

授業の進捗により、計画に変更が生じる可能性があります。

学生へのフィードバック方法

提出物は、必要に応じて返却、補足を行う。

評価方法

授業への取り組み、授業態度、体験学習への参加状況など、プレゼンテーション、提出物 を総合的に評価する。
なお、これらの評価は、授業内で説明するルーブリックに沿って行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○
提出物	○	○	○	○

評価割合

授業への取り組み、授業態度、体験学習への参加状況など30%、プレゼンテーション30%、提出物40%

使用教科書名(ISBN番号)

管理栄養士の学外実習の手引き（非売品のため入学後に配付）

参考図書

特に無し

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】管理栄養士などの専門職業人として、多岐にわたる分野において食・栄養とのかかわりを理解し、適切に説明でき、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【思考・判断】食・栄養に関わる多岐にわたる分野における課題を自主的に見出し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】専門職業人として「人間の栄養」に対する関心・意欲を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思、他社と協働するための共感力を身につけている。
【技術・表現】専門職業人として「人間の栄養」に対する知識・技術・表現力を養い、身に着けている。グループディスカッションでは自分の意見や考えを他者が理解できる表現力、報告会ではプレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

城田：月曜3時限

学生へのメッセージ

管理栄養士が組織の中で重要な歯車のひとつとして活躍している分野での学びを通し、さまざまな考えや課題を見つけてほしいと思います。また、授業のグループディスカッションやグループワークでは、他者の考えや意見を知り、視野を広げてください。近年、人とのコミュニケーションを苦手とする学生が増えていますが、この授業では、様々な学生とコミュニケーションを図ってもらいます。受け身ではなく、積極的に取り組みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、管理栄養士として病院、クリニックでの実務経験を有している。
アクティブ・ラーニング	○	学外施設見学、個人ワーク、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション
情報リテラシー教育	○	プレゼンテーション技法
ICT活用	○	

講義コード	H02003031
講義名	有機化学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	坂野 史明	指定なし

ナンバリング

H11003C21

授業概要(教育目的)

栄養学や食品学で対象とする成分や分子は大部分が有機化合物である。このため、栄養学や食品学の学習を進める上では、予め有機化学の基礎的知識を身につけておくことが求められる。本講義ではまず前半に、原子、分子、化学結合等に関する基礎化学的知識について復習した後、代表的な有機化合物の種類と構造、異性体の概念、有機化学の主要反応について解説する。さらに後半には、生物に関する有機化学として、核酸の構造と機能、遺伝情報の維持と発現、遺伝子操作と解析法について学習する。これらの知識は特に、生化学、基礎栄養学、基礎食品学等の専門科目を学ぶ上で重要となる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1）原子、分子と化学結合について理解し、説明できる 2）代表的な有機化合物の種類と構造について理解し、説明できる 3）異性体の種類と概念について理解し、説明できる 4）主要な有機化学反応について理解し、説明できる
思考・判断の観点 (K)	1）核酸分子の構造と機能について説明できる 2）遺伝情報の維持と発現の機構について説明できる 3）遺伝子操作の方法と遺伝子解析手法について説明できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	授業テーマ	原子の電子構造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	電子殻と価電子、電子配置と周期表について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノートおよび配付プリントをよく読んで、繰り返し復習すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	化学結合と分子
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イオン結合、共有結合、配位結合、水素結合、ファンデルワールス力について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノートおよび配付プリントをよく読んで、繰り返し復習すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	有機化合物の種類と構造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	有機化合物の化学結合、構造式の表し方、主な炭化水素、主な置換基、有機化合物の種類と性質について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノートおよび配付プリントをよく読んで、繰り返し復習すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	異性体と立体化学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	構造異性体および立体異性体の概念と種類について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノートおよび配付プリントをよく読んで、繰り返し復習すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	有機化学反応
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	酸化還元反応、求電子反応と求核反応、代表的な置換反応、脱離反応、付加反応について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノートおよび配付プリントをよく読んで、繰り返し復習すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	核酸の構造と機能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	核酸の基本構造、DNAの構造、RNAの構造と種類について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノートおよび配付プリントをよく読んで、繰り返し復習すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	遺伝情報の維持と発現①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	DNAの複製機構、DNAの修復機構について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノートおよび配付プリントをよく読んで、繰り返し復習すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	遺伝情報の維持と発現②

第8回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	DNAの組換え反応、転写の仕組みとその制御機構について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノートおよび配付プリントをよく読んで、繰り返し復習すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	遺伝情報の維持と発現③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	RNAプロセシングとその反応機構について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノートおよび配付プリントをよく読んで、繰り返し復習すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	遺伝情報の維持と発現④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	翻訳の仕組みとその制御機構について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノートおよび配付プリントをよく読んで、繰り返し復習すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	遺伝情報の維持と発現⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	たんぱく質の翻訳後修飾、たんぱく質の分解系について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノートおよび配付プリントをよく読んで、繰り返し復習すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	遺伝子操作と解析①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	制限酵素とベクター、DNAクローニング法、PCR法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノートおよび配付プリントをよく読んで、繰り返し復習すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	遺伝子操作と解析②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	DNA塩基配列の決定法、遺伝子改変生物の作製法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノートおよび配付プリントをよく読んで、繰り返し復習すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	情報伝達の機構
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	細胞間の情報伝達機構、主な受容体の種類と細胞内シグナル伝達機構について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノートおよび配付プリントをよく読んで、繰り返し復習すること。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

講義の進行状況により、学習計画を一部変更・修正する場合がある。

学生へのフィードバック方法

質問等はメールまたはオフィスアワーに受け付ける。

評価方法

講義への参加態度、定期試験の成績から総合的に評価する。
評価はルーブリックに基づいて行い、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内での配付等により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
講義への参加態度	○	○		
定期試験	○	○		

評価割合

講義への参加態度(10%)、定期試験(90%)

参考図書

マクマリー生物有機化学 [生化学編] 原書8版 丸善出版 ISBN 9784621302408

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物の相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を身につけている。
【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して
論理的・批判的に思考することができる。

オフィスアワー

木曜日3時限目

学生へのメッセージ

高校で学習した化学、生物に関する基礎知識も必要となるため、予習しておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国立研究機関において生物有機化学・分子生物学研究に関する実務経験があり、栄養学を修める上で必要な有機化学的知識について実践的に教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02004031
講義名	基礎サイエンス実験（HA）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	沼波 秀樹	指定なし
助教	鈴木 孝子	指定なし

ナンバリング

H11004C13

授業概要(教育目的)

食品学実験や栄養学実験など実験科目の基礎となる科目である。自然科学分野の理解は講義を聴くだけでは不十分で、体験に基づく理解が不可欠である。化学及び生物学の分野より、特に必要と思われる基本的な実験を行い、基本的実験技術を体得するとともに、実験結果の分析、観察、考察力を養い、レポートの書き方を習得する。

履修条件

特に無し。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自然科学の基本的な事項が、実験に裏打ちされた理解の上に成り立っていることを学ぶ。（化学分野） 基礎的な実験によって基本的な生物現象について理解している。（生物学分野）
思考・判断の観点 (K)	基礎的な実験・レポート作成などを通して，管理栄養士として必要不可欠な理科的思考をもつようになる。（両分野）
関心・意欲・態度の観点 (V)	実験結果の整理を通して、文献・書籍を自ら調べ、理解を深める習慣をもつ。（化学分野） 実験に対する取り組み方やレポートの書き方などついて実践できる。（生物学分野）
技術・表現の観点 (A)	基礎的な実験技術，実験結果と考察による理科的な思考の両方を習得し，2年次以降に行われるより高度な実験に対する基礎力をもっている。（両分野）

学習計画

第1回	**授業テーマ**	生物実験の心得とレポート作成・スケッチ描画についての説明・顕微鏡の使い方（生物学分野１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基礎サイエンス実験の生物学分野実験（以下，生物学実験）を行うにあたり，実験ノートの書き方，スケッチの描き方などの基本的な知識・技術を習得する。また，専門課程でも使用する顕微鏡の基本的な操作方法について習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したテキストを読み，解説内容・実験内容及び実験手順を確認する。高校「生物基礎」の顕微鏡の使い方を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	動物・植物細胞の観察（生物学分野2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生物学実験だけでなく，専門科目の実験（解剖生理学，微生物学など）に使用する生物顕微鏡の基本操作を習得する。また，植物細胞や動物細胞の観察によって基本的な細胞構造や，生物体と細胞との関わりを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1回で説明したレポートの書き方やスケッチの描き方，顕微鏡の観察方法などを復習する。実験前に配布したテキストを読み，実験内容及び実験手順を確認する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	染色体観察・DNA抽出・ATP筋収縮・酵素実験解説（生物学分野3）オンデマンド授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	染色体観察・DNA抽出・ATP筋収縮・酵素実験解説に関する基本的生物学的事項について資料を用いて解説することにより，実験の目的，意義に対する理解を深める。オンデマンドで授業を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したテキストを読み，解説内容・実験内容及び実験手順を確認する。高校「生物基礎」の遺伝子とその働き，細胞とエネルギーを復習すること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	染色体の観察・核型分析（生物学分野4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	細胞周期における核の変化と遺伝子の座である染色の形成を観察し，細胞分裂の過程と染色体の構造を理解する。また，現在の遺伝病の出産前診断にも用いられている染色体の核型分析を行い，遺伝子の座である染色体の特徴について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回で説明した染色体の内容を復習する。実験前に配布したテキストを読み，実験内容及び実験手順を確認する。核型分析は課題とし，後日提出する。高校「生物基礎」の遺伝子とその働きも復習すること。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	DNAの抽出と定性分析（生物学分野5）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	遺伝情報の担い手であるDNAを実際に細胞から抽出し，定性分析を行

第5回	育・ICT活用を含む)	い，その実態について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回で説明したDNAの構造と機能について復習する。実験前に配布したテキストを読み，実験内容及び実験手順を確認する。高校「生物基礎」の遺伝子とその働きも復習すること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	ATPによる筋収縮実験（生物学分野6）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	骨格筋を材料として筋肉の収縮現象を実際に観察し，さらにはその生化学的変化の一端の理解を深めることを目的として行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回のATPについての解説を復習する。実験前に配布したテキストを読み，実験内容及び実験手順を確認する。高校「生物基礎」の細胞とエネルギーも復習すること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	コハク酸脱水素酵素の実験（生物学分野7）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生体内で行われている酵素反応を生体外の比較的簡単な実験系を用いて再現・観察し，酵素の働きについて理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回の酵素についての解説を復習する。実験前に配布したテキストを読み，実験内容及び実験手順を確認する。高校「生物基礎」の細胞とエネルギーも復習すること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	化学実験の心得と器具の基本操作（化学分野１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	化学実験を行うにあたり、器具の名前、各器具の操作方法など基本的な知識・技術を習得する。また実験から得られた数値の取り扱い方などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験前に化学実験のマニュアル（基礎の部）を読み、実験器具や安全ピペッター、ガスバーナーの使用方法について予習をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	溶液の濃度と密度（化学分野２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	化学実験を行う際の基本的な測定方法と濃度や密度の計算を学ぶ。電子天秤で物質量を測定し、水溶液の調整法を習得する。水溶液の濃度と密度の関係や水の密度と温度の関係について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験前に化学実験のマニュアル（実験の部）を読み、実験内容について予習し、実験ノートに実験計画書き、実験概要を把握しておくこと。溶液の濃度について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	容量分析（１）中和滴定 基礎編（化学分野3）

第10回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中和滴定の実験を行い、定量分析の基本操作法を学ぶ。定量実験に必要な器具の基本的な扱い方について習得する。滴定の指示薬や定量計算と物質量について理解を深める。具体的にはシュウ酸標準溶液で水酸化ナトリウム水溶液を標定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験前に化学実験のマニュアル（実験の部）を読み、実験内容について予習し、実験ノートに実験計画書き、実験概要を把握しておくこと。「化学基礎」の酸・塩基と塩について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	容量分析（2）中和滴定 実践編（化学分野4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中和滴定の実験を行い、定量分析の基本操作法を学ぶ。定量実験に必要な器具の基本的な扱い方について習得する。滴定の指示薬や定量計算と物質量について理解を深める。化学分野3回目で行った標定した水酸化ナトリウム水溶液を用い、食酢中の酢酸の定量を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験前に化学実験のマニュアル（実験の部）を読み、実験内容について予習し、実験ノートに実験計画書き、実験概要を把握しておくこと。「化学基礎」の酸・塩基と塩について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	容量分析（3）酸化還元滴定（化学分野5）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	過マンガン酸カリウム水溶液によるオキシドールの酸化還元滴定を行う。酸化還元反応に伴う電子の授受や酸化数の変化に着目し、酸化還元の定義について理解を深める。定量計算法と溶液の取り扱い方を習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験前に化学実験のマニュアル（実験の部）を読み、実験内容について予習し、実験ノートに実験計画書き、実験概要を把握しておくこと。「化学基礎」の酸化反応と還元反応について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	定性分析（１）陽イオン検出（化学分野6）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	金属イオンと酸・塩基・塩類の定性反応を行い、金属イオンの性質を理解し、定性分析法について習得する。実験で使用する種々の薬品の取り扱いや性質および金属の鎖イオンについても理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験前に化学実験のマニュアル（実験の部）を読み、実験内容について予習し、実験ノートに実験計画書き、実験概要を把握しておくこと。「化学基礎」の金属イオンの反応と検出法について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	定性分析（２）官能基の検出（化学分野7）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	有機化合物の官能基について定性反応を行い、官能基の検出法を習得する。実験で使用する種々の薬品の取り扱いや性質および官能基の性質について理解する。特に糖やアミノ酸・カルボン酸の性質について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内	実験前に化学実験のマニュアル（実験の部）を読み、実験内容について予習し、実験ノートに実験計画書き、実験概要を把握しておくこ

	容	と。「化学基礎」の有機化合物の構造式について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

実験内容は，実験材料の入手などの都合によって変更になる場合があります。（生物学分野）
実験内容は,授業実施方法によって変更になる場合があります。（化学分野）

学生へのフィードバック方法

実験時間内に作成した実験サブノート（実験レポート），観察スケッチは次回までに添削する。（生物学分野）
実験終了後に提出したレポート内容の講評・総括を行います。各自提出したレポートの添削内容を確認して下さい。（化学分野）

評価方法

【化学分野・生物学分野共通】化学分野50%、生物学分野50%で評価する。実験科目は出席（実験）しないとレポートが書けないので、欠席・遅刻は厳しい評価になる。この科目は化学分野と生物学分野の両方の基礎的な知識・基本的な実験操作の習得を目的としているため、全14回であるが、どちらかの分野で欠席が多い場合などは、評価が著しく低くなり不可になる可能性がある。専門実験につながる基礎実験なので、実験中の態度なども評価の対象となる。
【化学分野】提出したレポートの合計点と実験態度等の平常点で総合的に評価する。
【生物学分野】毎回，提出する実験サブノートと一部の実験で描くスケッチ，課題を評価対象とする。毎回の実験の提出物・実験態度，実技試験により，総合的に評価する。
なお成績評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては授業内で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実験サブノート（生物学分野）	○	○	○	○
実験レポート（化学分野）	○	○	○	○
実技試験（生物学分野）				○

評価割合

【生物学分野】提出物・出席・実験態度＝50%
【化学分野】実験レポート・出席・実験態度＝50%

使用教科書名(ISBN番号)

教員作成の実験テキストを配付する（両分野）。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・技能】人間，食物そして地域との相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を有す。
【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題について探求し，その課題解決に向けて正確な情報を収集して批判的・論理的に思考できる。
【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持つ。
【技能・表現】健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能の基盤となる基礎的実験技能を身につける。

オフィスアワー

水曜日2限目（沼波）
木曜日2限目（鈴木）

学生へのメッセージ

本実験授業は専門科目の実験授業に必要な基本的な実験手技および理論的思考力を習得するこ

とを目標としています。そのため、「化学基礎」と「化学」の基礎的な内容を復習し、授業に臨んでください。（化学分野）
生物学・化学の知識だけでなく，実験を通して，今後，専門科目で必要な実験のリテラシーや理科的な思考を養ってください。（生物学分野）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02004032
講義名	基礎サイエンス実験（HB）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	沼波 秀樹	指定なし
助教	鈴木 孝子	指定なし

ナンバリング

H11004C13

授業概要(教育目的)

食品学実験や栄養学実験など実験科目の基礎となる科目である。自然科学分野の理解は講義を聴くだけでは不十分で、体験に基づく理解が不可欠である。化学及び生物学の分野より、特に必要と思われる基本的な実験を行い、基本的実験技術を体得するとともに、実験結果の分析、観察、考察力を養い、レポートの書き方を習得する。

履修条件

特に無し。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自然科学の基本的な事項が、実験に裏打ちされた理解の上に成り立っていることを学ぶ。（化学分野） 基礎的な実験によって基本的な生物現象について理解している。（生物学分野）
思考・判断の観点 (K)	基礎的な実験・レポート作成などを通して，管理栄養士として必要不可欠な理科的思考をもつようになる。（両分野）
関心・意欲・態度の観点 (V)	実験結果の整理を通して、文献・書籍を自ら調べ、理解を深める習慣をもつ。（化学分野） 実験に対する取り組み方やレポートの書き方などついて実践できる。（生物学分野）
技術・表現の観点 (A)	基礎的な実験技術，実験結果と考察による理科的な思考の両方を習得し，2年次以降に行われるより高度な実験に対する基礎力をもっている。（両分野）

学習計画

第1回	**授業テーマ**	生物実験の心得とレポート作成・スケッチ描画についての説明・顕微鏡の使い方（生物学分野１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基礎サイエンス実験の生物学分野実験（以下，生物学実験）を行うにあたり，実験ノートの書き方，スケッチの描き方などの基本的な知識・技術を習得する。また，専門課程でも使用する顕微鏡の基本的な操作方法について習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したテキストを読み，解説内容・実験内容及び実験手順を確認する。高校「生物基礎」の顕微鏡の使い方を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	動物・植物細胞の観察（生物学分野2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生物学実験だけでなく，専門科目の実験（解剖生理学，微生物学など）に使用する生物顕微鏡の基本操作を習得する。また，植物細胞や動物細胞の観察によって基本的な細胞構造や，生物体と細胞との関わりを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1回で説明したレポートの書き方やスケッチの描き方，顕微鏡の観察方法などを復習する。実験前に配布したテキストを読み，実験内容及び実験手順を確認する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	染色体観察・DNA抽出・ATP筋収縮・酵素実験解説（生物学分野3）オンデマンド授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	染色体観察・DNA抽出・ATP筋収縮・酵素実験解説に関する基本的生物学的事項について資料を用いて解説することにより，実験の目的，意義に対する理解を深める。オンデマンドで授業を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したテキストを読み，解説内容・実験内容及び実験手順を確認する。高校「生物基礎」の遺伝子とその働き，細胞とエネルギーを復習すること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	染色体の観察・核型分析（生物学分野4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	細胞周期における核の変化と遺伝子の座である染色の形成を観察し，細胞分裂の過程と染色体の構造を理解する。また，現在の遺伝病の出産前診断にも用いられている染色体の核型分析を行い，遺伝子の座である染色体の特徴について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回で説明した染色体の内容を復習する。実験前に配布したテキストを読み，実験内容及び実験手順を確認する。核型分析は課題とし，後日提出する。高校「生物基礎」の遺伝子とその働きも復習すること。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	DNAの抽出と定性分析（生物学分野5）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	遺伝情報の担い手であるDNAを実際に細胞から抽出し，定性分析を行

第5回	育・ICT活用を含む)	い，その実態について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回で説明したDNAの構造と機能について復習する。実験前に配布したテキストを読み，実験内容及び実験手順を確認する。高校「生物基礎」の遺伝子とその働きも復習すること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	ATPによる筋収縮実験（生物学分野6）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	骨格筋を材料として筋肉の収縮現象を実際に観察し，さらにはその生化学的変化の一端の理解を深めることを目的として行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回のATPについての解説を復習する。実験前に配布したテキストを読み，実験内容及び実験手順を確認する。高校「生物基礎」の細胞とエネルギーも復習すること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	コハク酸脱水素酵素の実験（生物学分野7）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生体内で行われている酵素反応を生体外の比較的簡単な実験系を用いて再現・観察し，酵素の働きについて理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回の酵素についての解説を復習する。実験前に配布したテキストを読み，実験内容及び実験手順を確認する。高校「生物基礎」の細胞とエネルギーも復習すること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	化学実験の心得と器具の基本操作（化学分野１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	化学実験を行うにあたり、器具の名前、各器具の操作方法など基本的な知識・技術を習得する。また実験から得られた数値の取り扱い方などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験前に化学実験のマニュアル（基礎の部）を読み、実験器具や安全ピペッター、ガスバーナーの使用方法について予習をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	溶液の濃度と密度（化学分野２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	化学実験を行う際の基本的な測定方法と濃度や密度の計算を学ぶ。電子天秤で物質量を測定し、水溶液の調整法を習得する。水溶液の濃度と密度の関係や水の密度と温度の関係について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験前に化学実験のマニュアル（実験の部）を読み、実験内容について予習し、実験ノートに実験計画書き、実験概要を把握しておくこと。溶液の濃度について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	容量分析（１）中和滴定 基礎編（化学分野3）

第10回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中和滴定の実験を行い、定量分析の基本操作法を学ぶ。定量実験に必要な器具の基本的な扱い方について習得する。滴定の指示薬や定量計算と物質量について理解を深める。具体的にはシュウ酸標準溶液で水酸化ナトリウム水溶液を標定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験前に化学実験のマニュアル（実験の部）を読み、実験内容について予習し、実験ノートに実験計画書き、実験概要を把握しておくこと。「化学基礎」の酸・塩基と塩について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	容量分析（2）中和滴定 実践編（化学分野4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中和滴定の実験を行い、定量分析の基本操作法を学ぶ。定量実験に必要な器具の基本的な扱い方について習得する。滴定の指示薬や定量計算と物質量について理解を深める。化学分野3回目で行った標定した水酸化ナトリウム水溶液を用い、食酢中の酢酸の定量を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験前に化学実験のマニュアル（実験の部）を読み、実験内容について予習し、実験ノートに実験計画書き、実験概要を把握しておくこと。「化学基礎」の酸・塩基と塩について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	容量分析（3）酸化還元滴定（化学分野5）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	過マンガン酸カリウム水溶液によるオキシドールの酸化還元滴定を行う。酸化還元反応に伴う電子の授受や酸化数の変化に着目し、酸化還元の定義について理解を深める。定量計算法と溶液の取り扱い方を習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験前に化学実験のマニュアル（実験の部）を読み、実験内容について予習し、実験ノートに実験計画書き、実験概要を把握しておくこと。「化学基礎」の酸化反応と還元反応について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	定性分析（１）陽イオン検出（化学分野6）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	金属イオンと酸・塩基・塩類の定性反応を行い、金属イオンの性質を理解し、定性分析法について習得する。実験で使用する種々の薬品の取り扱いや性質および金属の鎖イオンについても理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験前に化学実験のマニュアル（実験の部）を読み、実験内容について予習し、実験ノートに実験計画書き、実験概要を把握しておくこと。「化学基礎」の金属イオンの反応と検出法について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	定性分析（２）官能基の検出（化学分野7）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	有機化合物の官能基について定性反応を行い、官能基の検出法を習得する。実験で使用する種々の薬品の取り扱いや性質および官能基の性質について理解する。特に糖やアミノ酸・カルボン酸の性質について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内	実験前に化学実験のマニュアル（実験の部）を読み、実験内容について予習し、実験ノートに実験計画書き、実験概要を把握しておくこ

	容	と。「化学基礎」の有機化合物の構造式について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

実験内容は，実験材料の入手などの都合によって変更になる場合があります。（生物学分野）
実験内容は,授業実施方法によって変更になる場合があります。（化学分野）

学生へのフィードバック方法

実験時間内に作成した実験サブノート（実験レポート），観察スケッチは次回までに添削する。（生物学分野）
実験終了後に提出したレポート内容の講評・総括を行います。各自提出したレポートの添削内容を確認して下さい。（化学分野）

評価方法

【化学分野・生物学分野共通】化学分野50%、生物学分野50%で評価する。実験科目は出席（実験）しないとレポートが書けないので、欠席・遅刻は厳しい評価になる。この科目は化学分野と生物学分野の両方の基礎的な知識・基本的な実験操作の習得を目的としているため、全14回であるが、どちらかの分野で欠席が多い場合などは、評価が著しく低くなり不可になる可能性がある。専門実験につながる基礎実験なので、実験中の態度なども評価の対象となる。
【化学分野】提出したレポートの合計点と実験態度等の平常点で総合的に評価する。
【生物学分野】毎回，提出する実験サブノートと一部の実験で描くスケッチ，課題を評価対象とする。毎回の実験の提出物・実験態度，実技試験により，総合的に評価する。
なお成績評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては授業内で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実験サブノート（生物学分野）	○	○	○	○
実験レポート（化学分野）	○	○	○	○
実技試験（生物学分野）				○

評価割合

【生物学分野】提出物・出席・実験態度＝50%
【化学分野】実験レポート・出席・実験態度＝50%

使用教科書名(ISBN番号)

教員作成の実験テキストを配付する（両分野）。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・技能】人間，食物そして地域との相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を有す。
【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題について探求し，その課題解決に向けて正確な情報を収集して批判的・論理的に思考できる。
【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持つ。
【技能・表現】健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能の基盤となる基礎的実験技能を身につける。

オフィスアワー

水曜日2限目（沼波）
木曜日2限目（鈴木）

学生へのメッセージ

本実験授業は専門科目の実験授業に必要な基本的な実験手技および理論的思考力を習得するこ

とを目標としています。そのため、「化学基礎」と「化学」の基礎的な内容を復習し、授業に臨んでください。（化学分野）
生物学・化学の知識だけでなく，実験を通して，今後，専門科目で必要な実験のリテラシーや理科的な思考を養ってください。（生物学分野）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02004033
講義名	基礎サイエンス実験（HC）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	沼波 秀樹	指定なし
助教	鈴木 孝子	指定なし

ナンバリング

H11004C13

授業概要(教育目的)

食品学実験や栄養学実験など実験科目の基礎となる科目である。自然科学分野の理解は講義を聴くだけでは不十分で、体験に基づく理解が不可欠である。化学及び生物学の分野より、特に必要と思われる基本的な実験を行い、基本的実験技術を体得するとともに、実験結果の分析、観察、考察力を養い、レポートの書き方を習得する。

履修条件

特に無し。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自然科学の基本的な事項が、実験に裏打ちされた理解の上に成り立っていることを学ぶ。（化学分野） 基礎的な実験によって基本的な生物現象について理解している。（生物学分野）
思考・判断の観点 (K)	基礎的な実験・レポート作成などを通して，管理栄養士として必要不可欠な理科的思考をもつようになる。（両分野）
関心・意欲・態度の観点 (V)	実験結果の整理を通して、文献・書籍を自ら調べ、理解を深める習慣をもつ。（化学分野） 実験に対する取り組み方やレポートの書き方などついて実践できる。（生物学分野）
技術・表現の観点 (A)	基礎的な実験技術，実験結果と考察による理科的な思考の両方を習得し，2年次以降に行われるより高度な実験に対する基礎力をもっている。（両分野）

学習計画

第1回	**授業テーマ**	生物実験の心得とレポート作成・スケッチ描画についての説明・顕微鏡の使い方（生物学分野１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基礎サイエンス実験の生物学分野実験（以下，生物学実験）を行うにあたり，実験ノートの書き方，スケッチの描き方などの基本的な知識・技術を習得する。また，専門課程でも使用する顕微鏡の基本的な操作方法について習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したテキストを読み，解説内容・実験内容及び実験手順を確認する。高校「生物基礎」の顕微鏡の使い方を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	動物・植物細胞の観察（生物学分野2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生物学実験だけでなく，専門科目の実験（解剖生理学，微生物学など）に使用する生物顕微鏡の基本操作を習得する。また，植物細胞や動物細胞の観察によって基本的な細胞構造や，生物体と細胞との関わりを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1回で説明したレポートの書き方やスケッチの描き方，顕微鏡の観察方法などを復習する。実験前に配布したテキストを読み，実験内容及び実験手順を確認する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	染色体観察・DNA抽出・ATP筋収縮・酵素実験解説（生物学分野3）オンデマンド授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	染色体観察・DNA抽出・ATP筋収縮・酵素実験解説に関する基本的生物学的事項について資料を用いて解説することにより，実験の目的，意義に対する理解を深める。オンデマンドで授業を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したテキストを読み，解説内容・実験内容及び実験手順を確認する。高校「生物基礎」の遺伝子とその働き，細胞とエネルギーを復習すること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	染色体の観察・核型分析（生物学分野4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	細胞周期における核の変化と遺伝子の座である染色の形成を観察し，細胞分裂の過程と染色体の構造を理解する。また，現在の遺伝病の出産前診断にも用いられている染色体の核型分析を行い，遺伝子の座である染色体の特徴について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回で説明した染色体の内容を復習する。実験前に配布したテキストを読み，実験内容及び実験手順を確認する。核型分析は課題とし，後日提出する。高校「生物基礎」の遺伝子とその働きも復習すること。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	DNAの抽出と定性分析（生物学分野5）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	遺伝情報の担い手であるDNAを実際に細胞から抽出し，定性分析を行

第5回	育・ICT活用を含む)	い，その実態について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回で説明したDNAの構造と機能について復習する。実験前に配布したテキストを読み，実験内容及び実験手順を確認する。高校「生物基礎」の遺伝子とその働きも復習すること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	ATPによる筋収縮実験（生物学分野6）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	骨格筋を材料として筋肉の収縮現象を実際に観察し，さらにはその生化学的変化の一端の理解を深めることを目的として行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回のATPについての解説を復習する。実験前に配布したテキストを読み，実験内容及び実験手順を確認する。高校「生物基礎」の細胞とエネルギーも復習すること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	コハク酸脱水素酵素の実験（生物学分野7）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生体内で行われている酵素反応を生体外の比較的簡単な実験系を用いて再現・観察し，酵素の働きについて理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回の酵素についての解説を復習する。実験前に配布したテキストを読み，実験内容及び実験手順を確認する。高校「生物基礎」の細胞とエネルギーも復習すること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	化学実験の心得と器具の基本操作（化学分野１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	化学実験を行うにあたり、器具の名前、各器具の操作方法など基本的な知識・技術を習得する。また実験から得られた数値の取り扱い方などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験前に化学実験のマニュアル（基礎の部）を読み、実験器具や安全ピペッター、ガスバーナーの使用方法について予習をしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	溶液の濃度と密度（化学分野２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	化学実験を行う際の基本的な測定方法と濃度や密度の計算を学ぶ。電子天秤で物質量を測定し、水溶液の調整法を習得する。水溶液の濃度と密度の関係や水の密度と温度の関係について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験前に化学実験のマニュアル（実験の部）を読み、実験内容について予習し、実験ノートに実験計画書き、実験概要を把握しておくこと。溶液の濃度について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	容量分析（１）中和滴定 基礎編（化学分野3）

第10回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中和滴定の実験を行い、定量分析の基本操作法を学ぶ。定量実験に必要な器具の基本的な扱い方について習得する。滴定の指示薬や定量計算と物質量について理解を深める。具体的にはシュウ酸標準溶液で水酸化ナトリウム水溶液を標定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験前に化学実験のマニュアル（実験の部）を読み、実験内容について予習し、実験ノートに実験計画書き、実験概要を把握しておくこと。「化学基礎」の酸・塩基と塩について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	容量分析（2）中和滴定 実践編（化学分野4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中和滴定の実験を行い、定量分析の基本操作法を学ぶ。定量実験に必要な器具の基本的な扱い方について習得する。滴定の指示薬や定量計算と物質量について理解を深める。化学分野3回目で行った標定した水酸化ナトリウム水溶液を用い、食酢中の酢酸の定量を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験前に化学実験のマニュアル（実験の部）を読み、実験内容について予習し、実験ノートに実験計画書き、実験概要を把握しておくこと。「化学基礎」の酸・塩基と塩について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	容量分析（3）酸化還元滴定（化学分野5）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	過マンガン酸カリウム水溶液によるオキシドールの酸化還元滴定を行う。酸化還元反応に伴う電子の授受や酸化数の変化に着目し、酸化還元の定義について理解を深める。定量計算法と溶液の取り扱い方を習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験前に化学実験のマニュアル（実験の部）を読み、実験内容について予習し、実験ノートに実験計画書き、実験概要を把握しておくこと。「化学基礎」の酸化反応と還元反応について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	定性分析（１）陽イオン検出（化学分野6）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	金属イオンと酸・塩基・塩類の定性反応を行い、金属イオンの性質を理解し、定性分析法について習得する。実験で使用する種々の薬品の取り扱いや性質および金属の鎖イオンについても理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験前に化学実験のマニュアル（実験の部）を読み、実験内容について予習し、実験ノートに実験計画書き、実験概要を把握しておくこと。「化学基礎」の金属イオンの反応と検出法について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	定性分析（２）官能基の検出（化学分野7）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	有機化合物の官能基について定性反応を行い、官能基の検出法を習得する。実験で使用する種々の薬品の取り扱いや性質および官能基の性質について理解する。特に糖やアミノ酸・カルボン酸の性質について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内	実験前に化学実験のマニュアル（実験の部）を読み、実験内容について予習し、実験ノートに実験計画書き、実験概要を把握しておくこ

	容	と。「化学基礎」の有機化合物の構造式について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

実験内容は，実験材料の入手などの都合によって変更になる場合があります。（生物学分野）
実験内容は,授業実施方法によって変更になる場合があります。（化学分野）

学生へのフィードバック方法

実験時間内に作成した実験サブノート（実験レポート），観察スケッチは次回までに添削する。（生物学分野）
実験終了後に提出したレポート内容の講評・総括を行います。各自提出したレポートの添削内容を確認して下さい。（化学分野）

評価方法

【化学分野・生物学分野共通】化学分野50%、生物学分野50%で評価する。実験科目は出席（実験）しないとレポートが書けないので、欠席・遅刻は厳しい評価になる。この科目は化学分野と生物学分野の両方の基礎的な知識・基本的な実験操作の習得を目的としているため、全14回であるが、どちらかの分野で欠席が多い場合などは、評価が著しく低くなり不可になる可能性がある。専門実験につながる基礎実験なので、実験中の態度なども評価の対象となる。
【化学分野】提出したレポートの合計点と実験態度等の平常点で総合的に評価する。
【生物学分野】毎回，提出する実験サブノートと一部の実験で描くスケッチ，課題を評価対象とする。毎回の実験の提出物・実験態度，実技試験により，総合的に評価する。
なお成績評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては授業内で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実験サブノート（生物学分野）	○	○	○	○
実験レポート（化学分野）	○	○	○	○
実技試験（生物学分野）				○

評価割合

【生物学分野】提出物・出席・実験態度＝50%
【化学分野】実験レポート・出席・実験態度＝50%

使用教科書名(ISBN番号)

教員作成の実験テキストを配付する（両分野）。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・技能】人間，食物そして地域との相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を有す。
【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題について探求し，その課題解決に向けて正確な情報を収集して批判的・論理的に思考できる。
【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持つ。
【技能・表現】健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能の基盤となる基礎的実験技能を身につける。

オフィスアワー

水曜日2限目（沼波）
木曜日2限目（鈴木）

学生へのメッセージ

本実験授業は専門科目の実験授業に必要な基本的な実験手技および理論的思考力を習得するこ

とを目標としています。そのため、「化学基礎」と「化学」の基礎的な内容を復習し、授業に臨んでください。（化学分野）
生物学・化学の知識だけでなく，実験を通して，今後，専門科目で必要な実験のリテラシーや理科的な思考を養ってください。（生物学分野）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02005031
講義名	栄養情報統計演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	田中 千晶	指定なし
教授	江川 賢一	指定なし
准教授	會退 友美	指定なし

ナンバリング

H21005C12

授業概要(教育目的)

Evidence-Based Nutrition（根拠に基づく栄養学）を実践するためには、まずは各種調査等の情報を有効に活用する必要がある。そのためには情報の取得方法や、統計学の理論に基づいたデータの扱いが必須である。本授業では、インターネットを活用した各種栄養情報の収集方法、さらには統計学の基礎知識を学びながら、統計処理アプリケーションソフトを用いてデータ解析の方法の演習を行う。特に管理栄養士として扱うことが多い調査データについて、数値を扱いながら理解を深める。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	確率論的なものの見方を理解し、統計学的推測（推定と検定）の原理と方法を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	調査や測定により得られた数値・文字データ特性を考察するための適切な集計方法や統計処理方法を類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	調査の基礎事項を理解し、集団全体の健康課題を解決できるようになる。
技術・表現の観点 (A)	調査や測定により得られた結果を適切に考察し、図表等で表現できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	情報・統計とは（田中）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業受講にあたり、注意点、評価方法の説明。実験、調査などによって得られたデータは、代表値（平均、中央値など）などで、データの持つ特徴を端的に表現することができることを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「ていねいな保健統計学」および「公衆衛生学I」の教科書を用いて、演習で学んだ基礎的な統計調査を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	**授業テーマ**	人の健康・生活に関わる要因を考える（會退）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人の健康・生活に関わる要因を整理すること、数値化する意義を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「ていねいな保健統計学」第6章1～4保健統計調査を予習すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	**授業テーマ**	人の健康・生活に関わる要因を数値化する（會退）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人の健康・生活に関わる要因を整理し、どのように数値化して評価を行うかを実際に検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「ていねいな保健統計学」第6章1～4保健統計調査を予習すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	**授業テーマ**	地域づくりにおける統計①（會退）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域づくりにおけるPDCAサイクルで用いられる統計の必要性を理解し、実際の計画、評価を調べ報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「ていねいな保健統計学」第6章1～4保健統計調査を予習すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	地域づくりにおける統計②（會退）

第5回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域づくりにおけるPDCAサイクルで用いられる統計の必要性を理解し、実際の計画、評価を調べ報告する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「ていねいな保健統計学」第6章1～4保健統計調査を予習すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	基本統計（田中）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実験、調査などによって得られたデータは、バラツキの指標（標準偏差、四分位など）などで、分布を端的に表現することができる。それらの基本的な統計量について学修する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付資料および「ていねいな保健統計学」を用いて、演習で学んだ検定方法の該当箇所を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	母集団の平均値の区間推定（田中）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ある集団（標本集団）で得られた値から、本来知りたかった集団（母集団）の平均値がどのあたりに存在するか知りたい場合がある。そこで今回は、実際の量的データを用いて、区間推定を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「ていねいな保健統計学」を用いて、演習で学んだ検定方法の該当箇所を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	2変数の相関（田中）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)データ解析を行うとき、変数（項目）間の関係を調べたい場合がある。今回は、量的データ同士を表示する方法として、散布図を描き、2つの量的データ間の関連を示す指標である相関係数を求める方法を学ぶ。作図等のため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学修した相関図の作成時に留意点と作成方法を復習すること。

	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	**授業テーマ**	記述統計のとらえ方および中間試験（田中）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	記述統計は、データが得られた背後の状況を理解した上で解釈する必要がある。そこで対象集団やデータの収集方法、他の変数の影響などを踏まえて、統計情報の見方を学ぶ（70分）。1,6～8回の授業内容について、記述試験（30分）を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	1,6～8回の演習で学んだ検定方法を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	**授業テーマ**	栄養統計学の方法（江川）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人間集団の栄養摂取、食習慣や食行動の評価手法を理解する。 人間集団の栄養摂取、食習慣や食行動と疾病の関連を調査する手法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「ていねいな保健統計学」第1章を復習すること。 「ていねいな保健統計学」第5章人口統計を予習すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	**授業テーマ**	人口統計（江川）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人口静態統計、人口動態統計、出生・死亡に関する指標を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターネットで国民健康・栄養調査を入手すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	**授業テーマ**	保健統計（江川）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基幹統計、一般統計調査の方法と内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターネットで入手した国民健康・栄養調査に回答すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	国民健康・栄養調査（江川）

第13回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	わが国の国民健康・栄養調査の方法と内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「ていねいな保健統計学」第6章保健統計調査（5 情報処理）を予習すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	**授業テーマ**	栄養統計学の応用（江川）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養統計学に必要な統計学・情報処理の基礎を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養統計学に関する学習事項を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

PCを使用して出欠、教材配布、課題提出、フィードバックをします。

学生へのフィードバック方法

・課題に対するフィードバックは、授業にて解説します。リアクションペーパーを通じて個別の質問に対応する。（田中）
・予想問題は、次週の講義で解説する。リアクションペーパーを通じて個別の質問に対応する。（江川）
・授業内にて個別または全体に対して解説を行う。（會退）

評価方法

ルーブリックに基づいて成績評価します。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示をします。
・試験（60%）および平常点（リアクションペーパーの内容により理解度を評価する: 40%）から総合的に評価する。（田中）
・教室外学習は、リアクションペーパーの内容により理解度を評価する。（江川）
・レポート課題（60%）、平常点（提出物等、40%）から総合的に評価する。（會退）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
筆記試験	○			
リアクションペーパー		○		○
レポート	○	○		○

評価割合

筆記試験（60%）、平常点（リアクションペーパーの内容：40%）（田中）
レポート課題（60%）、平常点（提出物等、40%）（江川）

レポート課題（60%）、平常点（提出物等、40%）（會退）

使用教科書名(ISBN番号)

『ていねいな保健統計学 第2版』,羊土社 ISBN 978-4-7581-0976-5

参考図書

（10～14回）国民健康・栄養調査 https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyou_chousa.html

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により、人間、食物、そして地域との相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識と、それらを地域社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。
【思考・判断】個人から地域コミュニティ、グルーバルな観点から現代の食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【技能・表現】人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能とともに、マネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

水および木曜日昼休み（田中研究室）
木曜日昼休み（江川研究室）
木曜日昼休み（會退研究室）

学生へのメッセージ

担当教員により授業進行、教材、評価方法が異なります。各教員のガイダンスを理解して、演習に必要な知識や技術を修得しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員（田中）は、国立の研究機関および国際共同機関での研究の経験を踏まえて、ヘルスプロモーションに関する基本的なデータ解析法を教授する。 担当教員（江川）は民間企業の研究機関における研究に従事した経験を踏まえて、健康増進を目的としたデータ解析手法を教授する。 担当教員（會退）は、公衆栄養臨地実習に携わっている経験を踏まえて、管理栄養士として求められる統計と実際の活用を繋げて解説する。
アクティブ・ラーニング	○	教室外学習の定着のために、予習事項のディスカッションを行い、復習事項をチェックする。（江川）
情報リテラシー教育	○	
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（リアクションペーパー）を提出する。（江川）

講義コード	H02007031
講義名	社会福祉学概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	嶋田 芳男	指定なし

ナンバリング

H32107C21

授業概要(教育目的)

社会福祉の意味と理念、社会福祉の原理、社会福祉を取り巻く環境を理解した上で、社会福祉の展開、社会福祉を支える仕組みや専門職、方法論、社会保障、高齢者やこどもの福祉など、社会福祉全般について講義する

履修条件

この授業は、現代家政学科との合同授業で実施する。なお、昨年度とは異なり、すべての授業は千代田三番町キャンパスで対面授業となる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	社会福祉の意味と理念、社会福祉の原理、社会福祉の歴史的展開、社会福祉を支える仕組みや専門職、方法論、社会保障、高齢者やこどもの福祉について説明できる
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会福祉分野に対する関心が持てる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

現代社会における社会福祉の意味と意義を考える

	授業テーマ	社会福祉の基礎概念（1）

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会福祉の意味とライフステージごとの福祉課題及び理念（ノーマライゼーションなど）が理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第2回	授業テーマ	社会福祉の基礎概念（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「社会生活の原理」と「バイステックの7原則」双方の原理を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第3回	授業テーマ	社会福祉を取り巻く環境（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	少子高齢化社会の現状と課題について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	少子化、高齢化の状況を調べておく
	教室外学習の時間（分）	195分
第4回	授業テーマ	社会福祉を取り巻く環境（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家族の現状や地域社会の特性・動向について理解するとともに、それぞれの課題についても併せて理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	世帯の状況を調べておく。配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第5回	授業テーマ	わが国における社会福祉の展開（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	明治期から大正期において、どのような社会福祉が展開されてきたかを理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト31～36ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく
	教室外学習の時間（分）	195分
第6回	授業テーマ	わが国における社会福祉の展開（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	昭和期から現在に至るまで、どのような社会福祉が展開されてきたかを理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト37～40ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく
	教室外学習の時間（分）	195分
	授業テーマ	社会福祉を支える法体系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会福祉の法体系及び各種法律の概要について理解する

第7回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第8回	授業テーマ	社会福祉を支える組織
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会福祉における国・都道府県・市町村によって設けられた各種行政組織や、民間組織について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第9回	授業テーマ	社会福祉を支える専門職
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）やケアワーカー、保育士、医療関係専門職の業務内容と資格、および連携について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト42～50ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	社会福祉の援助方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ケースワークを中心に、グループワーク、コミュニティワーク他、さまざまな方法論の内容を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト52～61ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	社会保障制度の概要（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	年金保険、医療保険制度の概要について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第12回	授業テーマ	社会保障制度の概要（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公的扶助（生活保護）の基本原理、基本原則、種類と内容について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第13回	授業テーマ	こどもと障害者の福祉
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	こどもと障害者の福祉の現状と施設・サービス体系などについて、その概要を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	分からない用語について調べておく

	教室外学習の時間（分）	195分
第14回	**授業テーマ**	高齢者の福祉及び試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢者の現状と法体系、および公的介護保険制度の概要を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト73～82ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく。 配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分

学習計画注記

授業の進み具合によってスケジュールが変更になることがある

学生へのフィードバック方法

特になし

評価方法

・平常点
授業の受講態度・姿勢について評価する。また、必要に応じて小課題を課す（3回程度）。
課題は、ルーブリックを用いて評価する（詳細は、科目のオリエンテーション時に提示する）。
・定期試験
福祉専門職との連携を図るために必要な知識について把握しているかを問う出題とする。詳細については、最後の授業で説明する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	
定期試験	○			

評価割合

平常点20%、定期試験80%

使用教科書名(ISBN番号)

大熊信成他編『現代社会福祉の諸相』大学図書出版
必要に応じ、プリントを配布する

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
福祉活動に直接的・間接的に関係する各種社会福祉制度や社会福祉方法論に関する専門的な知識が修得できる
【関心・意欲・態度】
さまざまな福祉課題などに関心が持て、各種の福祉専門職との連携を図ることができる

オフィスアワー

火曜3限、木曜2限

学生へのメッセージ

新聞等により、児童・障害者・高齢者にどのような社会問題があるのかを把握したうえで、授業に臨んでもらいたい

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	地域で福祉活動を展開している児童・高齢者施設のソーシャルワーカーの経験を有しており、業務を遂行していく上で必要と考える社会福祉全般の知識を講義している
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02011031
講義名	公衆衛生学I
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	田中 千晶	指定なし

ナンバリング

H22102C21

授業概要(教育目的)

公衆衛生とは、組織的な社会努力を通して集団の健康を改善することであり、疾病の予防を目的とし、かつ健康の保持増進を図る技術である。本講義では、人の健康に影響を及ぼす社会と環境の関わりについて、健康の概念をはじめ広範囲にわたる分野（保健・医療・福祉・介護システム、健康問題の現状と健康づくり施策など）を講義する。集団全体の健康問題を評価でき、予防医学上の課題を自らとらえ解決していくことができる管理栄養士を養成することを目標とする。

履修条件

特に無し。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	人の健康に影響を及ぼす社会と環境の関わりについて、健康の概念、公衆衛生の歴史、健康を維持・管理するための基本的な社会制度や現状等について学修し課題を発見する。
思考・判断の観点 (K)	集団全体の健康問題を評価できるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	集団全体の健康問題を、予防医学上の課題を自らとらえ解決できるようになる。
技術・表現の観点 (A)	人の健康と社会・環境との関係について公衆衛生指標などを利用し表現できるようになる。

学習計画

公衆衛生学I

第1回	**授業テーマ**	健康と公衆衛生1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業受講にあたり、注意点、評価方法の説明、健康の概念
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。
	教室外学習の時間（分）	195分
第2回	**授業テーマ**	健康と公衆衛生2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公衆衛生の概念（プライマリヘルスケア，ヘルスプロモーション，一次・二次・三次予防）
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。
	教室外学習の時間（分）	195分
第3回	**授業テーマ**	保健統計1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保健統計の概要、人口静態統計、人口動態統計
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。
	教室外学習の時間（分）	195分
第4回	**授業テーマ**	保健統計2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	傷病統計による主な疾病の現状と動向などの、死因分類と死因統計、生命表、疾病統計等の概要
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。
	教室外学習の時間（分）	195分
第5回	**授業テーマ**	疫学とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	疫学の概念、疫学指標、疫学研究の方法
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。
	教室外学習の時間（分）	195分
第6回	**授業テーマ**	根拠に基づいた保健対策と研究倫理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	根拠に基づいた保健対策、疫学研究と倫理
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。
	教室外学習の時間（分）	195分
第7回	**授業テーマ**	生活習慣の現状と健康1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活習慣病の概念、身体活動、運動、喫煙行動、飲酒行動などの生活習慣の現状と課題
	(　　)	

	教室外学習 予習・復習 の内容	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。
	教室外学習の時間（分）	195分
第8回	**授業テーマ**	生活習慣の現状と健康2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	休養指針、ストレスと健康
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。
	教室外学習の時間（分）	195分
第9回	**授業テーマ**	健康日本21
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	健康日本21の概要
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。
	教室外学習の時間（分）	195分
第10回	**授業テーマ**	主要疾患の疫学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	悪性新生物、循環器疾患、代謝疾患、骨、関節疾患、ロコモティブシンドローム、その他慢性疾患に関する死亡状況
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。
	教室外学習の時間（分）	195分
第11回	**授業テーマ**	主要疾患の疫学と予防対策
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	悪性新生物、循環器疾患、代謝疾患、骨、関節疾患、ロコモティブシンドローム、その他慢性疾患に関する予防対策
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。
	教室外学習の時間（分）	195分
第12回	**授業テーマ**	環境と健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生態系の中の人間生活、環境汚染と健康影響、環境衛生
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。
	教室外学習の時間（分）	195分
第13回	**授業テーマ**	感染症
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主要感染症、感染症に関する法律、予防接種
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。
	教室外学習の時間（分）	195分
第14回	**授業テーマ**	まとめと定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1～13回目のまとめと定期試験
	教室外学習(予習・復習)の	

	内容	1～13回目の学修内容を教科書を用いて復習する。
	教室外学習の時間（分）	195分

学習計画注記

学習の進度により、学習内容を調整します。

学生へのフィードバック方法

質問等は、リアクションペーパーの使用あるいは対面にて対応します。

評価方法

期末試験(80%)、平常点（リアクションペーパーの提出20%）から総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末試験	○	○		
平常点		○	○	○

評価割合

期末試験(80%)、平常点（リアクションペーパーの提出20%）から総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

中村信也(著/文). 〔社会・環境と健康〕公衆衛生学 2025/2026, 同文書院, ISBN978-4-8103-1529-5

参考図書

特に無し。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
人々の健康の維持・増進と社会および環境を関連付けながら「人間の栄養」を理解するための専門的知識を身につける
【思考・判断】
特に地域コミュニティ、グローバルな観点から現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につける
【関心・意欲・態度】
「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思を身につけている
【技術・表現】
人の健康と社会・環境との相互関係に基づく公衆衛生上の専門的技能と、他職種とのコミュニケーションやマネジメント、プレゼンテーション力などを身につける

オフィスアワー

水および木曜日昼休みに実施しますので、研究室へお越しください。

学生へのメッセージ

私達が健康の維持・増進をする上で、社会や環境は深く関わっています。著しく変化する社会や環境の動向に目を向け、社会の制度や環境対策など、社会に出てからも役立つ知識を身につけ、活用できるように学修しましょう。また、「管理栄養士国家試験の出題基準（ガイドライン）」では、「公衆衛生学」が「社会・環境と健康」の内容として出題されています。本科目を通じて、準備をしていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有	概要

	無	
実務経験を活かした授業	○	国際機関Active Healthy Kids Global Allianceの日本の代表者として、子どもとその周囲の大人の健康増進に資する生活習慣、環境、政策の改善に取り組んでいる経験を生かす。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		Google formを用いたリアクションペーパー提出を実施する。

講義コード	H02012031
講義名	公衆衛生学II
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	田中 千晶	指定なし

ナンバリング

H22102C21

授業概要(教育目的)

本講義では、公衆衛生学Iで学修した事を基礎に、理念レベル、統計レベル、政策･指標レベル（健康日本21）の公衆衛生学を統合的に講義する。健康日本21の概要、それを実現するために必要なわが国における保健医療福祉介護の対応策、ケアシステム、及び社会保障制度によって提供されている具体的なサービスの内容や、費用と財源、各種多様な福祉関連施設ならびに社会保障を担う人々について、その資格や職務内容、社会保障制度、地域社会で展開されている保健活動と法律について理解することを目的とする。

履修条件

公衆衛生学I

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	現実社会における健康問題を社会がどのように解決しようとしているのかを説明できるようになる
思考・判断の観点 (K)	人々の健康状態に違いが生じる原因を追究するための方法論を判断できるようになる
関心・意欲・態度の観点 (V)	集団全体の健康問題を、予防医学上の課題を自らとらえ解決できるようになる。
技術・表現の観点 (A)	人の健康と社会・環境との関係について、政府統計をはじめとする各種統計などの情報を収集・利用し、適切に解釈し、表現できるようになる。

学習計画

公衆衛生学II

第1回	**授業テーマ**	地域保健
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域保健活動の目的および現状と課題
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。
	教室外学習の時間（分）	195分
第2回	**授業テーマ**	母子保健
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	母子保健の目的および現状と課題
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。
	教室外学習の時間（分）	195分
第3回	**授業テーマ**	学校保健
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校保健の目的および現状と課題
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。
	教室外学習の時間（分）	195分
第4回	**授業テーマ**	成人保健
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	成人保健の目的および現状と課題
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。
	教室外学習の時間（分）	195分
第5回	**授業テーマ**	産業保健
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	産業保健の目的および現状と課題
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。
	教室外学習の時間（分）	195分
第6回	**授業テーマ**	精神保健
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	精神保健の目的および現状と課題
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。
	教室外学習の時間（分）	195分

第7回	授業テーマ	社会保障
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会保障の概念、栄養関連法規
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。
	教室外学習の時間(分)	195分
第8回	授業テーマ	医療保険制度
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	医療保険制度の概要、データヘルス計画
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。
	教室外学習の時間(分)	195分
第9回	授業テーマ	福祉制度
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	福祉制度の概要
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。
	教室外学習の時間(分)	195分
第10回	授業テーマ	高齢者保健
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢者保健の目的および現状と課題
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。
	教室外学習の時間(分)	195分
第11回	授業テーマ	介護保険制度
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	介護保険制度の概要
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。
	教室外学習の時間(分)	195分
第12回	授業テーマ	国際保健
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国際保健の意義、国際的な健康問題、国際協力と国際機関の役割
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。
	教室外学習の時間(分)	195分
	授業テーマ	公衆衛生分野の最新動向
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	公衆衛生学IIの学修内容を、変化の著しい公衆衛生分野の最

第13回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新動向や公衆衛生学実習での実習内容とも結びつけ、公衆衛生学への関心を高める
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書と第12回までの講義ノートを用いて、全体の復習を行う
	教室外学習の時間(分)	195分
第14回	授業テーマ	まとめと定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公衆衛生学IIのまとめと定期試験
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書と第12回までの講義ノートを用いて、全体の復習を行う
	教室外学習の時間(分)	195分

学習計画注記

学習の進度により、学習内容を調整します。

学生へのフィードバック方法

質問等は、リアクションペーパーの使用あるいは対面にて対応します。

評価方法

期末試験(80%)、平常点（リアクションペーパーの提出20%）から総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末試験	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

期末試験(80%)、平常点（リアクションペーパーの提出20%）から総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

中村信也(著/文).〔社会・環境と健康〕公衆衛生学 2025/2026, 同文書院, ISBN978-4-8103-1529-5

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
人々の健康状態に違いが生じる原因を追究するための方法論を説明できるようになる
【思考・判断】
現実社会における健康問題を社会がどのように解決しようとしているのかを判断できる力を身につける
【関心・意欲・態度】
「人間の健康と環境」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思を身につけている
【技術・表現】
人の健康と社会・環境との相互関係について政府統計などを利用し、プレゼンテーションできる力などを身につける

オフィスアワー

水曜日および木曜日昼休みに実施しますので、研究室へお越しください。

学生へのメッセージ

公衆衛生学Iで学修したことを基礎として、具体的なテーマ設定に基づいてその展開を試みるこ

とによって、知識がより確実なものとなり、かつ応用可能な能力となることを目指します。ディスカッションの中で常に応用を念頭に置いて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	国際機関Active Healthy Kids Global Allianceの日本の代表者として、子どもとその周囲の大人の健康増進に資する生活習慣、環境、政策の改善に取り組んでいる経験を生かす。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		Google formを用いたリアクションペーパー提出を実施する。

講義コード	H02013031
講義名	公衆衛生学実習（HA）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	田中 千晶	指定なし

ナンバリング

H22103C13

授業概要(教育目的)

本科目では、「公衆衛生学I」で学んだ基礎知識を用いて、地域社会の公衆衛生学的課題の解決に取り組むことができるように、政府統計や環境測定などの公衆衛生学に関連する調査・測定法の習得、調査・測定法の留意点、および評価法について講義する。

履修条件

公衆衛生学I

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	地域社会の公衆衛生学的課題を解決するための、公衆衛生学に関連する調査・測定法を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	政府統計や環境測定機器等から得られた結果を評価できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	集団全体の健康問題を、他者と協力してとらえ解決できるようになる。
技術・表現の観点 (A)	人の健康と社会・環境との関係について政府統計や環境測定機器、各種情報などを利用し表現できるようになる。

学習計画

公衆衛生学実習

	授業テーマ	健康と公衆衛生学実習

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	授業受講にあたり、注意点、評価方法の説明、測定と評価とは、成人・高齢者における適正体重の測定法と留意点および評価法（測定値の妥当性と信頼性、スクリーニング）。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に公衆衛生学Iで学習した「一次予防、二次予防、三次予防」について復習してくること
	教室外学習の時間（分）	10分
第2回	**授業テーマ**	成人・高齢者の健康1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	形態（身体組成、周径囲）測定の妥当性と再現性の実際、健康日本21の数値目標、政府統計を用いたグループワークと発表。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に腹囲の測定法を復習してくること
	教室外学習の時間（分）	10分
第3回	**授業テーマ**	成人・高齢者の健康2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体力（機能）の測定法と留意点および加齢変化、性差。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第3章の該当箇所を予習すること
	教室外学習の時間（分）	15分
第4回	**授業テーマ**	母子の健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発育の測定法と留意点および評価法（SDスコア、パーセンタイル法）、環境と発育発達。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第3章の発育の評価法を予習すること
	教室外学習の時間（分）	10分
第5回	**授業テーマ**	身体活動ガイドライン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動指針（アクティブガイド、幼児期運動指針）、体力の基準と測定評価の留意点。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に教科書第5章，第6章の該当箇所を復習すること

	教室外学習の時間（分）	15分
第6回	**授業テーマ**	身体活動・運動1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動の定量法（身体活動と運動の定義、二重標識水法、要因加算法、歩数計法）と留意点、食事摂取基準の活用の理論。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学修した要因加算法と歩数を次回の授業まで測定してくること、教科書第1章，第2章の該当箇所を復習すること
	教室外学習の時間（分）	15分
第7回	**授業テーマ**	身体活動・運動2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動量の定量法（要因加算法、加速度計法、歩数計法）とその実際。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に教科書第5章，第6章の該当箇所を復習すること
	教室外学習の時間（分）	15分
第8回	**授業テーマ**	身体活動・運動3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	座位行動の定義、健康日本21の数値目標、政府統計を用いたグループワークと発表。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前にグループワーク発表内容をまとめてくること、授業後に教科書第2章の該当箇所を復習すること
	教室外学習の時間（分）	15分
第9回	**授業テーマ**	レクリエーションスポーツ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レクリエーションスポーツの実際、運動の定量法（心拍数法、歩数計法、活動記録法）とその実際。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前にグループワーク発表内容をまとめてくること、授業後に教科書第2章の該当箇所を復習すること
	教室外学習の時間（分）	15分
第10回	**授業テーマ**	環境と健康1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	室内・室外環境の測定。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。

	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に、新聞などを用いて、環境汚染が健康に及ぼす影響について調べてくること
	教室外学習の時間（分）	10分
第11回	**授業テーマ**	環境と健康2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	室内・室外環境の測定結果に関する発表。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前にグループワーク発表内容をまとめてくること
	教室外学習の時間（分）	10分
第12回	**授業テーマ**	こころの健康と休養
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ストレスチェック、睡眠の評価。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に、新聞などを用いて、ストレスや睡眠に関する現代人の課題について調べてくること
	教室外学習の時間（分）	10分
第13回	**授業テーマ**	身体活動の地域間比較1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動のレポートカードに関する解説と、身体活動の都道府県差と関連する要因の探索。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身体活動と関連のありそうな様々な都道府県単位の統計結果を調べる（公衆衛生学実習教科書第7章）
	教室外学習の時間（分）	10分
第14回	**授業テーマ**	身体活動の地域間比較2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動の都道府県差と関連する要因に関する発表、第1～13回のまとめ。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身体活動と関連のありそうな様々な都道府県単位の統計結果を調べる
	教室外学習の時間（分）	10分

学習計画注記

学習の進度や天候により、学習内容を調整します。

学生へのフィードバック方法

質問等は、リアクションペーパーの使用あるいは対面にて対応します。課題に対するフィードバックは、授業にて解説します。

評価方法

ルーブリックに基づいて成績評価します。ルーブリックについては授業内での配布等により提示をします。プレゼンテーション(30%)、レポート(50%)、平常点（リアクションペーパーの提出内容10%）から総合的に評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
プレゼンテーション	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○
平常点		○	○	

評価割合

プレゼンテーション(30%)、レポート(50%)、平常点（リアクションペーパーの提出内容10%）から総合的に評価する。授業内での配布等により提示するルーブリックに基づいて成績評価を行う。

使用教科書名(ISBN番号)

田中千晶: 基礎から学ぶ発育発達のための身体活動～元気な子どもを育む確かな根拠～. 2019,杏林書院. ISBN：978-4-7644-1205-7

参考図書

公衆衛生学Iで使用した教科書（中村信也(著/文). 〔社会・環境と健康〕公衆衛生学

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
社会の基盤となる健康とは何かを理解し、総合的な公衆衛生学の視点から、現代生活の健康関連の諸問題を理解する方法論を説明できるようになる。
【思考・判断】
現実社会における健康問題を判断できる力を身につける。
【関心・意欲・態度】
子どもから高齢者まで幅広い年齢層の「人間の健康と環境」に関心を持ち、集団全体の健康問題を、他者と協力してとらえ解決できるようになる。
【技術・表現】
人の健康と社会・環境との関係に関する各種調査や測定機器などを利用できる技術を習得する。

オフィスアワー

水曜日および木曜日昼休みに実施しますので、研究室へお越しください。

学生へのメッセージ

公衆衛生学Iで学修したことを基礎として、健康に関連する課題を検討するために、社会で用いられている調査/測定法および評価法の習得を目指します。統計を用いながら、調査法・測定法の留意点についても学修します。プレゼンテーションやグループワークによるディスカッションの中での積極的な学びの態度を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	国際機関Active Healthy Kids Global Allianceの日本の代表者として、子どもとその周囲の大人の健康増進に資する生活習慣、環境、政策の改善に取り組んでいる経験を生かす。
アクティブ・ラーニング	○	グループ・ワークを行う。
情報リテラシー教育	○	インターネットを用いた健康関連情報の検索を行う。
ICT活用	○	Google formを用いたリアクションペーパー提出を実施する。

講義コード	H02013032
講義名	公衆衛生学実習（HB）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	田中 千晶	指定なし

ナンバリング

H22103C13

授業概要(教育目的)

本科目では、「公衆衛生学I」で学んだ基礎知識を用いて、地域社会の公衆衛生学的課題の解決に取り組むことができるように、政府統計や環境測定などの公衆衛生学に関連する調査・測定法の習得、調査・測定法の留意点、および評価法について講義する。

履修条件

公衆衛生学I

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	地域社会の公衆衛生学的課題を解決するための、公衆衛生学に関連する調査・測定法を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	政府統計や環境測定機器等から得られた結果を評価できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	集団全体の健康問題を、他者と協力してとらえ解決できるようになる。
技術・表現の観点 (A)	人の健康と社会・環境との関係について政府統計や環境測定機器、各種情報などを利用し表現できるようになる。

学習計画

公衆衛生学実習

	授業テーマ	健康と公衆衛生学実習

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	授業受講にあたり、注意点、評価方法の説明、測定と評価とは、成人・高齢者における適正体重の測定法と留意点および評価法（測定値の妥当性と信頼性、スクリーニング）。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に公衆衛生学Iで学習した「一次予防、二次予防、三次予防」について復習してくること
	教室外学習の時間（分）	10分
第2回	**授業テーマ**	成人・高齢者の健康1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	形態（身体組成、周径囲）測定の妥当性と再現性の実際、健康日本21の数値目標、政府統計を用いたグループワークと発表。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に腹囲の測定法を復習してくること
	教室外学習の時間（分）	10分
第3回	**授業テーマ**	成人・高齢者の健康2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体力（機能）の測定法と留意点および加齢変化、性差。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第3章の該当箇所を予習すること
	教室外学習の時間（分）	15分
第4回	**授業テーマ**	母子の健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発育の測定法と留意点および評価法（SDスコア、パーセンタイル法）、環境と発育発達。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第3章の発育の評価法を予習すること
	教室外学習の時間（分）	10分
第5回	**授業テーマ**	身体活動ガイドライン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動指針（アクティブガイド、幼児期運動指針）、体力の基準と測定評価の留意点。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に教科書第5章，第6章の該当箇所を復習すること

	教室外学習の時間（分）	15分
第6回	**授業テーマ**	身体活動・運動1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動の定量法（身体活動と運動の定義、二重標識水法、要因加算法、歩数計法）と留意点、食事摂取基準の活用の理論。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学修した要因加算法と歩数を次回の授業まで測定してくること、教科書第1章，第2章の該当箇所を復習すること
	教室外学習の時間（分）	15分
第7回	**授業テーマ**	身体活動・運動2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動量の定量法（要因加算法、加速度計法、歩数計法）とその実際。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に教科書第5章，第6章の該当箇所を復習すること
	教室外学習の時間（分）	15分
第8回	**授業テーマ**	身体活動・運動3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	座位行動の定義、健康日本21の数値目標、政府統計を用いたグループワークと発表。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前にグループワーク発表内容をまとめてくること、授業後に教科書第2章の該当箇所を復習すること
	教室外学習の時間（分）	15分
第9回	**授業テーマ**	レクリエーションスポーツ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レクリエーションスポーツの実際、運動の定量法（心拍数法、歩数計法、活動記録法）とその実際。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前にグループワーク発表内容をまとめてくること、授業後に教科書第2章の該当箇所を復習すること
	教室外学習の時間（分）	15分
第10回	**授業テーマ**	環境と健康1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	室内・室外環境の測定。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。

	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に、新聞などを用いて、環境汚染が健康に及ぼす影響について調べてくること
	教室外学習の時間（分）	10分
第11回	**授業テーマ**	環境と健康2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	室内・室外環境の測定結果に関する発表。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前にグループワーク発表内容をまとめてくること
	教室外学習の時間（分）	10分
第12回	**授業テーマ**	こころの健康と休養
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ストレスチェック、睡眠の評価。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に、新聞などを用いて、ストレスや睡眠に関する現代人の課題について調べてくること
	教室外学習の時間（分）	10分
第13回	**授業テーマ**	身体活動の地域間比較1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動のレポートカードに関する解説と、身体活動の都道府県差と関連する要因の探索。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身体活動と関連のありそうな様々な都道府県単位の統計結果を調べる（公衆衛生学実習教科書第7章）
	教室外学習の時間（分）	10分
第14回	**授業テーマ**	身体活動の地域間比較2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動の都道府県差と関連する要因に関する発表、第1～13回のまとめ。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身体活動と関連のありそうな様々な都道府県単位の統計結果を調べる
	教室外学習の時間（分）	10分

学習計画注記

学習の進度や天候により、学習内容を調整します。

学生へのフィードバック方法

質問等は、リアクションペーパーの使用あるいは対面にて対応します。課題に対するフィードバックは、授業にて解説します。

評価方法

ルーブリックに基づいて成績評価します。ルーブリックについては授業内での配布等により提示をします。プレゼンテーション(30%)、レポート(50%)、平常点（リアクションペーパーの提出内容10%）から総合的に評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
プレゼンテーション	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○
平常点		○	○	

評価割合

プレゼンテーション(30%)、レポート(50%)、平常点（リアクションペーパーの提出内容10%）から総合的に評価する。授業内での配布等により提示するルーブリックに基づいて成績評価を行う。

使用教科書名(ISBN番号)

田中千晶: 基礎から学ぶ発育発達のための身体活動～元気な子どもを育む確かな根拠～. 2019,杏林書院. ISBN：978-4-7644-1205-7

参考図書

公衆衛生学Iで使用した教科書（中村信也(著/文). 〔社会・環境と健康〕公衆衛生学

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
社会の基盤となる健康とは何かを理解し、総合的な公衆衛生学の視点から、現代生活の健康関連の諸問題を理解する方法論を説明できるようになる。
【思考・判断】
現実社会における健康問題を判断できる力を身につける。
【関心・意欲・態度】
子どもから高齢者まで幅広い年齢層の「人間の健康と環境」に関心を持ち、集団全体の健康問題を、他者と協力してとらえ解決できるようになる。
【技術・表現】
人の健康と社会・環境との関係に関する各種調査や測定機器などを利用できる技術を習得する。

オフィスアワー

水曜日および木曜日昼休みに実施しますので、研究室へお越しください。

学生へのメッセージ

公衆衛生学Iで学修したことを基礎として、健康に関連する課題を検討するために、社会で用いられている調査/測定法および評価法の習得を目指します。統計を用いながら、調査法・測定法の留意点についても学修します。プレゼンテーションやグループワークによるディスカッションの中での積極的な学びの態度を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	国際機関Active Healthy Kids Global Allianceの日本の代表者として、子どもとその周囲の大人の健康増進に資する生活習慣、環境、政策の改善に取り組んでいる経験を生かす。
アクティブ・ラーニング	○	グループ・ワークを行う。
情報リテラシー教育	○	インターネットを用いた健康関連情報の検索を行う。
ICT活用	○	Google formを用いたリアクションペーパー提出を実施する。

講義コード	H02013033
講義名	公衆衛生学実習（HC）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	田中 千晶	指定なし

ナンバリング

H22103C13

授業概要(教育目的)

本科目では、「公衆衛生学I」で学んだ基礎知識を用いて、地域社会の公衆衛生学的課題の解決に取り組むことができるように、政府統計や環境測定などの公衆衛生学に関連する調査・測定法の習得、調査・測定法の留意点、および評価法について講義する。

履修条件

公衆衛生学I

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	地域社会の公衆衛生学的課題を解決するための、公衆衛生学に関連する調査・測定法を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	政府統計や環境測定機器等から得られた結果を評価できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	集団全体の健康問題を、他者と協力してとらえ解決できるようになる。
技術・表現の観点 (A)	人の健康と社会・環境との関係について政府統計や環境測定機器、各種情報などを利用し表現できるようになる。

学習計画

公衆衛生学実習

	授業テーマ	健康と公衆衛生学実習

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	授業受講にあたり、注意点、評価方法の説明、測定と評価とは、成人・高齢者における適正体重の測定法と留意点および評価法（測定値の妥当性と信頼性、スクリーニング）。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に公衆衛生学Iで学習した「一次予防、二次予防、三次予防」について復習してくること
	教室外学習の時間（分）	10分
第2回	**授業テーマ**	成人・高齢者の健康1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	形態（身体組成、周径囲）測定の妥当性と再現性の実際、健康日本21の数値目標、政府統計を用いたグループワークと発表。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に腹囲の測定法を復習してくること
	教室外学習の時間（分）	10分
第3回	**授業テーマ**	成人・高齢者の健康2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体力（機能）の測定法と留意点および加齢変化、性差。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第3章の該当箇所を予習すること
	教室外学習の時間（分）	15分
第4回	**授業テーマ**	母子の健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発育の測定法と留意点および評価法（SDスコア、パーセンタイル法）、環境と発育発達。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に教科書第3章の発育の評価法を予習すること
	教室外学習の時間（分）	10分
第5回	**授業テーマ**	身体活動ガイドライン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動指針（アクティブガイド、幼児期運動指針）、体力の基準と測定評価の留意点。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に教科書第5章，第6章の該当箇所を復習すること

	教室外学習の時間（分）	15分
第6回	**授業テーマ**	身体活動・運動1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動の定量法（身体活動と運動の定義、二重標識水法、要因加算法、歩数計法）と留意点、食事摂取基準の活用の理論。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学修した要因加算法と歩数を次回の授業まで測定してくること、教科書第1章，第2章の該当箇所を復習すること
	教室外学習の時間（分）	15分
第7回	**授業テーマ**	身体活動・運動2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動量の定量法（要因加算法、加速度計法、歩数計法）とその実際。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に教科書第5章，第6章の該当箇所を復習すること
	教室外学習の時間（分）	15分
第8回	**授業テーマ**	身体活動・運動3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	座位行動の定義、健康日本21の数値目標、政府統計を用いたグループワークと発表。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前にグループワーク発表内容をまとめてくること、授業後に教科書第2章の該当箇所を復習すること
	教室外学習の時間（分）	15分
第9回	**授業テーマ**	レクリエーションスポーツ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	レクリエーションスポーツの実際、運動の定量法（心拍数法、歩数計法、活動記録法）とその実際。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前にグループワーク発表内容をまとめてくること、授業後に教科書第2章の該当箇所を復習すること
	教室外学習の時間（分）	15分
第10回	**授業テーマ**	環境と健康1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	室内・室外環境の測定。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。

	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に、新聞などを用いて、環境汚染が健康に及ぼす影響について調べてくること
	教室外学習の時間（分）	10分
第11回	**授業テーマ**	環境と健康2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	室内・室外環境の測定結果に関する発表。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前にグループワーク発表内容をまとめてくること
	教室外学習の時間（分）	10分
第12回	**授業テーマ**	こころの健康と休養
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ストレスチェック、睡眠の評価。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に、新聞などを用いて、ストレスや睡眠に関する現代人の課題について調べてくること
	教室外学習の時間（分）	10分
第13回	**授業テーマ**	身体活動の地域間比較1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動のレポートカードに関する解説と、身体活動の都道府県差と関連する要因の探索。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身体活動と関連のありそうな様々な都道府県単位の統計結果を調べる（公衆衛生学実習教科書第7章）
	教室外学習の時間（分）	10分
第14回	**授業テーマ**	身体活動の地域間比較2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動の都道府県差と関連する要因に関する発表、第1～13回のまとめ。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身体活動と関連のありそうな様々な都道府県単位の統計結果を調べる
	教室外学習の時間（分）	10分

学習計画注記

学習の進度や天候により、学習内容を調整します。

学生へのフィードバック方法

質問等は、リアクションペーパーの使用あるいは対面にて対応します。課題に対するフィードバックは、授業にて解説します。

評価方法

ルーブリックに基づいて成績評価します。ルーブリックについては授業内での配布等により提示をします。プレゼンテーション(30%)、レポート(50%)、平常点（リアクションペーパーの提出内容10%）から総合的に評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
プレゼンテーション	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○
平常点		○	○	

評価割合

プレゼンテーション(30%)、レポート(50%)、平常点（リアクションペーパーの提出内容10%）から総合的に評価する。授業内での配布等により提示するルーブリックに基づいて成績評価を行う。

使用教科書名(ISBN番号)

田中千晶: 基礎から学ぶ発育発達のための身体活動～元気な子どもを育む確かな根拠～. 2019,杏林書院. ISBN：978-4-7644-1205-7

参考図書

公衆衛生学Iで使用した教科書（中村信也(著/文). 〔社会・環境と健康〕公衆衛生学

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
社会の基盤となる健康とは何かを理解し、総合的な公衆衛生学の視点から、現代生活の健康関連の諸問題を理解する方法論を説明できるようになる。
【思考・判断】
現実社会における健康問題を判断できる力を身につける。
【関心・意欲・態度】
子どもから高齢者まで幅広い年齢層の「人間の健康と環境」に関心を持ち、集団全体の健康問題を、他者と協力してとらえ解決できるようになる。
【技術・表現】
人の健康と社会・環境との関係に関する各種調査や測定機器などを利用できる技術を習得する。

オフィスアワー

水曜日および木曜日昼休みに実施しますので、研究室へお越しください。

学生へのメッセージ

公衆衛生学Iで学修したことを基礎として、健康に関連する課題を検討するために、社会で用いられている調査/測定法および評価法の習得を目指します。統計を用いながら、調査法・測定法の留意点についても学修します。プレゼンテーションやグループワークによるディスカッションの中での積極的な学びの態度を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	国際機関Active Healthy Kids Global Allianceの日本の代表者として、子どもとその周囲の大人の健康増進に資する生活習慣、環境、政策の改善に取り組んでいる経験を生かす。
アクティブ・ラーニング	○	グループ・ワークを行う。
情報リテラシー教育	○	インターネットを用いた健康関連情報の検索を行う。
ICT活用	○	Google formを用いたリアクションペーパー提出を実施する。

講義コード	H02014031
講義名	疫学・社会調査法(HA、HB)
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	田中 千晶	指定なし

ナンバリング

H02014031

授業概要(教育目的)

人々の健康とQOLの向上に重要な役割を果たす上で、健康の規定要因を測定・評価し、健康の増進や疾病の予防に役立てる疫学的な考え方は重要である。本科目では、社会の健康課題に関する情報を理解する上で必要な疫学および社会調査法の基本的な概念や方法について講義する。

履修条件

公衆衛生学IおよびIIを履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	統計学の基本的概念及び方法、疫学の方法、統計的推定・検定の考え方と方法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	健康の規定要因を測定・評価し、健康の増進や疾病の予防に役立てる疫学的な考え方を身に付ける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	グループワークを通じて、社会調査の基礎事項を理解し、集団全体の健康問題を解決できるようになる。
技術・表現の観点 (A)	集団全体の健康問題を、保健統計や疫学データなどを利用し表現できるようになる。

学習計画

疫学・社会調査法

第1回	**授業テーマ**	疫学・社会調査法とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業受講にあたり、注意点、評価方法の説明、疫学・社会調査法の概念
	教室外学習(予習・復習)の内容	高木兼弘が実施した調査を事前に調べてくること。
	教室外学習の時間（分）	195分
第2回	**授業テーマ**	保健統計
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	頻度（割合、率、比）の比較、事例をもとに罹患率、有病率、生命表の求め方を学ぶ。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学んだ検定方法に関して、栄養情報統計演習で使用した教科書を用いて復習すること。
	教室外学習の時間（分）	195分
第3回	**授業テーマ**	エビデンスに基づいた医療および保健対策
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	疫学研究のデザイン（横断研究、コホート研究、症例対照研究、ランダム化比較試験、システマティックレビュー）について学び、エビデンスレベルを理解する。事例をもとにクロス集計、リスク比、オッズ比について計算問題を解き、計算方法について理解する。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学んだ検定方法に関して、栄養情報統計演習で使用した教科書を用いて復習すること。
	教室外学習の時間（分）	195分
第4回	**授業テーマ**	スクリーニング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	スクリーニングの目的と適用条件について内容を理解する。スクリーニングの精度（敏感度、特異度）、陽性反応的中度、ROC曲線について計算を行いながら理解を深める。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学んだ検定方法に関して、公衆衛生学IおよびIIで使用した教科書を用いて復習すること。
	教室外学習	

	の時間（分）	195分
第5回	**授業テーマ**	疫学研究と倫理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人を対象とする医学系研究に関する倫理指針。インターネットを用いるため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学んだ研究倫理に関して、公衆衛生学IおよびIIで使用した教科書を用いて復習すること。
	教室外学習の時間（分）	195分
第6回	**授業テーマ**	社会調査の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査用紙の作り方、各班で調査テーマの決定、先行研究の調べ方。インターネットを用いるため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査テーマを次回の授業までに、確定すること。
	教室外学習の時間（分）	195分
第7回	**授業テーマ**	調査用紙の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アンケートを作成する、調査テーマに関係する先行研究を調べる。インターネットを用いるため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査用紙を作成し、次回の授業で配布できるように準備すること。
	教室外学習の時間（分）	195分
第8回	**授業テーマ**	調査用紙の実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アンケートを配布し、実施・回収を行う、調査テーマに関係する先行研究をまとめる。データ分析等を行うため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回の授業までに、データ入力を完了すること。
	教室外学習の時間	195分

	（分）	
第9回	**授業テーマ**	調査の集計
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アンケートの単純集計を行う。データ分析等を行うため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回の授業までに、単純集計を完成させること。
	教室外学習の時間（分）	195分
第10回	**授業テーマ**	調査結果の発表準備①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各班のアンケート結果について、これまでの授業で学んだ統計法を用いて分析する。データ分析等を行うため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回の授業までに、統計分析を完成させること。
	教室外学習の時間（分）	195分
第11回	**授業テーマ**	調査結果の発表準備②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各班のアンケート結果をパワーポイントで作成し、発表に備える。データ分析等を行うため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回の授業までに、プレゼンテーション資料を作成すること。
	教室外学習の時間（分）	195分
第12回	**授業テーマ**	調査結果の発表準備③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各班で作成したパワーポイントを用いて、各班で発表練習を行い、改善をする。プレゼンテーション準備を行うため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンテーション資料の発表の練習をすること。
	教室外学習の時間（分）	195分

第13回	授業テーマ	調査結果の発表①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アンケートの集計および解析結果について、パワーポイントを用いて発表および質疑応答を行う。プレゼンテーションを行うため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各班の発表内容の要約および意見を提出すること。
	教室外学習の時間（分）	195分
第14回	授業テーマ	調査結果の発表②および定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アンケートの集計および解析結果について、パワーポイントを用いて発表および質疑応答を行う。プレゼンテーションを行うため、ノートパソコンを持参すること。定期試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各班の発表内容の要約および意見を提出すること。
	教室外学習の時間（分）	195分

学習計画注記

学習の進度により、学習内容を調整します。

学生へのフィードバック方法

質問等は、リアクションペーパーの使用あるいは対面にて対応します。課題に対するフィードバックは、授業にて解説します。

評価方法

ルーブリックに基づいて成績評価します。ルーブリックについては授業内での配布等により提示をします。管理栄養士国家試験の対策のために、疫学に関する試験（70%）を行います。また、社会調査を実施し、プレゼンテーション（10%）を行います。毎回の授業のリアクションペーパーの提出内容も考慮します（平常点：20%）。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
試験	○	○	○	○
プレゼンテーション/課題	○	○	○	○
平常点		○	○	

評価割合

試験（70%）、プレゼンテーション（10%）、リアクションペーパーの提出内容（平常

点：20%）から評価する。授業内での配布等により提示するルーブリックに基づいて成績評価を行う。

使用教科書名(ISBN番号)

公衆衛生学IおよびIIで使用した教科書

参考図書

特に無し。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
疫学的手法を用いて、人々の健康の維持・増進と社会および環境を関連付けながら「人間の栄養」を理解するための専門的知識を身につける。
【思考・判断】
保健統計や疫学データから、食・栄養・健康に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。
【関心・意欲・態度】
集団全体の健康問題に関心を持ち、管理栄養士として実践しようとする意思を身につける。
【技術・表現】
社会調査から得た結果について、疫学で学んだ統計手法を用いて分析する。そして、他者に伝えるプレゼンテーション力を身につける。

オフィスアワー

水および木曜日昼休みに実施しますので、研究室へお越しください。

学生へのメッセージ

現在社会では、人々の健康に関連する多数の調査結果や研究結果が公表されています。これらの情報を多角的に観察し、解釈できるように、現在も社会に出てからも役立つ知識を身につけ、実際に他者に伝えることができるように表現方法について学修しましょう。また、「管理栄養士国家試験の出題基準（ガイドライン）」では、「社会・環境と健康」の内容として本科目で扱う内容が出題されています。本科目を通じて、準備をしていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	国際機関Active Healthy Kids Global Allianceの日本の代表者として、子どもとその周囲の大人の健康増進に資する生活習慣、環境、政策の改善に取り組んでいる経験を生かす。
アクティブ・ラーニング	○	グループ・ワークを行う。
情報リテラシー教育	○	インターネットを用いた健康関連情報の検索を行う。
ICT活用	○	Google formを用いたリアクションペーパー提出を実施する。

講義コード	H02014032
講義名	疫学・社会調査法（HC、HD)
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	田中 千晶	指定なし

ナンバリング

H02014031

授業概要(教育目的)

人々の健康とQOLの向上に重要な役割を果たす上で、健康の規定要因を測定・評価し、健康の増進や疾病の予防に役立てる疫学的な考え方は重要である。本科目では、社会の健康課題に関する情報を理解する上で必要な疫学および社会調査法の基本的な概念や方法について講義する。

履修条件

公衆衛生学IおよびIIを履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	統計学の基本的概念及び方法、疫学の方法、統計的推定・検定の考え方と方法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	健康の規定要因を測定・評価し、健康の増進や疾病の予防に役立てる疫学的な考え方を身に付ける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	グループワークを通じて、社会調査の基礎事項を理解し、集団全体の健康問題を解決できるようになる。
技術・表現の観点 (A)	集団全体の健康問題を、保健統計や疫学データなどを利用し表現できるようになる。

学習計画

疫学・社会調査法

第1回	**授業テーマ**	疫学・社会調査法とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業受講にあたり、注意点、評価方法の説明、疫学・社会調査法の概念
	教室外学習(予習・復習)の内容	高木兼弘が実施した調査を事前に調べてくること。
	教室外学習の時間（分）	195分
第2回	**授業テーマ**	保健統計
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	頻度（割合、率、比）の比較、事例をもとに罹患率、有病率、生命表の求め方を学ぶ。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学んだ検定方法に関して、栄養情報統計演習で使用した教科書を用いて復習すること。
	教室外学習の時間（分）	195分
第3回	**授業テーマ**	エビデンスに基づいた医療および保健対策
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	疫学研究のデザイン（横断研究、コホート研究、症例対照研究、ランダム化比較試験、システマティックレビュー）について学び、エビデンスレベルを理解する。事例をもとにクロス集計、リスク比、オッズ比について計算問題を解き、計算方法について理解する。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学んだ検定方法に関して、栄養情報統計演習で使用した教科書を用いて復習すること。
	教室外学習の時間（分）	195分
第4回	**授業テーマ**	スクリーニング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	スクリーニングの目的と適用条件について内容を理解する。スクリーニングの精度（敏感度、特異度）、陽性反応的中度、ROC曲線について計算を行いながら理解を深める。データ分析等を実施するため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学んだ検定方法に関して、公衆衛生学IおよびIIで使用した教科書を用いて復習すること。
	教室外学習	

	の時間（分）	195分
第5回	**授業テーマ**	疫学研究と倫理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人を対象とする医学系研究に関する倫理指針。インターネットを用いるため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学んだ研究倫理に関して、公衆衛生学IおよびIIで使用した教科書を用いて復習すること。
	教室外学習の時間（分）	195分
第6回	**授業テーマ**	社会調査の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査用紙の作り方、各班で調査テーマの決定、先行研究の調べ方。インターネットを用いるため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査テーマを次回の授業までに、確定すること。
	教室外学習の時間（分）	195分
第7回	**授業テーマ**	調査用紙の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アンケートを作成する、調査テーマに関係する先行研究を調べる。インターネットを用いるため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調査用紙を作成し、次回の授業で配布できるように準備すること。
	教室外学習の時間（分）	195分
第8回	**授業テーマ**	調査用紙の実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アンケートを配布し、実施・回収を行う、調査テーマに関係する先行研究をまとめる。データ分析等を行うため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回の授業までに、データ入力を完了すること。
	教室外学習の時間	195分

	（分）	
第9回	**授業テーマ**	調査の集計
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アンケートの単純集計を行う。データ分析等を行うため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回の授業までに、単純集計を完成させること。
	教室外学習の時間（分）	195分
第10回	**授業テーマ**	調査結果の発表準備①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各班のアンケート結果について、これまでの授業で学んだ統計法を用いて分析する。データ分析等を行うため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回の授業までに、統計分析を完成させること。
	教室外学習の時間（分）	195分
第11回	**授業テーマ**	調査結果の発表準備②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各班のアンケート結果をパワーポイントで作成し、発表に備える。データ分析等を行うため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回の授業までに、プレゼンテーション資料を作成すること。
	教室外学習の時間（分）	195分
第12回	**授業テーマ**	調査結果の発表準備③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各班で作成したパワーポイントを用いて、各班で発表練習を行い、改善をする。プレゼンテーション準備を行うため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンテーション資料の発表の練習をすること。
	教室外学習の時間（分）	195分

第13回	授業テーマ	調査結果の発表①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アンケートの集計および解析結果について、パワーポイントを用いて発表および質疑応答を行う。プレゼンテーションを行うため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各班の発表内容の要約および意見を提出すること。
	教室外学習の時間（分）	195分
第14回	授業テーマ	調査結果の発表②および定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アンケートの集計および解析結果について、パワーポイントを用いて発表および質疑応答を行う。プレゼンテーションを行うため、ノートパソコンを持参すること。定期試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各班の発表内容の要約および意見を提出すること。
	教室外学習の時間（分）	195分

学習計画注記

学習の進度により、学習内容を調整します。

学生へのフィードバック方法

質問等は、リアクションペーパーの使用あるいは対面にて対応します。課題に対するフィードバックは、授業にて解説します。

評価方法

ルーブリックに基づいて成績評価します。ルーブリックについては授業内での配布等により提示をします。管理栄養士国家試験の対策のために、疫学に関する試験（70%）を行います。また、社会調査を実施し、プレゼンテーション（10%）を行います。毎回の授業のリアクションペーパーの提出内容も考慮します（平常点：20%）。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
試験	○	○	○	○
プレゼンテーション/課題	○	○	○	○
平常点		○	○	

評価割合

試験（70%）、プレゼンテーション（10%）、リアクションペーパーの提出内容（平常

点：20%）から評価する。授業内での配布等により提示するルーブリックに基づいて成績評価を行う。

使用教科書名(ISBN番号)

公衆衛生学IおよびIIで使用した教科書

参考図書

特に無し。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
疫学的手法を用いて、人々の健康の維持・増進と社会および環境を関連付けながら「人間の栄養」を理解するための専門的知識を身につける。
【思考・判断】
保健統計や疫学データから、食・栄養・健康に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。
【関心・意欲・態度】
集団全体の健康問題に関心を持ち、管理栄養士として実践しようとする意思を身につける。
【技術・表現】
社会調査から得た結果について、疫学で学んだ統計手法を用いて分析する。そして、他者に伝えるプレゼンテーション力を身につける。

オフィスアワー

水および木曜日昼休みに実施しますので、研究室へお越しください。

学生へのメッセージ

現在社会では、人々の健康に関連する多数の調査結果や研究結果が公表されています。これらの情報を多角的に観察し、解釈できるように、現在も社会に出てからも役立つ知識を身につけ、実際に他者に伝えることができるように表現方法について学修しましょう。また、「管理栄養士国家試験の出題基準（ガイドライン）」では、「社会・環境と健康」の内容として本科目で扱う内容が出題されています。本科目を通じて、準備をしていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	国際機関Active Healthy Kids Global Allianceの日本の代表者として、子どもとその周囲の大人の健康増進に資する生活習慣、環境、政策の改善に取り組んでいる経験を生かす。
アクティブ・ラーニング	○	グループ・ワークを行う。
情報リテラシー教育	○	インターネットを用いた健康関連情報の検索を行う。
ICT活用	○	Google formを用いたリアクションペーパー提出を実施する。

講義コード	H02015031
講義名	解剖生理学I
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	山田 光彦	指定なし

ナンバリング

H12201C21

授業概要(教育目的)

解剖生理学は、管理栄養士養成課程の「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の中に位置づけられています。健康増進、疾病予防等に携わる者として、人体の正常な構造（細胞と組織、消化器系、血液・リンパ・凝固系と免疫系、循環器系、呼吸器系、腎・尿路系と生殖器系、骨格系、筋肉系、内分泌系、神経系、感覚器系・皮膚組織）について学習し理解を深めるための講義を行います。授業では、器官系別に、構成、構造、機能、調節について、細胞レベルから個体レベルまでを総合的に学ぶことで、管理栄養士の育成に資することを目的としています。「解剖生理学I」で身につけた知識は、「解剖生理学II」で扱う人体の機能ならびに「ライフコース別栄養学」や「病態栄養学」「臨床栄養学」で扱う疾病の成り立ちの理解に繋がります。

履修条件

高校で生物を履修していなくても学習目標（到達目標）が達成できるよう、「管理栄養士のための基礎演習（生物）」と連携して授業を進めます。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・人体の器官・組織・細胞の構造を描画できる。 ・人体の器官・組織・細胞の構造や基本的な機能を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	・解剖生理学の知識を応用して疾病の成り立ちについて推察することができる。 ・推察した結果や過程、根拠を自分の言葉を使って説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・他者や自分自身の身体や健康に関心を持つ。 ・理解が不十分な点について活発に質問する。 ・与えられた課題について率先して取り組む。
	・学習資料を正しく読み取り、適切に活用することができる。

技術・表現の観点 (A)	・授業内で得た知識をもとに、設定されている課題を達成することができる。 ・他の学習者に、学習内容や学習方法を教えることができる。

学習計画

解剖生理学I（人体の正常な構造と機能）

第1回	**授業テーマ**	細胞と組織、消化器系①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体を形成している細胞や細胞小器官、組織の構造や機能を学ぶ。次いで、消化器系の構成と各部位の名称を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第1章と第2章について予習する。講義後の演習課題を利用して復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	**授業テーマ**	消化器系②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消化器系の構成と各部位の名称を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第2章について予習する。講義後の演習課題を利用して復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	血液・リンパ・凝固系と免疫系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	血液と免疫系の構成と各部位の名称を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書、第3章と第13章について予習する。講義後の演習課題を利用して復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	循環器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	循環器系の構成と各部位の名称を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書、第4章について予習する。講義後の演習課題を利用して復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	呼吸器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	呼吸器系の構成と各部位の名称を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第5章について予習する。講義後の演習課題を利用して復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分

第6回	授業テーマ	腎・尿路系、生殖器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	腎・尿路系、生殖器系の構成と各部位の名称を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6章と第7章について予習する。講義後の演習課題を利用して復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	前半のまとめと振り返り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第1回から第6回までの講義で学んだ知識を確認するための課題を提示する。課題を通じて、これまでに学んだ知識を整理し、理解の不十分な点を確認する。定期試験や国家試験を意識した学習法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1回から第4回までの講義の内容を復習しておく。講義後の演習課題を利用して復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	骨格系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	骨格系の構成と各部位の名称を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第8章について予習する。講義後の演習課題を利用して復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	筋肉系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	筋肉系の構成と各部位の名称を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第9章について予習する。講義後の演習課題を利用して復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	内分泌系①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	内分泌系の構成と各部位の名称を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第10章について予習する。講義後の演習課題を利用して復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	内分泌系②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	内分泌系の構成と各部位の名称を学ぶ。
	教室外学習(予	教科書の第10章について予習する。講義後の演習課題を利用して

	習・復習)の内容	復習する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第12回	**授業テーマ**	神経系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	神経系の構成と各部位の名称を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第11章について予習する。講義後の演習課題を利用して復習する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第13回	**授業テーマ**	感覚器系・皮膚組織
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	感覚器系・皮膚組織の構成と各部位の名称を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第12章と第14章について予習する。講義後の演習課題を利用して復習する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第14回	**授業テーマ**	解剖生理学 I 全体のまとめと振り返り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	解剖生理学 I の講義（全体）で学んだ知識を確認するための課題を提示する。課題を通じて、これまでに学んだ知識を整理し、理解の不十分な点を確認する。定期試験や国家試験を意識した学習法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	解剖生理学 I の講義（全体）の講義の内容を復習しておく。講義後の演習課題を利用して復習する。
	教室外学習の時間(分)	190分

学習計画注記

・Google Classroomを用いて課題（講義前/講義後）を出すことがありますので、その際は提出期限までに回答してください。講義後の課題は成績評価の対象となる場合もあります。
・授業の進行度合いによって講義スケジュールが変更される場合があります。
・必要に応じて、関連する時事の話題に対するグループワークを行います。

学生へのフィードバック方法

・講義前に実施する課題については、講義中に解説を行います。
・学習の進み具合を確認しながら双方向性の授業を進めます。
・講義後に実施する課題については、採点しフィードバックします。

評価方法

定期試験、講義後の課題、授業中の学習態度等を勘案して評価します。学習成果の公平で客観的な評価のためにルーブリックを用います。ルーブリックはGoogle Classroom内で公開しています。定期試験は、管理栄養士国家試験の過去問題を参考に作成します。迷惑行為・不正行為には学則に沿って厳正に対応します。30分を超える遅刻は欠席として扱います。遅刻3回で欠席1回分として扱います。14回の講義の内、正当な理由なく欠席が3分の1を超えた場合には定期試験の受験資格を失います。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

定期試験	○	○		
講義後の課題	○	○	○	
授業中の学習態度			○	○

評価割合

定期試験80%、平常点（出欠席、学習態度、グループワーク、演習課題への取り組み等）20%を合計した100%を評価点とします。

使用教科書名(ISBN番号)

「解剖生理学 人体の構造と機能 第3版 (栄養科学イラストレイテッド)」志村二三夫/羊土社/2020年（978-4758113625）

ディプロマポリシーとの関連

本講義によって解剖生理学の知識を身につけることにより、それを応用して疾病の成り立ちについて分析し、問題解決に導く考察をすることが可能となる。また、他者や自分自身の健康に関心を持ち、次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための提案と発信ができるための基盤となる。

オフィスアワー

火曜日5限（1505研究室）

学生へのメッセージ

・管理栄養士は、医療、スポーツ、企業、学校等の様々な場面で人々の健康を支える医療専門職、栄養の専門家です。そして、解剖生理学は、管理栄養士養成課程の「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の中に位置づけられている重要な科目です。各臓器の構造や機能を正しい医学用語、専門用語で表現することができれば、他の専門職等としっかりとコミュニケーションすることができます。この講義で学んだことは、これから4年間の本学科における学びの基礎になります。楽しみながら学習してください。また、この講義を通して他者や自分自身の身体や健康に関心を持っていただけたら幸いです。
・解剖生理学ではたくさんの専門用語を覚える必要があります。知識の記憶は、理論や背景と結びつけて使えば使うほどに定着します。予習復習を習慣化し、単なる知識の暗記だけではなく、講義で学んだ知識を自分のものにして下さい。自らの身体を振り返り、楽しみながら学習を進めましょう。
【注意点】
・Google Classroomのプラットフォームを積極的に利用します。
・授業開始時までには着席しPCを起動してください。
・PC操作が苦手な同級生もいます。助け合うことで協調性を身につけてください。
・他の受講者の迷惑となる行為はしないでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、医師として臨床を意識した講義を行います。管理栄養士養成課程における解剖生理学について、単なる知識の暗記だけではなく、他の臨床系科目の学習内容の理解へとつながるよう支援します。
アクティブ・ラーニング	○	・学生の学習状況を把握しながら講義を行います。 ・必要に応じてグループワークを行います。 ・学習資料を事前配布することで反転学習の実施を可能とします。
情報リテラシー教育	○	・Google Classroomの使用方法に習熟できます。
ICT活用	○	・Google Classroomを積極的に利用します。

講義コード	H02016031
講義名	解剖生理学II
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	山田 光彦	指定なし

ナンバリング

H12202C21

授業概要(教育目的)

解剖生理学は、管理栄養士養成課程の「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の中に位置づけられています。健康増進、疾病予防等に携わる者として、「解剖生理学I」の知識（正常な人体の形態と構造）を基に、「解剖生理学II」では、正常な人体の姿を機能面から捉え、病態の基盤となる機能異常に言及しつつ、理解を深めるための講義を行います。この授業では、器官系別に、構成、構造、機能、調節について、細胞レベルから個体レベルまでを総合的に学ぶことで、管理栄養士の育成に資することを目的としています。「解剖生理学II」で身につけた知識は、「解剖生理学実習」ならびに「臨床栄養学」で扱う疾病の成り立ちの理解に繋がります。

履修条件

「解剖生理学I」を履修した者が対象となります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・人体の器官・組織・細胞の構造と機能を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	・疾病の成り立ち（病態の基盤となる機能異常）や栄養との関係について推察することができる。 ・推察した結果や過程、根拠を自分の言葉を使って説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・他者や自分自身の身体や健康に関心を持つ。 ・理解が不十分な点について活発に質問する。 ・与えられた課題について率先して取り組む。
技術・表現の観点 (A)	・学習資料を正しく読み取り、適切に活用することができる。 ・授業内で得た知識をもとに、設定されている課題を達成することができる。

	・他の学習者に、学習内容や学習方法を教えることができる。

学習計画

解剖生理学II

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション、人体概観、細胞と組織、遺伝と遺伝子
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全14回の概要を紹介する。第1回目の講義として、病態の基盤となる機能異常と関連づけながら、身体を形成している細胞と組織の構造や機能、遺伝について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第1章について予習する。課題（講義前/講義後）に回答する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	**授業テーマ**	消化器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消化器系の構成についての知識をもとに、病態の基盤となる機能異常を理解するために必要な生理機能（消化と吸収、脂質代謝、他）について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第2章について予習する。課題（講義前/講義後）に回答する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	血液・凝固系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	血液の構成についての知識をもとに、病態の基盤となる機能異常を理解するために必要な生理機能（止血と血液凝固、他）について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書、第3章について予習する。課題（講義前/講義後）に回答する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	循環器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	循環器系の構成についての知識をもとに、病態の基盤となる機能異常を理解するために必要な生理機能（血圧や脈拍の調節、他）について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第4章について予習する。課題（講義前/講義後）に回答する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	呼吸器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	呼吸器系の構成についての知識をもとに、病態の基盤となる機能異常を理解するために必要な生理機能（ガスの交換と運搬、他）について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第5章について予習する。課題（講義前/講義後）に回答する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	腎・尿路系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	腎・尿路系の構成についての知識をもとに、病態の基盤となる機能異常を理解するために必要な生理機能について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6章について予習する。課題（講義前/講義後）に回答する。

	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	第1回から第7回までのまとめと振り返り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第1回から第7回までの講義で学んだ知識を確認するための課題を提示する。課題を通じて、これまでに学んだ知識を整理し、理解の不十分な点を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1回から第7回までの講義の内容を復習しておく。課題に回答する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	生殖器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生殖器系の構成についての知識をもとに、病態の基盤となる機能異常を理解するために必要な生理機能（性周期、受精から分娩までのプロセス、他）について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第7章について予習する。課題（講義前/講義後）に回答する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	骨格系・筋肉系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	骨格系・筋系の構成についての知識をもとに、病態の基盤となる機能異常を理解するために必要な生理機能（骨代謝、骨格筋のエネルギー代謝）について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第8章と第9章について予習する。課題（講義前/講義後）に回答する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	内分泌系①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	内分泌系の構成についての知識をもとに、病態の基盤となる機能異常を理解するために必要な生理機能（血糖値の調節、他）について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第10章について予習する。課題（講義前/講義後）に回答する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	内分泌系②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	内分泌系の構成についての知識をもとに、病態の基盤となる機能異常を理解するために必要な生理機能（血糖値の調節、他）について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第10章について予習する。課題（講義前/講義後）に回答する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	神経・感覚器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	神経系、感覚器系の構成についての知識をもとに、病態の基盤となる機能異常を理解するために必要な生理機能（視覚や痛覚の情報処理、他）について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第11章、第12章について予習する。課題（講義前/講義後）に回答する。
	教室外学習の時間（分）	190分

第13回	授業テーマ	免疫系・皮膚組織
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	免疫系及び皮膚組織の構成についての知識をもとに、病態の基盤となる機能異常を理解するために必要な生理機能（自然免疫と獲得免疫、他）について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第13章と第14章について予習する。課題（講義前/講義後）に回答する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	第8回から第13回までのまとめと振り返り、全体の総括
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第8回から第13回までの講義で学んだ知識を確認するための課題を提示する。課題を通じて、これまでに学んだ知識を整理し、理解の不十分な点を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第8回から第13回までの講義の内容を復習しておく。課題に回答する。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

・Google Classroomを用いて課題（講義前/講義後）を出すことがありますので、その際は提出期限までに回答してください。講義後の課題は成績評価の対象となる場合もあります。
・授業の進行度合いによって講義スケジュールが変更される場合があります。
・必要に応じて、関連する時事の話題に対するグループワークを行います。

学生へのフィードバック方法

・講義前に実施する課題については、講義中に解説を行います。
・学習の進み具合を確認しながら双方向性の授業を進めます。
・講義後に実施する課題については、採点しフィードバックします。

評価方法

定期試験、講義後の課題、授業中の学習態度等を勘案して評価します。学習成果の公平で客観的な評価のためにルーブリックを用います。ルーブリックはGoogle Classroom内で公開しています。定期試験は、管理栄養士国家試験の過去問題を参考に作成します。迷惑行為・不正行為には学則に沿って厳正に対応します。30分を超える遅刻は欠席として扱います。遅刻3回で欠席1回分として扱います。14回の講義の内、正当な理由なく欠席が3分の1を超えた場合には定期試験の受験資格を失います。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
講義後の課題	○	○	○	
授業中の学習態度			○	○

評価割合

定期試験80%、平常点（出欠席、学習態度、グループワーク、演習課題への取り組み等）20%を合計した100%を評価点とします。

使用教科書名(ISBN番号)

「解剖生理学 人体の構造と機能 第3版 (栄養科学イラストレイテッド)」志村二三夫/羊土社/2020年（978-4758113625）

ディプロマポリシーとの関連

本講義によって解剖生理学の知識を身につけることにより、それを応用して疾病の成り立ちについて分析し、問題解決に導く考察をすることが可能となる。また、他者や自分自身の健康に関心を持ち、次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための提案と発信ができるための基盤となる。

オフィスアワー

火曜日5限（1505研究室）

学生へのメッセージ

・管理栄養士は、医療、スポーツ、企業、学校等の様々な場面で人々の健康を支える医療専門職、栄養の専門家です。そして、解剖生理学は、管理栄養士養成課程の「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の中に位置づけられている重要な科目です。各臓器の構造や機能を正しい医学用語、専門用語で表現することができれば、他の専門職等としっかりとコミュニケーションすることができます。この講義で学んだことは、これから4年間の本学科における学びの基礎になります。楽しみながら学習してください。この講義を通して他者や自分自身の身体や健康に関心を持っていただけたら幸いです。
・解剖生理学では、たくさんの専門用語を覚える必要があります。知識の記憶は、理論や背景と結びつけて使えば使うほどに定着します。予習復習を習慣化し、単なる知識の暗記だけではなく、講義で学んだ知識を自分のものにして下さい。自らの身体を振り返り、楽しみながら学習を進めましょう。
【注意点】
・授業開始時までには着席しPCを起動してください。
・Google Classroomのプラットフォームを積極的に利用します。
・PC操作が苦手な同級生もいます。助け合うことで協調性を身につけてください。
・他の受講者の迷惑となる行為はしないでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		担当教員は、医師として臨床を意識した講義を行います。管理栄養士養成課程における解剖生理学について、単なる知識の暗記だけではなく、他の臨床系科目の学習内容の理解へとつながるよう支援します。
アクティブ・ラーニング		・学生の学習状況を把握しながら講義を行います。 ・必要に応じてグループワークを行います。 ・学習資料を事前配布することで反転学習の実施を可能とします。
情報リテラシー教育		・Google Classroomの使用方法に習熟できます。
ICT活用		・Google Classroomを積極的に利用します。

講義コード	H02017031
講義名	解剖生理学実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	山田 光彦	指定なし
教授	斉藤 恵美子	指定なし

ナンバリング

H22203C13

授業概要(教育目的)

解剖生理学は、管理栄養士養成課程の「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の中に位置づけられています。本実習では、健康増進、疾病予防等に携わる者として、正常な人体の構造と生理的機能を、様々な計測手技等の実習や顕微観察を通して具体的に学習し理解を深めるための実習を行います。「解剖生理学実習」では、疾病予防や栄養サポートを実施するために必要な臨床医学の基礎知識について実習を通じて学ぶことで、医療チームの一員として位置付けられる管理栄養士の育成に資することを目的としています。

履修条件

・「解剖生理学I」及び「解剖生理学II」の知識が必須です。
・Google Classroomを利用できることが必須です。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・解剖生理学の知識を利用して、人体の器官・組織・細胞の構造を図示できる。 ・解剖生理学の知識を利用して、人体の器官・組織・細胞の構造と機能を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	・疾病の成り立ち（病態の基盤となる機能異常）、栄養との関係について推察することができる。 ・推察した結果や過程、根拠を自分の言葉を使って説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・他者や自分自身の身体や健康に関心を持つ。 ・理解が不十分な点について活発に質問する。 ・与えられた課題について率先して取り組む。

技術・表現の観点(A)	・学習資料を正しく読み取り、適切に活用することができる。 ・授業内で得た知識をもとに、設定された課題を達成することができる。 ・他の学習者に、学習内容や学習方法を教えることができる。

学習計画

解剖生理学実習

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション、身体計測と栄養状態の評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全14回の実習の概要と位置付け、進め方、レポート提出方法、発表会、評価基準等を説明する。身体測定（身体計測、身体組成の評価、栄養状態の評価）を行うことによって、発育や健康状態を総合的に把握し、身体についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	入学時に配布された実習関連一式からアディポメーター・キャリパーとインサーテープを持参する。 実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	組織学実習①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	組織標本観察について説明を行なった後、実際に顕微鏡を使用してその操作方法を学ぶ。課題として与えられた人体組織標本について、バーチャル顕微鏡を用いて観察、スケッチし、その組織構造を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	色鉛筆（12色）と消しゴムを持参する。 学習した内容についてグループ内で発表する。 実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	組織学実習②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題として与えられた人体組織標本について、バーチャル顕微鏡を用いて観察、スケッチし、その組織構造を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	色鉛筆（12色）と消しゴムを持参する。 学習した内容についてグループ内で発表する。 実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	運動器系評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動器系評価（握力評価、徒手筋力評価、ロコモ度テスト、運動器検診）を行うことによって、日常動作の状態を総合的に把握し、身体についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	骨格系①

第5回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体標本および骨格標本の観察を行い、その構成と位置関係を理解する。骨格標本の組み立てを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	カッターとセロテープを持参する。 骨格系について予習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	骨格系②、筋系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体標本および骨格標本の観察を行い、その構成と位置関係を理解する。各筋肉の停止点と起始点について骨格標本を用いた実習により理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	カッターとセロテープを持参する。 骨格系と筋系について予習する。 実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	循環器系（血圧と脈拍）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	循環器系（血圧と脈拍）評価を行うことによって、循環器系の状態を総合的に把握し、身体についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	循環器系（血圧と脈拍）について予習する。 実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	循環器系（心電図）の評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	循環器系（心電図）評価を行うことによって、循環器系の状態を総合的に把握し、身体についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	循環器系（心電図）について予習する。 実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	一次救命処置（成人）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	一次救命処置（Basic Life Support: BLS）について学ぶ。管理栄養士が働く職場だけではなく、街中でも一次救命処置のスキルを役立てられる機会があるかもしれないため、いざというときの対応方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習後にレポートを提出する。

	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	小児の一次救命処置・アナフィラキシー対応
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小児の一次救命処置とアナフィラキシー対応（エピペンの使用方法）について学ぶ。管理栄養士が働く職場だけではなく、街中でも一次救命処置のスキルを役立てられる機会があるかもしれないため、いざというときの対応方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	嚥下機能評価・感染予防
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体模型の観察を行い、肉眼レベルでの構造と位置関係を理解する。嚥下機能評価・感染予防について実習し、理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	消化器系・嚥下機能について予習する。 実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	呼吸器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	呼吸器系の評価を行うことによって、患者の呼吸器系の状態を総合的に把握し、身体についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸器系について予習する。 実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	神経系・感覚器系の評価①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体模型の観察を行い、肉眼レベルでの構造と位置関係を理解する。感覚機能検査、認知機能検査等について実習し、理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	神経系・感覚器系の評価②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体模型の観察を行い、肉眼レベルでの構造と位置関係を理解する。感覚機能検査、認知機能検査等について実習し、理解を深める。

	教室外学習(予習・復習)の内容	カッターとセロテープを持参する。 実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

・実習レポート及びグループワークの成果物はGoogle Classroomを用いて提出してください。
・新型コロナウイルス感染症の流行状況等により、授業形態や内容の変更が生じる可能性があります。
・第1回の「身体計測と栄養状態の評価」には、入学時に配布された実習関連一式から、アディポメーター（キャリパー）とインサーテープを持参してください。
・第2回～第3回の「組織学実習」には色鉛筆（12色）と消しゴムを持参してください。
・第4回～第5回の「骨格・筋系」にはカッターとセロテープを持参してください。
・第14回の「神経系・感覚器系の評価②」にはカッターとセロテープを持参してください。

学生へのフィードバック方法

・実習レポートは採点しフィードバックします。
・必要に応じてピアレビューを実施します。

評価方法

・実習に参加しなかった場合は、欠席となります。
・正当な理由なく実習開始後30分未満に入室した場合は遅刻として扱います。正当な理由なく実習開始後30分以降に入室した場合、欠席として扱います。遅刻を3回した場合、欠席1回として扱います。
・定期試験は行いません。実習終了後の課題（実習レポート・成果物・発表）90%、平常点（学習態度等）10%を合計した100%を評価点とします。学習成果の公平で客観的な評価のためにルーブリック（Google Classroom内で公開）を用います。
・欠席した実習の評価点は0点になります。
・欠席が全14回の3分の1を超えた場合に単位取得ができないと学則に書かれていますが、欠席した実習の評価点は0点ですので、欠席日数に関わらず単位取得ができなくなる場合があります。
・不正行為には、学則に沿って厳正に対応します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実習レポート	○	○	○	○
発表会での発表・成果物	○	○	○	○
学習態度			○	○

評価割合

定期試験は行いません。実習終了後の課題（実習レポート・成果物・発表）90%、平常点（学習態度等）10%を合計した100%を評価点とします。

使用教科書名(ISBN番号)

「解剖生理学 人体の構造と機能 第3版 (栄養科学イラストレイテッド)」志村二三夫/羊土社/2020年（978-4758113625）

ディプロマポリシーとの関連

体験を通して解剖生理学の知識を身につけ理解を深めることにより、それを応用して疾病の成り立ち（病態の基盤となる機能異常）について分析し、問題解決に導く考察をすることが可能となる。また、他者や自身自身の身体や健康に関心を持ち、次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための提案と発信ができるための基盤となる。

オフィスアワー

各実習終了後に対面で質問を受け付ける時間をとります。
実習時間以外は基本的に1505研究室（教授室）で対応します。
質問などがある場合はGoogle Classroomからメールで連絡してください。

学生へのメッセージ

・管理栄養士は、医療、スポーツ、企業、学校等の様々な場面で人々の健康を支える医療専門職、栄養の専門家です。そして、解剖生理学は、管理栄養士養成課程の「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の中に位置づけられている重要な科目です。各臓器の構造や機能を正しく理解し、医学用語、専門用語で表現することができれば、他の専門職等としっかりとコミュニケーションすることができます。この講義で学んだことは、これからの本学科における学びの基礎になります。楽しみながら学習してください。また、この実習を通して他者や自分自身の身体や健康に関心を持っていただけたら幸いです。
・解剖生理学では、たくさんの専門用語を覚える必要があります。知識の記憶は、その理論的背景と結びつけて使えば使うほどに定着します。予習復習を習慣化し、単なる知識の暗記だけではなく、実習で学んだ知識を自分のものにして下さい。自らの身体を振り返り、楽しみながら学習を進めましょう。
【注意点】
・PCや機器操作が苦手なクラスメートもいます。助け合うことで協調性を身につけてください。
・他の受講者の迷惑となる行為はしないでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は、医師として臨床を意識した実習を行います。 ・管理栄養士養成課程における解剖生理学については、単なる知識の暗記だけではなく、他の臨床系科目の学習内容の理解へとつながるよう支援します。
アクティブ・ラーニング	○	・学生の学習状況を把握し、受講生にあわせた実習を行います。 ・事前学習資料を配布することで反転学習の実施を可能とします。 ・実習レポートは採点し返却します。 ・グループに分かれてのグループワークを行います。必要に応じてピアレビューを実施します。
情報リテラシー教育	○	・日常的にGoogle Classroomのプラットフォームを利用しますので、その使用方法に習熟できます。
ICT活用	○	・実習計画にはGoogle Classroomのプラットフォームを積極的に利用します。

講義コード	H02017032
講義名	解剖生理学実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	山田 光彦	指定なし
教授	斉藤 恵美子	指定なし

ナンバリング

H22203C13

授業概要(教育目的)

解剖生理学は、管理栄養士養成課程の「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の中に位置づけられています。本実習では、健康増進、疾病予防等に携わる者として、正常な人体の構造と生理的機能を、様々な計測手技等の実習や顕微観察を通して具体的に学習し理解を深めるための実習を行います。「解剖生理学実習」では、疾病予防や栄養サポートを実施するために必要な臨床医学の基礎知識について実習を通じて学ぶことで、医療チームの一員として位置付けられる管理栄養士の育成に資することを目的としています。

履修条件

・「解剖生理学I」及び「解剖生理学II」の知識が必須です。
・Google Classroomを利用できることが必須です。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・解剖生理学の知識を利用して、人体の器官・組織・細胞の構造を図示できる。 ・解剖生理学の知識を利用して、人体の器官・組織・細胞の構造と機能を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	・疾病の成り立ち（病態の基盤となる機能異常）、栄養との関係について推察することができる。 ・推察した結果や過程、根拠を自分の言葉を使って説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・他者や自分自身の身体や健康に関心を持つ。 ・理解が不十分な点について活発に質問する。 ・与えられた課題について率先して取り組む。

技術・表現の観点(A)	・学習資料を正しく読み取り、適切に活用することができる。 ・授業内で得た知識をもとに、設定された課題を達成することができる。 ・他の学習者に、学習内容や学習方法を教えることができる。

学習計画

解剖生理学実習

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション、身体計測と栄養状態の評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全14回の実習の概要と位置付け、進め方、レポート提出方法、発表会、評価基準等を説明する。身体測定（身体計測、身体組成の評価、栄養状態の評価）を行うことによって、発育や健康状態を総合的に把握し、身体についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	入学時に配布された実習関連一式からアディポメーター・キャリパーとインサーテープを持参する。 実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	組織学実習①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	組織標本観察について説明を行なった後、実際に顕微鏡を使用してその操作方法を学ぶ。課題として与えられた人体組織標本について、バーチャル顕微鏡を用いて観察、スケッチし、その組織構造を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	色鉛筆（12色）と消しゴムを持参する。 学習した内容についてグループ内で発表する。 実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	組織学実習②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題として与えられた人体組織標本について、バーチャル顕微鏡を用いて観察、スケッチし、その組織構造を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	色鉛筆（12色）と消しゴムを持参する。 学習した内容についてグループ内で発表する。 実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	運動器系評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動器系評価（握力評価、徒手筋力評価、ロコモ度テスト、運動器検診）を行うことによって、日常動作の状態を総合的に把握し、身体についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	骨格系①

第5回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体標本および骨格標本の観察を行い、その構成と位置関係を理解する。骨格標本の組み立てを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	カッターとセロテープを持参する。 骨格系について予習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	骨格系②、筋系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体標本および骨格標本の観察を行い、その構成と位置関係を理解する。各筋肉の停止点と起始点について骨格標本を用いた実習により理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	カッターとセロテープを持参する。 骨格系と筋系について予習する。 実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	循環器系（血圧と脈拍）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	循環器系（血圧と脈拍）評価を行うことによって、循環器系の状態を総合的に把握し、身体についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	循環器系（血圧と脈拍）について予習する。 実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	循環器系（心電図）の評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	循環器系（心電図）評価を行うことによって、循環器系の状態を総合的に把握し、身体についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	循環器系（心電図）について予習する。 実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	一次救命処置（成人）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	一次救命処置（Basic Life Support: BLS）について学ぶ。管理栄養士が働く職場だけではなく、街中でも一次救命処置のスキルを役立てられる機会があるかもしれないため、いざというときの対応方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習後にレポートを提出する。

	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	小児の一次救命処置・アナフィラキシー対応
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小児の一次救命処置とアナフィラキシー対応（エピペンの使用方法）について学ぶ。管理栄養士が働く職場だけではなく、街中でも一次救命処置のスキルを役立てられる機会があるかもしれないため、いざというときの対応方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	嚥下機能評価・感染予防
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体模型の観察を行い、肉眼レベルでの構造と位置関係を理解する。嚥下機能評価・感染予防について実習し、理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	消化器系・嚥下機能について予習する。 実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	呼吸器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	呼吸器系の評価を行うことによって、患者の呼吸器系の状態を総合的に把握し、身体についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸器系について予習する。 実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	神経系・感覚器系の評価①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体模型の観察を行い、肉眼レベルでの構造と位置関係を理解する。感覚機能検査、認知機能検査等について実習し、理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	神経系・感覚器系の評価②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体模型の観察を行い、肉眼レベルでの構造と位置関係を理解する。感覚機能検査、認知機能検査等について実習し、理解を深める。

	教室外学習(予習・復習)の内容	カッターとセロテープを持参する。 実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

・実習レポート及びグループワークの成果物はGoogle Classroomを用いて提出してください。
・新型コロナウイルス感染症の流行状況等により、授業形態や内容の変更が生じる可能性があります。
・第1回の「身体計測と栄養状態の評価」には、入学時に配布された実習関連一式から、アディポメーター（キャリパー）とインサーテープを持参してください。
・第2回～第3回の「組織学実習」には色鉛筆（12色）と消しゴムを持参してください。
・第4回～第5回の「骨格・筋系」にはカッターとセロテープを持参してください。
・第14回の「神経系・感覚器系の評価②」にはカッターとセロテープを持参してください。

学生へのフィードバック方法

・実習レポートは採点しフィードバックします。
・必要に応じてピアレビューを実施します。

評価方法

・実習に参加しなかった場合は、欠席となります。
・正当な理由なく実習開始後30分未満に入室した場合は遅刻として扱います。正当な理由なく実習開始後30分以降に入室した場合、欠席として扱います。遅刻を3回した場合、欠席1回として扱います。
・定期試験は行いません。実習終了後の課題（実習レポート・成果物・発表）90%、平常点（学習態度等）10%を合計した100%を評価点とします。学習成果の公平で客観的な評価のためにルーブリック（Google Classroom内で公開）を用います。
・欠席した実習の評価点は0点になります。
・欠席が全14回の3分の1を超えた場合に単位取得ができないと学則に書かれていますが、欠席した実習の評価点は0点ですので、欠席日数に関わらず単位取得ができなくなる場合があります。
・不正行為には、学則に沿って厳正に対応します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実習レポート	○	○	○	○
発表会での発表・成果物	○	○	○	○
学習態度			○	○

評価割合

定期試験は行いません。実習終了後の課題（実習レポート・成果物・発表）90%、平常点（学習態度等）10%を合計した100%を評価点とします。

使用教科書名(ISBN番号)

「解剖生理学 人体の構造と機能 第3版 (栄養科学イラストレイテッド)」志村二三夫/羊土社/2020年（978-4758113625）

ディプロマポリシーとの関連

体験を通して解剖生理学の知識を身につけ理解を深めることにより、それを応用して疾病の成り立ち（病態の基盤となる機能異常）について分析し、問題解決に導く考察をすることが可能となる。また、他者や自身自身の身体や健康に関心を持ち、次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための提案と発信ができるための基盤となる。

オフィスアワー

各実習終了後に対面で質問を受け付ける時間をとります。
実習時間以外は基本的に1505研究室（教授室）で対応します。
質問などがある場合はGoogle Classroomからメールで連絡してください。

学生へのメッセージ

・管理栄養士は、医療、スポーツ、企業、学校等の様々な場面で人々の健康を支える医療専門職、栄養の専門家です。そして、解剖生理学は、管理栄養士養成課程の「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の中に位置づけられている重要な科目です。各臓器の構造や機能を正しく理解し、医学用語、専門用語で表現することができれば、他の専門職等としっかりとコミュニケーションすることができます。この講義で学んだことは、これからの本学科における学びの基礎になります。楽しみながら学習してください。また、この実習を通して他者や自分自身の身体や健康に関心を持っていただけたら幸いです。
・解剖生理学では、たくさんの専門用語を覚える必要があります。知識の記憶は、その理論的背景と結びつけて使えば使うほどに定着します。予習復習を習慣化し、単なる知識の暗記だけではなく、実習で学んだ知識を自分のものにして下さい。自らの身体を振り返り、楽しみながら学習を進めましょう。
【注意点】
・PCや機器操作が苦手なクラスメートもいます。助け合うことで協調性を身につけてください。
・他の受講者の迷惑となる行為はしないでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は、医師として臨床を意識した実習を行います。 ・管理栄養士養成課程における解剖生理学については、単なる知識の暗記だけではなく、他の臨床系科目の学習内容の理解へとつながるよう支援します。
アクティブ・ラーニング	○	・学生の学習状況を把握し、受講生にあわせた実習を行います。 ・事前学習資料を配布することで反転学習の実施を可能とします。 ・実習レポートは採点し返却します。 ・グループに分かれてのグループワークを行います。必要に応じてピアレビューを実施します。
情報リテラシー教育	○	・日常的にGoogle Classroomのプラットフォームを利用しますので、その使用方法に習熟できます。
ICT活用	○	・実習計画にはGoogle Classroomのプラットフォームを積極的に利用します。

講義コード	H02017033
講義名	解剖生理学実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	山田 光彦	指定なし
教授	斉藤 恵美子	指定なし

ナンバリング

H22203C13

授業概要(教育目的)

解剖生理学は、管理栄養士養成課程の「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の中に位置づけられています。本実習では、健康増進、疾病予防等に携わる者として、正常な人体の構造と生理的機能を、様々な計測手技等の実習や顕微観察を通して具体的に学習し理解を深めるための実習を行います。「解剖生理学実習」では、疾病予防や栄養サポートを実施するために必要な臨床医学の基礎知識について実習を通じて学ぶことで、医療チームの一員として位置付けられる管理栄養士の育成に資することを目的としています。

履修条件

・「解剖生理学I」及び「解剖生理学II」の知識が必須です。
・Google Classroomを利用できることが必須です。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・解剖生理学の知識を利用して、人体の器官・組織・細胞の構造を図示できる。 ・解剖生理学の知識を利用して、人体の器官・組織・細胞の構造と機能を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	・疾病の成り立ち（病態の基盤となる機能異常）、栄養との関係について推察することができる。 ・推察した結果や過程、根拠を自分の言葉を使って説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・他者や自分自身の身体や健康に関心を持つ。 ・理解が不十分な点について活発に質問する。 ・与えられた課題について率先して取り組む。

技術・表現の観点(A)	・学習資料を正しく読み取り、適切に活用することができる。 ・授業内で得た知識をもとに、設定された課題を達成することができる。 ・他の学習者に、学習内容や学習方法を教えることができる。

学習計画

解剖生理学実習

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション、身体計測と栄養状態の評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全14回の実習の概要と位置付け、進め方、レポート提出方法、発表会、評価基準等を説明する。身体測定（身体計測、身体組成の評価、栄養状態の評価）を行うことによって、発育や健康状態を総合的に把握し、身体についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	入学時に配布された実習関連一式からアディポメーター・キャリパーとインサーテープを持参する。 実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	組織学実習①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	組織標本観察について説明を行なった後、実際に顕微鏡を使用してその操作方法を学ぶ。課題として与えられた人体組織標本について、バーチャル顕微鏡を用いて観察、スケッチし、その組織構造を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	色鉛筆（12色）と消しゴムを持参する。 学習した内容についてグループ内で発表する。 実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	組織学実習②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題として与えられた人体組織標本について、バーチャル顕微鏡を用いて観察、スケッチし、その組織構造を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	色鉛筆（12色）と消しゴムを持参する。 学習した内容についてグループ内で発表する。 実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	運動器系評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動器系評価（握力評価、徒手筋力評価、ロコモ度テスト、運動器検診）を行うことによって、日常動作の状態を総合的に把握し、身体についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	骨格系①

第5回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体標本および骨格標本の観察を行い、その構成と位置関係を理解する。骨格標本の組み立てを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	カッターとセロテープを持参する。 骨格系について予習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	骨格系②、筋系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体標本および骨格標本の観察を行い、その構成と位置関係を理解する。各筋肉の停止点と起始点について骨格標本を用いた実習により理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	カッターとセロテープを持参する。 骨格系と筋系について予習する。 実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	循環器系（血圧と脈拍）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	循環器系（血圧と脈拍）評価を行うことによって、循環器系の状態を総合的に把握し、身体についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	循環器系（血圧と脈拍）について予習する。 実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	循環器系（心電図）の評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	循環器系（心電図）評価を行うことによって、循環器系の状態を総合的に把握し、身体についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	循環器系（心電図）について予習する。 実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	一次救命処置（成人）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	一次救命処置（Basic Life Support: BLS）について学ぶ。管理栄養士が働く職場だけではなく、街中でも一次救命処置のスキルを役立てられる機会があるかもしれないため、いざというときの対応方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習後にレポートを提出する。

	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	小児の一次救命処置・アナフィラキシー対応
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小児の一次救命処置とアナフィラキシー対応（エピペンの使用方法）について学ぶ。管理栄養士が働く職場だけではなく、街中でも一次救命処置のスキルを役立てられる機会があるかもしれないため、いざというときの対応方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	嚥下機能評価・感染予防
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体模型の観察を行い、肉眼レベルでの構造と位置関係を理解する。嚥下機能評価・感染予防について実習し、理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	消化器系・嚥下機能について予習する。 実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	呼吸器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	呼吸器系の評価を行うことによって、患者の呼吸器系の状態を総合的に把握し、身体についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	呼吸器系について予習する。 実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	神経系・感覚器系の評価①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体模型の観察を行い、肉眼レベルでの構造と位置関係を理解する。感覚機能検査、認知機能検査等について実習し、理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	神経系・感覚器系の評価②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体模型の観察を行い、肉眼レベルでの構造と位置関係を理解する。感覚機能検査、認知機能検査等について実習し、理解を深める。

	教室外学習(予習・復習)の内容	カッターとセロテープを持参する。 実習後にレポートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

・実習レポート及びグループワークの成果物はGoogle Classroomを用いて提出してください。
・新型コロナウイルス感染症の流行状況等により、授業形態や内容の変更が生じる可能性があります。
・第1回の「身体計測と栄養状態の評価」には、入学時に配布された実習関連一式から、アディポメーター（キャリパー）とインサーテープを持参してください。
・第2回～第3回の「組織学実習」には色鉛筆（12色）と消しゴムを持参してください。
・第4回～第5回の「骨格・筋系」にはカッターとセロテープを持参してください。
・第14回の「神経系・感覚器系の評価②」にはカッターとセロテープを持参してください。

学生へのフィードバック方法

・実習レポートは採点しフィードバックします。
・必要に応じてピアレビューを実施します。

評価方法

・実習に参加しなかった場合は、欠席となります。
・正当な理由なく実習開始後30分未満に入室した場合は遅刻として扱います。正当な理由なく実習開始後30分以降に入室した場合、欠席として扱います。遅刻を3回した場合、欠席1回として扱います。
・定期試験は行いません。実習終了後の課題（実習レポート・成果物・発表）90%、平常点（学習態度等）10%を合計した100%を評価点とします。学習成果の公平で客観的な評価のためにルーブリック（Google Classroom内で公開）を用います。
・欠席した実習の評価点は0点になります。
・欠席が全14回の3分の1を超えた場合に単位取得ができないと学則に書かれていますが、欠席した実習の評価点は0点ですので、欠席日数に関わらず単位取得ができなくなる場合があります。
・不正行為には、学則に沿って厳正に対応します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実習レポート	○	○	○	○
発表会での発表・成果物	○	○	○	○
学習態度			○	○

評価割合

定期試験は行いません。実習終了後の課題（実習レポート・成果物・発表）90%、平常点（学習態度等）10%を合計した100%を評価点とします。

使用教科書名(ISBN番号)

「解剖生理学 人体の構造と機能 第3版 (栄養科学イラストレイテッド)」志村二三夫/羊土社/2020年（978-4758113625）

ディプロマポリシーとの関連

体験を通して解剖生理学の知識を身につけ理解を深めることにより、それを応用して疾病の成り立ち（病態の基盤となる機能異常）について分析し、問題解決に導く考察をすることが可能となる。また、他者や自身自身の身体や健康に関心を持ち、次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための提案と発信ができるための基盤となる。

オフィスアワー

各実習終了後に対面で質問を受け付ける時間をとります。
実習時間以外は基本的に1505研究室（教授室）で対応します。
質問などがある場合はGoogle Classroomからメールで連絡してください。

学生へのメッセージ

・管理栄養士は、医療、スポーツ、企業、学校等の様々な場面で人々の健康を支える医療専門職、栄養の専門家です。そして、解剖生理学は、管理栄養士養成課程の「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の中に位置づけられている重要な科目です。各臓器の構造や機能を正しく理解し、医学用語、専門用語で表現することができれば、他の専門職等としっかりとコミュニケーションすることができます。この講義で学んだことは、これからの本学科における学びの基礎になります。楽しみながら学習してください。また、この実習を通して他者や自分自身の身体や健康に関心を持っていただけたら幸いです。
・解剖生理学では、たくさんの専門用語を覚える必要があります。知識の記憶は、その理論的背景と結びつけて使えば使うほどに定着します。予習復習を習慣化し、単なる知識の暗記だけではなく、実習で学んだ知識を自分のものにして下さい。自らの身体を振り返り、楽しみながら学習を進めましょう。
【注意点】
・PCや機器操作が苦手なクラスメートもいます。助け合うことで協調性を身につけてください。
・他の受講者の迷惑となる行為はしないでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は、医師として臨床を意識した実習を行います。 ・管理栄養士養成課程における解剖生理学については、単なる知識の暗記だけではなく、他の臨床系科目の学習内容の理解へとつながるよう支援します。
アクティブ・ラーニング	○	・学生の学習状況を把握し、受講生にあわせた実習を行います。 ・事前学習資料を配布することで反転学習の実施を可能とします。 ・実習レポートは採点し返却します。 ・グループに分かれてのグループワークを行います。必要に応じてピアレビューを実施します。
情報リテラシー教育	○	・日常的にGoogle Classroomのプラットフォームを利用しますので、その使用方法に習熟できます。
ICT活用	○	・実習計画にはGoogle Classroomのプラットフォームを積極的に利用します。

講義コード	H02018031
講義名	運動生理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	江川 賢一	指定なし

ナンバリング

H22204C21

授業概要(教育目的)

運動を遂行するとき、身体は運動に最も適した状態となるように変化します。また、トレーニングを長期間継続すると、身体はそのトレーニング様式にあわせて変化します。このような一過性の応答や慢性的な適応の生理学的メカニズムを講義します。

履修条件

H12201C21 解剖生理学I、H12202C21 解剖生理学IIを学習していること。H22203C13 解剖生理学実習と合わせて履修することが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．運動を行ったときに身体に起こる急性応答を理解する。 ２．運動を行ったときに身体に起こる慢性適応を理解する。
思考・判断の観点 (K)	健康のための運動，競技のための運動，リハビリのための運動の違いを判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら健康増進や競技力向上の基礎的な実践を通じて、生涯にわたる運動の効用を説明できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス：環境への対応とストレス応答
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	健康寿命維持増進における運動生理学の意義、概要、学習方法を理解する。 環境適応とストレス応答について、生理学的機序を理解

第1回	含む)	する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：予想問題（1から12） 復習：教科書第2章の通読、用語集の作成
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習100分
第2回	授業テーマ	総論：健康増進と運動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動による健康増進効果についての科学的エビデンスを学習し、運動の急性応答と慢性適応の生理学的機序を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：予想問題（1から3） 復習：教科書第3章の通読、用語集の作成
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習100分
第3回	授業テーマ	総論：運動・スポーツとエネルギー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動時のエネルギー供給系の生理学的機序を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：予想問題（1から3） 復習：教科書第4章の通読、用語集の作成
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習100分
第4回	授業テーマ	各論：運動と筋・骨系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動の実施による筋・骨格系の生理学的メカニズムを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：予想問題（1から4） 復習：教科書第5章の通読、用語集の作成
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習100分
第5回	授業テーマ	各論：運動と循環器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動の実施による循環器系の生理学的メカニズムを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：予想問題（1から2） 復習：教科書第6章の通読、用語集の作成
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習100分
第6回	授業テーマ	各論：運動と呼吸器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動の実施による呼吸器系の生理学的メカニズムを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：予想問題（1から2） 復習：教科書第7章の通読、用語集の作成
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習100分
第7回	授業テーマ	各論：運動と神経系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動の実施による神経系の生理学的メカニズムを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：予想問題（1から4） 復習：教科書第8、9章の通読、用語集の作成
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習100分
	授業テーマ	各論：骨格筋収縮能力の維持と改善、体温調節
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	運動の実施による骨格筋収縮、熱産生の生理学的メカニズムを理解する。

第8回	**含む)**	
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：予想問題（8章1、9章1から2） 復習：教科書第9章の通読、用語集の作成
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習100分
第9回	**授業テーマ**	スポーツと栄養
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	トップアスリートのスポーツ栄養管理事例から、管理栄養士に必要な運動生理学の理解を深める。 （校内特別授業の予定）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第10章前半（10.1～10.5）の通読 復習：教科書1から9章までの予想問題の自己採点（中間試験）
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習100分
第10回	**授業テーマ**	スポーツと栄養総論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動の実施によるエネルギー代謝の生理学的メカニズムを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：予想問題（1から5） 復習：教科書第10章後半（10.6～10.11）の通読、用語集の作成
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習100分
第11回	**授業テーマ**	スポーツと栄養各論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動と栄養摂取の生理学的メカニズムを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：予想問題（1から2） 復習：教科書第11章の通読、用語集の作成
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習100分
第12回	**授業テーマ**	運動負荷評価法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動負荷テストの目的、種類、様式を理解し、運動負荷テストの実施上の注意点を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：予想問題（1から2） 復習：教科書第12章の通読、用語集の作成
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習100分
第13回	**授業テーマ**	運動処方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	安全で効果的な運動処方の科学的根拠を学習し、健康づくりに応用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：予想問題（1から4） 復習：教科書第13章の通読、用語集の作成
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習100分
第14回	**授業テーマ**	運動療法・運動障害
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	内科的および外科的疾病の予防、治療に必要な病態を理解し、安全で効果的な運動療法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：予習：予想問題（1から4）、予想問題（1から2） 復習：教科書の通読、教科書10から14章までの予想問題の自己採点（期末試験）
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習100分

学習計画注記

※履修者数や講義の進度によりスケジュール、授業方法が変更になる場合もあります。
教室外学習はGoogle Classroomの課題に取り組みます。面接授業では課題について解説します。専門発展科目の履修に接続します。PCを使用して出欠、教材配布、課題提出、フィードバックをします。

学生へのフィードバック方法

教室外学習の予想問題は、次週の講義で解説します。リアクションペーパーを通じて個別の質問に対応します。

評価方法

ルーブリックに基づいて成績評価します。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示をします。中間試験は教科書1から9章の範囲から出題します。期末試験は教科書10から14章の範囲から出題します。特別授業、教室外学習はリアクションペーパーの内容により理解度を評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
リアクションペーパー			○	
中間試験	○	○		
期末試験	○	○		

評価割合

リアクションペーパー20%、中間試験40%、期末試験40%

使用教科書名(ISBN番号)

山本順一郎（2018）エキスパート管理栄養士養成シリーズ16運動生理学（第4版）．化学同人．（ISBN：9784759812497）

参考図書

「理論と実践 スポーツ栄養学」 日本文芸社（978-4537215823）
American College of Sports Medicine (2021) ACSM's Guidelines for Exercise Testing and Prescription, 11th Edition. Wolters Kluwer. ISBN:9781975150181（旧版翻訳：アメリカスポーツ医学会（2011）運動処方の指針 原書第8版．南江堂．ISBN:978-4524262168）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】運動を中心とした人間の栄養に関する専門的知識と、それらを応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている
【思考・判断】運動と栄養に関わる諸課題を探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集し、論理的批判的に思考できる
【関心・意欲・態度】運動を中心とした人間の栄養に関心を持ち、管理栄養士として貢献する意欲と態度を身につけている

オフィスアワー

木曜日昼休み（研究室）

学生へのメッセージ

人間の生命を守り、健康を増進する上で管理栄養士に不可欠な科目です。解剖生理学などと関連付けた教室外学習が効果的です。疑問や質問は講義中に解決するように積極的に参加し、ディスカッションを中心に予習、復習することを期待します。公認スポーツ栄養士を目指す学生は指定した教科書を完全にマスターし、参考図書にチャレンジしましょう。

教育等の取組み状況

	該当	概要

	有無	
実務経験を活かした授業	○	担当教員は民間企業の研究機関における運動生理学的研究に従事した経験を踏まえて、人体の構造と機能に関する理解を促進するための専門的知識を教授します。
アクティブ・ラーニング	○	教室外学習の定着のために、予習事項のディスカッションを行い、復習事項をチェックします。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（リアクションペーパー）を提出します。

講義コード	H02018032
講義名	運動生理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

H22204C21

授業概要(教育目的)

運動を遂行するとき、身体は運動に最も適した状態となるように変化します。また、トレーニングを長期間継続すると、身体はそのトレーニング様式にあわせて変化します。このような一過性の応答や慢性的な適応の生理学的メカニズムを講義します。

履修条件

H12201C21 解剖生理学I、H12202C21 解剖生理学IIを学習していること。H22203C13 解剖生理学実習と合わせて履修することが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．運動を行ったときに身体に起こる急性応答を理解する。 2．運動を行ったときに身体に起こる慢性適応を理解する。
思考・判断の観点 (K)	健康のための運動，競技のための運動，リハビリのための運動の違いを判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら健康増進や競技力向上の基礎的な実践を通じて、生涯にわたる運動の効用を説明できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス：環境への対応とストレス応答
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	健康寿命維持増進における運動生理学の意義、概要、学習方法を理解する。 環境適応とストレス応答について、生理学的機序を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：予想問題（1から12） 復習：教科書第2章の通読、用語集の作成
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習100分
	授業テーマ	総論：健康増進と運動

第2回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動による健康増進効果についての科学的エビデンスを学習し、運動の急性応答と慢性適応の生理学的機序を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：予想問題（1から3） 復習：教科書第3章の通読、用語集の作成
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習100分
第3回	授業テーマ	総論：運動・スポーツとエネルギー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動時のエネルギー供給系の生理学的機序を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：予想問題（1から3） 復習：教科書第4章の通読、用語集の作成
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習100分
第4回	授業テーマ	各論：運動と筋・骨系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動の実施による筋・骨格系の生理学的メカニズムを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：予想問題（1から4） 復習：教科書第5章の通読、用語集の作成
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習100分
第5回	授業テーマ	各論：運動と循環器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動の実施による循環器系の生理学的メカニズムを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：予想問題（1から2） 復習：教科書第6章の通読、用語集の作成
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習100分
第6回	授業テーマ	各論：運動と呼吸器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動の実施による呼吸器系の生理学的メカニズムを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：予想問題（1から2） 復習：教科書第7章の通読、用語集の作成
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習100分
第7回	授業テーマ	各論：運動と神経系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動の実施による神経系の生理学的メカニズムを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：予想問題（1から4） 復習：教科書第8、9章の通読、用語集の作成
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習100分
第8回	授業テーマ	各論：骨格筋収縮能力の維持と改善、体温調節
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動の実施による骨格筋収縮、熱産生の生理学的メカニズムを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：予想問題（8章1、9章1から2） 復習：教科書第9章の通読、用語集の作成
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習100分
	授業テーマ	スポーツと栄養
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	トップアスリートのスポーツ栄養管理事例から、管理栄

第9回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	養士に必要な運動生理学の理解を深める。 （校内特別授業の予定）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第10章前半（10.1～10.5）の通読 復習：教科書1から9章までの予想問題の自己採点（中間試験）
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習100分
第10回	授業テーマ	スポーツと栄養総論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動の実施によるエネルギー代謝の生理学的メカニズムを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：予想問題（1から5） 復習：教科書第10章後半（10.6～10.11）の通読、用語集の作成
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習100分
第11回	授業テーマ	スポーツと栄養各論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動と栄養摂取の生理学的メカニズムを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：予想問題（1から2） 復習：教科書第11章の通読、用語集の作成
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習100分
第12回	授業テーマ	運動負荷評価法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動負荷テストの目的、種類、様式を理解し、運動負荷テストの実施上の注意点を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：予想問題（1から2） 復習：教科書第12章の通読、用語集の作成
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習100分
第13回	授業テーマ	運動処方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	安全で効果的な運動処方の科学的根拠を学習し、健康づくりに応用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：予想問題（1から4） 復習：教科書第13章の通読、用語集の作成
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習100分
第14回	授業テーマ	運動療法・運動障害
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	内科的および外科的疾病の予防、治療に必要な病態を理解し、安全で効果的な運動療法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：予習：予想問題（1から4）、予想問題（1から2） 復習：教科書の通読、教科書10から14章までの予想問題の自己採点（期末試験）
	教室外学習の時間（分）	予習90分、復習100分

学習計画注記

※履修者数や講義の進度によりスケジュール、授業方法が変更になる場合もあります。
教室外学習はGoogle Classroomの課題に取り組みます。面接授業では課題について解説します。
専門発展科目の履修に接続します。PCを使用して出欠、教材配布、課題提出、フィードバックをします。

学生へのフィードバック方法

教室外学習の予想問題は、次週の講義で解説します。リアクションペーパーを通じて個別の質問に対応します。

評価方法

ルーブリックに基づいて成績評価します。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示をします。中間試験は教科書1から9章の範囲から出題します。期末試験は教科書10から14章の範囲から出題します。特別授業、教室外学習はリアクションペーパーの内容により理解度を評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
リアクションペーパー			○	
中間試験	○	○		
期末試験	○	○		

評価割合

リアクションペーパー20%、中間試験40%、期末試験40%

使用教科書名(ISBN番号)

山本順一郎（2018）エキスパート管理栄養士養成シリーズ16運動生理学（第4版）．化学同人．（ISBN：9784759812497）

参考図書

「理論と実践 スポーツ栄養学」 日本文芸社（978-4537215823）
American College of Sports Medicine (2021) ACSM's Guidelines for Exercise Testing and Prescription, 11th Edition. Wolters Kluwer. ISBN:9781975150181（旧版翻訳：アメリカスポーツ医学会（2011）運動処方の指針 原書第8版．南江堂．ISBN:978-4524262168）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】運動を中心とした人間の栄養に関する専門的知識と、それらを応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている
【思考・判断】運動と栄養に関わる諸課題を探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集し、論理的批判的に思考できる
【関心・意欲・態度】運動を中心とした人間の栄養に関心を持ち、管理栄養士として貢献する意欲と態度を身につけている

オフィスアワー

木曜日昼休み（G0101研究室）

学生へのメッセージ

人間の生命を守り、健康を増進する上で管理栄養士に不可欠な科目です。解剖生理学などと関連付けた教室外学習が効果的です。疑問や質問は講義中に解決するように積極的に参加し、ディスカッションを中心に予習、復習することを期待します。公認スポーツ栄養士を目指す学生は指定した教科書を完全にマスターし、参考図書にチャレンジしましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は民間企業の研究機関における運動生理学的研究に従事した経験を踏まえて、人体の構造と機能に関する理解を促進するための専門的知識を教授します。
アクティ		教室外学習の定着のために、予習事項のディスカッションを行い、復習事項

ブ・ラーニング	○	をチェックします。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（リアクションペーパー）を提出します。

講義コード	H02019031
講義名	微生物学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	林　一也	指定なし

ナンバリング

H12205C21

授業概要(教育目的)

微生物は肉眼では認識できないが、様々な日常生活の場面でヒトと関わりを持っている。人類誕生以来，ヒトは微生物の被害と闘ってきた。人体に病気をもたらす病原菌や食中毒菌，生活環境で，環境を悪化させる菌や物質を劣化させる菌。このような菌の被害を防止するために，人類は微生物学を発展させてきた。しかし、微生物はヒトに被害を与えるだけではない。ヒトの身体には微生物が住んでいて共生関係にあり、微生物がいないとヒトも生きていくのが難しくなる。

この授業では、「微生物とは」いったいどんなものなのか、どんな性質を持っているのか、どのように増殖するのか、どんなところにどのような微生物が住んでいるのか、どんな環境を好むのか、どのように扱うことができるのかなどの、微生物の諸性質について学生に理解させることを目的としている。

さらに、病気や食中毒といった被害や、微生物との共生関係など利益をもたらすものなど、微生物とヒトとの関わりや食品などの保存方法で行われる微生物の制御方法などや発酵食品での微生物の役割、自然界での微生物の働き、特に物質循環と微生物の関わりなど、私たちが生活のなかで微生物とどのように関わりがあるのかなど微生物に関する基礎知識を学生に修得させることを目的としている。

履修条件

無し

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．微生物とはどのようなものであるかを説明できる。 ２．微生物による利益と被害を説明できる。
思考・判断の観点	１．微生物による被害の防ぎ方や利用法を考えることができる。 ２．微生物の性質を利用した生活環境や地球環境への展開を考えることができる。

(K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	1．微生物が人間の生活になどに様々な面で深くかかわっていることに関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

微生物学

第1回	授業テーマ	ガイダンスと微生物とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シラバスの説明と講義の進め方などのガイダンスを行う。さらに、この講義で扱う微生物とはどんな生物であるかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめグーグルクラスで配信する講義の内容を予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。（予習60分+復習120分）
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	真菌類について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヒトと同じ真核生物であるカビや酵母、キノコといった真菌類は、どのような種類が存在するのかまた、どのようなどんな性質も示すのかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめグーグルクラスで配信する講義の内容を予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。（予習60分+復習120分）
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	細菌類について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	真核生物とは全く異なる原核生物である細菌類や放線菌とはどのような性質を示すのか、また、どのような種類が存在するのかを学ぶ。合わせてウイルスについても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめグーグルクラスで配信する講義の内容を予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。（予習60分+復習120分）
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	微生物の培養方法、測定方法について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	微生物を培養するにはどのようにしたらいいのか、また、微生物の生育を測定するのにはどのような方法があるのかを学ぶ。さらに、微生物の生育する条件や環境要因などについても学ぶ。

	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめグーグルクラスで配信する講義の内容を予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。（予習60分+復習120分）
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	微生物の殺菌・滅菌・食品などの保存方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	微生物を制御する方法について学ぶ。具体的には、微生物の殺菌方法や死滅させる滅菌方法など、物理的、化学的に微生物の生育をコントロールする方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめグーグルクラスで配信する講義の内容を予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。（予習60分+復習120分）
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	微生物による物質の劣化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	私たちの身の回りのものも微生物の作用で日々劣化している。どのよう物質が、どのように微生物によってが劣化するのかの仕組みなどについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめグーグルクラスで配信する講義の内容を予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。（予習60分+復習120分）
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	微生物とヒトとの関わり・身体と微生物、病原微生物(人体常在菌と病原菌排除)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヒトは微生物と共存し共生関係にある。私たちの身体のどこにどんな微生物が住んでいて、何をしているのか、また、病気を引き起こす病原微生物とはどんな微生物で、ヒトの常在菌とどのような関わりがあるのかについてについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめグーグルクラスで配信する講義の内容を予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。（予習60分+復習120分）
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	微生物とヒトとの関わり・食中毒、カビ毒、自然毒、アレルギー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	微生物による代表的な健康被害の食中毒やカビがつくる毒素・微生物がつくり生物濃縮される自然毒・微生物でおきるアレルギーなどはどんなものかについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめグーグルクラスで配信する講義の内容を予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。（予習60分+復習120分）

	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	微生物と自然との関わり･動物・植物と微生物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヒトと同じように微生物は、動物や昆虫、植物などと密接にかかわって生育している。微生物が動物や植物とどのように係わっているのか。微生物がもたらす動植物への被害と微生物と動植物の共生について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめグーグルクラスで配信する講義の内容を予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。（予習60分+復習120分）
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	微生物と自然との関わり･微生物による物質循環
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然界では元素が様々な形を変えて物質の中を循環している。自然で元素がどのように循環しているのか、また、その循環に深く微生物がか関わるがどのように関与しているのか、地球上の元素の循環と微生物の関わりを中心として学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめグーグルクラスで配信する講義の内容を予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。（予習60分+復習120分）
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	微生物利用・発酵食品（アルコール類や味噌、醤油、納豆など）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヒトは古代から知らず知らずのうちに微生物を利用してきた。その一つに微生物によってつくられる様々な発酵食品がある。発酵食品、特にアルコール類、味噌、醤油、醤油の製造に関与する微生物の働きについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめグーグルクラスで配信する講義の内容を予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。（予習60分+復習120分）
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	授業テーマ	微生物利用・発酵食品（納豆、乳類発酵食品、漬物、水産発酵食品など）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヒトは古代から知らず知らずのうちに微生物を利用してきた。その一つに微生物によってつくられる様々な発酵食品がある。発酵食品、特に納豆、乳類発酵食品、漬物、水産発酵食品の製造に関与する微生物の働きについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめグーグルクラスで配信する講義の内容を予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。（予習60分+復習120分）
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	微生物利用・物質生産

第13回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	微生物によってもたらされる恩恵の一つに微生物による物質生産がある。この物質生産には、抗生物質などの医薬品から調味料、糖質、酵素製剤などの食品、さらにはバイオプラスチックなどがある。これらの微生物による物質生産について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめグーグルクラスで配信する講義の内容を予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。（予習60分+復習120分）
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	授業テーマ	微生物利用・微生物によるバイオレメディエーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヒトの活動がもたらす環境汚染は地球における最重要課題である。環境汚染には大気汚染、海洋汚染、土壌汚染などさまざまであるが、環境汚染を修復するには微生物が大きく関与する。現代の問題となっている環境汚染の種類と微生物によってどのように修復するのかについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめグーグルクラスで配信する講義の内容を予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。（予習60分+復習250分）
	教室外学習の時間（分）	310分

学習計画注記

あらかじめグーグルクラスで講義の内容を配信するので予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。
講義で使う資料は抜粋したものを配布して行うので、全体の資料はグーグルクラスを参照すること。
なお、学年暦，時間割の変更，講義内容の進行状況によりシラバス・講義形態が変更する場合がある。

学生へのフィードバック方法

回の講義、復習などで質問や不明な点がある場合は、1401研究室まで訪問するか、e-mailで問い合わせること。

評価方法

成績の評価は、定期試験の成績によって判定する。ただし、授業への参加態度等を成績判定に加えることがある。なお、成績評価にはルーブリックを用いた評価を行い、ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により学生に提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期テストおよび受講の状況等	○	○	○	

評価割合

試験（90%）授業への参加態度などの平常点（10%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識･理解】微生物に関する基礎知識を学ぶことによって，管理栄養士として食や栄養だけではなく地球環境まで含めた基礎を理解できる知識基盤を有している。

【思考･判断】微生物に関する正確な情報を収集し、論理的･批判的に思考することで健康や栄養に関する取り組みに対処できる能力を身につける。

オフィスアワー

お昼休みなど　1401研究室

学生へのメッセージ

利益も被害もある微生物の本質を理解してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、民間の食品企業で食品の研究・開発・品質管理における微生物管理や国立研究法人、農業団体等との共同研究における微生物研究に携わった内容を踏まえ、微生物を実学的・実践的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02019032
講義名	微生物学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	林　一也	指定なし

ナンバリング

H12205C21

授業概要(教育目的)

微生物は肉眼では認識できないが、様々な日常生活の場面でヒトと関わりを持っている。人類誕生以来，ヒトは微生物の被害と闘ってきた。人体に病気をもたらす病原菌や食中毒菌，生活環境で，環境を悪化させる菌や物質を劣化させる菌。このような菌の被害を防止するために，人類は微生物学を発展させてきた。しかし、微生物はヒトに被害を与えるだけではない。ヒトの身体には微生物が住んでいて共生関係にあり、微生物がいないとヒトも生きていくのが難しくなる。

この授業では、「微生物とは」いったいどんなものなのか、どんな性質を持っているのか、どのように増殖するのか、どんなところにどのような微生物が住んでいるのか、どんな環境を好むのか、どのように扱うことができるのかなどの、微生物の諸性質について学生に理解させることを目的としている。

さらに、病気や食中毒といった被害や、微生物との共生関係など利益をもたらすものなど、微生物とヒトとの関わりや食品などの保存方法で行われる微生物の制御方法などや発酵食品での微生物の役割、自然界での微生物の働き、特に物質循環と微生物の関わりなど、私たちが生活のなかで微生物とどのように関わりがあるのかなど微生物に関する基礎知識を学生に修得させることを目的としている。

履修条件

無し

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．微生物とはどのようなものであるかを説明できる。 2．微生物による利益と被害を説明できる。
思考・判断の観点	1．微生物による被害の防ぎ方や利用法を考えることができる。 2．微生物の性質を利用した生活環境や地球環境への展開を考えることができる。

(K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	1．微生物が人間の生活になどに様々な面で深くかかわっていることに関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

微生物学

第1回	授業テーマ	ガイダンスと微生物とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シラバスの説明と講義の進め方などのガイダンスを行う。さらに、この講義で扱う微生物とはどんな生物であるかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめグーグルクラスで配信する講義の内容を予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。（予習60分+復習120分）
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	真菌類について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヒトと同じ真核生物であるカビや酵母、キノコといった真菌類は、どのような種類が存在するのかまた、どのようなどんな性質も示すのかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめグーグルクラスで配信する講義の内容を予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。（予習60分+復習120分）
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	細菌類について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	真核生物とは全く異なる原核生物である細菌類や放線菌とはどのような性質を示すのか、また、どのような種類が存在するのかを学ぶ。合わせてウイルスについても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめグーグルクラスで配信する講義の内容を予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。（予習60分+復習120分）
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	微生物の培養方法、測定方法について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	微生物を培養するにはどのようにしたらいいのか、また、微生物の生育を測定するのにはどのような方法があるのかを学ぶ。さらに、微生物の生育する条件や環境要因などについても学ぶ。

	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめグーグルクラスで配信する講義の内容を予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。（予習60分+復習120分）
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	微生物の殺菌・滅菌・食品などの保存方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	微生物を制御する方法について学ぶ。具体的には、微生物の殺菌方法や死滅させる滅菌方法など、物理的、化学的に微生物の生育をコントロールする方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめグーグルクラスで配信する講義の内容を予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。（予習60分+復習120分）
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	微生物による物質の劣化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	私たちの身の回りのものも微生物の作用で日々劣化している。どのよう物質が、どのように微生物によってが劣化するのかの仕組みなどについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめグーグルクラスで配信する講義の内容を予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。（予習60分+復習120分）
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	微生物とヒトとの関わり・身体と微生物、病原微生物(人体常在菌と病原菌排除)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヒトは微生物と共存し共生関係にある。私たちの身体のどこにどんな微生物が住んでいて、何をしているのか、また、病気を引き起こす病原微生物とはどんな微生物で、ヒトの常在菌とどのような関わりがあるのかについてについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめグーグルクラスで配信する講義の内容を予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。（予習60分+復習120分）
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	微生物とヒトとの関わり・食中毒、カビ毒、自然毒、アレルギー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	微生物による代表的な健康被害の食中毒やカビがつくる毒素・微生物がつくり生物濃縮される自然毒・微生物でおきるアレルギーなどはどんなものかについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめグーグルクラスで配信する講義の内容を予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。（予習60分+復習120分）

	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	微生物と自然との関わり･動物・植物と微生物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヒトと同じように微生物は、動物や昆虫、植物などと密接にかかわって生育している。微生物が動物や植物とどのように係わっているのか。微生物がもたらす動植物への被害と微生物と動植物の共生について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめグーグルクラスで配信する講義の内容を予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。（予習60分+復習120分）
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	微生物と自然との関わり･微生物による物質循環
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然界では元素が様々な形を変えて物質の中を循環している。自然で元素がどのように循環しているのか、また、その循環に深く微生物がか関わるがどのように関与しているのか、地球上の元素の循環と微生物の関わりを中心として学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめグーグルクラスで配信する講義の内容を予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。（予習60分+復習120分）
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	微生物利用・発酵食品（アルコール類や味噌、醤油、納豆など）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヒトは古代から知らず知らずのうちに微生物を利用してきた。その一つに微生物によってつくられる様々な発酵食品がある。発酵食品、特にアルコール類、味噌、醤油、醤油の製造に関与する微生物の働きについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめグーグルクラスで配信する講義の内容を予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。（予習60分+復習120分）
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	授業テーマ	微生物利用・発酵食品（納豆、乳類発酵食品、漬物、水産発酵食品など）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヒトは古代から知らず知らずのうちに微生物を利用してきた。その一つに微生物によってつくられる様々な発酵食品がある。発酵食品、特に納豆、乳類発酵食品、漬物、水産発酵食品の製造に関与する微生物の働きについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめグーグルクラスで配信する講義の内容を予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。（予習60分+復習120分）
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	微生物利用・物質生産

第13回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	微生物によってもたらされる恩恵の一つに微生物による物質生産がある。この物質生産には、抗生物質などの医薬品から調味料、糖質、酵素製剤などの食品、さらにはバイオプラスチックなどがある。これらの微生物による物質生産について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめグーグルクラスで配信する講義の内容を予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。（予習60分+復習120分）
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	授業テーマ	微生物利用・微生物によるバイオレメディエーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヒトの活動がもたらす環境汚染は地球における最重要課題である。環境汚染には大気汚染、海洋汚染、土壌汚染などさまざまであるが、環境汚染を修復するには微生物が大きく関与する。現代の問題となっている環境汚染の種類と微生物によってどのように修復するのかについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめグーグルクラスで配信する講義の内容を予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。（予習60分+復習250分）
	教室外学習の時間（分）	310分

学習計画注記

あらかじめグーグルクラスで講義の内容を配信するので予習しておくこと。また、受講後は講義で配布したプリントやパワーポイント・講義で説明した内容を理解できるようにまとめて復習しておくこと。
講義で使う資料は抜粋したものを配布して行うので、全体の資料はグーグルクラスを参照すること。
なお、学年暦，時間割の変更，講義内容の進行状況によりシラバス・講義形態が変更する場合がある。

学生へのフィードバック方法

回の講義、復習などで質問や不明な点がある場合は、1401研究室まで訪問するか、e-mailで問い合わせること。

評価方法

成績の評価は、定期試験の成績によって判定する。ただし、授業への参加態度等を成績判定に加えることがある。なお、成績評価にはルーブリックを用いた評価を行い、ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により学生に提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期テストおよび受講の状況等	○	○	○	

評価割合

試験（90%）授業への参加態度などの平常点（10%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識･理解】微生物に関する基礎知識を学ぶことによって，管理栄養士として食や栄養だけではなく地球環境まで含めた基礎を理解できる知識基盤を有している。

【思考･判断】微生物に関する正確な情報を収集し、論理的･批判的に思考することで健康や栄養に関する取り組みに対処できる能力を身につける。

オフィスアワー

お昼休みなど　1401研究室

学生へのメッセージ

利益も被害もある微生物の本質を理解してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、民間の食品企業で食品の研究・開発・品質管理における微生物管理や国立研究法人、農業団体等との共同研究における微生物研究に携わった内容を踏まえ、微生物を実学的・実践的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02020031
講義名	臨床病態栄養学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	斉藤 恵美子	指定なし

ナンバリング

H22206C21

授業概要(教育目的)

臨床栄養の現場で管理栄養士が遭遇する主な疾患について、その疾病の成り立ちを講義する。1年次に履修した解剖生理学や生化学、基礎栄養学の知識を基に、種々の疾患の発症機序や主要症状、臨床検査、治療の基本的な考え方について説明する。臨床栄養学の学習に向け必要とされる医学的な理解、解釈を講義する。

履修条件

解剖生理学I および解剖生理学II を履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各疾患の病態や診断など、臨床医学の基礎的知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	解剖学・生理学・生化学・基礎栄養学などの基礎知識を、病態と関連付けて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	加齢・疾患に伴う変化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	加齢に伴う変化、疾患に伴う変化（炎症、萎縮・肥大、化生・異形成、腫瘍など）、個体の死について学ぶ。

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の関連章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	疾患診断の概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主な症候、および主な臨床検査の意義と解釈について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の関連章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	疾患治療の概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主な治療法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の関連章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	栄養障害と代謝疾患１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養障害、肥満、メタボリックシンドローム、脂質異常症の成因、病態、症状、診断について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：1年次に学んだ内分泌系や生化学、基礎栄養学について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	栄養障害と代謝疾患２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖尿病、高尿酸血症、痛風について、成因、病態、症状、診断について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ内分泌系について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	消化器系１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消化器系疾患（口腔，食道，胃、小腸，大腸）の成因、病態、症状、診断について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ消化器系について復習しておく。教科書の該当章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	消化器系２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肝胆膵系疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ消化器系（肝胆膵）について復習しておく。教科書の該当章を読んでおく。

		事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	循環器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	循環器系疾患（脳卒中を除く）の成因、病態、症状、診断について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ循環器系について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	腎臓系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	腎臓系疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ腎臓系について復習しておく。教科書の該当章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	尿路系，生殖器系，内分泌系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	腎臓系疾患，尿路系疾患，男性生殖器系疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。 内分泌系疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ腎・尿路系，生殖器系について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	呼吸器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	呼吸器系疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ呼吸器系について復習しておく。教科書の該当章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	血液系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	血液系疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ造血器系について復習しておく。教科書の該当章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	**授業テーマ**	脳、神経・精神系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脳卒中、神経疾患、精神疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ脳・神経系について確認しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。

	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	**授業テーマ**	運動器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動器系（筋・骨）疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ運動器系（筋・骨）について確認しておく。教科書の該当章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。 定期テストにむけて総復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	360分

学習計画注記

履修者の状況等によって進行内容が変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

学習範囲に応じて、練習問題を適宜行う。
質問は随時対応する。

評価方法

定期試験（筆記試験）で評価を行う。
なお定期試験（筆記試験）で評価を行うため、ルーブリックは設定しない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
筆記試験	○	○		

評価割合

定期試験100%

使用教科書名(ISBN番号)

栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち 第３版
田中 明，藤岡由夫／編
ISBN 9784758113670

参考図書

病気がみえる vol.1～15（MEDIC MEDIA）
からだがみえる（MEDIC MEDIA）
健康・栄養科学シリーズ 臨床医学―人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（南江堂）
その他、授業内で適宜提示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「人間の栄養」を理解するための専門的知識を身につける。
【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題の解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。

オフィスアワー

木曜昼休み 1503研究室

学生へのメッセージ

1年次に履修してきた科目を基にした科目であると同時に、今後の専門科目の基盤となる科目ですので、しっかり理解するよう努めてください。

教育等の取組み状況

	該	

	当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、医療の実地臨床において、診療業務等の実務経験を有しており、臨床現場における現状や具体例も呈示しながら、実践的な内容を教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02020032
講義名	臨床病態栄養学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

H22206C21

授業概要(教育目的)

臨床栄養の現場で管理栄養士が遭遇する主な疾患について、その疾病の成り立ちを講義する。1年次に履修した解剖生理学や生化学、基礎栄養学の知識を基に、種々の疾患の発症機序や主要症状、臨床検査、治療の基本的な考え方について説明する。臨床栄養学の学習に向け必要とされる医学的な理解、解釈を講義する。

履修条件

解剖生理学I および解剖生理学II を履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各疾患の病態や診断など、臨床医学の基礎的知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	解剖学・生理学・生化学・基礎栄養学などの基礎知識を、病態と関連付けて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	加齢・疾患に伴う変化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	加齢に伴う変化、疾患に伴う変化（炎症、萎縮・肥大、化生・異形成、腫瘍など）、個体の死について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の関連章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	疾患診断の概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	

第2回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主な症候、および主な臨床検査の意義と解釈について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の関連章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	疾患治療の概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主な治療法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の関連章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	栄養障害と代謝疾患１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養障害、肥満、メタボリックシンドローム、脂質異常症の成因、病態、症状、診断について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：1年次に学んだ内分泌系や生化学、基礎栄養学について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	栄養障害と代謝疾患２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖尿病、高尿酸血症、痛風について、成因、病態、症状、診断について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ内分泌系について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	消化器系１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消化器系疾患（口腔，食道，胃、小腸，大腸）の成因、病態、症状、診断について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ消化器系について復習しておく。教科書の該当章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	消化器系２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肝胆膵系疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ消化器系（肝胆膵）について復習しておく。教科書の該当章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	循環器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	循環器系疾患（脳卒中を除く）の成因、病態、症状、診断について学ぶ。

	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ循環器系について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	腎臓系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	腎臓系疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ腎臓系について復習しておく。教科書の該当章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	尿路系，生殖器系，内分泌系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	腎臓系疾患，尿路系疾患，男性生殖器系疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。 内分泌系疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ腎・尿路系，生殖器系について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	呼吸器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	呼吸器系疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ呼吸器系について復習しておく。教科書の該当章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	血液系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	血液系疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ造血器系について復習しておく。教科書の該当章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	**授業テーマ**	脳、神経・精神系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脳卒中、神経疾患、精神疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ脳・神経系について確認しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	**授業テーマ**	運動器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動器系（筋・骨）疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。
		事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ運動器系（筋・骨）について確認しておく。教科書の該当章を読んでお

	教室外学習(予習・復習)の内容	く。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。 定期テストにむけて総復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	360分

学習計画注記

履修者の状況等によって進行内容が変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

学習範囲に応じて、練習問題を適宜行う。
質問は随時対応する。

評価方法

定期試験（筆記試験）で評価を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
筆記試験	○	○		

評価割合

定期試験100%

使用教科書名(ISBN番号)

栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち 第３版
田中 明，藤岡由夫／編
ISBN 9784758113670

参考図書

病気がみえる vol.1～15（MEDIC MEDIA）
からだがみえる（MEDIC MEDIA）
健康・栄養科学シリーズ 臨床医学―人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（南江堂）
その他、授業内で適宜提示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「人間の栄養」を理解するための専門的知識を身につける。
【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題の解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。

オフィスアワー

木曜昼休み 1503研究室

学生へのメッセージ

1年次に履修してきた科目を基にした科目であると同時に、今後の専門科目の基盤となる科目ですので、しっかり理解するよう努めてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、医療の実地臨床において、診療業務等の実務経験を有しており、臨床現場における現状や具体例も呈示しながら、実践的な内容を教授する。
アクティブ・ラーニ		

ング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02021031
講義名	分子栄養学（HA、HC）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	鈴木 孝子	指定なし

ナンバリング

H22207C21

授業概要(教育目的)

栄養素の代謝は、生体が持つ巧みな分子機構により調節されている。この調節には、ホルモン、酵素タンパク質、ビタミン、微量金属などが重要な役割を担っている。本講義では、人間の健康あるいは疾病に関連する生体の代謝調節機序について分かりやすく概説し、栄養学を細胞生物学あるいは遺伝子生物学と関連させながら、分子レベルの視点から捉えていく。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．細胞膜を介した物質の移動を説明できる。 ２．酵素とその機能を説明できる。 ３．DNAの構造とDNAの複製のしくみを説明できる。 ４．遺伝子の発現とその制御機構を説明できる。 ５．生活習慣病と遺伝子多型（遺伝因子）の関連を説明できる。 ６．細胞間情報伝達物質とそれらによる調節を説明できる。 ７．個体の恒常性（ホメオスタシス）とその調節機構を説明できる。 ８．糖質代謝，脂質代謝，アミノ酸代謝の相互連関を説明できる。 ９．ヌクレオチドの合成，分解，再利用を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	１．遺伝子発現に及ぼす栄養素、非栄養素、栄養状態の影響を類別できる。 ２．満腹時（食後），空腹時（食間期）の栄養素の代謝変化を類別できる。
関心・意欲・態度の観点	

(V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	分子栄養学の概念～生体物質と細胞～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	分子栄養学の概念について学ぶ。分子栄養学を学ぶにあたって必要な分子生物学の基礎知識を学ぶ。また、真核細胞には、核をはじめとして様々な細胞小器官がみられる。これらが互いに関連して働くことで、生命活動が営まれていることを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習をあわせて180分
第2回	**授業テーマ**	細胞膜を介した物質の移動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	細胞膜を介した物質の出入りの仕組みについて理解する。生体膜を介して物質が移動する場合、膜に配置された輸送タンパク質を通過するが、チャネル、担体、ポンプとしての輸送タンパク質の働きを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習をあわせて180分
第3回	**授業テーマ**	遺伝情報とその発現（DNAの構造と複製）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	遺伝子の本体はDNAであり、母細胞のDNAが正確に複製され、娘細胞に伝えられる。DNAの構造を学び、DNAの半保存的な複製のしくみについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習をあわせて180分
	授業テーマ	遺伝情報とその発現（たんぱく質の合成）
	学習内	

第4回	容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	DNAは、塩基配列という形で遺伝情報を保持している。この塩基配列によって、生命活動で中心的な役割を担うタンパク質のアミノ酸配列が決められ、形質が発現する。遺伝子が発現してタンパク質が合成される過程（転写、翻訳）を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習をあわせて180分
第5回	授業テーマ	遺伝子の発現調節
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	多細胞生物は、同じ遺伝情報を持つ多数の細胞からなるが、それぞれの細胞には形や機能に違いがある。このような違いは、細胞によって発現している遺伝子が異なることによって生じる。真核生物における転写調節因子の役割などについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習をあわせて180分
第6回	授業テーマ	遺伝子と疾患
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	単一遺伝子疾患は遺伝要因のみで発症する疾患であるが、生活習慣病などの多くの疾患は遺伝要因と環境要因がそれぞれある割合で関与している。代表的な遺伝子疾患について学び、さらに近年急速に明らかになりつつある多因子疾患と遺伝子の係りについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習をあわせて180分
第7回	授業テーマ	バイオテクノロジーの技術（遺伝子組換え食品，ゲノム編集食品）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	世界的な人口増加による食糧問題に対する解決法として，遺伝子組換え技術やゲノム編集技術が期待されている。バイオテクノロジーの技術を利用した健康の維持・増進が期待される食品も開発されている。これらの技術の詳細を学び，正しい知識を得る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。

	教室外学習の時間（分）	予習・復習をあわせて180分
第8回	**授業テーマ**	情報伝達の機構（細胞間情報伝達、細胞内シグナル伝達と内分泌系・神経系による調節）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	細胞同士は様々な形で情報をやりとりしている。大きくわけると、隣り合った細胞がお互いに接着してその部分で情報交換する場合と、ある細胞が何らかの物質を分泌してそれを他の細胞が受け取る場合がある。さらに、情報を細胞膜で受け取ったときに、細胞内にある別の情報伝達を介して細胞内に伝えられる仕組みもある。このような細胞間情報伝達や細胞内シグナル伝達を学ぶ。また、信号分子が特定の細胞から血液中に分泌されて運搬され、離れた場所で作用するホルモンのその働きを理解する。信号分子を分泌する細胞と情報を受け取る細胞が近接している場合の例として、シナプスにおける情報伝達についても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習をあわせて180分
第9回	**授業テーマ**	個体の恒常性（ホメオスタシス）とその調節機構
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	睡眠と覚醒、ホルモンの分泌、体温の変化などは昼夜の光刺激によって調整されている。このような概日リズム（サーカディアンリズム）をコントロールしているのが「時計遺伝子」と呼ばれる遺伝子群である。体内時計の刻みを促進または抑制する因子について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習をあわせて180分
第10回	**授業テーマ**	酵素とその働き
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	細胞内の化学反応は生体触媒である酵素のはたらきで行われる。酵素の種類（酸化還元酵素、転移酵素、加水分解酵素、脱離酵素、異性化酵素、合成酵素）や性質（基質特異性、最適温度、最適pHなど）を学ぶ。また、酵素とともに働く補酵素の役割や酵素反応の調節の機序を理解する。さらに、酵素の阻害形式（競争的阻害、非競争的阻害など）の酵素反応論的な知識を得る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習をあわせて180分
	授業テーマ	糖質の代謝(1)

第11回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事から体内に取り込まれたグルコースは、グルコース6-リン酸となり、グルコース6-リン酸から分岐していく。このようなグルコースの代謝系は、それぞれの組織特異性による役割を果たしている。今回は、グルコース代謝系（解糖系，クエン酸回路，電子伝達系と酸化的リン酸化，熱産生）を理解し，グルコースの利用における組織の役割の違いを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習をあわせて180分
第12回	授業テーマ	糖質の代謝(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回はグルコース代謝に関わる組織特異的な発現について学んだ。今回は、満腹時（食後）と空腹時（食間期）における糖質の代謝について，糖新生経路，グリコーゲンの合成・分解経路，ペントースリン酸経路，ウロン酸経路を取り上げ，それぞれの糖質代謝の全体像を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習をあわせて180分
第13回	授業テーマ	脂質の代謝
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生化学の学習内容とリンクさせながら，脂肪酸の合成，伸長，不飽和化の経路とβ酸化，ケトン体の合成・利用経路を学ぶ。食後（満腹時）と食間期（空腹時）におけるトリグリセリドの合成・分解経路を理解するとともに，脂質の輸送経路に関する知識についても修得する。また，コレステロールの合成経路とコレステロールの利用についても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習をあわせて180分
第14回	授業テーマ	たんぱく質・アミノ酸の代謝，ヌクレオチドの代謝
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食後（満腹時）と食間期（空腹時）におけるたんぱく質の合成と分解，アミノ酸の分解経路（アミノ基転移反応と尿素回路，炭素骨格の代謝）とアミノ酸の利用を学ぶ。また，エネルギー産生栄養素としての糖質，脂質，アミノ酸代謝の相互連関を理解する。アミノ酸由来の生理活性アミンの種類などの構造についても説明する。 ヌクレオチドのデノボ合成とサルベージ合成の機序を学び，ヌクレオチドの分解・排泄経路とあわせて，巧みな調節機構を理解する。また，これらの機構の異常に伴う疾患についての知識を修得する。
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習をあわせて310分

評価方法

定期試験（筆記試験）で評価を行う。60%以上の得点で合格とする。筆記試験の形式については授業内で説明する。なお成績評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては授業内で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
確認テスト	○			

評価割合

定期試験（100%）

使用教科書名(ISBN番号)

授業回毎にプリントをクラスルームにて配信する。各自印刷をし、授業時に必ず準備すること。
紙媒体ではなく、タブレットを用いた受講も可とする。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物、そして地域との相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を身につけている。
【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。

オフィスアワー

水曜日3限 1206

学生へのメッセージ

生活習慣病は、遺伝的素因と環境的要因によって発症する。個々の遺伝子の特徴によって最適な栄養管理を目指すことを「オーダーメイド栄養」と呼ばれる。生活習慣病に係る遺伝子の知識を修得することは、管理栄養士として基本的事項であるので，苦手意識を持たずに学習してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02021032
講義名	分子栄養学（HB）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	鈴木 孝子	指定なし

ナンバリング

H22207C21

授業概要(教育目的)

栄養素の代謝は、生体が持つ巧みな分子機構により調節されている。この調節には、ホルモン、酵素タンパク質、ビタミン、微量金属などが重要な役割を担っている。本講義では、人間の健康あるいは疾病に関連する生体の代謝調節機序について分かりやすく概説し、栄養学を細胞生物学あるいは遺伝子生物学と関連させながら、分子レベルの視点から捉えていく。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．細胞膜を介した物質の移動を説明できる。 ２．酵素とその機能を説明できる。 ３．DNAの構造とDNAの複製のしくみを説明できる。 ４．遺伝子の発現とその制御機構を説明できる。 ５．生活習慣病と遺伝子多型（遺伝因子）の関連を説明できる。 ６．細胞間情報伝達物質とそれらによる調節を説明できる。 ７．個体の恒常性（ホメオスタシス）とその調節機構を説明できる。 ８．糖質代謝，脂質代謝，アミノ酸代謝の相互連関を説明できる。 ９．ヌクレオチドの合成，分解，再利用を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	１．遺伝子発現に及ぼす栄養素、非栄養素、栄養状態の影響を類別できる。 ２．満腹時（食後），空腹時（食間期）の栄養素の代謝変化を類別できる。
関心・意欲・態度の観点	

(V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	分子栄養学の概念～生体物質と細胞～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	分子栄養学の概念について学ぶ。分子栄養学を学ぶにあたって必要な分子生物学の基礎知識を学ぶ。また、真核細胞には、核をはじめとして様々な細胞小器官がみられる。これらが互いに関連して働くことで、生命活動が営まれていることを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習をあわせて180分
第2回	**授業テーマ**	細胞膜を介した物質の移動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	細胞膜を介した物質の出入りの仕組みについて理解する。生体膜を介して物質が移動する場合、膜に配置された輸送タンパク質を通過するが、チャネル、担体、ポンプとしての輸送タンパク質の働きを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習をあわせて180分
第3回	**授業テーマ**	遺伝情報とその発現（DNAの構造と複製）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	遺伝子の本体はDNAであり、母細胞のDNAが正確に複製され、娘細胞に伝えられる。DNAの構造を学び、DNAの半保存的な複製のしくみについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習をあわせて180分
	授業テーマ	遺伝情報とその発現（たんぱく質の合成）
	学習内	

第4回	容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	DNAは、塩基配列という形で遺伝情報を保持している。この塩基配列によって、生命活動で中心的な役割を担うタンパク質のアミノ酸配列が決められ、形質が発現する。遺伝子が発現してタンパク質が合成される過程（転写、翻訳）を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習をあわせて180分
第5回	授業テーマ	遺伝子の発現調節
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	多細胞生物は、同じ遺伝情報を持つ多数の細胞からなるが、それぞれの細胞には形や機能に違いがある。このような違いは、細胞によって発現している遺伝子が異なることによって生じる。真核生物における転写調節因子の役割などについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習をあわせて180分
第6回	授業テーマ	遺伝子と疾患
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	単一遺伝子疾患は遺伝要因のみで発症する疾患であるが、生活習慣病などの多くの疾患は遺伝要因と環境要因がそれぞれある割合で関与している。代表的な遺伝子疾患について学び、さらに近年急速に明らかになりつつある多因子疾患と遺伝子の係りについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習をあわせて180分
第7回	授業テーマ	バイオテクノロジーの技術（遺伝子組換え食品，ゲノム編集食品）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	世界的な人口増加による食糧問題に対する解決法として，遺伝子組換え技術やゲノム編集技術が期待されている。バイオテクノロジーの技術を利用した健康の維持・増進が期待される食品も開発されている。これらの技術の詳細を学び，正しい知識を得る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。

	教室外学習の時間（分）	予習・復習をあわせて180分
第8回	**授業テーマ**	情報伝達の機構（細胞間情報伝達、細胞内シグナル伝達と内分泌系・神経系による調節）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	細胞同士は様々な形で情報をやりとりしている。大きくわけると、隣り合った細胞がお互いに接着してその部分で情報交換する場合と、ある細胞が何らかの物質を分泌してそれを他の細胞が受け取る場合がある。さらに、情報を細胞膜で受け取ったときに、細胞内にある別の情報伝達を介して細胞内に伝えられる仕組みもある。このような細胞間情報伝達や細胞内シグナル伝達を学ぶ。また、信号分子が特定の細胞から血液中に分泌されて運搬され、離れた場所で作用するホルモンのその働きを理解する。信号分子を分泌する細胞と情報を受け取る細胞が近接している場合の例として、シナプスにおける情報伝達についても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習をあわせて180分
第9回	**授業テーマ**	個体の恒常性（ホメオスタシス）とその調節機構
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	睡眠と覚醒、ホルモンの分泌、体温の変化などは昼夜の光刺激によって調整されている。このような概日リズム（サーカディアンリズム）をコントロールしているのが「時計遺伝子」と呼ばれる遺伝子群である。体内時計の刻みを促進または抑制する因子について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習をあわせて180分
第10回	**授業テーマ**	酵素とその働き
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	細胞内の化学反応は生体触媒である酵素のはたらきで行われる。酵素の種類（酸化還元酵素、転移酵素、加水分解酵素、脱離酵素、異性化酵素、合成酵素）や性質（基質特異性、最適温度、最適pHなど）を学ぶ。また、酵素とともに働く補酵素の役割や酵素反応の調節の機序を理解する。さらに、酵素の阻害形式（競争的阻害、非競争的阻害など）の酵素反応論的な知識を得る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習をあわせて180分
	授業テーマ	糖質の代謝(1)

第11回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事から体内に取り込まれたグルコースは、グルコース6-リン酸となり、グルコース6-リン酸から分岐していく。このようなグルコースの代謝系は、それぞれの組織特異性による役割を果たしている。今回は、グルコース代謝系（解糖系，クエン酸回路，電子伝達系と酸化的リン酸化，熱産生）を理解し，グルコースの利用における組織の役割の違いを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習をあわせて180分
第12回	授業テーマ	糖質の代謝(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回はグルコース代謝に関わる組織特異的な発現について学んだ。今回は、満腹時（食後）と空腹時（食間期）における糖質の代謝について，糖新生経路，グリコーゲンの合成・分解経路，ペントースリン酸経路，ウロン酸経路を取り上げ，それぞれの糖質代謝の全体像を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習をあわせて180分
第13回	授業テーマ	脂質の代謝
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生化学の学習内容とリンクさせながら，脂肪酸の合成，伸長，不飽和化の経路とβ酸化，ケトン体の合成・利用経路を学ぶ。食後（満腹時）と食間期（空腹時）におけるトリグリセリドの合成・分解経路を理解するとともに，脂質の輸送経路に関する知識についても修得する。また，コレステロールの合成経路とコレステロールの利用についても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習をあわせて180分
第14回	授業テーマ	たんぱく質・アミノ酸の代謝，ヌクレオチドの代謝
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食後（満腹時）と食間期（空腹時）におけるたんぱく質の合成と分解，アミノ酸の分解経路（アミノ基転移反応と尿素回路，炭素骨格の代謝）とアミノ酸の利用を学ぶ。また，エネルギー産生栄養素としての糖質，脂質，アミノ酸代謝の相互連関を理解する。アミノ酸由来の生理活性アミンの種類などの構造についても説明する。 ヌクレオチドのデノボ合成とサルベージ合成の機序を学び，ヌクレオチドの分解・排泄経路とあわせて，巧みな調節機構を理解する。また，これらの機構の異常に伴う疾患についての知識を修得する。
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習をあわせて310分

評価方法

定期試験（筆記試験）で評価を行う。60%以上の得点で合格とする。筆記試験の形式については授業内で説明する。なお成績評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては授業内で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
確認テスト	○			

評価割合

定期試験（100%）

使用教科書名(ISBN番号)

授業回毎にプリントをクラスルームにて配信する。各自印刷をし、授業時に必ず準備すること。
紙媒体ではなく、タブレットを用いた受講も可とする。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物、そして地域との相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を身につけている。
【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。

オフィスアワー

水曜日3限 1206

学生へのメッセージ

生活習慣病は、遺伝的素因と環境的要因によって発症する。個々の遺伝子の特徴によって最適な栄養管理を目指すことを「オーダーメイド栄養」と呼ばれる。生活習慣病に係る遺伝子の知識を修得することは、管理栄養士として基本的事項であるので，苦手意識を持たずに学習してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02021033
講義名	分子栄養学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

H22207C21

授業概要(教育目的)

栄養素の代謝は、生体が持つ巧みな分子機構により調節されている。この調節には、ホルモン、酵素タンパク質、ビタミン、微量金属などが重要な役割を担っている。本講義では、人間の健康あるいは疾病に関連する生体の代謝調節機序について分かりやすく概説し、栄養学を細胞生物学あるいは遺伝子生物学と関連させながら、分子レベルの視点から捉えていく。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．細胞膜を介した物質の移動を説明できる。 2．酵素とその機能を説明できる。 3．DNAの構造とDNAの複製のしくみを説明できる。 4．遺伝子の発現とその制御機構を説明できる。 5．生活習慣病と遺伝子多型（遺伝因子）の関連を説明できる。 6．細胞間情報伝達物質とそれらによる調節を説明できる。 7．個体の恒常性（ホメオスタシス）とその調節機構を説明できる。 8．糖質代謝，脂質代謝，アミノ酸代謝の相互連関を説明できる。 9．ヌクレオチドの合成，分解，再利用を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1．遺伝子発現に及ぼす栄養素、非栄養素、栄養状態の影響を類別できる。 2．満腹時（食後），空腹時（食間期）の栄養素の代謝変化を類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テー	分子栄養学の概念～生体物質と細胞～

	マ	
第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	分子栄養学の概念について学ぶ。分子栄養学を学ぶにあたって必要な分子生物学の基礎知識を学ぶ。また、真核細胞には、核をはじめとして様々な細胞小器官がみられる。これらが互いに関連して働くことで、生命活動が営まれていることを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習をあわせて180分
第2回	授業テーマ	細胞膜を介した物質の移動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	細胞膜を介した物質の出入りの仕組みについて理解する。生体膜を介して物質が移動する場合、膜に配置された輸送タンパク質を通過するが、チャネル、担体、ポンプとしての輸送タンパク質の働きを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習をあわせて180分
第3回	授業テーマ	遺伝情報とその発現（DNAの構造と複製）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	遺伝子の本体はDNAであり、母細胞のDNAが正確に複製され、娘細胞に伝えられる。DNAの構造を学び、DNAの半保存的な複製のしくみについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習をあわせて180分
第4回	授業テーマ	遺伝情報とその発現（たんぱく質の合成）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	DNAは、塩基配列という形で遺伝情報を保持している。この塩基配列によって、生命活動で中心的な役割を担うタンパク質のアミノ酸配列が決められ、形質が発現する。遺伝子が発現してタンパク質が合成される過程（転写、翻訳）を理解する。
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習をあわせて180分
第5回	**授業テーマ**	遺伝子の発現調節
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	多細胞生物は、同じ遺伝情報を持つ多数の細胞からなるが、それぞれの細胞には形や機能に違いがある。このような違いは、細胞によって発現している遺伝子が異なることによって生じる。真核生物における転写調節因子の役割などについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習をあわせて180分
第6回	**授業テーマ**	遺伝子と疾患
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	単一遺伝子疾患は遺伝要因のみで発症する疾患であるが、生活習慣病などの多くの疾患は遺伝要因と環境要因がそれぞれある割合で関与している。代表的な遺伝子疾患について学び、さらに近年急速に明らかになりつつある多因子疾患と遺伝子の係りについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習をあわせて180分
第7回	**授業テーマ**	バイオテクノロジーの技術（遺伝子組換え食品，ゲノム編集食品）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	世界的な人口増加による食糧問題に対する解決法として，遺伝子組換え技術やゲノム編集技術が期待されている。バイオテクノロジーの技術を利用した健康の維持・増進が期待される食品も開発されている。これらの技術の詳細を学び，正しい知識を得る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習をあわせて180分
	授業テーマ	情報伝達の機構（細胞間情報伝達、細胞内シグナル伝達と内分泌系・神経系による調節）

第8回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	細胞同士は様々な形で情報をやりとりしている。大きくわけると、隣り合った細胞がお互いに接着してその部分で情報交換する場合と、ある細胞が何らかの物質を分泌してそれを他の細胞が受け取る場合がある。さらに、情報を細胞膜で受け取ったときに、細胞内にある別の情報伝達を介して細胞内に伝えられる仕組みもある。このような細胞間情報伝達や細胞内シグナル伝達を学ぶ。また、信号分子が特定の細胞から血液中に分泌されて運搬され、離れた場所で作用するホルモンのその働きを理解する。信号分子を分泌する細胞と情報を受け取る細胞が近接している場合の例として、シナプスにおける情報伝達についても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習をあわせて180分
第9回	**授業テーマ**	個体の恒常性（ホメオスタシス）とその調節機構
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	睡眠と覚醒、ホルモンの分泌、体温の変化などは昼夜の光刺激によって調整されている。このような概日リズム（サーカディアンリズム）をコントロールしているのが「時計遺伝子」と呼ばれる遺伝子群である。体内時計の刻みを促進または抑制する因子について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習をあわせて180分
第10回	**授業テーマ**	酵素とその働き
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	細胞内の化学反応は生体触媒である酵素のはたらきで行われる。酵素の種類（酸化還元酵素、転移酵素、加水分解酵素、脱離酵素、異性化酵素、合成酵素）や性質（基質特異性、最適温度、最適pHなど）を学ぶ。また、酵素とともに働く補酵素の役割や酵素反応の調節の機序を理解する。さらに、酵素の阻害形式（競争的阻害、非競争的阻害など）の酵素反応論的な知識を得る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習をあわせて180分
第11回	**授業テーマ**	糖質の代謝(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事から体内に取り込まれたグルコースは、グルコース6-リン酸となり、グルコース6-リン酸から分岐していく。このようなグルコースの代謝系は、それぞれの組織特異性による役割を果たしている。今回は、グルコース代謝系（解糖系，クエン酸回路，電子伝達系と酸化的リン酸化，熱産生）を理解し，グルコースの利用における組織の役割の違いを学ぶ。

	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習をあわせて180分
第12回	**授業テーマ**	糖質の代謝(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回はグルコース代謝に関わる組織特異的な発現について学んだ。今回は、満腹時（食後）と空腹時（食間期）における糖質の代謝について，糖新生経路，グリコーゲンの合成・分解経路，ペントースリン酸経路，ウロン酸経路を取り上げ，それぞれの糖質代謝の全体像を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習をあわせて180分
第13回	**授業テーマ**	脂質の代謝
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生化学の学習内容とリンクさせながら，脂肪酸の合成，伸長，不飽和化の経路とβ酸化，ケトン体の合成・利用経路を学ぶ。食後（満腹時）と食間期（空腹時）におけるトリグリセリドの合成・分解経路を理解するとともに，脂質の輸送経路に関する知識についても修得する。また，コレステロールの合成経路とコレステロールの利用についても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習をあわせて180分
第14回	**授業テーマ**	たんぱく質・アミノ酸の代謝，ヌクレオチドの代謝
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食後（満腹時）と食間期（空腹時）におけるたんぱく質の合成と分解，アミノ酸の分解経路（アミノ基転移反応と尿素回路，炭素骨格の代謝）とアミノ酸の利用を学ぶ。また，エネルギー産生栄養素としての糖質，脂質，アミノ酸代謝の相互連関を理解する。アミノ酸由来の生理活性アミンの種類などの構造についても説明する。 ヌクレオチドのデノボ合成とサルベージ合成の機序を学び，ヌクレオチドの分解・排泄経路とあわせて，巧みな調節機構を理解する。また，これらの機構の異常に伴う疾患についての知識を修得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習をあわせて310分

第15回	授業テーマ	定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第1回～14回までの授業内容について定期試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布されるプリント等を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	

評価方法

定期試験（筆記試験）で評価を行う。60%以上の得点で合格とする。筆記試験の形式については授業内で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
確認テスト	○			

評価割合

定期試験（100%）

使用教科書名(ISBN番号)

授業回毎にプリントをクラスルームにて配信する。各自印刷をし、授業時に必ず準備すること。
紙媒体ではなく、タブレットを用いた受講も可とする。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物、そして地域との相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を身につけている。
【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。

オフィスアワー

水曜日3限 1206

学生へのメッセージ

生活習慣病は、遺伝的素因と環境的要因によって発症する。個々の遺伝子の特徴によって最適な栄養管理を目指すことを「オーダーメイド栄養」と呼ばれる。生活習慣病に係る遺伝子の知識を修得することは、管理栄養士として基本的事項であるので，苦手意識を持たずに学習してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02022031
講義名	生化学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	坂野 史明	指定なし

ナンバリング

H12208C21

授業概要(教育目的)

生化学は生体を構成する分子が行う相互作用や化学反応の理解を通して、生命現象の仕組みの解明を目指す学問であり、栄養学を学ぶための基礎として、極めて重要となる。本講義では、特にエネルギー産生栄養素（糖質、脂質、たんぱく質）の代謝経路を中心とした栄養生化学に焦点を当てて解説する。まず導入として、細胞の構造、生体反応のエネルギーについて学んだ後、糖質、脂質、アミノ酸・たんぱく質、核酸の代表的な代謝経路とその調節機構について学習する。基礎栄養学と扱う項目が重なるが、生化学では主に細胞レベルでの代謝の詳細について学習し、基礎栄養学では主に身体レベルでの代謝変動について学習する。このため、両科目を関連づけながら学習することで、より効果的に理解を深めることができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１）生体エネルギー（特にATP）と酵素について理解し、説明できる ２）糖代謝経路とその調節機構について理解し、説明できる ３）脂質代謝経路とその調節機構について理解し、説明できる ４）アミノ酸およびたんぱく質代謝経路とその調節機構について理解し、説明できる
思考・判断の観点 (K)	１）核酸代謝経路とその調節機構について説明できる ２）生体成分の主要代謝とその相互連関について説明できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	授業テーマ	細胞の構造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	細胞の基本構造、生体膜、核、細胞内小器官、細胞骨格、細胞接着について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノートおよび配付プリントをよく読んで、繰り返し復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第2回	授業テーマ	生体エネルギー学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	独立栄養と従属栄養、異化と同化、自由エネルギーとその変化、ATPと高エネルギーリン酸化合物、電子伝達系とATP合成酵素、脱共役たんぱく質、活性酸素と抗酸化について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノートおよび配付プリントをよく読んで、繰り返し復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第3回	授業テーマ	酵素①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	酵素の分類、酵素の性質、酵素反応速度論について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノートおよび配付プリントをよく読んで、繰り返し復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第4回	授業テーマ	酵素②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	酵素反応の阻害、酵素反応の調節、アイソザイムについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノートおよび配付プリントをよく読んで、繰り返し復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第5回	授業テーマ	糖質の代謝①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	単糖類の構造と化学的性質、オリゴ糖類の構造と化学的性質、多糖類の構造と化学的性質について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノートおよび配付プリントをよく読んで、繰り返し復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第6回	授業テーマ	糖質の代謝②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖質の分解経路（解糖系、クエン酸回路、ペントースリン酸経路、グルクロン酸経路）とその調節機構について学ぶ。
	教室外学習(予習・	ノートおよび配付プリントをよく読んで、繰り返し復習するこ

	復習)の内容	と。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	糖質の代謝③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖質の合成経路（糖新生、コリ回路とグルコース-アラニン回路、グリコーゲンの合成と分解）とその調節機構について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノートおよび配付プリントをよく読んで、繰り返し復習すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	脂質の代謝①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質の定義と分類、脂肪酸の貯蔵と動員、リポたんぱく質代謝について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノートおよび配付プリントをよく読んで、繰り返し復習すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	脂質の代謝②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂肪酸のβ酸化、ケトン体の合成と利用、脂肪酸の合成経路について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノートおよび配付プリントをよく読んで、繰り返し復習すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	脂質の代謝③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エイコサノイドの合成経路、トリアシルグリセロール・リン脂質の合成と分解、コレステロールの合成と利用について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノートおよび配付プリントをよく読んで、繰り返し復習すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	アミノ酸/たんぱく質の代謝①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アミノ酸の構造と化学的性質、たんぱく質の構造と化学的性質について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノートおよび配付プリントをよく読んで、繰り返し復習すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	アミノ酸/たんぱく質の代謝②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	アミノ酸の分解と利用、アミノ酸から合成される生理活性物質

第12回	育・ICT活用を含む)	について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノートおよび配付プリントをよく読んで、繰り返し復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第13回	授業テーマ	核酸の代謝
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	核酸の基本構造、ヌクレオシドとヌクレオチド、ヌクレオチドの生合成と分解について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノートおよび配付プリントをよく読んで、繰り返し復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第14回	授業テーマ	代謝の相互関係と調節
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖質代謝と脂質代謝の相互作用、糖質代謝とアミノ酸代謝の相互作用、脂質代謝とアミノ酸代謝の相互作用、食事のサイクルと代謝調節について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノートおよび配付プリントをよく読んで、繰り返し復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分

学習計画注記

講義の進行状況により、学習計画を一部変更・修正する場合がある。

学生へのフィードバック方法

質問等はメールまたはオフィスアワーに受け付ける。

評価方法

講義への参加態度、定期試験の成績から総合的に評価する。
評価はルーブリックに基づいて行い、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内での配付等により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
講義への参加態度	○	○		
定期試験	○	○		

評価割合

講義への参加態度（10%）、定期試験（90%）

参考図書

栄養科学イラストレイテッド生化学（第３版）羊土社 ISBN 9784758113540

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物の相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を身につけている。

【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的・批判的に思考することができる。

オフィスアワー

木曜日3時限目

学生へのメッセージ

高校生物の教科書、テキスト、参考書の該当箇所を予習しておくこと。
基礎栄養学で学ぶ内容と関連が大きいので、こちらと並行して復習すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国立研究機関において生化学・分子生物学研究に関する実務経験があり、栄養学を修める上で必要な生化学的知識について実践的に教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02023031
講義名	生化学実験（HA）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	坂野 史明	指定なし

ナンバリング

H22209C13

授業概要(教育目的)

生体分子の化学的特性やこれらが関わる生体内反応を理解するための基礎生化学的実験を行う。 実験をきちんと進めるためには、正確な実験操作と細かな観察や記録が不可欠となる。また、それぞれの実験がどのような原理に基づいているのかや、得られた実験データからどのような結論が導けるのか等を、よく考えて理解する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	生体分子の化学的性質を理解し、その基本的な分析手法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	実験で得られた結果について、論理的に考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実験に主体的に取り組む意欲をもつ。
技術・表現の観点 (A)	実験の基本操作、実験方法に習熟する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実験の概要と注意点、実験ノートやレポート作成の方法について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分

第2回	授業テーマ	基礎実験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的な実験器具類および実験装置の使用目的と使用法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	糖質実験（糖質の代謝I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖代謝過程の観察から、解糖系について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	糖質実験（糖質の代謝II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖代謝の最終産物を検出し、TCA回路について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	脂質実験（脂質の抽出と定量I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生体試料（肝臓）からの脂質抽出法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	脂質実験（脂質の抽出と定量II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肝臓中脂質の定量法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	核酸実験（核酸の抽出と定量I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生体試料（肝臓）からの核酸（DNA）抽出法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	核酸実験（核酸の抽出と定量II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃ	核酸（DNA、RNA）の紫外線吸収能について理解

第8回	ﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	し、この性質を利用した定量法を身につける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	酵素実験（酵素反応速度論I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	酵素（酸性ホスファターゼ）反応の経時変化とその特徴について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	酵素実験（酵素反応速度論II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ミカエリス・メンテンの式を理解し、KmおよびVmaxの決定法を身につける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	たんぱく質実験（尿成分の定量I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	尿中のたんぱく質定量法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	たんぱく質実験（尿成分の定量II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	尿中へのクレアチニン排泄量を測定し、たんぱく質代謝動態との関係性について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	ビタミン実験（ビタミンCの抽出と定量I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品試料（野菜・果物）からのビタミンC抽出法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	ビタミン実験（ビタミンCの抽出と定量II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ビタミンCの定量法について理解する。
		予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目

	教室外学習(予習・復習)の内容	的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

実験の進行状況により、学習計画を一部変更・修正する可能性がある。

学生へのフィードバック方法

提出されたレポートの内容から、説明が必要な点についてフィードバックする。

評価方法

実験への取り組み方、実験レポートの内容から総合的に評価する。
評価はルーブリックに基づいて行い、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内での配付等により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実験への取り組み方	○	○	○	○
実験レポート	○	○		

評価割合

実験への取り組み方（30%）、実験レポート（70%）

使用教科書名(ISBN番号)

プリントを配付

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物の相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を身につけている。
【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的・批判的に思考することができる。
【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけている。
【技能・表現】健康の保持増進に関する専門的技能を身につけている。

オフィスアワー

木曜日3時限目

学生へのメッセージ

高校で学習した化学、生物に関する基礎知識も必要となるため、予習しておくこと。
実験を通して生化学の基本的知識と研究手法を身につけ、管理栄養士としての基礎力を磨いて欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国立研究機関において生化学・分子生物学研究に関する実務経験があり、生化学の基礎実験について実践的に教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

ICT活用		

講義コード	H02023032
講義名	生化学実験（HB）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	坂野 史明	指定なし

ナンバリング

H22209C13

授業概要(教育目的)

生体分子の化学的特性やこれらが関わる生体内反応を理解するための基礎生化学的実験を行う。 実験をきちんと進めるためには、正確な実験操作と細かな観察や記録が不可欠となる。また、それぞれの実験がどのような原理に基づいているのかや、得られた実験データからどのような結論が導けるのか等を、よく考えて理解する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	生体分子の化学的性質を理解し、その基本的な分析手法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	実験で得られた結果について、論理的に考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実験に主体的に取り組む意欲をもつ。
技術・表現の観点 (A)	実験の基本操作、実験方法に習熟する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実験の概要と注意点、実験ノートやレポート作成の方法について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分

第2回	授業テーマ	基礎実験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的な実験器具類および実験装置の使用目的と使用法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	糖質実験（糖質の代謝I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖代謝過程の観察から、解糖系について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	糖質実験（糖質の代謝II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖代謝の最終産物を検出し、TCA回路について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	脂質実験（脂質の抽出と定量I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生体試料（肝臓）からの脂質抽出法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	脂質実験（脂質の抽出と定量II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肝臓中脂質の定量法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	核酸実験（核酸の抽出と定量I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生体試料（肝臓）からの核酸（DNA）抽出法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	核酸実験（核酸の抽出と定量II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃ	核酸（DNA、RNA）の紫外線吸収能について理解

第8回	ﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	し、この性質を利用した定量法を身につける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	酵素実験（酵素反応速度論I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	酵素（酸性ホスファターゼ）反応の経時変化とその特徴について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	酵素実験（酵素反応速度論II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ミカエリス・メンテンの式を理解し、KmおよびVmaxの決定法を身につける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	たんぱく質実験（尿成分の定量I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	尿中のたんぱく質定量法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	たんぱく質実験（尿成分の定量II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	尿中へのクレアチニン排泄量を測定し、たんぱく質代謝動態との関係性について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	ビタミン実験（ビタミンCの抽出と定量I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品試料（野菜・果物）からのビタミンC抽出法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	ビタミン実験（ビタミンCの抽出と定量II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ビタミンCの定量法について理解する。
		予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目

	教室外学習(予習・復習)の内容	的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

実験の進行状況により、学習計画を一部変更・修正する可能性がある。

学生へのフィードバック方法

提出されたレポートの内容から、説明が必要な点についてフィードバックする。

評価方法

実験への取り組み方、実験レポートの内容から総合的に評価する。
評価はルーブリックに基づいて行い、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内での配付等により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実験への取り組み方	○	○	○	○
実験レポート	○	○		

評価割合

実験への取り組み方（30%）、実験レポート（70%）

使用教科書名(ISBN番号)

プリントを配付

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物の相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を身につけている。
【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的・批判的に思考することができる。
【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけている。
【技能・表現】健康の保持増進に関する専門的技能を身につけている。

オフィスアワー

木曜日3時限目

学生へのメッセージ

高校で学習した化学、生物に関する基礎知識も必要となるため、予習しておくこと。
実験を通して生化学の基本的知識と研究手法を身につけ、管理栄養士としての基礎力を磨いて欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国立研究機関において生化学・分子生物学研究に関する実務経験があり、生化学の基礎実験について実践的に教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

ICT活用		

講義コード	H02023033
講義名	生化学実験（HC）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	坂野 史明	指定なし

ナンバリング

H22209C13

授業概要(教育目的)

生体分子の化学的特性やこれらが関わる生体内反応を理解するための基礎生化学的実験を行う。 実験をきちんと進めるためには、正確な実験操作と細かな観察や記録が不可欠となる。また、それぞれの実験がどのような原理に基づいているのかや、得られた実験データからどのような結論が導けるのか等を、よく考えて理解する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	生体分子の化学的性質を理解し、その基本的な分析手法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	実験で得られた結果について、論理的に考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実験に主体的に取り組む意欲をもつ。
技術・表現の観点 (A)	実験の基本操作、実験方法に習熟する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実験の概要と注意点、実験ノートやレポート作成の方法について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分

第2回	授業テーマ	基礎実験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的な実験器具類および実験装置の使用目的と使用法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	糖質実験（糖質の代謝I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖代謝過程の観察から、解糖系について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	糖質実験（糖質の代謝II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖代謝の最終産物を検出し、TCA回路について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	脂質実験（脂質の抽出と定量I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生体試料（肝臓）からの脂質抽出法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	脂質実験（脂質の抽出と定量II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肝臓中脂質の定量法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	核酸実験（核酸の抽出と定量I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生体試料（肝臓）からの核酸（DNA）抽出法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	核酸実験（核酸の抽出と定量II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃ	核酸（DNA、RNA）の紫外線吸収能について理解

第8回	ﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	し、この性質を利用した定量法を身につける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	酵素実験（酵素反応速度論I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	酵素（酸性ホスファターゼ）反応の経時変化とその特徴について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	酵素実験（酵素反応速度論II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ミカエリス・メンテンの式を理解し、KmおよびVmaxの決定法を身につける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	たんぱく質実験（尿成分の定量I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	尿中のたんぱく質定量法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	たんぱく質実験（尿成分の定量II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	尿中へのクレアチニン排泄量を測定し、たんぱく質代謝動態との関係性について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	ビタミン実験（ビタミンCの抽出と定量I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品試料（野菜・果物）からのビタミンC抽出法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	ビタミン実験（ビタミンCの抽出と定量II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ビタミンCの定量法について理解する。
		予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目

	教室外学習(予習・復習)の内容	的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

実験の進行状況により、学習計画を一部変更・修正する可能性がある。

学生へのフィードバック方法

提出されたレポートの内容から、説明が必要な点についてフィードバックする。

評価方法

実験への取り組み方、実験レポートの内容から総合的に評価する。
評価はルーブリックに基づいて行い、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内での配付等により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実験への取り組み方	○	○	○	○
実験レポート	○	○		

評価割合

実験への取り組み方（30%）、実験レポート（70%）

使用教科書名(ISBN番号)

プリントを配付

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物の相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を身につけている。
【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的・批判的に思考することができる。
【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけている。
【技能・表現】健康の保持増進に関する専門的技能を身につけている。

オフィスアワー

木曜日3時限目

学生へのメッセージ

高校で学習した化学、生物に関する基礎知識も必要となるため、予習しておくこと。
実験を通して生化学の基本的知識と研究手法を身につけ、管理栄養士としての基礎力を磨いて欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国立研究機関において生化学・分子生物学研究に関する実務経験があり、生化学の基礎実験について実践的に教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

ICT活用		

講義コード	H02024031
講義名	基礎食品学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	奈良 一寛	指定なし

ナンバリング

H12301C21

授業概要(教育目的)

食品成分（水、炭水化物、タンパク質、脂質、ミネラル、ビタミン、嗜好成分など）の化学的性質について学ぶ。また、食品の生育・生産から、調理・加工を経て、人間に摂取されるまでの過程で、その食品の持つ栄養特性と物性がどのように変化するかを総合的に理解する。環境負荷等の観点から食料廃棄など社会生活との関わりについても学ぶ。さらに、食品成分が健康維持・増進に及ぼす影響と疾病予防に対する役割を理解し、食品表示に係る法制度についても概説する。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．食べ物の循環（食物連鎖・フードシステム）を説明できる ２．食品に含まれる各種成分の種類，構造，性質，所在を説明できる。 ３．食品成分間反応における，栄養面，嗜好面，安全面への影響を説明できる。 ４．食品の物性について説明できる。 ５．食品の表示に係る制度を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	１．食品成分の機能性や疾病予防に対する役割を列記することができ，適切に利用するための食品表示制度の仕組みを類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画		
第1回	授業テーマ	食文化と生活，食料と環境問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人と食べ物の関わりを歴史的変遷の観点から学ぶ。食料の需給システムと環境問題を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第1章の「食品の歴史的変遷」「食料と環境問題」を読み，内容を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第2回	授業テーマ	食品の主要成分（水分，炭水化物①）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品中の水の状態（結合水・自由水）と、食品の貯蔵性や物性との関連を理解する。食品中に含まれる単糖（グルコース，フルクトース，ガラクトースなど）の種類，構造，性質，所在を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章の「1．水（水分）」を読み，内容を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第3回	授業テーマ	食品の主要成分（炭水化物②）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品中の誘導糖，少糖（オリゴ糖），多糖（デンプン）の種類，構造，性質，所在を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章の「2．炭水化物」を読み，内容を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第4回	授業テーマ	食品の主要成分（炭水化物③，脂質①）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品中のデンプン以外の多糖の種類，構造，性質，所在を知る。食物繊維（水溶性・不溶性）の生理的機能を理解する。トリグリセリドを構成している脂肪酸の種類（分類），構造，性質，所在を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章の「2．炭水化物」を読み，内容を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第5回	授業テーマ	食品の主要成分（脂質②）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品中の脂質（リン脂質，コレステロール，植物ステロールなど）の種類，構造，性質，所在を知る。油脂の物理化学的指標としてのケン化価，ヨウ素価，過酸化物価等を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章の「3．脂質」を読み。内容を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第6回	授業テーマ	食品の主要成分（タンパク質）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品中のアミノ酸，ペプチド，たんぱく質の種類，構造，性質，所在を知る。たんぱく質の変性の栄養学的意義を理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章の「4．たんぱく質」を読み，内容を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第7回	**授業テーマ**	食品の主要成分（ビタミン①）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品中のビタミンの種類，構造，性質，所在を知る。食品の加工や貯蔵に係る含有量の変化を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章の「5．ビタミン」を読み，内容を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第8回	**授業テーマ**	食品の主要成分（ビタミン②，ミネラル）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品中のビタミン，無機質の種類，性質，所在，生理的機能を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章の「6．無機質」を読み，内容を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第9回	**授業テーマ**	食品の嗜好成分（呈味成分）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の呈味成分（基本味・補助味）の種類，構造，性質を知る。それぞれの呈味成分の組み合わさることに伴う味の相互特性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章の「味の成分」を読み，内容を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第10回	**授業テーマ**	食品の嗜好成分（香気成分） 食品の嗜好成分（色素成分）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の香気成分の種類，構造，性質を知る。また，二次的に生成する香気成分の生成機序を理解する。 食品の色素成分の種類，構造，性質，所在を知る。ポルフィリン系色素の色の変化を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章の「香りの成分」「色の成分」を読み，内容を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第11回	**授業テーマ**	食品成分の反応（化学的変化・酵素的変化），食品の物性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の化学的変化の一つとして，酵素的褐変（ポリフェノールオキシダーゼによる反応）と非酵素的褐変（アミノカルボニル反応，カラメル反応）の機序を理解する。 食品におけるコロイド分散系として，エマルションとサスペンション，ゾルとゲルの関係を理解する。液状食品の流動特徴を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第5章の「成分間の相互作用」（111～118ページ）を読み、内容を確認しておくこと。 教科書第6章の「食品の物性とおいしさ」（119～130ページ）を読み、内容を確認しておくこと。

	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第12回	**授業テーマ**	食品の表示（期限表示，栄養成分表示の概要）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品表示基準の概要と、食品選択における期限表示や栄養成分表示の重要性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第8章の「栄養成分表示」を読み，内容を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第13回	**授業テーマ**	食品の機能性と特定保健用食品・特別用途食品・栄養機能食品・機能性表示食品
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の三次機能を有する成分について，具体的な食品表示の例を用いて、保健機能食品制度の概要を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第8章の「食品の持つ三つの機能」「健康食品にかかわる制度」を読み，内容を確認しておくこと。 消費者庁のホームページより，特定保健用食品と機能性表示食品の具体例と食品表示基準の概要を調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第14回	**授業テーマ**	食品成分表の理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品成分表の利用における留意点を把握する。また，一般成分（水分，たんぱく質，脂質，炭水化物，灰分）の測定原理を学び，エネルギーの算出方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第9章の「食品成分表」を読み，内容を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて310分
第15回	**授業テーマ**	定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習目標の到達度を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書とノート等を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	

学生へのフィードバック方法

・確認テストの模範解答は，授業内で提示する。
・質問がある場合は，emailで連絡すること。

評価方法

・確認テストは，各授業の学習内容について選択式問題で出題する。
・定期試験は、毎回行う確認テストの振り返りや、管理栄養士国家試験の出題形式に基づく選択式の問題を含む。また、計算問題と記述問題によって応用的な思考力や判断力を確認する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
確認テスト	○			

評価割合

定期試験（90%），確認テスト（10%）

使用教科書名(ISBN番号)

食べ物と健康I食品成分を理解するための基礎（第2版）喜多野宣子・近藤民恵・水野裕士（化学同人）（ISBN 978-4-7598-1818-5）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物、そして地域の相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を有している。
【思考・判断】グローバルな観点から現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。

学生へのメッセージ

我々は食事を通して様々な化学成分を摂取している。それらを体内で利用して生命活動を営んでいる。どのような食品にどのような成分が含まれているのかを詳しく知ることは，管理栄養士として必要な知識であるので，主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において研究開発業務に従事してきた実務経験を有していることから、具体的事例を紹介しながら講義していく。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02025031
講義名	基礎食品学実験（HA）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	馬場 修	指定なし

ナンバリング

H22302C13

授業概要(教育目的)

基礎食品学で学んだ知識を確実なものとするために、実際の食品を検体とし、水分、脂質、タンパク質（アミノ酸）、無機質（食塩相当量、カルシウム）、ビタミン（L-アスコルビン酸）、嗜好成分（ポリフェノール、アミノカルボニル反応物）などの定性分析及び定量分析を行う。分析は滴定法、各種クロマトグラフィー、分光法、原子吸光法などで行う。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．食品成分表における栄養素等の測定法について説明できる。 ２．食品成分の性質と成分間反応について，基礎食品学で学んだ知識と関連づけて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	１．実験の目的に応じて、食品成分の定量法と定性法を類別できる。 ２．食品が持つ多様な機能性を類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	１．実験結果に対する考察について、実験協力者とのディスカッションに参加できる。
技術・表現の観点 (A)	１．仮説を立て、それを証明することで、論理的な思考を表現できる。 ２．食品素材や成分に精通して、合理的かつ自主的な食品の選択に使用できる。

学習計画

	授業テーマ	実験の基礎（薬品・器具の扱い方，結果の記録方法と報告など）
	学習内容(ｱｸ	

第1回	ﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実験を行うにあたっての注意事項を理解する。ガラス器具やpHメーター等の機器の使用法について理解する。また、実験データの取り扱い方、まとめ方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	授業テーマ	重量測定（水分，灰分）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大豆（国産・外国産）を粉砕して、常温加熱乾燥法による水分測定を行う。また、直接灰化法による灰分の測定を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	タンパク質の性質（等電点沈殿）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳由来のカゼインが等電点によって沈殿する現象を確認し、遠心分離によってカゼインを分離される。さらに、カゼインがリン含有たんぱく質であることの性質を、リンモリブデン比色法によって確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	無機質の定量（モール法による醤油の塩化物イオンの定量）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3種類の醤油（濃口醤油、薄口醤油、減塩醤油）中の塩化物イオンをモール法によって測定する。また、得られた結果から食塩相当量を求め、各醤油の特性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	糖の定性（薄層クロマトグラフィーによる糖類の検出）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	薄層クロマトグラフィー（TLC）による分離技術を学ぶ。複数の糖類をTLCを用いて分離し、分離した糖質を発色剤を用いて視覚的に観察する。
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	糖の定量（高速液体クロマトグラフィーによる清涼飲料水中の糖質の定量）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高速液体クロマトグラフィー（HPLC）による分離技術を学ぶ。清涼飲料水に含まれる糖類をHPLCを用いて分離し、清涼飲料水中の複数の糖類を定量する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	ポリフェノールの定量（緑茶飲料に含まれるポリフェノールの定量）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	分光光度計を用いた比色定量法を学ぶ。酒石酸鉄比色法による緑茶飲料中のポリフェノールを定量する。標準物質を用いた検量線の作成方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	食品成分間反応（アミノカルボニル反応）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖とアミノ酸によるアミノカルボニル反応を学ぶ。アミノカルボニル反応に及ぼすpHの影響やアミノ酸の種類の影響を視覚的、嗅覚的に観察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	タンパク質の定量（ケルダール法：試料の分解，アンモニア蒸留）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	たんぱく質に含まれる窒素の定量法であるケルダール法の原理を学ぶ。大豆（国産・外国産）を用いて、たんぱく質の硫酸分解を行う。硫酸分解によって得られたアンモニアを水蒸気蒸留によって回収する。得られた窒素量に、窒素たんぱく質換算係数を乗じることによって求めるタンパク質の定量法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間	45分

	（分）	
第10回	**授業テーマ**	脂質の定量（ソックスレー抽出法による総脂質の定量）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	有機溶媒を用いた脂質の抽出法を学ぶ。大豆（国産・外国産）の脂質をジエチルエーテルを用いて抽出し、抽出された脂質の質量を測定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	ビタミンの定量（食品中のL-アスコルビン酸の定量）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インドフェノール法によるL-アスコルビン酸の定量法を学ぶ。大根中のL-アスコルビン酸を定量する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	食品成分間反応（L-アスコルビン酸の酵素的変化）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キュウリに含まれるアスコルビン酸酸化酵素の特徴を学ぶ。大根中のL-アスコルビン酸がキュウリのアスコルビン酸酸化酵素によってどのように変化するかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	無機質の定量（原子吸光法によるカルシウムの定量）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	原子吸光光度計を用いたカルシウムの定量法を学ぶ。大豆（国産・外国産）に含まれるカルシウムを定量する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	脂質の性質（油脂のケン化価の比較）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	油脂の物理化学的性質の指標であるケン化価の測定法を学ぶ。長鎖脂肪

第14回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	酸からなる油脂と中鎖脂肪酸からなる脂肪酸でケン化価を比較する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，指定日に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

実験結果に対する考察のポイントを授業内で説明するので，各班でのディスカッションに活用すること。

学生へのフィードバック方法

実験結果や考察などについて質問がある場合には月曜日４限に講師室まで。

評価方法

・実験レポートは、配布されたテキストに基づき作成すること。
・実験レポートは、ルーブリックを用いた評価による。授業内で学生に提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○		○
平常点			○	

評価割合

レポート（60%）、平常点（40%）
（平常点は授業への参加状況・実験に対する積極性で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

プリント配布

参考図書

Nブックス実験シリーズ 食品学実験（青柳康夫・有田政信編）建帛社

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「人間の栄養」を多角的に理解する専門的知識を有している。
【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、健康・栄養課題に対する戦略的な取り組む力を身につけている。
【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思を身につけている。
【技術・表現】人々の生活の質の向上に寄与するべく、健康の保持増進のための専門的技能と共に、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

月曜4限目

学生へのメッセージ

実際に我々が毎日摂取している食品の具体的な成分を分析することは、「食」を扱う管理栄養士として必要な知識・技術となる。論理的な思考も身につけることができることから、常に疑問（課題）を明らかにするという意欲を持ち続けてほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02025032
講義名	基礎食品学実験（HB）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	馬場 修	指定なし

ナンバリング

H22302C13

授業概要(教育目的)

基礎食品学で学んだ知識を確実なものとするために、実際の食品を検体とし、水分、脂質、タンパク質（アミノ酸）、無機質（食塩相当量、カルシウム）、ビタミン（L-アスコルビン酸）、嗜好成分（ポリフェノール、アミノカルボニル反応物）などの定性分析及び定量分析を行う。分析は滴定法、各種クロマトグラフィー、分光法、原子吸光法などで行う。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．食品成分表における栄養素等の測定法について説明できる。 ２．食品成分の性質と成分間反応について，基礎食品学で学んだ知識と関連づけて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	１．実験の目的に応じて、食品成分の定量法と定性法を類別できる。 ２．食品が持つ多様な機能性を類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	１．実験結果に対する考察について、実験協力者とのディスカッションに参加できる。
技術・表現の観点 (A)	１．仮説を立て、それを証明することで、論理的な思考を表現できる。 ２．食品素材や成分に精通して、合理的かつ自主的な食品の選択に使用できる。

学習計画

	授業テーマ	実験の基礎（薬品・器具の扱い方，結果の記録方法と報告など）
	学習内容(ｱｸ	

第1回	ﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実験を行うにあたっての注意事項を理解する。ガラス器具やpHメーター等の機器の使用法について理解する。また、実験データの取り扱い方、まとめ方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	授業テーマ	重量測定（水分，灰分）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大豆（国産・外国産）を粉砕して、常温加熱乾燥法による水分測定を行う。また、直接灰化法による灰分の測定を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	タンパク質の性質（等電点沈殿）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳由来のカゼインが等電点によって沈殿する現象を確認し、遠心分離によってカゼインを分離される。さらに、カゼインがリン含有たんぱく質であることの性質を、リンモリブデン比色法によって確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	無機質の定量（モール法による醤油の塩化物イオンの定量）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3種類の醤油（濃口醤油、薄口醤油、減塩醤油）中の塩化物イオンをモール法によって測定する。また、得られた結果から食塩相当量を求め、各醤油の特性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	糖の定性（薄層クロマトグラフィーによる糖類の検出）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	薄層クロマトグラフィー（TLC）による分離技術を学ぶ。複数の糖類をTLCを用いて分離し、分離した糖質を発色剤を用いて視覚的に観察する。
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	糖の定量（高速液体クロマトグラフィーによる清涼飲料水中の糖質の定量）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高速液体クロマトグラフィー（HPLC）による分離技術を学ぶ。清涼飲料水に含まれる糖類をHPLCを用いて分離し、清涼飲料水中の複数の糖類を定量する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	ポリフェノールの定量（緑茶飲料に含まれるポリフェノールの定量）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	分光光度計を用いた比色定量法を学ぶ。酒石酸鉄比色法による緑茶飲料中のポリフェノールを定量する。標準物質を用いた検量線の作成方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	食品成分間反応（アミノカルボニル反応）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖とアミノ酸によるアミノカルボニル反応を学ぶ。アミノカルボニル反応に及ぼすpHの影響やアミノ酸の種類の影響を視覚的、嗅覚的に観察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	タンパク質の定量（ケルダール法：試料の分解，アンモニア蒸留）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	たんぱく質に含まれる窒素の定量法であるケルダール法の原理を学ぶ。大豆（国産・外国産）を用いて、たんぱく質の硫酸分解を行う。硫酸分解によって得られたアンモニアを水蒸気蒸留によって回収する。得られた窒素量に、窒素たんぱく質換算係数を乗じることによって求めるタンパク質の定量法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間	45分

	（分）	
第10回	**授業テーマ**	脂質の定量（ソックスレー抽出法による総脂質の定量）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	有機溶媒を用いた脂質の抽出法を学ぶ。大豆（国産・外国産）の脂質をジエチルエーテルを用いて抽出し、抽出された脂質の質量を測定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	ビタミンの定量（食品中のL-アスコルビン酸の定量）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インドフェノール法によるL-アスコルビン酸の定量法を学ぶ。大根中のL-アスコルビン酸を定量する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	食品成分間反応（L-アスコルビン酸の酵素的変化）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キュウリに含まれるアスコルビン酸酸化酵素の特徴を学ぶ。大根中のL-アスコルビン酸がキュウリのアスコルビン酸酸化酵素によってどのように変化するかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	無機質の定量（原子吸光法によるカルシウムの定量）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	原子吸光光度計を用いたカルシウムの定量法を学ぶ。大豆（国産・外国産）に含まれるカルシウムを定量する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	脂質の性質（油脂のケン化価の比較）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	油脂の物理化学的性質の指標であるケン化価の測定法を学ぶ。長鎖脂肪

第14回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	酸からなる油脂と中鎖脂肪酸からなる脂肪酸でケン化価を比較する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，指定日に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

実験結果に対する考察のポイントを授業内で説明するので，各班でのディスカッションに活用すること。

学生へのフィードバック方法

実験結果や考察などについて質問がある場合には1205研究室（emailも可）まで訪問すること。

評価方法

・実験レポートは、配布されたテキストに基づき作成すること。
・実験レポートは、ルーブリックを用いた評価による。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○		○
平常点			○	

評価割合

レポート（60%）、平常点（40%）
（平常点は授業への参加状況・実験に対する積極性で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

プリント配布

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物そして地域との相互関係から、「人間の栄養」を理解できる専門的知識を有している。
【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思を身につけている。
【技術・表現】人々の生活の質の向上に寄与するべく、健康の保持増進のための専門的技能と共に、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

月曜4限目講師室まで。

学生へのメッセージ

実際に我々が毎日摂取している食品の具体的な成分を分析することは、「食」を扱う管理栄養士として必要な知識・技術となる。論理的な思考も身につけることができることから、常に疑問（課題）を明らかにするという意欲を持ち続けてほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02025033
講義名	基礎食品学実験（HC）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	馬場 修	指定なし

ナンバリング

H22302C13

授業概要(教育目的)

基礎食品学で学んだ知識を確実なものとするために、実際の食品を検体とし、水分、脂質、タンパク質（アミノ酸）、無機質（食塩相当量、カルシウム）、ビタミン（L-アスコルビン酸）、嗜好成分（ポリフェノール、アミノカルボニル反応物）などの定性分析及び定量分析を行う。分析は滴定法、各種クロマトグラフィー、分光法、原子吸光法などで行う。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．食品成分表における栄養素等の測定法について説明できる。 ２．食品成分の性質と成分間反応について，基礎食品学で学んだ知識と関連づけて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	１．実験の目的に応じて、食品成分の定量法と定性法を類別できる。 ２．食品が持つ多様な機能性を類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	１．実験結果に対する考察について、実験協力者とのディスカッションに参加できる。
技術・表現の観点 (A)	１．仮説を立て、それを証明することで、論理的な思考を表現できる。 ２．食品素材や成分に精通して、合理的かつ自主的な食品の選択に使用できる。

学習計画

	授業テーマ	実験の基礎（薬品・器具の扱い方，結果の記録方法と報告など）
	学習内容(ｱｸ	

第1回	ﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実験を行うにあたっての注意事項を理解する。ガラス器具やpHメーター等の機器の使用法について理解する。また、実験データの取り扱い方、まとめ方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	授業テーマ	重量測定（水分，灰分）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大豆（国産・外国産）を粉砕して、常温加熱乾燥法による水分測定を行う。また、直接灰化法による灰分の測定を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	タンパク質の性質（等電点沈殿）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳由来のカゼインが等電点によって沈殿する現象を確認し、遠心分離によってカゼインを分離される。さらに、カゼインがリン含有たんぱく質であることの性質を、リンモリブデン比色法によって確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	無機質の定量（モール法による醤油の塩化物イオンの定量）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3種類の醤油（濃口醤油、薄口醤油、減塩醤油）中の塩化物イオンをモール法によって測定する。また、得られた結果から食塩相当量を求め、各醤油の特性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	糖の定性（薄層クロマトグラフィーによる糖類の検出）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	薄層クロマトグラフィー（TLC）による分離技術を学ぶ。複数の糖類をTLCを用いて分離し、分離した糖質を発色剤を用いて視覚的に観察する。
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	糖の定量（高速液体クロマトグラフィーによる清涼飲料水中の糖質の定量）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高速液体クロマトグラフィー（HPLC）による分離技術を学ぶ。清涼飲料水に含まれる糖類をHPLCを用いて分離し、清涼飲料水中の複数の糖類を定量する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	ポリフェノールの定量（緑茶飲料に含まれるポリフェノールの定量）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	分光光度計を用いた比色定量法を学ぶ。酒石酸鉄比色法による緑茶飲料中のポリフェノールを定量する。標準物質を用いた検量線の作成方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	食品成分間反応（アミノカルボニル反応）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖とアミノ酸によるアミノカルボニル反応を学ぶ。アミノカルボニル反応に及ぼすpHの影響やアミノ酸の種類の影響を視覚的、嗅覚的に観察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	タンパク質の定量（ケルダール法：試料の分解，アンモニア蒸留）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	たんぱく質に含まれる窒素の定量法であるケルダール法の原理を学ぶ。大豆（国産・外国産）を用いて、たんぱく質の硫酸分解を行う。硫酸分解によって得られたアンモニアを水蒸気蒸留によって回収する。得られた窒素量に、窒素たんぱく質換算係数を乗じることによって求めるタンパク質の定量法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間	45分

	（分）	
第10回	**授業テーマ**	脂質の定量（ソックスレー抽出法による総脂質の定量）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	有機溶媒を用いた脂質の抽出法を学ぶ。大豆（国産・外国産）の脂質をジエチルエーテルを用いて抽出し、抽出された脂質の質量を測定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	ビタミンの定量（食品中のL-アスコルビン酸の定量）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インドフェノール法によるL-アスコルビン酸の定量法を学ぶ。大根中のL-アスコルビン酸を定量する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	食品成分間反応（L-アスコルビン酸の酵素的変化）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キュウリに含まれるアスコルビン酸酸化酵素の特徴を学ぶ。大根中のL-アスコルビン酸がキュウリのアスコルビン酸酸化酵素によってどのように変化するかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	無機質の定量（原子吸光法によるカルシウムの定量）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	原子吸光光度計を用いたカルシウムの定量法を学ぶ。大豆（国産・外国産）に含まれるカルシウムを定量する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	脂質の性質（油脂のケン化価の比較）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	油脂の物理化学的性質の指標であるケン化価の測定法を学ぶ。長鎖脂肪

第14回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	酸からなる油脂と中鎖脂肪酸からなる脂肪酸でケン化価を比較する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，指定日に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

実験結果に対する考察のポイントを授業内で説明するので，各班でのディスカッションに活用すること。

学生へのフィードバック方法

実験結果や考察などについて質問がある場合には基礎食品学で学んだ知識を確実なものとするために、実際の食品を検体とし、水分、脂質、タンパク質（アミノ酸）、無機質（食塩相当量、カルシウム）、ビタミン（L-アスコルビン酸）、嗜好成分（ポリフェノール、アミノカルボニル反応物）などの定性分析及び定量分析を行う。分析は滴定法、各種クロマトグラフィー、分光法、原子吸光法などで行う。

評価方法

・実験レポートは、配布されたテキストに基づき作成すること。
・実験レポートは、ルーブリックを用いた評価による。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○		○
平常点			○	

評価割合

レポート（60%）、平常点（40%）
（平常点は授業への参加状況・実験に対する積極性で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

プリント配布

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物そして地域との相互関係から、「人間の栄養」を理解できる専門的知識を有している。
【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思を身につけている。
【技術・表現】人々の生活の質の向上に寄与するべく、健康の保持増進のための専門的技能と共に、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

月曜4限目講師室まで。

学生へのメッセージ

実際に我々が毎日摂取している食品の具体的な成分を分析することは、「食」を扱う管理栄養士として必要な知識・技術となる。論理的な思考も身につけることができることから、常に疑問（課題）を明らかにするという意欲を持ち続けてほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02025034
講義名	基礎食品学実験（HD）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

H22302C13

授業概要(教育目的)

基礎食品学で学んだ知識を確実なものとするために、実際の食品を検体とし、水分、脂質、タンパク質（アミノ酸）、無機質（食塩相当量、カルシウム）、ビタミン（L-アスコルビン酸）、嗜好成分（ポリフェノール、アミノカルボニル反応物）などの定性分析及び定量分析を行う。分析は滴定法、各種クロマトグラフィー、分光法、原子吸光法などで行う。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．食品成分表における栄養素等の測定法について説明できる。 2．食品成分の性質と成分間反応について，基礎食品学で学んだ知識と関連づけて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1．実験の目的に応じて、食品成分の定量法と定性法を類別できる。 2．食品が持つ多様な機能性を類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1．実験結果に対する考察について、実験協力者とのディスカッションに参加できる。
技術・表現の観点 (A)	1．仮説を立て、それを証明することで、論理的な思考を表現できる。 2．食品素材や成分に精通して、合理的かつ自主的な食品の選択に使用できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	実験の基礎（薬品・器具の扱い方，結果の記録方法と報告など）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実験を行うにあたっての注意事項を理解する。ガラス器具やpHメーター等の機器の使用法について理解する。また、実験データの取り扱い方、まとめ方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。

	習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	授業テーマ	重量測定（水分，灰分）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大豆（国産・外国産）を粉砕して、常温加熱乾燥法による水分測定を行う。また、直接灰化法による灰分の測定を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	タンパク質の性質（等電点沈殿）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳由来のカゼインが等電点によって沈殿する現象を確認し、遠心分離によってカゼインを分離される。さらに、カゼインがリン含有たんぱく質であることの性質を、リンモリブデン比色法によって確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	無機質の定量（モール法による醤油の塩化物イオンの定量）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3種類の醤油（濃口醤油、薄口醤油、減塩醤油）中の塩化物イオンをモール法によって測定する。また、得られた結果から食塩相当量を求め、各醤油の特性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	糖の定性（薄層クロマトグラフィーによる糖類の検出）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	薄層クロマトグラフィー（TLC）による分離技術を学ぶ。複数の糖類をTLCを用いて分離し、分離した糖質を発色剤を用いて視覚的に観察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分

第6回	授業テーマ	糖の定量（高速液体クロマトグラフィーによる清涼飲料水中の糖質の定量）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高速液体クロマトグラフィー（HPLC）による分離技術を学ぶ。清涼飲料水に含まれる糖類をHPLCを用いて分離し、清涼飲料水中の複数の糖類を定量する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	ポリフェノールの定量（緑茶飲料に含まれるポリフェノールの定量）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	分光光度計を用いた比色定量法を学ぶ。酒石酸鉄比色法による緑茶飲料中のポリフェノールを定量する。標準物質を用いた検量線の作成方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	授業テーマ	食品成分間反応（アミノカルボニル反応）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖とアミノ酸によるアミノカルボニル反応を学ぶ。アミノカルボニル反応に及ぼすpHの影響やアミノ酸の種類の影響を視覚的、嗅覚的に観察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	授業テーマ	タンパク質の定量（ケルダール法：試料の分解，アンモニア蒸留）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	たんぱく質に含まれる窒素の定量法であるケルダール法の原理を学ぶ。大豆（国産・外国産）を用いて、たんぱく質の硫酸分解を行う。硫酸分解によって得られたアンモニアを水蒸気蒸留によって回収する。得られた窒素量に、窒素たんぱく質換算係数を乗じることによって求めるタンパク質の定量法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	脂質の定量（ソックスレー抽出法による総脂質の定量）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	有機溶媒を用いた脂質の抽出法を学ぶ。大豆（国産・外国産）の脂質を

第10回	**育・ICT活用を含む)**	ジエチルエーテルを用いて抽出し、抽出された脂質の質量を測定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	ビタミンの定量（食品中のL-アスコルビン酸の定量）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インドフェノール法によるL-アスコルビン酸の定量法を学ぶ。大根中のL-アスコルビン酸を定量する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	食品成分間反応（L-アスコルビン酸の酵素的変化）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キュウリに含まれるアスコルビン酸酸化酵素の特徴を学ぶ。大根中のL-アスコルビン酸がキュウリのアスコルビン酸酸化酵素によってどのように変化するかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	無機質の定量（原子吸光法によるカルシウムの定量）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	原子吸光光度計を用いたカルシウムの定量法を学ぶ。大豆（国産・外国産）に含まれるカルシウムを定量する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	**授業テーマ**	脂質の性質（油脂のケン化価の比較）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	油脂の物理化学的性質の指標であるケン化価の測定法を学ぶ。長鎖脂肪酸からなる油脂と中鎖脂肪酸からなる脂肪酸でケン化価を比較する。
	教室外学習(予習・復	実験レポートを作成し，指定日に提出する。

	習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

実験結果に対する考察のポイントを授業内で説明するので，各班でのディスカッションに活用すること。

学生へのフィードバック方法

実験結果や考察などについて質問がある場合には1205研究室（emailも可）まで訪問すること。

評価方法

・実験レポートは、配布されたテキストに基づき作成すること。
・実験レポートは、ルーブリックを用いた評価による。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○		○
平常点			○	

評価割合

レポート（60%）、平常点（40%）
（平常点は授業への参加状況・実験に対する積極性で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

プリント配布

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物そして地域との相互関係から、「人間の栄養」を理解できる専門的知識を有している。
【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思を身につけている。
【技術・表現】人々の生活の質の向上に寄与するべく、健康の保持増進のための専門的技能と共に、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

月曜2限目

学生へのメッセージ

実際に我々が毎日摂取している食品の具体的な成分を分析することは、「食」を扱う管理栄養士として必要な知識・技術となる。論理的な思考も身につけることができることから、常に疑問（課題）を明らかにするという意欲を持ち続けてほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02026031
講義名	応用食品学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	林 一也	指定なし

ナンバリング

H22303C21

授業概要(教育目的)

本講義は、農産物（穀類、いも類、野菜類など）や畜産物、水産物などの食品の成分や特徴を学び、また、それらを基に加工される食品の加工方法等についても学習することを目的としている。食品は、貯蔵法や加工法のいずれにおいても、伝統的な方法に加えて、新しい技術や手法も次々と作り出されている。ここでは、食品の様々な貯蔵法の原理と身近な食品加工法の基礎について理解し、食品の諸性質やその食品の特長を生かした加工方法等を学ぶことにより、食材や加工食品の高度な利用方法等を理解させることを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．食材･食品の種類や、それらに含まれる成分を説明できる。 ２．様々な加工食品の製造方法を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	１．食材･食品の種類等を類別できる。 ２．食材の旬や成分を活かした食品加工、調理への展開を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	１．日常で食している食品に対して、その素材や加工法などに関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

応用食品学

		ガイダンス、現在の食品に関する状況（生鮮食品や加工食品とは何か、

第1回	授業テーマ	食料受給率や供給、消費など）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	応用食品学のシラバス等を含めた講義の概要とを学ぶにあたっての諸注意の説明。生鮮食品や加工食品（１次加工食品、2次加工食品など）とは何か、植物性食品、動物性食品、農産物、水産物など、食品の区分を理解する。また、現在の私たちを取り巻く食品の状況（食糧の生産や消費、食料自給率、食料輸入など）について理解をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第1章「食品」1～7ページを読んでおくこと。特に第1章4「食品の消費と供給」については予習と復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	穀類とその加工品
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	穀類とは何かを理解する。米や小麦を中心として、その他の麦、トウモロコシなどの種類や品種、その性質や含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章1.「穀類」8～33ページを読んでおくこと。特に米と小麦の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	いも類とその加工品
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	いも類とは何かを理解する。ジャガイモやサツマイモを中心として、その他のいも類の種類や品種、その性質や含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章2.「いも類」34～43ページを読んでおくこと。特にジャガイモとサツマイモの項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	豆類・種実類とその加工品
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	豆類や種実類とは何かを理解する。大豆や小豆を中心として、その他の豆類の種類や品種、その性質や含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。（ただし、納豆の項目は除く）さらに、種実類の種類や品種、その性質や含まれる成分を理解し、それらの加工品についても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章3.「豆類」44～52ページおよび4.「種実類」53～59ページを読んでおくこと。特に大豆の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。（ただし、納豆の項目は除く）

	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	野菜類とその加工品
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	野菜類とは何かを理解する。野菜類に含まれる成分、特に香りや味に係わる成分を中心として、野菜類の種類や品種、その性質や含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章5.「野菜類」60～77ページを読んでおくこと。特に野菜類に含まれる成分、香りや味に係わる項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	果実類とその加工品
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	果実類とは何かを理解する。果実類に含まれる成分、特に香りや味に係わる成分を中心として、果実類の種類や品種、その性質や含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章6.「果実」78～90ページを読んでおくこと。特に果実類に含まれる成分、香りや味に係わる項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。さらに、第2章の1～6の植物性食品についてそれぞれの項目の食品の成分等の区別ができるように復習をすること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	**授業テーマ**	きのこ類、海藻類とその加工品
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	きのこ類や海藻類とは何かを理解する。きのこ類の種類やその性質、含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。さらに、海藻類の種類や性質、含まれる成分を理解し、それらの加工品についても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章7.「きのこ類」91～97ページおよび8.「海藻類」98～105ページを読んでおくこと。特にきのこや海藻の成分の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	食肉類とその加工品
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食肉類とは何かを理解する。食肉類の種類や品種、その性質や含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。
	教室外学	教科書第3章1.「食肉類」106～124ページを読んでおくこと。特に食肉類

	習(予習・復習)の内容	の熟成に関わる項目と食肉類加工品の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	乳類、卵類とその加工品
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳類、卵類とは何かを理解する。乳類の種類やその性質、含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。さらに、卵類の種類や性質、含まれる成分を理解し、それらの加工品についても学ぶ。（ただし、乳類発酵食品の項目は除く）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章2.「乳類」125～140ページおよび3.「卵類」141～148ページを読んでおくこと。特にそれぞれのたんぱく質の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。さらに、第3章の1～3の動物性食品（畜産食品）についてそれぞれの項目の食品の成分等の区別ができるように復習をすること。（ただし、乳類発酵食品の項目は除く）
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	魚介類とその加工品
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	魚介類とは何かを理解する。魚介類の種類やその性質、含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。（ただし、魚介類発酵食品の項目は除く）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章4.「魚介類」149～175ページを読んでおくこと。特に魚介類に含まれる成分や加工品の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。（ただし、魚介類発酵食品の項目は除く）
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	発酵食品（アルコール類など）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発酵食品（アルコール類など）とは何かを理解する。発酵食品（アルコール類、食酢、みりんなど）の性質や成分、加工方法、発酵に係わる微生物を理解する。あわせて嗜好性飲料の茶類についても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章3.「調味料／食酢、みりんなど」196～197ページおよび第4章5.「嗜好性飲料とアルコール飲料」208～215ページを読んでおくこと。特にそれぞれの加工方法と発酵に係わる微生物の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	発酵食品（味噌、醤油、納豆）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗ	発酵食品（味噌、醤油、納豆）とは何かを理解する。発酵食品（味噌、醤油、納豆）の性質や成分、加工方法、発酵に係わる微生物を理解す

第12回	ｼｰ教育・ICT活用を含む)	る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章3.「調味料／みそ、しょうゆなど」190～195ページ、教科書第2章3.「豆類／大豆の用途」48ページを読んでおくこと。特にそれぞれの加工方法と発酵に係わる微生物の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	発酵食品（納豆、乳類発酵食品、漬物、水産発酵食品など）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発酵食品（乳類発酵食品、漬物、水産発酵食品など）とは何かを理解する。発酵食品（乳類発酵食品、漬物、水産発酵食品など）の性質や成分、加工方法、発酵に係わる微生物を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3章2.「乳類／乳類の利用」132～139ページ、第3章4.「魚介類／魚介類の加工品」172～173ページの発酵食品の項目を読んでおくこと。特にそれぞれの加工方法と発酵に係わる微生物の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。さらに、発酵食品についてそれぞれの項目で微生物や加工方法の区別ができるように復習をすること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	授業テーマ	油脂、甘味料、調味料、香辛料、嗜好性飲料
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	油脂、甘味料、調味料とは何かを理解する。油脂、甘味料、調味料の種類や性質、成分、加工方法を理解する。また，嗜好性飲料とは何かを理解する。茶やコーヒーの種類やその性質、含まれる成分を理解し、それらの加工方法について学ぶ。さらに、香辛料の種類や性質、含まれる成分についても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章1.「食用油脂」176～183ページおよび2.「甘味料」184～188ページ、3.「調味料／食塩･うま味調味料」189～190，教科書第4章4.「香辛料」198～203ページおよび第4章5.「嗜好性飲料とアルコール飲料」204～208ページを読んでおくこと。合わせて全体の復習をすること。
	教室外学習の時間（分）	310分

学習計画注記

学年暦，時間割の変更，講義内容の進行状況によりシラバス・講義形態が変更する場合がある。

学生へのフィードバック方法

各回の講義、復習などで質問や不明な点がある場合は、1401研究室まで訪問するか、e-mailで問い合わせること。

評価方法

成績の評価は、定期試験の成績によって判定する。ただし、授業への参加態度等を成績判定に加えることがある。なお、成績評価にはルーブリックを用いた評価を行い、ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により学生に提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		

評価割合

定期試験（90%）授業への参加態度などの平常点（10%）

使用教科書名(ISBN番号)

Nブックス 新版 食品学II 第2版／菅原龍幸監修／建帛社
ISBN 978-4-7679-0718-5

ディプロマポリシーとの関連

【知識･理解】食品に関する基礎知識を学ぶことによって，管理栄養士として食や栄養を扱う上での食品，食材の基礎を理解できる知識基盤を有している。
【思考･判断】食品に関する正確な情報を収集し、論理的･批判的に思考することで健康や栄養に関する取り組みに対処できる能力を身につける。

オフィスアワー

金曜日1時限 および メール等の予約により定めた時間 1401研究室

学生へのメッセージ

普段食べている食品などの基本的な内容です。スーパーなどに行ったとき，食材や食品をよく見てください。パッケージに記載されている表示にも注意をして，いろいろなものに興味を持ってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、民間の食品企業において、官公庁、農協等との食品の研究・開発に携わった内容を踏まえ、応用食品学の講義の上で食品の成分や栽培・生産体系から収穫・加工・販売までを実践的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02027031
講義名	応用食品学実験（食品の鑑別を含む）（HA）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	林 一也	指定なし

ナンバリング

H22304C13

授業概要(教育目的)

この実験では、加工食品を実際に作り、それらの加工法の原理や基礎的な知識を深め、食品の加工過程で起きる様々な変化を観察し、食品加工の必要性、意義などを学び学生の食品加工の知見を育成することを目的とする。さらに、実際につくった加工食品と市販品との違い（食品添加物等の使用の有無）を比較するなど、食品の鑑別や食品開発における基礎についても学び、学生の食品加工の知見を育成することを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	伝統的な加工食品や新しい製造技術など、加工食品の製造方法を理解する。
思考・判断の観点 (K)	食品の加工法や保存法などを学ぶことで、食品を鑑別できる能力を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食品の加工法や技術を学ぶことで、その食品に関心を持ち、さらにチームで実験を行うことで、協調性を養う。
技術・表現の観点 (A)	加工食品を実際に作り、それらの加工法の原理や基礎的な知識を深めことで、食品の加工過程で起きる様々な変化を観察し、食品加工の必要性、意義などを学び、その技術を習得する。

学習計画

応用食品学実験

第1回	授業テーマ	ガイダンス、発酵食品の原理（納豆）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	応用食品学実験のシラバス等を含めた実験の概要と実験をする上での諸注意の説明。納豆の製造を通して大豆の納豆菌での発酵による変化と製造原理、保存方法、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	納豆の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	豆タンパク質の加工変化（豆腐）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	豆腐の製造を通じて豆タンパク質の加工による変化と豆腐製造原理、製造原理、保存方法、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	豆腐の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	乳の変化（チーズ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	チーズの製造を通じて乳タンパク質などの加工による変化と製造原理、保存方法、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	チーズの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	発酵（味噌）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	米味噌の製造を通じて大豆、米などの原料が麹、味噌発酵微生物などによる変化と製造原理、保存方法、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	味噌の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	缶詰製造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	缶詰（サンマの醤油煮）の製造を通じて缶詰製造の原理、食品保存方法（缶詰包装による食品保存・加圧加熱殺菌）、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内	缶詰の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。

	容	
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	肉類の加工（ソーセージ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ソーセージの製造を通じて畜肉類加工の原理、燻製の原理、食品保存方法（発色剤等の添加物）、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ソーセージの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	果実類のゲル化（マーマレード）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	マーマレードの製造を通じて果実類加工･ジャム化の原理、食品保存方法（糖蔵）、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	マーマレードの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	乳類発酵（ヨーグルト）と乳脂肪の変化（バター）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヨーグルトの製造を通じて乳たんぱく質の酸凝固の原理、食品保存方法（乳酸発酵）、鑑別方法などを学ぶ。さらにバターの製造を通じてクリームからバターへの転相など乳化の原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ヨーグルト、バターの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	糖蔵の原理（ミカンシロップ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ミカンのシロップ漬けの製造を通じて糖蔵や柑橘加工の原理、食品保存方法（糖蔵･酸貯蔵）、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミカンのシロップ漬けの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	高圧殺菌法（レトルト食品）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	ミートソースのレトルト食品の製造を通じてレトルト加工の原理、食品保存方法（レトルト・高圧加熱殺菌）、鑑別方法などを学ぶ。

第10回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	レトルトの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	糖質マンナンの変化（コンニャク）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンニャクの製造を通じてコンニャクマンナン加工変化の原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	コンニャクの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	カビの酵素による糖化実験（甘酒）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	麹による甘酒の製造を通じて麹による米デンプンの糖化の原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	米麹甘酒の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	糖質の加熱変化（キャラメル化）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャラメルの製造を通じて糖の加熱変化･キャラメライゼーションの原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャラメルの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	小麦タンパク質の粘性（パスタ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パスタの製造を通じて小麦たんぱく質のグルテン形成の原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パスタの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

授業はすべて対面で実施する。但し，授業内容は，学年暦などにより回の内容，授業形態(対面，オンデマンド)が入れ替わることがある。

学生へのフィードバック方法

各回の内容などで質問や不明な点がある場合は、1401研究室まで訪問するか、e-mailで問い合わせること。

評価方法

成績の評価は、レポート提出と内容および授業へ臨む態度等により成績判定する。なお、成績評価にはルーブリックを用いた評価を行い、ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により学生に提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○		
実験に臨む態度等			○	○

評価割合

レポート（70%）および実験へ臨む態度などの平常点（30%）で判定する。

使用教科書名(ISBN番号)

プリント配布

ディプロマポリシーとの関連

【知識･理解】加工食品の製造方法・特性などを理解し、管理栄養士等の専門職業人として、広く普及する加工食品を扱える技術を身につけている。
【思考･判断】食品の加工法や保存法などを学ぶことで、正確な情報を収集することで食品を鑑別できる能力を身につけている。
【関心･意欲･態度】食品の加工法や技術を学ぶことで、その食品に関心を持ち、さらにチームで実験を行うことで、他者と協働するための共感力を身につけている。
【技術･表現】加工食品をつくる実学を通じて、専門的技能を身につけている。

オフィスアワー

金曜日1時限 および メール等の予約により定めた時間 1401研究室

学生へのメッセージ

納豆や，味噌，ヨーグルトなどの発酵食品や豆腐などの伝統的食品やレトルト加工，高圧蒸気加熱加工など，様々な食品の製造，加工技術を学びます。普段，スーパーなどで買ってくるものがこんな風につくられているのかなど，興味を持って学んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、民間の食品企業で産官学との共同研究･共同食品開発に携わった内容を踏まえ、応用食品学実験を担当する上で、食品加工の原理・方法などを実践・実学的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

ICT活用		

講義コード	H02027032
講義名	応用食品学実験（食品の鑑別を含む）（HB）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	林 一也	指定なし

ナンバリング

H22304C13

授業概要(教育目的)

この実験では、加工食品を実際に作り、それらの加工法の原理や基礎的な知識を深め、食品の加工過程で起きる様々な変化を観察し、食品加工の必要性、意義などを学び学生の食品加工の知見を育成することを目的とする。さらに、実際につくった加工食品と市販品との違い（食品添加物等の使用の有無）を比較するなど、食品の鑑別や食品開発における基礎についても学び、学生の食品加工の知見を育成することを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	伝統的な加工食品や新しい製造技術など、加工食品の製造方法を理解する。
思考・判断の観点 (K)	食品の加工法や保存法などを学ぶことで、食品を鑑別できる能力を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食品の加工法や技術を学ぶことで、その食品に関心を持ち、さらにチームで実験を行うことで、協調性を養う。
技術・表現の観点 (A)	加工食品を実際に作り、それらの加工法の原理や基礎的な知識を深めことで、食品の加工過程で起きる様々な変化を観察し、食品加工の必要性、意義などを学び、その技術を習得する。

学習計画

応用食品学実験

第1回	授業テーマ	ガイダンス、発酵食品の原理（納豆）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	応用食品学実験のシラバス等を含めた実験の概要と実験をする上での諸注意の説明。納豆の製造を通して大豆の納豆菌での発酵による変化と製造原理、保存方法、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	納豆の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	豆タンパク質の加工変化（豆腐）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	豆腐の製造を通じて豆タンパク質の加工による変化と豆腐製造原理、製造原理、保存方法、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	豆腐の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	乳の変化（チーズ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	チーズの製造を通じて乳タンパク質などの加工による変化と製造原理、保存方法、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	チーズの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	発酵（味噌）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	米味噌の製造を通じて大豆、米などの原料が麹、味噌発酵微生物などによる変化と製造原理、保存方法、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	味噌の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	缶詰製造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	缶詰（サンマの醤油煮）の製造を通じて缶詰製造の原理、食品保存方法（缶詰包装による食品保存・加圧加熱殺菌）、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内	缶詰の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。

	容	
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	肉類の加工（ソーセージ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ソーセージの製造を通じて畜肉類加工の原理、燻製の原理、食品保存方法（発色剤等の添加物）、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ソーセージの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	果実類のゲル化（マーマレード）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	マーマレードの製造を通じて果実類加工･ジャム化の原理、食品保存方法（糖蔵）、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	マーマレードの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	乳類発酵（ヨーグルト）と乳脂肪の変化（バター）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヨーグルトの製造を通じて乳たんぱく質の酸凝固の原理、食品保存方法（乳酸発酵）、鑑別方法などを学ぶ。さらにバターの製造を通じてクリームからバターへの転相など乳化の原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ヨーグルト、バターの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	糖蔵の原理（ミカンシロップ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ミカンのシロップ漬けの製造を通じて糖蔵や柑橘加工の原理、食品保存方法（糖蔵･酸貯蔵）、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミカンのシロップ漬けの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	高圧殺菌法（レトルト食品）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	ミートソースのレトルト食品の製造を通じてレトルト加工の原理、食品保存方法（レトルト・高圧加熱殺菌）、鑑別方法などを学ぶ。

第10回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	レトルトの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	糖質マンナンの変化（コンニャク）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンニャクの製造を通じてコンニャクマンナン加工変化の原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	コンニャクの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	カビの酵素による糖化実験（甘酒）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	麹による甘酒の製造を通じて麹による米デンプンの糖化の原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	米麹甘酒の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	糖質の加熱変化（キャラメル化）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャラメルの製造を通じて糖の加熱変化･キャラメライゼーションの原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャラメルの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	小麦タンパク質の粘性（パスタ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パスタの製造を通じて小麦たんぱく質のグルテン形成の原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パスタの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

授業はすべて対面で実施する。但し，授業内容は，学年暦などにより回の内容，授業形態(対面，オンデマンド)が入れ替わることがある。

学生へのフィードバック方法

各回の内容などで質問や不明な点がある場合は、1401研究室まで訪問するか、e-mailで問い合わせること。

評価方法

成績の評価は、レポート提出と内容および授業へ臨む態度等により成績判定する。なお、成績評価にはルーブリックを用いた評価を行い、ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により学生に提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○		
実験に臨む態度等			○	○

評価割合

レポート（70%）および実験へ臨む態度などの平常点（30%）で判定する。

使用教科書名(ISBN番号)

プリント配布

ディプロマポリシーとの関連

【知識･理解】加工食品の製造方法・特性などを理解し、管理栄養士等の専門職業人として、広く普及する加工食品を扱える技術を身につけている。
【思考･判断】食品の加工法や保存法などを学ぶことで、正確な情報を収集することで食品を鑑別できる能力を身につけている。
【関心･意欲･態度】食品の加工法や技術を学ぶことで、その食品に関心を持ち、さらにチームで実験を行うことで、他者と協働するための共感力を身につけている。
【技術･表現】加工食品をつくる実学を通じて、専門的技能を身につけている。

オフィスアワー

金曜日1時限 および メール等の予約により定めた時間 1401研究室

学生へのメッセージ

納豆や，味噌，ヨーグルトなどの発酵食品や豆腐などの伝統的食品やレトルト加工，高圧蒸気加熱加工など，様々な食品の製造，加工技術を学びます。普段，スーパーなどで買ってくるものがこんな風につくられているのかなど，興味を持って学んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、民間の食品企業で産官学との共同研究･共同食品開発に携わった内容を踏まえ、応用食品学実験を担当する上で、食品加工の原理・方法などを実践・実学的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

ICT活用		

講義コード	H02027033
講義名	応用食品学実験（食品の鑑別を含む）（HC）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	林 一也	指定なし

ナンバリング

H22304C13

授業概要(教育目的)

この実験では、加工食品を実際に作り、それらの加工法の原理や基礎的な知識を深め、食品の加工過程で起きる様々な変化を観察し、食品加工の必要性、意義などを学び学生の食品加工の知見を育成することを目的とする。さらに、実際につくった加工食品と市販品との違い（食品添加物等の使用の有無）を比較するなど、食品の鑑別や食品開発における基礎についても学び、学生の食品加工の知見を育成することを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	伝統的な加工食品や新しい製造技術など、加工食品の製造方法を理解する。
思考・判断の観点 (K)	食品の加工法や保存法などを学ぶことで、食品を鑑別できる能力を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食品の加工法や技術を学ぶことで、その食品に関心を持ち、さらにチームで実験を行うことで、協調性を養う。
技術・表現の観点 (A)	加工食品を実際に作り、それらの加工法の原理や基礎的な知識を深めことで、食品の加工過程で起きる様々な変化を観察し、食品加工の必要性、意義などを学び、その技術を習得する。

学習計画

応用食品学実験

第1回	授業テーマ	ガイダンス、発酵食品の原理（納豆）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	応用食品学実験のシラバス等を含めた実験の概要と実験をする上での諸注意の説明。納豆の製造を通して大豆の納豆菌での発酵による変化と製造原理、保存方法、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	納豆の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	豆タンパク質の加工変化（豆腐）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	豆腐の製造を通じて豆タンパク質の加工による変化と豆腐製造原理、製造原理、保存方法、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	豆腐の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	乳の変化（チーズ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	チーズの製造を通じて乳タンパク質などの加工による変化と製造原理、保存方法、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	チーズの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	発酵（味噌）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	米味噌の製造を通じて大豆、米などの原料が麹、味噌発酵微生物などによる変化と製造原理、保存方法、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	味噌の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	缶詰製造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	缶詰（サンマの醤油煮）の製造を通じて缶詰製造の原理、食品保存方法（缶詰包装による食品保存・加圧加熱殺菌）、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内	缶詰の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。

	容	
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	肉類の加工（ソーセージ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ソーセージの製造を通じて畜肉類加工の原理、燻製の原理、食品保存方法（発色剤等の添加物）、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ソーセージの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	果実類のゲル化（マーマレード）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	マーマレードの製造を通じて果実類加工･ジャム化の原理、食品保存方法（糖蔵）、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	マーマレードの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	乳類発酵（ヨーグルト）と乳脂肪の変化（バター）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヨーグルトの製造を通じて乳たんぱく質の酸凝固の原理、食品保存方法（乳酸発酵）、鑑別方法などを学ぶ。さらにバターの製造を通じてクリームからバターへの転相など乳化の原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ヨーグルト、バターの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	糖蔵の原理（ミカンシロップ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ミカンのシロップ漬けの製造を通じて糖蔵や柑橘加工の原理、食品保存方法（糖蔵･酸貯蔵）、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ミカンのシロップ漬けの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	高圧殺菌法（レトルト食品）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	ミートソースのレトルト食品の製造を通じてレトルト加工の原理、食品保存方法（レトルト・高圧加熱殺菌）、鑑別方法などを学ぶ。

第10回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	レトルトの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	糖質マンナンの変化（コンニャク）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンニャクの製造を通じてコンニャクマンナン加工変化の原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	コンニャクの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	カビの酵素による糖化実験（甘酒）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	麹による甘酒の製造を通じて麹による米デンプンの糖化の原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	米麹甘酒の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	糖質の加熱変化（キャラメル化）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャラメルの製造を通じて糖の加熱変化･キャラメライゼーションの原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャラメルの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	小麦タンパク質の粘性（パスタ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パスタの製造を通じて小麦たんぱく質のグルテン形成の原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パスタの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

授業はすべて対面で実施する。但し，授業内容は，学年暦などにより回の内容，授業形態(対面，オンデマンド)が入れ替わることがある。

学生へのフィードバック方法

各回の内容などで質問や不明な点がある場合は、1401研究室まで訪問するか、e-mailで問い合わせること。

評価方法

成績の評価は、レポート提出と内容および授業へ臨む態度等により成績判定する。なお、成績評価にはルーブリックを用いた評価を行い、ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により学生に提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○		
実験に臨む態度等			○	○

評価割合

レポート（70%）および実験へ臨む態度などの平常点（30%）で判定する。

使用教科書名(ISBN番号)

プリント配布

ディプロマポリシーとの関連

【知識･理解】加工食品の製造方法・特性などを理解し、管理栄養士等の専門職業人として、広く普及する加工食品を扱える技術を身につけている。
【思考･判断】食品の加工法や保存法などを学ぶことで、正確な情報を収集することで食品を鑑別できる能力を身につけている。
【関心･意欲･態度】食品の加工法や技術を学ぶことで、その食品に関心を持ち、さらにチームで実験を行うことで、他者と協働するための共感力を身につけている。
【技術･表現】加工食品をつくる実学を通じて、専門的技能を身につけている。

オフィスアワー

金曜日1時限 および メール等の予約により定めた時間 1401研究室

学生へのメッセージ

納豆や，味噌，ヨーグルトなどの発酵食品や豆腐などの伝統的食品やレトルト加工，高圧蒸気加熱加工など，様々な食品の製造，加工技術を学びます。普段，スーパーなどで買ってくるものがこんな風につくられているのかなど，興味を持って学んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、民間の食品企業で産官学との共同研究･共同食品開発に携わった内容を踏まえ、応用食品学実験を担当する上で、食品加工の原理・方法などを実践・実学的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

ICT活用		

講義コード	H02028031
講義名	調理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	大富 あき子	指定なし

ナンバリング

H12305C21

授業概要(教育目的)

調理過程における食品材料の化学的、物理的、組織学的変化を知り、おいしくなる方向へとその変化を制御する学問が調理学である。体に必要な栄養成分を食べられる形である献立として示せなければ、せっかくの管理栄養士としての栄養指導も実行できない。従って保存・調理による栄養素の消長や機能成分の変化、物性の変化と食べ易さや消化吸収との関連などは重要である。そこで食品材料や調理操作に関すること、おいしさの評価方法、調理学的な側面からの献立作成についてなど順を追って学ぶ講義する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1.調理学という学問の意義を理解し説明することが出来る。 2.各食品材料の調理過程による変化を理解し説明することが出来る。
思考・判断の観点 (K)	1.調理操作の結果、なぜその様な現象が起きるのかを根拠を持って考えることが出来る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1.授業の配布物などで復習しながら、毎回の授業の重要事項を説明することが出来る。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

調理学

	授業テーマ	ガイダンス 調理の概念
		ガイダンスとして半年の勉強方法や評価の方法などを理解す

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	る。 調理学の概念をテキストを見ながら理解する 毎時間終了前に、授業内容に関するまとめテストを実施する。（スマートフォン必携）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1章の「調理の概念」（教科書1～6ページ）を読みながら、自習問題（教科書277-306ページ）の該当部分を解いて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	食べ物の嗜好性 官能評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食べ物の嗜好性や官能評価の方法などを理解する。 毎時間終了前に、授業内容に関するまとめテストを実施する。（スマートフォン必携）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第２章の「食べ物の嗜好性」（教科書7-38ページ）を読みながら、自習問題（教科書277-306ページ）の該当部分を解いて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	食事の設計
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事の設計について理解する。 毎時間終了前に、授業内容に関するまとめテストを実施する。（スマートフォン必携）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3章の「食事の設計」（教科書39～65ページ）を読みながら、自習問題（教科書277-306ページ）の該当部分を解いて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	調理操作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	加熱操作、非加熱操作、冷凍・解凍、調味操作などを理解する。 毎時間終了前に、授業内容に関するまとめテストを実施する。（スマートフォン必携）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第4章の「調理操作」（教科書67～99ページ）を読みながら、自習問題（教科書277-306ページ）の該当部分を解いて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	調理機器 冷凍技術
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理機器や冷凍技術について理解する。 毎時間終了前に、授業内容に関するまとめテストを実施する。（スマートフォン必携）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第5章の「調理機器や冷凍技術」（教科書101～119ページ）を読みながら、自習問題（教科書277-306ページ）の該当部分を解いて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	食品の調理性：炭水化物の種類と調理性、米類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	米類の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。 毎時間終了前に、授業内容に関するまとめテストを実施する。（スマートフォン必携）

	教室外学習(予習・復習)の内容	第 章の「炭水化物の種類と調理性、米類」（教科書121～137ページ）を読みながら、自習問題（教科書277-306ページ）の該当部分を解いて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	食品の調理性：小麦類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小麦類の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。 毎時間終了前に、授業内容に関するまとめテストを実施する。（スマートフォン必携）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6章の「小麦類」（教科書137～148ページ）を読みながら、自習問題（教科書277-306ページ）の該当部分を解いて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	食品の調理性：いも類、豆類、砂糖類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	いも類、豆類、砂糖類の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。 毎時間終了前に、授業内容に関するまとめテストを実施する。（スマートフォン必携）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6章の「いも類、豆類、砂糖類」（教科書148～163ページ）を読みながら、自習問題（教科書277-306ページ）の該当部分を解いて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	食品の調理性：たんぱく質の種類と調理性、食肉類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食肉類の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。 毎時間終了前に、授業内容に関するまとめテストを実施する。（スマートフォン必携）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6章の「たんぱく質の種類と調理性、食肉類」（教科書163～178ページ）を読みながら、自習問題（教科書277-306ページ）の該当部分を解いて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	食品の調理性：魚介類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	魚介類の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。 毎時間終了前に、授業内容に関するまとめテストを実施する。（スマートフォン必携）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6章の「魚介類」（教科書178～187ページ）を読みながら、自習問題（教科書277-306ページ）の該当部分を解いて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	食品の調理性：卵類、牛乳・乳製品
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卵類、牛乳・乳製品類の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。 毎時間終了前に、授業内容に関するまとめテストを実施する。（スマートフォン必携）
	教室外学習(予習・復	第6章の「卵類、牛乳・乳製品」（教科書188～202ページ）を読みながら、自習問題（教科書277-306ページ）の該当部分を

	習)の内容	解いて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	食品の調理性：大豆類、野菜・果物類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大豆類、野菜・果物類の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。 毎時間終了前に、授業内容に関するまとめテストを実施する。（スマートフォン必携）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6章の「大豆類、野菜・果物類」（教科書202～218ページ）を読みながら、自習問題（教科書277-306ページ）の該当部分を解いて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	食品の調理性：でんぷん、食用油脂
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	でんぷん、食用油脂の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。 毎時間終了前に、授業内容に関するまとめテストを実施する。（スマートフォン必携）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6章の「でんぷん、食用油脂」（教科書225～240ページ）を読みながら、自習問題（教科書277-306ページ）の該当部分を解いて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	食品の調理性：ゲル化食品、まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲル化食品類の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。 毎時間終了前に、授業内容に関するまとめテストを実施する。（スマートフォン必携）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6章の「ゲル化食品」（教科書240～254ページ）を読みながら、自習問題（教科書277-306ページ）の該当部分を解いて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第15回	**授業テーマ**	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学生へのフィードバック方法

質問や問い合わせがある場合には、１B04研究室まで訪問してください。（不在時はe-mailも可）

評価方法

定期試験と毎時間のまとめテストの総合で評価する。

評価基準

評価基準

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技術・表現

評価方法	(K)	(K)	(V)	(A)
定期試験	○	○		
毎時間のまとめテスト	○	○	○	

評価割合

定期試験(60%)、毎時間のまとめテスト（40%）

使用教科書名(ISBN番号)

栄養管理と生命科学シリーズ 新版 調理学
吉田恵子 綾部園子 編著（理工図書）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。
【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養問題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。

オフィスアワー

木曜3時限

学生へのメッセージ

調理をする上でなぜそうなるのかを理解すると、調理がより楽しくなります。主体的に学習しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において食品の研究開発に関する実務経験を有しており、商品を開発をする上で食品の調理学的知識を活用していたので、この科目ではそれらの理論と実践を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02028032
講義名	調理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	必修
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

H12305C21

授業概要(教育目的)

調理過程における食品材料の化学的、物理的、組織学的変化を知り、おいしくなる方向へとその変化を制御する学問が調理学である。体に必要な栄養成分を食べられる形である献立として示せなければ、せっかくの管理栄養士としての栄養指導も実行できない。従って保存・調理による栄養素の消長や機能成分の変化、物性の変化と食べ易さや消化吸収との関連などは重要である。そこで食品材料や調理操作に関すること、おいしさの評価方法、調理学的な側面からの献立作成についてなど順を追って学ぶ。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1.調理学という学問の意義を理解し説明することが出来る。 2.各食品材料の調理過程による変化を理解し説明することが出来る。
思考・判断の観点 (K)	1.調理操作の結果、なぜその様な現象が起きるのかを根拠を持って考えることが出来る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1.授業の配布物などで復習しながら、毎回の授業の重要事項を説明することが出来る。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

調理学

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス 調理の概念
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンスとして半年の勉強方法や評価の方法などを理解する。 調理学の概念をテキストを見ながら理解する 毎時間終了前に、授業内容に関するまとめテストを実施する。（スマートフォン必携）
	教室外学習(予習・復	第1章の「調理の概念」（教科書1～6ページ）を読みながら、自習問題（教科書277-306ページ）の該当部分を解いて復習し

	習)の内容	ておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	食べ物の嗜好性 官能評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食べ物の嗜好性や官能評価の方法などを理解する。 毎時間終了前に、授業内容に関するまとめテストを実施する。（スマートフォン必携）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第２章の「食べ物の嗜好性」（教科書7-38ページ）を読みながら、自習問題（教科書277-306ページ）の該当部分を解いて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	食事の設計
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事の設計について理解する。 毎時間終了前に、授業内容に関するまとめテストを実施する。（スマートフォン必携）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3章の「食事の設計」（教科書39～65ページ）を読みながら、自習問題（教科書277-306ページ）の該当部分を解いて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	調理操作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	加熱操作、非加熱操作、冷凍・解凍、調味操作などを理解する。 毎時間終了前に、授業内容に関するまとめテストを実施する。（スマートフォン必携）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第4章の「調理操作」（教科書67～99ページ）を読みながら、自習問題（教科書277-306ページ）の該当部分を解いて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	調理機器 冷凍技術
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理機器や冷凍技術について理解する。 毎時間終了前に、授業内容に関するまとめテストを実施する。（スマートフォン必携）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第5章の「調理機器や冷凍技術」（教科書101～119ページ）を読みながら、自習問題（教科書277-306ページ）の該当部分を解いて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	食品の調理性：炭水化物の種類と調理性、米類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	米類の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。 毎時間終了前に、授業内容に関するまとめテストを実施する。（スマートフォン必携）
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業での配布プリント及び教科書第6章の「小麦」（112～118ページ）を読んで復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	食品の調理性：小麦類

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小麦類の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。 毎時間終了前に、授業内容に関するまとめテストを実施する。（スマートフォン必携）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6章の「小麦類」（教科書137～148ページ）を読みながら、自習問題（教科書277-306ページ）の該当部分を解いて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	食品の調理性：いも類、豆類、砂糖類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	いも類、豆類、砂糖類の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。 毎時間終了前に、授業内容に関するまとめテストを実施する。（スマートフォン必携）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6章の「いも類、豆類、砂糖類」（教科書148～163ページ）を読みながら、自習問題（教科書277-306ページ）の該当部分を解いて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	食品の調理性：たんぱく質の種類と調理性、食肉類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食肉類の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。 毎時間終了前に、授業内容に関するまとめテストを実施する。（スマートフォン必携）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6章の「たんぱく質の種類と調理性、食肉類」（教科書163～178ページ）を読みながら、自習問題（教科書277-306ページ）の該当部分を解いて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	食品の調理性：魚介類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	魚介類の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。 毎時間終了前に、授業内容に関するまとめテストを実施する。（スマートフォン必携）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6章の「魚介類」（教科書178～187ページ）を読みながら、自習問題（教科書277-306ページ）の該当部分を解いて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	食品の調理性：卵類、牛乳・乳製品
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卵類、牛乳・乳製品類の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。 毎時間終了前に、授業内容に関するまとめテストを実施する。（スマートフォン必携）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6章の「卵類、牛乳・乳製品」（教科書188～202ページ）を読みながら、自習問題（教科書277-306ページ）の該当部分を解いて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	食品の調理性：大豆類、野菜・果物類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	大豆類、野菜・果物類の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。

第12回	ｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	毎時間終了前に、授業内容に関するまとめテストを実施する。（スマートフォン必携）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6章の「大豆類、野菜・果物類」（教科書202～218ページ）を読みながら、自習問題（教科書277-306ページ）の該当部分を解いて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	食品の調理性：でんぷん、食用油脂
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	でんぷん、食用油脂の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。 毎時間終了前に、授業内容に関するまとめテストを実施する。（スマートフォン必携）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6章の「でんぷん、食用油脂」（教科書225～240ページ）を読みながら、自習問題（教科書277-306ページ）の該当部分を解いて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	食品の調理性：ゲル化食品、まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲル化食品類の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。 毎時間終了前に、授業内容に関するまとめテストを実施する。（スマートフォン必携）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6章の「ゲル化食品」（教科書240～254ページ）を読みながら、自習問題（教科書277-306ページ）の該当部分を解いて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学生へのフィードバック方法

質問や問い合わせがある場合には、１B04研究室まで訪問してください。（不在時はe-mailも可）

評価方法

定期試験と毎時間のまとめテストの総合で評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
毎時間のまとめテスト	○	○	○	

評価割合

定期試験(60%)、毎時間のまとめテスト（40%）

使用教科書名(ISBN番号)

栄養管理と生命科学シリーズ 新版 調理学
吉田恵子 綾部園子 編著（理工図書）

参考図書

「調理と理論」同文書院

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。
【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養問題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。

オフィスアワー

木曜3時限

学生へのメッセージ

調理をする上でなぜそうなるのかを理解すると、調理がより楽しくなります。主体的に学習しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において食品の研究開発に関する実務経験を有しており、商品を開発をする上で食品の調理学的知識を活用していたので、この科目ではそれらの理論と実践を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02029031
講義名	調理学実験（官能評価を含む）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	大富 あき子	指定なし

ナンバリング

H22306C13

授業概要(教育目的)

調理学実験の目的は、調理の過程でなぜそのような現象が起こるのか、その理由はなぜか、法則性を見出し失敗しない調理技術の修得を目指すもの、すなわち再現性のある「調理のコツ」をつかむことである。この授業では実験の基本操作の修得から各食材の性質を知る実験、調理操作の違いによる料理の出来具合や栄養成分の差を調べる実験へと進め,先の目的を達成する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	調理学実験の基本操作を理解して実践することが出来る。
思考・判断の観点 (K)	実験結果についてなぜそうなったのか調理科学的に説明が出来る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実験の作業を班員と協力し合いながら積極的にかかわることが出来る。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理学実験の目的、実施方法、レポートの書き方等を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習すること。
	教室外学習の時間（分）	60分

第2回	授業テーマ	官能評価法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	異なる塩分濃度のかつお節だし汁で識別試を実施し、2点および3点識別試験法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	米の炊飯
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	米の炊飯実験を行うことで、水の浸水時間と吸水量の違い、炊飯要領を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	卵の熱凝固性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な条件のカスタードプリンを作ることで卵の熱凝固性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	卵の乳化性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	マヨネーズを作ることで卵黄の乳化性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	小麦粉中のグルテンの性質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な種類の小麦粉からドウを作ることでグルテンの性状を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	小麦粉に対する副材料の影響
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な条件のクッキーを作ることでクッキーの性状に及ぼす副材料の影響を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	乳製品の起泡性と転相
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生クリームの泡立て実験を行い、生クリームの起泡性とバターへの転相について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	砂糖溶液の加熱とその性質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	砂糖溶液の加熱実験を行うことで、調理加工への適性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分

第10回	授業テーマ	イカの収縮
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イカの加熱実験を行うことで収縮とテクスチャーの変化を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	魚の酢締め
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	魚を塩締め、酢締めすることで魚肉に及ぼす調味料の影響を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	ゼラチンと寒天の性質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パイナップルゼリーを作ることで、ゼラチンと寒天の性質の違い及びたんぱく分解酵素の影響を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	半年間のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理室の整備を行いながら半年間の実験を振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	振り返りレポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	学習到達テストとまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習到達の確認テストとまとめの授業
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習到達の確認テストの内容を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	60分

学生へのフィードバック方法

学生の作成したレポート内容を確認した後に返却、授業にて再度の解説を実施します。さらに質問や問い合わせがある場合には、１B04研究室まで訪問してください。（不在時はe-mailも可）

評価方法

ルーブリックに基づく成績評価とし、ルーブリックについては授業内での配布等により掲示する。

毎回のレポートと確認テストを総合的に評価する。
なお授業を欠席した場合は、その回のレポートは提出できないため評価に影響する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○		
確認テスト	○	○		
平常点			○	

評価割合

レポート（40%）、確認テスト（40%）、平常点（20%）

使用教科書名(ISBN番号)

クッキングエクスペリメント 4th Edition、四宮陽子（学研書院） 978-4-7624-3853-0

参考図書

調理と理論（同文書院）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。
【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養問題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。

オフィスアワー

火曜５時限

学生へのメッセージ

調理をする上でなぜそうなるのかを理解すると、調理がより楽しくなります。主体的に実験に関わりましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において調味料等の研究開発に関する実務経験を有しており、商品を開発をする上で食品の調理学的知識や官能評価法を活用していたので、この科目ではそれらの理論と実践を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	実験という科目の性質上、学生らは班ごとに実験を遂行し、結果についてディスカッションして考察をまとめる。
情報リテラシー教育	○	実験結果を書くためのレポート作成の方法を学ぶ。報告会にて結果と考察をプレゼンテーションする。
ICT活用	○	報告会でのプレゼンテーションには実物投影機を利用する。

講義コード	H02029032
講義名	調理学実験（官能評価を含む）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	大富 あき子	指定なし

ナンバリング

H22306C13

授業概要(教育目的)

調理学実験の目的は、調理の過程でなぜそのような現象が起こるのか、その理由はなぜか、法則性を見出し失敗しない調理技術の修得を目指すもの、すなわち再現性のある「調理のコツ」をつかむことである。この授業では実験の基本操作の修得から各食材の性質を知る実験、調理操作の違いによる料理の出来具合や栄養成分の差を調べる実験へと進め,先の目的を達成する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	調理学実験の基本操作を理解して実践することが出来る。
思考・判断の観点 (K)	実験結果についてなぜそうなったのか調理科学的に説明が出来る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実験の作業を班員と協力し合いながら積極的にかかわることが出来る。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理学実験の目的、実施方法、レポートの書き方等を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習すること。
	教室外学習の時間（分）	60分

第2回	授業テーマ	官能評価法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	異なる塩分濃度のかつお節だし汁で識別試を実施し、2点および3点識別試験法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	米の炊飯
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	米の炊飯実験を行うことで、水の浸水時間と吸水量の違い、炊飯要領を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	卵の熱凝固性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な条件のカスタードプリンを作ることで卵の熱凝固性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	卵の乳化性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	マヨネーズを作ることで卵黄の乳化性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	小麦粉中のグルテンの性質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な種類の小麦粉からドウを作ることでグルテンの性状を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	小麦粉に対する副材料の影響
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な条件のクッキーを作ることでクッキーの性状に及ぼす副材料の影響を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	乳製品の起泡性と転相
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生クリームの泡立て実験を行い、生クリームの起泡性とバターへの転相について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	砂糖溶液の加熱とその性質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	砂糖溶液の加熱実験を行うことで、調理加工への適性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分

第10回	授業テーマ	イカの収縮
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イカの加熱実験を行うことで収縮とテクスチャーの変化を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	魚の酢締め
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	魚を塩締め、酢締めすることで魚肉に及ぼす調味料の影響を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	ゼラチンと寒天の性質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パイナップルゼリーを作ることで、ゼラチンと寒天の性質の違い及びたんぱく分解酵素の影響を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	半年間のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理室の整備を行いながら半年間の実験を振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	振り返りレポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	学習到達テストとまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習到達の確認テストとまとめの授業
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習到達の確認テストの内容を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	60分

学生へのフィードバック方法

学生の作成したレポート内容を確認した後に返却、授業にて再度の解説を実施します。さらに質問や問い合わせがある場合には、１B04研究室まで訪問してください。（不在時はe-mailも可）

評価方法

ルーブリックに基づく成績評価とし、ルーブリックについては授業内での配布等により掲示する。

毎回のレポートと確認テストを総合的に評価する。
なお授業を欠席した場合は、その回のレポートは提出できないため評価に影響する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○		
確認テスト	○	○		
平常点			○	

評価割合

レポート（40%）、確認テスト（40%）、平常点（20%）

使用教科書名(ISBN番号)

クッキングエクスペリメント 4th Edition、四宮陽子（学研書院） 978-4-7624-3853-0

参考図書

調理と理論（同文書院）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。
【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養問題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。

オフィスアワー

火曜５時限

学生へのメッセージ

調理をする上でなぜそうなるのかを理解すると、調理がより楽しくなります。主体的に実験に関わりましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において調味料等の研究開発に関する実務経験を有しており、商品を開発をする上で食品の調理学的知識や官能評価法を活用していたので、この科目ではそれらの理論と実践を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	実験という科目の性質上、学生らは班ごとに実験を遂行し、結果についてディスカッションして考察をまとめる。
情報リテラシー教育	○	実験結果を書くためのレポート作成の方法を学ぶ。報告会にて結果と考察をプレゼンテーションする。
ICT活用	○	報告会でのプレゼンテーションには実物投影機を利用する。

講義コード	H02029033
講義名	調理学実験（官能評価を含む）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	大富 あき子	指定なし

ナンバリング

H22306C13

授業概要(教育目的)

調理学実験の目的は、調理の過程でなぜそのような現象が起こるのか、その理由はなぜか、法則性を見出し失敗しない調理技術の修得を目指すもの、すなわち再現性のある「調理のコツ」をつかむことである。この授業では実験の基本操作の修得から各食材の性質を知る実験、調理操作の違いによる料理の出来具合や栄養成分の差を調べる実験へと進め,先の目的を達成する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	調理学実験の基本操作を理解して実践することが出来る。
思考・判断の観点 (K)	実験結果についてなぜそうなったのか調理科学的に説明が出来る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実験の作業を班員と協力し合いながら積極的にかかわることが出来る。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理学実験の目的、実施方法、レポートの書き方等を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習すること。
	教室外学習の時間（分）	60分

第2回	授業テーマ	官能評価法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	異なる塩分濃度のかつお節だし汁で識別試を実施し、2点および3点識別試験法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	米の炊飯
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	米の炊飯実験を行うことで、水の浸水時間と吸水量の違い、炊飯要領を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	卵の熱凝固性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な条件のカスタードプリンを作ることで卵の熱凝固性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	卵の乳化性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	マヨネーズを作ることで卵黄の乳化性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	小麦粉中のグルテンの性質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な種類の小麦粉からドウを作ることでグルテンの性状を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	小麦粉に対する副材料の影響
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な条件のクッキーを作ることでクッキーの性状に及ぼす副材料の影響を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	乳製品の起泡性と転相
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生クリームの泡立て実験を行い、生クリームの起泡性とバターへの転相について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	砂糖溶液の加熱とその性質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	砂糖溶液の加熱実験を行うことで、調理加工への適性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分

第10回	授業テーマ	イカの収縮
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イカの加熱実験を行うことで収縮とテクスチャーの変化を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	魚の酢締め
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	魚を塩締め、酢締めすることで魚肉に及ぼす調味料の影響を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	ゼラチンと寒天の性質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パイナップルゼリーを作ることで、ゼラチンと寒天の性質の違い及びたんぱく分解酵素の影響を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	半年間のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理室の整備を行いながら半年間の実験を振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	振り返りレポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	学習到達テストとまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習到達の確認テストとまとめの授業
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習到達の確認テストの内容を復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	60分

学生へのフィードバック方法

学生の作成したレポート内容を確認した後に返却、授業にて再度の解説を実施します。さらに質問や問い合わせがある場合には、１B04研究室まで訪問してください。（不在時はe-mailも可）

評価方法

ルーブリックに基づく成績評価とし、ルーブリックについては授業内での配布等により掲示する。

毎回のレポートと確認テストを総合的に評価する。
なお授業を欠席した場合は、その回のレポートは提出できないため評価に影響する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○		
確認テスト	○	○		
平常点			○	

評価割合

レポート（40%）、確認テスト（40%）、平常点（20%）

使用教科書名(ISBN番号)

クッキングエクスペリメント 4th Edition、四宮陽子（学研書院） 978-4-7624-3853-0

参考図書

調理と理論（同文書院）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。
【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養問題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。

オフィスアワー

火曜５時限

学生へのメッセージ

調理をする上でなぜそうなるのかを理解すると、調理がより楽しくなります。主体的に実験に関わりましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において調味料等の研究開発に関する実務経験を有しており、商品を開発をする上で食品の調理学的知識や官能評価法を活用していたので、この科目ではそれらの理論と実践を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	実験という科目の性質上、学生らは班ごとに実験を遂行し、結果についてディスカッションして考察をまとめる。
情報リテラシー教育	○	実験結果を書くためのレポート作成の方法を学ぶ。報告会にて結果と考察をプレゼンテーションする。
ICT活用	○	報告会でのプレゼンテーションには実物投影機を利用する。

講義コード	H02030031
講義名	基礎調理学実習（HA）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	綿貫 仁美	指定なし

ナンバリング

H12307C13

授業概要(教育目的)

調理は様々な地域の気候、風土、宗教などを背景に、その地域に最も適した食品の食べ方として、家庭や調理人らにより伝承されてきた食文化である。本実習では、非加熱調理操作、加熱調理操作、調味操作においてそれぞれ基礎的な調理操作と技術を主に日本料理を中心に修得する。また、安全・衛生的な食品の取り扱い方、食品に適した食器の選び方、食卓の演出、食事のマナーなど、調理の基礎を総合的に学ぶことを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	基本的な調理操作、器具の正しい使用方法を説明できる。 実習で用いた食材の名称、調理特性、調理法を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食材、器具の衛生的な取り扱いをすることができる。 調理の進み具合を把握し、次の手順を判断し実践できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	調理の作業を班員と協力し合いながら積極的に関わる事ができる。
技術・表現の観点 (A)	衛生的かつ無駄のない食材の扱いができる。

学習計画

基礎調理学実習

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	実習授業の流れ、調理実習における基本的な注意事項を理解

第1回	育・ICT活用を含む)	する。調理室の機器類、調理器具類の確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。配布プリントを復習し、次週からの実習に備える。
	教室外学習の時間(分)	60分
第2回	授業テーマ	計量の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デジタル秤および計量スプーンの正しい使い方を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デジタル秤、計量スプーンの使い方について確認し、復習をしておくこと。プリントを完成させる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第3回	授業テーマ	蒸す操作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	五節句について学ぶ。柏餅を作り、蒸し器の扱い方を学ぶ。日本茶の基礎的な知識と基本的な煎茶の入れ方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第4回	授業テーマ	炊飯の方法 基本の出汁のひき方 野菜の切り方 ゆでる操作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	炊飯の調理工程を理解する。正しい包丁の持ち方、立ち方、野菜の基本的な切り方を理解する。基本の出汁のひき方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第5回	授業テーマ	焼く操作①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肉の切り方、肉の焼き方について、要点、注意点を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第6回	授業テーマ	味付けご飯の調味 揚げる操作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	味付けご飯について、調味の加減、調味料の添加のタイミングを学ぶ。揚げ物の操作方法について、要点、注意点を学ぶ。赤だし味噌の扱い方を学ぶ。
	(	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛

	教室外学習 予習・復習)の内容	り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第7回	**授業テーマ**	魚のおろし方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	魚の鮮度の見分け方、衛生的な取り扱い方、三枚おろしについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第8回	**授業テーマ**	焼く操作②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	魚の焼き方について実習を通して学ぶ。三枚おろしを習得する。 実習ノート中間提出。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第9回	**授業テーマ**	煮る操作①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	豆腐の水切り方法、炊き合わせについて学ぶ。また、和え物の要点について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第10回	**授業テーマ**	煮る操作②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ササゲ豆の扱い方、米への着色方法を学ぶ。また、豆等の煮方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第11回	**授業テーマ**	すし飯の炊飯、調味
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	すし飯のための炊飯の要点、合わせ酢の割合について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
	授業テーマ	実技試験

第12回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	魚の三枚おろしの実技試験を行う。 実技試験後は簡単な調理を行い、試食をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	魚の三枚おろしの要点を確認し、復習をしておくこと。
	教室外学習の時間(分)	120分
第13回	授業テーマ	夏向き献立
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習を通してゆで麺の扱い方、要点を学ぶ。寒天の扱い方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第14回	授業テーマ	まとめ 実習室の整備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	まとめと振り返り。 包丁の研ぎ方の基本を理解する。半期使用した実習室の整備をする。 実習ノート提出
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを完成させる。
	教室外学習の時間(分)	120分

学習計画注記

授業の進行状況により、変更が生じる場合があります。

学生へのフィードバック方法

デモンストレーション後、技術面の指導やサポートを行います。その他質問等がある場合は、1402まで訪問するか、e-mailで問い合わせをして下さい。

評価方法

実技試験
実習ノート：指定した項目の記載内容について評価する。
平常点：授業の参加状況、実習時の身だしなみ、班での取り組み状況等を総合的に判断する。
(ルーブリックでの評価を行う。ルーブリックは授業内で公開する。)

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実技試験	○	○		○
実習ノート	○			
平常点	○	○	○	

評価割合

実技試験20%、実習ノート40%、平常点40%

使用教科書名(ISBN番号)

「調理の基本 まるわかり便利帳」 女子栄養大学出版部（978-4-7895-0523-9）

参考図書

必要に応じてプリントを配布する

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【思考・判断】正確な情報を収集して理論的批判的に思考し、健康・栄養課題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】他者と協働するための共感力を身につけている。
【技能・表現】調理加工の専門的技能を身につけている。

オフィスアワー

木曜日3時限 1402

学生へのメッセージ

調理技術の向上は、何度も経験することが大切です。授業だけでなく、日々の生活の中でも積極的に調理に関わって行きましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、集団給食施設において業務に携わった経験を踏まえ、基礎調理学実習を担当する上で調理の理論と技術を実学的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02030032
講義名	基礎調理学実習（HB）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	綿貫 仁美	指定なし

ナンバリング

H12307C13

授業概要(教育目的)

調理は様々な地域の気候、風土、宗教などを背景に、その地域に最も適した食品の食べ方として、家庭や調理人らにより伝承されてきた食文化である。本実習では、非加熱調理操作、加熱調理操作、調味操作においてそれぞれ基礎的な調理操作と技術を主に日本料理を中心に修得する。また、安全・衛生的な食品の取り扱い方、食品に適した食器の選び方、食卓の演出、食事のマナーなど、調理の基礎を総合的に学ぶことを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	基本的な調理操作、器具の正しい使用方法を説明できる。 実習で用いた食材の名称、調理特性、調理法を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食材、器具の衛生的な取り扱いをすることができる。 調理の進み具合を把握し、次の手順を判断し実践できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	調理の作業を班員と協力し合いながら積極的に関わる事ができる。
技術・表現の観点 (A)	衛生的かつ無駄のない食材の扱いができる。

学習計画

基礎調理学実習

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	実習授業の流れ、調理実習における基本的な注意事項を理解

第1回	育・ICT活用を含む)	する。調理室の機器類、調理器具類の確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。配布プリントを復習し、次週からの実習に備える。
	教室外学習の時間(分)	60分
第2回	授業テーマ	計量の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デジタル秤および計量スプーンの正しい使い方を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デジタル秤、計量スプーンの使い方について確認し、復習をしておくこと。プリントを完成させる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第3回	授業テーマ	蒸す操作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	五節句について学ぶ。柏餅を作り、蒸し器の扱い方を学ぶ。日本茶の基礎的な知識と基本的な煎茶の入れ方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第4回	授業テーマ	炊飯の方法 基本の出汁のひき方 野菜の切り方 ゆでる操作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	炊飯の調理工程を理解する。正しい包丁の持ち方、立ち方、野菜の基本的な切り方を理解する。基本の出汁のひき方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第5回	授業テーマ	焼く操作①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肉の切り方、肉の焼き方について、要点、注意点を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第6回	授業テーマ	味付けご飯の調味 揚げる操作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	味付けご飯について、調味の加減、調味料の添加のタイミングを学ぶ。揚げ物の操作方法について、要点、注意点を学ぶ。赤だし味噌の扱い方を学ぶ。
	(	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛

	教室外学習 予習・復習)の内容	り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第7回	**授業テーマ**	魚のおろし方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	魚の鮮度の見分け方、衛生的な取り扱い方、三枚おろしについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第8回	**授業テーマ**	焼く操作②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	魚の焼き方について実習を通して学ぶ。三枚おろしを習得する。 実習ノート中間提出。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第9回	**授業テーマ**	煮る操作①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	豆腐の水切り方法、炊き合わせについて学ぶ。また、和え物の要点について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第10回	**授業テーマ**	煮る操作②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ササゲ豆の扱い方、米への着色方法を学ぶ。また、豆等の煮方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第11回	**授業テーマ**	すし飯の炊飯、調味
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	すし飯のための炊飯の要点、合わせ酢の割合について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
	授業テーマ	実技試験

第12回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	魚の三枚おろしの実技試験を行う。 実技試験後は簡単な調理を行い、試食をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	魚の三枚おろしの要点を確認し、復習をしておくこと。
	教室外学習の時間(分)	120分
第13回	授業テーマ	夏向き献立
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習を通してゆで麺の扱い方、要点を学ぶ。寒天の扱い方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第14回	授業テーマ	まとめ 実習室の整備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	まとめと振り返り。 包丁の研ぎ方の基本を理解する。半期使用した実習室の整備をする。 実習ノート提出
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを完成させる。
	教室外学習の時間(分)	120分

学習計画注記

授業の進行状況により、変更が生じる場合があります。

学生へのフィードバック方法

デモンストレーション後、技術面の指導やサポートを行います。その他質問等がある場合は、1402まで訪問するか、e-mailで問い合わせをして下さい。

評価方法

実技試験
実習ノート：指定した項目の記載内容について評価する。
平常点：授業の参加状況、実習時の身だしなみ、班での取り組み状況等を総合的に判断する。
(ルーブリックでの評価を行う。ルーブリックは授業内で公開する。)

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実技試験	○	○		○
実習ノート	○			
平常点	○	○	○	

評価割合

実技試験20%、実習ノート40%、平常点40%

使用教科書名(ISBN番号)

「調理の基本 まるわかり便利帳」 女子栄養大学出版部（978-4-7895-0523-9）

参考図書

必要に応じてプリントを配布する

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【思考・判断】正確な情報を収集して理論的批判的に思考し、健康・栄養課題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】他者と協働するための共感力を身につけている。
【技能・表現】調理加工の専門的技能を身につけている。

オフィスアワー

木曜日3時限 1402

学生へのメッセージ

調理技術の向上は、何度も経験することが大切です。授業だけでなく、日々の生活の中でも積極的に調理に関わって行きましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、集団給食施設において業務に携わった経験を踏まえ、基礎調理学実習を担当する上で調理の理論と技術を実学的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02030033
講義名	基礎調理学実習（HC）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	綿貫 仁美	指定なし

ナンバリング

H12307C13

授業概要(教育目的)

調理は様々な地域の気候、風土、宗教などを背景に、その地域に最も適した食品の食べ方として、家庭や調理人らにより伝承されてきた食文化である。本実習では、非加熱調理操作、加熱調理操作、調味操作においてそれぞれ基礎的な調理操作と技術を主に日本料理を中心に修得する。また、安全・衛生的な食品の取り扱い方、食品に適した食器の選び方、食卓の演出、食事のマナーなど、調理の基礎を総合的に学ぶことを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	基本的な調理操作、器具の正しい使用方法を説明できる。 実習で用いた食材の名称、調理特性、調理法を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食材、器具の衛生的な取り扱いをすることができる。 調理の進み具合を把握し、次の手順を判断し実践できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	調理の作業を班員と協力し合いながら積極的に関わる事ができる。
技術・表現の観点 (A)	衛生的かつ無駄のない食材の扱いができる。

学習計画

基礎調理学実習

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	実習授業の流れ、調理実習における基本的な注意事項を理解

第1回	育・ICT活用を含む)	する。調理室の機器類、調理器具類の確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。配布プリントを復習し、次週からの実習に備える。
	教室外学習の時間(分)	60分
第2回	授業テーマ	計量の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デジタル秤および計量スプーンの正しい使い方を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デジタル秤、計量スプーンの使い方について確認し、復習をしておくこと。プリントを完成させる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第3回	授業テーマ	蒸す操作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	五節句について学ぶ。柏餅を作り、蒸し器の扱い方を学ぶ。日本茶の基礎的な知識と基本的な煎茶の入れ方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第4回	授業テーマ	炊飯の方法 基本の出汁のひき方 野菜の切り方 ゆでる操作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	炊飯の調理工程を理解する。正しい包丁の持ち方、立ち方、野菜の基本的な切り方を理解する。基本の出汁のひき方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第5回	授業テーマ	焼く操作①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肉の切り方、肉の焼き方について、要点、注意点を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第6回	授業テーマ	味付けご飯の調味 揚げる操作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	味付けご飯について、調味の加減、調味料の添加のタイミングを学ぶ。揚げ物の操作方法について、要点、注意点を学ぶ。赤だし味噌の扱い方を学ぶ。
	(	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛

	教室外学習 予習・復習)の内容	り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第7回	**授業テーマ**	魚のおろし方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	魚の鮮度の見分け方、衛生的な取り扱い方、三枚おろしについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第8回	**授業テーマ**	焼く操作②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	魚の焼き方について実習を通して学ぶ。三枚おろしを習得する。 実習ノート中間提出。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第9回	**授業テーマ**	煮る操作①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	豆腐の水切り方法、炊き合わせについて学ぶ。また、和え物の要点について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第10回	**授業テーマ**	煮る操作②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ササゲ豆の扱い方、米への着色方法を学ぶ。また、豆等の煮方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第11回	**授業テーマ**	すし飯の炊飯、調味
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	すし飯のための炊飯の要点、合わせ酢の割合について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
	授業テーマ	実技試験

第12回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	魚の三枚おろしの実技試験を行う。 実技試験後は簡単な調理を行い、試食をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	魚の三枚おろしの要点を確認し、復習をしておくこと。
	教室外学習の時間(分)	120分
第13回	授業テーマ	夏向き献立
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習を通してゆで麺の扱い方、要点を学ぶ。寒天の扱い方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを作成する。料理名、材料名、分量、作り方、盛り付け図(写真)、調理上のポイント、出来上がりの評価等を記録する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第14回	授業テーマ	まとめ 実習室の整備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	まとめと振り返り。 包丁の研ぎ方の基本を理解する。半期使用した実習室の整備をする。 実習ノート提出
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを完成させる。
	教室外学習の時間(分)	120分

学習計画注記

授業の進行状況により、変更が生じる場合があります。

学生へのフィードバック方法

デモンストレーション後、技術面の指導やサポートを行います。その他質問等がある場合は、1402まで訪問するか、e-mailで問い合わせをして下さい。

評価方法

実技試験
実習ノート：指定した項目の記載内容について評価する。
平常点：授業の参加状況、実習時の身だしなみ、班での取り組み状況等を総合的に判断する。
(ルーブリックでの評価を行う。ルーブリックは授業内で公開する。)

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実技試験	○	○		○
実習ノート	○			
平常点	○	○	○	

評価割合

実技試験20%、実習ノート40%、平常点40%

使用教科書名(ISBN番号)

「調理の基本 まるわかり便利帳」 女子栄養大学出版部（978-4-7895-0523-9）

参考図書

必要に応じてプリントを配布する

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【思考・判断】正確な情報を収集して理論的批判的に思考し、健康・栄養課題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】他者と協働するための共感力を身につけている。
【技能・表現】調理加工の専門的技能を身につけている。

オフィスアワー

木曜日3時限 1402

学生へのメッセージ

調理技術の向上は、何度も経験することが大切です。授業だけでなく、日々の生活の中でも積極的に調理に関わって行きましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、集団給食施設において業務に携わった経験を踏まえ、基礎調理学実習を担当する上で調理の理論と技術を実学的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02031031
講義名	応用調理学実習（1HA）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	大富 あき子	指定なし

ナンバリング

H12308C13

授業概要(教育目的)

基礎調理で学んだことをふまえ、諸外国の料理や行事食、郷土食の調理を通し調理技術の向上を図る。授業中はもとより自宅でも日々調理を行い調理に慣れること。
基礎調理学実習と同様に毎回決められたテーマにそって3～4品の献立を4～5人のグループごとに調理する。
授業の前に実習内容を把握して予習プリントを作成し実習に臨むこと。授業後は実習の反省点や調べた内容を事後レポートに記入する。以上で1回の授業が完結するので、１つでも提出物が出されないと授業が完結したことにならない。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	応用的な調理技術と器具類の正しい使用方法を身に付け実践できる。
思考・判断の観点 (K)	郷土料理や各国の食文化を理解しながら調理が実践できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	班員と協力し合いながら遂行できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

応用調理学実習

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	これから実習を行うにあたり、基本的は注意事項を理解

第1回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	する。調理室の機器類、および調理器具類の確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	実習の基礎
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理の基礎である軽量の練習 他
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	日本料理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	秋の献立を調理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	西洋料理１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フランスの食文化を理解しながらサンドイッチ等を調理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	西洋料理２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パスタについて理解しながらイタリア料理を調理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	中国料理１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中国の食文化を理解しながら中国料理を調理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	中国料理２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	揚げる、焼く、蒸す操作を入れながら中国料理を調理する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	簡単な実習と行事食の講義１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シュークリームのシューの膨化理論を考えながら調理する。次週の行事食について予習的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	行事食１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クリスマスの意味を理解しながらパーティー料理を調理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	簡単な実習と行事食の講義２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ぜんざいを作る。次週の行事食について予習的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	行事食２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	正月の行事について理解しながら数品のおせち料理を調理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	まとめ、器具類の確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	半年間のまとめと調理室の器具類の確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	半年間学んだことを総合的に復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	実技試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	応用調理学実習で取り上げた料理の中から１～2品の実技試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。

	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	実技試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	応用調理学実習で取り上げた料理の中から１～2品の実技試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分

学生へのフィードバック方法

学生が提出したレポートの内容を確認した後に返却、授業にて再度の解説を実施します。さらに質問や問い合わせがある場合には、１B04研究室（大富）まで訪問してください。（不在時はe-mailも可）

評価方法

ルーブリックに基づく成績評価とし、ルーブリックについては授業内での配布等により掲示する。

各種提出物（予習用プリント、復習のレポート、衛生チェックシート）
実技試験
課題レポート
平常点（実習時の身だしなみ、班での取り組み状況等）
以上を総合的に判断する。

なお、実技試験および課題レポート実施までに失格に該当する欠席回数の場合には、試験の受験は出来ません。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
各種提出物	○			
実技試験	○	○		
課題レポート	○			
平常点			○	

評価割合

各種提出物30%
実技試験30%
課題レポート20%
平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

「新調理学実習第2版」宮下朋子、村元美代（同文書院）ISBN 978-4-8103-1457-1

参考図書

「八訂食品成分表2025」女子栄養大学出版部、ISBN 978-4-7895-1023-3
「調理の基本まるわかり便利帳」女子栄養大学出版部、ISBN 978-4-7895-0523-9

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。
【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養問題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度

を身につけている。

オフィスアワー

木曜日3時限 1B04研究室 （大富あき子）

学生へのメッセージ

調理技術向上には授業を受けるだけではなく日々の生活で調理を行うことが一番効果的です。「調理が楽しくて好き」と言えるようになりましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において食品の研究開発に関する実務経験を有しており、商品を開発をする上で調理学的知識を活用して調理も実施していたので、この科目ではそれらの理論と実践を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	実習という科目の性質上、学生らは班ごとに実習を遂行し、出来た料理の評価についてディスカッションしてレポートを作成する。
情報リテラシー教育	○	レポート作成の方法を学ぶ。
ICT活用		

講義コード	H02031032
講義名	応用調理学実習（1HB）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	大富 あき子	指定なし

ナンバリング

H12308C13

授業概要(教育目的)

基礎調理で学んだことをふまえ、諸外国の料理や行事食、郷土食の調理を通し調理技術の向上を図る。授業中はもとより自宅でも日々調理を行い調理に慣れること。
基礎調理学実習と同様に毎回決められたテーマにそって3～4品の献立を4～5人のグループごとに調理する。
授業の前に実習内容を把握して予習プリントを作成し実習に臨むこと。授業後は実習の反省点や調べた内容を事後レポートに記入する。以上で1回の授業が完結するので、１つでも提出物が出されないと授業が完結したことにならない。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	応用的な調理技術と器具類の正しい使用方法を身に付け実践できる。
思考・判断の観点 (K)	郷土料理や各国の食文化を理解しながら調理が実践できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	班員と協力し合いながら遂行できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

応用調理学実習

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	これから実習を行うにあたり、基本的は注意事項を理解

第1回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	する。調理室の機器類、および調理器具類の確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	実習の基礎
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理の基礎である軽量の練習 他
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	日本料理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	秋の献立を調理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	西洋料理１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フランスの食文化を理解しながらサンドイッチ等を調理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	西洋料理２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パスタについて理解しながらイタリア料理を調理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	中国料理１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中国の食文化を理解しながら中国料理を調理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	中国料理２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	揚げる、焼く、蒸す操作を入れながら中国料理を調理する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	簡単な実習と行事食の講義１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シュークリームのシューの膨化理論を考えながら調理する。次週の行事食について予習的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	行事食１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クリスマスの意味を理解しながらパーティー料理を調理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	簡単な実習と行事食の講義２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ぜんざいを作る。次週の行事食について予習的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	行事食２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	正月の行事について理解しながら数品のおせち料理を調理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	まとめ、器具類の確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	半年間のまとめと調理室の器具類の確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	半年間学んだことを総合的に復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	実技試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	応用調理学実習で取り上げた料理の中から１～2品の実技試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。

	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	実技試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	応用調理学実習で取り上げた料理の中から１～2品の実技試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分

学生へのフィードバック方法

学生が提出したレポートの内容を確認した後に返却、授業にて再度の解説を実施します。さらに質問や問い合わせがある場合には、１B04研究室（大富）まで訪問してください。（不在時はe-mailも可）

評価方法

ルーブリックに基づく成績評価とし、ルーブリックについては授業内での配布等により掲示する。

各種提出物（予習用プリント、復習のレポート、衛生チェックシート）
実技試験
課題レポート
平常点（実習時の身だしなみ、班での取り組み状況等）
以上を総合的に判断する。

なお、実技試験および課題レポート実施までに失格に該当する欠席回数の場合には、試験の受験は出来ません。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
各種提出物	○			
実技試験	○	○		
課題レポート	○			
平常点			○	

評価割合

各種提出物30%
実技試験30%
課題レポート20%
平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

「新調理学実習第2版」宮下朋子、村元美代（同文書院）ISBN 978-4-8103-1457-1

参考図書

「八訂食品成分表2025」女子栄養大学出版部、ISBN 978-4-7895-1023-3
「調理の基本まるわかり便利帳」女子栄養大学出版部、ISBN 978-4-7895-0523-9

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。
【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養問題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度

を身につけている。

オフィスアワー

木曜日3時限 1B04研究室 （大富あき子）

学生へのメッセージ

調理技術向上には授業を受けるだけではなく日々の生活で調理を行うことが一番効果的です。「調理が楽しくて好き」と言えるようになりましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において食品の研究開発に関する実務経験を有しており、商品を開発をする上で調理学的知識を活用して調理も実施していたので、この科目ではそれらの理論と実践を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	実習という科目の性質上、学生らは班ごとに実習を遂行し、出来た料理の評価についてディスカッションしてレポートを作成する。
情報リテラシー教育	○	レポート作成の方法を学ぶ。
ICT活用		

講義コード	H02031033
講義名	応用調理学実習（1HC）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	大富 あき子	指定なし

ナンバリング

H12308C13

授業概要(教育目的)

基礎調理で学んだことをふまえ、諸外国の料理や行事食、郷土食の調理を通し調理技術の向上を図る。授業中はもとより自宅でも日々調理を行い調理に慣れること。
基礎調理学実習と同様に毎回決められたテーマにそって3～4品の献立を4～5人のグループごとに調理する。
授業の前に実習内容を把握して予習プリントを作成し実習に臨むこと。授業後は実習の反省点や調べた内容を事後レポートに記入する。以上で1回の授業が完結するので、１つでも提出物が出されないと授業が完結したことにならない。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	応用的な調理技術と器具類の正しい使用方法を身に付け実践できる。
思考・判断の観点 (K)	郷土料理や各国の食文化を理解しながら調理が実践できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	班員と協力し合いながら遂行できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

応用調理学実習

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	これから実習を行うにあたり、基本的は注意事項を理解

第1回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	する。調理室の機器類、および調理器具類の確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	実習の基礎
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理の基礎である軽量の練習 他
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	日本料理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	秋の献立を調理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	西洋料理１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フランスの食文化を理解しながらサンドイッチ等を調理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	西洋料理２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パスタについて理解しながらイタリア料理を調理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	中国料理１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中国の食文化を理解しながら中国料理を調理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	中国料理２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	揚げる、焼く、蒸す操作を入れながら中国料理を調理する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	簡単な実習と行事食の講義１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シュークリームのシューの膨化理論を考えながら調理する。次週の行事食について予習的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	行事食１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クリスマスの意味を理解しながらパーティー料理を調理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	簡単な実習と行事食の講義２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ぜんざいを作る。次週の行事食について予習的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	行事食２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	正月の行事について理解しながら数品のおせち料理を調理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	まとめ、器具類の確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	半年間のまとめと調理室の器具類の確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	半年間学んだことを総合的に復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	実技試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	応用調理学実習で取り上げた料理の中から１～2品の実技試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。

	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	実技試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	応用調理学実習で取り上げた料理の中から１～2品の実技試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分

学生へのフィードバック方法

学生が提出したレポートの内容を確認した後に返却、授業にて再度の解説を実施します。さらに質問や問い合わせがある場合には、１B04研究室（大富）まで訪問してください。（不在時はe-mailも可）

評価方法

ルーブリックに基づく成績評価とし、ルーブリックについては授業内での配布等により掲示する。

各種提出物（予習用プリント、復習のレポート、衛生チェックシート）
実技試験
課題レポート
平常点（実習時の身だしなみ、班での取り組み状況等）
以上を総合的に判断する。

なお、実技試験および課題レポート実施までに失格に該当する欠席回数の場合には、試験の受験は出来ません。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
各種提出物	○			
実技試験	○	○		
課題レポート	○			
平常点			○	

評価割合

各種提出物30%
実技試験30%
課題レポート20%
平常点20%

使用教科書名(ISBN番号)

「新調理学実習第2版」宮下朋子、村元美代（同文書院）ISBN 978-4-8103-1457-1

参考図書

「八訂食品成分表2025」女子栄養大学出版部、ISBN 978-4-7895-1023-3
「調理の基本まるわかり便利帳」女子栄養大学出版部、ISBN 978-4-7895-0523-9

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。
【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養問題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度

を身につけている。

オフィスアワー

木曜日3時限 1B04研究室 （大富あき子）

学生へのメッセージ

調理技術向上には授業を受けるだけではなく日々の生活で調理を行うことが一番効果的です。「調理が楽しくて好き」と言えるようになりましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において食品の研究開発に関する実務経験を有しており、商品を開発をする上で調理学的知識を活用して調理も実施していたので、この科目ではそれらの理論と実践を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	実習という科目の性質上、学生らは班ごとに実習を遂行し、出来た料理の評価についてディスカッションしてレポートを作成する。
情報リテラシー教育	○	レポート作成の方法を学ぶ。
ICT活用		

講義コード	H02032031
講義名	食事計画論実習（HA）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	加藤 理津子	指定なし

ナンバリング

H12309C13

授業概要(教育目的)

管理栄養士業務の基本は、対象者の状態に応じた栄養管理を適切に運営することである。そのためには、栄養状態の診断結果を客観的に分析する力、必要な支援計画を立案する力、目標達成に向け計画を運営する力が必要となる。
そこで、本実習では、栄養管理の要となる食事計画について、栄養管理の手順に沿って実践しながら、対象者の健康状態に応じた栄養管理を行うために必要な知識と技術の習得を目標とする。また、食事計画の立案にあたっては、平成25年にユネスコ無形文化遺産に登録された「和食：日本人の伝統的な食文化」をベースに、「栄養素」、「食品」、「料理」、「食事」、「生活習慣」を適切に選択し、食事計画を立案できる力を育成する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	①栄養管理の実践に必要な基礎知識を身につけている。 ②栄養管理の目的および手順を理解し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	対象者の健康状態に応じた「栄養素」、「食品」、「料理」、「食事」を選択できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	班員と協力しながら積極的にかかわることができる。
技術・表現の観点 (A)	①栄養管理の手順に基づいた食事計画を運営できる。 ②栄養管理計画の作成に必要な知識（食事摂取基準、食品成分表、食品構成、食文化等）を適切に使用しながら創意工夫して食事計画を立案できる。

学習計画		
第1回	授業テーマ	オリエンテーション：授業の概要、授業の進め方、諸注意事項など 課題：献立の分析①（１品の適量の理解）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	(1)授業の学習目標を確認する。 (2)献立作成の基礎を身につけるために、１品の適正量を確認する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：シラバスを確認し、学習目標を理解する。「人間栄養学原論」の学習内容をワークシートをもとに振り返る。 復習：実習内容を振り返り、まとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	栄養価計算の復習 課題：献立の分析②（調理法による栄養価の違い）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	献立作成の基礎を身につけるために、食品および調理法による栄養価の違いを確認する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「基礎調理学実習」と「人間栄養学原論」の学習内容を振り返る。 復習：実習内容を振り返り、まとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	栄養管理の手順と栄養アセスメント 課題：症例分析①（栄養アセスメントを実践）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「人間栄養学原論」で学習した栄養管理の基本的知識を振り返り、栄養アセスメントを実践する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「人間栄養学原論」で学習した栄養管理と栄養アセスメントの内容を振り返る。 復習：実習内容を振り返り、まとめる。期限までに課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	栄養管理の手順と目標設定 課題：症例分析②（給与栄養目標量の設定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アセスメントの分析結果にもとづき、1日に摂取するエネルギーおよび栄養素の摂取目標量を設定する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「人間栄養学原論」で学習した「食事摂取基準[2020年版]」の内容を振り返る。 復習：目標および給与栄養目標量の設定内容が適切であるかどうか、資料類および「食事摂取基準[2020年版]」で確認し、期日までに課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	食品構成の作成 課題：症例分析③（食品構成表の作成）

第5回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の「給与栄養目標量」を達成するための食品群ごとの摂取量を決定し、食品構成表を作成する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：食品構成の設定内容が適切であるかどうかを確認し、期日までに課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	症例の確認 課題①：旬カレンダー作り 課題②：献立の分析③（見本献立の分析）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	献立作成の準備のための情報収集として、旬カレンダーを作成および見本献立の分析を行う。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：「人間栄養学原論」の学習内容をもとに見本献立を分析し、期日までに課題を提出する。 見本献立の内容および作業工程を覚える。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	課題：見本献立の調理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	見本献立を調理し、特徴を整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：調理実習室に入室する準備を行う。見本献立の内容および作業工程を覚える。 復習：実習内容を振り返り、まとめる。期限までに課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	見本献立の確認 課題：献立作成①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	献立構成の決定料理様式、調理法、料理の組み合わせを考慮し、食品構成（第5回時に作成）をもとに献立を作成する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「人間栄養学原論」のワークシートをもとに望ましい献立構成を確認する。 復習：設定した献立が適切であるか、ワークシートやテキスト類をもとに確認する。ワークシートに記録する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	課題：献立作成②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	献立構成の栄養計算使用する食材や使用量の栄養価を算出し、第4回で決定した給与栄養目標量の範囲内であることを確認する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：給与栄養目標量の範囲内となるよう献立の栄養価、味、見た目などを確認・調整し、期日までに課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分

第10回	授業テーマ	課題：献立作成③献立修正、作業工程の作成、発注伝票の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	献立の構成、組み合わせ、栄養価を確認する。また調理工程を確認し、実施計画を立てる。献立を実施するにあたり必要な食材を調達するため、発注伝票を作成する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：発注量を確認し、期日までに伝票を提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	課題：献立の実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	計画にもとづき調理を行い、評価する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：調理工程を覚え、調理実習室に入室する準備を行う。 復習：調理工程、献立の内容を振り返り、まとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	課題：栄養管理の分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	献立の分析とプレゼンテーション用のスライド作成を行う。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート、スライド等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：プレゼンテーションの練習を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	課題：調理実習室の衛生管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理実習室の衛生管理を実践する
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：調理実習室に入室する準備を行う。 復習：調理実習室の使い方、配置、食器の種類等を確認する。
	教室外学習の時間（分）	30分
第14回	授業テーマ	課題：プレゼンテーション、まとめ作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養管理について分析した結果を発表する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート、スライド等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：プレゼンテーションの練習を行う。 復習：実習内容を振り返り、まとめる。期限までに課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

進行状況および感染症の流行状況によって内容を前後させる場合がある。
変更が生じる場合には事前に連絡をするので、メールを常に受信できるようにし、また受信内容を直ちに確認する。

学生へのフィードバック方法

授業の進行にしたがってワークシートに入力したものを、その都度確認し、返却する。

評価方法

提出物45%、定期試験30%、プレゼンテーション10%、平常点15%を総合的に評価する。
ルーブリックに基づく成績評価とし、ルーブリックについては授業内で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
提出物	○	○	○	○
定期試験	○	○		
平常点			○	○
プレゼンテーション	○	○		○

評価割合

提出物45%、定期試験30%、プレゼンテーション10%、平常点15%を総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

「八訂食品成分表」 女子栄養大出版部
「調理の基本 まるわかり便利帳」 女子栄養大出版部
「日本人の食事摂取基準[2025年版]」第一出版

参考図書

適宜紹介する

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。
【思考・判断】現代の食・栄養の課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
【技能・表現】健康のための栄養管理に関する技能とともに、コミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

水曜日・昼休み（1B05研究室）

学生へのメッセージ

１）受講にあたり、以下の内容に取り組むことを期待する。
○遅刻や欠席、私語、内職、居眠りを慎み、メモを取るなど主体的に取り組む。
○計画的に予習、復習に取り組み、理解を深めるよう努める。
○提出物は、手順や締め切りを守り、学習した内容を理論的に書くよう努める。
２）電卓を用意する。試験時の携帯電話等、情報機器類の持ち込みは不可とする。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、スポーツ栄養の現場、行政施設等での実務経験を有しており、対象者に応じた栄養管理業務について理論と技術を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	栄養管理計画の立案から評価・改善までの一連の手法の実践、報告書の作成、ディスカッションや成果発表などを通し、栄養管理遂行のための実践力、プレゼンテーション能力を養う。

情報リテラシー教育	○	情報機器類を用いて問題解決に必要な情報を収集し、分析する。
ICT活用	○	レポートの課題やスライドを情報機器類を用いて作成し、提出および発表する。

講義コード	H02032032
講義名	食事計画論実習（HB）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	加藤 理津子	指定なし

ナンバリング

H12309C13

授業概要(教育目的)

管理栄養士業務の基本は、対象者の状態に応じた栄養管理を適切に運営することである。そのためには、栄養状態の診断結果を客観的に分析する力、必要な支援計画を立案する力、目標達成に向け計画を運営する力が必要となる。
そこで、本実習では、栄養管理の要となる食事計画について、栄養管理の手順に沿って実践しながら、対象者の健康状態に応じた栄養管理を行うために必要な知識と技術の習得を目標とする。また、食事計画の立案にあたっては、平成25年にユネスコ無形文化遺産に登録された「和食：日本人の伝統的な食文化」をベースに、「栄養素」、「食品」、「料理」、「食事」、「生活習慣」を適切に選択し、食事計画を立案できる力を育成する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	①栄養管理の実践に必要な基礎知識を身につけている。 ②栄養管理の目的および手順を理解し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	対象者の健康状態に応じた「栄養素」、「食品」、「料理」、「食事」を選択できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	班員と協力しながら積極的にかかわることができる。
技術・表現の観点 (A)	①栄養管理の手順に基づいた食事計画を運営できる。 ②栄養管理計画の作成に必要な知識（食事摂取基準、食品成分表、食品構成、食文化等）を適切に使用しながら創意工夫して食事計画を立案できる。

学習計画		
第1回	授業テーマ	オリエンテーション：授業の概要、授業の進め方、諸注意事項など 課題：献立の分析①（１品の適量の理解）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	(1)授業の学習目標を確認する。 (2)献立作成の基礎を身につけるために、１品の適正量を確認する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：シラバスを確認し、学習目標を理解する。「人間栄養学原論」の学習内容をワークシートをもとに振り返る。 復習：実習内容を振り返り、まとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	栄養価計算の復習 課題：献立の分析②（調理法による栄養価の違い）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	献立作成の基礎を身につけるために、食品および調理法による栄養価の違いを確認する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「基礎調理学実習」と「人間栄養学原論」の学習内容を振り返る。 復習：実習内容を振り返り、まとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	栄養管理の手順と栄養アセスメント 課題：症例分析①（栄養アセスメントを実践）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「人間栄養学原論」で学習した栄養管理の基本的知識を振り返り、栄養アセスメントを実践する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「人間栄養学原論」で学習した栄養管理と栄養アセスメントの内容を振り返る。 復習：実習内容を振り返り、まとめる。期限までに課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	栄養管理の手順と目標設定 課題：症例分析②（給与栄養目標量の設定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アセスメントの分析結果にもとづき、1日に摂取するエネルギーおよび栄養素の摂取目標量を設定する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「人間栄養学原論」で学習した「食事摂取基準[2020年版]」の内容を振り返る。 復習：目標および給与栄養目標量の設定内容が適切であるかどうか、資料類および「食事摂取基準[2020年版]」で確認し、期日までに課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	食品構成の作成 課題：症例分析③（食品構成表の作成）

第5回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の「給与栄養目標量」を達成するための食品群ごとの摂取量を決定し、食品構成表を作成する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：食品構成の設定内容が適切であるかどうかを確認し、期日までに課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	症例の確認 課題①：旬カレンダー作り 課題②：献立の分析③（見本献立の分析）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	献立作成の準備のための情報収集として、旬カレンダーを作成および見本献立の分析を行う。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：「人間栄養学原論」の学習内容をもとに見本献立を分析し、期日までに課題を提出する。 見本献立の内容および作業工程を覚える。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	課題：見本献立の調理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	見本献立を調理し、特徴を整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：調理実習室に入室する準備を行う。見本献立の内容および作業工程を覚える。 復習：実習内容を振り返り、まとめる。期限までに課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	見本献立の確認 課題：献立作成①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	献立構成の決定料理様式、調理法、料理の組み合わせを考慮し、食品構成（第5回時に作成）をもとに献立を作成する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「人間栄養学原論」のワークシートをもとに望ましい献立構成を確認する。 復習：設定した献立が適切であるか、ワークシートやテキスト類をもとに確認する。ワークシートに記録する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	課題：献立作成②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	献立構成の栄養計算使用する食材や使用量の栄養価を算出し、第4回で決定した給与栄養目標量の範囲内であることを確認する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：給与栄養目標量の範囲内となるよう献立の栄養価、味、見た目などを確認・調整し、期日までに課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分

第10回	授業テーマ	課題：献立作成③献立修正、作業工程の作成、発注伝票の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	献立の構成、組み合わせ、栄養価を確認する。また調理工程を確認し、実施計画を立てる。献立を実施するにあたり必要な食材を調達するため、発注伝票を作成する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：発注量を確認し、期日までに伝票を提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	課題：献立の実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	計画にもとづき調理を行い、評価する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：調理工程を覚え、調理実習室に入室する準備を行う。 復習：調理工程、献立の内容を振り返り、まとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	課題：栄養管理の分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	献立の分析とプレゼンテーション用のスライド作成を行う。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート、スライド等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：プレゼンテーションの練習を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	課題：調理実習室の衛生管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理実習室の衛生管理を実践する
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：調理実習室に入室する準備を行う。 復習：調理実習室の使い方、配置、食器の種類等を確認する。
	教室外学習の時間（分）	30分
第14回	授業テーマ	課題：プレゼンテーション、まとめ作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養管理について分析した結果を発表する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート、スライド等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：プレゼンテーションの練習を行う。 復習：実習内容を振り返り、まとめる。期限までに課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

進行状況および感染症の流行状況によって内容を前後させる場合がある。
変更が生じる場合には事前に連絡をするので、メールを常に受信できるようにし、また受信内容を直ちに確認する。

学生へのフィードバック方法

授業の進行にしたがってワークシートに入力したものを、その都度確認し、返却する。

評価方法

提出物45%、定期試験30%、プレゼンテーション10%、平常点15%を総合的に評価する。
ルーブリックに基づく成績評価とし、ルーブリックについては授業内で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
提出物	○	○	○	○
定期試験	○	○		
平常点			○	○
プレゼンテーション	○	○		○

評価割合

提出物45%、定期試験30%、プレゼンテーション10%、平常点15%を総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

「八訂食品成分表」 女子栄養大出版部
「調理の基本 まるわかり便利帳」 女子栄養大出版部
「日本人の食事摂取基準[2025年版]」第一出版

参考図書

適宜紹介する

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。
【思考・判断】現代の食・栄養の課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
【技能・表現】健康のための栄養管理に関する技能とともに、コミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

水曜日・昼休み（1B05研究室）

学生へのメッセージ

１）受講にあたり、以下の内容に取り組むことを期待する。
○遅刻や欠席、私語、内職、居眠りを慎み、メモを取るなど主体的に取り組む。
○計画的に予習、復習に取り組み、理解を深めるよう努める。
○提出物は、手順や締め切りを守り、学習した内容を理論的に書くよう努める。
２）電卓を用意する。試験時の携帯電話等、情報機器類の持ち込みは不可とする。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、スポーツ栄養の現場、行政施設等での実務経験を有しており、対象者に応じた栄養管理業務について理論と技術を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	栄養管理計画の立案から評価・改善までの一連の手法の実践、報告書の作成、ディスカッションや成果発表などを通し、栄養管理遂行のための実践力、プレゼンテーション能力を養う。

情報リテラシー教育	○	情報機器類を用いて問題解決に必要な情報を収集し、分析する。
ICT活用	○	レポートの課題やスライドを情報機器類を用いて作成し、提出および発表する。

講義コード	H02032033
講義名	食事計画論実習（HC）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	加藤 理津子	指定なし

ナンバリング

H12309C13

授業概要(教育目的)

管理栄養士業務の基本は、対象者の状態に応じた栄養管理を適切に運営することである。そのためには、栄養状態の診断結果を客観的に分析する力、必要な支援計画を立案する力、目標達成に向け計画を運営する力が必要となる。
そこで、本実習では、栄養管理の要となる食事計画について、栄養管理の手順に沿って実践しながら、対象者の健康状態に応じた栄養管理を行うために必要な知識と技術の習得を目標とする。また、食事計画の立案にあたっては、平成25年にユネスコ無形文化遺産に登録された「和食：日本人の伝統的な食文化」をベースに、「栄養素」、「食品」、「料理」、「食事」、「生活習慣」を適切に選択し、食事計画を立案できる力を育成する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	①栄養管理の実践に必要な基礎知識を身につけている。 ②栄養管理の目的および手順を理解し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	対象者の健康状態に応じた「栄養素」、「食品」、「料理」、「食事」を選択できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	班員と協力しながら積極的にかかわることができる。
技術・表現の観点 (A)	①栄養管理の手順に基づいた食事計画を運営できる。 ②栄養管理計画の作成に必要な知識（食事摂取基準、食品成分表、食品構成、食文化等）を適切に使用しながら創意工夫して食事計画を立案できる。

学習計画		
第1回	授業テーマ	オリエンテーション：授業の概要、授業の進め方、諸注意事項など 課題：献立の分析①（１品の適量の理解）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	(1)授業の学習目標を確認する。 (2)献立作成の基礎を身につけるために、１品の適正量を確認する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：シラバスを確認し、学習目標を理解する。「人間栄養学原論」の学習内容をワークシートをもとに振り返る。 復習：実習内容を振り返り、まとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	栄養価計算の復習 課題：献立の分析②（調理法による栄養価の違い）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	献立作成の基礎を身につけるために、食品および調理法による栄養価の違いを確認する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「基礎調理学実習」と「人間栄養学原論」の学習内容を振り返る。 復習：実習内容を振り返り、まとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	栄養管理の手順と栄養アセスメント 課題：症例分析①（栄養アセスメントを実践）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「人間栄養学原論」で学習した栄養管理の基本的知識を振り返り、栄養アセスメントを実践する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「人間栄養学原論」で学習した栄養管理と栄養アセスメントの内容を振り返る。 復習：実習内容を振り返り、まとめる。期限までに課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	栄養管理の手順と目標設定 課題：症例分析②（給与栄養目標量の設定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アセスメントの分析結果にもとづき、1日に摂取するエネルギーおよび栄養素の摂取目標量を設定する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「人間栄養学原論」で学習した「食事摂取基準[2020年版]」の内容を振り返る。 復習：目標および給与栄養目標量の設定内容が適切であるかどうか、資料類および「食事摂取基準[2020年版]」で確認し、期日までに課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	食品構成の作成 課題：症例分析③（食品構成表の作成）

第5回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の「給与栄養目標量」を達成するための食品群ごとの摂取量を決定し、食品構成表を作成する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：食品構成の設定内容が適切であるかどうかを確認し、期日までに課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	症例の確認 課題①：旬カレンダー作り 課題②：献立の分析③（見本献立の分析）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	献立作成の準備のための情報収集として、旬カレンダーを作成および見本献立の分析を行う。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：「人間栄養学原論」の学習内容をもとに見本献立を分析し、期日までに課題を提出する。 見本献立の内容および作業工程を覚える。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	課題：見本献立の調理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	見本献立を調理し、特徴を整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：調理実習室に入室する準備を行う。見本献立の内容および作業工程を覚える。 復習：実習内容を振り返り、まとめる。期限までに課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	見本献立の確認 課題：献立作成①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	献立構成の決定料理様式、調理法、料理の組み合わせを考慮し、食品構成（第5回時に作成）をもとに献立を作成する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「人間栄養学原論」のワークシートをもとに望ましい献立構成を確認する。 復習：設定した献立が適切であるか、ワークシートやテキスト類をもとに確認する。ワークシートに記録する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	課題：献立作成②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	献立構成の栄養計算使用する食材や使用量の栄養価を算出し、第4回で決定した給与栄養目標量の範囲内であることを確認する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：給与栄養目標量の範囲内となるよう献立の栄養価、味、見た目などを確認・調整し、期日までに課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分

第10回	授業テーマ	課題：献立作成③献立修正、作業工程の作成、発注伝票の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	献立の構成、組み合わせ、栄養価を確認する。また調理工程を確認し、実施計画を立てる。献立を実施するにあたり必要な食材を調達するため、発注伝票を作成する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：発注量を確認し、期日までに伝票を提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	課題：献立の実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	計画にもとづき調理を行い、評価する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：調理工程を覚え、調理実習室に入室する準備を行う。 復習：調理工程、献立の内容を振り返り、まとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	課題：栄養管理の分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	献立の分析とプレゼンテーション用のスライド作成を行う。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート、スライド等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：プレゼンテーションの練習を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	課題：調理実習室の衛生管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理実習室の衛生管理を実践する
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：調理実習室に入室する準備を行う。 復習：調理実習室の使い方、配置、食器の種類等を確認する。
	教室外学習の時間（分）	30分
第14回	授業テーマ	課題：プレゼンテーション、まとめ作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養管理について分析した結果を発表する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート、スライド等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：プレゼンテーションの練習を行う。 復習：実習内容を振り返り、まとめる。期限までに課題を提出する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

進行状況および感染症の流行状況によって内容を前後させる場合がある。
変更が生じる場合には事前に連絡をするので、メールを常に受信できるようにし、また受信内容を直ちに確認する。

学生へのフィードバック方法

授業の進行にしたがってワークシートに入力したものを、その都度確認し、返却する。

評価方法

提出物45%、定期試験30%、プレゼンテーション10%、平常点15%を総合的に評価する。
ルーブリックに基づく成績評価とし、ルーブリックについては授業内で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
提出物	○	○	○	○
定期試験	○	○		
平常点			○	○
プレゼンテーション	○	○		○

評価割合

提出物45%、定期試験30%、プレゼンテーション10%、平常点15%を総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

「八訂食品成分表」 女子栄養大出版部
「調理の基本 まるわかり便利帳」 女子栄養大出版部
「日本人の食事摂取基準[2025年版]」第一出版

参考図書

適宜紹介する

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。
【思考・判断】現代の食・栄養の課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
【技能・表現】健康のための栄養管理に関する技能とともに、コミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

水曜日・昼休み（1B05研究室）

学生へのメッセージ

１）受講にあたり、以下の内容に取り組むことを期待する。
○遅刻や欠席、私語、内職、居眠りを慎み、メモを取るなど主体的に取り組む。
○計画的に予習、復習に取り組み、理解を深めるよう努める。
○提出物は、手順や締め切りを守り、学習した内容を理論的に書くよう努める。
２）電卓を用意する。試験時の携帯電話等、情報機器類の持ち込みは不可とする。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、スポーツ栄養の現場、行政施設等での実務経験を有しており、対象者に応じた栄養管理業務について理論と技術を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	栄養管理計画の立案から評価・改善までの一連の手法の実践、報告書の作成、ディスカッションや成果発表などを通し、栄養管理遂行のための実践力、プレゼンテーション能力を養う。

情報リテラシー教育	○	情報機器類を用いて問題解決に必要な情報を収集し、分析する。
ICT活用	○	レポートの課題やスライドを情報機器類を用いて作成し、提出および発表する。

講義コード	H02033031
講義名	食品衛生学（HA、HC）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	林 一也	指定なし

ナンバリング

H22310C21

授業概要(教育目的)

食品の取り巻く情勢は、食の多様化、流通の国際化、食品をめぐる環境の変化などめまぐるしく変化してきている。また、国民の健康志向が増大し、残留農薬や異物混入、添加物、違法表示など、食品の安全、安心への期待、関心が高まっている。国際的に整合性のある食品衛生管理への要望が高まっており、管理栄養士にもその責務が求められている。本講義では、様々な食品衛生に関する項目（微生物、食品添加物、行政、農薬、化学物質、その他）を学び、食品衛生管理を行ううえでの基礎を修得させることを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	食の安全･安心とは何かを食品衛生と関連づけて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	様々な場面で食品衛生を行う上で、どのようなことを成すべきかを考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

食品衛生学

	授業テーマ	ガイダンス、食品衛生行政および関連法規、食品の表示
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	食品衛生学のシラバス等を含めた講義の概要を学ぶにあたっての諸注意の説明。食品衛生に関連する法規や行政の仕組みを理解する。また、国際的な食品衛生の規格などについても理解をする。

第1回	**を含む)**	
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第1章「食品の安全」1～6ページおよび第2章「食品衛生と法規」5～23ページを読んでおくこと。特に衛生に関する行政や法規は複雑なので良く復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	食品衛生行政および関連法規、食品の表示2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品衛生学のシラバス等を含めた講義の概要を学ぶにあたっての諸注意の説明。食品衛生に関連する法規や行政の仕組みを理解する。 また、国際的な食品衛生の規格などについても理解をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第1章「食品の安全」1～6ページおよび第2章「食品衛生と法規」5～23ページを読んでおくこと。特に衛生に関する行政や法規は複雑なので良く復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	食品と微生物（微生物の種類）と諸性質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品に係わる微生物の種類や基本的な性質について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章「食品の変質／微生物」25～41ページを読んでおくこと。特に微生物の名前や性質は複雑なので良く復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	食品の変質と防止方法（変質，保存方法，包装容器）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の変質はどのようにして起きるのか、またその防止方法について理解をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章「食品の変質／油脂の酸敗、食品の変質の防止法、鮮度、腐敗、酸敗の判定法」32～54ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	食中毒の定義と食中毒（細菌性１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食中毒とは何か、定義や発生状況等を理解する。食中毒のうちで細菌性の食中毒について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章「食中毒／食中毒とは、食中毒の発生状況」57～65ページを読んでおくこと。食中毒は食品衛生の中心となるので良く復習をして理解すること。教科書第4章「食中毒／細菌性食中毒」65～89ページを読んでおくこと。細菌別の食中毒の特徴を良く復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分

第6回	授業テーマ	食中毒（細菌性２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食中毒のうちで細菌性の食中毒について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章「食中毒／細菌性食中毒」65～89ページを読んでおくこと。細菌別の食中毒の特徴を良く復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	食中毒（細菌性３，ウイルス性）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食中毒のうちで細菌性の食中毒およびウイルス性の食中毒について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章「食中毒／細菌性食中毒」65～89ページおよび「食中毒／ウイルス性食中毒」90～95ページを読んでおくこと。細菌別やウイルスの食中毒の特徴を良く復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	食中毒（寄生虫･自然毒・化学毒・食物アレルギー）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食中毒のうち微生物によって起こる以外食中毒で、寄生虫、動物性･植物性の食中毒、化学毒、食物アレルギーなどについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章「食中毒／寄生虫による食中毒、自然毒食中毒、化学性食中毒、食物アレルギー」96～116ページを読んでおくこと。また、全体的に食中毒の特徴を良く復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	寄生虫と感染症
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の続き寄生虫症と食品から感染する感染症について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第5章「食品による感染症と寄生虫症」117～148ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	食品汚染物質 1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の汚染物質、カビ毒や化学物質、有害物質、食品加工により生じる有害物について理解する。
	教室外学習(予習・復	教科書第6章「食品の汚染物質」149～170ページを読んでおくこと。特にカビ毒と食品成分の変化(食品加工)によって生じる有害物質について

	習)の内容	良く復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	食品汚染物質 2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の汚染物質、カビ毒や化学物質、有害物質、食品加工により生じる有害物について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第6章「食品の汚染物質」149～170ページを読んでおくこと。特にカビ毒と食品成分の変化(食品加工)によって生じる有害物質について良く復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	授業テーマ	食品添加物 1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品添加物の安全性評価、使用基準、種類と用途について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第7章「食品添加物」181～206ページを読んでおくこと。食品添加物は加工食品には欠かせないもので、日常的に用いられているため、良く復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	食品添加物 2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品添加物の安全性評価、使用基準、種類と用途について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第7章「食品添加物」181～206ページを読んでおくこと。食品添加物は加工食品には欠かせないもので、日常的に用いられているため、良く復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	授業テーマ	食品衛生管理と包装容器，食品の安全性の問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品衛生管理法として HACCPやISOを理解する。併せて洗剤や包装容器についても理解する。また，食の安全、残留農薬や遺伝子組換え、放射線処理などの問題を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第8章「食品衛生管理」209～238ページおよび第9章「食品用器具および包装容器」239～245ページ，教科書第10章「食品の安全性問題」247～263ページを読んでおくこと。合わせて全体の復習をすること。
	教室外学習の時間（分）	310分

学習計画注記

学年暦，時間割の変更，講義内容の進行状況によりシラバス・講義形態が変更する場合がある。

学生へのフィードバック方法

各回の講義、復習などで質問や不明な点がある場合は、1401研究室まで訪問するか、e-mailで問い合わせること。

評価方法

成績の評価は、定期試験の成績によって判定する。ただし、授業への参加態度等を成績判定に加えることがある。なお、成績評価にはルーブリックを用いた評価を行い、ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により学生に提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		

評価割合

定期試験（90%）授業への参加態度などの平常点（10%）

使用教科書名(ISBN番号)

食べ物と健康 食品の安全 改訂第2版 有薗幸司（編集） 南江堂 2018
（新版による変更を予定）

ディプロマポリシーとの関連

【知識･理解】食品衛生に関する基礎知識を学ぶことによって，管理栄養士として食や栄養を扱う上での、食品衛生の基礎を理解できる知識基盤を有している。
【思考･判断】食品衛生に関する正確な情報を収集し、論理的･批判的に思考することで食の安全･安心に関する取り組みに対処できる能力を身につける。

オフィスアワー

金曜日1時限 および メール等の予約により定めた時間 1401研究室

学生へのメッセージ

食品衛生は，食品を扱う上での基本です。食品添加物や食品表示，食中毒など様々なものを学んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	民間の食品企業で食品の研究・開発・品質管理における微生物管理や商品管理、HACCP、残留農薬・食品添加物などに携わった内容を踏まえ、食品衛生を実学的・実践的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02033032
講義名	食品衛生学（HB）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	林 一也	指定なし

ナンバリング

H22310C21

授業概要(教育目的)

食品の取り巻く情勢は、食の多様化、流通の国際化、食品をめぐる環境の変化などめまぐるしく変化してきている。また、国民の健康志向が増大し、残留農薬や異物混入、添加物、違法表示など、食品の安全、安心への期待、関心が高まっている。国際的に整合性のある食品衛生管理への要望が高まっており、管理栄養士にもその責務が求められている。本講義では、様々な食品衛生に関する項目（微生物、食品添加物、行政、農薬、化学物質、その他）を学び、食品衛生管理を行ううえでの基礎を修得させることを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	食の安全･安心とは何かを食品衛生と関連づけて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	様々な場面で食品衛生を行う上で、どのようなことを成すべきかを考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

食品衛生学

	授業テーマ	ガイダンス、食品衛生行政および関連法規、食品の表示
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	食品衛生学のシラバス等を含めた講義の概要を学ぶにあたっての諸注意の説明。食品衛生に関連する法規や行政の仕組みを理解する。また、国際的な食品衛生の規格などについても理解をする。

第1回	**を含む)**	
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第1章「食品の安全」1～6ページおよび第2章「食品衛生と法規」5～23ページを読んでおくこと。特に衛生に関する行政や法規は複雑なので良く復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	食品衛生行政および関連法規、食品の表示2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品衛生学のシラバス等を含めた講義の概要を学ぶにあたっての諸注意の説明。食品衛生に関連する法規や行政の仕組みを理解する。 また、国際的な食品衛生の規格などについても理解をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書 第1章「食品の安全」1～6ページおよび第2章「食品衛生と法規」5～23ページを読んでおくこと。特に衛生に関する行政や法規は複雑なので良く復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	食品と微生物（微生物の種類）と諸性質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品に係わる微生物の種類や基本的な性質について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章「食品の変質／微生物」25～41ページを読んでおくこと。特に微生物の名前や性質は複雑なので良く復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	食品の変質と防止方法（変質，保存方法，包装容器）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の変質はどのようにして起きるのか、またその防止方法について理解をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章「食品の変質／油脂の酸敗、食品の変質の防止法、鮮度、腐敗、酸敗の判定法」32～54ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	食中毒の定義と食中毒（細菌性１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食中毒とは何か、定義や発生状況等を理解する。食中毒のうちで細菌性の食中毒について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章「食中毒／食中毒とは、食中毒の発生状況」57～65ページを読んでおくこと。食中毒は食品衛生の中心となるので良く復習をして理解すること。教科書第4章「食中毒／細菌性食中毒」65～89ページを読んでおくこと。細菌別の食中毒の特徴を良く復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分

第6回	授業テーマ	食中毒（細菌性２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食中毒のうちで細菌性の食中毒について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章「食中毒／細菌性食中毒」65～89ページを読んでおくこと。細菌別の食中毒の特徴を良く復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	食中毒（細菌性３，ウイルス性）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食中毒のうちで細菌性の食中毒およびウイルス性の食中毒について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章「食中毒／細菌性食中毒」65～89ページおよび「食中毒／ウイルス性食中毒」90～95ページを読んでおくこと。細菌別やウイルスの食中毒の特徴を良く復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	食中毒（寄生虫･自然毒・化学毒・食物アレルギー）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食中毒のうち微生物によって起こる以外食中毒で、寄生虫、動物性･植物性の食中毒、化学毒、食物アレルギーなどについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章「食中毒／寄生虫による食中毒、自然毒食中毒、化学性食中毒、食物アレルギー」96～116ページを読んでおくこと。また、全体的に食中毒の特徴を良く復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	寄生虫と感染症
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の続き寄生虫症と食品から感染する感染症について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第5章「食品による感染症と寄生虫症」117～148ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	食品汚染物質 1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の汚染物質、カビ毒や化学物質、有害物質、食品加工により生じる有害物について理解する。
	教室外学習(予習・復	教科書第6章「食品の汚染物質」149～170ページを読んでおくこと。特にカビ毒と食品成分の変化(食品加工)によって生じる有害物質について

	習)の内容	良く復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	食品汚染物質 2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の汚染物質、カビ毒や化学物質、有害物質、食品加工により生じる有害物について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第6章「食品の汚染物質」149～170ページを読んでおくこと。特にカビ毒と食品成分の変化(食品加工)によって生じる有害物質について良く復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	授業テーマ	食品添加物 1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品添加物の安全性評価、使用基準、種類と用途について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第7章「食品添加物」181～206ページを読んでおくこと。食品添加物は加工食品には欠かせないもので、日常的に用いられているため、良く復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	食品添加物 2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品添加物の安全性評価、使用基準、種類と用途について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第7章「食品添加物」181～206ページを読んでおくこと。食品添加物は加工食品には欠かせないもので、日常的に用いられているため、良く復習をして理解すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	授業テーマ	食品衛生管理と包装容器，食品の安全性の問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品衛生管理法として HACCPやISOを理解する。併せて洗剤や包装容器についても理解する。また，食の安全、残留農薬や遺伝子組換え、放射線処理などの問題を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第8章「食品衛生管理」209～238ページおよび第9章「食品用器具および包装容器」239～245ページ，教科書第10章「食品の安全性問題」247～263ページを読んでおくこと。合わせて全体の復習をすること。
	教室外学習の時間（分）	310分

学習計画注記

学年暦，時間割の変更，講義内容の進行状況によりシラバス・講義形態が変更する場合がある。

学生へのフィードバック方法

各回の講義、復習などで質問や不明な点がある場合は、1401研究室まで訪問するか、e-mailで問い合わせること。

評価方法

成績の評価は、定期試験の成績によって判定する。ただし、授業への参加態度等を成績判定に加えることがある。なお、成績評価にはルーブリックを用いた評価を行い、ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により学生に提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		

評価割合

定期試験（90%）授業への参加態度などの平常点（10%）

使用教科書名(ISBN番号)

食べ物と健康 食品の安全 改訂第2版 有薗幸司（編集） 南江堂 2018
（新版による変更を予定）

ディプロマポリシーとの関連

【知識･理解】食品衛生に関する基礎知識を学ぶことによって，管理栄養士として食や栄養を扱う上での、食品衛生の基礎を理解できる知識基盤を有している。
【思考･判断】食品衛生に関する正確な情報を収集し、論理的･批判的に思考することで食の安全･安心に関する取り組みに対処できる能力を身につける。

オフィスアワー

金曜日1時限 および メール等の予約により定めた時間 1401研究室

学生へのメッセージ

食品衛生は，食品を扱う上での基本です。食品添加物や食品表示，食中毒など様々なものを学んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	民間の食品企業で食品の研究・開発・品質管理における微生物管理や商品管理、HACCP、残留農薬・食品添加物などに携わった内容を踏まえ、食品衛生を実学的・実践的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02034031
講義名	食品衛生学実験（HA）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	林 一也	指定なし

ナンバリング

H32311C13

授業概要(教育目的)

本実験は、食品衛生の観点から、食品の安全性を確かめる物理的，化学的並びに微生物学的諸検査を、身近な食品を対象にして行い、食品製造、調理、集団給食等で食品衛生を実施する上での基礎的技術を習得させることを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	食品衛生学実験の結果より、自ら周辺の知識を調べ、食品衛生の本質を理解する。
思考・判断の観点 (K)	食品衛生学実験の結果を，食品衛生学の観点から思考して、様々な状況での食品の衛生について判断できるようにする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食品衛生の技術を学ぶことで、食品衛生に関心を持ち、さらにチームで実験を行うことで、協調性を養える。
技術・表現の観点 (A)	食の安全･安心の基本となる食衛生の諸技術を学ぶことで、様々な場面で食品衛生を行う上で、どのようなことを成すべきかを考えることができる。

学習計画

食品衛生学実験

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品衛生学実験のシラバス等を含めた実験の概要と実験をする上での諸注意の説明および実験で使用する器具などの説明。
	教室外学習(予習・復	

	習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第2回	授業テーマ	微生物培養培地作製
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	微生物の標準培養培地の作成。微生物を培養するときの方法や培地の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第3回	授業テーマ	微生物培養培地作製
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	微生物の選択培養培地および大腸菌検査培地の作成。微生物を殺菌法、保存法などをの説明。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第4回	授業テーマ	食品の微生物検査（標準平板培養法，大腸菌群テスト）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	普段、食している食品中の一般生菌数と大腸菌群数を検査する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第5回	授業テーマ	食品の微生物検査（生菌数，大腸菌群数，大腸菌確定検査）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	普段、食している食品中の一般生菌数、大腸菌群数の検査および大腸菌群測定培地で得られたコロニーのうち、大腸菌を確定する試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	真菌類の食品からの分離（カビ，酵母）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	真菌を用いてつくられている食品から真菌類(カビおよび酵母)を分離する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	真菌類の形態観察，細菌類の分離
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回分離したカビおよび酵母のコロニー観察と顕微鏡による形態観察をおこなう。さらに、細菌を用いてつくられた食品から細菌類を分離する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間	60分

	（分）	
第8回	**授業テーマ**	細菌類の顕微鏡観察（グラム染色など）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回分離した細菌類の分離した細菌のコロニー観察と顕微鏡による形態観察をおこなう。さらに、分離した細菌をグラム染色を行い、グラム陽性、陰性の検査を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	微生物の抗生物質耐性試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	真菌類および細菌類の各種抗生物質に対する抵抗性(感受性)試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	微生物の耐紫外線，耐熱性試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	細菌類の紫外線および加熱に対する耐性試験を行い、紫外線、加熱殺菌に対する効力を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	生活環境と手指等の清潔度（微生物汚染度）の測定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活環境における微生物生息数の試験および手指に生息する微生物数の試験（手洗いによる微生物除去も含め）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	遺伝子組換え食品の検出試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	遺伝子組換え食品として流通が許されている食品から遺伝子組換え作物を原料として用いているかの判定試験（遺伝子組換え検出試験）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	食品添加物（着色料）の検出試験および残留農薬試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	添加物の着色料を食品から分離検出する試験を行う。さらに食品に残留する残留農薬をGC-MSを用いて検出する方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	油脂の酸化度測定、水道水の残留塩素濃度測定、畜肉加工品の

		発色剤の検出
第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	使用済み、未使用の油脂の酸化度の測定、水道水の残留塩素濃度の測定、畜肉加工品に使用される発色剤の検出を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

授業はすべて対面で実施する。但し，授業内容は，学年暦などにより回の内容，授業形態(対面，オンデマンド)が入れ替わることがある。

学生へのフィードバック方法

各回の内容などで質問や不明な点がある場合は、1401研究室まで訪問するか、e-mailで問い合わせること。

評価方法

成績の評価は、レポート提出とその内容および授業へ臨む態度等により成績判定する。なお、成績評価にはルーブリックを用いた評価を行い、ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により学生に提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○		
実験に臨む態度等			○	○

評価割合

レポート（70%）および実験へ臨む態度などの平常点（30%）で判定する。

使用教科書名(ISBN番号)

プリント配布

ディプロマポリシーとの関連

【知識･理解】食品衛生の技術・手法などを理解し、管理栄養士等の専門職業人として、食品衛生を行える能力を身につけている。
【思考･判断】食品衛生の正確な情報を収集することで的確な食品衛生を行える能力を身につけている。
【関心･意欲･態度】食品衛生の技術・手法などを学ぶことで、食品衛生に関心を持ち、さらにチームで実験を行うことで、他者と協働するための共感力を身につけている。
【技術･表現】食品衛生の技術･手法を学ぶ実学を通じて、食品の安全･安心を的確に扱える専門的技能を身につけている。

オフィスアワー

金曜日1時限 および メール等の予約により定めた時間 1401研究室

学生へのメッセージ

食品企業や衛生検査機関などで行われている微生物の検査，食品添加物の検査などを行います。社会に出て，食の分野で働くためには必要な基礎知識です。

教育等の取組み状況

	該当	概要

	有無	
実務経験を活かした授業	○	民間の食品企業で食品の研究・開発・品質管理における微生物管理や商品管理、HACCP、残留農薬・食品添加物などに携わった内容を踏まえ、食品衛生学実験を教える上で食品衛生の管理等の手法を実学的・実践的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02034032
講義名	食品衛生学実験（HB）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	林 一也	指定なし

ナンバリング

H32311C13

授業概要(教育目的)

本実験は、食品衛生の観点から、食品の安全性を確かめる物理的，化学的並びに微生物学的諸検査を、身近な食品を対象にして行い、食品製造、調理、集団給食等で食品衛生を実施する上での基礎的技術を習得させることを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	食品衛生学実験の結果より、自ら周辺の知識を調べ、食品衛生の本質を理解する。
思考・判断の観点 (K)	食品衛生学実験の結果を，食品衛生学の観点から思考して、様々な状況での食品の衛生について判断できるようにする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食品衛生の技術を学ぶことで、食品衛生に関心を持ち、さらにチームで実験を行うことで、協調性を養える。
技術・表現の観点 (A)	食の安全･安心の基本となる食衛生の諸技術を学ぶことで、様々な場面で食品衛生を行う上で、どのようなことを成すべきかを考えることができる。

学習計画

食品衛生学実験

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品衛生学実験のシラバス等を含めた実験の概要と実験をする上での諸注意の説明および実験で使用する器具などの説明。
	教室外学習(予習・復	

	習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第2回	授業テーマ	微生物培養培地作製
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	微生物の標準培養培地の作成。微生物を培養するときの方法や培地の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第3回	授業テーマ	微生物培養培地作製
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	微生物の選択培養培地および大腸菌検査培地の作成。微生物を殺菌法、保存法などをの説明。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第4回	授業テーマ	食品の微生物検査（標準平板培養法，大腸菌群テスト）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	普段、食している食品中の一般生菌数と大腸菌群数を検査する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第5回	授業テーマ	食品の微生物検査（生菌数，大腸菌群数，大腸菌確定検査）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	普段、食している食品中の一般生菌数、大腸菌群数の検査および大腸菌群測定培地で得られたコロニーのうち、大腸菌を確定する試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	真菌類の食品からの分離（カビ，酵母）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	真菌を用いてつくられている食品から真菌類(カビおよび酵母)を分離する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	真菌類の形態観察，細菌類の分離
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回分離したカビおよび酵母のコロニー観察と顕微鏡による形態観察をおこなう。さらに、細菌を用いてつくられた食品から細菌類を分離する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間	60分

	（分）	
第8回	**授業テーマ**	細菌類の顕微鏡観察（グラム染色など）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回分離した細菌類の分離した細菌のコロニー観察と顕微鏡による形態観察をおこなう。さらに、分離した細菌をグラム染色を行い、グラム陽性、陰性の検査を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	微生物の抗生物質耐性試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	真菌類および細菌類の各種抗生物質に対する抵抗性(感受性)試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	微生物の耐紫外線，耐熱性試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	細菌類の紫外線および加熱に対する耐性試験を行い、紫外線、加熱殺菌に対する効力を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	生活環境と手指等の清潔度（微生物汚染度）の測定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活環境における微生物生息数の試験および手指に生息する微生物数の試験（手洗いによる微生物除去も含め）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	遺伝子組換え食品の検出試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	遺伝子組換え食品として流通が許されている食品から遺伝子組換え作物を原料として用いているかの判定試験（遺伝子組換え検出試験）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	食品添加物（着色料）の検出試験および残留農薬試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	添加物の着色料を食品から分離検出する試験を行う。さらに食品に残留する残留農薬をGC-MSを用いて検出する方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	油脂の酸化度測定、水道水の残留塩素濃度測定、畜肉加工品の

		発色剤の検出
第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	使用済み、未使用の油脂の酸化度の測定、水道水の残留塩素濃度の測定、畜肉加工品に使用される発色剤の検出を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

授業はすべて対面で実施する。但し，授業内容は，学年暦などにより回の内容，授業形態(対面，オンデマンド)が入れ替わることがある。

学生へのフィードバック方法

各回の内容などで質問や不明な点がある場合は、1401研究室まで訪問するか、e-mailで問い合わせること。

評価方法

成績の評価は、レポート提出とその内容および授業へ臨む態度等により成績判定する。なお、成績評価にはルーブリックを用いた評価を行い、ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により学生に提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○		
実験に臨む態度等			○	○

評価割合

レポート（70%）および実験へ臨む態度などの平常点（30%）で判定する。

使用教科書名(ISBN番号)

プリント配布

ディプロマポリシーとの関連

【知識･理解】食品衛生の技術・手法などを理解し、管理栄養士等の専門職業人として、食品衛生を行える能力を身につけている。
【思考･判断】食品衛生の正確な情報を収集することで的確な食品衛生を行える能力を身につけている。
【関心･意欲･態度】食品衛生の技術・手法などを学ぶことで、食品衛生に関心を持ち、さらにチームで実験を行うことで、他者と協働するための共感力を身につけている。
【技術･表現】食品衛生の技術･手法を学ぶ実学を通じて、食品の安全･安心を的確に扱える専門的技能を身につけている。

オフィスアワー

金曜日1時限 および メール等の予約により定めた時間 1401研究室

学生へのメッセージ

食品企業や衛生検査機関などで行われている微生物の検査，食品添加物の検査などを行います。社会に出て，食の分野で働くためには必要な基礎知識です。

教育等の取組み状況

	該当	概要

	有無	
実務経験を活かした授業	○	民間の食品企業で食品の研究・開発・品質管理における微生物管理や商品管理、HACCP、残留農薬・食品添加物などに携わった内容を踏まえ、食品衛生学実験を教える上で食品衛生の管理等の手法を実学的・実践的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02034033
講義名	食品衛生学実験（HC)
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	林 一也	指定なし

ナンバリング

H32311C13

授業概要(教育目的)

本実験は、食品衛生の観点から、食品の安全性を確かめる物理的，化学的並びに微生物学的諸検査を、身近な食品を対象にして行い、食品製造、調理、集団給食等で食品衛生を実施する上での基礎的技術を習得させることを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	食品衛生学実験の結果より、自ら周辺の知識を調べ、食品衛生の本質を理解する。
思考・判断の観点 (K)	食品衛生学実験の結果を，食品衛生学の観点から思考して、様々な状況での食品の衛生について判断できるようにする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食品衛生の技術を学ぶことで、食品衛生に関心を持ち、さらにチームで実験を行うことで、協調性を養える。
技術・表現の観点 (A)	食の安全･安心の基本となる食衛生の諸技術を学ぶことで、様々な場面で食品衛生を行う上で、どのようなことを成すべきかを考えることができる。

学習計画

食品衛生学実験

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品衛生学実験のシラバス等を含めた実験の概要と実験をする上での諸注意の説明および実験で使用する器具などの説明。
	教室外学習(予習・復	

	習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第2回	授業テーマ	微生物培養培地作製
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	微生物の標準培養培地の作成。微生物を培養するときの方法や培地の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第3回	授業テーマ	微生物培養培地作製
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	微生物の選択培養培地および大腸菌検査培地の作成。微生物を殺菌法、保存法などをの説明。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第4回	授業テーマ	食品の微生物検査（標準平板培養法，大腸菌群テスト）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	普段、食している食品中の一般生菌数と大腸菌群数を検査する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第5回	授業テーマ	食品の微生物検査（生菌数，大腸菌群数，大腸菌確定検査）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	普段、食している食品中の一般生菌数、大腸菌群数の検査および大腸菌群測定培地で得られたコロニーのうち、大腸菌を確定する試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	真菌類の食品からの分離（カビ，酵母）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	真菌を用いてつくられている食品から真菌類(カビおよび酵母)を分離する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	真菌類の形態観察，細菌類の分離
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回分離したカビおよび酵母のコロニー観察と顕微鏡による形態観察をおこなう。さらに、細菌を用いてつくられた食品から細菌類を分離する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間	60分

	（分）	
第8回	**授業テーマ**	細菌類の顕微鏡観察（グラム染色など）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回分離した細菌類の分離した細菌のコロニー観察と顕微鏡による形態観察をおこなう。さらに、分離した細菌をグラム染色を行い、グラム陽性、陰性の検査を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	微生物の抗生物質耐性試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	真菌類および細菌類の各種抗生物質に対する抵抗性(感受性)試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	微生物の耐紫外線，耐熱性試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	細菌類の紫外線および加熱に対する耐性試験を行い、紫外線、加熱殺菌に対する効力を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	生活環境と手指等の清潔度（微生物汚染度）の測定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活環境における微生物生息数の試験および手指に生息する微生物数の試験（手洗いによる微生物除去も含め）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	遺伝子組換え食品の検出試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	遺伝子組換え食品として流通が許されている食品から遺伝子組換え作物を原料として用いているかの判定試験（遺伝子組換え検出試験）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	食品添加物（着色料）の検出試験および残留農薬試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	添加物の着色料を食品から分離検出する試験を行う。さらに食品に残留する残留農薬をGC-MSを用いて検出する方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	油脂の酸化度測定、水道水の残留塩素濃度測定、畜肉加工品の

		発色剤の検出
第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	使用済み、未使用の油脂の酸化度の測定、水道水の残留塩素濃度の測定、畜肉加工品に使用される発色剤の検出を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

授業はすべて対面で実施する。但し，授業内容は，学年暦などにより回の内容，授業形態(対面，オンデマンド)が入れ替わることがある。

学生へのフィードバック方法

各回の内容などで質問や不明な点がある場合は、1401研究室まで訪問するか、e-mailで問い合わせること。

評価方法

成績の評価は、レポート提出とその内容および授業へ臨む態度等により成績判定する。なお、成績評価にはルーブリックを用いた評価を行い、ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により学生に提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○		
実験に臨む態度等			○	○

評価割合

レポート（70%）および実験へ臨む態度などの平常点（30%）で判定する。

使用教科書名(ISBN番号)

プリント配布

ディプロマポリシーとの関連

【知識･理解】食品衛生の技術・手法などを理解し、管理栄養士等の専門職業人として、食品衛生を行える能力を身につけている。
【思考･判断】食品衛生の正確な情報を収集することで的確な食品衛生を行える能力を身につけている。
【関心･意欲･態度】食品衛生の技術・手法などを学ぶことで、食品衛生に関心を持ち、さらにチームで実験を行うことで、他者と協働するための共感力を身につけている。
【技術･表現】食品衛生の技術･手法を学ぶ実学を通じて、食品の安全･安心を的確に扱える専門的技能を身につけている。

オフィスアワー

金曜日1時限 および メール等の予約により定めた時間 1401研究室

学生へのメッセージ

食品企業や衛生検査機関などで行われている微生物の検査，食品添加物の検査などを行います。社会に出て，食の分野で働くためには必要な基礎知識です。

教育等の取組み状況

	該当	概要

	有無	
実務経験を活かした授業	○	民間の食品企業で食品の研究・開発・品質管理における微生物管理や商品管理、HACCP、残留農薬・食品添加物などに携わった内容を踏まえ、食品衛生学実験を教える上で食品衛生の管理等の手法を実学的・実践的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02034034
講義名	食品衛生学実験（HD）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	林 一也	指定なし

ナンバリング

H32311C13

授業概要(教育目的)

本実験は、食品衛生の観点から、食品の安全性を確かめる物理的，化学的並びに微生物学的諸検査を、身近な食品を対象にして行い、食品製造、調理、集団給食等で食品衛生を実施する上での基礎的技術を習得させることを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	食品衛生学実験の結果より、自ら周辺の知識を調べ、食品衛生の本質を理解する。
思考・判断の観点 (K)	食品衛生学実験の結果を，食品衛生学の観点から思考して、様々な状況での食品の衛生について判断できるようにする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食品衛生の技術を学ぶことで、食品衛生に関心を持ち、さらにチームで実験を行うことで、協調性を養える。
技術・表現の観点 (A)	食の安全･安心の基本となる食衛生の諸技術を学ぶことで、様々な場面で食品衛生を行う上で、どのようなことを成すべきかを考えることができる。

学習計画

食品衛生学実験

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品衛生学実験のシラバス等を含めた実験の概要と実験をする上での諸注意の説明および実験で使用する器具などの説明。
	教室外学習(予習・復	

	習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第2回	授業テーマ	微生物培養培地作製
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	微生物の標準培養培地の作成。微生物を培養するときの方法や培地の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第3回	授業テーマ	微生物培養培地作製
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	微生物の選択培養培地および大腸菌検査培地の作成。微生物を殺菌法、保存法などをの説明。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第4回	授業テーマ	食品の微生物検査（標準平板培養法，大腸菌群テスト）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	普段、食している食品中の一般生菌数と大腸菌群数を検査する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第5回	授業テーマ	食品の微生物検査（生菌数，大腸菌群数，大腸菌確定検査）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	普段、食している食品中の一般生菌数、大腸菌群数の検査および大腸菌群測定培地で得られたコロニーのうち、大腸菌を確定する試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	真菌類の食品からの分離（カビ，酵母）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	真菌を用いてつくられている食品から真菌類(カビおよび酵母)を分離する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	真菌類の形態観察，細菌類の分離
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回分離したカビおよび酵母のコロニー観察と顕微鏡による形態観察をおこなう。さらに、細菌を用いてつくられた食品から細菌類を分離する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間	60分

	（分）	
第8回	**授業テーマ**	細菌類の顕微鏡観察（グラム染色など）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回分離した細菌類の分離した細菌のコロニー観察と顕微鏡による形態観察をおこなう。さらに、分離した細菌をグラム染色を行い、グラム陽性、陰性の検査を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	微生物の抗生物質耐性試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	真菌類および細菌類の各種抗生物質に対する抵抗性(感受性)試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	微生物の耐紫外線，耐熱性試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	細菌類の紫外線および加熱に対する耐性試験を行い、紫外線、加熱殺菌に対する効力を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	生活環境と手指等の清潔度（微生物汚染度）の測定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活環境における微生物生息数の試験および手指に生息する微生物数の試験（手洗いによる微生物除去も含め）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	遺伝子組換え食品の検出試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	遺伝子組換え食品として流通が許されている食品から遺伝子組換え作物を原料として用いているかの判定試験（遺伝子組換え検出試験）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	食品添加物（着色料）の検出試験および残留農薬試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	添加物の着色料を食品から分離検出する試験を行う。さらに食品に残留する残留農薬をGC-MSを用いて検出する方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	油脂の酸化度測定、水道水の残留塩素濃度測定、畜肉加工品の

		発色剤の検出
第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	使用済み、未使用の油脂の酸化度の測定、水道水の残留塩素濃度の測定、畜肉加工品に使用される発色剤の検出を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実験におけるレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

授業はすべて対面で実施する。但し，授業内容は，学年暦などにより回の内容，授業形態(対面，オンデマンド)が入れ替わることがある。

学生へのフィードバック方法

各回の内容などで質問や不明な点がある場合は、1401研究室まで訪問するか、e-mailで問い合わせること。

評価方法

成績の評価は、レポート提出とその内容および授業へ臨む態度等により成績判定する。なお、成績評価にはルーブリックを用いた評価を行い、ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により学生に提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○		
実験に臨む態度等			○	○

評価割合

レポート（70%）および実験へ臨む態度などの平常点（30%）で判定する。

使用教科書名(ISBN番号)

プリント配布

ディプロマポリシーとの関連

【知識･理解】食品衛生の技術・手法などを理解し、管理栄養士等の専門職業人として、食品衛生を行える能力を身につけている。
【思考･判断】食品衛生の正確な情報を収集することで的確な食品衛生を行える能力を身につけている。
【関心･意欲･態度】食品衛生の技術・手法などを学ぶことで、食品衛生に関心を持ち、さらにチームで実験を行うことで、他者と協働するための共感力を身につけている。
【技術･表現】食品衛生の技術･手法を学ぶ実学を通じて、食品の安全･安心を的確に扱える専門的技能を身につけている。

オフィスアワー

金曜日1時限 および メール等の予約により定めた時間 1401研究室

学生へのメッセージ

食品企業や衛生検査機関などで行われている微生物の検査，食品添加物の検査などを行います。社会に出て，食の分野で働くためには必要な基礎知識です。

教育等の取組み状況

	該当	概要

	有無	
実務経験を活かした授業	○	民間の食品企業で食品の研究・開発・品質管理における微生物管理や商品管理、HACCP、残留農薬・食品添加物などに携わった内容を踏まえ、食品衛生学実験を教える上で食品衛生の管理等の手法を実学的・実践的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02035031
講義名	基礎栄養学I
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	馬場 修	指定なし

ナンバリング

H13401C21

授業概要(教育目的)

基礎栄養学Iでは、栄養とは何か、その意義について理解するとともに、栄養素の消化・吸収の基本概念を修得する。人間の個体レベルでの栄養現象を、摂取した食品に含まれる栄養素の面から捉え、生体内に吸収された後、生体の構成成分として代謝変換される一連の代謝過程について体系的に講義する。また、エネルギーの消費と供給のバランスを保つ摂食行動及びそれに係る代謝調節の全体像についても概説する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．栄養と栄養素について説明できる。 ２．生活習慣病と遺伝子多型（遺伝因子）の関連について説明できる ３．摂食行動の調節機構について説明できる。 ４．消化・吸収と排泄の意義と調節機構について説明できる。 ５．栄養素ごとに，関連の消化酵素と作用機序，吸収過程について説明できる。 ６．炭水化物の栄養学的役割について説明できる。 ７．炭水化物の各臓器における役割と動態を説明できる。 ８．血糖とその調節機構を説明できる。 ９．食物繊維の定義，種類，分類，主な生理機能について説明できる。 10．脂質の栄養学的役割について説明できる。 11．脂質の体内動態と臓器特性について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	１．健康維持・増進、疾病予防、治療との係わりから栄養の意義（重要性）を的確に類別できる。

関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	栄養の概念（栄養の定義、栄養と健康・疾患）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養の概念および栄養と健康・疾患との関わりから、栄養の意義を理解する。栄養素の欠乏と過剰を起源とした栄養学の歴史について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第1章の「栄養の定義」「栄養と健康・疾患」を読み，配付されたプリントの穴埋め箇所を学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第2回	**授業テーマ**	栄養の概念（遺伝形質と栄養の相互作用）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	遺伝形質と栄養の相互作用について学び、生活習慣病と遺伝子多型の関連について理解する。特に、倹約（節約）遺伝子の種類と役割を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第1章の「遺伝形質と栄養の相互作用」を読み，配付されたプリントの穴埋め箇所を学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第3回	**授業テーマ**	食物の摂取（空腹感・満腹感と食欲、食事のリズムとタイミング）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	空腹時、満腹時における生理的な条件変化（自律神経系、内分泌系など）に伴う摂食行動の調節機構を理解する。また、摂食行動における概日リズムの重要性を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章の「満腹感・空腹感と食欲」「摂食量の調節」「食事のリズムとタイミング」を読み，配付されたプリントの穴埋め箇所を学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
	授業テー	栄養素の消化・吸収と体内動態（消化器系の構造と機能，消化・吸収と栄

	マ	養）
第4回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	栄養素の消化と吸収の意義と機構について、消化器系の構造と機能の観点から理解する。また，消化の分類として物理的消化，化学的消化，生物学的消化があることを学ぶ。吸収の機構として，その栄養素が脂溶性であるか，水溶性であるかによって異なることを理解する。 物理的消化、化学的消化、生物学的消化の概念を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章の「消化器系の構造と機能」「消化・吸収と栄養」を読み，配付されたプリントの穴埋め箇所を学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第5回	**授業テーマ**	栄養素の消化・吸収と体内動態（消化の過程）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の授業で，物理的消化、化学的消化、生物学的消化の概念を学んだ。今回は，特に口腔内，胃内，小腸内における化学的消化に係る消化酵素の種類やそれらのはたらきに関する基本的事項を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章の「消化過程（分泌源別の酵素・活性化・基質・終末産物）の概要」を読み，配付されたプリントの穴埋め箇所を学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第6回	**授業テーマ**	栄養素の消化・吸収と体内動態（管腔内消化の調節，吸収の過程）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	管腔内における消化液の分泌は，自律神経や消化管ホルモンによって調節を受けることを学ぶ。さらに，吸収の機序（受動輸送、能動輸送）の基本的概念を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章の「栄養素別の消化・吸収」の炭水化物と脂質を読み，配付されたプリントの穴埋め箇所を学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第7回	**授業テーマ**	栄養素の消化・吸収と体内動態（栄養素等の消化・吸収①（炭水化物，脂質，タンパク質））
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	炭水化物（糖質・食物繊維），脂質，タンパク質の消化・吸収の機序を学ぶ。特に、それぞれの栄養素の消化に係る酵素と、吸収に係る輸送体（トランスポーター）の種類と役割について理解する。
	教室外学	教科書第3章の「栄養素別の消化・吸収」の炭水化物（糖質，食物繊

	習(予習・復習)の内容	維），脂質，タンパク質を読み，配付されたプリントの穴埋め箇所を学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第8回	**授業テーマ**	栄養素の消化・吸収と体内動態（栄養素等の消化・吸収②（ビタミン，ミネラル），生物学的利用度）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	タンパク質、ビタミン、ミネラルの消化・吸収の機序を学ぶ。特に、生理的条件におけるミネラルの吸収性の違いについても把握する。次に，摂取した食物中の栄養素がどれだけ消化吸収されたかを示す消化吸収率（見かけの消化吸収率と真の消化吸収率）の測定法および算定法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章の「栄養素別の消化・吸収（ビタミン，ミネラル）」「生物学的利用度」を読み，配付されたプリントの穴埋め箇所を学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第9回	**授業テーマ**	炭水化物の栄養（糖質の体内代謝）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖質の種類（単糖類，少糖類，多糖類）を学び，これらを食事として摂取したときの代謝を理解する。また，空腹時にも血糖が維持される仕組みについてその概要を理解する。さらに，炭水化物の各臓器における役割と動態について，特に、脳におけるエネルギー源としてのグルコースの役割を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章の「炭水化物の概要」「糖質の分類」「糖質の体内代謝」を読み，配付されたプリントの穴埋め箇所を学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第10回	**授業テーマ**	炭水化物の栄養（血糖とその調節）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インスリンは，血糖値が上昇した際に膵臓のランゲルハンス島β細胞から分泌される。インスリンは，例えば肝臓や筋肉の細胞にグルコースを取り込ませてグリコーゲンの合成を促進する。今回は，血糖値を一定の範囲でコントロールしている仕組みとしてインスリンの作用，グルカゴンやアドレナリンなどの血糖上昇ホルモンの働きを理解する。また，グリコーゲンの体内分布、その分解と合成の過程をエネルギー代謝との関係で把握し，さらに血糖を維持するための糖新生（コリ回路，グルコース・アラニン回路）の仕組みを学び，糖質代謝の臓器間での連携を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章の「血糖とその調節」を読み，配付されたプリントの穴埋め箇所を学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分

第11回	授業テーマ	炭水化物の栄養（他の栄養素との関係、難消化性炭水化物）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アミノ酸からグルコースが合成されること，クエン酸回路の中間体からアミノ酸が合成されること，グルコースから脂肪酸が合成されることなど，栄養素での相互変換を整理する。また，炭水化物の摂取量に影響して、必要量が変わるビタミンを理解する。 食物繊維の定義、種類、分類、それぞれの主な生理作用を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第4章の「他の栄養素との関係」「食物繊維」を読み，配付されたプリントの穴埋め箇所を学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第12回	授業テーマ	脂質の栄養（脂質の体内代謝，脂質の臓器間輸送）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質の臓器間輸送におけるリポたんぱく質の役割を理解する。絶食時の脂肪組織におけるホルモン感受性リパーゼの作用を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第5章の「脂質の種類とはたらき」「脂質の臓器間輸送」を読み，配付されたプリントの穴埋め箇所を学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第13回	授業テーマ	脂質の栄養（脂質の体内代謝）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食後，食間期の脂質の体内代謝を学ぶ。また，細胞内で脂肪酸からエネルギーが産生されるまでの流れを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第5章の「脂質の体内代謝」を読み，配付されたプリントの穴埋め箇所を学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第14回	授業テーマ	脂質の栄養（摂取する脂質の量と質の評価、脂肪酸由来の生理活性物質，他の栄養素との関係）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂肪酸由来の生理活性物質（エイコサノイド）の種類と役割を理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第5章の「摂取する脂質の量と質の評価」「脂肪酸由来の生理活性物質」「他の栄養素との関係」を読み，配付されたプリントの穴埋め箇所を学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて310分

学習計画注記

栄養とは何か、その意義について理解する。
個体レベルでの栄養現象を、摂取した食品に含まれる栄養素の面から捉える。
休講・授業の進行状況により、学習計画を一部変更・修正する可能性がある。

学生へのフィードバック方法

・確認テストの模範解答は、授業内に提示する。
・質問等がある場合にはemail等で連絡すること。

評価方法

・確認テストは，各回の授業の学習範囲から出題し，授業内に実施する。すべて選択式の方式で出題する。なお、合理的な理由がない限り、確認テストの再試験は行わないので注意すること。
・定期試験は，確認テストの振り返りや、管理栄養士国家試験の出題形式に基づく選択式の問題を含む。
・一般的ルーブリックに沿って評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
確認テスト	○			

評価割合

定期試験（100%）

使用教科書名(ISBN番号)

最新基礎栄養学（医師薬出版）第９版（ISBN 978-4-263-707470-0）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物そして地域との相互関係から、「人間の栄養」を理解できる専門的知識を有している。
【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。

オフィスアワー

月曜４限 講師室

学生へのメッセージ

我々は食事を通して栄養素を摂取し、それを消化・吸収の過程を経て生体内に取り込む。取り込んだ栄養素がどのように役割を果たしているかを理解することは、健康維持・増進、疾病の予防・治療の観点から必要な学修であることから、主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

ICT活用		

講義コード	H02036031
講義名	基礎栄養学II（HA・HB）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	馬場 修	指定なし

ナンバリング

H13402C21

授業概要(教育目的)

基礎栄養学IIでは、健康の保持・増進疾病の予防・治療における栄養の役割を総合的に理解する。特に、ビタミン、無機質（ミネラル）、電解質、水分については、それぞれの栄養学的な特徴と機能を概説し、欠乏または過剰がもたらす代謝変化を知る。また、基礎代謝や臓器別エネルギー代謝などエネルギー代謝の基本的概念について、その測定法を含めて学ぶ。

履修条件

基礎栄養学Iを履修していること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	1．たんぱく質・アミノ酸の栄養学的役割，臓器間輸送と臓器における機能の特徴について説明できる。 2．窒素平衡と食事たんぱく質の栄養価評価法について説明できる。 3．ビタミンの栄養学的役割，生理作用と欠乏・過剰について説明できる。 4．ビタミンの吸収と体内利用に及ぼす食事成分の影響について説明できる。 5．ミネラルの吸収，体内動態，および生理学的役割について説明できる。 6．ミネラルの欠乏と過剰が生体に及ぼす影響について説明できる。 7．生体内の水の分布，機能および水分出納について説明できる。 8．電解質（Na，K等）の生理学的役割について説明できる。 9．基礎代謝・安静時代謝，活動時代謝の定義，身体活動レベルについて説明できる。 10．生体の利用エネルギー，エネルギー消費量の測定法，エネルギー出納について説明できる。

思考・判断の観点 (K)	１．健康維持・増進、疾病予防、治療との係わりから栄養の意義（重要性）を的確に類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	タンパク質の栄養（タンパク質・アミノ酸の体内代謝）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	タンパク質を構成しているアミノ酸の種類を学ぶ。生体内におけるたんぱく質の合成と分解の仕組みについて確認し，食後はタンパク質の合成が進むこと，食間期はタンパク質の分解が進むことを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第6章の「アミノ酸・タンパク質の構造・機能」「タンパク質の合成と分解」「タンパク質・アミノ酸の体内代謝」を読み，プリントの穴埋め箇所を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第2回	**授業テーマ**	タンパク質の栄養（タンパク質・アミノ酸代謝の体内代謝②）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	タンパク質・アミノ酸の代謝には臓器差があり，例えば分枝アミノ酸（BCAA）は肝臓で代謝されずに筋肉で利用されることなどを学ぶ。アミノ酸の代謝では，アミノ酸のアミノ基が尿素回路に導入されること，アミノ酸の炭素骨格が糖質・脂質代謝に合流することを学ぶ。また，栄養アセスメントとして用いられる急速代謝回転タンパク質（ラピッドターンオーバープロテイン）の種類を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第6章の「タンパク質・アミノ酸の体内代謝」（タンパク質・アミノ酸代謝の臓器差，アミノ酸の代謝，アルブミン，急速代謝回転タンパク質）を読み，プリントの穴埋め箇所を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第3回	**授業テーマ**	タンパク質の栄養（摂取するタンパク質の量と質の評価，他の栄養素との関係）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事として摂取するタンパク質の栄養価評価法（化学的評価法，生物学的評価法）について，その基本的概念を理解する。タンパク質の摂取量に影響して，必要量が変わる栄養素を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第6章の「摂取するタンパク質の量と質の評価」「他の栄養素との関係」を読み，プリントの穴埋め箇所を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分

第4回	授業テーマ	ビタミンの栄養（脂溶性ビタミンの栄養学的特徴と機能）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂溶性ビタミン（A，D，E，K）の栄養学的特徴と機能を理解する。また、脂溶性ビタミンの摂取過多による過剰症についても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第7章の「ビタミンの構造と機能」（脂溶性ビタミン）を読み，プリントの穴埋め箇所を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第5回	授業テーマ	ビタミンの栄養（ビタミンの構造と機能：水溶性ビタミン①）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水溶性ビタミン（B1，B2，B6，B12，ナイアシン）の栄養学的特徴と機能を理解する。また、これらの水溶性ビタミンの摂取不足による欠乏症についても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第7章の「ビタミンの構造と機能」（水溶性ビタミン）を読み，プリントの穴埋め箇所を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第6回	授業テーマ	ビタミンの栄養（ビタミンの構造と機能：水溶性ビタミン②）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水溶性ビタミン（葉酸，パントテン酸，ビオチン，ビタミンC）の栄養学的特徴と機能を理解する。また、これらの水溶性ビタミンの摂取不足による欠乏症についても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第7章の「ビタミンの構造と機能」（水溶性ビタミン）を読み，プリントの穴埋め箇所を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第7回	授業テーマ	ビタミンの栄養（ビタミンの栄養学的特徴と機能、ビタミンの吸収と体内利用）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	補酵素とビタミン，抗酸化作用とビタミン，ホルモン様作用とビタミン，血液凝固とビタミンK，エネルギー代謝とビタミン，糖質・脂質・アミノ酸の代謝とビタミン，核酸代謝とビタミン，一炭素単位代謝とビタミン，カルシウム代謝とビタミンの関係を理解する。水溶性ビタミンの組織飽和と尿中排泄、腸内細菌によるある種のビタミンの産生、ビタミンB12吸収機構の特殊性を理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第7章の「ビタミンの栄養学的機能」「ビタミンの生物学的利用度」「他の栄養素との関係」を読み，プリントの穴埋め箇所を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第8回	**授業テーマ**	ミネラルの栄養（ミネラルの分類，ミネラルの栄養学的特徴と機能①（硬組織とミネラル））
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本人の食事摂取基準におけるミネラルの分類として，多量ミネラルと微量ミネラルがあることを学び，体内における分布とその意義を理解する。硬組織（骨、歯）を構成しているカルシウム、リン、マグネシウムの役割を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第8章の「ミネラルの分類と栄養学的特徴と機能」「硬組織におけるはたらき」を読み，プリントの穴埋め箇所を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第9回	**授業テーマ**	ミネラルの栄養（ミネラルの栄養学的特徴と機能②（神経・筋肉の機能維持とミネラル，血圧調節とミネラル，糖代謝とミネラル，酵素とミネラル），ミネラルの吸収と体内利用）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	血圧調節に係るナトリウム，糖代謝に係るクロム，活性酸素消去酵素（酸化抑制に係る酵素）の構成成分としての銅，亜鉛，マンガン，セレン、呼吸酵素の構成成分としての鉄の重要性を把握する。食品中の鉄はヘム鉄と非ヘム鉄に分類され，体内の鉄は機能鉄と貯蔵鉄に分類されることを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第8章の「生体機能の調節機構」「酵素反応の賦活作用」「鉄代謝と栄養」「ミネラルの生物学的利用度」を読み，プリントの穴埋め箇所を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第10回	**授業テーマ**	水・電解質の栄養的意義（水の出納）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水の供給と排出に係る代謝水、不可避尿、不感蒸泄の実際を理解する。日常において，水の供給と排泄はバランスが保たれていることを理解する。栄養素別の代謝水量（理論値）の違いを把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第9章の「生体内の水」「水の出納」を読み，プリントの穴埋め箇所を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習を予習をあわせて180分

第11回	授業テーマ	水・電解質の栄養的意義（脱水，熱中症，浮腫，電解質代謝と栄養）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脱水の種類と臨床的症状を理解する。電解質代謝の栄養学的役割として，酸塩基平衡，血圧の調節（ナトリウム・カリウム）の関与を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第9章の「脱水、浮腫」「電解質代謝と栄養」を読み，プリントの穴埋め箇所を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第12回	授業テーマ	エネルギー代謝（エネルギー代謝の概念①（基礎代謝））
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1日に消費されるエネルギーは基礎代謝，活動時代謝，食事誘発性熱産生（DIT）によって構成されていることを学ぶ。そのなかで最も割合の高い基礎代謝量について，その測定（または推定）と基礎代謝量に影響を及ぼす因子について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第10章の「エネルギー代謝の概念」「エネルギー消費量（基礎代謝量）」を読み，プリントの穴埋め箇所を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第13回	授業テーマ	エネルギー代謝（エネルギー代謝の概念②（安静時代謝量，睡眠時代謝量，活動時代謝量，メッツ，身体活動レベル，食事誘発性熱産生））
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基礎代謝量と安静時代謝量の概念や測定方法の違いを理解する。メッツ（Mets）、身体活動レベル（PAL），食事誘発性熱産生（DIT）の定義を理解する。メッツの指標を用いて策定されている「健康づくりのための運動指針2006」の考え方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第10章の「エネルギー消費量」「臓器別エネルギー代謝」を読み，プリントの穴埋め箇所を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第14回	授業テーマ	エネルギー代謝（エネルギー代謝の測定法（呼気ガス分析，呼吸商，二重標識水法））
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エネルギー代謝の測定には，身体から放散される熱を直接測定する直接法と，呼気ガス分析などの間接法に分類される。呼気ガス分析によるエネルギー代謝量の測定原理、エネルギー基質としての糖質と脂質の燃焼割合の算出法を理解する。具体的な例を用い，エネルギー消費量の算出（計算）できるようになる。

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第10章の「エネルギー代謝の測定法」を読み，プリントの穴埋め箇所を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて310分

学習計画注記

休講・授業の進行状況により、学習計画を一部変更・修正する可能性がある。

学生へのフィードバック方法

・確認テストの模範解答は，授業内に提示する。
・質問事項がある場合は，email等で連絡すること。

評価方法

・確認テストは，各回の授業の学習範囲から出題し，授業内に実施する。すべて選択式の方式で出題する。なお、合理的な理由がない限り、確認テストの再試験は行わないので注意すること。
・定期試験は，確認テストの振り返りや、管理栄養士国家試験の出題形式に基づく選択式の問題を含む。
・一般的ルーブリックに沿って評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
確認テスト	○			

評価割合

定期試験（100%）

使用教科書名(ISBN番号)

最新基礎栄養学 第9版（医師薬出版）（ISBN 978-4-263-70747-0）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物そして地域との相互関係から、「人間の栄養」を理解できる専門的知識を有している。
【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。

オフィスアワー

学生へのメッセージ

我々は食事を通して栄養素を摂取し、それを消化・吸収の過程を経て生体内に取り込む。取り込んだ栄養素がどのように役割を果たしているかを理解することは、健康維持・増進、疾病の予防・治療の観点から必要な学修であることから、主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02036032
講義名	基礎栄養学II（HC）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	馬場 修	指定なし

ナンバリング

H13402C21

授業概要(教育目的)

基礎栄養学IIでは、健康の保持・増進疾病の予防・治療における栄養の役割を総合的に理解する。特に、ビタミン、無機質（ミネラル）、電解質、水分については、それぞれの栄養学的な特徴と機能を概説し、欠乏または過剰がもたらす代謝変化を知る。また、基礎代謝や臓器別エネルギー代謝などエネルギー代謝の基本的概念について、その測定法を含めて学ぶ。

履修条件

基礎栄養学Iを履修していること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	1．たんぱく質・アミノ酸の栄養学的役割，臓器間輸送と臓器における機能の特徴について説明できる。 2．窒素平衡と食事たんぱく質の栄養価評価法について説明できる。 3．ビタミンの栄養学的役割，生理作用と欠乏・過剰について説明できる。 4．ビタミンの吸収と体内利用に及ぼす食事成分の影響について説明できる。 5．ミネラルの吸収，体内動態，および生理学的役割について説明できる。 6．ミネラルの欠乏と過剰が生体に及ぼす影響について説明できる。 7．生体内の水の分布，機能および水分出納について説明できる。 8．電解質（Na，K等）の生理学的役割について説明できる。 9．基礎代謝・安静時代謝，活動時代謝の定義，身体活動レベルについて説明できる。 10．生体の利用エネルギー，エネルギー消費量の測定法，エネルギー出納について説明できる。

思考・判断の観点 (K)	１．健康維持・増進、疾病予防、治療との係わりから栄養の意義（重要性）を的確に類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	タンパク質の栄養（タンパク質・アミノ酸の体内代謝）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	タンパク質を構成しているアミノ酸の種類を学ぶ。生体内におけるたんぱく質の合成と分解の仕組みについて確認し，食後はタンパク質の合成が進むこと，食間期はタンパク質の分解が進むことを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第6章の「アミノ酸・タンパク質の構造・機能」「タンパク質の合成と分解」「タンパク質・アミノ酸の体内代謝」を読み，プリントの穴埋め箇所を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第2回	**授業テーマ**	タンパク質の栄養（タンパク質・アミノ酸代謝の体内代謝②）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	タンパク質・アミノ酸の代謝には臓器差があり，例えば分枝アミノ酸（BCAA）は肝臓で代謝されずに筋肉で利用されることなどを学ぶ。アミノ酸の代謝では，アミノ酸のアミノ基が尿素回路に導入されること，アミノ酸の炭素骨格が糖質・脂質代謝に合流することを学ぶ。また，栄養アセスメントとして用いられる急速代謝回転タンパク質（ラピッドターンオーバープロテイン）の種類を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第6章の「タンパク質・アミノ酸の体内代謝」（タンパク質・アミノ酸代謝の臓器差，アミノ酸の代謝，アルブミン，急速代謝回転タンパク質）を読み，プリントの穴埋め箇所を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第3回	**授業テーマ**	タンパク質の栄養（摂取するタンパク質の量と質の評価，他の栄養素との関係）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事として摂取するタンパク質の栄養価評価法（化学的評価法，生物学的評価法）について，その基本的概念を理解する。タンパク質の摂取量に影響して，必要量が変わる栄養素を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第6章の「摂取するタンパク質の量と質の評価」「他の栄養素との関係」を読み，プリントの穴埋め箇所を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分

第4回	授業テーマ	ビタミンの栄養（脂溶性ビタミンの栄養学的特徴と機能）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂溶性ビタミン（A，D，E，K）の栄養学的特徴と機能を理解する。また、脂溶性ビタミンの摂取過多による過剰症についても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第7章の「ビタミンの構造と機能」（脂溶性ビタミン）を読み，プリントの穴埋め箇所を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第5回	授業テーマ	ビタミンの栄養（ビタミンの構造と機能：水溶性ビタミン①）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水溶性ビタミン（B1，B2，B6，B12，ナイアシン）の栄養学的特徴と機能を理解する。また、これらの水溶性ビタミンの摂取不足による欠乏症についても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第7章の「ビタミンの構造と機能」（水溶性ビタミン）を読み，プリントの穴埋め箇所を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第6回	授業テーマ	ビタミンの栄養（ビタミンの構造と機能：水溶性ビタミン②）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水溶性ビタミン（葉酸，パントテン酸，ビオチン，ビタミンC）の栄養学的特徴と機能を理解する。また、これらの水溶性ビタミンの摂取不足による欠乏症についても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第7章の「ビタミンの構造と機能」（水溶性ビタミン）を読み，プリントの穴埋め箇所を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第7回	授業テーマ	ビタミンの栄養（ビタミンの栄養学的特徴と機能、ビタミンの吸収と体内利用）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	補酵素とビタミン，抗酸化作用とビタミン，ホルモン様作用とビタミン，血液凝固とビタミンK，エネルギー代謝とビタミン，糖質・脂質・アミノ酸の代謝とビタミン，核酸代謝とビタミン，一炭素単位代謝とビタミン，カルシウム代謝とビタミンの関係を理解する。水溶性ビタミンの組織飽和と尿中排泄、腸内細菌によるある種のビタミンの産生、ビタミンB12吸収機構の特殊性を理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第7章の「ビタミンの栄養学的機能」「ビタミンの生物学的利用度」「他の栄養素との関係」を読み，プリントの穴埋め箇所を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第8回	**授業テーマ**	ミネラルの栄養（ミネラルの分類，ミネラルの栄養学的特徴と機能①（硬組織とミネラル））
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本人の食事摂取基準におけるミネラルの分類として，多量ミネラルと微量ミネラルがあることを学び，体内における分布とその意義を理解する。硬組織（骨、歯）を構成しているカルシウム、リン、マグネシウムの役割を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第8章の「ミネラルの分類と栄養学的特徴と機能」「硬組織におけるはたらき」を読み，プリントの穴埋め箇所を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第9回	**授業テーマ**	ミネラルの栄養（ミネラルの栄養学的特徴と機能②（神経・筋肉の機能維持とミネラル，血圧調節とミネラル，糖代謝とミネラル，酵素とミネラル），ミネラルの吸収と体内利用）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	血圧調節に係るナトリウム，糖代謝に係るクロム，活性酸素消去酵素（酸化抑制に係る酵素）の構成成分としての銅，亜鉛，マンガン，セレン、呼吸酵素の構成成分としての鉄の重要性を把握する。食品中の鉄はヘム鉄と非ヘム鉄に分類され，体内の鉄は機能鉄と貯蔵鉄に分類されることを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第8章の「生体機能の調節機構」「酵素反応の賦活作用」「鉄代謝と栄養」「ミネラルの生物学的利用度」を読み，プリントの穴埋め箇所を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第10回	**授業テーマ**	水・電解質の栄養的意義（水の出納）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水の供給と排出に係る代謝水、不可避尿、不感蒸泄の実際を理解する。日常において，水の供給と排泄はバランスが保たれていることを理解する。栄養素別の代謝水量（理論値）の違いを把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第9章の「生体内の水」「水の出納」を読み，プリントの穴埋め箇所を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習を予習をあわせて180分

第11回	授業テーマ	水・電解質の栄養的意義（脱水，熱中症，浮腫，電解質代謝と栄養）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脱水の種類と臨床的症状を理解する。電解質代謝の栄養学的役割として，酸塩基平衡，血圧の調節（ナトリウム・カリウム）の関与を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第9章の「脱水、浮腫」「電解質代謝と栄養」を読み，プリントの穴埋め箇所を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第12回	授業テーマ	エネルギー代謝（エネルギー代謝の概念①（基礎代謝））
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1日に消費されるエネルギーは基礎代謝，活動時代謝，食事誘発性熱産生（DIT）によって構成されていることを学ぶ。そのなかで最も割合の高い基礎代謝量について，その測定（または推定）と基礎代謝量に影響を及ぼす因子について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第10章の「エネルギー代謝の概念」「エネルギー消費量（基礎代謝量）」を読み，プリントの穴埋め箇所を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第13回	授業テーマ	エネルギー代謝（エネルギー代謝の概念②（安静時代謝量，睡眠時代謝量，活動時代謝量，メッツ，身体活動レベル，食事誘発性熱産生））
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基礎代謝量と安静時代謝量の概念や測定方法の違いを理解する。メッツ（Mets）、身体活動レベル（PAL），食事誘発性熱産生（DIT）の定義を理解する。メッツの指標を用いて策定されている「健康づくりのための運動指針2006」の考え方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第10章の「エネルギー消費量」「臓器別エネルギー代謝」を読み，プリントの穴埋め箇所を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて180分
第14回	授業テーマ	エネルギー代謝（エネルギー代謝の測定法（呼気ガス分析，呼吸商，二重標識水法））
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エネルギー代謝の測定には，身体から放散される熱を直接測定する直接法と，呼気ガス分析などの間接法に分類される。呼気ガス分析によるエネルギー代謝量の測定原理、エネルギー基質としての糖質と脂質の燃焼割合の算出法を理解する。具体的な例を用い，エネルギー消費量の算出（計算）できるようになる。

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第10章の「エネルギー代謝の測定法」を読み，プリントの穴埋め箇所を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習と予習をあわせて310分

学習計画注記

実験の進行状況により、学習計画を一部変更・修正する可能性がある。

学生へのフィードバック方法

・確認テストの模範解答は，授業内に提示する。
・質問事項がある場合は，email等で連絡すること。

評価方法

・確認テストは，各回の授業の学習範囲から出題し，授業内に実施する。すべて選択式の方式で出題する。なお、合理的な理由がない限り、確認テストの再試験は行わないので注意すること。
・定期試験は，確認テストの振り返りや、管理栄養士国家試験の出題形式に基づく選択式の問題を含む。
・一般的ルーブリックに沿って評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
確認テスト	○			

評価割合

定期試験（100%）

使用教科書名(ISBN番号)

最新基礎栄養学 第9版（医師薬出版）（ISBN 978-4-263-70747-0）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物そして地域との相互関係から、「人間の栄養」を理解できる専門的知識を有している。
【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。

オフィスアワー

月曜1時限目 講師室

学生へのメッセージ

我々は食事を通して栄養素を摂取し、それを消化・吸収の過程を経て生体内に取り込む。取り込んだ栄養素がどのように役割を果たしているかを理解することは、健康維持・増進、疾病の予防・治療の観点から必要な学修であることから、主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02037031
講義名	基礎栄養学実験（HA）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	坂野 史明	指定なし

ナンバリング

H23403C13

授業概要(教育目的)

栄養素が生体内でどのような消化・吸収・代謝経路を辿って生理的役割を果たしているか、またそれらが体内で利用された後、どのように排泄されているかを理解するための実験を行う。また、食品や生体試料中に含まれる栄養成分の分離分析を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各栄養素の消化過程についてその概要が説明できる。血液の生化学的分析手法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	実験で得られた結果について、論理的に考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実験に主体的に取り組む意欲をもつ。
技術・表現の観点 (A)	実験の基本操作、実験方法に習熟する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実験の概要と注意点、実験ノートやレポート作成の方法について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。

	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	糖質実験（でんぷんの消化I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	でんぷんのα-アミラーゼによる消化過程を観察し、反応の至適温度について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付テキストをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	糖質実験（でんぷんの消化II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	でんぷんのα-アミラーゼによる消化過程を観察し、反応の至適pHについて考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付テキストをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	たんぱく質実験（たんぱく質の消化I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卵白たんぱく質のペプシンによる消化過程を観察し、反応の至適pHについて考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	たんぱく質実験（たんぱく質の消化II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卵白たんぱく質のペプシンによる消化過程を観察し、反応の至適温度について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	**授業テーマ**	たんぱく質実験（たんぱく質の消化III-1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	たんぱく質の消化液から、残存たんぱく質を分離・抽出する方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	たんぱく質実験（たんぱく質の消化III-2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	抽出液中のたんぱく質残存量を定量し、消化反応の特徴を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	脂質実験（脂質の消化I）

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	トリアシルグリセロールの膵臓リパーゼによる消化過程を観察し、生成物の経時変化について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	脂質実験（脂質の消化II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	薄層クロマトグラフィー（TLC）による脂質の分離分析法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	クロマトグラフィー実験（ゲル濾過クロマトグラフィーI）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲル濾過クロマトグラフィー法の原理と物質の分離・精製について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	クロマトグラフィー実験（ゲル濾過クロマトグラフィーII）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲル濾過クロマトグラフィー法を用いた物質の添加回収実験を行い、回収率について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	血液成分に関する実験（血清中脂質の測定I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	血清中のトリアシルグルセロール（中性脂質）および遊離脂肪酸濃度の測定法とその臨床的意義について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	血液成分に関する実験（血清中脂質の測定II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	血清中の総コレステロールおよび遊離コレステロール濃度の測定法とその臨床的意義について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	血液成分に関する実験（血清中の酵素活性測定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	血清中のアミノ基転移酵素（アミノトランスフェラーゼ、トランスアミナーゼ）活性の測定法とその臨床的意義につ

第14回	を含む)	いて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

実験の進行状況により、学習計画を一部変更・修正する可能性がある。

学生へのフィードバック方法

提出されたレポートの内容から、説明が必要な点についてフィードバックする。

評価方法

実験への取り組み方、実験レポートの内容から総合的に評価する。
評価はルーブリックに基づいて行い、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内での配付等により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実験への取り組み方	○	○	○	○
実験レポート	○	○		

評価割合

実験への取り組み方（30%）、実験レポート（70%）

使用教科書名(ISBN番号)

プリントを配付

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物の相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を身につけている。
【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的・批判的に思考することができる。
【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけている。
【技能・表現】健康の保持増進に関する専門的技能を身につけている。

オフィスアワー

木曜日3時限目

学生へのメッセージ

実験を通して栄養化学の基本的知識と研究手法を身につけ、管理栄養士としての基礎力を磨いて欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国立研究機関において生化学・分子生物学研究に関する実務経験があり、栄養成分の生化学的分析法について実践的に教授する。
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02037032
講義名	基礎栄養学実験（HB）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	坂野 史明	指定なし

ナンバリング

H23403C13

授業概要(教育目的)

栄養素が生体内でどのような消化・吸収・代謝経路を辿って生理的役割を果たしているか、またそれらが体内で利用された後、どのように排泄されているかを理解するための実験を行う。また、食品や生体試料中に含まれる栄養成分の分離分析を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各栄養素の消化過程についてその概要が説明できる。血液の生化学的分析手法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	実験で得られた結果について、論理的に考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実験に主体的に取り組む意欲をもつ。
技術・表現の観点 (A)	実験の基本操作、実験方法に習熟する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実験の概要と注意点、実験ノートやレポート作成の方法について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。

	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	糖質実験（でんぷんの消化I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	でんぷんのα-アミラーゼによる消化過程を観察し、反応の至適温度について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付テキストをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	糖質実験（でんぷんの消化II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	でんぷんのα-アミラーゼによる消化過程を観察し、反応の至適pHについて考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付テキストをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	たんぱく質実験（たんぱく質の消化I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卵白たんぱく質のペプシンによる消化過程を観察し、反応の至適pHについて考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	たんぱく質実験（たんぱく質の消化II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卵白たんぱく質のペプシンによる消化過程を観察し、反応の至適温度について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	**授業テーマ**	たんぱく質実験（たんぱく質の消化III-1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	たんぱく質の消化液から、残存たんぱく質を分離・抽出する方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	たんぱく質実験（たんぱく質の消化III-2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	抽出液中のたんぱく質残存量を定量し、消化反応の特徴を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	脂質実験（脂質の消化I）

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	トリアシルグリセロールの膵臓リパーゼによる消化過程を観察し、生成物の経時変化について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	脂質実験（脂質の消化II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	薄層クロマトグラフィー（TLC）による脂質の分離分析法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	クロマトグラフィー実験（ゲル濾過クロマトグラフィーI）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲル濾過クロマトグラフィー法の原理と物質の分離・精製について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	クロマトグラフィー実験（ゲル濾過クロマトグラフィーII）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲル濾過クロマトグラフィー法を用いた物質の添加回収実験を行い、回収率について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	血液成分に関する実験（血清中脂質の測定I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	血清中のトリアシルグルセロール（中性脂質）および遊離脂肪酸濃度の測定法とその臨床的意義について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	血液成分に関する実験（血清中脂質の測定II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	血清中の総コレステロールおよび遊離コレステロール濃度の測定法とその臨床的意義について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	血液成分に関する実験（血清中の酵素活性測定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	血清中のアミノ基転移酵素（アミノトランスフェラーゼ、トランスアミナーゼ）活性の測定法とその臨床的意義につ

第14回	を含む)	いて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

実験の進行状況により、学習計画を一部変更・修正する可能性がある。

学生へのフィードバック方法

提出されたレポートの内容から、説明が必要な点についてフィードバックする。

評価方法

実験への取り組み方、実験レポートの内容から総合的に評価する。
評価はルーブリックに基づいて行い、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内での配付等により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実験への取り組み方	○	○	○	○
実験レポート	○	○		

評価割合

実験への取り組み方（30%）、実験レポート（70%）

使用教科書名(ISBN番号)

プリントを配付

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物の相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を身につけている。
【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的・批判的に思考することができる。
【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけている。
【技能・表現】健康の保持増進に関する専門的技能を身につけている。

オフィスアワー

木曜日3時限目

学生へのメッセージ

実験を通して栄養化学の基本的知識と研究手法を身につけ、管理栄養士としての基礎力を磨いて欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国立研究機関において生化学・分子生物学研究に関する実務経験があり、栄養成分の生化学的分析法について実践的に教授する。
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02037033
講義名	基礎栄養学実験（HC）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	坂野 史明	指定なし

ナンバリング

H23403C13

授業概要(教育目的)

栄養素が生体内でどのような消化・吸収・代謝経路を辿って生理的役割を果たしているか、またそれらが体内で利用された後、どのように排泄されているかを理解するための実験を行う。また、食品や生体試料中に含まれる栄養成分の分離分析を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各栄養素の消化過程についてその概要が説明できる。血液の生化学的分析手法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	実験で得られた結果について、論理的に考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実験に主体的に取り組む意欲をもつ。
技術・表現の観点 (A)	実験の基本操作、実験方法に習熟する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実験の概要と注意点、実験ノートやレポート作成の方法について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。

	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	糖質実験（でんぷんの消化I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	でんぷんのα-アミラーゼによる消化過程を観察し、反応の至適温度について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付テキストをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	糖質実験（でんぷんの消化II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	でんぷんのα-アミラーゼによる消化過程を観察し、反応の至適pHについて考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付テキストをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	たんぱく質実験（たんぱく質の消化I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卵白たんぱく質のペプシンによる消化過程を観察し、反応の至適pHについて考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	たんぱく質実験（たんぱく質の消化II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卵白たんぱく質のペプシンによる消化過程を観察し、反応の至適温度について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	**授業テーマ**	たんぱく質実験（たんぱく質の消化III-1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	たんぱく質の消化液から、残存たんぱく質を分離・抽出する方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	たんぱく質実験（たんぱく質の消化III-2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	抽出液中のたんぱく質残存量を定量し、消化反応の特徴を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	脂質実験（脂質の消化I）

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	トリアシルグリセロールの膵臓リパーゼによる消化過程を観察し、生成物の経時変化について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	脂質実験（脂質の消化II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	薄層クロマトグラフィー（TLC）による脂質の分離分析法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	クロマトグラフィー実験（ゲル濾過クロマトグラフィーI）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲル濾過クロマトグラフィー法の原理と物質の分離・精製について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	クロマトグラフィー実験（ゲル濾過クロマトグラフィーII）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲル濾過クロマトグラフィー法を用いた物質の添加回収実験を行い、回収率について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	血液成分に関する実験（血清中脂質の測定I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	血清中のトリアシルグルセロール（中性脂質）および遊離脂肪酸濃度の測定法とその臨床的意義について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	血液成分に関する実験（血清中脂質の測定II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	血清中の総コレステロールおよび遊離コレステロール濃度の測定法とその臨床的意義について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	血液成分に関する実験（血清中の酵素活性測定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	血清中のアミノ基転移酵素（アミノトランスフェラーゼ、トランスアミナーゼ）活性の測定法とその臨床的意義につ

第14回	を含む)	いて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

実験の進行状況により、学習計画を一部変更・修正する可能性がある。

学生へのフィードバック方法

提出されたレポートの内容から、説明が必要な点についてフィードバックする。

評価方法

実験への取り組み方、実験レポートの内容から総合的に評価する。
評価はルーブリックに基づいて行い、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内での配付等により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実験への取り組み方	○	○	○	○
実験レポート	○	○		

評価割合

実験への取り組み方（30%）、実験レポート（70%）

使用教科書名(ISBN番号)

プリントを配付

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物の相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を身につけている。
【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的・批判的に思考することができる。
【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけている。
【技能・表現】健康の保持増進に関する専門的技能を身につけている。

オフィスアワー

木曜日3時限目

学生へのメッセージ

実験を通して栄養化学の基本的知識と研究手法を身につけ、管理栄養士としての基礎力を磨いて欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国立研究機関において生化学・分子生物学研究に関する実務経験があり、栄養成分の生化学的分析法について実践的に教授する。
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02037034
講義名	基礎栄養学実験（HD）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

H23403C13

授業概要(教育目的)

栄養素が生体内でどのような消化・吸収・代謝経路を辿って生理的役割を果たしているか、またそれらが体内で利用された後、どのように排泄されているかを理解するための実験を行う。また、食品や生体試料中に含まれる栄養成分の分離分析を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各栄養素の消化過程についてその概要が説明できる。血液の生化学的分析手法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	実験で得られた結果について、論理的に考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実験に主体的に取り組む意欲をもつ。
技術・表現の観点 (A)	実験の基本操作、実験方法に習熟する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実験の概要と注意点、実験ノートやレポート作成の方法について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	糖質実験（でんぷんの消化I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	でんぷんのα-アミラーゼによる消化過程を観察し、反応の至適温度について考察する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付テキストをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	糖質実験（でんぷんの消化II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	でんぷんのα-アミラーゼによる消化過程を観察し、反応の至適pHについて考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付テキストをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	たんぱく質実験（たんぱく質の消化I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卵白たんぱく質のペプシンによる消化過程を観察し、反応の至適pHについて考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	たんぱく質実験（たんぱく質の消化II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卵白たんぱく質のペプシンによる消化過程を観察し、反応の至適温度について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	**授業テーマ**	たんぱく質実験（たんぱく質の消化III-1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	たんぱく質の消化液から、残存たんぱく質を分離・抽出する方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	たんぱく質実験（たんぱく質の消化III-2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	抽出液中のたんぱく質残存量を定量し、消化反応の特徴を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	脂質実験（脂質の消化I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	トリアシルグリセロールの膵臓リパーゼによる消化過程を観察し、生成物の経時変化について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。

	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	脂質実験（脂質の消化II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	薄層クロマトグラフィー（TLC）による脂質の分離分析法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	クロマトグラフィー実験（ゲル濾過クロマトグラフィーI）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲル濾過クロマトグラフィー法の原理と物質の分離・精製について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	クロマトグラフィー実験（ゲル濾過クロマトグラフィーII）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゲル濾過クロマトグラフィー法を用いた物質の添加回収実験を行い、回収率について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	血液成分に関する実験（血清中脂質の測定I）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	血清中のトリアシルグルセロール（中性脂質）および遊離脂肪酸濃度の測定法とその臨床的意義について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	血液成分に関する実験（血清中脂質の測定II）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	血清中の総コレステロールおよび遊離コレステロール濃度の測定法とその臨床的意義について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	血液成分に関する実験（血清中の酵素活性測定）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	血清中のアミノ基転移酵素（アミノトランスフェラーゼ、トランスアミナーゼ）活性の測定法とその臨床的意義について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配付プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

実験の進行状況により、学習計画を一部変更・修正する可能性がある。

学生へのフィードバック方法

提出されたレポートの内容から、説明が必要な点についてフィードバックする。

評価方法

実験への取り組み方、実験レポートの内容から総合的に評価する。
評価はルーブリックに基づいて行い、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内での配付等により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実験への取り組み方	○	○	○	○
実験レポート	○	○		

評価割合

実験への取り組み方（30%）、実験レポート（70%）

使用教科書名(ISBN番号)

プリントを配付

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物の相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を身につけている。
【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的・批判的に思考することができる。
【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけている。
【技能・表現】健康の保持増進に関する専門的技能を身につけている。

オフィスアワー

木曜日3時限目

学生へのメッセージ

実験を通して栄養化学の基本的知識と研究手法を身につけ、管理栄養士としての基礎力を磨いて欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国立研究機関において生化学・分子生物学研究に関する実務経験があり、栄養成分の生化学的分析法について実践的に教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02038031
講義名	食事摂取基準論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	加藤 理津子	指定なし

ナンバリング

H23501C21

授業概要(教育目的)

食事摂取基準は、健康増進法に基づき厚生労働大臣が定めるエネルギー栄養素の摂取量の基準で、栄養管理業務の根底をなすものである。食事摂取基準の概念や、エネルギーおよび各栄養素の基準値設定とその根拠について講義する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	食事摂取基準策定の意義や科学的根拠について説明できる。 栄養素の各指標について科学的根拠に基づき説明できる。
思考・判断の観点 (K)	健康増進・疾病予防に寄与する栄養素の機能などを理解し、各ライフステージにおける栄養管理に活用することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	総論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事摂取基準について、策定方針、基本的事項、留意事項、活用に関する基本的事項などを理解する。

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	**授業テーマ**	総論２，エネルギー１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事摂取基準について、策定方針、基本的事項、留意事項、活用に関する基本的事項などを理解する。 エネルギーに関する基本的事項、エネルギー摂取の消費、エネルギー必要量に関する基本的事項や、必要量の測定・推定・算定などについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	エネルギー２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エネルギーに関する基本的事項、エネルギー摂取の消費、エネルギー必要量に関する基本的事項や、必要量の測定・推定・算定などについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	たんぱく質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	たんぱく質に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	脂質，炭水化物，エネルギー産生栄養素バランス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。炭水化物，エネルギー産生栄養素バランスに関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	脂溶性ビタミン１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂溶性ビタミン（ビタミンA，D）に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分

第7回	授業テーマ	脂溶性ビタミン２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂溶性ビタミン（ビタミンE，K）に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	水溶性ビタミン１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水溶性ビタミン（B1，B2,ナイアシン，B6，B12）に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	水溶性ビタミン２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水溶性ビタミン（葉酸,パントテン酸，ビオチン，ビタミンC）に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	多量ミネラル１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	多量ミネラル（ナトリウム，カリウム）に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	多量ミネラル２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	多量ミネラル（カルシウム，マグネシウム，リン）に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	微量ミネラル1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	微量ミネラル（鉄，亜鉛，銅，マンガン）に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。
	教室外学習(予	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。

	習・復習)の内容	事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	微量ミネラル2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	微量ミネラル（ヨウ素，セレン，クロム，モリブデン）に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	水，対象特性，生活習慣病とエネルギー・栄養素との関連
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水，対象特性（妊婦・授乳婦，乳児・小児，高齢者），生活習慣病とエネルギー・栄養素との関連について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。これまでの授業内容を総復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第15回	**授業テーマ**	定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

講義の進行状況により、学習計画を一部変更・修正する場合がある。

学生へのフィードバック方法

質問は、対面にて対応する。

評価方法

定期試験で評価を行う。60%以上の得点で合格とする。試験の形式については授業内で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		

評価割合

評価割合は定期試験100%とし、60%以上の得点で合格とする。ただし、出席日数が3分の2以上達していない学生は定期試験を受験することはできない。

使用教科書名(ISBN番号)

日本人の食事摂取基準2025年版（第一出版）

参考図書

適宜、紹介する。

参考URL

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/eiyou/syokuji_kijyun.html

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「人間の栄養」を理解するための専門的知識を身につける。
【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題の解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。

オフィスアワー

火曜日・お昼休み（1B05研究室）

学生へのメッセージ

単に栄養素の数値を覚えるのではなく、その背景にある考え方を理解するようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、スポーツ栄養の現場、行政施設等での実務経験を有しており、食事摂取基準をもとにした栄養管理業務について理論と技術を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02039031
講義名	ライフステージ別栄養学I
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	斉藤 恵美子	指定なし

ナンバリング

H23502C21

授業概要(教育目的)

本講義では、ライフステージ概論にはじまり、妊娠期、胎児期、新生児期、乳幼児期、学童期、思春期に至る各ライフステージの特徴、関連する疾患や栄養学について講義する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各ライフステージにおける特徴、関連疾患、栄養状態や栄養管理について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	各ライフステージや環境の違いに応じた疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメントと関連付けて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ライフステージ別栄養学の概要、栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ライフステージやライフサイクルの概念、栄養スクリーニングの方法、臨床検査値の解釈等について理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	妊娠・産褥期の生理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	妊娠成立の仕組み、発生週数と在胎週数の違い、妊娠に伴う母体の変化、胎児発育に影響を及ぼす因子、産褥等について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	妊娠・分娩・産褥期の栄養、妊娠合併症
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	妊娠中の低栄養と次世代の健康、妊婦・授乳婦の栄養必要量や栄養付加量、妊産婦のための食事バランスガイド、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。妊娠合併症については、臨床病態栄養学・臨床栄養学基礎の教科書の該当部分も読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	授乳期
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳汁に関するホルモン、母乳栄養の利点、初乳と生乳の違い、授乳婦の栄養、授乳中に注意すべき食品や服薬、垂直感染について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	正常新生児と乳児
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	正常新生児、正常乳児の生理的特徴、発達等について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	新生児期・乳児期の疾患
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新生児期、乳児期に特徴的な疾患について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分

第7回	授業テーマ	新生児期・乳児期の栄養
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新生児期・乳児期の栄養学的特徴、栄養管理について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間(分)	180分
第8回	授業テーマ	母乳と人工乳、離乳食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	母乳および人工乳の特徴と相違点、離乳の開始・進行・終了、離乳食の進め方と支援法、咀嚼機能の発達、乳児期の食事摂取基準等について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間(分)	180分
第9回	授業テーマ	先天性代謝異常症と特殊ミルク
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	代表的な先天性代謝異常症の種類と病態・治療法、新生児マススクリーニング、特殊ミルクの適応症について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：本科目の教科書および臨床病態栄養学・臨床栄養学基礎で使用する教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間(分)	180分
第10回	授業テーマ	幼児期の成長と栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	スキャモンの臓器別発育曲線、幼児の体格判定法、骨年齢、歯牙、各臓器の発育発達の特徴等について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間(分)	180分
第11回	授業テーマ	幼児期の病態と栄養ケア
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児期に特徴的な疾患（栄養障害、貧血、脱水、周期性嘔吐症など）や、食を通じた幼児の健全育成について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：本科目の教科書および臨床病態栄養学・臨床栄養学基礎で使用する教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間(分)	180分
	授業テーマ	学童期・思春期の生理的特徴と疾患
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含)	学童期・思春期のホルモン動態、成熟度の評価法、および小児肥満・肥満症・メタボリック症候群、小児の家族性高コレステロール血症について理解する。

	む	
第12回	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：1年次で学習した左記に関する内容について復習しておく。本科目の教科書および臨床病態栄養学・臨床栄養学基礎で使用する教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間(分)	180分
第13回	授業テーマ	学童期・思春期の疾患と栄養ケア
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学童期・思春期に特徴的な疾患（やせ、貧血など）や関連する栄養学的諸問題について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：本科目の教科書および臨床病態栄養学・臨床栄養学基礎で使用する教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間(分)	180分
第14回	授業テーマ	第1回から第13回のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第1回から13回の講義で学んだ各ステージに特徴的な生理学的・栄養学的に重要な部分および疾患を確認し、理解や知識を確実なものとする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1回から13回までの配布資料に再度目を通すこと。知識が不確実な点については、該当部分の教科書も再度確認する。定期試験に向けて内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間(分)	360分

学習計画注記

履修者の状況等によって進行内容が変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

学習範囲に応じて、練習問題を必要に応じて行う。
質問は随時対応する。

評価方法

定期試験（筆記試験）で評価を行う。
なお定期試験（筆記試験）で評価を行うため、ルーブリックは設定しない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		

評価割合

定期試験100%

使用教科書名(ISBN番号)

栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学 改訂第３版（羊土社）
栢下 淳，上西一弘／編
ISBN 9784758113649

参考図書

栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち 第３版（羊土社）
病気がみえる vol.1～15（MEDIC MEDIA）
日本人の食事摂取基準2025年版（第一出版）
その他、必要に応じて授業内で提示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「人間の栄養」を理解するための専門的知識を身につける。
【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題の解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。

オフィスアワー

木曜昼休み（1503研究室）

学生へのメッセージ

今まで履修してきた基礎系の科目や臨床系の科目のみならず、社会医学系や栄養教育系など、どの科目とも有機的に繋がっています。他の分野とも関連付けながら学修するようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、医療の実地臨床において、診療業務等の実務経験を有しており、臨床現場における現状や具体例も呈示しながら、実践的な内容を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02039032
講義名	ライフステージ別栄養学I
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	斉藤 恵美子	指定なし

ナンバリング

H23502C21

授業概要(教育目的)

本講義では、ライフステージ概論にはじまり、妊娠期、胎児期、新生児期、乳幼児期、学童期、思春期に至る各ライフステージの特徴、関連する疾患や栄養学について講義する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各ライフステージにおける特徴、関連疾患、栄養状態や栄養管理について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	各ライフステージや環境の違いに応じた疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメントと関連付けて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ライフステージ別栄養学の概要、栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ライフステージやライフサイクルの概念、栄養スクリーニングの方法、臨床検査値の解釈等について理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	妊娠・産褥期の生理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	妊娠成立の仕組み、発生週数と在胎週数の違い、妊娠に伴う母体の変化、胎児発育に影響を及ぼす因子、産褥等について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	妊娠・分娩・産褥期の栄養、妊娠合併症
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	妊娠中の低栄養と次世代の健康、妊婦・授乳婦の栄養必要量や栄養付加量、妊産婦のための食事バランスガイド、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。妊娠合併症については、臨床病態栄養学・臨床栄養学基礎の教科書の該当部分も読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	授乳期
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳汁に関するホルモン、母乳栄養の利点、初乳と生乳の違い、授乳婦の栄養、授乳中に注意すべき食品や服薬、垂直感染について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	正常新生児と乳児
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	正常新生児、正常乳児の生理的特徴、発達等について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	新生児期・乳児期の疾患
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新生児期、乳児期に特徴的な疾患について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分

第7回	授業テーマ	新生児期・乳児期の栄養
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新生児期・乳児期の栄養学的特徴、栄養管理について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間(分)	180分
第8回	授業テーマ	母乳と人工乳、離乳食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	母乳および人工乳の特徴と相違点、離乳の開始・進行・終了、離乳食の進め方と支援法、咀嚼機能の発達、乳児期の食事摂取基準等について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間(分)	180分
第9回	授業テーマ	先天性代謝異常症と特殊ミルク
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	代表的な先天性代謝異常症の種類と病態・治療法、新生児マススクリーニング、特殊ミルクの適応症について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：本科目の教科書および臨床病態栄養学・臨床栄養学基礎で使用する教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間(分)	180分
第10回	授業テーマ	幼児期の成長と栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	スキャモンの臓器別発育曲線、幼児の体格判定法、骨年齢、歯牙、各臓器の発育発達の特徴等について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間(分)	180分
第11回	授業テーマ	幼児期の病態と栄養ケア
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児期に特徴的な疾患（栄養障害、貧血、脱水、周期性嘔吐症など）や、食を通じた幼児の健全育成について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：本科目の教科書および臨床病態栄養学・臨床栄養学基礎で使用する教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間(分)	180分
	授業テーマ	学童期・思春期の生理的特徴と疾患
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含)	学童期・思春期のホルモン動態、成熟度の評価法、および小児肥満・肥満症・メタボリック症候群、小児の家族性高コレステロール血症について理解する。

	む	
第12回	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：1年次で学習した左記に関する内容について復習しておく。本科目の教科書および臨床病態栄養学・臨床栄養学基礎で使用する教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間(分)	180分
第13回	授業テーマ	学童期・思春期の疾患と栄養ケア
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学童期・思春期に特徴的な疾患（やせ、貧血など）や関連する栄養学的諸問題について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：本科目の教科書および臨床病態栄養学・臨床栄養学基礎で使用する教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間(分)	180分
第14回	授業テーマ	第1回から第13回のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第1回から13回の講義で学んだ各ステージに特徴的な生理学的・栄養学的に重要な部分および疾患を確認し、理解や知識を確実なものとする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1回から13回までの配布資料に再度目を通すこと。知識が不確実な点については、該当部分の教科書も再度確認する。定期試験に向けて内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間(分)	360分

学習計画注記

履修者の状況等によって進行内容が変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

学習範囲に応じて、練習問題を必要に応じて行う。
質問は随時対応する。

評価方法

定期試験（筆記試験）で評価を行う。
なお定期試験（筆記試験）で評価を行うため、ルーブリックは設定しない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		

評価割合

定期試験100%

使用教科書名(ISBN番号)

栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学 改訂第3版（羊土社）

参考図書

栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち 第3版（羊土社）
病気がみえる vol.1～15（MEDIC MEDIA）

日本人の食事摂取基準2025年版（第一出版）
その他、必要に応じて授業内で提示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「人間の栄養」を理解するための専門的知識を身につける。
【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題の解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。

オフィスアワー

木曜昼休み（1503研究室）

学生へのメッセージ

今まで履修してきた基礎系の科目や臨床系の科目のみならず、社会医学系や栄養教育系など、どの科目とも有機的に繋がっています。他の分野とも関連付けながら学修するようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、医療の実地臨床において、診療業務等の実務経験を有しており、臨床現場における現状や具体例も呈示しながら、実践的な内容を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02040031
講義名	ライフステージ別栄養学II
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	斉藤 恵美子	指定なし

ナンバリング

H33503C21

授業概要(教育目的)

本講義では、食物アレルギーおよび成人期、更年期、高齢者などの各ライフステージに関連した疾患や栄養学について講義する。さらに、栄養とエネルギー代謝、スポーツと栄養、環境ストレス（疾患、生体リズム、温度環境、高所、高圧、低圧、無重力など）、災害時といった特殊な環境の条件下における生体の反応と特殊な栄養状態、および栄養的要求について講義する。

履修条件

臨床病態栄養学，臨床栄養学基礎，ライフステージ別栄養学I を履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各ライフステージにおける特徴に基づいた栄養状態や栄養管理および関連疾患について説明できる。健康と栄養，運動と栄養，特殊環境下などの生理的特徴や栄養について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	各ライフステージや環境の違いに応じた疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメントと関連付けて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	食物アレルギー1

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食物アレルギーの概要について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：2年次までに学習した免疫・アレルギーについて復習しておく。 事後学習：授業で配布する資料および参考図書等で授業内容を整理し、理解を確実にしておく。
	教室外学習の時間(分)	180分
第2回	授業テーマ	食物アレルギー2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳幼児期のみならず、近年は成人期にも増加している食物アレルギーについて、病態・診断等を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：2年次までに学習した免疫・アレルギーについて復習しておく。第1回の食物アレルギーに関する授業内容を復習しておく。 事後学習：授業で配布する資料や授業内で提示した参考資料等で授業内容を整理し、理解を確実にしておく。
	教室外学習の時間(分)	180分
第3回	授業テーマ	食物アレルギー3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食物アレルギーの治療、栄養管理について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：2年次までに学習した免疫・アレルギーについて復習しておく。第1回、第2回の食物アレルギーに関する授業内容を復習しておく。 事後学習：授業で配布する資料や授業内で提示した参考資料等で授業内容を整理し、理解を確実にしておく。
	教室外学習の時間(分)	180分
第4回	授業テーマ	成人期１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	成人期の生理的特徴，成人期特有の各種疾患（肥満症，メタボリックシンドローム等）について、病態・診断・治療も含め学習し、栄養管理について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：2年次までに学習した左記に関する項目について復習しておく。本科目の教科書および臨床病態栄養学・臨床栄養学基礎で使用した教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間(分)	180分
第5回	授業テーマ	成人期２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	成人期特有の各種疾患（脂質異常症，高尿酸血症，高血圧，その他の生活習慣病，など）について、病態・診断・治療も含め学習し、栄養管理について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：2年次までに学習した左記に関する項目について復習しておく。本科目の教科書および臨床病態栄養学・臨床栄養学基礎で使用した教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間(分)	180分
	授業テーマ	成人期３，更年期

第6回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	成人期特有の各種疾患、さらに更年期における特有の生理的変化や各種疾患（婦人科系疾患，骨粗鬆症予防等）について学習し、栄養管理について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：2年次までに学習した左記に関する内容について復習しておく。本科目の教科書および臨床病態栄養学・臨床栄養学基礎で使用した教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	**授業テーマ**	高齢期１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢期の生理的変化の特徴について学習し、栄養管理について理解する。高齢期の糖尿病や高血圧について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：2年次までに学習した左記に関する項目について復習しておく。本科目の教科書および臨床病態栄養学・臨床栄養学基礎で使用した教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	高齢期２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢期に多くみられる、フレイル、ロコモーティブシンドローム、サルコペニア、骨粗鬆症等について、病態・診断・治療も含め学習し、栄養管理について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：2年次までに学習した左記に関する項目について復習しておく。本科目の教科書および臨床病態栄養学・臨床栄養学基礎で使用した教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	高齢期３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢期に多くみられる、脳血管障害、認知症、パーキンソン病等について、病態・診断・治療も含め学習し、栄養管理について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：2年次までに学習した左記に関する項目について復習しておく。本科目の教科書および臨床病態栄養学・臨床栄養学基礎で使用した教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	高齢期４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢期に多く見られる摂食嚥下障害、誤嚥等について、病態・診断・治療も含め学習し、栄養管理について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：2年次までに学習した左記に関する項目について復習しておく。本科目の教科書および臨床病態栄養学・臨床栄養学基礎で使用した教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	高齢期５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	高齢期に多く見られる褥瘡，胃瘻等、およびターミナルケア、Advance Care Planning等について、病態・診断・治療も含め

第11回	育・ICT活用を含む)	学習し、栄養管理について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：2年次までに学習した左記に関する項目について復習しておく。本科目の教科書および臨床病態栄養学・臨床栄養学基礎で使用した教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	授業テーマ	運動生理，スポーツと栄養
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動時の生理的特徴やエネルギー代謝、運動と栄養ケアについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：運動生理学で学習した内容を確認しておく。教科書該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	環境と栄養
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生体リズム，ストレスと栄養の関係について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	授業テーマ	特殊環境と栄養
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高温・低温環境、高圧・低圧環境、無重力環境などの生理的変化および栄養との関係について学習する。 災害時の栄養について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。定期試験に向けて第1回～第14回までの授業を総復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	360分

学習計画注記

履修者の状況等によって進行内容が変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

学習範囲に応じて、練習問題を適宜行う。
質問は随時対応する。

評価方法

定期試験（筆記試験）で評価を行う。
なお定期試験（筆記試験）で評価を行うため、ルーブリックは設定しない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		

評価割合

定期試験100%

使用教科書名(ISBN番号)

栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学 改訂第２版 （羊土社）
栢下 淳，上西一弘／編
ISBN 9784758113649

参考図書

栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち 第3版（羊土社）
病気がみえる vol.1～15（MEDIC MEDIA）
日本人の食事摂取基準2025年版（第一出版）
その他、授業内で適宜提示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「人間の栄養」を理解するための専門的知識を身につける。
【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題の解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。

オフィスアワー

木曜昼休み 1503研究室

学生へのメッセージ

今まで履修してきた基礎系の科目や臨床系の科目のみならず、社会医学系や栄養教育系など、どの科目とも有機的に繋がっています。他の分野とも関連付けながら学修するようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、医療の実地臨床において、診療業務等の実務経験を有しており、臨床現場における現状や具体例も呈示しながら、実践的な内容を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02041031
講義名	応用栄養学実習（HA）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	酒井 治子	指定なし
准教授	加藤 理津子	指定なし

ナンバリング

H33504C13

授業概要(教育目的)

ライフステージ別栄養学I・II、食事摂取基準論で学んだ理論を基に、身体状況や栄養状態を踏まえ、具体的な食事による栄養ケアの実習を通して、栄養管理（マネージメント）の方法を育成する。 妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化の特徴を十分に理解し、栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）に対応したケアプランニングとその評価を行う実践力を養うことを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	ライフステージ別の特徴を踏まえた栄養マネジメントについて説明できる
思考・判断の観点 (K)	ライフステージ別の対象者の生活に基づいた栄養マネジメントについて考えることができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	ライフステージ別の対象者のQOLが向上する栄養マネジメントを模索しようとする
技術・表現の観点 (A)	ライフステージ別の対象者のための栄養マネジメントをすることができる

学習計画

	授業テーマ	栄養マネジメント

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	①授業の概要を理解する ②栄養マネジメントを振り返る ③高齢期の身体的特徴および食事を体験する ※情報機器類（パソコンまたはタブレット）を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：シラバスを確認する 復習：栄養マネジメントおよび高齢期の特徴を理解する
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	高齢期の栄養ケアプランの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第1回の学習内容をふまえ、 ①高齢期の事例を検討する（グループワーク） ②高齢期の栄養ケアプラン（献立と教育媒体）を作成する（グループワーク） ※情報機器類（パソコンまたはタブレット）を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高齢期の栄養・食事について調べる 復習：課題レポートを作成し、提出する
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	高齢期の食事の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第2回で立案した献立を調理し、写真撮影をする（グループワーク） ※衛生管理を実践する
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：①調理手順を覚えてくる、②持ち物（白衣、キャップ、シューズ、包丁等）を用意する 復習：課題レポートを作成し、提出する
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	高齢期の栄養マネジメントのまとめ 妊娠期の栄養マネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①高齢期の栄養ケアプランを発表する（プレゼンテーション） ②妊婦の身体的特徴を体験する（グループワーク） ③妊娠期の事例を検討する（グループワーク） ※情報機器類（パソコンまたはタブレット）を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：発表内容を覚えてくる 復習：妊娠期の特徴を理解する
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	妊娠期の栄養ケアプランの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第4回の学習内容をふまえ、 ①妊娠期の事例を見直す（グループワーク） ②妊娠期の栄養ケアプラン（献立と教育媒体）を作成する（グループワーク） ※情報機器類（パソコンまたはタブレット）を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：妊娠期の栄養・食事について調べる 復習：課題レポートを作成し、提出する
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	**授業テーマ**	妊娠期の食事の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第5回で立案した献立を調理し、写真撮影をする（グループワーク） ※衛生管理を実践する

	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：①調理手順を覚えてくる、②持ち物（白衣、キャップ、シューズ、包丁等）を用意する 復習：課題レポートを作成し、提出する
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	妊娠期の栄養マネジメントのまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①妊娠期の栄養ケアプランを発表する（プレゼンテーション） ②高齢期と妊娠期の栄養ケアプランを振り返る ※情報機器類（パソコンまたはタブレット）を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：発表内容を覚えてくる 復習：課題レポート作成を作成し、提出する
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	乳児期の栄養ケアマネジメント～講義編～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳汁期の栄養マネジメントの特徴について学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	乳汁期のレポートを作成してくる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	乳児期の栄養ケアマネジメント～実習編～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳汁の調理実習を通して、乳汁期の栄養マネジメントの特徴について学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第10回	**授業テーマ**	離乳期の栄養マネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	離乳期の栄養マネジメントの特徴について学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートを作成してくる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	離乳期の栄養ケアの実習と評価（初期・中期）～実習編～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	離乳食の初期、中期の作り方の特徴を調理実習を通して学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作り方、作業工程表を作成してくる
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	離乳期の栄養ケアの実習と評価（後期・完了期）～実習編～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	離乳食の後期、完了期の作り方の特徴を調理実習を通して学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作り方、作業工程表を作成してくる
	教室外学習の時間（分）	60分

第13回	授業テーマ	離乳期の栄養ケアの実習と評価～発達に応じた展開とまとめ～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	離乳の時期に応じた調理展開を学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作り方、作業工程表を作成してくる
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	幼児期の栄養ケアマネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児期の栄養マネジメントの特徴を学ぶ。ノートパソコンを必携とする。栄養管理報告書の作成方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作り方、作業工程表を作成してくる
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

進行状況等によって内容を前後させる場合がある。
変更が生じる場合には事前に連絡をするので、クラスルームからの通知およびメールを常に受信できるようにし、また受信内容を直ちに確認する。

学生へのフィードバック方法

授業の進行にしたがってワークシートに記入したものを、その都度確認し、返却する。

評価方法

演習課題（レポート等）40%、定期試験40%、実習に対する取組姿勢20%とし、総合的に評価する。
なお、演習課題（レポート等）については、正確性、丁寧さ等の観点から内容を評価し、提出遅れの場合は減点、未提出の場合は0点とする。
平常点と課題の内容により、ルーブリックをもとに評価する。
ルーブリックの内容は、クラスルームまたは授業内にて公開する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
演習課題	○	○	○	○
定期試験	○	○		○
受講態度			○	

評価割合

演習課題（レポート等）40%、定期試験40%、実習に対する取組姿勢20%とし、総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

・「子どもの食生活」 ななみ書房 上田玲子、酒井治子他
・「応用栄養学実習書―PDCAサイクルによる栄養ケア」 建帛社 柳沢 幸江（編著）／松井 幾子（編著）
・「八訂食品成分表」 女子栄養大出版部
・「調理のためのベーシックデータ第５版」 女子栄養大出版部
・「日本人の食事摂取基準[2025年版]」 第一出版

参考図書

ビオサポ食育ブック（無料）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】栄養管理を通して、管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている
【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な栄養管理ができる力を身につけている
【関心・意欲・態度】栄養管理に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている
【技術・表現】栄養管理を通して、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養指導に関する専門的技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている

オフィスアワー

酒井：水曜日2限 地域栄養教育（酒井）研究室
加藤：火曜日2限（1B05研究室）

学生へのメッセージ

実務を意識し、各ライフステージの対象者について管理栄養士の視点をもち、栄養マネジメントを行い、生活者のための食事を一緒に考えましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員（酒井）は保育所等、担当教員（加藤）は保健センターおよびスポーツ栄養の現場経験をふまえ、各ライフステージの栄養管理の理論や技術について専門的知識を教授する。
アクティブ・ラーニング	○	班別にディスカッションを行いながら協力をして各ライフステージの献立作成、調理、振り返りを行う。
情報リテラシー教育	○	情報機器類（パソコンまたはタブレット）を用いて問題解決に必要な情報を収集し、分析する。
ICT活用	○	レポートの課題やスライドを情報機器類を用いて作成し、提出および発表する。

講義コード	H02041032
講義名	応用栄養学実習（HB）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	酒井 治子	指定なし
准教授	加藤 理津子	指定なし

ナンバリング

H33504C13

授業概要(教育目的)

ライフステージ別栄養学I・II、食事摂取基準論で学んだ理論を基に、身体状況や栄養状態を踏まえ、具体的な食事による栄養ケアの実習を通して、栄養管理（マネージメント）の方法を育成する。 妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化の特徴を十分に理解し、栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）に対応したケアプランニングとその評価を行う実践力を養うことを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	ライフステージ別の特徴を踏まえた栄養マネジメントについて説明できる
思考・判断の観点 (K)	ライフステージ別の対象者の生活に基づいた栄養マネジメントについて考えることができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	ライフステージ別の対象者のQOLが向上する栄養マネジメントを模索しようとする
技術・表現の観点 (A)	ライフステージ別の対象者のための栄養マネジメントをすることができる

学習計画

	授業テーマ	栄養マネジメント

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	①授業の概要を理解する ②栄養マネジメントを振り返る ③高齢期の身体的特徴および食事を体験する ※情報機器類（パソコンまたはタブレット）を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：シラバスを確認する 復習：栄養マネジメントおよび高齢期の特徴を理解する
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	高齢期の栄養ケアプランの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第1回の学習内容をふまえ、 ①高齢期の事例を検討する（グループワーク） ②高齢期の栄養ケアプラン（献立と教育媒体）を作成する（グループワーク） ※情報機器類（パソコンまたはタブレット）を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高齢期の栄養・食事について調べる 復習：課題レポートを作成し、提出する
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	高齢期の食事の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第2回で立案した献立を調理し、写真撮影をする（グループワーク） ※衛生管理を実践する
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：①調理手順を覚えてくる、②持ち物（白衣、キャップ、シューズ、包丁等）を用意する 復習：課題レポートを作成し、提出する
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	高齢期の栄養マネジメントのまとめ 妊娠期の栄養マネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①高齢期の栄養ケアプランを発表する（プレゼンテーション） ②妊婦の身体的特徴を体験する（グループワーク） ③妊娠期の事例を検討する（グループワーク） ※情報機器類（パソコンまたはタブレット）を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：発表内容を覚えてくる 復習：妊娠期の特徴を理解する
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	妊娠期の栄養ケアプランの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第4回の学習内容をふまえ、 ①妊娠期の事例を見直す（グループワーク） ②妊娠期の栄養ケアプラン（献立と教育媒体）を作成する（グループワーク） ※情報機器類（パソコンまたはタブレット）を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：妊娠期の栄養・食事について調べる 復習：課題レポートを作成し、提出する
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	**授業テーマ**	妊娠期の食事の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第5回で立案した献立を調理し、写真撮影をする（グループワーク） ※衛生管理を実践する

	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：①調理手順を覚えてくる、②持ち物（白衣、キャップ、シューズ、包丁等）を用意する 復習：課題レポートを作成し、提出する
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	妊娠期の栄養マネジメントのまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①妊娠期の栄養ケアプランを発表する（プレゼンテーション） ②高齢期と妊娠期の栄養ケアプランを振り返る ※情報機器類（パソコンまたはタブレット）を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：発表内容を覚えてくる 復習：課題レポート作成を作成し、提出する
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	乳児期の栄養ケアマネジメント～講義編～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳汁期の栄養マネジメントの特徴について学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	乳汁期のレポートを作成してくる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	乳児期の栄養ケアマネジメント～実習編～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳汁の調理実習を通して、乳汁期の栄養マネジメントの特徴について学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第10回	**授業テーマ**	離乳期の栄養マネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	離乳期の栄養マネジメントの特徴について学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートを作成してくる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	離乳期の栄養ケアの実習と評価（初期・中期）～実習編～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	離乳食の初期、中期の作り方の特徴を調理実習を通して学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作り方、作業工程表を作成してくる
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	離乳期の栄養ケアの実習と評価（後期・完了期）～実習編～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	離乳食の後期、完了期の作り方の特徴を調理実習を通して学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作り方、作業工程表を作成してくる
	教室外学習の時間（分）	60分

第13回	授業テーマ	離乳期の栄養ケアの実習と評価～発達に応じた展開とまとめ～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	離乳の時期に応じた調理展開を学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作り方、作業工程表を作成してくる
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	幼児期の栄養ケアマネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児期の栄養マネジメントの特徴を学ぶ。ノートパソコンを必携とする。栄養管理報告書の作成方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作り方、作業工程表を作成してくる
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

進行状況等によって内容を前後させる場合がある。
変更が生じる場合には事前に連絡をするので、クラスルームからの通知およびメールを常に受信できるようにし、また受信内容を直ちに確認する。

学生へのフィードバック方法

授業の進行にしたがってワークシートに記入したものを、その都度確認し、返却する。

評価方法

演習課題（レポート等）40%、定期試験40%、実習に対する取組姿勢20%とし、総合的に評価する。
なお、演習課題（レポート等）については、正確性、丁寧さ等の観点から内容を評価し、提出遅れの場合は減点、未提出の場合は0点とする。
平常点と課題の内容により、ルーブリックをもとに評価する。
ルーブリックの内容は、クラスルームまたは授業内にて公開する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
演習課題	○	○	○	○
定期試験	○	○		○
受講態度			○	

評価割合

演習課題（レポート等）40%、定期試験40%、実習に対する取組姿勢20%とし、総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

・「子どもの食生活」 ななみ書房 上田玲子、酒井治子他
・「応用栄養学実習書―PDCAサイクルによる栄養ケア」 建帛社 柳沢 幸江（編著）／松井 幾子（編著）
・「八訂食品成分表」 女子栄養大出版部
・「調理のためのベーシックデータ第５版」 女子栄養大出版部
・「日本人の食事摂取基準[2025年版]」 第一出版

参考図書

ビオサポ食育ブック（無料）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】栄養管理を通して、管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている
【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な栄養管理ができる力を身につけている
【関心・意欲・態度】栄養管理に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている
【技術・表現】栄養管理を通して、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養指導に関する専門的技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている

オフィスアワー

酒井：水曜日2限 地域栄養教育（酒井）研究室
加藤：火曜日2限（1B05研究室）

学生へのメッセージ

実務を意識し、各ライフステージの対象者について管理栄養士の視点をもち、栄養マネジメントを行い、生活者のための食事を一緒に考えましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員（酒井）は保育所等、担当教員（加藤）は保健センターおよびスポーツ栄養の現場経験をふまえ、各ライフステージの栄養管理の理論や技術について専門的知識を教授する。
アクティブ・ラーニング	○	班別にディスカッションを行いながら協力をして各ライフステージの献立作成、調理、振り返りを行う。
情報リテラシー教育	○	情報機器類（パソコンまたはタブレット）を用いて問題解決に必要な情報を収集し、分析する。
ICT活用	○	レポートの課題やスライドを情報機器類を用いて作成し、提出および発表する。

講義コード	H02041033
講義名	応用栄養学実習（HC）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	酒井 治子	指定なし
准教授	加藤 理津子	指定なし

ナンバリング

H33504C13

授業概要(教育目的)

ライフステージ別栄養学I・II、食事摂取基準論で学んだ理論を基に、身体状況や栄養状態を踏まえ、具体的な食事による栄養ケアの実習を通して、栄養管理（マネージメント）の方法を育成する。 妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化の特徴を十分に理解し、栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）に対応したケアプランニングとその評価を行う実践力を養うことを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	ライフステージ別の特徴を踏まえた栄養マネジメントについて説明できる
思考・判断の観点 (K)	ライフステージ別の対象者の生活に基づいた栄養マネジメントについて考えることができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	ライフステージ別の対象者のQOLが向上する栄養マネジメントを模索しようとする
技術・表現の観点 (A)	ライフステージ別の対象者のための栄養マネジメントをすることができる

学習計画

	授業テーマ	栄養マネジメント

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	①授業の概要を理解する ②栄養マネジメントを振り返る ③高齢期の身体的特徴および食事を体験する ※情報機器類（パソコンまたはタブレット）を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：シラバスを確認する 復習：栄養マネジメントおよび高齢期の特徴を理解する
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	高齢期の栄養ケアプランの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第1回の学習内容をふまえ、 ①高齢期の事例を検討する（グループワーク） ②高齢期の栄養ケアプラン（献立と教育媒体）を作成する（グループワーク） ※情報機器類（パソコンまたはタブレット）を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高齢期の栄養・食事について調べる 復習：課題レポートを作成し、提出する
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	高齢期の食事の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第2回で立案した献立を調理し、写真撮影をする（グループワーク） ※衛生管理を実践する
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：①調理手順を覚えてくる、②持ち物（白衣、キャップ、シューズ、包丁等）を用意する 復習：課題レポートを作成し、提出する
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	高齢期の栄養マネジメントのまとめ 妊娠期の栄養マネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①高齢期の栄養ケアプランを発表する（プレゼンテーション） ②妊婦の身体的特徴を体験する（グループワーク） ③妊娠期の事例を検討する（グループワーク） ※情報機器類（パソコンまたはタブレット）を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：発表内容を覚えてくる 復習：妊娠期の特徴を理解する
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	妊娠期の栄養ケアプランの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第4回の学習内容をふまえ、 ①妊娠期の事例を見直す（グループワーク） ②妊娠期の栄養ケアプラン（献立と教育媒体）を作成する（グループワーク） ※情報機器類（パソコンまたはタブレット）を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：妊娠期の栄養・食事について調べる 復習：課題レポートを作成し、提出する
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	**授業テーマ**	妊娠期の食事の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第5回で立案した献立を調理し、写真撮影をする（グループワーク） ※衛生管理を実践する

	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：①調理手順を覚えてくる、②持ち物（白衣、キャップ、シューズ、包丁等）を用意する 復習：課題レポートを作成し、提出する
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	妊娠期の栄養マネジメントのまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①妊娠期の栄養ケアプランを発表する（プレゼンテーション） ②高齢期と妊娠期の栄養ケアプランを振り返る ※情報機器類（パソコンまたはタブレット）を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：発表内容を覚えてくる 復習：課題レポート作成を作成し、提出する
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	乳児期の栄養ケアマネジメント～講義編～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳汁期の栄養マネジメントの特徴について学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	乳汁期のレポートを作成してくる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	乳児期の栄養ケアマネジメント～実習編～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳汁の調理実習を通して、乳汁期の栄養マネジメントの特徴について学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第10回	**授業テーマ**	離乳期の栄養マネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	離乳期の栄養マネジメントの特徴について学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートを作成してくる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	離乳期の栄養ケアの実習と評価（初期・中期）～実習編～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	離乳食の初期、中期の作り方の特徴を調理実習を通して学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作り方、作業工程表を作成してくる
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	離乳期の栄養ケアの実習と評価（後期・完了期）～実習編～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	離乳食の後期、完了期の作り方の特徴を調理実習を通して学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作り方、作業工程表を作成してくる
	教室外学習の時間（分）	60分

第13回	授業テーマ	離乳期の栄養ケアの実習と評価～発達に応じた展開とまとめ～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	離乳の時期に応じた調理展開を学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作り方、作業工程表を作成してくる
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	幼児期の栄養ケアマネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児期の栄養マネジメントの特徴を学ぶ。ノートパソコンを必携とする。栄養管理報告書の作成方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作り方、作業工程表を作成してくる
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

進行状況等によって内容を前後させる場合がある。
変更が生じる場合には事前に連絡をするので、クラスルームからの通知およびメールを常に受信できるようにし、また受信内容を直ちに確認する。

学生へのフィードバック方法

授業の進行にしたがってワークシートに記入したものを、その都度確認し、返却する。

評価方法

演習課題（レポート等）40%、定期試験40%、実習に対する取組姿勢20%とし、総合的に評価する。
なお、演習課題（レポート等）については、正確性、丁寧さ等の観点から内容を評価し、提出遅れの場合は減点、未提出の場合は0点とする。
平常点と課題の内容により、ルーブリックをもとに評価する。
ルーブリックの内容は、クラスルームまたは授業内にて公開する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
演習課題	○	○	○	○
定期試験	○	○		○
受講態度			○	

評価割合

演習課題（レポート等）40%、定期試験40%、実習に対する取組姿勢20%とし、総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

・「子どもの食生活」 ななみ書房 上田玲子、酒井治子他
・「応用栄養学実習書―PDCAサイクルによる栄養ケア」 建帛社 柳沢 幸江（編著）／松井 幾子（編著）
・「八訂食品成分表」 女子栄養大出版部
・「調理のためのベーシックデータ第５版」 女子栄養大出版部
・「日本人の食事摂取基準[2025年版]」 第一出版

参考図書

ビオサポ食育ブック（無料）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】栄養管理を通して、管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている
【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な栄養管理ができる力を身につけている
【関心・意欲・態度】栄養管理に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている
【技術・表現】栄養管理を通して、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養指導に関する専門的技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている

オフィスアワー

酒井：水曜日2限 地域栄養教育（酒井）研究室
加藤：火曜日2限（1B05研究室）

学生へのメッセージ

実務を意識し、各ライフステージの対象者について管理栄養士の視点をもち、栄養マネジメントを行い、生活者のための食事を一緒に考えましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員（酒井）は保育所等、担当教員（加藤）は保健センターおよびスポーツ栄養の現場経験をふまえ、各ライフステージの栄養管理の理論や技術について専門的知識を教授する。
アクティブ・ラーニング	○	班別にディスカッションを行いながら協力をして各ライフステージの献立作成、調理、振り返りを行う。
情報リテラシー教育	○	情報機器類（パソコンまたはタブレット）を用いて問題解決に必要な情報を収集し、分析する。
ICT活用	○	レポートの課題やスライドを情報機器類を用いて作成し、提出および発表する。

講義コード	H02041034
講義名	応用栄養学実習（HD）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	酒井 治子	指定なし
准教授	加藤 理津子	指定なし

ナンバリング

H33504C13

授業概要(教育目的)

ライフステージ別栄養学I・II、食事摂取基準論で学んだ理論を基に、身体状況や栄養状態を踏まえ、具体的な食事による栄養ケアの実習を通して、栄養管理（マネージメント）の方法を育成する。 妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化の特徴を十分に理解し、栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）に対応したケアプランニングとその評価を行う実践力を養うことを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	ライフステージ別の特徴を踏まえた栄養マネジメントについて説明できる
思考・判断の観点 (K)	ライフステージ別の対象者の生活に基づいた栄養マネジメントについて考えることができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	ライフステージ別の対象者のQOLが向上する栄養マネジメントを模索しようとする
技術・表現の観点 (A)	ライフステージ別の対象者のための栄養マネジメントをすることができる

学習計画

	授業テーマ	栄養マネジメント

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	①授業の概要を理解する ②栄養マネジメントを振り返る ③高齢期の身体的特徴および食事を体験する ※情報機器類（パソコンまたはタブレット）を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：シラバスを確認する 復習：栄養マネジメントおよび高齢期の特徴を理解する
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	高齢期の栄養ケアプランの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第1回の学習内容をふまえ、 ①高齢期の事例を検討する（グループワーク） ②高齢期の栄養ケアプラン（献立と教育媒体）を作成する（グループワーク） ※情報機器類（パソコンまたはタブレット）を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：高齢期の栄養・食事について調べる 復習：課題レポートを作成し、提出する
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	高齢期の食事の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第2回で立案した献立を調理し、写真撮影をする（グループワーク） ※衛生管理を実践する
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：①調理手順を覚えてくる、②持ち物（白衣、キャップ、シューズ、包丁等）を用意する 復習：課題レポートを作成し、提出する
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	高齢期の栄養マネジメントのまとめ 妊娠期の栄養マネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①高齢期の栄養ケアプランを発表する（プレゼンテーション） ②妊婦の身体的特徴を体験する（グループワーク） ③妊娠期の事例を検討する（グループワーク） ※情報機器類（パソコンまたはタブレット）を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：発表内容を覚えてくる 復習：妊娠期の特徴を理解する
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	妊娠期の栄養ケアプランの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第4回の学習内容をふまえ、 ①妊娠期の事例を見直す（グループワーク） ②妊娠期の栄養ケアプラン（献立と教育媒体）を作成する（グループワーク） ※情報機器類（パソコンまたはタブレット）を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：妊娠期の栄養・食事について調べる 復習：課題レポートを作成し、提出する
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	**授業テーマ**	妊娠期の食事の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第5回で立案した献立を調理し、写真撮影をする（グループワーク） ※衛生管理を実践する

	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：①調理手順を覚えてくる、②持ち物（白衣、キャップ、シューズ、包丁等）を用意する 復習：課題レポートを作成し、提出する
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	妊娠期の栄養マネジメントのまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①妊娠期の栄養ケアプランを発表する（プレゼンテーション） ②高齢期と妊娠期の栄養ケアプランを振り返る ※情報機器類（パソコンまたはタブレット）を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等の課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：発表内容を覚えてくる 復習：課題レポート作成を作成し、提出する
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	乳児期の栄養ケアマネジメント～講義編～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳汁期の栄養マネジメントの特徴について学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	乳汁期のレポートを作成してくる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	乳児期の栄養ケアマネジメント～実習編～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳汁の調理実習を通して、乳汁期の栄養マネジメントの特徴について学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	
第10回	**授業テーマ**	離乳期の栄養マネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	離乳期の栄養マネジメントの特徴について学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートを作成してくる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	離乳期の栄養ケアの実習と評価（初期・中期）～実習編～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	離乳食の初期、中期の作り方の特徴を調理実習を通して学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作り方、作業工程表を作成してくる
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	離乳期の栄養ケアの実習と評価（後期・完了期）～実習編～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	離乳食の後期、完了期の作り方の特徴を調理実習を通して学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作り方、作業工程表を作成してくる
	教室外学習の時間（分）	60分

第13回	授業テーマ	離乳期の栄養ケアの実習と評価～発達に応じた展開とまとめ～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	離乳の時期に応じた調理展開を学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作り方、作業工程表を作成してくる
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	幼児期の栄養ケアマネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児期の栄養マネジメントの特徴を学ぶ。ノートパソコンを必携とする。栄養管理報告書の作成方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作り方、作業工程表を作成してくる
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

進行状況等によって内容を前後させる場合がある。
変更が生じる場合には事前に連絡をするので、クラスルームからの通知およびメールを常に受信できるようにし、また受信内容を直ちに確認する。

学生へのフィードバック方法

授業の進行にしたがってワークシートに記入したものを、その都度確認し、返却する。

評価方法

演習課題（レポート等）40%、定期試験40%、実習に対する取組姿勢20%とし、総合的に評価する。
なお、演習課題（レポート等）については、正確性、丁寧さ等の観点から内容を評価し、提出遅れの場合は減点、未提出の場合は0点とする。
平常点と課題の内容により、ルーブリックをもとに評価する。
ルーブリックの内容は、クラスルームまたは授業内にて公開する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
演習課題	○	○	○	○
定期試験	○	○		○
受講態度			○	

評価割合

演習課題（レポート等）40%、定期試験40%、実習に対する取組姿勢20%とし、総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

・「子どもの食生活」 ななみ書房 上田玲子、酒井治子他
・「応用栄養学実習書―PDCAサイクルによる栄養ケア」 建帛社 柳沢 幸江（編著）／松井 幾子（編著）
・「八訂食品成分表」 女子栄養大出版部
・「調理のためのベーシックデータ第５版」 女子栄養大出版部
・「日本人の食事摂取基準[2025年版]」 第一出版

参考図書

ビオサポ食育ブック（無料）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】栄養管理を通して、管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている
【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な栄養管理ができる力を身につけている
【関心・意欲・態度】栄養管理に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている
【技術・表現】栄養管理を通して、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養指導に関する専門的技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている

オフィスアワー

酒井：水曜日2限 地域栄養教育（酒井）研究室
加藤：火曜日・お昼休み（1B05研究室）

学生へのメッセージ

実務を意識し、各ライフステージの対象者について管理栄養士の視点をもち、栄養マネジメントを行い、生活者のための食事を一緒に考えましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員（酒井）は保育所等、担当教員（加藤）は保健センターおよびスポーツ栄養の現場経験をふまえ、各ライフステージの栄養管理の理論や技術について専門的知識を教授する。
アクティブ・ラーニング	○	班別にディスカッションを行いながら協力をして各ライフステージの献立作成、調理、振り返りを行う。
情報リテラシー教育	○	情報機器類（パソコンまたはタブレット）を用いて問題解決に必要な情報を収集し、分析する。
ICT活用	○	レポートの課題やスライドを情報機器類を用いて作成し、提出および発表する。

講義コード	H02042031
講義名	栄養教育総論（HA）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	辻 雅子	指定なし

ナンバリング

H23601C21

授業概要(教育目的)

栄養教育の概念・歴史を学ぶとともに、現代の健康や栄養上の問題点について考え、栄養教育の必要性・意義・目的について理解する。そのために、教育的な手段を用いて、人の健康の保持・増進、適正な食行動への是正や食を介した人々のQOLの向上を目指すために、適切な栄養教育マネジメントについて、アセスメントから計画・実施・評価までの一連のPDCAサイクルを理解した栄養教育実施者となるための心構えを含めた講義を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1.栄養教育の目的・目標や対象者について理解し説明できる。 2.栄養教育マネジメントの流れについて理解し説明できる。 3.栄養教育関連法規について理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1.栄養教育の目的・目標について自ら考え、判断し、説明できる。 2.栄養教育マネジメントの流れについて自ら考え、判断し、説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1.グループワークで授業の最後にディスカッションを行うことがある。その際、意欲関心をもって積極的に参加できる。 2.授業の予習・復習を行い、自主的にノートまとめを行うことができる。 3.小テストは授業の復習を行った後に受けることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

栄養教育総論

	授業テーマ	オリエンテーション

第1回		栄養教育の概念及び歴史
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育の概念として教育のとらえ方について学び、現在の生活習慣上の問題点について理解する。 栄養教育の歴史について学び、栄養教育の歴史について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書、目次及び1栄養教育の理論的基礎 A栄養教育の概念を読んで学ぶ。また教育と人間形成や栄養教育に携わる使命と役割についてはプリントを配布する。栄養指導・栄養教育の歩み（歴史）はp.15の部分を読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	栄養教育の歴史及び国際栄養の理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育の歴史を続けて学ぶ。教科書にない追加情報については配布プリントで学び、栄養教育の歴史について理解する。さらに栄養教育に関連する持続可能な開発目標（SDGs）について学ぶ（p.47）。 さらにSDGsのレポートを課す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書栄養指導・栄養教育の歩み（歴史）p.15を読んで学ぶ。 SDGsのレポートについて、期日までに提出することが必要。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	栄養教育の法的根拠
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育の概念を理解したうえで対象者へ栄養教育を実施するための、栄養教育関連法規について学び、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の巻末資料における関連法規（食育基本法）とその他の関連法規を読んで学ぶp.128～。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：マネジメントサイクルとマネジメントに必要なモデル
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、栄養教育マネジメントサイクルと関連するモデル（ソーシャル・マーケティング、プリシード・プロシード）を学び、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.53～、第2章栄養教育マネジメントを読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、そのアセスメントを中心的に学び、情報の収集などについても理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.55～、B健康・食物摂取に影響を及ぼす要因のアセスメントを読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	栄養教育マネジメント：目標設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ	PDCA

第6回	ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育マネジメントの　　サイクルについて、その目標設定について学び、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.58～、C栄養教育の目標設定を読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：計画立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、その計画立案について学び、理解する。特に特定健診保健指導について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.60～、D栄養教育計画立案を読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：目標設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、その学習指導案について目標設定を及び栄養教育計画を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.60～、D栄養教育計画立案の３学習指導案の作成を特に読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：栄養教育プログラムの実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、実施について学び、理解する。栄養教育の計画～実施について学習指導案を作成することで学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.60～65、栄養教育計画と実施者・連携・トレーニングを読んで学ぶ。また、学習指導案のレポートについて、期日までに提出することが必要。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：教材の選択と作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、実施時に使用する主な媒体と教材について学び、理解する。 （教材の選択と作成を学ぶ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.65～、d教材の選択と作成を読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：学習形態の選択
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、実施時の学習形態について学び、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.66～、学習形態の選択を読んで学ぶ。

	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	栄養教育マネジメント：栄養教育の実施と評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、栄養教育の実施及び評価について学び、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.73～、第6章栄養教育の実施及び教科書p.74～栄養教育の評価を読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	**授業テーマ**	栄養教育マネジメント：栄養教育の評価のデザイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、栄養教育の評価のデザインについて学び、理解する。 （栄養教育の評価のデザイン、評価のデザインにかかわる因子を学ぶ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.79～、栄養教育の評価のデザインを読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	**授業テーマ**	栄養教育と食環境づくりとの関連、まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対象者を支援する環境（食環境）の改善について、食環境の定義から、食物へのアクセスおよび情報へのアクセスにおける食環境整備についてまで学び、理解する。栄養教育総論のまとめを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.42、d食環境づくりを読んで学ぶ。全14回で実施した栄養教育総論の内容の振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	310分

学習計画注記

講義の実施方法や講義の進み具合によってスケジュールは変更になる場合もある。その場合は随時担当教員の方から連絡を行う。

学生へのフィードバック方法

毎回の講義理解度について、次回講義の最初に小テストを実施する。
小テスト・レポート提出についてはGoogle classroom等を活用して実施するためそこで結果はフィードバックされる。
ノート（web提出もしくは紙のノート）を提出することで知識の理解や関心を持って学びを行ったかの意欲及び態度などを評価する。またノート提出の内容は平常点として評価する。

評価方法

ルーブリックについては、初回授業で説明を行う。
・小テストは全14回の授業中、8～10回実施する。小テストは国家試験形式のテストを主とする。小テストの再試験は行わないので注意すること。
・定期試験は国家試験形式及び記述形式で出題する。授業中に使用した教科書及び配布プリントの全範囲が出題範囲となる。
・出席日数が3分の2以上なければ定期試験を受けることはできない。
・遅刻3回は欠席1回とみなす。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○			

定期試験	○	○		

評価割合

小テスト10%・レポート20%、平常点10%（平常点は授業への参加状況や態度及び、ノート提出で総合的に判断する）、定期試験60%とする。

使用教科書名(ISBN番号)

サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 栄養教育論 第一出版株式会社（ISBN 9784804115009）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】専門職業人として、「人間の栄養」につながる知識についてきちんと理解する事に該当。
【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題解決に向けて正確な情報を収集し、優先課題に対する取り組みを判断できる力を身につける事に該当。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と他者と協働するための共感力をもって、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけることに該当。

オフィスアワー

月曜日昼休み 1605研究室

学生へのメッセージ

現代の健康や栄養上の問題点について考え、栄養教育の必要性・意義・目的についてを学びます。その為に、教育的な手段を用いて人の健康の保持・増進、適正な食行動への是正や食を介した人々のQOLの向上を目指すための栄養教育マネジメントまで総合的に学ぶことになります。
本講義では関心意欲を持った態度で積極的に学ぶことが必要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報発信の在り方や情報の真偽について等、栄養教育マネジメントに関連する基礎的学びを中心に教授する。
アクティブ・ラーニング	○	小テストやレポート作成を通じて課題発見力・課題解決学習を学ぶ事ができる。
情報リテラシー教育	○	レポート作成を通じて情報検索における情報モラルについて学ぶ事ができる。
ICT活用	○	Google classroomにて資料配信及びレポート提出・小テストの実施がある。

講義コード	H02042032
講義名	栄養教育総論(HB・HC)
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	辻 雅子	指定なし

ナンバリング

H23601C21

授業概要(教育目的)

栄養教育の概念・歴史を学ぶとともに、現代の健康や栄養上の問題点について考え、栄養教育の必要性・意義・目的について理解する。そのために、教育的な手段を用いて、人の健康の保持・増進、適正な食行動への是正や食を介した人々のQOLの向上を目指すために、適切な栄養教育マネジメントについて、アセスメントから計画・実施・評価までの一連のPDCAサイクルを理解した栄養教育実施者となるための心構えを含めた講義を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1.栄養教育の目的・目標や対象者について理解し説明できる。 2.栄養教育マネジメントの流れについて理解し説明できる。 3.栄養教育関連法規について理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1.栄養教育の目的・目標について自ら考え、判断し、説明できる。 2.栄養教育マネジメントの流れについて自ら考え、判断し、説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1.グループワークで授業の最後にディスカッションを行うことがある。その際、意欲関心をもって積極的に参加できる。 2.授業の予習・復習を行い、自主的にノートまとめを行うことができる。 3.小テストは授業の復習を行った後に受けることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

栄養教育総論

	授業テーマ	オリエンテーション

第1回		栄養教育の概念及び歴史
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育の概念として教育のとらえ方について学び、現在の生活習慣上の問題点について理解する。 栄養教育の歴史について学び、栄養教育の歴史について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書、目次及び1栄養教育の理論的基礎 A栄養教育の概念を読んで学ぶ。また教育と人間形成や栄養教育に携わる使命と役割についてはプリントを配布する。栄養指導・栄養教育の歩み（歴史）はp.15の部分を読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	栄養教育の歴史及び国際栄養の理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育の歴史を続けて学ぶ。教科書にない追加情報については配布プリントで学び、栄養教育の歴史について理解する。さらに栄養教育に関連する持続可能な開発目標（SDGs）について学ぶ（p.47）。 さらにSDGsのレポートを課す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書栄養指導・栄養教育の歩み（歴史）p.15を読んで学ぶ。 SDGsのレポートについて、期日までに提出することが必要。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	栄養教育の法的根拠
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育の概念を理解したうえで対象者へ栄養教育を実施するための、栄養教育関連法規について学び、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の巻末資料における関連法規（食育基本法）とその他の関連法規を読んで学ぶp.128～。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：マネジメントサイクルとマネジメントに必要なモデル
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、栄養教育マネジメントサイクルと関連するモデル（ソーシャル・マーケティング、プリシード・プロシード）を学び、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.53～、第2章栄養教育マネジメントを読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、そのアセスメントを中心的に学び、情報の収集などについても理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.55～、B健康・食物摂取に影響を及ぼす要因のアセスメントを読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	栄養教育マネジメント：目標設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ	PDCA

第6回	ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育マネジメントの　　サイクルについて、その目標設定について学び、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.58～、C栄養教育の目標設定を読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：計画立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、その計画立案について学び、理解する。特に特定健診保健指導について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.60～、D栄養教育計画立案を読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：目標設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、その学習指導案について目標設定を及び栄養教育計画を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.60～、D栄養教育計画立案の３学習指導案の作成を特に読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：栄養教育プログラムの実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、実施について学び、理解する。栄養教育の計画～実施について学習指導案を作成することで学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.60～65、栄養教育計画と実施者・連携・トレーニングを読んで学ぶ。また、学習指導案のレポートについて、期日までに提出することが必要。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：教材の選択と作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、実施時に使用する主な媒体と教材について学び、理解する。 （教材の選択と作成を学ぶ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.65～、d教材の選択と作成を読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：学習形態の選択
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、実施時の学習形態について学び、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.66～、学習形態の選択を読んで学ぶ。

	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	栄養教育マネジメント：栄養教育の実施と評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、栄養教育の実施及び評価について学び、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.73～、第6章栄養教育の実施及び教科書p.74～栄養教育の評価を読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	**授業テーマ**	栄養教育マネジメント：栄養教育の評価のデザイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、栄養教育の評価のデザインについて学び、理解する。 （栄養教育の評価のデザイン、評価のデザインにかかわる因子を学ぶ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.79～、栄養教育の評価のデザインを読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	**授業テーマ**	栄養教育と食環境づくりとの関連、まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対象者を支援する環境（食環境）の改善について、食環境の定義から、食物へのアクセスおよび情報へのアクセスにおける食環境整備についてまで学び、理解する。栄養教育総論のまとめを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.42、d食環境づくりを読んで学ぶ。全14回で実施した栄養教育総論の内容の振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	310分

学習計画注記

講義の実施方法や講義の進み具合によってスケジュールは変更になる場合もある。その場合は随時担当教員の方から連絡を行う。

学生へのフィードバック方法

毎回の講義理解度について、次回講義の最初に小テストを実施する。
小テスト・レポート提出についてはGoogle classroom等を活用して実施するためそこで結果はフィードバックされる。
ノート（web提出もしくは紙のノート）を提出することで知識の理解や関心を持って学びを行ったかの意欲及び態度などを評価する。またノート提出の内容は平常点として評価する。

評価方法

ルーブリックについては、初回授業で説明を行う。
・小テストは全14回の授業中、8～10回実施する。小テストは国家試験形式のテストを主とする。小テストの再試験は行わないので注意すること。
・定期試験は国家試験形式及び記述形式で出題する。授業中に使用した教科書及び配布プリントの全範囲が出題範囲となる。
・出席日数が3分の2以上なければ定期試験を受けることはできない。
・遅刻3回は欠席1回とみなす。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○			

定期試験	○	○		

評価割合

小テスト10%・レポート20%、平常点10%（平常点は授業への参加状況や態度及び、ノート提出で総合的に判断する）、定期試験60%とする。

使用教科書名(ISBN番号)

サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 栄養教育論 第一出版株式会社（ISBN 9784804115009）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】専門職業人として、「人間の栄養」につながる知識についてきちんと理解する事に該当。
【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題解決に向けて正確な情報を収集し、優先課題に対する取り組みを判断できる力を身につける事に該当。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と他者と協働するための共感力をもって、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけることに該当。

オフィスアワー

月曜日昼休み 1605研究室

学生へのメッセージ

現代の健康や栄養上の問題点について考え、栄養教育の必要性・意義・目的についてを学びます。その為に、教育的な手段を用いて人の健康の保持・増進、適正な食行動への是正や食を介した人々のQOLの向上を目指すための栄養教育マネジメントまで総合的に学ぶことになります。
本講義では関心意欲を持った態度で積極的に学ぶことが必要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報発信の在り方や情報の真偽について等、栄養教育マネジメントに関連する基礎的学びを中心に教授する。
アクティブ・ラーニング	○	小テストやレポート作成を通じて課題発見力・課題解決学習を学ぶ事ができる。
情報リテラシー教育	○	レポート作成を通じて情報検索における情報モラルについて学ぶ事ができる。
ICT活用	○	Google classroomにて資料配信及びレポート提出・小テストの実施がある。

講義コード	H02043031
講義名	栄養教育方法論（HA）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	辻　雅子	指定なし

ナンバリング

H23602C21

授業概要(教育目的)

本講義では栄養教育方法における行動科学理論ついて学ぶ。つまり対象者の特性の把握・教育の目標設定・教育方法の選択・カリキュラムの立て方、実施に必要な教育方法、教育の評価方法を理論的に学ぶうえで必要な行動科学理論の詳細を学ぶ。また栄養教育を効果的に展開するための技法についても理論的に学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1.栄養教育方法の理論について理解し説明できる。 2.栄養教育方法の各種行動変容技法について理解し説明できる。 3.行動変容カウンセリングについて理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1.栄養教育方法の理論について自ら考え、判断し、説明できる。 2.栄養教育方法の各種行動変容技法について自ら考え、判断し、説明できる。 3.行動変容カウンセリングについて自ら考え、判断し、説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1.授業の中でグループワークを実施する。その際、意欲関心をもって積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	栄養教育と行動科学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗ	栄養教育のために理論として行動科学の定義について学び、理解する。

第1回	ｼｰ教育・ICT活用を含む)	さらに学習理論における刺激-反応理論についても学び、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.16～、栄養教育のための行動科学的の理論とモデル行動科学とは、p.18の刺激-反応理論を読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	栄養教育のための行動科学的アプローチ（生態学的モデル、ヘルスビリーフモデル）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学の理論における生態学的モデルについて学び、理解する。 行動科学の理論におけるヘルス・ビリーフ・モデルについて学び、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.18～、生態学的モデル、p.20～ヘルス・ビリーフ・モデル及び教科書②ヘルス・ビリーフ・モデルを読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	個人に対する行動科学的アプローチ（トランスセオレティカルモデル）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学理論におけるトランスセオレティカルモデルについて学び、理解する。その後次回にグループワークを行うための話し合いを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.21～トランスセオレティカルモデル及び教科書2.のトランスセオレティカルモデルを読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	個人に対する行動科学的アプローチ（トランスセオレティカルモデル（グループワーク））
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学理論におけるトランスセオレティカルモデルについて学び、理解する。その後グループごとに分かれてそれぞれ異なったテーマのグループワークを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.21～トランスセオレティカルモデル及び、教科書2.のトランスセオレティカルモデルを読んで、グループごとに学びを進める。グループワーク発表後にはレポートを課す。
	教室外学習の時間	180分

	（分）	
第5回	授業テーマ	個人に対する行動科学的アプローチ（トランスセオレティカルモデル（グループワーク））
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学理論におけるトランスセオレティカルモデルのグループワークを実施し学びの理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書1.第1章（2-2②トランスセオレティカルモデル）及び、教科書2.のトランスセオレティカルモデルを読んで、グループごとに発表準備を進める。グループワーク発表後にはレポートを課すので、提出期日までに提出することが必要。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	個人に対する行動科学的アプローチ（計画的行動理論）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学理論における計画的行動理論について学び、理解する。 また前回までのトランスセオレティカルモデル（グループワーク）の振り返りが終わっていなければこれも行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.23～計画的行動理論）及び、教科書2.の計画的行動理論を読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	個人間の行動科学的アプローチ（社会的認知理論とソーシャルサポート①）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学の理論における社会的認知理論及びソーシャルサポートについて学び、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.24～、社会的認知理論、ソーシャルサポート（とソーシャルネットワーク）、及び教科書2.の社会的認知理論を読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	個人間の行動科学的アプローチ（ソーシャルサポート②）およびストレスとコーピング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学の理論におけるソーシャルサポートを理解する。さらに授業内でソーシャルサポートのグループワークを行う。ソーシャルサポートのグループワークレポートを課す。行動科学の理論におけるストレスマネジメントについて学び、ストレスとコーピングについて理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.24～26ソーシャルサポート、教科書p.40のストレスマネジメントと、教科書2.のソーシャルサポートと教科書2.のストレスとコーピングを読んでおく。当日は授業内でソーシャルサポートのグループワークを行うため事前に前の週の振り返りを行っておく。グループワーク後にはレポートを課すので、提出期日までに提出することが必要。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	集団や社会における行動科学的アプローチ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学の理論におけるコミュニティオーガニゼーション等について学び、理解する。 （コミュニティオーガニゼーション、イノベーション普及理論、ヘルスリテラシーを学ぶ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.26～29、コミュニティオーガニゼーション、イノベーション普及理論、ヘルスリテラシーを読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	栄養カウンセリング（行動カウンセリングとカウンセリングの基礎）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学の理論における行動カウンセリングと基礎について学び、理解する。学びを深めてもらうために行動カウンセリングDVDを見てもらい簡単なレポート作成の課題を課す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.29～栄養カウンセリングを読んでおくこと。 また行動カウンセリングDVDの課題レポートについて提出期日までに提出することが必要。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	栄養カウンセリング（認知行動療法）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学の理論における行動カウンセリングについて学び、理解する。前回に終わらなければ本回で学びを深めてもらうために行動カウンセリングDVDを見てもらい簡単なレポート作成の課題を課す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.29～栄養カウンセリングを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	動機づけ面接
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第12回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学の理論における動機づけ面接について学び、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.29～栄養カウンセリングを読んでおくこと。 栄養カウンセリングについて、レポートを期日までに作成する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	行動変容技法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学の理論における各種行動変容技法について学び、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.36～40、行動変容技法(刺激統制、反応妨害・拮抗、行動置換、オペラント強化、認知再構成、意思決定バランス、目標宣言・行動契約、セルフモニタリング、自己効力感、ストレスマネジメント、ソーシャルスキルトレーニング、ナッジ)を読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	授業テーマ	組織づくり・地域づくりへの展開（行動変容技法）及びまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学の理論における組織づくり地域づくりでの各種行動変容技法について学び、理解する。 （5.組織づくり・地域づくりへの展開を学ぶ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.40～42、組織づくり・地域づくりへの展開（セルフヘルプグループ、グループダイナミクス、エンパワメント、ソーシャルキャピタル）を読んで学ぶ。まとめとして栄養教育計画論の内容の振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	310分

学習計画注記

講義の実施方法や講義の進み具合によってスケジュールは変更になる場合もある。その場合は随時担当教員の方から連絡を行う。

学生へのフィードバック方法

毎回の講義理解度について、次回講義の最初に小テストを実施する。

小テスト・レポート提出についてはGoogle classroom等を活用して実施するためそこで結果はフィードバックされる。また小テストの結果については翌週以降の講義でも全体結果をフィードバックする。

評価方法

ルーブリックについては、初回授業で説明を行います。

・小テストは全14回の授業中、10～12回程度実施する。小テストは国家試験問題形式のテストとする。小テストの再試験は行わないので注意すること。

・定期試験は国家試験問題形式及び記述形式で出題する。授業中に使用した教科書及び配布プリントの全範囲が出題範囲となります。
・授業中に数回グループワークで討論を行い、その結果をレポートとして記述形式で提出があります。
・出席日数が3分の2以上なければ定期試験を受けることはできません。
・遅刻3回は欠席1回とみなします。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
レポート	○	○		
グループワーク	○	○	○	
定期試験	○	○		

評価割合

小テスト16%・レポート24%、定期試験60%とする。

使用教科書名(ISBN番号)

1.サクセス管理栄養士・栄養士養成講座　栄養教育論　第一出版株式会社 (ISBN 9784804115009)
2.医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎　医歯薬出版株式会社 (ISBN 9784263710685)

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】専門職業人として、「人間の栄養」につながる知識についてきちんと理解する事に該当。
【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題解決に向けて正確な情報を収集し、優先課題に対する取り組みを判断できる力を身につける事に該当。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と他者と協働するための共感力をもって、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけることに該当。

オフィスアワー

月曜日昼休み　1605研究室

学生へのメッセージ

現代の健康や栄養上の問題点について考え、栄養教育方法の必要性・意義・目的についてを学びます。その為に、栄養教育方法の理論から技術まで基礎的知識を詳細に学ぶことになります。
本講義では関心意欲を持った態度で積極的に学ぶことが必要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報発信の在り方や情報の真偽について等、栄養教育マネジメントに関連する基礎的学びを中心に教授する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークや発表を通じて課題発見力・課題解決学習を学ぶ事ができる
情報リテラシー教育	○	講義内での情報検索における情報モラルについて学ぶ事ができる

ICT活用	○	Google classroomにて資料配信及びレポート提出・小テストの実施がある。

講義コード	H02043032
講義名	栄養教育方法論（HB）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	辻　雅子	指定なし

ナンバリング

H23602C21

授業概要(教育目的)

本講義では栄養教育方法における行動科学理論ついて学ぶ。つまり対象者の特性の把握・教育の目標設定・教育方法の選択・カリキュラムの立て方、実施に必要な教育方法、教育の評価方法を理論的に学ぶうえで必要な行動科学理論の詳細を学ぶ。また栄養教育を効果的に展開するための技法についても理論的に学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1.栄養教育方法の理論について理解し説明できる。 2.栄養教育方法の各種行動変容技法について理解し説明できる。 3.行動変容カウンセリングについて理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1.栄養教育方法の理論について自ら考え、判断し、説明できる。 2.栄養教育方法の各種行動変容技法について自ら考え、判断し、説明できる。 3.行動変容カウンセリングについて自ら考え、判断し、説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1.授業の中でグループワークを実施する。その際、意欲関心をもって積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	栄養教育と行動科学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗ	栄養教育のために理論として行動科学の定義について学び、理解する。

第1回	ｼｰ教育・ICT活用を含む)	さらに学習理論における刺激-反応理論についても学び、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.16～、栄養教育のための行動科学的の理論とモデル行動科学とは、p.18の刺激-反応理論を読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	栄養教育のための行動科学的アプローチ（生態学的モデル、ヘルスビリーフモデル）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学の理論における生態学的モデルについて学び、理解する。 行動科学の理論におけるヘルス・ビリーフ・モデルについて学び、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.18～、生態学的モデル、p.20～ヘルス・ビリーフ・モデル及び教科書②ヘルス・ビリーフ・モデルを読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	個人に対する行動科学的アプローチ（トランスセオレティカルモデル）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学理論におけるトランスセオレティカルモデルについて学び、理解する。その後次回にグループワークを行うための話し合いを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.21～トランスセオレティカルモデル及び教科書2.のトランスセオレティカルモデルを読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	個人に対する行動科学的アプローチ（トランスセオレティカルモデル（グループワーク））
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学理論におけるトランスセオレティカルモデルについて学び、理解する。その後グループごとに分かれてそれぞれ異なったテーマのグループワークを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.21～トランスセオレティカルモデル及び、教科書2.のトランスセオレティカルモデルを読んで、グループごとに学びを進める。グループワーク発表後にはレポートを課す。
	教室外学習の時間	180分

	（分）	
第5回	授業テーマ	個人に対する行動科学的アプローチ（トランスセオレティカルモデル（グループワーク））
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学理論におけるトランスセオレティカルモデルのグループワークを実施し学びの理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書1.第1章（2-2②トランスセオレティカルモデル）及び、教科書2.のトランスセオレティカルモデルを読んで、グループごとに発表準備を進める。グループワーク発表後にはレポートを課すので、提出期日までに提出することが必要。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	個人に対する行動科学的アプローチ（計画的行動理論）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学理論における計画的行動理論について学び、理解する。 また前回までのトランスセオレティカルモデル（グループワーク）の振り返りが終わっていなければこれも行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.23～計画的行動理論）及び、教科書2.の計画的行動理論を読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	個人間の行動科学的アプローチ（社会的認知理論とソーシャルサポート①）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学の理論における社会的認知理論及びソーシャルサポートについて学び、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.24～、社会的認知理論、ソーシャルサポート（とソーシャルネットワーク）、及び教科書2.の社会的認知理論を読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	個人間の行動科学的アプローチ（ソーシャルサポート②）およびストレスとコーピング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学の理論におけるソーシャルサポートを理解する。さらに授業内でソーシャルサポートのグループワークを行う。ソーシャルサポートのグループワークレポートを課す。行動科学の理論におけるストレスマネジメントについて学び、ストレスとコーピングについて理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.24～26ソーシャルサポート、教科書p.40のストレスマネジメントと、教科書2.のソーシャルサポートと教科書2.のストレスとコーピングを読んでおく。当日は授業内でソーシャルサポートのグループワークを行うため事前に前の週の振り返りを行っておく。グループワーク後にはレポートを課すので、提出期日までに提出することが必要。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	集団や社会における行動科学的アプローチ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学の理論におけるコミュニティオーガニゼーション等について学び、理解する。 （コミュニティオーガニゼーション、イノベーション普及理論、ヘルスリテラシーを学ぶ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.26～29、コミュニティオーガニゼーション、イノベーション普及理論、ヘルスリテラシーを読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	栄養カウンセリング（行動カウンセリングとカウンセリングの基礎）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学の理論における行動カウンセリングと基礎について学び、理解する。学びを深めてもらうために行動カウンセリングDVDを見てもらい簡単なレポート作成の課題を課す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.29～栄養カウンセリングを読んでおくこと。 また行動カウンセリングDVDの課題レポートについて提出期日までに提出することが必要。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	栄養カウンセリング（認知行動療法）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学の理論における行動カウンセリングについて学び、理解する。前回に終わらなければ本回で学びを深めてもらうために行動カウンセリングDVDを見てもらい簡単なレポート作成の課題を課す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.29～栄養カウンセリングを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	動機づけ面接
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第12回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学の理論における動機づけ面接について学び、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.29～栄養カウンセリングを読んでおくこと。 栄養カウンセリングについて、レポートを期日までに作成する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	行動変容技法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学の理論における各種行動変容技法について学び、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.36～40、行動変容技法(刺激統制、反応妨害・拮抗、行動置換、オペラント強化、認知再構成、意思決定バランス、目標宣言・行動契約、セルフモニタリング、自己効力感、ストレスマネジメント、ソーシャルスキルトレーニング、ナッジ)を読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	授業テーマ	組織づくり・地域づくりへの展開（行動変容技法）及びまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学の理論における組織づくり地域づくりでの各種行動変容技法について学び、理解する。 （5.組織づくり・地域づくりへの展開を学ぶ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.40～42、組織づくり・地域づくりへの展開（セルフヘルプグループ、グループダイナミクス、エンパワメント、ソーシャルキャピタル）を読んで学ぶ。まとめとして栄養教育計画論の内容の振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	310分

学習計画注記

講義の実施方法や講義の進み具合によってスケジュールは変更になる場合もある。その場合は随時担当教員の方から連絡を行う。

学生へのフィードバック方法

毎回の講義理解度について、次回講義の最初に小テストを実施する。

小テスト・レポート提出についてはGoogle classroom等を活用して実施するためそこで結果はフィードバックされる。また小テストの結果については翌週以降の講義でも全体結果をフィードバックする。

評価方法

ルーブリックについては、初回授業で説明を行います。

・小テストは全14回の授業中、10～12回程度実施する。小テストは国家試験問題形式のテストとする。小テストの再試験は行わないので注意すること。

・定期試験は国家試験問題形式及び記述形式で出題する。授業中に使用した教科書及び配布プリントの全範囲が出題範囲となります。
・授業中に数回グループワークで討論を行い、その結果をレポートとして記述形式で提出があります。
・出席日数が3分の2以上なければ定期試験を受けることはできません。
・遅刻3回は欠席1回とみなします。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
レポート	○	○		
グループワーク	○	○	○	
定期試験	○	○		

評価割合

小テスト16%・レポート24%、定期試験60%とする。

使用教科書名(ISBN番号)

1.サクセス管理栄養士・栄養士養成講座　栄養教育論　第一出版株式会社 (ISBN 9784804115009)
2.医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎　医歯薬出版株式会社 (ISBN 9784263710685)

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】専門職業人として、「人間の栄養」につながる知識についてきちんと理解する事に該当。
【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題解決に向けて正確な情報を収集し、優先課題に対する取り組みを判断できる力を身につける事に該当。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と他者と協働するための共感力をもって、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけることに該当。

オフィスアワー

月曜日昼休み　1605研究室

学生へのメッセージ

現代の健康や栄養上の問題点について考え、栄養教育方法の必要性・意義・目的についてを学びます。その為に、栄養教育方法の理論から技術まで基礎的知識を詳細に学ぶことになります。
本講義では関心意欲を持った態度で積極的に学ぶことが必要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報発信の在り方や情報の真偽について等、栄養教育マネジメントに関連する基礎的学びを中心に教授する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークや発表を通じて課題発見力・課題解決学習を学ぶ事ができる
情報リテラシー教育	○	講義内での情報検索における情報モラルについて学ぶ事ができる

ICT活用	○	Google classroomにて資料配信及びレポート提出・小テストの実施がある。

講義コード	H02043033
講義名	栄養教育方法論（HC）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	辻　雅子	指定なし

ナンバリング

H23602C21

授業概要(教育目的)

本講義では栄養教育方法における行動科学理論ついて学ぶ。つまり対象者の特性の把握・教育の目標設定・教育方法の選択・カリキュラムの立て方、実施に必要な教育方法、教育の評価方法を理論的に学ぶうえで必要な行動科学理論の詳細を学ぶ。また栄養教育を効果的に展開するための技法についても理論的に学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1.栄養教育方法の理論について理解し説明できる。 2.栄養教育方法の各種行動変容技法について理解し説明できる。 3.行動変容カウンセリングについて理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1.栄養教育方法の理論について自ら考え、判断し、説明できる。 2.栄養教育方法の各種行動変容技法について自ら考え、判断し、説明できる。 3.行動変容カウンセリングについて自ら考え、判断し、説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1.授業の中でグループワークを実施する。その際、意欲関心をもって積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	栄養教育と行動科学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗ	栄養教育のために理論として行動科学の定義について学び、理解する。

第1回	ｼｰ教育・ICT活用を含む)	さらに学習理論における刺激-反応理論についても学び、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.16～、栄養教育のための行動科学的の理論とモデル行動科学とは、p.18の刺激-反応理論を読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	栄養教育のための行動科学的アプローチ（生態学的モデル、ヘルスビリーフモデル）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学の理論における生態学的モデルについて学び、理解する。 行動科学の理論におけるヘルス・ビリーフ・モデルについて学び、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.18～、生態学的モデル、p.20～ヘルス・ビリーフ・モデル及び教科書②ヘルス・ビリーフ・モデルを読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	個人に対する行動科学的アプローチ（トランスセオレティカルモデル）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学理論におけるトランスセオレティカルモデルについて学び、理解する。その後次回にグループワークを行うための話し合いを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.21～トランスセオレティカルモデル及び教科書2.のトランスセオレティカルモデルを読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	個人に対する行動科学的アプローチ（トランスセオレティカルモデル（グループワーク））
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学理論におけるトランスセオレティカルモデルについて学び、理解する。その後グループごとに分かれてそれぞれ異なったテーマのグループワークを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.21～トランスセオレティカルモデル及び、教科書2.のトランスセオレティカルモデルを読んで、グループごとに学びを進める。グループワーク発表後にはレポートを課す。
	教室外学習の時間	180分

	（分）	
第5回	授業テーマ	個人に対する行動科学的アプローチ（トランスセオレティカルモデル（グループワーク））
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学理論におけるトランスセオレティカルモデルのグループワークを実施し学びの理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書1.第1章（2-2②トランスセオレティカルモデル）及び、教科書2.のトランスセオレティカルモデルを読んで、グループごとに発表準備を進める。グループワーク発表後にはレポートを課すので、提出期日までに提出することが必要。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	個人に対する行動科学的アプローチ（計画的行動理論）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学理論における計画的行動理論について学び、理解する。 また前回までのトランスセオレティカルモデル（グループワーク）の振り返りが終わっていなければこれも行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.23～計画的行動理論）及び、教科書2.の計画的行動理論を読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	個人間の行動科学的アプローチ（社会的認知理論とソーシャルサポート①）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学の理論における社会的認知理論及びソーシャルサポートについて学び、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.24～、社会的認知理論、ソーシャルサポート（とソーシャルネットワーク）、及び教科書2.の社会的認知理論を読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	個人間の行動科学的アプローチ（ソーシャルサポート②）およびストレスとコーピング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学の理論におけるソーシャルサポートを理解する。さらに授業内でソーシャルサポートのグループワークを行う。ソーシャルサポートのグループワークレポートを課す。行動科学の理論におけるストレスマネジメントについて学び、ストレスとコーピングについて理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.24～26ソーシャルサポート、教科書p.40のストレスマネジメントと、教科書2.のソーシャルサポートと教科書2.のストレスとコーピングを読んでおく。当日は授業内でソーシャルサポートのグループワークを行うため事前に前の週の振り返りを行っておく。グループワーク後にはレポートを課すので、提出期日までに提出することが必要。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	集団や社会における行動科学的アプローチ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学の理論におけるコミュニティオーガニゼーション等について学び、理解する。 （コミュニティオーガニゼーション、イノベーション普及理論、ヘルスリテラシーを学ぶ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.26～29、コミュニティオーガニゼーション、イノベーション普及理論、ヘルスリテラシーを読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	栄養カウンセリング（行動カウンセリングとカウンセリングの基礎）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学の理論における行動カウンセリングと基礎について学び、理解する。学びを深めてもらうために行動カウンセリングDVDを見てもらい簡単なレポート作成の課題を課す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.29～栄養カウンセリングを読んでおくこと。 また行動カウンセリングDVDの課題レポートについて提出期日までに提出することが必要。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	栄養カウンセリング（認知行動療法）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学の理論における行動カウンセリングについて学び、理解する。前回に終わらなければ本回で学びを深めてもらうために行動カウンセリングDVDを見てもらい簡単なレポート作成の課題を課す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.29～栄養カウンセリングを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	動機づけ面接
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第12回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学の理論における動機づけ面接について学び、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.29～栄養カウンセリングを読んでおくこと。 栄養カウンセリングについて、レポートを期日までに作成する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	行動変容技法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学の理論における各種行動変容技法について学び、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.36～40、行動変容技法(刺激統制、反応妨害・拮抗、行動置換、オペラント強化、認知再構成、意思決定バランス、目標宣言・行動契約、セルフモニタリング、自己効力感、ストレスマネジメント、ソーシャルスキルトレーニング、ナッジ)を読んで学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	授業テーマ	組織づくり・地域づくりへの展開（行動変容技法）及びまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動科学の理論における組織づくり地域づくりでの各種行動変容技法について学び、理解する。 （5.組織づくり・地域づくりへの展開を学ぶ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書p.40～42、組織づくり・地域づくりへの展開（セルフヘルプグループ、グループダイナミクス、エンパワメント、ソーシャルキャピタル）を読んで学ぶ。まとめとして栄養教育計画論の内容の振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	310分

学習計画注記

講義の実施方法や講義の進み具合によってスケジュールは変更になる場合もある。その場合は随時担当教員の方から連絡を行う。

学生へのフィードバック方法

毎回の講義理解度について、次回講義の最初に小テストを実施する。

小テスト・レポート提出についてはGoogle classroom等を活用して実施するためそこで結果はフィードバックされる。また小テストの結果については翌週以降の講義でも全体結果をフィードバックする。

評価方法

ルーブリックについては、初回授業で説明を行います。

・小テストは全14回の授業中、10～12回程度実施する。小テストは国家試験問題形式のテストとする。小テストの再試験は行わないので注意すること。

・定期試験は国家試験問題形式及び記述形式で出題する。授業中に使用した教科書及び配布プリントの全範囲が出題範囲となります。
・授業中に数回グループワークで討論を行い、その結果をレポートとして記述形式で提出があります。
・出席日数が3分の2以上なければ定期試験を受けることはできません。
・遅刻3回は欠席1回とみなします。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
レポート	○	○		
グループワーク	○	○	○	
定期試験	○	○		

評価割合

小テスト16%・レポート24%、定期試験60%とする。

使用教科書名(ISBN番号)

1.サクセス管理栄養士・栄養士養成講座　栄養教育論　第一出版株式会社 (ISBN 9784804115009)
2.医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎　医歯薬出版株式会社 (ISBN 9784263710685)

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】専門職業人として、「人間の栄養」につながる知識についてきちんと理解する事に該当。
【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題解決に向けて正確な情報を収集し、優先課題に対する取り組みを判断できる力を身につける事に該当。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と他者と協働するための共感力をもって、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけることに該当。

オフィスアワー

月曜日昼休み　1605研究室

学生へのメッセージ

現代の健康や栄養上の問題点について考え、栄養教育方法の必要性・意義・目的についてを学びます。その為に、栄養教育方法の理論から技術まで基礎的知識を詳細に学ぶことになります。
本講義では関心意欲を持った態度で積極的に学ぶことが必要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報発信の在り方や情報の真偽について等、栄養教育マネジメントに関連する基礎的学びを中心に教授する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークや発表を通じて課題発見力・課題解決学習を学ぶ事ができる
情報リテラシー教育	○	講義内での情報検索における情報モラルについて学ぶ事ができる

ICT活用	○	Google classroomにて資料配信及びレポート提出・小テストの実施がある。

講義コード	H02044031
講義名	実践栄養教育論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	酒井 治子	指定なし

ナンバリング

H33603C21

授業概要(教育目的)

栄養教育を効果的に行うために、学習者のライフステージ、すなわち、乳幼児期から高齢期にいたる時期の特徴や、ライフスタイル、健康状態等の特徴を十分に踏まえてアセスメントを行い、栄養教育の目的・目標を設定し、学習カリキュラムを立案して実施し、評価する実践方法を育成することを目的とする。また、複雑化する現代社会の中で、どのようにすれば健康の維持増進ができるかを食環境との関連から捉え、実践する方法を理解できるよう教授する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	学習者のライフステージ等に応じた栄養教育に必要な知識について説明することができる
思考・判断の観点(K)	学習者のライフステージの食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につける
関心・意欲・態度の観点(V)	学習者のライフステージ、栄養教育（食育）に関心を持ち、管理栄養士として使命感と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度を身につける
技術・表現の観点(A)	学習者のライフステージ等に応じた栄養教育に必要な実践的な技術をもち、多様なライフスタイルをもつ学習者のニーズに応じた教育方法を選定し、学習者とのコミュニケーション能力等の表現力を身につける

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション 栄養教育マネジメント１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本授業の特徴、学習方法を理解する。 人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を構造的に理解する理論枠組みを学ぶ。栄養教育の目的・目標と、ライフステージ・ライフスタイルからみた対象と機会について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書① 「第１章 栄養教育の概念 A.栄養教育の目的・目標」「B.栄養教育の対象と機会 1 ライフステージ・ライフスタイルからみた対象と機会」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	栄養教育マネジメント２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育マネジメント、アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書① 「第５章 A.栄養教育のマネジメント」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	妊娠・授乳期の栄養教育１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	妊娠・授乳期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。妊娠・授乳に関わる栄養教育の実践に関わる動画を活用し、対象者理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書① 「第11章 ライフステージ・ライフスタイル，健康状態と栄養教育 A.妊娠・授乳期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	妊娠・授乳期の栄養教育２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	妊娠・授乳期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書① 「第11章 ライフステージ・ライフスタイル，健康状態と栄養教育 A.妊娠・授乳期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	乳児期（乳汁）の栄養教育１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児期（乳汁）の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。乳児とその保護者に関わる栄養教育の実践に関わる動画を活用し、対象者理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書① 「第11章 B.乳・幼児期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。

	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	乳児期（乳汁）の栄養教育２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児期（乳汁）の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書①「第11章 B.乳・幼児期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	**授業テーマ**	離乳期の栄養教育１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	離乳期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。離乳に関わる栄養教育の実践に関わる動画を活用し、対象者理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書①「第11章 B.乳・幼児期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	離乳期の栄養教育２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	離乳期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書①「第11章 B.乳・幼児期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	幼児期の栄養教育１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。保育所等での栄養教育の実践に関わる動画を活用し、対象者理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書①「第11章 B.乳・幼児期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	幼児期の栄養教育２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書①「第11章 B.乳・幼児期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	学童・思春期の栄養教育１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	学童・思春期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。学童に関わる栄養教育

第11回	含む)	の実践に関わる動画を活用し、対象者理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書① 「第11章 C.学童期 D.思春期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
	教室外学習の時間(分)	180分
第12回	授業テーマ	学童・思春期の栄養教育２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学童・思春期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書① 「第11章 C.学童期 D.思春期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
	教室外学習の時間(分)	180分
第13回	授業テーマ	高齢期の栄養教育１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。高齢者に関わる栄養教育の実践に関わる動画を活用し、対象者理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書① 「第11章 F.高齢期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
	教室外学習の時間(分)	180分
第14回	授業テーマ	高齢期の栄養教育２とまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書① 「第11章 F.高齢期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
	教室外学習の時間(分)	180分

学生へのフィードバック方法

授業毎に前回内容の確認を行う。質問のある場合は1603研究室に訪問すること。

評価方法

・毎回の授業内容の理解度を高めるための、授業毎のリアクションペーパーも評価の一環とする。小テストは国家試験の過去問題から出題する。
・定期試験は管理栄養士国家試験の出題に対応できる内容であるとともに、より実践的な教育の方法に関する記述問題を含む。
・平常点と課題の内容により、ルーブリックをもとに評価する。
ルーブリックの内容は、クラスルームまたは授業内にて公開する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
リアクションペーパー	○	○	○	○
小テスト	○			
試験	○	○		

評価割合

各回の受講票と課題の提出(50%)、定期試験(50%)で総合的に評価する

使用教科書名(ISBN番号)

「第9巻 栄養教育論 多様な場での展開と実践」日本栄養改善学会 監修／赤松利恵・木村典代 編」 ISBN978-4-263-72036-3
「第６版 子どもの食生活」 上田玲子他 ななみ書房 4903355290
「食事コーディネートのための主食・主菜・副菜料理成分表 第５版」針谷順子・足立己幸 群羊社
978-4-906182-11-4

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】学習者のライフステージに応じた栄養教育について、管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている
【思考・判断】学習者のライフステージに応じた栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている
【関心・意欲・態度】学習者のライフステージに応じた栄養教育に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている
【技能・表現】
学習者のライフステージ等に応じた栄養教育に必要な実践的な技術をもち、ニーズに応じた教材や学習者とのコミュニケーション能力等の表現力を身につけている

オフィスアワー

水曜日 １限 地域栄養教育（酒井）研究室

学生へのメッセージ

ライフステージ別栄養論I・IIで学んだこと、栄養教育総論、栄養教育方法論で学んだことを復習しながら、栄養教育の実践につなげる方法を探っていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は流通業での消費者対策（食品の衛生実験、商品表示等）、顧客対応（栄養指導）に食環境整備に関する実務経験、また、研究面での栄養教育の実践と評価に関する研究の経験を活かし、研究デザインについて教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02044032
講義名	実践栄養教育論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	酒井 治子	指定なし

ナンバリング

H33603C21

授業概要(教育目的)

栄養教育を効果的に行うために、学習者のライフステージ、すなわち、乳幼児期から高齢期にいたる時期の特徴や、ライフスタイル、健康状態等の特徴を十分に踏まえてアセスメントを行い、栄養教育の目的・目標を設定し、学習カリキュラムを立案して実施し、評価する実践方法を育成することを目的とする。また、複雑化する現代社会の中で、どのようにすれば健康の維持増進ができるかを食環境との関連から捉え、実践する方法を理解できるよう教授する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	学習者のライフステージ等に応じた栄養教育に必要な知識について説明することができる
思考・判断の観点(K)	学習者のライフステージの食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につける
関心・意欲・態度の観点(V)	学習者のライフステージ、栄養教育（食育）に関心を持ち、管理栄養士として使命感と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度を身につける
技術・表現の観点(A)	学習者のライフステージ等に応じた栄養教育に必要な実践的な技術をもち、多様なライフスタイルをもつ学習者のニーズに応じた教育方法を選定し、学習者とのコミュニケーション能力等の表現力を身につける

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション 栄養教育マネジメント１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本授業の特徴、学習方法を理解する。 人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を構造的に理解する理論枠組みを学ぶ。栄養教育の目的・目標と、ライフステージ・ライフスタイルからみた対象と機会について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書① 「第１章 栄養教育の概念 A.栄養教育の目的・目標」「B.栄養教育の対象と機会 1 ライフステージ・ライフスタイルからみた対象と機会」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	栄養教育マネジメント２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育マネジメント、アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書① 「第５章 A.栄養教育のマネジメント」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	妊娠・授乳期の栄養教育１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	妊娠・授乳期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。妊娠・授乳に関わる栄養教育の実践に関わる動画を活用し、対象者理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書① 「第11章 ライフステージ・ライフスタイル，健康状態と栄養教育 A.妊娠・授乳期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	妊娠・授乳期の栄養教育２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	妊娠・授乳期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書① 「第11章 ライフステージ・ライフスタイル，健康状態と栄養教育 A.妊娠・授乳期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	乳児期（乳汁）の栄養教育１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児期（乳汁）の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。乳児とその保護者に関わる栄養教育の実践に関わる動画を活用し、対象者理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書① 「第11章 B.乳・幼児期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。

	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	乳児期（乳汁）の栄養教育２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児期（乳汁）の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書①「第11章 B.乳・幼児期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	**授業テーマ**	離乳期の栄養教育１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	離乳期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。離乳に関わる栄養教育の実践に関わる動画を活用し、対象者理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書①「第11章 B.乳・幼児期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	離乳期の栄養教育２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	離乳期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書①「第11章 B.乳・幼児期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	幼児期の栄養教育１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。保育所等での栄養教育の実践に関わる動画を活用し、対象者理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書①「第11章 B.乳・幼児期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	幼児期の栄養教育２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書①「第11章 B.乳・幼児期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	学童・思春期の栄養教育１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	学童・思春期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。学童に関わる栄養教育

第11回	含む)	の実践に関わる動画を活用し、対象者理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書① 「第11章 C.学童期 D.思春期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
	教室外学習の時間(分)	180分
第12回	授業テーマ	学童・思春期の栄養教育２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学童・思春期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書① 「第11章 C.学童期 D.思春期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
	教室外学習の時間(分)	180分
第13回	授業テーマ	高齢期の栄養教育１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。高齢者に関わる栄養教育の実践に関わる動画を活用し、対象者理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書① 「第11章 F.高齢期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
	教室外学習の時間(分)	180分
第14回	授業テーマ	高齢期の栄養教育２とまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書① 「第11章 F.高齢期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
	教室外学習の時間(分)	180分

学生へのフィードバック方法

授業毎に前回内容の確認を行う。質問のある場合は1603研究室に訪問すること。

評価方法

・毎回の授業内容の理解度を高めるための、授業毎のリアクションペーパーも評価の一環とする。小テストは国家試験の過去問題から出題する。
・定期試験は管理栄養士国家試験の出題に対応できる内容であるとともに、より実践的な教育の方法に関する記述問題を含む。
・平常点と課題の内容により、ルーブリックをもとに評価する。
ルーブリックの内容は、クラスルームまたは授業内にて公開する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
リアクションペーパー	○	○	○	○
小テスト	○			
試験	○	○		

評価割合

各回の受講票と課題の提出(50%)、定期試験(50%)で総合的に評価する

使用教科書名(ISBN番号)

「第9巻 栄養教育論 多様な場での展開と実践」日本栄養改善学会 監修／赤松利恵・木村典代 編」 ISBN978-4-263-72036-3
「第６版 子どもの食生活」 上田玲子他 ななみ書房 4903355290
「食事コーディネートのための主食・主菜・副菜料理成分表 第５版」針谷順子・足立己幸 群羊社
978-4-906182-11-4

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】学習者のライフステージに応じた栄養教育について、管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている
【思考・判断】学習者のライフステージに応じた栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている
【関心・意欲・態度】学習者のライフステージに応じた栄養教育に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている
【技能・表現】
学習者のライフステージ等に応じた栄養教育に必要な実践的な技術をもち、ニーズに応じた教材や学習者とのコミュニケーション能力等の表現力を身につけている

オフィスアワー

水曜日 １限 地域栄養教育（酒井）研究室

学生へのメッセージ

ライフステージ別栄養論I・IIで学んだこと、栄養教育総論、栄養教育方法論で学んだことを復習しながら、栄養教育の実践につなげる方法を探っていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は流通業での消費者対策（食品の衛生実験、商品表示等）、顧客対応（栄養指導）に食環境整備に関する実務経験、また、研究面での栄養教育の実践と評価に関する研究の経験を活かし、研究デザインについて教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02045031
講義名	栄養教育実習I（HA）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	辻 雅子	指定なし

ナンバリング

H33604C13

授業概要(教育目的)

栄養教育を効果的に行なうには、専門知識を教育的理論に基づいて応用できなければならない。本実習では、栄養教育マネジメントにおける対象の把握から実施およびその評価にいたる一連のプロセスを理解する。すなわち、対象者から得られたさまざまな情報を整理し、対象者の特性を的確に把握して、問題点を見いだし、栄養教育の目標を設定し、教育実施にむけた計画が立てられ、適正な栄養教育を実践することができるような基礎知識・方法を学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	栄養教育マネジメントの流れについて理解し、栄養教育マネジメントの計画を立てることができる。
思考・判断の観点 (K)	自ら考え、判断し、栄養教育マネジメント計画を立てることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に単独活動やグループ活動に参加し、興味関心をもって参加することでグループ活動に寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	レポートとして提出する報告書を適切な技術でもって表現することができる。 グループワークで必要な技術を用いて、他者との協働を円滑に進めることができる。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション 特定健診・保健指導について①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	栄養教育マネジメントに沿った実習全体の流れについて理解す

第1回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	る。課題について確認する。ロールプレイによる特定健診保健指導の流れについて動画視聴も含めて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特定検診保健指導についてグループワークでどのように取り組むべきか考える。
	教室外学習の時間（分）	60
第2回	授業テーマ	特定健診・保健指導について②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロールプレイによる特定健診保健指導について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特定検診保健指導についてグループワークでどのように取り組むべきか考える。
	教室外学習の時間（分）	60
第3回	授業テーマ	特定健診・保健指導について③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロールプレイによる特定健診保健指導について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特定検診保健指導についてグループワークでどのように取り組むべきか考える。
	教室外学習の時間（分）	60
第4回	授業テーマ	特定健診・保健指導について④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロールプレイによる特定健診保健指導について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特定検診保健指導についてグループワークでどのように取り組むべきか考える（各班の発表に向けて班ごとに発表準備を進める）。
	教室外学習の時間（分）	90（発表準備予習30分含む）
第5回	授業テーマ	特定健診・保健指導について⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロールプレイによる特定健診保健指導について学ぶ（各班ごとの発表）。 食事調査法及び身体活動調査法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食事調査や身体活動調査についての課題が出されるのでその課題について取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
第6回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育アセスメントにおける食事調査（秤量食事記録法・自記式食事歴質問法）及び秤量食事記録法の解析について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教育アセスメントにおける食事調査について取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
	授業テーマ	栄養教育マネジメント：アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育アセスメントにおける食事調査（秤量食事記録法・自記式食事歴質問法・摂取頻度調査方法）及び秤量食事記録法の解析について学ぶ。

第7回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	食事調査結果について解析に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
第8回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育アセスメントにおける食事調査（食事バランスガイド）の解析方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	様々な食事調査結果の解析について取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
第9回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：栄養教育計画の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事調査の解析結果の分析及びその栄養教育計画の作成を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食事調査結果の解析結果を分析し、その栄養教育計画の作成に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
第10回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動調査の解析結果の分析について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身体活動調査の解析結果の分析に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
第11回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：栄養教育計画の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動調査の解析結果の分析について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身体活動調査の解析結果の分析に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
第12回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：栄養教育計画の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動調査の解析結果の分析及びその栄養教育計画の作成を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身体活動調査の解析結果の分析、その栄養教育計画の作成に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
第13回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：栄養教育計画の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動指針を用いた身体活動調査の解析結果の分析及び運動計画の作成を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身体活動調査の解析結果の分析、運動計画の作成に取り組む。

	教室外学習の時間（分）	60
第14回	**授業テーマ**	栄養教育マネジメント：栄養教育目標設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育計画の目標設定および評価設定を用いた保健指導プログラム及びその作成について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教育計画の目標設定および評価設定を用いた保健指導プログラム案作成に取り組む（全体的な振り返りを行い総合レポートを作成する取り組みが必要となる）。
	教室外学習の時間（分）	60

学習計画注記

実習の進み具合によってスケジュールは変更になる場合もあります。その場合は随時担当教員の方から連絡を行います。実習で必要なプリントなどはその都度配布していきます。
クラスごとで実習の流れが異なる場合があるので、初回に必ず全体の流れを把握してください。

学生へのフィードバック方法

基本的には実習授業内で何回か返却があり、その内容についてはフィードバックを全体に行います。
レポート提出・平常点についてはGoogle classroom等を活用して実施するためそこで結果はフィードバックされる。
個人的な課題に対する質問及び課題の未提出等については個別でGoogle classroomやメールなどでフィードバックを行います。

評価方法

ルーブリックについては、初回授業で説明し、レポートごとに異なる場合はその都度説明を行います。
・レポート提出は本実習中栄養教育マネジメントとしての総合レポートの形で提出してもらう。また各課題ごとに提出していくものもあります。
・グループワークとして1.特定健診・保健指導のロールプレイを実施する。グループでの話し合い、実施のサポート、最後の評価に至るまで積極的に興味関心をもって参加することが必要である。2.アセスメント調査及びデーター解析時には二人ペアでグループワークに取り組むため積極的に取り組むことが必要となります。
・実習に対する積極性が見られないものは、マイナス評価がつく場合があります。
・出席日数が3分の2以上なければ成績評価を受けることはできません。
・遅刻3回は欠席1回とみなします。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○	○	○
グループワーク	○	○	○	○

評価割合

課題レポートと平常点（平常点は実習への積極的な参加状況や取り組み等から総合的に判断する）６０%、グループワーク４０%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

1.栄養教育論 第2版 岡﨑光子・太田優子・吉野佳織・服部浩子・板東絹恵・坂井真奈美・山王丸靖子・辻雅子・小河原佳子・大山珠美 共著 光生館（978-4-332-03044-7）
2.医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 松本千明 医歯薬出版株式会社（9784263233375）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる知識についてきちんと理解し、活用する事に該当。
【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題解決に向けて正確な情報を収集し、優先課題に対する取り組みを判断できる力を身につける事に該当。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と他社と協働するための共感力をもって、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけることに該当。
【技術・表現】人々の健康の保持増進のための栄養管理に関する専門的技能と共に、コミュニケーション能力やマネジメント力を表現する力を身につける事に該当。

オフィスアワー

月曜日3時間目 1605研究室

学生へのメッセージ

栄養教育マネジメントの基本的な流れを学びます。その為に必要なアセスメントからデータ解析や報告書作成について学び、さらには目標設定、計画設定、評価設定まで行います。
本実習では学生個人のスキルアップだけでなく、グループでのスキルアップも目指す為、関心意欲を持った態度で積極的に今までの知識を活用して主体的に考えて作業を進めることが必要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報のまとめ、解析、HP上での報告等、栄養教育マネジメントに関連する基礎的学びを中心に教授する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークや発表を通じて課題発見力・課題解決学習を学ぶ事ができる。
情報リテラシー教育	○	実習中の課題作成を通じて情報検索における情報モラルについて学ぶ事ができる。
ICT活用	○	Google classroomにて資料配信及びレポート提出の実施がある。

講義コード	H02045032
講義名	栄養教育実習I（HB）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	辻 雅子	指定なし

ナンバリング

H33604C13

授業概要(教育目的)

栄養教育を効果的に行なうには、専門知識を教育的理論に基づいて応用できなければならない。本実習では、栄養教育マネジメントにおける対象の把握から実施およびその評価にいたる一連のプロセスを理解する。すなわち、対象者から得られたさまざまな情報を整理し、対象者の特性を的確に把握して、問題点を見いだし、栄養教育の目標を設定し、教育実施にむけた計画が立てられ、適正な栄養教育を実践することができるような基礎知識・方法を学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	栄養教育マネジメントの流れについて理解し、栄養教育マネジメントの計画を立てることができる。
思考・判断の観点 (K)	自ら考え、判断し、栄養教育マネジメント計画を立てることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に単独活動やグループ活動に参加し、興味関心をもって参加することでグループ活動に寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	レポートとして提出する報告書を適切な技術でもって表現することができる。 グループワークで必要な技術を用いて、他者との協働を円滑に進めることができる。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション 特定健診・保健指導について①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	栄養教育マネジメントに沿った実習全体の流れについて理解す

第1回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	る。課題について確認する。ロールプレイによる特定健診保健指導の流れについて動画視聴も含めて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特定検診保健指導についてグループワークでどのように取り組むべきか考える。
	教室外学習の時間（分）	60
第2回	授業テーマ	特定健診・保健指導について②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロールプレイによる特定健診保健指導について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特定検診保健指導についてグループワークでどのように取り組むべきか考える。
	教室外学習の時間（分）	60
第3回	授業テーマ	特定健診・保健指導について③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロールプレイによる特定健診保健指導について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特定検診保健指導についてグループワークでどのように取り組むべきか考える。
	教室外学習の時間（分）	60
第4回	授業テーマ	特定健診・保健指導について④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロールプレイによる特定健診保健指導について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特定検診保健指導についてグループワークでどのように取り組むべきか考える（各班の発表に向けて班ごとに発表準備を進める）。
	教室外学習の時間（分）	90（発表準備予習30分含む）
第5回	授業テーマ	特定健診・保健指導について⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロールプレイによる特定健診保健指導について学ぶ（各班ごとの発表）。 食事調査法及び身体活動調査法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食事調査や身体活動調査についての課題が出されるのでその課題について取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
第6回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育アセスメントにおける食事調査（秤量食事記録法・自記式食事歴質問法）及び秤量食事記録法の解析について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教育アセスメントにおける食事調査について取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
	授業テーマ	栄養教育マネジメント：アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育アセスメントにおける食事調査（秤量食事記録法・自記式食事歴質問法・摂取頻度調査方法）及び秤量食事記録法の解析について学ぶ。

第7回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	食事調査結果について解析に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
第8回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育アセスメントにおける食事調査（食事バランスガイド）の解析方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	様々な食事調査結果の解析について取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
第9回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：栄養教育計画の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事調査の解析結果の分析及びその栄養教育計画の作成を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食事調査結果の解析結果を分析し、その栄養教育計画の作成に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
第10回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動調査の解析結果の分析について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身体活動調査の解析結果の分析に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
第11回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：栄養教育計画の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動調査の解析結果の分析について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身体活動調査の解析結果の分析に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
第12回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：栄養教育計画の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動調査の解析結果の分析及びその栄養教育計画の作成を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身体活動調査の解析結果の分析、その栄養教育計画の作成に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
第13回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：栄養教育計画の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動指針を用いた身体活動調査の解析結果の分析及び運動計画の作成を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身体活動調査の解析結果の分析、運動計画の作成に取り組む。

	教室外学習の時間（分）	60
第14回	**授業テーマ**	栄養教育マネジメント：栄養教育目標設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育計画の目標設定および評価設定を用いた保健指導プログラム及びその作成について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教育計画の目標設定および評価設定を用いた保健指導プログラム案作成に取り組む（全体的な振り返りを行い総合レポートを作成する取り組みが必要となる）。
	教室外学習の時間（分）	60

学習計画注記

実習の進み具合によってスケジュールは変更になる場合もあります。その場合は随時担当教員の方から連絡を行います。実習で必要なプリントなどはその都度配布していきます。
クラスごとで実習の流れが異なる場合があるので、初回に必ず全体の流れを把握してください。

学生へのフィードバック方法

基本的には実習授業内で何回か返却があり、その内容についてはフィードバックを全体に行います。
レポート提出・平常点についてはGoogle classroom等を活用して実施するためそこで結果はフィードバックされる。
個人的な課題に対する質問及び課題の未提出等については個別でGoogle classroomやメールなどでフィードバックを行います。

評価方法

ルーブリックについては、初回授業で説明し、レポートごとに異なる場合はその都度説明を行います。
・レポート提出は本実習中栄養教育マネジメントとしての総合レポートの形で提出してもらう。また各課題ごとに提出していくものもあります。
・グループワークとして1.特定健診・保健指導のロールプレイを実施する。グループでの話し合い、実施のサポート、最後の評価に至るまで積極的に興味関心をもって参加することが必要である。2.アセスメント調査及びデーター解析時には二人ペアでグループワークに取り組むため積極的に取り組むことが必要となります。
・実習に対する積極性が見られないものは、マイナス評価がつく場合があります。
・出席日数が3分の2以上なければ成績評価を受けることはできません。
・遅刻3回は欠席1回とみなします。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○	○	○
グループワーク	○	○	○	○

評価割合

課題レポートと平常点（平常点は実習への積極的な参加状況や取り組み等から総合的に判断する）６０%、グループワーク４０%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

1.栄養教育論 第2版 岡﨑光子・太田優子・吉野佳織・服部浩子・板東絹恵・坂井真奈美・山王丸靖子・辻雅子・小河原佳子・大山珠美 共著 光生館（978-4-332-03044-7）
2.医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 松本千明 医歯薬出版株式会社（9784263233375）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる知識についてきちんと理解し、活用する事に該当。
【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題解決に向けて正確な情報を収集し、優先課題に対する取り組みを判断できる力を身につける事に該当。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と他社と協働するための共感力をもって、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけることに該当。
【技術・表現】人々の健康の保持増進のための栄養管理に関する専門的技能と共に、コミュニケーション能力やマネジメント力を表現する力を身につける事に該当。

オフィスアワー

月曜日3時間目 1605研究室

学生へのメッセージ

栄養教育マネジメントの基本的な流れを学びます。その為に必要なアセスメントからデータ解析や報告書作成について学び、さらには目標設定、計画設定、評価設定まで行います。
本実習では学生個人のスキルアップだけでなく、グループでのスキルアップも目指す為、関心意欲を持った態度で積極的に今までの知識を活用して主体的に考えて作業を進めることが必要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報のまとめ、解析、HP上での報告等、栄養教育マネジメントに関連する基礎的学びを中心に教授する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークや発表を通じて課題発見力・課題解決学習を学ぶ事ができる。
情報リテラシー教育	○	実習中の課題作成を通じて情報検索における情報モラルについて学ぶ事ができる。
ICT活用	○	Google classroomにて資料配信及びレポート提出の実施がある。

講義コード	H02045033
講義名	栄養教育実習I（HC）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	辻 雅子	指定なし

ナンバリング

H33604C13

授業概要(教育目的)

栄養教育を効果的に行なうには、専門知識を教育的理論に基づいて応用できなければならない。本実習では、栄養教育マネジメントにおける対象の把握から実施およびその評価にいたる一連のプロセスを理解する。すなわち、対象者から得られたさまざまな情報を整理し、対象者の特性を的確に把握して、問題点を見いだし、栄養教育の目標を設定し、教育実施にむけた計画が立てられ、適正な栄養教育を実践することができるような基礎知識・方法を学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	栄養教育マネジメントの流れについて理解し、栄養教育マネジメントの計画を立てることができる。
思考・判断の観点 (K)	自ら考え、判断し、栄養教育マネジメント計画を立てることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に単独活動やグループ活動に参加し、興味関心をもって参加することでグループ活動に寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	レポートとして提出する報告書を適切な技術でもって表現することができる。 グループワークで必要な技術を用いて、他者との協働を円滑に進めることができる。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション 特定健診・保健指導について①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	栄養教育マネジメントに沿った実習全体の流れについて理解す

第1回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	る。課題について確認する。ロールプレイによる特定健診保健指導の流れについて動画視聴も含めて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特定検診保健指導についてグループワークでどのように取り組むべきか考える。
	教室外学習の時間（分）	60
第2回	授業テーマ	特定健診・保健指導について②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロールプレイによる特定健診保健指導について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特定検診保健指導についてグループワークでどのように取り組むべきか考える。
	教室外学習の時間（分）	60
第3回	授業テーマ	特定健診・保健指導について③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロールプレイによる特定健診保健指導について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特定検診保健指導についてグループワークでどのように取り組むべきか考える。
	教室外学習の時間（分）	60
第4回	授業テーマ	特定健診・保健指導について④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロールプレイによる特定健診保健指導について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特定検診保健指導についてグループワークでどのように取り組むべきか考える（各班の発表に向けて班ごとに発表準備を進める）。
	教室外学習の時間（分）	90（発表準備予習30分含む）
第5回	授業テーマ	特定健診・保健指導について⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロールプレイによる特定健診保健指導について学ぶ（各班ごとの発表）。 食事調査法及び身体活動調査法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食事調査や身体活動調査についての課題が出されるのでその課題について取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
第6回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育アセスメントにおける食事調査（秤量食事記録法・自記式食事歴質問法）及び秤量食事記録法の解析について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教育アセスメントにおける食事調査について取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
	授業テーマ	栄養教育マネジメント：アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育アセスメントにおける食事調査（秤量食事記録法・自記式食事歴質問法・摂取頻度調査方法）及び秤量食事記録法の解析について学ぶ。

第7回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	食事調査結果について解析に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
第8回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育アセスメントにおける食事調査（食事バランスガイド）の解析方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	様々な食事調査結果の解析について取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
第9回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：栄養教育計画の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事調査の解析結果の分析及びその栄養教育計画の作成を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食事調査結果の解析結果を分析し、その栄養教育計画の作成に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
第10回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動調査の解析結果の分析について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身体活動調査の解析結果の分析に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
第11回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：栄養教育計画の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動調査の解析結果の分析について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身体活動調査の解析結果の分析に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
第12回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：栄養教育計画の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動調査の解析結果の分析及びその栄養教育計画の作成を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身体活動調査の解析結果の分析、その栄養教育計画の作成に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
第13回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：栄養教育計画の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動指針を用いた身体活動調査の解析結果の分析及び運動計画の作成を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身体活動調査の解析結果の分析、運動計画の作成に取り組む。

	教室外学習の時間（分）	60
第14回	**授業テーマ**	栄養教育マネジメント：栄養教育目標設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育計画の目標設定および評価設定を用いた保健指導プログラム及びその作成について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教育計画の目標設定および評価設定を用いた保健指導プログラム案作成に取り組む（全体的な振り返りを行い総合レポートを作成する取り組みが必要となる）。
	教室外学習の時間（分）	60

学習計画注記

実習の進み具合によってスケジュールは変更になる場合もあります。その場合は随時担当教員の方から連絡を行います。実習で必要なプリントなどはその都度配布していきます。
クラスごとで実習の流れが異なる場合があるので、初回に必ず全体の流れを把握してください。

学生へのフィードバック方法

基本的には実習授業内で何回か返却があり、その内容についてはフィードバックを全体に行います。
レポート提出・平常点についてはGoogle classroom等を活用して実施するためそこで結果はフィードバックされる。
個人的な課題に対する質問及び課題の未提出等については個別でGoogle classroomやメールなどでフィードバックを行います。

評価方法

ルーブリックについては、初回授業で説明し、レポートごとに異なる場合はその都度説明を行います。
・レポート提出は本実習中栄養教育マネジメントとしての総合レポートの形で提出してもらう。また各課題ごとに提出していくものもあります。
・グループワークとして1.特定健診・保健指導のロールプレイを実施する。グループでの話し合い、実施のサポート、最後の評価に至るまで積極的に興味関心をもって参加することが必要である。2.アセスメント調査及びデーター解析時には二人ペアでグループワークに取り組むため積極的に取り組むことが必要となります。
・実習に対する積極性が見られないものは、マイナス評価がつく場合があります。
・出席日数が3分の2以上なければ成績評価を受けることはできません。
・遅刻3回は欠席1回とみなします。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○	○	○
グループワーク	○	○	○	○

評価割合

課題レポートと平常点（平常点は実習への積極的な参加状況や取り組み等から総合的に判断する）６０%、グループワーク４０%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

1.栄養教育論 第2版 岡﨑光子・太田優子・吉野佳織・服部浩子・板東絹恵・坂井真奈美・山王丸靖子・辻雅子・小河原佳子・大山珠美 共著 光生館（978-4-332-03044-7）
2.医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 松本千明 医歯薬出版株式会社（9784263233375）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる知識についてきちんと理解し、活用する事に該当。
【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題解決に向けて正確な情報を収集し、優先課題に対する取り組みを判断できる力を身につける事に該当。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と他社と協働するための共感力をもって、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけることに該当。
【技術・表現】人々の健康の保持増進のための栄養管理に関する専門的技能と共に、コミュニケーション能力やマネジメント力を表現する力を身につける事に該当。

オフィスアワー

月曜日3時間目 1605研究室

学生へのメッセージ

栄養教育マネジメントの基本的な流れを学びます。その為に必要なアセスメントからデータ解析や報告書作成について学び、さらには目標設定、計画設定、評価設定まで行います。
本実習では学生個人のスキルアップだけでなく、グループでのスキルアップも目指す為、関心意欲を持った態度で積極的に今までの知識を活用して主体的に考えて作業を進めることが必要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報のまとめ、解析、HP上での報告等、栄養教育マネジメントに関連する基礎的学びを中心に教授する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークや発表を通じて課題発見力・課題解決学習を学ぶ事ができる。
情報リテラシー教育	○	実習中の課題作成を通じて情報検索における情報モラルについて学ぶ事ができる。
ICT活用	○	Google classroomにて資料配信及びレポート提出の実施がある。

講義コード	H02045034
講義名	栄養教育実習I（HD）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	辻 雅子	指定なし

ナンバリング

H33604C13

授業概要(教育目的)

栄養教育を効果的に行なうには、専門知識を教育的理論に基づいて応用できなければならない。本実習では、栄養教育マネジメントにおける対象の把握から実施およびその評価にいたる一連のプロセスを理解する。すなわち、対象者から得られたさまざまな情報を整理し、対象者の特性を的確に把握して、問題点を見いだし、栄養教育の目標を設定し、教育実施にむけた計画が立てられ、適正な栄養教育を実践することができるような基礎知識・方法を学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	栄養教育マネジメントの流れについて理解し、栄養教育マネジメントの計画を立てることができる。
思考・判断の観点 (K)	自ら考え、判断し、栄養教育マネジメント計画を立てることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に単独活動やグループ活動に参加し、興味関心をもって参加することでグループ活動に寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	レポートとして提出する報告書を適切な技術でもって表現することができる。 グループワークで必要な技術を用いて、他者との協働を円滑に進めることができる。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション 特定健診・保健指導について①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	栄養教育マネジメントに沿った実習全体の流れについて理解す

第1回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	る。課題について確認する。ロールプレイによる特定健診保健指導の流れについて動画視聴も含めて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特定検診保健指導についてグループワークでどのように取り組むべきか考える。
	教室外学習の時間（分）	60
第2回	授業テーマ	特定健診・保健指導について②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロールプレイによる特定健診保健指導について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特定検診保健指導についてグループワークでどのように取り組むべきか考える。
	教室外学習の時間（分）	60
第3回	授業テーマ	特定健診・保健指導について③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロールプレイによる特定健診保健指導について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特定検診保健指導についてグループワークでどのように取り組むべきか考える。
	教室外学習の時間（分）	60
第4回	授業テーマ	特定健診・保健指導について④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロールプレイによる特定健診保健指導について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特定検診保健指導についてグループワークでどのように取り組むべきか考える（各班の発表に向けて班ごとに発表準備を進める）。
	教室外学習の時間（分）	90（発表準備予習30分含む）
第5回	授業テーマ	特定健診・保健指導について⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロールプレイによる特定健診保健指導について学ぶ（各班ごとの発表）。 食事調査法及び身体活動調査法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食事調査や身体活動調査についての課題が出されるのでその課題について取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
第6回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育アセスメントにおける食事調査（秤量食事記録法・自記式食事歴質問法）及び秤量食事記録法の解析について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教育アセスメントにおける食事調査について取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
	授業テーマ	栄養教育マネジメント：アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育アセスメントにおける食事調査（秤量食事記録法・自記式食事歴質問法・摂取頻度調査方法）及び秤量食事記録法の解析について学ぶ。

第7回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	食事調査結果について解析に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
第8回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育アセスメントにおける食事調査（食事バランスガイド）の解析方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	様々な食事調査結果の解析について取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
第9回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：栄養教育計画の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事調査の解析結果の分析及びその栄養教育計画の作成を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食事調査結果の解析結果を分析し、その栄養教育計画の作成に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
第10回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動調査の解析結果の分析について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身体活動調査の解析結果の分析に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
第11回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：栄養教育計画の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動調査の解析結果の分析について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身体活動調査の解析結果の分析に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
第12回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：栄養教育計画の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動調査の解析結果の分析及びその栄養教育計画の作成を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身体活動調査の解析結果の分析、その栄養教育計画の作成に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60
第13回	授業テーマ	栄養教育マネジメント：栄養教育計画の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動指針を用いた身体活動調査の解析結果の分析及び運動計画の作成を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身体活動調査の解析結果の分析、運動計画の作成に取り組む。

	教室外学習の時間（分）	60
第14回	**授業テーマ**	栄養教育マネジメント：栄養教育目標設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育計画の目標設定および評価設定を用いた保健指導プログラム及びその作成について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教育計画の目標設定および評価設定を用いた保健指導プログラム案作成に取り組む（全体的な振り返りを行い総合レポートを作成する取り組みが必要となる）。
	教室外学習の時間（分）	60

学習計画注記

実習の進み具合によってスケジュールは変更になる場合もあります。その場合は随時担当教員の方から連絡を行います。実習で必要なプリントなどはその都度配布していきます。
クラスごとで実習の流れが異なる場合があるので、初回に必ず全体の流れを把握してください。

学生へのフィードバック方法

基本的には実習授業内で何回か返却があり、その内容についてはフィードバックを全体に行います。
レポート提出・平常点についてはGoogle classroom等を活用して実施するためそこで結果はフィードバックされる。
個人的な課題に対する質問及び課題の未提出等については個別でGoogle classroomやメールなどでフィードバックを行います。

評価方法

ルーブリックについては、初回授業で説明し、レポートごとに異なる場合はその都度説明を行います。
・レポート提出は本実習中栄養教育マネジメントとしての総合レポートの形で提出してもらう。また各課題ごとに提出していくものもあります。
・グループワークとして1.特定健診・保健指導のロールプレイを実施する。グループでの話し合い、実施のサポート、最後の評価に至るまで積極的に興味関心をもって参加することが必要である。2.アセスメント調査及びデーター解析時には二人ペアでグループワークに取り組むため積極的に取り組むことが必要となります。
・実習に対する積極性が見られないものは、マイナス評価がつく場合があります。
・出席日数が3分の2以上なければ成績評価を受けることはできません。
・遅刻3回は欠席1回とみなします。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○	○	○
グループワーク	○	○	○	○

評価割合

課題レポートと平常点（平常点は実習への積極的な参加状況や取り組み等から総合的に判断する）６０%、グループワーク４０%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

1.栄養教育論 第2版 岡﨑光子・太田優子・吉野佳織・服部浩子・板東絹恵・坂井真奈美・山王丸靖子・辻雅子・小河原佳子・大山珠美 共著 光生館（978-4-332-03044-7）
2.医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 松本千明 医歯薬出版株式会社（9784263233375）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる知識についてきちんと理解し、活用する事に該当。
【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題解決に向けて正確な情報を収集し、優先課題に対する取り組みを判断できる力を身につける事に該当。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と他社と協働するための共感力をもって、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけることに該当。
【技術・表現】人々の健康の保持増進のための栄養管理に関する専門的技能と共に、コミュニケーション能力やマネジメント力を表現する力を身につける事に該当。

オフィスアワー

月曜日3時間目 1605研究室

学生へのメッセージ

栄養教育マネジメントの基本的な流れを学びます。その為に必要なアセスメントからデータ解析や報告書作成について学び、さらには目標設定、計画設定、評価設定まで行います。
本実習では学生個人のスキルアップだけでなく、グループでのスキルアップも目指す為、関心意欲を持った態度で積極的に今までの知識を活用して主体的に考えて作業を進めることが必要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報のまとめ、解析、HP上での報告等、栄養教育マネジメントに関連する基礎的学びを中心に教授する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークや発表を通じて課題発見力・課題解決学習を学ぶ事ができる。
情報リテラシー教育	○	実習中の課題作成を通じて情報検索における情報モラルについて学ぶ事ができる。
ICT活用	○	Google classroomにて資料配信及びレポート提出の実施がある。

講義コード	H02046031
講義名	栄養教育実習II（HA）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	酒井 治子	指定なし

ナンバリング

H33605C13

授業概要(教育目的)

栄養教育、ヘルスプロモーション等の理論をふまえ、食環境づくりの視点に着目した教育内容を立案する技術を養ことを目的とする。具体的には、グループワークにより、学習者の実態把握のためのアセスメント内容の抽出、学習案の立案（講習会形式型）、企画書のプレゼンテーション、評価計画、評価の実際までのプロセスをフルコースで行う。昨年度に引き続き、身近・手軽に健康的な「和ごはん」を食べる機会を増やすことで、和食文化の保護・継承につなげることを目的とした農林水産省の事業に参画し、和食に関連する企業等と連携した栄養教育（食育）の実際的な展開方法を学ぶというアクティブラーニングの形式を用いる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	栄養教育に必要な知識、スキルについて説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養教育（食育）に関心を持ち、管理栄養士として使命感と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度を身につける。
技術・表現の観点 (A)	栄養教育の目標設定、教育内容の選定、評価方法を設計する技術と共に、企画書として表現する力、プレゼンテーションスキル、対象者に対するコミュニケーションスキル、活動をすすめていく実践力を養う。

学習計画

第1回	授業テーマ	オリエンテーション 食育の計画方法１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習の目的、進め方の確認。食育のための栄養・食生活の枠組みの捉え方、食育の計画の作成方法を学ぶ。PPモデルを活用した「和食を食べること」という行動とQOL・健康状態との関連項目の抽出方法を習得する。（Phrase1･2社会・疫学診断と、Phrase3行動・環境診断の実施）「和食に関する事前調査」により、自己評価を行う。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	PPモデルについて、事前に講義科目での学習内容を復習する。昨年度の学生の食育の計画例を確認する。
	教室外学習の時間（分）	30分
第2回	授業テーマ	食育の計画方法２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各対象に応じて、「和食を食べること」に関連する要因の分析と、そのための実現要因分析の方法を学ぶ。（Phrase3行動・環境診断、Phrase4教育・組織診断、Phrase5政策診断の実施。）ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分が、「和食を食べること」に関連する要因の分析と、そのための実現要因について事前に考えてくる。
	教室外学習の時間（分）	30分
第3回	授業テーマ	栄養・食に関わる政策診断
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	農林水産省食料産業局食文化・市場開拓課和食室での事業に関する講和を聞き、国として「和食文化を推進する意義、管理栄養士に期待すること」を学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	農林水産省食料産業局食文化・市場開拓課和食室での事業をホームページから事前に情報収集しておく。
	教室外学習の時間（分）	30分
第4回	授業テーマ	栄養・食に関わる企業による食育の展開事例
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	農林水産省の和ごはんプロジェクトメンバーである企業の食育として、事業展開されている実践内容を理解する。ノートパソコンを必携とする。

	教室外学習(予習・復習)の内容	農林水産省の和ごはんプロジェクトメンバーである企業の食育内容について事前にホームページで調べておく。
	教室外学習の時間（分）	30分
第5回	**授業テーマ**	食育の計画方法３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「和食を食べること」を促進するための栄養教育の場（拠点・人）の設定、目的・目標を設定する。（Phrase5政策・運営診断の実施）ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	農林水産省の和ごはんプロジェクトメンバーである企業の食育内容について事前にホームページで調べる。
	教室外学習の時間（分）	30分
第6回	**授業テーマ**	実態把握のための調査設計
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実態把握のための調査設計の方法を学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	疫学・社会調査法等の授業で学んだことを確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	30分
第7回	**授業テーマ**	実態把握のための調査票の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Google Formsの活用方法を学ぶとともに、教育の目的・方法を選定するための実態調査の調査票を作成する。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Google Formsの活用に関する動画を視聴する。
	教室外学習の時間（分）	30分
	授業テー	食育計画の作成 ４

	マ	
第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食育計画書の作成、教材・学習案などの立案、提案する献立の決定、発注書の作成を行う。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	計画した食育の教材として、適した食事の構成を検討する。食事を通して、何を学んでほしいのか、教育目標との関連を確認する。
	教室外学習の時間(分)	30分
第9回	授業テーマ	食育計画の作成 5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動画の中で提案する食事を決定し、用いる食材や調理方法を考える。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ホームページ等から、教育目標の達成に効果的な食事の盛り付けや撮影方法を調べる。
	教室外学習の時間(分)	30分
第10回	授業テーマ	食育計画の作成 6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動画の中で提案する食事を作成し、調理動画を収録する。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調理動画の構成を考えるために、YouTubeで配信されている動画を視聴する。
	教室外学習の時間(分)	30分
第11回	授業テーマ	食育計画の作成 7
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食育計画書を修正し、予算案などの立案、評価計画を実施する。動画の流れ、評価項目の設計方法を学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	動画の構成を考え、作成する。
	教室外学習の時間（分）	30分
第12回	**授業テーマ**	食育計画の作成 8
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食育計画書を完成させ、動画の編集を行う。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	動画の撮影のための準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	30分
第13回	**授業テーマ**	食育動画の評価方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食育の動画をどのように評価するか、評価項目を確認する。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	動画の相互視聴にむけて、その評価方法を理解する。
	教室外学習の時間（分）	30分
第14回	**授業テーマ**	食育計画書の企画案の説明と動画視聴と評価とまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各班20分で相互に動画の視聴と行い、評価を用いて相互評価し、批判的討論を行う。【和食に関する事後調査】を行い、その習熟度を確認する。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食育計画書の説明の原稿をつくる。
	教室外学習の時間（分）	30分

学生へのフィードバック方法

授業中の実習課題は当日、また、翌週において質疑応答をしながら、計画書や指導案等の立案方法について指導する。

評価方法

グループワークでの課題実習（計画書・プレゼンテーション）と、テストにて評価する。
平常点と課題の内容により、ルーブリックをもとに評価する。
ルーブリックの内容は、クラスルームまたは授業内にて公開する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題実習		○	○	○
テスト	○			

評価割合

グループワークでの課題実習（計画書・プレゼンテーション）60%、テスト40%

使用教科書名(ISBN番号)

「改訂第５版 栄養教育」 丸山千寿子/足達淑子/武見ゆかり編 南江堂 978452425

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】栄養教育を通して、管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている
【思考・判断】栄養教育を通して、現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている
【関心・意欲・態度】栄養教育に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている
【技術・表現】栄養教育を通して、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養指導に関する専門的技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている

オフィスアワー

火曜日 ５限 地域栄養教育（酒井）研究室

学生へのメッセージ

本授業には今まで学んできた知識・技術の統合が必要です。実践現場で即座に必要とされる技術です。人の前で話すことには慣れが必要です。勇気をもって取り組みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は流通業での消費者対策（食品の衛生実験、商品表示等）、顧客対応（栄養指導）に関する実務経験、また、研究面での栄養教育の実践と評価に関する研究の経験を活かし、研究デザインについて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	行政機関、企業での食育活動の企画案を立案し、それをプレゼンテーションすることで、企画評価を学生間の相互評価、行政・企業担当者からの企画評価をいただく。企画段階ではあるが、対象者の設定、食育の場や教材の選定等において、ニーズに応じ、かつ臨場感を持った学習ができる。

情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02046032
講義名	栄養教育実習II（HB）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	酒井 治子	指定なし

ナンバリング

H33605C13

授業概要(教育目的)

栄養教育、ヘルスプロモーション等の理論をふまえ、食環境づくりの視点に着目した教育内容を立案する技術を養う。具体的には、グループワークにより、学習者の実態把握のためのアセスメント内容の抽出、学習案の立案（講習会形式型）、企画書のプレゼンテーション、評価計画、評価の実際までのプロセスをフルコースで行う。昨年度に引き続き、身近・手軽に健康的な「和ごはん」を食べる機会を増やすことで、和食文化の保護・継承につなげることを目的とした農林水産省の事業に参画し、和食に関連する企業等と連携した栄養教育（食育）の実際的な展開方法を学ぶというアクティブラーニングの形式を用いる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	栄養教育に必要な知識、スキルについて説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養教育（食育）に関心を持ち、管理栄養士として使命感と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度を身につける。
技術・表現の観点 (A)	栄養教育の目標設定、教育内容の選定、評価方法を設計する技術と共に、企画書として表現する力、プレゼンテーションスキル、対象者に対するコミュニケーションスキル、活動をすすめていく実践力を養う。

学習計画

第1回	授業テーマ	オリエンテーション 食育の計画方法１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習の目的、進め方の確認。食育のための栄養・食生活の枠組みの捉え方、食育の計画の作成方法を学ぶ。PPモデルを活用した「和食を食べること」という行動とQOL・健康状態との関連項目の抽出方法を習得する。（Phrase1･2社会・疫学診断と、Phrase3行動・環境診断の実施）「和食に関する事前調査」により、自己評価を行う。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	PPモデルについて、事前に講義科目での学習内容を復習する。昨年度の学生の食育の計画例を確認する。
	教室外学習の時間（分）	30分
第2回	授業テーマ	食育の計画方法２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各対象に応じて、「和食を食べること」に関連する要因の分析と、そのための実現要因分析の方法を学ぶ。（Phrase3行動・環境診断、Phrase4教育・組織診断、Phrase5政策診断の実施。）ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分が、「和食を食べること」に関連する要因の分析と、そのための実現要因について事前に考えてくる。
	教室外学習の時間（分）	30分
第3回	授業テーマ	栄養・食に関わる政策診断
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	農林水産省食料産業局食文化・市場開拓課和食室での事業に関する講和を聞き、国として「和食文化を推進する意義、管理栄養士に期待すること」を学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	農林水産省食料産業局食文化・市場開拓課和食室での事業をホームページから事前に情報収集しておく。
	教室外学習の時間（分）	30分
第4回	授業テーマ	栄養・食に関わる企業による食育の展開事例
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	農林水産省の和ごはんプロジェクトメンバーである企業の食育として、事業展開されている実践内容を理解する。ノートパソコンを必携とする。

	教室外学習(予習・復習)の内容	農林水産省の和ごはんプロジェクトメンバーである企業の食育内容について事前にホームページで調べておく。
	教室外学習の時間（分）	30分
第5回	**授業テーマ**	食育の計画方法３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「和食を食べること」を促進するための栄養教育の場（拠点・人）の設定、目的・目標を設定する。（Phrase5政策・運営診断の実施）ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	農林水産省の和ごはんプロジェクトメンバーである企業の食育内容について事前にホームページで調べる。
	教室外学習の時間（分）	30分
第6回	**授業テーマ**	実態把握のための調査設計
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食育計画書の作成、教材・学習案などの立案、提案する献立の決定、発注書の作成を行う。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	疫学・社会調査法等の授業で学んだことを確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	30分
第7回	**授業テーマ**	実態把握のための調査票の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Google Formsの活用方法を学ぶとともに、教育の目的・方法を選定するための実態調査の調査票を作成する。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Google Formsの活用に関する動画を視聴する。
	教室外学習の時間（分）	30分
	授業テー	食育計画の作成 ４

	マ	
第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食育計画書の作成、教材・学習案などの立案、提案する献立の決定、発注書の作成を行う。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	計画した食育の教材として、適した食事の構成を検討する。食事を通して、何を学んでほしいのか、教育目標との関連を確認する。
	教室外学習の時間(分)	30分
第9回	授業テーマ	食育計画の作成 5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動画の中で提案する食事を決定し、用いる食材や調理方法を考える。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ホームページ等から、教育目標の達成に効果的な食事の盛り付けや撮影方法を調べる。
	教室外学習の時間(分)	30分
第10回	授業テーマ	食育計画の作成 6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動画の中で提案する食事を作成し、調理動画を収録する。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調理動画の構成を考えるために、YouTubeで配信されている動画を視聴する。
	教室外学習の時間(分)	30分
第11回	授業テーマ	食育計画の作成 7
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食育計画書を修正し、予算案などの立案、評価計画を実施する。動画の流れ、評価項目の設計方法を学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	動画の構成を考え、作成する。
	教室外学習の時間(分)	30分
第12回	**授業テーマ**	食育計画の作成 8
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食育計画書を完成させ、動画の編集を行う。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	動画の編集のための準備を行う。
	教室外学習の時間(分)	30分
第13回	**授業テーマ**	食育動画の評価方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食育の動画をどのように評価するか、評価項目を確認する。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	動画の相互視聴にむけて、その評価方法を理解する。
	教室外学習の時間(分)	30分
第14回	**授業テーマ**	食育計画書の企画案の説明と動画視聴と評価とまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各班20分で相互に動画の視聴と行い、評価を用いて相互評価し、批判的討論を行う。【和食に関する事後調査】を行い、その習熟度を確認する。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食育計画書の説明の原稿をつくる。
	教室外学習の時間(分)	30分

学生へのフィードバック方法

授業中の実習課題は当日、また、翌週において質疑応答をしながら、計画書や指導案等の立案方法について指導する。

評価方法

グループワークでの課題実習（計画書・プレゼンテーション）と、テストにて評価する。
平常点と課題の内容により、ルーブリックをもとに評価する。
ルーブリックの内容は、クラスルームまたは授業内にて公開する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題実習		○	○	○
テスト	○			

評価割合

グループワークでの課題実習（計画書・プレゼンテーション）60%、テスト40%

使用教科書名(ISBN番号)

「改訂第５版 栄養教育」 丸山千寿子/足達淑子/武見ゆかり編 南江堂 978452425

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】栄養教育を通して、管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている
【思考・判断】栄養教育を通して、現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている
【関心・意欲・態度】栄養教育に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている
【技術・表現】栄養教育を通して、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養指導に関する専門的技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている

オフィスアワー

火曜日 ５限 地域栄養教育（酒井）研究室

学生へのメッセージ

本授業には今まで学んできた知識・技術の統合が必要です。実践現場で即座に必要とされる技術です。人の前で話すことには慣れが必要です。勇気をもって取り組みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は流通業での消費者対策（食品の衛生実験、商品表示等）、顧客対応（栄養指導）に関する実務経験、また、研究面での栄養教育の実践と評価に関する研究の経験を活かし、研究デザインについて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	行政機関、企業での食育活動の企画案を立案し、それをプレゼンテーションすることで、企画評価を学生間の相互評価、行政・企業担当者からの企画評価をいただく。企画段階ではあるが、対象者の設定、食育の場や教材の選定等において、ニーズに応じ、かつ臨場感を持った学習ができる。

情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02046033
講義名	栄養教育実習II（HC）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	酒井 治子	指定なし

ナンバリング

H33605C13

授業概要(教育目的)

栄養教育、ヘルスプロモーション等の理論をふまえ、食環境づくりの視点に着目した教育内容を立案する技術を養う。具体的には、グループワークにより、学習者の実態把握のためのアセスメント内容の抽出、学習案の立案（講習会形式型）、企画書のプレゼンテーション、評価計画、評価の実際までのプロセスをフルコースで行う。昨年度に引き続き、身近・手軽に健康的な「和ごはん」を食べる機会を増やすことで、和食文化の保護・継承につなげることを目的とした農林水産省の事業に参画し、和食に関連する企業等と連携した栄養教育（食育）の実際的な展開方法を学ぶというアクティブラーニングの形式を用いる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	栄養教育に必要な知識、スキルについて説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養教育（食育）に関心を持ち、管理栄養士として使命感と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度を身につける。
技術・表現の観点 (A)	栄養教育の目標設定、教育内容の選定、評価方法を設計する技術と共に、企画書として表現する力、プレゼンテーションスキル、対象者に対するコミュニケーションスキル、活動をすすめていく実践力を養う。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション 食育の計画方法１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習の目的、進め方の確認。食育のための栄養・食生活の枠組みの捉え方、食育の計画の作成方法を学ぶ。PPモデルを活用した「和食を食べること」という行動とQOL・健康状態との関連項目の抽出方法を習得する。（Phrase1･2社会・疫学診断と、Phrase3行動・環境診断の実施）「和食に関する事前調査」により、自己評価を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	PPモデルについて、事前に講義科目での学習内容を復習する。昨年度の学生の食育の計画例を確認する。
	教室外学習の時間（分）	30分
第2回	**授業テーマ**	食育の計画方法２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各対象に応じて、「和食を食べること」に関連する要因の分析と、そのための実現要因分析の方法を学ぶ。（Phrase3行動・環境診断、Phrase4教育・組織診断、Phrase5政策診断の実施。）
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分が、「和食を食べること」に関連する要因の分析と、そのための実現要因について事前に考えてくる。
	教室外学習の時間（分）	30分
第3回	**授業テーマ**	栄養・食に関わる政策診断
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	農林水産省食料産業局食文化・市場開拓課和食室での事業に関する講和を聞き、国として「和食文化を推進する意義、管理栄養士に期待すること」を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	農林水産省食料産業局食文化・市場開拓課和食室での事業をホームページから事前に情報収集しておく。
	教室外学習の時間（分）	30分
第4回	**授業テーマ**	栄養・食に関わる企業による食育の展開事例
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	農林水産省の和ごはんプロジェクトメンバーである企業の食育として、事業展開されている実践内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内	農林水産省の和ごはんプロジェクトメンバーである企業の食育内容について事前にホームページで調べておく。

	容	
	教室外学習の時間（分）	30分
第5回	**授業テーマ**	食育の計画方法３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「和食を食べること」を促進するための栄養教育の場（拠点・人）の設定、目的・目標を設定する。（Phrase5政策・運営診断の実施）
	教室外学習(予習・復習)の内容	農林水産省の和ごはんプロジェクトメンバーである企業の食育内容について事前にホームページで調べる。
	教室外学習の時間（分）	30分
第6回	**授業テーマ**	実態把握のための調査設計
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実態把握のための調査設計の方法を学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	疫学・社会調査法等の授業で学んだことを確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	30分
第7回	**授業テーマ**	実態把握のための調査票の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Google Formsの活用方法を学ぶとともに、教育の目的・方法を選定するための実態調査の調査票を作成する。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Google Formsの活用に関する動画を視聴する。
	教室外学習の時間（分）	30分
第8回	**授業テーマ**	食育計画の作成 ４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食育計画書の作成、教材・学習案などの立案、提案する献立の決定、発注書の作成を行う。ノートパソコンを必携とする。

	教室外学習(予習・復習)の内容	計画した食育の教材として、適した食事の構成を検討する。食事を通して、何を学んでほしいのか、教育目標との関連を確認する。
	教室外学習の時間（分）	30分
第9回	**授業テーマ**	食育計画の作成 5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動画の中で提案する食事を決定し、用いる食材や調理方法を考える。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ホームページ等から、教育目標の達成に効果的な食事の盛り付けや撮影方法を調べる。
	教室外学習の時間（分）	30分
第10回	**授業テーマ**	食育計画の作成 6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動画の中で提案する食事を作成し、調理動画を収録する。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調理動画の構成を考えるために、YouTubeで配信されている動画を視聴する。
	教室外学習の時間（分）	30分
第11回	**授業テーマ**	食育計画の作成 7
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食育計画書を修正し、予算案などの立案、評価計画を実施する。動画の流れ、評価項目の設計方法を学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	動画の構成を考え、作成する。
	教室外学習の時間（分）	30分
	授業テーマ	食育計画の作成 8
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗ	食育計画書を完成させ、動画の編集を行う。ノートパソコンを必携とす

第12回	ｼｰ教育・ICT活用を含む)	る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	動画の編集のための準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	30分
第13回	授業テーマ	食育動画の評価方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食育の動画をどのように評価するか、評価項目を確認する。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	動画の相互視聴にむけて、その評価方法を理解する。
	教室外学習の時間（分）	30分
第14回	授業テーマ	食育計画書の企画案の説明と動画視聴と評価とまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各班20分で相互に動画の視聴と行い、評価を用いて相互評価し、批判的討論を行う。【和食に関する事後調査】を行い、その習熟度を確認する。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食育計画書の説明の原稿をつくる。
	教室外学習の時間（分）	30分

学生へのフィードバック方法

授業中の実習課題は当日、また、翌週において質疑応答をしながら、計画書や指導案等の立案方法について指導する。

評価方法

グループワークでの課題実習（計画書・プレゼンテーション）と、テストにて評価する。
平常点と課題の内容により、ルーブリックをもとに評価する。
ルーブリックの内容は、クラスルームまたは授業内にて公開する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題実習		○	○	○
テスト	○			

評価割合

グループワークでの課題実習（計画書・プレゼンテーション）60%、テスト40%

使用教科書名(ISBN番号)

「改訂第５版 栄養教育」 丸山千寿子/足達淑子/武見ゆかり編 南江堂 978452425

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】栄養教育を通して、管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている
【思考・判断】栄養教育を通して、現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている
【関心・意欲・態度】栄養教育に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている
【技術・表現】栄養教育を通して、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養指導に関する専門的技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている

オフィスアワー

火曜日 ５限 地域栄養教育（酒井）研究室

学生へのメッセージ

本授業には今まで学んできた知識・技術の統合が必要です。実践現場で即座に必要とされる技術です。人の前で話すことには慣れが必要です。勇気をもって取り組みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は流通業での消費者対策（食品の衛生実験、商品表示等）、顧客対応（栄養指導）に関する実務経験、また、研究面での栄養教育の実践と評価に関する研究の経験を活かし、研究デザインについて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	行政機関、企業での食育活動の企画案を立案し、それをプレゼンテーションすることで、企画評価を学生間の相互評価、行政・企業担当者からの企画評価をいただく。企画段階ではあるが、対象者の設定、食育の場や教材の選定等において、ニーズに応じ、かつ臨場感を持った学習ができる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02046034
講義名	栄養教育実習II（HD）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	酒井 治子	指定なし

ナンバリング

H33605C13

授業概要(教育目的)

栄養教育、ヘルスプロモーション等の理論をふまえ、食環境づくりの視点に着目した教育内容を立案する技術を養う。具体的には、グループワークにより、学習者の実態把握のためのアセスメント内容の抽出、学習案の立案（講習会形式型）、企画書のプレゼンテーション、評価計画、評価の実際までのプロセスをフルコースで行う。昨年度に引き続き、身近・手軽に健康的な「和ごはん」を食べる機会を増やすことで、和食文化の保護・継承につなげることを目的とした農林水産省の事業に参画し、和食に関連する企業等と連携した栄養教育（食育）の実際的な展開方法を学ぶというアクティブラーニングの形式を用いる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	栄養教育に必要な知識、スキルについて説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養教育（食育）に関心を持ち、管理栄養士として使命感と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度を身につける。
技術・表現の観点 (A)	栄養教育の目標設定、教育内容の選定、評価方法を設計する技術と共に、企画書として表現する力、プレゼンテーションスキル、対象者に対するコミュニケーションスキル、活動をすすめていく実践力を養う。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション 食育の計画方法１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習の目的、進め方の確認。食育のための栄養・食生活の枠組みの捉え方、食育の計画の作成方法を学ぶ。PPモデルを活用した「和食を食べること」という行動とQOL・健康状態との関連項目の抽出方法を習得する。（Phrase1･2社会・疫学診断と、Phrase3行動・環境診断の実施）「和食に関する事前調査」により、自己評価を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	PPモデルについて、事前に講義科目での学習内容を復習する。昨年度の学生の食育の計画例を確認する。
	教室外学習の時間（分）	30分
第2回	**授業テーマ**	食育の計画方法２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各対象に応じて、「和食を食べること」に関連する要因の分析と、そのための実現要因分析の方法を学ぶ。（Phrase3行動・環境診断、Phrase4教育・組織診断、Phrase5政策診断の実施。）
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分が、「和食を食べること」に関連する要因の分析と、そのための実現要因について事前に考えてくる。
	教室外学習の時間（分）	30分
第3回	**授業テーマ**	栄養・食に関わる政策診断
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	農林水産省食料産業局食文化・市場開拓課和食室での事業に関する講和を聞き、国として「和食文化を推進する意義、管理栄養士に期待すること」を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	農林水産省食料産業局食文化・市場開拓課和食室での事業をホームページから事前に情報収集しておく。
	教室外学習の時間（分）	30分
第4回	**授業テーマ**	栄養・食に関わる企業による食育の展開事例
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	農林水産省の和ごはんプロジェクトメンバーである企業の食育として、事業展開されている実践内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内	農林水産省の和ごはんプロジェクトメンバーである企業の食育内容について事前にホームページで調べておく。

	容	
	教室外学習の時間（分）	30分
第5回	**授業テーマ**	食育の計画方法３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「和食を食べること」を促進するための栄養教育の場（拠点・人）の設定、目的・目標を設定する。（Phrase5政策・運営診断の実施）
	教室外学習(予習・復習)の内容	農林水産省の和ごはんプロジェクトメンバーである企業の食育内容について事前にホームページで調べる。
	教室外学習の時間（分）	30分
第6回	**授業テーマ**	実態把握のための調査設計
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実態把握のための調査設計の方法を学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	疫学・社会調査法等の授業で学んだことを確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	30分
第7回	**授業テーマ**	実態把握のための調査票の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Google Formsの活用方法を学ぶとともに、教育の目的・方法を選定するための実態調査の調査票を作成する。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Google Formsの活用に関する動画を視聴する。
	教室外学習の時間（分）	30分
第8回	**授業テーマ**	食育計画の作成 ４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食育計画書の作成、教材・学習案などの立案、提案する献立の決定、発注書の作成を行う。ノートパソコンを必携とする。

	教室外学習(予習・復習)の内容	計画した食育の教材として、適した食事の構成を検討する。食事を通して、何を学んでほしいのか、教育目標との関連を確認する。
	教室外学習の時間（分）	30分
第9回	**授業テーマ**	食育計画の作成 5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動画の中で提案する食事を決定し、用いる食材や調理方法を考える。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ホームページ等から、教育目標の達成に効果的な食事の盛り付けや撮影方法を調べる。
	教室外学習の時間（分）	30分
第10回	**授業テーマ**	食育計画の作成 6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動画の中で提案する食事を作成し、調理動画を収録する。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調理動画の構成を考えるために、YouTubeで配信されている動画を視聴する。
	教室外学習の時間（分）	30分
第11回	**授業テーマ**	食育計画の作成 7
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食育計画書を修正し、予算案などの立案、評価計画を実施する。動画の流れ、評価項目の設計方法を学ぶ。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	動画の構成を考え、作成する。
	教室外学習の時間（分）	30分
	授業テーマ	食育計画の作成 8
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗ	食育計画書を完成させ、動画の編集を行う。ノートパソコンを必携とす

第12回	ｼｰ教育・ICT活用を含む)	る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	動画の編集のための準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	30分
第13回	授業テーマ	食育動画の評価方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食育の動画をどのように評価するか、評価項目を確認する。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	動画の相互視聴にむけて、その評価方法を理解する。
	教室外学習の時間（分）	30分
第14回	授業テーマ	食育計画書の企画案の説明と動画視聴と評価とまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各班20分で相互に動画の視聴と行い、評価を用いて相互評価し、批判的討論を行う。【和食に関する事後調査】を行い、その習熟度を確認する。ノートパソコンを必携とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食育計画書の説明の原稿をつくる。
	教室外学習の時間（分）	30分

学生へのフィードバック方法

授業中の実習課題は当日、また、翌週において質疑応答をしながら、計画書や指導案等の立案方法について指導する。

評価方法

グループワークでの課題実習（計画書・プレゼンテーション）と、テストにて評価する。
平常点と課題の内容により、ルーブリックをもとに評価する。
ルーブリックの内容は、クラスルームまたは授業内にて公開する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題実習		○	○	○
テスト	○			

評価割合

グループワークでの課題実習（計画書・プレゼンテーション）60%、テスト40%

使用教科書名(ISBN番号)

「改訂第５版 栄養教育」 丸山千寿子/足達淑子/武見ゆかり編 南江堂 978452425

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】栄養教育を通して、管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている
【思考・判断】栄養教育を通して、現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている
【関心・意欲・態度】栄養教育に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている
【技術・表現】栄養教育を通して、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養指導に関する専門的技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている

オフィスアワー

火曜日 ５限 地域栄養教育（酒井）研究室

学生へのメッセージ

本授業には今まで学んできた知識・技術の統合が必要です。実践現場で即座に必要とされる技術です。人の前で話すことには慣れが必要です。勇気をもって取り組みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は流通業での消費者対策（食品の衛生実験、商品表示等）、顧客対応（栄養指導）に関する実務経験、また、研究面での栄養教育の実践と評価に関する研究の経験を活かし、研究デザインについて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	行政機関、企業での食育活動の企画案を立案し、それをプレゼンテーションすることで、企画評価を学生間の相互評価、行政・企業担当者からの企画評価をいただく。企画段階ではあるが、対象者の設定、食育の場や教材の選定等において、ニーズに応じ、かつ臨場感を持った学習ができる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02047031
講義名	臨床栄養学基礎
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	斉藤 恵美子	指定なし

ナンバリング

H23701C21

授業概要(教育目的)

臨床病態における栄養マネジメントは、各方面の医療スタッフとともにチームを組んで行われる。その中で管理栄養士は多岐にわたる医学的素養を要求される。臨床栄養学基礎では、臨床病態栄養学で学んだ総論的知識を基に、各疾患の病態・症状に加え、診断・治療を網羅的に講義する。

履修条件

臨床病態栄養学を履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各疾患の病因と病態、症状、診断を理解したうえで、栄養とかかわりの深い各疾患別の治療を説明できるようにする。
思考・判断の観点 (K)	臨床医学の基礎的知識を、栄養ケアプロセスと関連付けて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	薬理学総論，栄養障害
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	治療に関連する薬物療法についての概要を学ぶ。 栄養障害（PEM，カヘキシー，マラスムス，クワシオルコル），ビタミン異常症，ミネラル異常症の診断・治療につい

第1回	育・ICT活用を含む)	て学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：病態栄養で学んだ栄養障害について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間(分)	180分
第2回	授業テーマ	消化器系１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	上部消化管疾患の診断・基本的な治療法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：病態栄養で学んだ消化器系疾患について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間(分)	180分
第3回	授業テーマ	消化器系２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	下部消化管疾患の診断・治療、特に治療薬について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：病態栄養で学んだ消化器系について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間(分)	180分
第4回	授業テーマ	消化器系３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肝胆膵疾患の診断・治療について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：病態栄養で学んだ消化器系（肝胆膵）について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間(分)	180分
第5回	授業テーマ	栄養療法，周術期，がん，緩和ケア
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養療法，周術期，がん，緩和ケアの病態・診断・治療について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間(分)	180分
第6回	授業テーマ	糖尿病１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖尿病の診断・治療、特に治療薬について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：病態栄養で学んだ糖尿病について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間(分)	180分

第7回	授業テーマ	糖尿病２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖尿病の治療について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：病態栄養で学んだ糖尿病について復習しておく。第6回（糖尿病１）で学習した薬物療法について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	循環器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	循環器系疾患（脳卒中を除く，肺塞栓症を含む）の診断・治療について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：病態栄養で学んだ循環器系疾患について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	腎臓系１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	腎臓系疾患の診断・治療について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：病態栄養で学んだ腎臓系・尿路系等について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	腎臓系２，内分泌系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	腎臓系疾患（透析），内分泌系疾患の診断・治療について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：病態栄養および第9回で学んだ腎臓系等について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	呼吸器系，血液系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	呼吸器系疾患，血液系疾患の診断・治療について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：病態栄養で学んだ呼吸器系・血液系について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	授業テーマ	外傷，褥瘡，熱傷
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外傷，褥瘡，熱傷の病態・診断・治療について学ぶ。
	教室外学習(予習・復	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。

	習)の内容	事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	**授業テーマ**	クリティカルケア，感染症
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クリティカルケア，感染症の診断・治療について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：第12回で学んだ熱傷について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	**授業テーマ**	免疫・アレルギー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	免疫系疾患，アレルギー総論について、病態・診断・治療について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：解剖生理学で学んだ免疫系について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。 定期試験にむけて総復習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	360分

学習計画注記

履修者の状況等によって進行内容が変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

学習範囲に応じて、練習問題を適宜行う。
質問は随時対応する。

評価方法

定期試験（筆記試験）で評価を行う。
なお定期試験（筆記試験）で評価を行うため、ルーブリックは設定しない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		

評価割合

定期試験100%

使用教科書名(ISBN番号)

栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 疾患別編 第３版（羊土社）
本田佳子，曽根博仁／編
ISBN 978-4-7581-1370-0

参考図書

病気がみえる vol.1～15（MEDIC MEDIA），
栄養科学イラストレイテッド 臨床医学―疾病の成り立ち 第3版（羊土社）
薬がみえる vol.1～3（MEDIC MEDIA）
からだがみえる（MEDIC MEDIA）
その他、必要に応じて授業内で提示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「人間の栄養」を理解するための専門的知識を身につける。
【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題の解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。

オフィスアワー

木曜昼休み 1503研究室

学生へのメッセージ

3年次で学修する臨床栄養学応用や臨床栄養ケアマネジメントにつながるだけでなく、ライフステージ別栄養学や臨地実習など他の科目とも密接に関連していますので、関連づけて学修するようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、医療の実地臨床において、診療業務等の実務経験を有しており、臨床現場における現状や具体例も呈示しながら、実践的な内容を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02047032
講義名	臨床栄養学基礎
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

H23701C21

授業概要(教育目的)

臨床病態における栄養マネジメントは、各方面の医療スタッフとともにチームを組んで行われる。その中で管理栄養士は多岐にわたる医学的素養を要求される。臨床栄養学基礎では、臨床病態栄養学で学んだ総論的知識を基に、各疾患の病態・症状に加え、診断・治療を網羅的に講義する。

履修条件

臨床病態栄養学を履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各疾患の病因と病態、症状、診断を理解したうえで、栄養とかかわりの深い各疾患別の治療を説明できるようにする。
思考・判断の観点 (K)	臨床医学の基礎的知識を、栄養ケアプロセスと関連付けて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	薬理学総論，栄養障害
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	治療に関連する薬物療法についての概要を学ぶ。 栄養障害（PEM，カヘキシー，マラスムス，クワシオルコル），ビタミン異常症，ミネラル異常症の診断・治療について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：病態栄養で学んだ栄養障害について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間	180分

	（分）	
第2回	**授業テーマ**	消化器系１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	上部消化管疾患の診断・基本的な治療法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：病態栄養で学んだ消化器系疾患について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	消化器系２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	下部消化管疾患の診断・治療、特に治療薬について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：病態栄養で学んだ消化器系について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	消化器系３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肝胆膵疾患の診断・治療について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：病態栄養で学んだ消化器系（肝胆膵）について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	栄養療法，周術期，がん，緩和ケア
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養療法，周術期，がん，緩和ケアの病態・診断・治療について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	糖尿病１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖尿病の診断・治療、特に治療薬について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：病態栄養で学んだ糖尿病について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	**授業テーマ**	糖尿病２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖尿病の治療について学ぶ。
	教室外学習(予習・復	事前学習：病態栄養で学んだ糖尿病について復習しておく。 第6回（糖尿病１）で学習した薬物療法について復習してお

	習)の内容	く。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	循環器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	循環器系疾患（脳卒中を除く，肺塞栓症を含む）の診断・治療について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：病態栄養で学んだ循環器系疾患について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	腎臓系１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	腎臓系疾患の診断・治療について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：病態栄養で学んだ腎臓系・尿路系等について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	腎臓系２，内分泌系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	腎臓系疾患（透析），内分泌系疾患の診断・治療について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：病態栄養および第9回で学んだ腎臓系等について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	呼吸器系，血液系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	呼吸器系疾患，血液系疾患の診断・治療について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：病態栄養で学んだ呼吸器系・血液系について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	外傷，褥瘡，熱傷
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外傷，褥瘡，熱傷の病態・診断・治療について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	クリティカルケア，感染症
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	クリティカルケア，感染症の診断・治療について学ぶ。

第13回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：第12回で学んだ熱傷について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	授業テーマ	免疫・アレルギー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	免疫系疾患，アレルギー総論について、病態・診断・治療について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：解剖生理学で学んだ免疫系について復習しておく。教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。 定期試験にむけて総復習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	360分

学習計画注記

履修者の状況等によって進行内容が変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

学習範囲に応じて、管理栄養士国家試験に準じた練習問題を適宜行う。

評価方法

定期試験（筆記試験）で評価を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		

評価割合

定期試験100%

使用教科書名(ISBN番号)

栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 疾患別編 第3版（羊土社）

参考図書

栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち 第3版（羊土社）
病気がみえる vol.1～15（MEDIC MEDIA），
薬がみえる vol.1～3（MEDIC MEDIA）
からだがみえる（MEDIC MEDIA）
その他、必要に応じて授業内で提示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「人間の栄養」を理解するための専門的知識を身につける。
【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題の解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。

オフィスアワー

木曜昼休み 1503研究室

学生へのメッセージ

3年次で学修する臨床栄養学応用や臨床栄養ケアマネジメントにつながるだけでなく、ライフステージ別栄養学や臨地実習など他の科目とも密接に関連していますので、関連づけて学修するようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、医療の実地臨床において、診療業務等の実務経験を有しており、臨床現場における現状や具体例も呈示しながら、実践的な内容を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	出欠確認、資料配布、フィードバックなどにPC等の機器を使用する。

講義コード	H02048031
講義名	臨床栄養学応用
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	城田 直子	指定なし

ナンバリング

H33702C21

授業概要(教育目的)

疾患における食事療法の実際と栄養管理方法を学び、栄養教育の特性と技法、多職種での栄養管理の取り組みについて講義する。疾患別栄養管理方法の根拠を理解し、栄養サポートの実践力を身につけることを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各種疾患の栄養管理の特性について理解できる。
思考・判断の観点 (K)	各種疾患の栄養管理の実際とチーム医療における管理栄養士の使命、取り組みを考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	専門的な知識と医療倫理を備えた管理栄養士として、各種疾患の食事療養について考えることができる。
技術・表現の観点 (A)	患者への栄養サポート方法を提案することができる。

学習計画

	授業テーマ	基礎内容の理解度確認テスト、「糖尿病食事療法のための食品交換表」の理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現時点での基礎内容の理解を確認する。「糖尿病食事療法のための食品交換表」について学び、臨床栄養ケアマネジメント論・実習の授業に応用する。

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの関連章、「糖尿病食事療養のための食品交換表」を予習する。 受講後は、授業内容を整理し知識を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	「糖尿病食事療法のための食品交換表」の活用、カーボカウント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「糖尿病食事療法のための食品交換表」を実際に活用し、臨床栄養ケアマネジメント論・実習の授業に応用する。カーボカウントについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの関連章を予習する。 受講後は、授業内容を整理し知識を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	210分
第3回	授業テーマ	妊産婦・授乳婦（妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群）の食事療法および栄養管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	妊娠糖尿病、糖尿病合併妊娠、妊娠高血圧症候群の食事療法および栄養管理について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの関連章を予習する。 受講後は、授業内容を整理し知識を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	栄養補給法（経口栄養、経静脈栄養、経腸栄養）、NST
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養補給法の種類、輸液や栄養剤の用途と種類、NSTについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの関連章を予習する。 受講後は、授業内容を整理し理解を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	肥満症、メタボリックシンドロームの食事療法および栄養管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肥満症、メタボリックシンドロームの食事療法および栄養管理について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの関連章を予習する。 受講後は、授業内容を整理し知識を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	「腎臓病食品交換表」の理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「腎臓病食品交換表」について学び、臨床栄養ケアマネジメント論・実習の授業に応用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの関連章、「腎臓病食品交換表」を予習する。 受講後は、授業内容を整理し知識を定着させる。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	「腎臓病食品交換表」の活用

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「腎臓病食品交換表」を実際に活用し、臨床栄養ケアマネジメント論・実習の授業に応用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの関連章を予習する。 受講後は、授業内容を整理し知識を定着させる。
	教室外学習の時間(分)	210分
第8回	授業テーマ	呼吸器疾患（COPD）の食事療法および栄養管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	COPDの食事療法および栄養管理について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの関連章を予習する。 受講後は、授業内容を整理し知識を定着させる。
	教室外学習の時間(分)	180分
第9回	授業テーマ	高齢者（褥瘡、誤嚥、フレイル、サルコペニア）の栄養管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	褥瘡、誤嚥、フレイル、サルコペニアの栄養管理と多職種による介入について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの関連章を予習する。 受講後は、授業内容を整理し知識を定着させる。
	教室外学習の時間(分)	180分
第10回	授業テーマ	がん術後、緩和ケアの栄養管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	がん術後、緩和ケアの栄養管理について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの関連章を予習する。 受講後は、授業内容を整理し知識を定着させる。
	教室外学習の時間(分)	180分
第11回	授業テーマ	摂食障害（神経性やせ症、神経性大食症）の食事療法および栄養管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	神経性やせ症、神経性大食症の食事療法および栄養管理について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの関連章を予習する。 受講後は、授業内容を整理し知識を定着させる。
	教室外学習の時間(分)	180分
第12回	授業テーマ	医療制度（入院時食事療養）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	入院基本料、入院時食事療養、特別食、加算栄養サポートチーム加算などの診療報酬について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの関連章を予習する。 受講後は、授業内容を整理し知識を定着させる。
	教室外学習の時間(分)	240分
	授業テーマ	医療制度（栄養食事指導料）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	外来・入院・集団栄養食事指導料、加算対象となる特別食な

第13回	育・ICT活用を含む)	どについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの関連章を予習する。 受講後は、授業内容を整理し知識を定着させる。
	教室外学習の時間(分)	240分
第14回	授業テーマ	食物アレルギーの食事療養および栄養管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食物アレルギーの食事療法および栄養管理について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの関連章を予習する。 受講後は、授業内容を整理し知識を定着させる。
	教室外学習の時間(分)	180分

学習計画注記

毎回、小テストを実施し、理解度の確認を行う。

学生へのフィードバック方法

小テストは、実施後に解説、補足を行う。

評価方法

平常点20%（授業への取り組み・姿勢など）、定期試験80%とする。
授業内で説明するルーブリックに沿って評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
出席点			○	
定期試験	○	○	○	○

評価割合

平常点20%、定期試験80%で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

新臨床栄養学 栄養ケアマネジメント第4版 本田佳子編 医歯薬出版株式会社（978-4-263-70794-4）
糖尿病食事療法のための食品交換表（978-4-8306-6046-7）
腎臓病食品交換表（978-4-263-70674-9）

参考図書

食品成分表
栄養食事療法の実習 栄養ケアマネジメント第12版

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により、総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【思考・判断】各種疾患に対応した栄養管理の対応が身についている。
【関心・意欲・態度】各種疾患に対応した栄養管理に対し、管理栄養士の卵として関心、意欲を持って取り組むことができる。
【技術・表現】体系的学習を通じて、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能を身につけている。

オフィスアワー

城田：木曜2時限 腰本：木曜2時限

学生へのメッセージ

適切な栄養管理を行えるよう、疾病・病態別に栄養代謝・栄養補給・給食実施についてしっかり学びましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、病院において給食管理業務および栄養食事指導の経験がある。それらを踏まえた授業を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02048033
講義名	臨床栄養学応用
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	金澤 良枝	指定なし
准教授	城田 直子	指定なし

ナンバリング

H33702C21

授業概要(教育目的)

疾患別の食事療法の実際と栄養管理方法を学び、栄養教育の特性と技法、多職種での栄養管理の取り組みを学ぶ。疾患別栄養管理方法の根拠が理解でき、栄養サポートの実践力を身につけることを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各種疾患の栄養管理の特性について理解できる。
思考・判断の観点 (K)	各種疾患の栄養管理の実際とチーム医療における管理栄養士の使命、取り組みを考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	専門的な知識と医療倫理を備えた管理栄養士として、各種疾患の食事療養について考えることができる。
技術・表現の観点 (A)	患者への栄養サポート方法を提案することができる。

学習計画

	授業テーマ	栄養補給法（経腸栄養、静脈栄養）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	栄養補給法の種類、輸液や栄養剤の用途と種類について学ぶ。

第1回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの関連章を予習しておくこと。 受講後は、授業内容を整理し復習すること。
	教室外学習の時間(分)	180分
第2回	授業テーマ	糖尿病の食事療法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖尿病の食事療養（糖尿病食品交換表を用いた食事管理、カーボカウント）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの関連章を予習しておくこと。 受講後は、授業内容を整理し復習すること。
	教室外学習の時間(分)	210分
第3回	授業テーマ	脂質異常症、高尿酸血症の食事療法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質異常症、高尿酸血症の食事療養の実際、栄養管理目標について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの関連章を予習しておくこと。 受講後は、授業内容を整理し復習すること。
	教室外学習の時間(分)	180分
第4回	授業テーマ	肥満症の食事療法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肥満症の食事療養の実際、内科的治療および外科的治療の食事療法、栄養管理目標について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの関連章を予習しておくこと。 受講後は、授業内容を整理し復習すること。
	教室外学習の時間(分)	180分
第5回	授業テーマ	高血圧、心疾患、脳血管疾患の食事療法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高血圧、心疾患、脳血管疾患の食事療養の実際、栄養管理目標について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの関連章を予習しておくこと。 受講後は、授業内容を整理し復習すること。
	教室外学習の時間(分)	180分
第6回	授業テーマ	消化器疾患（肝臓、胆のう、膵臓）の食事療法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消化器疾患の食事療養の実際、栄養管理目標、術前術後の栄養管理について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの関連章を予習しておくこと。 受講後は、授業内容を整理し復習すること。
	教室外学習の時間(分)	180分
第7回	授業テーマ	腎疾患の食事療法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	腎疾患の食事療養（腎臓病食品交換表を用いた食事管理）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復	受講に備え、テキストの関連章および腎臓病食品交換表を予

	習)の内容	習しておくこと。 受講後は、授業内容を整理し復習すること。
	教室外学習の時間（分）	210分
第8回	**授業テーマ**	周産期（妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病ほか）、高齢者（サルコペニア、フレイル）の食事療法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、糖尿病合併妊娠の食事療法の実際と栄養管理目標、サルコペニア、フレイル予防についての食事療法の実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの関連章を予習しておくこと。 受講後は、授業内容を整理し復習すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	摂食障害の栄養管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	神経性やせ症、神経性過食症、過食性障害の栄養管理の実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの関連章を予習しておくこと。 受講後は、授業内容を整理し復習すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）の食事療法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	潰瘍性大腸炎、クローン病の食事療養の実際、栄養管理目標について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの関連章を予習しておくこと。 受講後は、授業内容を整理し復習すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	緩和ケア、上部消化管術後の栄養管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	緩和ケア、上部消化管術後の栄養管理の実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの関連章を予習しておくこと。 受講後は、授業内容を整理し復習すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	褥瘡の栄養管理、咀嚼嚥下障害の食事管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	褥瘡の栄養管理方法と多職種による介入の実際、咀嚼嚥下障害のレベルに対応する食事管理について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの関連章を予習しておくこと。 受講後は、授業内容を整理し復習すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	**授業テーマ**	診療報酬（入院時食事療養）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	入院基本料、入院時食事療養、特別食、加算栄養サポートチーム加算などの診療報酬について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの関連章を予習しておくこと。 受講後は、授業内容を整理し復習すること。

	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	**授業テーマ**	診療報酬（栄養食指導料）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外来・入院・集団栄養食事指導料、加算対象となる特別食などについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの関連章を予習しておくこと。 受講後は、授業内容を整理し復習すること。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

毎回、小テストを実施し、理解度の確認を行う。

学生へのフィードバック方法

小テストは、実施後に解説、補足を行う。

評価方法

平常点20%（授業への取り組み・姿勢など）、定期試験80%とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
定期試験	○	○	○	○

評価割合

平常点（20%）、定期試験（80%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

新臨床栄養学 栄養ケアマネジメント第4版 本田佳子編 医歯薬出版株式会社（978-4-263-70794-4）
糖尿病食事療法のための食品交換表（978-4-8306-6046-7）
腎臓病食品交換表（978-4-263-70674-9）

参考図書

食品成分表
栄養食事療法の実習 栄養ケアマネジメント第12版

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により、総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【思考・判断】各種疾患に対応した栄養管理の対応が身についている。
【関心・意欲・態度】各種疾患に対応した栄養管理に対し、管理栄養士の卵として関心、意欲を持って取り組むことができる。
【技術・表現】体系的学習を通じて、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能を身につけている。

オフィスアワー

城田：木曜2時限 腰本：木曜2時限

学生へのメッセージ

適切な栄養管理を行えるよう、疾病・病態別に栄養代謝・栄養補給・給食実施についてしっかり学びましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、病院において給食管理業務および栄養食事指導の経験がある。それらを踏まえた授業を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02049031
講義名	臨床栄養アセスメント論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	金澤 良枝	指定なし

ナンバリング

H33703C21

授業概要(教育目的)

疾病者の病態や栄養状態に基づいた、疾病治療のための適切な栄養管理方法を学ぶ。代謝・内分泌系疾患、循環器系疾患、消化器系疾患、腎疾患、外科的疾患などの栄養状態、栄養管理、栄養補給法を講義する。理論的に疾患の栄養アセスメントを考え、栄養サポートが出来ることを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各種疾患の栄養アセスメントと栄養管理について理解する。
思考・判断の観点 (K)	各種疾患の栄養管理の特徴、方法が考えられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	各種疾患の栄養管理の理解と患者教育について考えられる。
技術・表現の観点 (A)	患者の栄養食事指導が出来る。

学習計画

臨床栄養アセスメント論

第1回	**授業テーマ**	臨床栄養学と栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	医療現場における管理栄養士の役割について学ぶ。診療報酬制度、チーム医療、栄養アセスメントの意義、方法について学ぶ。（各回・遠隔授業ZOOMを併用する）
	教室外学習(予習・	教科書「栄養ケアの基礎」「栄養アセスメント」を予習しておく

	復習)の内容	こと
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	チーム医療と栄養ケアプランの実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	チーム医療には様々あるが、Nutruition support team(NST)での管理栄養士の役割や栄養ケアプランの立て方について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「栄養ケアプランの実施」を予習する
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	肥満症の栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肥満症の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「肥満症」を予習する
	教室外学習の時間（分）	240分
第4回	**授業テーマ**	糖尿病の栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖尿病の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「糖尿病」を予習する
	教室外学習の時間（分）	240分
第5回	**授業テーマ**	脂質異常症の栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質異常症の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「脂質異常症」を予習する
	教室外学習の時間（分）	240分
第6回	**授業テーマ**	高血圧・心疾患の栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高血圧、心疾患の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「高血圧」」「虚血性心疾患」「心不全」を予習する
	教室外学習の時間（分）	240分
	授業テーマ	高尿酸血症の栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	高尿酸血症の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について

第7回	**育・ICT活用を含む)**	学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「高尿酸血症を予習する
	教室外学習の時間(分)	240分
第8回	**授業テーマ**	肝疾患の栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肝疾患（慢性肝炎、脂肪肝、肝硬変）の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「慢性肝炎、脂肪肝、肝硬変」を予習する
	教室外学習の時間(分)	240分
第9回	**授業テーマ**	胆のう炎、胆石症、膵疾患の栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	胆のう炎、胆石症、膵疾患の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「胆のう炎、胆石症、膵疾患」を予習する
	教室外学習の時間(分)	240分
第10回	**授業テーマ**	腎疾患の栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	腎疾患の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎不全、糖尿病性腎症」を予習する
	教室外学習の時間(分)	240分
第11回	**授業テーマ**	炎症性腸疾患の栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「潰瘍性大腸炎、クローン病」を予習する
	教室外学習の時間(分)	240分
第12回	**授業テーマ**	消化器術前・術後の栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消化器（上部消化器、下部消化器）の術前・術後の病態、栄養食事療法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「消化器の術前・術後」を予習する
	教室外学習の時間(分)	240分

第13回	授業テーマ	妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病の栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、妊娠中の明らかな糖尿病、糖尿病合併妊娠の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「高血圧、糖尿病」および配布資料を予習する
	教室外学習の時間(分)	240分
第14回	授業テーマ	加齢にともなう機能低下への栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	加齢にともなう機能低下（サルコペニア、フレイル、認知症、褥瘡など）の診断基準、治療、栄養生理、栄養ケアについて学ぶ。日本歯科大学、菊谷武教授の特別講義も含めて学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「加齢にともなう機能低下の栄養ケア」を予習する
	教室外学習の時間(分)	180分

学習計画注記

食事療法が治療の一翼となる疾患を理解し、栄養アセスメントを身につける。

学生へのフィードバック方法

授業毎に前回内容の確認を行う。質問のある場合は1504研究室に訪問すること。

評価方法

・毎回の授業内容の理解度を、授業毎の確認レポートを提出し出席とする。
・定期試験は管理栄養士国家試験の出題に対応できる内容とし、栄養管理内容の具体的な算出や応用思考を必要とする記述式問題も含む。
・評価は授業内で説明する、ルーブリックに沿って行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
確認レポート	○	○		
定期試験	○	○	○	○

評価割合

出席点10点、定期試験90点

使用教科書名(ISBN番号)

新臨床栄養学栄養ケアマネジメント12版（978－4－263－70792－0）
栄養食事療法の実習4版（978－4－263－70794-4）

参考図書

食品成分表
糖尿病食事療法のための食品交換表
腎臓病食品交換表

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】各種疾患のアセスメント、栄養食事療法の知識が身に付き理解できている。
【思考・判断】各種疾患の臨床検査値を理解し栄養食事療法の計画が考えられる。
【感心・意欲・態度】各種疾患の栄養療法に対する関心や考える意欲、態度が身についている。
【技能・表現】各種疾患の栄養療法を患者に伝える技術、表現力が身についている。

オフィスアワー

火曜3限

学生へのメッセージ

栄養食事療法が治療の一環となる疾病を理解して、臨床栄養臨地実習で応用できる力を身につける。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、総合病院勤務経験および内科クリニックでの栄養食事指導、集団栄養食事指導経験がある。
アクティブ・ラーニング	○	ディスカッション、
情報リテラシー教育	○	文献検索、図書館利用
ICT活用		

講義コード	H02049032
講義名	臨床栄養アセスメント論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

H33703C21

授業概要(教育目的)

疾病者の病態や栄養状態に基づいた、疾病治療のための適切な栄養管理方法を学ぶ。代謝・内分泌系疾患、循環器系疾患、消化器系疾患、腎疾患、外科的疾患などの栄養状態、栄養管理、栄養補給法を講義する。理論的に疾患の栄養アセスメントを考え、栄養サポートが出来ることを目的とする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各種疾患の栄養アセスメントと栄養管理について理解する。
思考・判断の観点 (K)	各種疾患の栄養管理の特徴、方法が考えられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	各種疾患の栄養管理の理解と患者教育について考えられる。
技術・表現の観点 (A)	患者の栄養食事指導が出来る。

学習計画

臨床栄養アセスメント論

第1回	**授業テーマ**	臨床栄養学と栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	医療現場における管理栄養士の役割について学ぶ。診療報酬制度、チーム医療、栄養アセスメントの意義、方法について学ぶ。（各回・遠隔授業ZOOMを併用する）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「栄養ケアの基礎」「栄養アセスメント」を予習しておくこと
	教室外学習の時間(分)	180分
	授業テーマ	チーム医療と栄養ケアプランの実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	チーム医療には様々あるが、Nutruition support team(NST)での管

第2回	**育・ICT活用を含む)**	理栄養士の役割や栄養ケアプランの立て方について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「栄養ケアプランの実施」を予習する
	教室外学習の時間(分)	180分
第3回	**授業テーマ**	肥満症の栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肥満症の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「肥満症」を予習する
	教室外学習の時間(分)	240分
第4回	**授業テーマ**	糖尿病の栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖尿病の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「糖尿病」を予習する
	教室外学習の時間(分)	240分
第5回	**授業テーマ**	脂質異常症の栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質異常症の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「脂質異常症」を予習する
	教室外学習の時間(分)	240分
第6回	**授業テーマ**	高血圧・心疾患の栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高血圧、心疾患の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「高血圧」」「虚血性心疾患」「心不全」を予習する
	教室外学習の時間(分)	240分
第7回	**授業テーマ**	高尿酸血症の栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高尿酸血症の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「高尿酸血症を予習する
	教室外学習の時間(分)	240分

第8回	授業テーマ	肝疾患の栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肝疾患（慢性肝炎、脂肪肝、肝硬変）の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「慢性肝炎、脂肪肝、肝硬変」を予習する
	教室外学習の時間(分)	240分
第9回	授業テーマ	胆のう炎、胆石症、膵疾患の栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	胆のう炎、胆石症、膵疾患の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「胆のう炎、胆石症、膵疾患」を予習する
	教室外学習の時間(分)	240分
第10回	授業テーマ	腎疾患の栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	腎疾患の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎不全、糖尿病性腎症」を予習する
	教室外学習の時間(分)	240分
第11回	授業テーマ	炎症性腸疾患の栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「潰瘍性大腸炎、クローン病」を予習する
	教室外学習の時間(分)	240分
第12回	授業テーマ	消化器術前・術後の栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消化器（上部消化器、下部消化器）の術前・術後の病態、栄養食事療法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「消化器の術前・術後」を予習する
	教室外学習の時間(分)	240分
第13回	授業テーマ	妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病の栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、妊娠中の明らかな糖尿病、糖尿病合併妊娠の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ
	教室外学習(予習・	教科書「高血圧、糖尿病」および配布資料を予習する

	復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	240分
第14回	授業テーマ	加齢にともなう機能低下への栄養アセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	加齢にともなう機能低下（サルコペニア、フレイル、認知症、褥瘡など）の診断基準、治療、栄養生理、栄養ケアについて学ぶ。日本歯科大学、菊谷武教授の特別講義も含めて学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「加齢にともなう機能低下の栄養ケア」を予習する
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

食事療法が治療の一翼となる疾患を理解し、栄養アセスメントを身につける。

学生へのフィードバック方法

授業毎に前回内容の確認を行う。質問のある場合は1504研究室に訪問すること。

評価方法

・毎回の授業内容の理解度として、毎回確認レポートを提出し出席とする。
・定期試験は管理栄養士国家試験の出題に対応できる内容とし、栄養管理内容の具体的な算出や応用思考を必要とする記述式問題も含む。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
確認レポート	○	○		
定期試験	○	○	○	○

評価割合

出席点10点、定期試験90点

使用教科書名(ISBN番号)

新臨床栄養学栄養ケアマネジメント12版（978－4－263－70792－0）
栄養食事療法の実習4版（978－4－263－70794-4）

参考図書

食品成分表
糖尿病食事療法のための食品交換表
腎臓病食品交換表

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】各種疾患のアセスメント、栄養食事療法の知識が身に付き理解できている。
【思考・判断】各種疾患の臨床検査値を理解し栄養食事療法の計画が考えられる。
【感心・意欲・態度】各種疾患の栄養療法に対する関心や考える意欲、態度が身についている。
【技能・表現】各種疾患の栄養療法を患者に伝える技術、表現力が身についている。

オフィスアワー

火曜3限

学生へのメッセージ

栄養食事療法が治療の一環となる疾病を理解して、臨床栄養臨地実習で応用できる力を身につける。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、総合病院勤務経験および内科クリニックでの栄養食事指導、集団栄養食事指導経験がある。
アクティブ・ラーニング	○	ティスカッション、
情報リテラシー教育	○	文献検索、図書館利用
ICT活用		

講義コード	H02050031
講義名	臨床栄養ケアマネジメント論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	金澤 良枝	指定なし

ナンバリング

H33704C21

授業概要(教育目的)

臨床分野で医療スタッフの一員として、人びとの健康の保持・増進、および疾患の治療予防に携わっている管理栄養士の仕事を理解し、医療人としての管理栄養士としての資質を養うことが目的である。前期に学んだ臨床栄養アセスメント論を発展させケアプランを立て栄養療法を実施し、評価するための栄養ケアマネジメントの一連の流れを理解させる。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各種疾患と食事マネジメント（献立管理も含め）について理解する。
思考・判断の観点 (K)	各種疾患に適合した食事管理が判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	各種疾患の栄養管理の理解と患者教育について考えられる。
技術・表現の観点 (A)	患者の栄養食事指導ができる。

学習計画

臨床栄養ケアマネジメント論

第1回	**授業テーマ**	糖尿病の栄養ケアマネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	症例をとおして、糖尿病の病態、栄養ケアマネジメントについて学ぶ

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「糖尿病」を予習する
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	糖尿病、減塩食指導のケアマネジメントを学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1回目の授業の症例を通して、エネルギーコントロール食、食塩コントロール食の食事指導について媒体作成を含めて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「糖尿病」「高血圧、虚血性心疾患」を予習する
	教室外学習の時間（分）	240分
第3回	**授業テーマ**	高尿酸血症の栄養ケアマネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高尿酸血症の症例をとおして、病態、栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「高尿酸血症」を予習する
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	炎症性腸疾患（クローン病）の栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	炎症性腸疾患（クローン病）の症例を通して、栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「クローン病」を予習、復習する
	教室外学習の時間（分）	240分
第5回	**授業テーマ**	炎症性腸疾患（クローン病）の栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4回の症例に対する、食事指導計画、栄養食事指導媒体を考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「クローン病」を予習、復習する
	教室外学習の時間（分）	240分
第6回	**授業テーマ**	慢性膵炎の栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	慢性膵炎の症例を通して、病態、栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「慢性膵炎」を予習する
	教室外学習の時間（分）	240分
第7回	**授業テーマ**	慢性腎不全（ステージ４）の栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	慢性腎不全（ステージ４）の症例を通して、病態、栄養ケアマネジメントについて学ぶ。本学客員教授、中尾俊之教授の特別講義を含めて学習する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	腎臓病食品交換表を予習する
	教室外学習の時間（分）	240分
第8回	**授業テーマ**	たんぱく質コントロール食のマネジメント（治療用特殊食品）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	低たんぱく食の適応される慢性腎不全の病態、および治療用特殊食品を用いた栄養・食事マネジメントについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	腎臓病食品交換表を予習する、配布資料を予習する
	教室外学習の時間（分）	240分
第9回	**授業テーマ**	透析療法の栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	血液透析患者の症例を通して、病態、栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「透析療法」を予習する
	教室外学習の時間（分）	240分
第10回	**授業テーマ**	脂肪肝の栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂肪肝の症例を通して、病態、栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「脂肪肝」を予習する
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	低栄養の栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	低栄養の症例を通して、病態、病期に応じた栄養・食事マネジメントについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を予習する
	教室外学習の時間（分）	240分
第12回	**授業テーマ**	低栄養の栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	11回の症例を通して、摂食嚥下障害、サルコペニア評価、フレイルについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「摂食嚥下障害」を予習、復習する
	教室外学習の時間（分）	240分
第13回	**授業テーマ**	鉄欠乏性貧血の栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉄欠乏性貧血の症例を通して、病態、栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「貧血」を予習する

	教室外学習の時間（分）	240分
第14回	**授業テーマ**	授業のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各種病態の症例より、栄養の栄養ケアマネジメントについて再確認する。また、症例より関連する国家試験問題を解く
	教室外学習(予習・復習)の内容	1回からの症例を復習する
	教室外学習の時間（分）	240分

学習計画注記

各種疾患の食事管理を理解する。

学生へのフィードバック方法

授業毎に前回の確認を行う。質問のある場合は1504研究室に訪問すること。

評価方法

・毎回の授業内容の理解度について、授業毎の確認レポートを提出し出席とする。
・定期試験は、管理栄養士国家試験の出題に対応できる内容とし、栄養管理内容の具体的な算出や応用思考を必要とする記述式問題も含む。
・授業で説明するルーブリックに沿って、評価を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
確認レポート	○	○		
定期試験	○	○	○	○

評価割合

出席点10点、定期試験90点

使用教科書名(ISBN番号)

新臨床栄養学ケアマネジメント第4版（978－4－263－70794－4）
栄養食事療法の実習13版（978－4－263－70824－8）

参考図書

食品成分表
糖尿病食事療法のための食品交換表
腎臓病食品交換表

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】疾患に適合した栄養マネジメントの知識が身についている。
【思考・判断】疾患を理解し適合する献立管理や食事指導ができる。
【感心・意欲・態度】献立管理、食事指導への関心、意欲、患者対応の態度が身についている。
【技能・表現】献立作成や食事指導への技術、表現力が身についている。

オフィスアワー

火曜3限

学生へのメッセージ

栄養食事療法が各種疾患への治療の一環であることを理解し、臨床栄養臨地実習で応用できる力を身につける。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、総合病院勤務経験、および内科クリニックでの栄養食事指導、集団栄養食事指導経験がある。
アクティブ・ラーニング	○	ディスカッション
情報リテラシー教育	○	文献検索、図書館利用
ICT活用		

講義コード	H02050032
講義名	臨床栄養ケアマネジメント論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

H33704C21

授業概要(教育目的)

臨床分野で医療スタッフの一員として、人びとの健康の保持・増進、および疾患の治療予防に携わっている管理栄養士の仕事を理解し、医療人としての管理栄養士としての資質を養うことが目的である。前期に学んだ臨床栄養アセスメント論を発展させケアプランを立て栄養療法を実施し、評価するための栄養ケアマネジメントの一連の流れを理解させる。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各種疾患と食事マネジメント（献立管理も含め）について理解する。
思考・判断の観点 (K)	各種疾患に適合した食事管理が判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	各種疾患の栄養管理の理解と患者教育について考えられる。
技術・表現の観点 (A)	患者の栄養食事指導ができる。

学習計画

臨床栄養ケアマネジメント論

第1回	**授業テーマ**	糖尿病の栄養ケアマネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	症例をとおして、糖尿病の病態、栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「糖尿病」を予習する
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	糖尿病、減塩食指導のケアマネジメントを学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第2回	**ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	1回目の授業の症例を通して、エネルギーコントロール食、食塩コントロール食の食事指導について媒体作成を含めて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「糖尿病」「高血圧、虚血性心疾患」を予習する
	教室外学習の時間（分）	240分
第3回	**授業テーマ**	高尿酸血症の栄養ケアマネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高尿酸血症の症例をとおして、病態、栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「高尿酸血症」を予習する
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	炎症性腸疾患（クローン病）の栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	炎症性腸疾患（クローン病）の症例を通して、栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「クローン病」を予習、復習する
	教室外学習の時間（分）	240分
第5回	**授業テーマ**	炎症性腸疾患（クローン病）の栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4回の症例に対する、食事指導計画、栄養食事指導媒体を考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「クローン病」を予習、復習する
	教室外学習の時間（分）	240分
第6回	**授業テーマ**	慢性膵炎の栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	慢性膵炎の症例を通して、病態、栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「慢性膵炎」を予習する
	教室外学習の時間（分）	240分
第7回	**授業テーマ**	慢性腎不全（ステージ４）の栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	慢性腎不全（ステージ４）の症例を通して、病態、栄養ケアマネジメントについて学ぶ。本学客員教授、中尾俊之教授の特別講義を含めて学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	腎臓病食品交換表を予習する
	教室外学習の時間（分）	240分
	授業テーマ	たんぱく質コントロール食のマネジメント（治療用特殊食

		品）
第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	低たんぱく食の適応される慢性腎不全の病態、および治療用特殊食品を用いた栄養・食事マネジメントについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	腎臓病食品交換表を予習する、配布資料を予習する
	教室外学習の時間（分）	240分
第9回	授業テーマ	透析療法の栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	血液透析患者の症例を通して、病態、栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「透析療法」を予習する
	教室外学習の時間（分）	240分
第10回	授業テーマ	脂肪肝の栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂肪肝の症例を通して、病態、栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「脂肪肝」を予習する
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	低栄養の栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	低栄養の症例を通して、病態、病期に応じた栄養・食事マネジメントについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料を予習する
	教室外学習の時間（分）	240分
第12回	授業テーマ	低栄養の栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	11回の症例を通して、摂食嚥下障害、サルコペニア評価、フレイルについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「摂食嚥下障害」を予習、復習する
	教室外学習の時間（分）	240分
第13回	授業テーマ	鉄欠乏性貧血の栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉄欠乏性貧血の症例を通して、病態、栄養ケアマネジメントについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「貧血」を予習する
	教室外学習の時間（分）	240分
	授業テーマ	授業のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	各種病態の症例より、栄養の栄養ケアマネジメントについて

第14回	ｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	再確認する。また、症例より関連する国家試験問題を解く
	教室外学習(予習・復習)の内容	1回からの症例を復習する
	教室外学習の時間（分）	240分

学習計画注記

各種疾患の食事管理を理解する。

学生へのフィードバック方法

授業毎に前回の確認を行う。質問のある場合は1504研究室に訪問すること。

評価方法

・毎回の授業内容の理解度について、授業毎の確認レポートを提出し出席点とする。
・定期試験は、管理栄養士国家試験の出題に対応できる内容とし、栄養管理内容の具体的な算出や応用思考を必要とする記述式問題も含む。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
確認レポート	○	○		
定期試験	○	○	○	○

評価割合

出席点10点、定期試験90点

使用教科書名(ISBN番号)

新臨床栄養学ケアマネジメント第4版（978－4－263－70794－4）
栄養食事療法の実習13版（978－4－263－70824－8）

参考図書

食品成分表
糖尿病食事療法のための食品交換表
腎臓病食品交換表

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】疾患に適合した栄養マネジメントの知識が身についている。
【思考・判断】疾患を理解し適合する献立管理や食事指導ができる。
【感心・意欲・態度】献立管理、食事指導への関心、意欲、患者対応の態度が身についている。
【技能・表現】献立作成や食事指導への技術、表現力が身についている。

オフィスアワー

火曜3限

学生へのメッセージ

栄養食事療法が各種疾患への治療の一環であることを理解し、臨床栄養臨地実習で応用できる力を身につける。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、総合病院勤務経験、および内科クリニックでの栄養食事指導、集団栄養食事指導経験がある。
アクティブ・ラ	○	ディスカッション

ーニング		
情報リテラシー教育	○	文献検索、図書館利用
ICT活用		

講義コード	H02051031
講義名	臨床栄養アセスメント実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	城田 直子	指定なし
教授	金澤 良枝	指定なし

ナンバリング

H33705C13

授業概要(教育目的)

傷病者の病態や栄養状態に基づいて適切な栄養管理を行うために，実習を通して，疾病治療上，特に患者の病態に適した栄養管理の方法について学ぶ。アセスメント（各種検査・診査・計測など）による栄養状態の評価・判定の方法については，事例を解析するなどの実技を通して，詳細に学ぶ。特に，各種生化学的検査値に基づく栄養状態判定には，測定値と病態との関係についての知識が確かなものであることが要求されるため，それらを実習により学ぶ。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	患者の病態に適した栄養管理の方法を説明できる。生化学的検査値と病態を関連つけられる。
思考・判断の観点 (K)	患者の病態に適した栄養管理の方法を判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	グループワークでは積極的に参加し，自らの意見や考察を述べる。
技術・表現の観点 (A)	身体計測の手技を身につけ，アセスメントによる栄養状態の評価・判定ができる。

学習計画

	授業テーマ	科目の概要（導入）

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臨床栄養アセスメント実習で学ぶ内容，臨床栄養管理に必要な技能について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第2回	授業テーマ	食事摂取量調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事調査の種類と特徴について，実践を通して理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	5日間の食事記録法（秤量法）を課題とする。
	教室外学習の時間（分）	240
第3回	授業テーマ	食事摂取量調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	5日間の食事記録を元に，管理栄養士役と患者役のペアを組み，食事内容の詳細をロールプレイにより詳細を聴き取る。それらの結果より，管理栄養士役は日本食品標準成分表を用いて栄養量を算出し，食事内容を考察，改善案を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの食事摂取量調査について予習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第4回	授業テーマ	市販弁当分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	市販弁当を元の献立に組み立て直す作業を行う。実際に料理ごとの食材重量を測定し，味見による調味料の想定などを通し，アセスメントのひとつである食事調査を行う際に役立てるスキルを身につける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	揚げ物の吸油率や調味料%，基本的な料理の塩分・糖分%などについて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第5回	授業テーマ	市販弁当分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回に引き続き，食材重量測定，味見による調味料の想定などを通し，元の献立に組み立て直す作業を行う．それらの結果より，弁当の栄養価を算出することで，特徴，問題点や課題を見出し，考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内に終わらなかった分析は，課題として終わらせておくこと。

	教室外学習の時間（分）	120
第6回	**授業テーマ**	市販弁当分析（グループワーク）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループ内で，分析した市販弁当の特徴，問題点や課題などを共有し，それらを元に，理想的な市販弁当を考案（対象者，特長，献立，商品名，価格など）する。プレゼンテーション準備として，グループごとに模造紙でポスターおよび発表原稿を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内に終わらなかったプレゼンテーションのための媒体・発表原稿準備は，課題として終わらせておくこと。
	教室外学習の時間（分）	240
第7回	**授業テーマ**	プレゼンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとに，理想的な市販弁当についてプレゼンテーションを行う。他グループのプレゼンテーションでは，聴講者は消費者の立場で積極的にディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンテーションの準備として，グループ内での発表分担および発表原稿を決定し，効果的なプレゼンテーションの練習を忘れないこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第8回	**授業テーマ**	栄養補給法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	経管（経腸）栄養法の実際を理解するとともに，様々な経腸栄養剤の成分や特徴を把握する。成分栄養剤，消化態栄養剤，半消化態栄養剤，天然濃厚流動食の特徴や製品を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの経管（経腸）栄養法について予習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第9回	**授業テーマ**	栄養補給法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	病態に応じた経腸栄養剤の内容と使用量について，症例を通して検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	経腸栄養剤について予習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第10回	**授業テーマ**	栄養補給法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	嚥下調整食についての知識を深め，栄養管理計画作成の手順と重要なポイントを学ぶ。日本歯科大学、菊谷武教授の特別講義を含めて学習する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの嚥下調整食について予習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第11回	**授業テーマ**	身体計測法の実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アセスメントとして実測法である身体計測（身長・体重・体脂肪率・腹囲・上腕三頭筋皮下脂肪厚・肩甲骨下部皮下脂肪厚・上腕周囲長・下腿周囲長・膝高など）法，生理生化学検査（血圧，脈拍数，安静時基礎代謝量），骨密度測定などの実践を通し，測定方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの身体計測法・アセスメントキットのテキストについて予習し，理解しておくこと。測定値より求められる値についても算出しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第12回	**授業テーマ**	身体計測法の実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アセスメントとして実測法である身体計測（身長・体重・体脂肪率・腹囲・上腕三頭筋皮下脂肪厚・肩甲骨下部皮下脂肪厚・上腕周囲長・下腿周囲長・膝高など）法，生理生化学検査（血圧，脈拍数，安静時基礎代謝量），骨密度測定などの実践を通し，測定方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの身体計測法・アセスメントキットのテキストについて予習し，理解しておくこと。測定値より求められる値についても算出しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第13回	**授業テーマ**	身体計測法の実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アセスメントとして実測法である身体計測（身長・体重・体脂肪率・腹囲・上腕三頭筋皮下脂肪厚・肩甲骨下部皮下脂肪厚・上腕周囲長・下腿周囲長・膝高など）法，生理生化学検査（血圧，脈拍数，安静時基礎代謝量），骨密度測定などの実践を通し，測定方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの身体計測法・アセスメントキットのテキストについて予習し，理解しておくこと。測定値より求められる値についても算出しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第14回	**授業テーマ**	SOAP記録
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	POS（問題志向型システム）に沿った栄養記録の作成方法を学ぶなかで，医療における栄養管理の経過記録として，SOAPの4項目に分類して記録する方法を実践を通して理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストのPOSおよびSOAP記録について予習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60

学習計画注記

実習を通して、栄養アセスメントの手法を学習する。

学生へのフィードバック方法

提出物は，添削し返却する。

評価方法

評価はSABCDとする。
・平常点は，参加状況・授業への取り組み・授業態度を総合的に評価する。
・提出物
・定期試験

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	○
提出物	○	○		○
定期試験	○	○		

評価割合

平常点（20%），提出物（20%），定期試験（60%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

栄養食事療法の実習 栄養ケアマネジメント第12版 本田佳子編，医歯薬出版株式会社（978-4-263-70792-0）
新臨床栄養学 栄養ケアマネジメント第4版 本田佳子編，医歯薬出版株式会社（978-4-263-70794-4）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により，総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として，自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【思考・判断】各種疾患のアセスメントについて考えられる力が身についている。
【関心・意欲・態度】臨床栄養学に対して関心を持ち、学習意欲が認められる。
【技術・表現】体系的学習を通じて，人々の生活の質の向上に寄与すべく，健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能を身につけている。

オフィスアワー

火曜3限

学生へのメッセージ

臨床栄養アセスメント論での学びを基礎とした実習です。両科目を繋げ，臨床栄養アセスメントについてしっかり理解しましょう。患者の栄養評価は，臨床現場では重要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は，病院管理栄養士として臨床現場で栄養アセスメントの実務経験を有しており，アセスメントによる栄養状態の評価・判定，患者の病態に適した栄養管理の方法を教授している。
アクティブ・ラー	○	グループディスカッション，グループワーク，プレゼンテーション

ニング		
情報リテラシー教育	○	SOAP記録
ICT活用		

講義コード	H02051032
講義名	臨床栄養アセスメント実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	城田 直子	指定なし
教授	金澤 良枝	指定なし

ナンバリング

H33705C13

授業概要(教育目的)

傷病者の病態や栄養状態に基づいて適切な栄養管理を行うために，実習を通して，疾病治療上，特に患者の病態に適した栄養管理の方法について学ぶ。アセスメント（各種検査・診査・計測など）による栄養状態の評価・判定の方法については，事例を解析するなどの実技を通して，詳細に学ぶ。特に，各種生化学的検査値に基づく栄養状態判定には，測定値と病態との関係についての知識が確かなものであることが要求されるため，それらを実習により学ぶ。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	患者の病態に適した栄養管理の方法を説明できる。生化学的検査値と病態を関連つけられる。
思考・判断の観点 (K)	患者の病態に適した栄養管理の方法を判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	グループワークでは積極的に参加し，自らの意見や考察を述べる。
技術・表現の観点 (A)	身体計測の手技を身につけ，アセスメントによる栄養状態の評価・判定ができる。

学習計画

	授業テーマ	科目の概要（導入）

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臨床栄養アセスメント実習で学ぶ内容，臨床栄養管理に必要な技能について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第2回	授業テーマ	食事摂取量調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事調査の種類と特徴について，実践を通して理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	5日間の食事記録法（秤量法）を課題とする。
	教室外学習の時間（分）	240
第3回	授業テーマ	食事摂取量調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	5日間の食事記録を元に，管理栄養士役と患者役のペアを組み，食事内容の詳細をロールプレイにより詳細を聴き取る。それらの結果より，管理栄養士役は日本食品標準成分表を用いて栄養量を算出し，食事内容を考察，改善案を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの食事摂取量調査について予習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第4回	授業テーマ	市販弁当分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	市販弁当を元の献立に組み立て直す作業を行う。実際に料理ごとの食材重量を測定し，味見による調味料の想定などを通し，アセスメントのひとつである食事調査を行う際に役立てるスキルを身につける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	揚げ物の吸油率や調味料%，基本的な料理の塩分・糖分%などについて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第5回	授業テーマ	市販弁当分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回に引き続き，食材重量測定，味見による調味料の想定などを通し，元の献立に組み立て直す作業を行う．それらの結果より，弁当の栄養価を算出することで，特徴，問題点や課題を見出し，考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内に終わらなかった分析は，課題として終わらせておくこと。

	教室外学習の時間（分）	120
第6回	**授業テーマ**	市販弁当分析（グループワーク）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループ内で，分析した市販弁当の特徴，問題点や課題などを共有し，それらを元に，理想的な市販弁当を考案（対象者，特長，献立，商品名，価格など）する。プレゼンテーション準備として，グループごとに模造紙でポスターおよび発表原稿を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内に終わらなかったプレゼンテーションのための媒体・発表原稿準備は，課題として終わらせておくこと。
	教室外学習の時間（分）	240
第7回	**授業テーマ**	プレゼンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとに，理想的な市販弁当についてプレゼンテーションを行う。他グループのプレゼンテーションでは，聴講者は消費者の立場で積極的にディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンテーションの準備として，グループ内での発表分担および発表原稿を決定し，効果的なプレゼンテーションの練習を忘れないこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第8回	**授業テーマ**	栄養補給法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	経管（経腸）栄養法の実際を理解するとともに，様々な経腸栄養剤の成分や特徴を把握する。成分栄養剤，消化態栄養剤，半消化態栄養剤，天然濃厚流動食の特徴や製品を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの経管（経腸）栄養法について予習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第9回	**授業テーマ**	栄養補給法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	病態に応じた経腸栄養剤の内容と使用量について，症例を通して検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	経腸栄養剤について予習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第10回	**授業テーマ**	栄養補給法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	嚥下調整食についての知識を深め，栄養管理計画作成の手順と重要なポイントを学ぶ。日本歯科大学、菊谷武教授の特別講義を含めて学習する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの嚥下調整食について予習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第11回	**授業テーマ**	身体計測法の実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アセスメントとして実測法である身体計測（身長・体重・体脂肪率・腹囲・上腕三頭筋皮下脂肪厚・肩甲骨下部皮下脂肪厚・上腕周囲長・下腿周囲長・膝高など）法，生理生化学検査（血圧，脈拍数，安静時基礎代謝量），骨密度測定などの実践を通し，測定方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの身体計測法・アセスメントキットのテキストについて予習し，理解しておくこと。測定値より求められる値についても算出しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第12回	**授業テーマ**	身体計測法の実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アセスメントとして実測法である身体計測（身長・体重・体脂肪率・腹囲・上腕三頭筋皮下脂肪厚・肩甲骨下部皮下脂肪厚・上腕周囲長・下腿周囲長・膝高など）法，生理生化学検査（血圧，脈拍数，安静時基礎代謝量），骨密度測定などの実践を通し，測定方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの身体計測法・アセスメントキットのテキストについて予習し，理解しておくこと。測定値より求められる値についても算出しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第13回	**授業テーマ**	身体計測法の実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アセスメントとして実測法である身体計測（身長・体重・体脂肪率・腹囲・上腕三頭筋皮下脂肪厚・肩甲骨下部皮下脂肪厚・上腕周囲長・下腿周囲長・膝高など）法，生理生化学検査（血圧，脈拍数，安静時基礎代謝量），骨密度測定などの実践を通し，測定方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの身体計測法・アセスメントキットのテキストについて予習し，理解しておくこと。測定値より求められる値についても算出しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第14回	**授業テーマ**	SOAP記録
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	POS（問題志向型システム）に沿った栄養記録の作成方法を学ぶなかで，医療における栄養管理の経過記録として，SOAPの4項目に分類して記録する方法を実践を通して理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストのPOSおよびSOAP記録について予習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60

学習計画注記

実習を通して、栄養アセスメントの手法を学習する。

学生へのフィードバック方法

提出物は，添削し返却する。

評価方法

評価はSABCDとする。
・平常点は，参加状況・授業への取り組み・授業態度を総合的に評価する。
・提出物
・定期試験

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	○
提出物	○	○		○
定期試験	○	○		

評価割合

平常点（20%），提出物（20%），定期試験（60%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

栄養食事療法の実習 栄養ケアマネジメント第12版 本田佳子編，医歯薬出版株式会社（978-4-263-70792-0）
新臨床栄養学 栄養ケアマネジメント第4版 本田佳子編，医歯薬出版株式会社（978-4-263-70794-4）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により，総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として，自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【思考・判断】各種疾患のアセスメントについて考えられる力が身についている。
【関心・意欲・態度】臨床栄養学に対して関心を持ち、学習意欲が認められる。
【技術・表現】体系的学習を通じて，人々の生活の質の向上に寄与すべく，健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能を身につけている。

オフィスアワー

火曜3限

学生へのメッセージ

臨床栄養アセスメント論での学びを基礎とした実習です。両科目を繋げ，臨床栄養アセスメントについてしっかり理解しましょう。患者の栄養評価は，臨床現場では重要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は，病院管理栄養士として臨床現場で栄養アセスメントの実務経験を有しており，アセスメントによる栄養状態の評価・判定，患者の病態に適した栄養管理の方法を教授している。
アクティブ・ラー	○	グループディスカッション，グループワーク，プレゼンテーション

ニング		
情報リテラシー教育	○	SOAP記録
ICT活用		

講義コード	H02051033
講義名	臨床栄養アセスメント実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	金澤 良枝	指定なし

ナンバリング

H33705C13

授業概要(教育目的)

傷病者の病態や栄養状態に基づいて適切な栄養管理を行うために，実習を通して，疾病治療上，特に患者の病態に適した栄養管理の方法について学ばさせる。アセスメント（各種検査・診査・計測など）による栄養状態の評価・判定の方法については，事例を解析するなどの実技を通して，詳細に学ぶ。特に，各種生化学的検査値に基づく栄養状態判定には，測定値と病態との関係についての知識が確かなものであることが要求されるため，それらを実習により学ばさせる。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	患者の病態に適した栄養管理の方法を説明できる。生化学的検査値と病態を関連つけられる。
思考・判断の観点 (K)	患者の病態に適した栄養管理の方法を判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	グループワークでは積極的に参加し，自らの意見や考察を述べる。
技術・表現の観点 (A)	身体計測の手技を身につけ，アセスメントによる栄養状態の評価・判定ができる。

学習計画

	授業テーマ	科目の概要（導入）
	学習内容(ｱｸﾃ	

第1回	**ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	臨床栄養アセスメント実習で学ぶ内容，臨床栄養管理に必要な技能について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第2回	**授業テーマ**	食事摂取量調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事調査の種類と特徴について，実践を通して理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	5日間の食事記録法（秤量法）を課題とする。
	教室外学習の時間（分）	240
第3回	**授業テーマ**	食事摂取量調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	5日間の食事記録を元に，管理栄養士役と患者役のペアを組み，食事内容の詳細をロールプレイにより詳細を聴き取る。それらの結果より，管理栄養士役は日本食品標準成分表を用いて栄養量を算出し，食事内容を考察，改善案を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの食事摂取量調査について予習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第4回	**授業テーマ**	市販弁当分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	市販弁当を元の献立に組み立て直す作業を行う。実際に料理ごとの食材重量を測定し，味見による調味料の想定などを通し，アセスメントのひとつである食事調査を行う際に役立てるスキルを身につける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	揚げ物の吸油率や調味料%，基本的な料理の塩分・糖分%などについて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第5回	**授業テーマ**	市販弁当分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回に引き続き，食材重量測定，味見による調味料の想定などを通し，元の献立に組み立て直す作業を行う．それらの結果より，弁当の栄養価を算出することで，特徴，問題点や課題を見出し，考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内に終わらなかった分析は，課題として終わらせておくこと。
	教室外学習の	120

	時間（分）	
第6回	授業テーマ	市販弁当分析（グループワーク）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループ内で，分析した市販弁当の特徴，問題点や課題などを共有し，それらを元に，理想的な市販弁当を考案（対象者，特長，献立，商品名，価格など）する。プレゼンテーション準備として，グループごとに模造紙でポスターおよび発表原稿を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内に終わらなかったプレゼンテーションのための媒体・発表原稿準備は，課題として終わらせておくこと。
	教室外学習の時間（分）	240
第7回	授業テーマ	プレゼンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとに，理想的な市販弁当についてプレゼンテーションを行う。他グループのプレゼンテーションでは，聴講者は消費者の立場で積極的にディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンテーションの準備として，グループ内での発表分担および発表原稿を決定し，効果的なプレゼンテーションの練習を忘れないこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第8回	授業テーマ	栄養補給法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	経管（経腸）栄養法の実際を理解するとともに，様々な経腸栄養剤の成分や特徴を把握する。成分栄養剤，消化態栄養剤，半消化態栄養剤，天然濃厚流動食の特徴や製品を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの経管（経腸）栄養法について予習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第9回	授業テーマ	栄養補給法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	病態に応じた経腸栄養剤の内容と使用量について，症例を通して検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	経腸栄養剤について予習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第10回	授業テーマ	栄養補給法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	嚥下調整食についての知識を深め，栄養管理計画作成の手順と重要なポイントを学ぶ。日本歯科大学、菊谷武教授の特別講義を含めて学習する。
	教室外学	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。ま

	習(予習・復習)の内容	た，テキストの嚥下調整食について予習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第11回	授業テーマ	身体計測法の実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アセスメントとして実測法である身体計測（身長・体重・体脂肪率・腹囲・上腕三頭筋皮下脂肪厚・肩甲骨下部皮下脂肪厚・上腕周囲長・下腿周囲長・膝高など）法，生理生化学検査（血圧，脈拍数，安静時基礎代謝量），骨密度測定などの実践を通し，測定方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの身体計測法・アセスメントキットのテキストについて予習し，理解しておくこと。測定値より求められる値についても算出しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第12回	授業テーマ	身体計測法の実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アセスメントとして実測法である身体計測（身長・体重・体脂肪率・腹囲・上腕三頭筋皮下脂肪厚・肩甲骨下部皮下脂肪厚・上腕周囲長・下腿周囲長・膝高など）法，生理生化学検査（血圧，脈拍数，安静時基礎代謝量），骨密度測定などの実践を通し，測定方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの身体計測法・アセスメントキットのテキストについて予習し，理解しておくこと。測定値より求められる値についても算出しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第13回	授業テーマ	身体計測法の実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アセスメントとして実測法である身体計測（身長・体重・体脂肪率・腹囲・上腕三頭筋皮下脂肪厚・肩甲骨下部皮下脂肪厚・上腕周囲長・下腿周囲長・膝高など）法，生理生化学検査（血圧，脈拍数，安静時基礎代謝量），骨密度測定などの実践を通し，測定方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの身体計測法・アセスメントキットのテキストについて予習し，理解しておくこと。測定値より求められる値についても算出しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第14回	授業テーマ	SOAP記録
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	POS（問題志向型システム）に沿った栄養記録の作成方法を学ぶなかで，医療における栄養管理の経過記録として，SOAPの4項目に分類して記録する方法を実践を通して理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストのPOSおよびSOAP記録について予習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60

学習計画注記

実習を通して、栄養アセスメントの手法を学習する。

学生へのフィードバック方法

提出物は，添削し返却する。

評価方法

評価はSABCDとする。
ルーブリックで評価する。
・提出物
・定期試験

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	○
提出物	○	○		○
定期試験	○	○		

評価割合

提出物（20%），定期試験（80%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

栄養食事療法の実習 栄養ケアマネジメント第12版 本田佳子編，医歯薬出版株式会社（978-4-263-70792-0）
新臨床栄養学 栄養ケアマネジメント第4版 本田佳子編，医歯薬出版株式会社（978-4-263-70794-4）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により，総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として，自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【思考・判断】各種疾患のアセスメントについて考えられる力が身についている。
【関心・意欲・態度】臨床栄養学に対して関心を持ち、学習意欲が認められる。
【技術・表現】体系的学習を通じて，人々の生活の質の向上に寄与すべく，健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能を身につけている。

オフィスアワー

火曜3限

学生へのメッセージ

臨床栄養アセスメント論での学びを基礎とした実習です。両科目を繋げ，臨床栄養アセスメントについてしっかり理解しましょう。患者の栄養評価は，臨床現場では重要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は，病院管理栄養士として臨床現場で栄養アセスメントの実務経験を有しており，アセスメントによる栄養状態の評価・判定，患者の病態に適した栄養管理の方法を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション，グループワーク，プレゼンテーション

情報リテラシー教育	○	SOAP記録
ICT活用		

講義コード	H02051034
講義名	臨床栄養アセスメント実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	金澤 良枝	指定なし

ナンバリング

H33705C13

授業概要(教育目的)

傷病者の病態や栄養状態に基づいて適切な栄養管理を行うために，実習を通して，疾病治療上，特に患者の病態に適した栄養管理の方法について学ばさせる。アセスメント（各種検査・診査・計測など）による栄養状態の評価・判定の方法については，事例を解析するなどの実技を通して，詳細に学ぶ。特に，各種生化学的検査値に基づく栄養状態判定には，測定値と病態との関係についての知識が確かなものであることが要求されるため，それらを実習で学ばさせる。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	患者の病態に適した栄養管理の方法を説明できる。生化学的検査値と病態を関連つけられる。
思考・判断の観点 (K)	患者の病態に適した栄養管理の方法を判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	グループワークでは積極的に参加し，自らの意見や考察を述べる。
技術・表現の観点 (A)	身体計測の手技を身につけ，アセスメントによる栄養状態の評価・判定ができる。

学習計画

	授業テーマ	科目の概要（導入）
	学習内容(ｱｸﾃ	

第1回	**ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	臨床栄養アセスメント実習で学ぶ内容，臨床栄養管理に必要な技能について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第2回	**授業テーマ**	食事摂取量調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事調査の種類と特徴について，実践を通して理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	5日間の食事記録法（秤量法）を課題とする。
	教室外学習の時間（分）	240
第3回	**授業テーマ**	食事摂取量調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	5日間の食事記録を元に，管理栄養士役と患者役のペアを組み，食事内容の詳細をロールプレイにより詳細を聴き取る。それらの結果より，管理栄養士役は日本食品標準成分表を用いて栄養量を算出し，食事内容を考察，改善案を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの食事摂取量調査について予習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第4回	**授業テーマ**	市販弁当分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	市販弁当を元の献立に組み立て直す作業を行う。実際に料理ごとの食材重量を測定し，味見による調味料の想定などを通し，アセスメントのひとつである食事調査を行う際に役立てるスキルを身につける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	揚げ物の吸油率や調味料%，基本的な料理の塩分・糖分%などについて復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第5回	**授業テーマ**	市販弁当分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回に引き続き，食材重量測定，味見による調味料の想定などを通し，元の献立に組み立て直す作業を行う．それらの結果より，弁当の栄養価を算出することで，特徴，問題点や課題を見出し，考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内に終わらなかった分析は，課題として終わらせておくこと。
	教室外学習の	120

	時間（分）	
第6回	授業テーマ	市販弁当分析（グループワーク）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループ内で，分析した市販弁当の特徴，問題点や課題などを共有し，それらを元に，理想的な市販弁当を考案（対象者，特長，献立，商品名，価格など）する。プレゼンテーション準備として，グループごとに模造紙でポスターおよび発表原稿を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内に終わらなかったプレゼンテーションのための媒体・発表原稿準備は，課題として終わらせておくこと。
	教室外学習の時間（分）	240
第7回	授業テーマ	プレゼンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとに，理想的な市販弁当についてプレゼンテーションを行う。他グループのプレゼンテーションでは，聴講者は消費者の立場で積極的にディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プレゼンテーションの準備として，グループ内での発表分担および発表原稿を決定し，効果的なプレゼンテーションの練習を忘れないこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第8回	授業テーマ	栄養補給法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	経管（経腸）栄養法の実際を理解するとともに，様々な経腸栄養剤の成分や特徴を把握する。成分栄養剤，消化態栄養剤，半消化態栄養剤，天然濃厚流動食の特徴や製品を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの経管（経腸）栄養法について予習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第9回	授業テーマ	栄養補給法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	病態に応じた経腸栄養剤の内容と使用量について，症例を通して検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	経腸栄養剤について予習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第10回	授業テーマ	栄養補給法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	嚥下調整食についての知識を深め，栄養管理計画作成の手順と重要なポイントを学ぶ。日本歯科大学、菊谷武教授の特別講義を含めて学習する。
	教室外学	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。ま

	習(予習・復習)の内容	た，テキストの嚥下調整食について予習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第11回	授業テーマ	身体計測法の実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アセスメントとして実測法である身体計測（身長・体重・体脂肪率・腹囲・上腕三頭筋皮下脂肪厚・肩甲骨下部皮下脂肪厚・上腕周囲長・下腿周囲長・膝高など）法，生理生化学検査（血圧，脈拍数，安静時基礎代謝量），骨密度測定などの実践を通し，測定方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの身体計測法・アセスメントキットのテキストについて予習し，理解しておくこと。測定値より求められる値についても算出しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第12回	授業テーマ	身体計測法の実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アセスメントとして実測法である身体計測（身長・体重・体脂肪率・腹囲・上腕三頭筋皮下脂肪厚・肩甲骨下部皮下脂肪厚・上腕周囲長・下腿周囲長・膝高など）法，生理生化学検査（血圧，脈拍数，安静時基礎代謝量），骨密度測定などの実践を通し，測定方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの身体計測法・アセスメントキットのテキストについて予習し，理解しておくこと。測定値より求められる値についても算出しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第13回	授業テーマ	身体計測法の実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アセスメントとして実測法である身体計測（身長・体重・体脂肪率・腹囲・上腕三頭筋皮下脂肪厚・肩甲骨下部皮下脂肪厚・上腕周囲長・下腿周囲長・膝高など）法，生理生化学検査（血圧，脈拍数，安静時基礎代謝量），骨密度測定などの実践を通し，測定方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの身体計測法・アセスメントキットのテキストについて予習し，理解しておくこと。測定値より求められる値についても算出しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60
第14回	授業テーマ	SOAP記録
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	POS（問題志向型システム）に沿った栄養記録の作成方法を学ぶなかで，医療における栄養管理の経過記録として，SOAPの4項目に分類して記録する方法を実践を通して理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストのPOSおよびSOAP記録について予習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60

学習計画注記

実習を通して、栄養アセスメントの手法を学習する。

学生へのフィードバック方法

提出物は，添削し返却する。

評価方法

評価はSABCDとする。
ルーブリックで評価する。
・提出物
・定期試験

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	○
提出物	○	○		○
定期試験	○	○		

評価割合

提出物（20%），定期試験（80%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

栄養食事療法の実習 栄養ケアマネジメント第12版 本田佳子編，医歯薬出版株式会社（978-4-263-70792-0）
新臨床栄養学 栄養ケアマネジメント第4版 本田佳子編，医歯薬出版株式会社（978-4-263-70794-4）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により，総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として，自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【思考・判断】各種疾患のアセスメントについて考えられる力が身についている。
【関心・意欲・態度】臨床栄養学に対して関心を持ち、学習意欲が認められる。
【技術・表現】体系的学習を通じて，人々の生活の質の向上に寄与すべく，健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能を身につけている。

オフィスアワー

火曜3限

学生へのメッセージ

臨床栄養アセスメント論での学びを基礎とした実習です。両科目を繋げ，臨床栄養アセスメントについてしっかり理解しましょう。患者の栄養評価は，臨床現場では重要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は，病院管理栄養士として臨床現場で栄養アセスメントの実務経験を有しており，アセスメントによる栄養状態の評価・判定，患者の病態に適した栄養管理の方法を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション，グループワーク，プレゼンテーション

情報リテラシー教育	○	SOAP記録
ICT活用		

講義コード	H02052031
講義名	臨床栄養ケアマネジメント実習（HA）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	金澤 良枝	指定なし

ナンバリング

H33706C13

授業概要(教育目的)

臨床栄養ケアマネジメント論で学んだ理論をいかに実践に応用・活用するか、について一連の方法を実習する。具体的には、患者を対象とした栄養管理、栄養ケアプランの作成方法、実施方法、評価方法を学んでもらう。献立や治療食を作成するなど疾患の状態に応じた栄養管理では、調理実習を含めて学びを修得させる。また、各種治療用特殊食品を用いた調理実習も実施し、管理栄養士として必要な知識となる治療用特殊食品の特徴や扱い方などについても学び、理解を深めてもらう。

履修条件

特に無し

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	臨床栄養ケアマネジメント論の理論を関連付け、応用できる。
思考・判断の観点 (K)	様々な栄養ケアプランの作成方法、実施方法、評価方法を判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	献立を元に事前に調理実習の工程を考え、実習班内で効率よく分担し、積極的に調理実習に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	疾患の状態に応じた栄養管理を献立や調理に応用できる。

学習計画

	授業テーマ	易消化食
	学習内容(ｱｸﾃ	

第1回	**ｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	易消化食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立作成を行う。次回授業の易消化食調理実習献立について、説明を受けながらレシピを完成させる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの該当箇所を予習して授業に臨む。授業後は、授業内容を復習し、献立課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	易消化食の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的な易消化食のレシピを基にグループに分かれて調理を行い、試食、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業で完成させたレシピを復習し、調理のシュミレーションを行ってから授業に臨む。授業後は、実習内容を振り返り、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	エネルギーコントロール食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エネルギーコントロール食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立作成を行う。次回授業のエネルギーコントロール食調理実習献立について、説明を受けながらレシピを完成させる。 ※糖尿病食事療法のための食品交換表を使用
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの該当箇所を予習して授業に臨む。授業後は、授業内容を復習し、献立課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	**授業テーマ**	エネルギーコントロール食の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的なエネルギーコントロール食のレシピを基にグループに分かれて調理を行い、試食、考察する。食事療法で活用されている食品類についても試食を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業で完成させたレシピを復習し、調理のシュミレーションを行ってから授業に臨む。授業後は、実習内容を振り返り、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	脂質コントロール食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質コントロール食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立作成を行う。次回授業の脂質コントロール食調理実習献立について、説明を受けながらレシピを完成させる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの該当箇所を予習して授業に臨む。授業後は、授業内容を復習し、献立課題を完成させる。
	教室外学習の	120分

	時間（分）	
第6回	**授業テーマ**	脂質コントロール食の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的な脂質コントロール食のレシピを基にグループに分かれて調理を行い、試食、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業で完成させたレシピを復習し、調理のシュミレーションを行ってから授業に臨む。授業後は、実習内容を振り返り、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	減塩食、たんぱく質コントロール食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	減塩食、たんぱく質コントロール食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立作成を行う。次回から連続する授業の減塩食、たんぱく質コントロール食調理実習献立について、説明を受けながらレシピを完成させる。 ※腎臓病食品交換表を使用
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの該当箇所を予習して授業に臨む。授業後は、授業内容を復習し、献立課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	**授業テーマ**	減塩食の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的な減塩食のレシピを基にグループに分かれて調理を行い、試食、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業で完成させたレシピを復習し、調理のシュミレーションを行ってから授業に臨む。授業後は、実習内容を振り返り、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	たんぱく質コントロール食の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的なたんぱく質コントロール食のレシピを基にグループに分かれて調理を行い、試食、考察する。食事療法で活用されている食品類についても試食を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前々回授業で完成させたレシピを復習し、調理のシュミレーションを行ってから授業に臨む。授業後は、実習内容を振り返り、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	行事食、嚥下食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行事食、嚥下食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立作成を行う。次回授業の行事食調理実習献立について、説明を受けながらレシピを完成させる。
	教室外学	テキストの該当箇所を予習して授業に臨む。授業後は、授業内容を復

	習(予習・復習)の内容	習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	行事食の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行事食のレシピを基にグループに分かれて調理を行い、試食、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業で完成させたレシピを復習し、調理のシュミレーションを行ってから授業に臨む。授業後は、実習内容を振り返り、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	嚥下食の試食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	嚥下障害のある患者に適したスプーンを用い、市販されている嚥下食を試食、考察する。嚥下食は、実際に提供することを想定した盛り付けを考える。加えて、大江スミ先生のワン・パウンド・ケークのレシピを基に調理し、試食する。調理実習最終回のため、実習室の大掃除を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前々回授業の内容やワン・パウンド・ケークのレシピを復習し、段取りのシュミレーションを行ってから授業に臨む。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	栄養指導媒体作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	治療食の栄養食事指導で用いる栄養媒体を作成する。また、入院患者に行事食を提供する際に添える行事食カードを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自、媒体の構想を練っておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業内容についてまとめを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

実習を通して、栄養ケアマネジメントの手法を学習する。

学生へのフィードバック方法

提出物は、添削し返却する。

評価方法

提出物と定期試験で評価する。
なお、これらの評価は、授業内で説明するルーブリックに沿って行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	○
提出物	○	○		○
定期試験	○	○		

評価割合

提出物（20%）、定期試験（80%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

栄養食事療法の実習 栄養ケアマネジメント第14版 本田佳子編 医歯薬出版株式会社（前期テキストと同様）
新臨床栄養学 栄養ケアマネジメント第5版 本田佳子編 医歯薬出版株式会社（前期テキストと同様）
食品成分表
糖尿病食事療法のための食品交換表
腎臓病食品交換表

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により、総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【技術・表現】体系的学習を通じて、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能を身につけている。

オフィスアワー

金澤：火曜3時限 城田：木曜3時限

学生へのメッセージ

臨床栄養ケアマネジメント論での学びを基礎とした実習です。両科目を繋げ、臨床栄養ケアマネジメントについてしっかり理解しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、病院管理栄養士としての実務経験を有している（病院給食における栄養管理やNSTにおける管理栄養士の役割、栄養士活動や栄養ケアプランの作成方法、評価方法、治療食献立の作成や調理など）。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク（調理実習）
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02052032
講義名	臨床栄養ケアマネジメント実習（HB）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	金澤 良枝	指定なし

ナンバリング

H33706C13

授業概要(教育目的)

臨床栄養ケアマネジメント論で学んだ理論をいかに実践に応用・活用するか、について一連の方法を実習する。具体的には、患者を対象とした栄養管理、栄養ケアプランの作成方法、実施方法、評価方法を学んでもらう。献立や治療食を作成するなど疾患の状態に応じた栄養管理では、調理実習を含めて学びを修得させる。また、各種治療用特殊食品を用いた調理実習も実施し、管理栄養士として必要な知識となる治療用特殊食品の特徴や扱い方などについても学び、理解を深めてもらう。

履修条件

特に無し

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	臨床栄養ケアマネジメント論の理論を関連付け、応用できる。
思考・判断の観点 (K)	様々な栄養ケアプランの作成方法、実施方法、評価方法を判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	献立を元に事前に調理実習の工程を考え、実習班内で効率よく分担し、積極的に調理実習に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	疾患の状態に応じた栄養管理を献立や調理に応用できる。

学習計画

	授業テーマ	易消化食
	学習内容(ｱｸﾃ	

第1回	**ｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	易消化食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立作成を行う。次回授業の易消化食調理実習献立について、説明を受けながらレシピを完成させる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの該当箇所を予習して授業に臨む。授業後は、授業内容を復習し、献立課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	易消化食の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的な易消化食のレシピを基にグループに分かれて調理を行い、試食、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業で完成させたレシピを復習し、調理のシュミレーションを行ってから授業に臨む。授業後は、実習内容を振り返り、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	エネルギーコントロール食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エネルギーコントロール食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立作成を行う。次回授業のエネルギーコントロール食調理実習献立について、説明を受けながらレシピを完成させる。 ※糖尿病食事療法のための食品交換表を使用
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの該当箇所を予習して授業に臨む。授業後は、授業内容を復習し、献立課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	**授業テーマ**	エネルギーコントロール食の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的なエネルギーコントロール食のレシピを基にグループに分かれて調理を行い、試食、考察する。食事療法で活用されている食品類についても試食を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業で完成させたレシピを復習し、調理のシュミレーションを行ってから授業に臨む。授業後は、実習内容を振り返り、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	脂質コントロール食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質コントロール食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立作成を行う。次回授業の脂質コントロール食調理実習献立について、説明を受けながらレシピを完成させる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの該当箇所を予習して授業に臨む。授業後は、授業内容を復習し、献立課題を完成させる。
	教室外学習の	120分

	時間（分）	
第6回	**授業テーマ**	脂質コントロール食の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的な脂質コントロール食のレシピを基にグループに分かれて調理を行い、試食、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業で完成させたレシピを復習し、調理のシュミレーションを行ってから授業に臨む。授業後は、実習内容を振り返り、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	減塩食、たんぱく質コントロール食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	減塩食、たんぱく質コントロール食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立作成を行う。次回から連続する授業の減塩食、たんぱく質コントロール食調理実習献立について、説明を受けながらレシピを完成させる。 ※腎臓病食品交換表を使用
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの該当箇所を予習して授業に臨む。授業後は、授業内容を復習し、献立課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	**授業テーマ**	減塩食の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的な減塩食のレシピを基にグループに分かれて調理を行い、試食、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業で完成させたレシピを復習し、調理のシュミレーションを行ってから授業に臨む。授業後は、実習内容を振り返り、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	たんぱく質コントロール食の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的なたんぱく質コントロール食のレシピを基にグループに分かれて調理を行い、試食、考察する。食事療法で活用されている食品類についても試食を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前々回授業で完成させたレシピを復習し、調理のシュミレーションを行ってから授業に臨む。授業後は、実習内容を振り返り、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	行事食、嚥下食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行事食、嚥下食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立作成を行う。次回授業の行事食調理実習献立について、説明を受けながらレシピを完成させる。
	教室外学	テキストの該当箇所を予習して授業に臨む。授業後は、授業内容を復

	習(予習・復習)の内容	習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	行事食の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行事食のレシピを基にグループに分かれて調理を行い、試食、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業で完成させたレシピを復習し、調理のシュミレーションを行ってから授業に臨む。授業後は、実習内容を振り返り、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	嚥下食の試食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	嚥下障害のある患者に適したスプーンを用い、市販されている嚥下食を試食、考察する。嚥下食は、実際に提供することを想定した盛り付けを考える。加えて、大江スミ先生のワン・パウンド・ケークのレシピを基に調理し、試食する。調理実習最終回のため、実習室の大掃除を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前々回授業の内容やワン・パウンド・ケークのレシピを復習し、段取りのシュミレーションを行ってから授業に臨む。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	栄養指導媒体作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	治療食の栄養食事指導で用いる栄養媒体を作成する。また、入院患者に行事食を提供する際に添える行事食カードを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自、媒体の構想を練っておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業内容についてまとめを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

実習を通して、栄養ケアマネジメントの手法を学習する。

学生へのフィードバック方法

提出物は、添削し返却する。

評価方法

提出物と定期試験で評価する。
なお、これらの評価は、授業内で説明するルーブリックに沿って行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	○
提出物	○	○		○
定期試験	○	○		

評価割合

提出物（20%）、定期試験（80%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

栄養食事療法の実習 栄養ケアマネジメント第14版 本田佳子編 医歯薬出版株式会社（前期テキストと同様）
新臨床栄養学 栄養ケアマネジメント第5版 本田佳子編 医歯薬出版株式会社（前期テキストと同様）
食品成分表
糖尿病食事療法のための食品交換表
腎臓病食品交換表

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により、総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【技術・表現】体系的学習を通じて、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能を身につけている。

オフィスアワー

金澤：火曜3時限 城田：木曜3時限

学生へのメッセージ

臨床栄養ケアマネジメント論での学びを基礎とした実習です。両科目を繋げ、臨床栄養ケアマネジメントについてしっかり理解しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、病院管理栄養士としての実務経験を有している（病院給食における栄養管理やNSTにおける管理栄養士の役割、栄養士活動や栄養ケアプランの作成方法、評価方法、治療食献立の作成や調理など）。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク（調理実習）
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02052033
講義名	臨床栄養ケアマネジメント実習（HC）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	城田 直子	指定なし

ナンバリング

H33706C13

授業概要(教育目的)

臨床栄養ケアマネジメント論で学んだ理論をいかに実践に応用・活用するか、について一連の方法を実習する。具体的には、患者を対象とした栄養管理、栄養ケアプランの作成方法、実施方法、評価方法を学んでもらう。献立や治療食を作成するなど疾患の状態に応じた栄養管理では、調理実習を含めて学びを修得させる。また、各種治療用特殊食品を用いた調理実習も実施し、管理栄養士として必要な知識となる治療用特殊食品の特徴や扱い方などについても学び、理解を深めてもらう。

履修条件

特に無し

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	臨床栄養ケアマネジメント論の理論を関連付け、応用できる。
思考・判断の観点 (K)	様々な栄養ケアプランの作成方法、実施方法、評価方法を判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	献立を元に事前に調理実習の工程を考え、実習班内で効率よく分担し、積極的に調理実習に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	疾患の状態に応じた栄養管理を献立や調理に応用できる。

学習計画

	授業テーマ	易消化食
	学習内容(ｱｸﾃ	

第1回	**ｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	易消化食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立作成を行う。次回授業の易消化食調理実習献立について、説明を受けながらレシピを完成させる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの該当箇所を予習して授業に臨む。授業後は、授業内容を復習し、献立課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	易消化食の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的な易消化食のレシピを基にグループに分かれて調理を行い、試食、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業で完成させたレシピを復習し、調理のシュミレーションを行ってから授業に臨む。授業後は、実習内容を振り返り、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	エネルギーコントロール食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エネルギーコントロール食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立作成を行う。次回授業のエネルギーコントロール食調理実習献立について、説明を受けながらレシピを完成させる。 ※糖尿病食事療法のための食品交換表を使用
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの該当箇所を予習して授業に臨む。授業後は、授業内容を復習し、献立課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	**授業テーマ**	エネルギーコントロール食の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的なエネルギーコントロール食のレシピを基にグループに分かれて調理を行い、試食、考察する。食事療法で活用されている食品類についても試食を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業で完成させたレシピを復習し、調理のシュミレーションを行ってから授業に臨む。授業後は、実習内容を振り返り、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	脂質コントロール食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質コントロール食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立作成を行う。次回授業の脂質コントロール食調理実習献立について、説明を受けながらレシピを完成させる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの該当箇所を予習して授業に臨む。授業後は、授業内容を復習し、献立課題を完成させる。
	教室外学習の	120分

	時間（分）	
第6回	**授業テーマ**	脂質コントロール食の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的な脂質コントロール食のレシピを基にグループに分かれて調理を行い、試食、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業で完成させたレシピを復習し、調理のシュミレーションを行ってから授業に臨む。授業後は、実習内容を振り返り、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	減塩食、たんぱく質コントロール食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	減塩食、たんぱく質コントロール食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立作成を行う。次回から連続する授業の減塩食、たんぱく質コントロール食調理実習献立について、説明を受けながらレシピを完成させる。 ※腎臓病食品交換表を使用
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの該当箇所を予習して授業に臨む。授業後は、授業内容を復習し、献立課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	**授業テーマ**	減塩食の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的な減塩食のレシピを基にグループに分かれて調理を行い、試食、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業で完成させたレシピを復習し、調理のシュミレーションを行ってから授業に臨む。授業後は、実習内容を振り返り、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	たんぱく質コントロール食の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的なたんぱく質コントロール食のレシピを基にグループに分かれて調理を行い、試食、考察する。食事療法で活用されている食品類についても試食を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前々回授業で完成させたレシピを復習し、調理のシュミレーションを行ってから授業に臨む。授業後は、実習内容を振り返り、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	行事食、嚥下食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行事食、嚥下食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立作成を行う。次回授業の行事食調理実習献立について、説明を受けながらレシピを完成させる。
	教室外学	テキストの該当箇所を予習して授業に臨む。授業後は、授業内容を復

	習(予習・復習)の内容	習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	行事食の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行事食のレシピを基にグループに分かれて調理を行い、試食、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業で完成させたレシピを復習し、調理のシュミレーションを行ってから授業に臨む。授業後は、実習内容を振り返り、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	嚥下食の試食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	嚥下障害のある患者に適したスプーンを用い、市販されている嚥下食を試食、考察する。嚥下食は、実際に提供することを想定した盛り付けを考える。加えて、大江スミ先生のワン・パウンド・ケークのレシピを基に調理し、試食する。調理実習最終回のため、実習室の大掃除を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前々回授業の内容やワン・パウンド・ケークのレシピを復習し、段取りのシュミレーションを行ってから授業に臨む。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	栄養指導媒体作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	治療食の栄養食事指導で用いる栄養媒体を作成する。また、入院患者に行事食を提供する際に添える行事食カードを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自、媒体の構想を練っておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業内容についてまとめを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

実習を通して、栄養ケアマネジメントの手法を学習する。

学生へのフィードバック方法

提出物は、添削し返却する。

評価方法

提出物と定期試験で評価する。
なお、これらの評価は、授業内で説明するルーブリックに沿って行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	○
提出物	○	○		○
定期試験	○	○		

評価割合

提出物（20%）、定期試験（80%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

栄養食事療法の実習 栄養ケアマネジメント第14版 本田佳子編 医歯薬出版株式会社（前期テキストと同様）
新臨床栄養学 栄養ケアマネジメント第5版 本田佳子編 医歯薬出版株式会社（前期テキストと同様）
食品成分表
糖尿病食事療法のための食品交換表
腎臓病食品交換表

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により、総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【技術・表現】体系的学習を通じて、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能を身につけている。

オフィスアワー

金澤：火曜3時限 城田：木曜3時限

学生へのメッセージ

臨床栄養ケアマネジメント論での学びを基礎とした実習です。両科目を繋げ、臨床栄養ケアマネジメントについてしっかり理解しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、病院管理栄養士としての実務経験を有している（病院給食における栄養管理やNSTにおける管理栄養士の役割、栄養士活動や栄養ケアプランの作成方法、評価方法、治療食献立の作成や調理など）。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク（調理実習）
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02052034
講義名	臨床栄養ケアマネジメント実習（HD）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	城田 直子	指定なし

ナンバリング

H33706C13

授業概要(教育目的)

臨床栄養ケアマネジメント論で学んだ理論をいかに実践に応用・活用するか、について一連の方法を実習する。具体的には、患者を対象とした栄養管理、栄養ケアプランの作成方法、実施方法、評価方法を学んでもらう。献立や治療食を作成するなど疾患の状態に応じた栄養管理では、調理実習を含めて学びを修得させる。また、各種治療用特殊食品を用いた調理実習も実施し、管理栄養士として必要な知識となる治療用特殊食品の特徴や扱い方などについても学び、理解を深めてもらう。

履修条件

特に無し

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	臨床栄養ケアマネジメント論の理論を関連付け、応用できる。
思考・判断の観点 (K)	様々な栄養ケアプランの作成方法、実施方法、評価方法を判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	献立を元に事前に調理実習の工程を考え、実習班内で効率よく分担し、積極的に調理実習に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	疾患の状態に応じた栄養管理を献立や調理に応用できる。

学習計画

	授業テーマ	易消化食
	学習内容(ｱｸﾃ	

第1回	**ｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	易消化食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立作成を行う。次回授業の易消化食調理実習献立について、説明を受けながらレシピを完成させる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの該当箇所を予習して授業に臨む。授業後は、授業内容を復習し、献立課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	易消化食の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的な易消化食のレシピを基にグループに分かれて調理を行い、試食、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業で完成させたレシピを復習し、調理のシュミレーションを行ってから授業に臨む。授業後は、実習内容を振り返り、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	エネルギーコントロール食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エネルギーコントロール食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立作成を行う。次回授業のエネルギーコントロール食調理実習献立について、説明を受けながらレシピを完成させる。 ※糖尿病食事療法のための食品交換表を使用
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの該当箇所を予習して授業に臨む。授業後は、授業内容を復習し、献立課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	**授業テーマ**	エネルギーコントロール食の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的なエネルギーコントロール食のレシピを基にグループに分かれて調理を行い、試食、考察する。食事療法で活用されている食品類についても試食を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業で完成させたレシピを復習し、調理のシュミレーションを行ってから授業に臨む。授業後は、実習内容を振り返り、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	脂質コントロール食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質コントロール食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立作成を行う。次回授業の脂質コントロール食調理実習献立について、説明を受けながらレシピを完成させる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの該当箇所を予習して授業に臨む。授業後は、授業内容を復習し、献立課題を完成させる。
	教室外学習の	120分

	時間（分）	
第6回	**授業テーマ**	脂質コントロール食の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的な脂質コントロール食のレシピを基にグループに分かれて調理を行い、試食、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業で完成させたレシピを復習し、調理のシュミレーションを行ってから授業に臨む。授業後は、実習内容を振り返り、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	減塩食、たんぱく質コントロール食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	減塩食、たんぱく質コントロール食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立作成を行う。次回から連続する授業の減塩食、たんぱく質コントロール食調理実習献立について、説明を受けながらレシピを完成させる。 ※腎臓病食品交換表を使用
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの該当箇所を予習して授業に臨む。授業後は、授業内容を復習し、献立課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	**授業テーマ**	減塩食の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的な減塩食のレシピを基にグループに分かれて調理を行い、試食、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業で完成させたレシピを復習し、調理のシュミレーションを行ってから授業に臨む。授業後は、実習内容を振り返り、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	たんぱく質コントロール食の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的なたんぱく質コントロール食のレシピを基にグループに分かれて調理を行い、試食、考察する。食事療法で活用されている食品類についても試食を通して学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前々回授業で完成させたレシピを復習し、調理のシュミレーションを行ってから授業に臨む。授業後は、実習内容を振り返り、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	行事食、嚥下食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行事食、嚥下食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立作成を行う。次回授業の行事食調理実習献立について、説明を受けながらレシピを完成させる。
	教室外学	テキストの該当箇所を予習して授業に臨む。授業後は、授業内容を復

	習(予習・復習)の内容	習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	行事食の調理実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行事食のレシピを基にグループに分かれて調理を行い、試食、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回授業で完成させたレシピを復習し、調理のシュミレーションを行ってから授業に臨む。授業後は、実習内容を振り返り、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	嚥下食の試食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	嚥下障害のある患者に適したスプーンを用い、市販されている嚥下食を試食、考察する。嚥下食は、実際に提供することを想定した盛り付けを考える。加えて、大江スミ先生のワン・パウンド・ケークのレシピを基に調理し、試食する。調理実習最終回のため、実習室の大掃除を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前々回授業の内容やワン・パウンド・ケークのレシピを復習し、段取りのシュミレーションを行ってから授業に臨む。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	栄養指導媒体作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	治療食の栄養食事指導で用いる栄養媒体を作成する。また、入院患者に行事食を提供する際に添える行事食カードを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自、媒体の構想を練っておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの授業内容についてまとめを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

実習を通して、栄養ケアマネジメントの手法を学習する。

学生へのフィードバック方法

提出物は、添削し返却する。

評価方法

提出物と定期試験で評価する。
なお、これらの評価は、授業内で説明するルーブリックに沿って行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	○
提出物	○	○		○
定期試験	○	○		

評価割合

提出物（20%）、定期試験（80%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

栄養食事療法の実習 栄養ケアマネジメント第14版 本田佳子編 医歯薬出版株式会社（前期テキストと同様）
新臨床栄養学 栄養ケアマネジメント第5版 本田佳子編 医歯薬出版株式会社（前期テキストと同様）
食品成分表
糖尿病食事療法のための食品交換表
腎臓病食品交換表

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により、総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【技術・表現】体系的学習を通じて、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能を身につけている。

オフィスアワー

金澤：火曜3時限 城田：木曜3時限

学生へのメッセージ

臨床栄養ケアマネジメント論での学びを基礎とした実習です。両科目を繋げ、臨床栄養ケアマネジメントについてしっかり理解しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、病院管理栄養士としての実務経験を有している（病院給食における栄養管理やNSTにおける管理栄養士の役割、栄養士活動や栄養ケアプランの作成方法、評価方法、治療食献立の作成や調理など）。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク（調理実習）
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02053031
講義名	公衆栄養学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	會退 友美	指定なし
非常勤講師	池田 しのぶ	指定なし

ナンバリング

H23801C21

授業概要(教育目的)

住民のQOLの向上と、健康の保持・増進のために、地域、国家のような集団・社会レベルで栄養問題と、それを取り巻く自然、文化、経済的要因との関連を分析し、あるいはニーズを把握し、適切な公衆栄養プログラムを計画・実施・モニタリング・評価・フィードバックするための知識と技能を養う。公衆栄養学では、特に、わが国および諸外国の健康・栄養問題の現状、課題及びそれらに対応した公衆栄養政策について理解を深める。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	健康の保持・増進のために、地域、国家のような集団・社会レベルで栄養問題、あるいはニーズを把握する。
思考・判断の観点 (K)	上記を取り巻く自然、文化、経済的要因との関連を分析し、適切な公衆栄養プログラムを計画・実施・モニタリング・評価・フィードバックするといった、思考・判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	わが国および諸外国の健康・栄養問題の現状、課題及びそれらに対応した公衆栄養政策について積極的にかかわり改善意欲を身につける。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	授業テーマ	１．公衆栄養の概念，公衆栄養活動の意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	わが国の法律の仕組みと健康づくりに関する法令とその役割を知る。 公衆栄養学と管理栄養士の役目を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養士法、健康増進法、地域保健法 母子保健法、高齢者の医療の確保に関する法律、食品衛生法、介護保険法、食品安全基本法、食料・農業・農村基本法、食育基本法、学校給食法について、教科書の巻末の栄養関連法規を読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第2回	授業テーマ	２．公衆栄養学に関わる法令
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公衆栄養活動に関わる根拠法令について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により、わが国の公衆栄養活動に関わる法令を読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第3回	授業テーマ	２．わが国の健康・栄養問題の現状と課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	わが国の人口構造の変化、超高齢社会、健康・栄養問題と健康状態の変化について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により、わが国の人口構造と、それに伴う健康・栄養問題の現状と課題を読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第4回	授業テーマ	４．健康日本21①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	わが国の国民健康づくり政策について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により、健康づくり政策に関する内容を読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第5回	授業テーマ	５．健康日本21②、健康増進計画、食育推進基本計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	健康増進法、食育基本法に基づいて行われる国の健康づくり政策、都道府県、市町村の計画をついて理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により健康日本21、食育推進基本計画に関する内容を読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第6回	**授業テーマ**	６．行政栄養士の業務、役割
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保健所、市町村保健センターそれぞれの行政栄養士の役割を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	行政栄養士業務指針について、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第7回	**授業テーマ**	７．国民健康・栄養調査の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	わが国の国民健康・栄養調査の目的・方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により、栄養施策の国民健康・栄養調査について読む。また、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所のHPにある同調査の「 国民健康・栄養調査の結果と現状について」を読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第8回	**授業テーマ**	８．食品表示等
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行政栄養士の食品表示に関わる指導について、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により、食品表示に関わる内容を読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第9回	**授業テーマ**	９．特定給食施設指導、栄養管理報告書等
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保健所業務である特定給食施設指導について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により、特定給食施設指導について、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
	授業テーマ	10．特定健診・保健指導
	学習内容(ｱｸﾃｨ	

第10回	ﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自治体で実施する特定健診・保健指導を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により、特定健診・保健指導について、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第11回	授業テーマ	10．栄養施策に関する指針やツール
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	健康・栄養食生活改善のための指針やツールを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により、他ツール運動指針、食事バランスガイド、食育ガイド及び健康な食事について、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第12回	授業テーマ	12．食料需給表、自給と食品ロス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	我が国の食糧需給について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により、食糧需給について、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第13回	授業テーマ	13．諸外国における健康・栄養問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	諸外国の健康・栄養状態，栄養素摂取の概況について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により、国際的に健康状態や栄養状態を比較するときに用いられる指標や国際機関による健康・栄養・食料政策について、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第14回	授業テーマ	15．まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の健康づくり政策に基づいた公衆栄養活動における行政栄養士の役割など全体像を整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1～13回に配布したプリントや教科書を読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。
	教室外学習の時	予習・復習合わせて180分

	間（分）	

学生へのフィードバック方法

質問等あった場合には、個別にgmailまたはクラスルーム等で対応する。

評価方法

全回で学んだ内容について、定期試験で評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期テスト	○	○		

評価割合

定期試験(100%)で評価する

使用教科書名(ISBN番号)

公衆栄養学，酒井徹他編（医歯薬出版）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物、そして地域との相互関係から「人間の栄養」を理解する。
【思考・判断】学際的な学習を通じて、個人から地域コミュニティ、グローバルな観点から現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決を模索する。
【関心・意欲・態度の観点】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思を持つ。

オフィスアワー

木曜日昼休み

学生へのメッセージ

心身の健全な発育・発達、健康の保持・増進、疾病予防と治療に貢献することを念頭としながら「問題は何か、解決するためにどうするのか」という取組意欲をもつ受講を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、公衆栄養臨地実習の指導を通し、各実習先における状況を踏まえ、授業に活かす。
アクティブ・ラーニング	○	学びに関わる動画の視聴、調べ学習
情報リテラシー教育	○	政府刊行物、白書
ICT活用	○	政府統計データ、学びに関わる動画の視聴

講義コード	H02054031
講義名	地域栄養活動論(HA、HB)
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	會退 友美	指定なし

ナンバリング

H33802C21

授業概要(教育目的)

公衆栄養マネジメントの概念、既存の理論的枠組みを理解し、公衆栄養プログラムの計画策定・実施する手法や技能を修得すると共に、具体的な公衆栄養プログラムについての理解を深める。地域住民を主体としたネットワークづくりや、食環境整備を含めた地域での公衆栄養活動の進め方について理解する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	公衆栄養マネジメントの概念、既存の理論的枠組みを理解し、公衆栄養プログラムの計画策定・実施する手法や技能を修得すると共に、具体的な公衆栄養プログラムについての理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	地域住民を主体としたネットワークづくりの必要性や、食環境整備を含めた地域での公衆栄養活動の推進が思考・判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実情に応じた公衆栄養マネージメントにより、関心・意欲を高めることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	公衆栄養マネジメントの概念とプロセス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第1回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公衆栄養マネージメントの必要性・対象と実施者・プロセス・モデルについて、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により、同概念と同対象を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第2回	授業テーマ	公衆栄養プロセスとアセスメント・評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アセスメントの種類、流れ、主要な役割、プロセス改善との関係などを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により、アセスメントの項目と目的・枠組みプロセス改善を理解する。配布プリントにより、復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第3回	授業テーマ	公衆栄養アセスメント（地域の状況）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公衆栄養プログラムのアセスメントと計画を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により、プログラムの目標設定や地域社会資源の把握や施策のアセスメント等について、読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第4回	授業テーマ	公衆栄養アセスメント（食事摂取基準の活用）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域集団における食事摂取基準の活用について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により、食事摂取基準による評価方法を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第5回	授業テーマ	公衆栄養アセスメント（調査方法）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公衆栄養アセスメントに用いられるさまざまな調査方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により、調査方法に関するを読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第6回	授業テーマ	公衆栄養アセスメント（栄養疫学①）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公衆栄養活動に用いられる栄養疫学について、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養疫学に関する内容を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
	授業テーマ	公衆栄養アセスメント（栄養疫学②）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	公衆栄養活動に用いられる栄養疫学について、理解する。

第7回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養疫学に関する内容を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第8回	授業テーマ	公衆栄養プログラムの目標設定・評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公衆栄養プログラムの目標設定と評価を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により、プログラムの目標設定や評価について、読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第9回	授業テーマ	公衆栄養プログラムの計画・実施（民参加とコミュニティ・オーガニゼーション）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公衆栄養プログラムの計画と住民参加を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により、プログラムの目標設定や地域社会資源の把握や施策のアセスメント等について、読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第10回	授業テーマ	公衆栄養活動に関わる関連法規と行政栄養士の役割
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公衆栄養活動に関わる関連法規と保健所、市町村それぞれの行政栄養士の役割について、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により、行政栄養士の役割を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第11回	授業テーマ	ライフステージ別プログラムの展開（母子保健）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行政における母子保健の役割について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により、母子保健に関わる内容を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第12回	授業テーマ	ライフステージ別プログラムの展開（地域包括ケアシステム）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢期の人々に対する公衆栄養活動について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により高齢期に関わる公衆栄養プログラムの内容を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
	授業テーマ	地域特性に対応したプログラムの展開（健康危機管理）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	災害に関する行政栄養士の役割について理解する。

第13回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により健康危機管理に関する内容を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第14回	授業テーマ	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第1～13回目に学んだ公衆栄養活動の流れと行政栄養士の役割を整理する
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1～13回に学んだ箇所を復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分

学生へのフィードバック方法

実施した小テストは、採点して授業の中で解説する。併せてリアクションペーパーにより質問や理解度について把握し、その結果を返却する。

評価方法

全ての回で学んだことを確認するため、定期試験で評価を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期テスト	○	○		

評価割合

定期試験(100%)で評価する

使用教科書名(ISBN番号)

公衆栄養学 酒井徹他編（医歯薬出版）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につける。
【思考・判断】課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。
【関心・意欲・態度の観点】他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につける

オフィスアワー

木曜日昼休み

学生へのメッセージ

公衆栄養学で学んだ課題の提起と解決の取組みについて、地域・職域の公衆栄養活動を効果的に実践するため知識を深める。このために必要な他の専門科目との繋がりをもって受講することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、公衆栄養臨地実習の指導を通して各自治体の状況を授業に活かす。

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	白書等政府刊行物の利用
ICT活用	○	府省庁のガイドライン、統計資料の閲覧・ダウンロード

講義コード	H02054032
講義名	地域栄養活動論(HC、HD)
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	會退 友美	指定なし

ナンバリング

H33802C21

授業概要(教育目的)

公衆栄養マネジメントの概念、既存の理論的枠組みを理解し、公衆栄養プログラムの計画策定・実施する手法や技能を修得すると共に、具体的な公衆栄養プログラムについての理解を深める。地域住民を主体としたネットワークづくりや、食環境整備を含めた地域での公衆栄養活動の進め方について理解する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	公衆栄養マネジメントの概念、既存の理論的枠組みを理解し、公衆栄養プログラムの計画策定・実施する手法や技能を修得すると共に、具体的な公衆栄養プログラムについての理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	地域住民を主体としたネットワークづくりの必要性や、食環境整備を含めた地域での公衆栄養活動の推進が思考・判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実情に応じた公衆栄養マネージメントにより、関心・意欲を高めることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	公衆栄養マネジメントの概念とプロセス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第1回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公衆栄養マネージメントの必要性・対象と実施者・プロセス・モデルについて、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により、同概念と同対象を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第2回	授業テーマ	公衆栄養プロセスとアセスメント・評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アセスメントの種類、流れ、主要な役割、プロセス改善との関係などを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により、アセスメントの項目と目的・枠組みプロセス改善を理解する。配布プリントにより、復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第3回	授業テーマ	公衆栄養アセスメント（地域の状況）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公衆栄養プログラムのアセスメントと計画を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により、プログラムの目標設定や地域社会資源の把握や施策のアセスメント等について、読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第4回	授業テーマ	公衆栄養アセスメント（食事摂取基準の活用）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域集団における食事摂取基準の活用について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により、食事摂取基準による評価方法を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第5回	授業テーマ	公衆栄養アセスメント（調査方法）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公衆栄養アセスメントに用いられるさまざまな調査方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により、調査方法に関するを読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第6回	授業テーマ	公衆栄養アセスメント（栄養疫学①）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公衆栄養活動に用いられる栄養疫学について、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養疫学に関する内容を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
	授業テーマ	公衆栄養アセスメント（栄養疫学②）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	公衆栄養活動に用いられる栄養疫学について、理解する。

第7回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養疫学に関する内容を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第8回	授業テーマ	公衆栄養プログラムの目標設定・評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公衆栄養プログラムの目標設定と評価を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により、プログラムの目標設定や評価について、読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第9回	授業テーマ	公衆栄養プログラムの計画・実施（民参加とコミュニティ・オーガニゼーション）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公衆栄養プログラムの計画と住民参加を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により、プログラムの目標設定や地域社会資源の把握や施策のアセスメント等について、読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第10回	授業テーマ	公衆栄養活動に関わる関連法規と行政栄養士の役割
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公衆栄養活動に関わる関連法規と保健所、市町村それぞれの行政栄養士の役割について、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により、行政栄養士の役割を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第11回	授業テーマ	ライフステージ別プログラムの展開（母子保健）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行政における母子保健の役割について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により、母子保健に関わる内容を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第12回	授業テーマ	ライフステージ別プログラムの展開（地域包括ケアシステム）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢期の人々に対する公衆栄養活動について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により高齢期に関わる公衆栄養プログラムの内容を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
	授業テーマ	地域特性に対応したプログラムの展開（健康危機管理）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	災害に関する行政栄養士の役割について理解する。

第13回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書により健康危機管理に関する内容を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第14回	授業テーマ	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第1～13回目に学んだ公衆栄養活動の流れと行政栄養士の役割を整理する
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1～13回に学んだ箇所を復習すること。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分

学生へのフィードバック方法

実施した小テストは、採点して授業の中で解説する。併せてリアクションペーパーにより質問や理解度について把握し、その結果を返却する。

評価方法

全ての回で学んだことを確認するため、定期試験で評価を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期テスト	○	○		

評価割合

定期試験(100%)で評価する

使用教科書名(ISBN番号)

公衆栄養学 酒井徹他編（医歯薬出版）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につける。
【思考・判断】課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。
【関心・意欲・態度の観点】他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につける

オフィスアワー

木曜日昼休み

学生へのメッセージ

公衆栄養学で学んだ課題の提起と解決の取組みについて、地域・職域の公衆栄養活動を効果的に実践するため知識を深める。このために必要な他の専門科目との繋がりをもって受講することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、公衆栄養臨地実習の指導を通して各自治体の状況を授業に活かす。

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	白書等政府刊行物の利用
ICT活用	○	府省庁のガイドライン、統計資料の閲覧・ダウンロード

講義コード	H02055031
講義名	公衆栄養学実習（HA）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	會退 友美	指定なし

ナンバリング

H33803C13

授業概要(教育目的)

公衆栄養学で学んだ理論を基に、集団の栄養問題、社会ニーズを把握するために、社会調査法を用いて公衆栄養学の観点から地域診断を行い、それに基づいて地域栄養計画策定の方法論を学ぶ。グループで設定した対象地域・者にあわせて、ディスカッションし、自分の意見を表現する力，意見をまとめる力を習得する。

履修条件

公衆栄養学概念、健康・栄養問題の現状と課題、栄養政策、栄養疫学、栄養マネジメント、栄養プログラムの展開を理解していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	エビデンスに基づいた健康・栄養問題の現状と課題を理解する。
思考・判断の観点 (K)	調査結果から得られたエビデンスの合理的な利用と具体的な活用を考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	調査結果から得られたエビデンスを基に食習慣・生活習慣の改善への意識・関心を高める。
技術・表現の観点 (A)	政策や提案を実効性と継続性のある技術・表現を習得する。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーションとスマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」等の栄養調査について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	アセスメントのための各栄養調査による比較

第1回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	各栄養調査方法とその特徴を学ぶ教科書「栄養疫学」を読む予習をする。配付資料により、スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」復習し、実行日に決行する。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第2回	授業テーマ	写真より３日間の食物摂取量を推察する。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主食・主菜・副菜の区別を入力する 献立・食品重量を推察するとともに食品名の判定結果の×をつける 栄養価計算した推察値と真の値の食品ごとの重量とエネルギー等の差求める その結果どの食品がエネルギー，タンパク質等に影響が大きいかを調べる そのバラツキ（分布）を調べる
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習、復習により食品成分表の使用方法を理解する。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第3回	授業テーマ	写真より３日間の食物摂取量を推察する。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	推察値と真の値の食品ごとの重量とエネルギー等の差を調べる。 その結果どんな食品がエネルギー，タンパク質等にどのような影響があるのか、読み違いの要因は、どのような点があるのかを調べる。 推察値と真の値の食品ごとのエネルギー等の基本統計等を調べる。 そのバラツキ（分布）を調べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書・食事摂取基準等を参考にエネルギー産生栄養素とその割合を予習復習で理解する。 スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」の栄養調査をパートナーと完結しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第4回	授業テーマ	写真より３日間の食物摂取量を推察値と真の値を比較する。 スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」のパートナーから真の値と携帯写真24時間思い出し法の値を比較する。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	推察値と真の値の食品ごとの重量とエネルギー等の差を調べる。 その結果どんな食品がエネルギー，タンパク質等にどのような影響があるのか、読み違いの要因は、どのような点があるのかを調べる。 推察値と真の値の食品ごとのエネルギー等の基本統計等を調べる。 そのバラツキ（分布）を調べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」の真の値を計算しておく。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第5回	授業テーマ	統計処理方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本統計、相関、有意差検定を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の栄養疫学を予習し、配付資料を復習すること。

	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて60分
第6回	**授業テーマ**	写真記録法（推察値）と秤量記録法（真の値）を比較検討する。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様式に従った、入力、データチェックを行う。基本統計や相関を求める。 様式に従った、レポート作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書栄養疫学で栄養価数値の様式や配付資料の基本統計や相関を予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第7回	**授業テーマ**	携帯カメラ写真による24時間思い出し法による栄養調査の標準化について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	写真記録法の食品の同定・定量（推定値）と秤量記録法（真の値）の栄養価計算値の整理 クラス半数のデータを取得し、秤量記録法と写真記録法の栄養価の基本統計の比較や相関を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養調査結果数値の特性や基本統計量と相関関係の測定について、教科書栄養疫学と配付資料により予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第8回	**授業テーマ**	携帯カメラ写真による24時間思い出し法の栄養調査の標準化について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	写真記録法の食品の同定・定量（推定値）と秤量記録法（真の値）の栄養価計算値の整理 クラス半数のデータを取得し、秤量記録法と写真記録法の栄養価の基本統計の比較や相関を検討する。 文献の意義と検索方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の栄養疫学と配付資料により、文献や基本統計の比較や相関について予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第9回	**授業テーマ**	携帯カメラ写真記録による24時間思い出し法栄養調査の標準化について」のレポート作成（報告書）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	秤量記録法と写真記録法との比較（エネルギー・栄養素の基本統計量と相関等を測定） 読み取り違い例のまとめをする
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループごとのデータチェックを行うための適切な数値について、教科書の栄養疫学や配付資料により予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第10回	**授業テーマ**	携帯カメラを使った24時間思い出し方法と秤量法(ゴールドスタンダード)との検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	妥当性と標準化に向けた再現性の検討 偶然誤差と系統誤差、妥当性と精度について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の栄養疫学と配付資料により予習・復習をする。

	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第11回	**授業テーマ**	習慣的な食事調査結果（秤量法結果より）を食事摂取基準からみた検討について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事摂取基準値と調査結果から、栄養素で考え、食品・料理□（主食・主菜・副菜）で伝える事を学び、その適切に行える食生活習慣の改善点を考える。 食事摂取基準値の算出方法と活用について学ぶ。 栄養調査によって得られたＥＮ・栄養素を食事摂取基準と比較して課題を抽出する（３点程度に絞る） 主食｛穀類（ご飯・パン・麺）｝、主菜｛肉類・魚類・豆類など｝副菜｛野菜類など｝の観点からの課題 生活習慣からの課題（運動習慣等含む）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習(予習・復習)の内容教科書栄養マネジメントや配付資料により予習・復習をする。 教室外学習の時間（分）予習・復習合わせて180分
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて90分
第12回	**授業テーマ**	20歳代女子学生の習慣的な食事調査結果による食習慣・生活習慣の改善のポイント（食事摂取基準から）報告書の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	背景、目的、方法、結果、課題抽出 (食生活と生活習慣の観点から)、計画及び具体策 (食生活と生活習慣の観点から)、考察、実効性、継続性の両観点からまとめについて、プレゼン資料を班ごとに作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習目的の意義を今までの教科書の箇所と配付資料により予習・復習をする。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第13回	**授業テーマ**	習慣的な食事調査結果を食事摂取基準からみた検討等についてのプレゼンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集団に合わせた環境づくりの提案を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表する内容と評価基準について、今までを踏まえて予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第14回	**授業テーマ**	習慣的な食事調査結果を食事摂取基準からみた検討等についてのプレゼンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集団に合わせた環境づくりの提案を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表する内容と評価基準について、今までを踏まえて予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分

学生へのフィードバック方法

調査方法の確認やレポート作成時にアドバイスをする。

評価方法

・課題遂行能力、期限提出能力、データ作成・集計・チェック能力、データ分析能力、データ解析能力、意見調整・集約能力、まとめ・表現能力、説明能力、評価能力
・成績評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについてはクラスルーム内での配布等により掲示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業参加状況		○	○	○
グループワークの成果	○	○	○	○
レポート	○	○		○

評価割合

平常点(10%)、グループワークの成果（20%）、レポート(70%)から総合的に評価する

使用教科書名(ISBN番号)

公衆栄養学（医歯薬出版）酒井徹・由田克士編著

参考図書

スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」マニュアル（同文書院）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】食物接収状況の把握と生活習慣、ライフステージ域との関係から「人間の栄養」を理解する。
【思考・判断】・学際的な学習を通じて、個人から集団の現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決を模索する。
【関心・意欲・態度の観点】・「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思を持つ。

オフィスアワー

木曜日3時間目

学生へのメッセージ

公衆栄養学で学んだ課題の提起と解決の取組を公衆栄養活動の展開を学ぶ。実施するにあたり事前に他の専門科目との繋がりを想定し、その状況を踏まえて、受講することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、公衆栄養臨地実習の実習指導から各自治体の様子等を交えて授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク
情報リテラシー教育	○	政府刊行物、白書
ICT活用	○	政府統計データ、文献検索

講義コード	H02055032
講義名	公衆栄養学実習（HB）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	會退 友美	指定なし

ナンバリング

H33803C13

授業概要(教育目的)

公衆栄養学で学んだ理論を基に、集団の栄養問題、社会ニーズを把握するために、社会調査法を用いて公衆栄養学の観点から地域診断を行い、それに基づいて地域栄養計画策定の方法論を学ぶ。グループで設定した対象地域・者にあわせて、ディスカッションし、自分の意見を表現する力，意見をまとめる力を習得する。

履修条件

公衆栄養学概念、健康・栄養問題の現状と課題、栄養政策、栄養疫学、栄養マネジメント、栄養プログラムの展開を理解していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	エビデンスに基づいた健康・栄養問題の現状と課題を理解する。
思考・判断の観点 (K)	調査結果から得られたエビデンスの合理的な利用と具体的な活用を考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	調査結果から得られたエビデンスを基に食習慣・生活習慣の改善への意識・関心を高める。
技術・表現の観点 (A)	政策や提案を実効性と継続性のある技術・表現を習得する。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーションとスマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」等の栄養調査について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	アセスメントのための各栄養調査による比較

第1回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	各栄養調査方法とその特徴を学ぶ教科書「栄養疫学」を読む予習をする。配付資料により、スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」復習し、実行日に決行する。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第2回	授業テーマ	写真より３日間の食物摂取量を推察する。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主食・主菜・副菜の区別を入力する 献立・食品重量を推察するとともに食品名の判定結果の×をつける 栄養価計算した推察値と真の値の食品ごとの重量とエネルギー等の差求める その結果どの食品がエネルギー，タンパク質等に影響が大きいかを調べる そのバラツキ（分布）を調べる
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習、復習により食品成分表の使用方法を理解する。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第3回	授業テーマ	写真より３日間の食物摂取量を推察する。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	推察値と真の値の食品ごとの重量とエネルギー等の差を調べる。 その結果どんな食品がエネルギー，タンパク質等にどのような影響があるのか、読み違いの要因は、どのような点があるのかを調べる。 推察値と真の値の食品ごとのエネルギー等の基本統計等を調べる。 そのバラツキ（分布）を調べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書・食事摂取基準等を参考にエネルギー産生栄養素とその割合を予習復習で理解する。 スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」の栄養調査をパートナーと完結しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第4回	授業テーマ	写真より３日間の食物摂取量を推察値と真の値を比較する。 スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」のパートナーから真の値と携帯写真24時間思い出し法の値を比較する。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	推察値と真の値の食品ごとの重量とエネルギー等の差を調べる。 その結果どんな食品がエネルギー，タンパク質等にどのような影響があるのか、読み違いの要因は、どのような点があるのかを調べる。 推察値と真の値の食品ごとのエネルギー等の基本統計等を調べる。 そのバラツキ（分布）を調べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」の真の値を計算しておく。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第5回	授業テーマ	統計処理方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本統計、相関、有意差検定を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の栄養疫学を予習し、配付資料を復習すること。

	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて60分
第6回	**授業テーマ**	写真記録法（推察値）と秤量記録法（真の値）を比較検討する。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様式に従った、入力、データチェックを行う。基本統計や相関を求める。 様式に従った、レポート作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書栄養疫学で栄養価数値の様式や配付資料の基本統計や相関を予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第7回	**授業テーマ**	携帯カメラ写真による24時間思い出し法による栄養調査の標準化について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	写真記録法の食品の同定・定量（推定値）と秤量記録法（真の値）の栄養価計算値の整理 クラス半数のデータを取得し、秤量記録法と写真記録法の栄養価の基本統計の比較や相関を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養調査結果数値の特性や基本統計量と相関関係の測定について、教科書栄養疫学と配付資料により予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第8回	**授業テーマ**	携帯カメラ写真による24時間思い出し法の栄養調査の標準化について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	写真記録法の食品の同定・定量（推定値）と秤量記録法（真の値）の栄養価計算値の整理 クラス半数のデータを取得し、秤量記録法と写真記録法の栄養価の基本統計の比較や相関を検討する。 文献の意義と検索方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の栄養疫学と配付資料により、文献や基本統計の比較や相関について予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第9回	**授業テーマ**	携帯カメラ写真記録による24時間思い出し法栄養調査の標準化について」のレポート作成（報告書）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	秤量記録法と写真記録法との比較（エネルギー・栄養素の基本統計量と相関等を測定） 読み取り違い例のまとめをする
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループごとのデータチェックを行うための適切な数値について、教科書の栄養疫学や配付資料により予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第10回	**授業テーマ**	携帯カメラを使った24時間思い出し方法と秤量法(ゴールドスタンダード)との検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	妥当性と標準化に向けた再現性の検討 偶然誤差と系統誤差、妥当性と精度について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の栄養疫学と配付資料により予習・復習をする。

	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第11回	**授業テーマ**	習慣的な食事調査結果（秤量法結果より）を食事摂取基準からみた検討について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事摂取基準値と調査結果から、栄養素で考え、食品・料理□（主食・主菜・副菜）で伝える事を学び、その適切に行える食生活習慣の改善点を考える。 食事摂取基準値の算出方法と活用について学ぶ。 栄養調査によって得られたＥＮ・栄養素を食事摂取基準と比較して課題を抽出する（３点程度に絞る） 主食｛穀類（ご飯・パン・麺）｝、主菜｛肉類・魚類・豆類など｝副菜｛野菜類など｝の観点からの課題 生活習慣からの課題（運動習慣等含む）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習(予習・復習)の内容教科書栄養マネジメントや配付資料により予習・復習をする。 教室外学習の時間（分）予習・復習合わせて180分
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて90分
第12回	**授業テーマ**	20歳代女子学生の習慣的な食事調査結果による食習慣・生活習慣の改善のポイント（食事摂取基準から）報告書の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	背景、目的、方法、結果、課題抽出 (食生活と生活習慣の観点から)、計画及び具体策 (食生活と生活習慣の観点から)、考察、実効性、継続性の両観点からまとめについて、プレゼン資料を班ごとに作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習目的の意義を今までの教科書の箇所と配付資料により予習・復習をする。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第13回	**授業テーマ**	習慣的な食事調査結果を食事摂取基準からみた検討等についてのプレゼンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集団に合わせた環境づくりの提案を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表する内容と評価基準について、今までを踏まえて予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第14回	**授業テーマ**	習慣的な食事調査結果を食事摂取基準からみた検討等についてのプレゼンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集団に合わせた環境づくりの提案を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表する内容と評価基準について、今までを踏まえて予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分

学生へのフィードバック方法

調査方法の確認やレポート作成時にアドバイスをする。

評価方法

・課題遂行能力、期限提出能力、データ作成・集計・チェック能力、データ分析能力、データ解析能力、意見調整・集約能力、まとめ・表現能力、説明能力、評価能力
・成績評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについてはクラスルーム内での配布等により掲示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業参加状況		○	○	○
グループワークの成果	○	○	○	○
レポート	○	○		○

評価割合

平常点(10%)、グループワークの成果（20%）、レポート(70%)から総合的に評価する

使用教科書名(ISBN番号)

公衆栄養学（医歯薬出版）酒井徹・由田克士編著

参考図書

スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」マニュアル（同文書院）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】食物接収状況の把握と生活習慣、ライフステージ域との関係から「人間の栄養」を理解する。
【思考・判断】・学際的な学習を通じて、個人から集団の現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決を模索する。
【関心・意欲・態度の観点】・「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思を持つ。

オフィスアワー

木曜日3時間目

学生へのメッセージ

公衆栄養学で学んだ課題の提起と解決の取組を公衆栄養活動の展開を学ぶ。実施するにあたり事前に他の専門科目との繋がりを想定し、その状況を踏まえて、受講することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、公衆栄養臨地実習の実習指導から各自治体の様子等を交えて授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク
情報リテラシー教育	○	政府刊行物、白書
ICT活用	○	政府統計データ、文献検索

講義コード	H02055033
講義名	公衆栄養学実習（HC）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	會退 友美	指定なし

ナンバリング

H33803C13

授業概要(教育目的)

公衆栄養学で学んだ理論を基に、集団の栄養問題、社会ニーズを把握するために、社会調査法を用いて公衆栄養学の観点から地域診断を行い、それに基づいて地域栄養計画策定の方法論を学ぶ。グループで設定した対象地域・者にあわせて、ディスカッションし、自分の意見を表現する力，意見をまとめる力を習得する。

履修条件

公衆栄養学概念、健康・栄養問題の現状と課題、栄養政策、栄養疫学、栄養マネジメント、栄養プログラムの展開を理解していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	エビデンスに基づいた健康・栄養問題の現状と課題を理解する。
思考・判断の観点 (K)	調査結果から得られたエビデンスの合理的な利用と具体的な活用を考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	調査結果から得られたエビデンスを基に食習慣・生活習慣の改善への意識・関心を高める。
技術・表現の観点 (A)	政策や提案を実効性と継続性のある技術・表現を習得する。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーションとスマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」等の栄養調査について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	アセスメントのための各栄養調査による比較

第1回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	各栄養調査方法とその特徴を学ぶ教科書「栄養疫学」を読む予習をする。配付資料により、スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」復習し、実行日に決行する。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第2回	授業テーマ	写真より３日間の食物摂取量を推察する。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主食・主菜・副菜の区別を入力する 献立・食品重量を推察するとともに食品名の判定結果の×をつける 栄養価計算した推察値と真の値の食品ごとの重量とエネルギー等の差求める その結果どの食品がエネルギー，タンパク質等に影響が大きいかを調べる そのバラツキ（分布）を調べる
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習、復習により食品成分表の使用方法を理解する。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第3回	授業テーマ	写真より３日間の食物摂取量を推察する。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	推察値と真の値の食品ごとの重量とエネルギー等の差を調べる。 その結果どんな食品がエネルギー，タンパク質等にどのような影響があるのか、読み違いの要因は、どのような点があるのかを調べる。 推察値と真の値の食品ごとのエネルギー等の基本統計等を調べる。 そのバラツキ（分布）を調べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書・食事摂取基準等を参考にエネルギー産生栄養素とその割合を予習復習で理解する。 スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」の栄養調査をパートナーと完結しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第4回	授業テーマ	写真より３日間の食物摂取量を推察値と真の値を比較する。 スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」のパートナーから真の値と携帯写真24時間思い出し法の値を比較する。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	推察値と真の値の食品ごとの重量とエネルギー等の差を調べる。 その結果どんな食品がエネルギー，タンパク質等にどのような影響があるのか、読み違いの要因は、どのような点があるのかを調べる。 推察値と真の値の食品ごとのエネルギー等の基本統計等を調べる。 そのバラツキ（分布）を調べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」の真の値を計算しておく。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第5回	授業テーマ	統計処理方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本統計、相関、有意差検定を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の栄養疫学を予習し、配付資料を復習すること。

	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて60分
第6回	**授業テーマ**	写真記録法（推察値）と秤量記録法（真の値）を比較検討する。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様式に従った、入力、データチェックを行う。基本統計や相関を求める。 様式に従った、レポート作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書栄養疫学で栄養価数値の様式や配付資料の基本統計や相関を予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第7回	**授業テーマ**	携帯カメラ写真による24時間思い出し法による栄養調査の標準化について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	写真記録法の食品の同定・定量（推定値）と秤量記録法（真の値）の栄養価計算値の整理 クラス半数のデータを取得し、秤量記録法と写真記録法の栄養価の基本統計の比較や相関を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養調査結果数値の特性や基本統計量と相関関係の測定について、教科書栄養疫学と配付資料により予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第8回	**授業テーマ**	携帯カメラ写真による24時間思い出し法の栄養調査の標準化について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	写真記録法の食品の同定・定量（推定値）と秤量記録法（真の値）の栄養価計算値の整理 クラス半数のデータを取得し、秤量記録法と写真記録法の栄養価の基本統計の比較や相関を検討する。 文献の意義と検索方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の栄養疫学と配付資料により、文献や基本統計の比較や相関について予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第9回	**授業テーマ**	携帯カメラ写真記録による24時間思い出し法栄養調査の標準化について」のレポート作成（報告書）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	秤量記録法と写真記録法との比較（エネルギー・栄養素の基本統計量と相関等を測定） 読み取り違い例のまとめをする
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループごとのデータチェックを行うための適切な数値について、教科書の栄養疫学や配付資料により予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第10回	**授業テーマ**	携帯カメラを使った24時間思い出し方法と秤量法(ゴールドスタンダード)との検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	妥当性と標準化に向けた再現性の検討 偶然誤差と系統誤差、妥当性と精度について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の栄養疫学と配付資料により予習・復習をする。

	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第11回	**授業テーマ**	習慣的な食事調査結果（秤量法結果より）を食事摂取基準からみた検討について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事摂取基準値と調査結果から、栄養素で考え、食品・料理□（主食・主菜・副菜）で伝える事を学び、その適切に行える食生活習慣の改善点を考える。 食事摂取基準値の算出方法と活用について学ぶ。 栄養調査によって得られたＥＮ・栄養素を食事摂取基準と比較して課題を抽出する（３点程度に絞る） 主食｛穀類（ご飯・パン・麺）｝、主菜｛肉類・魚類・豆類など｝副菜｛野菜類など｝の観点からの課題 生活習慣からの課題（運動習慣等含む）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習(予習・復習)の内容教科書栄養マネジメントや配付資料により予習・復習をする。 教室外学習の時間（分）予習・復習合わせて180分
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて90分
第12回	**授業テーマ**	20歳代女子学生の習慣的な食事調査結果による食習慣・生活習慣の改善のポイント（食事摂取基準から）報告書の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	背景、目的、方法、結果、課題抽出 (食生活と生活習慣の観点から)、計画及び具体策 (食生活と生活習慣の観点から)、考察、実効性、継続性の両観点からまとめについて、プレゼン資料を班ごとに作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習目的の意義を今までの教科書の箇所と配付資料により予習・復習をする。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第13回	**授業テーマ**	習慣的な食事調査結果を食事摂取基準からみた検討等についてのプレゼンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集団に合わせた環境づくりの提案を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表する内容と評価基準について、今までを踏まえて予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第14回	**授業テーマ**	習慣的な食事調査結果を食事摂取基準からみた検討等についてのプレゼンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集団に合わせた環境づくりの提案を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表する内容と評価基準について、今までを踏まえて予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分

学生へのフィードバック方法

調査方法の確認やレポート作成時にアドバイスをする。

評価方法

・課題遂行能力、期限提出能力、データ作成・集計・チェック能力、データ分析能力、データ解析能力、意見調整・集約能力、まとめ・表現能力、説明能力、評価能力
・成績評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについてはクラスルーム内での配布等により掲示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業参加状況		○	○	○
グループワークの成果	○	○	○	○
レポート	○	○		○

評価割合

平常点(10%)、グループワークの成果（20%）、レポート(70%)から総合的に評価する

使用教科書名(ISBN番号)

公衆栄養学（医歯薬出版）酒井徹・由田克士編著

参考図書

スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」マニュアル（同文書院）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】食物接収状況の把握と生活習慣、ライフステージ域との関係から「人間の栄養」を理解する。
【思考・判断】・学際的な学習を通じて、個人から集団の現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決を模索する。
【関心・意欲・態度の観点】・「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思を持つ。

オフィスアワー

木曜日3時間目

学生へのメッセージ

公衆栄養学で学んだ課題の提起と解決の取組を公衆栄養活動の展開を学ぶ。実施するにあたり事前に他の専門科目との繋がりを想定し、その状況を踏まえて、受講することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、公衆栄養臨地実習の実習指導から各自治体の様子等を交えて授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク
情報リテラシー教育	○	政府刊行物、白書
ICT活用	○	政府統計データ、文献検索

講義コード	H02055034
講義名	公衆栄養学実習（HD）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	會退 友美	指定なし

ナンバリング

H33803C13

授業概要(教育目的)

公衆栄養学で学んだ理論を基に、集団の栄養問題、社会ニーズを把握するために、社会調査法を用いて公衆栄養学の観点から地域診断を行い、それに基づいて地域栄養計画策定の方法論を学ぶ。グループで設定した対象地域・者にあわせて、ディスカッションし、自分の意見を表現する力，意見をまとめる力を習得する。

履修条件

公衆栄養学概念、健康・栄養問題の現状と課題、栄養政策、栄養疫学、栄養マネジメント、栄養プログラムの展開を理解していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	エビデンスに基づいた健康・栄養問題の現状と課題を理解する。
思考・判断の観点 (K)	調査結果から得られたエビデンスの合理的な利用と具体的な活用を考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	調査結果から得られたエビデンスを基に食習慣・生活習慣の改善への意識・関心を高める。
技術・表現の観点 (A)	政策や提案を実効性と継続性のある技術・表現を習得する。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーションとスマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」等の栄養調査について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	アセスメントのための各栄養調査による比較

第1回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	各栄養調査方法とその特徴を学ぶ教科書「栄養疫学」を読む予習をする。配付資料により、スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」復習し、実行日に決行する。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第2回	授業テーマ	写真より３日間の食物摂取量を推察する。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主食・主菜・副菜の区別を入力する 献立・食品重量を推察するとともに食品名の判定結果の×をつける 栄養価計算した推察値と真の値の食品ごとの重量とエネルギー等の差求める その結果どの食品がエネルギー，タンパク質等に影響が大きいかを調べる そのバラツキ（分布）を調べる
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習、復習により食品成分表の使用方法を理解する。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第3回	授業テーマ	写真より３日間の食物摂取量を推察する。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	推察値と真の値の食品ごとの重量とエネルギー等の差を調べる。 その結果どんな食品がエネルギー，タンパク質等にどのような影響があるのか、読み違いの要因は、どのような点があるのかを調べる。 推察値と真の値の食品ごとのエネルギー等の基本統計等を調べる。 そのバラツキ（分布）を調べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書・食事摂取基準等を参考にエネルギー産生栄養素とその割合を予習復習で理解する。 スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」の栄養調査をパートナーと完結しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第4回	授業テーマ	写真より３日間の食物摂取量を推察値と真の値を比較する。 スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」のパートナーから真の値と携帯写真24時間思い出し法の値を比較する。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	推察値と真の値の食品ごとの重量とエネルギー等の差を調べる。 その結果どんな食品がエネルギー，タンパク質等にどのような影響があるのか、読み違いの要因は、どのような点があるのかを調べる。 推察値と真の値の食品ごとのエネルギー等の基本統計等を調べる。 そのバラツキ（分布）を調べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」の真の値を計算しておく。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習合わせて180分
第5回	授業テーマ	統計処理方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本統計、相関、有意差検定を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の栄養疫学を予習し、配付資料を復習すること。

	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて60分
第6回	**授業テーマ**	写真記録法（推察値）と秤量記録法（真の値）を比較検討する。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様式に従った、入力、データチェックを行う。基本統計や相関を求める。 様式に従った、レポート作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書栄養疫学で栄養価数値の様式や配付資料の基本統計や相関を予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第7回	**授業テーマ**	携帯カメラ写真による24時間思い出し法による栄養調査の標準化について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	写真記録法の食品の同定・定量（推定値）と秤量記録法（真の値）の栄養価計算値の整理 クラス半数のデータを取得し、秤量記録法と写真記録法の栄養価の基本統計の比較や相関を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養調査結果数値の特性や基本統計量と相関関係の測定について、教科書栄養疫学と配付資料により予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第8回	**授業テーマ**	携帯カメラ写真による24時間思い出し法の栄養調査の標準化について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	写真記録法の食品の同定・定量（推定値）と秤量記録法（真の値）の栄養価計算値の整理 クラス半数のデータを取得し、秤量記録法と写真記録法の栄養価の基本統計の比較や相関を検討する。 文献の意義と検索方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の栄養疫学と配付資料により、文献や基本統計の比較や相関について予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第9回	**授業テーマ**	携帯カメラ写真記録による24時間思い出し法栄養調査の標準化について」のレポート作成（報告書）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	秤量記録法と写真記録法との比較（エネルギー・栄養素の基本統計量と相関等を測定） 読み取り違い例のまとめをする
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループごとのデータチェックを行うための適切な数値について、教科書の栄養疫学や配付資料により予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第10回	**授業テーマ**	携帯カメラを使った24時間思い出し方法と秤量法(ゴールドスタンダード)との検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	妥当性と標準化に向けた再現性の検討 偶然誤差と系統誤差、妥当性と精度について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の栄養疫学と配付資料により予習・復習をする。

	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第11回	**授業テーマ**	習慣的な食事調査結果（秤量法結果より）を食事摂取基準からみた検討について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事摂取基準値と調査結果から、栄養素で考え、食品・料理□（主食・主菜・副菜）で伝える事を学び、その適切に行える食生活習慣の改善点を考える。 食事摂取基準値の算出方法と活用について学ぶ。 栄養調査によって得られたＥＮ・栄養素を食事摂取基準と比較して課題を抽出する（３点程度に絞る） 主食｛穀類（ご飯・パン・麺）｝、主菜｛肉類・魚類・豆類など｝副菜｛野菜類など｝の観点からの課題 生活習慣からの課題（運動習慣等含む）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習(予習・復習)の内容教科書栄養マネジメントや配付資料により予習・復習をする。 教室外学習の時間（分）予習・復習合わせて180分
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて90分
第12回	**授業テーマ**	20歳代女子学生の習慣的な食事調査結果による食習慣・生活習慣の改善のポイント（食事摂取基準から）報告書の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	背景、目的、方法、結果、課題抽出 (食生活と生活習慣の観点から)、計画及び具体策 (食生活と生活習慣の観点から)、考察、実効性、継続性の両観点からまとめについて、プレゼン資料を班ごとに作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習目的の意義を今までの教科書の箇所と配付資料により予習・復習をする。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第13回	**授業テーマ**	習慣的な食事調査結果を食事摂取基準からみた検討等についてのプレゼンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集団に合わせた環境づくりの提案を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表する内容と評価基準について、今までを踏まえて予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分
第14回	**授業テーマ**	習慣的な食事調査結果を食事摂取基準からみた検討等についてのプレゼンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集団に合わせた環境づくりの提案を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表する内容と評価基準について、今までを踏まえて予習・復習する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習合わせて180分

学生へのフィードバック方法

調査方法の確認やレポート作成時にアドバイスをする。

評価方法

・課題遂行能力、期限提出能力、データ作成・集計・チェック能力、データ分析能力、データ解析能力、意見調整・集約能力、まとめ・表現能力、説明能力、評価能力
・成績評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについてはクラスルーム内での配布等により掲示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業参加状況		○	○	○
グループワークの成果	○	○	○	○
レポート	○	○		○

評価割合

平常点(10%)、グループワークの成果（20%）、レポート(70%)から総合的に評価する

使用教科書名(ISBN番号)

公衆栄養学（医歯薬出版）酒井徹・由田克士編著

参考図書

スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」マニュアル（同文書院）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】食物接収状況の把握と生活習慣、ライフステージ域との関係から「人間の栄養」を理解する。
【思考・判断】・学際的な学習を通じて、個人から集団の現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決を模索する。
【関心・意欲・態度の観点】・「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思を持つ。

オフィスアワー

木曜日3時間目

学生へのメッセージ

公衆栄養学で学んだ課題の提起と解決の取組を公衆栄養活動の展開を学ぶ。実施するにあたり事前に他の専門科目との繋がりを想定し、その状況を踏まえて、受講することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、公衆栄養臨地実習の実習指導から各自治体の様子等を交えて授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク
情報リテラシー教育	○	政府刊行物、白書
ICT活用	○	政府統計データ、文献検索

講義コード	H02056031
講義名	給食経営管理論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	吉野 知子	指定なし

ナンバリング

H13901C21

授業概要(教育目的)

給食における栄養管理、安全・衛生管理、作業管理および施設管理等の給食運営の理論について講義する。さらに食品流通や給食に関わる経営全般を総合的に判断し、栄養面、安全面、経営面全体のマネジメントを行うための基礎理論について理解することを目的とする。具体的には、特定給食施設の概要と管理栄養士の配置基準、人事・労務管理、原価管理、給食業務の流れ、栄養管理と栄養教育、食事計画と献立作成、食材料管理、大量調理の特性と作業管理、HACCPと安全・衛生管理等について講義する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	特定給食施設について説明できる。 特定給食施設における給食経営管理全般について説明できる。 大量調理施設衛生管理マニュアルについて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	給食経営管理において各種サブシステムが具体的にどのように連動してトータルシステムを形成しているか理解し判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	給食経営管理関連の授業の流れ全般を説明する。 特定給食施設の概要を学ぶ。

第1回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	特定給食施設について復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	給食の概念 給食の運営
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特定給食施設の目的・役割を理解する。 対象者の違いにより様々な特定給食がある事を理解し、管理栄養士・栄養士の役割や位置づけを学ぶ。 給食のシステムと業務の流れを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第１章給食の概念、第２章給食の運営とマネジメントを読んで予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	栄養・食事管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特定給食施設において栄養・食事管理を実施するための利用者のアセスメント方法、マネジメント方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第３章栄養・食事管理を読んで予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	献立管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食運営の中心的役割を担う献立の種類や条件を理解する。 食事の品質向上の観点からPDCAサイクルの実践について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第４章献立管理を読んで予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	生産管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大量調理の特性を学ぶ。 給食の条件に応じた献立の生産(調理）工程・作業工程の計画と管理について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第５章生産管理を読んで予習しておく。 第２回、第３回、第４回の授業の要点をまとめ提出する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	品質管理 食材管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食における食事の品質管理について学ぶ。 食材の管理方法を理解し必要な帳票類の作成について学ぶ。 食材購入方法を理解し購買計画について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第６章品質管理、第７章食材管理を読んで予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	衛生・安全管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	安全・安心な給食を提供するための衛生管理の重要性について理解する。

第7回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	HACCPや大量調理施設衛生管理マニュアルについて具体的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第８章衛生・安全管理を読んで予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	施設・設備管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食の施設・設備を管理し正しく運用することの重要性を理解する。 設備機器、レイアウト、作業動線等も含めた施設・設備管理の範囲と要件について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第９章施設・設備管理を読んで予習しておく。 第５回、第６回、第７回の授業の要点をまとめ提出する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	経営管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	経営管理とは経営資源を有効活用して計画を達成するためのプロセスと経営計画の結果を管理することを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第１０章経営管理を読んで予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	マーケティング 顧客管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	マーケティングの意義・目的・機能を理解し給食における活用方法を学ぶ。 顧客管理の意義・目的を理解し顧客管理に欠かせない顧客満足度について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第１１章マーケティング、第１２章顧客管理を読んで予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	人事・労務管理 給食運営の委託
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人事・労務管理とは経営活動の主軸となる機能である「人」という資源を対象とした管理活動である事を学ぶ。 組織の目的・目標を達成するために「人」を効率よく活用し能力を最大限に引き出すことを理解する。 各種給食施設の委託状況、委託に関する制度、委託と受託側の役割について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第１３章人事・労務管理、第１４章給食運営の委託を読んで予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	原価管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成を理解する。 医療・介護制度等に応じた費用の仕組みと食事に関わる費用の算定方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復)	テキスト第１５章を読んで予習しておく。 第８回、第９回、第１０回、第11回の授業の要点をまとめ提

	習 の内容	出する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	危機管理 事務・情報管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食で想定される災害・事故を理解する。 被害の予防策、被害拡大の防止策、事故後の対策名等の実際について学ぶ。 給食運営業務と事務・情報管理の関係要点について理解する。介護制度等に応じた費用の仕組みと食事に関わる費用の算定方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第１６章危機管理、第１７章事務・情報管理を読んで予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	各種給食施設の給食運営の特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食施設毎の利用者の特徴、給食の目的、根拠法令、管理栄養士・栄養士の配置規定等を把握し理解する。 各種給食運営の概要と実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第１８章各種給食施設の給食運営の特徴を読んで予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	230分

学生へのフィードバック方法

授業の振替りとして毎回「確認テスト」を実施し、翌週に解答・解説を行う。

評価方法

定期試験：80%
平常点：20%
（平常点は授業への参加状況、課題の提出状況等で総合的に判断する）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○		
定期試験	○			

評価割合

定期試験（80%）、平常点（20%）で総合的に評価する

使用教科書名(ISBN番号)

給食経営管理論/三好恵子、山部秀子、平澤マキ/第一出版

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】給食経営管理に関わる専門的知識と、それらを社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。
【思考・判断】給食経営管理に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けた取り組みを判断できる力を身につけている。

オフィスアワー

木曜日3時限

学生へのメッセージ

この授業では、毎回授業内容の復習を兼ねて確認テストや課題に取り組みます。次のステップである学内外の実習の基本となる講義です。テキストと併行して2年生の実習の状況も授業内で適宜説明します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	特定給食施設の管理栄養士として実務経験を有している教員が、給食運営における各々の特定給食施設の特徴や基本的知識を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02057031
講義名	給食経営管理実習（HA）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	吉野 知子	指定なし

ナンバリング

H23902C13

授業概要(教育目的)

給食経営管理論の理論の実践を目的とする。この実習では、特定給食施設における大量調理の生産管理をはじめ、給食経営管理のサブシステム全般を学ぶ。給食経営の理念や目標を明確にし、 対象者のニーズに応じ、給与栄養目標量に見合った「食事」を作り、提供・サービスを行う。HACCPの概念に基づいた衛生管理による作業工程表を作成し、製品の品質管理および経営管理(コスト、労務、食材、施設・設備、時間、顧客、危機、情報）を実践する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	給食経営管理におけるPDCAサイクル及びサブシステム全般について説明ができる。 給与栄養目標量、喫食者の嗜好等を踏まえ、諸条件を考慮した献立作成について説明できる。 大量調理施設衛生管理マニュアルについて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	給食運営の一連の流れと時間管理を意識した臨機応変な判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	給食運営における各々の役割を理解し実習に積極的に取り組み、リーダーシップやコミュニケーション能力を発揮できる。
技術・表現の観点 (A)	給食運営で用いる大量調理機器の使用方法が身につく。 大量調理施設衛生管理マニュアルに準じた衛生管理ができる。

学習計画

	授業テーマ	給食経営のトータルプラン、栄養・食事計画、栄養教育計画
	学習内容(ｱｸﾃｨ	実習の流れとスケジュールを確認する。栄養・食事計画（献立作成

第1回	**ﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	等）と栄養教育計画（栄養媒体等）について学ぶ。試作の流れとスケジュールを確認する。グループワークにて献立を検討・決定し、試作時に必要な帳票類を作成し、期間献立表を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	考案した献立を自宅で作成し、調整内容を確認する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	給食運営管理、生産管理、衛生安全管理、試作準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生産管理（作業指示書、作業工程表）、食材管理（食材日計表、発注書）、衛生管理（調理室設備と厨房機器、使用方法）ついて学び確認する。 グループワークにより運営献立の試作実習の準備をする。試作時に使用する帳票を記入し提出する。栄養教育媒体検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	試作献立の内容とレシピを確認し自宅で作成する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	**授業テーマ**	試作実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自班の献立を作成し・評価する
	教室外学習(予習・復習)の内容	試作後の献立内容について確認・評価しておく。 当日の担当内容・レシピを確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	試作結果検討、試運転準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループワークにて、試作献立内容（変更・修正）を検討・確認する。 運営日の献立表、食材日計表、発注書、作業指示書、作業工程表について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	試作の変更点について自宅で調理し確認する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	試運転実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大量調理の試運転を実施する。運営1班の献立を用いて、実習室の流れ（動線、汚染区域・非汚染区域）、大量調理機器の使用方法、衛生管理等の確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作成する献立の内容とレシピを確認しておく。
	教室外学習の	60分

	時間（分）	
第6回	**授業テーマ**	運営実習準備１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	試運転終了後グループワークにて自班の運営の具体的なイメージの確認と作業指示書・工程表の見直しを行う。 運営日の献立表、食材日計表、発注書、作業指示書、作業工程表を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営時の帳票を準備・整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	運営実習準備２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営日の献立表、食材日計表、発注書、作業指示書、作業工程表を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	運営実習１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営班1班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営後の帳票の整理をしておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	運営実習２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営班2班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	運営実習３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営班3班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を行う。
	教室外学習(予	運営後の帳票の整理をしておく。

	習・復習)の内容	コンセプト・テーマに合わせ自分の班の運営献立を考案する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	**授業テーマ**	運営実習４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営班4班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	運営実習のまとめ１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営実習のまとめを実施する。実習の帳票類・成果物を確認しながら運営の振り返りを行う。 グループワークにて、運営献立表、作業指示書、日計表を作成し提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営後の帳票の整理をしておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	**授業テーマ**	運営実習のまとめ２、総合評価準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営実習のまとめを実施する。実習の帳票類・成果物を確認しながら運営の振り返りを行う。 グループワークにて、運営献立表、作業指示書、日計表を作成し提出する。 総合評価会の準備を行う。グループワークにて、帳票・成果物を「計画」「試作」「運営」「結果・評価」に分類し班ファイルを提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	班ファイルに必要な帳票類を作成しておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	**授業テーマ**	総合評価会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーション形式にて、4回の運営全体の総合評価を実施する。具体的には栄養・食事管理、原価・会計管理、生産・作業管理、品質管理、顧客管理、衛生安全管理のおけるクラスおよび各班の運営結果を評価する。実習における自己評価も実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習で学んだサブシステム、大量調理施設衛生管理マニュアルを復習する。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

※授業日程の変更等によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

班毎に毎回作成し提出する課題（献立表、日計表、発注書、作業指示書、作業工程表、その他帳票類）は、次回の授業までに添削、コメントして返却する。

評価方法

実習点と試験で総合的に評価する。
・実習点（実習技能、班のチームワークと貢献度、班の運営評価・成果物）
・筆記試験

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実習点	○	○	○	○
筆記試験	○			

評価割合

実習点80%、筆記試験20%で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

給食マネジメント実習/松月弘恵、韓順子、亀山良子/医歯薬出版

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】給食経営管理における専門的知識と、それらをそれらを社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。
【思考・判断】給食経営管理に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を取集して、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
【技術・表現】給食経営管理に関する専門技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

月曜日2,3限

学生へのメッセージ

給食経営管理実習では、大量調理用実習室にて100食程度の昼食を作ります。給給食経営管理論で学んだ事や調理技術だけでなく、実習ではリーダーシップやコミュニケーション能力も問われます。クラスの給食運営の理念を全員で共有し、給食経営管理のPDCAサイクルを実感しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	管理栄養士として特定給食施設の実務経験を有している教員が、給食経営管理の知識と大量調理に関する実践的な技術を指導する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02057032
講義名	給食経営管理実習（HB）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	建路 七織	指定なし

ナンバリング

H23902C13

授業概要(教育目的)

給食経営管理論の理論の実践を目的とする。この実習では、特定給食施設における大量調理の生産管理をはじめ、給食経営管理のサブシステム全般を学ぶ。給食経営の理念や目標を明確にし、 対象者のニーズに応じ、給与栄養目標量に見合った「食事」を作り、提供・サービスを行う。HACCPの概念に基づいた衛生管理による作業工程表を作成し、製品の品質管理および経営管理(コスト、労務、食材、施設・設備、時間、顧客、危機、情報）を実践する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	給食経営管理におけるPDCAサイクル及びサブシステム全般について説明ができる。 給与栄養目標量、喫食者の嗜好等を踏まえ、諸条件を考慮した献立作成について説明できる。 大量調理施設衛生管理マニュアルについて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	給食運営の一連の流れと時間管理を意識した臨機応変な判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	給食運営における各々の役割を理解し実習に積極的に取り組み、リーダーシップやコミュニケーション能力を発揮できる。
技術・表現の観点 (A)	給食運営で用いる大量調理機器の使用方法が身につく。 大量調理施設衛生管理マニュアルに準じた衛生管理ができる。

学習計画

	授業テーマ	給食経営のトータルプラン、栄養・食事計画、栄養教育計画
	学習内容(ｱｸﾃｨ	実習の流れとスケジュールを確認する。栄養・食事計画（献立作成

第1回	**ﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	等）と栄養教育計画（栄養媒体等）について学ぶ。試作の流れとスケジュールを確認する。グループワークにて献立を検討・決定し、試作時に必要な帳票類を作成し、期間献立表を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	考案した献立を自宅で作成し、調整内容を確認する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	給食運営管理、生産管理、衛生安全管理、試作準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生産管理（作業指示書、作業工程表）、食材管理（食材日計表、発注書）、衛生管理（調理室設備と厨房機器、使用方法）ついて学び確認する。 グループワークにより運営献立の試作実習の準備をする。試作時に使用する帳票を記入し提出する。栄養教育媒体検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	試作献立の内容とレシピを確認し自宅で作成する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	**授業テーマ**	試作実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自班の献立を作成し・評価する
	教室外学習(予習・復習)の内容	試作後の献立内容について確認・評価しておく。 当日の担当内容・レシピを確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	試作結果検討、試運転準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループワークにて、試作献立内容（変更・修正）を検討・確認する。 運営日の献立表、食材日計表、発注書、作業指示書、作業工程表について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	試作の変更点について自宅で調理し確認する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	試運転実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大量調理の試運転を実施する。運営1班の献立を用いて、実習室の流れ（動線、汚染区域・非汚染区域）、大量調理機器の使用方法、衛生管理等の確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作成する献立の内容とレシピを確認しておく。
	教室外学習の	60分

	時間（分）	
第6回	**授業テーマ**	運営実習準備１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	試運転終了後グループワークにて自班の運営の具体的なイメージの確認と作業指示書・工程表の見直しを行う。 運営日の献立表、食材日計表、発注書、作業指示書、作業工程表を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営時の帳票を準備・整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	運営実習準備２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営日の献立表、食材日計表、発注書、作業指示書、作業工程表を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	運営実習１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営班1班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営後の帳票の整理をしておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	運営実習２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営班2班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	運営実習３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営班3班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を行う。
	教室外学習(予	運営後の帳票の整理をしておく。

	習・復習)の内容	コンセプト・テーマに合わせ自分の班の運営献立を考案する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	**授業テーマ**	運営実習４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営班4班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	運営実習のまとめ１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営実習のまとめを実施する。実習の帳票類・成果物を確認しながら運営の振り返りを行う。 グループワークにて、運営献立表、作業指示書、日計表を作成し提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営後の帳票の整理をしておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	**授業テーマ**	運営実習のまとめ２、総合評価準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営実習のまとめを実施する。実習の帳票類・成果物を確認しながら運営の振り返りを行う。 グループワークにて、運営献立表、作業指示書、日計表を作成し提出する。 総合評価会の準備を行う。グループワークにて、帳票・成果物を「計画」「試作」「運営」「結果・評価」に分類し班ファイルを提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	班ファイルに必要な帳票類を作成しておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	**授業テーマ**	総合評価会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーション形式にて、4回の運営全体の総合評価を実施する。具体的には栄養・食事管理、原価・会計管理、生産・作業管理、品質管理、顧客管理、衛生安全管理のおけるクラスおよび各班の運営結果を評価する。実習における自己評価も実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習で学んだサブシステム、大量調理施設衛生管理マニュアルを復習する。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

※授業日程の変更等によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

班毎に毎回作成し提出する課題（献立表、日計表、発注書、作業指示書、作業工程表、その他帳票類）は、次回の授業までに添削、コメントして返却する。

評価方法

実習点と試験で総合的に評価する。
・実習点（実習技能、班のチームワークと貢献度、班の運営評価・成果物）
・筆記試験

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実習点	○	○	○	○
筆記試験	○			

評価割合

実習点80%、筆記試験20%で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

給食マネジメント実習/松月弘恵、韓順子、亀山良子/医歯薬出版

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】給食経営管理における専門的知識と、それらをそれらを社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。
【思考・判断】給食経営管理に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を取集して、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
【技術・表現】給食経営管理に関する専門技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

木曜日3限

学生へのメッセージ

給食経営管理実習では、大量調理用実習室にて100食程度の昼食を作ります。給食経営管理論で学んだ事や調理技術だけでなく、実習ではリーダーシップやコミュニケーション能力も問われます。クラスの給食運営の理念を全員で共有し、給食経営管理のPDCAサイクルを実感しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	管理栄養士として特定給食施設の実務経験を有している教員が、給食経営管理の知識と大量調理に関する実践的な技術を指導する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02057033
講義名	給食経営管理実習（HC）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	吉野 知子	指定なし

ナンバリング

H23902C13

授業概要(教育目的)

給食経営管理論の理論の実践を目的とする。この実習では、特定給食施設における大量調理の生産管理をはじめ、給食経営管理のサブシステム全般を学ぶ。給食経営の理念や目標を明確にし、 対象者のニーズに応じ、給与栄養目標量に見合った「食事」を作り、提供・サービスを行う。HACCPの概念に基づいた衛生管理による作業工程表を作成し、製品の品質管理および経営管理(コスト、労務、食材、施設・設備、時間、顧客、危機、情報）を実践する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	給食経営管理におけるPDCAサイクル及びサブシステム全般について説明ができる。 給与栄養目標量、喫食者の嗜好等を踏まえ、諸条件を考慮した献立作成について説明できる。 大量調理施設衛生管理マニュアルについて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	給食運営の一連の流れと時間管理を意識した臨機応変な判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	給食運営における各々の役割を理解し実習に積極的に取り組み、リーダーシップやコミュニケーション能力を発揮できる。
技術・表現の観点 (A)	給食運営で用いる大量調理機器の使用方法が身につく。 大量調理施設衛生管理マニュアルに準じた衛生管理ができる。

学習計画

	授業テーマ	給食経営のトータルプラン、栄養・食事計画、栄養教育計画
	学習内容(ｱｸﾃｨ	実習の流れとスケジュールを確認する。栄養・食事計画（献立作成

第1回	**ﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	等）と栄養教育計画（栄養媒体等）について学ぶ。試作の流れとスケジュールを確認する。グループワークにて献立を検討・決定し、試作時に必要な帳票類を作成し、期間献立表を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	考案した献立を自宅で作成し、調整内容を確認する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	給食運営管理、生産管理、衛生安全管理、試作準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生産管理（作業指示書、作業工程表）、食材管理（食材日計表、発注書）、衛生管理（調理室設備と厨房機器、使用方法）ついて学び確認する。 グループワークにより運営献立の試作実習の準備をする。試作時に使用する帳票を記入し提出する。栄養教育媒体検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	試作献立の内容とレシピを確認し自宅で作成する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	**授業テーマ**	試作実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自班の献立を作成し・評価する
	教室外学習(予習・復習)の内容	試作後の献立内容について確認・評価しておく。 当日の担当内容・レシピを確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	試作結果検討、試運転準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループワークにて、試作献立内容（変更・修正）を検討・確認する。 運営日の献立表、食材日計表、発注書、作業指示書、作業工程表について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	試作の変更点について自宅で調理し確認する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	試運転実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大量調理の試運転を実施する。運営1班の献立を用いて、実習室の流れ（動線、汚染区域・非汚染区域）、大量調理機器の使用方法、衛生管理等の確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作成する献立の内容とレシピを確認しておく。
	教室外学習の	60分

	時間（分）	
第6回	**授業テーマ**	運営実習準備１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	試運転終了後グループワークにて自班の運営の具体的なイメージの確認と作業指示書・工程表の見直しを行う。 運営日の献立表、食材日計表、発注書、作業指示書、作業工程表を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営時の帳票を準備・整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	運営実習準備２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営日の献立表、食材日計表、発注書、作業指示書、作業工程表を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	運営実習１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営班1班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営後の帳票の整理をしておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	運営実習２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営班2班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	運営実習３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営班3班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を行う。
	教室外学習(予	運営後の帳票の整理をしておく。

	習・復習)の内容	コンセプト・テーマに合わせ自分の班の運営献立を考案する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	**授業テーマ**	運営実習４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営班4班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	運営実習のまとめ１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営実習のまとめを実施する。実習の帳票類・成果物を確認しながら運営の振り返りを行う。 グループワークにて、運営献立表、作業指示書、日計表を作成し提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営後の帳票の整理をしておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	**授業テーマ**	運営実習のまとめ２、総合評価準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営実習のまとめを実施する。実習の帳票類・成果物を確認しながら運営の振り返りを行う。 グループワークにて、運営献立表、作業指示書、日計表を作成し提出する。 総合評価会の準備を行う。グループワークにて、帳票・成果物を「計画」「試作」「運営」「結果・評価」に分類し班ファイルを提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	班ファイルに必要な帳票類を作成しておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	**授業テーマ**	総合評価会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーション形式にて、4回の運営全体の総合評価を実施する。具体的には栄養・食事管理、原価・会計管理、生産・作業管理、品質管理、顧客管理、衛生安全管理のおけるクラスおよび各班の運営結果を評価する。実習における自己評価も実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習で学んだサブシステム、大量調理施設衛生管理マニュアルを復習する。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

※授業日程の変更等によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

班毎に毎回作成し提出する課題（献立表、日計表、発注書、作業指示書、作業工程表、その他帳票類）は、次回の授業までに添削、コメントして返却する。

評価方法

実習点と試験で総合的に評価する。
・実習点（実習技能、班のチームワークと貢献度、班の運営評価・成果物）
・筆記試験

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実習点	○	○	○	○
筆記試験	○			

評価割合

実習点80%、筆記試験20%で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

給食マネジメント実習/松月弘恵、韓順子、亀山良子/医歯薬出版

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】給食経営管理における専門的知識と、それらをそれらを社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。
【思考・判断】給食経営管理に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を取集して、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
【技術・表現】給食経営管理に関する専門技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

月曜日2,3限

学生へのメッセージ

給食経営管理実習では、大量調理用実習室にて100食程度の昼食を作ります。給食経営管理論で学んだ事や調理技術だけでなく、実習ではリーダーシップやコミュニケーション能力も問われます。クラスの給食運営の理念を全員で共有し、給食経営管理のPDCAサイクルを実感しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	管理栄養士として特定給食施設の実務経験を有している教員が、給食経営管理の知識と大量調理に関する実践的な技術を指導する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02058031
講義名	健康フードマネジメント論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	吉野 知子	指定なし

ナンバリング

H23903C21

授業概要(教育目的)

給食マネジメント、経営管理の基本を踏まえ、対象者に応じたフードサービスという視点から各種特定給食施設の特徴と給食の展開について講義する。具体的にはサブシステム管理手法を習得し、給食経営管理実習に繋げることも目的とする。また３年生が運営する給食を喫食することを原則とし、実際の給食を例にあげて解説する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各種特定給食施設の特徴と目的、対象者に応じた食事サービスを理解し各々の給食経営管理の手法を示すことができる。 大量調理の特徴と必要な帳票類について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	各種特定給食施設における管理栄養士の役割を理解し求められる能力について判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食経営管理関連の授業の流れと現時点の状況を理解する。 栄養計算ソフトの活用と献立入力課題の取り組みについて説明する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養計算ソフトの使用方法を確認しておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第2回	**授業テーマ**	給食経営管理の基本１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食のマネジメント：給食の概念と目的を理解し、各種給食の概要や管理栄養士・栄養士の配置や役割を理解する。 経営管理、経営組織：給食管理の概念・要素、経営組織、経営管理のプロセスの基本を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第1章給食のマネジメント、第２章給食における経営管理の基本（給食経営とは～経営管理のプロセス）を読んで予習しておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第3回	**授業テーマ**	給食経営管理の基本２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	会計管理：会計システムと財務諸表、原価管理について理解する。 人事管理：人事・労務管理、人材育成と教育研修について理解し人事管理における管理者の役割を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第２章給食における経営管理の基本（会計システムと財務諸表～部下の育成）を読んで予習しておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第4回	**授業テーマ**	給食経営管理の基本３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コントラクトフードサービス：コントラクトフードサービスの現状を把握し委託契約の基本を理解する。 マーケティングと情報管理：マーケティングの定義、機能を理解し給食におけるマーケティングについて学ぶ。 フードビジネス：内食・中食・外食市場の動向及び食市場全体の現状を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第２章給食における経営管理の基本（コントラクトフードサービス）、第３章情報管理を読んで予習しておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第5回	**授業テーマ**	給食経営管理の展開１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養・食事管理：栄養管理の意義と目的を理解し栄養管理計画及び栄養教育計画から食事計画への展開を学ぶ。 メニュー管理：給食におけるメニューの機能を理解しメニュー管理の展開をメニュープランニングの実際から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第４章栄養・食事管理、第５章メニュー管理を読んで予習しておく。 第１回、第２回、第３回の授業の要点をまとめ提出する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第6回	**授業テーマ**	給食経営管理の展開２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食材管理：食材管理の概要を理解し、食材の購入管理、発注・研修、保管・在庫管理について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第６章食材管理を読んで予習しておく。

	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	給食経営管理の展開３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生産管理：生産管理の構造、種類と特徴を理解する。調理作業の標準化の方法を学び調理作業工程表の作成方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第７章生産管理を読んで予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	給食経営管理の展開４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事サービス管理：食事サービス管理と供食システムの種類を理解する。食事サービスにおける制度管理の重要性と適温給食のための方法を学ぶ。食数管理の変動要因を理解し計数管理の実践を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第８章食事サービス管理を読んで予習しておく。 第４回、第５回、第６回の授業の要点をまとめ提出する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	給食経営管理の展開５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	リスクマネジメント：給食施設におけるリスクマネジメントと危機管理を学ぶ。リスクマネジメントとコンプライアンス（法令順守）について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第９章リスクマネジメントを読んで予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	給食経営管理の展開６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	施設・設備管理：給食の施設・設備管理の目的、対象と範囲を理解し、施設・設備計画を作成するためのシステム、調理室の条件、設計、機器、関連設備について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第１０章施設・設備管理を読んで予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	給食経営管理の実際１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	病院給食 医療を取り巻く環境と栄養管理の現状と理解し病院給食における特性と実践方法について学ぶ。 学校給食 学校給食を取り巻く環境と栄養管理の現状と理解し病院給食における特性と実践方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第１１章病院給食、第１２章学校給食を読んで予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	給食経営管理の実際２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗ	福祉施設給食（児童・高齢者）

第12回	ｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童・高齢者施設給食を取り巻く環境と栄養管理の現状と理解し病院給食における特性と実践方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第１３章児童福祉施設給食、第１４章高齢者福祉施設給食を読んで予習しておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第13回	授業テーマ	給食経営管理の実際３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事業所給食 事業所給食を取り巻く環境と栄養管理の現状と理解し病院給食における特性と実践方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第１５章事業所給食を読んで予習しておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第14回	授業テーマ	各種施設における給食経営管理のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各種施設における給食経営管理の特徴を比較整理し理解する。 喫食者実習の体験を踏まえて給食経営管理実習に向けての概要を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業内容を復習しておく。
	教室外学習の時間(分)	230分

学生へのフィードバック方法

授業の振替りとして毎回「確認テスト」を実施し、翌週に解答・解説を行う。

評価方法

定期試験、平常点で評価する。
（平常点は授業への参加状況、喫食者実習への参加、課題の提出状況等で総合的に判断する）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○		
定期試験	○			

評価割合

定期試験の得点（80%）、平常点（20%）で総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

実践 給食マネジメント論/髙城孝助・三好恵子・松月弘恵編著/第一出版

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多目的なカリキュラムの履修により、専門的知識と、それらを社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士としての専門職業人として自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を取集して、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。

オフィスアワー

木曜日：3時限

学生へのメッセージ

この授業では、毎回授業内容の復習を兼ねて課題に取り組みます。次のステップである学内外の実習の基本となる講義です。3年生の実習の喫食者も授業と並行して体験します。次期の実習に向けて目的を持って取り組みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	特定給食施設の管理栄養士として実務経験を有している教員が、給食運営における各々の特定給食施設の特徴や基本的知識を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02058032
講義名	健康フードマネジメント論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

H23903C21

授業概要(教育目的)

給食マネジメント、経営管理の基本を踏まえ、対象者に応じたフードサービスという視点から各種特定給食施設の特徴と給食の展開について講義する。具体的にはサブシステム管理手法を習得し、給食経営管理実習に繋げることも目的とする。また３年生が運営する給食を喫食することを原則とし、実際の給食を例にあげて解説する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各種特定給食施設の特徴と目的、対象者に応じた食事サービスを理解し各々の給食経営管理の手法を示すことができる。 大量調理の特徴と必要な帳票類について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	各種特定給食施設における管理栄養士の役割を理解し求められる能力について判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食経営管理関連の授業の流れと現時点の状況を理解する。 栄養計算ソフトの活用と献立入力課題の取り組みについて説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養計算ソフトの使用方法を確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	給食経営管理の基本１
	(	

第2回	学習内容 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食のマネジメント：給食の概念と目的を理解し、各種給食の概要や管理栄養士・栄養士の配置や役割を理解する。 経営管理、経営組織：給食管理の概念・要素、経営組織、経営管理のプロセスの基本を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第1章給食のマネジメント、第２章給食における経営管理の基本（給食経営とは～経営管理のプロセス）を読んで予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	給食経営管理の基本２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	会計管理：会計システムと財務諸表、原価管理について理解する。 人事管理：人事・労務管理、人材育成と教育研修について理解し人事管理における管理者の役割を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第２章給食における経営管理の基本（会計システムと財務諸表～部下の育成）を読んで予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	給食経営管理の基本３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コントラクトフードサービス：コントラクトフードサービスの現状を把握し委託契約の基本を理解する。 マーケティングと情報管理：マーケティングの定義、機能を理解し給食におけるマーケティングについて学ぶ。 フードビジネス：内食・中食・外食市場の動向及び食市場全体の現状を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第２章給食における経営管理の基本（コントラクトフードサービス）、第３章情報管理を読んで予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	給食経営管理の展開１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養・食事管理：栄養管理の意義と目的を理解し栄養管理計画及び栄養教育計画から食事計画への展開を学ぶ。 メニュー管理：給食におけるメニューの機能を理解しメニュー管理の展開をメニュープランニングの実際から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第４章栄養・食事管理、第５章メニュー管理を読んで予習しておく。 第１回、第２回、第３回の授業の要点をまとめ提出する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	給食経営管理の展開２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食材管理：食材管理の概要を理解し、食材の購入管理、発注・研修、保管・在庫管理について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第６章食材管理を読んで予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	給食経営管理の展開３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	生産管理：生産管理の構造、種類と特徴を理解する。調理作業の標準化の方法を学び調理作業工程表の作成方法を理解する。

第7回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第７章生産管理を読んで予習しておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第8回	授業テーマ	給食経営管理の展開４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事サービス管理：食事サービス管理と供食システムの種類を理解する。食事サービスにおける制度管理の重要性と適温給食のための方法を学ぶ。食数管理の変動要因を理解し計数管理の実践を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第８章食事サービス管理を読んで予習しておく。 第４回、第５回、第６回の授業の要点をまとめ提出する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第9回	授業テーマ	給食経営管理の展開５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	リスクマネジメント：給食施設におけるリスクマネジメントと危機管理を学ぶ。リスクマネジメントとコンプライアンス（法令順守）について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第９章リスクマネジメントを読んで予習しておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第10回	授業テーマ	給食経営管理の展開６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	施設・設備管理：給食の施設・設備管理の目的、対象と範囲を理解し、施設・設備計画を作成するためのシステム、調理室の条件、設計、機器、関連設備について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第１０章施設・設備管理を読んで予習しておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第11回	授業テーマ	給食経営管理の実際１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	病院給食 医療を取り巻く環境と栄養管理の現状と理解し病院給食における特性と実践方法について学ぶ。 学校給食 学校給食を取り巻く環境と栄養管理の現状と理解し病院給食における特性と実践方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第１１章病院給食、第１２章学校給食を読んで予習しておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第12回	授業テーマ	給食経営管理の実際２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	福祉施設給食（児童・高齢者） 児童・高齢者施設給食を取り巻く環境と栄養管理の現状と理解し病院給食における特性と実践方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第１３章児童福祉施設給食、第１４章高齢者福祉施設給食を読んで予習しておく。
	教室外学習の時間	190分

	（分）	
第13回	授業テーマ	給食経営管理の実際３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事業所給食 事業所給食を取り巻く環境と栄養管理の現状と理解し病院給食における特性と実践方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト第１５章事業所給食を読んで予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	各種施設における給食経営管理のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各種施設における給食経営管理の特徴を比較整理し理解する。 喫食者実習の体験を踏まえて給食経営管理実習に向けての概要を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業内容を復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	230分

学生へのフィードバック方法

授業の振替りとして毎回「確認テスト」を実施し、翌週に解答・解説を行う。

評価方法

定期試験、平常点で評価する。
（平常点は授業への参加状況、喫食者実習への参加、課題の提出状況等で総合的に判断する）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○		
定期試験	○			

評価割合

定期試験の得点（80%）、平常点（20%）で総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

実践 給食マネジメント論/髙城孝助・三好恵子・松月弘恵編著/第一出版

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多目的なカリキュラムの履修により、専門的知識と、それらを社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士としての専門職業人として自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を取集して、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。

オフィスアワー

木曜日：3時限

学生へのメッセージ

この授業では、毎回授業内容の復習を兼ねて課題に取り組みます。次のステップである学内外の実習の基本となる講義です。3年生の実習の喫食者も授業と並行して体験します。次期の実習に向けて目的を持って取り組みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	特定給食施設の管理栄養士として実務経験を有している教員が、給食運営における各々の特定給食施設の特徴や基本的知識を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02059031
講義名	健康フードマネジメント実習（HA）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	吉野 知子	指定なし

ナンバリング

H33904C13

授業概要(教育目的)

健康フードマネジメント論の理論を実践する。給食経営管理実習を発展させ、実際に対象者の栄養アセスメントや食行動スタイルを踏まえたうえで栄養計画を立案し、給食運営をマネジメントする能力を養う。給食を好ましい食べ方の気づきとなる栄養教育媒体ととらえ、モデルとしての食事提案とそのテーマにあった栄養情報の提供を行う。また、生産管理では、特にHACCPシステムの理解と厨房設備のドライシステムの運用を習得し、さらに提供料理の品質測定を行いQC活動へと発展させる能力を養う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	給食経営管理におけるPDCAサイクル及びサブシステム全般について説明ができる。 給与栄養目標量、喫食者の嗜好や諸条件を考慮した献立作成ついての説明ができ、具体的に献立作成ができる。 大量調理施設衛生管理マニュアルについて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	給食運営の一連の流れと時間管理を意識した臨機応変な判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	給食運営における各々の役割を理解し実習に積極的に取り組み、リーダーシップやコミュニケーション能力を発揮できる。
技術・表現の観点 (A)	給食運営で用いる大量調理機器の使用方法が身につく。 大量調理施設衛生管理マニュアルに準じた衛生管理ができる。

学習計画

	授業テーマ	給食経営のトータルプラン、栄養・食事計画

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	実習の流れとスケジュールを確認する。 グループワークにて、試作（予定）献立を作成し提出する。 経営計画を作成し提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	担当する献立を自宅で試作し、修正点とレシピを確認する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	献立計画、栄養教育計画、生産計画 試作準備1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループワークにて試作献立を決定し試作準備を行う。 試作で使用する帳票類の準備を行う。 栄養教育計画・栄養教育媒体を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	試作で担当する献立を決め、内容と手順（食器を含む）を確認する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	**授業テーマ**	食材管理、原価管理、生産管理、衛生安全管理 試作準備2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	試作用の献立表・日計表・発注書・作業指示書を作成する。 試作スケジュールを確認する。 グループワークで試作のシミュレーションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	試作で担当する献立の内容と手順について自宅で調理し確認する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	**授業テーマ**	試作実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループワークにより試作実習を実施する。 試作後、献立を評価し改善点について調整する。 試作時に使用した帳票を記入し提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	試作後に内容変更した担当献立について、再度自宅で調理し確認する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	**授業テーマ**	運営準備1（試作後の改善）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	試作時の改善点（栄養・原価・調味・色彩・ボリューム・作業等）を調整し運営献立を計画する。 グループワークにて、献立表、作業指示書、食材日計表、発注書、栄養媒体を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	担当献立について内容を確認し問題点や課題を調整する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	**授業テーマ**	運営準備2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営献立表、運営に使用する帳票類を作成する。 献立表、日計表、発注書、作業指示書、作業工程表、栄養媒体等作成し提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	試作迄の帳票の整理をしておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	運営実習の確認

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営献立表、運営に使用する帳票類を見直し修正する。 献立表、日計表、発注書、作業指示書、作業工程表、栄養媒体等を完成させ提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営班は、サポート班、評価班に事前に作業指示書、作業工程表、重量測定表等必要な資料を配布し、運営当日の役割を説明しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	運営実習1 運営実習2の準備と確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営班1班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を実施する。 運営実習2（2班）の準備と確認を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	運営実習2 運営実習3の準備と確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営班2班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を実施する。 運営実習3（3班）の準備と確認を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	運営実習3 運営実習4の準備と確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営班3班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を実施する。 運営実習4（4班）の準備と確認を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	運営実習4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営班4班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	まとめ1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	運営後の帳票類を確認・作成する。

第12回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実施献立表、各種点検表、廃棄率調査、品質の評価、残菜記録表、食材日計表、給食日誌、料理カード等
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営後の帳票の整理をしておく。
	教室外学習の時間(分)	120分
第13回	授業テーマ	まとめ2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	班毎に帳票・成果物を「計画」「試作」「運営」「結果・評価」に分類し班ファイルを作成し提出する。 評価会用資料を作成し提出する。 アンケート結果、会計報告、ABC分析、栄養算定表等
	教室外学習(予習・復習)の内容	班ファイルに必要な帳票類を作成しておく。
	教室外学習の時間(分)	120分
第14回	授業テーマ	総合評価会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーション形式にて、4回の運営全体の総合評価を実施する。 具体的には栄養・食事管理、原価・会計管理、生産・作業管理、品質管理、顧客管理、衛生安全管理におけるクラスおよび各班の運営結果を評価する。 実習における自己評価も実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習で学んだ給食運営のサブシステム、大量調理施設衛生管理マニュアルを復習する。
	教室外学習の時間(分)	180分

学習計画注記

※授業日程の変更等によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

班毎に毎回作成し提出する課題（献立表、日計表、発注書、作業指示書、作業工程表、その他帳票類）は、次回の授業までに添削、コメントして返却する。

評価方法

実習点と試験で総合的に評価する。
・実習点（実習技術、班のチームワークと貢献度、班の運営評価・成果物）
・筆記試験

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実習点	○	○	○	○
筆記試験	○			

評価割合

実習点（80%）、筆記試験（20%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

給食マネジメント実習/松月弘恵、韓順子、亀山良子/医歯薬出版

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】給食経営管理に関する専門的知識と、それらを社会で応用・実践できる総合的

な知識基盤を身につけている。
【思考・判断】給食経営管理に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けた取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
【技術・表現】給食経営管理に関する専門技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

木曜日3限

学生へのメッセージ

健康フードマネジメント実習では、100食程度の昼食を作り学生(2年生)にも提供します。2年次の実習をさらにステップアップさせ、主体性を持って、目標の設定・栄養管理・生産管理から評価まで、品質管理された食事提供に取り組んで下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	管理栄養士として特定給食施設の実務経験を有している教員が、給食経営管理の知識と大量調理に関する実践的な技術を指導する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02059032
講義名	健康フードマネジメント実習（HB）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	建路 七織	指定なし

ナンバリング

H33904C13

授業概要(教育目的)

健康フードマネジメント論の理論を実践する。給食経営管理実習を発展させ、実際に対象者の栄養アセスメントや食行動スタイルを踏まえたうえで栄養計画を立案し、給食運営をマネジメントする能力を養う。給食を好ましい食べ方の気づきとなる栄養教育媒体ととらえ、モデルとしての食事提案とそのテーマにあった栄養情報の提供を行う。また、生産管理では、特にHACCPシステムの理解と厨房設備のドライシステムの運用を習得し、さらに提供料理の品質測定を行いQC活動へと発展させる能力を養う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	給食経営管理におけるPDCAサイクル及びサブシステム全般について説明ができる。 給与栄養目標量、喫食者の嗜好や諸条件を考慮した献立作成ついての説明ができ、具体的に献立作成ができる。 大量調理施設衛生管理マニュアルについて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	給食運営の一連の流れと時間管理を意識した臨機応変な判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	給食運営における各々の役割を理解し実習に積極的に取り組み、リーダーシップやコミュニケーション能力を発揮できる。
技術・表現の観点 (A)	給食運営で用いる大量調理機器の使用方法が身につく。 大量調理施設衛生管理マニュアルに準じた衛生管理ができる。

学習計画

	授業テーマ	給食経営のトータルプラン、栄養・食事計画

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	実習の流れとスケジュールを確認する。 グループワークにて、試作（予定）献立を作成し提出する。 経営計画を作成し提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	担当する献立を自宅で試作し、修正点とレシピを確認する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	献立計画、栄養教育計画、生産計画 試作準備1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループワークにて試作献立を決定し試作準備を行う。 試作で使用する帳票類の準備を行う。 栄養教育計画・栄養教育媒体を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	試作で担当する献立を決め、内容と手順（食器を含む）を確認する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	**授業テーマ**	食材管理、原価管理、生産管理、衛生安全管理 試作準備2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	試作用の献立表・日計表・発注書・作業指示書を作成する。 試作スケジュールを確認する。 グループワークで試作のシミュレーションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	試作で担当する献立の内容と手順について自宅で調理し確認する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	**授業テーマ**	試作実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループワークにより試作実習を実施する。 試作後、献立を評価し改善点について調整する。 試作時に使用した帳票を記入し提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	試作後に内容変更した担当献立について、再度自宅で調理し確認する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	**授業テーマ**	運営準備1（試作後の改善）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	試作時の改善点（栄養・原価・調味・色彩・ボリューム・作業等）を調整し運営献立を計画する。 グループワークにて、献立表、作業指示書、食材日計表、発注書、栄養媒体を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	担当献立について内容を確認し問題点や課題を調整する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	**授業テーマ**	運営準備2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営献立表、運営に使用する帳票類を作成する。 献立表、日計表、発注書、作業指示書、作業工程表、栄養媒体等作成し提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	試作迄の帳票の整理をしておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	運営実習の確認

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営献立表、運営に使用する帳票類を見直し修正する。 献立表、日計表、発注書、作業指示書、作業工程表、栄養媒体等を完成させ提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営班は、サポート班、評価班に事前に作業指示書、作業工程表、重量測定表等必要な資料を配布し、運営当日の役割を説明しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	運営実習1 運営実習2の準備と確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営班1班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を実施する。 運営実習2（2班）の準備と確認を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	運営実習2 運営実習3の準備と確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営班2班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を実施する。 運営実習3（3班）の準備と確認を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	運営実習3 運営実習4の準備と確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営班3班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を実施する。 運営実習4（4班）の準備と確認を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	運営実習4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営班4班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	まとめ1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	運営後の帳票類を確認・作成する。

第12回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実施献立表、各種点検表、廃棄率調査、品質の評価、残菜記録表、食材日計表、給食日誌、料理カード等
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営後の帳票の整理をしておく。
	教室外学習の時間(分)	120分
第13回	授業テーマ	まとめ2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	班毎に帳票・成果物を「計画」「試作」「運営」「結果・評価」に分類し班ファイルを作成し提出する。 評価会用資料を作成し提出する。 アンケート結果、会計報告、ABC分析、栄養算定表等
	教室外学習(予習・復習)の内容	班ファイルに必要な帳票類を作成しておく。
	教室外学習の時間(分)	120分
第14回	授業テーマ	総合評価会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーション形式にて、4回の運営全体の総合評価を実施する。 具体的には栄養・食事管理、原価・会計管理、生産・作業管理、品質管理、顧客管理、衛生安全管理におけるクラスおよび各班の運営結果を評価する。 実習における自己評価も実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習で学んだ給食運営のサブシステム、大量調理施設衛生管理マニュアルを復習する。
	教室外学習の時間(分)	180分

学習計画注記

※授業日程の変更等によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

班毎に毎回作成し提出する課題（献立表、日計表、発注書、作業指示書、作業工程表、その他帳票類）は、次回の授業までに添削、コメントして返却する。

評価方法

実習点と試験で総合的に評価する。
・実習点（実習技術、班のチームワークと貢献度、班の運営評価・成果物）
・筆記試験

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実習点	○	○	○	○
筆記試験	○			

評価割合

実習点（80%）、筆記試験（20%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

給食マネジメント実習/松月弘恵、韓順子、亀山良子/医歯薬出版

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】給食経営管理に関する専門的知識と、それらを社会で応用・実践できる総合的

な知識基盤を身につけている。
【思考・判断】給食経営管理に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けた取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
【技術・表現】給食経営管理に関する専門技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

木曜日3限

学生へのメッセージ

健康フードマネジメント実習では、100食程度の昼食を作り学生(2年生)にも提供します。2年次の実習をさらにステップアップさせ、主体性を持って、目標の設定・栄養管理・生産管理から評価まで、品質管理された食事提供に取り組んで下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	管理栄養士として特定給食施設の実務経験を有している教員が、給食経営管理の知識と大量調理に関する実践的な技術を指導する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02059033
講義名	健康フードマネジメント実習（HD）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	建路 七織	指定なし

ナンバリング

H33904C13

授業概要(教育目的)

健康フードマネジメント論の理論を実践する。給食経営管理実習を発展させ、実際に対象者の栄養アセスメントや食行動スタイルを踏まえたうえで栄養計画を立案し、給食運営をマネジメントする能力を養う。給食を好ましい食べ方の気づきとなる栄養教育媒体ととらえ、モデルとしての食事提案とそのテーマにあった栄養情報の提供を行う。また、生産管理では、特にHACCPシステムの理解と厨房設備のドライシステムの運用を習得し、さらに提供料理の品質測定を行いQC活動へと発展させる能力を養う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	給食経営管理におけるPDCAサイクル及びサブシステム全般について説明ができる。 給与栄養目標量、喫食者の嗜好や諸条件を考慮した献立作成ついての説明ができ、具体的に献立作成ができる。 大量調理施設衛生管理マニュアルについて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	給食運営の一連の流れと時間管理を意識した臨機応変な判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	給食運営における各々の役割を理解し実習に積極的に取り組み、リーダーシップやコミュニケーション能力を発揮できる。
技術・表現の観点 (A)	給食運営で用いる大量調理機器の使用方法が身につく。 大量調理施設衛生管理マニュアルに準じた衛生管理ができる。

学習計画

	授業テーマ	給食経営のトータルプラン、栄養・食事計画

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	実習の流れとスケジュールを確認する。 グループワークにて、試作（予定）献立を作成し提出する。 経営計画を作成し提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	担当する献立を自宅で試作し、修正点とレシピを確認する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	献立計画、栄養教育計画、生産計画 試作準備1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループワークにて試作献立を決定し試作準備を行う。 試作で使用する帳票類の準備を行う。 栄養教育計画・栄養教育媒体を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	試作で担当する献立を決め、内容と手順（食器を含む）を確認する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	**授業テーマ**	食材管理、原価管理、生産管理、衛生安全管理 試作準備2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	試作用の献立表・日計表・発注書・作業指示書を作成する。 試作スケジュールを確認する。 グループワークで試作のシミュレーションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	試作で担当する献立の内容と手順について自宅で調理し確認する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	**授業テーマ**	試作実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループワークにより試作実習を実施する。 試作後、献立を評価し改善点について調整する。 試作時に使用した帳票を記入し提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	試作後に内容変更した担当献立について、再度自宅で調理し確認する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	**授業テーマ**	運営準備1（試作後の改善）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	試作時の改善点（栄養・原価・調味・色彩・ボリューム・作業等）を調整し運営献立を計画する。 グループワークにて、献立表、作業指示書、食材日計表、発注書、栄養媒体を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	担当献立について内容を確認し問題点や課題を調整する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	**授業テーマ**	運営準備2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営献立表、運営に使用する帳票類を作成する。 献立表、日計表、発注書、作業指示書、作業工程表、栄養媒体等作成し提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	試作迄の帳票の整理をしておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	運営実習の確認

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営献立表、運営に使用する帳票類を見直し修正する。 献立表、日計表、発注書、作業指示書、作業工程表、栄養媒体等を完成させ提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営班は、サポート班、評価班に事前に作業指示書、作業工程表、重量測定表等必要な資料を配布し、運営当日の役割を説明しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	運営実習1 運営実習2の準備と確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営班1班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を実施する。 運営実習2（2班）の準備と確認を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	運営実習2 運営実習3の準備と確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営班2班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を実施する。 運営実習3（3班）の準備と確認を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	運営実習3 運営実習4の準備と確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営班3班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を実施する。 運営実習4（4班）の準備と確認を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	運営実習4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営班4班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	まとめ1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	運営後の帳票類を確認・作成する。

第12回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実施献立表、各種点検表、廃棄率調査、品質の評価、残菜記録表、食材日計表、給食日誌、料理カード等
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営後の帳票の整理をしておく。
	教室外学習の時間(分)	120分
第13回	授業テーマ	まとめ2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	班毎に帳票・成果物を「計画」「試作」「運営」「結果・評価」に分類し班ファイルを作成し提出する。 評価会用資料を作成し提出する。 アンケート結果、会計報告、ABC分析、栄養算定表等
	教室外学習(予習・復習)の内容	班ファイルに必要な帳票類を作成しておく。
	教室外学習の時間(分)	120分
第14回	授業テーマ	総合評価会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーション形式にて、4回の運営全体の総合評価を実施する。 具体的には栄養・食事管理、原価・会計管理、生産・作業管理、品質管理、顧客管理、衛生安全管理におけるクラスおよび各班の運営結果を評価する。 実習における自己評価も実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習で学んだ給食運営のサブシステム、大量調理施設衛生管理マニュアルを復習する。
	教室外学習の時間(分)	180分

学習計画注記

※授業日程の変更等によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

班毎に毎回作成し提出する課題（献立表、日計表、発注書、作業指示書、作業工程表、その他帳票類）は、次回の授業までに添削、コメントして返却する。

評価方法

実習点と試験で総合的に評価する。
・実習点（実習技術、班のチームワークと貢献度、班の運営評価・成果物）
・筆記試験

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実習点	○	○	○	○
筆記試験	○			

評価割合

実習点（80%）、筆記試験（20%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

給食マネジメント実習/松月弘恵、韓順子、亀山良子/医歯薬出版

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】給食経営管理に関する専門的知識と、それらを社会で応用・実践できる総合的

な知識基盤を身につけている。
【思考・判断】給食経営管理に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けた取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
【技術・表現】給食経営管理に関する専門技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

木曜日3限

学生へのメッセージ

健康フードマネジメント実習では、100食程度の昼食を作り学生(2年生)にも提供します。2年次の実習をさらにステップアップさせ、主体性を持って、目標の設定・栄養管理・生産管理から評価まで、品質管理された食事提供に取り組んで下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	管理栄養士として特定給食施設の実務経験を有している教員が、給食経営管理の知識と大量調理に関する実践的な技術を指導する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02059034
講義名	健康フードマネジメント実習（HC）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	吉野 知子	指定なし

ナンバリング

H33904C13

授業概要(教育目的)

健康フードマネジメント論の理論を実践する。給食経営管理実習を発展させ、実際に対象者の栄養アセスメントや食行動スタイルを踏まえたうえで栄養計画を立案し、給食運営をマネジメントする能力を養う。給食を好ましい食べ方の気づきとなる栄養教育媒体ととらえ、モデルとしての食事提案とそのテーマにあった栄養情報の提供を行う。また、生産管理では、特にHACCPシステムの理解と厨房設備のドライシステムの運用を習得し、さらに提供料理の品質測定を行いQC活動へと発展させる能力を養う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	給食経営管理におけるPDCAサイクル及びサブシステム全般について説明ができる。 給与栄養目標量、喫食者の嗜好や諸条件を考慮した献立作成ついての説明ができ、具体的に献立作成ができる。 大量調理施設衛生管理マニュアルについて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	給食運営の一連の流れと時間管理を意識した臨機応変な判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	給食運営における各々の役割を理解し実習に積極的に取り組み、リーダーシップやコミュニケーション能力を発揮できる。
技術・表現の観点 (A)	給食運営で用いる大量調理機器の使用方法が身につく。 大量調理施設衛生管理マニュアルに準じた衛生管理ができる。

学習計画

	授業テーマ	給食経営のトータルプラン、栄養・食事計画

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	実習の流れとスケジュールを確認する。 グループワークにて、試作（予定）献立を作成し提出する。 経営計画を作成し提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	担当する献立を自宅で試作し、修正点とレシピを確認する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	献立計画、栄養教育計画、生産計画 試作準備1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループワークにて試作献立を決定し試作準備を行う。 試作で使用する帳票類の準備を行う。 栄養教育計画・栄養教育媒体を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	試作で担当する献立を決め、内容と手順（食器を含む）を確認する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	**授業テーマ**	食材管理、原価管理、生産管理、衛生安全管理 試作準備2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	試作用の献立表・日計表・発注書・作業指示書を作成する。 試作スケジュールを確認する。 グループワークで試作のシミュレーションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	試作で担当する献立の内容と手順について自宅で調理し確認する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	**授業テーマ**	試作実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループワークにより試作実習を実施する。 試作後、献立を評価し改善点について調整する。 試作時に使用した帳票を記入し提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	試作後に内容変更した担当献立について、再度自宅で調理し確認する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	**授業テーマ**	運営準備1（試作後の改善）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	試作時の改善点（栄養・原価・調味・色彩・ボリューム・作業等）を調整し運営献立を計画する。 グループワークにて、献立表、作業指示書、食材日計表、発注書、栄養媒体を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	担当献立について内容を確認し問題点や課題を調整する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	**授業テーマ**	運営準備2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営献立表、運営に使用する帳票類を作成する。 献立表、日計表、発注書、作業指示書、作業工程表、栄養媒体等作成し提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	試作迄の帳票の整理をしておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	運営実習の確認

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営献立表、運営に使用する帳票類を見直し修正する。 献立表、日計表、発注書、作業指示書、作業工程表、栄養媒体等を完成させ提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営班は、サポート班、評価班に事前に作業指示書、作業工程表、重量測定表等必要な資料を配布し、運営当日の役割を説明しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	運営実習1 運営実習2の準備と確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営班1班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を実施する。 運営実習2（2班）の準備と確認を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	運営実習2 運営実習3の準備と確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営班2班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を実施する。 運営実習3（3班）の準備と確認を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	運営実習3 運営実習4の準備と確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営班3班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を実施する。 運営実習4（4班）の準備と確認を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	運営実習4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運営班4班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	まとめ1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	運営後の帳票類を確認・作成する。

第12回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実施献立表、各種点検表、廃棄率調査、品質の評価、残菜記録表、食材日計表、給食日誌、料理カード等
	教室外学習(予習・復習)の内容	運営後の帳票の整理をしておく。
	教室外学習の時間(分)	120分
第13回	授業テーマ	まとめ2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	班毎に帳票・成果物を「計画」「試作」「運営」「結果・評価」に分類し班ファイルを作成し提出する。 評価会用資料を作成し提出する。 アンケート結果、会計報告、ABC分析、栄養算定表等
	教室外学習(予習・復習)の内容	班ファイルに必要な帳票類を作成しておく。
	教室外学習の時間(分)	120分
第14回	授業テーマ	総合評価会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーション形式にて、4回の運営全体の総合評価を実施する。 具体的には栄養・食事管理、原価・会計管理、生産・作業管理、品質管理、顧客管理、衛生安全管理におけるクラスおよび各班の運営結果を評価する。 実習における自己評価も実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習で学んだ給食運営のサブシステム、大量調理施設衛生管理マニュアルを復習する。
	教室外学習の時間(分)	180分

学習計画注記

※授業日程の変更等によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

班毎に毎回作成し提出する課題（献立表、日計表、発注書、作業指示書、作業工程表、その他帳票類）は、次回の授業までに添削、コメントして返却する。

評価方法

実習点と試験で総合的に評価する。
・実習点（実習技術、班のチームワークと貢献度、班の運営評価・成果物）
・筆記試験

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実習点	○	○	○	○
筆記試験	○			

評価割合

実習点（80%）、筆記試験（20%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

給食マネジメント実習/松月弘恵、韓順子、亀山良子/医歯薬出版

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】給食経営管理に関する専門的知識と、それらを社会で応用・実践できる総合的

な知識基盤を身につけている。
【思考・判断】給食経営管理に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けた取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
【技術・表現】給食経営管理に関する専門技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

木曜日3限

学生へのメッセージ

健康フードマネジメント実習では、100食程度の昼食を作り学生(2年生)にも提供します。2年次の実習をさらにステップアップさせ、主体性を持って、目標の設定・栄養管理・生産管理から評価まで、品質管理された食事提供に取り組んで下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	管理栄養士として特定給食施設の実務経験を有している教員が、給食経営管理の知識と大量調理に関する実践的な技術を指導する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02060032
講義名	総合演習I（3年）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2,3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	會退 友美	指定なし
教授	金澤 良枝	指定なし
教授	酒井 治子	指定なし
准教授	吉野 知子	指定なし
准教授	城田 直子	指定なし
准教授	加藤 理津子	指定なし

ナンバリング

H33001C12

授業概要(教育目的)

臨地実習前の事前指導と各班の実習テーマに関する事前準備を行う。具体的には各々の実習の目的や目標の理解、実習施設の概略の周知と動機付け、知識の整理、研究課題の検討等を行う。さらに病院、事業所、小学校、高齢者福祉施設、保育所、保健所等実習先の指導者から講義を受け、実習にあたっての心構え、社会における管理栄養士の使命および役割や業務について理解することを目的とする。

履修条件

給食運営臨地実習、臨床栄養I臨地実習、公衆栄養臨地実習または臨床栄養II臨地実習のいずれの履修条件を満たしていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	実習先の特徴や概略を把握し、実習に必要な基本事項や管理栄養士の役割や業務について理解し説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	管理栄養士としての専門的知識と技術の必要性について説明できる。実習に臨むにあたり、解決すべき問題を発見（気づき）し、解決方法を指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実習先の管理栄養士等の外部講師による実践的な講義により各分野への興味や関心を深め、実習に対する心構えをグループのメンバーと共有し、取り組むべき課題についてメンバーと協調できる。

技術・表現の観点 (A)	課題の取り組みを通じて、学内で学んだ管理栄養士としての知識と技術を表現できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	総合ガイダンス（2年次実施）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臨地実習（給食運営・公衆栄養・臨床栄養III）の概要と選択方法を学ぶ。実習先の分野について希望調査を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	昨年度の臨地実習報告会要旨集に目をとおし、臨時実習の概要を理解する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	全体ガイダンス・報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臨地実習に向けて3分野合同講義 今後の分野別スケジュールを確認し、各臨地実習の目的と概要を理解する（公衆栄養、臨床栄養III、給食運営）。実習に向けての準備や心構え及び注意事項を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「学外実習の手引き」の、総合演習Iの部分を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	公衆栄養ガイダンス①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公衆栄養臨地実習 実習配属先・班割りを確認し、提出物の確認や準備を行う。実習先の課題設定についてグループワークを行い検討する
	教室外学習(予習・復習)の内容	「学外実習の手引き」の、公衆栄養臨地実習の分野を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	外部講師講演（介護保険施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	介護老人福祉施設の管理栄養士による「介護保険施設における役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	介護保険施設の管理栄養士の役割について予習をしておくこと。 指定されたレポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	公衆栄養ガイダンス②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘ	公衆栄養臨地実習 実習施設への事前訪問や準備を行う。実習先の課

第5回	**ﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	題についてグループワークを行い立案および栄養媒体を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習班ごとに課題について検討し具体的に進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	外部講師講演（事業所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コントラクトフードサービスの管理栄養士による「事業所における役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事業所の管理栄養士の役割について予習をしておくこと。 指定されたレポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	外部講師講演（保健所・保健センター）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保健所・保健センターの管理栄養士による「保健所・保健センターにおける役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	保健所・保健センターの管理栄養士の役割について予習をしておくこと。 指定されたレポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	外部講師講演（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所の管理栄養士による「保育所における役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	保育所の管理栄養士の役割について予習をしておくこと。 指定されたレポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	外部講師講演（小学校）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報リﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校の管理栄養士による「小学校における役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校の管理栄養士の役割について予習をしておくこと。 指定されたレポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	45分

第10回	授業テーマ	外部講師講演（病院）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	病院の管理栄養士による「病院における役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	病院の管理栄養士の役割について予習をしておくこと。 指定されたレポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	給食運営ガイダンス①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食臨地実習 実習配属先・班割りを確認し、提出物の確認や準備を行う。実習先の課題設定についてグループワークを行い検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「学外実習の手引き」の給食運営臨地実習の分野を予習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	給食運営ガイダンス②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食運営臨地実習 実習施設への事前訪問や準備を行う。実習先の課題についてグループワークを行い立案および栄養媒体等を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習班ごとに課題について検討し具体的に進めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	臨床栄養ガイダンス①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臨床栄養I・II臨地実習 実習配属先・班割りを確認し、提出物の確認や準備を行う。実習先の課題設定についてグループワークを行い検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「学外実習の手引き」の臨床栄養臨地実習の分野を予習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	臨床栄養ガイダンス②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臨床栄養I・II臨地実習 実習施設への事前訪問や準備を行う。実習先の課題についてグループワークを行い立案および栄養媒体等を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内	実習班ごとに課題について検討し具体的に進めておくこと。

	容	
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

※外部講師の講演日程については、場合により変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

レポートは後日返却します。
外部講師の講演およびガイダンスでは最後に質疑応答の時間を設けフィードバックを行います。また、その際には臨地実習に向けて心配なこと、質問があればその場で回答致します。
また、各臨地実習での成果を冊子にして配布します。

評価方法

レポートはルーブリックに基づいて成績評価し、ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示します。
平常点は、授業態度・意欲、課題への取り組み状況から総合的に判断します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
レポート	○	○	○	○

評価割合

平常点50%、レポート50%で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

管理栄養士の学外実習の手引き

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】給食運営、臨床栄養、公衆栄養等のカリキュラムの履修により習得した専門的知識と、それらを社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士としての専門職業人として自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を取集して、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
【技術・表現】人々の健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

吉野（木曜日3時限）、金澤（木曜日2時限、金曜日2時限）、酒井（月曜日3時限）、城田（水曜日3時限）、加藤（火曜日2時限）、會退（水曜日2時限）

学生へのメッセージ

臨地実習実施のための事前授業です。実習の目的を明確にし、心構えや基本事項を学び実習の準備を行います。また臨地実習前に実習先の指導者から職場での管理栄養士の役割と業務について学びます。実習先の特徴や概要を捉え、その中から自ら課題・テーマを見出し主体的に取り組みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	管理栄養士として各専門領域の実務経験を有している教員が、各々の実習先における管理栄養士の使命、役割と業務及び取り組むべき課題等の実践的な事前指導を行う。
アクティブ・ラーニング	○	実習班単位によるグループワークを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02061031
講義名	総合演習II（4年）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	城田 直子	指定なし
教授	金澤 良枝	指定なし
教授	酒井 治子	指定なし
准教授	吉野 知子	指定なし
准教授	加藤 理津子	指定なし
准教授	會退 友美	指定なし

ナンバリング

H43002C12

授業概要(教育目的)

実習先の指導者を招き、管理栄養士の専門性や実践的な業務について、実施後の臨地実習の復習を兼ねた講義を行う。各臨地実習（給食運営臨地実習、公衆栄養臨地実習、臨床栄養I臨地実習、臨床栄養II臨地実習）で体験した内容および作成した課題を要旨集にまとめ、報告会を実施する。

履修条件

給食運営臨地実習、公衆栄養臨地実習、臨床栄養I臨地実習、臨床栄養II臨地実習を終了していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	実習先の特徴や概略が把握できており、管理栄養士の役割、業務について理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	実習先での実際の体験より、管理栄養士として課題発見、問題解決、専門的知識と技術の統合について考え、判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	給食運営臨地実習、公衆栄養臨地実習、臨床栄養I臨地実習、臨床栄養II臨地実習を通して、各分野で仕事をする管理栄養士について、興味、関心を高め、意欲を向上できる。
技術・表現	給食運営臨地実習、公衆栄養臨地実習、臨床栄養I臨地実習、臨床栄養II臨地実習

の観点 (A)	で学んだ内容を正しく表現できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	総合ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	当該科目の目的および概要を説明する。 給食運営臨地実習、公衆栄養臨地実習、臨床栄養臨地実習I・IIの各分野から外部講師（実際に実習を行った施設の指導者やその他施設の管理栄養士）を招聘し、さらに理解を深めることを目的とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、各分野の臨地実習内容を整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	外部講師講演（給食運営臨地実習・事業所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臨地実習を通しての総括、コントラクトフードサービスで求められる管理栄養士の資質。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、臨地実習の復習を行うこと。 受講後は、講義内容を整理し、課題を進めること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	外部講師講演（給食運営臨地実習・介護保健施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臨地実習を通しての総括、介護保健施設で求められる管理栄養士の資質。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、臨地実習の復習を行うこと。 受講後は、講義内容を整理し、課題を進めること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	外部講師講演（給食運営臨地実習・小学校）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臨地実習を通しての総括、小学校で求められる管理栄養士の資質。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、臨地実習の復習を行うこと。 受講後は、講義内容を整理し、課題を進めること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	外部講師講演（臨床栄養III臨地実習）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臨地実習を通しての総括、医療現場で求められる管理栄養士の資質。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、臨地実習の復習を行うこと。 受講後は、講義内容を整理し、課題を進めること。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	外部講師講演（臨床栄養III臨地実習）

第6回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	臨地実習を通しての総括、医療現場で求められる管理栄養士の資質。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、臨地実習の復習を行うこと。 受講後は、講義内容を整理し、課題を進めること。
	教室外学習の時間(分)	45分
第7回	**授業テーマ**	外部講師講演（公衆栄養臨地実習）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臨地実習を通しての総括、保健所、保健センターで求められる管理栄養士の資質。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、臨地実習の復習を行うこと。 受講後は、講義内容を整理し、課題を進めること。
	教室外学習の時間(分)	45分
第8回	**授業テーマ**	外部講師講演（公衆栄養臨地実習）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臨地実習を通しての総括、保健所、保健センターで求められる管理栄養士の資質。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、臨地実習の復習を行うこと。 受講後は、講義内容を整理し、課題を進めること。
	教室外学習の時間(分)	45分
第9回	**授業テーマ**	臨地実習報告会の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	要旨集原稿、パワーポイント、発表原稿の作成。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨地実習を振り返り、要旨集原稿、パワーポイント、発表原稿を作成する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第10回	**授業テーマ**	臨地実習報告会の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	要旨集原稿、パワーポイント、発表原稿の作成。
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨地実習を振り返り、要旨集原稿、パワーポイント、発表原稿を作成する。
	教室外学習の時間(分)	45分
第11回	**授業テーマ**	報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーション、質疑応答、グループディスカッション。
	教室外学習(予習・復習)の内容	報告会に備え、質疑応答、グループディスカッションに向け、実習施設について整理しておくこと。

		報告会後は、課題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーション、質疑応答、グループディスカッション。
	教室外学習(予習・復習)の内容	報告会に備え、質疑応答、グループディスカッションに向け、実習施設について整理しておくこと。 報告会後は、課題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーション、質疑応答、グループディスカッション。
	教室外学習(予習・復習)の内容	報告会に備え、質疑応答、グループディスカッションに向け、実習施設について整理しておくこと。 報告会後は、課題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	**授業テーマ**	臨地実習のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各臨地実習を通して、管理栄養士の社会的役割、今後の管理栄養士の在り方について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、これまでのまとめを行うこと。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

外部講師日程については、場合により変更になることがある。

学生へのフィードバック方法

レポートは後日返却する。また、各臨地実習での成果を冊子にして配布する。
外部講師の講演およびガイダンスでは最後に質疑応答の時間を設けフィードバックを行う。また、その際には臨地実習に向けて心配なこと、質問があればその場で回答致する。

評価方法

授業態度（授業への取り組み、貢献度）、提出物（レポート）、発表(プレゼンテーション）を総合的に判断する。
レポートとプレゼンテーションはルーブリックに基づいて成績評価し、ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業態度	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○
発表	○	○	○	○

評価割合

授業態度35点、レポート35点、発表30点。

使用教科書名(ISBN番号)

管理栄養士の学外実習手引き
各臨地実習担当教員から指示された教科書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】給食運営臨地実習、公衆栄養臨地実習、臨床栄養I臨地実習、臨床栄養II臨地実習で学んだ専門的知識が身に付き、管理栄養士としての専門職を自己理解し、社会に貢献できる。
【思考・判断】現代の食・栄養に関する課題について、臨地実習を経験した知識を通し、問題解決ができる。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会貢献できる意思と、多職種とも連携ができる力が身に付き、自ら行動できる。
【技術・表現】管理栄養士として栄養指導、栄養管理などの専門的能力があり、それを対象者に教育できる能力、プレゼンテーションができる。

オフィスアワー

金澤（木曜日1時限、金曜日2時限）、酒井(月曜日1時限）、吉野（木曜日3時限）、城田(水曜日3時限）、加藤(火曜日2時限）、會退（ 曜日 時限）

学生へのメッセージ

管理栄養士の社会的役割や各分野の業務について学び、社会貢献できるよう努力しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、管理栄養士として様々な分野における実務を有している。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション
情報リテラシー教育	○	文献検索
ICT活用		

講義コード	H02062031
講義名	給食運営臨地実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	吉野 知子	指定なし
准教授	加藤 理津子	指定なし
非常勤講師	池田 しのぶ	指定なし
助教	建路 七織	指定なし

ナンバリング

H33901C13

授業概要(教育目的)

特定給食施設における給食運営を学ぶことを目的として臨地実習を行う。具体的には、事業所、介護保険施設、病院、小学校、保育所のいずれかを実習先とし、実習に参加した学生が、給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービスの提供に関する技術を修得する機会を提供する。献立作成から栄養・食事管理、給食の提供までの一連の業務、大量調理の特性と留意点、衛生管理等、学内で学んだ知識や技術が実際の給食現場でどのように反映されているかを体験し学習する機会とする。

履修条件

食品衛生学、給食経営管理論、健康フードマネジメント論、給食経営管理実習の指定科目を3科目以上の単位を取得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	特定給食施設（事業所、介護保険施設、病院、小学校、保育所）における、各々の給食運営の特徴と目的を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	給食現場での体験から、課題を発見（気づき）し、臨機応変に判断し、対応することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実習を通じて将来の進路への関心や興味が深まり、意欲的に学習に取り組む姿勢が身につく。
技術・表現の観点 (A)	給食業務を行うために、必要な食事計画や調理を含めた給食サービスの提供に関する技術が身につく。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	事前指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習先に関する基本情報や実習課題・提出物を確認し、実習先での事前オリエンテーションに向けての準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「学外実習の手引き」の給食運営臨地実習の関連項目をよく読んでおく。 実習先からの事前課題（献立課題等）に取り組み、内容をよく精査しておく。
	教室外学習の時間（分）	240分
第2回	**授業テーマ**	事前オリエンテーション（実習施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事前オリエンテーションとして、施設の概要、実習内容・日程、持ち物、注意事項、厨房案内等基本的な事項について確認し学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先の基本情報をよく確認しておく。 「学外実習の手引き」の給食運営臨地実習の関連項目をよく読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	給食運営実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各施設における給食運営（施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理）の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題作業を進める。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	給食運営実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各施設における給食運営（施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理）の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題作業を進める。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	給食運営実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各施設における給食運営（施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理）の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題作業を進める。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	給食運営実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗ	各施設における給食運営（施設概要・特徴、組織・経営管理、栄

第6回	**ｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理）の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題作業を進める。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	給食運営実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各施設における給食運営（施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理）の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題作業を進める。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	給食運営実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各施設における給食運営（施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理）の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題作業を進める。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	給食運営実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各施設における給食運営（施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理）の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題作業を進める。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	給食運営実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各施設における給食運営（施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理）の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題作業を進める。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	給食運営実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各施設における給食運営（施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理）の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題作業を進める。
	教室外学習の時間	60分

	（分）	
第12回	**授業テーマ**	給食運営実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各施設における給食運営（施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理）の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題作業を進める。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	給食運営実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各施設における給食運営（施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理）の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題作業を進める。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	事後指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習後、実習班毎に教員への報告とグループワークによる総括を行い、課題のまとめ、お礼状、実習日誌、各提出物等を完成させる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習課題（給食運営課題、自主課題）を整理しまとめる。
	教室外学習の時間（分）	240分

学生へのフィードバック方法

実習日誌は、毎日記入し実習施設指導者に提出し、添削やコメント付きで返却される。
課題については、内容も様々で実習先によって対応が異なる。
・献立課題については、添削指導だけではなく実習中に実際に調理・提供する施設もある
・ミニ栄養指導課題については、添削指導後実習中に実施する
・栄養媒体は、添削後実習中に使用するケースが多い

評価方法

規定の必要実習時間を終了していること、実習施設の指導者よる評価点がついていること、学内への提出物・実習日誌を全て提出していることを確認する。
実習施設の指導者評価、実習報告書の内容を総合的に判断し評価する。
単位を取得できた場合の成績評価はＰ(合格)とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
必要実習時間の実施	○	○	○	○
施設指導者の評価	○	○	○	○
実習報告・提出物の作成	○	○	○	
実習日誌の提出	○	○	○	

評価割合

単位取得条件100%で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

管理栄養士の学外実習の手引き

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】給食運営に関する専門的知識と、それらを社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士としての専門職業人として自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を取集して、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
【技術・表現】人々の健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

吉野（木曜日3時限）、加藤（木曜日3時限）、建路（木曜日3時限）、池田しのぶ（木曜日2時限）

学生へのメッセージ

実習先となる特定給食施設（事業所、介護保険施設、病院、小学校、保育所）の給食運営の特徴を捉えておきましょう。
さらに学内での給食経営管理実習の流れを踏まえ「大量調理施設衛生管理マニュアル」を復習して実習に臨みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	管理栄養士として専門領域の実務経験を有している教員が、給食運営における各々の特定給食施設の特徴や基本的知識を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、プレゼンテーションを実施している。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02063031
講義名	臨床栄養I臨地実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	金澤 良枝	指定なし
准教授	城田 直子	指定なし

ナンバリング

H43702C23

授業概要(教育目的)

病院において，ベッドサイド訪問，個別指導や集団指導を通して，栄養アセスメントおよび栄養ケアプランの作成・実施・評価を学ばせる。学内における講義や実習では学ぶことのできない病院のシステム，医療スタッフとの関わり，ベッドサイドへの訪問，実際の個別栄養食事指導，集団栄養指導を通して，病態治療が臨床の場でどのように行われているのか，それらの実際を２週間の医療現場での実習を通して学ばせ，実践力を養うことが目的である。また，実習施設における事前集中講義，学内での特別講義や直前指導，事後の報告会なども行わせる。

履修条件

臨床栄養アセスメント論，臨床栄養アセスメント実習のうち，１科目以上の単位を取得している。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	栄養アセスメントおよび栄養ケアプランの作成・実施・評価を理解できる。病態治療が臨床の場でどのように行われているか説明できる。
思考・判断の観点 (K)	管理栄養士の役割を理解し，状況に沿った必要な知識や情報を判断し，活用できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	将来の進路について，医療現場の管理栄養士という選択肢の有無が明確になる。
技術・表現の観点 (A)	栄養アセスメントおよび栄養ケアプランの作成・実施・評価など，臨床の場における実践力が養える。また，プレゼンテーション技術を用いて課題をまとめることができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	事前指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学内において，実習時の基本事項・実習日誌作成・実習テーマ・体調管理・腸内細菌検査など，実習に向けての事前準備を指導する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	管理栄養士の学外実習の手引きの関連項目をよく読み，予習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	事前指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学内において，実習時の基本事項・実習日誌作成・実習テーマ・体調管理・腸内細菌検査など，実習に向けての事前準備を指導する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	管理栄養士の学外実習の手引きの関連項目をよく読み，予習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	病院実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	**授業テーマ**	病院実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	**授業テーマ**	病院実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	**授業テーマ**	病院実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	**授業テーマ**	病院実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。

	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	**授業テーマ**	病院実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	**授業テーマ**	病院実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	**授業テーマ**	病院実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	**授業テーマ**	病院実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	**授業テーマ**	病院実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	**授業テーマ**	病院実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	**授業テーマ**	事後指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学内において，お礼状，指定成果物・提出物などを完成させ，聴き取りおよび紙媒体にて実習報告を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習終了後は，速やかにお礼状下書き，指定成果物・提出物などを完成させること。
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

臨床現場で患者を対象として課題研究も実施する。

学生へのフィードバック方法

実習中は，毎日，実習日誌を提出し実習施設指導者の閲覧・添削後に返却され，実習課題の指導も行われる。実習終了後には，完成させた実習日誌を本学に提出後，担当教員が内容を確認し，返却する。

評価方法

単位取得の条件は以下の通りである。
・実習施設における事前集中講義をはじめ，既定の必要実習時間を欠席することなくすべてクリアすること。
・実習施設の指導者より，評価表にて評価を受けること。
・学内での事後指導の際に，指定成果物・提出物をすべて提出し終えること。
・実習日誌を作成し，期限までに提出すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
必要実習時間の履行	○	○	○	○
施設指導者の評価	○	○	○	○
指定成果物・提出物	○	○	○	○
実習日誌の作成	○	○	○	○

評価割合

実習中の取り組み（積極性、実習態度など）80%、提出物20%

使用教科書名(ISBN番号)

管理栄養士の学外実習の手引き

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により，総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として，自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題について探究し，その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的に思考し，戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と，他者と協働するための共感力，生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度，豊かな人間性を身につけている。
【技術・表現】体系的学習を通じて，人々の生活の質の向上に寄与すべく，健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能と共に，他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント，プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

金澤（火曜日3時限）
城田（水曜日3時限）
腰本（木曜日2時限）

学生へのメッセージ

実際に病院管理栄養士の働く姿，業務内容，他職種との連携，患者との関わりなど幅広く学んでほしいと思います。実習受け入れ施設があってこその実習です。決して受け身にならないよ

う，積極的に取り組みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は，病院管理栄養士としての実務経験を有しており，臨床現場における管理栄養士の基礎的知識や使命などについて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション，グループワーク，プレゼンテーション
情報リテラシー教育	○	栄養管理計画書
ICT活用		

講義コード	H02064031
講義名	臨床栄養II臨地実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	選択必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	金澤 良枝	指定なし
准教授	城田 直子	指定なし

ナンバリング

H43703C13

授業概要(教育目的)

給食運営臨地実習・臨床栄養I臨地実習を終えた後に本実習を行わせる。栄養治療などの疾病に関わる医療行為を具体的に実施する現場での実習である。先の臨床栄養I臨地実習と異なる点は，医療チームの一環として加わり，患者の栄養状態のアセスメントとその判定，それらに応じた栄養ケアプランの作成，治療の実施と評価に至るまでのプロセスの詳細を学ばせる。実習生として現場で具体的な課題を発見し，解決方法を検討させる。

履修条件

臨床栄養アセスメント論，臨床栄養アセスメント実習のうち，１科目以上の単位を取得している（臨床栄養I臨地実習に同じ）。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	患者の栄養状態のアセスメントとその判定，それらに応じた栄養ケアプラン作成，治療の実施と評価に至るまでのプロセスを理解できる。
思考・判断の観点 (K)	臨床現場で具体的な課題を発見できるよう，常に問題意識を持つことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	将来の進路について，医療現場の管理栄養士という選択肢の有無が明確になる。
技術・表現の観点 (A)	臨床現場で具体的な課題を自ら発見し，解決方法を検討できる。また，プレゼンテーション技術を用いて課題をまとめることができる。

学習計画

	授業テーマ	
		事前指導

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学内において，実習時の基本事項・実習日誌作成・実習テーマ・体調管理・腸内細菌検査など，実習に向けての事前準備を指導する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	管理栄養士の学外実習の手引きの関連項目をよく読み，予習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	事前指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学内において，実習時の基本事項・実習日誌作成・実習テーマ・体調管理・腸内細菌検査など，実習に向けての事前準備を指導する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	管理栄養士の学外実習の手引きの関連項目をよく読み，予習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	病院実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	病院実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	病院実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	授業テーマ	病院実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	病院実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	病院実習

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	病院実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	病院実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	病院実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	病院実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	病院実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	事後指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学内において，お礼状，指定成果物・提出物などを完成させ，聴き取りおよび紙媒体にて実習報告を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習終了後は，速やかにお礼状下書き，指定成果物・提出物などを完成させること。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

臨床現場で通院している患者を対象として研究活動（実習）を実施する。

学生へのフィードバック方法

実習中は，毎日，実習日誌を提出し実習施設指導者の閲覧・添削後に返却され，実習課題の指導も行われる。実習終了後には，完成させた実習日誌を本学に提出後，担当教員が内容を確認し，返却する。

評価方法

単位取得の条件は以下の通りである。
・実習施設における事前集中講義をはじめ，既定の必要実習時間を欠席することなくすべてクリアすること。
・実習施設の指導者より，評価表にて評価を受けること。
・学内での事後指導の際に，指定成果物・提出物をすべて提出し終えること。
・実習日誌を作成し，期限までに提出すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
必要実習時間の履行	○	○	○	○
施設指導者の評価	○	○	○	○
指定成果物・提出物	○	○	○	○
実習日誌の作成	○	○	○	○

評価割合

実習中の取り組み（積極性、実習態度など）80%、提出物20%

使用教科書名(ISBN番号)

管理栄養士の学外実習の手引き

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により，総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として，自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題について探究し，その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的に思考し，戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と，他者と協働するための共感力，生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度，豊かな人間性を身につけている。
【技術・表現】体系的学習を通じて，人々の生活の質の向上に寄与すべく，健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能と共に，他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント，プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

金澤（火曜日3時限）
城田（水曜日3時限）
腰本（木曜日2時限）

学生へのメッセージ

実際に病院管理栄養士の働く姿，業務内容，他職種との連携，患者との関わりなど幅広く学んでほしいと思います。実習受け入れ施設があってこその実習です。決して受け身にならないよう，積極的に取り組みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は，病院管理栄養士としての実務経験を有しており，臨床現場における管理栄養士の基礎的知識や使命などについて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション，グループワーク，プレゼンテーション
情報リテラシー教育	○	栄養管理計画書
ICT活用		

講義コード	H02065031
講義名	公衆栄養臨地実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	選択必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	酒井 治子	指定なし
准教授	會退 友美	指定なし
准教授	大富 あき子	指定なし
非常勤講師	池田 しのぶ	指定なし

ナンバリング

H43804C13

授業概要(教育目的)

実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識及び技能を修得すること

履修条件

公衆栄養学、公衆衛生学のうち，１科目以上の単位を取得している。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	区市町村における地域診断の方法を理解するとともに、住民への身近なサービスである健康日本21、食育推進活動及び母子保健活動を通じた健康づくり対策を理解する。
思考・判断の観点 (K)	管理栄養士の役割を理解し，状況に沿った必要な知識や情報を判断し，活用できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	将来の進路について，行政の管理栄養士という選択肢の有無が明確になる。
技術・表現の観点 (A)	PDCAによる地域診断の方法を理解するとともに、保健・医療・福祉施策の場において実践力が養える。また，プレゼンテーション技術を用いて課題を明確にして、解決策をまとめることができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	事前指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	都道府県・政令市・特別区保健所と市長村保健センターの役割
	教室外学習(予習・復習)の内容	都道府県・政令市・特別区保健所と市長村保健センターの業務について、地域保健法、健康増進法、食品衛生法等における根拠を調べる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	事前指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	都道府県・政令市・特別区保健所と市長村保健センターの役割
	教室外学習(予習・復習)の内容	都道府県・政令市・特別区保健所と市長村保健センターの業務について、地域保健法、健康増進法、食品衛生法等における根拠を調べる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	**授業テーマ**	保健所及び保健センター実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保健センターの各業務 例： （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 （５）健康なまちづくり （６）人材及び住民組織の育成 （７）連携体制づくり （８）健康危機管理 （９）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） ２．保健所 （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）専門的な栄養指導、食生活支援 （５）特定給食施設等への指導 （６）食生活に関する正しい知識の普及 （７）充実した食環境の整備 （８）市町村に対する技術的な支援 （９）人材育成 （10）連携体制づくり （11）健康危機管理 （12）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	保健所及び保健センター実習
		保健センターの各業務 例： （１）実態把握及び分析

第4回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	（２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 （５）健康なまちづくり （６）人材及び住民組織の育成 （７）連携体制づくり （８）健康危機管理 （９）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） ２．保健所 （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）専門的な栄養指導、食生活支援 （５）特定給食施設等への指導 （６）食生活に関する正しい知識の普及 （７）充実した食環境の整備 （８）市町村に対する技術的な支援 （９）人材育成 （10）連携体制づくり （11）健康危機管理 （12）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	**授業テーマ**	保健所及び保健センター実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保健センターの各業務 例： （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 （５）健康なまちづくり （６）人材及び住民組織の育成 （７）連携体制づくり （８）健康危機管理 （９）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） ２．保健所 （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）専門的な栄養指導、食生活支援 （５）特定給食施設等への指導 （６）食生活に関する正しい知識の普及 （７）充実した食環境の整備 （８）市町村に対する技術的な支援 （９）人材育成 （10）連携体制づくり （11）健康危機管理 （12）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）
	教室外学習(予習・復	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めるこ

	習)の内容	と。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	**授業テーマ**	保健所及び保健センター実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保健センターの各業務 例： （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 （５）健康なまちづくり （６）人材及び住民組織の育成 （７）連携体制づくり （８）健康危機管理 （９）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） ２．保健所 （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）専門的な栄養指導、食生活支援 （５）特定給食施設等への指導 （６）食生活に関する正しい知識の普及 （７）充実した食環境の整備 （８）市町村に対する技術的な支援 （９）人材育成 （10）連携体制づくり （11）健康危機管理 （12）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	**授業テーマ**	保健所及び保健センター実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保健センターの各業務 例： （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 （５）健康なまちづくり （６）人材及び住民組織の育成 （７）連携体制づくり （８）健康危機管理 （９）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） ２．保健所 （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）専門的な栄養指導、食生活支援 （５）特定給食施設等への指導 （６）食生活に関する正しい知識の普及 （７）充実した食環境の整備

		（８）市町村に対する技術的な支援 （９）人材育成 （10）連携体制づくり （11）健康危機管理 （12）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	**授業テーマ**	保健所及び保健センター実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保健センターの各業務 例： （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 （５）健康なまちづくり （６）人材及び住民組織の育成 （７）連携体制づくり （８）健康危機管理 （９）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） ２．保健所 （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）専門的な栄養指導、食生活支援 （５）特定給食施設等への指導 （６）食生活に関する正しい知識の普及 （７）充実した食環境の整備 （８）市町村に対する技術的な支援 （９）人材育成 （10）連携体制づくり （11）健康危機管理 （12）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	保健所及び保健センター実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	保健センターの各業務 例： （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 （５）健康なまちづくり （６）人材及び住民組織の育成 （７）連携体制づくり （８）健康危機管理 （９）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） ２．保健所

第9回	**用を含む)**	（１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）専門的な栄養指導、食生活支援 （５）特定給食施設等への指導 （６）食生活に関する正しい知識の普及 （７）充実した食環境の整備 （８）市町村に対する技術的な支援 （９）人材育成 （10）連携体制づくり （11）健康危機管理 （12）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	**授業テーマ**	保健所及び保健センター実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保健センターの各業務 例： （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 （５）健康なまちづくり （６）人材及び住民組織の育成 （７）連携体制づくり （８）健康危機管理 （９）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） ２．保健所 （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）専門的な栄養指導、食生活支援 （５）特定給食施設等への指導 （６）食生活に関する正しい知識の普及 （７）充実した食環境の整備 （８）市町村に対する技術的な支援 （９）人材育成 （10）連携体制づくり （11）健康危機管理 （12）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	保健所及び保健センター実習
		保健センターの各業務 例： （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組

第11回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	（５）健康なまちづくり （６）人材及び住民組織の育成 （７）連携体制づくり （８）健康危機管理 （９）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） ２．保健所 （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）専門的な栄養指導、食生活支援 （５）特定給食施設等への指導 （６）食生活に関する正しい知識の普及 （７）充実した食環境の整備 （８）市町村に対する技術的な支援 （９）人材育成 （10）連携体制づくり （11）健康危機管理 （12）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	**授業テーマ**	保健所及び保健センター実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保健センターの各業務 例： （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 （５）健康なまちづくり （６）人材及び住民組織の育成 （７）連携体制づくり （８）健康危機管理 （９）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） ２．保健所 （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）専門的な栄養指導、食生活支援 （５）特定給食施設等への指導 （６）食生活に関する正しい知識の普及 （７）充実した食環境の整備 （８）市町村に対する技術的な支援 （９）人材育成 （10）連携体制づくり （11）健康危機管理 （12）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	120分

第13回	授業テーマ	保健所及び保健センター実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保健センターの各業務 例： （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 （５）健康なまちづくり （６）人材及び住民組織の育成 （７）連携体制づくり （８）健康危機管理 （９）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） ２．保健所 （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）専門的な栄養指導、食生活支援 （５）特定給食施設等への指導 （６）食生活に関する正しい知識の普及 （７）充実した食環境の整備 （８）市町村に対する技術的な支援 （９）人材育成 （10）連携体制づくり （11）健康危機管理 （12）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）
	教室外学習(予習・復習)の内容	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	授業テーマ	事後指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学内において，お礼状，成果物・提出物などを完成させ，聴き取りおよび紙媒体にて実習報告を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習終了後は，速やかにお礼状下書き，指定成果物・提出物などを完成させること。
	教室外学習の時間（分）	120分

学生へのフィードバック方法

実習中は，毎日，実習日誌を提出し実習施設指導者の閲覧・添削後に返却され，実習課題の指導も行われる。実習終了後には，完成させた実習日誌を本学に提出後，担当教員が内容を確認し，返却する。

評価方法

評価は，単位取得を「合格」とする。その条件は以下の通りである。
・実習施設における事前集中講義をはじめ，既定の必要実習時間を欠席することなくすべてクリアすること。
・実習施設の指導者より，評価表にて評価を受けること。
・学内での事後指導の際に，指定成果物・提出物をすべて提出し終えること。
・実習日誌を作成し，期限までに提出すること。
評価基準
ルーブリックをもとに評価する。
ルーブリックの内容は、クラスルームまたは授業内にて公開する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
必要実習時間の履行	○	○	○	○
施設指導者の評価	○	○	○	○
指定成果物・提出物	○	○	○	○
実習日誌の作成	○	○	○	○

評価割合

単位取得条件（100%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

管理栄養士の学外実習の手引き

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により，総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として，自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題について探究し，その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的に思考し，戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と，他者と協働するための共感力，生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度，豊かな人間性を身につけている。
【技術・表現】体系的学習を通じて，人々の生活の質の向上に寄与すべく，健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能と共に，他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント，プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

火曜日5限目

学生へのメッセージ

管理栄養士としての社会に適応する相応しい実習態度を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、厚生労働省、内閣府および地方公共団体において、栄養、健康増進、生活習慣病予防対策、疾病対策等における政策の策定や実践をしてきた。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション，グループワーク，プレゼンテーション
情報リテラシー教育	○	保健所・保健センター業務報告書
ICT活用		

講義コード	H02066031
講義名	栄養治療学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	榎本 真理	指定なし
准教授	城田 直子	指定なし

ナンバリング

H44701C21

授業概要(教育目的)

医療現場において医療の一翼を担える管理栄養士を目指す。各種疾患別の症例に基づき、栄養アセスメントを実施し、疾病者の栄養状態を把握し、栄養管理のあり方を習得する。栄養指導媒体の作成や模擬栄養食事指導など実践力が備わる様に学習する。医療の倫理、患者の権利の問題など、医療人としての在り方についても学ぶ。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各種疾患の栄養評価、栄養管理について理解し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	各種疾患の栄養管理について、個々の患者背景、病態を考え提案できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	各種疾患の栄養管理について、医療倫理を備えた管理栄養士として患者の背景や個性をふまえた対応を考えることができる。
技術・表現の観点 (A)	各種疾患の適切な栄養食事指導で活用できる媒体の提案、作成ができる。

学習計画

栄養治療学

	授業テーマ	肥満症症例の栄養評価と栄養食事指導

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	肥満症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの「肥満症」の章を復習しておくこと。 受講後は、授業内容のまとめをし、理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	糖尿病症例の栄養評価と栄養食事指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖尿病症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの「肥満症」の章、糖尿病治療のための食品交換表を復習しておくこと。 受講後は、授業内容のまとめをし、理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	糖尿病＋高血圧症例の栄養評価と栄養食事指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖尿病と高血圧を合併している症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの「糖尿病」「高血圧」の章を復習しておくこと。 受講後は、授業内容のまとめをし、理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	脂質異常症症例の栄養評価と栄養食事指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質異常症症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの「脂質異常症」の章を復習しておくこと。 受講後は、授業内容のまとめをし、理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	脂質異常症＋糖尿病＋高血圧症例の栄養評価と栄養食事指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質異常症に糖尿病、高血圧を合併した症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの「脂質異常症」「糖尿病」「高血圧」の章を復習しておくこと。 受講後は、授業内容のまとめをし、理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	脂質異常症＋糖尿病＋高血圧症例の栄養食事指導媒体を考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質異常症に糖尿病、高血圧を合併した症例の栄養食事指導媒体を計画し、実際の栄養食事指導のシミュレーションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の授業内容をもとに、指導のポイントを押さえたわかりやすい媒体を作成、完成させる。
	教室外学習の時間（分）	240分
	授業テーマ	慢性腎臓病（ステージ1～3）症例の栄養評価と栄養食事指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	

第7回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	慢性腎症病（ステージ1～3）の症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの「糸球体腎炎」の章を復習しておくこと。 受講後は、授業内容のまとめをし、理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	慢性腎臓病（ステージ4～5）症例の栄養評価と栄養食事指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	慢性腎臓病（ステージ4～5）の症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの「腎不全」の章を復習しておくこと。 受講後は、授業内容のまとめをし、理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	糖尿病性腎症症例の栄養評価と栄養食事指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖尿病性腎症症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの「糖尿病性腎症」の章を復習しておくこと。 受講後は、授業内容のまとめをし、理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	慢性腎不全低たんぱく食事療法の媒体を考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	慢性腎不全低たんぱく食事療法の栄養食事指導媒体を計画し、実際の栄養食事指導のシミュレーションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、第8回の授業内容を復習すること。 受講後は、指導のポイントを押さえたわかりやすい媒体を作成、完成させる。
	教室外学習の時間（分）	270分
第11回	授業テーマ	炎症性腸疾患症例の栄養評価と栄養食事指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	炎症性腸疾患の症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの「潰瘍性大腸炎」「クローン病」の章を復習しておくこと。 受講後は、授業内容のまとめをし、理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	授業テーマ	鉄欠乏性貧血症例の栄養評価と栄養食事指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉄欠乏性貧血の症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの「鉄欠乏性貧血」の章を復習しておくこと。 受講後は、授業内容のまとめをし、理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	妊娠糖尿病症例の栄養評価と栄養食事指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	妊娠糖尿病症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。

第13回	を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの「糖尿病」の章、「妊娠糖尿病」の解説を復習しておくこと。 受講後は、授業内容のまとめをし、理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	授業テーマ	高齢者（サルコペニア・フレイル）症例の栄養評価と栄養食事指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢者（サルコペニア・フレイル）症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講に備え、テキストの「加齢に伴う機能低下への栄養ケア」「老年症候群」の章を復習しておくこと。 受講後は、授業内容のまとめをし、理解を深めること。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

授業毎に症例を提示するので、疾患の栄養食事管理について理解を深める。

学生へのフィードバック方法

提出された症例シートや栄養媒体は、内容を確認して返却し、授業内で解説する。

評価方法

平常点（積極的な授業への取り組み）、症例シート、栄養媒体、定期試験を総合的に評価する。
・症例シート：臨床検査値の読み方、食事指導の方法について理解できているか
・栄養媒体：ポイントを押さえ、わかりやすく作成できているか
・定期試験：管理栄養士としての基礎知識が身についているか
なお、これらの評価は、授業内で説明するルーブリックに沿って行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
症例シート	○			
栄養媒体	○		○	○
定期試験	○	○		○

評価割合

平常点5%、症例シート20%、栄養媒体15%、定期試験60%

使用教科書名(ISBN番号)

新臨床栄養学・栄養ケアマネジメント（3年次使用テキスト）
栄養食事療法の実習 栄養ケアマネジメント第12版（3年次使用テキスト）

参考図書

食品成分表
糖尿病食事療法のための食品交換表
腎臓病食品交換表

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】各種疾患の栄養アセスメント、栄養管理が理解でき、栄養食事指導に対応できる知識を有している。
【思考・判断】患者に適合した栄養管理の対応が身についている。
【感心・意欲・態度】患者教育への関心、意欲、栄養食事指導に対する主体的な態度が身についている。
【技能・表現】栄養食事指導媒体などにより、専門的技能を用いた栄養食事指導を表現でき

る。

オフィスアワー

木曜1時限

学生へのメッセージ

各種疾患の栄養食事療法についての知識を高め、それらを患者に正しく伝える技術を磨き、人間味のある栄養食事指導が実施できるよう、徳性を養いましょう。積極的に取り組み、実りある学びにしましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	病院およびクリニックにおいて個別・集団栄養食事指導経験がある。それらを踏まえた授業を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02067031
講義名	臨床栄養カンファレンス演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	斉藤 恵美子	指定なし

ナンバリング

H44702C12

授業概要(教育目的)

臨床現場（病院、クリニック、在宅、薬局等）において、様々な疾病・背景を抱える患者に対して多職種・他職種と協働していくための実践的な方策を教授する。
多種の疾病を同時に有している複雑な病態をもった患者に介入するには、個々の疾患の病態に関する知識だけでなく、薬剤情報、ガイドラインや文献の情報、多職種の視点、様々な知識を統合することが求められる。また、臨床現場に限らず、倫理的側面、医療安全の側面などの視点は非常に重要である。これらの基本的な知識と手法を学習したうえで、症例検討等を行う。

履修条件

特になし。臨床以外を目指す学生の受講も期待します。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	患者の病態や臨床データから臨床栄養に関する専門的知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	病態や臨床データから患者状態を適切に評価し，個々の患者背景を踏まえた適切な栄養ケアを判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	管理栄養士としての専門性に基づき，医療現場において倫理的配慮や医療安全の視点も含め、多職種と協調して諸問題を解決できる。
技術・表現の観点 (A)	他職種や患者とのコミュニケーションをはかり，カンファレンスのプレゼンテーション，チーム医療に基づいた栄養ケアが実践できる。

学習計画

	授業テーマ	授業の進め方，カンファレンスに必要な手法１
		授業の概要と目的を理解する。

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	NSTを取り巻く背景、栄養ケアを勧めていくうえで必要な手法（ガイドラインの知識、医療情報に関する文献・資料の調べ方など）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学習した内容を確実なものにしておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	授業テーマ	カンファレンスに必要な手法２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	薬剤に関する情報を得る方法を学習し、薬剤（輸液も含む）の理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学習した内容を確実なものにしておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	カンファレンスに必要な知識・手法３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	検査に関する情報を得る方法を学ぶ。栄養ケアの他の手法（栄養ケアプロセス）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学習した内容を確実なものにしておく。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	カンファレンスに必要な知識・手法 その４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各種疾患とリハビリテーション、ACPなど、多職種の視点でかかわる際の知識について整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で扱った内容を確実なものにしておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	カンファレンスに必要な知識・手法 その５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	リハビリテーションや摂食嚥下に関する倫理や医療安全について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学習した内容を確実なものにしておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	模擬症例の検討（癌患者 その１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	癌患者の症例について、病態把握を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】扱う予定の疾患に関連する知識を復習しておく。 【復習】今回扱った症例を振り返り、知識やスキルを確実なものにしておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	模擬症例の検討（癌患者 その２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	癌患者の症例をもとに、周術期の管理について多職種の視点

第7回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	で検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】前回検討した症例の内容を再確認しておく。 【復習】今回扱った症例を振り返り、知識やスキルを確実なものにしておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	授業テーマ	模擬症例の検討（癌患者 その３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	癌患者の症例をもとに、術後、化学療法等について、多職種の視点で検討する。 管理栄養士として、適切な栄養補給の方法、効果的な栄養ケアについて検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】前回まで検討してきた症例の内容を再確認し、栄養ケアの提案を考えておく。 【復習】今回扱った症例を振り返り、知識やスキルを確実なものにしておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	授業テーマ	模擬症例の検討（在宅療養関連患者 その１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	在宅連携に関連した症例について、病態把握を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】扱う予定の疾患に関連する知識を復習しておく。 【復習】今回扱った症例を振り返り、知識やスキルを確実なものにしておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	授業テーマ	模擬症例の検討（在宅療養関連患者 その２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	在宅連携に関連した症例について、多職種の視点で検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】前回検討した症例の内容を再確認しておく。 【復習】今回扱った症例を振り返り、知識やスキルを確実なものにしておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	模擬症例の検討（在宅療養関連患者 その３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	在宅連携に関連した症例について、管理栄養士として適切な栄養補給の方法、効果的な栄養ケアについて検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】前回まで検討してきた症例の内容を再確認し、栄養ケアの提案を考えておく。 【復習】今回扱った症例を振り返り、知識やスキルを確実なものにしておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	模擬症例の検討（ICU患者 その１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ICU入室患者の症例について、病態把握を行う。ICU入室患者の病態の特徴について学び、早期栄養介入等について、多職種の視点で検討する。
	教室外学習(予習・復	【予習】扱う予定の疾患医関連する知識を復習しておく。

	習)の内容	【復習】今回扱った症例を振り返り、知識やスキルを確実なものにしておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	模擬症例の検討（ICU患者 その２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ICU入室患者の症例を基に、管理栄養士として適切な栄養補給の方法、効果的な栄養ケアについてまとめ、栄養治療実施計画を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】前回まで検討してきた症例の内容を再確認し、栄養ケアの提案を考えておく。 【復習】今回扱った症例を振り返り、知識やスキルを確実なものにしておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	**授業テーマ**	全体のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第1回～第13回で学んだ内容について振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】前回までに学んだ内容を再確認し、疑問点を挙げておく。 【復習】これまでに学んだ内容を再確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	90分

学習計画注記

履修者や進行の状況等により、順序や内容が変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

授業にて解説。
質問は随時対応する。

評価方法

授業への取り組み、レポートを総合的に評価する。ルーブリックについては授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業への取り組み	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○

評価割合

授業への取り組み50%、レポート50%。詳細については授業内で説明します。

使用教科書名(ISBN番号)

なし。資料を配布する。

参考図書

授業内で適宜指示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「人間の栄養」を理解するための専門的知識

【思考・判断】食・栄養に関わる課題の解決に向けて正確な情報を収集し，戦略的な取り組みを判断できる力
【関心・意欲・態度】管理栄養士として貢献する意思，他者と協働するための共感力，主体的に学ぶ意欲と態度
【技術・表現】栄養管理と栄養指導に関する専門的技能，他職種とのコミュニケーション能力，プレゼンテーション力などの表現力

オフィスアワー

斉藤：木曜昼休み（1503研究室）

学生へのメッセージ

様々な医療現場において患者さんに対応する場面で必要な知識やスキルを高め、多職種の中で管理栄養士としての専門性を発揮できるようにするとともに、臨床現場とは関係ない自身の身近な場面にも応用できるようなことを知るきっかけにしてもらいたいと思います。積極的な参加を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	医療の実地臨床において診療業務等の実務経験を有しており、臨床現場における現状や具体例も提示しながら、実践的な内容を教授する。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション，グループワーク，プレゼンテーションを適宜行う。
情報リテラシー教育	○	インターネットを用いた各種文献、資料、情報の検索を行う。
ICT活用	○	インターネットを用いた各種文献、資料、情報などの検索を行う。

講義コード	H02068031
講義名	カウンセリング論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	小金井　希容子	指定なし

ナンバリング

H34703C21

授業概要(教育目的)

この授業では、カウンセリングについての理解を深めるために、諸理論、心理アセスメントなど、カウンセリングについて総合的に学ぶ。また、社会に出てから実践で役に立つカウンセリングの基本的な知識・姿勢・技術を面接実習や演習を通して身につけ、カウンセリングマインドを養うとともに、管理栄養士として、栄養カウンセリングが実践できる能力を育成することを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	栄養カウンセリングに必要な諸理論やアセスメントを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	カウンセリング場面で扱う課題の背景にあることを思考し、課題解決や個人の成長のために必要な情報やアプローチを選択することができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養や健康における様々な課題に関心を持ち、それに対して主体的に関わる態度や他者と協働する姿勢を養う。
技術・表現の観点 (A)	カウンセラーとして思考したことを、相手にあわせて言葉で表現できるようになる。栄養カウンセリングで使用する資料を、言葉や表などを用いて適切に表現できる。

学習計画

	授業テーマ	栄養教育におけるカウンセリングの位置づけ、基本的技法　①共感と受容
	学習内	

第1回	容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方、課題についての説明。ロジャースの来談者中心技法およびカウンセリングマインドについて理解する。授業内でロールプレイを行うときのルール（自己開示と個人情報の扱い）について確認し、栄養カウンセリングにおける倫理について学習する。演習：自分が話しやすいと感じる人の特徴について話し合い、共感や受容について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「栄養カウンセリング論第3版」P.1～7、20～21他
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	基本的技法　②傾聴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	傾聴の特徴を学び、日常会話の「聞く」とカウンセリングにおける「聞く」の違いを理解する。演習：日常的な会話と傾聴をロールプレイして、その体験の相違について話し合う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「栄養カウンセリング論第3版」P.7～13他
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	基本的技法　③質問と気づき
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オープン・クローズの質問について理解する。気づきを得ることにより、気持ちや行動が変わることを理解する。クライエントの気持ちに寄り添いながら仮説を立てていく。演習：ロールプレイによって、カウンセリングにおけるオープン・クローズの質問を練習する。講師によるカウンセリングのロールプレイ（録画）を見て、カウンセリングの流れを把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「栄養カウンセリング論第3版」p.13～14他
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	基本的技法　④評価・アセスメント、見立て
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	相談されたときに、クライエントの抱えている状況や問題についてアセスメントし、見立てる必要があることを理解する。 授業内ワーク：bio-psycho-socialモデルを理解し、模擬ケースをアセスメントおよび見立てる練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内	教科書「栄養カウンセリング論第3版」p.35～39他

	容	
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	基本的技法　⑤直面化、目標設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	評価・アセスメントの結果と見立てをクライエントと共有する難しさを体験し、注意点を整理する。さらに、目標設定を考えるときのカウンセリングが出来るようになる。演習：クライエントの気持ちを想像しながら伝える練習をロールプレイで行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「栄養カウンセリング論第3版」p.15他
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	ロールプレイ①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学習したカウンセリングの基礎をロールプレイを通して実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	カウンセリングの基礎、特に第1回から5回までに学習した基本的技法を復習する。
	教室外学習の時間（分）	270分
第7回	授業テーマ	ロールプレイ②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学習したカウンセリングの基礎をロールプレイを通して実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	カウンセリングの基礎、特に第1回から5回までに学習した基本的技法を復習する。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	健康心理学と生活習慣に関するカウンセリング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ	生活習慣（体重管理、睡眠、喫煙、飲酒、糖尿など）に関するカウンセリ

第8回	ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ングを行うために、健康心理の主要概念について理解する。健康の維持や促進、およびセルフ・エフィカシー、バーンアウトなど、健康心理学的に重要な考え方を学び、生活習慣へのカウンセリングについて考える。演習：生活習慣の悩みをテーマに、ロールプレイを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「栄養カウンセリング論第3版」p.40～54
	教室外学習の時間(分)	180分
第9回	授業テーマ	行動変容のための理論　①認知療法、行動療法、認知行動療法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考え・行動・感情の連動に焦点を当てる心理療法であることを学習する。また、刺激・反応、オペラント条件付け、不合理な信念、モニタリングなどの基本的概念を理解する。演習：①生活習慣や食に関するテーマに沿って、ワークシートを使い、考え・行動・感情を書き出し、カウンセリングをロールプレイする。②リフレーミングや思考記録表により、捉え方や考え方について扱う。ロールプレイにより実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「栄養カウンセリング論第3版」p.21～23 レポート課題：家族や友達と模擬カウンセリングを行いレポートを作成する
	教室外学習の時間(分)	180分
第10回	授業テーマ	行動変容のための理論　②心と体について～ストレス、リラクセーション、マインドフルネス～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ストレスと健康について理解を深める。ストレスに対し、カウンセリングで身体的な介入を適切に行えるようになる。演習：呼吸法や筋弛緩、マインドフルネスのワークを実施し、今ここの感覚との接触を体験する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「栄養カウンセリング論第3版」p.93～97 授業内で使用する資料を基に復習し、授業中に学習したリラクセーションを1週間体験してみる。
	教室外学習の時間(分)	180分
第11回	授業テーマ	行動変容のための理論　③家族やコミュニティーとの繋がり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事をテーマとして、個人と家族・コミュニティーとの繋がりについて考える。授業内ワーク：クライエントが家族との関係について話すときに使用できるアセスメントツールとして、ジェノグラムを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「実践栄養カウンセリング論第3版」P.27～28、57～66

	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	授業テーマ	行動変容のための理論　④様々なアプローチ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動機付けカウンセリングや心理教育的アプローチ、ソーシャル・サポートなどを理解する。継続面接を行うときに注意することを学習し、実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「栄養カウンセリング論第3版」p.82～87
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	個人・集団カウンセリングの理論と現場の様子について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集団カウンセリングを行うときの注意点について学習する。集団カウンセリングの様子を紹介し、自分が実施する際の留意点をまとめる。復習を兼ねて講師が行うカウンセリングのロールプレイを聞き、授業内で学習した内容を定着させる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書「栄養カウンセリング論第3版」p.32～35、78～82
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	授業テーマ	カウンセリングの終結、カウンセリングのロールプレイ③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学習したカウンセリングの基礎をロールプレイを通して実践する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で使用した資料を復習する。
	教室外学習の時間（分）	270分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや内容が変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

実施した課題は、採点して、次週の授業にて返却し解説する。

評価方法

ルーブリックに基づいて評価する。ルーブリックについては授業初回に説明する。

〇授業内容の理解促進のため、授業ごとに振り返りの提出が求められる（5点×14回＝70点）。
〇最終課題（30点満点）
模擬カウンセリングを実施しレポートを提出する。詳細は授業内で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題・発表	〇	〇	〇	〇
レポート	〇	〇	〇	

評価割合

課題70%
最終課題30%

使用教科書名(ISBN番号)

小松啓子・大谷貴美子「栄養カウンセリング論　第3版」講談社サイエンティフィク出版

参考図書

堀越　勝・野村　俊明「精神療法の基本　支持から認知行動療法まで」医学書院
久保克彦「栄養カウンセリング」MCメディカ出版
赤松利恵・永井成美「栄養カウンセリング論」化学同人
国重浩一「もう一度カウンセリング入門」日本評論社

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として他者と協働するための共感力を有している。
【技能・表現】専門的知識と共に、他職種とのコミュニケーション能力やプレゼンテーションなどの表現力を有している、

学生へのメッセージ

人に話を聞いてもらうと、心が楽になるときもありますが、関わり方によってはそれにより傷つくこともありますね。相手の気持ちを想像しながらカウンセリングが行えるように、練習していきましょう。カウンセリングの力が求められる場面はたくさんありますので、現場で使えるスキルをぜひ身に着けてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	〇	精神科や教育現場での実践を踏まえて、理論を実践と結び付けながら授業を進めて行く。特に、栄養・健康が相談テーマとなったケースを、個人情報に配慮しながら紹介していく。また、現場で実際に使えるアセスメントや心理教育的資料作成を授業内で行う。資格：臨床心理士、公認心理師、家族療法士（米国）
アクティブ・ラーニング	〇	各講義の質問により、自己理解などの発見学習や体験学習を行う。

情報リテラシー教育	○	レポート作成において、情報に対する評価と選択についてガイダンスを行う。
ICT活用	○	

講義コード	H02069031
講義名	児童福祉・食育演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	酒井 治子	指定なし
教授	吉永 早苗	指定なし
准教授	會退 友美	指定なし

ナンバリング

H44601C12

授業概要(教育目的)

児童福祉法改正、次世代育成支援対策、認定こども園、障害者自立支援法などの新しい施策が、子どもの福祉の現場にどういう影響をもたらしているのか。子どもを主人公にした児童福祉サービスの全体像を概観する。母子保健、子育て支援、児童虐待、一人親家庭と貧困、児童養護などの視点とともに、管理栄養士として、児童の栄養管理はもとより、子どもの「食を営む力」の育成に向けた支援のための実践力を養う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	児童福祉サービスにおける子どもの食に関わる様々な法令や制度をもとに豊かな子どもの食について説明できる
思考・判断の観点 (K)	乳幼児期の子どもの豊かな子どもの食について自らの考えを思考することができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	保育所における子どもの豊かな食の経験について自ら考えようとし、管理栄養士としての役割を模索しようとする
技術・表現の観点 (A)	保育所における子どもの豊かな食について自らの考えを表現し、食事提供や食育にいかすことができる

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション（担当：酒井）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	本授業の流れ、評価方法等の説明 保育所・子ども園等の制度の違

第1回	**教育・ICT活用を含む)**	い（就職活動に向けて）を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	保育所保育指針等の構成等、内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	保育所における目指す子どもの姿に向けた食経験とは？（担当：酒井）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもにとって豊かな食経験とは何かを学生同士の討議をする。さらに、「保育所保育指針」「保育所における食育に関する指針」を参照し、保育所での経験を踏まえて目指す子どもの姿を考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	食育で目指す子どもの姿と生活での子どもの食行動との関連を整理する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	保育所における食育の計画・評価（１）（担当：酒井）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所における食育の計画・評価をすすめる方法を習得し、管理栄養士の専門性を生かした保育所の職員の連携体制づくりについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	保育所における食育の実践にむけて、管理栄養士としての役割を整理する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	保育所における食育の計画・評価（２）（担当：酒井）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所における豊かな食経験のためのPDCAについて計画書等の書式等の事例を踏まえて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	様々な食育に関連する書式等を見直し、自分なりに食育の在り方を考える。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	子どもの生活と遊び（担当：吉永）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「食」に関する子どもの生活の中での経験は、遊びのなかにどのように表れているのだろうか。また、保育士はどのようにその環境を構成しているのか。これらについて事例をとおして考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分自身を振り返り、「食」と遊びについの関係を書き出しておく。講義を受けて、管理栄養士としての役割を整理する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	**授業テーマ**	子どもの食と表現（担当：吉永）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「食」の中で育まれる子どもの感性と表現について、事例をとおして考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「食」に関わる絵本を探しておく。講義を受けて、感性・表現の育ちを育む管理栄養士としての役割を整理する。
	教室外学習の時間	60分

	（分）	
第7回	**授業テーマ**	保育所における食事提供のPDCA（１）（担当：會退）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事提供ガイドライン等を踏まえ、保育所における豊かな食経験を保障するための食事提供について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	保育所における食事提供のPDCAを整理し、子どもにとっての豊かな食事の在り方を自分なりにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	保育所における食事提供のPDCA（２）（担当：會退）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分が考える子どもにとって豊かな食事をまとめ、学生同士で討議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもにとっての豊かな食経験について自らの考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	保育所における食の個別対応（担当：會退）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	離乳食、アレルギー、障がい児等、個別の配慮が必要な子ども達の食について、その特徴と食事提供について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	それぞれの個別の配慮が必要な子どもの食事提供の特徴を整理する。 保護者が不安に思うこと、地域資源について考える。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	保育所等における食事提供～計画（献立作成）～①（担当：會退）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループで園を想定し、目標等を話し合って決める。さらに、想定した目標に適した1日の献立をグループで話し合って立案する
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身でも献立を考え、メンバーと共有できるようにする。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	保育所等における食事提供～計画（献立作成）～②（担当：會退）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	他の班の発表や自分の班への意見から、1か月を通した献立の立て方の方向性を決める。また、食育だよりの作成に向け、想定した園の目標に適した内容を話し合う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実際に配付されている予定献立表などを収集し、想定する園に適した献立表を考える。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	保育所における食事提供～評価～（担当：會退）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗ	提供した食事を評価する項目、方法（給食日誌、検食簿等）につ

第12回	ｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	いて話し合う。その際に必要となる職員連携等などの視点も含め、改善に向けた取り組みと次回の食事提供の計画へのつながりを考察する
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として、実際に園で使用されている食事の食事評価の様式等を調べる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第13回	授業テーマ	食事提供～環境構成～（担当：會退）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事の内容以外にも食事を食べる場所や人、時間など多様な要因が関わって食事時間が構成される。これらを総合的に考え、想定した園の食事のあり方を話し合い、発表の準備を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	第15回のまとめに向けた準備を行う
	教室外学習の時間(分)	60分
第14回	授業テーマ	まとめ（担当：會退）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	班ごとに全体を通しての発表をし、各班が学んだことを共有する。管理栄養士として必要な役割や力について考察をし、受講者全体で協議、討議を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業全体を通し、学んだことについてまとめる
	教室外学習の時間(分)	60分

学生へのフィードバック方法

提出されたレポートについてコメントをつけた後に返却する。

評価方法

平常点（20%）、レポート（80%）で評価する。
平常点と課題の内容により、ルーブリックをもとに評価する。
ルーブリックの内容は、クラスルームまたは授業内にて公開する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点（授業態度等）			○	
レポート	○	○	○	○

評価割合

平常点（20%）、レポート（80%）

使用教科書名(ISBN番号)

新版 子どもの食生活，ななみ書房，上田玲子他（4903355290）

参考図書

平成30年改訂 保育所保育指針

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養

を身につけている
【思考・判断】現代の食・栄養に関わる書課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている
【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている

オフィスアワー

吉永：月曜3限
酒井：前期水曜2限、後期水曜2限
會退：未定

学生へのメッセージ

保育所における子どもの食事について、食事提供だけでなく、子どもを中心とした生活の中の食の在り方について考え、現場で求められる自分なりの管理栄養士の姿を一緒に模索しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	保育所の食育指針を作成した酒井より、保育所における子どもの目指す姿と食の在り方に関する考え方を講義する。現こども園の理事長を務める坂崎より、現在の保育の在り方について講義をする。保育所で栄養士を実務していた會退が保育所における食事提供等について事例を交えながら講義と討議を行う。
アクティブ・ラーニング	○	学生同士によるグループディスカッションを行い、自らの考えを広げ、考える力を養う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02070031
講義名	在宅地域栄養ケア演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	吉野 知子	指定なし

ナンバリング

H44602C12

授業概要(教育目的)

管理栄養士が在宅を訪問し栄養指導を行う場合、介護保険による「居宅療養管理指導」と医療保険による「在宅患者訪問栄養指導」がある。これら在宅における管理栄養士の役割と在宅チーム医療に関わる他職種の専門性を学ぶとともに協働の重要性を理解する。症例検討により訪問栄養指導の実践力を養い、在宅の栄養ケアにおける現状と問題点を社会的要因も踏まえ把握し、今後の課題と可能性について講義する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	栄養ケアマネジメントの仕組みについて説明できる。 高齢者施設及び在宅における介護サービス、栄養管理について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	介護保険制度における高齢者施設及び在宅の管理栄養士としての役割を理解し、課題や解決方法の取組について探求できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と主体的に学ぶ意欲を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	管理栄養士としての専門的技能を生かし他職種と共働することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	介護保険制度について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	介護保険制度についての基礎を学ぶ。
	教室外学習(予習・復	

	習)の内容	介護保険制度についての概要を予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	栄養ケアマネジメントについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養ケアマネジメントの基礎を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養ケアマネジメントについて概要を予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	高齢者が陥りやすい症状１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢者の栄養ケアについて学ぶ。 脱水、低栄養の基礎を理解し、その実践について症例を基に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	高齢者の脱水と低栄養の概要について予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	高齢者が陥りやすい症状２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢者の栄養ケアについて学ぶ。 褥瘡、摂食・嚥下障害について基礎を理解しその実践について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	褥瘡、摂食・嚥下障害について予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	高齢者の栄養ケアにおける食事のポイント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水分摂取方法、エネルギーアップの方法、たんぱく質付加価の方法、摂食・嚥下障害の評価方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	高齢者の食事のポイントを復習し整理する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	栄養補助食品の種類と活用１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養補助食品の種類と分類を理解し活用方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養補助食品について、事前に配付されたパンフレットで予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	栄養補助食品の種類と活用２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な栄養補助食品を実際に試食し在宅への活用方法を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	試食した栄養補助食品について自己評価し、在宅への活用方法としてのレシピを考案する（レポート作成）
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	栄養ケアマネジメントの実際１（施設・在宅）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	施設・在宅における栄養ケアマネジメントの実際を学ぶ。 協働する他職種の役割を理解する。 症例検討を行いディスカッションする。
	教室外学習(予習・復	施設・在宅における栄養ケアマネジメントについて予習し

	習)の内容	ておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	管理栄養士に求められるコミュニケーションについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	他職種におけるチームケアの基本となるコミュニケーションについて学ぶ。 利用者、家族に対するコミュニケーションについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	コミュニケーション能力の基本を予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	リスクマネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢者施設において安心安全なサービスを提供するためのリスクマネジメントの実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リスクマネジメントの概要を予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	施設サービス計画書の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	施設サービス計画書の作り方（栄養ケア計画書を含む）を学び、個々人に対するアセスメントの計画書への反映の仕方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	施設サービス計画書の概要について予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	高齢者施設における看取り介護
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢者施設における終末期の看取り介護について学ぶ。 看取り介護における管理栄養士の役割を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	看取り介護加算の概要について予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	要介護高齢者に対する介護技術
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事介助をはじめ高齢者施設で実践している介護技術について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食事介助の基本を予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	要介護高齢者の食事形態
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	要介護高齢者の高齢者施設で実践している摂食・嚥下機能に応じた食事形態について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	摂食・嚥下機能の評価について予習しておく。 「変化の時代における専門職のコミュニケーションとは～役割と専門性を考える～」についてレポートする。
	教室外学習の時間（分）	230分

学習計画注記

進行状況によってシラバス内容を前後させる場合がある。

学生へのフィードバック方法

講義や課題についての質問等は、研究室への訪問またはe-mailの問い合わせで対応する。

評価方法

定期試験（60%）、平常点（40%）で総合的に評価する。
＊平常点は授業への参加態度、討論への参加等で総合的に判断する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
レポート	○	○		

評価割合

定期試験(60%)、平常点(40%)で評価する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】高齢者福祉における専門的知識と、それらを社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。
【思考・判断】社会福祉及び高齢者の栄養ケアマネジメントに関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けた取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
【技術・表現】高齢者の福祉栄養ケアマネジメントに関する専門技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

木曜日：3時限

学生へのメッセージ

高齢者のケアを医療、介護、栄養等其々の観点から捉え、栄養ケアマネジメントを実施するうえで必要な視点を学びます。さらに施設や在宅では、具体的に多職種とどのように連携し協働しているのかを症例を通して実感しましょう。基本的な業界の専門用語について、事前に教科書、情報誌などで学習しておきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	高齢者福祉施設等に従事した経験を踏まえ専門的知識を教授する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、グループディスカッション
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02071031
講義名	地域栄養活動演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

H44803C12

授業概要(教育目的)

地域栄養活動論で学んだ、地域栄養活動をすすめるための理論や方法を基に、集団における栄養問題や、社会ニーズを把握するために社会調査法を用いて地域診断を行い、それに基づいて地域栄養計画策定のための方法論を学ぶ。また、その知識を活かすべく、地域での健康課題に対応した地域栄養活動に学生が実際に参画し、保健所などの実務者（管理栄養士など）とともに学ぶ中で、自らが計画を提案し、実践・評価するまで実践力を養うことを目的とする。
この科目は、人間栄養学科の酒井、生活デザイン学科で地域福祉がご専門の嶋田先生、東京都保健所に勤務された池田しのぶ先生と一緒に進めていきます。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	地域栄養活動をすすめための理論や方法を基に、集団における栄養問題や、社会ニーズを把握方法の実践が理解できる。
思考・判断の観点 (K)	地域や集団の健康・栄養状態および社会・生活環境を観察、状況判断しながら公衆栄養活動の実践ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	他職種との協調する態度と高齢者がかかえる課題解決への主体的な役割と意欲を学ぶ。
技術・表現の観点 (A)	地域や集団の健康・栄養状態および社会・生活環境を踏まえた、公衆栄養活動が確実に実施できる技術や対象への表現が実践できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーションと地域栄養活動計画の策定とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養学の目標のうち、心身の健全な発育・発達、健康の保持・増進、疾病予防と治療に貢献を理解する。 居住する自治体の地域診断を行い、その特徴を把握する。
	教室外学習(予	

	習・復習)の内容	公衆栄養活動によるQOLの向上について、地域栄養活動論での内容を思いめぐらす。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	地域栄養活動計画の策定の方法と実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域計画策定・実施・評価に関わる上で必要とされる技能と調査設計
	教室外学習(予習・復習)の内容	市町村の基本計画、健康日本21と食育推進基本計画等の構成について、各自治体のHPや白書により知る。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	地域の特性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4つの地域モデル（地域共同体モデル、伝統型アノミーモデル、個我モデル、コミュニティモデル）の特性を理解し、それぞれの地域モデルへのアプローチ法を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	地域栄養支援法（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域への支援方法に位置づけられるコミュニティワークとコミュニティソーシャルワークの概要について理解する。また、それぞれの支援方法の違いを知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	地域栄養支援法（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コミュニティワークの展開過程について事例を用いながら学ぶ。また、コミュニティソーシャルワークの展開過程についても理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	地域栄養支援法（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	地域におけるネットワークを構築していくための2つのアプローチ法（既存の組織等を活用した方法と新たな組織を構築していく方法）

第6回	**育・ICT活用を含む)**	について学ぶ。また、事例を用いながらネットワークを構築していく際の留意点について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	**授業テーマ**	地域栄養活動計画の策定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	就労世代の食生活支援のための食環境整備について考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	国民健康・栄養調査結果等、各種統計資料から課題について予習する
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	計画策定のための現状と課題の把握
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養成分表示制度や健康づくり協力店制度など現在各自治体で行われている支援制度を知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	政府・及び各自治体のHP等により予習する
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	地域栄養活動計画の策定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	就労世代の健康面・食生活の課題から支援のための計画を立てる
	教室外学習(予習・復習)の内容	計画の目的、目標、 評価方法を考える
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	計画と改善点の発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各班の計画について発表。改善点等の意見交換を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	計画についてまとめる
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	地域栄養活動計画の策定

第11回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢者にとっての「食べること」の意義を考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	地域包括ケアに関する政府のHPなどにより予習・復習する
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	授業テーマ	計画策定のための現状と課題の把握
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢者の健康・栄養状態、社会・生活環境に思い巡らせることができる既存資料を活用して現状の把握と必要な支援について考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	高齢者の健康・栄養状態、社会・生活環境について、政府HP,白書等により予習・復習する
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	地域栄養活動計画の策定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢者の楽しみ、生きがいにつながる管理栄養士の視点を踏まえた社会参加の支援計画を立てる
	教室外学習(予習・復習)の内容	計画の目的、目標、 社会資源や評価方法を考える
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	授業テーマ	計画と改善点の発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各班の計画について発表。改善点等の意見交換を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	計画についてまとめる
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

次の手順にしたがって受講し、受講後は期限内にレポートを提出する。
配信される授業コンテンツ（動画、資料、その他）は、授業内のみで利用を認めます。それらのコンテンツの複製、インターネットにアップロードする等の違法行為は絶対に行わないでください。
パソコンを持参してください。

学生へのフィードバック方法

計画策定に係る公衆栄養学、地域栄養活動論修得している内容のアドバイス

評価方法

・レポトート作成と発表における積極性、意見調整・集約能力、まとめ・表現能力、説明能力、評価能力
・なお成績評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについてはクラスルーム内での配布等により掲示する。
平常点（20%）、レポート（80%）で評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○	○	○
発表	○	○	○	○

評価割合

演習への参加状況・討論への参加等で総合判断する(20%)、レポート(80%)などから総合的に評価する

使用教科書名(ISBN番号)

公衆栄養学 吉池信男他編（南江堂）

参考図書

地域診断すすめ（医学書院）
管理栄養士・栄養士必携（日本栄養士会）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】・管理栄養士等の専門職業人として、地域包括ケアにつながる教養を身につける。
【思考・判断】・課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、高齢者にかかる健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。
【関心・意欲・態度の観点】・他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につける。

オフィスアワー

酒井；月曜日１・２限

学生へのメッセージ

保健所、保健センター等の公的な場で活躍したい方、政策的な仕組みとともに、実践的な取り組みなどもご紹介いただけるか思います。現場で求められる自分なりの管理栄養士の姿を一緒に模索しましょう。地方自治体で管理栄養士として活躍できる力を高めたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、厚生労働省および地方公共団体において、栄養、健康増進、生活習慣病予防対策、疾病対策等における政策の策定や実践をしてきた。
アクティブ・ラーニング	○	発表における意見聴取やまとめ
情報リテラシー教育	○	政府刊行物や既存資料の活用
ICT活用	○	政府統計やHPの活用

講義コード	H02072031
講義名	特定健診・保健指導論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	江川 賢一	指定なし
非常勤講師	川畑 輝子	指定なし

ナンバリング

H44804C21

授業概要(教育目的)

メタボリックシンドロームの早期発見・早期改善を目指すべく導入された特定健診・保健指導は、内臓脂肪の蓄積に注目した生活習慣病予防のためのアプローチである。しかし、生活習慣病の発症を未然に防ぐ取り組みとはいえ、慣れ親しんだ習慣を変えることは容易ではない。特定保健指導を含めた健康づくりでは、単に対象者に合わせた情報提供をするだけでなく、対象者の生活スタイルや思考パターンを考慮した改善環境の見極めとフォローが重要になってくる。人の行動を科学的に把握し、適した目的地に導いていくためのスキルの習得を目標とする。

履修条件

この講義では、特定保健指導における実践的スキルを習得するため、栄養教育、栄養指導、応用栄養学、栄養カウンセリングなどの多くの領域を横断的に発展させていく思考が必要です。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	特定健康診査・特定保健指導の内容を理解し、行動科学的な支援方法ならびに行動変容プログラムの組み立て方を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	健康行動の「理解」から「実行、継続」するための支援の流れを理解し、その効果的な取り組みを判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	行動変容を支援する管理栄養士として使命感を持って取り組む意欲がある。また、他職種と連携するためのコミュニケーション能力や豊かな人間性を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	行動変容支援を成功させる（結果につながる）カウンセリング技術を身につけている。

学習計画		
第1回	授業テーマ	特定健診・保健指導論について（導入）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オリエンテーションとして治療から予防医学への変遷と予防医学からヘルスプロモーションへの展開を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特定健診・特定保健指導に関するウェブサイトを検索して、関心のある内容を整理する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	授業テーマ	特定健診：生活習慣病の予防と早期発見
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特定健診の背景、目的、方法を学習する。基本的な健診の項目、詳細な健診の項目を理解し、標準的な質問票の取り扱いについて学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（資料）特定健診と特定保健指導を通読する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	特定保健指導：生活者の視点に立った健康づくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特定保健指導の背景、目的、方法を学習する。行動計画の実績評価、初回面接と実績評価、特定健康診査当日に実施する初回面接の内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（資料）特定健康診査・特定保健指導の円滑な 実施に向けた手引き（第4版）を通読する。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	各種健診（検診）と保健指導の連携
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	健診と検診の目的の違いを理解する。一般健診、付加健診（定期健康診断）と各種がん検診の目的と方法を学習する。

第4回	**用を含む)**	
	教室外学習(予習・復習)の内容	（参考資料）第４期特定健診・特定保健指導について（解説動画）を視聴し、管理栄養士として実施する特定保健指導の説明動画を制作する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	食事以外の生活習慣に関する基礎知識
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対象者の生活背景をふまえ、前向きな自己決定を促す力と、食事以外の生活習慣に関しても適切な指導ができるスキルを修得する。具体的には、身体活動・運動、たばこ、アルコールを中心に、歯科衛生、睡眠等の基礎知識と指導法について、動画や事例を活用して学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	以下の資料を通読する。 ・健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023 ・禁煙支援マニュアル（第二版）増補改訂版 ・健康に配慮した飲酒に関するガイドライン
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	初回面接の方法①：基本の初回面接をやってみよう
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的な初回面接の組み立て方を学ぶ。具体的には、プライバシーの保護、健診データーと問診による課題抽出から、行動変容ステージの把握、削減目標、行動目標設定までの結果時間配分、および継続支援の説明と提案、支援計画の作成法についてなどを学習する。 その上で、初回面接を模擬実施し、改善点等について議論する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配付する模擬対象者に対する初回面接プログラム案を考える。 復習：授業で学んだことをふまえ、改善版を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	初回面接の方法②：上手なICTの活用法を考えよう
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	参加率や指導効果の向上につながるよう、初回面接や継続支援に ICT（ビデオ通話システムやアプリケーション等）を組み込むスキルを学 ぶ。ICT面接のメリット、デメリットについて知り、資料作成・情報提供の方法など効果的な活用法について考え模擬実施し、改善点等について議論する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：ICTを活用した初回面接プログラム作成に向けて、ビデオ通話システムや、健康アプリケーションの種類や機能について情報収集する。 復習：授業で学んだことをふまえ、ICTを活用した初回面接プログラムの改善版を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分

第8回	授業テーマ	初回面接の方法③：グループ初回面接をやってみよう
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループ支援（おおむね8人以下の1グループあたり、おおむね80分以上）の効果的な組み立て方について学ぶ。具体的には、対象グループの特性把握、グループダイナミクスの活用、時間配分、ツールの作成等について学び模擬実施し、改善点等について議論する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配付する模擬集団に対する効果的な初回グループ面接プログラム案を考える。 復習：授業で学んだことをふまえ、改善版を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	授業テーマ	初回面接の分割実施と、継続支援、最終評価の方法を考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特定健康診査当日に実施する分割初回面接は、体重・腹囲、血圧、喫煙状況等の限定的な情報を基に行う10分程度の短時間支援となる場合が多い。その方法について学ぶ。さらに、全ての健診データがそろった後に行う2回目初回面接と、それに続く電話・メール支援の方法や、ICTやアプリの活用を、それらのメリット・デメリットをふまえて考える。模擬実施を行い改善点等について議論する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配付する模擬対象者に対する支援計画案を作成する。 復習：授業で学んだことをふまえ、改善版を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	授業テーマ	行動経済学 やナッジの活用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	行動変容が難しい対象者や、さまざまな社会経済的背景も含めたすべての人々が、自然と行動変容でき、健康的な生活を習慣化できる方法の一つとして、行動経済学やナッジの活用が期待されている。その事例を学び、特定保健指導に活かせるツールやプログラムを作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「ナッジを応用した健康づくりガイドブック」を通読する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	困難事例に挑戦する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第10回の学習をふまえ「健康無関心層」「ハイリスク者」「社会経済的弱者」「職場や家庭環境の要因で行動変容が難しい対象者」に対するツールおよび支援計画、想定問答集を作成する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：第10回の学習をふまえ、配付する模擬対象者に対する支援計画・ツール、想定問答の案を考える。 復習：授業内のディスカッションをふまえ、改善版を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	高齢の対象者に対する保健指導に挑戦する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢の対象者に対し、フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニア等の簡易なアセスメント法を学び、年齢に配慮し保健指導ができるスキルを学ぶ。初回面接、継続支援を模擬実施し、改善点等について議論する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配付する模擬対象者に対する支援計画案を考える。 復習：授業で学んだことをふまえ、改善版を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	地域・医療との連携
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	必要な対象者を地域の社会資源（健康イベント・教室・自主グループ、運動施設・環境）や医療（禁煙外来、睡眠外来、アルコール依存の相談ができる医療機関等）につなぐ為に必要な知識やスキルについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	想定する地域の社会資源や、特定保健指導と関連する医療機関、診療科目等について調べ、その連携方法について考える。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	**授業テーマ**	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	結果につながる行動科学的な支援方法やプログラムについて学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指定された課題に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

履修者数や講義の進度によりスケジュール、授業方法が変更になる場合もあります。
教室外学習はGoogle Classroomまたは授業で指示した課題に取り組みます。PCを使用して出欠、教材配布、課題提出、フィードバックをします。

学生へのフィードバック方法

教室外学習（ミニ課題）は、次の講義で解説します。
個別の質問にはリアクションペーパーを通じて対応します。

評価方法

ルーブリックに基づいて成績評価します。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示をします。
・実際に特定保健指導の現場でやり取りされる内容をミニ課題で問い、対応の仕方を習得させる
・レポートは、課題に対して自身の考えをまとめ、わかりやすく伝えるスキルを習得させる
・定期試験は、記述式でケーススタディから課題や改善点を読み取り、実際の現場で役に立つ対応力を習得させる

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
ミニ課題	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○

評価割合

ミニ課題30%、レポート70%

使用教科書名(ISBN番号)

金森悟・福田洋（編著）逆引きで問題解決！あるある事例から学ぶ 産業保健現場のデータ活用術、メディカ出版、2024年（ISBN978-4-8404-8421-3）

参考図書

（資料）
・特定健康診査・特定保健指導
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000161103.html
・特定健康診査・特定保健指導の円滑な 実施に向けた手引き（第4版）
https://www.mhlw.go.jp/content/12400000/001081774.pdf
・第４期特定健診・特定保健指導について（解説動画）
https://www.youtube.com/playlist?list=PLMG33RKISnWjOku7XyIFTRyGIuYkp4FRk
・データヘルス計画作成の手引き 第3期改訂版
https://www.mhlw.go.jp/content/12400000/001114929.pdf

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】生涯を通じた健康増進に寄与するための職場や地域との相互理解から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を身につけている。
【思考・判断】現代の生活習慣に関わる健康課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、効果的な行動変容を支援できる戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と他者と共働するための豊かな人間性を身に付けている。
【技術・表現】人々の健康の保持増進のために食と栄養に関する専門的な技能と表現力を身に付けている。

オフィスアワー

川畑 学籍番号と名前を明記の上、メールで受け付けます。
江川 1202研究室：木曜日昼休み

学生へのメッセージ

生活習慣病は、一度境界線を超えて「病気」の状態になると、根本的な治療は難しくなります。健康な状態に逆戻りできるのは、境界領域を超える一歩手前のところまでで、そのあとは合併症や重症化の予防を目的とする治療が開始します。「特定健診・保健指導」は、日本の社会経済を支える働き盛りの人たちが、その境界線を超えないように守る仕事です。言うまでもなく、生活習慣病は動脈硬化や脳卒中、心臓病、認知症をもたらし要介護になるリスクを高めます。そして、その予防には食事だけでなく運動、喫煙、飲酒等の様々な生活習慣が関連し、それらの行動はがんの発症とも密接な関係があります。つまり、特定健診・保健指導は、日本人の主な死因をまとめて予防する、まさに予防医療の要であると言えます。
一方で特定健診・保健指導はみなさんの兄姉やご両親、祖父母さまなどが対象となる、とても身近な仕組みでもあります。不健康になりそうな人を、そっと健康な状態に戻す助けをする「ナッジ」の考え方とも方向性を共有します。特定健診・保健指導はみなさんがこれまで勉強してこられた栄養学の知識に加え、運動、喫煙、飲酒等の生活習慣に関する知識やその行動変容を科学的に支援する手法、それらを総動員して設計する、とてもチャレンジングで楽しく、やりがいのある仕事です。
授業では、その遂行に必要な対象者の職業や生活環境、地域の社会資源や医療サービスについてリサーチする社会学的な学習もします。実際にツールを作成し、模擬保健指導の体験をすることで、一連の授業が終わる時には、皆さん全員、特定保健指導ができるようになっているはずです！ぜひ、みなさんのフレッシュなアイデアを持ち寄って、新しい行動変容プログラムを一緒に考えてみませんか？授業でお会いできることを楽しみにしています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員（川畑）は、民間の特定保健指導機関において特定保健指導のプログラム作成と指導者養成に15年従事し、現在も原籍の公益法人にて特定保健指導の実務を担当しています。地域の保健事業や食環境整備にも従事しており、その経験を生かした授業を展開します。担当教員（江川）は企業の特定健診・特定保健指導の実務と地域の保健事業に関する理解を促進するための専門的知識を教授します。
アクティブ・ラーニング	○	適宜、ディスカッション、ミニテスト（ミニ課題）をすることで、実践的な考え方を整理します。
情報リテラシー教育	○	健康づくり支援に関する健康情報の本質を見抜く力を習得します。
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（リアクションペーパー）を提出します。

講義コード	H02073031
講義名	国際栄養活動論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	田中 千晶	指定なし
非常勤講師	カバリエロ 優子	指定なし
非常勤講師	河嵜 唯衣	指定なし

ナンバリング

H44805C21

授業概要(教育目的)

世界の健康問題は栄養不良に関連し、生活習慣病が主要課題となりつつある。また近年では、健康問題に加え環境問題への貢献も視野に入れた栄養改善活動が求められている。本授業では、これらの課題について概説し、さらに課題解決に向けた取り組みを紹介する。世界保健機関（World Health Organization）や食糧農業機関（Food Agriculture Organization）、国連児童基金（United Nations Children's Fund）等の国連機関による活動や日本の国際栄養活動、具体的にはJICAボランティア事業（青年海外協力隊の派遣）などを含む政府開発援助（Official Development Assistance）、官民連携事業、Active Healthy Kids Global Alliance、特定非営利活動法人（NPO法人）による活動等を取り上げる。国際的な場面における栄養士の活動を理解するため、子どもから高齢者まで幅広く、世界の栄養関連分野における協力の実情を理解し、将来の活動の場の広がりを考えていくことを目的とする。

履修条件

特に無し。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	国際的な保健活動、栄養活動について学ぶ。
思考・判断の観点 (K)	生活習慣病の予防対策は、世界の課題となりつつあることを理解し、栄養士の重要性を考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養士の果たす役割が大きくなりつつあることを実際に体感する。

技術・表現の観点(A)	国際的な場面における、栄養活動について表現できる。

学習計画

国際栄養

第1回	**授業テーマ**	国際的な保健活動（田中担当）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オリエンテーションおよびActive Healthy Kids Global Allianceによる小児期からの生活習慣病対策
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）Active Healthy Kids Global Allianceのwebを用いて、各国の課題をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	**授業テーマ**	栄養と教育（カバリェロ担当）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育が果たす社会への影響力の大きさについて学ぶとともに、具体的なアプローチ方法について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配布資料該当箇所
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	母子保健と栄養改善活動（カバリェロ担当）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	母子保健の重要性について知り、栄養改善のためのアプローチ方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配布資料該当箇所
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	途上国における栄養調査と栄養改善活動（カバリェロ担当）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT	地域により異なる食文化の特徴と食の歴史についての概要を学ぶ。栄養アセスメントの手法を学ぶとともに、栄養改善活動後の評価方法について考える。

第4回	育・　活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配布資料該当箇所
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	国際機関、青年海外協力隊、NGOの活動（カバリェロ担当）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	歴史的背景を踏まえた各組織における実際の活動事例について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配布資料該当箇所
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	災害栄養、宇宙食、多様な食文化に対応した食事について（カバリェロ担当）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近年、災害時における管理栄養士の役割の重要性が増している。一方で、宇宙食、アレルギー、ハラル対応など、様々なニーズへの対応も求められつつある。本回では、そのような食事への対応について学ぶとともに、カバリェロ担当の最終回として、これまでの学びから課題を見出して調べ学習した内容を班ごとにまたは個人で発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）プレゼンテーション資料作成
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	SDGsと食との関わり、食生活と環境問題1（河嵜担当）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	SDGsと食との関わりについて概説する。気候変動（温室効果ガス）や富栄養化を取り上げ、既存のフードシステムが世界の環境問題に及ぼす影響について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配布資料該当箇所 （課題）授業中に指示されたもの
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	食生活と環境問題2（河嵜担当）

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	海洋プラスチック問題や漁業慣行を取り上げ、既存のフードシステムが世界の環境問題に及ぼす影響について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配布資料該当箇所 （課題）授業中に指示されたもの
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	食品ロスとエシカル消費（河嵜担当）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品ロスやエシカル消費を取り上げ、消費者の購買行動・消費行動が食品生産の駆動力であることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配布資料該当箇所 （課題）授業中に指示されたもの
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	食文化の形成と健康（河嵜担当）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本と世界の食文化を学び、その多様性について学ぶ。管理栄養士・栄養士として食行動の変容を促すにあたり、食文化を尊重することの重要性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配布資料該当箇所 （課題）授業中に指示されたもの
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	食事パターンの変容（グループワーク）（河嵜担当）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	持続可能で健康な食行動の実践のために、管理栄養士・栄養士としてできることを考える。グループワークを行うため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配布資料該当箇所 （課題）授業中に指示されたもの
	教室外学習	

	の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	食事パターンの変容（発表）（河嵜担当）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	持続可能で健康な食行動の実践のために、管理栄養士・栄養士としてできることを考える。発表を行うため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配布資料該当箇所 （課題）授業中に指示されたもの
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	国際調査活動の実際（河嵜担当）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	海外の研究機関と協働した研究活動の事例を紹介し、食に関する社会課題の解決に向けた国際的な取り組みについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）配布資料該当箇所 （課題）授業中に指示されたもの
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	国際栄養活動論のまとめ（田中担当）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本授業を踏まえ、自身が今後必要であると考える国際栄養活動について、発表、討論を行う。プレゼンテーションを行うため、ノートパソコンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	(予習)授業前に、1～14回の講義内容に基づき、自身が今後必要であると考える国際栄養活動をまとめてくる。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

講師の予定により、日程変更の可能性があります。

学生へのフィードバック方法

質問等は、講義内に対応します。課題に対するフィードバックは、授業にて解説します。

評価方法

ルーブリックに基づいて成績評価します。ルーブリックについては授業内での配布等により提示をします。平常点（リアクションペーパーの提出30%）、報告・レポート(70%)から総合的に

評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点		○	○	
報告レポート	○	○	○	○

評価割合

平常点(30点)と報告レポート(70点)

使用教科書名(ISBN番号)

第1回は、公衆衛生学実習の教科書を使用します。

参考図書

特に無し。

ディプロマポリシーとの関連

（知識・理解）社会の基盤となる健康「生活の質」とは何かを理解し、総合的な公衆衛生学の視点から、現代生活の健康関連の諸問題を理解できる。
（思考・判断）健康関連の生活社会の諸問題を自ら発見し分析、問題解決に導く考察ができる。
（感心・意欲・態度）生活者の視点に立ち、社会の健康関連の諸問題について関心を持ち続けることができる。
（技能・表現）他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

水および木曜日昼休み（田中）に実施しますので、事前にメールでご連絡下さい。

学生へのメッセージ

実際に国際協力を経験している講師の話を中心に展開します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	国際保健の実務経験がある。
アクティブ・ラーニング	○	グループ・ワークを行う（受講状況によって変更あり）。
情報リテラシー教育	○	インターネットで関連資料の検索等を行う。
ICT活用		

講義コード	H02074031
講義名	スポーツ選手の栄養学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	加藤 理津子	指定なし
教授	江川 賢一	指定なし

ナンバリング

H34501C21

授業概要(教育目的)

運動生理学を中心として，栄養（飲食）に関わる事柄について講義形式で授業を進めます。
前半（運動生理学）では，運動を行ったときの一過性の生理応答，トレーニングを行ったときの慢性的な適応現象を説明します。
後半ではスポーツ選手の栄養学的課題と栄養素の関わりと，よりよいスポーツ活動のための食事について，実例とともに解説します。

履修条件

H22204C21 運動生理学、H22203C13 解剖生理学実習を学習していること。
H44503C13スポーツ栄養学実習、H34002C43実践栄養プロデュース実習（江川・加藤）の履修希望者は必ず履修すること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．運動を行ったときに身体に起こる急性応答を理解する。 ２．運動を行ったときに身体に起こる慢性適応を理解する。 ３．スポーツ選手の栄養学的課題を列挙できる。 ４．スポーツ選手のよりよいスポーツ活動のための食事を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	健康のための運動，競技のための運動，リハビリのための運動の違いを判断できる。 対象となるスポーツ選手の目的別、状態別に応じて必要な情報を取捨選択できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら健康増進や競技力向上の基礎的な実践を通じて、生涯にわたるスポーツ栄養の意義を説明できる。
技術・表現の	対象となるスポーツ選手の目的別、状態別に栄養管理計画を立案できるとと

観点 (A)	もに、プレゼンテーション能力などの表現力を身につけている。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の概要、青年期女性の健康問題と対策を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	スポーツ栄養にマネジメントに関する情報を収集する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	**授業テーマ**	スポーツと栄養の基礎
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動時の生理応答を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運動生理学で学習した呼吸循環系、運動系、免疫系の一過性応答および慢性適応を復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	スポーツと栄養の応用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動時の代謝を説明する。 （校内特別授業の予定）
	教室外学習(予習・復習)の内容	基礎栄養学で学習した糖質・たんぱく質・ビタミン・ミネラルの代謝を復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	スポーツと栄養の実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	スポーツに関わる体重管理、摂食障害、貧血、骨代謝、水分補給の問題を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	応用栄養学で学習した食事摂取基準、ライフステージ別の栄養課題、支援方法を復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	健康づくりを目的とした運動処方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動処方の理論を説明し、健康づくりに応用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身体活動基準・指針、アクティブガイドの情報を収集する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	健康づくりを目的としたサポート計画の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対象別の健康課題を整理し、健康づくりに必要なサポート計画を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身体活動基準・指針を復習し、対象別にメッツ計算する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	前半の振り返り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1～6回目までの学習を振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：1～6回目の内容をまとめ、説明できるようにする。 復習：7回目の授業内容を整理する。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	スポーツ選手の栄養管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃ	スポーツ選手を対象とした栄養マネジメントと栄養

第8回	ﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アセスメントを学ぶ。 ※パソコン等の通信機器を用いて出欠確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：応用栄養学のテキストを読む。 復習：ワークシートをもとに学習内容を整理する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	栄養計画の立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養計画の立案方法を学ぶ。 ※パソコン等の通信機器を用いて出欠確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：応用栄養学のテキストを読む。 復習：ワークシートをもとに学習内容を整理する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	目的別の栄養摂取方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	目的別の栄養摂取方法を学ぶ。 ※パソコン等の通信機器を用いて出欠確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：応用栄養学のテキストを読む。 復習：ワークシートをもとに学習内容を整理する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	スポーツ選手の食生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	スポーツ選手の食生活を学ぶ。 ※パソコン等の通信機器を用いて出欠確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：応用栄養学のテキストを読む。 復習：ワークシートをもとに学習内容を整理する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	女性のスポーツ栄養
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	女性アスリートを対象にした栄養管理を学ぶ。 ※パソコン等の通信機器を用いて出欠確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：応用栄養学のテキストを読む。 復習：ワークシートをもとに学習内容を整理する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	スポーツ選手を対象とした栄養学の応用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習内容を振り返り、スポーツ選手を対象にした栄養管理計画を立案する。 ※パソコン等の通信機器を用いて出欠確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：応用栄養学のテキストを読む。 復習：ワークシートをもとに学習内容を整理する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	スポーツ選手を対象とした栄養管理の実践に向け、学習内容を整理する。 ※パソコン等の通信機器を用いて出欠確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：学習内容を整理する。 復習：ワークシートをもとに学習内容を整理し、学習内容をレポートをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

※履修者数や講義の進度によりスケジュール、授業方法が変更になる場合もあります。
変更が生じる場合には事前に連絡をするので、メールを常に受信できるようにし、また受信内容を直ちに確認して下さい。

PCを使用して出欠、教材配布、課題提出、フィードバックをします。

学生へのフィードバック方法

授業の進行にしたがってワークシートに記入したものを、その都度確認し、返却します。

評価方法

ルーブリックに基づいて成績評価します。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示をします。
中間試験：記述式で出題します。
課題提出：授業の進行に応じたワークシートおよびまとめのレポートを出題します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間試験	○	○		
課題提出	○	○	○	○

評価割合

中間試験（50%）、課題提出（50%）

使用教科書名(ISBN番号)

「八訂食品成分表」
「調理のためのベーシックデータ」 女子栄養大出版部（978-4789503174）
「日本人の食事摂取基準[2025年版]」 第一出版
「エビデンスに基づく競技別・対象別スポーツ栄養」 建帛社（978-4767961934）

参考図書

「理論と実践 スポーツ栄養学」 日本文芸社（978-4537215823）
「エッセンシャルスポーツ栄養学」 市村出版（978-4902109542）
「スポーツ栄養学ハンドブック」 東京大学出版会（978-4130517003）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】運動を中心とした人間の栄養に関する専門的知識と、それらを応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている
【思考・判断】運動と栄養に関わる諸課題を探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集し、論理的批判的に思考できる
【関心・意欲・態度】運動を中心とした人間の栄養に関心を持ち、管理栄養士として貢献する意欲と態度を身につけている
【技術・表現】運動を中心とした人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能と共に、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている

オフィスアワー

加藤 1B05研究室：水曜日昼休み
江川 1202研究室：木曜日昼休み

学生へのメッセージ

受講にあたり、以下の内容に取り組むことを期待します。
○遅刻や欠席、私語、内職、居眠りを慎み、メモを取るなど主体的に取り組むこと。
○計画的に予習、復習に取り組み、理解を深めるよう努めること。
○提出物は、手順や締め切りを守り、学習した内容を理論的に書くよう努めること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
		担当教員（加藤）はスポーツ栄養の現場経験をふまえ、スポーツを実施する

実務経験を活かした授業	○	人を対象とした栄養管理の理論や技術について専門的知識を教授します。担当教員（江川）は民間企業の研究機関における運動生理学的研究に従事した経験を踏まえて、アスリートの運動処方に関する専門的知識を教授します。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	

講義コード	H02075031
講義名	発育期の運動と栄養
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	江川 賢一	指定なし
教授	斉藤 恵美子	指定なし

ナンバリング

H34502C21

授業概要(教育目的)

健やかな成長・発達には、適切な身体活動（運動・スポーツ）と栄養が欠かせません。
この講義では、正常な成長発達に必要な栄養、我が国の子どもの体力の現状、日常的にジュニアアスリートに認められる栄養学的な問題について解説します。

履修条件

H22204C21 運動生理学、H22203C13 解剖生理学実習を学習していること。
H44503C13スポーツ栄養学実習、H34002C43実践栄養プロデュース実習（江川）の履修希望者は必ず履修すること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	正常な成長発達を説明できる。 運動時のエネルギー代謝を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	成人と小児のエネルギーや栄養素の必要量に関する考え方が説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	小児のスポーツ栄養について関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	対象となるスポーツ選手の目的別、状態別に栄養管理計画を立案できるとともに、プレゼンテーション能力などの表現力を身につけている。

学習計画

発育期の運動と栄養

	授業テーマ	ガイダンス：ジュニアを対象としたスポーツ栄養の考え方

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	授業概要、学習目標、授業方法を理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1章 アスリートの栄養摂取、第8章 栄養素・エネルギー・消化吸収の基礎
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	**授業テーマ**	成長期（小学生）の運動と栄養
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	成長期にある小学生の身体的特性を学習し、この時期に必要な運動と栄養の理論を理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第2章 エネルギーの補給と消費
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	成長期（中学生）の運動と栄養
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	成長期にある中学生の身体的特性を学習し、この時期に必要な運動と栄養の理論を理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3章 アスリートの食事・サプリメント
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	青年期（高校・大学生）の運動と栄養
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	青年期の身体的特性を学習し、この時期に必要な運動と栄養の理論を理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第4章 試合期・遠征期の栄養管理・食生活
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	女性アスリートの運動と栄養
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	成長期および青年期の女性の身体的特性を学習し、この時期に必要な運動と栄養の理論を理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第5章 目的別の栄養管理
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	ジュニアを対象としたスポーツ栄養マネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	スポーツ栄養マネジメントの基礎概念を学習し、ジュニアを対象とする場合の理論と技術を理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第6章 コンディショニング
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	ジュニアを対象としたスポーツ栄養マネジメントの実例
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	ジュニアを対象とするスポーツ栄養マネジメントの実例を学習し、この時期に必要な運動と栄養の理論を理解します。

第7回	育・ICT活用を含む)	（校内特別授業の予定）
	教室外学習(予習・復習)の内容	第7章 熱中症の予防と水分補給
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	スポーツ栄養のトピックス１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小児の運動器の特性や疾患の特徴など、整形外科的な観点について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	解剖生理学を復習しておく。 配布資料。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	スポーツ栄養のトピックス２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動中の突然死、運動誘発喘息、成長期の貧血など、子どもの生活習慣など、内科的な観点や社会を取り巻く問題点等について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	解剖生理学、病態栄養学、ライフステージ別栄養学を復習しておく。 配布資料。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	スポーツ栄養のトピックス３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	女性アスリートについて学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	スポーツ栄養のトピックス４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ドーピング、サプリメントについて学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	スポーツ栄養のトピックス５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害者スポーツ、リハビリテーションなどについて学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	スポーツ栄養のトピックス６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	スポーツ現場でのハラスメントなど、スポーツをとりまく諸問題について学習する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料
	教室外学習の時間(分)	190分
第14回	**授業テーマ**	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業全体を振り返り、ライフステージを見据えた支援について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料
	教室外学習の時間(分)	190分

学習計画注記

※履修者数や演習の進度によりスケジュール、授業方法が変更になる場合もあります。
PCを使用して出欠、教材配布、課題提出、フィードバックをします。

学生へのフィードバック方法

リアクションペーパーを通じて個別の質問に対応します。

評価方法

ルーブリックに基づいて成績評価します。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示をします。

（斉藤担当分）課題レポートにより評価します。評価に用いるルーブリックは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間試験（レポート）	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	○
レポート（斉藤）	○	○	○	○

評価割合

中間試験（25%）、定期試験（25%）
（斉藤担当分）レポートにて評価（50%）

使用教科書名(ISBN番号)

「エビデンスに基づく競技別・対象別スポーツ栄養」 建帛社（978-4767961934）

（斉藤担当分）指定教科書は無し。授業内で資料配布します。

参考図書

「理論と実践 スポーツ栄養学」 日本文芸社（978-4537215823）
「エッセンシャルスポーツ栄養学」 市村出版（978-4902109542）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】運動を中心とした人間の栄養に関する専門的知識と、それらを応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている
【思考・判断】運動と栄養に関わる諸課題を探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集し、論理的批判的に思考できる
【関心・意欲・態度】運動を中心とした人間の栄養に関心を持ち、管理栄養士として貢献する

意欲と態度を身につけている
【技術・表現】運動を中心とした人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能と共に、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている

オフィスアワー

江川 1202研究室：木曜日昼休み
斉藤 1503研究室：木曜昼休み

学生へのメッセージ

ジュニアからシニアまで、アスリートのライフステージを通じた栄養管理は注目を浴びている領域であり、学習する価値があります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員（江川）は民間企業の研究機関における運動生理学的研究に従事した経験を踏まえて、アスリートの運動処方に関する専門的知識を教授します。 担当教員（斉藤）は医療の実地臨床において、診療業務等の実務経験を有しており、スポーツ医学の観点も含め、臨床現場における現状や具体例も呈示しながら、実践的な内容を教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02076031
講義名	スポーツ栄養学実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	１限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	江川 賢一	指定なし
准教授	加藤 理津子	指定なし

ナンバリング

H44503C13

授業概要(教育目的)

スポーツ栄養学で学習した内容をふまえ、アスリートや健康づくりを目的にスポーツを行う人を対象とした栄養・食事管理の知識と技術の統合をはかり、実践力を育成する。具体的には、スポーツ・身体活動に応じた栄養・食事の管理計画の立案、運動プログラムの作成と体験を通し、スポーツ・身体活動と栄養・食事をトータルにプロデュースする能力、管理運営する能力を養う。

履修条件

H22204C21 運動生理学、H22203C13 解剖生理学実習、 H34501C21 スポーツ選手の栄養学を履修していること。
H34002C43実践栄養プロデュース実習（江川）の履修希望者は必ず履修すること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．運動を行ったときに身体に起こる急性応答を理解する。 ２．運動を行ったときに身体に起こる慢性適応を理解する。 ３．スポーツ選手の栄養学的課題を列挙できる。 ４．スポーツ選手のよりよいスポーツ活動のための食事を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	健康のための運動，競技のための運動，リハビリのための運動の違いを判断できる。 対象となるスポーツ選手の目的別、状態別に応じて必要な情報を取捨選択できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら健康増進や競技力向上の基礎的な実践を通じて、生涯にわたるスポーツ栄養の意義を説明できる。
技術・表現の	対象となるスポーツ選手の目的別、状態別に栄養管理計画を立案できるとと

観点 (A)	もに、プレゼンテーション能力などの表現力を身につけている。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション・スポーツと栄養の基礎
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の概要、青年期女性の健康問題と対策を説明する。身体活動時の生理応答を説明する。 演習の進め方や運動の注意事項を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	スポーツ栄養マネジメントに関する情報を収集する。運動生理学で学習した呼吸循環系、運動系、免疫系の一過性応答および慢性適応を復習する。
	教室外学習の時間（分）	0分
第2回	**授業テーマ**	スポーツと栄養の応用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身体活動時の代謝を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	基礎栄養学で学習した糖質・たんぱく質・ビタミン・ミネラルの代謝を復習する。
	教室外学習の時間（分）	0分
第3回	**授業テーマ**	スポーツと栄養の実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	スポーツに関わる体重管理、摂食障害、貧血、骨代謝、水分補給の問題を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	応用栄養学で学習した食事摂取基準、ライフステージ別の栄養課題、支援方法を復習する。
	教室外学習の時間（分）	0分
第4回	**授業テーマ**	健康づくりを目的とした運動処方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動処方の理論を健康づくりに応用する。 （校外実施予定）
	教室外学習(予習・復習)の内容	身体活動基準・指針、アクティブガイドの情報を収集する。
	教室外学習の時間（分）	0分
第5回	**授業テーマ**	健康づくりを目的としたサポート計画の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対象別の健康課題を整理し、健康づくりに必要なサポート計画を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身体活動基準・指針を復習し、対象別にメッツ計算する。
	教室外学習の時間（分）	0分
第6回	**授業テーマ**	スポーツ栄養アセスメントの基礎
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	スポーツ栄養アセスメントの方法を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アセスメントの方法を復習する。

	教室外学習の時間（分）	0分
第7回	**授業テーマ**	スポーツ栄養アセスメントの応用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アセスメントに基づくサポート計画の立案方法を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	対象者のニーズに合わせた計画を作成する。
	教室外学習の時間（分）	0分
第8回	**授業テーマ**	「スポーツ栄養教室」の計画立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	① 考えられる課題を抽出する ② ①の情報から目標（評価の指標）とサポート内容を設定する ③ ②にそって栄養教室の学習目標と学習目標を達成するための学習内容を決定する ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント、スプレッドシート等で計画書を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：スポーツをする人を対象とした栄養管理（アセスメント）について、これまでの学習内容をふりかえる 復習：立案した計画を見直し、修正する
	教室外学習の時間（分）	0分
第9回	**授業テーマ**	「スポーツ栄養教室」の媒体作成①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	① 計画にそって、目標を達成するための媒体の一つとなる献立を作成する ② 発注書を作成する ※パソコン等の情報機器類を用いて、ドキュメント等で計画書および発注書を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：栄養教室の内容に関する情報や媒体や献立を調べる 復習：企画した栄養教室および献立の内容を見直し、修正する
	教室外学習の時間（分）	0分
第10回	**授業テーマ**	「スポーツ栄養教室」の媒体作成②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食事計画にそって目標を達成するために必要な媒体を作成する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、スライド等で教育媒体を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：栄養教室の内容に関する情報や媒体を調べる 復習：作成した媒体の内容を見直し、修正する
	教室外学習の時間（分）	0分
第11回	**授業テーマ**	「スポーツ栄養教室」の媒体作成③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	① 第9回の献立を調理する ② 教育媒体用に物撮りをする
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：調理手順を確認する 復習：写真を編集する
	教室外学習の時間（分）	0分

第12回	授業テーマ	「スポーツ栄養教室」の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「スポーツ栄養教室」の評価指標となるアンケートを作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：アンケート項目を調査する 復習：アンケート項目を見直す
	教室外学習の時間（分）	0分
第13回	授業テーマ	「スポーツ栄養教室」の実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教室を実践する。 ※パソコン等の情報機器類を用いて、栄養教室を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：栄養教室の内容、手順を確認する 復習：栄養教室の成果を分析する
	教室外学習の時間（分）	0分
第14回	授業テーマ	「スポーツ栄養教室」の評価と総括
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「スポーツ栄養教室」の評価結果を共有する ※パソコン等の情報機器類を用いて発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：発表内容を確認する 復習：学修事項を整理し、レポートを作成する
	教室外学習の時間（分）	0分

学習計画注記

※履修者数や講義の進度によりスケジュール、授業方法が変更になる場合もあります。
変更が生じる場合には事前に連絡をするので、メールを常に受信できるようにし、また受信内容を直ちに確認して下さい。
PCを使用して出欠、教材配布、課題提出、フィードバックをします。

学生へのフィードバック方法

授業の進行にしたがってワークシートに記入したものを、その都度確認し、返却します。

評価方法

ルーブリックに基づいて成績評価します。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示をします。
中間試験：講義の内容を筆記形式で出題します。なお、臨地実習など単位取得にかかわる合理的な理由がない限り、追・再試験を実施しません。
課題提出：授業の進行に応じたワークシートおよびまとめのレポートを出題します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間試験	○	○		
課題提出	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合

中間試験（50%），課題提出（25%），プレゼンテーション（25%）

使用教科書名(ISBN番号)

「八訂食品成分表」 女子栄養大出版部（978-4-7895-1021-9）
「調理のためのベーシックデータ」 女子栄養大出版部（978-4789503174）
「日本人の食事摂取基準[2025年版]」 第一出版
「エビデンスに基づく競技別・対象別スポーツ栄養」 建帛社（978-4767961934）

参考図書

「理論と実践 スポーツ栄養学」 日本文芸社（978-4537215823）
「エッセンシャルスポーツ栄養学」 市村出版（978-4902109542）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】運動を中心とした人間の栄養に関する専門的知識と、それらを応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている
【思考・判断】運動と栄養に関わる諸課題を探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集し、論理的批判的に思考できる
【関心・意欲・態度】運動を中心とした人間の栄養に関心を持ち、管理栄養士として貢献する意欲と態度を身につけている
【技術・表現】運動を中心とした人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能と共に、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

江川 1202研究室：木曜日昼休み
加藤 1B05研究室：火曜日2限

学生へのメッセージ

受講にあたり、以下の内容に取り組むことを期待します。
○遅刻や欠席、私語、内職、居眠りを慎み、メモを取るなど主体的に取り組むこと。
○計画的に予習、復習に取り組み、理解を深めるよう努めること。
○提出物は、手順や締め切りを守り、学習した内容を理論的に書くよう努めること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員（江川）は民間企業の研究機関における運動生理学的研究に従事した経験を踏まえて、健康増進を目的とした運動処方に関する専門的知識を教授します。担当教員（加藤）はスポーツ栄養の現場経験をふまえ、スポーツを実施する人を対象とした栄養管理の理論や技術について専門的知識を教授します。
アクティブ・ラーニング	○	スポーツをする人を対象とした栄養管理の手順に沿って実践しながら、様々な学習との関連性を意識しながら問題解決能力を育成します。また、レポート作成や他者への栄養教育を通して、自身の学習活動をふりかえり次の学習つなげられるよう教授します。
情報リテラシー教育	○	情報機器類を用いて問題解決に必要な情報を収集し、分析する。
ICT活用	○	レポートの課題やスライドを情報機器類を用いて作成し、提出および発表する。

講義コード	H02077031
講義名	食文化論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	綿貫 仁美	指定なし

ナンバリング

H24901C21

授業概要(教育目的)

食文化は様々な地域における自然環境などと関連し多様に展開され、そこから食材の選択、食作法、食の禁忌などが成立してきた。本科目では、前半に日本の食文化の形成・発展について、後半に世界の食文化の形成・発展を解説する。食文化の形成要因を、自然環境、社会環境の両面から考え、食文化が現代の私たちの食生活にどのようにつながっているのか、さらにはどのように活かしていけるのかについて考える。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自然環境の特徴と食文化形成とを関係づけられる。 様々な料理の特徴、様式、食事作法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	現代の食生活の課題点を発見分析し、課題解決に導く考察をすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食文化に興味を持ち、主体的に授業に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス 食文化とは 日本人の食文化-狩猟採取時代
	学習内容(ｱｸﾃｨ	

第1回	ﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食文化とは何か、食文化は歴史の中でどのように展開をしてきたのか知る。 日本列島における、旧石器時代から縄文時代の社会と食生活について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	世界の人々の主食のもととなる主作物は何か、どのようにして食べられているのか、地域による違いを調べておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	日本人の食文化-稲作社会の成立
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	弥生時代から古墳時代の社会と食生活について知る。特に水田稲作導入による社会の変遷について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	弥生時代の生活様式、稲作の起源、日本への伝播について調べておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	日本的食文化の形成期
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	飛鳥時代から室町時代前半にかけての社会と食生活について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	平安時代の貴族の食について調べておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	日本的食文化の再編成期
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	室町時代後半から江戸時代初期にかけての社会と食生活について知る。特に海外との交流による食文化の伝来について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	室町時代にはどのような外来の食が日本に伝来したのか調べておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	伝統的な食文化の完成期①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	江戸時代の社会と食生活について知る。特に生活用水（上水）が江戸の人々の暮らしの基盤となったことを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	上水井戸がどのようなものであったか調べておく。
	教室外学習の時	

	間（分）	180分
第6回	授業テーマ	伝統的な食文化の完成期②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	江戸時代には現代につながる伝統的な食文化が完成した時代でもある。輸送ルートが発達し、様々な食材が江戸に集められた。これら食材がどのようにして集められ、消費されたのかについて知る。また、新たに考案された料理について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	江戸時代の輸送方法である海運にはどのようなルートがあったか調べておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	近代における食の変化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	明治維新後の新しい生活様式の出現、外来料理の受容、戦争の時代の食、現代の食生活の多様化について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	明治時代以降、生活様式にはどのような変化があったのか調べておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	食卓・台所の変化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	膳からテーブルへの変化、食事作法（箸）、台所や調理器具等の変化について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身近な調理器具について、どのように変化してきているのか調べておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	日本料理の様式 行事食と郷土料理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本料理様式の変遷についてまとめる。 日本古来の年中行事は多種多様な要素が交わり、現代まで伝承されているものがある。年中行事とそれに関わる食について知る。また、それぞれの土地の風土や歴史に基づいた特徴のある郷土料理についても知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	現代にはどのような年中行事があるのかまとめておく。また自分が住んでいる地域にはどのような郷土料理があるのか調べておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	西洋料理の食文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	西洋料理の礎となった古代ギリシア、ローマ時代の食について知る。さらに、フランスを中心に西洋の食文化の成立の背景や特徴、様式、食事作法について知る。

	教室外学習(予習・復習)の内容	西洋料理にはどのようなものがあるのか調べておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	中国料理の食文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中国の食文化の成立の背景や特徴、様式、食事作法について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	中国料理の系統は一般的に四つの地域に大別される。それらの特徴について調べておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	その他の国の食文化 世界に広がる日本食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アジア、中東、中南米の食文化の成立の背景や特徴を知る。 現在、世界中で日本の料理が食べられるようになった背景とその実際を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アジアの料理、中東の料理、中南米の料理にはどのようなものがあるのか調べておく。 世界中でどのような日本の料理が食べられているのか調べておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	**授業テーマ**	食文化の共通化と国際化 まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人々の食生活が急激に変化しつつある中で、現代の食がどのような事態を迎えているのか理解する。 授業の総まとめを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	世界の食事情について、環境汚染と食料資源の観点から調べておく。
	教室外学習の時間（分）	240分
第14回	**授業テーマ**	食に関わる企業の取り組み
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代の食を取り巻く環境において、企業ではどのような取り組みをしているのか知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	様々な企業の食に関連する取り組みについて、ホームページなどで調べておく。
	教室外学習の時間（分）	300分

学習計画注記

学年暦、授業の進み具合により、シラバスが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

質問や不明な点がある場合は、1402まで訪問するかe-mailで問い合わせをして下さい。

評価方法

・定期試験
・平常点
(受講態度・姿勢についてルーブリックをもとに評価する。ルーブリックは授業内で提示する。)

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
平常点			○	

評価割合

定期試験(80%)、平常点(20%)

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

必要に応じてプリントを配布する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して理論的批判的に思考し、健康・栄養課題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。

オフィスアワー

木曜日3時限 1402

学生へのメッセージ

現在の私たちの食文化は長い年月をかけて形成されたが、同時に様々な課題も生まれている。
日頃から新聞、テレビ等の食に関する情報を意識して得るようにしてほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、集団給食施設において業務に携わった内容を踏まえ、食文化論を担当する上で、特に現代の食生活の多様化、行事食のあり方などを実学的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02078031
講義名	マーケティングと商品・メニュー開発
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	二瓶　徹	指定なし

ナンバリング

H44902C12

授業概要(教育目的)

本講義では、食品企業や飲食店といった食品産業が、実際にお客様に商品や料理を提供する視点を一体的に捉えることを目的とする。講義前半は食品産業が最初に着手するマーケティング手法について、理論と実践を交えた講義を行う。その後、実際にマーケティングや商品開発等を行っているゲストティーチャーをお招きし、具体的な手法を学ぶ。

また、講義後半は、これまでに学んだ管理栄養士資格取得に関する知識や技術を活かしながら、単なる栄養価を考慮した開発にとどまらず、顧客のニーズに合ったものを考案するには、どのようにすればよいか。また、どのようなアプローチをすることが望ましいか、そのスキルを養うことにする。

なお、実践的スキルを身につけることを目的としているため、必要に応じグループワーク等を取り入れることとする。

履修条件

本講義は、授業概要にもあるように実践的講義を行うことから、履修可能数は50名と制限するとともに、講義内容によって使用する教室が変更されることを留意し履修すること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	【マーケティングと商品開発】 ・マーケティング手法の概要を理解し、説明できるようになる。 ・マーケティング理論を理解し、商品開発と販売戦略の考え方と手法を身につける。 【メニュー開発】 ・顧客のニーズに合ったメニューを考えるにあたっての基礎知識や手法を理解する。
	【マーケティングと商品開発】

思考・判断の観点 (K)	・マーケティング手法を用い、単に商品開発や販売戦略を考えるのではなく、プロダクトアウト及びマーケットインの両方の視点に立ち、考える力を培うことを目指す。 【メニュー開発】 ・旬や対象となる顧客など、様々な条件に応じた企画提案をすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	【マーケティングと商品開発】 ・多様な知識とアイデアを創出し、それを積極的に発言およびグループワークに取り入れるようになる。 【メニュー開発】 ・様々な場面や要因を念頭に、積極的にアイデアを創出できるよう、情報収集や企画（案）に努めるようになる。
技術・表現の観点 (A)	【マーケティングと商品開発】 ・開発した商品およびメニューが、どのようにすれば消費者等に受け入れやすい物になるか、学生ならではのアプローチ方法（表現方法）を創出できるようになる。 【メニュー開発】 ・基礎知識や手法の理解が進み、容易かつ様々なメニュー開発を行うことができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス、マーケティングを考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．（ガイダンス）マーケティングと商品開発の説明 2．マーケティングとは何かを考える 3．日常生活とマーケティングの関係性を考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	食品企業が取組むインターネットやSNSをはじめ、書籍や店頭における広告宣伝等から、企業がどのような考えや戦略で該当商品を展開しようとしているかを、事前に調べ学習しておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	授業テーマ	消費者の食生活の変化と食料消費を取り巻く課題を考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．食市場を支える食品産業を理解する。 2．外食産業が登場した背景と食生活の変化を理解する。 3．食の外部化をもたらした要因を理解する。 4．少子高齢化が変える食市場を理解する。 5．食品産業の技術発展内容を理解する。 6．食を取り巻く諸問題と時局的な事柄を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Google Classroomから事前に配信する資料について予習するとともに、自分自身の食生活やインターネット等で生活者の食生活の傾向を調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第3回	授業テーマ	フードビジネスとフードマーケティング①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．フードビジネスの概要を理解する。 2．フードマーケティングの基礎知識を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Google Classroomから事前に配信する資料について予習しておくこと。また、あらかじめマーケティングとフードマーケティングの違いを考えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分

第4回	授業テーマ	フードビジネスとフードマーケティング②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１．フードマーケティングの機能を理解する。 ２．フードマーケティングの担い手を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第３回で学んだ内容を理解するとともに、Google Classroomから事前に配信する資料について予習しておくこと。可能であれば、特定の商品を想定し、自らマーケティング手法を用いた企画を考えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第5回	授業テーマ	食品企業におけるマーケティングと商品開発（ゲストティーチャー招聘）①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１．食品企業がマーケティング手法をどのように用いているかを理解する。 ２．食品企業がマーケティング手法を用い、どのような商品を開発しているかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第３・４回で学んだ食品企業のマーケティング手法復習しておくこと。また、招聘する食品企業について、事前に調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	授業テーマ	食品企業におけるマーケティングと商品開発（ゲストティーチャー招聘）②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１．食品産業に参入している異業種がマーケティング手法をどのように用いているかを理解する。 ２．食品産業に参入している異業種がマーケティング手法を用い、どのような商品・サービスを開発しているかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第５回で学んだ食品企業のマーケティングの取組を復習するとともに、招聘する食品企業について、事前に調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	授業テーマ	食品企業におけるマーケティングと商品開発（ゲストティーチャー招聘）③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１．食品産業に参入している異業種がマーケティング手法をどのように用いているかを理解する。 ２．食品産業に参入している異業種がマーケティング手法を用い、どのような商品・サービスを開発しているかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第５・６回で学んだ食品企業のマーケティングの取組を復習するとともに、招聘する食品企業について、事前に調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	授業テーマ	マーケティングの視点から考える、海外における日本型ビジネスモデルの展開
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１．日本の農林水産・食品の輸出状況を理解する。 ２．対象国のマーケットニーズとビジネスモデルを考える。 ３．海外において、どのようなビジネスモデルを構築できるかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Google Classroomから事前に配信する資料について予習しておくこと。また、インターネット等を活用し、学習内容に該当する内容の事前学習をしておく。
	教室外学習の時	120

	間（分）	分
第9回	授業テーマ	フードマーケティングの視点を取り入れた企画・立案①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１．第3回で学んだ食品企業のマーケティング手法と商品開発手法を再確認する。 ２．マーケティング手法を用い、教員が提示したテーマについてグループワークを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	今まで学んだ食品企業のマーケティング手法と商品開発手法を復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	授業テーマ	フードマーケティングの視点を取り入れた企画・立案②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１． マーケティング手法を用い、教員が提示したテーマについてグループワークを行う。 ２． グループ発表・講評
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回に引き続き、企画・立案に取組むにあたり、各自、必要な情報収集し、ノートに整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	授業テーマ	商品・メニュー開発概論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１．商品・メニュー開発の必要性 ２．商品・メニュー開発を考えるにあたってやるべきこと
	教室外学習(予習・復習)の内容	食関連情報収集・書籍やインターネットなどで予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	授業テーマ	メニュー開発－１－（ゲストティーチャー招聘）④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１．メニュー考案者が、どのような視点で考案しているかを理解する。 ２．メニュー考案者が、どのような手法や考えを持ち、開発をしているかを知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配布する講義資料を予習しておくこと。また、招聘するメニュー考案者について、事前に調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	授業テーマ	メニュー開発－２－（ゲストティーチャー招聘）⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１．メニュー考案者の具体的開発事例を理解する。 ２．メニュー考案者の具体的開発事例を理解し、各自が実践できる開発内容を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予め配布する講義資料を予習しておくこと。また、第１２回で学んだ内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
	授業テーマ	総括・定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	本授業の重要点を振り返りながら総括するとともに、フードマーケティングの視点を踏まえた企画・立案内容を記載する期末試験を実施する。 １．授業全体を通して、重要な点の振り返り

第14回	含む)	2．期末試験
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義資料を予習しておくこと。また、今まで学んだ内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分

学生へのフィードバック方法

毎回、提出を義務付けているリアクションペーパーに履修生と共有すべき課題や内容が盛り込まれている場合、翌週の講義時にフィードバックする。なお、個別で質問がある場合は、E-meil(p20088@kasei-gakuin.ac.jp)で受け付けるとともに、必要に応じて非常勤講師室にて対応する。

評価方法

初回の授業でルーブリックについて説明をする。
本授業で学んだことを踏まえ、教員が提示するテーマについて、企画・立案を考える期末試験を実施し、最終的な評価を行う。なお、実践的スキルを身に付けるため、授業への取組姿勢やグループワークによるプレゼンテーション内容、毎回提出するリアクションペーパーの内容も評価対象とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
開発思考力	○	○	○	○
プレゼンテーション能力	○	○	○	○
期末試験	○	○	○	○

評価割合

期末試験が70%、授業への取組姿勢、プレゼンテーション内容、提出物は各10%の合計100%で評価する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
マーケティング手法の概要を理解し、商品開発と販売戦略の考え方と手法を身につけるとともに、メニュープランニングに関する知識を理解することができる。
【思考・判断】
マーケティング手法を用い、単に商品開発や販売戦略を考えるのではなく、プロダクトアウト及びマーケットインの両方の視点に立ち、考える力を培うなど、様々な条件に応じた企画提案ができる。
【関心・意欲・態度】
多様な知識とアイデアを創出し、それを積極的に発言およびグループワークに取り入れるようになる。
【技術・表現の観点】
開発した商品およびメニューが、どのようにすれば消費者等に受け入れやすい物になるか、学生ならではのアプローチ方法（表現方法）を創出できるようになる。

オフィスアワー

メールにて相談希望学生は、シラバス記載のメールアドレスにて連絡していただき、メールにて回答。
なお、面談希望学生は、月曜日の授業終了後、非常勤講師室にて対応する。

学生へのメッセージ

現代における食情報や商品、料理は多様であり、また、SNS等の発達により、消費者へのアプローチ手法もさまざまである。

また、取り巻く環境も少子高齢化や人口減少、外国人居住者増のように変化しているため、本講義を通じ、そのような環境の変化に対応すべく、マーケティングの基礎知識の習得から企画・立案の実践的スキルを身に付け、卒業研究および社会人になった際に本授業内容を活かしてもらえることを願っている。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、一般消費者等を対象にした商品開発等だけでなく、マーケティング手法を用いた調査等を行っていることから、その前段となる基礎的知識を教授するとともに、実践的な知識と手法を教授する。
アクティブ・ラーニング	○	自らの思考力を高めるべく、一定の課題に対する分析のワーク（環境分析など）に取り組んでもらい、その内容を発表してもらうようにする。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02079031
講義名	フードシステム論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	二瓶 徹	指定なし

ナンバリング

H02079031

授業概要(教育目的)

本講義では、食に関する生産から消費までのフードシステムについて、各段階の役割と全体の流れを体系的に捉えることを目的とする。前半では食を巡る状況の変化について、消費者側と食品産業側の両面から理解を促すとともに、フードシステムの概要および近年、発達が著しい中食と外食について理解を促す講義を行う。後半では主要食品の特性や種類、流通について学ぶとともに、それら食品をどのようにして販路拡大していくか、フードマーケティングの手法を学ぶ。そして最後に、フードシステムを取り巻く環境が目まぐるしく変化していることから、時局的問題と今後の課題について考える。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．フードシステムの概念と食品産業および食品製造の機能と役割が説明できる。 2．フードシステムと消費者の生活様式および社会環境との関係性が説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1．現代におけるフードシステムの利点と課題を整理することができる。 2．現代および今後フードシステムが抱える課題の解決策を考えることができる。 3．グローバルな視点でのフードシステムの望ましい在り方を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1．自分自身の食生活から、我が国のフードシステムを積極的に捉えた発言をする。 2．自分自身および取り巻く環境を踏まえ、自ら行動することができる。

技術・表現の観点(A)	1．食を学ぶ者として、マーケティング手法を活用した企画提案や環境に配慮した企画提案をすることができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	豊かな食生活を支える食市場
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．食市場を支える食品産業を理解する。 2．外食産業が登場した背景と食生活の変化を理解する。 3．食の外部化をもたらした要因を理解する。 4．少子高齢化が変える食市場を理解する。 5．食品産業の技術発展内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第1章第1節を読んでおくこと。また、あらかじめ自分自身の食生活と国内のマクロ的な食生活を比較し、その違いを理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第2回	**授業テーマ**	消費者の食品消費の変化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．品目別食品消費の変化を理解する。 2．食品の価格決定と所得弾力性、価格段両区制を理解する。 3．栄養バランスからみた食品消費の変化を理解する。 4．加工食品がなぜ増加したかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第1章第2節を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第3回	**授業テーマ**	食生活の多様化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．多様化をもたらした社会的要因を理解する。 2．食における健康志向がなぜ高まっているかを理解する。 3．現代における食情報が多様化した理由を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第1章第3節を読んでおくこと。また、あらかじめ自分自身の食生活のスタイルを振り返っておくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第4回	**授業テーマ**	食品流通の役割と社会的使命
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．食品流通の役割を理解する。 2．卸売流通の役割を理解する。 3．小売流通の役割を理解する。 4．流通の社会的使命を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第2章第1節を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	**授業テーマ**	卸売流通が必要な食品流通
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．生鮮食品の卸売市場流通の仕組みを理解する。 2．加工食品の問屋流通の仕組みを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第2章第2節を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	食品の小売流通

第6回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１．販売形態の分類を理解する。 ２．食品流通を担う多様な小売り業態を理解する。 ３．家庭内食を支える食品小売業の機能を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第2章第3節を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	授業テーマ	外食産業のマーチャンダイジング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１．外食産業の業態を理解する。 ２．外食産業の食材流通を輸入食材および国産食材に分けて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第3章第1節を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	360分
第8回	授業テーマ	中食産業のマーチャンダイジング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１．中食産業の業態を理解する。 ２．中食産業の販売形態を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第3章第2節を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	授業テーマ	主要食品の分類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１．商品特性による基本的分類を理解する。 ２．商品の制度的分類を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第4章第1節を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	授業テーマ	主要食品の温度帯別流通
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１．食品の温度帯（常温から冷凍）を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第4章第2節を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	授業テーマ	主要食品の流通
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	１．生鮮食料品をはじめ、加工食品の個々の流通とその特徴を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第4章第3節を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	フードビジネスとフードマーケティング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	１．フードビジネスの概要を理解する。 ２．6次産業化を理解する。

第12回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3．フードマーケティングの基礎知識を理解する。 4．フードマーケティングの機能を理解する。 5．フードマーケティングの担い手を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第5章を読んでおくこと。また、あらかじめマーケティングとフードマーケティングの違いを考えておくこと。
	教室外学習の時間(分)	240分
第13回	授業テーマ	食料消費と環境問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．３Ｒを理解する。 2．食品リサイクルと食品廃棄物を理解する。 3．食品ロスを理解する。 4．環境関連の用語とその意味を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6章第1節を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	120分
第14回	授業テーマ	食品流通の安全確保と食料消費を取り巻く課題、定期試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	下記内容の授業と定期試験を実施する。 1．食品の安全性を理解する。 2．食の安全性を取り巻く用語とその意味を理解する。 3．食を取り巻く諸問題と時局的な事柄を理解する。 4．授業全体の総括を行い、総合的に理解する。 なお、定期試験については、フードスペシャリスト試験の出題形式に沿った選択式問題と自らの理解度を把握する記述式問題を出題する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6章第2節および３節を読んでおくこと。また、あらかじめ食品の安全性に関する情報や食に関する時局的情報を収集しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	370分

学生へのフィードバック方法

毎回、提出を義務付けているリアクションペーパーに履修生と共有すべき課題や内容が盛り込まれている場合、翌週の講義時にフィードバックする。なお、個別で質問がある場合は、E-meil（p20088@kasei-gakuin.ac.jp）で受け付けるとともに、必要に応じて非常勤講師室にて対応する。

評価方法

初回の授業でルーブリックについて説明をする。
1．定期試験の得点（100%）で評価する。なお、定期試験は100点満点で出題し、フードスペシャリスト試験の出題形式に沿った選択式問題と自らの理解度を把握する記述式問題を出題する。
2．定期試験はノート及び配布資料など持ち込みは不可とする。
3．詳細については、最後の授業にて説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
定期試験	○	○		
食を取り巻く環境への理解	○	○	○	
フードシステム全体への	○	○	○	

理解				
食に関する課題解決手法の提言	○	○	○	○

評価割合

定期試験100%で評価する。なお、提出を義務付けているリアクションペーパーは出席確認も含め提出を求めているため、授業日翌日17時までに提出すること（未提出または締切後の場合、欠席扱いとなる）。

使用教科書名(ISBN番号)

四訂 食品の消費と流通（978-4-7679-0687-4）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】履修生が習得する「人間の栄養」のみならず、フードシステムの基礎的知識を習得するとともに、その概要を理解することにより、現代のフードシステムの課題を見出すことができるようになる。
【思考・判断】健康・栄養課題を考えるうえで、現代のフードシステムがどのように構築されたかを理解するとともに、現代のフードシステムの利点と課題を整理し、総合的に考察できるようになる。
【関心・意欲・態度】現代のフードシステムの諸課題を整理・分析し、望ましいフードシステムの在り方を現代に暮らす生活者の栄養と関連付けた具体的な提言できるようになる。
【技術・表現】マーケティング手法を活用した企画提案や環境に配慮した企画提案をすることができるようになる。

オフィスアワー

面談希望の学生は、月曜日の授業終了後、非常勤講師室にて対応する。

学生へのメッセージ

本講義内容は、卒業後、食品産業等で活躍する学生だけでなく、日々の食生活を送る上でも必要な基礎的内容となっている。しかしながら、食関連の専門性を持ち合わせる人でも、フードシステムを体系的に理解している人や望ましい食生活を送るための知識を習得している人は、それほど多くないため、主として栄養学を学ぶ履修生に消費の部分だけでなく、生産から消費までのフードシステムを体系的に捉え、栄養管理・栄養指導の場面でも活用していけるようになることを願っている。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、フードシステムの生産と問屋、商社といった３つの機能を持ち合わせている会社を経営していることから、テキストの基礎知識を教えるだけでなく、実際のフードシステムにおける必要な知識や情報を学生に教授する。
アクティブ・ラーニング	○	自らの思考力を高めるべく、一定の課題に対する分析のワーク（環境分析など）に取り組んでもらい、その内容を発表してもらうようにする。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02080031
講義名	食・空間プロデュース論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	建路 七織	指定なし

ナンバリング

H34004C21

授業概要(教育目的)

食や食卓、食空間の役割や演出方法を学び、より豊かで生命力のある食生活をコーディネートするための知識や技術を修得することを目的とする。具体的には、日本や諸外国における食文化の成り立ちや特徴を理解し、生活における食、食卓、食空間の演出がもたらす役割について理解する。また、食卓演出にかかわるテーブルウエアやテーブルセッティング、テーブルマナー、食空間の演出にかかわるフードサービスマネジメントについての知識を得る。あわせて、これらの知識をもとに食卓演出を体験し、応用力、創造力の基礎を養う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	心地よく食事をするために必要なマナーや心構えを理解し、説明することができる
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	食文化やテーブルウェアに関する感性を高め、ライフスタイルにあわせた心地よい食空間をプロデュースすることができる
技術・表現の観点 (A)	色、食器、空間演出などの工夫を実践できるようになる

学習計画

	授業テーマ	フードコーディネートの基本理念
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	

第1回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンス、フードコーディネートの基本理念について
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスを読んでくる。 食情報に関して、文献や新聞・雑誌、インターネット等を利用して調べておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	食事の文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食のタブーと宗教、日本の食文化、世界の食文化、日本と代表的な世界の食文化を比較し、様々な料理形式を学ぶ 確認テストでPC使用
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：興味のある外国の食文化を書籍やインターネット等で調べておき、その特徴についてまとめておく。 事後学習：授業で習得した知識や手法を整理してまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	食卓のサービスとマナー（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本料理の料理様式、食事マナー、正しい箸の持ち方を習得する
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：授業テーマに沿った内容について、関連分野の書籍やインターネット等で予習しておく。 事後学習：授業で習得した知識や手法を整理してまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	食卓のサービスとマナー（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中国料理、西洋料理の料理様式、食事マナーを習得する 確認テストでPC使用
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前予習：授業テーマに沿った内容について、関連分野の書籍やインターネット等で予習しておく。 事後復習：授業で習得した知識や手法を整理してまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	メニュープランニング（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	メニュープランニングの要件、メニュー開発の基礎を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：授業テーマに沿った内容について、関連分野の書籍やインターネット等で予習しておく。 事後学習：授業で習得した知識や手法を整理してまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	メニュープランニング (2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本料理、中国料理、西洋料理の基本構成、メニュープランニングの作成と提出 確認テストでPC使用

	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：授業テーマに沿った内容について、関連分野の書籍やインターネット等で予習しておく 事後学習：授業で習得した知識や手法を整理してまとめる。メニュープランニング案を次週までに提出する
	教室外学習の時間（分）	240分
第7回	**授業テーマ**	フードサービスマネージメント (1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フードサービスビジネスの動向と特性、マネジメントの基本を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：消費者のニーズやトレンドについて予習しておく。 事後学習：授業で習得した知識や手法を整理してまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	フードサービスマネージメント (2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フードサービスの起業について学ぶ 確認テストでPC使用
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：授業テーマに沿った内容について、関連分野の書籍やインターネット等で予習しておく。 事後学習：授業で習得した知識や手法を整理してまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	テーブルコーディネートの基礎
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーブルコーディネートの要点を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：授業テーマに沿った内容について、関連分野の書籍やインターネット等で予習しておく。 事後学習：授業で習得した知識や手法を整理してまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	テーブルコーディネートの応用（外部講師による講義）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フードコーディネートの専門家から、テーブルコーディネートのポイントや演出スタイルを学び、実践力を身につける
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：授業テーマに沿った内容について、関連分野の書籍やインターネット等で予習しておく。 事後学習：授業で習得した知識や手法を整理してまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	食空間のコーディネート
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食空間のコーディネートの基礎、食事空間・キッチンのコーディネートについて学ぶ 確認テストでPC使用
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：授業テーマに沿った内容について、関連分野の書籍やインターネット等で予習しておく。 事後学習：授業で習得した知識や手法を整理してまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分

第12回	授業テーマ	行事食と食空間コーディネート
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クリスマスリースの作成とレポート提出
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：授業テーマに沿った内容について、関連分野の書籍やインターネット等で予習しておく 事後学習：授業で習得した知識や手法を整理してまとめる
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	食企画の基本と実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食企画の基本と食情報について学ぶ 食企画の実践現場について学ぶ 食の企画書を提出し、プレゼンテーションの準備をする
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：授業テーマに沿った内容について、関連分野の書籍やインターネット等で予習しておく 事後学習：発表内容についてまとめる
	教室外学習の時間（分）	250分
第14回	授業テーマ	食企画の実践 プレゼンテーション（発表）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食企画の内容についてプレゼンテーションを行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：発表内容について、PPTにまとめ、準備する。 事後学習：授業で習得した内容や知識をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

進行状況により、スケジュール等が変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

質問等がある場合は、1312研究室まで訪問するか、e-mailで問い合わせる。

評価方法

授業への取り組み姿勢、提出物（レポート）、確認テスト、プレゼンテーション等で総合的に判断する。

評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
提出物（レポート含む）	○	○	○	○
確認テスト	○		○	
プレゼンテーション	○	○	○	○
授業への取り組み姿勢	○	○	○	○

評価割合

レポート課題（メニュープランニング、企画書等）60%、確認テスト30%、発表10%

使用教科書名(ISBN番号)

レジュメを配布する

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「人間の栄養」を理解できる専門的知識と、それら地域社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。
【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と、他者と協働するための共感力、豊かな人間性を身につけている。
【技術・表現】体系的学習を通じて、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

木曜日3時限目 1312研究室

学生へのメッセージ

国内外問わず、普段から食に関する情報に関心を持って生活し、積極的に授業に取り組むことを期待しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、管理栄養士として特定給食施設に従事した実務経験があり、その経験を踏え、実学的に教授する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、プレゼンテーション
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02081031
講義名	インターンシップ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	江川 賢一	指定なし

ナンバリング

H24001C13

授業概要(教育目的)

職業体験として食の生産、流通、消費の場や、医療・福祉関連施設、スポーツ施設など多岐にわたる現場で、人々と食・栄養のかかわりを解説します。その上で課題抽出から解決までをプロデュースする力と職業倫理の基礎力を高めるよう導き、様々な実践活動の場における組織の役割と人々を取り巻く社会構造の中で生きる力を身に着けられるよう支援します。さらに「食」を通してあらゆるライフステージに適した生活を創造し、乳幼児から高齢者に至る多様な健康状態の人々の健康づくりをプロデュースできる力を養います。

履修条件

毎回の授業で「管理栄養士の学外実習の手引き」を持参してください。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	職業体験を通して、実践活動の場での食・栄養を通した健康への取り組み、情報発信や地域とのかかわりを説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	乳幼児期から高齢者に至る人々のライフステージにおいて食・栄養の役割が異なること、それらニーズに応じて管理栄養士がどのようにかかわるのか判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	管理栄養士として他者と協働するための共感力、主体的に学ぶ意欲と態度、プレゼンテーション能力を身につけることができる。
技術・表現の観点 (A)	食・栄養にかかわる人々とのコミュニケーション能力、人々の健康の保持増進につながる活動をプロデュースすることができる。

学習計画

インターンシップ

第1回	授業テーマ	オリエンテーション（実習ガイダンス）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	職場体験として食の生産、流通、消費の場や、医療・福祉関連施設、スポーツ施設など多岐にわたる現場での人々と食・栄養のかかわりを理解する。職業体験に臨むために仕事をする社会人としての心構えを持ち、自主的に学ぶ姿勢を養う。実習先の希望を調査する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食・栄養・健康に関係する仕事にはどのような仕事があるのか調べ、将来どのような仕事をしたいのか目標をたてる。
第2回	授業テーマ	事前学習① 管理栄養士に求められる役割と実習で留意すべき事項
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	管理栄養士がどのように社会で仕事をしているのか理解する。職業理念と求められている管理栄養士の役割を理解する。社会人としてのメールのマナー、電話のマナーを学ぶ。実習効果を高めるための挨拶、言葉遣い、服装、態度について学ぶ。学外実習における過去のトラブル事例から注意すべき点を理解する。守秘義務、体調管理の重要性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「管理栄養士の学外実習の手引き」１章、４章、９章を読んでおく。日本栄養士会のウェブサイトなど社会で活躍する管理栄養士の情報を収集する。
第3回	授業テーマ	事前学習② 実習に必要な書類の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	欠席届、実施票、評価票、誓約書、契約書、健康診断証明書、感染症に関する証明書、腸内細菌検査陰性証明書について説明する。腸内細菌検査の提出、結果の受け取り方法について解説する。お礼状の書き方を練習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「管理栄養士の学外実習の手引き」１章、２章、４章、９章を読んでおく。郵便の書類の発送方法について理解しておく。書留、速達、クール便、返信用封筒、郵便局窓口業務などＨＰを確認しておく。
第4回	授業テーマ	事前学習③ 報告のまとめ方、誓約書の記入
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日誌の実習先情報、オリエンテーションの記録、実習テーマ、実習記録、まとめ、健康管理票の書き方を理解する。PCを使用して報告書の作成方法を理解する。学生保険の範囲と緊急時の対応を解説する。実習先で知り得た情報の守秘義務などを理解したうえで誓約書に署名捺印する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「管理栄養士の学外実習の手引き」１章、２章、４章、９章を読んでおく。PCを用意する。ワード、パワーポイントの機能を理解しておく。苗字の印を用意する。
第5回	授業テーマ	事前学習④ 実習テーマの決定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	班長を決定し、班長を中心実習先もしくは実習班ごとに集まり、実習のテーマについてディスカッションを行う。また実習初日の集合場所、お礼状担当、報告書担当などを決め、持ち物など確認し合う。
	教室外学	班メンバーの連絡手段を決める。事後指導（お礼状、報告書の指導）の

	習(予習・復習)の内容	日程を確認する。「管理栄養士の学外実習の手引き」１章、２章、４章、９章を読んでおく。
第6回	**授業テーマ**	実習先オリエンテーション【別日程】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設別の実習日程、内容、持ち物、注意事項を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「管理栄養士の学外実習の手引き」２章、４章、９章を読んでおく。
第7回	**授業テーマ**	学外実習①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	【別日程】職業体験
	教室外学習(予習・復習)の内容	「管理栄養士の学外実習の手引き」２章、４章、９章を読んでおく。
第8回	**授業テーマ**	学外実習②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	【別日程】職業体験
	教室外学習(予習・復習)の内容	「管理栄養士の学外実習の手引き」２章、４章、９章を読んでおく。
第9回	**授業テーマ**	学外実習③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	【別日程】職業体験
	教室外学習(予習・復習)の内容	「管理栄養士の学外実習の手引き」２章、４章、９章を読んでおく。
第10回	**授業テーマ**	学外実習④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	【別日程】職業体験

	用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	「管理栄養士の学外実習の手引き」２章、４章、９章を読んでおく。
第11回	**授業テーマ**	学外実習⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	【別日程】職業体験
	教室外学習(予習・復習)の内容	「管理栄養士の学外実習の手引き」２章、４章、９章を読んでおく。
第12回	**授業テーマ**	事後指導【別日程】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習終了後、早急にお礼状を書き施設担当教員に提出し指導を受ける。修正したお礼状を清書して投函する。報告書を作成し、施設担当教員から指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	施設ごとでお礼状指導の方法、日程は異なるため施設担当教員に確認する。
第13回	**授業テーマ**	プレゼンテーションの準備【別日程】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	報告会の準備と発表の練習
	教室外学習(予習・復習)の内容	施設ごとで発表練習をする。
第14回	**授業テーマ**	まとめ【別日程】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	職場体験として現場で経験した学びを発表する。お互いの発表から、様々な実践活動の場で組織の役割と人々を取り巻く社会構造への認識を深め理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習日誌（報告会を終えて）の記入を行う。

学習計画注記

授業日程は職業体験の日程により異なるため日程を確認してください。誓約書の未提出、腸内細菌検査結果、感染症の結果によって実習が中止される場合があるため、体調管理と書類提出

には十分に注意してください。

学生へのフィードバック方法

・実習前の実習日誌のテーマの確認
・実習前の事前指導、提出書類の添削（施設からの課題、持ち物の助言）
・挨拶の確認、身だしなみのチェック、マナーの確認
・お礼状の添削
・実習日誌の添削
・報告会資料の添削、助言
・発表会の練習の助言
・各臨地実習での成果を冊子にして配布

評価方法

・平常点は授業への参加状況、提出物の状況、授業態度から総合的に判断します。
・単位を取得できた場合の成績評価はP（合格）とします。
・学外施設でのオリエンテーション、学外施設での実習、実習報告会を欠席した場合は、他の要件を満たしていても単位を認められません。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
実習評価表	○	○	○	○

評価割合

平常点（50%）、実習評価表（50%）

使用教科書名(ISBN番号)

管理栄養士の学外実習の手引き

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物、地域との相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識と、それらを地域社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。
【思考・判断】栄養に関わる社会問題を探求し、問題解決に向けて正確な情報を収集し、論理的批判的に思考できる。
【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と、他者と協働するための共感力、豊かな人間性を身につけている。
【技術・表現】体系的学習を通じて、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

1202研究室：木曜日昼休み

学生へのメッセージ

学外施設での実習に臨む姿勢として、実習先の施設についてしっかりと把握しておくことが大切です。ただ単に授業や学外施設での実習に受け身で参加することがないように注意し、各自で積極的に取組み、自覚を持って参加することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実際の職業体験のため、実習先の指導者の実務経験を生かした授業である。
アクティブ・ラーニ	○	学外施設における職業体験、発表会の準備実施などアクティブ・ラーニングを取り入れた授業である。

ング		
情報リテラシー教育	○	実習前、実習後に実習施設の概要、関係法令の調査、厚生労働省が公表する患者調査など、情報を収集しリテラシーを高める教育である。
ICT活用	○	食品、料理の栄養価計算ではソフトを利用する。栄養・健康情報について、ソーシャルネットワークを適切に利用して発信する。

講義コード	H02082031
講義名	実践栄養プロデュース実習（3年生）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	4
代表曜日	木曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	人間栄養学科 教員	指定なし
教授	江川 賢一	指定なし
教授	山田 光彦	指定なし
准教授	城田 直子	指定なし
准教授	辻 雅子	指定なし

ナンバリング

H34002C43

授業概要(教育目的)

管理栄養士として必要な知識・技術・姿勢などをもとに、社会ニーズの把握、実践力向上を目標に、学内外の実験や実習を通して研究レベルまで発展させる。各研究室への配属をもって、個々あるいはグループで実習テーマを設定し、実習成果に関する発表会を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	人間の健康のための栄養に関する様々な研究分野の特徴を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	研究テーマに沿って先行研究を議論し、研究仮説を立案できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間の健康に関する広範な研究テーマを探求できる。
技術・表現の観点 (A)	研究テーマの先行研究についてプレゼンテーションし、根拠に基づくディスカッションができる。

学習計画

実践栄養プロデュース実習

	授業テーマ	ガイダンス

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	授業概要、年間スケジュール、研究倫理を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アカデミックスキル科目の復習
	教室外学習の時間(分)	45分
第2回	**授業テーマ**	研究室紹介・訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食環境・教育学研究室（會退）、運動生態学研究室（江川）のテーマを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う
	教室外学習の時間(分)	45分
第3回	**授業テーマ**	研究室紹介・訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理学研究室（大富）、実践応用栄養学研究室（加藤）のテーマを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う
	教室外学習の時間(分)	45分
第4回	**授業テーマ**	研究室紹介・訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	応用栄養学研究室（斉藤）、地域栄養教育学研究室（酒井）のテーマを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う
	教室外学習の時間(分)	45分
第5回	**授業テーマ**	研究室紹介・訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臨床栄養管理学研究室（城田）、応用健康科学研究室（田中）のテーマを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う
	教室外学習の時間(分)	45分
第6回	**授業テーマ**	研究室紹介・訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育研究室（辻）、応用食品学研究室（林）のテーマを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う

	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	研究室紹介・訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生化学研究室（坂野）、病態生理学研究室（山田）のテーマを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	研究室紹介・訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食経営管理研究室（吉野）のテーマを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	希望調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問の結果より、自分の希望について振り返りを行い、研究室希望調査の提出を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	研究テーマの探究１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	提出した希望調査について振り返りを行い、自分の希望テーマについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	研究テーマの探究２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室で実施する自分の希望テーマについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	研究室配属について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	配属先の発表と今後について説明する。

第12回	**教育・ICT活用を含む)**	
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う
	教室外学習の時間(分)	45分
第13回	**授業テーマ**	研究テーマの説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室のテーマの課題候補を提示し、研究発表、論文作成などの説明を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う
	教室外学習の時間(分)	45分
第14回	**授業テーマ**	研究テーマの説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室のテーマの課題候補を提示し、研究発表、論文作成などの説明を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う
	教室外学習の時間(分)	45分
第15回	**授業テーマ**	研究テーマの説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室のテーマの課題候補を提示し、研究発表、論文作成などの説明を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第16回	**授業テーマ**	研究テーマの説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室のテーマの課題候補を提示し、研究発表、論文作成などの説明を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第17回	**授業テーマ**	研究テーマの説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室のテーマの課題候補を提示し、研究発表、論文作成などの説明を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分

第18回	授業テーマ	研究テーマの決定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室のテーマの課題候補を提示し、研究発表、論文作成などの説明を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第19回	授業テーマ	研究テーマの決定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマを決定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第20回	授業テーマ	研究テーマの決定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマを決定する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第21回	授業テーマ	研究の進め方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	選択した研究テーマに基づいて、研究をどのように進めていくかを検討し、研究スケジュールなどを作り上げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第22回	授業テーマ	研究の進め方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	選択した研究テーマに基づいて、研究をどのように進めていくかを検討し、研究スケジュールなどを作り上げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第23回	授業テーマ	研究の進め方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	選択した研究テーマに基づいて、研究をどのように進めていくかを検討し、研究スケジュールなどを作り上げる。
	教室外学習(予	適宜必要に応じて行う。

	習・復習)の内容	
	教室外学習の時間(分)	45分
第24回	授業テーマ	研究の進め方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	選択した研究テーマに基づいて、研究をどのように進めていくかを検討し、研究スケジュールなどを作り上げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第25回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第26回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第27回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第28回	授業テーマ	実践栄養プロデュース報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究発表会に参加する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分

学習計画注記

前半の研究室紹介・訪問は対面授業の他、各教員の指示に従うこと。

研究室配属後は各研究室における研究計画に沿うため、スケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

各担当教員のオフィスアワーの時間等を活用すること。その際に各学生にフィードバックする。

評価方法

成績評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについてはクラスルーム内での配布等により掲示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
報告	○	○	○	○

評価割合

平常点（50%）、 報告 （50%）

使用教科書名(ISBN番号)

指定しない。

参考図書

指定しない。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物の相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を身につけている。
【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的・批判的に思考することができる。
【関心・意欲・態度】主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
【技能・表現】多職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

問い合わせ窓口：３年担任の各研究室まで事前連絡の上訪問のこと。

学生へのメッセージ

配属希望の提出にあたっては、事前に各研究室の内容をよく調べ、必ず複数の研究室を訪問してください。直接、担当教員から具体的な説明を受け、意見交換をすることで、ご自身の希望に合った研究室を発見することができます。配属希望は、研究室訪問の後に提出いただきます。配属先研究室が決定した後は、担当教員の指導のもと、自ら主体的に研究活動を行ってください。みなさんと一緒に活動できることを楽しみにしています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、地方公共団体、民間企業、病院、顧客対応（栄養指導）などにおいて、栄養、健康増進等における政策の策定や実践をしてきた教員を含む。
アクティブ・ラーニング	○	先行研究や文献等を利用して、実習・記録・調査によって得られたデータを考察する。
情報リテラシー教育	○	パワーポイントを使用して、発表原稿を作成する。

ICT活用		

講義コード	H02082064
講義名	実践栄養プロデュース実習（金澤）4年生
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	金澤 良枝	指定なし

ナンバリング

H34002C43

授業概要(教育目的)

内科クリニックで。臨床管理、栄養食事管理について患者症例を通して学ぶ。臨床検査値の読み方、栄養食事指導の実際、媒体作成などを体験する。医療現場での管理栄養士の在り方を身に着ける。また、ハウス食品株式会社と共同で、治療用特殊食品を使った治療食を作成、提案する。

履修条件

2年次までの必修科目の単位取得。実験実習演習科目の積極的参加、臨地実習、総合演習での主体的、協調的な学習の確実な実施が必要です。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	腎疾患、糖尿病、脂質異常症、高血圧を中心とた病態、栄養評価、栄養管理について学ぶ。
思考・判断の観点 (K)	疾患に適合した栄養管理を考えられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	医療倫理を備えた管理栄養士として患者に接することができる。
技術・表現の観点 (A)	疾患に適切な栄養指導を考え提案できる。研究結果をプレゼンテーションし、根拠に基づくディスカッションができる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業概要、スケジュール、研究の進め方を説明する。

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	アカデミックスキル科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	授業テーマ	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	成育栄養学研究室 (原)、応用栄養学研究室 (斉藤)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(臨床栄養系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臨床栄養管理学研究室(城田)、臨床栄養学研究室(金澤)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(臨床栄養系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養政策学研究室 (田中弘之)、地域栄養教育学研究室(酒井)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(食育・地域栄養ケア系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育研究室 (辻)、応用食品学研究室 (林)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(食育・地域栄養ケア系、フードサービス系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養学研究室 (海野)、調理学研究室 (大富)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(フードサービス系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食経営管理研究室 (吉野)、食と世界を考える研究室(橋本)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(フードサービス系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	授業テーマ	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動生態学研究室 (江川)、実践応用栄養学研究室(加藤)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(スポーツ栄養系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	授業テーマ	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	(仮)ヘルスプロモーション研究室 (田中千晶)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(スポーツ栄養系)の復習

	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	**授業テーマ**	希望調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問の結果より、研究室希望調査の実施を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第15回	**授業テーマ**	研究室配属
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問の結果のまとめと振り返り、今後の目標についてグループワークを実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第16回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習の概要と進め方を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究計画書のプレゼンテーション資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第17回	**授業テーマ**	研究計画プレゼンテーション１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖尿病の栄養食事管理について文献で学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	糖尿病の病態、食事療法について教科書で復習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第18回	**授業テーマ**	研究計画プレゼンテーション２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	腎臓病の病態、栄養食事管理について文献で学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	腎臓病の病態、食事療法について教科書で復習する。

	教室外学習の時間（分）	45分
第19回	**授業テーマ**	症例検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クリニックで糖尿病、腎疾患患者の栄養食事指導を見学する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	糖尿病、腎臓病について予習、復習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第20回	**授業テーマ**	症例検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クリニックで糖尿病、腎疾患患者の栄養食事指導を見学する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	糖尿病、腎臓病について予習、復習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第21回	**授業テーマ**	症例検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クリニックで糖尿病、腎疾患患者の栄養食事指導を見学する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	糖尿病、腎臓病について予習、復習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第22回	**授業テーマ**	症例検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クリニックで糖尿病、腎疾患患者の栄養食事指導を見学する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	糖尿病、腎臓病について予習、復習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第23回	**授業テーマ**	症例検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クリニックで糖尿病、腎疾患患者の栄養食事指導を見学する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	糖尿病、腎臓病について予習、復習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第24回	**授業テーマ**	症例検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クリニックで糖尿病、腎疾患患者の栄養食事指導を見学する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	糖尿病、腎臓病について予習、復習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第25回	**授業テーマ**	症例検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クリニックで糖尿病、腎疾患患者の栄養食事指導を見学する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	糖尿病、腎臓病について予習、復習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第26回	**授業テーマ**	症例検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クリニックで糖尿病、腎疾患患者の栄養食事指導を見学する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	糖尿病、腎臓病について予習、復習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第27回	**授業テーマ**	症例検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クリニックで糖尿病、腎疾患患者の栄養食事指導を見学する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	糖尿病、腎臓病について予習、復習する。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	研究の実施

第28回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第29回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第30回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第31回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第32回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第33回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第34回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第35回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	研究の実施

第36回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第37回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第38回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第39回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第40回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第41回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第42回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第43回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	研究の実施

第44回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第45回	授業テーマ	中間プレゼンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実施した研究概要を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講者相互に文献研究を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第46回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第47回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第48回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第49回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第50回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第51回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗ	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を

第52回	ｼｰ教育・ICT活用を含む)	実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第53回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第54回	授業テーマ	研究の評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションを準備し、研究の質を評価する方法を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	口演原稿を準備し、パワーポイントで映写資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第55回	授業テーマ	総合討論１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第56回	授業テーマ	総合討論２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第57回	授業テーマ	総合討論３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第58回	授業テーマ	総合討論４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第59回	授業テーマ	総合討論５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第60回	授業テーマ	総合評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	相互にプレゼンテーションを評価し、研究成果を総括する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究成果を批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

臨床現場で患者を対象として研究活動をおこなう。治療用特殊食品を使用したメニューを考案する。

学生へのフィードバック方法

研究室で個別に対応します。

評価方法

患者症例より、病態に即した栄養評価、栄養管理の知識があるか。指導媒体が考えられるか。症例の経過をまとめることが出来るか。治療食の献立を作成できるか。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
プレゼンテーション	○	○	○	○
総合討論	○	○	○	○
症例検討	○	○	○	○

評価割合

病態の理解、栄養食事指導方法の理解、献立作成力、まとめより評価する。100点

使用教科書名(ISBN番号)

臨床栄養の教科書

参考図書

文献類、糖尿病食品交換表、腎臓病食品交換表

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】病態の理解、栄養評価、栄養食事管理が理解できる。食事指導に対応できる能力を有している。【思考・判断】病態に適合した栄養療法の対応ができる。【関心・意欲・態度】人間の栄養に関心を持ち、管理栄養士として貢献する意欲と態度を身につけている。【技術・表現】研究結果を発表する能力を身につけている。

オフィスアワー

木曜日昼休み（1504研究室）

学生へのメッセージ

研究活動を主体的に実施することを期待します。患者の気持ちの分かる管理栄養士になりましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、総合病院勤務経験、および内科クリニック、透析クリニックでの栄養食事指導、集団栄養食事指導経験がある。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、研究会、学会参加
情報リテラシー教育	○	文献検索、研究会、学会参加
ICT活用		

講義コード	H02082065
講義名	実践栄養プロデュース実習（辻）4年生
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	辻 雅子	指定なし

ナンバリング

H34002C43

授業概要(教育目的)

今までの学びの集大成として、研究室で各自の研究を進めることで、自分の進路を見つけ出すことができるように、社会で求められているニーズを把握し、実践力を養うことで、社会に貢献出来るような力を身につけることを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	人間・食物や地域との関わりなどの理解を深めることで、管理栄養士としての専門的知識と、社会で実践できる知識基盤について理解する。
思考・判断の観点 (K)	現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決にむけて正確な情報を収集したうえで論理的思考にもとづいて、戦略的な判断ができる力を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	管理栄養士として将来社会に貢献する意思と、他者と協働する力と、生涯にわたり主体的に学ぶ意欲と態度を身につける。
技術・表現の観点 (A)	得られた結果についてまとめる力と、それをプレゼンテーションする力を高め、表現力を身につける。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	辻研究室オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1年半の研究の流れについて理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分自身の研究についてテーマを決めるために事前に情報を集める。

	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	研究課題について情報収集①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究課題について情報を集め、研究の流れを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究課題について、情報を集める。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	研究課題について情報収集②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究課題について情報を集め、研究の流れを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究課題について、情報を集める。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	研究課題について情報収集③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究課題について情報を集め、研究の流れを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究課題について、情報を集める。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	研究の流れを構築する①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の流れについて指導教諭と共に考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究課題に基づいて研究の流れについて考える。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	研究の流れを構築する②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の流れについて指導教諭と共に考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究課題に基づいて研究の流れについて考える。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	研究の流れを構築する③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の流れについて指導教諭と共に考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究課題に基づいて研究の流れについて考える。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	研究の流れを構築する④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の流れについて指導教諭と共に考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究課題に基づいて研究の流れについて考える。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	研究実施①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究を実施するために理解を深め、指導教諭に相談しながら研究を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究について関心をもって実施するために、自分の行っている研究について知識を深める。

	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	研究実施②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究を実施するために理解を深め、指導教諭に相談しながら研究を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究について関心をもって実施するために、自分の行っている研究について知識を深める。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	研究実施③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究を実施するために理解を深め、指導教諭に相談しながら研究を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究について関心をもって実施するために、自分の行っている研究について知識を深める。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	研究実施④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究を実施するために理解を深め、指導教諭に相談しながら研究を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究について関心をもって実施するために、自分の行っている研究について知識を深める。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	**授業テーマ**	研究結果まとめ①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究結果についてデータまとめを実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究結果についてまとめを行いながら考察する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	**授業テーマ**	研究結果まとめ②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究結果についてデータまとめを実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究結果についてまとめを行いながら考察する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第15回	**授業テーマ**	研究結果まとめ③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究結果についてデータまとめを実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究結果についてまとめを行いながら考察する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第16回	**授業テーマ**	研究結果まとめ④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究結果についてデータまとめを実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究結果についてまとめを行いながら考察する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第17回	**授業テーマ**	研究結果まとめ⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究結果についてデータまとめを実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究結果についてまとめを行いながら考察する。

	教室外学習の時間（分）	180分
第18回	**授業テーマ**	研究論文作成①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第19回	**授業テーマ**	研究論文作成②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第20回	**授業テーマ**	研究論文作成③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第21回	**授業テーマ**	研究論文作成④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第22回	**授業テーマ**	研究報告会準備①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究結果についてデータまとめの結果について報告会用にまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究結果についてデータまとめの結果について報告会用に要旨集（ワード）及びパワーポイントにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第23回	**授業テーマ**	研究報告会準備②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究結果についてデータまとめの結果について報告会用にまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究結果についてデータまとめの結果について報告会用に要旨集（ワード）及びパワーポイントにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第24回	**授業テーマ**	研究報告会準備③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究結果についてデータまとめの結果について報告会用にまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究結果についてデータまとめの結果について報告会用に要旨集（ワード）及びパワーポイントにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	研究報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究結果についてデータまとめの結果について研究報告会で発表する。

第25回	教室外学習(予習・復習)の内容	研究結果についてデータまとめの結果について研究報告会で発表するための準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第26回	授業テーマ	まとめ①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指導教諭とともに研究報告会の振り返りを行い。再度データの整理を行い、最終論文を冊子としてしあげる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	最終論文を仕上げる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第27回	授業テーマ	まとめ②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指導教諭とともに研究報告会の振り返りを行い。再度データの整理を行い、最終論文を冊子としてしあげる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	最終論文を仕上げる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第28回	授業テーマ	まとめ③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指導教諭とともに研究報告会の振り返りを行い。再度データの整理を行い、最終論文を冊子としてしあげる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	最終論文を仕上げる。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

研究内容の実施時期はテーマによって異なるため、各自積極的に意欲をもって研究に取り組むことが必要である。

学生へのフィードバック方法

演習形式およびグループワークを中心として実施する。
研究の進捗状況によって各自へ個別にフィードバックする。

評価方法

課題に取り組む姿勢や研究内容をまとめる力、研究論文作成、
また研究報告会などのプレゼンテーション力など総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
研究報告会	○	○	○	○
研究論文	○	○	○	○

評価割合

3年時は、平常点50%とグループごとでの話し合いの参加等50%で評価を行う。4年次は、研究報告会40%、研究論文30%、平常点30%（平常点は積極的な参加状況や態度等から総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない

参考図書

課題により参考文献は随時指示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】管理栄養士等の専門職業人として、人間・食物や地域との関わりなどの理解を深めることで、管理栄養士としての専門的知識と、社会で実践できる知識基盤について理解する事に該当。
【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決にむけて正確な情報を収集したうえで論理的思考にもとづいて、戦略的な判断ができる力を身につける事に該当。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として将来社会に貢献する意思、他者と協働する力、生涯にわたり主体的に学ぶ意欲と態度を身につける事に該当。
【技術・表現】得られた結果についてまとめる力と、それをプレゼンテーションする力を高め、表現力を身につける事に該当。

オフィスアワー

月曜日４時間目 1605研究室

学生へのメッセージ

研究テーマがきまったら、各自事前に研究課題や研究方法等ついて調べておくことが望ましい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報発信の在り方や情報の真偽について等、栄養教育マネジメントに関連する基礎的学びを中心に教授するものである。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークや研究報告会を通じて課題発見力・課題解決学習を学ぶ事ができる。
情報リテラシー教育	○	研究論文作成を通じて情報検索等における情報モラルについて学ぶ事ができる。
ICT活用		

講義コード	H02082066
講義名	実践栄養プロデュース実習（酒井）4年生
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	酒井 治子	指定なし

ナンバリング

H34002C43

授業概要(教育目的)

地域栄養教育に関する専門的技能を習得し、人々をとりまく栄養・食生活の課題を発見し、それを解決できる力を身につけることを教育目標として、行政、保育所・学校、医療福祉施設、フードサービスの場等への業務に役立つ実践研究を実施します。

履修条件

2年次までの必修科目の単位取得。実験実習演習科目の積極的参加、臨地実習、総合演習での主体的、協調的な学習の確実な実施が必要です。学外実習の機会を活用することを期待します。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	健康のための栄養、競技のための栄養、リハビリのための栄養の違いを説明できる。運動と栄養の相互作用を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	研究テーマに沿って先行研究を議論し、研究仮説を立案できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間の生活に関する広範な研究テーマを探求できる。
技術・表現の観点 (A)	研究結果をプレゼンテーションし、根拠に基づくディスカッションができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業概要、スケジュール、研究の進め方を説明する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	アカデミックスキル科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	成育栄養学研究室 (原)、応用栄養学研究室 (斉藤)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(臨床栄養系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臨床栄養管理学研究室(城田)、臨床栄養学研究室(金澤)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(臨床栄養系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養政策学研究室 (田中弘之)、地域栄養教育学研究室(酒井)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(食育・地域栄養ケア系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育研究室 (辻)、応用食品学研究室 (林)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(食育・地域栄養ケア系、フードサービス系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養学研究室 (海野)、調理学研究室 (大富)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(フードサービス系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食経営管理研究室 (吉野)、食と世界を考える研究室(橋本)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(フードサービス系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動生態学研究室 (江川)、実践応用栄養学研究室(加藤)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(スポーツ栄養系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	(仮)ヘルスプロモーション研究室 (田中千晶)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(スポーツ栄養系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分

第10回	授業テーマ	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	希望調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問の結果より、研究室希望調査の実施を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第15回	授業テーマ	研究室配属
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問の結果のまとめと振り返り、今後の目標についてグループワークを実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第16回	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習の概要と進め方を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究計画書のプレゼンテーション資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第17回	授業テーマ	研究計画プレゼンテーション１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動生態学研究の概要を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運動、栄養、健康に関する文献研究を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第18回	授業テーマ	研究計画プレゼンテーション２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動生態学研究の方法を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運動、栄養、健康に関する文献研究を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	レビューワーク１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗ	情報検索の方法を説明する。

第19回	ｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	オンラインジャーナル、書架および学会等の情報源からレビューワークを実施する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第20回	授業テーマ	レビューワーク２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	リストの作成方法を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集した文献から必要な情報を抽出し、文献リストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第21回	授業テーマ	研究テーマ別レビューワーク１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマ別に文献リストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第22回	授業テーマ	研究テーマ別レビューワーク２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマ別に文献リストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第23回	授業テーマ	研究デザイン１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマの立て方を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運動、栄養、健康に関するリサーチクエスチョンを立てるための文献研究を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第24回	授業テーマ	研究デザイン２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマの精査を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンのプレゼンテーション資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第25回	授業テーマ	研究計画プレゼンテーション３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマの発表およびディスカッションを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表のフィードバックを受け、修正、追加、変更するためのレビューワークを実施する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第26回	授業テーマ	研究倫理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人権擁護、情報保護などの倫理を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマに沿って臨床試験登録を検索する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第27回	授業テーマ	研究の実施１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。

	教室外学習の時間（分）	45分
第28回	**授業テーマ**	研究の実施２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第29回	**授業テーマ**	研究の実施３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第30回	**授業テーマ**	中間プレゼンテーション１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実施した研究概要を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講者相互に文献研究を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第31回	**授業テーマ**	研究テーマ別レビューワーク３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマ別に文献リストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第32回	**授業テーマ**	研究テーマ別レビューワーク４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマ別に文献リストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第33回	**授業テーマ**	研究テーマ別レビューワーク５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマ別に文献リストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第34回	**授業テーマ**	研究テーマ別レビューワーク６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマ別に文献リストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第35回	**授業テーマ**	研究計画プレゼンテーション４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマの発表およびディスカッションを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表のフィードバックを受け、修正、追加、変更するためのレビューワークを実施する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第36回	**授業テーマ**	研究の実施４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
		研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助

	教室外学習(予習・復習)の内容	言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第37回	**授業テーマ**	研究の実施５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第38回	**授業テーマ**	研究の実施６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第39回	**授業テーマ**	研究の実施７
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第40回	**授業テーマ**	研究の実施８
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第41回	**授業テーマ**	研究の実施９
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第42回	**授業テーマ**	研究の実施１０
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第43回	**授業テーマ**	研究の実施１１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第44回	**授業テーマ**	研究の実施１２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第45回	**授業テーマ**	中間プレゼンテーション２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実施した研究概要を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講者相互に文献研究を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第46回	**授業テーマ**	研究の実施１３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第47回	**授業テーマ**	研究の実施１４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第48回	**授業テーマ**	研究の実施１５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第49回	**授業テーマ**	研究の実施１６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第50回	**授業テーマ**	研究の実施１７
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第51回	**授業テーマ**	研究の実施１８
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第52回	**授業テーマ**	研究の実施１９
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助

		言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第53回	**授業テーマ**	研究の実施２０
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第54回	**授業テーマ**	研究の評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションを準備し、研究の質を評価する方法を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	口演原稿を準備し、パワーポイントで映写資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第55回	**授業テーマ**	総合討論１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第56回	**授業テーマ**	総合討論２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第57回	**授業テーマ**	総合討論３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第58回	**授業テーマ**	総合討論４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第59回	**授業テーマ**	総合討論５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第60回	**授業テーマ**	総合評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	相互にプレゼンテーションを評価し、研究成果を総括する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究成果を批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

※履修者数や講義の進度によりスケジュールが変更になる場合もあります。ノートパソコンを

必携とする。

学生へのフィードバック方法

研究室で個別に対応します。

評価方法

研究計画プレゼンテーション、中間プレゼンテーションおよび総合討論の内容により評価します。平常点と課題の内容により、ルーブリックをもとに評価します。
ルーブリックの内容は、クラスルームまたは授業内にて公開します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
プレゼンテーション	○			○
総合討論		○	○	

評価割合

プレゼンテーション60%、総合討論40%

使用教科書名(ISBN番号)

指定しない。

参考図書

指定しない。

参考URL

http://www.equator-network.org/

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】地域の栄養・食生活に関する専門的知識と、それらを応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている
【思考・判断】地域の栄養・食生活に関わる諸課題を探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集し、論理的批判的に思考できる
【関心・意欲・態度】地域の栄養・食生活に関心を持ち、管理栄養士として貢献する意欲と態度を身につけている
【技術・表現】リサーチクエスチョンを主体的に発見し、研究結果を発表する能力を身につけている

オフィスアワー

木曜日昼休み（1603研究室）

学生へのメッセージ

研究活動を主体的に実施することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02082070
講義名	実践栄養プロデュース実習（橋本）4年生
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	橋本 文子	指定なし

ナンバリング

H34002C43

授業概要(教育目的)

管理栄養士として役立つ様々な食や健康に関するテーマについて理解を深める。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	管理栄養士として必要な食や健康に関する話題について理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	自分の興味のあるテーマについて調べた内容を相手にわかりやすく伝えることができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方についての説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	食や健康に関する話題について

第2回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	授業テーマ	食や健康に関する話題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	授業テーマ	食や健康に関する話題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	授業テーマ	食や健康に関する話題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食に関するDVDを見る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	DVDを見て感じたことや考えたことをレポートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	授業テーマ	食や健康に関する話題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	DVDを見てわかったことを発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	授業テーマ	食や健康に関する話題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	授業テーマ	食や健康に関する話題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	JICA地球ひろばを訪問し、施設見学とお話を伺う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	JICA地球ひろば訪問で感じたことをレポートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	授業テーマ	食や健康に関する話題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	JICA地球ひろばで感じたことやわかったことについて発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	食や健康に関する話題について

第10回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	授業テーマ	食や健康に関する話題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	授業テーマ	食や健康に関する話題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒研発表に向けてテーマを絞り込む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	授業テーマ	食や健康に関する話題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒研発表に向けてテーマを絞り込む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	授業テーマ	食や健康に関する話題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒研発表に向けてテーマを決め、調べていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第15回	授業テーマ	食や健康に関する話題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒研発表に向けてテーマを決め、調べていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第16回	授業テーマ	食や健康に関する話題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーマについて各自調べを進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第17回	授業テーマ	食や健康に関する話題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーマについて各自調べを進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	食や健康に関する話題について

第18回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーマについて各自調べを進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第19回	授業テーマ	食や健康に関する話題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	テーマについて各自調べを進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第20回	授業テーマ	食や健康に関する話題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒研発表会に向けて準備を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第21回	授業テーマ	食や健康に関する話題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒研発表会に向けて準備を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第22回	授業テーマ	食や健康に関する話題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒研発表会に向けて準備を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第23回	授業テーマ	食や健康に関する話題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒研発表会に向けて準備を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第24回	授業テーマ	食や健康に関する話題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒研発表会に向けて準備を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第25回	授業テーマ	食や健康に関する話題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒研発表会に向けて準備を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	食や健康に関する話題について

第26回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒研発表会に向けて準備を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第27回	授業テーマ	食や健康に関する話題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒研発表会に向けて準備を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第28回	授業テーマ	食や健康に関する話題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒研発表会
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでのことについてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

＊授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

授業時に各自テーマについて調べたものを発表し、お互いに意見を交換する機会を持ちます。

評価方法

・各テーマについての調査と発表
・卒研発表会に向けての取り組み

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
各テーマについての発表	○	○	○	○
卒研発表会に向けた準備	○	○	○	○
卒研発表	○	○	○	○

評価割合

各テーマの発表50%と卒研発表50%で総合的に評価します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】管理栄養士に必要な食と健康についての様々な話題について深い知識と理解を身につけている。
【思考・判断】正しい情報を判断できる力を身につけている。
【技能・表現】専門的知識を相手にわかりやすく表現する力を身につけている。

オフィスアワー

前期 水曜日2時限 1610研究室
後期 水曜日2時限 1610研究室

学生へのメッセージ

自分の興味があるテーマについて積極的に取り組んで下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		JICAを訪問し、世界の食を取り巻く状況について知り、話し合う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		ネットからの情報の収集の仕方を学んでいく。

講義コード	H02082072
講義名	実践栄養プロデュース実習（林）4年生
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	林 一也	指定なし

ナンバリング

H34002C43

授業概要(教育目的)

この実習では、所属する研究室において、担当教員の指導のもとにテーマを決めたのち、そのテーマに沿った研究を遂行し、研究における研究計画の立て方、研究方法や実験方法、ディスカッションによる研究計画の修正や研究を行う上での考え方など、研究を行うためのあらゆる事象を修得することを目的としている。
また期末には発表、論文作成など研究内容のまとめ揚げるスキルを身につけることを目的とし、研究テーマは管理栄養士としての自分の進路を見つけ出すことができるように、管理栄養士が広く活躍する場を踏まえた社会での実践体験を含む研究課題としている。学生が自ら研究課題を理解し、社会で求められているニーズを把握し、実践力を養うことで、社会に貢献できることを最終目的としている。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	
思考・判断の観点(K)	
関心・意欲・	研究テーマに関心を持って研究チームの一員として参画し、チームのメンバーと共同

態度の観点(V)	して自主的に研究することで、管理栄養士として社会に出たときに主体的に学ぶ意欲と態度、共感力、豊かな人間性を身につけることができる。
技術・表現の観点(A)	研究テーマに関心を持って研究チームの一員として参画し、チームのメンバーと共同して自主的に研究し、最終的に研究内容をまとめ発表することで、管理栄養士として専門的技能とともに、コミュニケーション能力やマネジメント力、プレゼンテーション力などの表現力を身につけることができる。

学習計画

実践健康栄養プロデュース実習

第1回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	特に設定しない。
第2回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	特に設定しない。
第3回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	特に設定していない。
第4回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	特に設定していない。
第5回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。

	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	特に設定していない。
第6回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	特に設定していない。
第7回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	特に設定していない。
第8回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	特に設定していない。
第9回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	特に設定していない。
第10回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	特に設定していない。
	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗ	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する

第11回	ｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	特に設定していない。
第12回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	特に設定していない。
第13回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	特に設定していない。
第14回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	特に設定していない。
第15回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	特に設定していない。
第16回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間	特に設定していない。

	（分）	
第17回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	特に設定していない。
第18回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	特に設定していない。
第19回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	特に設定していない。
第20回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	特に設定していない。
第21回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	特に設定していない。
第22回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。

	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	特に設定していない。
第23回	**授業テーマ**	卒業研究のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データのまとめ、解析を行うとともに、卒業発表のプレゼンテーション資料、卒業研究報告の要旨および卒業論文の指導と作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	特に設定していない。
第24回	**授業テーマ**	卒業研究のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データのまとめ、解析を行うとともに、卒業発表のプレゼンテーション資料、卒業研究報告の要旨および卒業論文の指導と作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	特に設定していない。
第25回	**授業テーマ**	卒業研究のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データのまとめ、解析を行うとともに、卒業発表のプレゼンテーション資料、卒業研究報告の要旨および卒業論文の指導と作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	特に設定していない。
第26回	**授業テーマ**	卒業研究のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データのまとめ、解析を行うとともに、卒業発表のプレゼンテーション資料、卒業研究報告の要旨および卒業論文の指導と作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	特に設定していない。
第27回	**授業テーマ**	卒業研究のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データのまとめ、解析を行うとともに、卒業発表のプレゼンテーション資料、卒業研究報告の要旨および卒業論文の指導と作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	特に設定していない。
	授業テーマ	実践栄養プロデュース報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗ	

第28回	ｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究成果の発表（全研究室の発表報告の参加も含む）
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

すべて対面で行う。

学生へのフィードバック方法

研究内容、進め方、結果の考察などは研究室内のデッスカッションとして適宜行う。

評価方法

研究遂行能力、論文作成能力、研究報告会での発表能力などの研究能力を総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
総合的な研究能力の評価			○	○

評価割合

総合的な研究能力(100%)
評価にはルーブリック評価が用いられる。ルーブリック評価法は履修時に配布する。

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度研究】テーマに関心を持って研究チームの一員として参画し、チームのメンバーと共同して自主的に研究することで、管理栄養士として社会に出たときに主体的に学ぶ意欲と態度、共感力、豊かな人間性を身につけることができる。
【技術・表現研究】テーマに関心を持って研究チームの一員として参画し、チームのメンバーと共同して自主的に研究し、最終的に研究内容をまとめ発表することで、管理栄養士として専門的技能とともに、コミュニケーション能力やマネジメントカ、プレゼンテーション力などの表現力を身につけることができる。

オフィスアワー

金曜日1時限 および メール等の予約により定めた時間 1401研究室

学生へのメッセージ

研究は自主的に行うことが重要である。就職活動、国試対策など全ての確立を目指すための心構えが重要である。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、民間の食品企業で産官学との共同研究･共同食品開発に携わった内容を踏まえ、食品に関する研究を実践的･実学的に教授している。
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02082075
講義名	実践栄養プロデュース実習（吉野）4年生
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	吉野 知子	指定なし

ナンバリング

H34002C43

授業概要(教育目的)

運動に関する専門的技能を習得し、人々の健康増進を運動から解決できることを教育目標として、スポーツ産業、民間企業、行政、学校、医療福祉施設、予防サービス、試験研究教育機関（大学院含む）等への業務に役立つ実践研究を実施します。

履修条件

2年次までの必修科目の単位取得。実験実習演習科目の積極的参加、臨地実習、総合演習での主体的、協調的な学習の確実な実施が必要です。学外実習の機会を活用することを期待します。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	健康のための栄養、競技のための栄養、リハビリのための栄養の違いを説明できる。運動と栄養の相互作用を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	研究テーマに沿って先行研究を議論し、研究仮説を立案できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間の生活に関する広範な研究テーマを探求できる。
技術・表現の観点 (A)	研究結果をプレゼンテーションし、根拠に基づくディスカッションができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業概要、スケジュール、研究の進め方を説明する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	アカデミックスキル科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	成育栄養学研究室 (原)、応用栄養学研究室 (斉藤)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(臨床栄養系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臨床栄養管理学研究室(城田)、臨床栄養学研究室(金澤)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(臨床栄養系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養政策学研究室 (田中弘之)、地域栄養教育学研究室(酒井)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(食育・地域栄養ケア系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育研究室 (辻)、応用食品学研究室 (林)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(食育・地域栄養ケア系、フードサービス系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養学研究室 (海野)、調理学研究室 (大富)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(フードサービス系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食経営管理研究室 (吉野)、食と世界を考える研究室(橋本)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(フードサービス系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動生態学研究室 (江川)、実践応用栄養学研究室(加藤)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(スポーツ栄養系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	(仮)ヘルスプロモーション研究室 (田中千晶)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(スポーツ栄養系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分

第10回	授業テーマ	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	希望調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問の結果より、研究室希望調査の実施を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第15回	授業テーマ	研究室配属
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問の結果のまとめと振り返り、今後の目標についてグループワークを実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第16回	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習の概要と進め方を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究計画書のプレゼンテーション資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第17回	授業テーマ	研究計画プレゼンテーション１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動生態学研究の概要を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運動、栄養、健康に関する文献研究を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第18回	授業テーマ	研究計画プレゼンテーション２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動生態学研究の方法を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運動、栄養、健康に関する文献研究を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	レビューワーク１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗ	情報検索の方法を説明する。

第19回	ｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	オンラインジャーナル、書架および学会等の情報源からレビューワークを実施する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第20回	授業テーマ	レビューワーク２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	リストの作成方法を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集した文献から必要な情報を抽出し、文献リストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第21回	授業テーマ	研究テーマ別レビューワーク１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマ別に文献リストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第22回	授業テーマ	研究テーマ別レビューワーク２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマ別に文献リストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第23回	授業テーマ	研究デザイン１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマの立て方を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運動、栄養、健康に関するリサーチクエスチョンを立てるための文献研究を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第24回	授業テーマ	研究デザイン２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマの精査を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンのプレゼンテーション資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第25回	授業テーマ	研究計画プレゼンテーション３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマの発表およびディスカッションを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表のフィードバックを受け、修正、追加、変更するためのレビューワークを実施する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第26回	授業テーマ	研究倫理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人権擁護、情報保護などの倫理を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマに沿って臨床試験登録を検索する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第27回	授業テーマ	研究の実施１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。

	教室外学習の時間（分）	45分
第28回	**授業テーマ**	研究の実施２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第29回	**授業テーマ**	研究の実施３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第30回	**授業テーマ**	中間プレゼンテーション１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実施した研究概要を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講者相互に文献研究を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第31回	**授業テーマ**	研究テーマ別レビューワーク３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマ別に文献リストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第32回	**授業テーマ**	研究テーマ別レビューワーク４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマ別に文献リストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第33回	**授業テーマ**	研究テーマ別レビューワーク５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマ別に文献リストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第34回	**授業テーマ**	研究テーマ別レビューワーク６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマ別に文献リストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第35回	**授業テーマ**	研究計画プレゼンテーション４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマの発表およびディスカッションを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表のフィードバックを受け、修正、追加、変更するためのレビューワークを実施する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第36回	**授業テーマ**	研究の実施４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
		研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助

	教室外学習(予習・復習)の内容	言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第37回	**授業テーマ**	研究の実施５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第38回	**授業テーマ**	研究の実施６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第39回	**授業テーマ**	研究の実施７
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第40回	**授業テーマ**	研究の実施８
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第41回	**授業テーマ**	研究の実施９
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第42回	**授業テーマ**	研究の実施１０
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第43回	**授業テーマ**	研究の実施１１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第44回	**授業テーマ**	研究の実施１２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第45回	**授業テーマ**	中間プレゼンテーション２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実施した研究概要を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講者相互に文献研究を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第46回	**授業テーマ**	研究の実施１３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第47回	**授業テーマ**	研究の実施１４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第48回	**授業テーマ**	研究の実施１５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第49回	**授業テーマ**	研究の実施１６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第50回	**授業テーマ**	研究の評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションを準備し、研究の質を評価する方法を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	口演原稿を準備し、パワーポイントで映写資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第51回	**授業テーマ**	総合討論１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第52回	**授業テーマ**	総合討論２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分

第53回	授業テーマ	総合討論３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第54回	授業テーマ	総合討論４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第55回	授業テーマ	総合討論５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第56回	授業テーマ	総合評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	相互にプレゼンテーションを評価し、研究成果を総括する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究成果を批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

※履修者数や講義の進度によりスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

研究室で個別に対応します。

評価方法

研究計画プレゼンテーション、中間プレゼンテーションおよび総合討論の内容により評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
プレゼンテーション	○			○
総合討論		○	○	

評価割合

プレゼンテーション60%、総合討論40%

使用教科書名(ISBN番号)

指定しない。

参考図書

指定しない。

参考URL

http://www.equator-network.org/

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】運動を中心とした人間の栄養に関する専門的知識と、それらを応用・実践でき

る総合的な知識基盤を身につけている
【思考・判断】運動と栄養に関わる諸課題を探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集し、論理的批判的に思考できる
【関心・意欲・態度】運動を中心とした人間の栄養に関心を持ち、管理栄養士として貢献する意欲と態度を身につけている
【技術・表現】リサーチクエスチョンを主体的に発見し、研究結果を発表する能力を身につけている

オフィスアワー

木曜日昼休み（G0101研究室）

学生へのメッセージ

研究活動を主体的に実施することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は民間企業の研究機関における研究に従事した経験を踏まえて、人間の健康・運動・栄養に関する研究方法を教授します。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02082077
講義名	実践栄養プロデュース実習（加藤）4年生
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	加藤 理津子	指定なし

ナンバリング

H34002C43

授業概要(教育目的)

運動に関する専門的技能を習得し、人々の健康増進を運動から解決できることを教育目標として、スポーツ産業、民間企業、行政、学校、医療福祉施設、予防サービス、試験研究教育機関（大学院含む）等への業務に役立つ実践研究を実施します。

履修条件

2年次までの必修科目の単位取得。実験実習演習科目の積極的参加、臨地実習、総合演習での主体的、協調的な学習の確実な実施が必要です。学外実習の機会を活用することを期待します。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	健康のための栄養、競技のための栄養、リハビリのための栄養の違いを説明できる。運動と栄養の相互作用を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	研究テーマに沿って先行研究を議論し、研究仮説を立案できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間の生活に関する広範な研究テーマを探求できる。
技術・表現の観点 (A)	研究結果をプレゼンテーションし、根拠に基づくディスカッションができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業概要、スケジュール、研究の進め方を説明する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	アカデミックスキル科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	成育栄養学研究室 (原)、応用栄養学研究室 (斉藤)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(臨床栄養系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臨床栄養管理学研究室(城田)、臨床栄養学研究室(金澤)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(臨床栄養系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養政策学研究室 (田中弘之)、地域栄養教育学研究室(酒井)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(食育・地域栄養ケア系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育研究室 (辻)、応用食品学研究室 (林)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(食育・地域栄養ケア系、フードサービス系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養学研究室 (海野)、調理学研究室 (大富)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(フードサービス系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食経営管理研究室 (吉野)、食と世界を考える研究室(橋本)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(フードサービス系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動生態学研究室 (江川)、実践応用栄養学研究室(加藤)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(スポーツ栄養系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	(仮)ヘルスプロモーション研究室 (田中千晶)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(スポーツ栄養系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分

第10回	授業テーマ	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	希望調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問の結果より、研究室希望調査の実施を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第15回	授業テーマ	研究室配属
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問の結果のまとめと振り返り、今後の目標についてグループワークを実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第16回	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習の概要と進め方を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究計画書のプレゼンテーション資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第17回	授業テーマ	研究計画プレゼンテーション１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動生態学研究の概要を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運動、栄養、健康に関する文献研究を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第18回	授業テーマ	研究計画プレゼンテーション２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動生態学研究の方法を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運動、栄養、健康に関する文献研究を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	レビューワーク１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗ	情報検索の方法を説明する。

第19回	ｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	オンラインジャーナル、書架および学会等の情報源からレビューワークを実施する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第20回	授業テーマ	レビューワーク２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	リストの作成方法を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集した文献から必要な情報を抽出し、文献リストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第21回	授業テーマ	研究テーマ別レビューワーク１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマ別に文献リストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第22回	授業テーマ	研究テーマ別レビューワーク２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマ別に文献リストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第23回	授業テーマ	研究デザイン１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマの立て方を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運動、栄養、健康に関するリサーチクエスチョンを立てるための文献研究を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第24回	授業テーマ	研究デザイン２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマの精査を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンのプレゼンテーション資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第25回	授業テーマ	研究計画プレゼンテーション３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマの発表およびディスカッションを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表のフィードバックを受け、修正、追加、変更するためのレビューワークを実施する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第26回	授業テーマ	研究倫理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人権擁護、情報保護などの倫理を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマに沿って臨床試験登録を検索する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第27回	授業テーマ	研究の実施１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。

	教室外学習の時間（分）	45分
第28回	**授業テーマ**	研究の実施２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第29回	**授業テーマ**	研究の実施３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第30回	**授業テーマ**	中間プレゼンテーション１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実施した研究概要を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講者相互に文献研究を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第31回	**授業テーマ**	研究テーマ別レビューワーク３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマ別に文献リストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第32回	**授業テーマ**	研究テーマ別レビューワーク４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマ別に文献リストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第33回	**授業テーマ**	研究テーマ別レビューワーク５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマ別に文献リストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第34回	**授業テーマ**	研究テーマ別レビューワーク６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマ別に文献リストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第35回	**授業テーマ**	研究計画プレゼンテーション４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマの発表およびディスカッションを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表のフィードバックを受け、修正、追加、変更するためのレビューワークを実施する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第36回	**授業テーマ**	研究の実施４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
		研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助

	教室外学習(予習・復習)の内容	言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第37回	**授業テーマ**	研究の実施５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第38回	**授業テーマ**	研究の実施６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第39回	**授業テーマ**	研究の実施７
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第40回	**授業テーマ**	研究の実施８
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第41回	**授業テーマ**	研究の実施９
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第42回	**授業テーマ**	研究の実施１０
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第43回	**授業テーマ**	研究の実施１１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第44回	**授業テーマ**	研究の実施１２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第45回	**授業テーマ**	中間プレゼンテーション２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実施した研究概要を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講者相互に文献研究を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第46回	**授業テーマ**	研究の実施１３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第47回	**授業テーマ**	研究の実施１４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第48回	**授業テーマ**	研究の実施１５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第49回	**授業テーマ**	研究の実施１６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第50回	**授業テーマ**	研究の実施１７
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第51回	**授業テーマ**	研究の実施１８
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第52回	**授業テーマ**	研究の実施１９
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助

		言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第53回	授業テーマ	研究の実施２０
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第54回	授業テーマ	研究の評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションを準備し、研究の質を評価する方法を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	口演原稿を準備し、パワーポイントで映写資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第55回	授業テーマ	総合討論１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第56回	授業テーマ	総合討論２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第57回	授業テーマ	総合討論３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第58回	授業テーマ	総合討論４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第59回	授業テーマ	総合討論５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第60回	授業テーマ	総合評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	相互にプレゼンテーションを評価し、研究成果を総括する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究成果を批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

※履修者数や講義の進度によりスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

研究室で個別に対応します。

評価方法

研究計画プレゼンテーション、中間プレゼンテーションおよび総合討論の内容により評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
プレゼンテーション	○			○
総合討論		○	○	

評価割合

プレゼンテーション60%、総合討論40%

使用教科書名(ISBN番号)

指定しない。

参考図書

指定しない。

参考URL

http://www.equator-network.org/

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】運動を中心とした人間の栄養に関する専門的知識と、それらを応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている
【思考・判断】運動と栄養に関わる諸課題を探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集し、論理的批判的に思考できる
【関心・意欲・態度】運動を中心とした人間の栄養に関心を持ち、管理栄養士として貢献する意欲と態度を身につけている
【技術・表現】リサーチクエスチョンを主体的に発見し、研究結果を発表する能力を身につけている

オフィスアワー

前期：火曜日2限（1B05研究室）
後期：水曜日昼休み（1B05研究室）

学生へのメッセージ

研究活動を主体的に実施することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は民間企業の研究機関における研究に従事した経験を踏まえて、人間の健康・運動・栄養に関する研究方法を教授します。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02082078
講義名	実践栄養プロデュース実習（大富）4年生
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	大富 あき子	指定なし

ナンバリング

H34002C43

授業概要(教育目的)

調理過程における食品材料の化学的、物理的、組織学的変化について、おいしくなる方向へとその変化を制御する学問が調理学である。調理学研究室では食品材料や調理操作に関すること、おいしさの評価方法、調理学的な側面からの献立作成、食文化に関することなどについて将来の管理栄養士としての就業に役立つ実践研究を実施する。

履修条件

特に無し。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各食品材料の調理過程による変化や食文化の背景を理解し説明することが出来る。
思考・判断の観点 (K)	研究テーマに沿って先行研究を議論し、研究仮説を立案できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	調理や食文化に関する広範な研究テーマを探求できる。
技術・表現の観点 (A)	研究結果をプレゼンテーションし、根拠に基づくディスカッションができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習の概要と進め方を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究計画書のプレゼンテーション資料を作成

		する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	研究の実施１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	研究の実施２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	研究の実施３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	中間プレゼンテーション１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実施した研究概要を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講者相互に文献研究を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	研究の実施４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	研究の実施５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	研究の実施６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	研究の実施７
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教

		員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	研究の実施８
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	研究の実施９
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	研究の実施１０
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	研究の実施１１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	**授業テーマ**	研究の実施１２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第15回	**授業テーマ**	中間プレゼンテーション２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実施した研究概要を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講者相互に文献研究を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第16回	**授業テーマ**	研究の実施１３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第17回	**授業テーマ**	研究の実施１４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。

	教室外学習の時間（分）	45分
第18回	**授業テーマ**	研究の実施１５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第19回	**授業テーマ**	研究の実施１６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第20回	**授業テーマ**	研究の実施１７
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第21回	**授業テーマ**	研究の実施１８
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第22回	**授業テーマ**	研究の実施１９
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第23回	**授業テーマ**	研究の実施２０
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第24回	**授業テーマ**	研究の評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションを準備し、研究の質を評価する方法を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	口演原稿を準備し、パワーポイントで映写資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第25回	**授業テーマ**	総合討論１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分

第26回	授業テーマ	総合討論２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第27回	授業テーマ	総合討論３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第28回	授業テーマ	総合評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	相互にプレゼンテーションを評価し、研究成果を総括する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究成果を批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

※履修者数や講義の進度によりスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

研究室で個別に対応します。

評価方法

研究計画プレゼンテーション、中間プレゼンテーションおよび総合討論の内容により評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
プレゼンテーション	○			○
総合討論		○	○	

評価割合

プレゼンテーション60%、総合討論40%

使用教科書名(ISBN番号)

指定しない。

参考図書

指定しない。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】食品の調理や人間の栄養に関する専門的知識と、それらを応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている
【思考・判断】食品の調理や栄養に関わる諸課題を探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集し、論理的批判的に思考できる
【関心・意欲・態度】食品の調理や人間の栄養に関心を持ち、管理栄養士として貢献する意欲と態度を身につけている
【技術・表現】リサーチクエスチョンを主体的に発見し、研究結果を発表する能力を身につけている

オフィスアワー

木曜日昼休み（1B04研究室）

学生へのメッセージ

研究活動を主体的に実施することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において食品の研究開発に関する実務経験を有しており、商品を開発をする上で調理学的知識を活用して調理も実施していたので、この科目ではそれらの理論と実践を教授している。
アクティブ・ラーニング		先行研究や文献等を利用して、実習・記録・調査によって得られたデータを考察する。
情報リテラシー教育		パワーポイントを使用して、発表原稿を作成する。
ICT活用		

講義コード	H02082079
講義名	実践栄養プロデュース実習（江川）4年生
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	江川 賢一	指定なし

ナンバリング

H34002C43

授業概要(教育目的)

運動に関する専門的技能を習得し、人々の健康増進を運動から解決できることを教育目標として、スポーツ産業、民間企業、行政、学校、医療福祉施設、予防サービス、試験研究教育機関（大学院含む）等への業務に役立つ実践研究を実施します。

履修条件

2年次までの必修科目の単位取得。実験実習演習科目の積極的参加、臨地実習、総合演習での主体的、協調的な学習の確実な実施が必要です。学外実習の機会を活用することを期待します。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	健康のための栄養、競技のための栄養、リハビリのための栄養の違いを説明できる。運動と栄養の相互作用を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	研究テーマに沿って先行研究を議論し、研究仮説を立案できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間の生活に関する広範な研究テーマを探求できる。
技術・表現の観点 (A)	研究結果をプレゼンテーションし、根拠に基づくディスカッションができる。

学習計画

実践栄養プロデュース実習（4年）

	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研

第1回	**教育・ICT活用を含む)**	究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第2回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第3回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第4回	**授業テーマ**	研究の進め方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	選択した研究テーマに基づいて、研究をどのように進めていくかを検討し、研究スケジュールなどを作り上げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第5回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第6回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分

第7回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第8回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第9回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第10回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第11回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第12回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。

	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第13回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第14回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第15回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第16回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第17回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗ	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する

第18回	ｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第19回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第20回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第21回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第22回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第23回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間	45分

	（分）	
第24回	**授業テーマ**	卒業研究のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データのまとめ、解析を行うとともに、卒業発表のプレゼンテーション資料、卒業研究報告の要旨および卒業論文の指導と作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第25回	**授業テーマ**	卒業研究のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データのまとめ、解析を行うとともに、卒業発表のプレゼンテーション資料、卒業研究報告の要旨および卒業論文の指導と作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第26回	**授業テーマ**	卒業研究のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データのまとめ、解析を行うとともに、卒業発表のプレゼンテーション資料、卒業研究報告の要旨および卒業論文の指導と作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第27回	**授業テーマ**	卒業研究のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データのまとめ、解析を行うとともに、卒業発表のプレゼンテーション資料、卒業研究報告の要旨および卒業論文の指導と作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第28回	**授業テーマ**	実践栄養プロデュース報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究成果の発表（全研究室の発表報告の参加も含む）
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

※履修者数や講義の進度によりスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

研究室で個別に対応します。

評価方法

研究計画プレゼンテーション、中間プレゼンテーションおよび総合討論の内容により評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
プレゼンテーション	○			○
総合討論		○	○	

評価割合

プレゼンテーション60%、総合討論40%

使用教科書名(ISBN番号)

指定しない。

参考図書

指定しない。

参考URL

http://www.equator-network.org/

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】運動を中心とした人間の栄養に関する専門的知識と、それらを応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている
【思考・判断】運動と栄養に関わる諸課題を探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集し、論理的批判的に思考できる
【関心・意欲・態度】運動を中心とした人間の栄養に関心を持ち、管理栄養士として貢献する意欲と態度を身につけている
【技術・表現】リサーチクエスチョンを主体的に発見し、研究結果を発表する能力を身につけている

オフィスアワー

1202研究室：木曜日昼休み

学生へのメッセージ

研究活動を主体的に実施することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は民間企業の研究機関における研究に従事した経験を踏まえて、人間の健康・運動・栄養に関する研究方法を教授します。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02082080
講義名	実践栄養プロデュース実習（斉藤）4年生
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	斉藤 恵美子	指定なし

ナンバリング

H34002C43

授業概要(教育目的)

栄養・食に関わる諸問題につてテーマを設定し、研究計画を立てる。データを収集し分析を行い、結果をまとめ、発表会でプレゼンテーションを行う。これらのプロセスを通して健康・栄養課題を解決するために必要な研究手法を提示する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	研究テーマに関連した事項や手法を理解する。
思考・判断の観点 (K)	研究を遂行するために必要な論理的思考力を習得する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らの関心事項に対して、主体的に解決手法を調べることができる。
技術・表現の観点 (A)	研究結果を発表し、根拠に基づいたディスカッションをすることができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	先行研究の探索・研究テーマの設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究の文献・資料を収集・精読し、研究テーマを絞り込む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	**授業テーマ**	先行研究の探索・研究テーマの設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究の文献・資料を収集・精読し、研究テーマを絞り込む。

	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	先行研究の探索・研究テーマの設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究の文献・資料を収集・精読し、研究テーマを絞り込む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	先行研究の探索・研究テーマの設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究の文献・資料を収集・精読し、研究テーマを絞り込む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	先行研究の探索・研究テーマの設定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究の文献・資料を収集・精読し、研究テーマを絞り込む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	**授業テーマ**	研究計画の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	研究計画の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	研究計画の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	データ収集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査・実験等を実施し、データを収集する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	データ収集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査・実験等を実施し、データを収集する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	**授業テーマ**	データ収集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査・実験等を実施し、データを収集する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	60分

第12回	授業テーマ	データ収集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査・実験等を実施し、データを収集する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	データ収集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査・実験等を実施し、データを収集する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	結果の分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計解析など、データに応じた方法を用いて分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第15回	授業テーマ	結果の分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計解析など、データに応じた方法を用いて分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第16回	授業テーマ	結果の分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計解析など、データに応じた方法を用いて分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第17回	授業テーマ	結果の分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計解析など、データに応じた方法を用いて分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第18回	授業テーマ	結果の分析・考察
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	結果の分析結果をまとめ、考察を加えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第19回	授業テーマ	結果の分析・考察
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	結果の分析結果をまとめ、考察を加えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第20回	授業テーマ	結果の分析・考察
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	結果の分析結果をまとめ、考察を加えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	結果の分析・考察
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ	結果の分析結果をまとめ、考察を加えていく。

第21回	–教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第22回	授業テーマ	結果の分析・考察
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ –教育・ICT活用を含む)	結果の分析結果をまとめ、考察を加えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第23回	授業テーマ	研究発表会の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ –教育・ICT活用を含む)	発表会の抄録を作成する。プレゼンテーションの準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第24回	授業テーマ	研究発表会の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ –教育・ICT活用を含む)	発表会の抄録を作成する。プレゼンテーションの準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第25回	授業テーマ	研究発表会の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ –教育・ICT活用を含む)	発表会の抄録を作成する。プレゼンテーションの準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第26回	授業テーマ	研究発表会の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ –教育・ICT活用を含む)	発表会の抄録を作成する。プレゼンテーションの準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第27回	授業テーマ	研究発表会の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ –教育・ICT活用を含む)	発表会の抄録を作成する。プレゼンテーションの準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第28回	授業テーマ	発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ –教育・ICT活用を含む)	研究成果の発表を行う。全体発表会で他の研究室の発表を聴講し、議論に参加する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表内容のおさらい
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

研究テーマ、履修者の状況等により、上記の内容・進行が変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

研究室で個別に対応します。

評価方法

取り組み姿勢、教員らとのディスカッションの内容、発表内容の完成度等を総合的に評価する。ルーブリックは授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
研究への取り組み姿勢	○	○	○	
ディスカッション	○	○	○	
発表会				○

評価割合

取り組み姿勢・ディスカッション70%、発表会30%

使用教科書名(ISBN番号)

なし。（研究テーマにより必要に応じて指示する）

参考図書

（研究テーマにより必要に応じて指示する）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【思考・判断】学際的な学習を通して、現代の食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に施行し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
【技術・表現】体系的学習を通じて、多職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

木曜日昼休み（1503研究室）

学生へのメッセージ

研究活動を主体的に実施することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は医療の実地臨床において診療経験を有しており、臨床現場における現状も踏まえて教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02082081
講義名	実践栄養プロデュース実習（城田）4年生
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	城田 直子	指定なし

ナンバリング

H34002C43

授業概要(教育目的)

管理栄養士として必要な知識・技術・姿勢などをもとに、社会ニーズの把握、実践力向上を目標に、学内外の実験・実習を通して、研究レベルまで発展させる。研究班ごとに研究テーマを決定し、研究計画書の作成、研究の実施、成果報告まで主体的に行う。

履修条件

特に無し

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	先行研究を調べ、それらの内容を理解できる。自分の研究内容（目的・方法・結果・考察）を理解し、研究計画～成果について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	常に物事に対して問題意識を持ち、様々な観点から物事を見ることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	研究に対して意欲を持ち、積極的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	研究計画書（必要に応じて倫理審査書類）を作成できる。根拠に基づきディスカッションを行うことができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	研究テーマの決定と研究計画の決定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員と研究班でディスカッションを行い、研究テーマおよび研究計画を決定する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	3年次で調査した興味ある先行研究に加え、現時点で改めて新しい研究について調査しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	120分
第2回	**授業テーマ**	研究倫理についての理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究倫理について学ぶ。研究計画と照らし合わせ、倫理審査書類提出の有無を検討する。書類提出の必要がある場合は書類作成を進める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	担当教員の指導の下、書類を作成、完成させる。
	教室外学習の時間(分)	120分
第3回	**授業テーマ**	研究計画書の作成①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究調査および新しい研究についての調査結果、倫理審査書類提出の有無を踏まえ、研究計画書を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究班でディスカッションを行い作成を進め、適宜、進捗を担当教員へ報告する。担当教員の指導の下、完成させる。
	教室外学習の時間(分)	180分
第4回	**授業テーマ**	研究計画書の作成②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	先行研究調査および新しい研究についての調査結果を踏まえ、研究計画書を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究班でディスカッションを行い作成を進め、適宜、進捗を担当教員へ報告する。担当教員の指導の下、完成させる。
	教室外学習の時間(分)	180分
第5回	**授業テーマ**	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究日までに当日の研究作業内容について予習し、理解したうえで臨む。作業内容は速やかにまとめる。研究進捗は適宜、担当教員へ報告し、必要に応じて助言を得る。
	教室外学習の時間(分)	45分
第6回	**授業テーマ**	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究日までに当日の研究作業内容について予習し、理解したうえで臨む。作業内容は速やかにまとめる。研究進捗は適宜、担当教員へ報告し、必要に応じて助言を得る。
	教室外学習の時間(分)	45分
第7回	**授業テーマ**	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下、研究計画書に従って研究を実施する。
		研究日までに当日の研究作業内容について予習し、理解したう

	教室外学習(予習・復習)の内容	えで臨む。作業内容は速やかにまとめる。研究進捗は適宜、担当教員へ報告し、必要に応じて助言を得る。
	教室外学習の時間(分)	45分
第8回	**授業テーマ**	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究日までに当日の研究作業内容について予習し、理解したうえで臨む。作業内容は速やかにまとめる。研究進捗は適宜、担当教員へ報告し、必要に応じて助言を得る。
	教室外学習の時間(分)	45分
第9回	**授業テーマ**	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究日までに当日の研究作業内容について予習し、理解したうえで臨む。作業内容は速やかにまとめる。研究進捗は適宜、担当教員へ報告し、必要に応じて助言を得る。
	教室外学習の時間(分)	45分
第10回	**授業テーマ**	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究日までに当日の研究作業内容について予習し、理解したうえで臨む。作業内容は速やかにまとめる。研究進捗は適宜、担当教員へ報告し、必要に応じて助言を得る。
	教室外学習の時間(分)	45分
第11回	**授業テーマ**	中間報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究班ごとに研究の進捗状況を報告し、質疑応答を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ここまでの研究進捗をまとめておくこと。
	教室外学習の時間(分)	60分
第12回	**授業テーマ**	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究日までに当日の研究作業内容について予習し、理解したうえで臨む。作業内容は速やかにまとめる。研究進捗は適宜、担当教員へ報告し、必要に応じて助言を得る。
	教室外学習の時間(分)	45分
	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第13回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究日までに当日の研究作業内容について予習し、理解したうえで臨む。作業内容は速やかにまとめる。研究進捗は適宜、担当教員へ報告し、必要に応じて助言を得る。
	教室外学習の時間(分)	45分
第14回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究日までに当日の研究作業内容について予習し、理解したうえで臨む。作業内容は速やかにまとめる。研究進捗は適宜、担当教員へ報告し、必要に応じて助言を得る。
	教室外学習の時間(分)	45分
第15回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究日までに当日の研究作業内容について予習し、理解したうえで臨む。作業内容は速やかにまとめる。研究進捗は適宜、担当教員へ報告し、必要に応じて助言を得る。
	教室外学習の時間(分)	45分
第16回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究日までに当日の研究作業内容について予習し、理解したうえで臨む。作業内容は速やかにまとめる。研究進捗は適宜、担当教員へ報告し、必要に応じて助言を得る。
	教室外学習の時間(分)	45分
第17回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究日までに当日の研究作業内容について予習し、理解したうえで臨む。作業内容は速やかにまとめる。研究進捗は適宜、担当教員へ報告し、必要に応じて助言を得る。
	教室外学習の時間(分)	45分
第18回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究日までに当日の研究作業内容について予習し、理解したうえで臨む。作業内容は速やかにまとめる。研究進捗は適宜、担当教員へ報告し、必要に応じて助言を得る。
	教室外学習の時間	45分

	（分）	
第19回	**授業テーマ**	研究成果のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下、研究成果をまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗は適宜、担当教員へ報告し、必要に応じてディスカッションを行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第20回	**授業テーマ**	研究成果のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下、研究成果をまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗は適宜、担当教員へ報告し、必要に応じてディスカッションを行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第21回	**授業テーマ**	要旨集原稿の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下、要旨集の原稿を完成させる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究班内で協調しながら作業を進める。進捗については、担当教員へ適宜報告、必要に応じて助言を得ること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第22回	**授業テーマ**	発表に向けた準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下、ディスカッションを行いながらPowerPointおよび発表原稿を完成させる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究班内で協調しながら作業を進める。進捗については、担当教員へ適宜報告、必要に応じて助言を得ること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第23回	**授業テーマ**	発表に向けた準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下、ディスカッションを行いながらPowerPointおよび発表原稿を完成させる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究班内で協調しながら作業を進める。進捗については、担当教員へ適宜報告、必要に応じて助言を得ること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第24回	**授業テーマ**	発表に向けた準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下、ディスカッションを行いながらPowerPointおよび発表原稿を完成させる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究班内で協調しながら作業を進める。進捗については、担当教員へ適宜報告、必要に応じて助言を得ること。
	教室外学習の時間（分）	120分

第25回	授業テーマ	予演会①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゼミで発表練習を行い、ディスカッションにより研究の質の評価および発表内容の改善を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	PowerPoint、発表原稿は改善しながら完成させる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第26回	授業テーマ	予演会②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゼミで発表練習を行い、ディスカッションにより研究の質の評価および発表内容の改善を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	PowerPoint、発表原稿は改善しながら完成させる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第27回	授業テーマ	発表会①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究成果を発表し、質疑応答を行う。他の様々な研究について聴講、積極的にディスカッションに参加する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表後の質疑応答に備えた準備を行う。事前に要旨集に目を通し、興味のある研究について調べておくこと。
	教室外学習の時間(分)	60分
第28回	授業テーマ	発表会②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	他の様々な研究について聴講、積極的にディスカッションに参加する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に要旨集に目を通し、興味のある研究について調べておくこと。
	教室外学習の時間(分)	－

学習計画注記

※履修者数や講義の進度により、スケジュールは変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

研究室で個別に対応します。

評価方法

全体を通した研究への取り組みを総合的に評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
プレゼンテーション	○			○
総合討論		○	○	

評価割合

全体を通した取り組み100%

使用教科書名(ISBN番号)

指定は無し

参考図書

指定は無し

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】栄養に関する専門的知識、管理栄養士などの専門職業人としての自己理解と他社理解に繋がる幅広い教養を身に着けている。
【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題を探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身に着けている。
【関心・意欲・態度】栄養士・管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と共同するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身に着けている。
【技術・表現】体系的学習を通じて、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション能力などの表現力を身に着けている。

オフィスアワー

前期：月曜3時限 後期：木曜3時限

学生へのメッセージ

物事に対して、常に様々な視点から見たり考えたりと、興味を持ってしっかり取り組みましょう。研究の楽しさを少しでも感じてほしいと思っています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、病院管理栄養士として給食管理、栄養管理、栄養食事指導に従事した経験を踏まえ、食と栄養、健康に関する課題についての考え方や課題について授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション
情報リテラシー教育	○	研究計画書、倫理審査書類
ICT活用		

講義コード	H02082082
講義名	実践栄養プロデュース実習（田中千）4年生
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	田中 千晶	指定なし

ナンバリング

H34002C43

授業概要(教育目的)

子どもから高齢者を対象に、ヒトの健康課題（生活習慣病など）を解決するための研究手法の基礎を学修する。研究の背景を熟考したうえで、研究テーマを設定する。研究テーマに沿った測定・調査を実施し、得られた研究成果を研究室や学科での発表会において発表を行う。更に、質疑応答を通してプレゼンテーション力を高めていく。なお、研究テーマによっては、研究の一部を外部機関との協働で実施する場合がある。

履修条件

特に無し。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	人の健康に影響を及ぼす課題に対し、適切な文献を用いて、その解決法を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	論理的・批判的な思考を基に、研究を実施する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	様々な年齢層の国内外の健康課題に関心を持ち、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	測定・調査から得た結果について、他者へわかりやすく表現できるようになる。

学習計画

実践栄養プロデュース実習

	授業テーマ	オリエンテーションと研究内容の発表

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究実施に向けた、一年間の研究の進め方の確認
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に、研究実施に向けた、一年間の研究の進め方をまとめてくる。
	教室外学習の時間（分）	45
第2回	授業テーマ	研究の実施1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に沿って研究を遂行する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回の授業で、進捗状況を報告する準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	45
第3回	授業テーマ	研究の実施2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に沿って研究を遂行する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回の授業で、進捗状況を報告する準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	45
第4回	授業テーマ	研究の実施3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に沿って研究を遂行する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回の授業で、進捗状況を報告する準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	45
第5回	授業テーマ	研究の実施4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に沿って研究を遂行する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回の授業で、進捗状況を報告する準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	45
第6回	授業テーマ	研究の実施5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に沿って研究を遂行する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回の授業で、進捗状況を報告する準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	45
第7回	授業テーマ	研究の実施6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に沿って研究を遂行する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回の授業で、進捗状況を報告する準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	45
第8回	授業テーマ	研究の実施7
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に沿って研究を遂行する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回の授業で、進捗状況を報告する準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	45
第9回	授業テーマ	研究の実施8
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に沿って研究を遂行する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回の授業で、進捗状況を報告する準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	研究の実施9
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃ	研究計画に沿って研究を遂行する。

第10回	ﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回の授業で、進捗状況を報告する準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	45
第11回	授業テーマ	研究の実施10
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に沿って研究を遂行する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回の授業で、進捗状況を報告する準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	45
第12回	授業テーマ	研究の実施11
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に沿って研究を遂行する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回の授業で、進捗状況を報告する準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	45
第13回	授業テーマ	研究の実施12
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に沿って研究を遂行する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回の授業で、進捗状況を報告する準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	45
第14回	授業テーマ	研究室内での中間報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の進捗と今後の進め方の発表を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内に、研究の進捗と今後の進め方の発表準備をしてくる。
	教室外学習の時間（分）	45
第15回	授業テーマ	研究室内での中間報告会のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中間報告会での指摘に基づき、修正した今後の研究の進め方について発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内に、今後の進め方の発表準備をしてくる。
	教室外学習の時間（分）	45
第16回	授業テーマ	研究の実施14
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマに関連する先行研究のまとめ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に、研究テーマに関連する先行研究を集約してくる。
	教室外学習の時間（分）	45
第17回	授業テーマ	統計解析1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究結果の統計解析を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に、先行研究を参考に、どのような統計手法を用いるべきか意見をまとめてくる。
	教室外学習の時間（分）	45
第18回	授業テーマ	統計解析2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究結果の統計解析を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の授業を参考に、どのような統計手法を用いるべきか意見をまとめてくる。
	教室外学習の時間（分）	45
	授業テーマ	統計解析3

第19回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究結果の統計解析を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の授業を参考に、どのような統計手法を用いるべきか意見をまとめてくる。
	教室外学習の時間（分）	45
第20回	授業テーマ	研究結果の示し方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究結果の作図の検討。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に、先行研究を参考に、研究結果を作図する。
	教室外学習の時間（分）	45
第21回	授業テーマ	研究結果の考察1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究結果の考察を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に、先行研究を用いた研究結果の考察を準備する。
	教室外学習の時間（分）	45
第22回	授業テーマ	研究結果の考察2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究結果の考察を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に、先行研究を用いた研究結果の考察を準備する。
	教室外学習の時間（分）	45
第23回	授業テーマ	実践栄養プロデュース実習発表会の準備1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実践栄養プロデュース実習発表会での発表内容のスライド作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前にスライドを用いた発表の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	45
第24回	授業テーマ	実践栄養プロデュース実習発表会の準備1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実践栄養プロデュース実習発表会での発表内容のスライド作成と発表原稿を準備する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前にスライドを用いた発表原稿の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	45
第25回	授業テーマ	実践栄養プロデュース実習発表会の準備2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実践栄養プロデュース実習発表会での発表内容の口頭発表練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、本授業で学んだ修正点を改善した、発表内容を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45
第26回	授業テーマ	実践栄養プロデュース実習発表会の最終準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実践栄養プロデュース実習発表会の最終準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、修正点を改善し、実践栄養プロデュース実習発表会の発表内容の最終準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	45
第27回	授業テーマ	実践栄養プロデュース実習発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実践栄養プロデュース実習発表会にて、口頭発表を行う。もしくは、質疑応答を行う。

	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に、実践栄養プロデュース実習発表会の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	45
第28回	**授業テーマ**	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実践栄養プロデュース実習発表会での発表を含む総評。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に、実践栄養プロデュース実習発表会で学修したことをまとめてくること。
	教室外学習の時間（分）	45

学習計画注記

学修の進度により、学習内容を調整します。

学生へのフィードバック方法

定期的にディスカッションし、研究テーマを探していきます。

評価方法

平常点（研究計画に対する主体的取り組み: 50%）、研究の要旨作成（10%）、研究室内および研究発表会でのプレゼンテーションと質疑応答（40%）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
研究の要旨作成	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合

平常点（研究計画に対する主体的取り組み: 50%）、研究の要旨作成（10%）、研究室内および研究発表会でのプレゼンテーションと質疑応答（40%）から総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特に無し。

参考図書

特に無し。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
人々の健康の維持・増進と社会および環境を関連付けながら「人間の健康・栄養」を理解するための専門的知識を身につける。
【思考・判断】
幅広い年齢層の健康に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。
【関心・意欲・態度】
主体的に学ぶ意欲と態度を身につけている。
【技術・表現】
プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

水曜日と木曜日昼休みに実施しますので、研究室へお越しください。

学生へのメッセージ

実践健康プロデュース実習は、各自の関心事に基づいた、皆さんが主体となって学修できる科目です。研究の背景を熟考した上での、研究目的の設定を行います。将来、どのような進路に進まれても役立つ科目ですので、意欲を持って取り組んで下さい。研究テーマによっては、外部の研究者や学生の皆さんと接する場を提供したいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		国際機関Active Healthy Kids Global Allianceの日本の代表者として、子どもとその周囲の大人の健康増進に資する生活習慣、環境、政策の改善に取り組んでいる経験を生かす。
アクティブ・ラーニング		先行研究等を利用して、測定・調査によって得られたデータを考察する。
情報リテラシー教育		インターネットを用いた健康関連情報の検索
ICT活用	○	

講義コード	H02082083
講義名	実践栄養プロデュース実習（腰本）4年生
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

H34002C43

授業概要(教育目的)

運動に関する専門的技能を習得し、人々の健康増進を運動から解決できることを教育目標として、スポーツ産業、民間企業、行政、学校、医療福祉施設、予防サービス、試験研究教育機関（大学院含む）等への業務に役立つ実践研究を実施します。

履修条件

2年次までの必修科目の単位取得。実験実習演習科目の積極的参加、臨地実習、総合演習での主体的、協調的な学習の確実な実施が必要です。学外実習の機会を活用することを期待します。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	健康のための栄養、競技のための栄養、リハビリのための栄養の違いを説明できる。運動と栄養の相互作用を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	研究テーマに沿って先行研究を議論し、研究仮説を立案できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間の生活に関する広範な研究テーマを探求できる。
技術・表現の観点 (A)	研究結果をプレゼンテーションし、根拠に基づくディスカッションができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業概要、スケジュール、研究の進め方を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アカデミックスキル科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	成育栄養学研究室 (原)、応用栄養学研究室 (斉藤)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(臨床栄養系)の復習

	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臨床栄養管理学研究室(城田)、臨床栄養学研究室(金澤)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(臨床栄養系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養政策学研究室 (田中弘之)、地域栄養教育学研究室(酒井)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(食育・地域栄養ケア系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育研究室 (辻)、応用食品学研究室 (林)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(食育・地域栄養ケア系、フードサービス系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養学研究室 (海野)、調理学研究室 (大富)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(フードサービス系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食経営管理研究室 (吉野)、食と世界を考える研究室(橋本)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(フードサービス系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動生態学研究室 (江川)、実践応用栄養学研究室(加藤)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(スポーツ栄養系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	(仮)ヘルスプロモーション研究室 (田中千晶)のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目(スポーツ栄養系)の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	研究室訪問

第11回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	希望調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問の結果より、研究室希望調査の実施を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第15回	授業テーマ	研究室配属
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問の結果のまとめと振り返り、今後の目標についてグループワークを実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第16回	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習の概要と進め方を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究計画書のプレゼンテーション資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第17回	授業テーマ	研究計画プレゼンテーション１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動生態学研究の概要を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運動、栄養、健康に関する文献研究を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第18回	授業テーマ	研究計画プレゼンテーション２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動生態学研究の方法を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運動、栄養、健康に関する文献研究を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第19回	授業テーマ	レビューワーク１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報検索の方法を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	オンラインジャーナル、書架および学会等の情報源からレビューワークを実施する。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	レビューワーク２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗ	リストの作成方法を説明する。

第20回	ｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	収集した文献から必要な情報を抽出し、文献リストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第21回	授業テーマ	研究テーマ別レビューワーク１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマ別に文献リストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第22回	授業テーマ	研究テーマ別レビューワーク２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマ別に文献リストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第23回	授業テーマ	研究デザイン１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマの立て方を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運動、栄養、健康に関するリサーチクエスチョンを立てるための文献研究を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第24回	授業テーマ	研究デザイン２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマの精査を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンのプレゼンテーション資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第25回	授業テーマ	研究計画プレゼンテーション３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマの発表およびディスカッションを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表のフィードバックを受け、修正、追加、変更するためのレビューワークを実施する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第26回	授業テーマ	研究倫理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人権擁護、情報保護などの倫理を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テーマに沿って臨床試験登録を検索する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第27回	授業テーマ	研究の実施１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第28回	授業テーマ	研究の実施２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。

	教室外学習の時間（分）	45分
第29回	**授業テーマ**	研究の実施３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第30回	**授業テーマ**	中間プレゼンテーション１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実施した研究概要を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講者相互に文献研究を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第31回	**授業テーマ**	研究テーマ別レビューワーク３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマ別に文献リストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第32回	**授業テーマ**	研究テーマ別レビューワーク４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマ別に文献リストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第33回	**授業テーマ**	研究テーマ別レビューワーク５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマ別に文献リストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第34回	**授業テーマ**	研究テーマ別レビューワーク６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマ別に文献リストを作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第35回	**授業テーマ**	研究計画プレゼンテーション４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマの発表およびディスカッションを説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表のフィードバックを受け、修正、追加、変更するためのレビューワークを実施する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第36回	**授業テーマ**	研究の実施４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第37回	**授業テーマ**	研究の実施５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第38回	**授業テーマ**	研究の実施６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第39回	**授業テーマ**	研究の実施７
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第40回	**授業テーマ**	研究の実施８
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第41回	**授業テーマ**	研究の実施９
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第42回	**授業テーマ**	研究の実施１０
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第43回	**授業テーマ**	研究の実施１１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第44回	**授業テーマ**	研究の実施１２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第45回	**授業テーマ**	中間プレゼンテーション２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実施した研究概要を発表する。
	(　　)	受講者相互に文献研究を行う。

	教室外学習 予習・復習 の内容	
	教室外学習の時間（分）	45分
第46回	授業テーマ	研究の実施１３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第47回	授業テーマ	研究の実施１４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第48回	授業テーマ	研究の実施１５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第49回	授業テーマ	研究の実施１６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第50回	授業テーマ	研究の実施１７
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第51回	授業テーマ	研究の実施１８
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第52回	授業テーマ	研究の実施１９
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第53回	授業テーマ	研究の実施２０
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助

		言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第54回	授業テーマ	研究の評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションを準備し、研究の質を評価する方法を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	口演原稿を準備し、パワーポイントで映写資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第55回	授業テーマ	総合討論１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第56回	授業テーマ	総合討論２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第57回	授業テーマ	総合討論３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第58回	授業テーマ	総合討論４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第59回	授業テーマ	総合討論５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第60回	授業テーマ	総合評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	相互にプレゼンテーションを評価し、研究成果を総括する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究成果を批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

※履修者数や講義の進度によりスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

研究室で個別に対応します。

評価方法

研究計画プレゼンテーション、中間プレゼンテーションおよび総合討論の内容により評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
プレゼンテーション	○			○
総合討論		○	○	

評価割合

プレゼンテーション60%、総合討論40%

使用教科書名(ISBN番号)

指定しない。

参考図書

指定しない。

参考URL

http://www.equator-network.org/

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】運動を中心とした人間の栄養に関する専門的知識と、それらを応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている
【思考・判断】運動と栄養に関わる諸課題を探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集し、論理的批判的に思考できる
【関心・意欲・態度】運動を中心とした人間の栄養に関心を持ち、管理栄養士として貢献する意欲と態度を身につけている
【技術・表現】リサーチクエスチョンを主体的に発見し、研究結果を発表する能力を身につけている

オフィスアワー

木曜日昼休み（G0101研究室）

学生へのメッセージ

研究活動を主体的に実施することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は民間企業の研究機関における研究に従事した経験を踏まえて、人間の健康・運動・栄養に関する研究方法を教授します。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02082084
講義名	実践栄養プロデュース実習（坂野）4年生
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	坂野 史明	指定なし

ナンバリング

H34002C43

授業概要(教育目的)

所属する研究室において、担当教員の指導のもとにテーマを決め研究を遂行し、研究計画、研究方法、実験、ディスカッションなど研究の進め方を修得する。研究室で各自の研究を進めることで、社会で求められているニーズを把握し、解決する力を身につける。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	栄養に関連した研究手法や統計に関する基本的知識を習得し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	自然現象を科学的な手法で解析し、論理的な思考・判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	管理栄養士として研究マインドを持ち、持続可能な社会のために自ら貢献できる。
技術・表現の観点 (A)	得られた研究成果を取りまとめて、わかりやすく表現、発信できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業概要、スケジュール、研究の進め方について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アカデミックスキル科目の復習
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	研究室紹介

第2回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	成育栄養学研究室 (山田)、応用栄養学研究室 (斉藤)のテーマを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臨床栄養管理学研究室(城田)、臨床栄養学研究室 (金澤)のテーマを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養政策学研究室 (田中弘之)、地域栄養教育学研究室（酒井）のテーマを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育研究室 (辻)、応用食品学研究室 (林)のテーマを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養学研究室 (海野)、調理学研究室 (大富）のテーマを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食経営管理研究室 (吉野)、食と世界を考える研究室（橋本）のテーマを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動生態学研究室 (江川)、実践応用栄養学研究室（加藤）のテーマを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	

第9回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヘルスプロモーション研究室 (田中千晶）ほかのテーマを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室に訪問して指導教員の話を聞くことで、研究内容について学びを深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室に訪問して指導教員の話を聞くことで、研究内容について学びを深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室に訪問して指導教員の話を聞くことで、研究内容について学びを深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室に訪問して指導教員の話を聞くことで、研究内容について学びを深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	授業テーマ	希望調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問の結果から、自らの希望について振り返りを行い、研究室希望調査を提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第15回	授業テーマ	研究室配属
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問の結果と今後の目標についてグループワークを行い、研究についての目標を定める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	研究テーマの説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	研究テーマの候補課題について検討し、研究の流れを理

第16回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究課題に関する情報を収集する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第17回	授業テーマ	研究テーマの説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究テーマの候補課題について検討し、研究の流れを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究課題に関する情報を収集する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第18回	授業テーマ	研究課題の決定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究課題を選択する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究課題に関する情報を収集する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第19回	授業テーマ	研究課題の決定
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究課題を選択する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究課題に関する情報を収集する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第20回	授業テーマ	研究計画の構築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	選択した研究課題について、研究をどのように進めていくか検討し、研究スケジュールなどを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究計画と実施スケジュールを考える。
	教室外学習の時間（分）	60分
第21回	授業テーマ	研究計画の構築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	選択した研究課題について、研究をどのように進めていくか検討し、研究スケジュールなどを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究計画と実施スケジュールを考える。
	教室外学習の時間（分）	60分
第22回	授業テーマ	研究計画の構築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	選択した研究課題について、研究をどのように進めていくか検討し、研究スケジュールなどを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究計画と実施スケジュールを考える。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	卒業研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	研究計画に基づいて研究を進める。並行して研究課題に

第23回	む)	関連する研究論文・専門書等を調査、熟読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告し、研究の進め方やデータの解釈について検討する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第24回	授業テーマ	卒業研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づいて研究を進める。並行して研究課題に関連する研究論文・専門書等を調査、熟読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告し、研究の進め方やデータの解釈について検討する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第25回	授業テーマ	卒業研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づいて研究を進める。並行して研究課題に関連する研究論文・専門書等を調査、熟読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告し、研究の進め方やデータの解釈について検討する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第26回	授業テーマ	卒業研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づいて研究を進める。並行して研究課題に関連する研究論文・専門書等を調査、熟読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告し、研究の進め方やデータの解釈について検討する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第27回	授業テーマ	卒業研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づいて研究を進める。並行して研究課題に関連する研究論文・専門書等を調査、熟読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告し、研究の進め方やデータの解釈について検討する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第28回	授業テーマ	卒業研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づいて研究を進める。並行して研究課題に関連する研究論文・専門書等を調査、熟読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告し、研究の進め方やデータの解釈について検討する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第29回	授業テーマ	卒業研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づいて研究を進める。並行して研究課題に関連する研究論文・専門書等を調査、熟読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告し、研究の進め方やデータの解釈について検討する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	卒業研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	研究計画に基づいて研究を進める。並行して研究課題に関連する研究論文・専門書等を調査、熟読する。

第30回	む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告し、研究の進め方やデータの解釈について検討する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第31回	授業テーマ	卒業研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づいて研究を進める。並行して研究課題に関連する研究論文・専門書等を調査、熟読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告し、研究の進め方やデータの解釈について検討する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第32回	授業テーマ	卒業研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づいて研究を進める。並行して研究課題に関連する研究論文・専門書等を調査、熟読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告し、研究の進め方やデータの解釈について検討する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第33回	授業テーマ	卒業研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づいて研究を進める。並行して研究課題に関連する研究論文・専門書等を調査、熟読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告し、研究の進め方やデータの解釈について検討する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第34回	授業テーマ	卒業研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づいて研究を進める。並行して研究課題に関連する研究論文・専門書等を調査、熟読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告し、研究の進め方やデータの解釈について検討する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第35回	授業テーマ	卒業研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づいて研究を進める。並行して研究課題に関連する研究論文・専門書等を調査、熟読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告し、研究の進め方やデータの解釈について検討する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第36回	授業テーマ	卒業研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づいて研究を進める。並行して研究課題に関連する研究論文・専門書等を調査、熟読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告し、研究の進め方やデータの解釈について検討する。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	卒業研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づいて研究を進める。並行して研究課題に関連する研究論文・専門書等を調査、熟読する。

第37回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告し、研究の進め方やデータの解釈について検討する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第38回	授業テーマ	卒業研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づいて研究を進める。並行して研究課題に関連する研究論文・専門書等を調査、熟読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告し、研究の進め方やデータの解釈について検討する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第39回	授業テーマ	卒業研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づいて研究を進める。並行して研究課題に関連する研究論文・専門書等を調査、熟読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告し、研究の進め方やデータの解釈について検討する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第40回	授業テーマ	卒業研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づいて研究を進める。並行して研究課題に関連する研究論文・専門書等を調査、熟読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告し、研究の進め方やデータの解釈について検討する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第41回	授業テーマ	卒業研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づいて研究を進める。並行して研究課題に関連する研究論文・専門書等を調査、熟読する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告し、研究の進め方やデータの解釈について検討する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第42回	授業テーマ	研究結果の解析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	得られた研究データを解析し、研究結果をまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告し、結果と考察について検討する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第43回	授業テーマ	研究結果の解析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	得られた研究データを解析し、研究結果をまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告し、結果と考察について検討する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第44回	授業テーマ	研究結果の解析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	得られた研究データを解析し、研究結果をまとめる。

	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告し、結果と考察について検討する。
	教室外学習の時間（分）	60分
第45回	**授業テーマ**	研究報告会の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の背景、目的、方法、結果、考察、結論を取りまとめて、プレゼンテーション資料とその要旨を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告して指導を受ける。研究発表の練習を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第46回	**授業テーマ**	研究報告会の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の背景、目的、方法、結果、考察、結論を取りまとめて、プレゼンテーション資料とその要旨を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告して指導を受ける。研究発表の練習を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第47回	**授業テーマ**	研究報告会の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の背景、目的、方法、結果、考察、結論を取りまとめて、プレゼンテーション資料とその要旨を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告して指導を受ける。研究発表の練習を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第48回	**授業テーマ**	研究報告会の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の背景、目的、方法、結果、考察、結論を取りまとめて、プレゼンテーション資料とその要旨を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告して指導を受ける。研究発表の練習を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第49回	**授業テーマ**	研究報告会での発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究成果を発表する。他研究室の研究発表を聴講して議論する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に質疑内容や他研究室の発表内容を報告して指導を受ける。
	教室外学習の時間（分）	60分
第50回	**授業テーマ**	研究報告会での発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究成果を発表する。他研究室の研究発表を聴講して議論する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に質疑内容や他研究室の発表内容を報告して指導を受ける。
	教室外学習の時間（分）	60分
第51回	**授業テーマ**	研究報告会での発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究成果を発表する。他研究室の研究発表を聴講して議論する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に質疑内容や他研究室の発表内容を報告して指導を受ける。
	教室外学習の時間（分）	60分
第52回	**授業テーマ**	研究報告会での発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究成果を発表する。他研究室の研究発表を聴講して議論する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に質疑内容や他研究室の発表内容を報告して指導を受ける。
	教室外学習の時間（分）	60分
第53回	**授業テーマ**	卒業論文作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究報告会での質疑応答内容も踏まえて検討し、卒業論文を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告して指導を受ける。
	教室外学習の時間（分）	60分
第54回	**授業テーマ**	卒業論文作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究報告会での質疑応答内容も踏まえて検討し、卒業論文を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告して指導を受ける。
	教室外学習の時間（分）	60分
第55回	**授業テーマ**	卒業論文作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究報告会での質疑応答内容も踏まえて検討し、卒業論文を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告して指導を受ける。
	教室外学習の時間（分）	60分
第56回	**授業テーマ**	卒業論文作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究報告会での質疑応答内容も踏まえて検討し、卒業論文を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導教官に進捗状況を報告して指導を受ける。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

履修者数や実習の進行状況により、学習計画が一部変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

研究の進捗状況や結果に応じ、研究室内でフィードバックを行う。

評価方法

研究への取り組み方や、研究報告会での発表および卒業論文の内容等から総合的に評価する。
評価はルーブリックに基づいて行い、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内での配付等により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
研究への取り組み方	○	○	○	
研究報告会	○	○	○	○
卒業論文	○	○	○	○

評価割合

研究への取り組み方（50%）、研究報告会（25%）、卒業論文（25%）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物の相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を身につけている。
【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的・批判的に思考することができる。
【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけている。
【技能・表現】他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

木曜日3時限目

学生へのメッセージ

研究は一人で行うことはできません。研究室の仲間とよく協力して、卒業論文をまとめましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国立研究機関での実務経験があり、主として循環器系疾患の予防・治療を目指した研究について教授する。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを行う。
情報リテラシー教育	○	論文検索システムを利用する。
ICT活用	○	統計解析ソフトを利用する。

講義コード	H02082085
講義名	実践栄養プロデュース実習（山田）4年生
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	山田 光彦	指定なし

ナンバリング

H34002C43

授業概要(教育目的)

管理栄養士として必要な知識・技術・姿勢などをもとに、社会ニーズの把握、実践力向上を目標に、学内外の実験・実習を通して、研究レベルまで発展させる。研究班ごとに研究テーマを決定し、研究計画書の作成、研究の実施、成果報告まで主体的に行う。

履修条件

3年次までの必修科目の単位取得。実験実習演習科目の積極的参加、臨地実習、総合演習での主体的、協調的な学習の確実な実施が必要である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	先行研究を調べ、それらの内容を理解できる。自分の研究内容（目的・方法・結果・考察）を理解し、研究計画～成果について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	常に物事に対して問題意識を持ち、様々な観点から物事を見ることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	研究に対して意欲を持ち、積極的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	研究計画書（必要に応じて倫理審査書類）を作成できる。根拠に基づきディスカッションを行うことができる。

学習計画

実践栄養プロデュース実習（4年）

	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研

第1回	**教育・ICT活用を含む)**	究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第2回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第3回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第4回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第5回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第6回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分

第7回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第8回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第9回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第10回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第11回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第12回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。

	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第13回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第14回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第15回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第16回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第17回	**授業テーマ**	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗ	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する

第18回	ｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第19回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第20回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第21回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第22回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間(分)	45分
第23回	授業テーマ	卒業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間	45分

	（分）	
第24回	**授業テーマ**	卒業研究のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データのまとめ、解析を行うとともに、卒業発表のプレゼンテーション資料、卒業研究報告の要旨および卒業論文の指導と作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第25回	**授業テーマ**	卒業研究のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データのまとめ、解析を行うとともに、卒業発表のプレゼンテーション資料、卒業研究報告の要旨および卒業論文の指導と作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第26回	**授業テーマ**	卒業研究のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データのまとめ、解析を行うとともに、卒業発表のプレゼンテーション資料、卒業研究報告の要旨および卒業論文の指導と作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第27回	**授業テーマ**	卒業研究のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データのまとめ、解析を行うとともに、卒業発表のプレゼンテーション資料、卒業研究報告の要旨および卒業論文の指導と作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第28回	**授業テーマ**	実践栄養プロデュース報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究成果の発表（全研究室の発表報告の参加も含む）
	教室外学習(予習・復習)の内容	適宜必要に応じて行う。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

※履修者数や講義の進度によりスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

研究室で個別に対応します。

評価方法

研究計画プレゼンテーション、中間プレゼンテーションおよび総合討論の内容により評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
プレゼンテーション	○			○
総合討論		○	○	

評価割合

実習態度を勘案しつつ、概ね、発表要旨・発表用資料の作成60%、プレゼンテーションと総合討論40%の割合で評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

指定しない。

参考図書

指定しない。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】栄養に関する専門的知識、管理栄養士などの専門職業人としての自己理解と他者理解に繋がる幅広い教養を身に着けている。
【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題を探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身に着けている。
【関心・意欲・態度】栄養士・管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と共同するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身に着けている。
【技術・表現】体系的学習を通じて、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション能力などの表現力を身に着けている。

オフィスアワー

水曜日2限（1505研究室）

学生へのメッセージ

研究活動を主体的に実施することを期待します。物事に対して、常に様々な視点から見たり考えたりと、興味を持ってしっかり取り組みましょう。研究の楽しさを少しでも感じてほしいと思っています

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		担当教員は、医師として診療や研究に従事した経験を踏まえて、人間の健康と栄養についての考え方や課題、研究方法について授業を行う。
アクティブ・ラーニング		グループワーク、研究会、研究会参加
情報リテラシー教育		文献検索、研究会、学会参加
ICT活用		ChatGPTの利用

講義コード	H02082086
講義名	実践栄養プロデュース実習（會退）4年生
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	會退 友美	指定なし

ナンバリング

H34002C43

授業概要(教育目的)

管理栄養士として求められる知識・技術・態度の習得を目指し、人の生活の営みを食環境、教育の分野で整理し、分析する力を養う。そのため、人の行動、認知、環境を一体的、また総合的に捉えられる調査方法を協働的に考え、構築することを目指す。研究班ごとに研究テーマを決定し、研究計画の立案、研究の遂行、成果報告まで主体的に行う。

履修条件

チーム活動であるため、主体的、協調的な学習の姿勢が求められます。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	研究テーマをもとに人の行動、認知、環境を適切に調査する方法を理解している。
思考・判断の観点 (K)	人の食生活を総合的に考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人の食行動、認知、環境に興味をもち、管理栄養士として人々のヘルスプロモーションに寄与したいと思う。
技術・表現の観点 (A)	社会の状況から研究の背景をまとめ、目的を設定することができる。チームで討論をして調査方法を探索し、結果を分析し、社会に伝えるためにまとめることができる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗ	授業概要、スケジュール、研究の進め方を説明す

第1回	ｼｰ教育・ICT活用を含む)	る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アカデミックスキル科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	授業テーマ	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人間栄養学科の研究室のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	授業テーマ	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人間栄養学科の研究室のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	授業テーマ	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人間栄養学科の研究室のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	授業テーマ	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人間栄養学科の研究室のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人間栄養学科の研究室のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人間栄養学科の研究室のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	授業テーマ	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人間栄養学科の研究室のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	授業テーマ	研究室紹介
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人間栄養学科の研究室のテーマを紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	授業テーマ	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習

	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	研究室訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	**授業テーマ**	希望調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問の結果より、研究室希望調査の実施を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第15回	**授業テーマ**	研究室配属
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究室訪問の結果のまとめと振り返り、今後の目標についてグループワークを実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	専門導入科目、専門基礎科目の復習
	教室外学習の時間（分）	45分
第16回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習の概要と進め方を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマに関する資料を収集する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第17回	**授業テーマ**	研究計画の立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の背景、目的、方法を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマに関わる資料を収集する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第18回	**授業テーマ**	研究計画の立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の背景、目的、方法を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマに関わる資料を収集する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第19回	**授業テーマ**	研究計画の立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の背景、目的、方法を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマに関わる資料を収集する。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	研究計画の立案

第20回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の背景、目的、方法を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマに関わる資料を収集する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第21回	授業テーマ	研究計画の立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の背景、目的、方法を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマに関わる資料を収集する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第22回	授業テーマ	研究計画の立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の背景、目的、方法を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマに関わる資料を収集する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第23回	授業テーマ	研究計画の立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の背景、目的、方法を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマに関わる資料を収集する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第24回	授業テーマ	研究計画の立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の背景、目的、方法を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマに関わる資料を収集する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第25回	授業テーマ	研究計画の立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の背景、目的、方法を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマに関わる資料を収集する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第26回	授業テーマ	研究計画の立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の背景、目的、方法を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマに関わる資料を収集する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第27回	授業テーマ	研究計画の立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究の背景、目的、方法を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究テーマに関わる資料を収集する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第28回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗ	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を

第29回	ｼｰ教育・ICT活用を含む)	実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第30回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第31回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第32回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第33回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第34回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第35回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第36回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗ	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を

第37回	ｼｰ教育・ICT活用を含む)	実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第38回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第39回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第40回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第41回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第42回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第43回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第44回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	中間プレゼンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗ	実施した研究概要を発表する。

第45回	ｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講者相互に文献研究を行う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第46回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第47回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第48回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第49回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第50回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第51回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第52回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第53回	授業テーマ	研究の実施
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。
	教室外学習の時間（分）	45分
第54回	**授業テーマ**	研究の評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションを準備し、研究の質を評価する方法を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	口演原稿を準備し、パワーポイントで映写資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第55回	**授業テーマ**	総合討論１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第56回	**授業テーマ**	総合討論２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第57回	**授業テーマ**	総合討論３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第58回	**授業テーマ**	総合討論４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第59回	**授業テーマ**	総合討論５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第60回	**授業テーマ**	総合評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	相互にプレゼンテーションを評価し、研究成果を総括する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究成果を批判的に吟味する。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

履修者のテーマや人数等により、スケジュールが変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

研究室で個別に対応します。

評価方法

全体を通した研究への取り組みを総合的に評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
プレゼンテーション	○	○	○	○
総合討論	○	○	○	○

評価割合

全体を通した取り組み100%

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人の食生活に関わる専門的知識を有している。
【思考・判断】社会における食の課題を捉え、課題を分析するために情報を収集する力を身につけている。
【関心・意欲・態度】人の食生活に関心を持ち、管理栄養士として貢献する意欲と態度を身につけている。
【技術・表現】研究の目的を設定し、適切な方法で研究を実施し、得られた結果を発表する能力を身につけている。

オフィスアワー

木曜日昼休み（1607研究室）

学生へのメッセージ

人の生活に関わるものを広くとらえ、チームで協働的に活動をすることで、より一層の理解やスキルが得られます。チームの一員として輝いていってほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、保育所における栄養士としての勤務経験があり、公衆栄養臨地実習の担当を通して地域における健康づくりへの理解を得ている。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、プレゼンテーション
情報リテラシー教育	○	文献検索
ICT活用		

講義コード	H02083031
講義名	栄養・医学英語
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	橋本 文子	指定なし
教授	斉藤 恵美子	指定なし

ナンバリング

H34003C12

授業概要(教育目的)

国際化が進む中、管理栄養士として仕事をしていく上で、栄養について英語で説明したり、また栄養指導を英語で行うことが今後ますます求められる。栄養・医学英語では、①栄養指導を行う場合や医療現場でよく使われる英語の用語や表現や、②外国人対応をする際に押さえておくべき要点について講義・演習を行う。

尚、この科目は半期14週の授業の内、①を中心に前半の10週を橋本が、①②について後半の4回を斉藤が担当し、各担当の最終週にそれぞれ試験を行う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	食や健康に関する英語の文献を読んで情報を得ることで、食や健康に関して理解を深めることができる。 臨床現場・実社会で管理栄養士として専門対応するうえで、栄養・医学分野の基本的な英語を理解する。
思考・判断の観点 (K)	食や健康に関して考える力を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食や健康に関して関心を持つ。
技術・表現の観	健康や食に関する英語の表現を知ることができる。 臨床現場・実社会において、多様な文化的・言語的背景をもったクライアン

点 (A)	トに対応するための基礎的な手法を身につける。

学習計画

第1回	授業テーマ	Introduction
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の進め方について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Chapter 1 Vocabularyを確認し、Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	Chapter 1: Why do people love sweets? Vocabulary、 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Vocabularyを確認する。Readingについては、まず音読の練習をし、次に日本語訳とその内容について話し合いながら考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Readingの続き、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	Chapter 1 Readingの続き、Exercises
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingの続きを読み、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Chapter 2 Vocabularyを確認し、Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	Chapter 2: Do you have a ｀dessert stomach"? Vocabulary、 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Vocabularyを確認する。Readingについては、まず音読の練習をし、次に日本語訳とその内容について話し合いながら考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Readingの続き、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第5回	授業テーマ	Chapter 2 Readingの続き、Exercises
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingの続きを読み、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Chapter 3 Vocabularyを確認し、Readingを訳してくること。

	教室外学習の時間（分）	60分
第6回	**授業テーマ**	Chapter 3: Why is Japanese cuisine so popular? Vocabulary、 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Vocabularyを確認する。Readingについては、まず音読の練習をし、次に日本語訳とその内容について話し合いながら考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Readingの続き、Reading Comprehension、Listening Comprehension、 Words & Idioms、 Sentence Completionの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	**授業テーマ**	Chapter 3 Readingの続き、Exercises
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingの続きを読み、Reading Comprehension、Listening Comprehension、 Words & Idioms、 Sentence Completionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Quiz 1に答え、Chapter 4 Vocabularyを確認し、Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	**授業テーマ**	Chapter 4: Did you enjoy your school meals? Vocabulary、 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Dialogue 1に答え、Quiz 1の答え合わせを行う。Chapter 4のVocabularyを確認する。Readingについては、まず音読の練習をし、次に日本語訳とその内容について話し合いながら考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Readingの続き、Reading Comprehension、Listening Comprehension、 Words & Idioms、 Sentence Completionの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	**授業テーマ**	Chapter 4 Readingの続き、Exercises
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingの続きを読み、Reading Comprehension、Listening Comprehension、 Words & Idioms、 Sentence Completionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの学習内容の総復習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	**授業テーマ**	これまでの学習の総復習と確認を行う。その後、10週分の学習内容についての試験を行う。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでのまとめと試験
	教室外学習(予習・復習)の内容	試験の内容についての確認
	教室外学習の時間（分）	60分

第11回	授業テーマ	臨床現場の英語 その１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	病院等での医療用語や表現について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：配布資料に目を通しておく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間(分)	60分
第12回	授業テーマ	臨床現場の英語 その２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	病院等での医療用語および栄養指導や検査結果説明等に用いる表現を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：配布資料に目を通しておく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間(分)	60分
第13回	授業テーマ	実臨床での外国人対応 その１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外国人対応の現状、基本的な対応について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：配布資料に目を通しておく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間(分)	60分
第14回	授業テーマ	実臨床での外国人対応 その２，後半のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外国人対応に必要な、多様な文化的背景について学ぶ。 学習到達度の確認テスト。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習：科目後半で学習した内容を復習しておく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。
	教室外学習の時間(分)	60分

学習計画注記

＊履修者数や授業の進み具合によってスケジュールは変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

・（橋本）授業の始めに前の週の授業内容の確認と復習を行います。
（斉藤）授業内で提示した課題に取り組み、解説を加えます。

評価方法

前半10週については
・各自その日の授業についてあらかじめ予習してきた内容を確認しながら授業を進めます。
・定期試験はVocabulary, Reading, Reading Comprehension, Listening Comprehension, Words & Idioms, Sentence Completionから出題します。

後半4回（斉藤担当分）については
後半4回目（科目全体で見た場合の14週目）に行う筆記試験（後半4回分に関する内容）80%，授業中のディスカッションへの取り組み 20%

で評価します。

・ルーブリックに基づく成績評価を行います。
・ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配布等により指示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業内容の予習	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	○
授業中の態度（後半4回分）	○	○	○	○
筆記試験（後半4回分）	○			

評価割合

（前半10週）定期試験70%、授業への積極的な参加30%で総合的に評価します。
（後半4回：斉藤）授業中のディスカッションへの取り組み・プレゼンテーション（20%），筆記試験（80%）

使用教科書名(ISBN番号)

（前半10週）Living Well, Eating Well / Josh Norman 他/ Asahi Press
（後半4回：斉藤）指定なし（授業中に資料配布）

参考図書

（後半4回：斉藤）授業内で提示します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】管理栄養士として必要な食と健康に関するトピックを英文で読むことで、英語の文献から様々な情報や知識を得ることができる。
【知識・技能】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【技能・表現】体型的学習を通じて、多職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

（橋本）水曜日 2限 1610研究室
（斉藤）木曜昼休み 1503研究室

学生へのメッセージ

（橋本）授業で学んだことを復習し、また次回の授業内容についてあらかじめ予習をしてきて下さい。授業に積極的に参加することを期待します。
（斉藤）英語のみにとらわれず、多様な文化的・言語的背景をもつ相手とのかかわり方を考える契機となることを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	（斉藤）担当教員は、医療の実地臨床において、診療業務や臨床研究等の実務経験を有しており、臨床現場における現状や具体例も呈示しながら教授する。
アクティブ・ラーニング	○	（橋本）Readingのテーマについてクラスで話し合う。 （斉藤）グループ・ディスカッションの実施
情報リテラ		

シー教育	○	（斉藤）課題解決における情報探索に関する事項
ICT活用	○	（斉藤）授業内で使用する資料やアプリケーションの活用

講義コード	H02083032
講義名	管理栄養士のための英語A
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	橋本 文子	指定なし

ナンバリング

H34003C12

授業概要(教育目的)

国際化が進む中、管理栄養士として仕事をしていく上で、栄養について英語で説明したり、また栄養指導を英語で行うことが今後ますます求められる。この科目では健康や食に関して英語で書かれたトピックを読み、専門用語や英語の表現などに親しめるよう授業を行っていく。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	食や健康に関する英語の文献を読んで情報を得ることで、食や健康に関して理解を深めることができる。 実社会で管理栄養士として活躍する際に役立つ健康や食について、英語で読み理解する。
思考・判断の観点 (K)	食や健康に関して考える力を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食や健康に関して関心を持つ。
技術・表現の観点 (A)	健康や食に関する英語の表現を知ることができる。

学習計画

	授業テーマ	Introduction

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	授業の進め方について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Chapter 1のVocabularyを確認し、Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間(分)	60分
第2回	**授業テーマ**	Chapter 1: Why do people love sweets? Vocabulary、 Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Vocabularyを確認する。Readingについては、まず音読の練習をし、次に日本語訳とその内容について確認しながら考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Readingの続き、Reading Comprehension、Listening Comprehension、 Words & Idioms、Sentence Completionの予習を行うこと。
	教室外学習の時間(分)	60分
第3回	**授業テーマ**	Chapter 1のReadingの続き、Exercises
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingの続きを読み、Reading Comprehension、Listening Comprehension、 Words & Idioms、Sentence Completionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Chapter 2のVocabularyを確認し、Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間(分)	60分
第4回	**授業テーマ**	Chapter 2: Do you have a 〝dessert stomach"? Vocabulary、Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Vocabularyを確認する。Readingについては、まず音読の練習をし、次に日本語訳とその内容について確認しながら考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Readingの続き、Reading Comprehension、Listening Comprehension、 Words & Idioms、Sentence Completionの予習を行うこと。
	教室外学習の時間(分)	60分
第5回	**授業テーマ**	Chapter 2 Readingの続き、Exercises
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingの続きを読み、Reading Comprehension、Listening Comprehension、 Words & Idioms、Sentence Completionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Chapter 3 Vocabularyを確認し、Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間(分)	60分
	授業テーマ	Chapter 3: Why is Japanese cuisine so popular? Vocabulary、Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	Vocabularyを確認する。Readingについては、まず音読の練習を

第6回	育・ICT活用を含む)	し、次に日本語訳とその内容について確認しながら考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Readingの続き、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの予習を行うこと。
	教室外学習の時間(分)	60分
第7回	授業テーマ	Chapter 3のReadingの続き、Exercises
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingの続きを読み、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Quiz 1に答え、Chapter 4のVocabularyを確認し、Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間(分)	60分
第8回	授業テーマ	Chapter 4: Did you enjoy your school meals? Vocabulary、Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Dialogue 1に答え、Quiz 1の答え合わせを行う。Chapter 4のVocabularyを確認する。Readingについては、まず音読の練習をし、次に日本語訳とその内容について確認しながら考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Readingの続き、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの予習を行うこと。
	教室外学習の時間(分)	60分
第9回	授業テーマ	Chapter 4のReadingの続き、Exercises
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingの続きを読み、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Chapter 5のVocabularyを確認し、Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間(分)	60分
第10回	授業テーマ	Chapter 5: Why do children dislike vegetables so much？ Vocabulary, Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Vocabularyを確認する。Readingについては、まず音読の練習をし、次に日本語訳とその内容について確認しながら考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Readingの続き、Reading Comprehension, Listening Comprehension, Words & Idioms, Sentence Completionの予習を行うこと。
	教室外学習の時間(分)	60分
第11回	授業テーマ	Chapter 5 Readingの続き、Exercises
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingの続きを読み、Reading Comprehension, Listening Comprehension, Words & Idioms, Sentence Completionの答え合わせと解説を行う。

	教室外学習(予習・復習)の内容	Chapter 6のVocabularyを確認し、Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	Chapter 6: How do you wash your dishes and vegetables? Vocabulary, Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Vocabularyを確認する。Readingについては、まず音読の練習をし、次に日本語訳とその内容について確認しながら考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Readingの続き、Reading Comprehension, Listening Comprehension, Words & Idioms, Sentence Completionの予習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	Chapter 6 Readingの続き、Exercises
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Readingの続きを読み、Reading Comprehension, Listening Comprehension, Words & Idioms, Sentence Completionの答え合わせと解説を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	Quiz 2に答え、Chapter 7のVocabularyを確認し、Readingを訳してくること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	Chapter 7: What a long way frozen food has come! Vocabulary, Reading
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Dialogue 2に答え、Quiz 2の答え合わせを行う。Chapter 7のVocabularyを確認する。Readingについては、まず音読の練習をし、次に日本語訳とその内容について確認しながら考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの学習の総復習と確認を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第15回	**授業テーマ**	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

＊履修者数や授業の進み具合によってスケジュールは変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

授業の始めに前の週の授業内容の確認と復習を行います。

評価方法

・各自その日の授業についてあらかじめ予習してきた内容を確認しながら授業を進めます。

・定期試験はVocabulary, Reading, Reading Comprehension, Listening Comprehension, Words & Idioms, Sentence Completionから出題します。

定期試験 70%, 平常点 30%（積極的に授業に参加することを期待します。）

・ルーブリックに基づく成績評価を行います。
・ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配布等により指示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業内容の予習	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	○
授業中のディスカッション	○	○	○	○

評価割合

定期試験70%、平常点（授業への積極的な参加）30%で総合的に評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

Living Well, Eating Well / Josh Norman 他/ Asahi Press

参考図書

英和辞典

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】管理栄養士として必要な食と健康に関するトピックを英文で読むことで、英語の文献から様々な情報や知識を得ることができる。
【知識・技能】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につける。
【技能・表現】多職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につける。

オフィスアワー

水曜日 2限 1610研究室

学生へのメッセージ

授業で学んだことを復習し、また次回の授業内容についてあらかじめ予習をしてきて下さい。
授業に積極的に参加することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	
アクティブ・ラーニング		Readingのテーマについてクラスで話し合う。
情報リテラシー教育		必要な情報について調べる。
ICT活用	○	

講義コード	H02084031
講義名	実践栄養英会話
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	２限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	マーク ルイス	指定なし

ナンバリング

H34004C12

授業概要(教育目的)

Basic conversation patterns for talking about health and nutrtion will be taught and practiced.

履修条件

If you want to take English for Health and Nutrition, you must buy the book, Say What You Like 3.

Communication English 1 and 2 recommended.

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	Students will gain knowledge of basic English conversation patterns.
思考・判断の観点 (K)	Students will develop critical thinking skills to describe their ideas about health and nutrition and be able to understand the perspective of others.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Students will become active learners of English and will desire to learn more.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to exprss their feelings more easily in English, and will gain confidence in their ability.

学習計画

第1回	**授業テーマ**	Introduction
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Introducing ourselves / Vitamin A

	教室外学習(予習・復習)の内容	Perpare for class by reading p. 2-3; and p.34-35
	教室外学習の時間（分）	60
第2回	授業テーマ	Meals
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Breakfast and dinner / Calcium
	教室外学習(予習・復習)の内容	P. 4-5; 36-37
	教室外学習の時間（分）	60
第3回	授業テーマ	Family
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Talk about your famiy members / Fiber
	教室外学習(予習・復習)の内容	P. 6-7; 38-39
	教室外学習の時間（分）	60
第4回	授業テーマ	Free Time
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Clubs and circles / Vitamin B1 and meat
	教室外学習(予習・復習)の内容	P. 8-9; 40-41
	教室外学習の時間（分）	60
第5回	授業テーマ	Work
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Where do you work? / The common cold vs. the flu
	教室外学習(予習・復習)の内容	P.10-11; 42-43
	教室外学習の時間（分）	60
第6回	授業テーマ	Fashion
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Going to a hair salon / Fermented food
	教室外学習(予習・復習)の内容	P. 12-13; 44-45
	教室外学習の時間（分）	60
第7回	授業テーマ	Animals
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Having a pet / Vitamin D
	教室外学習(予習・復習)の内容	P. 14-15; 46-47

	教室外学習の時間（分）	60
第8回	授業テーマ	Going Out
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Eating out with friends / Probiotics
	教室外学習(予習・復習)の内容	P. 16-17; 48-49
	教室外学習の時間（分）	60
第9回	授業テーマ	Seasons
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Your favorite season / Vitamin C
	教室外学習(予習・復習)の内容	P.18-19; 50-51
	教室外学習の時間（分）	60
第10回	授業テーマ	Sightseeing
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Going to Disneyland / Protein
	教室外学習(予習・復習)の内容	P. 20-21; 52-53
	教室外学習の時間（分）	60
第11回	授業テーマ	At Home
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Cooking and cleaning / Vitamin K
	教室外学習(予習・復習)の内容	P. 22-23; 54-55
	教室外学習の時間（分）	60
第12回	授業テーマ	Money
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Shopping and snacks / Healthy Teeth
	教室外学習(予習・復習)の内容	P. 24-25; 56-57
	教室外学習の時間（分）	60
第13回	授業テーマ	Practice Speaking Challenge
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Use class time to prepare for final speaking challenge with a partner. Students choose health and nutrition topics to speak about.
	教室外学習(予習・復習)の内容	P. 2-59
	教室外学習の時間（分）	120

第14回	授業テーマ	Speaking Challenge
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Speak in natural conversational English for 5 minutes with a partner. Students recite natural English patterns learned in class along with the appropriate comments and rejoinders.
	教室外学習(予習・復習)の内容	P. 2-59
	教室外学習の時間（分）	120

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

Students receive weekly quiz scores and feedback from weekly in-class writing and from discussion with the teacher.

評価方法

Weekly questions are from the previous week's lesson and the current lesson. If you read the assigned homework pages, you will do well on the weekly quizzes. The final speaking test lets you know how comfortable you have become while speaking about health and nutrition topics. An evaluation of speaking tests using rubrics will be provided. The rubric will be on Google Classroom.

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
Quizzes	○	○	○	○
Speaking Test	○	○	○	○
Pair Work	○	○	○	○
Writing	○	○	○	○

評価割合

Pair Work 50%; Quizzes 30%; Writing 10%; Final Speaking Test 10%

使用教科書名(ISBN番号)

Say What You Like 3 (ISBN 978-4-9906347-4-2)

参考図書

A Japanese / English Dictionary

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【思考・判断】学際的な学習を通じて、グローバルな観点から現代の食・栄養に関わる諸問題について探求することができる。
【関心・意欲・態度】社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
【技能・表現】コミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

Monday 12:30 - 14:00

学生へのメッセージ

Relax and enjoy speaking English.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other.
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02085031
講義名	食物・栄養演習Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	斉藤 恵美子	指定なし
教授	人間栄養学科 教員	指定なし

ナンバリング

H34005C12

授業概要(教育目的)

管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論について、過去問題等を利用しながら総合的に学んでもらうことを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	管理栄養士にとって必要な専門的知識について理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断し説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	管理栄養士として社会の人々に貢献するために意欲関心をもち、積極的に講義に参加することができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	社会・環境と健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会・環境と健康について学ぶ（担当：田中（千））
	教室外学習(予習・復習)の内容	社会・環境と健康について関連分野の学びの復習をおこなう

	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	**授業テーマ**	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ（担当：斉藤）
	教室外学習(予習・復習)の内容	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	**授業テーマ**	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ（担当：坂野）
	教室外学習(予習・復習)の内容	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	**授業テーマ**	食べ物と健康（基礎食品）①、基礎栄養学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食べ物と健康（基礎食品）、基礎栄養学について学ぶ（担当：未定）
	教室外学習(予習・復習)の内容	食べ物と健康（基礎食品）、基礎栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	**授業テーマ**	食べ物と健康（応用食品、食品衛生）②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食べ物と健康（応用食品、食品衛生）について学ぶ（担当：林）
	教室外学習(予習・復習)の内容	食べ物と健康（応用食品、食品衛生）について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	**授業テーマ**	食べ物と健康（調理）③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食べ物と健康（調理）について学ぶ（担当：大富）
	教室外学習(予習・復習)の内容	食べ物と健康（調理）について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	**授業テーマ**	応用栄養①、臨床栄養①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	応用栄養、臨床栄養について学ぶ（担当：斉藤）
	教室外学習(予習・復習)の内容	応用栄養、臨床栄養について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	**授業テーマ**	応用栄養②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	応用栄養について学ぶ（担当：加藤）
	教室外学習(予習・復習)の内容	応用栄養について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	**授業テーマ**	栄養教育①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育について学ぶ（担当：辻）
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教育について関連分野の学びの復習をおこなう

	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	**授業テーマ**	栄養教育②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育について学ぶ（担当：酒井）
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教育について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	**授業テーマ**	臨床栄養②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臨床栄養について学ぶ（担当：金澤）
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	**授業テーマ**	臨床栄養③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臨床栄養について学ぶ（担当：城田）
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	**授業テーマ**	公衆栄養
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公衆栄養について学ぶ（担当：未定）
	教室外学習(予習・復習)の内容	公衆栄養について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	**授業テーマ**	給食経営管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食経営管理について学ぶ（担当：吉野）
	教室外学習(予習・復習)の内容	給食経営管理について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	90分

学習計画注記

本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、講義回数等が変則的になる。

学生へのフィードバック方法

基本的に、質問は各担当教員のオフィスアワーの時間等を活用すること。その際に各学生にフィードバックする。
全体に返す必要があるものは授業前後の時間を使用して全体へフィードバックする。

評価方法

管理栄養士国家試験科目の中から100点満点で、国家試験と同様の出題形式で定期試験を実施する。6割以上点数が取れなければ不合格となる。
出席回数が3分の2以上なければ定期試験を受けることはできない。

なおこの授業では定期試験（筆記試験）で評価を行うため、ルーブリックは設定しない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○	○	

評価割合

定期試験100%（授業内で行った管理栄養士国家試験出題範囲）

使用教科書名(ISBN番号)

クエスチョン・バンク 管理栄養士 国家試験問題解説（メディックメディア）（978-4-89632-875-2）
及びその他教員配布のプリント

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】管理栄養士として「人間の栄養」につながる専門的知識について理解している。
【思考・判断】管理栄養士として食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断できる。

オフィスアワー

本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、質問等がある場合は各担当教員のオフィスアワーを確認する事。

学生へのメッセージ

管理栄養士国家試験出題範囲の各科目の基礎知識の習得はもちろん、科目間のつながりも重要である。国家試験の出題範囲は明確になっているので、学習するにあたりまずは各科目のポイントをきちんと整理することから始め、定期試験までに適切な知識を復習し、習得する事が必要である。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02086031
講義名	食物・栄養演習Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	斉藤 恵美子	指定なし
教授	林 一也	指定なし
教授	人間栄養学科 教員	指定なし

ナンバリング

H44006C12

授業概要(教育目的)

食物・栄養演習Bと食物・栄養演習Cは必ず連携で単位取得に臨むことが必要である。管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論について、過去問題等を利用しながら食物・栄養演習Bと食物・栄養演習Cで総合的に学んでもらうことを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	管理栄養士にとって必要な専門的知識について理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断し説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	管理栄養士として社会の人々に貢献するために意欲関心をもち、積極的に講義に参加することができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	社会・環境と健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会・環境と健康について学ぶ（担当：田中（千））

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	社会・環境と健康について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低45分）
第2回	授業テーマ	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ（担当：斉藤）
	教室外学習(予習・復習)の内容	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低45分）
第3回	授業テーマ	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち②（生化学）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（生化学）について学ぶ（担当：坂野）
	教室外学習(予習・復習)の内容	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（生化学）について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低45分）
第4回	授業テーマ	食べ物と健康①（基礎食品）、基礎栄養学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食べ物と健康（基礎食品）、基礎栄養学について学ぶ（担当：未定）
	教室外学習(予習・復習)の内容	食べ物と健康（基礎食品）、基礎栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低45分）
第5回	授業テーマ	食べ物と健康②（調理）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食べ物と健康（調理）について学ぶ（担当：大富）
	教室外学習(予習・復習)の内容	食べ物と健康（調理）について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低45分）
第6回	授業テーマ	食べ物と健康③（応用食品・食品衛生）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食べ物と健康（応用食品・食品衛生）について学ぶ（担当：林）
	教室外学習(予習・復習)の内容	食べ物と健康（応用食品・食品衛生）について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低45分）
第7回	授業テーマ	応用栄養学、臨床栄養学①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	応用栄養学、臨床栄養学について学ぶ（担当：斉藤）
	教室外学習(予習・復習)の内容	応用栄養学、臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低45分）
第8回	授業テーマ	国家試験対策講座
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本医歯薬研修協会・特別講師およびRDC管理栄養士センター・特別講師による、国家試験受験対策について
	教室外学習(予習・復習)の内容	国家試験対策講座で学んだ内容について復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低45分）
	授業テーマ	栄養教育論①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報	栄養教育論について学ぶ（担当：辻）

第9回	リテラシー教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低45分）
第10回	授業テーマ	栄養教育論②
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	栄養教育論について学ぶ（担当：酒井）
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低45分）
第11回	授業テーマ	臨床栄養学②
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	臨床栄養学について学ぶ（担当：金澤）
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低45分）
第12回	授業テーマ	臨床栄養学③
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	臨床栄養学について学ぶ（担当：城田）
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低45分）
第13回	授業テーマ	公衆栄養学
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	公衆栄養学について学ぶ（担当：未定）
	教室外学習(予習・復習)の内容	公衆栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低45分）
第14回	授業テーマ	給食経営管理論
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	給食経営管理論について学ぶ（担当：吉野）
	教室外学習(予習・復習)の内容	給食経営管理論について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低45分）

学習計画注記

本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、食物・栄養演習B・C併せて講義回数等が変則的になる。

学生へのフィードバック方法

基本的に、質問は各担当教員のオフィスアワーの時間等を活用すること。その際に各学生にフィードバックする。
全体に返す必要があるものは授業前後の時間を使用して全体へフィードバックする。

評価方法

食物・栄養演習B及びCの定期試験の内容は管理栄養士国家試験に準じた内容であり、国家試験と出題形式も同様で定期試験を実施する。食物・栄養演習BとCを合わせて、管理栄養士国家試験と同じく200点満点の試験とし、午前・午後問題合わせて6割以上点数が取れなければBもCも不合格となる。
なお、B・Cの出席回数が合わせて3分の2以上なければ定期試験を受けることはできない。

この授業では定期試験（筆記試験）で評価を行うため、ルーブリックは設定しない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○	○	

評価割合

定期試験100%（管理栄養士国家試験出題範囲）

使用教科書名(ISBN番号)

クエスチョン・バンク 管理栄養士 国家試験問題解説（メディックメディア）（978-4-89632-875-2）
及びその他各教員の配布プリント

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】管理栄養士として「人間の栄養」につながる専門的知識について理解している。
【思考・判断】管理栄養士として食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断できる。

オフィスアワー

本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、質問等がある場合は各担当教員のオフィスアワーを確認する事。

学生へのメッセージ

管理栄養士国家試験出題範囲の各科目の基礎知識の習得はもちろん、科目間のつながりも重要である。国家試験の出題範囲は明確になっているので、出題傾向をきちんと把握するとともに、知識を確実なものにするために各科目のポイントをきちんと深く整理し、学習時間の確保に心掛け、定期試験までに適切な知識を復習し、習得する事が必要である。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02087031
講義名	食物・栄養演習Ｃ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	斉藤 恵美子	指定なし
教授	林 一也	指定なし
教授	人間栄養学科 教員	指定なし

ナンバリング

H44007C12

授業概要(教育目的)

食物・栄養演習Bと食物・栄養演習Cは必ず連携で単位取得に臨むことが必要である。管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論について、過去問題等を利用しながら食物・栄養演習Bと食物・栄養演習Cで総合的に学んでもらうことを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	管理栄養士にとって必要な専門的知識について理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断し説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	管理栄養士として社会の人々に貢献するために意欲関心をもち、積極的に講義に参加することができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	社会・環境と健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会・環境と健康について学ぶ（担当：田中（千））

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	社会・環境と健康について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第2回	授業テーマ	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ（担当：斉藤）
	教室外学習(予習・復習)の内容	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第3回	授業テーマ	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち②（生化学）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（生化学）について学ぶ（担当：坂野）
	教室外学習(予習・復習)の内容	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（生化学）について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第4回	授業テーマ	食べ物と健康①（基礎食品）、基礎栄養学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食べ物と健康（基礎食品）、基礎栄養学について学ぶ（担当：未定）
	教室外学習(予習・復習)の内容	食べ物と健康（基礎食品）、基礎栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第5回	授業テーマ	食べ物と健康②（調理）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食べ物と健康（調理）について学ぶ（担当：大富）
	教室外学習(予習・復習)の内容	食べ物と健康（調理）について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第6回	授業テーマ	食べ物と健康③（応用食品・食品衛生）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食べ物と健康（応用食品・食品衛生）について学ぶ（担当：林）
	教室外学習(予習・復習)の内容	食べ物と健康（応用食品・食品衛生）について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第7回	授業テーマ	応用栄養学、①臨床栄養学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	応用栄養学、臨床栄養学について学ぶ（担当：斉藤）
	教室外学習(予習・復習)の内容	応用栄養学、臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第8回	授業テーマ	国家試験対策講座
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本医歯薬研修協会・特別講師およびRDC管理栄養士センター・特別講師による、国家試験受験対策について
	教室外学習(予習・復習)の内容	国家試験対策講座で学んだ内容について復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
	授業テーマ	栄養教育論①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報	栄養教育論について学ぶ（担当：辻）

第9回	リテラシー教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第10回	授業テーマ	栄養教育論②
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	栄養教育論について学ぶ（担当：酒井）
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第11回	授業テーマ	臨床栄養学②
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	臨床栄養学について学ぶ（担当：金澤）
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第12回	授業テーマ	臨床栄養学③
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	臨床栄養学について学ぶ（担当：城田）
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第13回	授業テーマ	公衆栄養学
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	公衆栄養学について学ぶ（担当：未定）
	教室外学習(予習・復習)の内容	公衆栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第14回	授業テーマ	給食経営管理論
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	給食経営管理論について学ぶ（担当：吉野）
	教室外学習(予習・復習)の内容	給食経営管理論について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）

学習計画注記

本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、食物・栄養演習B・C併せて講義回数等が変則的になる。

学生へのフィードバック方法

基本的に、質問は各担当教員のオフィスアワーの時間等を活用すること。その際に各学生にフィードバックする。
全体に返す必要があるものは授業前後の時間を使用して全体へフィードバックする。

評価方法

食物・栄養演習B及びCの定期試験の内容は管理栄養士国家試験に準じた内容であり、国家試験と出題形式も同様で定期試験を実施する。食物・栄養演習BとCを合わせて、管理栄養士国家試験と同じく200点満点の試験とし、午前・午後問題合わせて6割以上点数が取れなければBもCも不合格となる。
なお、B・Cの出席回数が合わせて3分の2以上なければ定期試験を受けることはできない。

この授業では定期試験（筆記試験）で評価を行うため、ルーブリックは設定しない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○	○	

評価割合

定期試験100%（授業内で行った管理栄養士国家試験出題範囲）

使用教科書名(ISBN番号)

クエスチョン・バンク 管理栄養士 国家試験問題解説（メディックメディア）（978-4-89632-875-2）
及びその他各教員の配布プリント

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】管理栄養士として「人間の栄養」につながる専門的知識について理解している。
【思考・判断】管理栄養士として食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断できる。

オフィスアワー

本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、質問等がある場合は各担当教員のオフィスアワーを確認する事。

学生へのメッセージ

管理栄養士国家試験出題範囲の各科目の基礎知識の習得はもちろん、科目間のつながりも重要である。国家試験の出題範囲は明確になっているので、出題傾向をきちんと把握するとともに、知識を確実なものにするために各科目のポイントをきちんと深く整理し、学習時間の確保に心掛け、定期試験までに適切な知識を復習し、習得する事が必要である。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02088031
講義名	食物・栄養演習Ｄ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	斉藤 恵美子	指定なし
教授	人間栄養学科 教員	指定なし

ナンバリング

H44008C12

授業概要(教育目的)

食物・栄養演習Dと食物・栄養演習Eは必ず連携で単位取得に臨むことが必要である。そのため管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論について、過去問題等を利用しながら食物・栄養演習Dと食物・栄養演習Eで、管理栄養士としての総まとめとしての学びを深めることを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	管理栄養士にとって必要な専門的知識について理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断し説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	管理栄養士として社会の人々に貢献するために意欲関心をもち、積極的に講義に参加することができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	社会・環境と健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会・環境と健康について学ぶ（担当：田中（千））
		社会・環境と健康について関連分野の学びの復習を

	教室外学習(予習・復習)の内容	おこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第2回	**授業テーマ**	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ（担当：斉藤）
	教室外学習(予習・復習)の内容	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第3回	**授業テーマ**	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち②（生化学）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（生化学）について学ぶ（担当：坂野）
	教室外学習(予習・復習)の内容	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（生化学）について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第4回	**授業テーマ**	食べ物と健康①（基礎食品）、基礎栄養学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食べ物と健康（基礎食品）、基礎栄養学について学ぶ（担当：未定）
	教室外学習(予習・復習)の内容	食べ物と健康（基礎食品）、基礎栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第5回	**授業テーマ**	食べ物と健康②（調理）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食べ物と健康（調理）について学ぶ（担当：大富）
	教室外学習(予習・復習)の内容	食べ物と健康（調理）について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第6回	**授業テーマ**	食べ物と健康③（応用食品・食品衛生）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食べ物と健康（応用食品・食品衛生）について学ぶ（担当：林）
	教室外学習(予習・復習)の内容	食べ物と健康（応用食品・食品衛生）について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第7回	**授業テーマ**	応用栄養学①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	応用栄養学について学ぶ（担当：斉藤）
	教室外学習(予習・復習)の内容	応用栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第8回	**授業テーマ**	応用栄養学②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	応用栄養学について学ぶ（担当：加藤）
	教室外学習(予習・復習)の内容	応用栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第9回	**授業テーマ**	栄養教育論①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育論について学ぶ（担当：辻）
		栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこな

	教室外学習(予習・復習)の内容	う
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第10回	**授業テーマ**	栄養教育論②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育論について学ぶ（担当：酒井）
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第11回	**授業テーマ**	臨床栄養学①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臨床栄養学について学ぶ（担当：金澤）
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第12回	**授業テーマ**	臨床栄養学②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臨床栄養学について学ぶ（担当：城田）
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第13回	**授業テーマ**	公衆栄養学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公衆栄養学について学ぶ（担当：未定）
	教室外学習(予習・復習)の内容	公衆栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第14回	**授業テーマ**	給食経営管理論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食経営管理論について学ぶ（担当：吉野）
	教室外学習(予習・復習)の内容	給食経営管理論について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）

学習計画注記

本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、食物・栄養演習D・E併せて講義回数等が変則的になる。

学生へのフィードバック方法

基本的に、質問は各担当教員のオフィスアワーの時間等を活用すること。その際に各学生にフィードバックする。
全体に返す必要があるものは授業前後の時間を使用して全体へフィードバックする。

評価方法

食物・栄養演習D及びEの定期試験の内容は管理栄養士国家試験に準じた内容であり、国家試験と出題形式も同様で定期試験を実施する。食物・栄養演習DとEを合わせて、管理栄養士国家試験と同じく200点満点の試験とし、午前・午後問題合わせて6割以上点数が取れなければDもEも不合格となる。
なお、D・Eの出席回数が合わせて3分の2以上なければ定期試験を受けることはできない。

この授業では定期試験（筆記試験）で評価を行うため、ルーブリックは設定しない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○	○	

評価割合

定期試験100%（授業内で行った管理栄養士国家試験出題範囲）

使用教科書名(ISBN番号)

クエスチョン・バンク 管理栄養士 国家試験問題解説（メディックメディア）（978-4-89632-875-2）
及びその他各教員配布のプリント

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】管理栄養士として「人間の栄養」につながる専門的知識について理解している。
【思考・判断】管理栄養士として食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断できる。

オフィスアワー

本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、質問等がある場合は各担当教員のオフィスアワーを確認する事。

学生へのメッセージ

管理栄養士国家試験出題範囲の各科目の基礎知識の習得はもちろん、科目間のつながりも重要である。国家試験の出題範囲は明確になっているので、出題傾向をきちんと把握するとともに、知識を確実なものにするために各科目のポイントをきちんと深く整理し、学習時間の確保に心掛け、定期試験までに適切な知識を復習し、習得する事が必要である。
管理栄養士の国家試験を受験するのであればきちんと授業を履修して単位を取得できることが望ましい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02089031
講義名	食物・栄養演習 E
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	２限後半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	斉藤 恵美子	指定なし
教授	人間栄養学科 教員	指定なし

ナンバリング

H44009C12

授業概要(教育目的)

食物・栄養演習Dと食物・栄養演習Eは必ず連携で単位取得に臨むことが必要である。そのため管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論について、過去問題等を利用しながら食物・栄養演習Dと食物・栄養演習Eで、管理栄養士としての総まとめとしての学びを深めることを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	管理栄養士にとって必要な専門的知識について理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断し説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	管理栄養士として社会の人々に貢献するために意欲関心をもち、積極的に講義に参加することができる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	社会・環境と健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会・環境と健康について学ぶ（担当：田中（千））
		社会・環境と健康について関連分野の学びの復習を

	教室外学習(予習・復習)の内容	おこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第2回	**授業テーマ**	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ（担当：斉藤）
	教室外学習(予習・復習)の内容	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第3回	**授業テーマ**	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち②（生化学）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（生化学）について学ぶ（担当：坂野）
	教室外学習(予習・復習)の内容	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（生化学）について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第4回	**授業テーマ**	食べ物と健康①（基礎食品）、基礎栄養学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食べ物と健康（基礎食品）、基礎栄養学について学ぶ（担当：未定）
	教室外学習(予習・復習)の内容	食べ物と健康（基礎食品）、基礎栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第5回	**授業テーマ**	食べ物と健康②（調理）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食べ物と健康（調理）について学ぶ（担当：大富）
	教室外学習(予習・復習)の内容	食べ物と健康（調理）について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第6回	**授業テーマ**	食べ物と健康③（応用食品・食品衛生）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食べ物と健康（応用食品・食品衛生）について学ぶ（担当：林）
	教室外学習(予習・復習)の内容	食べ物と健康（応用食品・食品衛生）について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第7回	**授業テーマ**	応用栄養学①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	応用栄養学について学ぶ（担当：斉藤）
	教室外学習(予習・復習)の内容	応用栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第8回	**授業テーマ**	応用栄養学②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	応用栄養学について学ぶ（担当：加藤）
	教室外学習(予習・復習)の内容	応用栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第9回	**授業テーマ**	栄養教育論①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育論について学ぶ（担当：辻）
		栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこな

	教室外学習(予習・復習)の内容	う
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第10回	**授業テーマ**	栄養教育論②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育論について学ぶ（担当：酒井）
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第11回	**授業テーマ**	臨床栄養学①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臨床栄養学について学ぶ（担当：金澤）
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第12回	**授業テーマ**	臨床栄養学②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臨床栄養学について学ぶ（担当：城田）
	教室外学習(予習・復習)の内容	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第13回	**授業テーマ**	公衆栄養学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公衆栄養学について学ぶ（担当：未定）
	教室外学習(予習・復習)の内容	公衆栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）
第14回	**授業テーマ**	給食経営管理論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食経営管理論について学ぶ（担当：吉野）
	教室外学習(予習・復習)の内容	給食経営管理論について関連分野の学びの復習をおこなう
	教室外学習の時間（分）	各自が判断（各回最低30分）

学習計画注記

本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、食物・栄養演習D・E併せて講義回数等が変則的になる。

学生へのフィードバック方法

基本的に、質問は各担当教員のオフィスアワーの時間等を活用すること。その際に各学生にフィードバックする。
全体に返す必要があるものは授業前後の時間を使用して全体へフィードバックする。

評価方法

食物・栄養演習D及びEの定期試験の内容は管理栄養士国家試験に準じた内容であり、国家試験と出題形式も同様で定期試験を実施する。食物・栄養演習DとEを合わせて、管理栄養士国家試験と同じく200点満点の試験とし、午前・午後問題合わせて6割以上点数が取れなければDもEも不合格となる。
なお、D・Eの出席回数が合わせて3分の2以上なければ定期試験を受けることはできない。

この授業では定期試験（筆記試験）で評価を行うため、ルーブリックは設定しない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○	○	

評価割合

定期試験100%（授業内で行った管理栄養士国家試験出題範囲）

使用教科書名(ISBN番号)

クエスチョン・バンク 管理栄養士 国家試験問題解説（メディックメディア）（978-4-89632-875-2）
及びその他各教員配布のプリント

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】管理栄養士として「人間の栄養」につながる専門的知識について理解している。
【思考・判断】管理栄養士として食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断できる。

オフィスアワー

本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、質問等がある場合は各担当教員のオフィスアワーを確認する事。

学生へのメッセージ

管理栄養士国家試験出題範囲の各科目の基礎知識の習得はもちろん、科目間のつながりも重要である。国家試験の出題範囲は明確になっているので、出題傾向をきちんと把握するとともに、知識を確実なものにするために各科目のポイントをきちんと深く整理し、学習時間の確保に心掛け、定期試験までに適切な知識を復習し、習得する事が必要である。
管理栄養士の国家試験を受験するのであればきちんと授業を履修して単位を取得できることが望ましい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	H02101031
講義名	海外専門研修（栄養学）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	加藤 理津子	指定なし

ナンバリング

H15001C13

授業概要(教育目的)

世界的な競争と共生が進む現代社会において、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、広い視野に立って培われる教養と専門性、異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性、新しい価値を創造する能力などを持った国際社会で活躍できる管理栄養士を育成する。さらに高年次以降本格化する専門分野の学びの動機づけ、視野の広がりを獲得することを目指す。

履修条件

定員に対し、応募者多数の場合は抽選を行います。
実地研修がある場合には、参加にあたり以下の条件を満たしていることが必須です。
○履修登録をしている。
○事前指導（第1～6回に実施）を全て受講している。
○必要経費を納入している。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日本の食文化、日本の健康増進にかかわる社会制度、栄養管理の国際的動向、国際貢献について基礎的な知識を理解している。
思考・判断の観点 (K)	これまでに学習した基礎的な知識・技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・管理栄養士制度の仕組みや活動、海外の当地の健康事情・健康課題とその背景である人々の生活状況、食料生産、食文化を学びながら、国際的な視野を身につけようとしている。 ・人間栄養に対する興味関心を高め、情報収集するなど、主体的な学習態度を身につけようとしている。
技術・表現	目標達成に向けた企画立案、マネジメント、コミュニケーションを実践できる。

の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研修の目的および内容、日程を理解する。 グループ別研修の準備をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：シラバスを読む。 復習：学習内容を学習記録にまとめる。グループ別研修の資料を収集する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	**授業テーマ**	海外事情を知る
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イタリア人講師への質問を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：イタリアの情報を収集する。 復習：学習内容を学習記録にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	**授業テーマ**	海外事情を知る
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外部講師からからイタリア語を学ぶ。 ①イタリア語を話してみよう ②イタリア人講師に質問してみよう
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：学習内容を学習記録にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	**授業テーマ**	グループ学習①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとのテーマに関する情報を収集する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：資料を収集する。 復習：学習内容を学習記録にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	**授業テーマ**	グループ学習②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとのテーマに関する情報を収集する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：資料を収集する。 復習：学習内容を学習記録にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	**授業テーマ**	グループ学習③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとに収集した情報をまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：資料を収集する。 復習：学習内容を学習記録にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	**授業テーマ**	実施研修①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イタリアでの食科学に基づく生産者育成の場で学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：資料を収集する。 復習：学習内容を学習記録にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
	授業テーマ	実施研修②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	イタリアの文化を学ぶ。

第8回	教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：資料を収集する。 復習：学習内容を学習記録にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	実地研修③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イタリア在住の卒業生からイタリアの食文化を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：資料を収集する。 復習：学習内容を学習記録にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	実地研修④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イタリア在住の卒業生からキャリアプランを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：資料を収集する。 復習：学習内容を学習記録にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	実施研修⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イタリア国内の物産施設で学習したことを振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：資料を収集する。 復習：学習内容を学習記録にまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	まとめ①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習した内容をまとめ、報告書を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：実地研修の記録をワークシートにまとめる。 復習：報告会のリハーサルを行う。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	まとめ②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習した内容をまとめ、報告書を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：実地研修の記録をワークシートにまとめる。 復習：報告会のリハーサルを行う。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	まとめ③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習した内容をまとめた報告書をもとに発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習内容をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	90分

学習計画注記

授業の進行状況によって内容を前後させる場合がある。

学生へのフィードバック方法

授業の進行にしたがって提出物等に記入したものを、その都度確認し、返却する。

評価方法

提出物50%、平常点20%、プレゼンテーション30%とし、総合的に評価する。

ルーブリックに基づく成績評価とし、ルーブリックについては授業内での配布等により掲示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
提出物	○	○	○	○
平常点			○	
プレゼンテーション		○	○	○

評価割合

提出物50%、平常点20%、プレゼンテーション30%とし、総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

適宜紹介する。

参考図書

適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。
【思考・判断】学際的な学習を通じて、個人から地域コミュニティ、グローバルな観点から現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して思考できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
【技能・表現】コミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

加藤：水曜日・昼休み（1B05）

学生へのメッセージ

受講にあたり、以下の内容に取り組むことを期待する。
○遅刻や欠席、私語、内職、居眠りを慎み、メモを取るなど主体的に取り組む。
○計画的に予習、復習に取り組み、理解を深めるよう努める。
○提出物は、手順や締め切りを守り、学習した内容を理論的に書くよう努める。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	イタリア文化会館と連携した活動を行っている。
アクティブ・ラーニング	○	学生は、各自が収集した情報をもとに、班ごとにディスカッションしながら課題を遂行し、その結果をレポートにまとめ、発表する。
情報リテラシー教育	○	得られた成果を報告書にまとめ、発表スライドを作成する。
ICT活用	○	発表スライド用をパワーポイントで作成し、映写して発表する。

講義コード	H02103031
講義名	管理栄養士のための基礎演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	斉藤 恵美子	指定なし
教授	田中 千晶	指定なし
教授	山田 光彦	指定なし
准教授	大富 あき子	指定なし
准教授	坂野 史明	指定なし
助教	鈴木 孝子	指定なし

ナンバリング

H11002C12

授業概要(教育目的)

管理栄養士に必要な基礎的知識とともに、生涯にわたって自律的に学び続けることができる基本的学修能力を身につけさせる。4年間の学修の基礎となる数学、生物、化学の基礎的知識を復習（確認）し、今後の学修に活用させる。

履修条件

特に無し

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	数学・生物・化学の基礎的知識を復習・確認し、問題に対し適切に解答できる。
思考・判断の観点 (K)	数学・生物・化学の基礎的知識が今後の学修に必要であることを理解する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	数学・生物・化学の基礎的知識と「食」「栄養」の関わりに関心を持ち、意欲を持って学びを進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	復習・確認した基礎的知識を応用できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	授業ガイダンス、事前テスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業概要について説明後、事前テストを実施する。 テスト科目は数学・生物・化学で、基本的な問題とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	数学・生物・化学について、高校までに使用したテキストを復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	生物①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消化管，臓器について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講前は、高校までのテキストの復習、当該科目のドリルで予習を進めておく。 受講後は、知識が定着するよう授業での学習内容を復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	**授業テーマ**	生物②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養素のはたらき、消化・吸収について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講前は、高校までのテキストの復習、当該科目のドリルで予習を進めておく。 受講後は、知識が定着するよう授業での学習内容を復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	**授業テーマ**	数学①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	単位、重量と容量、有効数字、接頭語などについて学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講前は、高校までのテキストの復習、当該科目のドリルで予習を進めておく。 受講後は、知識が定着するよう授業での学習内容を復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	**授業テーマ**	数学②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	四則演算、少数、分数、比率計算などについて学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講前は、高校までのテキストの復習、当該科目のドリルで予習を進めておくこと。 受講後は、知識が定着するよう授業での学習内容を復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	**授業テーマ**	理解度テスト①、振り返り ※パソコン持参のこと
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第2回から第5回で学習した内容について、理解度テスト①を行う。 その内容について振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講前は、第2回から第5回までに学習した内容を復習しておく。 受講後は、知識が確実なものとなるように、再度復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	数学③

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指数、百分率、比重、一般成分の計算などを学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講前は、高校までのテキストの復習、当該科目のドリルで予習を進めておくこと。 受講後は、知識が定着するよう授業での学習内容を復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	授業テーマ	化学①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	原子量・分子量、式量、物質量、アボガドロ数、モル質量、溶液などについて学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講前は、高校までのテキストの復習、当該科目のドリルで予習を進めておくこと。 受講後は、知識が定着するよう授業での学習内容を復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	授業テーマ	数学④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指標（率と比）、公衆衛生分野で扱う計算について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講前は、高校までのテキストの復習、当該科目のドリルで予習を進めておくこと。 受講後は、知識が定着するよう授業での学習内容を復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	授業テーマ	化学②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	化学変化、反応式、酸と塩基、pH、中和反応などについて学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講前は、高校のテキストの復習、当該科目のドリルで予習を進めておくこと。 受講後は、知識が定着するよう授業での学習内容を復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	授業テーマ	数学⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理で用いる計算、廃棄率などを学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講前は、高校のテキストの復習、当該科目のドリルで予習を進めておくこと。 受講後は、知識が定着するよう授業での学習内容を復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	授業テーマ	理解度テスト②、振り返り ※パソコン持参のこと
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第7回から第11回で学習した内容について、理解度テストを行う。 その内容を振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講前は、第7回から第11回までに学習した内容を復習しておく。 受講後は、知識が確実なものとなるように、再度復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	理解度テストの振り返り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	理解度テスト①、②の内容、および全体の振り返りをする。

第13回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	受講前は、第12回までの内容を復習しておく。 受講後は、知識が定着するよう授業での学習内容を復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	**授業テーマ**	まとめ、最終テスト（定期試験） ※パソコン持参のこと
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前半はこれまでの学習のふり返り、後半で最終テスト（数学・生物・化学）を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	受講前は、これまでの復習をしっかり行う。 受講後は、これまでの学びを今後に活かすために知識の整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	240分

学生へのフィードバック方法

適宜、理解度テストを実施し、振り返りを行う。

評価方法

評価は、平常点＋中間テスト＋最終テスト（定期試験）で行う。
○平常点→ 授業への取り組み、授業態度など
○理解度テスト→ それまでに実施した内容を振り返る
○最終テスト（定期試験）→ この科目全体の内容をもとに行う

ルーブリックは授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
理解度テスト	○	○		○
定期試験（最終テスト）	○	○		○

評価割合

平常点10%＋理解度テスト30%＋最終テスト60%

使用教科書名(ISBN番号)

栄養士・管理栄養士をめざす人の基礎トレーニングドリル（化学同人）ISBN：978-4-7598-1941-0
調理の基本まるわかり便利帳（女子栄養大学出版部）ISBN：978-4-7895-0523-9

参考図書

八訂食品成分表2025（女子栄養大学出版部）
高校までで使用したテキスト

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間の栄養を理解できる総合的な知識基盤を身に着けている。
【思考・判断】数学・生物・化学の基礎的知識は、食・栄養に関わる諸問題について探求し、健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を養うことに繋がることを理解できている。
【関心・意欲・態度】人間の栄養に関心を持ち、生涯にわたって自律的に学び続けることができる基本的学修能力を身に着けている。
【技術・表現】数学、生物、化学の基礎的知識を応用できる力を身に着けている。

オフィスアワー

木曜3時限

学生へのメッセージ

数学・生物・化学は、すべて、栄養士・管理栄養士に必要な基礎的知識であることを理解しておきましょう。1年次で受講する栄養価計算をはじめとした複数の科目で数学が、解剖生理学や微生物学などは生物が、基礎栄養学などは化学が関連します。2年次以降の科目だけでなく、卒業後の仕事にもそれらがすべて関連していきます。栄養士・管理栄養士としていずれも避けて通れない項目ですので、ここでしっかり基礎固めを行いましょう。集中して受講し問題を多く解くことで、短期間で理解が深まるよう、工夫して開講します。一緒に頑張りましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	S00000101
講義名	生活共創学概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活共創学部・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	花田 朋美	指定なし
教授	白井 篤	指定なし
教授	小池 孝子	指定なし
教授	吉永 早苗	指定なし
教授	三澤 朱実	指定なし
教授	佐野 潤子	指定なし
准教授	小川 圭子	指定なし
准教授	柳瀬 洋美	指定なし
准教授	岩本 直樹	指定なし
准教授	井上 清美	指定なし
助教	佐々木 麻紀子	指定なし
助教	伊藤 有紀	指定なし

ナンバリング

K10011M21

授業概要(教育目的)

「生活共創学」の教育目標は、「生活」が人々のくらしの基礎であり、社会を構成する基盤であるとの認識に立って、衣、食、住、こどもを中心とする生活諸領域に関する知識・技能とともに、それらを活かして生活者の視点から、多様な人々と協働し、身近な変革や新たな価値の創出を通して地域・社会の持続的発展に寄与する能力を養うことである。本授業では、生活諸領域に関する学問の最前線、地域・社会が抱える課題、協働・変革・価値創出に必要な要素について、広く関心を持ち、「生活共創」に込めた思いや意義を共に考えることを目的とする。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	社会の諸課題に対応することができる生活科学を基点とした知識・技能を有している。
思考・判断の観点 (K)	多様な他者と共に課題解決に取り組みむことができ、他者の思いを尊重して、相互に分かり合い共感することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	身の回りの課題に自らの意思で取り組み、課題解決に向けて諦めずやり抜くことができる。
技術・表現の観点 (A)	衣、食、住、こどもを中心とする生活諸領域の質向上に寄与することができる。

学習計画

生活共創学概論

第1回	**授業テーマ**	担当：白井篤 生活共創学とは何か？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	皆さん方一人一人が「生活共創学」とは、どのような学びなのかについて考える体験型の授業を実施します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】あらかじめ提示した教材を確認の上、出席してください。 【復習】本日の授業で体験したことを振り返ってください。
	教室外学習の時間（分）	180
第2回	**授業テーマ**	担当：佐野潤子 家政学の歴史と生活共創学の意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代社会において家政学を学ぶ意義を考え、家政学を基盤に生活問題、社会問題を捉える。生活の諸課題を生活者の視点、家政学・現代生活学の研究方法から明らかにする。かつては女性教育の中心であった家政学であるが、現代では男女共生社会、長寿社会の問題解決に大きく関わっている。生活の諸問題を家政学のアプローチから考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：SNS や新聞から生活に関わる諸問題の情報収集をしておく。 復習：自身が集めた生活問題と、授業内容を照らし合わせて問題の相違点を振り返る。
	教室外学習の時間（分）	180
第3回	**授業テーマ**	担当：花田朋美 衣の役割と持続可能性への考察
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本授業では、衣服着用の理由や衣服の機能について概説し、衣服の役割について考察する。更に衣服を巡る社会的な課題について事例を紹介する。グループワークでは、課題解決に向けた取り組みについて議論し、衣服の持続可能性とはどのようなことかを検討する。ICT活用と情報リテラシー教育として、スマートフォンやパソコン等で衣服の抱える社会問題に関する情報を収集し、分析・整理して、プレゼンテーション資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内	【予習】衣服に関する社会課題について検索し、1つ以上の問題点を挙げておく。 【復習】グループワークで挙がった衣服の社会課題のうち興味を持っ

	容	た つを取り上げ、自身で取り組むことができる持続可能な取り組みについて考え、整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	180
第4回	**授業テーマ**	担当：伊藤有紀 地域の食文化と持続的食生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	郷土料理はその土地の人々の暮らしに根付き、長い間親しまれてきた。しかし、将来的に元来の形としては残らないことが危惧されるものが少なくない。本授業では発達の仕方の分類ごとに郷土料理を紹介し、継承の取り組みについても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身や家族の出身地のものなど、愛着を持てそうな郷土料理について、農林水産省「うちの郷土料理」のホームページを見るなどして概要を調べておく。
	教室外学習の時間（分）	180
第5回	**授業テーマ**	担当；小池孝子 持続可能な住環境と地域づくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	私たちが暮らしている地域の住環境は、どのようにして、誰の手によってつくられ、維持されているのだろうか。本授業では、自分の住む地域を題材に、どのようにして快適な住環境を維持していくのかについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：自分の住む地域の住環境を観察し、良い点、改善すべき点を見出しておく。 復習：授業で話題となった事柄に関して、改めて自分の住む地域の住環境を見直し、快適な住環境の維持に関して自分ができることについて考える。
	教室外学習の時間（分）	180
第6回	**授業テーマ**	担当：井上清美 子育ての環境と持続可能な教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	戦後から現在にかけて、日本の子育て環境がどのように変化してきたかを学ぶ。現代では家族が縮小し、共働き世帯が増えたことにより、家庭でも学校でもない「子どもの居場所」の重要性が増している。保育所や学童保育、子ども食堂などの事例を取り上げながら、子どものウェルビーイングを保障する条件について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：自身の子ども時代を振り返り、どこでどのように過ごしていたか、関わっていた大人の存在を整理する。 復習：子どもの居場所に必要な条件をまとめ、身近な居場所を取り上げて考察する。
	教室外学習の時間（分）	180
	授業テーマ	担当：三澤朱実 地域・社会との連携を通した大学の学び

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本授業では、地域社会や家庭等の身近な食の課題について、どのように解決したら良いかを考え、議論しアイデアを出し合う。行政、組織、企業等とつながることで、人々の食事や食生活のイノベーションを図った具体例も紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に地域社会や家庭等の身近な食の課題について調べておく。 復習：できれば自身のアイデアを実践してみる。
	教室外学習の時間（分）	180
第8回	授業テーマ	担当：伊藤貴紀（花田） 地域課題の発見と理解（ワークショップ含む）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	相原駅周辺を題材に地域課題を発見し、その理解を深める。ワークショップを通して、何を課題として捉えるのか、誰の課題として扱うのか、その課題を解決するとどんな未来が描けるのか、など意見交換を行い、地域課題への構造的な視点や考え方について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】事前に相原駅東口、西口のまちづくり構想や、町田市都市計画マスタープラン（地域別構想編）改定「まちづくり検討会」提案書などに目を通す。実際にまちを歩いてみる。
	教室外学習の時間（分）	180
第9回	授業テーマ	担当：伊藤貴紀（花田） 地域課題の解決策の共創と提案（ワークショップ含む）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発見した課題を踏まえ、解決策を検討し、提案する。各自の視点や考えを尊重しつつも、遠慮せず意見を交わし、自己理解と他者理解、地域課題への理解が深まる中で、「私」と「公」の両立する新たな解決策の協創につながることを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】前回ワークショップを踏まえ、各自の主観に基づいた地域課題とそれに対する解決策をそれぞれ検討し、当日のワークショップにのぞむ。
	教室外学習の時間（分）	180
第10回	授業テーマ	担当：岩本直樹 地域・社会との連携（食と教育）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本授業では、「地域・社会との連携（食と教育）」をテーマに、身近な食の問題と地域との関わりについて学ぶ。具体的には、地域の食育活動やスポーツと栄養の関係、地元の食品開発などの事例を紹介し、「食を通じた地域とのつながり」を考える。グループワークでは、「自分たちの地域にこんな取り組みがあったらいいな」というアイデアを話し合い、簡単な発表を行う。ICT活用として、スマートフォンやパソコン等で地域の食に関する情報を調べたり、発表用のスライドを作成したりする。情報リテラシー教育として、インターネット上の情報を正しく活用する方法を学ぶ。
		【予習】授業の前に、「自分の地元の特産品や食に関する取り組みを1つ

	教室外学習(予習・復習)の内容	調べる」。スマートフォン等で検索し、簡単なメモを取るだけでよい。 【復習】授業で考えた「こんな取り組みがあったらいいな」というアイデアを、家族や友人に話してみる。また、授業で紹介された事例の中で気になったものを1つ調べ、次回の授業で簡単に共有できるようにしておく。
	教室外学習の時間（分）	180
第11回	**授業テーマ**	担当：佐々木麻紀子 地域・社会との連携（ものづくり）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本授業では、「地域・社会との連携（ものづくり）」をテーマに、ものづくりと地域との関わりについて学ぶ。本学の地域連携活動ものづくりチャレンジ大作戦などを事例として取り上げ「ものづくりと地域とのつながり」を考える。グループワークでは、「ものづくり教室の取り組み」について話し合い、簡単な発表を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：本学の地域連携活動事例を調べる。 復習：安全なものづくり教室について考える。
	教室外学習の時間（分）	180
第12回	**授業テーマ**	担当：柳瀬洋美 地域社会との連携（子育て支援）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子育て家庭を取り巻く現状と課題を知り、「私にできる子育て支援とは」という視点から、地域社会における子育て支援（社会的子育て支援）のあり方について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】自分の今住んでいる地域や生まれ育った地域の子育て支援について調べておく。 【復習】授業内で考えた「私にできる子育て支援」についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	180
第13回	**授業テーマ**	担当：小川圭子 地域・社会との連携（街づくり）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本授業では、「地域・社会との連携（街づくり）」をテーマに、街づくりとは何か、街づくりに求められる要素を理解し、身近な街づくりと地域・社会の関わりについて学ぶ。課題事例を紹介しながら、街づくりを通して共創が必要とされていることを理解した上で、自ら関われる街づくりについて議論していく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：街づくりとは何かをイメージでも良いので答えられるようにしておく。 復習：あなたの地元の街づくりに関する問題点を明確にし、それに自分がどう関われるのかを考察する。
	教室外学習の時間（分）	180
	授業テー	担当：花田朋美

第14回	マ	地域・社会での持続可能な価値創造 学びのまとめと今後の展望
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの衣・食・住・こどもに関する学びを基に、特に興味を持ったテーマについて、地域・社会の持続的発展に寄与する身近な変革や新たな価値の創出についてプレゼンテーション発表をする。ICT活用と情報リテラシー教育として、スマートフォンやパソコン等で情報を収集し、分析・整理して、プレゼンテーション資料を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】プレゼンテーション資料の作成と発表練習をする。 【復習】自身のプレゼンテーション発表への取り組みを振り返り、良かった点と改善点を考察する。更に、質問された箇所や他者の発表も振り返り、自身の発表テーマとの関連性について考察する。
	教室外学習の時間（分）	310

学習計画注記

授業計画は変更される可能性があります。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業内におけるアドバイス及び、ディスカッション。
Googleを活用した双方向コミュニケーション。
毎回の授業課題は、その授業を担当した教員が採点しフィードバックする。

評価方法

レポート（内容の理解、構成、提出期限の順守を評価）
プレゼンテーション（内容の理解、資料の構成、発表の仕方を評価）
最終課題（内容の理解、構成、提出期限の順守を評価）
平常点（意欲、態度、グループワークにおける行動力、調整力、理解力を評価）
評価はルーブリックに基づくものとし、レポート、及びプレゼンテーション課題のルーブリックは、毎回の授業毎に担当教員が説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート課題	○	○	○	
プレゼンテーション課題	○	○	○	○
最終課題	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合

毎回のレポート課題、及びプレゼンテーション課題50%、最終課題20%、平常点30%

使用教科書名(ISBN番号)

適宜資料を配布

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【技能・表現】
衣・食・住・こどもを中心とする生活諸領域に関する知識・技能を基に、地域・社会の持続的発展について考察することができる
【思考・判断】【関心・意欲・態度】
グループワークを通して、共に課題に取り組む協働力や他者の思いを尊重し、相互にわかりあう共感力を育むことができる
身の回りの課題に自らの意思で取組み、課題解決に向けて諦めずやり抜く達成力を身につける

ことができる

オフィスアワー

木曜日12:40～14:20（花田）他、各教員のオフィスアワーは、各回の授業、またはGoogle Classroomにて案内します。

学生へのメッセージ

生活の中の身近な事柄に関心を持ち、小さな変革や新たな価値創出の種を見つけましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	ワークショップの実施（地域課題の発見と理解、解決策の提案等）
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション、グループワークの実施
情報リテラシー教育	○	情報を分析、整理し、アウトプットとしてのレポート課題、プレゼンテーションの実施
ICT活用		Googleを活用した双方向コミュニケーション

講義コード	S00000201
講義名	食科学概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活共創学部・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	黒田 久夫	指定なし

ナンバリング

K10012M21

授業概要(教育目的)

【授業の目的】
・食科学を学ぶことにより、食生活と健康にかかわる情報を正確に理解する力を身につけます。
・食科学を学ぶことにより、食生活と健康にかかわる情報の真偽を多面的に考える力を養います。
・食生活と健康にかかわる社会問題を科学の視点で分析し、課題と解決策を考える力を養います。
【授業の形式】
・本授業は、講義です。
・履修が確定したら、座席は固定します。
・授業中に理解度テストを行い、講義の理解度を評価します。
・授業の初めに復習テストを行います。

履修条件

1. PCを毎回持ってきてください。用意が出来ていない場合は、成績にペナルティを加えます。
2. 履修が確定したら、座席は指定します。基本的に、個人で授業を受けます。
3. 授業中に理解度テストを行い、授業の理解度を評価します。
4. 第2回から第13回では、授業初めに復習テストを行います。授業への参加度の評価に加算します。
5. 第14回に期末試験（50分）を行います。定期試験期間中のテストはありません。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	・食科学の基礎が理解できている。
思考・判断の観点	・食と栄養の問題を、印象や主観ではなく、客観的で合理的な考えに基

(K)	づいて判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・食科学を基礎から理解しようとするモチベーションがある。
技術・表現の観点 (A)	・食生活と健康にかかわる社会問題を自分の言葉で説明できる。 ・食生活と健康にかかわる社会問題を文章で表現することが出来る。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス・日本食品標準成分表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・本授業の学習目標・評価方法・予定を確認する。 ・科学とは何かについて、考える。 ・食と栄養を考える上で、科学が不可欠であることを確認する。 ・日本食品標準成分表の概要と、収載食品について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・本授業の学習目標を確認する。 ・復習テストの準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	栄養素と食品成分の基礎知識
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・健康増進法に規定されている栄養素を確認する。 ・日本人の食事摂取基準の概要を理解する。 ・食品成分データベースの基本的な利用方法を習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	たんぱく質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・タンパク質の基本的な構造を理解する。 ・食品と人体に存在するタンパク質の種類を理解する。 ・酵素について理解する。 ・栄養素としてのたんぱく質について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	炭水化物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・炭水化物の種類と構造について理解する。 ・食品に含まれている炭水化物について理解する。 ・栄養素としての炭水化物を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	脂質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・脂質の種類と構造について理解する。 ・食品に含まれている脂質について理解する。 ・栄養素としての脂質を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	ミネラル・ビタミン・健康機能に寄与する成分
		・ミネラル・ビタミン・健康機能に寄与する成分の種

第6回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	類と構造について理解する。 ・食品に含まれているミネラル・ビタミン・健康機能に寄与する成分について理解する。 ・栄養素としてのミネラル・ビタミンを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	栄養の設計（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・食品成分データベースを利用して、食事の栄養成分を分析します。 ・食事摂取基準に関する知識をもう一度復習します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	栄養の設計（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・エクセルを利用した食事の食品成分の解析を紹介します。 ・栄養と嗜好性のバランスについて考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	食品のリスク
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・食品に含まれる有害成分・有害生物の種類を学びます。 ・食品のリスクを低減する方法を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	食と健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・生活習慣病と食の関係を学びます。 ・近年問題となっている健康上の問題や、食と生活スタイルに関する知見を学び、解決方法を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	加工食品
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・加工食品の製造方法・品質管理について学びます。 ・近年健康上の問題が指摘されている超加工食品や食品添加物の問題点について考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	食科学に関する最近の話題（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・近年、報告された食品中のリスク成分や食品について解説します。 ・食生活と健康にかかわる社会問題を科学の視点で分析し、課題と解決策を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分

第13回	授業テーマ	食科学に関する最近の話題（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・近年、報告された食に関係する社会問題について、科学的に分析します。 ・食生活と健康にかかわる社会問題を科学の視点で分析し、課題と解決策を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・復習テストの学習 ・教室外学習（課題）の提出
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	期末試験／授業のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・期末試験を実施します ・授業のまとめを行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業のまとめを投稿してください。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

1. PCを毎回持ってきてください。用意が出来ていない場合は、成績にペナルティを加えます。
2. 履修が確定したら、座席は指定します。基本的に、個人で授業を受けます。
3. 授業中に理解度テストを行い、授業の理解度を評価します。
4. 第2回から第13回では、授業初めに復習テストを行います。復習テストは、理解度テストを中心として出題します。授業への参加度の評価に加算します。

学生へのフィードバック方法

・質問がある場合は、クラスルームの教室外学習の質問に表示される「限定公開のコメント」が利用できます。質問があった場合は、質問の内容によって、個別またはクラスに回答します。

評価方法

①授業への参加度
・授業初めの復習テストを用いて評価します。
・授業内での理解度テストを用いて評価します。
・教室外学習の取り組みを評価します。
②期末試験
・授業の理解度をペーパーテストで評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
①授業への参加度	○	○	○	○
②期末試験	○	○		○

評価割合

①授業の理解度（70%）
②期末試験（30%）

使用教科書名(ISBN番号)

ニュートン別冊 科学的に正しい栄養の教科書 改訂第２版
https://www.newtonpress.co.jp/separate/back_medical-pharmacy/mook_250821_3.html
ISBN978-4-315-52947-0

参考図書

日本人の食事摂取基準（2025年版）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/eiyou/syokuji_kijyun.html

日本食品標準成分表（八訂）増補2023年
https://www.mext.go.jp/a_menu/syokuhinseibun/mext_00001.html

食品成分データベース
https://fooddb.mext.go.jp/

その他に、各種ニュースソースや、データベースの記事等を利用します。URL等は、クラスルームに掲示します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】生活にかかわる知識を多面的に身に付けている。
【思考・判断】地域・社会に関する諸課題を自分ごととしてとらえ、適切な手法で分析することができる。
【関心・意欲・態度】他者の視点やニーズを理解し、社会に新たな価値を見出すことができる。
【技術・表現】人々が快適に生活できる持続可能な生活様式を提案することができる。

オフィスアワー

授業後

学生へのメッセージ

・食と栄養の社会的問題を考える上で、科学の側面を無視することはできないと思いますし、科学を理解していないデメリットやリスクはとても大きいと思います。
・栄養士を目指す食科学コースに配属された皆さんは、食品学や栄養学など、食と栄養の科学の習得はマストであり、仕事をする上でとても大切になります。
・本授業は、食科学コース以外の方も授業を理解できるように、講義を工夫していきます。必要な知識は、復習テストで確認できるようにしていますので、充分学習してください。食品成分と栄養の知識は、保育士を目指す皆さんにも必要ですし、健康な生活を生涯に渡って過ごす上でとても大切だと思います。
・習得した知識をどのように生活や仕事に活かしていくかを考えていくことが大事です。教室外学習では、それぞれの授業テーマに関連する社会的な問題に関する問題を出題しますので、関心をもって調べ、自分の意見を述べることができるように学んでいってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	食品企業でのキャリアから学んだ様々なことをお伝えしたいと考えています。
アクティブ・ラーニング	○	自主的に取り組めるコンテンツを多く用意しています。
情報リテラシー教育	○	各種データベースの利用方法を説明します。
ICT活用	○	・授業は、PCを利用します。 ・アプリ（エクセル）のスキルを説明します。

講義コード	S00000301
講義名	住環境デザイン概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活共創学部・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	小川 圭子	指定なし

ナンバリング

K10013M21

授業概要(教育目的)

住居は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活を営むための最も基本的な場である。現代においても住居に関する様々な課題が存在している。この授業は、住居全般についての基礎的知識を習得することを目的に、個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度から検討を行う講義科目である。人間にとって住まいとは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について検討するための基礎的知識を講義する。

履修条件

特になし(建築士試験指定科目)

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	住居を中心とした住環境についての基礎的知識、住生活に関する諸問題を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	人間にとって住環境とは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度からみた課題について検討を行うことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス・住居の機能・寸法と空間
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	住環境とは、住居の備えるべき機能、住宅内での生活行為とスケールの関係、住空間の配置とゾーニング、動線につ

第1回	を含む)	いて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自宅を事例として、スケール、ゾーニング、動線について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第2回	授業テーマ	日本の住環境の歴史①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の住まい、住まい方の変遷について、古代～江戸時代までについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）住まい、住まい方の変化と時代背景について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第3回	授業テーマ	日本の住環境の歴史② 生活様式と住居
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の住まい、住まい方の変遷について、明治時代～昭和時代までについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）住まい、住まい方の変化と時代背景について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第4回	授業テーマ	現代の家族と住まい
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	少子化・高齢化など現代日本における家族の状況と、それに合わせて必要になる住まいについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分自身のライフサイクル、ライフコースと住居との関係について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第5回	授業テーマ	住宅政策
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第二次世界大戦後の日本の住宅政策の展開について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）誘導居住面積水準、最低居住面積水準で示される面積について、自宅や住宅広告などを例に具体的な広さを体感する。
	教室外学習の時間（分）	200
第6回	授業テーマ	住まいと環境
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	快適な住まいを実現するための温熱、光、音、空気、水などの住環境の調整方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自宅での水道使用量について調べ、平均と比較しながら水の節約について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第7回	授業テーマ	安心・安全な住まい
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事故・災害、犯罪、健康被害などの建物の安全を脅かす事象とその防止法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自宅を事例に、災害への備えについて点検する。
	教室外学習の時間（分）	200
	授業テーマ	高齢化社会と住まい・介護保険
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	

第8回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢社会における住居について、ユニバーサルデザイン、バリアフリーの観点から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自宅を事例に、バリアフリー化の状況について点検する。
	教室外学習の時間（分）	200
第9回	授業テーマ	集まって住む・共用部と専有部
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集合住宅に住む意義、集合住宅と街との関係性、集合住宅の供給形式について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分の住む町の大規模集合住宅と周辺との関係性について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第10回	授業テーマ	空き家問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の人口構造の変化に伴う空き家問題について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分の住む地域の空き家の状況について考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第11回	授業テーマ	住居の設計・用途地域・建ぺい率・容積率
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図面の概念、住居の設計プロセス、建ぺい率、容積率について学ぶ。建築図面の種類について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）建築物の形がどのような理由でその形になっているのかを考える。
	教室外学習の時間（分）	200
第12回	授業テーマ	平面図等の見方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平面図を読み取るために必要な基本的な表示記号や関連する事項を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	(復習)図面の線が何を表しているのかを身の回りの実物を見ながら確認する。
	教室外学習の時間（分）	200
第13回	授業テーマ	新築と増改築、建築主･施工者･設計者の関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築の種類や建築主・施工者・設計者の関係を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）建築に関する言葉の意味や建築主・施工者・設計者の関係を再確認する。
	教室外学習の時間（分）	200
第14回	授業テーマ	住環境と景観
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住環境と景観についての考え方や様々な制度を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）良好な景観を維持・創出するには、自身がどのような取り組みを行えば良いかを考える。
	教室外学習の時間（分）	200

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

小課題については、授業時間内に全体講評をおこなう。

評価方法

小課題は、授業時間内に実習課題として実施するものと、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述するもの、合わせて10回程度の実施を予定している。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。
定期試験は、授業で配付したプリントのみ持ち込み可能とし、択一問題、穴埋め問題、語句の説明問題、考えを問う問題を出題する。
なお、評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小課題	○	○	○	
定期試験	○	○	○	

評価割合

小課題40%、定期試験60%により総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

参考書1：生活と住居 定行まり子・沖田富美子編著 光生館 2013
参考書2：豊かな住生活を考える―住居学 小澤紀美子編 彰国社 2002

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】住環境について、知識を多面的に身に付けている。
【思考・判断】住環境について、諸課題を自分ごととしてとらえ、適切な手順で分析することができる。
【関心・意欲・態度】住環境について、他者の視点やニーズを理解し、社会に新たな価値を見出すことができる。

オフィスアワー

水曜昼休み～３時限 3512研究室

学生へのメッセージ

家政学の他分野等との関連・連携を念頭に置き、広い視野に立ち問題を考えるよう心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomを利用し、課題提出などを求める。

講義コード	S00000401
講義名	被服学概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活共創学部・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	富田 弘美	指定なし
准教授	花田 朋美	指定なし

ナンバリング

K10014M21

授業概要(教育目的)

被服に求められる機能は、社会・心理的快適性に関わる機能と、身体・生理的快適性に関わる機能とから成る。したがって、被服について学ぶには、被服材料学、被服管理学、被服衛生学、服飾デザイン、被服構成学、服装史等、多角的に学ぶことが必要となる。本講では、家庭、地域、社会、及び教育の現場で求められる知識や能力を身に付けることを目的として、被服領域全般における基礎的事項を概括的に学ぶ。さらに、現代そして今後の衣生活に求められている課題について考える力を育成する。

（花田朋美／７回）被服に要求される保健衛生的快適性に関わる機能について概説する。
（富田弘美／７回）被服に要求される審美的・社会的快適性に関わる機能について概説する。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	被服分野の基礎的な知識を多角的に身に付けることができる。
思考・判断の観点 (K)	被服分野の各領域を総括的に捉え、適切な手法で理解して考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	被服分野に内在する諸課題に積極的に関心を持ち、新たな価値を見出すことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

被服学概論

第1回	授業テーマ	被服学の領域、被服の着用目的と被服の機能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	被服着用の目的を、人間の進化の観点から概説する。被服と人の関わりについて考察し、現代における被服の機能や役割について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【復習】授業を振り返り、自身がなぜ、どのように服を着用しているのか考える。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	授業テーマ	被服の生産と消費
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	被服の生産と消費について学び、被服に関する社会問題について考察する。ICT活用と情報リテラシー教育として、スマートフォンやパソコン等で被服に関わる社会問題について情報を収集し、分析・整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 被服がどのように生産され消費されているかについて調べる。 【復習】 被服に関する社会問題について、より深く調べておく。
	教室外学習の時間（分）	215分
第3回	授業テーマ	被服の消費性能と被服材料の性能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	被服の使用目的や用途に応じて求められている性能とはどのようなことか、求める性能を発現するために必要な被服材料はどのようなものかを学ぶ。アクティブラーニングとして、グループに分かれて、繊維の吸水性を確かめる実験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 指定した場面ではどのような衣服が適しているか検討する。 【復習】 吸水性実験の結果を一例として、被服に求められる消費性能とは何か整理する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	被服の材料
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	被服を構成する繊維・糸・布の物理的な構造や化学的な性質について学び、被服を構成する材料について理解する。アクティブラーニングとして、サンプル布を解して、布⇒糸⇒繊維の構造を観察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 天然繊維の種類と化学繊維の種類について調べる。 【復習】 各種繊維の特徴的な構造や性質を整理し、まとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分

第5回	授業テーマ	被服材料の性能改善
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	用途に合わせた性能を持つさまざまな機能性材料が開発されている。その製造方法や加工技術について学び、高機能性繊維の概要を理解する。ICT活用と情報リテラシー教育として、「高機能性繊維」「バイオミメティック繊維」について情報収集し、分析・整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 身近な機能性素材について調べる。 【復習】 より多くの活用されている「高機能性繊維」「バイオミメティック繊維」について調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	被服の性能保持と健康
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	被服を長期的に着用するための被服洗浄と保管について科学的に理解し、被服管理について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 自身（もしくは家族）が行っている洗濯方法について確認し、まとめておく。 【復習】 被服の洗浄の科学的な仕組みを振り返り、自身で着用した服を洗濯し、長く着用するための保管方法を検討する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	持続可能な衣生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	環境や社会的な問題に配慮した衣服とはどのようなことか検討し、持続可能な衣生活のために自身ができる取り組みについて考察する。ICT活用と情報リテラシー教育として、スマートフォンやパソコン等で衣服に関する環境・社会問題とそれらに対応する新たな取り組みについて情報を収集し、分析・整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 衣服に関する環境・社会問題について調べておく。 【復習】 持続可能な衣生活のために自身が取り組めることについて整理してまとめる。
	教室外学習の時間（分）	220分
第8回	授業テーマ	アパレルデザイン１－デザインの基礎－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「デザイン」という言葉の意味・概念を理解し、デザイン構成要素、衣服美の表現について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の分野、興味ある分野に落とし込んで「デザインとは何か」を考え、アパレルデザインについてノートを整理すること。
	教室外学習	

	の時間（分）	185分
第9回	**授業テーマ**	被服の変遷１－西洋の服装－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	古代ギリシャ・ローマ、中世、15世紀から20世紀の服装について社会背景とともに変遷を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	創立者大江スミが留学した頃の20世紀初頭のファッションや芸術についてノートを整理すること。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	被服の変遷２－日本の服装（1)－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	古代から中世の公家装束、武士の甲冑、近世の小袖（きもの）、近代の宮廷服、戦後日本のファッションについて社会背景とともに変遷を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本の服装についてノートを整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	被服の変遷３－日本の服装（2)－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	古代から中世の公家装束、武士の甲冑、近世の小袖（きもの）、近代の宮廷服、戦後日本のファッション、ジェンダーレスファッションについて社会背景とともに理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	戦後日本のファッションについてノートを整理し、特にジェンダーレスファッションについて考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	和服の文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の民族衣装である和服について、浴衣を中心に男女の違い、着付けに必要な道具、たたみ方など基本的なことを理解し、各地の伝統的な織物、染物の特徴を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	和服の特徴についてノートを整理すること。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	アパレル設計１－ 身頃原型と既製服のJISサイズ
	学習内容(ｱｸ	

第13回	ﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	既製服の誕生から量産の背景、アパレル産業の構造、既製服のJISサイズのシステムを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分のJISサイズを把握し、ノートを整理すること。
	教室外学習の時間(分)	190分
第14回	授業テーマ	アパレル設計２－ 衣生活と福祉（ユニバーサルファッション）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アパレルの仕事、アパレル産業の現状について理解し、高齢者・障害のある人に考慮したデザイン（運動機能、生理機能）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ノート全体を整理しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	190分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業内でのグループワークでの体験学習時のアドバイス、及びディスカッション。

評価方法

①第１回～７回担当者による筆記試験
②第１回～７回の平常点
③第８回～１４回担当者による筆記試験
④第８回～１４回の平常点

上記の評価は、ルーブリックを用いて行う。（ルーブリックについては、クラスルームまたは授業内での配付等によって指示する。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
第1回～第8回の筆記試験	○	○	○	
第1回～第8回の平常点			○	
第8回～第14回の筆記試験	○	○	○	
第8回～第14回の平常点			○	

評価割合

第１回～第７回と第８回～第１４回の担当者別の筆記試験（80%）および平常点（20%）による総合評価

使用教科書名(ISBN番号)

適宜プリントを配布

参考図書

第１回～第７回
①やさしい繊維の基礎知識（ISBN4-526-05289-2 繊維学会編 日刊工業株式会社発行 2004年） ②アパレル生理衛生論(日本衣料管理協会刊行委員会編 一社 日本衣料管理協会発行 平成28年）
③衣服管理の科学（ISBN978-4-7679-1048-2 片山倫子編 建帛社発行 2016年第11刷)
④衣生活のための消費科学(日本衣料管理協会刊行委員会編 一社 日本衣料管理協会発行 平成30年）
第８回～第14回
①アパレルデザインの基礎（日本衣料管理協会刊行委員会編 一社 日本衣料管理協会発行 平成16年）
②アパレル設計実習・アパレル生産実習（日本衣料管理協会刊行委員会編 一社 日本衣料管理協会発行 2019年）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・技能】被服分野に関する課題に対して生活科学を基点とした知識を身に付けている。
【思考・判断】被服分野の諸問題を自分ごととしてとらえ、適切な分析、整理して考察することができる。
【関心・意欲・態度】身の回りの被服分野の課題に自らの意思で取り組み、課題解決に向けてやり抜くことができる（達成力）。

オフィスアワー

木曜日12時40分から14時20分 ２４０７被服材料学研究室（花田）
金曜日12時30分から14時50分 １４０５被服構成学研究室（富田）

学生へのメッセージ

被服を最も身近な環境と捉え、快適な衣服とは何か考えてほしいと思います。（花田）
被服材料、被服衛生、被服管理、被服造形、服飾デザイン、服飾美学、服飾史などを多角的に概説します。被服の領域全般を広く学ぶことによって基礎的な衣生活に関する力が身に付きます。また、興味のある分野との繋がりを考えて学際的に広い視野を持って学んでいただきたいと思います。(富田）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによるディスカッション。
情報リテラシー教育	○	情報を収集し、分析、整理して、まとめる。
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション。

講義コード	S00000501
講義名	こども学概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活共創学部・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	新開 よしみ	指定なし

ナンバリング

K10015M21

授業概要(教育目的)

子どもとは何か。私たちは子どもについてどのように考え、関わっていったらよいか。こども学における基礎的課題（子ども観、子どもの発達等）を、現実の生活と関連して捉え、子どもについての理解を深める。また、子どもを取り巻く問題の解明に向けて、大人や社会、子どもを取り巻く環境のあり方について探究する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	「子ども理解」を出発点とした子どもの保育・教育、福祉、文化等の視点から、現代の子どもを取り巻く基礎的諸課題について理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	子どもと共に生きる大人が果たすべき役割について、具体的に考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・子どもをめぐる諸問題・課題に関心を持ってとりくみ、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために行動する態度を身につける。 ・子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につける。
技術・表現の観点 (A)	自分の意見を他者に伝わるよう適切に表現しながら、ディスカッションを通して自分の考えを吟味したり、深めたりすることができる。

学習計画

	授業テーマ	こども学の対象としての「子ども」

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもを知り、子どもに学び、子どもとの関係を考える子ども学のあり方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第2回	授業テーマ	わたしの中の子どもと出会う
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの頃の自分、周りの人々、好きだった遊び、印象に残っている出来事、その時の気持ちなどについて振り返りながら、人生における子ども時代の意味を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第3回	授業テーマ	子ども時代回想の詩 朗読会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の作った詩を朗読しあい、子どもの内面の多様性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第4回	授業テーマ	子どもと絵本
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもと絵本のかかわりについて考える。絵本の中に描かれた子どもの姿から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第5回	授業テーマ	子どもの遊びと文化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの遊び文化、児童文化財、メディア環境について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
	授業テーマ	子どもの遊びと環境
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	子どもの遊び場や遊びの環境について考える。

	育・ICT活用を含む)	
第6回	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第7回	授業テーマ	乳児の世界～赤ちゃんってどんな存在？～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所保育指針や映像をもとに、乳児の発達について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第8回	授業テーマ	０・１・２歳児の育ちと保育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所保育指針や映像をもとに、０・１・２歳児の保育の基本について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第9回	授業テーマ	幼児の世界（１）園生活と子ども
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指針・要領や映像をもとに、幼児の発達と保育の基本について学ぶ。 現行の保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領の骨子を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第10回	授業テーマ	幼児の世界（２）幼児理解にはじまる保育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	園生活における具体的な幼児の姿から、その内面について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：これまでの授業で学んだことを整理し、授業後半に向けた準備をする。
	教室外学習の時間(分)	190分
	授業テーマ	幼児の世界（3）主体的な遊びと幼児の育ち
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	園生活の中で主体的な遊びや生活を通して育まれる子どもの資

第11回	育・ICT活用を含む)	質・能力について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：これまでの授業で学んだことを整理し、授業後半に向けた準備をする。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	子どもの権利条約
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代社会における子育て・子育ちの諸課題と関連づけながら、子どもの権利条約について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	子どもをめぐる今日的課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近年の子ども・子育て・教育・保育をめぐる日本や諸外国の動向について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	子どもと共に主体として生きる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	講義のまとめ（50分）：これまでの学習内容を振り返る。 期末レポートの作成（50分）：今後取り組むべき課題について整理・考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：期末レポート作成の準備をする。授業で学んだことを整理し、今後の学習や研究に興味・関心を持って臨めるようにする。
	教室外学習の時間（分）	230分

学生へのフィードバック方法

授業中に記述したコメントペーパーや事例検討などについては、適宜次週以降の授業中に紹介し、授業内容の理解に役立てていく。
質問がある場合には授業の前後または研究室（mailも可）に積極的に声をかけること。

評価方法

授業への取り組みの態度、授業中の実績、課題提出状況等に基づく平常点（50%）と、期末レポート（50%）により総合的に判断する。
レポートの評価のポイントに関しては、ルーブリックを提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
期末レポート	○	○	○	○

評価割合

平常点（授業や課題への取り組み等）（50%）、期末レポート（50%）

参考図書

授業中に適宜指示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
多様な子どものwell-being向上に寄与する基礎的知識を身につける。
【思考・判断】
子どもを取り巻く社会における課題の解決に向けて、論理的・多角的に考えることができる。
【関心・意欲・態度】
身の回りの子どもをめぐる諸問題・課題に関心を持ち、課題解決に向けてクラスメイトと共に協働して取り組む。
【技能・表現】
多様な子どもたちのwell-being向上に寄与する技能を身につける。

オフィスアワー

木曜日 2時限 1632研究室

学生へのメッセージ

子どもに関する様々な課題（子どもを観察したり、接したりしてみること、子どもに関する様々な問題についてニュース、新聞、本等で調べること、絵本、児童文学や玩具、遊び場、子どもの生活する環境等に触れてみること）に関心を向け、積極的にかかわったり、行ったりしてみることを望みます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション、発表等を通し、主体的・能動的に学びを深めていく。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	内容に応じてPCを活用した双方向型授業を展開する。

講義コード	S00000601
講義名	生活イノベーション概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活共創学部・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	江田　裕介	指定なし
教授	嶋田　芳男	指定なし
教授	吉永　早苗	指定なし
准教授	小川　圭子	指定なし
准教授	岩本　直樹	指定なし
助教	松山　直輝	指定なし

ナンバリング

K10016M21

授業概要(教育目的)

最先端の研究成果を私たちの生活にあわせていくことによって、我々は、生活のイノベーションを思考・計画・実行していくことが可能である。本講義では、オムニバスで授業を実施し、各教員の専門領域から生活をイノベーションしていくことについて学ぶ。また、最先端の研究成果を知ることで、自身がどのようにその研究成果を生活へ応用していくかを思考し、アイディアを共有し合うアクティブラーニングを実施する。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	生活の質を向上させるためのイノベーションの視点を理解している。
思考・判断の観点 (K)	各分野の専門的な知識を学び、相互の関連性を考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会課題を多角的に捉え、解決策を議論することができる。

技術・表現の観点 (A)	実生活において応用可能なアイデアを発想し、発表することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	住環境の視点からイノベーションを考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンス 住環境とは、住居や地域施設をはじめとする私たちの生活環境すべてを指す。住環境を取り巻く様々な社会問題を事例として挙げ、なぜそのようなことが起こっているのかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：住環境に関する社会問題にどのようなものがあるのかを調べてくる。 復習：授業内で取り上げた事例をさらに深堀したものを次回の授業で共有できるようにする。
	教室外学習の時間(分)	180分
第2回	授業テーマ	グループディスカッション１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前時の授業を振り返り、興味・関心をもった内容と、そこから何を学ぶことができたかをまとめるとともに、「住環境」の視点から生活の中にあるイノベーションについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業のテーマと関連する情報を自分で調べ、予備知識を得る。 復習：ディスカッションを振り返り、自分の意見や提案をまとめる。
	教室外学習の時間(分)	240分
第3回	授業テーマ	食の視点からイノベーションを考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本授業では、「食の視点からイノベーションを考える」をテーマに、最新の栄養学や医学の研究成果が、私たちの食生活や健康にどのような変革をもたらすのかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】「食と健康に関する最新の話題を1つ調べる」。 【復習】授業で学んだ「食のイノベーションの可能性」について、自分の生活にどう取り入れられるかを考える。特に、授業内で議論したアイデアの中で気になったものを深掘りし、簡単にまとめて次回の授業で共有できるようにする。
	教室外学習の時間(分)	180分
	授業テーマ	グループディスカッション２
	(	

第4回	学習内容（アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む）	前時の授業を振り返り、興味・関心をもった内容と、そこから何を学ぶことができたかをまとめるとともに、「食」の視点から生活の中にあるイノベーションについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業のテーマと関連する情報を自分で調べ、予備知識を得る。 復習：ディスカッションを振り返り、自分の意見や提案をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	240分
第5回	授業テーマ	こども（特別）支援の視点からイノベーションを考える
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	発達が気になる児童や、障害のある児童の教育におけるICTを活用した教育の実践例を学びます。また、先端的なAT（アシスティブテクノロジー）の開発について事例を通じて考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	＜予習＞　次のサイト等を参考にして授業と関連する予備知識を得ておく。 ◆国立特別支援教育総合研究所HP 「特別支援教育に役立つアシスティブ・テクノロジー」 https://www.nise.go.jp/cms/6,6204,13,257.html ＜復習＞　障害のある人への「合理的配慮」とテクノロジーとの関係についてレポートする。
	教室外学習の時間（分）	195分
第6回	授業テーマ	グループディスカッション３
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	前時の授業を振り返り、興味・関心をもった内容と、そこから何を学ぶことができたかをまとめるとともに、「こども（特別）支援」の視点から生活の中にあるイノベーションについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業のテーマと関連する情報を自分で調べ、予備知識を得る。 復習：ディスカッションを振り返り、自分の意見や提案をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	240分
	授業テーマ	福祉の視点からイノベーションを考える
	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活	いくつかの福祉サービスの成立過程を紹介し、その過程を通してイノベーションについて考えていく

第7回	用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	どのような高齢者福祉サービスがあるかについて、事前学習する
	教室外学習の時間(分)	195分
第8回	授業テーマ	グループディスカッション４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前時の授業を振り返り、興味・関心をもった内容と、そこから何を学ぶことができたかをまとめるとともに、「福祉」の視点から生活の中にあるイノベーションについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業のテーマと関連する情報を自分で調べ、予備知識を得る。 復習：ディスカッションを振り返り、自分の意見や提案をまとめる。
	教室外学習の時間(分)	240分
第9回	授業テーマ	健康科学の視点からイノベーションを考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ICT・IoT機器を活用したスポーツや、オンラインスポーツコーチングの取り組みを紹介し、それら道具や環境を活かした健康科学のイノベーションについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	スポーツ科学やスポーツイノベーションについて、Webで調べ、知見を深めておく。
	教室外学習の時間(分)	150分
第10回	授業テーマ	グループディスカッション５
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前時の授業を振り返り、興味・関心をもった内容と、そこから何を学ぶことができたかをまとめるとともに、「健康科学」の視点から生活の中にあるイノベーションについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業のテーマと関連する情報を自分で調べ、予備知識を得る。 復習：ディスカッションを振り返り、自分の意見や提案をまとめる。
	教室外学習の時間(分)	150分

第11回	授業テーマ	音・音楽の視点からイノベーションを考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	音には、感情を動かし、空間を変え、人と人をつなぐ力があります。この力から、さまざまなイノベーションが創出されています。「マルチモーダルな音体験」「音楽とバイオフィードバックの組み合わせ」「音・音楽による教育・子どもの発達支援」など、授業では、音や音楽の視点から生活の中のイノベーションを見出し、今後の活用の可能性について考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	音や音楽の視点から、生活の中にあるイノベーションを見出し、発表できるようにしておく。
	教室外学習の時間（分）	150分
第12回	授業テーマ	グループディスカッション６
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前時の授業を振り返り、興味・関心をもった内容と、そこから何を学ぶことができたかをまとめるとともに、「音・音楽」の視点から生活の中にあるイノベーションについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業のテーマと関連する情報を自分で調べ、予備知識を得る。 復習：ディスカッションを振り返り、自分の意見や提案をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	150分
第13回	授業テーマ	グループ発表の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活者が生み出す身近なイノベーションについて、グループ発表を行うための準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：これまでの授業内容やディスカッションの内容を振り返り、生活者が生み出す身近なイノベーションのアイディアを考える。 復習：グループワークの成果をまとめ、発表の準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	150分
第14回	授業テーマ	最終発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活者が生み出す身近なイノベーションをとりまとめ、グループ発表を行う。

	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：グループ発表の準備を行う。 復習：最終レポートに取り組む。
	教室外学習の時間（分）	240分

学生へのフィードバック方法

小レポート・課題については、担当者からGoogleクラスルーム等を通じてフィードバックする。
最終発表については、授業内でコメントを伝える。
最終課題については、ルーブリックを提示するとともに、それに基づいたコメントをフィードバックする。

評価方法

各回の講義に積極的に参加し、議論に貢献すること。
事前課題やレポートを適切に提出すること。
異なる分野の知識を結びつけながら、自らの考えを深める姿勢を持つこと。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業への参加・発言	○	○	○	○
小レポート・課題	○	○	○	
最終発表・レポート	○	○		○

評価割合

授業への参加・発言（30%）
小レポート・課題（40%）
最終発表・レポート（30%）

使用教科書名(ISBN番号)

授業内で適宜指示する。

参考図書

授業内で適宜指示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・技能】
生活の質を向上させるためのイノベーションの視点を多面的に理解している。
【思考・判断】
社会の諸課題を自分ごととして考え、生活に係るイノベーションを思考することができる。
【関心・意欲・態度】
他社の視点やニーズを理解し、社会に新たな価値を見出すことができる。
【技能・表現】
実生活において応用可能なアイデアを発想し、人々が快適に暮らすことのできる生活様式を提案することができる。

オフィスアワー

江田：金曜3限

学生へのメッセージ

私たちの生活は、最先端の研究成果と結びつくことで、より豊かで快適なものへと進化していきます。授業では、各分野の専門家である教員が、「生活をより良くするための最新の知見」を分かりやすく解説します。学んだことをもとに、「これを日常生活に活かすとしたら？」と話し合い、未来の生活を一緒に考えましょう。あなたの発想が、新しい「生活のイノベーション」につながるかもしれませんね！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	第5回担当教員は児童発達臨床における16年間の実務経験を有する。
アクティブ・ラーニング	○	ディスカッションとプレゼンテーションを行う。
情報リテラシー教育	○	情報モラルとその教育について学ぶ。
ICT活用	○	学校教育におけるICT活用とアシスティブテクノロジーについて講ずる。

講義コード	S00000701
講義名	ＡＩ時代の生活科学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活共創学部・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	千葉　一博	指定なし

ナンバリング

K10021M21

授業概要(教育目的)

急速に進化するAI（人工知能）により私たちの生活はどう変わるのだろうか。AIに関わる研究者や実務家によるゲスト講師による講義を交え、そもそもAIとは何か、これまでの情報技術と何が違うのか、私たちの暮らしにどのような恩恵をもたらすのか、その一方でいかなる課題があるのかなどについて理解を深めた後、AIが生活を大きく変化させつつある事例を学び、AIを上手に活用することで私たちの生活をより良きものにするために何が必要かを共に考えてみたい。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	AI について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	他者の思いを尊重してディスカッションし、相互にわかりあうことができる。 自分が属するグループにおいてリーダーシップを発揮し、メンバとともに課題に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。 ディスカッションの練習をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: グループ交流する。
	教室外学習の時間(分)	60
第2回	授業テーマ	情報技術
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの情報技術について理解し、ディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: グループ交流する。 復習: グループ交流する。
	教室外学習の時間(分)	60 180
第3回	授業テーマ	AI
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	AI とは何かを理解し、ディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: グループ交流する。 復習: グループ交流する。
	教室外学習の時間(分)	60 60
第4回	授業テーマ	AI の進化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	AI の急速な進化について理解し、ディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: グループ交流する。 復習: グループ交流する。
	教室外学習の時間(分)	60 180
第5回	授業テーマ	AI による生活の変化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	急速に進化する AI によって私たちの生活がどう変わるのかを理解し、ディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: グループ交流する。 復習: グループ交流する。
	教室外学習の時間(分)	60 60
第6回	授業テーマ	AI が生活にもたらす恩恵 (1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	AI が私たちの暮らしにどのような恩恵をもたらすのかを理解し、ディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: グループ交流する。 復習: グループ交流する。
	教室外学習の時間(分)	60 180
	授業テーマ	AI が生活にもたらす恩恵 (2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	AI が私たちの暮らしにどのような恩恵をもたらすのかを理解

第7回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	し、ディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: グループ交流する。 復習: グループ交流する。
	教室外学習の時間(分)	60 60
第8回	授業テーマ	生活における AI の課題 (1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	私たちの生活において AI にいかなる課題があるのかを理解し、ディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: グループ交流する。 復習: グループ交流する。
	教室外学習の時間(分)	60 180
第9回	授業テーマ	生活における AI の課題 (2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	私たちの生活において AI にいかなる課題があるのかを理解し、ディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: グループ交流する。 復習: グループ交流する。
	教室外学習の時間(分)	60 60
第10回	授業テーマ	AI による生活変化の事例 (1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	AI が生活を大きく変化させつつある事例を学び、ディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: グループ交流する。 復習: グループ交流する。
	教室外学習の時間(分)	60 60
第11回	授業テーマ	AI による生活変化の事例 (2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	AI が生活を大きく変化させつつある事例を学び、ディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: グループ交流する。 復習: グループ交流する。
	教室外学習の時間(分)	60 180
第12回	授業テーマ	AI の活用と私たちの生活 (1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	AI を上手に活用することで私たちの生活をより良きものにするために何が必要かを共に考え、ディスカッションする。ディスカッションの内容をスライドに書く。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: グループ交流する。 復習: スライドを完成させる。
	教室外学習の時間(分)	60 60
第13回	授業テーマ	AI の活用と私たちの生活 (2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	AI を上手に活用することで私たちの生活をより良きものにするために何が必要かを共に考え、ディスカッションする。ディスカッションの内容をスライドに書く。

	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: グループ交流する。 復習: スライドを完成させる。
	教室外学習の時間（分）	60 60
第14回	授業テーマ	ふり返り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業全体をふり返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習: グループ交流する。 復習: 期末レポートに取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60 540

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

スライドは、コメントを付けて返却する。

評価方法

・平常点は授業への参加状況・ディスカッションへの参加等で総合的に判断する。
・期末レポートは、授業のふり返りに基づいた論述形式とする。また、AI に関する理解度を確認する。
・平常点、スライド、期末レポートは、下表に示す力を養うことを目的に実施・評価する。
・ルーブリックでの評価である。ルーブリックについては、本学で用いる学習管理システムでの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
スライド	○		○	
期末レポート	○			

評価割合

平常点（40%）、スライド（30%）、期末レポート（30%）などを総合的に評価する。

参考図書

美馬のゆり: AI の時代を生きる---未来をデザインする創造力と共感力, 岩波ジュニア新書 941, 岩波書店 (2021)

ディプロマポリシーとの関連

【知識・技能】社会の諸課題に対応することができる生活科学を基点とした知識・技能
【共感力】他者の思いを尊重し、相互にわかりあう共感力
【協働力】自分が属する場においてリーダーシップを発揮し、多様な人々と共に課題に取り組む協働力

オフィスアワー

月曜 4 限・水曜 3 限 1411研究室
早朝・深夜を除き、メールでも相談に応じる。
必要であれば、日時を調整してオンラインで対応する。

学生へのメッセージ

授業の復習をしっかりとすること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	AI に関わる実務家の講師による講義を交え、実際の事例を学べるようする。
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的にディスカッションに参加することによって、共感力や協働力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	AI に関する学修力を養成する。
ICT活用		

講義コード	S00000801
講義名	リーダーシップ基礎
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活共創学部・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	吉武　博通	指定なし

ナンバリング

K10022M21

授業概要(教育目的)

リーダーシップは管理者や上位者だけに求められるものではなく、あらゆる組織、コミュニティ、地域社会など様々な場面において、立場を超えて必要とされる大切な要素である。このような考え方に基づき、リーダーシップとは何か、どうすればそれを身に付けることができるかについて、研究で生まれた理論と具体的な事例を通して、共に学び、考えてみたい。その際の重要なキーワードは「信頼」である。信頼があるからこそ、人はその人についていきたいと考える。そして、誰もがリーダーシップを発揮できる可能性を有している。これらのことを理解し、実践につなぐ学びの場としてこの授業を活かしてほしい。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	経営学がどのような学問であり、そのなかでリーダーシップ論がどのような位置付けにあるかについて、基礎的な内容を説明でき、リーダーシップの必要性やその意義を理解できること。
思考・判断の観点 (K)	組織とは何か、社会や組織におけるリーダーシップの意義について、知識や理解にとどまらず、筋道立てて、かつ多面的な視点から考えることのできる能力を培う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	企業をはじめとする経済活動や組織で働くことに対する興味・関心を広げ、社会で活躍することに対する意欲を持ち、そのために自身を成長させようという態度を身につけること。
技術・表現の観点 (A)	授業の最終段階において、社会に生き、組織で仕事をする上で、リーダーシップが如何に重要か、自身はどのようなリーダーになりたいかなどについて、簡潔に文章にまとめ、３分程度で説明できる能力を獲得する。

学習計画

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	S00000901
講義名	マーケティング基礎
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活共創学部・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	神田　晴彦	指定なし

ナンバリング

K10023M21

授業概要(教育目的)

・マーケティング・マネジメントの基礎を講義にて解説する。企業活動や日常生活はもちろんのこと、教育機関や医療機関、政治や行政など幅広い分野の活動を担う現代のビジネス人材に求められるマーケティングに関連する知識や技術を習得できるようにする。

・消費者行動における消費者の意思決定プロセスを理解し、主要なフレームワークをビジネスにおいて活用出来るようにする。

・ビジネスにおけるマーケティング事例も取り上げ、理解が深まるよう詳説する。

履修条件

・オンデマンドによる実施

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・マーケティングの基礎を理解している。 ・特にマーケティングにおける基本的な枠組み（セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニングや4Pなど）に関する理解や、重要テーマ(顧客関係、ブランド)についての知識を獲得できている。
思考・判断の観点 (K)	・企業のマーケティング戦略や施策の課題を、STPや4Pの枠組みで分析できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・教室外学習時間（事例研究など）を活用し、課題に取り組む。 ・アンケートを通じて、自分自身の意見を述べる。
技術・表現の観点 (A)	・STPや4Pの枠組みで分析した結果を踏まえ、企業の戦略や施策を評価できる。 ・評価結果を踏まえ、具体的な改善アイデアや提案を述べることができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	マーケティング発想の経営
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・講義の目的・スケジュール、および評価方法について説明する。 ・マーケティングとセリングの違いについて説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に、教科書1章に目を通しておくこと。 復習：授業で取り上げたテーマ・事例に関するサイト・動画などを確認すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分・復習：100分
第2回	授業テーマ	マーケティング論の成り立ち
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・マーケティング論の中核であるマーケティング・マネジメント論について説明する。 ・マーケティング論と関連する分野についても説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に、教科書2章に目を通しておくこと。 復習：授業で取り上げたテーマ・事例に関するサイト・動画などを確認すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分・復習：100分
第3回	授業テーマ	マーケティングの基本概念
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニングについて概説する。 ・マーケティング・ミックス(4P)について概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に、教科書3章に目を通しておくこと。 復習：授業で取り上げたテーマ・事例に関するサイト・動画などを確認すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分・復習：100分
第4回	授業テーマ	製品のマネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・マーケティング・ミックス(4P)のうち、Product：製品政策について、解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に、教科書4章に目を通しておくこと。 復習：授業で取り上げたテーマ・事例に関するサイト・動画などを確認すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分・復習：100分
第5回	授業テーマ	価格のマネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・マーケティング・ミックス(4P)のうち、Price：価格政策について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に、教科書5章に目を通しておくこと。 復習：授業で取り上げたテーマ・事例に関するサイト・動画などを確認すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分・復習：100分
第6回	授業テーマ	広告のマネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・マーケティング・ミックス(4P)のうち、Promotion：プロモーション政策について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に、教科書6章に目を通しておくこと。 復習：授業で取り上げたテーマ・事例に関するサイト・動画などを確認すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分・復習：100分

第7回	授業テーマ	チャネルのマネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・マーケティング・ミックス(4P)のうち、Place：流通政策について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に、教科書7章に目を通しておくこと。 復習：授業で取り上げたテーマ・事例に関するサイト・動画などを確認すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分・復習：100分
第8回	授業テーマ	サプライチェーンのマネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・サプライチェーンマネジメントについて解説する。 ・在庫の役割や課題、在庫削減効果などについて解説する。 ※一部講義予定を変更する可能性あり。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に、教科書8章に目を通しておくこと。 復習：授業で取り上げたテーマ・事例に関するサイト・動画などを確認すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分・復習：100分
第9回	授業テーマ	営業のマネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・営業・販売について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に、教科書9章に目を通しておくこと。 復習：授業で取り上げたテーマ・事例に関するサイト・動画などを確認すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分・復習：100分
第10回	授業テーマ	顧客関係のマネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・カスタマーリレーションシップ・マーケティングについて解説する。 ・ライトユーザとロイヤルカスタマーの違い、および顧客との価値共創について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に、教科書10章に目を通しておくこと。 復習：授業で取り上げたテーマ・事例に関するサイト・動画などを確認すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分・復習：100分
第11回	授業テーマ	ビジネスモデルのマネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ビジネスモデルについて概説する。 ・技術志向のモノ作りと価値志向のモノ作りの違いについて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に、教科書11章に目を通しておくこと。 復習：授業で取り上げたテーマ・事例に関するサイト・動画などを確認すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分・復習：100分
第12回	授業テーマ	顧客理解のマネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・マーケティング・リサーチについて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に、教科書12章に目を通しておくこと。 復習：授業で取り上げたテーマ・事例に関するサイト・動画などを確認すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分・復習：100分

第13回	授業テーマ	ブランド構築のマネジメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ブランド構築のコミュニケーション方法、およびパブリック・リレーションズ（PR）について解説する。 ・リレーションシップ・マーケティングについて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に、教科書13章に目を通しておくこと。 復習：授業で取り上げたテーマ・事例に関するサイト・動画などを確認すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分・復習：100分
第14回	授業テーマ	ブランド組織のマネジメント ※一部講義予定を変更する可能性あり。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ブランド組織のマネジメントにおける重要な概念である、ブランド・エクイティや、ブランド・マネージャーについて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：事前に、教科書14章に目を通しておくこと。 復習：授業で取り上げたテーマ・事例に関するサイト・動画などを確認すること。
	教室外学習の時間（分）	予習：90分・復習：100分

学習計画注記

・履修者数、および、講義で取り上げる予定の事例やビジネスの動向を踏まえ、一部のスケジュールが変更する場合もある。

学生へのフィードバック方法

・講義内容について、講義終了時にアンケートを提出する。
・アンケートの中で一部の主要なものは授業または、Google Classroom上で取り上げる。

評価方法

・確認テスト（アンケート）を授業後に実施する(各回6点×14回=84点満点)。
・課題レポート最終回の後、期日までに提出すること。講義の内容を踏まえ、特定の企業や組織についてのマーケティング戦略の現状と今後取り組むべき施策についての提言とする。なお、評価はルーブリックに基づく。（16点満点）
※ルーブリックについては講義内にて説明予定。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
確認テスト	○		○	
課題レポート	○	○	○	○

評価割合

・確認テスト（アンケート）（84%）
・課題レポート（16%）

使用教科書名(ISBN番号)

石井 淳蔵/廣田 章光/清水 信年【編著】,1からのマーケティング （第４版）,碩学舎, ISBN：978-4-502-32771-1

参考図書

・西川 英彦/澁谷 覚【編著】， 1からのデジタル・マーケティング ,碩学舎 ,ISBN：978-4502289910
・金井 進/堀 宣男/神田 晴彦/三室 克哉/鈴村 賢治 ,“顧客の声”分析・活用術: テキストマイニングが拓く-コールセンター高付加価値化への新たな提案 , リックテレコム< ISBN：978-4897977973

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
・マーケティングに関する専門知識を多面的に身に付けている。
【思考・判断】
・環境分析（外部・内部）を行い、企業の抱えるマーケティング課題やその解決策・施策を適切に評価できる。
・消費者の意思決定プロセスを踏まえたマーケティングプランを検討することが出来る。
【関心・意欲・態度】
・日常の消費生活の中で発生している事象を積極的に収集し、マーケティングの視点から理解し、自分なりの見解を持てる。
【技術・表現】
・マーケティングのフレームワークを駆使して、現状の課題を把握し、解決策にまとめ上げていくことが出来る。

学生へのメッセージ

・マーケティングとは、顧客とのコミュニケーションを通して、顧客の真のニーズとは何かを理解し、顧客にとって価値あるモノやサービスを提供するための組織的な活動である。
・この考えは企業活動や日常生活はもちろんのこと、教育機関や医療機関、政治や行政など幅広い分野の活動において活かすことができる。
・経営学の分野でも日々進化・発展しつつあり、実務に役立つ学問の一つということができる。本授業の目的は、基礎的な理論と具体的な事例を学ぶことでマーケティング・マネジメントの本質を理解し、「顧客の視点に立ち、顧客に価値を提供する」という最も重要な考え方を身につけることである。
・ぜひ一緒に有意義な時間を過ごすことを期待する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		・担当講師は、20年以上、コンサルティング企業において、流通・小売（通販）や、耐久消費財におけるマーケティングの実務に従事している。 ・講義の中では企業の実例を取り上げる。
アクティブ・ラーニング		・確認テスト（アンケート）を通じて、履修者自らが分析内容を共有し理解を深めていく。
情報リテラシー教育		・講義内の演習において、書籍や論文、企業事例の調査方法を紹介し、企業のマーケティング戦略に関連する情報収集のノウハウを伝えていく。
ICT活用		・Google Classroomを通して資料提供・レポート提出などを実施する。

講義コード	S00001001
講義名	データサイエンス基礎（生活とデータ）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

K20024M22

学習計画

講義コード	S00001101
講義名	ロジカルシンキングとデザイン思考
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活共創学部・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	林　浩一	指定なし

ナンバリング

K10025M21

授業概要(教育目的)

今日の多くの会社や組織で、新しい商品やサービスを考案したり、起きている問題を解決するための提案をする力が求められている。ロジカルシンキングとデザイン思考は、こうした、アイデアを組み立てたり、課題解決の提案を行うための基本となる手法である。

この授業では、まず、ロジカルシンキングとアイデア思考の様々な手法の中から、特に重要な、根拠付け、問題解決、UX(ユーザエクスペリエス)の手法を中心とした基礎スキルについて、説明するとともに、定着のために取り組んでもらう課題を出題する。

取り組んでもらう具体的な課題として、過去の卒業研究のテーマなどの記述の分析と改善を取り上げる。課題の取り組み方は、グループワークで相互に検討を行い、その結果をロジカルに説明する資料構成を組み立てて発表してもらう。その結果に対して学習を深めるためのフィードバックを行う。

履修条件

授業は夏期と春期の集中講義となる。それぞれ、対面授業とオンラインでの授業で構成するので、必要な機材と接続が可能な環境が用意できること。
・夏期集中授業日(予定)
8月22日(金)3限4限 対面授業
8月25日(月)3限4限5限 オンライン授業
8月26日(火)3限4限 対面授業
・春期集中授業日(予定)
2月3日(金)3限4限 対面授業
2月5日(月)3限4限5限 オンライン授業、
2月6日(火)3限4限 対面授業

対面授業では、PCでの作業を想定しているので、各自のPCを持参し、WiFi環境下で使用できること。
オンライン授業では、オンラインでのWeb会議ツールを使用するので、ネット接続できる環境を

準備すること。対面とオンライン授業では、Microsoft Teamsを使用する。また、資料作成には、Microsoft Officeを使用する。それぞれ各自のPCで使えるようになっていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	論理に関わる構造を正しく組み立てられる。 UXに基づく設計手法を正しく使用できる。
思考・判断の観点 (K)	問題の分析を適切に行うことができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	グループワークでの議論に寄与している。
技術・表現の観点 (A)	説得力のあるアイデアの提示ができている。

学習計画

ロジカルシンキングとデザイン思考

第1回	授業テーマ	ロジカルシンキングの基本(1/2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロジカルシンキングの基本となる構造として論証構造と因果関係の構造を学ぶ。 各自で基本的な例題を解いて電子媒体で提出したものにリアルタイムでフィードバックを与える。 答案はPowerPointで作成し、PDF化したもを、Teamsを用いて提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	例題と同等の難易度の課題に取り組み提出する。
	教室外学習の時間（分）	185
第2回	授業テーマ	ロジカルシンキングの基本(2/2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロジカルシンキングの基本となる論証構造と因果関係の構造を少し複雑な資料について分析し、グループで相互検討を行う。 グループの検討結果を電子媒体で提出したものにリアルタイムでフィードバックを与える。 答案はPowerPointで作成し、PDF化したもを、Teamsを用いて提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループ課題と同等の難易度の課題に各自で取り組み提出する。
	教室外学習の時間（分）	190
第3回	授業テーマ	ロジカルシンキングの応用(1/3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロジカルシンキングの応用構造であるピラミッド構造を学ぶ。 各自で基本的な例題を解いて電子媒体で提出したものにリアルタイムでフィードバックを与える。 答案はPowerPointで作成し、PDF化したもを、Teamsを用いて提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	例題と同等の難易度の課題に取り組み提出する。
	教室外学習の時間（分）	190
	授業テーマ	ロジカルシンキングの応用(2/3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	ロジカルシンキングの応用構造である因果ネットワーク構造を学ぶ。 各自で基本的な例題を解いて電子媒体で提出したものにリ

第4回	用を含む)	アルタイムでフィードバックを与える。 答案はPowerPointで作成し、PDF化したもを、Teamsを用いて提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	例題と同等の難易度の課題に取り組み提出する。
	教室外学習の時間(分)	190
第5回	授業テーマ	ロジカルシンキングの応用(3/3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロジカルシンキングの応用構造である論文の文書構造を学ぶ。 各自で基本的な例題を解いて電子媒体で提出したものにリアルタイムでフィードバックを与える。 答案はPowerPointで作成し、PDF化したもを、Teamsを用いて提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	例題と同等の難易度の課題に取り組み提出する。
	教室外学習の時間(分)	190
第6回	授業テーマ	論文の提案ロジック改善(1/2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習したロルカルシンキングの構造を用いて論文の提案を分析し、グループで相互検討を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループ課題と同等の難易度の課題に各自で取り組み提出する。
	教室外学習の時間(分)	190
第7回	授業テーマ	論文の提案ロジック改善(2/2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループで検討した分析を踏まえて論文を改善したものを発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループで発表した内容に対して、さらに各自の分析を加えたものを提出する。
	教室外学習の時間(分)	190
第8回	授業テーマ	デザインシンキングの基本(1/2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デザインシンキングの基本となる手法としてペルソナとストーリーボードを学ぶ。 各自で基本的な例題を解いて電子媒体で提出したものにリアルタイムでフィードバックを与える。 答案はPowerPointで作成し、PDF化したもを、Teamsを用いて提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	例題と同等の難易度の課題に取り組み提出する。
	教室外学習の時間(分)	185
第9回	授業テーマ	デザインシンキングの基本(2/2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デザインシンキングの基本となる手法であるペルソナとストーリーボードを少し複雑な資料について分析し、グループで相互検討を行う。 グループの検討結果を電子媒体で提出したものにリアルタイムでフィードバックを与える。 PowerPoint PDF Teams

		答案は　　で作成し、　　化したもを、　　を用いて提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループ課題と同等の難易度の課題に各自で取り組み提出する。
	教室外学習の時間(分)	190
第10回	授業テーマ	デザインシンキングの応用(1/3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デザインシンキングの手法であるペルソナ分析を用いて論文の分析を行う。 各自で基本的な例題を解いて電子媒体で提出したものにリアルタイムでフィードバックを与える。 答案はPowerPointで作成し、PDF化したもを、Teamsを用いて提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	例題と同等の難易度の課題に取り組み提出する。
	教室外学習の時間(分)	190
第11回	授業テーマ	デザインシンキングの応用(2/3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デザインシンキングの手法であるストーリーボード分析を用いて論文の分析を行う。 各自で基本的な例題を解いて電子媒体で提出したものにリアルタイムでフィードバックを与える。 答案はPowerPointで作成し、PDF化したもを、Teamsを用いて提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	例題と同等の難易度の課題に取り組み提出する。
	教室外学習の時間(分)	190
第12回	授業テーマ	デザインシンキングの応用(3/3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デザインシンキングの応用として、論文の試作の説明の構造を学ぶ。 各自で基本的な例題を解いて電子媒体で提出したものにリアルタイムでフィードバックを与える。 答案はPowerPointで作成し、PDF化したもを、Teamsを用いて提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	例題と同等の難易度の課題に取り組み提出する。
	教室外学習の時間(分)	190
第13回	授業テーマ	論文提案手法のUX改善(1/2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習したロルカルシンキングの構造を用いて論文の提案を分析し、グループで改善のための相互検討を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループ課題と同等の難易度の課題に各自で取り組み提出する。
	教室外学習の時間(分)	190
第14回	授業テーマ	論文提案手法のUX改善(2/2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループで検討した分析を踏まえて論文を改善したものを発表する。
	(	

	教室外学習 予習・復習)の内容	グループで発表した内容に対して、さらに各自の分析を加えたものを提出する。
	教室外学習の時間(分)	190

学習計画注記

クラスの人数や得意不得意に応じて、学習の順序、利用資料、難易度は適宜変更します。

学生へのフィードバック方法

授業時間中の提出物へのリアルタイムのフィードバック、授業後に提出した課題に対するフィードバック、発表に対するフィードバックを行います。いずれも口頭でのフィードバックを基本とします。

評価方法

試験は実施しません。
各回の授業後に各自が提出した課題と実施した発表に対する評価を積み上げることで、最終的な評価とします。提出課題には基本課題と発展課題を設け、発展課題の実施は任意とします。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
構造分析課題により評価	○			
ユーザ視点課題により評価	○			
問題分析課題により評価		○		
グループワークにより評価			○	
提案プレゼンにより評価				○

評価割合

基本課題提出 40%、発展課題提出 20%、発表40%

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

参考URL

https://www.udemy.com/course/ikkini-logical/

ディプロマポリシーとの関連

1)ロジカルシンキングにより、社会の諸問題を解決するための知識と技能を獲得する。
2)デザイン思考の中のUXを学ぶことで、他者の視点を理解し、相互にわかり合う共感力を身につける。
3)グループワークを通じて、他のメンバーと協力して課題を達成する協働力を身につける。
4)各自の課題発表を目指して、それまでに学修した知識を動員して問題を解決する達成力を獲得する。

学生へのメッセージ

重要な仕事をひとりで進めることはできません。様々な人に自分のアイデアや意見をぶつけていく必要があります。そのときに、ただ自分の主張をするだけでは、動いてはもらえません。ロジカルに自分のアイデアを伝えて説得できる力を身につけていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	ITベンチャー企業(ピースミール・テクノロジー(㈱))の経営者として、事業アイデアの考案提案を行ってきたことを踏まえ、卒業研究の記述の検討を行う。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッションを通じて複数の捉え方があることを理解する。
情報リテラシー教育	○	卒業論文の検討を通じ、様々な主張や記述に適切な根拠が示されているのかについて把握する力を身につける。
ICT活用	○	オンライン授業を実施。答案をオンラインで提出した結果に対して、リアルタイムでのフィードバックを行う。発表資料を作成するために、AIツールも活用しながらグループで共同作業を行う。

講義コード	S00001201
講義名	初年次ゼミA
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活共創学部・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	富田 弘美	指定なし
教授	白井 篤	指定なし
教授	小池 孝子	指定なし
教授	河田 敦子	指定なし
教授	和田 美香	指定なし
教授	江田 裕介	指定なし
教授	大嶋 孝之	指定なし
教授	大中 佳子	指定なし
准教授	呉 起東	指定なし
准教授	柳瀬 洋美	指定なし
准教授	黒田 久夫	指定なし
准教授	米澤 加代	指定なし
助教	岡部 一郎	指定なし

ナンバリング

K10001M22

授業概要(教育目的)

学生が大学での学業と生活にスムーズに適応し、有意義に過ごすことができるよう、大学での学びのスタートアップを行う。大学という場、大学で学ぶということについて理解すると共に、学科を超えた少人数（20名程度）のゼミのなかで、大学での人間関係を構築する。また、双方向的・協働的な学習活動を通し、能動的で自律的・自立的な学習態度への転換を図る。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点	大学という場、学部の特色を理解し、説明することができる。

(K)	「大学で学ぶ」ということがどういうことかを理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	自らの学びの方向性を明確にすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	同級生など多様な人々と協働して、自分らしいキャンパスライフ・スタイルを目指して行動することができる。
技術・表現の観点 (A)	必要なスチューデント・スキルを獲得することができる。 プレゼンテーションを通して、自身の考えを表現することができる。

学習計画

初年次ゼミ

第1回	**授業テーマ**	自己を知る・同級生を知る①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オリエンテーションミーティングの振り返り、自己紹介の内容を考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の内容を大学生活の中で活かし、意識的に行動に移す。
	教室外学習の時間（分）	100
第2回	**授業テーマ**	自己を知る・同級生を知る②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己紹介、質疑応答を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の内容を大学生活の中で活かし、意識的に行動に移す。
	教室外学習の時間（分）	100
第3回	**授業テーマ**	大学を知る①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館に親しむ
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の内容を大学生活の中で活かし、意識的に行動に移す。
	教室外学習の時間（分）	100
第4回	**授業テーマ**	大学を知る②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャンパス探検
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の内容を大学生活の中で活かし、意識的に行動に移す。
	教室外学習の時間（分）	100
第5回	**授業テーマ**	大学を知る③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大学生活を知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の内容を大学生活の中で活かし、意識的に行動に移す。
	教室外学習の時間（分）	100
第6回	**授業テーマ**	大学を知る④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家政学院を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の内容を大学生活の中で活かし、意識的に行動に移す。
	教室外学習の時間（分）	100
	授業テーマ	大学を知る⑤

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発表とまとめ
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の内容を大学生活の中で活かし、意識的に行動に移す。
	教室外学習の時間（分）	100
第8回	授業テーマ	学び方を知る①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アカデミックスキルを磨く
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の内容を大学生活の中で活かし、意識的に行動に移す。
	教室外学習の時間（分）	100
第9回	授業テーマ	学び方を知る②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーションスキルを磨く
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の内容を大学生活の中で活かし、意識的に行動に移す。
	教室外学習の時間（分）	100
第10回	授業テーマ	生活共創学部を知る①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活共創学部の良さを整理する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の内容を大学生活の中で活かし、意識的に行動に移す。
	教室外学習の時間（分）	100
第11回	授業テーマ	生活共創学部を知る②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活共創学部の良さを伝える方法を検討する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の内容を大学生活の中で活かし、意識的に行動に移す。
	教室外学習の時間（分）	100
第12回	授業テーマ	生活共創学部を知る③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレゼンテーション資料を作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の内容を大学生活の中で活かし、意識的に行動に移す。
	教室外学習の時間（分）	50
第13回	授業テーマ	生活共創学部を知る④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活共創学部の良さを伝える（発表会）
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の内容を大学生活の中で活かし、意識的に行動に移す。
	教室外学習の時間（分）	100
第14回	授業テーマ	初年次ゼミAのふりかえり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	初年次ゼミAの授業で学んだことをもとに、学生生活の中で意識的に行動したことを報告する（発表会）
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の内容を大学生活の中で活かし、意識的に行動に移す。
	教室外学習の時間（分）	100

学習計画注記

学習計画は担当教員の都合等により変更される可能性があります。

学生へのフィードバック方法

担当教員が、必要な際に随時行う。

評価方法

平常点、リアクションペーパー、発表の総合評価

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業態度		○	○	○
リアクションペーパー	○	○		○
発表	○		○	○

評価割合

授業態度：40%
リアクションペーパー：30%
発表：30%
ルーブリック（評価基準）を用いて評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

適宜、資料を印刷・配付する。

参考図書

授業内で各担当者が紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・技能】社会の諸課題に対応することができる生活科学を基点とした知識・技能
【共感力】他者の思いを尊重し、相互にわかりあう共感力
【協働力】自分が属する場においてリーダーシップを発揮し、多様な人々と共に課題に取り組む協働力
【達成力】身の回りの課題に自らの意思で取り組み、課題解決に向けて諦めずやり抜く達成力

オフィスアワー

各教員にアポイントメントを取って、時間を調整してください。

学生へのメッセージ

各単元の初めには、その単元の授業の目的・意義を説明します。授業の目的や意義を明確にした上で、主体的に授業に取り組むことが重要です。この授業を通して、自分で考え、行動できるように努めましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	各課題毎にPBLによるグループワーク、ディスカッションを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	各種提出物は、原則GoogleClassroomで行う。

講義コード	S00001301
講義名	初年次ゼミB
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活共創学部・1年次
必修・選択の別	必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	嶋田 芳男	指定なし
教授	中田 範子	指定なし
教授	齋藤 義雄	指定なし
教授	立川 泰史	指定なし
准教授	花田 朋美	指定なし
准教授	小川 圭子	指定なし
准教授	丹羽 さがの	指定なし
准教授	石綱 史子	指定なし
准教授	岩本 直樹	指定なし
助教	佐藤 冬果	指定なし
特任教授	笠松 千夏	指定なし
特任教授	佐々木 ひとみ	指定なし
特任教授	高橋 幸子	指定なし

ナンバリング

K10002M22

授業概要(教育目的)

少人数で学生が教員を囲み、ある特定のテーマについてグループディスカッションやプレゼンテーションを通じて、理解を深めるとともにコミュニケーションスキルの向上を図る。協働して探究学習を行うなかで、ホスピタリティの意義と実践方法を学ぶ。
また、将来の進路や目標について考える機会を提供する。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

	キャンパスや地域の課題、就職活動の基礎知識を理解することがで

知識・理解の観点 (K)	きる。 ナッジの基本的な考え方や活用方法を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	身近な課題の背景を考え、適切な解決方法を検討することができる。 自分の関心や価値観をもとに、将来の目標を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学びや生活、進路に主体的に取り組もうとする姿勢をもつことができる。 他者と協力しながら、多様な意見を尊重して活動することができる。
技術・表現の観点 (A)	学びや生活、進路に主体的に取り組もうとする姿勢をもつことができる。 他者と協力しながら、多様な意見を尊重して活動することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション、将来の進路や目標を考える① 自分のことを知る
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	この授業のシラバスの説明・ルーブリックの説明を行う。グループ別に教員が付き、出題された課題についての意義を理解し、課題解決するための方法を検討・議論する。自分の興味や価値観を見つめ、進路を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の振り返りと、キャリアについてのリアクションペーパーを提出。
	教室外学習の時間（分）	100
第2回	**授業テーマ**	将来の進路や目標を考える② 自分と社会の関係を知る
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会とのつながりを意識し、将来の働き方を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の振り返りと、第1単元の学びを通して得た気づきをリアクションペーパーにまとめ、提出。
	教室外学習の時間（分）	100
第3回	**授業テーマ**	キャンパスの魅力を高める取り組みを考える① ガイダンス、調査計画の作成、質問項目の考案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャンパスの魅力を考え、調査計画と質問を立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の振り返りと、各自が明らかにするべき事項を調査し、リアクションペーパーにまとめ、提出。
	教室外学習の時間（分）	100
第4回	**授業テーマ**	キャンパスの魅力を高める取り組みを考える② 学生への調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調査マナーを学び、学生への聞き取り調査を行う。
	教室外学習(予	授業の振り返りと、各自が明らかにするべき事項を調査し、リアク

	習・復習)の内容	ションペーパーにまとめ、提出。
	教室外学習の時間（分）	100
第5回	授業テーマ	キャンパスの魅力を高める取り組みを考える③ 学内関係者への調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学内関係者への調査を行い、企画アイデアを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の振り返りと、各自が明らかにするべき事項を調査し、リアクションペーパーにまとめ、提出。
	教室外学習の時間（分）	100
第6回	授業テーマ	キャンパスの魅力を高める取り組みを考える④ KVA来場者への調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	KVA祭で来場者への調査を行い、企画を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の振り返りと、各自が明らかにするべき事項を調査し、リアクションペーパーにまとめ、提出。
	教室外学習の時間（分）	100
第7回	授業テーマ	キャンパスの魅力を高める取り組みを伝える① 企画立案・ポスター制作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	データをもとに企画をまとめ、ポスターを制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の振り返りと、各自が明らかにするべき事項を調査し、リアクションペーパーにまとめ、提出。
	教室外学習の時間（分）	100
第8回	授業テーマ	キャンパスの魅力を高める取り組みを伝える② ポスター発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ポスター発表を行い、成果を伝える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の振り返りと、第2単元の学びを通して得た気づきをリアクションペーパーにまとめ、提出。
	教室外学習の時間（分）	100
第9回	授業テーマ	キャンパスの課題をカタチで解決する① 課題整理・アイデア出し
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャンパス内の課題を発見し、改善のアイデアを出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の振り返りと、各自が明らかにするべき事項を調査し、リアクションペーパーにまとめ、提出。
	教室外学習の時間（分）	100

第10回	授業テーマ	キャンパスの課題をカタチで解決する② ナッジを使った改善方法の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ナッジ理論を学び、具体的な改善方法を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の振り返りと、各自が明らかにするべき事項を調査し、リアクションペーパーにまとめ、提出。
	教室外学習の時間（分）	100
第11回	授業テーマ	キャンパスの課題をカタチで解決する③ 提案設計
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ナッジを活用した提案内容をプレゼンにまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の振り返りと、各自が明らかにするべき事項を調査し、リアクションペーパーにまとめ、提出。
	教室外学習の時間（分）	100
第12回	授業テーマ	キャンパスの課題をカタチで解決する④ プレ発表・発表準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プレ発表を通して、発表内容をブラッシュアップする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の振り返りと、各自が明らかにするべき事項を調査し、リアクションペーパーにまとめ、提出。
	教室外学習の時間（分）	100
第13回	授業テーマ	キャンパスの課題をカタチで解決する⑤ 全体発表・ふりかえり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	最終発表とふりかえりを行う。また、最終回の出題・課題説明を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の振り返りと、第3単元の学びを通して得た気づきをリアクションペーパーにまとめ、提出。
	教室外学習の時間（分）	100
第14回	授業テーマ	全体ふりかえり・自己評価アンケート
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	初年次ゼミBのふりかえり授業を行い、学びの中で印象に残ったこと、自分の成長や変化、今後に活かしたいことを発表する。また、自己評価アンケートを行い、今後の大学生活に向けて考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	50

学習計画注記

学習計画は担当教員の都合等により変更される可能性があります。

学生へのフィードバック方法

担当教員が、必要な際に随時行う。

評価方法

平常点（授業への参加度）、リアクションペーパー、発表で評価する。
なお、提出物はルーブリック（学習到達度を示す評価基準を、観点と尺度からなる表として示したもの）を用いて評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点		○	○	○
リアクションペーパー	○	○		○
発表	○		○	○

評価割合

平常点40%、リアクションペーパー30%、発表30%

使用教科書名(ISBN番号)

適宜、資料を印刷・配付する。

参考図書

授業内で各担当者が紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・技能】社会の諸課題に対応することができる生活科学を基点とした知識・技能を習得する
【共感力】他者の思いを尊重し、相互にわかりあう共感力を養う
【協働力】自分が属する場においてリーダーシップを発揮し、多様な人々と共に課題に取り組む協働力を養う
【達成力】身の回りの課題に自らの意思で取り組み、課題解決に向けて諦めずやり抜く達成力を養う

オフィスアワー

各教員にアポイントメントを取って、時間を調整してください。

学生へのメッセージ

授業の目的や意義を明確にした上で、主体的に授業に取り組むことが重要です。この授業を通して、自分で考え、行動できるように努めること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	各課題毎にPBLによるグループワーク、ディスカッションを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	各種提出物は、原則Google Classroomで行う。

講義コード	S00001401
講義名	共創プロジェクトゼミA
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

K20003M22

学習計画

講義コード	S00001501
講義名	共創プロジェクトゼミＢ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

K20004M22

学習計画

講義コード	S00001601
講義名	アドバンストゼミA
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

K30005M22

学習計画

講義コード	S00001701
講義名	アドバンストゼミB
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

K30006M22

学習計画

講義コード	S00001801
講義名	卒業研究Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

K40007M22

学習計画

講義コード	S00001901
講義名	卒業研究Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

K40008M22

学習計画

講義コード	S00002001
講義名	卒業論文・卒業制作
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

K40009M24

学習計画

講義コード	S01100101
講義名	多感覚感受とデジタルデトックス
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活共創学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	吉永　早苗	指定なし
教授	立川　泰史	指定なし

ナンバリング

M11311M22

授業概要(教育目的)

　日常の景色のなかに住まう心身を自覚し、感じたり考えたりすることが生き方の姿勢をつくっているのではないか。この科目では、身近な情景や場面に感覚を研ぎ澄ませることで、情報過多の日常、デジタルテクノロジー依存から自己を解放し、ストレス管理、感受性の向上、良好なコミュニケーションといった心身の健康を向上させるための理解とスキルを体験的に学ぶ。感じた音や感情を形や色に置き換えたり、感受した形や色、光や風の効果を音や音楽に表現したりすることを通して、クロスモーダル（多感覚感受）な感覚を理解する。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	多感覚感受の理論的背景や、人間の感覚と認知の関係について理解する。 デジタル環境が人間の感受性や健康に与える影響について学ぶ。
思考・判断の観点 (K)	自身の生活の中で感受性をどのように高めることができるかを考察し、判断する力を養う。 デジタルデトックスが個人や社会に与える影響を分析し、持続可能な実践方法を検討する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日常生活の中で意識的に感覚を研ぎ澄まし、積極的に新しい感受の方法を探求する態度を育む。 デジタル機器の使用を見直し、心身の健康や人間関係の向上に関心を持つ。
	音、色、形、光、風などを感じる感覚を統合し、クロスモーダルな表現

技術・表現の観点(A)	を創り出す。 感じたことを視覚・聴覚・言語など多様な方法で表現し、他者と共有するスキルを身につける。

学習計画

第1回	授業テーマ	オリエンテーション－聴くことの再考
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	聴いたことのないような音楽に耳を澄ませ、その音・音楽から思い描くイメージをその印象を自由に描き（絵・詩・文章など）、共有する。多感覚感受について具体的にイメージする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	多感覚感受について、まとめる。音を聴きながら浮かんだイメージと、それがどのように生まれたのかを振り返り、コメントシートを提出する。
	教室外学習の時間（分）	150分
第2回	授業テーマ	日常の情景における「気づき」と「感受性」ーサウンドウォーク－自然の音と対話する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サウンドウォークの概念と意義を学ぶ。キャンパス周辺でサウンドウォークを実施し、聴こえた音をサウンドマップに描く。自然音と都市音の違いを考察し、音環境が人に与える影響について議論する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	サウンドマップを3枚作成する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第3回	授業テーマ	多感覚感受による音楽の聴き方の変化を味わう
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第1回の授業で聴いた音楽をもう一度聴き、どのような変化があったのかを言語化することを通し、自然音を通じた気づきが、音楽の聴き方にどう影響を与えたか考える（グループディスカッションを含む）。
	教室外学習(予習・復習)の内容	最初に聴いた時と今回の聴き方の違いを記述し、その要因を分析する。
	教室外学習の時間（分）	150分
第4回	授業テーマ	色彩と感情－視覚的な感動を言葉にする
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャンパス内の自然や建築物の「色」に注目し、それぞれの色が喚起する感情を言葉で表現する。選んだ色と感じたことをグループで共有し、他者の視点の違いを発見する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	印象に残った色とその感情のつながりを記述し、なぜそう感じたのかを分析し、レポートする。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	デジタルデトックス体験－テクノロジーから離れる一日

第5回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1日、スマホ・PCを使わない デジタルデトックスを体験（事前課題として実施） デジタルデバイスがない時間をどう過ごしたか、どのような感覚の変化があったかをディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	1日、スマホ・PCを使わない デジタルデトックスを体験する。デジタルデトックスを通して気づいたこと、困難だったこと、得られた感覚の変化を記述する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第6回	授業テーマ	感覚の架け橋－色を音に、音を形に変えるワークショップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実践①：音を聴いて、それを色や形に変換する。 実践②：色を見て、それを音やリズムで表現する。 実践①②を通し、個人の感じ方の違いを比較し、感覚の多様性を探る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループでひとつの色・音を選び、それを異なる感覚で表現する作品を制作し、発表の準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	240分
第7回	授業テーマ	自然環境と感受性－光と風を感じるフィールドワーク
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	目を閉じて風を感じる」「光の強さを言葉で表現する」といった身体の諸感覚をひらくフィールドワークを行う。その後、五感が研ぎ澄まされると、どのように世界が違って感じられるかについて意見交換する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自然を通じて感じたことを文章またはビジュアル作品としてレポートする。
	教室外学習の時間（分）	240分
第8回	授業テーマ	クロスモーダル表現の創作－自己の感覚を統合する作品作り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの感覚体験を振り返り、自分の感覚の特徴を分析する。具体的には、五感を活用した作品を制作し（例：「風と光の記憶」を絵や詩で表す）、作品の意図を発表し、相互に鑑賞する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作品に込めた意図と、自分の感覚の特徴についての分析レポート。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	授業テーマ	五感を活かしたコミュニケーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	言語以外のコミュニケーション手法を学ぶ。音や動きだけで「気持ちを伝える」ワークショップを実施。グループで短い作品を創作し、発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	活動を振り返り、「自分はどの感覚を使った表現が得意か？」を考察する。

	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	授業テーマ	文化と感受性－伝統芸能の感覚的理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	伝統芸能（能・狂言・茶道など）における「感受性」の重要性を学ぶ。具体的には、伝統芸能の映像を観察し、リズム・間（ま）・静寂を体験する。その上で、生活の中でのリズム・間（ま）・静寂についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	伝統芸能を通じて感じた感覚の特徴をレポートする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	感覚と記憶－音と香りのつながり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実践①：ある香りを嗅ぎながら、記憶を呼び起こす。 実践②：特定の音を聴きながら、過去の出来事を思い出す。 実践①②を通し、「記憶がどのように感覚と結びついているか」について話し合う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	香りや音を通じて想起された記憶を記述し、感覚と記憶の関係を考察する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	授業テーマ	デジタル時代の感受性の育み方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バーチャルリアリティとリアルの違いについて意見交換し、「デジタル社会で感性を豊かにするには？」をテーマにディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デジタル時代における『感覚を磨く方法』について、レポートする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	感覚の統合－グループ作品制作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの学びを活かして、五感を活用したグループ作品を制作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	五感を生かしたパフォーマンス・展示作品を制作する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第14回	授業テーマ	最終発表と振り返り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループ作品の発表と振り返り。

	教室外学習(予習・復習)の内容	全14回を通じて得た学びと、自分自身の変化について振り返り、「自分の感受性の変化」を分析する。
	教室外学習の時間（分）	240分

学習計画注記

構内を散策する活動もありますので、その場合は動きやすい服装で参加してください。

学生へのフィードバック方法

Googleクラスルームを通して提出していただくリフレクションシートや課題については、翌週の授業の最初に共有し、振り返りを行います。質問事項も随時受け付けます。質問事項も随時受け付けます。

グループワークや制作表現では、対話を通してコミュニケーションを図りながら活動を進めて行きます。

評価方法

評価の観点は以下の通りです。
・授業に積極的に参加しているか。
・授業での気づきや振り返り、質問等をコメントシートへに記載し、提出しているか。
・積極的にグループワークに参加し、アイディアを出し、協働して作品制作に臨んでいるか。

最終レポートにはルーブリックを提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業への積極的参加			○	
コメントシート	○	○	○	
作品制作	○	○	○	○
小レポート	○	○	○	
最終レポート	○	○	○	○

評価割合

授業への参加と作品制作（50%）
感受性レポート（30%）
最終レポート（20%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし。

参考図書

適宜紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】デジタル環境が人間の感受性や健康に与える影響について理解している。
【思考・判断】生活の中で感受性をどのように高めることができるかを考察し、判断する力を身に付けている。
【関心・意欲・態度】日常生活の中で、積極的に新しい感受の方法を探求する態度を身に付けている。
【技術・表現】感じたことを視覚・聴覚・言語など多様な方法で表現し、他者と共有するスキルを身につけている。

オフィスアワー

吉永　木曜 限

学生へのメッセージ

皆さんは、ふだん、どの感覚を使って世界を感じていますか？視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚――それぞれの感覚を意識することは、実はとても奥深く、新しい発見、イノベーションにつながります。

この授業では、スマホやPCから少し離れ、五感を研ぎ澄ませる体験を通して、自分自身と世界との新しい関係を見つけていきます。音を「見る」、色を「聴く」、風を「感じる」、香りから「記憶をたどる」――そんなふうに、いつもとは違う角度から世界を探究してみましょう。

実践が中心の授業なので、体験を通して気づいたことを言葉や作品で表現し、仲間と共有しながら感受性を深めていきます。デジタル社会に生きる私たちだからこそ、「自分の感覚」を磨くことが、より豊かな生き方につながるかもしれません。この授業を通じて、自分の中に眠っている「感性」を呼び覚まし、世界ともっと深く対話する力を育んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者は国公立小学校の教諭として教育研究に従事した経験を有する。文部科学省検定教書の編修著者代表や文部科学省学習資料作成委員として各教育委員会主催の現職教員の研究・研修及び地域行政や企業と連携するネットワークを生かし、今日的な教育・保育の課題に対応する情報や知見を提供する。
アクティブ・ラーニング	○	日常の風景と多感覚感受を通して対話することを体験し、生活の中でのwell-beingについて考える。
情報リテラシー教育	○	①デジタルとの適切な距離感を学ぶ（メディア・リテラシー） ②感性を通じた情報の受け取り方を探究（批判的思考） ③デジタル時代の感受性の育み方を考える（情報の主体的活用） ④表現活動を通じた情報発信（メディア表現リテラシー）
ICT活用	○	情報発信、コメントシートやレポート提出の機会に活用する。

講義コード	S01100201
講義名	ダイエット＆フィットネス
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活共創学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	松山 直輝	指定なし

ナンバリング

M11312M22

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	S01100301
講義名	マネーフローの世界とくらし
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M21313M21

学習計画

講義コード	S01100401
講義名	生活イノベーション最前線
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M21321M21

学習計画

講義コード	S01100501
講義名	Ｓｏｃｉｅｔｙ 5.0論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活共創学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	江田 裕介	指定なし
准教授	呉 起東	指定なし
非常勤講師	斎藤 尚樹	指定なし

ナンバリング

M11322M21

授業概要(教育目的)

現代社会は生成AIやXR（クロスリアリティ）等の技術革新によって新たな時代のフェーズを迎えている。その変化は、過去に人間社会が、狩猟社会から農耕社会、工業社会、情報化社会へと進んだ段階に匹敵し、かつ急速に展開されつつある。新たな時代に向けて、生活やビジネス、教育のモデルを早急に見直し、再構築していく必要がある。本講義では、「生活」「技術」「教育」「ビジネス」「芸術」等のキーワードから、現在進められている改革や、すでに実現している事例を概観しながら、変化の方向性を学び、新たな価値の創造を探る。その経過を通じて、来たるべき時代を「たくましく心豊かに生きる力」を備えたSociety5.0人材について論考する。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	現代社会における生活や教育、経済活動等の変化を知り、技術改革の動向との関係を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	他者の意見に耳を傾け、多様な考え方を尊重しつつ、ディスカッションを通じて思考を深めることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	グループ活動において役割を分担し、他のメンバーと協力しながら課題に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	講義において学んだ知識を土台として、自身でテーマを発見し、課題の解決に向けて提案を行うことができる。

学習計画		
Society5.0論		
第1回	授業テーマ	１．はじめに（イントロダクション）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「Society 5.0」とは？ 授業全体のガイダンス 斎藤 尚樹 （千葉大学データサイエンスコア 特任教授／東京家政学院大学 特別招聘教授）
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：テーマについて独自に調べ知識を深める。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	授業テーマ	２．政策・ビジョンの策定経緯と理念
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第5期STI基本計画の策定経緯とSociety5.0の基本理念 ◆ ゲストスピーカー: 中川 健朗 （情報・システム研究機構（ROIS）機構長特別補佐／元国立教育政策研究所長／元内閣官房内閣審議官）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：次のHP等を参考にして授業のテーマに関して予備知識を得る。 https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/index5.html 復習：テーマについて独自に調べ知識を深める。
	教室外学習の時間（分）	60分 180分
第3回	授業テーマ	３．ものづくり（価値創造・マーケティング）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	感性価値創造とものづくり～NEXTユニバーサルデザインとフアッション改革 ◆ゲストスピーカー： 小川 修史 （兵庫教育大学大学院 教授／東京家政学院大学 客員教授）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習： 次のHP等を参考にして授業のテーマに関して予備知識を得る。 https://as-kyoto.com/news/hisashiogawa2/ 復習：テーマについて独自に調べ知識を深める。
	教室外学習の時間（分）	60分 180分
第4回	授業テーマ	１０．ワークショップ（1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①ブレインストーミング（KJ法）／②グループ編成／グループワーク（テーマ決め、調査）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：ＫＪ法について調べる。 復習:グループのテーマに関する下調べを行う。
	教室外学習の時間（分）	60分 180分
	授業テーマ	４．ものづくり（デザイン）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘ	デザインの現在と未来 ～ AIの活用 ～

第5回	ﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	呉 起東 （東京家政学院大 准教授）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「デザイン」と「AI」の２つのキーワードで情報を調べ予備知識を得る。 復習：デザインの分野におけるIT利用について独自に調べ知識を深める。
	教室外学習の時間（分）	60分 180分
第6回	授業テーマ	5．農林水産業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	“森づくり・木づかい”の「見える化」促進に向けたIT化最前線 ◆ゲストスピーカー： 川崎 貴夫 (川崎商店 代表取締役／NECソリューション株式会社イノベーションラボラトリ)
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「森づくり・木づかい」のキーワードで情報を調べて予備知識を得る。 復習：教育・福祉の分野におけるIT利用について独自に調べ知識を深める。
	教室外学習の時間（分）	60分 180分
第7回	授業テーマ	6．観光・アウトドア活動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アウトドア活動のDX化～スマホ・GPS・ビッグデータによるデジタル山歩き 斎藤 尚樹 （千葉大学データサイエンスコア 特任教授／東京家政学院大学 特別招聘教授）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：アウトドア活動におけるIT利用について調べ予備知識を得る。 復習：ビッグデータの余暇活動における利用について独自に調べ知識を深める。
	教室外学習の時間（分）	60分 180分
第8回	授業テーマ	7．教育・福祉
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アシスティブテクノロジーとインクルーシブ社会の実現 江田 裕介 （東京家政学院大学 教授）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：「アシスティブテクノロジー」のキーワードを調べて予備知識を得る。 復習：教育・福祉の分野におけるIT利用について独自に調べ知識を深める。
	教室外学習の時間（分）	60分 180分
第9回	授業テーマ	8．環境・エネルギー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脱炭素社会実現に向けたAI未来シナリオシミュレータの開発・実装 ◆ゲストスピーカー： 森本 由起子 （日立製作所 研究開発G デザインセンター／ストラテジックデザイン部主任研究員）
	教室外学習(予	予習：次のHP等を参考にして授業のテーマに関して予備知識を得る。

	習・復習)の内容	https://social-innovation.hitachi/ja-jp/article/decarbonization-scenario-simulator/ 復習：テーマについて独自に調べ知識を深める。
	教室外学習の時間（分）	60分 180分
第10回	**授業テーマ**	9．健康・医療
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヘルスケアデータの利活用による健康寿命延伸に向けた自治体連携等の取組 ◆ゲストスピーカー： 姫野 龍太郎 （順天堂大学 健康データサイエンス学部 特任教授）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：次のHP等を参考にして授業のテーマに関して予備知識を得る。 https://www.studyplus.jp/1604 復習：テーマについて独自に調べ知識を深める。
	教室外学習の時間（分）	60分 180分
第11回	**授業テーマ**	１２．ワークショップ（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	③グループワーク（調査・取りまとめ）／④グループワーク（プレゼンテーション準備）／⑤発表役割分担
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：グループ毎にテーマに関する調査の準備を行う。 復習:期末レポートに取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60分 180分
第12回	**授業テーマ**	１１．文化・芸術活動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本酒ｘデジタルｘデザイン～体験価値が創る日本酒の事業モデル変革 ◆ゲストスピーカー： 宇田 哲也 （富士通 デザインセンター／センター長）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：次のHP等を参考にして授業のテーマに関して予備知識を得る。 https://www.fujitsu.com/jp/about/businesspolicy/tech/design/activities/sake/ 復習：テーマについて独自に調べ知識を深める。
	教室外学習の時間（分）	60分 180分
第13回	**授業テーマ**	１３．ワークショップ（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	⑥結果発表／⑦ディスカッション
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習；グループ毎に作業と発表準備を行う。 復習：グループによる発表のふり返り。
	教室外学習の時間（分）	60分 180分
	授業テーマ	14. まとめ

第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「新たな時代をたくましく心豊かに生きる力」 ディスカッションと講評
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：これまでの学びをまとめる。 復習:期末レポートに取り組む。
	教室外学習の時間（分）	60分 180分

学生へのフィードバック方法

コメントカード（オンライン）を授業毎に提出し、その意見・感想や質問について、授業内または返信により応答し、クラスで情報を共有する。

評価方法

・ワークショップへの参加の積極性、活動内容とプレゼンテーションでの役割分担を評価する。
・コメントカードの提出状況と意見の内容を評価する。
・ディスカッションでの積極性、意見や提案の内容を評価する。
・期末レポートは、学習内容の理解だけでなく、考察の独自性や論理性、資料の調査能力等を総合的に評価する。
・ルーブリック評価について本学で用いる学習管理システムの配付等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
ワークショップ		○	○	○
コメントカード	○	○		○
ディスカッション	○	○	○	○
期末レポート	○	○		○

評価割合

ワークショップ（20%）、コメントカード（10%）、ディスカッション（10%）、期末レポート（60%）

使用教科書名(ISBN番号)

授業において資料を配布またはオンラインで共有する。

参考図書

適宜に指示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・技能】社会の諸課題に対応することができる生活科学を基点とした知識・技能
【共感力】他者の思いを尊重し、相互にわかりあう共感力
【協働力】自分が属する場においてリーダーシップを発揮し、多様な人々と共に課題に取り組む協働力

オフィスアワー

江田：金曜3限
※事前にメール等で連絡する。

学生へのメッセージ

ゲストスピーカーの授業は、各回の授業に独自のサブ・テーマが設定され、各分野の先端的な

実践の取り組みを学ぶことができる。授業内で積極的に質問や意見、提案が行えるよう、自分の考えをまとめながら参加するよう心がけてほしい。また授業の復習をしっかりとすること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	授業の担当教員及びゲストスピーカーは、各分野の第一線で実務、実践を経験し、その豊富な活動を反映して講義を行う。
アクティブ・ラーニング	○	学生はワークショップやディスカッション、プレゼンテーションに共同して取り組み、共感力や協働力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	最先端の技術を応用する知識とともに、情報セキュリティや情報モラルに関す学修力を養成する。
ICT活用		授業の展開と、教室外学習にAIの活用を図る。

講義コード	S01100601
講義名	行動経済学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M21331M21

学習計画

講義コード	S01100701
講義名	知的財産権を学ぶ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活共創学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	森山 朗	指定なし
教授	江田 裕介	指定なし
非常勤講師	佐野 浩太郎	指定なし
非常勤講師	高橋 一哉	指定なし

ナンバリング

M11332M21

授業概要(教育目的)

自分のアイディアや作品、発明等に対して、その独創性を主張し、他者による模倣や盗用から守るためには、著作権や意匠権等の知的財産に関する知識が不可欠である。また、その知識は、自分が他者の権利を侵害しないためにも必要である。特にインターネットの時代において知的財産の侵害は容易に起こり、その権利化と侵害予防の重要性が増している。本講義では、商標権、意匠権、特許権、著作権といった知的財産権の基本を実例から学ぶとともに、既存権利の検索等の実用スキルを身に付ける。また、自分たちの発想を具体的な形にしていくプロセスをグループワークの演習を通じて体験的に学ぶ。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	知的財産の種類と重要性を理解し、基本的な権利化の仕組みを知る。
思考・判断の観点 (K)	身近な製品やサービスを知的財産権の観点から考え、判断を行える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	知的財産権を適切に利用し、自他の権利を守る態度を身につける。
技術・表現の観点 (A)	自らのアイデアを具体化し、製作や発表を通じて表現できる。

学習計画		
知的財産権を学ぶ		
第1回	授業テーマ	ガイダンス・知的財産の基礎
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「なぜ、知的財産を学ぶのか？」を考え、知的財産権の種類を知り、全体像を俯瞰する。知的財産に関する職業や資格を紹介する。講義の進め方、成績評価について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：シラバスに示された授業のテーマと関連する情報を自主的に調べ予備知識を得る。 復習：授業で学んだ内容から興味をもった事柄を自主的に調べ学びを深める。
	教室外学習の時間（分）	60分 180分
第2回	授業テーマ	商標法（ネーミングの権利）（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	そもそも「商標」とは何か？、利益UPのためのネーミング、商標の失敗事例について学ぶ。出願から登録までの流れ、登録要件（3条，4条）、商標権の効力範囲について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：シラバスに示された授業のテーマと関連する情報を自主的に調べ予備知識を得る。 復習：授業で学んだ内容から興味をもった事柄を自主的に調べ学びを深める。
	教室外学習の時間（分）	60分 180分
第3回	授業テーマ	商標法 (ネーミングの権利）（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヒットしそうな商品のネーミング／繁盛しそうな店舗名を、コンセプト、ターゲット層、販売戦略を各自設定して考える。先行商標調査の方法、商標の類否、類似群コードを学ぶ。審判請求、商標の国際登録を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：シラバスに示された授業のテーマと関連する情報を自主的に調べ予備知識を得る。 復習：授業で学んだ内容から興味をもった事柄を自主的に調べ学びを深める。
	教室外学習の時間（分）	60分 180分
第4回	授業テーマ	商標法（ネーミングの権利）（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自考えた商品ネーミング／店舗名について、J-PlatPatを用い実際に先行商標調査を行い、登録可能性を検討し（外観，称呼，観念）、登録可否を判断する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：シラバスに示された授業のテーマと関連する情報を自主的に調べ予備知識を得る。 復習：授業で学んだ内容から興味をもった事柄を自主的に調べ学びを深める。
	教室外学習の時間（分）	60分 180分
第5回	授業テーマ	意匠法（デザインの権利）（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	登録例から意匠の保護対象を学び、登録要件（新規性，創作非容易性等）、出願から登録までの流れを理解する。六面図を学び、簡単な意匠図面を完成させる。
		予習：シラバスに示された授業のテーマと関連する情報を自主的に

	教室外学習(予習・復習)の内容	調べ予備知識を得る。 復習：意匠図案を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60分 180分
第6回	**授業テーマ**	意匠法（デザインの権利）（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実際に新製品をデザインして、その先行意匠調査を行い、登録の可能性を各自検討・判断する。意匠権（判例紹介）、意匠の類否、意匠法特有の制度（部分意匠，関連意匠，組物の意匠，秘密意匠）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：シラバスに示された授業のテーマと関連する情報を自主的に調べ予備知識を得る。 復習：授業で学んだ内容から興味をもった事柄を自主的に調べ学びを深める。
	教室外学習の時間（分）	60分 180分
第7回	**授業テーマ**	特許法（発明の権利）（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特許権とはどのような権利で何ができるようになるのか（無形資産、独占排他権）、特許になるのはどのような発明か（新規性、進歩性）、発明をどのように見える化するか（特許請求の範囲）、について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：シラバスに示された授業のテーマと関連する情報を自主的に調べ予備知識を得る。 復習：授業で学んだ内容から興味をもった事柄を自主的に調べ学びを深める。
	教室外学習の時間（分）	60分 180分
第8回	**授業テーマ**	特許法（発明の権利）（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特許権はどのような場合に効かなくなるか（消尽）、外国でどのように特許を取得するか（特許に関する条約）、特許に関する重要な判例（何が争いになったか）、について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：シラバスに示された授業のテーマと関連する情報を自主的に調べ予備知識を得る。 復習：授業で学んだ内容から興味をもった事柄を自主的に調べ学びを深める。
	教室外学習の時間（分）	60分 180分
第9回	**授業テーマ**	発明抽出のプロセス・先行技術調査
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事例を基に、アイデアから発明を抽出するプロセスや、特許庁のデータベース（JPlatPat）を使った特許の調べ方について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：シラバスに示された授業のテーマと関連する情報を自主的に調べ予備知識を得る。 復習：授業で学んだ内容から興味をもった事柄を自主的に調べ学びを深める。
	教室外学習の時間（分）	60分 180分
	授業テーマ	知財マネージメント概論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	知財マネージメント概要及び、産業財産権の活用事例を学ぶ／レポート提出について／小演習：用意された前提事例について、グルー

第10回	を含む)	プ内ディスカッション
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：シラバスに示された授業のテーマと関連する情報を自主的に調べ予備知識を得る。 復習：レポートの作成を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分 180分
第11回	授業テーマ	著作権法（著作物の権利）（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	著作権概要：産業財産権との違い及び共通点を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：シラバスに示された授業のテーマと関連する情報を自主的に調べ予備知識を得る。 復習：授業で学んだ内容から興味をもった事柄を自主的に調べ学びを深める。
	教室外学習の時間（分）	60分 180分
第12回	授業テーマ	著作権法（著作物の権利）（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	原著作物を作成した著作者の権利について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：シラバスに示された授業のテーマと関連する情報を自主的に調べ予備知識を得る。 復習：授業で学んだ内容から興味をもった事柄を自主的に調べ学びを深める。
	教室外学習の時間（分）	60分 180分
第13回	授業テーマ	著作権法（著作物の権利）（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	著作隣接権者の権利及び、原著作物を作成した著作者の権利との違いについて理解する。／小演習：前提事例について、グループ内ディスカッションでグループとしてのベスト見解をまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：シラバスに示された授業のテーマと関連する情報を自主的に調べ予備知識を得る。 復習：授業で学んだ内容から興味をもった事柄を自主的に調べ学びを深める。
	教室外学習の時間（分）	60分 180分
第14回	授業テーマ	グループ間ディスカッション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前提事例に係る知財権マネジメントについてグループごとに発表する。論理的思考と表現の練習／レポート提出について
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：ディスカッションでの提案を事前に考え準備する。 復習：レポートの作成を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分 180分

学習計画注記

各授業でコンピュータとネットワークを利用する。各自のコンピュータの教室への持参につい

てはクラスルームの連絡、または授業での指示に従うこと。

学生へのフィードバック方法

コメントカード（オンライン）を授業毎に提出し、その意見・感想や質問について、授業内または返信により応答し、クラスで情報を共有する。

評価方法

・成績評価について、商標法・意匠法では毎回の「確認テスト」により評価する。特許法では「確認テスト・レポート」により評価する。著作権法・グループディスカッションでは「レポート」により評価する。
・各テーマで成績の評価方法が異なり、第1回、第7回、第11回の講義で詳しく説明する。
・期末試験は行わない。
・各テーマでの評価割合は、商標（20%）、意匠（20%）、特許（20%）、著作（20%）、ディスカッション（20%）とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
確認テスト	○	○		○
レポート	○	○		○
ディスカッション	○	○	○	○
コメントカード	○	○	○	

評価割合

各テーマでの評価割合は、商標（20%）、意匠（20%）、特許（20%）、著作（20%）、ディスカッション（20%）とする。

使用教科書名(ISBN番号)

オンライン（Googleクラスルーム）により教材・資料を共有する。または授業で資料を配付する。

参考図書

授業で適宜に紹介する。

参考URL

https://www.jpaa.or.jp/

ディプロマポリシーとの関連

【知識・技能】社会の諸課題に対応することができる生活科学を基点とした知識・技能
【共感力】他者の思いを尊重し、相互にわかりあう共感力
【協働力】自分が属する場においてリーダーシップを発揮し、多様な人々と共に課題に取り組む協働力

オフィスアワー

江田：月曜3限、金曜3限
※必ず事前にメール等で連絡する。

学生へのメッセージ

自分のアイデアや作品を他者の盗用や模倣から守るとともに、他者の権利を侵害しないためにも、知的財産に感する意識と高めて、正しい知識を学ぶことが大切です。また、先行して登録されている権利を調べたり、自分のアイデアや作品を権利化するための手続きを学ぶことで、有用なビジネス・スキルを身に付けたり、起業・創業にも役立てる技能を身に付けることができます。在学中にパテントコンテストに応募できるうな学生になってほしいと考えます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		授業を担当する講師は、日本弁理士会から派遣された豊富な実務経験の有する弁理士であり、その実績と経験を反映して授業を展開する。
アクティブ・ラーニング		学生はワークショップやディスカッション、プレゼンテーションに共同して取り組み、共感力や協働力の育成を図る。
情報リテラシー教育		情報懸濁の実践力を高めるとともに、情報セキュリティや情報モラルに関す学修力を養成する。
ICT活用		授業の展開と、教室外学習にネットワークの活用を図る。

講義コード	S01100801
講義名	ビジネストレンドキーワードを読み解く
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M21333M22

学習計画

講義コード	S01150101
講義名	社会現象と哲学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M22311M21

学習計画

講義コード	S01150201
講義名	ミュージッキング
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活共創学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	吉永　早苗	指定なし
教授	新開　よしみ	指定なし

ナンバリング

M12312M22

授業概要(教育目的)

風の音、鳥の鳴き声、人の声、車のクラクションなど、「いのち」の営みには音が存在する。それらは、私たちに何を語り、どのようなパフォーマンスを誘っているのだろうか。本科目では、ヒト・モノ・コトに感覚を研ぎ澄ませ、感じたことを音・声・身体の動きで表現することの意味を学ぶ。さらに、ボディーパーカッションやボイスアンサンブルを制作し、他者との同調、非言語コミュニケーションを試みる中で、共感力、協働力、達成力を育成する。「ミュージッキング」という参加型パフォーマンスの作品として、受講生によるフラッシュモブにチャレンジする。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	「ミュージッキング」の概念を理解し、音楽と身体表現の関係について学ぶ。 音と環境、人間の営みとの関係を知り、サウンドスケープを意識する。
思考・判断の観点 (K)	日常の音や声をどのように音楽的な表現に変換できるかを考える。 非言語的なコミュニケーションの可能性を探り、音楽と身体表現の意義を判断する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	他者との音や身体表現を通じた対話に積極的に参加し、協働の精神を養う。 自然音や日常音に興味を持ち、それらを表現に活かそうとする姿勢を身につける。

技術・表現の観点 (A)	ボディーパーカッションやボイスアンサンブルを用いた即興表現を習得する。 フラッシュモブの企画・実施を通じて、音楽パフォーマンスを創造する力を養う。

学習計画

第1回	授業テーマ	オリエンテーション－「ミュージッキング」とは何か？
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「音楽は＜行為＞である」と述べるクリストファー・スモールの「ミュージッキング」の考え方に触れ、身近な事例について考えながら「音楽は＜行為＞である」ということの意味について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	関連する論文を読み、理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	150分
第2回	授業テーマ	環境音と身体－音と動きの関係を感じる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	私たちの生活の中には、多様な音が存在する。しかしながら、私たちは、生活の中に聴こえる音にどれだけ気づいているだろうか。また、無意識に反応していることもあるだろう。第2回の授業では、音と動きの関係を、事例を通して考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループディスカッションのまとめを行う。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	授業テーマ	リズムと身体－ボディーパーカッションの基礎
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事前配布されたボディーパーカッションの楽譜を表現する。自らつくり出す音の面白さに気づき、即興的に表現を重ねていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第2回で配布されたプリントに目を通し、予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	声と共鳴－ボイスアンサンブルの実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	言葉とリズム、声と共鳴に関心をもち、その表現の多様性について理解するとともに、音楽の原点について考える。自分たちでもボイスアンサンブルを楽しむ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第３回の授業で配布されたボイスアンサンブルの楽譜について予習しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	サウンドスケープ－環境音を活かしたパフォーマンス

第5回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	町田キャンパスの中にある、多様な音、あるいは音の響きのする空間を見つける。その上で、それらの音環境にプラスアルファの音を重ね、新しい音空間を創り出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	あらかじめキャンパス内を散策し、多様な音、多様な音が響き合う空間を見つけておく。
	教室外学習の時間（分）	150分
第6回	授業テーマ	即興表現－音と動きを組み合わせる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分が作り出す音に関心を持ち、ふとした瞬間に生まれ出るリズムを拾い出し、即興的に繋いでいく。言葉ではなく、自身の創り出す音や動きに意味を見出し、コミュニケーションを図る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	振り返りレポートの作成。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	非言語コミュニケーション－身体と音による対話
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	以下のような身体と音による対話を楽しみ、日常生活に存在する非言語コミュニケーションの事例や可能性を考える。 ・一人が音を出し、もう一人がその音に応じた動きをする（またはその逆）。 ・音と動きの「キャッチボール」をしながら、感覚的な対話を楽しむ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習体験を活かし、日常生活の中でも非言語コミュニケーションを試み、その体験をコメントシートにて報告する。
	教室外学習の時間（分）	150分
第8回	授業テーマ	グループワーク－即興セッションとアイデア共有
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	声や言葉を使わず、楽器や体の動きのみでストーリーを表現する。即興的に音や動きを繋ぎ、ストーリーを作成する。さらに、打楽器や環境音を活用して、登場人物の感情や状況を伝える劇をグループで制作し、発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	即興セッションの動画を視聴し、気づき、学びをコメントシートにて提出する。
	教室外学習の時間（分）	150分
第9回	授業テーマ	フラッシュモブの企画－作品の方向性を考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フラッシュモブの特性を理解し、作品のねらいやテーマを決定する。活動内容は、以下の通り。①フラッシュモブの例を鑑賞②フラッシュモブの目的を考える③グループでテーマ・メッセージを決定④大まかなストーリーや流れを考える
	教室外学習(予習・復習)の内	どのような動き・音を取り入れたいか考えてくる 自分の得意な表現方法（動き・リズム・表情など）をリストアップ

	容	
	教室外学習の時間（分）	240分
第10回	授業テーマ	フラッシュモブの制作－振付・音楽の構成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フラッシュモブのシナリオや演出を決め、動きを試す。まず、導入：音や動きを使った即興ワークショップを行う。次に、グループでシーンごとの演出を決定し、個人や小グループで練習を行い、授業の終わりには、全体でつなげて試してみる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の担当部分を練習 他のメンバーの動きを見て工夫できそうな点を考える
	教室外学習の時間（分）	240分
第11回	授業テーマ	リハーサル1－表現の洗練
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フラッシュモブの動きを洗練し、一体感を高める。活動内容は以下を予定している。 ①通し練習（初回）＋フィードバック ②非言語的な表現力を磨くトレーニング ③「驚き」の演出を強化する ④音の要素をブラッシュアップ ⑤パフォーマンスの強調ポイントを決定
	教室外学習(予習・復習)の内容	ハーサルで気になった点を修正 必要な小道具や衣装などがあれば準備
	教室外学習の時間（分）	240分
第12回	授業テーマ	リハーサル2－本番に向けた調整
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本番を想定したリハーサルを行い、細かい調整をする。 活動内容は以下を予定している。 ①本番と同じ環境で通しリハーサル（場所や動線を確認） ②フィードバックをもとに修正（動きのタイミング、フォーメーション、音のバランスなど） ③観客役を立てて、外からの印象を確認（どこが驚きや感動を生むか） ④「成功するフラッシュモブの条件」をみんなで考え、チェックリストを作る
	教室外学習(予習・復習)の内容	動きを最終調整 本番の心構えをイメージする
	教室外学習の時間（分）	240分
第13回	授業テーマ	フラッシュモブ本番－公開パフォーマンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フラッシュモブを実施する。本番では動画を撮影するとともに、アンケートを用意しておく。 終了後には、すぐに振り返りを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	時間を見つけて練習しておく。アンケートの作成。
	教室外学習の	240分

	時間（分）	
第14回	授業テーマ	振り返りと成果発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	記録映像を見ながらフィードバックを行う。「非言語コミュニケーション」の視点から分析するとともに、どんな気づきがあったか、今後の表現活動にどう活かせるかなど、感想や学びをシェアする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	最終レポートを仕上げる。
	教室外学習の時間（分）	240分

学習計画注記

第3回～第13回については、動きやすい服装で参加してください。

学生へのフィードバック方法

Googleクラスルームを通して提出していただくリフレクションシートや課題については、翌週の授業の最初に共有し、振り返りを行います。質問事項も随時受け付けます。
グループワークや制作表現では、対話を通してコミュニケーションを図りながら活動を進めて行きます。

評価方法

評価の観点は以下の通りです。
・授業に積極的に参加しているか
・授業での気づきや振り返り、質問等をコメントシートへに記載し、提出しているか
・積極的にグループワークに参加し、アイディアを出し、協働して作品制作に臨んでいるか

最終レポートには、ルーブリックを提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業への積極的な参加			○	
コメントシート	○	○	○	○
作品制作に向けてグループワーク	○	○	○	○
最終作品	○	○	○	○
振り返りレポート	○	○	○	

評価割合

授業への積極的な参加（表現を含む）、コメントシートの提出（40%）
グループワークと作品制作（30%）
フラッシュモブの実施と振り返りレポート（30%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし。

参考図書

授業の中で適宜紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】

人々が豊かに暮らす上での音楽や身体表現の役割や価値について理解する。
【思考・判断】
他者との音や身体表現を通じた対話に積極的に参加し、協働の精神を養う。
自然音や日常音に興味を持ち、それらを表現に活かそうとする姿勢を身につける。
【関心・意欲・態度】
他者との音や身体表現を通じた対話に積極的に参加し、共感し、相互に高め合うことができる。
自然音や日常音に興味を持ち、それらを表現に活かそうとする姿勢を身につける。
【技術・表現】
他者と協力して表現作品を創り上げる（達成力）。

オフィスアワー

吉永：木4限

学生へのメッセージ

この授業では、個々の感性を大切にしながら、他者との協働による表現活動を重視します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	多様な体験を通し、音楽や身体表現を通してのwell-beingについて考える。
情報リテラシー教育	○	音楽や映像等を活用するにあたり、著作権の基本的な知識を学ぶ。
ICT活用	○	ICTを活用した情報検索、動画制作を行う。

講義コード	S01150301
講義名	サステナブルファッション
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M22321M22

学習計画

講義コード	S01150401
講義名	クールジャパン（日本文化とテクノロジーの融合）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M22322M22

学習計画

講義コード	S01150501
講義名	ユニバーサルデザインI（生活）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M22323M21

学習計画

講義コード	S01150601
講義名	ユニバーサルデザインII（環境）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32324M22

学習計画

講義コード	S01150701
講義名	アシスティブ・テクノロジー
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32325M21

学習計画

講義コード	S01150801
講義名	アントレ・イントレプレナーシップ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32326M21

学習計画

講義コード	S01150901
講義名	ＳＮＳプロモーションとマーケティング
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M22331M22

学習計画

講義コード	S01151001
講義名	感性デザイン
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M22332M21

学習計画

講義コード	S01151101
講義名	イノベーションデザイン演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32333M22

学習計画

講義コード	S01151201
講義名	ドローン活用とビジネス
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M22334M22

学習計画

講義コード	S01151301
講義名	ビジネスイノベーション研究（ケーススタディI)
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32335M21

学習計画

講義コード	S01151401
講義名	起業・創業プロジェクト
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32336M22

学習計画

講義コード	S01151501
講義名	地域課題を考える
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M22341M21

学習計画

講義コード	S01151601
講義名	社会起業と非営利組織
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32342M21

学習計画

講義コード	S01151701
講義名	地域イノベーション研究（ケーススタディII）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活共創学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32343M21

授業概要(教育目的)

企業がイノベーションを通して存続・発展を目指すのと同様に、地域も新たな発想による変革なしには存続・発展が難しい時代になりつつある。急速に進む少子高齢化や過疎化、若者の都会への流出、シャッター通りに象徴される中心市街地の衰退など、地域が抱える問題は深刻さを増しつつある。その一方で、各地でその逆境を跳ね返す取り組みが行われ、成果をあげる地域も現れている。授業では、新たな発想による変革で地域が抱える問題の解決を目指す取り組みについて、関係者によるオムニバス講義を通して学び、地域課題に関する関心とイノベーションに対する理解を深める。

履修条件

特にないが地域におけるイノベーションに関心があることが望ましい

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	地域における課題の解決に向けたさまざまな取り組み（実践例）を知る
思考・判断の観点 (K)	さまざまな実践例から課題の発生要因や、その解決に向けた効果的・効率的な方法を考えることができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	地域課題に対する関心を高め、改善に向けて行動できる
技術・表現の観点 (A)	地域課題の解決の参考となるような方法論を身につけることができる

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業内容の概略について説明する
	教室外学習(予習・復習)の内容	次回授業に関係する内容の中で、関心があるものを取り上げて調べておく
	教室外学習の時間（分）	195

第2回	授業テーマ	ケーススタディ1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外部ゲストによる講義
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で関心を持った事柄を取り上げて調べる
	教室外学習の時間（分）	195
第3回	授業テーマ	ケーススタディ2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外部ゲストによる講義
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で関心を持った事柄を取り上げて調べる
	教室外学習の時間（分）	195
第4回	授業テーマ	ケーススタディ3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外部ゲストによる講義
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で関心を持った事柄を取り上げて調べる
	教室外学習の時間（分）	195
第5回	授業テーマ	ケーススタディ4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外部ゲストによる講義
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で関心を持った事柄を取り上げて調べる
	教室外学習の時間（分）	195
第6回	授業テーマ	ケーススタディ5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外部ゲストによる講義
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で関心を持った事柄を取り上げて調べる
	教室外学習の時間（分）	
第7回	授業テーマ	ケーススタディ6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外部ゲストによる講義
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で関心を持った事柄を取り上げて調べる
	教室外学習の時間（分）	195
第8回	授業テーマ	ケーススタディ7
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外部ゲストによる講義
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で関心を持った事柄を取り上げて調べる
	教室外学習の時間（分）	195
第9回	授業テーマ	ケーススタディ8
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外部ゲストによる講義
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で関心を持った事柄を取り上げて調べる
	教室外学習の時間（分）	195
第10回	授業テーマ	ケーススタディ9
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外部ゲストによる講義
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で関心を持った事柄を取り上げて調べる
	教室外学習の時間（分）	195
	授業テーマ	ケーススタディ10
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	外部ゲストによる講義

第11回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で関心を持った事柄を取り上げて調べる
	教室外学習の時間（分）	195
第12回	授業テーマ	ケーススタディ11
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外部ゲストによる講義
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で関心を持った事柄を取り上げて調べる
	教室外学習の時間（分）	195
第13回	授業テーマ	ケーススタディ12
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外部ゲストによる講義
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で関心を持った事柄を取り上げて調べる
	教室外学習の時間（分）	195
第14回	授業テーマ	ケーススタディ13
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外部ゲストによる講義
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で関心を持った事柄を取り上げて調べる
	教室外学習の時間（分）	195

学習計画注記

授業ではさまざまな外部ゲストから講義を受ける。その際、さまざまな取り組みについてリスペクトしながら参加して欲しい

学生へのフィードバック方法

課題提出がある場合は、ルーズブックを基に評価し、返却する

評価方法

平常点
授業の受講態度・姿勢について評価する。また、必要に応じてルーブリックを用いて評価する

定期試験
ゲストによる講義の中から3つの講義を取り上げ、それぞれについてレポートを提出する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○

評価割合

平常点（30%）、定期試験（レポート）70%

使用教科書名(ISBN番号)

適宜、授業資料を配付する

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
地域で派生している生活課題について理解できる
【思考・判断】
生活課題（福祉課題）を抽出・分析し、課題解決に導く考え方ができる

【関心・意欲・態度】
地域で派生している生活課題に対して関心を持つことができる
【技術・表現】
地域で派生している生活課題に対し、解決に向けた方法を考えることができる

オフィスアワー

火曜3限、木曜3限

学生へのメッセージ

小課題が課された場合には、意欲的に取り組んで欲しい

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実務を有するゲストによる授業であるため、実践的な授業展開が可能な授業である
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	ICTを活用し、事前に地域課題を知り、その解決法探る、あるいは考える授業である

講義コード	S01151801
講義名	地域イノベーション演習（ＰＢＬ）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M42344M22

学習計画

講義コード	S01151901
講義名	国際貢献活動
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M22345M22

学習計画

講義コード	S01200101
講義名	住居デザイン演習Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活共創学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小池 孝子	指定なし
准教授	小川 圭子	指定なし

ナンバリング

M11211M22

授業概要(教育目的)

近い将来、建築やインテリアのプロ(専門職)として、また、本コースで学んだ知識や技術を生かした職業に就くことを目指すための初歩的かつ基礎的な建築製図手法や技術を習得するための演習授業である。住宅をはじめとする建物の基本的な図面作成方法と構成及び構法と模型制作方法を学習する。各種図面の表記記号や図面相互の関係を理解し、製図道具を正しく用いた図面表現や模型制作を通して、基本的な図面の読み書きができるよう進めていく。

履修条件

特になし(建築士試験指定科目)

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	基礎的な設計課題を通し、住まい手の求める生活像を実現する住宅設計の基本プロセスを習得する
思考・判断の観点 (K)	表現図法の背後にあるルールや効果を読み取り、今後自分が図面を描くときに適切に選択・活用できる力をつける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	住まい手の求める生活像について積極的に考え、提案できる。
技術・表現の観点 (A)	住宅設計作品について、図面・模型を用いて表現できる。

学習計画

	授業テーマ	
		授業概要の説明 課題１：線の練習

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	製図道具の種類、使い方について学び、線の引き方に関する課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）授業内容を確認し、課題１を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	100
第2回	授業テーマ	課題２：レタリング･文字の練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	線の引き方に加え、建築製図に用いる文字の書き方に関する課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）授業内容を確認し、課題２を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	100
第3回	授業テーマ	課題３：建築図面の表示記号
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築図面の表記に用いる表示記号に関する課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）授業内容を確認し、課題３を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	100
第4回	授業テーマ	課題４：木造住宅／配置図・平面図の表現方法－１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木造住宅の配置図・平面図のトレース課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。
	教室外学習の時間（分）	100
第5回	授業テーマ	課題４：木造住宅／配置図・平面図の表現方法－２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木造住宅の配置図・平面図のトレース課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。
	教室外学習の時間（分）	100
第6回	授業テーマ	課題４：木造住宅／配置図・平面図の表現方法－３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木造住宅の配置図・平面図のトレース課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）授業内容を確認し、課題４を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	100
第7回	授業テーマ	課題５-1：木造住宅／断面図の表現方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木造住宅の断面図のトレース課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。
	教室外学習の時間（分）	100
第8回	授業テーマ	課題５-2：木造住宅／立面図の表現方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	木造住宅の立面図のトレース課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）授業内容を確認し、課題を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	100

第9回	授業テーマ	課題６：ＲＣ住宅／平面図の表現方法－１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉄筋コンクリート造住宅の平面図のトレース課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。
	教室外学習の時間（分）	100
第10回	授業テーマ	課題６：ＲＣ住宅／平面図の表現方法－２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉄筋コンクリート造住宅の平面図のトレース課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）授業内容を確認し、課題６を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	100
第11回	授業テーマ	課題７：ＲＣ住宅／立面図の表現方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鉄筋コンクリート造住宅の立面図のトレース課題に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）授業内容を確認し、課題７を完成させる。
	教室外学習の時間（分）	100
第12回	授業テーマ	課題８：住吉の長屋：安藤忠雄設計／模型製作－１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題６、課題７をもとに、建築模型を製作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで模型製作を進める。
	教室外学習の時間（分）	100
第13回	授業テーマ	課題８：住吉の長屋：安藤忠雄設計／模型製作－２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題６、課題７をもとに、建築模型を製作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで模型製作を進める。
	教室外学習の時間（分）	100
第14回	授業テーマ	課題８：住吉の長屋：安藤忠雄設計／模型製作－３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題６、課題７をもとに、建築模型を製作する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）授業内容を確認し、課題８を完成させる
	教室外学習の時間（分）	100

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業時間内は教員が巡回して指導をおこなう。質問を歓迎する。提出された課題は採点後に講評とともに返却する。

評価方法

授業への参加度合、取り組み状況により平常点を採点する。
提出された課題は完成度によって評価する。
詳細は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
小テスト	○			
各成果物		○		○

評価割合

平常点：10%、小テスト：10%、各成果物：80%による総合評価とする。但し全課題提出を条件とする。

使用教科書名(ISBN番号)

「新しい建築の製図」／「新しい建築の製図」編集委員会／学芸出版社／2005／978-4-7615-2375-6
「図解 すまいの寸法・計画事典 第二版」／岩井一幸・奥田宗幸 ／彰国社／2004／4-395-10032-5

参考図書

その都度必要に応じ、参考になる資料を配布する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】住生活にかかわる知識を多面的に身に付けている。
【思考・判断】表現図法の背後にあるルールや効果を読み取り、今後自分が図面を描くときに適切に選択・活用できる力をつける。
【関心・意欲・態度】他者の視点やニーズを理解し、社会に新たな価値を見出すことができる。
【技能・表現】生活にかかわる技能を多面的に身に付けている。

オフィスアワー

金曜２時限 3508研究室（小池）
水曜昼休み～３時限 3512研究室（小川）

学生へのメッセージ

図書館にある「新建築」や「新建築 住宅特集」、「住宅建築」などの建築雑誌を読むことを習慣とし、身近な建物の構造と図面表現の関係についても理解を深めること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	授業内で実施する小テストは、Googleフォームを使用し作成。学生は携帯端末機等で回答することによって理解状況を把握する。

講義コード	S01200201
講義名	住居デザイン演習Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活共創学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小池 孝子	指定なし
准教授	小川 圭子	指定なし

ナンバリング

M11212M22

授業概要(教育目的)

住居デザイン演習Aで習得した技術を踏まえ、住宅の設計・作図を通して、設計技術、作図技術、プレゼンテーション技術などの習得と上達を目指す演習科目である。提示された計画敷地より、具体的にそこに居住する家族構成を想定し、その生活をイメージした計画を行っていく。そして、それらを踏まえ、平面図、立面図、断面図、パース（透視図）などの作図を行い、模型を作成する。さらに、図面の着彩、模型写真の撮影などを通して、プレゼンテーション技術の上達をも目標とする。

履修条件

住居デザイン演習Ａの単位を修得していることが望ましい。(建築士試験指定科目)

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	基礎的な設計課題を通し、住まい手の求める生活像を実現する住宅設計の基本プロセスを習得する。
思考・判断の観点 (K)	条件や生活像を踏まえて空間を計画し、適切な表現を選び、検討・改善しながら設計を進めることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	住まい手の求める生活像について積極的に考え、提案できる。
技術・表現の観点 (A)	住宅設計作品について、図面・パース・模型・写真を用いて表現できる。

学習計画

	授業テーマ	授業の概要と課題の説明

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シラバス・授業の運営方法の説明。課題説明後、コンセプト等立案のための資料収集を実施し、それを提示しながらコンセプト案についてまとめる
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）自分が住みたい住宅として、どのような住宅とすべきか（仮想の）家族構成も含め、その構想をまとめる （予習）はさみ・糊・製図道具・クロッキー帳を持参する
	教室外学習の時間（分）	100
第2回	授業テーマ	エスキース（配置図・平面図）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	平面や配置図の表現方法を再確認し、配置図・平面図のエスキスをで表現する また、必要な室や大きさ、そのつながりを視覚的に把握し、室のつながりを検討する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）教科書①第2章の「2-1.配置図」（18～19ページ）「2-2．平面図」（20～23ページ）を読んでおく （復習）平面図のエスキスを完成させておく
	教室外学習の時間（分）	100
第3回	授業テーマ	エスキース（断面図・立面図））
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	断面図の表現方法を再度確認し、断面のエスキスで表現する また、平面図との関係を再考し、齟齬を修正する 立面図の表現方法を再度確認し、立面のエスキスで表現する また、2～3回の授業で描いた各種図面の相互関係を確認し、必要に応じて修正を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）教科書①第2章の「2-3．断面図」（24～27ページ）と「2-4．立面図」（28～31ページ）を読んでおく （復習）断面図・立面図も含めた各図面のエスキスを完成させておく
	教室外学習の時間（分）	100
第4回	授業テーマ	清書（配置図・平面図）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配置図・平面図のエスキスを清書する手順を再確認しながら、作図技術も理解する また、配置図・平面図エスキスを清書として表現する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）教科書①第2章の「2．平面図」（20～23ページ）を再度読んでおく （予習）トレーシングペーパー（A3版又は幅のロール）を持参する
	教室外学習の時間（分）	100
第5回	授業テーマ	清書（断面図）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	断面図のエスキスを清書する手順を再確認しながら、作図技術も理解する また、断面図エスキスを清書として表現する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）教科書①第2章の「2-3．断面図」（24～27ページ）を再度読んでおく （次回）トレーシングペーパー（A3版又は幅のロール）を持参する
	教室外学習の時間（分）	100
	授業テーマ	清書（立面図）

第6回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	立面図のエスキスを清書する手順を再確認しながら、作図技術も理解する また、立面図エスキスを清書として表現する さらに10回目の授業で使用する模型材料について説明をする
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）教科書①第2章の「2-4．立面図」（28～31ページ）を再度読んでおく （次回）トレーシングペーパー（A3版又は幅のロール）を持参する
	教室外学習の時間（分）	100
第7回	授業テーマ	パースの下書き
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	一点透視図法の原理を把握する また、表現する室とアングルを決定する 一点透視図法による作図手順を理解しながら、パーガイドを作図する 作図技術を習得し、人物や植物その他什器の書き方についても理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）4～6回目に清書した図面は、数枚づつコピーをしてくる （予習）教科書①第7章の「7-4．一点透視投影法」（116～117ページ）を読んでおく、参考にしたい家具等の写真を持参する トレーシングペーパー（A3版又は幅のロール）を持参する
	教室外学習の時間（分）	100
第8回	授業テーマ	パースの原稿完成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	詳細を書き込み終えたら、必要な線をなぞり、パース原稿を清書する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）パースの下書きを完成させておく
	教室外学習の時間（分）	100
第9回	授業テーマ	模型制作（敷地と外壁の作成）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模型制作技法を理解する 敷地や外壁を作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）4～6回目に清書した図面は、数枚づつコピーする （予習）自らが作成する模型に適した材料を検討し、その材料を持参する
	教室外学習の時間（分）	100
第10回	授業テーマ	模型制作完成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模型制作技法を理解する 内壁や屋根、家具や人等も制作する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）4～6回目に清書した図面は、数枚づつコピーをしてくる 自らが作成する模型に適した材料を検討し、その材料を持参する （次回）ノートPCを持参する
	教室外学習の時間	100

	（分）	
第11回	**授業テーマ**	図面原稿の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	面積計算の方法を理解する コンセプトを文章としてまとめたものと図面等に貼り込む文字や数値をPCで入力・出力する
	教室外学習(予習・復習)の内容	（次回）スティックのりを持参する
	教室外学習の時間（分）	100
第12回	**授業テーマ**	図面原稿の完成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図面等に寸法や文字を貼り込み、コピーし、印刷原稿を作成する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内に行うべき作業が終わっていない場合は各自進めておく
	教室外学習の時間（分）	100
第13回	**授業テーマ**	模型写真撮影、レイアウト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模型写真撮影技法を理解する レイアウトの基本を理解し、A2版レイアウト用紙に、図面やタイトル、写真等の配置の検討を行い、模型写真・パース以外のものの仮止めを行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	（宿題）レイアウト用紙に配置した図面等（模型写真を除く）を印刷（KVAショップ前コピー機の印刷代：80円/1枚）
	教室外学習の時間（分）	100
第14回	**授業テーマ**	着彩・仕上げ・プレゼンテーション・完成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アルコールマーカーによる着彩技法を理解する 図面やパースの着彩を行い、模型写真、パースを貼り込む 授業前半で図面・模型の最終仕上げを行い、授業後半でそれらを用いたプレゼンテーションを行う スキャナ、PDF化の説明
	教室外学習(予習・復習)の内容	（宿題）貼り付ける模型写真の大きさを検討し、現像若しくは印刷し、持参する。 （宿題）ポートフォリオの作成・印刷（PDF化）・提出
	教室外学習の時間（分）	100

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業時間内は教員が随時質問を受け付ける。提出された課題に対してコメント・講評をおこなう。

評価方法

授業への参加度合、取り組み状況により平常点を採点する。
提出された課題は完成度、プレゼンテーション内容によって評価する。
ただし、最終提出物（①作品ポスター、②模型、③ポートフォリオのすべての提出し、毎回課す進捗状況確認のための提出物のすべての提出を必須条件とする。
詳細は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはGoogle Classroomまたは授業内での周知する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	
課題（成果物）		○		○

評価割合

平常点：30%、提出課題（成果物）の完成度(A・B・C・D)：70%による総合評価とする。

使用教科書名(ISBN番号)

「新しい建築の製図」／「新しい建築の製図」編集委員会編／学芸出版社 2005／ISBN978-4-7615-2375-6
「図解 すまいの寸法・計画事典 第二版」／岩井一幸・奥田宗幸著／彰国社 2004／ISBN 4-395-10032-5

参考図書

その都度必要に応じ、参考になる資料を配布する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】生活にかかわる知識を多面的に身に付けている。
【思考・判断】生活像に基づき空間を計画し、図面や模型で検討・改善できる。
【関心・意欲・態度】他者の視点やニーズを理解し、社会に新たな価値を見出すことができる。
【技術・表現】生活にかかわる技能を多面的に身に付けている。

オフィスアワー

金曜２時限 3508研究室（小池）
水曜昼休み～３時限 3512研究室（小川）

学生へのメッセージ

「新建築」や「新建築 住宅特集」、「住宅建築」などの建築雑誌を閲覧することを習慣とし、身近な建物の構造と図面表現の関係についての理解を深めること。 自分が心地よいと感じる空間について、スケール、素材など、その空間の構成要素について注意を払うこと。また、設計は、段階を踏んで形になっていきます。毎回の作業が遅れると、他の部分に支障をきたしますので、終わらすべき作業は、次回の授業までに完成をさせ、授業には主体的に取り組んでください。毎回の製図道具一式の持参、その都度持参を指示するトレーシングペーパーや模型材料等の消耗品は、個人負担で用意してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	発表やプレゼンテーションを通じて表現する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	各自のPCを用いて、設計趣旨や図面に貼り込む室名・寸法や面積表などを入力作成し出力を行う。その他、カメラを用いた模型の撮影方法等も指導する。

講義コード	S01200301
講義名	住居デザイン演習Ｃ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M21213M22

学習計画

講義コード	S01200401
講義名	住居デザイン演習Ｄ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M21214M22

学習計画

講義コード	S01200501
講義名	建築史Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活共創学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大橋 竜太	指定なし

ナンバリング

M11221M21

授業概要(教育目的)

日本建築史の通史を学ぶ。主としてパワーポイントを用いながら、おのおのの時代の建築を、タイプごとに、それらを代表する具体的な実例をいくつか取り上げながら、それぞれの建築の特徴を解説していく。また、意匠や技術的側面ばかりでなく、それぞれの建築のもつ社会的意義についても考察し、わが国の伝統文化を理解する。

履修条件

特に定めない

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日本建築の構造、意匠的特徴を理解する
思考・判断の観点 (K)	既存の建築から建築の建てられた時代背景を考える力を習得する
関心・意欲・態度の観点 (V)	既存の歴史的建築物の存在意義について考える力を身に付ける
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	イントロダクション 日本建築の構造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	建築史とは何か、建築史を学ぶ目的とは 木造軸組構造の基礎、部材の名称
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で説明した用語を復習すること

	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	先史時代の建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	竪穴住居、高床住居
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部I「竪穴式住居と高床式建物」（pp.10-11）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	神社建築の成立
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住吉造、大社造、神明造
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部II「古代の神社建築」（pp.12-13）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	仏教建築の伝来
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	飛鳥時代の仏教寺院の伽藍、法隆寺、奈良時代の寺院建築、組物の発達
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部III「仏教建築の伝来」（pp.14-15）を読んでおくこと。また、授業で配布するプリント（組物について）の組物名称を覚えること
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	古代の都市計画と寝殿造
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	条坊制、モヤ・ヒサシ構造、寝殿造
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部IV「古代の都市計画と住宅」（pp.16-17）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	平安時代の仏教建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	密教建築、浄土教の建築
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部V「浄土教の建築」（pp.18-19）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	中世の神社建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	春日造、流造、拝殿や境内の整備
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部VII「中世の神社建築」（pp.24-25）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分

第8回	授業テーマ	中世の仏教建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	南都焼討と奈良の再建、大仏様、禅宗様、和様、折衷様、構造技術の発達
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部VI「中世の仏教建築」（pp.20-23）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	書院造へ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	寝殿造の簡略化、楼閣建築、座敷飾り、書院造
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部VIII「中世の住宅から書院造へ」（pp.26-27）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	近世社寺建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	権現造り、東照宮、東大寺大仏殿、善行寺、浅草寺、木割、大工集団
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部XI「近世の社寺建築」（pp.32-35）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	近世の都市と建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	城郭建築、茶室・数寄屋、近世社寺、新しい建築タイプの誕生
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部IX「城郭建築」（pp.28-29）X「茶室と数寄屋」（pp.30-31）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	民家建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	民家の種類、町屋、土蔵造
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第１部XII「民家」（pp.36-39）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	西洋建築の移入
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	擬洋風建築、日本人建築家の誕生
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第２部I「西洋文化の移入」（pp.42-43）II「日本人建築家の誕生」（pp.44-46）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	近現代建築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第14回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	わが国の近代建築運動、耐震建築の発達、メタボリズム
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第２部V「モダニズム建築の到来」（pp.50-53）VIII「日本建築界からの発信」（pp.59-61）IX「モダニズムの先を求めて」（pp.62-63）を読んでおくこと
	教室外学習の時間（分）	200分

学生へのフィードバック方法

レスポンスシートをチェックし、理解が十分でない場合には、コメントをつけて返却する

評価方法

・Googleクラスルームに提示するルーブリックに基づき成績評価を行う
・レスポンスシート14回（55%）とレポート３題（45%）で評価する
・レスポンスシート：講義映像を視聴後、授業の概要をまとめるとともに、簡単な課題に取り組み、提出する。これにより、授業内容の把握状況を判断する
・レポート：具体的な建築を選んで、テーマに沿ってレポートを作成する。文献史料からどれだけ正しい情報を集められているか、また、個々の建築（実例）について、正確に理解できているか、を中心に評価する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レスポンスシート	○	○		
レポート	○	○	○	

評価割合

授業態度（レスポンスシートで判断）55%およびレポート45%で評価する

使用教科書名(ISBN番号)

「建築史」編纂委員会編著、『コンパクト版 建築史【日本・西洋】』、彰国社（ISBN：978-4-395-00876-6）

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】住居を含む建築の歴史にかかわる知識を多面的に身に付けている。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し考察することができる
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる

学生へのメッセージ

建築を学ぶためには、建築を実際に見て、空間を体験することがもっともよい方法です。授業で知った建築を、チャンスがあったら見に行く
とよいでしょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	S01200601
講義名	建築史Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M21222M21

学習計画

講義コード	S01200701
講義名	住環境マネジメント論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活共創学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小池 孝子	指定なし

ナンバリング

M11223M21

授業概要(教育目的)

人口減少に伴う空き家の増加、高齢化問題、都市部への人口集中など、私たちの暮らしをとりまく住環境は変化を続けている。また、地球環境や資源の有効活用の視点からは、住まいのストック活用が急務とされ、維持管理やリフォームに関する知見が求められている。良好な住宅ストックの形成と都市居住・地域活性化への対応など、住み手が住まいを適切に管理しながら豊かな生活環境・地域環境を維持していくための方策について検討する。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	住環境を管理する方法について、基本的な知識を身につける。
思考・判断の観点 (K)	住環境を管理する専門家として広い視野から考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	住環境の管理に関する身近な課題について検討を行うことができる。
技術・表現の観点 (A)	住環境の管理に関する諸問題について解決案の提案ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス・ 住環境マネジメントとは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住環境マネジメントの意義、私たちの暮らしとの関わりについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分自身の生活がどのように住環境マネジメ

		ントに関わっているのかについて考える
	教室外学習の時間（分）	70分
第2回	**授業テーマ**	住まいのメンテナンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住まいのメンテナンスにはどのようなものがあるのか、具体的に学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自宅のメンテナンスの状況について確認し、改善点がないか考える
	教室外学習の時間（分）	140分
第3回	**授業テーマ**	住まいの老朽化対策とリフォーム
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住まいの老朽化とはどのようなことかについて学び、リフォームを行う意義と課題について考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）リフォームを実施する際の課題について考える
	教室外学習の時間（分）	140分
第4回	**授業テーマ**	住まいの管理と中古住宅市場
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の中古住宅市場の特徴について、住まいの管理という視点から学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）インスペクションの持つ意義と、国内への普及に関わる課題について考える
	教室外学習の時間（分）	140分
第5回	**授業テーマ**	賃貸集合住宅の管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	賃貸集合住宅の管理について、居住者としての役割について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）賃貸住宅に住む際の注意点について考える
	教室外学習の時間（分）	140分
第6回	**授業テーマ**	分譲集合住宅の管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	分譲集合住宅（分譲マンション）の管理について、所有者としての役割について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）分譲集合住宅管理の現代的課題について考える
	教室外学習の時間（分）	140分
第7回	**授業テーマ**	居住地の管理１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	快適な住環境を実現する居住地の条件について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）居住地の持つ課題について考える （中間レポート1/3）タウンウォッチングを通して、自分の住む地域の課題について考える
	教室外学習の時間（分）	140分+レポート180分
第8回	**授業テーマ**	居住地の管理２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	快適な住環境を維持していくために必要なことは何かについて考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）居住地管理の持つ課題について考える （中間レポート2/3）タウンウォッチングを通して、自分の住む地域の課題について考える
	教室外学習の時間（分）	140分+レポート180分
	授業テーマ	空き家問題１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	空き家が地域に与える影響について学び、空き家が生じる原因について社会的背景から考える

第9回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	（復習）自分の住む地域の空き家の状況について調べる （中間レポート3/3）タウンウォッチングを通して、自分の住む地域の課題について考える
	教室外学習の時間（分）	140分+レポート180分
第10回	**授業テーマ**	空き家問題２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	空き家の活用事例から、地域に合った空き家の解消方法について考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分の住む地域の空き家問題の解決策について考える
	教室外学習の時間（分）	140分
第11回	**授業テーマ**	住居費の管理１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住居にかかる費用にはどのようなものがあるのか学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）住居にかかる費用について、具体的事例から考える
	教室外学習の時間（分）	140分
第12回	**授業テーマ**	住居費の管理２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住居の確保にかかる費用について学び、居住支援について考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）自分の住む地域の居住支援について調べる
	教室外学習の時間（分）	140分
第13回	**授業テーマ**	ライフスタイルとモノの管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ライフスタイルの変遷に伴って増え続けるモノとの付き合い方について考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）モノの管理と収納計画との関係について考える （レポート1/2）自宅の死蔵品について調べる
	教室外学習の時間（分）	140分+レポート180分
第14回	**授業テーマ**	暮らしとモノの安全管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	モノの管理が住宅内での安全な生活にどう関わるのか考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	（復習）高齢者とモノの管理、住宅の安全性について考える （レポート2/2）自宅の死蔵品について調べる
	教室外学習の時間（分）	140分+レポート180分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

小課題については、授業時間内に全体講評をおこなう。
レポートは、採点後にコメントを付して返却する。

評価方法

小課題は、毎回の授業で実施する。授業時間内に実習課題として実施するものと、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述するものがある。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。
レポートは、授業で得られた知識をもとに情報収集をおこない、発見した課題について自分の意見をまとめて記述する。課題の発見・整理は十分か、課題解決案は適切か、結論に至る筋道に論理性があるかについて評価する。

なお、評価はルーブリックに基づくものとし、ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小課題	○	○	○	
レポート	○	○	○	○

評価割合

小課題：70%、レポート：30%により総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない

参考図書

図解住居学６ 住まいの管理、図解住居学編集委員会／編、彰国社、2003年 ISBN：4-395-28036-6

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】住環境管理にかかわる知識を多面的に身に付けている
【思考・判断】住環境管理に関する地域・社会の諸課題を自分ごととしてとらえ、適切な手法で分析することができる
【関心・意欲・態度】住環境に関する他者の関わりや視点・ニーズを理解し、自分の果たすべき役割を見出すことができる
【技能・表現】人々が快適に生活できる持続可能な住環境を企画・提案することができる

オフィスアワー

金曜２時限 3508研究室

学生へのメッセージ

他分野との関連・連携を念頭に置き、広い視野に立ち問題を考えるよう心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	S01200801
講義名	住居計画
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M21224M21

学習計画

講義コード	S01200901
講義名	福祉住環境
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M21225M21

学習計画

講義コード	S01201001
講義名	構造力学Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M21231M21

学習計画

講義コード	S01201101
講義名	住宅設計論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M21232M21

学習計画

講義コード	S01201201
講義名	構法計画
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M21233M21

学習計画

講義コード	S01201301
講義名	インテリア材料
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M21234M21

学習計画

講義コード	S01201401
講義名	ガーデニング概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活共創学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	石綱 史子	指定なし

ナンバリング

M11241M21

授業概要(教育目的)

人々が様々なストレスを抱えた現代の社会では、植物に求められる機能や用途も多様化している。本講義では、園芸やガーデニングとについて考え、定義する。主にガーデニングを行う際に必要な植物学や庭のデザインに関する基礎的な知識や技術について紹介する。本講義を通じ、私たちの生活の中に多く存在している植物に気づき、見る力を養う。園芸領域科目（園芸学、ガーデニング実習など）の入門編の講義である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	身の回りの植物を用いた空間デザインについて興味を持ち、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	植物を生活に取り入れることのメリット、デメリットを判断し、その楽しさや難しさ示すことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	本講義を受ける前には気がつかなかった、私たちの生活の中にある植物に気づき、興味を持つ。
技術・表現の観点 (A)	植物を生活に取り入れるために必要な園芸やガーデニングの基礎的知識を身につける。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンスとイントロダクション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本講義の到達目標、講義内容、進め方を説明する。身近にどのような植物があるか、どのような植物を知っているかを考える。 課題①植物の紹介について説明し、進め方を決定する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：本講義の到達目標や進め方をよく理解すること。 予習：生活の中にある植物を観察する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	植物、庭、花壇、園芸、ガーデニングとは 植物学の基礎
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本講義で扱う言葉の定義を例を紹介しながら解説する 植物学的分類、命名法、植物の形態の基礎を実例を挙げながら解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義で扱った言葉の定義を復習し違いを理解し解説できるようにする 予習：植物の名前はどの様につけられているか、植物の形態と部分の名前を理解し解説できるようになる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	造園とランドスケープの歴史①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本庭園の歴史と様式を事例を挙げながら解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：日本庭園の歴史を復習し、なぜ時代によって庭園の様式が変化したか理解する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	造園・ランドスケープの歴史②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	西洋の庭園の歴史、様式を実例を挙げながら解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：授業内容を復習し、西洋の庭園の歴史と時代によって異なる様式を理解する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	造園・ランドスケープの歴史③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国外の庭園の歴史と様式を実例を挙げて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義内容を復習する。第3回から第5回までの造園・ランドスケープの歴史について理解する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	園芸植物の基礎①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	園芸植物とは何か、栽培植物の起源と育種について、特に野菜の実例を挙げて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義内容を復習する。野菜の栽培化や育種について理解し、具体例を説明できるようにする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	園芸植物の基礎②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	園芸植物とは何か、栽培植物の起源と育種について、特に果物の実例を挙げて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義内容を復習する。果物の栽培化や育種について理解し、具体例を説明できるようにする。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	園芸植物の基礎③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	

第8回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	園芸植物とは何か、栽培植物の起源と育種について、特に花の実例を挙げて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義内容を復習する。花の栽培化や育種について理解し、具体例を説明できるようにする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	植物についての正しい情報を得る方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	植物図鑑の見方（用語の解説など）、インターネットサイトなど、植物についての正しい情報を得る方法を解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義内容の復習とインターネットなどを実際に閲覧し、情報を得る方法を確認する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	園芸用資材と季節の飾り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガーデニングや園芸で使用する特殊な資材、用土について実例を挙げて解説する。 年末にかけてみられるクリスマスの飾りについて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義内容の復習。どの様な道具や資材を使うか理解し、解説できるようにする。 街に飾られている植物を使った飾りを観察する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	身の回りにある植物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	街の景観の構成要素や私たちの暮らしの中にある植物について考察し解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義内容を復習する。各自の生活の中の景観や植物を改めて観察する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	季節の重要性と植物を使った空間デザイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	庭や植物の季節の重要性、日本文化で昔から用いられる四季の代表的な植物を実例を挙げて解説する。 植物を使った空間デザインについて、実例を紹介し解説する。 お正月飾りについて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：講義内容の復習と秋と冬に美しい植物を観察する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	「シンボルツリーを選ぶ」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	初歩的な題材として住宅のアプローチへ植栽するシンボルツリーを実例を挙げて解説し、各自で課題に取組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：一般的な住宅で玄関前に植えられている植物を観察する。 予習：シンボルツリーを選ぶ時に重要なポイントを考えておく。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	課題「シンボルツリーを選ぶ」の発表とふりかえり 本講義の総括
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	クラスメートが課題「シンボルツリーを選ぶ」で選んだ樹種や理由を共有する。

第14回	**を含む)**	この講義で学んだこと、到達目標は達成できたか振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：デザイントの考え方について復習する。身の回りある植物を改めて観察する。
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

履修者数など諸事情により、スケジュールや課題が変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

課題は採点し、コメントを付けて返却する。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。

評価方法

平常点（70%）：各回授の終わりに業内容についてのコメントシートの提出や授業内容に関連した小課題をだす。その提出状況に基づき、授業に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。
課題（30%)植物の紹介（レポートと発表）：課題の主旨を理解しているか、疑問や問題に適切に答えているか、文章構成力、表現力などを総合的に判断して評価する。

課題はルーブリックに基づく評価とします。ルーブリック評価の方法は授業内で解説します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
課題	○	○		○

評価割合

平常点（70%)、課題（30%)による総合評価。

使用教科書名(ISBN番号)

適宜、資料を印刷・配付する。

参考図書

適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー

月曜日 2限 3609研究室

学生へのメッセージ

私たちの生活に身近な植物について学びます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かし	○	担当教員は、植物園および大学研究機関で庭や植物コレクションの栽培管理業務に従事した実務経験を有している。実務経験をもとに現場で必要な園芸と植物の

た授業		基礎的知識とは何かを講義で伝えている。
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら考え、調べ、デザインとして表現する。 課題発表では質疑応答を行い、意見交換等する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	授業内で課題をパワーポイントを使い発表する。

講義コード	S01201501
講義名	園芸論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M21242M21

学習計画

講義コード	S01201601
講義名	ガーデニング実習I
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M21243M23

学習計画

講義コード	S01250101
講義名	建築デザイン演習Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32211M22

学習計画

講義コード	S01250201
講義名	建築デザイン演習 B
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32212M22

学習計画

講義コード	S01250301
講義名	住居ＣＡＤ演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M22213M22

学習計画

講義コード	S01250401
講義名	建築ＣＡＤ演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32214M22

学習計画

講義コード	S01250501
講義名	建築総合演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M42215M22

学習計画

講義コード	S01250601
講義名	建築計画
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32221M21

学習計画

講義コード	S01250701
講義名	インテリアデザイン論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32222M21

学習計画

講義コード	S01250801
講義名	地域デザイン論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32223M21

学習計画

講義コード	S01250901
講義名	建築環境学Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M22224M21

学習計画

講義コード	S01251001
講義名	建築環境学Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32225M21

学習計画

講義コード	S01251101
講義名	住居設備
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M22226M21

学習計画

講義コード	S01251201
講義名	建築環境システム
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32227M21

学習計画

講義コード	S01251301
講義名	建築法規
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32228M21

学習計画

講義コード	S01251401
講義名	構造力学Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32231M21

学習計画

講義コード	S01251501
講義名	構造力学Ｃ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M42232M21

学習計画

講義コード	S01251601
講義名	構造計画
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32233M21

学習計画

講義コード	S01251701
講義名	建築材料学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32234M21

学習計画

講義コード	S01251801
講義名	建築施工
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32235M21

学習計画

講義コード	S01251901
講義名	ガーデニング実習II
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M22241M23

学習計画

講義コード	S01252001
講義名	ガーデンマテリアルズ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M22242M21

学習計画

講義コード	S01252101
講義名	インテリアグリーン
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M22243M21

学習計画

講義コード	S01252201
講義名	エクステリア演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32244M22

学習計画

講義コード	S01252301
講義名	社会園芸
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32245M21

学習計画

講義コード	S01252401
講義名	ランドスケープデザイン論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32246M21

学習計画

講義コード	S01300101
講義名	フードビジネス概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活共創学科食科学コース・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	山岡　義卓	指定なし

ナンバリング

M11111M21

授業概要(教育目的)

「食」は、いのちの源であり、私たちが生きていく上では欠くことのできない営みである。フードビジネスは、食に関わるあらゆる事業活動の総称であり、私たちの生活に密接に関わることはもちろん、殊更重要な社会的役割を有する。本授業では、食品の生産から消費に至る過程を軸に各種フードビジネスの事業や担い手について概観し、その機能や役割を理解すると同時にフードビジネスが抱える諸課題を確認する。さらに、今後、持続可能な社会の構築を目指すうえでの望ましいあり方や進むべき方向性についても考える。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各種フードビジネスの事業や担い手、歴史的経緯等基本的な知識を身につけることにより、その機能や役割、現代社会における諸課題を理解できるようになる。
思考・判断の観点 (K)	上記理解に基づき、持続可能な食の営みを目指すうえでフードビジネスの望ましいあり方や進むべき方向性を考究することができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	短期的な視点からの消費者メリットやビジネス上のメリットだけでなく、長期的および倫理的な観点も考慮して相応しい考え方や行動ができるようになる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス：フードビジネスとは

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シラバスに記載された本科目の目的や授業計画について理解し、学習領域であるフードビジネスの全体像を概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習としてシラバスをよく読んで授業の目的や進め方を理解しておく。復習としてフードビジネスの全体像（生産・加工・流通・消費）を概観したうえで自分自身が興味・関心のある分野を複数選び、どのようなフードビジネスの事例があるか調べ、意義や課題について考察する。
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	私たちの暮らしとフードビジネス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	身近な食品を題材にして、フードビジネスが私たちの暮らしとどのように関係しているのかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として身近な食品（授業で取り上げた以外）のいくつかについて、それぞれどのようなフードビジネスが関係しているのかを洗い出して、改めてフードビジネスと自分たちの生活との関係を確認する。予習として新聞やニュース、インターネットにより農業や漁業に関する最近の話題を調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	フードビジネス①生産（農業・漁業：概要）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	農業・漁業について概観するとともにフードビジネスとしての特徴を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として加工食品の原材料や家庭で使用している食材について産地や生産方法を調べ、さまざまな食料生産のあり方があることを確認する。予習として新聞やニュース、インターネットにより農業や漁業に関する最近の話題（特に課題に関する事柄）を調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	フードビジネス②生産（農業・漁業：意義と可能性）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回に続き農業と漁業を扱う。フードビジネスとしての農業・漁業の意義と可能性について理解する。
	教室外学習(予習・	復習として前回と今回の授業で学んだ農業・漁業の現状や課題、可能性を

	復習)の内容	整理し、その特徴を確認する。予習として身近な加工食品を製造しているメーカーの事業内容について調べ、その特徴を考察する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	フードビジネス③加工・製造（食品製造業：概要）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品製造業について概観し、その特徴を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として身近な加工食品を自分自身でつくることで製造工程の複雑さや衛生管理の難しさ等を理解する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食品製造業の最近の話題を調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	フードビジネス④加工・製造（食品製造業：法規制・傾向・課題）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品製造業に関するさまざまな法規制とその目的、近年の傾向や諸課題について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として身近な加工食品の表示や販売方法がどのような法規制に基づく対応であるかを確認し、法規制の消費者への影響を確認する。予習として生鮮食品の流通の仕組みを調べその特徴を考察する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	フードビジネス⑤流通（食品の流通の概要）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品流通の全体像について概観し、その特徴を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業で学んだ食品流通の仕組みを整理し、その特徴を確認する。予習として新聞やニュース、インターネットにより卸売市場に関する最近の話題を調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	フードビジネス⑥流通（卸売流通）

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品流通のうち生鮮食品（青果、鮮魚、精肉等）の卸売流通の特徴について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として授業で学んだ卸売流通の流れを食品の種類ごとに整理し、その特徴を確認する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食品小売業、外食、中食に関する最近の話題を調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	フードビジネス⑦小売流通・外食・中食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品流通のうち小売流通（スーパー、専門小売店等）についてその特徴を理解する。外食についてはチェーンレストランと個人経営の飲食店の比較を通して、中食についてはコンビニエンスストアを題材に、それぞれフードビジネスとしての特徴を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として代表的な小売流通であるスーパーと専門小売店について、両者で買い物をしたうえでその特徴、メリット、デメリットなどを比較し、今後、小売流通をどのように利用したいか考察する。また、外食や中食の利用に際してそのオペレーションを想像しながら授業で学んだことを確認する。予習として次週訪問するフードビジネスの現場についてインターネット等で事前に情報収集し、その特徴等を理解する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	フードビジネスの実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フードビジネスの現場を訪問し、フードビジネスに携わる講師の講話を聴く。フードビジネスの現場から見た意義や課題、可能性等について理解する。校外授業として実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習としてフードビジネスの現場で見聞きした事柄を振り返り、当該ビジネスの意義、課題、可能性を整理し、課題解決の方策を考察する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食のグローバル化や工業化に関する最近の話題を調べる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	フードビジネスの現代的課題①グローバル化・工業化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グローバル化や工業化が進展することでフードビジネスの領域において生起する諸課題を理解する。
	教室外学	復習として具体的な食品を題材に、工業化やグローバル化が進展すること

	習(予習・復習)の内容	による課題を解決するための方策を考察する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食品の安全性や環境に関する最近の話題を調べる。
	教室外学習の時間(分)	200分
第12回	授業テーマ	フードビジネスの現代的課題②食の安全性・環境問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食の安全性や環境に関する問題とフードビジネスの関係について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として食の安全性や環境に関する諸課題を自分たち（消費者）の立場で解決できる方策について考察する。予習として地産地消について言葉の意味や具体的な取り組み等について書籍やインターネット等により調べる。
	教室外学習の時間(分)	200分
第13回	授業テーマ	これからのフードビジネス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	フードビジネスの抱える諸課題を解決するための方策のひとつとして地産地消やフェアトレード等いくつかの事例を取り上げ、その内容や意義、課題について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習として身近な地産地消の営み（直売所やマルシェ等）を見聞し、授業内容に照らし合わせて意義や課題等について考察する。予習として定期試験に備えてこれまでの授業内容を振り返り、疑問点等を明確にしておく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第14回	授業テーマ	まとめ・振り返り・期末試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	期末試験を実施し、これまでに学んだことを振り返り、学習目標の達成について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期末試験の結果も踏まえて授業全体を通して学んだことを改めて振り返り、知識の定着を確認することはもちろん、自分自身が今後、どのようにフードビジネスに向き合っていきたいかを考える。
	教室外学習の時間(分)	200分

学習計画注記

毎回の授業の最後にその日の学習内容を確認するためのミニテストを実施するとともに、リアクションペーパーを記入する。また毎回の授業冒頭において前回の振り返りを行う。

学生へのフィードバック方法

リアクションペーパーのコメントやミニテストの回答いくつかをピックアップし、授業内で解説や補足説明等によりフィードバックする。合わせてGoogleクラスルームを通じてもフィードバックを行う。14回目の授業で実施する期末試験については試験終了後に解説を行う。

評価方法

期末試験は第14回の受業内にて実施する。
中間レポートは授業の復習の一環として7回目以降に実施し、情報収集や考察により評価する。中間レポートの課題はいずれも授業内にて提示する。
平常点は毎回のミニテストとリアクションペーパーの内容により理解度を確認し、評価する。
ルーブリックに基づく成績評価を行います。ルーブリックについては初回の授業で説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末試験	○	○	○	
中間レポート	○	○	○	
平常点	○	○	○	

評価割合

期末試験50点、中間レポート25点、平常点25点

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない。必要な文献や資料は授業の際に随時配布する。

参考図書

なし。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】生活にかかわる知識を多面的に身に付けている。
【思考・判断】地域・社会に関する諸課題を自分ごととしてとらえ、適切な手法で分析することができる。
【関心・意欲・態度】他者の視点やニーズを理解し、社会に新たな価値を見出すことができる。
・地域・社会の多様な人々と協働して、新しいライフスタイルを共に創り上げることができる。
【技能・表現】人々が快適に生活できる持続可能な生活様式を企画・提案することができる。

学生へのメッセージ

フードビジネスに限らず、食に関するさまざまな社会問題、先進的な事例、政策や法律等に関する情報を積極的に収集するように心がけること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品メーカーにおいて商品開発に実務に携わった経験があり、また、現在もさまざまなフードビジネス事業者（生産、流通、小売等）との連携活動を行っている。
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	S01300201
講義名	比較食文化・食生活論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活共創学科食科学コース・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	小池 美穂	指定なし

ナンバリング

M11112M21

授業概要(教育目的)

世界の食文化と日本の食文化が形成された要因を自然環境、社会環境の視点から考え、多様な食文化を学ぶ。さらに、時代における日本食についての特徴を知り、近世以降日本食に影響を与えた事柄について歴史を辿ることにより、その背景についても理解する。
近代においては、西洋文化の受容について知り、日本食が変化する様子を社会の変化から捉える。食生活の地域差、食の工夫、調理文化、食教育の形成などについても理解し、食生活の現状と課題について考える。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	世界の食文化形成と日本の食文化形成の要因について比較し、特徴について理解できる。
思考・判断の観点 (K)	「日本食」が形成され、変化する過程を辿ることにより現代の食の課題、将来の食について発展させて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	各時代における調理文化・郷土食などの学びから食文化の継承について考え、興味を広げることができる。
技術・表現の観点 (A)	「食」が紡ぐ文化を通して自らの視点で比較し、様々な事柄に反映できる力を養う。

学習計画

	授業テーマ	食文化の領域
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆ	

第1回	ﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食文化の定義を知り、食文化研究の対象について考える。ルーブリックに基づく成績評価について資料を用いて説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食文化の領域に関する内容について教科書(p.2～13)を読み、予習をしておく。授業の内容をノートにまとめて復習し、価値ある資料となるよう作成する。
	教室外学習の時間(分)	200分
第2回	授業テーマ	世界の食文化形成の特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	世界の食文化圏、料理文化圏の分類からその形成要因を自然環境、社会環境の視点から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	世界の食文化に関する内容を資料で確認し、予習をしておく。授業の内容をノートにまとめておく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第3回	授業テーマ	日本の食文化形成の特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の食文化形成についてその要因を自然環境、社会環境から考え、特徴を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本の食文化形成に関する内容を資料で確認し、予習をしておく。授業の内容をノートにまとめておく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第4回	授業テーマ	異文化接触と受容
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	喫茶文化にみられる異文化の受容の過程を学び、日本独自の食文化形成について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	茶の歴史について調べ、予習をしておく。授業の内容をノートにまとめておく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第5回	授業テーマ	日本の料理形式の発展①平安・鎌倉時代
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大饗料理、精進料理の特徴について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	平安・鎌倉時代の料理形式について教科書(p.16～41）を読み、予習をしておく。授業の内容をノートにまとめておく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第6回	授業テーマ	日本の料理形式の発展②室町・安土桃山・江戸時代
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本膳料理、懐石料理、会席料理の変遷を知り、現代の食事様式に至る流れを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本の料理形式に関する内容について教科書(p.42～75）を読み、予習をしておく。授業の内容をノートにまとめておく。
	教室外学習の時間(分)	200分
	授業テーマ	年中行事と行事食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	平安時代から継承され、江戸時代に制定された年中行事を中心に行事食との関わりを学ぶ。

第7回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	年中行事について各地に見られる行事食を調べておく。授業の内容をノートにまとめておく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第8回	授業テーマ	江戸時代の料理書の特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	江戸時代に出版された料理書の特徴を知り、日本食発展の原点を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	江戸時代に出版された料理書に関する内容について教科書(p.76～99)を読み、調べておく。授業の内容をノートにまとめておく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第9回	授業テーマ	西洋文化の導入と西洋料理書、家庭向け料理書
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	明治時代における西洋文化の導入と西洋料理書、家庭向け料理書・雑誌の特徴から家庭料理の影響について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	明治時代における西洋文化の導入について教科書(p.100～127 p.132～143）を読み、授業の内容をノートにまとめておく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第10回	授業テーマ	明治後期以降の食生活の変化、栄養学の発展と女子の食教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	明治後期から変化する食生活について社会的背景を理解し、大正・昭和期の日常食の地域差について学ぶ。女子の食教育の始まりについて知り、食物教育の内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	大正・昭和期の日常食の地域差、明治期の食教育について教科書(p.144～147 p.128～131）を読み、授業内容をノートにまとめておく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第11回	授業テーマ	戦時食料統制下の食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	非常食の工夫を昭和時代の戦時食料統制下などの歴史と戦時下の教育から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	戦争時における食生活についての資料と教科書(p.148～151）を読み、予習をしておく。授業内容をノートにまとめておく。
	教室外学習の時間(分)	200分
第12回	授業テーマ	高度経済成長期にみられる食の変容、学校給食の歴史的概要と課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高度経済成長期の食生活の変化について知り、学校給食の変遷と課題について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	高度経済成長期の食の変容と学校給食の在り方について教科書(p.156～171 p.180～183）を読み、授業の内容をノートにまとめておく。
	教室外学習の時間(分)	200分
	授業テーマ	日本型食生活の特徴と推奨、食料自給率の国際比較と変化、郷土食の特徴

第13回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本型食生活の特徴と評価について学び、食料消費の変化について考える。郷土料理の定義を知り、郷土食の流れを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本型食生活の特徴、食料自給率の種類と推移について教科書(p.172～17 p.184～187 p.212～215）を読み、授業内容をノートにまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	和食文化のユネスコ無形文化遺産登録と世界につながる食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の食文化の基本を「自然の尊重」という軸から考え、世界各地の文化との繋がりを知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本食の文化の特徴について教科書(p.188～211）を読み、考えておく。授業内容をノートにまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

進度により学習内容が前後する場合がある。

学生へのフィードバック方法

授業の際のリアクションペーパーや質問について随時対応し、回答を通して学習内容の理解度を深められるようにする。

評価方法

授業への取り組み、課題評価、確認テスト、期末レポート作成を総合したルーブリックに基づく成績評価とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業への取り組み・課題評価			○	
確認テスト	○			○
学期末レポート作成	○	○		

評価割合

授業への取り組み・課題評価(10%）、確認テスト(20%）、学期末レポート(70%）

使用教科書名(ISBN番号)

日本食の文化 原始から現代に至る食のあゆみ 江原絢子 編著 アイ・ケイコーポレーション (ISBN 978-4-87492-375-7)

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】世界と日本の食文化の多様性を理解し、行事食などの課題に取り組むことで培った独自のコミュニケーション力を持っている。
【思考・判断】食生活に関する諸課題について、豊かな想像力に基づく的確な判断力を身に付けている。
【関心・意欲・態度】調理文化、郷土食の具体例に学ぶことにより食文化について関心を持ち、自ら考えをまとめる力を発揮することができる。
【技能・表現】専門的な学びを通して、食に関する諸問題など社会に生かせる表現力を身に付けている。

学生へのメッセージ

世界と日本の食文化について興味があるトピックスを見つけ、独自の視点から調べておきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	課題を通して視覚的に共有することにより互いに学び合うことができる。

講義コード	S01300301
講義名	有機化学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活共創学科食科学コース・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	黒田　久夫	指定なし

ナンバリング

M11121M21

授業概要(教育目的)

【授業の概要】

・食科学コースの専門科目を理解するために必要な化学と有機化学の知識を習得します。具体的には、食品学総論・食品学実験・基礎栄養学・応用栄養学・生化学（総論）・代謝栄養学などの学びに役立ちます。

・高校で化学を学ばなかった方も理解できるように授業を進めます。ただし、化学を習得するには根気が必要なので、粘り強く勉強する必要があります。化学は、語学と似たところがあり、ある程度の暗記が必要になってきます。

・有機合成や分子軌道論など、食科学コースの専門科目を理解する上で直接必要の無い内容は扱いません。

・栄養素や食品成分を名称だけではなく、構造をベースに理解する力を養います。

【授業の形式】

・対面の講義です。全１４回です。

・履修が確定次第、座席を固定します。座席表は、クラスルームに掲載します。

・講義の理解度は、理解度チェックで確かめます。

・テキストの自主学習を中心とした教室外学習があります。

履修条件

1. PCを毎回持ってくること。マウスを用意し、接続しておくことを勧めます。PCが無いと授業に参加できない場合があるので注意してください。PCを忘れた場合は、各回で、成績から１点を減じます（１００点満点として）。

2. 分子模型を利用したワークがあります。分子模型は貸与します（購入の必要はありません）。

3. 食科学コース以外の方の履修を歓迎しますが、内容は一般教養的なものでなく、食科学コースの専門科目を理解するための実践的な内容になっています。教養としての化学を学びたい方は、教養の化学や基礎化学などの共通科目を履修してください。

4. 有機合成や分子軌道論など、食科学コースの専門科目を理解する上で直接必要の無い内容は

扱いません。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・化学と有機化学の基礎知識が習得できている。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	・栄養素や食品成分を名称だけではなく、構造も勉強したいという強いモチベーションがある。 ・化学と有機化学は覚えることも多数あり、習得が面倒な学問だが、それでも粘り強く習得したいという強いモチベーションがある。
技術・表現の観点 (A)	・化合物の構造式を読むことができる。 ・栄養素や食品成分を名称だけではなく、構造を説明できる。

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本授業の学習目標・評価方法・予定を確認します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・本授業の学習目標・評価方法・予定の確認フォームとアンケートに回答してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	化学の基礎（１）元素
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・食品や人体に含まれる元素を学びます。 ・原子の構造を学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・次回のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲を予習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	化学の基礎（２）分子
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・物質の種類と分類を学びます。 ・物質の分離方法を学びます。 ・物質の三態について学びます。 ・分子から成る物質について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・本日のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲をよく復習して、次週の授業の初めの復習テストの準備をしてください。 ・次回のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲を予習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	基本の分子（１）アルカン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・代表的なアルカンを学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・本日のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲をよく復習して、次週の授業の初めの復習テストの準備をしてください。 ・次回のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲を予習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分

第5回	授業テーマ	基本の分子（２）アルケンとアルキン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	炭素-炭素間に二重結合、三重結合のある分子について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・本日のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲をよく復習して、次週の授業の初めの復習テストの準備をしてください。 ・次回のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲を予習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	基本の分子（３）アルコール
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ヒドロキシ基を有する分子について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・本日のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲をよく復習して、次週の授業の初めの復習テストの準備をしてください。 ・次回のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲を予習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	基本の分子（４）カルボン酸
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	カルボキシ基を持つ分子について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・本日のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲をよく復習して、次週の授業の初めの復習テストの準備をしてください。 ・次回のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲を予習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	基本の分子（５）アミノ酸
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アミノ酸について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・本日のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲をよく復習して、次週の授業の初めの復習テストの準備をしてください。 ・次回のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲を予習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	基本の分子（６）糖類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖類について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・本日のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲をよく復習して、次週の授業の初めの復習テストの準備をしてください。 ・次回のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲を予習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	基本の分子（７）脂肪酸

第10回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂肪酸について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・本日のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲をよく復習して、次週の授業の初めの復習テストの準備をしてください。 ・次回のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲を予習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	高分子（１）たんぱく質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	タンパク質について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・本日のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲をよく復習して、次週の授業の初めの復習テストの準備をしてください。 ・次回のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲を予習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	高分子（２）脂質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・本日のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲をよく復習して、次週の授業の初めの復習テストの準備をしてください。 ・次回のテキスト「やさしくわかりやすい化学基礎」の範囲を予習してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	高分子（３）炭水化物
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	炭水化物について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期末試験の準備を進めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	期末試験・授業のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・期末試験を行います（筆記試験） ・授業のまとめを行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・授業で学んだことを振り返り、理解できていなかった部分を確認してください。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

・PCを毎回持ってくること。マウスを用意し、接続できるようにしておくこと。PCを忘れた場合は、各回で、成績から１点を減じます（１００点満点として）。

・有機合成や分子軌道論など、食科学コースのの必修科を理解する上で直接必要の無い内容は扱いません。

・高校で化学を十分学んできた方には、前半は易しすぎる内容になるかも知れませんが、基礎固めとして、知識の穴をつぶしていってください。後半は、高校化学では学ばない内容が出て

きます。
・高校で化学を学ばなかった方も理解できるように授業を進めます。ただし、化学は根気が必要なので、簡単には知識は身につきません。粘り強く勉強する必要があります。知識の定着は、理解度チェックを利用して行います。

学生へのフィードバック方法

・理解度テスト等は、グーグルフォームを利用します。繰り返し解けるように設定しているので、繰り返し問題を解いて、知識を定着していってください。
・テキスト「高校やさしくわかりやすい 化学基礎」は、基礎から丁寧に記述されているワークブックで、一人で学習できます。十分に活用して勉強してください

評価方法

①授業への取り組み
・授業中の理解度チェックの正解率で評価します。グーグルフォームを利用します。
②教室外学習
・わかりやすい化学ワークブックの取り組みを次週の復習テストで評価します。グーグルフォームを利用します。
③期末試験
・授業全体の理解度をペーパーテストで評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
①授業への取り組み	○	○	○	
②教室外学習	○	○	○	
③期末試験	○	○		○

評価割合

①授業への取り組み（35%）
②教室外学習（35%）
③期末試験（30%）

使用教科書名(ISBN番号)

・高校やさしくわかりやすい 化学基礎
https://www.bun-eido.co.jp/detail/detail/24447/
このテキスト（ワークブック）は、第２回の教室外学習から使用します。準備をしておくこと。
・理系のリテラシースキル（グーグルクラスルーム）クラスコード：ivice5a
理系の知識をまとめた辞書のようなクラスルームです。どなたでも参加できます。

参考図書

・各種データベースや資料などをクラスルームに紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
・食と栄養の科学を理解する上で必要な化学と有機化学の基礎知識を習得し、生活にかかわる知識を多面的に身に付けている。
【関心・意欲・態度】
・食と栄養の科学の深い学びをもとに、地域・社会の多様な人々の食と健康に貢献する。
【技術・表現】
・栄養素や食品成分を名称だけではなく、構造を説明できることで、食生活を取り巻く様々な事象と関連性や課題を見出すことができる。
・上記で身につけた資質を、食生活と健康、食の安全性、食を通じての生活の質の向上を図るための指導に活かすことができる。人々が快適に生活できる持続可能な生活様式を企画・提案することができる。

オフィスアワー

金曜日・３限（会議等が入り不在にする場合があるので、面談を希望する場合は、必ずメールで予約を取ってください）

学生へのメッセージ

・本科目は、食科学コースの専門科目を理解する上で必要な化学と有機化学の知識を習得します。
・高校で化学を学ばなかった方も理解できるように授業を進めます。ただし、化学を習得するには根気が必要なので、粘り強く勉強する必要があります。暗記が必要なこともあります。
・栄養素や食品成分を名称だけでなく、構造を理解・説明できることを学習目標にしています。
・食事を作ることだけでなく、栄養の指導・啓蒙の仕事、食品の企画・設計・開発・製造の仕事、管理栄養士を目指す人に役に立ちます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	１方向の講義ではなく、理解度チェックや、教室外学習などを利用して、知識の習得を確かめながら授業を進めます。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	授業は、PCを用いて進めます。

講義コード	S01300401
講義名	こどもの食とアレルギー
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M21122M21

学習計画

講義コード	S01300501
講義名	解剖生理学I（解剖学）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活共創学科食科学コース・1年次
必修・選択の別	コース必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	林 省吾	指定なし

ナンバリング

M11131M21

授業概要(教育目的)

解剖生理学は，人が生きていくための，体のしくみを学ぶ学問である。解剖学者は，人体のかたち（構造）からしくみを明らかにしようとし，生理学者は，人体のはたらき（機能）からしくみを明らかにしようとする。かたちとはたらきは，車の両輪であり，かたちを知らずしてはたらきを明らかにすることはできないし，はたらきを知らずして，かたちを明らかにすることはできない。とは言え，かたち（の一部）は目に見えるため，比較的取り付きやすい（ように見える）が，はたらきは目に見えないので，一見難しい（ように見える）。そこで，解剖生理学I（解剖）では，まず人体のかたち（構造）を学び，そこから理解できる範囲のはたらき（機能）に触れることで，人体の基本的なしくみを学ぶ。次年度の解剖生理学II（生理）では，解剖生理学I（解剖）で学んだ人体のかたちを武器に，より深く人体のはたらきを学ぶ。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	人体の基本的な構造と機能を理解し，自分の言葉で説明できる。
思考・判断の観点 (K)	人体の構造と機能についての基礎知識をもとに，健康に関する客観的な判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	解剖生理学の知識を活かし、それぞれの立場から社会貢献しようという意欲を持つ。
技術・表現の観点 (A)	相手の知識や立場など，状況に応じて適切な説明手段を選び，相手に応じて説明できる。

学習計画

第1回	授業テーマ	人体と器官系，細胞と細胞小器官
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体の大まかなかたちを学ぶ。また，人体の基本単位である細胞の構造を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「はじめに」（教科書）1B，2，3 第1章1A，2A，3
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	生体膜，組織
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	物質が出入りする膜のかたちを学ぶ。また，細胞が集まってできる組織の構造を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第1章4A，5，6
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	消化器系1：消化管
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食物を摂取し，排泄するまでの経路を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第2章1-5
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	消化器系2：消化腺
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食物を消化・吸収し，栄養素に変えるための構造を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第2章2A4)，6A-E，6G，6D-F 第11章8
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	呼吸器系1：気道
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	空気を肺に出し入れする経路を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第2章3 第5章1-3
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	呼吸器系2：肺
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	体内に酸素を取り入れ，二酸化炭素を排出するための構造を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第5章4，5
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	血液と血球
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養素，酸素，二酸化炭素を人体の各部分に運ぶ血液の構成を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3章1，3A，4-6B 第5章1 第6章3
	教室外学習の時間（分）	200分

第8回	授業テーマ	循環器系1：心臓
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	血液を人体の各部分に送り届けるための構造を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第4章1-3 第5章1
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	循環器系2：血管
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	血液が流れる血管の構造と，その主な経路を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第4章3，5 第5章1
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	調節系1：内分泌系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでに学んだ構造物を，血液を介して調節するしくみを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第10章1-3，4A，5A，6A，7A，8A 第2章6D 第6章1-3，4A，B，5
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	授業テーマ	体壁系（筋骨格系，皮膚）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人体を包む皮膚と人体を動かすための構造を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第8章1，2 第9章1，2A，B 第14章1，2 第12章6
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	調節系2：中枢神経系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学んだ構造物を，神経を介して調節するしくみを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第11章1，2A-F，4
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	調節系3：末梢神経系，感覚器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中枢神経系の指令を全身に送る経路，全身の刺激を中枢神経系に伝える経路を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第11章3，5-8 第12章
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	泌尿生殖器系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	摂取した食物（栄養素）から代謝された老廃物を排泄する経路とともに，次世代に子孫を残すための構造を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の	第6章1-4B

	内容	第7章 第10章9
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

毎回の授業は，下記の【予習】，【授業】，【復習】のプロセスで行う。

【予習】
1. 教科書解剖生理学ノート 人体の構造と機能（以下「ノート」）の学習のポイントを読む。各項目（番号）の前に，「全く意味がわからない項目（文章）」にX，「意味がわかるところもある項目」に△（わかる範囲に［カッコ］などで印をつけておくと更によい），「全ての意味がわかる項目」に○を付ける。
2. ノートのKeywordsを読み，「知らない用語」にX，「聞いたことはあるが，意味のわからない用語」に△，「意味まで知っている用語」に○を付ける。
3. ノートの「書いてみよう！」に取り組む。

【授業】
1. ノート「要点整理問題」の重要（赤丸）項目を中心に，教科書を参照しながら解説する。取り上げた［カッコ］事項にチェック（✓）を付ける。［カッコ］の中は空欄のままにする。決して正解を書かないこと。
2. 解説をメモするノートを別に用意してもよいが，ノートに直接書き込むことを推奨する。

【復習】
1. ノートの学習のポイントを改めて読む。各項目（番号）の前に，「全く意味がわからない項目（文章）」にX，「意味がわかるところもある項目」に△（わかる範囲に［カッコ］などで印をつけておくと更によい），「全ての意味がわかる項目」に○を新たに付ける。予習時のマークを決して消さないこと（色を変えるなどして，予習時と復習時の見分けがつくようにしておくと良い）。
2. 授業で取り上げた［カッコ］事項を，正解を見ずに記入する。記入できなかった場合は，空欄のままにせず，［X］と記入する。
3. 記入した項目の正解を確認する，不正解の場合は，解答にXを付ける。
4. 教科書の授業で取り上げた要点整理問題について書かれているところを通読する。特に，これまで△やXだった項目は，（たとえ復習時に○であっても！）必ず教科書で確認し，［カッコ］を付けるなどして必ず記録しておくこと。

＊ 上記【予習】・【授業】・【復習】の状況は、評価の対象である。（後述）

学生へのフィードバック方法

メール<p20158@kasei-gakuin.ac.jp>またはGoogle Classroomによる質問や意見を歓迎する。また，授業日に合わせて，対面による質問，学習相談にも対応する。

評価方法

定期試験と教室外学習（授業後のノート）により評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
教室外学習（授業後のノート）		○	○	○

評価割合

定期試験を主とし，適宜教室外学習（授業後のノート）の評価を加味する。

使用教科書名(ISBN番号)

解剖生理学ノート 人体の構造と機能 第3版 (栄養科学イラストレイテッド[演習版]) (978-4-758-11363-2)
解剖生理学 人体の構造と機能 第3版 (栄養科学イラストレイテッド) (978-4-758-11362-5)

参考図書

人体解剖ビジュアル（978-4-907-176273）
イラストでまなぶ 人体のしくみとはたらき 第3版 (978-4-260-03887-4)
新版 からだの地図帳 (978-4-062-61025-4)
からだの地図帳 解剖学用語 (978-4-062-61026-1)

参考URL

https://life-science-edu.net/

ディプロマポリシーとの関連

人体の構造と機能を理解し、いろいろな立場の人に説明できる。
食事や栄養が人体に与える影響について、客観的に判断することができる。

オフィスアワー

「学生へのフィードバック方法」を参照。

学生へのメッセージ

この授業では，栄養士にとってもっとも重要な，食物（栄養）が人体を通過する経路（消化管）のしくみをまず取り扱う。そこからさらに，食物を消化・吸収して栄養素に変えるしくみ，栄養素を呼吸によってエネルギーを得るしくみ，エネルギーを使って体を動かすしくみを学んでいくことにしよう。さらに，体を動かすためには，動かそうと考え，その考えを伝えるしくみも必要になる。これら人体の基本的なしくみに関する知識と理解は，解剖生理学II(生理学)の学修の前提になるとともに，臨床栄養、病態生理などを学ぶための，重要な足がかりとなる。今，その山頂は目に見えないほど高く，とても登る気にならないかもしれません。だけど，どんな山でも，一歩踏み出せば，山頂は一歩近づきます。歩き続ければ，いつか山頂も見えるはず。まずは一歩を踏み出そう！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	S01300601
講義名	解剖生理学II（生理学）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M21132M21

学習計画

講義コード	S01300701
講義名	解剖生理学実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M21133M13

学習計画

講義コード	S01300801
講義名	食品学総論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活共創学科食科学コース・1年次
必修・選択の別	コース必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大嶋 孝之	指定なし

ナンバリング

M11141M21

授業概要(教育目的)

食品はヒトにとって大変身近な存在であり，生命維持に必要不可欠な存在である。食品の成分を理解し，日々の生活の維持，健康増進のために役立てる知識を自身が実働的に活用，また第三者へも提供できる基盤となる知識を食品が有する三つの基本的機能（一次機能；栄養特性，二次機能；嗜好特性，三次機能；健康機能特性）を柱に本講義では学びを展開する。そのために食品を構成する成分を化学的に捉えられるようになる学びに加え，近年の食品に関係する法律の変化も捉えながら知識を深める講義展開を行う。

履修条件

高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	食品の成分と機能を説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	様々な食品を扱う際に食品の成分と機能の知識を基に思考、判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食の諸問題対処に対し、食品の成分や機能を基に意欲をもって対処できる。
技術・表現の観点 (A)	食品の成分と機能に関し、他者に正しく伝える文章を作成できる。

学習計画

	授業テーマ	人間と食品
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	1．食文化と歴史的変遷 2．食料と環境問題 3．食事摂取基準（2020年版）と食品機能

第1回	**含む)**	を理解する。 ＊食品学総論展開内容の補足も行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第1章「人間と食品」（1～9ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第2回	**授業テーマ**	食品機能と食品学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．食品には三つの機能がある 2．食品の一次機能とは 3．食品の二次機能とは 4．食品の三次機能とは について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第2章「食品機能と食品学」（11～14ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第3回	**授業テーマ**	食品の一次機能①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．食品と水 2．たんぱく質 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第3章「食品の一次機能」（15～34ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第4回	**授業テーマ**	食品の一次機能②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2．たんぱく質（前回の続き） 3．炭水化物 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第3章「食品の一次機能」（22～43ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第5回	**授業テーマ**	食品の一次機能③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3．炭水化物（前回の続き） 4．脂質 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第3章「食品の一次機能」（34～59ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第6回	**授業テーマ**	食品の一次機能④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4．脂質（前回の続き） 5．ビタミン について理解する。 ＊食品学総論展開内容の補足も行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第3章「食品の一次機能」（43～65ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第7回	**授業テーマ**	食品の一次機能⑤
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	5．ビタミン（前回の続き） 6．ミネラル について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第3章「食品の一次機能」（59～70ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分

第8回	授業テーマ	食品の一次機能⑥ 食品の二次機能①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	6．ミネラル（前回の続き） 1．色素成分 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第3章「食品の一次機能」（65～70ページ）、第4章「食品の二次機能」（71～76ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第9回	授業テーマ	食品の二次機能②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2．呈味・匂い成分 3．食品のコロイド について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第4章「食品の二次機能」（76～87ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第10回	授業テーマ	食品の二次機能③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4．食品のテクスチャー 5．食品のレオロジー について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第4章「食品の二次機能」（87～98ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第11回	授業テーマ	食品の三次機能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．消化管内で作用する機能 2．消化管吸収後の標的組織での体調調節機能 3．体調調節機能をもつ植物以外の活性成分 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第5章「食品の三次機能」（99～112ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第12回	授業テーマ	食品成分の相互作用①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．たんぱく質の変化 2．炭水化物の変化 3．脂質の変化 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第6章「食品成分の相互作用」（113～125ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第13回	授業テーマ	食品成分の相互作用②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3．脂質の変化（前回の続き） 4．褐変（酵素的褐変、非酵素的褐変） 5．酵素による成分変化 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第6章「食品成分の相互作用」（120～133ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
	授業テーマ	食品表示の規格：健康や栄養に関する食品表示
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	1．食品表示制度 2．健康や栄養に関する食品表示

第14回	含む)	について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第7章「食品表示の規格：健康や栄養に関する食品表示」（135～158ページ）を読んでおくこと。 第1回目～第14回までの授業内容の復習を行っておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分

学習計画注記

＊授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。

評価方法

中間確認課題40%、定期試験（筆記試験）60%の総合評価（100%）とします。課題等に関する評価のルーブリックは当該授業のGoogleClassroomへ掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間確認課題	○	○	○	○
定期試験（筆記試験）	○	○		○

評価割合

中間確認課題40%、定期試験（筆記試験）60%の総合評価（100%）とします。課題等に関する評価のルーブリックは当該授業のGoogleClassroomへ掲載します。

使用教科書名(ISBN番号)

食べ物と健康，食品と衛生 食品学総論 第４版 編：辻 英明 編：海老原 清 編：渡邊 浩幸 編：竹内 弘幸
定価2600+税 2021年3月22日発行 B5 ・176ページ ISBN 978-4-06-522467-0

参考図書

授業内で必要に応じて，紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】食品の成分と機能に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技術・表現】専門的知識を他者に正しく伝える文章力を身につける。

オフィスアワー

金曜2限目 2308研究室 授業前後やメール等で事前に予約と訪問時間の承諾を得て下さい。

学生へのメッセージ

食品を理解するために基礎生物学，基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なかたほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。
現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。
また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、中学校教諭一種免許状、高等学

校教諭一種免許状（家庭）に必要な選択科目でもあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポート作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	資料提供、課題提出等に活用する。 必要に応じて、授業中に食品成分構造視聴に活用する。

講義コード	S01300901
講義名	食品学各論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活共創学科食科学コース・2年次
必修・選択の別	コース必修
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M21142M21

授業概要(教育目的)

多種多様な食品を利用し、ヒトは生命を維持しながら、多彩な食文化を構築し、食生活を営んでいる。食生活形成においては食材の特性を知り、有効活用できる能力が必要である。本講義においては、日本食品標準成分上の分類ごとの特性と属する食品素材に加え、グローバル化する現況を鑑み、輸入食材や新たな食素材にも視点をおき、選択を的確に行うために必要性な専門的知識を学ぶ授業展開を行う。

履修条件

高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	多種多様な食品の特性とその利用について専門的知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	多種多様な食品の特性を活かした思考、応用判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	多種多様な食品の特性に関心をもち、応用展開ができる。
技術・表現の観点 (A)	多種多様な食品の特性を他者へ正しく伝える文章を作成できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	人間と食品① 食品成分表①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．食生活の変遷 2．食品廃棄と食品ロス 3．食品成分表 について理解する。 ＊食品学総論展開内容の補足も行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第1章「人間と食品」（1～13ページ）、第2章「食品成分表（七訂）を使いこなすには」（17～28）ページを読んでおくこと。
		95　100

	教室外学習の時間（分）	予習　分、復習　　分
第2回	**授業テーマ**	人間と食品② 食品成分表②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3．食品成分表（前回の続き） 4．日本の食文化 について理解する。 ＊食品学総論展開内容の補足も行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第1章「人間と食品」（7～16ページ）、第2章「食品成分表（七訂）を使いこなすには」（17～28）ページを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第3回	**授業テーマ**	植物性食品①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．穀類（種類と特徴、加工特性（種類と特徴、加工特性等）等） 2．いも及びでん粉類 について理解する。 ＊食品学総論展開内容の補足も行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第3章「植物性食品」（29～45ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第4回	**授業テーマ**	植物性食品②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3．砂糖及び甘味類（種類と特徴、加工特性等） 4．豆類（種類と特徴、加工特性等） について理解する。 ＊食品学総論展開内容の補足も行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第3章「植物性食品」（45～56ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第5回	**授業テーマ**	植物性食品③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	5．種実類（種類と特徴、加工特性等） 6．野菜類（種類と特徴、加工特性等） について理解する。 ＊食品学総論展開内容の補足も行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第3章「植物性食品」（56～68ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第6回	**授業テーマ**	植物性食品④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	7．果実類（種類と特徴、加工特性等） 8．きのこ類（種類と特徴、加工特性等） について理解する。 ＊食品学総論展開内容の補足も行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第3章「植物性食品」（68～78ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第7回	**授業テーマ**	動物性食品①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．魚介類（種類と特徴、加工特性等） について理解する。 ＊食品学総論展開内容の補足も行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第4章「動物性食品」（79～88ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分

第8回	授業テーマ	動物性食品②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2．肉類（種類と特徴、加工特性等） について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第4章「動物性食品」（88～98ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第9回	授業テーマ	動物性食品③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3．卵類（種類と特徴、加工特性等） 4．乳類（種類と特徴、加工特性等） について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第4章「動物性食品」（98～114ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第10回	授業テーマ	油脂類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1．油脂類（種類と特徴等） について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第5章「油脂類、菓子類、し好性飲料、調味料及び香辛料、調理加工食品類」（115～122ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第11回	授業テーマ	菓子類 し好性飲料
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2．菓子類（種類と特徴等） 3．し好性飲料（種類と特徴等） について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第5章「油脂類、菓子類、し好性飲料、調味料及び香辛料、調理加工食品類」（122～128ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第12回	授業テーマ	調味料及び香辛料 調理加工食品類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4．調味料及び香辛料（種類と特徴等） 5．調理加工食品類（種類と特徴等） について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第5章「油脂類、菓子類、し好性飲料、調味料及び香辛料、調理加工食品類」（128～132ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第13回	授業テーマ	食品成分表（7訂）に記載された調理条件、注意を要する食品
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品成分表（7訂）に記載された調理条件、注意を要する食品 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第6章「食品成分表（7訂）に記載された調理条件、注意を要する食品」（163～179ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
	授業テーマ	食品表示法

第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品表示法 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第7章「食品表示法」（180～193ページ）を読んでおくこと。 第1回目～第14回までの授業内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分

学習計画注記

＊授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。

評価方法

中間確認課題40%、定期試験（筆記試験）60%の総合評価（100%）とします。課題等に関する評価のルーブリックは当該授業のGoogleClassroomへ掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間確認課題	○	○	○	○
定期試験（筆記試験）	○	○		○

評価割合

中間確認課題40%、定期試験（筆記試験）60%の総合評価とし、評価のルーブリックは当該授業GoogleClassroomへ掲載。

使用教科書名(ISBN番号)

ステップアップ栄養・健康科学シリーズ 食品学II 中島肇、佐藤薫／編 株式会社化学同人
定価2300+税 2017年4月28日発行 B5 ・184ページ ISBN 978-4-7598-1895-6

参考図書

＊購入の必要性はありません。二重購入を行わないように注意してください。
ステップアップ栄養・健康科学シリーズ 食品学I 佐藤薫、中島肇／編
定価2300+税 2017年3月28日発行 B5 ・184ページ ISBN 978-4-7598-1894-9
ステップアップ栄養・化学シリーズ 食品加工学 著者中島肇・佐藤薫 編 化学同人 出版年月日 2020年3月30日 ISBN9784759818963 判型・ページ数B5 ・176ページ 定価本体2,300円＋税
または
栄養科学イラストレイテッド 食品学I 改訂第2版 食べ物と健康―食品の成分と機能を学ぶ／羊土社
水品善之、菊﨑泰枝、小西洋太郎／編
定価2600+税 2021年10月25日発行 B5判 216ページ ISBN 978-4-7581-1365-6
ご自身が使用された当該年度の発刊をご持参ください。新規に購入する必要性はありません。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】食品の分類と特性に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。

【技術・表現】専門的知識を他者に正しく伝える文章力を身につける。

オフィスアワー

火曜日2限目 2308研究室 授業前後やメール等で事前に予約と訪問時間の承諾を得て下さい。

学生へのメッセージ

食品を理解するために基礎生物学、基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なかたほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。
現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格、フードコーディネーター3級認定登録に関する必修科目でもあります。家庭科の中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状の資格取得の選択科目でもあります。
●1年次「食品学総論」で使用した教科書（参考図書部分に記載）を初回より毎回、持参して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポート等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	資料提供、課題提出等に活用する。 必要に応じて、授業中に生産・製造工程動画視聴に活用する。

講義コード	S01301001
講義名	食品学実験
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活共創学科食科学コース・2年次
必修・選択の別	コース必修
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M21143M13

授業概要(教育目的)

健康の維持・増進に不可欠な各種食品成分の栄養特性・成分変化、性質を実践的に理解するために、食品に係わる分析法、分析技術、分析値の解析を学ぶ授業展開を行う。また、実験を行うにあたり必要となる化学実験における一般的注意事項や試薬・器具・機器の取り扱いついても学びながら、科学的な考え方や技術を学ぶ授業展開も行う。

履修条件

高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	食品の成分分析の基礎と併せて理化学試験を遂行する知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	倫理的、客観的視野から実験結果を捉える思考、判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実験を編成された班で協同遂行し、実験工程における試料変化等に関心をもち、実験工程、結果を観察し、情報共有ができる。
技術・表現の観点 (A)	安全性と倫理性に留意した精密で正確な実験操作ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	実験を行うための基礎知識・基礎実験を行う準備①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品学実験を行う注意事項、試薬調製、実験器具、基本操作を理解し、実働する。 実験器具の洗浄と乾燥を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分

第2回	授業テーマ	実験を行うための基礎知識・基礎実験を行う準備②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品学実験を行う注意事項、試薬調製、実験器具、基本操作を理解し、実働する。 計測器具・機器の特性把握を行う。 試薬調製を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第3回	授業テーマ	定性分析と定量分析①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	容量分析；中和滴定（水酸化ナトリウム溶液の標定）を行う。 食品成分定量実験用試料調製を行う。 水分の定量；常圧加熱乾燥法用秤量びん恒量① 灰分の定量；直接灰化法用るつぼの恒量①
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第4回	授業テーマ	定性分析と定量分析②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	容量分析；中和滴定（食酢中の酢酸の定量）を行う。 食品成分定量実験用試料調製を行う。 水分の定量；常圧加熱乾燥法用秤量びん恒量② 灰分の定量；直接灰化法用るつぼの恒量②
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第5回	授業テーマ	定性分析と定量分析③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	容量分析；沈澱滴定（醤油中の食塩の定量）を行う。 食品成分定量実験用試料調製を行う。 水分の定量；常圧加熱乾燥法用秤量びん恒量③ 灰分の定量；直接灰化法用るつぼの恒量③
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第6回	授業テーマ	定性分析と定量分析④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	強酸と強塩基の滴定曲線作成を行う（pH測定）。 水分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量① 灰分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量①
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
	授業テーマ	定性分析と定量分析⑤
	(	タンパク質・アミノ酸の定性反応実験を行う。

第7回	学習内容 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量② 灰分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量②
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第8回	授業テーマ	定性分析と定量分析⑥
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質の定性反応実験を行う。 水分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量③ 灰分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量③
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第9回	授業テーマ	定性分析と定量分析⑦
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖の定性反応実験を行う。 脂質の定量；ソックスレー抽出法：受器（脂肪定量びん）恒量①
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第10回	授業テーマ	定性分析と定量分析⑧
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質の定量；ソックスレー抽出法：試料と円筒ろ紙精秤、受器（脂肪定量びん）恒量② タンパク質の定量；ケルダール法：試薬調製
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第11回	授業テーマ	定性分析と定量分析⑨
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質の定量；ソックスレー抽出法：脂質抽出 タンパク質の定量；ケルダール法：試薬調製、試料調製
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第12回	授業テーマ	定性分析と定量分析⑩
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質の定量；ソックスレー抽出法：脂質抽出後の受器（脂肪定量びん）恒量① タンパク質の定量；ケルダール法：試料の分解
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。

		２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第13回	**授業テーマ**	定性分析と定量分析⑪
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質の定量；ソックスレー抽出法：脂質抽出後の受器（脂肪定量びん）恒量② タンパク質の定量；ケルダール法：蒸留・中和滴定①
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。 ３．第1回～第13回までの振返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第14回	**授業テーマ**	定性分析と定量分析⑫＋確認試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	タンパク質の定量；ケルダール法：蒸留・中和滴定 分析データのまとめを行う。 実技＋筆記試験（実技内容を含む）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分

学習計画注記

＊授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。

評価方法

実験態度（編成された班における協同の様子等）30%、実験結果解析・課題レポート70%の総合評価（100%）とします。評価詳細のルーブリックは当該GoogleClassroomへ掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実験態度	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○

評価割合

実験態度（編成された班における協同の様子等）30%、実験結果解析・課題レポート70%の総合評価（100%）とします。評価詳細のルーブリックは当該GoogleClassroomへ掲載します。

使用教科書名(ISBN番号)

実験食品学実験―実験で学ぶ食品学― 改訂初版／同文書院 江角彰彦 著
定価2750円（税込）ISBN978-4-8103-1517-2

参考図書

栄養科学イラストレイテッド 食品学I 食べ物と健康―食品の成分と機能を学ぶ／羊土社
水品善之、菊﨑泰枝、小西洋太郎／編 定価2600+税
栄養科学イラストレイテッド 食品学II改訂第2版食べ物と健康―食品の分類と特性、加工を学ぶ／羊土社

栢野新市、水品善之、小西洋太郎／編 定価2700円＋税

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】食品の専門的な知識を基礎に多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】実験内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技術・表現】食品成分分析における専門的技術を身につける。

オフィスアワー

火曜日2限目 2308研究室 授業前後やメール等で事前に予約と訪問時間の承諾を得て下さい。

学生へのメッセージ

食品を理解するために基礎生物学，基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なかたほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。
現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。
また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格に必要な必修科目でもあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。
アクティブ・ラーニング	○	指定されたグループで協同かつ得られた結果を共有し、共に解析を行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	資料提供、課題提出等に活用する。

講義コード	S01301101
講義名	基礎栄養学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活共創学科食科学コース・2年次
必修・選択の別	コース必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	岩本 直樹	指定なし

ナンバリング

M21151M21

授業概要(教育目的)

栄養とは何かを理解し、健康の維持・増進や疾病の予防・治療における栄養の役割について学ぶ。また、五大栄養素（炭水化物、脂質、タンパク質、ビタミン、無機質）の生理的意義を理解するとともに、消化・吸収の仕組みや栄養素の体内動態についても講義する。
さらに、栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験の出題基準に基づき、管理栄養士・栄養士として必要不可欠な基礎知識を習得する。本科目は、栄養士免許証の取得に加え、フードスペシャリスト、教職（中学・高校）、食品衛生監視員・食品衛生指導者、フードコーディネーターの資格取得に必要な必修科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．栄養に関する基本用語を説明することができる。 2． 5大栄養素の体内での変化、生理的作用並びに相互作用ついて説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	各栄養素がからだの中に入ると消化器官のどこでどのような作用を受け、どのような作用を発揮するのかを類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	健康の保持・増進における栄養の役割を説明できる。
技術・表現の観点 (A)	基礎栄養学を通じて、食と健康など、生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身に付けている。

学習計画

	授業テーマ	栄養の定義、摂食行動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	栄養の定義、生活リズムと食生活および摂食の調節につい

第1回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	て学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第2章（p1−19）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	炭水化物の栄養（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	炭水化物の消化・吸収について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第5章（p53−65）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	炭水化物の栄養（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	炭水化物の体内代謝について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第5章（p53−65）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	脂質の栄養（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質の消化と吸収について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6章（p67−77）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	脂質の栄養（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質の体内代謝、脂質代謝異常と動脈硬化について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6章（p67−77）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	タンパク質の栄養（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アミノ酸とタンパク質とは何か、タンパク質の消化と吸収について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第4章（p39−52）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	タンパク質の栄養（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	タンパク質の体内代謝について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第4章（p39−52）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	ビタミンの栄養（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂溶性ビタミンの働きと摂取量について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第7章（p79−97）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	ビタミンの栄養（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水溶性ビタミンの働きと摂取量について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第7章（p79−97）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	無機質の栄養
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	多量元素・微量元素の働きと摂取量について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第8章（p99−112）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	機能性非栄養成分
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水・食物繊維について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第9章（p113−121）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	消化と吸収と栄養素の体内動態（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消化器系の構造と機能（消化の場・仕組み）について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第3章（p21−38）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	消化と吸収と栄養素の体内動態（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消化・吸収の基本概念（吸収部位・吸収の仕組み）について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	(	教科書の第3章（p21−38）を通読する。

	教室外学習 予習・復習)の内容	教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	エネルギー代謝
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生体におけるエネルギー、消費エネルギーについてについて学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第10章（p123−136）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

※シラバスの内容は、やむを得ない事情等により一部変更することがあります。
※教科書が改訂された場合は、シラバス記載のページ数が異なることがあります。

学生へのフィードバック方法

・毎回の授業時に実施する小テストの問題や解答は、Google Classroomのフォーム内に掲載する。必ず確認すること。
・定期試験および追再試験の問題用紙は返却する。
・質問がある場合は、2101研究室を訪問するか、E-mailで問い合わせること。
・小テストの結果や総合成績は、随時Google Classroomにアップされる。各自確認すること。

評価方法

・ルーブリックに基づいて成績を評価する。ルーブリックの詳細はGoogle Classroom等で提示する。
・小テストは、前回の授業内容から出題し、全13回実施する。各回の問題数は原則5問、5点満点の五者択一形式とする。小テストを受験しなかった場合は、解説・解答を提示するため、追再テストは実施しない。
・毎回の小テストの問題をもとにディスカッションを行い、その受け答えを通じて「学習態度」を評価する。
・定期試験は、小テストの振り返りを踏まえ、100点満点で出題する。
・小テスト、定期試験、および学習態度の評価は、下表に示す力を養うことを目的とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○	○	○	
定期試験	○	○		
学習態度			○	○

評価割合

定期試験（60%）および授業中に行う小テスト（30%）、さらに学習態度（10%）で総合的に判断し評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

川端輝江編『基礎栄養学 栄養素のはたらきを理解するために』アイケイコーポレーション

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。

【関心・意欲・態度】様々な事象について、関心を持ち自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
【技能・表現】専門的、体系的な学修を通じて、生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身に付けている。

オフィスアワー

火曜1、2限 2101研究室
（2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）

学生へのメッセージ

基礎栄養学は、応用栄養学や人体の構造、臨床栄養学と深く関わる科目である。2年前期に「基礎栄養学」をしっかりと習得すれば、これらの科目の理解が深まり、学習がスムーズに進む。結果として、栄養士実力認定試験（3年次全員受験）や管理栄養士国家試験（希望者・要実務経験）の勉強も効率よく進められる。集中して取り組み、確実に知識を身につけてほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	毎時間、小テストを用いて発表やディスカッションを行う。ディスカッションを行うことで、知識の定着はもちろん、自分の意見を正しく伝えて説得するための論理的思考力が鍛えられる。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。また、小テスト等はGoogleフォームを用いる。試験結果や総合成績はGoogle Classroomに逐一アップする。

講義コード	S01301201
講義名	基礎調理学実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・2年次以降
必修・選択の別	コース必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	米澤 加代	指定なし

ナンバリング

R10601M23

授業概要(教育目的)

日本･西洋･中国料理の調理実習を通して、基礎的調理技術（加熱、非加熱、調味）や、食品の性質と衛生的な取り扱い方、食事作法など食事に関する基礎的総合能力を養うことを目的とする。また、原則として１回の食事となる献立の実習を通して、それぞれの料理様式の特徴や食卓の整え方についても師範を確認しながら理解できるよう、また、多面的な場面で実践をすることが可能となる内容とする。
本科目は、栄養士免許証、中・高教員免許取得のための必須科目である。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	炊飯方法、各種だしの取り方など基本的な調理手順を説明できる。 実習で用いた食材の名称、調理特性、調理法を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食材・器具の衛生的な取り扱いをすることができる。 調理器具、食器、計量器具などを目的に合わせた扱いができる。 調理の目的に合わせて食材を適切に切砕でき、加熱・調味ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	協調して授業に参加することができ、班の構成員としての役割に対して寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	基本的な調理道具が使用でき、盛り付け、配膳、コーディネートなど目的、対象者に合わせて展開することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	授業の概要及び実習室使用上の取り決め事の説明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理の意義・目的を学び、実習授業の流れと実習室使用上のルールを把握する。包丁、まな板、各種計量器具について種類と適切な使い方を学ぶ。また、各種洗剤、石鹸、布巾類の取り扱い方他、調理担当者としての健康管理、安全衛生管理など実習授業全般の流れ、取り決め事について学ぶ。計量の方法、野菜の切り方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	調理実習ノートを作成し、授業の目的と授業内容を整理し、次週からの実習に備える。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	授業テーマ	日本料理① 炊飯、だしの取り方、野菜のゆで方、和え物、お吸い物 （白飯、だし巻きたまご、ほうれん草のごま和え、吉野鶏のすまし汁）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	炊飯の調理工程（計量、洗米、浸漬、加水、蒸らし）を理解し、盛り付け方、配膳・配置を学ぶ。だしは、昆布、かつお、および混合出しの取り方を学ぶ。汁物の椀だね、椀妻、吸い口を学ぶ。正しいまな板への向かい方、包丁の持ち方と野菜の切り方を実習を通して、技術を取得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	授業テーマ	日本料理②揚げ物、酢の物、煮干しだし、寄せもの（天丼、わかめときゅうりの酢の物、なめこの味噌汁、水ようかん）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	揚げ物の要点・注意点について学ぶ。和え衣の調味割合、和え方の注意点を学ぶ。また寒天の扱い方について、寄せ方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	授業テーマ	日本料理③ 煮方、蒸し方、練り物 （お赤飯、炊き合わせ、かきたま汁、葛桜）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習を通して、もち米の吸水、加熱法とささげ豆によるもち米への着色方法を学ぶ。煮方について学び、炊き合わせの方法について学ぶ。葛でんぷんの糊化と透明感と口触り、温度管理など実習で学ぶ。
	教室外学	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイ

	習(予習・復習)の内容	ント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	**授業テーマ**	日本④寿司、蒸し方（太巻き寿司、ばらの巻き寿司、茶わん蒸し、わらび餅）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	すし飯のための炊飯（加水量、加熱・蒸らし時間）の要点と合わせ酢の調味割合を実習を通して学ぶ。茶わん蒸しのだしと卵の割合、加熱の要点を学ぶ。わらび粉の扱い方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	**授業テーマ**	中国料理①冷菜、点心（冷菜、チンジャオロース、粥、桃饅頭）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中国料理の様式の特徴と盛り付け、配置・配膳を学ぶ。什錦拌盤では、3種の食材を冷菜としての盛り付け方、塩クラゲの処理法と味付け、きゅうりの切り方と下処理法と調味を学ぶ。また中華粥の調理法、桃饅頭の生地作り、成形、蒸し方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	**授業テーマ**	中国料理②焼菜、炒菜（炒飯、麻婆豆腐、トマトスープ、タピオカのココナッツミルク）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	炒飯では、飯、具材の下準備と炒め方、味付けの要点を学ぶ。溜菜（麻婆豆腐）では、肉への下味、炒め方など溜菜の要点を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	中国料理③湯菜、溜菜、点心（花巻、鶏絲黄花湯、咕咾肉、杏仁豆腐）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	花巻では蒸し方、湯（鶏ガラスープ）の取り方、澄ませ方について西洋料理のスープストック取り方の相違点なども比較しながら学ぶ。杏仁豆

第8回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	腐では、粉寒天の扱い方の復習と牛乳の調理上の注意点を学ぶ。シロップの材料割合と加熱条件を学ぶ。 実習ノート中間提出。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	授業テーマ	西洋料理①肉料理、野菜料理、スープ、コーンスターチ （ビーフステーキ、マッシュポテト、ブイヤベース、ブラマンジェ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	スープは基本となるブイヨンの取り方を学び、ソテーは肉の下処理、調味法、焼き方を学ぶ。マッシュポテトはジャガイモの裏ごしの要点と加熱・調味法を学ぶ。ブラマンジェは、コーンスターチの調理上の特徴（糊化）と攪拌効果（粘弾性）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	授業テーマ	西洋料理②クリスマス料理（ローストチキン、バターライス、にんじんのグラッセ、ブロッコリーのソテー、コーンスープ、フルーツポンチ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	鶏肉の下処理、成形、焼き方、にんじん切り方、グラッセの方法、ゆで方、ソテーの方法、フルーツのカットの方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	授業テーマ	行事食：お正月①（田づくり、栗きんとん、伊達巻、雑煮）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お正月の重箱詰め（一の重、二の重、三の重、与の重）、器への盛り付けを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習	

	の時間（分）	120分
第12回	**授業テーマ**	行事食：お正月②（のし鶏、ぶり照り、筑前煮、なます、菊花かぶ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	お正月の重箱詰め（一の重、二の重、三の重、与の重）、器への盛り付けを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	**授業テーマ**	冷凍食品
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	冷凍食品についての講義、実習。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の筆記試験の確認をすること。これまでの実習を振り返って、復習として自身の評価を実習ノートにまとめること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	**授業テーマ**	まとめ 実技試験、筆記試験、掃除
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでのまとめと調理の基本的な内容について、実技試験および筆記試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノート最終提出。
	教室外学習の時間（分）	120分
第15回	**授業テーマ**	テーブルマナーの体験授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ホテルでテーブルマナーの体験授業を実施する。西洋料理のマナーを学ぶ。
	教室外学習(予習・	西洋料理のテーブルマナーについて、事前に調べ、きちんとした作法で

	復習)の内容	食事ができるように準備しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

天候他で食材に影響がある場合、授業内容を変更することがあります。

学生へのフィードバック方法

デモンストレーション後の実習において、机間巡視をしながら理解できていない点や技術面の指導、サポートを行います。また、質問等は時間内または、研究室（2108室やemail）で受けます。
実習ノートは定期的に回収し、採点をして返却します。

評価方法

実習参加状況：デモンストレーション、実習を通して、実習班内での協力や実習へ意欲的・積極的な参加態度を評価する。
筆記テスト：調理の基本的な内容についての筆記試験。
実習試験：基礎的な調理技術（到達）を確認する試験。
実習ノート：指定された項目の記載（14週分）内容について評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実習参加状況	○	○	○	○
実習試験		○		○
筆記試験	○	○		
実習ノート	○	○	○	○

評価割合

授業参加状況（20%）、実技・筆記試験（30%）、実習ノート（50%）

使用教科書名(ISBN番号)

①応用自在な調理の基礎 日本料理篇 河内一行、川端晶子他共著 建帛社（978-4-7679-0629-4）
②応用自在な調理の基礎 西洋料理篇 川端晶子 編著建帛社（978-4-7606-0247-6）
③応用自在な調理の基礎 中国料理篇 川端晶子、澤山茂 編著 建帛社 （978-4-7679-0631-7）
④八訂 2020食品成分表 女子栄養大学出版部（978-4-7895-1021-9）
⑤調理のためのベーシックデータブック 女子栄養出版部（978-4-7895-0323-5）

参考図書

必要に応じてプリントを配布する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境・食事文化を理解する。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力身につけている。
【関心・意欲・態度】食生活を取りまくさまざまな事象について関心を持ち、課題を見出し、その解決に意欲的の取り組む。
【技能・表現】食を通じて生活質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理加工の技能を身につけている。

オフィスアワー

前期 水曜日 2限 2108研究室
後期 木曜日 2限 2108研究室
面談を希望する場合はmailで事前に連絡を入れて下さい。

学生へのメッセージ

授業後には、実習内容を毎回実習ノートにまとめること。調理の機会を作ることで技術の上達や応用力が身につきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	実習中はその内容を通して、学生自身が能動的、実践的に技術・知識深めながら、判断力、汎用力の育成を図ることができる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	S01301301
講義名	調理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活共創学科食科学コース・1年次
必修・選択の別	コース必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	米澤 加代	指定なし

ナンバリング

M21162M21

授業概要(教育目的)

調理は食品の栄養性の向上や安全性を配慮し、美味しい食事を作ることを目的とする。そのためには、より良い食事計画を行い調理理論に基づいた効率的な加工法や調理法を習得する必要がある。本講義では、食事設計について理解し、調理器具、調理操作について学び、調理の果たす役割について専門的な基礎知識の習得を図る。
本科目は、栄養士免許取得のための必科目である。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1.調理の意義、目的を説明できる。 2.食品の調理特性を説明できる。 3.調理による食品の栄養成分の変化、テクスチャーの変化を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1.適切な調理操作と調理機器の使用法、関係性を分類できる。 2.おいしさの要因について分類できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	授業概要、調理の目的と意義について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第1回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理学の授業内容の概要を理解する。また、調理の目的と意義を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習により授業内容について調べ、理解が深まる様に努めること。調理について調べておくこと。 授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第2回	授業テーマ	おいしさの設計1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食べ物の嗜好性―おいしさの要因―
	教室外学習(予習・復習)の内容	おいしさの設計について教科書をよく読んでくること。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第3回	授業テーマ	おいしさの設計2 食事設計1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	おいしさの演出―おいしさを生み出すだしと調味― 食事設計の基本について
	教室外学習(予習・復習)の内容	食事計画について、食事バランスガイドについて調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第4回	授業テーマ	食事設計2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	献立作成について
	教室外学習(予習・復習)の内容	献立作成ついて調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第5回	授業テーマ	調理操作1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	非加熱操作 非加熱調理操作の種類と目的およびその操作に必要となる器具の種類と特徴について理解をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	非加熱操作について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第6回	授業テーマ	調理操作2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	加熱操作 加熱調理操作法の種類と操作目的とその効果について学ぶ。また、それらの操作に用いる加熱器具・設備についてその特徴と調理上の効果を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	加熱操作について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
	授業テーマ	調理設備、器具
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第7回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理設備、器具
	教室外学習(予習・復習)の内容	調理設備、器具について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第8回	授業テーマ	食品の調理特性1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	植物性食品1 穀類：米、小麦粉
	教室外学習(予習・復習)の内容	主食となる食品について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第9回	授業テーマ	食品の調理特性2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	植物性食品2 いも類、豆類、種実類
	教室外学習(予習・復習)の内容	副食のうち、副菜となる食品について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第10回	授業テーマ	食品の調理特性3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動物性食品1 食肉類、魚介類
	教室外学習(予習・復習)の内容	副食のうち、主菜となる食品について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第11回	授業テーマ	食品の調理特性4
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動物性食品2 卵類、乳類
	教室外学習(予習・復習)の内容	完全栄養食品について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第12回	授業テーマ	食品の調理特性5
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ビタミン、無機質を多く含む食品の調理性 野菜類、果実類、きのこ類、海藻類
	教室外学習(予習・復習)の内容	からだの調子を調える食品について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第13回	授業テーマ	食品の調理特性6
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	成分抽出素材 油脂類、砂糖、ゲル化素材

	教室外学習(予習・復習)の内容	成分抽出素材について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。
	教室外学習の時間(分)	200分
第14回	**授業テーマ**	食品の調理特性7、調理の役割
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調味料、香辛料について、調理の果たす食品開発への役割、授業まとめ
	教室外学習(予習・復習)の内容	調味料の役割について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。 第1回目から第14回目までの内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	200分

学習計画注記

授業の進み具合によって授業内容を変更することがあります。

学生へのフィードバック方法

毎時間5分程度の質問の時間を設ける。また、小テスト（確認）を実施し、採点後に正回答を明示する。質問等がある場合には時間内または研究室（2108室やemail）で受けます。

評価方法

小テスト10%、定期試験90%の総合評価とする。
評価詳細のルーブリックは当該GoogleClassroomへ掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業への取り組み	○	○	○	○
小テスト	○	○		
筆記試験	○	○		

評価割合

小テスト10%、定期試験90%を合計して評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

調理学 第2版（公社）日本フードスペシャリスト協会 編 建帛社 （978-4 -7679-0656-0）

参考図書

必要に応じて指示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境・食事文化を理解する。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力身につけている。

オフィスアワー

前期 水曜日 2限 2108研究室
後期 木曜日 2限 2108研究室
面談を希望する場合はmailで事前に連絡を入れて下さい。

学生へのメッセージ

栄養士養成の必修科目であるため、授業前に教科書を読んでおくこと。また、授業後は講義内容を復習するなど、積極的、自主的に授業に臨んで下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	S01301401
講義名	栄養士論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活共創学科食科学コース・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	大中 佳子	指定なし

ナンバリング

M11171M21

授業概要(教育目的)

本科目は、食品衛生監視員・食品衛生管理者、資格取得のための必修科目である。
国家資格である「栄養士」について、栄養士法から学ぶ。栄養士の職務として、対象者の健康の保持・増進、疾病予防・治療、QOLの向上を図るために、栄養管理された食事を提供するにあたり、給与栄養目標量を設定し、目標量に合った献立を作成することが求められる。本授業では、日本人の食事摂取基準、食品成分表の使い方、食品構成、献立作成の手順やポイントを講義し、栄養・食事管理プロセスの基本を講義する。

履修条件

食科学コースの学生のみ履修可です。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	給与栄養目標量の設定方法とそれに基づいた栄養・食事計画の流れを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	作成した栄養・食事計画について評価できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食品や食生活を取り巻く様々な問題や課題について関心を持ち、それらを栄養・食事計画に反映できる。
技術・表現の観点 (A)	給与栄養目標量の設定と、その目標量に合った献立を作成することができ、栄養・食事計画を立案できる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス、栄養・食事計画と献立作成
		・授業内容、課題提出物について説明する。

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・栄養・食事計画および献立作成について、その意義と目的を理解する。 ・日本人の食事摂取基準2025年版を用いた栄養・食事管理の方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：日本人の食事摂取基準2025年版の総論を読んでおくこと 復習：授業の重要点をまとめておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第2回	授業テーマ	栄養・食事管理（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・給食の目的・意義について理解する。 ・献立の役割について、食事管理の意義と目的より理解する。 ・日本人の食事摂取基準2025年版を活用した栄養・食事計画について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：日本人の食事摂取基準2025年版の総論を読んでおくこと 復習：授業の重要点をまとめておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第3回	授業テーマ	栄養・食事管理（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・対象者の1日に必要なエネルギー量を生活時間調査から算出する方法を理解し、身体活動レベル基準値との関連について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：日本人の食事摂取基準2025年版の総論を読んでおくこと 復習：授業の重要点をまとめ、1日の生活時間を記録すること。
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第4回	授業テーマ	栄養・食事管理（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・記録した生活時間調査から対象者の1日に必要なエネルギー量を算出する。 ・献立作成の手順と必要な帳票（食品構成表）について理解する。 ・八訂食品成分表を用いた栄養計算について理解する。 ・食品構成表を食品成分表を用いて作成し、食品構成表の作成技術を習得する。 演習課題の提出 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：日本人の食事摂取基準2025年版の総論を読んでおくこと 復習：配布したプリント課題について授業内で完成できなかった場合、完成させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第5回	授業テーマ	栄養・食事管理（4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・献立作成の手順と必要な帳票（食品構成表）について理解する。 ・食品構成表を食品成分表を用いて作成し、食品構成表の作成技術を習得する。 食品構成表を理解するために、演習課題を提示する。演習課題の提出 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復	予習：授業で配布したプリントを確認しておくこと 復習：配布したプリント課題について授業内で完成できな

	習)の内容	かった場合、完成させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第6回	授業テーマ	栄養・食事管理（5）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・献立作成の手順と必要な帳票（食品構成表）について理解する。 ・食品構成表を食品成分表を用いて作成し、食品構成表の作成技術を習得する。 食品構成表を理解するために、演習課題を提示する。 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業で配布したプリントを確認しておくこと 復習：配布したプリント課題について授業内で完成できなかった場合、完成させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第7回	授業テーマ	栄養・食事管理（6）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・献立作成の手順と必要な帳票（食品構成表）について理解する。 ・食品構成表を食品成分表を用いて作成し、食品構成表の作成技術を習得する。 食品構成表を理解するために、演習課題を提示する。 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業で配布したプリントを確認しておくこと 復習：配布したプリント課題について授業内で完成できなかった場合、完成させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第8回	授業テーマ	栄養・食事管理（7）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・献立作成の手順と必要な帳票（食品構成表）について理解する。 ・食品構成表を食品成分表を用いて作成し、食品構成表の作成技術を習得する。 食品構成表を理解するために、演習課題を提示、9回授業で提出する。 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：授業で配布したプリントを確認しておくこと 復習：配布したプリント課題について授業内で完成できなかった場合、完成させておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第9回	授業テーマ	食事計画:献立作成の実際(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・主食・主菜・副菜について、献立の組み合わせを方法を理解する。 ・給与栄養目標量を満たす献立の作成方法を理解する。 8回の授業で提示した食品構成表の課題を提出する。 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書をよく読んでおくこと 復習：配布したプリント課題について授業内で完成できなかった場合、完成させておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第10回	授業テーマ	食事計画:献立作成の実際(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・給与栄養目標量を満たし、食事計画に基づいた献立を作成することで、食事管理を理解する。 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復	予習：教科書をよく読んでおくこと

	習)の内容	復習：配布したプリント課題について授業内で完成できなかった場合、完成させておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第11回	**授業テーマ**	食事計画:献立作成の実際1(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・給与栄養目標量を満たし、食事計画に基づいた献立を作成することで、食事管理を理解する。 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書をよく読んでおくこと 復習：配布したプリント課題について授業内で完成できなかった場合、完成させておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第12回	**授業テーマ**	食事計画:献立作成の実際(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・給与栄養目標量を満たし、食事計画に基づいた献立を作成することで、食事管理を理解する。 演習課題の提出 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書をよく読んでおくこと 復習：配布したプリント課題について授業内で完成できなかった場合、完成させておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第13回	**授業テーマ**	食事計画:献立作成の実際(5)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・給与栄養目標量を満たし、食事計画に基づいた献立を作成することで、食事管理を理解する。 持参物；PC、電卓、配布物
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書をよく読んでおくこと 復習：配布したプリント課題について授業内で完成できなかった場合、完成させておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分
第14回	**授業テーマ**	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養・食事計画について学んだことについて試験を行う。 演習課題の提出
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：栄養・食事管理について、日本人の食事摂取基準2020年版をよく読むこと 復習：これまでの授業の重要点をまとめておくこと
	教室外学習の時間（分）	予習100分 復習100分

学習計画注記

・シラバスに掲載していますが、演習形式の課題を行うこともありますので、教科書、配布したプリントは必ず毎回持参してください。また、電卓やPC、参考書を適宜持参してください。

学生へのフィードバック方法

提出物にコメントを記入し返却します。
提出物の評価において、共通コメントは授業内で伝えます。

評価方法

平常点、提出物の提出状況および内容、定期試験結果により総合的に評価する。
評価方法・評価基準は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはクラスルーム
または授業内での配布等により提示をする。

出題範囲は授業で講義した箇所、配布資料を基本とするが、具体的な範囲および傾向について

は、試験前の週の授業で説明します。
・定期試験は下表に示す力を養うことを目的として実施しています。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	
提出物	○	○	○	○
定期試験	○	○		

評価割合

平常点20%、提出物30%、定期試験50%

使用教科書名(ISBN番号)

・すぐわかる栄養指導実習 新訂第3版 ／萌文書林（978-4-89347-069-0）
・日本人の食事摂取基準（2025年版）／第一出版
・調理のためのベーシックデータブック 第6版／女子栄養大出版部 （978-4-7895-0325-9）
・八訂食品成分表2025 香川明夫/監修（978-4-7895-1025-7）

参考図書

・栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎／化学同人（978-4-7598-1826-0）
・オールガイド食品成分表八訂準拠 ビジュアル食品成分表／大修館書店（9784469270167）
・トレーニーガイドPDCAによる給食マネジメント実習 第2版／医歯薬出版株式会社（2年次使用）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境を理解し、栄養・食事管理する上で、様々な立場や状況の人々と疎通ができるコミュニケーション力を身につけている。
【思考・判断】栄養管理する対象者の情報を整理し、対象者別の栄養・食事管理できる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象や情報について関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技能・表現】食生活と健康、食を通じて生活の質の向上をはかるような食事計画を立案できるようになる。

オフィスアワー

・金曜２限、金曜昼休み：給食管理学研究室（2311室）
・事前にメールで予約してから来訪して下さい。

学生へのメッセージ

・対象者の健康状態や栄養状態にあわせた献立を作成するにあたり、本科目の講義内容は基礎となります。栄養士業務の栄養・食事管理について基本的な事項を学修してください。
・教科書「すぐわかる栄養指導実習 新訂第3版／萌文書林」に直接書き込みながら、栄養・食事管理について学びます。
・ビジュアル食品成分表は食品の写真が多いので推薦しました。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	総合病院の栄養食事指導、児童・高齢者福祉施設において管理栄養士業務かつマネジメント職務実績のある教員が、栄養士・管理栄養士の職務や社会で即実践できる栄養・食事管理について講義する。
アクティブ・ラー	○	給与栄養目標量を設定する際、グループワークやディスカッションを行う。

ニング		
情報リテラシー教育	○	食品や食に関する情報をインターネットを利用して収集する。
ICT活用	○	献立の栄養計算、給与栄養目標量の算出に栄養計算ソフトや表計算ソフトを使用する。

講義コード	S01301501
講義名	被服学演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M21181M22

学習計画

講義コード	S01301601
講義名	家庭経営学概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活共創学科食科学コース・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	河田 敦子	指定なし
教授	佐野 潤子	指定なし

ナンバリング

M11182M21

授業概要(教育目的)

人間が人間らしく生きる拠点が家庭であり、家庭生活を中心とした家族・コミュニティの営みが家政＝家庭経営である。現代社会における家庭経営の課題を、「家族」「ジェンダー」「消費者」をキーワードに、概説する。特に、親と子、夫と妻など家族を核とする人と人の関係や、仕事や消費といった日々の生活と生命の再生産の営みを中心に現代社会の危機的状況を生活者の視点から見直し、誰もが安心してくらせる、持続可能性のある消費者市民社会につくりかえる方法を、自分の生活設計と重ねながら考える。今年度は、2019年度まで相模原市で消費生活総合センター所長を務めておられた萩原康秋氏をお招きして「消費者」とはどのような存在なのか、その生き方をご講義頂き、考察を深める機会を設けている。第10回第11回は現代家政学科教授の佐野潤子先生にご担当いただきます。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家庭生活が個人にとって、社会にとってどのような役割を持っているかを理解できる。
思考・判断の観点 (K)	多様で急激な社会変動の中で、どのように家庭生活を営むかを自律的に構想できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分の現在の家族・家庭のあり方を見つめ、広い視野で将来設計に取り組める。
技術・表現の観点 (A)	人間の生き方や家族・家庭について豊かな感性と言葉で表現できる。

学習計画		
第1回	授業テーマ	現代社会における家庭経営の枠組み
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭経営学の定義、家族の定義、生活時間等家庭経営学で頻繁に用いる概念について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、レジュメを良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第2回	授業テーマ	社会における「家庭」 パブリックとプライベートの領域
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会における家庭の位置、その機能をパブリックとプライベートの概念に基づいて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レジュメを良く復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第3回	授業テーマ	生活経営～新しい価値・規範の創造へ～
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代社会において家族・家庭がどのような状況にあるかを、主に津敬資料を用いて考察する。グラフの読み取り方、その現象の意味について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後にレジュメを良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第4回	授業テーマ	家庭経営とジェンダー（1）現代社会におけるワークライフバランス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	女性が社会で働くことが社会に定着するようになってからまだ日は浅い。それはなぜか。男女共同参画社会はどのようにしたら実現可能なのかを考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後レジュメを良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	家庭経営とジェンダー（2）近現代日本におけるジェンダー構造の変動
	学習内容(ｱｸﾃ	

第5回	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近現代日本社会でジェンダーの構造はどのように変動してきたのかを、江戸時代も含めて概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後レジュメを良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	江戸時代の女性の生き方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	江戸時代の女性の生き方について学ぶ。日本においてジェンダー構造が大きく変動したのは、明治中期であることは前回学んだ。では、それ以前の江戸時代の女性はどのように生きていたのか、只野真葛、内藤ます等の女性の生き方から、現代女性として自らの生き方についての考えを深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	江戸時代の女性にはどのような人がいるかを調べておくこと。可能であれば参考文献②を読んでおくことが望ましい。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	出産と子育て
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	女性の合計特殊出生率が急激に低下している日本社会における出産と子育てについて、その歴史的変遷も含めて概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後にレジュメを良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第8回	授業テーマ	家族・家庭と法律 婚姻・親権・相続等
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家族がどのような法律によって、どのように規定されているのかを、民法をもとに概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後レジュメを良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	消費者としての生き方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	萩原康秋先生による講義。萩原先生は、2019年度まで、相模原市 市民局 消費生活総合センターの所長であられた。「消費者」とは、社会の中でどのような存在なのかを、人間の生き方として広い視野でお話頂く。
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	授業内容をよく理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	現代社会と消費生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代社会における消費生活とは何かを考える。近年、急激に発展した高度情報通信社会における 消費生活の環境の激変、家計消費の質的変化について概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後にレジュメをよく読むこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	消費社会と家計問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新たな形態の消費者問題が発生していることについて概説し、消費者被害の未然防止と被害者救済のための方策について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後にレジュメをよく読むこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	現代社会における家族・家庭、ジェンダー（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代社会でどのような家族・家庭、ジェンダーをめぐる問題が発生しているかを、新聞記事をもとに考え、議論する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に配布する新聞記事をよく読み、関連文献を探してみること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	**授業テーマ**	現代社会における家族・家庭、ジェンダー（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家族をめぐる社会問題が顕在化した事件や新聞記事を紹介し、関心のあるテーマ毎に分かれて、グループディスカッションを行う。グループで話し合った結果を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の今後の生き方を見つめる機会である。前回までの授業で学んだことをもとにディスカッションを行うので、自分の考えをまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分

第14回	授業テーマ	少子高齢化社会における家族と家庭
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	少子高齢化社会の現代社会において持続可能な社会を創出するためには、どのように家族や家庭を作ることが求められるか、発表し合う。期末レポートを提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本講義全体を踏まえ、期末レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	240分

学習計画注記

特になし

学生へのフィードバック方法

プレゼンテーション時には、随時コメントします。

評価方法

・期末レポートの課題は、「現代社会の状況を踏まえ、今後の自分の生き方を考える」である。2000字以上。
評価方法・評価基準は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはクラスルーム
または授業内での配布等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末レポート	○	○	○	
グループディスカッション	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合

平常点（リアクションペーパー等） 20点
グループディスカッション、プレゼンテーション 20点
レポート 60%

使用教科書名(ISBN番号)

特になし

参考図書

①原ひろ子著『生活の経営―21世紀の人間の営み―』放送大学教育振興会 2002年
②柴桂子著『近世おんな旅日記 (歴史文化ライブラリー ; 13)』吉川弘文館 1997年
③河田敦子著 加藤時男翻刻 『幕末明治の女性 内藤ますの生涯とその教養形成過程』お茶の水女子大学グローバルCOE「格差センシティブな人間発達科学の創成」2010年
④日本家政学会・生活経営学部会編『暮らしをつくりかえる生活経営力』朝倉書店 2014年・臼井和恵編著『21世紀の生活経営 自分らしく生きる』同文書院 2011年
⑤山口一男『ワークライフバランス』日本経済新聞出版社2009年

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「衣」「住」「コミュニケーション・情報」「地域・園芸・ビジネス」「家庭科教育」の各分野 について、専門的知識・技術を有している

【思考・判断】社会の中にある諸課題を自 ・社会の中にある諸課題を自 ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。

オフィスアワー

随時調整し対応する。アポイントメントを取り、時間調整を行うこと。

学生へのメッセージ

生活者としての視点から現代の家族問題や女性の生き方、ジェンダーの問題、消費者の様相を相対化して考察できる基盤を培ってほしい。
教職必修

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	第9回 消費者としての生き方は実務経験のある方による特別授業である。
アクティブ・ラーニング	○	アクティブラーニング：第12，13回の授業ではグループディスカッション、プレゼンテーションの機会を設けている。
情報リテラシー教育	○	現代社会の状況について情報収集しながらレポートを作成する。
ICT活用		

講義コード	S01301701
講義名	保育学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M31183M21

学習計画

講義コード	S01350101
講義名	食生産体験演習Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活共創学科食科学コース・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	宮内 泰之	指定なし

ナンバリング

M22111M12

授業概要(教育目的)

生産現場に対する関心や理解を深めるだけでなく、日本の食生活が自然の恩恵の上に成り立ち、食に関わる多様な人々の活動に支えられていることについて理解を深めることがこれからの食の現場では重要である。体験学習型の学びとして、地域との交流、次世代や社会へ広く食に関わる事柄を発信できるように、実際に作物などを自分たちで栽培・収穫することを通し、生産の大変さ、食べ物の大切さなどを体得することを目的とする。

履修条件

野外での栽培実習。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	野菜栽培・育成の基礎（野菜・米の分類、有機農業、播種の方法、コンパニオンプランツ、連作障害、土壌の性質、肥料の3要素、肥料の種類、雑草の種類と防除）を理解し栽培方法を説明できる。野菜・米の品種の特徴を理解し、食の安全について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	野菜・米の特性や栽培期間を理解し、作業手順や作業効率を考え、栽培計画を立てることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	野菜・米栽培に興味を持ち、それらのメカニズムに関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	一般的な夏野菜・米の栽培育成ができる。種からの栽培、苗からの栽培などの特性を生かした栽培作業ができる。

学習計画

食生産体験演習Ａ

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス、ジャガイモの定植。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食物生産を実践を通して学ぶ意義、1年間の作物生産の流れを学ぶ。 ジャガイモの定植方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：ジャガイモの分類、主な栽培品種とその特徴について調べる。 復習：ジャガイモの栽培方法と、栽培の歴史、主食としている国・地域や国内外の主な産地についてまとめる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第2回	**授業テーマ**	エダマメとニンジンの播種
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	野菜についての概説（根菜・葉菜・果菜）。播種（種まき）の方法、種子について学ぶ。 エダマメとニンジンの播種方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：エダマメとニンジンの分類、主な栽培品種とその特徴について調べる。 復習：播種の方法と種子の構造、エダマメとニンジンの栽培方法と、国内外の主な産地についてまとめる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第3回	**授業テーマ**	イネの種籾播種、ジャガイモの芽かき、追肥と土寄せ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イネの栽培方法、播種から白米になるまでの栽培、作業の流れについて学ぶ。 イネの様々な育苗方法について学ぶ。 ジャガイモの芽かき、追肥と土寄せ（1回目）の方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：イネの分類、主な栽培品種とその特徴について調べる。 復習：イネの栽培方法と、栽培の歴史、主食としている国・地域や国内外の主な産地についてまとめる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第4回	**授業テーマ**	キュウリとサトイモの定植
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	雑草の種類と防除法、コンパニオンプランツについて学ぶ。 キュウリとコンパニオンプランツとしてのネギの定植、除草の方法について学ぶ。 サトイモの定植方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：キュウリとサトイモの分類、主な栽培品種とその特徴について調べる。 復習：雑草の種類、コンパニオンプランツ、キュウリとサトイモの栽培方法と、栽培の歴史、国内外の主な産地についてまとめる。
	教室外学習の時間(分)	90分
	授業テーマ	トマトの定植
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	施肥の方法（元肥え、追肥）、連作食害について学ぶ。 トマトとコンパニオンプランツとしてのニラの定植。

	む)	輪作と連作障害について学ぶ。
第5回	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：トマトの分類、主な栽培品種とその特徴、施肥の方法について調べる。 復習：トマトの栽培方法と、栽培の歴史、国内外の主な産地についてまとめる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第6回	授業テーマ	ラッカセイの播種、キュウリの誘引
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	マルチの目的と資材について学ぶ。 ラッカセイの播種、キュウリの誘引、落葉マルチについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：ラッカセイの分類、主な栽培品種とその特徴について調べる。 復習：マルチ、ラッカセイの栽培方法と、栽培の歴史、国内外の主な産地についてまとめる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第7回	授業テーマ	田植え
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	水田の準備と田植えの方法、地域や品種による田植え時期の違いについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：早稲・中稲・晩稲について調べる。 復習：水田の準備と田植えの方法についてまとめる。イネ苗の手植えと機械植えの違いについて調べる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第8回	授業テーマ	キュウリの収穫、ジャガイモの追肥と土寄せ（2回目）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	有機農業と慣行農業の違いについて学ぶ。 キュウリの花と果実の構造、収穫方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：キュウリの花と果実の構造について調べる。 復習：有機農業と慣行農業についてまとめる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第9回	授業テーマ	相原地区の農業について学ぶ。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	相原地区で有機農業を実践されている農家の畑を見学する。 （都合により通常授業に変更する場合があります）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：町田市相原地区およびその周辺地域の地勢について調べる。 復習：見学を通して学んだことをレポートにまとめる。
	教室外学習の時間(分)	60分
	授業テーマ	ジャガイモの収穫
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	ジャガイモの毒成分とジャガイモの収穫方法について学ぶ。

	む)	
第10回	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：ジャガイモの品種ごとの特徴と適した料理方法について調べる。 復習：ジャガイモの毒成分とジャガイモの収穫方法についてまとめる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第11回	授業テーマ	トマトの収穫
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	トマトの収穫方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：大玉トマト、ミニトマトそれぞれの品種とその特徴、適した料理方法について調べる。 復習：ジャガイモの毒成分とジャガイモの収穫方法についてまとめる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第12回	授業テーマ	田んぼの除草
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	畑、水田の土壌の構造、性質、それぞれの雑草と防除方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：関東地方の畑、水田それぞれの夏の雑草の種類について調べる。 復習：畑、水田の土壌の構造、性質についてまとめる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第13回	授業テーマ	エダマメの収穫と収量計測
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	エダマメのさやの数、さやと豆の総重量を計測し記録する。一本の枝に何さや付いているか、3粒、2粒、1粒それぞれの数を記録。10本全体の総重量を計測。後日、全員の平均値を算出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：エダマメの一般的な収量について調べる。 復習：エダマメの収穫方法と収量の計測結果をまとめる。
	教室外学習の時間(分)	60分
第14回	授業テーマ	収穫祭（予定）、収穫物の試食会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	冷凍エダマメと、収穫したてのエダマメの香り・味の違いを体験する。 その他の収穫物を試食する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：エダマメの調理方法について調べる。 復習：収穫したてのエダマメの香り・味の違いを確認し、収穫について考え調べてみる。
	教室外学習の時間(分)	90分
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	

	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

屋外での野菜栽培は、天候に左右されることがあります。また、校外授業を予定していますが日程の調整があるため、予定変更が発生する可能性があります。ご留意をお願いします。

学生へのフィードバック方法

レポート提出は、後期最初の授業で返却し、評価についてコメントします。

評価方法

授業への積極的な参加を重要視します。特にグループワークとして行動、活動することが多いため、協調性、チームワーク等の態度を見ます。最終レポート、見学レポート、平常点で評価します。
評価方法・評価基準はルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはクラスルーム
または授業内での配布等により提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
最終レポート	○	○		
見学レポート		○	○	
外部講師感想		○	○	
平常点			○	

評価割合

最終レポート（40%）、見学レポート（20%）、平常点（40%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】野菜栽培・育成の基礎（野菜・米の分類、有機農業、播種の方法、コンパニオンプランツ、連作障害、土壌の性質、肥料の3要素、肥料の種類、雑草の種類と防除）を理解し栽培方法を説明できる。野菜・米の品種の特徴を理解し、食の安全について説明できる。
【思考・判断】野菜・米の特性や栽培期間を理解し、作業手順や作業効率を考え、栽培計画を立てることができる。
【関心・意欲・態度】野菜・米栽培に興味を持ち、それらのメカニズムに関心を持つことができる。
【技能・表現】一般的な夏野菜・米の栽培育成ができる。種からの栽培、苗からの栽培などの特性を生かした栽培作業ができる。

学生へのメッセージ

野菜・米栽培に興味を持ち、実祭に体験・体得することも多いと考えます。積極的な授業参加を期待しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活か	○	野生植物調査に関する実務経験を活かし、植物の形態や雑草防除方

した授業		法について解説する。
アクティブ・ラーニング	○	手や体を動かし、能動的に対応することで体得する。
情報リテラシー教育	○	授業で扱う野菜に関する情報を収集し、レポート等にまとめる。
ICT活用	○	グループで作業を行ったり、調べたりすることにより、コミュニケーション力を身に付ける。

講義コード	S01350201
講義名	食生産体験演習Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活共創学科食科学コース・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	宮内 泰之	指定なし

ナンバリング

M22112M12

授業概要(教育目的)

生産現場に対する関心や理解を深めるだけでなく、日本の食生活が自然の恩恵の上に成り立ち、食に関わる多様な人々の活動に支えられていることについて理解を深めることがこれからの食の現場では重要である。体験学習型の学びとして、地域との交流、次世代や社会へ広く食に関わる事柄を発信できるように、実際に作物などを自分たちで栽培・収穫することを通し、生産の大変さ、食べ物の大切さなどを体得することを目的とする。

履修条件

野外での栽培実習。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	野菜栽培・育成の基礎（野菜・米の様々な品種、有機農業、緑肥、稲作にまつわる伝統文化）を理解し栽培方法を説明できる。野菜・米の品種の特徴を理解し、食の安全について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	野菜・米の特性や栽培期間を理解し、作業手順や作業効率を考え、栽培計画を立てることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	野菜・米栽培に興味を持ち、それらのメカニズムに関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	一般的な秋冬野菜・米の栽培育成ができる。種からの栽培、苗からの栽培などの特性を生かした栽培作業ができる。

学習計画

食生産体験演習B

第1回	授業テーマ	ガイダンス、ハクサイの定植、ダイコンの播種。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	秋から翌春までの野菜栽培の流れを学ぶ。 ハクサイの定植、ダイコンの播種方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：ハクサイ・ダイコンの分類、主な栽培品種とその特徴について調べる。 復習：ハクサイ・ダイコンの栽培方法と、栽培の歴史、国内外の主な産地についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	キク科野菜（シュンギク他）、アブラナ科野菜（コマツナ他）の播種
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キク科野菜（シュンギク、リーフレタス）、アブラナ科野菜（コマツナ、ラディッシュ、コカブ、チンゲンサイ）それぞれの種類と性質、播種方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：主なキク科、アブラナ科野菜の種類について調べる。 復習：キク科、アブラナ科野菜の栽培方法と、国内外の主な産地についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第3回	授業テーマ	稲刈り、ゲンゲ（レンゲソウ）の播種
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	緑肥の種類と効果、方法について学ぶ。 稲刈り、稲架掛け（はざかけ）、ゲンゲの播種の方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：米の天日干し、機械乾燥の違いについて調べる。 復習：緑肥、稲刈り、稲架掛け、ゲンゲの播種の方法についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第4回	授業テーマ	ヒユ科野菜（ホウレンソウ他）の播種、ダイコンの間引き
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	間引きの効果と方法について学ぶ。 ヒユ科野菜（ホウレンソウ他）の播種の方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：ホウレンソウの分類、主な栽培品種とその特徴について調べる。 復習：ホウレンソウの栽培方法と、栽培の歴史、国内外の主な産地についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	ラッカセイ、ネギの収穫と試食
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ラッカセイ、ネギの収穫方法について学ぶ。 ラッカセイの試食を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：ラッカセイの調理方法、ネギの分類、主な栽培品種とその特徴、施肥の方法について調べる。 復習：ラッカセイ、ネギの収穫、調理方法についてまとめる。
	教室外学習の時	60

	間（分）	分
第6回	授業テーマ	イネの脱穀、籾摺り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	イネの果実（米）の構造と栄養素について学ぶ。 イネの脱穀と籾摺りについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：手動による様々な脱穀手法について調べる。 復習：イネの脱穀と籾摺りについてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第7回	授業テーマ	サトイモの収穫
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	サトイモの成分と収穫方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：サトイモの特徴と適した料理方法について調べる。 復習：サトイモの成分と収穫方法についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第8回	授業テーマ	収穫感謝祭
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	収穫感謝祭の意味について学ぶ。米とその他の収穫物の試食。 米の品種、産地、炊飯方法の違いによる香り、食感、味の違いを比較する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：米のとぎ方と鍋（釜）による炊飯方法について調べる。 復習：試食した結果についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第9回	授業テーマ	相原地区の農業について学ぶ。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	相原地区で有機農業を実践されている農家の畑を見学する。 （都合により通常授業に変更する場合があります)
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：多摩地域の郷土野菜について調べる。 復習：見学を通して学んだことをレポートにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第10回	授業テーマ	しめ飾りの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	稲作にまつわる伝統文化について学ぶ。 稲わらを使用したしめ飾りの作成方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：稲わらの使用方法について調べる。 復習：稲わらを使用したしめ飾りの作成方法についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	ハクサイ、ダイコンの収穫
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ハクサイの結球の仕組み、ダイコンの構造、それぞれの収穫方法について学ぶ。

	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：ハクサイ、ダイコンの市場価格について調べる。 復習：ハクサイ、ダイコンの構造と収穫方法についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	**授業テーマ**	食生産体験の意義（グループ討論）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1年間の畑実習を踏まえて、「食の安全」「生活環境の保全」「現状と課題」といった観点から、食生産体験の意義についてグループ討論を行う。討論の内容を記録し、次回の授業でのグループ発表の準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：食生産体験の意義と食の安全について調べ、自身の意見をまとめておく。 復習：討論の内容をまとめ、グループ発表の準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	**授業テーマ**	食生産体験の意義（グループ発表）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1年間の畑実習を踏まえて、「食の安全」「生活環境の保全」「現状と課題」といった観点から、食生産体験の意義についてグループ発表、質疑応答を行う。各グループの発表内容、質疑応答を記録する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：12回目の討論の内容をまとめ、グループ発表の準備を行う。 復習：グループ発表を通して自身の考えをまとめ最終レポートとする。
	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	春の七草、野菜の糖度
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	春の七草の種類と意味について学ぶ（可能であれば七草粥を作成して試食する）。 冬野菜の糖度について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：春の七草の種類と歴史について調べる。 復習：冬野菜の特徴と糖度が高まる仕組みについてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	90分
第15回	**授業テーマ**	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

屋外での野菜栽培は、天候に左右されることがあります。また、校外授業を予定していますが日程の調整があるため、予定変更が発生する可能性があります。ご留意をお願いします。

評価方法

授業への積極的な参加を重要視します。特にグループワークとして行動、活動することが多いため、協調性、チームワーク等の態度を見ます。最終レポート、見学レポート、グループ発表、平常点で評価します。
評価方法・評価基準はルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはクラス

ルーム
または授業内での配布等により提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
最終レポート	○	○		
見学レポート		○	○	
外部講師感想		○	○	
平常点			○	

評価割合

最終レポート（40%）、見学レポート（20%）、グループ発表（20%）、平常点（20%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】野菜栽培・育成の基礎（野菜・米の様々な品種、有機農業、緑肥、稲作にまつわる伝統文化）を理解し栽培方法を説明できる。野菜・米の品種の特徴を理解し、食の安全について説明できる。
【思考・判断】野菜・米の特性や栽培期間を理解し、作業手順や作業効率を考え、栽培計画を立てることができる。
【関心・意欲・態度】野菜・米栽培に興味を持ち、それらのメカニズムに関心を持つことができる。
【技能・表現】一般的な夏野菜・米の栽培育成ができる。種からの栽培、苗からの栽培などの特性を生かした栽培作業ができる。

学生へのメッセージ

野菜・米栽培に興味を持ち、実祭に体験・体得することも多いと考えます。積極的な授業参加を期待しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	野生植物調査に関する実務経験を活かし、植物の形態や雑草防除方法について解説する。
アクティブ・ラーニング	○	手や体を動かし、能動的に対応することで体得する。
情報リテラシー教育	○	授業で扱う野菜に関する情報を収集し、レポート等にまとめる。
ICT活用	○	グループで作業を行ったり、調べたりすることにより、コミュニケーション力を身に付ける。

講義コード	S01350301
講義名	応用調理学実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M22113M23

学習計画

講義コード	S01350401
講義名	食品の企画と設計
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32114M22

学習計画

講義コード	S01350501
講義名	食空間コーディネート論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32115M21

学習計画

講義コード	S01350601
講義名	食品機能学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32121M21

学習計画

講義コード	S01350701
講義名	食科学総合演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M42122M22

学習計画

講義コード	S01350801
講義名	公衆衛生学I（総論）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M22131M21

学習計画

講義コード	S01350901
講義名	公衆衛生学II（各論）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32132M21

学習計画

講義コード	S01351001
講義名	生化学（総論）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M22141M21

学習計画

講義コード	S01351101
講義名	代謝栄養学（生化学各論）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32142M21

学習計画

講義コード	S01351201
講義名	栄養学・生化学実験
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M22143M13

学習計画

講義コード	S01351301
講義名	食品衛生学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活共創学科食科学コース・3年次
必修・選択の別	コース必修
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32151M21

授業概要(教育目的)

食品に対する多様な要望の中でも安全性は基本的必要条件である。食品衛生の対象は食品だけでなく食品添加物、器具、容器包装、おもちゃ、洗剤なども含まれる。近年の食中毒の発生状況からみた傾向、食品添加物の安全性と発ガンの問題、食品と感染症や寄生虫との関係などについての理解を深め、食生活の中で留意すべき点についても学ぶ。

履修条件

高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	多種多様な食品と場の安全管理に必要な専門的知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	多種多様な食品と場の安全確保の思考、応用判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	多種多様な食品と場の安全管理に関心をもち、応用展開ができる。
技術・表現の観点 (A)	多種多様な食品と場の安全管理に関する事項を他者へ正しく伝える文章を作成できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	私たちの食生活と食品衛生
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	私たちの食生活と食品衛生 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第1章「私たちの食生活と食品衛生」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第2回	**授業テーマ**	食品の安全性を保障する仕組み
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の安全性を保障する仕組み について理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第2章「食品の安全性を保障する仕組み」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第3回	**授業テーマ**	食品の変質と腐敗，汚染
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の変質と腐敗，汚染 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第3章「食品の変質と腐敗，汚染」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第4回	**授業テーマ**	食品による食中毒を引き起こす微生物と毒素の特徴①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品による食中毒を引き起こす微生物と毒素の特徴 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第4章「食品による食中毒を引き起こす微生物と毒素の特徴」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第5回	**授業テーマ**	食品による食中毒を引き起こす微生物と毒素の特徴②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品による食中毒を引き起こす微生物と毒素の特徴 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第4章「食品による食中毒を引き起こす微生物と毒素の特徴」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第6回	**授業テーマ**	食品による食中毒を引き起こす微生物と毒素の特徴③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品による食中毒を引き起こす微生物と毒素の特徴 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第4章「食品による食中毒を引き起こす微生物と毒素の特徴」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第7回	**授業テーマ**	食品による食中毒を引き起こす微生物と毒素の特徴④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品による食中毒を引き起こす微生物と毒素の特徴 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第4章「食品による食中毒を引き起こす微生物と毒素の特徴」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第8回	**授業テーマ**	食品による感染症と寄生虫症，人畜共通感染症
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品による感染症と寄生虫症，人畜共通感染症 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第5章「食品による感染症と寄生虫症，人畜共通感染症」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第9回	**授業テーマ**	食品添加物①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品添加物 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の	

	内容	教科書；第6章「食品添加物」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第10回	授業テーマ	食品添加物②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品添加物 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第6章「食品添加物」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第11回	授業テーマ	食品添加物③ 食品の安全性を保障する具体的な仕組み：食品表示と規格基準①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品添加物 食品の安全性を保障する具体的な仕組み：食品表示と規格基準 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第6章「食品添加物」、第7章「食品の安全性を保障する具体的な仕組み：食品表示と規格基準」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第12回	授業テーマ	食品の安全性を保障する具体的な仕組み：食品表示と規格基準②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の安全性を保障する具体的な仕組み：食品表示と規格基準 について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第7章「食品の安全性を保障する具体的な仕組み：食品表示と規格基準」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第13回	授業テーマ	食品の安全性を担保するこれからの仕組み①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の安全性を担保するこれからの仕組み について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第8章「食品の安全性を担保するこれからの仕組み」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分
第14回	授業テーマ	食品の安全性を担保するこれからの仕組み②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の安全性を担保するこれからの仕組み について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書；第8章「食品の安全性を担保するこれからの仕組み」を読んでおくこと。 第1回目～第14回までの授業内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習95分、復習100分

学習計画注記

＊授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連

絡し、アポイントをとって下さい。

評価方法

中間確認課題40%、定期試験60%の総合評価（100%）とします。課題等に関する評価のルーブリックは当該授業のGoogleClassroomへ掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間確認課題	○	○	○	○
定期試験（筆記試験）	○	○		○

評価割合

中間確認課題40%、定期試験（筆記試験）60%の総合評価とし、評価のルーブリックは当該授業GoogleClassroomへ掲載。

使用教科書名(ISBN番号)

食品衛生学 第2版(新スタンダード栄養・食物シリーズ8)一色賢司 編
定価2500+税 2019年3月17日発行 B5 ・248ページ ISBN 9784807916801 株式会社化学同人

参考図書

＊購入は必要性ありません。
トニー・ハート 恐怖の病原体図鑑 ウイルス・細菌・真菌完全ビジュアルガイド 西村書店
濱田篤郎 寄生虫ビジュアル図鑑 危険度・症状で知る人に寄生する生物 誠文堂新光社

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】食品の分類と特性に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技術・表現】専門的知識を他者に正しく伝える文章力を身につける。

オフィスアワー

火曜日2限目 2308研究室 授業前後やメール等で事前に予約と訪問時間の承諾を得て下さい。

学生へのメッセージ

食品を理解するために基礎生物学、基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なかたほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格、フードコーディネーター3級認定登録に関する必修科目でもあります。家庭科の中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状の資格取得の選択科目でもあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポート作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	資料提供、課題提出等に活用する。 必要に応じて、授業中に危機管理システム理解や危害対象物特性視聴に活用する。

講義コード	S01351401
講義名	食品衛生学実験
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	生活共創学科食科学コース・3年次
必修・選択の別	コース必修
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32152M13

授業概要(教育目的)

実際に取引をされている食品の安全性はどのように確認をされているのか、基準を設定されているのか、食品を扱う・食品衛生の管理を行う・食品衛生管理の指導をする立場として必要とされる食品衛生管理手法を実際の各現場における実用性にも視点をおき、実験手法を通して講義教科で学んだ内容を体得していく。実験を行うにあたり必要となる化学実験における一般的注意事項や試薬・器具・機器の取り扱いついても学びながら、科学的な考え方や技術を学ぶ授業展開も行う。

履修条件

高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	食品衛生管理の基礎知識と併せて理化学試験を遂行する知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	倫理的、客観的視野から実験結果を捉える思考、判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実験を編成された班で協同遂行し、実験工程における試料変化等に関心をもち、実験工程、結果を観察し、情報共有ができる。
技術・表現の観点 (A)	安全性と倫理性に留意した精密で正確な実験操作ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	実験を行うための基礎知識・基礎実験を行う準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品衛生学実験を行うための基礎知識・食品微生物学的検査を行うための事前準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。

	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第2回	**授業テーマ**	食品の微生物的検査①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発酵食品を試料とした細菌の形態観察と染色法、顕微鏡観察を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第3回	**授業テーマ**	食品の微生物的検査②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食品の一般衛生微生物検査（生菌数・大腸菌群・真菌類・黄色ブドウ球菌）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第4回	**授業テーマ**	食品の微生物的検査③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前週に採取・培養した食品の一般衛生微生物検査（生菌数・大腸菌群・真菌類・黄色ブドウ球菌）結果の解析を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第5回	**授業テーマ**	環境衛生実験①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	飲用水中の生菌・大腸菌検査、水道水の残留塩素試験、空中落下細菌検査を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第6回	**授業テーマ**	環境衛生実験②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前週に採取・培養した飲用水中の生菌・大腸菌検査結果、空中落下細菌検査結果解析を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第7回	**授業テーマ**	食品の鮮度・異常簡易試験①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理器具・手指の細菌検査、食品成分の残留試験を行う。
		１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験

	教室外学習(予習・復習)の内容	内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第8回	**授業テーマ**	食品の鮮度・異常簡易試験②＋実技試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	調理器具・手指の細菌検査結果解析を行う。 魚類の鮮度試験（揮発性塩基窒素測定）を行う。 顕微鏡操作に関する実技試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。 ３．顕微鏡操作に関して復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第9回	**授業テーマ**	食品の鮮度・異常簡易試験③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	牛乳の鮮度試験（レサズリン試験）、卵の鮮度試験（比重測定，割卵判定）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第10回	**授業テーマ**	食品の鮮度・異常簡易試験④ 食品の理化学試験①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	油脂の変質試験（酸価試験，過酸化物価試験）を行う。 容器包装材試験（材料判別燃焼試験）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第11回	**授業テーマ**	食品の理化学試験②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保存料試験（高速液体クロマトグラフィー・紫外線吸光法による定性・定量試験）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第12回	**授業テーマ**	食品の理化学試験③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	着色料試験（薄層クロマトグラフィーによる定性試験，羊毛染色法試験）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分

第13回	授業テーマ	食品の理化学試験④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	漂白料試験（亜硫酸定性試験，通気蒸留法による定量試験）を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。 ３．第1～第13回の授業内容の復習を行う。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分
第14回	授業テーマ	食品の理化学試験⑤＋筆記試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発色剤試験（比色法による亜硝酸塩定量試験）を行う。 筆記試験を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。
	教室外学習の時間（分）	予習30分、復習60分

学習計画注記

＊授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。

評価方法

実験態度（編成された班における協同の様子等）30%、実験結果解析・課題レポート70%の総合評価（100%）とします。評価詳細のルーブリックは当該GoogleClassroomへ掲載します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実験態度	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○

評価割合

実験態度（編成された班における協同の様子等）30%、実験結果解析・課題レポート70%の総合評価（100%）とします。評価詳細のルーブリックは当該GoogleClassroomへ掲載します。

使用教科書名(ISBN番号)

新しい食品衛生実験 新版第2版
西島基弘・宮澤文雄・安達修一・石川ふさ子・井部明弘・大島赴夫・金井美恵子・佐藤吉朗
三共出版 B5判 148ページ ISBN 978-4-7827-0753-1

参考図書

栄養科学イラストレイテッド 食品衛生学 改訂第２版
田﨑達明／編 羊土社 2019年08月20日発行 B5判 272ページ ISBN 978-4-7581-1359-5

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】食品衛生管理の専門的な知識を基礎に、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。

【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】実験内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技術・表現】食品衛生分析における専門的技術を身につける。

オフィスアワー

金曜2限目 2308研究室 授業前後やメール等で事前に予約と訪問時間の承諾を得て下さい。

学生へのメッセージ

食品衛生管理を理解するために基礎生物学，基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なかたほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。
現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。
また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格に必要な必修科目でもあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。
アクティブ・ラーニング	○	指定されたグループで協同かつ得られた結果を共有し、共に解析を行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	資料提供、課題提出等に活用する。

講義コード	S01351501
講義名	応用栄養学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活共創学科食科学コース・2年次
必修・選択の別	コース必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M22161M21

授業概要(教育目的)

本講義では、人の一生を通じた発育、加齢、妊娠などの各ライフステージにおける身体の構造変化や、生理学的・生化学的な代謝の変化について学ぶ。これらの知識を基に、各段階に応じた適切な栄養ケア・マネジメント（栄養管理）の基本的な考え方を習得する。
さらに、適切な評価・判定を行い、身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の方法を学ぶ。栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験の出題基準に基づき、管理栄養士・栄養士に必要な各ライフステージ別の栄養学の基礎知識を理解する。また、運動・スポーツ、ストレス、特殊環境における栄養ケアについても学ぶ。
本科目は、栄養士免許証および食品衛生監視員・食品衛生指導者の資格取得に必要な必修科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．各ライフステージにおける身体状況や栄養状態に応じた栄養管理について説明できる。 2．運動や特殊環境における人体の特性、栄養管理について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	健康の維持・増進及び疾病予防のために栄養素の機能等を十分理解し、健康に及ぼすリスクの管理について基本的な考え方を説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	基礎的な栄養素の知識や解剖生理学の知識を応用し、総合的に理解するよう取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	専門的、体系的な学修を通じて、食と健康など、生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身に付けている。

学習計画

学習計画注記

※シラバスの内容は、やむを得ない事情等により一部変更することがあります。
※教科書が改訂された場合は、シラバス記載のページ数が異なることがあります。

学生へのフィードバック方法

・毎回の授業時に実施する小テストの問題や解答は、Google Classroomのフォーム内に掲載する。必ず確認すること。

・定期試験および追再試験の問題用紙は返却する。
・質問がある場合は、2101研究室を訪問するか、E-mailで問い合わせること。
・小テストの結果や総合成績は、随時Google Classroomにアップされる。各自確認すること。

評価方法

・ルーブリックに基づいて成績を評価する。ルーブリックの詳細はGoogle Classroom等で提示する。
・小テストは、前回の授業内容から出題し、全13回実施する。各回の問題数は原則5問、5点満点の五者択一形式とする。小テストを受験しなかった場合は、解説・解答を提示するため、追再テストは実施しない。
・毎回の小テストの問題をもとにディスカッションを行い、その受け答えを通じて「学習態度」を評価する。
・定期試験は、小テストの振り返りを踏まえ、100点満点で出題する。
・小テスト、定期試験、および学習態度の評価は、下表に示す力を養うことを目的とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○	○	○	
定期試験	○	○		
学習態度			○	○

評価割合

定期試験（60%）および授業中に行う小テスト（30%）、さらに学習態度（10%）で総合的に判断し評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

栢下淳編『栄養科学イラストレイテッド応用栄養学』羊土社

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】様々な事象について、関心を持ち自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
【技能・表現】専門的、体系的な学修を通じて、生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身に付けている。

オフィスアワー

月曜4・5限 2101研究室
（2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）

学生へのメッセージ

「応用栄養学」では、さまざまなライフステージに加え、スポーツ時や特殊な環境下における人体の生理的特徴を理解し、それぞれの状況に応じた栄養管理を学ぶ。学ぶ範囲は広範にわたるが、習得した知識を自身や家族、友人の健康に役立てられるよう、主体的に取り組んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティ		毎時間、小テストを用いて発表やディスカッションを行う。ディスカッション

ブ・ラーニング	○	を行うことで、知識の定着はもちろん、自分の意見を正しく伝えて説得するための論理的思考力が鍛えられる。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。また、小テスト等はGoogleフォームを用いる。試験結果や総合成績はGoogle Classroomに逐一アップする。

講義コード	S01351601
講義名	栄養学各論実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32162M13

学習計画

講義コード	S01351701
講義名	臨床栄養学総論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	生活共創学科食科学コース・3年次
必修・選択の別	コース必修
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32163M21

授業概要(教育目的)

栄養ケアプロセスの概要を知り、臨床栄養学分野における栄養士業務について学ぶ。また、栄養素の補給手段である栄養法（経口栄養・経腸栄養・静脈栄養）について学ぶ。そして、代表的な代謝・内分泌疾患である肥満、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症などの病態生理や栄養状態の特徴に基づいた適切な栄養管理の基本を学ぶ。
栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験出題基準に従い、管理栄養士・栄養士に必要不可欠な栄養学の基礎知識を理解する。本科目は、栄養士免許証取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1．医療における臨床栄養の意義を説明できる。 2．栄養補給法の目的、種類、手法について説明ができる。
思考・判断の観点 (K)	各疾患の栄養生理及び栄養食事療法について説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	職業倫理を理解し、チーム医療における管理栄養士の役割について説明できる。
技術・表現の観点 (A)	専門的、体系的な学修を通じて、食と健康など、生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身に付けている。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	臨床栄養の概念
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	臨床栄養の意義・医療及び介護における管理栄養士・栄養士について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第1章（p2−9）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	栄養ケア・マネジメント
	(	栄養ケアの意義と方法、栄養スクリーニング、栄養評価等について学ぶ。

第2回	学習内容 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第2章（p10−35）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	人体への栄養補給（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養補給法の歴史、経口栄養法について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第3章（p36−37）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	人体への栄養補給（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	経腸栄養法について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第3章（p38−41）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	人体への栄養補給（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	経静脈栄養法について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第3章（p42−45）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	栄養障害
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養失調、たんぱく質・エネルギー栄養障害やリフィーディング症候群及びその患者の栄養管理について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第5章（p52−57）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	肥満と代謝疾患（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肥満・メタボリックシンドロームについて学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6章（p58−61）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	肥満と代謝疾患（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	脂質異常症（病態生理）について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習

第8回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6章（p70−75）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	肥満と代謝疾患（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	脂質異常症（栄養食事療法・薬物療法）について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6 章（p70−75）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	肥満と代謝疾患（4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖尿病（病態生理、薬物療法）について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6章（p62−69）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	肥満と代謝疾患（5）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖尿病（栄養食事療法）について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6章（p62−69）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	肥満と代謝疾患（6）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖尿病（運動療法・妊娠糖尿病・小児糖尿病）について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第6章（p62−69）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	肥満と代謝疾患（7）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	糖尿病腎症、高尿酸血症と痛風について学ぶ。 PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第11章（p164−166）第6章（p76−81）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	消化器疾患
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	胃炎、胃・十二指腸潰瘍・胃癌、大腸癌及びその患者の栄養管理について学ぶ。

第14回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	PC等を用いてGoogle Classroomにアクセスし、前回の復習小テストを受験する。さらにその解答についてディスカッションする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第7章（p88−103）及び第8章（p106-115）を通読する。 教科書とノートを見ながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

※シラバスの内容は、やむを得ない事情等により一部変更することがあります。
※教科書が改訂された場合、シラバス記載のページ数が異なることがあります。

学生へのフィードバック方法

・毎回の授業時に実施する小テストの問題や解答は、Google Classroomのフォーム内に掲載する。必ず確認すること。
・定期試験および追再試験の問題用紙は返却する。
・質問がある場合は、2101研究室を訪問するか、E-mailで問い合わせること。
・小テストの結果や総合成績は、随時Google Classroomにアップされる。各自確認すること。

評価方法

・ルーブリックに基づいて成績を評価する。ルーブリックの詳細はGoogle Classroom等で提示する。
・小テストは、前回の授業内容から出題し、全13回実施する。各回の問題数は原則5問、5点満点の五者択一形式とする。小テストを受験しなかった場合は、解説・解答を提示するため、追再テストは実施しない。
・毎回の小テストの問題をもとにディスカッションを行い、その受け答えを通じて「学習態度」を評価する。
・定期試験は、小テストの振り返りを踏まえ、100点満点で出題する。
・小テスト、定期試験、および学習態度の評価は、下表に示す力を養うことを目的とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○	○	○	
定期試験	○	○		
学習態度			○	○

評価割合

定期試験（60%）および授業中に行う小テスト（30%）、さらに学習態度（10%）で総合的に判断し評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

多賀昌樹編『臨床栄養学基礎から学べる』アイ・ケイコーポレーション

参考図書

日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版』文光堂

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】様々な事象について、関心を持ち自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
【技能・表現】専門的、体系的な学修を通じて、生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身に付けている。

オフィスアワー

火曜1、2限 2101研究室
（2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）

学生へのメッセージ

病院で働く栄養士は主に患者の食事を作る調理業務を担い、管理栄養士は患者一人ひとりの病状に合わせた栄養管理や栄養指導を行います。そのため、学生時代に学ぶ「臨床栄養学」はとても重要です。
しかし「臨床栄養学」は病院のような医療施設や介護施設で働かなければ必要ないのでは？と思われがちですが、私たちの各ライフステージにおいて、臨床栄養学の知識はとても役に立ちます。
対象者の病態や栄養状態をどのようにすれば改善できるのかを学ぶことはもちろんですが、私たちが食習慣や栄養についてどのように気を付ければこのような病気にならないか、健康でいられるのかを学ぶことができます。
ぜひ「自分ごと化」して前向きに取り組んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	毎時間、小テストを用いて発表やディスカッションを行う。ディスカッションを行うことで、知識の定着はもちろん、自分の意見を正しく伝えて説得するための論理的思考力が鍛えられる。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。また、小テスト等はGoogleフォームを用いる。試験結果や総合成績はGoogle Classroomに逐一アップする。

講義コード	S01351801
講義名	臨床栄養学各論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32164M21

学習計画

講義コード	S01351901
講義名	臨床栄養学実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32165M13

学習計画

講義コード	S01352001
講義名	栄養学実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32166M13

学習計画

講義コード	S01352101
講義名	栄養指導論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32171M21

学習計画

講義コード	S01352201
講義名	栄養指導実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32172M13

学習計画

講義コード	S01352301
講義名	栄養カウンセリング論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32173M21

学習計画

講義コード	S01352401
講義名	栄養カウンセリング実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32174M13

学習計画

講義コード	S01352501
講義名	公衆栄養学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32175M21

学習計画

講義コード	S01352601
講義名	公衆栄養学実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32176M13

学習計画

講義コード	S01352701
講義名	給食管理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M22181M21

学習計画

講義コード	S01352801
講義名	校内給食管理実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32182M13

学習計画

講義コード	S01352901
講義名	校外給食管理実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M32183M13

学習計画

講義コード	S01353001
講義名	調理科学実験
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M22184M13

学習計画

講義コード	S01353101
講義名	栄養士総合演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

M22191M12

学習計画

講義コード	S02100101
講義名	森を学ぶ森から学ぶ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	こども教育学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	佐藤 冬果	指定なし

ナンバリング

P11101M22

授業概要(教育目的)

森林などの自然環境下における様々な体験・遊びは、身体を通じて五感に働きかけ、幼児・児童期のこどもの心身の豊かな成長を促します。本授業では、園や学校などの身近な自然を活用した自然体験活動を効果的にかつ安全に指導するための知識技術を修得することを目的とし、自然環境（森林）やその環境を生かした教育についての基本的な理論を学びます。また、実際にこどもを対象とした森のようちえん活動の指導を体験することを通じて、個々のプログラムの運営方法、安全管理の考え方、キャンプカウンセリングなどの指導法など実践的な指導力を修得します。

履修条件

・野外活動に適した服装・靴で受講してください。
・野外活動を実施する上で健康上の配慮が必要な人は申し出てください。
・一部の授業は集中授業で実施します。
・共通教育科目「森の体験活動」と併せて履修することが望ましい科目です。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	森林環境下で実施される自然体験活動の教育的意義や効果について説明できる。 自然体験活動の活動フィールドである森林の生態や植生について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	自然体験活動を取り巻く現状と課題を指摘することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	森林環境下で実施される自然体験活動に対して積極的に関与することができる。
技術・表現の観点 (A)	保育・教育に自然体験活動を積極的に取り入れることができる。

学習計画		
第1回	授業テーマ	オリエンテーション 自然（森林）環境を活用した教育の実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業で扱う内容や進め方、スケジュール等について確認する。 また、森林環境を生かした教育実践の場としての「森のようちえん」の概要や教育目的等について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	過去の森のようちえんの実施報告に目を通し、活動内容を理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	授業テーマ	自然（森林）環境を活用した教育の基礎理論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	野外教育の基礎的な理論（体験学習理論やキャンプカウンセリングの考え方、グループダイナミクスやリーダーシップの理論など）や、自然（森林）環境が人間の心身に与える影響についての基礎的な知識を修得する。 また実際に、町田キャンパスあるいはその周辺の森林環境を歩き、そこで生じるこころ（感情）の動きについて、体験から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	森林環境下で過ごした子ども時代の体験を想起し、どのような体験だったか、その概要や当時の感情などを整理しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	授業テーマ	森を学ぶI
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	森林環境についての基礎的な知識を修得する。 また実際に、学内あるいはその周辺の森林環境を歩き、そこに生息する植物について、その同定方法や生態について学ぶ。 特に、五感に働きかけることが特徴的な植物（匂い、色、手触りなど）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学内やその周辺の森林環境で見かけた植物で、気になったものを調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	授業テーマ	森を学ぶII
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	森林環境についての基礎的な知識を修得する。 また実際に、学内あるいはその周辺の森林環境を歩き、そこに生息する植物について、その同定方法や生態について学ぶ。 特に、植物の文化的背景（人間の暮らしとの関係）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学内やその周辺の森林環境で見かけた植物で、気になったものを調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	森を学ぶIII
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	森林環境についての基礎的な知識を修得する。 また実際に、学内あるいはその周辺の森林環境を歩き、そこに生息する植物について、その同定方法や生態について学ぶ。 特に、触れるとかぶれたり、口にすると体調不良を引き起こすなど、人間にとっての危険植物について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学内やその周辺の森林環境で見かけた植物で、気になったものを調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分

第6回	授業テーマ	森を学ぶIV
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	森林環境についての基礎的な知識を修得する。 また実際に、学内あるいはその周辺の森林環境を歩き、そこに生息する植物について、その同定方法や生態について学ぶ。 特に、植物と他の自然環境（土や虫、動物など）との関係について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学内やその周辺の森林環境で見かけた植物で、気になったものを調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	授業テーマ	子どもの育ちと自然（森林）環境I
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子ども達を対象にした森のようちえんに参加し、実際に指導に携わりながら、子どもの活動中の様子を観察し、記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの様子を記録し、子どもの育ちにとっての自然環境の意義について考察を深めること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	子どもの育ちと自然（森林）環境II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子ども達を対象にした森のようちえんに参加し、実際に指導に携わりながら、子どもの活動中の様子を観察し、記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの様子を記録し、子どもの育ちにとっての自然環境の意義について考察を深めること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	子どもの育ちと自然（森林）環境III
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子ども達を対象にした森のようちえんに参加し、実際に指導に携わりながら、子どもの活動中の様子を観察し、記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの様子を記録し、子どもの育ちにとっての自然環境の意義について考察を深めること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	子どもの育ちと自然（森林）環境IV
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子ども達を対象にした森のようちえんに参加し、実際に指導に携わりながら、子どもの活動中の様子を観察し、記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの様子を記録し、子どもの育ちにとっての自然環境の意義について考察を深めること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	授業テーマ	森を伝えるI
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	町田キャンパスあるいはその周辺の森林環境について、他者に魅力的に伝えることを目的に、各グループ毎に設定したテーマに着目した植物図鑑・マップ等の作成を行う。

	教室外学習(予習・復習)の内容	取り扱うテーマを考えておくこと。取り上げる植物の特徴について調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	**授業テーマ**	森を伝えるII
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	町田キャンパスあるいはその周辺の森林環境について、他者に魅力的に伝えることを目的に、各グループ毎に設定したテーマに着目した植物図鑑・マップ等の作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	植物図鑑・マップ等の作成を進めること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	**授業テーマ**	森を伝えるIII
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各グループ毎に作成した成果物をクラスで共有し、町田キャンパスあるいはその周辺の森林環境についての理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	製作した植物図鑑・マップ等を他者に紹介する準備を進めること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	**授業テーマ**	自然体験活動における安全管理 まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然体験活動（キャンプ）を安全に運営するための知識や技術（自然環境の危険、生物的な危険、社会文化人為的な危険等）を学ぶ。 授業全体を振り返り、子どもの育ちにおける自然（森林）環境の意義についての考えをまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	最終レポートの作成に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	90分

学習計画注記

・一部、土曜日に集中授業の形で実施します。
・授業の進捗状況等によりスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

プログラム実施後に、ともにふりかえりを実施し、フィードバックを伝えます。

評価方法

・授業への取り組み状況
・各授業における小レポート
・最終レポート
を総合的に評価します。

ルーブリックを用いた評価を行います。ルーブリックについてはクラスルームにより提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業への取り組み	○	○	○	○

各授業における小レポート	○	○		○
最終レポート	○	○		○

評価割合

・授業への取り組み 50%
・各授業における小レポート 25%
・最終レポート 25%

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない

参考図書

日本キャンプ協会『キャンプ指導者入門』（第5版）
（※日本キャンプ協会発行資格（キャンプインストラクター）を申請予定の方は購入して頂く必要があります。(税込み2200円、初回授業時に希望調査)）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
多様なこどものwell-being向上に寄与する知識を身に付けている
【思考・判断】
こどもを取り巻く社会における課題の解決に向けて、論理的・多角的に考えることができる
【関心・意欲・態度】
地域・社会に主体的に参画・貢献できる協働力・共感力を身に付けている
豊かな体験のなかで、自他を認め合いながら自らの専門性や人間性を育み続ける力を身に付けている
【技術・表現】
多様なこどものwell-being向上に寄与する技能を身に付けている
多様性に配慮して他者を尊重した表現をすることができる

オフィスアワー

月曜4限 1618室

学生へのメッセージ

都市化された現代の生活では、子ども達が自然に触れる機会が減少しています。
しかし、幼児･児童期に自然と直接関わり、五感を刺激し、自然と生まれる興味のままに物事に取り組んだ経験は、無意識のうちに心の深いところに根付き、その後の心身の成長に大きな影響を与えてくれます。そして、その体験の質の鍵を握るのは、そこにいる「大人」の存在であるとも言われます。
保育者・教育者など、子どもの専門家を目指す皆さんには、まずは皆さん自身が自然にたくさん触れることで子ども達の自然体験の意義を実感を持って理解し、豊かな体験をサポートできる存在になってほしいと願います。
また、本授業ではそのような自然体験活動の「場」である森を学び、実際の「場づくり」の役割を担うことで、豊かな体験の場を作る力をもって現場に出てほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	実際に身体を動かしながら五感を通じて学びます。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	S02100201
講義名	音感受の世界
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期後半
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	こども教育学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	吉永 早苗	指定なし

ナンバリング

P11102M12

授業概要(教育目的)

身のまわりのモノの音や人の声、音楽からその印象を感じ、共鳴し、感情が起こり、さまざまな連想を引き起こしている「音感受」のプロセスを事例を通して解説する。音は、聴覚で感じるだけではない。体の諸感覚で、音を捉え、音と戯れ、音でつながるこどもの「音感受」の世界に学びながら、こどもの頃の感性に体験を通し再会することで「いま、ここ」を実感する。その上で、音を介した感性のコミュニケーションと私たちの豊かなくらしとの関係について、具体的な事例を検討しながら考える。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・「音感受」の概念を理解し、音が感情や記憶、イメージと結びつくプロセスを説明できる。 ・音が環境や身体にどのように作用するかを科学的に理解し、音の特性（振動、共鳴、リズムなど）について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	・音を聴いたときに生じる自身の印象や連想を言語化し、それを他者と比較・共有することで新たな視点を得ることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・身のまわりの音に対する感受性を高め、日常の音環境に積極的に注意を向ける態度を育む。 ・音を介した表現やコミュニケーションに対して興味を持ち、自身の感覚を活かした創造的な試みに意欲的に取り組む。
技術・表現の観	・音を視覚的・身体的・言語的に表現する手法を身につけ、自分なりの音の感じ方を多様な形で表現できる。

点 (A)	・身近な物を使って音を生み出し、音の組み合わせやパターンを創造する技術を習得する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	音を感じるとは？―音感受のプロセスを知る
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①「音感受」とは何か？ ②身のまわりの音に意識を向けるワーク ③音を聞いたときの印象・感情・連想の違いを共有 ④音を音スケッチする
	教室外学習(予習・復習)の内容	音を言葉やイメージに変換するワーク
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	音と自然―森の音を聴く・遊ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①「こどもはどのように音と関わるのか？」：こどもから音感受を学ぶ ②キャンパス内の森や広場で「音遊び」を体験
	教室外学習(予習・復習)の内容	こども時代の「音の記憶」を思い出し、エピソードを記録する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	音と記憶―図書館で「音の物語」を探す
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①言葉と音の関係（擬音語・擬態語）について ②音が想起する記憶や物語の力について ③図書館で「音」に関する本を探し、印象的なフレーズを共有する
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の記憶と結びついた「音の物語」を短く書く
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	音声情報の認知と表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①音声コミュニケーションについて ②声遊び ③声の重なりを味わう
	教室外学習(予習・復習)の内容	１週間の音日記を書こう
	教室外学習の時間（分）	240分
第5回	**授業テーマ**	からだで感じる音・身の回りのものでつくる音楽
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①「音を見る」「音に触れる」 ②からだでから生まれる音で会話する ③一枚の紙から生まれる音を繋いで音楽を創り出す
	教室外学習(予習・復習)の内容	紙を使用した音楽作品の創作
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	音を編む―音でつながるコミュニケーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①第5回の課題発表と意見交換 ②ペンタトニックについて理解する ③ペンタトニックの音の重なりを味わう ④トーンチャイムを演奏する
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループ練習を行う
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	「音感受」の探究―発表と振り返り

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	①トーンチャイム作品の発表と振り返り ②これまでの学びを振り返る ③「音感受」を通して得た新たな視点を言語化する
	教室外学習(予習・復習)の内容	「音の豊かさを活かした未来の保育・教育・社会」を考えよう
	教室外学習の時間（分）	210分

学習計画注記

野外での活動や、動きを伴う活動を行う際には、それに適した服装で参加してください。

学生へのフィードバック方法

Googleクラスルームを通して提出していただくリフレクションシートや課題については、翌週の授業の最初に共有し、振り返りを行います。質問事項も随時受け付けます。
最終レポート課題にはルーブリックを提示し、採点後、コメントをフィードバックします。

評価方法

小課題及び最終レポートでは、学習内容の理解、意欲・態度等に加え、知識・理解・思考・判断の状況を評価します。
授業内での個人発表、グループ発表及び「音日記」では、講義内容の理解と応用力、取り組み方、表現力等の視点で評価します。
最終レポート課題にはルーブリックを提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小課題	○	○	○	○
「音日記」課題	○	○	○	○
最終レポート	○	○	○	○
授業への参加態度			○	○

評価割合

積極的な取組み：授業への参加態度及び小課題の提出（40%）
「音日記」の作成と考察（20%）
最終レポート（30%）

使用教科書名(ISBN番号)

吉永早苗著『音から広がる子どもの世界』ぎょうせい（ISBN-10 ： 4324109931）

参考図書

授業内で適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】音感受への理解を通し、well-being向上に寄与する知識を身に付けている。
【思考・判断】こどもを取り巻く音環境の課題解決に向けて、論理的・多角的に考えることができる。
【関心・意欲・態度】音・音楽体験を通し、協働力、共感力、人間性を育み続ける力を身に付けている。
【技能・表現】創作活動やグループ発表等の体験を通し、多様性に配慮して他者を尊重した表現をすることができる。

オフィスアワー

木曜4限

学生へのメッセージ

音は単に聞こえるものではなく、私たちの心や体にさまざまな影響を与えています。この授業では、音を「聴く」だけでなく、音と「出会い」「対話する」感覚を大切にします。受講者の皆さんと共に「いま、ここ」に意識を向け、音を通じた自己との対話や他者とのつながりを大切にしたいと考えています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	
アクティブ・ラーニング		ペアトークやグループ・ディスカッションを適宜導入する。
情報リテラシー教育		情報の主体的活用、メディア表現リテラシー
ICT活用		ICTを活用した作品の創作・発表

講義コード	S02100301
講義名	ヴォーカルレッスン
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	こども教育学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	佐藤 くみ	指定なし
非常勤講師	渡邉 有里香	指定なし
非常勤講師	久田 由紀子	指定なし
非常勤講師	武内 貴久子	指定なし

ナンバリング

P11103M12

授業概要(教育目的)

本授業の目的は、まず歌唱技術と音楽表現力を向上させることである。また、歌唱だけでなくピアノの基礎的な技術にも触れ、弾き歌いの実技を通し、保育者や小学校教師に求められる音楽的知識や技能の基礎を身に付け、自らの感性や表現力を豊かにしていく。発声法や楽譜の読み方、音楽理論の知識を実践を通して理解し、各自のレベルに応じた童謡や唱歌に取り組みながらレパートリーを増やし、歌唱技術やピアノの技術を獲得できるように講義を構成する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	声の出し方や楽譜の読み方、基本的な音楽理論について理解している。
思考・判断の観点 (K)	子どもの音楽的成長を支えるための保育者・教師としての音楽的な資質について理解している。
関心・意欲・態度の観点 (V)	表現技術の獲得に向け、積極的に教室外学習に励んでいる。
技術・表現の観点 (A)	子どもの音楽表現活動のために童謡や唱歌のレパートリーを増やし、歌唱技術と弾き歌いの基本的な技術が身についている。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本講義のねらい、歌唱技術、ピアノの技術、弾き歌いを通しての学びについての概説、講義の進め方の説明とクラス分け
	教室外学習(予習・復習)の内容	弾き歌いのテキストに目を通し、知っている曲について１～３曲、歌っておく。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	授業テーマ	発声の基礎知識
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育者・小学校教諭として必要な歌唱技術に関し、その発声法の基礎を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	初回に決められた課題曲の練習
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	授業テーマ	読譜の基礎学習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	楽譜の読み方、ピアノ演奏の基本を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	個別に指示された課題曲の予習・復習
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	授業テーマ	歌唱およびピアノ伴奏の基礎技術①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	歌唱個人レッスンおよびピアノ個人レッスン（和音の弾き方を中心とした音の響かせ方や音色作りについて）
	教室外学習(予習・復習)の内容	個別に提示された課題曲の予習・復習
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	歌唱およびピアノ伴奏の基礎技術②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	歌唱個人レッスンおよびピアノ個人レッスン（指使いとメロディのフレーズについて）
	教室外学習(予習・復習)の内容	個別に提示された課題曲の予習・復習
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	授業テーマ	歌唱およびピアノ伴奏の基礎技術③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	歌唱個人レッスンおよびピアノ個人レッスン（強弱の表現について）
	教室外学習(予習・復習)の内容	個別に提示された課題曲の予習・復習
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	授業テーマ	歌唱およびピアノ演奏の基礎技術④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	歌唱個人レッスンおよびピアノ個人レッスン（歌唱と伴奏のバランス）
	教室外学習(予習・復習)の内容	個別に提示された課題曲の予習・復習
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	歌唱およびピアノ伴奏の基礎技術⑤

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	合唱およびピアノ個人レッスン（曲の構造に関する知識）
	教室外学習(予習・復習)の内容	個別に提示された課題曲の予習・復習
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	歌唱およびピアノ伴奏の基礎技術⑥
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	合唱およびピアノ個人レッスン（アーティキュレーションを学ぶ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	個別に提示された課題曲の予習・復習
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	歌唱およびピアノ演奏の基礎技術⑦
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	合唱およびピアノ個人レッスン（子どもの声を引き出す方法について）
	教室外学習(予習・復習)の内容	個別に提示された課題曲の予習・復習
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	授業テーマ	歌唱およびピアノ伴奏の基礎技術⑧
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	歌唱個人レッスンおよびピアノ個人レッスン（子どもとともに歌うということ）
	教室外学習(予習・復習)の内容	個別に提示された課題曲の予習・復習
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	歌唱およびピアノ演奏の基礎技術⑨
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	歌唱個人レッスンおよびピアノ個人レッスン（歌詞の情景が思い描かれるような歌唱表現と伴奏表現の方法）
	教室外学習(予習・復習)の内容	個別に提示された課題曲の予習・復習
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	歌唱およびピアノ伴奏の基礎技術⑩
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	歌唱個人レッスンおよびピアノ個人レッスン（成果発表会に向けてのリハーサル）
	教室外学習(予習・復習)の内容	個別に提示された課題曲の予習・復習
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	授業テーマ	成果発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発表会形式で歌と弾き歌いを披露する。友達の演奏表現から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	成果発表会用の歌および弾き歌いを練習する。
	教室外学習の時間（分）	150分
	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	

第15回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

基本的に1クラスを２つのグループに分け、2人の講師が個人レッスンを行います。また、授業内容によっては全体での講義も行います。最初の講義においてグループ分けをします。

学生へのフィードバック方法

リフレクションシートに、気づき、学び、困ったことなどを記載して毎回のレッスン時に提示していただきます。これにより、全員の講師が受講生それぞれの状況を把握し、しっかりと支援をします。

評価方法

リフレクションシートに記載された学習状況と音楽的な気づき等によって、関心・意欲・態度や知識・理解の状況、保育者・教師としての音楽的資質に関する思考等について判断します。課題の取り組みの進捗状況から、積極的に個人練習に励んでいるか、また表現技術の習得について判断します。最終週には成果発表会を予定しています。クラス全員の前で歌と弾き歌いを発表することを通し、表現技術の習得状況を判断します。演奏発表の評価基準は、ルーブリックで提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
リフレクションシート	○		○	
課題の進捗状況		○	○	○
発表		○		○

評価割合

リフレクションシート（30%）、課題の進捗状況（30%）、発表会（40%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

鈴木恵美子・冨田英也 監修・編著（2011）『改訂 ポケットいっぱいのうた』教育芸術社

参考図書

各自の進度に合わせ、適宜紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
子どもの音楽活動を豊かにするための演奏の仕方、楽譜の読み方、基本的な音楽理論が習得できている。
【思考・判断】
子どもとの音楽表現の場面を想定し、歌ったり弾き歌いをすることができる。
【関心・意欲・態度】
保育者・小学校教師に必要な音楽的資質の獲得に向けて、積極的に課題に取り組み、他者の演奏からも学ぶ姿勢を持つことができる。
【技能・表現】
子どもとともに音楽を楽しみ、子どもの音楽的感性を育むための表現技術を身に付けている。

学生へのメッセージ

予習復習および自己練習の時間を毎日少しでも確保して、表現技術の向上に努めてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	S02100401
講義名	ものづくりと教育
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	こども教育学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	末松　加奈	指定なし
教授	江田　裕介	指定なし
准教授	澤田　雅彦	指定なし

ナンバリング

P11104M12

授業概要(教育目的)

「ものづくり」は私たちの生活、社会を形作り、そしてより良い生活を営むために欠かせないものである。「ものづくり」の理念を学び、「ものづくり」が教育・保育の営みをどのように豊かなものにしているのか、実践を通して理解を深めることを目的とする。具体的には、遊びや学びを充実させるための「ものづくり」、学習環境を充実させるための「ものづくり」、こども一人一人が充実した学びを実現するための「ものづくり」を学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	「ものづくり」が教育・保育に果たす役割を理解し、それを説明できる。 「ものづくり」のプロセスや意味を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	「ものづくり」のプロセスを自ら考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら積極的に「ものづくり」に参加する。創意工夫を持って、ものづくりを行おうとする。
技術・表現の観点 (A)	実践を通して「ものづくり」の様々な表現や技術を理解し、実際に使えるようになる。「ものづくり」のプロセスや創意工夫点を分かりやすく表現することができる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス、「ものづくり」の理念（末松）

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ガイダンスとして授業スケジュールと評価方法、受講上の注意。 ・「ものづくり」とは何か、「ものづくり」が教育や保育にどのように取り入れられているのかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）「ものづくり」へのイメージを持って授業に臨むこと （復習）教育や保育に「ものづくり」が取り入れられている事例を調べる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	遊びや学びを充実させるための「ものづくり」（末松）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・３Dプリンタを用いて独楽（コマ）を作成する。 ・まずは、身近な素材を用いてコマを作成し、その特徴を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）コマを作成するための身近な素材を集める。 （復習）３Dプリンタでどのようなコマを作成したいか考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	遊びや学びを充実させるための「ものづくり」（末松）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・３DプリンタはBambu Lab、スライサーソフト（設計するためのソフト）はBanbu Studioを用いる。 ・実際にBambu Labを用いて印刷する様子を観察し、操作方法を学ぶ。 ・グループでどのようなコマを作成するか検討し、平面の設計図を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）Banbu Studioをグループ代表者のPCにインストールしておく。 （復習）３Dデータを作成する
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	遊びや学びを充実させるための「ものづくり」（末松）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・Bambu Studioでコマを設計する。設計が終わったら提出し、印刷を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）（復習）設計書を作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	遊びや学びを充実させるための「ものづくり」（末松）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・印刷されたコマを実際に回してみて、改良点を検討する。 ・設計図を改良し、再度印刷する。
	教室外学習(予習・復習)の内	（予習）（復習）改良点を含め、設計書に記載する。

	容	
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	学習環境を充実させるための「ものづくり」（澤田）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	立方体の制作① －材料を探し作り方を工夫して一辺の長さが50mmの立方体を複数個作る－ ・課題の内容と制作条件の確認。 ・材料の検討と作り方の検討。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・立方体を作るための材料と道具の調達。 ・作り方のアイデアのまとめ。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	学習環境を充実させるための「ものづくり」（澤田）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	立方体の制作② ・作り方のアイデアに基づく立方体の試作。 ・立方体の制作と、制作過程の記録。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・立方体制作の作業の継続。 ・別の立方体のための材料と道具の調達と、作り方の検討。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	学習環境を充実させるための「ものづくり」（澤田）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	立方体の制作③ ・試作の繰り返しと、材料と作り方のアイデアの再検討。 ・立方体の制作と、制作過程の記録。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・立方体制作の作業の継続。 ・別の立方体のための材料と道具の調達と、作り方の検討。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	学習環境を充実させるための「ものづくり」（澤田）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	立方体の制作④ ・立方体の制作。1人あたり3個以上を完成させる。 ・制作過程の記録を整理したレポートをまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	制作過程を記録したレポートの作成。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	こども一人一人が充実した学びを実現するための「ものづくり」（江田）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘ	ICTの活用とプログラミング教育① 現在、児童の教育において、ICTを最大限に活用し、「個別最適化された学び」と「協働的な学び」を一体的に深めることが求められて

第10回	ﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	いる。 ここでは、幼児・児童の教育、障害のある児童の教育におけるICTの活用と教材開発を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	＜予習＞　次のサイト等を参考にして授業と関連する予備知識を得ておく。 ◆文部科学省HP「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiouen/mext_01317.html ＜復習＞　次のサイト等を参考にして授業での学を深めよう。 ◆　KINTAのブログ ANNEX https://www.assistivetechnology.cfbx.jp/kinta/
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	こども一人一人が充実した学びを実現するための「ものづくり」（江田）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ICTの活用とプログラミング教育② スマートフォンやタブレットを利用するだけでなく、その働きのしくみを理解し、自らICT教材を作成できるように初歩的なプログラミングに取り組む。また児童のプログラミング教育を指導するために必要な基本的知識とスキルを学ぶ。 ここでは、世界的に子どものプログラミング学習に活用されているHour of codeの初級アクティビティを体験しながら、児童への指導を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	＜予習＞　次のサイト等を参考にして、授業と関連する予備知識を得ておく。 ◆文部科学省HP「小学校プログラミング教育の手引」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1403162.htm ＜復習＞　授業で作成した自分のプログラムを、より短いコードで同じ動作ができるように工夫する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	こども一人一人が充実した学びを実現するための「ものづくり」（江田）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ICT活用とプログラミング教育③ Hour of codeの中級プログラミングを体験しながら、児童への指導法を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	＜予習＞　自主的にHour of codenに参加し、授業で体験した以外の新しいアクティビティに取り組む。 ＜復習＞　授業で作成した自分のプログラムを、より短いコードで同じ動作ができるように工夫する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	こども一人一人が充実した学びを実現するための「ものづくり」（江田）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ICT活用とプログラミング教育④ Hour of Codeのさまざまなアクティビティを自分で自由に選んで実行し、修了証を得るとともに、児童への指導法を考える。

	教室外学習(予習・復習)の内容	＜予習＞　自主的にHour of Codenに参加し、授業で取り組んだ以外のアクティビティを体験してみる。 ＜復習＞　これまで体験した自分のプログラミングの体験を振り返り、児童への指導で工夫すべき点をまとめてレポートする。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	まとめと発表
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「ものづくり」とは何か授業を通じて考えたところを作品を通じて発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）発表スライドを作成し、練習する。 （復習）発表を振り返る。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

各回の持ち物についてはクラスルームを通じて連絡するので、必ず確認すること。

学生へのフィードバック方法

適宜各教員から伝える。

評価方法

・授業及び課題への取り組み（評価の観点は各教員から伝える）
・発表（「ものづくりとは何か」という問いに対し、授業や作品を通じて得た考えを適切に述べられている）
・平常点（授業への参加状況や態度等）
・ルーブリックに基づく成績評価である。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業・課題への取り組み	○	○	○	○
発表	○	○		○
平常点			○	

評価割合

平常点　２０点
各教員の授業・課題への取り組み　２０×３＝６０点
発表　２０点

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【思考・判断】
・こどもを取り巻く社会における課題の解決に向けて、論理的・多角的に考えることができ

る。
【関心・意欲・態度】
・地域・社会に主体的に参画・貢献できる協働力・共感力を身に付けている。
・豊かな体験のなかで、自他を認め合いながら自らの専門性や人間性を育み続ける力を身に付けている。
【技術・表現】
・多様なこどものwell-being向上に寄与する知識を身に付けている。

オフィスアワー

末松：火曜2限 (1501室）※必ず事前にメール等でアポイントを取ること。
澤田：月曜5限（1503室）
江田：金曜3限（1603実）
※メール等でアポイントを取ること。

学生へのメッセージ

「ものづくり」は子どもの活動だけでなく、教材づくりなど、実は教師や保育者にとって身近なものであり、保育や教育と深く関係のあるものです。この授業を通して、「ものづくり」の視点から改めて教育や保育を捉え、そして「ものづくり」の考え方や技術を修得することにより、子どもとより多様なかかわりができる能力を育んでもらいたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		児童発達臨床の教育現場で16年間の実務経験を有する。
アクティブ・ラーニング		グループワークや実技を多く取り入れる。
情報リテラシー教育		設計する際のデータの扱いなど
ICT活用		3Dプリンタやプログラミングを行う。

講義コード	S02100501
講義名	ヴィジュアルコミュニケーション
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	こども教育学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	立川 泰史	指定なし

ナンバリング

P11105M12

授業概要(教育目的)

子どもが造形文化に親しみ、美的な生活づくりに向かう態度や感性を育む意味を造形体験から考える。さまざまな実技体験を通して子どもの造形活動に立ち合うための基礎的な知識と基本的な技能に関する知見を広げる。また、各種の画材や素材の特徴や可能性、さまざまな材料や用具の適切な扱い方を知る。それにより、子どもの造形体験と文化的な生活との親和的な関係、教材化に向けた開発・応用についての討論を深め、造形感覚に基づく視点を子どもの生活や遊びに活かす視点と力を培う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	子どもの発達過程と造形表現の関連、身近な材料や用具の特徴について基礎的な知識を有し、表現活動を安全かつ効果的に実践する方法を理解する。
思考・判断の観点 (K)	子どもの心身の発達に応じた造形活動を計画・展開する視点から、さまざまな材料・用具の特徴を生かす題材を展開するための基本事項を検討・考察して説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもが生活の中で親しむ造形文化や遊びに関心をもち、表現活動に立ち合うための環境づくりについて説明できる。
技術・表現の観点 (A)	子どもの主体的な造形表現を促す主題設定、材料・用具の特徴に見合う取り扱いなどについて基本的な技術を有し、安全で楽しい活動を展開する環境を構想し説明できる。

学習計画

	授業テーマ	今日の生活・文化と子どもの造形表現

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	身近な造形文化と子どもの造形表現の関連について考える。 簡単な実技を通して、造形活動の意義や役割を体験的に理解し考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	親しみ深い今日の造形文化について事例を知り、それぞれの特徴や問題について整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	遊びから生まれるイメージと造形表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然な遊びから生まれるイメージと造形表現を知り,子どもの認識や関心に基づく造形表現の特徴について体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	遊びから生まれるイメージと造形表現について象徴的な事例を探し、共通する特徴を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	からだの感覚を生かす造形表現（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	からだの感覚を生かす造形表現を知り、心身の成長・発達に基づく感覚を楽しむ造形表現を体験的に理解する。特に、からだ全体の運動感覚を楽しみながら働く造形的な想像力の特徴を討論し、考察・検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	からだの感覚を生かす造形表現について象徴的な事例を探し、共通する特徴を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	からだの感覚を生かす造形表現（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	からだの感覚を生かす造形表現を知り、心身の成長・発達に基づく感覚を楽しむ造形表現を体験的に理解する。特に、触感・視覚・聴覚など形・色・質感の感覚が総合的に働く造形的な想像力の特徴を討論し、考察・検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	手触りや形・色などの感覚を生かす造形表現についていくつかの事例をあげ、共通する特徴を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	自然の材料から生まれる造形表現（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然の材料（木枝・葉や実・石・土・水など）に触れることから生まれる造形表現を知り、自然材料のもつ性質や特徴を生かすイメージ発想と造形表現について体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの造形表現に使われる自然材料（上記）について実践事例をあげ、それぞれの特徴の生かし方について観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	自然の材料から生まれる造形表現（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然の材料（光や影、風・空気などの手に取れないもの）に触れることから生まれる造形表現を知り、自然材料のもつ性質や特徴に基づくイメージ発想と造形表現について体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの造形表現に使われる自然材料（上記）について実践事例をあげ、それぞれの特徴の生かし方について観点を整理しておく。

	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	身近な材料から生まれる造形表現（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日常生活で触れる身近な人工材料（紙や粘土など）から生まれる造形表現について知り、それぞれの特徴に基づくイメージ発想や造形表現について体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日常にある人工材料（上記）を活用する実践事例を参照し、それぞれの活動で期待される効果や観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	身近な材料から生まれる造形表現（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特殊な人工材料（アルミ箔・プラスティック素材・段ボールなど）から生まれる造形表現について知り、それぞれの特徴に基づくイメージ発想や造形表現について体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	やや特殊な人工材料（上記）を活用する実践事例を参照し、それぞれの活動で期待される効果や観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	用具の操作や技法から生まれる造形表現（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	用具の操作や技法から生まれる造形表現を知り、ウレタンローラー・絵筆・凸凹のある素材などの操作や身体的な感覚を生かす技法から発想するイメージや造形表現について体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	用具の特徴を生かした技法や実践事例をあげ、期待する効果や観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	用具の操作や技法から生まれる造形表現（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	用具の操作や技法から生まれる造形表現を知り、ローラー・絵筆・凸凹のある素材などの操作や身体的な感覚を生かす技法から発想するイメージや造形表現について体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	用具の操作や技法から発想する実践事例をあげ、期待する効果や観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	ことばから生まれるイメージと造形表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ことばから生まれるイメージと造形表現を知り、ことばの発達に応じて広がる認識や感情からイメージする造形表現について体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ことばの発達に応じて広がる認識や感情を生かす実践事例をあげ、共通する特徴や観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
	授業テーマ	物語から生まれるイメージと造形表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	絵本やアニメなどの物語から生まれるイメージと造形表現を知り、子どもの発想や構想の基になる物語性や創造的想像力について体験的に理解する。

第12回	用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	物語のストーリーや絵から発想する造形表現の実践事例をあげ、期待する効果や観点を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	季節や地域の体験から生まれる造形表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	四季の自然や行事で感じる季節感や地域の風土や行事など、子どもの実体験から生まれる造形表現について、活用意図や期待効果について体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	季節感を大切にする実践事例を参照し、共通する特徴や観点を整理しておく。 期末課題について情報や文献を収集し、考察をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	70分
第14回	授業テーマ	見方・感じ方の変化を生かす造形表現、まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	さまざまな対象や事象に触れつつ変化する「見方・感じ方」を重視する造形表現を知り、活動の意味や価値について体験的に理解する。 本授業を総合的にふり返り、集団討議とクロストークで検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	形や色についての見方・感じ方の変化を楽しむ造形的な表現の事例をあげ、着目点の変化やイメージの特徴を整理しておく。 造形表現の意味や喜びについて学んだこと、自身の発見した課題についてレポートにまとめ、提出する。
	教室外学習の時間（分）	70分

学習計画注記

履修者数や進み具合でスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

・実技演習を中心とする。取り組みの中で個やグループに応じた支援・助言をする。
・毎回の実技体験について自身の考察を記すドキュメントシートをコメント付きで返却する。
・授業中期以降に、それまでの演習体験から印象に残る３～5例の画像をあげて考察する中間ポートフォリオ（A4判・形式自由）の提出を求める。

評価方法

・毎回の授業で、体験した内容から気付きや考察を記すドキュメントシート（各回200字程度）の提出を求める。記述内容について、学習目標の規準を観点に評価する。
・授業中期以降に提出するポートフォリオは、コメントを記して返却する。
・学期末に全演習の内容に準拠した実践開発・教材研究を共通テーマにした小論レポート（1200～1600字程度）の提出を求める。
・評価観点及び基準は、ルーブリックで明示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
ドキュメントシート	○	○	○	
中間ポートフォリオ			○	○
小論レポート	○	○		

評価割合

平常点20%・提出物30%・期末小論レポート50%について総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特になし。必要な資料を適宜配布する。

参考図書

・厚生労働省／編『保育所保育指針 平成30年3月』2018、フレーベル館、ISBN：9784577814482
・内閣府／文部科学省／厚生労働省／著『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月』2018、フレーベル館、ISBN：9784577814499
・文部科学省/著『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』2018、フレーベル館、ISBN：9784577814475

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもの生活・文化・遊び、子どもの造形表現の特徴について専門的な知識を有している。
【思考・判断】乳幼児期の造形的な表現の特徴に適した材料・用具・環境に配慮し考察・判断できる。
【関心・意欲・態度】成長・発達する子どもの生活、文化、遊びに関心をもち、特徴や意味を理解している。
【技能・表現】乳幼児の認識や関心に基づいて造形的な表現活動や環境を設定し、立ち合う技術や方略を発揮する能力を有する。

オフィスアワー

金曜3限・1629研究室

学生へのメッセージ

「つくる・みる・つたえる」という表現の基礎的な意味や価値について、造形体験を楽しみながら実感的に理解する。
このように、自分らしい価値を「つくりだす喜び」を味わうことが、子どもに「表現の楽しさ」を知らせることにつながる。
それには、日頃から「身近な材料や自然」、「身近な地域や造形文化」に関心をもち、よさや違いについて意識を広げたい。
自身が学んだ成果は、配布資料とともにポートフォリオとしてまとめるように心がける。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、小学校教員としての経験をもち、造形・美術教育の実践研究・開発・提案に従事した。文部科学省の学習資料作成委員や文部科学省検定教科書の編修著者として、現職教員の研修・地域行政や社会的教育機関・企業などのネットワークを生かして、今日的な課題に応じた造形教育の内容や情報を考察対象として提供する。
アクティブ・ラーニング	○	演習を中心とし、成長・発達する子どもの感覚や認識に着目し、造形表現活動の意味や価値について体験的に理解するとともに、集団討論を通して、基礎的な知識・技能の実践的な活用・応用力を向上する。
情報リテラシー教育	○	今日の社会や文化の視点から子どもの生活や遊びの実態を把握するために、webコンテンツやジャーナルの実践事例を参照し考察する。

ICT活用	○	造形活動のみとり・言葉掛け・援助・反省的実践に活用できる機器としてタブレット型PCやアプリケーションの活用方法を体験的に理解する。

講義コード	S02100601
講義名	数学トピックス
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	こども教育学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	新海　公昭	指定なし

ナンバリング

P11106M12

授業概要(教育目的)

身の回りにはたくさんの「不思議」がある。A4サイズの紙の縦と横の長さの関係は？ドレミファソラシドって数学が背景にあるって本当？ などである。高校までで学んだ数学を, 有機的に結合させることで「身の回りの不思議」のいくつかを解決することができる。トピック的に取り上げて「先人たちのアイディアや知恵」について知る。
＊毎回の授業で, はさみ, のり, 定規, コンパスを持参すること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	身の回りにあるたくさんの「不思議」に関して, 数学的な視点で解決しようと試みることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	鳩の巣原理, カプレカ数, 黄金比, 白銀比（数のおもしろさ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	鳩の巣原理を応用した事例を紹介する。おもしろい性質をもつカプレカ数を紹介する。 黄金比, 白銀比を紹介する。

第1回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：鳩の巣原理を利用した問題を作成する。黄金比, 白銀比が見られるものを2例ずつ調べる（図も描く）。次回の授業でレポートを提出する（提出の前に調べたものを受講者同士で報告しあう）。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	六角将棋（論理のおもしろさ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	六角将棋の盤とコマを作成し, どうしたら勝てるか論理的に考えながら対戦する。 ＊段ボール（A3サイズ程度）, はさみ, コンパス, 定規, のり, 色ペンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：六角将棋を完成させ, ルールを確認し, 受講生同士や知人と対戦する。次回の授業で六角将棋の盤とコマを提出する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	空間図形の展開図１（図形のおもしろさ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ニンジンやジャガイモから定型図形に限らない立体図形（凸多面体に限る）を最低１個以上切り出し, その展開図を作成する。切り出した立体図形の頂点の数・辺の数・面の数の関係からオイラーの多面体の定理を味わう。 ＊包丁を使うのでオンデマンドで授業を行う予定とする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：切り出した立体図形から展開図を完成させる。次回の授業で立体図形（現物は腐ってしまうので写真撮影したもの）と展開図を提出する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	空間図形の展開図２（図形のおもしろさ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	完成した展開図（のりしろも用意する）を基に, ペーパークラフトを完成させる。展開図のコピーをとり, 切り出した辺と辺がしっかり合わさるかなどをチェックし調整する。 ＊はさみ, コンパス, 定規, のりを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習: ペーパークラフトを完成させる。次回の授業でペーパークラフトを提出する。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	一弦ギター１（算数と音楽）
	学習内容(ｱ	

第5回	ｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	音楽と数学の歴史について学ぶ。純正音階律や平均音階律について学ぶ。一弦ギターの作成を始める。 ＊はさみ, コンパス, 定規, ボンド, 色ペンを持参すること。 ＊他にもギター作成に必要なもの（角材, 割りばし, つまようじ, てぐす, 吊具等）は別途購入してもらうものは授業内で説明する
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：純正音階を理解する。ギター作成において, 角材の上部と下部にナットとブリッジを割り箸で作り, 角材の下部にドリル等で穴をあけ, 糸を, あけた穴に通し, 角材上部にあるペグに巻くところまで完成させる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	一弦ギター２（算数と音楽）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ギター作成の続きを行う。弦を押さえながら, ドの音を探す。その弦の長さを基準に, レミファソラシ（一オクターブ高い）ドの弦の長さを求めて, 印をつける。実際に印をつけた個所を押さえて弦をはじいたとき, 対応する音が出るか確かめる。大丈夫であれば, 印の個所にフレットを作る。最後にボディ（２次元と３次元）をつくりギターを完成させる。 ＊はさみ, コンパス, 定規, ボンド, 色ペンを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：一弦ギターを完成させる。次回の授業で演奏会を行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	プログラミング（フラクタル図形の作成）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	プログラミング活動を通して、プログラミング的思考について学ぶ。具体的にはフラクタル図形の作図を行う中で、順序、条件分岐、反復の基本的な理論を学ぶ。 ＊PCを持参すること。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習：フラクタル図形を完成させ提出する。
	教室外学習の時間（分）	200分

学生へのフィードバック方法

復習として取り組んだものについては, 毎回チェックをする。また, ルーブリックを用いた学生自身の自己評価により, 学修成果を可視化し学びの深化を支援したい。質問は町田キャンパスの1625研究室（emailも可：k-shinkai@kasei-gakuin.ac.jp）あるいはZoom等で対応する。遠慮せず声をかけてほしい。

評価方法

１．平常課題 90点
毎回の授業内外で取り組む作業や課題を平常課題とする。
取り組みを評価する。

２. ルーブリックを用いた自己評価 10点

ルーブリックを用いた自己評価を評価する。

＊平常課題，ルーブリックを用いた自己評価は下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常課題			○	
ルーブリックを用いた自己評価			○	

評価割合

平常課題（90%），ルーブリックを用いた自己評価(10%)

使用教科書名(ISBN番号)

なし。プリントを配布して説明する。

参考図書

なし。

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】身の回りにあるたくさんの「不思議」に関して，数学的な視点で解決しようと試みることができ，社会を構成するひとりとして，高い徳性をもって人々に貢献することができる。

オフィスアワー

前期：水曜日 12：30〜14：00
後期：水曜日 12: 30〜14：00

学生へのメッセージ

授業では各回に行うことを丁寧に説明したいと思うが，理解できない部分は遠慮せず質問してほしい。好奇心に裏打ちされた自発的な学びを期待する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		教員主導ではなく，学生同士で積極的に討議を行ったり作品を相互評価しあったりする。
情報リテラシー教育		
ICT活用		教材や学習支援において，積極的にICTの活用（プログラミングを含む）をする。

講義コード	S02100701
講義名	保育原理
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	こども教育学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	和田 美香	指定なし
助教	末松 加奈	指定なし

ナンバリング

P11201M21

授業概要(教育目的)

保育とは何か、保育の理念と概念、社会的役割や制度的位置づけ、保育の原理と方法など、保育を行う上で基本となる知識、考え方を伝える。これまでの日本、諸外国における保育の歴史を理解し、我が国の保育の特色と現状、課題を把握できるようにする。子育て支援、小学校教育との接続のあり方、子ども・子育て新制度などを取りあげ、理解を深めるようにする。また、保育実践の基礎となる子ども観、保育観、発達観について、学生自身のもつそれらを確かめ、授業を進める中でその多様性や専門家である保育者との違いに気がつくようにする。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	保育の意義や保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育の基本について理解する。
思考・判断の観点 (K)	保育の思想と歴史的変遷について学習しながら、それぞれの保育観、子ども観を考えていく。
関心・意欲・態度の観点 (V)	保育の内容と方法の基本について関心をもって取り組む。
技術・表現の観点 (A)	保育内容について技術的な面も含め習得する。

学習計画

保育原理

第1回	授業テーマ	幼児教育・保育の概念と意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児教育・保育の基本的概念、理念にはどのようなものがあるのか理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育の概念や意義を復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	西洋における保育思想の歴史
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	西洋における保育思想の歴史を理解し、どのような歴史的変遷があったのかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育の西洋の歴史を復習する。その際、授業で取り扱わなかった人物についても調べて おく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	日本の保育思想と歴史
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の保育思想と歴史について、年代を追って理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で使用したワークシートなどをもとに、日本の保育思想と歴史について復習する。その際、授業で取り扱わなかった人物についても調べて おく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	保育ニーズの拡大と保育制度の整備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育ニーズの拡大と保育制度の整備について、現代的課題と絡めながら理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	保育ニーズの拡大と保育制度の整備について、身近な事例を取り上げて考察する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	新たな保育制度の始まり（認定子ども園、子ども・子育て支援新制度）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新たな保育制度の始まりについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	認定子ども園や子ども子育て支援新制度について整理する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	保育所保育と幼稚園教育の実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所保育と幼稚園教育の実際について、共通点と相違点を指針と要領で確認しながら理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育所保育と幼稚園教育の実際について復習する。

	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	保育の内容
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育の内容について乳児保育の3つの視点や5領域、10の姿の視点も含めて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で使用したワークシートなどをもとに保育の方法や形態について復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	保育の計画と記録・評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の保育の内容と関連付けながら、保育の計画と記録・評価について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	保育の計画と記録について要点をまとめ、復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	保育の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	方法や形態について具体的事例をもとに学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育の方法や形態について復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	保育者の職務
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育者の職務について、具体的な事例をもとに理解する。 保育士の倫理綱領についても触れる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	保育士の倫理綱領については、具体的な事例をあげながら復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	園と家庭との連携、地域との連携
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	園と家庭との連携、地域との連携にはどのようなものがあるのか理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で使用したワークシートなどをもとに、園と家庭との連携、地域との連携について復習する。 地域の広報などにも関心を持ち、身近な事例をもとにその実際を調べ学習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	子育てに関する相談・援助
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子育てに関する相談・援助があるのか理解する。 保育園の子育て機能について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育園の子育て機能について理解を深める。 さらに、興味がある人は、地域の子育て支援センターなどに

		行き、そのニーズを知る。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	多様な保育ニーズ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	多様な保育ニーズにはどのようなものがあるのか理解する。その際、保育における現代的課題と関連付けて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	多様な子育てニーズについて、新聞やインターネットなどで調べ学習を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	今日の保育問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今日の保育問題について、事例を中心に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で扱った事例をもとに、新聞やインターネットなどで調べ学習を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

原則講義形式で行うが、DVD視聴、ワーク、ディスカッション等も取り入れる。

学生へのフィードバック方法

提出物については、添削して返却する。

評価方法

平常点20%、定期試験80%で評価する。
ルーブリックに基づく成績評価をする。
（ルーブリックについては、Googleクラスルームまたは授業内での配付等により提示をする。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点		○	○	○
定期試験	○			

評価割合

定期試験（80%）、平常点（20%）

参考図書

アクティベート保育学 保育原理（ミネルヴァ書房）
保育所保育指針（厚生労働省）、幼稚園教育要領（文部科学省）
幼保連携型認定こども園 教育・保育要領

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】保育の意義や保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育の基本について理解する。
【思考・判断】保育の思想と歴史的変遷について学習しながら、それぞれの保育観、子ども観を考えていく。
【関心・意欲・態度】保育の内容と方法の基本について関心をもって取り組む。
【技能・表現】保育内容について技術的な面も含め習得する。

オフィスアワー

和田：月曜２限から４限
末松：火曜2限 (1501室)

学生へのメッセージ

保育所保育指針、幼稚園教育要領、教育・保育要領の内容がわかるものを用意してください。
毎回予習復習をし、理解が十分でなかった点については質問をするか、自分で調べて確認しておいてください。
保育の基本を理解する重要な科目です。積極的に参加することを期待します。
授業資料をGoogleクラスルームに配信する場合があるので、PCを用意してください。（スマホでも可）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は保育所等の実務経験を有しており、子どもと関わるうえで必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授を行う。
アクティブ・ラーニング	○	発表などを通して、講義形式の中にもアクティブラーニングの要素を取り入れる。
情報リテラシー教育	○	調べ学習で情報を収集する際、その情報の発信元や発信の目的などに目を向けて、信憑性のある情報か否かを判断する。
ICT活用		

講義コード	S02100801
講義名	児童福祉論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P21202M21

学習計画

講義コード	S02100901
講義名	社会福祉
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	こども教育学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	嶋田 芳男	指定なし

ナンバリング

P11203M21

授業概要(教育目的)

社会福祉の意味と理念、社会福祉の原理、社会福祉を取り巻く環境を理解した上で、社会福祉の展開、社会福祉を支える仕組みや専門職、方法論、社会保障、高齢者やこどもの福祉など、社会福祉全般について講義する

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	社会福祉の意味と理念、社会福祉の原理、社会福祉の歴史的展開、社会福祉を支える仕組みや専門職、方法論、社会保障、高齢者やこどもの福祉について説明できる
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	保育分野に関わる関心だけでなく、他の社会福祉分野に対する関心が持てる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	社会福祉の基礎概念（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	社会福祉の意味とライフステージごとの福祉課題及び理念（ノ

第1回	育・ICT活用を含む)	ーマライゼーションなど）が理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第2回	授業テーマ	社会福祉の基礎概念（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「社会生活の原理」と「バイステックの7原則」双方の原理が理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第3回	授業テーマ	社会福祉を取り巻く環境
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	少子高齢化社会の現状と課題について理解する。また、家族の現状や地域社会の特性・動向について理解するとともに、それぞれの課題についても併せて理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	少子化、高齢化の状況を調べておく
	教室外学習の時間（分）	195分
第4回	授業テーマ	わが国における社会福祉の展開（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	明治期から大正期において、どのような社会福祉が展開されてきたかを理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト31～36ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく
	教室外学習の時間（分）	195分
第5回	授業テーマ	わが国における社会福祉の展開（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	昭和期から現在に至るまで、どのような社会福祉が展開されてきたかを理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト37～40ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく
	教室外学習の時間（分）	195分
第6回	授業テーマ	社会福祉を支える法体系
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会福祉の法体系及び各種法律の概要について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第7回	授業テーマ	社会福祉を支える組織
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会福祉における国・都道府県・市町村によって設けられた各種行政組織や、民間組織について理解する
	教室外学習(予習・復	

	習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第8回	**授業テーマ**	社会福祉を支える専門職
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）やケアワーカー、保育士、医療関係専門職の業務内容と資格、および連携について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト42～50ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	社会福祉の援助方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ケースワークを中心に、グループワーク、コミュニティワーク他、さまざまな方法論の内容を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト52～61ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	社会保障制度の概要（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	年金保険、医療保険制度の概要について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第11回	**授業テーマ**	社会保障制度の概要（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公的扶助（生活保護）の基本原理、基本原則、種類と内容について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分
第12回	**授業テーマ**	こどもの福祉
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	こども福祉の現状と施設体系などについて、その概要を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	分からない用語について調べておく
	教室外学習の時間（分）	195分
第13回	**授業テーマ**	障害者の福祉および高齢者の福祉
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害者関係法の変遷と障害者総合支援法の概要、高齢者の現状について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間	

	（分）	195分
第14回	**授業テーマ**	高齢者の福祉
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公的介護保険制度について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布したプリントを基に、授業内容を復習する
	教室外学習の時間（分）	195分

学習計画注記

授業の進み具合によってスケジュールが変更になることがある

学生へのフィードバック方法

特になし

評価方法

・平常点
授業の受講態度・姿勢について評価する。また、必要に応じてルーブリックを用いて評価する（詳細は、科目のオリエンテーション時に提示する）。
・定期試験
保育士として、他の福祉専門職との連携を図るために必要な知識について把握しているかを問う出題とする。詳細については、最後の授業で説明する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
定期試験	○			

評価割合

平常点20%、定期試験80%

使用教科書名(ISBN番号)

大熊信成他編『現代社会福祉の諸相』大学図書出版
必要に応じ、授業時にプリントを配布

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
子どもの保育活動に直接的・間接的に関係する各種社会福祉制度や社会福祉方法論に関する専門的な知識が修得できる
【関心・意欲・態度】
子どもをめぐるさまざまな福祉課題などに関心が持て、子どもたちが健全で豊かに成長できるように行動するとともに、子どもの視点で支援できる

オフィスアワー

火曜3限、木曜2限

学生へのメッセージ

新聞等により、児童・障害者・高齢者にどのような社会問題があるのかを把握したうえで、授業に臨んでもらいたい

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	地域で福祉活動を展開している児童・高齢者施設のソーシャルワーカーの経験を有しており、保育士業務を遂行していく上で必要と考える社会福祉全般の知識を講義している
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	S02101001
講義名	社会的養護I
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P21204M21

学習計画

講義コード	S02101101
講義名	発達心理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	こども教育学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	丹羽 さがの	指定なし

ナンバリング

P11205M21

授業概要(教育目的)

人は生涯を通じて発達的に変化していく。その発達の過程を、特に心的活動の変化に焦点を当てて学習する。まず、発達心理学の考え方や研究法の基本、発達の諸理論を学び，その上で、胎児期から老年期に至るまでの各時期の発達課題や発達的特徴について、具体的事例や視聴覚教材も参照しながら基本的知識を身に付ける。人の発達に関する知見を、保育・教育実践に結び付けることができるよう、事例や自分自身の体験とも関連させながら具体的に理解し、考えを深める。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・発達心理学の基本的概念を説明できる・人の生涯発達の概観，各発達期の特徴を理解する
思考・判断の観点 (K)	・人の発達に関する知見を，保育・教育実践に結びつけて考えることができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	・自分自身のこれまでの体験と関連させながら，人の発達について具体的に理解しようとする
技術・表現の観点 (A)	・発達心理学的知見が保育，教育実践にどのように活かされているか説明できる

学習計画

	授業テーマ	イントロダクション：発達を学ぶ重要性，発達のメカニズム
	学習内容(ア	

第1回	ｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生涯発達心理学の考え方を知る。教育における発達の理解の意義を学ぶ。内的要因（遺伝）と外的要因（環境）の相互作用による発達のメカニズムを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕（１）テキスト第１～３章（p.3-52）を読み，生涯発達を対象とする心理学と発達のメカニズムについて概観をつかむ。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える。
	教室外学習の時間（分）	195分
第2回	授業テーマ	乳児期の運動・認知の発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児期の運動発達と認知発達について相互に関連しながら発達することを含めて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕テキスト第５章（pp.77-97）を読み乳児期の身体的機能・運動機能・知覚と認知の発達について概観をとらえる〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える。
	教室外学習の時間（分）	195分
第3回	授業テーマ	乳児期の言語・社会性の発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児期の言語発達と社会性の発達について認知面とも相互に関連しながら発達することを学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕テキスト第９章～第１０章（pp.157-188），を読み，乳児期，幼児期の言語と社会性の発達について概観をつかむ〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える
	教室外学習の時間（分）	195分
第4回	授業テーマ	幼児期の運動・認知の発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児期の運動発達と認知発達（記憶，概念学習，推論能力，メタ認知）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕テキスト第８章（pp.135-156）を読み，乳幼児期の運動発達，認知発達の概観をつかむ。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える
	教室外学習の時間	195分

	（分）	
第5回	**授業テーマ**	幼児期の言語・社会性の発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児の文字への関心を含めた言語発達，仲間関係の発達について事例も用いて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕テキスト第11章（pp.189-204）を読み，幼児の言語発達・社会性の発達について，園での生活をイメージしながらつかむ〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える。確認小テスト（１）に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	195分
第6回	**授業テーマ**	乳幼児期の自己と情動制御の発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳幼児期を通して現れてくる自己と情動制御（自己主張・自己抑制）の発達について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕テキスト第７章（pp.117-133）を読み，情動の発達，自己の発達，社会情動的スキルの発達の概観をつかむ。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える
	教室外学習の時間（分）	195分
第7回	**授業テーマ**	児童期の認知発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童期の認知発達をその要因（物理的・人的環境）とともに学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕テキスト第１５章（pp.265-274）を読み，児童期の環境と認知発達との関係を考える〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える
	教室外学習の時間（分）	195分
第8回	**授業テーマ**	児童期の社会性の発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	仲間関係の発達，仲間関係を形成する力を高めるソーシャルスキル・トレーニングについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内	〔予習〕テキスト第５章（pp.265-274）を読み，児童期の仲間関係が教室での適応と深くかかわっていることを理解する。その上で，教室での適応に必要な社会的能力を書き出してくる。〔復習〕授業中に理解不足を

	容	感じた点について，再度テキストを読み考える
	教室外学習の時間（分）	195分
第9回	**授業テーマ**	青年期のアイデンティティの発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アイデンティティとは何か，アイデンティティ選択の方法について自らを振り返りながら学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕エリクソンの発達理論と青年期の課題についてテキスト第１５章（pp.278-286）を読む他，参考図書などを用いて調べる〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度参考図書を読み考える
	教室外学習の時間（分）	195分
第10回	**授業テーマ**	青年期の人間関係
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	青年期の親子関係，友人関係の様相について，自らの関係性を振り返りながら学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕テキスト第１５章（pp.275-277）を読んだ上で，自らの高校時代～現在の親子関係について振り返りまとめる。自分にとっての友人の存在の意味についてまとめる〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度参考図書を読み考える。確認小テスト（２）に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	195分
第11回	**授業テーマ**	学びの様々な理論と学びの動機づけ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学びの原理に関する代表的な理論（学習理論，観察学習理論，ピアジェとヴィゴツキーの認知発達理論）を学び，各発達段階の学びにふさわしい学習の仕方を理解する。 主体的な学びを支える動機づけ，主体的学びを阻害する経験（学習性無力感）について学び，各発達段階にふさわしい指導のあり方を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕テキスト第１２章（pp.207-222）を読み，代表的な学習に関する理論の概観と，各発達段階における学びの概観をとらえる〔復習〕動機づけ，原因帰属，学習性無力感など，授業で学んだ内容を復習しながら，各発達段階にふさわしい指導のあり方のポイントを考えてみる。授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える。
	教室外学習の時間（分）	195分
	授業テーマ	集団における学び・育ちと保育における評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	幼児期の協同的な活動において得られる学び，育ちについて事例を用いて学ぶ。個と集団の育ちの視点に立った評価について理解する

第12回	用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復習〕事例を再度読み，協同的な活動を通しての学び・育ちについてまとめる。保育における評価とはどういうものかまとめる
	教室外学習の時間（分）	195分
第13回	授業テーマ	成人期の発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子育て期から子育て卒業期の親の心理について学び，子育てという経験がもつ意味を考える。教育・保育現場における保護者支援・保護者との連携の必要性と重要性を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕テキスト第１６章（pp.287-294）と事前配布資料を読み，子育て支援の意義，支援の実際の概要をつかむ。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える
	教室外学習の時間（分）	195分
第14回	授業テーマ	老年期の発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生物学的な衰えを補う心理的・社会的仕組みついて学び，生涯学び続ける存在としての人の一生を概観する
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕テキスト第１６章（pp.294-301）を読み，老年期の発達的特徴を知る〔復習〕バルテスの理論について授業資料を読み返しまとめる。その上で，生涯学び続けるために必要な環境について考える。確認小テスト（３）に取り組む。
	教室外学習の時間（分）	195分

学生へのフィードバック方法

コミュニケーション・カードに下線and/orコメント付きで返却する。多かった質問・疑問については次回授業冒頭で解説する。また特によかったコメントについては次回授業冒頭で紹介する。それ以外の質問がある場合は1626研究室まで訪問すること。

評価方法

・平常点は学びに向かう姿勢，意欲，理解度をコミュニケーション・カードの記入状況，内容，確認小テストから評価する。定期試験は60点満点で出題し，授業で学んだ内容全てが範囲となる。心理学的概念，各発達段階の特徴の理解度，心理学的知見と教育・保育実践との関連についての理解度を測る選択式・記述式の問題から構成される。出題の傾向については，最後の授業にて説明する。
・成績評価はルーブリックに基づいて行う。ルーブリックはクラスルームまたは授業内での配布により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

平常点	○	○	○	
定期試験	○	○		○

評価割合

平常点（40%）及び定期試験（60%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

教育職・心理職のための発達心理学，中道圭人・小川翔大（編著），978-4-7795-1547-7

参考図書

問いから始める心理学―生涯にわたる育ちの科学，有斐閣ストゥディア，坂上裕子他編著，978-4-641-15013-3
その他授業において適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもの心理についての専門的な知識を有している。【思考・判断】子どもの心身の発達についての知識を基に教育・保育実践の現場で出会う様々な課題に柔軟に対応できる力を身に付けている。

オフィスアワー

水曜日２限 1626研究室

学生へのメッセージ

人の発達・成長の面白さに触れるとともに、自らの成長の道のりを振り返る機会にもなる授業です。積極的に参加してくれることを期待します。
毎回授業内容の復習をしてください。わからない点についてはそのままにせず、質問したり自分で調べたりするようにして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自らの体験を振り返るワーク，事例に基づき考えるワーク等に，小グループでのディスカッションを取り入れる
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	S02101201
講義名	こどもの理解と援助
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	こども教育学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	丹羽 さがの	指定なし

ナンバリング

P11301M12

授業概要(教育目的)

子ども理解が「保育の出発点」であることを理解できるようにする。幼稚園，子ども園，保育所における乳幼児の生活や遊びの実態に即して，乳幼児の発達及びその過程で生じるつまずき，その要因を把握するための知識を身に付け，対応の方法を考えられるようにする。幼児理解が幼児教育のあらゆる営みの基本となることを理解できるようにする。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・子ども理解が保育の出発点であるという意味を説明できる ・発達に関する知識を子どもの姿と結び付けながら深く理解する
思考・判断の観点 (K)	・子どもの姿を発達的な知識を基に理解しようとする姿勢をもつ ・乳幼児の発達過程で生じるつまづきとその要因を把握するための視点を身に付け、対応の方法を考えられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・子どもの発達をめぐる課題，問題に関心をもって取り組み，保育現場における援助の方法を提案できる
技術・表現の観点 (A)	・授業を通して得た自らの気づきや学びを文章で表現して伝える

学習計画

	授業テーマ	イントロダクション・幼児教育における幼児理解の意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	

第1回	育・ICT活用を含む)	幼児理解と指導案作成・保育実践・評価との関係を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。
	教室外学習の時間(分)	50分
第2回	授業テーマ	乳幼児理解における発達の把握
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発達段階と発達過程，個人差への配慮を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕事前配布資料を読み，発達段階と発達過程，発達を捉えるツールとしての発達検査の概要を捉える。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。
	教室外学習の時間(分)	50分
第3回	授業テーマ	乳幼児の学びの課程を捉える視点
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳幼児が遊びと生活の中で何を学び，身に付けているのかを読み取る
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕前期の「発達心理学」で学んだ乳幼児期の発達について復習しておく。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。
	教室外学習の時間(分)	50分
第4回	授業テーマ	乳幼児の学びを支える保育者
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育者の受容的姿勢，乳幼児と保育者の信頼関係の重要性
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕保育者は乳幼児の発達にどのような影響を与えうるか考えてみる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。
	教室外学習の時間(分)	50分
第5回	授業テーマ	いざこざから学ぶこと
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	いざこざ場面の事例から，個の育ちと集団の育ちを読み取る
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕乳幼児はどんなことが原因でケンカになるか考えてみる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。
	教室外学習の時間(分)	50分
	授業テーマ	仲間関係の事例からつまずきの要因を学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	仲間関係におけるつまずきの事例から，子ども同士の関係性その他の要因を考える

第6回	む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。
	教室外学習の時間(分)	50分
第7回	授業テーマ	観察・記録の実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳幼児の発達や学びを捉える観察及び記録の方法を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。
	教室外学習の時間(分)	50分
第8回	授業テーマ	観察記録と考察の発表とディスカッション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の記録と考察をグループ内で発表し協議することを通して多様な見方・考え方に気付く
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕前回授業の内容を復習しておく。〔復習〕グループ内での話し合いで得られた気づきを小レポートにまとめる
	教室外学習の時間(分)	50分
第9回	授業テーマ	観察・記録からの乳幼児理解と学びの読み取り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	観察記録を元に，子どもたちの育ち・学びを伝えるということを意識しながらドキュメンテーションを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕ドキュメンテーションについて調べておく。〔復習〕グループ内での話し合いで得られた気づきを小レポートにまとめる
	教室外学習の時間(分)	50分
第10回	授業テーマ	保育における評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育・幼児教育における評価とは何か学ぶ。評価の種類，評価と指導計画との関連，PDCAサイクルについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕第１回の授業内容を復習しておく。 〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。
	教室外学習の時間(分)	50分
第11回	授業テーマ	基本的生活習慣の獲得と発達援助
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	基本的生活習慣の獲得と援助の方法，基本的生活習慣と主体性の育ちについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。
	教室外学習の時間(分)	50分

第12回	授業テーマ	発達の課題に応じた援助やかかわり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発達課題とは何か，保育者による援助の基本，配慮点を理解する。また保育者以外の専門家による援助について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕保育現場において，保育者以外に子どもの育ちの援助に関わる専門家にはどのような人がいるか調べてみる。 〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。
	教室外学習の時間(分)	50分
第13回	授業テーマ	発達や学びの連続性と就学への支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児期から児童期にかけての学びと育ちの連続性，小学校との連携・接続と就学支援について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストを読み考える。
	教室外学習の時間(分)	50分
第14回	授業テーマ	現代社会における子どもの発達と保育の課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	統計資料や事例から子育て支援の課題を捉える
	教室外学習(予習・復習)の内容	〔予習〕乳幼児をもつ子育て家庭の現状と課題について調べてみる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。
	教室外学習の時間(分)	50分

学習計画注記

授業の進度その他の事情によって計画が変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

毎回コミュニケーション・カードを確認し，下線and/orコメントをつけて返却する。質問や疑問点についてはフィードバック資料を作成し，次回授業時に解説する。

評価方法

・平常点は学びに向かう姿勢，意欲，理解度を授業内課題への取り組みと内容，コミュニケーション・カードの記入状況，内容から評価する。中間レポートは観察記録と考察，グループディスカッションを通しての気づきをまとめたものとし，理解度・観察記録技術・考察，気づきの深さを評価する。最終レポート課題では，多角的な視点から子どもの育ちを理解する視点，子ども理解に基づき具体的な援助を考える力等，授業の到達目標に基づき評価する。
・平常点，中間レポート，最終レポートは，下表に示す力を養うことを目的に実施する。
・成績評価はルーブリックに基づいて行う。ルーブリックはクラスルームまたは授業内での配布により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
中間レポート	○	○	○	○
最終レポート	○	○	○	○

評価割合

平常点（50%），中間レポート(20%)，最終レポート（30%）で評価する。

参考図書

授業中に適宜指示する。

ディプロマポリシーとの関連

【思考・判断】子どもの心身の発達についての知識を基に教育・保育実践の現場で出会う様々な課題に柔軟に対応できる力を身に付けている。【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心をもって取り組み，子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。子どもの視点に立ち，子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身に付けている。

オフィスアワー

水曜日４限 1626研究室

学生へのメッセージ

前期の発達心理学で学んだ知識を基に，子どもを理解しその育ちを援助する方法について学びます。前期のテキスト，授業資料も手元に置いて，必要に応じて見返しながら受講してください。保育・教育現場での実践につながる内容です。授業，ワーク，課題へ積極的に参加するとともに，理論と実践を結びつけながら，自ら考える姿勢を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	小グループでのディスカッションを取り入れる。記録を実際に作成するワークを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	S02101301
講義名	乳児保育I
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	こども教育学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	柳瀬 洋美	指定なし
教授	和田 美香	指定なし

ナンバリング

P11302M21

授業概要(教育目的)

テキストや保育所保育指針等を手掛かりとして「乳児保育の基本となる考え方」について理解を深める。乳児保育に関する歴史的変遷も踏まえながら、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状を知る。さらに3歳未満児の発達と生活について知る。
乳児保育における職員間の連携･協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解し、豊かな保育内容を探求するための基盤づくりをする。

履修条件

特になし。
なお、本科目は保育士必修科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解し説明できる。 ２．３歳未満児の発育･発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	１．保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 ２．乳児保育における職員間の連携･協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	１．身の回りの乳児と乳児を取り巻く環境や問題について興味・関心をもつ。

技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	乳児保育の意義･目的と歴史的変遷
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児保育の意義と目的、歴史的変遷について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第1章を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	**授業テーマ**	乳児保育の役割と機能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児保育が果たす役割の機能について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第1章を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	乳児保育における養護と教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児保育における養護と教育について、日本の現状を知り、今後の展開について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの養護と教育の観点から、自分でもメディア等でニュースを調べてみる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	保育所における乳児保育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所における乳児保育の基本について保育所保育指針をもとに理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援・家庭との連携
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場として、保育所や認定こども園のほか、在宅保育や乳児院、子育て支援センター等のさまざまな社会資源について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第9章を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題について、最新のデータを踏まえながら、事例等を通して理解を深める。

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第3章、第7章をよく読んでおく。 メディア等、乳児保育や子育て支援家庭に関する社会の動向に興味・関心をもって自分でも調べてみる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	乳児保育おける連携・協働（自治体や地域の関係機関との連携・協働）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児保育の現場でどのような関係機関とどのように連携・協働しているのかについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分が住んでいる地域の乳児期を支援する関係機関や事業について調べる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所以外の児童福祉施設について知り、その役割や機能、そこに入所している（利用している）乳児の生活や実状について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第9章§5「乳児院」について読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	家庭的保育等における乳児保育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭的保育とは何か、その意義と現状について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第9章§３在宅保育についてよく読んでおくほか、今住んでいる地域の資源について調べてみる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	3歳未満児の生活と健康・安全
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3歳未満児の生活と環境のうち、健康と安全に焦点を当て、保育室内外の環境について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章§１「日課」、§７「子どもの居る場所」、第4章についてよく読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	3歳未満児の遊びと環境
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3歳未満児の遊びと環境のうち、遊びを取り上げ、発達等の観点から理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第2章§２「遊ぶ」読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	3歳未満児の発育･発達を踏まえた保育における配慮および保育士等による援助や関わり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3歳未満児の発育･発達を踏まえた保育における配慮および保育士等による援助や関わりについて、実践例をもとに理解を深める。

	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第5章、第6章をよく読んでおく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第13回	**授業テーマ**	乳児保育における計画・記録・評価とその意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児保育において、子どもたちの生活を支える上で重要な保育計画・記録・評価のあり方について学び、その意義について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書第5章を読んでおく。
	教室外学習の時間(分)	180分
第14回	**授業テーマ**	乳児保育の振り返りとまとめテスト
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業全体を振り返り、保育者として必要な乳児保育に関する基礎知識と重要な視点を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書や授業で配布した資料をもとにこれまで学んだことを振り返る。
	教室外学習の時間(分)	240分

学習計画注記

※ 状況により、スケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

授業内で出す課題やリアクションペーパーへのコメントを通じて、学生の疑問や質問へのフィードバックを行っていく。

評価方法

・試験はテキストと必要に応じて配布する資料の中から出題する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○	○	
授業内課題	○	○	○	

評価割合

・試験60%、提出物（授業内課題等）30%、平常点（授業への取り組み等）10%
・ルーブリックに基づいて評価する。ルーブリックは授業内に提示する。

使用教科書名(ISBN番号)

『乳児保育I・II』（新・基本保育シリーズ）（中央法規）

参考図書

演習乳児保育の基本（978-4-89347-125-3）阿部和子編（萌文書林）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解し説明できる。また、３歳未満児の発育･発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解し説明できる。
【思考・判断】保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について把握できている。
乳児保育における職員間の連携･協働及び保護者や地域の関係機関との連携について考えること

ができる。

オフィスアワー

水曜５時限 1619研究室（その他、メールで積極的に連絡してください。）

学生へのメッセージ

日頃より、本授業の対象年齢である０～３歳児を意識し、身の回りや社会の状況に興味・関心をもって授業に臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員2名のうち1名は障害児療育センターや子育て支援センターにおいて長年の臨床経験を有しており、家庭的保育以外にも施設での乳児保育等の実際についてもよく知っている。またもう1名は保育士として保育現場での実務経験を有する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	自分の興味・関心にそって情報収集を行い、自ら考察する経験を積み重ねる。
ICT活用		

講義コード	S02101401
講義名	乳児保育II
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	こども教育学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	和田 美香	指定なし
准教授	柳瀬 洋美	指定なし

ナンバリング

P11303M12

授業概要(教育目的)

乳児保育の基本を押さえながら、現場におけるその実際を伝える。
さらに画像を使って、実践的な内容を解説し、考えていくようにする。
実践的なワークを行いながら具体的に理解するようにしていく。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 ・養護と教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 ・乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。
思考・判断の観点 (K)	・乳児の生活や遊びの環境とその安全管理について、様々な視点からその工夫を考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・関心を持ち、積極的に園見学などに参加する。
技術・表現の観点 (A)	・沐浴やオムツ交換、調乳や授乳などの技術について学ぶ。

学習計画

乳児保育II

第1回	授業テーマ	子どもと保育士等との関係の重要性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもと保育士等との関係の重要性について、保育所保育指針を参考にしながら理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	保育所保育指針やテキストから子どもと保育士等との関係の重要性について触れられているところをチェックし、復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わりについて、保育所保育指針の文言をもとに考え、事例を見ながら理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わりについて、保育所保育指針やテキストを参考に復習をする。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	子どもの主体性の尊重と自己の育ち
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの主体性の尊重と自己の育ちについて事例をもとに検討し、発達段階に応じた関わりについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	保育所保育指針やテキストを参考にしながら乳児の発達段階について復習をする。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	子どもの体験と学びの芽生え
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの体験と学びの芽生えについて、保育所保育指針の「乳児保育の３つの視点」を参考にしながら、その具体的なところを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	乳児保育の3つの視点について復習をして、その内容をよく理解しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	子どもの一日の生活の流れと保育の環境
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの一日の生活の流れと保育の環境について、テキストや視聴覚教材により理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内	テキストと授業内で配布されたプリントなどを参考にしながら、子どもの一日の生活の流れと保育の環境について復習をする。

	容	
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	子どもの生活や遊びを支える環境の構成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの生活や遊びを支える環境の構成について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で作成した環境構成図について、良さや課題についてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際について、事例をもとに考察していく。写真や動画などをみながらその実際に触れる。（保育所を訪問する際のポイントをまとめる）
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で扱った事例から、援助のポイント、見学のポイントをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際 0歳児のおむつ交換について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際について知る。 0歳児のおむつ交換を赤ちゃん人形を使ってやってみる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で扱った援助のポイントについてまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	子ども同士の関わりとその援助の実際 （保育所見学事前指導）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児保育の中での子ども同士の関わりについて理解する。乳児保育の3つの視点における「人との関わり」、領域「人間関係」につながる発達の見通しについて学ぶ。保育所見学の事後指導をすることにより、さらに学びを深める。 保育所見学の準備（挨拶、身だしなみなどのマナー面や、見学のポイントを整理する）
	教室外学習(予習・復習)の内容	乳児保育の３つの視点について事例をまとめ、領域との関係を整理する。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	保育所での見学（保育所で実際に乳児と関わる）
	学習内容(ｱｸﾃｨ	

第10回	**ﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	乳児の安全安心について具体的に学ぶ。 乳児の遊びと生活についてその実際を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	見学の記録を指定の用紙にまとめる。 事後指導の際の発表の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	保育所見学事後指導。 集団生活における個別の対応、配慮事項について考える。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	集団生活の中で、個別の生活リズムを保障していくための、具体的な配慮を考える。 進級時などの移行に関する配慮についても学ぶ。 それぞれのまとめを発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で学んだことのポイントをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	指導計画について・まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指導計画について学ぶ。（長期指導計画、短期指導計画、個別の指導計画について） これまでの授業の復習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	乳児クラスにおける指導計画を実際に書いてみる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	保育現場の実際から考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アクティブラーニング（子どもの発達を考えた手作りおもちゃの作製、発表をする）
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの発達を考えた手作りおもちゃについて、その意義を整理する。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	**授業テーマ**	保育現場の実際から考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アクティブラーニング （園見学とこれまでの授業内容をまとめ、振り返り。）
	教室外学習(予習・復習)の内容	保育の生活と遊びについて、具体的な方法をまとめる。

	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

毎回の演習課題をもとに授業を進めていく。

学生へのフィードバック方法

授業の最後に質問の時間を設け、フィードバックを行う。
毎回の授業の振り返りを毎回教員が用意した「振り返りシート」に記入する。質問などがあれば、そこに記入して、個別または全体のフィードバックとして、やりとりを行う。

評価方法

平常点60%と授業内テスト40%をもとに評価する。
ルーブリックに基づく成績評価をする。
（ルーブリックについては、Googleクラスルームまたは授業内での配付等により提示をする。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点		○	○	○
授業内テスト	○			

評価割合

平常点60%と定期試験40%をもとに評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

『乳児保育I・II』（新・基本保育シリーズ）（中央法規）

参考図書

『乳児保育の基本』（萌文書林）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。養護と教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。
【思考・判断】乳児の生活や遊びの環境について、安全管理について、様々な視点から考える。
【関心・意欲・態度】演習課題に積極的に取り組む。
【技能・表現】沐浴やオムツ交換、調乳や授乳などの技術について学ぶ。

オフィスアワー

月曜２限から４限

学生へのメッセージ

演習課題中心の授業です。自分から課題を見つけ、積極的な姿勢で取り組んでください。
授業資料をGoogleクラスルームに配信するので、PCを用意してください。（スマホでも可）
保育士資格必修

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は保育士として実務経験を有しており、子どもとかかわるうえで必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授を行う。
アクティブ・ラーニング	○	演習課題を通してアクティブラーニングを実践していく。
情報リテラシ		調べ学習をする際、その情報の発信元や発信目的などに目を向けた上で、

一教育	○	信頼性を判断する。
ICT活用		

講義コード	S02101501
講義名	児童文化
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	こども教育学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	吉田 久実	指定なし

ナンバリング

P11304M21

授業概要(教育目的)

わが国独自の概念として成立した児童文化について、時代と共に変化する児童文化の歴史をたどり、その重要性を問い直す。そして、子どもとおとなが共につくり、共に遊び、共に楽しみ、伝え合っていく文化を創造するにはどうしたらよいかを考える。具体的には児童文化の歩み、子どもの遊び・遊具・玩具、子どもと表現活動・造る、描く、子どもと文学・絵本、現代の子どもの生活と文化、児童文化を支え・育む活動について考察する。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	児童文化の歴史的変遷や背景に目を向けながら現在の子どもたちが置かれている状況を捉える。
思考・判断の観点 (K)	児童文化についての基本的な考え方と具体的な内容について理解する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	様々な児童文化と文化財に目を向け、広く深く考察をしたり、他者の視点にも関心を持つ。
技術・表現の観点 (A)	身近な児童文化財について学んだことを発展させ、制作や自分なりの表現につなげていく。

学習計画

	授業テーマ	児童文化と子ども
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	「児童文化」という語が形成される歴史的過程を検証し、現代の子どもたちを取り囲む文化環境に目を向け、社会史に位置づ

第1回	育・ICT活用を含む)	ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	児童文化に関するニュースなどを見つけ、児童文化について考える。
	教室外学習の時間(分)	190分
第2回	授業テーマ	子どもと遊び・ごっこ遊び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの発達過程における遊びの重要性は広く認められているが、児童文化の側面から見た遊びの重要性についても考える。みたて・つもり・ふり遊び、役割遊びなどとも言われる子どもの身近な遊びを取り上げ、文化的背景と意義を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	遊びとその重要性について自身の考えをまとめてくる。 ○○ごっこと題して、自身の幼少のころ体験したごっこ遊びについて報告するための準備をする。
	教室外学習の時間(分)	190分
第3回	授業テーマ	手遊び・歌遊び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	手と歌で繰り広げられる遊びのいろいろと、年齢に応じた楽しみ方や特徴、児童文化との関わりについても知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	秋の季節にふさわしい手遊び・歌遊びを１つ選び探して紹介できるように準備する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第4回	授業テーマ	子どもと児童文化財・おもちゃ（玩具）について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な児童文化財について知り、歴史的、文化的背景と子どもの遊びとの関連性についてみていく。以降、各文化財の理論と実践 について学ぶ。 おもちゃの文化史と意義
	教室外学習(予習・復習)の内容	玩具、絵本、紙芝居、素話（語り）、児童文学、児童劇などの中から、自身が一番興味深い作品を1つ選び、歴史的背景や子ども文化とのかかわりについて調べる。
	教室外学習の時間(分)	190分
第5回	授業テーマ	おもちゃ（玩具）で遊ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発達過程に応じた提示の仕方、遊びの展開について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の準備をし、発表後は振り返りのレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	190分
第6回	授業テーマ	絵本について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	絵本の文化史と意義
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の準備をし、発表後は振り返りのレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	190分
	授業テーマ	絵本を楽しむ

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発達過程に応じた提示の仕方、遊びの展開について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の準備をし、発表後は振り返りのレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	紙芝居について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	紙芝居の文化史と意義
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の準備をし、発表後は振り返りのレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	紙芝居を演じる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発達過程に応じた提示の仕方、遊びの展開について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表のための準備をし、発表後は振り返りのレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	お話に親しむ・子どもと児童文学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	素話・語りの文化史と意義、発達過程に応じた提示の仕方、遊びの展開について学ぶ。 日本と海外の児童文学の歴史について概観し、児童文学が子どもにもたらすもの、多様な子どもの文学とその意義について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表のための準備をし、発表後は振り返りのレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	子どもと児童劇
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の児童演劇の歴史について概観し、観劇や子どもたちの身近にある多様な劇活動とその意義について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表ための準備をし、発表後は振り返りのレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	子どもとつくる劇
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育における身近な素材（お話、教材）を使って制作した様々な子どもの劇活動について知り、実践例から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	身近な素材（お話・教材）を使って保育の中で子どもと共に創作する劇遊びについて考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	絵本と遊び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第13回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	絵本から広がる子どもの遊びについての発表と振り返り。
	教室外学習(予習・復習)の内容	絵本を使った遊びの紹介をするための準備と発表後の振り返りを行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	子どもと児童文化と大人（保育者） まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもに向かって提示される媒体としての側面と、子ども自ら及び大人と共に作り・伝え・育む、創造活動としての児童文化について考察する。 児童文化の社会的意義と、子どもと共にある大人、保育者のあり方を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの学習内容を振り返り、また、自身の発表などからも考え感じたことをまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

履修者数、授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。教室外学習は各自の発表準備やまとめの時間にあてる。

学生へのフィードバック方法

毎回の講義で提出するレポートを通し、質問や感想を受け付ける。質問事項に関しては、翌週の講義で解説する。

評価方法

・平常点（授業中の実績）と課題レポートの結果から判定する。
評価のルーブリックについては初回授業において説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
課題レポート	○	○	○	○

評価割合

平常点40%・課題レポート60%
（平常点は、毎回の授業での取り組み、レポート提出の状況等を総合して判断します）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学を構成する6領域を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識を修得した上で児童文化について考えることができる。
【思考・判断】児童文化からの学びを保育の実践においても応用出来、学生自らがさまざまな課題に柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】子どもたちの健全な成長・発達のために使命感を持って行動でき、子どもたちに児童文化を積極的に伝えることができる。
【技能・表現】子どもの専門家として児童文化財の選択と、児童文化の伝承に貢献できる。同時に、玩具での遊びや絵本読みなどにおいて豊かな表現力が身についている。

学生へのメッセージ

児童文化は子どもの幸せを願いながら大人とともに育まれてきました。
授業内容とそれに関わる予習・復習に加えて、児童文化に日頃から興味を持ち、幅広く情報を取り入れることを心掛けてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	児童文学、児童文化財についての研究と保育者としての経験を授業に反映させる。
アクティブ・ラーニング	○	学生が自ら考え、調べたことを生かし、それを授業内で発表することで進められる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	S02101601
講義名	こどもと健康
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P21305M12

学習計画

講義コード	S02101701
講義名	こどもと人間関係
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P21306M12

学習計画

講義コード	S02101801
講義名	こどもと環境
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P21307M12

学習計画

講義コード	S02101901
講義名	こどもと言葉
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	こども教育学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P21308M12

授業概要(教育目的)

領域「言葉」の基礎となる考え方を理解し、「言葉のもつ意義と機能」「言葉の感覚を豊かにする実践」「児童文化財の活用」の視点から、どのようにしたら乳幼児が豊かな言葉や表現を育むことができるかを考えるようにする。上記の目的を達成する過程において、主体的に考えることができるように、グループディスカッションやワークショップなども取り入れながら、「言葉」の意義と機能について具体的に理解するようにする。その上で乳幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身につけるようにする。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解する。 「言葉」の意義と機能について理解する。 乳幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身に付ける。
思考・判断の観点 (K)	乳児の言葉を育てるための具体的な方法について考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	乳児の言葉を育てるための方法について主体的に考えることができる。
技術・表現の観点 (A)	子どもの生活と遊びを豊かに展開するために「言葉」の領域から、必要な知識や技術を実践的に習得する。 児童文化財などの教材の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。

学習計画

子どもと言葉

	授業テーマ	保育内容としての領域言葉（他領域との関わりなど）
	学習内容(ｱｸﾃｨ	

第1回	ﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	領域言葉の内容を捉えた後、グループワークなどを通して、他領域との関係の中で具体的に考える、
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。 指針や要領を手元に用意し、3つの視点や5領域についての文言を確認しておく（予習）
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	乳児保育の３つの視点と５領域における領域言葉
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前言語期から乳児の言葉、さらに幼児の言葉への発達をどのように支えていくかという視点から領域言葉を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。 言葉にはどのような意義があるのか、思いつくままに箇条書きにしておく（予習）
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	言葉のもつ意義と機能（コミュニケーション、思考の手段など）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	言葉のもつ意義と機能について、実際にワークショップを行いながら具体的に考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。 言葉の意義について日常生活から具体例をあげて考えてみる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	言葉のもつ意義と機能（コミュニケーション、思考の手段など）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の授業の内容を踏まえて、事例や動画などを見ながら、具体的な実践に置き換えて考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	子どもの言葉の発達２（話し言葉から書き言葉の習得まで、１次的言葉と２次的言葉）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	話し言葉から書き言葉の習得までを子どもの発達段階に合わせて考えていく。さらに保育の中で具体的な援助をどのようにしていけばよいかということを、議論を展開しながら考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。

	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	言葉に対する感覚（言葉の美しさ、楽しさ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	詩や回文などを題材にして、実際に言葉の美しさや楽しさを体験する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。 回文を作ってみる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	言葉を豊かにする保育環境（保育者の役割、言葉掛け、保育室の環境など）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの言葉を育む環境とはどのようなものか。物的環境と人的環境の両面から議論し、保育室の環境設定や言葉かけなど自分なりの視点で考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	言葉遊びと保育実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	様々な言葉遊びの世界を体験するなかで、その楽しさを味わう。さらに、保育実践の中ではどのような援助が必要かということにつなげて考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	児童文化財とは何か（子どもにとっての児童文化財の意義）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童文化財の定義から、その具体的な実践に至るまで、体験を通して考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	児童文化財の実際（種類や歴史、保育への取入れ方）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	紙芝居や絵本などの児童文化財を保育に取り入れる場合、どのような配慮が必要かという視点からグループワークなどを通して考える。

第10回	を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	児童文化財を用いた実践（絵本、紙芝居）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回議論した内容をもとに、絵本や紙芝居を用いた演習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で学んだポイントを復習しながら、絵本や紙芝居などを再度読んでみる。 図書館などで色々な絵本を読んでみる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	児童文化財を用いた実践（昔話とストーリーテリングを用いた模擬保育）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の模擬保育の経験を踏まえて、昔話やストーリーテリングといった題材をもとに、模擬保育を行う。また、2回分の模擬保育の振り返りを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	児童文化財を用いた実践（ペープサート、人形劇、パネルシアター）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ペープサート、人形劇、パネルシアターなどの教材を用いた模擬保育を行う。その際、子どもにとってどのような学びがあるのか、また子ども自身が主体的にその時間を過ごすためにはどのような工夫や配慮が必要かということを考えながら行うようにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱った内容をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	子どもの生活と遊びにおける体験（見立て遊びご,っこ遊び,劇遊び,わらべうた遊び等）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの生活と遊びという視点から、言葉の発達を考えていく。ままごと遊びや見立て、ごっこ遊びの中での子どもの言葉の育ちをどうとらえるかということをグループワークで考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。 具体的場面をイメージして子どもの生活と遊びにおける体験を書き出してみる。 これまで扱った資料をまとめ、それぞれのつながりを考え、領域言葉を総合的に捉えてみる。

	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

講義と演習形式で行う。
①資料を手掛かりとして、考察し、発見しあう授業
②過去の研究を手掛かりとして、知識を得る講義
③テーマを共有してふるまいながら気付き、身につける演習

学生へのフィードバック方法

授業の質問、感想、要望、を受け付ける。毎回それに対してのフィードバックを行う。指導案など提出したものは、添削、助言をして返却する。

評価方法

平常点50%、定期試験50%
（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）
ルーブリックに基づく成績評価をする。
（ルーブリックについては、Googleクラスルームまたは授業内での配付等により提示をする。）

評価基準

評価基準

評価方法	**知識・理解（K）**	**思考・判断（K）**	**関心・意欲・態度（V）**	**技術・表現（A）**
平常点		○	○	○
定期試験	○			

評価割合

平常点50%、定期試験50%
（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

コンパクト版『保育内容シリーズ４ 言葉』

参考図書

保育所保育指針
幼稚園教育要領

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】言葉のもつ意義と機能を理解する。
【思考・判断】言葉の美しさや楽しさを幼児の生活の中に適宜取り入れていける力を付ける。
【関心・意欲・態度】子どもの姿（生活や遊び、発達段階）を基本に活動内容を考えていく。
【技能・表現】幼児にとっての児童文化財の意義を理解し、その技術を身に付ける。

オフィスアワー

月曜2限から４限

学生へのメッセージ

保育所保育指針、幼稚園教育要領を基本に進めていくので、毎回持参すること。グループワークなども多く含まれるので、授業では自分の意見を述べるなど、積極的に参加してほしい。

授業資料をGoogleクラスルームに配信する場合があるので、PCを用意すること。（スマホでも可）

教育等の取組み状況

	該当有	**概要**

	無	
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、保育士・幼稚園教諭として実務経験を有しており、子どもとかかわるうえで必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授を行う。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、発表などを行い、教員と学生、学生同士の双方向のやり取りを行っていく。
情報リテラシー教育	○	調べ学習で情報を収集する際、その情報の発信元や発信の目的などに目を向けて、信憑性のある情報か否かを判断する。
ICT活用	○	各自の発表をパワーポイントなどにまとめて行い、他者にわかりやすいプレゼンテーションを実践する。

講義コード	S02102001
講義名	こどもと表現
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P21309M12

学習計画

講義コード	S02102101
講義名	国語科研究（書写を含む）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	こども教育学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	成家 雅史	指定なし
教授	和田 美香	指定なし

ナンバリング

P11401M21

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	S02102201
講義名	社会科研究
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P21402M21

学習計画

講義コード	S02102301
講義名	算数科研究
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P21403M21

学習計画

講義コード	S02102401
講義名	理科研究
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P21404M21

学習計画

講義コード	S02102501
講義名	生活科研究
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	こども教育学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	中田 範子	指定なし

ナンバリング

P11405M21

授業概要(教育目的)

小学校教育課程の生活科で取り扱われている基本的事項について理解を深める。身近な生活に関する見方・考え方を生かし、自立し、生活を豊かにしていく資質・能力を育成することを目標にした生活科教育の特性を理解し、幼保小の接続のあり方を視野に入れながら学ぶ授業である。そのため、可能な限り、踏査を通した演習を取り入れ、体験を通して小学校低学年の児童を対象とした生活科教育に役立つ知識、概念、技能を習得することが目的である。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	幼稚園教育から小学校教育への接続の重要性を踏まえ、生活科の意義と内容の基本を理解する。
思考・判断の観点 (K)	生活科で取り上げている児童と人・自然・社会・家庭などとのかかわりについて実践例を通して考え、その意義と内容を理解する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	授業テーマ	ガイダンス・子どもを取り巻く環境と生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	諸外国の子どもと我が国の子どもの生活や社会経験・自然体験について、調査結果をもとに理解し、小学校教育の中でできることを探る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料の演習問題を完成する。
	教室外学習の時間(分)	200
第2回	授業テーマ	幼児教育と小学校教育の接続について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児教育・小学校教育の制度・内容・子どもの学び方の特性を理解し、接続の重要性について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料の演習問題を完成する。
	教室外学習の時間(分)	120
第3回	授業テーマ	生活科創設の経緯と意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活科創設の経緯を理解するとともに、現在の子どもを取り巻く環境や学校教育における課題に即して、生活科の位置づけや意義について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	演習問題を完成させる。
	教室外学習の時間(分)	200
第4回	授業テーマ	学校と生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校内を探索することを通して得られた児童の気づきの質を高めることの意義と方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワークシートに記入する。また、友人のワークシートには、授業内容を踏まえた教師としてのコメントを記入する。
	教室外学習の時間(分)	200
第5回	授業テーマ	家庭と生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	昨今の家庭環境の変化と課題について把握しながら、家庭や地域に開かれた教育課程について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料の演習問題を完成する。
	教室外学習の時間(分)	200
第6回	授業テーマ	地域と生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校と地域の連携の重要性と児童にとっての意義について、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	大学周辺を踏査し、記録をとる。
	教室外学習の時間(分)	200
	授業テーマ	公共物や公共施設の利用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆ	児童館の見学を通して、地域と学校の連携や地域にある子ども

第7回	ﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	の居場所の実態を理解する。また、児童館の周囲の環境について踏査する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	児童館を見学した際の記録を作成する。
	教室外学習の時間(分)	200
第8回	授業テーマ	環境教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校教育課程における環境教育や総合的学習の時間について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料の演習問題を完成する。
	教室外学習の時間(分)	200
第9回	授業テーマ	季節の変化と生活と自然や物を使った遊び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童の自然体験活動の意義について理解し、学内において、児童向けの野外活動を体験しながら、身近な自然から豊かな体験と気づきが得られる学習内容について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワークシートに季節の移り変わりについて感じたことを「季節からの招待状」として作成する。
	教室外学習の時間(分)	200
第10回	授業テーマ	動植物の飼育・栽培
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童にとっての飼育栽培の意味、命の教育、食育について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	再生野菜の観察記録を完成する。
	教室外学習の時間(分)	200
第11回	授業テーマ	生活や出来事の交流
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校と地域の連携が必要な活動について計画を立て、指導案の作成について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワークシートを完成させ、友人のワークシートに教師としてのコメントを記入する。
	教室外学習の時間(分)	200
第12回	授業テーマ	子どもと事故、災害、安全教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校環境の安全対策の在り方について実例を交えながら理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布資料の演習問題を完成する。
	教室外学習の時間(分)	200
第13回	授業テーマ	子どもと情報化社会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校教育における外国につながる児童に関する諸問題に理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	グループ討議の結果を踏まえたワークシートを完成する。
	教室外学習の時間(分)	200
第14回	**授業テーマ**	自分自身の成長
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童が捉える自己評価、他者評価について理解し、児童に対する教師の評価について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ワークシートを完成させ、友人のワークシートに教師としてのコメントを記入する。
	教室外学習の時間(分)	200

学習計画注記

授業の進行状況等により変更する場合があります。

学生へのフィードバック方法

提出されたワークシート等はすべて確認し、返却する。また、学期末レポートは、仮提出をした学生に対して、本提出に向けた添削と助言をして返却する。

評価方法

提出物、学期末レポートの評価をすべて点数化して成績を付ける。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
ワークシート	○	○	○	○
学期末レポート	○	○		

評価割合

ワークシート40%、学期末レポート60%
ルーブリックに基づいて評価する。ルーブリックは授業内に提示する。

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない。適宜授業時に紹介する。

参考図書

小学校学習指導要領生活編、同解説書、環境教育指導資料(幼稚園、小学校編)他、適宜授業中に示す。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学を構成する 6 領域 のうち、「子どもの教育」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・感性が備わっている。

オフィスアワー

火曜日3限目

学生へのメッセージ

学習を進めていく中では疑問点を持つことは大切です。疑問・質問がある場合には、遠慮せずに申し出てください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学内及び学外の踏査を行う。また、学内において、自然と関わる演習を行う。
情報リテラシー教育	○	環境教育の実際について情報を収集し、レポート作成に活用する。
ICT活用	○	学内の踏査を通して発見したもの等を画像を用いて発表する。その際には、デジタルカメラやパソコン等を活用する。

講義コード	S02102601
講義名	音楽科研究
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P31406M21

学習計画

講義コード	S02102701
講義名	図画工作科研究
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P21407M21

学習計画

講義コード	S02102801
講義名	家庭科研究
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	こども教育学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	室矢 真弓	指定なし

ナンバリング

P11408M21

授業概要(教育目的)

小学校家庭科について、教育課程における位置付けや意義、目標等について理解し、実際の指導内容等について歴史的な側面を踏まえて学ぶ。また、学習指導要領を通して、現在、小学校で進められている家庭科教育の現状を把握し、これからの家庭科教育のあり方を視野に入れながら研究する。実際の講義にあたっては、①家庭科教育の変遷と今日的意義、②小学校家庭科における目標と内容、③家庭科における教材研究と授業展開、評価規準の活用、他教科との関連等について理論と実践を結び付けて学ぶ。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家庭科教育の意義と目的、果たす役割について理解できる
思考・判断の観点 (K)	家庭科教育が目指す視点をもとに思考・判断することができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	家庭科授業構想力と実践的指導に必要な資質を身に付けようとしている
技術・表現の観点 (A)	学習指導要領に基づき家庭科の学習指導計画を立てることができる

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション 家庭科教育の概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	これまで経験した家庭科授業をもとに、家庭科教育全体像をつかむ。 シラバス、評価及び評価方法（ルーブリックを含む）につい

第1回	育・ICT活用を含む)	て確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習指導要領や家庭科教科書に目を通し、学習内容を確認。家庭科教育の今日的意義を考える。
	教室外学習の時間(分)	200分
第2回	授業テーマ	家庭科教育の変遷と今日的意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科教育の歴史的変遷を把握し、家庭生活の社会的変化に伴う家庭科教育の今日的意義を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習内容の振り返り。学習指導要領に目を通す。
	教室外学習の時間(分)	200分
第3回	授業テーマ	小学校家庭科における目標と内容
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習指導要領に基づき、小学校家庭科の目標と内容を把握し、年間教育計画や学習指導案の内容、評価方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習指導要領の小学校家庭科の目標と内容読み込み。「家族・家庭生活」について小学校家庭科教科書に目を通す。
	教室外学習の時間(分)	200分
第4回	授業テーマ	教材研究と授業研究（１）「家族・家庭生活」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「家族・家庭生活」の目標・教材分析を通して指導内容を理解する。指導上の留意点や配慮事項について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「家族・家庭生活」について学習指導要領を見直す。「衣生活」について小学校家庭科教科書に目を通す
	教室外学習の時間(分)	200分
第5回	授業テーマ	教材研究と授業研究（２）「衣生活」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「衣生活」の目標・教材分析を通して指導内容を理解する。指導上の留意点や配慮事項について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「衣生活」について小学校家庭科教科書の教材分析の見直し。布製作に向けて方法を確認し準備する。
	教室外学習の時間(分)	200分
第6回	授業テーマ	生活を豊かにするための布を用いた製作
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	布を用いた製作をミシン縫い及び手縫いを実践する。小学校て行われている基礎的な裁縫の手順を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実践した「基礎的な縫い方」を復習する。
	教室外学習の時間(分)	200分
第7回	授業テーマ	「衣生活」の授業の実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「衣生活」布を用いた製作に関する授業研究を行い、具体的な指導法や配慮事項について理解する。
	教室外学習(予習・復	「衣生活」の授業研究の教科書該当箇所を再度確認し復習す

	習)の内容	る。「住生活」について小学校家庭科教科書に目を通す
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	教材研究と授業研究（３）「住生活」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「住生活」の目標・教材分析を通して指導内容を理解する。指導上の留意点や配慮事項について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「住生活」について学習指導要領を見直す。「食生活」について小学校家庭科教科書に目を通す
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	教材研究と授業研究（４）「食生活」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「食生活」の目標・教材分析を通して指導内容を理解する。指導上の留意点や配慮事項について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「食生活」について学習指導要領を見直す。「消費生活・環境」について小学校家庭科教科書に目を通す
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	教材研究と授業研究（５）「消費生活・環境」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「消費生活・環境」の目標・教材分析を通して指導内容を理解する。指導上の留意点や配慮事項について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「消費生活・環境」について学習指導要領を見直す。指導案作成に向けて構想を練る。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	指導案作成（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業実践例を参考に家庭科授業を具体的に考える。グループで意見交換を行い改善点を見出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまで学んだ授業の実例を参考に作成した家庭科指導案の改善点について確認する。模擬授業に向けて準備する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	指導案作成（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業を想定し、学習指導案を作成する。授業の流れを考え、実際の授業に必要なものを検討する。グループで意見交換を行いよりよい指導案にする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作成した指導案にあらたな改善点はないか、児童の立場になって考え、見直す。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	模擬授業の実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した指導案をもとに教師役・児童役に分かれ、模擬授業を行う。授業後、グループで協議を行い良かったところや改善点を分析する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の振り返り、指導案を見直す。
	教室外学習の時間	200分

	（分）	
第14回	**授業テーマ**	家庭科教育の展望
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習成果を振り返る。児童の実態を踏まえ、これからの家庭科教育の展望について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	全学習内容の復習
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

授業人数や授業の進捗状況によりスケジュールを変更する場合があります。

学生へのフィードバック方法

実施したレポート等については、内容を吟味して授業内で解説します。

評価方法

授業内提出物、学期末レポート、作成した学習指導案、授業への取り組みや発言等を総合的に評価します。
評価方法・評価基準は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについては授業内で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○	○	○
授業内提出物	○	○	○	○
発表、交流	○		○	○
授業への参加状況			○	

評価割合

レポート（30%）、授業内提出物（20%）学習指導案（20%）平常点（作品提出，発表・交流など授業参加状況）（30%）

参考図書

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 家庭科編 文部科学省 東洋館出版（文部科学省HPよりダウンロード可）
文部科学省検定小学校家庭科教科書（令和６年度版）２社のうち一つ
「新しい家庭５・６」東京書籍・「私たちの家庭科５・６」開隆堂
小学校家庭科教育法 建帛社
初等家庭科教育 ミネルヴァ社

ディプロマポリシーとの関連

【知】子どもの発達を踏まえた家庭科教育の進め方を理解することができる
【思】家庭科指導内容を通して、家族・地域・社会とのコミュニケーション能力を高めるよう意識することができる
【関】子どもをめぐる多様化する課題に関心をもち、家庭科の重要性を理解することができる
【技】家庭科教育における理論と実践の融合を図り、豊かな表現力、コミュニケーション能力を身に付けることができる

学生へのメッセージ

小学校の家庭科学習を楽しみながら学びましょう。家庭科は「五感」を働かせる学習です。
「見る、聴く、嗅ぐ、味わう、触る」ことで世界は広がります。豊かな生活に繋がります。授

業を創り、学ぶ楽しさを味わいながら、五感を磨き、学びを深めていくことを願っています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	小学校で現場での家庭科教育実践に基づいた授業者の心構えを介しながら、実践力を育む授業を目指します。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークや対話、発表、体験等を取り入れ他者との共同を通して学びを深めることを期待します。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	プレゼンテーション資料を活用し、分かりやすい授業に努めます。

講義コード	S02102901
講義名	体育科研究
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P21409M21

学習計画

講義コード	S02103001
講義名	外国語科研究
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	こども教育学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	山田 浩	指定なし

ナンバリング

P11410M21

授業概要(教育目的)

小学校における外国語活動・外国語の授業を行うために必要となる実践的な英語運用力と、外国語教育に係る背景的な知識を身に付ける。具体的には、授業場面で必要となる「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の力を身に付けること、他校種との連携を踏まえた英語、言語習得、異文化理解に関する知識を身に付けること、教育現場で直面しうる困難に対応するための思考力や判断力を養うこと、教師としての生き方や考え方を児童に伝えるための表現力を養うことを目標とする。
授業では、小学校における外国語教育に必要な英語表現と背景知識について講義を受けるだけでなく、自らの英語運用力に関する諸課題を発見し、調査や体験活動を通じて主体的に解決策を見出し、他者と互いに考えを表現し合うことで幅広い視点から考察する。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	外国語活動・外国語科の授業実践に必要な基本的英語運用力が身についている。
思考・判断の観点 (K)	外国語（英語）を指導する授業の在り方について自ら思考し、判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に英語運用力の向上に努め、他校種との連携や異文化理解などについて興味関心を持って学ぶことができる。
技術・表現の観点 (A)	基本的な語彙・表現、英文法、英語の四技能について学ぶことができる。

学習計画

外国語科研究

	授業テーマ	小・中・高等学校外国語科の概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	学習指導要領に基づいて、日本の小学校における外国語教育の歴史を振

第1回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	り返るとともに、小学校から高等学校までの外国語教育の目標について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に提示された課題学習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	語彙・表現
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校外国語教育において必要な語彙・表現について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に提示された課題学習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	リスニング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校外国語教育における「聞くこと」の指導について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に提示された課題学習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	スピーキング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校外国語教育における「話すこと」の指導について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に提示された課題学習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	リーディング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校外国語教育における「読むこと」の指導について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に提示された課題学習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	ライティング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校外国語教育における「書くこと」の指導について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に提示された課題学習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	中間のまとめと振り返り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ここまでに学習した内容を確認し、自分の学習を振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に提示された課題学習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	授業テーマ	コミュニケーション活動の理論と意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校外国語教育におけるコミュニケーション活動の理念と方法について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に提示された課題学習をする。

	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	コミュニケーション活動の実践（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の中で教師が外国語を使用する場面を想定してコミュニケーション活動を実践し、教師による外国語使用の目的について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に提示された課題学習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	コミュニケーション活動の実践（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の中で教師が外国語を使用する場面を想定してコミュニケーション活動を実践し、教師による外国語使用の目的について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に提示された課題学習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	コミュニケーション活動の実践（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の中で教師が外国語を使用する場面を想定してコミュニケーション活動を実践し、教師による外国語使用の目的について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に提示された課題学習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	コミュニケーション活動の実践（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の中で教師が外国語を使用する場面を想定してコミュニケーション活動を実践し、教師による外国語使用の目的について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に提示された課題学習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	コミュニケーション活動の実践（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の中で教師が外国語を使用する場面を想定してコミュニケーション活動を実践し、教師による外国語使用の目的について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に提示された課題学習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	コミュニケーション活動の反省と振り返り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習指導要領の観点から自分自身および他の学生によるコミュニケーション活動を振り返り、よりよい授業に向けた改善点について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業中に提示された課題学習をする。
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

・詳細な内容は、第１回目の授業で提示します。
・毎回の授業中に、次の授業までにこなしておく課題を提示しますので、それに取り組んでください。

学生へのフィードバック方法

提出された振り返りシートなどに記入されたコメントに対して、次の授業時にフィードバックをする。

評価方法

・平常点、レポート、コミュニケーション活動
・ルーブリックは、第１回目の授業で提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
レポート		○	○	
コミュニケーション活動	○	○	○	○

評価割合

(1) 平常点（40%）
(2) レポート（20%）
(3) コミュニケーション活動（40%）

使用教科書名(ISBN番号)

・小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編（平成29年） 文部科学省
（https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_011.pdf）

参考図書

・小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm）文部科学省
・We Can! 1 & We Can! 2（外国語教科書） 文部科学省
・Let's Try! 1 & Let's Try 2（外国語活動資料） 文部科学省

ディプロマポリシーとの関連

・こどもを取り巻く社会における課題の解決に向けて、論理的・多角的に考えることができる。
・地域・社会に主体的に参画・貢献できる協働力・共感力を身に付けている。

学生へのメッセージ

教師自身が英語を使ってコミュニケーションを楽しんでいる姿を児童に見せることが、効果的な授業の第一歩になります。他の学生と協力しながら、小学校での外国語教育に関わる理論と実践を学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自らが体験する。自分の考えを他者に伝える。グループ内で協働作業をして、目標に達する。
情報リテラシー教育	○	必要な情報を検索する。情報モラルに関して確認する。伝えるためのテクニックを取得する。
ICT活用	○	必要に応じて、WEB会議ツール等を利用する。

講義コード	S02103101
講義名	教育原理
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P21501M21

学習計画

講義コード	S02103201
講義名	教育心理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	こども教育学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	北見 由奈	指定なし

ナンバリング

P11502M21

授業概要(教育目的)

「教育心理学」は、教育に関する諸事象について心理学的に探究し、教育効果を高めるのに役立つような心理的知見と心理的技術を提供しようとする学問である。
本授業では、教育心理学に関する諸理論を理解するとともに、現代の児童生徒が抱える心理的課題や教師に求められる教育的援助について学習する。具体的には、発達に関する心理、学習に関する心理、適応に関する心理について理解を深め、教師として効果的な教育が行えるよう、その基礎的な知識と技能を身につける。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．教育心理学の理論を理解する。 ２．教育にまつわる事象が教育心理学の理論によってどのように説明できるのかを理解する。
思考・判断の観点 (K)	１．教育心理学の理論を、教育現場において生かそうとすることができる。 ２．自身の疑問を教育心理学の知識を用いて解決しようとすることができる。 ３．教育的な問題を教育心理学の知識を用いて解決しようとすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教育現場での日常にある事象から、教育心理学的なテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点 (A)	教育現場における問題、自身や身近な人の行動、及び社会現象に関して、教育心理学で得た知識に基づいて説明するなど、教育心理学と教育現場のつながりを発信することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	イントロダクション―心理学と教育、人の発達の関わり―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンスとして、授業の進め方、スケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。 その上で、教育心理学で扱う内容を概観し、これから学ぶ学問領域は何かを知る。 この授業ではgoogle classroomを使用するため、その使い方についても簡単に説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	発達と教育１――発達課題と身体的発達――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発達と教育について学ぶ。発達の定義、発達課題と、発達の身体的側面について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「発達」に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分が関心のある分野と教育心理学のつながりを考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	発達と教育２――運動機能の発達と発達の普遍性と可変性―― 発達と教育３――脳と神経の発達――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動機能の発達について知り、発達の普遍的な部分と、時代や地域、文化によって可変的な部分について理解する。 発達の内、脳と神経の発達について知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	発達と教育４――自我の発達――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自我の発達について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	発達と教育５――自我の防衛機制――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自我の防衛機制を理解し、日常場面、教育場面においてどのような状況が想定されるか考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	発達と教育６――社会性の発達――
	(	社会性の発達を理解する。

第6回	学習内容 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第7回	授業テーマ	発達と教育７――認知の発達――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	認知の発達について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第8回	授業テーマ	学習を支えるメカニズム１――動機づけ――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習理論について知り、動機づけとは何かを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第9回	授業テーマ	学習を支えるメカニズム２――記憶――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	記憶のメカニズムを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第10回	授業テーマ	学習を支えるメカニズム３――自己効力感――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己効力感を理解し、教育現場でどのように応用できるかを考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第11回	授業テーマ	学習に関する理論１――条件づけ――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	条件づけを理解し、教育現場でどのように応用できるかを考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
	授業テーマ	学習に関する理論２――観察学習と技能学習、教育における評価――

第12回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	観察学習と技能学習について理解し、教育現場でどのように応用できるか考える。評価とは何かを知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	障害と教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害とは何か、合理的配慮とな何かを理解し、特別支援教育やインクルーシブ教育について知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	総括と学期末試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業前半の50分では、授業のまとめと振り返りを行う。授業後半の50分では、学期末試験を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分

学生へのフィードバック方法

・授業開始時に実施する「出席確認（自己チェック）」については、その都度、教員との間で結果を共有する。
・「ふりかえり」については、授業終了後に教員が確認し、原則として全体にフィードバックを行う。

評価方法

授業への姿勢（40%）、および学期末試験の結果（60%）をもとに総合的に判断する。

＜授業への姿勢＞
自己チェックへの取り組みとふりかえりへの取り組みから総合的に判断。
・自己チェック 20%
→ 出席確認を兼ねる。前の回の内容に関する課題への回答を、毎回の講義のはじめに求める。
→ 正答率ではなく、時間内にきちんと提出できているかどうかを評価の対象とする。
・ふりかえり 20%
→ 受講の後で提示される課題に回答を求める。
→ 期限内にきちんと提出できているかどうかを評価の対象とする。

なお、この科目ではルーブリックに基づく成績評価を行う。また、ルーブリックについてはgoogle classroomまたは授業内にて提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
自己チェック	○		○	
ふりかえり	○	○	○	○
学期末試験	○	○		

評価割合

授業への姿勢（40%）、学期末試験の結果（60%）

使用教科書名(ISBN番号)

原則としてgoogle classroomを通して資料を配布する。

参考図書

お勧めの参考書としては以下があります。教科書ではありません。
1）桜井茂男（編） 「改訂版 たのしく学べる最新教育心理学: 教職に関わるすべての人に」 図書文化社 2017，ISBN: 9784810076905
2）柏崎秀子（編） 「教職ベーシック 発達・学習の心理学」 北樹書房 2017（改訂版），ISBN: 9784779305269
その他参考資料は講義の際に適宜紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「教育」「学校」という観点から人間を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学的な知識を得る。
【思考・判断】心理学的な思考をもって「教育」を理解し、その現代社会においてあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々、特に学校現場のために働く能力を、教育の心理学への知識に基づく関心によって得る。
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会、学校の中に課題を発見し、教育心理学的な思考や教育心理学の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。

オフィスアワー

前期：月曜日３限（13：20～15：00） 町田キャンパス1608室

学生へのメッセージ

・質問や問題提起をgoogle classroomのコメント機能を使って共有することも推奨。
・展開によって生きた流れを優先するため、内容を変更することもある。
・教育に関する新聞やニュースには必ず目を通すように心がけること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	google classroomを、自己チェック、授業内容の動画、ふりかえり、配布資料のアーカイブなどで活用する。

講義コード	S02103301
講義名	ＩＣＴ活用の理論と実践
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	こども教育学科・2年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P21503M21

授業概要(教育目的)

ICT（情報通信技術）を活用した教育の在り方について、社会的な背景を踏まえ、その意義や理論への理解を深めることを目的とする。また、教育現場におけるICT 活用の実際、学習指導、園務・校務の推進、ICT環境の整備、情報モラルの育成といった観点を取り扱う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・社会的背景の変化を踏まえ、現在のICT活用の意義と在り方を説明できる。 ・個別最適な学びと協働的な学びにどうICTを活用するか説明できる。 ・特別の支援を必要とする児童へのICT活用の意義、学校におけるICT環境の整備の在り方を説明できる。 ・各科目等に応じたICT活用について説明できる。 ・教育データの活用と情報セキュリティの重要性を説明できる。 ・遠隔・オンライン授業の意義、統合型校務支援システムを活用した校務について説明できる。 ・各教科等を通して横断的に育成する情報活用能力（情報モラルを含む）について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	・学習場面に応じた、また各教科等の特性に応じたICTを活用した指導法を考えることができる。 ・児童にデジタルデバイスの基本的な操作を身に付けさせるための指導法を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・自ら積極的にデジタルデバイスを活用しようとする。
技術・表現の観点 (A)	・ICTを活用した基礎的な指導法を身に付けている。 ・学校現場で用いられるデジタルデバイスの基本的な操作を身に付けている。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス、ICT活用の意義とあり方
	学習内容(ア	・履修方法や評価について

第1回	ｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・これからの教育に必要なICT活用とは何なのか、その意義とあり方について学ぶ。 ・グループワーク：教科書のいくつかの章をグループに割り当てる。それぞれのグループは、自分が担当する章を読み込み、関連する具体例や補足の情報などを調べた上で、スライドに内容をまとめ発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第1章を読み、「学びの保障」「デジタルデバイド」の意味について整理しておくこと。 復習：配布資料等を読み返し、現在の教育現場のICT活用状況について理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	情報モラルの育成について知ろう
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・子ども達が置かれているデジタル環境（デジタルメディア）について理解し、それらのデジタル環境が子どもに与え得る様々なリスクについて学ぶ。 ・情報モラルについて、動画などを用いながら、具体的に学ぶ。さらに、身近な話題から実際にどのようなことに気を付けるべきかを検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：デジタル環境がもたらすリスクにはどのようなものがあるだろうか。各自思いつくリスクを書き出しておく。 復習：情報モラルについて、身近な話題や自分自身の経験と関連付けながら何に気を付けるべきか整理する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	動画編集技術を身に付けよう（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育や教育現場では、ICT活用が拡大するに伴い、保育者や教師が動画編集を行う機会が増えている。さらに、子ども自身が園や学校、行事や活動の紹介をするための動画を作成する機会も増えている。そこで、「大学を紹介する」というテーマでグループ毎に動画を撮影し編集を行う。本時では、撮影計画と動画構成を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：YouTubeなどで子どもや園・学校が作成した様々な動画を視聴し、見やすさなどポイントを書き出しておく。 復習：撮影した計画について見返しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	動画編集技術を身に付けよう（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本時ではグループ毎に動画を撮影する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：撮影場所を確認しておく。役割分担や持ち物の確認をする。 復習：撮影した動画を確認し、必要に応じて構成を修正する。
	教室外学習の時間	190分

	（分）	
第5回	**授業テーマ**	動画編集技術を身に付けよう（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本時では前時で撮影した動画を編集し、YouTube用（横型、長い）とインスタリール用（縦型、短い）を制作する。グループ毎に制作した動画に対し、相互評価を行うことにより、動画編集技術の向上を図る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：前時で撮影した動画を確認する。 復習：他のグループが作成した動画を見て、相互評価を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	園務、校務への活用について調べよう
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・そもそも校務・園務とは何かということから、現在の教育現場の課題とされている長時間労働などの問題も踏まえ、校務・園務におけるICT活用がもたらす意義について理解を深める。 ・統合型校務・園務支援システムの導入などICT環境整備の方法について、実際のシステムを複数調べ比較検討する。また、自分ならどのようなシステムが欲しいか考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第5章第7章を読み、校務・園務には何があるのかを整理しておく。 復習：文部科学省「校務支援システム導入・運用の手引き」や埼玉県「園務改善のための ICT化事例集」も参考にしながら、実際の導入事例について調べてみよう。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	お便りをつくろう
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・園や学校では、保護者向けのお便りを作る機会が多くある。本時では、お便りの種類や記載すべき内容について学び、実際に作成する。 ・保護者向けのお便りは、これまで大学で行ってきたレポート作成などとは異なる文書作成技術が必要とされる。デザインやレイアウト面の工夫、必要事項の見せ方、文書の体裁など、何種類かのお便りを比較しながら、実際に作成することでその技術を習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：園や学校ではどのような便りが保護者向けに作られているか調べる。 復習：文書の体裁について復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	授業や遊びへの活用事例を調べよう（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在、授業や遊びの中へ急速にICTが活用されるようになっている。そこで、グループ毎に活用事例を調べ、発表することで様々な活用方法への理解を深める。
	教室外学習(予習・	予習：教科書第3章、第6章を読んでおく。

	復習)の内容	復習：グループで発表練習を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	授業や遊びへの活用事例を調べよう（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在、授業や遊びの中へ急速にICTが活用されるようになっている。そこで、グループ毎に活用事例を調べ、発表することで様々な活用方法への理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第3章と第6章を読んでおく。 復習：各グループの発表内容を振り返る。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	個に応じた学びに適したICT活用を学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近年、個に応じた学びに対応した様々なアプリが開発されている。それらのアプリを調べ、個に応じた学びにICTを活用する際の利点や課題について整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第2章と第3章を読んでおく。 復習：他の人が調べたアプリの中で自分が知らないものがあれば、それらのアプリを確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	ICTを活用した指導法を考える（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教科等横断的な視点で育成する情報活用能力について理解を深める。また、様々な事例から、各教科等や遊びの特性に応じたICTの活用方法とデジタルデバイスの基本的な操作に関する指導法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第3章、第4章を読んでおくこと。 復習：授業で取り上げた指導法以外に、どの様な活用方法があるか考えてみよう。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	ICTを活用した指導法を考える（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	前時で学んだことを踏まえながら、ICT活用を含む指導案もしくは日案を作成する。グループに分かれて、指導案の内容を発表し、その内容について討議する。

第12回	用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：前時の資料を振り返り、指導案の内容を検討しておくこと。 復習：授業内の討議の内容を受けて、自分の指導案を修正し提出する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	特別支援教育におけるICTの活用(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害のある児童生徒の生活や学習を支えるためのツールとして、ICTは重要な役割を果たす。本時は特別支援学校に在籍する児童生徒の支援ツールとしての活用方法を紹介し、障害による困難を改善したり、コミュニケーションや創造的な活動を支援したりするためのICT活用について紹介する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第8章を読み、以下のことを整理しておくこと ・特別支援教育の対象となる各障害の特性について ・「アクセシビリティ」「アシスティブ テクノロジー」「ユニバーサルデザイン」の意味について 復習：障害のある児童生徒に対するICTを用いた教育実践について、「魔法のプロジェクト」のサイト内「アプリ紹介」を閲覧すること。https://maho-prj.org/app/
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	特別支援教育におけるICTの活用(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害のある児童生徒の生活や学習を支えるためのツールとして、ICTは重要な役割を果たす。本時は通常学級に在籍する児童生徒の支援ツールとしての活用方法を紹介する。また、デジタル化が進むこれからの社会を見据え、障害のある方の社会参加を促進するために解決すべき課題について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第8章を読み、以下のことを整理しておくこと ・特別支援教育の対象となる各障害の特性について ・「アクセシビリティ」「アシスティブ テクノロジー」「ユニバーサルデザイン」の意味について 復習：障害のある児童生徒に対するICTを用いた教育実践について、「魔法のプロジェクト」のサイト内「アプリ紹介」を閲覧すること。https://maho-prj.org/app/
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

※集中講義の日程によってスケジュールが変更になる場合があります。
※授業では毎回PCと教科書を持参してください。
※授業担当者：第1回～第12回（末松）、第13・14回（原田）

学生へのフィードバック方法

授業で課した課題・ワークシート等については、コメントを付けて返却するなど、適宜、授業担当教員からフィードバックする。

評価方法

平常点（授業内のグループワークや発表等への参加態度、予習復習などの取り組み状況）、指導案・日案、最終レポートで評価する。

・ルーブリックに基づく成績評価である。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	
指導案・日案	○	○		○
最終レポート	○	○		

評価割合

平常点35%、指導案25%、最終レポート40%

使用教科書名(ISBN番号)

末松加奈（編）「やさしく学ぶ教職課程 幼児と児童のための教育とICT活用」（学文社）ISBN：978-4-7620-3206-6

参考図書

参考資料については授業内で都度提示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】
これからのSociety5.0時代に向けて、情報通信技術（ICT）がもたらす意義とリスクを豊かな知識と深い思考をもって理解し、教育におけるICT活用のあるべき姿を的確に判断して提案できる能力が身についている。

オフィスアワー

末松 水曜3限 研究室1501

学生へのメッセージ

・自分から積極的にICTを活用しましょう。
・毎回予習と復習を記載していますので、しっかりと取り組んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	適宜、グループワークやグループディスカッションを取り入れる。
情報リテラシー教育	○	子どもを取り巻くデジタル環境の変化を含め、様々なリスクとそれらへの対応方法について学ぶ。
ICT活用		

講義コード	S02103401
講義名	教師・保育者論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P21504M21

学習計画

講義コード	S02103501
講義名	障害の基礎的理解
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	こども教育学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	岡部 一郎	指定なし

ナンバリング

P11601M21

授業概要(教育目的)

障害者に対する基礎的理解を得るために、3つの事に焦点を当てた講義を実践する。第1に特別支援教育の概要や基礎的理念の理解を図る。第2に個別障害に対する基礎的理解を図る。第3に障害の擬似体験から障害に対する実践的な理解を目指す。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	障害種による基本的知識の理解が十分である。
思考・判断の観点 (K)	障害による生活や学習上の困難さを説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	疑似体験活動後のディスカッションに協力的態度で取り組み事ができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

障害の基礎的理解

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーションと特別支援教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オリエンテーションとして、授業計画及び学習目標を提示する。また、現場経験を踏まえて特別支援教育の魅力について触れる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスを参照し、全講義の流れを確認しておく事。

	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	特別支援教育の理念
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別支援教育の理念について触れるとともに、教育現場の様子を資料から学ぶことで、実践に向けた理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分が考える「特別支援教育」のイメージや定義について、ノートに記載しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	特別支援教育に関連する障害の概念
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別支援教育に関連が深い障害の概念、差別・平等、ノーマライゼーション、インクルージョンについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、授業で取り上げた用語について整理し、各概念をノートにまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	障害体験・支援に向けた基礎知識
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	車椅子や白状を活用する身体障害・視覚障害者の方を支援する方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	視覚障害・身体障害者の方の生活や必要な支援について調べておく事。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	視覚障害（弱視・全盲）と白杖体験 & 肢体不自由と車椅子体験1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パラスポーツを通じて視覚障害と身体障害の疑似体験及び支援を行い、視覚障害や身体障害を持つ方々の困難さや支援に対する理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、疑似体験した際の困難や支援の体験についてにまとめておく事。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	視覚障害（弱視・全盲）と白杖体験 & 肢体不自由と車椅子体験2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パラスポーツを通じて視覚障害と身体障害の疑似体験及び支援を行い、視覚障害や身体障害を持つ方々の困難さや支援に対する理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、疑似体験した際の困難や支援の体験についてにまとめ、発表の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	視覚障害（弱視・全盲）と白杖体験 & 肢体不自由と車椅子体験3
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	パラスポーツを通じて視覚障害と身体障害の疑似体験及び支援を行い、視覚障害や身体障害を持つ方々の困難さや支援に対する理解を発表し授業の中で共有する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、発表を通じて理解できたことや疑問などをまとめておく事。

	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	障害者の理解と支援「ICIDHとICF」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	際障害分類（ICIDH）の歴史的背景と課題ついて理解するとともに、国際生活機能分類（ICF）による課題解決の視点や障害に対する捉えを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、ICFのモデルを活用した事例を一つノートに書くこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	障害の基礎的理解①「知的障害者」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	知的障害のある人の心理機能について理解する。特に、知覚、認知、学習、行動調整の特性を中心に理解する。また、事例から知的障害のある人の教育について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	知的障害のある児童生徒の特徴、及び困難と支援の方法を整理しておく事。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	障害の基礎的理解①「身体障害:肢体不自由」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害の基礎的理解として、身体障害者の定義、肢体不自由について理解する。また、肢体不自由のある人の教育について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、各障害についてノートに整理すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	障害の基礎的理解①「身体障害:視覚, 聴覚, 言語、平衡機能障害」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害の基礎的理解として、視覚障害、聴覚障害、言語障害、平衡機能の障害について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、各障害についてノートに整理すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	障害の基礎的理解①「身体障害者: 内部障害、重度重複障害」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害の基礎的理解として内部障害について理解する。また、重度重複障害について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後、各障害についてノートに整理すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	障害の基礎的理解「発達障害①」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害、学習障害について、その感覚や行動等の特性について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発達障害を持つ児童生徒の特徴、及び困難と支援の方法を整理しておく事。
	教室外学習の時間（分）	200分

第14回	授業テーマ	障害の基礎的理解「発達障害②」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害、学習障害について、その感覚や行動等の特性について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発達障害を持つ児童生徒の特徴、及び困難と支援の方法を整理しておく事。
	教室外学習の時間(分)	200分
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間(分)	

学習計画注記

・履修状況や授業の進捗具合によりスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

・授業後のまとめの時間に質問を受け付け、その質問に回答する。

評価方法

・毎回の授業後に出席を兼ねたリフレクションペーパーの記載を求める。
・リフレクションペーパーの内容、擬似体験とゲストスピーカーの講演後に提出する小レポート、及び期末レポート（もしくは定期試験）により評価する。
・学外実習等の止むを得ない事情により欠席した場合には、個別の欠席課題等により評価を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業・疑似体験		○	○	
レポート・リフレクションペーパ	○	○	○	
期末レポート(或いは定期試験)	○	○		

評価割合

リフレクションペーパーの内容（15%）、小レポート(25%)、期末レポート(或いは期末試験)(60%)
30分未満までの入室までは「遅刻」、30分以後の入室は「欠席」とします（理由ある遅刻を除く）。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】特別な支援ニーズを有する子どもの専門的、基礎的知識が修得できている。
【思考・判断】家族・地域・社会との繋がりの観点から、共生社会に向けた障害理解について主体的に考えられる。
【関心・意欲・態度】障害のある子どもの立場から、生活、学習上の困難さを理解しようとする。

学生へのメッセージ

社会環境の変化や価値観の多様化に伴い、子どもの支援ニーズも多様化しています。保育や教育の現場では、多様な支援ニーズに対応するための専門的知識や技能が求められています。本講で「障害」の基礎的事項について学び、「障害」について主体的に考えて欲しいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、主に３つの実務経験を有している。 ①特別支援学校教諭、肢体不自由、聴覚障害、重複障害のある児童生徒に対する教育支援。②一般小学校、特別支援学級教諭：知的障害、発達障害のある児童への教育支援。③一般小学校、管理職(校長・副校長)及び通級指拳導教室設置校、管理職。
アクティブ・ラーニング	○	講義では障害の疑似体験ツールを活用した体験学習を取り入れて、それら経験に基づくディスカッションからアクティブラーニングを実践する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	特別支援教育における有用なICT機器の活用方法について紹介する。

講義コード	S02103601
講義名	特別支援教育総論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	こども教育学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	江田 裕介	指定なし

ナンバリング

P11602M21

授業概要(教育目的)

特別支援教育は、障害のある児童や、発達につまずきや偏りがある児童、その他の特別な教育ニーズを有する児童を対象として、その個人差に応じた支援を行うことで学習や生活の困難を補い、児童の自立を図るために必要な知識や技能を提供するものです。しかし、特別支援教育の目的の根本は、障害のない児童の教育と何ら変わるものではありません。同じ教育の目的を達成するために、そのプロセスにおいて特別な配慮や支援をより丁寧に行っていく教育が、特別支援教育の本質であるといえます。
本講義では、「障害とは何か？」という素朴な疑問からスタートして、障害の概念の歴史的な変遷や、現代の国際社会における障害の定義へと学びを進めていきます。また、障害者の人権や教育保障に関わる国内法規や国際条約を概観し、特別支援教育をめぐる現代の課題について考えます。知的障害、肢体不自由、病弱、視覚障害、聴覚障害、重度重複障害それぞれの障害に応じた教育の歴史と、その教育支援に必要となる基本的な臨床的知識を提供します。加えて海外の特別支援教育を紹介します。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	知的障害、肢体不自由、病弱、視覚障害、聴覚障害、重度重複障害それぞれの障害に応じた教育の歴史を理解し、その教育支援に必要となる基本的な臨床的知識を知る。
思考・判断の観点 (K)	特別支援教育をめぐる現代の課題について考える。
関心・意欲・態度の	特別支援教育における障害種別の教育活動への関心を深め、教職への意識を高める。

観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	1障害種ごとの特徴的な教育内容・方法を、他者に説明することができる。

学習計画

特別支援教育総論

第1回	**授業テーマ**	イントロダクション「障害とは何か？」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ＷＨＯ（世界保健機構）のＩＣＦ（国際生活機能分類）について学ぶ。「障害とは何か？」についてディスカッションを通じて考えながら、現在の国際社会における障害の概念定義を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ＩＣＦ（国際生活機能分類）について調べ、学を深めてください・ 【参考例】 厚生労働省ホームページ 「国際生活機能分類－国際障害分類改訂版－」（日本語版） https://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0805-1.html
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	障害者の人権と教育保障
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代の日本の教育法規と障害者基本法、国際連合の障害者の権利に関する条約について学び、障害のある人の人権と教育の保障がどのように図られているかを知る。そのキーワードとして「合理的配慮」「アクセシビリティ」「バリアフリー」の意義について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・「学校教育法」における特別支援教育に関する事項を調べてみましょう。 ・「障害者基本法」と国際連合の「障害者の権利に関する条約」について調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	肢体不自由の理解と教育支援（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	肢体不自由者に対する教育の歴史を概観するとともに、その教育支援に必要となる基本的な知識を学ぶ。本時は、肢体不自由教育の時代的な変遷を概観する。また、車椅子の操作と介助を体験的に学び、支援の在り方について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	パラリンピックの車椅子競技など、肢体不自由者の活躍を調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	肢体不自由の理解と教育支援（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	重度の肢体不自由者における「自立」と「自律」をどのように考えるか、ディスカッションを通じて考える。また、肢体不自由者の教育における医療との連携や、学校における医療的ケアなどについて学び、現在の学校教育の課題について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・「自立」とはどのような状態を言うのか？ 自分はどの程度自立しているかを考え、ノート等に記録して授業に臨んでください。 ・授業後、その考え方がどのように変化したかを記して、考えをまとめ、深めてください。

	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	視覚障害の理解と教育支援（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	古くは日本の中世の当道座から始まる、日本独特の視覚障害者の教育や職業訓練の歴史を概観する。また、点字と歩行訓練の体験的な学習を通じて、教育支援の基本的な心構えについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	点字と視覚障害者の白杖歩行について調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	視覚障害の理解と教育支援（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	視覚のはたらきについて学びながら、障害の程度や発生の時期による課題を考え、盲人、弱視者の教育支援に必要となる基本的な知識を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	視力検査に用いられるランドルト環とその利用の歴史、色覚検査と色覚障害による資格制限などについて調べてみましょう。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	聴覚障害の理解とその支援（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	聴覚障害者の教育の歴史を概観するとともに、ろう学校の教育の動画を視聴し、口話法（聴覚口話法）と手話、人工内耳等の支援方法についてディスカッションを通じて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	口話法、手話、人工内耳について、それぞれ調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	聴覚障害の理解とその支援（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	手話の歴史と、聴覚障害者の教育における方法論の変遷について考える。また、手話と指文字の体験的な学習を通じて、教育支援に必要な心構えについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指文字を調べ、自分の名前を指文字で綴れるようになりましょう。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	知的障害の理解と教育支援（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	知的障害をめぐる概念定義や診断基準の変遷、及び教育的な処遇の歴史について学び、その人権と教育保障について考える。

	教室外学習(予習・復習)の内容	知的障害の福祉手帳が発布される条件について調べてみましょう。知能や知能検査、及び「適応行動」の意味などを調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	知的障害の理解と教育支援（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	知的障害者の進路とキャリア教育について学ぶとともに、現代の社会生活における支援の課題と「生きる力」について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特別支援学校高等部の卒業生の進路について調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	重度重複障害の理解と教育支援（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別支援教育の対象となる児童の障害が重度化、重複化する傾向について、第二次大戦の前後から現代までの変遷を学ぶとともに、その要因について考える。また対象者の実態の変化にともなう、教育課題の変化について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特別支援学校における重複障害の学級に在籍する児童生徒の人数変化について調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	重度重複障害の理解と教育支援（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ＩＣＴの技術的な発展が障害者の教育にもたらす変化を知る。重度重複障害を有する児童に対する教育の方法について、特にアシスティブテクノロジーの活用から考える。また「情報処理機器アクセシビリティ指針」等、こうした変化の背景にある制度的な変化について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「情報処理機器アクセシビリティ指針」を調べ、それが自分が利用しているコンピュータやスマートフォンにどのように反映しているか確かめてみましょう。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	海外の特別支援教育（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	東南アジア、特にベトナムにおける特別支援教育と、児童の医療、福祉について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ベトナムについて調べておきましょう。特に日本との関係に注目して調べ、考えたことを記録してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	海外の特別支援教育（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	アメリカ合衆国、特に中西部のネブラスカ州における特別支援教育

第14回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	と、児童の医療、福祉について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アメリカのネブラスカ州について調べてみましょう。また、アメリカの特別支援教育で用いられるＩＥＰ（個別教育計画）について調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

・授業毎に提出するコメントカードは、内容に質問が含まれるときは次回の授業の冒頭で取り上げて答える。また、学習内容の振り返りのために、教員の側でいくつかピックアップして意見を紹介する。コメントカードは、記載内容の紹介を授業で行うことの可否について、カードのチェック欄で学生自身が選択することができる。

評価方法

・授業時数の内、実習等の特別な事由による欠席を除き、３分の２以上を出席した者を評価の対象とする。
・評価の方法は、①期末レポートと、②ディスカッションへの参加状況、④各授業でのコメントカードの提出を総合して採点を行う。①に関しては授業内でルーブリック評価表を配布する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末レポート	○	○		○
ディスカッション	○	○	○	○
コメントカードコメントカード	○		○	

評価割合

期末レポート(80%)、ディスカッション（10%）、コメントカード（10%）

使用教科書名(ISBN番号)

各授業でプリント教材を配布する。またはオンライン・コンテンツを共有する。

参考図書

適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】知的障害、肢体不自由、病弱、視覚障害、聴覚障害、重度重複障害それぞれの障害に応じた教育の歴史を理解し、その教育支援に必要となる基本的な臨床的知識を知る。
【思考・判断】特別支援教育をめぐる現代の課題について考える。
【関心・意欲・態度】特別支援教育における障害種別の教育活動への関心を深め、教職への意識を高める。
【技術・表現】1障害種ごとの特徴的な教育内容・方法を、他者に説明することができる。

オフィスアワー

前期：月曜3限（江田研究室）、後期：金曜4限（江田研究室）
事前に必ずメールなどでアポイントメントをとってください。

学生へのメッセージ

障害のある児童の教育に対する理解は、ふだん当たり前だと思っていたことへの疑問から始ま

ります。すなわち理解が進むほど、疑問が増えてきます。「複雑でよく分からない」と感じたとしたら、それはむしろ自分の認識が深まっている証だとも言えるでしょう。そうした疑問を、好奇心と学びの意欲につなげてくれることを期待しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	指導教員は重度障害のある児童の教育臨床に16年間従事した経験を有する。
アクティブ・ラーニング	○	学生どうしでディスカッションを行う機会を設ける。
情報リテラシー教育	○	個人情報保護及び個人情報流出防止等に関する法令等を説明し人権尊重に結びつけた指導をする。
ICT活用	○	障害のある児童の学習とコミュニケーションを支援するＩＣＴの活用について学ぶ。

講義コード	S02103701
講義名	知的障害者の心理・生理・病理
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	こども教育学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	原田 晋吾	指定なし
非常勤講師	飯野 彰人	指定なし

ナンバリング

P11603M21

授業概要(教育目的)

知的障害の定義、診断、発生要因等の病理的特徴と、学習、記憶、認知、知覚等の心理的特徴から障害特性等の基礎的な知識を取り上げる。知的障害児者が抱える社会生活上の課題等について先行研究や事例を取り上げながら、支援する上で重要な点を解説する。

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・知的障害に関する諸側面を、医学的、病理学的な観点から説明することができる。 ・知的障害のある子どもの心理的特性について、定型発達児と異なる点を解説できる。 ・知的障害のある子どもにみられる疾患にはどのようなものがあるか説明できる。
思考・判断の観点 (K)	・知的障害の心理的特性について説明することができ、生活上の困難を指摘したり、特性に合わせた指導支援のあり方を提案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・授業の予習（事前学習）で調べたことをまとめる。 ・授業内で取り上げた障害について要点を整理し、毎回の授業後に記述する。 ・授業内で行う疑似体験やグループ討議等で、積極的に発言する。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

知的障害者の心理・生理・病理

第1回	**授業テーマ**	授業ガイダンス 知的障害の基礎知識
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・知的障害の定義に関する歴史的変遷。 ・現在の知的障害（知的能力障害）の診断基準。 ・知的障害の発生要因と発生頻度。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）厚生労働省のサイト（e-ヘルスネット）で「知的障害（精神遅滞）」について調べ、要点をまとめておく。 （復習）知的障害の診断基準について整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	**授業テーマ**	知的障害者の知的機能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・知的障害の診断基準の１つである「知的機能」という概念について。 ・「知的機能の制約」とはどのような状態を指すか。 ・知能指数(IQ)、生活年齢(CA)、精神年齢(MA)について。 ・知能指数(IQ)の観点から定型発達と知的障害について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）第1回で学習した「知的障害の診断基準」を復習する。インターネット等で「正規分布」について調べ、簡単な図とそれが示す意味を知る。 （復習）知的機能の制約によって生じる生活上の困難について考える。知能指数(IQ)の分布について説明できるようにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	知的機能の評価法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・知能指数(IQ)を評価するための心理検査（田中ビネー式知能検査V・WISC-IV）の概要 ・知能指数の算出方法 ・知的障害者の知能指数(IQ)を測定することの意味について
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）第２回で学習した「知能指数(IQ)」を復習する。 （復習）知的障害児が社会生活を送る上で、心理検査結果をどのように活用するとよいか説明できるようにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	**授業テーマ**	知的障害者の適応機能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・知的障害の診断基準の１つである「適応機能」という概念について。 ・「適応機能の制約」とはどのような状態を指すか。 ・社会生活、日常生活を支えるための指導支援
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）第１回で学習した「知的障害の診断基準」を復習する。 （復習）適応機能の下位分類について整理する。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	適応機能の評価法と分類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・適応機能を評価するための評価尺度（SM社会生活能力検査、vineland-II）の概要 ・知能指数の算出方法 ・知的障害者の知能指数(IQ)を測定することの意味について

第5回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）第４回で学習した「適応機能」を復習する。 （復習）知的障害児が社会生活を送る上で、適応機能尺度の結果をどのように活用するとよいか説明できるようにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	知的障害者の心理機能①（言語・コミュニケーション）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・知的障害者の言語・コミュニケーションの特徴。 ・重度知的障害者のコミュニケーションの特徴と補助代替コミュニケーション。 ・コミュニケーションの指導・支援。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）インターネット等で、重度の知的障害者のコミュニケーション手段（支援ツール）について調べておく。 （復習）知的障害児のコミュニケーション指導を行ううえで重要な点を整理しておく。支援ツールのアイディアを出す。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	知的障害の心理機能②（記憶）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・記憶の分類について ・知的障害者の記憶に関する特徴 ・発達支援の視点からの検討
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）インターネット等で「ワーキングメモリー」について調べ、書き留めておく。 （復習）支援方法や支援ツールのアイディアを箇条書きで挙げておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	知的障害の心理機能③（知覚・注意）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・知的障害者の視知覚および注意に関する特徴 ・発達支援の視点からの検討
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）インターネット等で「ゲシュタルトの法則」について調べ、まとめておく。 （復習）知的障害児の指導・支援を進めていく上での注意点について整理しておく。支援方法や支援ツールのアイディアを箇条書きで挙げておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	知的障害の心理機能④（運動）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・知的障害者の運動機能（粗大運動・微細運動）に関する特徴 ・行動調整機能 ・発達支援の視点からの検討
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）新生児・乳児の反射反応や運動発達について要点をまとめておく。 （復習）知的障害児の指導・支援を進めていく上での注意点について整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	知的障害のある子どもの支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・幼稚園、保育園に在籍する知的障害児の支援の実際 ・特別支援学校に在籍する知的障害児の支援の実際 ・ユニバーサルデザイン

第10回	**教室外学習(予習・復習)の内容**	（予習）インターネット等で「ユニバーサルデザイン」について調べておく。 （復習）幼稚園や保育園で実施するユニバーサルデザインを取り入れた教育・保育に関するアイディアを挙げる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	知的障害の病理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	知的障害の医学的な定義を振り返り、診断までの流れを解説する。 また、「グレーゾーン」「ボーダーライン」と呼ばれる境界知能の特性について学び、学校生活や社会生活の中で直面する困難とその支援方法について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）第１～１０回の講義内容をおさらいしておく。 （復習）知的障害の定義、境界知能の子どもの支援について整理する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	自閉症スペクトラム障害(ASD)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・自閉症スペクトラム障害の基礎的知識（診断基準、疫学、行動特性等）について。 ・自閉症スペクトラム障害の子どもの治療（診療）と支援。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）自閉症スペクトラム障害の子どもの特徴について、インターネット等で調べておく。 （復習）自閉症スペクトラム障害の子どもの支援の要点をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	注意欠如多動性障害(ADHD)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・注意欠如多動性障害(ADHD)の基礎的知識（診断基準、疫学、行動特性等）について。 ・ADHDの子どもの治療（診療）と支援。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）ADHDの子どもの特徴について、インターネット等で調べておく。 （復習）ADHDの子どもの支援の要点をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	学習障害（LD)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・学習障害(LD)の基礎的知識（診断基準、疫学、行動特性等）について。 ・LDの子どもの診断（診療）と支援。
	教室外学習(予習・復習)の内容	（予習）LDの子どもの特徴について、インターネット等で調べておく。 （復習）LDの子どもの支援の要点をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

第1回～10回は原田が担当。
第11回～14回は、夏季集中講義期間に飯野が担当。
夏季集中講義の日程については決まり次第、授業内で連絡します。

学生へのフィードバック方法

・授業の中では学生が主体となって活動する機会を設定する。活動の成果や授業内での発言、グループ討議で出されたアイディアに対して、適宜フィードバックを行う。

評価方法

（中間試験）第10回目の授業後に、レポート課題を実施する。
（期末レポート）第11～14回（夏季集中講義）で学んだ内容についてレポートにまとめる。
（リフレクションシート）各授業回で、その時間に学んだ内容を簡潔にまとめる時間を設け、授業終了後に回収する。
（平常点）グループディスカッションへの貢献、授業参加の態度、等

＊レポート課題に関しては評価基準をルーブリック評価表にて示す

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間試験	○	○		
期末レポート	○	○		
リフレクションシート		○	○	
平常点			○	

評価割合

中間試験（40%)、期末レポート(10%)、リフレクションシート（10%）平常点(20%)

使用教科書名(ISBN番号)

なし（毎回の授業で講義内容に関する資料を配布します）

参考図書

勝二博亮 編著「知的障害児の心理・生理・病理」北大路書房
小池敏英・北島善夫 著 「知的障害の心理学」北大路書房

ディプロマポリシーとの関連

多様なこどものwell-being向上に寄与する知識を身に付けている。（知識・理解）
多様性に配慮して他者を尊重した表現をすることができる。（思考・判断）。
地域・社会に主体的に参画・貢献できる協働力・共感力を身に付けている。（関心・意欲・態度）

オフィスアワー

原田（月曜３～４限 1509教室）

学生へのメッセージ

知的障害のある子どもの保育や教育に携わるうえで、心理・生理・病理の各側面から障害の特性を知っておくことはとても重要です。この科目を通して、知的障害の子どもの保育や教育に関する基礎知識を習得し、実践に活かせるようにしてほしいと思います。特別支援学校の免許取得を希望する学生は必修の授業となっていますが、それ以外の学生の受講も歓迎します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラー	○	学生のみなさんが主体となって考え活動できるように、調べ学習、ペアワーク、グループワーク、疑似体験の機会などを設けながら授業を進める。

ニング		
情報リテラシー教育	○	授業では適宜、図表を使って解説を行います。図表の読み取り方など、必要に応じて説明を加えます。また、情報のアウトプットに関する指導として、レポート課題では文章表現のチェックも行います。
ICT活用		

講義コード	S02103801
講義名	特別支援学校教育課程論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	こども教育学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	岡部 一郎	指定なし

ナンバリング

P11604M21

授業概要(教育目的)

障害のある児童の教育は、その基本的な目的において、障害のない児童の教育と何ら変わるところはない。しかし、障害による困難を補い、多様な発達の課題に応じた教育を行うため、特別支援学校の教育課程には、自立活動という領域が加えられていることや、柔軟な課程編成が認められているなどの特色がある。また実際の指導は、一人一人の教育ニーズに応じて個別の指導計画を作成することや、医療、福祉、就労など地域の関係諸機関や保護者と密接に連携して進めることが必要とされている。本講義では、こうした特別支援学校の教育課程について基本的な知識を学ぶとともに、その実践例を通じて具体的な指導の展開を検討する。あわせて特別支援学校における今日的な教育課題について講ずる。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	特別支援学校の教育課程について、各教科等の取り扱いや、障害の状態に応じた課程編成の方法を知り、その意義を理解する。
思考・判断の観点 (K)	自立活動の区分及びその内容と、各教科や特別活動など他の領域の指導との関連を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	障害のある児童の教育に関心をもち、教職への意欲を高める。
技術・表現の観点 (A)	個別の指導計画を作成するために必要な学習課題の分析を適切に行うことができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	イントロダクション「特別支援教育の目的」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校教育法や障害者基本法に基づき特別支援教育の目的について知る。その目的が、特別支援学校の教育課程にどのように反映しているかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学校教育法や障害者基本法について調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	各教科等を合わせた指導 (1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別支援学校における柔軟な教育課程の編成の一つに「各教科等を合わせた指導」がある。本時は、その中から「日常生活の指導」と「遊びの指導」について実践例を通じて学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「特別支援学校」と「日常生活の指導」「遊びの指導」をキーワードとして実践例の紹介を調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	各教科等を合わせた指導 (2)：
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「各教科等を合わせた指導」の中から、本時は、「生活単元学習」と「作業学習」について実践例を通じて学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「特別支援学校」と「生活単元学習」「作業学習」をキーワードとして実践例の紹介を調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	重複障害者等に関する教育課程の取り扱い
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	二つ以上の重複した障害を有する児童に対しては、より柔軟な教育課程の編成が認められている。本時は、重複障害者に対する自立活動を主とした指導について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習指導要領の中で自立活動に関する記載を調べておきましょう。 【参考例】 文部科学省ホームページ 『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』

		https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	**授業テーマ**	自立活動 (1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自立活動は特別支援学校の教育課程に設けれている特別な領域である。本時は、自立活動の意義と変遷、指導の基本について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特別支援学校の自立活動について調べ、学びを深めてください。 【参考例】 文部科学省ホームページ 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	自立活動 (2)： ６つの区分と指導内容
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本時は、自立活動の６つの区分と、それぞれの主な指導内容について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自立活動の６つの区分と内容が、各教科や他の領域の指導とどのように関連づけられるかを調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	個別の指導計画 (1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別の指導計画について学び、日本の特別支援教育に導入された経過を考える。また、参考とされたアメリカのＩＥＰについて学び、日本の個別の指導計画との共通点や相違点について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	アメリカの障害児教育におけるＩＥＰについて調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	個別の指導計画 (2)： 長期目標と短期目標、学習課題の分析
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	個別の指導計画の特徴の一つとして、長期目標と短期目標の二つの目標の立て方がある。本時は、その目標の設定に必要な学習課題の分析方法について学ぶ。

第8回	**育・ICT活用を含む)**	
	教室外学習(予習・復習)の内容	自立活動と個別の指導計画との関連を調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	個別の教育支援計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別の指導計画は、個々の児童の教育ニーズに合わせて個別化された学校教育のプログラムである。これに対して、個別の教育支援計画は、学校と関係機関（医療・保健、福祉、就労等）や地域社会、保護者との連携を図るために作成されるものである。本時は、個別の教育支援計画について学びながら、学校と地域社会との連携の在り方を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	個別の教育支援計画について調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	特別支援学校のキャリア教育（1）： キャリア発達と社会参加
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本時は、障害の児童生徒のキャリア発達と社会参加について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	キャリア教育について調べ、学びを深めてください。 【参考例】 文部科学省ホームページ 『小学校キャリア教育の手引き（改訂版）』 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1293933.htm
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	特別支援学校のキャリア教育 (2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本時は、特別支援学校におけるキャリア教育の実践例を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特別支援学校のキャリア教育の実践例の紹介を調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	交流及び共同学習

第12回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害のある児童の教育は、障害のない児童と教育の場が分離されて行われることが多いため、相互の交流及び共同学習の機会を設けることが求められている、本時は、交流教育の形態と実践について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	交流教育にはどのような方法があるのか、またそれぞれの実践例の紹介を調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	ICTの活用と情報モラル教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本時は、障害のある児童の学習やコミュニケーションを補う支援技術について学習する。社会が急速に情報化されているため、障害者の生きる力も、「情報化社会を生きる力」として見直していく必要がある。また、情報モラル教育の重要性についても考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	特別委支援教育におけるＩＣＴ活用の実践例の紹介を調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	特別支援学校の性教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害者の性教育は、以前は性的な問題の予防的な観点から行われる傾向があった。しかし、現代では、セクシャリティ教育の視点から、障害者の権利として性を考えていくことが求められている。本時は、ユネスコの「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」に基づき、障害者に対する性教育を見直す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ユネスコの「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」について調べ、学びを深めてください。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

授業の進度等により内容の入れ替えや順序の変更等を行うことがある。

学生へのフィードバック方法

・授業毎にコメントカードを提出する。カードの内容に学生からの質問が含まれるときは、次回の授業の冒頭で取り上げて答える。また、学習内容の振り返りのために、教員の側でいくつかかーどをピックアップして意見を紹介する。コメントカードは、記載内容の紹介を授業で行うことの可否について、カードのチェック欄で学生自身が選択することができる。
・サブノートを配布し、その記入を課題として提出を求めることがある。サブノートはディスカッションの素材として、教員の側からコメントを加えてピックアップし、授業内で紹介する。

評価方法

・授業時数の内、実習等の特別な事由による欠席を除き、３分の２以上を出席した者を評価の対象とする。
・評価の方法は、①期末レポートと、②授業で配布するサブノートへの記入の提出課題、③ディスカッションへの参加状況、④各授業でのコメントカードの提出を総合して採点を行う。①に関しては授業内でルーブリック評価表を配布する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末レポート	○	○		○
サブノート	○	○	○	
ディスカッション		○	○	○
コメントカード	○	○	○	

評価割合

期末レポート（70%）、サブノート（10%）、ディスカッション（10%）、コメントカード（10%）

使用教科書名(ISBN番号)

毎時間プリント教材を配布する。

参考図書

適宜に紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】特別支援学校の教育課程について、各教科等の取り扱いや、障害の状態に応じた課程編成の方法を知り、その意義を理解する。
【思考・判断】自立活動の区分及びその内容と、各教科や特別活動など他の領域の指導との関連を考えることができる。
障害のある児童の教育に関心をもち、教職への意欲を高める。
【関心・意欲・態度】障害のある児童の教育に関心をもち、教職への意欲を高める。
【技術・表現の観点】個別の指導計画を作成するために必要な学習課題の分析を適切に行うことができる。

オフィスアワー

前期：月曜３限（江田研究室）
後期：金曜４限（江田研究室）

学生へのメッセージ

障害のある児童の教育ニーズは、ニーズそのものが特別なものではなく、障害のない児童とまったく同じ、ごく当たり前のニーズを持っているに過ぎません。しかし、その当たり前のニーズを達成するためには、特別な指導のプロセスを必要とすることがあります。例えば、目の見えない子どもに対して、他の子どもと同じプリントの教材を配ったとしたら、それは平等な扱いであったとしても、公平な指導とは言えません。その児童が他の児童と同じように教育の目的に到達するためには、教材を点字のプリントに変更したり、通常の学級の教育課程にはない点字の指導を新たに加えることが必要になります。そうしたプロセスの変更が特別支援教育そのものなのです。また、その指導の方法も、何か特殊なことを行っているのではなく、、一人一人の発達状況や障害に合わせた「個に応じた指導」が、より丁寧に行われているだけなのだと分かります。すなわち、特別支援教育とは、じつは特別な教育ではなく、誰一人置き去りにしない教育であり、その学びは、どんな子どもの教育においても、きっと有用であると言えるでしょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	指導教員は重度障害児の教育臨床に16年間従事した経験を有する。
アクティブ・ラーニング	○	学生どうしでディスカッションを行う機会を設ける。 想定事例で児童の学習課題の分析を行う。
情報リテラシー教育	○	情報モラルの教育について学ぶ。
ICT活用	○	特別支援教育におけるＩＣＴの活用について実践例を通じて学ぶ。

講義コード	S02103901
講義名	視覚障害の理解と支援
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	こども教育学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	嶋 俊樹	指定なし

ナンバリング

P11605M11

授業概要(教育目的)

視覚障害児（者）の実態と支援の必要性についての理解を目指す。視覚障害による学習上又は生活上の困難さについての体験的理解を図り、指導事例を通して支援や指導の在り方を考えられるようにする。また、共生社会の実現に向けて、どのような障害理解教育や合理的配慮が必要かを考え、視覚障害に配慮した指導の基礎的な力を育成する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	視覚障害に関する基本的知識（障害の特性）を有し支援・指導のポイントを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	視覚障害による学習上又は生活上の困難さに対して、適切な支援・指導方法を考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	体験活動への参加態度、リフレクションペーパーへの記入を通して、視覚障害教育にかかわる課題に対し問題意識を持ち主体的に学びを深めることができる。
技術・表現の観点 (A)	視覚障害の特性に配慮した指導ができるようになる。

学習計画

	授業テーマ	視覚障害の概念
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	視覚障害者の病理・生理・心理について理解する。視覚器と視覚認知の仕組み、自覚・他覚検査や行動に基づく視覚機能のアセス

第1回	教育・ICT活用を含む)	メント（視力検査を体験する）、視覚障害の補助具について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：これまでの経験をもとに、視覚障害について考えておく。参考書第2章「視覚の成り立ち」を読んでおくとよい。 復習：視覚障害について、わかったこと、考えたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	視覚障害幼児の発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	視覚障害が乳幼児の発達に及ぼす影響について、全盲と弱視に分けて理解する。また乳幼児期の発達を促すための支援について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：資料をもとに視覚障害乳幼児の発達と支援について、疑問点を整理しておく。考書第3章「視覚障害乳幼児の発達と支援」を読んでおくとよい。 復習：視覚障害が乳幼児の発達に及ぼす影響、わかったこと、考えたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	視覚障害児の歩行とその指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	視覚障害児の位置の定位や歩行を促すための指導について理解する。また、歩行を介助、誘導するための介助方法について、白杖を用いた疑似体験をもとに理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：資料をもとに視覚障害児の発歩行指導について、疑問点を整理しておく。参考書第9章「自立活動の指導」を読んでおくとよい。 復習：視覚障害児の歩行と指導について、わかったこと、考えたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	視覚障害児の教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全盲児の自立活動や準ずる教育における指導法について点字学習指導を例に理解する。また、点字盤の使い方を体験し、点字の読み書きの難しさを体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：点字学習について、疑問点を整理しておく。参考書第6章「点字」を読んでおくとよい。 復習：点字学習について、わかったこと、考えたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	視覚障害のさまざまな見え方の疑似体験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	視覚障害の原因となる代表的な疾病について、その病理と見え方を理解する。シュミレーションレンズを用いて、弱視、視野狭窄、白内障等による生活や学習の困難さについて体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：資料をもとに視覚障害乳幼児の発達と支援について、疑問点を整理しておく。参考書第5章「弱視児の指導」を読んでおくとよい。 復習：視覚障害が乳幼児の発達に及ぼす影響、わかったこと、考えたことをまとめる。

	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	**授業テーマ**	視覚障害児の触覚や聴覚などの活用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	視覚障害児が触覚や聴覚などを活用して環境や事物を把握し、慣れ親しむことの重要性について、疑似体験を通して理解する。また、そのための教育や支援の方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：資料をもとに視覚障害乳幼児の発達と支援について、疑問点を整理しておく。参考書第4章「盲児の指導」を読んでおくとよい。 復習：体験を通して学んだことや教育や支援の在り方について、わかったこと、考えたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	**授業テーマ**	視覚障害児の教育の場と教育課程
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	視覚障害児の教育の場とその仕組みについて、その根拠となる学習指導要領や法令を理解し、共生社会実現のためのこれからの視覚障害教育の在り方について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：資料をもとに視覚障害児の教育の場と教育課程について、疑問点を整理しておく。参考書第1章「視覚障害児と学びの場」を読んでおくとよい。 復習：共生社会実現のためのこれからの視覚障害教育の在り方についてわかったこと、考えたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

＊履修状況や授業の進捗具合によりスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

・リフレクションペーパー等により提出された質問については、次回の授業の冒頭にて解説する。

評価方法

・毎回の授業でリフレクションペーパーに授業内容からわかったこと、考えたことを書いてもらう。
・授業で学んだことを踏まえて作成した最終レポート課題から、知識の修得状況、思考力、表現力を総合的に評価する。
・平常点は、発問に対する応答、グループディスカッションへの参加状況など、授業への参加状況を評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
リフレクションペーパー	○	○	○	
最終レポート課題	○	○	○	○
平常点		○	○	

評価割合

リフレクションペーパーの内容（30%）、最終レポート課題(60%)、平常点（10%）

参考図書

青柳まゆみ・鳥山由子:編著 2020「新・視覚障害教育入門」ジアース教育新社
日本視覚障害社会科教育研究会編集 2017「みんなの地図帳～見やすい・使いやすい～」帝国書院
文部科学省 2017 特別支援学校学習指導要領および解説書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】視覚障害者の専門的、基礎的知識が修得できている。
特別支援学校学習指導要領に基づく視覚障害教育の基礎基本が修得できている。
【思考・判断】家族・地域・社会との繋がりの観点から、共生社会に向けた障害理解について主体的に考えられる。
【関心・意欲・態度】視覚障害者の立場から、学習上・生活上の困難さを理解しようとする。

学生へのメッセージ

「視覚障害」の見え方や感じ方は十人十色である。視覚に障害のある子どもの生活や学習上の困難さについて体験的に学ぶとともに視覚障害の特性を踏まえた指導や支援の在り方について考えてみましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、視覚特別支援学校で12年間の勤務経験を有し、視覚に障害のある児童の授業実践例や教材教具を紹介しながら講義する。
アクティブ・ラーニング	○	体験活動を取り入れ視覚障害児・者の心理や教育の在り方について自ら考えるとともに考えたことを他者と共有する時間を設定する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	S02104001
講義名	聴覚障害の理解と支援
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P21606M11

学習計画

講義コード	S02104101
講義名	発達障害の理解と支援
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P21607M21

学習計画

講義コード	S02104201
講義名	こども教育インターンシップ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	こども教育学科・1年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	齋藤　義雄	指定なし
教授	新開　よしみ	指定なし
教授	中田　範子	指定なし
教授	立川　泰史	指定なし
教授	和田　美香	指定なし
教授	吉永　早苗	指定なし
教授	江田　裕介	指定なし
准教授	柳瀬　洋美	指定なし
准教授	丹羽　さがの	指定なし
准教授	新海　公昭	指定なし
助教	原田　晋吾	指定なし
助教	末松　加奈	指定なし
助教	佐藤　冬果	指定なし

ナンバリング

P11701M13

授業概要(教育目的)

こどもに関する職業の一部を実際の現場で経験することにより、将来の職業選択・キャリア形成に資する力を育成する。こどもや保護者との対話や、専門職員の業務補助を中心とした協働を通して、こどもに関する地域の課題に気づき、知識と経験を融合させながら課題解決の方法について考える。インターンシップ先は、幼稚園、小学校、特別支援学校、児童福祉施設の他、自治体、企業、非営利団体等が行う活動の場も含むものとし、興味や専門領域に合わせて選択することができる。こどもの視点から社会を捉え、共感し寄り添う力を高めると共に、社会参加や新しい環境での挑戦を通じて自信を高め、最後までやり遂げる力を育成する。インターンシップ先の決定や事後の振り返りに関しては、各領域を専門とする教員のもとで進める。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	こどもの発達や成長支援に必要な基礎的知識や技能を理解し、現場での活動を通じて、保育・教育の実践的な視点を習得する。
思考・判断の観点 (K)	現場での体験やインターン先の教職員から得た助言を通じて、こどもを取り巻く多様な課題を多角的に捉え、解決に向けた論理的思考力と柔軟な判断力を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	こどもとの関わりに対して積極的に取り組む意欲を持ち、他者との協働や多様性を尊重する姿勢を身に付ける。
技術・表現の観点 (A)	現場で得た知識や経験を基に、インターン先のこどもや教職員との円滑なコミュニケーションを図り、適切に表現・対応できる技術を高める。

学習計画

インターンシップ

第1回	授業テーマ	全体オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・科目概要の説明 ・インターンシップを行う園や学校の種別選択 ・目的と意義、活動内容とスケジュール ・基本ルール・マナー ・現場での役割と責任 ・安全管理と緊急時の対応 ・事後指導と学びの共有方法
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：インターンシップを行いたい施設について下調べを進める。 復習：インターンシップの意義と目的について確認する。
	教室外学習の時間（分）	50
第2回	授業テーマ	分野別事前学習①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・教師・保育士としての職務と役割の理解 各分野でのインターンシップの概要について理解する。 ・インターンシップを行う園や学校等の研究（設置の目的、目標、対象となるこどもの特徴）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：希望するインターンシップ先の学校種、施設種別の設置の目的について調べる。 復習：授業内で調べたことを整理してまとめる。
	教室外学習の時間（分）	50
第3回	授業テーマ	分野別事前指導②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・配属先の施設や学校の特徴や理念、こどもたちの特徴 ・園・学校等の設置の目的を理解し、教職員の役割を知る ・学生が担当する役割（補助的業務や観察、具体的な活動内容）の理解 ・日誌の書き方を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：配属先のHPやパンフレットを確認し、理念や経営方針を把握する。 復習：園・学校等のの特徴、こどもの特性、学生の役割についてノートにまとめ、インターンシップでの具体的な役割をイメージし、疑問点を整理する。
	教室外学習の時	50

	間（分）	
第4回	授業テーマ	分野別事前指導③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・インターンシップで経験したいこと（観たいこと、聞きたいこと、身に付けたいこと）を検討 ・それらを経験したい理由について考えを整理 ・業務内容を交えて文章化し日誌に記入する
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：どんな場面を観察したいか（例：子どもとの関わり方、支援の工夫）、どんな話を聞きたいか（例：先生や支援者の考え、現場の課題）、どんなスキルを身につけたいか（例：子どもとの接し方、指導の仕方）について考える。 復習：具体的な目標や観察ポイントを再考し、インターンシップ当日に向けた準備をする
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×５日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：インターンシップを行う前に、その日のねらい（目的）について日誌に書き込む 復習：インターンシップで経験したことを日誌にまとめ、考察する
	教室外学習の時間（分）	50
第6回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×５日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：インターンシップを行う前に、その日のねらい（目的）について日誌に書き込む 復習：インターンシップで経験したことを日誌にまとめ、考察する
	教室外学習の時間（分）	50
第7回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×５日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：インターンシップを行う前に、その日のねらい（目的）について日誌に書き込む 復習：インターンシップで経験したことを日誌にまとめ、考察する
	教室外学習の時間（分）	50
	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	インターンシップ（８時間×５日間）

第8回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：インターンシップを行う前に、その日のねらい（目的）について日誌に書き込む 復習：インターンシップで経験したことを日誌にまとめ、考察する
	教室外学習の時間（分）	50
第9回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×５日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：インターンシップを行う前に、その日のねらい（目的）について日誌に書き込む 復習：インターンシップで経験したことを日誌にまとめ、考察する
	教室外学習の時間（分）	50
第10回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×５日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：インターンシップを行う前に、その日のねらい（目的）について日誌に書き込む 復習：インターンシップで経験したことを日誌にまとめ、考察する
	教室外学習の時間（分）	50
第11回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×５日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：インターンシップを行う前に、その日のねらい（目的）について日誌に書き込む 復習：インターンシップで経験したことを日誌にまとめ、考察する
	教室外学習の時間（分）	50
第12回	授業テーマ	インターンシップ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インターンシップ（８時間×５日間）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：インターンシップを行う前に、その日のねらい（目的）について日誌に書き込む 復習：インターンシップで経験したことを日誌にまとめ、考察する
	教室外学習の時間（分）	50
	授業テーマ	事後指導（領域別）

第13回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・インターンシップ先で経験したことの振り返りと考察 ・自身の課題や改善点の明確化 ・教師・保育士としての自己理解の深化 （・お礼状の書き方）
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：インターンシップ実習日誌を見返し、今後の課題や改善点を明らかにする 復習：実習中の経験や他の履修生と意見を交わした内容を参考に、身に付けたいと思ったことや、これから取り組んでいく新たな目標を考え、プレゼンテーション資料を完成させる
	教室外学習の時間（分）	50
第14回	授業テーマ	インターンシップ報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・各分野でインターンシップを行った学生が集まり、インターンシップで経験したことやそこから得た学び、今後の目標等についてプレゼンテーションを行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：発表スライドを作成し、プレゼンテーションを行えるように準備する 復習：発表後に聴取者から受けたフィードバックや、他の発表で参考になったことを整理し、記録する。
	教室外学習の時間（分）	50

学習計画注記

履修生は、４月に開講する第１回目の授業（初回のガイダンス）でインターンシップを希望する園や学校の種別を選択してください。履修生全員のインターン先が決定次第、第２～４回の事前指導を行います。第５～１２回は配属先での実習になりますが、日程は配属される園や学校によって異なります。前期、後期の授業が開講されている時期に、授業のない時間帯で実習を行うこともありますし、長期休暇期間（８～９月や２～３月）の時期に連続５日間の実習を行う場合も想定されます。インターン先の受け入れ条件と、履修生が他の科目の履修と重ならない日程で実施できるようできるだけ調整を行います。なお、冠婚葬祭や特別な事情がある場合を除き、授業以外の私用による欠席は認めません。

学生へのフィードバック方法

事前・事後指導では、主に分野別担当教員からフィードバックを受ける。

インターンシップ先の担当教職員に評価表の記入を依頼し、5日間の実習の評価を記入していただく。

インターンシップ中は、各実習先の担当教職員から口頭でフィードバックを受ける（指導内容は日誌等に記録すること）。

評価方法

実習の参加度と態度（50%）

　実習中の積極性、関心の示し方、協調性、指導教員や児童生徒とのコミュニケーション能力について実習先の指導教員が評価。

日誌の完成度（20%）

　実習体験を通して得た学びや反省、自己評価を整理し記述した日誌の内容の深さと正確さを科目担当教員が評価。

学校行事への貢献（10%）

　インターンシップ期間以外での運動会や文化祭ボランティアなどの行事での役割遂行と貢献度について評価。

事前事後指導への参加（20%）

ルーブリックに基づいて評価する。ルーブリックは、授業内、クラスルームに提示する。

大学での事前指導への参加状況、事後の振り返りへの積極的な参加とそこでの学びを実習中の経験にどれだけ結びつけて考察できたかについて科目担当教員が評価。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実習の参加度と態度		○	○	○
日誌の完成度	○	○	○	○
学校行事への貢献			○	
事前事後指導への参加	○		○	

評価割合

実習の参加度と態度（50%）
日誌の完成度（20%）
学校行事への貢献（10%）
事前事後指導への参加、報告会でのプレゼンテーション（20%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

授業内で適宜紹介する

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】多様なこどものwell-being向上に寄与する知識を身に付けている。
【思考・判断】こどもを取り巻く社会における課題の解決に向けて、論理的・多角的に考えることができる。
【関心・意欲・態度】地域・社会に主体的に参画・貢献できる協働力・共感力を身に付けている。豊かな体験のなかで、自他を認め合いながら自らの専門性や人間性を育み続ける力を身に付けている。
【技術・表現】多様性に配慮して他者を尊重した表現をすることができる。多様なこどものwell-being向上に寄与する技能を身に付けている。

オフィスアワー

各教員に確認すること

学生へのメッセージ

インターンシップは、自分の専門分野と社会をつなげる貴重な機会です。
大学で学ぶ専門知識が社会でどのように活かされるのかを考え、学びの意味を再認識するきっかけにもなります。また、職業観や働くことの意義について自分なりの考えを持つだけでなく、一定期間とはいえ社会人として生活することで、「働く」とはどのようなライフスタイルを伴うものなのかを実感できるでしょう。

こどもを対象とする仕事の現場に入り、職業体験をすることで、社会人としての視点や考え方が身につき、精神的にも大きく成長するはずです。これまで気づかなかった自分の長所を発見したり、改善すべき考え方や行動パターンを認識することもあるでしょう。

ぜひ、こどもと直接関わる経験を通して、実践的に学びを深めてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を		各分野の担当教員が保育・教育の実践経験を活かし、実践事例を含めて説明

活かした授業	○	する。
アクティブ・ラーニング	○	グループラーニングやプレゼンテーションを取り入れたアクティブラーニングを実践する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	事前指導では、園・学校のホームページ等で情報を収集するとともに、事後指導では成果をパワーポイント等にまとめ、プレゼンテーションを実施する。

講義コード	S02150101
講義名	こどもとアート
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P22101M12

学習計画

講義コード	S02150201
講義名	ピアノのテクニック
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P22102M12

学習計画

講義コード	S02150301
講義名	人工知能と教育
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P22103M21

学習計画

講義コード	S02150401
講義名	科学する心
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P22104M21

学習計画

講義コード	S02150501
講義名	こども家庭支援論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P32201M21

学習計画

講義コード	S02150601
講義名	保育方法論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	
開設学科・年次	こども教育学科・3年次
必修・選択の別	選択

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P32202M21

授業概要(教育目的)

本講義では、従来の保育思想を基本に踏まえながら、現代社会とのかかわりの中で改めて保育理論を構造的に解明し、保育方法の内容を検討し、保育実践を整理・再考できるようにする。乳幼児が主体的、自発的に遊び、活動する中で、価値のある学びが生まれ、心身のすこやかな成長と発達が助成される。そのような環境を構成し、価値のある取り組みができるように援助する方法を学び、幼稚園・保育所における保育の計画や指導方法、ならびに幼稚園教諭・保育士としての役割について考えられるようにする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	保育の基本、および保育の方法に関する基本的知識を身につける。
思考・判断の観点 (K)	事例等から学び、自ら保育の方法を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもへの理解を深め、保育者の役割について考えられるようになる。
技術・表現の観点 (A)	現場に生きるような保育の方法を考える力を身につける。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	0・1・2歳児の発達の時期に応じた保育方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・各年齢ごとに園に慣れるまでの子どもの様子を理解する。 ・各年齢の遊びの形と保育者の関わり方について理解する。 ・0・1・2歳児の発達に応じた環境の特徴について考え、グループで討議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・資料を読み返し、理解を深める。 ・（小レポート）事例を見ながら、この時期の子どもたちに対し保育者が大切にすべきことを考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	3・4・5歳児の発達の時期に応じた保育方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗ	

第2回	ｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・各年齢の遊びの形と保育者の関わり方、環境の工夫について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・資料を読み返し、理解を深める。 ・（小レポート）事例を見ながら、この時期の子どもたちに対し保育者が大切にすべきことを考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	様々な保育形態
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・様々な保育形態を確認する。 ・過去に本学の実習先となった保育所、幼稚園、認定こども園からいくつか選択し、その園の保育の特徴を調べ比較する（PCを使用）。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・資料の説明した部分を読み返す。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	遊びを通した保育方法・個と集団を生かした保育方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・遊びの重要性について、事例をもとに理解を深める。 ・個の育ちと集団の育ちについて、事例をもとに理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・保育所保育指針や幼稚園教育要領から保育を行う上で何が大切なのか、総合的な保育を行う上で何が大切なのか理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	小学校との交流活動のデザインとアプローチカリキュラム
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事例をもとに幼小連携の実際について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・資料を読み、様々な交流活動があることを理解する。 ・（小レポート）事例を通して、小学校に進学する時期の子どもの困難さへの理解を深め、その様な子どもたちに対し、保育者・教員はどのような対応が可能か考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	配慮を要する子どもへの保育方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	インクルーシブな保育や外国籍の子ども等への保育の実際について、事例をもとに理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・資料を読み返し、理解を深める。 ・（小レポート）事例の検討を通して、具体的な配慮の方法について考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	子ども理解にもとづいた保育方法と評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・事例検討を通して、子どもの内面や発達を捉える視点を学ぶ。 ・子ども理解にもとづいた保育の評価の方法について学ぶ。

	教室外学習(予習・復習)の内容	・資料の説明した部分を読み返す。 ・（小レポート）学んだ評価方法を実践してみる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	家庭・地域との連携を生かした保育（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・連絡帳やクラスだより、園だよりを見て、グループで話し合いながら、園での子どもの姿や成長の様子を家庭や地域に伝える上で何が大切なのか理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・資料を読み返し、理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	家庭・地域との連携を生かした保育（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・防災に関する取り組みを見て、家庭や地域と連携する上で何が大切なのか理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・（小レポート）園における防災について、授業を通して気が付いたことを整理し、自分の考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	家庭・地域との連携を生かした保育（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・首都圏のいくつかの地域について、当該地域で想定される災害やその規模、危険性を調べ、園の防災マップを作成する。その際には、保育現場を想定し、避難場所や避難経路の選定も行う。（PCを使用）
	教室外学習(予習・復習)の内容	・（課題①）園における防災マップを作成する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	教材や情報機器を活かした保育方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・園務における様々なICT活用について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・資料を読み返し、理解を深める。 ・（小レポート）業務改善のためのICTシステムについて調べ、比較検討する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	教材や情報機器を活かした保育方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・遊びにおける様々なICT活用について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・資料を読み返し、理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	保育の計画・実践・評価

第13回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・ワークをもとに、各自指導案を書く。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・授業で作成した指導案を読み返し、修正等を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	保育の計画・実践・評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・前回作成した指導案をグループで読み合わせ、お互いに気付いたことや改善点などを話し合う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・（課題②）グループの話し合いで出た意見をもとに、各自指導案を振り返り修正する。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

課題等の提出物は、次週以降にコメントを記載して返却する。また、必要に応じて授業中に紹介するなどし、授業内容理解に役立てる。

評価方法

・平常点（授業内のワークやグループディスカッションへの取り組み状況等）、小レポート、課題、最終レポートで評価する。
・ルーブリックに基づく成績評価である。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点		○	○	○
小レポート	○	○		
課題	○	○		
最終レポート	○	○		

評価割合

平常点15%、小レポート35%、課題20%、最終レポート30%

参考図書

・保育所保育指針（厚生労働省）
・幼稚園教育要領（文部科学省）
・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】保育の方法について総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組むことができている。子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。

【技能・表現】子どもの専門家として社会に貢献できる。

オフィスアワー

末松 水曜3限 研究室1501

学生へのメッセージ

事例の検討やグループワークなど、積極的に参加してください。自分の考えを持つこと、他者の考えを聞くことを大切にしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	個別探究（個人で考える）→協同探究（グループ・ディスカッション）→個別探究（個人で考える）のサイクルを取り入れることで理解を深めます。
情報リテラシー教育	○	調べ学習の際には、情報発信元の信憑性をよく考えた上で適切に情報収集を行う。
ICT活用	○	保育現場で使用されているデジタルデバイスやアプリを授業内で紹介し、実際に操作してもらいます。

講義コード	S02150701
講義名	こころの臨床
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P42203M22

学習計画

講義コード	S02150801
講義名	こども家庭支援の心理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P32301M21

学習計画

講義コード	S02150901
講義名	こどもの保健
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P22302M21

学習計画

講義コード	S02151001
講義名	こどもの食と栄養
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P22303M22

学習計画

講義コード	S02151101
講義名	保育の計画と評価
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P32304M21

学習計画

講義コード	S02151201
講義名	保育内容総論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P32305M22

学習計画

講義コード	S02151301
講義名	健康の指導法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P22306M22

学習計画

講義コード	S02151401
講義名	人間関係の指導法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P22307M22

学習計画

講義コード	S02151501
講義名	環境の指導法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P22308M22

学習計画

講義コード	S02151601
講義名	言葉の指導法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P22309M22

学習計画

講義コード	S02151701
講義名	表現の指導法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P22310M22

学習計画

講義コード	S02151801
講義名	小児保健演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P32311M12

学習計画

講義コード	S02151901
講義名	障害児保育
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P32312M22

学習計画

講義コード	S02152001
講義名	社会的養護II
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P22313M12

学習計画

講義コード	S02152101
講義名	子育て支援
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P32314M12

学習計画

講義コード	S02152201
講義名	保育・教職実践演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P42315M22

学習計画

講義コード	S02152301
講義名	多文化教育・保育
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	専門
実務経験の有無	有
開設学科・年次	こども教育学科・3年次
必修・選択の別	選択
ナンバリングコード	

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P32316M21

授業概要(教育目的)

現在、わが国の教育・保育現場には外国人児童の在籍が増加傾向にあり、また、「外国につながるこども」も多様化している。このような状況を見ると、益々教師・保育者の多文化共生に関する知識が必要となる。本授業では、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的な違いを認め合い、対等な関係を築き、地域社会の構成員として共に生きていく社会(多文化共生社会)を実現するための教育・保育について、教育・保育現場と連携をしながら理解を深める。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	多文化共生教育・保育の現状と重要性を踏まえ、その意義と内容の基本を理解する。また、国際バカロレアの教育プログラムの理論と内容を理解する。
思考・判断の観点 (K)	わが国の多文化共生教育・保育の中で、クラス運営上の様々な視点から、課題となっている点を取り上げ、実践例を通して考え、解決方法に討議する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	諸外国の子どもの生活文化や教育・保育制度について関心を持ち、理解する。また、児童の異文化間能力の涵養について理解し、多文化教育・保育を実践する意欲や態度を身につける。
技術・表現の観点 (A)	国際バカロレア教育のPYPプログラムの実際を理解し、その理念や方法を実際の教育・保育場面に取り入れるための技術を身につける。

学習計画

多文化共生とは

	授業テーマ	多文化共生とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本授業で取り上げる「多文化共生」の意味を理解し、互いの文化的違いを認めあい、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくための教育・保育に必要な知識や技術について理解する。

第1回	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の身近にある「多文化共生」に関する諸問題とそれに対する考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200
第2回	授業テーマ	多文化共生教育・保育を考える①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	わが国の様々な地域の生活文化や子どもを取り巻く現状を学び、多文化共生教育・保育について、主に教師と児童という関係に視点を置いて、課題を見出しながら解決に向けた方法について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	多文化共生教育・保育を取り巻く諸問題について授業内容を復習し、自身の考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200
第3回	授業テーマ	多文化共生教育・保育を考える②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	諸外国(主にアジア諸国)の子どもを取り巻く生活文化や教育・保育制度を学び、わが国における多文化共生教育・保育について、主に児童同士という関係に視点を置いて、課題を見出しながら解決に向けた方法について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	諸外国(主に欧米諸国)の子どもを取り巻く生活文化や教育・保育制度を学び、わが国における多文化共生教育・保育について、主に地域や家庭との連携に視点を置いて、課題を見出しながら解決に向けた方法について検討する。
	教室外学習の時間（分）	200
第4回	授業テーマ	多文化共生教育・保育を考える③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	諸外国(主に欧米諸国)の子どもを取り巻く生活文化や教育・保育制度を学び、わが国における多文化共生教育・保育について、主に地域や家庭との連携に視点を置いて、課題を見出しながら解決に向けた方法について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	諸外国(主に欧米諸国)の子どもを取り巻く生活文化や教育・保育制度を学び、わが国における多文化共生教育・保育について、主に地域や家庭との連携に視点を置いて、課題を見出しながら解決に向けた方法について検討する。
	教室外学習の時間（分）	200
第5回	授業テーマ	子どもの異文化間能力を育てる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	一般的な異文化間能力について理解し、それを育むための方法を考える。
	教室外学習(予習・復	授業内容を踏まえ、自分自身の異文化間能力に関する現状と課題について、考える。

	習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	200
第6回	授業テーマ	多文化社会における現状と課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	外国籍の人々等多様な文化的背景のある人々が地域においてたがいに理解しながら共生するための現状と課題について、地域に設けられた居場所に集まる方々の声を聞きながら、理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の住む地域にある外国人の居場所づくりについて調査・考察する。
	教室外学習の時間（分）	200
第7回	授業テーマ	地域における多文化共生の現状と課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	多様な国籍、思想、宗教の人々が暮らす地域で保育・教育の実践における現状と課題を理解し、障害の有無、宗教、思想、門地などあらゆる文化的背景のある人々が共生する社会を見据え、よりよく多文化共生社会をつくることができる子どもを育てるための教育・保育について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を踏まえ、現状と課題にして自身の考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200
第8回	授業テーマ	国際バカロレア教育プログラムの概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文部科学省の発信する国際バカロレア教育プログラムに関する位置付けを理解しながら、その理念や目的、内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を復習し、演習問題を完成する。
	教室外学習の時間（分）	200
第9回	授業テーマ	国際バカロレア教育プログラムの実際①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国際バカロレア認定校での、3歳から12歳を対象とした、PYP(Primary Years Programme)の実際を見学し、理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	見学・調査した内容をまとめ、PYPの実際について考察する。
	教室外学習の時間（分）	200

第10回	授業テーマ	国際バカロレア教育プログラムの実際②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国際バカロレア認定校での、3歳から12歳を対象とした、PYP(Primary Years Programme)の実際を見学し、理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	見学して学んだPYPの実際をもとに、PYPに適した保育・教育内容を考案する。
	教室外学習の時間（分）	200
第11回	授業テーマ	国際バカロレア教育プログラムの実際③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国際バカロレア認定校での、3歳から12歳を対象とした、PYP(Primary Years Programme)の実際を体験し、理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の考案した保育内容を実践して省察する。
	教室外学習の時間（分）	200
第12回	授業テーマ	国際バカロレア教育プログラムの実際④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国際バカロレア認定校での、3歳から12歳を対象とした、PYP(Primary Years Programme)の実際を体験し、理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の考案したPYPに適したプログラムを振り返り、計画の検討を行う。
	教室外学習の時間（分）	200
第13回	授業テーマ	PYPプログラムの実際と課題について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国際バカロレア認定校で、各自が作成した計画を実践して学んだことを報告し合い、今後の課題について討議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の準備を進める。
	教室外学習の時間（分）	200
	授業テーマ	発表・まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	これまでの授業内容を踏まえ、各自で見出したテーマにそって、多文化教育・保育の実践と考察について口頭で発表する。

第14回	を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	他の学生の発表内容も参考にしながら、「多文化共生教育・保育」に関する自身の考えをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200

学生へのフィードバック方法

提出されたワークシート等はすべて確認し、授業内に返却する。また、授業内には適宜生活科教育の内容に合致したものか、自身の考察が適切に記入されているかを観点とした助言を行う。

評価方法

提出物、学期末レポートの評価をすべて点数化して成績をつける。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
ワークシート	○	○	○	○
発表	○	○	○	○
学期末レポート	○		○	

評価割合

ワークシート20%、発表30%、学期末レポート50%

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない。

参考図書

適宜授業中に示す。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学を構成する 6 領域 のうち、「子どもの教育」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・感性が備わっている。

オフィスアワー

火曜日3限 1623研究室

学生へのメッセージ

学習を進めていく中では疑問点を持つことは大切です。疑問・質問がある場合には、遠慮せずに申し出てください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、幼稚園教諭としての実務経験を有する。
アクティブ・ラーニング	○	学外の教育・保育施設において、多文化教育・保育の実際を見学・体験する。

情報リテラシー教育	○	多文化共生教育・保育の実際について情報を収集し、レポート作成に活用する。
ICT活用		授業内での発表においては、画像データ等を取り込みながらパソコンを使用して発表資料を作成し、各自が機器を操作しながら発表する。

講義コード	S02152401
講義名	発達臨床心理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P32317M21

学習計画

講義コード	S02152501
講義名	子育て支援実践演習Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P32318M23

学習計画

講義コード	S02152601
講義名	子育て支援実践演習Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P42319M23

学習計画

講義コード	S02152701
講義名	自然体験活動実践演習 A
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P32320M23

学習計画

講義コード	S02152801
講義名	自然体験活動実践演習 B
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P42321M23

学習計画

講義コード	S02152901
講義名	国語科教育法（書写を含む）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P22401M21

学習計画

講義コード	S02153001
講義名	社会科教育法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P32402M21

学習計画

講義コード	S02153101
講義名	算数科教育法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P32403M21

学習計画

講義コード	S02153201
講義名	理科教育法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P32404M21

学習計画

講義コード	S02153301
講義名	生活科教育法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P22405M21

学習計画

講義コード	S02153401
講義名	音楽科教育法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P32406M21

学習計画

講義コード	S02153501
講義名	図画工作科教育法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P32407M21

学習計画

講義コード	S02153601
講義名	家庭科教育法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P22408M21

学習計画

講義コード	S02153701
講義名	体育科教育法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P32409M21

学習計画

講義コード	S02153801
講義名	外国語科教育法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P32410M21

学習計画

講義コード	S02153901
講義名	初等教育演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P22411M22

学習計画

講義コード	S02154001
講義名	カリキュラム論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P32501M21

学習計画

講義コード	S02154101
講義名	重複障害の理解と支援
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P32601M21

学習計画

講義コード	S02154201
講義名	肢体不自由者の心理・生理・病理
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P22602M21

学習計画

講義コード	S02154301
講義名	病弱者の心理・生理・病理
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P22603M21

学習計画

講義コード	S02154401
講義名	知的障害者の教育
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P22604M21

学習計画

講義コード	S02154501
講義名	肢体不自由者の教育
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P32605M21

学習計画

講義コード	S02154601
講義名	病弱者の教育
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	
実務経験の有無	
開設学科・年次	
必修・選択の別	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

P32606M21

学習計画

資 格 科 目

講義コード	610001001
講義名	教師論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	1年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	小高 さほみ	指定なし

ナンバリング

Y10001M21

授業概要(教育目的)

「日本社会を担う主権者を育てる教職という仕事」について、教職の意義、教師の役割（資質能力）と職務内容、教師による教育研究などを概説する。第１部は「専門職としての教師になる」、第2部「教師に期待されていること」、第3部「理想の教育を実現するために」を通して、教職の意義、教員の役割（資質能力）、教員の職務内容、そして、専門職として成長し続ける教師について学び、考えていく。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１，教師とは何かに関する基礎知識を修得する。 ２，専門職としての教師について理解する。
思考・判断の観点 (K)	１，教師とは何かの理論を、教育現場において生かそうとすることができる。 ２，子どもを理解し、尊重する教職の独自の役割を理解しようとする。 ３．教育現場において起きている問題を、教師論のテーマに結びつけて、生かそうとすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教育現場に起きている問題を、教師論のテーマにそくして理解しようとする態度を形成する。
技術・表現の観点 (A)	教育現場において起きている問題を教師論で講じた課題に結びつけて考え、自分の意見を発表できる。

学習計画

教師論

第1回	授業テーマ	(1)オリエンテーション (2)公教育の中の教師
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	(1)授業の概要 (2)現代日本の公教育の理念と構造的な問題をとらえ、教師になにができるのかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後に教科書のpp.9-20をよく読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	令和の高度専門職としての教師
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで教師に向けられてきた２つの教職観について学び、教師の専門職とは何かを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後に教科書pp.21-36をよく読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	教員養成制度と教師を目指す
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大学における教員養成の議論をとらえ、教師をめざす人の学びを支える制度について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後に教科書pp.37-47をよく読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	教師のキャリア形成と「学び続ける教師」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教師としての専門的能力とは何かを学び、自分自身がどのように「学び続ける」のか、さらに「学び続ける」中で、自分か何を大切にするのかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後に、教科書pp.48-60をよく読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	教師の日常
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教師の1日の流れを概観し、教師の仕事の特徴をつかみ、教師の働き方について考える。第4回までの「専門職としての教師になる」ことの小テストを行う。
	教室外学	

	習(予習・復習)の内容	授業前に、第 回までのレジュメと教科書（第 部）を読みなおす。授業後は、教科書をよく読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	教える教師の課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コンピテンシーベースのホリスティックな学習について、正統的周辺参加の学習を手がかりに学び、学習環境をデザインするという教師の仕事を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後に教科書pp.74-87をよく読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	(1)生徒指導の展開と教師 (2)教員格差に向き合う教員たち
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	(1)児童生徒が社会で生き抜く力を身につけさせるために、キャリア教育を踏まえた生徒指導をどのように展開するのかについて学ぶ。(2)教育格差と向き合う教員や学校の実践例から、教育の構成をめざす教員の専門性について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後に教科書pp.88-112をよく読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	Society5.0における学校と教師
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報社会に続く超スマート社会（Society5.0）に生きる子どもたちに求められる情報活用能力について学び、Society5.0という社会における学校や教師の役割について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書pp.113-123をよく読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	地域・保護者とコラボレートする教師
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校教育における地域・保護者との連携のあり方を学び、「生活科」から「総合的な学習の時間」と「家庭科」とつながる地域を教材とした実践例を手がかりに、充実した教育を実践していくための教師の役割と課題を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後に教科書pp.124-136をよく読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	「教職に就く」ということの基本
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	教育基本法や学校教育法などを手がかりに教職の本質をとらえ直し、「職業としての信頼」について法令に基盤があることを踏まえて、ビリーフ研究の知見を手がかりに教職の危険性と教師の主体的な学びの

第10回	育・ICT活用を含む)	必要性について学び、「教職に就く」とはどういうことを意味するのかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後に教科書pp.137-148をよく読んでおくこと。。第5～9回までの「教師に期待されていること」ことの小テストを行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	教育実践の更新
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「教育実践の更新」のプロセスの特徴と困難性を事例からとらえ、ドナルド・ショーンの提唱する「反省的実践」について学び、家庭科教員のネットワークを手がかりに、「専門職の学習共同体」での教師の成長について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後に教科書pp.149-159をよく読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	問われる献身性と働き方の再構築
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教職の魅力であり職業的特性として自明視されてきた「教員の献身性」について、現代的課題として問われている問題をひも解き、「献身性」の背後にあるものを複眼的にとらえ、何のための「献身」かを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後に教科書pp.160-171をよく読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	教師による教育研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教師が教育研究を行うことの必要性を、ビースター,G.や、ハーグリーブス,A.とフラン.Ａ.の知見と、近年注目されているアクションリサーチ型の実践的教育研究の実践例から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後に教科書pp.172-189をよく読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	未来に開かれた教師の仕事と発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教職が専門職として国際的な合意が形成されていく変遷を踏まえて、日本の教師の「生涯発達」という視点から「転機」と「力量形成」について学び、生涯発達を支える環境（サポートシステムとジェンダー平等）の整備について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後に教科書pp.190-200をよく読んでおくこと。期末レポートは、この授業内で提出すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	

第15回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によって、学修計画が変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

第5回と第10回に小テストを実施します。

評価方法

小テストと、毎回のリアクションペーパー、最終レポートとの総合的評価とする。なお、成績はルーブリックにもとづいて評価する。ルーブリックは授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
リアクションペーパー	○	○	○	○
小テスト	○	○		
期末レポート	○	○	○	○

評価割合

リアクションペーパー（20%）、小テスト合計点（30%）、期末レポート（50%）

使用教科書名(ISBN番号)

・山崎準二・紅林伸幸（編著）『専門職として成長し続ける教師になるために―教職詳説―』人言洞, 2023年（ISBN：978-4-910917-10-8）
・大村はま『新編 教えるということ』ちくま学芸文庫,1996年（ISBN：978-4-480-08287-9）

参考図書

・木村元・小玉重夫・船橋一男『教育学をつかむ 改訂版』有斐閣,2019年（ISBN：978-4-641-17726-0）
・山脇直司『社会とどうかかわるか――公共哲学からのヒント』(岩波ジュニア新書 608,2008年（ISBN：978-4-00-500608-3）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に判断して行動できる。
【関心と表現】学習で得た知識を持って、他者と共感して、問題解決に向かうことができる。

オフィスアワー

月曜日昼休み（要アポイントメントにより時間調整を行う。）

学生へのメッセージ

教職とはいったいどのような仕事なのかを、さまざまな角度からとらえていきます。さらに、「専門職としての教師」には、何が求められているのかを、教師の声や実践例、および国内外

の動向を手がかりにして、一緒に探究していきます。教職に就いたら子どもたちや地域の人たちと共に、どのような社会を築いていきたいのかを思い描きながら、授業に参加していただきたいと願っています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	公立高等学校の教諭、中学校の講師、及び国立中等教育学校の非常勤講師の経験を有し、家庭科の教師教育の研究を行ってきた。実務経験と研究を活かした授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	ショートレポートの提出、授業の資料の講読、発表の資料としてPCを用いることがある。

講義コード	610001031
講義名	教師論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	1年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	山口 真里	指定なし

ナンバリング

Y10001C21

授業概要(教育目的)

教職の意義、教員の役割（資質能力）、教員の職務内容、そして、チーム学校の意義について論じる。歴史に即して教師とはどんな職業だったのかを説明し、教育現場の実際に即して教師の仕事を紹介し、教師の使命と服務規律について講義し、最後に、今日要請される「チーム学校」の一員としての教師の働きについて論じる。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１，教職の意義と役割、教員の職務内容を理解する。 ２，他の教育職の役割を理解する。
思考・判断の観点 (K)	１，教師とは何かの理論を、教育現場において生かそうとすることができる。 ２，子どもを理解し、尊重する教職の独自の役割を理解しようとする。 ３．教育現場において起きている問題を、教師論のテーマに結びつけて、生かそうとすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教育現場において起きている問題や自身の被教育体験を、教師論に結びつけて考えることが出来る態度を形成する。
技術・表現の観点 (A)	教育現場において起きている問題を考え、教師論の課題に結びつけ、発表することが出来る。

学習計画

教師論

第1回	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	この授業の概要・目的 教師とは何か
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付資料の担当箇所を読んで、併せて、第2回以降の手掛かりとするために「自身がなぜ教職課程を履修しようと考えたのか」を考え、ショートレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200
第2回	授業テーマ	学校・教師というものの特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校というもの、教師というものの特徴を意識して考えてみる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付資料の担当箇所を読んで、ショートレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200
第3回	授業テーマ	「学校の教師」の特徴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	塾や習い事の先生と「学校の教師」のちがいについて考えることを手掛かりに、学校というものの・学校の教師というものの特徴を深く考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付資料の担当箇所を読んで、ショートレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200
第4回	授業テーマ	学校の教師の仕事を考える 「授業づくり」とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「授業」をするために教師はどんな準備をしているのだろうか。この準備だけで授業は成り立つものであろうか。「授業づくり」に教師はどう臨んでいるかを履修学生と考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付資料の担当箇所を読んで、ショートレポートを作成する。

	教室外学習の時間（分）	200
第5回	**授業テーマ**	学校の教師の仕事を考える 「学級づくり」とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業が成り立つ大切な要素に、授業を通じた学習に臨む子どもたちの様子がある。学習が学級といったまとまり＝関係性を介して共に学んだり考えたりする営みであることを振り返り、このための「学級づくり」の大切さについて考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付資料の担当箇所を読んで、ショートレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200
第6回	**授業テーマ**	学校の教師の仕事について考える 「成長・発達・思春期」「子どもの貧困」に向き合う
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもは、自立心が芽生えたり、様々なことに葛藤を覚えたりと、心身共に成長・発達を迎える。これに向き合う難しさと大切さを考える。併せて、「学力（の低下）」が言われて久しいが、この問題の背景には、階層間格差問題や貧困問題が隠されている。このことを理解したうえで、「学力」問題への取り組みのあり方について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付資料の担当箇所を読んで、ショートレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200
第7回	**授業テーマ**	学校の教師の仕事について考える 「生活指導」とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	成長・発達・思春期の難しさの中には「問題行動」とされる行為に臨んでしまう子どもとの向き合い方がある。「子どもの「問題行動」に向き合う」ことの特質について、特に大人との違いや成長・発達という特質を踏まえて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付資料の担当箇所を読んで、ショートレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200
第8回	**授業テーマ**	学校の教師の仕事について考える 「学校づくり」（チーム学校）とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで学習してきた教師の重要な仕事を、教師は教師たち同士で協力することで乗り越えてきた。この取り組み＝組織的であり非意図的な取組みについて考える。

	教室外学習(予習・復習)の内容	配付資料の担当箇所を読んで、ショートレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200
第9回	**授業テーマ**	歴史的存在としての教師 「教育勅語・大日本帝国憲法」と教師
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育、そして教師は子どもの成長発達や学習を促すことを仕事としてきた。ただし、これらをいわば日の当たる面ととらえるのであれば、なにもこういうことばかりではなかった。これを歴史、特に「教育勅語・大日本帝国憲法」のもとの教育（特に教化）を取り上げ考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付資料の担当箇所を読んで、ショートレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200
第10回	**授業テーマ**	歴史的存在としての教師 「教育基本法・日本国憲法」と教師
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前時の授業をもとに戦前の教育のなにが問題にされたのかを振り返り、これを戦後教育改革は制度的・実践的にどう乗り越えようとしたのかについて、特に権利として教育が位置づくことの意義について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付資料の担当箇所を読んで、ショートレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200
第11回	**授業テーマ**	歴史的存在としての教師 子どもの権利保障と教師
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前時の内容を受けて、教育が政治の波にどうもまれてきたかを視野に入れながら、国際的には子どもの権利保障のための取り組みが進められてきたことを扱い、特に「最善の利益」や「意見表明」の意義について考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付資料の担当箇所を読んで、ショートレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200
	授業テーマ	教師をめぐる今日的課題 いじめ・不登校・暴力問題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗ	「いじめ・不登校・暴力」の問題を考える。その際、「生活指導」の時間で学んだことを踏まえ、こういった問題の背景に意識を届かせ、目を

第12回	ｼｰ教育・ICT活用を含む)	配る重要さについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付資料の担当箇所を読んで、ショートレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200
第13回	授業テーマ	教師をめぐる今日的課題 教師の勤務と身分保障
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの成長発達や学習の権利の保障のための条件整備として教師の勤務や身分保障のあるべき姿を、内容面・制度面等から多角的に考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付資料の担当箇所を読んで、ショートレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200
第14回	授業テーマ	この授業のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	この授業で扱ったテーマが他の教職課程科目にどうつながっていくか話し、いまいちど「自身がなぜ教職課程を履修しようと考えたのか」を考えてもらう。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配付資料の担当箇所を読んで、ショートレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200

学習計画注記

講義を中心に展開するが、議論・質疑応答も当然大切にしたい。

学生へのフィードバック方法

毎時、ショートレポートを作成してもらう。毎回の授業をもとに、テキストやレジュメで学んだ内容を踏まえ、これを作成してもらう。これは、毎回の授業で振り返り、次の授業内容の理解に繋げていく。

評価方法

最終の課題と、毎時のショートレポートとの総合的評価とする。なお、成績はルーブリックにもとづいて評価する。ルーブリックは授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

本授業の最終課題	○	○	○	
ショートレポート	○	○	○	

評価割合

ショートレポート（20%）と本授業の最終の課題（80%）とで総合評価をする。

使用教科書名(ISBN番号)

汐見稔幸他編著『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房、2011年（ISBN-13:978-4623059263）

参考図書

講義の中で、紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

知識・理解、人間社会の豊かな知識と理解ができる
思考・判断、あるべき人間と教育の姿を追究できる
関心と表現、学習で得た知識を持って、他者と共感して、問題解決に向かうことができる

オフィスアワー

火曜日2限（10：50～12:30）千代田三番町キャンパス1804研究室

学生へのメッセージ

教師論は、自分の被教育体験をいかに考えるか、が重要になってくる。つまり、みなさんが、どのような学校体験を積んできたのか、その経験を振り返ることである。
しかもこの振り返りは、批判的に振り返ることが重要になる。批判的に、とはどのようなことなのか、そのこと自体も、じっくり考えていただきたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	ショートレポートの提出、授業の資料の講読、発表の資料としてPCを用いることがある。

講義コード	610002001
講義名	教育原理
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	2年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	河田 敦子	指定なし

ナンバリング

Y20002M21

授業概要(教育目的)

教育が人間にとってどのような意味をもっているのかを根本的に考えるために、人類の歴史、教育の歴史および思想、教科書問題、学力、生涯学習、子どもの権利等の多様な観点から理解が深められるように授業を行う。

履修条件

本科目は教職必修科目である。
特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	教育が人間固有の営みであり、人間にとって必要不可欠であり、社会文化国家によって異なる歴史と思想によって形成されてきたことを理解できる。
思考・判断の観点 (K)	現代教育問題の本質にあるものを見つめられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教員になるための最も基本的な科目である。常に「教育とは何か」という問題意識を持って受講している。
技術・表現の観点 (A)	教育の意義を理解することで、教職をこころざす者としての心構えを身につけ、広い視野で教育活動を中心とした社会貢献ができる教員を目指す姿勢を持てる。

学習計画

	授業テーマ	教育が人間にとって持つ意味（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨ	

第1回	ﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人間とチンパンジー等の他の動物と比較しながら、人間にとって教育がもつ意味を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後に教科書pp.1-16を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	人間は教育をどのように捉えてきたか
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「教育とは何か」を考える導入として、古代から現代に至るまで、世界の著名人が教育について述べた理念および名言等を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後に教科書pp.16-42とレジュメの第2回の部分を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	＜子ども＞の発見
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	西洋近代では「子ども期」の発見によって教育が誕生した。フィリップ・アリエスの研究を紹介しながら西洋教育史の導入とし、西洋近代における教育思想：コメニウス、ルソー、コンドルセの教育思想等を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後に教科書pp.43－54とレジュメの第3回の部分ををよく読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	近代日本に影響を与えた西洋教育思想
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ペスタロッチー、フレーベル、デューイの教育思想の概要を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後に、教科書pp.54-59とレジュメの第4回の部分をよく読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	近世以前の教育と近世の教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近世以前に存在した教育機関大学寮、足利学校等でどのような教育が行われていたのかをスライドを見ながら学ぶ。江戸時代についても、藩校郷校等の教育機関で行われていた教育内容について学ぶ。藩校等の映像を見ながら学ぶ。（第1回小テスト）
	教室外学習(予習・復習)の内容	西洋教育史に関する小テストを実施する。授業後に、教科書pp.61-65とレジュメの第5回の部分を良く読んでおくこと。
	教室外学習の	190分

	時間（分）	
第6回	授業テーマ	近世の教育思想
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中江藤樹、細井平洲、貝原益軒等と私塾の塾主となった本居宣長、広瀬淡窓、吉田松陰等江戸時代の代表的な教育者の思想を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後に、教科書pp.65-67とレジュメの第6回の部分を良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	近代日本公教育制度の成立と展開
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	明治維新以降、近代日本公教育制度成立期の制度として、学制と教育令について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後に、教科書pp.67-71とレジュメの第7回の部分を良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	近代日本公教育制度の成立と展開
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育令が改正、再改正を経て、小学校令が初代文部大臣森有礼によって公布されるに至る過程、森有礼の教育政策と教育勅語の公布について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後に、教科書pp.71-74とレジュメの第9回の部分を良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	子どもの権利条約
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの権利条約成立の契機となったコルチャック神父の思想について学び、子どもの権利条約の条文を示しながら、それに抵触する現代日本社会における児童虐待等の問題を子どもの権利の観点から批判的に検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	近代以前の日本の教育史について第2回目の小テストを実施する。設問は25問程度。授業前後に、教科書pp.243-257と第5回～第9回のレジュメを良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	大正自由教育運動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	大正自由教育運動でどのような教育主張が展開されたかを学ぶ。「主体的で対話的な深い学び」が重要視される今日、大正期にも同じような傾向が見られたことを現代と対照しながら学ぶ。
	教室外学習(予	授業前後に教科書pp.75-77、pp.174-181と第11回のレジュメを良く読

	習・復習)の内容	んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	授業をつくる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業のデザインの仕方、教材とは何か、学習指導案の書き方を学ぶ。教育実習時や将来教員になる時のことを想定してしっかり学ぶこと。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後に、教科書pp.157-173と第12回のレジュメを良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	学力とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学力をめぐる考え方、論争等を示しながら、学力とは何か、どのように評価できるかについて理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後に、教科書pp.91-107と第13回のレジュメを良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	生涯学習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生涯学習社会がどのように形成され、現代社会にどのような役割を果たしているか、何が求められているかを概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第2回テストの返却。 授業前後に、教科書pp.209-242と第14回のレジュメを良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	現代日本の教育課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	いじめや不登校等の教育問題がなぜ生じたのかを考えながら、それらの問題を解決するために教育に何が求められているかを考える。学生に発言を求める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後に、教科書pp.259-281と第15回のレジュメを良く読んでおくこと。期末レポートはこの授業内に提出すること。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

第5回と第9回に小テストを実施します。それまでに学習したことの基礎的知識の定着を図るためです。

評価方法

・2回の小テストは、基本的知識の定着と理解度を測るために行う。合計点数を30点満点に換算し、評価対象とする。
・期末レポートのテーマは、「教育とは何か、貴女の考えを述べなさい」（2000字以上）である。本講義を通して学んだことを理解した上で、自分の考えや経験をもとに、自分の考えを自分の言葉で論じることを求めている。引用の多いレポートや説明だけでは、本課題に取り組んだと言う評価は与えられないので、注意すること。
評価方法・評価基準は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはクラスルーム
または授業内での配布等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
毎時5問テスト	○			
期末レポート	○	○	○	○
リアクションペーパー	○	○	○	○

評価割合

小テストの合計点数 30%、平常点20%、最終レポート50%

使用教科書名(ISBN番号)

田嶋一ほか『やさしい教育原理 改訂版』有斐閣（978-4-641-22081-2）

参考図書

・古沢常雄・米田俊彦『教育史』学文社 2009年、
・高橋陽一『教育通義』武蔵野美術大学出版会 2014年、
・ポルトマン著『人間はどこまで動物か』岩波新書 1961年
・松沢哲郎『想像する力 チンパンジーが教えてくれた人間の心』岩波書店 2011年、
・コメニウス著 井ノ口淳三 訳『世界図絵』平凡社ライブラリ 1995年

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に判断して行動できる。
【関心・意欲・態度】社会の中に在る諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。

オフィスアワー

火曜日3限（要アポイントメントにより時間調整を行う。）

学生へのメッセージ

「教員とは何か」について常に問題意識を持って日常生活を送り、受講してください。考える材料は、身近に沢山あります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング	○	アクティブラーニング：常時、学生へ質問し発言を求める、対話的な授業形式を取る。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	610002031
講義名	教育原理
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	2年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	山口 真里	指定なし

ナンバリング

Y20002C21

授業概要(教育目的)

この授業は、教育とはなにか、教育はどのように理念され実践されてきたか、現在の教育はどのように形づくられてきたかについて学び理解することを目的としています。
そのために、まずは教育の歴史や思想を順に辿り、社会や政治、経済等との関係において「教育」がどのように変遷してきたかを確認します。また、「子ども」や「学校」「家族」など、「教育」を成り立たせている諸要素を歴史的・思想的背景に照らしながら捉え直していきます。
そして、それらをもとに、授業の終盤では現代の教育における諸課題について検討し、受講生ひとりひとりが教育のありかたについて自ら掘り下げ考察できる力をつけることを目指します。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	教育の基礎的な概念や理論、思想について理解する。 教育的な課題について幅広い知見を持つ。
思考・判断の観点 (K)	教育的な課題について深く思考し、判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日頃から教育や教育問題に関心を持ち、情報収集ができる。
技術・表現の観点 (A)	教育や教育問題について自ら考え、意見を表明できる。

学習計画

教育原理

	授業テーマ	イントロダクション「教育」の原理を学ぶ意義

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	私たちにとって日常的で当たり前の「教育」ですが、なぜその原理を学ぶ必要があるのでしょうか。また何をもとにそれを捉えればよいでしょうか。それらを考えることからこの授業をスタートします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容をもとにリアクションペーパーを作成する
	教室外学習の時間（分）	200
第2回	授業テーマ	古代の教育①「教育」の原風景
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育の歴史を遡ると、その原風景として、共同体の世代間文化伝達を見出すことができる。そのありようと、今日的な「教育」との違いについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容をもとにリアクションペーパーを作成する
	教室外学習の時間（分）	200
第3回	授業テーマ	古代の教育②古代ヨーロッパ地中海の教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	古代ヨーロッパ地中海における教育は、その歴史的・社会背景からどのような特徴を持っていたのか。それらの地域で経験された教育を検討し、現代の教育をどのようにとらえることができるかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容をもとにリアクションペーパーを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200
第4回	授業テーマ	中世の教育①中世キリスト教の教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中世ヨーロッパを支配したキリスト教カトリックの教育はどのようなものであったのか。現代の教育との差異とともに、与えた影響について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容をもとにリアクションペーパーを作成する
	教室外学習の時間（分）	200
第5回	授業テーマ	中世の教育②中世の学校の諸形態
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中世ヨーロッパの都市の発展は、いろいろな形態の学校を発生させ、各地に大学も誕生する。そこで行われた教育の性格と意味を考えていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容をもとにリアクションペーパーを作成する

	教室外学習の時間（分）	200
第6回	**授業テーマ**	近代の教育①子ども観の変容
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	Ph.アリエスによれば、近代以前には大人世代と区別した「子ども期」は存在せず、「子ども」という特有のカテゴリーやまなざしが登場するのは近代以降であった。それぞれの時代の子どもの位置付けと変遷を追い、「子ども」と教育との関係を把握する
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容をもとにリアクションペーパーを作成する
	教室外学習の時間（分）	200
第7回	**授業テーマ**	近代の教育②近代教育思想の展開
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近代に入り、教育はどのようにとらえられたのだろうか。ルソーやカント、コンドルセなど西洋教育の代表的な思想家の理念を、その時代の社会や歴史との関わりにも注意しながら理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容をもとにリアクションペーパーを作成する
	教室外学習の時間（分）	200
第8回	**授業テーマ**	近代の教育③近代学校の誕生
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	代教育思想を背景に誕生した近代学校は、教育を遂行するのための特別な時間と空間としてデザインされたものだった。そこで行われた教育内容を確認し、その意味を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容をもとにリアクションペーパーを作成する
	教室外学習の時間（分）	200
第9回	**授業テーマ**	現代の教育① 公教育制度の成立と展開
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本において、近代教育はどのようにはじまり展開したのだろうか。「学校」の導入や公教育の整備過程に着目しながら学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容をもとにリアクションペーパーを作成する
	教室外学習の時間（分）	200
第10回	**授業テーマ**	現代の教育②日本型学校の変遷
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の学校はどのような特徴を持っているのだろうか。それらが戦前戦後でどのように変化したのかを理解し、今日の学校が持つ歴史的な課題について考える。

	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容をもとにリアクションペーパーを作成する
	教室外学習の時間（分）	200
第11回	**授業テーマ**	教育の基本概念①「教育」概念の整理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ここまで学習した教育の歴史や思想をふりかえり、あらためて「教育」概念を整理する。また、こんにちの教育の特徴や論点についても考えてみる
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容をもとにリアクションペーパーを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200
第12回	**授業テーマ**	教育の基本概念と課題②子どもの発達と学習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育が行われる前提として、人間は成長・発達するものだという理解がある。この「発達」概念がどのように研究され広がったのかを、時代や社会の持つ価値観との関連にも目を配りながら把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容をもとにリアクションペーパーを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200
第13回	**授業テーマ**	教育の基本概念と課題 教育と格差・不平等
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育における格差や不平等は、世界的に広く問題視されています。それは、生まれ育った環境により教育機会に不平等が生じていたり、教育機会があっても参入しづらく結果的に格差が生じている状態です。それらの課題について具体的に考えていきます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容をもとにリアクションペーパーを作成する
	教室外学習の時間（分）	200
第14回	**授業テーマ**	授業のまとめ 教育と権利
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本授業のまとめにかえて、教育を「権利」の側面から整理する。「子どもの権利」という思想はどのように生まれ発展してきたのか、また、「権利としての教育」、「学習権」の意義について考えたい。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容をもとにリアクションペーパーを作成する
	教室外学習の時間（分）	200

学習計画注記

受講生の人数や授業の進捗により学習計画を変更する場合があります。

学生へのフィードバック方法

毎時提出してもらうリアクションペーパーについて、授業内で適宜紹介し、コメントします。他の受講生がどのように考えたのかを知り、自らの視野を広げるよう心がけてください。

評価方法

レポート課題、リアクションペーパー、平常点を総合的に評価します。なお、積極的な授業への取り組みを重視しますので、総授業回数の７割以上の出席を単位取得の要件とします。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間レポート	○	○	○	○
最終レポート	○	○	○	○
リアクションペーパー	○	○	○	○

評価割合

レポート課題60%、リアクションペーパーと平常点40%をもとに総合的に評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

テキストは使用せず、適宜資料を配布します。

参考図書

講義の中で、適宜紹介します。さしあたり、
汐見稔幸他編著『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房、2011年（ISBN-13:978-4623059263）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会を豊かな知識で理解できる。
【思考・判断】あるべき人間と教育の姿を追求できる。
【関心・意欲】教育をめぐる諸問題に関心を持ち、積極的に行動できる。
【技能・表現】学習で得た知識を持って問題を分析し、論理的に表現できる。

学生へのメッセージ

学校、子ども、家族、教師など、教育をめぐる問題はさまざまに生じ変動しています。それらに向き合える広く深い視野を得るために、教育の原理についての知識を身につけましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含みます。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	リアクションペーパーの提出、授業の資料の講読、発表の資料としてPCを用います。

講義コード	610003001
講義名	教育心理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	1年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	北見 由奈	指定なし

ナンバリング

Y10003C21

授業概要(教育目的)

「教育心理学」は、教育に関する諸事象について心理学的に探究し、教育効果を高めるのに役立つような心理的知見と心理的技術を提供しようとする学問である。
本授業では、教育心理学に関する諸理論を理解するとともに、現代の児童生徒が抱える心理的課題や教師に求められる教育的援助について学習する。具体的には、発達に関する心理、学習に関する心理、適応に関する心理について理解を深め、教師として効果的な教育が行えるよう、その基礎的な知識と技能を身につける。

履修条件

本授業は、教職を志す学生は必修となる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．教育心理学の理論を理解する。 ２．教育にまつわる事象が教育心理学の理論によってどのように説明できるのかを理解する。
思考・判断の観点 (K)	１．教育心理学の理論を、教育現場において生かそうとすることができる。 ２．自身の疑問を教育心理学の知識を用いて解決しようとすることができる。 ３．教育的な問題を教育心理学の知識を用いて解決しようとすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教育現場での日常にある事象から、教育心理学的なテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点 (A)	教育現場における問題、自身や身近な人の行動、及び社会現象に関して、教育心理学で得た知識に基づいて説明するなど、教育心理学と教育現場のつながりを発信することができる。

学習計画		
第1回	授業テーマ	イントロダクション―心理学と教育、人の発達の関わり―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンスとして、授業の進め方、スケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。 その上で、教育心理学で扱う内容を概観し、これから学ぶ学問領域は何かを知る。 この授業ではgoogle classroomを使用するため、その使い方についても簡単に説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。
	教室外学習の時間(分)	190分
第2回	授業テーマ	発達と教育１――発達課題と身体的発達――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発達と教育について学ぶ。発達の定義、発達課題と、発達の身体的側面について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「発達」に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分が関心のある分野と教育心理学のつながりを考える。
	教室外学習の時間(分)	190分
第3回	授業テーマ	発達と教育２――運動機能の発達と発達の普遍性と可変性―― 発達と教育３――脳と神経の発達――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動機能の発達について知り、発達の普遍的な部分と、時代や地域、文化によって可変的な部分について理解する。 発達の内、脳と神経の発達について知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第4回	授業テーマ	発達と教育４――自我の発達――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自我の発達について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第5回	授業テーマ	発達と教育５――自我の防衛機制――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自我の防衛機制を理解し、日常場面、教育場面においてどのような状況が想定されるか考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分

第6回	授業テーマ	発達と教育６――社会性の発達――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会性の発達を理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	発達と教育７――認知の発達――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	認知の発達について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	学習を支えるメカニズム１――動機づけ――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習理論について知り、動機づけとは何かを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	学習を支えるメカニズム２――記憶――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	記憶のメカニズムを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	学習を支えるメカニズム３――自己効力感――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己効力感を理解し、教育現場でどのように応用できるかを考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	学習に関する理論１――条件づけ――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	条件づけを理解し、教育現場でどのように応用できるかを考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
		学習に関する理論２――観察学習と技能学習、教育における

第12回	授業テーマ	評価――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	観察学習と技能学習について理解し、教育現場でどのように応用できるか考える。評価とは何かを知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第13回	授業テーマ	障害と教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害とは何か、合理的配慮とな何かを理解し、特別支援教育やインクルーシブ教育について知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第14回	授業テーマ	総括と学期末試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業前半の50分では、授業のまとめと振り返りを行う。授業後半の50分では、学期末試験を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分

学生へのフィードバック方法

・授業開始時に実施する「出席確認（自己チェック）」については、その都度、教員との間で結果を共有する。
・「ふりかえり」については、授業終了後に教員が確認し、原則として全体にフィードバックを行う。

評価方法

授業への姿勢（40%）、および学期末試験の結果（60%）をもとに総合的に判断する。

＜授業への姿勢＞
自己チェックへの取り組みとふりかえりへの取り組みから総合的に判断。
・自己チェック 20%
→ 出席確認を兼ねる。前の回の内容に関する課題への回答を、毎回の講義のはじめに求める。
→ 正答率ではなく、時間内にきちんと提出できているかどうかを評価の対象とする。
・ふりかえり 20%
→ 受講の後で提示される課題に回答を求める。
→ 期限内にきちんと提出できているかどうかを評価の対象とする。

なお、この科目ではルーブリックに基づく成績評価を行う。また、ルーブリックについてはgoogle classroomまたは授業内にて提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
自己チェック	○		○	
ふりかえり	○	○	○	○

学期末試験	○	○		

評価割合

授業への姿勢（40%）、学期末試験の結果（60%）

使用教科書名(ISBN番号)

原則としてgoogle classroomを通して資料を配布する。

参考図書

お勧めの参考書としては以下があります。教科書ではありません。
1）桜井茂男（編） 「改訂版 たのしく学べる最新教育心理学: 教職に関わるすべての人に」 図書文化社 2017，ISBN: 9784810076905
2）柏崎秀子（編） 「教職ベーシック 発達・学習の心理学」 北樹書房 2017（改訂版），ISBN: 9784779305269
その他参考資料は講義の際に適宜紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「教育」「学校」という観点から人間を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学的な知識を得る。
【思考・判断】心理学的な思考をもって「教育」を理解し、その現代社会においてあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々、特に学校現場のために働く能力を、教育の心理学への知識に基づく関心によって得る。
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会、学校の中に課題を発見し、教育心理学的な思考や教育心理学の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。

オフィスアワー

前期：月曜日３限（13：20～15：00） 町田キャンパス1608室

学生へのメッセージ

・質問や問題提起をgoogle classroomのコメント機能を使って共有することも推奨。
・展開によって生きた流れを優先するため、内容を変更することもある。
・教育に関する新聞やニュースには必ず目を通すように心がけること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	google classroomを、自己チェック、授業内容の動画、ふりかえり、配布資料のアーカイブなどで活用する。

講義コード	610003031
講義名	教育心理学
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	1年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	北見 由奈	指定なし

ナンバリング

Y10003C21

授業概要(教育目的)

「教育心理学」は、教育に関する諸事象について心理学的に探究し、教育効果を高めるのに役立つような心理的知見と心理的技術を提供しようとする学問である。
本授業では、教育心理学に関する諸理論を理解するとともに、現代の児童生徒が抱える心理的課題や教師に求められる教育的援助について学習する。具体的には、発達に関する心理、学習に関する心理、適応に関する心理について理解を深め、教師として効果的な教育が行えるよう、その基礎的な知識と技能を身につける。

履修条件

本授業は、教職を志す学生は必修となる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．教育心理学の理論を理解する。 ２．教育にまつわる事象が教育心理学の理論によってどのように説明できるのかを理解する。
思考・判断の観点 (K)	１．教育心理学の理論を、教育現場において生かそうとすることができる。 ２．自身の疑問を教育心理学の知識を用いて解決しようとすることができる。 ３．教育的な問題を教育心理学の知識を用いて解決しようとすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教育現場での日常にある事象から、教育心理学的なテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点 (A)	教育現場における問題、自身や身近な人の行動、及び社会現象に関して、教育心理学で得た知識に基づいて説明するなど、教育心理学と教育現場のつながりを発信することができる。

学習計画		
第1回	授業テーマ	イントロダクション―心理学と教育、人の発達の関わり―
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンスとして、授業の進め方、スケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。 その上で、教育心理学で扱う内容を概観し、これから学ぶ学問領域は何かを知る。 この授業ではgoogle classroomを使用するため、その使い方についても簡単に説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。
	教室外学習の時間(分)	190分
第2回	授業テーマ	発達と教育１――発達課題と身体的発達――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発達と教育について学ぶ。発達の定義、発達課題と、発達の身体的側面について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「発達」に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分が関心のある分野と教育心理学のつながりを考える。
	教室外学習の時間(分)	190分
第3回	授業テーマ	発達と教育２――運動機能の発達と発達の普遍性と可変性―― 発達と教育３――脳と神経の発達――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動機能の発達について知り、発達の普遍的な部分と、時代や地域、文化によって可変的な部分について理解する。 発達の内、脳と神経の発達について知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第4回	授業テーマ	発達と教育４――自我の発達――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自我の発達について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第5回	授業テーマ	発達と教育５――自我の防衛機制――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自我の防衛機制を理解し、日常場面、教育場面においてどのような状況が想定されるか考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分

第6回	授業テーマ	発達と教育６――社会性の発達――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会性の発達を理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	発達と教育７――認知の発達――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	認知の発達について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	学習を支えるメカニズム１――動機づけ――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習理論について知り、動機づけとは何かを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	学習を支えるメカニズム２――記憶――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	記憶のメカニズムを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	学習を支えるメカニズム３――自己効力感――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己効力感を理解し、教育現場でどのように応用できるかを考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	学習に関する理論１――条件づけ――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	条件づけを理解し、教育現場でどのように応用できるかを考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
		学習に関する理論２――観察学習と技能学習、教育における

第12回	授業テーマ	評価――
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	観察学習と技能学習について理解し、教育現場でどのように応用できるか考える。評価とは何かを知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第13回	授業テーマ	障害と教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害とは何か、合理的配慮とな何かを理解し、特別支援教育やインクルーシブ教育について知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第14回	授業テーマ	総括と学期末試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業前半の50分では、授業のまとめと振り返りを行う。授業後半の50分では、学期末試験を実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分

学生へのフィードバック方法

・授業開始時に実施する「出席確認（自己チェック）」については、その都度、教員との間で結果を共有する。
・「ふりかえり」については、授業終了後に教員が確認し、原則として全体にフィードバックを行う。

評価方法

授業への姿勢（40%）、および学期末試験の結果（60%）をもとに総合的に判断する。

＜授業への姿勢＞
自己チェックへの取り組みとふりかえりへの取り組みから総合的に判断。
・自己チェック 20%
→ 出席確認を兼ねる。前の回の内容に関する課題への回答を、毎回の講義のはじめに求める。
→ 正答率ではなく、時間内にきちんと提出できているかどうかを評価の対象とする。
・ふりかえり 20%
→ 受講の後で提示される課題に回答を求める。
→ 期限内にきちんと提出できているかどうかを評価の対象とする。

なお、この科目ではルーブリックに基づく成績評価を行う。また、ルーブリックについてはgoogle classroomまたは授業内にて提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
自己チェック	○		○	
ふりかえり	○	○	○	○

学期末試験	○	○		

評価割合

授業への姿勢（40%）、学期末試験の結果（60%）

使用教科書名(ISBN番号)

原則としてgoogle classroomを通して資料を配布する。

参考図書

お勧めの参考書としては以下があります。教科書ではありません。
1）桜井茂男（編） 「改訂版 たのしく学べる最新教育心理学: 教職に関わるすべての人に」 図書文化社 2017，ISBN: 9784810076905
2）柏崎秀子（編） 「教職ベーシック 発達・学習の心理学」 北樹書房 2017（改訂版），ISBN: 9784779305269
その他参考資料は講義の際に適宜紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「教育」「学校」という観点から人間を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学的な知識を得る。
【思考・判断】心理学的な思考をもって「教育」を理解し、その現代社会においてあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々、特に学校現場のために働く能力を、教育の心理学への知識に基づく関心によって得る。
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会、学校の中に課題を発見し、教育心理学的な思考や教育心理学の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。

オフィスアワー

前期：金曜日３限（13：20～15：00） 千代田三番町キャンパス1805室

学生へのメッセージ

・質問や問題提起をgoogle classroomのコメント機能を使って共有することも推奨。
・展開によって生きた流れを優先するため、内容を変更することもある。
・教育に関する新聞やニュースには必ず目を通すように心がけること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	google classroomを、自己チェック、授業内容の動画、ふりかえり、配布資料のアーカイブなどで活用する。

講義コード	610004001
講義名	教育制度論（中・高・栄）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	2年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	河田 敦子	指定なし

ナンバリング

Y20005M21

授業概要(教育目的)

なぜ、公教育制度が制定されるようになったのか。教育関連の制度が時代によってどのように変遷してきたのか、教育制度が現代教育問題とどのような関係があるのかについて、憲法、教育基本法、学校教育法、教育公務員特例法等の基本的な教育法規をもとに概説する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	憲法、教育基本法、学校教育法、児童福祉法等主な教育関連法について基本的な知識を有している。
思考・判断の観点 (K)	教育制度の成立過程や存在意義について考え、現状を判断する材料を有している。
関心・意欲・態度の観点 (V)	将来教員となるために教育制度に関して知り、活用しようとする意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	法律を遵守し、また法律を守るように生徒を指導できる教育力・伝える力・表現力を持つ。

学習計画

	授業テーマ	教育制度を学ぶことの意味
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人間社会にとって教育制度とは何か、について学ぶ。

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	本授業で教科書について説明を行う。授業後に、pp.1-17を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
第2回	**授業テーマ**	子どもの権利
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの権利がどのように保障されているのか、子どもの権利条約、学習権等の観点から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後に教科書pp.21－38を良く読み、授業後に配布したレジュメを良く読むこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
第3回	**授業テーマ**	教育法のしくみ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育法がどのような仕組みで構築されているかを学ぶ。日本国憲法、教育基本法、その他の教育に関する法律等の間にどのような関係が体系づけれれているかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後に教科書pp.39-49を良く読み、配布資料とワークシートも授業後に良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
第4回	**授業テーマ**	教科書制度
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本において教科書がどのように採択されているのかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後にワークシートをよく復習し、授業前後に教科書教科書pp.50-43を良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
第5回	**授業テーマ**	日本国憲法と教育基本法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本国憲法と教育基本法との関係を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に教科書pp.64－80を良く読んでおくこと。授業内で配布したワークシートを良く復習すること。
	教室外学習の時間(分)	180分
第6回	**授業テーマ**	学校の制度
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校教育法に定められた学校の定義と義務教育の理念について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後に教科書pp.95-110を良く読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
	授業テーマ	義務教育の制度

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	義務教育は誰の義務か、という問いを発しながら義務教育について概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後に教科書pp.111-125を良く読み、ワークシートを良く復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
第8回	授業テーマ	教育の機会均等
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	義務教育の無償制についてその理由を考える。子どもの貧困問題、夜間中学校の現状についても学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書pp.126-141をよく読んでくること。
	教室外学習の時間(分)	120分
第9回	授業テーマ	教職員の制度
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育公務員の義務・教員養成・研修に関する制度について概説する。このような制度がつくられた背景についても説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後に教科書pp.142－156を良く読み、ワークシートを良く復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
第10回	授業テーマ	教育行政の制度
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育委員会制度について、その基本的理念と日本における仕組みを概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前後に教科書pp.157-176を良く読み、ワークシートを良く復習しておくこと。30問程度の中間テストを実施するので、前回までに配布したワークシートを良く復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	240分
第11回	授業テーマ	保育の制度
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代社会は、男女共同参画社会であることを踏まえて、夫婦が働きながら子育てをできる社会になるための子育て支援の法制度を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書pp.177-189を良く読んでおくこと。配布資料とワークシートを良く読み、復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
第12回	授業テーマ	幼児教育と子育て支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代社会は、男女共同参画社会であることを踏まえて、夫婦が働きながら子育てをできる社会になるための子育て支援法等、幼稚園・認定子ども園の制度を学ぶ。
	教室外学習(予)	教科書pp.190－200を授業前後に良く読み、ワークシートを良く復

	習・復習 の内容	習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	**授業テーマ**	学校の安全管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校保健安全法に基づく学校における健康保持と安全、災害時の学校の対応等について学ぶ。災害が多い今日、どのような法律によって教育現場が運営維持されているかを知ることの重要性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	この部分は、教科書には無いので、配布資料とワークシートを良く読み、復習しておくこと
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	**授業テーマ**	教師の教育権について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アクティブラーニング：学校教員に教育権はあるか、あるとすればどのような権利かをグループディスカッションして、グループ毎に発表する。 50問テストを実施するので、以前に実施した30問テストをしっかりマスターし、教科書とワークシートをよく復習しておくこと。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考文献にあげた図書をよく読んでくること。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

特になし

学生へのフィードバック方法

中間テストは模範解答と共に返却する。

評価方法

・30問程度の中間テストを1回実施する。
・期末テストは、中間テストの設問全てを含む50問である。
・授業中に制度についての知識理解について随時質問を発する。教員の質問に対する応答も関心・意欲・態度の評価に含める。
評価方法・評価基準は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはクラスルーム
または授業内での配布等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間テスト	○			
期末テスト	○	○		
授業態度・リアクションペーパー			○	

評価割合

受講態度２０%、試験５０%、中間テスト（３０%）で総合評価。

使用教科書名(ISBN番号)

川口洋誉・古里貴士・中山弘之編著『未来を創る教育制度論』北樹出版 2020年

参考図書

①ピーター・L・バーガー著 薗田稔訳『聖なる天蓋』新曜社 1995年
②市川須美子編『教育小六法 2023年版』学陽書房 2023年
③兼子仁著『教育権の理論』勁草書房 1976年
④堀尾輝久著『いま、教育基本法を読む』岩波書店 2003年
⑤河田敦子著『近代日本地方教育行政制度の形成過程』風間書房 2011年

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に判断して行動できる

オフィスアワー

火曜日 午後13：00～14：30（アポイントメントを取り、調整すること）

学生へのメッセージ

教育法規、教育制度に関する話が主になります。現代の自分たちの生活や教育現場と制度がどのように結び付いているかを、新聞やテレビの情報と共に考えながら受講してください。教育法制度の理論と内容をしっかり身に付けることは、教員採用試験でも教育現場でも役に立ちます。授業内容を積極的に吸収するようにしてください。

教職必修です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は、毎時学生に発言を求め、対話形式で行う。第14回では、グループディスカッション、プレゼンを行う。
情報リテラシー教育	○	資料として新聞記事を多く用いる。
ICT活用		

講義コード	610004031
講義名	教育制度論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	2年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	小林 和記	指定なし

ナンバリング

Y20005C21

授業概要(教育目的)

人間の成長・発達の権利を保障することを意義・原理とする教育関連法規・制度について判例や教育的問題といった具体的な事例から学習を通じ、教育の法的・制度的仕組みに関する基礎知識を学習する。そして、学校と地域の連携や学校安全について学習する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１，教育制度は、教育の実際を規定することを理解する。 ２，教育制度の歴史を踏まえ、教育の理念、目的を正確に理解し、その規定要因を理解する。
思考・判断の観点 (K)	１，教育現場の実際を理解し、教育制度による規定要因を判断出来るようにする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	１，教育現場に生ずる問題を、教育制度との関連で考える関心を深め、意欲的に学習する態度を形成する。
技術・表現の観点 (A)	１，教育問題を教育制度との関連で考え、自分の意見を述べることができる。

学習計画

教育制度論

	授業テーマ	オリエンテーション 教育制度を学ぶ上での視座
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ	教育制度を支える法規や仕組みを概観し、教育制度の在り方を考

第1回	教育・ICT活用を含む)	える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義で配布した資料とテキストを読み直し、ショートレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	200
第2回	授業テーマ	子どもの権利の特徴（1）―いじめ・体罰と学校の法的責任（個人情報と情報公開の法制を含む）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	具体的な判例を通じ、いじめ事件や体罰事件における学校の法的責任について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義で配布した資料とテキストを読み直し、ショートレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	200
第3回	授業テーマ	子どもの権利の特徴（2）―学校事故の法的責任
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	具体的な判例を通じて、学校事故を概観し、学校の法的責任を考えることで、学校安全の意義を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義で配布した資料とテキストを読み直し、ショートレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	200
第4回	授業テーマ	子どもの権利の特徴（3）―基本的人権としての教育をうける権利
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「教育をうける権利」（日本国憲法第26条）を読み、この条文で保障される権利について深く考える。義務教育の性質について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義で配布した資料とテキストを読み直し、ショートレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	200
第5回	授業テーマ	学校教育における子どもの権利保障の課題（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本国憲法で保障がうたわれている基本的人権の中での「教育をうける権利」の位置づけについて、具体的な判例を通じて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義で配布した資料とテキストを読み直し、ショートレポートを作成する。
	教室外学習の時間(分)	200
第6回	授業テーマ	学校教育における子どもの権利保障の課題（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本国憲法第26条の「能力に応じて等しく」というところの解釈について、インクルーシブ教育の考え方に基づきながら、具体的な判例を通じて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義で配布した資料とテキストを読み直し、ショートレポートを作成する。
	教室外学習の時間	200

	（分）	
第7回	**授業テーマ**	学校教育における子どもの権利保障の課題（3）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	具体的な判例を通じて、教育基本法でなぜ「人格の完成」や「不当な支配の禁止」が位置づけられなくてはならなかったのかを考える。大日本帝国憲法と教育勅語に基づいた戦前の教育について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義で配布した資料とテキストを読み直し、ショートレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200
第8回	**授業テーマ**	学校教育における子どもの権利保障の課題（4）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	具体的な判例を通じて、教員の採用・身分・処分・研修について学び、その意義とあり方について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義で配布した資料とテキストを読み直し、ショートレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200
第9回	**授業テーマ**	学校教育における子どもの権利保障の課題（5）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	具体的な判例に基づき、学習指導要領の法的性質と教師の教育の自由について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義で配布した資料とテキストを読み直し、ショートレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200
第10回	**授業テーマ**	学校教育における子どもの権利保障の課題（6）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「家永教科書裁判」を通じて、ここで争われた権利と権限（教科書制度における文部科学省や教育委員会の権限）について考える。併せて、文部科学省や教育委員会の働きについて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義で配布した資料とテキストを読み直し、ショートレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200
第11回	**授業テーマ**	子どもの権利条約と子どもの権利
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）を読み、この中で保障がうたわれている権利について理解し、この権利を具体的に保障していくための取り組みについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義で配布した資料とテキストを読み直し、ショートレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200
第12回	**授業テーマ**	幼児教育と子育て支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代社会における保護者ニーズの多様化等から、幼稚園・認定こども園、地域における子育て支援の在り方について考える。

	教室外学習(予習・復習)の内容	講義で配布した資料とテキストを読み直し、ショートレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200
第13回	**授業テーマ**	教育制度の今日的課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「開かれた学校づくり」「コミュニティ・スクール」制度の課題について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義で配布した資料とテキストを読み直し、ショートレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200
第14回	**授業テーマ**	この授業のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの命、成長と発達を保障するための法や制度の意義とあり方について今一度考え、今後の学習へのつながりを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義で配布した資料とテキストを読み直し、ショートレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200

学習計画注記

講義が中心だが、質疑応答を重視する。

学生へのフィードバック方法

毎時、ショートレポートを作成してもらう。毎回の授業をもとに、テキストやレジュメで学んだ内容を踏まえ、これを作成してもらう。これは、毎回の授業で振り返り、次の授業内容の理解に繋げていく。

評価方法

最終の課題と、毎時のショートレポートとの総合的評価とする。なお、成績はルーブリックにもとづいて評価する。ルーブリックは授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
本授業の最終の課題	○	○	○	
ショートレポート	○	○	○	

評価割合

最終の課題（80%）と、毎時のショートレポート（20%）とで、総合的に評価をする。

使用教科書名(ISBN番号)

勝野正章他編『教育小六法（2025年度版）』学陽書房、2025年（ISBN：9784313012011）

参考図書

汐見稔幸他編著『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房、2011年（ISBN：9784623059263）
他、講義の中で、適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

知識・理解、豊かな知識を得ることができる
思考・判断力、あるべき人間と教育の姿を追究し，判断することができる

学生へのメッセージ

私たちの生活は、法規や制度によって成り立っています。教育制度を理解することは、教育現場において、それを“武器”とし、自信をもって活動することに繋がります。多様化・複雑化する現代社会で、今後の教育課題に向き合い、対応するために、積極的に学んでほしいです。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	ショートレポートの提出、授業の資料の講読、発表の資料としてPCを用いることがある。

講義コード	610005001
講義名	教育課程論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期前半
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	2年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	齋藤 義雄	指定なし

ナンバリング

Y20006M11

授業概要(教育目的)

学校教育にはさまざまな問題が山積しており、新たな学校教育のあり方が問われている。そこで重要となるのが、「学校における子どもの学びの総体」である教育課程（カリキュラム）の充実である。また、教育課程経営（カリキュラムマネジメント）の重要さも増している。この講義では、教育課程（カリキュラム）や教育課程経営（カリキュラムマネジメント）をとらえる際に必要な視点や教育課程を規定している学習指導要領ついての基礎的・基本的事項について、歴史的な視点を通して講義を行う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 教育課程の意義が理解できる。 2 教育課程に関する基礎的・基本的な知識を獲得し、編成の方法を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	子どもの発達の様子に即した教育内容を吟味しながら、学びを支える教師の在り方と方法について考え、判断し、計画に反映することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教育者として教育課程（カリキュラム）に関する興味・関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領の内容を踏まえた表現で、計画を作成することができる。

学習計画

教育課程論

第1回	授業テーマ	1 ガイダンス、教育課程とカリキュラムの類型
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育課程とカリキュラムの類型を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第１章（ｐ８～１６）と第２章（ｐ１８～２２）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	2 教育課程に関する法制及び行政
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育課程に関する法制及び行政、教科書検定制度を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第２章（ｐ２２～２７）と第３章（ｐ３０～３８）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	3 近代日本の教育課程
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	明治期や大正自由教育、国民学校を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第４章（ｐ４０～４８）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	4 現代日本の教育課程、昭和編
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	戦後の経験主義、現代化とゆとり教育を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第５章（ｐ５０～５８）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	5 現代日本の教育課程、平成編
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゆとり教育と生きる力を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第６章（ｐ６０～６８）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	6 学習指導要領の改訂
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習指導要領（中学校編、高等学校編）の解説を学び、詳細を理解する。 新学習指導要領が工夫した点と課題を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第７章（ｐ７０～７７）を読んでおくこと。 レポート（新学習指導要領が工夫した点と課題）の作成。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	7 教育課程の評価とカリキュラムマネジメント,反省的実践家の事例
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育課程の評価、カリキュラムマネジメントを理解する。 ＰＤＣＡマネジメントサイクルによるカリキュラム・マネジメントと反省的実践家の実践事例
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第９章（ｐ９４～１０５）と第１０章（ｐ１０８～１１７）を読んでおくこと。 特色ある小学校等の実践事例を調べておく。
	教室外学習の時間（分）	200分

学生へのフィードバック方法

授業の最初と最後には質問の時間を設定するとともに、授業以外では研究室に質問に来ること。提出したノートは、確認後返却する。

評価方法

中間レポート、学期末レポートは、１００点満点で出題する。コロナの感染状況に応じて、レポートとする。出題の傾向については、最後の授業で説明し、内容は教員採用試験に出題されるような基礎・基本とする。出題方法は、記述式・選択式の問題を出題する。レポートは、最新の教育課題または学習指導案を作成してもらう予定である。授業のノートはきちんととること。記述したノートに関しては、確認し、その後返却する。
ルーブリックで評価する場合は、授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間レポート	○	○		
学期末レポート	○	○		
ノート	○		○	○
積極的な参加態度			○	

評価割合

中間レポート・学期末レポート 70%、平常点 30%で評価する。
試験：基礎的・基本的な用語を理解し、身に付ける。
平常点 ：授業への積極的な参加態度、ノート等

使用教科書名(ISBN番号)

齋藤義雄・倉本哲男・野澤有希『新版教育課程論ーカリキュラムマネジメント入門ー』大学図書出版 2021年
(978-4-909655-51-6)

参考図書

『学習指導要領中学校編』、『学習指導要領高等学校編』文部科学省

ディプロマポリシーとの関連

【知識理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【思考・判断】子どもの発達の様子に即した教育内容を吟味しながら、学びを支える教師の在り方と方法について考え、判断し、計画に反映することができる。
【関心・意欲・態度】教育者として教育課程（カリキュラム）に関する興味・関心を持つことができる。
【技術・表現】中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領の内容を踏まえた表現で、計画を作成することができる。

オフィスアワー

授業の前後、授業の教室 または １６２８研究室

学生へのメッセージ

教員免許は、取得するだけではなく教職に就いて初めて生かされる。本講義では、まず教育課程論の教員採用試験に出題されるような基礎的・基本的な内容、重要なポイントについて理解し、身に付けてもらう。身に付けた知識は、実際の教育活動で活用してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、中学校・小学校において教員、教務主任としての実務経験を有している。学習指導要領に基づいた教科指導や教育課程の編成・運用に関して、実務経験に基づいた経験を積極的に伝えている。
アクティブ・ラーニング	○	計画作成にあたりグループ討議を行う。レポートに関するグループ討議を行い、話合いに関してプレゼンテーションを実施する。
情報リテラシー教育	○	生徒に適した教育内容に関する情報を収集するとともに、特色ある学校に関する情報を収集し、指導案作成等に活用する。
ICT活用	○	パワーポイントを活用したプレゼンテーションを授業で取り入れるように心がけるとともに、授業を録画し、欠席者等にＹＯＵＴＵＢＥで公開できるように努める。

講義コード	610005031
講義名	教育課程論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期前半
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	2年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	齋藤 義雄	指定なし

ナンバリング

Y20006C11

授業概要(教育目的)

学校教育にはさまざまな問題が山積しており、新たな学校教育のあり方が問われている。そこで重要となるのが、「学校における子どもの学びの総体」である教育課程（カリキュラム）の充実である。また、教育課程経営（カリキュラムマネジメント）の重要さも増している。この講義では、教育課程（カリキュラム）や教育課程経営（カリキュラムマネジメント）をとらえる際に必要な視点や教育課程を規定している学習指導要領ついての基礎的・基本的事項について、歴史的な視点を通して講義を行う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 教育課程の意義が理解できる。 2 教育課程に関する基礎的・基本的な知識を獲得し、編成の方法を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	子どもの発達の様子に即した教育内容を吟味しながら、学びを支える教師の在り方と方法について考え、判断し、計画に反映することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教育者として教育課程（カリキュラム）に関する興味・関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領の内容を踏まえた表現で、計画を作成することができる。

学習計画

教育課程論

第1回	授業テーマ	1 ガイダンス、教育課程とカリキュラムの類型
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育課程とカリキュラムの類型を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第１章（ｐ８～１６）と第２章（ｐ１８～２２）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	2 教育課程に関する法制及び行政
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育課程に関する法制及び行政、教科書検定制度を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第２章（ｐ２２～２７）と第３章（ｐ３０～３８）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	3 近代日本の教育課程
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	明治期や大正自由教育、国民学校を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第４章（ｐ４０～４８）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	4 現代日本の教育課程、昭和編
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	戦後の経験主義、現代化とゆとり教育を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第５章（ｐ５０～５８）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	5 現代日本の教育課程、平成編
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ゆとり教育と生きる力を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第６章（ｐ６０～６８）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	6 学習指導要領の改訂
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習指導要領（中学校編、高等学校編）の解説を学び、詳細を理解する。 新学習指導要領が工夫した点と課題を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第７章（ｐ７０～７７）を読んでおくこと。 レポート（新学習指導要領が工夫した点と課題）の作成。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	7 教育課程の評価とカリキュラムマネジメントと反省的実践家の事例
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育課程の評価、カリキュラムマネジメントを理解する。 ＰＤＣＡマネジメントサイクルによるカリキュラム・マネジメントと反省的実践家の実践事例
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第９章（ｐ９４～１０５）と第１０章（ｐ１０８～１１７）を読んでおくこと。 特色ある学校の実践事例を調べておく。
	教室外学習の時間（分）	200分

学生へのフィードバック方法

授業の最初と最後には質問の時間を設定するとともに、授業以外では研究室に質問に来ること。提出したノートは、確認後返却する。

評価方法

試験は、１００点満点で出題する。コロナの感染状況に応じて、レポートとする。出題の傾向については、最後の授業で説明し、内容は教員採用試験に出題されるような基礎・基本とする。出題方法は、記述式・選択式の問題を出題する。レポートは、最新の教育課題または学習指導案を作成してもらう予定である。授業のノートはきちんととること。記述したノートに関しては、確認し、その後返却する。
ルーブリックで評価する場合は、授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間レポート	○			
学期末レポート	○	○		
ノート	○		○	○
積極的な参加態度			○	

評価割合

中間レポート・学期末レポート 70%、平常点 30%で評価する。
試験：基礎的・基本的な用語を理解し、身に付ける。
平常点 ：授業への積極的な参加態度、ノート等

使用教科書名(ISBN番号)

齋藤義雄・倉本哲男・野澤有希『新版教育課程論ーカリキュラムマネジメント入門ー』大学図書出版 2021年
(978-4-909655-51-6)

参考図書

『学習指導要領中学校編』、『学習指導要領高等学校編』文部科学省

ディプロマポリシーとの関連

【知識理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【思考・判断】子どもの発達の様子に即した教育内容を吟味しながら、学びを支える教師の在り方と方法について考え、判断し、計画に反映することができている。
【関心・意欲・態度】教育者として教育課程（カリキュラム）に関する興味・関心を持つことができている。
【技術・表現】中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領の内容を踏まえた表現で、計画を作成することができる。

オフィスアワー

授業の前後 授業教室または講師控室

学生へのメッセージ

教員免許は、取得するだけではなく教職に就いて初めて生かされる。本講義では、まず教育課程論の教員採用試験に出題されるような基礎的・基本的な内容、重要なポイントについて理解し、身に付けてもらう。身に付けた知識は、実際の教育活動で活用してほしい。

教育等の取組み状況

	該	

	当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、中学校・小学校において教員、教務主任としての実務経験を有している。学習指導要領に基づいた教科指導や教育課程の編成・運用に関して、実務経験に基づいた経験を積極的に伝えている。
アクティブ・ラーニング	○	計画作成にあたりグループ討議を行う。レポートに関するグループ討議を行い、話合いに関してプレゼンテーションを実施する。
情報リテラシー教育	○	生徒に適した教育内容に関する情報を収集するとともに、特色ある学校に関する情報を収集し、指導案作成等に活用する。
ICT活用	○	パワーポイントを活用したプレゼンテーションを授業で取り入れるように心がけるとともに、授業を録画し、欠席者等にＹＯＵＴＵＢＥで公開できるように努める。 オンデマンドの授業なので、ＩＣＴ機器を最大限に活用する。

講義コード	610006001
講義名	家庭科教育法Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	2年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	大矢 幸江	指定なし

ナンバリング

Y21101M21

授業概要(教育目的)

中学校・高等学校の家庭科を担当するために必要な基礎知識（家庭科の歴史、教科目標、内容、意義、評価等）について学び、中学生、高校生の発達段階や生活状況、社会の変化の動向を考慮した教育法や題材の選び方を検討し、家庭科についての理解を深めることを目的とする。それらをふまえ、学習指導案の作成および検討、模擬授業を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・中学校・高等学校の家庭科の目標や内容、学習方法、評価等について理解することができる。 ・中学生、高校生の発達段階や生活状況、社会の変化の動向を理解した上で学習指導案を作成することができる。
思考・判断の観点 (K)	・学習指導案の検討や模擬授業の際に、受講生同士で相互評価し良い部分や改善点を指摘することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・家庭科の効果的な学習方法について、意欲的に検討しより良い授業を考えることができる。
技術・表現の観点 (A)	・生活に関して調べたことを自分なりに工夫してまとめ、発表することができる。

学習計画

1	**授業テーマ**	ガイダンス、家庭科とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科とはどのような教科なのか、自分達が学んできた家庭科を振り返りながら考える。

第 回	教室外学習(予習・復習)の内容	家庭科の教科書に目を通し、家庭科の内容についておさえる。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	家庭科教育の理念、歴史的変遷、家庭科の目標
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科教育が歩んできた道のり、歴史を振り返り、家庭科教育で求められていること、何をねらいとしているのかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習指導要領解説の総説を読み、改訂の経緯や趣旨・要点をおさえておく。家庭科の目標について考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	家庭科の学習方法、アクティブラーニング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科の学習方法について学び、授業で実施できるアクティブ・ラーニングを取り入れて考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書および学習指導要領解説の家庭・家族に関する部分を読んでおく。授業で取り上げた事項について確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	家庭科の学習内容(1)家庭・家族
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭・家族に関する内容について授業の際にどのようなことに気をつけたらよいのかを扱う。高等学校「家庭総合」における家庭、家族の学びについて深く理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書および学習指導要領解説の衣生活に関する部分を読んでおく。授業で取り上げた事項について確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	家庭科の学習内容(2)食生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食生活の基礎基本事項をおさえて授業の際にどのようなことに気をつけたらよいのかを扱う。高等学校「家庭総合」における食生活の学びについて深く理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書および学習指導要領解説の食生活に関する部分を読んでおく。授業で取り上げた事項について確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	家庭科の学習内容(3)食生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食生活の基礎基本事項をおさえて授業の際にどのようなことに気をつけたらよいのかを扱う。高等学校「家庭総合」における食生活の学びについて深く理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書および学習指導要領解説の住生活に関する部分を読んでおく。授業で取り上げた事項について確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	家庭科の学習内容(4)衣生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣生活の基礎基本事項をおさえる。高等学校「家庭総合」における衣生活の学びについて深く理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書および学習指導要領解説の環境に関する部分を読んでおく。授業で取り上げた事項について確認する。

	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	家庭科の学習内容(5)住生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住生活の基礎基本事項をおさえる。高等学校「家庭総合」における住生活の学びについて深く理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書および学習指導要領解説の消費生活に関する部分を読んでおく。授業で取り上げた事項について確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	家庭科の学習内容(6)消費生活と環境
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	消費生活と環境について理解し、生徒が主体的に考えるような授業方法を考えていく。高等学校「家庭総合」における消費生活と環境の学びについて深く理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り上げた内容を確認し、授業計画を立てる上でのポイントを整理しておく。模擬授業で取り扱いたい内容を考えて、学習指導案を作成するための資料を集める。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	家庭科の年間指導計画、学習指導案の作成方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科の年間指導計画の建て方と学習指導案の作成方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り上げた内容を確認し、授業計画を立てる上でのポイントを整理しておく。模擬授業で取り扱いたい内容を考えて、学習指導案を作成するための資料を集める。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	学習指導案の作成(1)授業の展開、評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業を展開する方法について考える。グループで家庭科の学習指導案およびワークシートを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り上げた内容を確認し、学習指導案を作成する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	学習指導案の作成と検討(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループで作成した学習指導案およびワークシートについて発表、意見交換を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布プリントの作成。模擬授業の準備・練習をする。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	模擬授業（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業を行い、学習指導案の改善点を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業担当班は授業の準備・練習をする。学習指導案を見直し、意見交換でもらったアドバイスを参考にして修正する。
	教室外学習の時間	

	（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	模擬授業（2）、総括
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業を行い、学習指導案を改善する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業担当班は授業の準備・練習をする。学習指導案を見直し、意見交換でもらったアドバイスを参考にして修正する。これまでの授業内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

受講人数や授業の進捗によりスケジュールを変更する可能性があります。

学生へのフィードバック方法

提出物に対しては内容を吟味して授業内で解説します。

評価方法

レポート（グループで作成した学習指導案に個人で修正を施したもの、および省察）、授業内提出物、小レポート（レジュメ原稿および発表）、平常点（授業への取り組みや発言、グループでのアクティビティ）等を総合的に評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート（学習指導案、省察）	○	○	○	○
授業内提出物	○	○	○	○
小レポート	○		○	○
平常点（授業への参加状況）			○	

評価割合

レポート：40%
授業内提出物：40%
小レポート：10%
平常点：10%

使用教科書名(ISBN番号)

文部科学省「高等学校学習指導要領解説 家庭編」（教育図書）978-4-87730-419-5
『家総703 家庭総合』（実教出版）

参考図書

文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」（開隆堂）978-4-304-02154-1

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につけている。
【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を身につけている。

学生へのメッセージ

普段から生活に関することに興味・関心を持ち、授業で扱った内容との関連性を考えるようにしてください。授業では受け身にならないよう、積極的に参加・発言するよう心掛けてくださ

い。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は小学校および高等学校の家庭科非常勤講師の経験がある。実際に授業を行う上での心構え、配慮事項等について紹介してく。
アクティブ・ラーニング	○	家庭科の授業に生かすことのできるようにディベートやロールプレイング等様々なアクティブ・ラーニングの要素を取り入れて授業を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	610006031
講義名	家庭科教育法Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	2年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	安東 英里佳	指定なし
教授	佐野 潤子	指定なし

ナンバリング

Y21101C21

授業概要(教育目的)

小学校・中学校・高等学校での家庭科の教科としての位置づけ、学習指導要領における家庭科の目標と指導内容の現状および歴史的経緯を概説する。また、生活を工夫し創造する態度を育成する家庭科教育の意義を学生に修得させることを目的とし、学習指導案の作成方法、指導計画や指導方法の基本、分野ごとの教材研究方法について解説する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	学習指導要領の歴史的変遷、小学校・中学校・高等学校における家庭科教育の現状と家庭科教員としてもとめられる事柄を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	自身の生活における課題発見、課題の解決方法の検討と計画、課題解決に向けた実践活動、実践活動の評価・改善というプロセスに沿って適切に判断・行動できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の諸問題について関心を持ち続け、生活者の視点に立ち持続可能な社会の創造に寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	グループ発表やノートへの記入において重要な事項を適切に表現することができる。

学習計画

家庭科教育法A

第1回	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業予定、評価方法、教科書について確認する。これまで自分が受けてきた家庭科の授業を振り返り、これからの学びをイメージする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として、自身の中学校・高等学校での家庭科の学びについて、教科書等を読み直し振り返っておくこと。授業後に、本時のポイント等をノートにまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	予習60分、復習60分
第2回	授業テーマ	家庭科とは／学習指導要領とは／家庭科教員の役割
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科教育の歴史や科目構成、学習指導要領、家庭科教員の役割などについて学ぶ。小・中・高の家庭科での学習について、また学習指導要領の改訂により家庭科に求められるものがどのように変化してきたのかについて学ぶ。担当教員の実際の学校での授業経験などから、家庭科教員としての自分の目指す教員像を思い描く。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後にノートに授業のポイントをまとめ直し、配布プリント等の内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	復習200分
第3回	授業テーマ	家庭科における食生活領域の学び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科の各科目における食生活領域の学びについて比較し、高等学校「家庭総合」における食生活の学びについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本授業で指定した教科書（高等学校 家庭総合）の食生活の部分を読んでおくこと。また、自身が高校で使用した家庭科の教科書の相当する部分も読んでおくこと。授業後に、授業内容を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	予習100分、復習100分
第4回	授業テーマ	家庭科における家庭経済・消費者領域の学び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科の各科目における家庭経済・消費者領域の学びについて比較し、高等学校「家庭総合」における当該領域の学びについて深く理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本授業で指定した教科書の消費・経済の部分を読んでおくこと。また、自身が高校で使用した教科書の相当する部分も読んでおくこと。授業後に、授業内容を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
	授業テーマ	家族・家庭・福祉領域の学び

第5回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科の各科目における家族・家庭・福祉領域の学びについて比較し、高等学校「家庭総合」における当該領域の学びについて深く理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本授業で指定した教科書の家族・家庭・福祉の部分を読んでおくこと。また、自身が高校で使用した教科書の相当する部分も読んでおくこと。授業後に、学習内容を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第6回	授業テーマ	家庭科における衣生活の学び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科の各科目における衣生活領域の学びについて比較し、高等学校「家庭総合」における衣生活の学びについて深く理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本授業で指定した教科書の住生活の部分を読んでおくこと。また、自身が高校で使用した教科書の相当する部分も読んでおくこと。授業後に、学習内容を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第7回	授業テーマ	家庭科における住生活の学び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科の各科目における住生活領域の学びについて比較し、高等学校「家庭総合」における住生活の学びについて深く理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本授業で指定した教科書の住生活の部分を読んでおくこと。また、自身が高校で使用した教科書の相当する部分も読んでおくこと。授業後に、学習内容を復習すること。
	教室外学習の時間（分）	授業前100分、授業後100分
第8回	授業テーマ	年間指導計画、学習指導案の作成方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科教育の年間指導計画の立て方と学習指導案の作成方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家庭科教育の年間指導計画の立て方と学習指導案の作成方法について復習する。
	教室外学習の時間（分）	授業後200分
	授業テーマ	学習指導案、ワークシートの作成
	学習内容(ｱｸ	

第9回	ﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとに学習指導案とワークシートを作成し、次週以降の発表に向けて準備する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次週以降の発表に向けて不足した準備を補っておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業後200分
第10回	授業テーマ	学習指導案グループ発表（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループで作成した学習指導案およびワークシートについて発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表を聞いて重要と思ったことなどをまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業後200分
第11回	授業テーマ	学習指導案グループ発表（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループで作成した学習指導案およびワークシートについて発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表を聞いて重要と思ったことなどをまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業後200分
第12回	授業テーマ	先輩教員からの話
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本学で学び、家庭科教員になった卒業生による講義を聞き、教員採用への道のりや教育現場の様子について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、講義の中で重要と思ったことや自分の将来への展望などをまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業後140分
	授業テーマ	4年生学生から教育実習体験を聞く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	

第13回	ｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習が終了した4年生の学生から実習体験を聞き、理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、実習体験の話のポイントをまとめ、自身の教育実習のイメージをつくる。
	教室外学習の時間（分）	授業後140分
第14回	授業テーマ	全体振り返り／夏休み課題の説明／期末試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	この授業のこれまでの学習内容を振り返り、「家庭科教育法B」に向けて課す課題について把握する。 期末試験に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前に、期末試験に向けてこれまでの学習内容を確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	授業前300分

学習計画注記

授業の進み具合や、特別授業の講師の都合等によりスケジュールが変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

グループ発表の際には、その場でフィードバックを行う。

評価方法

定期試験の他、課題やノートの内容を評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
グループ発表	○	○	○	○
課題	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合

平常点：50%、定期試験：50%

使用教科書名(ISBN番号)

(1)高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 家庭編／文部科学省（教育図書）
(2)高等学校 703 家庭総合 ／実教出版

参考図書

学習指導要領解説（中学校 技術・家庭）／文部科学省

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。

【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
【技術・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー

佐野（前期）：火曜日昼休み 水曜日午前 必ず事前にアポをとること

学生へのメッセージ

教員免許取得のための授業であり、受講に際しては、私語、携帯電話の使用や授業に関係のない行動を取るなど、受講態度に問題がある場合には退席を求める。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループ活動等を通して他の受講生に対して意見を述べ、受講生同士が互いの理解を深めながら自身を高めていくことを目指す。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	610007001
講義名	家庭科教育法Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	2年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	大矢 幸江	指定なし

ナンバリング

Y21102M21

授業概要(教育目的)

家庭科教育法Aの内容を踏まえて、様々な学習方法や指導する際の手がかりについて検討する。学習指導案の作成および模擬授業を行い、意見交換、相互評価等を通して授業実践力を身につけ、中学校・高等学校の家庭科についてさらに理解を深めることを目的としている。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	中学校・高等学校の家庭科について理解を深めた上で学習指導案を作成することができる。
思考・判断の観点 (K)	受講生同士で模擬授業を検討し、より良いものに改善することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	家庭科を指導する際に必要な知識と技術を進んで身につけることができる。
技術・表現の観点 (A)	学習者にとって意義のある教材・教具を作成することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科教育法Aの授業を振り返り、模擬授業の担当領域を決める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家庭科教育法Aで行ったことを復習しておく。模擬授業で取り扱いたい内容を考えて学習指導案を作成する準備をする。
	教室外学習の時間（分）	190分

第2回	授業テーマ	学習指導案、教具・教材の作成方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科の様々な学習方法、教具教材の意義について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で取り上げた内容を確認し、学習指導案を作成する。
	教室外学習の時間(分)	200分
第3回	授業テーマ	家庭科教育と指導計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科の授業づくりに必要な指導計画について理解を深め、年間指導計画の作成方法について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習指導要領解説の学習内容のページを確認し、家庭科で学習する内容の要点を整理する。 中学校・高等学校3年間の年間指導計画を考える。
	教室外学習の時間(分)	190分
第4回	授業テーマ	題材の設定と指導計画の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科における課題解決型学習の意義について理解を深め、指導計画や授業での活用方法について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家庭科の学習指導要領解説の中で「課題解決型学習」に関する部分を確認し、課題解決型学習の進め方を整理しておく。 年間指導計画の中で課題解決型学習をどの様に位置づけるか考える。
	教室外学習の時間(分)	200分
第5回	授業テーマ	授業目標の設定・検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習指導要領解説における、中学校・高等学校家庭科の教科目標を踏まえ、育成を目指す資質・能力の三つの柱に対応した「題材の目標」の設定方法について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習指導要領解説における、中学校・高等学校家庭科の「家庭科改訂の趣旨及び要点」「家庭科の目標」を熟読し、要点を整理しておく。 授業後に、家庭科の目標を踏まえ育成すべき生徒の姿を再考する。
	教室外学習の時間(分)	200分
第6回	授業テーマ	模擬授業(1)家庭・家族
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭・家族に関する内容をどのように教えたらよいのか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振り返り、改善点について考える。
	教室外学習の時間(分)	190分
第7回	授業テーマ	模擬授業(2)保育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育に関する内容をどのように教えたらよいのか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考

	習)の内容	える。授業後は模擬授業を振り返り、改善点について考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	授業テーマ	模擬授業(3)高齢者、福祉、共生
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高齢者、福祉、共生に関する内容をどのように教えたらよいのか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振り返り、改善点について考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	模擬授業(4)食生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食生活に関する内容をどのように教えたらよいのか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振り返り、改善点について考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	模擬授業(5)衣生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	衣生活に関する内容をどのように教えたらよいのか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振り返り、改善点について考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	模擬授業(6)住生活
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住生活に関する内容をどのように教えたらよいのか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振り返り、改善点について考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	模擬授業(7)環境
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	環境に関する内容をどのように教えたらよいのか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振り返り、改善点について考える。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	模擬授業(8)経済生活・消費者
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	経済生活・消費者に関する内容をどのように教えたらよいのか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振り返り、改善点について考える。
	教室外学習の時間	190分

	（分）	
第14回	**授業テーマ**	学習指導案の検討、修正、総括
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	意見交換でもらったアドバイスをもとに学習指導案の改善を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習指導案、配布プリントの修正・改善を行う。これまでの授業内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

受講人数や授業の進捗によりスケジュールを変更する可能性があります。

学生へのフィードバック方法

提出物に対しては内容を吟味して授業内で解説する。学習指導案には個別にコメントします。

評価方法

学期末レポート（学習指導案、教材、省察）、模擬授業、授業内提出物、作品製作についてのまとめ、平常点（授業への取り組みや発言、グループでのアクティビティ）等を総合的に評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
模擬授業	○	○	○	○
模擬授業への考察・相互評価	○	○	○	○
小レポート	○	○	○	
平常点			○	

評価割合

模擬授業（学習指導案作成）の発表と質疑応答：50%
模擬授業への考察、相互評価：20%
小レポート：20%
平常点：10%

使用教科書名(ISBN番号)

文部科学省「高等学校学習指導要領解説 家庭編」（教育図書）
『家総703 家庭総合』（実教出版）

参考図書

文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」（開隆堂）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】家庭科教育の総合的な知識を有し、家庭科に関する実践的で専門的な知識を活用できる。
【思考・判断】課題に対して、多種な情報を整理し、客観的に判断し柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】生活社会の諸問題に関心を持ち、社会に貢献したいという態度をもって解決策を立案できる。
【技術・表現】教育者として求められるコミュニケーション能力や表現力を身につけることができる。

学生へのメッセージ

家庭科教育法Aの学習指導案、模擬授業での省察を見直して授業計画に合わせた授業を再構築し、他の題材の授業構成について教材研究を進めておきましょう。

普段から生活に関することに興味・関心を持ち、家庭科の授業でどのようにいかすことができるかを考えるようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員の、高等学校における家庭科教員の経験をもとに、実際に授業を行う上での心構え、配慮事項等について紹介してく。
アクティブ・ラーニング	○	家庭科の授業に生かすことのできるようにアクティブ・ラーニングの要素を取り入れて授業を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	ICTを利用する学校教育の取り組みが増加している現状を踏まえ、教育現場に対応できるよう、ICTを効果的に活用した授業を検討する。

講義コード	610007031
講義名	家庭科教育法Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	2年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	永田 晴子	指定なし

ナンバリング

Y21102C21

授業概要(教育目的)

家庭科教育法Ａで学んだことを踏まえながら、学習指導要領の構成について理解を深め、指導計画の作成に必要な基礎知識を身につける。そして、今日の生活課題に対応した中学校・高等学校家庭科の授業内容を考え、学習者にとって意義ある指導計画を作成する力を養うことを目的としている。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	現行学習指導要領における中学校・高等学校家庭科の学習内容を説明することができ、それらを踏まえて指導計画や学習指導案を作成することができる。
思考・判断の観点 (K)	課題解決型学習のプロセスに沿って授業内容を考えたり、受講生間で相互評価を行いながら指導計画を改善することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	現代の生活動向や社会の諸問題に関心をもち、様々な生活課題の解決に向けた家庭科の授業内容を考えることができる。
技術・表現の観点 (A)	小・中・高等学校家庭科の系統性を明確化し、家庭科の授業を構成することができる。

学習計画

家庭科教育法B

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸ	

第1回	ﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業予定、評価方法などについて確認する。家庭科教育法Ａの学習内容を踏まえながら、現行学習指導要領における中学校・高等学校家庭科の学習内容の振り返りを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家庭科教育法Ａで学習した内容について復習しておくこと。学習指導要領を確認し、中学校・高等学校家庭科の学習内容について復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	140分
第2回	授業テーマ	家庭科教育と指導計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科の授業づくりに必要となる様々な指導計画について理解を深め、年間指導計画の作成方法について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習課題として、中学校学習指導要領解説の学習内容のページを確認し、中学校家庭科で学習する内容の要点を整理しておくこと。 復習課題として、中学校3年間の年間指導計画を次回授業までに完成させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	授業の流れと題材構成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科の学習方法の特色について理解を深め、授業づくりにおける題材の構成や授業の流れの組み立て方の工夫について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習課題として、前回の授業で指示されたワークに取り組むこと。復習課題として、次回授業までに、授業時に取り組んだワークについて授業内容を踏まえた改善案を作成すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	題材の設定と指導計画の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科における課題解決型学習の意義について理解を深め、指導計画や授業での活用方法について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習課題として、家庭科の学習指導要領解説の中で「課題解決型学習」に関する記述が出てくる部分を確認し、課題解決型学習の進め方がどのように説明されているかを整理しておくこと。復習課題として、第2回で作成した年間指導計画について、課題解決型学習がと入れられた指導計画となるよう改善案を作成すること。
	教室外学習の時間（分）	180分

第5回	授業テーマ	授業目標の設定・検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現行学習指導要領における中学校・高等学校家庭科の教科目標を踏まえ、育成を目指す資質・能力の三つの柱に即した「題材の目標」の設定方法について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習課題として、中学校・高等学校家庭科の学習指導要領解説にある「家庭科改訂の趣旨及び要点」「家庭科の目標」を熟読し、要点を整理しておくこと。復習課題として、授業内で指示して復習課題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	授業の評価と方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現行学習指導要領における育成を目指す資質・能力の三つの柱に対応した評価規準の基本構造について理解を深め、目標に準拠した「題材の評価規準」「内容のまとまりごとの評価規準」の作成方法を学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習課題として、国立教育政策研究所ＨＰより「学習評価の在り方ハンドブック（小・中学校編）」をダウンロードし、熟読すること。復習課題として、前回の授業で作成した題材の目標について、授業時の説明に沿って「題材の評価規準」と「内容のまとまりごとの評価規準」を作成すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	学習指導案の作成について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科教育法Ａの授業内容を振り返りながら、学習題材の設定や学習指導案の作成方法について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習課題として、前回の授業で指示された課題に取り組むこと。 復習課題として、授業時の説明に沿ってWordファイルで学習指導案のフォーマットを作成し指定場所に提出すること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	指導計画の立案（１）食生活に関する指導計画の作成と検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中学校と高等学校の学習内容の違いを踏まえながら、食生活の内容を取り扱う中学校・高等学校の指導計画をグループで作成し、発表し合い相互評価を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習課題として、中学校・高等学校の学習指導要領解説および教科書の食生活に関する部分を熟読し、それぞれの学習内容の違いを整理しておくこと。復習課題として、発表後の講評を踏まえ、指導計画を見直し改善案を作成すること。

	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	指導計画の立案（２）衣生活に関する指導計画の作成と検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中学校と高等学校の学習内容の違いを踏まえながら、衣生活の内容を取り扱う中学校・高等学校の指導計画をグループで作成し、発表し合い相互評価を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習課題として、中学校・高等学校の学習指導要領解説および教科書の衣生活に関する部分を熟読し、それぞれの学習内容の違いを整理しておくこと。復習課題として、発表後の講評を踏まえ、指導計画を見直し改善案を作成すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	**授業テーマ**	指導計画の立案（３）住生活に関する指導計画の作成と検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中学校と高等学校の学習内容の違いを踏まえながら、住生活の内容を取り扱う中学校・高等学校の指導計画をグループで作成し、発表し合い相互評価を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習課題として、中学校・高等学校の学習指導要領解説および教科書の住生活に関する部分を熟読し、それぞれの学習内容の違いを整理しておくこと。復習課題として、発表後の講評を踏まえ、指導計画を見直し改善案を作成すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	**授業テーマ**	指導計画の立案（４）家族・家庭生活に関する指導計画の作成と検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中学校と高等学校の学習内容の違いを踏まえながら、家族・家庭生活の内容を取り扱う中学校・高等学校の指導計画をグループで作成し、発表し合い相互評価を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習課題として、中学校・高等学校の学習指導要領解説および教科書の家族・家庭生活に関する部分を熟読し、それぞれの学習内容の違いを整理しておくこと。復習課題として、発表後の講評を踏まえ、指導計画を見直し改善案を作成すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	**授業テーマ**	指導計画の立案（５）消費生活に関する指導計画の作成と検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	中学校と高等学校の学習内容の違いを踏まえながら、消費生活の内容を取り扱う中学校・高等学校の指導計画をグループで作成し、発表し合い相互評価を行う。
	教室外学	予習課題として、中学校・高等学校の学習指導要領解説および教科書の

	習(予習・復習)の内容	消費生活に関する部分を熟読し、それぞれの学習内容の違いを整理しておくこと。復習課題として、発表後の講評を踏まえ、指導計画を見直し改善案を作成すること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	**授業テーマ**	指導計画の立案（６）本時の展開の作成と検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	第8～12回の授業で作成した指導計画をもとに、1時間（50分）の授業題材を設定し、学習指導案の「本時の学習」における「展開」の作成方法について学習する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習課題として、第7回授業復習課題で作成した学習指導案のファイルについてのフィードバックを確認し、要修正の場合には、修正ファイルを作成しておくこと。復習課題として、授業内で決めた題材について「本時の学習」の「展開」を次回授業までに完成させること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	これからの家庭科教育の課題・総括
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指導計画における「指導に生かす評価」の意義や、様々な評価方法についても取り上げながら、授業改善の必要性について理解を深め、授業の総括を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業内容を踏まえながら、期末課題に取り組むこと。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

授業の進み具合によりスケジュールが変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

授業時に適宜評価や改善を要する点をフィードバックする。

評価方法

毎回の授業内で行う課題、グループで取り組む指導計画作成の発表、期末課題（学習指導案の作成）をもとに、総合的に評価を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業時の課題	○	○	○	○
発表	○	○	○	○
期末課題	○	○		○

評価割合

授業時の課題：40%、発表：20%、期末課題40%

使用教科書名(ISBN番号)

(1)文部科学省「高等学校学習指導要領解説 家庭編」教育図書（978-4-8730-419-5）
(2)文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」開隆堂（978-4-304-02154-1）
(3)高等学校家庭科教科書「家庭総合 パートナーシップでつくる未来」実教出版（978-4-407-20382-0）
(4)中学校家庭科教科書「技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生」開隆堂（978-4-304-08101-9）

参考図書

授業内で適宜紹介します

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
【技術・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

学生へのメッセージ

・今年度の授業は集中講義で行います。授業日程の詳細は、後期授業開始前までにお知らせします。
・使用教科書４冊については、手元に無いものを授業開始までに購入するようにしてください。
(1)「高等学校学習指導要領解説 家庭編」と(3)高等学校家庭科教科書「家庭総合 パートナーシップでつくる未来」（実教出版）は、家庭科教育法Ａの授業で使用したものを使います。
(2)「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」は、家庭科教育法Ａで参考書になっているものです。まだ、購入していない学生は授業開始までに用意してください。
(4)中学校家庭科教科書「技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生」（開隆堂）は、この授業で新に購入することになります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業時の課題に取り組む際に、積極的に課題解決型学習を取り入れていく。また、指導計画の作成時や発表の際、受講生間で相互評価を行うことにより、家庭科の授業内容への知識・理解を深め、意欲的に家庭科へ生活への関心を高めていくことを目指す。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	指導計画の作成において、家庭科の特質を踏まえたＩＣＴの活用についても取り上げ、効果的にＩＣＴを活動した授業づくりができるようになることを目指す。

講義コード	610008001
講義名	家庭科教育法Ｃ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	大矢 幸江	指定なし

ナンバリング

Y31103M21

授業概要(教育目的)

家庭科教育法Ａ，Ｂで学習した中学校「技術・家庭」の「家庭分野」と高等学校「家庭」の目標及び内容について確認する。家庭科の授業づくりでは教材研究、年間指導計画、題材（単元）別指導計画、学習指導案の作成、模擬授業を通して実践力を高める。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	学習指導要領を熟読、精査するとともに、小学校・中学校・高等学校における家庭科教育の現状と意義、家庭科の授業内容について総合的な知識を持ち、家庭科教員として求められる事柄を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	現代社会における生活課題を発見し、多様な情報を整理した上で自らの経験や体験、知識に基づき課題解決方法を検討することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	家庭科の各領域の学びにより、社会の諸問題に関心をもち、社会に貢献したいという態度を持って、生活者として持続可能な社会の創造に寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	模擬授業や相互評価を通して、教育者として求められるコミュニケーション能力や豊かな表現力を身につけることができる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	授業予定、評価方法、教科書等について確認する。家庭科教育

第1回	ｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	法A・Bの履修を通して学んだことを振り返り、家庭科教育法C・Dでどのように発展させるか、家庭科教員として自分自身の目指す教員像を思い描く。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として、自分自身の中学・高校時代での家庭科の学びについて振り返っておくこと。家庭科教育法A・Bで学んだ内容についても振り返っておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180
第2回	授業テーマ	家庭科教育の目標と内容、授業形態、授業計画 家庭科教育の意義、指導方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科の科目構成や学習指導要領について学び、授業計画の作成方法などについて理解する。家庭科教育の意義について、家庭科に求められるものはどのように変化してきたのかを学ぶ。さらに家庭科教員としての指導方法について、担当教員の実際の学校での授業経験から考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、授業のポイントを自分の言葉でまとめ、年間授業計画について授業で作成したものを見直しておくこと。学習指導要領の改訂についてプリント等を整理しまとめること。自分自身がどのような家庭科の授業をしたいか、模擬授業の指導案作成時までに考えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200
第3回	授業テーマ	家庭科における家族・家庭及び福祉領域の学び及び学習指導案の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高等学校「家庭総合」における家族・家庭及び福祉領域について学び、学習指導案を計画・作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で指定した教科書（高等学校家庭総合）の該当部分を読んでおくこと。自身が高校で使用した教科書の相当部分も読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200
第4回	授業テーマ	家庭科における家庭経済・消費者領域の学び及び学習指導案の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高等学校「家庭総合」における家庭経済・消費者領域について学び、学習指導案を計画・作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で指定した教科書（高等学校家庭総合）の該当部分を読んでおくこと。自身が高校で使用した教科書の相当部分も読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200
	授業テーマ	家庭科における食生活領域の学び及び学習指導案の作成
	学習内容(ｱｸ	

第5回	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高等学校「家庭総合」における食生活領域について学び、学習指導案を計画・作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で指定した教科書（高等学校家庭総合）の該当部分を読んでおくこと。自身が高校で使用した教科書の相当部分も読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200
第6回	授業テーマ	家庭科における衣生活領域の学び及び学習指導案の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高等学校「家庭総合」における衣生活領域について学び、学習指導案を計画・作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で指定した教科書（高等学校家庭総合）の該当部分を読んでおくこと。自身が高校で使用した教科書の相当部分も読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200
第7回	授業テーマ	家庭科における住生活領域の学び及び学習指導案の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高等学校「家庭総合」における住生活領域について学び、学習指導案を計画・作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で指定した教科書（高等学校家庭総合）の該当部分を読んでおくこと。自身が高校で使用した教科書の相当部分も読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200
第8回	授業テーマ	学習指導案の作成・考察及び模擬授業・省察（１）家族・家庭及び福祉領域
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180
	授業テーマ	学習指導案の作成・考察及び模擬授業・省察（２）家庭経済・消費者領域

第9回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180
第10回	授業テーマ	学習指導案の作成・考察及び模擬授業・省察（３）食生活領域
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180
第11回	授業テーマ	学習指導案の作成・考察及び模擬授業・省察（４）衣生活領域
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180
第12回	授業テーマ	学習指導案の作成・考察及び模擬授業・省察（５）住生活領域
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180
	授業テーマ	教育実習報告会
	学習内容(ｱｸ	

第13回	ﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習を行った4年生の学生の教育実習体験授業（主に研究授業について）を、司会進行を分担しながら聴講する。教育実習や教育現場での授業について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、先輩の教育実習についての報告のポイントや感想をまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180
第14回	授業テーマ	学習指導案・模擬授業の考察および総括
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業で作成した学習指導案と、実際に行った模擬授業を振り返り、改善点を修正する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	修正した箇所をポイントごとにまとめ、後期の授業や教育実習につなげられるようにしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200

学習計画注記

受講人数や授業の進捗によりスケジュールを変更する可能性があります。

学生へのフィードバック方法

模擬授業については、内容や授業の進め方などその都度評価し改善を要する点を伝えるなどしフィードバックを行う。

評価方法

模擬授業については、発表態度や授業内容、指導案の記載内容について評価する。模擬授業担当者以外は、行われた模擬授業に対してのコメント内容も評価する。講義授業からはどのようなことを学んだか、各自まとめた内容を評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
模擬授業	○	○	○	○
模擬授業への考察・相互評価	○	○	○	○
小レポート	○	○	○	
平常点			○	

評価割合

模擬授業（指導案作成）の発表と質疑応答・・・50%
模擬授業への考察、相互評価･･･20%
小レポート（授業内課題）･･･20%
平常点（模擬授業への意欲態度）･･･10%

使用教科書名(ISBN番号)

文部科学省「高等学校学習指導要領解説 家庭編」（教育図書）
『家総703 家庭総合』（実教出版）

参考図書

文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術･家庭編」（開隆堂）

ディプロマポリシーとの関連

「知識・理解」家庭科教育の総合的な知識を有し、家庭科に関する実践的で専門的な知識を活用できる。
「思考・判断」課題に対して、多種な情報を整理し、客観的に判断し柔軟に対応できる。
「関心・意欲・態度」生活社会の諸問題に関心を持ち、社会に貢献したいという態度をもって解決策を立案できる。
「技能・表現」教育者として求められるコミュニケーション能力や表現力を身につけることができる。

学生へのメッセージ

家庭科教育法Ａ・Ｂの学習指導案、模擬授業での省察を見直して授業計画に合わせた授業を再構築し、また他の題材での授業構成について教材研究を進めておきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	小学校および高等学校家庭科教員としての経験を基に、年間授業計画や授業展開、評価方法などについて具体的な指導を行う。
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業指導案及び模擬授業を作り上げること、他の受講生の模擬授業に対しての相互評価を行うことによって、家庭科の授業内容への知識・理解を深め、意欲的に家庭科や生活への関心を高めていくことを目指す。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	ICTを利用した学校教育の取り組みが増加していることを踏まえ、変化する教育現場に対応できるよう、ICTを効果的に活用した授業を検討する。

講義コード	610008031
講義名	家庭科教育法Ｃ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	安東 英里佳	指定なし

ナンバリング

Y31103C21

授業概要(教育目的)

家庭科教育法A、Bで学習した中学校「技術・家庭」の「家庭分野」と高等学校「家庭」の目標及び内容の確認をする。教材研究、製作実習、年間指導計画、題材（単元）別指導計画、学習指導案の作成、評価等の基礎知識の修得と指導法を学び、模擬授業を通して家庭科の授業をつくる実践力を身につける。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家庭科教育法A、Bで学習した知識を深め、教材研究、年間指導計画、題材（単元）別指導計画、学習指導案の作成、評価等の基礎知識の修得と指導法をより実践的に理解する。
思考・判断の観点 (K)	現代社会における生活課題を発見し、多様な情報を整理した上で自らの経験や体験、知識に基づき課題解決方法を検討することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	家庭科の各領域の学びにより、社会の諸問題に関心を持ち、生活者として持続可能な社会の創造に寄与する。
技術・表現の観点 (A)	小・中・高等学校家庭科では「家族・家庭生活」，「衣食住の生活」，「消費生活と環境」の三つの枠組みで系統だて高校ではホームプロジェクトや学校家庭クラブで社会貢献するよう指導する能力を養う。

学習計画

家庭科教育法C

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業予定、評価方法、教科書の確認。家庭科A・Bの授業を振り返り、教育実習や教員となる様子をイメージする。年間指導計画及び学習指導案作成についての確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家庭科教育法A・Bで学んだ内容について振り返ること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	家庭科における主体的、対話的で深い学び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科における学習目標を確認し、主体的、対話的で深い学びについて協働学習を中心とした授業について考える。併せて、探究課題や実習の位置づけについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として学習指導要領の総説を理解しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	家庭科における持続可能な社会につながる学び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科教育とSDGsとの関わりを授業実践例を通して考える。SDGｓの主旨を理解し、持続可能な社会のために多様な視点を大切にした問題解決的な学習、実践的・体験的な学習、アクティブラーニングなどについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として、海外との関わりがあると思われる時事課題を調べておくこと。復習として、SDGｓの視点を取り入れた時事課題をまとめること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	家庭科における製作実習(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科衣生活領域に関わる被服製作について学び、布を用いた製作を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として、基礎縫いについて理解し、手縫いに必要な材料・道具を揃えておくこと。復習として、布を用いた製作の指導の留意点について振り返ること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	家庭科における製作実習(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科衣生活領域に関わる被服製作について学び、布を用いた製作を行う。
	教室外学	予習として、基礎縫いについて理解し、手縫いに必要な材料・道具を

	習(予習・復習)の内容	揃えておくこと。復習として、布を用いた製作の指導の留意点について振り返ること。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	家庭科授業に関する教材研究・指導案作り(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実践的・体験的な学習、ICTの活用、主体的で・対話的で深い学びを実践する学習指導方法を工夫した授業研究をグループで行い、学習指導案を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として指導案の書き方及び、教材研究の方法について調べておく。復習として、授業案作成のための教材研究を行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	家庭科授業に関する教材研究・指導案作り(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実践的・体験的な学習、ICTの活用、主体的で・対話的で深い学びを実践する学習指導方法を工夫した授業研究をグループで行い、学習指導案を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として指導案の書き方及び、教材研究の方法について調べておく。復習として、授業案作成のための教材研究を行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第8回	**授業テーマ**	家庭科授業に関する教材研究と指導案の発表(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実践的・体験的な学習、ICTの活用、主体的で・対話的で深い学びを実践する学習指導方法を工夫した授業研究をグループで行い、学習指導案を作成する。その経過及び結果を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教材研究を行い、指導案を作成する。復習として、発表された指導案についてまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	家庭科授業に関する教材研究と指導案の発表(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実践的・体験的な学習、ICTの活用、主体的で・対話的で深い学びを実践する学習指導方法を工夫した授業研究をグループで行い、学習指導案を作成する。その経過及び結果を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教材研究を行い、指導案を作成する。復習として、発表された指導案についてまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	家庭科授業に関する教材研究と指導案の発表(3)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	実践的・体験的な学習、ICTの活用、主体的で・対話的で深い学びを実践する学習指導方法を工夫した授業研究をグループで行い、学習指導

第10回	**育・ICT活用を含む)**	案を作成する。その経過及び結果を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教材研究を行い、指導案を作成する。復習として、発表された指導案についてまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	家庭科授業に関する教材研究と指導案の発表(4)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実践的・体験的な学習、ICTの活用、主体的で・対話的で深い学びを実践する学習指導方法を工夫した授業研究をグループで行い、学習指導案を作成する。その経過及び結果を発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として教材研究を行い、指導案を作成する。復習として、発表された指導案についてまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	4年生の教育実習体験を聞いて学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習を行った4年生の学生の教育実習体験報告会について各チームで役割を担い、先輩との情報交換を行い教育実習や教育現場での授業について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に、先輩教員の講義のポイントや感想をまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	**授業テーマ**	領域横断型や教科横断型授業について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの学習内容を基に、領域や教科を横断した授業についてマッピングなどから考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習としてこれまでの学習内容を整理しておく。授業後、講義のポイントや感想をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	**授業テーマ**	確認テストと全体のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科の学習指導の特質や特徴的な指導法等について理解する。授業実践例を通して、一斉指導、小集団学習、個別学習におけるアクティブラーニングについて学ぶ。併せて、日常生活に結び付ける視点から生活文化についても扱う。 教育評価の意義と目的及びその方法を確認する。年間シラバスにおける目標を明確にし、その評価方法を確認するとともに、各自の学習指導案における目標及び評価の観点を明確にする。れまでの学習指導全体についてのまとめ及び学習内容の共有を行い、授業の理解の定着を図る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習としてこれまでの学習内容を整理しておく。授業後、講義のポイントや感想をまとめておく。

	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

講義の内容、順番が変わることもある。

学生へのフィードバック方法

各チームの発表についてはその都度評価や改善を要する点をフィードバックする。

評価方法

製作実習や指導案の作成については、製作プロセスや内容、発表態度等を総合的に評価する。授業ポートフォリオは授業後に回収し、内容を評価する。定期試験では、主に学習指導要領の理解に関する出題を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
グループ発表	○		○	
アースノート	○			○
定期試験	○			○

評価割合

平常点（製作実習、指導案の作成含む）：40%
授業記録（ポートフォリオ）：20%
定期試験：40%

使用教科書名(ISBN番号)

(1)高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 家庭編／文部科学省
(2)高等学校 703 家庭総合 ／実教出版

参考図書

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 家庭 令和3年8月／文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

佐野 1805ゼミ室
前期： 月曜日 4限
後期： 水曜日 3限 必ず事前にアポを取ってください。
担当教員のゼミ室（研究室）前の掲示を確認してください。

学生へのメッセージ

教員免許取得のための授業であり、受講に際しては、私語、携帯電話の使用などや、授業に関係のない行動を取るなど、受講態度に問題がある場合には退席を求める。学習指導案作成等のグループ単位での活動が多いため、グループ内のメンバーと協力して授業参加することが求められる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	家庭科教員としての経験をもとに、年間授業計画、授業展開、評価方法などについて具体的な指導を行う。
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業を通して、自ら授業を作り上げ他の受講生に伝えるとともに、他の受講生の授業に対して意見を述べ、受講生同士が互いの理解を深めながら自身を高めていくことを目指す。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	ICTを効果的に活用した授業を検討する。

講義コード	610009001
講義名	家庭科教育法Ｄ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	大矢 幸江	指定なし

ナンバリング

Y31104M21

授業概要(教育目的)

家庭科教育法A,B,Cの学びを総合し、本授業において家庭科の指導方法や教材研究の工夫をすることに重点を置き、家庭科の授業能力を高めることを目標とする。学習指導案を作成して模擬授業を行い、その省察や改善策を検討し家庭科の授業の実践力を高める。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家庭科教員として、国際的視点なども踏まえ、学問的背景と今日的な家庭科の社会的視座を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	教育現場の現況を理解して、家庭科教員としてふさわしい見識を身につけ、授業を構築する考えや判断力を育成する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の状況や変化を確認し、家庭科教員としての見識や知識を深め、授業に役立てるよう技能を高めようとする。
技術・表現の観点 (A)	家庭科の学習指導案の作成や模擬授業を行うことができ、家庭科の今日的な課題や実践的動向を知り、自らの授業の向上に取り組むことができる。

学習計画

家庭科教育法D

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	授業予定、評価方法などの確認。この授業に向けて課した課題への取り組みを通して感じたことなどを受講生同士伝え合う。

第1回	を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に課した「学習指導案およびワークシートの作成」を行う。
	教室外学習の時間(分)	200分
第2回	授業テーマ	学習指導案の作成および及び授業展開についての考察
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業の実践に向けて、作成した学習指導案や教材を考察し、相互評価を通して、主体的・対話的・深い学びの学習方法の授業を目指し、学習指導案の改善を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家庭科の学習内容でもある「生活課題」について、現代社会の状況と生徒の生活から考え授業としてどう組み立てるか学習指導要領、教科書、新聞等を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	200分
第3回	授業テーマ	学習指導案の考察および模擬授業（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	200分
第4回	授業テーマ	学習指導案の考察および模擬授業（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
第5回	授業テーマ	学習指導案の考察および模擬授業（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家庭科の学習内容でもある「生活課題」について、現代社会の状況と生徒の生活から考え授業としてどう組み立てるか学習指導要領、教科書、新聞等を読んでおくこと。

	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	学習指導案の考察および模擬授業（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	学習指導案の考察および模擬授業（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	学習指導案の考察および模擬授業（６）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家庭科の学習内容でもある「生活課題」について、現代社会の状況と生徒の生活から考え授業としてどう組み立てるか学習指導要領、教科書、新聞等を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	学習指導案の考察および模擬授業（７）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	学習指導案の考察および模擬授業（８）

第10回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	学習指導案の考察および模擬授業（９）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	学習指導案の考察および模擬授業（１０）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	**授業テーマ**	教育実習報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習を行った先輩の教育実習体験を、司会進行を分担しながら聴講する。教育実習や教育現場での授業について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に教育実習体験についての報告のポイントや、自分が思ったことをまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	学習指導案・模擬授業の考察および総括
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業で作成した学習指導案と、実際に行った模擬授業を振り返り、改善点を修正する。

第14回	教室外学習(予習・復習)の内容	学習内容を確認、理解をして授業に臨むこと。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

講義の前に各自、模擬授業の学習指導案を作成してくる。

学生へのフィードバック方法

模擬授業については、授業内容、授業の進め方などその都度評価や改善を要する点を伝えるなどフィードバックを行う。

評価方法

模擬授業については、発表態度や授業内容、指導案の記載内容について評価する。模擬授業担当者以外は、模擬授業に対してのコメント内容も評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
模擬授業	○	○	○	○
模擬授業への考察・相互評価	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

模擬授業（指導案、ワークシート、授業内容） 60%
模擬授業への考察・相互評価 30%
平常点（模擬授業への意欲態度、提出物） 10%

使用教科書名(ISBN番号)

文部科学省「高等学校学習指導要領解説 家庭編」（教育図書）
『家総703 家庭総合』（実教出版）

参考図書

文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」（開隆堂）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。

学生へのメッセージ

教員免許取得のための授業であり、実践に即したマナーや態度を求める。家庭科教育法Cでの学習指導案の作成、模擬授業の省察を振り返るとともに、中高生の生活実態を把握した授業内容になるよう情報収集を図り、授業への資料となるよう整理しておく。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かし	○	家庭科教員としての経験を基に、年間授業計画や授業展開、評価方法などにつ

た授業		いて具体的な指導を行う。
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業を通して、自ら授業を作り上げ他の受講生に伝えるとともに、他の受講生の授業に対して意見を述べ、受講生同士が互いの理解を深めながら自身を高めていくことを目指す。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	ICTを効果的に活用した授業を検討する。

講義コード	610009031
講義名	家庭科教育法D
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	大矢 幸江	指定なし
教授	佐野 潤子	指定なし
助教	太田 茜	指定なし

ナンバリング

Y31104C21

授業概要(教育目的)

家庭科教育法A,B,Cの学びを総合して、家庭科の指導方法や教材研究の工夫をすることに重点を置き、家庭科の授業能力を高めることを目標とする。学習指導案を作成して模擬授業を行い、その省察・改善から家庭科の授業の実践力を高める。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家庭科教員として、国際的視点なども踏まえ、学問的背景と今日的な家庭科の社会的視座を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	教育現場の現況を理解して、家庭科教員としてふさわしい見識を身につけ、授業を構築する考えや判断力を育成する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らの教員としての資質を確認し、教壇に立つ上で不足している知識や、技能を身に付けようとする。
技術・表現の観点 (A)	家庭科の学習指導案の作成や模擬授業を行うことができ、家庭科の今日的な課題や実践的動向を知り、自らの授業の向上に取り組むことができる。

学習計画

家庭科教育法D

	授業テーマ	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	

第1回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業予定、評価方法などの確認。この授業に向けて課した課題への取り組みを通して感じたことなどを受講生同士伝え合う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に課した「学習指導案およびワークシートの作成」を行う。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	学習指導案の作成および及び授業展開についての考察
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業の実践に向けて、作成した学習指導案や教材を考察し、相互評価を通して、主体的・対話的・深い学びの学習方法の授業を目指し、学習指導案の改善を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家庭科の学習内容でもある「生活課題」について、現代社会の状況と生徒の生活から考え授業としてどう組み立てるか学習指導要領、教科書、新聞等を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	学習指導案の考察および模擬授業（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	学習指導案の考察および模擬授業（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	学習指導案の考察および模擬授業（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。
	教室外学	家庭科の学習内容でもある「生活課題」について、現代社会の状況と

	習(予習・復習)の内容	生徒の生活から考え授業としてどう組み立てるか学習指導要領、教科書、新聞等を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	学習指導案の考察および模擬授業（４）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	学習指導案の考察および模擬授業（５）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	学習指導案の考察および模擬授業（６）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家庭科の学習内容でもある「生活課題」について、現代社会の状況と生徒の生活から考え授業としてどう組み立てるか学習指導要領、教科書、新聞等を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	**授業テーマ**	学習指導案の考察および模擬授業（７）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分

第10回	授業テーマ	学習指導案の考察および模擬授業（８）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	学習指導案の考察および模擬授業（９）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	授業テーマ	学習指導案の考察および模擬授業（１０）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	教育実習報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習を行った先輩の教育実習体験授業を、司会進行を分担しながら聴講する。教育自習や教育現場での授業について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に教育実習体験についての報告のポイントや、自分が思ったことをまとめておくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	学習指導案・模擬授業の考察および総括
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	授業で作成した学習指導案と、実際に行った模擬授業を振り返り、改善点を修正する。

第14回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習内容を確認、理解をして授業に臨むこと。
	教室外学習の時間（分）	200分

学習計画注記

講義の前に各自、模擬授業の学習指導案を作成してくる。

学生へのフィードバック方法

模擬授業についてはその都度評価や改善を要する点をフィードバックする。

評価方法

模擬授業については、内容や発表態度を評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
模擬授業	○	○	○	○
模擬授業への考察・相互評価	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

模擬授業（指導案、ワークシート、授業内容） 60%
模擬授業への考察・相互評価 30%
平常点（模擬授業への意欲態度、提出物） 10%

使用教科書名(ISBN番号)

文部科学省「高等学校学習指導要領解説 家庭編」（教育図書）
『家総703 家庭総合』（実教出版）

参考図書

文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」（開隆堂）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。

オフィスアワー

必ず事前にアポを取るようにしてください
佐野 1805ゼミ室 後期水曜午前
太田 1808ゼミ室 月曜2限～昼休み
アポイントを取り時間調整を行うこと。

学生へのメッセージ

教員免許取得のための授業であり、実践に即したマナーや態度を求める。学習指導案作成等のグループ単位での活動が多いため、グループ内のメンバーと協力して授業参加することが求められる。

教育等の取組み状況

	該	

	当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	家庭科教員としての経験を基に、年間授業計画や授業展開、評価方法などについて具体的な指導を行う。
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業を通して、自ら授業を作り上げ他の受講生に伝えるとともに、他の受講生の授業に対して意見を述べ、受講生同士が互いの理解を深めながら自身を高めていくことを目指す。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	ICTを効果的に活用した授業を検討する。

講義コード	610022001
講義名	道徳教育論（小）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	2年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	立川 泰史	指定なし
准教授	丹羽 さがの	指定なし

ナンバリング

Y24101M21

授業概要(教育目的)

子供を取り巻く社会の変化，道徳教育の趣旨，道徳教育の歴史的変遷，道徳性に係る心の発達などを踏まえ，小学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と、その基盤となる「特別の教科：道徳」の目標と内容，学習指導計画と実践方法について基礎的な理解・基本的な技能を育成する。また，道徳科の目標・内容に照らした題材の指導観や教材研究、学習指導案の作成、模擬授業等を通して，実践力の形成に資する多様な指導方法の修得を導く。

履修条件

小学校教諭一種免許状の取得を希望する者は必修。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	今日の学校教育における「道徳教育」及び「特別の教科 道徳（道徳科）」について、学習指導要領の趣旨を理解し、道徳的価値の理解や指導と評価の一体的な扱いなど、教科経営の具体的な手立てを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	子供を取り巻く社会的課題と道徳的諸価値の理解を促す教育を関連付け、児童の実態に即した指導及び評価の方法考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	今日的、実体的な道徳観の在り方に関心をもち、問題意識を以て人格形成に期する指導観や評価観をもとうとしている。
技術・表現の観点 (A)	学校の教育活動全体を通した道徳教育の趣旨及び「特別の教科・道徳」の目標や内容、題材の取り扱いについて理解し、心の発達に合わせた指導方法を計画・実践できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	道徳教育の特質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	オリエンテーション 本授業で学べること 今日の道徳教育と社会的背景
	教室外学習(予習・復習)の内容	道徳教育が担う社会的役割について情報を集めておく
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	道徳性の心理的発達
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	道徳・道徳性とは何か 「道徳性発達研究の概観」
	教室外学習(予習・復習)の内容	児童期の心理特性と発達について整理する
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	考える道徳と理論背景
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	認知的発達理論の立場から―ピアジとL.コールバーグ「道徳性発達理論」の考察 道徳的判断力の発達
	教室外学習(予習・復習)の内容	3水準（6ステージ）の発達特性や道徳的判断について整理する
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	道徳教育の心理的アプローチ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	思いやりの発達研究１ 向社会性の発達
	教室外学習(予習・復習)の内容	思いやりの心と学年に応じた指導観を整理する
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	道徳教育の心理的アプローチ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	思いやりの発達研究２ 向社会的行動の動機
	教室外学習(予習・復習)の内容	思いやりの心と学年に応じた指導観を整理する
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	道徳教育と特別の教科道徳の目標と内容
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校の教育活動全般を通して行う道徳教育と「特別の教科道徳」の目標と内容
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校学習指導要領の目標と内容について調べておく
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	**授業テーマ**	道徳科の領域と題材の展開方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	４つの内容領域に位置づく題材の「道徳的価値の理解」 「板書と発問」でつくる授業 グループ検討と協議
	教室外学習(予習・復習)の内容	道徳的価値の内容と領域について整理する
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	道徳科の評価のあり方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	道徳科が期待する児童の姿、「指導と評価」の一体的扱い 評価の観点と評価材の扱い
	教室外学習(予習・復習)の内容	評価の観点と方法について整理する
	教室外学習の時間（分）	180分

第9回	授業テーマ	道徳科の学習指導案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習指導案の作成１ 「考え・議論する道徳」を具体化する問いと学習形態の工夫
	教室外学習(予習・復習)の内容	考え・議論する道徳を具現化する学習形態を工夫する
	教室外学習の時間（分）	220分
第10回	授業テーマ	道徳科の学習指導案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習指導案の作成2 「考え・議論する道徳」を具体化する問いと学習形態の工夫
	教室外学習(予習・復習)の内容	考え・議論する道徳を具現化する学習形態を工夫する
	教室外学習の時間（分）	220分
第11回	授業テーマ	模擬授業１と協議
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	内容領域「主として人との関わりに関すること」 授業者自評と実践研究協議会を経験する
	教室外学習(予習・復習)の内容	内容領域と道徳的価値の理解を生かす指導法を工夫し、協議する
	教室外学習の時間（分）	220分
第12回	授業テーマ	模擬授業２と協議
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	内容領域「主として集団や社会との関わりに関すること」授業者自評と実践研究協議会を経験する
	教室外学習(予習・復習)の内容	内容領域と道徳的価値の理解を生かす指導法を工夫し、協議する
	教室外学習の時間（分）	220分
第13回	授業テーマ	模擬授業３と協議
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」 授業者自評と実践研究協議会を経験する
	教室外学習(予習・復習)の内容	領域と道徳的価値の理解を生かす指導法を工夫し、協議する
	教室外学習の時間（分）	220分
第14回	授業テーマ	道徳教育の歴史と課題 まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育内容の変遷と展望 教科横断的な「道徳価値理解」の事例をみて
	教室外学習(予習・復習)の内容	学習を総括して、道徳教育と道徳科の教科観や指導観と整理する
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

大きく改訂された道徳教育の変遷と「特別の教科道徳」へ教科化した改訂の趣旨などについて、「学習指導用要領を中心に事前に知識を得ておく。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業のドキュメンテーション（授業感想や問題意識、アクティヴラーニングに係る自己評価等）を事業の前後で共有する。
学習指導案と模擬授業及び協議会において、相互評価とともに講評の観点を共有していく。

評価方法

・ ドキュメンテーション（自己評価の観点と基礎的基本的な知識・技能を観点に）
・ 学習指導案と模擬授業（教科目標と内容、評価観との連関や協議会への参加意識等を観点

に）
・ 最終期末課題レポート（共通テーマによる問題意識と課題解決の探究の在り方を観点に）
（以上の評価材について総合的に判断する）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
ドキュメンテーション	○	○	○	
学習指導案・模擬授業	○	○		○
期末課題レポート	○	○		○

評価割合

・ ドキュメンテーション（自己評価）20%
・ 学習指導案と模擬授業 30%
・ 最終課題レポート 50% （以上の評価材について総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

適宜、必要な資料を授業者が配布する。

参考図書

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』平成29年7月
汐見稔幸・奈須正裕・上地完治『道徳教育の理論と実践 (アクティベート教育学 9)』ミネルヴァ書房、2020年（ISBN-10 ： 4623086003）
高宮正隆『道徳的判断力を育む授業づくり』北大路書房、2022、（ISBN-13 ： 978-4762832116）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】教科目標や内容に係る基礎的な知識の理解を深め、生きて働く専門領域の知見を以て社会に貢献できる。
【思考・判断】生活や社会にある身近な問題に気付き、論理的・批判的・生産的な思考を通して見方・考え方を有し、伝えることができる。
【関心・意欲・態度】教科固有の本質的な価値と共同社会とのかかわりに関心をもち、職業人かつ生活者として自立した教育的態度を具えている。
【技術・表現】生活社会における倫理的・道徳的価値を理解した生活者として自立する意味や価値を認め、人格形成によりそう教育観を以て生きる。

オフィスアワー

立川 水曜３限
丹羽 月曜４限

学生へのメッセージ

道徳の教科化という動向について関心をもち、学習指導要領を基に意義や価値を自分なりに捉えておく。
模擬授業や協議会に積極的に取り組み、この領域における自身の問題意識を明確にしていってください。
学校教育全般、行事、教科横断的な視点から、発達に応じた道徳的価値の理解を導く手立てを探究していくことが中心作業になります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授	○	都公立小学校、公立大学附属小学校における教科教育研究や研修経験に基づく教科観・教材観・評価観を以て、実践力と基礎知識の習得を支援する。

業		
アクティブ・ラーニング	○	集団討論の技法、ドキュメンテーション等の自己評価法を活かし、主体的な学習態度を導く。
情報リテラシー教育	○	各種プラットフォームやメディアを通して今日的な教育課題を照らし、題材の精選や教材開発にかかる情報を収集する機会を設ける。
ICT活用	○	教育の実態や問題意識に関する探求活動、教材の制作、模擬授業等の場面において適宜ヴィジュアル・デバイスを活用する。

講義コード	610022002
講義名	道徳教育論（中・栄）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	2年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	河田 敦子	指定なし

ナンバリング

Y20201M21

授業概要(教育目的)

・道徳教育に関する国内外の歴史および実践に関する知識を学びながら、「道徳とは何か」について考えを深められるようにする。
・学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容が理解できるようにする。
・学生が、現代社会の道徳教育の課題について多様な考え方に触れながら、柔軟な思考と理解力を持ち、発言できるようにする。
・毎時、学生１人１回ずつ、「心に残る言葉」というテーマで5分程度の発表を行う。
・１人または１グループ30分程度の学習指導案の作成と模擬授業をおこなう。

履修条件

中・高等学校教諭一周免許状を取得希望者は、必修。高等学校教諭一種免許状のみ取得希望者は、履修可能であるが、必修ではない。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	道徳教育の歴史と現状を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	道徳教育は正解を求めるのではなく、生徒の多様な意見を引き出すことであることを理解し、授業を工夫できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間の心の動きや変化について関心があり、自己を見つめ、相手を尊重する態度を持っている。
技術・表現の観点 (A)	生徒に問いかけたり、受け留める言葉や表現力を持っている。

学習計画

第1回	授業テーマ	道徳とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「道徳」という言葉の語源や意味および欧米との違いについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に第1回レジュメを良く読んでおくこと。 日常的に心を動かされたり、感動するとはどういう時かを考えるようにする。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	授業テーマ	近代日本における道徳教育の歴史I
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1879年、維新後の日本がどのような道徳教育を国民教育に取り入れるかが論争になった。その徳育論争について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第2回レジュメを良く読んでおくこと。「心に残る言葉」発表の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	近代日本における道徳教育の歴史II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	どのような経緯で1890年教育勅語が公布され、公布後どのような修身教育が行われたか、戦前の道徳教育について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回レジュメを良く読んでおくこと。 「心に残る言葉」発表の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	戦後日本における道徳教育の歴史
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	戦前の道徳教育にどのような問題があり、戦後の教育が計画されたか、その後1958年「道徳の時間」特設に至るまでの歴史的経過を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第4回レジュメを良く読んでおくこと。「心に残る言葉」発表の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	現代日本における道徳教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	戦後の道徳教育が大きく変容した2002年『心のノート』に至るまでの社会情勢を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分にとって道徳教育はどのような教育だったかを振り返っておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	新教育基本法から道徳の教科化に至るまで
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	何故、道徳が教科化されたのか。教科化とはどのような意味を持つのかを考える。

	教室外学習(予習・復習)の内容	今現在どのような道徳教育が学校で行われているのかがわかる新聞記事等に敏感になっていること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	**授業テーマ**	世界の道徳教育I 道徳性の発達理論：
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ローレンス・コールバーグの道徳性の発達理論を、実際に「ハインツのジレンマ」への解答を全員で考える。ディスカッションを行い、考えることの重要性、意見の多様性に気付くことが道徳教育には大切であることを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分とは異なる考え方、物の見方に耳を傾け、理解するように心がけること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	**授業テーマ**	世界の道徳教育II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アメリカ・フランスの道徳教育を紹介しながら、家庭における民主的な教育、人間の成長過程を学ぶことが道徳教育になっていることを考えさせる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本とは異なる道徳教育があることを理解し、視野を広げること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	**授業テーマ**	世界の道徳教育III
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	独仏共通教科書や日本・中国・韓国が共同で刊行した教科書を用いて、歴史を共通理解することの難しさ、国際理解と道徳教育の関係を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書に書かれたことは、政治的に影響を受けていることを理解する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	**授業テーマ**	いじめについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「いじめは何故起こるのか」、「いじめは何故『悪』なのか」について学生の意見を聞きながら、多様な考え方があることを学び、ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	現在、学校、家庭、職場等で生じている「いじめ」現象に関心をもって、人間関係への洞察を深めること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	**授業テーマ**	道徳の授業の学習指導案の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行う。受講者の人数によってこの回数や模擬授業の時間は変動する可能性がある。
	教室外学習(予習・復習)の内容	道徳の教科書を良く読み、どのような授業にするかを良く構想を練る。
	教室外学習の時間（分）	240分
	授業テーマ	学生による模擬授業（ロールプレイングを含む模擬授業）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ	

第12回	ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行うアクティブ・ラーニングである。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業の準備をしっかり行うこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第13回	授業テーマ	学生による模擬授業（読み聞かせ資料を用いた模擬授業）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行うアクティブラーニングである。
	教室外学習(予習・復習)の内容	他のクラスメイトの模擬授業を良く観察し、自分のグループの模擬授業の準備をしっかり行うこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第14回	授業テーマ	現代教育の課題と道徳教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本授業全体で学んだことを振り返り、反省等を発表し合うアクティブラーニングである。学習指導案の修正版の提出をこの時間内に行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本授業で学んだこと、模擬授業の実践を、今後の教職への学びにどのように活かすかを考えて下さい。学習指導案の修正版を作成すること。
	教室外学習の時間（分）	300分

学習計画注記

特になし

学生へのフィードバック方法

講義形式。時に、学生に意見を求める。配布する資料を読みこなせる能力を求める。
模擬授業において、様々な観点から指導助言を行うので、それをもとに学習指導案を修正して提出して下さい。

評価方法

「心に残る言葉」発表（20%）、学習指導案の作成と修正（20%）、模擬授業（30%）、授業への取り組み・リアクションペーパー（30%）
評価方法・評価基準は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはクラスルーム
または授業内での配布等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
「心に残る言葉」発表			○	○
学習指導案の作成と修正	○	○	○	
模擬授業		○	○	○
授業への取り組み			○	

評価割合

・ 授業中の「心に残る言葉」発表 20%、 学習指導案の作成と修正(20%)
・ 模擬授業実技（30%）
・ 平常点 (30%)

使用教科書名(ISBN番号)

家庭科教諭志望者：文部科学省『中学校道徳学習指導要領解説（平成29年告示） 特別の教科道徳編』（教科書というよりは必ず購入する教材である。）
栄養教諭志望者：文部科学省『小学校道徳学習指導要領解説（平成29年告示） 特別の教科道徳編』（教科書というよりは必ず購入する教材である。）

参考図書

・中央教育審議会答申「道徳に係る教育課程の改善等について」（平成26年）、
・岩本俊郎・田沼朗・志村欣一・浪本勝年編『史料 道徳教育の研究』（北樹出版 1994年）
・井ノ口淳三『道徳教育 改訂版（教師教育テキストシリーズ）』学文社 2016年
・河合隼人「『心のノート』作成の経緯」（心理学会編『心理学ワールド』vol.32 2006年）
・三宅晶子「『心のノート』における人権を問う」心理学会編『心理学ワールド』vol.32 2006年
・ローレンス・コールバーグ著 岩佐信道訳『道徳性の発達と道徳教育』麗澤大学出版会 1987年
他

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に判断して行動できる。
【関心・意欲・態度】社会の中に在る諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。

オフィスアワー

火曜日2限。事前に連絡してアポイントメントを取ること。

学生へのメッセージ

・「心」はどのように動くのかに関心をもって日々生活してみてください。
・道徳に関する時事問題に日頃から敏感になって新聞テレビ等に接して下さい。
・道徳教育は今まさに大きな変革の時を迎えています。何が起きているのが、どう考えて教育を行うことが大切なのかを、自律的に考えられるようになって下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	アクティブ・ラーニング：いじめやモラルジレンマについてのディスカッション、模擬授業、発表を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	模擬授業の時にICTを活用する場合がある。

講義コード	610022031
講義名	道徳教育論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	2年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	河田 敦子	指定なし

ナンバリング

Y20201M21

授業概要(教育目的)

・道徳教育に関する国内外の歴史および実践に関する知識を学びながら、「道徳とは何か」について考えを深める。
・学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容が理解できるようにする。
・学生が、現代社会の道徳教育の課題について多様な考え方に触れながら、柔軟な思考と理解力を持ち、発言できるようにする。
・毎時、学生１人１回ずつ、「心に残る言葉」というテーマで5分程度の発表を行う。
・１人または１グループ30分程度の学習指導案の作成と模擬授業をおこなう。

履修条件

中・高等学校教諭一周免許状を取得希望者は、必修。高等学校教諭一種免許状のみ取得希望者は、履修可能であるが、必修ではない。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	道徳教育の歴史と現状を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	道徳教育は正解を求めるのではなく、生徒の多様な意見を引き出すことであることを理解し、授業を工夫できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間の心の動きや変化について関心があり、自己を見つめ、相手を尊重する態度を持っている。
技術・表現の観点 (A)	生徒に問いかけたり、受け留める言葉や表現力を持っている。

学習計画

第1回	授業テーマ	道徳とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「道徳」という言葉の語源や意味および欧米との違いについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業後に第1回レジュメを良く読んでおくこと。 日常的に心を動かされたり、感動するとはどういう時かを考えるようにする。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	授業テーマ	近代日本における道徳教育の歴史I
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1879年、維新後の日本がどのような道徳教育を国民教育に取り入れるかが論争になった。その徳育論争について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第2回レジュメを良く読んでおくこと。「心に残る言葉」発表の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	近代日本における道徳教育の歴史II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	どのような経緯で1890年教育勅語が公布され、公布後どのような修身教育が行われたか、戦前の道徳教育について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第3回レジュメを良く読んでおくこと。 「心に残る言葉」発表の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	授業テーマ	戦後日本における道徳教育の歴史
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	戦前の道徳教育にどのような問題があり、戦後の教育が計画されたか、その後1958年「道徳の時間」特設に至るまでの歴史的経過を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	第4回レジュメを良く読んでおくこと。「心に残る言葉」発表の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	現代日本における道徳教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	戦後の道徳教育が大きく変容した2002年『心のノート』に至るまでの社会情勢を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分にとって道徳教育はどのような教育だったかを振り返っておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	新教育基本法から道徳の教科化に至るまで
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	何故、道徳が教科化されたのか。教科化とはどのような意味を持つのかを考える。

	教室外学習(予習・復習)の内容	今現在どのような道徳教育が学校で行われているのかがわかる新聞記事等に敏感になっていること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	**授業テーマ**	世界の道徳教育I 道徳性の発達理論：
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ローレンス・コールバーグの道徳性の発達理論を、実際に「ハインツのジレンマ」への解答を全員で考える。ディスカッションを行い、考えることの重要性、意見の多様性に気付くことが道徳教育には大切であることを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分とは異なる考え方、物の見方に耳を傾け、理解するように心がけること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	世界の道徳教育II
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アメリカ・フランスの道徳教育を紹介しながら、家庭における民主的な教育、人間の成長過程を学ぶことが道徳教育になっていることを考えさせる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日本とは異なる道徳教育があることを理解し、視野を広げること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	世界の道徳教育III
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	独仏共通教科書や日本・中国・韓国が共同で刊行した教科書を用いて、歴史を共通理解することの難しさ、国際理解と道徳教育の関係を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書に書かれたことは、政治的に影響を受けていることを理解する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	いじめについて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「いじめは何故起こるのか」、「いじめは何故『悪』なのか」について学生の意見を聞きながら、多様な考え方があることを学び、ディスカッションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	現在、学校、家庭、職場等で生じている「いじめ」現象に関心をもって、人間関係への洞察を深めること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	道徳の授業の学習指導案の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行う。受講者の人数によってこの回数は変動する可能性がある。
	教室外学習(予習・復習)の内容	道徳の教科書を良く読み、どのような授業にするかを良く構想を練る。
	教室外学習の時間（分）	240分
	授業テーマ	学生による模擬授業（ロールプレイングを含む模擬授業）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ	

第12回	ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行うアクティブ・ラーニングである。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業の準備をしっかり行うこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第13回	授業テーマ	学生による模擬授業（グループワーク、ディスカッションを含む模擬授業）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行うアクティブラーニングである。
	教室外学習(予習・復習)の内容	他のグループの模擬授業を良く観察し、表現方法、教材、生徒への応え方等を学びながら、自分たちのグループの模擬授業を作成実演する。
	教室外学習の時間（分）	240分
第14回	授業テーマ	現代教育の課題と道徳教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本授業全体で学んだことを振り返り、反省等を発表し合うアクティブラーニングである。学習指導案の修正版の提出をこの時間内に行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本授業で学んだこと、模擬授業の実践を、今後の教職への学びにどのように活かすかを考えて下さい。学習指導案の修正版を作成すること。
	教室外学習の時間（分）	300分

学習計画注記

特になし

学生へのフィードバック方法

講義形式。時に、学生に意見を求める。配布する資料を読みこなせる能力を求める。
模擬授業において、様々な観点から指導助言を行うので、それをもとに学習指導案を修正して提出して下さい。

評価方法

「心に残る言葉」発表（20%）、学習指導案の作成と修正（20%）、模擬授業（30%）、授業への取り組み・リアクションペーパー（30%）
評価方法・評価基準は、ルーブリックに基づく成績評価であり、ルーブリックについてはクラスルーム
または授業内での配布等により提示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
「心に残る言葉」発表	○	○	○	○
学習指導案の作成と修正	○	○	○	
模擬授業	○	○	○	○
授業への取り組み	○	○	○	○

評価割合

・ 授業中の「心に残る言葉」発表 20%、 学習指導案の作成と修正(20%)
・ 模擬授業実技（30%）
・ 平常点 (30%)

使用教科書名(ISBN番号)

家庭科教諭志望者：文部科学省『中学校道徳学習指導要領解説（平成29年告示） 特別の教科道徳編』（教科書というよりは必ず購入する教材である。）
栄養教諭志望者：文部科学省『小学校道徳学習指導要領解説（平成29年告示） 特別の教科道徳編』（教科書というよりは必ず購入する教材である。）

参考図書

・中央教育審議会答申「道徳に係る教育課程の改善等について」（平成26年）、
・岩本俊郎・田沼朗・志村欣一・浪本勝年編『史料 道徳教育の研究』（北樹出版 1994年）
・井ノ口淳三『道徳教育 改訂版（教師教育テキストシリーズ）』学文社 2016年
・河合隼人「『心のノート』作成の経緯」（心理学会編『心理学ワールド』vol.32 2006年）
・三宅晶子「『心のノート』における人権を問う」心理学会編『心理学ワールド』vol.32 2006年
・ローレンス・コールバーグ著 岩佐信道訳『道徳性の発達と道徳教育』麗澤大学出版会 1987年
他

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に判断して行動できる。
【関心・意欲・態度】社会の中に在る諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。

オフィスアワー

火曜日2限。事前に連絡してアポイントメントを取ること。

学生へのメッセージ

・「心」はどのように動くのかに関心をもって日々生活してみてください。
・道徳に関する時事問題に日頃から敏感になって新聞テレビ等に接して下さい。
・道徳教育は今まさに大きな変革の時を迎えています。何が起きているのが、どう考えて教育を行うことが大切なのかを、自律的に考えられるようになって下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	アクティブ・ラーニング：いじめやモラルジレンマについてのディスカッション、模擬授業、発表を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	模擬授業の時にICTを活用する場合がある。

講義コード	610023001
講義名	特別活動論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	阿部 真一	指定なし

ナンバリング

Y30007M21

授業概要(教育目的)

「人格の完成」をめざす教育の目的（教育基本法）の実現のために、学校の教育課程において教科と共に特別活動が位置付けられている。今日の教育において特別活動の持つ役割を理解し、特別活動を計画し実践する方法を学身につける。
将来の、学校教育の研究的共同実践者である教師として、
・今日の教育の課題と特別活動の意義の理解
・他の教職員と協力して現場で主体的に研究する姿勢
・生徒の自発性をひきだす特別活動を構想・実践する能力
を培う。

履修条件

教員免許資格に必要

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	「人格の完成」をめざす教育の目的（教育基本法）の実現のために、学校の教育課程において教科と共に位置付けられている特別活動、今日の教育において持つ役割を理解する。
思考・判断の観点 (K)	今日の教育の課題から見た特別活動の意義を考えられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	他の教職員と協力して現場で主体的に研究する姿勢を持つ。
技術・表現の観点 (A)	生徒の自発性をひきだす特別活動を構想・実践する能力を得る。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	特別活動論の課題と目的―授業ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校における特別活動とは何か、その課題を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	今までの学校生活をふり返り、児童の学校生活充実の条件を考える。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	特別活動実践演習ホームルーム開き
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別活動の一つであるホームルーム活動を模擬的に実践し、新学年のクラスをスタートする活動を体験する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子ども時代の新年度の様子をふり返る。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	教育の目的と特別活動１ エピソード記述から探る子どもの願い
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	絵日記ワークにより、生徒にとって楽しい学校となるために条件を探る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学校の楽しさとは何か、自身の体験から考える。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	教育の目的と特別活動２ 学級班活動による教育目標の検討
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	絵日記ワークをもとに、グループワークによって、学校教育の目標を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループの絵日記の内容を相互に回覧して、学校教育充実の条件を考える。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	教育の目的と特別活動３ 生徒の視点から見た教育の目的（ＢＲＤ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	3回の授業を通して、教育の目的を考察し、自分の文章として表現する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育の目的についての自分なりの考えを考察する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	コミュニケーション能力の育成と特別活動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今日の生徒にとってコミュニケーション能力の育成が課題であり、そのための特別活動の役割を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	コミュニケーション能力を育てるための、ホームルーム活動・学校行事について図書・インターネットで調査する。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	コミュニケーション・ワーク演習１（ホームルーム活動）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	児童のコミュニケーション能力を高めるホームルーム活

第7回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	動を、グループで計画し模擬実践する。（アクティブラーニング）
	教室外学習(予習・復習)の内容	コミュニケーションワークを調査する（ICT活用）
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	コミュニケーション・ワーク演習２（学校行事）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校行事で活用できるコミュニケーションワークをグループで計画し、模擬実践する。（アクティブラーニング）
	教室外学習(予習・復習)の内容	学校行事で実践できるコミュニケーションワークを調査する。（ICT活用）
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	ＢＲＤ 今日の子どもとコミュニケーション能力育成の課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	コミュニケーションワークの実践から、今日の児童のコミュニケーション能力の形成のあり方を考えまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学校現場で行われているコミュニケーションワークの事例を図書・インターネットで調査する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	事例検討・教師の専門性・生きがいと特別活動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校教育実践事例を読み、教師の専門性・生きがいを発揮する特別活動の構想について考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教師の教育実践に関する図書を読む。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	憲法・子どもの権利条約・児童憲章・教育基本法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育に関わる法・条約から特別活動の役割を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育に関わる法・条約を調べる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	授業テーマ	特別活動校外授業―下見計画実習（多摩動物公園）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教師として特別活動を計画することを、学外活動を下見する実践として体験する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	多摩動物公園の教育プログラムを調査する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	特別活動の指導案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学外活動の下見を踏まえて、特別活動の指導案を立案する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導案を記述する。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	特別活動の課題と展望（ＢＲＤ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	

第14回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今日の生徒の現状から、特別活動の役割とあり方を考察してまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	全回の学びを振り返る。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

学生の能動性の発揮によって授業内容を発展的に組み替える場合もある。
講義・グループワーク（指導計画の立案・模擬活動・プレゼンテーションなど）・ミニテスト・BRD（当日ブリーフレポート）など多面的な方法で授業を行う。

学生へのフィードバック方法

学生相互で学びの評価を行い、授業時の学生アンケートを学生にフィードバックする。

評価方法

特別活動指導案の完成度。
グループで実施する特別活動指導案プレゼンテーションの内容、話し合いのときの各自の貢献度。
適宜実施するミニテストと、生徒指導のあり方を考えるBRD（当日ブリーフレポート）による。
ルーブリックを用いた評価を行います。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
特別活動指導案	○		○	○
プレゼンテーション		○	○	○
ミニテスト	○			
レポート		○	○	○

評価割合

特別活動指導案（30%）
プレゼンテーション（30%）
ミニテスト（10%）
BRD（当日ブリーフレポート）（30%）

使用教科書名(ISBN番号)

授業内容や資料等のプリントを配布する。

参考図書

折出健二編『特別活動』学文社

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもに関わる諸課題を理解することで、教師の道 へつなぐことができる。
【思考・判断】子どもの諸課題を自 ら発見し、論理的に分析し考察することができるまた、各種の多様な情報を客観的に 理解し判断して行動できる。
【関心・意欲・態度】教師として、高い徳性をもって 人々のために働く能力を持つ。
【技 能 ・ 表 現】教師としての専門的技能をもって教育の課題を発し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を持つ。

オフィスアワー

火曜日３限 非常勤講師室

学生へのメッセージ

今日的な教育課題や生徒の実情を調べる・自分自身の子ども時代の学校の様子をふり返る・実習等での体験をまとめる、などによって授業に主体的に参加することが求められる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		特別活動の理論と今日的な教育課題や生徒の様子など教育現場での実情を踏まえた授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	絵日記ワーク・グループワーク・グループプレゼンテーションを行う。
情報リテラシー教育	○	インターネットによる法・施策・学外活動実施箇所の調査、図書館でのリファレンスの活用。
ICT活用	○	パワーポイントによるプレゼンテーション。

講義コード	610023031
講義名	特別活動論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	吉澤 潤	指定なし

ナンバリング

Y30007C21

授業概要(教育目的)

「人格の完成」をめざす教育の目的（教育基本法）の実現のために、学校の教育課程において教科と共に特別活動が位置付けられている。今日の教育において特別活動の持つ役割を理解し、特別活動を計画し実践する方法を身につける。
将来の、学校教育の研究的共同実践者である教師として、
・今日の教育の課題と特別活動の意義の理解
・他の教職員と協力して現場で主体的に研究する姿勢
・生徒の自発性をひきだす特別活動を構想・実践する能力
を培う。

履修条件

教員免許資格に必要

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	「人格の完成」をめざす教育の目的（教育基本法）の実現のために、学校の教育課程において教科と共に位置付けられている特別活動、今日の教育において持つ役割を理解する。
思考・判断の観点 (K)	今日の教育の課題から見た特別活動の意義を考えられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	他の教職員と協力して現場で主体的に研究する姿勢を持つ。
技術・表現の観点 (A)	児童・生徒の自発性をひきだす特別活動を構想・実践する能力を得る。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	特別活動論の課題と目的～授業ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校における特別活動とは何か、その課題を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	今までの学校生活をふり返り、児童の学校生活充実の条件を考える。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	特別活動模擬演習① 学級開き
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	新年度の初日に行われる学級開きを模擬的に行い、新学年のクラスをスタートする活動を体験する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子ども時代の新年度の様子をふり返る。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	特別活動模擬演習② 共有空間づくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	朝の会や帰りの会で行われることのある読み聞かせ実践やクイズ実践を知り、子どもたちにとって楽しい学校となるために条件を探る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	読み聞かせに適した本を図書館などで探し、５～１０分程度の読み聞かせができるように練習する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	特別活動模擬演習③ 学級班活動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	室内ゲームによって、学級活動の在り方や児童のコミュニケーション力の育み方を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室内で行えるゲームを調べ、授業内で５～10分程度で行える準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	学級活動ワーク演習① 読み聞かせ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループ内で読み聞かせを一人ひとり行う。（アクティブラーニング）
	教室外学習(予習・復習)の内容	読み聞かせる本を選んだ理由をまとめる。また、読み聞かせを練習する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	学級活動ワーク演習②の(1) 教室内ゲーム
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室内で行えるゲームをグループで計画し、模擬実践する。（アクティブラーニング）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育の目的についての自分なりの考えを考察する。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	**授業テーマ**	学級活動ワーク演習②の(2) 教室内ゲーム
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室内で行えるゲームをグループで計画し、模擬実践する。（アクティブラーニング）
	教室外学習(予習・復習)の内容	コミュニケーションワークを調査する（ICT活用）

	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	学校行事を通して育む自治活動① 運動会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	運動会の表現種目の演技づくりを通して、特別活動の役割を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	運動会の表現種目の実践例について、図書やインターネットで調査する。（ICT活用）
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	学校行事を通して育む自治活動② 遠足・宿泊行事
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	宿泊行事の集団生活づくりを通して、特別活動の役割を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	宿泊行事において、教師が決めるべき項目と子どもたちが決めるべき項目を考えておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	学校行事を通して育む自治活動③ ６年生を送る会・学級じまい
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	６年生を送る会や学級じまいの実践を知り、特別活動の役割を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の経験した６年生を送る会や学級じまいを振り返り、疑問点や心に残っている場面をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	**授業テーマ**	学校行事を通して育む自治活動④ 卒業式
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	卒業式の実践を知り、特別活動の役割を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の経験した卒業式を振り返り、疑問点や心に残っている場面をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	**授業テーマ**	特別活動のプランづくり①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教師として特別活動を計画することを、グループで行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループのメンバーとやりとりをして、プランづくりの準備をする。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	**授業テーマ**	特別活動のプランづくり②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教師として特別活動を計画することを、グループで行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	プランを仕上げる。
	教室外学習の時間（分）	180分
第14回	**授業テーマ**	活動プランのプレゼンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成したプランをパワーポイントを使ってグループごとに発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	全回の学びを振り返る。

	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

学生の能動性の発揮によって授業内容を発展的に組み替える場合もある。
講義・グループワーク（模擬活動・プレゼンテーションなど）・小レポートなど多面的な方法で授業を行う。

学生へのフィードバック方法

授業時の小レポートや授業感想を学生にフィードバックする。

評価方法

個人で作成する「最終レポート」の内容、
グループで実施する特別活動プランのプレゼンテーションの内容、
授業内に記述する小レポートによる。
それぞれの評価基準については、クラスルームまたは授業内での配布等により提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
最終レポート	○	○		○
小レポート		○	○	○
グループによプレゼンテーション	○	○	○	

評価割合

授業の目的に関わる最終課題（60%）
授業内の小レポート（20%）
プレゼンテーション（20%）

使用教科書名(ISBN番号)

なし（授業中に資料・参考文献を提示する）

参考図書

小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説 特別活動編
杉田洋『よりよい人間関係を築く特別活動』図書文化社

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもに関わる諸課題を理解することで、教師の道 へつなぐことができる。
【思考・判断】子どもの諸課題を自 ら発見し、論理的に分析し考察することができるまた、各種の多様な情報を客観的に 理解し判断して行動できる。
【関心・意欲・態度】教師として、高い徳性をもって 人々のために働く能力を持つ。
【技 能 ・ 表 現】教師としての専門的技能をもって教育の課題を発し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を持つ。

学生へのメッセージ

自分自身の子ども時代の学校の様子を振り返ったり、今日的な教育課題や児童生徒の実情を調べたりしながら、特別活動の様々な実践を批判的に検討し、特別活動の存在意義や子どもたちの自治活動の必要性を追究してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング	○	読み聞かせワーク・グループワーク・グループプレゼンテーションを行う。
情報リテラシー教育	○	インターネットによる法・施策の調査、図書館でのリファレンスの活用。
ICT活用	○	パワーポイントによるプレゼンテーション。

講義コード	610030001
講義名	教育方法・技術論（幼・小）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期前半
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	立川 泰史	指定なし
教授	齋藤 義雄	指定なし

ナンバリング

Y34004M11

授業概要(教育目的)

教育の目的である人間形成を図るための道が教育方法である。教育方法を歴史的な面からとらえ、現代の教育にどのようにつながっているかを解説する。また、海外の教育方法の理論や実践が、わが国の教育方法にどのように影響を与えたかという視点からとらえる。教授・学習過程に焦点にしぼれば、その原理や一般理論を踏まえながら、問題解決型の授業構成や指導の在り方の基本を解説する。さらに、学校教育で必要な指導技術の基礎的な理解を図るとともに、情報機器および教材の活用について講義を行う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 教育方法・技術の意義を理解できる。 2 教育方法・技術に関する基礎的な知識と基本的な技能、その活用が理解できる。
思考・判断の観点 (K)	教育方法・技術に関する課題と可能性に気付き、教育実践への活用応用方法を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教育方法・技術に関心をもち、問題意識をもって積極的に学習に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	情報機器を扱う基礎的な技能を体得し、適切な目標設定と活用を図ることができる。教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけることができる。

学習計画

教育方法・技術論

第1回	**授業テーマ**	1 ガイダンス、西洋における教育方法（１９世紀前半まで）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	西洋における教育方法（１９世紀前半まで）ベーコン、コメニウス、ロック、ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルトについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第１章（ｐ１０～１８）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	2 西洋における教育方法（１９世紀後半から）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	西洋における教育方法（１９世紀後半から）デューイ、キルパトリック、ソーンダイク、パーカースト、タイラー、ブルーム、ヴィゴツキーについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第２章（ｐ２０～２８）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	3 日本における教育方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本における教育方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第３章（ｐ３０～３８）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	4 学習の理論と授業のデザイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今日的な学習の理論と授業デザインを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第４章（ｐ４０～４８）と第５章（ｐ５０～５９）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	5 相互主体的な「学びあい」協働的な学習活動形態の構成方法と実践技術
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	協同学習を目的にした活動構成、学びあいに関わる学習活動の構成方法について実践事例を収集し、それぞれの違いやよさ、様々な事例を支えている教育技術を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第６章（ｐ６２～７１）を読んでおくこと。 興味のある教育方法・技術についてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	6 教育の道具・素材・環境、教育機器とＩＣＴ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗ	教育の道具・素材・環境、教育機器とＩＣＴについて理解する。

第6回	ｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習環境デザインの視点から、認識ツールとしてのデジタル・デバイス、その活用を有意義にする活動の展開などと合わせて検討・考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第７章（ｐ７４～８３）と第８章（８６～９４）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	7 評価とアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	評価とアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第９章（ｐ９６～１０６）と１２章（ｐ１３０～１３９）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分

学生へのフィードバック方法

授業の最初と最後には質問の時間を設定するとともに、授業以外では研究室に質問に来ること。提出されたノートは、確認後返却する。

評価方法

中間レポート、学期末レポートは、70点とする。レポートのテーマは、教員採用試験に出題されるような基礎・基本とする。各自が興味・関心を抱いた教育方法・技術についてレポートを作成してもらう。授業のノートはきちんととること。記述したノートに関しては、確認し、その後返却する。
ルーブリックの観点については、授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間レポート	○	○		○
学期末レポート	○	○		○
ノート	○		○	○
積極的な参加態度			○	

評価割合

中間レポート・学期末レポート（７０％）平常点（３０％）で評価する。平常点は、授業への積極的な参加態度、ノート等

使用教科書名(ISBN番号)

齋藤義雄『教育方法・技術論ー主体的・対話的で深い学びに向けてー』大学図書出版 2018年

参考図書

『教育方法学』 佐藤学 岩波書店 1996年
他は、授業で紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【思考・判断】教育方法・技術に関する問題点を考察することができている。
【関心・意欲・態度】教育者として、教育方法・技術に関して積極的に学習に取り組む。

【技能・表現】教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー

授業の前後 授業教室または随時 1628研究室（齋藤）
水曜４限 1629研究室（立川）

学生へのメッセージ

教員免許は、取得するだけではなく教職に就いて初めて生かされる。本講義では、まず教育方法・技術論の教員採用試験に出題されるような基礎的・基本的な内容、重要なポイントについて理解し、身に付けてもらう。身に付けた知識は、実際の教育活動で活用してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、中学校・小学校において教員としての実務経験を有している。学習指導の方法や技術に関して、実務経験に基づいた経験を積極的に伝えている。
アクティブ・ラーニング	○	「主体的・対話的で深い学び」（アクティブラーニング）の方法を理解し、授業で実践する。
情報リテラシー教育	○	パワーポイントを活用したプレゼンテーションを授業で取り入れ、情報リテラシーに触れるように心がける。
ICT活用	○	情報機器の活用方法を実際に確かめるとともに、ＩＣＴについての理解し、活用する。

講義コード	610030002
講義名	教育方法・技術論（中・高・栄）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期前半
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	齋藤 義雄	指定なし

ナンバリング

Y30009M11

授業概要(教育目的)

教育の目的である人間形成を図るための道が教育方法である。教育方法を歴史的な面からとらえ、現代の教育にどのようにつながっているかを解説する。また、海外の教育方法の理論や実践が、わが国の教育方法にどのように影響を与えたかという視点からとらえる。教授・学習過程に焦点にしぼれば、その原理や一般理論を踏まえながら、問題解決型の授業構成や指導の在り方の基本を解説する。さらに、学校教育で必要な指導技術の基礎的な理解を図るとともに、情報機器および教材の活用について講義を行う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 教育方法・技術の意義が理解できる。 2 教育方法・技術に関する基礎的・基本的な知識が理解できる。
思考・判断の観点 (K)	教育方法・技術に関する課題と可能性に気付き、教育実践への活用応用方法を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教育方法・技術に関心をもち、問題意識をもって積極的に学習に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	情報機器を扱う基礎的な技能を体得し、適切な目標設定と活用を図ることが出来る。教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけることができる。

学習計画

教育方法・技術論

第1回	授業テーマ	１ ガイダンス、西洋における教育方法（１９世紀前半まで）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	西洋における教育方法（１９世紀前半まで）ベーコン、コメニウス、ロック、ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルトについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第１章（ｐ１０～１８）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	2 西洋における教育方法（１９世紀後半から）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	西洋における教育方法（１９世紀後半から）デューイ、キルパトリック、ソーンダイク、パーカースト、タイラー、ブルーム、ヴィゴツキーについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第２章（ｐ２０～２８）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	３ 日本における教育方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本における教育方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第３章（ｐ３０～３８）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	４ 学習の理論と授業のデザイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習の理論と授業のデザインを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第４章（ｐ４０～４８）と第５章（ｐ５０～５９）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	5 学びあい
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学びあいを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第６章（ｐ６２～７１）を読んでおくこと。 興味のある教育方法・技術についてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	６ 教育の道具・素材・環境、教育機器とＩＣＴ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育の道具・素材・環境、教育機器とＩＣＴを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第７章（ｐ７４～８３）と第８章（８６～９４）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	７ 評価とアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学

		び)
第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	評価とアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第９章（ｐ９６～１０６）と１２章（ｐ１３０～１３９）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分

学生へのフィードバック方法

授業の最初と最後には質問の時間を設定するとともに、授業以外では研究室に質問に来ること。提出されたノートは、確認後返却する。

評価方法

中間レポート、学期末レポートは、70点とする。レポートのテーマは、教員採用試験に出題されるような基礎・基本とする。各自が興味・関心を抱いた教育方法・技術についてレポートを作成してもらう。授業のノートはきちんととること。記述したノートに関しては、確認し、その後返却する。
ルーブリックの観点については、授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間レポート	○	○		○
学期末レポート	○	○		○
ノート	○		○	○
積極的な参加態度			○	

評価割合

中間レポート・学期末レポート（７０％）平常点（３０％）で評価する。平常点は、授業への積極的な参加態度、ノート等

使用教科書名(ISBN番号)

齋藤義雄『教育方法・技術論ー主体的・対話的で深い学びに向けてー』大学図書出版 2018年（978-4-907166-85-4）

参考図書

『教育方法学』 佐藤学 岩波書店 1996年
他は、授業で紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【思考・判断】教育方法・技術に関する問題点を考察することができている。
【関心・意欲・態度】教育者として、教育方法・技術に関して積極的に学習に取り組む。
【技能・表現】教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー

授業の前後 授業教室または１６２８研究室

学生へのメッセージ

教員免許は、取得するだけではなく教職に就いて初めて生かされる。本講義では、まず教育方法・技術論の教員採用試験に出題されるような基礎的・基本的な内容、重要なポイントについ

て理解し、身に付けてもらう。身に付けた知識は、実際の教育活動で活用してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、中学校・小学校において教員としての実務経験を有している。学習指導の方法や技術に関して、実務経験に基づいた経験を積極的に伝えている。
アクティブ・ラーニング	○	「主体的・対話的で深い学び」（アクティブラーニング）の方法を理解し、授業で実践する。
情報リテラシー教育	○	パワーポイントを活用したプレゼンテーションを授業で取り入れ、情報リテラシーに触れるように心がける。
ICT活用	○	情報機器の活用方法を実際に確かめるとともに、ＩＣＴについての理解し、活用する。

講義コード	610030031
講義名	教育方法・技術論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期前半
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	齋藤 義雄	指定なし

ナンバリング

Y30009C11

授業概要(教育目的)

教育の目的である人間形成を図るための道が教育方法である。教育方法を歴史的な面からとらえ、現代の教育にどのようにつながっているかを解説する。また、海外の教育方法の理論や実践が、わが国の教育方法にどのように影響を与えたかという視点からとらえる。教授・学習過程に焦点にしぼれば、その原理や一般理論を踏まえながら、問題解決型の授業構成や指導の在り方の基本を解説する。さらに、学校教育で必要な指導技術の基礎的な理解を図るとともに、情報機器および教材の活用について講義を行う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 教育方法・技術の意義が理解できる。 2 教育方法・技術に関する基礎的・基本的な知識が理解できる。
思考・判断の観点 (K)	教育方法・技術に関する課題と可能性に気付き、教育実践への活用応用方法を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教育方法・技術に関心をもち、問題意識をもって積極的に学習に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	情報機器を扱う基礎的な技能を体得し、適切な目標設定と活用を図ることが出来る。教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけることができる。

学習計画

教育方法・技術論

第1回	授業テーマ	１ ガイダンス、西洋における教育方法（１９世紀前半まで）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	西洋における教育方法（１９世紀前半まで）ベーコン、コメニウス、ロック、ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルトについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第１章（ｐ１０～１８）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	2 西洋における教育方法（１９世紀後半から）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	西洋における教育方法（１９世紀後半から）デューイ、キルパトリック、ソーンダイク、パーカースト、タイラー、ブルーム、ヴィゴツキーについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第２章（ｐ２０～２８）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	３ 日本における教育方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本における教育方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第３章（ｐ３０～３８）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	４ 学習の理論と授業のデザイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習の理論と授業のデザインを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第４章（ｐ４０～４８）と第５章（ｐ５０～５９）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	5 学びあい
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学びあいを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第６章（ｐ６２～７１）を読んでおくこと。 興味のある教育方法・技術についてレポートを作成する。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	６ 教育の道具・素材・環境、教育機器とＩＣＴ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育の道具・素材・環境、教育機器とＩＣＴを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第７章（ｐ７４～８３）と第８章（８６～９４）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	７ 評価とアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学

		び)
第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	評価とアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科書の第９章（ｐ９６～１０６）と１２章（ｐ１３０～１３９）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分

学生へのフィードバック方法

授業の最初と最後には質問の時間を設定するとともに、授業以外では研究室に質問に来ること。提出されたノートは、確認後返却する。

評価方法

中間レポート、学期末レポートは、70点とする。レポートのテーマは、教員採用試験に出題されるような基礎・基本とする。各自が興味・関心を抱いた教育方法・技術についてレポートを作成してもらう。授業のノートはきちんととること。記述したノートに関しては、確認し、その後返却する。
ルーブリックの観点については、授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間レポート	○	○		○
学期末レポート	○	○		○
ノート	○		○	○
積極的な参加態度			○	

評価割合

中間レポート・学期末レポート（７０％）平常点（３０％）で評価する。平常点は、授業への積極的な参加態度、ノート等

使用教科書名(ISBN番号)

齋藤義雄『教育方法・技術論ー主体的・対話的で深い学びに向けてー』大学図書出版 2018年

参考図書

『教育方法学』 佐藤学 岩波書店 1996年
他は、授業で紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【思考・判断】教育方法・技術に関する問題点を考察することができている。
【関心・意欲・態度】教育者として、教育方法・技術に関して積極的に学習に取り組む。
【技能・表現】教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー

授業の前後 授業教室または講師控室

学生へのメッセージ

教員免許は、取得するだけではなく教職に就いて初めて生かされる。本講義では、まず教育方

法・技術論の教員採用試験に出題されるような基礎的・基本的な内容、重要なポイントについて理解し、身に付けてもらう。身に付けた知識は、実際の教育活動で活用してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、中学校・小学校において教員としての実務経験を有している。学習指導の方法や技術に関して、実務経験に基づいた経験を積極的に伝えている。
アクティブ・ラーニング	○	「主体的・対話的で深い学び」（アクティブラーニング）の方法を理解し、授業で実践する。
情報リテラシー教育	○	パワーポイントを活用したプレゼンテーションを授業で取り入れ、情報リテラシーに触れるように心がける。
ICT活用	○	情報機器の活用方法を実際に確かめるとともに、ＩＣＴについての理解し、活用する。 オンデマンドの授業なので、ＩＣＴ機器を最大限に活用する。

講義コード	610031001
講義名	生徒指導論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	角 亮典	指定なし

ナンバリング

Y30010M11

授業概要(教育目的)

本授業では、生徒指導の意義及び原理と子どもの権利を把握するとともに、現代社会における子どもたちの実態や学校教育に存在する生徒指導上の諸課題を理解し、個別具体的な生徒指導の実践方法及び態度を身に付けることを目的とする。（＊具体的な内容については履修者の興味関心によって多少変更する可能性がある。）

履修条件

教員免許資格に必要

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	生徒指導の意義及び原理、子どもの権利条約や児童の権利、生徒指導体制、生徒指導上の課題と子どもを取り囲む現代社会の課題等についての知識を理解する。
思考・判断の観点 (K)	授業を通じて学ぶ生徒指導の知識を基盤として、児童生徒への生徒指導の実践の仕方等について、履修者自身の視点から思考する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業を通じて学ぶ生徒指導について、履修者の日常的な生活や日々の興味・関心に引き付けながら、自分自身の考えを深めつつ探究する意欲を持つ。
技術・表現の観点 (A)	児童生徒に寄り添い、社会的な資質・行動力を引き出す実践的な態度と、教職実践に留まらず子どもを育む社会に対して主体的な意識を持つことを身に付ける。

学習計画		
第1回	授業テーマ	ガイダンス・生徒指導概論（意義・原理)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生徒指導の定義及び目的とともに、生徒指導の重層的支援構造など、生徒指導に関する基礎的な事項を理解する。また生徒指導にあたっても子どもの権利を保障し侵害することのないように、子どもの権利条約についても理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で随時出される課題への対応・授業に関連する話題についての自主的な調査
	教室外学習の時間（分）	90分程度
第2回	授業テーマ	生徒指導概論（役割・体制）・生徒指導上の課題（校則・体罰・懲罰）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生徒指導での個々の教職員の役割及び立ち位置を理解するとともに、学校内における生徒指導体制の構築のあり方、並びに家庭・地域・関係機関との連携に関して理解を深める。また子どもの権利条約に基づいて、ブラック校則や体罰などの行き過ぎた指導について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で随時出される課題への対応・授業に関連する話題についての自主的な調査
	教室外学習の時間（分）	90分程度
第3回	授業テーマ	生徒指導上の課題（不登校）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	不登校の今日的実態について理解を深め、どのような生徒指導や関わりを持つことができるのか考える。特に学校に復帰することだけを目的としないような指導はどのようなものか考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で随時出される課題への対応・授業に関連する話題についての自主的な調査
	教室外学習の時間（分）	90分程度
第4回	授業テーマ	生徒指導上の課題（いじめ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	いじめの今日的実態について理解を深め、どのような生徒指導や関わりを持つことができるのか考える。教師として対応する際にどのような点に留意する必要があるのか考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で随時出される課題への対応・授業に関連する話題についての自主的な調査
	教室外学習の時間（分）	90分程度
	授業テーマ	生徒指導上の課題（多様な背景やアイデンティティを持つ子どもたち）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	多様な背景やアイデンティティを持つ子どもたちの今日的実態について理解を深め、どのような生徒指導や関わりを持つことができるのか考える。特に外国にルーツを持つ子どもや、いわゆるLGBTQといわれ

第5回	を含む)	るアイデンティティを持つ子どもについて考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で随時出される課題への対応・授業に関連する話題についての自主的な調査
	教室外学習の時間（分）	90分程度
第6回	授業テーマ	生徒指導上の課題（少年非行・被虐待）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	少年非行・被虐待の今日的実態について理解を深め、どのような生徒指導や関わりを持つことができるのか考える。地域や家庭とどのように連携するのか、教師としてどのような対応ができるのか考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で随時出される課題への対応・授業に関連する話題についての自主的な調査
	教室外学習の時間（分）	90分程度
第7回	授業テーマ	生徒指導上の課題（メンタルヘルス・自殺）・授業のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2~6回のテーマを通して子どもたちと向き合った際には、メンタルヘルスの不調や希死念慮、自傷行為の相談がなされることがある。スクールカウンセラーや外部と連携しつつ、教師としてどのように関わることができるのか考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で随時出される課題への対応・授業に関連する話題についての自主的な調査
	教室外学習の時間（分）	90分程度
第8回	授業テーマ	試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	講師が、授業で扱った内容に関する問いを設定する。それに対して正答を回答する、もしくは授業内容を踏まえた上で、自分なりの考えを記述する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	1回から7回までの授業の振り返り
	教室外学習の時間（分）	90分程度

学習計画注記

生徒指導に関する知識を深く理解し、児童生徒に対する具体的な生徒指導の実践のあり方を思考することができるように、個人ワークやディスカッションなどを取り入れながら講義を行う。

学生へのフィードバック方法

授業内で随時出される課題については、以降の授業内において適宜取り上げ解説を行う。

評価方法

・平常点
・授業内で随時出される課題
・教場試験（基礎的な知識問題と授業内容を踏まえた上で自分なりの意見を記述するもの）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
授業内で随時出される課題	○	○	○	○
試験	○	○	○	○

評価割合

平常点（10%）
授業内で随時出される課題（40%）
試験（50%）

参考図書

文部科学省『生徒指導提要（改訂版）』、文部科学省『学習指導要領（中学校・高等学校）』。生徒指導提要・学習指導要領ともにWEB版が存在。その他、授業内で使用するテキスト・参考文献に関しては、適宜授業内で指示・配布する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解の観点】生徒指導の意義及び原理、子どもの権利や生徒指導体制、生徒指導上の課題等についての知識を学ぶことを通じて、人間社会の多様性を豊かな知識と思考をもって理解することができる。
【思考・判断の観点】授業を通じて学ぶ生徒指導の知識を基盤として、児童生徒への生徒指導の実践の仕方等について、履修者自身の視点から思考することを通じて、人間社会の多様性のあり方に関して考えることができる。
【関心・意欲・態度の観点】授業を通じて学ぶ生徒指導について、履修者の日常的な生活や日々の興味・関心に引き付けながら、主体的に探究する意欲を持つことを通じて、社会の構成員として高い徳性を有しつつ具体的な実践をすることができる。
【技術・表現の観点】講義を通じて得た生徒指導に関する専門的技能をもって、現代社会における教育等に関する課題を発見し、それらを論理的に分析することで、他者との共感をつくりだすことができる。

学生へのメッセージ

本授業は、生徒指導の原理を理論的な観点を抑えつつ、現代社会において子どもたちにどのような困難や課題が生じているのかを理解し、子どもの権利条約に基づいて、子ども（児童生徒）の最善の利益が保障されるような生徒指導や関わりを考えていく。生徒指導においては、児童生徒に対してはもちろん教員や関係機関と対話する姿勢が重要であるため、授業においても積極的な対話がなされるようにしたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	研究・調査過程において捉えた生徒指導のあり方を適宜参照 生徒指導に関する実務経験者による具体的な知見や実践を適宜紹介 若者支援現場での経験による具体的な経験や知見を適宜紹介
アクティブ・ラーニング	○	講義・個人ワーク等を通じた学生による能動的な思考 ディスカッションを通じた学生による主体的な対話
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	610031031
講義名	生徒指導論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	資格科目
実務経験の有無	
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	角 亮典	指定なし

ナンバリング

Y30010C11

授業概要(教育目的)

本授業では、生徒指導の意義及び原理と子どもの権利を把握するとともに、現代社会における子どもたちの実態や学校教育に存在する生徒指導上の諸課題を理解し、個別具体的な生徒指導の実践方法及び態度を身に付けることを目的とする。（＊具体的な内容については履修者の興味関心によって多少変更する可能性がある。）

履修条件

教員免許資格に必要

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	生徒指導の意義及び原理、子どもの権利条約や児童の権利、生徒指導体制、生徒指導上の課題と子どもを取り囲む現代社会の課題等についての知識を理解する。
思考・判断の観点 (K)	授業を通じて学ぶ生徒指導の知識を基盤として、児童生徒への生徒指導の実践の仕方等について、履修者自身の視点から思考する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業を通じて学ぶ生徒指導について、履修者の日常的な生活や日々の興味・関心に引き付けながら、自分自身の考えを深めつつ探究する意欲を持つ。
技術・表現の観点 (A)	児童生徒に寄り添い、社会的な資質・行動力を引き出す実践的な態度と、教職実践に留まらず子どもを育む社会に対して主体的な意識を持つことを身に付ける。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス・生徒指導概論（意義・原理)

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	生徒指導の定義及び目的とともに、生徒指導の重層的支援構造など、生徒指導に関する基礎的な事項を理解する。また生徒指導にあたっても子どもの権利を保障し侵害することのないように、子どもの権利条約についても理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で随時出される課題への対応・授業に関連する話題についての自主的な調査
	教室外学習の時間（分）	90分程度
第2回	**授業テーマ**	生徒指導概論（役割・体制）・生徒指導上の課題（校則・体罰・懲罰）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生徒指導での個々の教職員の役割及び立ち位置を理解するとともに、学校内における生徒指導体制の構築のあり方、並びに家庭・地域・関係機関との連携に関して理解を深める。また子どもの権利条約に基づいて、ブラック校則や体罰などの行き過ぎた指導について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で随時出される課題への対応・授業に関連する話題についての自主的な調査
	教室外学習の時間（分）	90分程度
第3回	**授業テーマ**	生徒指導上の課題（不登校）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	不登校の今日的実態について理解を深め、どのような生徒指導や関わりを持つことができるのか考える。特に学校に復帰することだけを目的としないような指導はどのようなものか考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で随時出される課題への対応・授業に関連する話題についての自主的な調査
	教室外学習の時間（分）	90分程度
第4回	**授業テーマ**	生徒指導上の課題（いじめ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	いじめの今日的実態について理解を深め、どのような生徒指導や関わりを持つことができるのか考える。教師として対応する際にどのような点に留意する必要があるのか考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で随時出される課題への対応・授業に関連する話題についての自主的な調査
	教室外学習の時間（分）	90分程度
第5回	**授業テーマ**	生徒指導上の課題（多様な背景やアイデンティティを持つ子どもたち）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	多様な背景やアイデンティティを持つ子どもたちの今日的実態について理解を深め、どのような生徒指導や関わりを持つことができるのか考える。特に外国にルーツを持つ子どもや、いわゆるLGBTQといわれるアイデンティティを持つ子どもについて考察する。
	教室外学習(予習・復	授業内で随時出される課題への対応・授業に関連する話題についての

	習)の内容	自主的な調査
	教室外学習の時間（分）	90分程度
第6回	授業テーマ	生徒指導上の課題（少年非行・被虐待）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	少年非行・被虐待の今日的実態について理解を深め、どのような生徒指導や関わりを持つことができるのか考える。地域や家庭とどのように連携するのか、教師としてどのような対応ができるのか考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で随時出される課題への対応・授業に関連する話題についての自主的な調査
	教室外学習の時間（分）	90分程度
第7回	授業テーマ	生徒指導上の課題（メンタルヘルス・自殺）・授業のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	2~6回のテーマを通して子どもたちと向き合った際には、メンタルヘルスの不調や希死念慮、自傷行為の相談がなされることがある。スクールカウンセラーや外部と連携しつつ、教師としてどのように関わることができるのか考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内で随時出される課題への対応・授業に関連する話題についての自主的な調査
	教室外学習の時間（分）	90分程度
第8回	授業テーマ	試験
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	講師が、授業で扱った内容に関する問いを設定する。それに対して正答を回答する、もしくは授業内容を踏まえた上で、自分なりの考えを記述する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	1回から7回までの授業の振り返り
	教室外学習の時間（分）	90分程度

学習計画注記

生徒指導に関する知識を深く理解し、児童生徒に対する具体的な生徒指導の実践のあり方を思考することができるように、個人ワークやディスカッションなどを取り入れながら講義を行う。

学生へのフィードバック方法

授業内で出された課題については、以降の授業内において適宜取り上げ解説を行う。

評価方法

・平常点
・授業内で随時出される課題
・教場試験（基礎的な知識問題と授業内容を踏まえた上で自分なりの意見を記述するもの）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技術・表現

	(K)	(K)	(V)	(A)
平常点			○	
授業内で随時出される課題	○	○	○	○
試験	○	○	○	○

評価割合

平常点（10%）
授業内で随時出される課題（40%）
試験（50%）

参考図書

文部科学省『生徒指導提要（改訂版）』、文部科学省『学習指導要領（中学校・高等学校）』。生徒指導提要・学習指導要領ともにWEB版が存在。その他、授業内で使用するテキスト・参考文献に関しては、適宜授業内で指示・配布する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解の観点】生徒指導の意義及び原理、子どもの権利や生徒指導体制、生徒指導上の課題等についての知識を学ぶことを通じて、人間社会の多様性を豊かな知識と思考をもって理解することができる。
【思考・判断の観点】授業を通じて学ぶ生徒指導の知識を基盤として、児童生徒への生徒指導の実践の仕方等について、履修者自身の視点から思考することを通じて、人間社会の多様性のあり方に関して考えることができる。
【関心・意欲・態度の観点】授業を通じて学ぶ生徒指導について、履修者の日常的な生活や日々の興味・関心に引き付けながら、主体的に探究する意欲を持つこと、加えてそれらを対話を通じて他者と共有することで、社会の構成員として高い徳性を有しつつ具体的な実践をすることができる。
【技術・表現の観点】講義を通じて得た生徒指導に関する専門的技能をもって、現代社会における教育等に関する課題を発見し、それらを論理的に分析することで、他者との共感をつくりだすことができる。

学生へのメッセージ

本授業は、生徒指導の原理を理論的な観点を抑えつつ、現代社会において子どもたちにどのような困難や課題が生じているのかを理解し、子どもの権利条約に基づいて、子ども（児童生徒）の最善の利益が保障されるような生徒指導や関わりを考えていく。生徒指導においては、児童生徒に対してはもちろん教員や関係機関と対話する姿勢が重要であるため、授業においても積極的な対話がなされるようにしたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	研究・調査過程において捉えた生徒指導のあり方を適宜参照 生徒指導に関する実務経験者による具体的な知見や実践を適宜紹介 若者支援現場での経験による具体的な経験や知見を適宜紹介
アクティブ・ラーニング	○	講義・個人ワーク等を通じた学生による能動的な思考 ディスカッションを通じた学生による主体的な対話
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	610032001
講義名	教育相談論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	2年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	北見 由奈	指定なし

ナンバリング

Y20011C21

授業概要(教育目的)

学校における教育相談とは、子ども一人ひとりの教育上・発達上の諸問題について問題解決を目指して、子どもや保護者と教師をはじめとする学校関係者が共に考える方法のひとつである。その結果、子どもの発達が促されたり、子どもが充実した学校生活を送れたりする可能性がひろげられる。本授業は、問題が生じた後の相談だけでなく、問題を生じさせず、快適に学校生活を送るための手段としての教育相談という観点も併せて、具体的に受講者とともに考えていく。

履修条件

本授業は、教職を志す学生は必修となる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．教育相談とは何かを理解する。 ２．教育現場において生じる問題にはどのようなものがあるのかを知る。 ３．教育現場において生じる問題が教育相談によってどのように解決できるのかを理解する。
思考・判断の観点 (K)	１．教育相談の知識を、教育現場において生かそうとすることができる。 ２．教育現場における問題を教育相談の知識を用いて解決しようとすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学校での日常生活にある事象から、教育相談にまつわるテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点 (A)	学校教育現場における問題、自身や身近な人の行動、及び社会現象に関して、教育相談で得た知識に基づいて説明するなど、教育相談と教育現場のつながりを発信することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	イントロダクション、教育相談とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンスとして、授業の進め方やスケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。その上で、教育相談論で扱う内容を概観し、これから学ぶ学問領域は何かを知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育相談を学ぶ上で自分が興味のある内容を考え、自分なりの目標を定める。
	教室外学習の時間(分)	190分
第2回	**授業テーマ**	幼児期・児童期・青年期における発達への理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各年齢段階における発達的特徴を把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第3回	**授業テーマ**	児童期に抱える悩みとその理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童期に特有の悩みや心身の発達課題について、学校現場での関わりを踏まえながら把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第4回	**授業テーマ**	青年期に抱える悩みとその理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	青年期の親子関係や友人関係の特徴を把握し、その上で青年期に生じやすい精神疾患や心理的葛藤の理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第5回	**授業テーマ**	教育相談に関する基礎理論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもたちの心理を理解をより深く理解し、関わる上での手掛かりとなる代表的な心理療法の理論（精神分析、認知行動療法等）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
	授業テーマ	教育相談に関するカウンセリング技法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	教育相談の基本的な姿勢として、ロジャースの人間性心理学を把握する。また具体的なカウンセリング技法についても学ぶ。

第6回	**む)**	
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第7回	**授業テーマ**	教育相談に関するアセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもたちの心理的状態を適切に把握し、支援に繋げるための情報収集（アセスメント）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第8回	**授業テーマ**	個別対応・校内連携・専門職連携
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別対応、校内での連携、および専門職との連携方法把握し、包括的な支援システムについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第9回	**授業テーマ**	不登校の理解と対応
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	不登校傾向の子どもについて、学校ではどのように連携して問題に対応するのか、基準となる方法を把握した上で事例を通して自分なりの方法を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の場合はどのように不登校の問題に対応するのかを具体的に考える。
	教室外学習の時間(分)	190分
第10回	**授業テーマ**	いじめの理解と対応
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校ではどのように連携していじめの問題に対応するのか、基準となる方法を把握したうえで事例を通して自分なりの方法を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の場合はどのようにいじめの問題に対応するのかを具体的に考える。
	教室外学習の時間(分)	190分
第11回	**授業テーマ**	非行・逸脱行動の理解と対応
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	非行逸脱傾向の子どもたちについて学校ではどのように連携して問題に対応するのか、基準となる方法を把握したうえで、自分なりの方法を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の場合にはどのように非行・逸脱行動に対応するのかを具体的に考える。
	教室外学習の時間(分)	190分
	授業テーマ	発達障害の理解と対応（１）

第12回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	発達障害の概要を理解し、発達障害のある子どもには世界はどう見えているのかを知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の場合はどのように発達障害のある子どもに対応するのかを具体的に考える。
	教室外学習の時間(分)	190分
第13回	**授業テーマ**	発達障害の理解と対応（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発達障害のある子どもに対する基準となる方法や合理的配慮について把握し、発達障害のある子どもへの対応について自分なりの方法を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の場合はどのように発達障害のある子どもに対応するのかを具体的に考える。
	教室外学習の時間(分)	190分
第14回	**授業テーマ**	予防・開発的取り組み、グループマネージメントおよび学期末課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業前半の50分では、集団を対象とした教育相談について、予防・開発的な取り組みや、グループマネージメントをどう対応するのか、具体的な方法を知り、自分なりの方法を考える。 授業後半の50分では、最終レポートを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の場合にはどのように集団の場面に対応するのかを具体的に考える。
	教室外学習の時間(分)	190分

学習計画注記

講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。
その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。

学生へのフィードバック方法

・「自己チェック」については実施直後に確認を行う。
・「ふりかえり」について、授業終了後に教員が確認し、原則として次の回で全体に口頭あるいは書面でフィードバックを行う。

評価方法

授業への姿勢と学期末レポートをもとに総合的に判断する。

1）授業への姿勢（50%）
「自己チェック」＋「ふりかえり」の取り組みから総合的に判断する。
・自己チェック(25%) 前回の内容に関する小テスト。出席確認も兼ねるため、
正答率ではなく、時間内に提出されているかを評価する。
・ふりかえり(25%) 授業後に提出するリアクションペーパー（授業の感想や質問等の記入）。

2）学期末レポート（50%）
詳細は後日伝える。google classroomに提出。

なお、この科目ではルーブリックに基づく成績評価を行う。ルーブリックについては、google classroomまたは授業内で提示する。

評価基準

評価基準

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技術・表現

評価方法	(K)	(K)	(V)	(A)
自己チェック	○		○	
ふりかえり		○	○	○
学期末レポート		○	○	○

評価割合

授業への姿勢（50%）、学期末レポート（50%）

使用教科書名(ISBN番号)

授業資料としてデジタルファイルを配布する。
なお、原則として資料配布はgoogle classroomを通して行う。

参考図書

適宜、授業の中で紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「教育」「学校」という観点から人間を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学的な知識を得る。
【思考・判断】心理相談的な思考をもって「教育」を理解し、その現代社会においてあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々、特に学校現場のために働く能力を、教育の相談に関する知識に基づく関心によって得る。
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会、学校の中に課題を発見し、教育相談的な思考や教育相談の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。

オフィスアワー

前期：月曜日３限目（13：20～15：00） 町田キャンパス1608室

学生へのメッセージ

・自己チェックやふりかえりは、いずれもgoogle classroom上で実施する。授業時には、ノートPCやタブレット端末、スマートフォン等が使用できるよう、準備しておくこと。
・講義・質疑応答・討論を中心に展開していく予定。生きた流れを優先するため、展開によっては内容を変更することがある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	後半の事例の検討では、ディスカッションを交えて進める。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	学期末レポート、配布資料のアーカイブなどでgoogle classroomを活用する。

講義コード	610032031
講義名	教育相談論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	2年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	北見 由奈	指定なし

ナンバリング

Y20011C21

授業概要(教育目的)

学校における教育相談とは、子ども一人ひとりの教育上・発達上の諸問題について問題解決を目指して、子どもや保護者と教師をはじめとする学校関係者が共に考える方法のひとつである。その結果、子どもの発達が促されたり、子どもが充実した学校生活を送れたりする可能性がひろげられる。本授業は、問題が生じた後の相談だけでなく、問題を生じさせず、快適に学校生活を送るための手段としての教育相談という観点も併せて、具体的に受講者とともに考えていく。

履修条件

本授業は、教職を志す学生は必須となる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．教育相談とは何かを理解する。 ２．教育現場において生じる問題にはどのようなものがあるのかを知る。 ３．教育現場において生じる問題が教育相談によってどのように解決できるのかを理解する。
思考・判断の観点 (K)	１．教育相談の知識を、教育現場において生かそうとすることができる。 ２．教育現場における問題を教育相談の知識を用いて解決しようとすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学校での日常生活にある事象から、教育相談にまつわるテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点 (A)	学校教育現場における問題、自身や身近な人の行動、及び社会現象に関して、教育相談で得た知識に基づいて説明するなど、教育相談と教育現場のつながりを発信することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	イントロダクション、教育相談とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンスとして、授業の進め方やスケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。その上で、教育相談論で扱う内容を概観し、これから学ぶ学問領域は何かを知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育相談を学ぶ上で自分が興味のある内容を考え、自分なりの目標を定める。
	教室外学習の時間(分)	190分
第2回	**授業テーマ**	幼児期・児童期・青年期における発達への理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各年齢段階における発達的特徴を把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第3回	**授業テーマ**	児童期に抱える悩みとその理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童期に特有の悩みや心身の発達課題について、学校現場での関わりを踏まえながら把握する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第4回	**授業テーマ**	青年期に抱える悩みとその理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	青年期の親子関係や友人関係の特徴を把握し、その上で青年期に生じやすい精神疾患や心理的葛藤の理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第5回	**授業テーマ**	教育相談に関する基礎理論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもたちの心理を理解をより深く理解し、関わる上での手掛かりとなる代表的な心理療法の理論（精神分析、認知行動療法等）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
	授業テーマ	教育相談に関するカウンセリング技法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	教育相談の基本的な姿勢として、ロジャースの人間性心理学を把握する。また具体的なカウンセリング技法についても学ぶ。

第6回	**む)**	
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第7回	**授業テーマ**	教育相談に関するアセスメント
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもたちの心理的状態を適切に把握し、支援に繋げるための情報収集（アセスメント）について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第8回	**授業テーマ**	個別対応・校内連携・専門職連携
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個別対応、校内での連携、および専門職との連携方法把握し、包括的な支援システムについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。
	教室外学習の時間(分)	190分
第9回	**授業テーマ**	不登校の理解と対応
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	不登校傾向の子どもについて、学校ではどのように連携して問題に対応するのか、基準となる方法を把握した上で事例を通して自分なりの方法を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の場合はどのように不登校の問題に対応するのかを具体的に考える。
	教室外学習の時間(分)	190分
第10回	**授業テーマ**	いじめの理解と対応
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校ではどのように連携していじめの問題に対応するのか、基準となる方法を把握したうえで事例を通して自分なりの方法を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の場合はどのようにいじめの問題に対応するのかを具体的に考える。
	教室外学習の時間(分)	190分
第11回	**授業テーマ**	非行・逸脱行動の理解と対応
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	非行逸脱傾向の子どもたちについて学校ではどのように連携して問題に対応するのか、基準となる方法を把握したうえで、自分なりの方法を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の場合にはどのように非行・逸脱行動に対応するのかを具体的に考える。
	教室外学習の時間(分)	190分
	授業テーマ	発達障害の理解と対応（１）

第12回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	発達障害の概要を理解し、発達障害のある子どもには世界はどう見えているのかを知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の場合はどのように発達障害のある子どもに対応するのかを具体的に考える。
	教室外学習の時間(分)	190分
第13回	**授業テーマ**	発達障害の理解と対応（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発達障害のある子どもに対する基準となる方法や合理的配慮について把握し、発達障害のある子どもへの対応について自分なりの方法を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の場合はどのように発達障害のある子どもに対応するのかを具体的に考える。
	教室外学習の時間(分)	190分
第14回	**授業テーマ**	予防・開発的取り組み、グループマネージメントおよび学期末課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業前半の50分では、集団を対象とした教育相談について、予防・開発的な取り組みや、グループマネージメントをどう対応するのか、具体的な方法を知り、自分なりの方法を考える。 授業後半の50分では、最終レポートを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の場合にはどのように集団の場面に対応するのかを具体的に考える。
	教室外学習の時間(分)	190分

学習計画注記

講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。
その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。

学生へのフィードバック方法

・「自己チェック」については実施直後に確認を行う。
・「ふりかえり」について、授業終了後に教員が確認し、原則として次の回で全体に口頭あるいは書面でフィードバックを行う。

評価方法

授業への姿勢と学期末レポートをもとに総合的に判断する。

1）授業への姿勢（50%）
「自己チェック」＋「ふりかえり」の取り組みから総合的に判断する。
・自己チェック(25%) 前回の内容に関する小テスト。出席確認も兼ねるため、
正答率ではなく、時間内に提出されているかを評価する。
・ふりかえり(25%) 授業後に提出するリアクションペーパー（授業の感想や質問等の記入）。

2）最終レポート（50%）
詳細は後日伝える。google classroomに提出。

なお、この科目ではルーブリックに基づく成績評価を行う。ルーブリックについては、google classroomまたは授業内で提示する。

評価基準

評価基準

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技術・表現

評価方法	(K)	(K)	(V)	(A)
自己チェック	○		○	
ふりかえり		○	○	○
学期末レポート		○	○	○

評価割合

授業への姿勢（50%）、学期末レポート（50%）

使用教科書名(ISBN番号)

授業資料としてデジタルファイルを配布する。
なお、原則として資料配布はgoogle classroomを通して行う。

参考図書

適宜、授業の中で紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「教育」「学校」という観点から人間を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学的な知識を得る。
【思考・判断】心理相談的な思考をもって「教育」を理解し、その現代社会においてあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。
【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々、特に学校現場のために働く能力を、教育の相談に関する知識に基づく関心によって得る。
【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会、学校の中に課題を発見し、教育相談的な思考や教育相談の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。

オフィスアワー

前期：金曜日３限（13：20～15：00） 千代田三番町キャンパス1805室

学生へのメッセージ

・自己チェックやふりかえりは、いずれもgoogle classroom上で実施する。授業時には、ノートPCやタブレット端末、スマートフォン等が使用できるよう、準備しておくこと。
・講義・質疑応答・討論を中心に展開していく予定。生きた流れを優先するため、展開によっては内容を変更することがある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	後半の事例の検討では、ディスカッションを交えて進める。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	学期末レポート、配布資料のアーカイブなどでgoogle classroomを活用する。

講義コード	610035001
講義名	教育実習指導（中等）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	4年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	河田 敦子	指定なし

ナンバリング

Y40103M11

授業概要(教育目的)

本授業は、教育実習そのものである。教科担当の先生や、担任の先生との事前の連絡をしっかり取れるようになり、担当授業の教材研究・学習指導案作成・実践、生徒との関わり方、担任業務ができるようになることを目的とする。

履修条件

教育実習派遣規準を満たしていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	教育実習校で授業を行える家庭科に関する専門的知識・理解、担任としての生徒指導に関する知識・理解を有している。
思考・判断の観点 (K)	教育実習時に教師として思考・判断する力がある。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教員になるために必要な教職への意欲・関心が態度として示されている。学校現場の先生方と積極的にコミュニケーションを取れる。
技術・表現の観点 (A)	生徒に教える技術・表現力を有している。

学習計画

	授業テーマ	教育実習事前指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	教育実習先と連絡を取り、オリエンテーションの日時を確認する。教育実習の心構え、教育実習ノートの書き方等を学ぶ。

第1回	用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育実習先へは、きちんと連絡を取り、使用教科書、実習中に担当させて頂ける授業の単元、実習日程等をしっかり事前に把握しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	60分
第2回	授業テーマ	実習校で実施する授業の事前練習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習校で担当することを指示された授業範囲について模擬授業で事前練習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	本授業時間だけでは、担当させて頂ける授業の模擬授業を出来ない場合は、指導教員と相談し、授業時間外に模擬授業を最低1回はすること。実習先でさせて頂ける授業については綿密にしっかり授業計画を練っておくこと。生徒の前に立ったら、実習生とはいえ、プロ意識を持って授業ができるだけの準備をすること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	授業テーマ	事前模擬授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習先で担当させて頂ける授業の模擬授業を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究公開授業に指定された単元については、2回以上の模擬授業を事前に行った上で、実習先の担当の先生のご指導を受けるようにすること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	授業テーマ	教育実習事前模擬授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習先で担当させて頂ける授業の模擬授業を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習教材研究を充分行い、模擬授業を実施すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	授業テーマ	教育実習事前模擬授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学級会･ホームルームや学校行事などの特別活動を模擬的に実施する。
	教室外学習(予習・復	実習で担当する学級の生徒の状況と担任の指導方針、実習期間中の学校

	習)の内容	行事の計画を聞き、指導計画を考える。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	**授業テーマ**	教育実習事後指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習修了後の反省と御礼状の書き方。教育実習ノートの提出と受け取りについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育実習校への御礼状は、教育実習修了後1週間以内にお送りすること。教育実習ノートは、実習修了日に担当の先生に伺った上で校長先生に提出すること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	**授業テーマ**	教育実習報告会の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習で学んだこと、事前の準備で不足していたことへの反省、後輩たちに伝えたいこと等を報告会ためのPPTを作成し、発表のリハーサルを行う（アクティブ・ラーニング）。
	教室外学習(予習・復習)の内容	報告会の発表内容の作成。PPT資料や報告書のための資料作成。プレゼンの練習。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	教育実習報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習で学んだこと、事前の準備で不足していたことへの反省、後輩たちに伝えたいこと等を報告会で発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	報告会の発表内容の作成。PPT資料や報告書のための資料作成。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

特になし

学生へのフィードバック方法

模擬授業の指導、質問には随時対応します。

評価方法

教育実習への取り組み姿勢（50%）
模擬授業（50%）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
教育実習への取り組み姿勢		○	○	○
模擬授業	○	○	○	○

評価割合

実習校の評価を重視する。

使用教科書名(ISBN番号)

特になし。

参考図書

授業中適宜、紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】・「家庭科教育」の各分野 について、専門的知識・技術を有している。
・グローバルな視点から、各分野 の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる
【思考・判断】・社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動することができる。
【関心・意欲・態度】・社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。
【技能・表現】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

オフィスアワー

担当教員が随時対応できる態勢を整えている。

学生へのメッセージ

教育実習は、学生を、飛躍的に成長させる。しかし、その過程は、大変な努力を要求される。その自覚を深くもってもらいたい。教育実習は、毎日、生きた責任ある教育現場である。教師は、これまでになく多忙を極める生活であり、生徒との対応、学校運営、地域の人びとや保護者との関係づくりに、精一杯の努力を傾けている。この実習において欠席は、基本的に許されない、という覚悟をもってほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業や報告会のためのプレゼンの練習。
情報リテラシー教育	○	教材研究における情報活用
ICT活用	○	学校現場でICTを活用した授業ができるようにする。

講義コード	610035031
講義名	教育実習指導
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期前半
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	4年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	北見 由奈	指定なし

ナンバリング

Y40103C11

授業概要(教育目的)

教育実習についての事前・事後指導を行う。授業実習については教科教育法等で主要事項を扱うので、本授業ではより全般的・包括的な事項を扱う。また、実習実施にあたっての諸連絡もこの時間に行うので、毎時間必ず出席すること。教員免許資格に必要。教育実習参加（派遣）基準に合致していること。

履修条件

3年生前期までの教職科目がすべて履修済みであること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	教材研究と子ども理解を中心に、教育実習の基本事項を理解すること
思考・判断の観点 (K)	教育実習で必要な技術、および心構えについて思考すること
関心・意欲・態度の観点 (V)	大学での学修内容を教育実習で活かしていくために、積極的に情報を収集すること
技術・表現の観点 (A)	教育実習で必要な理解と学修内容について、相手に合わせた適切な発信ができること

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	教育実習とは何か

第1回	**育・ICT活用を含む)**	
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを書く。
	教室外学習の時間(分)	200
第2回	**授業テーマ**	教育実習とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習のビデオ鑑賞、実習記録の書き方・要点指導。ならびに教育実習の評価基準とは何か、子ども理解と教材分析。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習ノートを書く。
	教室外学習の時間(分)	200
第3回	**授業テーマ**	教育実習のまとめ方について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習後に開催される教育実習報告会に向けて、報告書のまとめ方を学ぶ。また、教育実習先の学校、地域についての理解を深め、まとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として、学校の概要、案内、指導案など、集められる資料を集めておく（90分）。復習として、教育実習先の学校、学校が位置する地域に関する情報を集め、まとめる（90分）。
	教室外学習の時間(分)	200
第4回	**授業テーマ**	教育実習での生徒理解に向けての準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習中に重要となる生徒理解のレディネスを高める。そのため、教育実習で必要なこと、目指したい教師像、楽しみにしていることなどをグループワーク形式で検討し、自分の強みを知り、弱みを解決する方法を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習として、既にまとめてある教育実習先の学校、学校が位置する地域に関する情報をあらためて見直し、加えて自分の強み、弱みへの理解を深めておく（90分）。復習として、自分の強みを生かし、自分の弱みを解決する方法を考える。
	教室外学習の時間	200

	（分）	
第5回	**授業テーマ**	教育実習報告１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科教育法Aの授業履修中の学生（主に学部2年生）を対象として教育実習の報告を行う。家庭科教育法A・B・C・Dで行った家庭科教育の教材研究が教育実習中に活用できたかを中心に報告する。教育実習中の研究授業・学習指導案を提示しながら、生徒の授業中の様子・反応をまとめ、評価する。地域や学校の状況にあった、より生徒の生活にあった授業とするには、家庭科教材研究としてどのような準備をして深めておけばよかったかを、発表する。授業中に用いたプリントや活用した資料もあわせて提示する。地域や学校・生徒の生活にあった授業のための教材研究について後輩に発表し、意見交換を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育実習報告会資料の作成。家庭科教育法のアースノートに、教育実習研究授業の内容・授業の目標が達成できたかなど記載する。
	教室外学習の時間（分）	200
第6回	**授業テーマ**	教育実習報告２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科教育法Cの授業履修中の学生（主に学部3年生）を対象教育実習の報告を行う。教育実習校の特色・生徒・家庭科の教員・実習室の様子、家庭科年間計画などを説明し、家庭科教育法A・B・C・Dで行った家庭科教育の教材研究が教育実習中に活用できたか、実習先を選ぶときにどのような点を留意すべきか、実習校の家庭科教員との連絡の取り方、など教育実習準備をしておくべきかを発表する。また、研究授業・学習指導案を提示しながら、題材設定の理由の記載方法や評価する。学校の状況にあった、より生徒の生活あった授業とするにはどのような準備をすればよかったかをまとめて後輩に提示する。授業中に用いたプリントや活用した資料もあわせて提示する。地域や学校・生徒の生活にあった授業のための教材研究について後輩に発表し、意見交換を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育実習報告会資料の作成。家庭科教育法のアースノートに、教育実習研究授業の内容・授業の目標が達成できたかなど記載する。反省点や後輩へのアドバイスを記載する。後輩からのレスポンスシートに返事を書く。
	教室外学習の時間（分）	200
第7回	**授業テーマ**	教育実習をふりかえる
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習全体をふりかえり、地域・学校の状況にあった、より生徒の生活あった授業とするにはどのような準備をすればよかったかをまとめて後輩からのレスポンスシートに記入し、受講生全員で教育実習をふりかえり意見交換を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育実習報告会資料の作成。家庭科教育法のアースノートに、教育実習研究授業の内容・授業の目標が達成できたかなど記載する。反省点や後輩へのアドバイスを記載する。後輩からのレスポンスシートに返事を書く。
	教室外学習の時間（分）	200

学習計画注記

※受講生の教育実習の日程や、質疑応答・討論を中心に展開する。その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。

学生へのフィードバック方法

授業で提出した課題、製作物については採点後、可能な限り返却する。返却できないものの場合は、担当教員による口頭でのコメント、画像や動画として電子ファイルで返却するなどして、フィードバックする。

評価方法

実習報告会と毎時間に課すレポートシートとの総合評価とする。なお、成績はルーブリックにもとづいて評価する。ルーブリックは授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実習報告会	○	○		
レポートシート	○		○	

評価割合

出席および毎時のレポートにより評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

毎回、プリントを用意する。

参考図書

講義に中で、適宜、紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

知識・理解、豊かな知識をえること
思考・判断力、めざすべき姿の教育を追究し、判断できること
表現など、学んだことを適確に表現できること

オフィスアワー

前期：金曜日３限（13：20～15：00）千代田三番町キャンパス1805室

学生へのメッセージ

教育実習は、学生を、飛躍的に成長させる。しかし、その過程は、大変な努力を要求される。その自覚を深くもってもらいたい。
教育実習は、毎日、生きた責任ある教育現場である。教師は、これまでになく多忙を極める生活であり、生徒との対応、学校運営、地域の人びとや保護者との関係づくりに、精一杯の努力を傾けている。したがって、この講義の欠席は、基本的に許されない、という覚悟をもってほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	610036001
講義名	教育実習Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	4年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	河田 敦子	指定なし

ナンバリング

Y40301M43

授業概要(教育目的)

中学校または高等学校において教育実習を行う。授業実習だけでなく、教員として行う全般的な業務に携わることになる。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高めていくよう指導したい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家庭科の授業内容について家庭科教員として実際に教授できる知識・理解を有している。
思考・判断の観点 (K)	学校現場で様々な人々と関わる時、相手、時と場合に応じたコミュニケーションを取れる思考力、判断力を有している。
関心・意欲・態度の観点 (V)	将来教師となることに強い関心・意欲を持って、教育実習を教員らしい態度で取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	授業や生徒指導において教員らしい表現をし、専門性のある技術を有している。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	教育実習開始
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習校での第1日目は、校長先生からのお話、自己紹介、授業見学等である。各学校で異なるので、担当教員の指示に従うこと。
	教室外学習(予習・	持ち物、担当させていただく授業の学習指導案の作成、教材研究等、事前の準備をしっかりしておくこと。教育実習ノートの記

	復習)の内容	述。反省、今後への抱負をしっかり考えておくこと。
	教室外学習の時間(分)	240分
第2回	**授業テーマ**	教育実習2日目・3日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業見学をしっかり行い、担当クラスの生徒の名前を覚えたり、生徒と触れあうこと。学校内の導線を頭に入れること。見て触れること全てが学びである。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業見学をさせて頂きながら、授業の仕方、生徒との関わり方を学ぶこと。担当させて頂く授業の学習指導案を早めに担当の先生に提出し、指導を受けること。
	教室外学習の時間(分)	120分
第3回	**授業テーマ**	教育実習4,5日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実際に授業を行う。授業は、授業内容、構成、教材研究、生徒との関わり、前回授業、次回授業との関係等、様々な要素が絡み合っている。その中でどのように授業を行うかを体得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前には模擬授業を行い、担当の先生に見て頂くこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
第4回	**授業テーマ**	教材研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業外の時間は、教材研究や学習指導案の作成を行い、生徒に分かり易い授業の仕方を工夫する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学校現場で活用されている教材をしっかり見学し、深く学んで自分の授業に活かすこと。
	教室外学習の時間(分)	120分
第5回	**授業テーマ**	学修指導案の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	準備した学習指導案を担当の先生に見て頂き、指導を受ける。学習指導案は先生や学校によって異なるが、柔軟に対応できる力が必要である。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業をする上で、学習指導案にどのような意義があるのかを考えて、しっかりと作成できるようになること。
	教室外学習の時間(分)	120分
第6回	**授業テーマ**	実際の授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実際に授業を行い、担当の先生の指導を受け、より良い授業を目指す。良い授業とはどのような授業なのかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前の授業準備、事後の反省をしっかりすること。
	教室外学習の時間(分)	180分
	授業テーマ	実際の授業

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実際に授業を行い、担当の先生の指導を受け、より良い授業を目指す。良い授業とはどのような授業なのかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前の授業準備、事後の反省をしっかりすること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	実際の授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実際に授業を行い、担当の先生の指導を受け、より良い授業を目指す。良い授業とはどのような授業なのかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前の授業準備、事後の反省をしっかりすること。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	生徒と触れ合い、指導方法を学ぶ（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	部活やホームルームでの生徒との関わり方、必要事項の伝達の仕方、生徒理解について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	体全体、心全体で生徒と関わり、コミュニケーションを取って、多くのことを学ぶこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	授業テーマ	生徒と触れ合い、指導方法を学ぶ（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	部活やホームルームでの生徒との関わり方、必要事項の伝達の仕方、生徒理解について学ぶ。わからないことは指導教員に質問して教えて頂く。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の体全体、心全体で生徒と関わり、コミュニケーションを取って、多くのことを学ぶこと。気付いたことは必ず教育実習ノートに記録しておくこｔ。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	授業テーマ	研究公開授業の準備（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究公開授業のための学習指導案の作成、教材研究を行う。研究公開授業は、教育実習の集大成である。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学修指導案を早めに担当の先生に見て頂き、指導を受ける。教材研究は十分に行う。
	教室外学習の時間（分）	240分
第12回	授業テーマ	研究公開授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習で学んだこと、今までの教職に対する自分の取り組みがしっかり表現できるように準備し、生徒としっかり向き合うことを学ぶ。
	教室外学習(予習・)	時間の許す限り、最大限の準備をして臨むこと。

	復習 の内容	
	教室外学習の時間（分）	240分
第13回	**授業テーマ**	教育実習最終日・教育実習ノートの提出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習最終日には、お世話になった先生方に感謝の気持ちを伝え、生徒達にきちん挨拶をする。社会人としての締めくくりの仕方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育実習で学んだことをきちんと教育実習ノートの反省欄に記載し、提出してくること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	**授業テーマ**	教育実習校への御礼状、大学への報告
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習修了後、教育実習でお世話になった、校長先生、クラス担任の先生、教科担当の先生にそれぞれ御礼状をお送りする。大学教職員にも報告する。社会人としての礼儀を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	御礼状の書き方は、きちんと調べて書くこと。
	教室外学習の時間（分）	240分

学生へのフィードバック方法

実習校からのコメント、指導内容が教育実習ノートに記述されている。
公開研究授業を大学教員が参観する。

評価方法

教育実習校における評価が大部分を占める（90%）。
状況判断により、大学教員が実習校の評価に加味する場合がある（10%）。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
勤務態度		○	○	
教材研究	○	○	○	○
生徒指導		○		○
教員とのコミュニケーション		○	○	
事前準備	○	○	○	

評価割合

実習校の評価（90%）
特に考慮すべき場合は、大学教員が判断する場合がある。（10%）

使用教科書名(ISBN番号)

文部科学省『中学校学習指導要領 家庭科』
文部科学省『中学校学習指導要領解説 家庭科』
文部科学省『高等学校学習指導要領 家庭科』
文部科学省『高等校学習指導要領解説 家庭科』

家庭科の教科書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】・「家庭科教育」の分野について、専門的知識・技術を有している。
【思考・判断】・社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
【関心・意欲・態度】・社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。
【技能・表現】・家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

オフィスアワー

教育実習中なので、アポイントメントにより時間調整を行うこと

学生へのメッセージ

教育実習は、人生経験の中でもとても貴重な体験です。大変な側面はありましょうが、全力投球をして、学校現場の教育を肌で感じてきて下さい。そして、教育者として必要な素養を吸収できる素地を自らの中に築いて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	まさに実務経験のある先生方に囲まれて実習する。
アクティブ・ラーニング	○	教育実習の全てがアクティブラーニングである。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	学校現場でのICT活用方法を学ぶ。

講義コード	610036031
講義名	教育実習Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	4年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	北見 由奈	指定なし

ナンバリング

Y40301C43

授業概要(教育目的)

教育実習校において実習を行う。授業実習だけでなく、教員として行う全般的な業務に携わることになる。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高めてほしい。
これは中学・高校教員免許資格に必要である。
教育実習参加（派遣）基準に合致していない場合、教育実習に派遣はできない。

履修条件

教育実習派遣基準に合格していること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	総合家政学の立場を生かし、生活課題を生徒に提示できる知識の獲得をめざす
思考・判断の観点 (K)	子どもの立場に立って、高い倫理性を堅持し、生徒が考えることができる思考に導く
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもが如何に意欲を高め、学習に向かい合うのか、その契機を探る態度の形成
技術・表現の観点 (A)	子どもが学習に向かうためのさまざまな教育的働きかけのための技術と表現（コミュニケーション）の獲得

学習計画

評価方法

教育実習校の評価と平常点の総合評価とする。なお、成績はルーブリックにもとづいて評価する。ルーブリックは授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
自習校の評価	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

実習校の評価9割と平常点1割

参考図書

教育実習事前指導で渡している資料など

ディプロマポリシーとの関連

知識・理解、教育現場で、子どもたちに分かる学習を保障するための知識の獲得
思考・判断、子どもの寄り添う資質能力を培い、子どもに考えさせる自らの思考の獲得
意欲・態度、子どもの学習を成立させるためにあらゆる努力を惜しまない態度の形成
表現と提案、子どもと会話ができるコミュニケーション能力と問題提示の能力形成

オフィスアワー

前期：金曜日３限（13：20～15：00） 千代田三番町キャンパス1805室
後期：水曜日３限（13：20～15：00） 千代田三番町キャンパス1805室

学生へのメッセージ

教育実習中は、教材研究等のために睡眠時間が減ってしまうかもしれません。しっかりと体調管理を行い、充実した実習になるように心がけてください。
児童・生徒たちは、不思議と思えるほど、実習生を快く迎えてくれます。多くの実習生は「それに力づけられて頑張れた」と言います。皆さんの頑張りと活躍を期待しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	610037001
講義名	教育実習Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	4年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	河田 敦子	指定なし

ナンバリング

Y40401M23

授業概要(教育目的)

高等学校において教育実習を行う。授業実習だけでなく、教員として行う全般的な業務に携わることになる。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高めていくよう指導したい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家庭科の授業内容について家庭科教員として実際に教授できる知識・理解を有している。
思考・判断の観点 (K)	学校現場で様々な人々と関わる時、相手、時と場合に応じたコミュニケーションを取れる思考力、判断力を有している。
関心・意欲・態度の観点 (V)	将来教師となることに強い関心・意欲を持って、教育実習を教員らしい態度で取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	授業や生徒指導において教員らしい表現をし、専門性のある技術を有している。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	教育実習開始
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習校での第1日目は、校長先生からのお話、自己紹介、授業見学等である。各学校で異なるので、担当教員の指示に従うこと。
	教室外学習(予習・	持ち物、担当させていただく授業の学習指導案の作成、教材研究等、事前の準備をしっかりしておくこと。教育実習ノートの記

	復習)の内容	述。反省、今後への抱負をしっかり考えておくこと。
	教室外学習の時間(分)	240分
第2回	**授業テーマ**	教育実習2日目・3日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業見学をしっかり行い、担当クラスの生徒の名前を覚えたり、生徒と触れあうこと。学校内の導線を頭に入れること。見て触れること全てが学びである。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業見学をさせて頂きながら、授業の仕方、生徒との関わり方を学ぶこと。担当させて頂く授業の学習指導案を早めに担当の先生に提出し、指導を受けること。
	教室外学習の時間(分)	120分
第3回	**授業テーマ**	教育実習4,5日目
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実際に授業を行う。授業は、授業内容、構成、教材研究、生徒との関わり、前回授業、次回授業との関係等、様々な要素が絡み合っている。その中でどのように授業を行うかを体得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前には模擬授業を行い、担当の先生に見て頂くこと。
	教室外学習の時間(分)	120分
第4回	**授業テーマ**	教材研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業外の時間は、教材研究や学習指導案の作成を行い、生徒に分かり易い授業の仕方を工夫する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学校現場で活用されている教材をしっかり見学し、深く学んで自分の授業に活かすこと。
	教室外学習の時間(分)	90分
第5回	**授業テーマ**	学修指導案の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	準備した学習指導案を担当の先生に見て頂き、指導を受ける。学習指導案は先生や学校によって異なるが、柔軟に対応できる力が必要である。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業をする上で、学習指導案にどのような意義があるのかを考えて、しっかりと作成できるようになること。
	教室外学習の時間(分)	90分
第6回	**授業テーマ**	実際の授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実際に授業を行い、担当の先生の指導を受け、より良い授業を目指す。良い授業とはどのような授業なのかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前の授業準備、事後の反省をしっかりすること。
	教室外学習の時間(分)	120分
	授業テーマ	実際の授業

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実際に授業を行い、担当の先生の指導を受け、より良い授業を目指す。良い授業とはどのような授業なのかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前の授業準備、事後の反省をしっかりすること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	授業テーマ	実際の授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実際に授業を行い、担当の先生の指導を受け、より良い授業を目指す。良い授業とはどのような授業なのかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前の授業準備、事後の反省をしっかりすること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	授業テーマ	生徒と触れ合い、指導方法を学ぶ（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	部活やホームルームでの生徒との関わり方、必要事項の伝達の仕方、生徒理解について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	体全体、心全体で生徒と関わり、コミュニケーションを取って、多くのことを学ぶこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	生徒と触れ合い、指導方法を学ぶ（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	部活やホームルームでの生徒との関わり方、必要事項の伝達の仕方、生徒理解について学ぶ。わからないことは指導教員に質問して教えて頂く。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の体全体、心全体で生徒と関わり、コミュニケーションを取って、多くのことを学ぶこと。気付いたことは必ず教育実習ノートに記録しておくこｔ。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	授業テーマ	研究公開授業の準備（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究公開授業のための学習指導案の作成、教材研究を行う。研究公開授業は、教育実習の集大成である。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学修指導案を早めに担当の先生に見て頂き、指導を受ける。教材研究は十分に行う。
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	授業テーマ	研究公開授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習で学んだこと、今までの教職に対する自分の取り組みがしっかり表現できるように準備し、生徒としっかり向き合うことを学ぶ。
	教室外学習(予習・)	時間の許す限り、最大限の準備をして臨むこと。

	復習 の内容	
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	**授業テーマ**	教育実習最終日・教育実習ノートの提出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習最終日には、お世話になった先生方に感謝の気持ちを伝え、生徒達にきちん挨拶をする。社会人としての締めくくりの仕方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育実習で学んだことをきちんと教育実習ノートの反省欄に記載し、提出してくること。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	**授業テーマ**	教育実習校への御礼状、大学への報告
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習修了後、教育実習でお世話になった、校長先生、クラス担任の先生、教科担当の先生にそれぞれ御礼状をお送りする。大学教職員にも報告する。社会人としての礼儀を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	御礼状の書き方は、きちんと調べて書くこと。
	教室外学習の時間（分）	120分

学生へのフィードバック方法

実習校からのコメント、指導内容が教育実習ノートに記述されている。
公開研究授業を大学教員が参観する。大学教員も教育実習ノートにコメントをする。

評価方法

教育実習校における評価が大部分を占める（90%）。
状況判断により、大学教員が実習校の評価に加味する場合がある（10%）。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
勤務態度		○	○	
教材研究	○	○	○	○
生徒指導		○		○
教員とのコミュニケーション		○	○	
事前準備	○	○	○	

評価割合

実習校の評価（90%）
特に考慮すべき場合は、大学教員が判断する場合がある（10%）。

使用教科書名(ISBN番号)

文部科学省『高等学校学習指導要領 家庭科』
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 家庭科』
家庭科の教科書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】・「家庭科教育」の分野について、専門的知識・技術を有している。
【思考・判断】・社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができ

る。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
【関心・意欲・態度】・社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。
【技能・表現】・家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

オフィスアワー

教育実習中なのでアポイントメントにより時間調整を行うこと。

学生へのメッセージ

教育実習は、人生経験の中でもとても貴重な体験です。大変な側面はありましょうが、全力投球をして、学校現場の教育を肌で感じてきて下さい。そして、教育者として必要な素養を吸収できる素地を自らの中に築いて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実務経験のある先生方に囲まれて教育実習する。
アクティブ・ラーニング	○	教育実習の全てがアクティブラーニングである。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	学校現場でのICT活用方法を学ぶ。

講義コード	610037031
講義名	教育実習Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	4年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	北見 由奈	指定なし

ナンバリング

Y40401C23

授業概要(教育目的)

教育実習校において実習を行う。授業実習だけでなく、教員として行う全般的な業務に携わることになる。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高めてほしい。
これは高校教員免許資格に必要である。
教育実習参加（派遣）基準に合致していない場合、教育実習に派遣はできない。

履修条件

3年生前期までに教育実習派遣基準に合格していること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	総合家政学の立場に立って、生活課題を子どもに提示できる知識の獲得
思考・判断の観点 (K)	子どもの学習の理解という立場に立って、如何に、学習が成立するのか、そのための思考と判断の獲得
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもの学習が成立するために如何に努力するべきか、そのための努力を惜しまない意欲の形成
技術・表現の観点 (A)	子どもと会話できるためのコミュニケーション能力と問題課題解決のための提示能力の形成

学習計画

評価方法

教育実習校の評価と平常点の総合評価とする。なお、成績はルーブリックにもとづいて評価する。ルーブリックは授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実習校の評価	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合

実習校の評価9割と平常点1割

参考図書

教育実習事前指導における資料など

ディプロマポリシーとの関連

知識・理解、総合家政学の立場を生かし、生徒の学習を成立させるための知識の獲得
思考・判断、子どもの立場に立って、如何に生徒が理解できるのか、そのための思考判断の獲得
意欲・態度、子どもの学習を成立させるためのあらゆる努力を続けるための意欲と態度の形成
表現と提案、子どもと会話できるためのコミュニーション能力と問題解決のための提示能力の形成

オフィスアワー

前期：金曜日３限（13：20～15：00） 千代田三番町キャンパス1805室
後期：水曜日３限（13：20～15：00） 千代田三番町キャンパス1805室

学生へのメッセージ

教材研究のために、睡眠時間が減ってしまうかもしれない。実習中はそれほどに大変である。しかし、児童・生徒たちは、不思議と思えるほど、実習生を快く迎えてくれる。「それに力づけられて頑張れた」と、実習生の多くが言う。皆さんのがんばりと活躍を期待している。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	610038001
講義名	栄養教育実習指導（食物）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	食物学科・4年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	河田 敦子	指定なし

ナンバリング

Y40502M11

授業概要(教育目的)

栄養教諭の免許取得のための教育実習について、事前・事後指導を行う。実習校との連絡の取り方、事前オリエンテーションにおける実習内容の確認、教育実習、教育実習報告会までを指導する。教育実習は1週間で短いので、有意義な実習を行えるように十分な準備と実践力の確認をする。必ず毎時出席すること。

履修条件

便覧に記された教育実習派遣基準を満たしていること。
・3年次後期ＧＰＡ2.00以上
・下記の教職科目が履修済みであること
「教育原理」「教師論」「教育制度論」「特別支援教育論」「教育心理学」「教育課程論」「学校栄養教育論」（栄養教諭）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	栄養教諭として現場で必要な知識を理解し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	栄養教諭として現場で、児童生徒に適切な指導について自ら考え、判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養教諭として行う教育実習に、関心・意欲を持って臨み、実習生としてふさわしい態度を取ることができる。
技術・表現の観点 (A)	食に関する指導の実施において専門的知識と技能をもって、コミュニケーション力とプレゼンテーション能力を発揮することができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	教育実習事前オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習におけるあいさつ、「ほう・れん・そう」（報告・連絡・相談）の重要性を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育実習校についてよく調べておく
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	授業テーマ	教材研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習先でさせて頂く授業の学習指導案を準備し、模擬授業を実施しながら教材研究を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業準備をする。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	授業テーマ	教育実習の準備・模擬授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習でさせて頂く授業の学習指導案・教材を準備し、模擬授業を行う。一人35分程度。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	授業テーマ	教育実習の準備・模擬授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習でさせて頂く授業の学習指導案・教材を準備し、模擬授業を行う。一人35分程度。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	教育実習の準備・模擬授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習でさせて頂く授業の学習指導案・教材を準備し、模擬授業を行う。一人35分程度。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	授業テーマ	教育実習の準備・模擬授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習でさせて頂く授業の学習指導案・教材を準備し、模擬授業を行う。一人35分程度。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業の準備をする。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	授業テーマ	教育実習報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	クラスメートの報告を聴き、自らの実習を振り返り、反省を深める。後輩に何を伝えたらより良い実習になるのかを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育実習報告が充実したものになるように準備する。
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

教育実習時期は人によって異なるため、自ら積極的に実習校で指導に当たってくださる先生方と協議し準備を行うこと。実習校及び指導教諭とのコミュニケーションが大切である。

学生へのフィードバック方法

個別に模擬授業の指導や、助言を行う。心配なことがあれば相談に応じる。

評価方法

充実した教育実習を行うための事前準備の取り組み及び報告会発表準備、事後の実習校へのご挨拶、報告書の作成等および態度で総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
事前準備への取り組み	○	○	○	○
実習中の態度			○	
報告会発表	○	○	○	○
模擬授業・教材研究	○	○	○	○

評価割合

平常点30%、報告発表会40%、模擬授業30%（平常点は授業への参加状況や教育実習に臨む態度及び実習報告会の準備等総合的に評価する）

使用教科書名(ISBN番号)

小学校学習指導要領（文部科学省）
中学校学習指導要領（文部科学省）
食に関する指導の手引き（文部科学省）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】栄養教諭として現場で必要な知識を理解している。
【思考・判断】栄養教諭として、現場で児童生徒に対し適切な指導を実施するための情報収集能力と、自ら考え周囲の方々と相談しながら判断していく能力を有している。
【関心・意欲・態度】栄養教諭として現場の指導教諭や職員の方々と協調していける関心・意欲を持ち、それを態度に示しながら主体的に実習に取り組むことができる。
【技術・表現】食に関する指導の実施において、専門的知識と技能を持って表現できる。

オフィスアワー

月曜日4限

学生へのメッセージ

教育実習は、実際に児童生徒に教えるので、プロ意識を持って臨んでください。準備をし過ぎることはありません。実習先の先生方のことを考えながら、早め早めに連絡を取り、相談し、大学にもしっかり報告するようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業、教材研究
情報リテラシー教育	○	PPTの作成。食味関する様々な情報収集。
ICT活用	○	コロナやインフルエンザ感染症流行時のことを考えICT活用もで

		きるようにする。

講義コード	610038031
講義名	栄養教育実習指導
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	辻 雅子	指定なし

ナンバリング

Y40502C11

授業概要(教育目的)

栄養教諭免許取得に関わる教育実習について、事前・事後指導を行う。食に関する専門的事項及び学校給食管理の学びについては、栄養士免許取得必須科目としてすでに習得済みである。したがって、本授業では包括的な内容で実習指導を行うことを目的とする。また事前指導においては細かい連絡等も行うため必ず毎時間出席すること。本授業は栄養教育実習及び教職実践演習（栄養）と連動して一年間の流れで学びを深めるものである。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	栄養教諭として現場で必要な知識を理解し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	栄養教諭として現場で、児童生徒に適切な指導について自ら考え、判断し、説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養教諭として行く教育実習に、意欲関心をもって積極的に参加するための態度が見られる。
技術・表現の観点 (A)	食に関する指導の実施において専門的知識と技能をもって、コミュニケーション力とプレゼンテーション力で適切に表現することができる。

学習計画

	授業テーマ	教育実習前オリエンテーション他（栄養教育実習記録の書き方・教育実習参加にあたっての諸注意・関連授業と授業参観の方法）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	栄養教育実習に行くための準備について学ぶ。栄養教育実習記録の書き方など事前準備から最終評価まで流れを学ぶ。教育実習参加にあたっての諸注意について学ぶ。関連授業と授業参観の方法につい

第1回	育・ICT活用を含む)	て学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育実習校について学びを深めておく。栄養教育実習記録について事前に中身を確認しておく。教育実習参加にあたっての心構え及び身支度等の諸注意について考える。食の指導に関連する授業と各種授業参観の方法について考える。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	授業テーマ	学校組織の理解及び栄養教諭の職務内容とその心構えと教育実習校の教諭との連携について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校の組織について学ぶ。栄養教諭の職務内容とその心構えについて学ぶ。教育実習校の教諭との連携について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学校の組織について理解を深め、どのように協働すべきか考える。栄養教諭の職務内容とその心構えについて学びを深める。教育教育実習校の教諭との連携について学びを深める。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	授業テーマ	模擬授業の準備①指導案作り
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業の準備として指導案作りについて学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業の準備として指導案作りを行う
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	授業テーマ	模擬授業の準備②教材づくり
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業の準備として教材づくりを学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業の準備として教材づくりを行う
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	模擬授業の模擬体験①指導案を使用して模擬授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業の模擬体験として指導案を使用しての模擬授業を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業の模擬体験として指導案を使用しての模擬授業準備を行う
	教室外学習の時	90分

	間（分）	
第6回	授業テーマ	模擬授業の模擬体験②教材も使用しての実践模擬授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業の模擬体験として教材も使用しての実践模擬授業を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業の模擬体験として教材も使用しての実践模擬授業準備を行う
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	授業テーマ	教育実習後のオリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習後の報告発表の準備について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育実習後の報告発表の準備を行う
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	栄養教育実習記録の整理・報告書作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育実習記録の整理・報告書作成について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教育実習記録の整理・報告書を作成する
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	実習の自己評価と報告会準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習の自己評価と報告会準備について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習の自己評価と報告会準備（パワーポイントでの作成）を行う
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	授業テーマ	栄養教育実習報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育実習報告会を行う。積極的な参加及びディスカッションを行う。
	教室外学習(予	

	習・復習)の内容	栄養教育実習報告会について準備する
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

教育実習時期は人によって異なるため、自ら積極的に指導教諭と協議し栄養教育実習に出るための準備を行い、実習校及び指導教諭と連絡を取り合うことが必要である。

学生へのフィードバック方法

個別に指導案及び教材等、また教育実習に出るための事前準備・事後指導内容について授業中に解説を行ったり、添削して返却しフィードバックを行う。

評価方法

教育実習に行くための事前準備の取り組み（30%）及びその他指導案や教材作成・報告書作成等の作成（40%）、さらに平常点（30%）で評価する。（平常点は授業への参加状況や教育実習に挑む態度などで総合的に評価する）
・出席日数が3分の2以上なければ成績評価を受けることはできない。
・遅刻3回は欠席1回とみなす。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
報告発表会	○	○	○	○
レポート	○	○		

評価割合

学校概要の調査30%、その他指導案や教材作成・報告書作成等の作成40%（事後のお礼状作成や報告発表会の準備などを含む）、平常点30%（平常点は授業への参加状況や教育実習に臨む態度など総合的に評価する）

参考図書

小学校学習指導要領（文部科学省）
中学校学習指導要領（文部科学省）
食に関する指導の手引き（文部科学省）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】栄養教諭として現場で必要な知識を理解している。
【思考・判断】栄養教諭として現場で児童生徒に適切な指導の実施に向けて正確な情報を収集し、優先課題に対する取り組みについて自ら考え判断できる力を身につける。
【関心・意欲・態度】栄養教諭として現場で指導教諭や職員の方々と協働するための共感力をもって、主体的に学ぶ意欲と態度を身につける。
【技術・表現】食に関する指導の実施において専門的知識と技能をもって、コミュニケーション力とプレゼンテーション力で適切に表現できる。

オフィスアワー

月曜日４時間目 1605教室

学生へのメッセージ

栄養教諭になるための教育実習にでるために、教育実習生としての心構えを身につけたうえで、実習に挑めるように事前準備を怠らないことが必要である。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	担当教員は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報発信としてキッズページ作成に関わった。その経験を活かし教育実習における基礎的学びをふまえた教授を行うものである。
アクティブ・ラーニング	○	教育実習にでるための課題発見力・課題解決学習についてグループワークや模擬授業練習を通じて学ぶ事ができる
情報リテラシー教育	○	教育現場における情報モラルについて学ぶ事ができる。
ICT活用		

講義コード	610039001
講義名	栄養教育実習（食物）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・4年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	河田 敦子	指定なし

ナンバリング

Y40301M43

授業概要(教育目的)

小学校または中学校において教育実習を行う。「食に関する指導」と「学校給食管理」、および教員として行う全般的な業務に携わることになる。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、栄養教諭となる自覚を高めていくことを目的とする。

履修条件

本学食物学科の教育実習派遣基準を満たしていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	栄養教諭として現場で必要な知識を理解している。
思考・判断の観点 (K)	栄養教諭として、教育現場で自動生徒に適切な指導について自ら考え、指導の先生方に相談しながら、判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養教諭として現場での実践に、意欲的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	食に関する指導の実施に於いて、専門的知識と技能をもって、栄養教諭として表現できる。

学習計画

	授業テーマ	教育実習1日目①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	実習校での第1日目は、校長先生からのお話、自己紹介、授業見学等である。各学校で異なるので、担当教員の指示に従うこと。

第1回	**含む)**	
	教室外学習(予習・復習)の内容	持ち物、担当させていただく授業の学習指導案の作成、教材研究等、事前の準備をしっかりしておくこと。教育実習ノートの記述。反省、今後への抱負をしっかり考えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	**授業テーマ**	教育実習1日目②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業見学をしっかり行い、担当クラスの生徒の名前を覚えたり、生徒と触れあうこと。学校内の導線を頭に入れること。見て触れること全てが学びである。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業見学をさせて頂きながら、授業の仕方、生徒との関わり方を学ぶこと。担当させて頂く授業の学習指導案を早めに担当の先生に提出し、指導を受けること。栄養共有の職務内容について理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	**授業テーマ**	教育実習1日目③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実際に授業を行う。授業は、授業内容、構成、教材研究、生徒との関わり、前回授業、次回授業との関係等、様々な要素が絡み合っている。その中でどのように授業を行うかを体得する。栄養教諭の職務内容について理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業前には模擬授業を行い、担当の先生に見て頂くこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	**授業テーマ**	教育実習2日目①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教諭としての教育現場で他者との協働について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学校現場で活用されている教材をしっかり見学し、深く学んで自分の授業に活かすこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	**授業テーマ**	教育実習2日②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	準備した学習指導案を担当の先生に見て頂き、指導を受ける。学習指導案は先生や学校によって異なるが、柔軟に対応できる力が必要である。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業をする上で、学習指導案にどのような意義があるのかを考えて、しっかりと作成できるようになること。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	教育実習2日目③

第6回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	栄養教諭としての教育現場で他者との協働について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教諭の教育現場における協働について理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	**授業テーマ**	教育実習3日目①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について学ぶ。実際に授業を行い、担当の先生の指導を受け、より良い授業を目指す。良い授業とはどのような授業なのかを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教諭として現場での児童・生徒への指導について理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	**授業テーマ**	教育実習3日目②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	**授業テーマ**	教育実習4日目①栄養教諭として教育現場での児童・生徒への授業の構成について学ぶ。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習指導案の作成。T.T.（ティーム・ティーチング）の方法等について指導される先生のご指導を受け、積極的に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の体全体、心全体で生徒と関わり、コミュニケーションを取って、多くのことを学ぶこと。気付いたことは必ず教育実習ノートに記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	**授業テーマ**	研究公開授業の準備（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究公開授業のための学習指導案の作成、教材研究を行う。研究公開授業は、教育実習の集大成である。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学修指導案を早めに担当の先生に見て頂き、指導を受ける。教材研究は十分に行う。

	教室外学習の時間（分）	240分
第11回	**授業テーマ**	研究公開授業の準備（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	研究公開授業は、生徒とのコミュニケーション、授業力、教材研究、教員とのコミュニケーション等全てが評価される場であることを学ぶ。最善の努力をし、自分の力を出し切る集中力を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に参観して下さる先生方には、押印した学習指導案をお渡ししながら、参観のお願いをしに行くこと。指導の先生の指示を良く聴くこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第12回	**授業テーマ**	研究公開授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習で学んだこと、今までの教職に対する自分の取り組みがしっかり表現できるように準備し、生徒としっかり向き合うことを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	時間の許す限り、最大限の準備をして臨むこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第13回	**授業テーマ**	教育実習最終日・教育実習ノートの提出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習最終日には、お世話になった先生方に感謝の気持ちを伝え、生徒達にきちん挨拶をする。社会人としての締めくくりの仕方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育実習で学んだことをきちんと教育実習ノートの反省欄に記載し、提出してくること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第14回	**授業テーマ**	教育実習校への御礼状、大学への報告
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習修了後、教育実習でお世話になった、校長先生、クラス担任の先生、教科担当の先生にそれぞれ御礼状をお送りする。大学教職員にも報告する。社会人としての礼儀を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	御礼状の書き方は、きちんと調べて書くこと。
	教室外学習の時間（分）	240分

学生へのフィードバック方法

実習校からのコメント、指導内容が教育実習ノートに記述されている。
公開研究授業を大学教員が参観する。

評価方法

教育実習校における評価が大部分を占める（90%）。
状況判断により、大学教員が実習校の評価に加味する場合がある（10%）。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
勤務態度		○	○	○
教材研究	○	○	○	○
生徒指導	○	○	○	○
教員とのコミュニケーション		○	○	○
事前準備	○	○	○	○

評価割合

実習校の評価（90%）
特に考慮すべき場合は、大学教員が判断する場合がある。（10%）

使用教科書名(ISBN番号)

文部科学省『中学校学習指導要領』
文部科学省『小学校学習指導要領』

食に関する指導の手引き（文部科学省）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】栄養教諭として、専門的知識・技術を有している。
【思考・判断】栄養教諭として現場で児童生徒に適切な指導の実施ができるよう情報を収集し、指導の先生方のご指導を受けながら、それらを総合して判断することができる。
【関心・意欲・態度】栄養教諭としての専門性と探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
【技能・表現】食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための教育者としての技能や表現力を身に付けている。

オフィスアワー

教育実習中なので、アポイントメントにより時間調整を行うこと

学生へのメッセージ

教育実習は、人生経験の中でもとても貴重な体験です。大変な側面はありましょうが、全力投球をして、学校現場の教育を肌で感じてきて下さい。そして、教育者として必要な素養を吸収できる素地を自らの中に築いて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	まさに実務経験のある先生方に囲まれて実習する。
アクティブ・ラーニング	○	教育実習の全てがアクティブラーニングである。
情報リテラシー教育		多様な情報の中から、児童生徒に教えるために正しい情報を識別する能力を養う。
ICT活用	○	学校現場でのICT活用方法を学ぶ。

講義コード	610039031
講義名	栄養教育実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	辻 雅子	指定なし

ナンバリング

Y40503C13

授業概要(教育目的)

教育実習校において実習を行う。「食に関する指導」と「学校給食管理」、および、教員として学校で行う全般的な業務に携わる。大学での学びや実習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、栄養教諭となる自覚を高めることを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	栄養教諭として現場で必要な知識を理解し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	栄養教諭として現場で、児童生徒に適切な指導について自ら考え、判断し、説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養教諭として現場で指導教諭や職員の方々との関わりに、意欲関心をもって積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	食に関する指導の実施において専門的知識と技能をもって、コミュニケーション力とプレゼンテーション力で適切に表現することができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	教育実習一日目①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教諭としての教育現場を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教諭の職務内容について理解を深める
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	教育実習一日目②

第2回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教諭としての教育現場を学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教諭の職務内容について理解を深める
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	授業テーマ	教育実習二日目①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教諭としての教育現場で他者との協働について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教諭の教育現場における協働について理解を深める
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	授業テーマ	教育実習二日目②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教諭としての教育現場で他者との協働について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教諭の教育現場における協働について理解を深める
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	授業テーマ	教育実習二日目③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教諭としての教育現場で他者との協働について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教諭の教育現場における協働について理解を深める
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	授業テーマ	教育実習三日目①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について理解を深める
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	授業テーマ	教育実習三日目②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について理解を深める
	教室外学習の時間（分）	90分
第8回	授業テーマ	教育実習三日目③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について理解を深める
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	教育実習四日目①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への授業の構成について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への授業の指導案及び教材について理解を深める
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	教育実習四日目②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗ	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への授業の

第10回	ｼｰ教育・ICT活用を含む)	構成について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への授業の指導案及び教材について理解を深める
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	授業テーマ	教育実習四日目③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への授業の構成について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への授業の指導案及び教材について理解を深める
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	教育実習五日目①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教諭として教育現場で児童・生徒に模擬授業を実施することを学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教諭として教育現場で児童・生徒へ模擬授業を実施することについて理解を深める
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	教育実習五日目②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教諭として教育現場で児童・生徒に模擬授業を実施することを学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教諭として教育現場で児童・生徒へ模擬授業を実施することについて理解を深める
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	教育実習五日目③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教諭として教育現場で児童・生徒に模擬授業を実施することを学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教諭として教育現場で児童・生徒へ模擬授業を実施することについて理解を深める
	教室外学習の時間（分）	90分

学習計画注記

教育実習内容は教育実習校と打ち合わせて決めるため、自ら積極的に実習校と連絡を取り合うことが必要である。

学生へのフィードバック方法

栄養教育実習中の学びについての評価は、栄養教育実習記録に教育実習校の指導教諭及び校長からコメントで返却される。
また教育実習中の振り返りについては後期の教職実践演習（栄養）の方でもフィードバックを行う。

評価方法

教育実習校からの実習評価と「栄養教育実習記録」及び報告発表会及び平常点で評価する。
（平常点は教育実習に挑む態度や報告発表会への参加状況や態度で総合的に評価する）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
教育実習校の評価	○	○	○	○
栄養教育実習記録	○	○	○	
報告発表会	○	○	○	○

評価割合

教育実習校の評価９０％、栄養教育実習記録５％、栄養教育実習指導での取り組み５％

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定はない

参考図書

小学校学習指導要領（文部科学省）
中学校学習指導要領（文部科学省）
食に関する指導の手引き（文部科学省）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】栄養教諭として現場で必要な知識を理解している事に該当。
【思考・判断】栄養教諭として現場で児童生徒に適切な指導の実施に向けて正確な情報を収集し、優先課題に対する取り組みについて自ら考え判断できる力を身につける事に該当。
【関心・意欲・態度】栄養教諭として現場で指導教諭や職員の方々と協働するための共感力をもって、主体的に学ぶ意欲と態度を身につける事に該当。
【技術・表現】食に関する指導の実施において専門的知識と技能をもって、コミュニケーション力とプレゼンテーション力で適切に表現できる事に該当。

オフィスアワー

月曜日3時間目 1605教室

学生へのメッセージ

栄養教諭になるための教育実習であるため、教育現場で教育実習生としての心構えを身につけたうえで、実習に挑めるように事前準備を怠らないことが必要である。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	辻は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報発信としてキッズページ作成に関わった。その経験を活かし教育実習における基礎的学びをふまえた教授を行うものである。また會退は保育園で乳幼児に関わった実務経験を有している。
アクティブ・ラーニング	○	教育実習を通じて、課題発見力・課題解決学習について学ぶ事ができる
情報リテラシー教育	○	教育現場における情報モラルについて学ぶ事ができる。
ICT活用		

講義コード	610040001
講義名	初等教育実習指導（小：3年次）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	3,4年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	立川 泰史	指定なし
教授	齋藤 義雄	指定なし
助教	末松 加奈	指定なし

ナンバリング

Y34006M11

授業概要(教育目的)

小学校教育実習の手引きや実習の事前・事後指導などを通して教育実習の意義を確かめ、教育実習生としての基礎的知識と基本的技能を修得する。
教育実習生の立場や心得、勤務形態、学齢による心身の成長発達、学習指導要領に準ずる教科指導、カリキュラムマネージメント、教育目標に則した学級経営、児童の生活指導や個に応じた支援、教材研究と研究授業などに関する事項を理解する。教育実習生として真摯に学ぶ姿勢、理想とする教師像を描き、教育職員として実践に取り組む責任感や使命感のある態度を身に付ける。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	小学校実習（初等教育実習C）に取り組むための基礎事項を理解し、教育の現場で学ぶための実践的・専門的な知識を実践活動に関連づけられる。
思考・判断の観点 (K)	今日的な課題や地域の実態に応じて教育実践の内容と方法を検討し、教育の目標の達成に向けたよりよい指導を改善する視点と判断力を発揮できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもの人権や個性を尊重し、地域に根ざす学校の教育目標や学校・学年・学級経営方針に即して実践的な知識・技能を学ぶ協調性や姿勢を発揮できる。
技術・表現の観点 (A)	個や状況に応じて教科指導・生活指導を行うための表現力や対話力など、指導における基本的な技能を実践場面で活用できる。

学習計画

第1回	授業テーマ	教育実習の意義と目的・実習校の選択ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校の教育実習に参加するにあたって教育実習の意義と目的を知る。実習記録（日誌）の記述内容や取り扱いなど、学校教育の現場に参加する際の基本的な留意事項を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	『小学校実習のてびき』（児童学科編）を参照し、教育実習の概要を確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	授業テーマ	教育実習の具体的な目標と関連する資質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育目標の達成に向け、児童の発達に応じた要求と特性を捉え、指導を工夫しながら児童への理解と愛情に基づく人間関係を形成する趣旨を理解し、社会的役割と大学での学びを総合的に生かす指導改善の姿勢を準備する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	『小学校実習のてびき』第１章のIIを参照し、児童理解、指導改善、責任等を確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	小学校教育実習の心得・学校の組織と生活・教育目標と学級経営
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習生の出退勤管理、授業の参観や担当、人権・個人情報や安全管理、危機管理などの概要を知り、所属学級における指導教諭や児童との接し方に関する基礎的事項を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	『小学校実習のてびき』第１章のIIIを参照し、小学校教育実習の心得と厳守・留意する事項を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	授業テーマ	事前面談・教育実習計画（オリエンテーション）について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配属学校でのオリエンテーション（実習前の面談・打ち合わせ）について、手続きやマナー、持ち物などの留意事項を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	『小学校実習のてびき』第１章のIVを参照し、学校オリエンテーションの流れを整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	教育実習（教育実地研究）における研究テーマの決め方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習における授業観察や授業研究の意義を考え、研究テーマの決め方や研究授業の設定までの要件と流れを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内	『小学校実習のてびき』第１章のVを参照し、自身の問題意識と研究目標（テーマ）を検討しておく。

	容	
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	「学習指導案」作成の手順
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校経営方針（教育目標）に基づく「学習指導案」の意義や責任、「学習指導案」作成に必要となる基礎知識と専門的な技能を身に付ける。教科単元の事例をあげて授業改善に向けた観点を共有する討論を通して、実践と計画との関連を捉える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	『小学校実習のてびき』第１章のVIを参照し、「学習指導案」の形式や作成手順を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	小学校教育実習の実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校各学年の児童の特性について「からだ・こころ」の両面から概要を知り、発達・成長に応じた指導上の配慮を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	『小学校実習のてびき』第１章のVIIを参照し、学年ごとの傾向や特徴を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	授業参観の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業参観や実践観察における記録の取り方について、基本事項や着眼点、記録形式と手順、参加マナー、記録を基にした考察方法などを、実例を参照して理解する。簡単な実践記録を体験することを通して、考察や解釈の方略を修得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	『小学校実習のてびき』第１章のVIIIを参照し、授業観察における基本的な内容を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	学習指導案の作成から授業まで
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「学習指導案」の作成から授業実践までの流れを知り、作成の手順、授業当日までの教材研究のポイント、授業後の協議会の留意事項などを理解する。学習指導案の実例を基に簡単な研究協議会を摸し、留意点を体験的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	『小学校実習のてびき』第１章のIXを参照し、学習指導案作成と授業までの準備や協議会・反省会の概要を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	実習日誌の書き方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	実習日誌の意義及び記録項目や具体的な記述方法について知り、記録に基づいた考察（仮説的視点と解釈・事象の取り扱い）の方法を理解する。記録の実例をあげ、実際の考察記述を体験し、相互評価する討論を通して情報処理の理解を深める。

第10回	**を含む)**	
	教室外学習(予習・復習)の内容	『小学校実習のてびき』第１章のXを参照し、実習日誌の意義や基本項目を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	**授業テーマ**	お礼状の書き方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習終了後に配属校に提示する「お礼状」の書き方について、その意義を踏まえ、記述する内容や指し出しの手順を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	『小学校実習のてびき』第１章のXIを参照し、「お礼状」作成の基本的な流れを整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	**授業テーマ**	教科等の概要（各教科・領域の目標・育てたい資質・能力・学習形態）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習指導要領に示される「各教科・領域の目標・育てたい資質・能力」について確認し、実習時の授業観察や授業づくりの観点とする方法を理解する。指導と評価の一体的な扱いを実現するための教科特性、合科的指導の可能性や課題について、知見を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	『小学校実習のてびき』第2章のIを参照し、各教科の目標に準じて「求められる資質・能力」を確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	**授業テーマ**	学習指導案の作成（導入形態と主発問）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	具体的な教科または領域の単元（題材）の実践を想定した「学習指導案」を作成し、学習指導案の形式や作成方法を体験的に理解する。特に導入と主の発問を相互評価する協議を通して、より実践的な理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	『小学校実習のてびき』第2章II（学習指導案の様式）を参照し、自分が作成する教科または領域の特性を整理し検討しておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	**授業テーマ**	学習指導案の作成（指導と評価の一体化・見取りと評価材料）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	具体的な教科または領域の単元（題材）の実践を想定した「学習指導案」を作成し、学習指導案の形式や作成方法を体験的に理解する。特に指導と評価活動の連携を観点に相互評価する協議を通して、より実践的な理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	『小学校実習のてびき』第2章IIを参照し、「全体の指導計画」と「本時の展開」の関連や、目標と評価規準の関係を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	50分

学習計画注記

履修者の実習期間により、スケジュールが変動する場合がある。

学生へのフィードバック方法

・教育実習の心構えをはじめ、学習指導案の書き方や教育実習記録の書き方など実務の基礎知識・基本的な技能を高める。授業ごとに個々の疑問や課題を「ドキュメントシート」に記し、適宜、助言指導を返す。
・教育実習に参加する前に、各教科・領域等の「学習指導案」を作成し、学習指導に要する汎用的スキルを修得する。想定した教科・領域の指導計画について、重要な観点を指摘し、コメント付きで返却する。
・教育実習終了後は報告会を通して情報を交換し、教育職員としての資質を向上する。討論や講評を通した振返りの成果を記す「実習報告シート」は討論の継続（類型化）に活用し、その過程を講評する。

評価方法

・ドキュメントシートについては、教育実習の基礎的事項に関する理解の深まり方を示す考察記述を評価する。
・学習指導案については、単元目標と評価計画の整合性、単元設定の理由となる児童観・教材観・指導観の記述、展開方法の妥当性を評価する。
・実習報告では、実習前後における問題意識の変容や深まり方を評価する。
・各評価基準についてはルーブリックを公開する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
ドキュメントシート	○		○	
学習指導案	○	○		○
実習報告シート		○	○	

評価割合

ドキュメントシート（20%）、学習指導案（50%）、実習報告シート（30%）を総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

『小学校実習のてびき』 東京家政学院大学児童学科編（授業内配布）

参考図書

齋藤義雄『教育方法・技術論ー主体的・対話的で深い学びに向けてー』大学図書出版、2018年、ISBN：978-4-907166-85-4c3937

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】地域に根ざす学校の教育目標や人権を尊重する立場を理解し、初等教育実習（小）に臨むための基礎的な知識を有する。
【思考・判断】場面の状況に応じる指導観を基に、適切な教育行動を実践する主体性や協働性を有する。
【関心・意欲・態度】人格を形成という教育の目的に高い関心をもち、自らを改善する主体性や自己教育力を有する。
【技能・表現】教科学習や生活指導場面で基礎となる対話力や創造性を発揮し、指導を計画・展開・省察・改善する基本的な技能を有する。

オフィスアワー

金曜3限 1629研究室（立川） 火曜2限 1628研究室（齋藤）

学生へのメッセージ

小学校教育実習の意義について理解し、どのような目標をもって臨むか、自身の考えをまとめておくこと。学び手として実習に望むが、子どもにとっては指導者である。期間中、この両義

的な立場に位置づけられることを自覚し、将来像をつくりながら誠実に取り組みたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、小学校教員として国公立の教育現場に従事した経験をもつ。文部科学省検定教科書の編修や文部科学省の学習資料作成委員として現職教員の研修や企業・地域行政と連携するネットワークを生かし、求められる教師像や学校教育の役割など、今日的な情報と知見を提供する。
アクティブ・ラーニング	○	小学校で常態化している集団討論や協働的な問題解決などの学習形態を実体験することを通して、相互主体的に学び合う機会をもつ。
情報リテラシー教育	○	指導の実例を積極的に参照するために、著作権・肖像権の有無や情報の真偽にも留意して自身の計画・実践に活用するリテラシーを高める。
ICT活用	○	PCにより、デジタルコンテンツやプログラミング教育等に関わる教育用アプリケーション、視聴覚機器を活用する実践形態について具体的実践方法を理解する機会をもつ。

講義コード	610040002
講義名	初等教育実習指導（小：4年次）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	3,4年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	立川 泰史	指定なし
教授	杉野 学	指定なし
教授	齋藤 義雄	指定なし
助教	末松 加奈	指定なし

ナンバリング

Y34006M11

授業概要(教育目的)

小学校教育実習の手引きや実習の事前・事後指導などを通して教育実習の意義を確かめ、教育実習生としての基礎的知識と基本的技能を修得する。教育実習生の立場や心得、勤務形態、学齢による心身の成長発達、学習指導要領に準ずる教科指導とカリキュラムマネージメント、教育目標に則した学級経営、児童の生活指導や個に応じた支援、教材研究と研究授業などに関する留意事項を理解する。教育実習生としての真摯な姿勢、具体的な教師像をもつ教育職員として実践に取り組む責任感や使命感のある態度を身に付ける。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	小学校実習（初等教育実習C）に取り組むための基礎事項を理解し、教育の現場で学ぶための実践的・専門的な知識を実践活動に関連づけられる。
思考・判断の観点 (K)	今日的な課題や地域の実態に応じて教育実践の内容と方法を検討し、教育の目標の達成に向けたよりよい指導を改善する視点と判断力を発揮できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもの人権や個性を尊重し、地域に根ざす学校の教育目標や学校・学年・学級経営方針に即して実践的な知識・技能を学ぶ協調性や姿勢を発揮できる。
技術・表現の観点 (A)	個や状況に応じて学習指導・生活指導を行うための表現力や対話力など、教科指導における基本的な技能を実践場面で活用できる。

学習計画

第1回	授業テーマ	教育実習の意義と目的・実習校の選択ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校の教育実習に参加するにあたって教育実習の意義と目的を理解する。 実習記録（日誌）の記述内容や出勤簿の取り扱いなど、学校教育現場に参加する際の基本的な留意事項を理解する。 ３年次「小学校教育実習のてびき」の振り返り
	教室外学習(予習・復習)の内容	『小学校教育実習のてびき』（児童学科編）を参照し、教育実習の概要を確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	授業テーマ	教育実習の具体的な目標と関連する資質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育目標の達成に向けて児童の発達に応じた要求と特性を捉える。 指導を工夫しながら児童への理解と愛情に基づく人間関係を形成する趣旨を理解し、社会的役割と大学での学びを総合的に生かす指導改善の姿勢を準備する。 教育実地研究の意義と研究テーマの設定について
	教室外学習(予習・復習)の内容	『小学校教育実習のてびき』第１章のIIを参照し、児童理解、指導改善、責任等を確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	小学校教育実習の心得・学校の組織と生活・教育目標と学級経営
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習生の出退勤管理、授業の参観や担当、人権・個人情報や安全管理、危機管理などの概要を知り、所属学級における指導教諭や児童との接し方に関する基礎的事項を理解する。 危機管理意識と子どもの規範意識・守秘義務、子どもの人権尊重等、基礎的知識の確認 学習形態と学習環境、学習指導案の基礎的事項と理解
	教室外学習(予習・復習)の内容	『小学校実習のてびき』第１章のIIIを参照し、小学校教育実習の心得と厳守・留意する事項を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	授業テーマ	事前面談・教育実習計画（オリエンテーション）について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	配属学校でのオリエンテーション（実習前の面談・打ち合わせ）について、手続きやマナー、持ち物などの留意事項を理解する。 模擬授業①
	教室外学習(予習・復習)の内容	『小学校実習のてびき』第１章のIVを参照し、学校オリエンテーションの流れを整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	授業テーマ	教育実習（教育実地研究）における研究テーマの決め方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習における授業観察や授業研究の意義を考え、研究テーマの決め方や研究授業の設定までの要件と流れを理解する。 模擬授業②
	教室外学習(予	『小学校実習のてびき』第１章のVを参照し、自身の問題意識と研究

	習・復習)の内容	目標（テーマ）を検討しておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	授業テーマ	「学習指導案」作成の手順
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校経営方針（教育目標）に基づく「学習指導案」の意義や責任、「学習指導案」作成に必要となる基礎知識と専門的な技能を身に付ける。教科単元の事例をあげて授業改善に向けた観点を共有する討論を通して、実践と計画との関連を捉える。 模擬授業③
	教室外学習(予習・復習)の内容	『小学校実習のてびき』第１章のVIを参照し、「学習指導案」の形式や作成手順を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	授業テーマ	小学校教育実習の実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校各学年の児童の特性について「からだ・こころ」の両面から概要を知り、発達・成長に応じた指導上の配慮を理解する。 模擬授業④
	教室外学習(予習・復習)の内容	『小学校実習のてびき』第１章のVIIを参照し、学年ごとの傾向や特徴を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	授業テーマ	授業参観の方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業参観や実践観察における記録の取り方について、基本事項や着眼点、記録形式と手順、参加マナー、記録を基にした考察方法などを、実例を参照して理解する。簡単な実践記録を体験することを通して、考察や解釈の方略を修得する。 模擬授業⑤
	教室外学習(予習・復習)の内容	『小学校実習のてびき』第１章のVIIIを参照し、授業観察における基本的な内容を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	学習指導案の作成から授業まで
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「学習指導案」の作成から授業実践までの流れを知り、作成の手順、授業当日までの教材研究のポイント、授業後の協議会の留意事項などを理解する。学習指導案の実例を基に簡単な研究協議会を摸し、留意点を体験的に理解する。 模擬授業⑥
	教室外学習(予習・復習)の内容	『小学校実習のてびき』第１章のIXを参照し、学習指導案作成と授業までの準備や協議会・反省会の概要を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	実習日誌の書き方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	実習日誌の意義及び記録項目や具体的な記述方法について知り、記録に基づいた考察（仮説的視点と解釈・事象の取り扱い）の方法を理解する。記録の実例をあげ、実際の考察記述を体験し、相互評価する討

第10回	育・ICT活用を含む)	論を通して情報処理の理解を深める。 集団討論の技法（KJ法、ブレーンストーミング）
	教室外学習(予習・復習)の内容	『小学校実習のてびき』第１章のXを参照し、実習日誌の意義や基本項目を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	授業テーマ	お礼状の書き方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習終了後に配属校に提示する「お礼状」の書き方について、その意義を踏まえ、記述する内容や指し出しの手順を理解する。 模擬授業⑦
	教室外学習(予習・復習)の内容	『小学校実習のてびき』第１章のXIを参照し、「お礼状」作成の基本的な流れを整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	授業テーマ	教科等の概要（各教科・領域の目標・育てたい資質・能力・学習形態）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習指導要領に示される「各教科・領域の目標・育てたい資質・能力」について確認し、実習時の授業観察や授業づくりの観点とする方法を理解する。指導と評価の一体的な扱いを実現するための教科特性、合科的指導の可能性や課題について、知見を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	『小学校実習のてびき』第2章のIを参照し、各教科の目標に準じて「求められる資質・能力」を確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	授業テーマ	学習指導案の作成（導入形態と主発問）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	具体的な教科または領域の単元（題材）の実践を想定した「学習指導案」を作成し、学習指導案の形式や作成方法を体験的に理解する。特に導入と主の発問を相互評価する協議を通して、より実践的な理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	『小学校実習のてびき』第2章IIを参照し、自分が作成する教科または領域の特性を整理し検討しておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	授業テーマ	実習報告会と質疑応答による教育現場における実践的・体験的な理解と学びのまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	初等教育実習報告；初等教育実習の経験を基に、学んだこと、事前事後の準備やまとめ、次年度の実習を控えている学生へのメッセージを伝え合い、グループトーク・ペアトーク等の質疑応答を通して実践的な資質・能力の涵養について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自身の実習経験を振り返りながら経験事項のプレゼン方法を検討し、分かりやすくまとめておく。
	教室外学習の	50分

	時間（分）	

学習計画注記

履修者の実習期間により、スケジュールが変動する場合がある。

学生へのフィードバック方法

・教育実習の心構えをはじめ、学習指導案の書き方や教育実習記録の書き方など実務の基礎知識・基本的な技能を高める。授業ごとに個々の疑問や課題を「ドキュメントシート」に記し、適宜、助言指導を返す。
・教育実習に参加する前に、各教科・領域等の「学習指導案」を作成し、学習指導に要する汎用的スキルを修得する。想定した教科・領域の指導計画について、重要な観点を指摘し、コメント付きで返却する。
・教育実習終了後は報告会を通して情報を交換し、教育職員としての資質を向上する。討論や講評を通した振返りの成果を記す「実習報告シート」は討論の継続（類型化）に活用し、その過程を講評する。

評価方法

・ドキュメントシートについては、教育実習の基礎的事項に関する理解の深まり方を示す考察記述を評価する。
・学習指導案については、単元目標と評価計画の整合性、単元設定の理由となる児童観・教材観・指導観の記述、展開方法の妥当性を評価する。
・実習報告では、実習前後における問題意識の変容や深まり方を評価する。
・各項目の評価基準はルーブリックで公開する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
ドキュメントシート	○		○	
学習指導案	○	○		○
実習報告シート		○	○	

評価割合

ドキュメントシート（20%）、学習指導案（50%）、実習報告シート（30%）を総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

『小学校実習の手引き』東京家政学院大学児童学科編（配布）

参考図書

齋藤義雄『教育方法・技術論ー主体的・対話的で深い学びに向けてー』大学図書出版、2018年、ISBN：978-4-907166-85-4c3937

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】地域に根ざす学校の教育目標や人権を尊重する立場を理解し、初等教育実習（小）に臨むための基礎的な知識を有する。
【思考・判断】場面の状況に応じる指導観を基に、適切な教育行動を実践する主体性や協働性を有する。
【関心・意欲・態度】人格を形成という教育の目的に高い関心をもち、自らを改善する主体性や自己教育力を有する。
【技能・表現】教科学習や生活指導場面で基礎となる対話力や創造性を発揮し、指導を計画・展開・省察・改善する基本的な技能を有する。

オフィスアワー

金曜3限 1629研究室（立川） 火曜2限 1628研究室（齋藤）

学生へのメッセージ

小学校教育実習の意義について理解し、どのような目標をもって臨むか、自身の考えをまとめておくこと。学び手として実習に望むが、子どもにとっては指導者である。期間中、この両義的な立場に位置づけられることを自覚し、将来像をつくりながら誠実に取り組みたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、小学校教員として国公立の教育現場に従事した経験をもつ。文部科学省検定教科書の編修や文部科学省の学習資料作成委員として現職教員の研修や企業・地域行政と連携するネットワークを生かし、求められる教師像や学校教育の役割など、今日的な情報と知見を提供する。
アクティブ・ラーニング	○	小学校で常態化している集団討論や協働的な問題解決などの学習形態を実体験することを通して、相互主体的に学び合う機会をもつ。
情報リテラシー教育	○	指導の実例を積極的に参照するために、著作権・肖像権の有無や情報の真偽にも留意して自身の計画・実践に活用するリテラシーを高める。
ICT活用	○	タブレット型PCや電子黒板、デジタルコンテンツや教育用アプリケーション、視聴覚機器を活用する実践形態について、体験的に理解する機会をもつ。

講義コード	610041001
講義名	初等教育実習Ｃ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	4年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	立川 泰史	指定なし

ナンバリング

Y44009M43

授業概要(教育目的)

小学校において、校長をはじめとする指導教諭等の指導の下で、授業観察、授業参加、授業指導を主にした実地研究を行う。この教育実習を通して、社会的義務と期待を担う学校教育の実務を体験的に理解する。
この実地研究に際し、大学での学習と小学校における指導を関連づけて考察・判断する基礎・基本的な知識・技能を確認したり省察していく。事前・事後を通して、教育実習の意義や教育職員としての服務、学年・学級経営、学習指導、生徒指導等についての資質・能力、教員として相応しい教職観、倫理観などを身に付けることを目的とする。

履修条件

「学生便覧」の定める教育実習派遣基準（小学校）を満たしていること。
「小学校教育実習指導」の授業を履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	学習指導要領をはじめ学校教育に求められる社会的機能を実践する場に臨む責任と意義を理解し、実践活動や改善に努めるための基礎的な知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	教科の特性や場面状況に応じて適切な指導援助を実践する判断力・決断力をもち、問題解決の具体的方法や観点をあげることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	児童の個性を尊重して理解することに関心をもち、共に育つ喜びを実感しながら個に応じた教育活動に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	学級経営への参加や授業づくりに臨むための基本的な技能をもち、適切かつ柔軟に発揮するための表現力・対話力を発揮できる。

学習計画		
第1回	授業テーマ	オリエンテーション（学校・地域の特性・実習の流れの把握）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習の概要について、配属学校にて事前説明を受ける。学校と地域の特色、教育目標、配属された学年学級経営方針、児童の実態、学校の行事日程ほか、教育実習の内容日程、勤務時間と出退勤管理、準備品、担当授業数、施設設備と備品管理などの概要を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	オリエンテーション前に学校や教育委員会のホームページなどを参照し、地域と特色ある教育活動を把握しておくこと。説明を受けた留意事項は、教育実習記録に記入する。実習初日までに、自分の実習目標（研究テーマ）を想定しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	420分
第2回	授業テーマ	本実習（学校教育目標の理解と児童理解）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 前半は、学校長講話、主幹・各主任教諭（教務・生活・研究）の講話、養護教諭講話などから学校と児童の教育活動の目標や概要を知り、理解する。師範授業の参観、他学年の授業観察、実践補助などを通して学校独自の教育活動の特色を把握し、児童理解に努める。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習初日から配属学校の教育目標と地域に根ざした特色ある教育活動を把握する。配属学級の経営方針と児童の実態把握に努める。
	教室外学習の時間（分）	380分
第3回	授業テーマ	本実習（研究テーマの決定と児童理解）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 前半は、学校長講話、主幹・各主任教諭（教務・生活・研究）の講話、養護教諭講話などから学校と児童の教育活動の目標や概要を知り、理解する。師範授業の参観、他学年の授業観察、実践補助などを通して学校独自の教育活動の特色を把握し、児童理解に努める。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育実習記録（実習日誌）に、児童の実態に即して自ら設定した目標を記述する。一日の学校生活の流れを理解し、教科指導と生活指導とのけじめ、登下校指導や給食・清掃指導のルールなど学校生活での教師の役割について振り返る。
	教室外学習の時間（分）	380分
	授業テーマ	本実習（授業観察・授業参加）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 前半は、学校長講話、主幹・各主任教諭（教務・生活・研究）の講話、養護教諭講話などから学校と児童の教育活動の目標や概要を知り、理解する。師範授業の参観、他学年の授業観察、実践補助などを通して学校独自の教育活動の特色を把握し、児童理解に努める。

第4回	**育・ICT活用を含む)**	全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業観察を通して、教科の特性や指導方法の違い、児童個々の理解を深める。観察記録を振り返り、理解の個人差や対応方法を検討し、担当する教科や指導法を検討する。
	教室外学習の時間(分)	380分
第5回	**授業テーマ**	本実習（教科・単元目標と内容・教材研究）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 前半は、学校長講話、主幹・各主任教諭（教務・生活・研究）の講話、養護教諭講話などから学校と児童の教育活動の目標や概要を知り、理解する。師範授業の参観、他学年の授業観察、実践補助などを通して学校独自の教育活動の特色を把握し、児童理解に努める。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業観察を通して、担当する教科における指導法の考察と教材研究を進める。学習指導要領の教科目標と学年目標、内容の取り扱いを理解し、担当学級・学年の実態に合わせた指導方法を検討していく。
	教室外学習の時間(分)	380分
第6回	**授業テーマ**	本実習（学習指導案作成と実践）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 前半は、学校長講話、主幹・各主任教諭（教務・生活・研究）の講話、養護教諭講話などから学校と児童の教育活動の目標や概要を知り、理解する。師範授業の参観、他学年の授業観察、実践補助などを通して学校独自の教育活動の特色を把握し、児童理解に努める。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	担当した授業の省察を通して、教科・単元の目標に準拠した教材の研究を進める。児童の学びに向かう態度を高める教材・発問を工夫し、視覚教材、具体物、学習形態を具体的に改善する手段を考察する。
	教室外学習の時間(分)	380分
第7回	**授業テーマ**	本実習（学習指導案作成と実践）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 前半は、学校長講話、主幹・各主任教諭（教務・生活・研究）の講話、養護教諭講話などから学校と児童の教育活動の目標や概要を知り、理解する。師範授業の参観、他学年の授業観察、実践補助などを通して学校独自の教育活動の特色を把握し、児童理解に努める。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。
	教室外学	学習指導案の作成や改善を通して、指導計画を見直しながら、単元のねらいを実現する「導入・展開・終結」の流れを具体的に検討すす

	習(予習・復習)の内容	る。実践的な指導法や児童個々の理解に応じるみとりについて反省し、学習形態（個人・小グループ・全体活動）の活用展開を改善するための視点を確認する。
	教室外学習の時間（分）	380分
第8回	**授業テーマ**	本実習（授業実践）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 後半は、授業を担当し、教科・領域の指導について「計画・実践・省察・改善」に取り組む。研究授業の教科・領域を決定し、学習指導案作成と教材研究に取り組む。研究授業の実践と授業研究協議会を通して、実践的な問題を明らかにし、大学の学びと関連付けて成果と課題を整理する。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	担当した実践授業を通して、教科ごとに児童個々の理解を深め、個に応じた指導方法と教材活用を検討する。検討した教材の選定や活用方法が単元や題材のねらいの具現化に則しているかを視点に考察を重ねる。
	教室外学習の時間（分）	380分
第9回	**授業テーマ**	本実習（学習形態と指導法）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 後半は、授業を担当し、教科・領域の指導について「計画・実践・省察・改善」に取り組む。研究授業の教科・領域を決定し、学習指導案作成と教材研究に取り組む。研究授業の実践と授業研究協議会を通して、実践的な問題を明らかにし、大学の学びと関連付けて成果と課題を整理する。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	能力別編成の学習形態、体験型実技型の教科の特性、発問のことば選び、板書計画、活動の時間配分などについて、各教科の見方・考え方を高め、育てたい資質・能力を培う活動計画を具体的にしていく。
	教室外学習の時間（分）	380分
第10回	**授業テーマ**	本実習（研究授業設定と準備）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 後半は、授業を担当し、教科・領域の指導について「計画・実践・省察・改善」に取り組む。研究授業の教科・領域を決定し、学習指導案作成と教材研究に取り組む。研究授業の実践と授業研究協議会を通して、実践的な問題を明らかにし、大学の学びと関連付けて成果と課題を整理する。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。
	教室外学習(予習・復	研究授業とする教科を決定し、学習指導案を作成する。これまで担当した実践授業の成果と課題を振り返り、自分の研究テーマの視点や指

	習)の内容	導教諭からの助言を基に、指導計画を改善する。
	教室外学習の時間（分）	380分
第11回	**授業テーマ**	本実習（研究授業計画）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 後半は、授業を担当し、教科・領域の指導について「計画・実践・省察・改善」に取り組む。研究授業の教科・領域を決定し、学習指導案作成と教材研究に取り組む。研究授業の実践と授業研究協議会を通して、実践的な問題を明らかにし、大学の学びと関連付けて成果と課題を整理する。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究授業の指導案の計画についてシミュレーションを繰り返し、教材の提示と活用、既習事項と発展学習とのつながりなどを視点に考察する。
	教室外学習の時間（分）	380分
第12回	**授業テーマ**	本実習（研究授業計画）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 後半は、授業を担当し、教科・領域の指導について「計画・実践・省察・改善」に取り組む。研究授業の教科・領域を決定し、学習指導案作成と教材研究に取り組む。研究授業の実践と授業研究協議会を通して、実践的な問題を明らかにし、大学の学びと関連付けて成果と課題を整理する。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。
	教室外学習(予習・復習)の内容	研究授業直前準備として、学習指導案の記述と本時の流れについて最終確認を行う。教材準備（内容・提示・配布・回収など）と学習形態との適性を検討し、予想される児童の反応を具体的に想定する。
	教室外学習の時間（分）	380分
第13回	**授業テーマ**	本実習（公開研究授業）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習の成果と課題を自分の研究テーマの視点を中心に整理する。 教育実習終了後に教育実習記録を実習学校に提出し、学校から事後指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科指導を支える学級経営、学年間の連携、特別な配慮を要する児童の理解と支援、学校の教育目標を実現する学級目標に則した生活のあり方について理解を整理する。教育実習記録を振り返り、自分の研究テーマの視点から実習の成果と課題を明確にする。
	教室外学習の時間（分）	380分
	授業テーマ	実習成果と課題の整理
	学習内容(ｱｸﾃ	教育実習を通して学んだことを教育実習記録にまとめ、以後の学習に

第14回	ｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	反映する課題を明らかにする。教育実習全般を通して実習生活を支えて頂いた教職員、共に育とうとしてくれた児童に感謝し、教育職員としての職業観や社会人としての礼節を身に付ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習校・学校長の所見・指導助言を受けた事項と自己の研究テーマを観点に実習全般を振り返り、省察する。期間中に作成した学習指導案や教材資料とともに、大学へ提出する。
	教室外学習の時間（分）	420分

学習計画注記

受け入れ学校が実情を勘案して立案する教育実習計画により、実習生の配属学年・学級、内容日程が決定する。研究授業の日時・校時・教科または領域は、学校側の指導教員と相談して決定する。

学生へのフィードバック方法

・配属学校における事前オリエンテーションの内容について、疑問や不安を解消するよう相談に応じる。
・教育実習記録は、記録考察と指導担当教諭の所見を総合的に確認し、コメントする。
・自己評価票については、巡回指導担当からの報告と勘案して確認し、必要な場合は個別に面談で対応する。

評価方法

・教育実習記録（学習指導案・教材研究資料等を含む）の内容を総合的に評価する。
・自己評価の観点を中心にルーブリックを作成し、巡回指導教諭の所感・配属学校教諭・校長の所見などを基に、目標到達度を総合的に評価する。
・自治体主催の教員養成システムにおける特別実習を本実習Ｃと重複させる場合にも、自治体教育委員会から受け取る成績表も参照しながら本学評価基準にしたがって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
教育実習記録	○	○		○
自己評価票・省察記述	○	○	○	

評価割合

『教育実習記録』の記述内容と教育実習校による評価及び教材研究（60%）と自己評価票・省察まとめ（40%）を総合的に判断し評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

『小学校実習のてびき』東京家政学院大学現代生活学部児童学科編
『教育実習記録（日誌・自己評価票）』東京家政学院大学現代生活学部児童学科編

参考図書

文部科学省『学習指導要領解説』（総則と各教科編）
齋藤義雄・中田範子『幼稚園・小学校教育実習ー学びの連続性を通してー』大学図書出版 2018年、ISBN：978-4-907166-87-8c3037

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学を構成する 6 領域 「子どもの保育」「子どもの 教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に 理解し、児童や学校教育に関する専門的な知識を有する。
【思考・判断】児童や学校の教職員・教育実践者などと直接ふれあい実践的機会を通して、

様々な場面課題に柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】児童の見方・考え方に関心をもち、児童と共に育つという主体的・対話的な姿勢・態度を有する。
【技能・表現】教科学習や生活場面の指導に求められる基本的な技能と個の状況に応じたコミュニケーション能力を発揮できる。

オフィスアワー

金曜3限（前期）、水曜4限（後期）、1629研究室

学生へのメッセージ

・実習とは、単なる体験ではなく、大学の学びと実地での知見を統合する研究（教育実地研究）に位置づく主体的な探究活動である。ゆえに、自分が描く教師像の具現化に向けた「研究テーマ」が必須になることを念頭に置いて臨みたい。
・実地研究（実習）を通して、主体的に課題を解決し、小学校教員としての資質・能力の向上につなげるように取り組む。教育実習の意義や実務に参加する社会的責任を自覚した真摯な姿勢が求められる。
・教育実習期間中における大学への「報告・連絡・相談」を心掛ける。特に、研究授業の日程や内容は、巡回にあたる担当教員に事前に連絡し、相談に努めること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、小学校教員として教育現場に従事した経験をもつ。文部科学省検定教科書の編修著者や文部科学省学習資料作成委員として現職教員の研修・地域行政や企業との連携するネットワークを生かして、今日的な教育課題に相応した情報や知識、授業研究の実践的な方略を提供する。
アクティブ・ラーニング	○	配属学校の教職員や児童との関わりと対話を通して、地域に根ざす学校教育の意義や役割を実感し、主体的に見いだした課題の解決にあたる。
情報リテラシー教育	○	地域の実態に即した特色ある教育活動について情報を整理し、児童理解のための情報、学校の教育目標に基づく指導方針などに関心をもって実践に活用する。
ICT活用	○	電子黒板、タブレット型PC、ネットワーク、webコンテンツ、デジタル教科書や視覚教材などについて、配属校の環境と指導目的に応じて効果的に活用する。

講義コード	610042001
講義名	初等教育実習指導（幼：3年次）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	3,4年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	中田 範子	指定なし
教授	吉永 早苗	指定なし
助教	末松 加奈	指定なし

ナンバリング

Y34006M11

授業概要(教育目的)

幼稚園における初等教育実習に先立って行う事前指導と、教育実習が終了してから行う事後指導が含まれる授業である。実習の意義や実習生としての立場と心得、教育実習生としての勤務の在り方を理解することを目的とする。また、学生が幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容と保育の実際との関連について理解を深めながら、幼児の発達に応じた保育者の援助、保育内容等についての留意事項を学び、実習の成果を高めようとするものである。

履修条件

「初等教育実習A」を履修する者

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	実習の意義や実習生としての基本的な態度について理解し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	幼児に適した保育内容であることを考え、判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	初等教育実習Aを通して学んだことを省察し、今後に向けた課題を見出し自覚化する。
技術・表現の観点 (A)	実習に向けて幼児の発達段階に応じた保育内容を考え、指導計画の作成に適した文章で表現できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼稚園生活の流れ、幼児の姿や保育を観察する際の観点について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習に向けて、気づきと自らの課題についてまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	170
第2回	**授業テーマ**	幼稚園・こども園における子どもの姿
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼稚園・こども園における子どもの1日の姿について、映像を視聴することを通して学びを深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	幼稚園・こども園における、幼児の姿、保育者の援助、環境構成について、気付いたことをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	170
第3回	**授業テーマ**	幼稚園・こども園における子どもの姿と保育者の援助
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼稚園・こども園における子どもの姿と保育者のかかわりに関する映像を視聴し、環境構成や保育者の援助について学びを深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	講義での気づきをまとめるとともに、観察実習に向けての課題を明らかにしておく。
	教室外学習の時間（分）	170
第4回	**授業テーマ**	オリエンテーションの実施概要・初等教育実習Aの心構え
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園でのオリエンテーションの内容と事務手続きについて理解する。 ・実習の意義と実習生としての在り方を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・「実習の手引き」をよく読み、疑問点等をまとめておくこと。 ・授業で習った実習の心構えや目標の設定をもとに、「実習生個人票」「初等教育実習Aに臨んで」を作成する。
	教室外学習の時間（分）	170
第5回	**授業テーマ**	実習記録について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習記録の作成と観察の実際について演習を通して理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「実習の手引き」、授業資料、日誌等の内容を確認し、疑問点についてまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	170
第6回	**授業テーマ**	保育の実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	園生活に関する画像や動画を用いて、幼稚園の一日の生活を理解し実習に役立つ技術を修得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容と気づき、課題について記入する。
	教室外学習の時間（分）	170
	授業テーマ	初等教育実習Aの振り返り ・実習報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・	初等教育実習Aを省察し、新たな目標を設定する。実習報

第7回	情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	告会を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習報告会の発表内容と発表方法を各グループで討議し、資料を作成する。
	教室外学習の時間（分）	170

学習計画注記

やむを得ない事情で授業を欠席する場合には、授業内容や配付物等を自分で確認すること。また、必要に応じて個別の対応を行う。

学生へのフィードバック方法

提出されたワークシート等は、すべて確認し添削する。また、必要に応じて個別の指導を行う。

評価方法

・ワークシート等の提出物、及び授業内の発表等を対象に評価を点数化する。
・担当者間で協議の上、評価を決定する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
ワークシート	○		○	
実習日誌		○		○
報告会発表	○	○	○	○

評価割合

授業内提出物(70%)、報告会発表(30%)
ルーブリックに基づいて評価する。ルーブリックは授業内に提示する。

使用教科書名(ISBN番号)

使用せず

参考図書

文部科学省「幼稚園教育要領」、「幼稚園教育要領解説書」
文科省、厚労省、内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書」
東京家政学院大学現代生活学部児童学科「初等教育実習A 実習の手引き」

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】・児童学を構成する 6 領域 「子どもの保育」「子どもの 教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に 理解し、子どもに関する専門 的な知識が修得できている。
【思考・判断】・子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、 具体的・実践的な機会を通し て、自ら様々な課題に柔軟に 対応できる。
【関心・意欲・態度】・子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿 勢・態度を身につけている
【技能・表現】・保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュ ニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー

中田：前期は火曜日1,5限、後期は火曜日3,4限
末松：前期火曜２限、後期月曜３限

学生へのメッセージ

本授業は、幼稚園での実習が実りあるものとなるための大切な授業です。毎回の授業内容を確実に理解し、身につけ、疑問点はその都度解決するようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員のうち1名は、幼稚園で教諭として実務経験を有しており、実習の意義、幼稚園における幼児の姿の観察・記録・指導計画の作成等、全般について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	幼稚園での見学実習では、実際に幼稚園を訪問し、幼児と関わりながら観察する。また、実習報告会の準備及び実施の過程において、自らの経験を振り返りながら、学生同士の意見交換を行う。
情報リテラシー教育	○	幼児に適した保育内容について、文献等の資料の収集及び調査し、参照しながら、園生活の流れに適した内容を考え、指導計画を作成する。
ICT活用	○	幼児の姿や幼稚園生活の実際を理解するために、画像や動画を用いた授業を行う。

講義コード	610042002
講義名	初等教育実習指導（幼：4年次）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	3,4年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	中田 範子	指定なし
教授	吉永 早苗	指定なし
助教	末松 加奈	指定なし

ナンバリング

Y34006M11

授業概要(教育目的)

幼稚園における初等教育実習に先立って行う事前指導と、教育実習が終了してから行う事後指導が含まれる授業である。実習の意義や実習生としての立場と心得、教育実習生としての勤務の在り方を理解することを目的とする。また、学生が幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容と保育の実際との関連について理解を深めながら、幼児の発達に応じた保育者の援助、保育内容等についての留意事項を学び、実習の成果を高めようとするものである。

履修条件

「初等教育実習A」を履修し、幼稚園教育免許を取得する者

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	実習の意義や実習生としての基本的な態度について理解し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	幼児に適した保育内容であることを考え、判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	初等教育実習A及びBを通して学んだことを省察し、今後に向けた課題を見出し自覚化する。
技術・表現の観点 (A)	実習に向けて幼児の発達段階に応じた保育内容を考え、指導計画の作成に適した文章で表現できる。

学習計画

第1回	授業テーマ	初等教育実習Bに向けて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	初等教育実習Bでの学修内容を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	主活動の内容案作成のための資料を収集する。
	教室外学習の時間（分）	170
第2回	授業テーマ	初等教育実習Bガイダンス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	初等教育実習Bの概要を理解し、課題を見出し、自覚化する。また、初等教育実習Bの実習園の概要を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	初等教育実習Aの日誌を復習し、自らの課題についてまとめる。決定した実習園について園パンフレット等の資料をもとに園の概要を理解し、日誌「実習園の概要」を記入する。
	教室外学習の時間（分）	170
第3回	授業テーマ	部分実習指導案の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児に適した保育内容に関する資料をもとに、指導案を考案し作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導案の作成及び検討する。
	教室外学習の時間（分）	170
第4回	授業テーマ	全日実習の意義・概要
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全日実習の意義と概要を理解し、主活動内容案を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	添削された部分実習指導案を確認・修正し、全日実習指導案の作成及び検討をする。
	教室外学習の時間（分）	170
第5回	授業テーマ	指導計画の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全日実習指導案の作成及び、実際を想定した演習を通して検討を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で行った演習をもとに、全日実習指導案を確認・修正する。
	教室外学習の時間（分）	170
	授業テーマ	実践と省察
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	保育におけるPDCAサイクルについて理解する。

第6回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業で行った幼児の姿と自らのかかわりを通した省察について復習し、初等教育実習Aの日誌や見学実習記録を手掛かりに記録の省察部分のよりよい記入の方法について考える。
	教室外学習の時間(分)	170
第7回	授業テーマ	初等教育実習Bの振り返り ・実習報告会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	初等教育実習Bを省察し、新たな目標を設定する。実習報告会を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習報告会の発表内容と発表方法を各グループで討議し、資料を作成する。
	教室外学習の時間(分)	170

学習計画注記

やむを得ない事情で授業を欠席する場合には、授業内容や配付物等を自分で確認すること。また、必要に応じて個別の対応を行う。

学生へのフィードバック方法

提出されたワークシート、指導案等は、すべて確認し添削する。また、必要に応じて個別の指導を行う。

評価方法

・ワークシート、指導案等の提出物、及び授業内の発表等を対象に評価を点数化する。
・担当者間で協議の上、評価を決定する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
ワークシート	○	○	○	
部分実習指導案	○	○		○
全日実習指導案	○	○		○
実習日誌	○	○	○	○

評価割合

授業内提出物(70%)、報告会発表(30%)
ルーブリックに基づいて評価する。ルーブリックは授業内に提示する。

使用教科書名(ISBN番号)

使用せず

参考図書

文部科学省「幼稚園教育要領」、「幼稚園教育要領解説書」
文科省、厚労省、内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書」
東京家政学院大学現代生活学部児童学科「初等教育実習A 実習の手引き」「初等教育実習B 実習の手引き」

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】・児童学を構成する 6 領域「子どもの保育」「子どもの 教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に 理解し、子どもに関する専門 的な知識が修得できている。
【思考・判断】・子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、 具体的・実践的な機会を通し て、自ら様々な課題に柔軟に 対応できる。
【関心・意欲・態度】・子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿 勢・態度を身につけている
【技能・表現】・保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュ ニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー

火曜3限(中田)

学生へのメッセージ

本授業は、幼稚園での実習が実りあるものとなるための大切な授業です。実習園により、記録や計画の方法が異なるため、それに対応できるように、自分から学ぶ姿勢を持ってください。また、毎回の授業内容を確実に理解し、身につけ、疑問点はその都度解決するようにしてください。
4年次に幼稚園実習をしない学生のうち、幼稚園教諭免許取得を希望する学生は、この授業の履修は必修となります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員のうち1名は、幼稚園で教諭として実務経験を有しており、実習の意義、幼稚園における幼児の姿の観察・記録・指導計画の作成等、全般について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	幼稚園での見学実習では、実際に幼稚園を訪問し、幼児と関わりながら観察する。また、実習報告会の準備及び実施の過程において、自らの経験を振り返りながら、学生同士の意見交換を行う。
情報リテラシー教育	○	幼児に適した保育内容について、文献等の資料の収集及び調査し、参照しながら、園生活の流れに適した内容を考え、指導計画を作成する。
ICT活用	○	幼児の姿や幼稚園生活の実際を理解するために、画像や動画を用いた授業を行う。

講義コード	610043001
講義名	初等教育実習Ａ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	末松 加奈	指定なし
教授	中田 範子	指定なし
教授	吉永 早苗	指定なし
非常勤講師	越山 沙千子	指定なし
非常勤講師	兼重 祐子	指定なし
非常勤講師	新家 智子	指定なし
非常勤講師	田島 大輔	指定なし
非常勤講師	沼澤 由佳子	指定なし

ナンバリング

Y34007M13

授業概要(教育目的)

日々子どもたちが生活する幼稚園において、子ども達の遊びや集団活動等の様子を観察することを中心にした実習である。また、初等教育実習Ｂにつなげる実習でもあり、適宜、子ども達と実際に関わることを通した観察や、部分実習等を行う。こうした実習を通して、幼稚園教育の実際を体験し、幼稚園生活や子どもと保育の実態を理解するとともに、初等教育実習Bへ向けての課題の抽出と目標の設定へとつなぐことを目的とする。

履修条件

初等教育実習指導(幼)を履修していること。学生便覧に定める実習参加基準を満たしていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	幼稚園において幼児との関わりを体験しながら、幼児の発達の様子や、保育環境の構成、保育内容等を理解し、幼稚園教諭や他の教職員の役割に気付き、理解を深める

思考・判断の観点 (K)	子どもを取り巻く家庭・地域に対する幼稚園や保育者の役割について考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日々の保育の省察をもとに積極的に実習課題を見出だし、実践する。
技術・表現の観点 (A)	子どもの気持ちに寄り添いながら、保育者として適切に援助し、関わることができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の配属園に赴き、配属園の概要や必要な準備等について話を伺う
	教室外学習(予習・復習)の内容	オリエンテーションの内容を日誌に記入し、ピアノの練習、読み聞かせをする絵本の選定等、必要な準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60
第2回	**授業テーマ**	観察実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60
第3回	**授業テーマ**	観察実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60
	授業テーマ	観察実習
	学習内容(ｱｸﾃｨ	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習

第4回	**ﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60
第5回	**授業テーマ**	観察実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60
第6回	**授業テーマ**	観察実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60
第7回	**授業テーマ**	観察実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60
	授業テーマ	観察実習

第8回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60
第9回	**授業テーマ**	観察実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60
第10回	**授業テーマ**	観察実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60
第11回	**授業テーマ**	観察実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。

	教室外学習の時間（分）	60
第12回	**授業テーマ**	観察実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60
第13回	**授業テーマ**	観察実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習の時間（分）	60
第14回	**授業テーマ**	反省会・事後指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習終了後に日誌を配属園に提出し、園からの事後指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習全体を通して学んだ内容や事後指導での指導内容を復習し、振り返りシートに記入し、大学に提出する。
	教室外学習の時間（分）	60
第15回	**授業テーマ**	保育の省察
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習を通して学んだことを日誌にまとめ、自己の保育を振り返り課題を見出す。日誌をすべて記入し、実習園からのコメントをいただいた後で、大学へ提出する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	初等教育実習Bに向けた課題を見出し、準備を進める。
	教室外学習の時間（分）	60

学習計画注記

各実習園の状況により、配属クラス、部分実習の内容等が異なるため、各自でよく確認してください。

学生へのフィードバック方法

提出された、実習日誌、振り返りシート等は、すべて確認し添削する。また、必要に応じて個別の指導を行う。

評価方法

・実習園からの評価(3段階評価、全9項目及び総合評価)、実習日誌等の提出物を点数化する。
・担当者間で協議の上、評価を決定する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実習園からの評価項目1				○
実習園からの評価項目2			○	
実習園からの評価項目3	○		○	
実習日誌		○		○
振り返りシート		○	○	

評価割合

実習園から評価(60%)及び提出物(実習日誌を含む)(40%)

使用教科書名(ISBN番号)

使用せず

参考図書

東京家政学院大学現代生活学部児童学科「初等教育実習A 実習の手引き」「初等教育実習A 実習日誌」

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学を構成する 6 領域 「子どもの保育」「子どもの 教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に 理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、 具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に 対応できる。
【関心・意欲・態度】子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿 勢・態度を身につけている。
【技能・表現】保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュ ニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー

中田：前期は火曜日1,5限、後期は火曜日3,4限
末松：前期火曜２限、後期月曜３限

学生へのメッセージ

実習園の方針をよく理解し、積極的に臨むこと。子どもとの関わりを楽しみ、心を動かしながら多くのことを学んでください。

教育等の取組み状況

	該当有	概要

	無	
実務経験を活かした授業	○	担当教員のうち1名は、幼稚園で教諭として実務経験を有しており、実習の意義、幼稚園における幼児の姿の観察・記録・指導計画の作成等、全般について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	実際に幼稚園で幼児と関わりながら実践を通して学ぶ。
情報リテラシー教育	○	幼児に適した保育内容について、文献等の資料の収集及び調査し、参照しながら、園生活の流れに適した内容を考える。
ICT活用	○	配属園により、画像を用いたドキュメンテーションの作成等、活用する場合がある。

講義コード	610044001
講義名	初等教育実習Ｂ
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	3
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	4年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	中田 範子	指定なし
教授	吉永 早苗	指定なし
非常勤講師	兼重 祐子	指定なし
非常勤講師	新家 智子	指定なし
非常勤講師	田島 大輔	指定なし
助教	末松 加奈	指定なし

ナンバリング

Y44008M33

授業概要(教育目的)

実際に教育活動が展開されている幼稚園の中で、園長を始め指導教諭等の指導の下で、観察、保育参加、部分実習、全日実習を3週間にわたって行うものである。この実習を通して、教育として行われる業務に全般的に携わることになる。大学での学習と幼稚園における実践等を関連させて考察しながら、教師としての服務、学級経営、環境の構成や保育者の援助等、総合的な力を身に付けるとともに、教員として相応しい教職観、倫理観、識見を豊かにする。

履修条件

3年次に「初等教育実習A」の単位を修得し、「初等教育実習指導(幼)」を履修していること、「学生便覧」の定める実習参加基準を満たしていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	幼稚園において、幼児の姿を受け止め、関わることを通して、子ども一人ひとりに応じた援助の在り方を理解する。
思考・判断の観点 (K)	長期的及び短期的な保育のねらいと方法、内容の関連について実践を通して具体的に考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもの様子や自分自身の子どもとのかかわりや援助の方法を省察することにより、課題を明確にして取り組む。
技術・表現の観	幼稚園における幼児の遊びや活動が充実するような保育者としての援助や

点 (A)	環境構成等の保育技術を身につけ、実践する。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	各自の配属園に赴き、配属園の概要や必要な準備等について話を伺う
	教室外学習(予習・復習)の内容	オリエンテーションの内容を実習日誌に記入し、必要な準備を行う。
	教室外学習の時間（分）	60
第2回	**授業テーマ**	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60
第3回	**授業テーマ**	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60
第4回	**授業テーマ**	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60
第5回	**授業テーマ**	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60
	授業テーマ	本実習
		・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について

第6回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60
第7回	授業テーマ	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60
第8回	授業テーマ	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。

	教室外学習の時間（分）	60
第9回	**授業テーマ**	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60
第10回	**授業テーマ**	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60
	授業テーマ	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教ICT	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作

第11回	**育・　活用を含む)**	り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間(分)	60
第12回	**授業テーマ**	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間(分)	60
第13回	**授業テーマ**	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間(分)	60

第14回	授業テーマ	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間(分)	60
第15回	授業テーマ	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間(分)	60
第16回	授業テーマ	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しなが

		ら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60
第17回	**授業テーマ**	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60
第18回	**授業テーマ**	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60
	授業テーマ	本実習
		・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子ど

第19回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	もと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間(分)	60
第20回	**授業テーマ**	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間(分)	60
第21回	**授業テーマ**	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。

	容	
	教室外学習の時間（分）	60
第22回	授業テーマ	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60
第23回	授業テーマ	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60
	授業テーマ	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。

第24回	**報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間(分)	60
第25回	**授業テーマ**	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間(分)	60
第26回	**授業テーマ**	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間(分)	60

第27回	授業テーマ	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60
第28回	授業テーマ	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60
第29回	授業テーマ	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しなが

		ら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60
第30回	**授業テーマ**	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60
第31回	**授業テーマ**	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60
	授業テーマ	本実習
		・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子ど

第32回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	もと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間(分)	60
第33回	**授業テーマ**	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間(分)	60
第34回	**授業テーマ**	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。

	容	
	教室外学習の時間（分）	60
第35回	授業テーマ	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60
第36回	授業テーマ	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60
	授業テーマ	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。

第37回	**報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60
第38回	**授業テーマ**	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60
第39回	**授業テーマ**	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60

第40回	授業テーマ	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60
第41回	授業テーマ	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60
第42回	授業テーマ	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しなが

		ら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60
第43回	**授業テーマ**	本実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60
第44回	**授業テーマ**	反省会・事後指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習終了後に日誌を配属園に提出し、園からの事後指導を受ける。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習全体を通して学んだ内容や事後指導での指導内容を復習し、振り返りシートに記入し、大学に提出する。
	教室外学習の時間（分）	60
第45回	**授業テーマ**	保育の省察
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習を通して学んだことを日誌にまとめ、自己の保育を振り返り課題を見出す。日誌をすべて記入し、実習園からのコメントをいただいた後で、大学へ提出する。
	教室外学習(予習・	

	復習)の内容	自己の課題を見出し、よりよい社会人、保育者となるための準備をする。
	教室外学習の時間（分）	60

学習計画注記

実習園の方針により、実習内容や配属クラスが異なるため、各自でよく確認してください。

学生へのフィードバック方法

提出された、実習日誌、振り返りシート等は、すべて確認し添削する。また、必要に応じて個別の指導を行う。

評価方法

・実習園からの評価(3段階評価、全9項目及び総合評価)、実習日誌等の提出物を点数化する。
・担当者間で協議の上、評価を決定する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実習園からの評価項目1		○	○	○
実習園からの評価項目2			○	
実習園からの評価項目3				○
実習日誌	○	○		○
振り返りシート		○	○	

評価割合

実習園から評価(60%)及び提出物(実習日誌を含む)(40%)
ルーブリックに基づいて評価する。ルーブリックは授業内に提示する。

使用教科書名(ISBN番号)

使用せず

参考図書

東京家政学院大学現代生活学部児童学科「初等教育実習B 実習の手引き」

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】・児童学を構成する 6 領域「子どもの保育」「子どもの 教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に 理解し、子どもに関する専門 的な知識が修得できている。
【思考・判断】・子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、 具体的・実践的な機会を通し て、自ら様々な課題に柔軟に 対応できる。
【関心・意欲・態度】・子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿 勢・態度を身につけている。
【技能・表現】・保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュ ニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー

火曜3限

学生へのメッセージ

実習園の方針をよく理解し、積極的に臨むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員のうち1名は、幼稚園で教諭として実務経験を有しており、実習の意義、幼稚園における幼児の姿の観察・記録・指導計画の作成等、全般について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	実際に幼稚園で幼児と関わりながら実践を通して学ぶ。
情報リテラシー教育	○	幼児に適した保育内容や指導案の作成について、文献等の資料の収集及び調査し、参照しながら、園生活の流れに適した内容を考える。
ICT活用	○	配属園の方針により、画像を用いたドキュメンテーションの作成等、活用する場合がある。

講義コード	610045001
講義名	教職実践演習（中等）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	4年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	河田 敦子	指定なし

ナンバリング

Y40102M22

授業概要(教育目的)

大学4年間で学んだ知識と教育実習などで得られた教科指導力や生徒理解力や指導力の実践力とのさらなる統合を図り、教師としての使命感や責任感に基づく、教師としての資質形成を目的とする。教育実習で指摘された改善点に取り組み、教師としての能力を更に高める時間としたい。おもな授業形態は、講義や演習、模擬授業、ロールプレイ、学校見学などを組み合わせ、実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱う。

履修条件

教育実習AまたはBを履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	教育に関する基礎的知識、家庭科教員としての専門的知識をある程度有し、また、知識・理解が不足している時に、その知識に関する調べ方がわかっている。
思考・判断の観点 (K)	生徒への対応が、教育者として思慮深く、客観的な判断基準を有している。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教育や家族・家庭について常に関心を持ち、向上心と研究意欲をもって、より良い教育者になろうとする意欲があり、教師としてふさわしい態度は何かを考えることができる。
技術・表現の観点 (A)	・生徒にわかり易く、生徒の興味・関心を惹き出すような学びのプログラムを企画する能力がある。 ・声・文字・身振り等を通して、相手に伝える表現力がある。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	教職課程の集大成として4年間を振り返り、教育実習で指摘されたこと等を克服して、履修カルテを完成させることが本演習の目的であることを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家庭科は生活科学なので、日々情報入手にアンテナを張り、次世代を育てられる知識量を見に付けること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	教職と教育実習に関するディスカッション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教職課程全体と教育実習を振り返り、どのような点を今後努力していくべきかを学生間でディスカッションし、確認し合う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	中学高等学校で公開されている授業を積極的に参観すること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	自らの反省に基づく授業改善計画の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	履修カルテを記入しながら、自分が苦手とする分野がどこなのかを確認し、できるだけその苦手分野の模擬授業を本演習で実施することが望ましい。あるいは、実習先で研究公開授業として行った授業をお互いに見せ合うことによって、専門性の高い授業を学び合う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	日々、家庭科に関わる情報の入手と学習に心がける。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	授業力向上のための教材研究・学習会（被服分野 人数によって変動する）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	被服分野を模擬授業に選んだ学生の授業に参加しながら、様々な意見を出し合い、より良い授業ができるように学び合う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	中学高等学校が公開している授業をできるだけ参観すること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	授業力向上のための教材研究・学習会（食分野 人数によって変動する）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食分野を模擬授業に選んだ学生の授業に参加しながら、様々な意見を出し合い、教材研究・学習会を行う。より良い授業ができるように学び合う。
	教室外学習(予習・復習)の内	調理実習は、模擬授業ではなかなかできないので、教育実習で担当し

	容	たことを克明に記録しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	授業テーマ	授業力向上のための教材研究・学習会（住分野 人数によって変動する）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	住分野を模擬授業に選んだ学生の授業に参加しながら、様々な意見を出し合い、教材研究・学習会を行う。将来より良い授業ができるように学び合う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	防災や災害時の安全管理についても再度確認しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	授業テーマ	授業力向上のための教材研究・学習会（家族分野 人数によって変動する）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家族・保育分野を模擬授業に選んだ学生の授業に参加しながら、様々な意見を出し合い、教材研究・学習会を行う。将来より良い授業ができるように学び合う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	保育分野は、近年教育実習で行うことが多く、教える内容も増えてきている。充分に学習を積んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	授業テーマ	授業力向上のための教材研究・学習会（環境・消費者問題 人数によって変動する）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	環境・消費者問題を模擬授業に選んだ学生の授業に参加しながら、 様々な意見を出し合い、教材研究・学習会を実施する。将来よりよい授業ができるように学び合う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	環境・消費者問題は今社会でも大きな問題になっている。社会で起きていることに敏感になり、正確な情報を次世代に伝えられるように学習すること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	授業テーマ	学級経営
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校における生徒の基礎的な生活集団である学級･ホームルームの活動(特別活動)を通した生徒指導のあり方を、教育実習を振りかえり深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文部科学省「生徒指導提要」などを読む。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	教員間のコミュニケーション
	学習内容(ｱｸﾃｨ	

第10回	ﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教師同士の協力が教師を育てること、情報交換が生徒指導に役立つことを、教育実習で体験した学校行事（特別活動）などの事例を振り返り学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文部科学省「学習指導要領解説 特別活動論」などを読む
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	授業テーマ	学校訪問・見学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公開授業を実施している学校を訪問する。あるいは、別の日に公開授業を参観したことで本時の振り替えとする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	基本的に教室外学習である。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	授業テーマ	家庭科教師と現代社会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本時は、家庭科教員を長く勤められた方をお招きして現場の様子や実体験をお話頂く予定である。
	教室外学習(予習・復習)の内容	家庭科教員になるために聴いておきたい質問事項等準備しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	授業テーマ	これからの家庭科教育（ディスカッション）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本演習を通して学んだこと、教職課程を通して学んだこと等を振り返り、ディスカッションを行う。履修カルテを完成させる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の不得意分野に就いてはよく学習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	授業テーマ	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	履修カルテを提出し、教員となるための心構えを発表し合う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	履修カルテをしっかり完成させておくこと。
	教室外学習の	60分

	時間（分）	

学習計画注記

特になし

学生へのフィードバック方法

履修カルテ、教育実習ノートにコメントして返却する。

評価方法

授業参加の姿勢、各授業ごとの話し合いの姿勢の評価。模擬授業の評価。レポート課題の評価など、総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業参加の姿勢		○	○	
模擬授業	○	○	○	○
履修カルテ		○	○	

評価割合

授業参加の姿勢（30%）、模擬授業（40%）、履修カルテ（30%）

使用教科書名(ISBN番号)

特に指示しない。各講義中で、参考文献を明示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「衣」「住」「家庭科教育」の各分野について、専門的知識・技術を有している。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って、責任を果たすことができる。
【技能・表現】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。
・社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。

オフィスアワー

アポイントメントにより時間調整を行うこと。

学生へのメッセージ

教職課程を履修したことが自分の人生にどのように活かされるのか、本当に、教師になりたいのかどうか、真剣に考えてください。いずれは教師への道を選ぶ、という態度もあってよいです。自分の中の教師への志望の意思をある程度明確にされることを希望します。教員という仕事に伴う社会的責任を自覚しながら、自らの人生の歩みを確かなものにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	家庭科教員経験のある方をお招きしてお話して頂く。
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業、ディスカッション
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	610045031
講義名	教職実践演習（中等）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	4年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	北見 由奈	指定なし

ナンバリング

Y40102C22

授業概要(教育目的)

大学4年間で学んだ学習知と教育実習などで得られた教科指導力や生徒理解力・生徒指導力の実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任感に裏打ちされた教師としての資質形成を目的とする。おもな授業形態は、講義や演習、発表。ロールプレイなどを組み合わせ、実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	教師としての使命感や責任感と教育的愛情を理解し、保護者や同僚教師（管理職を含めて）との共同協力の必要性を理解することに加え、自己理解を深めること
思考・判断の観点 (K)	教育現場で生じている問題に気付き、教師として必要な能力と技術について思考すること
関心・意欲・態度の観点 (V)	教師としての能力の形成を具体的に実感できるようになること
技術・表現の観点 (A)	保護者や同僚教師（管理職を含めて）との共同協力を進める関係能力、児童・生徒理解や学級経営能力、教科内容の指導力、表現力やコミュニケーション能力を得ること

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ	

第1回	ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教職の使命について
	教室外学習(予習・復習)の内容	なぜ、教職を志望したのか、そのメモ化。教育実習に行った感想ノート作成。
	教室外学習の時間（分）	100
第2回	授業テーマ	履修カルテの完成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	履修カルテとは何かをあらためて理解し、必要事項を記入する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	履修カルテの記入に必要な資料をそろえることを予習とする（90分）。授業後、履修カルテのうち、完成できていない部分について記入し、必要事項が全て記入された履修カルテを見て、教職課程での4年間を各自振り返る（90分）。
	教室外学習の時間（分）	100
第3回	授業テーマ	教職課程での学びに関するふりかえり（個人）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分にとって、教職課程での学びとは何だったのか、今後どう活かしていくのかを考える。考えた内容は、パワーポイントにまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教職課程で学んだ4年間を振り返るのに必要な資料をそろえることを予習とする（90分）。まとめたパワーポイントを基に、小グループで共有する方法を検討する（90分）。
	教室外学習の時間（分）	100
第4回	授業テーマ	教職課程での学びに関するふりかえり（小グループ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前の回に各自でまとめた「教職課程での学び」を小グループで共有する。その後、同じグループで「教職課程での学び」についてグループワークを行い、自分たちの変化、成長への気づきを深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作成したプレゼンテーションを、わかりやすくプレゼンテーションできるようにすることを予習とする（90分）。小グループで共有したグループメンバーのプレゼンテーションから、教職課程での4年間を各自振り返る（90分）。

	教室外学習の時間（分）	100
第5回	**授業テーマ**	教職課程での学びに関するふりかえり（全体）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前の回に各小グループで行った「教職課程での学び」に関するグループワークの結果を全体で共有する。また、第2回目から5回目までの授業を振り返り、グループワークの組み立てについても学ぶ。最後に、「教職課程での学び」を共通体験として、自分たちの変化、成長への気づきをさらに深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前の回に行ったグループワークから自分が得たことを、適切に表現できるようにすることを予習とする（90分）。気づいた自分の成長を、継続的に伸ばし、社会で活かす方法を考える（90分）。
	教室外学習の時間（分）	100
第6回	**授業テーマ**	学校経営と実習校訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習の振り返り、学級経営の課題と教師の任務
	教室外学習(予習・復習)の内容	併校訪問のためのキャリア教育（中学生）を語る準備
	教室外学習の時間（分）	100
第7回	**授業テーマ**	学校経営と実習校訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習の振り返り、学級経営の課題と教師の任務
	教室外学習(予習・復習)の内容	併校訪問のためのキャリア教育（中学生）を語る準備、中学生の部活動について、教師の部活動指導の実態に関するメモと資料収集
	教室外学習の時間（分）	100
	授業テーマ	学校経営と実習校訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	教育実習の振り返り、学級経営の課題と教師の任務

第8回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	併校訪問のためのキャリア教育（中学生）を語る準備、現在の中学生の進路選択のついて資料収集
	教室外学習の時間（分）	100
第9回	授業テーマ	学校経営と実習校訪問、併校訪問
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学級経営の課題と教師の任務、併校訪問、キャリア教育の実施、併校教師との懇談、学校経営について、生徒の実態と進路状況など、
	教室外学習(予習・復習)の内容	併校訪問のためのキャリア教育（中学生）を語る準備、中学生時代の自分の生き方の振り返り、現在の進路選択における自己教養形成についての考察ノート作成、
	教室外学習の時間（分）	100
第10回	授業テーマ	持続可能な社会と家庭科教育 1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科教員になるために学んだ専門の学習知と、教育実習などで得られた家庭科指導力、地域や生徒の生活への理解力などの実践知を統合し、持続可能な社会・生活につながるエシカル消費などに裏打ちされた家庭科について、実際の生活現場を想定した教育課題を取り扱う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	SDG s など持続可能な社会にむけての家庭科教育で行われている実践事例について、調べる。
	教室外学習の時間（分）	100
第11回	授業テーマ	持続可能な社会と家庭科教育 2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シェアリングエコノミーなど、あらたな生活環境が出現しているなかでの家庭科教育を考える。若者の生活設計や家庭科教員になるために学んだ専門の学習知と、教育実習などで得られた家庭科指導力、地域や生徒の生活への理解力などの実践知を統合し、持続可能な社会・生活につながる、使命感や責任感に裏打ちされたかていかきょういくについて、実際の生活現場を想定した教育課題を取り扱う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	SDG s など持続可能な社会にむけての家庭科教育で行われている実践事例について、調べる。
	教室外学	

	習の時間（分）	100
第12回	**授業テーマ**	持続可能な社会と家庭科教育３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	贈与経済を中心に、家庭科教員になるために学んだ専門の学習知と、教育実習などで得られた家庭科指導力、地域や生徒の生活への理解力などの実践知を統合し、持続可能な社会・生活につながる、使命感や責任感に裏打ちされた家庭科の授業実践を例に、実際の生活現場を想定した授業案を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	東京家政学院大学の先輩家庭科教師が、持続可能な社会にむけて行っている家庭科教育実践について話をきき調べる。
	教室外学習の時間（分）	100
第13回	**授業テーマ**	持続可能な社会と家庭科教育４
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人生100年時代の家族・地域・農業など家庭科教員になるために学んだ専門の学習知と、教育実習などで得られた家庭科指導力、地域や生徒の生活への理解力などの実践知を統合し、持続可能な社会・生活につながる、実際の生活現場を想定した教育課題を取り扱う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	SDG ｓなど持続可能な社会にむけての家庭科教育で行われている実践事例について、調べる。
	教室外学習の時間（分）	100
第14回	**授業テーマ**	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教職の使命と課題、大学4年間の教養形成と教育実習での「成果」
	教室外学習(予習・復習)の内容	常勤、非常勤など、今後の教職への準備に必要なことの整理。非常勤講師の状態に関する資料集など、
	教室外学習の時間（分）	100

学生へのフィードバック方法

演習と講義、見学などを通じ、担当教員と学生とで意見を交わす。必要に応じて提出物を貸し、これに基づいて学生と教員とで意見を交わす。

評価方法

学習目標への到達度を問う成果物の提出やレスポンスシートで総合的に評価する。なお、成績

はルーブリックにもとづいて評価する。ルーブリックは授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業への姿勢	○	○	○	○
レスポンスシート	○		○	○
学期末試験	○	○	○	○

評価割合

授業への姿勢（グループワーク、発表、模擬授業）50%、レスポンスシート20%、学期末試験30%による総合評価。

使用教科書名(ISBN番号)

特に使用はしない。授業の中で、その都度、参考文献を指示する。

オフィスアワー

後期：水曜日３限（13：20～15：00）千代田三番町キャンパス1805室

学生へのメッセージ

4年間の教職科目の締めくくりの講義である。
自分自身が本当に教職に向いているのかどうか、真剣に確かめてほしい。
教職を目ざすのなら、3・4年はあきらめず、採用試験を突破して、専任の道を目ざす、そういう「意思」を持てるのかどうか。自ら、答えを出してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを用い、自らの成長への気づきを促す。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	プレゼンテーションの作成やグループワークにおいては、パソコンや写真、動画を活用し、内面的なふりかえりにとどめず、客観的な姿を見ることで、より深い気づきを促す

講義コード	610046001
講義名	教職実践演習（栄養：人間栄養）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	小野 方資	指定なし
教授	酒井 治子	指定なし
准教授	吉野 知子	指定なし
准教授	辻 雅子	指定なし

ナンバリング

Y40501C22

授業概要(教育目的)

大学4年間で学んだ知識と教育実習などで得られた栄養を中心とする教科指導力や生徒理解力及び指導力とのさらなる統合をはかり、使命感や責任感に裏打ちされた栄養教諭としての現場に出ていくための資質形成を目的にする。おもな授業形態は、講義、演習、模擬授業発表会（ロールプレイ）、実践演習として学校での訪問見学などを組み合わせ、実際の教育現場で遭遇する事案等を想定した教育課題について取り扱い演習を行う事を目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	栄養教諭として現場で必要な知識を理解し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	栄養教諭として現場で、児童生徒に適切な指導について自ら考え、判断し、説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養教諭として行く教育実習に、意欲関心をもって積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	食に関する指導の実施において専門的知識と技能をもって、コミュニケーション力とプレゼンテーション力で適切に表現することができる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	使命感や責任感に裏打ちされた栄養教諭としての現場に出ていくための資質形成を目的とした演習についてガイダンスで理解する。（担当：辻）
	教室外学習(予習・復習)の内容	履修カルテの記入整理をしておく
	教室外学習の時間（分）	100分
第2回	授業テーマ	教職の意義と教師の役割、使命感についての講義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教職の意義と教師の役割、使命感について理解する。（担当：小野）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教職の意義と教師の役割、使命感について栄養教育実習の振り返りを行っておく。
	教室外学習の時間（分）	100分
第3回	授業テーマ	これまでの4年間の学修の振り返りと教職の使命・意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの4年間の学修の振り返りとともに教職の使命・意義と教師の役割について理解する。（担当：小野）
	教室外学習(予習・復習)の内容	履修カルテの記入と栄養教育実習の振り返りをまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	100分
第4回	授業テーマ	教師の使命感について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教師の使命感についての討議を行う。（担当：小野）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教師の使命感について栄養教育実習の振り返りを行っておく。
	教室外学習の時間（分）	100分
第5回	授業テーマ	子ども理解の課題についての討論
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもについて理解を深めるために子ども観の課題について理解する（担当：小野）
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教育実習で関わった児童・生徒の状況について振り返りを行っておく。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	授業テーマ	子ども理解・子ども観について事例研究・討議
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子ども理解・子ども観について事例研究・討議をおこなう（担当：辻）
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教育実習で関わった児童・生徒の状況について振り返りを行っておく。
	教室外学習の時間（分）	100分
	授業テーマ	地域保護者との共同関係の構築について講義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域保護者との共同関係の構築について講義を行う（担当：酒井）

第7回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教育実習の現場における地域保護者との連携について振り返りを行っておく
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	授業テーマ	教育現場における給食運営について講義と討議
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育現場における給食運営について講義と討議をおこなう（担当：吉野）
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教育実習の現場における給食運営について振り返りを行っておく
	教室外学習の時間（分）	100分
第9回	授業テーマ	栄養教育の教職模擬授業発表会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育の教職模擬授業の発表会を実施する（担当：辻）
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教育実習で実施した研究授業のまとめを行う
	教室外学習の時間（分）	250分
第10回	授業テーマ	栄養教育実習校における実践演習①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深める
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深めるために事前準備をすること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第11回	授業テーマ	栄養教育実習校における実践演習②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深める
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深めるために事前準備をすること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第12回	授業テーマ	栄養教育実習校における実践演習③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深める
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深めるために事前準備をすること。
	教室外学習の時間（分）	60分
第13回	授業テーマ	栄養教育実習校における実践演習④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深める
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深めるために事前準備をすること。

	教室外学習の時間（分）	60分
第14回	**授業テーマ**	資質能力のまとめと確認
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教諭としての資質能力のまとめと確認を行う。（担当：小野）
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教諭としての資質能力のまとめを行い、自分自身の教諭としての資質の確認を行う。
	教室外学習の時間（分）	60分

学習計画注記

本演習はオムニバスで複数の教員にて担当するため、欠席などしないように気を付けること。

学生へのフィードバック方法

基本的に、質問は各担当教員のオフィスアワーの時間等を活用すること。その際に各学生にフィードバックする。
全体に返す必要があるものは授業前後の時間を使用して全体へフィードバックする。

評価方法

・各担当教員の授業・演習等の取り組み姿勢や模擬授業発表会及び平常点で評価する。（平常点は授業への参加状況や演習へのグループワーク等への態度や模擬授業発表会への参加状況や態度で総合的に評価する）
・出席日数が3分の2以上なければ成績評価を受けることはできない。
・遅刻3回は欠席1回とみなす。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
模擬授業発表会	○	○	○	○
グループワーク	○	○	○	○
学校見学報告書	○	○	○	

評価割合

平常点５０％、模擬授業発表会３０％、その他学校における実践演習の報告書作成２０％（平常点は授業への参加状況や演習へのグループワーク等への態度や模擬授業発表会への参加状況や態度で総合的に評価する）

使用教科書名(ISBN番号)

テキストは指定しない。配布資料等は随時担当教員が紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】栄養教諭として現場で必要な知識を理解し、説明できる事に該当。
【思考・判断】栄養教諭として現場で、児童生徒に適切な指導について自ら考え、判断し、説明できる事に該当。
【関心・意欲・態度】栄養教諭として行く教育実習に、意欲関心をもって積極的に参加できる事に該当。
【技術・表現】食に関する指導の実施において専門的知識と技能をもって、コミュニケーション力とプレゼンテーション力で適切に表現することができる事に該当。

オフィスアワー

本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、質問等がある場合は各担当教員のオフィスアワーを確認する事。

学生へのメッセージ

現代社会の中の子どもの食をめぐる問題を考え、学校や教師の役割について考えてほしい。栄養問題は重要であるが、教育現場では、もっと広く、例えば農業の実際の問題など、食をめぐる様々な問題を考えてほしい。その上で、栄養教諭はどんな課題を引き受けなければならないのかを考えてもらいたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークや発表を通じて課題発見力・課題解決学習を学ぶ事ができる。
情報リテラシー教育	○	教育現場における情報モラルについて学ぶ事ができる。
ICT活用		

講義コード	610046002
講義名	教職実践演習（栄養：食物）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・4年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	河田 敦子	指定なし
教授	三澤 朱実	指定なし

ナンバリング

Y40501M22

授業概要(教育目的)

栄養教諭教職課程の集大成として位置づけられる演習授業である。4年間の教職課程で学んだことを履修カルテを基に振り替える。教育の基礎理論は身についているか、対児童生徒の成長や発達段階を配慮した指導ができるか、授業の実践力（学習指導案の作成、教材研究、児童生徒とのコミュニケーション）、先生方とのコミュニケーション、指導の先生との関係の作り方等、全体の学びを通して教師としての使命感を高め、実際に教職に就く心構えを教授します。

履修条件

栄養教育実習を履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	栄養教諭として食と教育に関する専門的な知識を持ち、その活用の仕方を理解している。わからないことがあった場合の調べ方がわかっている。
思考・判断の観点 (K)	栄養教諭として食に関する指導をする際に、児童生徒に伝わるような方法を考え、適切な判断をすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養教諭として知識・技能・実践力を身に付けることに積極的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	栄養教諭として食に関する指導をする際に、児童生徒に伝わるような表現力と表現できる技術を身に付けている。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	4年間の教職課程の振り返りと履修カルテの書き方
	教室外学習(予習・復習)の内容	履修カルテの記入を整理しておく
	教室外学習の時間（分）	45分
第2回	**授業テーマ**	授業研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習で実施した模擬授業、教材研究
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育実習で実施した授業をクラスメートの前で実施し、授業方法や教材について話し合い、共有し、理解を深める
	教室外学習の時間（分）	45分
第3回	**授業テーマ**	授業研究①（栄養教育1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習で実施した模擬授業、教材研究 （教育実習で作成した学習指導案を中心に発表・報告する）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育実習で実施した授業をクラスメートの前で実施し、授業方法や教材について話し合い、共有し、理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	45分
第4回	**授業テーマ**	授業研究②（栄養教育2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習で実施した模擬授業、教材研究 （教育実習で作成した学習指導案を中心に発表・報告する）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育実習で実施した授業をクラスメートの前で実施し、授業方法や教材について話し合い、共有し、理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	45分
第5回	**授業テーマ**	子どもの健康と食育③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習で実施した模擬授業、教材研究
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育実習で実施した授業をクラスメートの前で実施し、授業方法や教材について話し合い、共有し、理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	45分
第6回	**授業テーマ**	子どもの健康と食育に
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習で実施した模擬授業、教材研究
	教室外学習(予習・復習)の内容	教育実習で実施した授業をクラスメートの前で実施し、授業方法や教材について話し合い、共有し、理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	45分
第7回	**授業テーマ**	給食運営①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習で実施した給食運営について

	教室外学習(予習・復習)の内容	教育実習で実施した給食運営の留意点について発表し合い、クラスメートと課題等を共有する。
	教室外学習の時間（分）	45分
第8回	**授業テーマ**	栄養教育実習校における実践演習①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学級経営についての講義（実習校）
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	45分
第9回	**授業テーマ**	栄養教育実習校における実践演習②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学級経営についての講義（実習校）
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習校の指導に従う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第10回	**授業テーマ**	栄養教育実習校における実践演習③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校現場の見学調査（地域の小学校へ）（実習校）
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習校の指導に従う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第11回	**授業テーマ**	栄養教育実習校における実践演習④
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校現場の見学、給食調理師との討議（実習校）
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習校の指導に従う。
	教室外学習の時間（分）	45分
第12回	**授業テーマ**	実習校おける実践演習の報告と反省
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	12月までに実習校で実施された実践演習の報告と反省を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表用PPTを準備すること。
	教室外学習の時間（分）	45分
第13回	**授業テーマ**	地域保護者との連携①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育実習で実施した経験をもとに学ぶ合う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	45分
第14回	**授業テーマ**	今後にむけて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	4年間の栄養教諭教職課程を振り返り今後に向けた内容を発表する。履修カルテを提出する。
	教室外学習(予習・復習)の	

	内容	履修カルテを完成させておくこと。
	教室外学習の時間（分）	45分

学習計画注記

教育実習で指導の先生方から注意されたこと、褒められたこと等を整理しておいてください。

学生へのフィードバック方法

履修カルテに大学教員としての所見を記入して返却します。

評価方法

授業への参加状況や態度、教育実習の反省に基づく模擬授業や教材作成の再構築、履修カルテの内容等で評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
模擬授業	○	○	○	○
教材研究	○	○	○	○
取り組む姿勢			○	
履修カルテ	○	○	○	

評価割合

授業への参加状況と態度（30%）、模擬授業・教材研究（40%）、履修カルテの内容（30%）
提出物の締切を守れるかどうかも評価の対象になります。

使用教科書名(ISBN番号)

特に無し

参考図書

特に為し

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】栄養教諭として必要な基本的な知識を有し、栄養教諭の職務の重要性を理解している。
【思考・判断】食について児童生徒に「教える」際に配慮しなければならないことについて、多種多様な情報を整理し、周囲の人々とコミュニケーションを取りながら判断できる。
【関心・意欲・態度】栄養教諭として、探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
【技能・表現】専門的、教育に関する体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力を身に付けている。

オフィスアワー

・事前相談に応じて設定します。misawa@kasei-gakuin.ac.jp
・基本的に、毎週金曜日は研修日のため大学不在です。

学生へのメッセージ

教育実習を修了し、4年次後期になると気も緩みがちになります。教職実践演習は、栄養教諭免許状を取得するための集大成ですので、取り組む姿勢、出席すること、教師となることへの自覚・心構え等が重要になります。しっかりとした態度で臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	現場で活躍されている栄養教諭の方（家庭科の先生になる場合もあります。）をお招きしてお話を聞く機会を設けます。
アクティブ・	○	模擬授業、教材研究、授業見学（コロナ禍のため実施できない場合があ

ラーニング		ります。）
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	610047001
講義名	小学校教職実践演習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	4年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	立川 泰史	指定なし
教授	杉野 学	指定なし
教授	齋藤 義雄	指定なし
助教	末松 加奈	指定なし

ナンバリング

Y44105M22

授業概要(教育目的)

教職課程科目や教育課程外での様々な活動を通じて、学生が身につけてきた資質能力が、教員として最小限度必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認する。
教師として教育の理念を学ぶとともに、実践的な指導力・反省力を身に付け、それらを向上する。
初等教育実習の園や小学校の実習体験、ボランティア活動など、実践的な経験や観察を通して教師としての姿勢・態度・意識、および自ら資質・能力を高める意義について理解する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	今日の教育課題に照らして求められる教師像を理解し、教育者に必要な基礎的・専門的な知識に基づいて主体的に反省・改善に取り組む実践力や必要な視点について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	児童の理解や教育環境の把握に向かう視点をもち、実態に即した指導の改善を検討・判断する教育的な見方・考え方を有する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	児童・保護者・地域や社会の課題に関心をもち、主体的・協働的に課題解決に向かう意欲と姿勢を有する。

技術・表現の観点 (A)	多様な場面の教育目的に則して適切な対応を実践する基本的な能力を有し、児童の個性を尊重して地域に貢献する技術、よりよい生活や学習環境を構築する実行力を発揮できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション、小学校初等教育実習の成果や課題の抽出
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自身の初等教育実習を振り返り、印象に残った実践的課題を抽出する。教師・子ども・教材教具・学習環境などの観点を基に、指導場面やエピソードを踏まえて、前後の文脈を切り取りながらマッピングを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習体験や実習日誌の考察から、多様な問題を整理しておく。 観点１：資質・能力という基礎学力と「思考・判断・表現」の重視について
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	今日求められる教師の資質・能力、「経験や知識を関連付ける」教師のちからに着目して
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもをとりまく社会的背景から今日的な教育課題を抽出し、教師に求められる具体的な資質・能力を考察する。 グループ・トークにより課題を整理し、教師像、子ども理解、教材解釈や開発、学習環境デザイン、などの観点を切り口に問題意識を明らかにする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	抽出した課題を領域（教師・子ども・教材・環境）の中に位置づけて整理しておく。 観点２：教師の資質・能力について
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	教師としてのコミュニケーション能力、子ども理解と関係づくりに着目して
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教師に求められるコミュニケーション能力の特徴について、「コーチング、カウンセリングマインド」などに着目して考察する。学級・学年経営の基盤となる対話力の意味や価値について、グループ・トークや全体発表を通して実感的に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	課題の本質や背景を考察し、解決の手だてを整理しておく。 観点３：教師のコミュニケーション能力について
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	子ども理解に大切なこと、児童の実態を把握する視点と指導に着目して
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	教師による子ども理解が「指導の起点」となることについて、具体的な

第4回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事例をあげて検討する。子ども理解と指導の関連についてグループ・トークを通して考察し、全体発表と協議を通して自他の見方・考え方から理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	子どもの実態を把握し、期待する児童像をもつことからはじまる指導について具体的な事例を見付けておく。また子ども観が単元設定の理由の基盤になることを調べておく。 観点４：子ども理解の深め方
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	授業テーマ	学級経営のポイント、教科指導や生活指導の場面に着目して
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	多面的・継続的な児童理解の重要性について、教師の視点や努力が有意な指導・支援の成果につながる場面について考察する。グループ・トークを通して視野を広げ、理解を深める。とくに、教科指導の場面と学校生活指導・生徒指導の場面に分けて検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	学級経営の重要性、学校経営や学年経営、または専科経営との関わりなどについて基礎的事項を調べたり、より多くの事例へ視野を広げる。 観点５：学級経営のポイントについて
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	授業テーマ	ギガ・スクール構想とICTの活用、次世代の学習環境デザインとデジタルデバイスに着目して
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デジタル・デバイスを学習に活用する環境づくりと、効果的な実践事例について検討する。期待される構造と実社会が対峙する課題についても知り、グループ・トークを通して、より実践的な指導の在り方を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	次世代の人工知能活用やデジタルデータの活用、学習環境に変革をもたらすデバイス開発と社会的背景などについて調べ、具体的な実践について知見を深める。 観点６：グリーン・デジタル、持続可能社会への歩み
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	ICT教育と教育の方法・技術、インフォメーションとコミュニケーションの特徴を生かす捉え方と学習に着目して
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	電子黒板、タブレット型PC、3Dプリンターなどのデジタル・デバイス、大型モニターや従来型の黒板などの教具、ネットワーク環境の構築などについて組み合わせや活用について知見を広げ、それぞれの機能を活かす学習場面や指導事例について検討する。実際にデバイス機器を体験しながらロール・プレイを行うなどして議論を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	現在の教育現場で活用されるICT関連の機器端末について調べ、事例をあげて問題意識を説明できるようにする。 観点７：ICT活用の現在と未来
	教室外学習	

	の時間（分）	180分
第8回	**授業テーマ**	教材解釈と開発、教具の活用、教材研究の視点と学習活動の構成に着目して
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教材解釈と開発の違いや特徴、教材研究の視点が学習活動の構成に密接な関係にあることを理解する事例をあげ、グループ・トークを通して考察を深める。研究授業で活用した教材・教具を紹介しながら具体的・実践的な場面を検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教科の特性や目標と内容にそって、教材教具の適切な運用方法や視点があることを調べ、理解を深めていく。 観点８：教材解釈と開発、教具の活用
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	教師のメンタル・ヘルスとキャリア・ステージ、対人支援職としての教師がもつ使命感や情緒的背景の課題に着目して
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	対人支援という職種の特性や教師に期待される人格や役割を検討することを通して、教員生活を送りながら生涯に渡って向上心を継続するキャリア形成について検討考察する。教員のライフステージや研修制度、職業人として期待される要件などをグループ・トークや事例発表による協議を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	教師のメンタル・ヘルス、自己啓発について情報を集め、わかりやすく整理する。 観点９：期待される教師像と自己啓発について
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	**授業テーマ**	学校と地域・社会教育との連携的課題、互恵的や役割を期待しあう関係に着目して
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域に根ざす教育、特色ある教育実践、地元に開かれた学校、社会教育機関との連携などについて、事例をもとに理解し、具体的な展開やよりよい関係づくりについて検討協議する。グループの事例考察を基に、全体協議の場を通して基礎的な知識と求められる資質・能力を考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	地域に根ざす教育、特色ある教育実践、地元に開かれた学校、社会教育機関との連携などについて、具体的な事例をあげられるようにし、整理する。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	実践的課題と解決を主題とする研究成果発表①、課題を共有するグループによる考察の成果報告と全体協議
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	課題を共有するメンバーで構成したグループごと、実践的な課題について模擬授業を含む成果報告を行う。聞き手は「相互評価票」に気付きや疑問を記述し、全体での質疑応答に役立てる。講評から関連する実践事

第11回	育・ICT活用を含む)	例や問題解決の要件を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループ編成後、成果報告に必要なプレゼン資料、簡単な模擬授業に必要な資料や模擬教材などを準備しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	授業テーマ	実践的課題と解決を主題とする研究成果発表②、課題を共有するグループによる研究考察の成果の報告と協議
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題を共有するメンバーで構成したグループごと、実践的な課題について模擬授業を含む成果報告を行う。聞き手は「相互評価票」に気付きや疑問を記述し、全体での質疑応答に役立てる。講評から関連する実践事例や問題解決の要件を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループ編成後、成果報告に必要なプレゼン資料、簡単な模擬授業に必要な資料や模擬教材などを準備しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	実践的課題と解決を主題とする研究成果発表③、課題を共有するグループによる研究考察の成果の報告と協議
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	課題を共有するメンバーで構成したグループごと、実践的な課題について模擬授業を含む成果報告を行う。聞き手は「相互評価票」に気付きや疑問を記述し、全体での質疑応答に役立てる。講評から関連する実践事例や問題解決の要件を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループ編成後、成果報告に必要なプレゼン資料、簡単な模擬授業に必要な資料や模擬教材などを準備しておく。
	教室外学習の時間（分）	270分
第14回	授業テーマ	「教職履修カルテ（小学校編）」の確認と総合的まとめ、教育の今日的課題・求められる教師像に基づく教職観
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「履修カルテ」に示された観点を基に、これまでに履修した教職科目の目標到達度を自己評価する。自己評価の平均値を基に視覚化される結果を参照し、自身の今後の課題を明確にする。今日の教育的課題に対応して求められる教師像を捉え、自己教育力を高める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	履修カルテに記述する科目、各履修科目の成績及び成果と課題などの情報を整理し、自分の教師像を明確にする。
	教室外学習の時間	270分

	（分）	

学習計画注記

履修生の実習期間や人数により、スケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

・教育的課題を共有するグループやペア形態での考察及び発表・指導案の作成、模擬授業などと講評を中心に実施する。
・小学校における初等教育実習での成果と課題を振り返り、共有した課題を小グループでの討論を通して問題領域の分類を行う。各グループが「領域ごとの問題解決をまとめたプレゼンテーション」と質疑応答を行う。それぞれのプレゼンテーションについては、講評・助言で応答する。
・「問題解決の場面に則した学習指導案や場面指導計画」を作成し、模擬授業・ロールプレイ形式で発表する。発表ごとに全体の質疑応答を設け、講評や助言で応答する。
・プレゼンテーションや模擬授業では、それぞれの発表に対して「相互評価票」を記入し、提出を求める。
・学期末に、これまで学んだ教職科目の修得度を自己評価する「履修カルテ」を作成し、データ提出を求める。本カルテは、教員からのコメントを記して大学が保管する。

評価方法

・考察成果報告のプレゼンテーション及び後半の模擬授業・ロールプレイは、提起する問題の妥当性や明確さ、解決策に活用する知識や考え方、プレゼンテーション・リテラシーなどを観点に総合的に評価する。
・発表時に記入する「相互評価票」は、問題への関心の高さや考察内容を観点に評価する。
・学期末の提出を求める小論レポート（1600字程度）は、「4年間で変容した教職観」を共通テーマとし、「指導観・児童観・教材観」における知識・理解、考察・判断の思考力、記述スキルなどを観点に、総合的に評価する。
・評価の観点をルーブリックに明示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間プレゼンテーション	○	○	○	○
相互評価票		○	○	
小論レポート	○	○		○

評価割合

平常点（主体的に討論に参加し学ぶ姿勢）20%、課題考察の報告発表プレゼンテーション20%、相互評価票の記入20%、期末小論レポート40%などをもとに、総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号)

特になし。（資料・ワークシートは適宜配布する）

参考図書

①文部科学省編『小学校学習指導要領解説・各教科領域編』日本文教出版ほか（平成29年3月公示版）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】今日の教育課題を理解し、教職に必要な基礎的な知識を有する。
【思考・判断】子ども・保護者・地域の実態を把握し、実態に応じて課題の解決を案出・実践する柔軟な見方・考え方を有する。
【関心・意欲・態度】学校・地域・行政・社会的教育機関と協働して教育に従事する意義に関心をもち、反省・改善し続ける自己教育力を有する。
【技能・表現】教職に求められる基本的な技能、豊かな表現力と対話力を発揮する資質を有す

る。

オフィスアワー

水曜4限・1629研究室（立川）、火曜2限 1628研究室（齋藤）

学生へのメッセージ

小学校教諭を目指す自覚をもち、基礎的な知識・基本的な技能を高めるための問題意識を具体化しながら参加すること。
各自の問題意識については「卒業研究」との関連も視野に入れ、効果的・効率的な探求計画をもって取り組む。
授業で配布する資料・ワークシート類は各自で管理・保管し、随時提出可能にしておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、国立大学附属・公立等の小学校教員として教育現場に従事した経験を有する。現職教員の研修や文部科学省検定教科書の編修、文部科学省の学習指導資料作成委員等に参加する経験から、今日の教育的課題に則した情報を提供する。
アクティブ・ラーニング	○	小グループでの討論や全体発表での質疑応答、相互評価票による発表者と聞き手の相互主体的な学びを通して、対話的で協働的な学習形態をとる。
情報リテラシー教育	○	実習体験・ボランティアなどで知った実態や事例検索から得た情報を整理し、問題の解決策を案出する機会をもつ。
ICT活用	○	考察成果報告のプレゼンテーションでは、各グループの検討を基にプレゼンテーションに適したアプリケーションでデータを作成し、視覚機器を用いて発表する。

講義コード	610048001
講義名	特別支援教育実習・実習指導
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	3
代表曜日	金曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	4年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	江田 裕介	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし
助教	岡部 一郎	指定なし

ナンバリング

Y45201M33

授業概要(教育目的)

本科目では、特別支援教育を専門とする教員としての基本的な資質・能力の涵養をねらいとした講義・演習を行う。
指導案の書き方、模擬授業、教材教具の研究、指導技法の習得、学習評価の仕方などを通じて、特別支援教育を専門とする豊かな人間性と指導力のある教師となることを目指す。

履修条件

幼稚園教諭または小学校教諭の普通免許状を取得予定であること。
原則として、特別支援教学校教諭一種免許状を取得するために履修すべき3年次までの科目（学生便覧125ページ）を全て履修し単位修得済みであること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	特別支援学校の教育課程を理解し、各教科・領域の概要を説明できる。 特別支援学校に在籍する幼児児童生徒の障害種や障害特性について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	幼児児童生徒の活動の様子をみて、障害の状態に応じた指導計画を立案することができる。 実習で経験したことを事前指導で学習した内容と関連付けて考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教員あるいは社会人としての自覚をもって実習に取り組む。 PDCAサイクルの視点をもち、子どもへの対応や授業の改善策を考え、実践に活かすことができる。

技術・表現の観点(A)	障害のある幼児児童生徒に対する指導法を学習し、実践することができる。 幼児児童生徒、教員、その他関係者との対話を通して関係を築き、自身の学びにつなげる。

学習計画

特別支援教育実習・実習指導

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習の意義と目的、心構え、勤務と服務規律について確認する。 ・実習初日までに必要な準備や取り組んでおくと良いことを確認し、スケジュール表を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト「特別支援教育ハンドブック」第２章「実習の準備」を事前に読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	70
第2回	**授業テーマ**	オリエンテーション②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習日誌を受け取り、事前に書き込める内容（実習先となる学校の概要など）の記載を行う。 ・実習に関するビデオ教材を視聴する。実習中の記録の取り方（日誌の記載方法）を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習日誌に目を通し、書き込める箇所に記入をしておくこと。
	教室外学習の時間(分)	70
第3回	**授業テーマ**	実習校の研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習先が同じ学生同士でグループを作り、学校目標、校種、教育課程を調べ、実習日誌にまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・テキスト「特別支援教育ハンドブック」第３章、第４章を読んでおくこと。 ・実習校のホームページを閲覧し、学校に関する基礎情報を確認しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	70
第4回	**授業テーマ**	様々な障害の理解と支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・知的障害・肢体不自由の障害特性を学び、実際の指導場面で必要な配慮事項を検討し、発表する。 ・視覚障害、聴覚障害、自閉症について復習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト「特別支援教育ハンドブック」第４章を読んでおくこと。 ３年次までに履修済みの「特別支援教育に関する科目」で学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	70
	授業テーマ	特別支援学校の教育課程
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	・特別支援学校（知的・肢体）の教育課程を確認する。 ・それぞれの実習先となる特別支援学校の教育課程と照らし合わせながら、時間割を確認する。

	む)	
第5回	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先の学校種とその教育課程について調べたことをまとめておくと良い。 ３年次までに履修済みの「特別支援教育に関する科目」、特に「心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導方に関する科目」で学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	70
第6回	授業テーマ	個別の指導計画、個別の教育支援計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成過程を学習する。 仮想事例について、個別の教育支援計画を作成する。また、模擬的なケース会議を開き、個別指導計画を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	３年次までに履修済みの「特別支援教育に関する科目」、特に「心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導方に関する科目」で学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	70
第7回	授業テーマ	自立活動の指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・自立活動の意義と、６区分の内容を学習する。 ・自立活動の時間の学習指導案を読み込み、指導の目的や具体的な指導方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト「特別支援教育ハンドブック」に掲載されている過去の実習生が作成した教材例集を事前に読んでおくこと。 ３年次までに履修済みの「特別支援教育に関する科目」、特に「心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導方に関する科目」で学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	70
第8回	授業テーマ	知的障害特別支援学校における授業実践（模擬授業）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・知的障害児を対象とした国語・算数の指導法を学び、学習指導案（略案）の作成を行う。 ・指導案作成が、教師役と児童生徒役に分かれて模擬授業を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト「特別支援教育ハンドブック」に掲載されている過去の実習生が作成した指導案および教材例集を事前に読んでおくこと。 ３年次までに履修済みの「特別支援教育に関する科目」、特に「心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導方に関する科目」で学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	70
第9回	授業テーマ	肢体不自由特別支援学校における授業実践（模擬授業）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・肢体不自由児を対象とした国語・算数の指導法を学び、学習指導案（略案）の作成を行う。 ・指導案作成が、教師役と児童生徒役に分かれて模擬授業を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト「特別支援教育ハンドブック」に掲載されている過去の実習生が作成した指導案および教材例集を事前に読んでおくこと。 ３年次までに履修済みの「特別支援教育に関する科目」、特に「心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に

		関する科目」で学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	70
第10回	**授業テーマ**	学習指導案の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習指導案の作成手順を理解し、指導案の例を参考にしながら作成準備を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト「特別支援教育ハンドブック」第５章「学習指導案の作成」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第11回	**授業テーマ**	学習指導案の作成①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・指導案作成の手順を学ぶ。 ・授業改善のためのPDCAサイクルについて学ぶ。 ・指導案に含まれる各項目の書き方を学ぶ①。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト「特別支援教育ハンドブック」に掲載されている過去の実習生が作成した指導案および教材例集を事前に読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	70
第12回	**授業テーマ**	学習指導案の作成②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・指導案に含まれる各項目の書き方を学ぶ②。 ・指導案を作成する（個別作業①）。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の授業で学習したことをまとめておくこと。文部科学省のホームページから特別支援学校の学習指導要領をダウンロードして目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	70
第13回	**授業テーマ**	事前指導のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習日誌の記載について最終確認を行う。 ・実習オリエンテーションで取得した情報をもとに各自の実習に合わせた準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業で学んだことや、作成したものを日誌のファイルに綴じ、すぐに参照できるようにしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	70
第14回	**授業テーマ**	特別支援学校の授業実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実際の学習指導案から、学校目標や学習指導要領との関連、教育課程城の位置付け、授業の目的、児童生徒に身につけさせたい知識・技能を読み解く。 ・学習指導案の書き方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布する学習指導案に目を通しておく。
	教室外学習の時間（分）	70
	授業テーマ	特別支援学校の授業実践

第15回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	・実習を終えた受講生の報告を聞き、特別支援学校で行う指導について具体的なイメージをもつ。 ・実際の学習指導案から、学校目標や学習指導要領との関連、教育課程城の位置付け、授業の目的、児童生徒に身につけさせたい知識・技能を読み解く。 ・学習指導案の書き方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布する学習指導案に目を通しておく。
	教室外学習の時間(分)	70
第16回	**授業テーマ**	特別支援学校（知的）で使用する教材・教具研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習を終えた受講生の報告を聞き、特別支援学校で行う指導について具体的なイメージをもつ。 ・特別支援学校（知的）で使われている教材や教具を紹介する。 ・実習のなかで作成した教材を学生同士で紹介し、その用途、使用対象となる児童生徒の実態、教材の提示方法を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	知的障害のある児童生徒の教材・教具に関する情報を収集しておくこと。また、実習中に使用した教材について、用途、使用対象となる児童生徒の実態、教材の提示方法を整理しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	70
第17回	**授業テーマ**	特別支援学校（肢体）で使用する教材・具研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習を終えた受講生の報告を聞き、特別支援学校で行う指導について具体的なイメージをもつ。 ・特別支援学校（肢体）で使われている教材や教具を紹介する。 ・実習のなかで作成した教材を学生同士で紹介し、その用途、使用対象となる児童生徒の実態、教材の提示方法を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	肢体不自由の児童生徒の教材・教具に関する情報を収集しておくこと。また、実習中に使用した教材について、用途、使用対象となる児童生徒の実態、教材の提示方法を整理しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	70
第18回	**授業テーマ**	教材・教具の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習を終えた受講生の報告を聞き、特別支援学校で行う指導について具体的なイメージをもつ。 ・実習中に使用した教材・教具を実際に作成（再現）し、その使用方法や対象となる児童生徒の実態についてレポートにまとめる。 ・時間が余ったら、使用対象となる児童生徒の障害特性についてまとめておく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作成（再現）したい教材に必要な材料を事前に書き出し、担当教員に連絡すること。
	教室外学習の時間(分)	70
第19回	**授業テーマ**	教材・教具の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習を終えた受講生の報告を聞き、特別支援学校で行う指導について具体的なイメージをもつ。 ・実習中に使用した教材・教具を実際に作成（再現）し、その使用方法や対象となる児童生徒の実態についてレポートにまとめる。 ・時間が余ったら、使用対象となる児童生徒の障害特性についてまとめておく。
	教室外学習(予習・	作成（再現）したい教材に必要な材料を事前に書き出し、担当教

	復習)の内容	員に連絡すること。
	教室外学習の時間（分）	70
第20回	**授業テーマ**	児童生徒の障害の程度や状態に合わせた関わり方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習を終えた受講生の報告を聞き、特別支援学校で行う指導について具体的なイメージをもつ。・作成（再現）した教材の発表を行う。 ・すべての教材レポートをまとめた冊子を作成し、授業後に配布する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の仕方について各自確認・練習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	70
第21回	**授業テーマ**	特別支援学校（実習校）での実習オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・特別支援学校での教育実習に先駆けて、実習校でオリエンテーションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・オリエンテーションの日程調整の連絡や、当日のマナーについて予習しておくこと。 ・オリエンテーションで必ず確認する事項について日誌内の所定のページに書き留めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	70
第22回	**授業テーマ**	特別支援学校見学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別支援学校の公開研究会に参加する。 （日程が分かり次第、授業内で連絡する。）
	教室外学習(予習・復習)の内容	見学の観点を整理し、書き留めておく。 見学を通して学んだことを整理して書き留めておく。
	教室外学習の時間（分）	70
第23回	**授業テーマ**	特別支援学校見学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別支援学校の公開研究会に参加する。 （日程が分かり次第、授業内で連絡する。）
	教室外学習(予習・復習)の内容	見学の観点を整理し、書き留めておく。 見学を通して学んだことを整理して書き留めておく。
	教室外学習の時間（分）	70
第24回	**授業テーマ**	特別支援学校見学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別支援学校の公開研究会に参加する。 （日程が分かり次第、授業内で連絡する。）
	教室外学習(予習・復習)の内容	見学の観点を整理し、書き留めておく。 見学を通して学んだことを整理して書き留めておく。
	教室外学習の時間（分）	70

第25回	授業テーマ	特別支援学校見学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別支援学校の公開研究会に参加する。 （日程が分かり次第、授業内で連絡する。）
	教室外学習(予習・復習)の内容	見学の観点を整理し、書き留めておく。 見学を通して学んだことを整理して書き留めておく。
	教室外学習の時間(分)	70
第26回	授業テーマ	実習報告会の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習報告会の発表内容をグループごとに検討し、当日必要な資料等の準備を行う。 ・発表の手順について、グループ内で打ち合わせを行う。 *オンデマンド動画による発表になる可能性もある
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習報告会で発表する内容に必要な情報を収集しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	120
第27回	授業テーマ	実習報告会の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習報告会の発表内容をグループごとに検討し、当日必要な資料等の準備を行う。 ・発表の手順について、グループ内で打ち合わせを行う。 *オンデマンド動画による発表になる可能性もある
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習報告会で発表する内容に必要な情報を収集しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	120
第28回	授業テーマ	実習報告会への参加
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習報告会で発表を行う。 ・発表を聞き、就学前機関や小学校の職務を学ぶ。 *オンデマンド動画による発表になる可能性もある
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習報告会の発表の手順について、グループのメンバーでよく確認しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	120

学習計画注記

本科目は、通年で開講する。
特別支援学校での実習を希望している者は必ず履修すること。

学生へのフィードバック方法

・学生の質問や発表内容について、担当教員が授業内で即時にフィードバックを行う。
・課題の成果や作成した指導案に、担当教員がコメントを行う。

評価方法

①実習校から提出される評価票および日誌の記載内容に基づいて評価を行う（40点満点）。
②大学で実施する事前事後指導では、授業内での発表、課題（指導案や教材作成）、模擬授業の実施状況を評価の対象とする（60点満点）。各課題においては適宜ルーブリック評価表を示す。
上記、①、②の評価点を合計し、総合評価を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
グループ討議・発表	○	○		
指導案・教材作成	○			○
模擬授業			○	○
教育実習評価表			○	
実習日誌の記載内容	○	○	○	

評価割合

教育実習（40%）、実習事前事後指導（60%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特別支援教育ハンドブック（東京家政学院大学特別支援教育研究会）を初回授業で配布する。

参考図書

Googleclassroomや授業内で適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学を構成する６領域を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できる。
【思考・判断】具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】子ども達の健全で豊かな成長・発達のために、使命感を持って行動できる。
【技術・表現】障害のある幼児児童生徒に対する指導法を学習し、実践することができる。
幼児児童生徒、教員、その他関係者との対話を通して関係を築き、自身の学びにつなげる。

オフィスアワー

原田（月曜３限 1509教室）

学生へのメッセージ

特別支援教育は、幼稚園、保育園、小・中学校においても推進することが求められています。特別な教育的ニーズや障害の状態について理解を深め、確かな知識や技術で支援を行えるように学びましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	特別支援学校教員経験者、重症心身障害児施設職員経験者、教育センター心理相談員経験者が本科目を担当する。
アクティブ・ラーニング	○	一部の授業では、少グループに分かれて演習形式（導入説明→演習→発表→振返り）で進める。
情報リテラシー教育	○	学校教育における情報教育、教員としての情報倫理、情報管理について授業の中で適宜指導する。
ICT活用	○	教員による解説や学生の発表において、PCやタブレット等の機器を使用する。

講義コード	610048002
講義名	特別支援教育実習・実習指導
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	3
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	4年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	江田 裕介	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし
助教	岡部 一郎	指定なし

ナンバリング

Y45201M33

授業概要(教育目的)

本科目では、特別支援教育を専門とする教員としての基本的な資質・能力の涵養をねらいとした講義・演習を行う。
指導案の書き方、模擬授業、教材教具の研究、指導技法の習得、学習評価の仕方などを通じて、特別支援教育を専門とする豊かな人間性と指導力のある教師となることを目指す。

履修条件

幼稚園教諭または小学校教諭の普通免許状を取得予定であること。
原則として、特別支援教学校教諭一種免許状を取得するために履修すべき3年次までの科目（学生便覧125ページ）を全て履修し単位修得済みであること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	特別支援学校の教育課程を理解し、各教科・領域の概要を説明できる。 特別支援学校に在籍する幼児児童生徒の障害種や障害特性について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	幼児児童生徒の活動の様子をみて、障害の状態に応じた指導計画を立案することができる。 実習で経験したことを事前指導で学習した内容と関連付けて考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教員あるいは社会人としての自覚をもって実習に取り組む。 PDCAサイクルの視点をもち、子どもへの対応や授業の改善策を考え、実践に活かすことができる。

技術・表現の観点(A)	障害のある幼児児童生徒に対する指導法を学習し、実践することができる。 幼児児童生徒、教員、その他関係者との対話を通して関係を築き、自身の学びにつなげる。

学習計画

特別支援教育実習・実習指導

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習の意義と目的、心構え、勤務と服務規律について確認する。 ・実習初日までに必要な準備や取り組んでおくと良いことを確認し、スケジュール表を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト「特別支援教育ハンドブック」第２章「実習の準備」を事前に読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	70
第2回	**授業テーマ**	オリエンテーション②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習日誌を受け取り、事前に書き込める内容（実習先となる学校の概要など）の記載を行う。 ・実習に関するビデオ教材を視聴する。実習中の記録の取り方（日誌の記載方法）を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習日誌に目を通し、書き込める箇所に記入をしておくこと。
	教室外学習の時間(分)	70
第3回	**授業テーマ**	実習校の研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習先が同じ学生同士でグループを作り、学校目標、校種、教育課程を調べ、実習日誌にまとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・テキスト「特別支援教育ハンドブック」第３章、第４章を読んでおくこと。 ・実習校のホームページを閲覧し、学校に関する基礎情報を確認しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	70
第4回	**授業テーマ**	様々な障害の理解と支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・知的障害・肢体不自由の障害特性を学び、実際の指導場面で必要な配慮事項を検討し、発表する。 ・視覚障害、聴覚障害、自閉症について復習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト「特別支援教育ハンドブック」第４章を読んでおくこと。 ３年次までに履修済みの「特別支援教育に関する科目」で学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	70
	授業テーマ	特別支援学校の教育課程
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	・特別支援学校（知的・肢体）の教育課程を確認する。 ・それぞれの実習先となる特別支援学校の教育課程と照らし合わせながら、時間割を確認する。

	む)	
第5回	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先の学校種とその教育課程について調べたことをまとめておくと良い。 ３年次までに履修済みの「特別支援教育に関する科目」、特に「心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導方に関する科目」で学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	70
第6回	授業テーマ	個別の指導計画、個別の教育支援計画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成過程を学習する。 仮想事例について、個別の教育支援計画を作成する。また、模擬的なケース会議を開き、個別指導計画を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	３年次までに履修済みの「特別支援教育に関する科目」、特に「心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導方に関する科目」で学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	70
第7回	授業テーマ	自立活動の指導
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・自立活動の意義と、６区分の内容を学習する。 ・自立活動の時間の学習指導案を読み込み、指導の目的や具体的な指導方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト「特別支援教育ハンドブック」に掲載されている過去の実習生が作成した教材例集を事前に読んでおくこと。 ３年次までに履修済みの「特別支援教育に関する科目」、特に「心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導方に関する科目」で学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	70
第8回	授業テーマ	知的障害特別支援学校における授業実践（模擬授業）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・知的障害児を対象とした国語・算数の指導法を学び、学習指導案（略案）の作成を行う。 ・指導案作成が、教師役と児童生徒役に分かれて模擬授業を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト「特別支援教育ハンドブック」に掲載されている過去の実習生が作成した指導案および教材例集を事前に読んでおくこと。 ３年次までに履修済みの「特別支援教育に関する科目」、特に「心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導方に関する科目」で学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	70
第9回	授業テーマ	肢体不自由特別支援学校における授業実践（模擬授業）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・肢体不自由児を対象とした国語・算数の指導法を学び、学習指導案（略案）の作成を行う。 ・指導案作成が、教師役と児童生徒役に分かれて模擬授業を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト「特別支援教育ハンドブック」に掲載されている過去の実習生が作成した指導案および教材例集を事前に読んでおくこと。 ３年次までに履修済みの「特別支援教育に関する科目」、特に「心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に

		関する科目」で学習した内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	70
第10回	**授業テーマ**	学習指導案の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習指導案の作成手順を理解し、指導案の例を参考にしながら作成準備を行う
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト「特別支援教育ハンドブック」第５章「学習指導案の作成」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	90
第11回	**授業テーマ**	学習指導案の作成①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・指導案作成の手順を学ぶ。 ・授業改善のためのPDCAサイクルについて学ぶ。 ・指導案に含まれる各項目の書き方を学ぶ①。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト「特別支援教育ハンドブック」に掲載されている過去の実習生が作成した指導案および教材例集を事前に読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	70
第12回	**授業テーマ**	学習指導案の作成②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・指導案に含まれる各項目の書き方を学ぶ②。 ・指導案を作成する（個別作業①）。
	教室外学習(予習・復習)の内容	前回の授業で学習したことをまとめておくこと。文部科学省のホームページから特別支援学校の学習指導要領をダウンロードして目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	70
第13回	**授業テーマ**	事前指導のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習日誌の記載について最終確認を行う。 ・実習オリエンテーションで取得した情報をもとに各自の実習に合わせた準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまでの授業で学んだことや、作成したものを日誌のファイルに綴じ、すぐに参照できるようにしておくこと。
	教室外学習の時間（分）	70
第14回	**授業テーマ**	特別支援学校の授業実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実際の学習指導案から、学校目標や学習指導要領との関連、教育課程城の位置付け、授業の目的、児童生徒に身につけさせたい知識・技能を読み解く。 ・学習指導案の書き方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布する学習指導案に目を通しておく。
	教室外学習の時間（分）	70
	授業テーマ	特別支援学校の授業実践

第15回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	・実習を終えた受講生の報告を聞き、特別支援学校で行う指導について具体的なイメージをもつ。 ・実際の学習指導案から、学校目標や学習指導要領との関連、教育課程城の位置付け、授業の目的、児童生徒に身につけさせたい知識・技能を読み解く。 ・学習指導案の書き方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布する学習指導案に目を通しておく。
	教室外学習の時間(分)	70
第16回	**授業テーマ**	特別支援学校（知的）で使用する教材・教具研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習を終えた受講生の報告を聞き、特別支援学校で行う指導について具体的なイメージをもつ。 ・特別支援学校（知的）で使われている教材や教具を紹介する。 ・実習のなかで作成した教材を学生同士で紹介し、その用途、使用対象となる児童生徒の実態、教材の提示方法を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	知的障害のある児童生徒の教材・教具に関する情報を収集しておくこと。また、実習中に使用した教材について、用途、使用対象となる児童生徒の実態、教材の提示方法を整理しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	70
第17回	**授業テーマ**	特別支援学校（肢体）で使用する教材・具研究
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習を終えた受講生の報告を聞き、特別支援学校で行う指導について具体的なイメージをもつ。 ・特別支援学校（肢体）で使われている教材や教具を紹介する。 ・実習のなかで作成した教材を学生同士で紹介し、その用途、使用対象となる児童生徒の実態、教材の提示方法を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	肢体不自由の児童生徒の教材・教具に関する情報を収集しておくこと。また、実習中に使用した教材について、用途、使用対象となる児童生徒の実態、教材の提示方法を整理しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	70
第18回	**授業テーマ**	教材・教具の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習を終えた受講生の報告を聞き、特別支援学校で行う指導について具体的なイメージをもつ。 ・実習中に使用した教材・教具を実際に作成（再現）し、その使用方法や対象となる児童生徒の実態についてレポートにまとめる。 ・時間が余ったら、使用対象となる児童生徒の障害特性についてまとめておく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	作成（再現）したい教材に必要な材料を事前に書き出し、担当教員に連絡すること。
	教室外学習の時間(分)	70
第19回	**授業テーマ**	教材・教具の作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習を終えた受講生の報告を聞き、特別支援学校で行う指導について具体的なイメージをもつ。 ・実習中に使用した教材・教具を実際に作成（再現）し、その使用方法や対象となる児童生徒の実態についてレポートにまとめる。 ・時間が余ったら、使用対象となる児童生徒の障害特性についてまとめておく。
	教室外学習(予習・	作成（再現）したい教材に必要な材料を事前に書き出し、担当教

	復習)の内容	員に連絡すること。
	教室外学習の時間（分）	70
第20回	**授業テーマ**	児童生徒の障害の程度や状態に合わせた関わり方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習を終えた受講生の報告を聞き、特別支援学校で行う指導について具体的なイメージをもつ。・作成（再現）した教材の発表を行う。 ・すべての教材レポートをまとめた冊子を作成し、授業後に配布する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	発表の仕方について各自確認・練習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	70
第21回	**授業テーマ**	特別支援学校（実習校）での実習オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・特別支援学校での教育実習に先駆けて、実習校でオリエンテーションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・オリエンテーションの日程調整の連絡や、当日のマナーについて予習しておくこと。 ・オリエンテーションで必ず確認する事項について日誌内の所定のページに書き留めておくこと。
	教室外学習の時間（分）	70
第22回	**授業テーマ**	特別支援学校見学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別支援学校の公開研究会に参加する。 （日程が分かり次第、授業内で連絡する。）
	教室外学習(予習・復習)の内容	見学の観点を整理し、書き留めておく。 見学を通して学んだことを整理して書き留めておく。
	教室外学習の時間（分）	70
第23回	**授業テーマ**	特別支援学校見学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別支援学校の公開研究会に参加する。 （日程が分かり次第、授業内で連絡する。）
	教室外学習(予習・復習)の内容	見学の観点を整理し、書き留めておく。 見学を通して学んだことを整理して書き留めておく。
	教室外学習の時間（分）	70
第24回	**授業テーマ**	特別支援学校見学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別支援学校の公開研究会に参加する。 （日程が分かり次第、授業内で連絡する。）
	教室外学習(予習・復習)の内容	見学の観点を整理し、書き留めておく。 見学を通して学んだことを整理して書き留めておく。
	教室外学習の時間（分）	70

第25回	授業テーマ	特別支援学校見学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別支援学校の公開研究会に参加する。 （日程が分かり次第、授業内で連絡する。）
	教室外学習(予習・復習)の内容	見学の観点を整理し、書き留めておく。 見学を通して学んだことを整理して書き留めておく。
	教室外学習の時間(分)	70
第26回	授業テーマ	実習報告会の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習報告会の発表内容をグループごとに検討し、当日必要な資料等の準備を行う。 ・発表の手順について、グループ内で打ち合わせを行う。 *オンデマンド動画による発表になる可能性もある
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習報告会で発表する内容に必要な情報を収集しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	120
第27回	授業テーマ	実習報告会の準備
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習報告会の発表内容をグループごとに検討し、当日必要な資料等の準備を行う。 ・発表の手順について、グループ内で打ち合わせを行う。 *オンデマンド動画による発表になる可能性もある
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習報告会で発表する内容に必要な情報を収集しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	120
第28回	授業テーマ	実習報告会への参加
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・実習報告会で発表を行う。 ・発表を聞き、就学前機関や小学校の職務を学ぶ。 *オンデマンド動画による発表になる可能性もある
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習報告会の発表の手順について、グループのメンバーでよく確認しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	120

学習計画注記

本科目は、通年で開講する。
特別支援学校での実習を希望している者は必ず履修すること。

学生へのフィードバック方法

・学生の質問や発表内容について、担当教員が授業内で即時にフィードバックを行う。
・課題の成果や作成した指導案に、担当教員がコメントを行う。

評価方法

①実習校から提出される評価票および日誌の記載内容に基づいて評価を行う（40点満点）。
②大学で実施する事前事後指導では、授業内での発表、課題（指導案や教材作成）、模擬授業の実施状況を評価の対象とする（60点満点）。各課題においては適宜ルーブリック評価表を示す。
上記、①、②の評価点を合計し、総合評価を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
グループ討議・発表	○	○		
指導案・教材作成	○			○
模擬授業			○	○
教育実習評価表			○	
実習日誌の記載内容	○	○	○	

評価割合

教育実習（40%）、実習事前事後指導（60%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

特別支援教育ハンドブック（東京家政学院大学特別支援教育研究会）を初回授業で配布する。

参考図書

Googleclassroomや授業内で適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学を構成する６領域を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できる。
【思考・判断】具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】子ども達の健全で豊かな成長・発達のために、使命感を持って行動できる。
【技術・表現】障害のある幼児児童生徒に対する指導法を学習し、実践することができる。
幼児児童生徒、教員、その他関係者との対話を通して関係を築き、自身の学びにつなげる。

オフィスアワー

原田（月曜３限 1509教室）

学生へのメッセージ

特別支援教育は、幼稚園、保育園、小・中学校においても推進することが求められています。特別な教育的ニーズや障害の状態について理解を深め、確かな知識や技術で支援を行えるように学びましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	特別支援学校教員経験者、重症心身障害児施設職員経験者、教育センター心理相談員経験者が本科目を担当する。
アクティブ・ラーニング	○	一部の授業では、少グループに分かれて演習形式（導入説明→演習→発表→振返り）で進める。
情報リテラシー教育	○	学校教育における情報教育、教員としての情報倫理、情報管理について授業の中で適宜指導する。
ICT活用	○	教員による解説や学生の発表において、PCやタブレット等の機器を使用する。

講義コード	610050001
講義名	特別支援教育論（中・高・栄）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期前半
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	2年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	岡部 一郎	指定なし

ナンバリング

Y20004M11

授業概要(教育目的)

児童期、思春期または青年期の入口にある、それぞれの児童生徒の発達には、学校で行う各教科等の学習内容を習得することだけでなく、自分の行動を適切にコントロールする力を身に付けることや、他の児童生徒や教員、地域社会の人たちと良好な関係を築き、維持していくための課題がある。本講義では、こうした学習活動や、行動の自己調整、人との関係形成等に困難があり、特別な教育ニーズを有する児童生徒の教育支援について学んでいく。こうした問題は、学校におけるいじめや不登校、引きこもりといった教育問題とも深く関わっている。また、不適切な養育環境等の要因で心的外傷を生じている児童生徒の教育支援や、行動に問題を有する生徒の指導についても講ずる。あわせて外国につながる児童生徒の言語の教育や、ＩＣＴを活用した学習活動の支援など、現代の学校における特別な教育ニーズにも触れる。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	特別な教育ニーズを有する児童生徒の発達課題を理解し、適切な支援を行うために必要となる基本的な知識を身に付ける。
思考・判断の観点 (K)	児童生徒の発達や障害の状況を判断し、その個人差に応じた指導の工夫や配慮を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	特別な教育ニーズを有する児童生徒の教育に対して関心をもち、教員としての対応能力を高める意欲と、積極的に関わっていこうとする態度を身に付ける。
技術・表現の観点 (A)	児童生徒の個人差に応じた指導の目的や方法を他者に分かりやすく伝えることができる。 障害のある児童生徒の教材・教具にＩＣＴを適切に活用することができる。

学習計画

	授業テーマ	イントロダクション：障害のある生徒の教育

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・特別支援学校や特別支援学級、通級の指導など、障害のある児童生徒に対する学校教育のシステムを知る。また現代の国際社会において目指されるインクルーシブ教育システムの構築について理解する。 ・児童期、思春期及び青年期の入り口にある、それぞれの児童生徒における心身の機能的な発達の特性と、発達の最近接領域について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：学校教育法に定められた学校の種別や、特別支援学級及び通級による指導の対象と種類を調べておきましょう。 【参考例】文部科学省ホームページ「特別支援教育の現状」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/002.htm ・復習：各指導形態における在籍幼児・児童の人数や学級数と、その近年の推移等を調べ、学びを深めてください。 【参考例】文部科学省ホームページ「特別支援教育資料」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1406456.htm
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	児童生徒の発達における障害とその教育支援（１）学習につまずきのある生徒
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・「学習」とは何かを考え、児童生徒の発達上に生じる学習のつまずきや、学習能力の障害について知る。 ・発達性学習症（ＤＬＤ;Developmental Learning Disorder*）の特性を理解し、その教育支援に関する基礎的な知識を学ぶとともに、教員としての配慮と心構えを考える。 * WHO（世界保健機構）のICD11（国際疾病分類）による。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：本講義の対象となる児童の学びの場について調べておきましょう。 【参考例】文部科学省ホームページ「障害に配慮した教育」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/mext_00800.html ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをまとめ、記録してください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	児童生徒の発達における障害とその教育支援（２）行動の自己コントロールが苦手な生徒
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	周囲と協調して行動する、時間や順番を待つ、人の話を聞く、ルールに従う、忘れ物をしないなど、行動の自己コントールに必要となる発達的な要素について考え、幼児児童の発達上に生じる行動調整の遅れや、その障害を知る。 ・注意欠如多動症（ＡＤＨＤ:Attention Deficit Hyperactivity Disorder）の特性を理解し、その教育支援に関する基礎的な知識を学ぶとともに、教員としての配慮と心構えを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：本講義の対象となる児童の学びの場について調べておきましょう。 【参考例】文部科学省ホームページ「障害に配慮した教育」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/mext_00800.html ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをまとめ、記録してください。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	児童生徒の発達における障害とその教育支援（３）人との関係を築くことが難しい生徒
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	視線や表情、身振り、相手との距離や位置など、他者との関係を調整する非言語の機能について考え、児童生徒の発達上に生じる関係形成のつまずきや、その障害を理知る。 ・自閉スペクトラム症（ＡＳＤ: Autism Spectrum Disorder）の特性を理解し、その教育支援に関する基礎的な知識を学ぶとともに、教員としての配慮と心構えを考える。

第4回	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：本講義の対象となる児童の学びの場について調べておきましょう。 【参考例】文部科学省ホームページ「障害に配慮した教育」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/mext_00800.html ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをまとめ、記録してください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	児童生徒の発達における障害とその教育支援（４）心に傷を負った生徒
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・マルトリートメント（不適切な養育）や、過酷な環境、事件や災害等によって生じたトラウマ（心的外傷）が、児童生徒の発達上にもたらす影について考え、社会性の発達の問題や、その障害を知る。 ・反応性愛着障害（Reactive attachment disorder of childhood）と脱抑制性対人交流障害（Reactive attachment disorder of childhood）の特性を理解し、その教育支援に関する基礎的な知識を学ぶとともに、教員としての配慮と心構えを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：子どもの発達段階に応じた支援の必要性について調べておきましょう。 【参考例【文部科学省ホームページ「子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題」 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/053/shiryo/attach/1282789.htm ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをまとめ、記録してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	障害のある児童生徒の学習やコミュニケーションを支援するテクノロジー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文字や文章の読みに困難のある生徒のためのデイジー教科書や、視覚障害のある生徒のための点字プリンタ、触覚ディスプレイ、全身を動かせない重症者の利用する視線入力装置など、ＩＣＴを活用した先端的な教育支援について学ぶ。一部の機材については体験実習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：障害の重い子どものコミュニケーションや遊びを支援する機材にはどのようなものがあるか調べてみよう。 【参考例】able-netホームページ（アメリカ） https://www.ablenetinc.com/ ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをまとめ、記録してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	母国語や貧困の問題等のある子どもの学習・生活上の困難と支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別な配慮を必要とする児童生徒への指導、子どもの貧困問題、不登校対策、組織的な支援について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：外国につながる子どもの教育について調べておきましょう。 【参考例】CLARINET(海外子女教育、帰国・外国人児童生徒教育等に関するホームページ) https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/main7_a2.htm 文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒に対する指導の在り方について」 https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11402417/www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/05/1335783.htm ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをま

		とめ、記録してください。
	教室外学習の時間（分）	220分

学習計画注記

・学習の進度等により講義のテーマの順序や構成を変更することがある。

学生へのフィードバック方法

・授業毎に提出するコメントカードは、内容に質問が含まれるときは次回の授業の冒頭で取り上げて回答する。また学習内容の振り返りのため、教員の側でいくつかカードをピックアップし、その意見等を紹介する。ただし、カードの記載内容を授業で紹介することの可否について、学生自身がカードのチェック欄で選択することができる。

評価方法

・①定期試験の成績と、②授業中の体験実習やディスカッションへの参加状況、及び③コメントカードの記述を総合して評価する。
・①に関しては授業内でルーブリック評価表を配布する。
・上記の採点を集計して授業全体の評価を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		○
授業中の活動		○	○	○
コメントカード	○	○	○	

評価割合

定期試験（70%）（オンライン授業での課題提出を含む）、学習活動またはディスカッションへの参加状況（20%）、コメントカード（10%）

使用教科書名(ISBN番号)

各授業でプリント教材等を配布する。またはオンライン・コンテンツを共有する。

参考図書

適宜に紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】特別な教育ニーズを有する幼児児童の発達課題を理解し、適切な支援を行うために必要となる基本的な知識を身に付ける。
【思考・判断】幼児児童の発達や障害の状況を判断し、その個人差に応じた指導の工夫や配慮を考えることができる。
【関心・意欲・態度】特別な教育ニーズを有する児童の教育に対して関心をもち、教員としての対応能力を高める意欲と、積極的に関わっていこうとする態度を身に付ける。
【技術・表現】幼児児童の個人差に応じた指導の目的や方法を他者に分かりやすく伝えることができる。
障害のある幼児児童の教材・教具にＩＣＴを適度に活用することができる。

オフィスアワー

前期：月曜３限（江田研究室） 前期：火曜２限(岡部研究室)
後期：金曜４限（江田研究室） 後期：未定(岡部研究室)
事前に必ずメール等でアポイントメントをとってください。

学生へのメッセージ

障害のある児童の教育において、正しい知識と理解は、教員としての適切な判断や、さらに指導の意欲や態度とも密接に関係します。例えば、自閉スペクトラム症の児童の中には、教員や他の子どもが話しかけると両耳を手で塞ぐ例や、手をつなごうとすると振り払うような子どもがいます。しかし、これらの行動は、特有の感覚の過敏によるもので、相手を拒絶しているわけではありません。その理解がないと、教員は児童への接し方が分からなくなり、子どもどうしの関係をうまく導くこともできません。また、ＤＬＤ（発達性学習症）の児童における読み書きの問題は、海外からの留学生や外国につながる子どもの日本語学習のつまずきと非常によく似ています。障害に対して生じる「何でそんなことをするのか？」「何でこんなこともできないのか？」と

いった疑問や違和感は、じつは自分の中にある「当たり前」という固定観念や常識にとらわれているだけなのかも知れません。特別支援教育という言葉も、必ずしも「特別」なものではなく、より丁寧で、より深い理解に基づく教育なのだと考えてもらえると嬉しく思います。そうした子ども理解の知識や態度は、どんな子どもの教育においても無駄にはならないと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、主に３つの実務経験を有している。 ①特別支援学校教諭、肢体不自由、聴覚障害、重複障害のある児童生徒に対する教育支援。②一般小学校、特別支援学級教諭：知的障害、発達障害のある児童への教育支援。③一般小学校、管理職(校長・副校長)及び通級指拳導教室設置校、管理職。
アクティブ・ラーニング	○	・授業では適宜ディスカッションの機会を設ける。
情報リテラシー教育	○	個人情報保護及び個人情報流出防止等に関する法令等に準じ人権尊重に結びつけた指導を行う。
ICT活用	○	・ＩＣＴを活用した障害者へのアシスティブ・テクノロジーの活用例などを示す。 ・オンライン・コンテンツの活用を進める。

講義コード	610050002
講義名	特別支援教育論（幼･小）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期前半
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	2年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	岡部 一郎	指定なし

ナンバリング

Y24002M11

授業概要(教育目的)

幼児児童期の子どもの発達には、学校で習う各教科等の内容を身に付けることだけでなく、自分の行動をコントロールする力を高めることや、同年齢の子どもと集団生活を送る中で良好な関係を築いていくための課題がある。本講義では、こうした学習活動や、行動の自己調整、人との関係形成等に困難があり、特別な教育ニーズを有する幼児児童の教育支援について学んでいく。また養育環境等の要因で心的外傷を生じている子どもの指導についても講ずる。あわせて外国につながる子どもの言語の教育や、ＩＣＴを活用した遊びの指導など、現代の学校における特別な教育ニーズにも触れる。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	特別な教育ニーズを有する幼児児童の発達課題を理解し、適切な支援を行うために必要となる基本的な知識を身に付ける。
思考・判断の観点 (K)	幼児児童の発達や障害の状況を判断し、その個人差に応じた指導の工夫や配慮を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	特別な教育ニーズを有する幼児児童の教育に対して関心をもち、教員としての対応能力を高める意欲と、積極的に関わっていこうとする態度を身に付ける。
技術・表現の観点 (A)	幼児児童の個人差に応じた指導の目的や方法を他者に分かりやすく伝えることができる。障害のある幼児児童の教材・教具にＩＣＴを適度に活用することができる。

学習計画

特別支援教育論

	授業テーマ	イントロダクション：障害のある幼児児童の教育

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・特別支援学校や特別支援学級、通級の指導など、障害のある幼児・児童に対する学校教育のシステムを知る。また現代の国際社会において目指されるインクルーシブ教育システムの構築について理解する。 ・幼児・児童期における心身の機能的な発達の特性と、発達の最近接領域について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：学校教育法に定められた学校の種別や、特別支援学級及び通級による指導の対象と種類を調べておきましょう。 【参考例】文部科学省ホームページ「特別支援教育の現状」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/002.htm ・復習：各指導形態における在籍幼児・児童の人数や学級数と、その近年の推移等を調べ、学びを深めてください。 【参考例】文部科学省ホームページ「特別支援教育資料」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1406456.htm
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	幼児児童の発達における障害とその教育支援（１）学習につまずきのある子ども
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・「学習」とは何かを考え、幼児児童の発達上に生じる学習のつまずきや、学習能力の障害について知る。 ・発達性学習症（ＤＬＤ;Developmental Learning Disorder*）の特性を理解し、その教育支援に関する基礎的な知識を学ぶとともに、教員としての配慮と心構えを考える。 * WHO（世界保健機構）のICD11（国際疾病分類）による。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：本講義の対象となる児童の学びの場について調べておきましょう。 【参考例】文部科学省ホームページ「障害に配慮した教育」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/mext_00800.html ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをまとめ、記録してください。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	授業テーマ	幼児児童の発達における障害とその教育支援（２）行動の自己コントロールが苦手な子ども
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	じっと座って勉強する、時間や順番を待つ、人の話を聞く、ルールに従う、忘れ物をしないなど、行動の自己コントールに必要となる発達的な要素について考え、幼児児童の発達上に生じる行動調整の遅れや、その障害を知る。 ・注意欠如多動症（ＡＤＨＤ:Attention Deficit Hyperactivity Disorder）の特性を理解し、その教育支援に関する基礎的な知識を学ぶとともに、教員としての配慮と心構えを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：本講義の対象となる児童の学びの場について調べておきましょう。 【参考例】文部科学省ホームページ「障害に配慮した教育」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/mext_00800.html ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをまとめ、記録してください。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	幼児児童の発達における障害とその教育支援（３）人との関係を築くことが難しい子ども
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	視線や表情、身振り、相手との距離や位置など、他者との関係を調整する非言語の機能について考え、幼児児童の発達上に生じる関係形成のつまずきや、その障害を理知る。 ・自閉スペクトラム症（ＡＳＤ: Autism Spectrum Disorder）の特性を理解し、その教育支援に関する基礎的な知識を学ぶとともに、教員としての配慮と心構えを考える。

第4回	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：本講義の対象となる児童の学びの場について調べておきましょう。 【参考例】文部科学省ホームページ「障害に配慮した教育」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/mext_00800.html ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをまとめ、記録してください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	幼児児童の発達における障害とその教育支援（４）心に傷を負った子ども
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・マルトリートメント（不適切な養育）や、過酷な環境、事件や災害等によって生じたトラウマ（心的外傷）が、幼児児童の発達上にもたらす影について考え、社会性の発達の問題や、その障害を知る。 ・反応性愛着障害（Reactive attachment disorder of childhood）と脱抑制性対人交流障害（Reactive attachment disorder of childhood）の特性を理解し、その教育支援に関する基礎的な知識を学ぶとともに、教員としての配慮と心構えを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：子どもの発達段階に応じた支援の必要性について調べておきましょう。 【参考例【文部科学省ホームページ「子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題」 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/053/shiryo/attach/1282789.htm ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをまとめ、記録してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	幼児児童の発達における遊びの役割とその教育支援：アシスティブ・テクノロジーの利用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼児児童は、さまざまな遊びを通じて自ら興味関心を広げるとともに、その興味を他者と共有することで、共感性や協調性を発達させ、人間関係形成の基盤をつくる。しかし、障害の重い幼児児童においては、心身の機能的な制限から、こうした活動にも限界が生じやすい。本時は、障害のある幼児児童の遊びを充実させるため、アシスティブ・テクノロジーの利用について、体験実習を通じて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：障害の重い子どものコミュニケーションや遊びを支援する機材にはどのようなものがあるか調べてみよう。 【参考例】able-netホームページ（アメリカ） https://www.ablenetinc.com/ ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをまとめ、記録してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	母国語や貧困の問題等のある幼児児童の学習・生活上の困難と支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別な配慮を必要とする幼児児童への指導、子どもの貧困問題、不登校対策、組織的な支援について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：外国につながる子どもの教育について調べておきましょう。 【参考例】CLARINET(海外子女教育、帰国・外国人児童生徒教育等に関するホームページ) https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/main7_a2.htm 文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒に対する指導の在り方について」 https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11402417/www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/05/1335783.htm ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをま

		とめ、記録してください。
	教室外学習の時間（分）	220分

学習計画注記

・学習の進度等により講義のテーマの順序や構成を変更することがある。

学生へのフィードバック方法

・授業毎に提出するコメントカードは、内容に質問が含まれるときは次回の授業の冒頭で取り上げて回答する。また学習内容の振り返りのため、教員の側でいくつかカードをピックアップし、その意見等を紹介する。ただし、カードの記載内容を授業で紹介することの可否について、学生自身がカードのチェック欄で選択することができる。

評価方法

・①定期試験の成績と、②授業中の体験実習やディスカッションへの参加状況、及びの③コメントカードの記述を総合して評価する。
・①に関しては授業内でルーブリック評価表を配布する。
・上記の採点を集計して授業全体の評価を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		○
授業中の活動		○	○	○
コメントカード	○	○	○	

評価割合

定期試験（70%）（オンライン授業の課題提出を含む）、体験実習またはディスカッションへの参加状況（20%）、コメントカード（10%）

使用教科書名(ISBN番号)

・各授業でプリント教材等を配布する。またはオンライン・コンテンツを共有する。

参考図書

・適宜に紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】特別な教育ニーズを有する幼児児童の発達課題を理解し、適切な支援を行うために必要となる基本的な知識を身に付ける。
【思考・判断】幼児児童の発達や障害の状況を判断し、その個人差に応じた指導の工夫や配慮を考えることができる。
【関心・意欲・態度】特別な教育ニーズを有する児童の教育に対して関心をもち、教員としての対応能力を高める意欲と、積極的に関わっていこうとする態度を身に付ける。
【技術・表現】幼児児童の個人差に応じた指導の目的や方法を他者に分かりやすく伝えることができる。
障害のある幼児児童の教材・教具にＩＣＴを適度に活用することができる。
障害のある幼児児童の摂食指導を安全に行うことができる。

オフィスアワー

前期：火曜２限(岡部研究室)
後期：未定(岡部研究室)

学生へのメッセージ

障害のある児童の教育において、正しい知識と理解は、教員としての適切な判断や、さらに指導の意欲や態度とも密接に関係します。例えば、自閉スペクトラム症の児童の中には、教員や他の子どもが話しかけると両耳を手で塞ぐ例や、手をつなごうとすると振り払うような子どもがいます。しかし、これらの行動は、特有の感覚の過敏によるもので、相手を拒絶しているわけではありません。その理解がないと、教員は児童への接し方が分からなくなり、子どもどうしの関係をうまく導くこともできません。また、ＤＬＤ（発達性学習症）の児童における読み書きの問題は、海外からの留学生や外国につながる子どもの日本語学習のつまずきと非常によ

く似ています。障害に対して生じる「何でそんなことをするのか？」「何でこんなこともできないのか？」といった疑問や違和感は、じつは自分の中にある「当たり前」という固定観念や常識にとらわれているだけなのかも知れません。特別支援教育という言葉も、必ずしも「特別」なものではなく、より丁寧で、より深い理解に基づく教育なのだと考えてもらえると嬉しく思います。そうした子ども理解の知識や態度は、どんな子どもの教育においても無駄にはならないと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、主に３つの実務経験を有している。 ①特別支援学校教諭、肢体不自由、聴覚障害、重複障害のある児童生徒に対する教育支援。②一般小学校、特別支援学級教諭：知的障害、発達障害のある児童への教育支援。③一般小学校、管理職(校長・副校長)及び通級指導教室設置校、管理職。
アクティブ・ラーニング	○	・授業では適宜ディスカッションの機会を設ける。
情報リテラシー教育	○	個人情報保護及び個人情報流出防止等に関する法令等に準じ人権尊重に結びつけた指導を行う。
ICT活用	○	・ＩＣＴを活用した障害者へのアシスティブ・テクノロジーの活用例などを示す。 ・オンライン・コンテンツの活用を進める。

講義コード	610050031
講義名	特別支援教育論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期後半
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	2年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	江田　裕介	指定なし

ナンバリング

Y20004C11

授業概要(教育目的)

児童期、思春期及び青年期の入口にある、それぞれの児童生徒の発達には、学校で行う各教科等の学習内容を習得することだけでなく、自分の行動を適切にコントロールする力を身に付けることや、他の児童生徒や教員、地域社会の人たちと良好な関係を築き、維持していくための課題がある。本講義では、こうした学習活動や、行動の自己調整、人との関係形成等に困難があり、特別な教育ニーズを有する児童生徒の教育支援について学んでいく。こうした問題は、学校におけるいじめや不登校、引きこもりといった教育問題とも深く関わっている。また、不適切な養育環境等の要因で心的外傷を生じている生徒の教育支援や、行動に問題を有する生徒の指導についても講ずる。あわせて外国につながる生徒の言語の教育や、ＩＣＴを活用した学習活動の支援など、現代の学校における特別な教育ニーズにも触れる。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	特別な教育ニーズを有する児童生徒の発達課題を理解し、適切な支援を行うために必要となる基本的な知識を身に付ける。
思考・判断の観点 (K)	児童生徒の発達や障害の状況を判断し、その個人差に応じた指導の工夫や配慮を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	特別な教育ニーズを有する児童生徒の教育に対して関心をもち、教員としての対応能力を高める意欲と、積極的に関わっていこうとする態度を身に付ける。
技術・表現の観点 (A)	児童生徒の個人差に応じた指導の目的や方法を他者に分かりやすく伝えることができる。 障害のある児童生徒の教材・教具にＩＣＴを適切に活用することができる。

学習計画

	授業テーマ	イントロダクション：障害のある児童生徒の教育

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・特別支援学校や特別支援学級、通級の指導など、障害のある児童生徒に対する学校教育のシステムを知る。また現代の国際社会において目指されるインクルーシブ教育システムの構築について理解する。 ・児童期、思春期、及び青年期の入り口にある、それぞれの児童生徒における心身の機能的な発達の特性と、発達の最近接領域について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：学校教育法に定められた学校の種別や、特別支援学級及び通級による指導の対象と種類を調べておきましょう。 【参考例】文部科学省ホームページ「特別支援教育の現状」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/002.htm ・復習：各指導形態における在籍幼児・児童の人数や学級数と、その近年の推移等を調べ、学びを深めてください。 【参考例】文部科学省ホームページ「特別支援教育資料」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1406456.htm
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	授業テーマ	児童生徒の発達における障害とその教育支援（１）学習につまずきのある児童生徒
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「学習」とは何かを考え、児童生徒の発達上に生じる学習のつまずきや、学習能力の障害について知る。 ・発達性学習症（ＤＬＤ;Developmental Learning Disorder*）の特性を理解し、その教育支援に関する基礎的な知識を学ぶとともに、教員としての配慮と心構えを考える。　*WHO（世界保健機構）のICD11（国際疾病分類）による。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：本講義の対象となる児童の学びの場について調べておきましょう。 【参考例】文部科学省ホームページ「障害に配慮した教育」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/mext_00800.html ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをまとめ、記録してください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	児童生徒の発達における障害とその教育支援（２）行動の自己コントロールが苦手な児童生徒
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	周囲と協調して行動する、時間や順番を待つ、人の話を聞く、ルールに従う、忘れ物をしないなど、行動の自己コントールに必要となる発達的な要素について考え、幼児児童の発達上に生じる行動調整の遅れや、その障害を知る。 ・注意欠如多動症（ＡＤＨＤ:Attention Deficit Hyperactivity Disorder）の特性を理解し、その教育支援に関する基礎的な知識を学ぶとともに、教員としての配慮と心構えを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：本講義の対象となる児童の学びの場について調べておきましょう。 【参考例】文部科学省ホームページ「障害に配慮した教育」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/mext_00800.html ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをまとめ、記録してください。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	児童生徒の発達における障害とその教育支援（３）人との関係を築くことが難児童児童生徒
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	視線や表情、身振り、相手との距離や位置など、他者との関係を調整する非言語の機能について考え、児童生徒の発達上に生じる関係形成のつまずきや、その障害を理知る。 ・自閉スペクトラム症（ＡＳＤ: Autism Spectrum Disorder）の特性を理解し、その教育支援に関する基礎的な知識を学ぶとともに、教員としての配慮と心構えを考える。

第4回	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：本講義の対象となる児童の学びの場について調べておきましょう。 【参考例】文部科学省ホームページ「障害に配慮した教育」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/mext_00800.html ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをまとめ、記録してください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	児童生徒の発達における障害とその教育支援（４）心に見えない傷を負った児童生徒
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・マルトリートメント（不適切な養育）や、過酷な環境、事件や災害等によって生じたトラウマ（心的外傷）が、児童生徒の発達上にもたらす影について考え、社会性の発達の問題や、その障害を知る。 ・反応性愛着障害（Reactive attachment disorder of childhood）と脱抑制性対人交流障害（Reactive attachment disorder of childhood）の特性を理解し、その教育支援に関する基礎的な知識を学ぶとともに、教員としての配慮と心構えを考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：子どもの発達段階に応じた支援の必要性について調べておきましょう。 【参考例【文部科学省ホームページ「子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題」 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/053/shiryo/attach/1282789.htm ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをまとめ、記録してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	障害のある児童生徒の学習やコミュニケーションを支援するテクノロジー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	文字や文章の読みに困難のある生徒のためのデイジー教科書や、視覚障害のある児童生徒のための点字プリンタ、触覚ディスプレイ、全身を動かせない重症者の利用する視線入力装置など、ＩＣＴを活用した先端的な教育支援について学ぶ。一部の機材については体験実習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：障害の重い子どものコミュニケーションや遊びを支援する機材にはどのようなものがあるか調べてみよう。 【参考例】able-netホームページ（アメリカ） https://www.ablenetinc.com/ ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをまとめ、記録してください。
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	授業テーマ	母国語や貧困の問題等のある子どもの学習・生活上の困難と支援
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	特別な配慮を必要とする児童生徒への指導、子どもの貧困問題、不登校対策、組織的な支援について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・予習：外国につながる子どもの教育について調べておきましょう。 【参考例】CLARINET(海外子女教育、帰国・外国人児童生徒教育等に関するホームページ) https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/main7_a2.htm 文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒に対する指導の在り方について」 https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11402417/www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/05/1335783.htm

		・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをまとめ、記録してください。
	教室外学習の時間（分）	220分

学習計画注記

・学習の進度等により講義のテーマの順序や構成を変更することがある。
・第7回の授業についてはオンラインのオンデマンド方式で受講することになるので、参加の方法や課題の提出等について担当教員からの通知や指示に注意すること。

学生へのフィードバック方法

・授業毎に提出するコメントカードは、内容に質問が含まれるときは次回の授業の冒頭で取り上げて回答する。また学習内容の振り返りのため、教員の側でいくつかカードをピックアップし、その意見等を紹介する。ただし、カードの記載内容を授業で紹介することの可否について、学生自身がカードのチェック欄で選択することができる。

評価方法

①定期試験の成績と、②授業中の実習やディスカッションへの参加状況、及び③コメントカードの提出と記述を総合して評価する。
第7回の授業については、オンラインでの受講状況に加え、別途に提示される課題によって評価する。
①に関しては授業内でルーブリック評価表を配布する。
上記の採点を集計して授業全体の評価を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		○
授業中の活動		○	○	○
コメントカード	○	○	○	

評価割合

定期試験（70%）（オンライン課題の採点を含む）、学習活動またはディスカッションへの参加状況（20%）、コメントカード（10%）

使用教科書名(ISBN番号)

各授業でプリント教材等を配布する。またはオンライン・コンテンツを共有する。

参考図書

適宜に紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】特別な教育ニーズを有する幼児児童の発達課題を理解し、適切な支援を行うために必要となる基本的な知識を身に付ける。
【思考・判断】幼児児童の発達や障害の状況を判断し、その個人差に応じた指導の工夫や配慮を考えることができる。
【関心・意欲・態度】特別な教育ニーズを有する児童の教育に対して関心をもち、教員としての対応能力を高める意欲と、積極的に関わっていこうとする態度を身に付ける。
【技術・表現】幼児児童の個人差に応じた指導の目的や方法を他者に分かりやすく伝えることができる。
障害のある幼児児童の教材・教具にＩＣＴを適度に活用することができる。

オフィスアワー

キャンパスが離れてるためZoom等のオンラインで対応します。
事前に必ずメール等でアポイントメントをとってください。

学生へのメッセージ

障害のある児童の教育において、正しい知識と理解は、教員としての適切な判断や、さらに指導の意欲や態度とも密接に関係します。例えば、自閉スペクトラム症の児童の中には、教員や他の子どもが話しかけると両耳を手で塞ぐ例や、手をつなごうとすると振り払うような子どもがいます。しかし、これらの行動は、特有の感覚の過敏によるもので、相手を拒絶しているわけではありません。その理解がないと、教員は児童への接し方

が分からなくなり、子どもどうしの関係をうまく導くこともできません。また、ＤＬＤ（発達性学習症）の児童における読み書きの問題は、海外からの留学生や外国につながる子どもの日本語学習のつまずきと非常によく似ています。障害に対して生じる「何でそんなことをするのか？」「何でこんなこともできないのか？」といった疑問や違和感は、じつは自分の中にある「当たり前」という固定観念や常識にとらわれているだけなのかも知れません。特別支援教育という言葉も、必ずしも「特別」なものではなく、より丁寧で、より深い理解に基づく教育なのだと考えてもらえると嬉しく思います。そうした子ども理解の知識や態度は、どんな子どもの教育においても無駄にはならないと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	指導教員は重度障害児の教育臨床に16年間従事した経験を有する。
アクティブ・ラーニング	○	・授業では適宜ディスカッションの機会を設ける。 ・ＩＣＴ等のアシスティブ・テクノロジーの活用について体験実習を行う。
情報リテラシー教育	○	個人情報保護及び個人情報流出防止等に関する法令等に準じ人権尊重に結びつけた指導を行う。
ICT活用	○	・ＩＣＴを活用した障害者へのアシスティブ・テクノロジーの体験実習を行う。 ・オンライン・コンテンツの活用を進める。

講義コード	610051001
講義名	教育・保育制度論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	2年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	中田 範子	指定なし
教授	齋藤 義雄	指定なし

ナンバリング

Y24001M21

授業概要(教育目的)

人間としての基礎を培う、幼児期及び児童期の子どもの保育・教育は、幼稚園・小学校で行われている保育・教育がどのような社会背景や制度のもとに営まれているのかについて教授する。また、現代的な諸問題を取り上げながら、学校安全、地域との連携、クラス経営等について社会的な枠組みから考察できるような基本的な知識を教授する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	保育現場や学校をめぐる現代的問題、制度的事項、経営的事項について理解する。
思考・判断の観点 (K)	乳幼児や児童の生活の変化を踏まえた現状を理解し、指導上の課題について考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	保育・教育の動向に関心を持ち、制度とカリキュラムマネジメントの重要性を関連させながら理解する。
技術・表現の観点 (A)	自分の意見を他者に伝わるよう適切に表現しながら、ディスカッションを通して自分の考えを吟味したり、深めたりすることができる。

学習計画

	授業テーマ	ガイダンス、教育を支える保育・教育制度の仕組み

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	教育・保育制度の概要について理解し、課題意識を持ち、子どもの視点に立った制度の重要性を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	幼児・児童を取り巻く現代的課題について、気になる事例を挙げ、まとめる。
	教室外学習の時間（分）	200
第2回	**授業テーマ**	保育・教育制度と関連法規
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育・保育に関連する法令等について理解し、目指す教育・保育の方向性について考える。今年度は、こども家庭庁やこども基本法について学び、「こどもまんなか社会」の実現について討議をしながら理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	演習問題を完成する。
	教室外学習の時間（分）	200
第3回	**授業テーマ**	わが国の幼児・児童をめぐる諸問題の実情と対応
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	今年度は「子どもの貧困」を取り上げて調査し、その現状を理解し、課題について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	討議の内容をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200
第4回	**授業テーマ**	保育・教育制度の概要①：保育所の機能と時間外保育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事例をもとに、教育時間外の教育・保育、夜間保育の現状を理解し、その制度面の課題について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	討議の内容をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200
第5回	**授業テーマ**	保育・教育制度の概要②：幼保一体化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼保一体化と認定こども園に関する現状を理解し、課題について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	討議の内容をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	200
第6回	**授業テーマ**	保育・教育制度の概要③：保育現場で働く保育士を取り巻く状況
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育現場で働く保育士を取り巻く状況を踏まえ、保育士の研修制度等について理解し、求められる資質や能力について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	演習問題を完成する。

	教室外学習の時間（分）	200
第7回	**授業テーマ**	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業内容を復習し、まとめのレポートを作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業内容を整理・復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	200
第8回	**授業テーマ**	学級経営
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	幼稚園・小学校における学級経営に関する基礎知識と諸問題について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト『教職概論』の第８章を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	200
第9回	**授業テーマ**	校内における業務 校務分掌
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	園・学校内における各教職員の業務・役割と連携の在り方について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト『教職概論』の第１０章を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	200
第10回	**授業テーマ**	教員研修の意義及び制度上の位置づけ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教員の職務内容について理解するとともに、教員研修の意義と制度について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト『教職概論』の第１１章を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	200
第11回	**授業テーマ**	学び続ける教師
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学び続ける教師は、反省的実践家であることについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト『教職概論』の第１２章を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	200
	授業テーマ	身分保障・働き方改革
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用	教師の身分保障や働き方改革に関する現状と諸問題について理解する。

第12回	を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト『教職概論』の第１３章を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	200
第13回	授業テーマ	チーム学校運営への対応：主に校外
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教職員の連携と外部機関との連携について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト『教職概論』の第１４章を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	200
第14回	授業テーマ	現代的な課題
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代的な問題を取り上げ、課題について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキスト『教職概論』の第１５章を読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	200

学習計画注記

状況により、計画に変更が生じる場合もある。

学生へのフィードバック方法

提出物はすべて添削し、返却する。また、グループ討議、発表の際には、質疑応答を通して学習目標が達成できるように適宜助言する。

評価方法

提出物と学期末レポートはすべて点数化し、担当者間で協議の上、評価を決定する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
提出物(討議のまとめ等)	○	○	○	
学期末レポート	○	○	○	

評価割合

提出物(40%)、学期末レポート(60%)
ルーブリックに基づいて評価する。ルーブリックは授業内に提示する。

使用教科書名(ISBN番号)

齋藤義雄『教職概論』 大学図書出版 2020年

参考図書

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学を構成する 6 領域のうち、「子どもの保育」「子どもの教育」「子ども

の福祉」を理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・感性が備わっている。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できている。
【技術・表現】自分の意見を他者に伝わるよう適切に表現しながら、ディスカッションを通して自分の考えを吟味したり、深めたりしている。

オフィスアワー

火曜2限(中田)

学生へのメッセージ

受け身ではなく、積極的な態度で授業に臨むことを期待しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、2名とも、幼稚園・保育所・小学校で教諭・保育士として実務経験を有しており、教育・保育の現場の実際について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	教育・保育制度に関する現代的諸問題について、学生同士の討議を通して、課題を抽出し、その解決方法について考える。
情報リテラシー教育	○	子どもを取り巻く諸問題について調査する過程で、的確な情報を収集し、多方面から読み解き、考察する。
ICT活用	○	子どもを取り巻く諸問題について調査・考察し、画像等を用いながらまとめる。

講義コード	610052001
講義名	総合的な学習の指導法（中・高・栄）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期後半
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	齋藤 義雄	指定なし

ナンバリング

Y30008M11

授業概要(教育目的)

中学校・高等学校における総合的な学習の時間は、学習指導要領で、探究の時間としての位置づけの重要性が増していて、高等学校では名称が「総合的な探究の時間」となっている。変化の激しい社会に対応して、自ら課題をみつけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることをねらいとしている。総合的な学習の時間の学習指導の基本的な考えとして、探究的な学習、協同的な学習、体験的な学習、言語活動の充実等の実践事例を広く学ばせる。学習指導案を作成し、プレゼンテーションを行い、アクティブラーニングを通して、改善点を議論させる。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	総合的な学習の時間の意義や原理が理解できる。
思考・判断の観点 (K)	自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら興味・関心をもった内容を積極的に調べ、教材開発ができる。
技術・表現の観点 (A)	調べた内容、開発した教材を適切な方法でプレゼンテーションができる。

学習計画

	授業テーマ	総合的な学習の時間の意義と原理

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高等学校、中学校、小学校の総合的な学習の時間で学んできたことを振り返ることを通して、総合的な学習の時間の意義と原理を理解する。また、教材開発課題を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの第1講を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	総合的な学習の時間の変遷
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	総合的な学習の時間の変遷を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの第2講を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	総合的な学習の時間の計画と評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	総合的な学習の時間の計画と評価を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの第3講を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	総合的な学習の時間の指導ー情報機器及び教材の活用ー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	総合的な学習の時間の指導について、情報機器及び教材の活用について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの第4講を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	総合的な学習の時間を推進するために体制づくりーカリキュラム・マネジメントー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	総合的な学習の時間を推進するための体制作りについて、カリキュラム・マネジメント視点から理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの第5講を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	個人探究課題のプレゼンテーション①ー情報機器及び教材の活用ー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	総合的な学習の時間の個人探究課題について、情報機器を活用してプレゼンテーションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの第6講を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	個人探究課題のプレゼンテーション②ー情報機器及び教材の活用ー

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	総合的な学習の時間の個人探究課題について、情報機器を活用してプレゼンテーションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの第7・8講を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	200分

学生へのフィードバック方法

授業の最初と最後に質問の時間を設定するとともに、授業以外では研究室に質問に来ること。提出したノートは、確認後返却する。

評価方法

レポート（30%）、パワーポイント・教材開発（20%）、プレゼンテーション（30%）、平常点（20０%）で評価する。

ルーブリック評価については、総合的な学習の時間や総合的な探究の時間は経験主義に基づいており、系統主義に基づくルーブリック評価は適さないと考えるので、ルーブリック評価は実施しない。ポートフォリオ評価やプレゼンテーション評価を実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○		
パワーポイント（教材開発）		○		○
プレゼンテーション				○
積極的な参加態度			○	
ノート	○		○	○

評価割合

レポート 30０%、パワーポイント・教材開発 20%、プレゼンテーション 30% 平常点 20%
平常点：授業への積極的な参加態度、ノート等

使用教科書名(ISBN番号)

梅澤秀監、木内隆生、嶋﨑政男『特別活動15講と総合的学習8講』大学図書出版 2019年

参考図書

『中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編』『高等学校学習指導要領 総合的な探究の時間編』

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【思考・判断】自ら興味・関心をいだいた課題の教材開発を通して、深く探究することができる。
【関心・意欲・態度】自ら興味・関心をもった内容を積極的に調べ、教材開発ができている。
【技能・表現】探究した課題に関して情報機器を活用したプレゼンテーションを行うとともに、自分の意見を積極的に発言し、コミュニケーション能力の向上を図る。

オフィスアワー

授業の前後に授業教室か1628研究室

学生へのメッセージ

積極的な態度で授業に臨むことを期待する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	中学校、小学校で総合的な学習の時間の指導を行った実戦経験を活かし、実践事例を含めて説明する。
アクティブ・ラーニング	○	プレゼンテーションやディスカッションを取り入れたアクティブラーニングを実践する。
情報リテラシー教育	○	探究のための情報モラルに関して理解する。
ICT活用	○	情報機器、パワーポイントを活用したプレゼンテーションを実践する。

講義コード	610052002
講義名	総合的な学習の指導法（小）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	齋藤 義雄	指定なし

ナンバリング

Y34003M11

授業概要(教育目的)

小学校における総合的な学習の時間は、学習指導要領で、探究の時間としての位置づけの重要性が増している。変化の激しい社会に対応して、自ら課題をみつけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることをねらいとしている。総合的な学習の時間の学習指導の基本的な考えとして、探究的な学習、協同的な学習、体験的な学習、言語活動の充実等の実践事例を広く学ばせる。学習指導案を作成し、プレゼンテーションを行い、アクティブラーニングを通して、改善点を議論させる。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	総合的な学習の時間の意義や原理が理解できる。
思考・判断の観点 (K)	自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら興味・関心をもった内容を積極的に調べ、教材開発ができる。
技術・表現の観点 (A)	調べた内容、開発した教材を適切な方法でプレゼンテーションができる。

学習計画

	授業テーマ	総合的な学習の時間の意義と原理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆ	高等学校、中学校、小学校の総合的な学習の時間で学んできた

第1回	ﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ことを振り返ることを通して、総合的な学習の時間の意義と原理を理解する。また、教材開発課題を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの第1講を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	総合的な学習の時間の変遷
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	総合的な学習の時間の変遷を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの第2講を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	総合的な学習の時間の計画と評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	総合的な学習の時間の計画と評価を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの第3講を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	総合的な学習の時間の指導ー情報機器及び教材の活用ー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	総合的な学習の時間の指導について、情報機器及び教材の活用について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの第4講を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	総合的な学習の時間を推進するために体制づくりーカリキュラム・マネジメントー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	総合的な学習の時間を推進するための体制作りについて、カリキュラム・マネジメント視点から理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの第5講を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	個人探究課題のプレゼンテーション①ー情報機器及び教材の活用ー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	総合的な学習の時間の個人探究課題について、情報機器を活用してプレゼンテーションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの第6講を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	個人探究課題のプレゼンテーション②ー情報機器及び教材の活用ー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆ	

第7回	ﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	総合的な学習の時間の個人探究課題について、情報機器を活用してプレゼンテーションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの第7・8講を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	200分

学生へのフィードバック方法

授業の最初と最後に質問の時間を設定するとともに、授業以外では研究室に質問に来ること。
提出したノートは、確認後返却する。

評価方法

レポート（30%）、パワーポイント・教材開発（20%）、プレゼンテーション（30%）平常点（20%）で評価する。

ルーブリック評価については、総合的な学習の時間や総合的な探究の時間は経験主義に基づいており、系統主義に基づくルーブリック評価は適さないと考えるので、ルーブリック評価は実施しない。ポートフォリオ評価やプレゼンテーション評価を実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
レポート	○	○		
パワーポイレポ（教材開発）		○		○
プレゼンテーション				○
積極的な参加態度			○	
ノート	○		○	○

評価割合

レポート 30%、パワーポイント・教材開発 20%、プレゼンテーション 30%、平常点 20%
平常点：授業への積極的な参加態度、ノート等

使用教科書名(ISBN番号)

梅澤秀監、木内隆生、嶋﨑政男『特別活動15講と総合的学習8講』大学図書出版 2019年

参考図書

『小学校学習指導要領 総合的な学習の時間編』

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【思考・判断】自ら興味・関心をいだいた課題の教材開発を通して、深く探究することができる。
【関心・意欲・態度】自ら興味・関心をもった内容を積極的に調べ、教材開発ができている。
【技能・表現】探究した課題に関して情報機器を活用したプレゼンテーションを行うとともに、自分の意見を積極的に発言し、コミュニケーション能力の向上を図る。

オフィスアワー

授業の前後に授業教室か1628研究室

学生へのメッセージ

積極的な態度で授業に臨むことを期待する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	中学校、小学校で総合的な学習の時間の指導を行った実戦経験を活かし、実践事例を含めて説明する。
アクティブ・ラーニング	○	プレゼンテーションやディスカッションを取り入れたアクティブラーニングを実践する。
情報リテラシー教育	○	探究のための情報モラルに関して理解する。
ICT活用	○	情報機器、パワーポイントを活用したプレゼンテーションを実践する。

講義コード	610052031
講義名	総合的な学習の指導法
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期後半
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	齋藤 義雄	指定なし

ナンバリング

Y30008C11

授業概要(教育目的)

中学校・高等学校における総合的な学習の時間は、学習指導要領で、探究の時間としての位置づけの重要性が増していて、高等学校では名称が「総合的な探究の時間」となっている。変化の激しい社会に対応して、自ら課題をみつけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることをねらいとしている。総合的な学習の時間の学習指導の基本的な考えとして、探究的な学習、協同的な学習、体験的な学習、言語活動の充実等の実践事例を広く学ばせる。学習指導案を作成し、プレゼンテーションを行い、アクティブラーニングを通して、改善点を議論させる。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	総合的な学習の時間の意義や原理が理解できる。
思考・判断の観点 (K)	自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら興味・関心をもった内容を積極的に調べ、教材開発ができる。
技術・表現の観点 (A)	調べた内容、開発した教材を適切な方法でプレゼンテーションができる。

学習計画

	授業テーマ	総合的な学習の時間の意義と原理

第1回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	高等学校、中学校、小学校の総合的な学習の時間で学んできたことを振り返ることを通して、総合的な学習の時間の意義と原理を理解する。また、教材開発課題を確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの第1講を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	授業テーマ	総合的な学習の時間の変遷
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	総合的な学習の時間の変遷を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの第2講を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	授業テーマ	総合的な学習の時間の計画と評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	総合的な学習の時間の計画と評価を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの第3講を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	授業テーマ	総合的な学習の時間の指導ー情報機器及び教材の活用ー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	総合的な学習の時間の指導について、情報機器及び教材の活用について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの第4講を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	授業テーマ	総合的な学習の時間を推進するために体制づくりーカリキュラム・マネジメントー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	総合的な学習の時間を推進するための体制作りについて、カリキュラム・マネジメント視点から理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの第5講を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	授業テーマ	個人探究課題のプレゼンテーション①ー情報機器及び教材の活用ー
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	総合的な学習の時間の個人探究課題について、情報機器を活用してプレゼンテーションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの第6講を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	個人探究課題のプレゼンテーション②ー情報機器及び教材の活用ー

第7回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	総合的な学習の時間の個人探究課題について、情報機器を活用してプレゼンテーションを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	テキストの第7・8講を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	200分

学生へのフィードバック方法

授業の最初と最後に質問の時間を設定するとともに、授業以外では研究室に質問に来ること。
提出したノートは、確認後返却する。

評価方法

授業内小試験（４０%）と教材開発・プレゼンテーション（５０%）、平常点（１０%）で評価する。
試験は、コロナの感染状況に応じて、レポートとする。

ルーブリック評価については、総合的な学習の時間や総合的な探究の時間は経験主義に基づいており、系統主義に基づくルーブリック評価は適さないと考えるので、ルーブリック評価は実施しない。ポートフォリオ評価やプレゼンテーション評価を実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○			
パワーポイント（教材開発）		○		
プレゼンテーション				○
積極的な参加態度			○	
ノート	○		○	○

評価割合

レポート 30%、パワーポイント（教材開発）20%、プレゼンテーション 30%、平常点 20%
平常点：授業への積極的な参加態度、ノート等

使用教科書名(ISBN番号)

梅澤秀監、木内隆生、嶋﨑政男『特別活動15講と総合的学習8講』大学図書出版 2019年

参考図書

『中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編』『高等学校学習指導要領 総合的な探究の時間編』

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【思考・判断】自ら興味・関心をいだいた課題の教材開発を通して、深く探究することができている。
【関心・意欲・態度】自ら興味・関心をもった内容を積極的に調べ、教材開発ができている。
【技能・表現】探究した課題に関して情報機器を活用したプレゼンテーションを行うとともに、自分の意見を積極的に発言し、コミュニケーション能力の向上を図ることができている。

オフィスアワー

授業の前後に授業の教室または講師控え室

学生へのメッセージ

積極的な態度で授業に臨むことを期待する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	中学校、小学校で総合的な学習の時間の指導を行った実戦経験を活かし、実践事例を含めて説明する。
アクティブ・ラーニング	○	プレゼンテーションやディスカッションを取り入れたアクティブラーニングを実践する。
情報リテラシー教育	○	探究のための情報モラルに関して理解する。
ICT活用	○	情報機器、パワーポイントを活用したプレゼンテーションを実践する。 オンデマンド授業なので、ＩＣＴ機器を最大限に活用する。

講義コード	610054001
講義名	進路指導論（小・中・高）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期前半
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	児玉 英靖	指定なし

ナンバリング

Y30101M11

授業概要(教育目的)

進路指導は、生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活をよりよくおくれる資質を育てる過程であり、教育活動である。それを包含するキャリア教育は、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育む。
進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。

履修条件

教員免許資格に必要

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	進路指導の現状を知っている。
思考・判断の観点 (K)	進路指導の課題を自分なりに持っている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	職業のあり方と人生の充実の方策の考えを持つ。
技術・表現の観点 (A)	生徒と対話して援助できる。

学習計画

児童生徒ひとりひとりに寄り添った「進路指導」のために

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス【オンデマンド】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	進路指導・キャリア教育の意義について 講義計画の紹介
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分が教職を志したきっかけについて振り返る

	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	「進路指導（論）」の歴史と現在【オンデマンド】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「進路指導」の歴史 「進路指導」へのアプローチ：心理学的アプローチ／社会学的アプローチ
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分が経験した「進路指導」について振り返る
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	**授業テーマ**	「学校から職業への移行」という問題【オンデマンド】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の教育拡大 「生業の世界」と「職業の世界」 高校における進路指導のあり方 格差と進路指導
	教室外学習(予習・復習)の内容	「職業教育」の歴史的展開について理解を深める
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	**授業テーマ**	生徒の発達に応じた「キャリア教育」のあり方【オンデマンド】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校・中学校・高校での「キャリア教育」 学級経営・教科教育・特別活動・課外活動と「キャリア教育」
	教室外学習(予習・復習)の内容	児童生徒の発達段階に応じた働きかけについて理解を深める
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	**授業テーマ**	グループワーク①【集中講義】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの復習 キャリア・カウンセリング（1）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教職をめざした理由を思い出す
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	**授業テーマ**	グループワーク②【集中講義】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャリア・カウンセリング（2） いろいろな支援のあり方 「教員というキャリア」
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分はどういう教員をめざすか考察する
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	**授業テーマ**	「教師というキャリア」に向き合う【集中講義】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「キャリア教育」に必要な教師の資質とは？ 思い描く教師像（理想と現実）
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポート作成
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	**授業テーマ**	総括【オンデマンド】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全体のまとめ 補足
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポート提出
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

5回はオンデマンド方式で講義とリアクションペーパーへの回答を中心に講義を展開する。
3回は集中講義を予定しており、講義・グループワークなどを組み合わせ、双方向的な形の授業を展開する。
アクティブ・ラーニングによる学生の能動性の発揮を促す。その結果次第では、場合によって授業内容を発展的に組み替えることもある。

学生へのフィードバック方法

GoogleClassroomを利用しての質疑応答やリアクションペーパーへの回答など、随時やりとりを行う。

評価方法

レポート（60%）
リアクションペーパー（40%）

ルーブリックに基づく成績評価である。
ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート試験	○	○	○	○
ロール・プレイ実践	○	○	○	○

評価割合

レポート（60%）
リアクションペーパー（40%）

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない

参考図書

授業内で紹介する

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもに関わる諸課題を理解することで、教師の道へつなぐことができる。
【思考・判断】子どもの諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができるまた、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
【関心・意欲・態度】教師として、高い徳性をもって人々のために働く能力を持つ。
【技能・表現】教師としての専門的技能をもって教育の課題を発し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を持つ。

学生へのメッセージ

進路指導とは、児童生徒たちの成長を後押しし、適切に導いていくことだといえます。
そして、児童生徒の成長とともに歩む教師という職業は、やりがいとともに、大きな責任も負います。
私自身、知れば知るほどわからないことが増えていくばかりで、試行錯誤の毎日ではありますが、みなさんと一緒に学び考えていきたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	現役教員としての経験を活かした講義を進める
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを行う
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	インターネットを利用した講義を行う

講義コード	610054031
講義名	進路指導論（中・高）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期前半
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	実務経験あり
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	児玉 英靖	指定なし

ナンバリング

Y30101C11

授業概要(教育目的)

進路指導は、生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活をよりよくおくれる資質を育てる過程であり、教育活動である。それを包含するキャリア教育は、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育む。
進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。

履修条件

教員免許資格に必要

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	進路指導の現状を知っている。
思考・判断の観点 (K)	進路指導の課題を自分なりに持っている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	職業のあり方と人生の充実の方策の考えを持つ。
技術・表現の観点 (A)	生徒と対話して援助できる。

学習計画

児童生徒ひとりひとりに寄り添った「進路指導」のために

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス【オンデマンド】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	進路指導・キャリア教育の意義について 講義計画の紹介
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分が教職課程を志すきっかけについて振り返

		る
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	「進路指導（論）」の歴史と現在【オンデマンド】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「進路指導」の歴史 「進路指導」へのアプローチ：心理学的アプローチ／社会学的アプローチ
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分が経験した「進路指導」について振り返る
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	**授業テーマ**	「学校から職業への移行」という問題【オンデマンド】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の教育拡大 「生業の世界」と「職業の世界」 高校における進路指導のあり方 格差と進路指導
	教室外学習(予習・復習)の内容	「職業教育」の歴史的展開について理解を深める
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	**授業テーマ**	生徒の発達に応じた「キャリア教育」のあり方【オンデマンド】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	小学校・中学校・高校での「キャリア教育」 学級経営・教科教育・特別活動・課外活動と「キャリア教育」
	教室外学習(予習・復習)の内容	児童生徒の発達段階に応じた働きかけについて理解を深める
	教室外学習の時間（分）	120分
第5回	**授業テーマ**	グループワーク①【集中講義】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの復習 キャリア・カウンセリング（1）
	教室外学習(予習・復習)の内容	教職をめざした理由を思い出す
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	**授業テーマ**	グループワーク②【集中講義】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	キャリア・カウンセリング（2）
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分はどういう教員をめざすか考察する
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	**授業テーマ**	「教師というキャリア」に向き合う【集中講義】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「キャリア教育」に必要な教師の資質とは？ 思い描く教師像（理想と現実）
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポート作成
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	**授業テーマ**	総括【オンデマンド】
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全体のまとめ 補足
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポート提出
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

5回はオンデマンド方式で講義とリアクションペーパーへの回答を中心に講義を展開する。
3回は集中講義を予定しており、講義・グループワークなどを組み合わせ、双方向的な形の授業を展開する。
アクティブ・ラーニングによる学生の能動性の発揮を促す。その結果次第では、場合によって授業内容を発展的に組み替えることもある。

学生へのフィードバック方法

GoogleClassroomを利用しての質疑応答やリアクションペーパーへの回答など、随時やりとりを行う。

評価方法

レポート（60%）
リアクションペーパー（40%）

ルーブリックに基づく成績評価である。
ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○	○	○
リアクションペーパー	○	○	○	○

評価割合

レポート（60%）
リアクションペーパー（40%）

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない

参考図書

授業内で紹介する

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもに関わる諸課題を理解することで、教師の道へつなぐことができる。
【思考・判断】子どもの諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができるまた、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
【関心・意欲・態度】教師として、高い徳性をもって人々のために働く能力を持つ。
【技能・表現】教師としての専門的技能をもって教育の課題を発し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を持つ。

学生へのメッセージ

進路指導とは、児童生徒たちの成長を後押しし、適切に導いていくことだといえます。
そして、児童生徒の成長とともに歩む教師という職業は、やりがいとともに、大きな責任も負います。
私自身、知れば知るほどわからないことが増えていくばかりで、試行錯誤の毎日ではありますが、みなさんと一緒に学び考えていきたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	現役教員としての経験を活かした講義を進める
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを行う
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	インターネットを利用した講義を行う

講義コード	610055001
講義名	ＩＣＴ活用の理論と実践（中・高）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期後半
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	2年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	長谷部 夏江	指定なし

ナンバリング

Y20104M11

授業概要(教育目的)

情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務を推進する知識・技能について論じる。現在の情報社会の背景、学校現場のICT環境について説明し、教育における情報通信機器（ICT）活用の意義や理論、及び方法、児童生徒の情報活用能力を育む指導方法、学校で活用される学習支援や校務支援システム等について取り上げる。さらに教師のICT指導力を高める方法、個別最適、協働的な学びの一体を目指した効果的なICT活用について論じる。毎回の授業でPCを活用し、学習指導や校務における様々な学校支援システム、アプリやツールについての活用方法を解説する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・現在の情報化社会の課題、及び学校教育でICTを活用する意義を理解し、その理論や方法に関する知識を習得し、説明することができる。 ・児童・生徒の情報活用能力を育む学習指導を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	・学校教育において、ICTを効果的に活用した問題解決方法を思考し、最善の対策を的確に判断して提案できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・教育の情報化、課題の発見や問題解決等に関心をもって意欲的に取り組み、前向きな態度で臨んでいる。 ・グループ活動等、自ら進んで協働的に学ぶことができる。
技術・表現の観点 (A)	・学校で活用されるICT機器、クラウドも含めたアプリやツールの基本操作を習得している。 ・目的に合わせた伝わりやすい資料の作成や発表ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス、情報社会の歴史的背景、学校教育におけるICT環境の展開とICT活用の意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全７回の授業の流れ、ルーブリック評価、Google Classroomのメンバー登録、課題の配付と提出方法等の説明を行う。社会の情報化の発展と学校教育でのICT環境整備の進展を理解し、学習指導要領等でのICT活用の位置づけを確認して、その理論や意義についての考えを深める。PCを活用して、画面操作や基本キーボート操作、及びGoogle Classroom、Forms、Keep等の効果的な活用方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習は講義内容の確認問題を解き、授業で提示された課題を作成してGoogle Classroomより提出する。
	教室外学習の時間（分）	復習90分
第2回	**授業テーマ**	児童生徒の情報活用能力と教科横断的な育成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報活用能力の定義、基本的なデジタル機器の操作、プログラミング、問題解決や探求における情報活用に関する指導の方法、および情報活用能力の教科横断的な育成について学ぶ。主な学習支援ツールの効果的な活用方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習は事前にGoogle Classroomで配付した講義資料に目を通し、キーワードの確認問題に取り組む。復習は講義内容の確認問題を解き、授業で提示された課題を作成してGoogle Classroomより提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習90分 復習120分
第3回	**授業テーマ**	教師のICT活用指導力の向上と指導に役立つデジタルコンテンツ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教師が効果的にICTを活用して指導に生かすことが求められる背景やICT活用指導力を高める方法、個別最適な学びと協働的な学びの一体化に向けたICT活用の授業実践例、デジタルコンテンツの活用方法を学ぶ。PCを活用して、NHK for School、Google Earth, Fig Jam等の効果的な活用方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習は事前にGoogle Classroomで配付した講義資料に目を通し、キーワードの確認問題に取り組む。復習は講義内容の確認問題を解き、授業で提示された課題を作成してGoogle Classroomより提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習90分 復習120分
	授業テーマ	教育データの利活用と教育情報セキュリティ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	教育データの収集・処理、その学習評価と指導への活用を学ぶ。学習履歴の蓄積と流通の将来像のイメージを検証する。併せて教育情報セキュリティに関して、学校の情報資産を守り、安全・安心な状態を維持して適切に活用する対策や情報セキュリティポリシーの作成について学ぶ。

第4回	**用を含む)**	
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習は事前にGoogle Classroomで配付した講義資料に目を通し、キーワードの確認問題に取り組む。復習は講義内容の確認問題を解き、授業で提示された課題を作成してGoogle Classroomより提出する。
	教室外学習の時間(分)	予習90分 復習120分
第5回	**授業テーマ**	情報モラルの育成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもを取り巻くICT環境の変化を認識して、児童生徒がデジタル機器を活用することで直面するリスクについての理解を深める。その上で体系的な情報モラル教育を検証する。併せてデジタル・シティズンシップという従来の情報モラルとは異なる考え方を取り上げ、それらを育成するための指導方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習は事前にGoogle Classroomで配付した講義資料に目を通し、キーワードの確認問題に取り組む。復習は講義内容の確認問題を解き、授業で提示された課題を作成してGoogle Classroomより提出する。
	教室外学習の時間(分)	予習90分 復習120分
第6回	**授業テーマ**	特別支援教育におけるICT活用と遠隔・オンライン教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近年の特別支援教育の進展とICT活用の推進を理解し、個に応じた支援を事例から学び、ICT活用のメリット、ディメリット、個々の特性に起因するトラブルについて考える。合理的配慮について理解を深め、特別支援教育での様々な学習上の困難に対応した積極的なICT活用の可能性を学ぶ。遠隔・オンライン教育の意義や分類、活用される情報通信技術・機器について知り、オンライン学習の学びのデザインを考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習は事前にGoogle Classroomで配付した講義資料に目を通し、キーワードの確認問題に取り組む。復習は講義内容の確認問題を解き、授業で提示された課題を作成してGoogle Classroomより提出する。
	教室外学習の時間(分)	予習90分 復習120分
第7回	**授業テーマ**	学校におけるICT環境整備と校務の情報化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	多くの自治体で校務支援システムが導入され、校務の効率化が図られている現状を知る。ICTの活用が教師の働きかた改革にどのように役立てるか、ITC支援員の確保や新規システムの導入等、校内のICT環境整備について事例を基に考える。講座のまとめとして、学習到達度の確認テストを実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習は事前にGoogle Classroomで配付した講義資料に目を通し、キーワードの確認問題に取り組む。復習は講義内容の確認問題を解き、授業で提示された課題を作成してGoogle Classroomより提出する。
	教室外学習の時間(分)	予習90分 復習120分

学習計画注記

・履修者数や授業の進捗によりスケジュールが変更になる場合もある。
・初回の授業でGoogle Classroomのメンバー登録を行う。
・Google Classroomを活用して連絡、講義資料の配付を行うため、Google Classroom、及び学内WiFiを利用できるようにしておくこと。

学生へのフィードバック方法

・Google Classroomから提出された課題等については、Google Classroomより各学生へフィードバックを行う。
・授業において、適宜、学生が提出した課題を提示し、学生同士でその成果物を共有して学び合えるようにする。

評価方法

・発表等を含む授業内の取組、予習復習課題、指導案、及び自作教材の課題、学習到達度確認テストで評価する。
・各講義において、予習、復習課題を提示する。復習の確認問題は８割以上の得点を合格とする。
・ルーブリックに基づき評価する。ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業内の取組	○		○	
課題	○	○		○
学習到達度確認テスト	○			

評価割合

受講状況・学習態度（10%）、課題（70%）、学習到達度確認テスト（20%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

西野和典/鹿野利春、他『教職課程 情報通信技術を活用した教育の理論および方法』(2023) 実教出版
ISDN番号 978-4-407-35841-4

参考図書

○ 末松加奈（編）『やさしく学ぶ教職課程 幼児と児童のための教育とICT活用』学文社、2023年
◯ 稲垣 忠 (著、編集)佐藤 和紀 (著、 編集), 堀田 龍也 ら(著)『ICT活用の理論と実践: DX時代の教師をめざして』北大路書房, 2021年
◯ 赤堀侃司 (著)『プログラミング教育の考え方とすぐに使える教材集』 ジャムハウス、 2018年
◯ 小原 豊、北島 茂樹 (編集, 著)『未来を拓くICT 教育の理論と実践』東洋館出版社、2024年
◯ 岩﨑 千晶 (著, 編集)、田中 俊也 (著, 編集)、山田 嘉徳ら (著)『学びを育む 教育の方法・技術とICT活用: 教育工学と教育心理学のコラボレーション』北大路書房、2023年

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】
・情報化社会に求められる情報活用能力を育成する豊かな知識をもち、教育における目指すべきICT環境ついて的確に判断して提案できる。

【関心・意欲・態度】
ICTの効果的な活用に前向きに取り組み、児童生徒や同僚の教師の支援をする。

【技能・表現】
学校教育で求められる効果的なICT機器の基本的操作技能を身につけ、自ら発見した課題について、目的や状況に合わせて伝わりやすい表現方法で提示できる。

オフィスアワー

非常勤講師のため、出校日の授業時間の前後、あるいはメールで質問等を受け付ける。

学生へのメッセージ

新しいデジタル機器やコンテンツが次々に創り出される情報社会に興味や関心をもって授業に臨んでほしい。
毎回の授業でICT機器を活用し、多くの学校で活用されるGoogleアプリ、ロイロノート、ミライシード等を紹介する。また適宜、役立つキー操作や裏技等も紹介する。学生同士で教え合ったり、意見交換をする時間を設ける。

＊デジタル教材の配付や演習等、毎授業でICTを使用するため、必ずノートPCあるいはキーボードのあるタブレットを持参してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	主体的に課題を発見し、グループ活動等、自ら進んで協働的に参加する。
情報リテラシー教育	○	著しく変化するICT環境がおよぼす児童生徒への影響を理解し、情報社会への参画する適切な態度を育成する方法を学ぶ。
ICT活用	○	学校現場で活用されるICT機器について、基本的な知識と操作技能を身につける。

講義コード	610055002
講義名	ＩＣＴ活用の理論と実践（小）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	2年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	末松 加奈	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし

ナンバリング

Y20104M11

授業概要(教育目的)

ICT（情報通信技術）を活用した教育の在り方について、社会的な背景を踏まえ、その意義や理論への理解を深めることを目的とする。また、教育現場におけるICT 活用の実際、学習指導、園務・校務の推進、ICT環境の整備、情報モラルの育成といった観点を取り扱う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・社会的背景の変化を踏まえ、現在のICT活用の意義と在り方を説明できる。 ・個別最適な学びと協働的な学びにどうICTを活用するか説明できる。 ・特別の支援を必要とする児童へのICT活用の意義、学校におけるICT環境の整備の在り方を説明できる。 ・各科目等に応じたICT活用について説明できる。 ・教育データの活用と情報セキュリティの重要性を説明できる。 ・遠隔・オンライン授業の意義、統合型校務支援システムを活用した校務について説明できる。 ・各教科等を通して横断的に育成する情報活用能力（情報モラルを含む）について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	・学習場面に応じた、また各教科等の特性に応じたICTを活用した指導法を考えることができる。 ・児童にデジタルデバイスの基本的な操作を身に付けさせるための指導法を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・自ら積極的にデジタルデバイスを活用しようとする。

技術・表現の観点(A)	・ICTを活用した基礎的な指導法を身に付けている。 ・学校現場で用いられるデジタルデバイスの基本的な操作を身に付けている。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス、ICT活用の意義とあり方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・履修方法や評価について ・これからの教育に必要なICT活用とは何なのか、その意義とあり方について学ぶ。 ・グループワーク：教科書のいくつかの章をグループに割り当てる。それぞれのグループは、自分が担当する章を読み込み、関連する具体例や補足の情報などを調べた上で、スライドに内容をまとめ発表する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第1章を読み、「学びの保障」「デジタルデバイド」の意味について整理しておくこと。 復習：配布資料等を読み返し、現在の教育現場のICT活用状況について理解を深める。
	教室外学習の時間（分）	190分
第2回	**授業テーマ**	情報モラルの育成について知ろう
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・子ども達が置かれているデジタル環境（デジタルメディア）について理解し、それらのデジタル環境が子どもに与え得る様々なリスクについて学ぶ。 ・情報モラルについて、動画などを用いながら、具体的に学ぶ。さらに、身近な話題から実際にどのようなことに気を付けるべきかを検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：デジタル環境がもたらすリスクにはどのようなものがあるだろうか。各自思いつくリスクを書き出しておく。 復習：情報モラルについて、身近な話題や自分自身の経験と関連付けながら何に気を付けるべきか整理する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	**授業テーマ**	動画編集技術を身に付けよう（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育や教育現場では、ICT活用が拡大するに伴い、保育者や教師が動画編集を行う機会が増えている。さらに、子ども自身が園や学校、行事や活動の紹介をするための動画を作成する機会も増えている。そこで、「大学を紹介する」というテーマでグループ毎に動画を撮影し編集を行う。本時では、撮影計画と動画構成を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：YouTubeなどで子どもや園・学校が作成した様々な動画を視聴し、見やすさなどポイントを書き出しておく。 復習：撮影した計画について見返しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	動画編集技術を身に付けよう（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	本時ではグループ毎に動画を撮影する。

第4回	育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：撮影場所を確認しておく。役割分担や持ち物の確認をする。 復習：撮影した動画を確認し、必要に応じて構成を修正する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	動画編集技術を身に付けよう（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本時では前時で撮影した動画を編集し、YouTube用（横型、長い）とインスタリール用（縦型、短い）を制作する。グループ毎に制作した動画に対し、相互評価を行うことにより、動画編集技術の向上を図る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：前時で撮影した動画を確認する。 復習：他のグループが作成した動画を見て、相互評価を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	園務、校務への活用について調べよう
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・そもそも校務・園務とは何かということから、現在の教育現場の課題とされている長時間労働などの問題も踏まえ、校務・園務におけるICT活用がもたらす意義について理解を深める。 ・統合型校務・園務支援システムの導入などICT環境整備の方法について、実際のシステムを複数調べ比較検討する。また、自分ならどのようなシステムが欲しいか考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第5章第7章を読み、校務・園務には何があるのかを整理しておく。 復習：文部科学省「校務支援システム導入・運用の手引き」や埼玉県「園務改善のための ICT化事例集」も参考にしながら、実際の導入事例について調べてみよう。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	お便りをつくろう
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・園や学校では、保護者向けのお便りを作る機会が多くある。本時では、お便りの種類や記載すべき内容について学び、実際に作成する。 ・保護者向けのお便りは、これまで大学で行ってきたレポート作成などとは異なる文書作成技術が必要とされる。デザインやレイアウト面の工夫、必要事項の見せ方、文書の体裁など、何種類かのお便りを比較しながら、実際に作成することでその技術を習得する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：園や学校ではどのような便りが保護者向けに作られているか調べる。 復習：文書の体裁について復習する。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	授業や遊びへの活用事例を調べよう（１）

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在、授業や遊びの中へ急速にICTが活用されるようになっている。そこで、グループ毎に活用事例を調べ、発表することで様々な活用方法への理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第3章、第6章を読んでおく。 復習：グループで発表練習を行う。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	授業や遊びへの活用事例を調べよう（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在、授業や遊びの中へ急速にICTが活用されるようになっている。そこで、グループ毎に活用事例を調べ、発表することで様々な活用方法への理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第3章と第6章を読んでおく。 復習：各グループの発表内容を振り返る。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	個に応じた学びに適したICT活用を学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近年、個に応じた学びに対応した様々なアプリが開発されている。それらのアプリを調べ、個に応じた学びにICTを活用する際の利点や課題について整理する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第2章と第3章を読んでおく。 復習：他の人が調べたアプリの中で自分が知らないものがあれば、それらのアプリを確認する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	ICTを活用した指導法を考える（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教科等横断的な視点で育成する情報活用能力について理解を深める。また、様々な事例から、各教科等や遊びの特性に応じたICTの活用方法とデジタルデバイスの基本的な操作に関する指導法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第3章、第4章を読んでおくこと。 復習：授業で取り上げた指導法以外に、どの様な活用方法があるか考えてみよう。
	教室外学習	

	の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	ICTを活用した指導法を考える（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前時で学んだことを踏まえながら、ICT活用を含む指導案もしくは日案を作成する。グループに分かれて、指導案の内容を発表し、その内容について討議する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：前時の資料を振り返り、指導案の内容を検討しておくこと。 復習：授業内の討議の内容を受けて、自分の指導案を修正し提出する。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	特別支援教育におけるICTの活用(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	障害のある児童生徒の学習や生活を支えるためのツールとして、ICTは重要な役割を果たす。 本時は、障害（視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱）による学習上・生活上の困難を確認し、実践例や実際に体験することを通して、学習支援や自立活動の指導を進めるためのICT活用について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第8章を読み、以下のことを整理しておくこと ・特別支援教育の対象となる各障害の特性について 復習：障害のある児童生徒に対するICTを用いた教育実践について、「魔法のプロジェクト」のサイト内「アプリ紹介」を閲覧すること。https://maho-prj.org/app/
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	**授業テーマ**	特別支援教育におけるICTの活用(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	本時は障害のある児童生徒の創作活動や、意思表示・コミュニケーション等に用いられるICT活用について学ぶ。 また、障害者の日常生活を支えたり、就労の選択肢を広げることを実現するICTの活用例を知ることにより、特別支援学校卒業後の自立や社会参加を促進するために解決すべき課題について検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習：教科書第8章を読み、以下のことを整理しておくこと ・「アクセシビリティ」「アシスティブ テクノロジー」「ユニバーサルデザイン」の意味について 復習：障害のある児童生徒に対するICTを用いた教育実践について、「魔法のプロジェクト」のサイト内「アプリ紹介」を閲覧すること。https://maho-prj.org/app/
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

※集中講義の日程によってスケジュールが変更になる場合があります。
※授業では毎回PCと教科書を持参してください。
※授業担当者：第1回～第12回（末松）、第13・14回（原田）

学生へのフィードバック方法

授業で課した課題・ワークシート等については、コメントを付けて返却するなど、適宜、授業担当教員からフィードバックする。

評価方法

平常点（授業内のグループワークや発表等への参加態度、予習復習などの取り組み状況）、指導案・日案、最終レポートで評価する。
・ルーブリックに基づく成績評価である。ルーブリックについてはクラスルームまたは授業内での配布等により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○		○	
指導案・日案	○	○		○
最終レポート	○	○		

評価割合

平常点35%、指導案25%、最終レポート40%

使用教科書名(ISBN番号)

末松加奈（編）「やさしく学ぶ教職課程 幼児と児童のための教育とICT活用」（学文社）ISBN：978-4-7620-3206-6

参考図書

参考資料については授業内で都度提示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】
これからのSociety5.0時代に向けて、情報通信技術（ICT）がもたらす意義とリスクを豊かな知識と深い思考をもって理解し、教育におけるICT活用のあるべき姿を的確に判断して提案できる能力が身についている。

オフィスアワー

末松 月曜3限 研究室1501

学生へのメッセージ

・自分から積極的にICTを活用しましょう。
・毎回予習と復習を記載していますので、しっかりと取り組んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	適宜、グループワークやグループディスカッションを取り入れる。
情報リテラシー教育	○	子どもを取り巻くデジタル環境の変化を含め、様々なリスクとそれらへの対応方法について学ぶ。
ICT活用		

講義コード	610055031
講義名	ＩＣＴ活用の理論と実践
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期後半
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	2年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	長谷部 夏江	指定なし

ナンバリング

Y20104C11

授業概要(教育目的)

情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務を推進する知識・技能について論じる。現在の情報社会の背景、学校現場のICT環境について説明し、教育における情報通信機器（ICT）活用の意義や理論、及び方法、児童生徒の情報活用能力を育む指導方法、学校で活用される学習支援や校務支援システム等について取り上げる。さらに教師のICT指導力を高める方法、個別最適、協働的な学びの一体を目指した効果的なICT活用について論じる。毎回の授業でPCを活用し、学習指導や校務における様々な学校支援システム、アプリやツールについての活用方法を解説する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・現在の情報化社会の課題、及び学校教育でICTを活用する意義を理解し、その理論や方法に関する知識を習得し、説明することができる。 ・児童・生徒の情報活用能力を育む学習指導を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	・学校教育において、ICTを効果的に活用した問題解決方法を思考し、最善の対策を的確に判断して提案できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・教育の情報化、課題の発見や問題解決等に関心をもって意欲的に取り組み、前向きな態度で臨んでいる。 ・グループ活動等、自ら進んで協働的に学ぶことができる。
技術・表現の観点 (A)	・学校で活用されるICT機器、クラウドも含めたアプリやツールの基本操作を習得している。 ・目的に合わせた伝わりやすい資料の作成や発表ができる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	ガイダンス、情報社会の歴史的背景、学校教育におけるICT環境の展開とICT活用の意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	全７回の授業の流れ、ルーブリック評価、Google Classroomのメンバー登録、課題の配付と提出方法等の説明を行う。社会の情報化の発展と学校教育でのICT環境整備の進展を理解し、学習指導要領等でのICT活用の位置づけを確認して、その理論や意義についての考えを深める。PCを活用して、画面操作や基本キーボート操作、及びGoogle Classroom、Forms、Keep等の効果的な活用方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習は講義内容の確認問題を解き、授業で提示された課題を作成してGoogle Classroomより提出する。
	教室外学習の時間（分）	復習90分
第2回	**授業テーマ**	児童生徒の情報活用能力と教科横断的な育成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報活用能力の定義、基本的なデジタル機器の操作、プログラミング、問題解決や探求における情報活用に関する指導の方法、および情報活用能力の教科横断的な育成について学ぶ。主な学習支援ツールの効果的な活用方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習は事前にGoogle Classroomで配付した講義資料に目を通し、キーワードの確認問題に取り組む。復習は講義内容の確認問題を解き、授業で提示された課題を作成してGoogle Classroomより提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習90分 復習120分
第3回	**授業テーマ**	教師のICT活用指導力の向上と指導に役立つデジタルコンテンツ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教師が効果的にICTを活用して指導に生かすことが求められる背景やICT活用指導力を高める方法、個別最適な学びと協働的な学びの一体化に向けたICT活用の授業実践例、デジタルコンテンツの活用方法を学ぶ。PCを活用して、NHK for School、Google Earth, Fig Jam等の効果的な活用方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習は事前にGoogle Classroomで配付した講義資料に目を通し、キーワードの確認問題に取り組む。復習は講義内容の確認問題を解き、授業で提示された課題を作成してGoogle Classroomより提出する。
	教室外学習の時間（分）	予習90分 復習120分
	授業テーマ	教育データの利活用と教育情報セキュリティ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	教育データの収集・処理、その学習評価と指導への活用を学ぶ。学習履歴の蓄積と流通の将来像のイメージを検証する。併せて教育情報セキュリティに関して、学校の情報資産を守り、安全・安心な状態を維持して適切に活用する対策や情報セキュリティポリシーの作成について学ぶ。

第4回	**用を含む)**	
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習は事前にGoogle Classroomで配付した講義資料に目を通し、キーワードの確認問題に取り組む。復習は講義内容の確認問題を解き、授業で提示された課題を作成してGoogle Classroomより提出する。
	教室外学習の時間(分)	予習90分 復習120分
第5回	**授業テーマ**	情報モラルの育成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもを取り巻くICT環境の変化を認識して、児童生徒がデジタル機器を活用することで直面するリスクについての理解を深める。その上で体系的な情報モラル教育を検証する。併せてデジタル・シティズンシップという従来の情報モラルとは異なる考え方を取り上げ、それらを育成するための指導方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習は事前にGoogle Classroomで配付した講義資料に目を通し、キーワードの確認問題に取り組む。復習は講義内容の確認問題を解き、授業で提示された課題を作成してGoogle Classroomより提出する。
	教室外学習の時間(分)	予習90分 復習120分
第6回	**授業テーマ**	特別支援教育におけるICT活用と遠隔・オンライン教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近年の特別支援教育の進展とICT活用の推進を理解し、個に応じた支援を事例から学び、ICT活用のメリット、ディメリット、個々の特性に起因するトラブルについて考える。合理的配慮について理解を深め、特別支援教育での様々な学習上の困難に対応した積極的なICT活用の可能性を学ぶ。遠隔・オンライン教育の意義や分類、活用される情報通信技術・機器について知り、オンライン学習の学びのデザインを考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習は事前にGoogle Classroomで配付した講義資料に目を通し、キーワードの確認問題に取り組む。復習は講義内容の確認問題を解き、授業で提示された課題を作成してGoogle Classroomより提出する。
	教室外学習の時間(分)	予習90分 復習120分
第7回	**授業テーマ**	学校におけるICT環境整備と校務の情報化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	多くの自治体で校務支援システムが導入され、校務の効率化が図られている現状を知る。ICTの活用が教師の働きかた改革にどのように役立てるか、ITC支援員の確保や新規システムの導入等、校内のICT環境整備について事例を基に考える。講座のまとめとして、学習到達度の確認テストを実施する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	予習は事前にGoogle Classroomで配付した講義資料に目を通し、キーワードの確認問題に取り組む。復習は講義内容の確認問題を解き、授業で提示された課題を作成してGoogle Classroomより提出する。
	教室外学習の時間(分)	予習90分 復習120分

学習計画注記

・履修者数や授業の進捗によりスケジュールが変更になる場合もある。
・初回の授業でGoogle Classroomのメンバー登録を行う。
・Google Classroomを活用して連絡、講義資料の配付を行うため、Google Classroom、及び学内WiFiを利用できるようにしておくこと。

学生へのフィードバック方法

・Google Classroomから提出された課題等については、Google Classroomより各学生へフィードバックを行う。
・授業において、適宜、学生が提出した課題を提示し、学生同士でその成果物を共有して学び合えるようにする。

評価方法

・発表等を含む授業内の取組、予習復習課題、指導案、及び自作教材の課題、学習到達度確認テストで評価する。
・各講義において、予習、復習課題を提示する。復習の確認問題は８割以上の得点を合格とする。
・ルーブリックに基づき評価する。ルーブリックについては初回授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業内の取組	○		○	
課題	○	○		○
学習到達度確認テスト	○			

評価割合

受講状況・学習態度（10%）、課題（70%）、学習到達度確認テスト（20%）などを総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

西野和典/鹿野利春、他『教職課程 情報通信技術を活用した教育の理論および方法』(2023) 実教出版
ISDN番号 978-4-407-35841-4

参考図書

○ 末松加奈（編）『やさしく学ぶ教職課程 幼児と児童のための教育とICT活用』学文社、2023年
◯ 稲垣 忠 (著、編集)佐藤 和紀 (著、 編集), 堀田 龍也 ら(著)『ICT活用の理論と実践: DX時代の教師をめざして』北大路書房, 2021年
◯ 赤堀侃司 (著)『プログラミング教育の考え方とすぐに使える教材集』 ジャムハウス、 2018年
◯ 小原 豊、北島 茂樹 (編集, 著)『未来を拓くICT 教育の理論と実践』東洋館出版社、2024年
◯ 岩﨑 千晶 (著, 編集)、田中 俊也 (著, 編集)、山田 嘉徳ら (著)『学びを育む 教育の方法・技術とICT活用: 教育工学と教育心理学のコラボレーション』北大路書房、2023年

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】
・情報化社会に求められる情報活用能力を育成する豊かな知識をもち、教育における目指すべきICT環境ついて的確に判断して提案できる。

【関心・意欲・態度】
ICTの効果的な活用に前向きに取り組み、児童生徒や同僚の教師の支援をする。

【技能・表現】
学校教育で求められる効果的なICT機器の基本的操作技能を身につけ、自ら発見した課題について、目的や状況に合わせて伝わりやすい表現方法で提示できる。

オフィスアワー

非常勤講師のため、出校日の授業時間の前後、あるいはメールで質問等を受け付ける。

学生へのメッセージ

新しいデジタル機器やコンテンツが次々に創り出される情報社会に興味や関心をもって授業に臨んでほしい。
毎回の授業でICT機器を活用し、多くの学校で活用されるGoogleアプリ、ロイロノート、ミライシード等を紹介する。また適宜、役立つキー操作や裏技等も紹介する。学生同士で教え合ったり、意見交換をする時間を設ける。

＊デジタル教材の配付や演習等、毎授業でICTを使用するため、必ずノートPCあるいはキーボードのあるタブレットを持参してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	主体的に課題を発見し、グループ活動等、自ら進んで協働的に参加する。
情報リテラシー教育	○	著しく変化するICT環境がおよぼす児童生徒への影響を理解し、情報社会への参画する適切な態度を育成する方法を学ぶ。
ICT活用	○	学校現場で活用されるICT機器について、基本的な知識と操作技能を身につける。

講義コード	620001031
講義名	学校栄養教育論I
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	酒井 治子	指定なし
准教授	大富 あき子	指定なし
非常勤講師	島﨑 聡子	指定なし

ナンバリング

Y32501C21

授業概要(教育目的)

栄養教諭（一種）教職免許の必修科目である。学校栄養教育論II、そして教職実習に向けた基礎の学習として、栄養教諭という資格の成り立ちから、職務内容、使命、役割への理解を深めることを目的とする。また、小・中学校での食に関する指導の全体計画の作成方法を理解し、栄養教諭として食に関する指導の効果的な指導方法を教授する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	幼児・児童・生徒の持つ食に関する健康課題の背景には社会状況の変化があることを客観的に理解し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	幼児・児童・生徒の持つ食に関する健康課題について探求し、その課題解決に向けた方策について情報取集して思考し、効果的な取り組みを判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	幼児・児童・生徒の持つ食に関する健康課題の解決のため、栄養教諭（管理栄養士）として使命感を持って取り組む意欲がある。また、他職種と連携するためのコミュニケーション能力や豊かな人間性を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	幼児・児童・生徒に効果的な指導を行うための全体計画や指導案を作成することができる。

	教育者として求められる豊かな表現力を身につけている。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	栄養教諭の制度と役割（担当教員：酒井）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教諭制度が創設された経緯と関係法規等について理解する。 栄養教諭の職務内容である「給食の管理」と「食に関する指導」を一体的に展開するためには、他の教職員や保護者、地域の専門家等との連携・協力が必要である。そのための効果的な食に関する指導全体計画の作成方法について理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教諭論 第１章の「１ 栄養教諭の制度と役割」（1～11ページ）および資料１の「食に関する指導体制の整備について」（182～189ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第2回	**授業テーマ**	学校における食育を推進するための施策（担当教員：酒井）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食育基本法と食育推進基本計画における学校における食育の推進の位置づけ及び学校に期待される役割について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教諭論 第１章「６～８．学校給食の歴史、食育基本法」と第３次食育推進基本計画(資料2～３ 190～206ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第3回	**授業テーマ**	幼児・児童生徒に対する食育の必要性（担当教員：酒井）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	少子高齢化社会を迎えるわが国の課題と次世代を生きる児童生徒の健康の保持増進のため、学校における食育の重要性について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食に関する指導の手引き第１章「児童生徒の食生活を取り巻く状況等」（1～5ページ）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第4回	**授業テーマ**	学習指導要領の意義と食育のあり方（担当教員：酒井）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学習指導要領改訂の趣旨とカリキュラムマネジメント、学校給食法において学校給食が教育に位置付けられた経緯を踏まえて、学校における食育のあり方を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教諭第５章の「学習指導要領の意義と食育のあり方」と「学校給食法 208～210ページ」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	食に関する指導の全体計画の編成（担当教員：酒井）

第5回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	食に関する全体計画を基本について学ぶ。児童生徒に身につけさせたい、または改善したい食に関する目標を設定し、給食の時間および食に関連する教科等、教育活動全体の中で取り組めるよう演習を通して学ぶ。よりよい計画を作成することを通して、より深く、体系的に食育を推進する方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教諭論 第６章「食に関する指導の全体計画」をよく読んでおく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第6回	**授業テーマ**	食生活に関する歴史と食事・食物の文化的事項（担当教員：大富）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食生活に関する歴史や、食事・食物の文化的事項について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食文化を題材にした食に関する指導の事例を収集する。
	教室外学習の時間（分）	120分
第7回	**授業テーマ**	食文化に着目した食に関する指導（担当教員：大富）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食生活に関する歴史や、食事・食物の文化的事項を、どのように食に関する指導に盛り込んでいくか、また、児童・生徒の発達段階に応じた展開のあり方を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食文化を題材にした食に関する指導に適切な教材を考える。
	教室外学習の時間（分）	120分
第8回	**授業テーマ**	学校給食の意義･役割 給食の時間の指導案作成(担当教員：白井)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校における食育の中心である給食の時間の指導及び食育の教材となる献立の活用方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食に関する指導の手引き第４章「学校給食を生きた教材として活用した食育の推進」（196～227ページ）を読んでおくこと。また、給食の時間の指導案の題材を考えておくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
	授業テーマ	給食の時間の指導案作成(担当教員：白井)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループで給食の時間の指導案を作成することを通して、児童生徒の食に関する課題を明確にし、学校給食の献立を教材として活用することが、課題解決のために効果的な指導方法であることを理解する。(グループワーク)

第9回	教室外学習(予習・復習)の内容	給食の時間における指導案を集め、指導案の作成方法を調べておく。
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	授業テーマ	給食の時間の指導案作成(担当教員：白井)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループで話し合い、給食時間の指導案を修正し完成させる。作成した指導案で模擬授業を行うとともに、他のグループの模擬授業から、より深く、給食の時間における食に関する指導の題材設定、指導案の作成方法等について学ぶ。（グループワーク）
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループで話し合い、又は分担し、給食の時間の指導案をほぼ完成させておくこと。また、模擬授業に必要な教材を用意しておくこい。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	授業テーマ	食に関する個別的な対応指導(担当教員：白井)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活習慣病の要因となる肥満傾向や近年、増加している食物アレルギーを有する児童生徒等に対応するための望ましい個別対応指導について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	文部科学省作成の学校給食における食物アレルギー対応指針に目を通しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	授業テーマ	教科等の特性を踏まえた食に関する指導(担当教員：白井)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食と関連した教科等における指導を行う際に、教科の目標や特質を踏まえつつ、食に関する指導の目標達成を図ることが大切なことを理解する。また教科等の指導案作成方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	食に関する指導の手引き第３章「各教科等における食に関する指導の展開」（46～175ページ）の内、小学校特別活動、体育、家庭科について読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第13回	授業テーマ	教科等における食に関する指導案作成(担当教員：白井)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループにおいて小学校体育又は家庭科の指導案を作成し、学校給食を教材として活用することが効果的な指導につながることを理解する。また、望ましい指導案の作成方法について学ぶ。（グループワーク)
	教室外学習(予習・復習)の内容	よくわかる栄養教諭の補遺：指導案例（283～303ページ）の内小学校体育、家庭科の指導案を読んでおく。 グループで話し合い、分担し、８割程度指導案を作成しておくこと。
	教室外学習	

	の時間（分）	120分
第14回	**授業テーマ**	教科等における食に関する指導案作成(担当教員：白井)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループで話し合い、または教員の助言を得て指導案を完成させ、模擬授業を行う。教員の講評や他のグループの模擬授業を踏まえ、より深く、効果的な指導方法や指導案の作成方法について理解する。（グループワーク）
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬授業に必要な教材を作成しておくこと。 授業の後で作成した指導案に修正を加え、完成させること。
	教室外学習の時間（分）	120分
第15回	**授業テーマ**	諸外国における食育及び学校給食の現状(担当教員：白井)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	わが国の学校給食制度が世界で最も優れた制度と評価される所以は、給食の提供と食育が一体的に展開されていることであることを理解し、栄養教諭（管理栄養士・栄養士）の役割が極めて大きいことを、諸外国の学校給食と対比させて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	レポートを実施するので、これまでの授業内容を復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第16回	**授業テーマ**	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学習計画注記

授業の進行状況によっては、スケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

演習を実施した際には、模範解答を提示する。

評価方法

レポート提出、食に関する全体計画および指導案の作成並びに模擬授業によって下表に示す力が身についているかどうかを評価する。
平常点と課題の内容により、ルーブリックをもとに評価する。
ルーブリックの内容は、クラスルームまたは授業内にて公開する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技術・表現

	(K)	(K)	(V)	(A)
レポート	○		○	
全体計画の作成	○	○		
指導案の作成・模擬授業		○	○	○

評価割合

平常点(40%),教員が課すレポート、指導案等(60%)
平常点は、授業態度や授業及び討論への積極的な参加状況によって評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

四訂 栄養教諭論: —理論と実際—，金田 雅代，建帛社，2019，4767921163
「食に関する指導の手引き」，文部科学省，2019，4827815755

参考図書

学習指導要領、体育及び家庭科の教科書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物、組織的におくこと地域との相互理解から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を身につけている。
【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】栄養教諭（管理栄養士）として社会に貢献しようとする意思と他者と共働するための豊かな人間性を身に付けている。
【技術・表現】人々の健康の保持増進のために給食管理と食育に関する専門的な技能と表現力を身に付けている。

オフィスアワー

酒井：水曜日１限
大富：月曜日５限

学生へのメッセージ

本授業と他の教職科目とをつなげ、学習を深めていくことで、児童生徒に対する食育の必要性や栄養教諭の役割の理解及び食に関する指導の実践力の向上が期待できる。児童生徒が健康で明るい未来を生きるための基礎を培うために、栄養教諭の役割は極めて重要であるから、是非、意欲的に学んでいただきたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	酒井は「和食給食を活かした食に関する指導」に関わっている経験、大富も家庭科教諭としての実務経験と、食文化を活かした教育の経験、白井は栄養教諭としての長年の実務経験を生かして、栄養教諭の食に関する指導の方法について教授する。それぞれの特性を活かして栄養教諭が習得すべき効果的な指導方法について教授している。
アクティブ・ラーニング	○	食に関する指導の全体計画、指導案の作成について、グループにおいて意見交換しながら作り上げるグループワークを採用している。
情報リテ		わが国が抱える現代課題や子どもたちの食に関する状況等をインターネット等を通

ラシー教育	○	して情報収集する。また食に関する指導案例をインターネットや書籍から収集する。
ICT活用		

講義コード	620002031
講義名	学校栄養教育論II
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	辻 雅子	指定なし
非常勤講師	筧 敏子	指定なし

ナンバリング

Y32502C21

授業概要(教育目的)

栄養教諭の教職免許の必修科目である。学校栄養教育論Iに引き続き、食に関する指導の全体計画から、家庭や地域と連携した各教科や特別活動等、また、個別指導までの具体的な実践方法を理解する。指導案作成、発表、相互評価等の実践演習や模擬授業を通して指導の手法を取得する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	栄養教諭が行う「食に関する指導」に必要な知識、スキル、態度について説明することができる
思考・判断の観点 (K)	「食に関する指導」について栄養教諭の立場から思考することができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	児童・生徒の発達段階に応じた「食に関する指導」について自ら考えようとし、栄養教諭としての役割を模索しようとする
技術・表現の観点 (A)	栄養教諭として「食に関する指導」を行う必要なスキルを習得し、学習者のニーズに応じた指導ができる。

学習計画

	授業テーマ	オリエンテーション（担当：辻 雅子）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗ	

第1回	ｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	学校栄養教育論Iの振り返り：栄養教諭の職務内容、使命、役割の確認と、自らの考えをまとめ、討論する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	栄養教諭について学んだこと、自分の考えを整理する。今後学ぶべき内容やなりたい栄養教諭像を模索する。
	教室外学習の時間（分）	120
第2回	授業テーマ	児童の発達に応じた教科における食に関する指導（家庭科、技術・家庭科）（担当：筧 敏子）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭科という教科の全体像を把握し、児童の発達に応じた学習指導内容への理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校の家庭科の学習指導要領を熟読する。
	教室外学習の時間（分）	120
第3回	授業テーマ	教科における食に関する指導（家庭科、技術・家庭科）の指導案の立案方法１（担当：筧 敏子）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教科（家庭科）における食に関する指導の目標、内容の設定方法、指導案の立案方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校の家庭科の学習指導要領を熟読する。
	教室外学習の時間（分）	120
第4回	授業テーマ	教科における食に関する指導（家庭科、技術・家庭科）の指導案の立案方法２（担当：筧 敏子）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教科（家庭科）における食に関する指導の目標、内容の設定方法、指導案の立案方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校の家庭科における食に関する指導の指導案を考える。
	教室外学習の時間（分）	120
第5回	授業テーマ	教科における食に関する指導（家庭科、技術・家庭科）の評価計画（担当：筧 敏子）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教科（家庭科）における食に関する指導の評価方法を学び、指導の再編について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校の家庭科における食に関する指導の評価方法を考える。
	教室外学習の時間（分）	120
	授業テーマ	教科における食に関する指導（家庭科、技術・家庭科）の演習１（担当：筧 敏子）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	教科（家庭科）における食に関する指導のロールプレイを行い、相互に学生同士で、指導のあり方について議論し、質を高める。

第6回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校の家庭科における食に関する指導の指導案のロールプレイの予行練習を行う。
	教室外学習の時間（分）	120
第7回	授業テーマ	教科における食に関する指導（家庭科、技術・家庭科）の演習２（担当：筧 敏子）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教科（家庭科）における食に関する指導のロールプレイを行い、相互に学生同士で、指導のあり方について議論し、質を高める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校の家庭科における食に関する指導の指導案のロールプレイを行う。
	教室外学習の時間（分）	120
第8回	授業テーマ	教科における食に関する指導（家庭科、技術・家庭科）の模擬授業（担当：筧 敏子）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教科（家庭科）における食に関する指導のロールプレイを行い、相互に学生同士で、指導のあり方について議論し、質を高める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校の家庭科における食に関する指導の指導案のロールプレイを行う。
	教室外学習の時間（分）	120
第9回	授業テーマ	児童・生徒の発達段階に応じた食に関する指導 （担当：辻 雅子）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童生徒の食生活の実態把握と活用について学ぶ。さらに発達に応じた食に関する指導の目標、内容の設定方法、指導案の立案方法について学ぶ。さらに指導案作成のための学校における年間計画を振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	児童・生徒の食に関する問題点について考える。小学校における食に関する指導の指導案を考えるために季節の旬について学ぶ。
	教室外学習の時間（分）	120
第10回	授業テーマ	児童・生徒の発達段階に応じた食に関する指導 （担当：辻 雅子）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食に関する指導の指導案を作成するために食に関する年間計画の振り返りを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校における食に関する指導の計画を考える。
	教室外学習の時間（分）	120
第11回	授業テーマ	児童・生徒の発達段階に応じた食に関する指導 （担当：辻 雅子）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食育の取り組み事例を参考に、食に関する指導の指導案の立案について学び、指導案を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校における食に関する指導の指導案を考える。
	教室外学習の時	

	間（分）	120
第12回	授業テーマ	児童・生徒の発達段階に応じた食に関する指導 （担当：辻 雅子）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食に関する指導の指導案（T1・T2）を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校における食に関する指導の運営及び評価方法を考える。
	教室外学習の時間（分）	120
第13回	授業テーマ	児童・生徒の発達段階に応じた食に関する指導（T1・T2）をロールプレイから学ぶ （担当：辻 雅子）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	食に関する指導の指導案（T1・T2）の模擬授業を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校における食に関する指導の実践について考える。
	教室外学習の時間（分）	240
第14回	授業テーマ	栄養教育の前年度の学生の教職模擬授業を学ぶ （担当：辻 雅子）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	栄養教育の教職模擬授業の発表会に参加して、授業運営方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校における食に関する指導について全体的なふりかえりを行う。
	教室外学習の時間（分）	120

学生へのフィードバック方法

授業中の演習課題・レポートは当日、また、翌週に質疑応答をしながら、議論を深める。

評価方法

ルーブリックについては、初回授業で説明を行う。
授業中に対する積極性（平常点としてリアクションペーパーなどから読み取る）と、途中で行う演習課題及びレポートにより評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
演習課題	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○

評価割合

演習課題（筧）45%、指導案レポート（辻）45%、平常点10%（平常点は授業への積極的な参加状況等から総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)

四訂 栄養教諭論: —理論と実際—，金田 雅代，建帛社，2019，ISBN-10: 4767921163
「食に関する指導の手引き-第二次改訂版ー 」，文部科学省，健学社，2019，ISBN-10:

4779704960

参考図書

小学校学習指導要領，文部科学省
小学校学習指導要領解説 家庭編，文部科学省

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】栄養教諭の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている
【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている
【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、栄養教諭として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている
【技術・表現】栄養教諭として、栄養の管理と指導に関する専門的技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている

オフィスアワー

辻：月曜日2時間目 1605研究室

学生へのメッセージ

栄養教諭に必要な知識、スキル、態度とはどのようなものか？４年次の教育実習にむけて、食に関する指導の実践力を自主性をもって積極的に高めていくことが必要となる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員である辻は国の研究所での実務経験を有しており、長年栄養教諭の実習指導に携わっている。また筧は現職の家庭科教諭としての長年の実務経験があり、それを生かして、栄養教諭の食に関する指導の方法について教授する。
アクティブ・ラーニング	○	各自模擬授業を数回実施することで、自らの栄養教諭としての資質を高めることができる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	620003001
講義名	学校栄養教育論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	食物学科・3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	塩塚 宏治	指定なし

ナンバリング

Y32501M21

授業概要(教育目的)

栄養教諭の役割を認識し、発育成長期という特殊な時期にある児童および生徒に職の意義を認識させる。また、食に対する正しい知識を習得させ食生活に対して正しい選択ができるようにする。

履修条件

日頃から学校教育で行われている活動をあらゆる場面を見付けて見たり聴いたりできるようにしてください。また、学校教育関わる情報には敏感になって欲しいです。
受講するまえに、その日の予定をみてテキストに目を通し、関連する事項を事前に調べておく様にしてください。
受講後には、その日の学びの内容を整理し、疑問に思った点を自らも調べ補うようにしてください。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	栄養教諭としての必要最低限の知識面の理解
思考・判断の観点 (K)	栄養教諭としての授業をつくっていく上での思考・判断する力
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養教諭として学校現場に入っていくことへの関心・意欲 学校現場に入っていく上での態度
技術・表現の観点 (A)	食に関する授業をつくっていく上での技能・表現

学習計画

15

	授業テーマ	栄養教諭とは
		栄養教諭とは何か

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	栄養教諭制度創設の趣旨と意義 栄養教諭の役割および職務内容 社会・時代的な背景 食生活に関する歴史的および文化事項並びに食に関する指導の方法に関する事項 児童および生徒の栄養の指導および管理に関わる社会的事情 学校給食の変化 学校における食 各法律や食育基本法と学校における食育 学校給食の目的、意義、役割 (知識・理解)
	教室外学習(予習・復習)の内容	小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説 第１章 総説 改訂の経緯及び基本方針１頁から16頁まで予習しておくこと。 食に関する指導の手引きー第二次改訂版ー第１章 学校における食育の推進の必要性 1頁から15まで予習しておくこと。 資料等を使用し復習をすること。
	教室外学習の時間（分）	（１８０分）
第2回	**授業テーマ**	学校における給食の目的、意義、役割
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童及び生徒の栄養の指導及び管理にかかる法令(学校給食法) （ 学校給食法以外の法令と制度(学校保健法、障害者福祉法)） 学習指導要領 学校給食法 教育活動としての学校給食 学校教育活動全体で取り組む食に関する指導 児童及び生徒の食事に関する実態把握、分析等に必要な事項を含む 学校教育活動全体で取り組む食に関する指導 ■食に関する指導の全体計画 ■家庭、地域社会と連携した食育 ■発達の段階に配慮した指導計画 (知識・理解)
	教室外学習(予習・復習)の内容	食に関する指導の手引き ６頁から７頁、資料３ ９頁～１１頁を予習しておくこと。 資料等を使用し復習をすること。
	教室外学習の時間（分）	６０分
第3回	**授業テーマ**	学習指導要領について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教科等における食に関する指導 特別活動における食に関する指導 給食時間における食に関する指導 学級担任と連携した食に関する指導 課題設定の方法と指導の展開 (思考・判断)
	教室外学習(予習・復習)の内容	食に関する指導の手引き 第４章 各教科等における食に関する指導の展開 ７４頁から１６４頁まで予習しておくこと。 資料等を使用し復習をすること。
	教室外学習の時間（分）	１２０分
	授業テーマ	教科における食に関する指導 1
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活科、社会科等における食に関する指導 体育科、保健体育科における食に関する指導 題材設定、;教材の作成、指導方法等 (思考・判断) (技能・表現)

第4回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	食に関する指導の手引き 第４章 各教科等における食に関する指導の展開 ７４頁から１６４頁まで予習しておくこと。 資料等を使用し復習をすること。
	教室外学習の時間（分）	１２０分
第5回	**授業テーマ**	教科等における食に関する指導 2
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	総合的な学習の時間における食に関する指導 食事バランスガイド 題材設定、教材の作成、指導方法等 (思考・判断)(技能・表現)
	教室外学習(予習・復習)の内容	食に関する指導の手引き 第４章 各教科等における食に関する指導の展開 １４５頁から１５６頁まで予習しておくこと。 資料等を使用し復習をすること。
	教室外学習の時間（分）	６０分
第6回	**授業テーマ**	家庭、地域社会と連携した食育の推進
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭と連携した食に関する指導の進め方 地域社会の食育推進関係者との連携のあり方 地場産物等生産者と連携した食育 ※地域における食育基本計画 (思考・判断)(技能・表現) 災害時の食支援（知識・表現）
	教室外学習(予習・復習)の内容	食に関する指導の手引き 第２章 学校・家庭・地域が連携した食育の推進 ２６頁から３３頁まで予習しておくこと。 資料等を使用し復習をすること。
	教室外学習の時間（分）	６０分
第7回	**授業テーマ**	食に関する指導の課題設定と実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	給食時間における指導の課題設定 教育活動としての給食 全体計画の作成（実態・法律・学校教育目標・健康教育目標・目指す児童像） 学校における給食（教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動） (思考・判断)(技能・表現)
	教室外学習(予習・復習)の内容	食に関する指導の手引き 第５章 給食の時間における食に関する指導 ２１８頁から２３３頁まで予習しておくこと。 資料等を使用し復習をすること。
	教室外学習の時間（分）	９０分
第8回	**授業テーマ**	食に関する指導の課題設定と実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	児童生徒が個々に抱える様々な食生活の問題の把握と相談指導等 １ 専門性を生かした個別指導 食物アレルギー、肥満傾向、痩身傾向、 ■ 偏食傾向、間食、朝食欠食等 ２ 食物アレルギー指導 ３ その他(スポーツアスリート・肥満指導）(知識・理解)
	教室外学習(予習・復習)の内容	食に関する指導の手引き 第６章 個別的な相談指導の進め方 ２３４頁・２３５頁を予習しておくこと。 資料等を使用し復習をすること。

	教室外学習の時間（分）	６０分
第9回	**授業テーマ**	食に関する指導授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業の映像による観察。または、模擬授業（小学校で行われる食に関する指導内容の授業を映像等を使って観察する） (思考・判断)(技能・表現）
	教室外学習(予習・復習)の内容	復習、模範授業の観察、指導案等を見て、自分で行う授業等を考察する。
	教室外学習の時間（分）	９０分
第10回	**授業テーマ**	食に関する指導の課題設定と実践
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	家庭、地域社会と連携した食に関する指導の進め方、ネットワークの構築等について学ぶ。 ・地場産物等地域資源を活用した食に関する指導 実践演習 生きた教材を活用した食に関する指導の指導案、教材等の作成 (思考・判断)(技能・表現）
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前配布の資料を見て予習すること。 授業のレポート提出。
	教室外学習の時間（分）	６０分
第11回	**授業テーマ**	実践演習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業に向けて指導案、教材等の作成 授業計画 (思考・判断)(技能・表現）
	教室外学習(予習・復習)の内容	他人の指導案、模擬授業を見て復習を行うこと。 授業のレポート提出
	教室外学習の時間（分）	６０分
第12回	**授業テーマ**	実践演習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業に向けて指導案、教材等の作成 (思考・判断)(技能・表現）
	教室外学習(予習・復習)の内容	他人の指導案、模擬授業を見て復習を行うこと。 授業のレポート提出
	教室外学習の時間（分）	６０分
第13回	**授業テーマ**	模擬授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業の実施と評価法について学ぶ (思考・判断)(技能・表現）
	教室外学習(予習・復習)の内容	他人の指導案、模擬授業を見て復習を行うこと。 授業のレポート提出
	教室外学習の時間（分）	６０分
第14回	**授業テーマ**	模擬授業
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	模擬授業の実施と評価法について学ぶ (思考・判断)(技能・表現）
	教室外学習(予習・復習)の内容	他人の指導案、模擬授業を見て復習を行うこと。 授業のレポート提出
	教室外学習の時間（分）	６０分
	授業テーマ	まとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情	これまでの学習から、栄養教諭の役割等についてまと

第15回	報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	め、意見交換をする。 (知識・理解）(技能・表現）
	教室外学習(予習・復習)の内容	食に関する指導の手引き及び提供資料を見て復習を行うこと。
	教室外学習の時間（分）	１２０分

学習計画注記

本授業では、教材を作成したり、模擬授業を行ったりを何度か行っていきます。受講者の人数にもよりますが、できる限り模擬授業の回数を増やしていきたいと考えています。ですから、受講者人数によってはシラバスの中の授業内容と各回の予定を変更していくこともあります。その際には、授業の予定を再度受講者全員に配布いたします。
教室外学習（予習・復習）の内容
学習小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説第１章総説（１頁～10頁）及び食に関する指導の手引きー第二次改訂版ー第１章学校における食育の推進の必要性から第２章学校・家庭・地域が連携した食育の推進（１頁～33頁）を予習しておくこと。
また、授業後に講義内容を復習をおこなうこと。
各回授業レポート提出

学生へのフィードバック方法

栄養教諭の役割を認識し、発育成長期という特殊な時期にある児童及び生徒に食の意義を認識させる。また、食に対する正しい知識を習得させ食生活に対して正しい選択が出来るようにする。こうした考えをもとに、実践的な授業実践ができる知識や技能を獲得させる。また、学校現場に入って仕事をしていこうという関心や意欲をもつようにするとともに,学校現場へ入っていく態度を獲得する。

評価方法

・毎回の授業レポート
・最終回に行う記述式の試験と、途中に行う形成的な評価テスト並びに模擬授業に向けて作成する教材や指導案を元に評価を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点		○	○	○
レポート	○	○	○	○
模擬授業等	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合

平常点（10%）レポート（10%）、模擬授業等（40%）及び定期試験（40%）

使用教科書名(ISBN番号)

文部科学省 食に関する指導の手引きー第二次改訂版ー 平成31年3月
小学校学習指導要領（平成29年告示）
中学校学習指導要領（平成29年告示）

参考図書

もっと食育（東洋システムサイエンス）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】講義・演習を通して、多様な食文化や食歴を理解し、児童生徒・保護書、地域の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って教材化し行動できる。
【技能・表現】食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の向上を図るための指導力や食品・食物の調理の技能と生きた教材としての学校給食を考える技能と、これらの開発企画や

表現力を身につける。

オフィスアワー

火曜5限

学生へのメッセージ

学校現場で即座に対応できるだけの力をつけていけるようにします。課題、模擬授業を積極的に行ってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、公立学校の栄養教諭として実務経験を有しており、食に関する指導の授業研究・教材研究について右に出るものはない。指導案から教材作成や指導方法を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	個人やグループで考え発表する場を数多く授業の中で行っていく。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	630001001
講義名	博物館概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	1年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

Y13602M21

授業概要(教育目的)

博物館とは何か、博物館や学芸員が果たす社会的な役割や機能を理解し、欧米諸国や日本における博物館の発達の歴史を検討する。そのうえで、博物館における展示や文化財の保存・活用、教育活動について具体的な事例に即して検討し、博物館や学芸員をめぐる現状と、今後の課題について考えることを目的とする。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	博物館の歴史と特徴及び現代における諸課題について説明できる
思考・判断の観点 (K)	博物館における学芸員の役割や存在意義について考え、その限界や問題点についても指摘できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	博物館の活動を通じて、博物館が社会において果たすべき役割に関心を持ち自主的に行動できる
技術・表現の観点 (A)	博物館や学芸員の役割や課題を、論理的に説明することができる

学習計画

博物館概論

第1回	**授業テーマ**	博物館学とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンスを実施する。また、博物館とは何かを理解するための学問である「博物館学」の目的や内容、方法について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスを確認して受講すること。受講期間中にはなるべく多くの博物館を見学すること。
	教室外学習の時間（分）	190分

第2回	授業テーマ	博物館の定義と目的
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館とはどのような施設か、「博物館法」やその他の法的枠組みから、その定義や目的について学ぶ。また近年行われた博物館法の改正について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「博物館法」について調べておくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第3回	授業テーマ	博物館の分類と種類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館にはどのような種類があるのか、設置者や専門領域などの観点から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	博物館にはどのような種類の施設があるか情報を集めておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第4回	授業テーマ	博物館の施設
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館に求められる施設と設備について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまで見学したことのある博物館の展示スペースにはにどのような施設があったかまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第5回	授業テーマ	欧米における博物館の歴史
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館は欧米諸国が生み出した「知の社会化」のための装置ともいわれる。ここでは、近代の欧米諸国における博物館の発達史について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	欧米の博物館について情報を集めておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第6回	授業テーマ	日本における博物館の歴史１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本における博物館前史として、正倉院等のコレクションや江戸時代における本草学の隆盛と物産会等について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	正倉院、本草学について情報を集めておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第7回	授業テーマ	日本における博物館の歴史２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	明治期以降における日本への博物館の導入を、草創期における博覧会の開催や内務省博物館の創設、帝室博物館開設への経緯を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	万国博覧会、内国勧業博覧会について情報を集めておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
	授業テーマ	日本における博物館の現状
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝ	現代の博物館をとりまくさまざまな課題や、現代社会の要請

第8回	ｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	に応え得る博物館の存在意義について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターネットなどを活用し、現代における博物館の課題について考えておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	授業テーマ	博物館における展示の実際１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国立歴史民俗博物館における展示を取り上げ、そのメッセージ性や調査・研究との関わり、メディア展開などについて検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館のHPを閲覧しておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	博物館における展示の実際２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国内外の事例から、戦争や災害など「負の遺産」と呼ばれる事象を対象とした展示がどのように行われているのか、博物館が果たす役割を中心に検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	戦争や災害をテーマとした博物館や特別展などについて調べておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	授業テーマ	博物館における展示の実際３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで訪れたことのある博物館における展示についてまとめ、グループワークを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	この回までに複数の博物館を訪れ、各自で見学しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	220分
第12回	授業テーマ	企業と博物館
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	企業が設立した企業博物館などについて、その意義や社会的な役割を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	企業博物館についての情報を集めておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	博物館と地域社会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域社会に根差した地域博物館のあり方について学び、地域文化や地域振興の拠点、地域住民の生涯学習の場として博物館をいかに活用すべきか考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	博物館におけるボランティア制度について、具体的な事例について情報を集めておく。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	これからの博物館と学芸員
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これからの博物館や学芸員が果たすべき役割について、授業などをもとに各自で課題を見つけ、考察する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	これから博物館や学芸員が果たすべき役割について、授業などをもとに各自で課題を見つけ、考察する。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

授業の進行状況により、内容は変更する可能性があります。

学生へのフィードバック方法

コメントシートでは、感想・意見・質問を受け付けます。質問等については、次回授業の冒頭で回答・補足説明を行います。

評価方法

・毎回、授業終盤で授業内容についての課題を出し、学生間でディスカッションを行う。その内容をコメントシートにまとめ、コメントシートの提出をもって出席と認める。その記入内容により、関心・意欲・態度とともに授業内容の理解に関して評価を行う。
・定期試験は、授業内容を踏まえて博物館に関する問題を出題する。内容の理解度や文章表現に関して評価を行う。
・評価はルーブリックに基づいて行う。ルーブリックは授業時に配付する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
コメントシート	○	○	○	
期末試験	○	○	○	○

評価割合

平常点（授業内課題・コメントシートなど）30%、期末試験70%で評価する

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない

参考図書

大堀哲ほか編著『博物館学I』学文社、2012年（ISBN番号：9784762022845）
稲村哲編『博物館概論』放送大学教育振興会、2019年（ISBN番号：4595319312）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】博物館が社会の中でもつ役割を人々の生活と絡めて理解できる
【思考・判断】博物館において学芸員が果たす役割の可能性と限界について考察できる
【関心・意欲・態度】博物館をとりまくさまざまｎ問題について関心を持つことができる
【技能・表現】博物館をめぐる課題に対して論理的に分析・説明することができる

オフィスアワー

前期：月曜4限
後期：月曜3限

学生へのメッセージ

講義の受講中、できるだけさまざまな博物館施設の見学をして下さい。博物館には美術館や動植物園、資料館なども含みます。また、博物館のホームページや展示の図録などにも積極的に触れてみてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークやディスカッションを実施する。

情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	630001031
講義名	博物館概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	５限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	1年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	加藤 晴美	指定なし

ナンバリング

Y13602M21

授業概要(教育目的)

博物館とは何か、博物館や学芸員が果たす社会的な役割や機能を理解し、欧米諸国や日本における博物館の発達の歴史を検討する。そのうえで、博物館における展示や文化財の保存・活用、教育活動について具体的な事例に即して検討し、博物館や学芸員をめぐる現状と、今後の課題について考えることを目的とする。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	博物館の歴史と特徴及び現代における諸課題について説明できる
思考・判断の観点 (K)	博物館における学芸員の役割や存在意義について考え、その限界や問題点についても指摘できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	博物館の活動を通じて、博物館が社会において果たすべき役割に関心を持ち自主的に行動できる
技術・表現の観点 (A)	博物館や学芸員の役割や課題を、論理的に説明することができる

学習計画

博物館概論

	授業テーマ	博物館学とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	ガイダンスを実施する。また、博物館とは何かを理解するための学問である「博物館学」の目的や内容、方法について学

第1回	育・ICT活用を含む)	ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	シラバスを確認して受講すること。受講期間中にはなるべく多くの博物館を見学すること。
	教室外学習の時間(分)	180分
第2回	授業テーマ	博物館の定義と目的
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館とはどのような施設か、「博物館法」やその他の法的枠組みから、その定義や目的について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「博物館法」について調べておくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
第3回	授業テーマ	博物館の分類と種類
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館にはどのような種類があるのか、設置者や専門領域などの観点から学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	博物館にはどのような種類の施設があるか情報を集めておく。
	教室外学習の時間(分)	180分
第4回	授業テーマ	博物館の施設
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館に求められる施設と設備について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これまで見学したことのある博物館の展示スペースにはにどのような施設があったかまとめておく。
	教室外学習の時間(分)	180分
第5回	授業テーマ	欧米における博物館の歴史
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館は欧米諸国が生み出した「知の社会化」のための装置ともいわれる。ここでは、近代の欧米諸国における博物館の発達史について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	欧米の博物館について情報を集めておく。
	教室外学習の時間(分)	180分
第6回	授業テーマ	日本における博物館の歴史１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本における博物館前史として、正倉院等のコレクションや江戸時代における本草学の隆盛と物産会等について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	正倉院、本草学について情報を集めておく。
	教室外学習の時間(分)	180分
第7回	授業テーマ	日本における博物館の歴史２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	明治期以降における日本への博物館の導入を、草創期における博覧会の開催や内務省博物館の創設、帝室博物館開設への経緯を理解する。
	教室外学習(予習・復	万国博覧会、内国勧業博覧会について情報を集めておく。

	習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	180分
第8回	授業テーマ	日本における博物館の現状
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現代の博物館をとりまくさまざまな課題や、現代社会の要請に応え得る博物館の存在意義について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	インターネットなどを活用し、現代における博物館の課題について考えておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	博物館の機能
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館が果たす展示・収集保存・調査研究・教育普及などの機能について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	博物館の4つの機能について調べておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第10回	授業テーマ	博物館における展示の実際１
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国立歴史民俗博物館における展示を取り上げ、そのメッセージ性や調査・研究との関わり、メディア展開などについて検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館のHPを閲覧しておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第11回	授業テーマ	博物館における展示の実際２
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国内外の事例から、戦争や災害など「負の遺産」と呼ばれる事象を対象とした展示がどのように行われているのか、博物館が果たす役割を中心に検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	戦争や災害をテーマとした博物館や特別展などについて調べておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第12回	授業テーマ	博物館における展示の実際３
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまで訪れたことのある博物館における展示についてまとめ、グループワークを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	この回までに複数の博物館を訪れ、各自で見学しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第13回	授業テーマ	企業と博物館
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	企業が設立した企業博物館などについて、その意義や社会的な役割を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	企業博物館についての情報を集めておく。
	教室外学習の時間	180分

	（分）	
第14回	**授業テーマ**	博物館と地域社会
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域社会に根差した地域博物館のあり方について学び、地域文化や地域振興の拠点、地域住民の生涯学習の場として博物館をいかに活用すべきか考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	博物館におけるボランティア制度について、具体的な事例について情報を集めておく。
	教室外学習の時間（分）	180分
第15回	**授業テーマ**	これからの博物館と学芸員
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これからの博物館や学芸員が果たすべき役割について、授業などをもとに各自で課題を見つけ、考察する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	これから博物館や学芸員が果たすべき役割について、授業などをもとに各自で課題を見つけ、考察する。
	教室外学習の時間（分）	180分

学習計画注記

授業の進行状況により、内容は変更する可能性があります。

学生へのフィードバック方法

コメントシートでは、感想・意見・質問を受け付けます。質問等については、次回授業の冒頭で回答・補足説明を行います。

評価方法

・毎回、授業終盤で授業内容についての課題を出し、学生間でディスカッションを行う。その内容をコメントシートにまとめ、コメントシートの提出をもって出席と認める。その記入内容により、関心・意欲・態度とともに授業内容の理解に関して評価を行う。
・定期試験は、授業内容を踏まえて博物館に関する問題を出題する。内容の理解度や文章表現に関して評価を行う。
・成績評価はルーブリックにもとづいて行う。ルーブリックは授業内で配布する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
コメントシート	○	○	○	
期末試験	○	○	○	○

評価割合

平常点（コメントシートなど）30%、期末試験70%で評価する

使用教科書名(ISBN番号)

特に指定しない

参考図書

大堀哲ほか編著『博物館学I』学文社、2012年（ISBN番号：9784762022845）
稲村哲編『博物館概論』放送大学教育振興会、2019年（ISBN番号：4595319312）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】博物館が社会の中でもつ役割を人々の生活と絡めて理解できる
【思考・判断】博物館において学芸員が果たす役割の可能性と限界について考察できる

【関心・意欲・態度】博物館をとりまくさまざまｎ問題について関心を持つことができる
【技能・表現】博物館をめぐる課題に対して論理的に分析・説明することができる

オフィスアワー

金曜２限

学生へのメッセージ

講義の受講中、できるだけさまざまな博物館施設の見学をして下さい。博物館には美術館や動植物園、資料館なども含みます。また、博物館のホームページや展示の図録などにも積極的に触れてみてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークやディスカッションを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	630002001
講義名	博物館資料論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	2年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	神 かほり	指定なし

ナンバリング

Y23604M21

授業概要(教育目的)

博物館資料は、博物館活動の根幹をなすものである。本講義では博物館資料にはどのようなものがあるのか、博物館ではどのように資料を収集し、保存し、利活用するのかなどを、できるだけ実例に即して学ぶことを目的とする。博物館資料論を通じ、学芸員の仕事の意義や、博物館の社会的役割についても理解を深める。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	博物館で取り扱う資料の性格とその社会的意義について説明できる
思考・判断の観点 (K)	博物館で取り扱う資料のもつ可能性や限界について判断できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	博物館で取り扱う資料への理解を深め、自らの興味関心に引き付けて収集・保存から活用までを考えることができる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

博物館資料論

	授業テーマ	博物館資料論の目的と意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	博物館資料とは何か、博物館資料にはどのようなものがあるか

第1回	育・ICT活用を含む)	を概観し、博物館資料論を学ぶことの意味を考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。
	教室外学習の時間(分)	190分
第2回	授業テーマ	博物館資料の定義と特性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実物等資料（一次資料）・複製等資料（二次資料）などの博物館資料の定義や、それらの特性について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。
	教室外学習の時間(分)	190分
第3回	授業テーマ	博物館の資料収集
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館の運営理念に基づいた収集方針の立て方や、具体的な資料収集方法（採集・購入・寄贈・寄託・借用・制作など）を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。
	教室外学習の時間(分)	190分
第4回	授業テーマ	博物館資料の分類と資料化のプロセス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	歴史民俗系博物館を例に、資料の種類や分類方法を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。
	教室外学習の時間(分)	190分
第5回	授業テーマ	博物館資料の受入れから配架まで
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	歴史民俗系博物館の資料を例に、資料の受入れから登録、配架までの流れを学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。
	教室外学習の時間(分)	190分
第6回	授業テーマ	博物館資料の取扱い
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	人文系博物館における資料の特性と取扱いについて学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。
	教室外学習の時間(分)	190分
第7回	授業テーマ	博物館資料の収蔵と保存
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館資料の劣化要因を知り、収蔵・展示施設における保存環境について学ぶ。
	教室外学習(予習・復	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館

	習)の内容	を見学してください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第8回	**授業テーマ**	生物被害への対策
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	資料に被害をもたらす生物について知り、駆除や予防などの対策について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第9回	**授業テーマ**	博物館資料の記録手法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館資料を記録するための、写真撮影・作図・拓本などの技法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	資料調査の実際
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	民俗調査・文化財調査などの実例から、博物館の資料調査の手順や調査研究の方法について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第11回	**授業テーマ**	民具と博物館活動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	市民による民具整理運動、民具を用いた回想法の実践など、博物館活動の実例を通じ、民具（民俗資料）の保存活用の意義について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	**授業テーマ**	災害から資料を守る①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	盗難・事故・自然災害など、博物館資料をとりまくさまざまなリスクを知り、対策や復旧について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	**授業テーマ**	災害から資料を守る②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	資料を脅かす自然災害・人的災害と、各地で行われている文化財レスキュー活動について知る。資料を災害から守り、次世代に継承するために何ができるか考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。
	教室外学習の時間	190分

	（分）	
第14回	**授業テーマ**	博物館資料論を学んで（まとめ）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	これまでの講義を総括し、博物館で資料を収集し、次世代へ伝えることの意義を確認する。博物館資料を通じて博物館が担う社会的役割や、その可能性について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。
	教室外学習の時間（分）	190分

学習計画注記

※履修者の人数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

講義内容に関するリアクションペーパーを提出してもらう。質問や疑問点があれば記入しても良い。次回以降の講義において、可能な範囲でフィードバックを行う。

評価方法

・毎回、講義の最後（10分程度）にリアクションペーパーを配布し、講義の要点をまとめたり、感想や意見を述べてもらう。授業への取り組みとリアクションペーパーの内容とを合わせて平常点とする（40%）。
・定期試験およびレポートを課す（60%）。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
リアクションペーパー	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	○

評価割合

平常点（40%）、定期試験およびレポート（60%）

使用教科書名(ISBN番号)

講義の際、必要に応じて資料を配布。

参考図書

講義の際、必要に応じて資料を配布。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】博物館資料が保存され展示されることの社会的意義を理解できる
【思考・判断】博物館における資料の可能性について生活と絡めて考察できる
【関心・意欲・態度】博物館の資料を自らの興味関心と関連づけて捉えることができる

学生へのメッセージ

博物館資料に関する基礎的知識を得るだけでなく、資料と向き合い、資料と格闘する学芸員の仕事の醍醐味をぜひ知ってほしいです。同時に博物館や博物館資料を取り巻く現状や課題についても関心を持ち、博物館の社会的意義についても考えてほしいと思います。
そのためにぜひなるべく多くの博物館（美術館、動植物園、郷土館、資料館など）を見学してみてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活		担当教員は、博物館および文化財保護の現場で、学芸員として資料の取

かした授業	○	り扱いや現場での指導の経験を有しています。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	630002031
講義名	博物館資料論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	2年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	木村 涼	指定なし
准教授	石垣 悟	指定なし

ナンバリング

Y23604C21

授業概要(教育目的)

博物館機能のうち、①資料の収集・整理・管理・保存、②教育普及活動に論点を絞り、博物館の具体的な業務内容について、実際の博物館の事例を紹介しながら理解を深めていく。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	博物館における資料の収集・整理・管理・保存の方法に関する基礎知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	博物館資料を使用しての教育普及活動の方法に関する基礎知識を修得する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

博物館資料論

第1回	**授業テーマ**	博物館における資料とは
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館における資料とはどのようなものなのか、その特徴や実態について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書１の「博物館における資料とは」（15～29頁）を読んでおくこと。

	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	博物館資料の展示
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	沖縄県立博物館・美術館を事例として取り上げ、展示の概要・特色を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書２の「博物館資料を展示する」（30～38頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	博物館資料の修復
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館資料の修復と保存、修復の技術と技法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書３の「博物館資料の修復」（39～61頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	大学博物館
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	京都大学総合博物館を事例にあげ、資料がどのように整理され、博物館教育と結びついているのかを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書４の「大学における博物館」（62～70頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	博物館資料―古文書
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館が所蔵している古文書において、料紙の種類、扱い方、保存と展示について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書５の「博物館資料としての古文書」（71～82頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第6回	**授業テーマ**	博物館資料―絵画
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	絵画資料の種類、調査方法、修理と保存、展示と活用などを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書６の「博物館資料としての絵画」（83～116頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	博物館資料―個人収集品
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含	幕末の蝦夷地探検家、松浦武四郎が収集した資料と幕末の鷹見泉石収集の資料を中心に取り上げ、個人収集品に対する博物館の役

第7回	む)	割を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書７の「博物館資料としての個人収集品」（117～132頁）を読んでおくこと。また、授業の最初に、１～６回の授業内容に関わる小テストを実施するので、復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	240分
第8回	授業テーマ	博物館資料―近代文化遺産
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	国立科学博物館を事例にあげ、近代文化遺産の管理、保存、展示の課題を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書８の「博物館資料としての『近代文化遺産』」（133～146頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	180分
第9回	授業テーマ	博物館資料―写真
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	写真の歴史を学び、写真資料の収蔵と保存、展示方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書10の「博物館資料としての写真」（161～172頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	190分
第10回	授業テーマ	デジタル写真撮影方法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	多岐にわたる博物館資料、それぞれに合ったデジタル撮影の方法を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書11の「デジタル写真撮影法」（173～192頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	190分
第11回	授業テーマ	博物館資料と展示ケース
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館の展示の歴史的変遷、展示ケースの設計と設置について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書12の「博物館資料と展示ケース論」（193～210頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	190分
第12回	授業テーマ	博物館資料―民俗
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	民俗資料の整理と保存、展示方法について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書14の「博物館資料としての民俗」（224～233頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	190分

第13回	授業テーマ	博物資料―民族表象
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館における民族表象、とりわけ少数民族の展示について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書15の「民族資料論―博物館における民族表象―」（234～245頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間(分)	190分
第14回	授業テーマ	博物館資料論の総括
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	受講生が本講義において印象に残ったことや疑問に感じたことなどを発言し議論を交わします。
	教室外学習(予習・復習)の内容	授業の最初に、7～13回の授業内容に関わる小テストを実施するので、復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	250分
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間(分)	

学生へのフィードバック方法

実施した小テストの答え合わせは次週の授業にて行う。なお、第14回目に実施する小テストは、授業時間内に答え合わせを行う。

評価方法

・平常点として授業の参加状況、討論への積極的な参加、資料の扱い方法などをもとに評価する。
・小テストは２回分の授業に関わる学習範囲から出題し、授業内に計２回実施する。１回あたりの問題数は、大問７題前後で構成する。なお、学外実習等の合理的な理由がない限り、小テストの再試験は行わないので注意すること。
・小テストは、下表に示す力を養うことを目的に実施している。
・初回の授業でルーブリックについて説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
小テスト	○	○	○	

評価割合

小テスト（複数回）（70%）、平常点（30%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし。

参考図書

佐々木利和・湯山賢一『改訂新版 博物館資料論』（一般財団法人 放送大学教育振興会、2014年）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】博物館資料の収集・整理・管理・保存・展示方法の意義を理解できる
【思考・判断】博物館資料の教育普及の現状と課題を理解できる。

学生へのメッセージ

実際に博物館（美術館、動植物園、水族館、郷土館、資料館など）を訪れ、博物館資料が展示にどのように活用されているのかを認識してください。そうすることで、博物館資料の収集・整理・管理・保存及び教育普及という博物館の業務についてもイメージ・認識を深めて理解することにつながってきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		担当教員は、博物館にて資料の取り扱いや現場での指導の経験を有しています。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	630003001
講義名	博物館経営論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	田尾 誠敏	指定なし

ナンバリング

Y33603M21

授業概要(教育目的)

日本における経済的不況は今なお脱しきれず、企業や行政における組織改革や業務内容の改善が継続的な課題となっている。こうした社会的な潮流は博物館運営の面においても例外とは言えず、博物館の生き残りを賭けた多角的な検討が行われてきている。
本講義では、博物館概論で学んだ博物館のあり方を更に深く掘り下げ、今日的な博物館経営の取り組みや課題を解説することにより、博物館が直面している諸問題について、博物館がどのような取り組みを行っているかを概観する。

履修条件

博物館学に関する概論を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．博物館を運営する上での基本的な要素を説明することができる。 ２．博物館が現実的に取り組んでいる施策の事例を通じて、現代社会における博物館のあり方、役割を具体的に述べることができる。 ３．専門分野以外の経営面において、学芸員が取り組むべき視点を学ぶことができる。
思考・判断の観点 (K)	博物館経営の上で重要と思われるテーマを個別に取りあげ解説することにより、現在、博物館が抱える運営上の諸問題について考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	博物館の運営や学芸員への理解を深め、単に展示を見るというだけでなく他の側面からも博物館に足を運び考えることができる。
技術・表現の観点 (A)	博物館の学芸活動を通じて、地域社会やコミュニティーにおいて、住民に対してどのように接し活動すべきかの指針を得ることができる。

学習計画		
第1回	授業テーマ	博物館経営とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シラバスに基づく講義内容とルーブリックについて説明するとともに、授業への導入として博物館経営論とはどのようなものであるのかについて解説する。博物館経営論の導入として、現代社会の中で、なぜ博物館に「経営」といった視点が必要なのか。行政が積極的にとりいれているＮＰＭ（ニュー・パブリック・マネジメント）の視点から、博物館経営の必要性を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】一般的に、社会において「経営」とは何を意味するのかを考えておく。 【復習】ＮＰＭという大きな潮流を理解し、現代社会における博物館経営について何が大切であるかをまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計100分
第2回	授業テーマ	博物館の設立と基本構想
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館の設立の行程や理想的な博物館建設の形を知り、その中でも基本理念の重要性を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】博物館を新たに設置するために考慮すべき要件をまとめておく。 【復習】新設博物館の設立過程を確認し、基本構想の要素について整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
第3回	授業テーマ	博物館の行政制度と使命
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公的機関として設置されることの多い博物館を運営する上での、法的根拠について理解を深めると共に、その使命について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】博物館概論で触れられた、博物館法および関連規則を思い出し、博物館設置の目的について整理しておく。 【復習】博物館の法的位置づけや運営の実態、博物館が果たすべき使命について、プリントと講義内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
	授業テーマ	博物館の財政
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	公的機関でありまた教育機関でもある博物館の、財政基盤ならびに予算の特殊性、出納の実態などを学ぶ。

第4回	用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】一般的に、行政の予算がどのような過程で成立するのかを調べておく。 【復習】博物館の財政的根拠や予算の特質を、講義内容とプリントを確認してまとめておく。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習 計200分
第5回	授業テーマ	博物館の建築と施設
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館の施設や設備といったハード面について、近年における傾向やリニューアル等の問題点について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】実際に訪れたことのある博物館を思い出し、博物館の施設がどのようにな構造になっているかのを考えておく。 【復習】博物館の施設や設備が、どのような観点から設計・設置されているかをよく理解しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習 計200分
第6回	授業テーマ	博物館の人的資源と組織
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館を支える人々は多様で、それぞれがどのように博物館の業務と関わっているのか。そのなかでも博物館の専門職員である学芸員に焦点をあて、博物館における役割とその特質について概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】博物館の中で学芸員はどのような仕事をしてるのだろうか。博物館概論で学んだ博物館の機能と併せてまとめておく。 【復習】博物館における学芸員の位置づけと重要性について理解し、今日の学芸員が何を求められているのかを復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習 計200分
第7回	授業テーマ	ミュージアム・マーケティング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館の集客戦略として行われてきているミュージアム・マーケティングの手法と具体例について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】商業的に使われているマーケティングの意味を調べておく。 【復習】ミュージアム・マーケティングの手法と運用上の留意点についてまとめておく。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習 計200分

第8回	授業テーマ	博物館を評価する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館組織の内外で実施されている事業評価のあり方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】行政や企業で行われている事業評価のあらましを調べてみる。 【復習】事業評価について、博物館におけるその意義と問題点について整理しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習 計200分
第9回	授業テーマ	指定管理者制度と博物館
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在行われている指定管理者制度の有効な点や問題点をよく理解し、より強い官と民のパートナーシップとしての指定管理者制度の新しい姿を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】自治体において採用されてきている指定管理者制度について、その概要をまとめておく。 【復習】旧来の事業委託制度と指定管理者制度の違いをまとめ、博物館やその他の施設における指定管理の具体例を調べてみる。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習 計200分
第10回	授業テーマ	ミュージアム・サービス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館経営における「サービス」とは何を意味するのか。今日の博物館が利用者に対して行うべきサービスについて、多角的に学んでいく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 一般的にイメージするサービスと公共サービスの違いについて考えておく。 【復習】利用者主体の博物館経営という観点から、博物館が行うことができるサービスにはどのようなものがあるのかを、よく整理しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習 計200分
第11回	授業テーマ	ミュージアム・サービスと付帯施設
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の課題としたミュージアム・サービスでは、快適な空間づくりのための施策が管内サービスで行われていた。このような空間づくりの側面として、いくつかの付帯施設が設置されている。ここでは、カフェ、レストラン、ミュージアムショップを取り上げて、その意義を述べてみたい。

	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】博物館の付帯施設のうち、来館者のサービスに供するものは何がありか挙げてみる。 【復習】ミュージアムショップで販売されているミュージアム・グッズの意義を教育面から整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
第12回	**授業テーマ**	地域社会と博物館（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生涯学習機関としての博物館が、地域への貢献として地域が抱える問題に取り組むという新たな課題について、新しい博物館の施策を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】あなたがイメージする地域あるいは地域社会とはどのようなものか。地域社会における博物館の存在意義を考えてみる。 【復習】博物館と地域社会との関係、および博物館が地域社会に果たす役割をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
第13回	**授業テーマ**	地域社会と博物館（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域社会と博物館の新たな関わり方の一つとして、1990年以来、エコミュージアムという考え方が導入されてきた。エコミュージアムの歴史を追い、ヨーロッパでのエコミュージアムの基本的な考え方、日本のエコミュージアムの特質を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】エコミュージアムという言葉を調べておく。 【復習】本来ヨーロッパで行われてきたエコミュージアムの概念と、日本のエコミュージアムの実態を比してみる。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
第14回	**授業テーマ**	博物館と観光
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	旅行ガイドブックには常に登場する博物館であるが、生涯学習機関に位置付けられる博物館は観光には消極的であった。しかしながら政府は、オリンピックを背景に博物館や文化財を観光資源として積極的に活用する姿勢に転換した。こうした流れを概観し、博物館と観光との関係を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】一般的の人が博物館を訪れる契機は何であろうか。思い付くままに列記し、その中で観光利用がどのくらいの位置を占めるのかを検討してみる。 【復習】博物館を観光資源として活用する利点を説明できるようにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分

学生へのフィードバック方法

授業では各回のポイントやキーワードについて、リアクションペーパーによる知識・理解度および思考についての確認を行う。リアクションペーパの解説は、翌週の授業の冒頭で行う。
質問等がある場合には、メールにて連絡をするか、授業時間およびその前後に教室または講師室で受け付ける。

評価方法

期末レポートによる評価 70%
授業への取り組みおよびリアクションペーパーへの回答などの平常点 30%
また、公欠･病欠など学則に定められたやむを得ない場合を除き、４回以上の欠席（授業の1/4以上）は評価の対象としない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
リアクションペーパーへの回答	○		○	
定期試験または期末レポート	○	○		○

評価割合

定期試験または期末レポートによる評価 ７0%
授業への取り組みおよびリアクションペーパーへの回答などの平常点 30%

使用教科書名(ISBN番号)

教科書は特に指定せず、各回の項目に沿ったプリントを教材として配付する。

参考図書

加藤有次ほか編『博物館経営論』雄山閣出版、1999年刊
大堀 哲編『博物館経営論』樹村房、1999年刊
佐々木亨ほか『博物館経営・情報論』放送大学教育振興会、2008年刊
大堀 哲ほか『博物館学III（博物館情報・メディア論・博物館経営論）』学文社、2012年刊

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】博物館と地域社会の結びつきを理解し、博物館が地域社会に果たすべき役割を説明することができる。
【思考・判断】博物館経営の施策を通して、博物館がどのように地域社会の諸問題を解決していくべきであるのかを思考することができる。
【技術・表現】博物館学芸員が地域社会やコミュニティーにおいて、住民に対するコミュニケーションを通じて地域社会の問題に取り組み解決する指針を得ることができる。

オフィスアワー

質問等については、メールにより随時受け付けるが、授業前後に教室または講師室で受け付ける。
教員メールアドレス m-tao@rb3.so-net.ne.jp
※大学名・科目・氏名を明記すること。

学生へのメッセージ

機会を作って博物館に足を運び、展示だけではなく授業で学んだ視点を生かして、博物館経営の観点から博物館を見学するくせをつけよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	担当教員は、いくつかの自治体において博物館の基本構想策定に委員として関わり、また博物館協議会の委員を務めている。これらの実務経験から得た最新の情報をを取り入れた授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	各回の授業は教員が講義する形式を基本とするが、ディスカッションを取り入れた双方向型の授業を取り入れていきたい。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	630003031
講義名	博物館経営論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	田尾 誠敏	指定なし

ナンバリング

Y33603M21

授業概要(教育目的)

日本における経済的不況は今なお脱しきれず、企業や行政における組織改革や業務内容の改善が継続的な課題となっている。こうした社会的な潮流は博物館運営の面においても例外とは言えず、博物館の生き残りを賭けた多角的な検討が行われてきている。
本講義では、博物館概論で学んだ博物館のあり方を更に深く掘り下げ、今日的な博物館経営の取り組みや課題を解説することにより、博物館が直面している諸問題について、博物館がどのような取り組みを行っているかを概観する。

履修条件

博物館学に関する概論を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．博物館を運営する上での基本的な要素を説明することができる。 ２．博物館が現実的に取り組んでいる施策の事例を通じて、現代社会における博物館のあり方、役割を具体的に述べることができる。 ３．専門分野以外の経営面において、学芸員が取り組むべき視点を学ぶことができる。
思考・判断の観点 (K)	博物館経営の上で重要と思われるテーマを個別に取りあげ解説することにより、現在、博物館が抱える運営上の諸問題について考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	博物館の運営や学芸員への理解を深め、単に展示を見るというだけでなく他の側面からも博物館に足を運び考えることができる。
技術・表現の観点 (A)	博物館の学芸活動を通じて、地域社会やコミュニティーにおいて、住民に対してどのように接し活動すべきかの指針を得ることができる。

学習計画		
第1回	授業テーマ	博物館経営とは何か
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シラバスに基づく講義内容とルーブリックについて説明するとともに、授業への導入として博物館経営論とはどのようなものであるのかについて解説する。博物館経営論の導入として、現代社会の中で、なぜ博物館に「経営」といった視点が必要なのか。行政が積極的にとりいれているＮＰＭ（ニュー・パブリック・マネジメント）の視点から、博物館経営の必要性を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】一般的に、社会において「経営」とは何を意味するのかを考えておく。 【復習】ＮＰＭという大きな潮流を理解し、現代社会における博物館経営について何が大切であるかをまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計100分
第2回	授業テーマ	博物館の設立と基本構想
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館の設立の行程や理想的な博物館建設の形を知り、その中でも基本理念の重要性を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】博物館を新たに設置するために考慮すべき要件をまとめておく。 【復習】新設博物館の設立過程を確認し、基本構想の要素について整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
第3回	授業テーマ	博物館の行政制度と使命
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	公的機関として設置されることの多い博物館を運営する上での、法的根拠について理解を深めると共に、その使命について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】博物館概論で触れられた、博物館法および関連規則を思い出し、博物館設置の目的について整理しておく。 【復習】博物館の法的位置づけや運営の実態、博物館が果たすべき使命について、プリントと講義内容を復習する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
	授業テーマ	博物館の財政
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活	公的機関でありまた教育機関でもある博物館の、財政基盤ならびに予算の特殊性、出納の実態などを学ぶ。

第4回	用を含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】一般的に、行政の予算がどのような過程で成立するのかを調べておく。 【復習】博物館の財政的根拠や予算の特質を、講義内容とプリントを確認してまとめておく。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習 計200分
第5回	授業テーマ	博物館の建築と施設
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館の施設や設備といったハード面について、近年における傾向やリニューアル等の問題点について知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】実際に訪れたことのある博物館を思い出し、博物館の施設がどのようにな構造になっているかのを考えておく。 【復習】博物館の施設や設備が、どのような観点から設計・設置されているかをよく理解しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習 計200分
第6回	授業テーマ	博物館の人的資源と組織
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館を支える人々は多様で、それぞれがどのように博物館の業務と関わっているのか。そのなかでも博物館の専門職員である学芸員に焦点をあて、博物館における役割とその特質について概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】博物館の中で学芸員はどのような仕事をしてるのだろうか。博物館概論で学んだ博物館の機能と併せてまとめておく。 【復習】博物館における学芸員の位置づけと重要性について理解し、今日の学芸員が何を求められているのかを復習しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習 計200分
第7回	授業テーマ	ミュージアム・マーケティング
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館の集客戦略として行われてきているミュージアム・マーケティングの手法と具体例について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】商業的に使われているマーケティングの意味を調べておく。 【復習】ミュージアム・マーケティングの手法と運用上の留意点についてまとめておく。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習 計200分

第8回	授業テーマ	博物館を評価する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館組織の内外で実施されている事業評価のあり方について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】行政や企業で行われている事業評価のあらましを調べてみる。 【復習】事業評価について、博物館におけるその意義と問題点について整理しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習 計200分
第9回	授業テーマ	指定管理者制度と博物館
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	現在行われている指定管理者制度の有効な点や問題点をよく理解し、より強い官と民のパートナーシップとしての指定管理者制度の新しい姿を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】自治体において採用されてきている指定管理者制度について、その概要をまとめておく。 【復習】旧来の事業委託制度と指定管理者制度の違いをまとめ、博物館やその他の施設における指定管理の具体例を調べてみる。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習 計200分
第10回	授業テーマ	ミュージアム・サービス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館経営における「サービス」とは何を意味するのか。今日の博物館が利用者に対して行うべきサービスについて、多角的に学んでいく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】 一般的にイメージするサービスと公共サービスの違いについて考えておく。 【復習】利用者主体の博物館経営という観点から、博物館が行うことができるサービスにはどのようなものがあるのかを、よく整理しておくこと。
	教室外学習の時間(分)	予習・復習 計200分
第11回	授業テーマ	ミュージアム・サービスと付帯施設
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	前回の課題としたミュージアム・サービスでは、快適な空間づくりのための施策が管内サービスで行われていた。このような空間づくりの側面として、いくつかの付帯施設が設置されている。ここでは、カフェ、レストラン、ミュージアムショップを取り上げて、その意義を述べてみたい。

	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】博物館の付帯施設のうち、来館者のサービスに供するものは何がありか挙げてみる。 【復習】ミュージアムショップで販売されているミュージアム・グッズの意義を教育面から整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
第12回	**授業テーマ**	地域社会と博物館（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生涯学習機関としての博物館が、地域への貢献として地域が抱える問題に取り組むという新たな課題について、新しい博物館の施策を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】あなたがイメージする地域あるいは地域社会とはどのようなものか。地域社会における博物館の存在意義を考えてみる。 【復習】博物館と地域社会との関係、および博物館が地域社会に果たす役割をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
第13回	**授業テーマ**	地域社会と博物館（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域社会と博物館の新たな関わり方の一つとして、1990年以来、エコミュージアムという考え方が導入されてきた。エコミュージアムの歴史を追い、ヨーロッパでのエコミュージアムの基本的な考え方、日本のエコミュージアムの特質を学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】エコミュージアムという言葉を調べておく。 【復習】本来ヨーロッパで行われてきたエコミュージアムの概念と、日本のエコミュージアムの実態を比してみる。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
第14回	**授業テーマ**	博物館と観光
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	旅行ガイドブックには常に登場する博物館であるが、生涯学習機関に位置付けられる博物館は観光には消極的であった。しかしながら政府は、オリンピックを背景に博物館や文化財を観光資源として積極的に活用する姿勢に転換した。こうした流れを概観し、博物館と観光との関係を説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】一般的の人が博物館を訪れる契機は何であろうか。思い付くままに列記し、その中で観光利用がどのくらいの位置を占めるのかを検討してみる。 【復習】博物館を観光資源として活用する利点を説明できるようにまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分

学生へのフィードバック方法

授業では各回のポイントやキーワードについて、リアクションペーパーによる知識・理解度および思考についての確認を行う。リアクションペーパの解説は、翌週の授業の冒頭で行う。
質問等がある場合には、メールにて連絡をするか、授業時間およびその前後に教室または講師室で受け付ける。

評価方法

期末レポートによる評価 70%
授業への取り組みおよびリアクションペーパーへの回答などの平常点 30%
また、公欠･病欠など学則に定められたやむを得ない場合を除き、４回以上の欠席（授業の1/4以上）は評価の対象としない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
リアクションペーパーへの回答	○		○	
定期試験または期末レポート	○	○		○

評価割合

定期試験または期末レポートによる評価 ７0%
授業への取り組みおよびリアクションペーパーへの回答などの平常点 30%

使用教科書名(ISBN番号)

教科書は特に指定せず、各回の項目に沿ったプリントを教材として配付する。

参考図書

加藤有次ほか編『博物館経営論』雄山閣出版、1999年刊
大堀 哲編『博物館経営論』樹村房、1999年刊
佐々木亨ほか『博物館経営・情報論』放送大学教育振興会、2008年刊
大堀 哲ほか『博物館学III（博物館情報・メディア論・博物館経営論）』学文社、2012年刊

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】博物館と地域社会の結びつきを理解し、博物館が地域社会に果たすべき役割を説明することができる。
【思考・判断】博物館経営の施策を通して、博物館がどのように地域社会の諸問題を解決していくべきであるのかを思考することができる。
【技術・表現】博物館学芸員が地域社会やコミュニティーにおいて、住民に対するコミュニケーションを通じて地域社会の問題に取り組み解決する指針を得ることができる。

オフィスアワー

質問等については、メールにより随時受け付けるが、授業前後に教室または講師室で受け付ける。
教員メールアドレス m-tao@rb3.so-net.ne.jp
※大学名・科目・氏名を明記すること。

学生へのメッセージ

機会を作って博物館に足を運び、展示だけではなく授業で学んだ視点を生かして、博物館経営の観点から博物館を見学するくせをつけよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	担当教員は、いくつかの自治体において博物館の基本構想策定に委員として関わり、また博物館協議会の委員を務めている。これらの実務経験から得た最新の情報をを取り入れた授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	各回の授業は教員が講義する形式を基本とするが、ディスカッションを取り入れた双方向型の授業を取り入れていきたい。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	630006001
講義名	生涯学習概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	1年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

ナンバリング

Y13601M21

授業概要(教育目的)

日本の生涯学習の理念と意義について、理解を促す。日本では生涯学習や社会教育の概念がどのように議論され展開してきたのか、その歴史について理解を促す。学習や教育の場として開かれた生涯学習施設（社会教育施設）等は、どのような役割を担っていくべきか、考える機会を提供する。そうした施設で専門員として働くために必要な基礎的知識やスキルを把握させる。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日本における生涯学習や社会教育の概念と展開について理解し、大まかに説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	資料をもとに生涯学習・社会教育の施設等の現状を理解し、課題を指摘することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	興味を持って生涯学習の事業等について調べ、自ら「学び」を得ることができる。
技術・表現の観点 (A)	ディスカッションを通じて自分の考えを整理し、自らのことばで意見や提案を言うことができる。

学習計画

生涯学習概論授業予定

第1回	**授業テーマ**	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業目的、毎回の授業方法とスケジュール、ルーブリックによる評価方法についての説明。 グループ・ディスカッションのやり方についての説明。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分はどのような「学び」をしてきたのか、振り返って思い出してみましょう。
	教室外学習の時間	50分

	（分）	
第2回	**授業テーマ**	生涯学習の登場
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生涯学習論の提唱と構想から、具体的展開への推移について学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	生涯学習とは何か、自分の考えをまとめてみましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	**授業テーマ**	生涯教育論の導入と政策
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	提唱当時の「生涯教育」から「生涯学習」へと推移した理由について考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「生涯教育」と「生涯学習」の語を、検索エンジンで調べてみましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	**授業テーマ**	ユネスコと生涯学習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1946年に発表された「ユネスコ憲章」を読んで、生涯学習との関連について考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「ユネスコ憲章」という語を、検索エンジンで調べてみましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	**授業テーマ**	社会教育の歴史
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	戦前からあった社会教育の歴史を、資料をもちいて学びます。日本国憲法、教育基本法（1947年）から、社会教育と生涯学習との関係について考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「教育基本法」とは何か、概略を調べておきましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	**授業テーマ**	生涯学習と社会教育施設
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会教育法から社会教育の目的や定義を確認します。目的を実現するために、社会教育施設が地域の人々の身近につくられていることを理解します。
	教室外学習(予習・復習)の内容	社会教育施設にはどのようなものがあるかを検索エンジンで調べてみましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	**授業テーマ**	生涯学習と図書館①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館法を読み、図書館の目的や定義を学びます。社会教育施設としての図書館の生涯学習における役割を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布した資料を読み、考えたことをまとめてみましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	生涯学習と図書館②

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館が生涯学習にどのような役割を担っているのか、グループ・ディスカッションを通じて考えてみます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	地域に開かれた図書館では、どのような活動をしているのか調べてみましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第9回	授業テーマ	生涯学習と博物館
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館法を読み、博物館の目的、定義を知る。社会教育施設としての博物館の生涯学習における役割を考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	博物館について、どのような報道されているかを調べてみましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	授業テーマ	生涯学習と美術館
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	美術館について、社会教育施設の生涯学習における役割の観点から考えます。グループ・ディスカッションを行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布した資料を読み、自分の考えをまとめてみましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	授業テーマ	日本の生涯学習の特質①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の生涯学習の特質について、資料をもとに考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	高齢者を対象とする「生涯学習」として、どのようなアイディアがあるかを考えてみましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	授業テーマ	日本の生涯学習の特質②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近年増加している外国人労働者とその家族（特に子ども）の現状について、資料をもとに考えます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	外国をルーツとする人たちにとっての「生涯学習」として、どのようなアイディアがあるかを考えてみましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	授業テーマ	「生涯学習施設で働く」をテーマにして、グループで考える。
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループで発表を行います。他者の意見、感想を知ることを通して自分の考えを深める。また、発表方法について相互に学びます。
	教室外学習(予習・復習)の内容	10年後の自分は、どのような「生涯学習」を希望すると思いますか。想像してみましょう。
	教室外学習の時間（分）	50分
	授業テーマ	生涯学習と専門的職員
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	生涯学習施設（社会教育施設）で働く専門職員の仕事について、解説します。

第14回	育・ICT活用を含む)	授業のまとめと学習到達度の確認テストを行います。
	教室外学習(予習・復習)の内容	図書館、博物館（美術館）などでは職員がどのような仕事をしていましたか。思い出してみましょう。
	教室外学習の時間（分）	25分

学習計画注記

※履修者数や授業の進捗状況により、スケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

講義についての「振り返りシート」を、毎回の授業時間内（15分程度）で記入し、提出していただきます。
「振り返りシート」は、コメント付きで返却いたします。寄せられた疑問や感想については、次回以降の講義内で解説するなどして活かしてまいります。

評価方法

定期試験（レポート）、「振り返りシート」、「発表」の総合的評価です。
すべてルーブリックでの評価をおこないます。ルーブリックについては、初回の授業でプリントを配布し説明するほか、「クラスルーム」にも掲示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験（レポート）	○	○	○	○
振り返りシート	○	○	○	○
発表	○	○	○	○

評価割合

定期試験(レポート)60%、「振り返りシート」30%、「発表」10% で評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

なし（講義内容に応じて、プリントを配付します）

参考図書

なし（講義内容に応じて、資料を配付します）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる
【思考・判断】
社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる
また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる
【関心・意欲・態度】
社会を構成する大切なひとりとして、高い特性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】
社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている

学生へのメッセージ

魅力的と思う「学び」情報を入手するとともに、生涯学習施設へ足を運んでみましょう。
グループでディスカッションをしながら、基礎的なコミュニケーション・スキルの向上をめざしましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は生涯学習施設（美術館）の専門員として、30年を超える実務経験を有しています。生涯学習施設のかかえる課題や、専門職員としての仕事のありかたなどを、リアルに解説いたします。
アクティブ・ラーニング	○	グループ・ディスカッションを通じて、他者の考えを知り、自分の考えを深めていく能力を磨きます。
情報リテラシー教育	○	図書館や博物館（美術館）のデータベースを活用して、学びを進めます。 「個人情報取り扱いの注意点」や「著作権への配慮」について、授業のなかで説明します。
ICT活用	○	DVDの視聴による学習を通じて、意見交換を行います。

講義コード	630006031
講義名	生涯学習概論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	1年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	高木 幸枝	指定なし

ナンバリング

Y13601C21

授業概要(教育目的)

生涯学習の理念と意義について理解を促す。「生涯学習施設（社会教育施設）」は、どのような経過で設置され、今後どのような役割を担っていくべきか、考える機会を提供する。専門員として必要な基礎的知識やスキルについて、理解を促す。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日本における生涯学習・社会教育の概念と展開について理解し、大まかに説明できる
思考・判断の観点 (K)	資料をもとに生涯学習・社会教育の施設等の現状を理解し、課題を指摘できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	興味を持って生涯学習の事業について調べ、自ら「学び」を得ることができる
技術・表現の観点 (A)	ディスカッションを通じて自分の考えを整理し、自らの言葉で意見や提案を言うことができる

学習計画

生涯学習概論

	授業テーマ	オリエンテーション
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	授業目的、毎回の授業方法とスケジュール、ルーブリックによる評価方法について知る グループ・ディスカッションのやり方についての把握

第1回		する
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分はどのような「学び」をしてきたのか、振り返ってみましょう
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	**授業テーマ**	「生涯学習」の登場
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生涯学習論の提唱と構想から、具体的展開への推移について学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	生涯学習とは何か、自分の考えをまとめてみましょう
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	**授業テーマ**	生涯教育論の導入と政策
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	提唱当時の「生涯教育」から「生涯学習」へと推移した理由について考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	「生涯教育」と「生涯学習」の語を、検索エンジンで調べてみましょう
	教室外学習の時間（分）	50分
第4回	**授業テーマ**	ユネスコと生涯学習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1946年に発表された「ユネスコ憲章」を読んで、生涯学習との関連について考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	「ユネスコ憲章」という語を、検索エンジンで調べてみましょう
	教室外学習の時間（分）	50分
第5回	**授業テーマ**	社会教育の歴史
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	戦前からあった社会教育の歴史を、資料から学ぶ 日本国憲法、教育基本法（1947年）から、社会教育と生涯学習との関係について考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	「教育基本法」とは何か、概要を調べておきましょう
	教室外学習の時間（分）	50分
第6回	**授業テーマ**	生涯学習と社会教育施設
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	社会教育法を読み、社会教育の目的や定義を確認する 社会教育施設が地域の人々の身近につくられていることを理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	社会教育施設にはどのようなものがあるかを検索エンジンで調べましょう
	教室外学習の時間（分）	50分
第7回	**授業テーマ**	生涯学習と図書館①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館法を読み、図書館の目的や定義を学ぶ 社会教育施設としての図書館の役割を考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前に配布した資料を読み、考えたことをまとめてましょう
	教室外学習の時間（分）	50分
第8回	**授業テーマ**	生涯学習と図書館②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	図書館が生涯学習にどのような役割を担っているのか、グループ・ディスカッションを通じて考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	地域に開かれた図書館では、どのような活動をしているのか調べましょう
	教室外学習の時間（分）	50分

第9回	授業テーマ	生涯学習と博物館
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館法を読み、博物館の目的や定義を知る 生涯学習における博物館の役割を考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	博物館について、どのような報道がなされているか調べましょう
	教室外学習の時間（分）	50分
第10回	授業テーマ	生涯学習と美術館
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	美術館について、生涯学習における役割の観点から考える グループ・ディスカッションで意見をまとめる
	教室外学習(予習・復習)の内容	配布した資料を読み、自分の考えをまとめましょう
	教室外学習の時間（分）	50分
第11回	授業テーマ	日本の生涯学習の特質①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日本の生涯学習の特質について、資料をもとに考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	高齢世代にはどのような生涯学習のプログラムが好まれるか、考えてみましょう
	教室外学習の時間（分）	50分
第12回	授業テーマ	日本の生涯学習の特質②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近年増加している外国人労働者とその家族の現状について、資料をもとに考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	外国をルーツとする人たちにどのような生涯学習プログラムが好まれるか、考えてみましょう
	教室外学習の時間（分）	50分
第13回	授業テーマ	「生涯学習施設で働く」をテーマに、グループで考える
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループで発表を行い、発表の手法について学ぶ 他者の意見や感想を知ることにより、自分の考えを深める
	教室外学習(予習・復習)の内容	10年後の自分は、どのような「生涯学習」を希望すると思いますか。想像してみましょう
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	授業テーマ	生涯学習と専門的職員
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生涯学習施設（社会教育施設）で働く専門職員の仕事について把握する／授業のまとめと学習到達度の確認
	教室外学習(予習・復習)の内容	図書館、博物館（美術館）などでは職員がどのような仕事をしていましたか。思い出してみましょう
	教室外学習の時間（分）	25分

学習計画注記

履修者数や授業の進捗状況により、スケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

講義についての「振り返りシート」を、毎回の授業時間内で記入し（15分程度）、提出していただきます。
寄せられた疑問や感想については、次回以降の講義内で解説するなどして活かしてまいります。

評価方法

定期試験（レポート）、「振り返りシート」、「発表」の総合的評価です。

ルーブリックでの評価をおこないます。ルーブリックについては、初回の授業でプリントを配布し説明するほか、「クラスルーム」にも掲示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験（レポート）	○	○	○	○
振り返りシート	○	○	○	○
発表	○	○	○	○

評価割合

定期試験(レポート)60%、「振り返りシート」30%、「発表」10% で評価します。

使用教科書名(ISBN番号)

なし（講義内容に応じて、プリントを配付）

参考図書

なし（講義内容に応じて、資料を配付）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる
【思考・判断】
社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる
また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる
【関心・意欲・態度】
社会を構成する大切なひとりとして、高い特性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】
社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている

学生へのメッセージ

魅力的と思う「学び」情報を入手するとともに、生涯学習施設へ足を運んでみましょう。
グループでディスカッションをしながら、基礎的なコミュニケーション・スキルの向上をめざしましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は生涯学習施設（美術館）の専門員として、30年を超える実務経験を有しています。生涯学習施設のかかえる課題や、専門職員としての仕事のありかたなどを、リアルに解説いたします。
アクティブ・ラーニング	○	グループ・ディスカッションを通じて、他者の考えを知り、自分の考えを深めていく能力を磨きます。
情報リテラシー教育	○	図書館や博物館（美術館）のデータベースを活用して、学びを進めます。「個人情報取り扱いの注意点」や「著作権への配慮」について、授業のなかで説明します。
ICT活用	○	DVDの視聴による学習を通じて、意見交換を行います。

講義コード	630008001
講義名	博物館実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	3
代表曜日	月曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	4年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	加藤 晴美	指定なし

ナンバリング

Y43609M33

授業概要(教育目的)

本実習は「学内実習」「見学実習」「館園実習」の3種がなり、博物館の実務に対して幅広く理解することを目標とする。
「学内実習」：資料の取り扱いや実務についての習得をはかる。
「見学実習」：実際に博物館を訪れ、展示はもとより博物館の構造や施設、バックヤード等を見学する。
「館園実習」：生活文化博物館（本学町田キャンパス）において模擬展示を実施する。グループに分かれ、展示企画、資料の収集や調査・取材、パネル作成、広報業務を行い、生活文化博物館において展示を行う。

履修条件

博物館概論ならびに各論を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	学芸員の実務の多様性を理解する。
思考・判断の観点 (K)	学芸員の実務についての可能性や限界について指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らの興味や関心に関連させて博物館の活動について考えることができる
技術・表現の観点 (A)	資料の保存と公開に関する技術と思想を自ら実践できる

学習計画

博物館実習

	授業テーマ	学内実習1 ガイダンス

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	授業の進め方についてのガイダンスを行うとともに、博物館資料の多様性とその受け入れ・整理作業についての解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第2回	**授業テーマ**	学内実習2 「モノ」資料と展示
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館における「モノ」資料の位置付けについて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第3回	**授業テーマ**	学内実習3 博物館資料の取り扱い方法：資料の採拓（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	拓本について、その歴史や手順など基本的な知識を解説し、模擬資料を活用して採拓を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第4回	**授業テーマ**	学内実習4 博物館資料の取り扱い方法：資料の採拓（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	校内の石碑を資料として採拓を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第5回	**授業テーマ**	学内実習5 博物館資料の取り扱い方法：古文書（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	紙資料の代表格である古文書について、その分類や保存、修復など、基本的な取り扱いの方法について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第6回	**授業テーマ**	学内実習6 博物館資料の取り扱い方法：古文書（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	古文書の整理、目録の作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第7回	**授業テーマ**	学内実習7 博物館資料の取り扱い方法：古文書（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	古文書の撮影を行い、資料撮影の基本知識を理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第8回	**授業テーマ**	学内実習８ 資料の梱包（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	梱包の基本を学び、模擬資料を梱包するための梱包材を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第9回	**授業テーマ**	学内実習9 資料の梱包（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した梱包材を用いて、実際に模擬資料の梱包を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第10回	**授業テーマ**	学内実習10 フィールドワークの方法（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域の暮らしを復原することを目的とした地理学的・民俗学的な地域調査の方法を解説し、模擬的なフィールドワークを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第11回	**授業テーマ**	学内実習11 フィールドワークの方法（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	古地図や古写真の基本的な活用方法と地図の作成について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第12回	**授業テーマ**	学内実習12 特別展に向けた調査・研究と展示制作(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活文化博物館で開催される特別展に関する準備として、テーマに従って資料に関する調査研究と、図表・キャプションの作成などを行う。文献調査や図表・キャプション作成のためPCを使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第13回	**授業テーマ**	学内実習13 特別展に向けた調査・研究と展示制作(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活文化博物館で開催される特別展に関する準備として、テーマに従って資料に関する調査研究と、図表・キャプションの作成などを行う。文献調査や図表・キャプション作成のためPCを使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
	授業テーマ	学内実習14 特別展に向けた調査・研究と展示制作(3)

第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活文化博物館で開催される特別展に関する準備として、テーマに従って資料に関する調査研究と、図表・キャプションの作成などを行う。文献調査や図表・キャプション作成のためPCを使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。

学習計画注記

「学内実習」は、前期の授業時間帯に教室内で行う。
「館園実習」は、夏期休暇中に５日間の日程で集中授業を行う。町田キャンパス生活文化博物館で実施する。
「見学実習」は、前期・後期を通じ土・日・祝日や休暇期間を利用して、５日分程度の予定で行う。
なお、「館園実習」と「見学実習」は、町田キャンパスと千代田三番町キャンパスの両受講生合同で実施する。詳細については学内実習の初回で説明する。

学生へのフィードバック方法

実習の内容や取り扱う資料は多岐にわたるため、その都度、前後の実習内容との関連性や相違など留意すべき点について授業中に触れる。
また「館園実習」や「見学実習は、総まとめ的な位置づけにあるので、これまで学んできた博物館学各論の内容を実地て示して解説する。

評価方法

「学内実習」への取り組みや「館園実習」・「見学実習」に参加する姿勢などの平常点（70%）を基本とし、各実習に関わるレポート（30%）を課し、これらを勘案して総合的に評価する。
・評価はルーブリックに基づいて行う。ルーブリックは授業時に配付、もしくはclassroomで提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実技および授業への取り組み	○	○	○	○
各実習に関するレポート	○	○	○	

評価割合

実技および授業への取り組み 70%
期末レポート 30%

使用教科書名(ISBN番号)

授業の際、必要に応じてプリント等の資料を配布する。

参考図書

田中梨枝子編 2019『博物館実習ガイドブック』藝術学舎
日本博物館協会編 2016『博物館資料取扱いガイドブック』ぎょうせい

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】学芸員の業務が多岐にわたることを理解することができる。
【思考・判断】博物館において学芸員が果たす役割を理解し、来館者や地域社会との関わりについて考察ができる。
【関心・意欲・態度】博物館活動と自らの興味関心を関連づけて、展示を見学する以外の視点で博物館を考えることができる。
【技術・表現】学芸員が行う業務の主要な部分について体験し、意志で主体的に身に着けることができる。

オフィスアワー

前期：月曜4限
後期：月曜3限

学生へのメッセージ

実習を体験することによって、学芸員が博物館において多様な業務を行っていることを知り、また様々な課題に取り組んでいるということを理解してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	実習という実務的な授業であるため、受講生の能動的な学修が中心となる。個人作業とグループ作業の双方を取り入れる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	630008031
講義名	博物館実習
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	3
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	4年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	加藤 晴美	指定なし

ナンバリング

Y43609M33

授業概要(教育目的)

本実習は「学内実習」「見学実習」「館園実習」の3種がなり、博物館の実務に対して幅広く理解することを目標とする。
「学内実習」：資料の取り扱いや実務についての習得をはかる。
「見学実習」：実際に博物館を訪れ、展示はもとより博物館の構造や施設、バックヤード等を見学する。
「館園実習」：生活文化博物館（本学町田キャンパス）において模擬展示を実施する。グループに分かれ、展示企画、資料の収集や調査・取材、パネル作成、広報業務を行い、生活文化博物館において展示を行う。

履修条件

博物館概論ならびに各論を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	学芸員の実務の多様性を理解する。
思考・判断の観点 (K)	学芸員の実務についての可能性や限界について指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らの興味や関心に関連させて博物館の活動について考えることができる
技術・表現の観点 (A)	資料の保存と公開に関する技術と思想を自ら実践できる

学習計画

博物館実習

	授業テーマ	学内実習1 ガイダンス

第1回	**学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	授業の進め方についてのガイダンスを行うとともに、博物館資料の多様性とその受け入れ・整理作業についての解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第2回	**授業テーマ**	学内実習2 「モノ」資料と展示
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館における「モノ」資料の位置付けについて解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第3回	**授業テーマ**	学内実習3 博物館資料の取り扱い方法：資料の採拓（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	拓本について、その歴史や手順など基本的な知識を解説し、模擬資料を活用して採拓を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第4回	**授業テーマ**	学内実習4 博物館資料の取り扱い方法：資料の採拓（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	校内の石碑を資料として採拓を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第5回	**授業テーマ**	学内実習5 博物館資料の取り扱い方法：古文書（１）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	紙資料の代表格である古文書について、その分類や保存、修復など、基本的な取り扱いの方法について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第6回	**授業テーマ**	学内実習6 博物館資料の取り扱い方法：古文書（２）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	古文書の整理、目録の作成を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第7回	**授業テーマ**	学内実習7 博物館資料の取り扱い方法：古文書（３）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	古文書の撮影を行い、資料撮影の基本知識を理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第8回	**授業テーマ**	学内実習８ 資料の梱包（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	梱包の基本を学び、模擬資料を梱包するための梱包材を作成する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第9回	**授業テーマ**	学内実習9 資料の梱包（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	作成した梱包材を用いて、実際に模擬資料の梱包を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第10回	**授業テーマ**	学内実習10 フィールドワークの方法（1）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域の暮らしを復原することを目的とした地理学的・民俗学的な地域調査の方法を解説し、模擬的なフィールドワークを行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第11回	**授業テーマ**	学内実習11 フィールドワークの方法（2）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	古地図や古写真の基本的な活用方法と地図の作成について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第12回	**授業テーマ**	学内実習12 特別展に向けた調査・研究と展示制作(1)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活文化博物館で開催される特別展に関する準備として、テーマに従って資料に関する調査研究と、図表・キャプションの作成などを行う。文献調査や図表・キャプション作成のためPCを使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第13回	**授業テーマ**	学内実習13 特別展に向けた調査・研究と展示制作(2)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活文化博物館で開催される特別展に関する準備として、テーマに従って資料に関する調査研究と、図表・キャプションの作成などを行う。文献調査や図表・キャプション作成のためPCを使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
	授業テーマ	学内実習14 特別展に向けた調査・研究と展示制作(3)

第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活文化博物館で開催される特別展に関する準備として、テーマに従って資料に関する調査研究と、図表・キャプションの作成などを行う。文献調査や図表・キャプション作成のためPCを使用する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。

学習計画注記

「学内実習」は、前期の授業時間帯に教室内で行う。
「館園実習」は、夏期休暇中に５日間の日程で集中授業を行う。町田キャンパス生活文化博物館で実施する。
「見学実習」は、前期・後期を通じ土・日・祝日や休暇期間を利用して、５日分程度の予定で行う。
なお、「館園実習」と「見学実習」は、町田キャンパスと千代田三番町キャンパスの両受講生合同で実施する。詳細については学内実習の初回で説明する。

学生へのフィードバック方法

実習の内容や取り扱う資料は多岐にわたるため、その都度、前後の実習内容との関連性や相違など留意すべき点について授業中に触れる。
また「館園実習」や「見学実習は、総まとめ的な位置づけにあるので、これまで学んできた博物館学各論の内容を実地て示して解説する。

評価方法

「学内実習」への取り組みや「館園実習」・「見学実習」に参加する姿勢などの平常点（70%）を基本とし、各実習に関わるレポート（30%）を課し、これらを勘案して総合的に評価する。
・評価はルーブリックに基づいて行う。ルーブリックは授業時に配付、もしくはclassroomで提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実技および授業への取り組み	○	○	○	○
各実習に関するレポート	○	○	○	

評価割合

実技および授業への取り組み 70%
期末レポート 30%

使用教科書名(ISBN番号)

授業の際、必要に応じてプリント等の資料を配布する。

参考図書

田中梨枝子編 2019『博物館実習ガイドブック』藝術学舎
日本博物館協会編 2016『博物館資料取扱いガイドブック』ぎょうせい

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】学芸員の業務が多岐にわたることを理解することができる。
【思考・判断】博物館において学芸員が果たす役割を理解し、来館者や地域社会との関わりについて考察ができる。
【関心・意欲・態度】博物館活動と自らの興味関心を関連づけて、展示を見学する以外の視点で博物館を考えることができる。
【技術・表現】学芸員が行う業務の主要な部分について体験し、意志で主体的に身に着けることができる。

オフィスアワー

金曜２限

学生へのメッセージ

実習を体験することによって、学芸員が博物館において多様な業務を行っていることを知り、また様々な課題に取り組んでいるということを理解してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	実習という実務的な授業であるため、受講生の能動的な学修が中心となる。個人作業とグループ作業の双方を取り入れる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	630009001
講義名	博物館資料保存論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	田尾 誠敏	指定なし

ナンバリング

Y33605M21

授業概要(教育目的)

博物館にとって資料（コレクション）とは、博物館活動を支える重要な役割を果たすと同時に、後世に伝えるべき貴重な遺産である。このような資料は現代社会において、環境や二次適当な要因による物理的な劣化や、喪伝統による喪失といった人為的な理由により、常に滅失の危機にさらされている。本講義では、博物館が行っている資料保存のあり方を、多面的に解説していく。

履修条件

博物館学に関する概論の授業ならびに博物館資料論を受講していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	博物館でおこなわれている資料保存に関する幅広い知識や考え方を身につけることができる。
思考・判断の観点 (K)	多様な博物館資料の特性を把握し、その資料をどのように取り扱うべきであるのかという判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	博物館資料をはじめとする我が国の文化財の重要性を認識し、次世代へと継承していく意欲を養える。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	博物館の資料保存 －守る・残す・伝える－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ	シラバスに基づく講義内容とルーブリックについて説明する。

第1回	–教育・ICT活用を含む)	博物館の使命のひとつである資料保存について、その意義や法的根拠について述べると共に、資料の種類や特性について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】博物館法では資料保存（保管）がどのように位置づけられているかを確認塩ておく。 【復習】美術工芸品を含む人文系資料が、どのような素材でつくられているかを整理する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計100分
第2回	授業テーマ	文化財保護法の理念と特質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館と文化財保護の関わりを取り上げ、文化財保護法の成り立ち、理念、特質を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】文化財保護法を調べ、文化財とはどのようなものかを確認する。 【復習】文化財保護法の理念をまとめ、博物館資料との関わりを整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
第3回	授業テーマ	わが国の気候・風土と伝統的保存
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	年間気候変化が激しく、劣化しやすい材質の資料が多いわが国において培われた、伝統的保存法を概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】わが国の地理的特徴と気候について、その多様性を確認しておく。 【復習】日常で行われてきた伝統的な保存方法に、どのようなものがあるのかをまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
第4回	授業テーマ	正倉院にみる伝統的保存
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	伝統的保存法の代表例として、奈良時代から続く正倉院の資料保存を取り上げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】奈良市に所在する正倉院について調べておく。 【復習】正倉院宝物が長きにわたって伝えられてきた保存法についてまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
第5回	授業テーマ	博物館資料と文化財科学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	資料の保存と修復に関わる理科学的研究分野である文化財科学について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】前回までに学んだ伝統的保存法の限界についてまとめておく。 【復習】文化財科学のインターフェイス的な役割と研究分野について確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
	授業テーマ	博物館の保存環境

第6回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館における資料の保存環境について、その調査や保存環境の整備について具体例を挙げて検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】博物館資料や文化財がどのような場所に置かれているかを確認しておく。 【復習】博物館において資料の保存環境を整備する際の留意点をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
第7回	授業テーマ	博物館資料の生物被害対策とIPM
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館資料に対する生物被害対策として、臭化メチルの全廃を受け手導入されたIPM（総合的有害生物管理）について概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】博物館資料や文化財を汚損・食害する生物を調べておく。 【復習】IPMがなぜ行われるようになってきたのかをまとめ、その理念と手法的特徴を確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
第8回	授業テーマ	資料の梱包と輸送
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館の資料を取り扱う上で最もリスクが高い場面が、資料を展示作業にかかわる資料の移動である。こうした観点から、博物館において行われている資料の梱包や輸送をはじめとする資料の取り扱いを概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】資料を展示するという一連の過程を思い浮かべ、資料に対する物理的な危険性を想定してみよう。。 【復習】資料の梱包や輸送上の留意点を、資料の材質た資料の種類といった多様性を考慮して整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
第9回	授業テーマ	考古資料の保存と修復
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考古学的発掘調査による出土資料が、博物館資料として整理・修復される過程を追う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】考古資料とはどのようなものでどのような特質があるのかわ調べる。 【復習】考古資料が博物館において、修復され展示されるｊことが多い理由についてまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
第10回	授業テーマ	紙資料の保存と修復
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	光や温湿度に影響を受けやすい古典籍等の史料に対する保存・修復について概説し、アーカイブ化にも触れる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】博物館で展示されている紙資料の種類を調べておく。 【復習】史料の保存手法やアーカイブ化の利点をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
	授業テーマ	動物園と種の保存

第11回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然科学系の博物館のうち、動植物園や水族館が行う種の保護・育成などの意義について述べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】博物館法や文化財保護法における、自然系資料の位置付けを確認しておく。 【復習】生物を扱う博物館の特質と、保存の手法および意義についてをまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
第12回	授業テーマ	コレクション・ドキュメンテーションと資料管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	資料の保存・管理の第一歩であるコレクション・ドキュメテーションの手法を通じて、登録から保存管理までの流れを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】博物館資料の記録がどのように活用されているかを、博物館のホームページ等で調べておく。 【復習】コレクション・ドキュメンテーションの利点と手順についてまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
第13回	授業テーマ	博物館の資料保存と危機管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館における資料面での危機管理を取り上げ、短期・中期・長期的な資料の管理について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】環境による資料の劣化以外に、学芸員が博物館資料を取り扱う際の注意点を考えておく。 【復習】博物館資料を脅かす短期・中期・長期的な危機にどのようなものがあるのかをまとめ、その対策について確認する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
第14回	授業テーマ	被災文化財の保護と博物館
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近年問題となっている災害に直面した文化財に対して、博物館館が果たしてきた役割について述べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】震災等の自然災害に直面した文化財の事例について調べておく。 【復習】被災文化財の救出や保護に果たす博物館の役割を確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分

学生へのフィードバック方法

授業では各回のポイントやキーワードについて、リアクションペーパーによる知識・理解度および思考についての確認を行う。リアクションペーパの解説は、翌週の授業の冒頭で行う。
質問等がある場合には、メールにて連絡をするか、授業時間およびその前後に教室または講師室で受け付ける。

評価方法

期末レポートによる評価 70%
授業への取り組みおよびリアクションペーパーへの回答などの平常点 30%

また、公欠･病欠など学則に定められたやむを得ない場合を除き、４回以上の欠席（授業の1/4以上）は評価の対象としない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
リアクションペーパーへの回答		○	○	
定期試験または期末レポート	○	○		

評価割合

定期試験または期末レポートによる評価 70%
授業への取り組みおよびリアクションペーパーへの回答などの平常点 30%

使用教科書名(ISBN番号)

教科書は特に指定せず、各回の項目に沿ったプリントを教材として配付する。

参考図書

青木 豊編『人文系博物館資料保存論』雄山閣 2013年刊
石崎武志編『博物館資料保存論』講談社 2012年刊
本田光子・森田 稔編『博物館資料保存論』放送大学教育振興会 2012年刊

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】博物館の資料保存に関する知識を身に付けることで、博物館資料をはじめとする文化財を次世代に継承し、地域社会における質の高い文化的生活の持続が可能であることが理解できる。

オフィスアワー

質問等については、メールにより随時受け付けるが、授業前後に教室または講師室で受け付ける。
教員メールアドレス m-tao@rb3.so-net.ne.jp
※大学名・科目・氏名を明記すること。

学生へのメッセージ

機会があれば実際の博物館を訪れて、資料の展示環境や展示の方法などから、資料保存と展示との両立を考えてみよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、いくつかの自治体において博物館の基本構想策定に委員として関わり、博物館協議会の委員を務めている。また文化財保護の現場で資料の取り扱いについて経験を有するとともに、文化財保護審議会の委員も務め、文化財保護の指導・監修の業務を行っている。これらの実務経験を取り入れた授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	講義形式が中心であるが、学生諸君との質疑やリアクションでのやり取りなど双方向性のある授業を行う。
情報		

リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	630009031
講義名	博物館資料保存論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	田尾 誠敏	指定なし

ナンバリング

Y33605M21

授業概要(教育目的)

博物館にとって資料（コレクション）とは、博物館活動を支える重要な役割を果たすと同時に、後世に伝えるべき貴重な遺産である。このような資料は現代社会において、環境や二次適当な要因による物理的な劣化や、喪伝統による喪失といった人為的な理由により、常に滅失の危機にさらされている。本講義では、博物館が行っている資料保存のあり方を、多面的に解説していく。

履修条件

博物館学に関する概論の授業ならびに博物館資料論を受講していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	博物館でおこなわれている資料保存に関する幅広い知識や考え方を身につけることができる。
思考・判断の観点 (K)	多様な博物館資料の特性を把握し、その資料をどのように取り扱うべきであるのかという判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	博物館資料をはじめとする我が国の文化財の重要性を認識し、次世代へと継承していく意欲を養える。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	博物館の資料保存 －守る・残す・伝える－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼ	シラバスに基づく講義内容とルーブリックについて説明する。

第1回	–教育・ICT活用を含む)	博物館の使命のひとつである資料保存について、その意義や法的根拠について述べると共に、資料の種類や特性について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】博物館法では資料保存（保管）がどのように位置づけられているかを確認塩ておく。 【復習】美術工芸品を含む人文系資料が、どのような素材でつくられているかを整理する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計100分
第2回	授業テーマ	文化財保護法の理念と特質
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館と文化財保護の関わりを取り上げ、文化財保護法の成り立ち、理念、特質を知る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】文化財保護法を調べ、文化財とはどのようなものかを確認する。 【復習】文化財保護法の理念をまとめ、博物館資料との関わりを整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
第3回	授業テーマ	わが国の気候・風土と伝統的保存
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	年間気候変化が激しく、劣化しやすい材質の資料が多いわが国において培われた、伝統的保存法を概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】わが国の地理的特徴と気候について、その多様性を確認しておく。 【復習】日常で行われてきた伝統的な保存方法に、どのようなものがあるのかをまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
第4回	授業テーマ	正倉院にみる伝統的保存
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	伝統的保存法の代表例として、奈良時代から続く正倉院の資料保存を取り上げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】奈良市に所在する正倉院について調べておく。 【復習】正倉院宝物が長きにわたって伝えられてきた保存法についてまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
第5回	授業テーマ	博物館資料と文化財科学
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	資料の保存と修復に関わる理科学的研究分野である文化財科学について解説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】前回までに学んだ伝統的保存法の限界についてまとめておく。 【復習】文化財科学のインターフェイス的な役割と研究分野について確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
	授業テーマ	博物館の保存環境

第6回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館における資料の保存環境について、その調査や保存環境の整備について具体例を挙げて検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】博物館資料や文化財がどのような場所に置かれているかを確認しておく。 【復習】博物館において資料の保存環境を整備する際の留意点をまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
第7回	授業テーマ	博物館資料の生物被害対策とIPM
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館資料に対する生物被害対策として、臭化メチルの全廃を受け手導入されたIPM（総合的有害生物管理）について概説する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】博物館資料や文化財を汚損・食害する生物を調べておく。 【復習】IPMがなぜ行われるようになってきたのかをまとめ、その理念と手法的特徴を確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
第8回	授業テーマ	資料の梱包と輸送
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館の資料を取り扱う上で最もリスクが高い場面が、資料を展示作業にかかわる資料の移動である。こうした観点から、博物館において行われている資料の梱包や輸送をはじめとする資料の取り扱いを概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】資料を展示するという一連の過程を思い浮かべ、資料に対する物理的な危険性を想定してみよう。。 【復習】資料の梱包や輸送上の留意点を、資料の材質た資料の種類といった多様性を考慮して整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
第9回	授業テーマ	考古資料の保存と修復
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	考古学的発掘調査による出土資料が、博物館資料として整理・修復される過程を追う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】考古資料とはどのようなものでどのような特質があるのかわ調べる。 【復習】考古資料が博物館において、修復され展示されるｊことが多い理由についてまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
第10回	授業テーマ	紙資料の保存と修復
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	光や温湿度に影響を受けやすい古典籍等の史料に対する保存・修復について概説し、アーカイブ化にも触れる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】博物館で展示されている紙資料の種類を調べておく。 【復習】史料の保存手法やアーカイブ化の利点をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
	授業テーマ	動物園と種の保存

第11回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自然科学系の博物館のうち、動植物園や水族館が行う種の保護・育成などの意義について述べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】博物館法や文化財保護法における、自然系資料の位置付けを確認しておく。 【復習】生物を扱う博物館の特質と、保存の手法および意義についてをまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
第12回	授業テーマ	コレクション・ドキュメンテーションと資料管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	資料の保存・管理の第一歩であるコレクション・ドキュメテーションの手法を通じて、登録から保存管理までの流れを学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】博物館資料の記録がどのように活用されているかを、博物館のホームページ等で調べておく。 【復習】コレクション・ドキュメンテーションの利点と手順についてまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
第13回	授業テーマ	博物館の資料保存と危機管理
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館における資料面での危機管理を取り上げ、短期・中期・長期的な資料の管理について説明する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】環境による資料の劣化以外に、学芸員が博物館資料を取り扱う際の注意点を考えておく。 【復習】博物館資料を脅かす短期・中期・長期的な危機にどのようなものがあるのかをまとめ、その対策について確認する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分
第14回	授業テーマ	被災文化財の保護と博物館
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	近年問題となっている災害に直面した文化財に対して、博物館館が果たしてきた役割について述べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】震災等の自然災害に直面した文化財の事例について調べておく。 【復習】被災文化財の救出や保護に果たす博物館の役割を確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習 計200分

学生へのフィードバック方法

授業では各回のポイントやキーワードについて、リアクションペーパーによる知識・理解度および思考についての確認を行う。リアクションペーパの解説は、翌週の授業の冒頭で行う。
質問等がある場合には、メールにて連絡をするか、授業時間およびその前後に教室または講師室で受け付ける。

評価方法

期末レポートによる評価 70%
授業への取り組みおよびリアクションペーパーへの回答などの平常点 30%

また、公欠･病欠など学則に定められたやむを得ない場合を除き、４回以上の欠席（授業の1/4以上）は評価の対象としない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
リアクションペーパーへの回答		○	○	
定期試験または期末レポート	○	○		

評価割合

定期試験または期末レポートによる評価 70%
授業への取り組みおよびリアクションペーパーへの回答などの平常点 30%

使用教科書名(ISBN番号)

教科書は特に指定せず、各回の項目に沿ったプリントを教材として配付する。

参考図書

青木 豊編『人文系博物館資料保存論』雄山閣 2013年刊
石崎武志編『博物館資料保存論』講談社 2012年刊
本田光子・森田 稔編『博物館資料保存論』放送大学教育振興会 2012年刊

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】博物館の資料保存に関する知識を身に付けることで、博物館資料をはじめとする文化財を次世代に継承し、地域社会における質の高い文化的生活の持続が可能であることが理解できる。

オフィスアワー

質問等については、メールにより随時受け付けるが、授業前後に教室または講師室で受け付ける。
教員メールアドレス m-tao@rb3.so-net.ne.jp
※大学名・科目・氏名を明記すること。

学生へのメッセージ

機会があれば実際の博物館を訪れて、資料の展示環境や展示の方法などから、資料保存と展示との両立を考えてみよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、いくつかの自治体において博物館の基本構想策定に委員として関わり、博物館協議会の委員を務めている。また文化財保護の現場で資料の取り扱いについて経験を有するとともに、文化財保護審議会の委員も務め、文化財保護の指導・監修の業務を行っている。これらの実務経験を取り入れた授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	講義形式が中心であるが、学生諸君との質疑やリアクションでのやり取りなど双方向性のある授業を行う。
情報		

リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	630010001
講義名	博物館展示論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	田尾　誠敏	指定なし

ナンバリング

Y33606C21

授業概要(教育目的)

来館者にとって、展示は博物館の顔である。しかしながら博物館が収蔵する資料（コレクション）は多岐にわたる。これらの資料は過去にどのように展示されてきたのかという展示の歴史をはじめとして、展示の意義や手法など、博物館展示に関する個別テーマを取り上げて解説する。

履修条件

博物館学に関する概論の授業を受講していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	展示に関する基礎的な知識を身に付け、博物館および来館者にとって展示とは何を意味するのかを理解することができる。また、博物館が資料を展示するための様々な取り組みを知ることができる。
思考・判断の観点 (K)	博物館における展示の意義や手法を学ぶことにより、博物館展示の可能性と限界について判断できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	博物館展示への理解を深め、自らの興味や関心に基づいて博物館に足を運び考えることができる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	博物館における展示とは何か
	(	

第1回	学習内容 ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シラバスに基づく講義内容とルーブリックについて説明する。 今日の博物館展示は、教育・普及活動の側面のみならず、地域活性化をはじめとする地域貢献をも視野に入れた事業として展開している。導入として、現代社会における博物館展示の意義について述べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】一般的に行われている展示（ディスプレイ）と、博物館が行う展示にはどのような差があるかを考えてみる。 【復習】博物館が行う展示の意義をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習　計100分
第2回	授業テーマ	展示の歴史－陳列から展示へ－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	わが国で行われてきた前近代的な陳列や列品が、今日の展示に発展していく様相を、時代を追って概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】前近代において、人に「もの」を見せるという行為にどのようなものがあるかを調べておく。 【復習】近代以降の博物館の歴史を、展示の発達という視点でまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習　計200分
第3回	授業テーマ	博物館資料の多様性と展示の類型
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館は美術工芸品や考古資料などの文化財や、生き物を含む自然資料など、多様なコレクションを有する。これらの様々な資料がどのように展示されるのか、展示手法を類型化して概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】博物館概説で学んだ博物館の種別を思い出して整理しておく。 【復習】博物館の分野別による。資料の見せ方の特徴をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習　計200分
第4回	授業テーマ	博物館建築と展示空間
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館という施設は、ハード面においてもソフト面においても、独特な建築の視点や設備の要素が盛り込まれている。そのなかでも、博物館の顔ともいうべき展示空間を構成する諸要素について述べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】博物館の展示空間室がどのようなものであるのか、過去に訪れたことのある博物館の展示室を思い出し、その特徴をまとめておく。 【復習】展示空間は展示資料の視点と来館者の視点があることに留意し、展示空間を設計する際の要点をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習　計200分
	授業テーマ	展示のプロセス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	来館者に展示をより良く理解してもらうためには、ストーリー作りや導線計画など多くの要素を必要とする。ここでは、企画段階からオープ

第5回	育・ICT活用を含む)	ン、さらには事後処理に至る、展示の制作を段階を追って概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習・復習】過去に訪れた博物館を思い出し、また新たに博物館を訪れて、展示物の配置や導線にどのような工夫がなされているかを確認する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習　計200分
第6回	授業テーマ	展示のための設備（１）　展示ケースと展示具
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館が収集する多様な資料を効果的に展示する手法について、屋内外の展示手法ならびに、模型やレプリカを用いた展示の効用についても言及する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】展示室マイに設置されている展示具には、どのような種類があるだろうか。展示室を思い起こし、あげてみる。 【復習】展示品に対する展示ケースの役割を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習　計200分
第7回	授業テーマ	展示のための設備（２）　照明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	資料を効果的に演出するには、照明は欠かすことのできない設備である。芸術性や快適性など来館者への効果を概観するとともに、資料の保存環境への配慮についても触れる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】展示に限らず、照明を用いて「もの」を効果的に見せている事例を調べてみる。 【復習】展示において、どのような照明の種類があり、どのような方法によって照明がなされているのか。その効果とともにまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習　計200分
第8回	授業テーマ	展示の解説システム
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	展示は博物館にとって、学芸員や博物館の意思を伝達する装置であるといってもよい。そこで重要な役割を果たすのが解説システムである。ここでは展示解説の多様性や解説手法と展示品の関係などを概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】博物館の展示室を想像して、展示解説の種類を考えてみる。 【復習】博物館の館種や展示品の種類による解説手法の違いをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習　計200分
第9回	授業テーマ	展示における映像とマルチメディアの利用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1970年の大阪万博以来、展示に大型映像機器をはじめとする視聴覚機器の導入が進み、今日の展示にはマルチメディア機器は欠かせないものとなっている。このような視聴覚機器の効果に触れると共に、デジタルミュージアムやインターネット上に展開するバーチャルミュージアムについてもその意義を検討する。
	教室外学	【予習】マルチメディアとは何か、その定義と実態について考えてみる。

	習(予習・復習)の内容	【復習】博物館展示においてマルチメディアが急速に普及した背景と、マルチメディア利用の現状を把握しておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習　計200分
第10回	授業テーマ	展示の評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館の展示をより良いものにしていくために重要な視点が、展示評価である。ここでは、展示評価の手法としてよく取り上げられる「ゴール・レファレンス法」について取り上げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】これまで学んだ事項を参考にして、展示を評価する際の視点を挙げてみる。 【復習】機会があれば展示を訪れ、その展示に対する評価をしてみる。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習　計200分
第11回	授業テーマ	展示の広報
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館において展示は博物館の考えを来館者に伝える装置であるが、いくら優れた展示を行っても広報を行わなければ来館者は増えず、展示の教育的効果を図ることもできない。そのため、博物館の活動を社会に発信する広報は極めて重要である。ここでは、展示をはじめとする博物館の広報について概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】博物館のwebサイトを閲覧して、博物館はどのような項目を立てて広報を行い、展示はその中でどのような位置づけにあるのかを調べておく。 【復習】博物館の広報活動の多様な手段とその効果をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習　計200分
第12回	授業テーマ	展示にみる博物館の学び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館にとって展示活動は、普及・啓発事業と並んで教育活動の一つとして捉えられる。展示の教育的効果を、学校教育との連携お よび地域社会における生涯学習の両測面から見てみたい。また、教育・普及の視点からガイドボランティアやギャラリートークといった解説活動にも触れる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】学校教育と生涯学習の相違点を調べておく。 【復習】博物館の教育・普及活動の種類と効果についてまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習　計200分
第13回	授業テーマ	体験展示とハンズ・オン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	少子高齢化が進む今日の社会において、次世代を担う子供たちを博物館に誘うことは、博物館の将来を予測する上で重要な課題である。ここでは子供に視点を置いたチルドレンズミュージアムの実態について取りあげるとともに、そこで行われている体験・思考型展示の意義について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】チルドレンズミュージアムとはどのような博物館なのかを調べておく。 【復習】チルドレンズミュージアムの目的と手法について整理しておく
	教室外学習	

	の時間（分）	予習・復習　計200分
第14回	授業テーマ	展示とユニバーサルデザイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バリアフリーという用語が社会に浸透しているが、多岐にわたるバリアフリーの対象者を知り、博物館が行っているハード面とソフト面での施策について理解する。さらに昨今のユニバーサルミュージアムへの取り組みについて、特に展示面からアプローチする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】近年、公共施設の設計に取り入れられるようになってきたユニバーサルデザインについて、予め調べる。 【復習】バリアフリーとユニバーサルデザインの違いを把握し、ユニバーサルミュージアムの特徴を復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習　計200分

学生へのフィードバック方法

授業では各回のポイントやキーワードについて、リアクションペーパーによる知識・理解度および思考についての確認を行う。リアクションペーパの解説は、翌週の授業の冒頭で行う。
質問等がある場合には、メールにて連絡をするか、授業時間およびその前後に教室または講師室で受け付ける。

評価方法

期末レポートによる評価　70%
授業への取り組みおよびリアクションペーパーへの回答などの平常点　30%
また、公欠･病欠など学則に定められたやむを得ない場合を除き、４回以上の欠席（授業の1/4以上）は評価の対象としない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
リアクションペーパーへの回答		○	○	
期末レポートまたは定期試験	○	○		

評価割合

期末試験または期末レポートによる評価　70%
授業への取り組みおよびリアクションペーパーへの回答などの平常点　30%

使用教科書名(ISBN番号)

教科書は特に指定せず、各回の項目に沿ったプリントを教材として配付する。

参考図書

黒沢浩編『博物館展示論』（講談社 2014年刊）
里見親幸『博物館展示の理論と実践』（同成社 2014年刊）
大堀哲・水嶋英治『博物館学II 博物館展示論・博物館教育論』（学文社 2012年刊）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】博物館の展示に対する取り組みや手法等を知ることにより、博物館が展示を通して地域社会に知的豊かさを提供する生涯学習機関であることを理解することができる。
【判断】展示は博物館の意思伝達装置であるので、来館者や地地域社会に対してどのうようなメッセージを伝えなければならないのかを思考することができる。

オフィスアワー

質問等については、メールにより随時受け付けるが、授業前後に教室または講師室で受け付ける。
教員メールアドレス　m-tao@rb3.so-net.ne.jp
※大学名・科目・氏名を明記すること。

学生へのメッセージ

博物館は規模や資料の種類によって様々なものがある。機会があれば、そうした多様な資料がどのように展示されているのかを、実際に博物館に足を運んで確かめてみよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、展示のアドバイザーや協議会委員として博物館展示にかかわり、また文化財保護の現場で資料の取り扱いについて経験を有するとともに指導・監修の業務を行っている。これらの実務経験を取り入れた授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	講義形式が中心であるが、学生諸君との質疑やリアクションでのやり取りなど双方向性のある授業を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	630010031
講義名	博物館展示論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	田尾　誠敏	指定なし

ナンバリング

Y33606C21

授業概要(教育目的)

来館者にとって、展示は博物館の顔である。しかしながら博物館が収蔵する資料（コレクション）は多岐にわたる。これらの資料は過去にどのように展示されてきたのかという展示の歴史をはじめとして、展示の意義や手法など、博物館展示に関する個別テーマを取り上げて解説する。

履修条件

博物館学に関する概論の授業を受講していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	展示に関する基礎的な知識を身に付け、博物館および来館者にとって展示とは何を意味するのかを理解することができる。また、博物館が資料を展示するための様々な取り組みを知ることができる。
思考・判断の観点 (K)	博物館における展示の意義や手法を学ぶことにより、博物館展示の可能性と限界について判断できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	博物館展示への理解を深め、自らの興味や関心に基づいて博物館に足を運び考えることができる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

	授業テーマ	博物館における展示とは何か
	(	

第1回	学習内容 ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	シラバスに基づく講義内容とルーブリックについて説明する。 今日の博物館展示は、教育・普及活動の側面のみならず、地域活性化をはじめとする地域貢献をも視野に入れた事業として展開している。導入として、現代社会における博物館展示の意義について述べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】一般的に行われている展示（ディスプレイ）と、博物館が行う展示にはどのような差があるかを考えてみる。 【復習】博物館が行う展示の意義をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習　計100分
第2回	授業テーマ	展示の歴史－陳列から展示へ－
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	わが国で行われてきた前近代的な陳列や列品が、今日の展示に発展していく様相を、時代を追って概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】前近代において、人に「もの」を見せるという行為にどのようなものがあるかを調べておく。 【復習】近代以降の博物館の歴史を、展示の発達という視点でまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習　計200分
第3回	授業テーマ	博物館資料の多様性と展示の類型
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館は美術工芸品や考古資料などの文化財や、生き物を含む自然資料など、多様なコレクションを有する。これらの様々な資料がどのように展示されるのか、展示手法を類型化して概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】博物館概説で学んだ博物館の種別を思い出して整理しておく。 【復習】博物館の分野別による。資料の見せ方の特徴をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習　計200分
第4回	授業テーマ	博物館建築と展示空間
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館という施設は、ハード面においてもソフト面においても、独特な建築の視点や設備の要素が盛り込まれている。そのなかでも、博物館の顔ともいうべき展示空間を構成する諸要素について述べる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】博物館の展示空間室がどのようなものであるのか、過去に訪れたことのある博物館の展示室を思い出し、その特徴をまとめておく。 【復習】展示空間は展示資料の視点と来館者の視点があることに留意し、展示空間を設計する際の要点をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習　計200分
	授業テーマ	展示のプロセス
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	来館者に展示をより良く理解してもらうためには、ストーリー作りや導線計画など多くの要素を必要とする。ここでは、企画段階からオープ

第5回	育・ICT活用を含む)	ン、さらには事後処理に至る、展示の制作を段階を追って概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習・復習】過去に訪れた博物館を思い出し、また新たに博物館を訪れて、展示物の配置や導線にどのような工夫がなされているかを確認する。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習　計200分
第6回	授業テーマ	展示のための設備（１）　展示ケースと展示具
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館が収集する多様な資料を効果的に展示する手法について、屋内外の展示手法ならびに、模型やレプリカを用いた展示の効用についても言及する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】展示室マイに設置されている展示具には、どのような種類があるだろうか。展示室を思い起こし、あげてみる。 【復習】展示品に対する展示ケースの役割を整理しておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習　計200分
第7回	授業テーマ	展示のための設備（２）　照明
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	資料を効果的に演出するには、照明は欠かすことのできない設備である。芸術性や快適性など来館者への効果を概観するとともに、資料の保存環境への配慮についても触れる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】展示に限らず、照明を用いて「もの」を効果的に見せている事例を調べてみる。 【復習】展示において、どのような照明の種類があり、どのような方法によって照明がなされているのか。その効果とともにまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習　計200分
第8回	授業テーマ	展示の解説システム
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	展示は博物館にとって、学芸員や博物館の意思を伝達する装置であるといってもよい。そこで重要な役割を果たすのが解説システムである。ここでは展示解説の多様性や解説手法と展示品の関係などを概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】博物館の展示室を想像して、展示解説の種類を考えてみる。 【復習】博物館の館種や展示品の種類による解説手法の違いをまとめる。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習　計200分
第9回	授業テーマ	展示における映像とマルチメディアの利用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	1970年の大阪万博以来、展示に大型映像機器をはじめとする視聴覚機器の導入が進み、今日の展示にはマルチメディア機器は欠かせないものとなっている。このような視聴覚機器の効果に触れると共に、デジタルミュージアムやインターネット上に展開するバーチャルミュージアムについてもその意義を検討する。
	教室外学	【予習】マルチメディアとは何か、その定義と実態について考えてみる。

	習(予習・復習)の内容	【復習】博物館展示においてマルチメディアが急速に普及した背景と、マルチメディア利用の現状を把握しておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習　計200分
第10回	授業テーマ	展示の評価
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館の展示をより良いものにしていくために重要な視点が、展示評価である。ここでは、展示評価の手法としてよく取り上げられる「ゴール・レファレンス法」について取り上げる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】これまで学んだ事項を参考にして、展示を評価する際の視点を挙げてみる。 【復習】機会があれば展示を訪れ、その展示に対する評価をしてみる。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習　計200分
第11回	授業テーマ	展示の広報
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館において展示は博物館の考えを来館者に伝える装置であるが、いくら優れた展示を行っても広報を行わなければ来館者は増えず、展示の教育的効果を図ることもできない。そのため、博物館の活動を社会に発信する広報は極めて重要である。ここでは、展示をはじめとする博物館の広報について概観する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】博物館のwebサイトを閲覧して、博物館はどのような項目を立てて広報を行い、展示はその中でどのような位置づけにあるのかを調べておく。 【復習】博物館の広報活動の多様な手段とその効果をまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習　計200分
第12回	授業テーマ	展示にみる博物館の学び
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館にとって展示活動は、普及・啓発事業と並んで教育活動の一つとして捉えられる。展示の教育的効果を、学校教育との連携お よび地域社会における生涯学習の両測面から見てみたい。また、教育・普及の視点からガイドボランティアやギャラリートークといった解説活動にも触れる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】学校教育と生涯学習の相違点を調べておく。 【復習】博物館の教育・普及活動の種類と効果についてまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習　計200分
第13回	授業テーマ	体験展示とハンズ・オン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	少子高齢化が進む今日の社会において、次世代を担う子供たちを博物館に誘うことは、博物館の将来を予測する上で重要な課題である。ここでは子供に視点を置いたチルドレンズミュージアムの実態について取りあげるとともに、そこで行われている体験・思考型展示の意義について考える。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】チルドレンズミュージアムとはどのような博物館なのかを調べておく。 【復習】チルドレンズミュージアムの目的と手法について整理しておく
	教室外学習	

	の時間（分）	予習・復習　計200分
第14回	授業テーマ	展示とユニバーサルデザイン
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	バリアフリーという用語が社会に浸透しているが、多岐にわたるバリアフリーの対象者を知り、博物館が行っているハード面とソフト面での施策について理解する。さらに昨今のユニバーサルミュージアムへの取り組みについて、特に展示面からアプローチする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	【予習】近年、公共施設の設計に取り入れられるようになってきたユニバーサルデザインについて、予め調べる。 【復習】バリアフリーとユニバーサルデザインの違いを把握し、ユニバーサルミュージアムの特徴を復習しておく。
	教室外学習の時間（分）	予習・復習　計200分

学生へのフィードバック方法

授業では各回のポイントやキーワードについて、リアクションペーパーによる知識・理解度および思考についての確認を行う。リアクションペーパの解説は、翌週の授業の冒頭で行う。
質問等がある場合には、メールにて連絡をするか、授業時間およびその前後に教室または講師室で受け付ける。

評価方法

期末レポートによる評価　70%
授業への取り組みおよびリアクションペーパーへの回答などの平常点　30%
また、公欠･病欠など学則に定められたやむを得ない場合を除き、４回以上の欠席（授業の1/4以上）は評価の対象としない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
リアクションペーパーへの回答		○	○	
期末レポートまたは定期試験	○	○		

評価割合

定期試験または期末レポートによる評価　70%
授業への取り組みおよびリアクションペーパーへの回答などの平常点　30%

使用教科書名(ISBN番号)

教科書は特に指定せず、各回の項目に沿ったプリントを教材として配付する。

参考図書

黒沢浩編『博物館展示論』（講談社 2014年刊）
里見親幸『博物館展示の理論と実践』（同成社 2014年刊）
大堀哲・水嶋英治『博物館学II 博物館展示論・博物館教育論』（学文社 2012年刊）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】博物館の展示に対する取り組みや手法等を知ることにより、博物館が展示を通して地域社会に知的豊かさを提供する生涯学習機関であることを理解することができる。
【判断】展示は博物館の意思伝達装置であるので、来館者や地地域社会に対してどのうようなメッセージを伝えなければならないのかを思考することができる。

オフィスアワー

質問等については、メールにより随時受け付けるが、授業前後に教室または講師室で受け付ける。
教員メールアドレス　m-tao@rb3.so-net.ne.jp
※大学名・科目・氏名を明記すること。

学生へのメッセージ

博物館は規模や資料の種類によって様々なものがある。機会があれば、そうした多様な資料がどのように展示されているのかを、実際に博物館に足を運んで確かめてみよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、展示のアドバイザーや協議会委員として博物館展示にかかわり、また文化財保護の現場で資料の取り扱いについて経験を有するとともに指導・監修の業務を行っている。これらの実務経験を取り入れた授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	講義形式が中心であるが、学生諸君との質疑やリアクションでのやり取りなど双方向性のある授業を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	630011001
講義名	博物館教育論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	２限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	2年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	高木 幸枝	指定なし

ナンバリング

Y23607M21

授業概要(教育目的)

博物館教育の理念と意義について理解を促す。国内外の先進的な取組み事例を紹介し、次世代の博物館教育を考える機会を提供する。
教育プログラム（ギャラリートーク、ワークシート、ワークショップ等）のシミュレーションを通じて、学芸員に必要な基礎的スキルの習得を促す。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	博物館の教育活動について説明できる
思考・判断の観点 (K)	博物館の現状を理解し、教育プログラムの課題を指摘できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	興味を持って博物館を訪れ、博物館教育の理解を深めることができる
技術・表現の観点 (A)	教育プログラムに必要な、基礎的コミュニケーション能力が養われている

学習計画

博物館教育論

	授業テーマ	博物館教育の理念と意義／現在の状況
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンス／「博物館における学び」「展示品に関わる学び」と博物館教育の実情を知る

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	興味ある博物館のホームページを検索して、教育活動について調べましょう
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	日本の博物館教育の歴史
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	歴史のなかから日本の博物館教育を知る グループ・ディスカッション：「トークで教育？」
	教室外学習(予習・復習)の内容	国立博物館の情報を調べましょう
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	イギリス、アメリカの実例
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ナショナル・ギャラリーの実例について学ぶ グループ・ディスカッション：「教育プログラムとは何か？」
	教室外学習(予習・復習)の内容	イギリスとアメリカの主な博物館を調べてみましょう
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	オランダ、ドイツ、フランスの実例
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アムステルダム国立美術館、ドイツ博物館、ルーブル美術館の実例を学ぶ グループ・ディスカッション：「効果的な広報とは何か」
	教室外学習(予習・復習)の内容	オランダ、ドイツ、フランスの主な博物館を調べてみましょう
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	博物教育の諸形態
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	さまざまな手法によるプログラムの「教育効果」を考察する 体験学習：ペーパー・クラフトで学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	近隣の博物館へ足を運び、博物館教育の視点で見学してみましょう
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	「ワークシート」企画立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育プログラム（ワークシート）の立案と実践を体験して、課題を考える グループ・ディスカッション：「博物館の魅力」
	教室外学習(予習・復習)の内容	ネット検索エンジンで、教育プログラムの実例を調べましょう
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	ワークシートの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ワークシートの作成を体験して、グループで検証する
	教室外学習(予習・復習)の内容	近隣の博物館へ足を運び、博物館教育の視点で見学してみましょう
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	社会教育施設としての博物館活動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	近隣の博物館の実例をもとに、現状と課題を考える

第8回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	近隣の博物館へ足を運び、見学してみましょう
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	博物館教育と学校連携
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館教育と学校教育の連携について実例から、効果と課題を考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	ネット検索エンジンで、博物館と学校連携の実例を探してみましょう
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	博物館の教育活動「ギャラリートーク」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	展示品の解説を実践的におこない（シミュレーション）、その意味とスキルについて考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	近隣の博物館へ足を運び、展示品の解説を実際に聞いてみましょう
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	博物館の教育活動「ワークショップ」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ワークショップの立案を実践的におこない、意味とスキルについて考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	近隣の博物館へ足を運び、ワークショップ例を調べましょう
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	多様性への配慮と工夫
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館における多様性への配慮とは何か、を知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	「多様性」「ユニバーサル」の語をネットで検索し、関連する記事や意見を調べてみましょう
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	教育を担う学芸員
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育を担う学芸員の仕事について、実例と現状を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	近隣の博物館へ足を運び、博物館教育の視点で見学してみましょう
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	次世代の博物館教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「デジタル化と先端技術」「観光と地域おこし」「新たな展開」について理解する／授業のまとめと学習到達度の確認
	教室外学習(予習・復習)の内容	近隣の博物館へ足を運び、博物館教育の視点で見学してください
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

履修者数や授業の進捗状況により、スケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

講義についての「振り返りシート」を毎回の授業時間内で記入し（15分程度）、提出していただきます。
寄せられた疑問や感想については、次回以降の講義内で解説するなどして活かしてまいります。

評価方法

定期試験（レポート）、「振り返りシート」、「発表」の総合的評価です。
すべてルーブリックでの評価をおこないます。ルーブリックについては、初回授業でプリントを配布し説明するほか、「クラスルーム」にも掲示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験（レポート）	○	○	○	○
振り返りシート	○	○	○	○
発表	○	○	○	○

評価割合

定期試験(レポート)60%、「振り返りシート」30%、「発表」10% で評価します

使用教科書名(ISBN番号)

なし（講義内容に応じて、プリントを配付）

参考図書

なし（講義内容に応じて、資料を配付）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる
【思考・判断】
社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる
また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる
【関心・意欲・態度】
社会を構成する大切なひとりとして、高い特性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】
社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている

学生へのメッセージ

魅力的と思う博物館の情報を入手するとともに、実際に足を運んで知識と教養を身につけましょう
「教育プログラム」のシミュレーションを楽しみながら、基礎的なスキルの向上をめざしましょう

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は学芸員として30年を超える実務経験を有しています。博物館教育の現状や課題を講義するとともに、教育プログラムを進めるために必要な基礎的スキルを実践的に指導します。

アクティブ・ラーニング	○	教育プログラム（ワークシート、ワークショップ、ギャラリートーク等）の立案と実践を体験し、これをもとにグループ・ディスカッションをおこないます。
情報リテラシー教育	○	博物館情報や所蔵品データベース等を活用し、教育プログラムの立案に活かす作業をおこないます。 「個人情報取り扱いの注意点」や「著作権への配慮」について、授業のなかで説明します。
ICT活用	○	DVDの視聴による学習を通じて、意見交換を行います。

講義コード	630011031
講義名	博物館教育論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	2年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	高木 幸枝	指定なし

ナンバリング

Y23607C21

授業概要(教育目的)

博物館教育の理念と意義について理解を促す。国内外の先進的な取組み事例を紹介し、次世代の博物館教育を考える機会を提供する。
教育プログラム（ギャラリートーク、ワークシート、ワークショップ等）のシミュレーションを通じて、学芸員に必要な基礎的スキルの習得を促す。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	博物館の教育活動について説明できる
思考・判断の観点 (K)	博物館の現状を理解し、教育プログラムの課題を指摘できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	興味を持って博物館を訪れ、博物館教育の理解を深めることができる
技術・表現の観点 (A)	教育プログラムに必要な、基礎的コミュニケーション能力が養われている

学習計画

博物館教育論

	授業テーマ	博物館教育の理念と意義／現在の状況
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ガイダンス／「博物館における学び」「展示品に関わる学び」と博物館教育の実情を知る

第1回		
	教室外学習(予習・復習)の内容	興味ある博物館のホームページを検索して、教育活動について調べましょう
	教室外学習の時間（分）	200分
第2回	**授業テーマ**	日本の博物館教育の歴史
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	歴史のなかから日本の博物館教育を知る グループ・ディスカッション：「トークで教育？」
	教室外学習(予習・復習)の内容	国立博物館の情報を調べましょう
	教室外学習の時間（分）	200分
第3回	**授業テーマ**	イギリス、アメリカの実例
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ナショナル・ギャラリーの実例について学ぶ グループ・ディスカッション：「教育プログラムとは何か？」
	教室外学習(予習・復習)の内容	イギリスとアメリカの主な博物館を調べてみましょう
	教室外学習の時間（分）	200分
第4回	**授業テーマ**	オランダ、ドイツ、フランスの実例
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	アムステルダム国立美術館、ドイツ博物館、ルーブル美術館の実例を学ぶ グループ・ディスカッション：「効果的な広報とは何か」
	教室外学習(予習・復習)の内容	オランダ、ドイツ、フランスの主な博物館を調べてみましょう
	教室外学習の時間（分）	200分
第5回	**授業テーマ**	博物教育の諸形態
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	さまざまな手法によるプログラムの「教育効果」を考察する 体験学習：ペーパー・クラフトで学ぶ
	教室外学習(予習・復習)の内容	近隣の博物館へ足を運び、博物館教育の視点で見学してみましょう
	教室外学習の時間（分）	200分
第6回	**授業テーマ**	「ワークシート」企画立案
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育プログラム（ワークシート）の立案と実践を体験して、課題を考える グループ・ディスカッション：「博物館の魅力」
	教室外学習(予習・復習)の内容	ネット検索エンジンで、教育プログラムの実例を調べましょう
	教室外学習の時間（分）	200分
第7回	**授業テーマ**	ワークシートの作成
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ワークシートの作成を体験して、グループで検証する
	教室外学習(予習・復習)の内容	近隣の博物館へ足を運び、博物館教育の視点で見学してみましょう
	教室外学習の時間（分）	200分
	授業テーマ	社会教育施設としての博物館活動
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を	近隣の博物館の実例をもとに、現状と課題を考える

第8回	含む)	
	教室外学習(予習・復習)の内容	近隣の博物館へ足を運び、見学してみましょう
	教室外学習の時間（分）	200分
第9回	授業テーマ	博物館教育と学校連携
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館教育と学校教育の連携について実例から、効果と課題を考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	ネット検索エンジンで、博物館と学校連携の実例を探してみましょう
	教室外学習の時間（分）	200分
第10回	授業テーマ	博物館の教育活動「ギャラリートーク」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	展示品の解説を実践的におこない（シミュレーション）、その意味とスキルについて考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	近隣の博物館へ足を運び、展示品の解説を実際に聞いてみましょう
	教室外学習の時間（分）	200分
第11回	授業テーマ	博物館の教育活動「ワークショップ」
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ワークショップの立案を実践的におこない、意味とスキルについて考える
	教室外学習(予習・復習)の内容	近隣の博物館へ足を運び、ワークショップ例を調べましょう
	教室外学習の時間（分）	200分
第12回	授業テーマ	多様性への配慮と工夫
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館における多様性への配慮とは何か、を知る
	教室外学習(予習・復習)の内容	「多様性」「ユニバーサル」の語をネットで検索し、関連する記事や意見を調べてみましょう
	教室外学習の時間（分）	200分
第13回	授業テーマ	教育を担う学芸員
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教育を担う学芸員の仕事について、実例と現状を理解する
	教室外学習(予習・復習)の内容	近隣の博物館へ足を運び、博物館教育の視点で見学してみましょう
	教室外学習の時間（分）	200分
第14回	授業テーマ	次世代の博物館教育
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	「デジタル化と先端技術」「観光と地域おこし」「新たな展開」について理解する／授業のまとめと学習到達度の確認
	教室外学習(予習・復習)の内容	近隣の博物館へ足を運び、博物館教育の視点で見学してください
	教室外学習の時間（分）	100分

学習計画注記

履修者数や授業の進捗状況により、スケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

講義についての「振り返りシート」を毎回の授業時間内で記入し（15分程度）、提出していただきます。
寄せられた疑問や感想については、次回以降の講義内で解説するなどして活かしてまいります。

評価方法

定期試験（レポート）、「振り返りシート」、「発表」の総合的評価です。
すべてルーブリックでの評価をおこないます。ルーブリックについては、初回授業でプリントを配布し説明するほか、「クラスルーム」にも掲示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験（レポート）	○	○	○	○
振り返りシート	○	○	○	○
発表	○	○	○	○

評価割合

定期試験(レポート)60%、「振り返りシート」30%、「発表」10% で評価します

使用教科書名(ISBN番号)

なし（講義内容に応じて、プリントを配付）

参考図書

なし（講義内容に応じて、資料を配付）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる
【思考・判断】
社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる
また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる
【関心・意欲・態度】
社会を構成する大切なひとりとして、高い特性をもって人々のために働く能力
【技能・表現】
社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている

学生へのメッセージ

魅力的と思う博物館の情報を入手するとともに、実際に足を運んで知識と教養を身につけましょう
「教育プログラム」のシミュレーションを楽しみながら、基礎的なスキルの向上をめざしましょう

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は学芸員として30年を超える実務経験を有しています。博物館教育の現状や課題を講義するとともに、教育プログラムを進めるために必要な基礎的スキルを実践的に指導します。

アクティブ・ラーニング	○	教育プログラム（ワークシート、ワークショップ、ギャラリートーク等）の立案と実践を体験し、これをもとにグループ・ディスカッションをおこないます。
情報リテラシー教育	○	博物館情報や所蔵品データベース等を活用し、教育プログラムの立案に活かす作業をおこないます。 「個人情報取り扱いの注意点」や「著作権への配慮」について、授業のなかで説明します。
ICT活用	○	DVDの視聴による学習を通じて、意見交換を行います。

講義コード	630012001
講義名	博物館情報・メディア論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	１限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	木村 涼	指定なし

ナンバリング

Y33608M21

授業概要(教育目的)

博物館において、情報がどのように整理され、社会にどのように提供され活用されるのか、大規模な博物館から市町村規模の博物館に至るまで代表的な事例を紹介していく。その上で、博物館における情報の取り扱いを理解し、その活用方法を考える。これからの学芸員は、コンピューターなどのデジタル機器を使いこなして編集作業も出来る事が求められる。実際の博物館の事例をみることによって、情報、メディア活用の実態を学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．博物館における情報の意義及び提供、活用などに関する基礎的な知識を説明できる。 ２．博物館における情報発信の現状と課題について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	１．博物資料のデジタルアーカイブのシステムについて理解できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	博物館情報・メディア論を学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館における情報・メディアの提供について理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書１の「博物館情報・メディア論を学ぶ」（9～20頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	博物館における情報・メディアの意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	展示映像や音声ガイドといった視聴覚メディアの特性や学芸員の果たす役割を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書２の「博物館における情報・メディアの意義」（21～41頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	博物館の機能からみた情報の蓄積と活用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館は情報をどのように扱うか、また、現代社会における博物館の情報をより良く活用する取り組みを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書３の「博物館の機能からみた情報の蓄積と活用」（42～59頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	情報教育の意義と重要性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館の展示や教育に利用されているメディアについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書４の「メディアで学ぶ、メディアを学ぶ」（60～76頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	データベースの構築と運用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館におけるデータベースの役割、機能について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	博物館におけるデータベースの役割、機能について理解する。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	博物館標本のデジタル化の技法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘ	デジタル技術が収蔵品の管理や展示にどのように利用されているの

第6回	ﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	かを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書６の「博物館標本のデジタル化の技法」（92～103頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	授業テーマ	デジタルミュージアム
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デジタルミュージアムを構成する基本技術を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デジタルミュージアムを構成する基本技術を理解する。また、授業の最初に、1～6回の授業内容に関わる小テストを実施するので、復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第8回	授業テーマ	デジタル･アーカイブ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デジタル･アーカイブの意義とその構築の流れを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書８の「デジタル・アーカイブの現状と課題」（124～141頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	授業テーマ	情報通信技術の活用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館が行う情報発信について、特に博物館展示に視点を向け、近年の活用事例をあげて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書９の「博物館展示における情報通信技術の活用」（142～160頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	授業テーマ	インターネットを活用した情報発信
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館や美術館における情報発信への情報通信技術の活用について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	博物館や美術館における情報発信への情報通信技術の活用について理解する。
	教室外学習の時間（分）	190分

第11回	授業テーマ	博物館と知的財産
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	著作権法の概要理解及び博物館資料の取り扱いがもたらす法的な問題点を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書11の「博物館と知的財産」（176～199頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	博物館と市民をつなぐ情報メディア
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館の情報発信のモデルとして、展示を事例にあげて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書12の「博物館と市民をつなぐ情報メディア」（200～221頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	展覧会と情報メディア
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	展覧会ができるまでの過程を通して、デジタル技術利用の実際を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書13の「展覧会と情報メディア」（222～239頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	博物館における情報メディアの活用と博物館情報・メディア論の未来
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報技術やメディアを常設展示に入れ成果をあげている博物館の事例をあげて理解する。これまで学んだことを統括するとともに、「博物館情報・メディア論」の今後を展望する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書14の「常設展示のイノベーション」（240～256頁）、参考図書15の「博物館情報・メディア論の未来」（257～272頁）を読んでおくこと。また、授業の最初に、7～13回の授業内容に関わる小テストを実施するので、復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	250分

学生へのフィードバック方法

実施した小テストの答え合わせは次週の授業にて行う。なお、第14回目に実施する小テストは、授業時間内に答え合わせを行う。

評価方法

・平常点として授業の参加状況、討論への積極的な参加などをもとに評価する。

・小テストは２回分の授業に関わる学習範囲から出題し、授業内に計２回実施する。１回あたりの問題数は、大問７題前後で構成する。なお、学外実習等の合理的な理由がない限り、小テストの再試験は行わないので注意すること。
・小テストは、下表に示す力を養うことを目的に実施している。
・初回の授業でルーブリックについて説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
小テスト	○	○	○	

評価割合

小テスト（複数回）（70%）、平常点（30%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし。

参考図書

西岡貞一・篠田謙一編『博物館情報・メディア論』（ＮＨＫ出版、2013年） 978-4-595-31412-4

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】博物館における情報発信方法の現状と課題を理解できる。
【思考・判断】デジタルアーカイブの構築方法を理解できる。

学生へのメッセージ

日本各地には様々な博物館があります。博物館がどのような形で情報発信をしているのか、実際に博物館を見学し、実態を学んで下さい。また、インターネットなどを通して、自分にとって興味ある博物館の情報発信の現状を理解して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		担当教員は、博物館にて資料の取り扱いや現場での指導の経験を有しています。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	630012031
講義名	博物館情報・メディア論
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	木村 涼	指定なし

ナンバリング

Y33608C21

授業概要(教育目的)

博物館において、情報がどのように整理され、社会にどのように提供され活用されるのか、大規模な博物館から市町村規模の博物館に至るまで代表的な事例を紹介していく。その上で、博物館における情報の取り扱いを理解し、その活用方法を考える。これからの学芸員は、コンピューターなどのデジタル機器を使いこなして編集作業も出来る事が求められる。実際の博物館の事例をみることによって、情報、メディア活用の実態を学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．博物館における情報の意義及び提供、活用などに関する基礎的な知識を説明できる。 ２．博物館における情報発信の現状と課題について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	１．博物資料のデジタルアーカイブのシステムについて理解できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	博物館情報・メディア論を学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館における情報・メディアの提供について理解する。

	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書１の「博物館情報・メディア論を学ぶ」（9～20頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第2回	**授業テーマ**	博物館における情報・メディアの意義
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	展示映像や音声ガイドといった視聴覚メディアの特性や学芸員の果たす役割を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書２の「博物館における情報・メディアの意義」（21～41頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第3回	**授業テーマ**	博物館の機能からみた情報の蓄積と活用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館は情報をどのように扱うか、また、現代社会における博物館の情報をより良く活用する取り組みを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書３の「博物館の機能からみた情報の蓄積と活用」（42～59頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第4回	**授業テーマ**	情報教育の意義と重要性
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館の展示や教育に利用されているメディアについて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書４の「メディアで学ぶ、メディアを学ぶ」（60～76頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第5回	**授業テーマ**	データベースの構築と運用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館におけるデータベースの役割、機能について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	博物館におけるデータベースの役割、機能について理解する。
	教室外学習の時間（分）	180分
	授業テーマ	博物館標本のデジタル化の技法
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘ	デジタル技術が収蔵品の管理や展示にどのように利用されているの

第6回	**ﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)**	かを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書６の「博物館標本のデジタル化の技法」（92～103頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第7回	**授業テーマ**	デジタルミュージアム
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デジタルミュージアムを構成する基本技術を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	デジタルミュージアムを構成する基本技術を理解する。授業の最初に、1～６回の授業内容に関わる小テストを実施するので、復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	240分
第8回	**授業テーマ**	デジタル･アーカイブ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	デジタル･アーカイブの意義とその構築の流れを理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書８の「デジタル・アーカイブの現状と課題」（124～141頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	180分
第9回	**授業テーマ**	情報通信技術の活用
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館が行う情報発信について、特に博物館展示に視点を向け、近年の活用事例をあげて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書９の「博物館展示における情報通信技術の活用」（142～160頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第10回	**授業テーマ**	インターネットを活用した情報発信
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館や美術館における情報発信への情報通信技術の活用について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	博物館や美術館における情報発信への情報通信技術の活用について理解する。
	教室外学習の時間（分）	190分

第11回	授業テーマ	博物館と知的財産
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	著作権法の概要理解及び博物館資料の取り扱いがもたらす法的な問題点を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書11の「博物館と知的財産」（176～199頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第12回	授業テーマ	博物館と市民をつなぐ情報メディア
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	博物館の情報発信のモデルとして、展示を事例にあげて理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書12の「博物館と市民をつなぐ情報メディア」（200～221頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第13回	授業テーマ	展覧会と情報メディア
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	展覧会ができるまでの過程を通して、デジタル技術利用の実際を理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書13の「展覧会と情報メディア」（222～239頁）を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	190分
第14回	授業テーマ	博物館における情報メディアの活用と博物館情報・メディア論の未来
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	情報技術やメディアを常設展示に入れ成果をあげている博物館の事例をあげて理解する。これまで学んだことを統括するとともに、「博物館情報・メディア論」の今後を展望する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	参考図書14の「常設展示のイノベーション」（240～256頁）、参考図書15の「博物館情報・メディア論の未来」（257～272頁）を読んでおくこと。また、授業の最初に、7～13回の授業内容に関わる小テストを実施するので、復習しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	250分
第15回	授業テーマ	
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	

	教室外学習(予習・復習)の内容	
	教室外学習の時間（分）	

学生へのフィードバック方法

実施した小テストの答え合わせは次週の授業にて行う。なお、第14回目に実施する小テストは、授業時間内に答え合わせを行う。

評価方法

・平常点として授業の参加状況、討論への積極的な参加などをもとに評価する。
・小テストは２回分の授業に関わる学習範囲から出題し、授業内に計２回実施する。１回あたりの問題数は、大問７題前後で構成する。なお、学外実習等の合理的な理由がない限り、小テストの再試験は行わないので注意すること。
・小テストは、下表に示す力を養うことを目的に実施している。
・初回の授業でルーブリックについて説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
小テスト	○	○	○	

評価割合

小テスト（複数回）（70%）、平常点（30%）で評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし。

参考図書

西岡貞一・篠田謙一編『博物館情報・メディア論』（ＮＨＫ出版、2013年） 978-4-595-31412-4

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】博物館における情報発信方法の現状と課題を理解できる。
【思考・判断】デジタルアーカイブの構築方法を理解できる。

学生へのメッセージ

日本各地には様々な博物館があります。博物館がどのような形で情報発信をしているのか、実際に博物館を見学し、実態を学んで下さい。また、インターネットなどを通して、自分にとって興味ある博物館の情報発信の現状を理解して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		担当教員は、博物館にて資料の取り扱いや現場での指導の経験を有しています。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	640006001
講義名	保育実習指導I（3年次）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	４限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	新開 よしみ	指定なし
教授	和田 美香	指定なし
准教授	柳瀬 洋美	指定なし
准教授	丹羽 さがの	指定なし
非常勤講師	市川 和男	指定なし
非常勤講師	高橋 健司	指定なし
非常勤講師	永井 瑛里子	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし

ナンバリング

Y26301M22

授業概要(教育目的)

保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を修得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。保育現場で乳幼児の生活と発達の現実にふれ、これまで学んできた知識を再構築し、社会福祉への意欲を活性化し、援助者としての保育者の役割への関心を育てる。事前指導として、学内において講義や視聴覚教材を用いた演習を行い、また実習施設において見学・オリエンテーションを行う。実習中には巡回訪問指導を行い、実習後には、実習総括・評価・自己評価・事例研究を行い、新たな学習目標を明確化する。

履修条件

保育士資格取得希望者

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	実習の意義・目的・内容・方法を理解する 実習施設の概要と機能を理解する
思考・判断の観点 (K)	実習課題を明確化する
関心・意欲・態度の観点 (V)	実習に自分なりの課題を持って前向きに取り組む

技術・表現の観点 (A)	基本的な保育技術を身につける 指導実習用の指導案を作成する 記録（実習日誌）の書き方を習得する

学習計画

第1回	**授業テーマ**	保育実習の意義・目的・内容の理解（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育実習の意義・目的・内容についてグループワークを中心に理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	**授業テーマ**	保育実習の意義・目的・内容の理解（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育実習の意義・目的・内容（施設）についてグループワークを中心に理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	**授業テーマ**	保育実習の方法の理解（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育実習の方法について演習形式で理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	**授業テーマ**	保育実習の方法の理解（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育実習の方法について演習形式で理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	**授業テーマ**	実習の心構えの理解（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習の心構えについてグループワークを中心に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	**授業テーマ**	実習の心構えの理解（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習の心構えについてグループワークを中心に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	**授業テーマ**	個人情報の保護と守秘義務
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個人情報の保護と守秘義務について事例を中心に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	子どもの人権の尊重についての理解

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個人情報の保護と守秘義務について事例を中心に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	実習課題の明確化とロールプレイ（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習課題をロールプレイにより明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	実習課題の明確化とロールプレイ（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習課題をロールプレイにより明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	授業テーマ	実習記録の意義・方法の理解（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日誌の書き方について、実践しながら学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	実習記録の意義・方法の理解（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日誌の書き方について、実践しながら学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	実習施設の理解（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設について調べ学習などにより情報を集める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	実習施設の理解（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設について調べ学習などにより情報を集める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第15回	授業テーマ	保育指導案作成の実際（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育指導案作成の実際について自分なりに書きながら修正をしていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	保育指導案作成の実際（施設）

第16回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育指導案作成の実際について自分なりに書きながら修正をしていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第17回	授業テーマ	実践指導（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	巡回訪問指導によるスーパービジョン
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第18回	授業テーマ	実践指導（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	巡回訪問指導によるスーパービジョン
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第19回	授業テーマ	実習総括（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所実習の振り返りをグループワークの形式で行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第20回	授業テーマ	実習総括（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	施設実習の振り返りをグループワークの形式で行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第21回	授業テーマ	実習日誌の評価とふりかえり（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習日誌について教員と双方向のやりとりをしながら振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第22回	授業テーマ	実習日誌の評価とふりかえり（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習日誌について教員と双方向のやりとりをしながら振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第23回	授業テーマ	指導実習の評価とふりかえり（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指導実習について教員とのやりとりやグループワークをしながら振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	指導実習の評価とふりかえり（施設）

第24回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指導実習について教員とのやりとりやグループワークをしながら振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第25回	授業テーマ	ロールプレイによるふりかえり（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロールプレイにより保育所実習について新しい気付きを得る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第26回	授業テーマ	ロールプレイによるふりかえり（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロールプレイにより施設実習について新しい気付きを得る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第27回	授業テーマ	自己課題と学習目標の明確化（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己課題と学習目標の明確化をワークシートにより行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第28回	授業テーマ	自己課題と学習目標の明確化（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己課題と学習目標の明確化をワークシートにより行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第29回	授業テーマ	実習IIにむけて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習IIにむけて自己課題の整理を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第30回	授業テーマ	実習IIIにむけて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習IIIにむけて自己課題の整理を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分

学習計画注記

受講人数や実習時期により計画は変更になる可能性があります。

学生へのフィードバック方法

日誌や指導案は指導後に返却をする。

評価方法

・実習の評価（実習評価票及び実習態度）：実習評価票，実習園からの総評により，子ども・

保育に関する知識の修得，実習に臨む姿勢，保育者としての思考・判断，考察の深さ，保育技術の修得について評価する。
・実習日誌及び事前・事後指導の評価：子ども・保育に関する知識の修得，実習に臨む姿勢，保育者としての思考・判断，考察の深さ，保育技術の修得について評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実習の評価	○	○	○	○
実習日誌および事前・事後指導の	○	○	○	○

評価割合

本授業においては出席率100%が前提である。
実習の評価（50%）、実習日誌及び事前・事後指導の評価（50%）

参考図書

1．実習日誌の書き方/相馬和子・中田カヨ子/萌文書林/2004
2．指導計画の考え方・立て方/久富陽子編/萌文書林/2009
3．福祉施設実習ハンドブック/内山元夫ほか編/みらい/2007

ディプロマポリシーとの関連

（知識・理解）
実習の意義・目的・内容・方法を理解する。実習施設の概要と機能を理解する。
（思考・判断）
実習課題を明確化する。
（関心・意欲・態度）
実習に自分なりの課題を持って前向きに取り組む。
（技術・表現）
基本的な保育技術を身につける。
指導実習用の指導案を作成する。
記録（実習日誌）の書き方を習得する。

オフィスアワー

水曜3，4限

学生へのメッセージ

保育実習ＩＢ及びＩＣに参加するために，本科目は100%の出席が求められる。やむを得ない理由で欠席する場合は，実習指導室へ理由を添えた「欠席届」を提出し，後日必ず指導教員へ欠席分の指導を仰ぎに行くこと。また，毎回の持ち物や各種提出物等の期限を必ず守ること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者の中に実務経験者が含まれるので、事例や動画などを使用しながら現場の実際に即した授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークなどの活動を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	640006002
講義名	保育実習指導I（2年次）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	新開 よしみ	指定なし
教授	和田 美香	指定なし
准教授	柳瀬 洋美	指定なし
准教授	丹羽 さがの	指定なし
非常勤講師	市川 和男	指定なし
非常勤講師	高橋 健司	指定なし
非常勤講師	永井 瑛里子	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし

ナンバリング

Y26301M22

授業概要(教育目的)

保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を修得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。保育現場で乳幼児の生活と発達の現実にふれ、これまで学んできた知識を再構築し、社会福祉への意欲を活性化し、援助者としての保育者の役割への関心を育てる。事前指導として、学内において講義や視聴覚教材を用いた演習を行い、また実習施設において見学・オリエンテーションを行う。実習中には巡回訪問指導を行い、実習後には、実習総括・評価・自己評価・事例研究を行い、新たな学習目標を明確化する。

履修条件

保育士資格取得希望者

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	実習の意義・目的・内容・方法を理解する 実習施設の概要と機能を理解する
思考・判断の観点 (K)	実習課題を明確化する
関心・意欲・態度の観点 (V)	実習に自分なりの課題を持って前向きに取り組む

技術・表現の観点 (A)	基本的な保育技術を身につける 指導実習用の指導案を作成する 記録（実習日誌）の書き方を習得する

学習計画

第1回	**授業テーマ**	保育実習の意義・目的・内容の理解（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育実習の意義・目的・内容についてグループワークを中心に理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	**授業テーマ**	保育実習の意義・目的・内容の理解（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育実習の意義・目的・内容（施設）についてグループワークを中心に理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	**授業テーマ**	保育実習の方法の理解（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育実習の方法について演習形式で理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	**授業テーマ**	保育実習の方法の理解（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育実習の方法について演習形式で理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	**授業テーマ**	実習の心構えの理解（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習の心構えについてグループワークを中心に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	**授業テーマ**	実習の心構えの理解（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習の心構えについてグループワークを中心に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	**授業テーマ**	個人情報の保護と守秘義務
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個人情報の保護と守秘義務について事例を中心に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	子どもの人権の尊重についての理解

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個人情報の保護と守秘義務について事例を中心に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	実習課題の明確化とロールプレイ（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習課題をロールプレイにより明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	実習課題の明確化とロールプレイ（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習課題をロールプレイにより明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	授業テーマ	実習記録の意義・方法の理解（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日誌の書き方について、実践しながら学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	実習記録の意義・方法の理解（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日誌の書き方について、実践しながら学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	実習施設の理解（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設について調べ学習などにより情報を集める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	実習施設の理解（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設について調べ学習などにより情報を集める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第15回	授業テーマ	保育指導案作成の実際（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育指導案作成の実際について自分なりに書きながら修正をしていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	保育指導案作成の実際（施設）

第16回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育指導案作成の実際について自分なりに書きながら修正をしていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第17回	授業テーマ	実践指導（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	巡回訪問指導によるスーパービジョン
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第18回	授業テーマ	実践指導（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	巡回訪問指導によるスーパービジョン
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第19回	授業テーマ	実習総括（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所実習の振り返りをグループワークの形式で行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第20回	授業テーマ	実習総括（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	施設実習の振り返りをグループワークの形式で行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第21回	授業テーマ	実習日誌の評価とふりかえり（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習日誌について教員と双方向のやりとりをしながら振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第22回	授業テーマ	実習日誌の評価とふりかえり（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習日誌について教員と双方向のやりとりをしながら振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第23回	授業テーマ	指導実習の評価とふりかえり（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指導実習について教員とのやりとりやグループワークをしながら振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	指導実習の評価とふりかえり（施設）

第24回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指導実習について教員とのやりとりやグループワークをしながら振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第25回	授業テーマ	ロールプレイによるふりかえり（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロールプレイにより保育所実習について新しい気付きを得る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第26回	授業テーマ	ロールプレイによるふりかえり（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロールプレイにより施設実習について新しい気付きを得る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第27回	授業テーマ	自己課題と学習目標の明確化（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己課題と学習目標の明確化をワークシートにより行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第28回	授業テーマ	自己課題と学習目標の明確化（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己課題と学習目標の明確化をワークシートにより行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第29回	授業テーマ	実習IIにむけて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習IIにむけて自己課題の整理を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第30回	授業テーマ	実習IIIにむけて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習IIIにむけて自己課題の整理を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分

学習計画注記

受講人数や実習時期により計画は変更になる可能性があります。

学生へのフィードバック方法

日誌や指導案は指導後に返却をする。

評価方法

・実習の評価（実習評価票及び実習態度）：実習評価票，実習園からの総評により，子ども・

保育に関する知識の修得，実習に臨む姿勢，保育者としての思考・判断，考察の深さ，保育技術の修得について評価する。
・実習日誌及び事前・事後指導の評価：子ども・保育に関する知識の修得，実習に臨む姿勢，保育者としての思考・判断，考察の深さ，保育技術の修得について評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実習の評価	○	○	○	○
実習日誌および事前・事後指導の	○	○	○	○

評価割合

本授業においては出席率100%が前提である。
実習の評価（50%）、実習日誌及び事前・事後指導の評価（50%）

参考図書

1．実習日誌の書き方/相馬和子・中田カヨ子/萌文書林/2004
2．指導計画の考え方・立て方/久富陽子編/萌文書林/2009
3．福祉施設実習ハンドブック/内山元夫ほか編/みらい/2007

ディプロマポリシーとの関連

（知識・理解）
実習の意義・目的・内容・方法を理解する。実習施設の概要と機能を理解する。
（思考・判断）
実習課題を明確化する。
（関心・意欲・態度）
実習に自分なりの課題を持って前向きに取り組む。
（技術・表現）
基本的な保育技術を身につける。
指導実習用の指導案を作成する。
記録（実習日誌）の書き方を習得する。

オフィスアワー

水曜3，4限

学生へのメッセージ

保育実習ＩＢ及びＩＣに参加するために，本科目は100%の出席が求められる。やむを得ない理由で欠席する場合は，実習指導室へ理由を添えた「欠席届」を提出し，後日必ず指導教員へ欠席分の指導を仰ぎに行くこと。また，毎回の持ち物や各種提出物等の期限を必ず守ること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者の中に実務経験者が含まれるので、事例や動画などを使用しながら現場の実際に即した授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークなどの活動を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	640006003
講義名	保育実習指導I（4年次）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	新開 よしみ	指定なし
教授	和田 美香	指定なし
准教授	柳瀬 洋美	指定なし
准教授	丹羽 さがの	指定なし
非常勤講師	市川 和男	指定なし
非常勤講師	高橋 健司	指定なし
非常勤講師	永井 瑛里子	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし

ナンバリング

Y26301M22

授業概要(教育目的)

保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を修得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。保育現場で乳幼児の生活と発達の現実にふれ、これまで学んできた知識を再構築し、社会福祉への意欲を活性化し、援助者としての保育者の役割への関心を育てる。事前指導として、学内において講義や視聴覚教材を用いた演習を行い、また実習施設において見学・オリエンテーションを行う。実習中には巡回訪問指導を行い、実習後には、実習総括・評価・自己評価・事例研究を行い、新たな学習目標を明確化する。

履修条件

保育士資格取得希望者

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	実習の意義・目的・内容・方法を理解する 実習施設の概要と機能を理解する
思考・判断の観点 (K)	実習課題を明確化する
関心・意欲・態度の観点 (V)	実習に自分なりの課題を持って前向きに取り組む

技術・表現の観点 (A)	基本的な保育技術を身につける 指導実習用の指導案を作成する 記録（実習日誌）の書き方を習得する

学習計画

第1回	**授業テーマ**	保育実習の意義・目的・内容の理解（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育実習の意義・目的・内容についてグループワークを中心に理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第2回	**授業テーマ**	保育実習の意義・目的・内容の理解（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育実習の意義・目的・内容（施設）についてグループワークを中心に理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第3回	**授業テーマ**	保育実習の方法の理解（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育実習の方法について演習形式で理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第4回	**授業テーマ**	保育実習の方法の理解（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育実習の方法について演習形式で理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第5回	**授業テーマ**	実習の心構えの理解（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習の心構えについてグループワークを中心に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第6回	**授業テーマ**	実習の心構えの理解（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習の心構えについてグループワークを中心に理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第7回	**授業テーマ**	個人情報の保護と守秘義務
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個人情報の保護と守秘義務について事例を中心に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	子どもの人権の尊重についての理解

第8回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	個人情報の保護と守秘義務について事例を中心に学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第9回	授業テーマ	実習課題の明確化とロールプレイ（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習課題をロールプレイにより明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第10回	授業テーマ	実習課題の明確化とロールプレイ（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習課題をロールプレイにより明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第11回	授業テーマ	実習記録の意義・方法の理解（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日誌の書き方について、実践しながら学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第12回	授業テーマ	実習記録の意義・方法の理解（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日誌の書き方について、実践しながら学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第13回	授業テーマ	実習施設の理解（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設について調べ学習などにより情報を集める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第14回	授業テーマ	実習施設の理解（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習施設について調べ学習などにより情報を集める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第15回	授業テーマ	保育指導案作成の実際（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育指導案作成の実際について自分なりに書きながら修正をしていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	保育指導案作成の実際（施設）

第16回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育指導案作成の実際について自分なりに書きながら修正をしていく。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第17回	授業テーマ	実践指導（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	巡回訪問指導によるスーパービジョン
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第18回	授業テーマ	実践指導（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	巡回訪問指導によるスーパービジョン
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第19回	授業テーマ	実習総括（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所実習の振り返りをグループワークの形式で行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第20回	授業テーマ	実習総括（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	施設実習の振り返りをグループワークの形式で行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第21回	授業テーマ	実習日誌の評価とふりかえり（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習日誌について教員と双方向のやりとりをしながら振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第22回	授業テーマ	実習日誌の評価とふりかえり（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習日誌について教員と双方向のやりとりをしながら振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第23回	授業テーマ	指導実習の評価とふりかえり（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指導実習について教員とのやりとりやグループワークをしながら振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
	授業テーマ	指導実習の評価とふりかえり（施設）

第24回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指導実習について教員とのやりとりやグループワークをしながら振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第25回	授業テーマ	ロールプレイによるふりかえり（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロールプレイにより保育所実習について新しい気付きを得る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第26回	授業テーマ	ロールプレイによるふりかえり（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	ロールプレイにより施設実習について新しい気付きを得る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第27回	授業テーマ	自己課題と学習目標の明確化（保育所）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己課題と学習目標の明確化をワークシートにより行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第28回	授業テーマ	自己課題と学習目標の明確化（施設）
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己課題と学習目標の明確化をワークシートにより行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第29回	授業テーマ	実習IIにむけて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習IIにむけて自己課題の整理を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分
第30回	授業テーマ	実習IIIにむけて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習IIIにむけて自己課題の整理を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。
	教室外学習の時間（分）	90分

学習計画注記

受講人数や実習時期により計画は変更になる可能性があります。

学生へのフィードバック方法

日誌や指導案は指導後に返却をする。

評価方法

・実習の評価（実習評価票及び実習態度）：実習評価票，実習園からの総評により，子ども・

保育に関する知識の修得，実習に臨む姿勢，保育者としての思考・判断，考察の深さ，保育技術の修得について評価する。
・実習日誌及び事前・事後指導の評価：子ども・保育に関する知識の修得，実習に臨む姿勢，保育者としての思考・判断，考察の深さ，保育技術の修得について評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実習の評価	○	○	○	○
実習日誌および事前・事後指導の	○	○	○	○

評価割合

本授業においては出席率100%が前提である。
実習の評価（50%）、実習日誌及び事前・事後指導の評価（50%）

参考図書

1．実習日誌の書き方/相馬和子・中田カヨ子/萌文書林/2004
2．指導計画の考え方・立て方/久富陽子編/萌文書林/2009
3．福祉施設実習ハンドブック/内山元夫ほか編/みらい/2007

ディプロマポリシーとの関連

（知識・理解）
実習の意義・目的・内容・方法を理解する。実習施設の概要と機能を理解する。
（思考・判断）
実習課題を明確化する。
（関心・意欲・態度）
実習に自分なりの課題を持って前向きに取り組む。
（技術・表現）
基本的な保育技術を身につける。
指導実習用の指導案を作成する。
記録（実習日誌）の書き方を習得する。

オフィスアワー

水曜3，4限

学生へのメッセージ

保育実習ＩＢ及びＩＣに参加するために，本科目は100%の出席が求められる。やむを得ない理由で欠席する場合は，実習指導室へ理由を添えた「欠席届」を提出し，後日必ず指導教員へ欠席分の指導を仰ぎに行くこと。また，毎回の持ち物や各種提出物等の期限を必ず守ること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者の中に実務経験者が含まれるので、事例や動画などを使用しながら現場の実際に即した授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークなどの活動を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	640007001
講義名	保育実習IＢ（4年次）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	4年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	新開 よしみ	指定なし
教授	和田 美香	指定なし
准教授	丹羽 さがの	指定なし
非常勤講師	高橋 健司	指定なし
非常勤講師	永井 瑛里子	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし

ナンバリング

Y36302M23

授業概要(教育目的)

この実習は，保育所における保育に参加し、乳幼児の生活・遊び・発達等についての理解を深め、保育所の機能、保育士の業務等について学ぶことを目的とする。各科目で修得した知識と技術を保育所での実践や子どもとの関係を通して再構築する。実習段階としては、「参加観察実習」から「部分実習」までの範囲とする。

履修条件

規定による保育実習参加基準を満たしていること（学生便覧参照）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・乳幼児の生活・遊び・発達等について理解を深める ・保育所の機能，保育士の業務等について理解する
思考・判断の観点 (K)	・各科目で習得した知識・技術と保育実践を結び付けて考える
関心・意欲・態度の観点 (V)	・各科目で習得した知識と技術を保育所での実践や子どもとの関係を通して再構築する
技術・表現の観点 (A)	・保育技術を実践し，磨く

学習計画

第1回	授業テーマ	実習施設を多面的に理解する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習生として保育に入りながら，実習先施設について理解を深める
第2回	授業テーマ	保育の一日の流れを理解し、参加する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所の一日の流れに注目し理解しながら，保育に参加する
第3回	授業テーマ	子どもの観察やかかわりを通して乳幼児の発達を理解する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育に入り子どもを観察したりかかわったりしながら，乳幼児の発達を理解する
第4回	授業テーマ	保育計画・指導計画を理解する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育計画・指導計画がどのように実践されるかを観察し理解する。
第5回	授業テーマ	生活や遊びなどの一部を担当し、保育技術を磨く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	部分実習を行い，保育技術を磨く。実施後の振り返りを通して指導計画についてより深く理解する
第6回	授業テーマ	職員間の役割分担とチームワークについて理解する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育に参加しながら，職員間の役割分担とチームワークについて観察，理解する。また自らチームの一員として保育を行うことで実践的に理解する。
第7回	授業テーマ	参加観察の記録方法を体験的に習得する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習日誌を書き，保育の記録方法を体験的に習得する。指導担当者からのフィードバックにより，保育記録についてより理解を深め，記録技術を磨く。
第8回	授業テーマ	子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日々の保育に参加し，保育者の保育における意図，ねらいと具体的な保育内容（環境構成を含む）との関連を理解する。
第9回	授業テーマ	保育士としての倫理を具体的に学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日々の保育に参加することを通して保育士としての倫理を具体的に学ぶ。
第10回	授業テーマ	安全および疾病予防への配慮について理解する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育に参加することを通して，子どもたちの安全と疾病予防への配慮について具体的に理解する。
	授業テーマ	保育者の子どもへのかかわり方、環境構成の工夫を詳細に観察する

第11回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育に参加し，保育者の身近で，子どもへのかかわり方，環境構成の工夫を詳細に観察する。
第12回	授業テーマ	実習生としてふるまう中で自己課題に気づく
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育への参加，保育の記録，振り返りを通し，自らの課題に気付く
第13回	授業テーマ	指導計画を立て、部分実習に臨む
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	部分実習を行うクラスの子どもたちをよく観察し，かかわりながら，その発達を理解する。その上で指導計画をたて実践する。実践後の振り返りを通して指導計画と保育実践についてより理解を深める。
第14回	授業テーマ	保育マップを作成する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習期間中，子どもたちの遊び・活動が観察された場所に，内容，参加した子どもたちの名前等を記入し，保育マップを作成する。
第15回	授業テーマ	反省会に出席し、実習全体を省察する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	反省会に出席し，実習全体について省察する。次の実習に向けて自らの課題を自覚する。

学生へのフィードバック方法

実習巡回記録，実習先からの評価票を用いて事後指導を行う。

評価方法

・日誌の評価：実習に臨む姿勢，考察の深さ，保育記録の技術の修得について評価する
・実習施設による評価：実習に臨む姿勢，保育者としての思考・判断，意欲・態度，技術について評価する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
日誌の評価		○	○	○
実習施設による評価		○	○	○

評価割合

日誌の評価（50%）と実習施設による評価（50%）を合わせて総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

・実習日誌の書き方/相馬和子・中田カヨ子編/萌文書林
・指導計画の考え方・立て方/久富陽子編/萌文書林

学生へのメッセージ

保育実習ＩＢへの参加基準は以下の通りです。
①1，2年次開講の保育士必修科目の内，未修得科目が３科目以下であること。
②学業成績の総合評価の平均ＧＰＡが2.2以上であること。
③「保育実習指導I」を履修していること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	保育者としての実務経験のある教員が事前指導に当たる。
アクティブ・ラーニング	○	保育に参加し実践的に学ぶ
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	640007002
講義名	保育実習IＢ（3年次）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	新開 よしみ	指定なし
教授	和田 美香	指定なし
准教授	丹羽 さがの	指定なし
非常勤講師	高橋 健司	指定なし
非常勤講師	永井 瑛里子	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし

ナンバリング

Y36302M23

授業概要(教育目的)

この実習は，保育所における保育に参加し、乳幼児の生活・遊び・発達等についての理解を深め、保育所の機能、保育士の業務等について学ぶことを目的とする。各科目で修得した知識と技術を保育所での実践や子どもとの関係を通して再構築する。実習段階としては、「参加観察実習」から「部分実習」までの範囲とする。

履修条件

規定による保育実習参加基準を満たしていること（学生便覧参照）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・乳幼児の生活・遊び・発達等について理解を深める ・保育所の機能，保育士の業務等について理解する
思考・判断の観点 (K)	・各科目で習得した知識・技術と保育実践を結び付けて考える
関心・意欲・態度の観点 (V)	・各科目で習得した知識と技術を保育所での実践や子どもとの関係を通して再構築する
技術・表現の観点 (A)	・保育技術を実践し，磨く

学習計画

第1回	授業テーマ	実習施設を多面的に理解する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習生として保育に入りながら，実習先施設について理解を深める
第2回	授業テーマ	保育の一日の流れを理解し、参加する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育所の一日の流れに注目し理解しながら，保育に参加する
第3回	授業テーマ	子どもの観察やかかわりを通して乳幼児の発達を理解する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育に入り子どもを観察したりかかわったりしながら，乳幼児の発達を理解する
第4回	授業テーマ	保育計画・指導計画を理解する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育計画・指導計画がどのように実践されるかを観察し理解する。
第5回	授業テーマ	生活や遊びなどの一部を担当し、保育技術を磨く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	部分実習を行い，保育技術を磨く。実施後の振り返りを通して指導計画についてより深く理解する
第6回	授業テーマ	職員間の役割分担とチームワークについて理解する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育に参加しながら，職員間の役割分担とチームワークについて観察，理解する。また自らチームの一員として保育を行うことで実践的に理解する。
第7回	授業テーマ	参加観察の記録方法を体験的に習得する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習日誌を書き，保育の記録方法を体験的に習得する。指導担当者からのフィードバックにより，保育記録についてより理解を深め，記録技術を磨く。
第8回	授業テーマ	子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日々の保育に参加し，保育者の保育における意図，ねらいと具体的な保育内容（環境構成を含む）との関連を理解する。
第9回	授業テーマ	保育士としての倫理を具体的に学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日々の保育に参加することを通して保育士としての倫理を具体的に学ぶ。
第10回	授業テーマ	安全および疾病予防への配慮について理解する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育に参加することを通して，子どもたちの安全と疾病予防への配慮について具体的に理解する。
	授業テーマ	保育者の子どもへのかかわり方、環境構成の工夫を詳細に観察する

第11回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育に参加し，保育者の身近で，子どもへのかかわり方，環境構成の工夫を詳細に観察する。
第12回	授業テーマ	実習生としてふるまう中で自己課題に気づく
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育への参加，保育の記録，振り返りを通し，自らの課題に気付く
第13回	授業テーマ	指導計画を立て、部分実習に臨む
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	部分実習を行うクラスの子どもたちをよく観察し，かかわりながら，その発達を理解する。その上で指導計画をたて実践する。実践後の振り返りを通して指導計画と保育実践についてより理解を深める。
第14回	授業テーマ	保育マップを作成する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習期間中，子どもたちの遊び・活動が観察された場所に，内容，参加した子どもたちの名前等を記入し，保育マップを作成する。
第15回	授業テーマ	反省会に出席し、実習全体を省察する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	反省会に出席し，実習全体について省察する。次の実習に向けて自らの課題を自覚する。

学生へのフィードバック方法

実習巡回記録，実習先からの評価票を用いて事後指導を行う。

評価方法

・日誌の評価：実習に臨む姿勢，考察の深さ，保育記録の技術の修得について評価する
・実習施設による評価：実習に臨む姿勢，保育者としての思考・判断，意欲・態度，技術について評価する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
日誌の評価		○	○	○
実習施設による評価		○	○	○

評価割合

日誌の評価（50%）と実習施設による評価（50%）を合わせて総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

・実習日誌の書き方/相馬和子・中田カヨ子編/萌文書林
・指導計画の考え方・立て方/久富陽子編/萌文書林

学生へのメッセージ

保育実習ＩＢへの参加基準は以下の通りです。
①1，2年次開講の保育士必修科目の内，未修得科目が３科目以下であること。
②学業成績の総合評価の平均ＧＰＡが2.2以上であること。
③「保育実習指導I」を履修していること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	保育者としての実務経験のある教員が事前指導に当たる。
アクティブ・ラーニング	○	保育に参加し実践的に学ぶ
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	640008001
講義名	保育実習IC（4年次）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	4年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	柳瀬 洋美	指定なし
非常勤講師	市川 和男	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし

ナンバリング

Y36303M23

授業概要(教育目的)

この実習は，施設実習に参加し、一日の流れや生活の具体的な内容について理解を深め、施設の機能、保育士の業務等について学ぶことを目的とする。各科目で修得した知識と技術を施設での実践や利用者との関係を通して再構築する。実習段階としては、「参加観察実習」から「部分実習」までの範囲とする。

履修条件

規定による保育実習参加基準を満たしていること（学生便覧参照）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・施設の利用者について理解を深める ・施設の機能，保育士の業務等について理解する
思考・判断の観点 (K)	・各科目で習得した知識・技術と実践を結び付けて考える
関心・意欲・態度の観点 (V)	・各科目で習得した知識と技術を実践や利用者との関係を通して再構築する
技術・表現の観点 (A)	・支援技術を実践し，磨く

学習計画

第1回	**授業テーマ**	実習施設を多面的に理解する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	実習生として生活に入りながら，実習先施設について理解を

	育・ICT活用を含む)	深める
第2回	授業テーマ	施設の一日の流れを理解し、参加する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	施設のの一日の流れに注目し理解しながら，参加する
第3回	授業テーマ	観察やかかわりを通して利用者を理解する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	観察したりかかわったりしながら，利用者を理解する
第4回	授業テーマ	支援計画を理解する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	支援計画がどのように実践されるかを観察し理解する。
第5回	授業テーマ	生活や遊びなどの一部を担当し、技術を磨く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活援助などの一部を担当し、実施後の振り返りを通してより深く理解する。
第6回	授業テーマ	職員間の役割分担とチームワークについて理解する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活に参加しながら，職員間の役割分担とチームワークについて観察，理解する。また自らチームの一員として動くことで実践的に理解する。
第7回	授業テーマ	参加観察の記録方法を体験的に習得する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習日誌を書き，記録方法を体験的に習得する。指導担当者からのフィードバックにより，記録についてより理解を深め，記録技術を磨く。
第8回	授業テーマ	支援のねらいを具体化する方法について学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日々の生活行為に参加し，支援の意図，ねらいとの関連を理解する。
第9回	授業テーマ	保育士としての倫理を具体的に学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実践を通して保育士としての倫理を具体的に学ぶ。
第10回	授業テーマ	安全および疾病予防への配慮について理解する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	安全と疾病予防への配慮について具体的に理解する。
第11回	授業テーマ	利用者へのかかわり方、環境構成の工夫
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	利用者へのかかわり方，環境構成の工夫を詳細に観察する。
第12回	授業テーマ	実習生としてふるまう中で自己課題に気づく
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	記録，振り返りを通し，自らの課題に気付く
第13回	授業テーマ	指導計画を立て、部分実習に臨む
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指導計画をたて実践する。実践後の振り返りを通して指導計画と保育実践についてより理解を深める。
	授業テーマ	反省会に出席し、実習全体を省察する

第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	反省会に出席し，実習全体について省察する。次の実習に向けて自らの課題を自覚する。

学生へのフィードバック方法

実習巡回記録，実習先からの評価票を用いて事後指導を行う。

評価方法

・日誌の評価：実習に臨む姿勢，考察の深さ，保育記録の技術の修得について評価する
・実習施設による評価：実習に臨む姿勢，保育者としての思考・判断，意欲・態度，技術について評価する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
日誌の評価		○	○	○
実習施設による評価		○	○	○

評価割合

日誌の評価（50%）と実習施設による評価（50%）を合わせて総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

・実習日誌の書き方/相馬和子・中田カヨ子編/萌文書林

ディプロマポリシーとの関連

【思考・判断】・子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる
・家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている
【関心・意欲・態度】・子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる
・子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている
【技能・表現】・本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる
・保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている

オフィスアワー

月曜２限から４限

学生へのメッセージ

保育実習ICへの参加基準は以下の通りです。
①1，2年次開講の保育士必修科目の内，未修得科目が３科目以下であること。
②学業成績の総合評価の平均ＧＰＡが2.2以上であること。
③「保育実習指導I」を履修していること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	保育者としての実務経験のある教員が事前指導に当たる。
アクティブ・ラーニング	○	保育に参加し実践的に学ぶ
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	640008002
講義名	保育実習IC（3年次）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	3年次
必修・選択の別	資格必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	柳瀬 洋美	指定なし
非常勤講師	市川 和男	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし

ナンバリング

Y36303M23

授業概要(教育目的)

この実習は，施設実習に参加し、一日の流れや生活の具体的な内容について理解を深め、施設の機能、保育士の業務等について学ぶことを目的とする。各科目で修得した知識と技術を施設での実践や利用者との関係を通して再構築する。実習段階としては、「参加観察実習」から「部分実習」までの範囲とする。

履修条件

規定による保育実習参加基準を満たしていること（学生便覧参照）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・施設の利用者について理解を深める ・施設の機能，保育士の業務等について理解する
思考・判断の観点 (K)	・各科目で習得した知識・技術と実践を結び付けて考える
関心・意欲・態度の観点 (V)	・各科目で習得した知識と技術を実践や利用者との関係を通して再構築する
技術・表現の観点 (A)	・支援技術を実践し，磨く

学習計画

第1回	**授業テーマ**	実習施設を多面的に理解する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教	実習生として生活に入りながら，実習先施設について理解を

	育・ICT活用を含む)	深める
第2回	授業テーマ	施設の一日の流れを理解し、参加する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	施設のの一日の流れに注目し理解しながら，参加する
第3回	授業テーマ	観察やかかわりを通して利用者を理解する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	観察したりかかわったりしながら，利用者を理解する
第4回	授業テーマ	支援計画を理解する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	支援計画がどのように実践されるかを観察し理解する。
第5回	授業テーマ	生活や遊びなどの一部を担当し、技術を磨く
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活援助などの一部を担当し、実施後の振り返りを通してより深く理解する。
第6回	授業テーマ	職員間の役割分担とチームワークについて理解する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	生活に参加しながら，職員間の役割分担とチームワークについて観察，理解する。また自らチームの一員として動くことで実践的に理解する。
第7回	授業テーマ	参加観察の記録方法を体験的に習得する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習日誌を書き，記録方法を体験的に習得する。指導担当者からのフィードバックにより，記録についてより理解を深め，記録技術を磨く。
第8回	授業テーマ	支援のねらいを具体化する方法について学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	日々の生活行為に参加し，支援の意図，ねらいとの関連を理解する。
第9回	授業テーマ	保育士としての倫理を具体的に学ぶ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実践を通して保育士としての倫理を具体的に学ぶ。
第10回	授業テーマ	安全および疾病予防への配慮について理解する
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	安全と疾病予防への配慮について具体的に理解する。
第11回	授業テーマ	利用者へのかかわり方、環境構成の工夫
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	利用者へのかかわり方，環境構成の工夫を詳細に観察する。
第12回	授業テーマ	実習生としてふるまう中で自己課題に気づく
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	記録，振り返りを通し，自らの課題に気付く
第13回	授業テーマ	指導計画を立て、部分実習に臨む
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	指導計画をたて実践する。実践後の振り返りを通して指導計画と保育実践についてより理解を深める。
	授業テーマ	反省会に出席し、実習全体を省察する

第14回	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	反省会に出席し，実習全体について省察する。次の実習に向けて自らの課題を自覚する。

学生へのフィードバック方法

実習巡回記録，実習先からの評価票を用いて事後指導を行う。

評価方法

・日誌の評価：実習に臨む姿勢，考察の深さ，保育記録の技術の修得について評価する
・実習施設による評価：実習に臨む姿勢，保育者としての思考・判断，意欲・態度，技術について評価する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
日誌の評価		○	○	○
実習施設による評価		○	○	○

評価割合

日誌の評価（50%）と実習施設による評価（50%）を合わせて総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

・実習日誌の書き方/相馬和子・中田カヨ子編/萌文書林

ディプロマポリシーとの関連

【思考・判断】・子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる
・家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている
【関心・意欲・態度】・子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる
・子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている
【技能・表現】・本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる
・保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている

オフィスアワー

月曜２限から４限

学生へのメッセージ

保育実習ICへの参加基準は以下の通りです。
①1，2年次開講の保育士必修科目の内，未修得科目が３科目以下であること。
②学業成績の総合評価の平均ＧＰＡが2.2以上であること。
③「保育実習指導I」を履修していること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	保育者としての実務経験のある教員が事前指導に当たる。
アクティブ・ラーニング	○	保育に参加し実践的に学ぶ
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	640009001
講義名	保育実習II
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	
開設学科・年次	4年次
必修・選択の別	資格選択必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	丹羽 さがの	指定なし
教授	新開 よしみ	指定なし
教授	和田 美香	指定なし
非常勤講師	越山 沙千子	指定なし
非常勤講師	高橋 健司	指定なし

ナンバリング

Y46305M23

授業概要(教育目的)

保育の実践現場に置いて子ども達とふれあい、生活を共にするなかで、保育所における子どもの生活を理解する。また、保育者の関わり方や保育技術を体験的に学ぶ。保育実習II（保育所）は「参加観察実習」（部分実習を含む）を経て「指導実習（責任実習）」（部分実習から全日実習）へと移行する段階である。保育の場に積極的に参加し、実習を行うクラスの主担任の展開する保育の流れを理解するとともに、子どもへの基本的かつ適切な関わり方を習得することを目指している。また、実習保育所の指導のもと、半日から一日の保育を保育者として実践させていただくことにより、保育実践力を高めていくことを目的とする。

履修条件

学生便覧の規定による保育実習参加基準を満たしていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	保育者同士の連携や子育て支援の工夫を実際の場面の中でとらえることができる。
思考・判断の観点 (K)	子どもの個人差を考慮し、内面を理解しながら、その場に応じた対応方法を工夫できる。 責任実習を振り返り、自己課題を明確にできる。
関心・意欲・態度の	実習に意欲を持って参加し、実習生として子どもや先生方に学ばさせていただく謙虚な姿勢でコミュニケーションを図りながら、その場に必要な働きをしようと

観点 (V)	試みることができる。
技術・表現の観点 (A)	習得してきた保育技術を活かしながら自分なりに保育を立案し、実践できる。

学習計画

第1回	**授業テーマ**	実習課題に取り組む⑴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育全般に参加し、保育技術を習得する。
第2回	**授業テーマ**	実習課題に取り組む⑵
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。
第3回	**授業テーマ**	実習課題に取り組む⑶
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	発達の遅れや生活環境に伴う子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。
第4回	**授業テーマ**	実習課題に取り組む⑷
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に学ぶ。
第5回	**授業テーマ**	実習課題に取り組む⑸
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	地域社会に対する理解を深め、子育て支援のための手法や連携方法について学ぶ。
第6回	**授業テーマ**	実習課題に取り組む⑹
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	職員間の役割分担とチームワークについて理解する。
第7回	**授業テーマ**	実習課題に取り組む⑺
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育士としての倫理を具体的に学ぶ。
第8回	**授業テーマ**	実習課題に取り組む⑻
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育者の子どもとかかわる姿勢から、効果的な援助と指導の内容と方法を学ぶ。
第9回	**授業テーマ**	実習課題に取り組む⑼
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	園環境と子どもの遊びの実態について理解する。
第10回	**授業テーマ**	実習課題に取り組む⑽
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの実態を把握し、これに即した指導計画を立案する。
第11回	**授業テーマ**	実習課題に取り組む(11)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	子どもの遊びや活動を促す環境を構成する。
第12回	**授業テーマ**	実習課題に取り組む(12)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	立案した指導計画に基づいて実践し、子どもの実態に即した援助の方法を試みる。
第13回	**授業テーマ**	実習課題に取り組む(13)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自己の保育を省察するための記録（日誌）を工夫して書く。 保育マップを作成する。
第14回	**授業テーマ**	実習課題に取り組む(15)
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	反省会に出席し、実習全体を省察する。

学習計画注記

※各回の内容は12日間の実習の中で意識して行う事項を示しており、実際にはそれぞれの実習園の実態や自己課題に即して各自スケジュールを調整しながら実習課題を遂行していくことになります。なお、本科目の「予習・復習」に相当する部分は「保育実習指導II」の授業で行います。

学生へのフィードバック方法

実習中に行われる巡回訪問指導において、質問や疑問点などについて口頭で担当教員よりフィードバックを行います。その他の質問等は、実習終了後に保育実習指導IIの授業の中で解説します。

評価方法

実習園からの評価（50%）と、実習後に提出された日誌の評価（50%）を合わせて、総合的に評価します。したがって、実習を規定の時間数終えても日誌を提出しない場合は不合格となり、単位認定できません。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実習園の評価	○	○	○	○
実習日誌の評価		○	○	○

評価割合

実習の評価（50%）と実習日誌及び事前・事後指導の評価（50%）を合わせて総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

なし

参考図書

保育実習指導IIで配布した資料を参考にすること。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもの保育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている。
【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。
【技能・表現】子どもの専門家として社会に貢献できる。

オフィスアワー

水曜４限

学生へのメッセージ

「自ら学ぶ・学び合う・共に育つ」…本学児童学科の実習教育に共通する理念です。実習中は子どもや先生方に学ばせていただくという謙虚な姿勢を保ちつつ、単に受け身ではなく、疑問点について積極的に質問するなど「主体的な学び手」としての自分のあり方を心がけましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	保育現場での実習は全てがアクティブラーニングです。

情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	640010002
講義名	保育実習III
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	4年次
必修・選択の別	資格選択必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	和田 美香	指定なし
准教授	柳瀬 洋美	指定なし
非常勤講師	市川 和男	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし

ナンバリング

Y46307M23

授業概要(教育目的)

児童への福祉は現在、特別な支援を必要とされる児童に対する施策だけでなく、すべての家庭において児童が健全に育成されることや児童を生み育てやすい社会環境を整備することを目指した施策が中心となっています。保育実習IIIでは保育士を目指す人が、保育所以外の児童福祉施設での現場実習を通して、について理解を深める。

履修条件

※保育実習IB及びICを履修済みであること。
※規定による保育実習参加基準を満たしていること（学生便覧参照）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・施設の利用者について理解を深める。 ・施設の機能，保育士の専門性や業務等について理解する
思考・判断の観点 (K)	・各科目で習得した知識と技術を実践や利用者との関係を通して再構築する
関心・意欲・態度の観点 (V)	・初めての施設実習（保育実習IC ）で得た知識を基盤とし、成立した自己課題に取り組む
技術・表現の観点 (A)	・保育士としての専門性や支援技術を実践し磨く

学習計画

第1回	授業テーマ	保育実習IIIの概要について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育実習IIIの目的と概要や保育士の専門性について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	大学の実習手引き、教科書をよく読んでおく。
	教室外学習の時間(分)	120分
第2回	授業テーマ	保育実習IIIの手引きと日誌について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児保育が果たす役割の機能について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の実習施設について、法的根拠や機能と役割、利用者の状況について調べる。
	教室外学習の時間(分)	120分
第3回	授業テーマ	実習施設の概要と自己課題の明確化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の実習先の施設について調べたことをグループ内で発表する。 実習に向けて自己課題を明確にし、各自で事前学習計画を立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「実習に臨んで」の下書きの作成
	教室外学習の時間(分)	120分
第4回	授業テーマ	実習課題発表①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事前学習計画に従って、グループ内で各自が調べたことを順番に発表し、質疑応答を通して、さらに理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習計画に従って、各自で調べ学習を進める。
	教室外学習の時間(分)	120分
第5回	授業テーマ	実習課題発表②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事前学習計画に従って、グループ内で各自が調べたことを順番に発表し、質疑応答を通して、さらに理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習計画に従って、各自で調べ学習を進める。
	教室外学習の時間(分)	120分
第6回	授業テーマ	実習課題発表③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事前学習計画に従って、グループ内で各自が調べたことを順番に発表し、質疑応答を通して、さらに理解を深める。
	教室外学習(予習・	部分実習指導案の作成

	復習)の内容	
	教室外学習の時間(分)	120分
第7回	**授業テーマ**	実習における課題場面のロールプレイ①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・各グループで課題場面を想定し、ロールプレイを活用し、対象者の行動の背景や要因について考えてみる。また、職員としてどのような対応が望ましいのかについても検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・取り上げる課題場面について検討する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第8回	**授業テーマ**	実習における課題場面のロールプレイ②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・各グループで課題場面を想定し、ロールプレイを活用し、対象者の行動の背景や要因について考えてみる。また、職員としてどのような対応が望ましいのかについても検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ロールプレイで得た気づきをまとめ、実習に生かす。
	教室外学習の時間(分)	120分
第9回	**授業テーマ**	実習日誌の書き方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育実習IIIの実習日誌の書き方の基本と書く際の留意点について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	過去の実習日誌の検討や自分自身の過去の日誌を比較検討してみる。
	教室外学習の時間(分)	120分
第10回	**授業テーマ**	実習施設における部分実習の指導案をもとにした模擬実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・作成した指導案をもとに、部分実習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習に向けて必要な準備が整っているかの確認を行う。
	教室外学習の時間(分)	120分
第11回	**授業テーマ**	実習終了事後報告①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習を終了した学生からの事後報告をもとに、実習を終えた学生とこれから実習に行く学生がグループディスカッションを行う。 事後指導と事前指導を合わせて行うことで、実習体験が深められる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・実習を終えた学生は実習の振り返りをレポートにまとめる。 ・これから実習に行く学生は、事後報告を受け、実習に備える。
	教室外学習の時間(分)	120分

第12回	授業テーマ	実習終了事後報告②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習を終了した学生からの事後報告をもとに、実習を終えた学生とこれから実習に行く学生がグループディスカッションを行う。 事後指導と事前指導を合わせて行うことで、実習体験が深められる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・実習を終えた学生は実習の振り返りをレポートにまとめる。 ・これから実習に行く学生は、事後報告を受け、実習に備える。
	教室外学習の時間(分)	120分
第13回	授業テーマ	実習終了事後報告③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習を終了した学生からの事後報告をもとに、実習を終えた学生とこれから実習に行く学生がグループディスカッションを行う。 事後指導と事前指導を合わせて行うことで、実習体験が深められる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・実習を終えた学生は実習の振り返りをレポートにまとめる。 ・これから実習に行く学生は、事後報告を受け、実習に備える。
	教室外学習の時間(分)	120分
第14回	授業テーマ	実習報告会に向けて①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習報告会に向けて、自身の実習体験を振り返り、まとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習振り返りシートの作成
	教室外学習の時間(分)	120分

学習計画注記

実習先の施設の状況により、実習内容や順番が変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

実習巡回記録，実習先からの評価票を用いて事後指導を行う。

評価方法

・日誌の評価：実習に臨む姿勢，考察の深さ，記録の技術の修得について評価する
・実習施設による評価：実習に臨む姿勢，保育者としての思考・判断，意欲・態度，技術について評価する
・ルーブリックに基づく成績評価をする。
（ルーブリックについては、Googleクラスルームまたは授業内での配付等により提示をする。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
日誌の評価		○	○	○
実習施設による評価		○	○	○

評価割合

日誌の評価（50%）と実習施設による評価（50%）を合わせて総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号)

・実習日誌の書き方/相馬和子・中田カヨ子編/萌文書林

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】施設の利用者について理解を深める。また施設の機能，保育士の専門性や業務等について理解する
【思考・判断】各科目で習得した知識と技術を実践や利用者との関係を通して再構築する
【関心・意欲・態度】初めての施設実習（保育実習IC ）で得た知識を基盤とし、成立した自己課題に取り組む
【技術・表現】保育士としての専門性や支援技術を実践し磨く

オフィスアワー

水曜日5時限 1619研究室

学生へのメッセージ

保育実習IIIでは実習施設の種別に応じた高い専門性が求められます。十分な事前学習をして実習に臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	保育者としての実務経験のある教員が事前指導に当たる。
アクティブ・ラーニング	○	保育実習に参加し実践的に学ぶ
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	640013001
講義名	保育実習指導II
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	4年次
必修・選択の別	資格選択必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	丹羽 さがの	指定なし
教授	新開 よしみ	指定なし
教授	和田 美香	指定なし
非常勤講師	越山 沙千子	指定なし

ナンバリング

Y46304M12

授業概要(教育目的)

保育実習Iにおいて課題となったテーマについて､課題解決の過程を各自がプログラムし､実行できるようにするとともに保育所実習IIに向けた準備を行う。実習後はその経験を手掛かりとして､卒業後保育士として働く意欲が育つように自己課題を明確にし、子どもたちや他の保育士に学び､育ち続けることができるような基盤づくりをすることを目的とする。

履修条件

保育実習指導Iおよび保育実習IBを履修済みであること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	保育士の専門性（子育て支援を含む）と職業倫理について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	実習に臨んで、自己課題を具体的に見つけることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実習関連の書類作成や与えられた課題への取り組み等、必要な準備を滞りなく行うことができる。
技術・表現の観点 (A)	実習に活かせるようレパートリーを増やしたり練習するなどして保育技術の向上を図ることができる。

学習計画

第1回	授業テーマ	保育実習IIの意義・目的・内容の理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育実習IIの意義・目的・内容についてグループワークを中心に理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	保育実習IIの手引き「保育実習IIの意義と目的」「保育実習の心得」を読んでおくこと。 誓約書、個人票、出勤簿を記入し、学外実習事務室へ提出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第2回	授業テーマ	保育実習IIの方法の理解
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育実習IIの方法について演習形式で理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	保育実習IIの手引き「保育実習IIの概要」を読んでおくこと。 実習園周辺マップを記入し学外実習指導室へ提出すること。
	教室外学習の時間（分）	50分
第3回	授業テーマ	実習課題の明確化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育実習Iの振り返りを行いつつ、保育実習IIの自己課題を明確化する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	保育実習IBの日誌を読んでおくこと。 保育実習IIの手引き「保育実習の心得」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	30分
第4回	授業テーマ	実習日誌IIの書き方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習日誌IIの書き方、特にエピソード記録の書き方について、実践しながら学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	保育実習IIの手引き「実習日誌作成上の留意点」を読んでおくこと。
	教室外学習の時間（分）	30分
第5回	授業テーマ	主活動案の作成と検討⑴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	責任実習で行う主活動案を作成するための準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	主活動で何を行うかいくつかの案を考えておく。
	教室外学習の時間（分）	100分
第6回	授業テーマ	主活動案の作成と検討⑵
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとに作成した主活動案の検討を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	各自「保育指導計画案」を作成してくる。
	教室外学習の時間（分）	100分
第7回	授業テーマ	主活動案の作成と検討⑶
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	修正した指導案をもとに、模擬保育に必要な準備をする。
	教室外学習(予習・復習)の内容	指導案を修正してくる。
	教室外学習の時間（分）	100分
第8回	授業テーマ	模擬保育⑴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとに指導案に基づく模擬保育を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬保育に必要な準備。 模擬保育後の指導案の再修正。

	教室外学習の時間（分）	120分
第9回	**授業テーマ**	模擬保育⑵
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとに指導案に基づく模擬保育を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬保育に必要な準備。 模擬保育後の指導案の再修正。
	教室外学習の時間（分）	120分
第10回	**授業テーマ**	模擬保育⑶
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループごとに指導案に基づく模擬保育を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	模擬保育に必要な準備。 模擬保育後の指導案の再修正。
	教室外学習の時間（分）	120分
第11回	**授業テーマ**	主活動検討と模擬保育のまとめ
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	主活動検討と模擬保育の振り返りとまとめを行う。 実習に向けての最終確認を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習日誌の事前記入欄を全て記入しておくこと。
	教室外学習の時間（分）	120分
第12回	**授業テーマ**	実習事後指導⑴
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	グループワークで「責任実習」を中心に実習全体について振り返る。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習日誌の記入漏れがないか最終確認しておく。
	教室外学習の時間（分）	30分
第13回	**授業テーマ**	実習事後指導⑵
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育実習IIにおける自己課題の達成状況について評価し、将来に向けた自己課題を明確化する。 今後のキャリア形成の見通しを立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自己課題についてまとめておく。
	教室外学習の時間（分）	50分
第14回	**授業テーマ**	実習事後指導⑶
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習報告会に向けた発表の準備を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	グループごとに分担を決めて必要な発表資料（パワーポイント等）を作成する。
	教室外学習の時間（分）	120分

学習計画注記

※実習配属の時期により、スケジュールが変更になることもあります。

学生へのフィードバック方法

授業中の課題提出物は返却し、解説を行います。

評価方法

・授業への参加状況、模擬保育等を「平常点」とし、最終的に提出された「指導案」とともに評価対象とする。
・成績評価はルーブリックに基づいて行う。ルーブリックはクラスルームまたは授業内での配布により提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

平常点		○	○	
指導案		○		○

評価割合

本授業においては出席率100%が前提である。
平常点（50%）＋指導案（50%）をもって「合格」とする。

使用教科書名(ISBN番号)

保育実習指導Iで使用したテキストを引き続き使用します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】子どもの保育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている。
【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。
【技能・表現】子どもの専門家として社会に貢献できる。

オフィスアワー

水曜日４限

学生へのメッセージ

保育実習IIに参加するために，本科目は100%の出席が求められる。やむを得ない理由で欠席する場合は，学外実習事務室へ理由を添えた「欠席届」を提出し，後日必ず指導教員へ欠席分の指導を仰ぎに行くこと。また，毎回の持ち物や各種提出物等の期限を必ず守ること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク形式での演習を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

講義コード	640014001
講義名	保育実習指導III
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３限前半
授業科目の区分	資格
実務経験の有無	有
開設学科・年次	4年次
必修・選択の別	資格選択必修

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	和田 美香	指定なし
教授	児童学科 教員	指定なし
准教授	柳瀬 洋美	指定なし
非常勤講師	市川 和男	指定なし

ナンバリング

Y46306M12

授業概要(教育目的)

１．保育実習の内、保育所以外の児童福祉施設実習（以下、施設実習）の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
２．実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
３．保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
４．施設における保育士の専門性と職業倫理について理解する。
５．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

履修条件

保育士の選択必修科目です。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	１．自分が実習する施設の果たす役割や機能、方針についてしっかりと事前学習し､明確な目的意識と 自己課題をもって実習に臨む。
思考・判断の観点 (K)	１．学生一人ひとりが保育実習IB（保育所）や保育実習IC（施設）において成立した各自の課題と 真摯に向き合い、今回の保育実習IIIにおいて、十分な事前準備を行った上で、課題と取り組む。

関心・意欲・態度の観点 (V)	１．現代の社会状況にも関心をもち、児童福祉全体への理解をもって実習に臨む。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

第1回	**授業テーマ**	保育実習IIIの概要について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育実習IIIの目的と概要や保育士の専門性について確認する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	大学の実習手引き、教科書をよく読んでおく。
	教室外学習の時間(分)	120分
第2回	**授業テーマ**	保育実習IIIの手引きと日誌について
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	乳児保育が果たす役割の機能について理解する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	自分の実習施設について、法的根拠や機能と役割、利用者の状況について調べる。
	教室外学習の時間(分)	120分
第3回	**授業テーマ**	実習施設の概要と自己課題の明確化
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	自分の実習先の施設について調べたことをグループ内で発表する。 実習に向けて自己課題を明確にし、各自で事前学習計画を立てる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	「実習に臨んで」の下書きの作成
	教室外学習の時間(分)	120分
第4回	**授業テーマ**	実習課題発表①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事前学習計画に従って、グループ内で各自が調べたことを順番に発表し、質疑応答を通して、さらに理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習計画に従って、各自で調べ学習を進める。
	教室外学習の時間(分)	120分
第5回	**授業テーマ**	実習課題発表②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事前学習計画に従って、グループ内で各自が調べたことを順番に発表し、質疑応答を通して、さらに理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	事前学習計画に従って、各自で調べ学習を進める。
	教室外学習の時間(分)	120分

第6回	授業テーマ	実習課題発表③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	事前学習計画に従って、グループ内で各自が調べたことを順番に発表し、質疑応答を通して、さらに理解を深める。
	教室外学習(予習・復習)の内容	部分実習指導案の作成
	教室外学習の時間(分)	120分
第7回	授業テーマ	実習における課題場面のロールプレイ①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・各グループで課題場面を想定し、ロールプレイを活用し、対象者の行動の背景や要因について考えてみる。また、職員としてどのような対応が望ましいのかについても検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・取り上げる課題場面について検討する。
	教室外学習の時間(分)	120分
第8回	授業テーマ	実習における課題場面のロールプレイ②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・各グループで課題場面を想定し、ロールプレイを活用し、対象者の行動の背景や要因について考えてみる。また、職員としてどのような対応が望ましいのかについても検討する。
	教室外学習(予習・復習)の内容	ロールプレイで得た気づきをまとめ、実習に生かす。
	教室外学習の時間(分)	120分
第9回	授業テーマ	実習日誌の書き方
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	保育実習IIIの実習日誌の書き方の基本と書く際の留意点について学ぶ。
	教室外学習(予習・復習)の内容	過去の実習日誌の検討や自分自身の過去の日誌を比較検討してみる。
	教室外学習の時間(分)	120分
第10回	授業テーマ	実習施設における部分実習の指導案をもとにした模擬実習
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	・作成した指導案をもとに、部分実習を行う。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習に向けて必要な準備が整っているかの確認を行う。
	教室外学習の時間(分)	120分
第11回	授業テーマ	実習終了事後報告①
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習を終了した学生からの事後報告をもとに、実習を終えた学生とこれから実習に行く学生がグループディスカッションを行う。 事後指導と事前指導を合わせて行うことで、実習体験が深められる。

	教室外学習(予習・復習)の内容	・実習を終えた学生は実習の振り返りをレポートにまとめる。 ・これから実習に行く学生は、事後報告を受け、実習に備える。
	教室外学習の時間(分)	120分
第12回	**授業テーマ**	実習終了事後報告②
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習を終了した学生からの事後報告をもとに、実習を終えた学生とこれから実習に行く学生がグループディスカッションを行う。 事後指導と事前指導を合わせて行うことで、実習体験が深められる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・実習を終えた学生は実習の振り返りをレポートにまとめる。 ・これから実習に行く学生は、事後報告を受け、実習に備える。
	教室外学習の時間(分)	120分
第13回	**授業テーマ**	実習終了事後報告③
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習を終了した学生からの事後報告をもとに、実習を終えた学生とこれから実習に行く学生がグループディスカッションを行う。 事後指導と事前指導を合わせて行うことで、実習体験が深められる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	・実習を終えた学生は実習の振り返りをレポートにまとめる。 ・これから実習に行く学生は、事後報告を受け、実習に備える。
	教室外学習の時間(分)	120分
第14回	**授業テーマ**	実習報告会に向けて
	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	実習報告会に向けて、自身の実習体験を振り返り、まとめる。
	教室外学習(予習・復習)の内容	実習振り返りシートの作成
	教室外学習の時間(分)	120分

学習計画注記

※ 履修学生の実習の状況等により、スケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

1． ３年生までの実習記録や保育所からの評価に基づき自己課題を明確にする。
2. グループ・ディスカッションにより、自己の課題解決の過程を探る。
3.各施設で必要とされる専門的な知識や保育技術を身につける。
4． 保育現場における課題場面をロールプレイ等を通じて吟味する。

評価方法

平常点（自己課題への取り組みや授業に臨む姿勢）および指導案作成・課題の提出
ルーブリックに基づく成績評価をする。
（ルーブリックについては、Googleクラスルームまたは授業内での配付等により提示をする。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
自己課題への取り組みや授業に臨			○	
指導案作成・課題の提出	○	○	○	○

評価割合

平常点６０％
指導案作成･課題提出４０％

使用教科書名(ISBN番号)

施設実習ガイド（978-4-89347-203-8）駒井美智子編著（萌文書林）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】自分が実習する施設の果たす役割や機能、方針についてしっかりと事前学習し、明確な目的意識と自己課題をもって実習に臨む。
【思考・判断】学生一人ひとりが保育実習IB（保育所）や保育実習IC（施設）において成立した各自の課題と真摯に向き合い、今回の保育実習IIIにおいて、十分な事前準備を行った上で、課題と取り組む。
【関心・意欲・態度】現代の社会状況にも関心をもち、児童福祉全体への理解をもって実習に臨む。

オフィスアワー

水曜日5限 1619研究室

学生へのメッセージ

保育士資格を取得することへの高い意識をもって授業に臨んでください。また、自分の実習先の施設について、十分な事前学習を自主的に進めてください。
授業資料をGoogleクラスルームに配信する場合があるので、PCを用意してください。（スマホでも可）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、保育・療育現場での臨床経験を有している。
アクティブ・ラーニング	○	実際の指導案の作成や、実習に臨んでグループ討議を用いて事前学習を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		